Yokohama でのアプリケーションとの統合の作成

最終更新日: **2025年4月23日**

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ここで示したいくつかの例と図は、説明の目的でのみ提供されています。
ServiceNow 製品またはサービスへの実際の関連付けやつながりは意図されておらず、推測されるものではありません。

ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは
米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の
商標または登録商標です。その他の会社名および
製品名は、それぞれの所有者の
商標です。

下記の ServiceNow ウェブサイト利用規約をお読みください。 www.servicenow.com/terms-of-use.html

本社
2225 Lawson Lane
Santa Clara, CA 95054
United States
(408) 501-8550

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

servicenow

目次

アプリケーションとの統合の作成 5
- オートメーションエンジンを使用した反復タスクの加速化と自動化 7
- オートメーションセンター 10
  - オートメーションセンター の詳細 12
  - オートメーションセンター の構成 35
  - オートメーションセンター の使用 50
  - オートメーションセンター に関する参照情報 86
- 統合ハブ 102
  - 統合ハブの詳細 103
  - 統合ハブの構成 105
  - 統合ハブでの統合のビルド 126
  - 統合ハブ でのデータのインポートとストリーミング 1878
  - 統合ハブでの接続の管理 1955
  - 統合ハブ の参照 1967
- 統合ハブ リモートプロセス同期 1969
  - リモートプロセス同期の開始 1972
  - リモートプロセス同期アクション 2002
  - リモートプロセス同期のサンプルサブフロー 2012
  - 相関 2015
  - リモートプロセス同期システムのプロパティ 2017
- ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub 2023
  - ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub の詳細 2024
  - RPA ハブ 2029
  - 無人ロボット 2274
  - アテンド型ロボット 2288
  - Now Assist for RPA ハブ 2303
  - RPA デスクトップデザインスタジオ 2334
  - ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub の参照 3079
- 要件取り込み図 3083
  - Requirement Intake Diagram の概要 3083
  - Requirement Intake Diagram の構成 3085
  - Requirement Intake Diagram の使用 3087
  - Requirement Intake Design の参考情報 3088
- インポート 3089
  - インポートセット 3090
  - 簡単インポート 3257
- エクスポート 3266
  - エクスポートセット 3266
  - URL から直接エクスポート 3275

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クラシックオーケストレーション....3280
オーケストレーションの紹介....3281
ドメインセパレーションとオーケストレーション....3284
オーケストレーションのアクティブ化....3284
オーケストレーションアプリケーション....3308
オーケストレーションの例....3355
オーケストレーションアクティビティパック....3361
オーケストレーションアクティビティデザイナー....3483
オーケストレーションデータバス....3576
オーケストレーション用の MID サーバー....3577
オーケストレーション使用状況ダッシュボードを使用する....3582

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションとの統合の作成

任意のアプリケーションまたはデータを接続することで、企業間ワークフローの影響度を高めます。人、プロセス、およびアプリを接続して、ServiceNow 投資の価値を高めます。

開始するには

あらゆるものを自動化して ServiceNow に接続します。インサイトと監視を含む機能一式を使用して、ハイパーオートメーションへのすべてのアプローチを 1 つのプラットフォームに統合します。

統合ハブ 統合タスクを自動化し、カスタム統合を開発します。	統合ハブ リモートプロセス同期 複数の ServiceNow インスタンス間での一方向または双方向の統合を作成します。	ロボティックプロセス自動化 **(RPA)** ハブ ユーザーアクションをエミュレートし、日常的で反復的なアクティビティを排除します。
オートメーションセンター エンドツーエンドのマルチベンダー自動化ライフサイクルを 1 か所から管理します。	インポート 外部システムからデータをインポートします。	エクスポート インスタンスから外部ファイルにデータをエクスポートします。

オートメーションセンター

ServiceNow® オートメーションセンター アプリケーションを使用して、エンドツーエンドのマルチベンダー自動化ライフサイクルを 1 か所から管理します。リアルタイムダッシュボードを使用することで、 複数のベンダーにわたり、自動化の健全性を管理および測定し、自動化の失敗を防ぎます。

統合ハブ

ServiceNow® フローデザイナー用に ServiceNow のコンポーネントを使用して統合タスクを自動化するか、カスタム統合を開発します。別のサブスクリプションが必要です。

統合ハブ リモートプロセス同期

統合ハブリモートプロセス同期を使用すると、複数の ServiceNow インスタンス間で一方向または双方向の統合を設定して、プロセスフローの同期を維持できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub

ServiceNow® ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub を使用して、組織のエンドツーエンドの自動化を有効にします。UI インタラクション、およびさまざまなビジネスアプリケーション間でやり取りする要素ベースの自動化を組み合わせて使用することで、ユーザーアクションをエミュレートし、日常の反復的な人的アクティビティをなくすことができます。

インポート

インポートにより、アドミニストレーターはさまざまなデータソースからデータをインポートし、そのデータを ServiceNow テーブルにマッピングできます。 統合ハブを使用して、新しい設計環境からのデータインポートタスクを自動化できます。

エクスポート

エクスポートを使用すると、インスタンスから外部ファイルにデータをプッシュできます。スクリプトまたは Web サービスからデータを動的にエクスポートするには、URL からデータをエクスポートします。

Classic オーケストレーション

ServiceNow® オーケストレーションは、ワークフローエンジンを拡張して、プロセスを管理し、ServiceNow インスタンス外で自動化を実現します。詳細については、「クラシックオーケストレーション」を参照してください。

アプリケーションと機能

オートメーションセンター

ServiceNow® オートメーションセンター アプリケーションを使用して、エンドツーエンドのマルチベンダー自動化ライフサイクルを 1 か所から管理します。リアルタイムダッシュボードを使用することで、 複数のベンダーにわたり、自動化の健全性を管理および測定し、自動化の失敗を防ぎます。

統合ハブ

ServiceNow® フローデザイナー用に ServiceNow のコンポーネントを使用して統合タスクを自動化するか、カスタム統合を開発します。別のサブスクリプションが必要です。

統合ハブ リモートプロセス同期

統合ハブリモートプロセス同期を使用すると、複数の ServiceNow インスタンス間で一方向または双方向の統合を設定して、プロセスフローの同期を維持できます。

ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub

ServiceNow® ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub を使用して、組織のエンドツーエンドの自動化を有効にします。UI インタラクション、およびさまざまなビジネスアプリケーション間でやり取りする要素ベースの自動化を組み合わせて使用することで、ユーザーアクションをエミュレートし、日常の反復的な人的アクティビティをなくすことができます。

インポート

インポートにより、アドミニストレーターはさまざまなデータソースからデータをインポートし、そのデータを ServiceNow テーブルにマッピングできます。 統合ハブを使用して、新しい設計環境からのデータインポートタスクを自動化できます。

エクスポート

エクスポートを使用すると、インスタンスから外部ファイルにデータをプッシュできます。スクリプトまたは Web サービスからデータを動的にエクスポートするには、URL からデータをエクスポートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クラシックオーケストレーション

ServiceNow® オーケストレーションは、ワークフローエンジンを拡張して、プロセスを管理し、ServiceNow インスタンス外で自動化を実現します。

関連 **ServiceNow** アプリケーションと機能

インスタンスデータレプリケーション (IDR)

ServiceNow® インスタンスデータレプリケーション (IDR) (IDR) はプロデューサーインスタンスと呼ばれる 1 つのインスタンスからコンシューマーインスタンスと呼ばれる 1 つ以上の他のインスタンスに、データ更新をコピーします。IDR により、さまざまなインスタンス全体で一貫したデータを保持できます。たとえば、それぞれ独自のインスタンスを持つ社内の異なる組織間、または異なる会社間であってもデータを同期できます。

受信メールアクション

受信メールアクションを定義して、システムが受信メールにどのように応答するかをスクリプト化します。

アクションのビルド

アクションは、フロー内の繰り返し可能なタスクまたは操作を自動化します。フローは、アクションに入力としてデータを渡すことでアクションを実行します。アクションは、一連のステップを実行してタスクを完了し、データを出力としてフローに渡します。

オートメーションエンジンを使用した反復タスクの加速化と自動化

オートメーションエンジンでの自動化されたワークフローにより、反復的なタスクに費やす時間を短縮し、サービスをより迅速に提供できます。ドキュメントインテリジェンス (DocIntel)アプリケーションを使用してドキュメントからのデータ抽出を自動化したり、統合ハブアプリケーションでサードパーティ API を利用してデータ検証を自動化したり、RPA ハブ アプリケーションを使用してレガシーシステムをすべて 1 つのワークスペース内で自動化したりすることができます。

ソリューションの複合的なメリットの活用

ソリューションを通じてさまざまなアプリケーションを使用することで、次のメリットを得ることができます。

- ドキュメントデータ抽出を自動化します。
- ローコード/ノーコード API 統合を使用してプロセスの作成と拡張を行います。
- 反復プロセスや従来のプロセスを自動化して、サービスを迅速に提供します。
- 反復的なタスクに費やす時間を短縮し、生産性を向上させます。
- オートメーションセンターワークスペースを通して、組織に対する自動化の価値を実現します。

ソリューションのワークフロー

従業員とエージェントがオートメーションエンジンとそのさまざまな製品を使用して、口座振込サービスを設定する方法のシナリオを考えてみましょう。最近銀行口座を変更した従業員が、口座振込の情報を更新したいと考えています。口座振込サービスを使用して、自動化されたプロセスを通じて給与計算用の新しい銀行口座を設定します。この自動化されたプロセスでは、次のアプリケーションが使用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ドキュメントインテリジェンス (DocIntel)
- 統合ハブ
- RPA ハブ
- オートメーションセンター

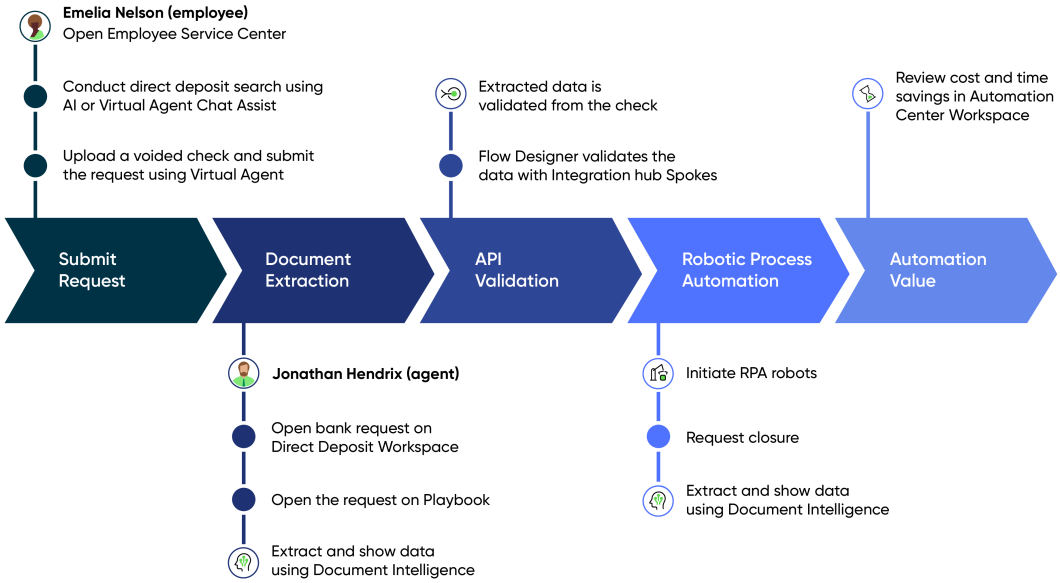
これらのアプリケーションを組み合わせることで、従業員とエージェントは口座振込のワークフローを完全に可視化することができます。

従業員からの口座振込要求は、3 つのステージに分かれています。それらのステージは、データの抽出、データの検証、給与システムの更新です。

次の図に、ソリューションのワークフローを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソリューションのワークフロー



このソリューションのワークフローは次のとおりです。

1. 従業員は従業員センターポータルにアクセスし、AI 検索または仮想エージェントのチャットアシスタントを通じて口座振込フォームを検索します。

   従業員センターは、従業員が組織からの最新情報を確認するための一元的なポータルです。詳細については、「従業員センター」を参照してください。

2. 従業員は無効小切手をアップロードし、要求を送信します。
3. 要求は、複雑なプロセスをガイド付きでナビゲートするためのプレイブックを使用して、口座振込ワークスペースに送信されます。
4. バックエンドでは、ドキュメントインテリジェンス (DocIntel)が添付された小切手データを分析し、データを抽出して、エージェントが確認できるように表示します。

   ドキュメントインテリジェンス (DocIntel) は抽出するフィールドを正確に把握しています。モデルが時間をかけてトレーニングされると、その値は、ドキュメントインテリジェンス (DocIntel) の AI によって決定される信頼スコアの高いものとなります。エージェントまたは自動化チームは、しきい値要件を満たす特定のスコアを設定することができます。

   ドキュメントインテリジェンス (DocIntel) の詳細については、「ドキュメントインテリジェンス (DocIntel)」を参照してください。

5. エージェントは口座振込ワークスペースに移動し、口座振込要求を開き、従業員の小切手から抽出されたデータを確認します。エージェントが確認を完了すると、フォームの情報が自動的に更新されます。
6. 抽出ステージが完了し、検証ステージが開始します。エージェントは、このプロセスをプレイブックで表示できます。
7. 統合ハブ を使用すると、サードパーティとの統合により、小切手から抽出したデータを検証します。抽出された値は、統合ハブ スポークアクションを使用して、検証のために API を介して送信されます。このフローは、統合ハブ のスポーク機能と併せてフローデザイナーを使用することにより完了します。フローは外部エンドポイントにヒットして、データをフェッチし、このデータをシステムデータと比較して銀行明細を検証します。検証が成功すると、関連するすべてのメモと共に口座振込フォームが更新されます。

   フローデザイナーの詳細については、「フローデザイナー」を参照してください。統合ハブ の詳細については、「統合ハブ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、その他の ServiceNow 製品および サービスの名称は、米国および/または その他の国における ServiceNow, Inc. の商標または登録商標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソリューションを統合するための要件

アドミニストレーターは、次のアクションを実行することでソリューションを統合できます。

1. 統合ハブプラグインを有効化します。詳細については、「統合ハブ プラグインを要求する」と「統合ハブ プラグイン」を参照してください。
2. 従業員センターアプリケーションをインストールして、従業員センターを構成します。詳細については、「従業員センターのインストール」と「従業員センター アドミン構成」を参照してください。
3. ドキュメントインテリジェンス (DocIntel) アプリケーションをインストールして設定します。詳細については、「ドキュメントインテリジェンス (DocIntel) のインストール」と「ドキュメントインテリジェンス (DocIntel) の設定」を参照してください。
4. RPA ハブ アプリケーションをインストールします。詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub のインストール」を参照してください。
5. オートメーションセンター アプリケーションをインストールします。詳細については、「オートメーションセンター のインストール」を参照してください。
6. スポークを有効にします。詳細については、「統合ハブ の利用可能なスポーク」を参照してください。
7. スポークジェネレーターを使用してスポークをビルドします。詳細については、「スポークジェネレーターを使用したスポークのビルド」を参照してください。

オートメーションセンター

ServiceNow® オートメーションセンター アプリケーションを使用して、エンドツーエンドのマルチベンダー自動化ライフサイクルを 1 か所から管理します。リアルタイムダッシュボードを使用することで、 複数のベンダーにわたり、自動化の健全性を管理および測定し、自動化の失敗を防ぎます。

オートメーションセンター アプリケーションダッシュボードでは、リアルタイムのメトリクスと分析を表示できます。

オートメーションセンター は、ServiceNow® ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub、ServiceNow® フロー、および任意のサードパーティアプリケーションを統合します。

ServiceNow® フローとの統合

オートメーションセンター は ServiceNow® フローと統合することで、ServiceNow® フローを自動化として追跡できます。詳細については、「ServiceNow フローとアクションを自動化として追跡する」を参照してください。

ServiceNow® ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub との統合

オートメーションセンター は ServiceNow® RPA ハブ アプリケーションとの統合を実現します。この統合により、ServiceNow ロボットとボットプロセスを統合できます。RPA ハブ の詳細については、「ロボティックプロセスオートメーション (RPA) ハブ」を参照してください。

統合： ドキュメントインテリジェンス (DocIntel)

オートメーションセンターはドキュメントインテリジェンス (DocIntel) と統合することで、ドキュメントインテリジェンス (DocIntel) のデータを ServiceNow®インスタンスに取り込むことができます。オートメーションセンターを使用してドキュメントインテリジェンス (DocIntel) のデータを分析できます。詳細については、「ドキュメントインテリジェンス (DocIntel)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UiPath との統合

オートメーションセンター を UiPath と統合することで、UiPath スポークを介して UiPath データを ServiceNow® インスタンスに取り込むことができます。オートメーションセンター を使用して UiPath のデータを分析できます。詳細については、「オートメーションセンター を使用した UiPath の構成」を参照してください。

サードパーティベンダーとの統合

オートメーションセンター はサードパーティベンダーと統合することで、サードパーティのデータを ServiceNow® インスタンスに取り込むことができます。これはオートメーションセンター API を使用して実行できます。

オートメーションセンター API

オートメーションセンター API を使用すると、プロセス、ロボット、および実行ジョブを作成および更新できます。詳細については、「Automation Center API」を参照してください。

要件取り込み図との統合

オートメーションセンター は要件取り込み図と統合され、取り込み図から自動化を作成できます。詳細については、「要件取り込み図」を参照してください。

開始するには

探索 オートメーションセンター の概念と機能について学びます。	構成 をインストールして設定しますオートメーションセンター
使用 の使用方法を説明しますオートメーションセンター	参照 用語集やトラブルシューティング情報などの オートメーションセンター の詳細を取得します。

。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

トラブルシューティングとヘルプの取得

- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- コミュニティフォーラムで質問や回答をする

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 開発者ドキュメント
- 連絡先カスタマーサービス & サポート

オートメーションセンター の詳細

オートメーションセンター アプリケーションの主な機能、アーキテクチャ、およびワークスペースについて説明します。

主な機能

- オートメーションセンター ワークスペースで、ライフサイクル全体を通じてさまざまなソースからの自動化要求を検出し、優先順位を付けて管理します。
- 複数のベンダーにわたり、ビジネスゴールに対する自動化パフォーマンスを監視し、最適化します。
- 複数のベンダーにわたり、自動化の健全性を監視および管理し、自動化の失敗を防ぎます。

オートメーションセンター アーキテクチャとワークスペースの詳細については、次のトピックを参照してください。

オートメーションセンター アーキテクチャ

オートメーションセンター アーキテクチャについて学習するには、

アーキテクチャの概要

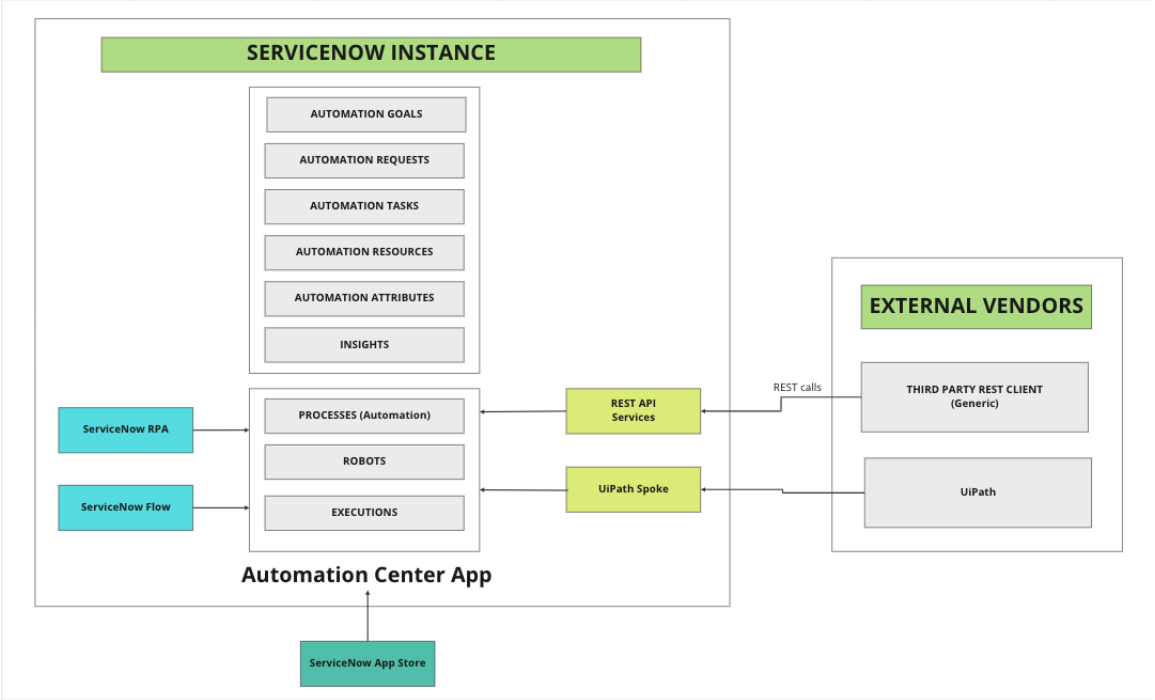
オートメーションセンター アプリケーションのアーキテクチャを構成するさまざまなコンポーネント：

- ServiceNow Store から オートメーションセンター アプリケーションをインストールします。
- オートメーションセンター は ServiceNow インスタンス内のスコープ対象のアプリケーションです。このアプリケーションは、自動化の目標、要求、タスク、リソース、属性、インサイト、自動化、ロボット、および実行を管理するための指揮統制センターです。
- 自動化、ロボット、および実行は、フローを介した ServiceNow® RPA ハブ や REST コールを介した外部ベンダーなどのさまざまなソースから入力されます。

次の図は、オートメーションセンター アプリケーションのアーキテクチャの概要を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オートメーションセンター アプリケーションのアーキテクチャの概要



オートメーションセンター ワークスペース

オートメーションセンター ワークスペースには、既存の自動化、実行、新しい自動化要求のパフォーマンスと KPI 値の全容が表示されます。

ServiceNow® オートメーションセンター ワークスペースは Web ベースのプラットフォームであり、概要、実行、値の 3 つのダッシュボードがあります。

- 概要ダッシュボードには、基本的なスコアカード、リスト、レポートが含まれています。このダッシュボードは、オートメーションセンター ワークスペースのデフォルトのランディングページです。
- 実行ダッシュボードでは、自動化の健全性を一元的に管理できます☒
- 値ダッシュボードでは、ビジネスゴールと自動化の状況に関するサマリー情報を提供します。

オートメーションセンター 概要ダッシュボード

オートメーションセンター ワークスペース ランディングページは、基本的なスコアカード、リスト、レポートが含まれている概要ダッシュボードです。

概要ダッシュボードには、次のどちらかの方法でアクセスできます。

- [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム] > [概要]に移動します。
- [ワークスペース] > [オートメーションセンターワークスペース **(Automation Center Workspace)]** > [概要] に移動します。

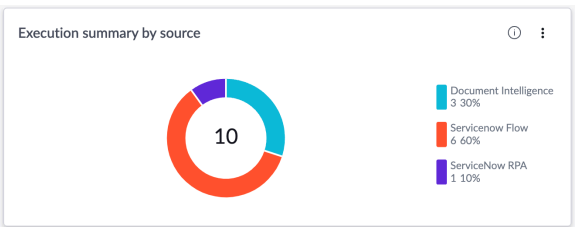
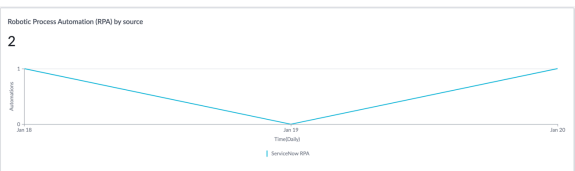
アクティブ自動化

[アクティブ自動化] では、さまざまなソースからのすべてのアクティブ自動化とそのビジネス上の重要度の詳細を提供します。データをフィルタリングして、特定の日付範囲内の情報、特定の自動化の情報、または特定の部門の情報を表示できます。フィルターを設定すると、指定したフィルターに応じた結果のみが表示されます。フィルターを設定しない場合は、すべてのアクティブ自動化のデータが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

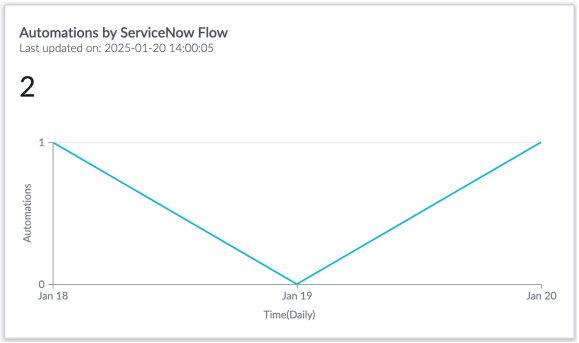
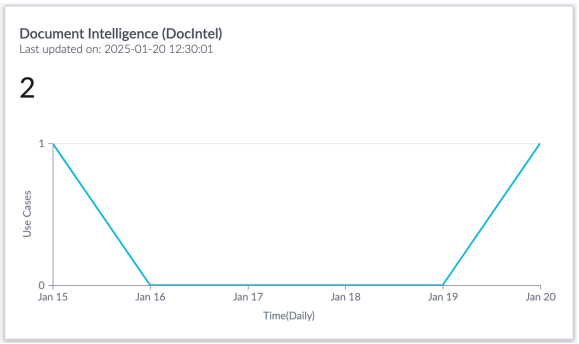
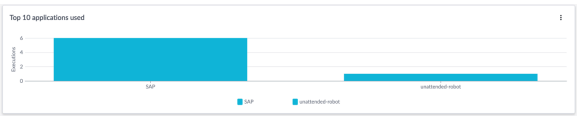
[アクティブ自動化] セクションには、以下の詳細がチャート形式で表示されます。

アクティブ自動化

セクション	説明
事業上の重要度別の展開済み自動化	このチャートには、すべてのアクティブ自動化に関するデータが表示されます。また、各自動化のビジネス上の重要度に関する詳細も表示されます。このデータで、非常に重要な自動化の数と重要性の低い自動化の数を把握できます。
ソース別の実行サマリー	オートメーションセンターは、ServiceNow フロー、ServiceNow RPA、その他のサードパーティソースなどの複数ソースからのデータをサポートしています。このチャートには、すべてのアクティブ自動化の実行サマリーの詳細がそのソースとともに表示されます。この情報は、データの取得元のソースと、各ソースからの自動化のうちアクティブなものの数を評価するのに役立ちます。 
ソース別ロボティックプロセスオートメーション (RPA)	このチャートには、ソース別にグループ化されたすべての RPA の自動化が表示されます。グラフは、RPA データがオートメーションセンターに送信されたときのタイムラインの詳細を示します。 
ServiceNow フロー別の自動化	このチャートは、ServiceNow フローの自動化の詳細をタイムラインで示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティブ自動化 (続く)

セクション	説明
	
ドキュメントインテリジェンス (DocIntel) (DocIntel)	このチャートは、ドキュメントインテリジェンス (DocIntel) の自動化の詳細をタイムラインで示します。 
上位 10 件のもっとも使用されているアプリケーション	このグラフは、上位 10 件の最も使用されているビジネスアプリケーションの縦棒グラフレポートになります。ビジネスアプリケーションを自動化に関連付ける方法の詳細については、「アプリケーション情報のためのビジネスアプリケーションと CI の関係」を参照してください。 

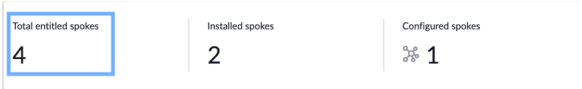
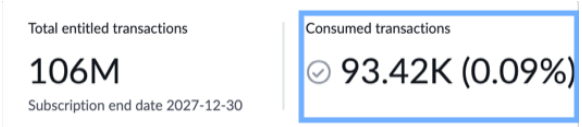
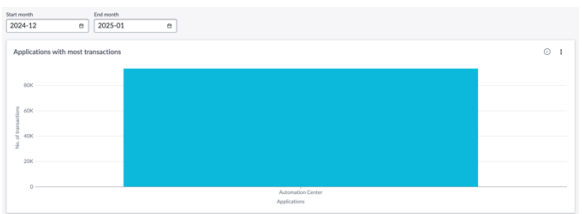
スポークおよびトランザクション

[スポークおよびトランザクション (Spokes & Transactions)] セクションには、インスタンスで利用可能なスポークとトランザクションの詳細が表示されます。

注: [スポークおよびトランザクション (Spokes & Transactions)] セクションでデータを表示するには、sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin ロールが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークおよびトランザクション

セクション	説明
エンタイトルメントを付与されたスポーク合計	エンタイトルメントを付与され、インスタンスにインストールされているスポークの数を表示します。 
インストールされたスポーク	インスタンスにインストールされているスポークの数を表示します。
構成済みスポーク	インスタンスで接続が構成されているスポークの数を表示します。
エンタイトルメントを付与されたトランザクション合計	使用可能なトランザクションの数を表示します。
消費済みトランザクション	使用したトランザクションの数を表示します。 
トランザクションが最も多いアプリケーション	トランザクションが最も多いアプリケーション (スコープアプリケーション) を表示します。 特定の期間の結果をフィルタリングできます。デフォルトでは、過去 1 か月のデータが表示されます。 
トランザクションが最も多いスポーク	トランザクションが最も多いスポークが表示されます。 特定の期間の結果をフィルタリングできます。デフォルトでは、過去 1 か月のデータが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークおよびトランザクション (続く)

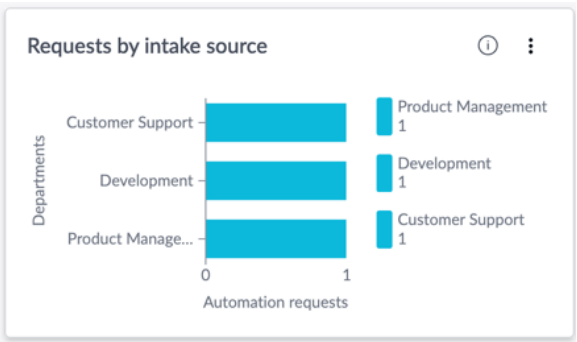
セクション	説明

今後の自動化

[今後の自動化 (Future automations)] セクションには、今後予定されているすべてのアクティブな自動化に関する詳細が表示されます。

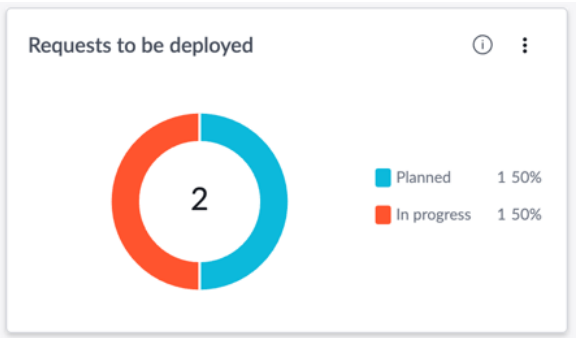
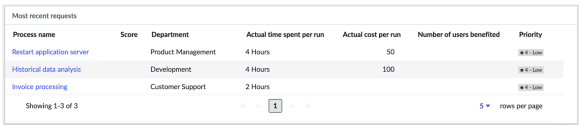
データを部門別にフィルタリングできます。部門が選択されていない場合、すべての部門のデータが表示されます。

今後の自動化

セクション	説明
新しい要求	[新規] ステータスのすべての自動化要求が表示されます。
取り込みソース別の要求	Web、プロセスマイニング、サービス要求など、取り込みソース別にグループ化されたすべての自動化要求が表示されます。 

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

今後の自動化 (続く)

セクション	説明
展開される要求	展開の準備ができている自動化要求が表示されます。 
最新の要求	最新のものから順にソートされた自動化要求をリストします。 

オートメーションセンター 実行ダッシュボード

オートメーションセンター 実行ダッシュボードは、自動化の健全性の一元的な管理に役立ちます。また、使用されているテクノロジーに関係なく、サードパーティプロバイダーから自動化メトリクスとデータをインポートすることもできます。

[実行] では、各自動化の実行時間が示されます。

実行ダッシュボードには、次のどちらかの方法でアクセスできます。

- [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動し、[実行] タブを選択します。
- [ワークスペース] > [オートメーションセンターワークスペース **(Automation Center Workspace)]** > [実行]に移動します。

実行ダッシュボードの詳細

実行ダッシュボードは、自動化の実行に関する詳細をチャートとテーブルの形式で提供します。こうしたチャートは、実行プロセス全体の概要を示します。

利用可能な次の 4 つのフィルターを使用して、このページに表示されるすべてのデータをフィルタリングできます。

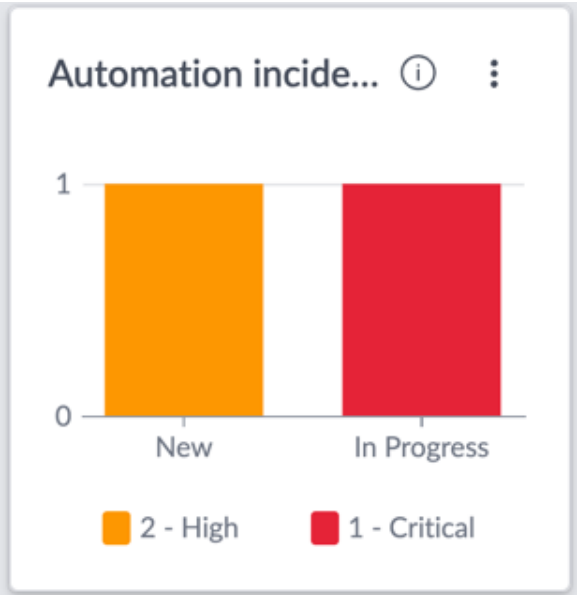
- 部門
- 自動化
- ソース
- アプリケーション

フィルターを指定しない場合、利用可能なすべてのデータが表示されます。

注: オートメーションセンターロールに加えて、自動化インシデント、自動化変更、およびビジネスアプリケーション変更のウィジェットを表示するには、itil または sn_incident_read および sn_change_read ロールが必要です。

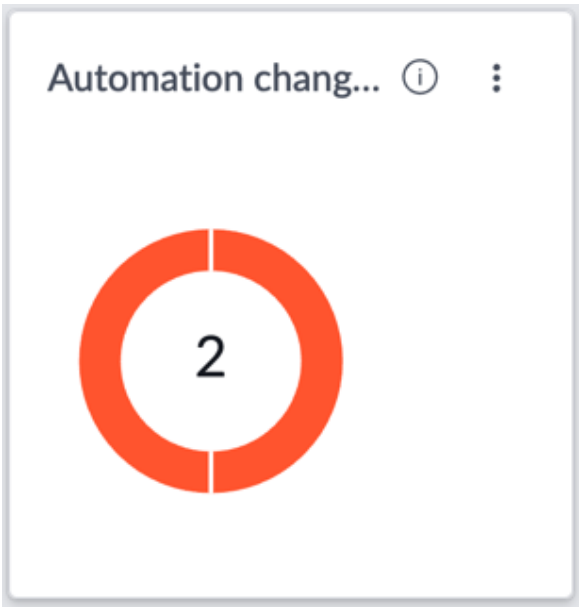
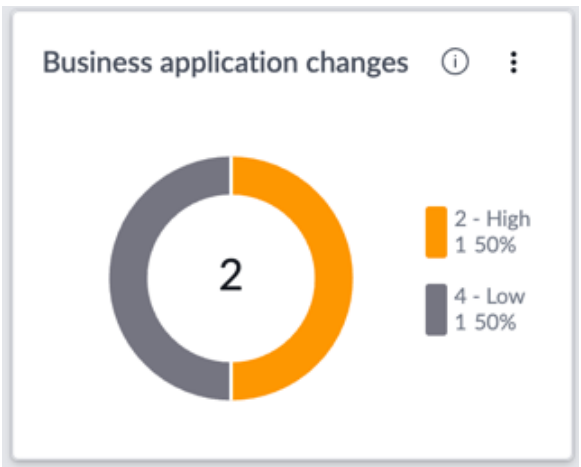
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行サマリー

セクション	説明
ステータス別の実行サマリー	このチャートには、さまざまな状況の自動化の実行状況が表示されます。この情報は、自動化のステータスを把握するのに役立ちます。
自動化インシデント	このチャートには、自動化に直接影響するインシデントに関する情報が表示されます。たとえば、5 つの自動化が保留されている場合、このチャートでその 5 つの自動化について知ることができます。この情報により、自動化をより適切に管理できます。 
自動化変更	このチャートは、自動化に直接影響する変更に焦点を当てています。

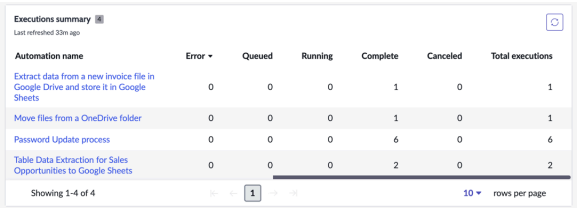
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行サマリー (続く)

セクション	説明
	
ビジネスアプリケーションの変更	このチャートには、自動化に関連付けられているビジネスアプリケーションの変更に関する情報が表示されます。 
時系列の実行状況	このチャートには、一定期間の実行のステータスに関する情報が表示されます。このチャートには日付範囲フィルターがあります。日付範囲を選択すると、データは選択した日付範囲に制限されます。日付範囲を選択しない場合は、デフォルトの日付範囲 (過去 1 週間) が選択されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

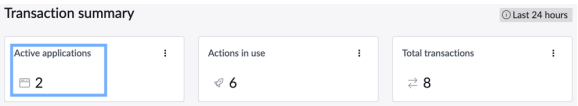
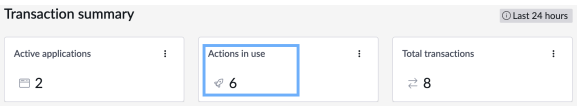
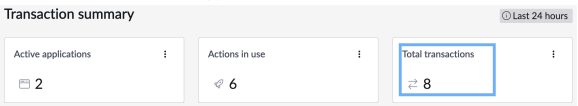
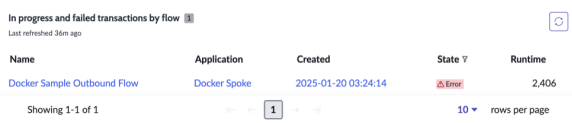
実行サマリー (続く)

セクション	説明
実行サマリー	このチャートには、実行数とそれぞれの状況が自動化名でソートされて表示されます。 

トランザクションのサマリー

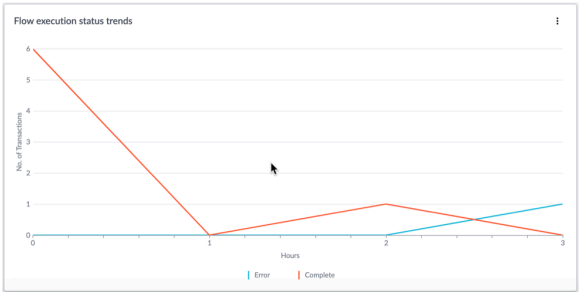
[トランザクションのサマリー (Transaction summary)] セクションには、過去 24 時間のスポークの実行の詳細が表示されます。

実行サマリー

セクション	説明
アクティブなアプリケーション	過去 24 時間にインスタンスで実行されているアクティブなアプリケーションの数を表示します。 
使用中のアクション	過去 24 時間にインスタンスで使用されたアクションの数を表示します。 
合計トランザクション数	過去 24 時間のインスタンス内のトランザクションの合計数を表示します。 
フロー別の進行中のトランザクションと失敗したトランザクション	過去 24 時間のインスタンスで進行中のトランザクションと失敗したトランザクションのすべてをフロー別に表示します。 

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行サマリー (続く)

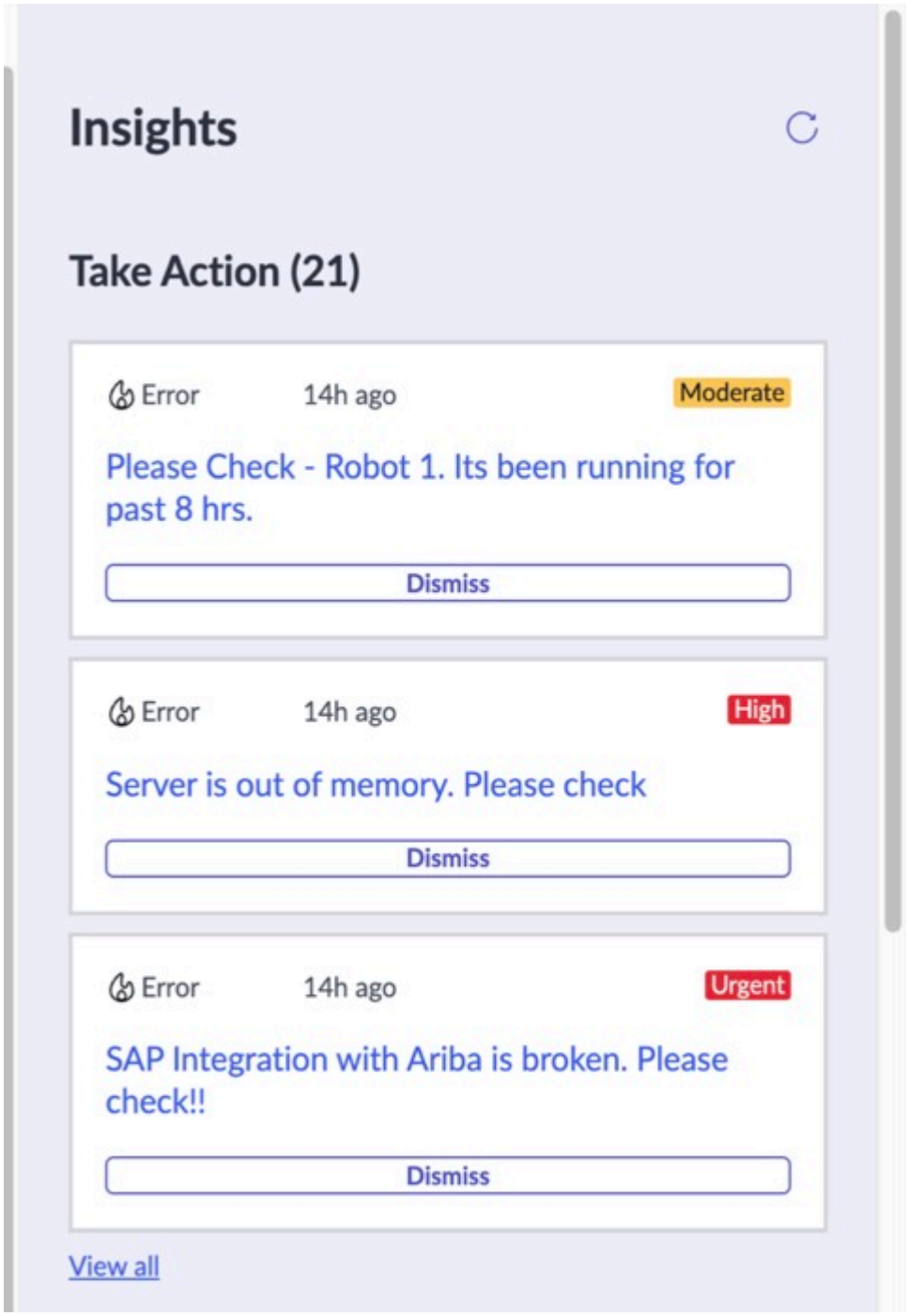
セクション	説明
フロー実行ステータスの傾向	過去 24 時間のインスタンス内のすべてのステータスのフロー実行の傾向を表示します。 

インサイトパネル

[インサイト] パネルには、オートメーションセンター内の問題に注意を向けるインサイトに関する情報が表示されます。問題を修正することも、無視することもできます。問題の修正が遅れると、一部の自動化が想定どおりに動作しない場合があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インサイトの例



オートメーションセンター 値ダッシュボード

オートメーションセンター 値ダッシュボードには、目標の状況と自動化の状況に関するサマリー情報とともに、すべてのアクティブな自動化および今後の自動化によって削減されるコストと時間の実績と概算が表示されます。

値ダッシュボードには、次のどちらかの方法でアクセスできます。

- [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動し、[値] タブを選択します。
- [ワークスペース] > [オートメーションセンターワークスペース **(Automation Center Workspace)]** > [値]に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

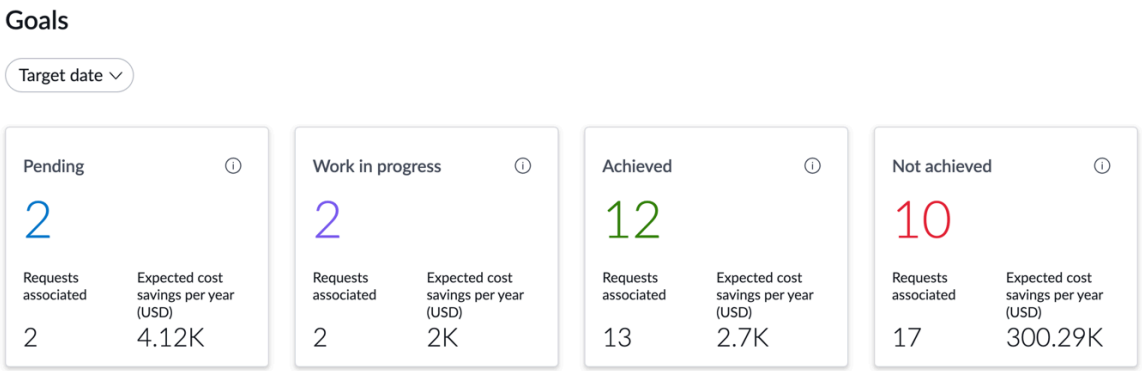
目標チャート

目標チャートには、ステータス別に分類された自動化目標のサマリーが、1 年で削減される概算コストとともに表示されます。

自動化目標については、「自動化目標の作成」を参照してください。

デフォルトでは、目標チャートに、データを表示している日のすべての自動化目標と関連するアクティブ自動化要求の詳細が表示されます。

[目標期日] ドロップダウンリストを使用して、特定の期間の目標を表示します。[目標期日] フィルターを選択すると、現在の月と翌月のカレンダーを表示できます。日付フィルターには、[カスタム範囲]、[過去 12 か月]、[過去 6 か月] などが使用できます。



アクティブ自動化

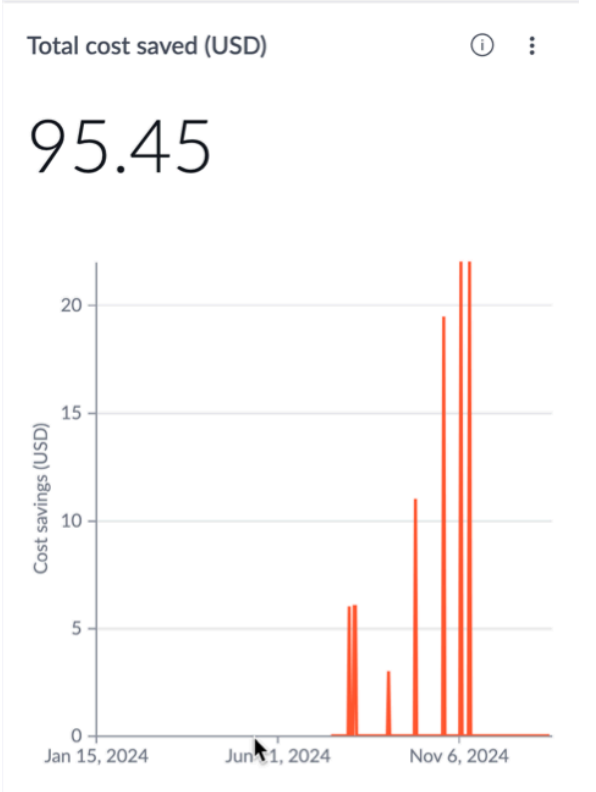
アクティブ自動化チャートには、アクティブ自動化のデータが表示されます。データを日付別、部門別、自動化別にフィルタリングできます。フィルターが設定されていない場合は、すべてのデータに対するデータが表示されます。

アクティブ自動化

セクション	説明
コスト削減総額	このチャートには、選択した日付範囲、部門、および自動化での、削減されたコスト総額が表示されます。 **注:** [コスト削除総額 (Total cost saved)] ウィジェットを選択すると、アナリティクスハブの [KPI 詳細] ウィジェットが新しいタブで開きます。

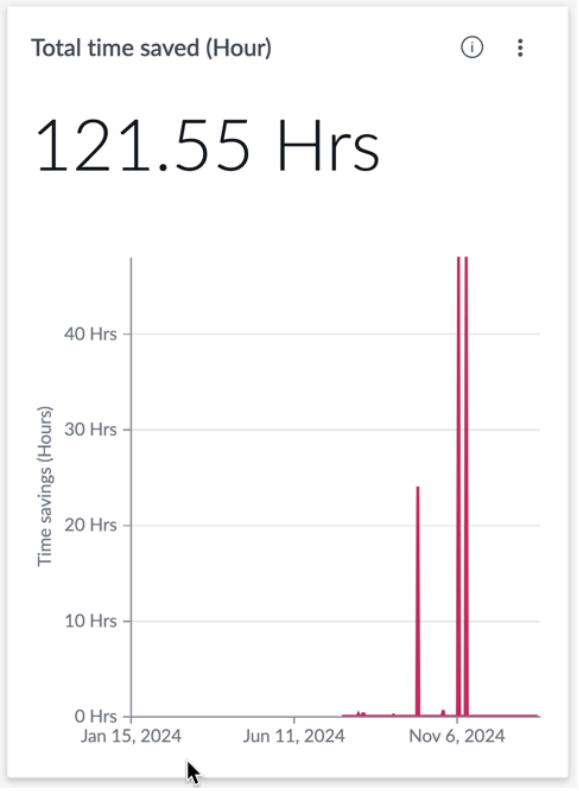
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティブ自動化 (続く)

セクション	説明
	
合計削減時間	このチャートには、選択した日付範囲、部門、および自動化での、合計削減時間が表示されます。 **注:** [合計削減時間 (Total time saved)] ウィジェットを選択すると、アナリティクスハブ の [KPI 詳細] ウィジェットが新しいタブで開きます。

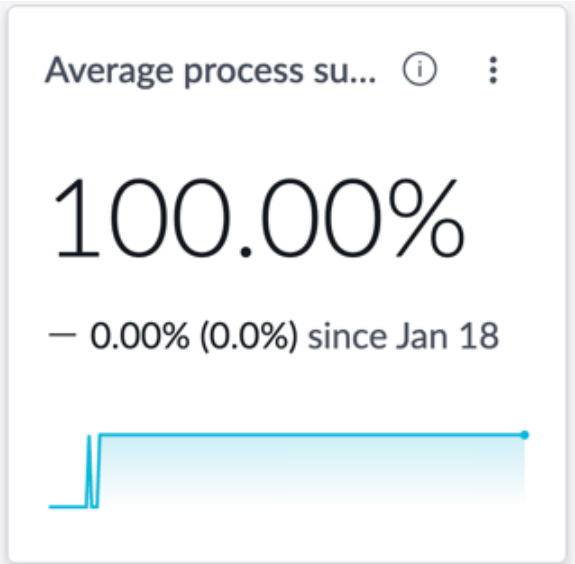
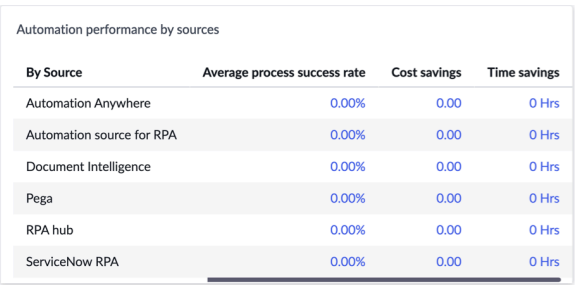
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティブ自動化 (続く)

セクション	説明
	
展開された自動化数	このチャートには、選択した日付範囲、部門、および自動化での、展開された自動化の合計数が表示されます。また、データを前のサイクルと比較します。前のサイクルは現在のサイクルと同じ期間です。たとえば、現在のサイクルが 2021 年 1 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日の場合、前のサイクルは 2020 年 10 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日になります。

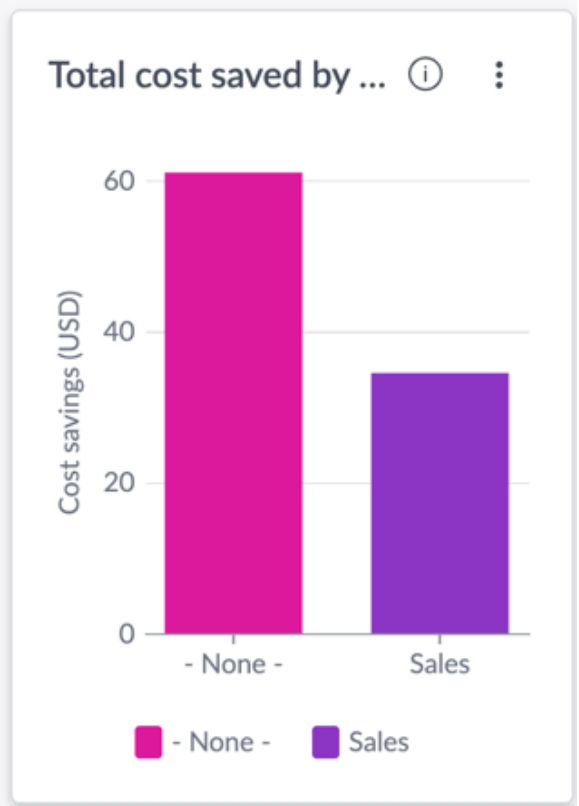
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティブ自動化 (続く)

セクション	説明
平均プロセス成功率	このチャートには、選択した日付範囲、部門、および自動化での、平均プロセス成功率が表示されます。成功率は、選択した日付範囲内で状況が「完了」、「エラー」、および「キャンセル」の合計実行数を、エラーなしで完了した実行数で割って算出されます。また、データを前のサイクルと比較します。前のサイクルは現在のサイクルと同じ期間です。たとえば、現在のサイクルが 2021 年 1 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日の場合、前のサイクルは 2020 年 10 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日になります。 
ソース別の自動化パフォーマンス	このチャートには、選択した日付範囲、部門、自動化での、ServiceNow RPA、フロー、その他のサードパーティ自動化ベンダーなどのソース別自動化パフォーマンスが表示されます。 **注:** 最大 20 件のソースデータを取得できます。 
部門別のコスト削減総額	このチャートには、選択した日付範囲での、部門ごとの実行あたりのコスト削減が表示されます。

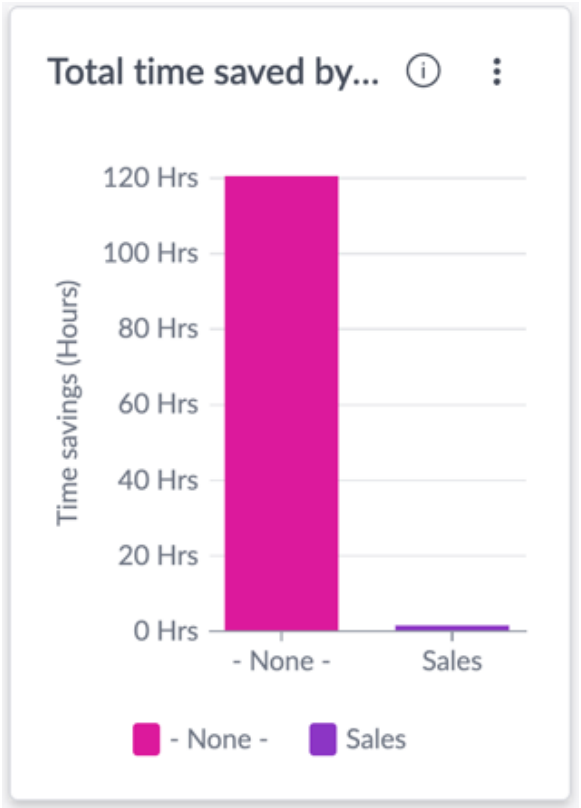
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティブ自動化 (続く)

セクション	説明
	
部門別の削減時間合計	このチャートには、選択した日付範囲での、部門ごとの実行あたりの時間節約が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティブ自動化 (続く)

セクション	説明
	

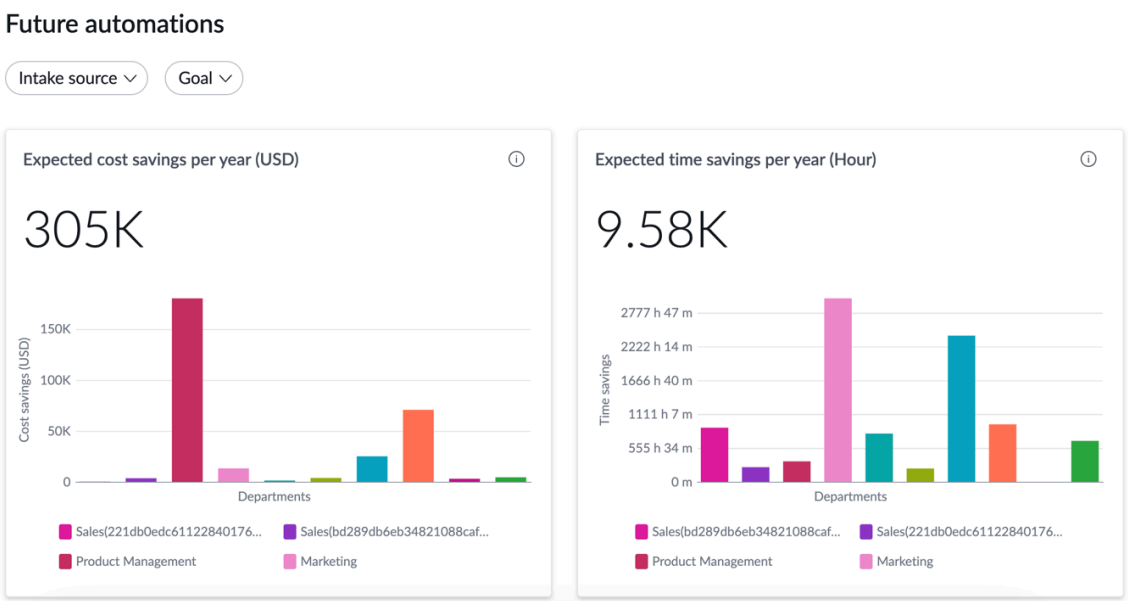
注: パフォーマンスアナリティクス データ収集の遅れにより、アナリティクスハブ に表示される日付に遅れが生じることがあります。

今後の自動化

[今後の自動化] セクションには、1 年ごとの今後の要求のコスト削減額と時間節約の概算が表示されます。

[取り込みソース] および [目標] フィルターを使用して、結果を特定の取り込みソースまたは目標に制限します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



オートメーションセンターのカンバンボード

オートメーションセンターのカンバンボードを使用すると、自動化要求や自動化タスクの表示と管理を簡単に行えます。

オートメーションセンターのカンバンボードには、次の利点があります。

- すべての自動化要求とあらゆる状況の自動化タスクを 1 か所で表示できます。
- 自動化要求または自動化タスクの状態を簡単に更新できます。

自動化要求の管理

すべての自動化要求をオートメーションセンターカンバンボードの要求ボード 1 か所から管理します 。

始める前に

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

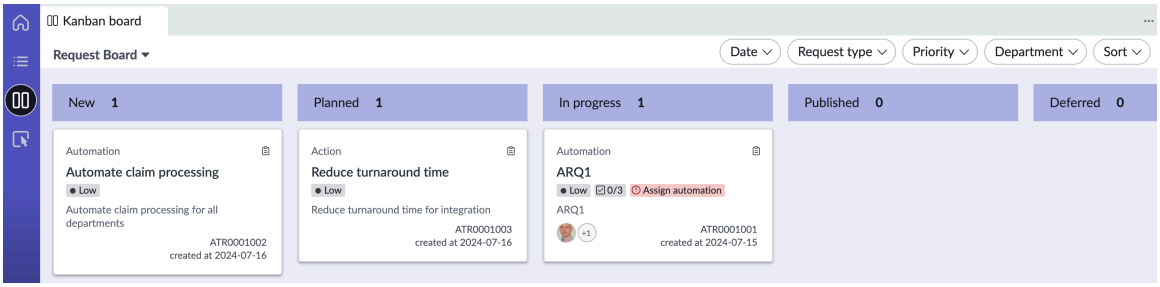
手順

1. [ワークスペース] > [オートメーションセンターワークスペース **(Automation Center Workspace)]** に移動します。
   オートメーションセンターダッシュボードが表示されます。
2. カンバンボードアイコン を選択します。
   カンバンボードは、要求ボードが表示された状態で表示されます。利用可能なすべての自動化要求をそのステータスと共に表示できます。

   注: 要求ボードでは、最大 200 の自動化要求を利用できます。この値は、sn_ac.automation_admin または sn_ac.automation_technical_user ロールを持つユーザーのみが変更できます。

   また、sn_ac.automation_admin または sn_ac.automation_technical_user ロールを持つユーザーは誰でも、vtb_board テーブルを編集することで、要求ボードのさまざまな状況 (列) を並べ替えて、要件に従ってライフサイクルまたはプロセスフローの方向を設定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



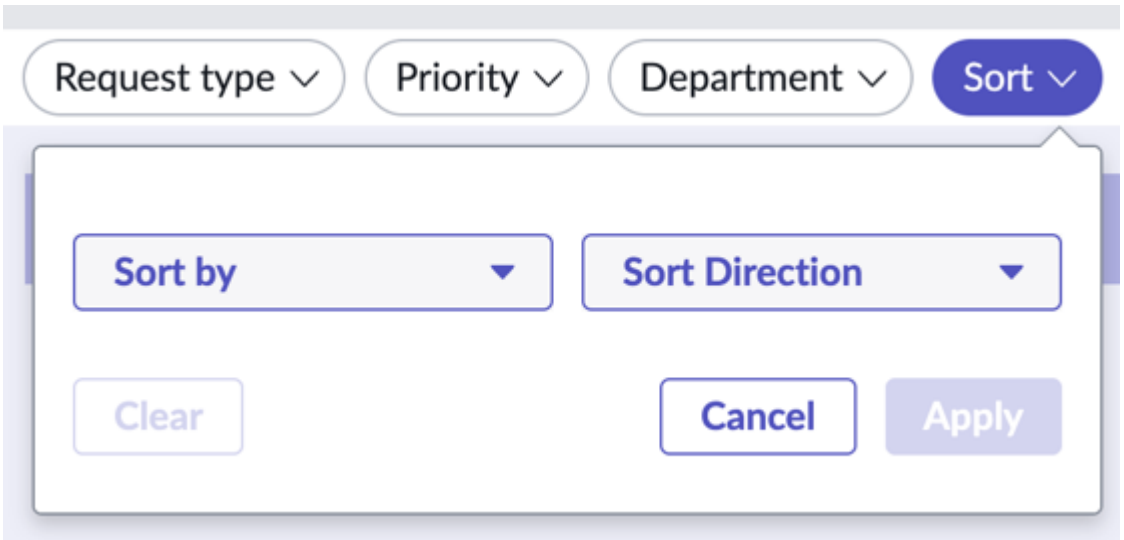
3. 要求ボードでは、複数のアクションを実行できます。

   - ニーズに合わせて自動化要求をフィルタリングできます。

     次のように自動化要求をフィルタリングできます。

     - [日付]：任意の日付範囲を選択して、その期間中に作成された自動化要求を表示します。
     - 要求タイプ：表示する要求のタイプを選択します。自動化要求、アクション要求、またはレビュー要求の表示を選択できます。
     - [優先度]：1 つ以上の優先度値を選択して、その値を持つ自動化要求を表示します。
     - [部門]：1 つ以上の部門を選択して、選択した部門に属する自動化要求を表示します。

   - 使いやすいように自動化要求をソートします。



     [ソート基準] フィールドから [名前]、[優先度]、または [スコア] を選択します。

     [ソートの方向] フィールドから [昇順] または[降順] を選択します。

     自動化要求は、選択したソートオプションに基づいてソートされます。

   - 自動化要求のステータスを変更します。

     自動化要求をあるステータスから別のステータスに移動するには、要求されたステータス列にカードをドラッグします。

     正常なパスに従わないと、エラーメッセージが表示され、問題を修正するように促されます。

     ソートが適用されると、自動化要求カードはソートに従って配置されます。ソートが適用されていない場合、自動化要求カードは作成日に基づいて配置されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 自動化要求カードからタスクを作成します。

  a. 自動化タスクカードからタスクアイコン ( ) を選択します。

  自動化要求の状況に応じたタスクボードが表示されます。

  b. [タスクを追加] アイコンを選択します。

  [新しい自動化タスクの作成 **(Create New Recovery task)]** フォームが表示されます。詳細については、「自動化タスクフォーム」を参照してください。

  関連付けられた自動化要求が [計画] または [処理中] のいずれかのステータスであることを確認します。

- 自動化要求にタスクがアサインされているかどうかを確認します。アサインされている場合は、完了したタスクの数を示します。
- 自動化要求に自動化が関連付けられているかどうかを確認します。

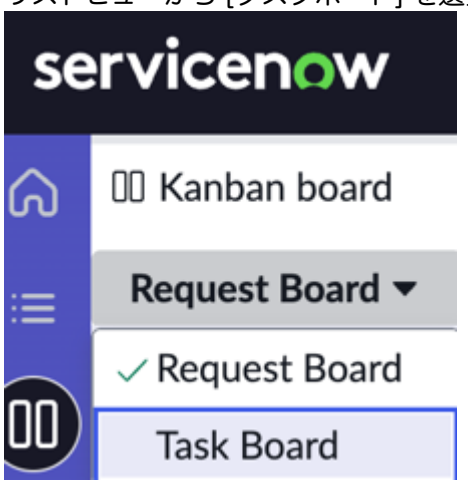
自動化タスクの管理

すべての自動化要求をオートメーションセンターカンバンボードのタスクボード 1 か所から管理します 。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

手順

1. [ワークスペース] > [オートメーションセンターワークスペース **(Automation Center Workspace)]** に移動します。
   オートメーションセンターダッシュボードが表示されます。
2. カンバンボードアイコン を選択します。
   カンバンボードは、要求ボードが表示された状態で表示されます。
3. リストビューから [タスクボード] を選択します。

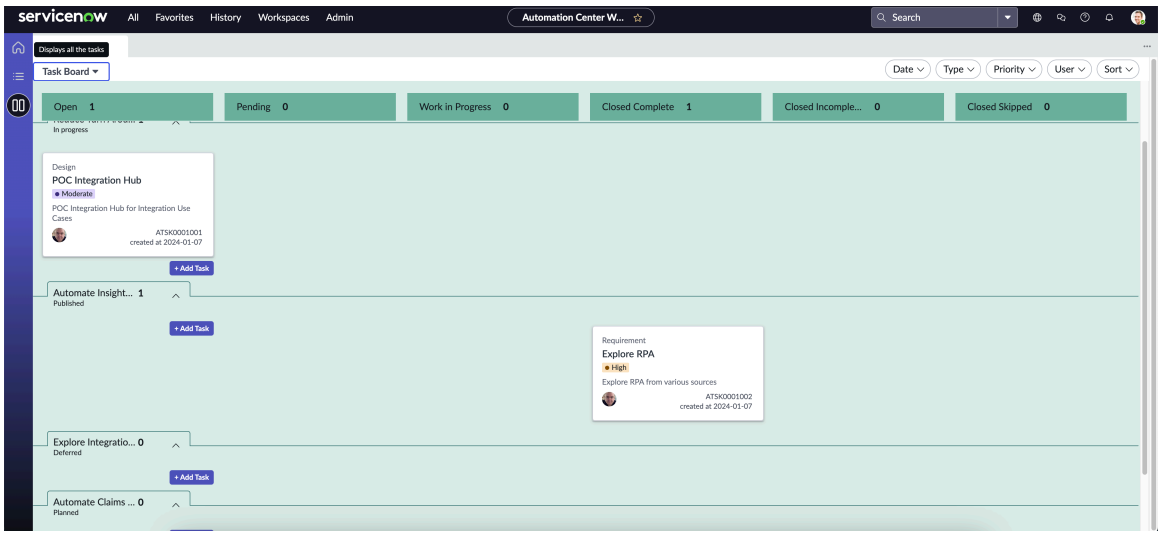


タスクボードが、利用可能なすべてのタスクとそ状況と共に表示されます。

注: タスクボードでは最大 2000 件のタスクが利用可能です。この値は、システムアドミニストレーターのみが変更できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

また、sn_ac.automation_admin または sn_ac.automation_technical_user ロールを持つユーザーは誰でも、vtb_board テーブルを編集することで、タスクボードのさまざまな状況 (列) を並べ替えて、要件に従ってライフサイクルまたはプロセスフローの方向を設定できます。



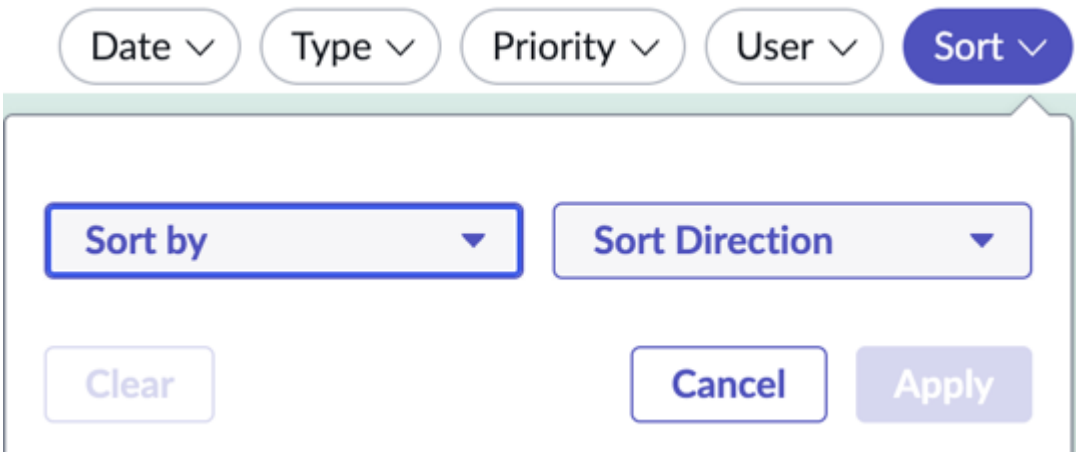
4. タスクボードでは、複数のアクションを実行できます。

   ◦ ニーズに合わせてタスクをフィルタリングします。

   以下に基づいてタスクをフィルタリングします。

   - [日付]：任意の日付範囲を選択して、その期間中に作成されたタスクを表示します。
   - [タイプ]：1 つ以上のタスクタイプを選択して、選択したタイプに属するタスクを表示します。
   - [優先度]：1 つ以上の優先度値を選択して、その優先度値を持つタスクを表示します。
   - [ユーザー]：1 人以上のユーザーを選択して、それらのユーザーにのみ割り当てられたタスクを表示します。タスクがアサインされたユーザーのみが選択可能です。

   ◦ 使いやすいようにタスクを並べ替えます。



   [ソート基準] フィールドから [名前]、[優先度]、または [スコア] を選択します。

   [ソートの方向] フィールドから [昇順] または[降順] を選択します。

   タスクは、選択したソートオプションに基づいてソートされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ タスクのステータスを変更します。

タスクをあるステータスから別のステータスに移動するには、要求されたステータス列にカードをドラッグします。

ソートが適用されると、タスクカードはソートに従って配置されます。ソートが適用されていない場合、タスクカードは作成日に基づいて配置されます。

◦ 自動化タスクカードからタスクを作成します。

[タスクを追加] アイコンを選択します。

[新しい自動化タスクの作成 **(Create New Recovery task)]** フォームが表示されます。詳細については、「自動化タスクフォーム」を参照してください。

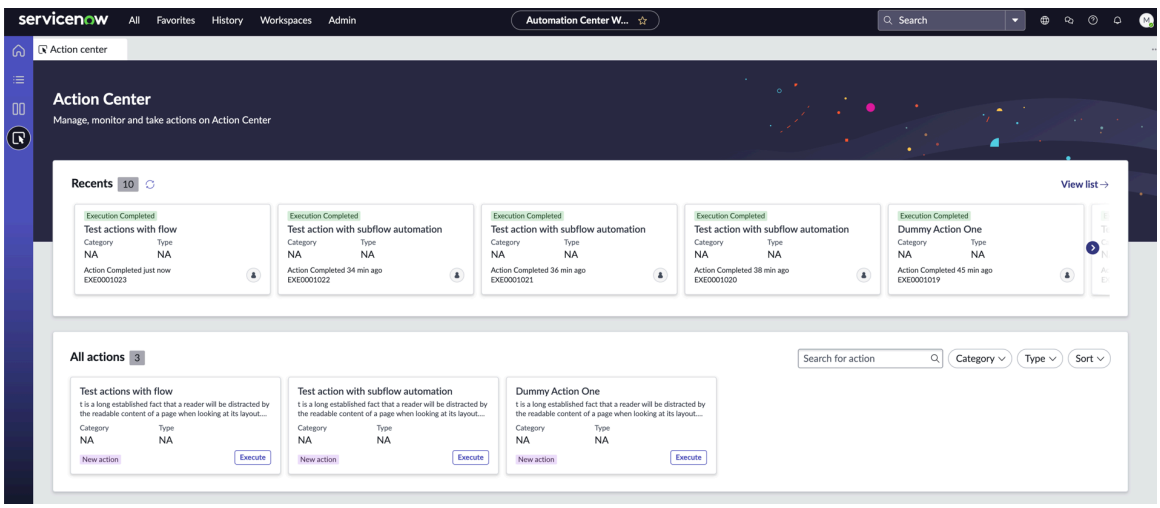
関連付けられた自動化要求が [計画] または [処理中] のいずれかのステータスであることを確認します。

アクションセンター

アクションセンターは、オートメーションセンター で自動化が失敗する原因となる繰り返し発生する問題を簡単に修正する方法を提供します。

アクションセンターには以下のメリットがあります。

- 自動化の失敗の原因となる問題を解決するためのアクションを管理および実行します。
- アドミニストレーターに依存することなく、繰り返される一般的な問題を修正します。
- ビジネスユーザーは、フローデザイナー、ServiceNow® ロボティックプロセス自動化、UiPath などの他の技術プラットフォームに移動することなく、アクションセンターから直接、問題を修正するためのアクションを開始できます。



詳細については、「アクションの使用」を参照してください。

Connection Manager (接続マネージャー)

接続マネージャーを使用すると、データインポートを正しくマッピングしてテストすることで、サードパーティツールから オートメーションセンター テーブルにデータを追加できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続マネージャーを使用すると、数回クリックするだけで、サードパーティツールのデータをオートメーションセンターのテーブルに効率的に追加できます。

詳細については、「接続マネージャーの操作」を参照してください。

オートメーションセンター の構成

組織での オートメーションセンター の実装を計画および構成できます。

オートメーションセンター のインストール

管理者ロールがある場合は、オートメーションセンター アプリケーション (sn_ac) をインストールできます。 このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow® Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、「ServiceNow 製品またはアプリケーションのエンタイトルメントの取得」を参照してください。
- 依存関係、ライセンスやサブスクリプションの要件、およびリリースの互換性については、ServiceNow Store のオートメーションセンター アプリケーションリストを確認してください。

必要なロール：admin

このタスクについて

オートメーションセンター とともに次のアイテムがインストールされます。

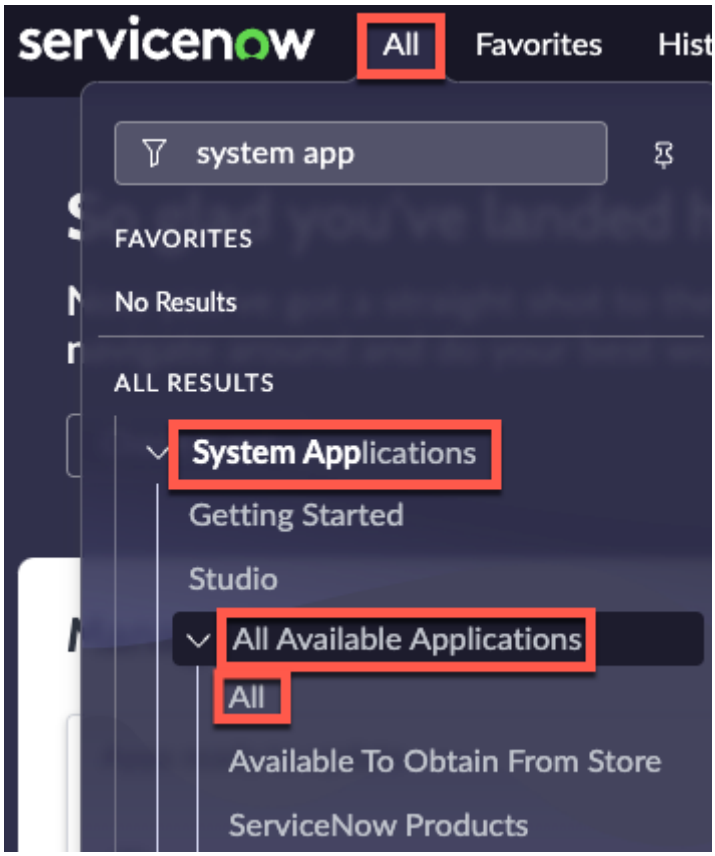
- プラグイン
- ストアアプリケーション
- ロール
- スケジュール済みジョブ
- テーブル

詳細については、「オートメーションセンター とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。



2. フィルター基準と検索バーを使用して、オートメーションセンター アプリケーション (sn_ac) を検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store への要求が必要になることがあります。

   [インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。

3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

   表示されるインストールダイアログボックスには、アプリケーションと併せてインストールされている依存関係が一覧表示されます。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエンタイトルメントを取得します。

5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
   デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

   > **重要:** インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

6. [インストール] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク

オートメーションセンター値ダッシュボードのデータは、[パフォーマンスアナリティクス (PA)] テーブルから派生します。PA ジョブは、1 日の特定の時刻に実行されるようにスケジュールされています。インストール直後からスケジュール実行直前までのデータを表示する場合は、PA ジョブを手動で実行する必要があります。

自動化サマリー実行の構成

自動化の実行サマリーを構成して、自動化データを集計してオートメーションセンターダッシュボードに表示する方法を指定します。

RPA、ServiceNow フロー、ドキュメントインテリジェンス (DocIntel) などのさまざまなソースからデータのインポートや構成を行い、オートメーションセンターダッシュボードに表示できます。

以前は、異なるデータソースのデータに対して、異なるタイプの集計が必要でした。それは時間を要することでした。しかし現在では、異なるソースからのデータに対して、自動化サマリー実行を更新する汎用的な方法があります。

自動化ソースタイプの作成

オートメーションセンター でインポートして使用するソースタイプの種類を定義します。

始める前に

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [管理] > [オートメーションセンター] > [自動化ソースタイプ **(Automation Source Type)**]に移動します。
   [自動化ソースタイプ (Automation source types)] ページに、既存の自動化ソースタイプのリストが表示されます。
2. [新規] を選択します。
   [自動化ソースタイプ (Automation source types)] ページが表示されます。
3. 名前と説明を入力します。
4. [送信] を選択します。
   [自動化ソースタイプ (Automation source types)] ページに、新しく作成された自動化ソースタイプが他の自動化ソースタイプと共に表示されます。

次のタスク

自動化ソースの作成

自動化ソースの作成

選択したソースタイプのデータソースを関連付けます。

始める前に

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [管理] > [オートメーションセンター] > [自動化ソースタイプ **(Automation Source Type)**]に移動します。
   [自動化ソースタイプ (Automation source types)] ページに、既存の自動化ソースタイプのリストが表示されます。
2. ソースを作成する際のソースタイプを選択します。
   [自動化ソースタイプ] ページにソースタイプの詳細が表示されます。
3. [自動化ソース] セクションで [新規] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[自動化ソース] フォームが表示されます。

4. フォームのフィールドに入力します。

自動化ソースフォーム

フィールド	説明
名前	自動化ソースの名前。この名前は オートメーションセンター ダッシュボードに表示されます。
アプリケーション	ソースが作成される、関連性のあるアプリケーションまたはアプリケーションスコープ (例：オートメーションセンター または RPA ハブ など)。これは自動入力されます。
ソースタイプ	ソースの作成対象のソースタイプ。必要に応じて、このフィールドを編集できます。
内部名	自動化ソースの内部名。 このフィールドは編集できます。値を入力するときは、スペースが含まれていないことを確認してください。 このフィールドは自動生成されます。
説明	自動化ソースの説明。

5. [送信] を選択します。

注: 1 つの自動化ソースタイプに複数のソースを関連付けることができます。

次のタスク
実行サマリーの構成

実行サマリーの構成

適切な条件で実行サマリーを構成します。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [管理] > [オートメーションセンター] > [自動化ソース]に移動します。
   [自動化ソース] ページに、既存の自動化ソースのリストが表示されます。
2. 実行サマリーを構成するソースを選択します。
   [自動化ソース] ページにソースの詳細が表示されます。
3. [実行サマリー構成 (Execution summary configuration)] セクションで [新規] を選択します。
   [実行サマリー構成 (Execution summary configuration)] フォームが表示されます。
4. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

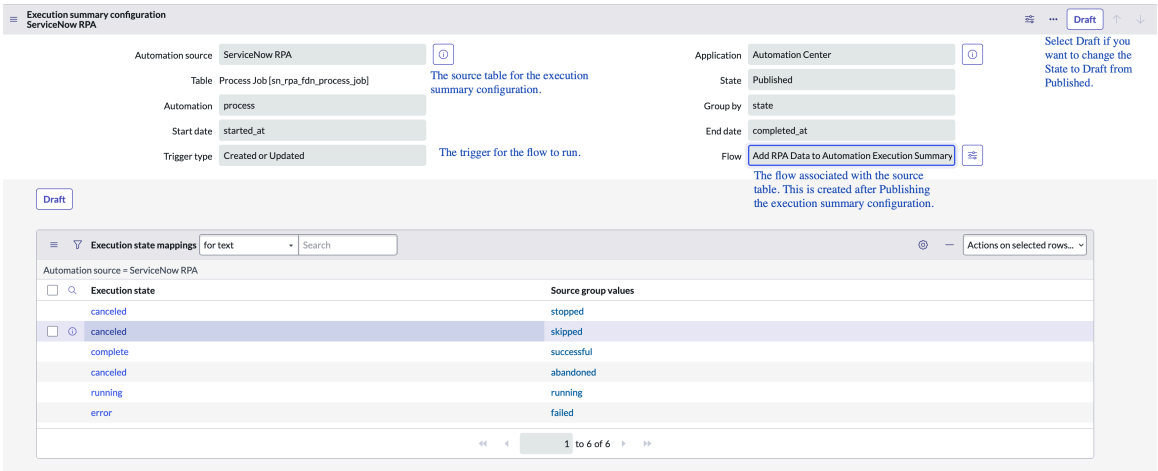
[実行サマリー構成 **(Execution summary configuration)]** フォーム

フィールド	説明
自動化ソース	選択した自動化ソース。このフィールドは自動入力されます。
アプリケーション	ソースが作成される、関連性のあるアプリケーションまたはアプリケーションスコープ (例：オートメーションセンター または RPA ハブ など)。このフィールドは自動入力されます。
テーブル	データのインポート元であるテーブル。
状況	実行サマリー構成のステータス。このフィールドは自動入力されます。
自動化	選択したテーブルの自動化フィールド。
グループ分け基準	レコードのグループ化に使用する、選択したテーブルのフィールド
開始日	サマリー構成の開始時
終了日	サマリー構成の終了時
トリガータイプ	フローをトリガーするアクション。 以下の値をトリガーに使用できます。 ◦作成時：ソーステーブルのレコードが作成されるたび。 ◦更新時：ソーステーブルのレコードが更新されるたび。 ◦作成時または更新時：ソーステーブルのレコードが作成または更新されるたび。 ◦日次：毎日実行されるようにスケジュール。 ◦週次：毎週実行されるようにスケジュール。 ◦1 回実行：1 回のみ実行するようにスケジュール。 ◦月次：毎月実行されるようにスケジュール。 これらのトリガーは、関連付けられたフローで設定できます。

5. [送信] を選択します。
   前のページに移動します。実行サマリー構成が作成されると、構成に一致するようにフローが自動的に作成されます。[トリガータイプ] フィールド

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

に設定された値によって、この新しく作成されたフローがトリガーされま



す。

6. [実行サマリー構成 (Execution summary configuration)] セクションでサマリー構成を選択します。

   注: 1 つの自動化ソースに設定できる実行サマリー構成は 1 つだけです。

7. [更新] を選択します。

   注: 実行サマリーのステータスを [発行済み] から [ドラフト] に変更する場合は、ページの右上にある [ドラフト] を選択します。

次のタスク
実行状況マッピングの作成

実行状況マッピングの作成

構成が想定どおりに機能するように、ソーステーブルとターゲットテーブルのマッピングを定義します。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [管理] > [自動化ソース]に移動します。
   [自動化ソース] ページに、既存の自動化ソースのリストが表示されます。
2. 実行状況マッピングを作成するソースを選択します。
3. 実行状況マッピングを作成する実行サマリー構成を選択します。
4. [実行状況マッピング (Execution state mappings)] セクションで [新規] を選択します。
   [ステータスマッピングを実行 (Execute state mapping)] ページが表示されます。
5. フォームのフィールドに入力します。

[ステータスマッピングを実行 **(Execute state mapping)]** フォーム

フィールド	説明
実行状況	自動化実行サマリーテーブルの [ステータス] フィールドのオプション。 次の値を使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ キャンセル ◦ 完了 ◦ エラー ◦ キューに格納 ◦ 実行中
アプリケーション	ソースが作成される、関連性のあるアプリケーションまたはアプリケーションスコープ (例：オートメーションセンター または RPA ハブ など)。このフィールドは自動入力されます。
ソースグループ値	ソースの [グループ化] フィールドのオプション。
自動化ソース	この実行状況マッピング用に選択した自動化ソースの名前。

6. [送信] を選択します。
   [実行サマリー構成 (Execution summary configuration)] ページが表示されます。
7. [公開] を選択します。

タスクの結果
自動化サマリー実行構成が完了しました。

ServiceNow フローとアクションを自動化として追跡する

ServiceNow フローとアクションを自動化として追跡し、オートメーションセンター ワークスペースでフローとアクションのサマリーと詳細情報を表示できるようにします。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。 このビデオでは、ServiceNow のフローとアクションを自動化として追跡する方法を紹介します

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

手順
1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [管理] > [自動化トラッカー **(Automation Tracker)]**に移動します。
2. [自動化トラッカー (Automation Tracker)] ページで、[新規] を選択します。
3. フォームで、自動化として追跡するフローとアクションを指定します。
4. [送信] を選択します。

タスクの結果
[自動化トラッカー (Automation Trackers)] リストを更新して、新しく作成された自動化を表示します。

オートメーションセンター を使用した **UiPath** の構成

オートメーションセンター から UiPath データを簡単に表示および分析できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オートメーションセンター API と UiPath スポークを使用して、オートメーションセンター で UiPath データを表示および分析できます。ただし、UiPath スポークを使用する方が効率的で時間がかかりません。

オートメーションセンター を使用して UiPath を構成する前に、インスタンスに UiPath スポークをインストールする必要があります。詳細については、「UiPath スポーク」を参照してください。

UiPath スポークがインストールされたら、次の 2 つのオプションを使用できます。

- UiPath Webhook レジストリ
- UiPath Webhook ルーティングポリシー

UiPath データの処理中に問題が発生した場合、実際のペイロードとともにエラーメッセージがインポートエラーログ [sn_ac_import_error_log] テーブルにレコードとして挿入されます。

注: エラーレコードがテーブルに保存される日数は、オートメーションセンターの消去システムプロパティ (sn_ac.purge_automation_data_in_days) で定義されます。

UiPath Webhook レジストリの作成

UiPath Webhook レジストリを作成して、UiPath と オートメーションセンター の間の接続を確立します。

始める前に

必要なロール：なし

手順

1. [すべて] > **[UiPath]** > **[UiPath Webhook** レジストリ]に移動します。
2. [UiPath Webhook レジストリ] フォームで、[新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
4. [送信] を選択します。
   レコードが作成されます。
5. レコードを開き、[コールバック **URL** とシークレットを生成] を選択します。
6. URL とシークレットをコピーして、UiPath Orchestrator の [Webhook] セクションに貼り付けます。
7. UiPath Orchestrator インターフェイスで、追跡するイベントを選択します。
   現在、ジョブイベント、ロボットイベント、およびプロセスイベントのみがサポートされています。
8. [送信] を選択します。

タスクの結果

UiPath とオートメーションセンターの間に接続が設定されます。UiPath データをインスタンスに送信するたびに、指定された URL を使用して接続が確立されます。UiPath スポークがシークレットを検証し、データを受け入れます。

UiPath WebHook ルーティングポリシーの設定

データを ServiceNow テーブルに入力してオートメーションセンターで使用できるように、UiPath WebHook ルーティングポリシーを設定します。

始める前に

必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[UiPath]** > **[UiPath WebHook** ルーティングポリシー]に移動します。
2. ルーティングポリシーの [アクティブ] フラグを **True** に変更します。
   UiPath データが ServiceNow インスタンスに送られると、こうしたルーティングポリシーが対応するフローをトリガーして ServiceNow テーブルにデータを格納します。デフォルトでは、フラグは **False** に設定されています。

サードパーティの自動化の追跡

オートメーションセンター でサードパーティの自動化を追跡します。

オートメーションセンター でサードパーティの自動化を追跡できます。追跡はオートメーションセンター API を使用して実行できます。

詳細については、「オートメーションセンター API」を参照してください。

自動化要求フォームのレイアウトのカスタマイズ

サービスカタログ から自動化要求フォームのレイアウトを変更して、組織の要件に合わせることができます。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_admin

このタスクについて
このタスクでは、[すべて] > [オートメーションセンター] > [ビルド] > [自動化要求を送信]に移動して、生成された自動化要求フォームのレイアウトを変更できます。

手順

1. [すべて] > **[Automation Center]** > [管理] > [自動化要求のためのカタログの変更] に移動します。
2. オプション: フォーム上で、Global が現在のアプリケーションである場合は、[このレコードを編集するにはここをクリックしてください **(To edit this record click here)]** の [ここ] を選択します。
3. 必要な変更を加えます。
   たとえば、[変数] 関連リストで [プロセス名] フィールドを [プロセス] に変更する場合は、[プロセス名] フィールドをダブルクリックして変更を加え、[保存] を選択します。
4. [更新] を選択します。

オートメーションセンター プロパティの設定

オートメーションセンター に必要なデフォルト設定を定義するプロパティを設定する必要があります。

始める前に
必要なロール：admin

レコードが存在する範囲と同じ範囲内にいる必要があります。

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [管理] > [自動化プロパティ] に移動します。
2. オプション: フォームを編集できない場合は、現在のアプリケーションスコープがレコードのスコープと同じであることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームを編集できない場合は、メッセージが表示されます。メッセージに従って、アプリケーションスコープを変更します。

3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「オートメーションセンター のプロパティ」を参照して ください。
4. [保存] を選択します。

オートメーションセンター を使用した 推奨アクション アプリケーションの構成

推奨アクション アプリケーションを オートメーションセンター と連携させることで、既存の要求を再利用したり、既存の要求に基づいて自動化要求を計画したりすることができます。

オートメーションセンター を使用した 推奨アクション アプリケーションの構成には、以下のタスクが関与します。

推奨アクション アプリケーションのインストール

推奨アクション アプリケーションをインストールして、その機能を使用します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ストアで#ServiceNow 推奨アクション アプリケーションを見つけます。
   推奨アクションおよび 推奨アクション **- Advanced** という名前でストアから入手できます。ML機能を取得するには、推奨アクション **- Advanced** をインストールする必要があります。
2. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
   デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

   重要: インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

3. [インストール] を選択します。

推奨アクション アプリケーションのシステムのプロパティの設定

オートメーションセンター ワークスペースのコンテキストパネルに推奨事項を表示するように、推奨アクション アプリケーションのシステムのプロパティを設定します。

始める前に

注: 推奨事項リストには、[公開済み] および [メンテナンス中] 状況の自動化のみが表示され、[公開] 状況を除くすべての状況の自動化要求が表示されます。

必要なロール：admin

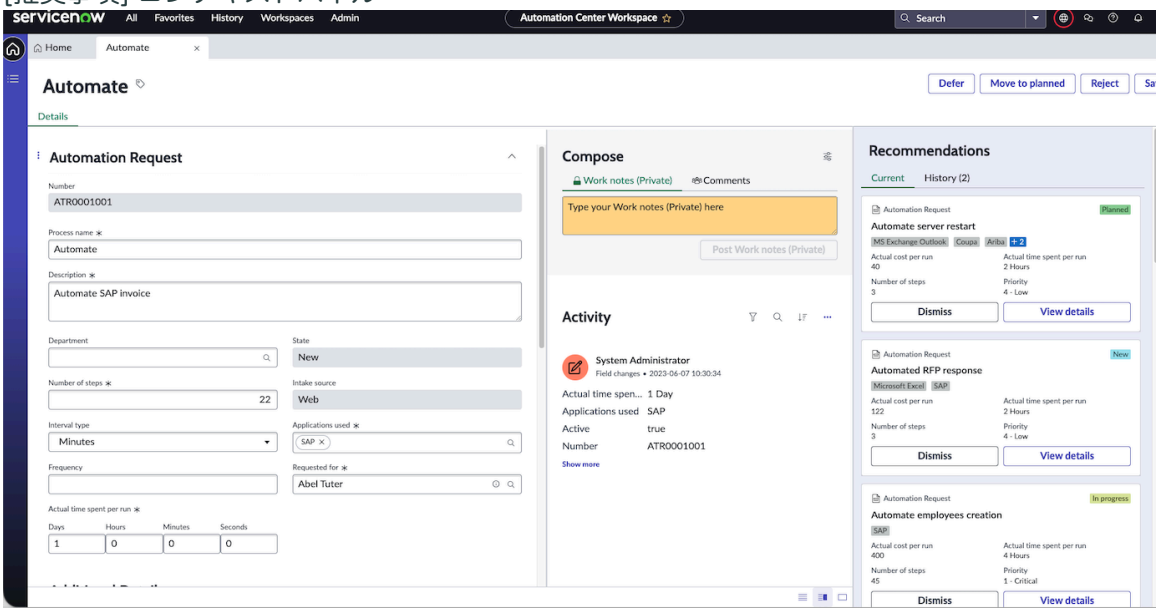
手順

システムプロパティ **sn_ac.use_recommended_actions** を **True** に設定します。

タスクの結果
[推奨事項] コンテキストパネルが オートメーションセンター ワークスペースに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[推奨事項] コンテキストパネル



- 推奨事項は、自動化要求レコードのコンテキストパネルに表示されます。
- リストから推奨事項を削除するには、[却下] を選択します。
- 推奨事項の詳細を表示するには、[詳細を表示] を選択します。
- 自動化要求に 3 つ以上のアプリケーションが使用されている場合は、3 つが一覧表示され、残りは数字で表示されます。[詳細を表示] を選択すると、使用されているアプリケーションのすべてを表示できます。
- ステータス、実績コスト、実績時間など、推奨される自動化と自動化要求のその他の詳細もすべて表示されます。

推奨アクション アプリケーションのオプションの選択

推奨アクション アプリケーションには、文字列ベースと ML ベースの 2 つのオプションがあります。これらのオプションは、検索で取得するデータの種類を決定します。[公開済み] 状況を除くすべての状況の自動化に関するデータが表示されます。

始める前に

推奨アクション アプリケーションをインストールします。詳細については、「推奨アクション アプリケーションのインストール」を参照してください。

推奨アクション は、[自動化要求] フォームの [プロセス名]、[説明]、および [使用アプリケーション] フィールドと、自動化属性テーブルの [自動化名]、[説明] および [ソース] で一致する文字列を検索します。

- 文字列ベース：検索条件と同じ順序で完全に一致する文字列を検索します。

  これは、短いフレーズや単語を検索条件として使用する場合に適したオプションです。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- ML ベース：これは、データが多すぎて検索条件が長い場合に便利です。ML ベースの推奨事項を使用するには、オートメーションセンターに少なくとも 10 件のレコードが必要です。

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user および sn_nb_action.next_best_action_author

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [推奨アクション] > [推奨事項]に移動します。
2. 必要なオプションの [アクティブ] フラグに **true** をマークします。

   注: オプションを識別するには、名前を確認します。末尾に **ML** が付いている名前は、ML ベースの推奨事項用です。

3. ML ベースのオプションを選択した場合は、次の手順を実行します。
   a. [すべて] > [予測インテリジェンス] > [類似性] > [ソリューション] > [定義]に移動します。
   b. [自動化要求のプロセス名の類似性 **(Automation request process name similarity)**] と [自動化属性の自動化名 **(Automation attribute automation name)**] を個別に開きます。
   c. それぞれで [更新 **&** 再トレーニング] を選択します。
   [更新 **&** 再トレーニング] を選択すると、スケジューラーでトレーニングが開始されます。完了すると、「ソリューションを完了しました」と表示されます。

ServiceNow スポットライト機能の使用

ServiceNow スポットライト機能を使用して、自動化要求スコアを自動計算します。スコアによって自動化要求の実行優先度が定義されます。スコアが高いほど、自動化要求の優先度が高くなります。

ServiceNow スポットライトの構成設定

ServiceNow スポットライト機能を使用するには、構成設定を行います。

ServiceNow スポットライトとオートメーションセンターがインストールされている場合、次のシステムプロパティ、スケジュール済みジョブ、およびスポットライトグループを取得します。

- システムプロパティ：
  sn_ac.use.spotlight.score.for.requests、sn_ac.use.spotlight.group.for.requests

  システムプロパティの詳細については、「オートメーションセンター のプロパティ」を参照してください。

- スケジュール済みジョブ：オートメーションセンター：スポットライトスコアを要求にコピー

  詳細については、「オートメーションセンター とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

- スポットライトグループ：ServiceNow スポットライトが有効になっている場合、デフォルトのスポットライト基準が設定された「自動化要求グループ」という名前のスポットライトグループが作成されます。

  ```
  /spotlight_groups.do?sys_id=e037711dc3a11110995486d91840dd03
  ```

  実行の優先度を設定するためにデフォルト基準とは異なる基準が必要な場合は、要件を満たすように基準をカスタマイズし、新しいスポットライトグループを作成できます。詳細については、「スポットライトグループの作成」を参照してください。

  デフォルトのスポットライト基準の詳細については、「デフォルトの ServiceNow スポットライト基準」を参照してください。

デフォルトの ServiceNow スポットライト基準

ServiceNow スポットライトはデフォルト基準で使用できます。各フィールドは、デフォルト基準に基づいてスコアが設定されます。

次の表にデフォルトの ServiceNow スポットライト基準を示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行あたりの実績コスト

基準	スコア
5000 を超える	500
2500 を超え 5000 未満	150
0 を超え 2500 未満	30

メリットを享受するユーザー

基準	スコア
500 を超える	500
250 を超え 500 未満	60
0 を超え 250 未満	25

優先度

基準	スコア
重大	1500
高	800
中	45
低	20

手動ステップ **(%)**

基準	スコア
76%-100%	150
51% - 75%	100
26% - 50%	80
1% 〜 25%	40

宣言された事業上の重要度

基準	スコア
1：最重要	750
2：ある程度重要	450
3：やや重要	80
4：重要ではない	20

ServiceNow スポットライトの使用

スポットライト機能を使用して、自動化要求スコアを自動計算します。

ServiceNow スポットライトは、自動化要求が作成または更新されたときにスコアを計算します。自動化要求が「新規」または「保留」ステータスの場合にのみ計算されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動計算されたスコアとは異なるスコアが必要な場合は、[スコア] フィールドを手動で更新できます。その場合、次の操作が実行されます。

- [スコアを手動で変更 **(Score manually altered)**] フラグがオンになります。
- スポットライトスコアは、[スコアを自動で計算 **(Score auto calculated)**] フィールドで計算されます。

[スコア] フィールドを空にするか 0 に設定すると、計算済みスコアが使用されるように切り替えることができます。要求レコードを保存すると、[スコア] フィールドにスポットライトスコア (存在する場合) が入力されます。

ServiceNow スポットライトの設定

ServiceNow スポットライトを設定して、この機能の使用を開始し、メリットを得ることができます。スポットライト機能は、自動化要求の実行優先度を自動的に計算します。

始める前に
ServiceNow® スポットライトをインストールします。詳細については、ServiceNow スポットライトのドキュメントを参照してください。

必要なロール：admin、pa_spotlight

手順

1. ServiceNow スポットライトの使用をオンにするには、システムプロパティ *sn_ac.use.spotlight.score.for.requests* を **True** に設定します。
   /sys_properties.do?sys_id=2df8d6a3c3651110995486d91840dd65
2. 既存の自動化要求がある場合は、修正スクリプト「自動化要求ランクの初期設定」を実行します。
   /sys_script_fix_list.do?sysparm_query=nameLIKEsetup%20of%20automation%20request

   注: このステップが終了した時点で、/sn_ac_automation_request_list.do?sysparm_query=rankISNOTEMPTY%5EstateNOT%20IN3000%2C6000 の URL にレコードがない状態が理想的です。

3. スポットライトグループである自動化要求グループを実行します。
   このグループを実行するには、スポットライトグループページの [今すぐ実行] ボタンを選択します。このアクションにより、スポットライトグループページの下部にあるスポットライト関連リストが入力されます。/spotlight_groups.do?sys_id=e037711dc3a11110995486d91840dd03
4. スケジュール済みスクリプト実行 (**Automation** Center：スポットライトスコアを要求にコピー) を使用して、最初に計算されたスコアを要求にコピーします。
   これを行うには、[スケジュール済みスクリプト実行] ページで [今すぐ実行] ボタンを選択します。/sysauto_script.do?sys_id=d361d79dc3a11110995486d91840dd37

オートメーションセンターへの共通サービスデータモデル **(CSDM)** ガイドラインの適用

オートメーションセンターに共通サービスデータモデル (CSDM) を適用します。

CSDM は、ServiceNow の製品やアプリケーションをセットアップするときに従うデータフレームワークです。CMDB で構成アイテム (CI) と CI 間の関係を定義する場合は、CSDM のガイドラインに従います。このプロセスにより、データが適切な CMDB テーブルに存在することが保証され、Now Platform アプリケーションの価値が最大化されます。

CSDM は、構成管理データベース (CMDB) を使用するすべての製品のデータモデル標準となっています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- CSDM ガイドラインは、Now Platform 製品の統一されたデータアクセスを保証します。
- CSDM は、CMDB 内のサービスモデリングの明確で直接的な規範的ガイドラインを提供します。
- CSDM 用語と定義により、一貫性のある正確なサービスレポートが保証されます。
- CSDM データモデルは複数の構成戦略をサポートしています。このデータモデルには、ベースシステムのテーブルと関係を使用するためのガイドラインが含まれています。
- CMDB クエリビルダーを使用すると、CMDB 構成アイテム (CI) とそれらの関係を示すレポートを作成できます。

詳細については、「共通サービスデータモデル (CSDM)」を参照してください。

オートメーションセンター 製品ビュー

ServiceNow® オートメーションセンター アプリケーションを使用して、エンドツーエンドのマルチベンダー自動化ライフサイクルを 1 か所から管理します。リアルタイムダッシュボードを使用することで、 複数のベンダーにわたり、自動化の健全性を管理および測定し、自動化の失敗を防ぎます。

- オートメーションセンター ワークスペースで、ライフサイクル全体を通じてさまざまなソースからの自動化要求を検出し、優先順位を付けて管理します。
- 複数のベンダーにわたり、ビジネスゴールに対する自動化パフォーマンスを監視し、最適化します。
- 複数のベンダーにわたり、自動化の健全性を監視および管理し、自動化の失敗を防ぎます。

オートメーションセンターと **CSDM** テーブル

オートメーションセンターでは CSDM テーブルを使用します。いくつかの ServiceNow 製品は、オートメーションセンター のメリットを活用し、それに対して価値を付加します。

オートメーションセンターによって使用される **CSDM** テーブル

- cmdb_ci：オートメーションセンターのダッシュボードに表示される前に、すべての自動化を保存します。
- cmdb_ci_automation：cmdb_ci_flow_automation、cmdb_ci_base_rpa_process、cmdb_ci_rpa_process の自動化を格納します。
- cmdb_ci_flow_automation：自動化として追跡されるフローを格納します。
- cmdb_ci_base_rpa_process：サードパーティのロボティックプロセス自動化データを格納します。
- cmdb_ci_rpa_process：ServiceNow ロボティックプロセス自動化データを格納します。
- cmdb_ci_base_rpa_robot：サードパーティのロボットデータを格納します。
- cmdb_ci_rpa_robot：ServiceNow のロボットデータを格納します。

オートメーションセンター に付加価値を提供する製品

オートメーションセンター を以下のいずれかの ServiceNow 製品と併用すると、オートメーションセンター の価値をさらに高めることができます。

- ロボティックプロセス自動化
- 統合ハブ
- ドキュメントインテリジェンス (DocIntel)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オートメーションセンターのユースケース

オートメーションセンターを使用すると、自動化を 1 か所から一元的に管理することができます。

自動化は、次の方法で作成できます。

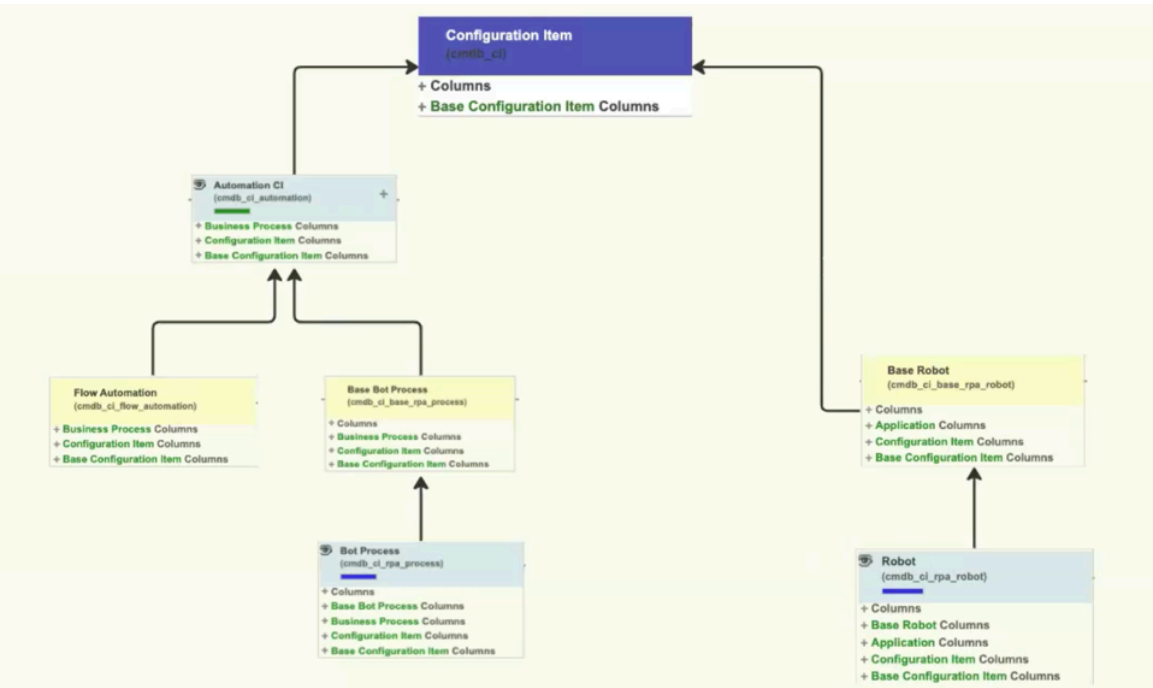
- オートメーションセンターを使用。
- 自動化として ServiceNow のフローを使用。
- サードパーティの自動化を使用。

すべての自動化は、どこで作成されたものであっても cmdb_ci テーブルに保存され、その後オートメーションセンターのダッシュボードに表示されます。

フローが自動化として追跡されると、データは cmdb_ci_flow_automation テーブルに入力されます。そのデータは cmdb_ci_flow_automation テーブルから cmdb_ci_automation テーブルに反映されます。その後、automation_attribute テーブルに反映されます。automation_attribute テーブルの自動化フィールドは、cmdb_ci テーブルで参照されます。ここから、オートメーションセンターのダッシュボードにデータが表示されます。

ServiceNow ロボティックプロセス自動化のデータは cmdb_ci_rpa_process テーブルに入力されます。すべてのサードパーティのロボティックプロセス自動化データは、cmdb_ci_base_rpa_process テーブルに保存されます。その後、これらの 2 つのテーブルから automation_attribute テーブルに反映されます。automation_attribute テーブルの自動化フィールドは、cmdb_ci テーブルで参照されます。ここから、オートメーションセンターのダッシュボードにデータが表示されます。

ServiceNow のロボットデータは、cmdb_ci_rpa_robot テーブルに入力されます。すべてのサードパーティのロボットデータは、cmdb_ci_base_rpa_robot テーブルに保存されます。その後、これらの 2 つのテーブルから automation_attribute テーブルに反映されます。automation_attribute テーブルの自動化フィールドは、cmdb_ci テーブルで参照されます。ここから、オートメーションセンターのダッシュボードにデータが表示されます。



オートメーションセンター の使用

自動化ビジネスユーザー、テクニカルユーザー、またはアドミニストレーターの場合は、オートメーションセンター アプリケーションを使用して自動化タスク、リソース、インサイトルール、および

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インサイトトリガーを作成できます。自動化要求を異なるライフサイクルステージに移行することもできます。

自動化の使用

ビジネスプロセスを自動的に簡素化し、手動アクティビティに費やす時間を短縮し、コストを削減するため、自動化を作成します。

自動化目標、自動化要求、およびそれらに関連付けられたタスクを作成できます。

自動化目標の作成

自動化目標を作成して、自動化要求の進捗状況を管理し、結果を推定します。1 つの目標を複数の自動化要求に関連付けることができます。ただし、自動化要求は 1 つの目標にのみ関連付けることができます。

始める前に

必要なロール：
sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、catalog_admin、または sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[管理] の下の [自動化目標] を選択します。
4. [新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「自動化目標フォーム」を参照して ください。
6. [保存] を選択します。

関連情報

自動化要求の作成

自動化目標の回復

既に達成された自動化目標を回復し、自動化のスコープを復元および変更します。

始める前に

自動化目標を作成します。詳細については、「自動化目標の作成」を参照してください。

自動化目標のステータスが [達成] であることを確認します。

必要なロール：sn_ac.automation_business_user

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[管理] の下の [自動化目標] を選択します。
4. 回復する達成済みの自動化目標を開きます。
5. [回復する] を選択します。
6. [目標期日] フィールドで、目標期日を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 目標期日を指定せずにフォームを保存した場合、目標が「達成」ステータスに移行すると、目標期日は開始日の 1 日後に自動的に設定されます。

7. [保存] を選択します。

自動化要求の作成

自動化要求は、ビジネスプロセスを自動的に簡素化し、手動アクティビティに費やす時間を短縮し、コストを削減するのに役立ちます。

自動化要求は 3 つの方法で作成できます。ServiceNow® サービスカタログ を使用して、オートメーションセンター から、またはプロセスマイニングワークスペースから要求を作成できます。

サービスカタログ からの自動化要求の送信

ビジネスプロセスを自動化して簡素化し、手動アクティビティに費やす時間を短縮し、コストを削減するには、ServiceNow® サービスカタログ フォームを使用して自動化要求を送信します。

始める前に

(オプション) 自動化目標を作成します。詳細については、「自動化目標の作成」を参照してください。

必要なロール：
sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、catalog_admin、または sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [ビルド] > [自動化要求を送信] に移動します。
2. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「[自動化要求を送信] フォーム」を参照してください。
3. [送信] を選択します。

次のタスク

自動化要求を [計画] ステータスに移行します。詳細については、「自動化要求の [計画] ステータスへの移行」を参照してください。

関連情報

[自動化要求を送信] フォーム

オートメーションセンター からの自動化要求の作成

オートメーションセンター からの自動化要求の作成

ビジネスプロセスを自動的に簡素化し、手動アクティビティに費やす時間を短縮し、コストを削減するには、オートメーションセンター から自動化要求を作成します。

このビデオでは、次の手順を実行する方法を紹介します。 このビデオでは、オートメーションセンターから自動化要求を作成する方法について説明します

始める前に

(オプション) 自動化目標を作成します。詳細については、「自動化目標の作成」を参照してください。

必要なロール：sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、または sn_ac.automation_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [ビルド] > [すべての自動化要求] に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
4. [送信] を選択します。
5. ロールに応じて、フォームの追加フィールドに入力します。
6. [保存] を選択します。

> **注:** sn_ac.automation_technical_user ロールと sn_ac.automation_admin roles ロールがある場合は、[推奨事項] コンテキストパネルを表示できます。詳細については、「オートメーションセンター を使用した 推奨アクション アプリケーションの構成」を参照してください。

次のタスク
自動化要求を [計画] ステータスに移行します。詳細については、「自動化要求の [計画] ステータスへの移行」を参照してください。

関連情報

- オートメーションセンター からの自動化要求フォーム
- サービスカタログ からの自動化要求の送信
- 自動化タスクの作成
- 自動化リソースの作成

プロセスマイニングワークスペースからの自動化要求の作成

オートメーションセンターの外部にあるプロセスマイニングワークスペースから自動化要求を作成します。プロセスマイニングとオートメーションセンターがインストールされている場合は、プロセスマイニングワークスペースから自動化要求を作成できます。

始める前に
(オプション) 自動化目標を作成します。詳細については、「自動化目標の作成」を参照してください。

必要なロール：sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、または sn_ac.automation_admin

手順

[ワークスペース] > [プロセスマイニングワークスペース **(Process Mining Workspace)**]に移動します。
詳細については、 Process Mining のドキュメント を参照してください。

次のタスク
自動化要求を [計画] ステータスに移行します。詳細については、「自動化要求の [計画] ステータスへの移行」を参照してください。

自動化タスクの作成

自動化タスクを作成して、自動化要求に関連付けられたアクティビティを効果的に管理します。ただし、これはオプションのステップです。

始める前に
自動化要求を作成します。詳細については、「自動化要求の作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連付けられた自動化要求が [計画] または [処理中] のいずれかのステータスであることを確認します。

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

このタスクについて
自動化タスクには次の 5 つのタイプがあります。

- 要件
- デザイン
- 開発
- 品質エンジニアリング
- サインオフ

手順
1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[ビルド] の下の [すべての自動化要求] を選択します。
4. 作成する自動化要求を開き、自動化タスクを関連付けます。
5. [自動化タスク] タブで、[新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「自動化タスクフォーム」を参照して ください。
7. [保存] を選択します。
8. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

次のタスク
自動化タスクの自動化リソースを作成します。詳細については、「自動化リソースの作成」を参照してください。

関連情報
自動化タスクフォーム

自動化リソースの作成

自動化リソースの作成
自動化リソースを作成して、リソースを自動化タスクに関連付けます。ただし、これはオプションのステップです。

始める前に
注: Washington DC リリース以降、この機能は廃止されました。

自動化タスクを作成します。詳細については、「自動化タスクの作成」を参照してください。

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

このタスクについて
自動化リソースは、自動化タスクの作業にアサインされたユーザーです。1 つの自動化タスクに複数の自動化リソースを関連付けることができます。

自動化リソースのタイプ：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 開発
- 品質エンジニアリング
- プロダクトマネジメント

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[ビルド] の下の [すべての自動化タスク] を選択します。
4. 作成する自動化タスクを開いて、自動化リソースを関連付けます。
5. [自動化リソース] タブで、[新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「自動化リソースフォーム」を参照して ください。
7. [保存] を選択します。

次のタスク

(オプション) 自動化目標を作成します。詳細については、「自動化目標の作成」を参照してください。

関連情報

自動化リソースフォーム

自動化要求の [計画] ステータスへの移行

自動化要求を作成したら、それで作業したり、関連する自動化タスクまたはリソースを作成したりする前に、[計画] ステータスに移行します。

始める前に

自動化要求を作成します。詳細については、「自動化要求の作成」を参照してください。

自動化要求のステータスが [新規] であることを確認します。

必要なロール：sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、または sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[ビルド] の下の [すべての自動化要求] を選択します。
4. [計画] ステータスに移行する自動化要求を開きます。
5. フォームヘッダーで、[計画に移動] を選択します。

タスクの結果

自動化要求を [計画] ステータスに移行した後は、いつでもそれで作業できます。

自動化要求の [処理中] ステータスへの移行

自動化要求の開発を開始したら、それを [処理中] ステータスに移行します。このステータスは、オートメーションセンター を使用しているユーザーに対して、自動化の作業が処理中であることを通知します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
自動化要求を作成します。詳細については、「自動化要求の作成」を参照してください。

自動化要求のステータスが [計画] であることを確認します。

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

手順
1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[ビルド] の下の [すべての自動化要求] を選択します。
4. [処理中] ステータスに移行する自動化要求を開きます。
5. フォームヘッダーで、[対応中に移動] を選択します。

次のタスク
自動化要求フォームの [自動化] フィールドを更新します。このフィールドは、自動化要求のステータスが [処理中] の場合にのみ表示されます。詳細については、「オートメーションセンター からの自動化要求フォーム」を参照してください。

自動化要求の保留

要求の優先度が変更され、緊急ではなくなった場合は、オートメーションセンター から自動化要求を保留します。

始める前に
自動化要求を作成します。詳細については、「自動化要求の作成」を参照してください。

自動化要求のステータスが [新規] または [処理中] のいずれかであることを確認します。

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

このタスクについて
自動化要求の保留は、自動化要求のライフサイクルステージの一つです。

手順
1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[ビルド] の下の [すべての自動化要求] を選択します。
4. 保留する自動化要求を開きます。
5. フォームヘッダーで、[保留] を選択します。

> ⚠ **警告:** 自動化要求を [保留] ステータスに移行すると、自動化要求フォーム、関連付けられた自動化タスク、およびリソースのエントリを変更または削除することはできません。

次のタスク
自動化要求を [計画] ステータスに移行するか、自動化要求を却下できます。詳細については、「自動化要求の [計画] ステータスへの移行」と「自動化要求の却下」を参照してください。

自動化要求の却下

既存の自動化の重複である場合、または必要な基準を満たしていない場合は、オートメーションセンター から自動化要求を却下します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
自動化要求を作成します。詳細については、「自動化要求の作成」を参照してください。

自動化要求を却下すると、自動化要求のライフサイクルが終了します。

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

このタスクについて
自動化要求の却下は、自動化要求のライフサイクルステージの一つです。

手順
1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[ビルド] の下の [すべての自動化要求] を選択します。
4. 却下する自動化要求を開きます。
5. フォームヘッダーで、[却下] を選択します。

> ⚠ **警告:** 自動化要求を [却下] ステータスに移行した後は、自動化要求フォーム、関連付けられた自動化タスク、およびリソースのエントリは変更または削除できません。

タスクの結果
[却下] ステータスは、要求の終了ステータスです。そのステータス以降は操作できません。

自動化要求の公開
オートメーションセンター からの自動化要求を公開して、要求をいつでも実行できるようにします。

始める前に
自動化要求を作成します。詳細については、「自動化要求の作成」を参照してください。

自動化要求を公開するには、関連付けられた自動化タスクが次のいずれかの状況である必要があります。

- 完了してクローズ
- 未完了でクローズ
- スキップしてクローズ

自動化要求のステータスが [処理中] であることを確認し、ライフサイクルステージのステータスが [公開済み] の必要な自動化 CI レコードをマッピングします。自動化 CI レコードには、自動化に関する詳細が含まれています。

自動化要求と自動化 CI レコードとのマッピングの詳細については、「自動化と自動化要求とのマッピング」を参照してください。

すべての ServiceNow RPA で、自動化 CI レコードを使用できます。詳細については、RPA のドキュメントを参照してください。

サードパーティの RPA には、次の 2 つのシナリオがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- プロセスとロボットの履歴データの場合は、対応する CMDB ベースプロセステーブル (cmdb_ci_base-rpa_process) および CMBD ベースロボットテーブル (cmdb_ci_base_robot) にレコードを手動で作成する必要があります。

- オートメーションセンターのインストール後に作成されたプロセスとロボットのデータの場合は、Rest API を設定し、Rest API を介してプロセス、ロボット、および実行の詳細を送信する必要があります。すると、対応するテーブルにレコードが作成されます。

詳細については、ServiceNow カスタマーサポートにお問い合わせください。

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[ビルド] の下の [すべての自動化要求] を選択します。
4. 公開する自動化要求を開きます。
5. フォームヘッダーで [公開] を選択します。

> ⚠ 警告: 自動化要求を公開した後は、自動化要求フォーム、関連付けられた自動化タスク、およびリソースのエントリは変更または削除できません。

タスクの結果
自動化要求の公開後は、自動化をいつでも実行できます。これは、自動化要求ライフサイクルの最終ステージです。

自動化と自動化要求とのマッピング

公開済みステータスの自動化を自動化要求にマッピングして、自動化要求を公開します。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

> ℹ 注: 自動化のコスト削減と時間短縮の値は、移動平均法で計算されます。移動平均は、*sn_ac.savings_averaging_window* システムプロパティによって制御されます。詳細については、「オートメーションセンター のプロパティ」を参照してください。

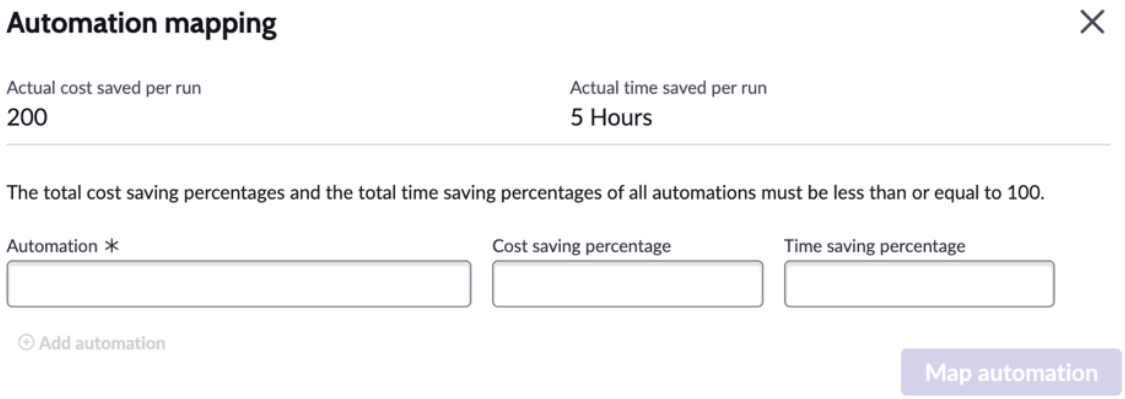
手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[ビルド] の下の [すべての自動化要求] を選択します。

   > ℹ 注: 自動化要求のステータスが [処理中] であることを確認します。

4. [自動化マッピング **(Automation Mappings)]** タブを選択します。
5. [自動化のマッピング **(Map automation)]** を選択します。
   [自動化マッピング (Automation Mappings)] ウィンドウが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. 詳細を入力します。

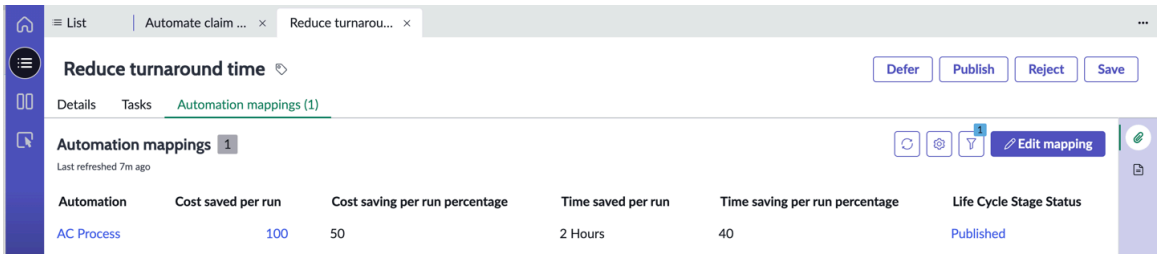
フィールド	説明
自動化	ダブルクリックして、使用可能なリストから自動化を選択します。 自動化要求を公開するには、要求に少なくとも 1 つの自動化がマッピングされている必要があります。また、マッピングされた自動化は [公開済み] ステータスである必要があります。
コスト節減率	自動化要求に対して、この自動化で削減するコストの割合を指定します。実行ごとに削減できる実際のコストが 200 ドルで、この自動化により 50% 削減される場合は、この自動化で 100 ドル削減できます。
時間節減率	自動化要求に対して、この自動化で短縮する時間の割合を指定します。実行ごとに短縮できる実際の時間が 4 時間で、この自動化により 50% 削減される場合、この自動化で 2 時間短縮できます。

注:

すべての自動化のコスト節減率の合計と時間節減率の合計は、100 以下である必要があります。

自動化属性レコードのフォームビューから、コストと時間の削減率を手動で編集できます。

ただし、実行ごとのコストと時間の節減が手動で更新された場合、自動化マッピングフォームの [コスト節減率 **(Cost saving percentage)**] フィールドと [時間節減率 **(Time saving percentage)**] フィールドは空であり、編集できません。また、編集された自動化の移動平均は計算されません。



例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この自動化要求では、実行ごとに削減できる実際のコストは 200 ドルと指定され、実行ごとに短縮できる実際の時間は 5 時間と指定されました。

このマッピングでは、[コスト削減率 (Cost saving percentage)] に 50% と指定され、[時間削減率 (Time saving percentage)] に 40% と指定されました。

マッピングの値は、自動化マッピングのスクリーンショットに示すように、入力された内容に基づいて自動的に計算されます。

7. オプション: [自動化の追加 **(Add automation)]** を選択して、複数の自動化を追加します。
8. [自動化のマッピング **(Map automation)]** を選択します。
   自動化がマッピングされます。
9. オプション: 行の横にある [–] を選択し、[自動化のマッピング **(Map automation)]** を選択して、マッピングされた自動化を削除します。

   注: マッピングした最初の自動化は削除できません。

10. オプション: マッピングを作成したら、[マッピングを編集] を選択して、既存のマッピングを編集するか、新しいマッピングを追加します。

自動化属性の更新

自動化属性を更新して、自動化ソースと時間節約の情報を含めます。この情報は、オートメーションセンター 値ダッシュボードで分析できます。

始める前に

必要なロール：sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、または sn_ac.automation_admin。

このタスクについて

オートメーションセンター から自動化要求を作成するときは、削減コスト値と削減時間値が既に指定されています。その情報は オートメーションセンター 値ダッシュボードに表示されます。必要に応じて、値を更新できます。

ServiceNow RPA およびフローまたはサードパーティベンダーからデータが送信される場合は、[削減コスト (cost-saved)] フィールドと [削減時間 (time-saved)] フィールドを手動で更新する必要があります。

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[管理] の下の [自動化属性] を選択します。
4. 更新する自動化属性を選択してから、[編集] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

   注: [実行ごとの削減コスト] フィールドと [実行ごとの削減時間] フィールドのみを更新できます。他のフィールドは自動生成されます。

自動化属性フォーム

フィールド	説明
自動化	関連付けられた自動化。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
実行ごとの削減コスト	各自動化の実行後に削減されるコスト。
公開日	関連付けられた自動化の公開日。 この自動生成されたフィールドを編集できます。
ソース	関連付けられた自動化ソース。
実行ごとの削減時間	各自動化の実行後に削減される時間。

6. [更新] を選択します。

自動化の詳細な統合を有効にする

自動化の詳細な統合を有効にして、トランザクションレベルで削減されたコストと短縮された時間をキャプチャします。この機能により、削減された合計コストと短縮された合計時間のデータ分析が有効になります。

始める前に

必要なロール：sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、または sn_ac.automation_admin。

重要: この機能は、ServiceNow® ロボティックプロセス自動化のバージョン 10.0.0 以降の自動化でのみ使用できます。

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[管理] の下の [自動化属性] を選択します。
4. ソース名が **[ServiceNow RPA]** の自動化の [クラス] 列のリンクを選択します。
   [詳細] セクションが表示されます。
5. 右上の省略記号から [詳細な統合の有効化 **(Enable Granular Integration)]** を選択します。

   確認メッセージが表示されます。

6. 確認ウィンドウで [詳細な統合の有効化 **(Enable Granular Integration)]** を選択します。
   自動的に [詳細な統合 **(Granular Integration)]** タブに移動します。
7. [キューの追加 **(Add queues)]** を選択します。
   キューを追加できるウィンドウが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. 詳細を入力します。

フィールド	説明
PRA 作業キュー	リストからキューを選択します。 リストにキューが表示されない場合は、ボットプロセスにキューを追加する必要があります。 **a.** [すべて] > [オートメーションセンター] > [監視] > [すべてのボットプロセス]に移動します。 **b.** 詳細な統合を有効にする対象の自動化を選択します。 **c.** [関連リンク] セクションからキューを追加します。
アイテムあたりのコスト削減	作業アイテムごとに削減されるコストを指定します。
アイテムあたりの時間短縮	作業アイテムごとに短縮される時間を指定します。

9. オプション: [キューの追加 **(Add queues)]** を選択して、複数のキューを追加します。
10. [キューのマッピング **(Map queues)]** を選択します。
    自動化のキューがマッピングされ、詳細な統合が有効になります。24 時間後の次回の実行以降、[概要] ダッシュボードの [アクティブな自動化 **(Active automations)]** ウィジェットにデータが表示されます。詳細なデータにより、コスト削減と時間短縮のデータがアイテムレベルでより正確に表示されます。

    詳細な統合のデータは、自動化トランザクション概要テーブルで確認できます。
11. オプション: マッピングされたキューを削除するには、行の横にある [–] を選択します。

    注: マッピングした最初のキューは削除できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

12. オプション: 詳細な統合を無効にするには、右上の省略記号から [詳細な統合の無効化 **(Disable Granular Integration)]** を選択します。
キューは残りますが、削減される時間とコストの計算に、詳細なデータ統合は使用されません。

自動化実行の管理とレビュー

自動化実行 (ステータスを含む) を管理およびレビューして、順調に進んでいることを確認できます。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、または sn_ac.automation_admin

手順
1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[監視] の下の [自動化実行] を選択します。
4. 表示する自動化実行を開きます。
5. [自動化実行] ページの情報をレビューします。

関連情報
自動化実行フォーム

ボットプロセスのレビュー

オートメーションセンター で利用可能なボットプロセスのリストをレビューして、プロセスが順調であることを確認できます。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、または sn_ac.automation_admin。

オートメーションセンター ロールに加えて、ロボティックプロセス自動化 (RPA) ロールも必要です。RPA ロールの詳細については、「RPA ハブ とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

このタスクについて
ボットプロセスはロボットの構成です。

ボットプロセスを作成することはできません。

手順
1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[監視] の下の [すべてのボットプロセス] を選択します。
4. 表示するボットプロセスを開きます。
5. ボットプロセスページの情報をレビューします。

利用可能なロボットの表示

参照目的で、オートメーションセンター で利用可能なロボットのリストを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、または sn_ac.automation_admin

オートメーションセンター ロールに加えて、ロボティックプロセス自動化 (RPA) ロールも必要です。RPA ロールの詳細については、「RPA ハブ とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

このタスクについて
ロボットはボットプロセスを実行するソフトウェアエージェントです。

ロボットを作成することはできません。

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[監視] の下の [すべてのロボット] を選択します。
4. 表示するロボットを開きます。
5. ロボットページの情報をレビューします。

インサイトルールの作成

自動化ビジネスプロセスのカスタムインサイトを生成するためのインサイトルールを作成します。

始める前に
このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

このタスクについて
インサイトルールが処理されると、インサイトが生成されます。インサイトは、オートメーションセンター ワークスペースの実行ダッシュボードのインサイトウィジェットに表示されます。

手順

1. [すべて] > **[Automation Center]** > [管理] > [インサイトルール] に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
4. [送信] を選択します。

関連情報

インサイトルールフォーム

インサイトトリガーの作成

関連するインサイトルールを実行できるように、アクティブなインサイトトリガーを作成します。

始める前に
このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

インサイトルールを作成します。詳細については、「インサイトルールの作成」を参照してください。

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
インサイトルールが処理されると、インサイトが生成されます。インサイトは、オートメーションセンター ワークスペースの実行ダッシュボードのインサイトウィジェットに表示されます。

インサイトトリガーは、実行する関連付けられたインサイトルールを有効にします。

インサイトルールは、インサイトトリガーにマッピングされない限り実行されません。

手順
1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [管理] > [インサイトルール] に移動します。
2. 作成するインサイトルールを開き、インサイトトリガーを関連付けます。
3. [自動化インサイトトリガー] タブで、[新規] を選択します。
4. オプション: [新規] ボタンを使用できない場合は、現在のアプリケーションスコープがレコードのスコープと同じであることを確認します。
   [新規] ボタンを使用できない場合は、メッセージが表示されます。メッセージに従って、アプリケーションスコープを変更します。
5. 作成するインサイトトリガーの適切なタイプを選択します。
   - 既存のビジネスルールへのマッピング
   - 新しいスケジュールスクリプトへのマッピング
   - 既存のスケジュールジョブへのマッピング

既存のビジネスルールへのインサイトルールのマッピング
インサイトルールを既存のビジネスルールにマッピングして、インサイトトリガーのタイプを定義します。このインサイトトリガーは関連付けられたインサイトルールを有効にして実行します。

始める前に
このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

インサイトルールを作成します。詳細については、「インサイトルールの作成」を参照してください。

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

このタスクについて
インサイトルールが処理されると、インサイトが生成されます。インサイトは、オートメーションセンター ワークスペースの実行ダッシュボードのインサイトウィジェットに表示されます。

インサイトトリガーは、実行する関連付けられたインサイトルールを有効にします。

インサイトルールは、インサイトトリガーにマッピングされない限り実行されません。

手順
1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [管理] > [インサイトルール] に移動します。
2. 作成するインサイトルールを開き、インサイトトリガーを関連付けます。
3. [自動化インサイトトリガー] タブで、[新規] を選択します。
4. [既存のビジネスルールへのマッピング] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化 **CRUD** トリガーフォーム

フィールド	説明
名前	インサイトトリガーの名前。
有効	インサイトトリガーを確実に使用するためのオプション。
ビジネスルール	インサイトルールのトリガーに必要な、適用可能なビジネスルール。 マッピングされたビジネスルールスクリプトフィールドには、インサイトルールをトリガーするための `new sn_ac.ACInsightTriggerUtil(current, previous).raiseInsightByBR(<Business Rule SysId>);` API を含める必要があります。
アプリケーション	インサイトトリガーに関連付けられたアプリケーション。
自動化インサイトルール	関連付けられた自動化インサイトルール。

6. [送信] を選択します。

新しいスケジュールスクリプトへのインサイトルールのマッピング

インサイトルールを新しいスケジュールスクリプトにマッピングして、インサイトトリガーのタイプを定義します。このインサイトトリガーは関連付けられたインサイトルールを有効にして実行します。

始める前に

このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

インサイトルールを作成します。詳細については、「インサイトルールの作成」を参照してください。

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

このタスクについて

インサイトルールが処理されると、インサイトが生成されます。インサイトは、オートメーションセンター ワークスペースの実行ダッシュボードのインサイトウィジェットに表示されます。

インサイトトリガーは、実行する関連付けられたインサイトルールを有効にします。

インサイトルールは、インサイトトリガーにマッピングされない限り実行されません。

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [管理] > [インサイトルール] に移動します。
2. 作成するインサイトルールを開き、インサイトトリガーを関連付けます。
3. [自動化インサイトトリガー] タブで、[新規] を選択します。
4. [新しいスケジュールスクリプトへのマッピング] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。
6. [送信] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

自動化スケジュールトリガーの実行フォーム

既存のスケジュールジョブへのインサイトルールのマッピング

インサイトルールを既存のスケジュールジョブにマッピングして、インサイトトリガーのタイプを定義します。このインサイトトリガーは関連付けられたインサイトルールを有効にして実行します。

始める前に

このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

インサイトルールを作成します。詳細については、「インサイトルールの作成」を参照してください。

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

このタスクについて

インサイトルールが処理されると、インサイトが生成されます。インサイトは、オートメーションセンター ワークスペースの実行ダッシュボードのインサイトウィジェットに表示されます。

インサイトトリガーは、実行する関連付けられたインサイトルールを有効にします。

インサイトルールは、インサイトトリガーにマッピングされない限り実行されません。

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [管理] > [インサイトルール] に移動します。
2. 作成するインサイトルールを開き、インサイトトリガーを関連付けます。
3. [自動化インサイトトリガー] タブで、[新規] を選択します。
4. [既存のスケジュールジョブへのマッピング] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

自動化スケジュールトリガーフォーム

フィールド	説明
名前	インサイトトリガーの名前。
有効	インサイトトリガーを確実に使用するためのオプション。
スケジュール済み	インサイトルールをトリガーするための関連付けられたスケジュールスクリプト。
アプリケーション	インサイトトリガーに関連付けられたアプリケーション。
自動化インサイトルール	関連付けられた自動化インサイトルール。

6. [送信] を選択します。

自動化メッセージ変数のスクリプトの記述

インサイトルールのメッセージに追加される変数の JavaScript コード入力を記述します。

始める前に

このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インサイトルールを作成します。詳細については、「インサイトルールの作成」を参照してください。

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

このタスクについて

インサイトルールが処理されると、インサイトが生成されます。インサイトは、オートメーションセンター ワークスペースの実行ダッシュボードのインサイトウィジェットに表示されます。

インサイトトリガーは、実行する関連付けられたインサイトルールを有効にします。

インサイトルールは、インサイトトリガーにマッピングされない限り実行されません。

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [管理] > [インサイトルール] に移動します。
2. 関連付けられたメッセージ変数の JavaScript コードを記述するインサイトルールを開きます。
3. [自動化メッセージ変数] タブで、変数を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

自動化メッセージ変数フォーム

フィールド	説明
名前	自動化メッセージ変数の名前。 このフィールドは自動生成されます。
フィールド	メッセージ変数の修飾子。 このリストの値は、インサイトルールの作成時に [適用先] フィールドで選択されたエントリに応じて表示されます。 このフィールドは、インサイトルールの作成時に [適用先] フィールドが選択され、[しきい値タイプ] フィールドが空の場合にのみ表示されます。詳細については、「インサイトルールフォーム」を参照してください。
アプリケーション	関連付けられたアプリケーションの名前。 このフィールドは自動生成されます。
自動化インサイトルール	関連付けられたインサイトルールの名前。 このフィールドは自動生成されます。
詳細	詳細スクリプト。 このフィールドは自動生成されます。
スクリプト	JavaScript コードを入力でき、構文のチェックおよび書式設定などを制御できるテキストフィールド。 たとえば、値を返すには「`return 100`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	このフィールドは、インサイトルールの作成時に、[適用先] フィールドが選択され、[しきい値タイプ] フィールドが空の場合には、表示されません。詳細については、「インサイトルールフォーム」を参照してください。

5. [更新] を選択します。

自動化インサイトの表示

自動化インサイトを表示して、オートメーションセンター 実行ダッシュボードのインサイトルールから生成されたインサイトを表示します。

始める前に

必要なロール：sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、または sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [オートメーションセンターホーム]に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[監視] の下の [インサイト] を選択します。
4. 表示するインサイトを開きます。
5. [自動化インサイト] ページの情報をレビューします。

関連情報

インサイトルールフォーム

アクションの使用

自動化の失敗の原因となる問題を修正するためのアクションを作成します。

アクション要求とアクションを作成できます。

アクション要求の作成

アクション要求は、自動化の失敗の原因となる問題を自動的に解決し、効率を向上させ、時間とコストを削減するうえで役立ちます。

アクション要求は 2 つの方法で作成できます。ServiceNow® サービスカタログ を使用して、またはオートメーションセンターから要求を作成できます。

サービスカタログからのアクション要求の送信

ServiceNow® サービスカタログフォームを使用してアクション要求を送信し、自動化の失敗の原因となる問題を解決するためのアクションを要求します。

始める前に

必要なロール：
sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、catalog_admin、または sn_ac.automation_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [ビルド] > [自動化要求を送信] に移動します。
2. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「[自動化要求を送信] フォーム」を参照してください。
3. [送信] を選択します。

オートメーションセンター からのアクション要求の作成

オートメーションセンター からアクション要求を作成し、自動化の失敗の原因となる問題を解決するためのアクションを要求します。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、または sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [ビルド] > [すべての自動化要求] に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「オートメーションセンター からの自動化要求フォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。
5. ロールに応じて、フォームの追加フィールドに入力します。
6. [更新] を選択します。

アクションの作成

ユーザーが問題を自動的に修正できるようにするためのアクションを作成します。

テクニカルユーザーまたはシステムアドミニストレーターは、ユーザー要求に基づいてアクションを作成する必要があります。

自動化が頻繁に失敗する問題に直面する場合、ユーザーはアクション要求を作成します。アクション要求に基づいて、アクションを作成する必要があります。

フローデザイナーでのフロー、サブフロー、またはアクションの作成

フローデザイナーでフローを作成して、オートメーションセンターで自動化が失敗する原因となる、繰り返し発生する問題の修正を自動化します。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user および sn_ac.automation_admin

手順

[すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
詳細については、「ワークフロースタジオ でのフローの作成」を参照してください。

重要: 作成するフロー、サブフロー、またはアクションは、クライアントが呼び出せる必要があります。このフローを呼び出せる ACL を作成します。このフローは公開する必要があります。

次のタスク
アクションカテゴリの作成

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクションカテゴリの作成

アクションに関連付けるアクションカテゴリを作成します。アクションカテゴリは、ユーザーがアクションをさまざまなカテゴリに分類するのに役立ち、カテゴリの選択が容易になります。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user および sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [ビルド] > [アクションカテゴリ]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. アクションカテゴリフォームで、フィールドに入力します。

アクションカテゴリフォーム

フィールド	説明
名前	アクションカテゴリのわかりやすい名前。
アプリケーション	アクションカテゴリのスコープ。これは自動入力されます。このフィールドは編集しないでください。
説明	アクションカテゴリの説明。
親	新しいカテゴリを別のカテゴリに添付する場合は、アクションカテゴリを選択します。

4. [送信] を選択します。

タスクの結果
アクションカテゴリが作成されます。

次のタスク
アクションタイプの作成

アクションタイプの作成

アクションカテゴリに関連付けるアクションタイプを作成します。アクションタイプは、アクションカテゴリのサブセットであり、ニーズに基づいてより簡単に識別できるようにするために使用されます。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user および sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [ビルド] > [アクションカテゴリ]に移動します。
2. アクションカテゴリのリストから、アクションタイプを作成するアクションカテゴリを選択します。
3. [アクションタイプ] 領域から [新規] を選択します。
4. フォームで、詳細を入力します。

フィールド	説明
名前	アクションタイプのわかりやすい名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アプリケーション	アクションタイプのスコープ。これは自動入力されます。このフィールドは編集しないでください。
説明	アクションタイプの説明。
親	選択したアクションカテゴリが自動的に入力されます。このフィールドは編集しないでください。

5. [送信] を選択します。

次のタスク
アクションの作成

アクションの作成

アクションセンターで表示および実行するアクションを作成し、オートメーションセンターで自動化が失敗する原因となる問題を修正します。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user および sn_ac.automation_admin

手順
1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [ビルド] > [アクション]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. アクション詳細フォームで、フィールドに入力します。

アクション詳細フォーム

フィールド	説明
番号	自動入力される一意の番号。
アプリケーション	アクションのスコープ。
名前	アクションのわかりやすい名前。
カテゴリ	アクションに関連付けるアクションカテゴリを選択します。
タイプ	アクションに関連付けるアクションカテゴリのタイプを選択します。
アクションタイプ	フローデザイナーで作成されるアクションのタイプ。使用可能な値は [フロー/サブフロー] と [アクション] です。
アクション	フローデザイナーで作成したアクション。 **注:** フローデザイナーで作成された フロー、サブフロー、またはアクションをオートメーションセンターの複数のアクションにマッピングすることはできません。
アクティブ	これは編集不可能なフィールドです。
同時実行を有効にする	アクションセンターで同じアクションを同時に実行する場合は、このオプションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
説明	アクションの説明。
実行手順	指定する実行手順。

4. [送信] を選択してアクションを保存します。
5. 関連付けられたアクションに想定される変更がない場合にのみ、[アクティブ化] を選択します。
   [アクティブ化] を選択した場合、アクション構成 ([アクションタイプ] フィールドと [アクション] フィールド) に他の変更を加えることはできません。他のフィールドは更新できます。

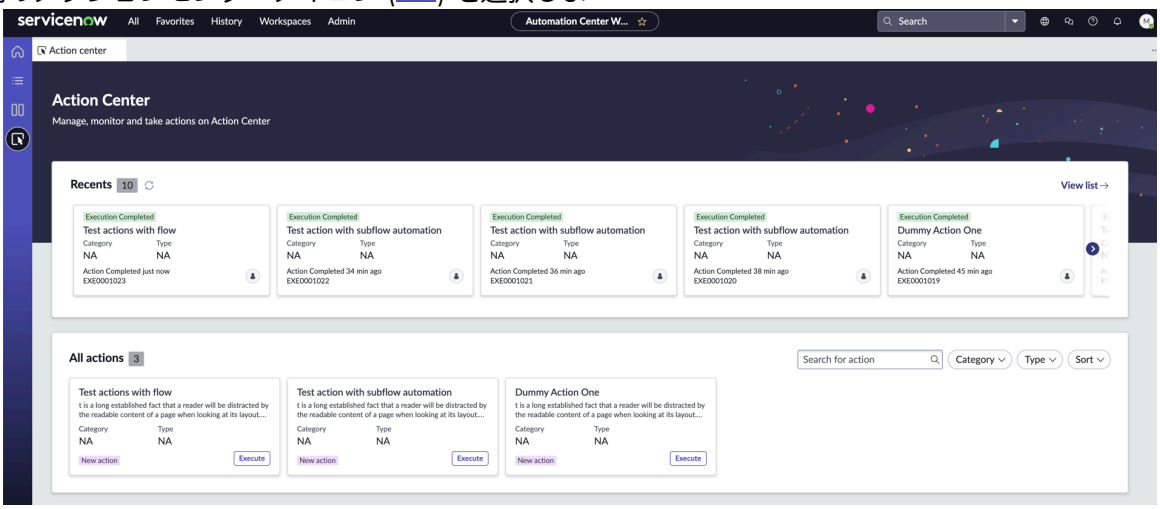
オートメーションセンターでのアクションの実行

繰り返し発生する一般的な問題を効率的に修正するためのアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：
sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、catalog_admin、または sn_ac.automation_admin

手順

1. [ワークスペース] > [オートメーションセンターワークスペース **(Automation Center Workspace)**]に移動します。
   オートメーションセンターダッシュボードが表示されます。
2. 左側のアクションセンターアイコン ( ) を選択します。



   - [最近] セクションには、実行されたすべてのアクションが表示されます。
   - [最近] セクションの [リストを表示] ボタンを選択すると、実行されたすべてのアクションを表示できます。
   - [すべてのアクション] セクションには、使用可能なすべてのアクションが表示されます。任意のアクションを検索したり、結果をフィルタリングして並べ替えたりできます。
3. [すべてのアクション] セクションで、実行する使用可能なアクションに対して [実行] を選択します。
   追加情報を含む新しいページが表示されます。
4. 必要な情報をすべて入力し、[実行] を選択します。
   アクションが実行され、[最近] セクションに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクションの管理

アクションを管理して、アクションにアクセスできるユーザーの権限を設定し、実行されたアクションの詳細またはログを表示します。

アドミニストレーターまたはテクニカルユーザーは、アクションセンターで使用できるアクションにアクセスできるユーザーの権限を設定する必要があります。アクションの権限を設定すると、ユーザーがアクションセンターを利用しやすくなります。また、ユーザーが必要なアクションのみ実行できるようになります。

アクションが実行された後、ログを表示すると実行の詳細を把握できます。

アサイン先グループの作成

アサイン先グループを作成して、アクションの可用性を特定のグループに限定します。

始める前に

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user および sn_ac.automation_admin

手順

1. [ワークスペース] > [オートメーションセンターワークスペース **(Automation Center Workspace)**]に移動します。
2. 左側のアクションセンターアイコン ( ) を選択します。
3. アクションを選択します。
   詳細が表示されます。
4. [アサイン先グループ **(Assigned Groups)**] タブを選択します。
5. [新規] を選択します。
6. アクションを表示および実行する権限のアサイン先グループを指定します。
7. [保存] をクリックします。

アクションログの表示

アクションログを表示して、実行されたアクションの詳細を確認します。

始める前に

必要なロール：
sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、catalog_admin、または sn_ac.automation_admin

手順

1. [ワークスペース] > [オートメーションセンターワークスペース **(Automation Center Workspace)**]に移動します。
2. 左側の [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [監視] > [アクションログ] を選択します。
4. 実行されたすべてのアクションのログが表示されます。

レビューの使用

レビューにより、作成した自動化を評価できます。

COE チームに自動化をレビューして自動化が必要かどうかを分析してもらいたい場合に、レビュー要求を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レビュー要求の作成

レビュー要求により、自動化をレビューできます。

アクション要求は 2 つの方法で作成できます。ServiceNow® サービスカタログ を使用して、またはオートメーションセンターから要求を作成できます。

サービスカタログからのレビュー要求の送信

ServiceNow® サービスカタログフォームを使用してレビュー要求を送信し、自動化をレビューするためのレビューを要求します。

始める前に
必要なロール：
sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、catalog_admin、または sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [ビルド] > [自動化要求を送信] に移動します。
2. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「[自動化要求を送信] フォーム」を参照してください。
3. [送信] を選択します。

オートメーションセンターからのレビュー要求の作成

オートメーションセンターからレビュー要求を作成し、自動化をレビューするためのレビューを要求します。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_business_user、sn_ac.automation_technical_user、または sn_ac.automation_admin

手順

1. [すべて] > [オートメーションセンター] > [ビルド] > [すべての自動化要求] に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フィールド値の説明については、「オートメーションセンター からの自動化要求フォーム」を参照してください。
4. [送信] を選択します。
5. ロールに応じて、フォームの追加フィールドに入力します。
6. [更新] を選択します。

接続マネージャーの操作

接続マネージャーを使用すると、データインポートを正しくマッピングしてテストすることで、サードパーティツールから オートメーションセンター テーブルにデータを追加できます。

自動化ソースの作成

自動化ソースを作成して、任意のサードパーティツールからデータのインポートを開始します。

始める前に
必要なロール：flow_designer、delegated_developer、sn_ac.automation_technical_user、または sn_ac.automation_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
オートメーションセンターで自動化ソースを作成するには、次の手順を同じ順序で実行する必要があります。

手順

1. [ワークスペース] > [オートメーションセンターワークスペース **(Automation Center Workspace)**]に移動します。
   オートメーションセンターダッシュボードが表示されます。
2. 左側の [接続マネージャー] アイコン ( ) を選択します。
3. [新しいソース**(New source)**] を選択します。
   [自動化ソースを追加 (Add automation source)] ページが表示されます。次の手順を同じ順序で実行します。

自動化のソースの定義

自動化に追加するソースを定義します。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

手順

1. [ソースを定義 **(Define source)**] フォームに詳細を入力します。

ソースの定義フォーム

フィールド	説明
ソース名	自動化ソースに一意で直感的な名前を付けます。 注: ソース名には、アンダースコアと英数字のみ使用できます。
説明	自動化ソースの目的の詳細な説明を入力します。
ソース タイプ	データのインポート元のソースの名前を指定します。例：ServiceNow® ロボティックプロセス自動化 独自のソースタイプを作成する場合は、[Add source type (ソースタイプの追加)] を選択します。フォームで名前を入力し、アイコンを選択してから、[追加] を選択します。 ソースタイプのリストで、そのソースタイプが使用可能になります。リストからそのソースタイプを選択します。

2. [保存して続行] を選択します。
   [データインポートを構成 **(Configure data import)**] セクションが表示され、自動化データのインポートをスケジュールするための [インポートをスケジュール **(Schedule Import)**] セクションが使用可能になります。

データインポートの構成

データの種類、インポートのスケジュールなど、データインポートの詳細を構成します。

次のタスクを同じ順序で実行して、自動化データのインポートを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データインポートのスケジュール

データインポートの頻度をスケジュールして、自動化データが必要に応じて更新されるようにします。

始める前に

必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

[ソースの定義 **(Define source)**] タブからの続きです。ソースの定義については、「自動化のソースの定義」を参照してください。

手順

1. フォームで詳細を入力します。
   - 日次：データのインポートを日次でスケジュールします。

     毎日データを必ずインポートする時刻を入力します。

     時刻は 12 時間形式または 24 時間形式で入力できます。

   - 週次：データのインポートを週次でスケジュールします。
     a. データを必ずインポートする曜日を [日付を選択] リストから選択します。
     b. データを必ずインポートする時刻を入力します。

        時刻は 12 時間形式または 24 時間形式で入力できます。

   - 月次：データのインポートを月次でスケジュールします。
     a. 1 か月の中で、データを必ずインポートする特定の日付を [日付を選択] リストから選択します。
     b. 毎日データを必ずインポートする時刻を入力します。

        時刻は 12 時間形式または 24 時間形式で入力できます。

   - **1** 回実行：データのインポートを 1 回だけスケジュールします。

     [日付を選択] フィールドでカレンダーアイコンを選択し、データをインポートする必要がある特定の日時を選択します。

   - 繰り返し：カスタムの頻度でデータインポートをスケジュールします。

     データインポートのカスタムの頻度を選択します。ここで提供されている週次、月次などの他の頻度と一致しない頻度でデータをインポートする場合は、このオプションを使用します。たとえば、頻度を隔週や 3 か月に 1 回のように設定できます。

     a. [日数 **(Days)**] フィールドに値を入力します。

        「20」を指定すると、データのインポートは 20 日ごとに行われます。

     b. データを必ずインポートする時刻を入力します。

        時刻は 12 時間形式または 24 時間形式で入力できます。

2. [保存して続行] を選択します。
   [スポークを選択] セクションが表示されます。

スポークを選択する

スポークを選択して接続を設定します。これはオプションのステップです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

スポークがまだインストールされていない場合は、必ず先にインストールしてください。

「データインポートのスケジュール」セクションからの続きです。データインポートをスケジュールする方法の詳細については、「データインポートのスケジュール」を参照してください。

手順

1. スポークを選択します。
   [ソート基準] フィールドを使用して、使用可能なスポークをアルファベット順にソートできます。
   [検索] フィールドで、スポークを名前で検索できます。
2. [保存して続行] を選択します。
   このセクションをスキップする場合は、[スキップ] を選択します。

   [アクションを選択] セクションが表示されます。

アクションを選択する

ServiceNow インスタンスへのデータインポートに適したアクションを選択します。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

「スポークを選択」セクションからの続きです。スポークの選択については、「スポークを選択する」を参照してください。

重要:

- REST ステップを含み、アクティブで公開されているアクションのみがリストされます。
- 出力タイプが「array.output」のアクションを選択してください。それ以外のアクションでは、データをインポートに使用できません。

手順

1. アクションを選択します。
   新しいアクションを作成する場合は、[アクションを作成] を選択します。詳細については、「アクションの作成」を参照してください。
   - [スポーク] リストからスポークを選択すると、選択したスポークに関連付けられているアクションのみが表示されます。
   - [ソート] フィールドを使用して、リストをアルファベット順にソートします。
   - [検索] フィールドからアクションを名前で検索します。
2. [保存して続行] を選択します。
   [バッチインポートの構成 **(Configure batch import)**] セクションが表示されます。

データのバッチインポートの設定

大きなデータセットをインポートするためのページネーション手法を指定するように、データのバッチインポートを設定します。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

[アクションを選択] セクションからの続きです。スポークの選択については、「アクションを選択する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. フォームで詳細を入力します。

ソースの定義フォーム

フィールド	説明
アクションの詳細	入力と出力の詳細を確認して、特定のニーズに合わせてデータフローをカスタマイズします。
出力タイプを選択	リストから出力タイプ値を選択します。 出力タイプが「array.output」のアクションのみ、ここに値が表示されます。
バッチインポートの方法を選択	バッチインポートの方法を選択します。 適切なバッチインポートの方法を選択することで、データを効率的に管理できます。バッチ処理は、大規模なインポートでのパフォーマンスの向上、エラーの処理、データの鮮度の確保に役立ちます。 バッチインポートには次の方法を使用できます。 ◦なし：単一の要求でデータをインポートします。オートメーションセンターで提供されているページネーション手法を使用したくない場合は、これを選択します。 ◦オフセット：オフセット値を使用してバッチでデータをインポートします。 ◦時間ベース：時間間隔に基づいてバッチでデータをインポートします。 ◦トークンベース：継続トークンを使用してバッチでデータをインポートします。
フローテンプレートを生成	フローを生成するには、このボタンを選択します。 フローが生成されたら、そのフローを編集して、大規模なインポート用の入力パラメーターとページネーションを設定します。 ◦必要な入力パラメーター (静的または動的) を設定します。たとえば、サードパーティツールから自動化レコードをインポートする場合、自動化ステータスなどの動的な値、または「再試行制限 = 3」などの静的な値を送信します。 ◦大規模なデータセットのリンクページネーション：たとえば、1,000 件以上の自動化レコードがある場合は、ページ番号とページサイズの両方を指定して、ページあたり 100 件のレコードを処理するページネーションをセットアップします。

フローが生成され、フローを編集するためのガイドが表示されます。

2. [フローの編集を続行 **(Continue to edit flow)**] を選択します。

フローデザイナー ページが表示されます。

> 注: 要件に従ってフローを編集します。フローの編集の詳細については、「フローデザイナー でフローを編集する」を参照してください。

この時点ではフローをアクティブ化しないでください。

3. [フローを検証 **(Verify flow)**] を選択して、フローが正しいかどうかを確認します。
このステップでは、選択したアクションがフローで使用可能かどうかを検証します。
4. [保存して続行] を選択します。
[検証とテスト **(Verify and test)**] セクションが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナー でフローを編集する

フローを編集して、ページネーションが正しく実装されていることを確認します。これにより、データが正しくインポートされたことを確認できます。

バッチインポートには次の 4 つの方法があります。

- なし
- オフセット
- 時間ベース
- トークンベース

バッチインポートなし

オートメーションセンター で提供されているページネーション手法を使用したくない場合は、バッチインポートなしの方法を選択します。ここで必要な手順はありません。

オフセットベースのバッチインポート

特定の開始点 (オフセット) とバッチサイズ (制限) を使用してデータをインポートする場合は、オフセットベースのバッチインポートの方法 (ページネーション手法) を選択します。

- オフセット：データのインポートの開始地点。
- 合計アイテム：インポートするレコードの合計数。
- 制限：各バッチでインポートするレコードの数。

例：オフセットを 20、合計アイテムを 200、制限を 10 に設定した場合、システムはレコード 20 から開始して 200 レコードすべてがインポートされるまで、10 レコード単位のバッチでデータをインポートします。

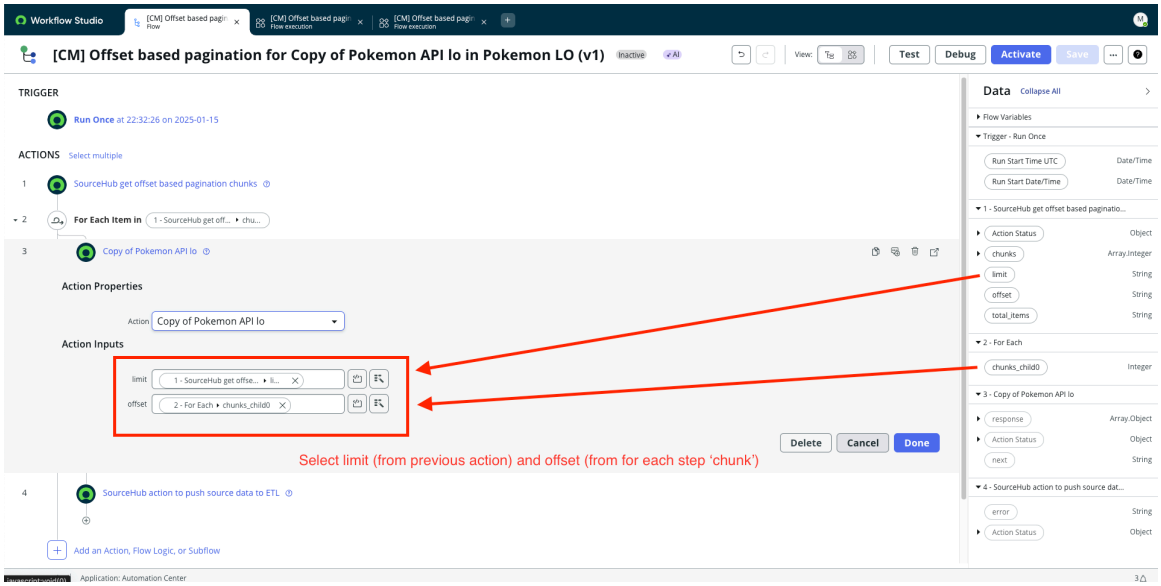
設定手順

1. **[SourceHub** はオフセットベースのページネーションチャンクを取得します **(SourceHub get offset based pagination chunks)]** アクションで、 [オフセット]、[合計アイテム]、および [制限] フィールドの値を指定し、 [完了] を選択します。

   値を定義すると、右側のパネル (**[For each** (それぞれについて)] の下) で **[chunks_child0]** フィールドが使用可能になります。

2. [アクションを選択] ステップで選択したアクションについて、**[SourceHub** はオフセットベースのページネーションチャンクを取得します **(SourceHub get offset based pagination chunks)]** アクションからの制限と、**[SourceHub** はオフセットベースのページネーションチャンクを取得します **(SourceHub get offset based pagination chunks)]**アクションにより生成された **[chunks_child0]** フィールド出力を使用したオフセット値をマッピングします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



制限とオフセットをサポートしないアクションの処理

[SourceHub はオフセットベースのページネーションチャンクを取得します (SourceHub get offset based pagination chunks)] アクションによって返された出力を使用して、アクションの制限値とオフセット値をマッピングします。

選択したアクションに、オフセットベースのページネーションについて事前定義されたパラメーターはないが、これらのパラメーターに対応できるフィルターが含まれている場合は、次のいずれかを実行できます。

- オプション **1**：選択したアクションの直前にアクションを追加して、制限とオフセットを処理します。このアクションにより、プライマリアクションがデータをフェッチするために使用できるクエリが生成されます。
- オプション **2**：プライマリアクションをコピーし、制限とオフセットの入力を含めるように変更し、これらの入力を処理してクエリを作成します。このクエリを元のアクションのフィルターに渡します。

> **注:** オプション 2 を選択した場合は、必ず最初に元のアクションのコピーを作成してください。コピー後、[アクションを選択] ステップでコピーしたアクションを再選択し、フローを再生成します。アクションの選択については、「アクションを選択する」を参照してください。

3. [完了] と [テスト] を選択します。
4. データのバッチインポートの設定 の手順 3 以降に従います。

時間ベースのバッチインポート

特定の日付範囲のデータをインポートする場合は、時間ベースのバッチインポートの方法を選択します。

設定手順

1. **[SourceHub** は日付ベースのページネーションチャンクを取得します **(SourceHub get date based pagination chunks)]** アクションで、開始日と終了日を指定し、 [完了] をクリックします。

   値を定義すると、右側のパネルで [範囲] フィールドが使用可能になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. [アクションを選択] ステップで選択したアクションについて、**[SourceHub** は日付ベースのページネーションチャンクを取得します **(SourceHub get date based pagination chunks)]**アクションによって生成された [範囲] フィールド出力を使用して、開始日と終了日の値をマッピングします。

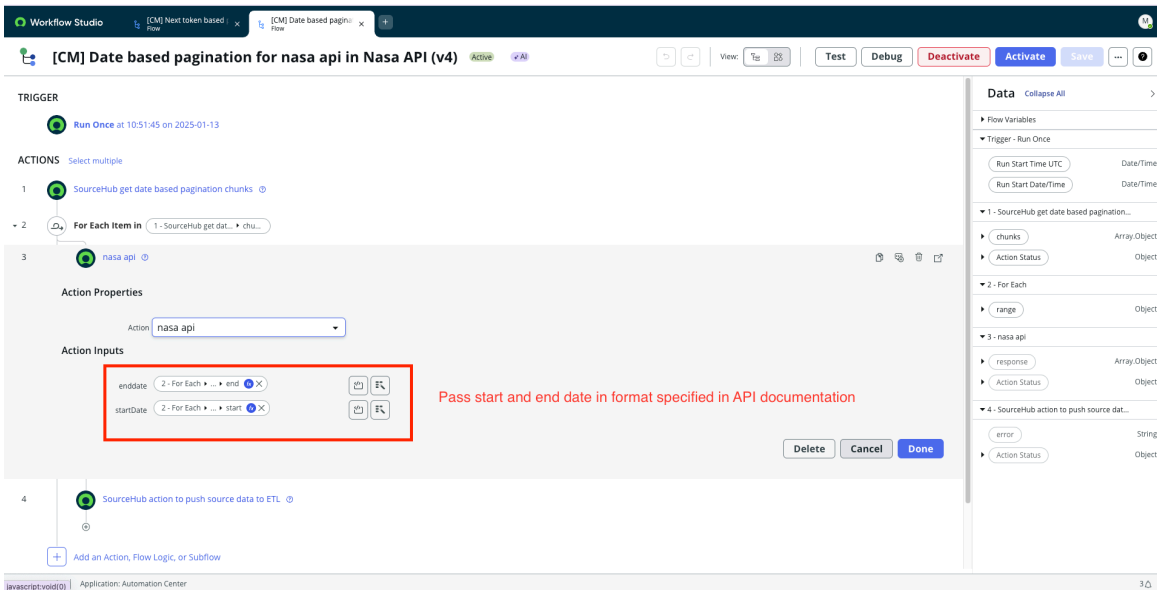
   日付形式

   接続マネージャーが使用し、返す日付の形式は「YYYY:MM:DD:HH:MM:SS」です。アクションが日付範囲をサポートしている場合は、形式が自動的に適用されます。

   日付範囲をサポートしていないアクションの処理

   アクションが日付範囲を自動的にサポートしないが、アクションにカスタムパラメーターのフィルターが含まれている場合は、次のいずれかの方法に従うことができます。

   - オプション **1**：選択したアクションの前にアクションを追加して、開始日と終了日を処理します。このアクションにより、プライマリアクションがデータをフェッチするために使用できるクエリが生成されます。
   - オプション **2**：プライマリアクションをコピーし、開始日と終了日の入力を含めるように変更します。アクション内でこれらの入力を処理してクエリを作成し、それを元のアクションのフィルターに渡します。



> **注:** オプション 2 を選択した場合は、必ず最初に元のアクションのコピーを作成してください。コピー後、[アクションを選択] ステップでコピーしたアクションを再選択し、フローを再生成します。アクションの選択については、「アクションを選択する」を参照してください。

3. [完了] と [テスト] を選択します。
4. データのバッチインポートの設定 の手順 3 以降に従います。

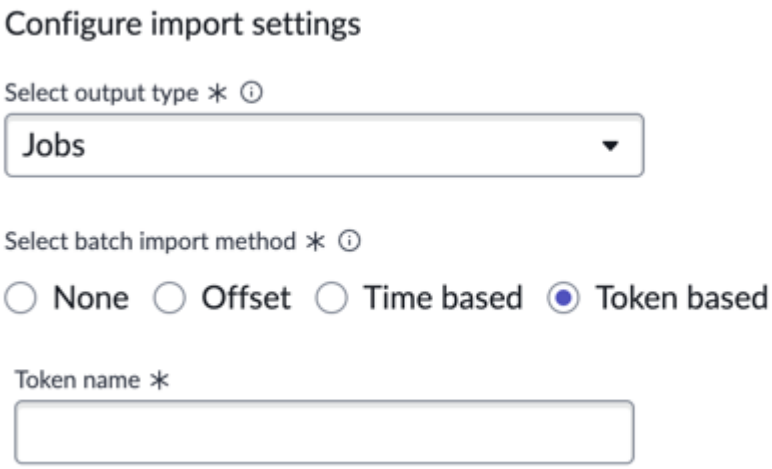
トークンベースのバッチインポート

継続トークンを使用してデータをインポートする場合は、トークンベースのバッチインポートの方法を選択します。

[バッチインポートを構成 **(Configure batch import)]** ページでトークンベースのバッチインポートの方法を選択する場合は、トークンの名前を指定する必要があります。このトークンは、アクション (next_url、next_token、next など) によって返される継続値を表します。トークン名が、スペルや

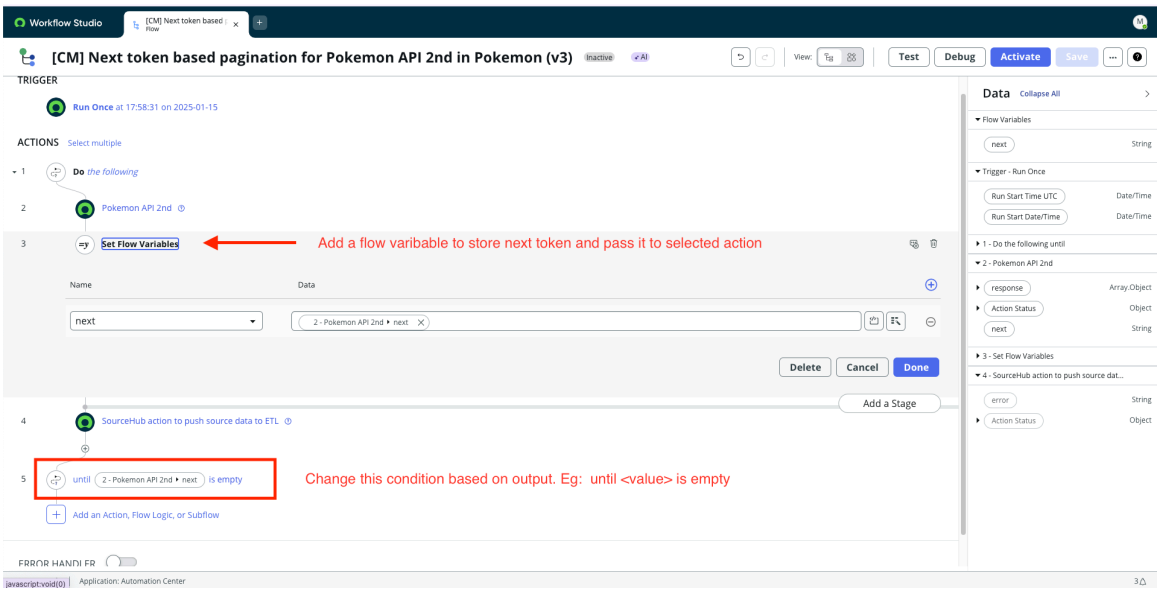
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

大文字と小文字を含め、アクションから返された内容と正確に一致していることを確認してください。



設定手順

1. 指定されたトークン名が正しい場合は、do-while 条件によって自動的にマッピングされます。空白のままの場合は、アクションの出力から do-while ロジックの条件フィールドに継続トークンを手動でドラッグします。
2. トークンの更新された値を格納する文字列タイプのフロー変数を追加します。
3. 変更を保存し、[完了] をクリックします。
4. 選択したアクションの後に [フロー変数の設定] ロジックステップを挿入します。このステップでは、新規作成されたフロー変数の値を、アクションによって返される継続トークンに設定します。このトークンが do-while 条件にマップされたトークンと一致することを確認してください。



5. [完了] と [テスト] を選択します。
6. データのバッチインポートの設定 の手順 3 以降に従います。

検証とテスト

すべての構成の詳細を検証してテストし、フローが正しく生成されることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

「データのバッチインポートを設定」セクションからの続きです。データのバッチインポートの設定については、「データのバッチインポートの設定」を参照してください。

手順

1. データインポートのスケジュール設定、スポークの選択、アクションの選択、バッチインポートの構成など、データインポートに設定したすべての詳細を確認します。
   - データインポートスケジュールを変更する場合は、[インポートのスケジュール] セクションからフローを開いて、フローに変更を加える必要があります。
   - 選択したスポークまたはアクションに変更を加える場合は、後続のタスクをやり直す必要があります。
2. [テスト接続] を選択します。
   接続を有効にするために更新が必要な場合は、更新を行うためのガイドが表示されます。接続にエラーがある場合は、ログファイルを表示して問題を修正し、テストを再実行できます。
3. [保存して続行] を選択します。
   [フィールドを調整 **(Align fields)]** セクションが表示されます。

ソースフィールドと宛先フィールドの調整

ソースフィールドと宛先フィールドを調整して、選択したアクションから選択した出力が ServiceNow テーブルに正しく配置されるようにし、自動化データを正確に統合できるようにします。

始める前に
必要なロール：ihub_import を持つ sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

[検証とテスト **(Verify and test)]** セクションからの続きです。構成設定の検証とテストの詳細については、「検証とテスト」を参照してください。

手順

1. 各ソースフィールドをドラッグして、宛先フィールドにマッピングします。
2. [保存して続行] を選択します。
   [値の整列 **(Align values)]** セクションの [ソース値の追加 **(Add source values)]** サブセクションが表示されます。

ソース値と宛先値の調整

ソース値と宛先値を調整して、オートメーションセンターでデータを正確に表示できるようにします。

ソース値を追加

ソースシステムから自動化のステータスまたはステータス値を手動で追加します。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

[ソースフィールドと宛先フィールドの調整 **(Align source and destination fields)]** セクションからの続きです。ソースフィールドと宛先フィールドの調整については、「ソースフィールドと宛先フィールドの調整」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [値を入力] フィールドにソース値を入力します。
2. [追加] を選択します。
   1 つの値が追加されると、次の値を追加するための別のフィールドが表示されます。値フィールドの横にある削除アイコン (-) を選択すると、値を削除できます。
3. [保存して続行] を選択します。
   [値のマッピング **(Map values)]** セクションが表示されます。

ソース値のマッピング

ソースのステータス値を宛先のステータス値にマッピングします。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

[ソース値の追加 **(Add source values)]** セクションからの続きです。ソースフィールドと宛先フィールドの調整については、「ソース値を追加」を参照してください。

手順

1. 各ソース値をドラッグして、宛先値にマッピングします。

   注: 値はドラッグアンドドロップのみ可能です。ハードコードされた値は使用できません。また、1 つの値を複数の列にマッピングすることはできません。

2. [保存して続行] を選択します。
   [レビューとアクティブ化 **(Review and activate)]** セクションが表示されます。

自動化ソースのレビューとアクティブ化

自動化ソースのすべての構成を確認し、自動化ソースをアクティブ化します。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_technical_user または sn_ac.automation_admin

「ソース値のマッピング」セクションからの続きです。ソース値と宛先値の調整については、「ソース値のマッピング」を参照してください。

手順

1. すべての詳細を確認し、必要な編集を行います。
   スポークまたはアクションを変更した場合は、後続のすべてのタスクをやり直す必要があります。
2. [アクティブ化] を選択します。
   [自動化ソース **(Automation sources)]** リストに、新規作成された自動化ソースが表示されます。

自動化ソースを管理

自動化ソースを作成した後、その自動化ソースに対して他のアクションを実行できます。

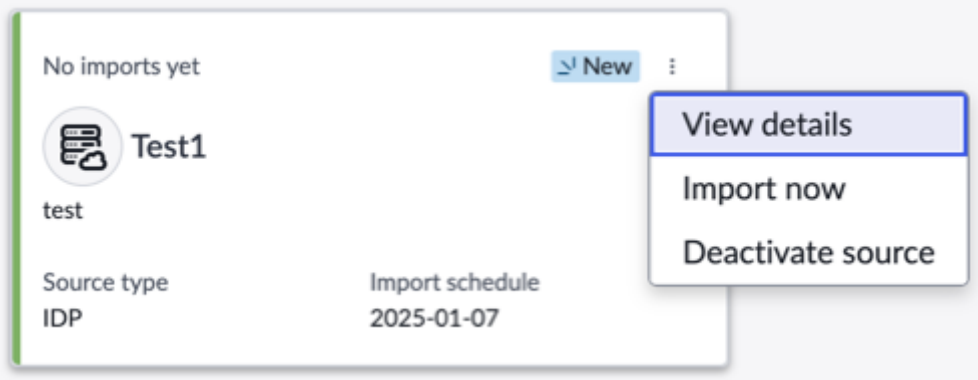
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [ワークスペース] > [オートメーションセンターワークスペース **(Automation Center Workspace)]**に移動します。
   オートメーションセンターダッシュボードが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. 左側の [接続マネージャー] アイコン ( ) を選択します。
   利用可能な自動化ソースのリストが表示されます。
3. 自動化ソースを管理するには、自動化ソースのオプションを選択しま



す。
   - [詳細を表示] を選択します。自動化ソースのある新しいタブが表示されます。
   - [今すぐインポート **(Import now)**] を選択します。データはすぐにインポートされます。
   - [ソースを非アクティブ化 **(Deactivate source)**] を選択します。自動化ソースが非アクティブ化されます。
   - [ソースのアクティブ化 **(Activate source)**] を選択します。自動化ソースがアクティブ化されます。
4. 自動化ソースを編集します。
   a. 自動化ソースを開きます。
   b. [詳細を編集 **(Edit details)**] を選択します。

      自動化ソースを編集できます。

オートメーションセンター に関する参照情報

参照トピックは、オートメーションセンター を構成および管理するために使用しているリストとフォームの追加情報を提供しています。

オートメーションセンター とともにインストールされるコンポーネント

オートメーションセンター をアクティブ化すると、いくつかのタイプのコンポーネント (テーブル、ユーザーロール、スケジュール済みジョブなど) がインストールされます。

注: アプリケーションファイルテーブルには、このアプリケーションとともにインストールされたコンポーネントがリストされています。このテーブルへのアクセス手順については、「アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索」を参照してください。

このプラグインでは、デモデータが利用可能です。

インストールされるロール

注: ロボティックプロセス自動化 (RPA) データを表示するには、RPA ロールが必要です。RPA ロールの詳細については、「RPA Hub とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールタイトル	説明	ロールを含む
自動化アドミン [sn_ac.automation_admin]	オートメーションセンター アプリケーション構成を設定します。オートメーションセンター アプリケーションのすべてのアクションを実行します。すべてのテーブルに対する CRUD アクセス権を保持します。	• sn_ac.automation_business_user • sn_ac.automation_technical_user • sn_ac.automation_admin
自動化テクニカルユーザー [sn_ac.automation_technical_user]	自動化要求、自動化ソース、自動化タスク、自動化リソース、自動化目標、インサイトルール、およびインサイトトリガーを作成します。自動化属性を変更します。	sn_ac.automation_techincal_user
自動化ビジネスユーザー [sn_ac.automation_business_user]	自動化要求、自動化目標を作成し、自動化要求のライフサイクルステージを更新します。	sn_ac.automation_business_user

インストールされたスケジュール済みジョブ

スケジュール済みジョブ	説明
Automation Center: Purge Executions Data	次の条件が満たされた場合にのみ、 [自動化実行] テーブルのデータを削除します。 • 「X」日前に作成されたレコードX は *sn_ac.purge_automation_data_in_days* システムプロパティによって定義された値を表します。自動化アドミンロールを持つユーザーはこのプロパティ値を変更できます。このプロパティのデフォルト値は **14** です。 • 進捗状況が [キャンセル]、[完了]、または [エラー] のレコード。
Automation Center: Purge Insights Data	「X」日前に作成された *sn_ac_insight* システムプロパティのデータを削除します。X は *sn_ac.purge_automation_data_in_days* システムプロパティによって定義された値を表します。自動化アドミンロールを持つユーザーはこのプロパティ値を変更できます。このプロパティのデフォルト値は **14** です。
Automation Center: Copy spotlight	注: スポットライトがインストールされ、有効になっている場合にのみ使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スケジュール済みジョブ	説明
score into request	スポットライトスコアを自動化要求の [スコア] フィールドにコピーします。 [スケジュール]	[実行先 **(Run to)]** が [オンデマンド] に設定されています。この設定は変更しないことをお勧めします。 注: デフォルトのスポットライト基準を変更する場合は、変更を保存した後、このスポットライトグループレコードの [今すぐ実行] ボタンを選択して、自動化要求レコードのスポットライトスコアを再計算する必要があります。次に、スケジュール済みジョブの [今すぐ実行] ボタンを選択してスコアをコピーする必要があります。

インストールされるテーブル

テーブル	説明
自動化要求 [sn_ac_automation_request]	自動化要求の詳細が含まれます。
自動化タスク [sn_ac_automation_task]	要求にリンクされたタスクの情報が含まれます。
自動化目標 [sn_sc_automation_goal]	複数の要求にマッピングできる目標の詳細が含まれます。
Base ロボット [cmdb_ci_base_rpa_robot]	ボットプロセスを実行するソフトウェアエージェントの詳細が含まれます。
Base ボットプロセス [cmdb_ci_base_rpa_process]	ロボットの構成の詳細が含まれます。
自動化実行 [sn_ac_automation_execution]	すべての実行プロセス情報を保存します。
自動化インサイト [sn_ac_insight]	オートメーションセンター 全体のアラートデータが含まれます。
自動化インサイトルール [sn_ac_insight_rule]	インサイトを構成するルールが含まれます。
自動化ソース [sn_ac_automation_source]	ベンダーデータを保存します。
自動化属性 [sn_ac_ci_attribute]	プロセスとロボットのコスト、時間、ソース、および関連付けられた自動化を保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明
自動化インポート [sn_ac_rpa_import]	REST API からインポートされたデータを一時的に保存します。

オートメーションセンター のプロパティ

[すべて] > [オートメーションセンター] > [管理] > [自動化プロパティ] に移動して、オートメーションセンター のシステムプロパティにアクセスできます。

オートメーションセンターのプロパティ

プロパティ	説明
sn_ac.workspace.date.default_num_of_days	オートメーションセンター ワークスペースに表示されるデータのデフォルトの日数を定義します。 • タイプ：整数 • デフォルト値：**7**
sn_ac.purge_automation_data_in_days	自動化実行データと自動化インサイト情報を消去するための日数を定義します。 • タイプ：整数 • デフォルト値：**14**
sn_ac.reporting_currency	オートメーションセンター のダッシュボードとレポートで使用される通貨を定義します。 • タイプ：整数 • デフォルト値：**USD**
sn_ac.savings_averaging_window	実行あたりのコスト削減と時間短縮の移動平均を計算します。 • Type : **integer** • デフォルト値：**4**

ServiceNow® スポットライトのプロパティ

プロパティ	説明
sn_ac.use.spotlight.score.for.requests	(値を **True** に設定して) オンにすると、オートメーションセンター ワークスペースでスポットライト機能が有効になります。 • Type : **True/False** • デフォルト値：**True**

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow® スポットライトのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
sn_ac.use.spotlight.group.for.requests	使用するスポットライトグループをシステムに知らせるために、スポットライトグループ sys_id を格納します。 • タイプ：文字列 • デフォルト値：**e037711dc3a11110995486d91840dd03**

ServiceNow® 推奨アクションのプロパティ

プロパティ	説明
sn_ac.use_recommended_actions	(値を **True** に設定して) オンにすると、オートメーションセンター ワークスペースで推奨アクションアプリケーションが有効になります。 • Type : **True/False** • デフォルト値：**False**

[自動化要求を送信] フォーム

[自動化要求を送信] フォームを使用して、サービスカタログ で自動化要求を作成します。

[自動化要求を送信] フォーム

フィールド	説明
要求タイプは何ですか？	作成する要求のタイプを選択します。 • 自動化要求を作成する場合は、[自動化] を選択します。ビジネスプロセスを自動的に簡素化し、手動アクティビティに費やす時間を短縮し、コストを削減したい場合に、自動化要求を作成します。 • アクション要求を作成する場合は、[アクション] を選択します。自動化の失敗の原因となる繰り返し発生する問題に対する自動化ソリューションが必要な場合に、アクション要求を作成します。 • レビュー要求を作成する場合は、[レビュー] を選択します。COE チームに自動化をレビューして自動化が必要かどうかを分析してもらいたい場合に、レビュー要求を作成します。
プロセス名	プロセスの名前。
このプロセスについて簡単に要約してください	自動化プロセスの説明。
部門	自動化要求の関連部門。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[自動化要求を送信] フォーム (続く)

フィールド	説明
このプロセスにはいくつのステップが含まれていますか？	ステップは、プロセスの完了に寄与する個々のアクティビティ、アクション、または意思決定と見なされます。
ビジネスプロセス実行の間隔タイプは何ですか？	ビジネスプロセス実行の頻度が分単位、毎時、日次、週次、月次のいずれであるかを説明するフィールド。
ビジネスプロセスはどのくらいの頻度で実行されますか (90 分ごとや 2 時間ごとなど)	間隔ごとに自動化プロセスが実行される回数。
プロセスに関連するすべてのアプリケーション/システムを特定する	自動化プロセスに含まれるすべてのアプリケーションとシステムを編集するためのフィールド。
実行ごとの実績所要時間はどれくらいですか？	手動実行の完了にかかる時間。
このプロセスを実行しますか？	この要求を送信するユーザーによって実行されるかどうかを示すフィールド。
プロセスオーナーの特定	効果的で効率的なプロセスを設計する責任者。
関連ファイルを添付	自動化プロセスをサポートするために添付する関連ドキュメント。

オートメーションセンター からの自動化要求フォーム

自動化要求フォームを使用して、オートメーションセンターから自動化要求、アクション要求、またはレビュー要求を作成します。

自動化要求フォーム

フィールド	説明
要求タイプ	作成する要求のタイプを選択します。 • 自動化要求を作成する場合は、[自動化] を選択します。ビジネスプロセスを自動的に簡素化し、手動アクティビティに費やす時間を短縮し、コストを削減したい場合に、自動化要求を作成します。 • アクション要求を作成する場合は、[アクション] を選択します。自動化の失敗の原因となる繰り返し発生する問題に対する自動化ソリューションが必要な場合に、アクション要求を作成します。 • レビュー要求を作成する場合は、[レビュー] を選択します。COE チームに自動化をレ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化要求フォーム (続く)

フィールド	説明
	ビューして自動化が必要かどうかを分析してもらいたい場合に、レビュー要求を作成します。
番号	要求の自動生成された番号。
プロセス名	プロセスの名前。
説明	プロセスに関する説明。
部門	プロセスの関連部門。
ステップ数	プロセスに含まれるステップ。 ステップは、プロセスの完了に関与する個々のアクティビティ、アクション、または意思決定です。
間隔タイプ	手動でのビジネスプロセス実行の間隔タイプ： • 分：プロセスは、[頻度] フィールドで指定した n 分ごとに実行されます。 • 時間：プロセスは、[頻度] フィールドで指定した n 時間ごとに実行されます。 • 日：プロセスは、[頻度] フィールドで指定した n 日ごとに実行されます。 • 週：プロセスは、[頻度] フィールドで指定した n 週間ごとに実行されます。 • 月：プロセスは、[頻度] フィールドで指定した n か月ごとに実行されます。
周期	間隔ごとに手動プロセスを実行する必要がある回数。 たとえば、90 分ごとや 2 時間ごとなどです。
実行ごとの実績所要時間	手動プロセスの完了までにかかる時間。
状況	自動化要求のステータス： • 新規 • 保留 • 却下 • 計画済み • 進行中 • 公開

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化要求フォーム (続く)

フィールド	説明
	これらの状況の詳細については、「自動化要求のライフサイクルステージ」を参照してください。
取り込みソース	自動化要求のソースタイプ。自動化要求の送信方法を示します。 • **Web** • 統合 • プロセスマイニング 注: デフォルトの取り込みソースタイプは **[Web]** です。 このフィールドは、フォームの送信時にのみ表示されます。
使用アプリケーション	プロセスの関連ビジネスアプリケーション。 たとえば、Ariba、Microsoft Excel、Google Chrome などです。
要求元	効果的で効率的なプロセスを設計する責任者。
その他詳細	
実行あたりの実績コスト	プロセス実行あたりのコスト。
ゴール	プロセスの自動化により達成したい目標。
優先度	ビジネスプロセスの複雑さ。複雑さは、関連するプロセスとアプリケーションの数、必要なステップ数、および人間の関与に基づいています。
宣言された事業上の重要度	ビジネスプロセスの重要度。重要度は、主観的アセスメントに基づいています。
メリットを受けるユーザー数	このプロセスによってメリットを得られるユーザーの数。
トランザクションの数	アプリケーションまたはシステム全体の予想されるトランザクション量。
スコア	要求の実行優先度。スコアが高いほど、要求の優先度が高くなります。
プロセスマネージャー	プロセスのエンドツーエンド実行の責任者。
アサイン先グループ	プロセスグループの名前。
手動ステップ %	プロセスを完了するために人間のアクションが必要なステップの推定割合。
1 年あたりの予想コスト削減	年末時点での、プロセスあたりの削減コスト。
1 年あたりの予想時間削減	年末時点での、プロセスあたりの短縮時間。
作業メモ	プロセスの作業メモ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化要求フォーム (続く)

フィールド	説明
追加コメント (顧客に表示)	顧客に表示されるメモ。

自動化タスクフォーム

自動化タスクフォームを使用して、オートメーションセンター で自動化タスクを作成します。

自動化タスクフォーム

フィールド	説明
番号	自動化タスクの番号。この番号は自動生成されます。
自動化要求	関連付けられた自動化要求。この要求は自動生成されます。
名前	自動化タスクの名前。
状況	自動化タスクのステータス： • オープン • 処理待ち • 対応中 • 完了してクローズ • 未完了でクローズ • スキップしてクローズ
説明	自動化タスクの説明。
有効	自動化タスクを確実に使用するためのオプション。
優先度	インシデントまたは問題を解決する順序 (影響度と緊急度に基づきます)。
タイプ	自動化タスクのタイプ： • 要件 • デザイン • 開発 • 品質エンジニアリング • サインオフ
アサイン先グループ	自動化タスクグループの名前。
担当者	自動化タスクにアサインされたユーザーの名前。

自動化リソースフォーム

自動化リソースフォームを使用して、自動化リソースを作成し、リソースを自動化タスクに関連付けます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化リソースフォーム

フィールド	説明
番号	自動化リソースの数。このフィールドは自動生成されます。
ユーザー	自動化タスクにアサインされたユーザーの名前。
有効	自動化リソースを確実に使用するためのオプション。
リソースタイプ	自動化リソースのロール： • 開発 • 品質エンジニアリング • プロダクトマネジメント
自動化タスク	関連付けられた自動化タスク。このフィールドは自動生成されます。
自動化要求	関連付けられた自動化要求。このフィールドは自動生成されます。

自動化実行フォーム

自動化実行フォームを使用して、オートメーションセンター からの自動化実行を表示します。

自動化実行フォーム

フィールド	説明
番号	自動化実行の数。
自動化実行 ID	自動化実行の識別番号。
自動化	関連付けられた自動化の名前。
ロボット	この自動化を実行しているアサイン済みロボット。
トリガー元	アサインされたロボットのトリガーモード。
開始時間	自動化実行の開始日時。
終了時間	自動化実行の終了日時。
期間	自動化の完了にかかる時間。
実行ごとの削減コスト	各自動化の実行後に削減されるコスト。
実行ごとの削減時間	各自動化の実行後に削減される時間。
ソース	関連付けられた自動化ソース。
優先度	自動化実行の優先度： • 低 • 中 • 重大
状況	自動化実行のステータス： • 実行中 • エラー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化実行フォーム (続く)

フィールド	説明
	• キューに格納 • キャンセル • 完了
部門	関連付けられた部門名。
メッセージ	ロボットによって返される情報またはエラーメッセージ。

インサイトルールフォーム

インサイトルールフォームを使用して、オートメーションセンター からインサイトルールを作成します。

インサイトルールフォーム

フィールド	説明
名前	インサイトルールの名前。
有効	インサイトルールのユーザビリティを検証するためのオプション。 このオプションをオフにすると、このインサイトルールからの通知が生成されなくなります。
アプリケーション	どのアプリケーションがこのインサイトルールを使用できるかを示すフィールド。
重大度	インサイトルールの優先度： • 緊急 • 高 • 中 • 低 デフォルト値は [中] に設定されています。
タイプ	インサイトルールのレベル： • 参考情報 • 警告 • エラー
メッセージ	インサイトを説明するカスタムメッセージ。 例： `自動化タスクのクリーンアップ時間。カウントは {0} です。`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インサイトルールフォーム (続く)

フィールド	説明
	{0} などの変数を設定するには、「自動化メッセージ変数のスクリプトの記述」を参照してください。 注: このメッセージ文字列のローカリゼーションを有効にするには、sys_ui_message 更新レコードを作成します。詳細については、「カスタム翻訳」を参照してください。
適用先	インサイトルールが適用されるテーブル。 例：自動化要求 [sn_ac_automation_request]。
時期	インサイトがトリガーされる条件。 このフィールドを変更する前に、[適用先] リストからテーブルを選択します。 このフィールドは、[しきい値タイプ] リストからエントリが選択されている場合にのみ表示されます。 [条件を設定] フィールドを選択して、トリガー条件を追加します。たとえば、自動化要求のステータスが「公開済み」でないときにインサイトルールを生成したい場合があります。その場合、フィールドリストから [ステータス]、演算子リストから [次の値ではない]、値リストから [公開済み] を選択します。 条件の横の [または] または [および] を使用できます。 さらに条件を追加するには、[新しい条件セット] を選択します。
しきい値タイプ	しきい値のタイプ： • カウント • パーセンテージ
しきい値カウント 注: このタブは、[しきい値タイプ] リストから [カウント] が選択されている場合にのみ表示されます。	
演算子	インサイトをトリガーする修飾子： • 次の値に等しい • 次の値未満 **(<)** • **>** • 次の値以下 • 以上 このフィールドは、[しきい値タイプ] リストから [カウント] が選択されている場合にのみ表示されます。
値	インサイトルールを、[演算子] フィールドで選択された修飾子に基づいてトリガーする必要があるかどうかを判断するための値。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インサイトルールフォーム (続く)

フィールド	説明
	たとえば、1 日にいくつかの自動化要求が却下された場合にインサイトルールがトリガーされます。条件を設定するには、[しきい値タイプ] リストで [カウント]、[演算子] リストで [次の値を超える]、[値] リストで **[10]** を選択します。 このフィールドは、[しきい値タイプ] リストから [カウント] が選択されている場合にのみ表示されます。
しきい値パーセンテージ **注:** このタブは、[しきい値タイプ] リストから [パーセンテージ] が選択されている場合にのみ表示されます。	
パーセンテージ	結果のルール値の分母値。
演算子	インサイトをトリガーする修飾子： • 次の値に等しい • 次の値未満 **(<)** • **>** • 次の値以下 • 以上 このフィールドは、[しきい値タイプ] リストから [パーセンテージ] が選択されている場合にのみ表示されます。
値	インサイトルールを、[演算子] フィールドで選択された修飾子に基づいてトリガーする必要があるかどうかを判断するための値。 たとえば、1 日にいくつかの自動化要求が却下された場合にインサイトルールがトリガーされます。条件を設定するには、[しきい値タイプ] リストで [パーセンテージ]、[演算子] リストで [次の値を超える]、[値] リストで **[10%]** を選択します。 このフィールドは、[しきい値タイプ] リストから [パーセンテージ] が選択されている場合にのみ表示されます。

自動化スケジュールトリガーの実行フォーム

[自動化スケジュールトリガーの実行] フォームを使用して、インサイトトリガーのタイプを定義し、オートメーションセンター の新しいスケジュールスクリプトにインサイトルールをマッピングします。

自動化スケジュールトリガーの実行

フィールド	説明
名前	インサイトトリガーの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化スケジュールトリガーの実行 (続く)

フィールド	説明
有効	インサイトトリガーを確実に使用するためのオプション。
アプリケーション	オートメーションセンターや RPA Hub など、トリガーが作成されている関連アプリケーションまたはアプリケーションスコープ。
実行	スケジュール済みジョブの実行に使用する時間間隔： • 日次：指定された時刻に毎日実行されます。 • 週次：指定された時刻と曜日に、毎週実行されます。 • 月次：指定された日の時刻に、毎月実行されます。 • 定期的：指定した繰り返し間隔で実行されます。 • **1** 回：1 回のみ実行されます。 • オンデマンド：オンデマンドですぐに実行されます。 • ビジネスカレンダー：エントリ開始：[ビジネスカレンダー] フィールドで選択したビジネスカレンダーのエントリ開始日に実行されます。ビジネスカレンダーに定義した各ビジネスエントリの開始日にスケジュール済みジョブが実行されます。 たとえば、ビジネスカレンダーが会計年度を表し、各エントリの開始日が会計月である場合、スケジュール済みジョブは毎月最初の日に実行されます。 • ビジネスカレンダー：エントリ終了：[ビジネスカレンダー] フィールドで選択したビジネスカレンダーの終了日に対して実行されます。この選択は、[ビジネスカレンダー：エントリ開始] と同じ方法で実行されますが、関連するビジネスカレンダーエントリの終了日に対して実行されます。 **注:** [ビジネスカレンダー：エントリ開始 **(Business Calendar: Entry Start)]** または [ビジネスカレンダー：エントリ終了 **(Business Calendar: Entry End)]** を選択すると、オフセット係数を適用して、選択したビジネスカレンダーの時間スパンの前または後にジョブを実行するようにスケジュールを設定できます。ビジネスカレンダーを選択し、そのすべてのビジネスカレンダースパンが過去のものである場合、これは無効な構成であるため、ジョブは実行されません。詳細については、[オフセットタイプ **(Offset Type)]** フィールドと [オフセット **(Offset)]** フィールドを参照してください。 ビジネスカレンダーの作成と使用、およびビジネスカレンダーエントリの定義の詳細については、「ビジネスカレンダーの作成」および「ビジネスカレンダーエントリの定義」を参照してください。
日	スケジュール済みジョブを実行する日。 • [実行] が [週次] の場合は、曜日を選択します。たとえば、水曜日を選択します。 • [実行] が [月次] に設定されている場合は、月の日を選択します。たとえば、毎月 25 日の場合、25 を選択します。 このフィールドは、[実行] フィールドで [月次] または [週次] を選択した場合にのみ表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化スケジュールトリガーの実行 (続く)

フィールド	説明
繰り返し間隔	このフィールドは、[実行] フィールドで [定期的] を選択した場合にのみ表示されます。 スケジュール設定された各ジョブ実行の繰り返し間隔の期間。期間を日数、時間数、または分数で入力します。例： • 4 日ごとにスケジュール済みジョブを実行するには、[日数] フィールドに「`04`」と入力します。 • 26 時間ごとに実行するには、[時間] フィールドに「`26`」と入力します。 • 13:30:25 の間隔で繰り返す必要がある場合は、[時間] フィールドに「`13`」と入力し、その後のラベルのない 2 つのフィールドに「`30`」と「`25`」を入力します。
タイムゾーン	スケジュール済みジョブの実行時間を指定するときに [時間] フィールドエントリで使用するタイムゾーン。タイムゾーンエントリを次のように選択します。 • なし：スケジュール済みジョブを作成しているログインユーザーのデフォルトのタイムゾーンを使用します。 たとえば、ユーザーのアサインされたタイムゾーンが米国太平洋標準時であり、[時間] フィールドに `16:45` と入力した場合、スケジュール済みジョブは米国太平洋標準時の午後 4 時 45 分に実行されます。 • システムのタイムゾーンを使用：実行するインスタンスに指定されたデフォルトのシステムタイムゾーンを使用します。 たとえば、インスタンスのデフォルトのシステムタイムゾーンがヨーロッパ/ロンドンであり、[時間] フィールドに `22:15` と入力した場合、スケジュール済みジョブはロンドン時間の午後 10 時 15 分に実行されます。 • 実際のタイムゾーン。 たとえば、[米国/東部] を選択し、[時間] フィールドに `13:30` と入力した場合、スケジュール済みジョブは米国東部標準時の午後 1 時 30 分に実行されます。
時刻	スケジュール済みジョブを実行する時刻。時間、分、秒を 24 時間形式で表します。[タイムゾーン] フィールドで選択した内容によって、このエントリのタイムゾーンが決まります。
開始中	最初にスケジュール設定されたジョブ生成の日時。カレンダー日時を選択します。このフィールドは、[実行] フィールドで [定期的] を選択した場合にのみ表示されます。
ビジネスカレンダー	スケジュール済みジョブに対するビジネスカレンダーの開始日または終了日を決定するために使用しているビジネスカレンダーエントリ。このフィールドは、[時間] フィールドで [ビジネスエントリ：開始日 **(Business Entry: Start Date)]** または [ビジネスエントリ：終了日 **(Business Entry: End Date)]** を選択した場合にのみ表示されます。

自動化目標フォーム

自動化目標フォームを使用して、オートメーションセンター で自動化目標を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化目標フォーム

フィールド	説明
名前	自動化目標の名前。
開始日	自動化目標の開始日。
目標期日	自動化目標の目標期日。
状況	自動化目標のステータス： • 処理待ち：関連付けられた要求が「新規」、「保留」、または「却下」ステータスであるか、関連付けられた要求がありません。 • 対応中：関連付けられた要求が、「計画済み」、「処理中」、または「公開済み」ステータスです。 • 達成：関連付けられた要求が「公開済み」または「却下」ステータスで、少なくとも 1 つの要求が「公開済み」ステータスです。 • 未達成：目標期日が、関連付けられた要求を満たしておらず、「新規」、「計画済み」、「処理中」、または「公開済み」ステータスです。
所有者	自動化目標の所有者。

自動化要求のライフサイクルステージ

自動化要求の状況移行により、ライフサイクルの各ステージを進みます。

自動化要求ライフサイクルステージ

ライフサイクルステージのステータス	説明
新規	新しい自動化要求のデフォルト値。
計画	計画ステータスに移行された自動化要求。
処理中	取得され、対応中の自動化要求。
公開	アクティブにする準備ができている自動化要求。
保留	後日に延期された自動化要求。
却下	却下された自動化要求。

ドメインセパレーションと オートメーションセンター

オートメーションセンター ではドメインセパレーションがサポートされています。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

概要

オートメーションセンター の目標は、エンドツーエンドのマルチベンダーライフサイクルを一元的に管理することです。ドメインセパレーションはすべての機能で有効になっています。

フラット階層または単層階層と少なくとも 1 つのプライマリまたはトップレベルのドメインが必要です。

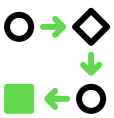
関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

統合ハブ

ServiceNow® フローデザイナー用に ServiceNow のコンポーネントを使用して統合タスクを自動化するか、カスタム統合を開発します。別のサブスクリプションが必要です。

開始

詳細	構成	ビルド
		
統合ハブ の概念と機能について学びます。	プラグインをアクティブ化し、使用状況の詳細を確認します	スポークおよびソリューションとの統合をビルドするか、または独自のカスタム統合を作成します

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

管理	インポート	参照
の接続と資格情報を管理します統合ハブ	統合ハブ によりデータのインポートとストリームを行います - インポートとApache Kafka 向けストリームコネクト	統合ハブ とドメインセパレーションに関する詳細を確認します

トラブルシューティングとヘルプ

- Ask or answer questions in the Now Platform community forum
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 開発者サイトでアプリをビルドする方法を学習します。
- 連絡先カスタマーサービス & サポート

重要:

- Now Assist の一部の製品/機能は現在、FedRAMP、NSC DOD IL5、オーストラリアの IRAP で保護されたデータセンターのお客様、セルフホスト型のお客様、またはその他の制限された環境のお客様は利用できません。詳細については、Now Support ナレッジベース 記事「 KB0743854 」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を確認してください。
- 現在、一部の地域のお客様は一部の Now Assist 製品/機能をご利用いただけません。詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「 KB1699552 」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を確認してください。

統合ハブの詳細

ServiceNow® 統合ハブ では、サードパーティシステムと再利用可能な統合をビルドして Now Platform から呼び出せます。たとえば、アクションデザイナースクリプトステップの統合 API を使用して外部システムの呼び出しを 統合ハブ に要求してそのスクリプトステップを ServiceNow® MID サーバー で実行し、REST、SOAP、PowerShell などのプロトコルステップをアクティブ化できます。

機能

統合ハブ により、サードパーティのアプリケーションとのインバウンド統合とアウトバウンド統合の両方が実現します。

フローデザイナー で設定したフローが、サードパーティシステムからの条件付きイベント駆動型の外部 Webhook に応答して実行されると、インバウンド統合が発生します。たとえば、問題追跡アプリケーションで P1 の問題を作成すると、その外部 Webhook によって ServiceNow インスタンスでフローがトリガーされ、ServiceNow インスタンスでインシデントデータベーステーブルが更新されます。ここでは、Webhook は条件付きイベント駆動型です。

ServiceNow で特定のイベントが発生したときに、統合ハブ がフローの一部としてサードパーティの API を実行できるようにすると、アウトバウンド統合が発生します。この統合のことを「スポー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ク」と呼びます。スポークは、設定が簡単で、スクリプトを作成しなくても強力なアクションをすばやく追加することができます。たとえば、優先度の高いインシデントが作成されたときに、Slack チャネルにメッセージとインシデントの詳細を投稿できます。

統合ハブ は次の機能を提供します。

スポークを作成

スポークジェネレーターを使用してスポークをビルドし、再利用可能なアクションのシーケンスを作成することで、統合タスクを自動化してカスタム統合を開発します。詳細については、「スポークジェネレーターを使用したスポークのビルド」を参照してください。

スポークによるベースシステムの統合

統合ハブでフローデザイナーのアクションを使用して、次のことを実行できます。

- メッセージ、ServiceNow のインシデント、問題、および変更レコードの詳細を、Slack スポーク、または Microsoft Teams スポーク のコミュニケーションチャネルに投稿します。
- たとえば、統合ハブ リモートプロセス同期 を使用して複数の本番インスタンス間でデータを同期します。

カスタム統合の作成

REST ステップまたはスクリプトステップを使用して、アクションデザイナーとのカスタム統合をビルドします。

サードパーティアプリケーションとのインバウンド統合の自動化

ベースシステムの外部トリガー定義、およびスポークアクションまたはコアアクションからのアクションを選択することで、フローデザイナー で 外部トリガー定義でフローを設定 を行います。次に、設定したフローをトリガーするためにサードパーティアプリケーションの Webhook が使用する 外部トリガーエンドポイントの設定 を行います。ServiceNow インスタンスは、フローをトリガーする前に Webhook を認証します。

ネットワーク内のサーバーとアプリケーションの管理の自動化

カスタムアクションを使用して、フローデザイナー プロセスをネットワーク内の MID サーバー に委任します。たとえば、PowerShell ステップまたはREST ステップを使用するアクションなどです。

メリット

統合ハブ は、プロセスの所有者と開発者に次のメリットをもたらします。

- Now Platformの複数の自動化機能が単一の環境に統合されるため、プロセス所有者と開発者は単一のインターフェイスからビジネスプロセスや統合をビルドし、ビジュアル化することができます。
- フローデザイナーのコンテンツが、ビジネスプロセスと外部システムを統合するように拡張されます。
- 該当分野のエキスパートがスポークを開発してフローデザイナーと共有できるようになり、ビジネスプロセスの自動化が促進されます。
- 技術系以外のユーザーがトリガー、アクション、入力、出力を理解するのに役立つ統合ロジックを自然言語で記述できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続と資格情報

統合ハブ は、外部システムとの統合時にエイリアスを利用して接続情報と認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報や接続情報プロファイルを設定する必要がなくなります。統合ハブで必要なのはエイリアスのみとなり、実行時に正しい認証情報と接続情報を使用するように解決されます。資格情報、接続、およびエイリアス の詳細を確認してください。

開発プロセス

カスタム統合を開発する際は、スコープ対象のアプリケーション内で統合を行うためのすべてのアクションを開発します。これらのアクションは、ターゲット インスタンスに展開されるとフローデザイナーでスポークとしてグループ化されます。アプリケーションのレコードにカスタム アイコンを追加して、スポークをブランド化します。アプリケーション開発の詳細については、「Build applications (アプリケーションのビルド)」を参照してください。

スポークを開発する際、通常はフローデザイナーとアクション デザイナーで次のアプリケーション開発タスクを実行します。

1. 開発インスタンスでスコープ対象のアプリケーションを作成し、スポークをビルドします。
2. スコープ対象のアプリケーションのテスト バージョンをアプリケーション リポジトリーに公開します。
3. スコープ対象のアプリケーションをアプリケーション リポジトリーからテスト インスタンスに展開します。
4. テスト インスタンスでスコープ対象のアプリケーションをテストします。
5. 予期どおりに機能する場合は、次のいずれかの方法でスコープ対象のアプリケーションを公開します。
   - アプリケーション リポジトリーに公開して本番インスタンスに展開します。
   - ServiceNow Storeに、お客様がその環境用に要求できるアプリケーションとして公開します。
   - ServiceNow シェアに公開して、ServiceNow コミュニティの他のお客様にコンテンツを提供します。

「アーキテクチャの概要」に記載の、フローデザイナー の設計上の考慮事項を確認してください。

統合ハブの構成

統合ハブサブスクリプションパッケージを確認して選択します。統合ハブプラグインを有効にし、使用状況とトランザクションの詳細を確認します。

統合ハブ を要求する

ServiceNow® 統合ハブ では、サードパーティシステムと再利用可能な統合をビルドして Now Platform から呼び出せます。たとえば、アクションデザイナースクリプトステップの統合 API を使用して外部システムの呼び出しを 統合ハブ に要求してそのスクリプトステップを ServiceNow® MID サーバー で実行し、REST、SOAP、PowerShell などのプロトコルステップをアクティブ化できます。

統合ハブ は オートメーションエンジン の一部として利用可能です。詳細については、「https://www.servicenow.com/now-platform/workflow-data-fabric.html」を参照してください。

フローデザイナー は、1 つのインスタンスにあるプロセスを自動化できるようにする Now Platform 機能です。統合ハブ のサブスクリプションがない場合は、ベースシステムアクションまたは (スクリプトステップを含む) ステップを使用して、レコードの操作、メールの送信、通知のトリガー、イン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スタンス内の操作を実行できます。フローデザイナー インターフェイスの外部システムとの自動化と統合の作成を行うように 統合ハブ に要求します。

個人開発インスタンス (PDI) で統合ハブをプレビューすることができます。

統合ハブ の使用とサブスクリプション

サードパーティシステムと再利用可能な統合をビルドするには、サブスクリプションパッケージを選択します。使用状況ダッシュボードを確認して現在のサブスクリプションで使用されているトランザクションの数を決定し、トランザクションの詳細を表示します。

スポークを使用するエンタイトルメント

ServiceNow で開発された統合 (またはスポーク) をダウンロードして使用するエンタイトルメントには、統合ハブ サブスクリプション (統合ハブ 概要) またはスポークを含むサブスクリプション製品が必要です。

このスポークエンタイトルメントにより、お客様は ServiceNow Store から特定のスポークをダウンロードして本番環境で使用できます。

サブスクリプション製品で利用可能なプロトコルとスポークは、その時点で最新の該当する製品ドキュメントに記載されています。プロトコルとスポークを使用すると、統合ハブ トランザクションが消費され、追加料金で 統合ハブ または オートメーションエンジン サブスクリプションの購入が必要になる場合があります。お客様は、サブスクリプション製品以外のユースケースでも、サブスクリプション製品に含まれるスポークを使用できます。統合ハブ トランザクションは、サブスクリプション製品には含まれません。

BU 製品のスポークの実際の概要に関する KB 記事へのリンク

特定のサブスクリプション製品で利用可能なスポークエンタイトルメントについては、Now Support の KB 記事「Spoke entitlement per Subscription Product (サブスクリプション製品ごとのスポークエンタイトルメント)」に記載されています。

統合ハブサブスクリプション通知

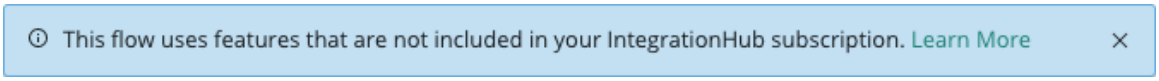
統合ハブ は、統合ハブ サブスクリプションを必要とするスポーク、プロトコル、エンタイトルメント、または機能を使用するたびに情報メッセージを表示します。この情報を使用して、計画された統合ハブ の使用状況と現在のサブスクリプションエンタイトルメントの間のギャップを特定できます。

サブスクリプション通知では、統合ハブ スポーク、プロトコル、エンタイトルメント、または機能の使用が制限されることはありません。ライセンスされていない機能は、本番インスタンスでは使用できない場合があります。

利用可能なサブスクリプション情報

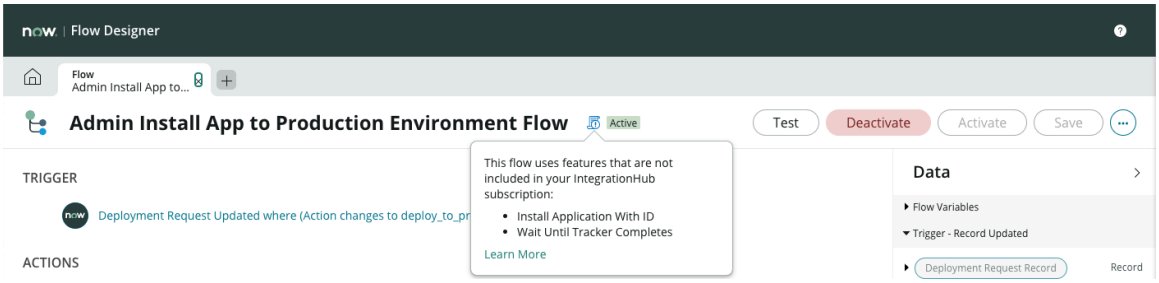
インスタンスは 統合ハブ サブスクリプション情報へのオンラインアクセスを試みます。この情報が利用可能になると、サブスクリプションに含まれていない機能を使用するたびに、情報メッセージが表示されます。フローとアクションのタイトルにも、詳細を示す [情報] アイコンが表示されます。[情報] アイコンを選択すると、サブスクリプションに含まれていない機能のリストが表示されます。

サブスクリプション通知の例



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

機能のリストを含むサブスクリプション通知の例



不明なサブスクリプション情報

インスタンスがサブスクリプション情報にアクセスできない場合は、一般的な情報メッセージが表示されます。統合ハブ サブスクリプションを必要とする機能を使用するたびに、リマインダー情報メッセージが表示されます。使用する機能に適した 統合ハブ サブスクリプションがあることを確認してください。

統合ハブ プラグインを要求する

統合ハブプラグインには、個別のサブスクリプションが必要であり、ServiceNow の担当者によるアクティブ化が必要です。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

サブスクリプションを購入するには、ServiceNow アカウントマネージャーにお問い合わせください。アカウントマネージャーは通常数日以内に、組織の本番および準本番インスタンスでプラグインが有効化されるように手配することができます。

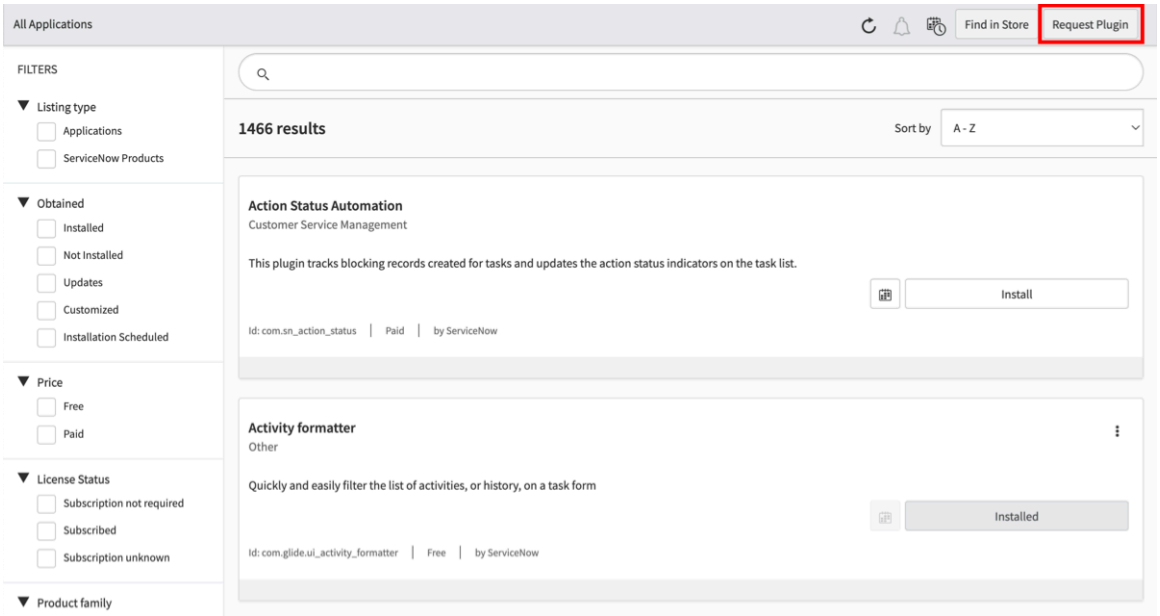
アカウントマネージャーがいない場合、購入後に有効化を延期することを決定するか、無料で準本番インスタンスで製品を評価する場合には次の手順を実行します。

統合ハブ プラグインのリストについては、「統合ハブ プラグイン」を参照してください。

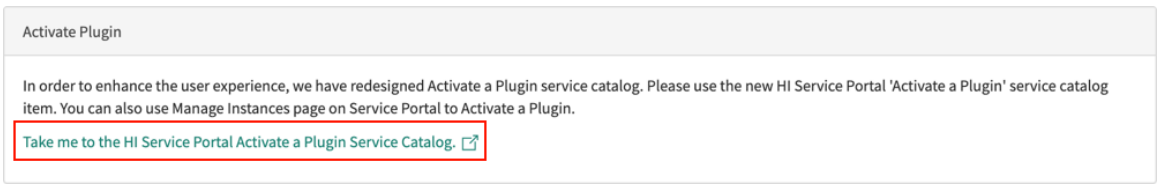
手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. [すべてのアプリケーション] ページで [プラグインの要求] をクリックして、Now Support で [プラグインをアクティブ化] フォームを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. Now Support で、Now Support サービスポータル サービスカタログ にアクセスするリンクを選択します。



4. インスタンスを選択します。
5. [アクション] > [プラグインのアクティブ化] を選択します。
6. [プラグインのアクティブ化] フォームで、次の情報を入力します。

[プラグインのアクティブ化] フォーム

フィールド	説明
ターゲットインスタンスは何ですか	プラグインをアクティブ化するインスタンス。
どのプラグインをアクティブ化しますか	アクティブ化するプラグインの名前です。 **注:** 必要なプラグインが表示されない場合、または OEM またはオンプレミスのインスタンスでプラグインをアクティブ化している場合は、[探しているプラグインが表示されていません **(Plugin I'm looking for is not listed)]** チェックボックスをオンにして、プラグインの名前を入力します。
メンテナンスの日時を選択 (Select Maintenance Date and Time)	プラグインをアクティブ化する日時。

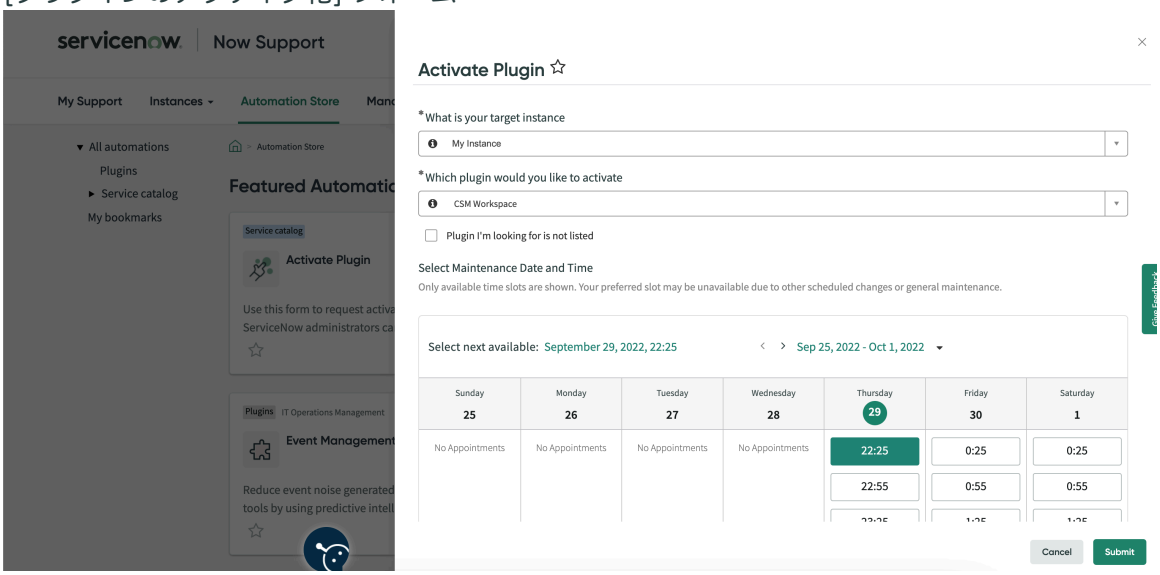
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: プラグインは、米国太平洋標準時で、毎営業日の朝と夕方の 2 回のバッチでアクティブ化されます。特定の時刻にプラグインをアクティブ化する必要がある場合は、[理由/コメント **(Reason/Comments)]** フィールドに要求を入力します。

Example

たとえば、 [自分のインスタンス (My Instance)] という名前のインスタンスで CSM Workspace プラグインをアクティブ化するには、次のフォームを参照してください。

[プラグインのアクティブ化] フォーム



7. [送信] を選択します。
   プラグインの要求に関するその他の詳細については、Now Support ナレッジベース の記事「サービスカタログからのプラグインの要求 (Requesting a Plugin from the サービスカタログ) (KB0751715)」を参照してください。

関連情報

プラグインのリスト (Yokohama)

統合ハブ プラグイン

サブスクリプションに含まれる 統合ハブ プラグインを要求します。

ServiceNow 統合ハブ プラグイン

プラグイン	説明
ServiceNow 統合ハブスターターパックインストーラー [com.glide.hub.integrations]	統合ハブスターターパックプラグインをインストールして、独自の統合をビルドします。Microsoft Teams スポーク、Slack スポーク、Slack Webhook スポーク、eBonding スポーク、従来の統合ハブの使用ダッシュ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow 統合ハブ プラグイン (続く)

プラグイン	説明
	ボード、REST および SOAP ステップが含まれています。
ServiceNow 統合ハブ標準パックインストーラー [com.glide.hub.integrations.standard]	統合ハブ標準パックプラグインをインストールして、開発者の操作を自動化します。統合ハブスターターパック、JDBC および XML パーサーステップが含まれています。
ServiceNow 統合ハブプロフェッショナルパックインストーラー [com.glide.hub.integrations.professional]	t統合ハブプロフェッショナルパックプラグインをインストールして、IT 運用を自動化します。統合ハブ標準パック、Microsoft AD スポーク、Microsoft Azure AD スポーク、SSH および PowerShell ステップが含まれています。
ServiceNow 統合ハブエンタープライズパックインストーラー [com.glide.hub.integrations.enterprise]	IntegrationHub エンタープライズパックをインストールして、ヒューマンリソース (HR)、カスタマーリレーションシップマネジメント、エンタープライズリソースプランニングなどを自動化します。統合ハブプロフェッショナルパック、Microsoft SCCM スポーク、およびデータストリームアクションが含まれています。
ServiceNow 統合ハブコンテンツ：使用廃止 [com.glide.hub.integration.content]	Slack、HipChat、Microsoft AD、Microsoft Azure、Microsoft Teams、ServiceNow eBonding とデータ連携するための フローデザイナー のアクション
フローデザイナーアクションステップ：ペイロードビルダー [com.glide.hub.action_step.payload]	アクションデザイナーが JSON および XML ペイロードで動的データを使用して名前/値ペアを簡単に作成できるようにします。
ServiceNow 統合ハブアクションステップ：JDBC [com.glide.hub.action_step.jdbc]	SQL コマンドをリレーショナルデータベースに送信するための再利用可能なアクションを作成します。
ServiceNow 統合ハブアクション ステップ - REST [com.glide.hub.action_step.rest]	フローデザイナーで REST アクションステップを有効にします。
ServiceNow 統合ハブアクションステップ - PowerShell [com.glide.hub.action_step.powershell]	フローデザイナーで PowerShell アクション ステップを有効にします。
ServiceNow 統合ハブアクションステップ：SOAP [com.glide.hub.action_step.soap]	フローデザイナー で SOAP アクションステップを有効にします。
ServiceNow 統合ハブアクションステップ：SSH [com.glide.hub.action_step.ssh]	SSH ステップでは、ServiceNow® MID サーバー を通じて SSH コマンドを外部 *nix システムで実行します。また、このステップでは、*nix システムのスクリプトとコマンドも保存されます。
ServiceNow 統合ハブアクションステップ - XML Parser [com.glide.hub.action_step.xmlparser]	フローデザイナーで XML パーサーアクションステップを有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow 統合ハブ プラグイン (続く)

プラグイン	説明
ServiceNow 統合ハブアクション テンプレート - Data Stream [com.glide.hub.action_type.datastream]	REST、SOAP、または JDBC 要求を フローデザイナーから API に送信します。この API は、10 MB を超える応答データのストリーム、またはページネーションされた結果を返します。ストリームデータを一連の複合オブジェクト出力に解析して、データピルをフローにある他のアクションで使用します。
ServiceNow IntegrationHub 用 HipChat スポーク [com.sn.hipchat.ah]	ServiceNow 統合ハブ用 HipChat スポークは、プロセスアナリストがフローを設計する際に使用できるアクションを提供します。これらのアクションを使用して、会話の作成を自動化したり、ユーザーを会話に追加したり、メッセージを会話に送信したりできます。 **注:** この統合は廃止されました。
ServiceNow 統合ハブ用の Slack スポーク [com.sn.slack.ahv2]	ServiceNow 統合ハブ用 Slack スポークは、プロセスアナリストがフローを設計する際に使用できるアクションを提供します。インシデントや問題についてのメッセージをチャネルに送信します。
ServiceNow 統合ハブ用 Slack Webhook スポーク [com.sn.slack.ah]	Slack Webhook を使用し、メッセージを投稿したり、ServiceNow のインシデント、問題、および Slack チャネルの変更の詳細を記録したりします。
統合ハブ用 Microsoft SCCM スポーク [com.sn.sccm.spoke]	プロセスアナリストがユーザーコレクション、デバイスコレクション、およびアプリケーション展開の管理を自動化するために使用できるアクションを提供します。
ServiceNow統合ハブ用 Microsoft Teams スポーク [com.sn.ms_teams.ah]	プロセスアナリストが、ServiceNow インシデントや問題のレコードについてのメッセージを Microsoft Teams チャネルに送信する処理を自動化するフローを設計する際に、使用できるアクションを提供します。
統合ハブ向け Microsoft AD Spoke [com.sn.ad.spoke]	ユーザー、グループ、およびコンピューターなどの、Microsoft Active Directory 内のオブジェクトを作成、削除、および管理します。
統合ハブ用 Microsoft Azure AD スポーク [com.sn.azure_ad.spoke]	ユーザー、セキュリティグループ、およびオフィスグループを管理します。Office 365 でライセンスを適用し、ユーザーをプロビジョニングします。
ServiceNow 統合ハブ用 ServiceNow eBonding スポーク [com.glide.sn.ebonding.ah]	ServiceNow 統合ハブ用 ServiceNow eBonding スポークは、プロセス アナリストがリモートの ServiceNow インスタンスとの eBonding に役立つフローを作成できるようにするためのアクションを提供します。
統合ハブ デザイナーコア [com.glide.ihub.designer.core]	統合ハブ のインポート環境によるデータインポートの自動化を有効にします。ServiceNow 統合ハブ アクションテンプレート：データストリーム [com.glide.hub.action_type.datastream] プラグインでインストールします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow 統合ハブ プラグイン (続く)

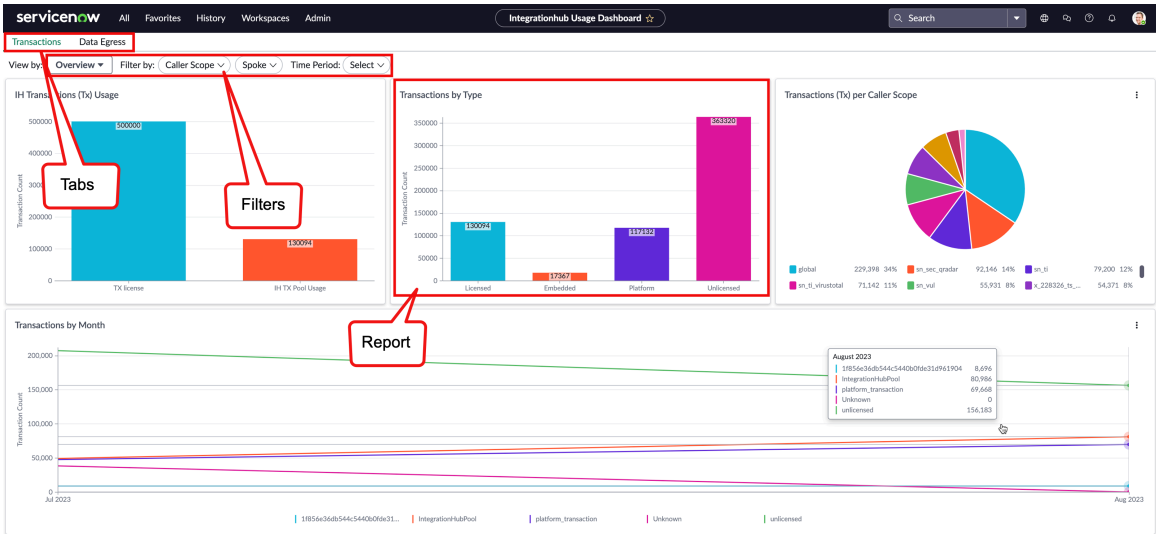
プラグイン	説明
ServiceNow Stream Connect Installer [com.glide.hub.stream_connect.installer]	Apache Kafka 向けストリームコネクトでメッセージベースのストリーミングデータを操作するためのライセンスコンポーネントを有効にします。 このプラグインをアクティブ化すると、以下のプラグインがアクティブ化されます。 • ServiceNow 統合ハブフロートリガー - Kafka [com.glide.hub.flow_trigger.kafka]：フロー内のトピックの Kafka メッセージを利用する機能を有効にします。 • ServiceNow 統合ハブアクションステップ - Kafka プロデューサー [com.glide.hub.action_step.kafka]：フロー内のトピックの Kafka メッセージを生成する機能を有効にします。 • ServiceNow 統合ハブ Kafka コンシューマー [com.glide.hub.kafka_consumer]：Kafka を操作する統合ハブコンポーネントを指定します。 • ServiceNow 統合ハブ ETL コンシューマー - Kafka [com.glide.hub.etl_consumer.kafka]：RTE、変換マップ、またはスクリプトを使用して、トピックから Kafka メッセージを利用する機能を有効にします。 • ServiceNow ストリームコネクトレプリケーション - Kafka [com.glide.hub.stream_connect.replication.kafka]：顧客の Kafka クラスターの MID サーバー経由でストリームコネクトトピックをレプリケートできるようにします。 • ServiceNow 統合ハブ ストリームコネクトスキーマ [com.glide.hub.stream_connect.schema]：スキーマをインポートして作成し、Apache Avro 形式でメッセージを送受信できるようにします。

統合ハブ使用状況ダッシュボード

統合ハブ使用状況ダッシュボードから、統合ハブデータの使用状況に関するインサイトを取得します。たとえば、前年の月次平均トランザクション数や、REST および SOAP API プロトコルを介した統合ハブからのデータエグレスを表示します。

統合ハブ使用状況ダッシュボードは、レポート形式でインサイトを提供します。ダッシュボードへのアクセスはロールベースです。レポートは、[トランザクション **(Transactions)]** タブと[データエグレス] タブのさまざまなセクションで使用できます。フィルターを使用するか、レポートをドリルダウンすることで、表示するデータをカスタマイズできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



統合ハブ 使用状況ダッシュボードバージョン

統合ハブ使用状況ダッシュボード v2.0.3 が最新バージョンです。

統合ハブ使用状況ダッシュボードの [トランザクション **(Transactions)**] タブのセクション

ダッシュボードには、以下のセクションがあります。

- 概要：さまざまな観点からトランザクションの使用状況データを表示し、必要に応じてドリルダウンして詳細を表示します。たとえば、前年の月次トランザクションを表示できます。
- スポーク：スポークによって実行されたトランザクションのデータを表示し、必要に応じてドリルダウンして詳細を表示します。たとえば、前年に最も多くのトランザクションを実行したスポークに関する情報を表示できます。
- プロトコルと機能：使用されたさまざまなプロトコルと機能の使用状況データを表示し、必要に応じてドリルダウンして詳細を表示します。たとえば、前年に REST プロトコルで実行されたトランザクション数を表示できます。

統合ハブ使用状況ダッシュボードの [データエグレス] タブのセクション

ダッシュボードには、以下のセクションがあります。すべてのセクションに、データエグレス、ソース (API プロトコルまたはエクスポート) 別のデータエグレス、およびデータエグレストレンドの 3 つの共通レポートがあります。

- [概要] セクション：合計データエグレスボリューム、REST や SOAP のプロトコル、ServiceNow インスタンスからの JSON、エクスポートセット、および URI に基づくデータエグレス、および期間全体のデータエグレスの概要を示します。
- [API] セクション：すべてのソースに基づく合計データエグレスボリューム、REST や SOAP のプロトコルまたは ServiceNow インスタンスからの JSON データに基づくデータエグレス、および期間全体のデータエグレスの概要を示します。
- [エクスポート] セクション：すべてのデータエクスポート形式に基づく合計データエグレスボリューム、ServiceNow インスタンスからのエクスポート形式別のデータエグレス、および期間全体のデータエグレスの概要を示します。

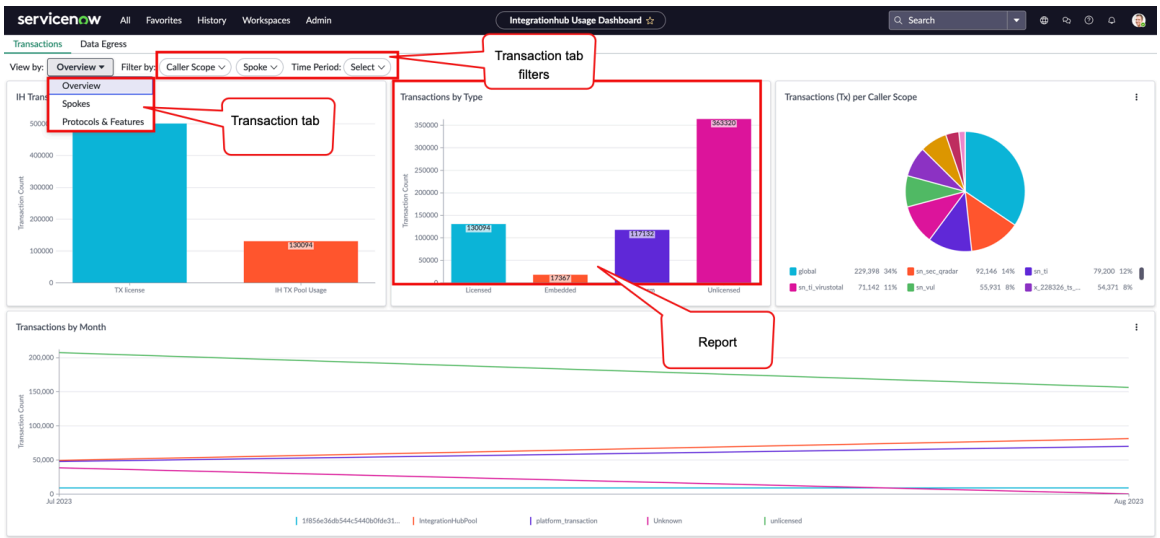
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

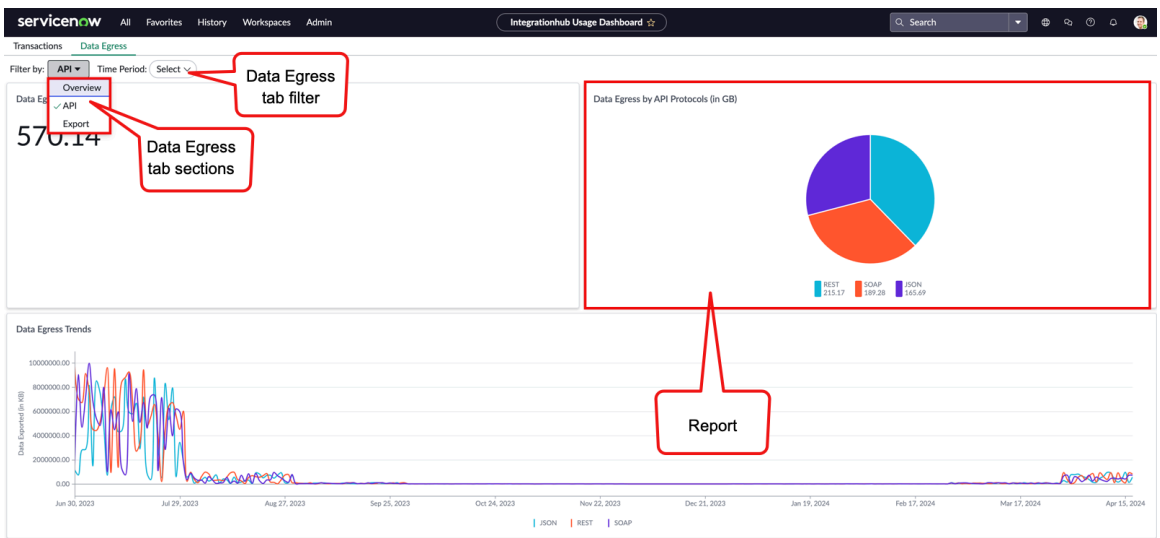
注:

- レポートの表示、フィルターの設定、またはレポートテーブルの列のカスタマイズに順序はありません。
- すべてのグラフは、バイトで始まる最も近いデータ指標に調整されます。

ダッシュボードのデータ構成

以下の画像は、ダッシュボードでデータがどのように構成されているかを示しています。





統合ハブ **Usage Dashboard** からのインサイトの取得

統合ハブ Usage Dashboard を使用して、統合ハブ トランザクションに関するインサイトを取得します。たとえば、前年のトランザクションで最も使用されたプロトコルを表示できます。フィルターを使用して、レポートの列のレイアウトや配置をカスタマイズすることもできます。

始める前に

必要なロール：admin、flow designer、action_designer、usage_admin、または flow_operator

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ダッシュボードにアクセスするには、[すべて] > [統合ハブ] > [統合ハブの使用]に移動します。

   ヒント: フィルター検索フィールド Filter で「**Integrationhub** の使用」を入力することで、すぐにアクセスすることができます。

2. レポートを表示するには、[スポーク] または [プロトコルと機能] セクションをクリックします。

   注: レポートの表示、フィルターの設定、またはレポートテーブルの列のカスタマイズに順序はありません。したがって、次の 1 つ以上の手順を任意の順序で実行できます。[Transactions] セクションはデフォルトで選択されています。

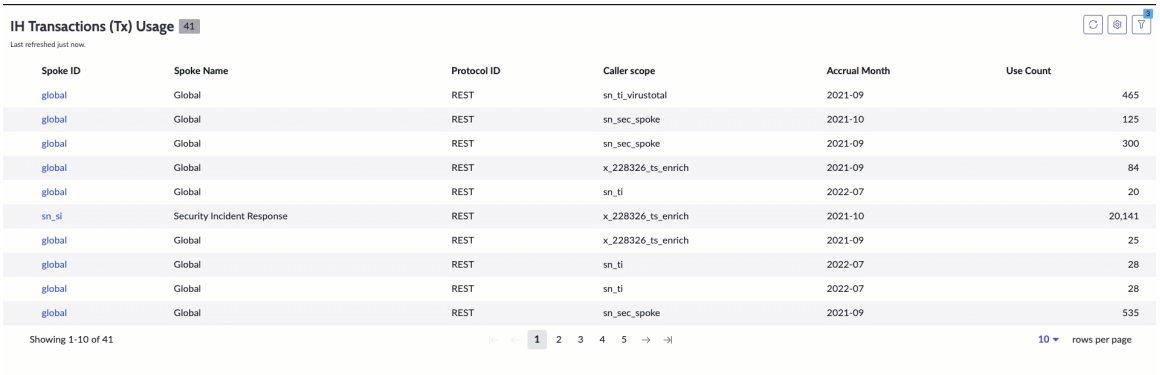
3. オプション: レポートをドリルダウンして詳細を表示するには、グラフまたはチャートをクリックします。
4. オプション: 共通のパラメーターでトランザクションをグループ化するには、次のアクションを実行します。

   a. レポートをドリルダウンします。

   b. 目的の列で、パラメーターを含む行にマウスを移動し、トランザクションをグループ化するパラメーターの [パラメーター別のグループトランザクション] アイコン ( ) をクリックします。

   c. [この値で絞り込み] をクリックします。
   または、このトピックをブラウザーで開いて、次のアニメーションを表示することもできます。

   パラメーター別のグループトランザクション



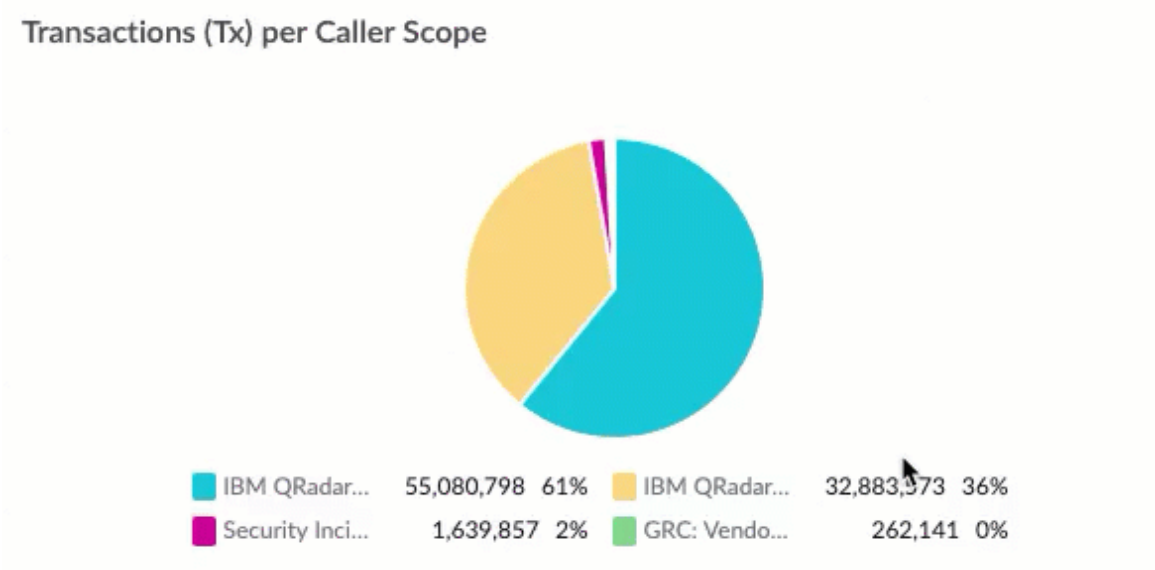
5. オプション: 円グラフのスライスを表示または非表示にするには、次のアクションを実行します。
   円グラフの各スライスは、トランザクション使用率に関するインサイトを表します。ただし、一部のスライスは、かなり大きいスライスがあると不明瞭になるため、表示が難しくなることがあります。

   a. スライスを非表示にするには、色付きの凡例をクリックします。

   b. スライスを再表示するには、色付きの凡例をもう一度クリックします。
   または、このトピックをブラウザーで開いて、次のアニメーションを表示することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

円グラフのスライスを表示または非表示にする



6. オプション: レポートテーブルの列をカスタマイズするには、次のアクションを実行します。
   a. レポートをドリルダウンします。
   b. 列設定アイコン ( ) をクリックします。
   c. [列を編集] をクリックします。
   d. [利用可能な列] セクションで、列名をクリックします。
   e. 列を含めるには、列を含めるアイコン ( ) をクリックします。
   f. テーブルから列を除外するには、[選択した列] セクションで列を削除アイコン ( ) をクリックします。
   g. レポートテーブルの列の位置を変更するには、[選択した列] セクションで、列をドラッグアイコン ( ) をクリックしてドラッグします。
   h. 変更を適用するには、**[OK]** をクリックします。
7. オプション: フィルターを使用するには、次のアクションを実行します。
   a. 必須セクションで、申請者スコープ、スポーク、または日付範囲を選択します。
   複数の申請者スコープまたはスポークを選択するには、**Shift** キーを押しながらクリックします。

ダッシュボードフィルター

   b. [申請者スコープ] および [スポーク] の場合は、フィルター値を含めるアイコン ( ) をクリックし、[適用] をクリックします。
   c. 日付範囲については、必要な日付範囲を選択し、[適用] をクリックします。
   デフォルトでは、過去 12 か月の日付範囲が選択されています。
8. 列幅をリセットするには、列設定アイコン ( ) をクリックしてから、[幅をリセット] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブ使用状況ダッシュボードのトランザクションレポート

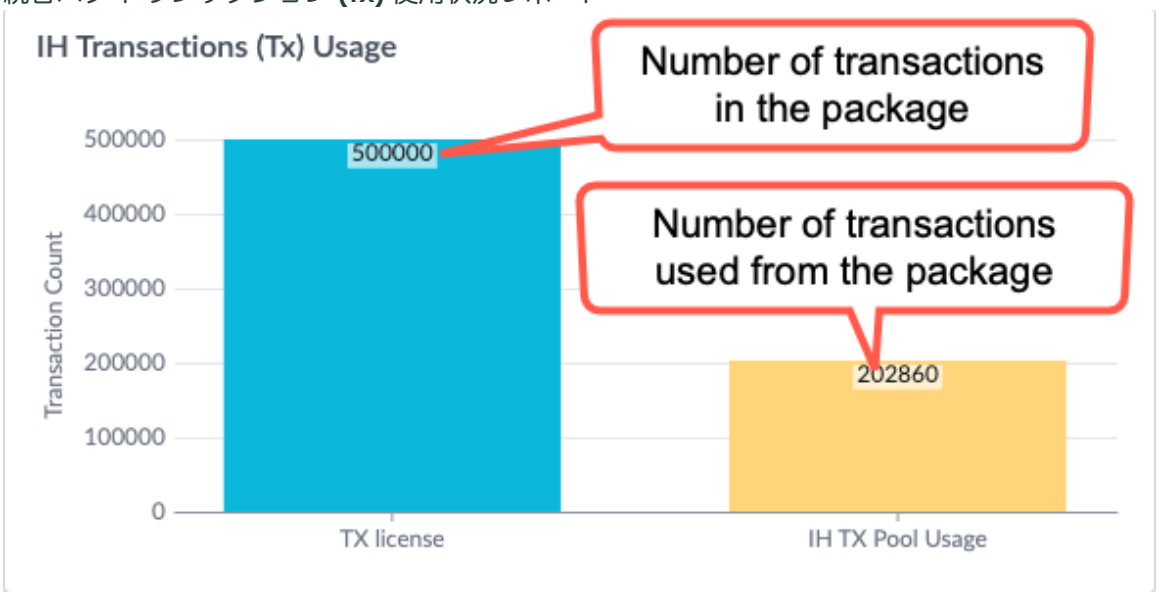
統合ハブ使用状況ダッシュボードのトランザクションレポートは、統合ハブのトランザクション使用状況を把握するのに役立ちます。

[概要] セクションレポート

IH トランザクション (Tx) 使用状況レポート

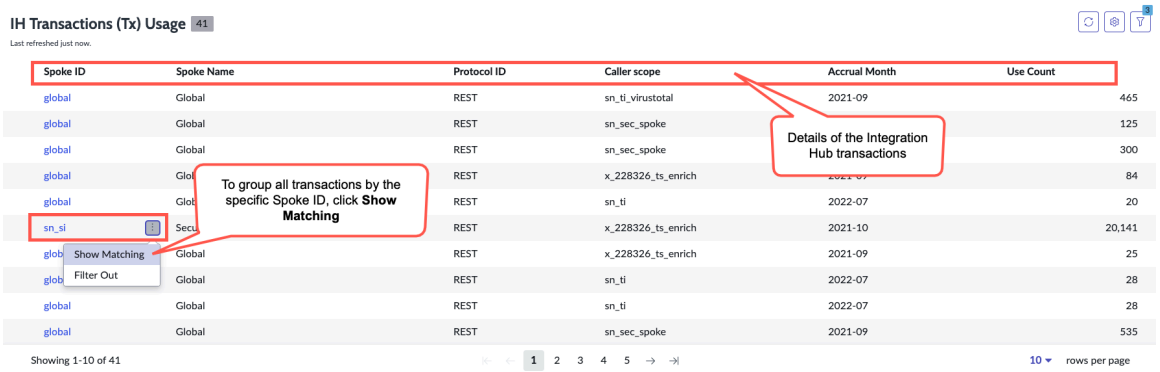
組織が登録しているパッケージに応じて、統合ハブ サブスクリプションパッケージは年間一定数のトランザクションを提供します。パッケージの詳細については、「統合ハブの使用とサブスクリプション」を参照してください。このレポートを使用すると、統合ハブ トランザクションの合計使用状況と、前年の登録済みトランザクションパッケージを比較できます。次の図は、表示されている 統合ハブ トランザクションの使用状況からわかることを示しています。

統合ハブ トランザクション **(Tx)** 使用状況レポート



次の例に示すように、グラフをクリックするとトランザクションの詳細が表示されます。

統合ハブ トランザクション **(Tx)** 使用状況レポートの詳細

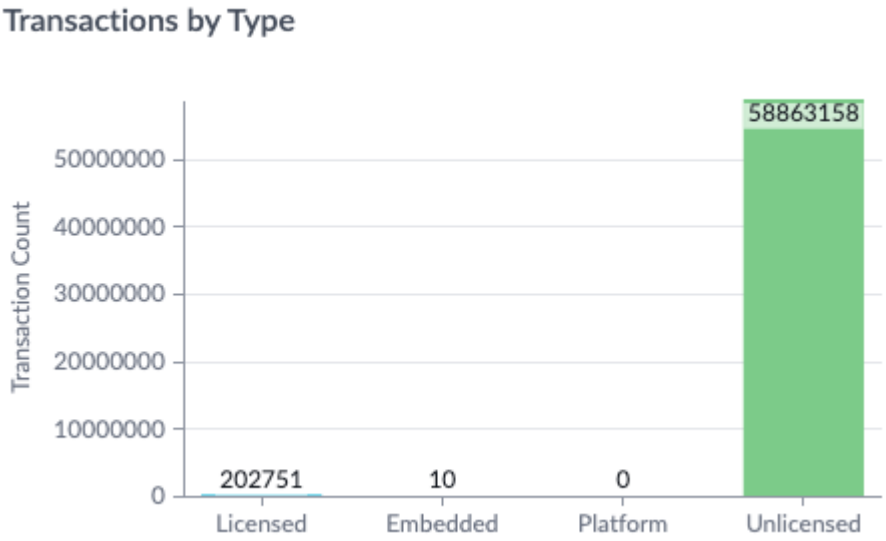


タイプ別トランザクションレポート

次の図に示すように、タイプ別トランザクションレポートを使用して、タイプ別に合計トランザクションを表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

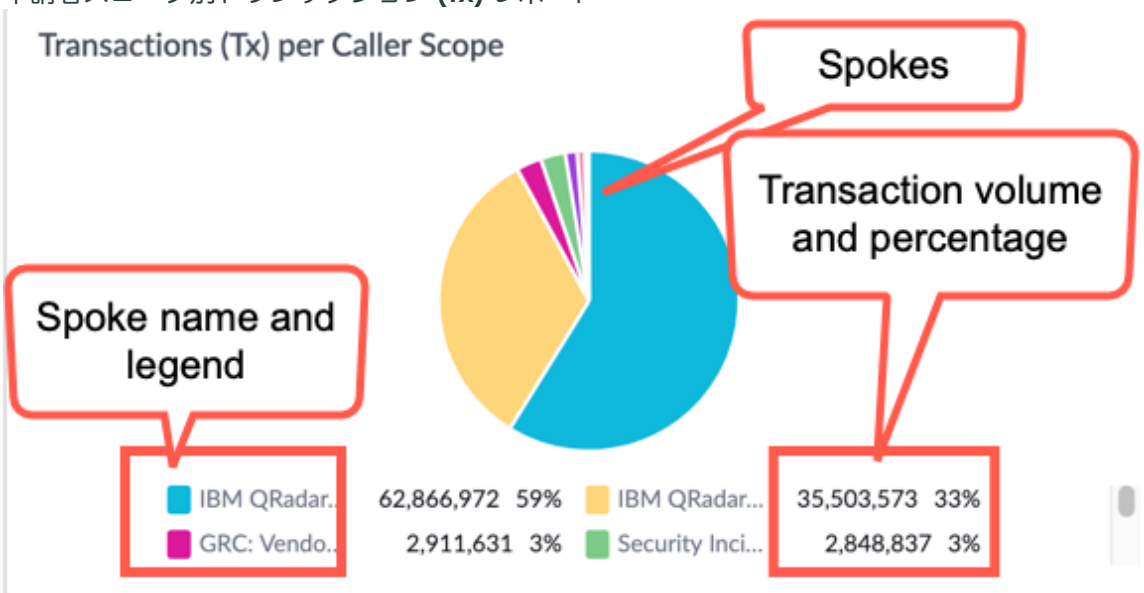
タイプ別トランザクションレポート



申請者スコープ別トランザクション (Tx) レポート

トランザクションを実行するアプリケーションは、申請者スコープと呼ばれます。申請者スコープ別トランザクション (Tx) レポートで、申請者スコープごとのトランザクションを表示できます。次の図に示すように、さまざまな申請者スコープの下にあるスポークで実行されるトランザクションをドリルダウンして表示することもできます。

申請者スコープ別トランザクション **(Tx)** レポート



次の例に示すように、グラフをクリックすると、スポークトランザクション、スポークの申請者スコープ、合計トランザクション数などの詳細を表示できます。テーブル内の特定のパラメーターでトランザクションをグループ化することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

申請者スコープ別トランザクション (Tx) レポートの詳細

Transactions (Tx) per Caller Scope 117

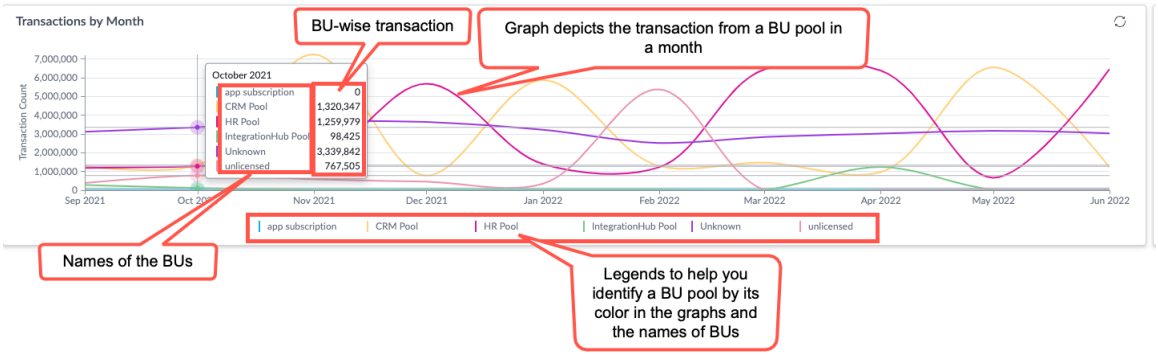
Last refreshed just now.

Spoke ID	Spoke Name	Protocol ID	Caller scope	Accrual Month	Use Count
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-04	23,342
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-05	2,522
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-03	2,465
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-04	5,780,642
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-04	1,221,301
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-05	17,051
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-03	2,904
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-04	1,302
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-05	1,411
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-05	3,041
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-04	2,165
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-04	17
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-05	42
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-05	64,762
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-05	12,430
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-05	10
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-03	2,803

月別トランザクションレポート

次の図に示すように、月別トランザクションレポートで、各事業部門と 統合ハブ サブスクリプションプールから実行された合計トランザクションを月別に表示できます。

月別トランザクションレポート



ヒント: 事業部門トランザクションを表示するポップアップウィンドウを表示するには、Y 軸で、レポートを表示する月のすぐ上をクリックします。

次の図に示すように、事業部門プールのトランザクションの詳細をドリルダウンして表示できます。グラフ上の、事業部門を示す小さな色付きの円をクリックします。たとえば、HR 事業部門プールを示す色付きアイコン をクリックすると、HR 事業部門プールの詳細が表示されます。

月別トランザクションレポートの詳細

Transactions by Month 4

Last refreshed 4m ago.

Spoke ID	Spoke Name	Protocol ID	Caller scope	Accrual Month	Use Count	Subscription ID
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-01	5,861,264	crm pool
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-01	2	crm pool
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-01	3,156	crm pool
sn_sec_z	Security Incident Response Integration with Zscaler	REST	sn_sec_z	2022-01	5	crm pool

Showing 1-4 of 4 1 20 rows per page

スポークセクションレポート

上位のスポークレポート

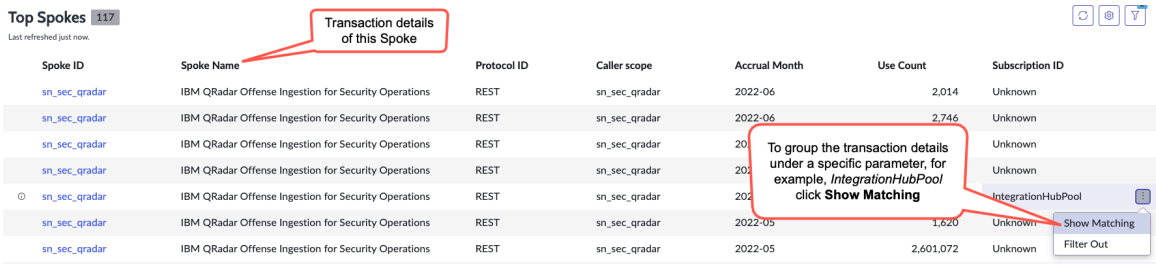
次の図に示す上位のスポークレポートでは、トランザクションを最も多く実行した上位 10 件のスポークを表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

上位のスポークレポート

次の例に示すように、スポークを表すグラフをクリックすると、特定のスポークで実行されたトランザクションの詳細をドリルダウンして表示できます。

上位のスポークレポートの詳細

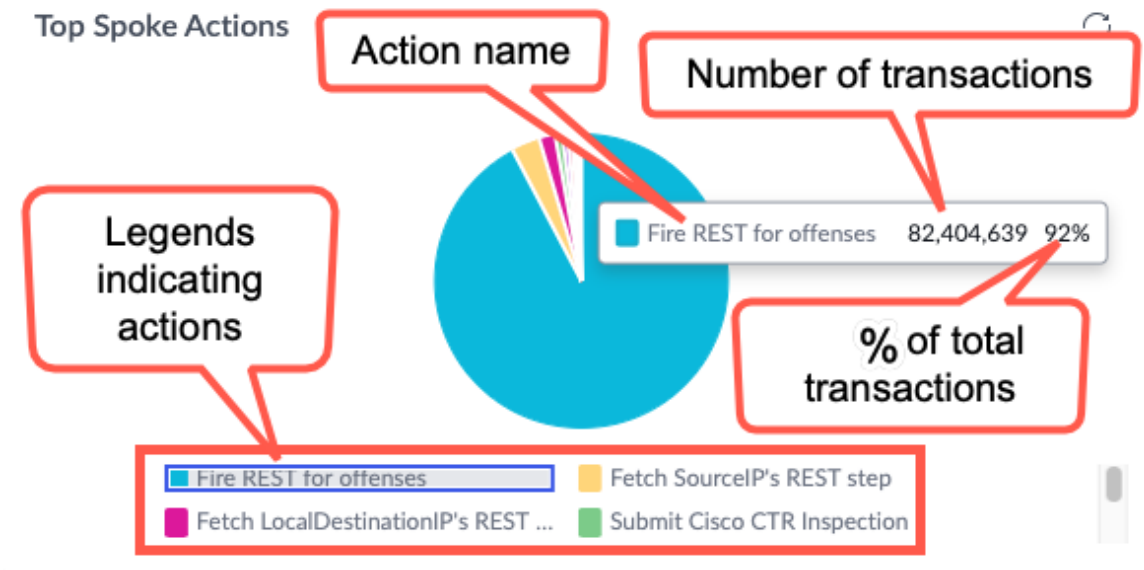


Spoke ID	Spoke Name	Protocol ID	Caller scope	Accrual Month	Use Count	Subscription ID
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-06	2,014	Unknown
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-06	2,746	Unknown
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	20		Unknown
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	202		Unknown
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	202		IntegrationHubPool
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-05	1,620	Unknown
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-05	2,601,072	Unknown

上位のスポークアクションレポート

次の図に示すように、このレポートには、スポークで実行された上位のアクションの名前が表示されます。ドリルダウンして詳細を表示することもできます。

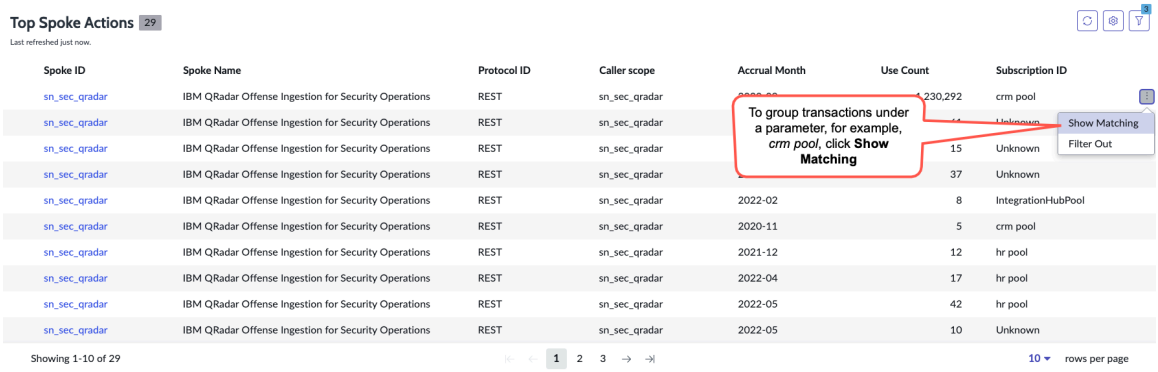
上位のスポークアクションレポート



次の例に示すように、スライスをクリックすると、特定のアクションの詳細をドリルダウンして表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

上位のスポークアクションの詳細



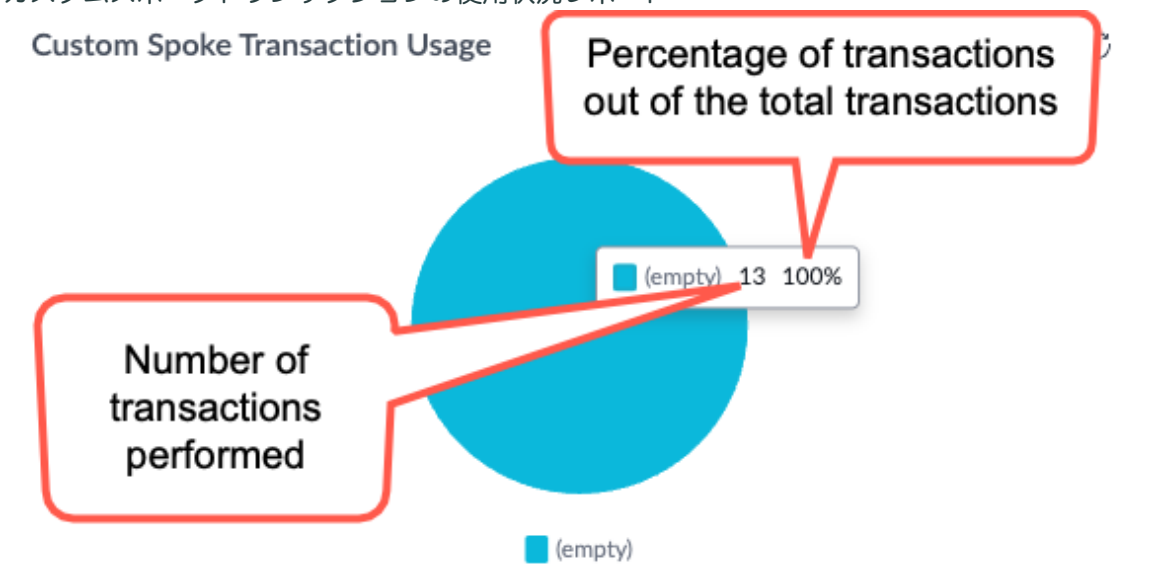
Spoke ID	Spoke Name	Protocol ID	Caller scope	Accrual Month	Use Count	Subscription ID
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar		1,230,292	crm pool
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar			Unknown
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar		15	Unknown
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar		37	Unknown
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-02	8	IntegrationHubPool
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2020-11	5	crm pool
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2021-12	12	hr pool
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-04	17	hr pool
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-05	42	hr pool
sn_sec_qradar	IBM QRadar Offense Ingestion for Security Operations	REST	sn_sec_qradar	2022-05	10	Unknown

Showing 1-10 of 29 1 2 3 10 rows per page

カスタムスポークトランザクションの使用状況レポート

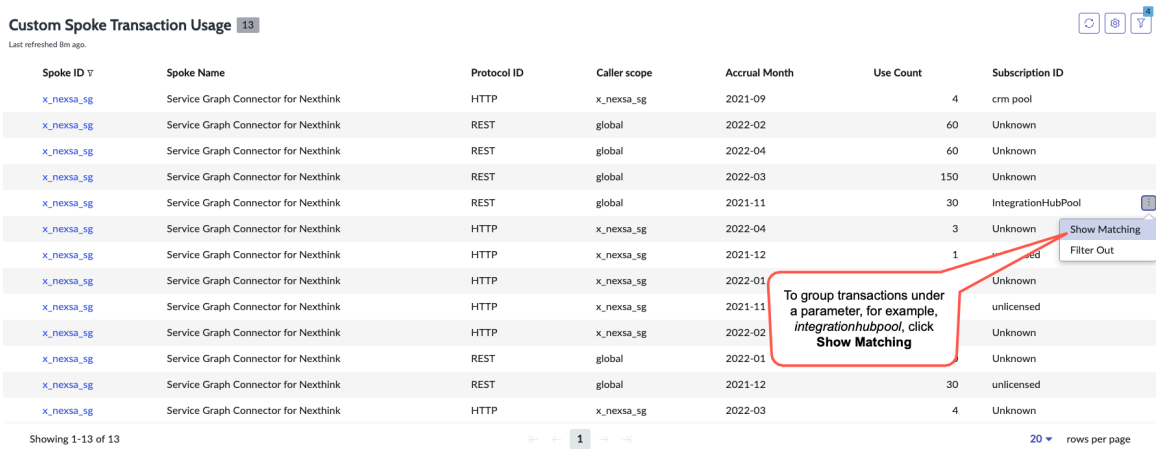
次の図に示すように、カスタムスポークトランザクション使用状況レポートで、カスタムスポーク別のトランザクション使用状況を表示できます。レポートの詳細をドリルダウンして表示することもできます。

カスタムスポークトランザクションの使用状況レポート



次の例に示すように、スライスをクリックして、レポートの詳細をドリルダウンできます。

カスタムスポークトランザクション使用状況レポートの詳細



Spoke ID	Spoke Name	Protocol ID	Caller scope	Accrual Month	Use Count	Subscription ID
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	HTTP	x_nexsa_sg	2021-09	4	crm pool
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	REST	global	2022-02	60	Unknown
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	REST	global	2022-04	60	Unknown
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	REST	global	2022-03	150	Unknown
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	REST	global	2021-11	30	IntegrationHubPool
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	HTTP	x_nexsa_sg	2022-04	3	Unknown
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	HTTP	x_nexsa_sg	2021-12	1	
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	HTTP	x_nexsa_sg	2022-01		Unknown
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	HTTP	x_nexsa_sg	2021-11		unlicensed
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	HTTP	x_nexsa_sg	2022-02		Unknown
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	REST	global	2022-01		Unknown
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	REST	global	2021-12	30	unlicensed
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	HTTP	x_nexsa_sg	2022-03	4	Unknown

Showing 1-13 of 13 1 20 rows per page

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロトコルと機能のレポート

プロトコルの使用状況レポート

スポークは、トランザクションの実行中にさまざまなプロトコルを使用します。次の図に示すように、プロトコルの使用状況レポートを使用して、さまざまなプロトコルの使用状況を表示できます。ドリルダウンして詳細を表示することもできます。

プロトコルの使用状況レポート

次の例に示すように、プロトコルを表すグラフをクリックすると、プロトコルを使用したトランザクションの詳細をドリルダウンして表示できます。

プロトコルの使用状況レポートの詳細

Protocol Usage 56

Last refreshed 5m ago.

Spoke ID	Spoke Name	Protocol ID	Caller scope	Accrual Month	Use Count	Subscription ID
sn_intune_integrat	Service Graph Connector for Microsoft Intune	HTTP	sn_intune_integrat	2021-12	1	crm pool
sn_sec_spoke	Security Operations Spoke	HTTP	sn_sec_spoke	2022-01	3,539	Unknown
sn_si	Security Incident Response	HTTP	sn_si	2021-09	497	
x_nexsa_sg	Service Graph Connector for Nexthink	HTTP	x_nexsa_sg			crm pool
global	Global	HTTP	sn_vdr_risk_asmt		873	hr pool
sn_si	Security Incident Response	HTTP	sn_si		428	Unknown
sn_sec_spoke	Security Operations Spoke	HTTP	sn_sec_spoke		547	crm pool
sn_sec_spoke	Security Operations Spoke	HTTP	sn_sec_spoke	2021-12	1	crm pool
sn_intune_integrat	Service Graph Connector for Microsoft Intune	HTTP	sn_intune_integrat	2022-04	1	Unknown
sn_sec_spoke	Security Operations Spoke	HTTP	sn_sec_spoke	2021-12	1,446	Unknown

Showing 1-10 of 56 1 2 3 4 5 6 10 rows per page

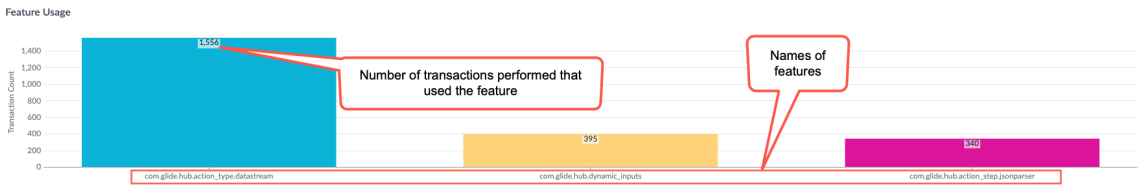
Show Matching
Filter Out

To group transactions under a parameter, for example, *crmpool*, click **Show Matching**

機能の使用状況

スポークは、トランザクションの実行中にさまざまな機能を使用します。このレポートは、さまざまな機能の使用状況を示します。ドリルダウンして詳細を表示することもできます。

機能の使用状況レポート



ドリルダウンするには、機能を表すグラフをクリックします。

機能の使用状況レポートの詳細

Feature Usage 3

Last refreshed just now.

Caller scope	Caller Scope Reference	Subscription	Subscription ID	Originating scope	Originating Scope Reference	Plugin ID	Spoke ID	Spoke Name
sn_uipath_spoke	(empty)	(empty)	Unknown	sn_uipath_spoke	(empty)	com.glide.hub.dynamic_inputs	sn_uipath_spoke	UiPath Spoke
sn_bigfix_in_spoke	(empty)	(empty)	Unknown	sn_bigfix_in_spoke	(empty)	com.glide.hub.dynamic_inputs	sn_bigfix_in_spoke	BigFix Inventory Spol
global	Global	(empty)	Unknown	global	Global	com.glide.hub.dynamic_inputs	sn_uipath_spoke	UiPath Spoke

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブ使用状況ダッシュボードのデータエグレスレポート

データエグレスレポートは、ServiceNow インスタンスからのデータエグレスに関するインサイトを提供します。たとえば、API プロトコル別のデータエグレスや、期間別のデータエグレスの傾向を表示できます。

レポートへのアクセス

次の手順を実行します。

1. [データエグレス] タブを選択します。
2. [フィルター基準] リストから、表示する API またはエクスポートのセクションを選択します。

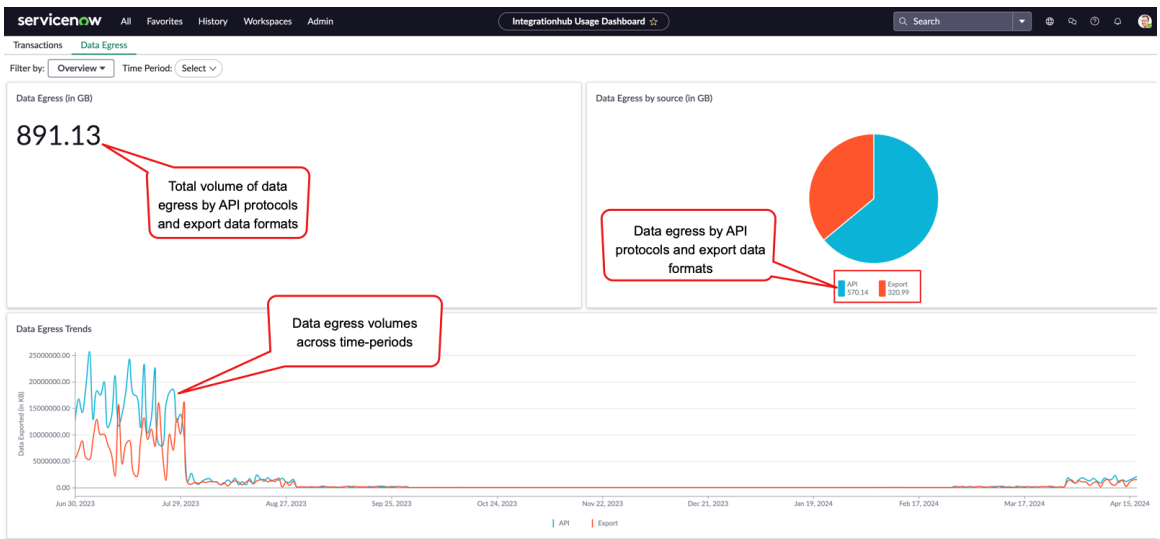
> **注:** デフォルトでは、[概要] セクションが選択されています。

[概要] セクションレポート

データエグレス：すべてのソースに基づくデータエグレスの合計ボリューム。

ソース別のデータエグレス：API プロトコルおよびエクスポート別のデータエグレスボリューム。

データエグレスの傾向：期間全体のデータエグレスの傾向。



> **注:** すべてのグラフは、バイトで始まる最も近いデータ指標に調整されます。

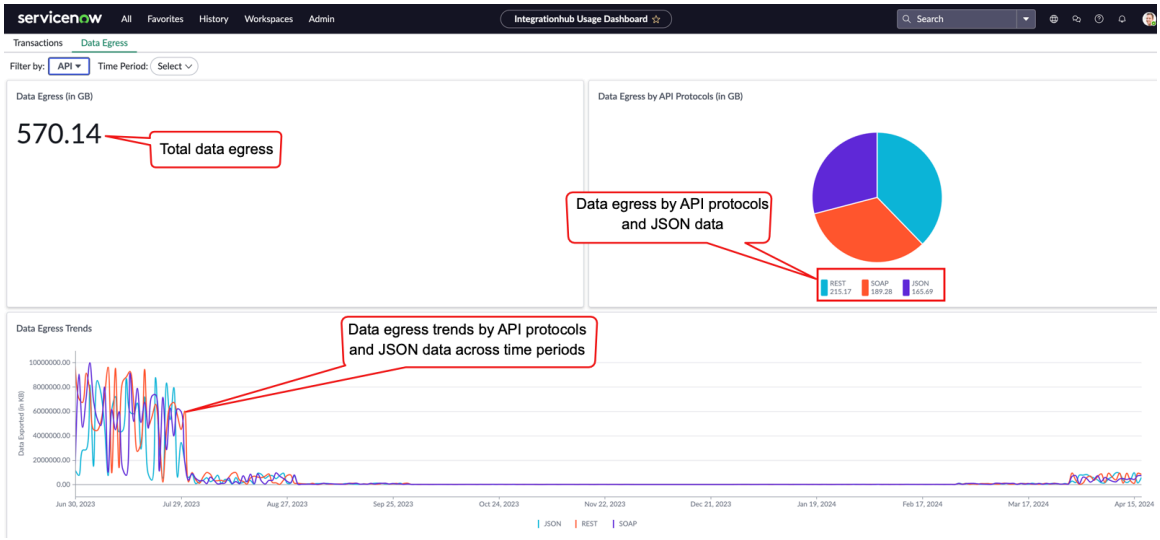
[API] セクションレポート

データエグレス：すべての API プロトコルに基づくデータエグレスの合計ボリューム。

API プロトコル別のデータエグレス：API プロトコル別のデータエグレスボリューム。

データエグレスの傾向：期間全体のデータエグレスの傾向。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注: すべてのグラフは、バイトで始まる最も近いデータ指標に調整されます。

[エクスポート] セクションレポート

データエグレス：エクスポートセットと URI の両方に基づくデータエグレスの合計ボリューム。

エクスポート別のデータエグレス：URI 別のデータエグレスボリューム。

データエグレスの傾向：期間全体のデータエグレスの傾向。

注: すべてのグラフは、バイトで始まる最も近いデータ指標に調整されます。

重要: データ量はバイトで表示され、省略形は次の表のとおりです。

桁数

略称	数字	値
K	千	10^3
M	百万	10^6
B	十億	10^9
T	兆	10^12

つまり、表示される値が **4.01M** の場合、転送されるデータ量は 401 万バイトです。前のサンプル API データエグレスでは、転送されるデータ量は 20 億 1 千万バイトです。

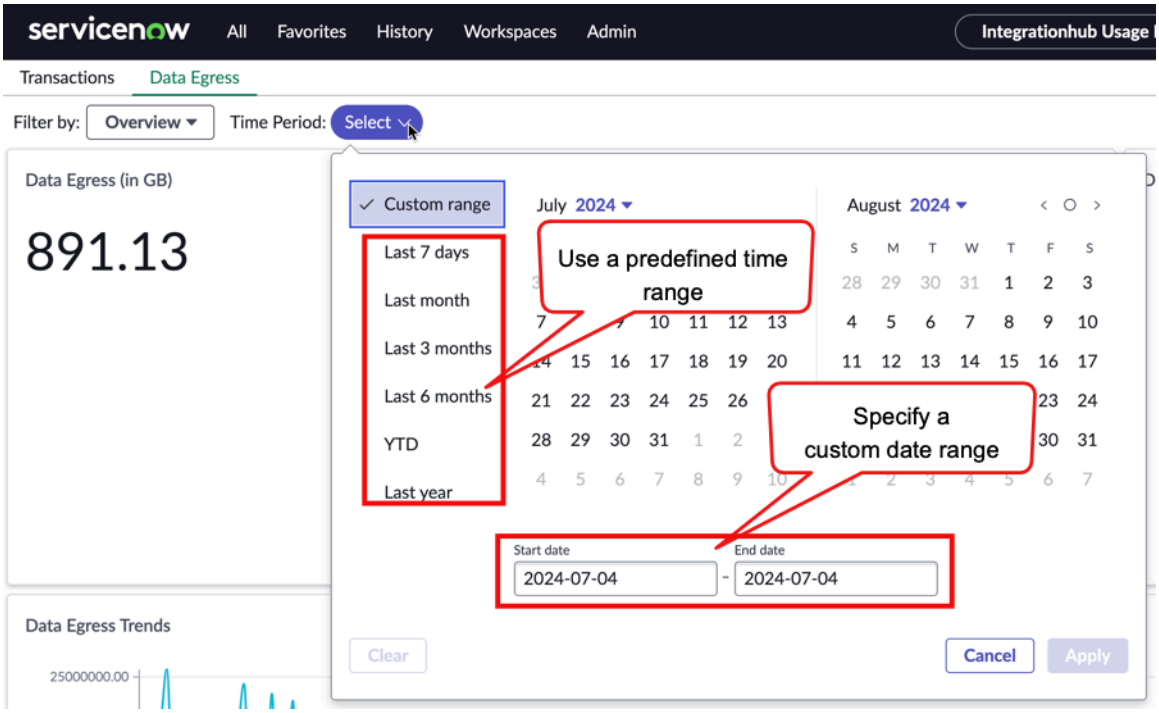
数字を選択すると、個々のデータ転送の詳細にアクセスできます。

データインサイトの表示

データエグレスに関するさまざまなインサイトを表示します。たとえば、指定した期間のデータエグレスボリュームを表示します。以下のセクションに示すアクションを実行します。

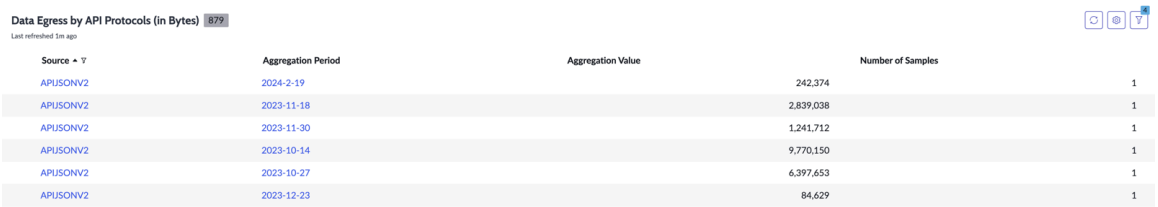
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

指定した期間のエグレスデータを表示する



ドリルダウンして詳細データを表示する

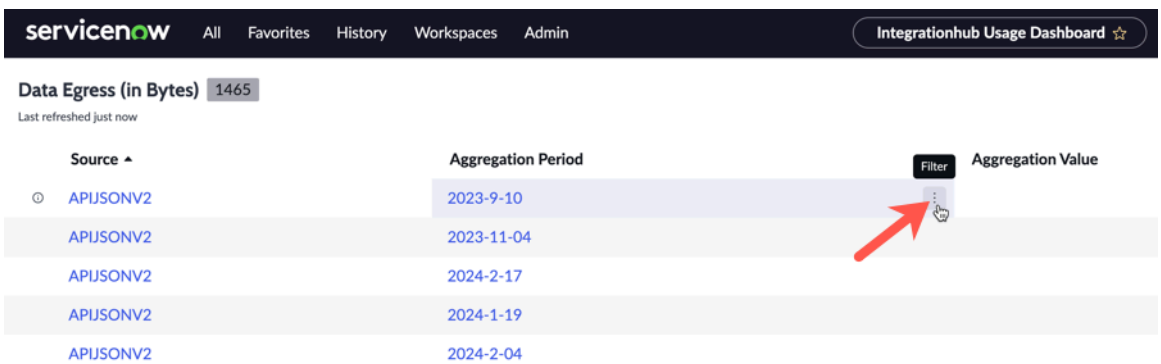
レポートの円グラフのスライス、線、または棒を選択してドリルダウンし、詳細データを表示します。



指定した基準に基づくデータを表示する

たとえば、日付を指定し、その日付のデータエグレスを API プロトコル別に表示します。次のアクションを実行します。

1. ドリルダウンして詳細データを表示します。
2. [フィルター] アイコン (⋮) を選択します。



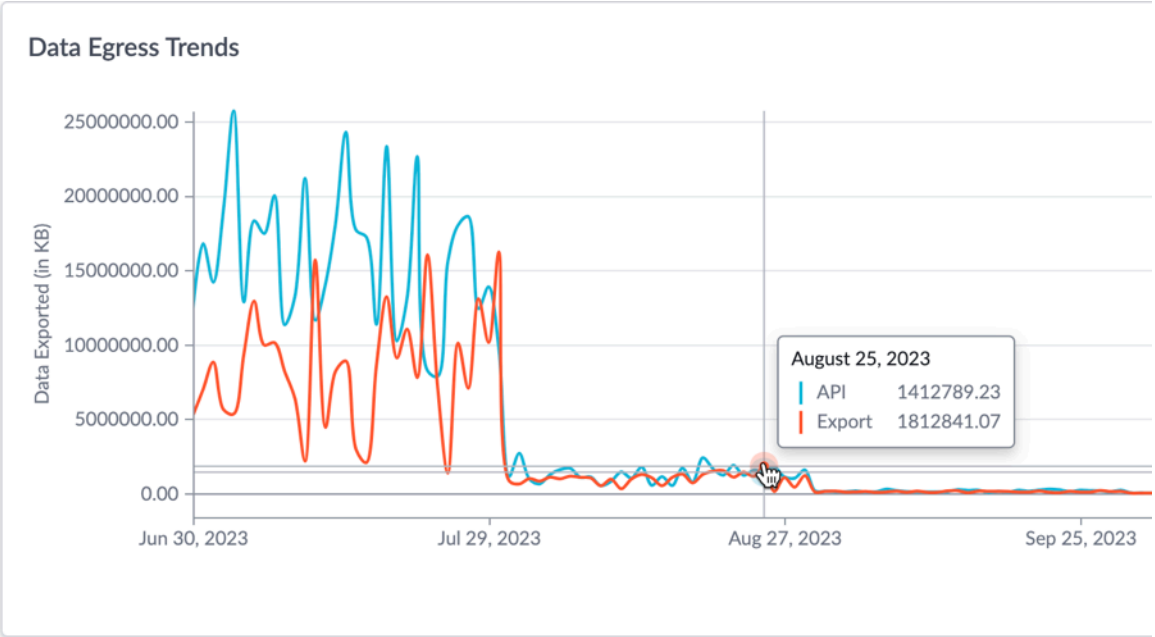
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [この値で絞り込み] を選択します。

   統合ハブダッシュボードには、指定した基準に基づいてデータが表示されます。

ソース別に日付ごとのデータエグレスを表示する

[データエグレストレンド] レポートで、グラフの上にマウスデバイスを移動すると、日付ごとのデータエグレスがソース別に表示されます。



レポートのデータ生成

レポートのデータは、`data_egress_count` テーブルから生成されます。`data_egress_count` にデータがどのように入力されるかを確認してください。

統合ハブでの統合のビルド

統合ハブで統合を作成します。

統合ハブ の利用可能なスポーク

スポークをアクティブ化して、統合専用のコンテンツで フローデザイナー エクスペリエンスを向上させます。事前にビルドされたフローとアクションを使用して、統合を自動化するか、または独自に統合の自動化を作成します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

> **注:** さまざまな 統合ハブ サブスクリプションに含まれるスポークの詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

ServiceNow は Boomi と提携し、顧客が API を検出、管理、保護、収益化できるようにするクラウドベースのプラットフォームである Boomi API 管理 を提供しています。Boomi は、ガバナンス、アナリティクス、API セキュリティを含むライフサイクル全体の API 管理をサポートします。

Boomi は独自のポータルを通じてドキュメントを提供し、Boomi API 管理 のサポートを要求する顧客は、標準チャネルを通じて Boomi サポートに連絡します。

開始するには、エンタイトルメントと必要なプラグインに関する情報、および Boomi API 管理ドキュメントへのリンクを含む ServiceNow® Store の Boomi API 管理 リストを参照してください。

スポークのリストと互換性

スポーク名	スポークバージョン	互換性
Adobe Experience Platform スポーク	2.1.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Adobe Sign スポーク	2.5.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
エージェントクライアントコレクタースポーク	1.1.5	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Aha! スポーク	1.7.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
AI 検索 スポーク	2.0.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Amazon Alexa スポーク	1.1.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Amazon CloudWatch スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Amazon Connect スポーク	1.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Amazon DynamoDB スポーク	1.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Amazon EBS スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Amazon EC2 スポーク	1.3.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Amazon Elastic Container Service スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Amazon RDS スポーク	1.0.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Amazon Route 53 スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Amazon S3 スポーク	1.2.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのリストと互換性 (続く)

スポーク名	スポークバージョン	互換性
Amazon SNS スポーク	1.1.0	Yokohama, Xanadu, Washington DC, Vancouver
Amazon SQS スポーク	1.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Amazon VPC スポーク	1.0.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Ansible スポーク	2.2.9	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Asana スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Atlassian 管理 スポーク	1.0.0	Yokohama、Yokohama、Xanadu、Washi DC
Automation Anywhere スポーク	1.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
AWS Certificate Manager スポーク	1.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
AWS CloudFormation スポーク	1.1.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
AWS Elastic Beanstalk スポーク	1.0.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
AWS Elastic Load Balancing スポーク	1.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
AWS IAM スポーク	1.1.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
AWS Lambda スポーク	1.1.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
AWS OpsWorks スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
AWS Translate スポーク	1.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
BigFix インベントリスポーク	1.5.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Blue Prism スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
BMC 救済スポーク	1.4.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Box スポーク	3.2.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Calendly スポーク	1.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのリストと互換性 (続く)

スポーク名	スポークバージョン	互換性
Cisco Webex Meetings スポーク	2.3.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Cisco Webex Teams スポーク	2.3.5	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Confluence Cloud スポーク	1.2.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Confluent Kafka REST Proxy スポーク	1.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CICD) スポーク	1.0.11	
Cornerstone スポーク	1.3.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Coupa スポーク	4.8.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Coupa スポーク	1.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Credly スポーク	1.0.0	Yokohama, Xanadu, Washington DC
CrowdStrike スポーク	1.1.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Docker スポーク	2.3.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Docusign eSignature スポーク	4.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Dropbox Business スポーク	1.0.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Dun and Bradstreet DirectPlus スポーク	1.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Ethoca スポーク	1.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Equifax スポーク	1.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
F5 BIG-IP スポーク	1.1.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
First Advantage スポーク	1.7.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
FRISS スポーク	1.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
GitHub スポーク	3.1.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのリストと互換性 (続く)

スポーク名	スポークバージョン	互換性
GitLab スポーク	2.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Gmail スポーク	1.3.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google カレンダースポーク	2.4.5	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Chat スポーク	1.1.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Cloud Datastore スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Cloud DNS スポーク	1.0.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Cloud Functions スポーク	1.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Cloud Load Balancer Spoke	1.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Cloud Pub Sub Spoke	1.0.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Cloud SQL スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Cloud Storage スポーク	1.0.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Cloud Translator Service スポーク	3.1.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Cloud Virtual Network スポーク	1.0.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Cloud VPC Access スポーク	1.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Compute Engine スポーク	1.0.5	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Directory スポーク	1.5.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Docs スポーク	1.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google ドライブ スポーク	2.1.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Hangouts スポーク	1.1.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Identity and Access スポーク	1.1.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのリストと互換性 (続く)

スポーク名	スポークバージョン	互換性
Google Persistent Disk スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Sheets スポーク	1.0.7	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Google Tasks スポーク	1.2.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
GoTo スポーク	2.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
GovNotify スポーク	1.1.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Gremlin スポーク	1.0.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Guidewire スポーク	1.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
iManage スポーク	1.1.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Infoblox スポーク	2.0.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Jack Henry jXchange スポーク	2.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Jamf スポーク		Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Jenkins スポーク	2.1.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Jenkins v2 スポーク	1.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Jira サービス管理スポーク	1.1.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Jira スポーク	5.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Kubernetes スポーク	1.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Legal Tracker スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Lenovo スポーク	1.0.0	Yokohama, Xanadu, Washington DC
Looker スポーク	1.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Lucidchart Diagramming スポーク	1.1.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのリストと互換性 (続く)

スポーク名	スポークバージョン	互換性
Metrikus スポーク	1.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Magnit スポーク	1.2.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Mastercard スポーク	2.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft 365 Excel スポーク	1.0.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Dynamics 365 スポーク	1.0.8	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Active Directory v2 スポーク	2.4.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Active Directory スポーク	3.1.5	
Microsoft Azure Application Insights スポーク	1.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Azure Artifacts スポーク	1.0.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Azure Automation スポーク	2.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Azure BLOB Storage スポーク	2.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Azure Cosmos DB スポーク	2.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Azure DevOps Boards スポーク	2.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Azure DevOps Pipelines スポーク	1.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Azure Managed Storage スポーク	2.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Azure Notification Hub スポーク	2.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Azure リソース管理スポーク	2.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Azure SQL Database スポーク	2.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Azure Traffic Manager スポーク	2.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Azure Virtual Machine スポーク	2.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのリストと互換性 (続く)

スポーク名	スポークバージョン	互換性
Microsoft Azure Virtual Network スポーク	2.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations スポーク	2.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Dynamics CRM スポーク	1.6.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Endpoint Configuration Manager スポーク	1.8.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Entra ID スポーク (旧 Microsoft Azure Active Directory スポーク)	4.4.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Exchange Online スポーク	3.8.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Exchange Server スポーク	2.5.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Intune スポーク	1.1.8	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft OneDrive スポーク	2.5.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft SCCM スポーク	1.1.2	
Microsoft Security Response Center スポーク	1.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft SharePoint Online スポーク	2.8.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Teams スポーク	1.1.3	
Microsoft Teams Communications スポーク	1.4.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Microsoft Teams Graph スポーク	4.1.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Miro スポーク	3.0.8	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
monday.com スポーク	1.1.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Metrikus スポーク	Beta v1.0	Yokohama、Vancouver
Now Learning スポーク	1.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Navex EthicsPoint スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Okta スポーク	4.2.6	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのリストと互換性 (続く)

スポーク名	スポークバージョン	互換性
OneLogin スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Oracle Autonomous DB スポーク	1.0.6	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Oracle Block Storage スポーク	1.0.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Oracle Boot Volume スポーク	1.0.6	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Oracle Cloud IAM スポーク	1.1.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Oracle Compute Engine スポーク	1.0.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Oracle EBS スポーク	1.13.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Oracle Financial Cloud スポーク	1.0.6	Yokohama、Yokohama、Xanadu、Wash DC、Vancouver
Oracle HCM Cloud スポーク	4.1.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Oracle Object Storage Management スポーク	1.0.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Oracle Peoplesoft Financial スポーク	1.0.7	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Oracle Virtual Cloud Network スポーク	1.0.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
PagerDuty スポーク	1.4.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Plivo スポーク	1.0.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Pluralsight スポーク	1.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Qualtrics スポーク	1.2.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Rally スポーク	1.0.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Redox Electronic Health Record Spoke	1.0.3	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Roadmunk スポーク	1.6.5	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Saba スポーク	1.0.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのリストと互換性 (続く)

スポーク名	スポークバージョン	互換性
Salesforce Marketing Cloud スポーク	1.5.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Salesforce スポーク	2.3.3	Yokohama、Yokohama、Xanadu、Wash DC、Vancouver
SAP Ariba スポーク	1.9.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
SAP Commerce Cloud スポーク	1.1.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
SAP Concur スポーク	2.1.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
SAP ECC IDoc スポーク	1.5.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
SAP ECC RFC スポーク	2.7.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
SAP Fieldglass スポーク	1.2.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
SAP S4 HANA IDoc スポーク	1.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
SAP S4 HANA OData スポーク	1.9.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
SAP S4 HANA パブリッククラウドスポーク	1.3.0	Yokohama、Yokohama、Xanadu、Wash DC、Vancouver
SAP S4 HANA RFC スポーク	2.4.1	Yokohama、Yokohama、Xanadu、Wash DC、Vancouver
SCCM Usage Metering スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Secureworks CTP スポーク	1.0.3	Yokohama、Yokohama、Xanadu、Wash DC、Vancouver
ServiceNow Remote Instance スポーク	2.2.7	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Shodan スポーク	1.1.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Slack スポーク	1.7.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
SmartRecruiters スポーク	1.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Smartsheet スポーク	2.3.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Snowflake スポーク	1.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのリストと互換性 (続く)

スポーク名	スポークバージョン	互換性
Socure Spoke	1.1.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
SuccessFactors スポーク	4.5.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
SumTotal スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
SurveyMonkey スポーク	2.0.5	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Trello スポーク	1.3.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Twilio スポーク	1.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
UCF スポーク	1.1.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Udemy スポーク	1.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
UiPath スポーク	2.3.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
UKG スポーク	3.3.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Utility Actions スポーク	1.3.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Verifi スポーク	1.0.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Visa スポーク	1.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Vonage スポーク	1.1.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Workday Financials スポーク	2.0.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Workday HR スポーク	2.6	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Workday ラーニング スポーク	1.1.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Workfront スポーク	1.2.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Workplace from Facebook スポーク	4.1.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Wrike スポーク	1.0.1	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのリストと互換性 (続く)

スポーク名	スポークバージョン	互換性
X スポーク (旧 Twitter スポーク)	1.3.0	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
YouTube スポーク	1.0.4	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Zendesk スポーク	1.6.2	Yokohama、Xanadu、Washington DC、Vancouver
Zoom スポーク	4.2.0	Yokohama、Yokohama、Xanadu、Wash DC、Vancouver

注: ServiceNow eBonding スポークはデフォルトでインスタンスに含まれており、 統合ハブまたはオーケストレーションのサブスクリプションは必要ありません。

Adobe Experience Platform スポーク

ServiceNow インスタンスから Adobe Experience Platform 内のデータセットとエンティティを管理するプロセスを自動化します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Adobe Experience Platform スポーク v2.1.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは 2019 年 9 月 10 日にリリースされた Adobe Experience Platform 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンとも互換性がある場合があります。

スポークの要件

- 登録済み Adobe ID アカウント
- 開発者アクセス権を持つユーザー
- API キーやクライアントシークレットなどの詳細

Adobe ID を作成して開発者を追加する手順については、「Adobe Experience Platform のドキュメント」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Adobe Experience Platform スポーク は、ServiceNow でイベントが発生したときにデータセットとエンティティを管理するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
データセット管理	すべてのデータインレットを取得	すべてのデータインレットの詳細を取得します。
	すべてのデータセットを取得	すべてのデータセットの詳細を取得します。
	すべてのユニオンスキーマを取得	ユニオンに属するすべてのスキーマのリストを取得します。
エンティティ管理	エンティティ情報を取得	エンティティの情報を動的オブジェクトとして取得します。
	エンティティデータをロード	エンティティの情報を Adobe Experience Platformに取り込みます。
メタデータの取得	スキーマ内のすべての属性のメタデータを取得	選択したユニオンスキーマのすべての属性を取得します。
	すべてのサンドボックスを取得	すべてのアクティブなサンドボックスに関する情報を取得します。
	すべてのデータインレットのメタデータを取得	すべてのデータインレットのメタデータを取得します。
	すべてのデータセットのメタデータを取得	すべてのデータセットのメタデータを取得します。
	ユニオン内のすべてのフィールドのメタデータを取得	選択したユニオンのすべてのフィールドのメタデータを取得します。
	すべての ID フィールドのメタデータを取得	すべての ID フィールドまたは名前空間のメタデータを取得します。
	すべてのユニオンスキーマのメタデータを取得	ユニオンに属するすべてのスキーマのリストを取得します。
	すべてのユニオンのメタデータを取得	すべてのユニオンビューのメタデータを取得します。
	ユニオンスキーマのメタデータを取得	ユニオンの選択したフィールドのスキーマを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

注: Adobe Experience Platform スポーク には、データインレット管理およびバッチ取り込み用に 1 つ、データコレクション用に 1 つの、計 2 つの接続および資格情報エイリアスレコードが必要です。各エイリアスは、それぞれの Adobe Experience Platform API に関連付ける必要があります。

スポークの設定については、「 Adobe Experience Platform スポーク を設定」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Adobe Experience Platform スポーク を設定

Adobe Experience Platform アカウントと ServiceNow インスタンスをデータ連携します。Adobe Experience Platform でカスタム OAuth アプリケーションを作成し、ServiceNow からの要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Adobe Experience Platform スポーク のアクティブ化
- 必要なロール：admin

このタスクについて

Adobe Experience Platform スポーク は、接続および認証情報の構成テンプレートを使用して設定することもできます。ただし、テンプレートを使用すると、一度に使用できるエイリアスレコードは 1 セットのみになります。

Java キーストア証明書を Adobe Experience Platform スポーク に添付する

有効な Java KeyStore (JKS) 証明書を Adobe Experience Platform スポーク に添付して、JWT ベアラー権限許可トークン認証を有効にします。

始める前に

- 有効な Java KeyStore 証明書
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [証明書]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

X.509 証明書フォームのフィールド

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`AEP 証明書`。
有効期限通知	証明書の有効期限が近づいたときに通知を送信するオプション。
期限切れ時に通知	証明書の有効期限が切れたときに通知を受信するユーザー。
有効期限切れ前に警告	証明書の有効期限が切れる前に通知を送信する日数。
有効	証明書を積極的に使用するオプション。
フォーマット	証明書のフォーマット。インスタンスは、PEM および DER フォーマットをサポートしています。
タイプ	証明書のタイプ。**[Java Key Store (Java キーストア)]**を選択します。
有効開始日	証明書が有効になる日付。
有効期限	証明書の有効期限が切れる日付。
数日中に期限切れ (Expires in days)	証明書の有効期限が切れるまでの日数。
キーストアパスワード	証明書に関連付けられたパスワード。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
簡単な説明	証明書のサマリー。
PEM 証明書	X509 証明書のコンテンツ。

4. 添付ファイルアイコン ( ) をクリックし、JKS 証明書を添付します。
5. [ストア/証明書を検証] をクリックします。

タスクの結果
JKS 証明書が作成され、 Adobe Experience Platform スポークに添付されます。

Adobe Experience Platform スポークの JWT 署名キーの作成

Java KeyStore 証明書にアサインする JSON Web トークン (JWT) 署名キーを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > **[JWT** キー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

JWT キーフォームのフィールド

フィールド	説明
名前	JWT 署名キーを一意に識別する名前。たとえば、`AEP JWT キー`。
署名キーストア	前のタスクで添付された有効な JKS 証明書。たとえば、`AEP 証明書`。
キー ID	キー ID は、複数のキーを使ってトークンに署名する際に、どのキーを使用するかを識別します。
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープ。[Adobe Experience Platform スポーク] を選択します。
署名アルゴリズム	JWT キーで署名するアルゴリズム。
署名キーパスワード	署名キーに関連付けられたパスワード。
有効	証明書を積極的に使用するオプション。

4. [送信] をクリックします。

タスクの結果
JWT キーが作成され、JKS 証明書にアサインされます。

Adobe Experience Platform スポークの JWT プロバイダーの作成

JSON Web トークン (JWT) プロバイダーを ServiceNow インスタンスに追加します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > **[JWT** プロバイダー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

JWT プロバイダーフォームのフィールド

フィールド	説明
名前	JWT プロバイダーを一意に識別する名前。たとえば、`AEP JWT プロバイダー`。
有効期限の間隔 (秒)	JWT プロバイダートークンの有効期間を設定する秒数。
署名構成	前のステップの JWT 署名キー。たとえば、`AEP JWT キー`。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
   [標準要求] および [カスタム要求] 関連リストが表示されます。
5. [標準要求] 関連リストで、**[iss]**、**[sub]**、および **[aud]** の各値を入力します。
   手順については、Adobe Experience Platform のドキュメントを参照してください。
6. これらの値を [カスタム要求] 関連リストに入力します。

フィールド	値
要求名	https://ims-na1.adobelogin com/s/entdataservices_sdk
要求値タイプ	true | false
要求値	true

7. [更新] をクリックします。

タスクの結果
JWT プロバイダーが ServiceNow インスタンスに追加されます。

OAuth プロバイダーとして **Adobe Experience Platform** を登録

Adobe ID アカウントの作成および構成中に生成された情報を使用し、Adobe Experience Platform を OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「どのような **OAuth** アプリケーションですか？」というメッセージが表示されます。
3. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択します。
   空のアプリケーション登録フォームが表示されます。
4. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`AEP OAuth`」と入力します。
クライアント ID	Adobe ID アカウントの構成中に生成したコンシューマーキー。
クライアント シークレット	Adobe ID アカウントの構成中に生成したコンシューマーシークレット。
OAuth API スクリプト	要求と応答をカスタマイズするスクリプト。**[OAuthUtilAEP]** を選択します。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可のタイプ。**[JWT** ベアラー] を選択します。
リフレッシュ トークンの有効期間	リフレッシュトークンが有効になる時間 (秒) デフォルトの時間は 8,640,000 秒です。
PKCE が必要 (PKCE required)	パブリッククライアントが認証に PKCE を要求できるようにするオプション。 注: **PKCE** が有効になっている場合、[デフォルトの権限許可タイプ] として使用できるのは [認証コード] のみです。
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープ。[Adobe Experience Platform] を選択します。
アクセス可能	このレジストリにアクセスできるアプリケーションスコープです。
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプション。
認証 URL	このフィールドは空白のままにする必要があります。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント。「`https://ims-na1.adobelogin.com/ims/exchange/jwt/`」と入力します。
トークン失効 URL	このフィールドは空白のままにする必要があります。
リダイレクト URL	このフィールドは空白のままにする必要があります。
相互認証を有効にします	トークンの要求と取り消しに相互認証を使用するオプション。このオプションでは、相互認証プロファイルを指定する必要があります。
認証情報の送信	要求内のクライアント認証情報。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- OAuth 認証情報が検証され、[リダイレクト **URL]** に情報が入力されます。
- 権限許可タイプを **JWT** ベアラーとして **[OAuth** エンティティプロファイル] に情報が入力されます。たとえば、 **[OAuth** エンティティプロファイル] は、デフォルトの [名前]、**[AEP default_profile]** で作成されます。

6. OAuth エンティティプロファイルのレコードを開きます。

7. JWT プロバイダーの JWT プロバイダーレコードを選択します (例：`AEP JWT Provider`)。

8. [Update] をクリックします。

タスクの結果
インスタンスは、スポークの OAuth 2.0 トークンを要求できます。

注: OAuth トークンの有効期限が切れると、ほとんどの場合、スポークは新しいトークンを自動的に再生成します。トークンの有効期限が切れて再生成されない場合、アドミニストレーターはスポーク OAuth トークンを再生成できます。

Adobe Experience Platformの認証情報レコードを作成

作成した Adobe ID アカウントに認証情報レコードを作成します。 Adobe Experience Platform スポーク 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
データインレット管理およびバッチ取り込み用に 1 つ、データコレクション用に 1 つの、計 2 つの認証情報レコードを作成する必要があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。

2. [新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. [OAuth 2.0 認証情報] を選択します。
ポップアップウィンドウに、空の OAuth 2.0 認証情報フォームが表示されます。

4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、データインレット管理とバッチ取り込みの場合は `AEP`、データコレクションの場合は `AEP_Ingestion` と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
OAuth エンティティ プロファイル	Salesforce が接続されたアプリを OAuth プロバイダーとして登録したときに作成した OAuth プロファイル。たとえば、**AEP OAuth default_profile** を選択します。
適用先	このフィールドは適用されません。
順番	この認証情報を適用する順番。たとえば、「`100`」と入力します。

5. レコードを保存します。

6. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンを取得] 関連リンクをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
Adobe Experience Platform スポーク の認証情報レコードが作成されます。

Adobe Experience Platform スポークの接続レコードを作成

Adobe ID アカウントへの接続レコードを作成します。 Adobe Experience Platform スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してAdobe Experience Platformでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
データインレット管理およびバッチ取り込み用に 1 つ、データコレクション用に 1 つの、計 2 つの接続および資格情報エイリアスレコードがデフォルトで利用可能です。次の手順を実行して、各エイリアスをそれぞれの Adobe Experience Platform API に関連付けます。

手順

1. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. 必要な Adobe Experience Platform スポークレコードを開きます。

   注: **AEP** と **AEP_Ingestion** の 2 つの接続および認証情報レコードがあります。**AEP** レコードはデータインレット管理とバッチ取り込み用で、**AEP_Ingestion** はデータコレクション用です。

3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、データインレット管理とバッチ取り込みの場合は「`AEP プラットフォーム`」、データコレクションの場合は「`AEP dcs`」と入力します。
認証情報	Adobe Experience Platform のために作成された認証情報レコード。たとえば、**AEP** と **AEP_Ingestion** を選択します。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
URL ビルダー	注: チェックボックスをオンにしないでください。
接続 URL	Adobe Experience Platformに接続するためのベース URL。 ◦接続レコードがデータインレット管理とバッチ取り込み用の場合は、「`https://platform.adobe.io/`」と入力します。 ◦接続レコードがデータコレクション用の場合は、「`https://dcs.adobedc.net`」と入力します。
MID サー	このフィールドは適用されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
バーを使用	
有効	接続を積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションまたはアクティビティを実行するドメインです。

5. [属性] タブで、次の値を入力します。
   - [サンドボックス] 内のサンドボックスの内部名。

     注: [サンドボックス] のラベルではなく、必要なサンドボックスの内部名を入力してください。必要なサンドボックスの内部名を取得するには、[すべてのサンドボックスを取得] アクションを使用します。

   - 接続レコードがデータインレット管理とバッチ取り込み用の場合は、**[API** キー] と [組織 **ID]** を入力します。
   - 接続レコードがストリーミング取り込みの場合は、[組織 **ID]** を入力します。
6. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

タスクの結果
Adobe Experience Platform スポーク が設定されて、ServiceNow インスタンスとデータ連携されます。

Adobe Sign スポーク

Adobe Sign を使用するデジタル署名用に法務ドキュメントを個人または受信者のリストに送信するプロセスを自動化します。たとえば、従業員のオンボーディングと退職、デジタル署名のための機密保持契約、法務契約、作業指示書の送信を自動化します。ドキュメントテンプレートで ServiceNow データを使用し、ユーザーが必要に応じて署名用のドキュメントをアップロードできるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

Adobe Sign スポーク v2.5.2 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポート対象のバージョン

このスポークは Adobe Sign API バージョン v6 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

主な機能

Adobe Sign スポーク によりフローデザイナーで次を実行できます。

- デジタル署名用に法務ドキュメントを個人または受信者のリストに送信するプロセスを自動化します。
- デジタル署名用の一時ドキュメントまたは Adobe Sign ライブラリドキュメントを送信するためのサンプルフローをコピーしてカスタマイズします。
- Adobe Sign ドキュメントを検出して同期します。
- 契約またはドキュメントが署名されるまでフローを一時停止します。スクリプト化された REST API Webhook は、受信者がドキュメントに署名するのを待機します。
- 署名されたドキュメントの値をフローで使用します。
- ServiceNow インスタンスから Adobe Sign 内のドキュメントのライフサイクルを管理します。

スポークの要件

- Adobe Sign アカウント
- Adobe Sign に必要なアカウント固有のタスクを実行するための Adobe Sign アカウントアドミン認証情報
- Adobe Sign に必要なグループ固有のタスクを実行するための Adobe Sign グループアドミン認証情報です。

  注: アカウントアドミニストレーターまたはグループアドミニストレーターは、ユーザーをグループに追加できます。これらのユーザーは、自分のグループに固有の情報にのみアクセスできます。

- ServiceNow とデータ連携するように構成された Adobe Sign アプリケーション
- アプリケーション ID やクライアントシークレットなどの Adobe Sign アプリケーションの詳細。
- 必要な Adobe Sign グループを作成して ServiceNow と同期するための ServiceNow アドミン認証情報。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- これは、 Adobe Sign スポーク が有効化されたときに作成されるデフォルトの admin ロールです。
- ServiceNow アドミニストレーターは、ServiceNow と同期されたすべての Adobe Sign グループおよび Adobe Sign スポーク のすべてのテーブル部分に関する情報にアクセスできます。
- ServiceNow インスタンスでグループが作成されると、グループに固有のユーザーロールが ServiceNow で作成されます。グループユーザーは、自分の Adobe Sign グループに固有の情報にのみアクセスでき、 Adobe Sign スポーク の一部であるテーブルのグループ固有のデータのみを表示できます。

• 統合ハブ サブスクリプション

カスタムアプリケーションの作成と設定については、Adobe Sign 開発 のドキュメントを参照してください。

スポークのフロー

Adobe Sign スポークでは、Adobe Sign タスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
Adobe Sign：NDA を送信デモ	**Adobe** Sign：作業指示書のデモアイテムによって サービスカタログ 要求が作成されたときに、Adobe Sign ライブラリドキュメントを使用してデジタル署名の作業指示書を送信します。このフローを使用する前に、**Adobe** Sign：作業指示書のデモカタログアイテムを有効化します。
Adobe Sign：作業指示書のデモ	**Adobe** Sign：作業指示書のデモアイテムによって サービスカタログ 要求が作成されたときに、Adobe Sign ライブラリドキュメントを使用してデジタル署名の機密保持契約を送信します。このフローを使用する前に、**Adobe** Sign：作業指示書のデモカタログアイテムを有効化します。

Adobe Sign スポークは、 Adobe Sign スポークのサンプルフローで使用するカタログアイテムを追加します。 Adobe Sign スポーク サンプルフローをトリガーする前に、以下のカタログアイテムを有効化します。

カタログアイテム	説明
Adobe Sign：作業指示書のデモ	Adobe Sign ライブラリドキュメントを使用して、デジタル署名の作業指示書を送信します。
Adobe Sign：NDA を送信デモ	Adobe Sign ライブラリドキュメントを使用して、デジタル署名用に機密保持契約を送信します。

スポークのサブフロー

Adobe Sign スポークでは、Adobe Sign タスクの自動化をデモするためのサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは、[グループごとにドキュメントを取得 (Get Documents Per Group)] です。サブフローは Adobe Sign グループに関連するドキュメントを取得し、AdobeSign ドキュメントテーブルに保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Adobe Sign スポーク は、ServiceNow でイベントが発生したときに Adobe Sign タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ドキュメント管理	契約監査証跡を ServiceNow レコードに添付	指定された契約の契約監査記録を Adobe Sign からダウンロードし、ServiceNow レコードに添付します。
	契約文書を ServiceNow レコードに添付	指定された契約の契約文書を Adobe Sign からダウンロードし、ServiceNow レコードに添付します。
	署名済みの契約を ServiceNow レコードに添付	Adobe Sign ドキュメントをダウンロードし、関連する ServiceNow 契約レコードに添付します。
	一時ドキュメントをライブラリードキュメントに変換	一時ドキュメントをライブラリードキュメントに変換します。規定された一時的な 7 日間の消去期間を超えて、ライブラリでドキュメントを使用できるようにします。
	契約文書を検索	指定された契約の契約文書を取得します。
	契約 ID を検索	ServiceNow 契約テーブルから契約 ID を取得します。
	契約ストリームを検索	合意リストを取得します。
	ライブラリードキュメント ID を検索	ServiceNow ドキュメントテーブルからライブラリドキュメント ID を取得します。
	ライブラリドキュメントストリームを検索	ライブラリドキュメントのリストを取得します。
	契約フィールドを設定	ドラフト契約のフィールドのリストを作成します。
	添付ファイルを一時ドキュメントとしてアップロード	添付ファイルを一時ドキュメントとして Adobe Sign にアップロードします。一時ドキュメントは 7 日間使用できます。
MegaSigns 管理 (MegaSigns Management)	MegaSigns をキャンセル	すでに署名用に送信されている MegaSigns をキャンセルします。
	MegaSigns ステータスを確認	MegaSigns レコードのステータスを確認します。
	ドラフト MegaSigns を作成 (Create Draft MegaSigns)	ドラフト状況の MegaSigns レコードを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ドキュメントの参加者をダウンロードしてフィールドを結合 (Download Participants and Merge Fields for Document)	特定のライブラリドキュメントのサンプル CSV ファイルをダウンロードします。このファイルには、MegaSigns 参加者とフォームフィールドに関する情報が含まれています。
	MegaSigns ストリームを検索 (Look up MegaSigns Stream)	すべての MegaSigns レコードリストを取得します。
	MegaSigns を送信	ドラフトを確定し、MegaSigns 添付ファイルを署名用に送信します。
	Adobe Sign からの MegaSigns の署名を待機	すべての参加者がドキュメントに署名するか、ドキュメントをキャンセルするまで、Adobe Sign Webhook を待機します。
署名管理	参加者を契約に追加	参加者リストを経時的に繰り返し作成し、参加者をローカルの ServiceNow 契約レコードに追加します。
	メール OTP 認証を使用して参加者を契約に追加	新しい参加者を契約書に追加し、電子メールのワンタイムパスワード (OTP) を使用して本人確認を行います。参加者はメールで OTP を受け取り、それを入力しないとドキュメントに署名または承認することができません。この追加の手順により、適切なユーザーのみがアクセスできるようにすることで、契約のセキュリティを確保します。
	パスワード認証を使用して参加者を契約に追加	新しい参加者を契約書に追加し、事前定義されたパスワードを使用して本人確認を行います。参加者は正しいパスワードを入力しないと、ドキュメントを表示、署名、または承認することができません。この追加の手順により、パスワードを知っている人だけが契約の処理を続行できるようにすることで、契約のセキュリティを確保します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		注: [参加者のパスワードを削除するスケジューラー (Scheduler To Remove Participant Password)] スケジュール済みジョブをアクティブ化すると、過去 30 日間保存されたパスワードが自動的に削除されます。詳細については、「スポークのスケジュール済みジョブ」を参照してください。
	電話認証を使用して参加者を契約に追加	新しい参加者を契約書に追加し、SMS のワンタイムパスワード (OTP) を使用して本人確認を行います。参加者は、指定された電話番号への SMS で OTP を受け取り、それを入力しないとドキュメントに署名することもドキュメントを承認することもできません。この追加の手順により、適切なユーザーのみがアクセスできるようにすることで、契約のセキュリティを確保します。
	契約をキャンセル	署名のために送信された契約をキャンセルします。
	契約ステータスを確認	契約のステータスを取得します。
	ドラフト契約を作成	Adobe Sign でドラフト状況の契約を作成し、ServiceNow 契約テーブルでドラフトレコードを作成します。
	ドラフトを確定して契約を送信	署名のために参加者リストにドラフト契約を送信します。 注: このアクションを使用する前に、[ドラフト契約を作成] および [契約フィールドを設定] アクションを使用する必要があります。
	契約イベントを検索	指定された契約のイベント情報を取得します。
	ドラフト契約を検索	契約書ドラフトの最終処理時に必要となる契約書ドラフトの

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		情報と Etag の詳細を取得します。
	契約からフォームフィールド値を検索	Adobe Sign の既存の契約から必須フィールドの値を取得します。
	署名 URL を検索	埋め込み署名 URL を取得します。これは、対面による署名が必要なシナリオで役立ちます。
	契約を送信	1 人以上の参加者に署名してもらうために、そのシーケンスとともに 1 つ以上のドキュメントを送信します。
	フォームフィールドを更新して契約を送信	署名してもらうために送信する前に、参加者が契約書のフォームフィールドを更新または変更できるようにします。
	Adobe Sign からの署名を待機	参加者が Adobe Sign でドキュメントに署名するか却下するまで待ちます。その後、ServiceNow で署名ステータスを更新します。
	Adobe Sign からの署名を待機	参加者がドキュメントに署名するか、ドキュメントを却下するまで Adobe Sign Webhook を待機します。ServiceNow 契約テーブルのステータスを更新します。
ユーザー管理	ユーザーをアクティブ化	Adobe Sign の既存のユーザーをアクティブにします。
	ユーザーを非アクティブ化	Adobe Sign の既存のユーザーを非アクティブにします。
	メールでユーザー ID を検索	Adobe Sign 内の既存のユーザーのユーザー ID を取得します。
	ユーザーストリームを検索	すべてのユーザーのリストを取得します。
Webhook 管理	Webhook を作成	Adobe Sign の署名イベントを通知する Webhook を作成します。
	Webhook ストリームを検索	Webhook のリストを取得します。
	Webhook を削除	Adobe Sign から Webhook が削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークモジュール

Adobe Sign スポーク は、Adobe Sign モジュールを ServiceNow インスタンスに追加します。 Adobe Sign スポーク は、ServiceNow のグループ、ドキュメント、契約に関する情報を同期して保存します。 Adobe Sign スポーク には次のテーブルが含まれます。

- 契約 [sn_adobesign_spoke_agreement]
- ドキュメント [sn_adobesign_spoke_adobe_sign_documents]
- グループ [sn_adobesign_spoke_adobesign_group_details]
- クライアントの詳細 [sn_adobesign_spoke_client_details]

テーブル	説明	フィールド
契約	同期された Adobe Sign グループとアカウントからの Adobe Sign 契約。Adobe Sign アカウントに Webhook が設定されている場合にのみ、契約テーブルのレコードが署名ステータスで更新されます。	• 名前 • 契約 ID • 却下理由 • ステータス • 参加者情報 • フォームフィールド情報 • 次の署名者 • グループ名
ドキュメント	同期された Adobe Sign グループとアカウントからの Adobe Sign ドキュメント。アカウントを同期するには、「Adobe Sign の ServiceNowとの同期」を参照してください。[グループごとにドキュメントを取得 (Get Documents Per Group)] サブフローは、各 Adobe Sign グループ内のドキュメントのリストを取得します。 **注:** ドキュメントへのアクセスは、グループユーザーロールに基づいています。	• ドキュメント ID • ドキュメントオーナー • ドキュメントの最終変更日 • グループ • ドキュメント名 • ドキュメントタイプ
グループ	ServiceNow と同期されている Adobe Sign グループ。アドミニストレーターは ServiceNow インスタンスにグループを作成し、Adobe Sign と同期するために必要な詳細を提供します。	• グループ名 • グループ ID • 接続エイリアス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明	フィールド
	注: ServiceNow インスタンスで Adobe Sign グループが作成されると、ユーザーロールが作成されます。グループ固有のロールを持つユーザーは、Adobe Sign グループに関連するドキュメントと契約にアクセスできます。	
クライアント詳細	ServiceNow と同期されている Adobe Sign グループの認証情報	• クライアント ID • 名前 • 認証キー
MegaSigns	同期された Adobe Sign グループとアカウントからの Adobe Sign MegaSigns。Adobe Sign アカウントに Webhook が設定されている場合にのみ、MegaSigns テーブルのレコードが署名ステータスで更新されます。	• ステータス • 署名された参加者 (Signed Participants) • 署名処理待ちの数 (Number of Pending Signatures) • 名前 • MegaSigns ID • グループ名

スポークのスケジュール済みジョブ

過去 30 日間保存されている [パスワード認証を使用して参加者を契約に追加] アクションに関連するパスワードを削除するには、[参加者のパスワードを削除するスケジューラー (Scheduler To Remove Participant Password)] スケジュール済みジョブを使用できます。また、スケジューラーの実行タイミングを変更することもできます。

これを設定するには、[すべて] > [システム定義] > [スケジュール済みジョブ] > [参加者のパスワードを削除するスケジューラー **(Scheduler To Remove Participant Password)]**に移動し、スケジュール済みジョブを有効にします。

グループとユーザーのロール

ServiceNow インスタンスにグループを作成し、グループを Adobe Sign の対応するグループと同期します。

ServiceNow インスタンスでグループが作成されると、グループに固有のユーザーロールが ServiceNow で作成されます。たとえば、ServiceNow で人事グループが作成されると、人事グループのユーザーロール sn_dobesign_spoke.HR が作成されます。 ServiceNow アドミニストレーターは、これらのグループユーザーロールをユーザーにアサインし、次のようなグループ固有の情報へのアクセスを制御できます。

- ドキュメントおよび契約
- 接続および資格情報エイリアス
- 認証情報レコード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アプリケーションレジストリ
- Adobe Sign スポーク のテーブルのデータ

フローとサブフローを実行するには、グループユーザーに次のロールも必要です。

- connection_admin
- credential_admin
- flow_designer
- oauth_admin
- script_debugger
- view_changer

ServiceNow アドミンのみが、ServiceNow インスタンスと同期されているすべての Adobe Sign グループに関する情報にアクセスできます。

Adobe Sign アカウント要件

Adobe Sign スポーク では、Adobe Sign アカウントでカスタムアプリを作成し、OAuth 2.0 トークンを生成する必要があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

注: 接続および資格情報エイリアスは、Adobe Sign のグループに固有です。

デモンストレーション用に接続および資格情報エイリアスのサンプルが提供されています。ServiceNow アドミニストレーターは各 Adobe Sign グループのエイリアスを作成して、そのグループを ServiceNow インスタンスと同期する必要があります。たとえば、人事、法務、経理など、組織内の BU ごとに異なる接続および認証情報エイリアスレコードを持つことができます。スポークの設定については、「 ServiceNow との Adobe Sign グループの同期

ServiceNow との Adobe Sign グループの同期

Adobe Sign で必要なグループと ServiceNow を同期して、 Adobe Sign スポークからグループ固有のドキュメントと契約にアクセスします。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Adobe Sign スポーク を有効にします。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

これらの手順は、1 つの Adobe Sign グループのみを同期するために実行されます。別の Adobe Sign グループを同期するには、このプロセスを繰り返します。

Adobe Sign アカウントでのカスタム OAuth アプリケーションの作成

Adobe Sign アカウントからカスタム OAuth アプリケーションを作成し、 Adobe Sign スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- Adobe Sign アカウント
- 必要なロール：Adobe Sign admin 認証情報

このタスクについて

Adobe Sign アカウントから、次の手順を完了します。カスタムアプリケーションの作成と設定については、Adobe Sign 開発 のドキュメントを参照してください。

手順

1. Adobe Sign アカウントからアプリケーションを作成します。
2. 後で使用するために、アプリケーション ID およびアプリケーションシークレットをコピーして記録します。
   これらの詳細は、サードパーティ OAuth プロバイダーとして ServiceNow インスタンスでアプリケーションを登録する場合に必要です。

タスクの結果

Adobe Sign アカウントからカスタム OAuth アプリケーションが作成され、ServiceNow インスタンスとデータ連携できます。

Webhook を構成

参加者が契約またはドキュメントに署名したときに Adobe Sign で ServiceNow にデータを送信できるように、Adobe Sign アプリケーションで Webhook を構成します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

Adobe Sign アプリケーションのスコープがアカウントの場合は、アカウントスコープ内で定義されているすべてのグループに同じ Webhook を使用します。Adobe Sign アプリケーションのスコープがグループの場合は、グループごとにを設定する必要があります。

手順

1. Adobe Sign アカウントから、以下の構成で Webhook を作成します。

   a. ターゲット URL を、`https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_adobesign_spoke/adobesign_webhook` の形式で **[URL]** に入力します。

   b. [イベント] に「`Agreement all events`」および「`Mega Sign all events`」と入力します。

   c. [通知パラメーター **(Notification Parameters)**] で必要なすべての契約イベントを選択します。
   Adobe Sign アカウントで Webhook を作成する方法の詳細については、「Adobe Sign の開発 」のドキュメントを参照してください。

2. ServiceNow インスタンスで、クライアントの詳細を追加します。

   a. **[Adobe Sign** スポーク **(Adobe Sign Spoke)]** > [クライアントの詳細 **(Client Details)]** に移動します。

   b. レコード **[Adobe Sign** クライアント **ID (Adobe Sign Client ID)]** を開きます。

   c. フォームに、次の値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証キー	認証用のキー。「`UB7E5BXCXY`」と入力します。
クライアント ID	Adobe Sign アカウントの構成中に作成されたアプリケーション ID。

d. [更新] をクリックします。

タスクの結果
Webhook が Adobe Sign アカウントに作成され、Adobe Sign の署名イベントが Adobe Sign スポークのテーブルで更新されます。

Adobe Sign スポークの接続の設定

ServiceNow 要求を認証するための Adobe Sign スポーク接続を追加して設定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。

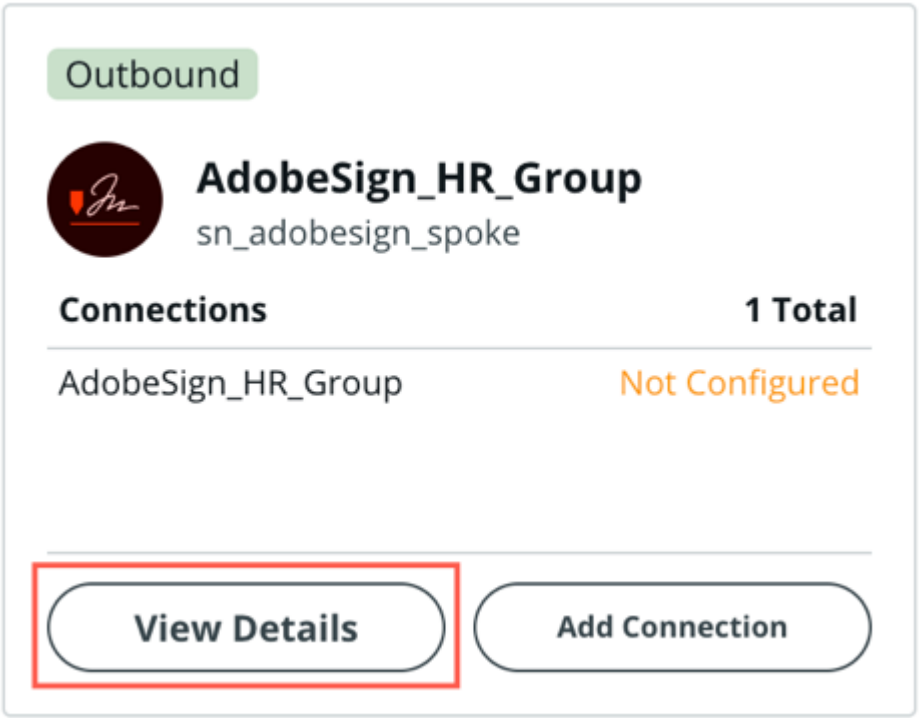
2. [統合] タブをクリックします。

3. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。

4. AdobeSign_HR_Group のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

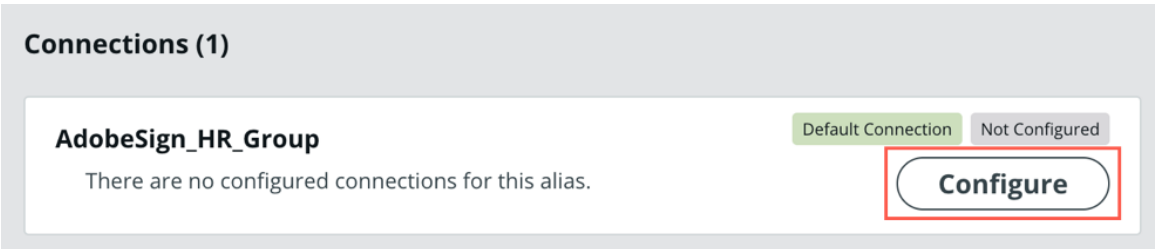
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ Adobe Sign スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



◦ 複数の Adobe Signスポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

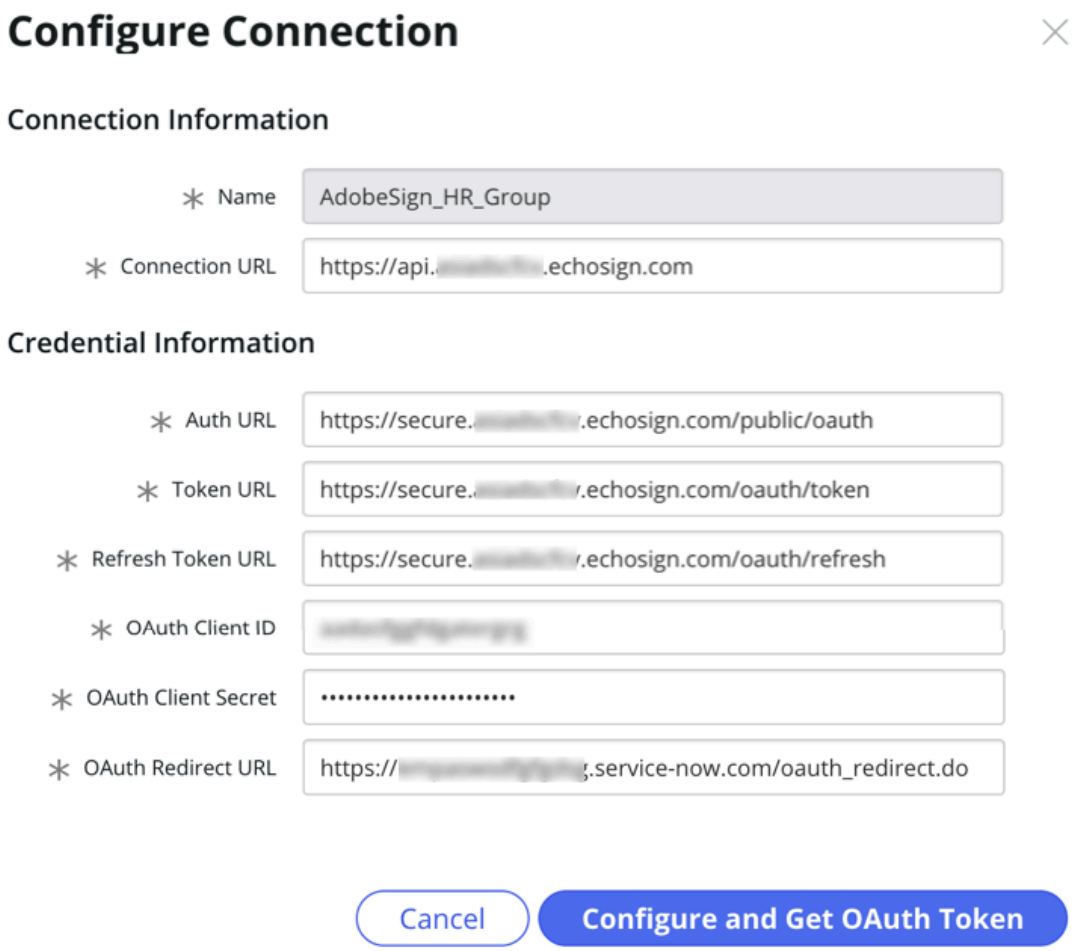


5. [接続を設定] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続情報	
名前	接続レコードを一意に識別する名前です。これは自動入力されます。
接続 URL	Adobe Sign アカウントに接続するための URL。形式は `https://api.<region>.echosign.com` です。
認証情報	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイントです。例：`https://secure.<region>.echosign.com/public/oauth/v2`。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイントです。例：`https://secure.<region>.echosign.com/oauth/v2/token`。
リフレッシュトークン URL	トークンを更新する URL です。例：`https://secure.<region>.echosign.com/oauth/v2/refresh`。
OAuth クライアント ID	Adobe Sign アカウントの構成中に作成されるアプリケーション ID。
OAuth クライアントシークレット	Adobe Sign アカウントの構成中に作成されるアプリケーションシークレット。
OAuth リダイレクト URL	`https://<ServiceNow-instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` の形式での OAuth コールバックエンドポイント



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. **[OAuth トークンを設定して取得 (Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。
   これでスポーク接続が設定されます。

ServiceNow テーブルへのアプリケーションアクセスの設定

必要な ServiceNow テーブルのアプリケーションアクセスを設定することで、Adobe Sign グループが ServiceNow テーブルと同期されているときに、 Adobe Sign スポーク でのグループアドミンユーザーロールの作成を許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [テーブル]に移動します。
2. 次の各テーブルについて、[アプリケーションのアクセス] 関連リストで、[読み込みを許可]、[作成を許可]、および [更新を許可] オプションが選択されていることを確認します 。

ラベル	名前
ロール	sys_user_role
アクセス制御	sys_security_acl
アクセス許可ロール	sys_security_acl_role
アプリケーションメニュー	sys_app_application
モジュール	sys_app_module

3. [更新] をクリックします。

タスクの結果
必要な ServiceNow テーブルのアプリケーションアクセスが設定されます。

ServiceNow での Adobe Sign グループの作成

AdobeSign グループの詳細 [sn_adobesign_spoke_adobesign_group_details] テーブルでレコードを作成し、ServiceNow を Adobe Sign の必要なグループと同期します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **][Adobe Sign** スポーク] > [グループ **(Groups)]** に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

AdobeSign グループの詳細フォーム

グループ名	Adobe Sign グループを一意に識別する名前。たとえば、「`Legal`」。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

グループ ID	レコードに関連付けられた一意の ID。
接続エイリアス	Adobe Sign グループを ServiceNowと同期するために作成された接続エイリアス。

タスクの結果
必要な Adobe Sign グループは ServiceNow で作成され、 Adobe Sign スポークから管理できます。

ServiceNow インスタンスでグループが作成されると、グループに固有のユーザーロールが ServiceNow で作成されます。たとえば、ServiceNow で人事グループが作成されると、人事グループのユーザーロール sn_dobesign_spoke.HR が作成されます。 ServiceNow アドミニストレーターは、これらのグループユーザーロールをユーザーにアサインし、次のようなグループ固有の情報へのアクセスを制御できます。

- ドキュメントおよび契約
- 接続および資格情報エイリアス
- 認証情報レコード
- アプリケーションレジストリ
- Adobe Sign スポーク のテーブルのデータ

ServiceNow アドミンのみが、ServiceNow インスタンスと同期されているすべての Adobe Sign グループに関する情報にアクセスできます。

ServiceNow との Adobe Sign グループのドキュメントの同期

Adobe Sign で必要なグループと ServiceNow を同期して、 Adobe Sign スポークからグループに固有のドキュメントと契約にアクセスします。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
グループドキュメントを同期する前に、グループがセットアップされ、それぞれの接続および資格情報エイリアスで構成されていることを確認します。

手順
1. [すべて] > **[Adobe Sign** スポーク] > [ドキュメント]に移動します。
   AdobeSign ドキュメント [sn_adobesign_spoke_adobe_sign_documents] テーブルが開きます。
2. [ドキュメントを取得 (Get Documents)] 関連リストをクリックします。

   注:
   - アドミニストレーターとしてログインしている場合は、すべての Adobe Sign グループのドキュメントを同期できます。
   - グループアドミニストレーターとしてログインしている場合は、Adobe Sign グループに固有のドキュメントのみを同期できます。

タスクの結果
必要な Adobe Sign グループに固有のすべてのドキュメントの詳細が ServiceNow と同期されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Adobe Sign スポークカタログアイテムの有効化

サービスカタログでアイテムが要求されたときに、Adobe Sign でイベントをトリガーします。たとえば、Adobe Sign：作業指示書のデモカタログアイテムは、指定された受信者に Adobe Sign ドキュメントを送信するサンプルフローをトリガーします。

始める前に

- ServiceNow との Adobe Sign グループの同期
- 必要なロール：admin

このタスクについて

Adobe Sign スポークは、 Adobe Sign スポークのサンプルフローで使用するカタログアイテムを追加します。サンプルフローをトリガーする前に、以下のカタログアイテムを有効化します。

カタログアイテム	説明
Adobe Sign：作業指示書のデモ	Adobe Sign ライブラリドキュメントを使用して、デジタル署名の作業指示書を送信します。
Adobe Sign：NDA を送信デモ	Adobe Sign ライブラリドキュメントを使用して、デジタル署名用に機密保持契約を送信します。

手順

1. [すべて] > [セルフサービス] > [サービスカタログ]に移動します。
2. コンテンツの追加アイコン をクリックします。
3. **[Adobe** Sign：作業指示書のデモ **(Adobe Sign - Statement of Work Demo)]** を検索して選択します。
4. [ここに追加 **(Add here)]** をクリックします。
5. **[Adobe** Sign：**NDA** を送信デモ **(Adobe Sign - Send NDA Demo)]** を検索して選択します。
6. [ここに追加 **(Add here)]** をクリックします。

タスクの結果

これらのアイテムのいずれかがサービスカタログで要求されると、関連する Adobe Sign スポークサンプルフローがトリガーされ、必要なアクションが Adobe Sign で実行されます。

エージェントクライアントコレクタースポーク

ServiceNow エージェントクライアントコレクター スポークを使用して、エージェントまたは構成アイテム (CI) でコマンドを実行するプロセスを自動化します。エージェントクライアントコレクター Framework では、それがインストールされているシステムでコマンドを実行し、MID サーバー経由で ServiceNow® インスタンスに出力データを送信できます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

エージェントクライアントコレクター スポーク v1.1.5 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは エージェントクライアントコレクターフレームワーク v2.2.0 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー：動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ITOM ヴィジビリティライセンス (com.snc.itom.vis.license)
- エージェントクライアントコレクターフレームワーク v2.2.0 (sn_agent)

  注: エージェントクライアントコレクターでコマンドを実行できるようにするには、Linux 環境の場合は `ACC_ALLOW_LIST=0`、Windows 環境の場合は `ACC_ALLOW_LIST=False` を確認します。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークの要件

MID サーバー。詳細については「MID サーバー」を参照してください。

スポークのサブフロー

エージェントクライアントコレクタースポークでは、 エージェントクライアントコレクター Framework タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、それを新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
リモートワーカーのコンプライアンス管理	リモートワーカーのコンプライアンスを管理し、指定された 1 つ以上のコンプライアンス条件に違反した場合にシステムアドミニストレーターにメールを送信します。
エージェントの再起動	エージェントのステータスを検証し、ステータスがダウンの場合はエージェントを再起動します。
SNH CyberAttack 検出	Windows サーバーに SigHealth CyberAttack 検出を適用し、脅威が検出された場合にシステムアドミニストレーターにメールを送信します。
Linux にエージェントをインストール	エージェントクライアントコレクターを Linux ホストにインストールします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフロー	説明
Windows にエージェントをインストール	エージェントクライアントコレクターフレームワークを複数の Windows ホストにインストールします。

スポークのアクション

エージェントクライアントコレクタースポークは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに エージェントクライアントコレクター タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

アクション	説明
エージェントのステータスを取得	エージェントのステータスを取得します。
ログオンしているユーザーを取得	指定されたホストシステムのすべてのログインユーザーのリストと関連するメタデータを取得します。
ネットワーク統計情報を取得	指定されたホストシステムのすべてのネットワークインターフェイスのリストと関連するメタデータを取得します。
実行中プロセスを取得	指定されたホストシステムのすべての実行中のプロセスのリストと関連するメタデータを取得します。
実行中のサービスを取得	指定されたホストシステムに対して Windows OS で実行中のすべてのサービスのリストと関連するデータを取得します。
システムの詳細を取得	指定されたエージェントのハードウェアとソフトウェアの詳細を取得します。
エージェントの再起動	エージェントを再起動します。
エージェントでコマンドを実行	指定されたエージェントホストでコマンドを実行します。 注: コマンドを実行するときは注意が必要です。
エージェントで Osquery を実行	指定されたエージェントホストで指定された Osquery を実行します。
Linux にエージェントをインストール	エージェントクライアントコレクターフレームワークを Linux ホストにインストールします。
Windows にエージェントをインストール	エージェントクライアントコレクターフレームワークを Windows ホストにインストールします。

注: [Linux にエージェントをインストール] および [Windows にエージェントをインストール] スポークアクションを使用するには、[エージェントクライアントコレクタースポーク] > **[CIDR 範囲 (CIDR Ranges)]** に移動し、必要な IP アドレスまたは IP アドレスの範囲を指定するレコードを作成します。

スポークの設定については、「 エージェントクライアントコレクタースポークのセットアップ。

エージェントクライアントコレクタースポークのセットアップ

ServiceNow エージェントクライアントコレクター Framework と エージェントクライアントコレクター スポークをデータ連携します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

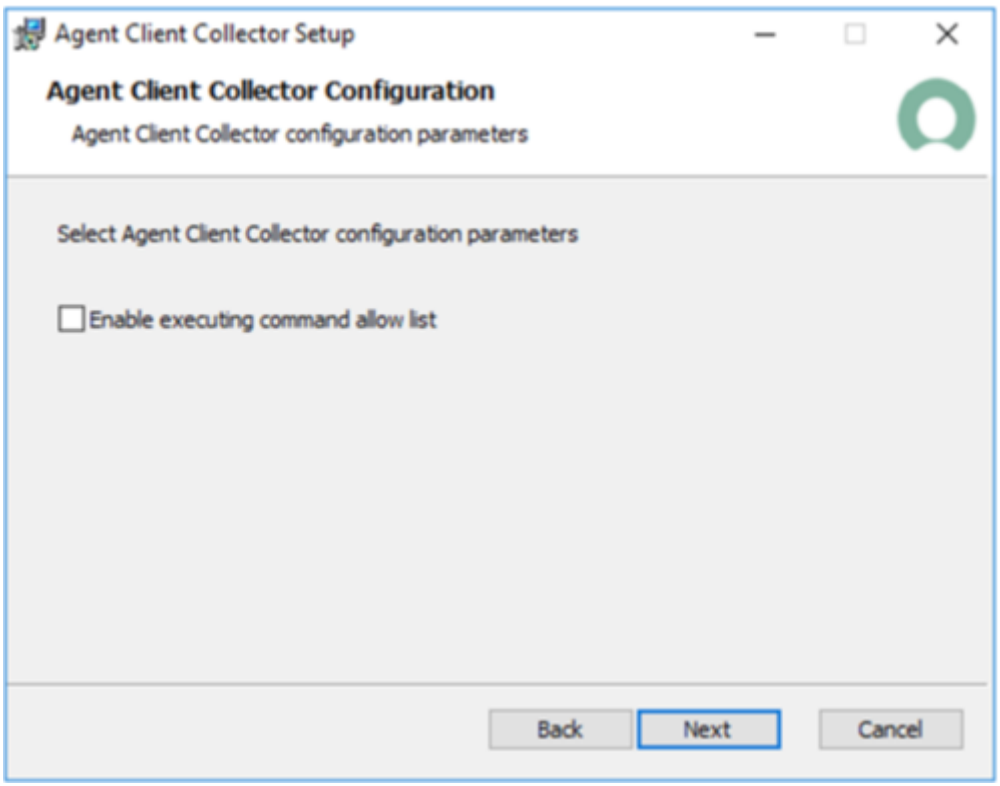
始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- エージェントクライアントコレクタースポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

1. エージェントクライアントコレクターフレームワーク v2.2.0 (sn_agent) プラグインと他の依存プラグインをインストールします。詳細については、「エージェントクライアントコレクターのインストール」を参照してください。

   注: エージェントクライアントコレクターでコマンドを実行できるようにするには、Linux 環境の場合は `ACC_ALLOW_LIST=0`、Windows 環境の場合は `ACC_ALLOW_LIST=False` を確認します。Windows ガイド付きインストールを使用している場合は、[コマンド許可リストの実行を有効にする **(Enable executing command allow list)]** チェックボックスをオフにします。それ以外の場合は、エージェントクライアントコレクタースポークを使用してコマンドを実行することはできません。



2. MID サーバーのインストール。
3. MID サーバーで Websocket サーバーを設定します。

Aha! スポーク

ServiceNow インスタンスを使用して Aha! アカウントを管理します。Aha! のデータ使用状況を分析し、アイドル状態のアカウントを再利用します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Aha! スポーク v1.7.0 が最新バージョンです。

スポークの要件

Aha! admin ロール

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブ Action Template - Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Aha! スポークは、サンプルフロー「Aha アイデアのアップサート」を提供し、次のことを実行します。

- ServiceNow インスタンスの Aha アイデア [sn_aha_spoke_aha_ideas] テーブルにアイデアが作成されているかどうかを確認します。アイデアレコードが作成されると、フローは Aha! にアイデアレコードを作成し、自動生成された ID ServiceNow インスタンスの値を更新します。
- 既存のアイデアが更新されているかどうかを確認し、Aha! の詳細の更新を同期します。

フローのコピーを作成し、要件に応じてカスタマイズすることもできます。

スポークのサブフロー

Aha! スポークはサンプルサブフロー Process Aha Webhook を提供し、Aha! でレコードを作成および更新し、レコードの情報を Aha 機能 [sn_aha_spoke_feature_aha] テーブルに保存します。

スポークのアクション

Aha! スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Aha! タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
機能管理	機能を作成	指定されたリリースで機能を作成します。
	オブジェクトストリームに関連付けられた機能を検索	指定されたオブジェクト内の機能についての情報を取得します。
	機能ストリームを検索	必要な機能に関する情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	機能を更新	必要な機能の詳細を更新します。
アイデア管理	アイデア投票を作成	指定された詳細でアイデア投票を作成します。
	アイデアを作成	指定された詳細でアイデアを作成します。
	ID でアイデアを検索	必要なアイデアに関する情報を取得します。
	製品ストリームに関連付けられたアイデアを検索	指定された製品のアイデアに関する情報を取得します。
	アイデアストリームを検索	必要なアイデアに関する情報を取得します。
	アイデア投票ストリームを検索	必要なアイデア承認に関する情報を取得します。
	文字列ストリームでアイデアを検索	必要なアイデアに関する情報を取得します。
	アイデア投票を更新	必要なアイデア投票の詳細を更新します。
	アイデアを更新 (Update Idea)	必要なアイデアの詳細を更新します。
プロダクトマネジメント	製品を作成	製品を作成します。
	タスクの作成	タスクを作成します。
	ペルソナストリームを検索	必要なペルソナに関する情報を取得します。
	製品を ID で検索	指定された製品に関する情報を取得します。
	製品ストリームを検索	必要な製品に関する情報を取得します。
	オブジェクトストリームに関連付けられたタスクを検索	指定された API に関連付けられているタスクに関する情報を取得します。
	タスクストリームを検索	タスクに関する情報を取得します。
	製品を更新	指定された製品の詳細を更新します。
	タスクを更新	必要なタスクの詳細を更新します。
リリース管理	エピックの作成	必要なリリースでエピックを作成します。
	リリースの作成	指定された詳細でリリースを作成します。
	リリースフェーズを作成	指定されたリリースでリリースフェーズを作成します。
	オブジェクトストリームに関連付けられたエピックを検索	指定された API に関連付けられているエピックに関する情報を取得します。
	エピックストリームを検索	必要なエピックに関する情報を取得します。
	リリースフェーズストリームを検索	必要なリリースフェーズに関する情報を取得します。
	リリースストリームがあるリリースフェーズを検索	指定されたリリースのリリースフェーズに関する情報を取得します。
	オブジェクトストリームに関連付けられたリリースを検索	指定された API に関連付けられているリリースに関する情報を取得します。
	エピックを更新	必要なエピックの詳細を更新します。
	リリースを更新	必要なリリースの詳細を更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	リリースフェーズを更新	必要なリリースフェーズの詳細を更新します。
戦略管理	目標を作成	指定された詳細で目標を作成します。
	イニシアチブを作成	指定された詳細でイニシアチブを作成します。
	ペルソナを作成	指定された詳細でペルソナを作成します。
	オブジェクトストリームに関連付けられた目標を検索	指定された API に関連付けられている目標に関する情報を取得します。
	目標ストリームを検索	必要な目標に関する情報を取得します。
	オブジェクトストリームに関連付けられたイニシアチブを検索	指定された API に関連付けられているイニシアチブに関する情報を取得します。
	イニシアチブストリームを検索	必要なイニシアチブに関する情報を取得します。
	目標を更新	必要な目標の詳細を更新します。
	イニシアチブを更新	必要なイニシアチブの詳細を更新します。
	ペルソナを更新	必要なペルソナの詳細を更新します。
ユーザー管理	ユーザーの作成	指定された製品にユーザーを作成します。
	ユーザーの非アクティブ化	指定されたユーザーアカウントを無効化します。
	製品ストリームに関連付けられたユーザーを検索	指定された製品に関連付けられているユーザーに関する情報を取得します。
	ユーザーストリームを検索	アカウント内のすべてのメンバーの詳細を取得します。
	ユーザーを更新	指定したユーザーの詳細を更新します。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

スポークモジュール

Aha! スポークは Aha! スポークアプリケーションを ServiceNow インスタンスに追加します。Aha! スポークアプリケーションには次のモジュールが含まれています。

モジュール	説明
アイデア	アイデアレコードの詳細が含まれ、ユーザーはアイデアを作成できます。ここでアイデアが作成されると、「Aha アイデアのアップサート」フローがトリガーされます。このフローは指定された詳細で Aha! にアイデアレコードを作成し、ServiceNow インスタンスで自動生成された ID の値を更新します。 ServiceNow インスタンスからアイデアを作成するには、次のようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
	1. Aha! に移動します。スポークの > アイデア。 **2.** [新規] をクリックします。 **3.** フォームで、**ID** を除く必要なすべての詳細を入力します。**ID** の値は、Aha! 内のこのレコードの後に入力されます。 **4.** [送信] をクリックします。
Webhook	
機能レコード	Aha リモート機能 [sn_aha_spoke_st_aha_features_remote] テーブルの機能レコードの詳細が含まれています。 Webhook をセットアップして構成すると、機能レコードが Aha! から取得され、Aha リモート機能 [sn_aha_spoke_st_aha_features_remote] テーブルに保存されます。
Webhook レジストリ	Webhook レジストリレコードの詳細が含まれています。
Webhook ルーティングポリシー	Webhook ルーティングポリシーレコードの詳細が含まれています。Aha! にレコードを作成して更新し、Aha 機能 [sn_aha_spoke_feature_aha] テーブルにレコードの情報を保存するスポークがある 1 つのルーティングポリシーが使用可能です。
リモートテーブル	
特徴	Aha! 機能に関するレコードが含まれています。ここに表示されるデータは、Aha リモート機能 [sn_aha_spoke_st_aha_features_remote] テーブルから取得されます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

「スポークの設定については、「 Aha! OAuth2 アプリケーションの作成」および「Aha! の ServiceNow インスタンスのセットアップ」。

Aha! OAuth2 アプリケーションの作成

Aha! アカウントで OAuth2 アプリケーションを作成し、アプリケーションが ServiceNow インスタンスから Aha! サーバーへのアクセス要求を認証できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

Aha! アカウントでアドミニストレーターとしてサインアップしていることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Aha! スポークプラグインがインストールされていることを確認します。

手順

1. [OAuth2 認証 (OAuth2 Authentication)] に移動します。
2. アドミン認証情報を使用して Aha! サイトにログインします。
3. [機能ボード] ページで、設定アイコン ( ) をクリックします。
4. 個人設定ページで、[開発者] をクリックします。
5. **[OAuth** アプリケーション] タブをクリックします。
6. **[OAuth** アプリケーションの登録 **(Register OAuth applications)]** をクリックします。
7. [新しい OAuth アプリケーションの登録 (Register new OAuth application)] フォームの [リダイレクト URL] に「`https://instance/oauth_redirect.do`」と入力します。*instance* は ServiceNow インスタンスの名前です。
8. [作成] をクリックします。
   [OAuth アプリケーション **(OAuth applications)]** タブに、クライアント ID とクライアントシークレットキーが表示されます。
9. [クライアント ID] と [クライアントシークレット] フィールドの値を書き留めます。

Aha! の ServiceNow インスタンスのセットアップ

ServiceNow インスタンスを設定して、Aha! クライアント ID とクライアントシークレットキーを追加します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Aha! スポークを有効化します。
- ServiceNow 必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス] に移動します。
   接続および資格情報エイリアスのページが表示され、アプリのリストが表示されます。
3. Aha! の接続および認証情報レコードを見つけて開きます。
4. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。
5. [接続の作成および認証情報の追加 (Create Connection and add Credential)] フォームで、詳細を入力します。

接続の作成および認証情報の追加 **(Create Connection and add Credential)** フォーム

フィールド	説明
接続名	データ連携プロファイルの名前
接続 URL	Aha! の接続 URL。
OAuth クライアント ID	Aha! サイトから OAuth2 認証を作成する際に受信した OAuth2 キー。
OAuth クライアントシークレット	Aha! サイトから OAuth2 認証を作成する際に受信した OAuth2 クライアントシークレットキー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
OAuth リダイレクト URL	ServiceNow リダイレクト URL

6. **[OAuth** トークンを設定して取得 **(Configure and Get OAuth Token)]** をクリックして、[許可] をクリックします。

Aha! スポーク用の双方向 Webhook の設定

ServiceNow コールバック URL で Aha! アカウントのイベントを登録する Webhook を構成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

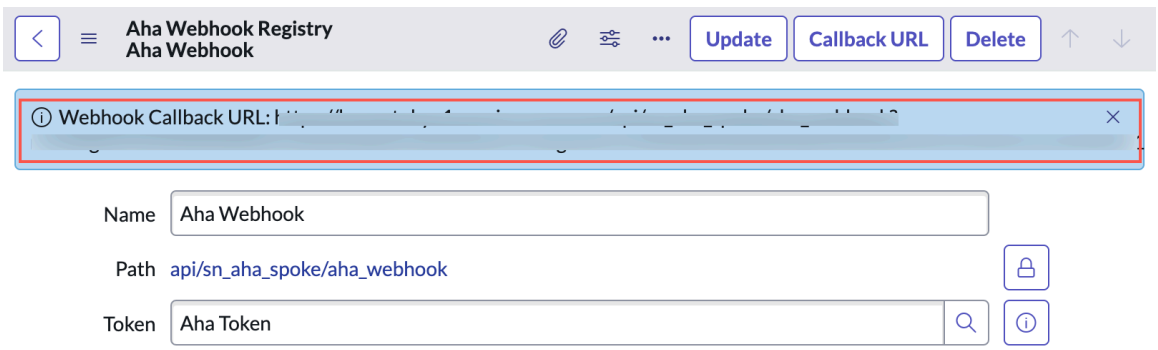
1. ServiceNow インスタンスから Webhook コールバック URL を生成します。

   a. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。

   b. **Aha!** に移動します。スポークの > **Webhook** > **Webhook** レジストリ。

   c. レコード **[Aha Webhook]** を開きます。

   d. [コールバック **URL]** をクリックします。
   Webhook コールバック URL が生成され、表示されます。



   e. Webhook コールバック URL をコピーして記録します。

2. ServiceNow インスタンスで Webhook ルーティングポリシーを指定します。

   a. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。

   b. **Aha!** に移動します。スポークの > **Webhook** > **Webhook** ルーティングポリシー。

   c. Aha! Webhook ルーティングポリシーレコードを開きます。

   d. 満たす必要がある [条件] を指定します。

   e. [答え **(Answer)]** に対して、指定された条件が満たされたときにトリガーされる必要がある必須のサブフローを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デフォルトのルーティングポリシーレコードでは、 [Process Aha] Webhook サブフローが [答え **(Answer)]** として選択されています。

f. [更新] をクリックします。

3. Webhook コールバック URL を Aha! アカウントで登録します。

a. アドミニストレーターとして Aha! アカウントにログインします。

b. [設定] > [アカウント]に移動します。

c. [データ連携] の横にある **[+]** をクリックして、アクティビティ Webhook を作成します。

d. [アクティビティ **Webhook (Activity webhook)]** タイルで **[+** アクティビティ **Webhook (+ Activity webhook)]** をクリックします。

e. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
フック URL	ServiceNow インスタンスからコピーした Webhook コールバック URL。
選択されたアクティビティ	登録するアクティビティまたはイベント。

f. [アクティビティを追加] をクリックします。

AI 検索 スポーク

フローデザイナー を介して、必要なサードパーティアプリケーションのデータを AI 検索 サーバーに保存します。AI 検索 ポータルからデータにアクセスします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

AI 検索 スポーク v2.0.3 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインが有効化されていることを確認します。

- AI 検索 (com.glide.ais)
- AI 検索 (com.glide.ais.external_content)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

AI 検索 スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

アクション	説明
コミットインデックス	バッチャー内のキューに格納されたドキュメントをコミットし、インデックスを作成します。インデックス付きコンテンツに関するフィードバックを同期的に返します。
ドキュメントを削除	AI 検索 コンテンツインデックスからレコードを削除します。
ドキュメントを削除	指定された外部コンテンツスキーマテーブルを使用するすべてのレコードを AI 検索 コンテンツインデックスから削除します。オプションで、Glide クエリを指定して、指定したスキーマテーブルから削除されるドキュメントのセットを制限することができます。
最大ファイルサイズを取得	AI 検索 に取り込むことができる最大ファイルサイズを取得します。

ドキュメントを取り込み	指定されたドキュメントのプロパティをバッチャーに取り込みます。Romeで始まるリリースでは、オプションでドキュメントのセキュリティプリンシパルアクセス権限を指定できます。
	
	次の例のようにフォーマットされた JSON オブジェクトで、ドキュメントのプロパティを名前と値のペアとして指定します。
	`{ "title": "Report 2021-02-26", "author": "Abel Tuter", "url": "http://example.com/reports/2021/02/26/" }`
	
	次の例のようにフォーマットされた JSON オブジェクトで、ドキュメントのセキュリティプリンシパルのアクセス権限を名前と値のペアとして指定できます。
	`{ "everyone": false, "groups.deny": [ "report-users", "hr-users" ], "groups.read": [ "report-admins", "hr-admins" ], "none": false, "users.deny": [ "ad\bow-ruggeri", "don_goodliffe"`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明

	<pre>],
	  "users.read": [
	    "ad\beth-anglin",
	    "ad\abel-tuter",
	    "carol.coughlin@sharepoint"
	  ]
	}</pre>
	セキュリティプリンシパルアクセス権限の詳細については、「外部コンテンツアクセス権限 (External content access permissions) 」を参照してください。

ダウンロード URL を使用してドキュメントを取り込む	ドキュメントを URL からダウンロードし、バッチャーに取り込みます。Romeで始まるリリースでは、オプションでドキュメントのセキュリティプリンシパルアクセス権限を指定できます。
	
	このアクションの [ダウンロード **URL]** 入力を指定する前に、URL のドメインを、AI 検索 スポークの信頼できるドメインのリストに追加します。スポークの信頼できるドメインのリストの変更の詳細については、「AI 検索Spoke を設定」を参照してください。
	
	このアクションは認証セッション ID または Cookie をサポートしていないため、ドキュメント URL で非認証アクセスを許可する必要があります。
	
	次の例のようにフォーマットされた JSON オブジェクトで、ドキュメントのプロパティを名前と値のペアとして指定します。
	<pre>{
	  "title": "Report 2021-02-26",
	  "author": "Abel Tuter"
	}</pre>
	ドキュメントの *url* プロパティには、**[URL** をダウンロード] 入力の値が自動的に入力されます。
	
	次の例のようにフォーマットされた JSON オブジェクトで、ドキュメントのセキュリティプリンシパルのアクセス権限を名前と値のペアとして指定できます。
	<pre>{
	  "everyone": false,
	  "groups.deny": [
	    "report-users",
	    "hr-users"
	  ],
	  "groups.read": [
	    "report-admins",
	    "hr-admins"
	  ],
	  "none": false,
	  "users.deny": [
	    "ad\bow-ruggeri",
	    "don_goodliffe"
	  ],
	  "users.read": [
	    "ad\beth-anglin",</pre>

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明

	<pre>"ad\abel-tuter",
	"carol.coughlin@sharepoint"
	]
	}</pre>
	セキュリティプリンシパルアクセス権限の詳細については、「外部コンテンツアクセス権限 (External content access permissions) 」を参照してください。

バッチャーを初期化	インデックス作成用のドキュメントをキューに格納するために、新しいバッチャーを初期化します。
AIS は取り込みに利用可能か	AI 検索 が取り込みに利用可能かどうかを確認します。
サポートされているファイル拡張子を検索	AI 検索 でサポートされているファイル拡張子を取得します。
バッチャーをリリース	使用済みバッチャーをプールから解放します。
クエリで更新	指定されたクエリに一致する AI 検索 コンテンツインデックスのすべてのレコードを更新します。

AI 検索 スポークの設定については、「AI 検索Spoke を設定」を参照してください。

AI 検索Spoke を設定

サードパーティアプリケーションのコンテンツにインデックスを付けるように AI 検索 スポークを設定します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- AI 検索 スポークの有効化
- 必要なロール：admin

手順

1. 外部コンテンツスキーマテーブルを作成します。
   外部コンテンツスキーマテーブルの詳細については、「AI 検索 での外部コンテンツのインデックス作成と検索 」を参照してください。

   a. *AI* 検索 > [スキーマを作成 **(Create Schema)]** に移動します。

   b. フィールドに、スキーマテーブルの名前を入力します。
   たとえば、自分のアプリケーションスキーマテーブル。

   c. [送信] を選択します。

2. サードパーティアプリケーションのコンテンツのインデックス付きソースを作成します。
   インデックス付きソースの詳細については、「インデックス付きソース 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. *AI* 検索 > [インデックス付きソース **(Indexed Sources)]** に移動します。

b. [新規] を選択します。

c. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	インデックス付きソースを識別する名前。例： `My application indexed source`。
ソース	サードパーティアプリケーション用に作成した外部コンテンツスキーマテーブル。たとえば、`自分のアプリケーションスキーマテーブル`。
アクティブ	インデックス付きソースを有効にするオプション。

d. [送信] を選択します。

> **注:** インデックス付きソースの [タイプ] が [外部] であることを確認します。

AI 検索 スポークアクションを使用できるようになります。

3. サードパーティアプリケーションのドメイン URL を信頼できるドメインのリストに追加します。

a. *AI* 検索[スポーク] > [信頼できるドメイン] に移動します。

b. [新規] を選択します。

c. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	信頼できるドメインレコードを識別する名前。例：`自分のサンプルアプリケーションの信頼できるドメイン`。
ドメイン	信頼できるドメインの URL。例：`https://example.com`。

4. 新しいインデックス付きソースの検索ソースを作成します。
検索ソースの詳細については、「検索ソース」を参照してください。

a. *AI* 検索 > [検索エクスペリエンス] > [検索ソース] に移動します。

b. [新規] を選択します。

c. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前	検索ソースを識別する名前。例： `My application search source`。
アプリケーション	アプリケーション スコープです。*AI* 検索スポークを選択します
インデックス付きソース	サードパーティアプリケーション用に作成したインデックス付きソース。例： `My application indexed source`。
条件	レコードが検索可能になるために満たす必要があるフィルター条件。

d. [送信] を選択します。

5. 新しい検索ソースを含む検索プロファイルを作成します。
検索プロファイルの設定および公開については、「検索プロファイル」を参照してください。

a. *AI* 検索 > [検索エクスペリエンス] > [検索プロファイル] に移動し ます。

b. [新規] を選択します。

c. [ラベル] の値を入力して、検索プロファイルを識別します。
例：自分のアプリケーション検索プロファイル。

d. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。

e. [検索ソース] タブで、[既存をリンク] を選択します。

f. [検索ソース]で、サードパーティアプリケーション用に作成した検索ソースを選択します。
例：**My application search source**。

g. [送信] を選択します。

h. [公開] を選択します。

タスクの結果
サードパーティアプリケーションからインデックス付きコンテンツへの AI 検索 スポークアクションを使用できるようになりました。インデックス付きコンテンツを表示するには、高度な AI 検索 管理ツールアプリケーションから検索プレビュー UI を使用できます。

検索プレビュー UI の詳細については、「検索プレビュー UI*AI* 検索」を参照してください。高度な AI 検索 管理ツールアプリケーションの詳細については、「高度な *AI* 検索 管理ツールの分析およびレポートソリューション」を参照してください。

Amazon Alexa スポーク

ServiceNow インスタンスから Amazon Alexa アカウントのインテント、スキル、ベンダー、およびスロットを管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークはAmazon AlexaAPI バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークバージョン

Amazon Alexa v1.1.0 が最新バージョンです。

スポークの要件

Amazon 開発者ポータルおよび AWS Lambda へのアドミンアクセス

重要なセキュリティに関する考慮事項

Amazon Alexa を安全に使用するには、次の考慮事項に注意してください。

- Amazon は、Amazon Alexa アカウントが録音を削除するように設定されていない限り、Amazon Alexa スマートアシスタントの顧客の音声録音を永久に保存します。音声録音を削除する方法の詳細については、「Alexa 音声録音を自動的に削除する (Delete Alexa Voice Recordings Automatically)」を参照してください。
- 会話の録音を停止するには、Alexa 対応デバイスのマイクをオフにします。
- Alexa デバイスを使用する際の安全性を確保し、プライバシーを保護するために、強力なパスワードを選択したり音声購入時にピンを使用したりするなどの対策を講じてください。
- 正規のスキルのみをインストールまたは有効化します。
- ServiceNow Rest API を呼び出すときは、AWS Lambda の適切な認証情報管理を確認してください。
- 必要な AWS Lambda 関数に Alexa Skills Kit トリガーを追加して、必要なスキルのみが AWS Lambda 関数にアクセスできるように確保します。これらのトリガーを使用して AWS Lambda 関数へのアクセスに必要なスキルのみを許可できます。詳細については、「Lambda 関数のトリガーの設定 (Configure the trigger for a Lambda function)」を参照してください。

  注: スキルのエンドポイントとして AWS Lambda 関数を使用します。カスタム Web サービスを使用している場合は、スキルを検証します。詳細については、「Web サービスとしてのカスタムスキルのホスト (Host a Custom Skill as a Web Service)」を参照してください。

- 環境変数を使用して、AWS Lambda 関数に機密データを安全に保存できます。詳細については、「AWS Lambda 環境変数の使用」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Amazon Alexa スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
インテント管理	インテントを作成	指定されたスキルとロケールのインテントを作成します。
	インテントを削除	指定されたスキルから指定されたインテントを削除します。
	インテントを検索	指定されたスキルとロケールで利用可能なインテントをリストします。
	インテントを更新	指定されたスキルとロケールのインテントを更新します。
インタラクションモデル管理	インタラクションモデルを取得	指定されたスキルのインタラクションモデルスキーマを取得します。
	インタラクションモデルバージョンを検索	指定されたスキルの利用可能なインタラクションモデルのバージョンをリストします。
	インタラクションモデルを更新	指定されたスキルとロケールのインタラクションモデルを更新します。
スキル管理	スキルを作成	指定されたベンダー ID のスキル作成要求を送信します。
	スキルを削除 (Delete Skill)	指定されたスキルを削除します。
	スキルを取得	指定されたスキルの詳細を取得します。
	スキルステータスを取得	指定されたスキルのステータスを取得します。
	スキルを検索	指定されたベンダー ID のスキルをリストします。
	スキルを更新	指定されたベンダー ID のスキルの更新要求を送信します。
スロットタイプ管理	スロットタイプを作成	指定されたロケールで指定されたスキルのスロットタイプを作成します。
	スロットタイプを検索	指定されたスキルとロケールで利用可能なスロットタイプを一覧表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	スロットタイプを更新	指定されたスキルとロケールで指定されたスロットタイプを更新します。
ベンダー管理	ベンダーを検索	利用可能なすべてのベンダーの詳細を一覧表示します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Amazon Alexa スポークのセットアップ。

Amazon Alexa スポークのセットアップ

Amazon Alexa にカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと Amazon Alexa アカウントをデータ統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Amazon Alexa スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

セキュリティプロファイルの作成

ServiceNow インスタンスで Login with Amazon を使用するには、開発者コンソールでセキュリティプロファイルを作成および登録します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. アドミン認証情報を使用して Amazon Developer Portal にログインします。
2. セキュリティプロファイルを作成します。
   セキュリティプロファイルの作成の詳細については、「Amazon 開発者ドキュメント (Amazon Developer Documentation)」の「LwA セキュリティプロファイルの作成 (Create an LwA Security Profile)」を参照してください。
3. 後で使用するために [クライアント ID] と [クライアントシークレット] の値をコピーして記録します。
4. セキュリティプロファイルを構成し、**[Web 設定 (Web Settings)]** で次の値を指定します。

フィールド	値
許可された作成元 (Allowed Origins)	ServiceNow インスタンス URL。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
許可された戻り先 URL (Allowed Return URLs)	形式 `https://<Instance-Name>.com/oauth_redirect.do` での ServiceNowインスタンスリダイレクト URL

セキュリティポリシーの設定の詳細については、「Amazon 開発者ドキュメント (Amazon Developer Documentation)」の「セキュリティプロファイルへの Web サイトの追加 (Add your Website to your Security Profile)」を参照してください。

OAuth プロバイダーとしてAmazon Alexaを登録

セキュリティプロファイルの構成中に生成された情報を使用し、Amazon Alexa を OAuth プロバイダーとして登録して、ServiceNow インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. **Amazon Alexa** のレコードを開きます。
3. フォームに、次の値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
クライアント ID	セキュリティプロファイルの構成中に作成されたクライアント ID。
クライアント シークレット	セキュリティプロファイルの構成中に作成されたクライアントシークレット。
認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイント。「`https://www.amazon.com/ap/oa`」と入力します。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント。「`https://api.amazon.com/auth/o2/token`」と入力します。
リダイレクト URL	形式 `https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` での OAuth コールバックエンドポイント
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可のタイプ。認証コードを選択します。
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープ。
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプション。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

Amazon Alexa スポークの認証情報レコードの作成

Amazon Alexa アカウント用の認証情報レコードを作成します。Amazon Alexa スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：「`Alexa Cred`」。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
OAuth エンティティ プロファイル	Amazon Alexa を OAuth プロバイダーとして登録する際に作成される OAuth プロファイル。例：`Amazon Alexa default_profile`。
認証情報エイリアス	スポークに関連付けられた認証情報エイリアスです。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。
6. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。
   Amazon ポータルにリダイレクトされます。
7. [許可] をクリックします。
   ServiceNow インスタンスにリダイレクトされて戻ります。

Amazon Alexa スポークの接続レコードの作成

Amazon Alexa アカウントの接続レコードを作成します。Amazon Alexa スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Amazon Alexa でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. エイリアスレコード **AmazonAlexa** を開きます。
3. [接続] で、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：「`Alexa 接続`」。
認証情報	Amazon Alexa スポーク用に作成された認証情報レコード。例：「`Alexa Cred`」。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続 URL	Amazon Alexa に接続するためのベース URL。「`https://api.amazonalexa.com`」と入力します。
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメイン。

5. [属性] タブで、[バージョン] に「`v1`」と入力します。
6. [送信] をクリックします。

Amazon Alexa スポークの Webhook のセットアップ

Webhook レジストリを作成して、Amazon Alexa アカウントから ServiceNow インスタンスへの受信要求を認証します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. フィルターナビゲーターで、「`token_verification.list`」と入力します。
   トークン検証 [token_verification] テーブルのレコードが表示されます。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、次の値を入力します。

トークン検証フォーム

フィールド	説明
名前	トークンレコードを識別する名前。例：「`Alexa トークン`」。
説明	トークンの簡単な説明。
トークン	トークンの値。この値は、使用される前に暗号化されます。

4. [送信] をクリックします。
5. **[Alexa Webhooks]** > **[Alexa Webhook** レジストリ **(Alexa Webhook Registries)]** に移動します。
6. [新規] をクリックします。
7. フォームに、次の値を入力します。

Alexa Webhook レジストリフォーム

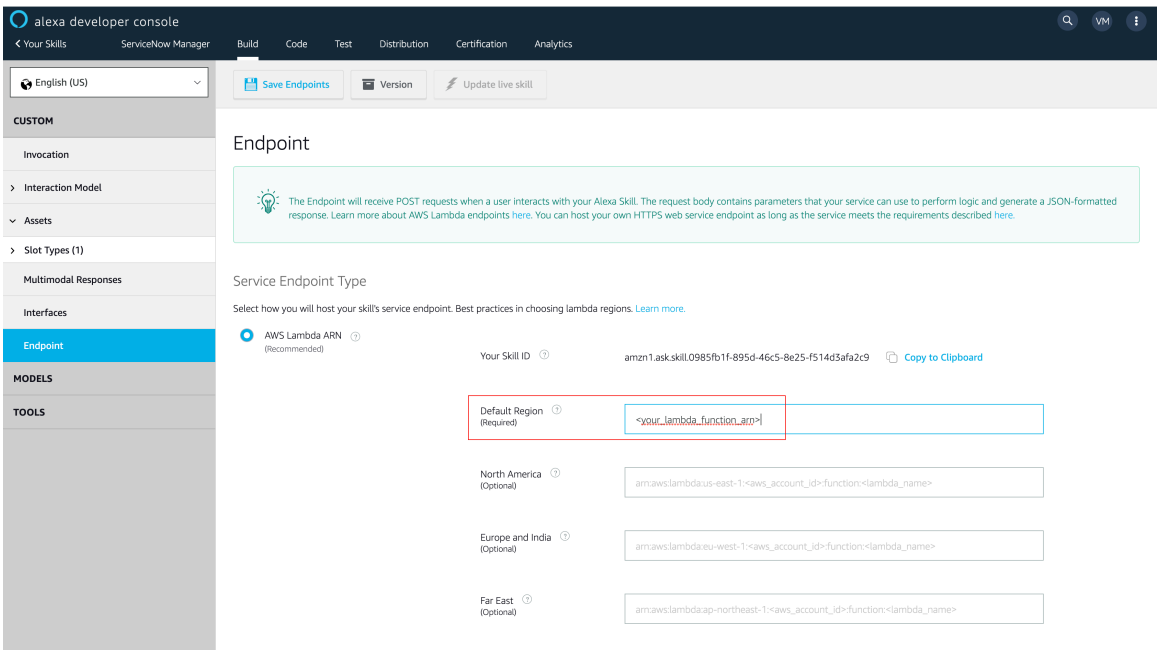
フィールド	説明
名前	Webhook レジストリレコードを識別する名前。例：「`Alexa トークン`」。
説明	Webhook レジストリレコードの簡単な説明。
トークン	作成したトークン。例：「`Alexa トークン`」。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
パス	スクリプト化された REST エンドポイント。デフォルトのエンドポイントを利用できます。要件に応じてデフォルト値を変更できます。

8. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
9. [コールバック **URL**] をクリックします。
   Webhook コールバック URL が確認メッセージに表示されます。この値をコピーして記録します。
10. AWS Management Console にログインします。
11. AWS Lambda 関数で、Webhook コールバック URL を指定し、変更を保存します。

12. Alexa 開発者コンソール にログインします。
13. [ビルド] > [カスタム] > [エンドポイント] に移動し、構成した AWS Lambda 関数の ARN を指定します。



Amazon CloudWatch スポーク

ServiceNow インスタンスを Amazon Cloudwatch と統合します。ServiceNow インスタンスから Amazon Web Services (AWS) リソースとアプリケーションを管理および監視します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークは Amazon CloudWatch バージョン 2010-08-01 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークバージョン

Amazon CloudWatch スポーク v1.0.2 が最新バージョンです。

スポークの要件

Amazon Cloudwatch アカウントへのフルアクセス権を持つユーザー。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Amazon CloudWatch スポークは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Amazon Web Services (AWS) リソースとアプリケーションの監視タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アラーム管理	複合アラームを作成	複合アラームを作成します。
	複合アラームを削除	指定したアラームを削除します。
	アラームを検索	指定されたアラームのリストを取得します。
	アラームのステータスを設定	テストのために一時的なステータスをアラームにアサインします。
例外管理	例外検出機能を作成	CloudWatch メトリクスの例外検出モデルを作成します。
	例外検出機能を削除	指定された例外検出モデルをアカウントから削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
メトリクス管理	メトリクスアラームを削除	指定したアラームを削除します。
	メトリクスデータを検索	単一の要求でさまざまなメトリクスを取得します。
	メトリクスアラームをアップサート	新しいアラームを作成するかアラームを更新し、アラームを指定されたメトリクス、メトリクスの計算式、または例外検出モデルに関連付けます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Amazon CloudWatch スポークの設定。

Amazon CloudWatch スポークの設定

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Amazon CloudWatch を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Amazon CloudWatch スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Amazon Cloudwatch スポークの認証情報レコードの作成

Amazon Cloudwatch の認証情報レコードを作成 。Amazon Cloudwatch スポークの接続および資格情報エイリアスでは、この認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
4. フォームに、次の値を入力します。

AWS 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例： Amazon Cloudwatch Cred。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アクセスキー ID	AWS アカウントのアクセスキー ID。 Amazon Cloudwatch へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	AWS アカウントの秘密アクセスキー。 Amazon Cloudwatch へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[AmazonCloudWatchAlgo]** を選択します。 注: ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。
認証情報エイリアス	スポークに関連付けられた認証情報エイリアス。`AWS_Cloud_Watch`

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

Amazon Connect スポーク

ServiceNow インスタンスから Amazon Connect アカウントを使用して、音声、チャット、およびタスク全体でカスタマーサービスを管理および提供します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Amazon Connect スポーク v1.2.0 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Amazon Connect API バージョン 2017-08-08 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Amazon Connect へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IAM でユーザーを作成し、必要なアクセス権を提供する方法の詳細については、「AWS のドキュメント」サイトの 「AWS 認証情報の理解と取得」 ページを参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート：データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Amazon Connect スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Amazon Connect タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
問い合わせフロー管理 (Contact Flow Management)	問い合わせフローを作成 (Create contact flow)	指定された Amazon Connect インスタンスの問い合わせフローを作成します。
	問い合わせフローの詳細を取得 (Get Contact Flow Details)	指定された問い合わせフローの詳細を取得します。
	問い合わせフローを検索 (Look up Contact Flows)	問い合わせフローのリストを取得します。
	問い合わせフローのコンテンツを更新	指定された問い合わせフローのコンテンツを更新します。
	問い合わせフロー名を更新 (Update Contact Flow Name)	指定された問い合わせフローの名前を更新します。
連絡先管理	問い合わせの記録を再開 (Resume Contact Recording)	問い合わせが録音されていたときに、問い合わせの録音の一時停止を使用して録音が一時停止された場合に、コールの録音を再開します。現時点では音声録音のみがサポートされています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	問い合わせの記録を開始 (Start Contact Recording)	エージェントがコールに参加したときに、問い合わせの記録を開始します。現時点では音声録音のみがサポートされています。
	送信音声問い合わせを開始 (Start Outbound Voice Contact)	連絡先にコールを発信し、問い合わせフローを開始します。
	問い合わせを停止 (Stop Contact)	指定された問い合わせを終了します。
	問い合わせの記録を停止 (Stop Contact Recording)	コールの記録を停止します。問い合わせの記録の停止を使用して進行中のコールの記録を停止した場合、問い合わせの記録の再開を使用することはできません。現時点では音声録音のみがサポートされています。
	問い合わせの記録を一時停止 (Suspend Contact Recording)	問い合わせが記録されているときにコールの記録を一時停止します。
	連絡先属性を取得	指定された連絡先の連絡先属性を取得します。
	連絡先属性を更新	指定された連絡先に関連付けられたユーザー定義の連絡先属性を作成または更新します。
インスタンス管理	インスタンスを作成	サポートされているすべてのチャネルを有効にして、Amazon Connect インスタンスを開始します。
	インスタンスを削除	指定したインスタンスを削除します。
	インスタンスの詳細を取得	指定されたインスタンスの詳細を取得します。
	業務時間を検索	業務時間のリストを取得します。
	インスタンスを検索	インスタンスのリストを取得します。
	電話番号を検索	電話番号のリストを取得します。
	プロンプトを検索	プロンプトのリストを取得します。
	キューを検索	キューのリストを取得します。
	セキュリティプロファイルを検索	セキュリティプロファイルのリストを取得します。
メトリクス管理	現在のメトリクスデータを取得	指定された Amazon Connect インスタンスからリアルタイムのメトリクスデータを取得します。
	メトリクスデータを取得	指定された Amazon Connect インスタンスから履歴メトリクスデータを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		注: • 時間は、11:00、11:05、11:10 などの 5 分間隔で指定する必要があり、開始時間のタイムスタンプよりも後にする必要があります。 • 開始時間と終了時間の間の時間範囲は 24 時間未満にする必要があります。
ルーティングポリシー管理	ルーティングプロファイルキューを関連付ける	一連のキューをルーティングプロファイルに関連付けます。
	ルーティングプロファイルを作成	ルーティングプロファイルを作成します。
	ルーティングプロファイルキューの関連付けを解除	ルーティングプロファイルから、指定されたキューのセットの関連付けを解除します。
	ルーティングプロファイルの詳細を取得	指定されたルーティングプロファイルの詳細を取得します。
	ルーティングプロファイルキューを検索	ルーティングプロファイルキューのリストを取得します。
	ルーティングプロファイルを検索	ルーティングプロファイルのリストを取得します。
	ルーティングプロファイルの同時実行を更新	指定されたルーティングプロファイルの同時実行を更新します。
	ルーティングプロファイルのデフォルトの送信キューを更新	指定されたルーティングプロファイルのデフォルトの送信キューを更新します。
	ルーティングプロファイル名を更新	指定されたルーティングプロファイル名を更新します。
	ルーティングプロファイルキューを更新	ルーティングプロファイルの一連のキューに関連付けられたプロパティを更新します。
タグ管理	タグをリソースに追加	タグのセットを指定されたリソースに関連付けます。
	リソースのタグを検索	指定されたリソースに関連付けられているすべてのタグを取得します。
	リソースからタグを削除	リソースからタグの関連付けを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
ユーザー管理	ユーザーを作成	指定された Amazon Connect インスタンスのユーザーアカウントを作成します。
	ユーザーを削除	指定されたユーザーを削除します。
	ユーザーの詳細を取得	指定されたユーザーの詳細を取得します。
	ユーザー階層グループを取得	ユーザー階層グループの詳細を取得します。
	ユーザー階層構造を取得	ユーザー階層構造の詳細を取得します。
	ユーザー階層グループを検索	ユーザー階層グループのリストを取得します。
	ユーザーを検索	ユーザーのリストを取得します。
	ユーザー階層を更新	指定されたユーザー階層を更新します。
	ユーザー ID 情報を更新	指定されたユーザー識別情報を更新します。
	ユーザーの電話構成を更新	指定されたユーザーの電話構成の詳細を更新します。
	ユーザールーティングプロファイルを更新	指定されたユーザールーティングプロファイルを更新します。
	ユーザーセキュリティプロファイルを更新	指定されたユーザーセキュリティプロファイルの詳細を更新します。
	エージェントステータスのルックアップ	エージェントステータスのリストを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Amazon Connect スポークのセットアップ。

Amazon Connect スポークのセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Amazon Connect アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Amazon Connect スポークの有効化
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Amazon Connect** のレコードを開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`Amazon Connect Cred`」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	Amazon Connect へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	Amazon Connect へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証情報エイリアス	関連する認証情報レコード。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[Amazon Connect]** を選択します。 **注:** ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

6. [送信] をクリックします。

タスクの結果
Amazon Connect スポークの認証情報レコードが作成されます。

Amazon DynamoDB スポーク

ServiceNow インスタンスから Amazon DynamoDB データベース内のストリーム、テーブル、およびタグを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Amazon DynamoDB Spoke v1.0.1 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート：データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン 2012-08-10, 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Amazon DynamoDB へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

IAM でユーザーを作成し、必要なアクセス権を提供する方法の詳細については、「AWS のドキュメント」サイトの 「AWS 認証情報の理解と取得」 ページを参照してください。

スポークのアクション

Amazon DynamoDB スポークでは、Now Platform でイベントが発生したときに Amazon DynamoDB タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ストリーム管理	ストリームを無効化	指定されたテーブルのストリームを無効にします。
	ストリームを有効化	指定されたテーブルのストリームを有効にします。
	シャード反復子を取得	シャード反復子を返します。後続のレコード取得要求でシャード反復子を使用して、シャードからストリームレコードを読み取ります。
	ストリームを取得	指定されたストリームに関する情報を返します。
	複数のレコードの検索	指定されたシャードからストリームレコードを取得します。
	ストリームを検索	現在のアカウントに関連付けられているすべてのストリームのリストを返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
テーブル管理	バックアップを作成	既存のテーブルのバックアップを作成します。
	テーブルの作成	アカウントにテーブルを作成します。
	バックアップを削除	テーブルの既存のバックアップを削除します。
	テーブルを削除	指定されたテーブルを削除します。
	バックアップを取得	既存のバックアップの詳細を取得します。
	継続バックアップを取得	指定したテーブルの継続バックアップと特定の時点の復旧ステータスを取得します。
	テーブルを取得	テーブルに関する情報を取得します。
	バックアップを検索	指定されたテーブルのアカウントまたはバックアップに関連付けられたすべてのバックアップのリストを取得します。
	テーブルを検索	テーブル名のリストを取得します。
	バックアップからテーブルを復元	既存のバックアップからテーブルを作成します。
	テーブルを特定の時点に復元	指定したテーブルを最早復元可能日時と最遅復元可能日時の間の特定の時点まで復元します。
	継続バックアップを更新	指定されたテーブルの特定の時点の復旧を有効または無効にします。
	テーブルを更新	指定されたテーブルを更新します。
タグ管理	タグを DynamoDB リソースに追加	DynamoDB リソースにタグを追加します。
	DynamoDB リソースのタグを検索	DynamoDB リソースのタグを一覧表示します。
	DynamoDB リソースからタグを削除	DynamoDB リソースからタグを削除します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

注: Amazon DynamoDB スポークには、2 つの認証情報エイリアスを使用できます。

スポークの設定については、「 Amazon DynamoDB スポークのセットアップ。

Amazon DynamoDB スポークのセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Amazon DynamoDB アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Amazon DynamoDB スポークの有効化
- 必要なロール：admin

Amazon DynamoDB スポークの認証情報レコードの作成

Amazon DynamoDB アカウント用に 2 つの認証情報レコードを作成します。Amazon DynamoDB スポーク接続および資格情報エイリアスは、これらの認証情報レコードを使用して Amazon DynamoDB アカウントでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Amazon DynamoDB** のレコードを開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`Amazon DynamoDB Cred`」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	Amazon DynamoDB へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	Amazon DynamoDB へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証情報エイリアス	関連する Amazon DynamoDB 認証情報レコード。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[Amazon DynamoDB]** を選択します。 **注:** ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

6. [送信] をクリックします。
7. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
8. **[Amazon DynamoDB Streams]** のレコードを開きます。
9. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
10. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
11. フォームに、次の値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`Amazon DynamoDB Streams Cred`」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	Amazon DynamoDB へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	Amazon DynamoDB へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証情報エイリアス	関連する Amazon DynamoDB Streams 認証情報レコード。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[Amazon DynamoDB Streams]** を選択します。 **注:** ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

12. [送信] をクリックします。

Amazon EBS スポーク

ServiceNow インスタンスから Amazon EBS のブロックレベルのストレージボリュームとスナップショットを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブ サブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート：データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Amazon EBS Spoke v1.0.2 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン 2016-11-15 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

注: 異なる API バージョンを使用する場合は、すべてのスポークアクションで API バージョンを変更してください。

スポークの要件

- Amazon EC2 へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

IAM でユーザーを作成し、必要なアクセス権を提供する方法の詳細については、「AWS のドキュメント」サイトの 「AWS 認証情報の理解と取得」 ページを参照してください。

スポークのアクション

Amazon EBS スポークでは、ServiceNow でイベントが発生したときに Amazon EBS タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
Elastic Block Store (EBS) 管理	ボリュームを添付	実行中のインスタンスまたは停止されたインスタンスに EBS ボリュームを接続します。
	スナップショットを作成	EBS ボリュームのスナップショットを作成します。
	ボリュームを作成	同じ可用性ゾーン内のインスタンスに接続できる EBS ボリュームを作成します。
	スナップショットを削除	指定されたスナップショットを削除します。
	ボリュームを削除	指定された EBS ボリュームを削除します。
	ボリュームをデタッチ	インスタンスから EBS ボリュームを添付解除します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Amazon EBS スポークのセットアップ。

Amazon EBS スポークのセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Amazon EBS アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Amazon EBS スポークの有効化
- 必要なロール：admin

Amazon EBSスポークの認証情報レコードを作成

Amazon EBSアカウント用の認証情報レコードを作成します。Amazon EBS スポーク接続および資格情報エイリアスは、この認証情報レコードを使用して Amazon EBS でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Amazon EBS** のレコードを開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`EBS 認証情報`」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	Amazon EC2 へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	Amazon EC2 へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証情報エイリアス	関連する認証情報レコード。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[AmazonEBSAuthAlgo]** を選択します。 注: ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

6. [送信] をクリックします。

タスクの結果
Amazon EBS スポークの認証情報レコードが作成されます。

Amazon EC2 スポーク

ServiceNow インスタンスを Amazon Elastic Compute Cloud (EC2) と統合します。ServiceNow インスタンスから Amazon インスタンス、Amazon マシンイメージ (AMI)、キーペア、およびタグを管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Amazon EC2 スポーク v1.3.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン 2016-11-15 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Amazon EC2 へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

スポークのフローおよびサブフロー

このスポークにはフローまたはサブフローがありません。

使用可能なサンプル対話型サブフロー

Now Assist for Conversational Spokes をインストールし、統合ハブスポークの会話機能の使用を開始します。詳細については、「Now Assist in Conversational Spokes」を参照してください。

サンプル対話型サブフロー

対話型サブフロー	説明
イメージを検索 - サンプル	指定されたイメージに関する情報を返します。
インスタンスを実行 - サンプル	指定されたインスタンスを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Amazon EC2スポークでは、ServiceNowでイベントが発生したときにAmazon EC2タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

スポークのアクション

カテゴリ	アクション	説明
Amazon マシンイメージ管理	イメージをコピー	指定されたソースリージョンから現在のリージョンに Amazon マシンイメージ (AMI) をコピーします。
	イメージを作成	実行中または停止された Amazon EBS でサポートされたインスタンスから Amazon EBS でサポートされた AMI を作成します。
	イメージを登録解除	指定された AMI を登録解除します。
	イメージ属性をリスト	指定された AMI 属性を取得します。
	イメージをリスト	指定された AMI を取得します。
インスタンス管理	インスタンス属性を取得	指定されたインスタンスの指定された属性を取得します。
	インスタンスステータスを取得	指定されたインスタンスのステータスを取得します。
	パスワードデータを取得	アクティブな Windows インスタンスの暗号化されたアドミンパスワードを取得します。
	インスタンスタイプをリスト	AWS リージョン内のすべてのインスタンスタイプのリストを取得します。
	インスタンスをリスト (List Instances)	すべてのインスタンスのリストを取得します。
	インスタンスを監視	すべてのアクティブなインスタンスの監視を有効にします。
	インスタンスを再起動	指定されたインスタンスを再起動します。
	インスタンスを実行	AMI を使用して、指定された数のインスタンスを起動します。
	インスタンスを開始	指定されたインスタンスを開始します。
	インスタンスを停止	指定されたインスタンスを停止します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
	インスタンスを終了 (Terminate Instances)	指定されたインスタンスをシャットダウンまたは終了します。
	インスタンスの監視を解除	指定された実行中のインスタンスの監視を無効にします。
	インスタンス属性を更新	指定されたインスタンスの指定された属性を更新します。 **注:** 指定できる属性は一度に 1 つだけです。属性を更新する前に、インスタンスが停止していることを確認してください。
キーペア管理	キーペアを作成	2048 ビット SSH-2 RSA キーペアを作成します。
	キーペアを削除	指定されたキーペアを削除します。
	キーペアをリスト	指定されたキーペアまたはすべてのキーペアのリストを取得します。
リージョンと可用性ゾーンの管理	可用性ゾーンを取得	指定された AWS リージョンの可用性ゾーンのリストを取得します。
	リージョンをリスト	すべての AWS リージョンのリストを取得します。
タグ管理	タグを作成	指定されたリソースのセットから指定されたタグのセットを追加または上書きします。
	タグの削除	指定されたリソースのセットから指定されたタグのセットを削除します。
	タグをリスト	指定されたリージョンのタグのリストを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Amazon EC2 スポーク のセットアップ。

Amazon EC2 スポーク のセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Amazon EC2 をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションの要求
- Amazon EC2 スポーク の有効化
- 必要なロール：admin

Amazon EC2 スポーク の認証情報レコードの作成

Amazon EC2 インスタンスの認証情報レコードを作成します。 Amazon EC2 スポーク 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. Amazon_EC2 のレコードを開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`AWS 認証情報`」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	EC2 へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	EC2 へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証情報エイリアス	関連する認証情報レコード。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[AmazonEC2AuthAlgo]** を選択します。 **注:** デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないでください。

6. [送信] をクリックします。

Amazon Elastic Container Service スポーク

ServiceNow インスタンスから Amazon Elastic Container Service アカウントでクラスター、インスタンス、サービスなどを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Amazon Elastic Container Service スポーク v1.0.2 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Amazon Elastic Container Service API バージョン 2014-11-13 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Amazon Elastic Container Service へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

IAM でユーザーを作成し、必要なアクセス権を提供する方法の詳細については、「AWS のドキュメント」サイトの「AWS 認証情報の理解と取得」ページを参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Amazon Elastic Container Service スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Amazon Elastic Container Service タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
クラスター管理	クラスターを作成	新しい Amazon ECS クラスターを作成します。
	クラスターを削除	指定されたクラスターを削除します。
	クラスターを検索 (Look up Cluster)	指定したクラスターを取得します。
	クラスターを検索	既存のクラスターのリストを取得します。
	クラスター設定を更新	指定されたクラスターの設定を更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
インスタンス管理	コンテナインスタンスを登録解除	指定されたクラスターから Amazon ECS コンテナインスタンスを登録解除します。
	コンテナインスタンスを検索	Amazon Elastic Container Service コンテナインスタンスを一覧表示します。
	コンテナインスタンスを登録	指定されたクラスターに EC2 インスタンスを登録します。
サービス管理	サービスを作成	指定されたタスク定義から必要な数のタスクを実行および維持します。
	サービスを削除	クラスター内の指定されたサービスを削除します。
	サービスを検索	クラスターで実行されている、指定されたサービスを取得します。
	サービスを検索	指定されたクラスターで実行されているサービスを取得します。
	サービスを更新	サービスのパラメーターを更新します。
タスク定義管理	タスク定義を登録解除	サービス内の指定したタスクを削除します。
	タスク定義を検索	指定したタスク定義をファミリーおよびリビジョン別に登録解除します。
	タスク定義を検索	指定したタスク定義をファミリーおよびリビジョン別に登録解除します。
	タスク定義を登録	指定されたクラスターとサービスにタスクセットを作成します。
タスク管理	タスクセットを作成	指定されたクラスターとサービスにタスクセットを作成します。
	タスクセットを削除	サービス内の指定したタスクを削除します。
	タスクセットを検索	指定されたクラスターとサービスのタスクセットを一覧表示します。
	タスクを実行	指定されたタスク定義を使用してタスクを開始します。
	タスクを開始	指定された 1 つまたは複数のコンテナインスタンスの指定されたタスク定義からタスクを開始します。
	タスクを停止	指定された実行中のタスクを停止します。
	タスクセットを更新	指定されたタスクセットを変更します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Amazon Elastic Container Service スポークのセットアップ。

Amazon Elastic Container Service スポークのセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Amazon Elastic Container Service アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Amazon Elastic Container Service スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Amazon Elastic Container Service スポークの認証情報レコードを作成します

Amazon Elastic Container Service アカウント用の認証情報レコードを作成します。Amazon Elastic Container Service スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
4. フォームに、次の値を入力します。

AWS 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：「`Amazon ECS Cred`」。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	Amazon Elastic Container Service へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	Amazon Elastic Container Service へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[AmazonECSAuthAlgo]** を選択します。 **注:** ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。
認証情報エイリアス	スポークに関連付けられた認証情報エイリアスです。

5. [送信] をクリックします。

Amazon RDS スポーク

ServiceNow インスタンスを Amazon Relational Database Service (RDS) とデータ連携します。このスポークを使用して、Amazon RDS でのセットアップ、運用、スケールなどのさまざまな操作を実行するプロセスを管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Amazon RDS スポーク v1.0.4 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン 2014-09-01 と 2014-10-31 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Amazon RDS へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

スポークのフローおよびサブフロー

このスポークにはフローまたはサブフローがありません。

スポークのアクション

Amazon RDSスポークでは、ServiceNowでイベントが発生したときにAmazon RDSタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

スポークのアクション

カテゴリ	アクション	説明
アカウント管理	アカウント属性をリスト	アカウントの属性のリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
	証明書をリスト	アカウントの証明書のリストを取得します。
DB エンジン管理	DB エンジンをリスト	利用可能なデータベース (DB) エンジンのリストを取得します。
デフォルト	ランダムなパスワードを生成	ランダムなパスワードを生成します。
DB インスタンス管理	DB インスタンスを作成	DB のインスタンスを作成します。
	DB インスタンス読み込みレプリカを作成	DB インスタンスの読み込みレプリカを作成します。
	DB インスタンスを削除	既存のプロビジョニングされた DB インスタンスを削除します。 **注:** DB インスタンスを削除すると、そのインスタンスの自動化されたバックアップもすべて削除され、復旧できなくなります。
	DB インスタンスをリスト	プロビジョニングされた DB インスタンスのリストを取得します。
	予約済み DB インスタンスをリスト	予約された DB インスタンスのリストを取得します。
	DB インスタンス読み込みレプリカを昇格	DB インスタンスの読み込みレプリカをスタンドアロン DB インスタンスに昇格させます。
	DB インスタンスを再起動	DB インスタンスを再起動します。
	DB スナップショットから DB インスタンスを復元	DB スナップショットから DB インスタンスを作成します。
	DB インスタンスを開始	DB インスタンスを開始します。
	DB インスタンスを停止	DB インスタンスを停止します。
DB スナップショット管理	DB スナップショットを作成	DB インスタンスのスナップショットを作成します。
	DB スナップショットを削除	DB インスタンスのスナップショットを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
	DB スナップショットをリスト	DB インスタンスのスナップショットのリストを取得します。
	DB スナップショットを更新	DB インスタンスのスナップショットを更新します。
イベント管理	イベントサブスクリプションを作成	RDS イベント通知サブスクリプションを作成します。
	イベントサブスクリプションを削除	イベント通知サブスクリプションを削除します。
	イベントカテゴリをリスト	指定したイベントソースタイプまたはすべてのイベントソースタイプのカテゴリのリストを取得します。
	イベントサブスクリプションをリスト	顧客アカウントのすべてのサブスクリプションの説明のリストを取得します。
	イベントをリスト	RDS リソースのイベントのリストを取得します。
	イベントサブスクリプションを更新	既存のイベント通知サブスクリプションを更新します。
グループ管理	DB パラメーターグループを作成	DB パラメーターグループを作成します。
	DB サブネットグループを作成	DB サブネットグループを作成します。 **注:** DB サブネットグループには、Amazon Web Services (AWS) リージョンの少なくとも 2 つの可用性ゾーン (AZ) に少なくとも 1 つのサブネットが含まれている必要があります。
	オプショングループを作成	オプショングループを作成します。
	DB パラメーターグループを削除	指定された DB パラメーターグループを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
		注: DB パラメーターグループを削除する前に、DB パラメーターグループが DB インスタンスに関連付けられていないことを確認してください。
	DB サブネットグループを削除	DB サブネットグループを削除します。
	オプショングループを削除	既存のオプショングループを削除します。
	DB パラメーターグループをリスト	DB パラメーターグループのリストを取得します。
	DB サブネットグループをリスト	DB サブネットグループの説明のリストを取得します。 注: DB サブネットグループ名が指定されている場合、リストには指定された DB サブネットグループの説明のみが含まれます。
	オプショングループをリスト	オプショングループのリストを取得します。
	DB パラメーターグループをリセット	DB パラメーターグループのパラメーターをエンジンまたはシステムのデフォルト値に変更します。
	DB パラメーターグループを更新	指定した DB パラメーターグループのパラメーターを更新します。
	DB サブネットグループを更新	既存の DB サブネットグループを更新します。 注: DB サブネットグループには、Amazon Web Services (AWS) リージョンの少なくとも 2 つの可用性ゾーン (AZ) に少なくとも 1 つのサブネットが含まれている必要があります。
	オプショングループを更新	既存のオプショングループを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
ログ管理	DB ログファイルをリスト	DB インスタンスのすべてのログファイルのリストを取得します。
	DB ログファイルを表示	指定したログファイルの一部またはすべてを表示します。 注: ログファイルのサイズが 1 MB を超えることはできません。
タグ管理	タグを RDS リソースに追加	RDS リソースにタグを追加します。
	RDS リソースのタグをリスト	RDS リソースのタグのリストを取得します。
	RDS リソースからタグを削除	RDS リソースからタグを削除します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Amazon RDS スポーク のセットアップ。

Amazon RDS スポーク のセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Amazon RDS をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Amazon RDS スポークの有効化
- 必要なロール：admin

Amazon RDS スポーク の認証情報レコードの作成

Amazon RDS インスタンスの認証情報レコードを作成します。 Amazon RDS スポーク 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. Amazon RDS のレコードを開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
5. フォームの各フィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「AWS 認証情報」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	Amazon RDS へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	Amazon RDS へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証情報エイリアス	関連する認証情報レコード。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[Amazon RDS** 認証アルゴリズム] を選択します。 注: デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないでください。

6. [送信] をクリックします。

Amazon Route 53 スポーク

ServiceNow インスタンスを Amazon Route 53 とデータ連携します。ServiceNow インスタンスからドメイン登録、ドメイン名システム (DNS) ルーティング、および健全性チェックを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

サポートされているバージョン

このスポークは Amazon Route 53 API バージョン 2013-04-01 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークバージョン

Amazon Route 53 スポークは v1.0.2 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

- Amazon Route 53 アカウントへのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Amazon Route 53 スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Amazon Route 53 タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ドメイン管理	ドメインの可用性を確認 (Check Domain Availabilit)	ドメイン名の可用性を確認して返します。 **注:** ドメイン名が処理待ちステータスの場合、ステータスが処理されるまで、ドメイン名の可用性を再度確認する必要があります
	ドメインの詳細を取得	現在の AWS アカウントに関連付けられている、指定されたドメインに関する詳細情報を取得します。
	ドメイン提案を検索	提案されたドメイン名のリストを取得します。
	ドメインを検索	現在の AWS アカウントの Amazon Route 53 に登録されているすべてのドメイン名を取得します。
	請求を表示	指定された期間の現在の AWS アカウントのすべてのドメイン関連の請求レコードを取得します。
ホストゾーン管理	ホストゾーンを作成	新しい公開またはプライベートホストゾーンを作成します。
	ホストゾーンを削除	ホストゾーンを削除します。
	変更を取得	変更バッチ要求の現在のステータスを取得します。
	ホストゾーンを取得	指定されたホストゾーンに関する情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ホストゾーン数を取得	アカウントのホストゾーンの合計数を取得します。
	ホストゾーンの制限を取得	指定されたホストゾーンの指定された制限を取得します。
	ホストゾーンを検索	関連付けられている公開およびプライベートホストゾーンのリストを取得します。
	名前でホストゾーンを検索	ホストゾーンのリストをアルファベット順に取得します。
	ホストゾーンのコメントを更新	指定されたホストゾーンのコメントを更新します。
レコードセット管理	位置情報管理レコードセットを削除	指定したドメイン名またはサブドメイン名の信頼できる DNS 情報を含む位置情報管理リソースレコードセットを削除します。
	単純なレコードセットを削除	指定したドメイン名またはサブドメイン名の信頼できる DNS 情報を含む単純なリソースレコードセットを削除します。
	重み付きレコードセットを削除	指定したドメイン名またはサブドメイン名の信頼できる DNS 情報を含む重み付きリソースレコードセットを削除します。
	レコードセットを検索	指定されたホストゾーンのリソースレコードセットのリストを取得します。
	DNS 回答をテスト	指定したレコード名とタイプに対する DNS 要求への応答として Amazon Route 53 から返される値を取得します。
	位置情報管理レコードセットをアップサート	指定したドメイン名またはサブドメイン名の信頼できる DNS 情報を含む位置情報管理リソースレコードセットを作成するか、または該当する既存の位置情報管理リソースレコードセットを更新します。
	単純なレコードセットをアップサート	指定したドメイン名またはサブドメイン名の信頼できる DNS 情報を含む単純なレコードセットを作成するか、または該当する既存の単純なレコードセットを更新します。
	重み付きレコードセットをアップサート	指定したドメイン名またはサブドメイン名の信頼できる DNS 情報を含む重み付きリソースレコードセットを作成するか、または該当する既存の位重み付きリソースレコードセットを更新します。
タグ管理	ドメインのタグを追加	タグのセットをドメインにアサインします。
	ホストゾーンのタグを追加	タグのセットをホストゾーンにアサインします。
	ドメインのタグを検索	指定されたドメインに関連付けられているタグのリストを取得します。
	ホストゾーンのタグを検索	指定されたドメインに関連付けられているタグのリストを取得します。
	ドメインからタグを削除	ドメインに関連付けられているタグを削除します。
	ホストゾーンからタグを削除	ホストゾーンに関連付けられているタグを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Amazon Route 53 スポークの設定。

Amazon Route 53 スポークの設定

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Amazon Route 53 をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Amazon Route 53 スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

Amazon Route 53 スポークの認証情報レコードの作成

Amazon Route 53 カスタムアプリケーションの認証情報レコードを作成します。Amazon Route 53 スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
4. フォームに、次の値を入力します。

AWS 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：Amazon Route 53 Cred。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	AWS アカウントのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	AWS アカウントの秘密アクセスキー。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[Amazon Route53]** を選択します。 **注:** ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証情報エイリアス	スポークに関連付けられた認証情報エイリアス。**sn_amzn_rout53_spk.AmazonRoute53**

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

Amazon S3 スポーク

ServiceNow を Amazon S3 とデータ連携します。ServiceNow インスタンスから Amazon S3 内のバケット、オブジェクト、タグ、および関連する ACL を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Amazon S3 スポーク v1.2.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン 2010-03-31 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

サポートされている地域

現在、スポークは政府または連邦政府の地域をサポートしていません。

スポークの要件

- Amazon S3 へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

キーの作成とアクセスの詳細については、「AWS セキュリティ認証情報」のドキュメント」を参照してください。

スポークのアクション

Amazon S3 スポーク は、ServiceNow でイベントが発生したときに Amazon S3 タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
バケット管理	バケットを作成	Amazon S3でバケットを作成します。
	バケットを検索	Amazon S3 バケットを一覧表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
オブジェクト管理	オブジェクトをコピー	ソースから宛先にオブジェクトをコピーします。
	オブジェクトを削除	バケットから指定されたオブジェクトを削除します。
	バケットストリームでオブジェクトを検索	指定された Amazon S3 バケット内のオブジェクトを一覧表示します。
	S3 オブジェクトを ServiceNow レコードにダウンロード	要求されたオブジェクトを Amazon S3 からダウンロードし、ServiceNow のレコードに添付します。
	ServiceNow 添付ファイルを S3 にアップロード	システム添付ファイルテーブル (sys_attachment) から指定された Amazon S3 バケットにファイルをアップロードします。
権限管理	ACL を作成	バケットの新しい ACL を作成し、既存の ACL を削除します。
	ACL を検索	要求されたリソースの ACL の詳細を取得します。
タグ管理	タグを検索	指定された Amazon S3 リソースのタグを一覧表示します。
	タグを更新	指定された Amazon S3 リソースのタグを更新します。

注: スポークアクションは Amazon S3 からの通知に登録しなくても個別に使用できます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Amazon S3 スポーク のセットアップ。

Amazon S3 スポーク のセットアップ

ServiceNow の添付ファイルの代わりに Amazon S3 をファイルストレージとして使用します。Amazon S3 ストレージを ServiceNow インスタンスに追加して、ユーザーが ServiceNow レコード内の Amazon S3 ファイルを参照できるようにします。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションの要求
- Amazon S3 スポーク の有効化
- 必要なロール：admin

Amazon S3 スポーク の認証情報レコードの作成

AWS アカウント用の認証情報レコードを作成します。 Amazon S3 スポーク用の認証情報レコードを作成して、スポークが Amazon S3 ホストに接続できるようにします。接続後、スポークは Amazon S3 でさまざまなアクションを実行できます。

始める前に

AWS アクセスキー ID と秘密アクセスキーを作成します。その方法については、https://docs.aws.amazon.com/powershell/latest/userguide/pstools-appendix-sign-up.html にアクセスしてください。

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Amazon S3** のエイリアスレコードを開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
4. [AWS 認証情報] を選択します。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`S3 認証情報`」と入力します。
有効	[アクティブ] を選択して認証情報レコードを使用します。
アクセスキー ID	AWS アカウントのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	AWS アカウントの秘密アクセスキー。
認証情報エイリアス	`sn_amazon_s3_spokeAmazon S3`
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[Amazon S3]** を選択します。 注: ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

注: アクセスキー ID と秘密アクセスキーを作成するには、AWS コンソールにログインします。アカウントメニューから、[セキュリティ認証情報 **(My Security Credentials)]** を選択します。

6. [送信] をクリックします。

タスクの結果
Amazon S3 スポーク の認証情報レコードが作成されます。

Amazon SNS スポーク

ServiceNow を Amazon SNS とデータ連携します。トピックとサブスクリプションを管理し、ServiceNow インスタンスから Amazon SNS のロールを委任します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

Amazon SNS スポーク スポーク v1.1.0 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン 2010-03-31 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Amazon SNS へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

キーの作成とアクセスの詳細については、「AWS セキュリティ認証情報 」のドキュメント」を参照してください。

スポークのサブフロー

Amazon SNS スポークでは、 Amazon SNS タスクの自動化をデモするためのサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは、Amazon SNS サブスクリプションです。サブフローは、通知、サブスクリプションの確認、および登録解除の確認の 3 つのメッセージタイプを受信します。このサブフローは、 Amazon SNS からイベントを受信するように ServiceNow インスタンスを設定するとトリガーされます。必要な構成の詳細については、「ServiceNow インスタンスでの Amazon SNS からのイベントの受信」を参照してください。

注: スポークサブフローは Amazon SNS からの通知に登録しなくても個別に使用できます。この構成の詳細については、「ServiceNow インスタンスでの Amazon SNS からのイベントの受信」を参照してください。

スポークのアクション

Amazon SNS スポーク は、ServiceNow でイベントが発生したときに Amazon SNS タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
権限管理	権限を追加	トピックのアクセス制御ポリシーにステートメントを追加し、指定されたアクションに指定された AWS アカウントへのアクセス権を付与します。
	権限を削除	トピックのアクセス制御ポリシーからステートメントを削除し、指定されたアクションに指定された AWS アカウントへのアクセス権を取り消します。
サブスクリプション管理	サブスクリプションを確認	以前の登録アクションによってエンドポイントに送信されたトークンを検証することで、エンドポイント所有者にメッセージを受信する意図があることを確認します。
	サブスクリプションを作成	トピックにサブスクリプションを作成します。
	サブスクリプションを削除	トピックのサブスクリプションを削除します。
	サブスクリプション属性を取得	サブスクリプションのすべてのプロパティを取得します。
	サブスクリプションをリスト	特定のリージョンに対するすべてのサブスクリプションのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		注: フローで、このアクションの前に [サブスクリプション属性を取得] アクションを使用して、必要なレコードを入力します。
	トピック別にサブスクリプションをリスト	特定のトピックに対するサブスクリプションのリストを取得します。 注: フローで、このアクションの前に [サブスクリプション属性を取得] アクションを使用して、必要なレコードを入力します。
	サブスクリプション属性を設定	サブスクリプション所有者がサブスクリプションの属性を新しい値に設定できるようにします。
トピック管理	トピックを作成	通知を公開できるトピックを作成します。
	トピックを削除	トピックとそのすべてのサブスクリプションを削除します。
	トピック属性を取得	トピックのすべてのプロパティを取得します。取得されるトピックのプロパティは、ユーザーの権限によって異なる場合があります。
	トピックをリスト (List Topics)	要求者のトピックのリストを取得します。 注: フローで、このアクションの前に [トピック属性を取得] アクションを使用して、必要なレコードを入力します。
	トピックにバッチメッセージを公開	Amazon SNS トピックにバッチメッセージを送信します。
	トピックにメッセージを公開	Amazon SNS トピックにメッセージを送信します。
	トピックの配信ポリシーを設定	トピック所有者が、トピックの配信ポリシーを新しい値に設定できるようにします。
	トピック表示名を設定	トピック所有者が、トピックの表示名を新しい値に設定できるようにします。

注: スポークアクションは Amazon SNS からの通知に登録しなくても個別に使用できます。

スポークモジュール

Amazon SNS スポークは AWS 構成モジュールを ServiceNow インスタンスに追加します。Amazon SNS から ServiceNow インスタンスでイベントを受信する場合は、ここでサブフローの内部名を指定する必要があります。必要な構成の詳細については、「ServiceNow インスタンスでの Amazon SNS からのイベントの受信」を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Amazon SNS スポーク のセットアップ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Amazon SNS スポーク のセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Amazon SNS をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Amazon SNS スポーク の有効化
- 必要なロール：admin

このタスクについて

Amazon SNS から ServiceNow インスタンスでイベントを受信する場合は、「ServiceNow インスタンスでの Amazon SNS からのイベントの受信」を参照してください。ここで説明するスポークの設定によって、スポークのサブフローとアクションを使用できるようになります。

Amazon SNS スポーク の認証情報レコードの作成

AWS アカウント用の認証情報レコードを作成します。 Amazon SNS スポーク は、この認証情報を使用して Amazon SNS でアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Amazon SNS** のレコードを開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[AWS** 認証情報 **(AWS Credentials)]** を選択します。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`SNS 認証情報`」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	AWS アカウントのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	AWS アカウントの秘密アクセスキー。
認証情報エイリアス	関連する認証情報レコード。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[SNS** アルゴリズム **(SNS Algorithm)]** を選択します。 **注:** ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

6. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
Amazon SNS スポーク の認証情報レコードが作成されます。

ServiceNow インスタンスでの Amazon SNS からのイベントの受信

ServiceNow インスタンスで Amazon SNS からイベント (通知、サブスクリプションの確認、および登録解除の確認) を受信します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Amazon SNS スポークの有効化
- 必要なロール：admin

このタスクについて
Amazon SNS スポークを設定しない場合でも、ServiceNow インスタンスで Amazon SNS からのイベントを受信できます。 Amazon SNS スポークを設定してスポークアクションを使用する場合は、「Amazon SNS スポーク のセットアップ」を参照してください。

Amazon SNS スポークのシークレットの作成

Amazon SNS からの要求を許可するクライアントシークレットを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド]に移動します。
2. [スクリプトを実行 (サーバー上で実行される **JavaScript)]** テキストフィールドで、次のコマンドを入力します。
   ```
   gs.info(GlideSecureRandomUtil.getSecureRandomString(32));
   ```
3. [スクリプトを実行] をクリックします。
4. 後で使用するために生成された値をコピーして記録します。

AWS 構成でのレコードの作成

AWS 構成でレコードを作成し、 Amazon SNS スポークからの要求を許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[AWS 構成 (AWS Configurations)]** > [すべての構成 **(All Configurations)]**に移動します。
2. [新規**(New)]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AWS 構成フォーム

フィールド	説明
プロパティ値	Amazon SNS サブスクリプションサブフローの内部名。 例：`amazon_sns_subscription`。 **注:** Amazon SNS サブスクリプションサブフローはサンプルサブフローです。このサブフローのコピーを作成し、それを使用して要件に従ってイベント管理をカスタマイズする必要があります。この場合、カスタマイズされたサブフローの内部名を指定します。
プロパティ名	レコードを識別する名前。
クライアント シークレット	スクリプトによって生成されたクライアントシークレット。クライアントシークレットの生成の詳細については、「Amazon SNS スポークのシークレットの作成」を参照してください。

4. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
5. フォームヘッダーを右クリックし、**[Copy sys_id]** をクリックします。後で使用するため、この値を記録します。

Amazon SNS スポークのベース **API** パスの記録

Amazon SNS からの要求を許可するには、 Amazon SNS スポークからのベース API パスを記録します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **Web** サービス] > [スクリプト **Web** サービス] > [スクリプト利用 **REST API]**に移動します。
2. **Amazon SNS** のレコードを開きます。
3. 後で使用するためにベース **API** パスの値をコピーして記録します。

トピックを作成

[トピックを作成 (Create Topic)] スポークアクションを使用して、ServiceNow インスタンスの Amazon SNS にトピックを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. フローデザイナー で、フローを作成し、[トピックを作成 (Create Topic)] スポークアクションを含めます。
   フローデザイナー でのフローの作成の詳細については、「フローのビルド」を参照してください。
2. フローをカスタマイズして、次の値を [トピックを作成 (Create Topic)] スポークアクションへの入力として提供します。

フィールド	説明
地域	インフラストラクチャが格納されている AWS 地理的エリア。
トピック名	トピックを識別する名前。

3. フローをテストし、[実行 **(xecutions)]** タブをチェックして、フローが想定どおりに実行されることを確認します。

サブスクリプションを作成

[サブスクリプションを作成 (Create Subscription)] スポークアクションを使用して、ServiceNow インスタンスの Amazon SNS にサブスクリプションを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. フローデザイナー で、フローを作成し、[サブスクリプションを作成 (Create Subscription)] スポークアクションを含めます。
   フローデザイナー でのフローの作成の詳細については、「フローのビルド」を参照してください。
2. フローをカスタマイズして、次の値を [サブスクリプションを作成 (Create Subscription)] スポークアクションへの入力として提供します。

フィールド	説明
地域	インフラストラクチャが格納されている AWS 地理的エリア。
トピック ARN	必要なトピックを一意に識別する ARN。このトピックのサブスクリプションが作成されます。
プロトコル	**HTTPS**
エンドポイント	エンドポイント URL (形式：`https://<servicenow-instance>.service-now.com/<base-api-path>/<aws-configuration-sys_id>/<client-secret>`)。 **注:** 必要な値を取得する方法については、「Amazon SNS スポークのベース API パスの記録」、「AWS 構成でのレコードの作成」、および「Amazon SNS スポークのシークレットの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. フローをテストします。
   フローは、デフォルトの Amazon SNS サブスクリプションサブフローを内部でトリガーします。
4. [実行 **(Executions)]** タブで、サブフローの実行に関連付けられたレコードを開きます。

   注: 作成したフローではなく、デフォルトの Amazon SNS サブスクリプションサブフローの実行の詳細を確認してください。

5. [実行の詳細] ページで、[ランタイム値 **(RUNTIME VALUE)]** をクリックします。
6. 後で使用するためにトークンの値をコピーして記録します。
   この確認トークンはサブスクリプションを確認に必要です。

   注: 有効期間内に確認トークンをサブスクリプションを確認に使用していることを確認してください。

タスクの結果
ServiceNow インスタンスの Amazon SNS に必要なトピックのサブスクリプションが作成されます。

サブスクリプションを確認

[サブスクリプションを確認 (Confirm Subscription)] スポークアクションを使用して、ServiceNow インスタンスの Amazon SNS でサブスクリプションを確認します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. フローデザイナー で、デフォルトの Amazon SNS サブスクリプションサブフローのコピーを作成します。
   フローデザイナー でのサブフローの使用については、「サブフローのビルド」を参照してください。
2. フローデザイナー で、デフォルトのサブフローのコピーを含むフローを作成します。
   フローデザイナー でのフローの作成の詳細については、「フローのビルド」を参照してください。
3. サブフローをカスタマイズして、[サブスクリプションを確認 (Confirm Subscription)] スポークアクションを含めます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. サブフローをカスタマイズして、次の値を [サブスクリプションを確認 (Confirm Subscription)] スポークアクションへの入力として提供します。

フィールド	説明
地域	インフラストラクチャが格納されている AWS 地理的エリア。
トピック ARN	必要なトピックを一意に識別する ARN。このトピックのサブスクリプションが作成されます。
トークン	サブスクリプションの作成後に生成された確認トークン。詳細については、「サブスクリプションを作成」を参照してください。 注: 有効期間内に確認トークンを使用してサブスクリプションを確認してください。

5. フローをテストし、[実行 **(xecutions)]** タブをチェックして、フローが想定どおりに実行されることを確認します。

タスクの結果
ServiceNow インスタンスの Amazon SNS サブスクリプションが確認されます。

イベント管理のカスタマイズ

ServiceNow インスタンスで Amazon SNS から受信するイベント (通知、サブスクリプションの確認、および登録解除の確認) の管理をカスタマイズします。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. フローデザイナー で、デフォルトのサブフローである Amazon SNS サブスクリプションのコピーを作成し、要件に従ってサブフローをカスタマイズする必要があります。
   サブフローの作成の詳細については、「サブフローのビルド」を参照してください。
2. カスタマイズされたサブフローの内部名をコピーして記録します。
3. **[AWS 構成 (AWS Configurations)]** > [すべての構成 **(All Configurations)]** に移動します。
4. イベントを受信するために作成したレコードを開きます。
   このレコードでは、デフォルトの Amazon SNS サブスクリプションサブフローの内部名が [プロパティ値 **(Property Value)]** で指定されています。
5. デフォルトサブフローの内部名を [プロパティ値 **(Property Value)]** のカスタマイズされたサブフローの内部名で置き換えて、このレコードを更新します。

   注: 同じクライアントシークレットを使用します。

タスクの結果
イベント管理は、要件に応じてカスタマイズされます。

Amazon SQS スポーク

Amazon SQS スポークは、 ServiceNow インスタンスのトリガーに基づいて Amazon SQS のさまざまなアクションを自動化します。アクションを使用して フローデザイナー でフローを設定し、Amazon SQS でタスクを自動化します。たとえば、キューへのメッセージの送信を自動化するフローを設定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

Amazon SQS スポーク v1.0.1

が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow Integration Hub アクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- Complex Object (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブフローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのアクション

Amazon SQS では、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Simple Queue Service のタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
メッセージ管理	メッセージの可視化を変更	キューからのメッセージの可視化を変更します。キューの URL や可視化のタイムアウトなどの入力を指定すると、アクションは実行のステータスを返します。
	メッセージの可視化を変更	キューから最大 10 個のメッセージの可視化を変更します。キューの URL やメッセージリストを構成する要求などの入力を指定すると、アクションはメッセージのリストとアクションのステータスを返します。
	メッセージを削除	キューからメッセージを削除します。キューの URL と受信ハンドルを指定すると、アクションは実行のステータスを返します。
	メッセージを削除	キューから最大 10 個のメッセージを削除します。キューの URL と受信ハンドルを指定すると、アクションは実行のステータスを返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	メッセージを受信	キューから最大 10 個のメッセージを取得します。キューの URL やメッセージなどの入力を指定すると、アクションはメッセージのリストと実行状況を返します。
	メッセージの送信	キューにメッセージを送ります。キューの URL やメッセージなどの入力を指定すると、アクションはシーケンス番号やメッセージ ID などの出力を返します。
	メッセージの送信	キューに最大 10 個のメッセージを送信します。キューの URL やメッセージなどの入力を指定すると、アクションはシーケンス番号やメッセージ ID などの出力を返します。 注: 最大 256 KB のサイズのメッセージを送信できます。
権限管理	権限を追加	プリンシパルのキューに権限を追加します。キューの URL や受信ラベルなどの入力を指定すると、アクションは実行のステータスを返します。
	権限を削除	ラベルに一致するキューポリシーの権限を取り消します。キューの URL や受信ラベルなどの入力を指定すると、アクションは実行のステータスを返します。
キュー管理	FIFO キューを作成	FIFO キューを作成します。リージョンやキューの名前などの入力を指定すると、アクションは新しいキューの URL と実行状況を返します。
	標準的なキューを作成	標準的なキューを作成します。リージョンやキューの名前などの入力を指定すると、アクションはキューの名前と実行状況を返します。
	キューを削除	キューを削除します。キューの URL を指定すると、アクションは実行のステータスを返します。
	キュー属性を検索	キュー属性を取得します。キューの URL を指定すると、アクションはキュー属性を返します。
	キュー URL を検索	指定されたキューの URL を取得します。リージョンやキューの名前などの入力を指定すると、アクションはキューの URL を返します。
	キューストリームを検索	リージョン内のキューのリストを取得します。リージョンやページサイズなどの入力を指定すると、アクションは詳細を返します。
	キューを消去	キュー内のメッセージを削除します。キューの URL を指定すると、アクションは実行状況コードを返します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定方法を学習するには、「Amazon SQS スポークの設定」をご覧ください。

Amazon SQS スポークの設定

ServiceNow インスタンスと Amazon SQS (Simple Queue Service) 間のアウトバウンド統合を設定します。統合により、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに、Amazon SQS のアクションを自動化できます。たとえば、標準キューの作成やキューへのメッセージの送信などのアクションを自動化できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Amazon SQS スポークを有効にします。
- アクセスキーおよび安全なアクセスキーを作成するするために、Amazon Web サービス (AWS) アカウントへのアクセス権があることを確認します。
- 必要なロール：admin

Amazon SQS の認証情報レコードの設定

Amazon AWS にアクセスするための認証情報レコードを ServiceNow インスタンスに作成します。

始める前に

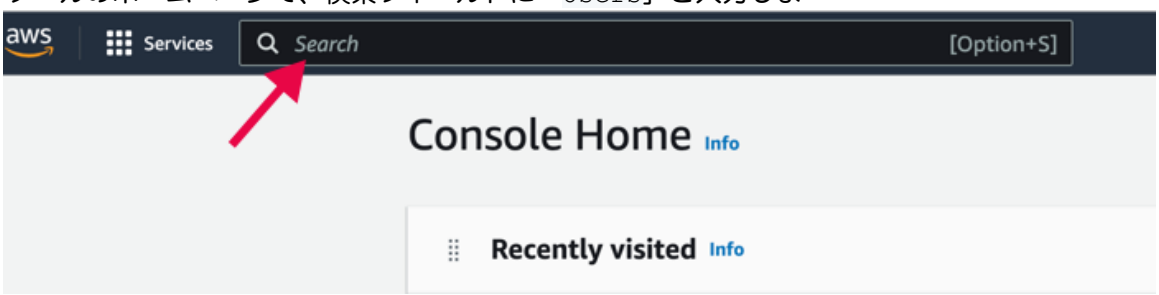
- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Amazon SQS スポークプラグインをアクティブ化します。
- アクセスキーを作成し、安全に保護するするために、Amazon Web サービス (AWS) アカウントへのアクセス権があることを確認します。
- 必要なロール：admin

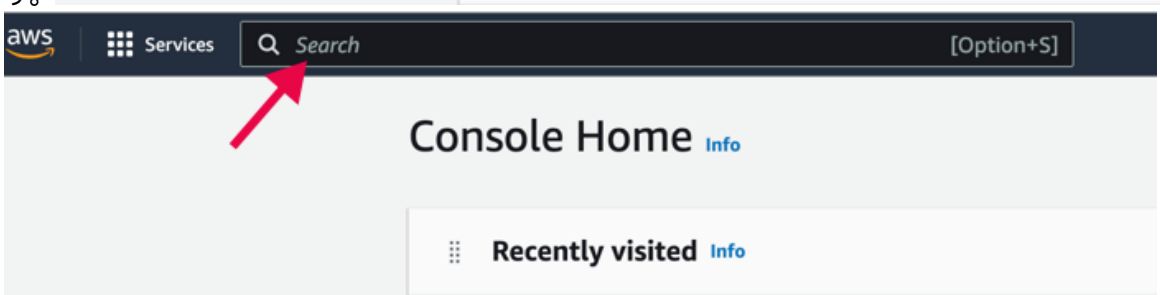
手順

1. Amazon AWS でアクセスキーと安全なアクセスキーを作成します。

   a. Amazon Web サービスにログインします。

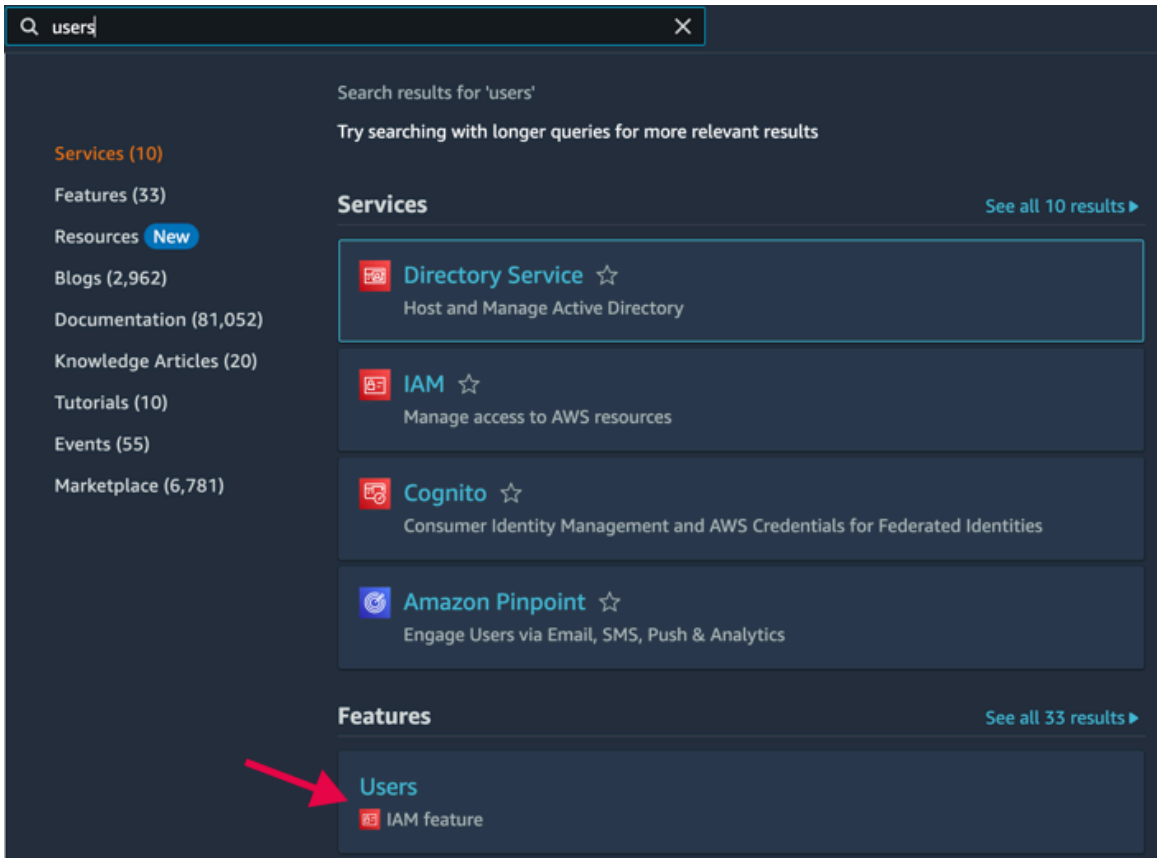
   b. コンソールのホームページで、検索フィールドに「`Users`」と入力します。



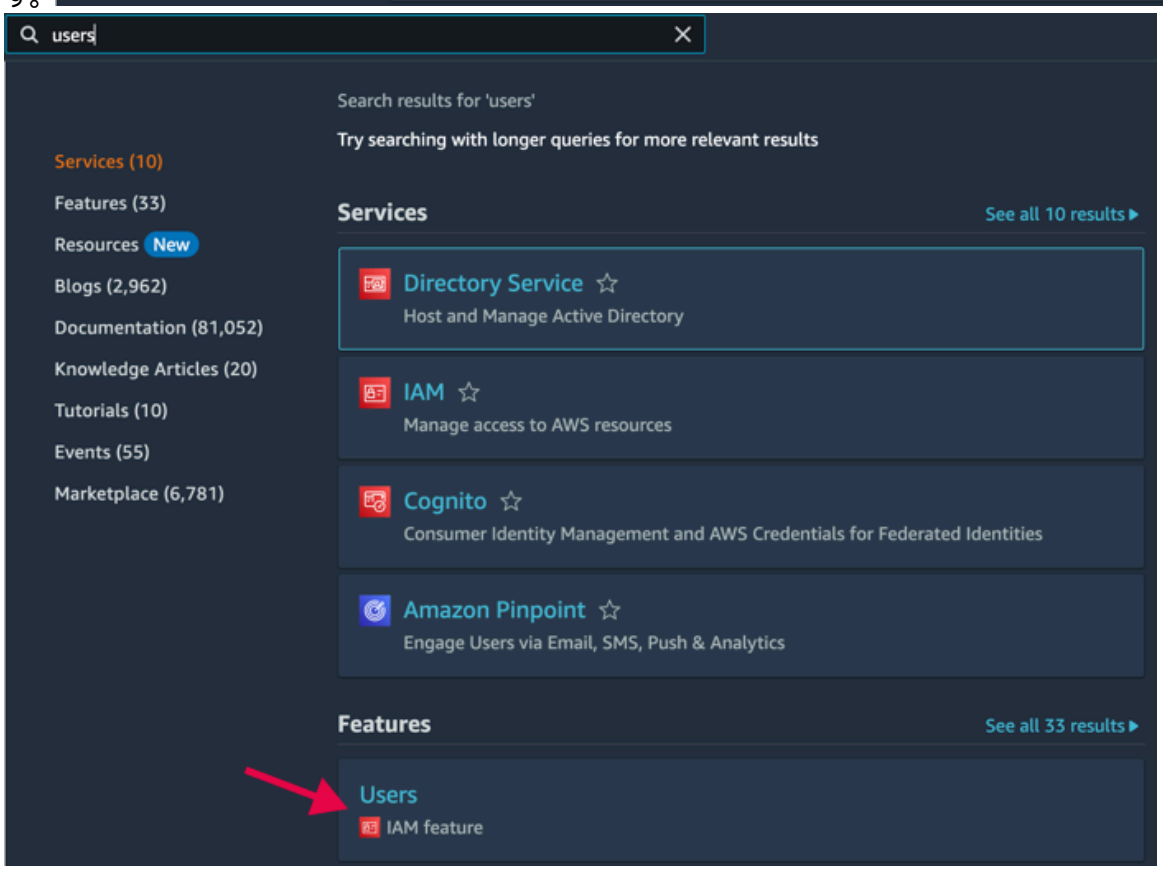


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. 検索結果からユーザーを選択しま



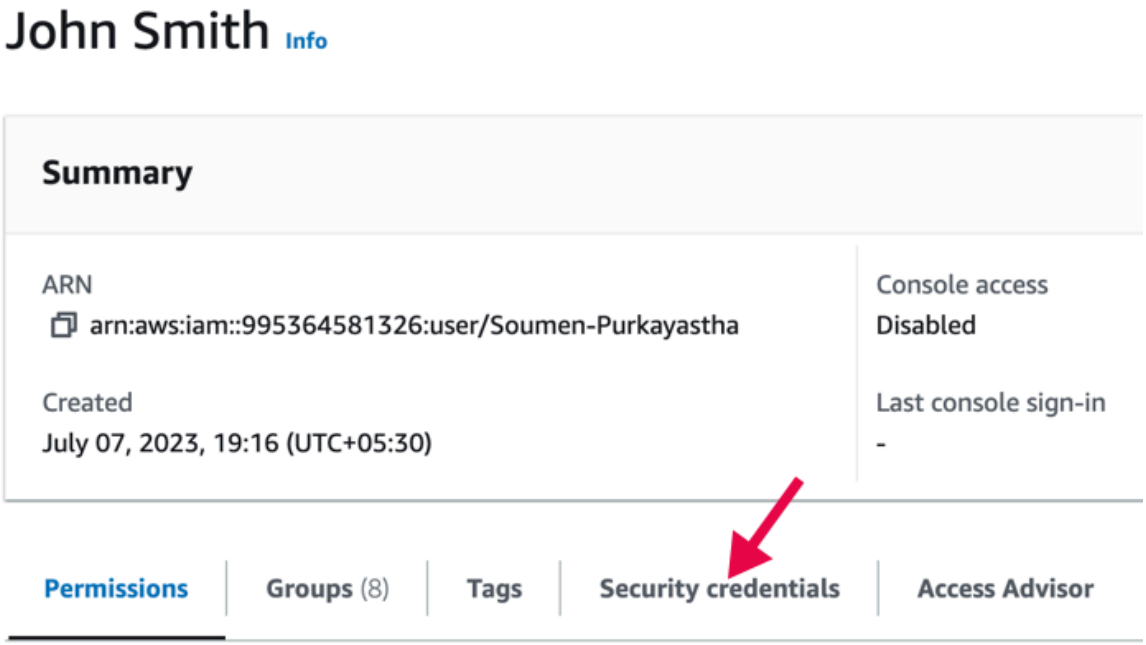
す。



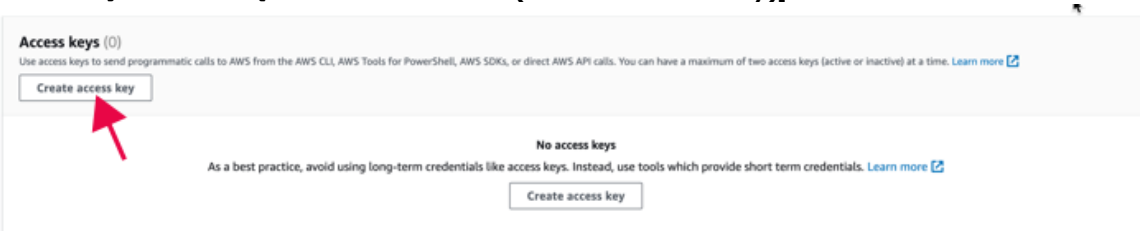
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. [ユーザー (Users)] フィールドに、アクセスキーと秘密アクセスキーを作成するユーザー名を入力するか、[ユーザー名 (User name)] 列でユーザー名を選択します。

e. [セキュリティ認証情報 (Security credentials)] タブを選択します。

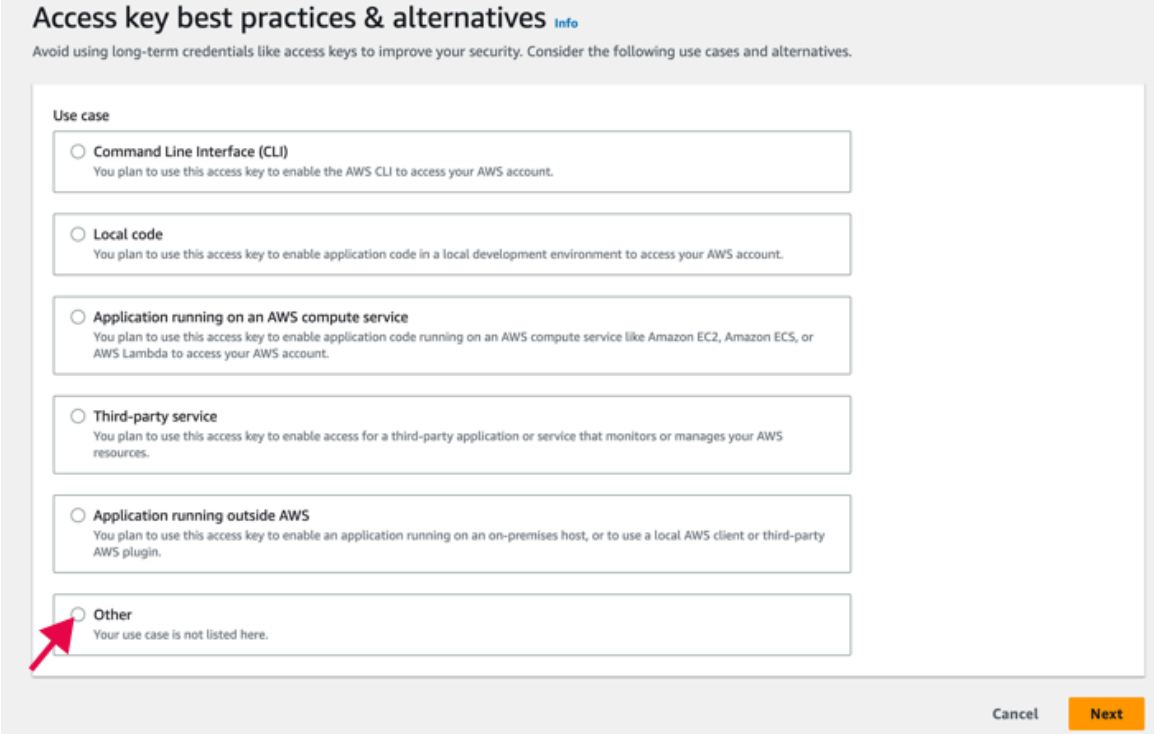


f. [アクセスキー] 見出しで、[アクセスキーを作成 **(Create access key)]**を選択します。



g. [アクセスキーのベストプラクティスと代替案 (Access key best practices & alternatives)] 見出しで、[その他 (Other)] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

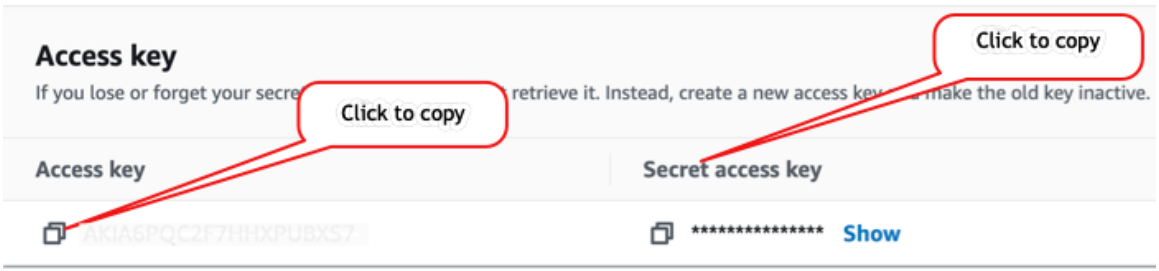


h. [次へ **(Next)**] を選択します。

i. オプション: 説明タグ値フィールドに、アクセスキーを説明するカスタムタグを入力します。

j. [アクセスキーを作成 **(Create access key)**] を選択します。

k. アクセスキーと秘密アクセスキーをコピーし、安全な場所に保存します。
ServiceNow インスタンスに設定した認証情報レコードには、アクセスキーと秘密アクセスキーが必要です。



l. 秘密アクセスキーを表示するには、[表示 **(Show)**] を選択します。

m. [完了 **(Done)**] を選択します。

2. 認証情報レコードを作成します。

a. ServiceNow インスタンスにログインします。

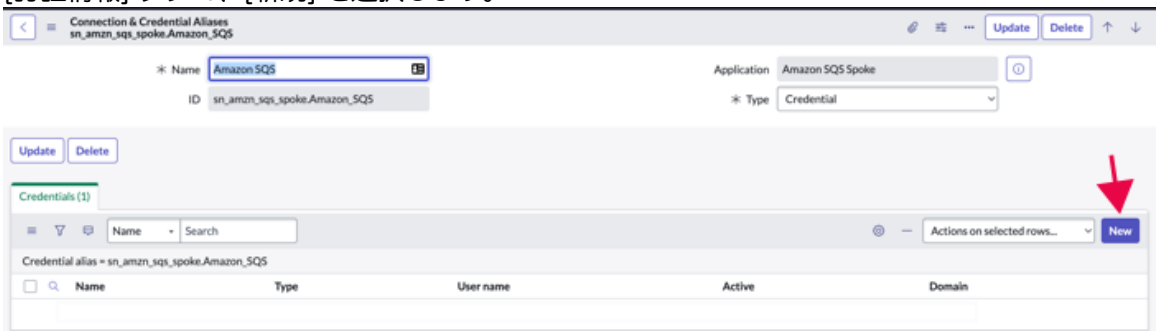
b. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

c. Amazon SQS 接続および資格情報エイリアスを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Amazon SQS スポークプラグインをインストールすると、エイリアスがベースシステムコンポーネントとして使用できるようになります。

d. [認証情報] タブで、[新規] を選択します。



e. [どのようなクレデンシャルを作成しますか？ (What type of Credentials would you like to create?)] 見出しの下で、[AWS 認証情報] を選択します。

f. フォームに入力します。

AWS 認証情報

フィールド	説明
名前	認証情報レコードのカスタム名です。
アクティブ	このフィールドが選択されている場合は、このレコードを使用して Amazon SQS にアクセスできます。
アクセスキー ID	Amazon AWS で生成したアクセスキーを入力します。
秘密アクセスキー	Amazon AWS で生成した秘密アクセスキーを入力します。
認証アルゴリズム	認証情報レコードの認証に使用されるアルゴリズムです。アルゴリズムを選択するには、 を選択し、リストから [Amazon SQS] を選択します。

g. [送信] を選択します。

Amazon VPC スポーク

Amazon VPC を使用して AWS クラウドの論理的に分離されたセクションをプロビジョニングし、ServiceNow インスタンスから仮想ネットワークで必要な AWS リソースを起動します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Amazon VPC スポーク v1.0.3 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート：データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン 2016-11-15 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

注: 異なる API バージョンを使用する場合は、すべてのスポークアクションで API バージョンを変更してください。

スポークの要件

- Amazon VPC へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

IAM でユーザーを作成し、必要なアクセス権を提供する方法の詳細については、「AWS のドキュメント」サイトの 「AWS 認証情報の理解と取得」 ページを参照してください。

スポークのサブフロー

Amazon VPC スポークでは、Amazon VPC タスクの自動化をデモするためのサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
サブネットを削除	指定されたサブネットを削除します。サブネットを削除する前に、サブネット内の実行中のすべてのインスタンスを終了する必要があります。
VPC を削除	指定された VPC を削除します。VPC を削除する前に、関連付けられているすべてのインスタンスを終了する必要があります。

スポークのアクション

Amazon VPC スポーク は、ServiceNow でイベントが発生したときに Amazon VPC タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
ネットワークおよびセキュリティグループ管理	エグレスルールをセキュリティグループに追加	指定されたエグレスルールをセキュリティグループに追加します。
	イングレスルールをセキュリティグループに追加	指定されたイングレスルールをセキュリティグループに追加します。
	セキュリティグループを作成	セキュリティグループを作成します。
	セキュリティグループからエグレスルールを削除	指定されたエグレスルールをセキュリティグループから削除します。値は、既存のルールの値と完全に一致する必要があります。
	セキュリティグループからイングレスルールを削除	指定されたイングレスルールをセキュリティグループに追加します。
	セキュリティグループを削除	セキュリティグループを削除します。
	セキュリティグループをリスト	指定されたセキュリティグループまたはすべてのセキュリティグループを一覧表示します。
	セキュリティグループを検索	指定されたセキュリティグループを取得します。
仮想プライベートクラウド管理	サブネットを作成	既存の VPC にサブネットを作成します。
	VPC を作成	指定された IPv4 CIDR ブロックで VPC を作成します。オプションで、VPC の IPv6 CIDR ブロックを要求できます。
	NAT ゲートウェイを削除	指定された NAT ゲートウェイを削除します。NAT ゲートウェイを削除すると、その Elastic IP アドレスの関連付けが解除されますが、解放はされません。
	ルーティングテーブルを削除	指定されたルーティングテーブルを削除します。削除する前にすべてのサブネットからルーティングテーブルの関連付けを解除する必要があります。
	サブネットを削除	指定されたサブネットを削除します。サブネットを削除する前に、サブネット内の実行中のすべてのインスタンスを終了する必要があります。
	VPC を削除	指定された VPC を削除します。VPC を削除するか、[VPC の削除 (Delete VPC)] サブフローを使用する前に、VPC に関連付けられているすべてのゲートウェイおよびリソースをデタッチまたは削除する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	VPC ピアリング接続を削除	VPC ピアリング接続を削除します。リクエスター VPC の所有者またはアクセプター VPC の所有者が、VPC ピアリング接続を削除できます (接続がアクティブ状況の場合)。
	インターネットゲートウェイをデタッチ	VPC からインターネットゲートウェイをデタッチし、インターネットと VPC の間の接続を無効にします。
	ルーティングテーブルをデタッチ	ルーティングテーブルからサブネットの関連付けを解除します。
	インターネットゲートウェイをリスト	必要なインターネットゲートウェイの詳細を取得します。
	NAT ゲートウェイをリスト	必要な NAT ゲートウェイの詳細を取得します。
	ルーティングテーブルをリスト	必要なルーティングテーブルの詳細を取得します。
	サブネットをリスト	既存の VPC で必要なサブネットの詳細を取得します。
	VPC ピアリング接続をリスト	必要な VPC ピアリング接続の詳細を取得します。
仮想プライベートネットワーク管理	VPN ゲートウェイをデタッチ	VPC から仮想プライベートゲートウェイをデタッチします。
	VPN ゲートウェイをリスト	必要な仮想プライベートゲートウェイの詳細を取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Amazon VPC スポークのセットアップ。

Amazon VPC スポークのセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Amazon VPC をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Amazon VPC スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Amazon VPC スポーク の認証情報レコードの作成

Amazon VPC アカウント用の認証情報レコードを作成します。Amazon VPC スポーク接続および資格情報エイリアスは、この認証情報レコードを使用して Amazon VPC でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Amazon VPC** のレコードを開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`VPC` 認証情報」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	Amazon VPC へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	Amazon VPC へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証情報エイリアス	関連する認証情報レコード。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[AmazonVPCAuthAlgo]** を選択します。 **注:** ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

6. [送信] をクリックします。

タスクの結果
Amazon VPC スポークの認証情報レコードが作成されます。

Ansible スポーク

ServiceNow インスタンスを Ansible Tower とデータ連携します。ServiceNow でイベントが発生したときに Ansible Tower タスクを自動化します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Ansible スポーク v2.2.9 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Ansible Tower v2 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Ansible Tower
- カスタム OAuth アプリケーションを使用している場合：
  - カスタムアプリケーションを作成するための Ansible Tower アドミン認証情報
  - クライアント ID やクライアントシークレットなどのアプリケーション情報
- ベーシック認証を使用している場合は、Ansible Tower にログインするためのシステムアドミニストレーターロールを持つユーザーの認証情報。

スポークのアクション

Ansible スポークでは、ServiceNow でイベントが発生したときに Ansible Tower タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アドホックコマンド管理 (Adhoc Command Management)	ID でアドホックコマンドからステータスを検索	アドホックコマンドから実行状況を取得します。
	アドホックコマンドを実行	ターゲットデバイスでアドホックコマンドを実行します。
認証情報管理	認証情報詳細ストリームを検索	認証情報のリストを Ansible Tower 環境から取得します。
	ID で認証情報の詳細を検索	必要な認証情報の詳細を Ansible Tower 環境で取得します。
認証情報タイプ管理	ID で認証情報タイプの詳細を検索	必要な認証情報のタイプを Ansible Tower 環境で取得します。
	認証情報タイプ詳細ストリームを検索	認証情報のリストを Ansible Tower 環境で取得します。
インベントリ管理	ID でインベントリからホストを検索 (Look up Hosts From Inventory by ID)	Ansible Tower 環境のインベントリからホストを一覧表示します。
	ID でインベントリからインスタンスグループを検索	インベントリのインスタンスグループを一覧表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ID でインベントリの詳細を検索	Ansible Tower から必要なインベントリの詳細を取得します。
	インベントリ詳細ストリームを検索	Ansible Tower からインベントリの詳細を取得します。
インベントリスクリプト管理	インベントリスクリプトの詳細ストリームを検索 (Look up Inventory Script Details Stream)	Ansible Tower からインベントリスクリプトのリストを取得します。
	ID でインベントリスクリプトの詳細を検索 (Look up Inventory Scripts Details by ID)	Ansible Tower から必要なインベントリスクリプトの詳細を取得します。
インベントリソース管理	ID でインベントリソースの詳細を検索	Ansible Tower から必要なインベントリソースの詳細を取得します。
	インベントリソースの詳細ストリームを検索 (Look up Inventory Source Details Stream)	Ansible Tower からインベントリソースの詳細ストリームを取得します。
ジョブ管理	ジョブのキャンセル	Ansible Tower 環境で必要なジョブをキャンセルします。
	ID でジョブの詳細を検索	特定のジョブの詳細を Ansible Tower 環境で取得します。
	ジョブ詳細ストリームを検索	ジョブ詳細のリストを取得します。
	ジョブストリームを検索	ジョブのリストを取得します。
	ジョブを再起動	Ansible Tower 環境でジョブを再起動します。
	ジョブをスケジュール	ジョブをスケジュールします。
メタデータの取得	認証情報を取得	Ansible Tower 環境における認証情報を取得します。
	在庫を取得	Ansible Tower 環境における在庫を取得します。
	プロジェクトを取得	Ansible Tower 環境におけるプロジェクトを取得します。
	追加入力フィールドを取得	動的テンプレートまたは動的オブジェクトとして使用できるフィールドのリストを取得します。
	エンティティデータを取得 (Get Entity Data)	必要なエンティティからデータを取得します。
組織管理	ID で組織の詳細を検索 (Look up Organization Details by ID)	Ansible Tower から必要な組織の詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	組織のストリームを検索	Ansible Tower から組織の詳細を取得します。
プロジェクト管理	ID でプロジェクトの詳細を検索	Ansible Tower から必要なプロジェクトの詳細を取得します。
	プロジェクトストリームを検索	Ansible Tower からプロジェクトの詳細を取得します。
レコード管理	レコードを作成	Ansible Tower 環境でレコードを作成します。
	レコードを削除	Ansible Tower 環境で必要なレコードを削除します。
	レコードを更新	Ansible Tower 環境で必要なレコードの詳細を更新します。
ロール管理	ID でロールの詳細を検索 (Look up Role Details by ID)	必要なロールの詳細を Ansible Tower 環境で取得します。
	ロールストリームを検索	ロールの詳細を Ansible Tower 環境で取得します。
	ロールストリームでチームを検索	必要なロールに関連付けられているチームの詳細を取得します。
	ロールストリームでユーザーを検索	必要なロールを持つユーザーの詳細を取得します。
チーム管理	ID でチームの詳細を検索	要求されたチームの詳細を取得します。
	チームストリームを検索	チームの詳細を Ansible Tower 環境で取得します。
テンプレート管理	ジョブテンプレートを作成	ジョブテンプレートを作成します。
	ジョブテンプレートを起動	ジョブテンプレートを起動します。
	ジョブテンプレートストリームを検索	ジョブテンプレートのリストを取得します。
ユーザー管理	ユーザーを組織に関連付ける	必要なユーザーを組織に関連付けたり、関連付けを解除したりします。
	ユーザーをチームに関連付ける	必要なユーザーをチームに関連付けたり、関連付けを解除したりします。
	ユーザーを作成	Ansible Tower 環境でユーザーを作成します。
	ユーザーを削除	Ansible Tower 環境でユーザーを削除します。
	ID でユーザーの詳細を検索	Ansible Tower から必要なユーザーの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Ansible スポークの設定。

Ansible スポークの設定

ServiceNow インスタンスと Ansible Tower を統合して、Ansible スポークアクションを自動化します。たとえば、Ansible Tower 環境から認証情報のリストを取得するフローを作成することができます。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Ansible スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Ansible Tower での OAuth アプリケーションの作成

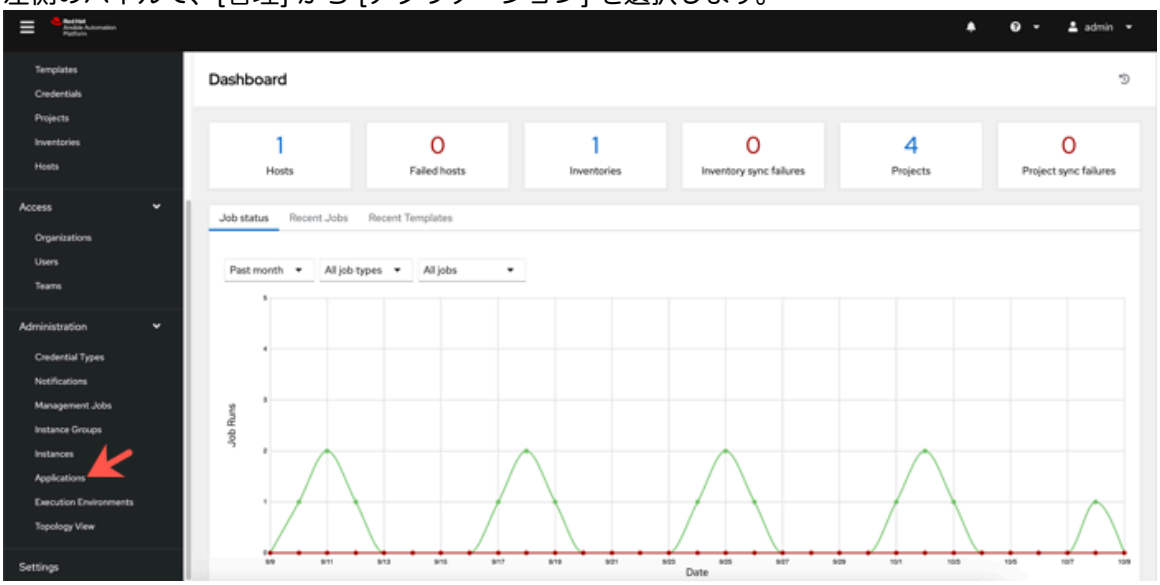
Ansible Tower に OAuth アプリケーションを作成して、ServiceNow インスタンスからの接続要求を OAuth アプリケーションによって認証されるようにします。

始める前に

必要なロール：admin
Ansible Tower インスタンスに対し、アドミニストレーターのアクセス権があることを確認してください。

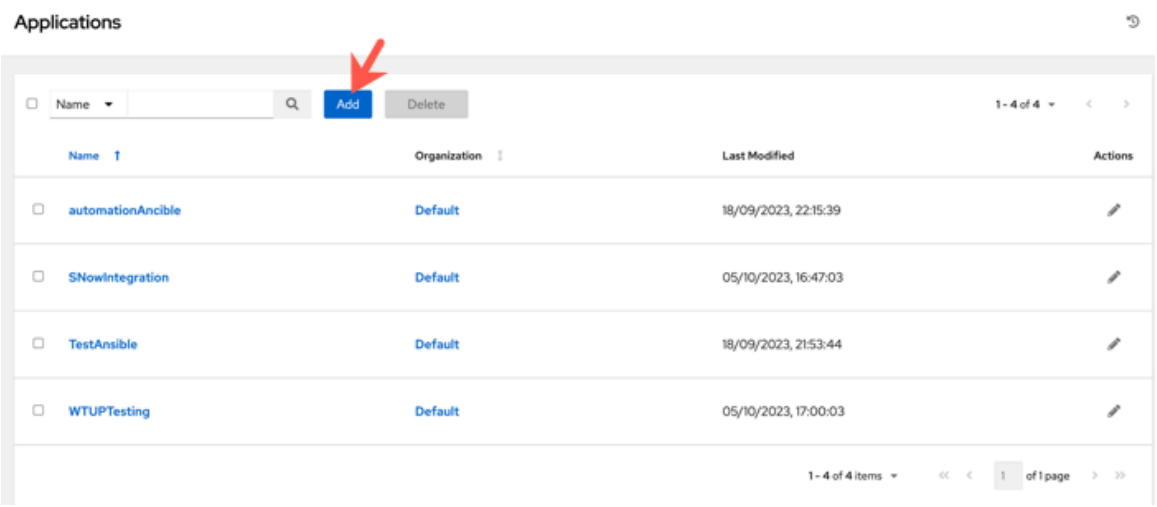
手順

1. Ansible Tower アプリケーションインスタンスにログインします。
2. 左側のパネルで、[管理] から [アプリケーション] を選択します。



3. [アプリケーション] ページで、[追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



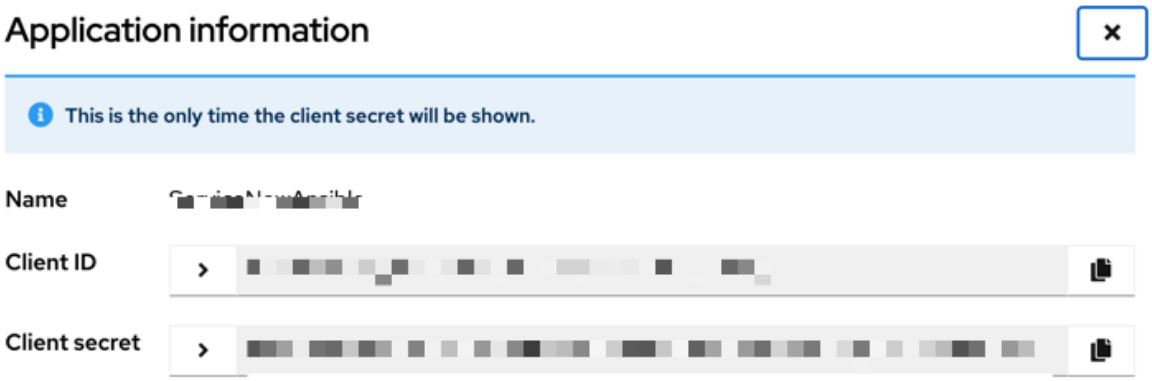
4. フォームに入力します。

新しいアプリケーションの作成

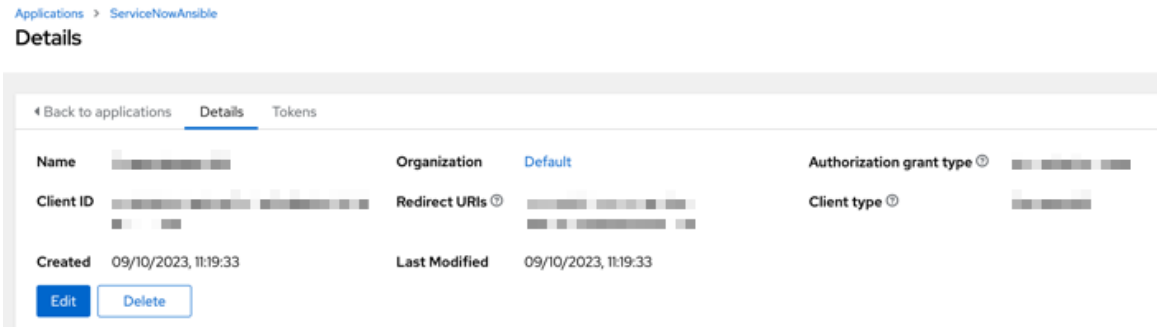
フィールド	説明
名前	OAuth アプリケーションの一意の名前です。
説明	アプリケーションの説明このフィールドはオプションです。
組織	OAuth アプリケーションが関連付けられている組織です。
認証権限許可タイプ (Authorization grant type)	クライアントにアクセスを許可する OAuth アプリケーションのベースです。ベースは、クライアントに与えられた認証コードまたはリソース所有者のパスワードです。
リダイレクト URI	アクセスが許可された後、URI をクライアントにリダイレクトします。リダイレクト URI を `https://<instance name>.service.now.com/api/sn_ansible_spoke/ansible_oauth_redirect` の形式で入力します。
クライアントタイプ	OAuth アプリケーションからの認証を要求するクライアントのタイプです。

5. [保存] を選択します。
6. クライアント ID とクライアントシークレットをコピーし、安全な場所に保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



OAuth アプリケーションが作成されました。



Ansible スポークの接続レコードの設定

ServiceNow インスタンスが Ansible Tower インスタンスに認証要求を送信して OAuth トークンを取得できるようにする情報を含む接続レコードを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

Ansible Tower インスタンスに OAuth アプリケーションがセットアップされていることを確認します。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] を選択します。
3. [送信] タブをオンにします。
4. [すべての接続を検索] フィールドに「`AnsibleTowerAlias`」と入力します。
5. AnsibleTowerAlias カードで、[詳細を表示] を選択します。
6. [設定] を選択します。
7. フォームに入力します。

接続を設定

フィールド	説明
接続名	Ansible Tower インスタンスと確立された接続の名前です。最初の接続のデフォルト名は、[接続および資格情報エイリアス] ページの [接続および資格情報] フォームで指定された名前と一致するように自動的に割り当てられます。カ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	スタム名を指定するには、[接続を追加] を選択し、接続を作成します。
接続 URL	ServiceNow インスタンスが Ansible Tower インスタンスに接続するために使用する URL です。
認証情報名	ServiceNow インスタンスで Ansible 用に作成した認証情報レコードの名前です。
アプリケーションレジストリ名 (Application Registry Name)	ServiceNow インスタンスで Ansible 用に作成したアプリケーションレジストリレコードの名前です。
OAuth クライアント ID	OAuth アプリケーションの設定時に生成したクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	OAuth アプリケーションの設定時に生成したクライアントシークレットです。
Oauth エンティティプロファイル名 (Oauth Entity Profile Name)	Ansible Tower インスタンスで作成した OAuth アプリケーションの名前です。
認証 URL	クライアントが Ansible Tower インスタンスへのアクセスを要求するために使用する URL です。URL 形式：`https://<ansible-tower-instancename>.com/api/o/authorize`
トークン URL	Ansible Tower インスタンスにアクセスするためのトークンをクライアントが要求するために使用する URL です。URL 形式：`https://<ansible-tower-instance-name>.com/api/o/token`
OAuth リダイレクト URL	OAuth アプリケーションが ServiceNow インスタンスへのリダイレクトに使用するリダイレクト URL です。URL は `https://<your instance name>.service-now.com/api/sn_ansible_spoke/ansible_oauth_redirect` の形式にする必要があります。

8. **[OAuth** トークンを設定して取得] を選択します。
   OAuth アプリケーションが接続要求を認証し、Ansible Tower インスタンスにアクセスするための一時トークンを提供します。

Asana スポーク

Asana スポークは、ユーザーが作成したストーリーに基づいて Asana ソフトウェアサブスクリプションの有意義な使用状況データを表示および分析するアクションを提供します。このデータを使用して古いライセンスを特定することで、これらのライセンスを再利用して見込まれる節減を実現できるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Asana Spoke v1.0.2 が最新バージョンです。

スポークの要件

アドミンロールを持つ Asana アカウント

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム入力 (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Asanaスポークでは、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにAsanaタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ワークスペース管理	ワークスペースを検索	すべてのワークスペースの詳細を取得します。
	ワークスペース (メタデータ) を取得	ユーザーのワークスペースのリストを取得します。このアクションは、他のスポークアクションの入力ワークスペースの動的選択肢を作成するために使用します。
タスク管理	ワークスペースタスクを検索	すべてのワークスペースタスクのリストを取得します。
	ストーリーストリームを検索	ストーリーの詳細を取得します。
ユーザー管理	ユーザーストリームを検索	すべてのユーザーの詳細を取得します。
	ワークスペースからユーザーを削除	ワークスペースからユーザーを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

Asana スポークの設定

ServiceNow インスタンスを Asana インスタンスと統合するように Asana スポークを構成します。この統合により、フローを設定し、トリガーが発生したときに Asana インスタンスに対するアクションを自動化することができます。たとえば、ワークスペースに関するメタデータを取得するために毎日 13:00 にフローを開始するトリガーを設定します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Asana スポークを有効化します。
- Asana 開発者コンソールにアクセスします。
- 必要なロール：admin

OAuth アプリケーションの設定

Asana 開発者コンソールで OAuth アプリケーションを設定して、後で Asana スポーク接続レコードを設定するために使用するクライアント ID とシークレットを生成します。

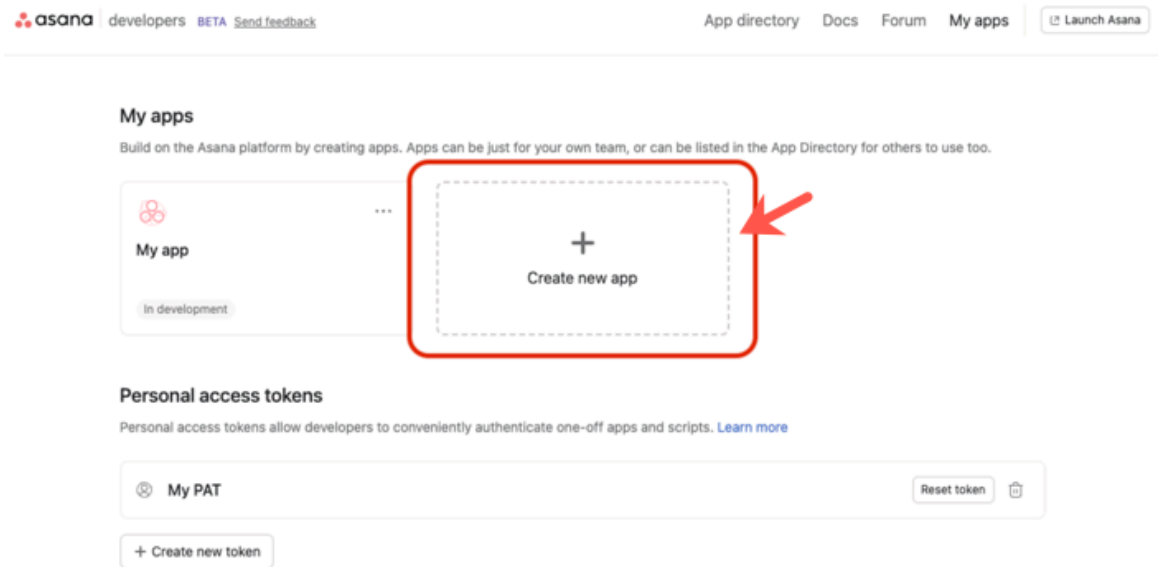
始める前に

必要なロール：admin

Asana 開発者コンソールにアクセスします。

手順

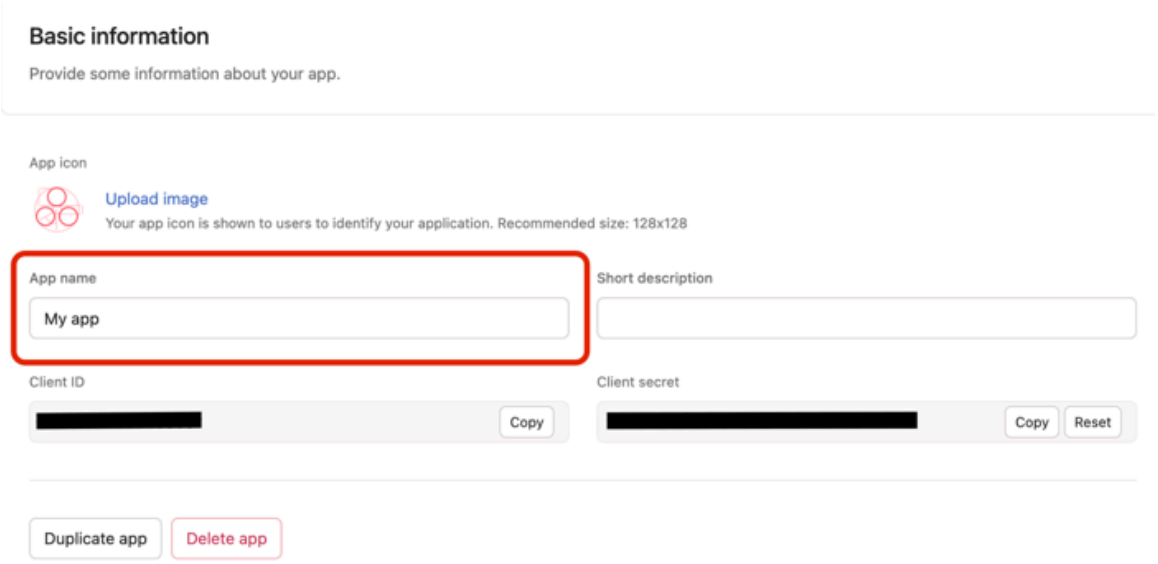
1. Asana 開発者コンソールにログインします。
2. [自分のアプリ] で、[新しいアプリを作成 **(Create new app)**] を選択します。



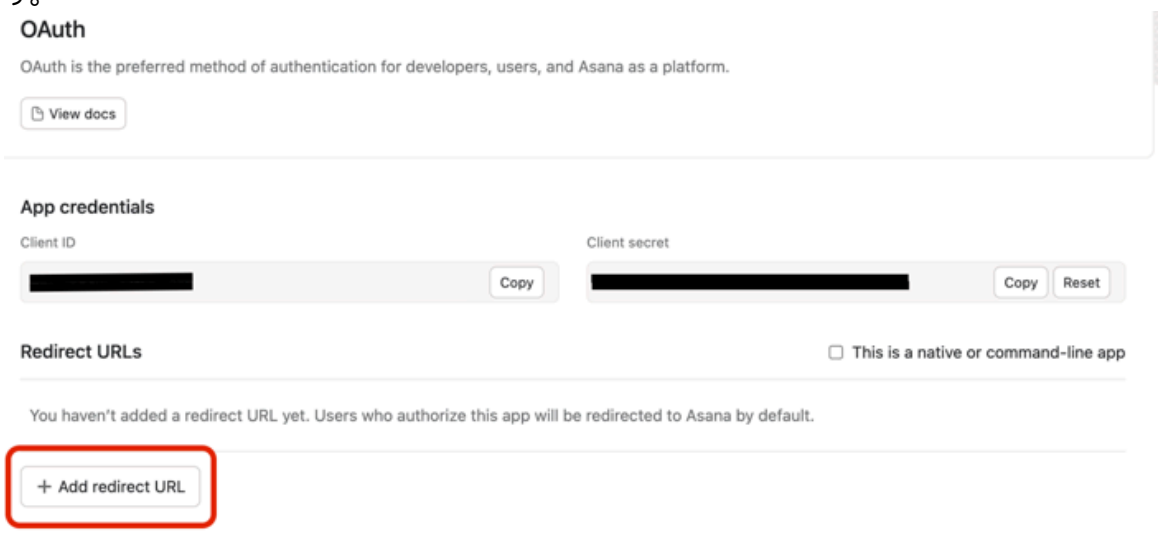
3. アプリの名前を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリ名は必要に応じて何度でも変更できます。名前を変更するには、左側のパネルの [基本情報] タブに移動します。



4. [クライアント ID] フィールドと [クライアントシークレット] フィールドから、それぞれの値をコピーして安全に保存します。
5. [リダイレクト URL] 見出しの下で、[リダイレクト **URL** を追加 **(Add redirect URL)]** を選択します。



6. リダイレクト URL を `https://<your instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do` の形式で入力します。
OAuth アプリが作成され、Asana スポークの接続レコードを作成するために必要な詳細情報が生成されました。

接続レコードを作成する

ServiceNow インスタンスを Asana インスタンスに統合するために必要なすべての詳細情報を含む接続レコードを作成します 。ServiceNow インスタンスが接続を要求すると、設定した OAuth アプリが接続レコードの詳細情報に基づいて要求を認証します。

始める前に

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] を選択します。
3. [送信] タブをオンにします。
4. [すべての接続を検索] フィールドに「`Asana`」と入力します。
5. Asana カードで、[詳細を表示] を選択します。
6. [構成] を選択します。
7. フォームに入力します。

接続を設定

フィールド	説明
接続名	Asana インスタンスとの間で確立された接続の名前です。最初の接続のデフォルト名は、[接続および資格情報エイリアス] ページの [接続および資格情報] フォームで指定された名前と一致するように自動的に割り当てられます。カスタム名を指定するには、[接続を追加] を選択し、接続を作成します。
接続 URL	ServiceNow インスタンスが Asana インスタンスに接続するために使用する URL です。
OAuth クライアント ID	OAuth アプリケーションの設定時に生成したクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	OAuth アプリケーションの設定時に生成したクライアントシークレットです。
OAuth リダイレクト URL	OAuth アプリケーションが ServiceNow インスタンスへのリダイレクトに使用するリダイレクト URL です。URL の形式：`https://<your instance name>.service-now.com/oauth_redirect.do`。

8. **[OAuth トークンを設定して取得 (Configure and get OAuth Token)]** を選択します。
   OAuth アプリケーションは接続要求を認証し、Asana インスタンスにアクセスするための一時的なトークンを提供します。

Asana OAuth アプリケーションの登録

Asana API 1.0 にアクセスし、クライアント ID およびクライアントシークレットを取得するために、Asana OAuth アプリケーションを登録します。

始める前に
Asana 必要な ロール：admin

- Asana 統合ハブ スポークはアクティブである必要があります。詳細については、「Asana スポーク」を参照してください。

手順

1. Asana アカウントにログインします。
2. 右上隅にあるユーザープロファイルアイコンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [自分の設定 **(My Settings)]** を選択します。
4. [アプリ] タブを選択します。
5. 下部にある [開発者アプリを管理 **(Manage Developers App)]** リンクを選択して、開発者コンソールウィンドウに移動します。
6. **[+** 新しいアプリを作成 **(+ Create new app)]** を選択します。
7. [新しいアプリを作成 **(Create new app)]** ページで、アプリケーションの名前を入力します。
8. **[API** の契約条件に同意する **(I agree to API terms and conditions)]** チェックボックスをオンにします。
9. [アプリを作成] を選択します。
10. オプション: アプリケーションに関する基本情報を入力します。
11. 左ペインで **[OAuth]** を選択します。
12. 後で使用するために [クライアント ID (Client ID)] と [クライアント シークレット (Client secret)] をコピーします。
13. [リダイレクト **URL]** フィールドで、**[+** リダイレクト **URL** を追加 **(+ Add redirect URL)]** を選択します。
14. 「`https://instance.service-now.com/oauth_redirect.do`」と入力します。<instance> は ServiceNow インスタンスの名前です。

Atlassian 管理 スポーク

Atlassian 管理 スポークは、Atlassian 管理 サブスクリプションの有意義な使用状況データを表示および分析するアクションを提供します。このスポークでは、サブスクリプション情報と使用状況のダウンロード、グループの詳細のプル、グループからのユーザーの削除を行うことができます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

サポートされているバージョン

このスポークは Atlassian 管理 v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Atlassian 管理 アカウント
- Atlassian 管理 の必要なロール：組織のアドミン
- ServiceNow インスタンスを認証するための API キー。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

スポークのサブフロー

Atlassian 管理 スポークでは、Atlassian 管理 タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
Atlassian グループの詳細をプル	このサブフローは、グループの製品やサイトの詳細などグループの詳細のすべてを Atlassian 管理 から取得します。

スポークのアクション

Atlassian Administration スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Atlassian 管理 タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
グループ管理	組織グループのストリームを検索	グループ、ユーザー、およびロールのアサインに関する情報を取得します。
ユーザー管理	組織ユーザーのストリームを検索	ユーザー、グループ、および製品の最終アクセスに関する情報を取得します。
	グループからユーザーを削除	Atlassian 管理 インスタンスのグループから指定されたユーザーを削除します。

スポークモジュール

Atlassian 管理 スポークは Atlassian 管理 アプリケーションをインスタンスに追加し、以下のモジュールを含みます。

モジュール	説明
グループ	グループに関連するデータが含まれています。
製品とサイトの詳細	製品とサイトに関連するデータが含まれています。
グループ製品サイトロールの詳細	製品グループのサイトロールに関連するデータが含まれます。

スポークユーザーロール

Atlassian 管理 スポークでは、データへのアクセスを制御するために次のユーザーロールが提供されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザーロール	説明
Atlassian アドミン (sn_atlassian_spoke.atlassian_admin)	Atlassian 管理アプリケーションの接続を作成します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

Atlassian 管理 API キーの作成

ServiceNow 要求を認証するための、Atlassian 管理 API キーを作成します。

始める前に

必要なロール：組織管理者

手順

1. 管理者の認証情報で Atlassian Administration にログインします。
2. 組織が複数ある場合は、組織を選択します。
3. [設定] > **[API キー]**を選択します。
4. **[API キーを作成 (Create API key)]** を選択します。
5. [API キーの作成 (Create an API key)] ページで、API キーを識別する名前と有効期限を [有効期限] フィールドに入力します。

   注: デフォルトでは、キーは作成日から 1 週間で期限切れになります。有効期限を変更する場合は、[有効期限] フィールドで新しい日付を選択します。作成日から 1 年以内の日付を選択する必要があります。

6. [作成] を選択して API キーを保存します。
7. 組織 ID と API キーの値をコピーします。

   注: 後で使用するためにこれらの値を保存します。

8. [完了] を選択します。
   キーが API キーのリストに表示されます。[アクション] 列から [取り消し] を選択して API を取り消すこともできます。

Atlassian 管理 スポークの設定

API キーを使用して ServiceNow インスタンスと Atlassian 管理 をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Atlassian 管理 スポークを有効化します。
- Atlassian 管理 API キーを作成します。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Atlassian Administration** エイリアスのレコードを開きます。
3. [関連リンク] セクションから、[新しい接続および資格情報の作成] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

接続と資格情報を作成

フィールド	説明
接続情報	
名前	Atlassian 管理接続の名前です。
接続 URL	接続の URL。 このフィールドは自動的に `https://api.atlassian.com` に設定されます。
組織 ID	Atlassian Administration API キーの作成時に確認する Atlassian 管理 の組織 ID です。
認証情報	
API キー	Atlassian Administration API キーの作成時に確認する API キーです。

5. **[Create** (作成)] を選択します。

Automation Anywhere スポーク

ServiceNow インスタンスから Automation Anywhere インスタンスのワークフローとロボティックプロセスを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Automation Anywhere スポークは v1.2.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブ ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Automation Anywhere スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Automation Anywhere タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ボット管理	ボットを展開	ボットをボットランナーデバイスに展開します。
	ボットを取得	特定のボットの詳細を取得します。
	ボットを検索	すべてのボットに関する情報を取得します。
デバイス管理	デバイスの詳細を取得	特定のデバイスの詳細を取得します。
	デバイスを検索	すべてのデバイスの詳細を取得します。
	プールを検索	指定されたプールの詳細を取得します。
フォルダー管理	フォルダーを取得	要求されたフォルダーの詳細を取得します。
	フォルダーを検索	すべてのフォルダーに関する情報を取得します。
キュー管理	キューストリームを検索	エンタープライズコントロールルームのすべてのキューを取得します。
	キュー内の作業アイテムを検索 (Look up Work Items in Queue)	キュー内のすべての作業アイテムの詳細を取得します。
ユーザー管理	ユーザーを検索	要求されたユーザーの詳細を取得します。
	ユーザーストリームを検索	すべてのユーザーの詳細を取得します。

注: ボットランナーまたは admin ロールを持つユーザーのみがスポークアクションを実行できます。

スポークモジュール

Automation Anywhere スポークは、Automation Anywhere アプリケーションをインスタンスに追加し、認証モジュールを含めます。このモジュールでは、ServiceNow 要求を認証するためにデフォルトの認証情報レコードに詳細を入力する必要があります。詳細については、「Automation Anywhere スポークの認証情報レコードの作成」を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Automation Anywhere スポークのセットアップ。

Automation Anywhere スポークのセットアップ

Automation Anywhere 認証情報レコードを使用して ServiceNow と Automation Anywhere インスタンスをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Automation Anywhere スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Automation Anywhere スポークの認証情報レコードの作成

Automation Anywhere インスタンスの認証情報レコードを作成します。Automation Anywhere スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Automation Anywhere]** > [認証]に移動します。
2. レコード **[Automation Anywhere** 認証情報 **(Automation Anywhere Credential)]** を開きます。
3. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
名前	認証情報レコードのデフォルト名。 注: ユーザーは、デフォルトの認証情報名を変更しないように警告されます。
ユーザー名	Automation Anywhere インスタンスにログインするための認証情報.
パスワード	
認証情報エイリアス	Automation Anywhere スポークとともに使用可能なデフォルトの認証情報エイリアス。たとえば、**sn_autoanywher_spk.Automation_Anywhere** を選択します。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[Automation Anywhere]** を選択します。 注: ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。
接続 URL	Automation Anywhere インスタンスに接続するための URL。
専用のデータ連携ユーザー	Automation Anywhere と ServiceNow インスタンスをデータ連携する目的で専用ユーザーを使用するかどうかを指定するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: ◦ ここで説明する専用ユーザーは、Automation Anywhere と ServiceNow をデータ連携する目的でのみ使用してください。 ◦ 専用ユーザーを使用していない場合、ServiceNow インスタンスはアクションを実行するために API 呼び出しを 2 回または 3 回行います。 ◦ 専用ユーザーを使用している場合、ServiceNow インスタンスはアクションを実行するために API 呼び出しを 1 回のみ行います。

4. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
5. [トークンを取得 **(Get Token)]** をクリックします。

   注: この手順は、[専用のデータ連携ユーザー **(Dedicated Integration User)]** チェックボックスをオンにした場合に適用されます。

「トークンの取得に成功しました」という確認メッセージが表示されます。

AWS Certificate Manager スポーク

ServiceNow インスタンスから AWS Certificate Manager アカウントの証明書を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート 」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要 」を参照てください。

スポークバージョン

AWS Certificate Manager スポーク v1.0.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは AWS Certificate Manager API バージョン 2015-12-08 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- AWS Certificate Manager へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

IAM でユーザーを作成し、必要なアクセス権を提供する方法の詳細については、「AWS のドキュメント 」サイトの「 AWS 認証情報の理解と取得 」ページを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート：データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

AWS Certificate Manager スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに AWS Certificate Manager タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
証明書管理	証明書を削除	証明書とそれに関連付けられた秘密キーを削除します。
	証明書を取得	Amazon が発行した証明書とその証明書チェーンを取得します。
	証明書の詳細を取得	指定された ACM 証明書に関する詳細なメタデータを取得します。
	証明書をインポート	AWS Certificate Manager (ACM) にデータ連携されたサービスで使用する証明書を ACM にインポートします。
	証明書を検索	証明書 ARN とドメイン名のリストを取得します。
	証明書を要求	他の AWS サービスで使用するために ACM 証明書を要求します。
	検証メールを再送信	ドメイン所有権の検証を要求するメールを再送信します。
	証明書オプションを更新	指定された証明書の詳細を更新します。
タグ管理	タグを証明書に追加	一連のタグを必要な証明書に関連付けます。
	証明書のタグを検索	指定された証明書に関連付けられているすべてのタグを取得します。
	証明書からタグを削除	証明書からタグの関連付けを削除します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの設定については、「AWS Certificate Manager スポークのセットアップ。

AWS Certificate Manager スポークのセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと AWS Certificate Manager をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- AWS Certificate Manager スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

AWS Certificate Manager スポークの認証情報レコードの作成

AWS Certificate Manager アカウント用の認証情報レコードを作成します。AWS Certificate Manager スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
4. フォームに、次の値を入力します。

AWS 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：「Cred」。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	AWS Certificate Manager へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	AWS Certificate Manager へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[AWS Certificate Manager]** を選択します。 **注:** ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。
認証情報エイリアス	スポークに関連付けられた認証情報エイリアス。

5. [保存] をクリックします。
   AWS Certificate Manager スポークが設定され、フローでスポークアクションの使用を開始できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AWS CloudFormation スポーク

ServiceNow インスタンスから AWS CloudFormation を使用して、クラウド環境で AWS リソースをモデル化し、プロビジョニングします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークは AWS CloudFormation API バージョン 2010-05-15 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークバージョン

AWS CloudFormation スポーク v1.1.4 が最新バージョンです。

スポークの要件

- AWS CloudFormation へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

IAM でユーザーを作成し、必要なアクセス権を提供する方法の詳細については、「AWS のドキュメント」サイトの「AWS 認証情報の理解と取得」ページを参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート：データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

AWS CloudFormation スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに AWS CloudFormation タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
変更セット管理	変更セットを作成	変更を実行する前にレビューできるように、スタックに適用される変更のリストを作成します。
	変更セットを削除	指定した変更セットを削除します。
	変更セットを実行	指定した変更セットの作成時に提供された入力情報を使用して、スタックを更新します。
	変更セットを取得	指定された変更セットの詳細を返します。
	変更セットを検索	スタックの各アクティブな変更セットの基本情報を返します。
スタック管理	更新スタックをキャンセル	指定されたスタックの更新をキャンセルします。
	更新ロールバックを続行	指定したスタックが UPDATE_ROLLBACK_FAILED ステータスである場合、ステータスのロールバックを続行して UPDATE_ROLLBACK_COMPLETE ステータスに戻します。
	スタックを作成	テンプレートで指定されたスタックを作成します。
	スタックを削除 (Delete Stack)	指定されたスタックを削除します。
	スタックポリシーを取得	指定されたスタックのスタックポリシーを返します。
	テンプレートを取得	指定されたスタックのテンプレート本文を返します。
	スタックイベントを検索	指定されたスタックのすべてのスタック関連イベントを新しい順に返します。
	スタックセット操作ストリームを検索	スタックセットで実行された操作に関するサマリー情報を返します。
	スタックセット操作結果ストリームを検索	スタックセット操作の結果に関するサマリー情報を返します。
	スタックリソースを検索	指定されたスタックのすべてのリソースの詳細を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	スタックを検索	指定されたスタックの詳細を返します。
	スタックポリシーを設定	指定されたスタックのポリシーを設定します。
	スタックを更新	指定されたスタックを更新します。
	テンプレートの検証	指定されたテンプレートを検証します。AWS CloudFormation は、テンプレートが有効な JSON かどうかを最初に検証します。有効な JSON でない場合、AWS CloudFormation は、テンプレートが有効な YAML かどうかを検証します。これらのチェックが両方とも失敗した場合、AWS CloudFormation はテンプレート検証エラーを返します。
スタックセット管理	スタックインスタンスを作成	指定されたリージョン内で指定されたアカウントのスタックインスタンスを作成します。
	スタックセットを作成	指定されたリージョンにスタックセットを作成します。
	スタックインスタンスを削除	指定されたリージョンの指定されたアカウントのスタックインスタンスを削除します。
	スタックセットを削除	指定されたスタックセットを削除します。
	スタックセットを取得	指定されたスタックセットの詳細を返します。
	スタックインスタンスを検索	指定されたスタックセットに関連付けられているスタックインスタンスに関する情報を返します。
	スタックセットを検索	すべてのスタックセットまたは指定されたステータスのスタックセットに関するサマリー情報を返します。
	スタックセットを更新	指定されたアカウントとリージョンの指定されたスタックセットと関連するスタックインスタンスを更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 AWS CloudFormation スポークのセットアップ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AWS CloudFormation スポークのセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと AWS CloudFormation をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- AWS CloudFormation スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

AWS CloudFormationスポークの認証情報レコードを作成

AWS CloudFormation アカウント用の認証情報レコードを作成します。AWS CloudFormation スポークの接続および資格情報エイリアスは、この認証情報レコードを使用して AWS CloudFormation でアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Amazon VPC** のレコードを開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[AWS** 認証情報 **(AWS Credentials)]** を選択します。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`CloudFormation` 認証情報」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	AWS CloudFormation へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	AWS CloudFormation へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証情報エイリアス	関連する認証情報レコード。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[AWS_CloudFormation]** を選択します。 **注:** ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

6. [送信] をクリックします。

タスクの結果

AWS CloudFormation スポークの認証情報レコードが作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AWS Elastic Beanstalk スポーク

AWS Elastic Beanstalk では、Amazon AWS クラウド でアプリケーションを迅速に展開および管理できます。Elastic Beanstalk は、選択や制御を制限せずに管理の複雑さを軽減します。アプリケーションをアップロードすると、Elastic Beanstalk によってキャパシティのプロビジョニング、負荷分散、スケーリング、およびアプリケーションのヘルスモニタリングが自動的に処理されます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

AWS Elastic Beanstalk スポーク v1.0.3 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

AWS Elastic Beanstalk API バージョン 2010-12-01。

スポークのサブフロー

AWS Elastic Beanstalk スポークで提供されるサブフローはありません。

スポークのアクション

AWS Elastic Beanstalk スポークでは、ServiceNow でイベントが発生したときに Elastic Beanstalk タスクを実行するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アカウント管理	アカウント属性を検索	呼び出し元の AWS アカウントに関連付けられている AWS Elastic Beanstalk に関連する属性を取得します。
アプリケーション管理	DNS の可用性を確認	指定された CNAME が利用可能かどうかを確認します。
	アプリケーションを作成 (Create application)	デフォルトの構成テンプレート名が 1 つで、アプリケーションバージョンのないアプリケーションを作成します。
	アプリケーションバージョンを作成	指定されたアプリケーションのアプリケーションバージョンを作成します。
	構成テンプレートを作成	特定の Elastic Beanstalk アプリケーションに関連付けられた AWS Elastic Beanstalk 構成テンプレートを作成します。
	アプリケーションを削除	指定されたアプリケーションとそれに関連付けられているすべてのバージョンおよび構成を削除します。
	アプリケーションバージョンを削除	指定されたアプリケーションから指定されたバージョンを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	構成テンプレートを削除	指定されたアプリケーションとそれに関連付けられているすべてのバージョンおよび構成を削除します。
	アプリケーションバージョンを検索	既存のアプリケーションの説明を取得します。
	アプリケーションを検索	既存のアプリケーションの説明を取得します。
	アプリケーションを更新	指定したアプリケーションを更新して、指定したプロパティを持つようにします。
	アプリケーションバージョンを更新	指定したアプリケーションバージョンを更新して、指定したプロパティを持つようにします。
	構成テンプレートを更新	指定されたプロパティまたは構成オプションの値が含まれるように、指定された構成テンプレートを更新します。
環境管理	環境を作成	指定されたアプリケーションの AWS Elastic Beanstalk 環境を起動します。
	ストレージの場所を作成	Amazon S3 にバケットを作成し、Elastic Beanstalk 環境で使用されるアプリケーションバージョン、ログ、およびその他のファイルを保存します。
	環境の健全性を取得	指定された環境の全体的な健全性情報を一覧表示します。
	利用可能なソリューションスタックを検索	利用可能なソリューションスタック名を一覧表示します。
	環境リソースを検索	指定された環境の AWS リソースを一覧表示します。
	環境を検索	既存の環境に関する情報を取得します。
	インスタンスの健全性を検索	既存のアプリケーションの説明を取得します。
	アプリサーバーを再起動	環境内の各 Amazon EC2 インスタンスで実行されているアプリケーションコンテナサーバーを再起動します。
	環境の CNAME を交換	2 つの環境の CNAME を交換します。
	環境を終了	指定された環境を終了します。
	環境を更新	指定された環境を更新します。

AWS Elastic Beanstalk アカウント要件

AWS Elastic Beanstalk スポーク には、Amazon Web サービス マネジメントコンソールで作成した認証情報が必要です。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「AWS Elastic Beanstalk スポーク の認証情報レコードの作成。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AWS Elastic Beanstalk スポーク の認証情報レコードの作成

AWS Elastic Beanstalk を ServiceNow とデータ連携するための認証情報レコードを作成します。AWS Elastic Beanstalk の接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。接続されると、Elastic Beanstalk はベーシック認証を使用して ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

AWS Elastic Beanstalk スポーク を設定するには、Amazon Web サービス でセキュリティ認証情報を設定可能で、ServiceNow admin ロールを持っている必要があります。

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- AWS Elastic Beanstalk スポーク スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. `https://console.aws.amazon.com` にログインします。
2. ユーザー名の下にあるメニューから、[セキュリティ認証情報 **(My Security Credentials)]** を選択します。
3. [アクセスキーを作成 **(Create access key)]** をクリックします。
4. アクセスキー ID と秘密アクセスキーをテキストファイルにコピーします。
   秘密アクセスキーは 1 回しか表示できませんが、必要に応じてキーを削除したり作成したりすることができます。
5. [統合ハブ] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス] に移動し、[新規] をクリックします。
6. [AWS 認証情報 (AWS Credentials)] を選択します。
7. 認証情報の一意の名前を入力します (例：`Elastic Beanstalk 01`)。
8. AWS コンソールで作成したアクセスキーの [アクセスキー**ID (Access Key ID)]** と [秘密アクセスキー **(Secret Access Key)]** を入力します。
9. [認証情報エイリアス **(Credential alias)]** のラベルが付いたボックスに、「`sn_aws_beanstk_spk.AWS_Elastic_Beanstalk`」と入力します。
10. [認証アルゴリズム **(Authentication Algorithm)]** というラベルの付いたボックスに、`AmazonElasticBeanstalkAuthAlgo` と入力します。
11. [送信] をクリックします。

タスクの結果

AWS Elastic Beanstalk スポーク が設定されて、ServiceNow インスタンスとデータ連携されます。

AWS Elastic Load Balancing スポーク

ServiceNow インスタンスから AWS アカウントのロードバランサー、タグ、およびターゲットグループを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

AWS Elastic Load Balancing スポーク v1.0.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは、AWS Elastic Load Balancing API バージョン 2012-06-01 用にビルドされました。

スポークの要件

- AWS Elastic Load Balancing へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

IAM でユーザーを作成し、必要なアクセス権を提供する方法の詳細については、「AWS のドキュメント」サイトの 「AWS 認証情報の理解と取得」 ページを参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー：動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：XML パーサー (com.glide.hub.action_step.xmlparser)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

AWS Elastic Load Balancing スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに AWS Elastic Load Balancing タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
可変ロードバランサー管理	ロードバランサーを作成	アプリケーションロードバランサーまたはネットワークロードバランサーを作成します。
	ロードバランサーリスナーを作成	指定したアプリケーションロードバランサーまたはネットワークロードバランサーのリスナーを作成します。
	ロードバランサーを削除	指定したアプリケーションロードバランサーまたはネットワークロードバランサーを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ロードバランサーリスナーを削除	指定したリスナーを削除します。
	アカウント制限を取得	AWS アカウントの Elastic Load Balancing リソース制限を一覧表示します。
	ロードバランサー属性を取得	指定したアプリケーションロードバランサーまたはネットワークロードバランサーの属性を一覧表示します。
	リスナーを検索	指定したアプリケーションロードバランサーまたはネットワークロードバランサーの指定したリスナーのリストを取得します。
	ロードバランサーを検索	指定したロードバランサーまたはすべてのロードバランサーのリストを取得します。
	SSL ポリシーを検索	SSL ネゴシエーションに使用されるすべてのポリシーを一覧表示します。
	ロードバランサー属性を更新	指定したアプリケーションロードバランサーまたはネットワークロードバランサーの指定した属性を更新します。
タグ管理	タグを追加	指定された Elastic Load Balancing リソースに指定されたタグを追加します。
	タグの削除	指定された Elastic Load Balancing リソースから指定されたタグを削除します。
	タグを検索	指定したリソースのタグのリストを取得します。
ターゲットグループ管理	ターゲットグループを作成	ターゲットグループを作成します。
	ターゲットを登録解除	指定されたターゲットグループの指定されたターゲットを登録解除します。
	ターゲットグループ属性を取得	指定されたターゲットグループの属性を一覧表示します。
	ターゲット健全性を取得	ターゲットの健全性を一覧表示します。
	ターゲットグループを検索	指定されたターゲットグループまたはすべてのターゲットグループの詳細を取得します。
	ターゲットを登録	指定されたターゲットを指定されたターゲットグループに登録します。
	ターゲットグループを更新	指定したターゲットグループ内のターゲットの健全性状態を評価するために使用される健全性チェックを更新します。
	ターゲットグループ属性を更新	指定されたターゲットグループの指定された属性を更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの設定については、「 AWS Elastic Load Balancing スポークのセットアップ。

AWS Elastic Load Balancing スポークのセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと AWS Elastic Load Balancing アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- AWS Elastic Load Balancing スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

AWS Elastic Load Balancing スポークの認証情報レコードの作成

AWS Elastic Load Balancing アカウント用の認証情報レコードを作成します。AWS Elastic Load Balancing スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. レコード **AWS_Elastic_Load_Balancing** を開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[AWS** 認証情報 **(AWS Credentials)]** を選択します。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`Elastic Load Balancing Cred`」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	AWS Elastic Load Balancing へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	AWS Elastic Load Balancing へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証情報エイリアス	関連する認証情報レコード。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[AmazonElasticLoadBalancingAuthAlgo]** を選択します。 **注:** ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

6. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AWS IAM スポーク

ServiceNow インスタンスを AWS IAM とデータ連携して、AWS サービスとリソースへのアクセスを安全に管理します。ServiceNow インスタンスから AWS IAM のグループ、ポリシー、およびロールを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

AWS IAM スポーク v1.1.0 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン 2010-05-08 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

注: 異なる API バージョンを使用する場合は、すべてのスポークアクションで API バージョンを変更してください。

スポークの要件

- IAM へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

IAM でユーザーを作成し、必要なアクセス権を提供する方法の詳細については、「AWS Identity and Access Management ドキュメント」 サイトを参照してください。

スポークのサブフロー

Jenkins スポークでは、 AWS IAM タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。利用可能なサブフロー：

サブフロー	説明
グループを削除	指定された AWS IAM グループを削除します。
ユーザーを削除	指定された AWS IAM ユーザーを削除します。
ポリシーを削除	指定されたポリシーを AWS IAM アカウントから削除します。

スポークのアクション

AWS IAM スポーク は、ServiceNow でイベントが発生したときに AWS IAM タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
グループ管理	グループにユーザーを追加	AWS IAM でユーザーをグループに追加します。
	グループを作成	AWS IAM にグループを作成します。
	グループを削除	AWS IAM でグループを削除します。
	グループを検索	AWS IAM で必要なグループを検索します。
	グループユーザーを検索	必要なグループのすべてのユーザーを一覧表示します。
	グループからユーザーを削除	AWS IAM のグループからユーザーを削除します。
グループポリシー管理	グループ内にインラインポリシーを添付	指定された IAM グループに埋め込まれているインラインポリシードキュメントを追加または更新します。
	ポリシーをグループに添付	必要な IAM グループに指定した管理対象ポリシーを添付します。
	グループからインラインポリシーをデタッチ	指定された AWS IAM グループから指定されたインラインポリシーを削除します。
	グループからポリシーをデタッチ	必要な IAM グループから指定した管理対象ポリシーをデタッチします。
	添付されたグループポリシーを検索	IAM グループに添付されているすべてのポリシーのリストを取得します。
	グループポリシーを検索	指定されたグループのすべてのインラインポリシーを取得します。何も存在しない場合、この操作により空のリストが返されます。
ポリシー管理	ポリシーを作成	指定された IAM グループ内に管理対象ポリシーを作成します。
	ポリシーを削除	AWS IAM から指定したポリシーを削除します。
	ポリシーをロールからデタッチ	指定された IAM ロールから指定の管理対象ポリシーをデタッチします。
	ポリシーのエンティティを検索	このポリシーに添付されているすべてのエンティティ (ユーザー、グループ、ロール) をリストします。
ユーザー管理	ユーザーを作成	AWS IAM にユーザーを作成します。
	MFA デバイスを非アクティブ化	ユーザーに接続されている必要な MFA デバイスを無効化します。
	ユーザーのアクセスキーを削除	AWS IAM ユーザーのアクセスキーを削除します。
	ログインプロファイルを削除	指定された IAM ユーザーのパスワードを削除します。これによりユーザーは、AWS マネジメントコンソールから AWS サービスにアクセスできなくなります。
	サービス固有の認証情報を削除	必要なサービス固有の認証情報を削除します。
	署名証明書を削除	指定された IAM ユーザーに関連付けられている署名証明書を削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	SSH 公開鍵を削除	指定された SSH 公開鍵を削除します。
	ユーザーを削除	必要な IAM ユーザーを削除します。
	ユーザー別に仮想 MFA デバイスを削除	指定された仮想 MFA デバイスを削除します。
	ポリシーをユーザーからデタッチ	指定された IAM ロールから指定の管理対象ポリシーをデタッチします。
	ユーザーを検索	AWS IAM で必要なユーザーを検索します。
	ユーザー別にアクセスキーを検索	AWS IAM ユーザーのアクセスキーを一覧表示します。
	ユーザーのグループを検索	特定のユーザーが属するすべてのグループのリストを取得します。
	インラインユーザーポリシーを検索	指定された IAM ユーザーのすべてのインラインポリシーを取得します。何も存在しない場合、この操作により空のリストが返されます。
	ユーザー別に MFA デバイスを検索	指定した IAM ユーザーに関連付けられている MFA サービスに関する情報を取得します。何も存在しない場合、この操作により空のリストが返されます。
	サービス固有の認証情報を検索	指定された IAM ユーザーに関連付けられているサービス固有の認証情報に関する情報を取得します。
	ユーザーで署名証明書を検索	指定した IAM ユーザーに関連付けられている署名証明書に関する情報を取得します。何も存在しない場合、この操作により空のリストが返されます。
	ユーザーで SSH 公開鍵を検索	指定した IAM ユーザーに関連付けられている SSH 公開鍵に関する情報を取得します。何も存在しない場合、この操作により空のリストが返されます。
ユーザーポリシー管理	ポリシーをユーザーに添付	指定されたユーザーに指定した管理対象ポリシーを添付します。
	インラインユーザーポリシーを削除	ユーザーに添付されたインラインポリシーを削除します。
	添付されたユーザーポリシーを検索	ユーザーのすべての添付されているポリシーを取得します。
ロール管理	ロールを検索	すべてのロールのリストを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの設定については、「 AWS IAM スポークのセットアップ。

AWS IAM スポークのセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと AWS IAM をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- AWS IAM スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

AWS IAMスポークの認証情報レコードを作成

AWS IAMアカウント用の認証情報レコードを作成します。 AWS IAM スポーク接続および資格情報エイリアスは、この認証情報レコードを使用して AWS IAM でアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **AWS IAM** のレコードを開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`AWS 認証情報`」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	IAM へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	IAM へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証情報エイリアス	関連する認証情報レコード。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[AWS IAM Auth Algo]** を選択します。 **注:** ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

6. [送信] をクリックします。

タスクの結果

AWS IAM スポークの認証情報レコードが作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AWS Lambda スポーク

ServiceNow インスタンスから AWS Lambda のエイリアスと関数を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

AWS Lambda スポーク v1.1.3 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート：データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- AWS IAM スポーク (sn_aws_iam_spoke)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン 2010-05-08 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

注: 異なる API バージョンを使用する場合は、すべてのスポークアクションで API バージョンを変更してください。

スポークの要件

- Lambda へのフルアクセス権を持つユーザー。

  注: AWSLambdaFullAccess IAM ポリシーをユーザーにアサインする必要があります。IAM ポリシーの詳細については、「Lambda のアイデンティティベースの IAM ポリシー」を参照してください。

- IAM コンソールで取得したユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IAM でユーザーを作成し、必要なアクセス権を提供する方法の詳細については、「AWS のドキュメント」サイトの 「AWS 認証情報の理解と取得」 ページを参照してください。

スポークのアクション

AWS Lambda スポーク は、ServiceNow でイベントが発生したときに AWS Lambda タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
エイリアス管理	関数エイリアスを作成	指定された関数のエイリアスを作成します。
	関数エイリアスを削除	指定された関数のエイリアスを削除します。
	関数エイリアスの詳細を取得	指定された関数エイリアスの詳細を取得します。
	関数のエイリアスをリスト	指定された関数のすべてのエイリアスのリストを取得します。
	関数エイリアスを更新	指定されたエイリアスの設定を更新します。
関数管理	権限を追加	指定された AWS Lambda 関数を使用する権限を AWS サービスまたは別のアカウントに付与します。
	関数を作成	AWS Lambda で関数を作成します。
	関数を削除	指定された AWS Lambda 関数または関数バージョンを削除します。
	関数の詳細を取得	指定された AWS Lambda 関数または関数バージョンの詳細を取得します。
	関数を呼び出す	指定された AWS Lambda 関数を呼び出します。
	リスト関数	リージョン内のすべての AWS Lambda 関数のリストを取得します。
	関数コードを更新	指定された AWS Lambda 関数のコードを更新します。
	関数構成を更新 (Update Function Configuration)	指定された AWS Lambda 関数の構成を更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 AWS Lambda スポークのセットアップ。

AWS Lambda スポークのセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと AWS Lambda アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- AWS IAM スポークを有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- AWS Lambda スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

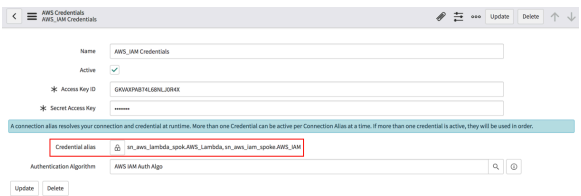
AWS Lambda スポーク の認証情報レコードの作成

AWS Lambda アカウント用の認証情報レコードを作成します。AWS Lambda スポーク接続および資格情報エイリアスは、この認証情報レコードを使用して AWS Lambda でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Amazon Lambda** のレコードを開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`Lambda 認証情報`」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	AWS Lambda へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	AWS Lambda へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。
認証情報エイリアス	AWS IAM スポークおよび AWS Lambda スポークの関連付けられた認証情報レコード。 
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[AWS IAM Auth Algo]** を選択します。 **注:** ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

6. [送信] をクリックします。

タスクの結果
AWS Lambda スポークの認証情報レコードが作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AWS OpsWorks スポーク

ServiceNow インスタンスから AWS OpsWorks アカウント内の可変ロードバランサー、インスタンス、リレーショナルデータベースサービスなどを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

サポートされているバージョン

このスポークは AWS OpsWorks API バージョン 2013-02-18 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- AWS OpsWorks へのフルアクセス権を持つユーザー
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。

IAM でユーザーを作成し、必要なアクセス権を提供する方法の詳細については、「AWS のドキュメント」サイトの「AWS 認証情報の理解と取得」ページを参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート：データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークバージョン

AWS OpsWorks スポーク v1.0.2 が最新バージョンです。

スポークのアクション

AWS OpsWorks スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
可変ロードバランサー管理	可変ロードバランサーを接続	指定されたレイヤーに可変ロードバランサーを接続します。
	可変ロードバランサーをデタッチ	指定された Elastic Load Balancing インスタンスをそのレイヤーからデタッチします。
	可変ロードバランサーを検索	指定したスタック ID の可変ロードバランサーに関する情報を取得します。
インスタンス管理	インスタンスを作成	指定したスタックにインスタンスを作成します。
	インスタンスを削除	指定したインスタンスを削除します。
	インスタンスを検索	指定したスタック ID に対応するインスタンスのリストを取得します。
	インスタンスを開始	指定したインスタンスを開始します。
	スタックインスタンスを開始	指定したスタックのインスタンスを開始します。
	インスタンスを停止	指定されたインスタンスを停止します。
	スタックインスタンスを停止	指定されたスタックのインスタンスを停止します。
リレーショナルデータベースサービス管理	RDS DB インスタンスを登録解除	Amazon RDS インスタンスを登録解除します。
	RDS DB インスタンスを検索	Amazon RDS インスタンスのリストを取得します。
	RDS DB インスタンスを登録	スタックに Amazon RDS インスタンスを登録します。
スタック管理	アプリを削除	指定したアプリを削除します。
	レイヤーを削除	指定したレイヤーを削除します。
	スタックサマリーを取得	指定されたスタック ID の情報を取得します。
	ユーザープロファイルを取得	ユーザープロファイルに関する情報を取得します。
	アプリを検索	指定されたスタック ID のアプリに関する情報を取得します。
	展開を検索	指定したスタック ID の展開に関する情報を取得します。
	レイヤーを検索	指定されたスタック ID のレイヤーのリストを取得します。
	権限を検索	指定されたスタック ID または IAM ユーザーの権限に関する情報を取得します。
	スタックを検索	指定されたスタック ID の情報のリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
タグ管理	タグを追加	指定されたリソースのタグを追加します。
	タグの削除	指定されたリソースのタグを削除します。
	タグを検索	指定したリソースのタグのリストを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 AWS OpsWorks スポークのセットアップ。

AWS OpsWorks スポークのセットアップ

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと AWS OpsWorks アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- AWS OpsWorks スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

AWS OpsWorks スポークの認証情報レコードの作成

AWS OpsWorks アカウント用の認証情報レコードを作成します。AWS OpsWorks スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
4. フォームに、次の値を入力します。

AWS 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：「`AWS OpsWork` 認証情報」。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション。
アクセスキー ID	AWS OpsWorks へのフルアクセス権を持つユーザーのアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	AWS OpsWorks へのフルアクセス権を持つユーザーの秘密アクセスキー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズム。**[AmazonOpsWorkAuthAlgo]** を選択します。 注: ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。
認証情報エイリアス	AWS OpsWorks スポークに関連付けられた認証情報エイリアス。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

AWS Translate スポーク

ServiceNow インスタンスを AWS Translate と統合して、テキスト内の言語を検出し、テキストを必要な言語に翻訳します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブ サブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークは AWS Translate API バージョン 2017-07-01 および AWS Comprehend バージョン 2017-11-27 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

注:

- 異なる API バージョンを使用する場合は、すべてのスポークアクションで API バージョンを変更してください。
- AWS Translate スポークの現在のバージョンは動的翻訳と互換性がありません。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

- AWS Translate へのフルアクセス権を持つユーザー。
- ユーザーのアクセスキー ID と秘密アクセスキー。後で使用するためにこれらの値を記録します。詳細については、「アクセスキーの作成」を参照してください。

ユーザーを作成し、必要なアクセス権を提供する方法の詳細については、「AWS Identity and Access Management のドキュメント」サイトを参照してください。

スポークのフロー

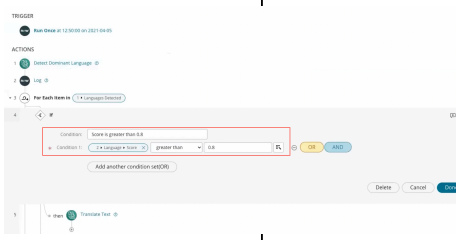
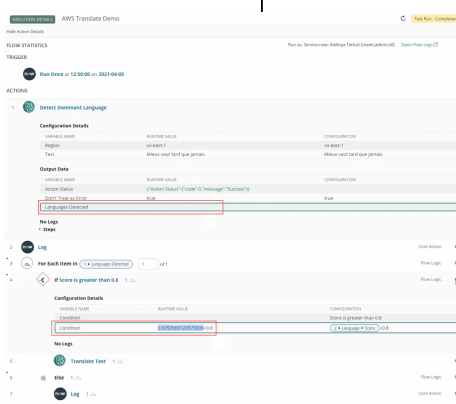
AWS Translate スポークでは、インシデントの作成時に簡単な説明をスペイン語に翻訳するサンプルフロー (簡単な説明を翻訳) が提供されます。必要なスコープでサンプルフローのコピーを作成することで、要件に応じてサンプルフローをカスタマイズできます。

スポークのアクション

AWS Translate スポークでは、ServiceNow でイベントが発生したときにタスクを自動的に翻訳するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
言語の管理	主要言語を検出	AWS Comprehend サービスを使用してテキストの言語を検出します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		注: アクション入力 **[Text]** で主要言語を検出するテキストを指定します。出力は、検出された言語のアレイを含む JSON 文字列です。アレイ内の要素の 1 つはスコアです。これは 10 進数で、値は `0` ～ `1` です。  アクションが実行されると、[検出された言語 (Languages Detected)] アクションの出力にランタイム値が表示されない場合があります。ただし、出力データピルには応答データが保持されており、フローまたはサブフローの後続のアクションで使用できます。 
翻訳管理	テキストの翻訳	AWS Translate サービスを使用して、ソース言語からターゲット言語にテキストを翻訳します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		注: • [ソース言語] と [ターゲット言語] では、[地域] に有効な入力値が指定されるまで入力値を選択できません。 • [ソース言語] リストから [自動] を選択すると、AWS Translate API は AWS Comprehend サービスを使用して言語を自動的に検出します。この場合、Amazon Comprehend をサポートする地域を指定する必要があります。それ以外の場合は、自動検出がサポートされていないことを示すエラーが返されます。

注: アクションでは、リージョンを入力としています。利用可能なリージョンのリストを取得するには、Amazon EC2 スポーク から [リージョンをリスト] アクションを使用します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 AWS Translate スポークの設定。

AWS Translate スポークの設定

AWS 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと AWS Translate を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- AWS Translate スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

アクセスキーの作成

AWS 管理コンソールで必要なユーザーのアクセスキーを作成して、ServiceNow® インスタンスからの要求を認証します。

手順

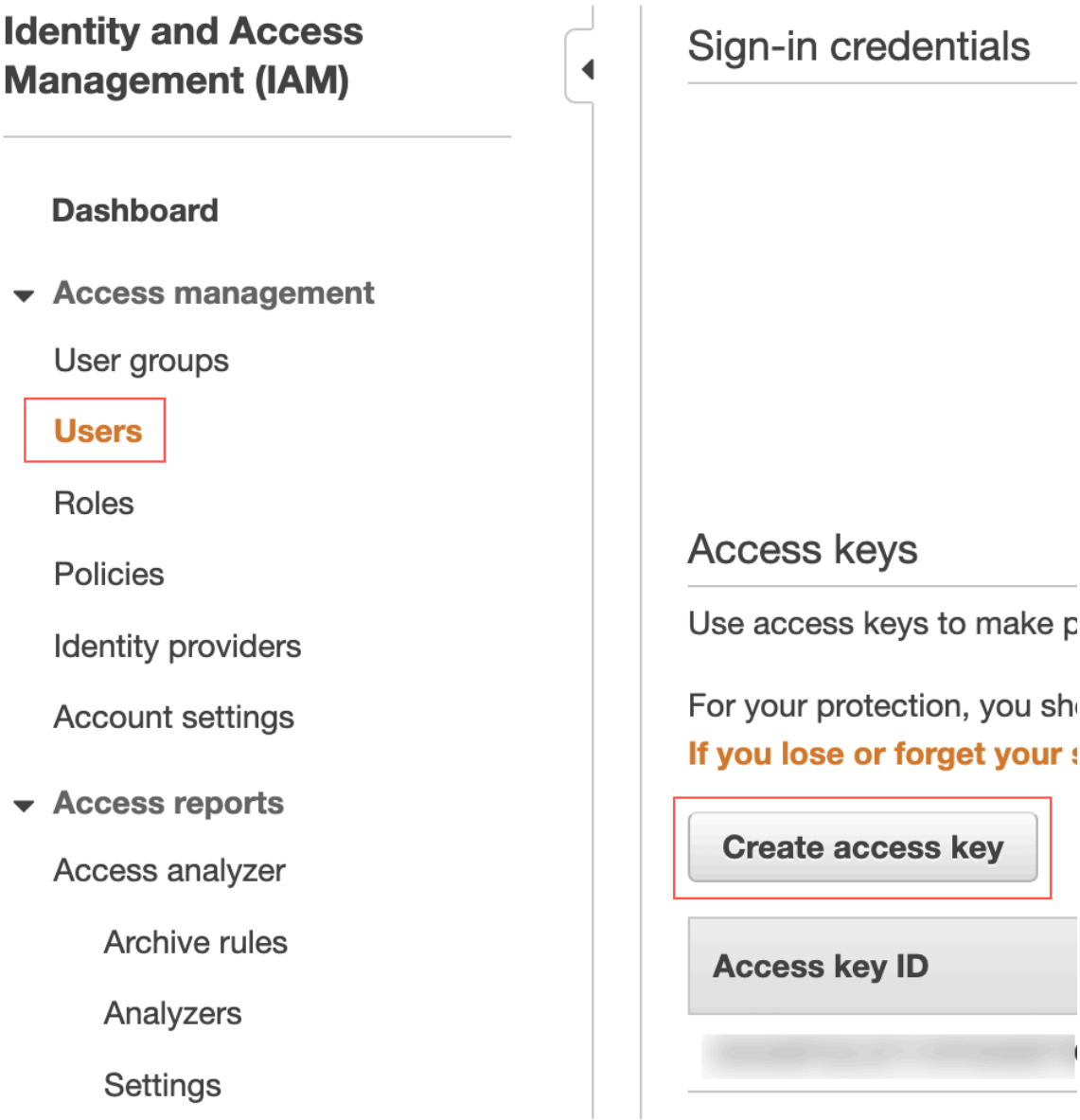
1. AWS 管理コンソールにログインして IAM コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[ユーザー] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. アクセスキーを作成または管理する必要があるユーザーレコードをクリックします。

   注: ユーザーが AWS Translate へのアドミンアクセス権を持っていることを確認します。

4. [セキュリティ認証情報 **(Security credentials)]** タブをクリックします。
5. [アクセスキー] で、[アクセスキーを作成 **(Create access key)]** をクリックします。



   アクセスキーが作成されます。

6. **[.csv** ファイルをダウンロード **(Dowload .csv file)]** をクリックして、アクセスキー ID と秘密アクセスキーを CSV ファイルに保存し、後で使用するために記録します。
   詳細については、「アクセスキーの管理 (コンソール)」を参照してください。

認証情報レコードの作成

AWS Translate スポークの認証情報レコードを作成します。 AWS Translate スポークは、この認証情報を使用して AWS Translate でアクションを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. **[IntegrationHub]** > [接続および資格情報エイリアス] に移動します。
2. **[AWS 翻訳 (AWS Translate)]** レコードを開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[AWS 認証情報 (AWS Credentials)]** を選択します。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する名前です。
アクセスキー ID	AWS 管理コンソールからコピーしたアクセスキー ID。
秘密アクセスキー	AWS 管理コンソールからコピーした秘密アクセスキー。
認証アルゴリズム	Web サービスを認証するための認証アルゴリズム。**[AWS 翻訳認証アルゴリズム (AWS Translate Authentication algorithm)]** を選択します。

6. [送信] をクリックします。

タスクの結果
AWS Translate スポークの認証情報レコードが作成されます。

BigFix インベントリスポーク

ServiceNow インスタンスから BigFix インベントリ のハードウェア、ソフトウェア、およびライセンスを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

BigFix インベントリスポーク v1.5.4 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート：データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - 接続情報の取得 (com.glide.hub.action_step.get_connection_info)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

このスポークは BigFix インベントリバージョン 9.2.16.0 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

BigFix インベントリ管理アカウント。

スポークのフロー

BigFix インベントリ スポークでは、「ソフトウェアのサポート終了日の構成」サービスカタログ要求が作成されたときにソフトウェアコンポーネントのサポート終了日の設定をデモするサンプルフロー「ソフトウェアコンポーネントのサポート終了日の構成」が提供されます。必要なスコープでサンプルフローのコピーを作成することで、要件に応じてサンプルフローをカスタマイズできます。

スポークのサブフロー

BigFix インベントリ スポークでは、受信した BigFix インベントリ レポートを添付してメール通知を送信する方法をデモするサンプルフロー「BigFix インベントリレポートのメール通知の送信」が提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのリモートテーブル

ServiceNow は、BigFix インベントリへの接続、および BigFix インベントリからのデータの表示、プル、操作に使用できるサンプルリモートテーブルを提供します。サンプルリモートテーブルの名前は Computers です。サンプルリモートテーブルに基づいて、カスタムリモートテーブルを作成できます。リモートテーブルにアクセスするには、インスタンスで [すべて] > **[BigFix** インベントリスポーク] > [ソフトウェアインベントリ] > [リモートテーブル] に移動し、[コンピューター] を選択します。

リモートテーブルの詳細については、「リモートテーブル」を参照してください。

スポークのアクション

BigFix インベントリスポークは、ServiceNow でイベントが発生したときに BigFix インベントリタスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ハードウェア管理	コンピューター ID で BIOS の詳細を検索	コンピューターの BIOS 詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	BIOS 詳細ストリームを検索	スキャンされたシステムの BIOS 詳細のリストを取得します。
	コンピューター ID でコンピューターハードウェアフィールドを検索	コンピューターに関連付けられている論理パーティションのリストを取得します。
	ハードウェア在庫ストリームを検索	BigFix インベントリシステム内のハードウェアレコードに関するサマリー情報をリストします。
	コンピューター ID で IP アドレスを検索	コンピューターに関連付けられている IP アドレスのリストを取得します。
	IP アドレスストリームを検索	インフラストラクチャ内のコンピューターの IP アドレスの詳細のリストを取得します。
	コンピューター ID で論理パーティションを検索	コンピューターに関連付けられている論理パーティションのリストを取得します。
	論理パーティションストリームを検索	インフラストラクチャ内のコンピューターの論理パーティションの詳細のリストを取得します。
	コンピューター ID でメモリの詳細を検索	コンピューターのメモリの詳細を取得します。
	メモリ詳細ストリームを検索	スキャンされたシステムのシステムメモリの詳細のリストを取得します。
	コンピューター ID でネットワークアダプタを検索	コンピューターに関連付けられているネットワークアダプターのリストを取得します。
	ネットワークアダプタストリームを検索	ネットワークアダプターのリストを取得します。
	コンピューター ID でオペレーティングシステムの詳細を検索	コンピューターのオペレーティングシステムの詳細を取得します。
	オペレーティングシステムの詳細ストリームを検索	スキャンされたコンピューターのオペレーティングシステムの詳細を取得します。
	コンピューター ID で物理パーティションの詳細を検索	コンピューターに関連付けられている物理パーティションのリストを取得します。
	物理パーティションストリームを検索	スキャンされたコンピューターの物理パーティションのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	コンピューター ID でプロセッサーの詳細を検索	コンピューターのオペレーティングシステムの詳細を取得します。
	プロセッサー詳細ストリームを検索	すべてのアクティブな物理プロセッサーの詳細を取得します。
	共有ディスクストリームを検索	BigFix インベントリの共有ディスクをリストします。
	コンピューター ID でストレージデバイスを検索	コンピューターに関連付けられている物理パーティションのリストを取得します。
	ストレージデバイスストリームを検索	スキャンされたシステムのストレージデバイスのリストを取得します。
ライセンス管理	ライセンスメトリクス使用率ストリームを検索	BigFix インベントリのライセンスの使用状況データを取得します。
ソフトウェア管理	クラスター情報ストリームを検索	BigFix インベントリシステムのクラスターをリストします。
	製品 ID で IBM 製品リリースを検索	IBM ソフトウェア製品に関連付けられているリリースのリストを取得します。
	リリース ID で IBM 製品リリースインスタンスを検索	IBM ソフトウェア製品リリースに関連付けられているインスタンスのリストを取得します。
	IBM 製品リリースインスタンスストリームを検索	指定したソフトウェア製品リリースに関連付けられているインスタンスのリストを取得します。
	IBM 製品リリースストリームを検索	指定したソフトウェア製品に関連付けられているリリースのリストを取得します。
	IBM ソフトウェア製品ストリームを検索	インフラストラクチャにインストールされている IBM ソフトウェア製品の詳細のリストを取得します。
	ライセンス使用状況ストリームを検索	過去 90 日間のピークライセンス使用をリストします。
	ソフトウェアコンポーネントストリームを検索	BigFix インベントリのソフトウェアコンポーネントをリストします。
	ソフトウェアインベントリストリームを検索	BigFix インベントリによってスキャンされたインフラストラクチャ内のインストール済みソフトウェアをリストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	VM マネージャーを検索	BigFix インベントリシステムの VM マネージャーをリストします。
	ソフトウェアコンポーネントのサポート終了日の設定	ソフトウェアコンポーネントのサポート終了日を構成します。

スポークの設定については、「 BigFix インベントリスポークの設定。

スポークモジュール

BigFix インベントリ スポークは、以下のモジュールを含む BigFix インベントリ スポークアプリケーションを提供します。

フィールド	説明
ソフトウェアインベントリ	すべてのソフトウェアインベントリの詳細を表示します。
リモートテーブル	
コンピューター	BigFix インベントリ のすべてのコンピューターの詳細を表示します。 ユーザーがこのモジュールに移動すると、このデータが取得され、5 分間表示されます。この期間が経過すると、データは削除されます。

スポークユーザーロール

BigFix インベントリ は、**bigfix_admin** (sn_bigfix_in_spoke.bigfix_admin) ロールをスポークとして設定します。このロールを持つユーザーは、BigFix インベントリ スポークアプリケーションにアクセスできます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報 」を参照してください。

BigFix インベントリスポークの設定

API キーを使用して ServiceNow インスタンスと BigFix インベントリを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- BigFix Inventory スポークを有効にします。
- BigFix Inventory アドミニストレーターが BigFix Inventory ポータルにアクセスします。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

API キーの生成

ServiceNow インスタンスが BigFix インベントリインスタンスへのアクセスを要求できるようにする API キーを生成します。

始める前に

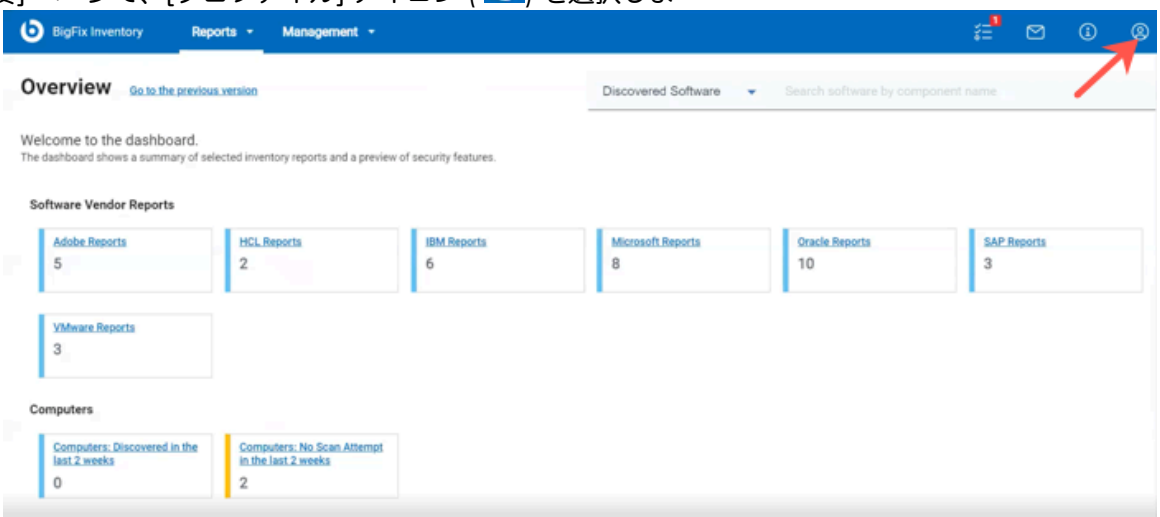
BigFix インベントリの要件：

- BigFix インベントリアカウント
- 必要なロール：BigFix インベントリアドミン

BigFix インベントリ環境から、次の手順を実行します。インストールと構成の詳細については、「BigFix V9.5 インベントリドキュメント」を参照してください。

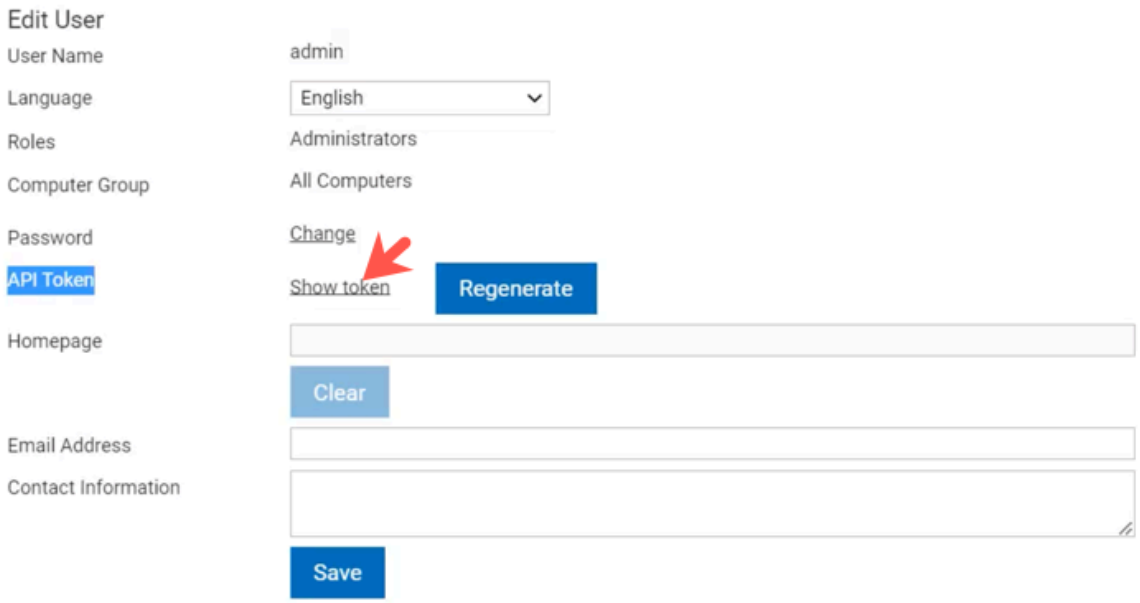
手順

1. BigFix インベントリ ポータルにログインします。
2. [概要] ページで、[プロファイル] アイコン ( ) を選択しま



す。

3. [プロファイル] を選択します。
4. [ユーザーの編集] ページで、[API トークン] フィールドのトークンの表示リンクを選択しま

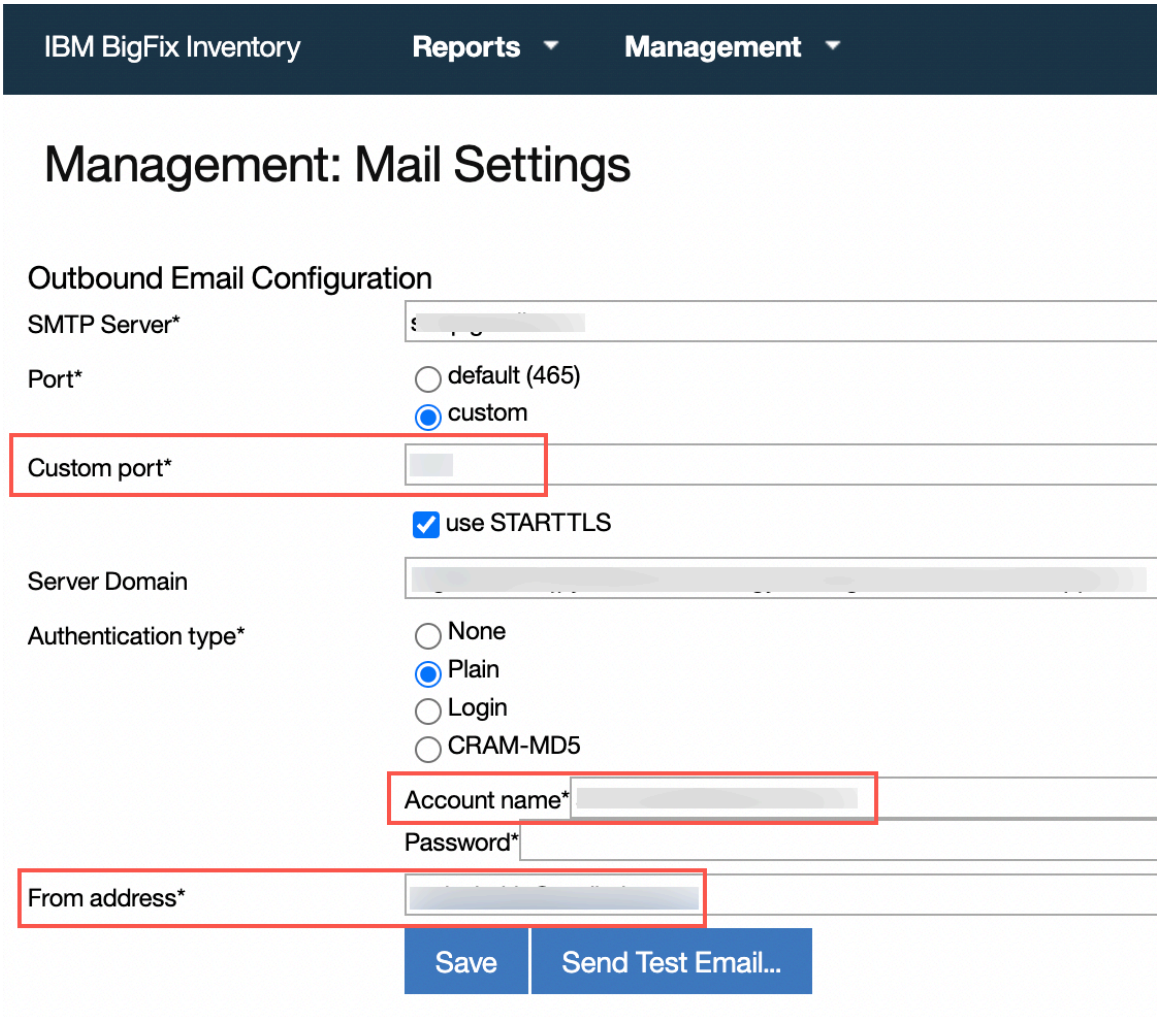


す。

5. API トークンをコピーし、安全な場所に保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

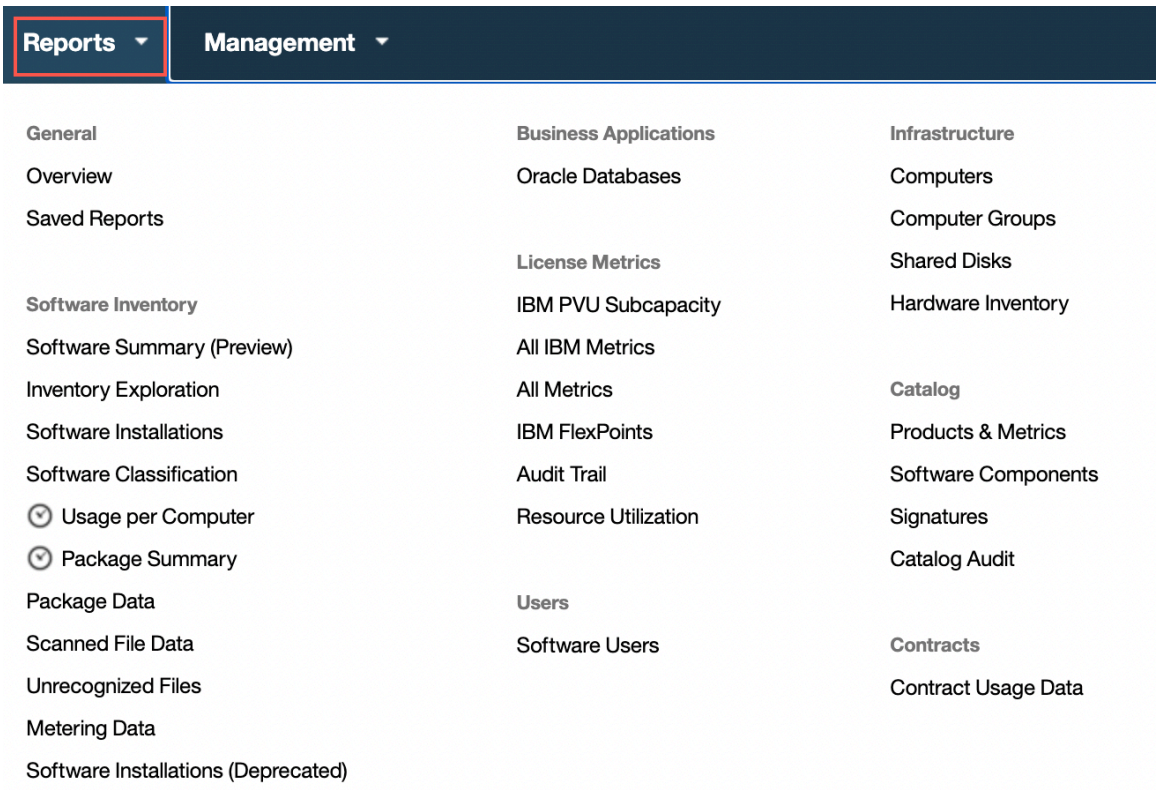
6. [管理] > [設定] > [メール設定 **(Mail Setting)]**に移動します。
7. メール設定を構成します。



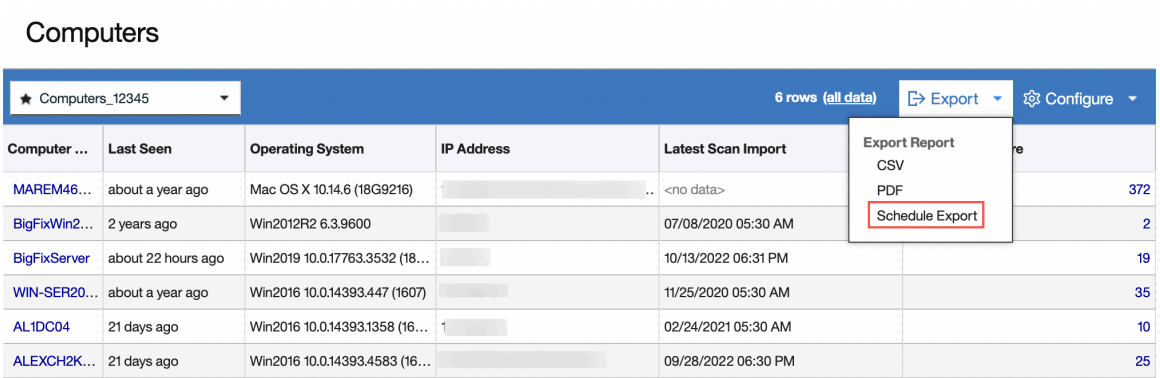
8. 必要なレポートのエクスポートをスケジュールします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [レポート] の下の必要なレポートに移動します (例：[コンピューター])。

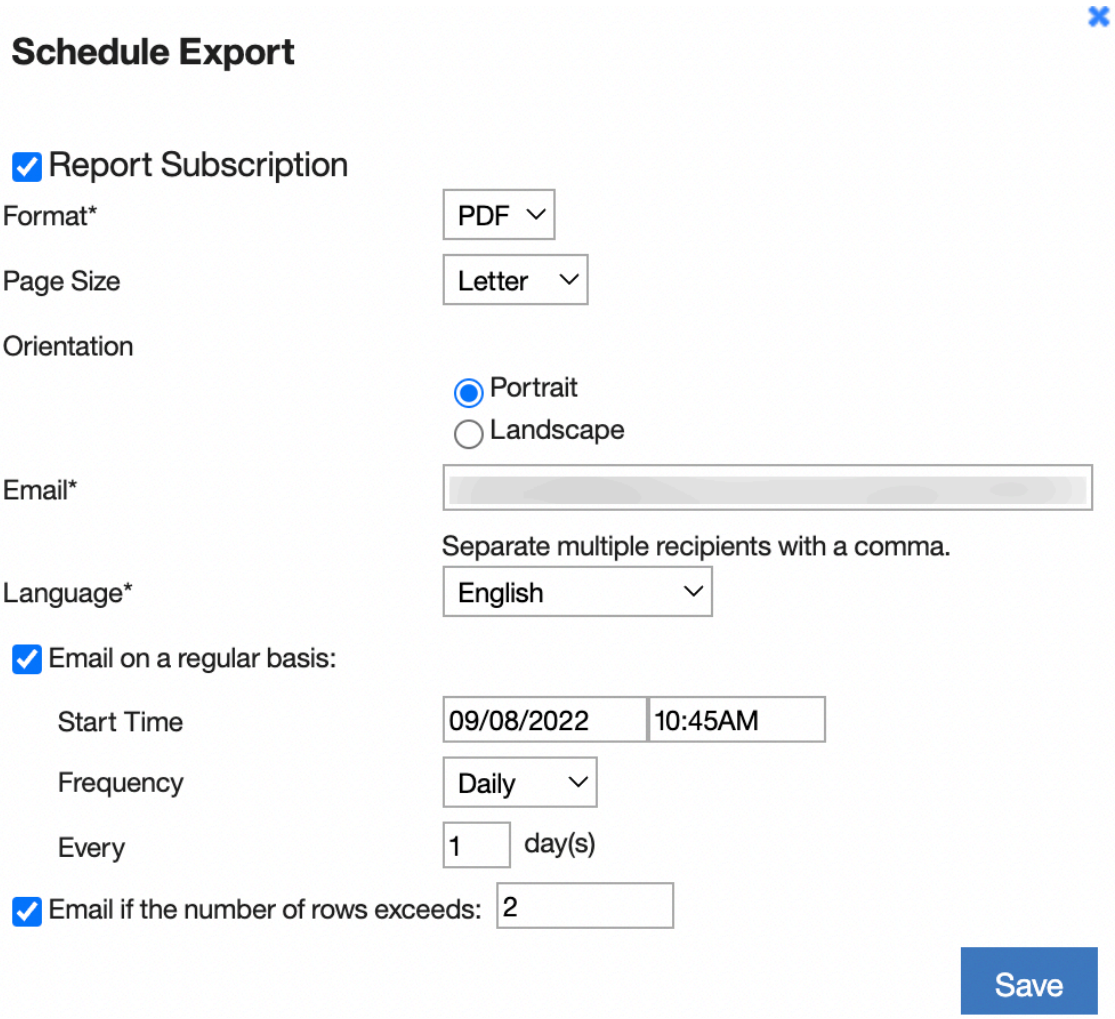


b. [エクスポートをスケジュール **(Schedule Export)]** を選択します。



c. フォームで、レポートの送信先の ServiceNow インスタンスのメールアドレス、およびレポートをメールで送信する頻度と時間を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



d. 構成を保存します。

接続および認証情報レコードの構成

BigFix インベントリインスタンスへのアクセスを要求するための情報を含む、接続および認証情報レコードを構成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] を選択します。
3. [送信] タブをオンにします。
4. [すべての接続を検索] フィールドに「`BigFix インベントリ`」と入力します。
5. BigFix_Inventory カードで、[詳細を表示] を選択します。
6. [設定] を選択します。
7. フォームに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続を設定

フィールド	説明
接続名	BigFix インベントリインスタンスとの間で確立された接続の名前最初の接続のデフォルト名は、[接続および資格情報エイリアス] ページの [接続および資格情報] フォームで指定された名前と一致するように自動的に割り当てられます。カスタム名を指定するには、[接続を追加] を選択し、接続を作成します。
接続 URL	ServiceNow インスタンスが BigFix インベントリインスタンスに接続するために使用する URL。
API キー	ServiceNow インスタンスが BigFix インベントリインスタンスへのアクセスを要求できるようにするキー。BigFix インベントリポータルで生成した API キーを入力します。API キーの生成方法については、「API キーの生成」を参照してください。

8. [接続を設定] を選択します。
   接続および認証情報レコードが作成されます。

Blue Prism スポーク

ServiceNow インスタンスから Blue Prism 環境のジョブとプロセスを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Blue Prism スポーク v1.0.2 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー：動的出力 (com.glide.hub.dynamic_outputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー：動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ：SOAP (com.glide.hub.action_step.soap)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ：XML パーサー (com.glide.hub.action_step.xmlparser)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

このスポークは Blue Prism Process Dispatch Framework バージョン 2.6 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Blue Prismアカウント

スポークのフローおよびサブフロー

このスポークにはフローまたはサブフローがありません。

スポークのアクション

Blue Prism スポーク は、ServiceNow でイベントが発生したときに Blue Prism タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

スポークのアクション

カテゴリ	アクション	説明
ジョブ管理	ジョブステータスを取得	指定されたジョブのステータスを取得します。
	ジョブ出力をリスト	指定されたセッション ID に関連付けられたジョブの出力のリストを取得します。
	ジョブを開始	Blue Prism 環境で、指定された入力のジョブを実行します。
プロセス管理	プロセスパラメーターを取得	Blue Prism 環境で、指定されたプロセスのパラメーターのリストを取得します。
	プロセスをリスト	Blue Prism 環境でプロセスのリストを取得します。
ユーティリティ	コレクション入力を生成	コレクションタイプのフォーマットされた文字列を作成します。このフォーマットされた文字列は、ジョブを開始アクションの入力として使用されます。

スポークの設定については、「Blue Prism スポークの設定。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MID サーバーの要件

これらのアクションでは MID サーバーで実行される REST 呼び出しを使用します。Blue Prism Inventory エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー」を参照してください。

Blue Prism スポークの設定

ServiceNow インスタンスと Blue Prism サーバーを統合し、ServiceNow インスタンスからの要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Blue Prism スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

Blue Prism アプリケーションの構成

Blue Prism 環境で Dispatch Framework および Process Info ユーティリティを設定して、ServiceNow とのデータ連携を有効にします。

始める前に

Blue Prism Digital Exchange アカウント。

必要なロール：admin

手順

1. Blue Prism Digital Exchange にログインします。
2. Dispatch Framework ユーティリティの [資産へのリンク **(Link to Asset)**] をクリックします。
   GitHub の Dispatch Framework リポジトリにリダイレクトされます。
3. 「Blue Prism Process Dispatch Framework User Guide」で説明されている手順を完了します。
4. Process Info ユーティリティの [資産へのリンク **(Link to Asset)**] をクリックします。
   GitHub の Process Info リポジトリにリダイレクトされます。
5. 「Blue Prism Process Info VBO User Guide」で説明されている手順を完了します。
   Blue Prism 環境は、ServiceNow インスタンスとデータ連携する準備が整いました。

Blue Prism ProcessInfo の接続および認証情報レコードの作成

ServiceNow インスタンスが Blue Prism ProcessInfo ユーティリティに接続できるように、接続および認証情報レコードを作成します。レコードは、毎回 Blue Prism ProcessInfo ユーティリティに接続するために必要なすべての情報が含まれる単一のフォームです。

始める前に

必要なロール：admin

手順

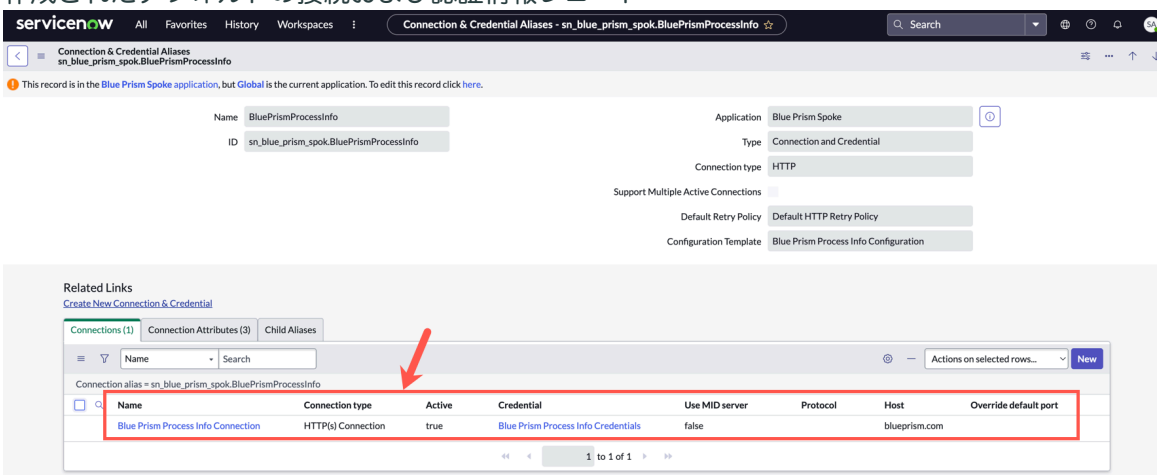
1. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **BluePrismProcessInfo** のレコードを開きます。
3. [関連リンク] セクションから、[新しい接続および資格情報の作成] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続名	接続の名前。デフォルト値は `Blue Prism Process Info Connection` です。
接続 URL	Blue Prism 環境への接続に使用される URL。
データベース認証情報名	データベースの認証情報名。デフォルト値は `DB Read User` です。
データベースサーバーアドレス	Blue Prism 環境のデータベースサーバーアドレス。
データベース名	データベースの名前。デフォルト値は `BluePrism` です。
認証情報名	Blue Prism Process Info の認証情報。
ユーザー名	Blue Prism Process Info サーバーが認証するユーザー名。
パスワード	Blue Prism Process Info サーバーが認証するパスワード。

5. [作成] をクリックします。
新しい接続および認証情報レコードが [接続] タブに作成されます。別のレコードを作成してデフォルトとして設定しない限り、これがデフォルトのレコードになります。

作成されたデフォルトの接続および認証情報レコード

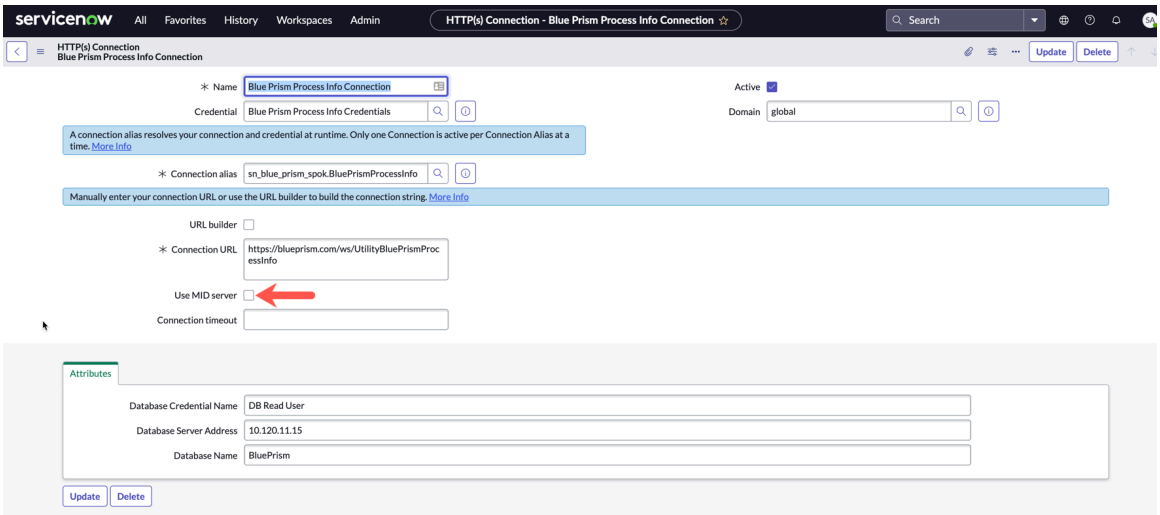


6. [レコード] をクリックして開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. **[MID サーバーを使用]** オプションを有効にします。

MID サーバーオプション



Blue Prism Process Dispatcher の接続および認証情報レコードの作成

インスタンスが Blue Prism Process Dispatch ユーティリティに接続できるように、接続および認証情報レコードを作成します。レコードは、毎回 Blue Prism ProcessInfo ユーティリティに接続するために必要なすべての情報が含まれる単一のフォームです。

始める前に
必要なロール：admin

手順

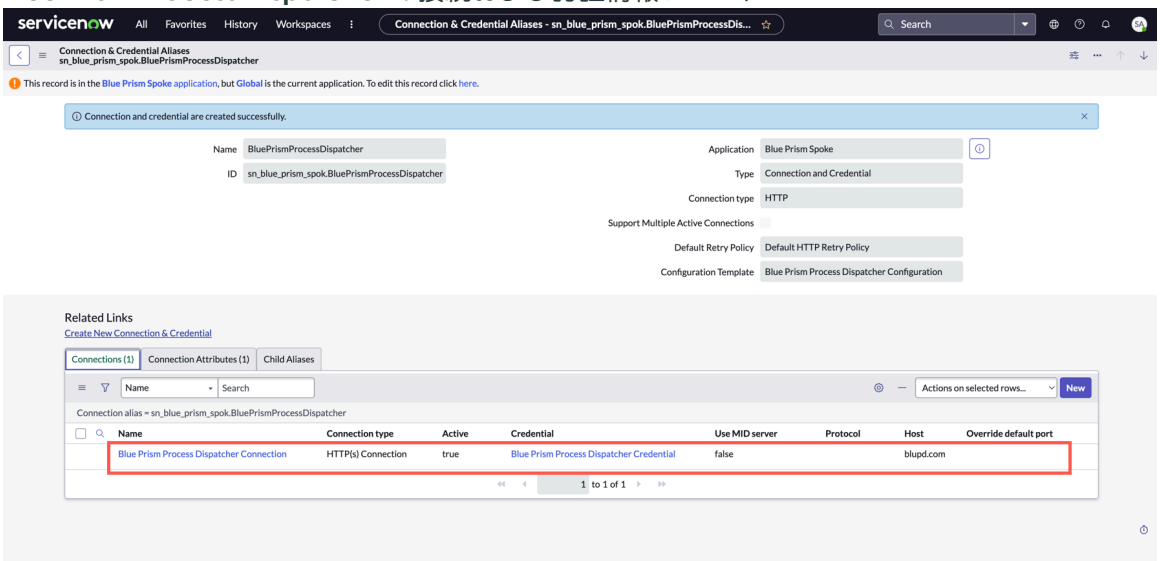
1. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **BluePrismProcessDispatcher** のレコードを開きます。
3. [関連リンク] セクションから、[新しい接続および資格情報の作成] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続の名前。デフォルト値は `Blue Prism Process Dispatcher Connection` です。
接続 URL	Blue Prism 環境への接続に使用される URL。
ランタイム認証情報名	Blue Prism 環境で構成された実行時アクセス権を持つ認証情報。
認証情報名	認証情報の名前です。デフォルト値は `[Blue Prism Process Dispatcher 認証情報 (Blue Prism Process Dispatcher Credentials)]` です。
ユーザー名	Blue Prism Process Dispatcher サーバーが認証するユーザー名。
パスワード	Blue Prism Process Dispatcher サーバーが認証するパスワード。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [作成] をクリックします。
   新しい接続および認証情報レコードが [接続] タブに作成されます。別のレコードを作成してデフォルトとして設定しない限り、これがデフォルトのレコードになります。

Blue Prism Process Dispatcher の接続および認証情報レコード



6. [レコード] をクリックして開きます。
7. **[MID** サーバーを使用] オプションを有効にします。

BMC 救済スポーク

ServiceNow インスタンスから BMC Remedy の変更要求、インシデント、問題、およびその他のレコードを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

BMC Remedy スポーク v1.4.1 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

このスポークは BMC Remedy AR サーバーバージョン 19.08 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークのフロー

BMC Remedy スポークでは、最終変更日に基づいてレコードの詳細を取得する方法をデモするための [レコードの検索] サンプルフローが提供されています。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのサブフロー

BMC Remedy スポークでは、指定されたインシデント番号の要求 ID を取得する方法をデモするための [インシデント要求 ID を取得 (Get Incident Request ID)] サンプルサブフローが提供されています。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのアクション

BMC Remedy スポークでは、ServiceNow でイベントが発生したときに BMC Remedy タスクを実行するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
変更管理	変更要求を作成	BMC Remedy で変更要求を作成します。
CMDB 管理	クラス属性を取得	BMC Remedy からクラス属性スキーマを取得します。
	クラスを取得	BMC Remedy CMDB のすべての非抽象クラスのリストを取得します。
	データセットを取得	BMC Remedy CMDB のすべてのデータセットのリストを取得します。
	名前空間を取得	BMC Remedy CMDB のすべての名前空間のリストを取得します。
	CMDB データを検索	BMC Remedy から指定されたデータセット、名前空間、およびクラスのすべての CMDB データを取得します。
インシデント管理	[インシデントの作成]	BMC Remedy にインシデントを作成します。
	すべてのインシデントを取得	BMC Remedy からすべてのインシデントの詳細を取得します。
	添付ファイルを更新	BMC Remedy で必要なインシデントの添付ファイルを更新します。
	番号でインシデントを取得	指定されたインシデントの詳細を取得します。
メタデータの取得	すべてのオブジェクトの取得	BMC Remedy のすべてのオブジェクトの名前とラベルを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	エイリアスセレクター	BMC Remedy スポークに固有の指定されたエイリアスを検証し、有効な場合はエイリアスを取得します。
	変更フォームフィールドを取得	[インターフェイスを変更 (Change Interface)] フォームテーブルのフィールドのリストを取得します。
	変更ステータスを取得	BMC Remedy 変更管理のすべてのステータスのリストを取得します。
	変更のタイミングを取得	BMC Remedy 変更管理のすべての変更のタイミングのリストを取得します。
	作成可能なフィールドを取得	必須の標準またはカスタム BMC Remedy テーブルの作成可能なフィールドのリストを取得します。
	作成可能なオブジェクトを取得	BMC Remedy の作成可能なオブジェクトのリストを取得します。
	影響度を取得	BMC Remedy のすべての影響度のリストを取得します。
	インシデントフォームフィールドを取得	[インシデントインターフェイス (Incident Interface)] フォームテーブルのフィールドのリストを取得します。
	インシデント状況を取得	BMC Remedy インシデント管理のすべてのステータスのリストを取得します。
	調査ドライバーを取得	BMC Remedy 問題管理のすべての調査ドライバーのリストを取得します。
	オブジェクトスキーマを取得	BMC Remedy の指定されたオブジェクトのスキーマを取得します。
	問題フォームのフィールドを取得	[問題インターフェイス (Problem Interface)] フォームテーブルのフィールドのリストを取得します。
	問題ステータスを取得	BMC Remedy 問題管理のすべてのステータスのリストを取得します。
	クエリ可能なフィールドを取得	必須の標準またはカスタム BMC Remedy テーブルの更新可能なフィールドのリストを取得します。
	レポートソースを取得	BMC Remedy インシデント管理のすべてのレポートソースのリストを取得します。
	リスクレベルを取得	BMC Remedy 変更管理のすべてのリスクレベルのリストを取得します。
	サービスタイプを取得	BMC Remedy インシデントオブジェクトのすべてのサービスタイプのリストを取得します。
	トークンを取得	BMC Remedy のアクセストークンを生成します。
	更新可能フィールドを取得	必須の標準またはカスタム BMC Remedy テーブルの更新可能なフィールドのリストを取得します。
	緊急度を取得	BMC Remedy のすべての緊急度のリストを取得します。
問題管理	問題を作成	BMC Remedy に問題を作成します。
レコード管理	レコードを作成	BMC Remedy に必要なタイプのレコードを作成します。
	ID でレコード詳細を取得	指定されたレコードの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	レコードを検索	クエリフィールドに基づいて BMC Remedy でレコードを検索します。
	レコードを更新	BMC Remedy の指定されたレコードの詳細を更新します。
サービス要求管理	サービス要求を作成	BMC Remedy でサービス要求を作成します。
	サービス要求フォームフィールドを取得	[サービス要求インターフェイス (Service Request Interface)] フォームテーブルのフィールドのリストを取得します。
	サービス要求ステータスを取得	BMC Remedy サービス要求管理のすべてのステータスのリストを取得します。

スポークモジュール

BMC Remedy スポークは BMC Remedy アプリケーションをインスタンスに追加し、次のモジュールを含めます。

モジュール	説明
認証情報	BMC Remedy スポークの認証情報レコードには、ここからアクセスできます。
オブジェクト	BMC Remedy のオブジェクトに関する情報は、ここからアクセスできます。フローで使用できるオブジェクトを作成することもできます。オブジェクトの作成方法の詳細については、「ServiceNow インスタンスでの BMC Remedy オブジェクトの作成」を参照してください。

スポークユーザーロール

Remedy_Admin (sn_bmcremedy_spoke.Remedy_Admin) は、BMC Remedy スポークがインストールされている場合に使用できます。ロールを持つユーザーは、オブジェクトモジュールでオブジェクトを表示および作成できます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

BMC Remedy スポークをインストールすると、[接続および認証情報] タイプと [認証情報] タイプの 2 つのエイリアスを使用できます。スポークの設定については、「 BMC Remedy スポークのセットアップ。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。BMC Remedy エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー 選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

BMC Remedy スポークのセットアップ

Remedy の認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと BMC Remedy をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- BMC Remedy スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

> **注:** これらの手順は **BMC Remedy** スポークアプリケーションスコープ内でのみ実行してください。

BMC Remedy スポーク の認証情報レコードの作成

BMC Remedy アプリケーションの認証情報レコードを作成します。 BMC Remedy スポーク 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. [タイプ] が [認証情報] である **BMC Remedy** スポークのレコードを開きます (例：`BMCRemedy_Credential`)。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. [認証情報の救済] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：「`Remedy Cred`」。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
ユーザー名	BMC Remedy ユーザーの名前。 **注:** アドミンユーザーは必要ありません。ただし、BMC Remedy ユーザーに必要な変更、インシデント、および問題管理アクションを実行する権限があることを確認してください。
パスワード	BMC Remedy ユーザーアカウントのパスワード。
認証情報エイリアス	このレコードに関連付けられた認証情報エイリアスレコード。
トークンステータス	BMC Remedy トークンのステータス。[アクティブ] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
適用先	MID サーバー はこの認証情報レコードを使用できます。
MID サーバーを使用	この認証情報レコードを使用できる特定の MID サーバー。 注: このフィールドは、[適用先] で [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合にのみ表示されます。

6. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

タスクの結果
BMC Remedy スポーク の認証情報レコードが作成されます。

BMC Remedy スポーク の接続レコードの作成

BMC Remedy アプリケーションへの接続レコードを作成します。 BMC Remedy スポーク の接続および資格情報エイリアスでは、この接続を使用して BMC Remedy でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. [タイプ] が [接続および認証情報] である **BMC Remedy** スポークのレコードを開きます (例：`BMCRemedy`)。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`BMC Remedy` 接続」と入力します。
認証情報	BMC Remedy のために作成された認証情報レコード。たとえば、**[Remedy Cred]** を選択します。
接続エイリアス	このレコードに関連付けられている接続エイリアス。
URL ビルダー	手動で接続 URL を入力するか、システムを使用して入力に基づいて URL を作成するオプション。
接続 URL	BMC Remedy アプリケーションを起動する URL。例：`http://<bmc-remedy-localhost>:8008/api`
MID サーバーを使用	MID サーバー を使用するオプション。
できること	MID サーバー の機能。このフィールドは、**[MID** サーバーを使用] オプションを選択すると表示されます。
MID アプリケーション	MID サーバー を使用するオプション。このフィールドは、**[MID** サーバーを使用] オプションを選択すると表示されます。
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
ドメイン	アクションを実行するドメインです。

5. [送信] をクリックします。

タスクの結果
BMC Remedy スポーク の接続レコードが作成されます。

ServiceNow インスタンスでの BMC Remedy オブジェクトの作成

必要なオブジェクトを作成して、ServiceNow インスタンスから BMC Remedy の他のオブジェクトを管理します。

始める前に
必要なロール：admin または Remedy_Admin

このタスクについて
デフォルトでは、BMC Remedy スポークは変更要求、インシデント、および問題オブジェクトをサポートしています。製品カタログなどの他のオブジェクトを管理するには、ServiceNow インスタンスにオブジェクトを作成します。

手順
1. [すべて] > **[BMC** 救済スポーク] > [オブジェクト]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームの各フィールドに入力します。

BMC Remedy オブジェクトフォーム

フィールド	説明
名前	必要なフォームの名前。この値は各オブジェクトに固有です。たとえば、製品カタログのフォーム値は `PCT:Product Catalog` です。
ラベル	レコードを識別するラベル名。
作成可能	オブジェクトにレコードを作成するオプション。このオプションを選択し、レコードを作成してフローでオブジェクトを使用します。

4. [送信] をクリックします。

Box スポーク

共有ドキュメントとして管理できるように添付ファイルをボックスに移動します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

ボックススポーク v3.2.2 が最新バージョンです。

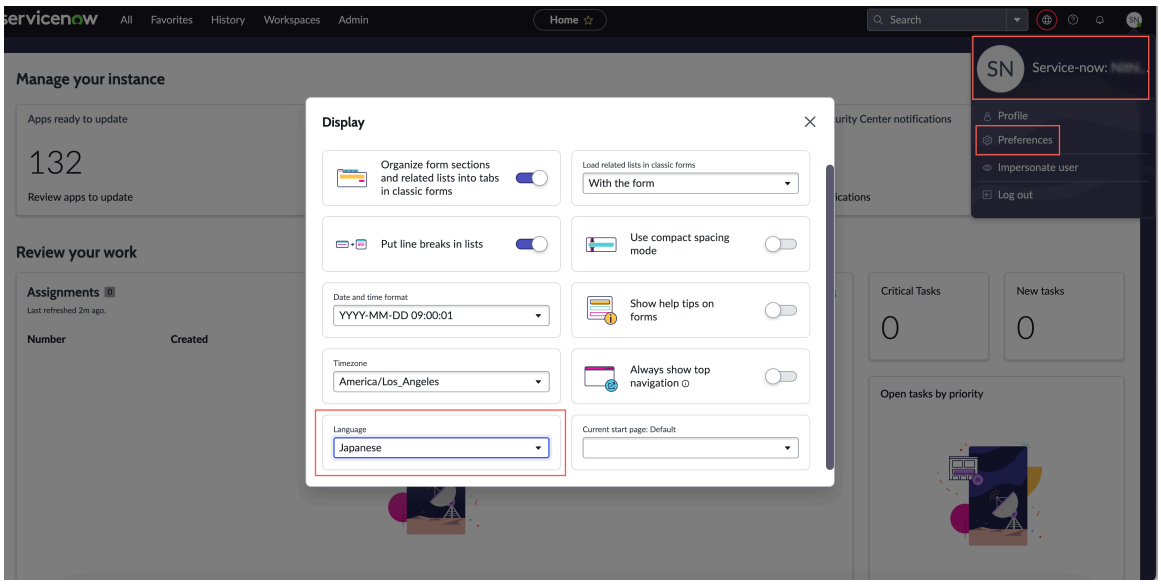
サポートされているバージョン

API バージョン v2。

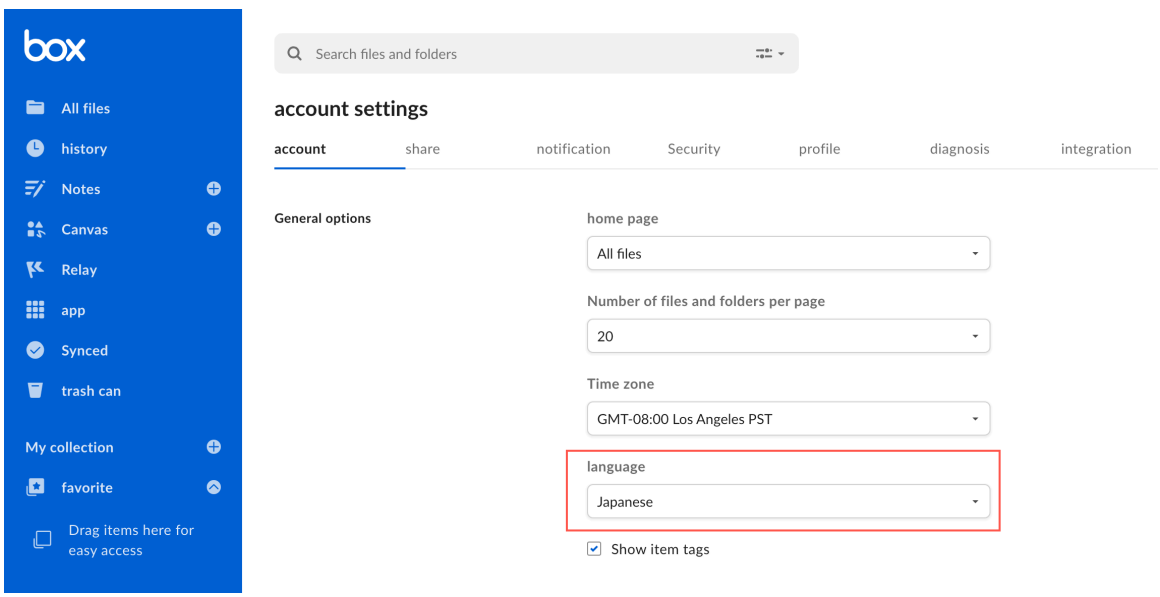
スポークの要件

ServiceNow インスタンスと Box アカウントで同じ言語が選択されていることを確認してください。

- ServiceNow インスタンスで、[ユーザープロファイル] > [設定] > [表示]に移動して必要な言語を選択します。



- Box アカウントで、[アカウント設定] > [アカウント] > [全般オプション **(General Options)**]に移動して、必要な言語を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのフロー

ボックススポークでは、Box タスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
作成時に添付ファイルを Box に移動 (Move Attachment when created to Box)	新しい添付ファイルレコードの追加時に添付ファイルを ServiceNow から Box に移動します。Box で移動された添付ファイルへの共有リンクでトリガーレコードを更新します。
オンボーディングユーザー (On-boarding user)	**Box** ユーザーグループに ServiceNow ユーザーを作成すると、Box にユーザーが作成されます。

スポークのアクション

ボックススポーク は、ServiceNow でイベントが発生したときに Box タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ドキュメント管理	ファイルにメタデータを追加	特定のファイルまたはフォルダーのカスタムデータを指定します。
	ボックスファイルをレコードに添付	Box からファイルをコピーし、指定された ServiceNow レコードに添付します。
	ファイル ID を検索	Box の指定されたファイルの ID を取得します。
	所有アイテムを移動	Box の指定されたユーザーが所有するすべてのアイテムを、指定されたフォルダーに移動します。
	ファイルを削除	指定されたファイルを Box から削除します。
	コンテンツストリームを検索	ユーザーのコンテンツ全体または企業全体のファイル、フォルダー、Web リンク、および共有ファイルを検索します。
	ファイルをアップロード	指定されたファイルを Box にアップロードします。
ドキュメント共有	協力者を追加	特定のファイルまたはフォルダーへの指定されたレベルのアクセス権をユーザーまたはグループに付与します。協力者には、次のいずれかのアクセスレベルがあります。 • 共同オーナー • 編集者 • プレビュー担当者

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		• プレビューアップローダー • アップローダー • ビューアー • ビューアーアップローダー
	共有リンクを作成	Box 内のファイルまたはフォルダーへの読み取り専用の直接リンクを作成します。
	ID でフォルダー協力者を検索	指定したフォルダー ID に関連付けられているすべての協力者を取得します。
	協力者を削除	指定されたコラボレーションを Box のファイルまたはフォルダーから削除します。
フォルダー管理	フォルダーを作成	指定された Box ユーザーアカウントの代わりに Box にフォルダーを作成します。
	フォルダーを削除	ボックス内の指定されたフォルダーを削除します。
	フォルダー ID を検索	Box の指定されたフォルダーの ID を取得します。 **注:** Box に追加されたアイテムがアクセス可能になるまで 10 分かかります。たとえば、1 つのアクションでフォルダーが作成された場合、[フォルダー ID を検索] アクションは 10 分経過するまで結果を返しません。
グループ管理	グループを作成	指定した招待設定で Box にグループを作成します。
	グループを削除	Box の指定されたグループを削除します。
	グループを更新	Box の指定されたグループを指定された設定で更新します。
訴訟ホールド管理	訴訟ホールドポリシーをアサイン	訴訟ホールドポリシーをファイル、ファイルバージョン、フォルダー、またはユーザーにアサインします。
	訴訟ホールドポリシーを作成	訴訟ホールドポリシーを作成します。
	すべての訴訟ホールドポリシーストリームを検索	企業の訴訟ホールドポリシーのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ID で訴訟ホールドポリシーのアサインを検索	指定された ID の訴訟ホールドポリシーのアサインを取得します。
	訴訟ホールドポリシーアサインストリームを検索	訴訟ホールドポリシーにアサインされているアイテムのリストを取得します。
	ID で訴訟ホールドポリシーを検索	指定された ID の訴訟ホールドポリシーを取得します。
	訴訟ホールドポリシーを削除	既存の訴訟ホールドポリシーを削除します。
	訴訟ホールドポリシーのアサインを解除	訴訟ホールドへのアイテムのアサインを削除します。
	訴訟ホールドポリシーを更新	訴訟ホールドポリシーを更新します。
メタデータ管理	ファイル ID でファイルのメタデータインスタンスを検索	指定されたファイル ID を持つファイルのメタデータインスタンスを取得します。
	スコープとテンプレートキーでファイルのメタデータインスタンスを検索	指定されたスコープとテンプレートキーを持つフォルダーのメタデータインスタンスを取得します。
	フォルダー ID でフォルダーのメタデータインスタンスを検索	指定されたフォルダー ID を持つフォルダーのすべてのメタデータを取得します。 **注:** フォルダー ID 値がゼロのルートフォルダーではこのアクションを使用しないでください。
	スコープとテンプレートキーでフォルダーのメタデータインスタンスを検索	指定されたスコープとテンプレートキーを持つフォルダーのすべてのメタデータを取得します。
	メタデータストリームでファイルまたはフォルダーを照会	SQL のような構文を使用してファイルまたはフォルダーを検索し、一致する結果を返します。
保持ポリシー管理	保持ポリシーをアサイン	アイテムに保持ポリシーをアサインします。
	保持ポリシーを作成	保持ポリシーを作成します。
	保持ポリシーを検索 (Look up Retention Policies)	エンタープライズのすべての保持ポリシーを取得します。
	ID で保持ポリシーのアサインを検索	指定された ID で保持ポリシーを取得します。
	保持ポリシーアサインストリームを検索	指定された保持ポリシーに関連付けられているすべての保持ポ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		リシーアサインのリストを返します。
	ID で保持ポリシーを検索	指定された ID で保持ポリシーを取得します。
	保持ポリシーを更新	保持ポリシーを更新します。
ユーザー管理	グループにユーザーを追加	指定されたユーザーを Box の指定されたグループに追加します。
	ユーザーを作成	Box にユーザーアカウントを作成します。
	ユーザーを削除	Box の指定されたユーザーを削除します。
	ユーザーを無効化	Box の指定されたユーザーのステータスを非アクティブに設定します。
	ユーザーを有効化	Box の指定されたユーザーのステータスをアクティブに設定します。
	ユーザー ID を検索	Box の指定されたユーザーの ID を取得します。
	ユーザーを更新	Box の指定されたユーザーを指定されたロール変更で更新します。
Webhook 管理	Webhook を作成	Webhook を作成します。
	ID で Webhook を検索	指定された ID で Webhook を取得します。
	Webhook ストリームを検索	指定されたアプリケーションに定義されているすべての Webhook を取得します。
	Webhook を削除	Webhook を削除します。
	Webhook を更新	Webhook を更新します。

Box スポークモジュール

双方向 Webhook をセットアップして、必須イベントに関する通知を受けることができます。Webhook レジストリは、ServiceNow アプリに通知するために満たすべき条件を定義しています。これらの条件は、通知を受けたい Box のイベントに基づいています。条件が満たされると、指定されたトリガー名が関連するサブフローをトリガーし、Box タスクを自動化します。

Webhook には別途セットアップが必要で、スポークアクションを使用しないで単独で使用できます。Box スポークは Box スポークアプリケーションをインスタンスに追加し、以下のモジュールを含めます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Box モジュール

モジュール	説明
Box Webhook レジストリ	ServiceNow で Plivo Webhook を作成および表示します。
訴訟ホールドポリシー	利用可能な Box の訴訟ホールドポリシーのリストを表示します。
保持ポリシー	利用可能な Box の保持ポリシーのリストを表示します。

Box アカウント要件

ボックススポーク では、Box アカウントでカスタムアプリを作成し、OAuth 2.0 トークンを生成する必要があります。「OAuth アプリケーションの作成」を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークでは以下のエイリアスレコードを使用してアクションを許可します。

接続および資格情報エイリアス	説明	接続エイリアスの要件
Box	Box コラボレーション API とファイル管理 API への接続	• 接続タイプ：HTTP • 接続 URL：https://api.box.com
Box アップロード (Box Upload)	Box アップロードサービスへの接続。	• 接続タイプ：HTTP • 接続 URL：https://upload.box.com

スポーク接続エイリアスを使用するには、エイリアスごとに関連付けられた接続レコードと関連付けられた認証情報レコードを作成します。スポークの設定については、「 Box スポークの設定。

Box スポークの設定

ServiceNow インスタンスと Box API を統合して、Box スポークアクションを自動化します。たとえば、Box アカウントのファイルを削除するフローを設定することができます。Box スポークを設定すると、このフローは自動化されます。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- ボックススポークを有効にします。
- Box 開発者コンソールにアクセスします。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OAuth アプリケーションの作成

ボックスアカウントからカスタム OAuth アプリケーションを作成し、ボックススポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

Box の要件：

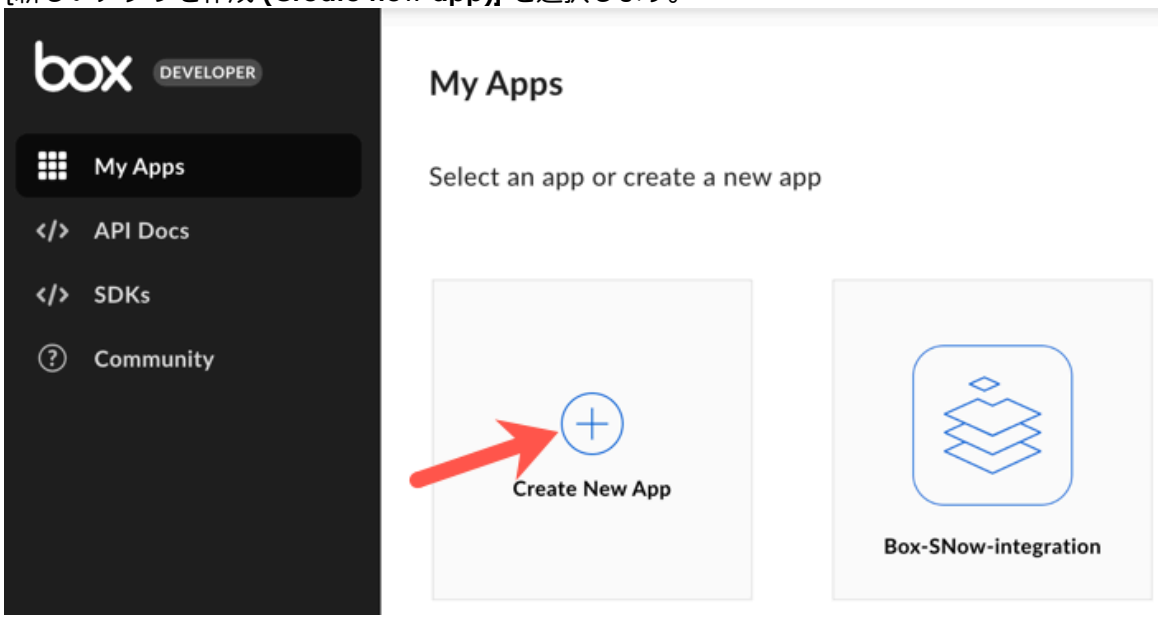
- Box アカウント
- Box アドミン認証情報
- 必要なロール：admin

このタスクについて

Box アカウントから、次の手順を実行します。カスタムアプリケーションの作成と設定については、Box Developer Portal のドキュメントを参照してください。

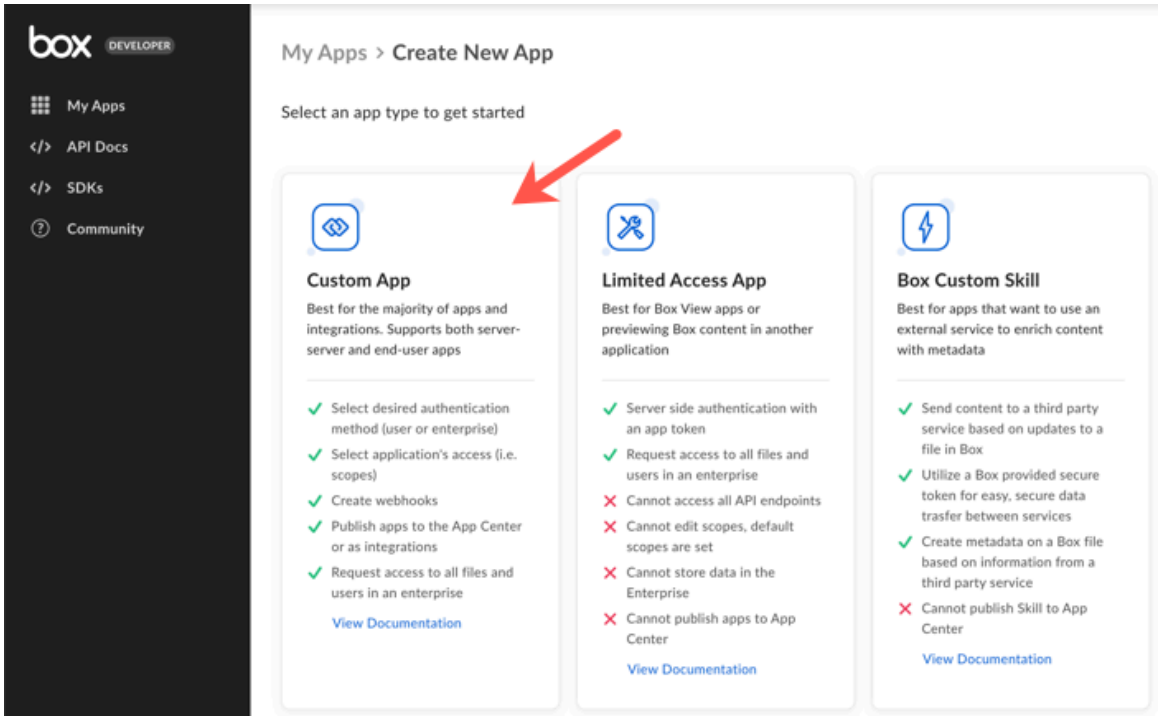
手順

1. Box 開発者コンソール にログインします。
2. [新しいアプリを作成 **(Create new app)**] を選択します。



3. [カスタムアプリ **(Custom App)**] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. フォームに入力します。

フィールド	値
アプリ名	`Box アプリ`
説明 (オプション)	このフィールドは空のままにします。
目的	[カスタムポータル **(Custom Portal)**]を選択

5. [次へ] を選択します。
   [カスタムアプリを作成 (Create a Custom App)] モーダルが表示されます。
6. ユーザー認証 **(OAuth 2.0) (User Authentication (OAuth 2.0))** を選択します。
7. 確定するには、[アプリの作成 **(Create App)**] を選択します。
   アプリケーションの構成設定に入りました。
8. [OAuth 2.0 認証情報] セクションで、[クライアント ID] と [クライアントシークレット] をコピーします。

   この情報は、ServiceNow インスタンスでサードパーティ OAuth プロバイダーとしてアプリケーションを登録する場合に必要です。
9. [アプリケーションスコープ] セクションで、サポートする必要があるスコープ権限を有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションスコープ	必須項目
Box に格納されているすべてのファイルとフォルダーの読み取りと書き込み	ドキュメント管理、ドキュメント共有、およびフォルダー管理アクション
ユーザーの管理	ユーザー管理アクション
グループの管理	グループ管理アクション
エンタープライズプロパティの管理	ドキュメント共有、グループ管理、およびユーザー管理アクション
Webhook の管理	V2 Webhook の構成

10. [変更内容を保存] を選択します。

Box スポークの接続レコードの構成

Box 接続を追加して設定し、Box スポークで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

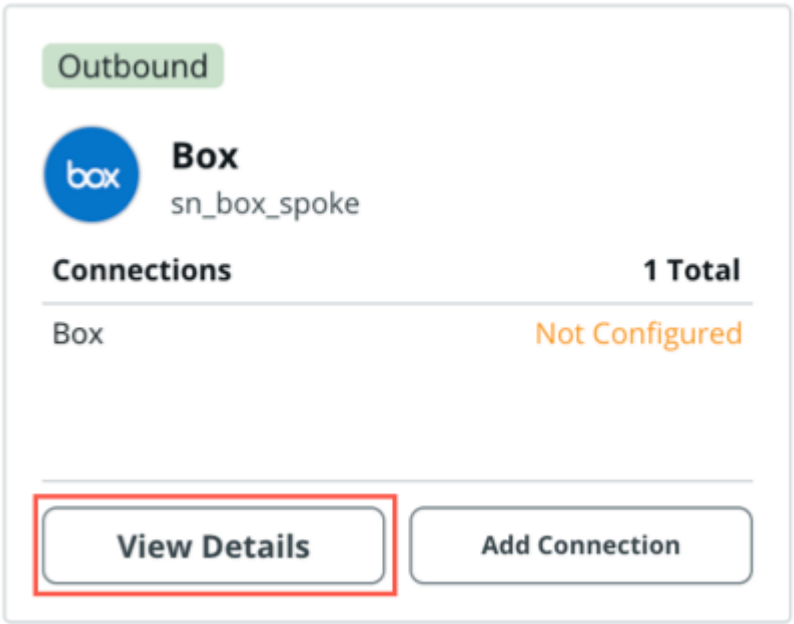
必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow で、[すべて] > [プロセスオートメーション **(Process Automation)]** > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] で、[送信] 接続に切り替えて有効にします。
4. **[Box]** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

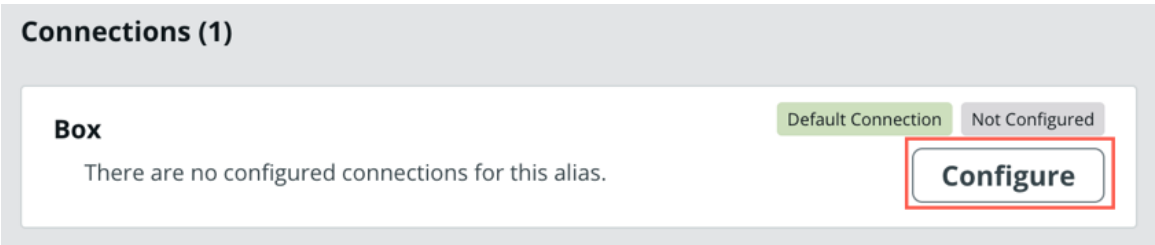
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Box スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



- 複数の Box スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして、新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続を使用する方法の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

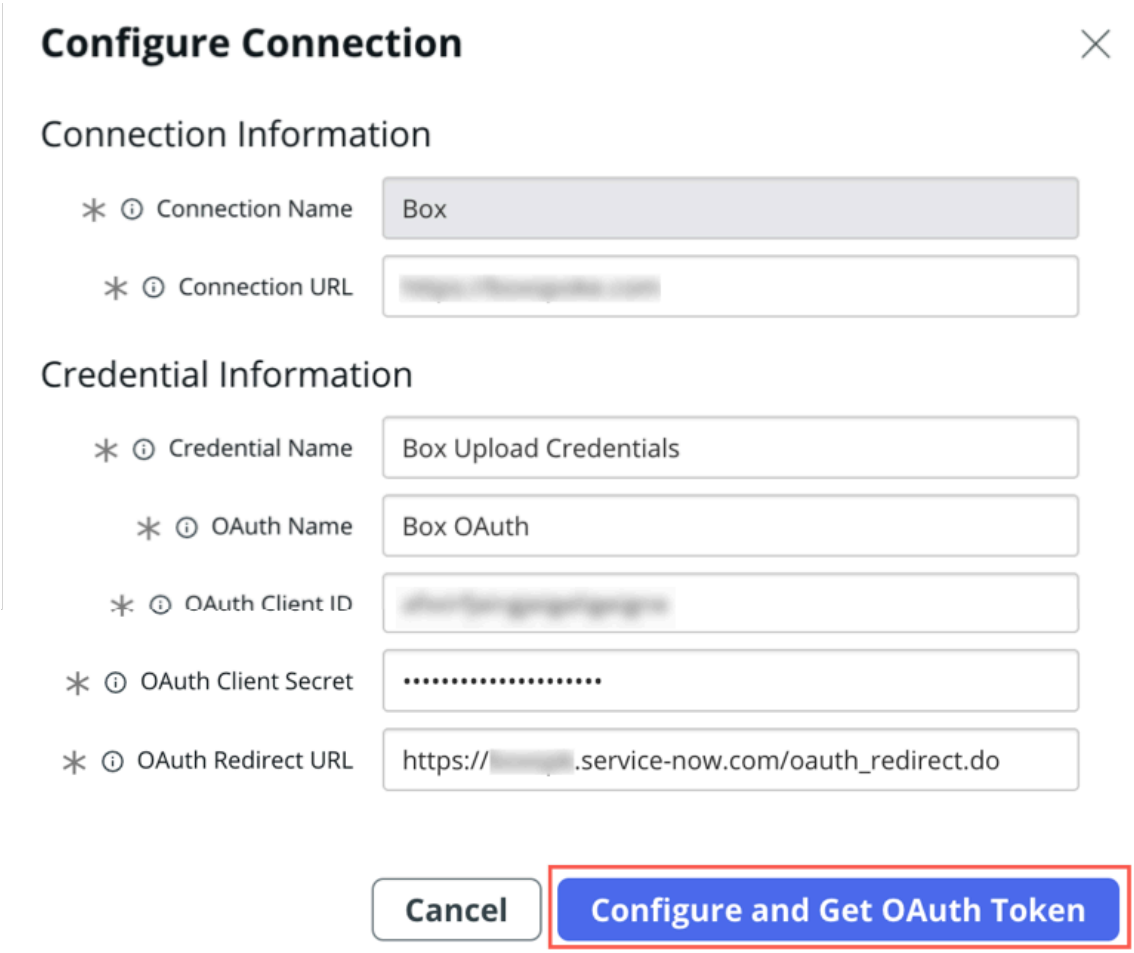


5. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	値
接続名	`Box`
接続 URL	この形式のインスタンス URL：`<provider-domain-name>.net`
認証情報名	`Box Upload Credentials`
OAuth 名	`Box OAuth`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
OAuth クライアント ID	アプリケーションのクライアント ID。詳細については、「OAuth アプリケーションの作成」を参照してください。
OAuth クライアントシークレット	アプリケーションのクライアントシークレット。詳細については、「OAuth アプリケーションの作成」を参照してください。
OAuth リダイレクト URL	URL の形式：`https://<ServiceNow-instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do`。`<ServiceNow-instance-name>` を ServiceNow のインスタンス名に置き換えます。



6. [接続を設定 **(Configure Connection)**] をクリックします。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

注: OAuth トークンは 30 日後に期限が切れます。アドミニストレーターは、30 日ごとにスポーク OAuth トークンを再生成できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Box OAuth トークンの再生成

ボックス OAuth トークンが期限切れになるときに再生成します。ボックススポーク OAuth トークンは 30 日ごとに期限切れになります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスで、[すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー]に移動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. **[Box]** 接続エイリアスを検索します。
4. [詳細を表示] を選択します。
5. 接続の **[OAuth** トークンの取得] を選択します。

タスクの結果
Box スポークは、新しい OAuth アクセストークンを受け取ります。有効期限は 30 日です。

Box スポーク用の双方向 Webhook の設定

ServiceNow コールバック URL を使用して、Box を登録する Webhook を構成します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Box スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Box アカウントにエンドポイント URL を追加する

Box アカウントでエンドポイント URL を指定して、Box スポーク用 Webhook を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. Box 開発者コンソール にログインします。
2. 要件に従ってアプリを作成します。

   アプリ作成の詳細については、「OAuth アプリケーションの作成」を参照してください。

3. アプリのプライマリキーとセカンダリキーを生成し、キー値を記録します。

   a. [自分のアプリ] で、アプリケーションを選択します。
   アプリケーションの [全般設定] が表示されます。

   b. **[Webhooks]** に移動します。

   c. [署名キーの管理 **(Manage Signature Keys)]** を選択します。

   d. [プライマリキー] セクションで、[キーの生成] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. [セカンダリキー] セクションで、[キーの生成] を選択します。

f. 後で使用するために両方のキー値をコピーして保存します。

4. **[Webhooks]** セクションに移動します。
5. V1 webhook を作成するには、**[Webhook** を作成] を選択し、**[V1]** を選択します。

a. フィールドに入力します。

フィールド	値
名前	`Chatter フィードを更新`
説明	変更が発生したときに `Chatter フィードを自動的に更新する`
イベントタイプ	少なくとも 1 つのオプションを有効にする
エンドポイント URL	下記フォーマットの ServiceNow インスタンスのエンドポイント URL：`https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_box_spoke/box_spoke_webhook_endpoints/webhook_endpoint`
ペイロードフォーマット	適切なペイロードデータフォーマットを選択します
コールバックパラメーター	[コールバックパラメーターの追加 **(add callback parameter)]** を選択して、GET または POST メソッドを構成します

b. **[Webhoook** の保存 **(Save Webhoook)]** を選択します。

6. V2 webhook を作成するには、**[Webhook** を作成] を選択し、**[V2]** を選択します。

> 注: V2 Webhook を作成するには、[構成] 設定で **[Webhook** の管理 **(Manage webhooks)]** を有効にする必要があります。詳細については、「OAuth アプリケーションの作成」を参照してください。

a. URL アドレスについては、下記フォーマットの ServiceNow インスタンスのエンドポイント URL を入力してください：`https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_box_spoke/box_spoke_webhook_endpoints/webhook_endpoint`。

b. [Webhook をトリガーするアイテムの種類 (The type of item to trigger a webhook)] で、[アイテムを選択] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. Webhook で構成されたファイルまたはフォルダーを選択します。

d. 確定するには [選択] を選択します。
構成された Webhook トリガーのリストが **[Webhook** を作成] ページに表示されます。

e. トリガーごとに適切な GET メソッドと POST メソッドを有効にします。

f. 確定するには、**[Webhook** を作成] を選択します。

タスクの結果
エンドポイント URL が Box アカウントに追加されます。要件に従って Webhook レジストリとサブフローを作成できます。

ServiceNow に Box Webhook を登録する

ServiceNow に Box Webhook レジストリを作成して、Box アカウントで特定のイベントが発生したときに ServiceNow アプリに通知します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. ServiceNow で、[すべて] > **[Box]** > **[Box Webhook** レジストリ] の順に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フィールドに入力します。

フィールド	値
名前	必要に応じて、Webhook レジストリに名前を付けます。
トリガー名	適切なイベントトリガーを選択します。
プライマリキー	Box アカウントにエンドポイント URL を追加する で生成したプライマリキー
フロー名	イベントがトリガーされたときに発生するフロー
セカンダリキー	Box アカウントにエンドポイント URL を追加する で生成したセカンダリキー
説明	必要に応じて、レコードの目的を説明します

4. 確認するには、[送信] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
Box Webhook が ServiceNow インスタンスに登録されます。

Calendly スポーク

Calendly スポークは、Calendly ソフトウェアサブスクリプションの有意義な使用状況データを表示および分析するアクションを提供します。Calendly アカウントの使用状況を分析して古いライセンスを特定することで、これらのライセンスを再利用して見込まれる節減を実現できるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Calendly スポーク v1.2.0 が最新バージョンです。

スポークの要件

- Calendly の組織オーナーまたは admin ロール
- LastPass Enterprise アドミンアカウント

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- Complex Object (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Calendly スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Calendly タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
データコンプライアンス	招待者データを削除	組織内で過去に予約されたすべてのイベントから招待者データを削除する要求を送信します。 **注:** • このアクションには、 Calendly Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「Calendly Developer website (Calendly 開発者 Web サイト)」の「Delete Invitee Data (招待者データを削除)」を参照してください。 • データ削除の要求には最大 7 日間かかります。
イベント管理	イベントをキャンセル	指定されたイベントをキャンセルします。
	イベントを検索	指定されたイベントの詳細を取得します。
	スケジュールされたイベントストリームを検索	組織内のすべてのスケジュール済みイベントに関する詳細を取得します。
ユーザー管理	ユーザーを組織に招待する	指定されたユーザーを組織に招待します。
	組織を検索	認証されたユーザーが現在所属している組織の URI を取得します。
	組織メンバーのストリームを検索	組織内のすべてのメンバーに関する詳細を取得します。
	ユーザーを検索	指定されたユーザーの詳細を取得します。
	組織からユーザーを削除	ユーザーの組織メンバーシップを削除します。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Calendlyスポークの設定。

Calendlyスポークの設定

Calendly で OAuth アプリケーションを作成し、ServiceNow インスタンスで接続と資格情報レコードを作成することで、ServiceNow インスタンスと Calendly API 間のアウトバウンド統合を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Calendly スポークを有効化します。
- Calendly アカウントがあることを確認します。
- 必要なロール：admin

このタスクについて
アウトバウンド統合を設定した後、Calendly スポークアクションを使用して フローデザイナー で フローを設定し、Calendly でタスクを自動化できます。たとえば、Calendly でイベントをキャンセルするフローを設定できます。接続および認証情報レコードには、Calendly でタスクを自動化する前に Calendly API との接続を確立するための認証情報が含まれています。OAuth アプリケーションは、ServiceNow インスタンスからの接続要求を認証します。

Calendly での OAuth アプリケーションの設定

ServiceNow インスタンスからの要求を認証する OAuth アプリケーションを設定します。

始める前に
必要なロール：Calendly の組織オーナーまたは admin

手順

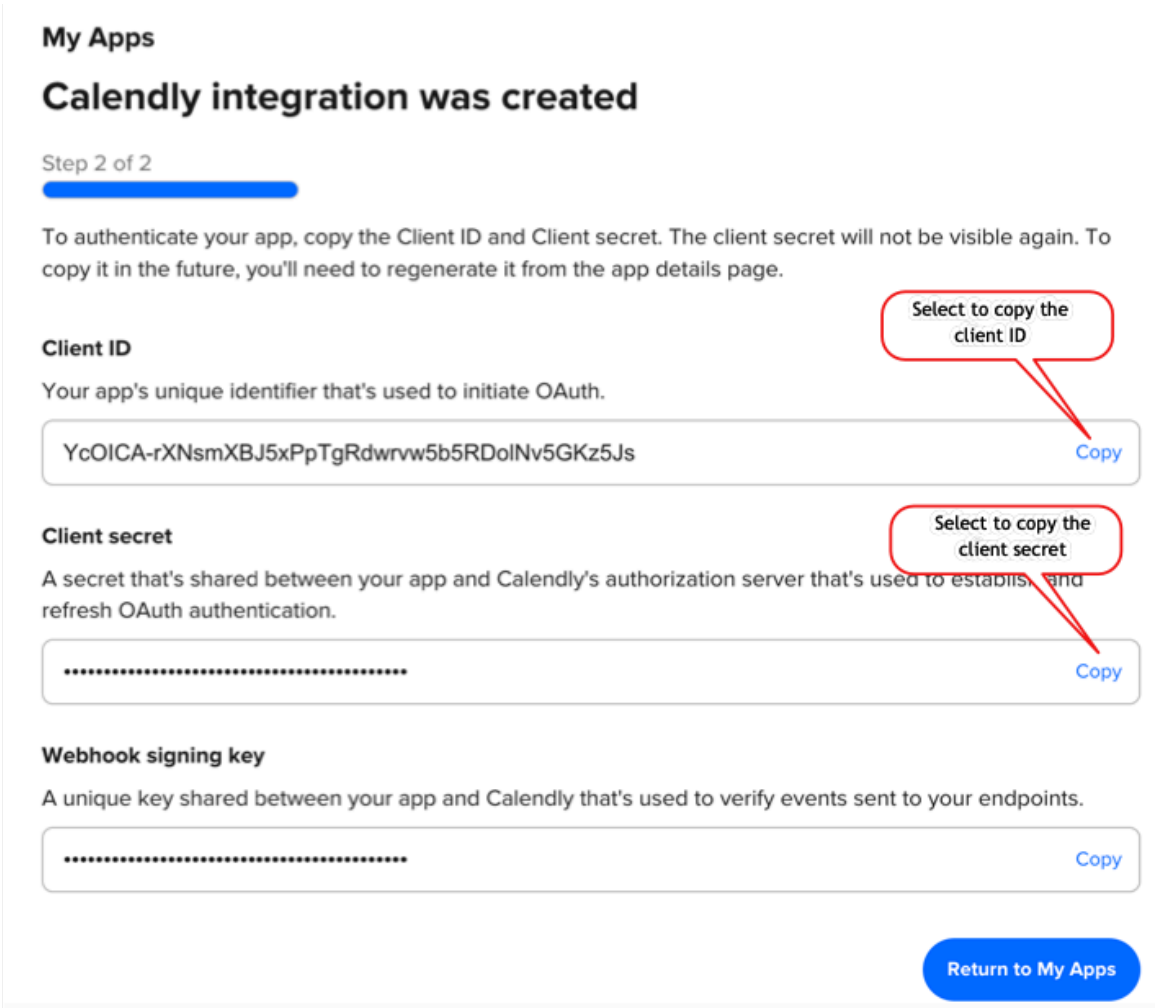
1. 「 https://developer.calendly.com/ 」に進みます。
2. Developer Portal にログインします。
3. **[+** 新しいアプリを作成 **(+ Create new app)]** を選択します。
4. フォームに入力します。

Calendly OAuth アプリ

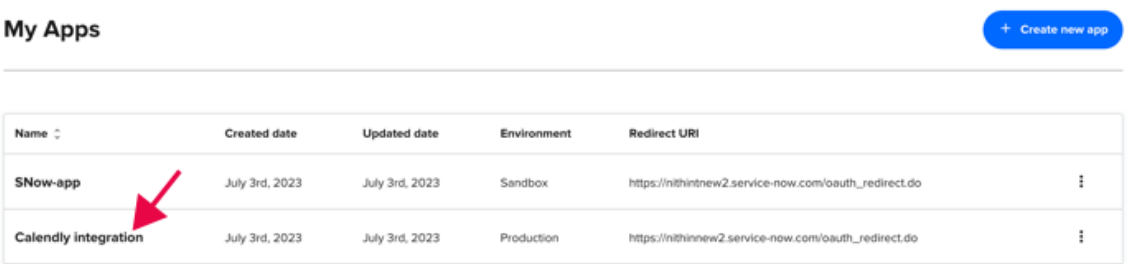
フィールド	説明	必須？
アプリの名前	OAuth アプリケーションのカスタム名です。	はい
アプリの種類	OAuth アプリがサポートするアプリケーションのタイプです。[ウェブ **(Web)]** を選択します。	はい
環境タイプ	OAuth アプリが展開される環境のタイプです。	はい
リダイレクト URI	ServiceNow インスタンスの URL です。	はい

5. [保存して続行] を選択します。
   接続および認証情報レコードで使用するクライアント ID とクライアントシークレットが生成されます。
6. クライアント ID をコピーするには、[コピー] を選択します。
7. クライアントシークレットをコピーするには、[コピー] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. [自分のアプリに戻る **(Return to My Apps)]** を選択します。
   OAuth アプリが作成されます。



接続および認証情報レコードの作成

Calendly API へのアクセスに必要な詳細を含む接続および認証情報レコードを作成します。

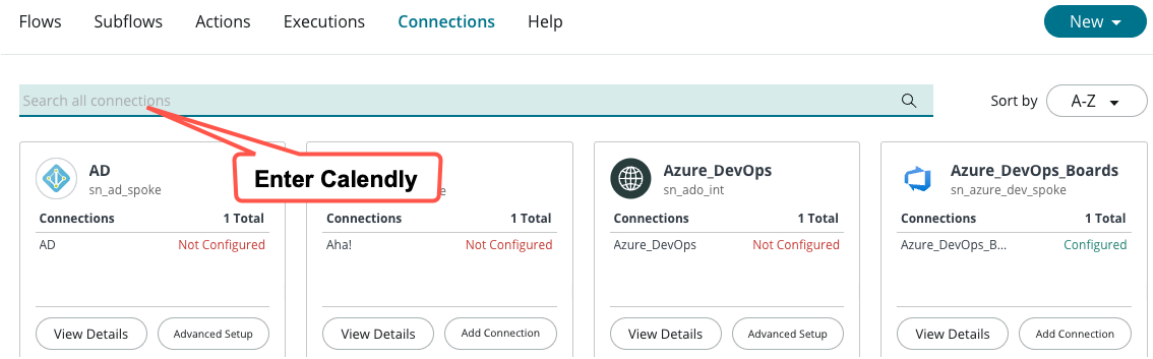
始める前に

必要なロール：ServiceNow admin

手順

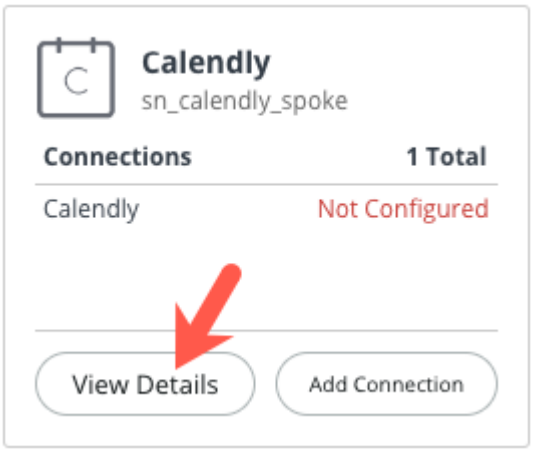
1. ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ]に移動します。
3. [統合] を選択します。
4. [すべての接続を検索] フィールドに「`Calendly`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

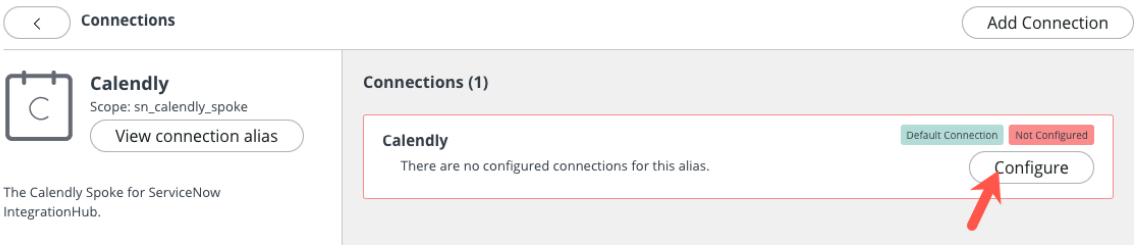


[送信] タブがデフォルトで有効になっています。[送信] タブが既に有効化されていることを確認します。

5. [Calendly] カードで、[詳細を表示] を選択します。



6. [設定] を選択します。



7. フォームに入力します。

[接続と資格情報を作成] ダイアログボックス

フィールド	説明
接続名	接続の名前。 注: 最初のデフォルトの接続名は読み取り専用です。カスタム名を指定するには、[接続を追加] を選択し、接続を作成します。
接続 URL	Calendly アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) のベース URL です。このフィールドは自動的に `https://api.calendly.com` に設定されます。
OAuth クライアント ID	Calendly 開発者ポータルで生成したクライアント ID です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	クライアント ID の生成方法については、「Calendly での OAuth アプリケーションの設定」を参照してください。
OAuth クライアントシークレット	Calendly 開発者ポータルで生成したクライアント ID です。 クライアントシークレットの生成方法については、「Calendly での OAuth アプリケーションの設定」を参照してください。
OAuth リダイレクト URL	認証後にユーザーがリダイレクトされる OAuth プロバイダーの URL。このフィールドはインスタンス名に基づいて自動的に入力されます。

8. **[OAuth** トークンを設定して取得] を選択します。
9. **[Calendly** に接続 **(Connect to Calendly)]** を選択します。
   OAuth リフレッシュトークンが利用可能になります。

10. OAuth トークンを取得するには、**[OAuth** トークンの取得 **(Get OAuth Token)]** を選択します。

> **重要:** OAuth トークンを取得するには、ライセンスされたアカウント認証情報で https://calendly.com/app/login にログインします。

Cisco Webex Meetings スポーク

Cisco Webex Meetings アプリケーションのユーザーを管理します。すべてのユーザーのリストを取得してユーザーアクティビティを表示し、ユーザーアカウントを非アクティブにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

Cisco Webex Meetings スポーク v2.3.3 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

Webex Meetings XML API

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Cisco Webex Meetings スポーク は、Now Platform でイベントが発生したときに Webex タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
トレーニング管理 (Training Management)	トレーニングストリームを検索	すべてのスケジュール済みトレーニングセッションの詳細を取得します。
サポートセッション管理	サポートセッションストリームを検索	以前にホストされたサポートセッションの詳細を取得します。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

Webex Meetings アカウントの要件

Cisco Webex Meetings スポークでは、Cisco DevNet でカスタムアプリを作成し、OAuth 2.0 トークンを生成する必要があります。「Cisco DevNet での Webex OAuth アプリケーションの作成」を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークでは Webex エイリアスレコードを使用してアクションを許可します。スポークの設定については、「 Cisco Webex Meetings スポークのセットアップ。

Cisco Webex Meetings スポークのセットアップ

Cisco DevNet でカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと Cisco Webex Meetings アプリケーションをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Cisco Webex Meetings スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Cisco DevNet での Webex OAuth アプリケーションの作成

Cisco DevNet でカスタム OAuth アプリケーションを作成して、Cisco Webex Meetings スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

Webex Meetings の要件：

- Webex Meetings アカウント
- 必要なロール：Webex Meetings アドミン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. https://developer.webex.com/ に移動し、ログインします。
2. プロファイルアイコンをクリックし、[マイ **Webex** アプリ **(My Webex Apps)]** を選択します。
3. [新しいアプリを作成 **(Create a New App)]** をクリックします。
4. [新しい統合を作成 **(Create an Integration)]** をクリックします。
5. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	値
統合名	Webex に表示される統合の名前。例：「ServiceNow 統合」。
アイコン	Webex に表示されるアイコン。独自のアイコンをアップロードし、利用可能なデフォルトのアイコンから選択します。
アプリハブの説明	統合に関する簡単な説明。
リダイレクト URI	`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do`。`<instance-name>` は ServiceNow インスタンスの名前です。
スコープ	アプリケーションをサポートする Webex Meetings アプリケーションスコープ権限。 注: 統合する **admin_schedule_read** スコープを選択します。

6. [統合を追加] をクリックします。
   統合が正常に作成されると、[クライアント **ID]** と [クライアントシークレット] の値が表示されます。
7. サードパーティ OAuth プロバイダーとして ServiceNow インスタンスでアプリケーションを登録するクライアント ID とクライアントシークレットを記録します。

Cisco Webex Meetings スポーク の接続の設定

Cisco Webex Meetings 接続を追加して設定し、Cisco Webex Meetings スポーク で ServiceNow 要求を認証します。

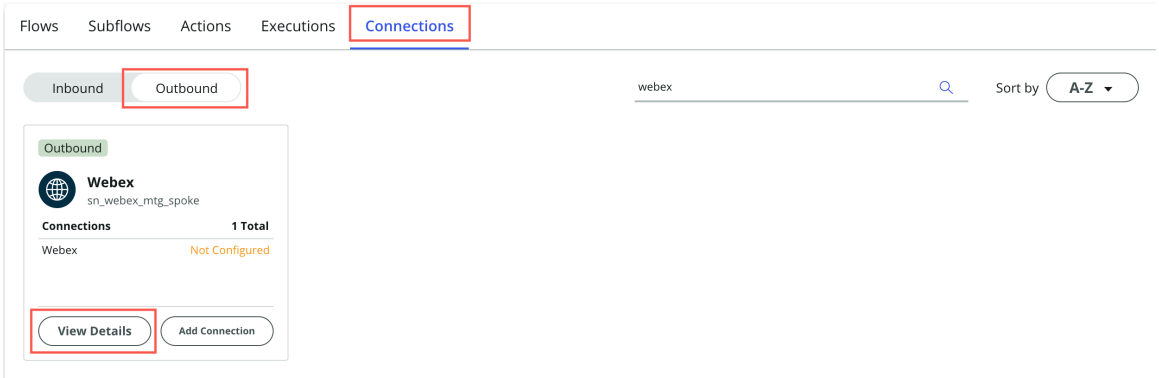
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. **[Webex]** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

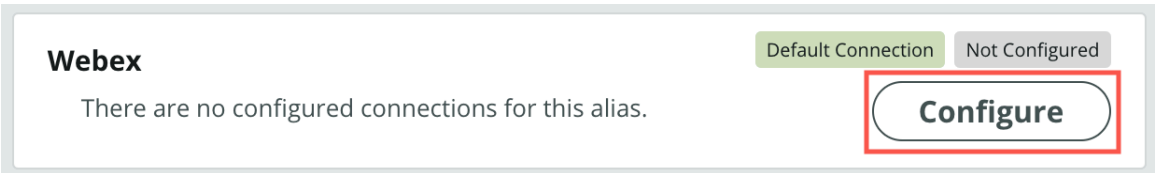
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Cisco Webex Meetings スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



- 複数の Cisco Webex Meetings スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

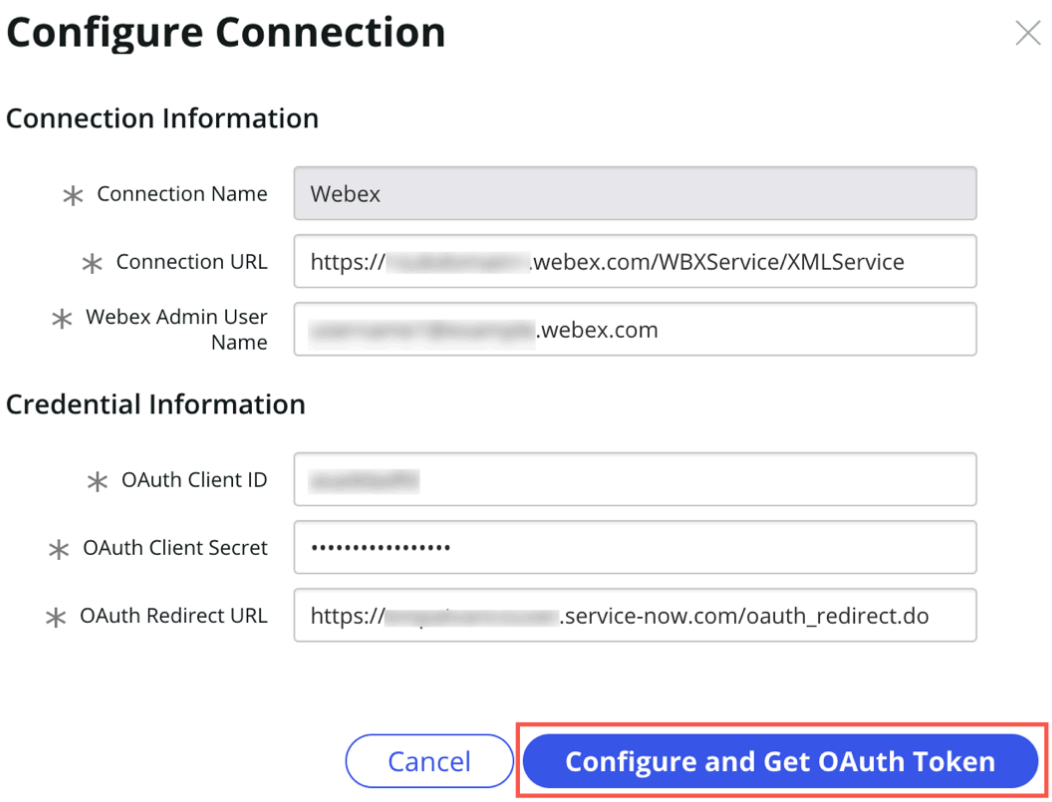


5. フォームのフィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
接続情報	
接続 URL	`https://<site>.webex.com/WBXService/XMLService` (*site* は Webex サイトの名前)
Webex 管理ユーザー名	Webex アドミンアカウントのユーザー名。
認証情報	
OAuth クライアント ID	Webex アプリの構成中に作成したクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	Webex アプリの構成中に作成したクライアントシークレット。
OAuth リダイレクト URL	`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do`。*instance-name* は ServiceNow インスタンスの名前です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. **[OAuth** トークンを設定して取得 **(Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。

タスクの結果
スポークが設定され、使用する準備ができました。

Cisco Webex Teams スポーク

ServiceNow インスタンスから Cisco Webex Teams を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Cisco Webex Teams スポーク v2.3.5 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは Cisco Webex Teams v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

Cisco Webex Teams アカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Cisco Webex Teams スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Cisco Web Teams タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
メンバーシップ管理	メンバーシップを作成	メンバーシップを作成し、指定されたメールアドレスを使用してスペースにメンバーを追加します。メンバーを選択してスペースのモデレーターにすることができます。
	メンバーシップを削除	指定されたメンバーのスペースからメンバーシップを削除します。
	メンバーシップを取得	スペースメンバーシップの詳細を取得します。
	メンバーシップを検索	すべてのスペースメンバーシップのリストを取得します。
	メンバーシップを更新	スペースメンバーシップの詳細を更新します。
メッセージ管理	メッセージを削除	指定されたメッセージを削除します。
	メッセージの詳細を取得	指定されたメッセージの詳細を取得します。
	ダイレクトメッセージを検索	ダイレクトスペース内のメッセージのリストを取得します。
	メッセージを検索	スペース内のすべてのメッセージを取得します。
	ダイレクトメッセージを投稿	指定されたメールアドレスにプレーンテキストまたはリッチテキストメッセージを投稿します。オプションで、ファイルをメッセージの添付ファイルとして指定できます。
	メッセージをスペースに投稿	指定されたスペースにプレーンテキストまたはリッチテキストメッセージを投稿します。オプションで、ファイルをメッセージの添付ファイルとして指定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
スペース管理	スペースを作成	スペースを作成します。
	スペースを削除	指定されたスペースを削除します。
	スペースの詳細を取得	指定したスペースの詳細を取得します。
	スペースを検索	認証されたユーザーが属するスペースの詳細を取得します。
	スペースを更新	指定したスペースの詳細を更新します。
イベント管理	イベントストリームを検索	組織内のすべてのイベントを取得します。
人事管理	個人を更新	ユーザーの詳細を更新します。
	個人を削除	指定した個人の詳細を削除します。
	個人の詳細を検索	ユーザーの詳細を取得します。
	ピープルストリームを検索 (Look up People Stream)	組織内のすべてのユーザーを取得します。
組織管理	組織を検索	認証されたユーザーに表示されるすべての組織を取得します。
会議管理	会議ストリームを検索	会議のリストを取得します。
ライセンス管理	ライセンスを検索	組織内のすべてのライセンスを取得します。組織 ID が指定されていない場合、デフォルトは認証ユーザーの組織です。
	ロールを検索	すべての認証ユーザーロールを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

OAuth 2.0 またはカスタム Cisco Webex 認証情報を使用して、要求を認証できます。スポークの設定については、「 Cisco Webex Teams スポークの設定。

Cisco Webex Teams スポークの設定

Cisco Webex Teams でカスタム OAuth アプリケーションを作成するか、カスタム Cisco Webex 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Cisco Webex Teams をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Cisco Webex Teams スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

認証には、OAuth 2.0 またはカスタム認証情報、Cisco Webex 認証情報のいずれかを使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OAuth プロバイダーとして Cisco Webex Teams を登録

Cisco Webex Teams アプリケーションの構成中に生成された情報を使用し、Cisco Webex Teams を OAuth プロバイダーとして登録して、ServiceNow インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「どのような OAuth アプリケーションですか？」というメッセージが表示されます。
3. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

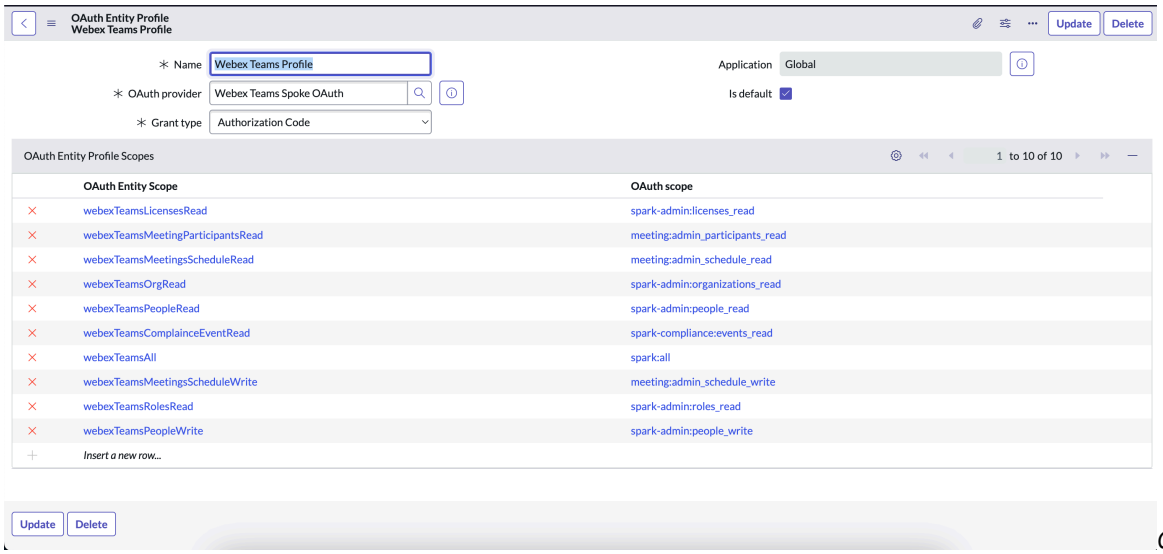
フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、次のように入力します。`Cisco Webex Teams OAuth`
クライアント ID	Cisco Webex Teams アプリケーション構成中に作成されたクライアント ID アプリケーション構成。
クライアントシークレット	Cisco Webex Teams アプリケーション構成中に作成されたクライアントシークレット。
認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイント。「`https://webexapis.com/v1/authorize`」と入力します。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント。「`https://webexapis.com/v1/access_token`」と入力します。
トークン失効 URL	OAuth サーバートークン失効エンドポイントです。
リダイレクト URL	次の形式の OAuth コールバックエンドポイント： `https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do`
OAuth API スクリプト	要求と応答をカスタマイズするスクリプトです。**[OauthCiscoWebexTeamsUtils]** を選択します。
ロゴ URL	アプリケーションロゴとして使用するイメージを含む URL です。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可のタイプ。[認証コード] を選択します。
リフレッシュ トークンの有効期間	リフレッシュトークンが有効になる時間 (秒) デフォルトの時間は 8,640,000 秒です。
PKCE が必要 (PKCE required)	パブリッククライアントが認証に PKCE を要求できるようにするオプション。 注: **PKCE** が有効になっている場合、[デフォルトの権限許可タイプ] として使用できるのは [認証コード] のみです。
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープです。
アクセス可能	このレジストリにアクセスできるアプリケーションスコープです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプションです。
相互認証を有効にします	トークンの要求と取り消しに相互認証を使用するオプション。このオプションでは、相互認証プロファイルを指定する必要があります。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

次のタスク
OAuth エンティティプロファイルに



の権限があることを確認します。

Cisco Webex Teams スポーク用の OAuth 認証情報レコードの作成

Cisco Webex Teams アカウントの認証情報レコードを作成します。 Cisco Webex Teams スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：「Cisco Webex Teams Cred」。
アクティブ	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
OAuth エンティティ	OAuth プロバイダーとして Cisco Webex Teams を登録する際に作成される OAuth プロファイル。例：Cisco Webex Teams OAuth プロファイル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
プロファイル	
適用先	認証情報がネットワークのすべてのMID サーバーに適用されるか、または 1 つ以上の特定の **MID** サーバーに適用されるかを指定するオプションです。**[MID** サーバー] フィールドでこの認証情報を使用する MID サーバーを指定します。
順番	この認証情報を適用する順番です。たとえば、`100` です。
認証情報エイリアス	スポークに関連付けられた認証情報エイリアスです。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。
6. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

Cisco Webex Teams スポーク用の接続および資格情報エイリアスレコードの作成

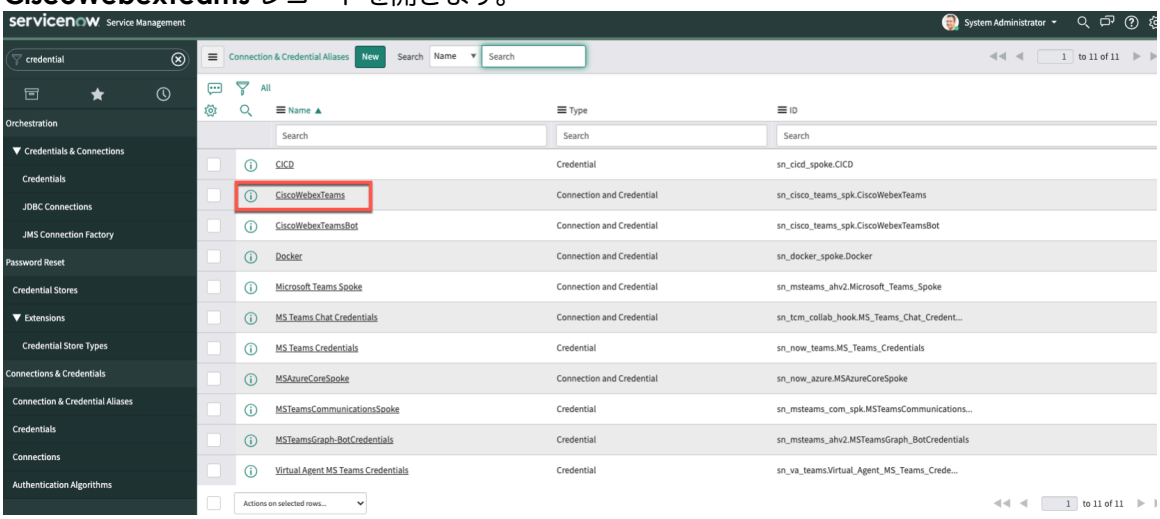
Cisco Webex Teams アカウントの認証情報レコードを作成します。 Cisco Webex Teams スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

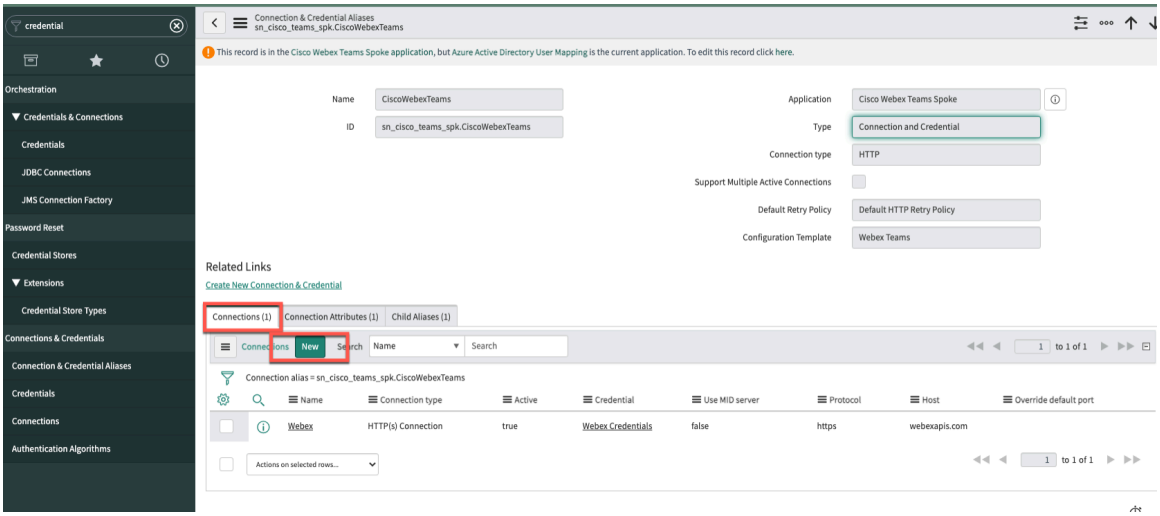
1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **CiscoWebexTeams** レコードを開きます。



CiscoWebexTeams 接続および資格情報エイリアスが表示されます。

3. [接続] タブの [新規] をクリックします。

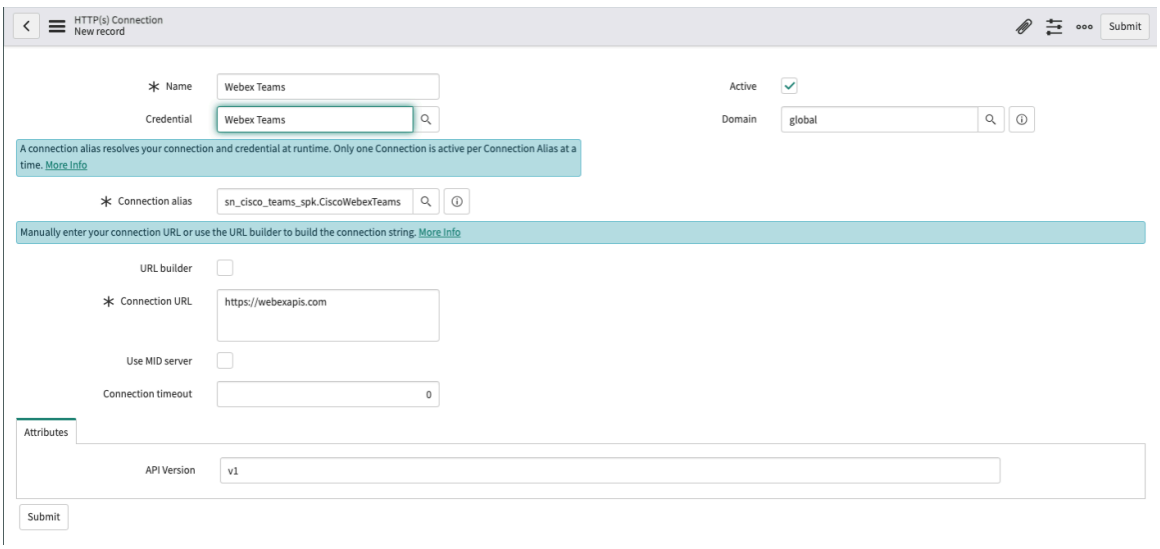
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. フォームに、これらの値を入力します。

Cisco Webex Teams の接続と資格情報

フィールド	説明
名前	Cisco Webex Teams スポークの HTTPS 接続レコードの名前
認証情報	Cisco Webex Teams スポーク用に作成された認証情報の名前 「Cisco Webex Teams スポーク用の OAuth 認証情報レコードの作成」で作成された値を指定します。
接続 URL	接続 URL を指定するオプション。 値を https://webexapis.com として指定



5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

Visa スポークの接続および資格情報エイリアスの作成

アカウントへの接続レコードを作成します。 。Visa スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して でアクションを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. のエイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例を次に示します。`<Application-Name>` 接続。
認証情報	Visa スポーク用に作成された認証情報レコード 例：`<Application-Name> Cred`。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
ホスト	サーバーがインストールされるターゲットホストの完全修飾ドメイン名です。例を次に示します。 `<host>.<domain>.com`
接続 URL	に接続するためのベース URL です。次のように入力します。
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	接続で使用されるターゲット ポート。空白の場合は、デフォルトのポートが使用されます。
MID サーバーを使用	この接続に MID サーバー を使用するオプション。チェックボックスが選択されている場合、[MID サーバー詳細構成] 関連リストのフィールドを定義します。

5. [送信] をクリックします。

Confluence Cloud スポーク

Confluence Cloud スポークでは、Confluence Atlassian アカウントでグループ、グループメンバー、検索コンテンツを管理するアクションを提供します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Confluence Cloud スポークは v1.2.3 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているバージョン

このスポークは Confluence Cloud REST API 用にビルドされました。

スポークの要件

- Atlassian サイトアドミンアカウント
- OAuth 2.0 アプリケーションと OAuth 2.0 トークン

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Confluence Cloud スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Confluence Cloud タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アカウント管理	アクセス可能なリソースを検索	OAuth トークンによって付与されたスコープを持つサイトを取得します。
コンテンツ管理	ページストリームを検索	Confluence スペースのページのリストを取得します。 入力： • ページサイズ：要求ごとに返されるページ数を制限します。 • クエリ (オプション)：クエリ入力を使用して、ページのステータスをフィルタリングします (例：`status=archived`)。 値には、[current]、[archived]、[deleted]、[trashed] があります。
	スペースストリームを検索	Confluence スペースのリストを取得します。 入力：ページサイズ。 ページごとにフェッチされると予想されるスペースエントリの数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	コンテンツの検索	提供されたクエリに基づいてコンテンツのリストを取得します。
グループ管理	グループを検索	デフォルトグループを含む、Atlassian アカウント内のすべてのグループを取得します。
	グループ ID でメンバーを検索	指定されたグループ内のすべてのアクティブユーザーを取得します。
	グループ ID 別にグループからメンバーを削除	指定されたグループからメンバーを削除します。
ユーザー管理	ユーザーのグループメンバーシップを検索	ユーザーがメンバーとなっているグループに関する情報を取得します。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

スポークモジュール

Confluence Cloud スポークは Confluence Cloud アプリケーションをインスタンスに追加し、次のモジュールを含めます。

モジュール	説明
Confluence グループ	Confluence 製品にアクセスできるグループを指定できるようにします。グループを指定することにより、Confluence Cloud スポークを使用してこれらのグループ内のユーザーのみを管理できます。

これらのスポークモジュールを介してアクセスされるデータは、次のテーブルに保存されます。

テーブル	説明	フィールド
Confluence グループ	Confluence 製品にアクセスできるグループのリストを表示します。	• グループ名 • グループ ID

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Confluence Cloud スポークのセットアップ。

Confluence Cloud スポークのセットアップ

Confluence Cloud でカスタム OAuth 2.0 アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと Confluence Cloud をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Confluence Cloud スポークを有効にします。
- Atlassian の必要なロール：site admin
- 必要なロール：admin

Confluence Cloud OAuth 2.0 (3LO) アプリケーションの作成

Confluence Cloud OAuth 2.0 (3LO) アプリケーションを作成して、Confluence Cloud API へのアクセスを有効にします。

始める前に
必要なロール：Atlassian サイトアドミン。

手順

1. Web ブラウザーから、 Atlassian Developer portal を開きます。
2. サイトアドミンアカウントにログインします。
3. ポータルのページヘッダーで、プロファイルアイコンをクリックし、[開発者コンソール **(Developer console)]** を選択します。
   Atlassian 開発者コンソールの [自分のアプリケーション (My apps)] ページが開きます。
4. [アプリを作成 **(Create app)]** メニューをクリックし、**[OAuth 2.0 (3LO)** データ連携 **(OAuth 2.0 (3LO) integration)]** を選択します。
   [新しい OAuth 2.0 (3LO) データ連携を作成 (Create a new OAuth 2.0 (3LO) integration)] ページが開きます。
5. [名前] フィールドに OAuth 2.0 (3LO) アプリケーションの名前を入力します。
6. **[Atlassian** の開発者条件に従うことに同意します **(I agree to be bound by Atlassian's developer terms)]** チェックボックスをオンにして、[作成] をクリックします。
   新しく作成されたアプリの概要および設定が開きます。
7. アプリケーションの認証設定を構成します。

   a. 左側のナビゲーションペインで、[認証 **(Authorizatio)]** を選択します。

   b. OAuth 2.0 (3LO) 認証タイプの [構成] をクリックします。
   [アプリの OAuth 2.0 認証コード許可 (3LO) (OAuth 2.0 authorization code grants (3LO) for apps)] ページが開きます。

   c. [コールバック **URL]** フィールドで、ユーザーが認証後にリダイレクトされる OAuth プロバイダーの URL を入力します。
   「`https://instance.service-now.com/oauth_redirect.do`」と入力します。<*instance*> は ServiceNow インスタンスの名前です。

   d. [変更内容の保存] をクリックします。

8. アプリケーションの API スコープを構成します。
   API スコープは、アプリケーションが Atlassian API に対して保持する必要がるアクセスのレベルを指定します。

   a. 左側のナビゲーションペインで、[権限 **(Permissions)]** を選択します。

   b. 利用可能な API のリストから Confluence API を見つけて、[追加] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[追加] アクションボタンが自動的に [構成] アクションボタンに変わります。

c. [構成] をクリックします。
[Confluence API] ページが開きます。

d. Confluence API の次のスコープを追加します。
- Confluence コンテンツとスペースのサマリーの検索
- ユーザーグループの読み取り
- ユーザーグループの作成、削除、更新
- ユーザーの読み取り

9. アプリケーションにアサインされているクライアント ID とクライアントシークレットを取得します。

a. 左側のナビゲーションペインで、[設定] を選択します。

b. [認証の詳細] セクションで、[クライアント **ID]** と [シークレット] フィールドの値をコピーします。
後で使用できるように安全な場所に保存してください。

Confluence Cloud接続を作成

Confluence CloudアプリケーションとServiceNowインスタンスの間に接続を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. ServiceNowインスタンスで、[プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
フローデザイナーが新しいタブで起動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. Confluence Cloud接続の [詳細を表示] をクリックします。
4. 利用可能な接続のリストからConfluence Cloudを見つけて、[構成] をクリックします。
[接続の設定] ダイアログボックスが開きます。
5. ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

[接続の設定] ダイアログボックス

フィールド	説明
接続情報	
接続名	Confluence Cloud接続の名前です。このフィールドは、自動的に入力されます。
認証情報	
名前	Confluence Cloud認証情報の名前です。このフィールドは、自動的に入力されます。
サイト URL	Confluence Cloud サイトの URL。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
注: このフィールドは、バージョン 1.0.2 以前の Confluence Cloud スポークを要求してインストールした場合にのみ表示されます。	
接続 URL 注: このフィールドは、バージョン 1.0.3 以降の Confluence Cloud スポークを要求してインストールした場合にのみ表示されます。	Confluence Cloud の API URL。このフィールドは自動的に **https://api.atlassian.com** に設定されます。
OAuth クライアント ID	Confluence Cloud OAuth 2.0 (3LO) アプリケーションにアサインされているクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	Confluence Cloud OAuth 2.0 (3LO) アプリケーションにアサインされているクライアントシークレット。
OAuth リダイレクト URL	認証後にユーザーがリダイレクトされる OAuth プロバイダーの URL。このフィールドは、「Confluence Cloud OAuth 2.0 (3LO) アプリケーションの作成」で指定したコールバック URL に基づいて自動的に入力されます。

6. **[OAuth** トークンを設定して取得 **(Configure and Get OAuth Token)]** をクリックします。
   [アプリを認証] ダイアログボックスが開きます。
7. ダイアログボックスで、[許可 **(Allow)]** をクリックします。
   OAuth トークンは、Confluence Cloud 接続を許可するために使用できるようになりました。

Confluence グループの追加

Confluence Cloud スポークを使用してこれらのグループ内のユーザーのみを管理できるように、Confluence 製品にアクセスできるグループを指定します。

始める前に

ServiceNow の必要なロール：admin

必要なロール：Atlassian サイトアドミン

手順

1. Web ブラウザーから、 Atlassian 管理ポータル を開きます。
2. サイトアドミンアカウントにログインします。
3. [サイト設定 **(SITE SETTING)]** > [製品アクセス **(Product access)]** に移動します。
4. [Confluence] セクションで、Confluence 製品にアクセスできるグループのリストを表示します。
   後で使用するために、この情報をメモします。
5. ServiceNow インスタンスに戻り、**[Confluence Cloud]** > **[Confluence** グループ **(Confluence Groups)]** に移動します。
6. Confluence グループ (Confluence Groups) フォームで、[グループを追加] 関連リンクをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[Confluence グループを追加 (Add Confluence Groups)] ダイアログボックスが開きます。

7. [利用可能] リストで、Confluence 製品にアクセスできるグループを選択します。

   ヒント: [利用可能] リストには、Atlassian アカウントに関連付けられているすべてのグループが含まれます。Confluence 製品にアクセスできるグループのみを選択します。

8. 右矢印ボタンをクリックして、グループを [利用可能] リストから [選択済み] リストに移動します。
9. **[OK]** をクリックします。

Confluent Kafka REST Proxy スポーク

Confluent Kafka REST Proxy API を介して ServiceNow インスタンスを Kafka クラスターとデータ連携します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークは、Confluent REST プロキシ API v2 用にビルドされています。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、依存プラグイン ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime) がインストールされていることを確認してください。

注: このプラグインはライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Confluent Kafka REST プロキシスポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

アクション	説明
コンシューマーインスタンスをトピックパーティションにアサイン	このコンシューマーにパーティションのリストを手動でアサインします。
コンシューマーオフセットをコミット	コンシューマーのオフセットのリストをコミットします。投稿本文が空の場合、コンシューマーインスタンスによってフェッチされたすべてのレコードがコミットされます。
コンシューマーグループ内にコンシューマーインスタンスを作成	Kafka コンシューマーグループ内にコンシューマーインスタンスを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明
コンシューマーインスタンスを削除	コンシューマーインスタンスを破棄します。
トピックの Kafka パーティションの詳細を取得	Kafka トピックのパーティションの詳細を取得します。
メッセージを取得	Kafka トピックからメッセージを取得します。
メッセージを公開	Kafka トピックへのメッセージを生成します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Confluent Kafka REST プロキシ スポークのセットアップ。

Confluent Kafka REST プロキシ スポークのセットアップ

基本 認証を使用して、Confluent Kafka REST プロキシを ServiceNow インスタンスとデータ連携します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Confluent Kafka REST プロキシ スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

> **注:** この手順では、ベーシック認証を使用して Confluent Kafka REST プロキシ スポークを設定する手順の概要を示します。ただし、カスタマイズに基づいて ServiceNow Platform で現在サポートされている他の HTTP 認証メカニズムを使用してスポークを設定することもできます。

手順

1. Confluent Kafka REST プロキシ スポークの認証情報レコードを作成します。

   a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

   b. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

   c. [基本認証情報] を選択します。
   空の基本認証情報フォームが表示されます。

   d. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`Kafka スポーク認証情報`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
ユーザー名	Confluent Kafka REST プロキシ API エンドポイントに接続するユーザー名。
パスワード	Confluent Kafka REST プロキシ API エンドポイントに接続するパスワード。
有効	レコードを積極的に使用にするオプション。
順番	この認証情報を適用する順番。たとえば、「`100`」と入力します。

e. [送信] をクリックします。

2. Confluent Kafka REST プロキシSpoke の接続レコードを作成します。

a. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. レコード **[Kafka REST]** を開きます。

c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。

d. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`Kafka スポーク接続`」と入力します。
認証情報	Confluent Kafka REST プロキシ スポーク用に作成された認証情報レコード。たとえば、**[Kafka** スポーク認証情報] を選択します。
接続 URL	Confluent Kafka REST プロキシ API に接続するための URL。

e. [送信] をクリックします。

継続的インテグレーションと継続的デリバリー **(CICD)** スポーク

ServiceNow インスタンスの継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CICD) パイプラインをビルドします。アプリケーションリポジトリからのアプリケーションの公開とインストール、プラグインのアクティブ化、ATF テストスイートの実行、インスタンススキャンの実行を自動化できます。

CICD スポークアプリケーション

CICD スポークアプリケーションは、Orlando のアップグレード以降にデフォルトでインストールされます。

スポークバージョン

継続的インテグレーションと継続的デリバリ (CICD) スポーク v1.0.11 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているバージョン

継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CICD) REST API バージョン 1.0.0 はデフォルトで有効な Now Platform の機能です。

スポークのフロー

このスポークにはサンプルフローがありません。

スポークのサブフロー

継続的インテグレーションと継続的デリバリ (CICD) スポークでは、CICDタスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
プラグインをアクティブ化	指定されたインスタンス URL の ID でプラグインを有効化します。
ID を指定してソースコントロールからの変更を適用	システム ID を使用して、ソースコントロールからアプリケーションにリモート変更を適用します。
スコープを指定してソースコントロールからの変更を適用	スコープ名を使用して、ソースコントロールからアプリケーションにリモート変更を適用します。
ID を指定して ATF スイートを開始 (ATF Suite Start With ID)	指定されたインスタンス URL のシステム ID でテストスイートを開始します。テストスイートの実行結果を返します。
名前を指定して ATF スイートを開始 (ATF Suite Start With Name)	指定されたインスタンス URL の名前でテストスイートを開始します。テストスイートの実行結果を返します。
バッチインストール	JSON 形式のバッチ計画を指定して、複数のパッケージ (アプリケーション、アプリケーションを保存するためのカスタマイズ、およびプラグイン) を単一のバッチ操作で一緒にインストールします。
バッチ結果	結果オブジェクトの sys_id を指定して、バッチ計画全体とともに各パッケージのインストールステータスを表示します。
バッチロールバック	ロールバック ID を使用して、単一のバッチとしてインストールされたパッケージのインストールをロールバックします。
インスタンススキャン結果を取得	進捗 ID でインスタンススキャンの実行結果を返します。Scan_results は常に返されますが、scan_finding 結果は存在する場合にのみ表示されます。
ソースコントロールからアプリケーションをインポート	所与のインスタンスのレポジトリ URL を使用して、ソースコントロールからアプリケーションをインポートします。
インスタンススキャンフルスキャンを実行	指定されたインスタンス URL でフルインスタンススキャンを開始します。スキャンはすべてのアクティブなチェックで実行されます。
インスタンススキャンポイントスキャンを実行	特定のテーブルとレコード (テーブルと sys_ID) から開始して、指定したインスタンスでインスタンススキャ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフロー	説明
	ンを開始します。ターゲットは、関連する適用可能なチェックをすべて使用してスキャンされます。
インスタンススキャンスイートスキャンを実行 (Instance Scan Execute Suite Scan)	特定のチェックのスイートを使用して指定されたインスタンス URL でフルインスタンススキャンを開始します。
インスタンススキャン 1 つまたは複数のスコープ対象アプリのスイートスキャンを実行 (Instance Scan Execute Suite Scan on one or more scoped apps)	指定されたスイート ID からのチェックを使用し、指定されたスコープ対象アプリでインスタンススキャンを開始します。
インスタンススキャン 1 つまたは複数の更新セットのスイートスキャンを実行 (Instance Scan Execute Suite Scan on one or more update sets)	指定されたスイート ID からのチェックを使用し、指定された更新セットでインスタンススキャンを開始します。
ID を指定してアプリケーションをインストール	アプリケーションリポジトリからシステム ID でアプリケーションをインストールします。
スコープを指定してアプリケーションをインストール	アプリケーションリポジトリからスコープ名でアプリケーションをインストールします。
ID を指定してアプリケーションを公開	システム ID でアプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開します。
スコープを指定してアプリケーションを公開	スコープ名でアプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開します。
ID を指定してアプリケーションをロールバック	システム ID でアプリケーションをロールバックします。ロールバックバージョン番号が指定されたバージョン番号と一致するか、エラーが生成されるのかを確認します。
スコープを指定してアプリケーションをロールバック	スコープ名でアプリケーションをロールバックします。ロールバックバージョン番号が指定されたバージョン番号と一致するか、エラーが生成されるのかを確認します。
プラグインをロールバック	指定したインスタンス URL の ID でプラグインを最後にインストールされたバージョンにロールバックします。
トラッカーが完了するまで待機 (Wait Until Tracker Completes)	トラッカーが指定されたインスタンス URL で処理を完了し、結果が返されるまで待機します。

スポークのアクション

継続的インテグレーションと継続的デリバリ (CICD) スポーク では、Now Platform でイベントが発生したときに CICD タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アプリケーションリポジトリ	ID を指定してアプリケーションをインストール	アプリケーションリポジトリからシステム ID でアプリケーションをインストールします。
	スコープを指定してアプリケーションをインストール	アプリケーションリポジトリからスコープ名でアプリケーションをインストールします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ID を指定してアプリケーションを公開	システム ID でアプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開します。
	スコープを指定してアプリケーションを公開	スコープ名でアプリケーションをアプリケーションリポジトリに公開します。
	ID を指定してアプリケーションをロールバック	システム ID でアプリケーションをロールバックします。ロールバックバージョン番号が指定されたバージョン番号と一致するか、エラーが生成されるのかを確認します。
	スコープを指定してアプリケーションをロールバック	スコープ名でアプリケーションをロールバックします。ロールバックバージョン番号が指定されたバージョン番号と一致するか、エラーが生成されるのかを確認します。
ATF	ATF スイート結果を取得	システム ID でテストスイートの実行結果を返します。
	実行トラッカーの進捗状況を取得	システム ID でトラッカーの進捗状況情報を返します。
	ID を指定して ATF スイートを開始	指定されたインスタンス URL のシステム ID でテストスイートを開始します。
	名前を指定して ATF スイートを開始	指定されたインスタンス URL の名前でテストスイートを開始します。
バッチインストール	バッチインストール	一度に複数のアプリケーションをインストールします。
	バッチ結果	バッチ計画全体とともに各パッケージのインストールステータスを表示します。
	バッチロールバック	ロールバック ID を使用して、単一のバッチとしてインストールされたパッケージのインストールをロールバックします。
Instance Scan	インスタンススキャン結果を取得	進捗 ID でインスタンススキャンの実行結果を返します。scan_results は常に表示されますが、scan_finding 結果は存在する場合にのみ表示されます。
	インスタンススキャンフルスキャンを実行	進捗 ID でインスタンススキャンの実行結果を返します。Scan_results は常に返されますが、scan_finding 結果は存在する場合にのみ表示されます。
	インスタンススキャンポイントスキャンを実行	指定されたインスタンス URL でフルインスタンススキャンを開始します。スキャンはすべてのアクティブなチェックで実行されます。
	インスタンススキャンスイートスキャンを実行 (Instance Scan Execute Suite Scan)	特定のテーブルとレコード (テーブルと sys_ID) から開始して、指定したインスタンスでインスタンススキャンを開始します。ターゲットは、関連する適用可能なチェックをすべて使用してスキャンされます。
	インスタンススキャン 1 つまたは複数のスコープ対象アプリのスイートスキャンを実行 (Instance Scan	特定のチェックのスイートを使用して指定されたインスタンス URL でフルインスタンススキャンを開始します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	Execute Suite Scan on one or more scoped apps)	
	インスタンススキャン 1 つまたは複数の更新セットのスイートスキャンを実行 (Instance Scan Execute Suite Scan on one or more update sets)	指定されたスイート ID からのチェックを使用し、指定されたスコープ対象アプリでインスタンススキャンを開始します。
プラグイン	プラグインをアクティブ化	指定されたインスタンス URL の ID でプラグインを有効化します。
	プラグインをロールバック	指定したインスタンス URL の ID でプラグインを最後にインストールされたバージョンにロールバックします。
ソースコントロール	ID を指定してソースコントロールからの変更を適用	システム ID を使用して、ソースコントロールからアプリケーションにリモート変更を適用します。
	スコープを指定してソースコントロールからの変更を適用	スコープ名を使用して、ソースコントロールからアプリケーションにリモート変更を適用します。
	ソースコントロールからアプリケーションをインポート	所与のインスタンスのレポジトリ URL を使用して、ソースコントロールからアプリケーションをインポートします。

CICD アカウント要件

継続的インテグレーションと継続的デリバリ (CICD) スポーク では、基本認証情報を作成する必要があります。このユーザー認証情報で CICD アクションとフローを許可するには、admin ロールまたは sn_cicd.sys_ci_automation ロールのいずれかが必要です。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークでは、CICD エイリアスレコードを使用して、ローカルインスタンスとリモートインスタンスでアクションを許可します。スポークの設定については、「 継続的インテグレーションと継続的デリバリ (CICD) スポークを設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。CICD エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー 選択属性を設定します。 詳細については「 MID サーバー 」を参照してください。

継続的インテグレーションと継続的デリバリ (CICD) スポークを設定

ベーシック認証を使用して ServiceNow インスタンスで CICD REST API 呼び出しを認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- 継続的インテグレーションと継続的デリバリ (CICD) スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin または sn_cicd.sys_ci_automation

継続的インテグレーションと継続的デリバリ (CICD) スポークの認証情報レコードを作成

ServiceNow インスタンスの認証情報レコードを作成します。継続的インテグレーションと継続的デリバリ (CICD) スポーク 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. [基本認証情報] を選択します。
   空の基本認証情報フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`CICD 認証情報`」と入力します。
ユーザー名	スポークアクションとフローを許可して実行する ServiceNow インスタンスのユーザー名。このユーザーには、admin ロールまたは sn_cicd.sys_ci_automation ロールのいずれかが必要です。
パスワード	ServiceNow インスタンスユーザーのパスワード。
有効	有効化
順番	この認証情報を適用する順番を選択します。たとえば、「`100`」と入力します。

5. [送信] をクリックします。

継続的インテグレーションと継続的デリバリ (CICD) スポークの接続レコードを作成

ServiceNow インスタンスに接続レコードを作成します。継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CICD) スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して、ServiceNow インスタンスでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **CICD** のレコードを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   空の HTTP または HTTPS 接続フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`CICD` 接続」と入力します。
認証情報	CICD 用に作成された認証情報レコードを選択します。たとえば、**[CICD** 認証情報] を選択します。
接続 URL	スポークがアクションとフローを実行する ServiceNow インスタンスの URL。

5. [送信] をクリックします。

Cornerstone スポーク

ServiceNow インスタンスから Cornerstone インスタンスでの従業員レコード、承認、および従業員学習を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Cornerstone スポーク v1.3.1 が最新バージョン

サポートされているバージョン

このスポークは Cornerstone バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのフロー

Cornerstone スポーク では、Cornerstone タスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルフローが提供されます。サンプルフロー [Cornerstone - To Do の詳細をプル (Cornerstone - Pull Todos Details)] では、必要なユーザーの To Do リストを取得します。このユーザーが ServiceNow インスタンスに追加されていることを確認してください。取得したレコードにアクセスするには、インスタンスの Cornerstone アプリケーションで [TO Do リスト] モジュールに移動します。

サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのサブフロー

Cornerstone スポークでは、Cornerstone タスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
Cornerstone：認定証明書の詳細を取得 (Cornerstone - Get Certificate Transcript Details)	必要な従業員の証明書情報を取得します。
Cornerstone：成績証明書を取得 (Cornerstone - Get Transcripts)	必要な従業員の成績証明書情報を取得します。
Cornerstone：付随する To Do を削除 (Cornerstone - Remove Dangling To Do)	付随する To Do レコードを削除します。取得した一部の証明書レコードの [ステータス] および [起動 **URL (Launch URL)]** フィールドに値が設定されていない場合があります。[Cornerstone：付随する To Do を削除 (Cornerstone - Remove Dangling To Do)] アクションは、該当する To Do レコードを削除します。

スポークのアクション

Cornerstone スポークでは、ServiceNowでイベントが発生したときにCornerstoneタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
コア管理	承認の詳細を検索	承認待ちに関する情報を取得します。
	組織単位を検索	組織単位タイプに基づいて組織単位のリストを取得します。
	グローバル検索	必要な人材、トレーニング、認定などを検索します。
従業員管理	従業員を作成	従業員レコードを作成し、Cornerstone からコア従業員データを取得します。
	従業員のカスタムフィールドを取得	Cornerstone から従業員のカスタムフィールドを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	従業員を検索	Cornerstone で必要な従業員のコアデータを取得します。
	従業員を更新	Cornerstone で必要な従業員の詳細を更新します。
学習管理	承認を検索	マネージャーまたは承認者の承認待ちを取得します。
	アサインされたトレーニングを検索	ユーザーにアサインされたトレーニングの詳細を取得します。
	カタログ検索を検索	必要なトレーニングの詳細を取得します。
	認定証明書を検索	必要なユーザーの認定証明書情報を取得します。
	レポートデータストリームから認定を検索	メインビューを取得して認定データを取得します。
	受信ボックスアイテムを検索 (Look up Inbox Items)	ようこそページに表示されるように、必要なユーザーの受信ボックス内のすべてのアイテムを取得します。
	学習オブジェクトを検索	Cornerstone から学習オブジェクトを取得します。サポートされている学習オブジェクトタイプは、カリキュラム、イベント、セッション、資料、テスト、ビデオ、およびオンラインコースです。
	セッションを検索	予定されているセッションの詳細を取得します。
	推奨トレーニングを検索	ユーザーの成績証明書に追加された必須および推奨の学習オブジェクトの詳細を取得します。
	タスクを検索	ユーザーにアサインされた未完了のタスクをすべて取得します。
	成績証明書を検索	必要なユーザーの成績証明書レコードを取得します。
	アサインの作成	標準アサインを作成します。
	アサインの詳細を検索	アサイン ID に基づいてアサインの詳細を検索します。
学習モジュール管理に関するレポート	レポートデータストリームからタスクを検索	メインビューを取得して、トレーニングフォームのユーザータスクを取得します。
	フィードバックからトレーニングを検索	メインビューを取得して、トレーニングデータを取得します。
	レポートデータストリームから成績証明書を検索	メインビューを取得して、すべてのユーザーの成績証明書関連データを取得します。
	レポートデータストリームからトレーニングローカルを検索	メインビューを取得して、トレーニングのローカルデータを取得します。
	レポートデータストリームから認定を検索	メインビューを取得して、すべてのユーザーの認定関連データを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークモジュール

Cornerstone スポークは Cornerstone アプリケーションを ServiceNow インスタンスに追加します。Cornerstone アプリケーションには [TO Do リスト] モジュールがあります。サンプルフロー [Cornerstone：To Do の詳細をプル (Cornerstone - Pull Todos Details)] によって指定されたユーザーに対して取得される To Do のリストにはここからアクセスできます。

Cornerstone スポークアカウントの要件

スポークとともに提供されるデフォルト設定と権限を使用する場合は、ServiceNow タイルを Cornerstone マーケットプレイスにインストールできます。アプリケーションの登録の詳細については、Cornerstone のオンデマンドヘルプの「https://help.csod.com/help/csod_0/Content/Edge/Integration_Center/Edge_-_Getting_Started.htm?tocpath=Edge%2FInfrastructure%2FTools%7CEdge%20Marketplace%7C_____3」を参照してください。後で使用するために、生成されたクライアント ID とクライアントシークレットを記録します。

要件に従ってスポークを構成およびカスタマイズし、追加の権限を指定する場合は、Cornerstone アカウントに OAuth 2.0 アプリケーションを登録して、Cornerstone スポークの OAuth 2.0 トークンを生成します。アプリケーションの登録の詳細については、Cornerstone のオンラインヘルプの「API 管理」を参照してください。後で使用するために、生成されたクライアント ID とクライアントシークレットを記録します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Cornerstone スポークのセットアップ。

Cornerstone スポークのセットアップ

Cornerstone アプリケーションを ServiceNow インスタンスとデータ連携させます。OAuth アプリケーションを Cornerstone に登録し、ServiceNow からの要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Cornerstone スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Cornerstone インスタンスへのアプリケーションの登録

アプリケーションを Cornerstone インスタンスに登録し、生成されたクライアント ID とクライアントシークレットを後で使用できるように記録します。

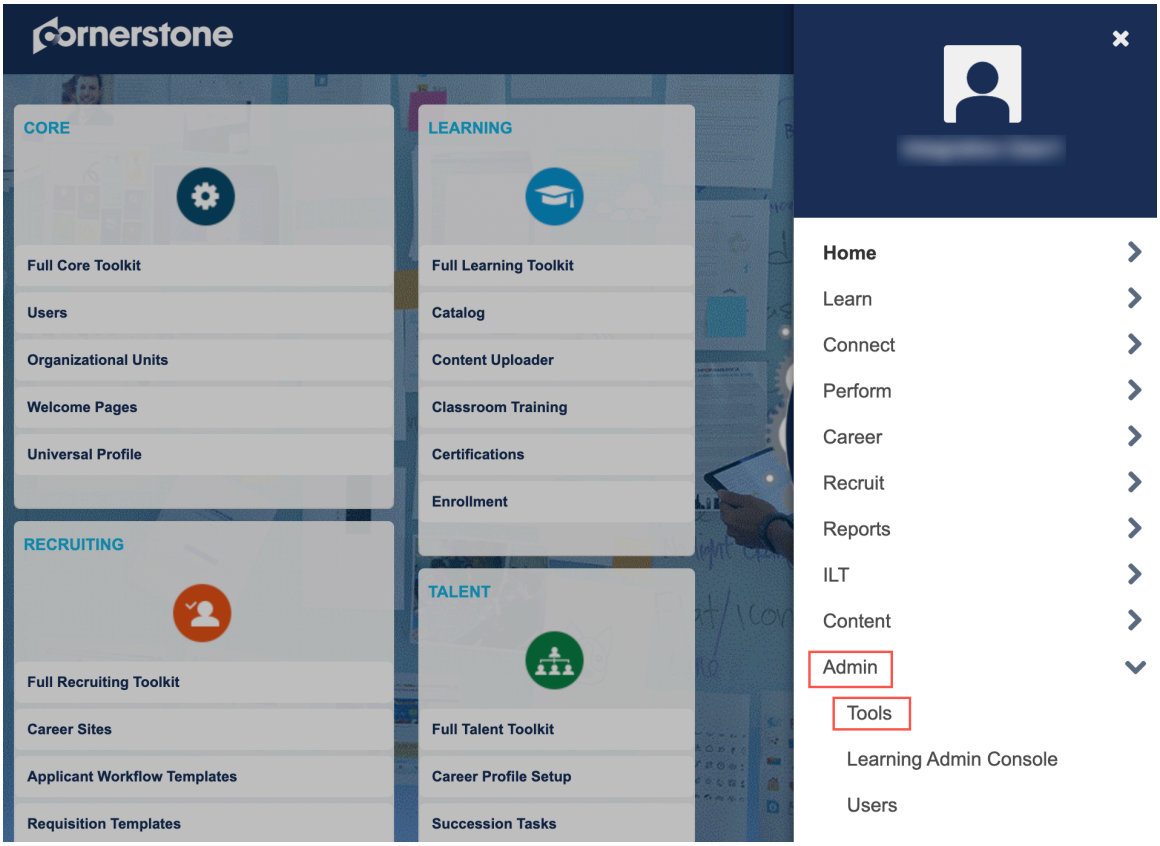
始める前に

必要なロール：admin

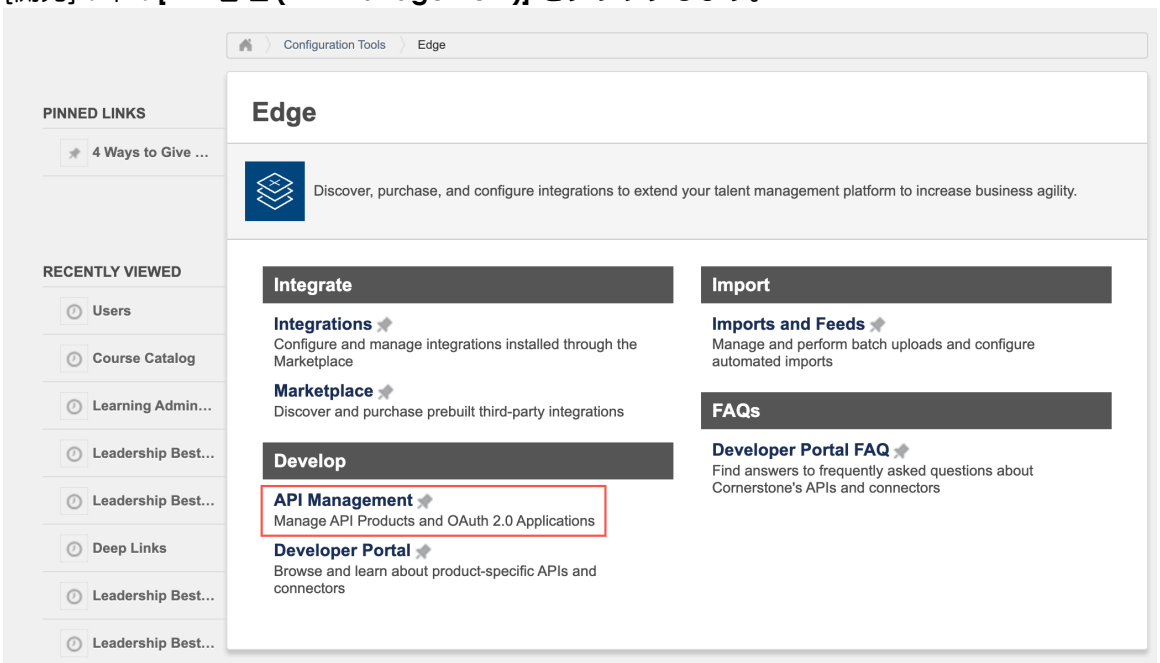
手順

1. アドミンとして Cornerstone インスタンスにログインします。
2. [アドミン] > [ツール] の順に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. **[EDGE]** をクリックします。
4. [開発]の下の**[API 管理 (API Management)]** をクリックします。



[API 管理 (API Management)] ウィンドウが新しいブラウザータブに表示されます。

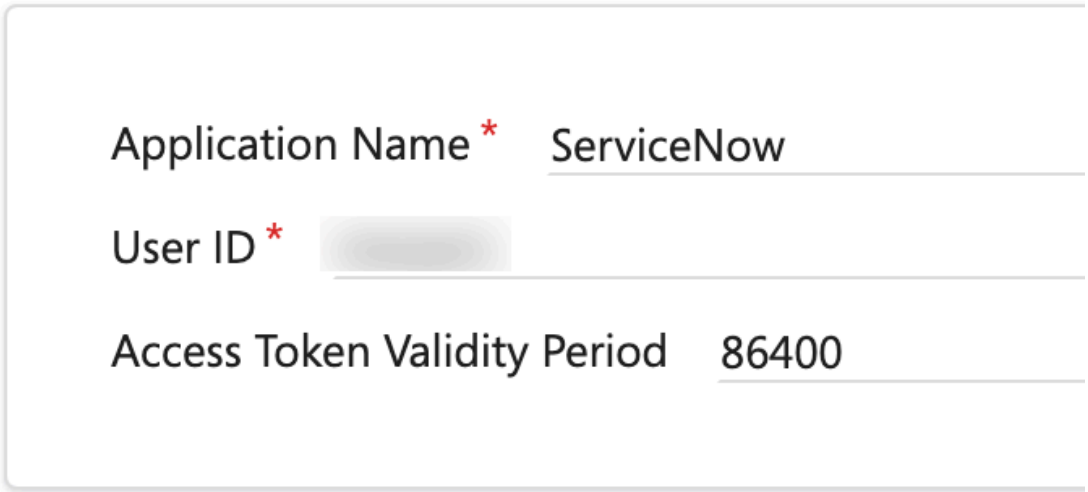
5. **[OAuth 2.0 アプリケーションの管理 (Manage OAuth 2.0 Applications)]** をクリックします。
6. [新規アプリケーションの登録 **(+ Register New Application)]** をクリックします。
7. フォームに値を入力します。

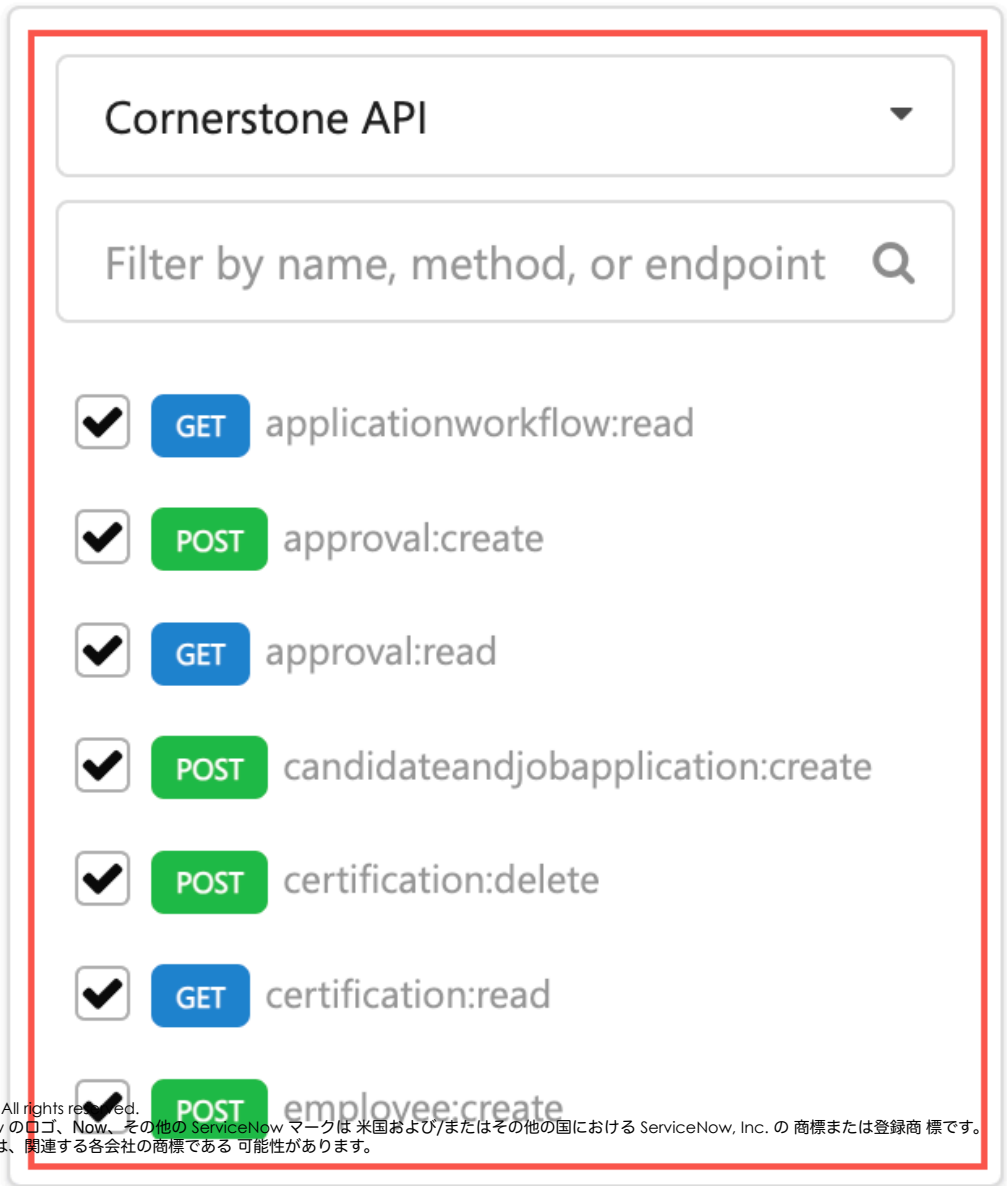
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アプリケーション名	アプリケーションを一意に識別する名前。
ユーザー ID	Cornerstone ポータルのアクティブなユーザーアカウントのユーザー ID です。

8. 要件に従ってスコープを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。





© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. [アプリケーションを登録] をクリックします。
クライアント ID とクライアントシークレットの値が生成されます。後で使用するためにこれらの値をコピーして記録します。

Cornerstone スポークの接続の設定

Cornerstone 接続を追加して設定し、Cornerstone スポークで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブをクリックします。
3. 送信接続で **[Cornerstone]** 接続エイリアスを見つけます。
4. [詳細を表示] をクリックします。

   注: [接続を追加] はクリックしないでください。

5. [編集] をクリックするか、スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。
6. フォームのフィールドに入力します。

構成フォーム

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	Cornerstoneインスタンスの URL です。
ベース URL	Cornerstone インスタンスの URL です。
OAuth エンティティ名	アプリケーションレジストリレコードを識別する名前です。
OAuth クライアント ID	Cornerstone でのアプリケーション構成中に作成されたクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	Cornerstone でのアプリケーション構成中に作成されたクライアントシークレットです。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント。例：`https://<Cornerstone-Instance>.com/services/api/oauth2/token`

7. **[OAuth** トークンを設定して取得 **(Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

Coupa スポーク

ServiceNow インスタンスから、Coupa でビジネス費用を管理し、承認、契約、インベントリ、発注書、要求、サプライヤー、ユーザー管理を自動化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Coupa スポーク v4.8.0 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Coupa バージョン stable_v4.2.0 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Coupa インスタンスに API キーを作成し、後で使用できるように API キーを記録します。API キーの作成方法の詳細については、「Coupa ドキュメント」を参照してください。

スポークユーザーロール

次のユーザーロールはスポークで利用可能です。

- Coupa アドミン (sn_coupa_spoke.Coupa Admin)：このロールを持つユーザーは、[自分の現在の承認] モジュールと [契約] モジュールの両方にアクセスできます。
- Coupa 承認ユーザー (sn_coupa_spoke.Coupa Admin)：このロールを持つユーザーは、[自分の現在の承認] モジュールにのみアクセスできます。
- Coupa 契約ユーザー (sn_coupa_spoke.Coupa Contract User)：このロールを持つユーザーは、[契約] モジュールにのみアクセスできます。

スポークモジュール

Coupa スポークは Coupa アプリケーションを ServiceNow インスタンスに追加します。Coupa アプリケーションは、Coupa 承認ユーザーおよび Coupa 契約ユーザーロールをサポートしています。Coupa アプリケーションには、Now Mobile アプリの ServiceNow インスタンスからアクセスできます。

注: [自分の現在の承認] モジュールを使用する前に、Coupa ログイン属性と ServiceNow インスタンスのユーザー ID が一致していることを確認してください。

Coupa アプリケーションには次のモジュールがあります。

モジュール	説明
自分の現在の承認	ユーザーに関する Coupa の承認のリストを表示します。
契約	Coupa の契約のリストを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用可能なサンプル対話型サブフロー

Now Assist for Conversational Spokes をインストールし、統合ハブスポークの会話機能の使用を開始します。詳細については、「Now Assist in Conversational Spokes」を参照してください。

サンプル対話型サブフロー

対話型サブフロー	説明
発注書 (PO) を検索 - サンプル	発注書 (PO) に関する情報を返します。

スポークのアクション

Coupa スポークは、ServiceNow でイベントが発生したときに、承認、インベントリ、在庫、請求書、カタログアイテム、発注書、要求、サプライヤー、およびユーザー管理を自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
承認管理	承認要求を承認	Coupa の必要な承認要求を承認します。
	承認の詳細を承認 ID で検索	Coupa で必要な承認の詳細を取得します。
	承認を 検索	Coupa クエリを使用して、Coupa で 1 つの承認レコードを検索します。
	要求 ID で承認を検索	要求 ID を使用して、Coupa で必要な承認レコードを検索します。
	承認のストリームを検索	Coupa の承認の詳細を取得します。
	承認要求を却下	Coupa の必要な承認要求を却下します。
カタログ管理	アイテムを作成	Coupa でアイテムを作成します。
Contract Management (契約管理)	契約を作成	Coupa の指定された詳細で契約を作成します。
	契約ストリームを 検索	Coupa クエリを使用して、Coupa で必要な契約レコードを検索します。
主なデータ管理	換算レートストリームを検索	Coupa の換算レートの詳細を取得します。
	通貨ストリームを検索	Coupa の通貨の詳細を取得します。
	法人ストリームを検索	Coupa で法人の詳細を取得します。
	コストセンターのストリームを検索	Coupa のコストセンターの詳細を取得します。
	更新日後に事前出荷通知ストリームを検索	Coupa のフィールドで指定された更新日でフィルタリングした後、事前出荷通知の詳細を取得します。
	発注書 (PO) 明細行 ID で事前出荷通知を検索	指定した発注書 (PO) 明細行 ID のすべての事前出荷通知の詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
インベントリ管理	物品受領書の作成	Coupa の物品受領書レコードを作成します。
	受領書を作成	Coupa で受領書を作成します。 **注:** 説明に正確なアイテム名が含まれていることを確認してください。フロー内のアイテム名にアクセスする場合は、説明データピルを使用します。
	受領書フィールドを取得	Coupa 受領書テーブルのフィールドのリストを取得します。 **注:** これはメタデータアクションであり、Coupa に対する API 呼び出しは行いません。
	更新日後に事前出荷通知を検索	Coupa で更新日後に事前出荷通知の詳細を取得します。
	発注書明細行 ID で事前出荷通知を検索	Coupa で発注書 (PO) 明細行 ID を使用して事前出荷通知を検索します。
	受領書を検索	Coupa クエリを使用して、Coupa で必要な受領書を検索します。
	受領書 ID で受領書の詳細を検索	必要な受領書の詳細を取得します。
	受領書 ストリームを検索	Coupa クエリを使用して、Coupa で必要な受領書を検索します。
	受領書を無効化	要求された受領書を無効にします。
請求書管理	請求書を作成	Coupa の指定された詳細で請求書を作成します。
	請求書を更新	Coupa の指定された請求書の詳細を更新します。
	請求書を無効化	要求された請求書を無効にします。
	請求書ストリームを検索	Coupa で必要な請求書の詳細を取得します。
	請求書の支払い詳細ストリームを検索	Coupa で必要な請求書の支払詳細に関する情報を取得します。
アイテム管理	アイテム ストリームを検索	Coupa クエリを使用して、Coupa で必要な複数のアイテムを検索します。
	アイテムを検索	Coupa クエリを使用して、Coupa で必要なアイテムを検索します。
発注書管理	発注書をキャンセル	Coupa で要求された発注書をキャンセルします。
	発注書をクローズ	Coupa で要求された発注書をクローズします。
	固定資産を作成	Coupa の指定された詳細で固定資産を作成します。
	発注書 (PO) を作成	Coupaで発注書を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	明細行 ID で発注明細を検索	Coupa の発注書明細行の詳細を取得します。
	発注書を検索	Coupa クエリを使用して、Coupa で必要な発注書を検索します。
	発注書 ストリームを検索	Coupa クエリを使用して、Coupa で必要な複数の発注書を検索します。
	発注書 (PO) を変更	Coupa の発注書 (PO) を変更または更新します。
要求管理	ドラフト要求を作成	Coupa で、ステータスがドラフトである要求を作成します。
	要求を作成	ステータスが「承認待ち」または「購入者アクション待ち (Pending Buyer Action)」である要求を作成します。
	要求フィールドを取得	Coupa 要求テーブルのフィールドのリストを取得します。 **注:** これはメタデータアクションであり、Coupa に対する API 呼び出しは行いません。
	要求を検索	Coupa クエリを使用して、Coupa で必要な要求を検索します。
	要求事項 ストリームを検索	Coupa クエリを使用して、Coupa で必要な複数の要求を検索します。
	要求の更新	Coupa 内の既存の要求を更新します。
ソーシング管理	購入を認定	Coupa の購入を認定します。
	ソーシングイベントを作成	Coupa のソーシングイベントを作成します。
	ソーシングイベントストリームを検索	Coupa で要求されたソーシングイベントの詳細を取得します。
サプライヤー管理	サプライヤーを検索	Coupa クエリを使用して、Coupa で必要なサプライヤーを検索します。
	サプライヤーを作成	Coupa のサプライヤーを作成します。
	サプライヤーを非アクティブ化	Coupa の指定されたサプライヤーを非アクティブ化します。
	サプライヤーを更新	Coupa の指定されたサプライヤーの詳細を更新します。
	製品カタログストリームを検索	Coupa 内の製品カタログを取得します。
	サプライヤーストリームを検索	クエリを使用して Coupa でサプライヤーのリストを検索します。
ユーザー管理	ユーザーを検索	Coupa クエリを使用して、Coupa で必要なユーザーを検索します。
	ユーザー ストリームを検索	Coupa クエリを使用して、Coupa で必要な複数のユーザーを検索します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ユーザーパスワードをリセット	Coupa で必要なユーザーのパスワードをリセットします。

注: Coupa スポーク が有効化されると、リモートテーブルが作成されます。ユーザーは、これらのテーブルで直接スキーマを変更したりデータを挿入したりしないように注意してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

Coupa スポークの設定

Coupa でカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと Coupa をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Coupa スポークを有効にします。

  注: このスポークの以前のバージョン (3.0.3 以前) からバージョン 4.0.0 にアップグレードする場合は、この KB 記事 KB0550471 を参照してください。

- 必要なロール：admin

Coupa スポークの接続の設定

Coupa 接続を追加して設定し、Coupa スポークで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

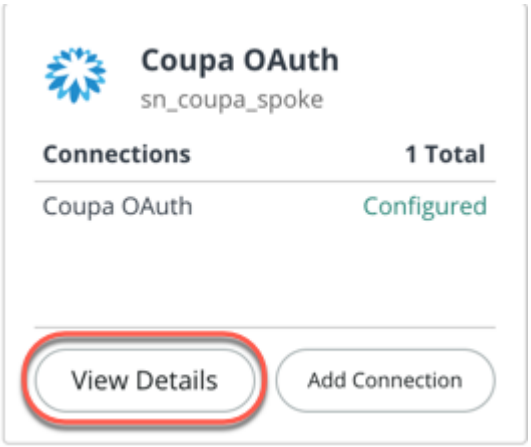
必要なロール：admin

手順

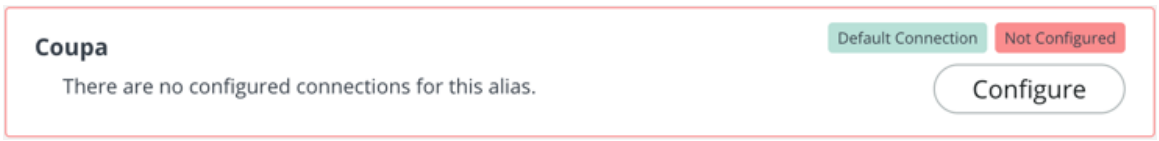
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] を選択します。
3. **[Coupa OAuth]** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

   注: [接続を追加] はクリックしないでください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [編集] をクリックするか、スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。



5. フォームのフィールドに入力します。

構成フォーム

フィールド	説明
名前 (接続)	接続を一意に識別する名前。例：`Coupa spoke connnection`
接続 URL	Coupa に接続するための URL。 ◦ 顧客のインスタンスの場合は、次の形式を使用します。`https://{organization_name}.coupahost.com` ◦ パートナーおよびデモインスタンスの場合は、次の形式を使用します。`https://{organization_name}.coupacloud.com`
名前 (認証情報)	認証情報を一意に識別する名前です。 例：`Coupa spoke credential`
トークン URL	OAuth トークンの生成に使用される URL。次の形式を使用します。`https://<connection_url>/oauth2/token`
OAuth クライアント ID	Coupa で生成された識別子 (クライアント ID)。
OAuth クライアントシークレット	Coupa で生成されたシークレット (クライアントシークレット)。

6. **[OAuth** トークンを設定して取得] をクリックします。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Craft スポーク

ServiceNow インスタンスで Craft からのアラートを管理し会社情報を取得します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Craft スポーク v1.0.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは Craft バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Craft アカウント

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- リモートテーブル (com.glide.script.vtable)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Craft スポークでは、Craft タスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
会社がアクティブでない場合はインシデントを作成	必要なフラグメントエイリアスを使用して会社データをフェッチします。会社がアクティブでない場合は、説明と簡単な説明を含むインシデントが作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Craft スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Craft タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アラート管理	アラートストリームを検索	Craft からアラートのリストを取得します。
会社データ管理	追加会社ストリームを検索	追加された会社のリストを Craft から取得します。
	会社データを検索	指定された詳細情報の会社情報を取得します。
	会社の詳細を名前で検索	指定された会社名の会社情報を取得します。

スポークモジュール

Craft スポークは Craft スポークアプリケーションをインスタンスに追加します。スポークには以下のモジュールが含まれています。

モジュール	説明
Craft アラート	[Craft アラートのインポート (Import Craft Alerts)] インポートから取得されたアラートを一覧表示します。
クエリフラグメント	会社名、会社 ID など、会社に関するすべてのクエリデータを一覧表示します。

これらのスポークモジュールを介してアクセスされるデータは、次のリモートテーブルに表示されます。

注: リモートテーブルを開くと、設定したアクションがバックグラウンドで実行され、Craft から情報を取得します。この情報はテーブルに表示されます。リモートテーブルを閉じると、その情報は削除されます。

テーブル	説明
最近追加された会社	過去 7 日間にアクティブ化された会社のリストを取得します。
最近の Craft アラート	リモートの [最近の Craft アラート] リモート定義をバックグラウンドで実行し、すべてのアラートのリストを取得します。 **注:** [最近の Craft アラート] リモート定義のスクリプトを変更することで、アラートフィルターをカスタマイズすることができます。

インポートセット

Craft スポークは、以下のインポートを統合に追加します。

インポート	説明
Craft アラートのインポート	Craft からアラートを取得し、[Crafts アラート (Crafts Alerts)] テーブルに保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Craft スポークの設定

ベーシック認証を使用して ServiceNow インスタンスと Craft スポークを統合し、ServiceNow 要求の認証を行います。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Craft スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Craft スポークの接続の設定

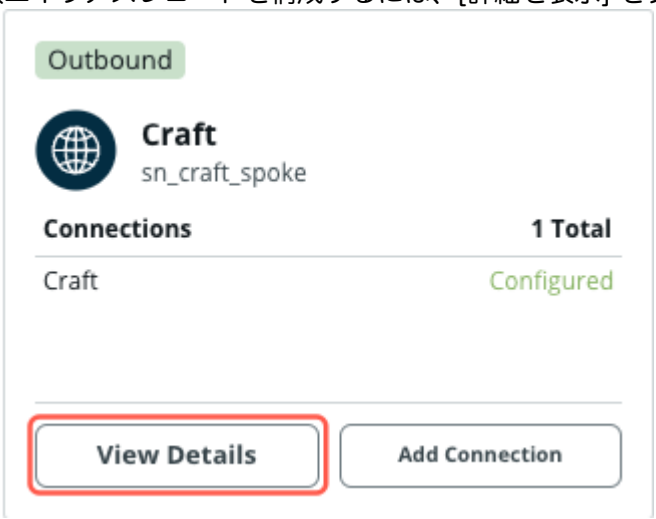
ServiceNow 要求を認証するための Craft スポーク接続を追加して設定します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. **sn_craft_spoke** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
   - Azure DevOps Boards スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



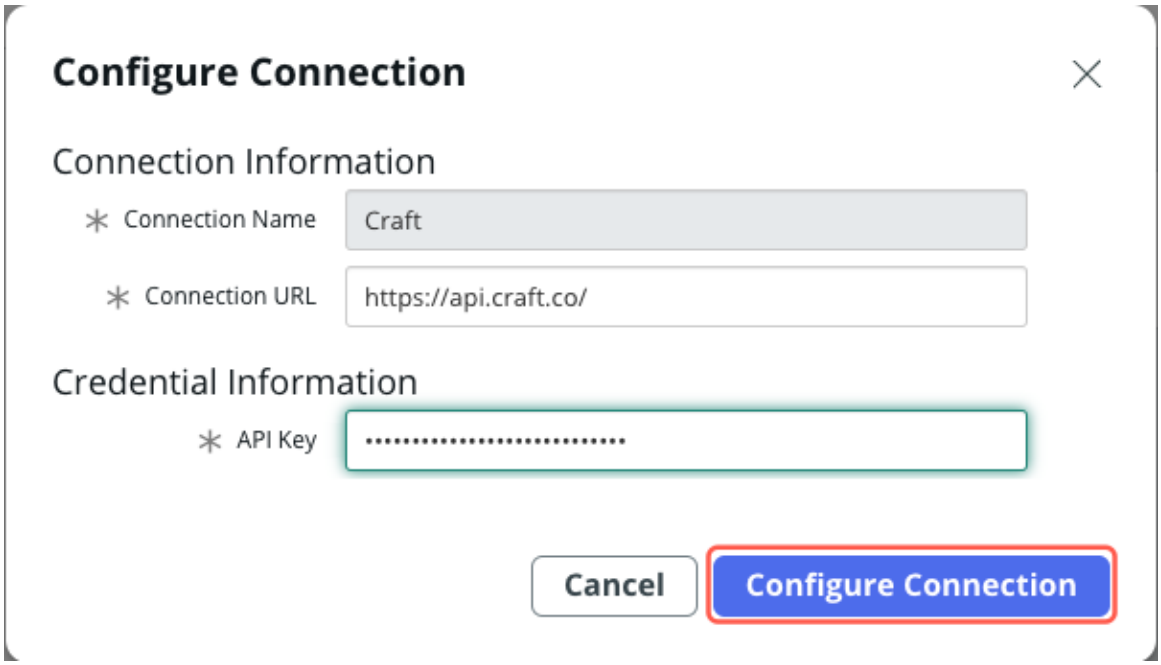
   - 複数の Azure DevOps Boards スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

   スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

5. [接続を設定] フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを一意に識別する名前です。 例：`Craft connection`。
接続 URL	Craft インスタンスの URL。たとえば、`https://api.craft.co/` の形式で URL を入力します。
API キー	Craft アカウントの API キー



6. [接続を設定] をクリックします。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

Credly スポーク

Credly の統合は、従業員が自分のスキルをより効果的に証明、管理、および提示するのに役立ち、スキルの検証、可視化、評価、およびキャリア開発に関連する一般的な問題に対処できます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Credly スポーク v1.0.0 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポート対象のバージョン

このスポークは yokohama 用にビルドされており、それ以降の Washington DC および Xanadu バージョンと互換性があります。

主要な機能

Credly によりフローデザイナーで次を実行できます。

- 従業員バッジの同期
- バッジの承認/却下

スポークの要件

有効な Credly アカウント

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください：Credentials core

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Credly では、人材開発コアのタスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
Credly イベント処理	同期する従業員バッジを Credly から取得します。

スポークのサブフロー

Credly スポークでは、人材開発コアのタスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
credly イベントを処理	トリガーされた credly イベントを処理します。

スポークのアクション

Credly は、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに、人材開発コアのタスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
情報を取得	イベント情報を処理	イベント処理情報を取得します。
	組織名を生成	従業員の組織名を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	イベントの詳細を取得	イベントの詳細を取得します。
	従業員データを取得	従業員データを取得します。

スポークモジュール

これらのスポークモジュールを介してアクセスされるデータは、次のテーブルに保存されます。

テーブル	説明
Credly イベントログ	作成されたイベントのリストを取得します。

スポークユーザーロール

Credly では、データへのアクセスを制御するために次のユーザーロールが提供されます。

ユーザーロール	説明
管理者	従業員バッジを同期する権限があるロール。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

Credly スポークの設定

ServiceNow 要求を認証するために、Credly でカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと Credly を統合します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Credly スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

Credly スポークの接続レコードの作成

Credly スポークの接続レコードを作成します。Credly の接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Credly でアクションを実行します。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Credly** のエイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例を次に示します。`<Credly spoke> Connection`.
認証情報	Credly 用に作成された認証情報レコード。 例：`<Credly spoke> Cred`。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
URL ビルダー	接続文字列を作成するために URL ビルダーを使用するオプション。
接続 URL	**Credly** に接続するためのベース URL。次のように入力します。
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	接続で使用されるターゲット ポート。空白の場合は、デフォルトのポートが使用されます。
MID サーバーを使用	この接続に MID サーバー を使用するオプション。チェックボックスが選択されている場合、[MID サーバー詳細構成] 関連リストのフィールドを定義します。
属性	
組織 ID	Credly の従業員の組織の ID です。

5. [送信] を選択します。

CrowdStrike スポーク

アクティブな CrowdStrike Falcon センサーがインストールされているデバイスの詳細を取得し、ライセンスコンプライアンスを確認することで、 Falcon 保護スイートのライセンスを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

CrowdStrike スポーク v1.1.0 が最新バージョンです。

スポークの要件

CrowdStrike Falcon アドミンロールを持つアカウント。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

CrowdStrikeスポークでは、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにCrowdStrikeタスクを自動化するアクションが提供されます。

カテゴリ	アクション	説明
ホスト管理	アクティブなホストをルックアップ	すべてのアクティブなホストを取得します。アクティブホストとは、last_seen の日付が [アクティブ以降 **(Active Since)]** フィールドで指定された日付より後の日付であるホストのことです。
	ホストの詳細をルックアップ	[ホスト **ID]** フィールドで渡された [デバイス ID] のホストの詳細を取得します。
センサー管理	毎時のセンサー使用状況を検索	センサーカテゴリ別の顧客 ID (CID) の 1 時間当たりの平均センサー使用状況の日次ブレークダウンを取得します。 **注:** 現在の日付の 2 日前までの使用状況データが取得されます。
	週次のセンサー使用状況を検索	センサーカテゴリ別の CID の週次平均センサー使用状況の日次ブレークダウンを取得します。 **注:** 現在の日付の 2 日前までの使用状況データが取得されます。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

CrowdStrike OAuth アプリケーションの登録

CrowdStrike OAuth アプリケーションを登録して CrowdStrike API にアクセスし、クライアント ID とクライアントシークレットを受信します。

始める前に
CrowdStrike 統合ハブ スポークはアクティブである必要があります。詳細については、「CrowdStrike スポーク」を参照してください。

必要なロール：CrowdStrike Falcon アドミン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要:

- センサー使用状況 API を使用するには、API クライアントに読み取り権限を持つセンサー使用状況スコープを割り当てる必要があります。
- [毎時のセンサー使用状況を検索 (Look up Hourly Sensor Usage)] および [週次のセンサー使用状況を検索 (Look up Weekly Sensor Usage)] アクションを使用するには、アカウントチームに連絡して次の機能フラグを有効にしてください。
  - 毎時の使用状況データ機能フラグ：毎時の使用状況データを表示するには、顧客 ID (CID) でこのフラグを有効にする必要があります。
  - 集計された使用状況データ機能フラグ：複数の CID (Flight Control 以外) アカウントで集計された使用状況データを取得するには、このフラグを有効にする必要があります。

手順

1. アドミン認証情報を使用して [Falcon] にログインします。
2. [サポート] > **[API クライアントとキー (API Clients and Keys)]** に移動します。
3. [新しい **API** クライアントを追加 **(Add new API Client)]** を選択します。
4. クライアント名と説明を入力します。
5. 次のスコープに対して適切なチェックボックスを選択します。
   - [アクティブなホストを検索] および [ホストの詳細を検索] アクションを使用するには、[ホスト] スコープの [読み取り] チェックボックスをオンにします。
   - [毎時のセンサー使用状況を検索 (Look up Hourly Sensor Usage)] および [週次のセンサー使用状況を検索 (Look up Weekly Sensor Usage)] アクションを使用するには、[センサー使用状況] スコープの [読み取り] チェックボックスをオンにします。
   - サポートされているすべてのアクションを使用するには、[ホスト] と [センサー使用状況] の両方のスコープの [読み取り] チェックボックスをオンにします。
6. [追加] を選択します。
   API クライアント作成画面が表示されます。
7. 後で使用するために [クライアント ID (Client ID)] と [クライアント シークレット (Client secret)] をコピーします。

CrowdStrike 接続の作成

インスタンスがアプリケーションからユーザーデータを取得できるように、CrowdStrike アプリケーションと ServiceNow インスタンスの間に接続を作成します。

始める前に
ServiceNow 必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス] に移動します。
3. CrowdStrike 接続を検索し、[新しい接続 **&** 資格情報を作成] を選択します。
4. ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

[接続と資格情報を作成] ダイアログボックス

フィールド	値
接続情報	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
接続名	CrowdStrike接続の名前です。このフィールドは、自動的に入力されます。
接続 URL	接続の URL。このフィールドは自動的に `https://api.crowdstrike.com` に設定されます。 各 CrowdStrike クラウドには異なるベース URL があります。統合がホストされているクラウドに対応するベース URL を使用します。 ◦ **US-1**：`https://api.crowdstrike.com` ◦ **US-2**：`https://api.us-2.crowdstrike.com` ◦ **EU-1**：`https://api.eu-1.crowdstrike.com` ◦ **US-GOV-1**：`https://api.laggar.gcw.crowdstrike.com` ◦ **US-GOV-2**：`https://api.us-gov-2.crowdstrike.mil`
認証情報	
OAuth クライアント ID	CrowdStrike API 設定の構成中に生成したクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	CrowdStrike API 設定の構成中に生成したクライアントシークレット。
OAuth リダイレクト URL	`https://<instance name>/oauth_redirect.do`、インスタンス名は ServiceNow インスタンス名で置き換えます。

5. **[OAuth** トークンを作成して取得] を選択します。
   OAuth トークンが正常に生成されました。

Docker スポーク

ServiceNow インスタンスから Docker データを検索します。ServiceNow でイベントが発生した場合に、Docker エンジンの変更を自動化します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

Docker スポーク v2.3.3 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

Community Edition バージョン 18.09.0

スポークのアクション

Docker スポークでは、ServiceNow でイベントが発生したときに Docker タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
イメージ管理	イメージを作成	Docker インスタンスにイメージを作成します。
	イメージをリスト	Docker インスタンスからのイメージを一覧表示します。
	イメージの削除	Docker インスタンスからイメージを削除します。
	イメージを検索	Docker Hub 上のイメージを検索します。
サービスマネジメント	サービスを作成	Docker インスタンスにサービスを作成します。サービスは、Swarm 上で実行されるタスクです。
	サービスを削除	Docker インスタンスからサービスを削除します。
	サービスの検査	Docker インスタンス内のサービスに関する詳細情報を返します。
	サービスを更新	Docker インスタンスの Swarm に対するサービスを更新します。
	サービスをリスト	Docker インスタンスからサービスのリストを返します。
コンテナ管理	コンテナを作成	Docker インスタンスにコンテナを作成します。
	コンテナの検査	Docker インスタンスでコンテナを検査します。
	コンテナを強制終了	Docker インスタンスでコンテナを強制終了します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	リストコンテナ	Docker インスタンスでコンテナを一覧表示します。
	コンテナを一時停止	Docker インスタンスでコンテナ内のすべてのプロセスを一時停止します。
	コンテナを削除	Docker インスタンスからコンテナを削除します。
	コンテナの名前変更	Docker インスタンスのコンテナの名前を変更します。
	コンテナの再起動	Docker インスタンスでコンテナを再起動します。
	コンテナを開始	Docker インスタンスでコンテナを開始します。
	コンテナを停止	Docker インスタンスでコンテナを停止します。
	コンテナの一時停止を解除	Docker インスタンスのコンテナの一時停止を解除します。
	コンテナを更新	指定された値で Docker インスタンスのコンテナを更新します。
	コンテナを待機	コンテナが停止するまですべてのプロセスをブロックし、Docker インスタンスでコンテナの終了コードを返します。
実行管理	実行インスタンスを作成	Docker に実行インスタンスを作成します。このインスタンスを使用して、実行中のコンテナで新しいコマンドを実行できます。コンテナでコマンドを実行するには、実行インスタンスを作成して開始します。
	実行インスタンスの検査	Docker で実行インスタンスを検査します。
	実行インスタンスの開始	Docker で実行インスタンスを開始します。このインスタンスを使用して、実行中のコンテナで新しいコマンドを実行できます。
ネットワーク管理	ネットワークを作成	Docker インスタンスにネットワークを作成します。
	ネットワークを検査	Docker インスタンス内のネットワークに関する詳細情報を返します。
	ネットワークをリスト	Docker インスタンスからネットワークのリストを返します。
	ネットワークを削除	Docker インスタンスからネットワークを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
ボリューム管理	ボリュームの作成	Docker でボリュームを作成します。
	ボリュームを検査	Docker のボリュームに関する詳細情報を返します。
	ボリュームをリスト	Docker からボリュームのリストを返します。
	ボリュームを削除	Docker インスタンスからボリュームを削除します。
Swarm 管理	ノードを削除	Docker インスタンスからノードを削除します。
	新しい Swarm を初期化	新しい Docker Swarm を初期化します。Swarm は、クラスターに結合された Docker を実行しているマシンのグループです。
	Swarm を検査	Docker Swarm に関する詳細情報を返します。
	既存の Swarm に参加	Docker のトークンに基づいてマネージャーノードまたはワーカーノードとしてノードを Swarm に結合します。
	Swarm の結合を解除	Swarm から Docker インスタンスを削除します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークでは Docker エイリアスレコードを使用してアクションを許可します。スポーク接続エイリアスを使用するには、関連付けられた接続レコードを作成します。このスポークには認証情報レコードは必要ありません。スポークの設定については、「 Docker スポークの接続の設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。Docker エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー 選択属性を設定します。 詳細については「 MID サーバー 」を参照してください。

Docker スポークの設定

Docker 接続および資格情報エイリアスを使用して ServiceNow インスタンスと Docker スポークを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Docker スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

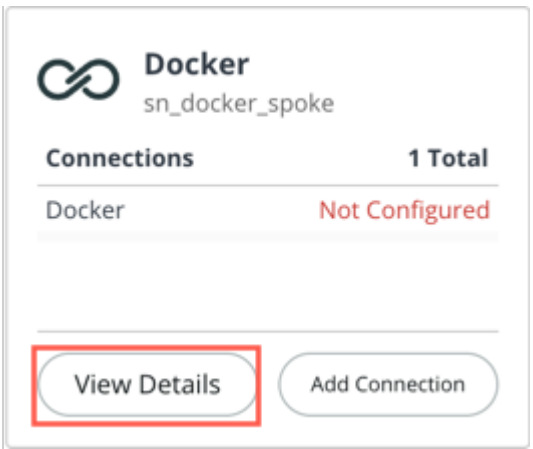
Docker スポークの接続の設定

Docker 接続を追加して設定し、Docker スポークで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に
必要なロール：admin

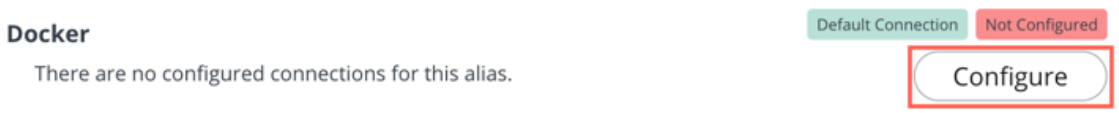
手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. **[Docker]** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
   - Docker スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



   - 複数の Docker スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

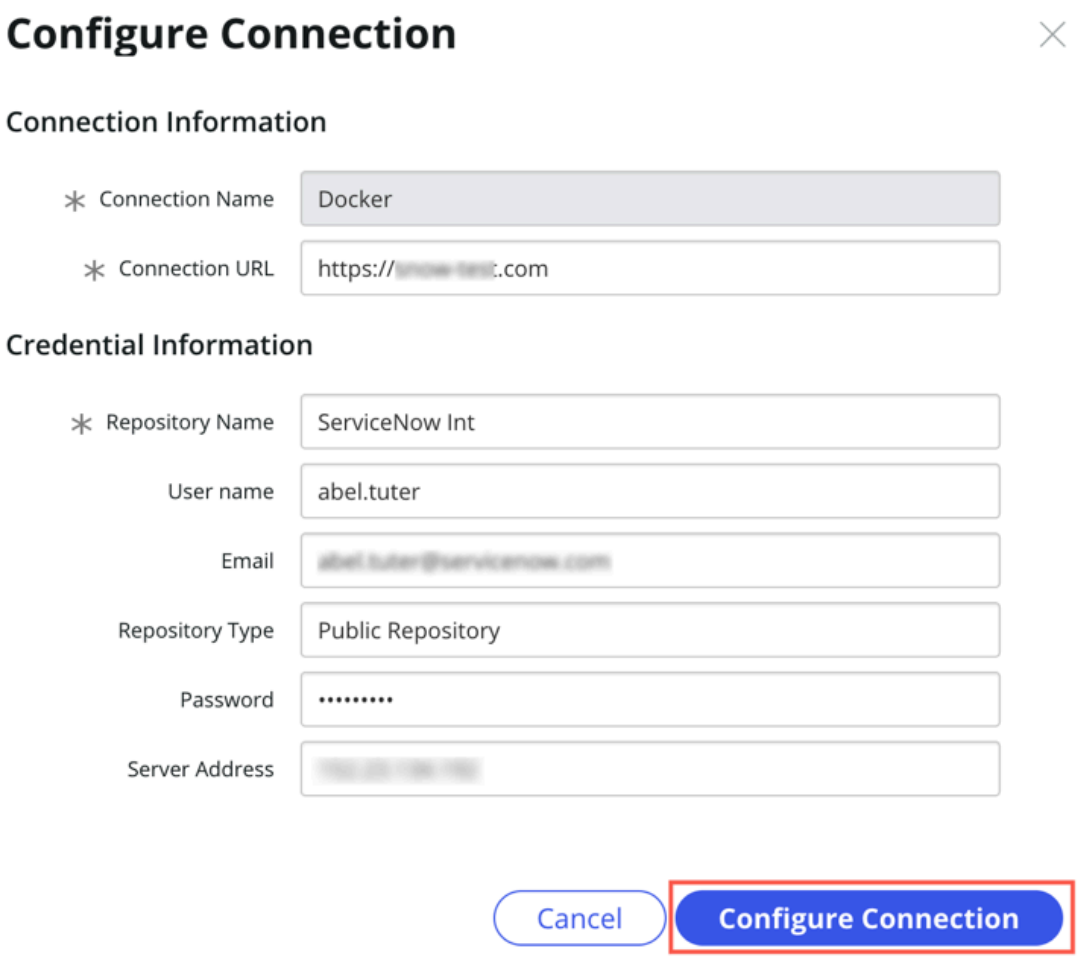


5. [接続の設定] フォームのフィールドに記入します。

接続名	接続レコードを一意に識別する名前です。 例：`Docker` 接続。
接続 URL	Docker がインストールされているホストサーバーの IP アドレスと

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

	ポート。URL の形式は、`https://<ip_address>:<port_number>` または `https://<provider-domain-name>.com` である必要があります。
リポジトリ名	リポジトリの名前。
ユーザー名	Docker アカウントのユーザー名。
メール	Docker アカウントで使用されているメールアドレス。
リポジトリタイプ	Docker リポジトリのタイプ。
パスワード	Docker アカウントのパスワード。
サーバーアドレス	Docker がインストールされているホストサーバーの IP アドレス。



6. [接続を設定] をクリックします。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

Docusign eSignature スポーク

Docusign eSignature を使用してデジタル署名用にドキュメントを個人または受信者のリストに送信するプロセスを自動化します。たとえば、従業員のオンボーディングと退職、機密保持契約、法務

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

契約、作業指示書の送信を自動化します。ドキュメントテンプレートで ServiceNow データを使用し、ユーザーが必要に応じて署名用のドキュメントをアップロードできるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Docusign eSignature スポーク v4.0.1 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー：動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

互換バージョン

このスポークは Docusign eSignature API バージョン v2 または v2.1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

主な機能

Docusign eSignature スポークにより、フローデザイナーで以下のことができるようになります。

- デジタル署名用に ServiceNow 添付ファイルまたは Docusign eSignature テンプレートからドキュメントを個人または受信者のリストに送信するプロセスを自動化します。
- ServiceNow で Docusign eSignature アカウントとテンプレートを検出して同期します。
  - アカウントと関連テンプレートのリストを Docusign eSignature から取得し、[アカウントを取得] サブフローを使用して、それらをアカウント [sn_docusign_spoke_accounts] テーブルとテンプレート [sn_docusign_spoke_docusign_templates] テーブルにレコードとして挿入または更新します。
  - 指定された Docusign eSignature アカウントに関連付けられたテンプレートを取得し、[テンプレートをアカウントごとに取得] サブフローを使用して、各テンプレートをテンプレート [sn_docusign_spoke_docusign_templates] テーブルにレコードとして挿入または更新します。
- テンプレートとオンデマンドドキュメント要求を送信するためにサンプルフローをコピーしてカスタマイズします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ドキュメントが署名されるまでフローを一時停止します。スクリプト化された REST API Webhook は、受信者がドキュメントに署名するのを待機します。
- 署名されたドキュメントの値をフローで使用します。
- 完了した Docusign eSignature ドキュメントを監査目的で ServiceNow レコードに添付します。
- エンベロープとユーザーを管理します。

スポークの要件

- Docusign eSignature アカウント
- Docusign eSignature アドミニストレーター認証情報
- ServiceNow と統合するために構成された Docusign eSignature アプリケーション
- クライアント ID、インテグレーターキー、秘密キー、RSA キーペアなどの Docusign eSignature アプリケーションの詳細
- ServiceNow 統合ハブサブスクリプション

> **注:** サービスカタログ (com.glideapp.servicecatalog.flow_designer) プラグインに対するフローデザイナーサポートが有効化されていることを確認します。

カスタムアプリケーションの作成と構成については、Docusign 開発者センター のドキュメントを参照してください。

スポークのフロー

Docusign eSignature スポークには、Docusign タスクの自動化をデモするためのサンプルフローが用意されています。Docusign eSignature スポークアクションを使用して、組織で必要なタスクを自動化します。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
デジタル署名のためにドキュメントを送信	[デジタル署名のためにドキュメントを送信] アイテムによってサービスカタログ要求が作成されたときに、デジタル署名用にドキュメントを Docusign に送信します。このフローを使用する前に、[デジタル署名のためにドキュメントを送信] カタログアイテムを有効化します。
Docusign テンプレートを使用して候補者に雇用オファーを送信	テンプレートを使用して、Docusign エンベロープをユーザーに送信します。たとえば、このフローを使用してジョブオファーを候補者に送信します。このフローを使用する前に、[テンプレートのデモンストレーション **(Demonstrate** Template)：候補にジョブオファーを送信] を有効化します。

Docusign eSignature スポーク は、Docusign eSignature スポーク のサンプルフローで使用するカタログアイテムを追加します。Docusign eSignature スポーク サンプルフローをトリガーする前に、これらのカタログアイテムをアクティブ化します。

カタログアイテム	説明
デジタル署名のためにドキュメントを送信	DocuSign で、デジタル署名のためにドキュメントを送信します。
テンプレートのデモンストレーション (Demonstrate	DocuSign テンプレートを使用して、ジョブオファーを送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カタログアイテム	説明
Template)：候補にジョブオファーを送信	

スポークのサブフロー

Docusign eSignature スポークには、Docusign タスクの自動化をデモするためのサンプルサブフローが用意されています。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

カテゴリ	サブフロー	説明
エンベロープ管理	Docusign エンベロープを ServiceNow レコードに添付	エンベロープ内のすべてのドキュメントを ServiceNow レコードに添付します。
	Docusign フィールドデータを取得して設定	カタログアイテム変数のリストを処理し、各変数値でドラフトエンベロープを更新します。
ユーザー管理	ユーザーを作成	権限プロファイルとグループメンバーシップを含むユーザーを作成します。
	ユーザーを更新	権限プロファイルとグループメンバーシップを含むユーザーを更新します。
テンプレート管理	テンプレートをアカウントごとに取得	Docusign アカウントからテンプレートを取得し、テンプレートテーブルに保存します。
デフォルト	Docusign Webhook サンプルサブフロー	指定されたエンベロープの受信者の詳細を取得します。
アカウント管理	アカウントの取得	Docusign アカウントとすべてのアカウントに関連する テンプレートを取得し、それぞれアカウントテーブルとテンプレートテーブルに保存します。

スポークのアクション

Docusign eSignature スポークは、ServiceNow でイベントが発生したときに Docusign タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アカウント管理	アカウント署名プロバイダーを検索	指定されたアカウントで使用できる署名プロバイダーのリストを取得します。
	エイリアスでアカウントを検索	スポークの接続および資格情報エイリアスレコードに関連付けられたアカウントを取得します。
	ロール ID を検索	指定されたロール名のロール ID を取得します。
一括エンベロープ管理	一括送信リストの作成	一括送信リストを作成します。
	一括送信要求の作成	エンベロープまたはテンプレートを使用して、既存の一括送信リストに基づいて一括送信要求を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	一括送信テスト要求の作成	既存のエンベロープまたはテンプレートとの互換性をテストするための一括送信テスト要求を作成します。
	一括送信リストの削除	指定した一括送信リストを削除します。
	一括送信バッチエンベロープストリームの検索	指定された一括送信バッチからエンベロープを取得します。
	一括送信バッチステータスの検索	成功の数、処理待ちの数、エラーの数など、指定された一括送信バッチの一般的なステータスを取得します。
	一括送信バッチストリームの検索	一括送信バッチの情報を取得します。
	一括送信リストの検索	指定した一括送信リストを取得します。
	一括送信リストの検索	一括送信リストのリストを取得します。
	一括送信バッチアクションの更新	指定した一括送信バッチに対して一括アクション (再送信、修正、または無効化) を実行します。
	一括送信バッチステータスの更新	指定した一括送信バッチの名前を更新します。
	一括送信リストの更新	指定した一括送信リストを更新します。
ドキュメント署名	埋め込み署名 URL を検索	アプリケーションに埋め込まれた署名 URL を作成します。ユーザーは、アプリケーションを離れることなくドキュメントに署名できます。 **注:** 署名 URL は 300 秒間有効であり、一度に 1 人の受信者に送信できます。
	埋め込み署名 URL をインラインで検索	Docusign の受信者ビューを埋め込むことができる URL を取得します。
ドキュメント管理	エンベロープにドキュメントを追加	エンベロープにドキュメントを追加します。
	結合したドキュメントを ServiceNow レコードに添付	Docusign ドキュメントを ServiceNow レコードに添付します。
	Docusign ドキュメントを ServiceNow レコードに添付	署名済みの Docusign ドキュメントを取得し、ServiceNow レコードに添付します。
	名前でドキュメント ID を検索	指定されたドキュメント名を使用してエンベロープからドキュメント ID を取得します。
	エンベロープ内のドキュメントを検索	指定された Docusign エンベロープ内のリストを ID と名前付きで返します。
	エンベロープ内のドキュメントを置換	エンベロープに対するドキュメントを置換します。
エンベ	エンベロープに受信者を追加	指定された受信者を指定されたエンベロープに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
ループ管理		**注:** • このアクションで使用される受信者 ID はエンベロープに関連付けられており、[すべてのテンプレートフィールドを取得 (Get All Template Fields)] アクションで使用される受信者 ID とは異なります。 • アドミニストレーターは、この受信者 ID の数値を入力します。
	エンベロープに受信者を追加	指定された受信者を指定されたエンベロープに追加します。
	Docusign 証明書を ServiceNow レコードに添付	Docusign 証明書を ServiceNow レコードに添付します。
	エンベロープをキャンセル	処理中のエンベロープをキャンセルします。
	テンプレートからドラフトエンベロープを作成	既存の Docusign テンプレートからドラフトエンベロープを作成します。
	複合テンプレートからエンベロープを作成	既存の複合テンプレートからエンベロープを作成します。
	フィールド ID を検索	指定されたドラフトエンベロープから指定されたフィールドの ID を取得します。
	フィールド値を検索	指定されたエンベロープから指定されたフィールドの値を取得します。
	フィールドを検索	ドラフトエンベロープ内のドキュメントに関連付けられたフィールドのリストを取得します。
	ロール名で受信者 ID を検索	指定されたエンベロープから指定されたロール名の受信者 ID を取得します。
	エンベロープ内の受信者を検索	指定された Docusign エンベロープ内の受信者のリストを受信者 ID とロール名付きで返します。
	エンベロープから受信者を削除	Docusign エンベロープから受信者を削除します。
	アドホック署名要求をユーザーに送信 (アドホック署名要求をユーザーに送信)	指定された ServiceNow レコードに関連付けられた Docusign ドキュメントを、署名のために指定された受信者に送信します。
	アドホック署名要求をユーザーに送信：インライン	1 つ以上のアップロードしたドキュメントを ServiceNow レコードから複数の受信者に送信します。
	エンベロープを送信	指定された受信者にエンベロープを送信します。 **注:** エンベロープを送信する前に、すべての受信者の詳細を入力する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	フィールド値の設定	指定されたドラフトエンベロープに指定されたフィールドの値を設定します。
	複数のフィールド値の設定 (Set Field Values)	ドラフトエンベロープ内のドキュメントに関連付けられた複数のフィールドの値をアサインします。
	Docusign からの署名を待機	指定されたドキュメントが署名または却下されるまでフローを一時停止します。さらに処理するために、ドキュメントのステータスをフローに返します。
グループ管理	グループにユーザーを追加	グループからユーザーを追加します。
	グループ ID を検索	指定されたロール名のグループ ID を取得します。
	グループからユーザーを削除	グループから指定されたユーザーを削除します。
テンプレート管理	テンプレートをアカウントごとに検索	指定された Docusign アカウントに関連付けられているテンプレートを取得します。
	テンプレートフィールドを検索	受信者用に定義されたテンプレートのすべてのフィールドを取得します。 **注:** • このアクションで使用される受信者 ID はテンプレートに関連付けられており、[エンベロープに受信者を追加] アクションで使用される受信者 ID とは異なります。 • 受信者 ID の値は、システムによって生成された一意の番号です。
	テンプレート受信者を検索	テンプレート用に定義されたすべての受信者を取得します。
ユーザー管理	ユーザーの作成	指定されたユーザーの詳細を使用して Docusign ユーザーを作成します。
	ユーザーの詳細を検索	ユーザーの詳細を取得します。
	ユーザーを更新	指定されたユーザーを更新します。
	ユーザーを削除	指定された Docusign ユーザーを削除します。

スポークモジュール

Docusign eSignature スポークは、Docusign モジュールを ServiceNow インスタンスに追加します。Docusign eSignature スポークは、ServiceNow のテンプレートとエンベロープを同期して保存します。Docusign eSignature スポークには、以下のテーブルとレコードが含まれています。

テーブル/レコード	説明
接続エイリアス	Docusign 接続エイリアス。
スケジュール済みジョブ	テンプレートとエンベロープを Docusign アカウントと同期する [アカウントとテンプレートを取得 (Get Accounts & Templates)] スケジュール済みジョブ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル/レコード	説明
アカウント	ServiceNow インスタンスと同期された Docusign アカウント。アカウントを同期するには、「 Docusign と ServiceNow との同期」を参照してください。[アカウントを取得] サブフローは、アカウントと関連テンプレートのリストを Docusign から取得し、それらをアカウント [sn_docusign_spoke_accounts] テーブルとテンプレート [sn_docusign_spoke_docusign_templates] テーブルにレコードとして挿入または更新します。
テンプレート	同期された Docusign アカウントからの Docusign テンプレート。[テンプレートをアカウントごとに取得] サブフローでは、指定された Docusign アカウントに関連付けられたテンプレートを取得し、各テンプレートをテンプレート [sn_docusign_spoke_docusign_templates] テーブルにレコードとして挿入または更新します。
エンベロープ	同期された Docusign アカウントからの Docusign エンベロープ。Docusign アカウントに Webhook が設定されている場合にのみ、エンベロープテーブルのレコードが更新されます。
DocuSign Webhook 応答サブフロー	

Docusign eSignature スポークテーブルには、以下のフィールドが含まれています。

テーブル	フィールド
アカウント [sn_docusign_spoke_accounts]	• アカウント ID • アカウント名 • 説明 • メール • エイリアス • 表示名
テンプレート [sn_docusign_spoke_docusign_templates]	• アカウント • テンプレート ID • 名前 • 説明 • 最終変更日 • 表示名
エンベロープ [sn_docusign_spoke_envelopes]	• アカウント • ID • ステータス • 署名日 • 却下理由 • 表示名 • 埋め込み署名

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	フィールド
	• 署名日のタイムゾーン • テンプレート

スポークのトリガー

ServiceNow は、トリガーを作成する Docusign 上の特定のイベントをサポートしています。最初に、サポートされているトリガー定義を含むフローを構成する必要があります。Docusign でイベント (プッシュ要求など) が発生すると、Webhook を介して ServiceNow インスタンスにペイロードが送信されます。その後、ワークフローを自動化するために構成したフローが ServiceNow インスタンスでトリガーされます。サポートされているイベントは次のとおりです。

カテゴリ	トリガー	定義
エンベロープ管理	完成済みエンベロープ (Envelope Completed)	すべての受信者がエンベロープを完成させると、トリガーが開始されます。指定したトリガー条件が満たされた場合にのみ実行されるようにフローを設定します。
	拒否済みエンベロープ (Envelope Declined)	受信者の 1 人がエンベロープを拒否すると、トリガーが開始されます。指定したトリガー条件が満たされた場合にのみ実行されるようにフローを設定します。
	削除済みエンベロープ (Envelope Deleted)	送信されたエンベロープが削除されると、トリガーが開始されます。指定したトリガー条件が満たされた場合にのみ実行されるようにフローを設定します。
	配信済みエンベロープ (Envelope Delivered)	すべての受信者が DocuSign の署名 Web サイトからエンベロープを開くと、トリガーが開始されます。指定したトリガー条件が満たされた場合にのみ実行されるようにフローを設定します。
	送信済みエンベロープ (Envelope Sent)	エンベロープが受信者に送信されると、トリガーが開始されます。指定したトリガー条件が満たされた場合にのみ実行されるようにフローを設定します。
	無効化済みエンベロープ (Envelope Voided)	エンベロープが送信者によって無効にされたか、有効期限が切れると、トリガーが開始されます。指定したトリガー条件が満たされた場合にのみ実行されるようにフローを設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	トリガー	定義
受信者の管理	受信者完了済み (Recipient Completed)	受信者がエンベロープに対するアクションを完了すると、トリガーが開始されます。指定したトリガー条件が満たされた場合にのみ実行されるようにフローを設定します。
	受信者拒否済み (Recipient Declined)	受信者がエンベロープ内のドキュメントへの署名を拒否すると、トリガーが開始されます。指定したトリガー条件が満たされた場合にのみ実行されるようにフローを設定します。
	受信者配信済み (Recipient Delivered)	受信者が Docusign 署名 Web サイトを通じてエンベロープ内のドキュメントを表示すると、トリガーが開始されます。指定したトリガー条件が満たされた場合にのみ実行されるようにフローを設定します。
	受信者送信済み (Recipient Sent)	エンベロープに署名する順番が回ってきたことを示すメール通知が受信者に送信されると、トリガーが開始されます。指定したトリガー条件が満たされた場合にのみ実行されるようにフローを設定します。

Docusign eSignature スポークのトリガーの設定については、「Docusign eSignature スポークのトリガーの設定」を参照してください。インバウンド統合の詳細については、「条件付きおよびイベント駆動型のインバウンド統合」を参照してください。

Docusign アカウント要件

Docusign eSignature スポークでは、OAuth 2.0 JWT ベアラー権限許可トークンを生成するために、Docusign アカウントを設定する必要があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークは Docusign の接続および資格情報エイリアスレコードを使用してアクションを許可します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要:

- 認証コード権限許可または JWT 権限許可を使用して Docusign スポークを設定できます。
  - 統合でブラウザまたはクライアントを使用して Web サーバーに要求を行う場合は、認証コード権限許可を使用します。
  - 統合の各ユーザーが単一のシステムアカウントを使用してログインする場合は、JWT 権限許可を使用します。

  いずれかのセットアップ方法を選択する条件の詳細については、Docusign 開発者センターのドキュメントの「OAuth タイプの選択」を参照してください。
- 会社によっては、Docusign を使用する部門ごとに Docusign アカウントがあります。このスポークで複数のアカウントを使用するには、各アカウントの子エイリアスを作成します。また、フロー内のベースエイリアスより子エイリアスが優先されていることを確認してください。実行時に、システムはアカウントに関連付けられている子エイリアスを識別し、要求で正しい接続と資格情報を送信します。
  - 子エイリアスとベースエイリアスの上書きの詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。
  - 複数のアカウントの設定方法の詳細については、「追加の Docusign アカウントの子エイリアスの作成」を参照してください。

  会社にアカウントが 1 つしかない場合は、スポークで提供されるデフォルトの **Docusign** エイリアスを使用し、認証コード権限許可または JWT 権限許可を使用して Docusign スポークの設定に進むことができます。

MID サーバーの要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。Docusign エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー」を参照してください。

認証コード権限許可を使用した **Docusign eSignature** スポークの設定

認証コードを使用して ServiceNow インスタンスと Docusign eSignature スポークを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Docusign eSignature スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

重要: 認証コード権限許可を使用して Docusign eSignature スポークを設定する場合は、JWT 権限許可を使用してスポークを設定する必要はありません。

Docusign アカウントの設定

Docusign アカウントからカスタム OAuth アプリケーションを構成し、**Docusign** eSignature スポークで認証を有効にします。

このタスクについて

Docusign アカウントから、次の手順を完了します。カスタムアプリケーションの作成と構成については、Docusign 開発者センターのドキュメントを参照してください。Docusign　は、スクリプト化された Webhook を使用して、署名済みドキュメントデータを ServiceNow インスタンスに送信

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

します。これにより、ドキュメントが署名されるまでフローデザイナーでフローを一時停止し、フローでドキュメントデータを使用できます。

始める前に
Docusign の要件：

- Docusign アカウント
- ServiceNow と統合するよう構成された Docusign アプリ
- 必要なロール：Docusign アドミニストレーター

手順

1. アドミンとして Docusign アカウント にログインします。
2. Docusign アカウントから、アプリケーションを登録します。

   注: [ユーザーアプリケーション **(User Application)]** の [認証コード許可 **(Authorization Code Grant)]** オプションを選択していることを確認します。

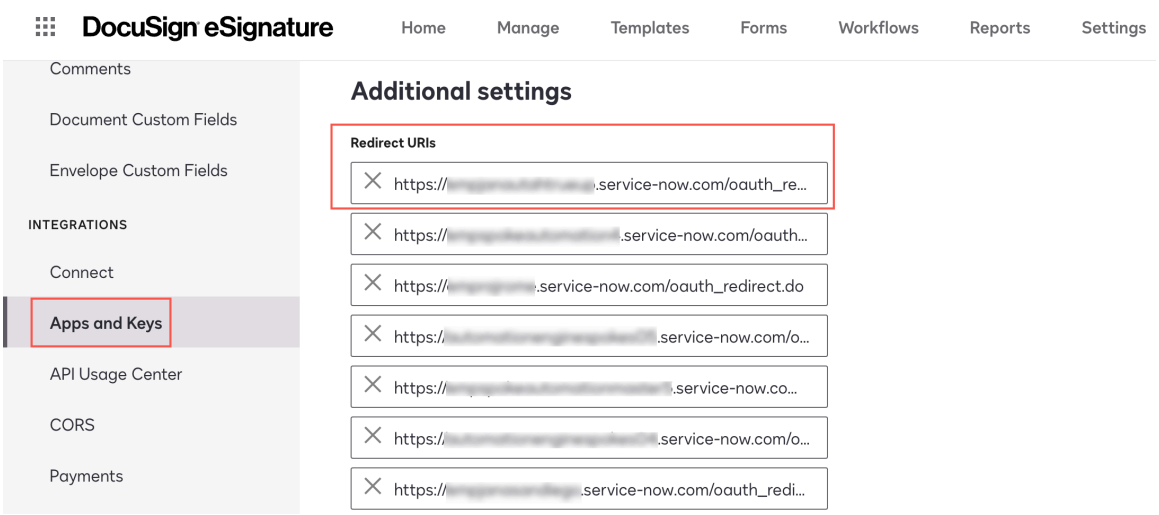
3. インテグレーターキーと秘密キーを生成します。
4. サードパーティ OAuth プロバイダーとして ServiceNow インスタンスでアプリを登録するインテグレーターキーおよび秘密鍵の値を記録します。
   「Docusign eSignature スポークの接続を設定する」で、これらの値が必要になります。
5. Docusign アカウントに ServiceNow OAuth リダイレクト URL を追加します。

   a. [統合] > [アプリとキー **(App and Keys)]** に移動します。

   b. [アプリと統合キー **(Apps and Integration Keys)]** で、必要なアプリを見つけます。

   c. 必要なアプリケーションについて、[アクション] ドロップダウンリストをクリックし、[編集] をクリックします。

   d. [追加の設定] で、**[URI**を追加] をクリックし、次の形式で OAuth コールバックエンドポイントを入力します。「`https://<インスタンス>.service-now.com/oauth_redirect.do`」

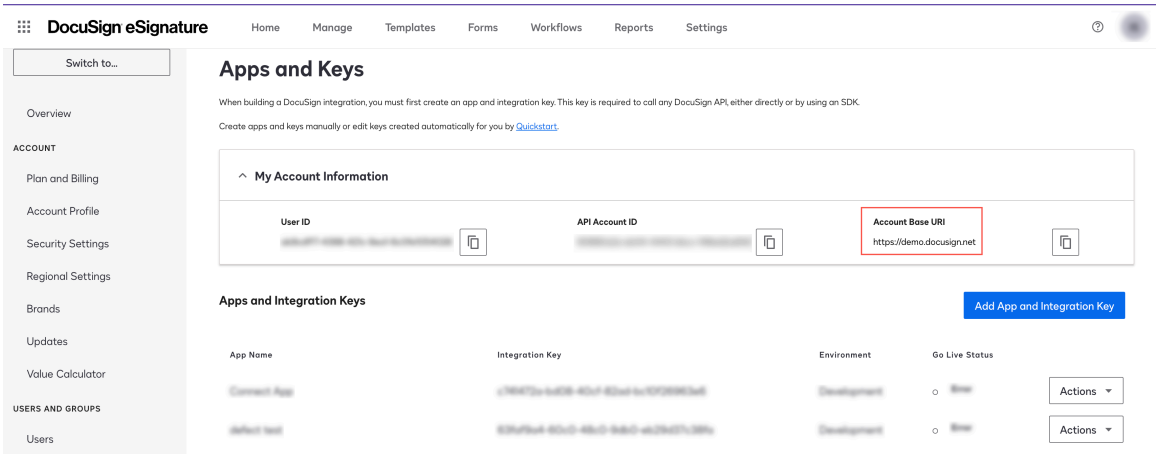


6. Docusign アカウントから [アカウントベース **URI]** の値を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [統合] > [アプリとキー **(App and Keys)]** に移動します。

b. [マイ アカウント情報 **(My Account Information)**] で、アカウント ベース **URI** の値を確認できます。



c. 後で使用するためにこの値をコピーして記録しておきます。

Docusign eSignature スポークの接続を設定する

ServiceNow 要求を認証する認証コード権限許可を使用して、ServiceNow インスタンスと Docusign アカウントインスタンスを統合します。

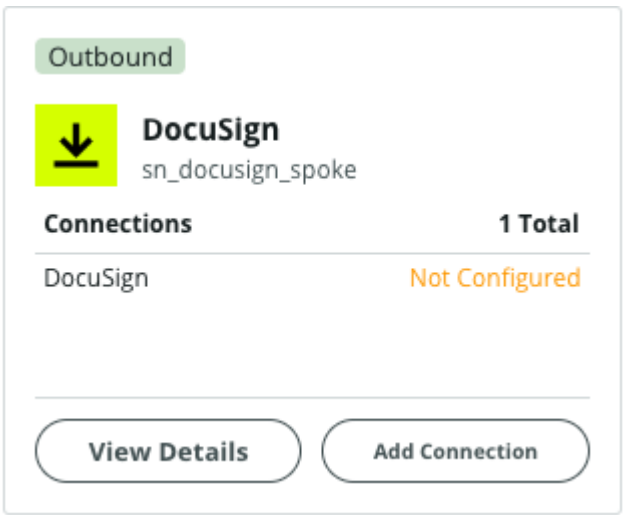
始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. Docusign のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

> 注: [接続を追加] はクリックしないでください。



5. スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

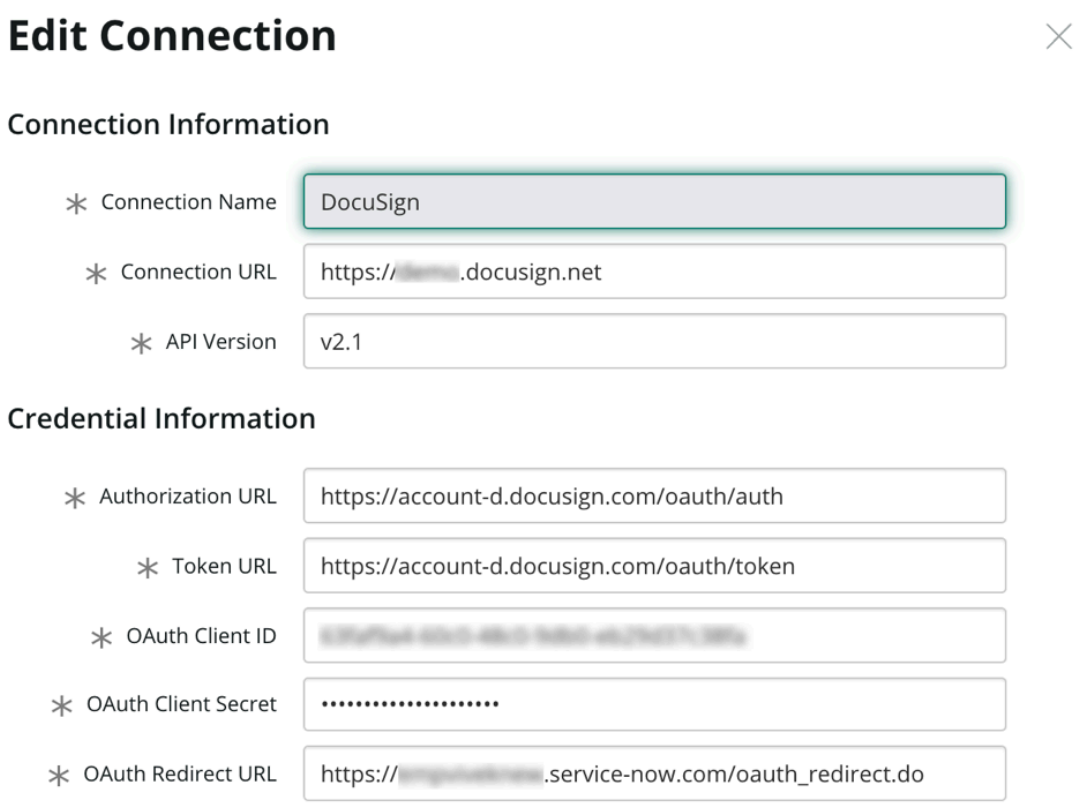
6. [接続の設定] フォームのフィールドに記入します。

接続の設定フォーム

フィールド	説明
接続名	接続を識別する一意の名前です。
接続 URL	Docusign 環境に接続するためのアカウントベース **URI**。この値は、Docusign アカウントから取得できます。詳細については、「Docusign アカウントの設定」を参照してください。
API バージョン	Docusign API のバージョン です。デフォルト値は v2.1 です。
認証 URL	Docusign 認証 URL。 ◦ 開発者サンドボックス環境の場合は、「`https://account-d.docusign.com/oauth/auth`」と入力します。 ◦ 本番システムの場合は、「`https://account.docusign.com/oauth/auth`」と入力します。
トークン URL	ServiceNow インスタンスがアクセストークンを取得する URL です。 ◦ 開発者サンドボックス環境の場合は、「`https://account-d.docusign.com/oauth/token`」と入力します。 ◦ 本番システムの場合は、「`https://account.docusign.com/oauth/token`」と入力します。詳細については、Docusign 開発者センター の「Post Go-Live (本番稼働後) 」および「ユーザー情報エンドポイントリファレンス (User Info Endpoint Reference) 」のドキュメントを参照してください。
OAuth クライアント ID	Docusign アカウントのインテグレーターキー。
OAuth クライアントシークレット	Docusign アカウントのシークレットキー (クライアントシークレット)。
OAuth リダイレクト URL	次の形式で OAuth コールバックエンドポイントを入力します：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: この URL は必ず Docusign アカウントに追加してください。詳細については、「Docusign アカウントの設定」を参照してください。



7. **[OAuth トークンを設定して取得 (Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。

JWT 権限許可を使用した Docusign eSignature スポークの設定

JWT 権限許可を使用して ServiceNow インスタンスと Docusign を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Docusign eSignature スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

重要: JWT 権限許可を使用して Docusign eSignature スポークを設定する場合は、認証コード権限許可を使用してスポークを設定する必要はありません。

Docusign アカウントの設定

Docusign アカウントからカスタム OAuth アプリケーションを作成し、Docusign eSignature スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
Docusign の要件：

- Docusign アカウント
- ServiceNow と統合するよう構成された Docusign アプリ
- 必要なロール：Docusign アドミニストレーター

このタスクについて
Docusign アカウントから、次の手順を完了します。カスタムアプリケーションの作成と構成については、Docusign 開発者センター のドキュメントを参照してください。Docusign は、スクリプト化された Webhook を使用して、署名済みドキュメントデータを ServiceNow インスタンスに送信します。これにより、ドキュメントが署名されるまでフローデザイナーでフローを一時停止し、フローでドキュメントデータを使用できます。

手順

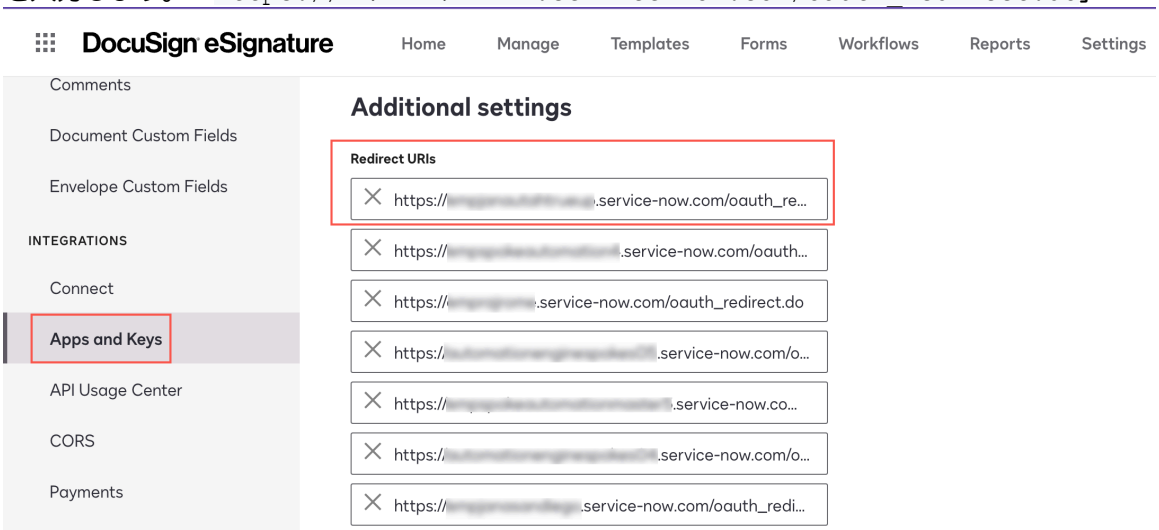
1. Docusign アカウントから、アプリケーションを登録します。
2. インテグレーターキーと秘密キーを生成します。
3. サードパーティ OAuth プロバイダーとして ServiceNow インスタンスでアプリを登録するインテグレーターキーおよび秘密鍵の値を記録します。
   これらの値は「OAuth プロバイダーとして Docusign を登録」で必要になります。
4. **[RSA KEYPAIR を追加 (ADD RSA KEYPAIR)]** をクリックし、[キーペア **ID (Keypair ID)]**、[公開鍵]、および [秘密鍵] を記録します。
5. Docusign アカウントに ServiceNow OAuth リダイレクト URL を追加します。

   a. [統合] > [アプリとキー **(App and Keys)]** に移動します。

   b. [アプリと統合キー **(Apps and Integration Keys)]** で、必要なアプリを見つけます。

   c. 必要なアプリケーションについて、[アクション] ドロップダウンリストをクリックし、[編集] をクリックします。

   d. [追加の設定] で、**[URI**を追加] をクリックし、次の形式で OAuth コールバックエンドポイントを入力します。「`https://<インスタンス>.service-now.com/oauth_redirect.do`」

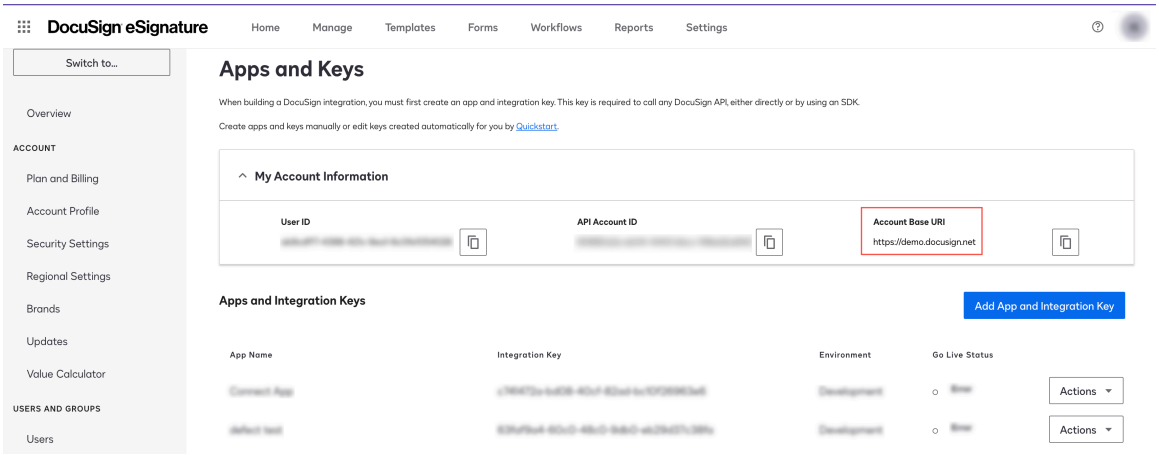


6. Docusign アカウントから [アカウントベース **URI]** の値を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [統合] > [アプリとキー **(App and Keys)]** に移動します。

b. [マイ アカウント情報 **(My Account Information)**] で、アカウント ベース **URI** の値を確認できます。



c. 後で使用するためにこの値をコピーして記録しておきます。

JKS 証明書の生成

Docusign eSignature スポークの JWT 認証用に JKS 証明書を生成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. Sublime Text などのコードのテキストエディターを開きます。
2. 新しいファイルを作成します。
3. 以前に Docusign インテグレーターアプリから生成した秘密キーを貼り付けます。
   詳細については、「Docusign アカウントの設定」を参照してください。

   注: 秘密鍵の開始と終了の両方が含まれていることを確認してください。

4. ファイルを .key 拡張子で保存します (例：`privatekey.key`)。
5. ターミナルを開き、`.key` 拡張子でファイルを保存したディレクトリに移動します。
6. 次のコマンドを実行し、秘密鍵を使用して CA 署名済み証明書を作成します。

```
openssl req -new -x509 -key <file-name>.key -out <certificate-name>.pem
 -days 1095
```

   国名、都道府県名などの必要な詳細を入力するように求められます。

7. 必要な詳細を入力します。
8. 次のコマンドを実行し、秘密鍵と CA 署名済み証明書を使用して、PKCS 12 ファイルを作成します。

```
openssl pkcs12 -export -in <certificate-name>.pem -inkey
 <file-name>.key -certfile <certificate-name>.pem -out
 <PKCS-12-file-name>.p12
```

   パスワードの入力を求められます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. エクスポートパスワードを入力します。
10. 次のコマンドを実行して、JKS ファイルを作成します。

```
keytool -importkeystore -srckeystore <PKCS-12-file-name>.p12
 -srcstoretype pkcs12 -destkeystore <JKS-certificate-filename>.jks
 -deststoretype JKS
```

パスワードの入力を求められます。

11. 宛先とソースのキーストアのパスワードを入力します。

Java キーストア証明書を Docusign eSignature スポーク に添付する

有効な Java KeyStore (JKS) 証明書を Docusign eSignature スポーク に添付して、JWT ベアラー権限許可トークン認証を有効にします。

始める前に

- 有効な Java KeyStore 証明書の可用性の確認
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [証明書]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

X.509 証明書フォームのフィールド

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`Docusign 証明書`。
期限切れ時に通知	証明書の有効期限が切れたときに通知を受信するユーザーを定義します。
有効期限切れ前に警告	証明書の有効期限が切れる前に通知を送信する日数を入力します。
有効	有効化
タイプ	**[Java Key Store (Java** キーストア)] を選択します。
数日中に期限切れ (Expires in days)	証明書の有効期限が切れるまでの日数を入力します。
キーストアパスワード	証明書に関連付けられたパスワードを入力します。
簡単な説明	証明書のサマリーを入力します。

4. 添付ファイルアイコン ( ) をクリックし、JKS 証明書を添付します。
5. [ストア/証明書を検証] をクリックします。

Docusign eSignature スポークの JWT 署名キーの作成

Java KeyStore 証明書にアサインする JSON Web トークン (JWT) 署名キーを作成します。

始める前に

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > **[JWT** キー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

JWT キーフォームのフィールド

フィールド	説明
名前	JWT 署名キーを一意に識別する名前を入力します。例：`Docusign JWT キー`。
署名キーストア	前のタスクで添付された有効な JKS 証明書を選択します。例：`Docusign 証明書`。
キー Id	複数のキーを使ってトークンに署名する際に使用するキーを識別するキー ID を入力します。
署名アルゴリズム	JWT キーで署名するアルゴリズムを選択します。
署名キーパスワード	署名キーに関連付けられたパスワードを入力します。
有効	有効にします。

4. [送信] をクリックします。

Docusign eSignature スポークの **JWT** プロバイダーの作成

JSON Web トークン (JWT) プロバイダーを ServiceNow インスタンスに追加します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > **[JWT** プロバイダー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

JWT プロバイダーフォームのフィールド

フィールド	説明
名前	JWT プロバイダーを一意に識別する名前を入力します。例：`Docusign JWT プロバイダー`。
有効期限の間隔 (秒)	JWT プロバイダートークンの有効期間を設定する秒数を入力します。
署名構成	JWT 署名キーを選択します。例：`Docusign JWT キー`。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
   [標準要求] および [カスタム要求] 関連リストが表示されます。
5. Docusign eSignature スポーク用に作成された JWT プロバイダーを選択します。
6. [標準要求] 関連リストで、**[iss]**、**[sub]**、および **[aud]** の各値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順については、Docusign 開発者センター を参照してください。

7. [カスタム要求] 関連リストにレコードを挿入し、フォームを完成させます。

カスタム要求関連リストのフィールド

フィールド	値
要求名	スコープ
要求値タイプ	文字列
要求値	署名の代理操作 (signature impersonation)

8. [更新] をクリックします。

OAuth プロバイダーとして Docusign を登録

DocuSign アカウントの構成中に生成された情報を使用し、DocuSign を OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「どのような **OAuth** アプリケーションですか？」というメッセージが表示されます。
3. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択します。
   空のアプリケーション登録フォームが表示されます。
4. フォームに入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`Docusign OAuth`」と入力します。
クライアント ID	Docusign アカウントの設定中に生成したインテグレーターキーを入力します。
クライアントシークレット	Docusign アカウントの設定中に生成したクライアントシークレットを入力します。
デフォルトの権限許可タイプ	**[JWT** ベアラー] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
認証 URL	◦開発者サンドボックス環境の場合は、「`https://account-d.docusign.com/oauth/auth`」と入力します。 ◦本番システムの場合は、「`https://account.docusign.com/oauth/auth`」と入力します。
トークン URL	◦開発者サンドボックス環境の場合は、「`https://account-d.docusign.com/oauth/token`」と入力します。 ◦本番システムの場合は、「`https://account.docusign.com/oauth/token`」と入力します。詳細については、Docusign 開発者センター の「Post Go-Live (本番稼働後) 」および「ユーザー情報エンドポイントリファレンス (User Info Endpoint Reference) 」のドキュメントを参照してください。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
   - OAuth 認証情報が検証され、[リダイレクト **URL**] に情報が入力されます。
   - 権限許可タイプを **JWT** ベアラーとして **[OAuth** エンティティプロファイル] に情報が入力されます。たとえば、**[OAuth** エンティティプロファイル] は、デフォルトの [名前] の **[Docusign OAuth default_profile]** で作成されます。
6. **[OAuth** エンティティスコープ] 関連リストにレコードを挿入し、値を入力します。

OAuth エンティティスコープ関連リストのフィールド

フィールド	値
名前	スコープ
OAuth スコープ	署名の代理操作 (signature impersonation)

7. [リダイレクト **URL**] から値をコピーします。
8. [更新] をクリックします。
9. Docusign アカウントにログインし、カスタム Docusign アプリケーションの構成を編集します。手順については、Docusign 開発者センター を参照してください。
10. カスタム Docusign アプリケーションのリダイレクト URI にリダイレクト URL の値を貼り付けます。
    たとえば、「`https://instance.service-now.com/oauth_redirect.do`」を貼り付けます。

タスクの結果

インスタンスは、スポークの OAuth 2.0 トークンを要求できます。

注: OAuth トークンの有効期限が切れると、ほとんどの場合、スポークは新しいトークンを自動的に再生成します。トークンの有効期限が切れて再生成されない場合、アドミニストレーターはスポーク OAuth トークンを再生成できます。

同意を得る

Docusign から ServiceNow アプリケーションの明示的な同意を得ます。

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

組織アドミンの同意を得る

組織アドミンの同意を得る手順については、Docusign 開発者センターのドキュメントの「Admin consent for internal applications (内部アプリケーションに対するアドミンの同意)」を参照してください。

Docusign eSignature スポークの認証情報レコードを作成

Docusign アカウントの構成時に作成した DocuSign カスタム OAuth アプリケーションの認証情報レコードを作成します。Docusign スポーク接続および資格情報エイリアスでは、こうした認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
   ポップアップウィンドウに、空の OAuth 2.0 認証情報フォームが表示されます。
4. 次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`Docusign` 認証情報」と入力します。
アクティブ	有効化
OAuth エンティティプロファイル	カスタム Docusign アプリケーションを OAuth プロバイダーとして登録したときに作成した OAuth プロファイルを選択します。たとえば、**[Docusign OAuth default_profile]** を選択します。
適用先	この認証情報を使用できる MID サーバーを選択します。たとえば、[すべての **MID** サーバー] を選択します。
順番	この認証情報を適用する順番を選択します。たとえば、「`100`」と入力します。

5. レコードを保存します。
6. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンを取得] 関連リンクをクリックします。

Docusign eSignature スポークの接続レコードを作成

Docusign アカウントの接続レコードを作成します。Docusign スポーク接続および資格情報エイリアスは、こうした接続を使用して、Docusign でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Docusign** のレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。

4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`Docusign Connection`」と入力します。
認証情報	Docusign 用に作成した認証情報レコードを選択します。たとえば、**[Docusign** 認証情報] を選択します。
接続 URL	◦ デモ環境の場合は、「`https://demo.docusign.net`」と入力します。 ◦ 本番システムの場合は、「`na2.docusign.net`」または「`eu.docusign.net`」などのベース URI を入力します。ベース URI の取得手順については、Docusign 開発者センター のドキュメントの「Post Go-Live (本番稼働後)」および「User Info Endpoint Reference (ユーザー情報エンドポイントリファレンス)」を参照してください。

5. [送信] をクリックします。

次のタスク

ServiceNow を DocuSign と同期して、DocuSign スポークから DocuSign アカウント、テンプレート、エンベロープにアクセスします。「Docusign と ServiceNow との同期」を参照してください。

追加の **Docusign** アカウントの子エイリアスの作成

Docusign の実装に複数の Docusign アカウントが含まれている場合は、各アカウントのベースエイリアスの下に子接続エイリアスを作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Docusign]** > [接続エイリアス]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. [名前] フィールドに、アカウントのわかりやすい名前を追加します (例：`Docusign HR アカウント`)。
4. [保存] をクリックしてレコードを保存します。

Docusign eSignature スポークのトリガーの設定

ServiceNow インスタンスでコールバック URL を生成するトリガーを設定します。

始める前に

- 統合ハブのサブスクリプションを要求します。
- Docusign eSignature スポークをアクティブ化して設定します。
- 必要なロール：admin

クライアント認証情報権限許可タイプのシステムプロパティを有効にする

Docusign OAuth クライアントから ServiceNow インスタンスへのインバウンド統合に OAuth クライアント認証情報の権限許可タイプを使用するに

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

は、glide.oauth.inbound.client.credential.grant_type.enabled システムプロパティを作成または有効にします。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
クライアント認証情報の権限許可タイプの詳細については、「クライアント認証情報」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [システムプロパティ] > [すべてのプロパティ]に移動します。
2. `glide.oauth.inbound.client.credential.grant_type.enabled` システムプロパティを検索します。
3. レコードを開きます。
4. [値] に「`true`」と入力します。
5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

着信コールを認証するためのアプリケーションレジストリを作成する

ServiceNow インスタンスにアプリケーションレジストリを作成して、着信コールを認証します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. **[Create an OAuth API endpoint for external clients** (外部クライアント用の **OAuth API** エンドポイントを作成します)] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
名前	アプリケーションレジストリレコードを識別する名前です。例：`Docusign External Trigger`
OAuth アプリケーションユーザー	OAuth トークンフローがマップされているユーザーロール。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
アプリケーションレジストリレコードが作成され、[クライアントシークレット] の値が生成されます。

後で使用するために [クライアント **ID]** と [クライアント シークレット] の値をコピーして記録します。

ServiceNow インスタンスでのトリガー定義のアクティブ化

ServiceNow インスタンスでコールバック URL を生成するトリガー定義をアクティブ化します。

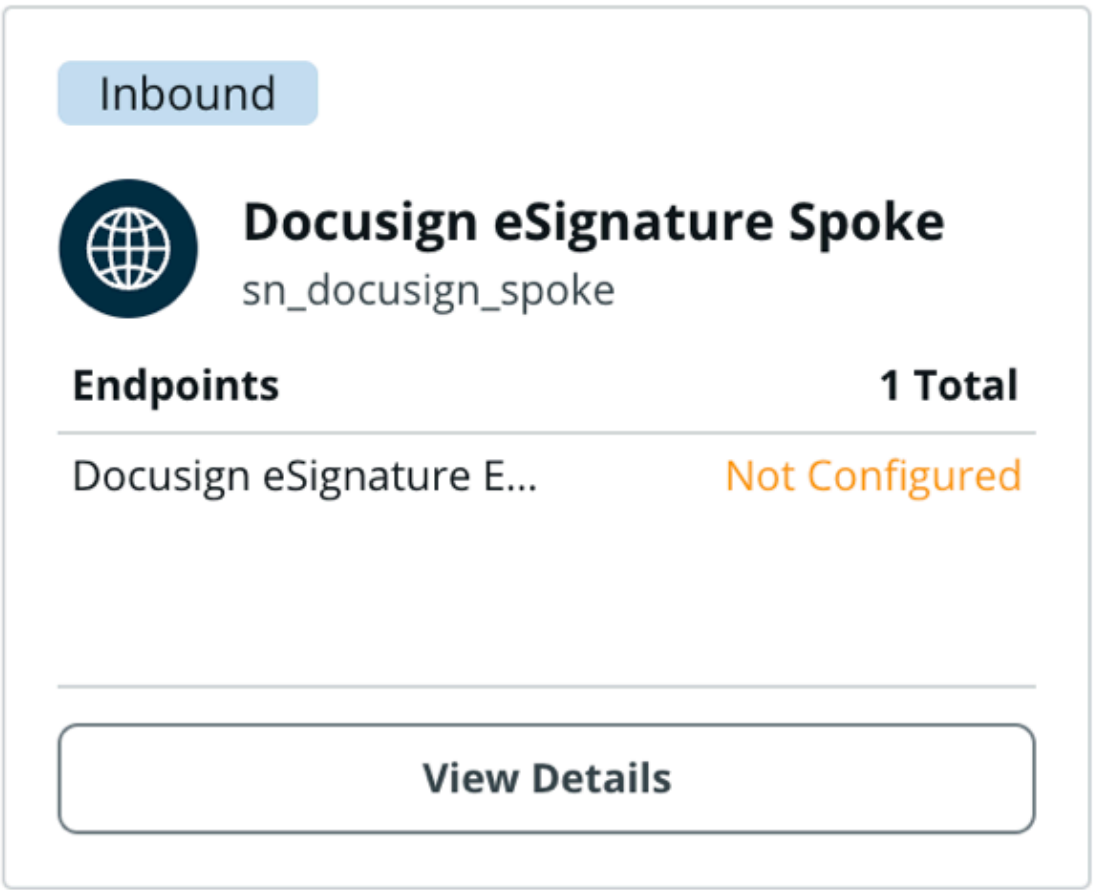
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：flow_designer および connection_admin

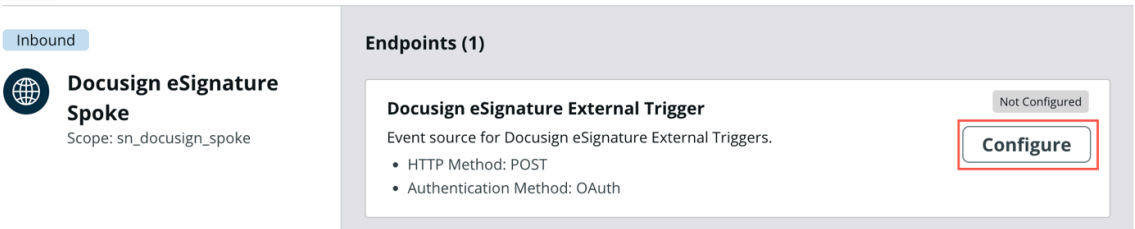
このタスクについて
Docusign はコールバック URL を使用して、ペイロードを ServiceNow インスタンスに安全に送信します。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブを選択します。
3. [受信] タブを切り替えて有効にします。
4. **[Docusign eSignature** スポーク]カードを検索し、[詳細を表示] を選択します。



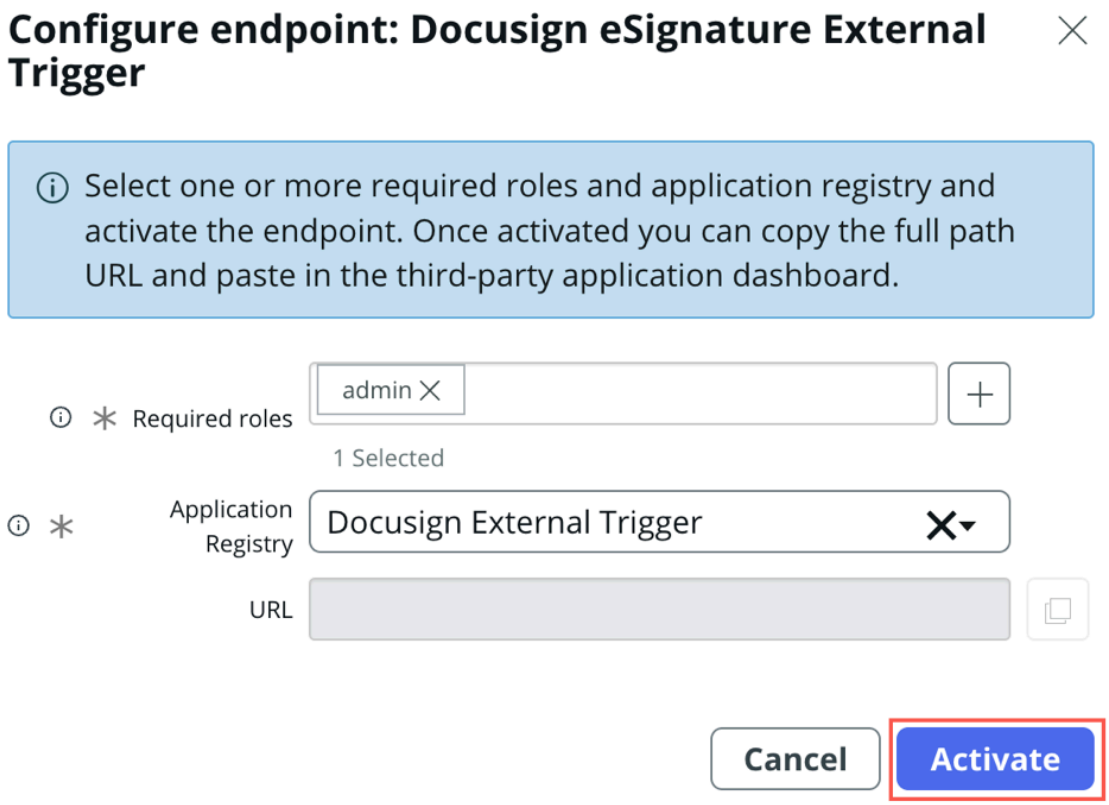
5. [構成 **(Configure)]** を選択します。



6. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

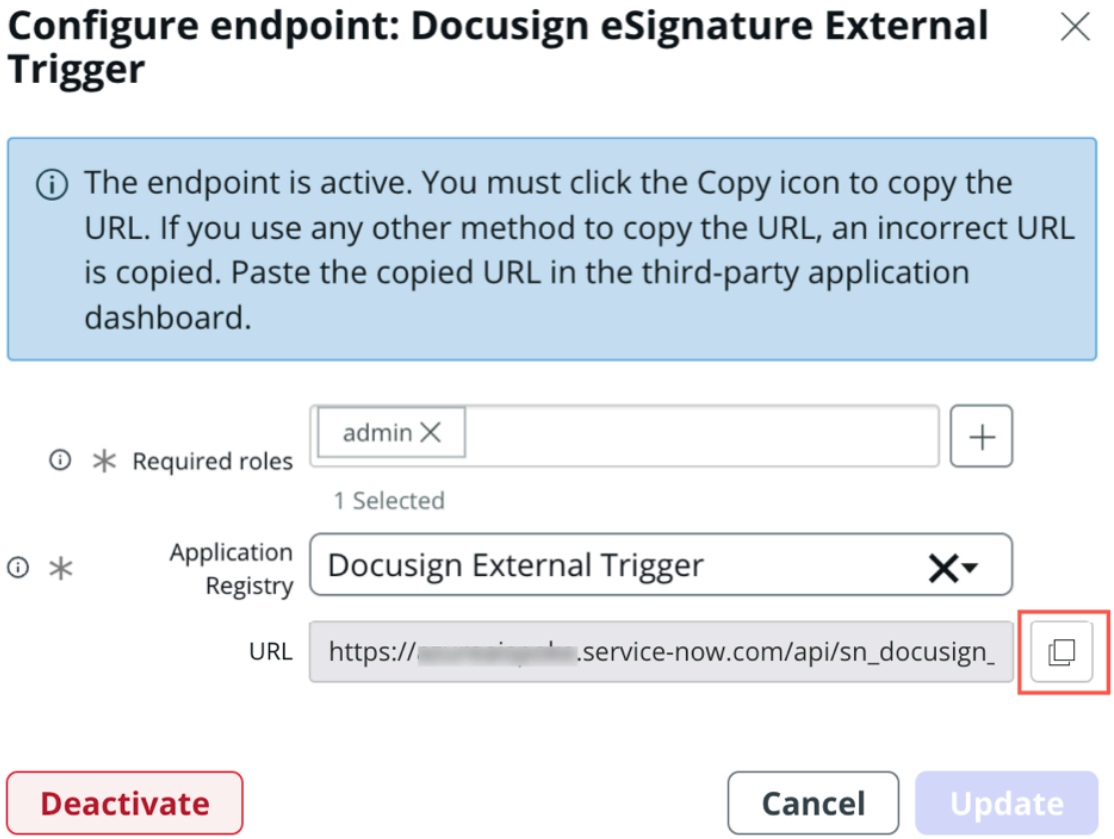
フィールド	説明
必要なロール	フローのトリガーに使用するロール。たとえば、**[admin]** を選択します。
アプリケーションレジストリー	着信コールを認証するために作成したアプリケーションレジストリを選択します。たとえば、**[Docusign 外部トリガー (Docusign External Trigger)]** を選択します。



7. [アクティブ化] をクリックします。
   エンドポイントがアクティブ化され、**URL** の値が生成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

後で使用するために、**URL** の値をコピーして記録します。



Docusign アカウントに構成を追加する

Docusign アカウントにカスタム構成を追加して、リアルタイムのデータ更新を ServiceNow インスタンスに送信します。

始める前に

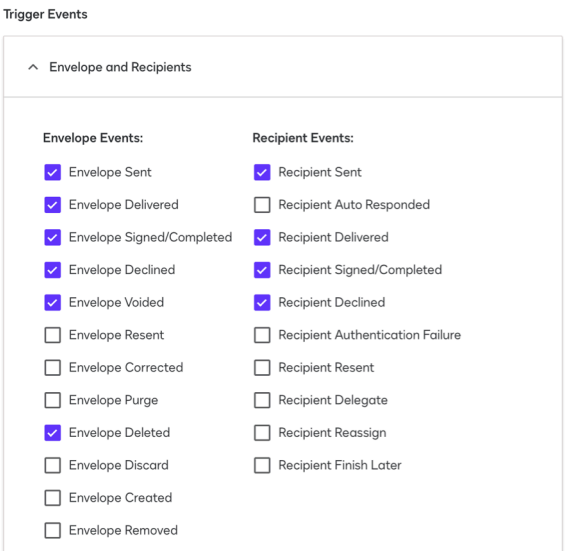
必要なロール：admin

手順

1. アドミンとして Docusign アカウントにログインします。
2. [アドミン **(Admin)**] をクリックします。
3. [統合] > [接続]に移動します。
4. [構成 **(Configurations)**]で、[構成の追加 **(Add Configuration)**] をクリックし、[カスタム **(custom)**] を選択します。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
名前	カスタム構成情報レコードを識別する名前。
公開する URL	トリガー定義を有効にしたときに生成される URL を `https://<ServiceNow-instance-name>.service-now.com/api/sn_docusign_spoke/`

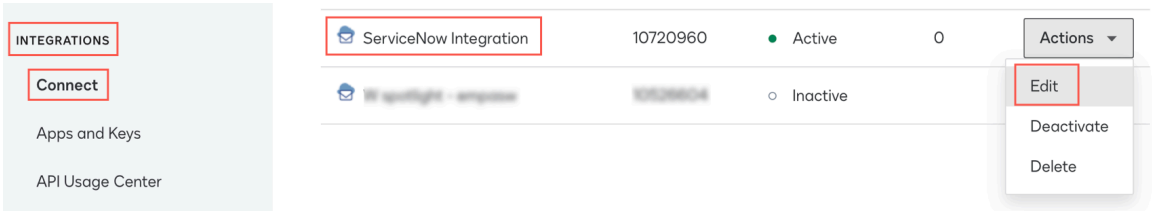
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	`docusign_esignature_external_trigger` の形式で入力します。 詳細については、「ServiceNow インスタンスでのトリガー定義のアクティブ化」を参照してください。
データ形式	**[REST v2.1]** が選択されていることを確認してください。
イベントメッセージ配信モード (Event Message Delivery Mode)	[個別メッセージを送信 **(Send Individual Messages (SIM))]** を選択します。
イベントのトリガー	[エンベロープと受信者 **(Envelope and Recipients)]** を展開し、次のイベントを選択します。 ◦ 送信済みエンベロープ (Envelope Sent) ◦ 配信済みエンベロープ (Envelope Delivered) ◦ 署名済み/完了済みエンベロープ (Envelope Signed/Completed) ◦ 拒否済みエンベロープ (Envelope Declined) ◦ 無効化済みエンベロープ (Envelope Voided) ◦ 削除済みエンベロープ (Envelope Deleted) ◦ 受信者送信済み (Recipient Sent) ◦ 受信者配信済み (Recipient Delivered) ◦ 受信者署名済み/完了済み (Recipient Signed/Completed) ◦ 受信者拒否済み (Recipient Declined) 

6. [統合とセキュリティの設定 **(Integration and Security Settings)]** で、**[OAuth** を含める (推奨) **(Include OAuth (Recommended))]** チェックボックスをオンにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [構成を追加] をクリックします。
   カスタム構成情報レコードが作成されます。
8. 作成したカスタム構成情報レコードの [アクション] をクリックし、[編集] を選択します。



9. [統合とセキュリティの設定 **(Integration and Security Settings)]** で、**[OAuth** の管理 **(Manage OAuth)]** をクリックします。
   [OAuth 2.0] タブが表示されます。
10. [クライアント ID] と [クライアントシークレット] の値を入力します。
    これらの値は、ServiceNow インスタンスでアプリケーションレジストリを作成するときに作成されます。詳細については、「着信コールを認証するためのアプリケーションレジストリを作成する」を参照してください。
11. 認証サーバー **URL** は、`https://<ServiceNow-instance-name>.service-now.com/oauth_token.do` の形式で入力します。
12. [保存] をクリックします。

次のタスク

要件に応じて、これらのトリガーを使用してワークフロースタジオでフローを作成します。詳細については、「外部トリガーを使用したフローの作成」を参照してください。

Docusign eSignature スポーク用の双方向 Webhook の設定

受信者がドキュメントに署名したときに Docusign から ServiceNow にデータを送信できるように、Docusign アカウントで Webhook を設定します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. Docusign アプリケーションが ServiceNow インスタンスとイベントとデータを共有できるように、カスタム構成を接続します。

   a. アドミンとして Docusign アカウントにログインします。

   b. アドミンダッシュボードで、[統合] > [接続]に移動します。

   c. [構成を追加] をクリックします。
      構成タイプのリストが表示されます。

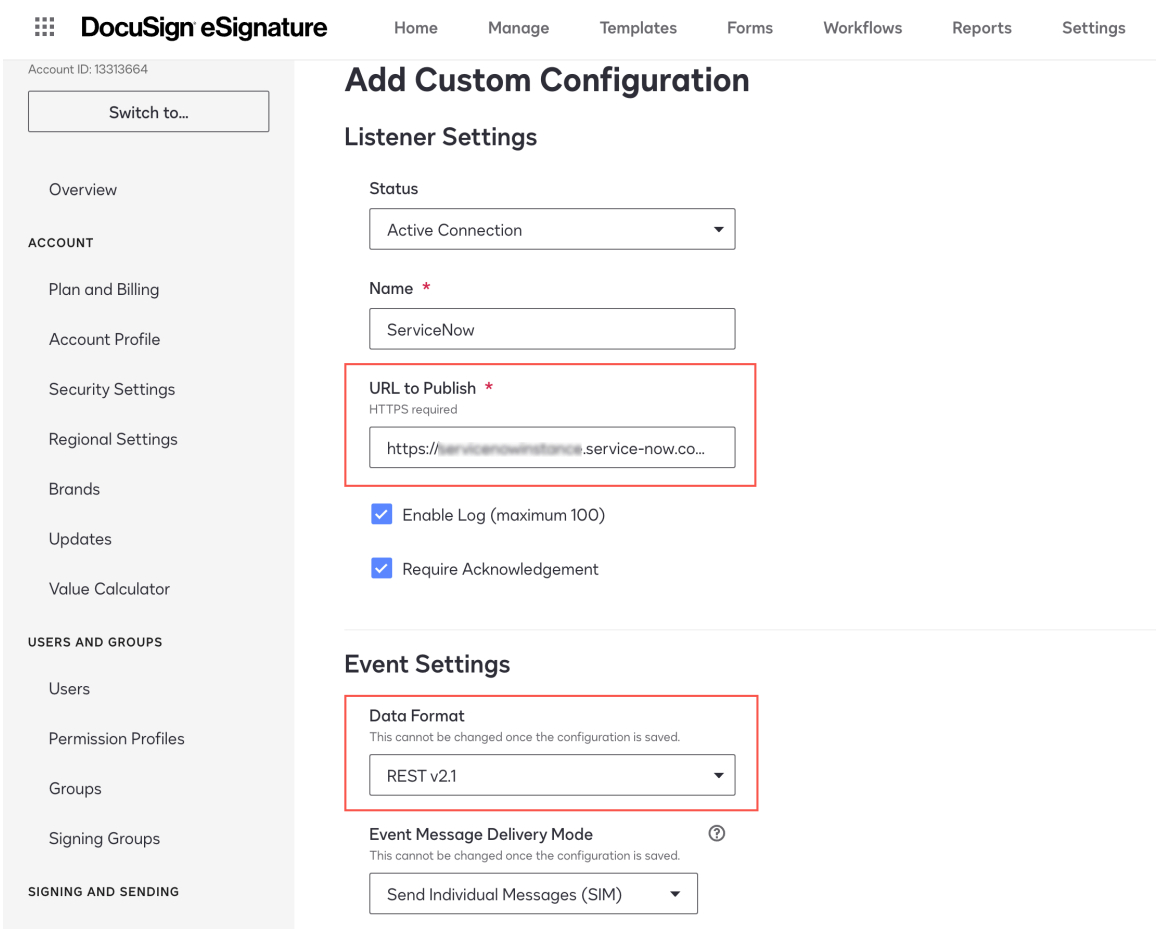
   d. [カスタム] を選択します。

   e. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	カスタム構成を識別する名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

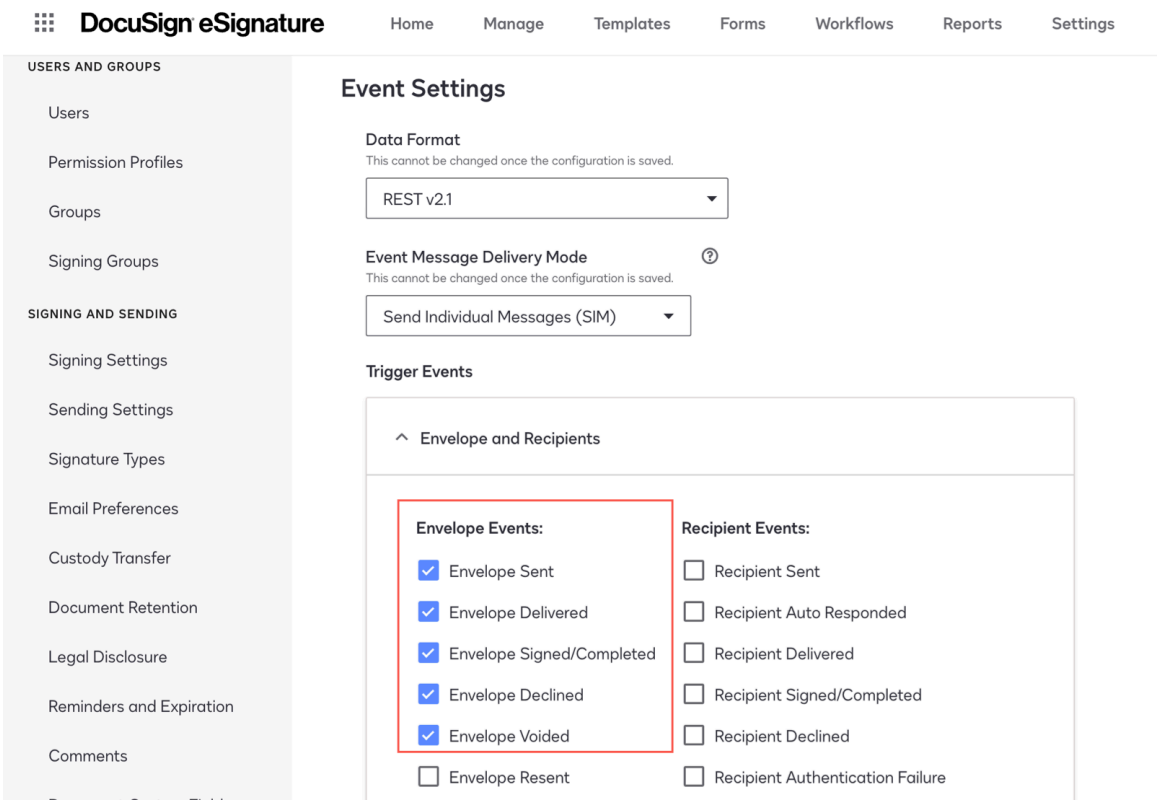
フィールド	説明
公開する URL	ServiceNow インスタンス URL を次の形式で追加します。 ▪ [イベントの設定 **(Event Settings)**] で、[データ形式] に [レガシー **(Legacy)**] を選択した場合は「`https://{インスタンス名}.service-now.com/api/sn_docusign_spoke/docusign_webhook`」と入力します。 ▪ [イベントの設定 **(Event Settings)**] で、[データ形式] に **[REST v2.1]** を選択した場合は「`https://{インスタンス名}.service-now.com/api/sn_docusign_spoke/docusign_webhook_rest`」と入力します。
データ形式	[レガシー **(Legacy)**] または **[REST v2.1]** を選択します。 **注:** この選択が、[公開する **URL**] で指定した URL と一致していることを確認します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

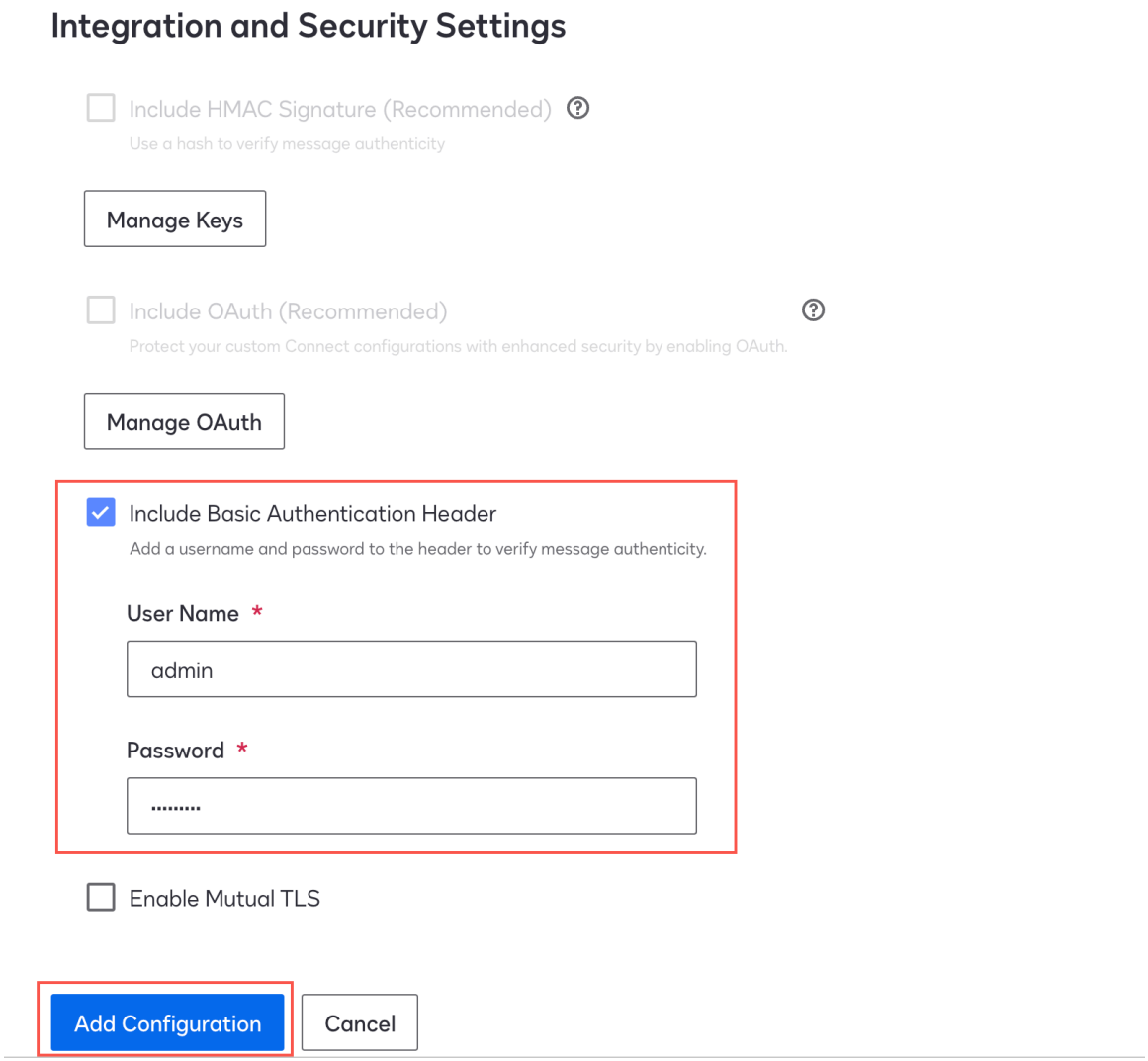
2. [イベントのトリガー] で、以下のイベントを選択して、Docusign がエンベロープイベントを ServiceNow と共有できるようにします。

   - 送信済みエンベロープ (Envelope Sent)
   - 配信済みエンベロープ (Envelope Delivered)
   - 署名済み/完了済みエンベロープ (Envelope Signed/Completed)
   - 拒否済みエンベロープ (Envelope Declined)
   - 無効化済みエンベロープ (Envelope Voided)



3. ヘッダーで [基本認証を含める **(Include basic authorization)**] オプションを選択して、ServiceNow インスタンスの認証情報を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [構成を追加] をクリックします。

Docusign と ServiceNow との同期

ServiceNow を DocuSign と同期して、DocuSign スポークから DocuSign アカウント、テンプレート、エンベロープにアクセスします。

始める前に
必要なロール：admin

- 統合ハブサブスクリプションの要求
- Docusign スポークのアクティブ化
- JWT 権限許可を使用した Docusign eSignature スポークの設定

このタスクについて
Docusign を ServiceNow インスタンスと毎日同期するジョブをスケジュールするか、必要に応じてデータを同期します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. Docusign データを ServiceNow インスタンスと同期するジョブをスケジュールします。

   a. **[Docusign]** > [スケジュール済みジョブ]に移動します。
   [アカウントとテンプレートを取得 (Get Accounts & Templates)] スケジュール済みジョブが開きます。

   b. [アクティブ] を選択します。

   Docusign eSignature スポーク は、アカウント、テンプレート、およびエンベロープを毎日同期します。

2. 必要に応じて、Docusign データを UI アクションと同期します。

   a. **[Docusign]** > [アカウント]に移動します。
   アカウント [sn_docusign_spoke_accounts] テーブルが開きます。

   b. [アカウントを取得] 関連リンクをクリックします。

   OAuth 認証情報レコードを介してリンクされたすべてのアカウントが同期され、テンプレートテーブルとエンベロープテーブルに Docusign データが入力されます。フローをビルドするときにテンプレートとエンベロープレコードを使用します。

Docusign eSignature スポークカタログアイテムの有効化

サービスカタログでアイテムが要求されたときに、DocuSign でイベントをトリガーします。たとえば、[デジタル署名のためにドキュメントを送信] カタログアイテムは、指定された受信者に DocuSign ドキュメントを送信するサンプルフローをトリガーします。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションの要求
- Docusign eSignature スポークのアクティブ化
- サービスカタログ (com.glideapp.servicecatalog.flow_designer) プラグインに対するフローデザイナーサポートの有効化
- 必要なロール：admin

このタスクについて

Docusign eSignature スポーク は、Docusign eSignature スポーク のサンプルフローで使用するカタログアイテムを追加します。Docusign eSignature スポーク サンプルフローをトリガーする前に、これらのカタログアイテムをアクティブ化します。

カタログアイテム	説明
デジタル署名のためにドキュメントを送信	DocuSign で、デジタル署名のためにドキュメントを送信します。
テンプレートのデモンストレーション (Demonstrate Template)：候補にジョブオファーを送信	DocuSign テンプレートを使用して、ジョブオファーを送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [サービスカタログ] > [アイテムの管理]に移動します。
2. [デジタル署名のためにドキュメントを送信] を検索して選択します。
3. をクリックします。
4. [デジタル署名のためにドキュメントを送信] レコードを開きます。
5. [プロセスエンジン] タブで、[フロー] の [デジタル署名のためにドキュメントを送信] を選択します。
6. **DocuSign** テンプレートを使用して候補者に雇用オファーを送信を検索して選択します。
7. [有効化] をクリックします。
8. レコードを開き、**DocuSign** テンプレートを使用して候補者に雇用オファーを送信します。
9. [プロセスエンジン] タブで、[フロー] に **[DocuSign** テンプレートを使用して候補者に雇用オファーを送信 **(Send employment offer to candidate using DocuSign template)]** を選択します。

タスクの結果
これらのアイテムのいずれかがサービスカタログで要求されると、関連する Docusign eSignature スポーク サンプルフローがトリガーされ、必要なアクションが DocuSign で実行されます。

Docusign API のバージョンの変更

デフォルトでは、Docusign スポークは REST API 要求を Docusign API v2 に送信します。前方互換性を保つために、また Docusign の新しい API を利用するために、接続属性を更新して API 要求を Docusign API v2.1 に送信できます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
2 つの API の違いを理解するには、Docusign 開発者 サイトを参照してください。

手順

1. [すべて] > **[Docusign]** > [接続エイリアス]に移動します。
2. バージョンを更新する接続エイリアスを開きます。
   このエイリアスを使用して送信された要求のみが新しい API バージョンを使用します。たとえば、すべての要求の API バージョンを更新する必要があり、実装で複数の接続エイリアスを使用する場合は、各接続エイリアスを更新する必要があります。
3. [接続属性] 関連リストで、**API** バージョンレコードを追加または編集します。

フィールド	値
タイプ	文字列
ラベル	API バージョン
列名	api_version
デフォルト値	v2.1

4. レコードを保存または送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
Docusign スポークが API 要求を行うと、接続属性の [デフォルト値] フィールドで指定された API バージョンが使用されます。

オンデマンド署名要求を自動化する方法

フローデザイナーでフローを作成し、ServiceNow インスタンスの情報を使用して Docusign オンデマンド署名要求を送信します。

始める前に
- Integration Hub のサブスクリプションを要求
- Docusign スポークのアクティブ化
- 必要なロール：admin
- JWT 権限許可を使用した Docusign eSignature スポークの設定 または 認証コード権限許可を使用した Docusign eSignature スポークの設定

このタスクについて
注: 要件に基づいてフローデザイナーでフローをカスタマイズします。

手順
1. ワークフロースタジオで、フローを作成します。
2. フローを開始するには、[トリガー] を指定します。
3. フロー中に実行する次のいずれかのアクションを指定します。
   - アドホック署名要求をユーザーに送信 **(Send Adhoc Signature Request To User)**
   - アドホック署名要求をユーザーに送信：インライン
4. オプション: 指定されたドキュメントが署名または却下されるまでフローを一時停止するには、**[Docusign** からの署名を待機] アクションを選択します。
5. 次のいずれかの一連のアクションを実行します。
   - 埋め込み署名 URL を送信するには、[埋め込み署名を使用] を選択し、[埋め込み署名受信者 [ユーザー] **(Embedded Signing Recipient [User])]** を選択します。
   - 署名用のドキュメントを送信するには、Docusign アカウント、PDF ドキュメント、受信者、メール、およびエンベロープの有効期限に関する詳細を入力します。
   - 選択したドキュメントまたは埋め込み署名 URL が、署名のために受信者に送信されます。ドキュメントに署名している間、受信者の詳細が自動的に入力されます。
   - エンベロープレコードが [エンベロープ] テーブルに作成されます。エンベロープステータスとその他の詳細が更新されます。

テンプレートを使用して署名要求を自動化する方法

フローデザイナーでフローを作成し、Docusign テンプレートと ServiceNow インスタンスの情報を使用して Docusign 署名要求を送信します。たとえば、[従業員にオファーを送信 `(Send employee offer)`] などです。

始める前に
必要なロール：admin
- 統合 ハブのサブスクリプションの要求
- Docusign eSignature スポークのアクティブ化
- JWT 権限許可を使用した Docusign eSignature スポークの設定 または 認証コード権限許可を使用した Docusign eSignature スポークの設定

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

注: 要件に基づいてフローをカスタマイズします。

手順

1. Docusign で、ドキュメントテンプレートを作成し、受信者のロール (「候補」や「マネージャー」など) を指定します。
   フローがトリガーされると、名前やメールなど、受信者のその他の詳細が取得されます。
2. ワークフロースタジオ で、新しいフローを作成します。
3. フローを開始するには、[トリガー] を指定します。
4. フロー中に実行する次のいずれかのアクションを指定し、受信者の詳細を入力します。
   - テンプレートからドラフトエンベロープを作成
   - ロール名で受信者 **ID** を取得
   - エンベロープに受信者を追加
   - ロール名で受信者 **ID** を取得
   - エンベロープに受信者を追加
   - フィールド **ID** を取得
   - フィールド値の設定
   - エンベロープを送信
   - フィールド値を取得
5. オプション: **[Docusign** からの署名を待機] アクションを選択して、指定されたドキュメントが署名または却下されるまで、フローを一時停止します。
   - 選択したドキュメントまたは埋め込み署名 URL が、署名のために受信者に送信されます。ドキュメントに署名している間、受信者の詳細が自動的に入力されます。
   - エンベロープレコードが [エンベロープ] テーブルに作成されます。エンベロープステータスとその他の詳細が更新されます。

Docusign アカウントデータを分離する方法

ユーザーのロールに基づいて、Docusign データへのアクセスを制限します。たとえば、会社によっては、ある Docusign アカウントを HR チームが使用し、別のアカウントを法務部門が使用する場合があります。これらの 2 つのアカウント間でデータの分離を保持するために、各アカウントのロールを作成し、それをアカウントレコードに追加できます。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Docusign eSignature スポークのアクティブ化
- 追加の Docusign アカウントの子エイリアスの作成
- JWT 権限許可を使用した Docusign eSignature スポークの設定 または 認証コード権限許可を使用した Docusign eSignature スポークの設定
- 必要なロール：admin。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. アクセスを制限する Docusign アカウントごとにロールを作成します。
   a. [システムセキュリティ] > [ユーザーとグループ] > [ロール] に移動します。
   b. ロール [sys_user_role] テーブルで、[新規] を選択します。
   c. [アプリケーション] フィールドの値が **[Docusign** スポーク] であることを確認します。
   別のスコープがリストされている場合は、スコープを **[Docusign** スポーク] に変更します。
   d. [サフィックス] フィールドに、ロールの対象となるアカウントを示す名前を追加します (例：`Legal`)。
   e. レコードを保存します。
   f. 作成したロールの名前をメモしておきます。
   たとえば、「**sn_docusign_spoke.legal**」。
2. アカウントテーブルの関連するアカウントにロールを追加します。
   a. **[Docusign]** > [アカウント]に移動します。
   b. アクセスを制限するインシデントレコードを開きます。
   c. [ロール] フィールドに関連付けられているロールを追加します。
   d. [更新] を選択します。
3. 目的のユーザーにロールを付与します。
   a. [システムセキュリティ] > [ユーザーとグループ **(Users and Groups)]** > [ユーザー] に移動します。
   b. アクセスを提供するユーザーのレコードを開きます。
   c. 作成したロールを [ロール] 関連リストに追加します。

タスクの結果
指定されたロールのユーザーのみが、アカウントに関連付けられた Docusign データにアクセスできます。

Dropbox Business スポーク

ServiceNow の添付ファイルの代わりに Dropbox Business をファイルストレージとして使用します。このスポークは Dropbox ストレージを ServiceNow インスタンスに追加して、ユーザーが ServiceNow レコード内の Dropbox ファイルを参照できるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブ サブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Dropbox Business スポーク v1.0.4 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

API バージョン v2。

スポークのサブフロー

Dropbox Business スポークでは、Dropboxタスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

フロー	説明
ファイルの変更を処理 (Process File Changes)	Dropbox 内のファイルの変更を処理するサブフロー。
チームメンバーの変更を処理 (Process Team Member Changes)	Dropbox 内のチームメンバーの変更を処理するサブフロー。

スポークのアクション

Dropbox Business スポークでは、ServiceNow でイベントが発生したときに Dropbox タスクを実行するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ファイルおよびフォルダーの管理	Dropbox ファイルを添付ファイルにコピー	Dropbox ファイルをコピーして、ServiceNow レコードに添付します。ServiceNow インシデントレコードが入力として指定された場合、指定されたレコードが添付されます。
	ファイルまたはフォルダーをコピー	指定した Dropbox ファイルまたはフォルダーのコピーを Dropbox に作成します。
	フォルダーを作成	Dropbox の指定されたパスにフォルダーを作成します。
	ファイルまたはフォルダーを削除	Dropbox の指定されたパスにあるファイルまたはフォルダーを削除します。
	ファイルの変更を取得：Webhook	Dropbox で通知されたファイルの変更を取得します。
	フォルダーを検索	Dropbox フォルダーのコンテンツを検索し、フォルダーに関する情報を含むオブジェクトを返します。
	最新のカーソルを更新	チーム詳細テーブル内の対応するチームの最新のカーソル値を更新します。
	添付ファイルをドロップボックス にアップロード	ServiceNow 添付ファイルを Dropbox フォルダーにコピーします。指定したフォルダーにコピーされます。コピー中にファイル名を変更するには、オプションのファイル名を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
ユーザー管理	グループにユーザーを追加	指定されたグループにユーザーを追加します
	チームにユーザーを追加	指定されたチームにユーザーを追加します。
	アドミンの詳細を取得	アクセストークンの生成に使用されたアドミニストレーターアカウントの詳細を取得します。
	現在のアカウントを取得	現在のアカウントに関する情報を取得します。
	チームメンバー情報を取得	指定されたチームメンバーの情報を取得します。プロファイルとロールの詳細を返します。
	チーム内のグループを検索	チーム内のすべてのグループを一覧表示します。出力には、グループ ID、メンバー数、グループ名、およびグループを管理するユーザーのロールが含まれます。
	グループ内のユーザーを検索	特定のグループのすべてのメンバーを一覧表示します。グループ内のユーザープロファイルデータとロールを返します。
	チーム内のユーザーを検索	チーム内のすべてのメンバーを一覧表示します。ユーザープロファイルデータ、メンバーシップタイプ、およびロールを返します。
	チームからユーザーを削除	チームからユーザーを削除します。オプションには、ユーザーによるファイル保持、チーム共有へのアクセス、メールアカウントと無制限のチーム共有の保持、関連データの削除が含まれます。
	グループからユーザーを削除	既存のグループから 1 人以上のユーザーを削除します。

Dropbox Business スポークアカウントの要件

Dropbox Business スポークには、Dropbox Business で作成するカスタムアプリが必要です。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Dropbox Business スポークの設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。ドロップボックス エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー 選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー 」を参照してください。

Dropbox Business スポークの設定

接続と資格情報レコードを設定して、ServiceNow インスタンスと Dropbox Business アプリケーション間のアウトバウンド統合を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Dropbox Business スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Dropbox Business スポーク の設定には、 Dropbox アプリコンソール、 Now Platform® ユーザーインターフェイス、および フローデザイナー でのアクションが含まれます。これらの各ページを個別のタブで開いたままにしておくと、設定が容易になります。

このタスクについて

[チーム管理 (Team Management)]、[ファイルアクセス (File Access)]、および [コンテンツエイリアス (Content alias)] の順に、3 つの接続および認証情報レコードを設定する必要があります。接続および認証情報のフォームには、Dropbox Business アプリケーションとの接続を確立するために必要な OAuth 2.0 認証情報が含まれています。フォームを設定する前に、Dropbox Business アプリケーション側で OAuth 2.0 認証を設定して、必要なデータを設定する必要があります。また、エイリアスとアプリケーションのレジストリが既に設定されていることを確認する必要もあります。

OAuth 2.0 認証の設定

カスタム Dropbox Business アプリケーションを設定して、Dropbox Business アプリケーションと ServiceNow インスタンスの間の OAuth 2.0 認証を設定します。

始める前に

OAuth 2.0 セットアップ要件：

- Dropbox Business のアカウント
- 必要なロール：チームアドミン。

このタスクについて

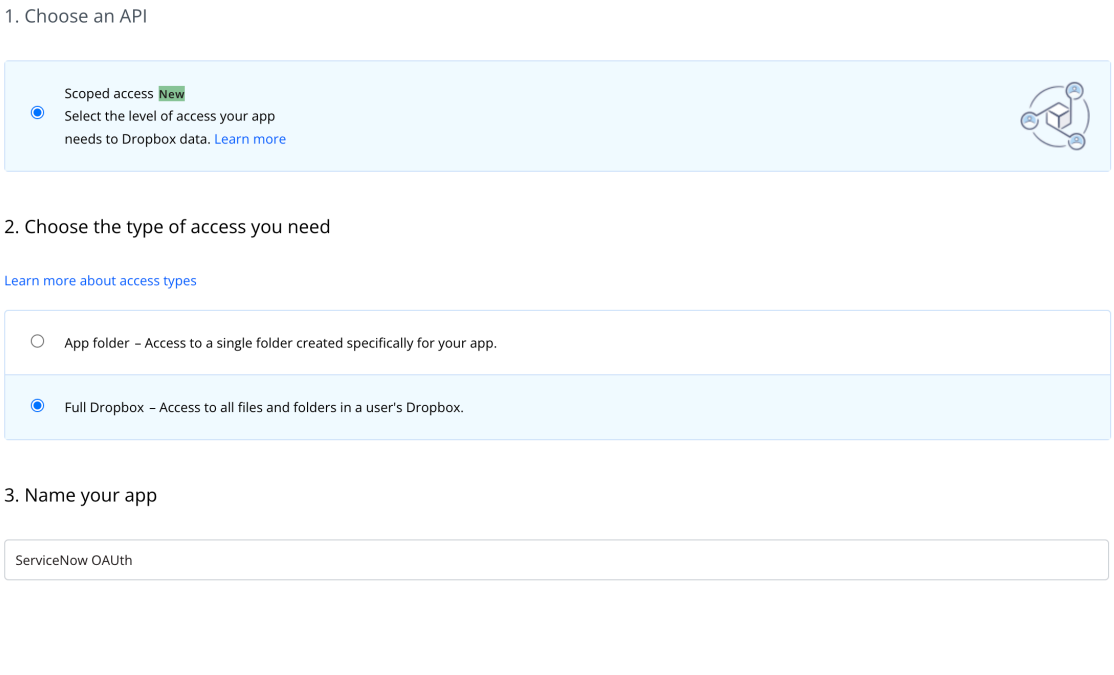
この手順では、Dropbox Business のアカウントにカスタムアプリケーションを作成します。アプリケーションでは、3 つの Dropbox Business エイリアスすべての接続と資格情報レコードを設定するために必要な OAuth 2.0 認証情報が提供されます。アプリケーション設定の詳細については、「https://www.dropbox.com/developers/documentation」を参照してください。

手順

1. Dropbox Professional の [自分のアプリ (My apps)] コンソール (https://www.dropbox.com/developers/apps) にログインします。
2. [アプリを作成] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [DBX プラットフォームで新しいアプリを作成 (Create a new app on the DBX Platform)] ページで、次のアクションを実行しま



す。

a. [API を選択 (Choose an API)] で、[スコープ付きアクセス (Scoped access)] を選択します。

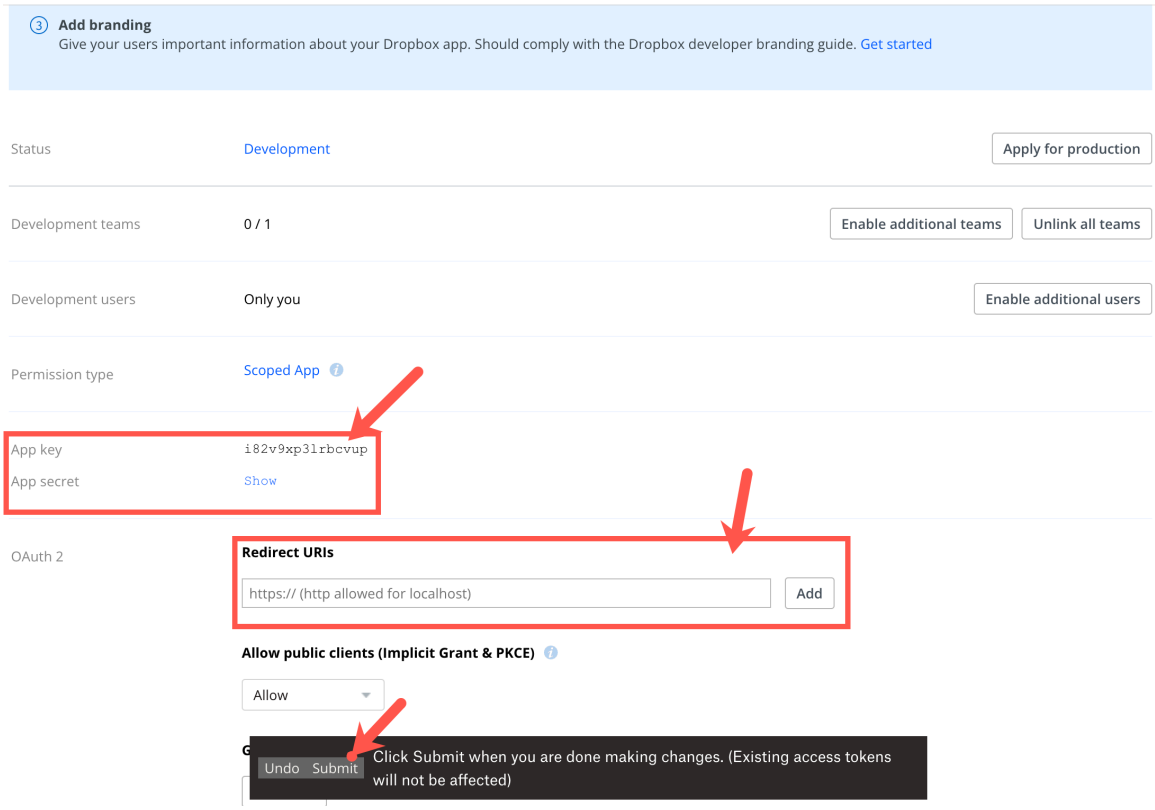
b. [必要なアクセスのタイプを選択 (Choose the type of access you need)] で、適切なアクセスタイプを選択します。

c. [アプリに名前を付けます (Name your app)] で、アプリケーションのカスタム名を入力します。

d. [アプリを作成] を選択します。
カスタムアプリケーションが作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. OAuth 2.0 アプリケーションを設定するには、カスタム アプリケーションの [設定] タブで次の手順を実行しま



す。

a. [アプリキー] の下に値をコピーして保存します。
ServiceNow インスタンスのアプリケーションレジストリの [クライアント ID] フィールドで [アプリキー] の値を使用します。

b. [アプリシークレット] の下にある [表示] を選択し、値をコピーして保存します。

> ヒント: ServiceNow インスタンスでアプリケーションレジストリを設定するときは、[アプリキー] と [アプリシークレット] の両方の値が必要です。

c. [リダイレクト URI] フィールドに、ServiceNow インスタンス URL を https://instancename/oauth_redirect.do の形式で入力します。

> 注: 複数の URI を追加できます。

d. オプション: リダイレクト URI を追加するには、[追加] を選択し、ServiceNow インスタンス URL を入力します。

e. [送信] を選択します。

Dropbox Business アプリケーションの 3 つの接続および認証情報レコードはすべて、この手順で設定したものと同じアプリシークレット、アプリキー、およびリダイレクト URI を使用します。

次のタスク
Dropbox Business Team Management エイリアスの接続レコードと認証情報レコードの作成

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

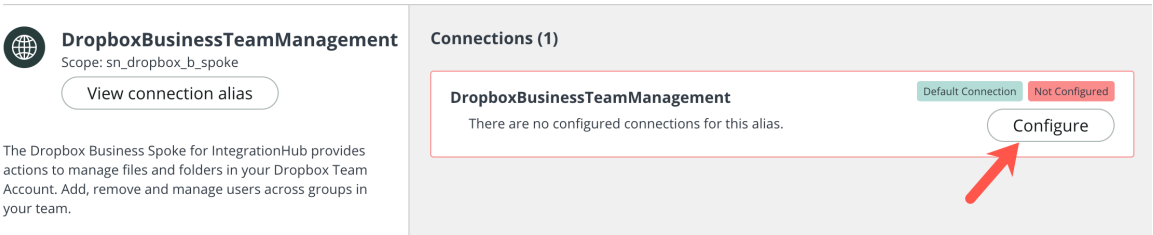
Dropbox Business Team Management エイリアスの接続レコードと認証情報レコードの作成

Dropbox Business アカウントへの接続レコードを作成します。接続エイリアスにより、実行時に Dropbox 接続と資格情報が解決されます。接続エイリアスごとに一度に 1 つの接続のみアクティブになります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. [すべての接続を検索] フィールドに「`Dropbox`」と入力します。
4. [DropboxBusinessTeamManagement] タイルで、[詳細を表示] を選択します。
5. [設定] を選択しま



す。

6. [接続を設定] フォームに詳細を入力します。

接続を設定

フィールド	説明
接続名	Dropbox Business アプリケーションと ServiceNow インスタンスの間の接続の名前。 注: デフォルトの読み取り専用名は、DropboxBusinessTeamManagement です。カスタム名を指定するには、別の接続および認証情報レコードを作成します。
接続 URL	Dropbox Business アカウントに接続するための URL。URL は https://api.dropboxapi.com です。
API バージョン	API のバージョン。
認証情報名	Dropbox Business アカウントにアクセスするための認証情報のカスタム名。
OAuth エンティティ名	Dropbox Business アカウントで作成した OAuth エンティティのカスタム名。
OAuth クライアント ID	カスタムの Dropbox Business アプリケーションで生成したクライアント ID。生成方法については、「OAuth 2.0 認証の設定」を参照してください。
OAuth クライアントシークレット	カスタムの Dropbox Business アプリケーションで生成したクライアントシークレット。生成

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	方法については、「OAuth 2.0 認証の設定」を参照してください。
OAuth リダイレクト URL	Dropbox Business アプリケーションで指定したリダイレクト URI。

7. **[OAuth** トークンを設定して取得] を選択します。
   一時的な OAuth トークンが生成されます。

次のタスク
Dropbox Business File Access エイリアスの接続レコードと認証情報レコードの作成

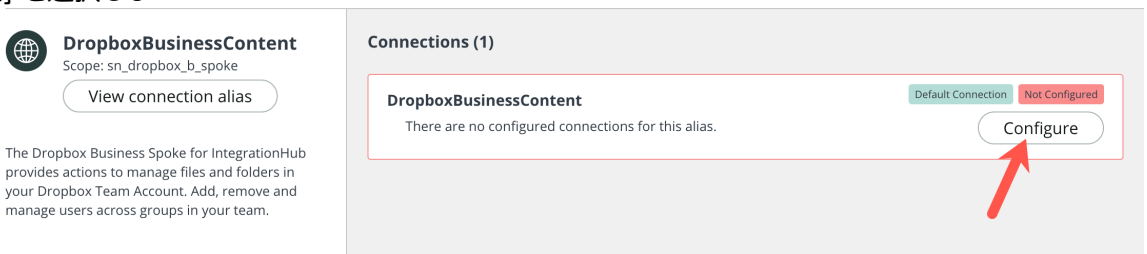
Dropbox Business File Access エイリアスの接続レコードと認証情報レコードの作成

DropboxBusinessFileAccess エイリアスに対する Dropbox Business アカウントへの接続レコードを作成します。接続エイリアスにより、実行時に Dropbox の接続と資格情報が解決されます。接続エイリアスごとに一度に 1 つの接続のみアクティブになります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. [すべての接続を検索] フィールドに「`Dropbox`」と入力します。
4. [DropboxBusinessFileAccess] タイルで、[詳細を表示] を選択します。
5. [設定] を選択しま



す。

6. [接続を設定] フォームに詳細を入力します。

接続を設定

フィールド	説明
接続名	Dropbox Business アプリケーションと ServiceNow インスタンスの間の接続の名前。 **注:** デフォルトの読み取り専用の名前は DropboxBusinessFileAccess です。カスタム名を指定するには、別の接続および認証情報レコードを作成します。
接続 URL	Dropbox Business アカウントに接続するための URL。URL は https://api.dropboxapi.com です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
API バージョン	API のバージョン。
認証情報名	Dropbox Business アカウントにアクセスするための認証情報のカスタム名。
OAuth エンティティ名	Dropbox Business アカウントで作成した OAuth エンティティのカスタム名。
OAuth クライアント ID	カスタムの Dropbox Business アプリケーションで生成したクライアント ID。生成方法については、「OAuth 2.0 認証の設定」を参照してください。
OAuth クライアントシークレット	カスタムの Dropbox Business アプリケーションで生成したクライアントシークレット。生成方法については、「OAuth 2.0 認証の設定」を参照してください。
OAuth リダイレクト URL	Dropbox Business アプリケーションで指定したリダイレクト URI。

7. **[OAuth** トークンを設定して取得] を選択します。
   一時的な OAuth トークンが生成されます。

次のタスク
Dropbox Content エイリアスの接続レコードと認証情報レコードの作成

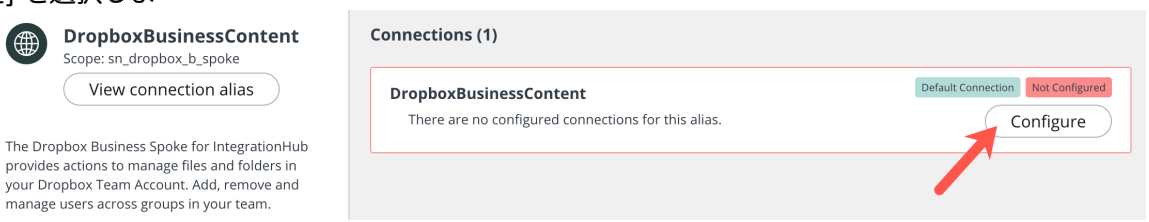
Dropbox Content エイリアスの接続レコードと認証情報レコードの作成

DropboxBusinessContent エイリアスに対する Dropbox Business アカウントへの接続レコードを作成します。接続エイリアスにより、実行時に Dropbox の接続と資格情報が解決されます。接続エイリアスごとに一度に 1 つの接続のみアクティブになります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. [すべての接続を検索] フィールドに「`Dropbox`」と入力します。
4. [DropboxBusinessContent] タイルで、[詳細を表示] を選択します。
5. [設定] を選択します。



6. [接続を設定] フォームに詳細を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続を設定

フィールド	説明
接続名	Dropbox Business アプリケーションと ServiceNow インスタンスの間の接続の名前。 注: デフォルトの読み取り専用の名前は、DropboxBusinessContent です。カスタム名を指定するには、別の接続および認証情報レコードを作成します。
接続 URL	Dropbox Business アカウントに接続するための URL。URL は https://api.dropboxapi.com です。
API バージョン	API のバージョン。
認証情報名	Dropbox Business アカウントにアクセスするための認証情報のカスタム名。
OAuth エンティティ名	Dropbox Business アカウントで作成した OAuth エンティティのカスタム名。
OAuth クライアント ID	カスタムの Dropbox Business アプリケーションで生成したクライアント ID。生成方法については、「OAuth 2.0 認証の設定」を参照してください。
OAuth クライアントシークレット	カスタムの Dropbox Business アプリケーションで生成したクライアントシークレット。生成方法については、「OAuth 2.0 認証の設定」を参照してください。
OAuth リダイレクト URL	Dropbox Business アプリケーションで指定したリダイレクト URI。

7. **[OAuth** トークンを設定して取得] を選択します。
   一時的な OAuth トークンが生成されます。

タスクの結果

Dropbox Business スポーク が設定されて、ServiceNow インスタンスとデータ連携されます。

Dun and Bradstreet DirectPlus スポーク

ServiceNow インスタンスから Dun and Bradstreet アカウントの包括的なビジネスデータと分析タスクを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Dun and Bradstreet DirectPlus スポーク v1.0.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは Dun and Bradstreet DirectPlus v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Dun and Bradstreet Direct+ アカウント

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー：動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow IntegrationHub Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- Complex Object (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー - Dynamic Outputs (com.glide.hub.dynamic_outputs)
- ServiceNow IntegrationHub Action Template - Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Dun and Bradstreet DirectPlus スポークには、Dun and Bradstreet DirectPlus のタスクの自動化をデモするサンプルフローが用意されています。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
会社を検索	下流システムで新しいサプライヤーを作成する前に、サプライヤー情報を取得して、このサプライヤーの経営状態が良好かどうかを確認します。

スポークのアクション

Dun and Bradstreet DirectPlus スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにデータと分析タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
データブロッ	DUNS 番号でデータブロックを検索	指定された D-U-N-S (Data Universal Numbering System) 番号の指定されたデータブロックに関する情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
ク管理		
プロファイル管理	業界の詳細なプロファイルを検索	業界インジケーター、課題、財務、業界予測など、要求された業界に関する詳細情報を取得します。
レポート管理	会社レポートを検索	新規または既存のビジネス関係のリスクを評価するために、会社の収益性、安定性、実行可能性、および支払いパフォーマンスの判断に使用できる、Dun and Bradstreet (D&B) の Business Information Report と Comprehensive Report を取得します。 **注:** PDF レポートは、カナダを含む一部の市場地域ではご利用いただけません。世界全体を適切に網羅するには、HTML 形式のレポートをご利用ください。
検索管理	会社先行入力検索を検索	検索用語と会社のその他の追加属性に基づいて、会社レコードを取得します。 **注:** このアクションは、上位 25 件の一致した結果を返します。
	ID 解決のクレンジング一致を検索	Dun & Bradstreet 独自のアルゴリズムを使用して、指定された検索パラメーターに最も一致するものを取得します。 **注:** マルチプロセスの場合、このアクションは 1 つの結果のみを返します。米国で全国検索する場合、このアクションでは最大 100 件の結果が返されます。他のすべてのシナリオでは、このアクションは上位 25 件の一致した結果を返します。

スポークモジュール

Dun and Bradstreet DirectPlus スポークは Dun and Bradstreet DirectPlus スポーク アプリケーションをインスタンスに追加し、以下のモジュールが含まれています。

モジュール	説明
会社	利用可能なすべての会社レコードをリストします。

Dun and Bradstreet DirectPlus スポークの設定

クライアント ID とクライアントシークレット認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Dun and Bradstreet Direct+ を統合し、ServiceNow 要求の認証を行います。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Dun and Bradstreet DirectPlus スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

Dun and Bradstreet DirectPlus スポークの接続の設定

ServiceNow 要求を認証するための Dun and Bradstreet DirectPlus 接続を追加して設定します。

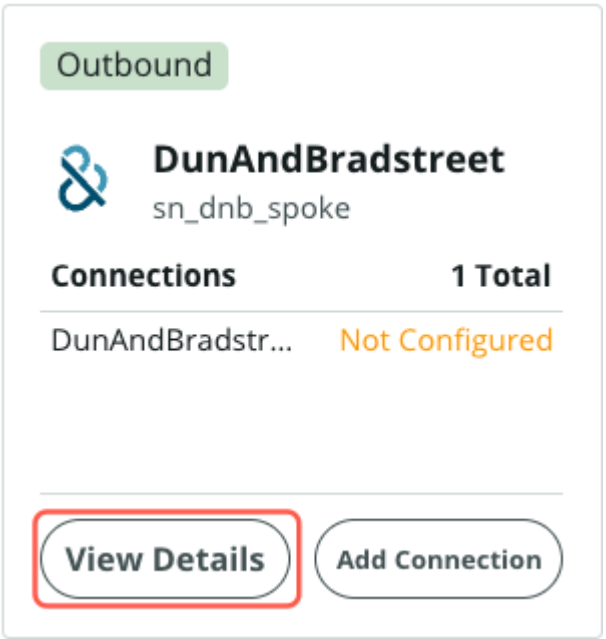
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- アカウントアドミニストレーターから Dun and Bradstreet アカウントのクライアント ID とクライアントシークレットを取得します。
- 必要なロール：admin

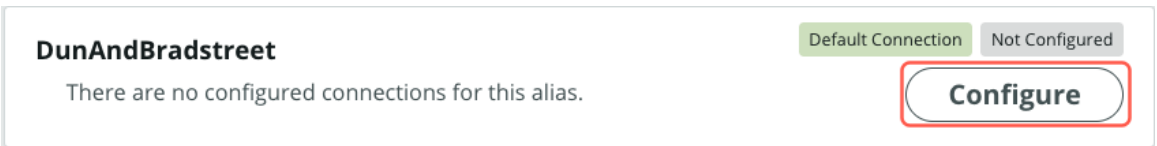
手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. **DunAndBradstreet** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
   - Dun and Bradstreet DirectPlus スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



   - 複数の Dun and Bradstreet DirectPlus 接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

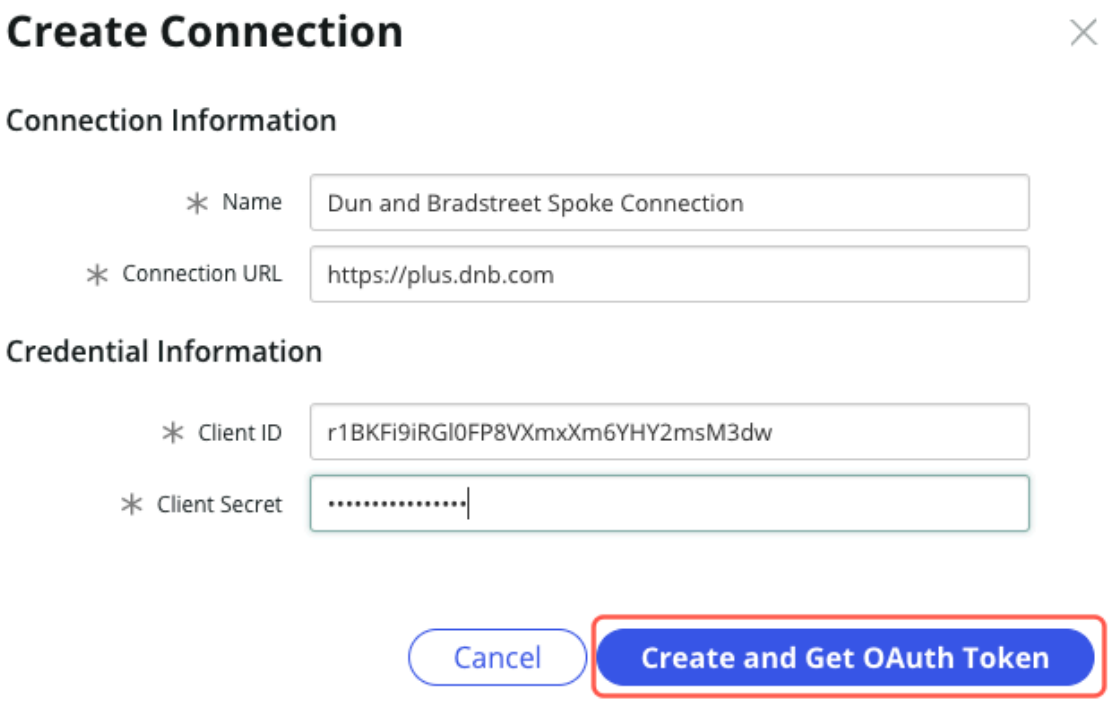


5. [接続を設定] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	接続レコードを一意に識別する名前です。 例：`Dun and Bradstreet Directplus` 接続

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続 URL	Dun and Bradstree Direct+ インスタンスの URL。`https://plus.dnb.com` と入力します。
クライアント ID	Dun and Bradstreet DirectPlus アカウントのクライアント ID。
クライアントシークレット	Dun and Bradstreet DirectPlus アカウントのクライアントシークレット。



6. **[OAuth トークンを設定して取得 (Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

Ethoca スポーク

ServiceNow インスタンスを Ethoca アカウントと統合して、カードの異議申し立ての解決を管理し、不正行為を防止します。このスポークを使用して、詳細なマーチャント情報やサブスクリプションコントロールにアクセスし、デジタル受領書を表示し、異議申し立てを管理できます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Ethoca スポーク v3.0.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは、Consumer Clarity および 発行者アラート管理用にビルドされました。

主要な機能

- 異議申し立て解決プロセスの合理化
- 異議申し立てのライフサイクル中の、Ethoca アラートを通じた発行者と参加マーチャント間の連携作業の促進
- 異議申し立て前の段階でケースを解決することによる、発行者とカード名義人の両方にとってのメリットの実現
- 異議申し立てとチャージバックの発生の低減

スポークの要件

- 統合ハブサブスクリプション
- 証明書、キーエイリアス、コンシューマーキー、キーストアパスワードなど、Ethoca 構成の詳細

スポークの依存関係

これらの依存プラグインがインストールされていることを確認します。

- ServiceNow 統合ハブ ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: スポーク実装の外部で使用する場合、これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Ethoca スポークは、マーチャントやトランザクションの豊富な情報を取得するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
Consumer Clarity	Consumer Clarity を検索	カード名義人が、マーチャント情報やトランザクションの明確な詳細を含むクレジットカードトランザクションを確認できるようになります。
発行者アラート管理	トランザクションアラートを作成	トランザクションのバッチ (確認済みの不正または顧客の異議申し立て) を Ethoca に送信します。これらのトランザクションは処理され、アラートとしてマーチャントに配信されます。
	バッチでトランザクションアラートステータスを検索	以前に送信されたトランザクション要求の処理ステータスを返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	アラートステータスを検索	マーチャントに配信されたアラートのステータスを提供します。
	バッチストリームでアラート結果を検索	バッチ送信エンドポイントまたは Ethoca 通知コールバックによって提供されたバッチ ID に基づいて、アラートとその結果のリストを取得します。結果は、要求あたり最大 50 アラート、バッチあたり最大 1000 アラートでページネーションされます。 **注:** [バッチストリームでアラート結果を検索 (Look up Alert Outcome by Batch Stream)] アクションを有効にするには、ServiceNow IntegrationHub Action Template - Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream) プラグインをインストールします。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「Ethoca スポークの設定」を参照してください。

Ethoca スポークの設定

[Consumer Clairty] カテゴリでは OAuth プロトコル (バージョン 1.0a) を使用し、[発行者アラート管理 (Issuer Alerts Management)] カテゴリでは基本認証情報を使用して ServiceNow インスタンスを Ethoca アカウントと統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Ethoca スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

Consumer Clarity カテゴリの場合

OAuth プロトコル (バージョン 1.0a) を使用して ServiceNow インスタンスを Consumer Clarity カテゴリの Ethoca アカウントと統合し、ServiceNow 要求を安全に許可および認証します。

次の手順を実行します。

- Ethoca 証明書の添付
- 認証情報レコードの作成
- 接続レコードの作成

Ethoca 証明書の添付

Ethoca アカウントの設定中に生成された証明書を使用して、要求とペイロードに署名します。

始める前に

- 有効な Ethoca 証明書
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [証明書]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

X.509 証明書フォームのフィールド

フィールド	説明
名前	証明書を識別する名前を入力します。
タイプ	証明書のタイプ`[PKCS12 キーストア]`を選択します。
期限切れ時に通知	証明書の有効期限が切れたときに通知されるユーザーのリストを選択します。
有効期限切れ前に警告	証明書の有効期限が切れる前にユーザーに通知を送信するときの日数を入力します。
キーストアパスワード	証明書にアクセスするためのパスワードです。証明書の作成時に指定した宛先キーストアのパスワードを使用します。
アクティブ	クライアント証明書をアクティブにするオプション。
簡単な説明	ユーザーのクライアント証明書の簡単な説明。

4. 添付ファイルを管理アイコン ( ) をクリックし、Ethoca 証明書を添付します。
5. 証明書を検証するには、[ストア/証明書を検証] をクリックします。
6. [送信] をクリックします。

認証情報レコードの作成

Ethoca アカウント用の認証情報レコードを作成します。Ethoca スポーク接続および資格情報エイリアスでは、こうした認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] を選択します。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **[Ethoca** 認証情報 **(Ethoca Credential)]** を選択します。
   空の Ethoca 認証情報フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`Ethoca 認証情報`。
アクティブ	有効化
キーのエイリアス	Ethoca アカウントに関連付けられたキーエイリアス。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
キーストアパスワード	証明書に関連付けられたパスワード。
コンシューマーキー	Ethoca の構成中に生成されたコンシューマーキー。
証明書	新しく作成した Ethoca 証明書を選択します。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズムです。**[Ethoca]** を選択します。 注: ユーザーは、デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

5. [送信] をクリックします。

接続レコードの作成

Ethoca アカウントへの接続レコードを作成します。Ethoca スポーク接続および資格情報エイリアスでは、こうした接続を使用して Ethoca でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Ethoca** のレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	必要な値
接続 URL	Ethoca インスタンスに接続するためのベース URL。`https://sandbox.api.ethocaweb.com/ethoca` と入力します。
認証情報	Ethoca 用に作成した認証情報レコード。例：`Ethoca Credentials`。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

[発行者アラート管理 **(Issuer Alerts Management)**] カテゴリの場合

基本認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと [発行者アラート管理 (Issuer Alerts Management)] カテゴリの Ethoca アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

次の手順を実行します。

- 基本認証情報の作成
- 接続レコードの作成

基本認証情報の作成

ServiceNow インスタンスにアクセスするための認証情報を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. [基本認証情報] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する一意の名前です。例：`Ethoca アラート認証情報`
ユーザー名	ユーザーを識別する名前。
パスワード	この認証情報を使用するためのパスワード。
アクティブ	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。オプションを選択します。
順序	プラットフォームがデバイスへのログインを試行するときにこの認証情報を試行する順序 (シーケンス)。デフォルト値：`100`

5. [送信] を選択します。

接続レコードの作成

Ethoca アカウントへの接続レコードを作成します。Ethoca スポーク接続および資格情報エイリアスでは、こうした接続を使用して Ethoca アラートでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Ethoca** アラートのレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームに入力します。

接続を設定

フィールド	説明
接続名	Ethoca インスタンスとの間で確立された接続の名前です。最初の接続のデフォルト名は、[接続および資格情報エイリアス] ページの [接続および資格情報] フォームで指定された名前と一致するように自動的に割り当てられます。
認証情報	Ethoca アラート用に作成した認証情報レコード。例：`Ethoca Alerts Credentials`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続 URL	Ethoca インスタンスに接続するためのベース URL。「`https://sandbox.ethocaweb.com/ethoca-rest`」と入力します。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

Equifax スポーク

ServiceNow インスタンスと Equifax スポークを統合し、顧客のクレジット履歴、不正アラート、デジタル ID 検証、トランザクションスクリーニング、およびその他の関連データに関する重要な情報にアクセスします。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

サポートされているバージョン

Equifax スポーク v1.0.0 は、Equifax OneView - 1.0.2212 (コンシューマー API) をサポートしています。

主な機能

Equifax スポークを使用すると、フローデザイナーは次のタスクを実行できます。

- 顧客のクレジット履歴、顧客のクレジットスコア、不正アラートなどの顧客情報にアクセスします。
- 顧客の信用度を評価して、融資判断を迅速に行います。
- 顧客の ID を検証し、情報が正確であることを確認します。

スポークのアクション

Equifax スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクション (Equifax クレジットレポートカテゴリの下) が提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
Equifax クレジットレポート	OneView クレジットレポートを検索	顧客のクレジット履歴を提供する JSON 応答を提供します。
	要求 ID で OneView クレジットレポートを検索	顧客のクレジット履歴の PDF レポートを提供します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「Equifax スポークの設定」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Equifax スポークの設定

基本認証または OAuth 2.0 認証を使用して ServiceNow インスタンスと Equifax スポークを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Equifax スポークを有効化します。
- 依存プラグインが有効になっていることを確認します。
- 必要なロール：admin

OAuth プロバイダーとして**Equifax**を登録

アプリケーションの構成中に生成された情報を使用し、Equifax を OAuth プロバイダーとして登録します。OAuth プロバイダー登録により、ServiceNow インスタンスは OAuth 2.0 トークンを要求できるようになります。

始める前に

- 必要なロール：admin
- サードパーティ Equifax アプリケーションの構成から生成されたクライアント ID とクライアントシークレット

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. [新規] を選択します。
   「どのような `OAuth` アプリケーションですか？」というメッセージが表示されます。
3. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`Equifax OAuth`」と入力します。
クライアント ID	Equifax アカウントの構成中に作成された <クライアント ID>。
クライアントシークレット	Equifax アカウントの構成中に作成された <クライアントシークレット>。
認証 URL	OAuth サーバーの認証コードのフローエンドポイントです。認証コード権限許可タイプにのみ必要です。
トークン URL	OAuth サーバーのトークンエンドポイントです。たとえば、「`xxx.equifax.com`」です。
トークン失効 URL	OAuth サーバートークン失効エンドポイントです。
リダイレクト URL	形式 `https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` での OAuth コールバックエンドポイント
OAuth API スクリプト	要求と応答をカスタマイズするスクリプト。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ロゴ URL	アプリケーションロゴとして使用するイメージを含む URL です。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可タイプです。[クライアント認証情報] を選択します。
リフレッシュトークンの有効期間	リフレッシュトークンが有効になる時間 (秒) デフォルトの時間は 1430 秒です。
PKCE が必要	パブリッククライアントが認証に PKCE を要求できるようにするオプション。 注: **PKCE** が有効になっている場合、[デフォルトの権限許可タイプ] として使用できるのは [認証コード] のみです。
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープです。
アクセス可能	このレジストリにアクセスできるアプリケーションスコープです。
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプションです。
相互認証を有効にします	トークンの要求と取り消しに相互認証を使用するオプション。このオプションでは、相互認証プロファイルを指定する必要があります。
認証情報の送信	アプリケーションとその許可されたユーザーを識別する認証情報を OAuth サーバーに送信するかどうか、または送信する方法のオプション。[要求本文内 **(In Request Body)**]を選択します。

5. フォームヘッダーで、[送信] を選択します。

Equifax スポークの OAuth 2.0 認証情報レコードの作成

Equifax アカウントの構成時に作成した Equifax カスタム OAuth アプリケーションの認証情報レコードを作成します。Equifax スポーク接続および資格情報エイリアスでは、Equifax アプリケーションでこうした認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] を選択します。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
   ポップアップウィンドウに、空の OAuth 2.0 認証情報フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`Equifax OAuth2.0 API` 認証情報」と入力します。
アクティブ	有効化

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
OAuth エンティティ プロファイル	カスタム*Equifax*アプリケーションを OAuth プロバイダーとして登録したときに作成した OAuth プロファイルを選択します。たとえば、*Equifax***[OAuth** デフォルトプロファイル **(OAuth default profile)]** を選択します。
適用先	この認証情報を使用できる MID サーバーを選択します。たとえば、[すべての **MID** サーバー] を選択します。
順番	この認証情報を適用する順番を選択します。たとえば、「`100`」と入力します。

5. [送信] を選択します。
6. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの取得] 関連リンクを選択します。

Equifaxスポークの接続レコードの作成

提供された認証情報エイリアスを使用して、Equifax アプリケーションの接続レコードを作成します。Equifax アカウントの構成時に作成した Equifax カスタム OAuth アプリケーションの認証情報レコードを選択する必要があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. エイリアスレコード、たとえば、*Equifax***[.]** を開きます。
3. [接続] タブから、[新規] を選択します。
4. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「*Equifax*接続」。
認証情報	*Equifax* 用に作成された基本認証または OAuth 2.0 認証情報レコード。たとえば、「*Equifax* `OAuth2.0 API` 認証情報」。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。たとえば、「`sn_equifax_spoke.Equifax`」。
接続 URL	*Equifax*に接続するためのベース URL です。
アクティブ	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。

5. [送信] を選択します。

Equifax OAuth トークンを取得

Equifax アクセストークンを生成します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. Equifax スポーク OAuth 認証情報レコードを選択します。

   Example
   たとえば、**[Equifax OAuth2.0** 認証情報 **(Equifax OAuth2.0 Credentials)]** を選択します。
3. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] を選択します。

F5 BIG-IP スポーク

F5 BIG-IP システムでサーバーとプールを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブ サブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

BIG-IP 13.1.0

スポークバージョン

F5 BIG-IP スポークv1.1.2 が最新バージョンです。

スポークのフロー

F5 BIG-IP スポークでは、F5 タスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
F5 Big-IP を使用したローカルトラフィック管理	仮想サーバーを作成してプールに関連付け、ServiceNow サービスカタログ要求から BIG-IP システムにプールメンバーを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのサブフロー

F5 BIG-IP スポークでは、F5 タスクの自動化をデモするためのサンプルサブフローが提供されます。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

フロー	説明
F5 Server：プール管理	BIG-IP システムにプールを作成して管理します。

スポークのアクション

F5 BIG-IP スポークでは、ServiceNow でイベントが発生したときに F5 タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
プール管理	プールを作成	BIG-IP システムにプールを作成します。
	プールメンバーを追加	BIG-IP システムにプールメンバーを作成します。
	プールを確認	BIG-IP システムでプール健全性をチェックします。プールが利用可能か、利用不可か、オフラインか、またはステータスが不明かどうかを返します。
	プールを削除	BIG-IP システムからプールを削除します。
	プールメンバーを無効化	BIG-IP システムでプールメンバーを無効化します。
	プールメンバーを有効化	BIG-IP システムで指定されたプールのプールメンバーを有効にします。
	プールメンバーを取得	BIG-IP システムから指定されたプールのメンバーのリストを取得します。
	プールメンバーを削除	BIG-IP システムでプールメンバーを削除します。
サーバー管理	プロファイルを仮想サーバーに追加	BIG-IP システムで仮想サーバーにプロファイルを追加します。プロファイルによってネットワークトラフィックを制御できます。たとえば、仮想サーバーへの HTTP 接続を有効にすることができます
	仮想サーバーの作成	BIG-IP システムに仮想サーバーを作成します。
	仮想サーバーを削除	BIG-IP システムから仮想サーバーを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	仮想サーバーを更新	BIG-IP システムで仮想サーバー属性を更新します。

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

AI エージェント	説明
F5 BIG-IP プール管理 AI エージェント	BIG-IP システムのプールを管理します (プールメンバーの追加、プールメンバーの取得、プールメンバーの無効化、プールメンバーの削除、プールの作成、プールの削除、プールの検証を行います)。
F5 BIG-IP サーバー管理 AI エージェント	BIG-IP システムのサーバーを管理します (仮想サーバーへのプロファイルの追加、仮想サーバーの削除、仮想サーバーの更新、仮想サーバーの作成を行います)。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークでは次のエイリアスレコードを使用してアクションを許可します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアス	説明	接続エイリアスの要件
F5_BIG_IP	F5 BIG-IP システムへの接続。	• 接続タイプ：HTTP • 接続 URL：F5 サーバーがインストールされているホストマシンの URL。

スポーク接続エイリアスを使用するには、関連付けられた接続レコードと関連付けられた認証情報レコードを作成します。スポークの設定については、「 F5 BIG-IP スポーク の接続の構成。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはMID サーバーで実行できます。これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しは MID サーバー で実行できます。 詳細については「 MID サーバー 」を参照してください。

F5 BIG-IP スポーク の接続の構成

ベーシック認証を使用して ServiceNow インスタンスと F5 をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- F5 BIG-IP スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

手順

1. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブをクリックします。
3. **[F5_BIG_IP]** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
4. [編集] をクリックします。
5. [接続] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	F5 BIG-IP 接続エイリアスレコードを識別するための名前。
接続 URL	F5 BIG-IP サーバーがインストールされているホストマシンの URL。
ユーザー名	F5 BIG-IP ユーザー名。
パスワード	F5 BIG-IP ユーザー名。

6. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

First Advantage スポーク

ServiceNow インスタンスから First Advantage を使用して、候補のバックグラウンド検証を管理および追跡します。ServiceNow インスタンスから First Advantage のユーザー、アカウント、候補、招待、および注文を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

First Advantage スポーク v1.7.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは First Advantage API バージョン v1.1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- First Advantage アカウント
- API キー

  注: API キーを取得するには、First Advantage チームにお問い合わせください。

- アカウント ID

  注: アカウント ID を取得するには、First Advantage チームにお問い合わせください。

スポークのフロー

First Advantage スポークでは、First Advantageタスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
First Advantage：招待を使用した候補のバックグラウンド検証 (First Advantage - Candidate Background Verification using Invite)	招待を使用して、候補のバックグラウンドチェックを開始します。応募を完了するための要求を候補に送信します。ケースの作成方法の詳細については、「ServiceNow から First Advantage でのケースの作成」を参照してください。
First Advantage：注文を使用した候補のバックグラウンド検証 (First Advantage - Candidate Background Verification using Order)	注文を使用して、候補のバックグラウンドチェックを開始します。 注文レコードが作成され、重要な詳細を提供するための要求が候補に送信されます。 ケースの作成方法の詳細については、「ServiceNow から First Advantage でのケースの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー	説明
First Advantage：(注文者) 注文を使用した候補のバックグラウンド検証 (First Advantage - (Order As) Candidate Background Verification using Order)	必要なユーザーの代わりに注文を使用して注文し、候補のバックグラウンドチェックを開始します。
First Advantage：(注文者) 招待を使用した候補のバックグラウンド検証 (First Advantage - (Order As) Candidate Background Verification using Invite)	必要なユーザーの代わりに招待を使用して注文し、候補のバックグラウンドチェックを開始します。

スポークのサブフロー

First Advantage スポークでは、First Advantage タスクの自動化をデモするためのサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは、[パッケージの取得] です。このサブフローは First Advantage でパッケージを取得し、[パッケージ] テーブルに詳細を保存します。

スポークのアクション

First Advantage スポークは、ServiceNow でイベントが発生したときにアカウント、候補、招待、注文、およびユーザーを管理するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アカウント管理	アカウントの詳細を取得	First Advantage アカウントの詳細を取得します。
	アカウントパッケージを取得	アカウント内のすべてのパッケージの詳細を取得します。
	アカウントプロファイルを取得	アカウント内のすべてのプロファイルの詳細を取得します。
	アカウントユーザーを取得	アカウントのすべてのユーザーの詳細を取得します。
候補管理	新しい候補を作成	バックグラウンド検証用の候補プロファイルを作成します。
	候補 ID で候補を取得	必要な候補の詳細を取得します。
	特定の候補のドキュメントを取得	必要な候補に関連付けられているドキュメントを取得します。
	特定の候補の監視製品の詳細を取得	必要な候補の監視製品の詳細を取得します。
	候補の詳細を更新	候補プロファイルの詳細を更新します。
招待管理	招待を作成	候補に応募書類への入力を促す招待を作成します。
	応募者 ID で招待ステータスを取得	必要な応募者の招待の最新ステータスを取得します。
	アプリケーション ID で招待ビューリンクを取得	候補者が完了する必要があるプロファイルにアクセスするための安全なリンクを取得します。
注文管理	オーダーを作成	First Advantage のスクリーニングオーダーを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	注文 ID で注文レポートを取得	必要な注文の完了した注文レポートを取得します。
	注文 ID で注文ステータスを取得	必要な注文の最新の注文ステータスを取得します。
ユーザー管理	ユーザーを有効化	必要なユーザーを有効化します。
	ユーザーを作成	ユーザープロファイルを作成します。
	ユーザーの非アクティブ化	必要なユーザーを非アクティブ化します。
	ユーザーパスワードを更新	必要なユーザーのパスワードを更新します。
	ユーザープロファイルを更新	必要なユーザーのプロファイルの情報を更新します。

スポークモジュール

First Advantage スポーク は、 First Advantage スポーク モジュールを ServiceNow インスタンスに追加します。 First Advantage スポーク は、 First Advantage ケース、タスク、従業員タスク、注文タスク、およびパッケージに関する情報を同期して保存します。

First Advantage スポークには、次のモジュールが含まれています。

モジュール	説明
アカウント	First Advantage で利用可能なすべてのアカウントの詳細を表示できます。アカウントの詳細を表示するには、スポークを設定してアカウントを同期する必要があります。
FADV Webhook クライアントの詳細	First Advantage Webhook クライアントにキーを指定して、First Advantage Webhook を設定できます。
新しい First Advantage のケースの作成	ServiceNow から招待または注文を使用して、必要な候補のバックグラウンドチェックを開始できます。
First Advantage のケース	招待と注文を使用して作成されたすべての First Advantage ケースのリストを表示できます。
パッケージ	First Advantage で利用可能なすべてのパッケージの詳細を表示できます。パッケージの詳細を表示するには、スポークを設定してパッケージを同期する必要があります。
オーダータスク	すべての First Advantage 注文レコードリストを表示できます。
従業員タスク	招待を使用して作成されたすべての First Advantage ケースのリストを表示できます。

First Advantage スポーク には次のテーブルが含まれます。

- First Advantage タスク [sn_fadv_spoke_first_adventage_task]
- First Advantage 従業員タスク [sn_fadv_spoke_first_advantage_employee_task_table]
- パッケージ [sn_fadv_spoke_packages]
- FADV Webhook クライアントの詳細 [sn_fadv_spoke_webhook_client_details]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明
First Advantage タスク	すべての First Advantage 注文レコードの詳細。
First Advantage 従業員タスク	すべての First Advantage 招待レコードの詳細。
パッケージ	ServiceNow® と同期される First Advantage パッケージ。
FADV Webhook クライアントの詳細	First Advantage Webhook を設定するためのクライアントの詳細。

スポークユーザーロール

- First Advantage admin
- First Advantage user

First Advantage admin ロールを持つユーザーのみが、**[FADV Webhook クライアントの詳細 (FADV Webhook Client Details)]** モジュールを表示できます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 First Advantage スポークのセットアップ。

First Advantage スポークのセットアップ

API キーを使用して ServiceNow インスタンスと First Advantage アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- First Advantage スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

First Advantage スポーク の接続レコードの作成

接続レコードを作成して、ServiceNow インスタンスと First Advantage サーバーを統合します。ServiceNow インスタンスは、この接続レコードを使用して First Advantage スポークアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin。

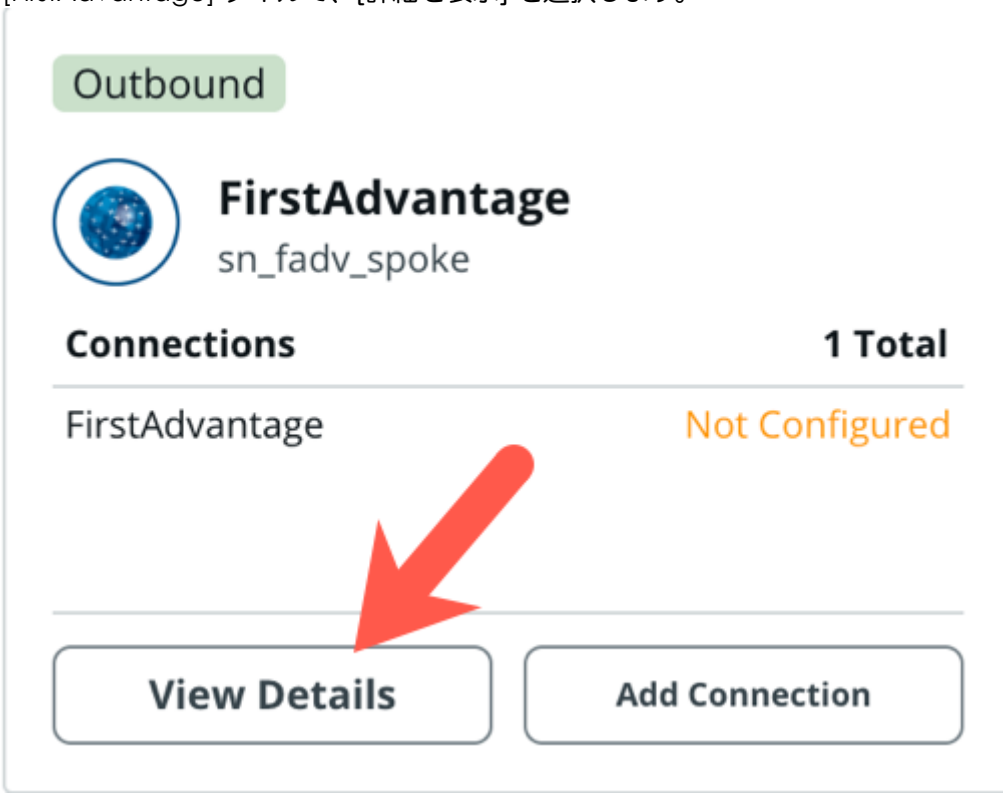
First Advantage サーバーから API キーを取得します。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [接続] タブを選択します。
4. [すべての接続を検索] フィールドに「`First Advantage`」と入力します。
   [送信] タブが選択されていることを確認します。
5. [FirstAdvantage] タイルで、[詳細を表示] を選択します。

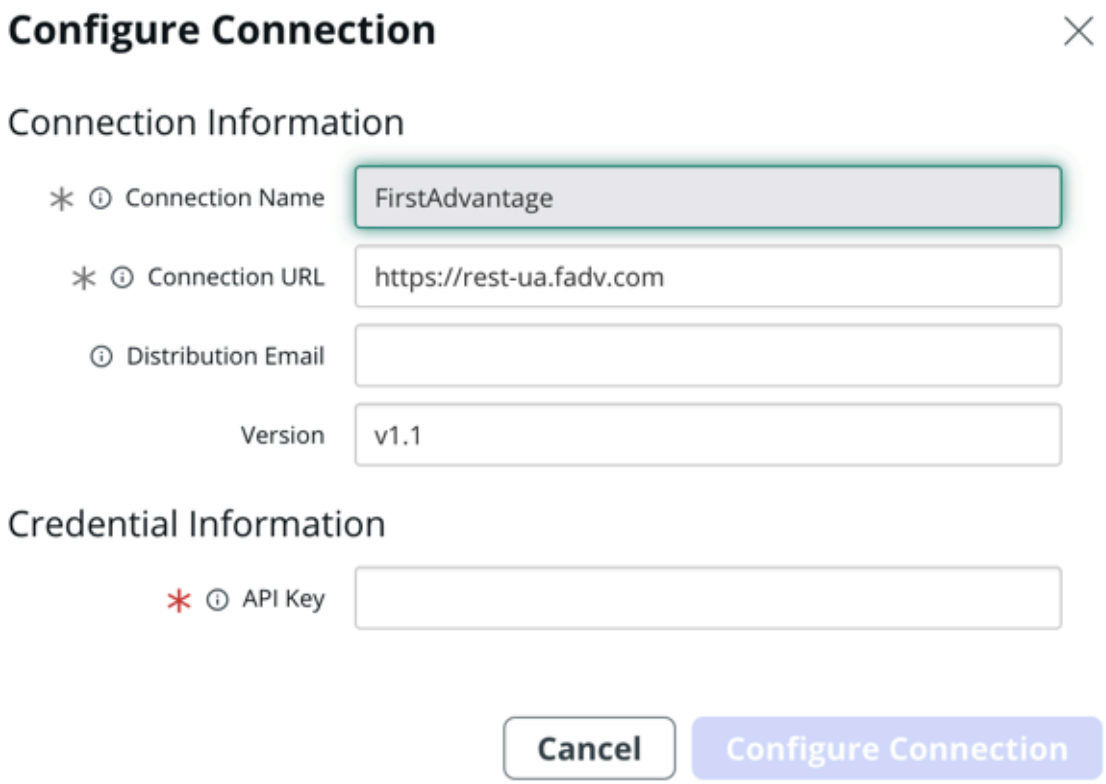


6. [構成 **(Configure)**] を選択します。
7. フォームに入力します。

First Advantage スポーク接続フォーム

フィールド	説明
接続名	接続の名前。最初のレコードのデフォルトの読み取り専用名は、接続エイリアスのものと同じです。接続レコードを作成するときに、[接続を追加] をクリックして別の名前を指定することができます。
接続 URL	First Advantage サーバーへの接続 URL を指定するオプション。URL は https://rest-ua.fadv.com です。
配布メール	配布メール ID を指定するオプション。
バージョン	API のバージョンを指定するオプション。
API キー	First Advantage サーバーがアクセス要求を認証するために使用する API キーを入力するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. [接続を設定] を選択します。
   これで接続レコードが設定されます。

ServiceNow インスタンスでの First Advantage 状況の作成

ServiceNow インスタンスの [状況] リストに表示する First Advantage 状況を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

ドラフト、準備完了、および処理中の状況の作成

タスク [task] テーブルでドラフト、準備完了、および処理中の状況を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. フィルターナビゲーターで、「`sys_choice.list`」と入力します。
   選択 [sys_choice] テーブルのレコードが表示されます。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームでこれらの値を入力し、ドラフト状況のレコードを 3 つ作成します。

レコード 1：ドラフト状況

フィールド	値
テーブル	タスク [task]
要素	state

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
ラベル	ドラフト
値	137

注:

- ここに記載されているとおりに、[値] フィールドに正確な数値を入力してください。これらの数値に変更がある場合、スポークフローはトリガーされません。
- レコードがグローバルアプリケーションで作成されていることを確認します。

4. [送信] をクリックします。
5. 同様に、準備完了状況処理中状況のレコードを作成します。

レコード 2：準備完了ステータス

フィールド	値
テーブル	タスク [task]
要素	state
ラベル	準備完了
値	173

レコード 3：処理中ステータス

フィールド	値
テーブル	タスク [task]
要素	state
ラベル	処理中
値	181

注:

- ここに記載されているとおりに、[値] フィールドに正確な数値を入力してください。これらの数値に変更がある場合、スポークフローはトリガーされません。
- レコードがグローバルアプリケーションで作成されていることを確認します。

タスクの結果
タスク [task] テーブルでドラフト、準備完了、および処理中の状況が作成されます。

完了状況とキャンセル状況の作成

First Advantage タスク [sn_fadv_spoke_first_adventage_task] テーブルに完了状況とキャンセル状況を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[First Advantage** スポーク] > [オーダータスク]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: レコードが **First Advantage** アプリケーションで作成されていることを確認します。

3. [ステータス] を右クリックし、[選択を設定] を選択します。
4. [キャンセル] ステータスを作成するには、次の手順を実行します。

   a. [新しいアイテムのテキスト] に「`キャンセル`」と入力します。

   b. [数値] に「`149`」と入力します。

      注: ここに記載されているとおりに、[数値] フィールドに正確な数を入力してください。これらの数値に変更がある場合、スポークフローはトリガーされません。

   c. [追加] をクリックします。

   d. [保存] をクリックします。

5. [完了] ステータスを作成するには、次の手順を実行します。

   a. [新しいアイテムのテキスト] に「`完了`」と入力します。

   b. [数値] に「`127`」と入力します。

      注: ここに記載されているとおりに、[数値] フィールドに正確な数を入力してください。これらの数値に変更がある場合、スポークフローはトリガーされません。

   c. [追加] をクリックします。

   d. [保存] をクリックします。

タスクの結果
First Advantage タスク [sn_fadv_spoke_first_advantage_task] テーブルに完了状況とキャンセル状況が作成されます。

完了：成功状況および完了：交渉決裂状況の作成

First Advantage 従業員タスク [sn_fadv_spoke_first_advantage_employee_task_table] テーブルに完了：成功状況および完了：交渉決裂状況を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > **[First Advantage** スポーク] > [従業員タスク]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   注: レコードが **First Advantage** アプリケーションで作成されていることを確認します。

3. [ステータス] を右クリックし、[選択を設定] を選択します。
4. [キャンセル] ステータスを作成するには、次の手順を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [新しいアイテムのテキスト] に「完了：成功」と入力します。

b. [数値] に「161」と入力します。

> 注: ここに記載されているとおりに、[数値] フィールドに正確な数を入力してください。これらの数値に変更がある場合、スポークフローはトリガーされません。

c. [追加] をクリックします。

d. [保存] をクリックします。

5. [完了] ステータスを作成するには、次の手順を実行します。

a. [新しいアイテムのテキスト] に「完了：交渉決裂」と入力します。

b. [数値] に「117」と入力します。

> 注: ここに記載されているとおりに、[数値] フィールドに正確な数を入力してください。これらの数値に変更がある場合、スポークフローはトリガーされません。

c. [追加] をクリックします。

d. [保存] をクリックします。

タスクの結果

First Advantage 従業員タスク [sn_fadv_spoke_first_advantage_employee_task_table] テーブルに完了：成功状況および完了：交渉決裂状況が作成されます。

First Advantage Webhook のセットアップ

Webhook を設定して、ServiceNow インスタンスで招待および注文イベントの更新を受信します。

始める前に

必要なロール：admin

ServiceNow インスタンスの署名キーの指定

First Advantage Webhook クライアントにキーを指定して、First Advantage Webhook を設定します。

始める前に

- 要件に従って安全なキーを生成し、その値を記録します。たとえば、base64 でエンコードされたキーなどです。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[First Advantage** スポーク] > **[FADV Webhook** クライアントの詳細]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。
認証キー	要件に従って生成したキー。

4. [送信] をクリックします。

アクセス **API** エンドポイント

招待イベントと注文イベントの API エンドポイントにアクセスし、必要な詳細を First Advantage と共有して Webhook を設定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [システム **Web** サービス] > [スクリプト化された **REST API**]に移動します。
2. First Advantage スポークのレコードを開きます (例：**First Advantage Webhook**)。
3. [リソース] タブで、次を実行します。
   a. 招待イベントのレコードを開きます (例：招待ステータス)。
   b. [リソースパス] に入力されたパスをコピーして記録します (例：`/api/sn_fadv_spoke/fadv/invite_status`)。
   c. 注文イベントのレコードを開きます (例：注文ステータス)。
   d. [リソースパス] に入力されたパスをコピーして記録します (例：`/api/sn_fadv_spoke/fadv/order_status`)。

次のタスク
First Advantage に連絡して、ServiceNow インスタンスの Webhook を設定します。このために、次の詳細を First Advantage と共有します。

- 次の形式のカスタムヘッダー：`fadvKey <authorization-key>`

  注:
  - カスタムヘッダーがこの形式のみであることを確認します。変更がある場合、スポークフローはトリガーされません。
  - 以前に **[First Advantage** スポーク] > **[FADV Webhook** クライアントの詳細] で指定したものと同じキーを入力します。
  - ここでの説明と同じケースの `fadvKey` を使用します。

- 次の形式の招待イベントの API エンドポイント：`<ServiceNow-instance-URL>/api/sn_fadv_spoke/fadv/invite_status`
- 次の形式の注文イベントの API エンドポイント：`<ServiceNow-instance-URL>/api/sn_fadv_spoke/fadv/order_status`

First Advantage アカウントおよびパッケージと **ServiceNow** との同期

First Advantage アカウントとパッケージを ServiceNow と同期して、First Advantage アカウントとパッケージの詳細を保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：First Advantage admin

手順

1. [すべて] > **[First Advantage** スポーク] > [アカウント]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、次の値を入力します。

アカウントフォーム

フィールド	説明
プライマリアカウント	アカウントがプライマリアカウントであることを指定するオプション。チェックボックスをオンにします。
アカウント ID	プライマリアカウントの ID。
アカウント名	プライマリアカウントの名前。

4. [送信] をクリックします。
   プライマリアカウントが作成され、レコードが表示されます。
5. **[First Advantage** スポーク] > [アカウント] に移動します。
6. [アカウントを取得] 関連リストをクリックします。
7. **[First Advantage** スポーク] > [パッケージ] に移動します。
8. [パッケージの取得] 関連リンクをクリックします。

タスクの結果
First Advantage アカウントとパッケージの詳細が取得されます。

注: FADV admin ロールを持つユーザーのみが、アカウントとパッケージの詳細を同期できます。FADV user ロールを持つユーザーは、取得した詳細のみを表示できます。

ServiceNow から **First Advantage** でのケースの作成

ServiceNow から招待または注文を使用して、必要な候補のバックグラウンドチェックを開始します。

始める前に

- First Advantage スポークのセットアップ
- First Advantage アカウントおよびパッケージと ServiceNow との同期
- ユーザー [sys_user] テーブルでユーザーを作成します。バックグラウンドチェックは、これらのユーザーに対してのみ実行できます。
- 必要なロール：First Advantage admin または First Advantage user

手順

1. [すべて] > **[First Advantage** スポーク] > [新しい **First Advantage** のケースの作成]に移動します。
   First Advantage ケースの詳細を入力するフォームが表示されます。
2. フォームに、次の値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
配布メールを使用して First Advantage から招待メールを取得 (Use Distribution Email for getting invite email from First Advantage)	配布メールのすべてのユーザーに招待メールを送信するオプション。
ユーザーを選択	ユーザー [sys_user] テーブルのユーザー。
名	選択したユーザーの名。この値は、[ユーザーを選択] で選択したユーザーに基づいて自動入力されます。
姓	選択したユーザーの姓。 この値は、[ユーザーを選択] で選択したユーザーに基づいて自動入力されます。
メール	選択したユーザーのメールアドレス。 この値は、[ユーザーを選択] で選択したユーザーに基づいて自動入力されます。
アカウントの選択	バックグラウンドチェックを実行する First Advantage アカウント。
パッケージを選択	バックグラウンドチェックを実行する First Advantage パッケージ。
簡単な説明	バックグラウンドチェックに関する簡単な説明。
エージェント名	バックグラウンドチェックを実行するエージェント。
招待リンクの送信	招待メールを送信するオプション。選択すると、応募書類を完了するための要求が招待メールで候補に送信されます。 このオプションが選択されていない場合、注文メールがユーザーに送信されます。注文レコードが作成され、重要な詳細を提供するための要求が候補に送信されます。 **注:** ◦ [招待リンクの送信] オプションを選択すると、候補者が応募書類フォームに入力した後にのみ注文が作成されます。 ◦ [招待リンクの送信] オプションが選択されていない場合、注文はすぐに作成されます。 イベントの更新には、ServiceNow インスタンスでアクセスできます。
「注文者」を使用	必要なユーザーに代わって注文するオプション。
メール (注文者)	必要なユーザーのメール ID。このフィールドは [「注文者」を使用] チェックボックスが選択されている場合にのみ使用可能です。
アカウント ID (注文者)	必要なユーザーのアカウント ID。 このフィールドは [「注文者」を使用] チェックボックスが選択されている場合にのみ使用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ユーザー ID (注文者)	必要なユーザーのユーザー ID。 このフィールドは [「注文者」を使用] チェックボックスが選択されている場合にのみ使用可能です。

3. [送信] をクリックします。
   First Advantage タスクは、[ステータス] が [ドラフト] として ServiceNow インスタンスに作成されます。ケースにアクセスするには、**[First Advantage** スポーク] > **[First Advantage** のケース] に移動します。

招待を使用した **ServiceNow** から **First Advantage** でのバックグラウンド検証の開始

応募書類を完了するための要求を招待メールで送信して、必要な候補のバックグラウンド検証を開始します。

始める前に

- ServiceNow から First Advantage でのケースの作成

  注: [招待リンクの送信] オプションが選択され、[「注文者」を使用] オプションが選択されていないことを確認します。

- 必要なロール：First Advantage admin または First Advantage user

手順

1. [すべて] > **[First Advantage** スポーク] > **[First Advantage** のケース]に移動します。
2. 必要なタスクを検索します。
3. [招待リンクの送信] オプションが選択され、[「注文者」を使用] オプションが選択されていないことを確認します。
4. タスクの [ステータス]を [ドラフト] から [準備完了] に変更します。
   - 招待フローを使用した First Advantage：候補のバックグラウンド検証がトリガーされます。
   - [ステータス] が [処理中] に変更されます。
   - [従業員タスク] タブで、レコードが作成され、[番号]、[招待 **ID]** などの詳細が入力されます。レコードを開いて、[招待 **URL]**、[候補 **ID]** などの詳細にアクセスします。また、リアルタイムの更新もここに表示されます。

     注: [従業員タスク] タブには、ユーザーに対して作成されたすべての招待レコードが表示されます。

   - [注文履歴] タブで、レコードが作成され、[番号]、[簡単な説明] などの詳細が入力されます。

     注: [注文履歴] タブには、ユーザーに対して作成されたすべての注文レコードが表示されます。

   - リアルタイム更新とシステムアドミニストレーターイベントが [注文の詳細 **(Order Details)]** タブに表示されます。

     注: [注文 **ID]** は、招待が正常に実行された後にのみ入力されます。たとえば、候補者が応募書類フォームの入力を拒否した場合、[注文 **ID]** は入力されません。

   - 招待メールが候補者に送信されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果

招待メールにアクセスした後、候補者は応募書類フォームに入力するか、拒否することができます。候補者が応募書類フォームに入力して送信した場合、First Advantage はバックグラウンド検証の実行後にタスクを承認、キャンセル、または却下します。

- ステータスおよびその他すべての詳細にリアルタイムでアクセスするには、**[First Advantage** スポーク] > [従業員タスク] に移動します。
- ゲストイベントは、それぞれの First Advantage 従業員タスクレコードに表示されます。

注:

- ゲストイベントの更新を受信するには、Webhook を設定する必要があります。Webhook の設定方法の詳細については、「First Advantage Webhook のセットアップ」を参照してください。
- 候補者がバックグラウンド検証の要求を拒否した場合、タスクの注文レコードは作成されません。

注文を使用した **ServiceNow** から **First Advantage** でのバックグラウンド検証の開始

必須の情報を要求するメールを送信して、必要な候補のバックグラウンド検証を開始します。

始める前に

- ServiceNow から First Advantage でのケースの作成

  注: [招待リンクの送信] と [「注文者」を使用] オプションが選択されていないことを確認します。

- 必要なロール：First Advantage admin または First Advantage user

このタスクについて

First Advantage に候補に関するすべての基本情報があり、一部の重要な機密情報のみが必要な場合に注文が開始されます。

手順

1. [すべて] > **[First Advantage** スポーク] > **[First Advantage** のケース]に移動します。
2. 必要なタスクを検索します。
3. [招待リンクの送信] と [「注文者」を使用] オプションが選択されていないことを確認します。
4. タスクの [ステータス]を [ドラフト] から [準備完了] に変更します。
   - 注文フローを使用した First Advantage：候補のバックグラウンド検証がトリガーされます。
   - [ステータス] が [処理中] に変更されます。
   - [注文履歴] タブで、レコードが作成され、[注文 **ID]**、[番号]、[簡単な説明] などの詳細が入力されます。
   - リアルタイム更新とシステムアドミニストレーターイベントが [注文の詳細 **(Order Details)]** タブに表示されます。

     注: [注文履歴] タブには、ユーザーに対して作成されたすべての注文レコードが表示されます。

   - 注文メールが候補に送信されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
機密情報のみを要求するメールが候補に送信されます。リアルタイムの更新とゲストイベントが [注文の詳細 **(Order Details)]** タブに表示されます。First Advantage は、バックグラウンド検証の実行後にタスクを承認、キャンセル、または却下します。

> **注:** ゲストイベントの更新を受信するには、Webhook を設定する必要があります。Webhook の設定方法の詳細については、「First Advantage Webhook のセットアップ」を参照してください。

別のユーザーの代わりに招待を使用した **ServiceNow** から **First Advantage** でのバックグラウンド検証の開始

別のユーザーの代わりに応募書類を完了するための要求を招待メールで送信して、必要な候補のバックグラウンド検証を開始します。

始める前に

- ServiceNow から First Advantage でのケースの作成

  > **注:** [招待リンクの送信] と [「注文者」を使用] オプションが選択されていることを確認します。

- 必要なロール：First Advantage admin または First Advantage user

手順

1. [すべて] > **[First Advantage** スポーク] > **[First Advantage** のケース]に移動します。
2. 必要なタスクを検索します。
3. [招待リンクの送信] と [「注文者」を使用] オプションが選択されていることを確認します。
4. タスクの [ステータス]を [ドラフト] から [準備完了] に変更します。
   - 招待フローを使用した First Advantage：候補のバックグラウンド検証がトリガーされます。
   - [ステータス] が [処理中] に変更されます。
   - [従業員タスク] タブで、レコードが作成され、[番号]、[招待 **ID]** などの詳細が入力されます。レコードを開いて、[招待 **URL]**、[候補 **ID]** などの詳細にアクセスします。また、リアルタイムの更新もここに表示されます。

     > **注:** [従業員タスク] タブには、ユーザーに対して作成されたすべての招待レコードが表示されます。

   - [注文履歴] タブで、レコードが作成され、[番号]、[簡単な説明] などの詳細が入力されます。

     > **注:** [注文履歴] タブには、ユーザーに対して作成されたすべての注文レコードが表示されます。

   - リアルタイム更新とシステムアドミニストレーターイベントが [注文の詳細 **(Order Details)]** タブに表示されます。

     > **注:** [注文 **ID]** は、招待が正常に実行された後にのみ入力されます。たとえば、候補者が応募書類フォームの入力を拒否した場合、[注文 **ID]** は入力されません。

   - 招待メールが候補者に送信されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
招待メールにアクセスした後、候補者は応募書類フォームに入力するか、拒否することができます。候補者が応募書類フォームに入力して送信した場合、First Advantage はバックグラウンド検証の実行後にタスクを承認、キャンセル、または却下します。

- ステータスおよびその他すべての詳細にリアルタイムでアクセスするには、**[First Advantage** スポーク] > [従業員タスク] に移動します。
- ゲストイベントは、それぞれの First Advantage 従業員タスクレコードに表示されます。

注:

- ゲストイベントの更新を受信するには、Webhook を設定する必要があります。Webhook の設定方法の詳細については、「First Advantage Webhook のセットアップ」を参照してください。
- 候補者がバックグラウンド検証の要求を拒否した場合、タスクの注文レコードは作成されません。

注文を使用した **ServiceNow** から **First Advantage** でのバックグラウンド検証の開始

必要なユーザーの代わりに必須の情報を要求するメールを送信して、必要な候補のバックグラウンド検証を開始します。

始める前に

- ServiceNow から First Advantage でのケースの作成

  注: [招待リンクの送信] オプションが選択されていないことと、[「注文者」を使用] オプションが選択されていることを確認します。

- 必要なロール：First Advantage admin または First Advantage user

このタスクについて

First Advantage に候補に関するすべての基本情報があり、一部の重要な機密情報のみが必要な場合に注文が開始されます。

手順

1. [すべて] > **[First Advantage** スポーク] > **[First Advantage** のケース]に移動します。
2. 必要なタスクを検索します。
3. [招待リンクの送信] オプションが選択されていないことと、[「注文者」を使用] オプションが選択されていることを確認します。
4. タスクの [ステータス]を [ドラフト] から [準備完了] に変更します。
   - 注文フローを使用した First Advantage：候補のバックグラウンド検証がトリガーされます。
   - [ステータス] が [処理中] に変更されます。
   - [注文履歴] タブで、レコードが作成され、[注文 **ID]**、[番号]、[簡単な説明] などの詳細が入力されます。
   - リアルタイム更新とシステムアドミニストレーターイベントが [注文の詳細 **(Order Details)]** タブに表示されます。

     注: [注文履歴] タブには、ユーザーに対して作成されたすべての注文レコードが表示されます。

   - 注文メールが候補に送信されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
機密情報のみを要求するメールが候補に送信されます。リアルタイムの更新とゲストイベントが [注文の詳細 **(Order Details)]** タブに表示されます。First Advantage は、バックグラウンド検証の実行後にタスクを承認、キャンセル、または却下します。

> **注:** ゲストイベントの更新を受信するには、Webhook を設定する必要があります。Webhook の設定方法の詳細については、「First Advantage Webhook のセットアップ」を参照してください。

FRISS スポーク

ServiceNow インスタンスを FRISS アカウントと統合し、不正検出機能を活用し、請求プロセスの初期段階で不正を検出します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークは FRISS API バージョン v 2.0 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

主な機能

FRISS スポークを使用すると、フローデザイナーは次のことを実行できます。

- 請求の FRISS API と統合して、FRISS によって返されたスコアを適切な請求データオブジェクトに保存します。
- 請求ケースを管理しながら不正を検出します。
- 請求プロセスのさまざまなステージで、請求データのリアルタイムスコアを取得します。
- ポートフォリオ監視にユーザーインターフェイスを使用します。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

> **注:**
>
> - これらのプラグインの一部は、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。
> - フローアクションの入力パラメーターが用意されています。アレイとオブジェクトで使用されるサンプルの入力データ構造とデータタイプの詳細については、「複合データ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

FRISS スポークでは、ServiceNow インスタンス内で発生するイベントに応答して FRISS Trust の自動化をトリガーするアクションが提供されます。これらのアクションは、不正請求管理カテゴリに分類されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

アクション	説明
請求 ID で履歴ストリームを検索	請求 ID ですべてのスクリーニング結果を取得します。
スクリーニング ID で不正インジケータースコアを検索	スクリーニング ID によって識別された請求について、FRISS によって計算された不正スコアを取得します。
スクリーニング ID を検索	請求の FRISS スコアを計算する要求を送信し、スクリーニング ID と呼ばれる一意の ID を返します。
請求 ID で履歴を削除	請求 ID に関連付けられているスクリーニングを削除します。
スクリーニング ID で履歴を削除	FRISS によるスクリーニングの識別子でスクリーニングを削除します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

FRISS スポークの設定の詳細については、「FRISS スポークの設定」を参照してください。

FRISS スポークの設定

API キーおよびテナント ID を使用して ServiceNow インスタンスと FRISS アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- FRISS スポークをアクティブ化します。
- FRISS サポートチームに連絡し、FRISS アカウントに接続するための接続 URL を取得します。
- 必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスで FRISS スポークの認証情報レコードを作成します。

   a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

   b. [新規] を選択します。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

   c. **[API** キー認証情報] を選択します。
   空の [API キー認証情報] フォームが表示されます。

   d. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

API キー認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを識別する名前。たとえば、「`FRISS スポーク認証情報`」と入力します。
アクティブ	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
API キー	FRISS トークンの形式 ： `<Value of ID+key>`。
適用先	このスポークには適用されないオプションです。
順序	この認証情報を適用する順番。たとえば、「`100`」と入力します。

e. [送信] を選択します。

2. ServiceNow インスタンスで FRISS スポークの接続レコードを作成します。

a. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. FRISSレコードを開きます。

c. [接続] タブから、[新規] を選択します。
空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。

d. フォーム上で、以下のフィールドに記入します。

HTTP(S) 接続フォーム

フィールド	説明
名前	接続レコードを識別する名前です。たとえば、「`FRISS`」と入力します。
認証情報	FRISS 用に作成された認証情報レコードです。たとえば、**[FRISS** スポーク認証情報] を選択します。
接続 URL	FRISS アカウントに接続するための接続 URL。
属性	FRISS API に対して認証できる後続のコールです。コールを認証するには、次の 2 つのパラメーターを使用します。 ▪ **tenant_id**：FRISS ID で定義されているテナントの識別子。この識別子は FRISS から提供されます。 ▪ **api_version**：前の要求で FRISS ID から取得した API バージョンキーです。 **注:** この API バージョンキーは有効期限が短いため、期限切れになるたびに新しいキーを生成する必要があります。

e. [送信] を選択します。

GitHub スポーク

ServiceNow インスタンスから、 GitHub で分散バージョン制御とソースコードを管理します。ServiceNow でフローを作成して、GitHub にあるプロジェクトのバグ、機能要求、タスク等の

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

追跡などの共同機能を管理します。GitHub Enterprise Cloud と GitHub Enterprise Server ソフトウェアサブスクリプションの役に立つ使用状況データを表示および分析することで、古いライセンスを再利用できるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

GitHub スポーク v3.1.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは GitHub API バージョン v3 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- GitHub アカウント
- アドミン認証情報を持つユーザー
- ServiceNow インスタンスを認証するためのトークン

GitHub アカウントの作成およびトークンの生成手順については、GitHub のドキュメント を参照してください。

GitHub Webhook モジュール

双方向 Webhook をセットアップして、必須イベントに関する通知を受けることができます。ルーティングポリシーでは、ServiceNow アプリに通知するために満たすべき条件を定義します。こうした条件は、通知の受信を希望する GitHub のイベントに基づいています。条件が満たされると、ルーティングポリシーが関連するサブフローをトリガーし、GitHub タスクを自動化します。

双方向 Webhook には別途セットアップが必要で、スポークアクションを使用しないで単独で使用できます。デフォルトでは、**GitHub** Webhook アプリケーションが GitHub スポークで利用可能で、次のモジュールがあります。

- GitHub Webhook レジストリ
- GitHub Webhook ルーティングポリシー

GitHub Webhook レジストリモジュールを使用してトークンを割り当て、API パスを指定します。コールバック URL を生成し、この URL を GitHub アカウントに入力する必要があります。デフォルトのルーティングポリシーは、GitHub WebHook ルーティングポリシーモジュールで提供されます。デフォルトのルーティングポリシーは、次の GitHub フィールドをサポートしています。

サポートされている **GitHub** フィールド		
アクション	プロジェクトカードの作成者	参照

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされている GitHub フィールド		
ベース参照	プロジェクトカードのメモ	参照タイプ
コミットのコメント本文	プロジェクトカードの前のメモ	リリース資産
コミットのコメント作成日	プロジェクトカードの更新日	リリース作成者
コミットのコメントのパス	プロジェクト列の作成日	リリース本文
コミットのコメント更新日	プロジェクト列名	リリース作成日
コミットのコメントのユーザー	プロジェクト列の前の名前	リリースドラフト
プッシュを強制	プロジェクト列の更新日	リリース名
GitHub インスタンス URL	プロジェクトの作成日	リリース公開日
問題の担当者	プロジェクト名	リリースタグ名
問題のアサイニー	プロジェクトの前の本文	リリースターゲットのコミット
問題の本文	プロジェクトの前の名前	アーカイブ化済みリポジトリ
問題のクローズ日	プロジェクトのステータス	リポジトリの作成日
問題のコメント	プロジェクトの更新日	リポジトリの説明
問題のコメント数	プル要求の担当者	リポジトリが非アクティブ
問題コメントの作成日	プル要求のアサイニー	リポジトリのフルネーム
問題コメントの更新日	プル要求の本文	リポジトリに問題があります
問題の作成日	プル要求のクローズ日	リポジトリにプロジェクトがあります
問題のラベル付け先	プル要求のコメント数	リポジトリのインポートステータス
問題ラベル	プル要求の作成日	リポジトリライセンス
ロックされた問題	プル要求ドラフト	リポジトリのオープンな問題の数
問題のマイルストーン	プル要求のラベル付け先	リポジトリオーナー
問題の前の本文	プル要求ラベル	リポジトリプライベート
問題の前のコメント	ロックされたプル要求	リポジトリプッシュ日
問題の前のマイルストーン	結合可能なプル要求	リポジトリの星印付け日
問題の前のタイトル	結合済みプル要求	リポジトリ更新日
問題の前の担当者	プル要求の結合日	リポジトリ脆弱性アラートの影響を受ける範囲
問題の前のラベル付け先	プル要求マイルストーン	リポジトリ脆弱性アラートの外部識別子
問題ステータス	プル要求の前の本文	修正済みのリポジトリ脆弱性アラート
問題のタイトル	プル要求の前のタイトル	リポジトリ脆弱性アラートパッケージ名
問題更新日	プル要求の前の担当者	セキュリティアドバイザリーの説明

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされている GitHub フィールド		
問題のユーザー	プル要求の前のラベル付け先	セキュリティアドバイザリー ID
マイルストーンのクローズ日	リベース可能なプル要求	セキュリティアドバイザリーのプッシュ日
マイルストーン作成日	プル要求レビューの本文	セキュリティアドバイザリーの重大度
マイルストーン作成者	プル要求レビューのコメント	セキュリティアドバイザリーサマリー
マイルストーンの説明	プル要求レビューのコメント数	セキュリティアドバイザリーの更新日
マイルストーン期日	プル要求レビューのコメント作成日	セキュリティアドバイザリーの取り消し日
マイルストーンステータス	プル要求レビューコメントのファイルパス	送信者ログイン
マイルストーンタイトル	プル要求レビューコメントの前のコメント	ステータスコミットメッセージ
マイルストーン更新日	プル要求レビューのコメント更新日	ステータスコンテキスト
組織の説明	プル要求レビューの前の本文	ステータス作成日
組織ログイン	プル要求レビューステータス	ステータスの説明
プレリリース	プル要求ステータス	ステータス名
プロジェクト本文	プル要求タイトル	ステータス状態
アーカイブ化済みプロジェクトカード	プル要求の更新日	ステータス更新日
プロジェクトカードの作成日	プル要求ユーザー	Webhook イベント

ルーティングポリシーの他の条件を使用するには、GitHub WebHook ルーティングポリシーモジュールにルーティングポリシーを作成し、要件に従って条件を指定します。Webhook の設定と構成の詳細については、「GitHub スポーク用の双方向 Webhook の設定」を参照してください。

スポークのトリガー

ServiceNow は、トリガーを作成する、GitHub 上の特定のイベントをサポートしています。最初に、サポートされているトリガー定義を含むフローを構成する必要があります。GitHub でイベント (プッシュ要求など) が発生すると、Webhook を介して ServiceNow インスタンスにペイロードが送信されます。その後、ワークフローを自動化するために構成したフローが ServiceNow インスタンスでトリガーされます。サポートされているイベントは次のとおりです。

カテゴリ	トリガー	説明
分岐管理	分岐作成	GitHub で分岐を作成すると、フローがトリガーされます。
リポジトリ管理	プル要求オープン	GitHub で新しいプル要求を開始すると、フローがトリガーされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	トリガー	説明
	プル要求編集	GitHub でプル要求を更新すると、フローがトリガーされます。
	プル要求クローズ	GitHub でプル要求をクローズすると、フローがトリガーされます。
	プル要求アサイン	GitHub でユーザーにプル要求をアサインすると、フローがトリガーされます。
	プル要求再オープン	GitHub でプル要求を再オープンすると、フローがトリガーされます。
	リポジトリフォーク	GitHub でリポジトリをフォークすると、フローがトリガーされます。
	リポジトリプッシュ	GitHub でリポジトリにプッシュすると、フローがトリガーされます。
リリース管理	リリース作成	GitHub でリリースの詳細が作成されると、フローがトリガーされます。
	リリース編集	GitHub でリリースの詳細が更新されると、フローがトリガーされます。
	リリース削除	GitHub でリリースが削除されると、フローがトリガーされます。
	リリース公開	GitHub でリリースが公開されると、フローがトリガーされます。

GitHub スポークのトリガーの設定については、「ServiceNow インスタンスでのトリガー定義のアクティブ化」を参照してください。インバウンド統合の詳細については、「条件付きおよびイベント駆動型のインバウンド統合」を参照してください。

スポークのサブフロー

GitHub スポークでは、さまざまな GitHub Webhook イベントを処理するためのサンプルサブフローが提供されます。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

スポークのサブフロー

サブフロー	説明	サポートされている **GitHub** イベント
GitHub 分岐とタグ Webhook イベントを処理 (Process GitHub Branch and Tag Webhook Events)	分岐とタグ Webhook イベントを処理します。	分岐とタグ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのサブフロー (続く)

サブフロー	説明	サポートされている **GitHub** イベント
GitHub コミット Webhook イベントを処理 (Process GitHub Commit Webhook Events)	コミット Webhook イベントを処理します。	コミット
GitHub 問題 Webhook イベントを処理 (Process GitHub Issue Webhook Events)	問題 Webhook イベントを処理します。	問題
GitHub マイルストーン Webhook イベントを処理 (Process GitHub Milestone Webhook Events)	マイルストーン Webhook イベントを処理します。	マイルストーン
GitHub プロジェクト Webhook イベントを処理 (Process GitHub Project Webhook Events)	プロジェクト Webhook イベントを処理します。	プロジェクト
GitHub プル要求 Webhook イベントを処理 (Process GitHub Pull Request Webhook Events)	プル要求 Webhook イベントを処理します。	プル要求
GitHub プッシュ Webhook イベントを処理 (Process GitHub Push Webhook Events)	プッシュ要求 Webhook イベントを処理します。	プッシュ要求
GitHub リリース Webhook イベントを処理 (Process GitHub Release Webhook Events)	リリース Webhook イベントを処理します。	リリース
GitHub リポジトリ Webhook イベントを処理 (Process GitHub Repository Webhook Events)	リポジトリ Webhook イベントを処理します。	リポジトリ
GitHub セキュリティ Webhook イベントを処理 (Process GitHub Security Webhook Events)	セキュリティ Webhook イベントを処理します。	セキュリティ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのサブフロー (続く)

サブフロー	説明	サポートされている **GitHub** イベント
GitHub Webhook イベントを処理 (Process GitHub Webhook Events)	すべての GitHub Webhook イベントを処理します。	**注:** このサブフローは、すべての GitHub イベントを処理します。このサブフローをカスタマイズして、デフォルトでサポートされていない他の GitHub Webhook イベントを処理することができます。

他の GitHub Webhook イベントを処理するサブフローを作成するか、サポートされている GitHub Webhook イベントを異なる方法で処理するには、[GitHub Webhook イベントを処理 (Process GitHub Webhook Events)] サブフローをカスタマイズします。これを行うには、サブフローのコピーを作成し、ペイロードを解析して、要件に従ってサブフローをカスタマイズする必要があります。ペイロードは、サブフローへの入力の 1 つです。

サブフローをカスタマイズするときは、サブフローが無限ループを回避するように構成されていることを確認する必要があります。

注:

- スポークサブフローを使用するように Webhook を設定する必要があります。Webhook の設定と構成の詳細については、「GitHub スポーク用の双方向 Webhook の設定」を参照してください。
- デフォルトで、サンプルサブフローはユーザーとして実行されます。これをシステムとして実行するように設定できます。
- GitHub スポークはアプリケーション/json ペイロードをサポートしています。GitHub Webhook を適宜設定します。Webhook の作成および設定手順については、GitHub 開発者 ドキュメントを参照してください。

スポークのアクション

GitHub スポークは、ServiceNow で イベントが発生したときに、分岐、問題、リポジトリ、およびソースコードを管理するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
分岐管理	分岐を作成	特定のコミット SHA に基づいて GitHub に分岐を作成します。
	分岐を削除	GitHub リポジトリから分岐を削除します。
	分岐を取得	GitHub リポジトリ内の分岐の詳細を取得します。
	分岐の保護を取得	必要な分岐の制限の詳細を取得します。
	分岐をリスト	リポジトリ内のすべての分岐のリストを取得します。
	分岐の保護を削除	必要な分岐の保護を削除します。
	分岐の保護を更新	必要な分岐の保護を更新します。
問題管理	問題のコメントを作成	必要な問題に関するコメントを作成します。
	問題を作成	必要なリポジトリの問題を作成します。
	問題のコメントを削除	必要な問題に関するコメントを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	問題をロック	必要な問題をロックします。これにより、会話は協力者のみに制限されます。
	問題に関するコメントを検索	問題に関するコメントのリストを取得します。
	問題を検索	リポジトリの問題のリストを取得します。
	問題のロックを解除	必要な問題のロックを解除します。これにより、すべてのユーザーに対して会話が開かれます。
	問題のコメントを更新	問題のコメントを更新します。
	問題を更新	必要な問題の詳細を更新します。
メタデータの取得	アクションでフィールドを検索	GitHub フィールドテーブル内のアクションフィルターに関するフィールドのリストを取得します。
	分岐メタデータを検索	分岐のメタデータを取得します。
	問題のメタデータを検索	問題のメタデータを取得します。
	マイルストーンメタデータを検索	マイルストーンのメタデータを取得します。
	プル要求メタデータを検索	プル要求のメタデータを取得します。
組織管理	組織の計画を取得	組織の計画名を取得します。
	組織メンバーのリスト	組織内のすべてのメンバーのリストを取得します。
	組織リポジトリをリスト	組織内のすべてのリポジトリのリストを取得します。
	組織メンバーを削除	組織からユーザーを削除します。
	組織のイベントストリームを検索	指定された過去の日付に基づいて、組織内のイベントのリストを取得します。
	組織の外部協力者ストリームを検索	組織内の外部協力者のリストを取得します。
	組織の外部協力者を削除	組織から外部協力者を削除します。
	組織の処理待ち外部協力者ストリームを検索	リポジトリ内の処理待ちの協力者のリストを取得します。
	組織の招待ストリームを検索	組織内の招待のリストを取得します。
リポジトリ管理	協力者を追加	必要なリポジトリに協力者を追加します。
	プル要求に関するコメントを作成	プル要求に関するレビューコメントを作成します。
	マイルストーンを作成	必要なリポジトリのマイルストーンを作成します。
	プル要求を作成	リポジトリのプル要求を作成します。
	プル要求レビューのコメントに対する返信を作成	プル要求のレビューコメントに対する返信を作成します。
	リポジトリを作成	GitHub にリポジトリを作成します。
	プル要求に関するコメントを削除	プル要求のレビューコメントを削除します。
	マイルストーンを削除	必要なリポジトリからマイルストーンを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	プル要求のコメントをリスト	プル要求のすべてのレビューコメントのリストを取得します。
	マイルストーンをリスト	リポジトリ内のすべてのマイルストーンのリストを取得します。
	リポジトリイベントをリスト	リポジトリ全体のイベントのリストを取得します。
	プル要求を検索	リポジトリのプル要求の詳細を取得します
	リポジトリを検索	特定のユーザーまたは組織に基づいてリポジトリの詳細を取得します。
	プル要求を結合	プル要求をリポジトリに結合します。
	協力者を削除	リポジトリから協力者を削除します。
	プル要求に関するコメントを更新	プル要求に提供されたレビューコメントを更新します。
	マイルストーンを更新	リポジトリ内のマイルストーンの詳細を更新します。
	プル要求を更新	リポジトリ内のプル要求の詳細を更新します。
	リポジトリを更新	GitHub でリポジトリの詳細を更新します。
ソースコード管理	コミット時にコメントを作成	SHA を使用して、要求されたコミットのコメントを作成します。
	ファイルを作成または更新	ファイルを作成するか、リポジトリ内の既存のファイルを更新します。
	コミット ID でコメントを取得	単一のコミットに提供されたコメントを取得します。
	ID でコミット情報を取得	要求されたコミット参照の内容を取得します。
	ファイルコンテンツを取得	リポジトリ内のファイルのコンテンツを取得します。 **注:** このアクションは、最大 1 MB のファイルサイズのファイルをサポートします。
	リポジトリ上のコミットをリスト	リポジトリで行われたすべてのコミットの詳細を取得します。
ユーザー管理	エンタープライズサーバーのすべてのユーザーを取得	すべての GitHub エンタープライズサーバーのユーザーのリストを取得します。
	認証ユーザーの組織をリスト	ログインしているユーザーがメンバーとなっている組織のリストを取得します。
	ユーザーを一時停止	GitHub ユーザーアカウントを一時停止します。
	認証ユーザーを検索	認証されたユーザーに関する情報を取得します。

スポークモジュール

GitHub スポークは、次のモジュールを ServiceNow インスタンスに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
GitHub 所有者	作成した GitHub 所有者レコードを表示します。
GitHub リポジトリ	GitHub 所有者に関連付けられた GitHub リポジトリの詳細を表示します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 GitHub スポークの設定。

GitHub スポークの設定

ServiceNow インスタンスを GitHub と GitHub の Enterprise Server と統合してフローを自動化し、GitHub と GitHub Enterprise Server でアクションを実行します。たとえば、GitHub に分岐を作成し、その詳細を取得するフローを作成します。

https://player.vimeo.com/video/958553772?badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

始める前に

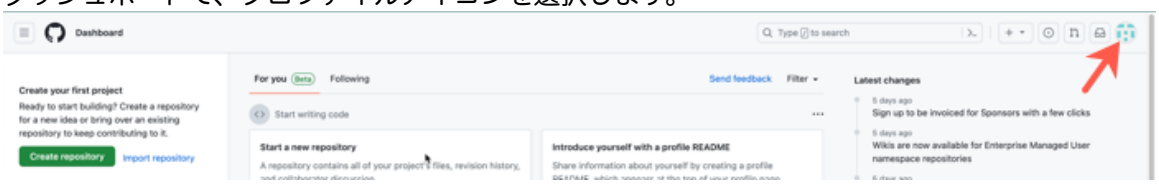
- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- GitHub スポークを有効化します。
- 個人アクセストークンを作成するための GitHub を持つアカウント。
- GitHub Enterprise サーバーを使用している場合は、個人用アクセストークンを作成するためのアカウント。
- 必要なロール：admin

手順

1. GitHub アカウントで個人アクセストークンを生成します。

   a. https://github.com/ にログインします。

   b. ダッシュボードで、プロファイルアイコンを選択します。



   c. [設定] を選択します。

   d. [設定] ページの左側のパネルで、[開発者設定 **(Developer settings)]** を選択します。

   e. [開発者設定 (Developer settings)] ページの左側のパネルで、[個人アクセストークン] > [トークン (クラシック)]に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. [新しいトークンの生成] > [新しいトークンの生成 (クラシック)]を選択します。

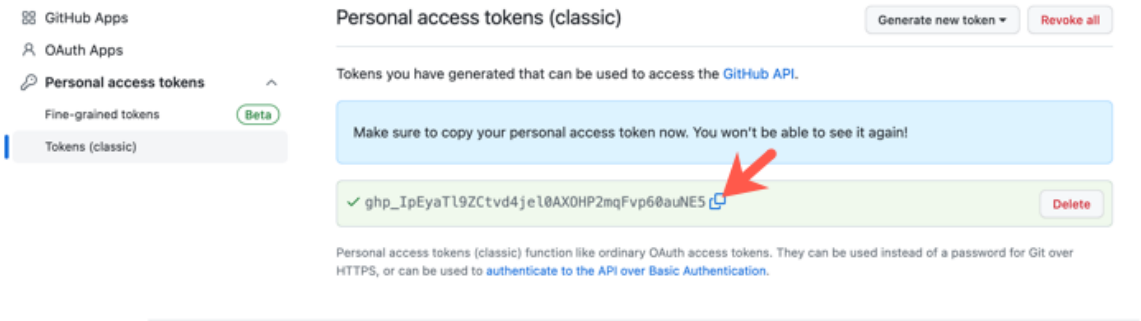
g. [メモ] に、個人用アクセストークンの説明または目的を入力します。

h. [有効期限] で、トークンの有効期限を設定するか、[有効期限なし] を選択します。

i. [スコープの選択] 見出しで、生成する個人用アクセストークンのアクセスを定義するスコープを選択します。

j. [トークンの生成] を選択します。
個人アクセストークンが生成されます。

k. 個人アクセストークンをコピーするには、[コピー] ボタンをクリックします。



重要: 個人アクセストークンは安全な場所に保管してください。GitHub の接続レコードを作成するときに必要になります。

2. GitHub で ServiceNow インスタンスを接続する接続レコードを構成します。

a. ServiceNow にログインします。

b. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。

c. [統合] タブをクリックします。

d. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。

e. **GitHub** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
スポークを初めて設定する場合は、[設定] をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

f. フォームで、詳細を入力します。

接続の設定フォーム

フィールド	説明
接続名	接続の名前。 **注:** 最初の接続レコードのデフォルトの読み取り専用名は、**GitHub** です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続 URL	GitHub に接続するための URL。「https://api.github.com」を入力します。
MID サーバーを使用	▪ 使用している ServiceNow インスタンスが GitHub との接続に MID サーバーを必要とする場合は、「1」を入力します。 ▪ 使用している ServiceNow インスタンスが GitHub との接続に MID サーバーを必要としない場合は、「0」を入力します。 **重要:** このオプションを有効にするには、インスタンスに MID サーバーが設定されている必要があります。詳細な手順については、「MID サーバー」を参照してください。
API キー	GitHub で生成した個人アクセストークン。

g. [接続を作成] を選択します。
GitHub 接続レコードが作成されます。

3. GitHub Enterprise Server を使用している場合は、**GitHub Server** 接続を構成します。

重要: GitHub Enterprise Server で個人アクセストークンを生成します。

GitHub Enterprise Server で個人アクセストークンを生成する方法については、「GitHub Enterprise Server との統合」を参照してください。

a. GitHub サーバー接続カードを選択します。

b. [詳細を表示] を選択します。

c. フォームに入力します。

接続の設定フォーム

フィールド	説明
接続名	接続の名前です。 **注:** 最初の接続レコードのデフォルトの読み取り専用名は、GitHub Server です。カスタム名で接続を作成するには、[接続を追加] を選択してフォームに入力します。
接続 URL	GitHub インスタンスの URL
MID サーバーを使用	▪ 使用している ServiceNow インスタンスが GitHub Enterprise Server との接続に MID サーバーを必要とする場合は、「1」を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	▪ 使用している ServiceNow インスタンスが GitHub Enterprise Server との接続に MID サーバーを必要としない場合は、「0」を入力します。 **重要:** このオプションを有効にするには、インスタンスに MID サーバーが設定されている必要があります。詳細な手順については、「MID サーバー」を参照してください。
API キー	GitHub Enterprise Server で生成した個人アクセストークン。

d. [接続を作成] を選択します。
GitHub Enterprise Server 接続レコードが構成されます。

GitHub スポーク用の双方向 Webhook の設定

ServiceNow コールバック URL で GitHub を登録する Webhook を構成します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- GitHub スポーク を有効にします。
- 必要なロール：admin

ServiceNow への GitHub Webhook の登録

ServiceNow に GitHub を登録して、GitHub でイベントが発生したときに ServiceNow アプリに通知します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[GitHub Webhook]** > **[GitHub Webhook** レジストリ]に移動します。

2. [新規] をクリックします。

3. フォームのフィールドに入力します。

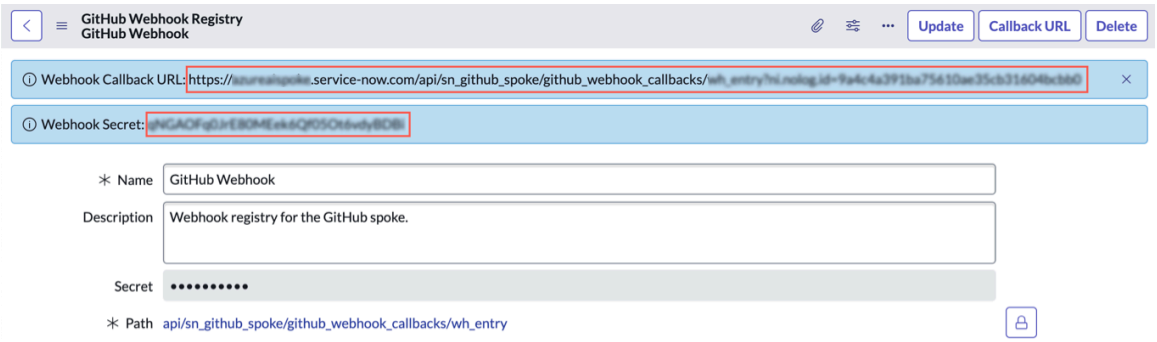
GitHub Webhook レジストリフォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前。例：「GitHub Webhook」。
説明	レコードの説明。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

5. [コールバック **URL]** をクリックします。
[Webhook コールバック **URL]** と **[Webhook** シークレット] が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. **[Webhook** コールバック **URL]** と**[Webhook** シークレット] の値をコピーして記録します。

タスクの結果
GitHubWebhook がServiceNowインスタンスに登録されます。

GitHub へのコールバック **URL** の追加

GitHub アカウントに Webhook コールバック URL を入力して、Webhook を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. GitHub アカウントにログインします。
2. Atlassian アカウント に Webhook を作成します。
3. [ペイロード **URL (Payload URL)]** に Webhook コールバック URL を、[シークレット] に シークレットを入力します。

   Webhook の作成および設定手順については、GitHub 開発者 ドキュメントを参照してください。

   > **注:** GitHub スポークはアプリケーション/json ペイロードをサポートしています。GitHub Webhook を適宜設定します。Webhook の作成および設定手順については、GitHub 開発者 ドキュメントを参照してください。

タスクの結果
コールバック URL が GitHub アカウントに追加されます。要件に応じてルーティングポリシーとサブフローを作成できます。新しいルーティングポリシーとサブフローの作成方法の詳細については、「双方向 Webhook をカスタマイズ」を参照してください。

GitHub スポークでの双方向 **Webhook** のカスタマイズ

GitHub スポークでの要件に応じて、Webhook ルーティングポリシーとサブフローを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
[GitHub WebHook ルーティングポリシー] モジュールのデフォルトのルーティングポリシーは、関連する GitHub サブフローをトリガーし、GitHub で特定のイベントが発生すると ServiceNow アプリに通知します。デフォルトのルーティングポリシーがサポートする GitHub フィールドと、サブフローがサポートする GitHub イベントの詳細については、「GitHub スポーク」を参照してください。カスタムサブフローで他のフィールドを使用し、ルーティングポリシーの条件をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [フローデザイナー] > [デザイナー] に移動します
2. [サブフロー] をクリックします。
3. 必要なサブフローのコピーを作成します。
4. 要件に応じて必要なサブフローをカスタマイズし、公開します。
   サブフローを作成および使用する方法の詳細については、「サブフローのビルド」を、またデフォルトのルーティングポリシーがサポートする GitHub フィールドおよびサブフローがサポートする GitHubイベントの詳細については、「GitHub スポーク」を参照してください。
5. **[GitHub Webhook]** > **[GitHub Webhook** ルーティングポリシー] に移動します。
6. [新規] をクリックします。
7. フォームのフィールドに入力します。

意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。
デフォルトの回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。 **a.** 検索アイコンをクリックします。 **b.** ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。 注: [テーブル名] がフロー `[sys_hub_flow]` であることを確認します。
条件	GitHubで必須イベントが発生したときに満たされるべき条件です。サポートされているフィールドの詳細については、GitHub スポークを参照してください。
回答	指定された条件が満たされるとトリガーされるサブフローです。

8. [送信] をクリックします。

注: これらのルーティングポリシーは意思決定テーブルに保存されます。ユーザーは、これらのテーブルのデータを直接更新または変更しないように注意してください。

タスクの結果
ルーティングポリシーとサブフローが作成されます。

GitHub スポークのトリガーの設定

ServiceNow インスタンスでシークレットとコールバック URL を生成するトリガーを設定します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- GitHub スポークをアクティブ化して設定します。
- 必要なロール：admin

ServiceNow インスタンスでのトリガー定義のアクティブ化

ServiceNow インスタンスでシークレットとコールバック URL を生成するトリガー定義をアクティブ化します。

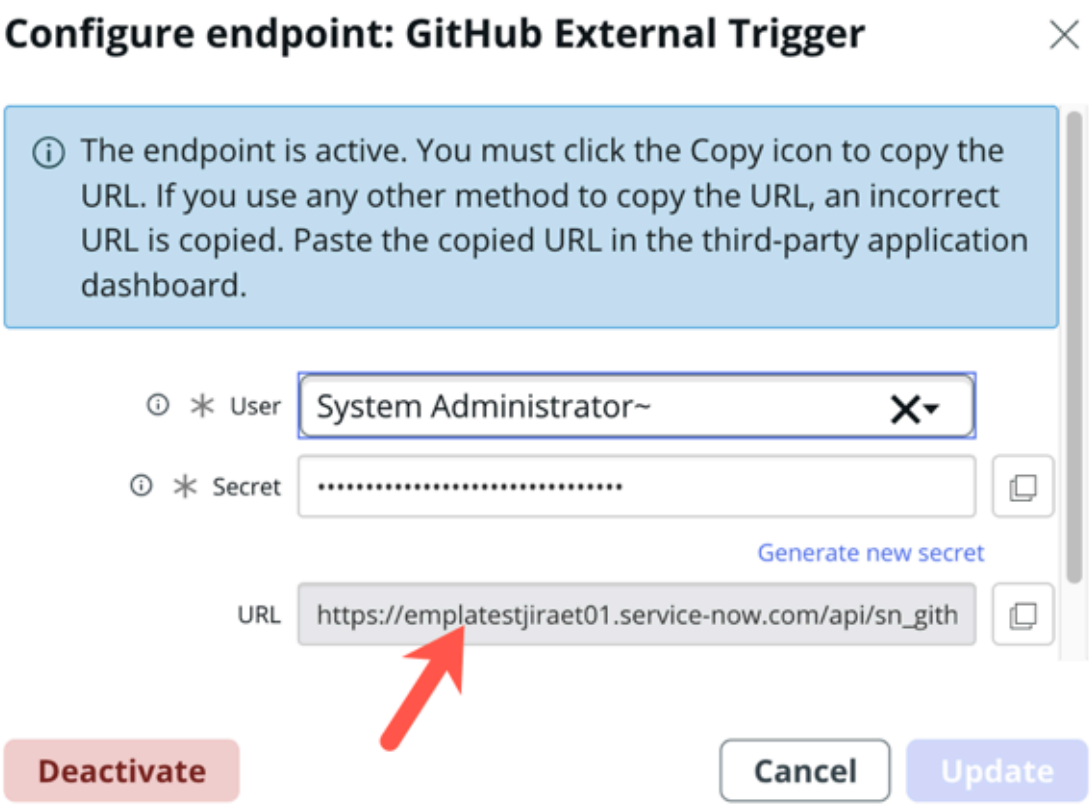
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：flow_designer および connection_admin

このタスクについて
GitHub では、シークレットとコールバック URL を使用して、ペイロードを ServiceNow インスタンスに安全に送信します。ServiceNow インスタンスは、GitHub が送信するシークレットを検証し、ペイロードを受け入れます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ]に移動します。
2. [統合] タブを選択します。
3. [受信] タブを切り替えて有効にします。
4. GitHub スポークカードを検索し、[詳細を表示] を選択します。
5. [構成] を選択します。
6. [ユーザー] フィールドで、代わりに受信セッションまたはフローをトリガーするユーザー名を選択します。
7. [シークレットの生成] を選択して、シークレットを生成します。
   シークレットは、Webhook のペイロードに署名するために使用されます。GitHub でシークレットを構成する必要があります。
   シークレットは [シークレット] フィールドで生成されます。
8. [アクティブ化] を選択します。
   コールバック URL が [URL] フィールドに生成されます。



9. ウィンドウを閉じます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
GitHub でのシークレットとコールバック URL の構成

GitHub でのシークレットとコールバック URL の構成

シークレットとコールバック URL を設定して、GitHub で ServiceNow インスタンスに Webhook を安全に送信できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. GitHub にログインします。
2. 対象のリポジトリに移動します。
3. [設定] を選択します。
4. 左側のパネルで **[Webhooks]** を選択します。
5. **[Webhook を追加 (Add Webhook)]** を選択します。
6. フォームに入力します。

Webhook トリガー

フィールド	説明
ペイロード URL *	GitHub から Webhook 経由でペイロードを送信するために使用するペイロード URL を GitHub に提供するオプション。 トリガーのアクティブ化中に生成した URL を入力します。「ServiceNow インスタンスでのトリガー定義のアクティブ化」を参照してください。
コンテンツタイプ *	ペイロードのコンテンツ形式を選択するオプション。 **[application/json]** を選択します。
シークレット	GitHub から Webhook を受信したときに ServiceNow で検証するシークレットを指定するオプション。 トリガーのアクティブ化中に生成したシークレットを入力します。「ServiceNow インスタンスでのトリガー定義のアクティブ化」を参照してください。
この Webhook をトリガーするイベント (Which events would you like to trigger this webhook?)	Webhook をトリガーするイベントを指定するオプション。次のオプションから選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ Just the push event (プッシュイベントのみ)：GitHub でプッシュイベントが発生した場合に Webhook をトリガーします。 ◦ Send me everything (すべてを送信)：イベントが発生するたびに Webhook をトリガーします。 ◦ Let me select individual events (個別のイベントを選択)：イベントを指定した場合に Webhook がトリガーされます。

7. **[Webhook を追加 (Add Webhook)]** を選択します。

GitLab スポーク

ServiceNow インスタンスから、GitLab で DevOps ライフサイクルを管理します。ServiceNow でフローを作成して、GitLab でブランチ、グループ、問題、結合要求、プロジェクト、ソースコードを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

GitLab スポーク v2.2.0 が最新バージョンです。

互換バージョン

このスポークは GitLab API バージョン v4 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- GitLab アカウント
- ServiceNow とデータ連携するように構成された GitLab のアプリケーション
- GitLab アプリケーションのアプリケーション **ID** とシークレット

アプリケーションを作成および構成する方法については、https://docs.gitlab.com/ee/integration/oauth_provider.html のドキュメントを参照してください。

スポークのアクション

GitLab スポーク は、ServiceNow でイベントが発生したときに GitLab タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
分岐管理	分岐、タグ、またはコミットを比較	分岐、タグ、またはコミットを比較します。
	分岐を作成	必要なプロジェクトに分岐を作成します。
	分岐を削除	プロジェクトから必要な分岐を削除します。
	結合された分岐を削除	プロジェクトから必要な結合分岐を削除します。
	分岐を検索	必要な分岐の詳細を取得します。
	分岐ストリームを検索	プロジェクト内の分岐のリストと分岐の詳細を取得します。
	分岐を保護	アクセスレベルを使用してプロジェクト内の分岐を保護します。
	分岐の保護を解除	アクセスレベルを使用したプロジェクト内の分岐の保護を解除します。
グループ管理	グループにユーザーを追加	GitLab グループにユーザーを追加します。
	グループからユーザーを削除	GitLab グループからユーザーを削除します。
イシュー管理	問題を作成	必要なプロジェクトに問題を作成します。
	問題メモを作成	必要な問題に関する問題メモを作成します。
	問題のメモを削除	必要な問題に関する問題メモを削除します。
	問題メモストリームを検索	問題のすべての問題メモを取得します。
	問題ストリームを検索	問題のリストと問題の詳細を取得します。
	問題を更新	必要な問題の詳細を更新します。
	問題メモを更新	プロジェクト内の問題メモを更新します。
結合要求管理	結合要求を承認	GitLab で結合要求を承認します。
	結合要求を作成	GitLab で結合要求を作成します。
	結合要求メモを作成	必要な結合要求のメモを作成します。
	結合要求メモを削除	必要な結合要求のメモを削除します。
	すべての結合要求ストリームを検索	プロジェクト内の結合要求のリストを取得します。
	結合要求メモを検索	プロジェクト内の結合要求メモのリストを取得します。
	結合要求を更新	必要な結合要求の詳細を更新します。
	結合要求メモを更新	必要な結合要求メモの詳細を更新します。
パッケージ管理	パッケージファイルを削除	プロジェクトパッケージレジストリからパッケージファイルを削除します。
	プロジェクトパッケージを削除	プロジェクトパッケージレジストリからパッケージを削除します。
	レジストリリポジトリを削除	プロジェクトからレジストリリポジトリを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	レジストリリポジトリタグを削除	プロジェクトからレジストリリポジトリタグを一括削除します。
	レジストリの詳細を検索	指定されたプロジェクトのレジストリリポジトリの詳細を取得します。
	パッケージのファイルストリームを検索	単一のパッケージのパッケージファイルのリストを取得します。
	グループストリーム内でパッケージを検索	プロジェクトパッケージのリストとパッケージの詳細をグループレベルで取得します。
	プロジェクトストリーム内でパッケージを検索	プロジェクトパッケージのリストとパッケージの詳細を取得します。
	プロジェクトパッケージを検索	指定されたプロジェクトの指定されたパッケージの詳細を取得します。
	レジストリリポジトリを検索	指定されたプロジェクトのレジストリリポジトリのリストを取得します。
パイプライン管理	プロジェクトのパイプラインを ID で検索	指定されたプロジェクトの指定されたパイプラインの詳細を取得します。
	プロジェクトのパイプラインのジョブストリームを検索	プロジェクトのパイプライン内のジョブのリストを取得します。
	プロジェクトのパイプラインテストレポートを検索	指定されたプロジェクトの指定されたパイプラインのテストレポートを取得します。
	プロジェクトのパイプラインストリームを検索	プロジェクト内のパイプラインのリストを取得します。
プロジェクトハッシュ管理	プロジェクトフックを作成	フックをプロジェクトに作成します。
	プロジェクトフックを削除	プロジェクトからフックを削除します。
	プロジェクトフックを検索	プロジェクト内の指定されたフックの詳細を取得します。
	プロジェクトフックを検索	プロジェクト内のすべてのフックの詳細を取得します。
	プロジェクトフックを更新	指定されたプロジェクトのフックの詳細を更新します。
プロジェクト管理 (PM)	プロジェクトにユーザーを追加	GitLab でプロジェクトにユーザーを追加します。
	プロジェクトをアーカイブ	GitLab でプロジェクトをアーカイブします。
	マイルストーンを作成	GitLab プロジェクト内にマイルストーンを作成します。
	プロジェクト作成	GitLab でプロジェクトを作成します。
	マイルストーンを削除	GitLab プロジェクト内のマイルストーンを削除します。
	プロジェクトを削除	GitLab でプロジェクトを削除します。
	マイルストーンストリームを検索	マイルストーン GitLab の詳細を取得します。
	プロジェクトを検索	指定されたプロジェクトの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	プロジェクトのジョブストリームを検索	プロジェクトのジョブの詳細を取得します。
	プロジェクトストリームを検索	プロジェクトの詳細を取得します。
	プロジェクトからユーザーを削除	GitLab でプロジェクトからユーザーを削除します。
	プロジェクトをグループと共有	GitLab でグループとプロジェクトを共有します。
	プロジェクトをアーカイブ解除	GitLab でプロジェクトをアーカイブ解除します。
	グループとのプロジェクトの共有を解除	GitLab でグループとのプロジェクトの共有を解除します。
	マイルストーンを更新	プロジェクト内のマイルストーンの詳細を更新します。
	プロジェクトを更新	プロジェクトの詳細を更新します。
ソースコード管理	コミットを取得	GitLab でコミットの詳細を取得します。
	リポジトリに新しいファイルを追加	GitLab でリポジトリにファイルを追加します。
トークン管理	個人アクセストークンを検索	個人アクセストークンのリストを取得します。
	個人アクセストークンを取り消す	個人アクセストークンを取り消します。

スポークのフロー

GitLabスポークでは、GitLabタスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。

フロー	説明
6 か月以上経過したプロジェクトをアーカイブ	過去 6 か月にわたり非アクティブなプロジェクトをアーカイブします。

スポークのサブフロー

GitLabスポークでは、GitLabタスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
GitLab 展開 Webhook イベントを処理	GitLab の展開 Webhook を処理します。
GitLab ジョブ Webhook イベントを処理	GitLab のジョブ Webhook イベントを処理します。
GitLab 結合要求 Webhook イベントを処理	GitLab の結合要求 Webhook イベントを処理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフロー	説明
GitLab パイプライン Webhook イベントを処理	GitLab のパイプライン Webhook イベントを処理します。
GitLab プッシュ Webhook イベントを処理	GitLab のプッシュ Webhook イベントを処理します。

スポークの **Webhook**

双方向 Webhook をセットアップして、必須イベントに関する通知を受けることができます。ルーティングポリシーは、ServiceNow アプリに通知するために満たすべき条件を定義します。これらの条件は、通知の受信を希望する GitLab のイベントに基づいています。条件が満たされると、ルーティングポリシーが関連するサブフローをトリガーし、 GitLabタスクを自動化します。

双方向 Webhook には別途セットアップが必要で、スポークアクションを使用しないで単独で使用できます。デフォルトでは、GitLab Webhooks アプリケーションが GitLab スポークで利用可能で、次のモジュールが含まれています。

Webhook	説明
GitLab Webhook レジストリ	使用可能な Webhook レジストリのリストを表示します。
GitLab Webhook ルーティングポリシー	使用可能な Webhook ルーティングポリシーのリストを表示します。

スポークモジュール

GitLab スポークは、[GitLab トークン管理] モジュールを含む Gitlab Token Management アプリケーションを提供します。ServiceNow インスタンスからの要求を認証するために、ここで記録する必要があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 GitLab スポークの設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しは MID サーバー で実行できます。GitLab エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー 選択属性を設定します。 詳細については「 MID サーバー 」を参照してください。

GitLab スポークの設定

GitLab でカスタム OAuth アプリケーションを作成し、ServiceNow インスタンスと GitLab を統合します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- GitLab スポークを有効化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- https://gitlab.com/users/sign_in で GitLab のアカウントを作成します。
- 必要なロール：admin

GitLab トークンの追加

ServiceNow インスタンスからの要求を認証する GitLab トークンを追加します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[GitLab トークン管理]** > **[GitLab トークン管理]**に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、次の値を入力します。

GitLab トークン管理フォーム

フィールド	説明
シークレット	GitLab のアプリケーション構成中に作成されたシークレット。
名前	レコードを識別する名前。
OAuth エンティティプロファイル	このフィールドは空のままにします。接続の構成後に、デフォルトのエンティティプロファイルが自動アサインされます。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
5. [保護トークンを生成] をクリックします。
   生成されたセキュアなトークンの値が表示されます。
6. 後で使用するためにセキュアなトークンの値をコピーして記録します。
7. [更新] をクリックします。

GitLab アカウントでの OAuth アプリケーションの作成

GitLab アカウントからカスタム OAuth アプリケーションを作成し、 GitLab スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

- GitLab アカウント
- 必要なロール：GitLab admin。

このタスクについて
GitLab アカウントから、次の手順を完了します。アプリケーションを作成および構成する方法については、GitLab のドキュメントを参照してください。

手順

1. GitLab アカウントからアプリケーションを作成します。
2. **[リダイレクト URI]** に ServiceNow インスタンス URL を入力します。
   リダイレクト URL の形式は、`https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_gitlab_spoke/gitlab_oauth_redirect/oauth?secureToken=<Secure-Token>` です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[<Instance-Name>] を ServiceNow インスタンスの名前で置き換え、**[<Secure-Token>]** を ServiceNow インスタンスで生成したセキュアなトークンで置き換えます。

3. 後で使用するために、[アプリケーション **ID]** および [シークレット] をコピーして記録します。これらの詳細は、ServiceNow インスタンスでサードパーティ OAuth プロバイダーとしてアプリケーションを登録する場合に必要です。

タスクの結果
GitLab アカウントからカスタム OAuth アプリケーションが作成され、ServiceNow インスタンスとデータ連携できます。

GitLab スポークの接続の設定

GitLab 接続を追加して設定し、GitLab スポークで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブをクリックします。
3. **[GitLab]** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
4. [編集] をクリックするか、スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。
5. [接続] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続を一意に識別する名前。
接続 URL	「`https://gitlab.com/api`」と入力します。 **注:** オンプレミスサーバーに GitLab をインストールしている場合は、`https://<gitlab-hosted-instance>.com/api` の形式で URL を入力します。
OAuth エンティティ名	OAuth エンティティレコードを識別する名前です。
OAuth クライアント ID	GitLab アプリケーションの構成中に作成されたアプリケーション ID。
OAuth クライアントシークレット	GitLab のアプリケーション構成中に作成されたシークレット。
OAuth リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイント。 リダイレクト URL の形式は、`https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_gitlab_spoke/gitlab_oauth_redirect/oauth?secureToken=<Secure-Token>` です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	[<Instance-Name>] を ServiceNow インスタンスの名前で置き換え、**[<Secure-Token>]** を ServiceNow インスタンスで生成したセキュアなトークンで置き換えます。

6. **[OAuth** トークンを設定して取得] をクリックします。

GitLab スポークの双方向 Webhook の設定

ServiceNow コールバック URL を使用して、GitLab に登録する Webhook を構成します。

始める前に

- Integration Hub のサブスクリプションを要求
- GitLab スポークをアクティブ化
- 必要なロール：admin

ServiceNow インスタンスに GitLab Webhook を登録

ServiceNow に GitLab を登録して、GitLab で特定のイベントが発生したときに ServiceNow アプリに通知します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[GitLab Webhook]** > **[GitLab Webhook** レジストリ]に移動します。
2. 既存の Webhook GitLab アカウントを取得するには、[すべての **Webhook** を取得 **(Get All Webhooks)]** をクリックします。
3. Webhook を作成するには、[新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	Webhook の名前。例：`Job webhook`。
説明	レコードの説明です。
プロジェクト ID	Webhook を作成するプロジェクトの一意の識別子です。
トリガーと SSL	登録するプロジェクトのイベントです。 これらのイベントのいずれかが発生すると、Webhook がトリガーされます。

5. [シークレットトークンを生成 **(Generate Secret Token)]** 関連リンクをクリックします。
シークレットトークンが生成され、表示されます。また、シークレットの有効期限が切れる日付が [シークレットの有効期限 **(Secret Expires)]** に入力されます。

> **注:** シークレットは 30 日ごとに再生成および更新されます。このシークレットは GitLab でも更新されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
7. **[Webhook** を作成] をクリックします。
   Webhook が GitLab に作成され、その ID が **[Webhook ID]** に入力されます。

次のタスク
Webhook の詳細を更新したり、登録されているイベントを変更したりするには、**[Webhook** を更新] をクリックします。

GitLab スポークでの双方向 Webhook のカスタマイズ

GitLab スポークの要件に応じて、Webhook ルーティングポリシーとサブフローを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
[GitLab WebHook ルーティングポリシー] モジュールのデフォルトのルーティングポリシーでは、GitLab で特定のイベントが発生すると、関連する GitLab サブフローをトリガーし、ServiceNow アプリに通知します。カスタムサブフローで他のフィールドを使用し、ルーティングポリシーの条件をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

手順
1. [すべて] > [フローデザイナー] > [デザイナー] に移動します
2. [サブフロー] をクリックします。
3. 必要なサブフローのコピーを作成します。
4. 要件に応じて必要なサブフローをカスタマイズし、公開します。
   サブフローを作成および使用する方法の詳細については「サブフローのビルド」を、またデフォルトのルーティングポリシーがサポートする GitLab フィールドおよびサブフローがサポートする GitLab イベントの詳細については、「GitLab スポーク」を参照してください。
5. [すべて] > **[GitLab Webhook]** > **[GitLab Webhook** ルーティングポリシー]に移動します。
   スポークとともに 5 つのルーティングポリシーを使用できます。要件に応じてそれらのポリシーを構成したり、ルーティングポリシーを作成したりできます。
6. ルーティングポリシーを作成するには、[新規] をクリックします。
7. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。
デフォルトの回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。 **a.** 検索アイコンをクリックします。 **b.** ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。 注: [テーブル名] がフロー [sys_hub_flow] であることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
条件	GitHub で必要なイベントが発生したときに満たされる条件です。
回答	指定された条件が満たされるとトリガーされるサブフローです。

8. [送信] をクリックします。

> **注:** これらのルーティングポリシーは意思決定テーブルに保存されます。ユーザーは、これらのテーブルのデータを直接更新または変更しないように注意してください。

タスクの結果
ルーティングポリシーとサブフローが作成されます。

Gmail スポーク

ServiceNow インスタンスと Google API の間でアウトバウンド統合を設定します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

サポートされているバージョン

API バージョン v1。

スポークバージョン

Gmail スポーク v1.3.2 が最新バージョンです。

スポークのサブフロー

Gmail スポークでは、Gmailタスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
ServiceNow 添付ファイルを Gmail に移動	添付ファイルを ServiceNow から Gmail にコピーします。

スポークのアクション

Gmail スポーク は、ServiceNow でイベントが発生したときに Gmail タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
ラベル管理	メールにラベルを追加	メールにラベルを追加します。
	新しいラベルを作成	Gmail アカウントでラベルを作成します。
	名前でラベル ID を検索	指定されたラベル ID の詳細を取得します。
	メールからラベルを削除	指定されたラベルをメールから削除します。
メール管理	添付ファイルを ServiceNow レコードに追加	Gmail アカウントのメールから ServiceNow レコードに添付ファイルを追加します。
	メール詳細を取得	指定されたメールの詳細を取得します。
	メールを検索	指定されたメールの詳細を取得します。
	メールに返信	メールに返信を送信します。
	メール送信	Gmail アカウントから指定された受信者にメールを送信します。
	メールを削除	指定されたメールを削除します。
	メールの削除取り消し (Undelete Email)	ゴミ箱から指定されたメールを取得します。

Gmail スポークアカウントの要件

Gmail スポークでは、Google Developers Console で作成したカスタムアプリが必要です。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「Gmail スポークの設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。Gmail エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー 選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー」を参照してください。

Gmail スポークの設定

ServiceNow インスタンスと Google API の間でアウトバウンド統合を設定します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- ServiceNow インスタンスに Gmail スポークプラグインをインストールします。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

アウトバウンド統合を確立するには、次の手順を完了する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- OAuth 2.0 クライアント ID の設定
- Gmail スポークの接続の構成

OAuth 2.0 クライアント ID の設定

カスタム OAuth アプリケーションを作成し、Google API による ServiceNow の OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に
Google Tasksデータ連携要件：

- ドメインと、ドメインに関連付けられたメールアドレス。たとえば、www.mydomain.com や jane-admin@mydomain.com などです。G Suite に登録できるメールアドレスは、1 ドメインにつき 1 つだけです。
- Google G Suite またはドメインで作成されたGmailログインです。

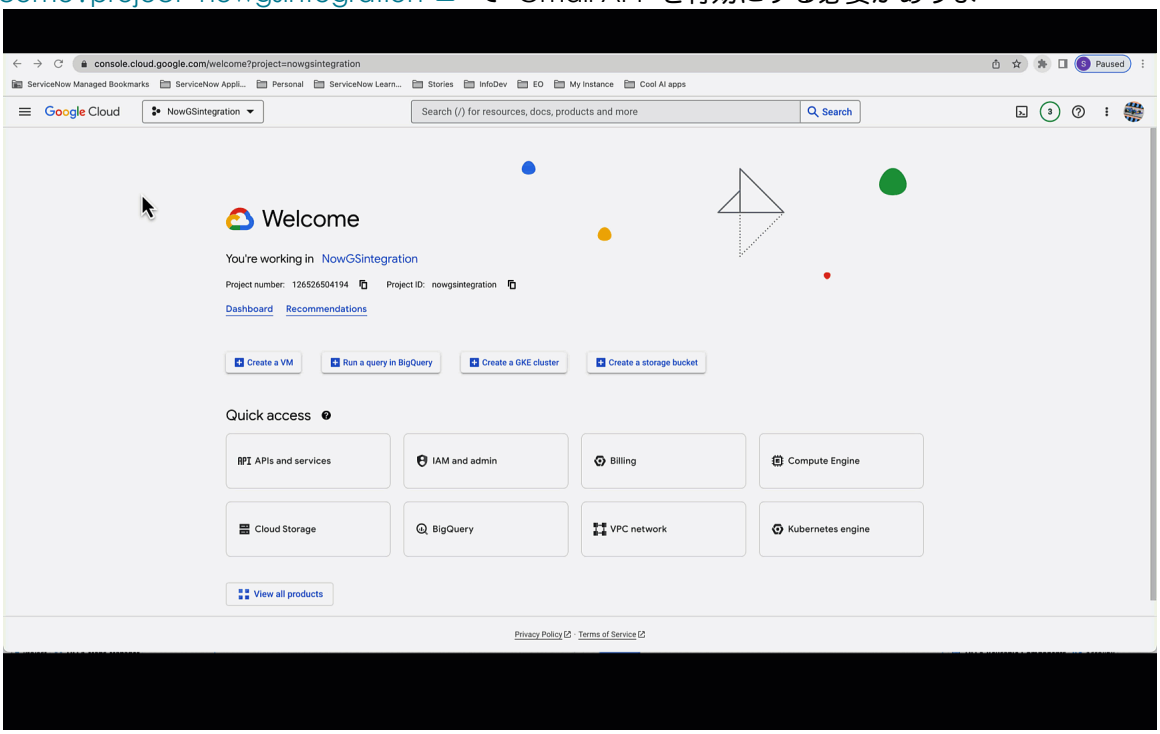
必要なロール：admin

手順

1. https://console.developers.google.com に移動し、G Suite アドミン認証情報でプロジェクトを作成し、プロジェクトを開きます。
2. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、**[OAuth 同意画面 (OAuth consent screen)]** を選択します。
3. アプリケーション名を入力して、認証済みドメイン `service-now.com` を指定します。
4. [保存] をクリックします。
5. [API とサービス] メニューから [認証情報] を選択し、[認証情報の作成] リストから **[OAuth クライアント ID の作成]** を選択します。
6. アプリケーションタイプ **Web** アプリケーションを選択します。
7. 承認済みのリダイレクト URI：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力して、[作成] をクリックします。
8. クライアント ID とクライアントシークレットをテキストファイルにコピーします。
アニメーションは、OAuth クライアント ID の設定を示しています。OAuth クライアント ID を作成する前に、https://console.cloud.google.com/

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

welcome?project=nowgsintegration で Gmail API を有効にする必要がありま



す。

ヒント: 後で参照できるように、OAuth クライアントの詳細を含む JSON ファイルを保存します。

Gmail スポークの接続の構成

Gmail 接続レコードを構成し、ServiceNow インスタンスと Google API の間の接続を確立します。

始める前に

必要なロール：admin

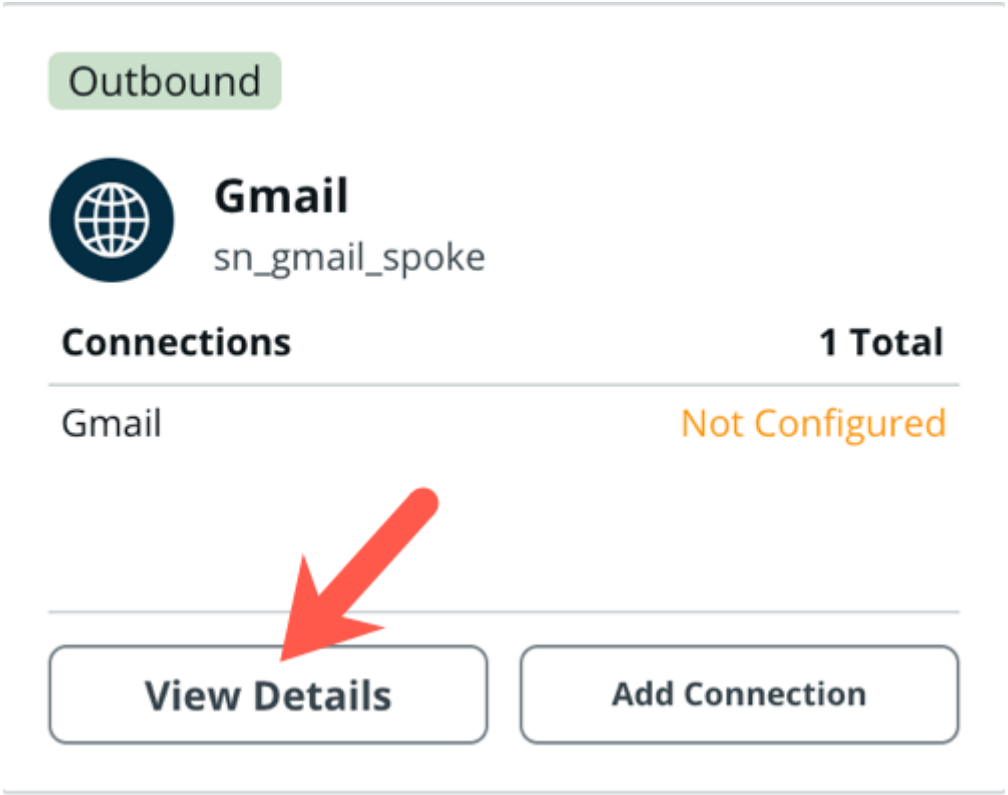
このタスクについて

接続と資格情報には、Google Workspace が ServiceNow インスタンスを認証する必要がある、クライアント ID、クライアントシークレット、リダイレクト URL などの詳細が含まれています。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブを選択します。
3. [接続] タブを選択します。
4. [すべての接続を検索] フィールドに「`Gmail`」と入力します。
5. [詳細を表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. [構成 **(Configure)**] を選択します。

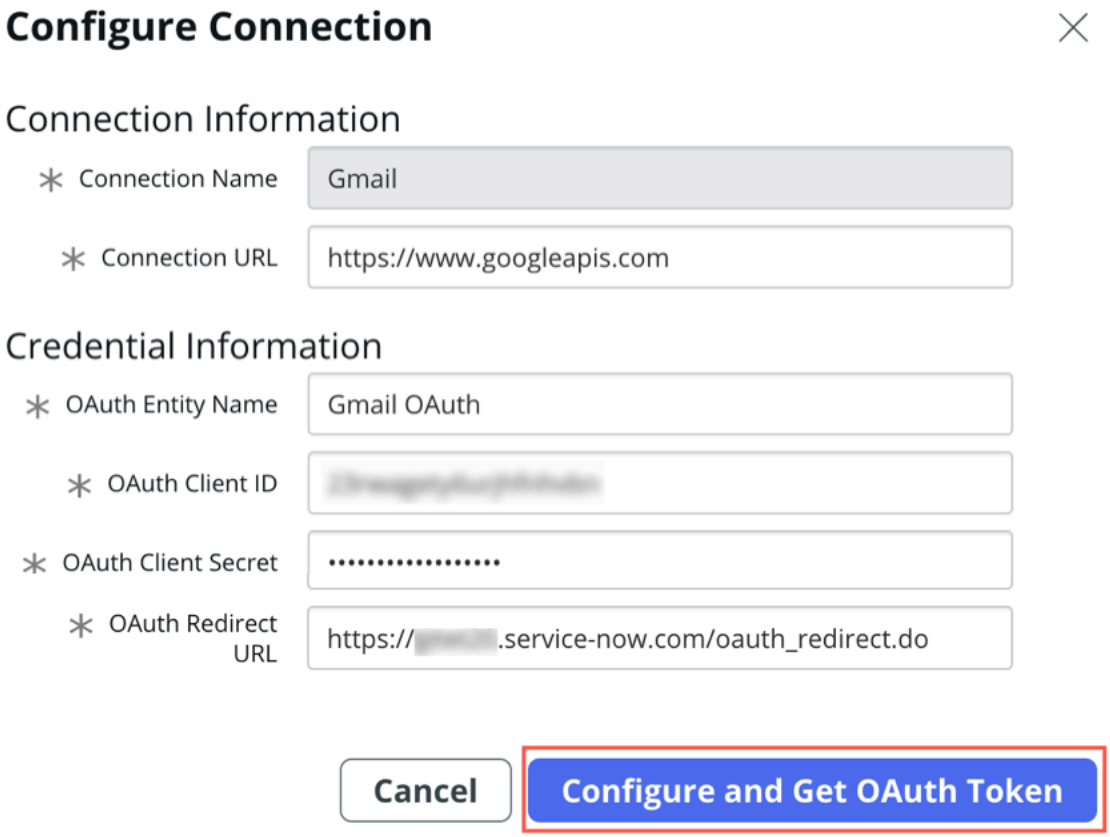
7. テーブルに示されている詳細をフォームに入力します。

[接続を設定] フォーム

フィールド	説明
接続名	Google Workspace インスタンスと ServiceNow インスタンスの間の接続の名前。 **注:** デフォルト名は Gmail で、読み取り専用です。ただし、このレコードの後にさらに接続および認証情報レコードを設定する場合は、カスタム名を指定できます。
接続 URL	URL `https://www.googleapis.com` を入力します。 **注:** この URL の前後にスペースを含めないようにしてください。スペースがある場合、接続は失敗します。 。
OAuth エンティティ名	OAuth エンティティレコードを識別する名前です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
OAuth クライアント ID	OAuth クライアント ID を作成したときに生成された OAuth クライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	OAuth クライアント ID を作成したときに生成された OAuth クライアントシークレット。
OAuth リダイレクト URL	OAuth リダイレクト URL。URL は、「`httphttps://<インスタンス名>.service-now.com/oauth_redirect.do`」の形式である必要があります。



8. **[OAuth** トークンを設定して取得] を選択します。
   OAuth トークンが発行された後、Gmail にログインする必要があります。

Google カレンダースポーク

ServiceNow を使用して、Google カレンダーでイベントと出席者を作成および更新します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Google カレンダースポーク v2.4.5 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

API バージョン v1。

スポークのアクション

Google カレンダースポークでは、ServiceNow でイベントが発生したときに Google カレンダータスクを実行するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
出席者管理	イベントに出席者を追加	出席者のリストに追加してイベントを更新します。値を指定すると、既存の値が置き換えられます。要求で指定しないフィールドは変更されません。
	イベントから出席者を削除	指定された出席者を削除してイベントを更新します。値を指定すると、既存の値が置き換えられます。要求で指定しないフィールドは変更されません。
イベント管理	イベントを作成	指定されたカレンダーにイベントを作成します。
	イベントの更新	イベント情報を編集します。値を指定すると、既存の値が置き換えられます。要求で指定しないフィールドは変更されません。
	ID でイベントをルックアップ	特定のイベントの詳細を取得します。
	イベントを削除	指定されたイベントをカレンダーから削除します。
	イベントストリームを検索	開始時間、終了時間、または検索用語に基づいて指定されたカレンダーのイベントを取得します。
	カレンダー ID でイベントをルックアップ	指定されたカレンダーのイベントを取得します。
	空きスケジュールまたは多忙なスケジュールを検索	指定されたカレンダーセットの空きスケジュールまたは多忙なスケジュールの情報を取得します。
	イベントを移動	指定されたイベントを別のカレンダーに移動します。
アクセス制御リスト管理	アクセス制御リストを作成	アクセス制御ルールを作成します。
	アクセス制御リストを削除	指定されたアクセス制御ルールを削除します。
	カレンダー ID でアクセス制御リストをルックアップ	必要なアクセス制御ルールの詳細を取得します。
	アクセス制御リストストリームをルックアップ	カレンダーのアクセス制御リストのルールを取得します。
	アクセス制御リストを更新	必要なアクセス制御ルールの詳細を更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
カレンダーリスト管理	カレンダーリストにカレンダーを追加	ユーザーのカレンダーリストに既存のカレンダーを挿入します。
	カレンダーリストからカレンダーを削除	ユーザーのカレンダーリストからカレンダーを削除します。
	ID でカレンダーリストからカレンダーをルックアップ	ユーザーのカレンダーリストからカレンダーを取得します。
	カレンダーリストストリームからカレンダーをルックアップ	ユーザーのカレンダーリストからカレンダーを取得します。
	カレンダーリストからカレンダーを更新	ユーザーのカレンダーリストの既存のカレンダーを更新します。

スポークモジュール

Google カレンダースポーク は、Google カレンダーモジュールを ServiceNow インスタンスに追加します。Google カレンダーモジュールには、カレンダーリストの詳細が表示されます。

Google カレンダー Online アカウント要件

Google カレンダースポークでは、Google G Suite で作成したカスタムアプリが必要です。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Google Calendar スポークの設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。Google カレンダー エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー 選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー」を参照してください。

Google Calendar スポークの設定

接続と資格情報レコードを設定することで、ServiceNow インスタンスと Google カレンダーアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) 間のアウトバウンド統合を設定します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Calendar スポークをアクティブ化します。
- Google Workspace アカウントがあることを確認します。
- ドメインと、ドメインに関連付けられたメールアドレスがあることを確認します。たとえば、www.mydomain.com や jane-admin@mydomain.com などです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: Google Workspace に登録できるメールアドレスは、1 ドメインにつき 1 つだけです。

- 必要なロール：admin

Google Calendar に OAuth アプリケーションを作成する

ServiceNow インスタンスから Google Calendar API へのアクセス要求を認証する OAuth アプリケーションを Google Calendar API に作成します。認証に成功すると、ServiceNow が Google Calendar API にアクセスするために使用できる OAuth トークンを生成できます。

始める前に
Google Calendar スポークの統合要件：

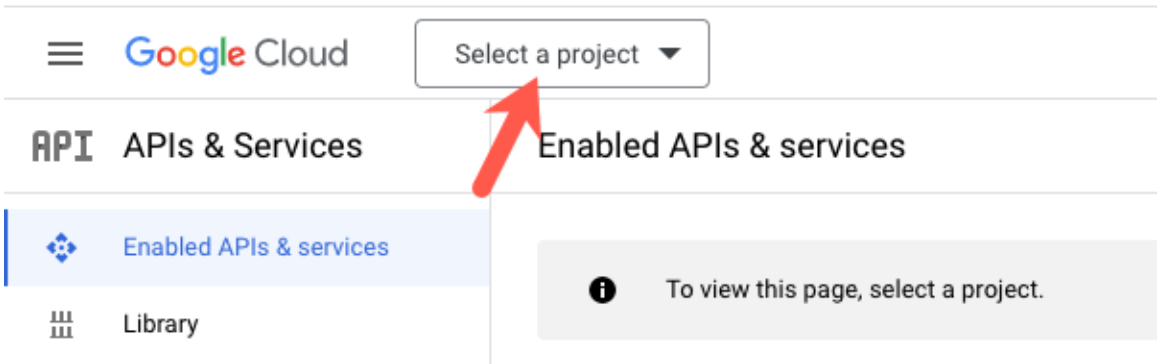
- ドメインと、ドメインに関連付けられたメールアドレス。たとえば、www.mydomain.com や jane-admin@mydomain.com などです。Google Workspace に登録できるメールアドレスは、1 ドメインにつき 1 つだけです。
- 同じドメインで作成された Google Workspace ログイン認証情報。

必要なロール：admin

手順

1. Google Workspace 認証情報を使用して https://console.developers.google.com にログインします。
2. Google Workspace にプロジェクトを作成します。
   プロジェクトでは、ServiceNow インスタンスから Google Calendar API にアクセスするための OAuth アプリケーションと権限が提供されます。

   a. ボタンを選択します。



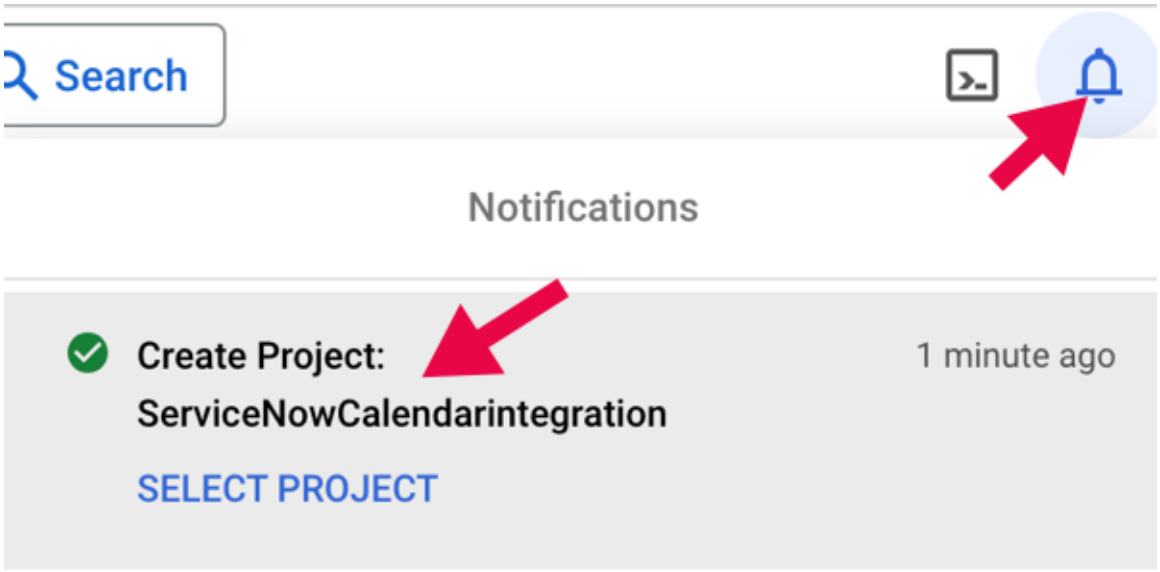
   b. [プロジェクトの選択 (Select a Project)] ウィンドウで、[新しいプロジェクト]を選択します。

   c. [プロジェクト名] フィールドにプロジェクトの一意の名前を入力します。

   d. [場所] フィールドで、[参照] を選択して組織を選択します。

   e. [作成] を選択します。
   [通知] ウィンドウで、プロジェクトが作成されたことを確認します。

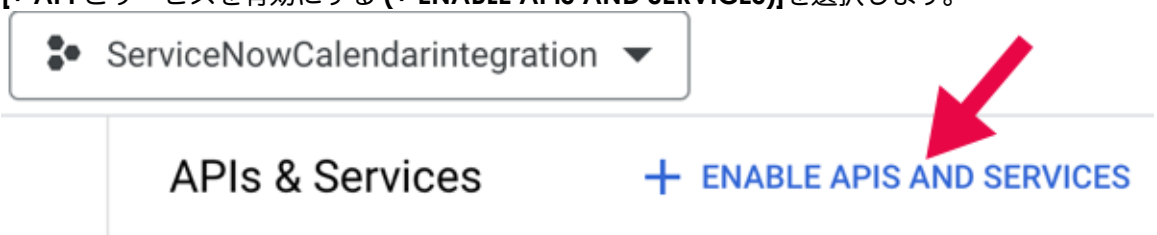
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



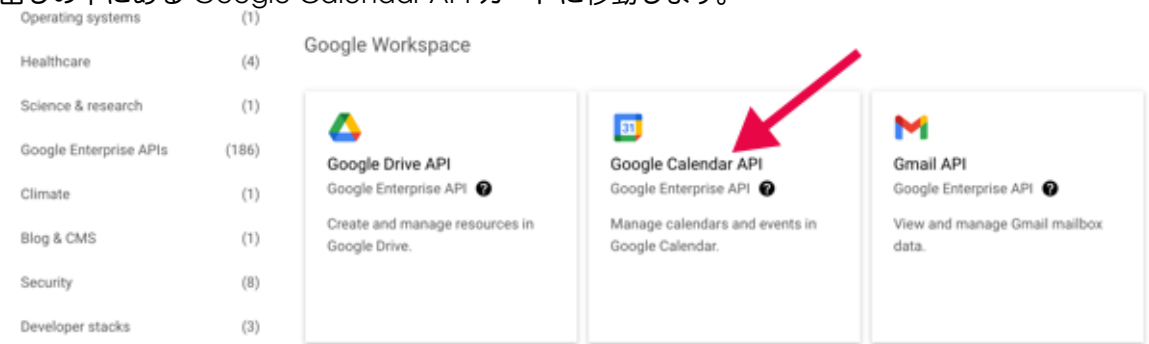
f. [プロジェクトを選択] を選択します。

3. Google Calendar API 権限を有効にします。

a. [+ API とサービスを有効にする (+ ENABLE APIS AND SERVICES)]を選択します。



b. [API ライブラリへようこそ (Welcome to the API Library)] ページで、Google Workspace 見出しの下にある Google Calendar API カードに移動します。

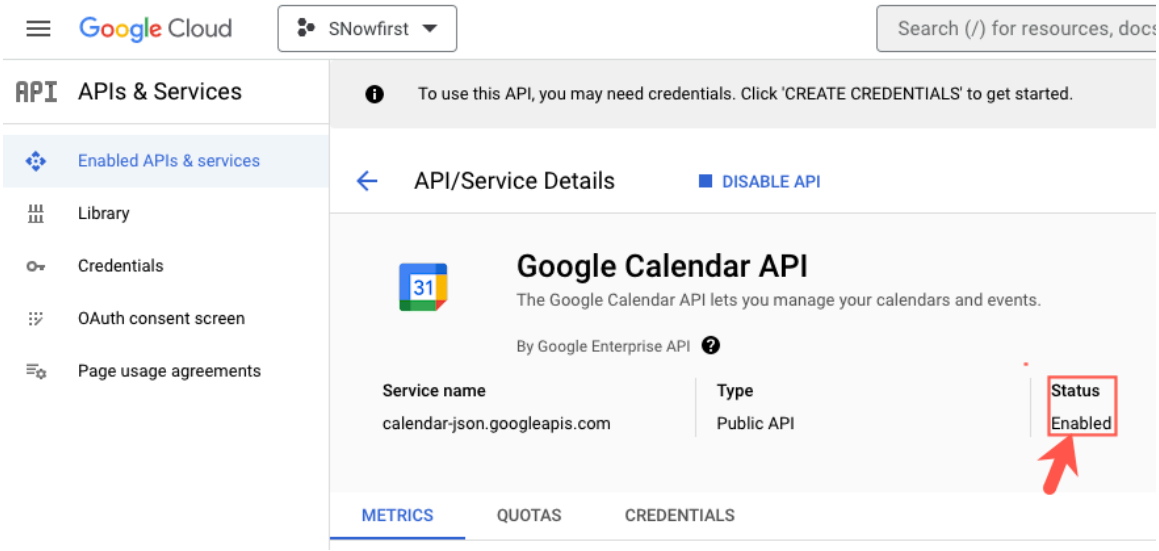


c. [Google Calendar API] を選択します。

d. [有効 **(ENABLE)]** を選択します。

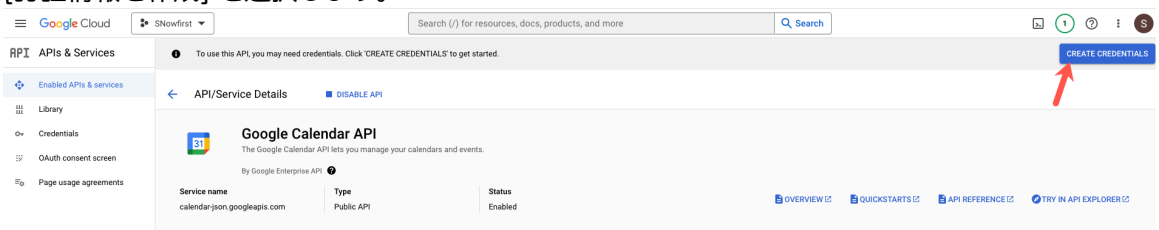
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロジェクトで Google Calendar API が有効になります。



4. 接続および認証情報フォームに保存する認証情報を作成します。

a. [認証情報を作成] を選択します。



b. フォームに入力します。

Google Calendar API 認証情報

API を選択	ServiceNow インスタンスがアクセスする API の名前。 **注:** [Google Calendar API] オプションが選択されていることを確認します。
どのデータにアクセスしますか？ *	ServiceNow インスタンスが Google カレンダーアプリケーションからアクセスするデータのタイプです。 **ヒント:** OAuth アプリケーションを作成するには、[ユーザーデータ] を選択します。

c. [次へ] を選択します。

d. [OAuth 同意画面 (OAuth consent screen)] セクションで、フォームに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[OAuth 同意画面 (OAuth consent screen)] フォーム

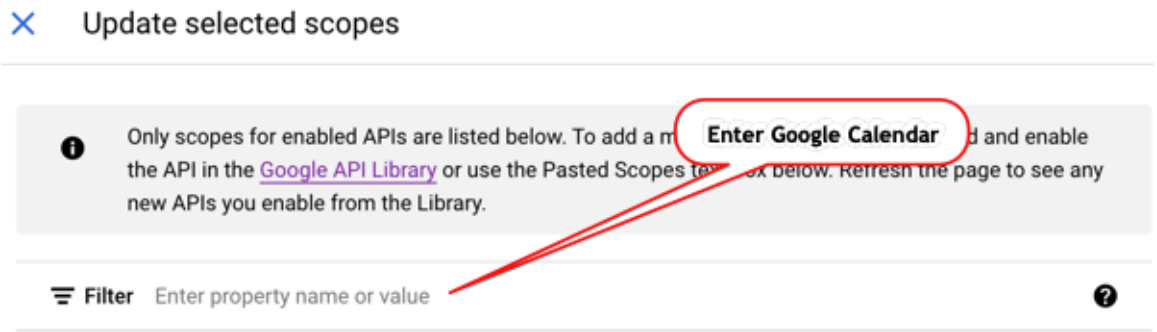
フィールド	説明	必須？
アプリ名	OAuth アプリのカスタム名です。	はい
ユーザーサポートメール	OAuth アプリのユーザーは、このメールで同意に関するクエリを送信できます。	はい
アプリのロゴ	OAuth アプリのロゴです。	いいえ
開発者の連絡先	Google はこのメール ID を使用して、プロジェクトの変更について通知します。	はい

e. [保存して続行] を選択します。

5. オプション: 特定の Google カレンダー API にアクセスするための権限を指定します。

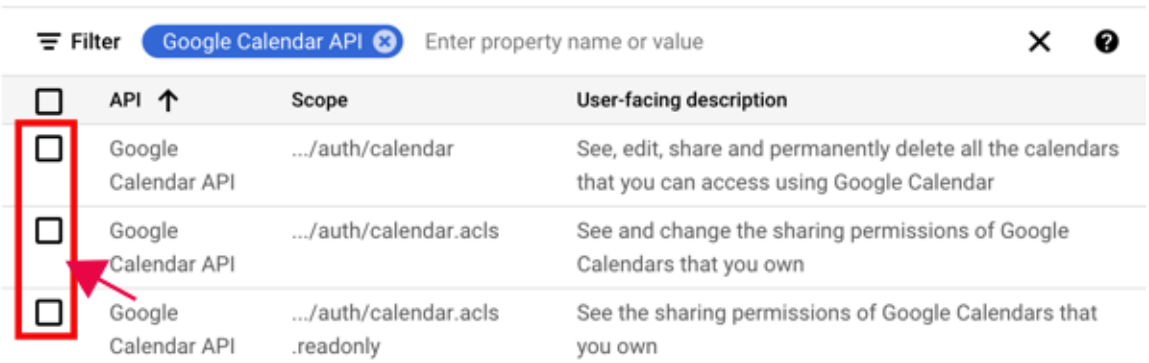
a. [スコープ] の見出しで、[スコープの追加または削除 **(ADD OR REMOVE SCOPES)]**を選択します。

b. [選択したスコープを更新 (Update selected scopes)] ウィンドウで、[プロパティ名または値を入力 (Enter property name or value)] フィールドに「`Google Calendar`」と入力します。



c. リストから、[Google カレンダー API] を選択します。

d. リストから必要な API を選択します。



e. [更新] を選択します。

6. OAuth クライアント ID と関連する詳細を生成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および認証情報フォームに OAuth クライアント ID と関連する詳細を入力する必要があります。

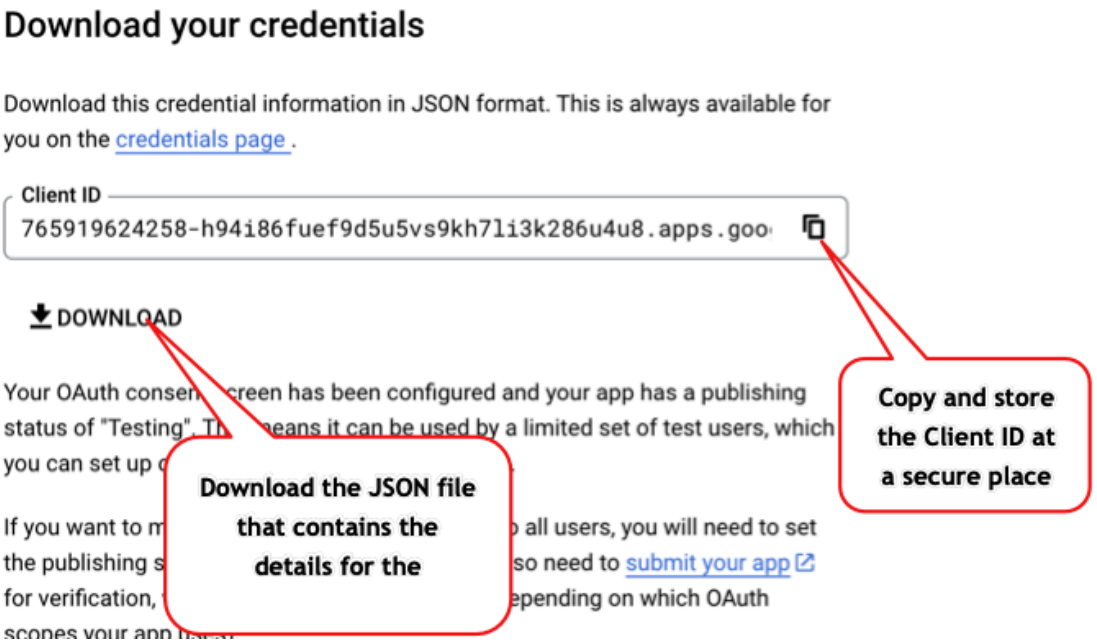
a. [アプリケーションタイプ] フィールドで「`Web アプリケーション`」を選択します。

b. [名前] フィールドに、アプリケーションのカスタム名を入力します。

c. リダイレクト URL を追加するには、許可されたリダイレクト URI の見出しで **[+ URI を追加 (+ ADD URI)]** を選択します。

d. ServiceNow インスタンスの URL を入力します。

e. [作成] を選択します。
画像に示すように、OAuth アプリケーションの認証情報が作成されま



す。

7. [完了] を選択します。

Google カレンダースポークの接続および認証情報レコードの作成

ServiceNow インスタンスを Google カレンダーアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) と統合できるようにする接続および認証情報レコードを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

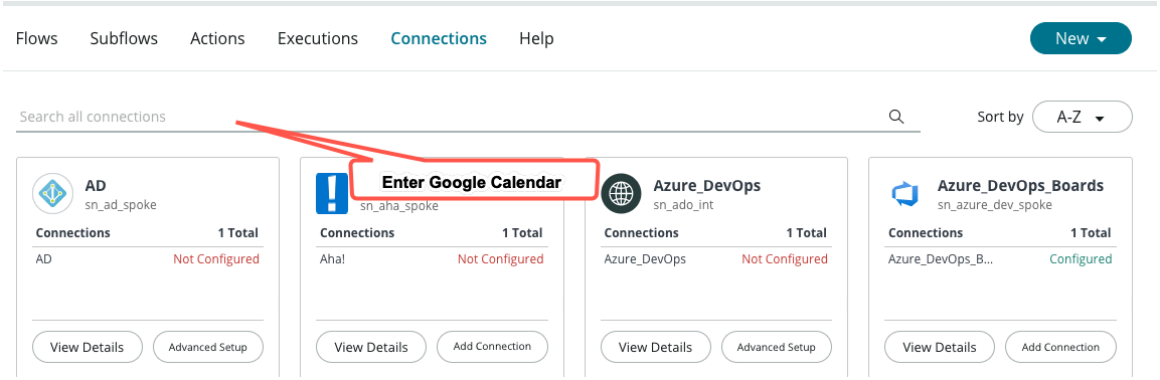
このタスクについて
接続および認証情報レコードには、OAuth アプリを作成したときに設定した詳細が含まれています。「Google Calendar に OAuth アプリケーションを作成する」を参照してください。

手順

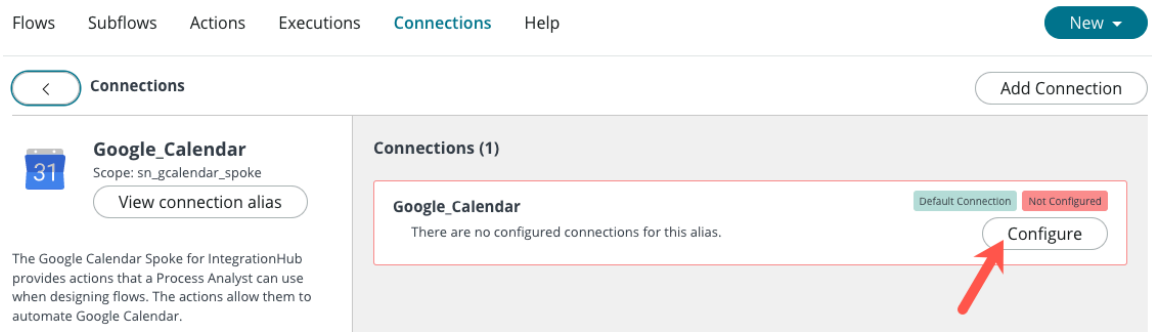
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [すべての接続を検索] フィールドに「`Google Calendar`」と入力します。



4. Google_Calendar カードで、[詳細を表示] をクリックします。
5. [構成] をクリックします。



6. フォームに詳細を入力します。

Google カレンダー接続および認証情報フォーム

フィールド	説明
接続名	Google カレンダー API との接続名です。 **注:** 最初のデフォルトの接続名は Google_Calendar で、読み取り専用です。接続にカスタム名を付けるには、[接続を追加] を選択し、接続を作成します。
接続 URL	Google カレンダー API への URL です。 「`https://googleapis.com`」と入力します。
API バージョン	ServiceNow インスタンスがアクセスする Google カレンダー API のバージョンです。 「`v3`」と入力します。
OAuth クライアント ID	作成した OAuth アプリにアクセスするクライアントの ID です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ヒント: OAuth クライアント ID は、OAuth アプリの作成中にダウンロードした JSON ファイルで確認できます。「Google Calendar に OAuth アプリケーションを作成する」を参照してください。
OAuth クライアントシークレット	ServiceNow インスタンスが OAuth アプリに ID を証明するために使用するシークレットです。 **ヒント:** OAuth クライアントシークレットは、OAuth アプリの作成中にダウンロードした JSON ファイルで確認できます。「Google Calendar に OAuth アプリケーションを作成する」を参照してください。
OAuth リダイレクト URL	OAuth アプリが ServiceNow インスタンスからの要求を認証した後の、アプリケーションへのリダイレクト URL です。 **ヒント:** OAuth クライアントリダイレクト URL は、OAuth アプリの作成中にダウンロードした JSON ファイルで確認できます。「Google Calendar に OAuth アプリケーションを作成する」を参照してください。
OAuth 認証 URL	ServiceNow インスタンスが OAuth 認証プロセスを開始するのに使用できる、OAuth サービスプロバイダーによって提供される URL です。 **ヒント:** OAuth 認証 URL は、OAuth アプリの作成中にダウンロードした JSON ファイルで確認できます。
OAuth トークン URL	ServiceNow インスタンスがアクセストークンの認証コードを交換するのに使用できる、OAuth サービスプロバイダーによって提供される URL です。 **ヒント:** OAuth 認証 URL は、OAuth アプリの作成中にダウンロードした JSON ファイルで確認できます。

7. **[OAuth** トークンを設定して取得] を選択します。
8. Google Workspace にログインし、OAuth トークンを取得します。
   接続および認証情報レコードが作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Google Chat スポーク

Google Chat スポークを使用して、ServiceNow インスタンスから Google Chat スペース内の通信を直接管理します。ServiceNow インスタンスでフローを作成して、Google Chat のメディア、メンバー、メッセージ、およびスペースを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Google Chat スポーク v1.1.1 が最新スポークバージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Google Chat API v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Google Chat API アクセス
- Google Cloud コンソールアクセス

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Google Chat スポークは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Google Chat タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要なスコープ (少なくとも 1 つのスコープが必要)
メディア管理	メディアのダウンロード	アップロードされたメディアを Google Chat からダウンロードし、指定されたインシデントレコードに添付します。このアクションでは、Google ドライブにアップロードされたメディアはダウンロードされません。	• https://www.googleapis.com/auth/chat.messages.readonly • https://www.googleapis.com/auth/chat.messages
メンバー管理	現在のアプリケーションをスペースに追加	現在の呼び出し元アプリケーションを指定されたスペースに追加します。	• https://www.googleapis.com/auth/chat.memberships.app • https://www.googleapis.com/auth/chat.memberships
	メンバーをスペースに追加	指定されたメンバーを指定されたスペースに追加します。	https://www.googleapis.com/auth/chat.memberships
	スペースのメンバーを検索	指定されたスペースの指定されたメンバーの詳細を取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/chat.memberships.readonly • https://www.googleapis.com/auth/chat.memberships
	スペースメンバーストリームを検索	指定されたスペースの、アクセスできるメンバーを取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/chat.memberships.readonly • https://www.googleapis.com/auth/chat.memberships
	スペースから現在のアプリケーションを削除	指定されたスペースから現在の呼び出し元アプリケーションを削除します。	• https://www.googleapis.com/auth/chat.memberships.app • https://www.googleapis.com/auth/chat.memberships

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要なスコープ (少なくとも 1 つのスコープが必要)
	スペースからメンバーを削除	指定されたスペースから指定されたメンバーを削除します。	https://www.googleapis.com/auth/chat.memberships
メッセージ管理	メッセージスレッドの作成	指定されたスペースにメッセージスレッドを作成します。	• https://www.googleapis.com/auth/chat.messages.create • https://www.googleapis.com/auth/chat.messages
	メッセージを削除	指定されたスペースから指定されたメッセージを削除します。メッセージのスレッド化された返信もすべて削除されます。	https://www.googleapis.com/auth/chat.messages
	メッセージを検索	指定されたスペースから指定されたメッセージの詳細を取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/chat.messages.readonly • https://www.googleapis.com/auth/chat.messages
	メッセージストリームを検索	自分がメンバーとなっている指定されたスペースからメッセージを取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/chat.messages.readonly • https://www.googleapis.com/auth/chat.messages
	スレッドにメッセージを送信	指定されたスペースの指定されたスレッドにメッセージを作成します。	https://www.googleapis.com/auth/chat.messages
スペース管理	スペースを作成	Google Chat に名前付きスペースを作成します。	• https://www.googleapis.com/auth/chat.spaces.create • https://www.googleapis.com/auth/chat.spaces
	スペースを削除	指定された Google Chat スペースを削除します。	https://www.googleapis.com/auth/chat.delete

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要なスコープ (少なくとも 1 つのスコープが必要)
	スペースを検索	指定された Google Chat スペースに関する情報を取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/chat.spaces.readonly • https://www.googleapis.com/auth/chat.spaces
	スペースストリームを検索	自分がメンバーとなっている Google Chat スペースのストリームを取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/chat.spaces.readonly • https://www.googleapis.com/auth/chat.spaces
	スペースを更新	指定された Google Chat スペースを更新します。	https://www.googleapis.com/auth/chat.spaces

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

AI エージェント	説明
Google Chat メンバーマネージャー	Google Chat のメンバーを管理するためのアクション (スペースへの現在のアプリケーションの追加、スペースからの現在のアプリケーションの削除、スペースへのメンバーの追加、スペースからのメンバーの削除、スペースメンバーの検索) を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI エージェント	説明
Google Chat スペースマネージャー	Google Chat のスペースを管理するためのアクション (スペースの検索、スペースの削除、スペースの作成、スペースの更新) を実行します。
Google Chat メッセージマネージャー	Google Chat のメッセージを管理するためのアクション (メッセージの削除、メッセージスレッドの作成、メッセージの検索、スレッドへのメッセージの送信) を実行します。

Google Chat スポークの設定

Google Cloud コンソールでカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNowインスタンスと Google Chat を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Chat スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

Google Chat スポーク用 Google Cloud コンソールでの OAuth 認証情報の作成

Google Cloud コンソールアカウントで認証情報を作成し、Google Chat スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

このタスクについて

Google Cloud コンソール から次の手順を実行します。

始める前に

- Google Chat アプリケーションを作成します。詳細については、「Google Chat アプリを開発する」および「Google Apps Script Chat アプリのクイックスタート」を参照してください。
- 必要なロール：なし

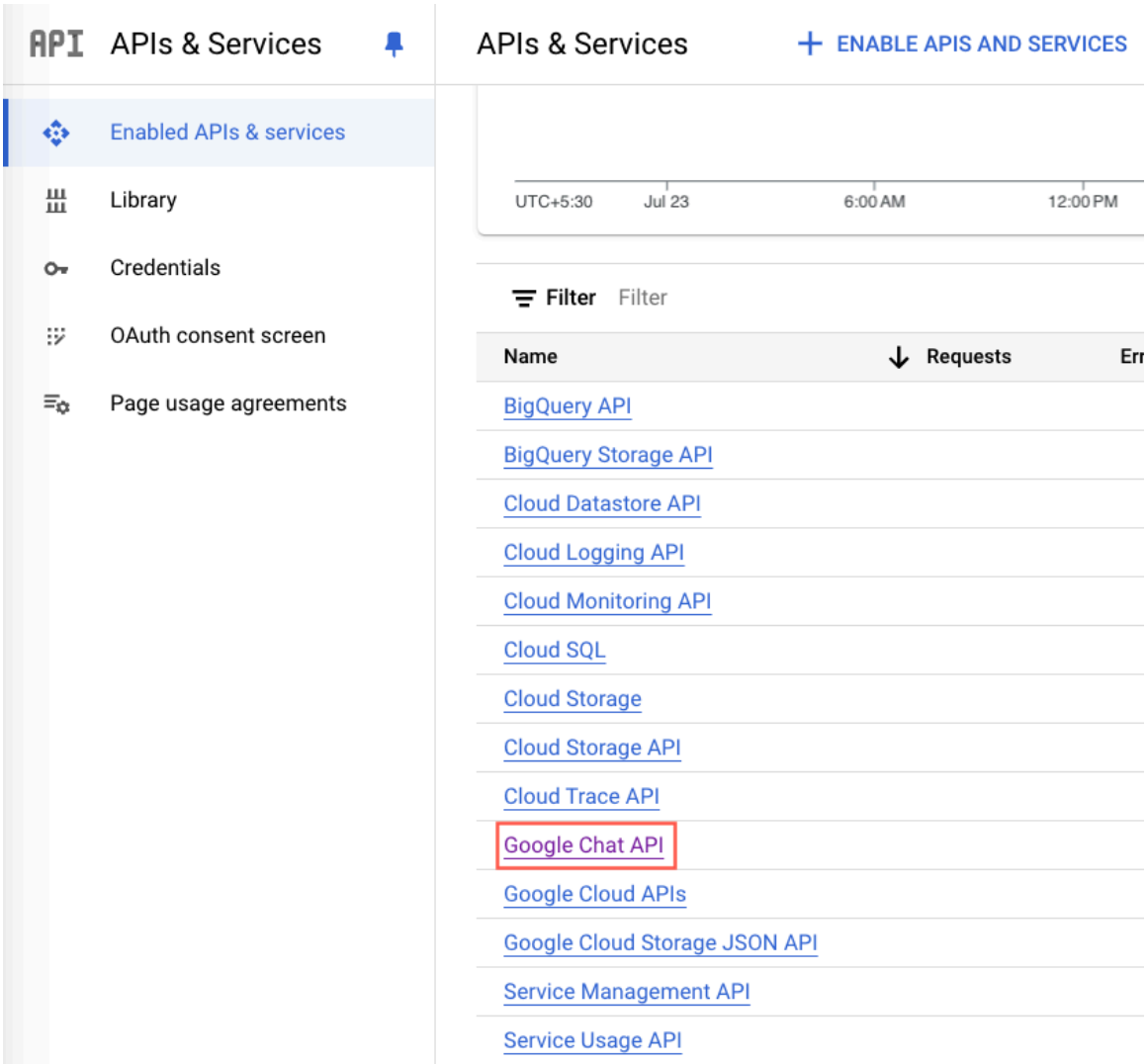
手順

1. Google Cloud コンソールで、メインメニュー > **[IAM** およびアドミン] > [プロジェクトの作成 **(Create a Project)]**に移動します。
   また、直接 https://console.cloud.google.com/projectcreate に移動することもできます。
2. わかりやすいプロジェクトの名前を [プロジェクト名] フィールドに入力します。

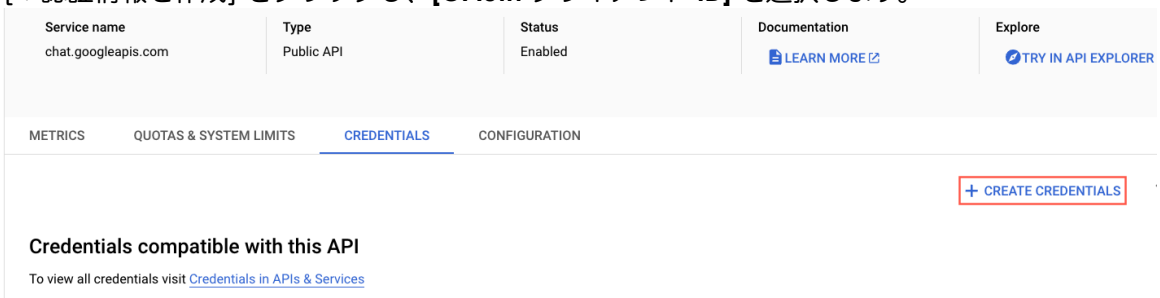
   注: プロジェクト ID はプロジェクトの作成後に変更できないため、プロジェクトの有効期間中のニーズを満たす ID を選択します。

3. Google Chat アプリを作成したら、アプリの展開 ID を取得して記録します。
   接続設定の展開 ID を指定する必要があります。詳細については、「デプロイメント ID を確認する」を参照してください。
4. ナビゲーションメニュー > **[API** とサービス **(APIs & Services)]** > [有効な **API** とサービス **(Enabled APIs & Services)]**に移動します。
5. リストから **[Google Chat API]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. [認証情報] タブをクリックします。
7. [＋認証情報を作成] をクリックし、**[OAuth クライアント ID]** を選択します。



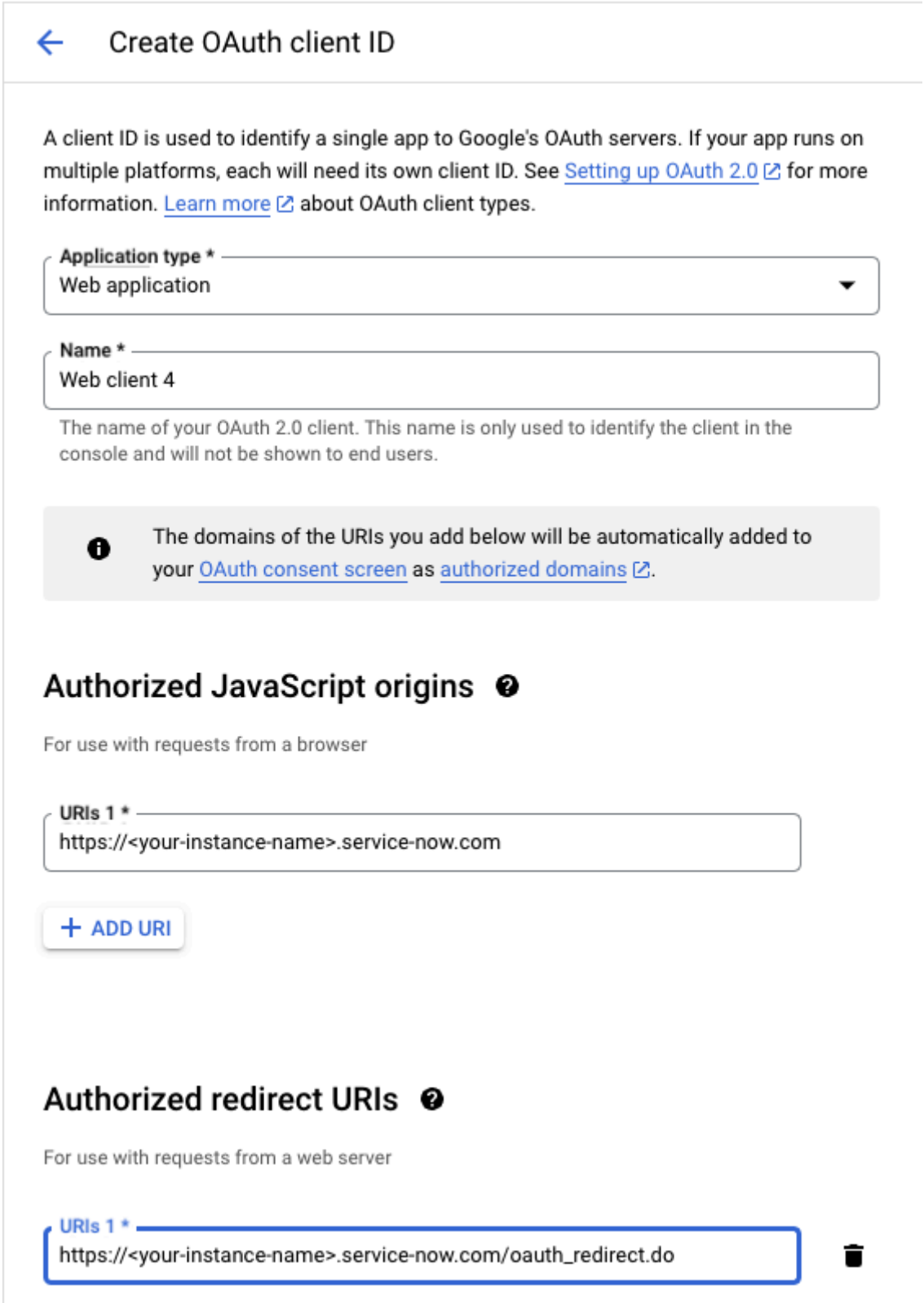
8. **[OAuth クライアント ID の作成 (Create OAuth client ID)]** フォームで、フィールドに入力します。

フィールド	説明
アプリケーション	リストから Web アプリケーションを選択します。
名前	OAuth 2.0 クライアントを識別する一意の名前を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
許可された JavaScript 作成元 URI	ServiceNow インスタンスの URI を入力します。例：`https://<your-instance-name>.servicen-now.com`
許可されたリダイレクト URI	ServiceNow インスタンスのリダイレクト URI を入力します。例：`https://<your-instance-name>.servicen-now.com/oauth_redirect.do`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



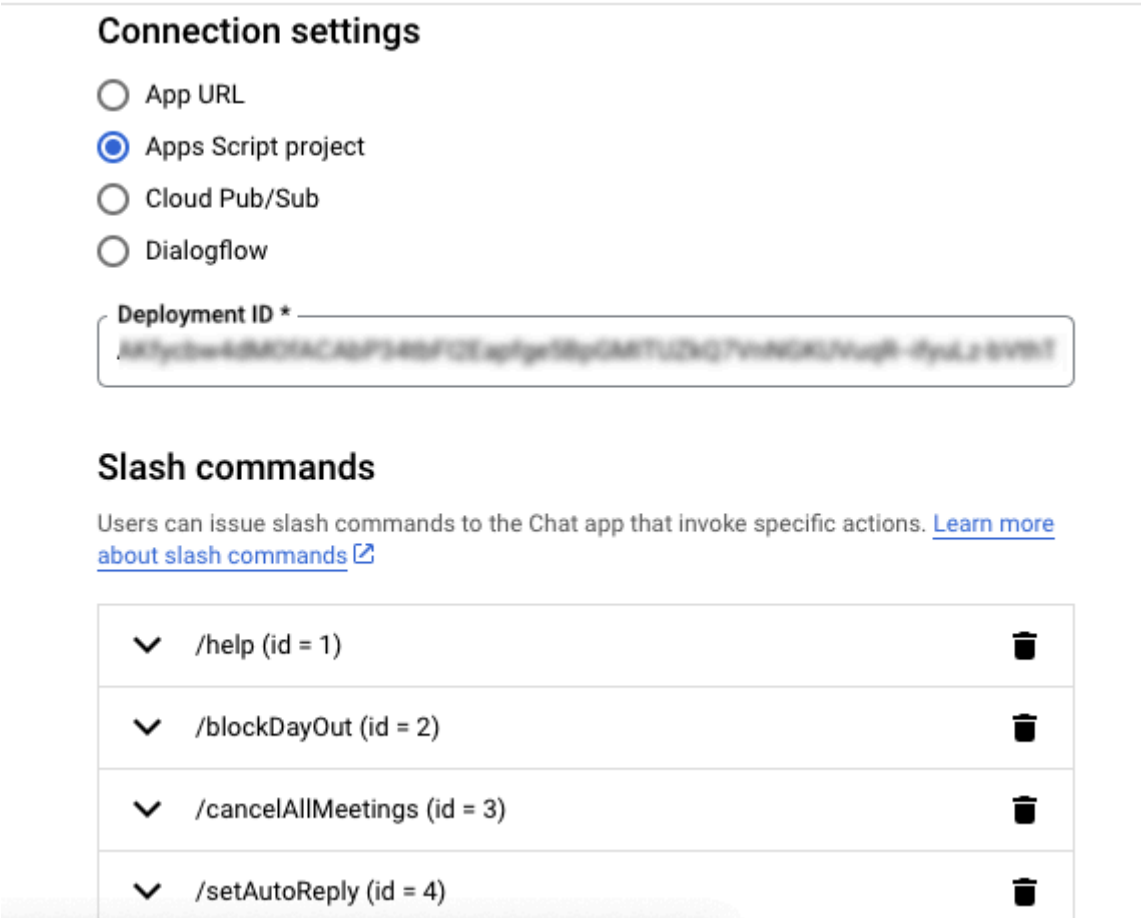
9. [作成] をクリックします。
   OAuth クライアントは、クライアント ID とクライアントシークレットを使用して作成されます。
   クライアント ID とクライアントシークレットが記録されます。
10. [構成] タブをクリックし、フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アプリ名	アプリケーションの名前を入力します。
アバター URL	アプリのアバター画像の HTTPS URL を指定します。
説明	アプリケーションの説明を入力します。

11. [接続] 設定で、[展開 **ID]** フィールドに、ステップ 4 の Google Chat アプリの展開 ID を指定します。

   注: アプリの作成中に Slash コマンドを作成した場合は、それを指定します。



12. Google Cloud コンソールでアプリの構成を保存します。

Google Chat スペースの接続を設定する

Docker 接続を追加して設定し、Docker スペースで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に
必要なロール：admin

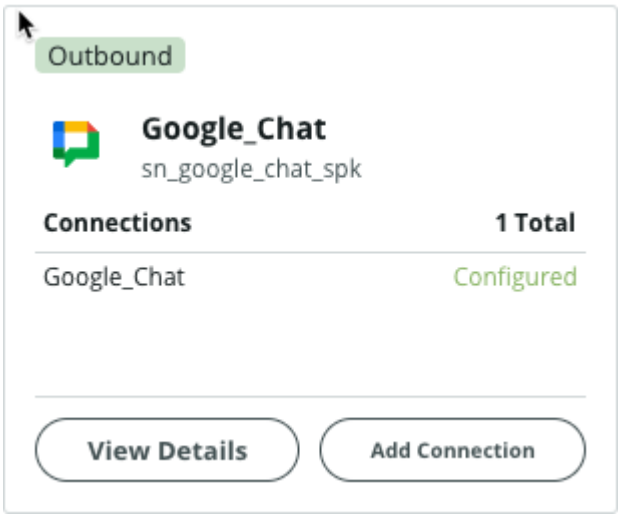
手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブをクリックします。

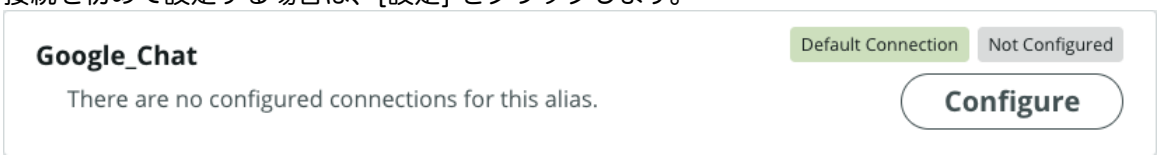
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. **[Google_Chat]** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

   注: [接続を追加] はクリックしないでください。



4. 接続を初めて設定する場合は、[設定] をクリックします。



5. [接続を設定] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを一意に識別する名前です。
接続 URL	Google Chat API への URL。`https://chat.googleapis.com` を入力します
API バージョン	Google Chat API のバージョン。`v1` と入力します。
OAuth クライアント ID	Google Cloud コンソールの Google Chat アプリの OAuth クライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	Google Cloud コンソールの Google Chat アプリの OAuth クライアントシークレット。
OAuth リダイレクト URL	ServiceNow インスタンスの OAuth リダイレクト URL。この形式 `https://<your-instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` で入力します。

6. **[OAuth** トークンを設定して取得 **(Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。
   Google アカウントのログインページにリダイレクトされます。
7. Google Chat API の認証情報を入力します。

タスクの結果
Google Chat スペークに対して OAuth トークンが生成され、設定されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Google Cloud Datastore スポーク

ServiceNow インスタンスから Google Cloud Datastore の NoSQL データベースサービスを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Google Cloud Datastore スポーク v1.0.2 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Google Cloud Datastore v1 向けにビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Google Cloud Datastore アカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

統合ハブ (com.glide.hub.integrations)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Google Cloud Datastore Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときに Google Cloud Datastore のタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
エンティティ管理	エンティティのエクスポート	すべてまたはエンティティのサブセットのコピーを Google Cloud Datastore から別のストレージシステムにエクスポートします。
	エンティティのインポート	エンティティを Google Cloud Datastore にインポートします。
インデックス管理	インデックスを作成	指定されたインデックスを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	インデックスを削除	既存のインデックスを削除します。
	インデックスの取得	インデックスを取得します。
	インデックスを検索	指定されたフィルターに一致するインデックスのリストを取得します。
運用管理	操作をキャンセル	長時間実行されている操作の非同期キャンセルを開始します。
	操作を削除	長時間実行されている操作を削除します。
	操作を取得	長時間実行されている操作の最新の進捗状況を取得します。
	操作を検索	要求で指定されたフィルターに一致する操作のリストを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Google Cloud Datastore Spoke を設定。

Google Cloud Datastore Spoke を設定

Google Cloud Platform 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Google Cloud Datastore Spoke を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Cloud Datastore スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

カスタムアプリケーションの作成

Google Cloud Platform アカウントでカスタム OAuth アプリケーションを作成し、Google Cloud Datastore スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

Google Cloud Platform から次の手順を実行します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、Google Cloud Platform の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. https://console.cloud.google.com/ に移動して、新しいカスタムアプリケーションを登録します。
2. アドミニストレーター認証情報でプロジェクトを作成し、そのプロジェクトを開きます。
3. [API とサービス] メニューから **[OAuth** 同意画面] を選択し、アプリケーション名を入力して、認証済みドメイン `service-now.com` を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [保存] をクリックします。
5. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから [認証情報] を選択し、 [認証情報の作成 **(Create credentials)]** リストから **[OAuth** クライアント **ID** の作成 **(Create OAuth client ID)]** を選択します。
6. アプリケーションタイプ **[OAuth** クライアント **ID]** を選択します。
7. 承認済みのリダイレクト **URI** `https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力して、[作成] をクリックします。
   [OAuth クライアント] ウィンドウには、クライアント ID とクライアントシークレットが表示されます。
8. これらの 2 つの値をテキストファイルにコピーして、以下を行うときに使用できるようにします：OAuth プロバイダーとして Google Cloud Datastore を登録
   クライアント ID とシークレットには、Google API と Services インターフェイスでいつでもアクセスできます。[認証情報] をクリックし、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択します。

OAuth プロバイダーとして Google Cloud Datastore を登録

G suite を OAuth プロバイダーとして登録し、ServiceNowインスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ] へ移動します。
2. レコード **[Google Cloud Datastore]** を開きます。
3. フォームに、これらの値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
クライアント ID	Google Cloud Datastore アプリケーションのクライアント ID です。
クライアントシークレット	Google Cloud Datastore アプリケーションのクライアントシークレットです。
OAuth API スクリプト	**OAuthGoogleDatastoreUtils** がデフォルトで選択されています。
認証 URL	OAuth 認証コードエンドポイント：`https://accounts.google.com/o/oauth2/auth`
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント：`https://oauth2.googleapis.com/token`
リダイレクト URL	次の形式で OAuth コールバックエンドポイントを入力します：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` 空白のままにすると、インスタンスは URL を自動生成します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Google Cloud Datastore スポークの認証情報レコードの作成

Google Cloud Datastore カスタムアプリケーションの認証情報レコードを作成します。Google Cloud Datastore スポーク接続および資格情報エイリアスでは、この認証情報を使用してアクションを許可します。

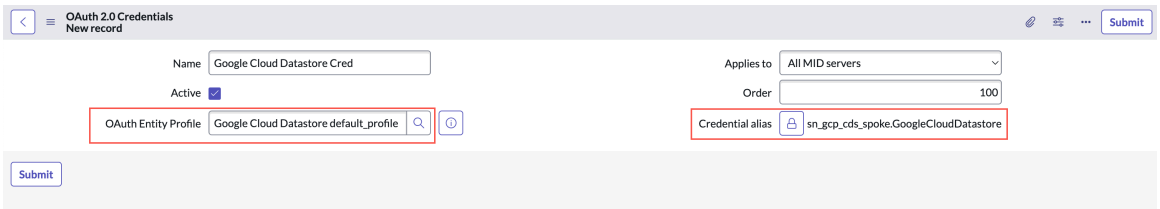
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報]に移動します。
2. レコード **[GoogleCloudDatastore]** を開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
5. フォームに、これらの値を入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する名前です。 例：`Google Cloud Datastore Cred`
OAuth エンティティプロファイル	デフォルトの OAuth エンティティプロファイル **[Google Cloud Datastore default_profile]** を選択します。
認証情報エイリアス	このレコードに関連付けられた認証情報エイリアス。デフォルトのエイリアスレコード **[sn_gcp_cds_spoke.GoogleCloudDatastore]** が選択されます。



6. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
7. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

Google Cloud DNS スポーク

ServiceNowインスタンスからGoogle Cloud DNSアカウントを使用して、パブリックゾーンとプライベート管理対象 DNS ゾーンを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークはGoogle Cloud DNSAPI バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークバージョン

Google Cloud DNS スポーク バージョンは 1.0.2 です。

スポークの要件

Google Cloud DNSスポークには、 Google Cloud Platformで作成したカスタムアプリが必要です。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNowIntegrationHub アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNowIntegrationHub アクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- Google Cloud Virtual Network スポーク
- Google Identity and Access スポーク

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Google Cloud DNS Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
変更管理	変更要求を作成	リソースレコードセットコレクションを更新します。
	変更を取得	既存の変更の詳細を取得します。
	変更を検索	指定された管理対象ゾーン内で利用可能なリソースレコードセットコレクションへの変更のリストを取得します。
DNS キー管理	DNS キーを取得	既存の DNS キーの詳細を取得します。
	DNS キーを検索	指定された管理対象ゾーン内で利用可能なリソースレコードセットコレクションへの DNS キーのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
管理対象ゾーン管理	プライベートの管理対象ゾーンを作成	プライベート DNS レコードを使用してプライベートの管理対象ゾーンを作成します。
	パブリックの管理対象ゾーンを作成	パブリックの管理対象ゾーンを作成します。
	管理対象ゾーンを削除	指定された既存の管理対象ゾーンを削除します。
	管理対象ゾーンを取得	指定された管理対象ゾーンの詳細を取得します。
	管理対象ゾーンを検索	指定されたプロジェクト内で利用可能な管理対象ゾーンのリストを取得します。
	プライベートの管理対象ゾーンを更新	指定した管理対象ゾーンの詳細を更新します。
	パブリックの管理対象ゾーンを更新	指定した管理対象ゾーンの詳細を更新します。
運用管理	操作を取得	既存の操作の詳細を取得します。
	操作を検索	指定した管理対象ゾーン内で利用可能な操作のリストを取得します。
ポリシー管理	ポリシーを作成	ポリシーを作成します。
	ポリシーを削除	指定されたポリシーを削除します。
	ポリシーを取得	指定したポリシーの詳細を取得します。
	ポリシーを検索	指定したプロジェクト内で利用可能なポリシーのリストを取得します。
	ポリシーを更新	指定したポリシーの詳細を更新します。
プロジェクト管理	プロジェクトを取得	指定したプロジェクトの詳細を取得します。
リソースレコードセット管理	リソースレコードセットを検索	指定した管理対象ゾーン内で利用可能なリソースレコードセットコレクションのリストを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Google Cloud DNSSpoke を設定。

Google Cloud DNSSpoke を設定

Google Cloud PlatformにカスタムOAuthアプリケーションを作成してServiceNowインスタンスとGoogle Cloud DNSアカウントをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Cloud DNS スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

カスタムアプリケーションの作成

Google Cloud Platform アカウントでカスタム OAuth アプリケーションを作成し、Google Cloud DNS スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
Google Cloud Platform から次の手順を実行します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、Google Cloud Platform の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. https://console.cloud.google.com/ に移動して、新しいカスタムアプリケーションを登録します。
2. アドミニストレーター認証情報でプロジェクトを作成し、そのプロジェクトを開きます。
3. [API とサービス] メニューから **[OAuth** 同意画面] を選択し、アプリケーション名を入力して、認証済みドメイン `service-now.com` を指定します。
4. [保存] をクリックします。
5. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから [認証情報] を選択し、 [認証情報の作成 **(Create credentials)]** リストから **[OAuth** クライアント **ID** の作成 **(Create OAuth client ID)]** を選択します。
6. アプリケーションタイプ **[OAuth** クライアント **ID]** を選択します。
7. 承認済みのリダイレクト **URI** `https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力して、[作成] をクリックします。
   [OAuth クライアント] ウィンドウには、クライアント ID とクライアントシークレットが表示されます。
8. これらの 2 つの値をテキストファイルにコピーして、以下を行うときに使用できるようにします：OAuth プロバイダーとしてGoogle Cloud DNSを登録
   クライアント ID とシークレットには、Google API と Services インターフェイスでいつでもアクセスできます。[認証情報] をクリックし、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択します。

OAuth プロバイダーとして**Google Cloud DNS**を登録

Google Cloud DNSアプリケーションの構成中に生成された情報を使用し、Google Cloud DNSを OAuth プロバイダーとして登録して、ServiceNowインスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ] へ移動します。
2. レコード、**Google Cloud DNS** を開きます。
3. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
クライアント ID	Google Cloud DNS アプリケーションのクライアント ID です。
クライアントシークレット	Google Cloud DNS アプリケーションのクライアントシークレットです。
OAuth API スクリプト	デフォルトで **[OAuthGoogleCloudDNSUtils]** が選択されています。
認証 URL	OAuth 認証コードエンドポイント：`https://accounts.google.com/o/oauth2/auth`
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント：`https://oauth2.googleapis.com/token`
リダイレクト URL	次の形式で OAuth コールバックエンドポイントを入力します：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` 空白のままにすると、インスタンスは URL を自動生成します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

Google Cloud DNS スポークの認証情報レコードの作成

Google Cloud DNS アプリケーションのデフォルトの認証情報レコードを作成します。Google Cloud DNS スポーク接続および資格情報エイリアスでは、この認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

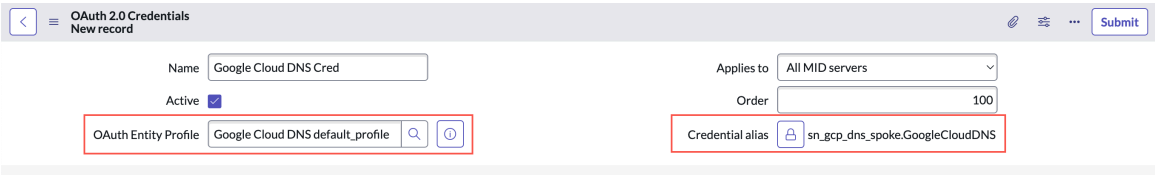
1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報]に移動します。
2. レコード **[GoogleCloudDNS]** を開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
5. フォームに、これらの値を入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する名前です。 例：`Google Cloud DNS Cred`
OAuth エンティティプロファイル	デフォルトの OAuth エンティティプロファイル **[Google Cloud DNS default_profile]** を選択します。
認証情報エイリアス	このレコードに関連付けられた認証情報エイリアス。デフォルトのエイリアスレコード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	[sn_gcp_dns_spoke.GoogleCloudDNS] が選択されます。



6. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
7. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

Google Cloud Functions スポーク

ServiceNowインスタンスの Google Cloud Functionsアカウントを使用して、イベントに関連付けられた関数を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート 」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要 」を参照てください。

スポークバージョン

Google Cloud Functions v1.0.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Google Cloud FunctionsAPI バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

Google Cloud Functionsスポークの要件

Google Cloud Functions スポークには、 Google Cloud Platformで作成したカスタムアプリが必要です。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- Google Identity and Access スポーク
- Google Cloud VPC Access スポーク
- Google Cloud Storage スポーク
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNowIntegrationHub アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNowIntegrationHub アクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Google Cloud Functions スポークでは、Now Platform でイベントが発生したときに Google Cloud Functions タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
関数管理	イベントの関数を作成	イベントの関数を作成します。
	HTTP の関数を作成	HTTP 要求を処理する関数を作成します。
	関数を削除	指定された関数を削除します。
	ダウンロード URL を生成	展開された関数のソースコードをダウンロードするための署名付き URL の詳細を取得します。
	アップロード URL を生成	展開された関数ソースコードをアップロードするための署名付き URL の詳細を取得します。
	関数を取得	指定された関数に関する情報を取得します。
	IAM ポリシーを取得	関数の IAM アクセス制御ポリシーの詳細を取得します。
	関数を検索	指定された場所で利用可能な関数のリストを取得します。
	IAM ポリシーを設定	指定された関数に対する IAM アクセス制御ポリシーを設定します。
	関数を更新	指定された関数の詳細を更新します。
場所管理	場所を検索	指定されたプロジェクトで利用可能な場所のリストを取得します。
運用管理	操作を取得	指定された操作の詳細を取得します。
	操作を検索	指定されたプロジェクトで利用可能な操作のリストを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Google Cloud FunctionsSpoke を設定。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Google Cloud FunctionsSpoke を設定

Google Cloud Platformにカスタム OAuth アプリケーションを作成してServiceNowインスタンスと Google Cloud Functionsアカウントをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Cloud Functions スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

Google Cloud Functions アプリケーションの構成

Google Cloud Platform アカウントでカスタム OAuth アプリケーションを作成し、 Google Cloud Functions スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

このタスクについて

Google Cloud Platform から次の手順を実行します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、Google Cloud Platform の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. 「 https://console.cloud.google.com/ 」に移動し、アドミニストレーターの認証情報でプロジェクトを作成して、新しいカスタムアプリケーションを登録します。
2. 新しいプロジェクトを開き、[API とサービス (APIs & Services)] メニューから、**[OAuth 同意画面 (OAuth consent screen)]** を選択します。
3. アプリケーション名を入力して、認証済みドメイン `service-now.com` を指定して、[保存] を指定します。
4. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから [認証情報] を選択し、 [認証情報の作成 **(Create credentials)]** リストから **[OAuth** クライアント **ID** の作成 **(Create OAuth client ID)]** を選択します。
5. アプリケーションタイプ **[OAuth** クライアント **ID]** を選択します。
6. 承認済みのリダイレクト URI「`https://<インスタンス>.service-now.com/oauth_redirect.do`」を入力して、[作成] をクリックします。
7. OAuth クライアントウィンドウから、クライアント ID とクライアントシークレットをテキストファイルにコピーして、「OAuth プロバイダーとして Google Cloud Functionsを登録」を行うときに使用できるようにします。
   クライアント ID とシークレットには、Google API と Services インターフェイスでアクセスできます。[認証情報] を選択し、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択します。

OAuth プロバイダーとして Google Cloud Functionsを登録

Google Cloud Functionsアプリケーションの構成中に生成された情報を使用し、 Google Cloud Functionsを OAuth プロバイダーとして登録して、ServiceNowインスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. レコード、**Google Cloud Functions** を開きます。
3. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
クライアント ID	Google Cloud Functions アプリケーションのクライアント ID です。
クライアントシークレット	Google Cloud Functions アプリケーションのクライアントシークレットです。
OAuth API スクリプト	デフォルトで **[OauthGoogleCloudFunctionsUtils]** が選択されています。
認証 URL	OAuth 認証コードエンドポイント：`https://accounts.google.com/o/oauth2/auth`
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント：`https://oauth2.googleapis.com/token`
リダイレクト URL	次の形式で OAuth コールバックエンドポイントを入力します：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` 空白のままにすると、インスタンスは URL を自動生成します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

Google Cloud Functions スポークの認証情報レコードを作成

Google Cloud Functionsアプリケーションの認証情報レコードを作成します。 Google Cloud Functionsスポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

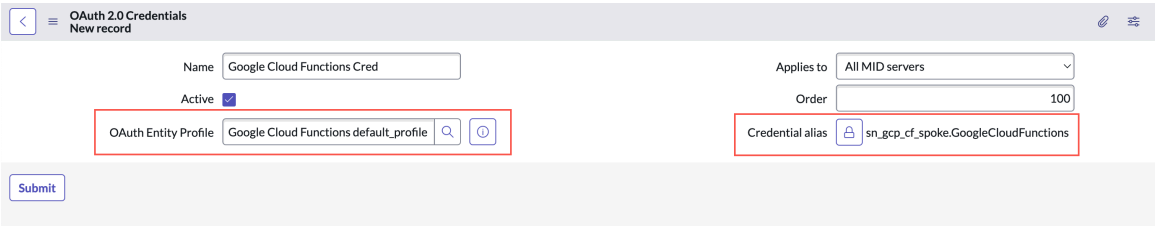
1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報]に移動します。
2. レコード **[GoogleCloudFunctions]** を開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
5. フォームに、これらの値を入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する名前です。 例：`Google Cloud Functions Cred`
OAuth エンティティプロファイル	デフォルトの OAuth エンティティプロファイル **[Google Cloud Functions default_profile]** を選択します。
認証情報エイリアス	このレコードに関連付けられた認証情報エイリアス。デフォルトのエイリアスレコード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	[sn_gcp_cf_spoke.GoogleCloudFunctions] が選択されます。



6. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
7. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

Google Cloud Load Balancer Spoke

ServiceNow インスタンスから、外部または内部の仮想プライベートクラウド (VPC) ネットワークの負荷分散を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Google Cloud Load Balancer スポーク v1.0.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Google Cloud Load Balancer v1 向けにビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Google Compute Engine および Google 仮想プライベートネットワークにアクセスできる Google Cloud Platform (GCP) アカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- Google Compute Engine スポーク (sn_gcompute_spoke)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのサブフロー

Google Cloud Load Balancer Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときに Google Cloud Load Balancer タスクを自動化するサブフローが提供されます。利用可能なサブフローは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
HTTPS ロードバランサー管理	新しいバックエンドサービスの HTTPS ロードバランサーを作成	指定されたプロジェクトの新しいバックエンドサービスの HTTPS ロードバランサーを作成します。
	既存のバックエンドサービスの HTTPS ロードバランサーを作成	指定されたプロジェクトの既存のバックエンドサービスの HTTPS ロードバランサーを作成します。
	HTTPS ロードバランサーを削除	指定されたロードバランサーのコンポーネントを削除します。
	HTTPS ロードバランサーのコンポーネントを検索	HTTPS ロードバランサーに関連付けられているすべてのコンポーネントの名前のリストを取得します。
HTTP ロードバランサー管理	新しいバックエンドサービスの HTTP ロードバランサーを作成	指定されたプロジェクトの新しいバックエンドサービスの HTTP ロードバランサーを作成します。
	既存のバックエンドサービスの HTTP ロードバランサーを作成	指定されたプロジェクトの既存のバックエンドサービスの HTTP ロードバランサーを作成します。
	HTTP ロードバランサーを削除	HTTP ロードバランサーのコンポーネントを削除します。
	HTTP ロードバランサーのコンポーネントを検索	HTTP ロードバランサーに関連付けられているすべてのコンポーネントの名前のリストを取得します。

スポークのアクション

Google Cloud Load Balancer Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときに Google Cloud Load Balancer タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

カテゴリ	アクション	説明
バックエンドサービス管理	バックエンドサービスを作成	バックエンドサービスを作成します。
	バックエンドサービスを削除	指定されたバックエンドサービスを削除します。
	バックエンドサービスを取得	指定されたバックエンドサービスの詳細を取得します。
	バックエンドサービスの健全性を取得	指定されたバックエンドサービスの健全性に関する詳細を取得します。
	バックエンドサービスを検索	すべてのバックエンドサービスのリストを取得します。
	バックエンドサービスを更新	指定されたバックエンドサービスの詳細を更新します。
グローバルアドレス管理	グローバルアドレスを作成	グローバルアドレスを作成します。
	グローバルアドレスを削除	指定されたグローバルアドレスを削除します。
	グローバルアドレスを取得	すべてのグローバルアドレスの詳細を取得します。
	グローバルアドレスを検索	すべてのグローバルアドレスのリストを取得します。
グローバル転送ルール管理	グローバル転送ルールを作成	グローバル転送ルールを作成します。
	グローバル転送ルールを削除	指定されたグローバル転送ルールを削除します。
	グローバル転送ルールを取得	グローバル転送ルールの詳細を取得します。
	グローバル転送ルールを検索	すべてのグローバル転送ルールのリストを取得します。
	グローバル転送ルールのターゲットを設定	指定されたグローバル転送ルールにターゲット情報を割り当てます。
HTTP 健全性チェック管理	HTTP 健全性チェックを作成	HTTP 健全性チェックを作成します。
	HTTP 健全性チェックを削除	指定された HTTP 健全性チェックを削除します。
	HTTP 健全性チェックを取得	指定された HTTP 健全性チェックの詳細を取得します。
	HTTP 健全性チェックを検索	すべての HTTP 健全性チェックのリストを取得します。
	HTTP 健全性チェックを更新	指定された HTTP 健全性チェックの詳細を更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
HTTP ロードバランサー管理	リソース名を取得	リソース URL からリソースの名前を取得します。
HTTPS 健全性チェック管理	HTTPS 健全性チェックを作成	HTTPS 健全性チェックを作成します。
	HTTPS 健全性チェックを削除	指定された HTTPS 健全性チェックを削除します。
	HTTPS 健全性チェックを取得	指定された HTTPS 健全性チェックの詳細を取得します。
	HTTPS 健全性チェックを検索	HTTPS 健全性チェックのリストを取得します。
	HTTPS 健全性チェックを更新	指定された HTTPS 健全性チェックの詳細を更新します。
インスタンスグループマネージャー管理	インスタンスグループマネージャーを作成	インスタンスグループマネージャーを作成します。
	インスタンスマネージャーグループ内にインスタンスを作成	指定されたインスタンスグループマネージャーでインスタンスを作成します。
	インスタンスグループマネージャーを削除	指定されたインスタンスグループマネージャーを削除します。
	インスタンスグループマネージャーを取得	指定されたインスタンスグループマネージャーの詳細を取得します。
	インスタンスグループマネージャーを検索	管理対象インスタンスグループのリストを取得します。
	インスタンスグループマネージャー内の管理対象インスタンスを検索	指定された管理対象インスタンスグループ内の管理対象インスタンスのリストを取得します。
	インスタンスグループマネージャーのサイズを変更	指定されたインスタンスグループマネージャー内のインスタンス数のサイズを変更します。
	インスタンスグループマネージャーのインスタンステンプレートを更新	指定されたインスタンスグループマネージャーに対してインスタンステンプレートの詳細を割り当てます。
ターゲット HTTP プロキシ管理	ターゲット HTTP プロキシを作成	ターゲット HTTP プロキシを作成します。
	ターゲット HTTP プロキシを削除	指定されたターゲット HTTP プロキシを削除します。
	ターゲット HTTP プロキシを取得	指定されたターゲット HTTP プロキシの詳細を取得します。
	ターゲット HTTP プロキシを検索	すべてのターゲット HTTP プロキシのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
	ターゲット HTTP プロキシの URL マップを更新	URL マップ情報を指定されたターゲット HTTP プロキシに割り当てます。
ターゲット HTTPS プロキシ管理	ターゲット HTTPS プロキシを作成	ターゲット HTTPS プロキシを作成します。
	ターゲット HTTPS プロキシを削除	指定されたターゲット HTTPS プロキシを削除します。
	ターゲット HTTPS プロキシを取得	指定されたターゲット HTTP プロキシの詳細を取得します。
	ターゲット HTTPS プロキシを検索	ターゲット HTTPS プロキシのリストを取得します。
	SSL 証明書をターゲット HTTPS プロキシに設定	指定されたターゲット HTTPS プロキシに SSL 証明書を割り当てます。
	URL マップをターゲット HTTPS プロキシに設定	URL マップ情報を指定されたターゲット HTTPS プロキシに割り当てます。
URL マップ管理	URL マップを作成	URL マップを作成します。
	URL マップを削除	指定された URL マップを削除します。
	URL マップを取得	指定された URL マップの詳細を取得します。
	URL マップを検索	すべての URL マップの詳細を取得します。
	URL マップを更新	URL マップの詳細を更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Google Cloud Load Balancer Spoke を設定。

Google Cloud Load Balancer Spoke を設定

カスタム OAuth アプリケーションを Google Cloud Storage に作成してServiceNowインスタンスと Google Cloud Load Balancer をデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Cloud Load Balancer スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カスタムアプリケーションの作成

Google Cloud Platform アカウントでカスタム OAuth アプリケーションを作成し、Google Cloud Load Balancer スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
Google Cloud Platform から次の手順を実行します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、Google Cloud Platform の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. https://console.cloud.google.com/ に移動して、新しいカスタムアプリケーションを登録します。
2. アドミニストレーター認証情報でプロジェクトを作成し、そのプロジェクトを開きます。
3. [API とサービス] メニューから **[OAuth** 同意画面] を選択し、アプリケーション名を入力して、認証済みドメイン `service-now.com` を指定します。
4. [保存] をクリックします。
5. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから [認証情報] を選択し、 [認証情報の作成 **(Create credentials)]** リストから **[OAuth** クライアント **ID** の作成 **(Create OAuth client ID)]** を選択します。
6. アプリケーションタイプ **[OAuth** クライアント **ID]** を選択します。
7. 承認済みのリダイレクト **URI** `https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力して、[作成] をクリックします。
   [OAuth クライアント] ウィンドウには、クライアント ID とクライアントシークレットが表示されます。
8. これらの 2 つの値をテキストファイルにコピーして、以下を行うときに使用できるようにします：OAuth プロバイダーとして Google Cloud Load Balancer を登録
   クライアント ID とシークレットには、Google API と Services インターフェイスでいつでもアクセスできます。[認証情報] をクリックし、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択します。

OAuth プロバイダーとして Google Cloud Load Balancer を登録

Google Cloud Storage アプリケーションの構成中に生成された情報を使用し、Google Cloud Load Balancer を OAuth プロバイダーとして登録して、ServiceNow インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. レコード **[Google Cloud Load Balancer]** を開きます。
3. フォームに、これらの値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
クライアント ID	Google Cloud Load Balancer アプリケーションのクライアント ID です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
クライアントシークレット	Google Cloud Load Balancer アプリケーションのクライアントシークレットです。
OAuth API スクリプト	デフォルトで **[OAuthGoogleCloudLoadBalancerUtil]** が選択されています。
認証 URL	OAuth 認証コードエンドポイント：`https://accounts.google.com/o/oauth2/auth`
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント：`https://oauth2.googleapis.com/token`
リダイレクト URL	次の形式で OAuth コールバックエンドポイントを入力します：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` 空白のままにすると、インスタンスは URL を自動生成します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

Google Cloud Load Balancer Spoke の認証情報レコードを作成

Google Cloud Load Balancer カスタムアプリケーションの認証情報レコードを作成Google Cloud Load Balancer Spoke 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

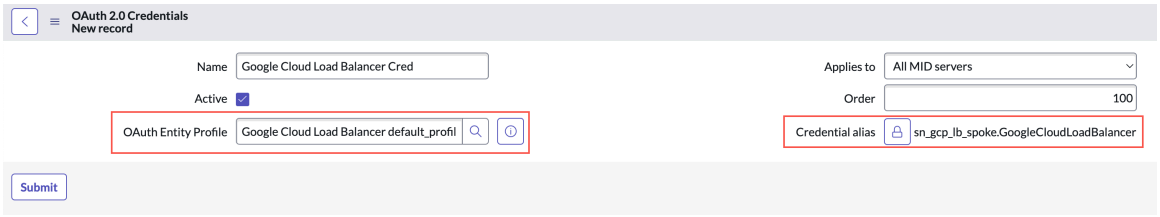
手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報]に移動します。
2. レコード **[GoogleCloudLoadBalancer]** を開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
5. フォームに、これらの値を入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する名前です。 例：`Google Cloud Load Balancer Cred`
OAuth エンティティプロファイル	デフォルトの OAuth エンティティプロファイル **[Google Cloud Load Balancer default_profile]** を選択します。
認証情報エイリアス	このレコードに関連付けられた認証情報エイリアス。デフォルトのエイリアスレコード **[sn_gcp_lb_spoke.GoogleCloudLoadBalancer]** が選択されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
7. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

Google Cloud Pub Sub Spoke

ServiceNow インスタンスから Google Cloud Pub/Sub のメッセージングサービスを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークは Google Cloud Pub Sub v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークバージョン

Google Cloud Pub/Sub スポーク v1.0.4 が最新バージョンです。

スポークの要件

Google Cloud アカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- Google ID およびアクセススポーク (sn_gcp_id_acc_spk)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのサブフロー

Google Cloud Pub Sub Spoke では、Google Cloud Pub/Sub のタスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
Google PubSub メッセージ	サブトピックからメッセージを受信し、ログにメッセージを表示します。

スポークのアクション

Google Cloud Pub Sub Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
スナップショット管理	スナップショットを作成	要求されたサブスクリプションからスナップショットを作成します。
	スナップショットを削除	指定された既存のスナップショットを削除します。
	スナップショット IAM ポリシーを取得	スナップショット IAM ポリシーを取得します。
	スナップショットを検索	既存のスナップショットのリストを取得します。
	スナップショット IAM ポリシーを設定	指定されたスナップショットにアクセス制御ポリシーを割り当てます。
	スナップショットを更新	既存のスナップショットを更新します。
サブスクリプション管理	確認	確認要求の確認 ID に関連付けられたメッセージを確認します。
	期限を確認	特定のメッセージの確認期限を秒単位で更新します。
	プルサブスクリプションを作成	指定されたトピックへのプルサブスクリプションを作成します。
	プッシュサブスクリプションを作成	指定されたトピックへのプッシュサブスクリプションを作成します。
	サブスクリプションを削除	指定されたプロジェクトの既存のサブスクリプションを削除します。
	サブスクリプションを取得	指定されたサブスクリプションの構成の詳細を取得します。
	サブスクリプション IAM ポリシーを取得	指定されたサブスクリプションのアクセス制御ポリシーを取得します。
	サブスクリプションを検索	サブスクリプションのリストを取得します。
	メッセージをプル	指定されたプロジェクトのメッセージを非同期にプルします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	サブスクリプションをシーク	ポイントインタイムまたは指定されたスナップショットに対する既存のサブスクリプションをシークします。
	サブスクリプション IAM ポリシーを設定	指定されたサブスクリプションにアクセス制御ポリシーを割り当てます。
	プッシュ構成を更新	指定されたサブスクリプションのプッシュ構成を更新します。
	サブスクリプションを更新	指定された既存のサブスクリプションを更新します。
トピック管理	トピックを作成	指定された名前でトピックを作成します。
	トピックを削除	指定されたトピックを削除します。
	IAM ポリシーを取得	リソースの指定されたアクセス制御ポリシーを取得します。
	トピックを取得	指定されたトピックの構成の詳細を取得します。
	トピックを検索	トピックのリストを取得します。
	メッセージを公開	指定されたトピックに 1 つ以上のメッセージを追加します。
	IAM ポリシーを設定	指定されたリソースにアクセス制御ポリシーを割り当てます。
	トピックを更新	指定されたトピックを更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Google Cloud Pub Sub Spoke を設定。

Google Cloud Pub Sub Spoke を設定

カスタム OAuth アプリケーションを Google Cloud アカウントに作成してServiceNowインスタンスと Google Cloud Pub Sub をデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Cloud Pub Sub スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

カスタムアプリケーションの作成

Google Cloud Platform アカウントでカスタム OAuth アプリケーションを作成し、Google Cloud Pub Sub スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. https://console.cloud.google.com/ に移動して、新しいカスタムアプリケーションを登録します。
2. アドミニストレーター認証情報でプロジェクトを作成し、そのプロジェクトを開きます。
3. [API とサービス] メニューから **[OAuth** 同意画面] を選択し、アプリケーション名を入力して、認証済みドメイン `service-now.com` を指定します。
4. [保存] をクリックします。
5. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから [認証情報] を選択し、 [認証情報の作成 **(Create credentials)]** リストから **[OAuth** クライアント **ID** の作成 **(Create OAuth client ID)]** を選択します。
6. アプリケーションタイプ **[OAuth** クライアント **ID]** を選択します。
7. 承認済みのリダイレクト **URI** `https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力して、[作成] をクリックします。
   [OAuth クライアント] ウィンドウには、クライアント ID とクライアントシークレットが表示されます。
8. これらの 2 つの値をテキストファイルにコピーして、以下を行うときに使用できるようにします：OAuth プロバイダーとして Google Cloud Pub Sub を登録
   クライアント ID とシークレットには、Google API と Services インターフェイスでいつでもアクセスできます。[認証情報] をクリックし、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択します。

OAuth プロバイダーとして Google Cloud Pub Sub を登録

Google Cloud Pub Sub アプリケーションの構成中に生成された情報を使用し、Google Cloud を OAuth プロバイダーとして登録して、ServiceNow インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

Google Identity and Access スポークを設定します。

手順

1. [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ] へ移動します。
2. レコード **[Google Cloud Pub Sub]** を開きます。
3. フォームに、これらの値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
クライアント ID	Google Cloud Pub Sub アプリケーションのクライアント ID です。
クライアントシークレット	Google Cloud Pub Sub アプリケーションのクライアントシークレットです。
OAuth API スクリプト	デフォルトで **[OauthGooglePubSubUtils]** が選択されています。
認証 URL	OAuth 認証コードエンドポイント：`https://accounts.google.com/o/oauth2/auth`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント：`https://oauth2.googleapis.com/token`
リダイレクト URL	次の形式で OAuth コールバックエンドポイントを入力します：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` 空白のままにすると、インスタンスは URL を自動生成します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

Google Cloud Pub Sub スポークの認証情報レコードの作成

Google Cloud アカウントの認証情報レコードを作成します。Google Cloud Pub Sub スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

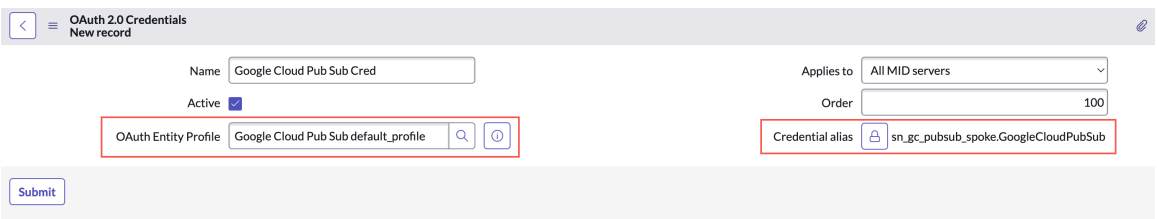
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報]に移動します。
2. **[GoogleCloudPubSub]** レコードを開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
5. フォームに、これらの値を入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する名前です。 例：`Google Cloud Pub Sub Cred`
OAuth エンティティプロファイル	デフォルトの OAuth エンティティプロファイル **[Google Cloud Pub Sub default_profile]** を選択します。
認証情報エイリアス	このレコードに関連付けられた認証情報エイリアス。デフォルトのエイリアスレコード **[sn_gc_pubsub_spoke.GoogleCloudPubSub]** が選択されます。



6. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
7. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Google Cloud SQL スポーク

ServiceNow インスタンスから Google Cloud SQL で MySQL と PostgreSQL のプロビジョニングを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Google Cloud SQL スポーク v1.0.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Google Cloud SQL v1beta4 向けにビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Google Cloud Platform アカウント
- Google ID およびアクセススポーク (sn_gcpcloudsql_spk)

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- • ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- • ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- • ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- • ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- • 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Google Cloud SQL では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明	必須権限
実行管理のバックアップ：	バックアップを作成	バックアップを作成します。	cloudsql.backupRuns.create

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必須権限
	バックアップ実行を削除	バックアップを削除します。	cloudsql.backupRuns.delete
	バックアップ実行を取得	バックアップの詳細を取得します。	cloudsql.backupRuns.get
	バックアップ実行を検索	バックアップ実行のリストを取得します。	cloudsql.backupRuns.list
データベース管理	データベースを作成	データベースを作成します。	cloudsql.databases.create
	データベースを削除	データベースを削除します。	cloudsql.databases.delete
	データベースを取得	インスタンスの詳細を取得します。	cloudsql.databases.get
	データベースを検索	データベースのリストを取得します。	cloudsql.databases.list
	データベースを更新	データベースを更新します。	cloudsql.databases.update
インスタンス管理	インスタンスをクローン	インスタンスをクローンします。	cloudsql.instances.clone
	インスタンスを作成	インスタンスを作成します。	cloudsql.instances.create
	インスタンスを削除	インスタンスを削除します。	cloudsql.instances.delete
	インスタンスを取得	インスタンスの詳細を取得します。	cloudsql.instances.get
	インスタンスを検索	インスタンスのリストを取得します。	cloudsql.instances.clone
	インスタンスを再起動	インスタンスを再起動します。	cloudsql.instances.restart
	インスタンスを更新	インスタンスを更新します。	cloudsql.instances.update
運用	操作を取得	操作の詳細を取得します。	適用外
	操作を検索	操作のリストを取得します。	適用外
階層	階層を検索	階層のリストを取得します。	適用外
ユーザー管理	ユーザーを作成	ユーザーを作成します。	cloudsql.users.create
	ユーザーを削除	ユーザーを削除します。	cloudsql.users.delete
	ユーザーを検索	ユーザーのリストを取得します。	cloudsql.users.list
	ユーザーを更新	ユーザーを更新します。	cloudsql.users.update

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Google Cloud SQL Spoke を設定。

Google Cloud SQL Spoke を設定

Google Cloud Platform 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Google Cloud SQL Spoke をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Cloud SQL スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Google Cloud SQL アプリケーションを構成

Google Cloud Platformアカウントからカスタム OAuth アプリケーションを作成し、Google Cloud SQL Spoke で OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

Google ID とアクセスデータ連携要件：

- Google Cloud SQL アカウント。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

Google Cloud Platformからこれらの手順を実行します。

手順

1. 新しいカスタムアプリケーションを登録して開きます。
   a. https://console.developers.google.com に移動します。
   b. Google Cloud Platform アドミン認証情報でプロジェクトを作成します。
   c. プロジェクトを開きます。
2. OAuth 認可済みドメイン名を指定します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、**[OAuth 同意画面 (OAuth consent screen)]** を選択します。
   b. アプリケーション名を入力します。
   c. 認可済みドメイン `service-now.com` を指定します。
   d. [保存] をクリックします。
3. 認証情報を作成します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、[認証情報] を選択します。
   b. [認証情報の作成] リストから、**[OAuth クライアント ID の作成 (Create OAuth client ID)]** を選択します。
4. アプリケーションタイプ **Web** アプリケーションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 承認済みのリダイレクト URI：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力し、[作成] をクリックします。
6. クライアント ID とクライアントシークレットをテキストファイルにコピーして、Google Cloud SQL を OAuth プロバイダーとして登録するときに使用できるようにします。

> **ヒント:** Google API とサービスインターフェイスで [認証情報] をクリックし、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択して、クライアント ID とシークレットにいつでもアクセスできます。

OAuth プロバイダーとして Google Cloud SQL を登録

Google Cloud SQL アカウントの構成中に生成された情報を使用し、Google Cloud SQL アプリケーションを OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ServiceNowインスタンスで、[システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. レコード **[Google Cloud SQL]** を開きます。
3. フォームの各フィールドに入力します。

フィールド	説明
クライアント ID	Google Cloud SQL アプリケーションのクライアント ID です。
クライアント シークレット	アプリケーション作成時に生成したクライアントシークレットです。
OAuth API スクリプト	要求と応答をカスタマイズするスクリプトです。`OAuthGCPSQLUtil` を選択します。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可のタイプ。[認証コード] を選択します。
認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイントです。`https://accounts.google.com/o/oauth2/v2/auth` と入力します。
トークン URL	OAuth サーバートークンのエンドポイントです。`https://oauth2.googleapis.com/token` と入力します。
リダイレクト URL	ServiceNowインスタンスの URL のフォーマット：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do`

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
OAuth 認証情報が検証されます。

Google Cloud SQL スポークの認証情報レコードの作成

アカウントの構成時に作成した Google Cloud カスタムアプリケーションに接続するための認証情報レコードを作成します。Google Cloud SQL スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報]に移動します。
2. レコード **[Google_Cloud_SQL]** を開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
5. フォームに、これらの値を入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する名前です。 例：`Google Cloud SQL Cred`
OAuth エンティティプロファイル	デフォルトの OAuth エンティティプロファイル **[Google Cloud SQL]** を選択します。
認証情報エイリアス	このレコードに関連付けられた認証情報エイリアス。デフォルトのエイリアスレコード **[sn_gcpcloudsql_spk.Google_Cloud_SQL]** が選択されます。

6. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
7. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

Google Cloud Storage スポーク

ServiceNowインスタンスからの Google Cloud でのデータのストレージと取得を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Google Cloud Storage スポーク v1.0.4 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

Google Cloud Storage アカウントの要件

Google Cloud Storage スポークでは、Google Cloud Platform で作成したカスタムアプリが必要です。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークのサブフロー

Google Cloud Storage スポークでは、Google Cloud Storageタスクの自動化をデモするためのサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
オブジェクトを移動	ソースバケットから宛先バケットにオブジェクトを移動します。
オブジェクトの名前を変更	指定されたオブジェクトの名前を変更します。

スポークのアクション

Google Cloud Storage スポークでは、ServiceNowでイベントが発生したときにGoogle Cloud Storageを自動化するアクションが提供されます。スポークアクションを実行するには、Google Cloud Platform のプロジェクトまたは組織に前述の権限があることを確認する必要があります。利用可能なスポークアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限
バケットアクセス制御管理	バケットアクセス制御を作成/更新	バケットアクセス制御を作成/更新します。	• storage.buckets.get • storage.buckets.getIamPolicy • storage.buckets.setIamPolicy • storage.buckets.update

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限
	バケットアクセス制御を削除	指定されたバケットアクセス制御を削除します。	• storage.buckets.get • storage.buckets.getIamPolicy • storage.buckets.setIamPolicy • storage.buckets.update
	すべてのバケットアクセス制御をリスト	すべてのバケットアクセス制御のリストを取得します。	• storage.buckets.get • storage.buckets.getIamPolicy
バケット管理	バケットを作成	Google Cloud Storageでバケットを作成します。	Storage.buckets.create
	バケットを削除	Google Cloud Storageで指定されたバケットを削除します。	storage.buckets.delete
	バケットの詳細を取得	Google Cloud Storageで指定されたバケットの詳細を取得します。	• storage.buckets.get • storage.buckets.getIamPolicy
	バケットラベルを取得	Google Cloud Storageで指定されたバケットのラベルを取得します。	• storage.buckets.get • storage.buckets.getIamPolicy
	IAM ポリシーを取得	Google Cloud Storageで指定されたバケットの IAM ポリシーを取得します。	storage.buckets.getIamPolicy
	すべてのバケットをリスト	Google Cloud Storageで指定されたすべてのバケットの詳細を取得します。	• storage.buckets.list • storage.buckets.getIamPolicy
	バケットの詳細を更新	Google Cloud Storageで指定されたバケットの詳細を更新します。	• storage.buckets.update • storage.buckets.setIamPolicy
	バケット IAM ポリシーを更新	Google Cloud Storageで指定されたバケットの IAM ポリシーを更新します。	storage.buckets.setIamPolicy
オブジェクトアクセス制御管理	オブジェクトアクセス制御を作成/更新	オブジェクトアクセス制御を作成/更新します。	• storage.objects.get • storage.objects.getIamPolicy • storage.objects.setIamPolicy • storage.objects.update
	オブジェクトアクセス制御を削除	指定されたオブジェクトアクセス制御を削除します。	• storage.objects.get • storage.objects.getIamPolicy

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限
			• storage.objects.setIamPolicy • storage.objects.update
	すべてのオブジェクトアクセス制御をリスト	すべてのオブジェクトアクセス制御のリストを取得します。	• storage.objects.get • storage.objects.getIamPolicy
オブジェクト管理	オブジェクトをコピー	バケット間でオブジェクトをコピーします。	• storage.objects.create (宛先バケット用) • storage.objects.delete (宛先バケット用) • storage.objects.get (ソースバケット用)
	オブジェクトを削除	バケットのオブジェクトを削除します。	storage.objects.delete
	オブジェクトを ServiceNow にダウンロード	指定されたオブジェクトをServiceNowにダウンロードします。	• storage.objects.get • storage.objects.getIamPolicy
	オブジェクトの詳細を取得	指定されたオブジェクトの詳細を取得します。	• storage.objects.get • storage.objects.getIamPolicy
	すべてのオブジェクトをリスト	指定されたバケット内のすべてのオブジェクトのリストを取得します。	• storage.objects.list • storage.objects.getIamPolicy
	オブジェクトを再書き込み	ソースバケットから宛先バケットにオブジェクトを再書き込みします。	• storage.objects.create (宛先バケット用) • storage.objects.delete (宛先バケット用) • storage.objects.get (ソースバケット用)
	バケット内のオブジェクト詳細を更新	バケット内の指定されたオブジェクトの詳細を更新します。	• storage.objects.update • storage.objects.setIamPolicy
	オブジェクトストレージクラスを更新	指定されたオブジェクトのストレージクラスを更新します。	• storage.objects.update • storage.objects.setIamPolicy

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限
	オブジェクトをアップロード	指定されたバケットにオブジェクトをアップロードします。	• storage.objects.create • storage.objects.delete

必要な権限の詳細については、IAM 権限リファレンス を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Google Cloud Storage スポークを設定。

Google Cloud Storage スポークを設定

G Suite 認証情報を使用してServiceNowインスタンスと Google Cloud Storage スポークをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Google Cloud Storage スポークを有効にします。
- Google クラウドプラットフォームにアクセスします。
- 必要なロール：admin

Google Cloud Storage アプリケーションの構成

GoogleCloud Platform からカスタム OAuth アプリケーションを作成し、 Google Cloud Storage スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

Google Cloud Platform から次の手順を実行します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、Google Cloud Platform の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. 新しいカスタムアプリケーションを登録して開きます。
   a. https://console.cloud.google.com に移動します。
   b. アドミン認証情報でプロジェクトを作成します。
   c. プロジェクトを開きます。
2. OAuth 認可済みドメイン名を指定します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、**[OAuth 同意画面 (OAuth consent screen)]** を選択します。
   b. アプリケーション名を入力します。
   c. 認可済みドメイン `service-now.com` を指定します。
   d. [保存] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 認証情報を作成します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、[認証情報] を選択します。
   b. [認証情報の作成] リストから、**[OAuth クライアント ID の作成 (Create OAuth client ID)]** を選択します。
4. アプリケーションタイプ **Web** アプリケーションを選択します。
5. 承認済みのリダイレクト URI：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力し、[作成] をクリックします。
6. クライアント ID とクライアントシークレットをテキストファイルにコピーして、OAuth プロバイダーとしてGoogle Cloud Storageを登録を行うときに使用できるようにします。

> **ヒント:** Google API とサービスインターフェイスで [認証情報] をクリックし、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択して、クライアント ID とシークレットにいつでもアクセスできます。

OAuth プロバイダーとして**Google Cloud Storage**を登録

Google Cloud Storage アカウントの構成中に生成された情報を使用し、Google Cloud Storage アプリケーションを OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ] へ移動します。
2. レコード **[Google Cloud Storage]** を開きます。
3. フォームに、これらの値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
クライアント ID	Google Cloud Storage アプリケーションのクライアント ID です。
クライアントシークレット	Google Cloud Storage アプリケーションのクライアントシークレットです。
OAuth API スクリプト	デフォルトで **[OAuthGoogleCloudStorageUtils]** が選択されています。
認証 URL	OAuth 認証コードエンドポイント：`https://accounts.google.com/o/oauth2/auth`
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント：`https://oauth2.googleapis.com/token`
リダイレクト URL	次の形式で OAuth コールバックエンドポイントを入力します：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` 空白のままにすると、インスタンスは URL を自動生成します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Google Cloud Storage スポークの認証情報の作成

アカウントの構成時に作成したGoogle Cloud Storageカスタム OAuth アプリケーションを接続するために、認証情報レコードを作成します。 Google Cloud Storage スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

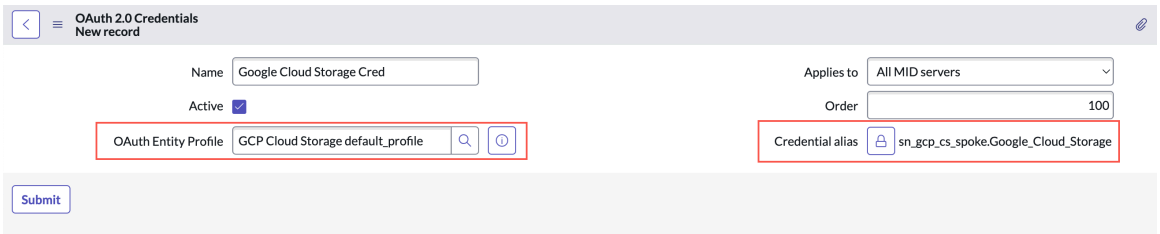
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報]に移動します。
2. レコード **[Google_Cloud_Storage]** を開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
5. フォームに、これらの値を入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する名前です。 例：`Google Cloud Storage Cred`
OAuth エンティティプロファイル	デフォルトの OAuth エンティティプロファイル **[GCP Cloud Storage default_profile]** を選択します。
認証情報エイリアス	このレコードに関連付けられた認証情報エイリアス。デフォルトのエイリアスレコード **[sn_gcp_cs_spoke.Google_Cloud_Storage]** が選択されます。



6. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
7. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

Google Cloud Translator Service スポーク

サブフローとアクションを提供してユーザーが入力したテキストを動的に翻訳し、Google 翻訳サービスを使用してテキストの言語を検出します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

登録

このスポークには、次のいずれかのサブスクリプションが必要です。

- Professional 以上のServiceNowサブスクリプションで、動的翻訳を含みます。
- 統合ハブサブスクリプション。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

ServiceNow Store で「Google Cloud Translator Service スポーク」を参照してください。

サポートされているバージョン

Google Translate API バージョン v3。

動的翻訳フレームワークのスポークのスコープ

動的翻訳フレームワークでGoogle Cloud Translator Service スポークを使用するには、スポークがServiceNow Storeにインストールされ、動的翻訳プラグインが有効になっていることを確認してください。詳細については、「動的翻訳」を参照してください。

スポークのフロー

このスポークにはサンプルフローがありません。

スポークのサブフロー

Google Cloud Translator Service スポークでは、Google翻訳サービスと統合するためのサブフローが公開ステータスで提供されています。これらのサブフローは、他のサブフローおよびフローの一部として使用できます。

サブフロー	説明
言語を検出	入力テキストの言語を検出するための一連の入力、アクション、および出力が含まれています。
テキストを複数の言語に翻訳	入力テキストを複数の言語に翻訳するための一連の入力、アクション、および出力が含まれています。

スポークのアクション

Google Cloud Translator Service スポークでは、Google翻訳サービスと統合するためのアクションが提供されています。使用可能なアクションは次のとおりです。

アクション	説明
言語を検出	入力テキストの言語を検出します。
テキストを単一の言語に翻訳	入力テキストを単一の言語に翻訳します。
テキストを複数の言語に翻訳	入力テキストを複数の言語に翻訳します。

Google アカウント要件

Google Cloud Translator Service スポークでは、OAuth 2.0 JWT ベアラー権限許可トークンを生成するために、Google Cloud アカウントを設定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークでは、Google Translation エイリアスレコード (sn_google_trans.GoogleTranslation) を使用して、アクションを許可します。スポークの設定については、「Google Cloud Translator Service スポークの設定。

Google Cloud Translator Service スポークの設定

Google アカウントと ServiceNow インスタンスをデータ連携します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Cloud Translator Service スポークを有効にします。
- Google Cloud でサービスアカウントを作成し、JSON タイプのサービスアカウントキーを生成してダウンロードします。サービスアカウントキーの作成の詳細については、Google ドキュメントを参照してください。
- Cloud Translation API サービスを有効にします。サービスの有効化の詳細については、Google ドキュメントを参照してください。
- 必要なロール：admin

Java KeyStore 証明書を作成

Java KeyStore (JKS) ファイルを作成して、Googleから取得したセキュリティ証明書を暗号化します。

始める前に

- 必要なロール：admin
- サービスアカウントキーを含む JSON ファイルをGoogleからダウンロードします。JSON ファイルのダウンロードの詳細については、Google ドキュメントを参照してください。次に、サンプルの JSON ファイルを示します。

```
{
  "type": "service_account",
  "project_id": "primeval-nectar-242610",
  "private_key_id": "0c6c7b1511f1c236c1300c5933d528bbf45314e5",
  "private_key": "-----BEGIN PRIVATE
 KEY-----\nMIIEvQKBADANBgkqhkiG9w0BAQEFAASCBKcwggSjAgEAAoIBAQDg97zOxfOe
nyu2\niXC8ArQHaAgOiy27sjG3jJXohUdHkawuX+nQLWZkIbZYlZX+cMjNfpUFpzeHRkPm\
n5OQ2bjHCgCTVFCbToKIH+VkMpS7LO+TFKW2TkWJHzWO2Xv30bT+2HkSb4tTZisMg\nV/sI
6dGJaOko4yTIBwZc7vlr28nGJdw945+9NVkEPm/G8drYJRTlrImyfnnD0RGR\npyKctHAC3
wZ/rCE5b/VIHK5ZKspRT/qXVwZsH5pW7a8NDrB1z+YQIGGOjlfINxBE\nQCE5GhiUF+Xscf
Gdq30culFoILO9xAk/41yQb8ziDr4Ru5H1UF0ljp4t6fLw3k2o\noDsr+R
+XAgMBAAECggEAA03QIY9JsSowR6mEE+YsQ7GU8LW9kbSfw0zWxMf0UIpE\np5e0BOEt0Em
odmuX/NkmMdJqmN8oUx3GkIULDvuWUn90SwbVPSVuS8SvOJ7SbZyv\nEvA1UkX/1gMftEV3
4FecaG3QXyO5MYq2q+pu3uYkNCrsxbN0TlXAE6xU0G81auoL\nYIl7pzVfcxDW5Of5VI5Au
Mc8+0rgadvOPu3JThjjauMvnDPKi5sbKDsDCfTqqDys\nHMny8+uhfCOr2JtTgpc4HUgqGK
pALAUQvRZYmmlKqfBNgXo+dDBKJsd7pD9NnxQn\nM7l8wqQ0kS2kfcJsHNcV4ZUORabz1q1
MFlVdxxeijQKBgQD5r7J/MgN4LLekaimE\n3T27KTA12aikQl0LORQHLbHZRexVD41WoRrQ
ySSzUvQKXSiwZwRQLO/hptDRnUyh\n6WVQLwtSiNvItLu+8Ak2mb3F+NDEFb/R1FPdTR30G
7wXEeau1+cm8+8N63ehFAW4\n7IXTyDhtO5c3deXN7SDrRFjrnQKBgQDmqAdRkKPwau6q+z
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
SGPxqcFqlXS+ghpQkT\nUPxe45aZdRuFUOUCWA9BIbMnlVHZUDnQpiIbfBJ9Tcs2/vBwLt2
QjziZPbnIlmkp\nqIF4t5edar8Z6vn0lWmeupAmlFqKN7GoopUD+RIto68BfSKIPczfGLtu
3PxLEmgj\nRYzY5HUTwwKBgCZ05zssCtjBmm9aYpayNMXU7DX/FjhmeEo4Olt4sEHUwTfAs
3Y6\nThUGRf7QsgG+o3u4AjQPF8tblCIU5i6x8gbNmCLYLXHWVGxuMB0WxOHvFsh8yRSa\n
bWhSbmCgvPGYsj0Px+x5+cHdGInYuaDn3RznY7l/SiUipYh4E2/pEQEJAoGAdu1G\nMMESN
kD8ZD5324wn7TkmATPLMaXFYydLqKVSHjeqg/eszKOY4e09UXiFJjZeSP2P\n8nnrkp4M3I
Ngd4dCiGnANgsEgq9C887FSvfmfazvca6dSIXNWqE4+Btf/4ot2RRT\nHyRKQiv2bR8XMgY
jXxiCc+wPTank9eLDd4V79D8CgYEA6Eywngil5bVO5ksW9gyp\n0u5eieKMNYndPq5lyw1P
OyN9nx/iYQ3m2FI7d2K7aBpK0AXkLZQqv5tbqrF2fvdO\nbm4eLISLg8kdZ09OohAsRuZ6J
G2aICw4vTWgQyRWLe4RxdoY9gGKh8N844tUU7uN\nPCsWu/rdB8dT8wqerTFo81U=\n--
---END PRIVATE KEY-----\n",
  "client_email":
 "service-now-google-trans-v3@primeval-nectar-242610.iam.gserviceaccoun
t.com",
  "client_id": "113255944370425109391",
  "auth_uri": "https://accounts.google.com/o/oauth2/auth",
  "token_uri": "https://oauth2.googleapis.com/token",
  "auth_provider_x509_cert_url":
 "https://www.googleapis.com/oauth2/v1/certs",
  "client_x509_cert_url":
 "https://www.googleapis.com/robot/v1/metadata/x509/service-now-goog
le-trans-v3%40primeval-nectar-242610.iam.gserviceaccount.com"
}
```

手順

1. JSON ファイルで、`private_key` 値に対して次のように実行します。
   a. `\ n` 文字のエスケープを解除します。

      ヒント: JSON ファイル内の文字のエスケープを解除するには、JSON 文字列を JavaScript オブジェクトに解析します。

   b. 秘密キーを拡張子 .pem のファイルに保存します。
2. JSON ファイルで、`client_x509_cert_url` 値に対して次のように実行します。
   a. `client_x509_cert_url` に指定されたリンクを開きます。
   b. JSON ファイルに記載されている private_key_id に関連付けられている証明書の `\ n` 文字のエスケープを解除します。
   c. 証明書の値を拡張子 .pem のファイルに保存します。
3. openssl コマンドを使用して、最近作成された秘密キーと証明書ファイルを使用して PKCS 12 ファイルを作成します。

   ```
   openssl pkcs12 -export -in [path to certificate] -inkey [path to
    private key] -certfile [path to certificate ] -out testkeystore.p12
   ```

   たとえば、certificate.pem が証明書で、privatekey.pem が秘密キーである場合、次のようになります。

   ```
   openssl pkcs12 -export -in certificate.pem -inkey privatekey.pem
    -certfile certificate.pem -out testkeystore.p12
   ```

   PKCS 12 ファイル、testkeystore.p12 が作成されます。
4. エクスポートパスワードまたはソースキーストアパスワードを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:** Google Cloud Translator Service スポークの JWT キーを作成するときに、このパスワードを指定する必要があります。

5. keytool コマンドを使用して、PKCS 12 ファイルから JKS ファイルを作成します。

```
keytool -importkeystore -srckeystore testkeystore.p12 -srcstoretype
 pkcs12 -destkeystore wso2carbon.jks -deststoretype JKS
```

> **注:** testKeyStore.p12 は PKCS 12 ファイルで、wso2carbon.jks は JKS ファイルです。

6. 宛先キーストアのパスワードを指定します。

> **注:** Google Cloud Translator Service スポークに JKS 証明書を添付する場合は、このパスワードを指定する必要があります。

Java KeyStore 証明書を Google Cloud Translator Service スポークに添付

有効な Java KeyStore (JKS) 証明書をGoogle Cloud Translator Service スポークに添付して、JWT クライアント認証を有効にします。

始める前に

- 必要なロール：admin
- 有効な Java KeyStore 証明書

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [証明書]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

X.509 証明書フォームのフィールド

フィールド	説明
名前	証明書の識別子
期限切れ時に通知	証明書の有効期限が切れたときに通知を受信するユーザー。
有効期限切れ前に警告	証明書の有効期限が切れる前に通知を送信する日数。
アクティブ	証明書をアクティブ化するオプションです。
タイプ	証明書のタイプ**[Java** キーストア] を選択します。
数日中に期限切れ	証明書の有効期限が切れるまでの日数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
キーストアパスワード	証明書にアクセスするためのパスワードです。JKS 証明書の作成時に指定した宛先キーストアのパスワードを使用します。このパスワードの詳細については、Java KeyStore 証明書を作成を参照してください。
簡単な説明	証明書の概要です。

4. 添付ファイルの管理アイコン ( ) をクリックし、JKS 証明書を添付します。
5. JKS 証明書を検証するには、[ストア/証明書を検証] をクリックします。
6. [送信] をクリックします。

Google Cloud Translator Service スポークの JWT 署名キーを作成

Java KeyStore 証明書に JSON Web トークン (JWT) 署名キーを割り当てます。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > **[JWT** キー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

JWT キーフォームのフィールド

フィールド	説明
名前	JWT 署名キーの識別子です。
署名キーストア	キーを割り当てる有効な JKS 証明書です。
キー ID	キー ID は、複数のキーを使ってトークンに署名する際に、どのキーを使用するかを識別します。
署名アルゴリズム	キーで署名するためのアルゴリズムです。
署名キーパスワード	キーに関連するパスワードです。JKS 証明書の作成時に指定したエクスポートパスワードまたはソースキーストアパスワードを使用します。このパスワードの詳細については、Java KeyStore 証明書を作成を参照してください。
アクティブ	キーをアクティブ化するオプションです。

4. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Google Cloud Translator Service スポークの JWT プロバイダーを作成

Google Cloud Translator Service スポークに JSON Web トークン (JWT) プロバイダーを追加します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > **[JWT** プロバイダー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

JWT プロバイダーフォームのフィールド

フィールド	説明
名前	JWT プロバイダーの識別子です。
有効期限の間隔 (秒)	JWT プロバイダートークンの有効期間 (秒単位) です。`3600`を指定します。
署名構成	JWT 署名キーです。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
5. 標準要求の関連リストで、これらの要求の値を入力します。

請求

要求名	要求値
aud	https://www.googleapis.com/oauth2/v4/token
iss	JSON ファイルの*`client_email`*値です。

6. カスタム要求の関連リストで、スコープ要求を作成し、その値を `https://www.googleapis.com/auth/cloud-translation` として入力します。
7. [更新] をクリックします。

Google Translation エイリアスの認証情報を設定

Google OAuth 2.0 認証情報を構成して、Google Cloud Translator Service スポークのアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. Google OAuth 2.0 認証情報を選択します。
3. **[OAuth** エンティティプロファイル] フィールドで指定されたレコードを開きます。
4. **[JWT** プロバイダー] フィールドで、使用する JWT プロバイダーを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [更新] をクリックします。
6. Google の翻訳サービスにコネクトするために OAuth アクセストークンが生成されているかどうかを検証するには、Google OAuth 2.0 認証情報の **[OAuth** トークンの取得] の関連リンクをクリックします。

Google Translation エイリアスの接続属性を設定

Google 接続を設定して、Google の翻訳サービスに接続します。このサービスに接続するために HTTP(s) アクションまたはアクティビティによって使用される情報を提供します。

始める前に

必要なロール：connection_admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続]に移動します。
2. **Google** のレコードを開きます。
3. HTTP (S) 接続フォームの [属性] 関連リストで、フィールドに入力します。

HTTP(S) 接続フォームフィールド

フィールド	必要な値
location	お客様の所在地です。Google Cloud でのアカウントの作成時に値が指定されていない場合は、[グローバル] を指定します。
project_id	プロジェクトの識別子です。JSON ファイルの*project_id*の値を指定します。
version	関連するスポークがビルドされる API バージョンです。デフォルト値は `v3beta1` です。 Google は現在 v3 バージョンをサポートしているため、この値を `v3` として上書きできます。

4. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

Google Cloud Virtual Network スポーク

ServiceNow インスタンスから Google Cloud Virtual Network のファイアウォール、ネットワーク、サブネットワーク、および IP アドレスを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Google Cloud Virtual Network スポーク v1.0.4 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow Flow Designer - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- Google Persistent Disk スポーク (sn_jpdisk_spoke)
- Google Compute Engine スポーク (sn_gcompute_spoke)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

Google Cloud Virtual Network アカウントの要件

Google Cloud Virtual Network スポーク では、Google Cloud Platform で作成したカスタムアプリが必要です。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークのアクション

Google Cloud Virtual Network スポークでは、ServiceNow でイベントが発生したときにGoogle Cloud Virtual Networkを自動化するアクションが提供されます。スポークアクションを実行するには、Google Cloud Platform のプロジェクトまたは組織に前述の権限があることを確認する必要があります。利用可能なスポークアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限
アドレス管理	地域の IP アドレスを作成	要求に含まれているデータを使用して、指定されたプロジェクトでアドレスリソースを作成します。	compute.addresses.create
	IP アドレスを削除	指定されたアドレスリソースを削除します。	compute.addresses.delete
	IP アドレスを取得	指定されたアドレスリソースの詳細を取得します。	compute.addresses.get
ファイアウォール管理	エグレスのファイアウォールを作成	指定されたプロジェクトのエグレスルールのファイアウォールを作成します。	compute.firewalls.create

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限
	イングレスのファイアウォールを作成	指定されたプロジェクトのイングレスルールのファイアウォールを作成します。	compute.firewalls.create
	ファイアウォールを削除	指定されたファイアウォールを削除します。	compute.firewalls.delete
	ファイアウォールを取得	指定されたファイアウォールの詳細を取得します。	compute.firewalls.get
	エグレスのファイアウォールを更新	指定されたプロジェクトのエグレスルールのファイアウォールを更新します。	compute.firewalls.update
	イングレスのファイアウォールを更新	指定されたプロジェクトのイングレスルールのファイアウォールを更新します。	compute.firewalls.update
メタデータ取得管理	アドレスをリスト	指定されたリージョン内に含まれているアドレスのリストを取得します。	compute.addresses.list
	ファイアウォールをリスト	指定されたプロジェクトで利用可能なファイアウォールのリストを取得します。	compute.firewalls.list
	ネットワークをリスト	指定されたプロジェクトで利用可能なネットワークのリストを取得します。	compute.networks.list
	サブネットワークをリスト	指定されたプロジェクトで利用可能なサブネットワークのリストを取得します。	compute.subnetworks.list
ネットワーク管理	ネットワークを作成	指定されたプロジェクトにネットワークを作成します。	compute.networks.create
	ネットワークを削除	指定されたネットワークを削除します。	compute.networks.delete
	ネットワークを取得	指定されたネットワークの詳細を取得します。	compute.networks.get
サブネットワーク管理	サブネットワークを作成	指定されたプロジェクトにサブネットワークを作成します。	compute.subnetworks.create

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限
	サブネットワークを削除	指定されたサブネットワークを削除します。	compute.subnetworks.delete
	IP CIDR 範囲を拡張	サブネットワークの IP CIDR 範囲を指定された値に拡張します。	compute.subnetworks.expandIpCidrRange
	IAM ポリシーを取得	リソースのアクセス制御ポリシーの詳細を取得します。	compute.subnetworks.getIamPolicy
	サブネットワークを取得	指定されたサブネットワークの詳細を取得します。	compute.subnetworks.get
	IAM ポリシーを設定	指定されたリソースに対するアクセス制御ポリシーを設定します。	compute.subnetworks.setIamPolicy

必要な権限の詳細については、IAM 権限リファレンス を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Google Cloud Virtual Network スポークを設定。

Google Cloud Virtual Network スポークを設定

OAuth 2.0 認証情報を使用してServiceNowインスタンスと Google Cloud Virtual Network スポークをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Compute Engine スポークを有効にして設定します。
- Google Cloud Virtual Network スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[IntegrationHub]** > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. Google Compute Engine スポーク のレコードを開きます (例：`Google Compute Cred`)。
3. [認証情報エイリアス] で、 Google Cloud Virtual Network スポークの接続および資格情報エイリアスレコードを選択します。
4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
5. **[OAuth** トークンを取得 **(Get OAuth Token)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Google Cloud VPC Access スポーク

ServiceNowインスタンスから Google Cloud VPC Accessアカウントのコネクタと操作を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Google Cloud VPC Access スポーク の最新バージョンは 1.0.1 です。

サポートされているバージョン

このスポークは Google Cloud VPC AccessAPI バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

Google Cloud VPC Accessスポークの要件

Google Cloud VPC Access スポークには、 Google Cloud Platformで作成したカスタムアプリが必要です。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- Google Identity and Access スポーク
- Google Cloud Virtual Network スポーク
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNowIntegrationHub アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNowIntegrationHub アクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Google Cloud VPC Access スポークでは、Now Platform でイベントが発生したときに Google Cloud VPC Access タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
コネクタ管理	コネクタを作成	指定されたプロジェクトにコネクタを作成します。
	コネクタを削除	指定された VPC アクセスコネクタを削除します。
	コネクタを取得	指定されたVPC アクセスコネクタを取得します。
	コネクタを検索	指定された場所で利用可能なVPC アクセスコネクタのリストを取得します。
場所管理	場所を検索	指定されたプロジェクトで利用可能な場所のリストを取得します。
運用管理	操作を取得	指定された操作の詳細を取得します。
	操作を検索	指定された場所で利用可能な操作のリストを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Google Cloud VPC AccessSpoke を設定。

Google Cloud VPC AccessSpoke を設定

Google Cloud PlatformにカスタムOAuth アプリケーションを作成してServiceNowインスタンスと Google Cloud VPC Accessアカウントをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Cloud VPC Access スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

Google Cloud VPC Access アプリケーションの構成

Google Cloud Platform アカウントでカスタム OAuth アプリケーションを作成し、 Google Cloud VPC Access スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

- Google Cloud Platform から次の手順を実行します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、Google Cloud Platform の製品ドキュメントを参照してください。
- 必要なロール：admin

手順

1. 新しいカスタムアプリケーションを登録して開きます。
   a. https://console.developers.google.com に移動します。
   b. アドミン認証情報でプロジェクトを作成します。
   c. プロジェクトを開きます。
2. OAuth 認可済みドメイン名を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、**[OAuth 同意画面 (OAuth consent screen)]** を選択します。
b. アプリケーション名を入力します。
c. 認可済みドメイン `service-now.com` を指定します。
d. [保存] をクリックします。

3. 認証情報を作成します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、[認証情報] を選択します。
   b. [認証情報の作成] リストから、**[OAuth クライアント ID の作成 (Create OAuth client ID)]** を選択します。
4. アプリケーションタイプ **[OAuth クライアント ID]** を選択します。
5. 承認済みのリダイレクト **URI** `https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力して、[作成] をクリックします。
6. クライアント ID とクライアントシークレットをテキストファイルにコピーして、 Google Cloud VPC Access を OAuth プロバイダーとして登録するときに使用できるようにします。

> ヒント: Google API とサービスインターフェイスで [認証情報] をクリックし、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択して、クライアント ID とシークレットにいつでもアクセスできます。

OAuth プロバイダーとして Google Cloud VPC Accessを登録

Google Cloud VPC Accessアプリケーションの構成中に生成された情報を使用し、 Google Cloud VPC Accessを OAuth プロバイダーとして登録して、ServiceNowインスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. レコード、**Google Cloud VPC Access** を開きます。
3. フォームに、これらの値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
クライアント ID	Google Cloud VPC Access アプリケーションのクライアント ID です。
クライアントシークレット	Google Cloud VPC Access アプリケーションのクライアントシークレットです。
OAuth API スクリプト	デフォルトで **[OAuthGoogleVPCAccessUtils]** が選択されています。
認証 URL	OAuth 認証コードエンドポイント：`https://accounts.google.com/o/oauth2/auth`
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント：`https://oauth2.googleapis.com/token`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
リダイレクト URL	次の形式で OAuth コールバックエンドポイントを入力します：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` 空白のままにすると、インスタンスは URL を自動生成します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

Google Cloud VPC Access スポークの認証情報レコードを作成

Google Cloud VPC Accessアプリケーションの認証情報レコードを作成します。 Google Cloud VPC Accessスポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

- OAuth プロバイダーとして Google Cloud VPC Accessを登録
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報]に移動します。
2. レコード **[GoogleCloudVPCAccess]** を開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
5. フォームに、これらの値を入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する名前です。 例：`Google Cloud VPC Access Cred`
OAuth エンティティプロファイル	デフォルトの OAuth エンティティプロファイル **[Google Cloud VPC Access default_profile]** を選択します。
認証情報エイリアス	このレコードに関連付けられた認証情報エイリアス。デフォルトのエイリアスレコード **[sn_gcp_vpca_spoke.GoogleCloudVPCAccess]** が選択されます。

6. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
7. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Google Compute Engine スポーク

ServiceNow インスタンスから Google Compute Engine スポークで仮想マシンを起動して管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Google Compute Engine スポーク v1.0.5 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- Google Persistent Disk スポーク (sn_jpdisk_spoke)
- Google Cloud Virtual Network スポーク (sn_gcp_vpc_spoke)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

Google Compute Engine スポークアカウントの要件

Google Compute Engine スポークでは、Google Cloud Platform で作成したカスタムアプリが必要です。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークのアクション

Google Compute Engine スポークでは、ServiceNowでイベントが発生したときにGoogle Compute Engineを自動化するアクションが提供されます。スポークアクションを実行するには、Google Cloud Platform のプロジェクトまたは組織に前述の権限があることを確認する必要があります。利用可能なスポークアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限
インスタンステンプレート管理	インスタンステンプレートを作成	インスタンステンプレートを作成します。	compute.instanceTemplates.create
	インスタンステンプレートをインスタンスから作成	インスタンステンプレートをインスタンスから作成します。	compute.instanceTemplates.create
	インスタンステンプレートを削除	指定されたインスタンステンプレートを削除します。	compute.instanceTemplates.delete
	インスタンステンプレートを取得	指定されたインスタンステンプレートの詳細を取得します。	compute.instanceTemplates.get
マシンタイプ管理	ゾーンでマシンタイプを取得	指定されたマシンタイプの詳細をゾーン別に取得します。	compute.machineTypes.get
メタデータ取得管理	インスタンステンプレートをリスト	指定されたプロジェクトで利用可能なインスタンステンプレートのリストを取得します。	compute.instanceTemplates.list
	ゾーン別にマシンタイプをリスト	指定されたプロジェクトで利用可能なマシンタイプのリストを取得します。	compute.machineTypes.list
	リージョンをリスト	指定されたプロジェクトで利用可能なリージョンのリストを取得します。	compute.regions.list
	ゾーン別に VM インスタンスをリスト	指定されたプロジェクトで利用可能な VM インスタンスのリストを取得します。	compute.instances.list
	ゾーンをリスト	指定されたプロジェクトで利用可能なゾーンのリストを取得します。	compute.zones.list
リージョン管理	リージョンを取得	指定されたリージョンリソースを取得します。	compute.regions.get
VM インスタンス管理	ディスクを接続	既存のディスクリソースをインスタンスに接続します。	compute.instances.attachDisk
	インスタンスを作成	指定されたプロジェクトにインスタンスリソースを作成します。	compute.instances.create
	インスタンスを削除	指定したインスタンスを削除します。	compute.instances.delete
	ディスクをデタッチ	インスタンスからディスクをデタッチします。	compute.instances.detachDisk
	IAM ポリシーを取得	リソースのアクセス制御ポリシーを取得します。	compute.instances.getIamPolicy

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限
	ゾーンでインスタンスを取得	指定されたインスタンスをゾーンで取得します。	compute.instances.get
	インスタンスをリセット	インスタンスでリセットを実行します。	compute.instances.reset
	IAM ポリシーを設定	指定されたリソースに対するアクセス制御ポリシーを設定します。	compute.instances.setIamPolicy
	インスタンスのラベルを設定	インスタンスのラベルを設定します。	compute.instances.setLabels
	インスタンスのタグを設定	指定されたインスタンスのタグを設定します。	compute.instances.setTags
	インスタンスを開始	インスタンスを開始します。	compute.instances.start
	インスタンスを停止	インスタンスを停止します。	compute.instances.stop
ゾーン管理	ゾーンを取得	指定されたゾーンに関する情報を取得します。	compute.zones.get

必要な権限の詳細については、IAM 権限リファレンス を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Google Compute Engine スポークを設定。

Google Compute Engine スポークを設定

OAuth 2.0 認証情報を使用してServiceNowインスタンスと Google Compute Engine スポークをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Google Compute Engine スポークを有効にします。
- Google クラウドプラットフォームにアクセスします。
- 必要なロール：admin

> **注:** この手順では、OAuth を使用してカスタムアプリを設定する手順を概説します。JWT トークンに関連付けられたサービスアカウントを使用して、カスタムアプリを設定することもできます。JWT トークンを使用したスポークの設定の詳細については、「認証方法の選択 - サービスアカウント 」および「JWT ベアラー権限許可タイプで OAuth プロバイダーを設定 」を参照してください。

Google Compute Engine アプリケーションの構成

GoogleCloud Platform からカスタム OAuth アプリケーションを作成し、 Google Compute Engine スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
Google Cloud Platform から次の手順を実行します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、Google Cloud Platform の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. 新しいカスタムアプリケーションを登録して開きます。
   a. https://console.developers.google.com に移動します。
   b. アドミン認証情報でプロジェクトを作成します。
   c. プロジェクトを開きます。
2. OAuth 認可済みドメイン名を指定します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、**[OAuth 同意画面 (OAuth consent screen)]** を選択します。
   b. アプリケーション名を入力します。
   c. 認可済みドメイン `service-now.com` を指定します。
   d. [保存] をクリックします。
3. 認証情報を作成します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、[認証情報] を選択します。
   b. [認証情報の作成] リストから、**[OAuth クライアント ID の作成 (Create OAuth client ID)]** を選択します。
4. アプリケーションタイプ **Web** アプリケーションを選択します。
5. 承認済みのリダイレクト URI：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力し、[作成] をクリックします。
6. クライアント ID とクライアントシークレットをテキストファイルにコピーして、OAuth プロバイダーとしてGoogle Compute Engineを登録を行うときに使用できるようにします。

   ヒント：Google API とサービスインターフェイスで [認証情報] をクリックし、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択して、クライアント ID とシークレットにいつでもアクセスできます。

OAuth プロバイダーとしてGoogle Compute Engineを登録

Google Compute Engine アカウントの構成中に生成された情報を使用し、Google Compute Engine アプリケーションを OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ServiceNowで、[システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]へ移動します。
2. **Google Compute Engine** のレコードを開きます。
3. アプリケーションレジストリフォームに次の値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
名前	たとえば、`Google Compute Engine` など、レコードを一意に識別する名前です。
クライアント ID	G Suite に作成したGoogle Compute Engineアプリケーションのクライアント ID です。
クライアントシークレット	G Suite でアプリケーション作成時に生成したクライアントシークレット
OAuth API スクリプト	要求と応答をカスタマイズするスクリプトです。`[OAuthGoogleComputeUtil]` を選択します
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可のタイプ。[認証コード] を選択します。
認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイントです。`https://accounts.google.com/o/oauth2/v2/auth` と入力します。
トークン URL	OAuth サーバートークンのエンドポイントです。`https://oauth2.googleapis.com/token` と入力します。
リダイレクト URL	ServiceNowインスタンスの URL のフォーマット：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do`

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
   OAuth 認証情報が検証されます。

Google Compute Engine スポークの認証情報レコードを作成

アカウントの構成時に作成したGoogle Compute Engineカスタム OAuth アプリケーションを接続するために、認証情報レコードを作成します。 Google Compute Engine スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

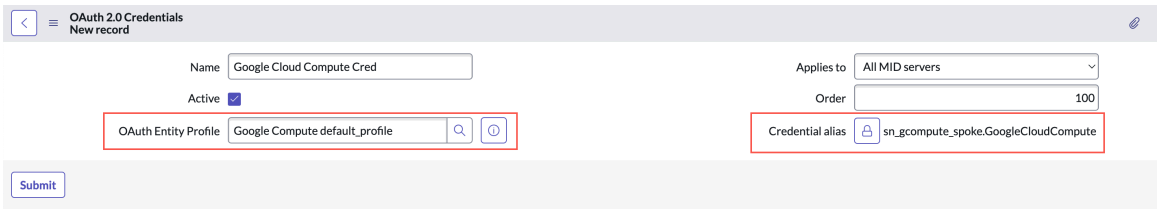
1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報]に移動します。
2. レコード **[GoogleCloudCompute]** を開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
4. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
5. フォームに、これらの値を入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する名前です。 例：`Google Cloud Compute Cred`
OAuth エンティティプロファイル	デフォルトの OAuth エンティティプロファイル **[Google Compute default_profile]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証情報エイリアス	このレコードに関連付けられた認証情報エイリアス。デフォルトのエイリアスレコード **[sn_gcompute_spoke.GoogleCloudCompute]** が選択されます。



6. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
7. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

Google Directory スポーク

ServiceNowインスタンスからGoogle Directoryのグループ、メンバー、およびユーザーを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

注:

- このバージョンでは、エイリアスタイプが [接続および認証情報] に変更されています。エイリアスタイプは複数接続をサポートします。
- Google Directory スポーク v1.1.2 にアップグレードする場合は、エイリアスレコードを再構成する必要があります。

スポークバージョン

Google Directory スポーク v1.5.2 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:** これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

Google Directory アカウント要件

Google Directory スポークでは、Google Developers Console で作成したカスタムアプリが必要です。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークのサブフロー

Google Directory スポークには、タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが用意されています。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。こうした Webhook サブフローでは、Webhook が Google Directory のユーザーリソースの変更を実行すると特定のタスクが実行されます。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
Google ディレクトリユーザー Webhook サブフローを作成 (Create Google Directory User Webhook Subflow)	Google Directory でユーザーの詳細を更新すると、Webhook が ServiceNow インスタンスに通知します。これで、[ディレクトリユーザー Webhook サブフローを作成 (Create Directory User Webhook Subflow)]を実行すると、サブスクリプションと [Google ディレクトリ Webhook レジストリテーブル (Google Directory Webhook Registries table)]へのエントリが作成されます。 **注:** サブフローを実行するには、[サブフローのテスト (Test Subflow)] ウィンドウで、ServiceNow が受信 Webhook を公開する Webhook URL を入力する必要があります。Webhook の URL 形式は `https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_googledir_spoke/google_directory_webhook_callbacks/wh_entry` です。
Google ディレクトリユーザー Webhook サブフローを処理 (Proces Google Directory User Webhook Subflow)	Google ディレクトリ内のユーザーの詳細が更新されたときに、Google ディレクトリ Webhook を処理します。Google ディレクトリには、Google ディレクトリ Webhook フローの自動化のデモを行うサンプルサブフローが用意されています。

スポークのアクション

Google Directory スポークでは、ServiceNowでイベントが発生したときにGoogle Directoryを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
グループ管理	グループを作成	グループを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	グループを削除	グループを削除します。
	グループ詳細をグループメールまたは ID で検索	グループメールまたは ID に基づいて、指定されたグループの詳細を取得します。
	すべてのグループストリームを検索	すべてのグループの詳細を取得します。
	フィルタークライテリアでグループストリームを検索	設定されたフィルター基準に基づいて、指定されたグループの詳細を取得します。
	グループの詳細を更新	指定したグループの詳細を更新します。
メンバー管理	グループにメンバーを追加	指定されたグループにメンバーを追加します。
	グループのメンバーシップを確認	指定されたユーザーがグループメールまたは ID のメンバーかどうかを確認します。
	グループからメンバーの詳細を検索	指定されたグループの必要なメンバーの詳細を取得します。
	グループのメンバーをグループメールまたは ID で検索	指定されたグループのすべてのメンバーの詳細を取得します。
	グループからメンバーを削除	指定されたメンバーをグループから削除します。
	メンバーを更新	グループの指定されたメンバーの詳細を更新します。
ユーザー管理	ユーザーを作成	ユーザーを作成します。
	ユーザーを削除	指定されたユーザーを削除します。
	ランダムなパスワードを生成	指定された長さのランダムなパスワードを生成します。
	ユーザーにアドミン権限を付与	指定されたユーザーにアドミン権限を付与します。
	顧客 ID ですべてのユー	ドメイン内のすべてのユーザーのページネーションされたリストを取得します (*showDeleted* が `true` に設定されている場合、削除されたユーザーを含みます)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ザーストリームを検索	
	ユーザーメールまたは ID でユーザーの詳細を検索	指定されたユーザーの詳細を取得します。
	フィルタークライテリアでユーザーストリームを検索	フィルター基準に一致するユーザーを検索します。このアクションは、1 つ以上の検索句を組み合わせた検索クエリとなっているクエリパラメーターを受け入れます。
	ユーザーを再度アクティブ化	指定されたユーザーを再アクティブ化します。 **注:** 他のユーザーのアカウントに影響を与える可能性があるため、このアクションの使用中は注意してください。
	ユーザーパスワードをリセット	ユーザーのパスワードをリセットします。 **注:** 他のユーザーのアカウントに影響を与える可能性があるため、このアクションの使用中は注意してください。デフォルトでは、[パスワードの変更を強制] オプションが有効になっており、ユーザーは最初のログイン時にパスワードを変更する必要があります。
	ユーザーから管理者権限を取り消す	指定されたユーザーのアドミン権限を取り消します。
	ユーザーを一時停止	指定されたユーザーを一時停止します。 **注:** 他のユーザーのアカウントに影響を与える可能性があるため、このアクションの使用中は注意してください。
	ユーザーの詳細を更新	指定したユーザーの詳細を更新します。
Webhook 管理	サブスクリプションチャネルを作成	ユーザーリストの変更を監視するサブスクリプションチャネルを作成します。
	サブスクリプションチャネルを停止	サブスクリプションの有効期限が切れる前に、指定されたチャネルでのリソースの監視を停止します。
スキーマ管理	ID でスキーマを検索	指定されたスキーマの詳細を取得します。
	スキーマを検索	顧客のすべてのスキーマの詳細を取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Google Directory スポークを設定。

Google Directory スポークを設定

G Suite 認証情報を使用してServiceNowインスタンスと Google Directory スポークをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Google Directory スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Google Directory アプリケーションの構成

GoogleG Suit アカウントからカスタム OAuth アプリケーションを作成し、Google Directoryスポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

Google Directoryデータ連携要件：

- ドメインと、ドメインに関連付けられたメールアドレス。たとえば、www.mydomain.com や jane-admin@mydomain.com などです。G Suite に登録できるメールアドレスは、1 ドメインにつき 1 つだけです。
- Google G Suite またはドメインで作成されたログインです。

必要なロール：admin

このタスクについて

Google Developers Console からこれらの手順を実行します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、G Suite の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. 新しいカスタムアプリケーションを登録して開きます。
   a. https://console.developers.google.com に移動します。
   b. G Suite アドミン認証情報でプロジェクトを作成します。
   c. プロジェクトを開きます。
2. OAuth 認可済みドメイン名を指定します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、**[OAuth 同意画面 (OAuth consent screen)]** を選択します。
   b. アプリケーション名を入力します。
   c. 認可済みドメイン `service-now.com` を指定します。
   d. [保存] をクリックします。
3. 認証情報を作成します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、[認証情報] を選択します。
   b. [認証情報の作成] リストから、**[OAuth クライアント ID の作成 (Create OAuth client ID)]** を選択します。
4. アプリケーションタイプ **Web** アプリケーションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. 承認済みのリダイレクト URI：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力し、[作成] をクリックします。
[OAuth クライアント] ウィンドウには、クライアント ID とクライアントシークレットが表示されます。
6. これらの 2 つの値をテキストファイルにコピーし、ServiceNow インスタンスに Google Directory 接続を追加するときに使用できるようにします。

> **ヒント:** Google API とサービスインターフェイスで [認証情報] をクリックし、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択して、クライアント ID とシークレットにいつでもアクセスできます。

ServiceNowインスタンスにGoogle Directory接続を追加

フローデザイナーにGoogle Directory接続を追加して、Google Directoryスポークを構成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [接続] タブをクリックします。
3. [送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. **[Google Directory]** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
   - Google Directory スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。
   - 複数の Google Directory スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

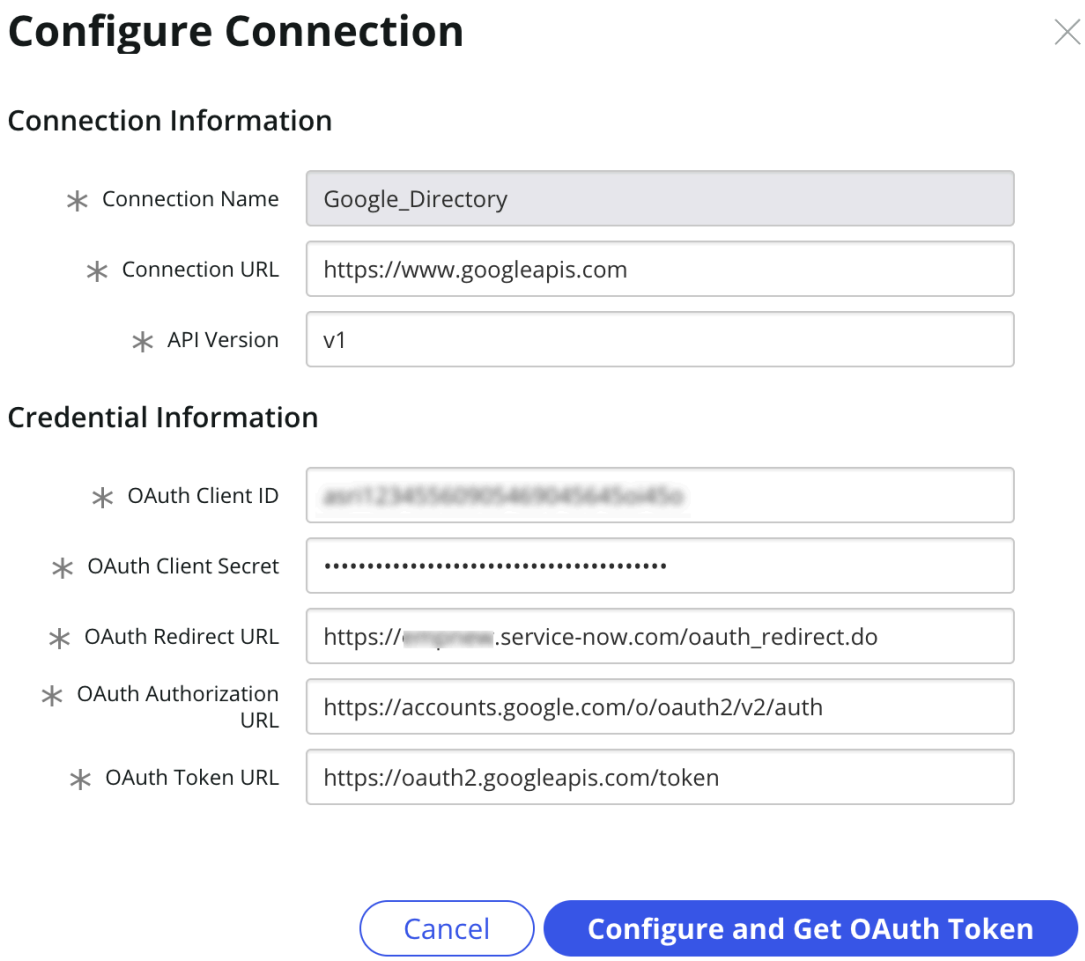
   スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。
5. フォームに、これらの値を入力します。

接続の設定フォーム

フィールド	説明
接続 URL	Google Directoryに接続するための URL です。「`https://googleapis.com`」と入力します。
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。例：`Google Directory Cred`。
OAuth 名	OAuth レコードを識別する名前です。例：`Google_Directory OAuth`。
OAuth クライアント ID	Googleアプリのクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	Googleアプリのクライアントシークレットです。
OAuth リダイレクト URL	Googleアプリで指定されたリダイレクト URL です。この値は自動入力されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
OAuth 認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイントです。`https://accounts.google.com/o/oauth2/v2/auth` と入力します。
OAuth トークン URL	トークン URL。`https://oauth2.googleapis.com/token` と入力します。



6. **[OAuth トークンを設定して取得 (Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。
7. ポップアップウィンドウで、[許可] をクリックします。
   Google Directoryスポークに対して OAuth アクセストークンが生成されます。

Google Directory スポーク用の双方向 Webhook の設定

要件に従って、Webhook ルーティングポリシーとサブフローを作成します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

Google ディレクトリ Webhook ルーティングポリシーモジュールのデフォルトのルーティングポリシーは、Process Google Directory ユーザー Webhook のサブフローをトリガーし、Google Directory で特定のイベントが発生すると ServiceNow アプリに通知します。カスタムサブフローで他のフィールドを使用し、ルーティングポリシーの条件をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [フローデザイナー] に移動します
2. [サブフロー] を選択します。
3. [名前] フィールドに「`Google Directory ユーザー Webhook のサブフロー (Process Google Directory User Webhook Subflow)`」と入力し、**Enter** キーを押します。
4. [サブフロー] を選択します。
5. [Google Directory ユーザー Webhook サブフローの処理 (Process Google Directory User Webhook Subflow)] ページで、[その他のアクションメニュー] アイコン ( ) を選択します。
6. [サブフローのコピー] を選択します。
7. 要件に応じてサブフローをカスタマイズし、公開します。
8. [フィルター] フィールドに、「`Google ディレクトリ Webhook ルーティングポリシー`」と入力します。
9. [新規] を選択します。
10. フォームに入力します。

意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。
アプリケーション	アプリケーションは [グローバル] に設定されます。
順番	要求が処理される順番。
回答	指定された条件が満たされるとトリガーされるサブフローです。
デフォルトの回答	回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。
条件	Google Directory で必須イベントが発生したときに満たされるべき条件です。

11. [送信] を選択します。

Google Docs スポーク

ServiceNow インスタンスから Google ドキュメントのドキュメントを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Google Docs スポーク v1.2.0 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているバージョン

このスポークは Google Docs v1 向けにビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Google Cloud アカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNowIntegrationHub アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Google Docs Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときに Google Docs タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ドキュメント管理	ドキュメントを作成	Google ドキュメントでドキュメントを作成します。
	フッターを作成	指定されたドキュメントにフッターを作成します。
	ヘッダーを作成	指定されたドキュメントにヘッダーを作成します。
	ドキュメントの詳細を取得	指定されたドキュメントの構造を JSON オブジェクトとして取得します。
	ドキュメント内のテキストを検索	検索テキストまたはコンテンツに基づいて、必要なドキュメントを検索します。
	ドキュメントを更新	指定された HTML コンテンツでドキュメントのコンテンツを更新します。

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ 」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント 」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

AI エージェント	説明
Google Docs ドキュメントマネージャー	Google Docs のドキュメントを管理します (ドキュメントの作成、ヘッダーまたはフッターの作成、ドキュメントの詳細の取得、ドキュメント内のテキストの検索を行います)。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Google Docs を設定。

Google Docs を設定

G Suite 認証情報でカスタム OAuth アプリケーションを作成してServiceNowインスタンスとGoogle Docs をデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Docs スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Google Docs アプリケーションの構成

G Suit アカウントからカスタム OAuth アプリケーションを作成し、Google Docs スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

- Google G Suite またはドメインで作成されたログイン
- 必要なロール：admin

このタスクについて

Google G Suite アカウントから、次の手順を完了します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、G Suite の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. 新しいカスタムアプリケーションを登録します。
   a. https://console.developers.google.com に移動します。
   b. G Suite アドミン認証情報でプロジェクトを作成します。
   c. プロジェクトを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. 認可済みドメインを設定します。
   a. **[API とサービス (APIs & Services)]** メニューから、**[OAuth 同意画面 (OAuth consent screen)]** を選択します。
   b. アプリケーション名を入力します。
   c. 認可済みドメイン `service-now.com` を指定します。
   d. [保存] をクリックします。
3. Google Docs API を検索して有効にします。
4. OAuth クライアント ID を作成します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、[認証情報] を選択します。
   b. [認証情報の作成] リストから、**[OAuth クライアント ID の作成 (Create OAuth client ID)]** を選択します。
5. アプリケーションタイプ **Web** アプリケーションを選択します。
6. 承認済みのリダイレクト URI：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力し、[作成] をクリックします。
   このリダイレクト URI は、Google Docs スポークの接続を構成するときに指定する **[リダイレクト URL]** と一致する必要があります。
7. [OAuth クライアント] ウィンドウには、クライアント ID とクライアントシークレットが表示されます。

   これらの 2 つの値をテキストファイルにコピーし、Google Docs スポークの接続を構成するときに使用できるようにします。

   ヒント:

   Google API とサービスインターフェイスで [認証情報] をクリックし、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択して、クライアント ID とシークレットにいつでもアクセスできます。

Google Docs スポークの接続の構成

Google Docs 接続を追加して構成し、Google Docs スポークで ServiceNow 要求を認証します。

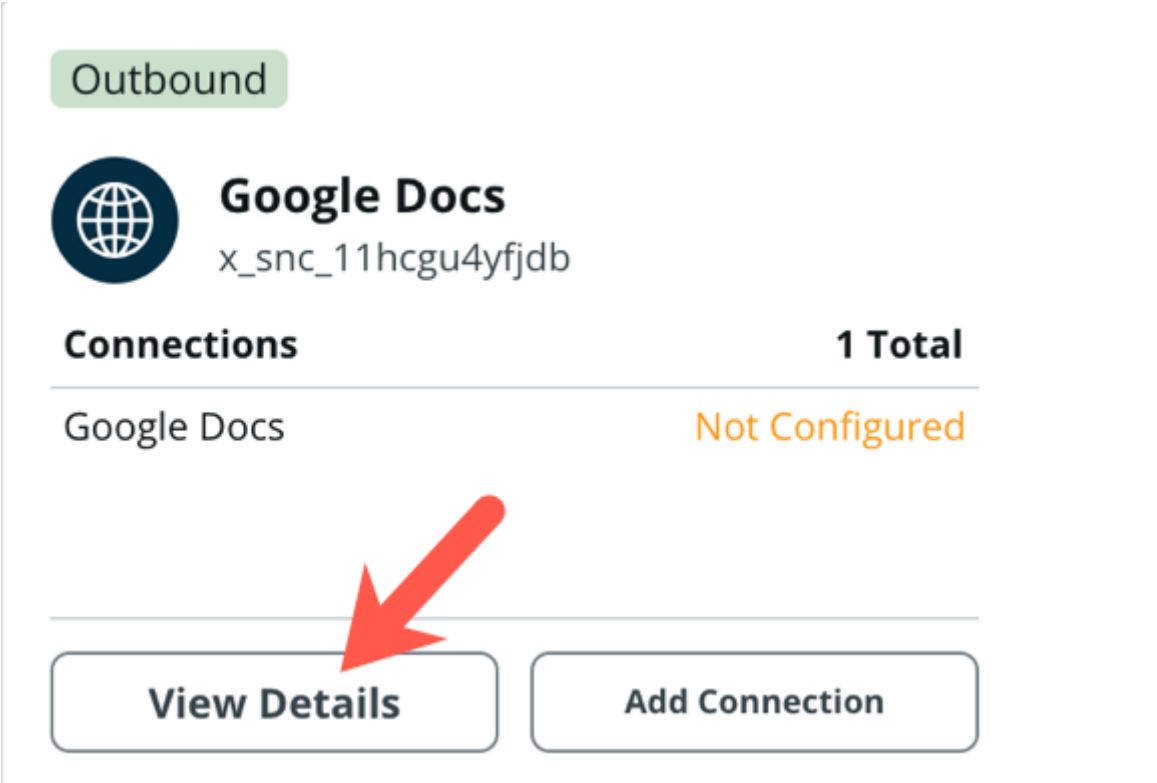
始める前に

- Google Docs アプリケーションの構成
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブを選択します。
3. [接続] タブを選択します。
4. [すべての接続を検索] フィールドに「`Google Docs`」と入力します。
5. Google Docs カードで、[詳細を表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



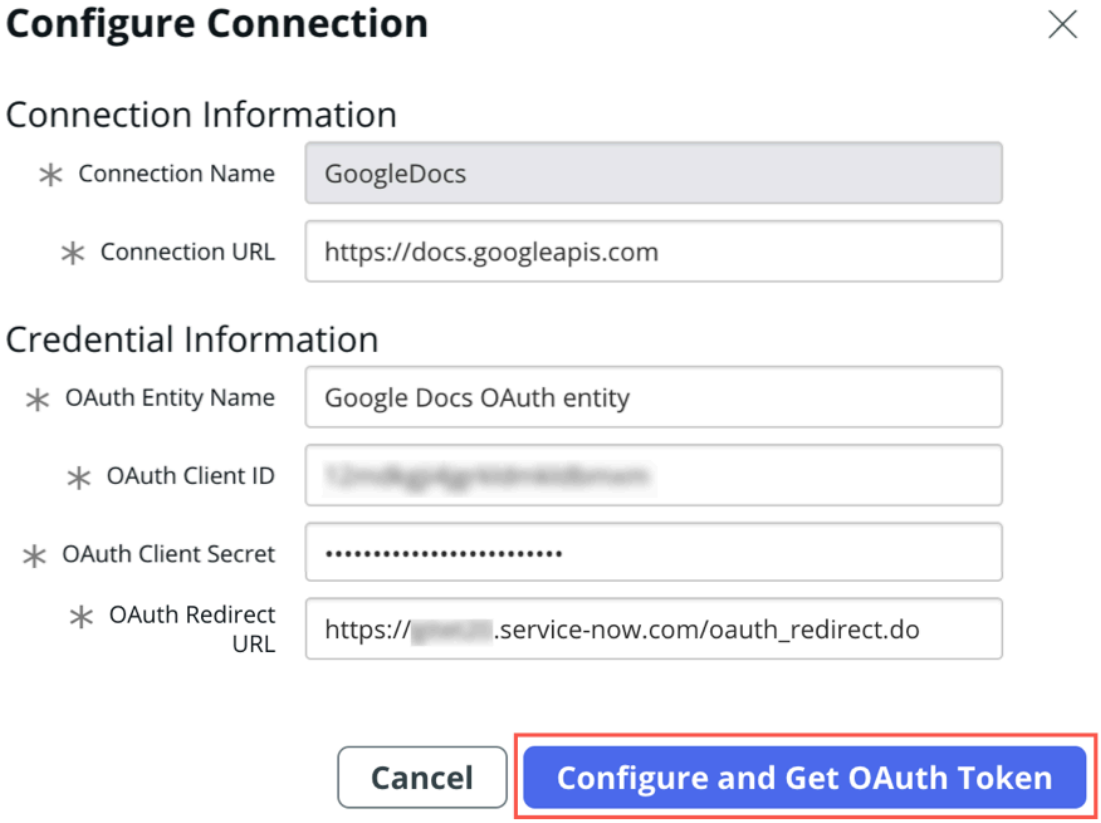
6. [構成 **(Configure)]** を選択します。

7. [接続] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`Google Docs 接続`」です。
接続 URL	スポークの接続 URL です。`https://www.googleapis.com/` を入力します。
OAuth エンティティ名	OAuth エンティティレコードを識別する名前です。たとえば、「`Google Docs エンティティ`」です。
OAuth クライアント ID	G Suite でアプリケーション作成時に生成したクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	G Suite でアプリケーション作成時に生成したクライアントシークレットです。
OAuth リダイレクト URL	ServiceNow インスタンスの リダイレクト URL は、`https://<instance_name>.service-now.com/oauth_redirect.do` の形式です。

8. **[OAuth トークンを設定して取得 (Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



9. Google にログインし、OAuth トークンを取得します。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

Google ドライブ スポーク

ServiceNow の添付ファイルの代わりに Google ドライブ をファイルストレージとして使用します。Google ドライブストレージを ServiceNow インスタンスに追加して、ユーザーが ServiceNow レコード内の Google ドライブファイルを参照できるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Google ドライブスポーク v2.1.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

API バージョン v3。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのアクション

Google ドライブスポークでは、ServiceNow でイベントが発生したときに Google ドライブ タスクを実行するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ファイルおよびフォルダーを管理	添付ファイルをドライブにコピー	ServiceNow添付ファイルをGoogle ドライブフォルダーにコピー現在のアカウントのルートドライブまたは指定されたフォルダーにコピーします。コピー中にファイル名を変更するには、オプションのファイル名を使用します。
	DOC ファイルを添付ファイルにコピー	ファイルGoogle ドライブをコピーして、ServiceNowレコードに添付します。
	ファイルのコピー	Google ドライブファイルのコピーを作成し、ファイルが星印付きである場合、またはファイルが書き込み権限を持つユーザーによって共有されている場合に、ファイル名、ファイルの説明、または親フォルダーの場所の変更などのあらゆるメタデータ更新を適用します。
	ドライブファイルを添付ファイルにコピー	ドライブファイルをServiceNow添付ファイルにコピーします。ServiceNowレコードが入力として指定された場合、そのレコードを添付する必要があります。
	ファイルのリビジョンを添付ファイルとしてコピー	ファイル ID のリビジョン ID を ServiceNow インスタンスの任意のレコードにコピーします。
	フォルダーを作成	他のフォルダー内にネストできるGoogle ドライブフォルダーを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ドライブのファイルまたはフォルダーを削除	Google ドライブアカウントユーザーが所有するドライブのファイルまたはフォルダーを、ゴミ箱に移動せずに完全に削除します。フォルダーを削除するには、ユーザーがフォルダーおよびそのコンテンツの所有者である必要があります。
	ファイルのリビジョンを削除	ファイルのリビジョンを削除します。
	ファイルおよびフォルダーストリームを検索	ファイルおよびフォルダーのリストを取得します。
	ファイルリビジョンストリームを検索	ファイルのすべてのリビジョンのリストを取得します。
	ファイルを検索	ファイル ID からメタデータ情報を取得します。
	ファイルストリームを検索	指定された検索パラメーターに基づいて、Google ドライブのファイルのリストを取得します。
	フォルダーストリームを検索	指定された検索パラメーターに基づいて、Google ドライブのフォルダーのリストを取得します。
	添付ファイルをドライブに更新	ファイルの内容を更新しますが、以前のバージョンとメタデータは保持します。このアクションでは、Google ドライブファイルのコンテンツのみを更新します。メタデータは更新されません。
	ファイルまたはフォルダーのメタデータを更新	ファイルまたはフォルダーのメタデータを更新します。これには、ファイル名の変更、ファイルの説明の変更、新しい親フォルダーへの移動、星印付きステータスの変更、または共有権限の変更が含まれます。
	名前でファイルまたはフォルダーを検索	指定したファイル名またはフォルダー名の ID を含む、ファイルまたはフォルダーの詳細を取得します。
権限管理	ファイルまた	ファイルまたはフォルダーについて、指定されたユーザー、グループ、ドメイン、または任意のユーザーに対する権限を追加します。[ユーザー] または [グ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	はフォルダーの権限を作成	ループ] を選択した場合は、それらのユーザーとグループにメールアドレスが必要です。[ドメイン] を選択した場合は、ドメイン名が必要です。[任意のユーザー] が選択されている場合、誰でもファイルまたはフォルダーに対する権限があります。
	ファイルまたはフォルダーの権限を削除	ファイルまたはフォルダーについて、指定したユーザー、グループ、ドメイン、または任意のユーザーに対する権限を削除します。
	権限ストリームを検索	ファイルまたは共有ドライブの権限のリストを取得します。
	すべてのユーザーデータの所有権を転送	ドメイン内のあるユーザーから別のユーザーにデータの所有権を転送します。古いユーザーの以前の権限はすべて削除され、新しいユーザーに対して新しい所有者権限が作成されます。
	ファイルまたはフォルダーの権限を更新	ロールを更新することによって付与された権限を更新します。

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「Now Assist AI エージェント」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

AI エージェント	説明
Google Drive 権限マネージャー	Google Drive のファイルまたはフォルダーの権限を管理します (ファイルまたはフォルダーの権限の作成、すべてのユーザーデータの所有権

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI エージェント	説明
	の転送、ファイルまたはフォルダーの権限の更新、ファイルまたはフォルダーの権限の削除)。
Google Drive のファイルおよびフォルダーマネージャー	Google Drive のファイルとフォルダーを管理します (DOC ファイルを添付ファイルにコピー、ファイルのリビジョンを添付ファイルとしてコピー、ファイルまたはフォルダーを削除、添付ファイルをドライブに更新、ドライブファイルを添付ファイルにコピー、添付ファイルをドライブにコピー、ファイルをコピー、ファイルリビジョンを削除、フォルダーを作成、名前でファイルまたはフォルダーを検索、ファイルまたはフォルダーのメタデータを更新、ファイルを検索)。

Google Drive Online アカウント要件

Google ドライブスポークでは、Google ドライブエンタープライズまたは Google G Suite で作成したカスタムアプリが必要です。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「Google ドライブ スポークの設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。Google ドライブ エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー 選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー」を参照してください。

Google ドライブ スポークの設定

Google Drive 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Google ドライブスポーク を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Google ドライブスポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Google ドライブアプリケーションを構成

Google ドライブアカウントからカスタム OAuth アプリケーションを作成し、Google ドライブスポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

Google ドライブデータ連携要件：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ドメインと、ドメインに関連付けられたメールアドレス。たとえば、www.mydomain.com や jane-admin@mydomain.com などです。GSuite や Google Drive に登録できるメールアドレスは、1 ドメインにつき 1 つだけです。
- Google G Suite またはドメインで作成されたGoogle ドライブログインです。
- Google ドライブアカウント

必要なロール：admin

このタスクについて

Google G Suite またはGoogle ドライブアカウントから、次の手順を完了します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、G Suite の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. ドメインメール認証情報を使用して、G Suite ポータル (https://gsuite.google.com/) にログインします。
2. 会社名、従業員数、国名を入力して、[次へ] をクリックします。
3. アドミンの連絡先名、メールアドレス、勤務先電話番号を入力し、[次へ] をクリックします。
4. このスポークに関連付けられているドメインを入力します。
5. ドメインのユーザー名とパスワードを入力します。
6. ユーザーを G Suite アカウントに追加します。
7. ドメインとメールアドレスを確認します。
   ユーザーは、Google ドキュメントに移動して独自のログインを作成する必要があります。
8. 新しいカスタムアプリケーションを登録します。
   a. https://console.developers.google.com に移動します。
   b. G Suite アドミン認証情報でプロジェクトを作成します。
9. Google ドライブ API を検索して有効にします。
10. 認証情報アプリケーションを作成し、クライアント ID とクライアントシークレットを保存します。
    クライアントシークレットは、短時間だけプレーンテキストで表示されます。クライアント ID とクライアントシークレットをテキストファイルにコピーして、以下を行うときに使用できるようにします：Google ドライブ 接続の設定

Google ドライブ 接続の設定

Google ドライブ アカウントの構成中に生成された情報を使用し、Google ドライブ アプリケーションを OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に

必要なロール：admin。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [接続] タブをクリックします。
3. [送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. **Google** ドライブ接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

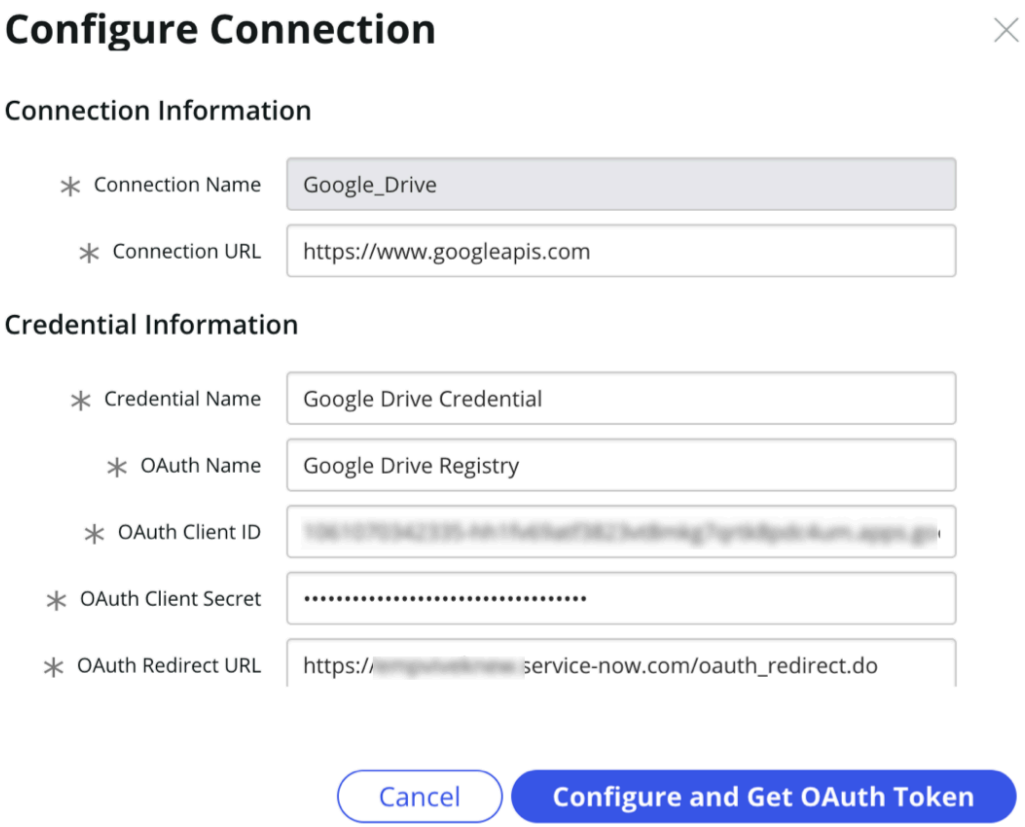
- Google ドライブスポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。
- 複数の Google ドライブスポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

5. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	URL `https://www.googleapis.com/` を入力します。
認証情報	
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。
OAuth 名	アプリケーションレジストリレコードを識別する名前です。
OAuth クライアント ID	G Suite で作成した Google Drive アプリケーションのクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	G Suite でアプリケーション作成時に生成したクライアントシークレット
OAuth リダイレクト URL	次の形式の ServiceNow インスタンス URL：`https://<Instance-Name>.service-now.com/oauth_redirect.do`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. **[OAuth** トークンを設定して取得 **(Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。

Google Hangouts スポーク

ServiceNow を使用して、Google ハングアウトでイベントと出席者を作成および更新します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

重要: Google が Google Hangouts のサービス終了を発表しました。Google Hangouts スポークは現在は廃止されており、新しいアクティベーションのサポートや利用は終了しています。この機能については、Google カレンダーが最新のエクスペリエンスを提供しています。詳細については、Now Support ナレッジベースの「Deprecation Process (廃止プロセス) [KB0867184]」の記事を参照してください。

スポークバージョン

Google ハングアウトスポーク v1.1.0 が最新バージョンです。Google Hangouts スポークは現在は廃止されており、新しいアクティベーションのサポートや利用は終了しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているバージョン

API バージョン v1。

スポークのアクション

Google ハングアウトスポークでは、ServiceNow でイベントが発生したときに Google ハングアウト タスクを実行するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
出席者	出席者をハングアウトに追加	出席者のリストを追加してハングアウトを更新します。値を指定すると、既存の値が置き換えられます。要求で指定しないフィールドは変更されません。
	ハングアウトから出席者を削除	指定された出席者を削除してハングアウトを更新します。値を指定すると、既存の値が置き換えられます。要求で指定しないフィールドは変更されません。
イベント管理	ハングアウトを作成	指定されたカレンダーにハングアウトを作成します。
	ハングアウトを更新	ハングアウト情報を編集します。値を指定すると、既存の値が置き換えられます。要求で指定しないフィールドは変更されません。
	ID でハングアウトを取得	指定されたハングアウトを返します。
	ハングアウトを削除	カレンダーから指定されたハングアウトを削除します。

Google Hangouts Online アカウント要件

Google ハングアウトスポークでは、Google G Suite で作成したカスタムアプリが必要です。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「Google ハングアウトスポークのセットアップ。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。Google ハングアウト エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー 選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー」を参照してください。

Google ハングアウトスポークのセットアップ

G Suite 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Google ハングアウト をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Google ハングアウトスポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Google ハングアウトアプリケーションを構成

G Suite アカウントからカスタム OAuth アプリケーションを作成し、Google ハングアウトスポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に
Google ハングアウトデータ連携要件：

- ドメインと、ドメインに関連付けられたメールアドレス。たとえば、www.mydomain.com や jane-admin@mydomain.com などです。G Suite に登録できるメールアドレスは、1 ドメインにつき 1 つだけです。
- Google G Suite またはドメインで作成されたログインです。

必要なロール：admin

このタスクについて
Google G Suite アカウントから、次の手順を完了します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、G Suite の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. 新しいカスタムアプリケーションを登録します。
   a. https://console.developers.google.com に移動します。
   b. G Suite のアドミニストレーター認証情報でプロジェクトを作成し、そのプロジェクトを開きます。
   c. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから **[OAuth** 同意画面 **(OAuth consent screen)]** を選択し、アプリケーション名を入力します。
   d. 認可済みドメイン `service-now.com` を指定します。 [保存] をクリックします。
2. Google ハングアウト API を検索して有効にします。
3. [API とサービス] メニューから [認証情報] を選択し、[認証情報の作成] リストから **[OAuth** クライアント **ID** の作成] を選択します。
4. アプリケーションタイプ **Web** アプリケーションを選択します。
5. 承認済みのリダイレクト URI：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力し、[作成] をクリックします。
   このリダイレクト URI は、Google Hangouts スポークの接続を設定するときに指定する [リダイレクト **URL]** と一致する必要があります。
6. OAuth クライアントウィンドウから、クライアント ID とクライアントシークレットをテキストファイルにコピーして、Google Hangouts スポーク用に接続を構成するときに使用できるようにします。
   クライアント ID とシークレットには、Google API と Services インターフェイスでいつでもアクセスできます。[認証情報] をクリックし、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択します。

Google Hangouts スポークの接続を設定

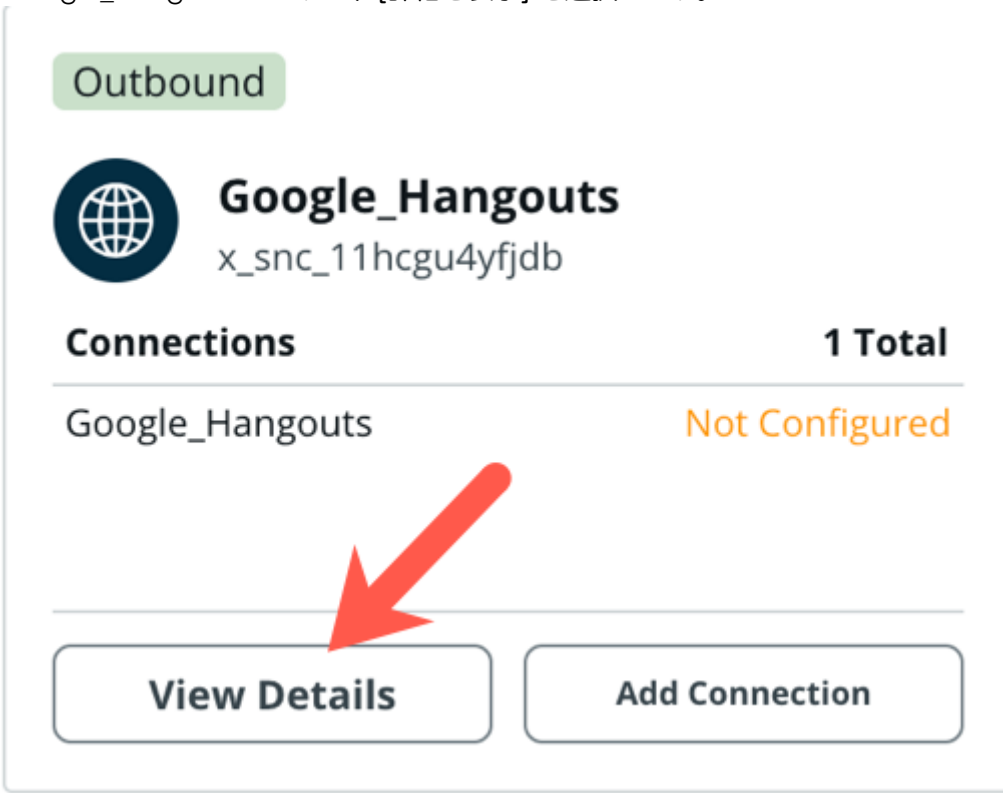
Google Hangouts 接続を追加して設定すると、Google Hangouts スポークで ServiceNow 要求を認証できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ]に移動します。
2. [統合] タブを選択します。
3. [接続] タブを選択します。
4. [すべての接続を検索] フィールドに「`Google_Hangouts`」と入力します。
5. Google_Hangouts カードで、[詳細を表示] を選択します。



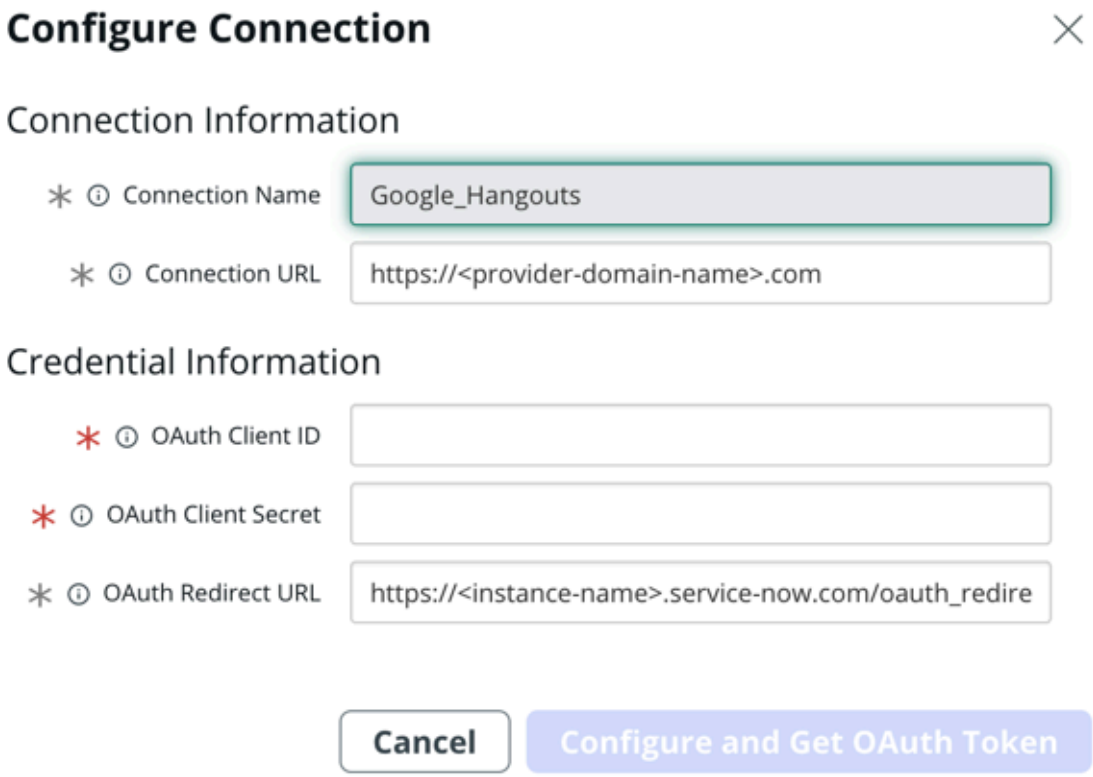
6. [構成 **(Configure)**] を選択します。

7. [接続] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前です。 例：`Google_Hangouts`。
接続 URL	URL `https://www.googleapis.com/` を入力します。
OAuth エンティティ名	OAuth エンティティレコードを識別する名前です。例：`Google Hangout entity.1`。
OAuth クライアント ID	G Suite で作成した Google Hangouts アプリケーションのクライアント ID を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
OAuth クライアントシークレット	G Suite でアプリケーション作成時に生成したクライアントシークレットを入力します。
OAuth リダイレクト URL	ServiceNow インスタンスのリダイレクト URL の形式：`https://<ServiceNow-Instance-Name>.service-now.com/oauth_redirect.do`。



8. **[OAuth トークンを設定して取得 (Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。
9. Google にログインし、OAuth トークンを取得します。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

Google Identity and Access スポーク

Google Identity and Access Management および Google Resource Manager で、フォルダー、プロジェクト、ロール、およびサービスアカウントを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Google ID とアクセス スポーク v1.1.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは、API バージョン v2 では [フォルダー管理] カテゴリ用にのみ、v1 ではその他のカテゴリ用にビルドされていますが、それ以降のバージョンにも互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークの要件

Google Cloud Platformアカウント

スポークのフローおよびサブフロー

このスポークにはフローまたはサブフローがありません。

スポークのアクション

Google ID とアクセス スポークでは、ServiceNowでイベントが発生したときに、Google Identity and Access Management および Google Resource Manager のタスクを自動化するアクションが提供されます。スポークアクションを実行するには、 Google Cloud Platformのプロジェクトまたは組織に前述の権限があることを確認する必要があります。使用可能なアクションは次のとおりです。

スポークのアクション

カテゴリ	アクション	説明	必須権限
フォルダー管理	フォルダーを作成	フォルダーを作成します。	resourcemanager.folders.create
	フォルダーを削除	フォルダーを削除します。	resourcemanager.folders.delete
	子フォルダーを検索	子フォルダーの情報を取得します。	resourcemanager.folders.get
	フォルダーを検索	フォルダーのリストを取得します。	resourcemanager.folders.list
	フォルダーの名前を変更	指定されたフォルダーの名前を変更します。	resourcemanager.folders.update

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明	必須権限
	フォルダーを復元	指定されたフォルダーを復元します。	resourcemanager.folders.undelete
組織管理	組織を組織 ID で検索	指定された組織の詳細を取得します。	resourcemanager.organizations.get
プロジェクト管理 (PM)	プロジェクト作成	プロジェクトを作成します。	resourcemanager.projects.create
	プロジェクトを削除	指定されたプロジェクトを削除します。	resourcemanager.projects.delete
	プロジェクト ID でプロジェクトを検索	指定されたプロジェクトの詳細を取得します。	resourcemanager.projects.get
	プロジェクトを検索	プロジェクトのリストを取得します。	resourcemanager.projects.list
	プロジェクトストリームを検索	プロジェクトのリストを複合オブジェクトとして取得します。	resourcemanager.projects.list
	プロジェクトの名前を変更	指定されたプロジェクトの名前を変更します。	resourcemanager.projects.update
	プロジェクトを復元	指定されたプロジェクトを復元します。	resourcemanager.projects.undelete
ロール管理	組織のロールを作成	組織のカスタムロールを作成します。	iam.roles.create
	プロジェクトのロールを作成	指定されたプロジェクトのカスタムロールを作成します。	iam.roles.create
	組織のロールを削除	指定された組織のカスタムロールを削除します。	iam.roles.delete
	プロジェクトのロールを削除	指定されたプロジェクトのカスタムロールを削除します。	iam.roles.delete
	組織のロールを検索	指定された組織のカスタムロールの詳細を取得します。	iam.roles.get
	プロジェクトのロールを検索	指定されたプロジェクトのカスタムロールの詳細を取得します。	iam.roles.get
	組織内のロールを組織 ID で検索	指定された組織のカスタムロールのリストを取得します。	iam.roles.list
	組織ストリームのロールを検索	指定された組織のカスタムロールのリストを	iam.roles.list

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明	必須権限
		複合オブジェクトとして取得します。	
	プロジェクト ID でプロジェクトのロールを検索	指定されたプロジェクトのカスタムロールのリストを取得します。	iam.roles.list
	プロジェクトストリームのロールを検索	指定されたプロジェクト ID のカスタムロールのリストを取得します。	iam.roles.list
	組織のロールを復元	組織の指定されたカスタムロールを復元します。	iam.roles.undelete
	プロジェクトのロールを復元	プロジェクトの指定されたカスタムロールを復元します。	iam.roles.undelete
サービスアカウント管理	サービスアカウントを検索	指定されたサービスアカウントの詳細を取得します。	iam.serviceAccounts.get
	プロジェクト ID でサービスアカウントを検索	プロジェクト内のサービスアカウントのリストを取得します。	iam.serviceAccounts.list

必要な権限の詳細については、IAM 権限リファレンス を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報 」を参照してください。

スポークの設定については、「 Google Identity and Access Spoke を設定。

Google Identity and Access Spoke を設定

Google Cloud Platform 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Google Identity and Access Spoke をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Google ID とアクセス スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Google ID とアクセス アプリケーションの構成

Google Cloud Platformアカウントからカスタム OAuth アプリケーションを作成し、 Google ID とアクセス スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

Google ID とアクセスデータ連携要件：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Google Cloud Platformアカウント
- 必要なロール：admin

このタスクについて
Google Cloud Platformからこれらの手順を実行します。

手順
1. 新しいカスタムアプリケーションを登録して開きます。
   a. https://console.developers.google.com に移動します。
   b. Google Cloud Platform アドミン認証情報でプロジェクトを作成します。
   c. プロジェクトを開きます。
2. OAuth 認可済みドメイン名を指定します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、**[OAuth 同意画面 (OAuth consent screen)]** を選択します。
   b. アプリケーション名を入力します。
   c. 認可済みドメイン `service-now.com` を指定します。
   d. [保存] をクリックします。
3. 認証情報を作成します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、[認証情報] を選択します。
   b. [認証情報の作成] リストから、**[OAuth クライアント ID の作成 (Create OAuth client ID)]** を選択します。
4. アプリケーションタイプ **Web** アプリケーションを選択します。
5. 承認済みのリダイレクト URI：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力し、[作成] をクリックします。
6. クライアント ID とクライアントシークレットをテキストファイルにコピーして、Google Identity and Access を OAuth プロバイダーとして登録するときに使用できるようにします。

   ヒント: Google API とサービスインターフェイスで [認証情報] をクリックし、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択して、クライアント ID とシークレットにいつでもアクセスできます。

OAuth プロバイダーとしてGoogle ID とアクセスを登録

Google ID とアクセス アカウントの構成中に生成された情報を使用し、Google ID とアクセス アプリケーションを OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. ServiceNowインスタンスで、[システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. レコード **[Google Cloud Platform]** を開きます。
3. フォームの各フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前	たとえば、`Google Identity and Access` など、レコードを一意に識別する名前です。
クライアント ID	Google ID とアクセス アプリケーションのクライアント ID
クライアント シークレット	アプリケーション作成時に生成したクライアントシークレットです。
OAuth API スクリプト	要求と応答をカスタマイズするスクリプトです。`[OAuthGoogleIAMUtil]` を選択します。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可のタイプ。[認証コード] を選択します。
認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイントです。`https://accounts.google.com/o/oauth2/v2/auth` と入力します。
トークン URL	OAuth サーバートークンのエンドポイントです。`https://oauth2.googleapis.com/token` と入力します。
リダイレクト URL	ServiceNowインスタンスの URL のフォーマット：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do`

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
   OAuth 認証情報が検証されます。

Google ID とアクセス スポーク の認証情報レコードの作成

アカウントの構成時に作成したGoogle ID とアクセスカスタム OAuth アプリケーションを接続するために認証情報レコードを作成します。 Google ID とアクセス スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動し、[新規] をクリックします。
2. [OAuth 2.0 認証情報] を選択します。
3. たとえば、`GCPIAM Cred` など、認証情報の一意の名前を入力します。
4. **OAuth** エンティティプロファイル検索アイコン (🔍) をクリックして、OAuth プロバイダーとしてGoogle ID とアクセスサービスを登録したときに作成した OAuth アプリケーションレジストリ名を持つプロファイルを選択します。
5. **[OAuth** トークンを取得] をクリックします。

Google Persistent Disk スポーク

ServiceNowインスタンスからGoogle Persistent Diskのディスク、スナップショット、およびイメージを管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Google Persistent Disk スポーク v1.0.2 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは API バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- Google Cloud Virtual Network スポーク (sn_gcp_vpc_spoke)
- Google Compute Engine スポーク (sn_gcompute_spoke)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

Google Persistent Disk アカウント要件

Google Persistent Disk スポークでは、Google Cloud Platform で作成したカスタムアプリが必要です。

スポークのアクション

Google Persistent Disk スポークでは、ServiceNowでイベントが発生したときにGoogle Persistent Diskを自動化するアクションが提供されます。スポークアクションを実行するには、Google Cloud Platform のプロジェクトまたは組織に前述の権限があることを確認する必要があります。利用可能なスポークアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限
ディスク管理	ディスクを作成	指定されたプロジェクトに永続ディスクを作成します。	compute.disks.create
	ディスクを削除	指定された永続ディスクを削除します。	compute.disks.delete
	ディスクを取得	指定された永続ディスクの詳細を取得します。	compute.disks.get
	ゾーン別にディスクタイプを取得	指定されたディスクタイプの詳細をゾーン別に取得します。	compute.diskTypes.get
	ディスクのサイズを変更	指定された永続ディスクのサイズを変更します。	compute.disks.resize
イメージ管理	ディスクのイメージを作成	指定されたプロジェクトにイメージを作成します。	compute.images.create
	イメージのためのイメージを作成	指定されたプロジェクトにイメージを作成します。	compute.images.create
	スナップショットのイメージを作成	指定されたプロジェクトにイメージを作成します。	compute.images.create
	イメージを削除	指定されたイメージを削除します。	compute.images.delete
	イメージを取得	指定されたイメージの詳細を取得します。	compute.images.get
メタデータ取得管理	ゾーン別にディスクタイプをリスト	指定されたプロジェクトで利用可能なディスクタイプのリストを取得します。	compute.diskTypes.list
	ディスクをリスト	指定されたゾーン内に含まれている永続ディスクのリストを取得します。	compute.disks.list
	イメージをリスト	指定されたプロジェクトで利用可能なイメージのリストを取得します。	compute.images.list
	スナップショットをリスト	指定されたプロジェクト内に含まれるスナップショットリソースのリストを取得します。	compute.snapshots.list
スナップショット管理	スナップショットを作成	指定された永続ディスクのスナップショットを作成します。	compute.snapshots.create
	スナップショットを削除	指定されたスナップショットリソースを削除します。	compute.snapshots.delete
	スナップショットを取得	指定されたスナップショットの詳細を取得します。	compute.snapshots.get

必要な権限の詳細については、IAM 権限リファレンス を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Google Persistent Disk スポークを設定。

Google Persistent Disk スポークを設定

G Suite 認証情報を使用してServiceNowインスタンスと Google Persistent Disk スポークをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Google Persistent Disk スポークを有効にします。
- Google Compute Engine スポークを有効にして設定します。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. Google Compute Engine スポークのレコードを開きます。例：`Google Compute Cred`
3. [認証情報エイリアス] で、 Google Persistent Disk スポークの接続および資格情報エイリアスレコードを選択します。
4. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
5. **[OAuth** トークンを取得] をクリックします。

Google Meet スポーク

ServiceNow インスタンスを Google Meet アカウントと統合した後、Google Meet でフローを設定し、さまざまなアクションを完了します。たとえば、フローの一部として会議スペースを設定したり、アクティブな会議を終了したりできます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート 」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要 」を参照てください。

スポークバージョン

Google Meet スポーク v1.0.0 が最新スポークバージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは Google Meet API v2 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

- Google Meet API アクセス
- Google Meet Cloud コンソールアクセス

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Google Meet は、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Google Meet タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明	必要なスコープ (少なくとも 1 つのスコープが必要)
会議の管理	会議を検索	特定の Google Meet スペースに関連付けられた会議レコードの詳細を取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created
	会議ストリームを検索	会議レコードのリストを取得します。オプションでフィルタリングでき、指定されたページサイズで制限できます。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created
スペース管理	会議スペースを作成 (会話型対応)	Google Meet スペースを作成し、参加者が参加してコラボレーションできるようにリンクを共有します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要なスコープ (少なくとも 1 つのスコープが必要)
			• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created
	アクティブな会議を終了	アクティブな Google Meet セッションを終了し、すべての参加者の接続を切断して会議を終了します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created
	会議スペースを検索	特定の Google Meet スペースの構成や現在の会議ステータスなど、会議レコードの詳細を取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created
	会議スペースの更新 (会話型対応)	既存の Google Meet スペースの設定を更新します。	https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created
参加者の管理	参加者を検索	Google Meet 会議の参加者の詳細を取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created
	参加者セッションを検索	Google Meet 会議の特定のセッションの詳細 (セッションの開始時刻と終了時刻など) を取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要なスコープ (少なくとも 1 つのスコープが必要)
	参加者ストリームを検索	オプションのフィルタリングを使用して、指定された Google Meet 会議の参加者のページネーションされたリストを取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created
	参加者セッションストリームを検索	Google Meet 会議の特定の参加者のセッションのページネーションされたストリームを取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created
アーティファクト管理	録画を検索	ステータス、タイムスタンプ、Google ドライブの場所など、Google Meet の録画の詳細を取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created
	記録ストリームを検索	特定の Google Meet 会議の録画のページネーションされたリスト (録画のステータス、タイムスタンプ、Google ドライブの場所など) を取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created
	文字起こしを検索	Google Meet の文字起こしの詳細 (ステータス、タイムスタンプ、Google Docs 内のドキュメントの場所など) を取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要なスコープ (少なくとも 1 つのスコープが必要)
	文字起こしトエントリを検索	Google Meet 会議から、特定の文字起こしのエントリ (コンテンツ、話者の詳細、タイムスタンプなど) を取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created
	文字起こしストリームを検索	特定の Google Meet 会議の文字起こしのページネーションされたリスト (文字起こしのステータス、タイムスタンプ、Google Docs 内のドキュメントの場所など) を取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created
	文字起こしエントリのストリームを検索	特定の Google Meet 会議の文字起こしエントリのリスト (参加者、文字起こしテキスト、言語、タイムスタンプなどの詳細を含む) を取得します。	• https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.readonly • https://www.googleapis.com/auth/meetings.space.created

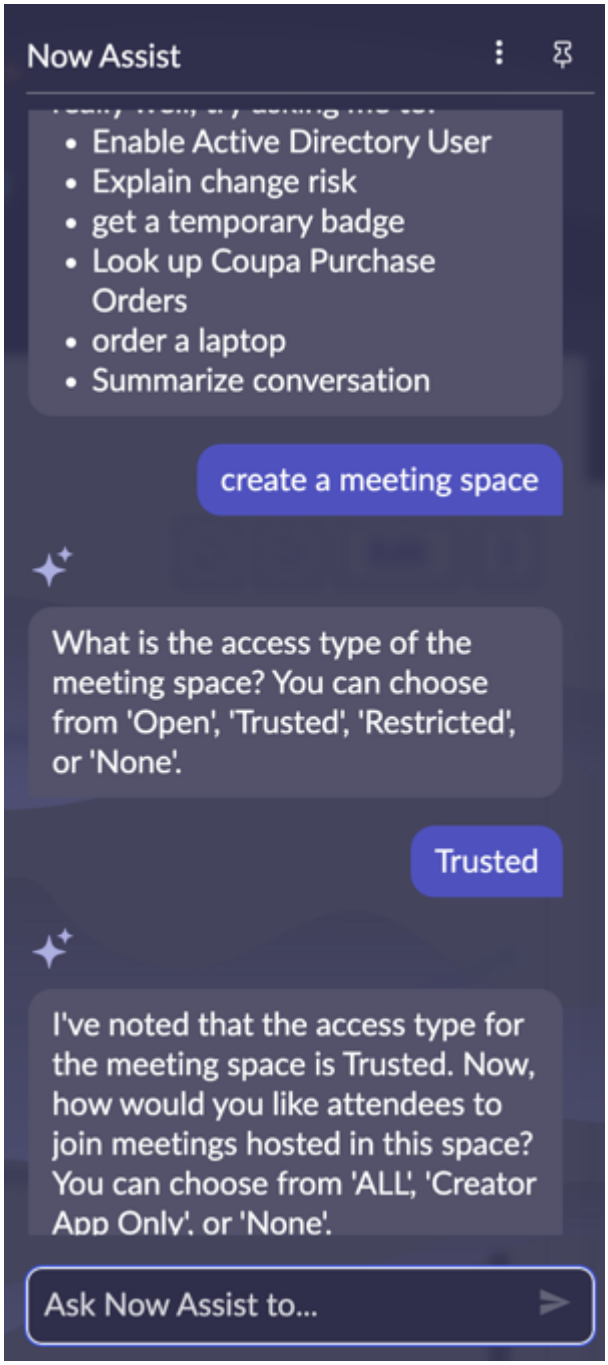
利用可能な会話アクション

Now Assist for Conversational Spokes をインストールし、統合ハブスポークの会話機能の使用を開始します。詳細については、「Now Assist in Conversational Spokes」を参照してください。

サポートされるアクション

アクション	使用法
会議スペースを作成	[Now Assist へのリクエストを入力…] フィールドに、Now Assist にアクションの実行を求めるフレーズを入力し、**Enter** キーを押します。 例：`Create a meeting space`（会議スペースを作成する）。
会議スペースを更新	[Now Assist へのリクエストを入力…] フィールドに、Now Assist にアクションの実行を求めるフレーズを入力し、**Enter** キーを押します。 例：`Update a meeting space`（会議スペースを更新する）。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Google Meet スポークの設定。

Google Meet スポークの設定

Google Cloud コンソールでカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと Google Meet を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Meet スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

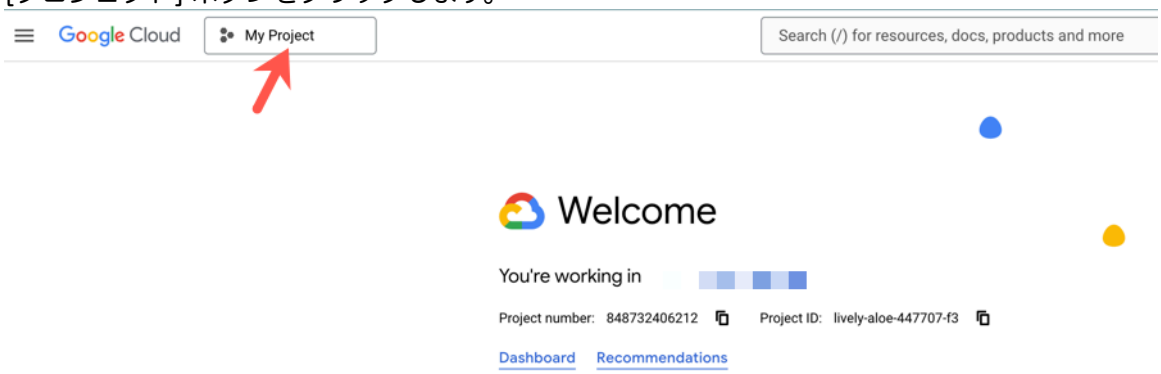
Google Meet API の OAuth 認証情報を作成する

Google Cloud コンソールで接続要求を認証するために、ServiceNow インスタンスが使用する OAuth 認証情報を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. Google Cloud コンソール にログインします。
2. [プロジェクト] ボタンをクリックします。



3. [プロジェクトを選択してください] ウィンドウで、[新規プロジェクト]を選択します。
4. 新しいプロジェクトを設定します。

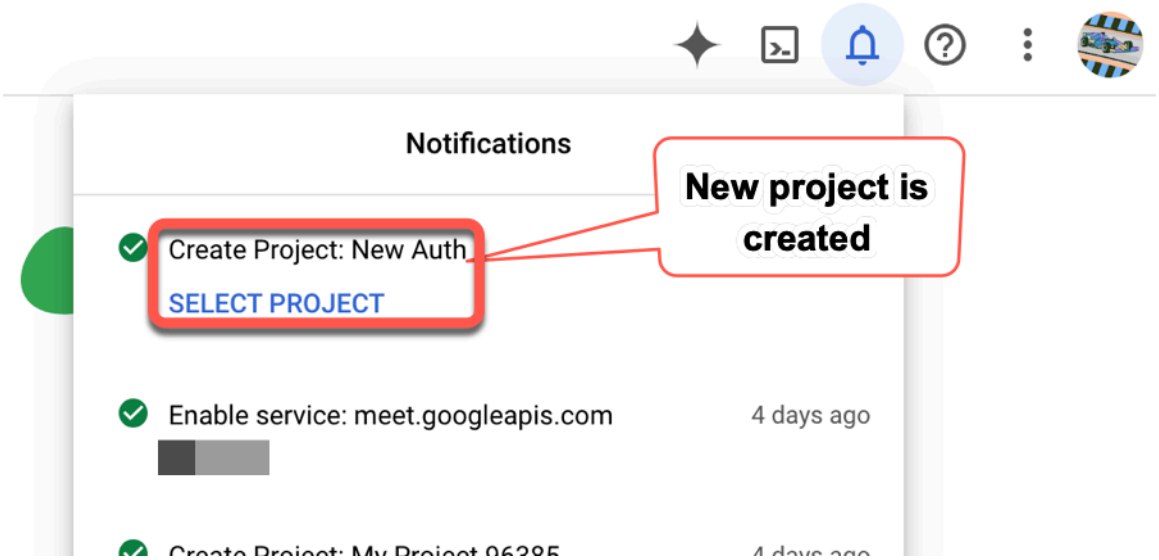
   a. [プロジェクト名] フィールドにプロジェクト名を入力します。

   b. [場所] フィールドで、[参照] を選択して組織を選択します。

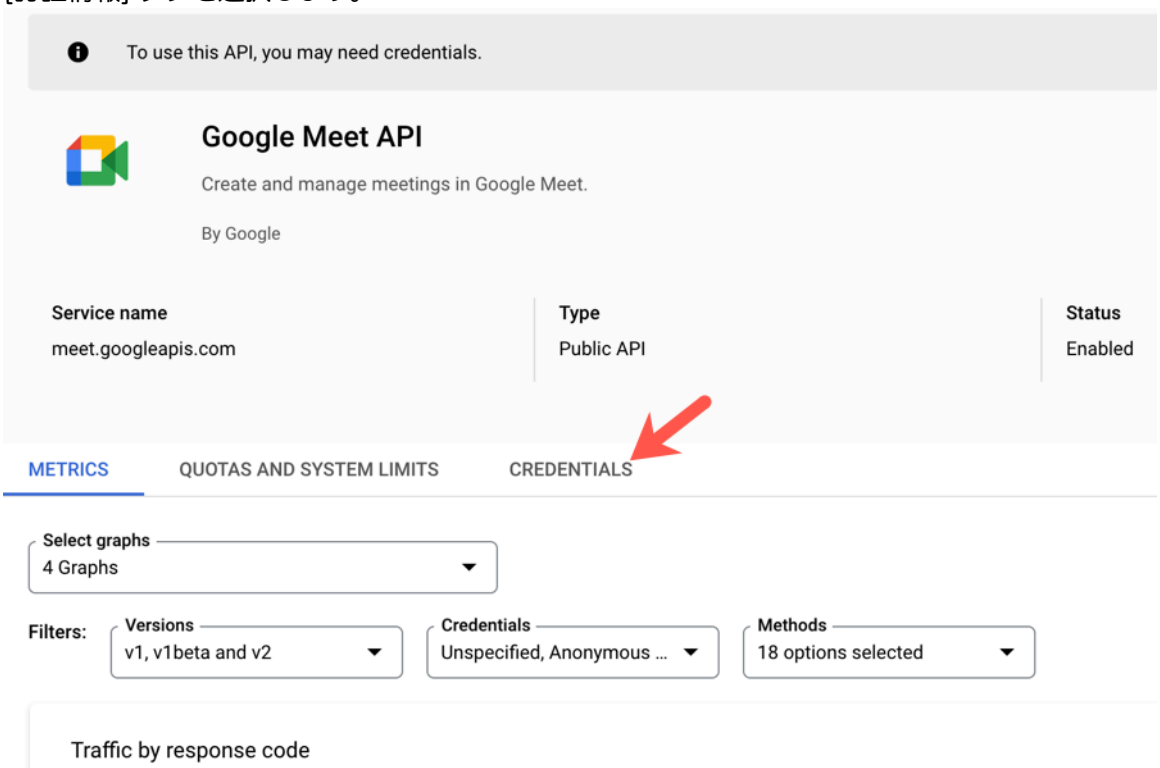
   c. [作成] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロジェクトが作成されたことが Notifications に表示されます。

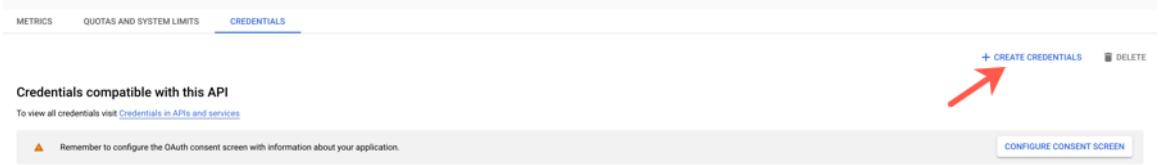


5. [プロジェクトを選択] を選択します。
6. ナビゲーションメニュー > **[API とサービス (APIs & Services)]** > [有効な **API** とサービス **(Enabled APIs & Services)]**に移動します。
7. **[+ API** とサービスを有効にする **(+ ENABLE APIS AND SERVICES)]** を選択します。
8. [API とサービスの検索 (Search for APIs and services)] フィールドに「`Google Meet REST API`」と入力し、**Enter** キーを押します。
9. **[Google Meet REST API]** を選択します。
10. [有効 **(ENABLE)]** を選択します。
11. [認証情報] タブを選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

12. **[+ CREATE CREDENTIALS** (＋認証情報を作成)] を選択し、**[OAuth** クライアント **ID]** を選択します。



13. [同意画面の構成 **(CONFIGURE CONSENT SCREEN)]** を選択します。
14. [内部] を選択します。
15. [作成] を選択します。
16. フォームに入力します。

OAuth アプリケーションの詳細

フィールド	説明
アプリ名	作成する OAuth アプリケーションの名前を指定するオプション。
ユーザーサポートメール	OAuth アプリケーションのユーザーがサポートを要求するために使用できるメール ID を指定するオプション。
開発者の連絡先	OAuth アプリケーション開発者のメール ID を指定するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1 **OAuth consent screen** — 2 Scopes — 3 Test users — 4 Summary

OAuth consent screen management is changing. This page has been replaced with a new, easier-to-use experience. The current pages will only be available for a few more days.

GO TO NEW EXPERIENCE

App information

This shows in the consent screen, and helps end users know who you are and contact you

App name *

The name of the app asking for consent

User support email *

For users to contact you with questions about their consent. Learn more

App logo

This is your logo. It helps people to recognise your app and is displayed on the OAuth consent screen.
After you upload a logo, you will need to submit your app for verification unless the app is configured for internal use only or has a publishing status of 'Testing'. Learn more

Logo file to upload BROWSE

Upload an image, not larger than 1 MB on the consent screen that will help users recognise your app. Allowed image formats are JPG, PNG and BMP. Logos should be square and 120px by 120px for the best results.

App domain

To protect you and your users, Google only allows apps using OAuth to use Authorised Domains. The following information will be shown to your users on the consent screen.

Application home page

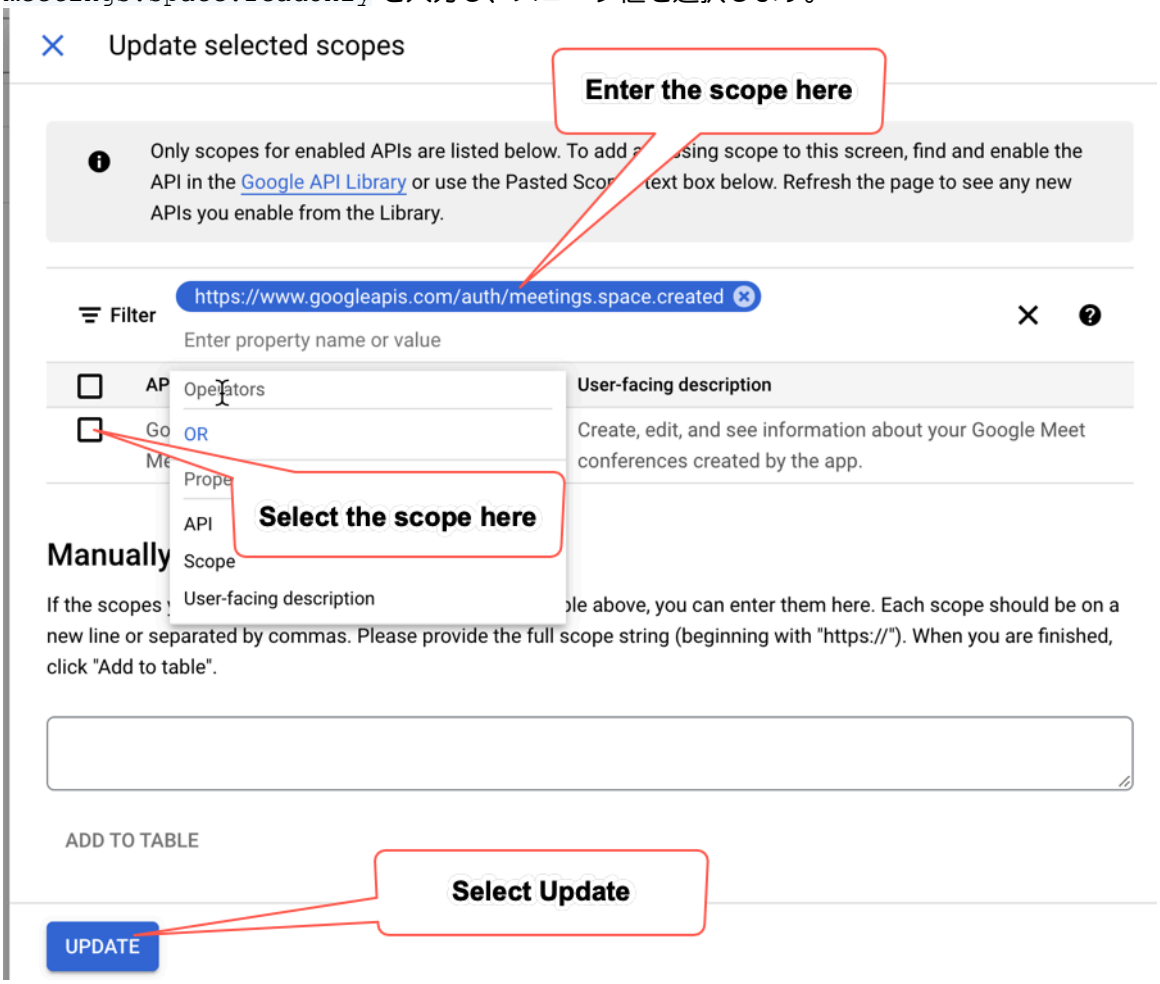
Provide users a link to your home page

Application privacy policy link

Provide users a link to your public privacy policy

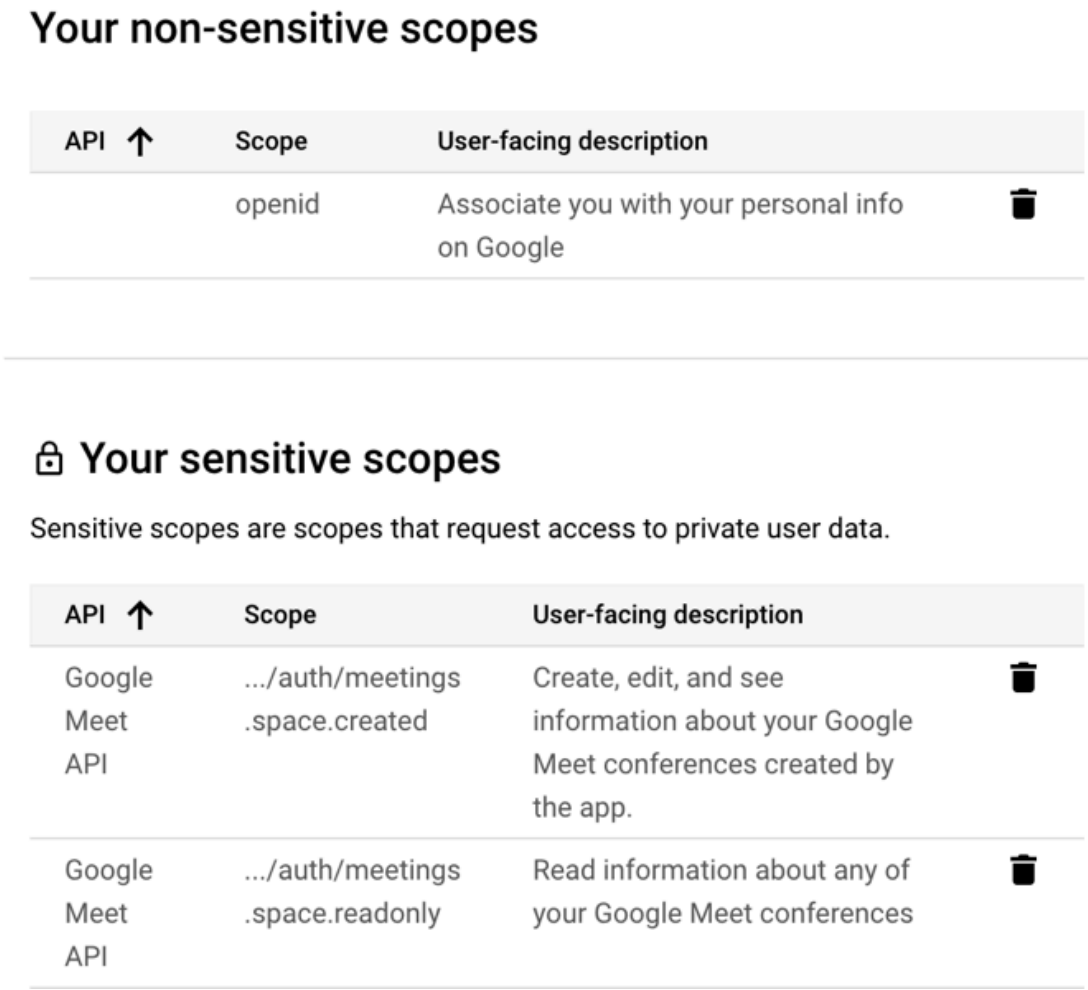
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

17. [保存して続行] を選択します。
18. [スコープの追加または削除 **(ADD OR REMOVE SCOPES)]** を選択します。
19. [フィルター] フィールドに、スコープ `meetings.space.created`、`openid`、および `meetings.space.readonly` を入力し、スコープ値を選択します。



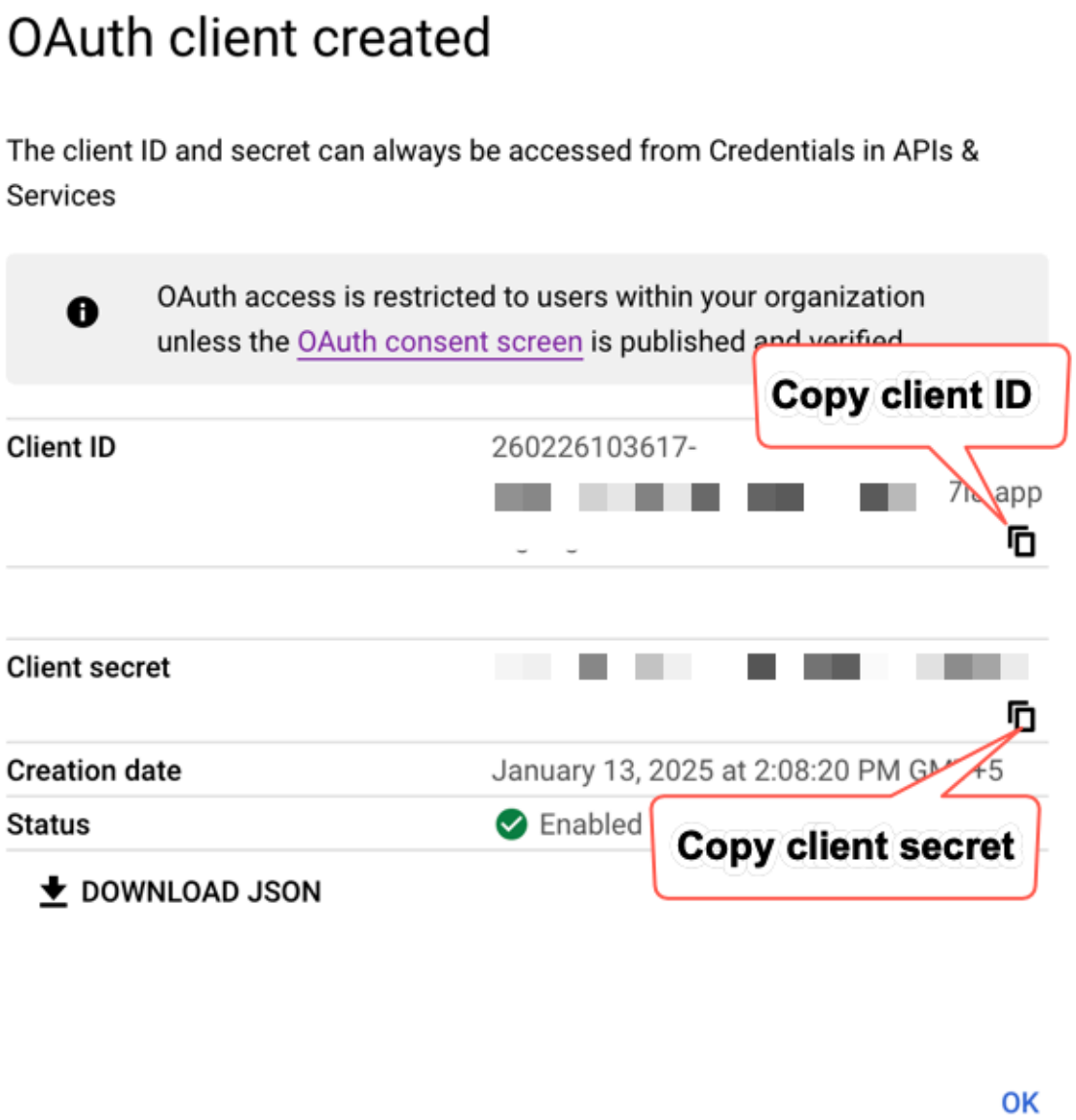
20. [更新] を選択します。
スコープは、[機密でないスコープ (Your non-sensitive scopes)] セクションと [機密スコープ (Your sensitive scopes)] セクションに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



21. [保存して続行] を選択します。
22. 左側のパネルで、[認証情報] を選択します。
23. **[+** 認証情報の作成 **(CREATE CREDENTIALS)] [OAuth** クライアント **ID]** に移動します。
24. [アプリケーションタイプ] フィールドで「**Web** アプリケーション」を選択します。
25. [名前] フィールドに、アプリケーションの名前を入力します。
26. [許可されたリダイレクト URI (Authorized redirect URIs)]で、**[+ URI** を追加] を選択します。
27. [URI1] フィールドに、リダイレクト URL を `https://<your-instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` の形式で入力します。
28. [作成] を選択します。
29. クライアント ID とクライアントシークレットをコピーし、安全な場所に保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



30. **[OK]** を選択します。

Google Meet スポークの接続の設定

ServiceNow インスタンスと Google Meet API 間の接続を設定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。

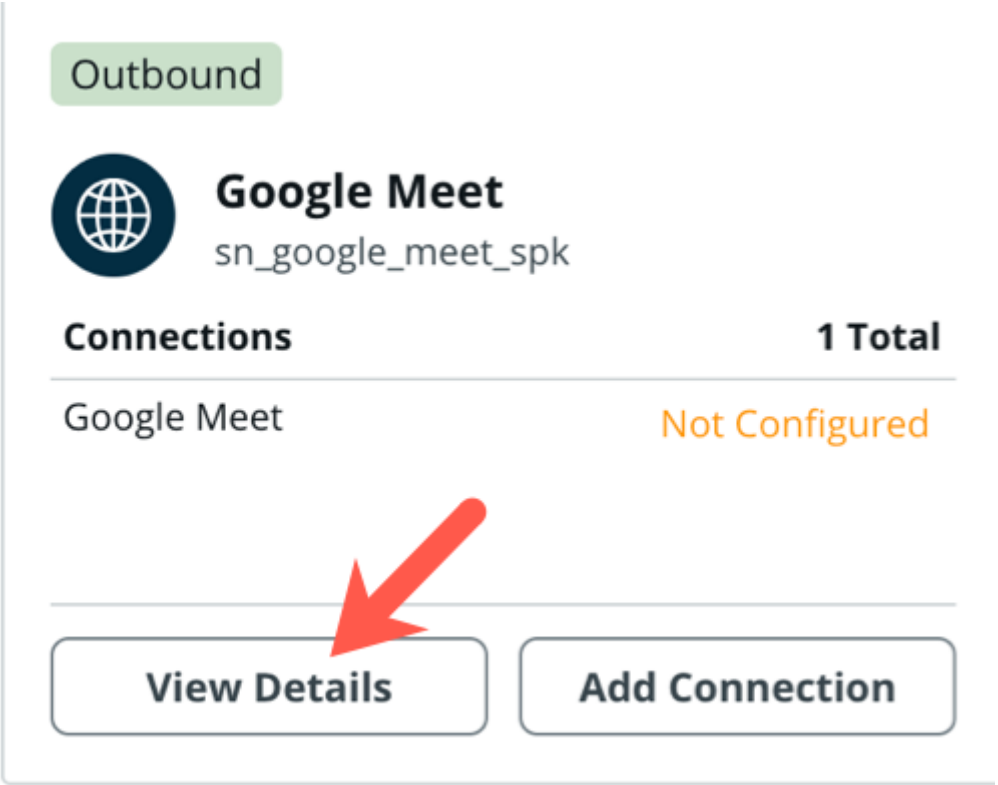
2. [統合] タブを選択します。

3. [送信] タブが選択されていることを確認します。

4. [すべての接続を検索] フィールドに「`Google Meet`」と入力します。

5. [Google Meet] タイルで、[詳細を表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

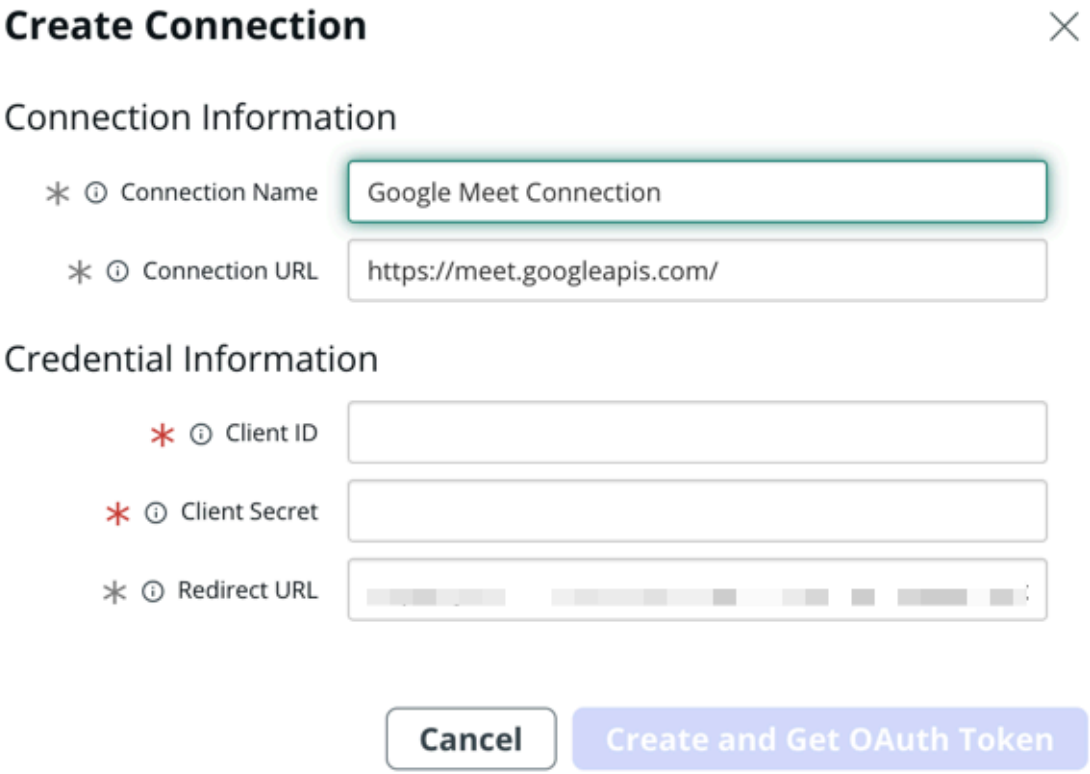


6. [構成 **(Configure)**] を選択します。
7. フォームに入力します。

Google Meet スポークの接続の作成

フィールド	説明
接続名	接続レコードを一意に識別する名前。
接続 URL	Google Meet API への URL。`https://meet.googleapis.com` と入力します。
クライアント ID	Google Cloud コンソールで作成した Google Meet OAuth アプリの OAuth クライアント ID。
クライアントシークレット	Google Cloud コンソールで作成した Google Meet OAuth アプリの OAuth クライアントシークレット。
リダイレクト URL	ServiceNow インスタンスの OAuth リダイレクト URL。`https://<your-instance-name>.service.now.com/oauth_redirect.do` の形式で入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. **[OAuth** トークンを作成して取得] を選択します。
   OAuth トークンを取得するには、Google Cloud コンソールにログインする必要があります。

Google Sheets スポーク

ServiceNow インスタンスから Google Sheets のスプレッドシートを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Google Sheets スポーク v1.0.7 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

このスポークは Google Sheets v4 向けにビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Google Cloud Platform アカウント。

スポークのアクション

Google Sheets スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Google Sheets タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
シート管理	行を追加	指定された値を持つ行をシートに追加します。
	セルをクリア	シートの指定された範囲の値をクリアします。
	シートをコピー	スプレッドシートの 1 つのシートを別のスプレッドシートにコピーします。
	シートを作成	指定されたスプレッドシートにシートを作成します。
	シートを削除	スプレッドシート内のシートを削除します。
	セル値を取得	シートの指定された範囲の値を取得します。
	セルを更新	シート内のセル値の範囲を更新します。
スプレッドシート管理	スプレッドシートの詳細を取得	指定したスプレッドシートに関する詳細を取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Google Sheet スポークの設定。

Google Sheet スポークの設定

接続と資格情報レコードを設定することで、ServiceNow インスタンスと Google Sheets 間のアウトバウンド統合を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Google Sheets スポークプラグインをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

Google Sheets API は、OAuth アプリケーションを通して ServiceNow インスタンスからの要求を認証します。https://console.developers.google.com/ にアクセスして、Google Sheets API で OAuth アプリを設定する を行う必要があります。接続および認証情報レコードには、Google Sheets API が ServiceNow インスタンスからの要求を認証する必要がある情報が含まれています。

Google Sheets API で OAuth アプリを設定する

Google Sheets API で OAuth アプリケーションを設定し、ServiceNow インスタンスからの要求の認証を有効にします。

始める前に

- https://console.developers.google.com/ でビジネスアカウントを作成します。
- ドメインと、ドメインに関連付けられたメールアドレスを作成します。たとえば、www.mydomain.com や jane-admin@mydomain.com などです。

  注: Google Workspace に登録できるメールアドレスは、1 ドメインにつき 1 つだけです。

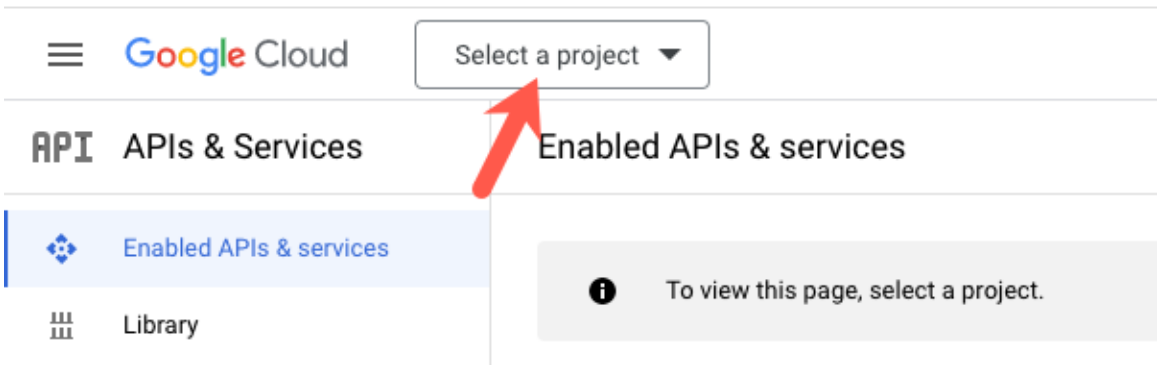
- 必要なロール：admin

手順

1. Google Workspace でプロジェクトを設定します。
   プロジェクトには、OAuth アプリケーションの詳細、および該当する場合はアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) 権限が含まれます。

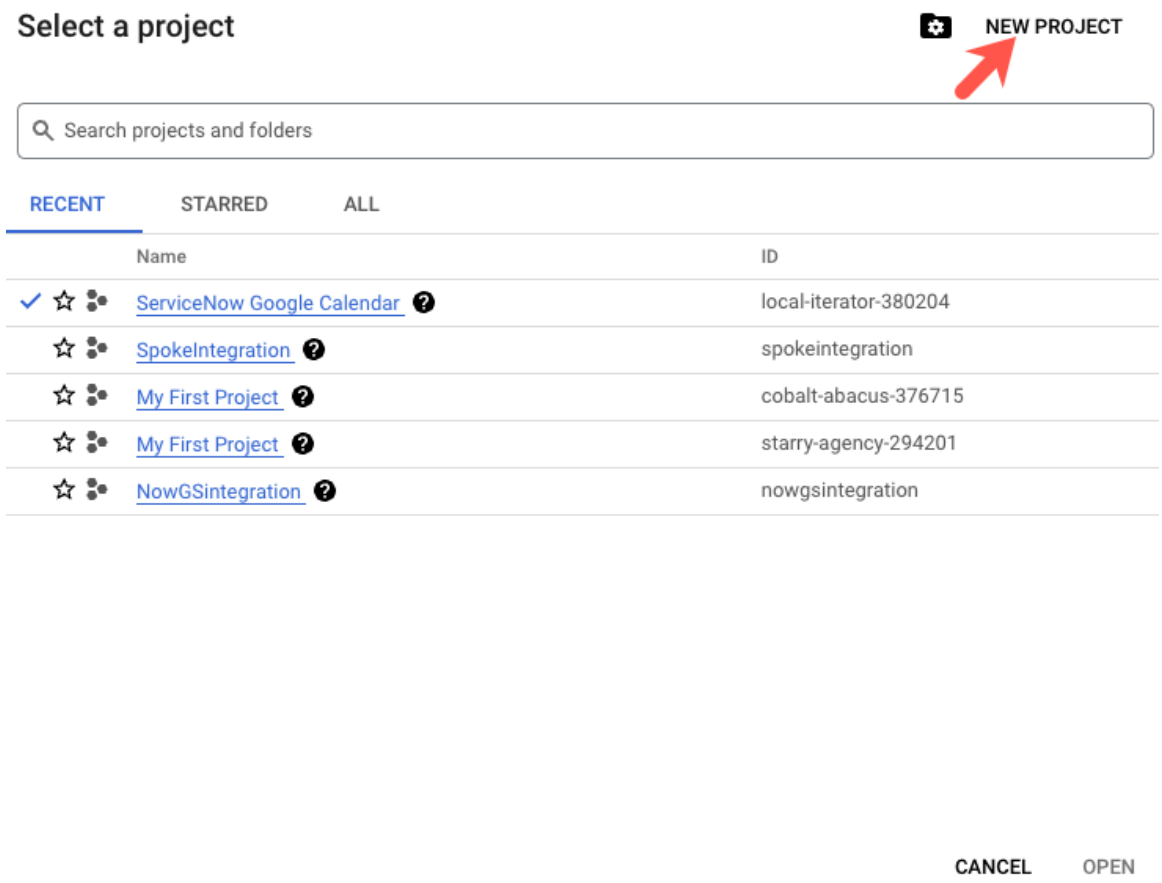
   a. 必須条件に記載されているものと同じドメインのメール ID とパスワードで、https://console.developers.google.com/ にログインします。

   b. ボタンを選択します。



   c. [新しいプロジェクト] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

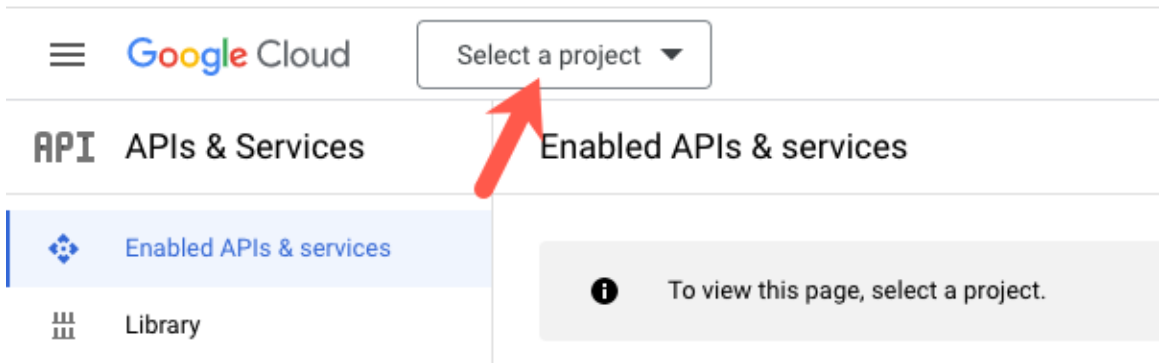


d. [プロジェクト名]* フィールドにプロジェクトの一意の名前を入力します。

e. [場所]* フィールドで、[参照] を選択して組織を選択します。

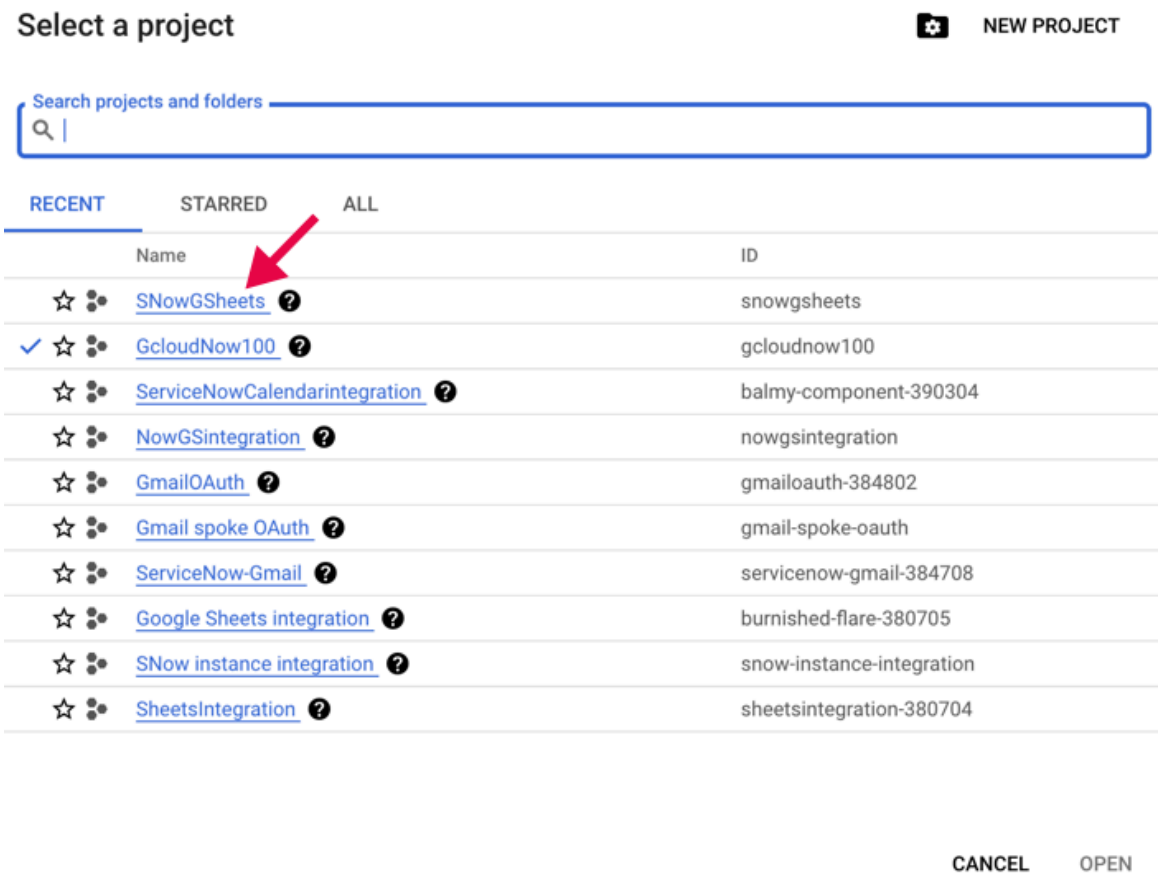
f. [作成] を選択します。
プロジェクトが作成されます。

g. ボタンを選択します。



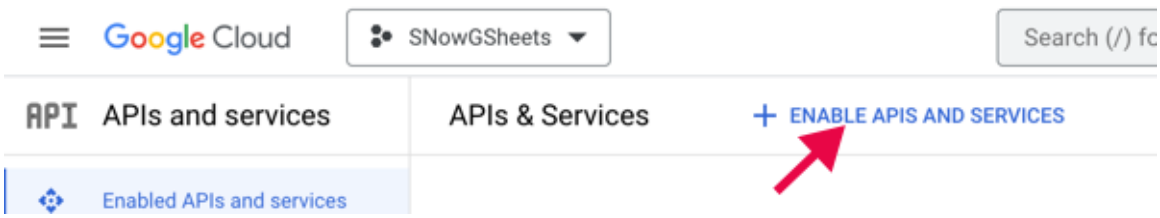
2. 作成したプロジェクトを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. Google Sheets API を有効にします。

   a. **[+ API とサービスを有効にする (+ ENABLE APIS AND SERVICES)]**をクリックします。



   b. [API ライブラリへようこそ (Welcome to the API Library)] ページで、検索ボックスに「`Google Sheets`」と入力します。

   c. **[Enter]** を押します。

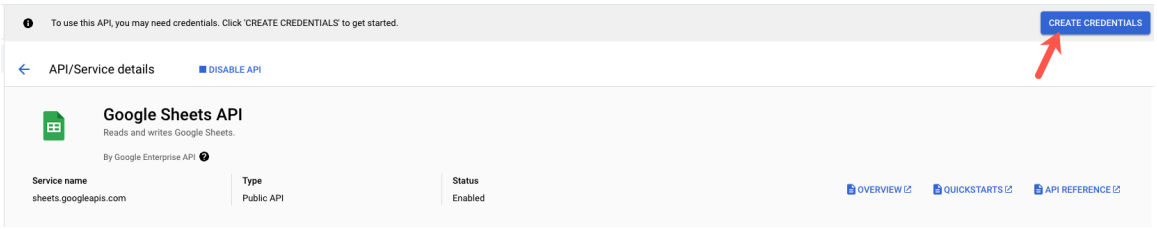
   d. Google Sheets API ボタンを選択します。

   e. [有効 **(ENABLE)]** を選択します。
   プロジェクトで Google Sheets API が有効になります。

4. OAuth アプリと認証情報を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [認証情報を作成] を選択します。



b. フォームに入力します。

Google Sheets API 認証情報

フィールド	説明
API を選択 *	認証情報を作成する API の名前です。 注: [Google Sheets API] を選択していることを確認します。
どのデータにアクセスしますか？ *	ServiceNow が API を介してアクセスするデータのタイプです。 ヒント: [ユーザーデータ] を選択します。

c. [次へ] をクリックします。

d. フォームに入力します。

Google Sheets API 認証情報

フィールド	説明	必須？
アプリ名	OAuth アプリの名前。	はい
ユーザーサポートメール	ユーザーが同意に関するクエリを送信できるメールです。	はい
アップロードするロゴファイル	OAuth アプリを表すロゴです。	いいえ
開発者の連絡先	プロジェクトに変更がある場合、Google は OAuth アプリの開発者に連絡します。	はい

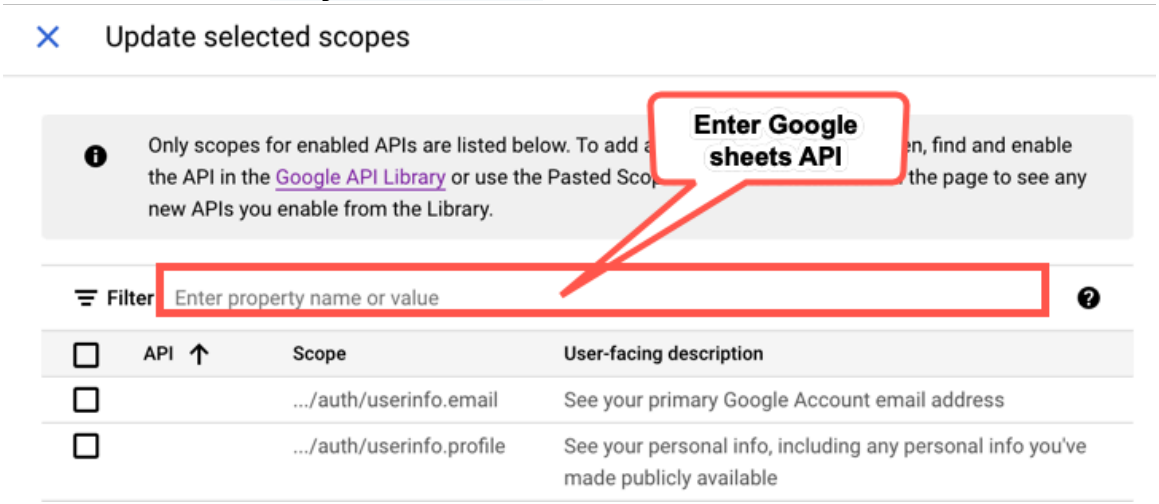
e. [保存して続行] をクリックします。

5. オプション: API スコープを定義します。
API スコープにより、特定の API を選択できるようになります。たとえば、/auth/spreadsheets スコープでは、スプレッドシートの作成、編集、削除ができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [スコープの追加または削除 **(ADD OR REMOVE SCOPES)]** をクリックします。

b. 画像に示すように、「`Google Sheets API`」と入力します。



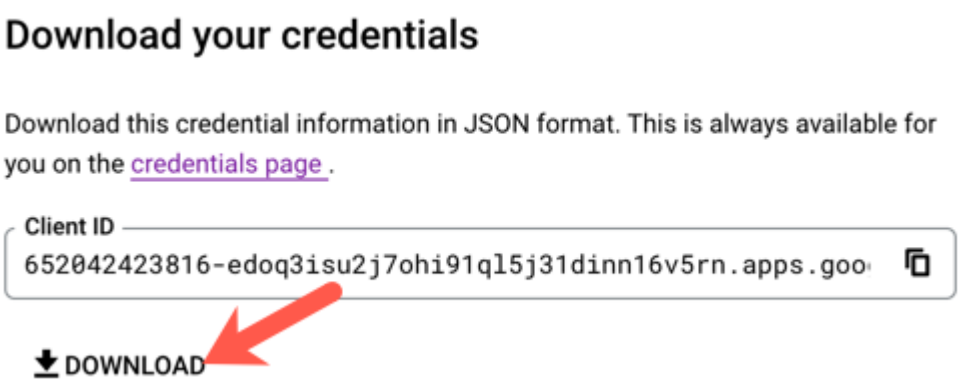
c. 1 つ以上のスコープを選択します。

d. [更新] をクリックします。

e. [保存して続行] をクリックします。

6. OAuth クライアント ID を生成します。
   a. アプリケーションタイプ * のリストから、「`Web アプリケーション`」を選択します。
   b. [名前*] フィールドに、OAuth クライアントの一意の名前を入力します。
7. 許可されたリダイレクト URI の見出しで **[+ URI を追加 (+ ADD URI)]** をクリックします。
8. [URI] フィールドに、リダイレクト URL を `https://instance.service-now.com/oauth_redirect.do` の形式で入力します。
9. [作成] をクリックします。
   OAuth の詳細が JSON ファイルで生成されます。

   ヒント: [ダウンロード] をクリックして、後で参照できるように JSON ファイルをダウンロードします。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. [完了] をクリックします。
    Google Workspace に OAuth アプリケーションが作成されました。

Google Sheets スポークの接続および認証情報レコードを作成する

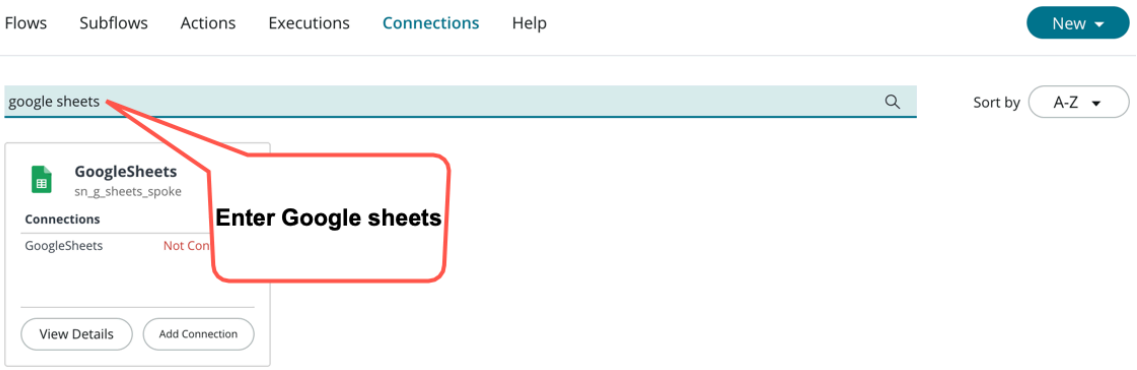
Google Workspace の Google Sheets アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) に接続するために必要な詳細を含む接続および認証情報レコードを作成します。

始める前に

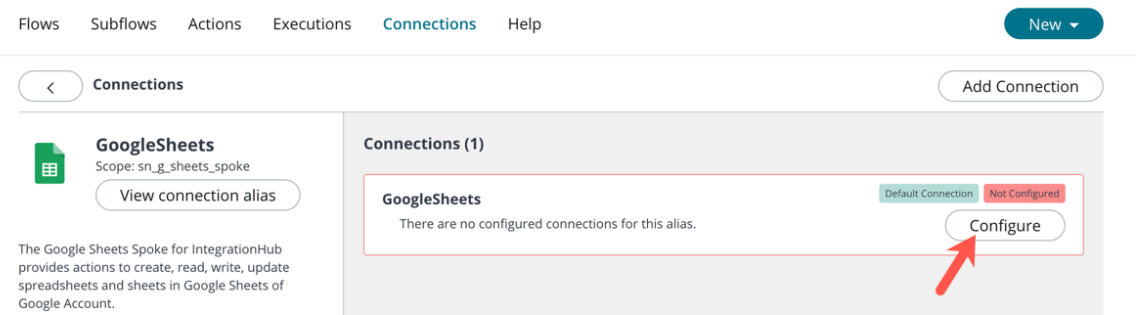
- Google Workspace に Google Sheets API の OAuth アプリケーションを作成します。OAuth アプリケーションの作成方法については、「Google Sheets API で OAuth アプリを設定する」を参照してください。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] をクリックします。
3. [すべての接続を検索] フィールドに「`Google Sheets`」と入力します。



4. GoogleSheets カードで、[詳細を表示] をクリックします。
5. 画像に示すように、[構成] をクリックします。



6. フォームに入力します。

接続を設定

フィールド	説明
接続名	接続の名前。 注：フィールドは読み取り専用です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続 URL	Google Sheets API への接続に使用される URL です。このフィールドは自動的に `https://sheets.googleapis.com/v4/spreadsheets` に設定されます。
認証情報名	認証情報の名前です。このフィールドは自動的に `Google Sheets Spoke` 認証情報に設定されます。
OAuth エンティティ名	OAuth エンティティプロファイルの名前です。このフィールドは自動的に `Google Sheets Spoke OAuth` に設定されます。
OAuth クライアント ID	G Suite に登録した Google Sheets アプリケーションのクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	Google API Console にアプリケーションを登録したときに生成されたクライアントシークレットです。
OAuth リダイレクト URL	リダイレクト URL です。URL フォーマットは `https://<your-instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` です。

7. **[OAuth** トークンを作成して取得] をクリックします。

Google Tasks スポーク

ServiceNow インスタンスから Google タスクとリストを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

API バージョン v1。

スポークバージョン

Google Tasks スポーク v1.2.2 が最新バージョンです。

スポークのサブフロー

Google Tasks スポークでは、Google Tasksの自動化をデモするドラフト状況のサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフロー	説明
ServiceNow 添付ファイルをGoogle Tasksに移動	添付ファイルをServiceNowからGoogle Tasksにコピーします。

スポークのアクション

Google Tasks スポークでは、ServiceNowでイベントが発生したときにGoogle Tasksを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
タスク管理	タスクを完了	タスクリストでタスクを完了としてマークします。
	タスクの作成	タスクリストにタスクを作成します。
	タスクを削除	タスクリストからタスクを削除します。
	タスクを取得	タスクリストから指定されたタスクの詳細を取得します。
	タスクを検索	タスクリストから指定されたタスクの詳細を取得します。
	タスクを更新	タスクリストで指定されたタスクの詳細を更新します。
タスクリスト管理	タスクリストを作成	Google Tasksアカウントにタスクリストを作成します。
	タスクリストを削除	指定されたタスクリストを削除します。
	すべてのタスクリストを取得	Google Tasksアカウントのすべてのタスクリストの詳細を取得します。
	タスクリストを取得	指定されたタスクリストの詳細を取得します。
	タスクリストを更新	指定されたタスクリストの詳細を更新します。

Google Tasks スポークアカウントの要件

Google Tasks スポークでは、Google Developers Console で作成したカスタムアプリが必要です。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Google Tasks スポークの設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。Google Tasks エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー 選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー 」を参照してください。

Google Tasks スポークの設定

G Suite 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Google Tasks スポーク を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Google Tasks スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

OAuth 2.0 クライアントアプリケーションの設定

カスタム OAuth アプリケーションを作成し、Google Workspace による ServiceNow の OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に
Google Tasksデータ連携要件：

- ドメインと、ドメインに関連付けられたメールアドレス。たとえば、www.mydomain.com や jane-admin@mydomain.com などです。G Suite に登録できるメールアドレスは、1 ドメインにつき 1 つだけです。
- Google G Suite またはドメインで作成されたGmailログインです。

必要なロール：admin

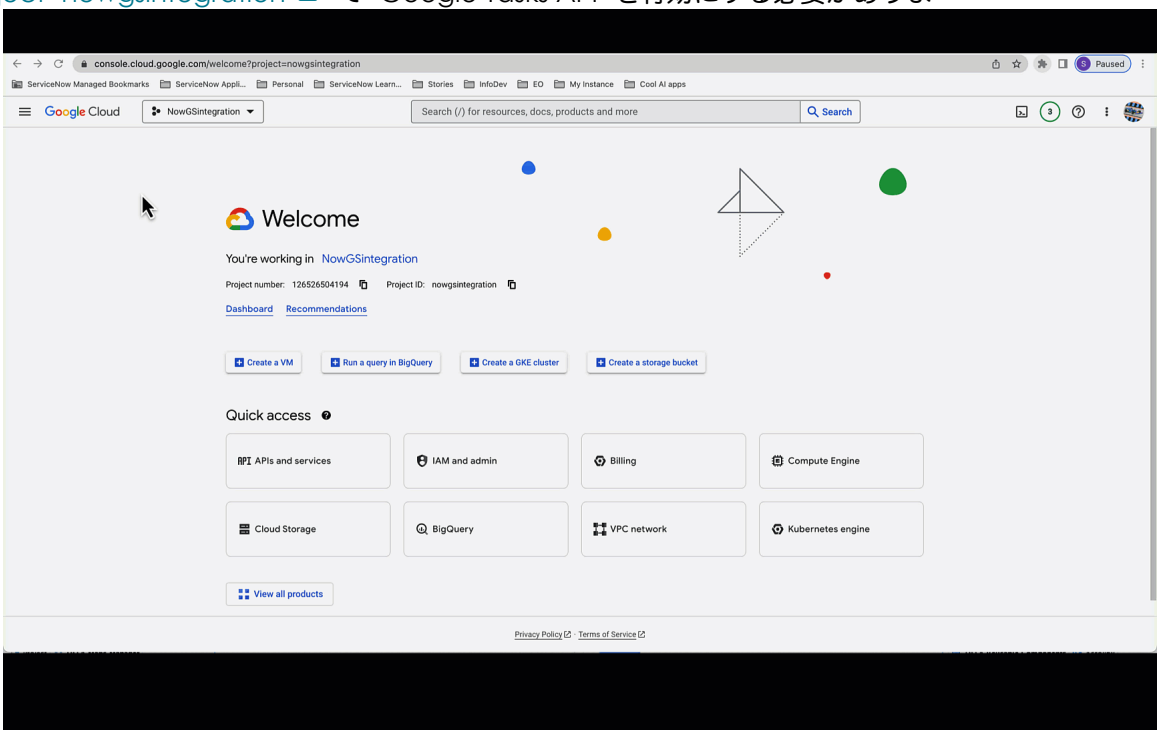
このタスクについて
Google Developers Console からこれらの手順を実行します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、G Suite の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. https://console.developers.google.com に移動し、G Suite アドミン認証情報でプロジェクトを作成し、プロジェクトを開きます。
2. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、**[OAuth 同意画面 (OAuth consent screen)]** を選択します。
3. アプリケーション名を入力して、認証済みドメイン `service-now.com` を指定します。
4. [保存] を選択します。
5. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから [認証情報] を選択し、 [認証情報の作成 **(Create credentials)]** リストから **[OAuth** クライアント **ID** の作成 **(Create OAuth client ID)]** を選択します。
6. アプリケーションタイプ **Web** アプリケーションを選択します。
7. 承認済みのリダイレクト URI：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力して、[作成] をクリックします。
8. クライアント ID とクライアントシークレットをテキストファイルにコピーします。
アニメーションは、OAuth クライアント ID の設定を示しています。OAuth クライアント ID を作成する前に、https://console.cloud.google.com/welcome?

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

project=nowgsintegration で Google Tasks API を有効にする必要がありま



す。

ヒント: 後で参照できるように、OAuth クライアントの詳細を含む JSON ファイルを保存します。

Google Tasks スポークの接続の構成

接続と資格情報レコードを作成し、ServiceNow インスタンスと Google Workspace の間の接続を確立します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

接続と資格情報には、Google Workspace が ServiceNow インスタンスを認証する必要がある、クライアント ID、クライアントシークレット、リダイレクト URL などの詳細が含まれています。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. 統合を選択します。
3. [すべての接続を検索] フィールドに「`Google Tasks`」と入力します。
4. [Google Tasks] タイルで、[詳細を表示] を選択します。
5. [設定] を選択します。
6. テーブルに示されている詳細をフォームに入力します。

[接続を設定] フォーム

フィールド	説明
接続名	Google Workspace インスタンスと ServiceNow インスタンスの間の接続の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: デフォルト名は Google Tasks で、読み取り専用です。ただし、このレコードの後にさらに接続および認証情報レコードを設定する場合は、カスタム名を指定できます。
接続 URL	URL `https://www.googleapis.com` を入力します。 注: この URL の前後にスペースを含めないようにしてください。スペースがある場合、接続は失敗します。 。
OAuth クライアント ID	OAuth クライアント ID を作成したときに生成された OAuth クライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	OAuth クライアント ID を作成したときに生成された OAuth クライアントシークレット。
OAuth リダイレクト URL	OAuth リダイレクト URL。https://<instance-name.service-now.com>/oauth_redirect.do 形式で入力します。

7. **[OAuth** トークンを設定して取得] を選択します。

GoTo スポーク

GoTo スポークは、GoTo ソフトウェアサブスクリプションの有意義な使用状況データを表示および分析するアクションを提供します。GoToMeeting、GoToWebinar、GoToConnect の使用状況を分析して古いライセンスを特定することで、これらのライセンスを再利用して見込まれる節減を実現できるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

GoTo スポーク v2.0.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは LogMeIn アドミンセンター v5.29.0 向けにビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

GoTo アドミンアカウント

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

GoTo Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにGoToタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
接続管理	コネクトユーザーストリームを検索	GoToアカウント内でGoToConnectライセンスを持つすべてのユーザーのリストを取得します。
	ユーザーアクティビティサマリーストリームを検索	ユーザーセットと関連するメトリクスに関する情報を含む、すべてのユーザーアクティビティのサマリーを取得します。
	ユーザーアクティビティ詳細ストリームを検索	特定のユーザーのアクティビティレコードを取得します。
ライセンス管理	ランセンスを検索	GoToアカウント内のすべての製品ライセンスのリストを取得します。
	ユーザー ライセンスを削除	指定された製品ライセンスからユーザーを削除します。
会議管理	過去の会議レポートを取得	指定された日付範囲内で、GoToアカウント内のすべての主催者の会議履歴を報告します。
	予定されている会議のレポートを取得	指定された日付範囲内で、GoToアカウント内のすべての主催者に予定されている会議を報告します。
ユーザー管理	ユーザーを削除	GoToアカウントからユーザーを削除します。
	認証ユーザーを検索	ユーザーが保持しているアカウントに関する情報など、認証されたユーザーの詳細を取得します。
	ユーザーを検索	GoToアカウント内のすべてのユーザーのリストを取得します。
ウェビナー管理	ウェビナーを取得	GoToアカウントのすべてのウェビナーのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 GoTo Spoke を設定。

GoTo Spoke を設定

GoToにカスタム OAuth クライントを作成してServiceNowインスタンスとGoToをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- GoTo スポークを有効にします。
- GoTo の必要なロール：LogMeIn 開発者アカウントとアドミンアカウントを持つユーザー
- 必要なロール：admin

GoToOAuth クライアントを作成

GoToAPI 要求を認証するための OAuth クライアントを作成します。

始める前に

必要なロール：LogMeIn 開発者アカウントとアドミンアカウントを持つ GoTo ユーザー。

手順

1. Web ブラウザから、 [GoTo 開発者センター] を開きます。
2. LogMeIn 開発者アカウントを使用してサインインします。
   LogMeIn 開発者アカウントをまだ設定していない場合は、詳細な手順について「ログインする方法または開発者アカウントを作成する方法」を参照してください。
3. LogMeIn 開発者のホームページから、**[OAuth** クライアント] タブを選択します。
4. [クライアント **ID** を作成] をクリックします。
5. フォームの [詳細] タブで、クライアントの詳細を入力します。

[クライアントを作成] フォームの [詳細] タブ

Field (フィールド)	説明
クライアント名	OAuth クライアントの名前です。
説明	OAuth クライアントのオプションの説明です。
リダイレクト URL	GoToアプリケーションを統合するServiceNowインスタンスのリダイレクト URL です。`https://<instance-url>/oauth_redirect.do` と入力します。<*instance-url*> はServiceNowインスタンスの URL です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [次へ **(Next)**] をクリックします。
7. [スコープ] タブで、OAuth クライアントがGoToユーザーとアプリケーションに対して持つアクセス権のレベルを指定します。

[スコープ] タブ

フィールド	説明
プロフィール	認証されたユーザーのユーザー情報を取得および変更するための OAuth スコープです。[ユーザー情報を取得] スコープは自動的に有効になります。[ユーザーの詳細を変更] スコープを有効にするには、チェックボックスをオンにします。
GoToMeeting、GoToWebinar、または GoTo トレーニング	GoToMeeting、GoToWebinar、および GoTo トレーニングアプリケーションのセッションを作成、開始、および変更するための OAuth スコープです。このスコープを有効にするには、チェックボックスをオンにします。 **注:** SaaS ライセンス管理 GoTo 統合では、GoTo トレーニングアプリケーションのライセンス管理をサポートしていません。
GoTo Assist Remote Support またはサービスデスク	GoTo Assist Remote Support およびサービスデスクアプリケーションのセッションを作成、開始、および変更するための OAuth スコープです。このチェック ボックスをオフのままにします。 **注:** SaaS ライセンス管理 GoTo 統合では、GoTo Assist アプリケーションのライセンス管理をサポートしていません。
SCIM	クロスドメイン ID 管理システム (SCIM) プロトコルを使用してユーザー管理を自動化するための OAuth スコープです。このチェック ボックスをオフのままにします。
アドミンセンター	GoTo アドミンセンターで LogMeIn ユーザーを管理するための OAuth スコープです。このスコープを有効にするには、チェックボックスをオンにします。
GoToConnect	GoToConnectを使用して電話やその他の電話サービスを開始するための OAuth スコープです。GoToConnectライセンスが有効になっている場合は、次のチェックボックスをオンにします。 ◦ PBX の電話回線の通話履歴にアクセスする [cr.v1.read] ◦ 電話回線の情報を取得する [users.v1.lines.read]

8. [保存] をクリックします。
9. [認証情報] タブで、[クライアント **ID**] と [クライアントシークレット] フィールドの値をコピーします。
   後で使用できるように安全な場所に保存してください。
10. チェックボックスをオンにして、クライアントシークレットが保存されていることを確認します。
11. [完了] をクリックします。

GoTo接続を作成

GoToアプリケーションとServiceNowインスタンスの間に接続を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ServiceNowインスタンスで、[プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
   フローデザイナーが新しいタブで起動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. GoTo接続の [詳細を表示] をクリックします。
4. 利用可能な接続のリストからGoToを見つけて、[構成] をクリックします。
   [接続の設定] ダイアログボックスが開きます。
5. ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

[接続の設定] ダイアログボックス

フィールド	説明
接続名	GoTo接続の名前です。このフィールドは、自動的に入力されます。
名前	GoTo認証情報の名前です。このフィールドは、自動的に入力されます。
OAuth クライアント ID	GoToOAuth クライアントに割り当てられているクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	GoToOAuth クライアントに割り当てられているクライアントシークレットです。
OAuth リダイレクト URL	GoToアプリケーションを統合するServiceNowインスタンスのリダイレクト URL です。このフィールドは、自動的に入力されます。

6. **[OAuth** トークンを設定して取得] をクリックします。
   [アプリを認証] ダイアログボックスが開きます。
7. ダイアログボックスで、[許可] をクリックします。
   OAuth アクセストークンは、GoTo接続を許可するために使用できるようになります。
8. GoToConnectライセンスが有効になっている場合は、[接続] タブに移動します。
9. GoToConnectの接続を見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
10. **[OAuth** トークンを取得] をクリックしてGoToConnectのトークンを生成します。

GovNotify スポーク

GovNotify スポークを使用して、ServiceNow インスタンスの自動化に基づいて、メール、テキスト、およびレターを送信します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

GovNotify スポーク v1.1.0 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているバージョン

このスポークは GovNotify API バージョン v2 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークのフロー

GovNotify スポーク にはサンプルフローがあり、指定されたユーザーにテキストメッセージを送信する方法を示すためにユーザーにテキストメッセージを送信します。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのサブフロー

GovNotify スポークでは、タスクの自動化を示すために、サンプルサブフロー、GovNotify Webhook コールバックが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのアクション

GovNotify スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

アクション	説明
ID で通知ステータスをルックアップ	通知 ID で最新の通知を取得します。
通知をルックアップ	最大 250 件のメッセージとステータス、つまり 1 ページ分を取得します。
レターを送信	物理的な通知レターを受信者に送信します。
テキストメッセージを送信	テキストメッセージを受信者に送信します。
メールの送信	メール通知を受信者に送信します。

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI エージェント	説明
GovNotify メッセージマネージャー	GovNotify の通知とメッセージを管理します (テキストメッセージ、メール、またはレターの送信、通知の検索、ID による通知ステータスの検索を行います)。

スポークモジュール

GovNotify スポークは GovNotify スポークアプリケーションをインスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

モジュール	説明
クライアント詳細	要求を認証するクライアントレコードを保存します。
認証情報	GovNotify スポークのデフォルトの認証情報レコードが含まれています。
テンプレート	GovNotify アカウントのテンプレートの詳細を表示します。
テキスト通知	送信済みのテキストメッセージの詳細を表示します。
トランザクション	送信済みのすべてのメッセージの詳細を表示します。レコードには、メール、テキストメッセージ、およびレターのトランザクションが含まれます。
Webhook 意思決定回答	必要なサブフローをトリガーする Webhook 回答レコードを保存します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 GovNotifySpoke を設定。

GovNotifySpoke を設定

JWT 認証を使用して ServiceNow インスタンスと GovNotify アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- GovNotify スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. GovNotify アカウントで、API キーを作成します。

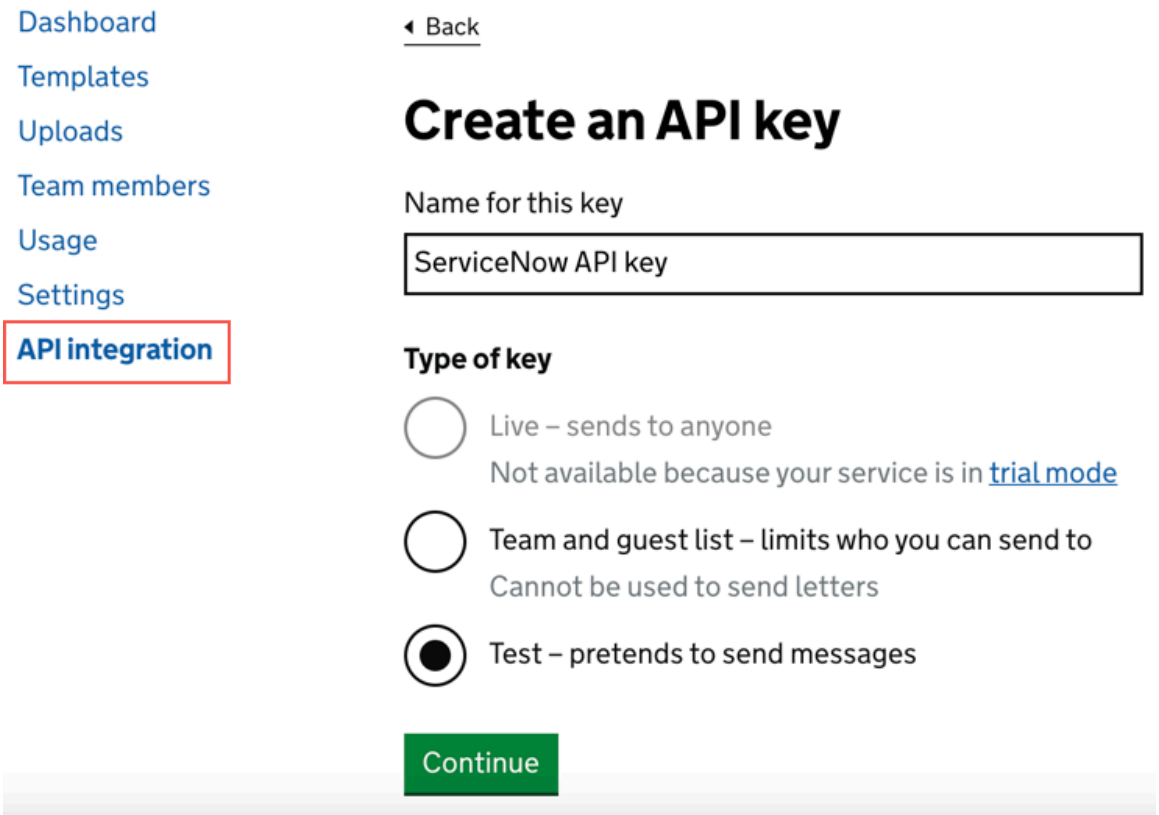
   a. アドミニストレーターとして GovNotify アカウントにログインします。

   b. **[API** 統合] に移動し、**[API** キー] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. **[API キーを作成 (Create API key)]** をクリックします。

d. フォームで、API キーの名前を入力し、必要なキータイプを選択します。



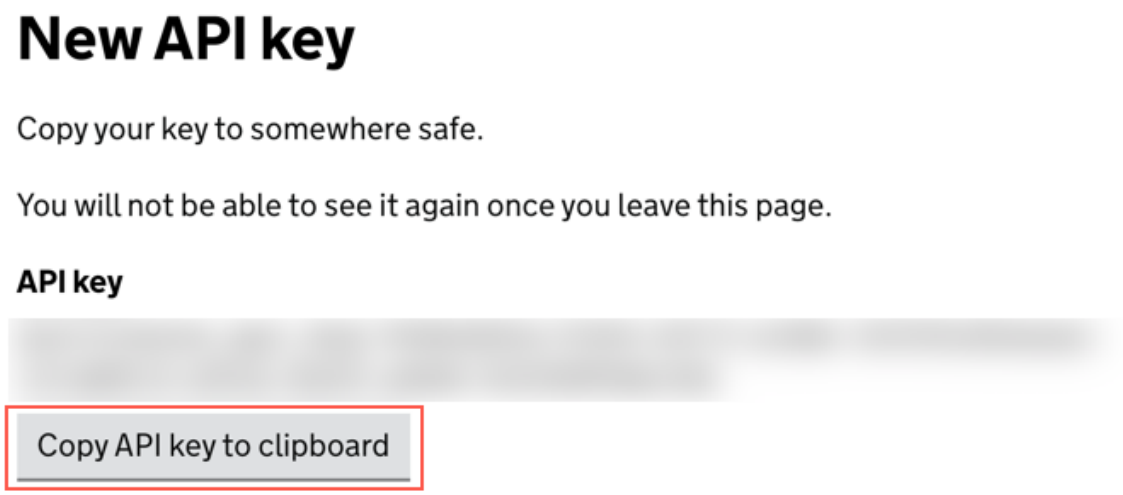
e. [続行] をクリックします。
API キーは、`{key_name}-{iss-uuid}-{secret-key-uuid}` 形式で表示されます。たとえば、API キーが「`my_test_key-26785a09-ab16-4eb0-8407-a37497a57506-3d844edf-8d35-48ac-975b-e847b4f122b0`」の場合、次のようになります。

- API キー名：`my_test_key`
- iss (サービス ID)：`26785a09-ab16-4eb0-8407-a37497a57506`
- 秘密鍵または署名鍵：`3d844edf-8d35-48ac-975b-e847b4f122b0`

詳細については、「GovNotify REST API ドキュメント」の「ヘッダー」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. **[API** キーをクリップボードにコピー **(Copy API key to clipboard)]** をクリックし、後で使用するために値を記録します。



2. ServiceNow インスタンスでデフォルトの JWT キーレコードを設定します。
   a. [システム **OAuth]** > **[JWT** キー]に移動します。
   b. レコード **[GovNotify Key]** を開きます。
   c. API キーからコピーした署名キーを [署名キー]に入力し ます。
   d. [更新] をクリックします。
3. ServiceNow インスタンスでデフォルトの JWT プロバイダーレコードを設定します。
   a. [システム **OAuth]** > **[JWT** プロバイダー]に移動します。
   b. レコード **[GovNotify JWT Provider]** を開きます。
   c. [標準要求] タブで、**[iss]** レコードをクリックします。
   d. API キーからコピーした [iss] (サービス ID) 値を [要求値] に入力します。
   e. [更新] をクリックします。
4. ServiceNow インスタンスでデフォルトの認証情報レコードを設定します。
   a. **[GovNotify** スポーク] > [認証情報]に移動します。
   b. レコード **[GovNotify Cred]** を開きます。
   c. **[JWT** プロバイダー]で、構成した JWT プロバイダーを選択します。
   d. [更新] をクリックします。
5. ServiceNow インスタンスのデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを設定します。
   a. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
   b. レコード **[GovNotify]** を開きます。
   c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   d. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTTP(S) 接続フォーム

フィールド	説明
認証情報	設定した認証情報レコード。例：「GovNotify Cred」。
接続 URL	GovNotify アカウントに接続するための URL。「https://api.notifications.service.gov.uk」と入力します。

e. [送信] をクリックします。

GovNotify スポークの Webhook の設定

ServiceNow コールバック URL で GovNotify を登録するための Webhook を設定します。

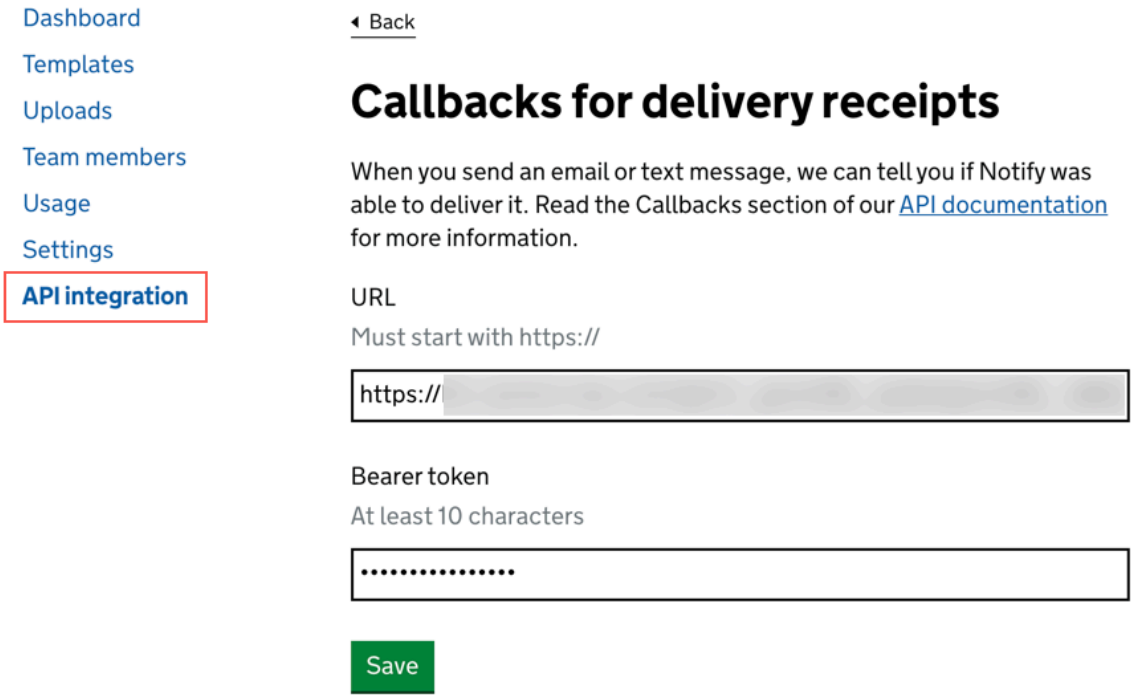
始める前に

- GovNotifySpoke を設定
- 必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスから GovNotify スポークのスクリプト化された REST API URL をコピーします。
   a. [システム **Web** サービス] > [スクリプト化された **REST API]** に移動します。
   b. レコード **[GovNotify Callback]** を開きます。
   c. 後で使用するためにベース **API** パスの値をコピーして記録します。
2. コールバック URL を GovNotify アカウントに追加します。
   a. アドミンとして GovNotify アカウントにログインします。
   b. **[API** 統合] に移動し、[コールバック] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



c. フォームで、これらの値を入力します。

フィールド	説明
URL	次の形式のコールバック URL：`https://<ServiceNow-instance>.com/<base-api-path>` 。
ベアラートークン	要求を認証するためのトークン。要件に従ってトークンを入力します。

d. [保存] をクリックします。

3. ServiceNow インスタンスにクライアントレコードを作成します。

a. **[GovNotify** スポーク] > [クライアント詳細]に移動します。

b. [新規] をクリックします。

c. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	クライアントレコードを識別する名前。
認証キー	GovNotify アカウントで指定したベアラートークン。

d. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. ServiceNow インスタンスに Webhook 回答レコードを作成します。

   a. **[GovNotify** スポーク] > **[Webhook** 意思決定回答 **(Webhook Decision Answers)]**に移動します。

   b. [新規] をクリックします。

   c. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
サブフロー	トリガーする必要があるサブフロー。デフォルトのサブフローまたは要件に従って設定したサブフローを選択します。
説明	Webhook 意思決定回答の説明。

   d. [送信] をクリックします。

5. ServiceNow インスタンスの Webhook 意思決定ポリシーを設定します。

   a. [システム定義] > [意思決定テーブル] の順に移動します。

   b. レコード **[GovNotify Webhook Decision Policy]** を開きます。

   c. [意思決定] タブで、[デフォルトの意思決定] レコードを開きます。

   d. [回答] で、作成した Webhook 回答レコードの [sys_ID] を選択します。

   e. [更新] をクリックします。
   Webhook 回答レコードで設定されたサブフローは、Webhook 意思決定ポリシーの条件が満たされたときにトリガーされます。

Gremlin スポーク

機能停止をシミュレートし、ServiceNowインスタンスからGremlinインスタンスを使用して攻撃を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

Gremlin スポークは v1.0.3 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているバージョン

このスポークはGremlinバージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- 要件に従ってクライアントを設定します。
- Gremlinダッシュボードへのアドミンアクセスです。
- ServiceNowインスタンスとデータ連携するためのGremlinアカウントのチームです。チームの作成の詳細については、「チーム」を参照してください。
- チームのチーム ID と API キーです。後で使用するためにこれらの値をコピーして記録します。これらの値へのアクセスの詳細については、「署名ベースの認証」セクションを参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Gremlin Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにGremlinタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
攻撃管理	攻撃を作成	Gremlinプラットフォームに攻撃を作成します。
	攻撃の詳細を取得	攻撃に関する詳細を取得します。
	攻撃実行を取得	攻撃に関連する実行のリストを取得します。
	すべての攻撃を停止	Gremlinプラットフォーム全体のすべてのアクティブな攻撃をべき等的に停止します。
	攻撃を検索	Gremlinプラットフォームのすべての攻撃をリストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		注: • デフォルトでは、このアクションは最大 5 MB のデータを取得できます。*glide.pf.rest.response_payload_max_size*プロパティは、最大 10 MB のデータを取得するように構成できます。応答のデータが 10 MB を超えると、エラーが表示されます。 • データは最大 10 MB までしか取得できないため、取得するレコードの数を入力フィールド [返されるレコードの数] に指定することもできます。
攻撃スケジュール管理	攻撃スケジュールを作成	Gremlinプラットフォームに攻撃スケジュールを作成します。
	攻撃スケジュールを削除	指定された添付スケジュールを削除します。
	攻撃スケジュールの詳細を取得	指定された攻撃スケジュールの詳細を取得します。
	アクティブな攻撃スケジュールを検索	Gremlinプラットフォームのすべての攻撃スケジュールをリストします。

注:

- スポークアクションで考慮されるタイムゾーンは、ServiceNowインスタンスのタイムゾーンと同じです。
- Gremlinライセンスに基づいて、特定のGremlin機能へのアクセス権がない場合、関連するスポークアクションをServiceNowインスタンスでも使用することができません。
- `True` または `False` を入力として受け取る一部の引数では、Gremlinプラットフォームで考慮される実際の値が、指定した値と異なる場合があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Gremlinスポークの接続および認証情報を作成。

Gremlinスポークの接続および認証情報を作成

Gremlinに登録されているアプリケーションの接続および認証情報レコードを作成して、Gremlinスポークアクションを承認します。Gremlinスポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続および認証情報を使用してアクションを許可します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Gremlin スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. レコード **Gremlin** を開きます。
3. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。
4. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前。デフォルトでは、これは `Gremlin` 接続です。要件に応じて変更できます。
接続 URL	Gremlinに接続するための URL です。デフォルトでは、これは `https://api.gremlin.com` です。
API バージョン	Gremlinプラットフォームの API バージョンです。デフォルトでは、これは `v1` です。
チーム ID	チームのチーム ID です。
API キー	チームの API キーです。
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。デフォルトでは、これは `Gremlin` 認証情報です。要件に応じて変更できます。

5. [作成] をクリックします。

Guidewire スポーク

ServiceNow インスタンスを Guidewire アカウントと統合し、保険顧客とポリシー情報を検索し、請求を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークは Guidewire アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) バージョン Elysian (2022.05) 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。このスポークは、Guidewire Cloud InsuranceSuite の API もサポートしています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

主な機能

Guidewire スポークアプリケーションを使用すると、フローデザイナーは、Guidewire InsuranceSuite クラウド API を呼び出すアクションからワークフローをビルドできます。これらのアクションは、Guidewire とのリアルタイム統合を提供する保険アプリケーション内の任意のサブフローから呼び出すことができます。ClaimCenter、PolicyCenter、および ContactManager の以下のアクションを管理します。

- 請求を作成、キャンセル、送信、検証、更新、およびクローズします。
- 顧客連絡先の詳細を管理します。
- 顧客に関連付けられたポリシーを取得します。
- 請求の詳細を削除または変更します。
- 請求にメモを追加します。

スポークの要件

Guidewire アカウント

スポークの依存関係

これらの依存プラグインがインストールされていることを確認します。

- ServiceNow 統合ハブ ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: スポーク実装の外部で使用する場合、これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Guidewire スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに、Guidewire のクラウドの InsuranceSuite プロセスをトリガーするアクションが提供されます。このスポークは、自動車保険および損害保険の請求に関連する Guidewire の ContactManager、PolicyCenter、ClaimCenter のほとんどの API と統合されています。ビジネスニーズに合わせて、利用可能なアクションを拡張したり、カスタマイズしたりできます。

注:

- このスポークに含まれるすべての Guidewire アクションでは、Guidewire 応答のフィールドのサブセットのみがアクション出力に解析されます。このスポークは Guidewire JSON 応答全体を返します。
- ストリーミングアクションは、リスト全体を同時に取得するのではなく、レコードを個別に取得します。

使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
連絡先管理	連絡先ストリームで会社を検索	検索パラメーターに基づいて、Guidewire の ContactManager から会社の連絡先レコードのストリームを取得します。
	連絡先マネージャーから連絡先 ID で会社連絡先を検索	Guidewire の ContactManager から連絡先 ID を使用して、会社の連絡先レコードの詳細を取得します。
	Contact Manager タイプリストを検索	ContactManager の特定のタイプリストについて利用可能な値を列挙します。タイプリスト名は、タイプリストの列挙を使用する各フィールドの説明に表示されます。
	個人連絡先を Contact Manager から連絡先 ID で検索	Guidewire の ContactManager から連絡先 ID を使用して、個人の連絡先レコードの詳細を取得します。
	連絡先ストリームで個人を検索	検索パラメーターに基づいて、Guidewire の ContactManager から個人の連絡先レコードのリストを取得します。

カテゴリ	アクション	説明
ポリシー管理	ポリシートランザクションのバインドと発行	補償を有効にするためにデータの検証を開始し、バインディングドキュメントの作成をトリガーします。
	保険契約のキャンセルの開始	指定された保険契約を選択し、キャンセルに必要な情報と理由を入力することで、キャンセル処理を開始します。
	アカウント ID で会社アカウントを検索	アカウント ID に基づいて、保険契約のすべて、およびその他のインタラクションを含む、会社のアカウントに関する情報を取得します。
	会社アカウントストリームを検索	Guidewire システムから、入力した基準に一致するすべての会社アカウントレコードのストリームを取得します。取得される情報には、会社名、連絡先情報、その他の関連情報などの詳細が含まれる場合があります。
	保険契約ストリームを検索	Guidewire PolicyCenter アプリケーションから保険契約のリストを取得します。取得される情報には、証券番号、発効日、有効期限、補償内容、裏書条項、その他の関連情報が含まれます。
	保険証券 ID で保険証券を検索	保険証券 ID に基づいて保険証券に関する情報を取得します。取得される情報には、保険証券の発効日、有効期限、保険限度額、免責金額、裏書条項、その他提供される補償に関する関連情報が含まれる場合があります。
	アカウント ID で個人アカウントを検索	アカウント ID に基づいて、すべての保険証券 ID とアカウントの詳細 (名、姓、優先通貨など) を含む、ユーザーのアカウントに関する情報を取得します。
	個人アカウントストリームを検索	Guidewire システムからすべての個人アカウントレコードのストリームを取得します。取得される情報には、個人の名前、連絡先情報、保険契約の詳細、その他の関連情報などの詳細が含まれる場合があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ポリシーセンタータイプリストを検索	PolicyCenter の特定のタイプリストについて利用可能な値を列挙します。タイプリスト名は、タイプリストの列挙を使用する各フィールドの説明に表示されます。
	連絡先 ID で保険契約先を検索	Guidewire の PolicyManager から連絡先 ID を使用して、保険契約先レコードの詳細を取得します。
	ドキュメント ID でポリシードキュメントコンテンツを検索	一意のドキュメント ID を使用して、特定のポリシードキュメントコンテンツを取得します。
	ポリシー ID ストリームでポリシードキュメントコンテンツを検索	ポリシー ID ストリームを使用して、指定されたポリシーに関連付けられたすべてのドキュメントのポリシーコンテンツを取得します。
	ポリシー ID で保険契約場所を検索	ポリシー ID に基づいて、指定された保険契約に関連付けられた物理的な場所のリストを取得し、郵送先住所、請求先住所、物件住所などの情報を返します。
	製品 ID で製品を検索	製品 ID に基づいて、特定の保険商品に関する情報を取得します。
	ライン ID ストリームで対象保険商品を検索	ライン ID に基づいて、特定の保険商品ラインに関連付けられた補償とオプションに関する情報を取得します。
	対象 ID ストリームで、ラインでの対象保険商品の補償を検索	保険商品が提供するさまざまなタイプの保険補償に関する情報を、保険商品内の各補償タイプにアサインされた ID で取得します。
	ライン ID ストリームで保険商品の補償を検索	特定のライン ID ストリームに関連付けられた保険商品の補償に関する情報を取得します。
	製品 ID ストリームで保険商品ラインを検索	製品 ID に基づいて、特定の保険商品に関連付けられた保険商品ラインに関する情報を取得します。
	ポリシートランザクションを見積もる	ポリシートランザクションの見積もりを生成します。
	ポリシートランザクションを取り消す	開始済みまたは進行中のポリシートランザクションをキャンセルまたは取り消します。

カテゴリ	アクション	説明
請求管理	請求案をキャンセル	請求案を破棄し、請求案に関するすべての情報を ClaimCenter データベースから削除します。
	請求をクローズ	請求のステータスを「クローズ済み」または「決済済み」に更新し、関連する財務トランザクションを更新して請求の最終決済を反映します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		注: 請求ステータスの更新に加えて、「請求のクローズ」アクションには他の関連タスクが含まれる場合もあります。タスクには、関連するアクティビティやタスクのクローズ、および請求に関連する最終レポートやドキュメントの生成が含まれます。このアクションの詳細は、使用されている Guidewire アプリケーション、および保険会社が従う特定のビジネスプロセスとワークフローによって異なる場合があります。
	請求に関するエクスポージャーをクローズ	エクスポージャー ID に基づいて、指定されたエクスポージャーをクローズします。
	請求に関するチェックセットを作成	請求のチェックおよび支払トランザクションのセットを作成します。
	請求連絡先を作成	請求に関する ClaimContact を作成します。
	請求に関するドキュメントを作成	請求に関するドキュメントを作成します。
	追加のオブジェクトで自動請求案を作成 (複合要求)	
	請求案を作成	ClaimCenter データベース内の請求 ID と請求番号を使用して、オープンでない請求案を作成します。
	請求に関するエクスポージャーを作成	指定された請求に関する潜在的な支払いを追跡するためのエクスポージャーオブジェクトを作成します。
	請求に関する固定資産インシデントを作成	固定資産に関する損失情報をキャプチャするインシデントオブジェクトを作成します。
	請求に関する傷害インシデントを作成	指定された請求に関する単一傷害損失情報をキャプチャするためのインシデントオブジェクトを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	最小請求案を作成	請求に必要な最小限の初期データで保険請求を作成します。
	請求に関するメモを作成	既存の請求またはアクティビティに関するメモを作成します。
	請求に関する備金を作成	指定されたパラメーターに基づいて、Guidewire ClaimCenter アプリケーションで請求の備金を作成します。パラメーターには、損失のタイプ、請求の重大度、修理または交換のコスト概算、およびその他の関連要因が含まれます。
	請求に関する車両インシデントを作成	車両に関する損失情報をキャプチャするインシデントオブジェクトを作成します。
	請求の小切手を削除	ビジネス上の制約に従って、請求から個々のチェックを削除します。
	請求連絡先を削除	指定された請求から請求連絡先を削除します。
	請求に関するドキュメントを削除	請求からドキュメントを削除します。
	請求に関するエクスポージャーを削除	指定された請求からエクスポージャーオブジェクトを削除します。
	請求に関する固定資産インシデントを削除	指定された請求から固定資産インシデントオブジェクトを削除します。
	請求に関する傷害インシデントを削除	指定された請求から傷害インシデントオブジェクトを削除します。
	請求に関する車両インシデントを削除	指定された請求から車両インシデントオブジェクトを削除します。
	請求 ID で請求を検索	請求 ID に基づいて、ClaimCenter データベースから請求に関する詳細情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	クレームセンタータイプリストを検索	ClaimCenter の特定のタイプリストについて利用可能な値を列挙します。タイプリスト名は、タイプリストの列挙を使用する各フィールドの説明に表示されます。
	請求ストリームを検索	入力された基準に基づいて請求レコードを取得します。
	請求の連絡先を請求 ID ストリームで検索	請求 ID に基づいて、ClaimCenter データベースから請求に関連付けられた連絡先情報を取得します。
	連絡先ストリームで個人を検索	指定された保険契約または請求に関連付けられた個人に関する情報レコードのストリームを取得します。このアクションは、個人の名前、メールアドレス、電話番号、保険証券番号などの 1 つ以上の検索条件が指定されている場合に、Guidewire システムを検索します。このアクションにより、要求側のシステムによるより効率的な処理が可能になります。
	請求に関する保険契約の補償を請求 ID ストリームで検索	保険証券に関連付けられた補償の詳細を取得します。
	ID ストリームで請求に関する保険契約場所を検索	保険証券に関連付けられた物理的な場所を取得します。
	請求の保険契約を請求 ID で検索	請求 ID に基づいて、ClaimCenter データベースから請求に関連付けられた保険契約情報を取得します。
	請求に関する保険契約の車両を請求 ID ストリームで検索	保険証券に関連付けられた車両リスク単位を取得します。
	請求を送信	未処理の請求番号がアサインされた未処理の請求として請求案を送信し、ビジネスルールを含む自動請求セットアップを実行します。
	請求の小切手を更新	請求に関するチェックのステータスを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	請求を更新	請求者の情報、保険契約の詳細、損失の詳細、および請求ステータスなど、請求の詳細を更新します。
	請求の連絡先を更新	指定された請求の請求連絡先を更新します。
	複合要求を使用して請求を更新	複数の更新を単一の複合要求に結合することで、請求を更新します。
	請求に関するドキュメントを更新	請求に関連付けられたドキュメントコンテンツの変更を有効にし、指定されたドキュメントを更新します。
	請求に関するエクスポージャーを更新	指定された請求に関するエクスポージャーオブジェクト (推定損失額/潜在的な支払い) を更新します。
	請求に関する固定資産インシデントを更新	Guidewire の指定された保険請求に関する固定資産に関連付けられた既存のインシデントを更新します。
	請求に関する傷害インシデントを更新	指定された請求に関する単一傷害損失情報をキャプチャするためのインシデント傷害オブジェクトを更新します。
	請求に関する車両インシデントを更新	指定された保険請求に関する傷害に関連付けられた既存のインシデントを更新します。
	請求を検証	Guidewire でさらに処理する前に、指定された請求が保険会社の設定した特定の基準または要件を満たしているかどうかを確認します。
	エクスポージャーを検証	エクスポージャー ID に基づいてエクスポージャーを検証し、エクスポージャーが有効かどうかを示す応答を返します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの設定については、「Guidewire スポークの設定」を参照してください。

Guidewire スポークの設定

基本認証または OAuth 2.0 認証を使用して ServiceNow インスタンスと Guidewire を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Guidewire スポークをアクティブ化します。
- アプリケーションに適した Guidewire 認証アプローチを選択して実装します。詳細については 、認証フローの選択 に関する Guidewire ドキュメントを参照してください。
- 依存プラグインが有効になっていることを確認します。
- 必要なロール：admin

OAuth プロバイダーとしてGuidewireを登録

Guidewire アプリケーションの構成中に生成された情報を使用し、OAuth プロバイダーとして Guidewire を登録します。OAuth プロバイダー登録により、ServiceNow インスタンスは OAuth 2.0 トークンを要求できるようになります。

始める前に

- 必要なロール：admin
- サードパーティ Guidewire アプリケーションの構成から生成されたクライアント ID とクライアントシークレット

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. [新規] を選択します。
   「どのような `OAuth` アプリケーションですか？」というメッセージが表示されます。
3. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前。たとえば、「`Guidewire OAuth`」と入力します。
クライアント ID	Guidewire アカウントの構成中に作成された <クライアント ID>。
クライアントシークレット	Guidewire アカウントの構成中に作成された <クライアントシークレット>。
認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイントです。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイントです。
トークン失効 URL	OAuth サーバートークン失効エンドポイントです。
リダイレクト URL	形式 `https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` での OAuth コールバックエンドポイント

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
OAuth API スクリプト	要求と応答をカスタマイズするスクリプト。
ロゴ URL	アプリケーションロゴとして使用するイメージを含む URL です。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可タイプです。
リフレッシュトークンの有効期間	リフレッシュトークンが有効になる時間 (秒) デフォルトの時間は 8,640,000 秒です。
PKCE が必要 (PKCE required)	パブリッククライアントが認証に PKCE を要求できるようにするオプション。 注: **PKCE** が有効になっている場合、[デフォルトの権限許可タイプ] として使用できるのは [認証コード] のみです。
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープです。
アクセス可能	このレジストリにアクセスできるアプリケーションスコープです。
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプションです。
相互認証を有効にします	トークンの要求と取り消しに相互認証を使用するオプション。このオプションでは、相互認証プロファイルを指定する必要があります。
認証情報の送信	アプリケーションとその許可されたユーザーを識別する認証情報を OAuth サーバーに送信するかどうか、または送信する方法のオプション。

5. フォームヘッダーで、[送信] を選択します。

Guidewire スポークの OAuth 2.0 認証情報レコードを作成

Guidewire アカウントの構成時に作成した Guidewire カスタム OAuth アプリケーションの認証情報レコードを作成します。Guidewire スポーク接続および資格情報エイリアスでは、Guidewire アプリケーションでこうした認証情報を使用してアクションを許可します。Guidewire 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

次の例は、Guidewire PolicyCenter、Guidewire ContactManager、または Guidewire ClaimCenter の認証情報レコードを作成する手順を示しています。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] を選択します。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
   ポップアップウィンドウに、空の OAuth 2.0 認証情報フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`Guidewire OAuth2.0 API 認証情報`」と入力します。
アクティブ	有効化
OAuth エンティティプロファイル	カスタム Equifax アプリケーションを OAuth プロバイダーとして登録したときに作成した OAuth プロファイルを選択します。たとえば、**[Equifax OAuth** デフォルトプロファイル **(Equifax OAuth default profile)]** を選択します。
適用先	この認証情報を使用できる MID サーバーを選択します。たとえば、[すべての **MID** サーバー] を選択します。
順番	この認証情報を適用する順番を選択します。たとえば、「`100`」と入力します。

5. [送信] を選択します。
6. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの取得] 関連リンクを選択します。

Guidewire スポークの基本認証情報レコードの作成

Guidewire アプリケーションの基本認証情報レコードを作成します。Guidewire 接続および資格情報エイリアスでは、こうした接続を使用して、Guidewire PolicyCenter、Guidewire ContactManager、および Guidewire ClaimCenter のアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

次の例は、Guidewire PolicyCenter、Guidewire ContactManager、および Guidewire ClaimCenter の基本認証情報レコードを作成する手順を示しています。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] を選択します。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. [基本認証情報] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前。Guidewire など。
ユーザー名	認証情報として入力するユーザー名。
パスワード	認証情報として入力するパスワード。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。オプションを選択します。
順番	認証情報が使用される順番です。たとえば、「`100`」と入力します。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

基本認証と OAuth 2.0 認証情報の切り替え

イベントまたはセキュリティのニーズに基づいて、実装された基本認証と OAuth 2.0 認証を切り替えることができます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- Guidewire スポークの基本認証情報レコードの作成
- OAuth プロバイダーとしてGuidewireを登録

次の例は、基本認証から Guidewire ClaimCenter アプリケーションの OAuth 2.0 に切り替える手順を示しています。

手順

1. [すべて] [接続および資格情報] [接続および資格情報エイリアス] に移動します。
2. 再構成するGuidewire ClaimCenter レコードを選択します。
3. [接続] タブから、既存のターゲット接続レコードを開きます。
4. [認証情報] フィールドで、参照ルックアップアイコンを選択します。
5. 認証情報レコードを選択します。

   - 認証方法を基本認証から OAuth 2.0 に切り替える場合は、OAuth セットアップ中に作成された認証情報レコードを選択します。
   - 認証方法を OAuth 2.0 から基本認証に切り替える場合は、基本認証セットアップ中に作成された認証情報レコードを選択します。

6. レコードを保存します。

次のタスク

Guidewire OAuth トークンを取得

Guidewireスポークの接続レコードの作成

Guidewire アプリケーションへの接続レコードを作成します。Guidewire 接続および資格情報エイリアスでは、こうした接続を使用して、Guidewire PolicyCenter、Guidewire ContactManager、および Guidewire ClaimCenter のアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

次の例は、Guidewire PolicyCenter、Guidewire ContactManager、または Guidewire ClaimCenter の接続レコードを作成する手順を示しています。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. エイリアスレコード (**Guidewire ClaimCenter** など)を開きます。
3. [接続] タブから、[新規] を選択します。
4. フォームの各フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前。例：`Guidewire 接続`。
認証情報	Guidewire 用に作成された基本認証または OAuth 2.0 認証情報レコード。たとえば、「`Guidewire OAuth2.0 API 認証情報`」です。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
接続 URL	**Guidewire** に接続するためのベース URL。
アクティブ	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。

5. [送信] を選択します。

Guidewire OAuth トークンを取得

Guidewire アクセストークンを生成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. Guidewire スポーク OAuth 認証情報レコードを選択します。

   Example
   たとえば、**[Guidewire OAuth2.0** 認証情報 **(Guidewire OAuth2.0 Credentials)]** を選択します。
3. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] を選択します。

タスクの結果
Guidewire スポークは、新しい OAuth アクセストークンを受け取ります。

iManage スポーク

iManage 内でシームレスなコラボレーションを実現しながら、ドキュメント、フォルダー、ワークスペース、およびユーザー管理を自動化します。この自動化ソリューションは、Now Platform から直接、 iManage 上のファイルの作成、ダウンロード、アップロード、更新、削除などのタスクを容易にします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

iManage スポーク v1.1.0 が最新バージョンです。

ロール

すべての iManage ユーザーには、事前定義されたデフォルトロールがアサインされます。デフォルトロールはすべてのユーザーに自動的にアサインされるため、セキュリティ上の理由から権限が制限されています。iManage アドミニストレーターは、このロールの権限を変更できますが、削除することはできません。他のロールは、必要に応じて作成、削除、または変更できます。

iManage スポークユーザー [sn_imanage_spk.user] は、iManage スポークがインストールされている場合に使用できます。このロールは、iManage 外部ストレージにアクセスするユーザーに必要です。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow® 統合ハブアクションステップ — REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow® 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow® 統合ハブアクションテンプレート — Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

iManage Work API (REST API v2)

スポークのアクション

iManage では、ServiceNow でイベントが発生したときに、以下のテーブルのタスクを自動化するアクションが提供されます。

注: 不正アクセスを防ぐために、必要なユーザーに、スポークアクションに対する最小限の特権を付与するようにしてください。

カテゴリ	アクション	説明
認証	ディスカバリーを検索	顧客 ID とその他の詳細を取得します。
ユーザー管理	ライブラリユーザーストリームを検索	特定のライブラリからユーザーのリストを取得します。
ワークスペース管理	ワークスペースセキュリティを検索	ワークスペースのデフォルトのセキュリティ、およびワークスペースへのアクセス権があるユーザーとグループのリストを取得します。
	ワークスペースのユーザーアクセス権限を検索	オプションとして検索条件でフィルタリングされた、指定されたライブラリ内のユーザーのリストを取得します。
	ワークスペースを作成	ワークスペースを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ワークスペースを削除	指定されたワークスペースを削除します。
	ライブラリワークスペースストリームを検索	特定のライブラリからワークスペースのリストを取得します。
	ワークスペースを検索	要求に応じて、ワークスペース ID の許可された操作のリストが取得されたときに、ワークスペースプロファイルを取得します。
	ワークスペースを検索	すべてのワークスペースのリストを取得します。
	ルートレベルのワークスペースフォルダーを作成	指定されたワークスペースのルートレベルにフォルダーを作成します。
	ユーザーワークスペース操作を検索	現在のユーザーが特定のワークスペースで実行できる操作を取得します。
	ワークスペースを更新	指定されたワークスペースの情報を更新します。
	ワークスペースのユーザーとグループのセキュリティを更新	指定されたワークスペース、およびユーザーとグループによるワークスペースへのアクセスのデフォルトセキュリティを更新します。
	ワークスペースコンテナストリームを検索	指定されたテンプレートからフォルダー構造を取得します。
フォルダー管理	フォルダーを削除	指定されたフォルダーを削除します。
	フォルダーコンテンツストリームを検索	指定されたフォルダーのコンテンツを取得します。
	ライブラリフォルダーストリームを検索	指定されたライブラリからフォルダーのリストを取得します。
	フォルダープロファイルを検索	指定されたフォルダー ID を持つフォルダープロファイルを取得します。
	フォルダーセキュリティを検索	指定されたフォルダーのアクセス権限とデフォルトセキュリティの詳細を取得します。
	フォルダープロパティを更新	指定されたプロパティでフォルダープロパティを更新します。
	サブフォルダーを作成	指定されたフォルダー内にフォルダーを作成します。
	フォルダーパスを検索	指定されたフォルダーのパスを取得します。
	フォルダー操作を検索	現在のユーザーが指定されたフォルダーで実行する権限を持っている操作を取得します。
	フォルダーセキュリティを更新	フォルダーのアクセス権限およびデフォルトセキュリティを更新します。
	フォルダーからドキュメントを削除	フォルダーから指定されたドキュメントを削除します。
ドキュメント管理	ドキュメントを削除	ドキュメント ID に関連付けられたドキュメントを削除します。
	ドキュメント操作を検索	現在のユーザーがドキュメントに対して実行できる一連の操作を取得します。
	ドキュメントをフォルダーにアップロード	特定のフォルダーにドキュメントをアップロードします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ドキュメントプロファイルを検索	指定されたドキュメントのプロファイルを取得します。
	ドキュメントを検索	指定されたドキュメントプロファイルフィールドに一致するドキュメントを取得します。
	ドキュメントバージョンストリームを検索	ドキュメントのすべてのバージョンのプロファイルを取得します。
	新しいドキュメントバージョンをアップロード	指定されたドキュメントの新しいバージョンを作成してアップロードします。
	ライブラリドキュメントストリームを検索	指定された検索条件に一致するすべてのドキュメントを取得します。
	ファイル名でドキュメントをダウンロード	ドキュメントをダウンロードしてローカルマシンに保存します。
	文書をダウンロード	特定のドキュメントをローカルマシンにダウンロードします。
	指定されたドキュメントストリームの親フォルダーを検索	指定されたドキュメントの直接の親フォルダーのリストを取得します。
	ドキュメントバージョンを昇格	保存されたドキュメントステータスからドキュメントのバージョンを作成します。
	最新のドキュメントバージョン番号を検索	指定されたドキュメントの最新バージョンを取得します。
	ドキュメントのユーザーアクセスを検索	指定されたドキュメントに対するユーザーのアクセス権限を取得します。
	ドキュメントセキュリティを検索	指定されたドキュメント ID に関連付けられたドキュメントのアクセス権限とデフォルトセキュリティを取得します。
	ドキュメントセキュリティを更新	指定されたドキュメント ID に関連付けられたドキュメントについて、アクセス権限またはデフォルトセキュリティ、または両方を更新します。

iManage online アカウント要件

iManage スポークでは、OAuth 2.0 トークンを生成するために、iManage のワークアカウントと iManage コントロールセンターへのアクセス権が必要です。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 iManage スポークの設定。

iManage スポークの設定

iManage 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと iManage スポークを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションを要求します。
- iManage スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin。

iManage でアプリケーションを要求

iManage でアプリケーションを要求し、iManage のコントロールセンターに登録します。

始める前に
iManage アカウントとテナントアドミンの認証情報が必要です。

必要なロール：admin

手順

1. iManage Cloud (cloudimanage.com) のお客様は、次の詳細情報を記載したメールを appregistration@imanage.com に送信します。
   - アプリケーション名：ServiceNow - 外部ストレージ
   - Redirect_Url：`<your-instance>/oauth_redirect.do`
   - 顧客名：顧客名を指定する
   - テナント / 顧客 ID：テナントまたは顧客 ID を指定する

   iManage はクライアント ID とシークレットを確認して応答します。
2. クライアント ID/シークレットを取得したら、ドキュメント「Adding an application (アプリケーションを追加)」に従って、iManage コントロールセンターにアプリケーションを登録します。

   注:
   - この統合機能は、iManage クラウドで検証されています。オンプレミスの iManage で使用する場合は、使用する前に要件を満たしていることを確認してください。
   - iManage オンプレミスユーザーの場合は、ドキュメント「Adding an application package (アプリケーションパッケージを追加)」に従ってアプリケーションを登録してください。

次のタスク
OAuth プロバイダーとしての iManage の登録。

OAuth プロバイダーとしての iManage の登録

iManage を OAuth プロバイダーとして登録し、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようします。

始める前に
次の要件に注意してください。

- 統合ハブサブスクリプション。
- iManage アクセス認証情報
- iManage スポークはアクティブである必要があります。

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ServiceNow® インスタンスで、[システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリー]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. **[OAuth** アプリケーションの種類は？] というタイトルのページで、[サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
名前	たとえば、 `iManage OAuth プロファイル`など、レコードを識別する一意の名前です。
クライアント ID	iManage アプリケーションのアプリケーション ID です。
クライアントシークレット	アプリケーションを作成したときに生成したクライアントシークレットです。
デフォルトの権限許可タイプ	このフィールドの値は [パスワード] である必要があります。
トークン URL	このフィールドの値は `https://cloudimanage.com/auth/oauth2/token` である必要があります。値を入力するために、フィールドのロックを解除する必要がある場合があります。
リダイレクト URL	このフィールドの値は、`https://<your-instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` である必要があります。値を入力するために、フィールドのロックを解除する必要がある場合があります。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。
   OAuth 認証情報が検証されます。

タスクの結果
iManage は OAuth プロバイダーとして登録され、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようになります。

次のタスク
iManage スポークの ServiceNow インスタンスとの統合。

iManage スポークの **ServiceNow** インスタンスとの統合

接続 を iManage アカウントに統合します。iManage スポークの接続および資格情報エイリアスでは、こうした接続を使用して iManage でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[IntegrationHub]** > [接続および認証情報] > *iManage*に移動します。
2. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	必要な値
接続名	接続を識別する名前です。このフィールドは自動的に iManage スポークの接続に設定されます。
接続 URL	スポークとの接続を確立するための URL。このフィールドは自動的に `https://cloudimanage.com` に設定されます。デフォルトの URL を、接続を確立するために必要な特定の URL に更新します。
OAuth エンティティ名	OAuth エンティティプロファイルの名前です。このフィールドは自動的に iManage スポークの認証情報に設定されます。
OAuth クライアント ID	登録ポータルに登録した iManage アプリケーションのクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	iManage ポータルにアプリケーションを登録したときに生成されたクライアントシークレット です。
OAuth リダイレクト URL	リダイレクト URL です。URL の形式は、https://<your-instance>.service-now.com/oauth_redirect.do です。

4. **[OAuth** トークンを作成して取得] を選択します。

タスクの結果

iManage スポークが設定され、ServiceNow インスタンスと統合されます。

Infoblox スポーク

ServiceNow インスタンスから、Infoblox でのネットワーク管理タスクを自動化します。たとえば、Infoblox サーバーで IP アドレスを登録または削除します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Infoblox スポーク v2.0.4 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

Infoblox バージョン 2.7、2.11、および他の将来の API バージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的出力 (com.glide.hub.dynamic_outputs)
- リモートテーブルプラグイン (com.glide.script.vtable)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Infoblox スポークでは、Infoblox グリッドサーバーでの IP アドレスの割り当てを自動化するためのドラフト状況のサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
IPAM で Infoblox を登録または予約	サービスカタログアイテム要求に基づいて、Infoblox に IP アドレスを登録または予約します。

スポークのサブフロー

Infoblox スポークでは、IP アドレスを登録および予約するためのサンプルサブフローが提供されます。

フロー	説明
AName レコードを登録してネットワークの詳細を取得	DNS サーバーに AName レコードタイプを登録し、ネットワークオプションや ID などのネットワークの詳細を取得します。
Infoblox からの受信通知を処理	Infoblox からの受信通知を受信し、詳細をログに記録します。

スポークモジュール

Infoblox スポークは Infoblox アプリケーションをインスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

モジュール	説明
CName レコード	すべての CName レコードをリストします。
Webhook レジストリ	スポークのすべての Webhook レジストリをリストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Infoblox スポークでは、ServiceNowインスタンスから Infoblox の IP アドレスとネットワークを管理するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
DHCP 管理	IP 予約を削除	Infoblox サーバーから IP アドレスの範囲を削除します。
	IP アドレス予約を検索	指定された Infoblox ネットワークビューについて DHCP サーバーの IP アドレス予約をリストします。
	IP アドレス範囲を予約	Infoblox サーバーの IP アドレス範囲を予約します。
DNS 管理	ホストレコードに IP を追加	指定された IP のリストを、指定されたホストレコードの既存の IP アドレスに追加します。
	ホストレコードの IP を変更	指定されたホストレコードの IP アドレスを新しい IP のリストに置き換えます。
	ホストレコードを作成	Infoblox のホストレコードを作成します。
	DNS レコードを削除	グリッドサーバーの DNS レコードを削除します。
	CName レコードを検索	Infoblox サーバーに存在する CName レコードをリストします。
	DNS レコードを検索	Infoblox サーバーに存在する DNS レコードをリストします。
	参照でホストレコードを検索	指定されたホストレコードの詳細を取得します。
	ホストレコードストリームを検索	すべてのホストレコードの詳細を取得します。
	AName レコードを登録	AName レコードタイプを DNS サーバーに登録します。AName レコードには、完全修飾ドメイン名と IP アドレス間のマッピングが保存されます。
	CName レコードを登録	CName レコードを Infoblox DNS サーバーに登録します。CName レコードは、完全修飾ドメイン名のエイリアスです。
	AName レコードを更新	指定された AName レコードのプロパティを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	CName レコードを更新	指定された CName レコードのプロパティを更新します。
	ホストレコードを更新	指定されたホストレコードのプロパティを更新します。
汎用	レコードを作成	指定されたオブジェクトのレコードを Infoblox に作成します。
	レコードを削除	指定されたレコードを削除します。
	参照でレコードを検索	指定されたレコードの詳細を取得します。
	基準ストリームでレコードを検索	指定されたスキーマオブジェクトのすべてのレコードの詳細を取得します。
	レコードストリームを検索	指定されたオブジェクトタイプのすべてのレコードの詳細を取得します。
	レコードを更新	指定されたオブジェクトのレコードを Infoblox で更新します。
IPAM 管理	IPAM IP アドレスの予約を削除	Infoblox の IPAM IP アドレス予約を削除します。
	IPAM 予約を検索	指定された Infoblox サーバー内の IP アドレスをリストします。
	IPAM IP アドレスを登録	指定された Infoblox サーバー内の IP アドレスを登録します。
	IPAM IP アドレスを予約	指定された Infoblox サーバー内の IP アドレスを予約します。
メタデータの取得	拡張可能属性の定義を検索	拡張可能属性の定義を取得します。
	オブジェクトメタデータを検索	指定されたスキーマオブジェクトの指定された操作でサポートされているすべてのフィールドのリストを取得します。
	WAPI メタデータ全体を検索	設定された API バージョンでサポートされているすべてのオブジェクトのリストを取得します。
ネットワーク管理	ネットワークを作成	指定された Infoblox サーバー内にネットワークを作成します。
	ネットワークを削除	指定された Infoblox サーバー内のネットワークを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ネットワークの詳細を検索	指定された InfoBlox サーバー内のネットワークの詳細を取得します。
	ネットワークを更新	指定された Infoblox サーバー内のネットワークを更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークでは、Infoblox エイリアスレコードを使用して、アクションを許可します。

接続および資格情報エイリアス	説明	接続エイリアスの要件
Infoblox	Infoblox サーバーへの接続	• 接続タイプ：HTTP • 接続 URL：Infoblox サーバーがインストールされているホストマシンの URL です。

スポーク接続エイリアスを使用するには、関連付けられた接続レコードと関連付けられた認証情報レコードを作成します。スポークの設定については、「 Infoblox スポークを設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはMID サーバーで実行できます。Infoblox エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所およびMID サーバー選択属性を設定します。 詳細については「 MID サーバー 」を参照してください。

Infoblox スポークを設定

ベーシック認証を使用してServiceNowインスタンスと Infoblox をデータ連携して、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Infoblox スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Infoblox スポークの接続および資格情報エイリアスを作成

Infoblox アカウントへの接続レコードを作成します。Infoblox スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Infoblox でアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

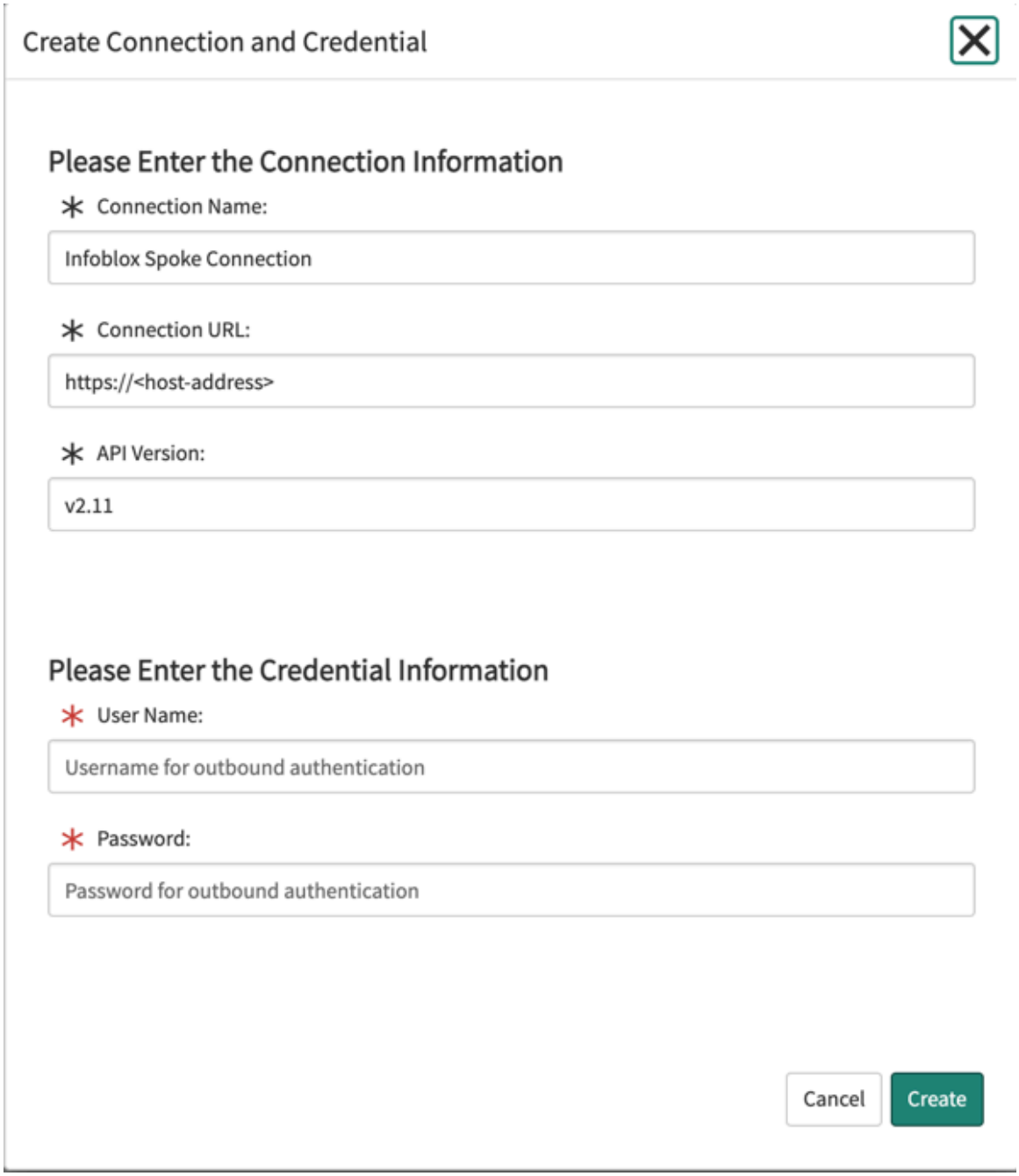
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. Infoblox レコードを開きます。
3. [関連リンク] セクションから、[新しい接続および資格情報の作成] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続を識別する一意の名前です。例：Infoblox スポーク接続
接続 URL	Infoblox アカウントに接続するためのホスト URL です。
API バージョン	Inblox の API バージョンです。このフィールドは `v2.11` に自動入力されます。
ユーザー名	Infoblox アカウントのユーザー名です。
パスワード	Infoblox アカウントのパスワードです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [作成] をクリックします。

Infoblox スポーク用双方向 Webhook の設定

ServiceNow コールバック URL で Infoblox を登録するための Webhook を構成します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Infloblox スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Infoblox Webhook を登録

ServiceNow インスタンスに Infoblox Webhook を登録して、Infoblox で特定のイベントが発生したときに ServiceNow アプリに通知します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Infoblox** スポーク] > **[Webhook** レジストリ]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォーム上で、以下のフィールドに記入します。

Infoblox Webhook レジストリ

フィールド	説明
名前	Webhook レジストリを識別する名前です。 注: 名前は、`Infoblox Webhook 認証` のみとします。
ユーザー名	Infoblox 送信エンドポイント構成で指定されたユーザー名です。
パスワード	Infoblox 送信エンドポイント構成で指定されたパスワードです。
説明	Webhook レジストリの説明です。
パス	Infoblox Webhook パスです。このフィールドには、`api / sn_infoblox_spoke / infoblox_webhook` が自動的に入力されます。

4. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
5. [コールバック **URL]** をクリックします。
   Webhook コールバック URL が表示されます。
6. Webhook コールバック URL をコピーして記録します。

Infoblox にコールバック **URL** を追加

Infoblox アカウントで Webhook コールバック URL を指定して、Webhook を作成します。

始める前に

- Infoblox Webhook を登録
- KB0966373 から Infoblox 送信テンプレートをダウンロード
- 必要なロール：admin

手順

1. Infoblox アカウントにログインします。
2. Infoblox アカウント に Webhook を作成します。
   詳細については、「KB0966373」を参照してください。
3. ServiceNow インスタンスの送信エンドポイントを構成します。
   Infoblox 送信エンドポイントの構成の詳細については、「送信テンプレートについて」を参照してください。
4. 記事 KB0966373 のテンプレートをアップロードして、テンプレートを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テンプレート

テンプレート名	説明
Host_Address_IPv4_Insert.txt	新しい IPv4 アドレスがホストに追加されたときの通知を構成するテンプレートです。
Range_IPv4_Insert.txt	新しい IPv4 範囲が追加されたときの通知を構成するテンプレートです。
Network_Insert.txt	新しい IPv4 ネットワークが追加されたときの通知を構成するテンプレートです。
Host_Address_IPv6_Insert.txt	新しい IPv6 アドレスがホストに追加されたときの通知を構成するテンプレートです。

5. 通知ウィザードを使用して通知ルールを設定します。

Jack Henry jXchange スポーク

ServiceNow インスタンスを Jack Henry jXchange アカウントと統合して、顧客情報およびアカウント情報にアクセスします。

重要: Utah リリース以降、ファイナンシャルサービスオペレーション Integration with Jack Henry Associates (JHA) jXchange アプリケーションの名前が、ファイナンシャルサービスオペレーション Integration with Jack Henry jXchange に変更されました。

ストアでアプリを要求

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、要求をストアに送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョンの履歴リリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Jack Henry Associates jXchange スポークの現在のバージョンは v2.0.1 です。

スポークの要件

Jack Henry jXchange アドミニストレーターに問い合わせて、次の詳細情報を用意してください。

- Jack Henry jXchange アカウントのユーザー名。
- Jack Henry jXchange アカウントのパスワード。
- 有効なコンシューマー名。
- 有効なコンシューマー製品。
- 研究所ルーティング ID。
- 研究所環境。
- SOAP 接続 URL。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow Integration Hub アクションステップ - SOAP (com.glide.hub.action_step.soap)
- ServiceNow Integration Hub アクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的出力 (com.glide.hub.dynamic_outputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Jack Henry jXchange スポークでは、 タスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
トランザクションの更新を検索	「トランザクションの更新を検索」サブフローをトリガーし、最新のトランザクション更新を取得します。
顧客情報取得のサンプルフロー	顧客情報を取得してログに記録します。

スポークのサブフロー

Jack Henry jXchange スポークでは、トランザクションの最新の更新の取得をデモするサンプルサブフロー「トランザクションの更新を検索」が提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのアクション

Jack Henry jXchange スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
顧客情報管理	顧客情報を ID で検索	顧客識別子に基づいて顧客情報を取得します。
	顧客情報ストリームを検索	サービスプロバイダーに存在する顧客情報を取得します。
金融口座情報管理	金融口座をアカウントの詳細で検索	サービスプロバイダーに存在するアカウントの詳細に基づいて、顧客の金融口座情報を取得します。
	金融口座ストリームを検索	サービスプロバイダーに存在する顧客の金融口座情報を取得します。
	金融トランザクションストリームを検索	サービスプロバイダーに存在するアカウントの金融口座トランザクションを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	金融口座の預金残高を更新	サービスプロバイダーに存在する金融口座の預金残高を更新します。

スポークモジュール

Jack Henry jXchange スポークは、ファイナンシャルサービスオペレーション アプリケーションをインスタンスに追加し、以下のモジュールを含みます。

モジュール	説明
顧客	Jack Henry jXchange アカウントから顧客データを取得して表示します。 ユーザーが **[JHA]** > [リモートテーブル] > [顧客] に移動すると、[顧客情報ストリームを検索] アクションがトリガーされ、データが取得されます。
アカウント	Jack Henry jXchange アカウントからアカウントデータを取得して表示します。 ユーザーが **[JHA]** > [リモートテーブル] > [アカウント] に移動すると、[金融口座情報ストリームを検索] アクションがトリガーされ、データが取得されます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Jack Henry jXchange スポークの設定。

Jack Henry jXchange スポークの設定

Jack Henry jXchange 接続と資格情報レコードを使用して ServiceNow と Jack Henry jXchange アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Jack Henry jXchange スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。
2. **[Integration Hub]** > [接続および認証情報] > [認証情報] に移動します。
3. レコード **[JHA]** を開きます。
4. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。
5. フォームに、次の値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前です。
SOAP 接続 URL	Jack Henry jXchange アカウントに接続するための SOAP エンドポイント。次のように入力します。`https://jxdmz.Jackhenry.com/jxchange/2008/ServiceGateway/ServiceGateway.svc`
有効なコンシューマー名	プロバイダーの有効なコンシューマー名。
有効なコンシューマー製品	プロバイダー向けの 有効なコンシューマー製品。
研究所ルーティング ID	プロバイダーの研究所ルーティング ID。
研究所環境	プロバイダーの研究所環境。
ユーザー名	送信要求を認証するユーザー名。
パスワード	送信要求を認証するパスワード。

6. [作成] をクリックします。
7. **[Integration Hub]** > **[SOAP** セキュリティポリシー] に移動します。
8. レコード **[JHA Security Policy]** を開きます。
9. **[WS-Security** ユーザー名プロファイル] で、Jack Henry jXchange Spoke 用に作成された認証情報レコードを選択します。
10. [更新] をクリックします。

Jamf スポーク

ServiceNow インスタンスから Jamf アカウントのユーザー、モバイルデバイス、グループ、およびコンピューターを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

Jamf スポークは v1.0.7 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Jamf Classic および Pro API 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのサブフロー

Jamf スポークでは、タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
データの検出および保存	Jamf サーバーからデータを検出し、アプリケーション、グループ、およびポリシーテーブルのレコードを更新します。
アプリケーションの詳細をルックアップ	アプリケーションの追加の詳細を取得し、アプリケーションテーブルの各レコードを更新します。
アプリケーションの展開	指定されたユーザーまたはデバイスを Jamf サーバーの指定されたグループに追加します。
アプリケーションの取り消し	指定されたユーザーまたはデバイスを Jamf サーバーの指定されたグループから削除します。
構成データを検索	指定された要求アイテムの構成データまたはソフトウェア構成レコードを取得します。

注: これらのサブフローは、クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション がインストールされている場合にのみ使用できます。

スポークのアクション

Jamf スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
コンピュータ管理	ID によりアプリケーションをルックアップ	Jamf の ID でアプリケーションの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	アプリケーションストリームを検索	すべてのアプリケーションを取得します。
	シリアル番号でコンピューターをルックアップ	Jamf のシリアル番号でコンピューターの詳細を取得します。
	コンピューターストリームをルックアップ	すべてのコンピューターの一般的な詳細とハードウェアの詳細を取得します。
	ID によりパッケージをルックアップ	Jamf の ID でパッケージの詳細を取得します。
	パッケージストリームをルックアップ	すべてのパッケージを取得します。
	ポリシーストリームをルックアップ	すべてのポリシーを取得します。
	ID によりポリシーをルックアップ	Jamf の ID でポリシーの詳細を取得します。
データ管理 **注:** これらのアクションは、クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション がインストールされている場合にのみ使用できます。	構成データを検索	指定された要求アイテムまたはソフトウェア設定レコードの構成データを取得します。
	ソフトウェアデータを準備	展開または取り消しに使用できる、指定された要求アイテムのソフトウェアデータを準備します。
グループ管理	コンピューターを静的グループに追加	既存のコンピューターを Jamf の静的グループに追加します。
	静的グループにモバイルデバイスを追加	既存のモバイルデバイスを Jamf の静的グループに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	静的グループにユーザーを追加	既存のユーザーを Jamf の静的グループに追加します。
	グループ内のコンピューターか	既存のコンピューターが Jamf の指定されたグループのメンバーかどうかを確認します。
	グループ内のモバイルデバイスか	既存のモバイルデバイスが Jamf の指定されたグループのメンバーかどうかを確認します。
	グループ内のユーザーか	既存のユーザーが Jamf の指定されたグループのメンバーかどうかを確認します。
	ID によりコンピューターグループをルックアップ	Jamf の ID でコンピューターグループの詳細を取得します。
	コンピューターグループストリームをルックアップ	すべてのコンピューターグループを取得します。
	ID によりモバイルデバイスグループをルックアップ	Jamf の ID でモバイルデバイスグループの詳細を取得します。
	モバイルデバイスグループストリームをルックアップ	すべてのモバイルデバイスグループを取得します。
	ID によりユーザーグループをルックアップ	Jamf の ID でユーザーグループの詳細を取得します。
	ユーザーグループストリームを検索	すべてのユーザーグループを取得します。
	静的グループからコンピューターを削除	既存のコンピューターを Jamf の静的グループから削除します。
	静的グループからモバ	既存のモバイルデバイスを Jamf の静的グループから削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	イルデバイスを削除	
	静的グループからユーザーを削除	既存のユーザーを Jamf の静的グループから削除します。
モバイルデバイス管理	ID によりモバイルデバイスアプリケーションをルックアップ	ID により Jamf からモバイルデバイスアプリケーションの詳細を取得します。 **注:** 取得できる添付ファイルのサイズをカスタマイズするには、システムプロパティ *com.glide.attachment.max_get_size* を設定します。デフォルト値は 5 MB です。
	モバイルデバイスアプリケーションストリームをルックアップ	すべてのモバイルデバイスアプリケーションを取得します。
	シリアル番号でモバイルデバイスをルックアップ	Jamf のシリアル番号でモバイルデバイスの詳細を取得します。
	モバイルデバイスストリームをルックアップ	すべてのモバイルデバイスの詳細を取得します。
ユーザー管理	ユーザー ID をルックアップ	Jamf の ID でユーザーの詳細を取得します。
	名前でユーザーをルックアップ	Jamf のユーザー名でユーザーの詳細を取得します。
	ユーザーストリームを検索	すべてのユーザーを取得します。

スポークモジュール

Jamf スポークは、Jamf アプリケーションをインスタンスに追加します。アプリケーションにはこれらのモジュールが含まれており、スポークモジュールを介してアクセスされるデータはそれぞれのテーブルに保存されます。

モジュール	説明	テーブル
アプリケーション	Jamf サーバーからのアプリケーションのリストを表示します。	アプリケーション [sn_jamf_spoke_application]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明	テーブル
グループ	Jamf サーバーからのグループのリストを表示します。	グループ [sn_jamf_spoke_group]
構成管理	アプリケーションのソフトウェア構成の詳細を保存します。	構成 [sn_jamf_spoke_sf_config]
ポリシー	Jamf サーバーからのポリシーのリストを表示します。	ポリシー [sn_jamf_spoke_policy]
サーバーインスタンス	プロバイダーサーバーの詳細を保存します。	サーバーインスタンス [sn_jamf_spoke_server]

注: これらのモジュールとテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション がインストールされている場合にのみ使用できます。

もう 1 つのテーブルは、Jamf 認証情報 [sn_jamf_spoke_jamf_credential] で、認証情報レコードの詳細を保存するために利用できます。このテーブルは Jamf スポークと一緒に使用でき、クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション をインストールする必要はありません。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 JamfSpoke を設定。

JamfSpoke を設定

Jamf 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Jamf インスタンスを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Jamf スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. [接続および認証情報 **(Connections & Credentials)]** > [接続および認証情報エイリアス **(Connection & Credential Aliases)]** に移動します。
2. レコード **[Jamf]** を開きます。
3. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。
4. フォームに、次の値を入力します。

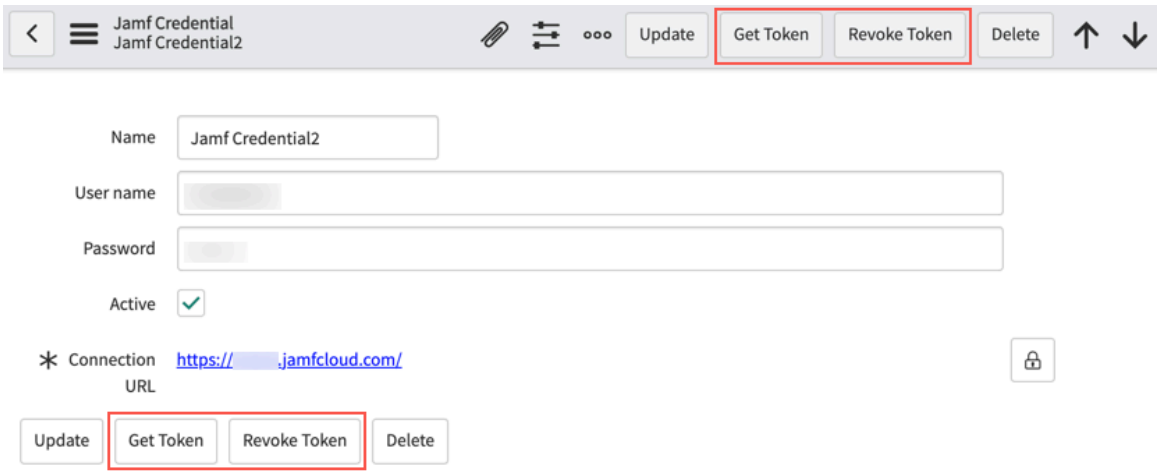
フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	この形式で Jamf インスタンスに接続するためのベース URL：`https://<Instance-name>.jamfcloud.com/`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。
ユーザー名	Jamf アカウントのユーザー名。
パスワード	Jamf アカウントのパスワード。
接続 URL	この形式で Jamf インスタンスに接続するためのベース URL：`https://<Instance-name>.jamfcloud.com/`

5. [作成] をクリックします。

注: 必要に応じて、デフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードの新しい認証情報レコードを作成することで、トークンを取得してトークンを取り消すことができます。



Jenkins スポーク

Jenkins サーバーでビルド、ユーザー、設定、ジョブを管理します。フローで使用する Jenkins データを取得します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

1.651.1 ～ 2.150.3 のすべてのバージョン

スポークバージョン

Jenkins スポークは v2.1.2 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Jenkins スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Jenkins タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ビルド管理	ビルドを削除	Jenkins サーバージョブからビルドを削除します。
	すべてのビルドを取得	指定された Jenkins サーバージョブのすべてのビルドを取得します。各ビルドの URL、ビルド番号、およびクラスを返します。
	ビルド履歴を取得	指定されたジョブの一定範囲のビルド履歴を Jenkins サーバーから取得します。
	ビルド情報を取得	指定されたジョブのビルドタイムスタンプ、ビルドステータス、および完全なビルド情報を Jenkins サーバーから取得します。
	ビルド番号を取得	前回成功したビルドなど、事前定義済みのビルドフィルターに基づいて Jenkins サーバージョブのビルド番号を取得します。
	ビルドを実行	Jenkins サーバー上でジョブを実行します。
構成管理	Jenkins 認証情報を作成	Jenkins サーバー認証情報を作成します。
	ノードを作成	Java Web Start ソフトウェアで起動できるノードを作成します。ノードは、Jenkins 環境の一部であり、ジョブを実行できるマシンです。
	ノードを削除	Jenkins サーバーからノードを削除します。
	CSRF トークンを取得	Jenkins サーバーで [Prevent Cross Site Request Forgery exploits] オプションが有効になっている場合に、CSRF トークンを取得します。 **注:** Jenkins サーバーで CSRF 保護が有効になっている場合は、このアクション フローの残りの部分で使用するためのトークンを取得します。アクションは、フローのその他のアクションで使用するためのデータピルとしてトークンを出力します。 を使用します。
	バージョンを取得	Jenkins サーバーのバージョンを取得します。
	Jenkins を再起動	Jenkins サーバーを再起動します。
	テスト接続	Jenkins サーバーへの接続をテストします。
ジョブ管理	ジョブをコピー	既存の Jenkins サーバージョブをコピーすることでジョブを作成します。
	フォルダーを作成	ジョブを整理するための Jenkins サーバーフォルダーを作成します。
	ジョブを作成	XML ファイルから Jenkins サーバージョブを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	フォルダーを削除	既存の Jenkins サーバーフォルダーを削除します。
	ジョブを削除	Jenkins サーバージョブを削除します。
	フォルダーからすべてのジョブを取得	指定された Jenkins サーバーフォルダーからすべてのジョブを取得します。指定されたレベル数までの各ジョブのクラスと名前を返します。
	ビルドタイムスタンプを取得	指定された Jenkins サーバージョブのビルドタイムスタンプを取得します。
	コンソール出力を取得	Jenkins サーバージョブのビルドコンソール出力を取得します。
	ジョブ構成を取得	Jenkins サーバージョブの XML 構成を取得します。
	ジョブを再ロード	Jenkins サーバージョブを再ロードします。
	ジョブの名前を変更	Jenkins サーバージョブの名前を変更します。
ユーザー管理	ユーザーを作成	Jenkins サーバーのユーザーを作成します。
	ユーザーを削除	既存の Jenkins サーバーユーザーを削除します。
ビュー管理	ジョブをビューに追加	Jenkins サーバービューにジョブを追加します。ビューは、ジョブを整理するためのコンテナです。Jenkins インスタンスが大きくなるにつれて、適切なグループとカテゴリのビューを作成できます。たとえば、ビルド固有のジョブのみを表示するビルドビューを作成できます。
	ビューを作成	Jenkins サーバービューを作成します。
	ビューを削除	Jenkins サーバービューを削除します。
	ビューからすべてのジョブを取得	Jenkins サーバービューからすべてのジョブを取得します。トップレベルのジョブのクラスと名前を返します。
	ビューからジョブを削除	Jenkins サーバービューからジョブを削除します。

CRSF トークンのサポート

Jenkins サーバーで [Prevent Cross Site Request Forgery exploits] オプションが有効になっている場合に、特定のアクションでは固有のトークンが必要になります。CSRF トークンを取得アクションを使用する フローの残りの部分で使用するためのトークンを取得します。アクションは、フローのその他のアクションで使用するためのデータピルとしてトークンを出力します。

接続と資格情報の要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークでは、Jenkins 接続および資格情報エイリアスレコードを使用してアクションを許可します。スポーク接続エイリアスを使用するには、関連付けられた接続レコードと関連付けられた認証情報レコードを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しは MID サーバー で実行できます。Jenkins エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所およびMID サーバー選択属性を設定します。 詳細については「 MID サーバー 」を参照してください。

スポークの設定については、以下を参照してください Jenkins Spoke を設定。

Jenkins Spoke を設定

ベーシック認証を使用してServiceNowインスタンスと Jenkins をデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Jenkins スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Jenkins Spoke の認証情報レコードを作成

Jenkins サーバーの認証情報レコードを作成します。Jenkins スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. [基本認証情報] を選択します。
   空の基本認証情報フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Jenkins` 認証情報を入力します。
ユーザー名	Jenkins ユーザー名です。
パスワード	Jenkins パスワードです。
有効	有効化
順番	この認証情報を適用する順番を選択します。たとえば、「`100`」と入力します。

5. [送信] をクリックします。

Jenkins Spoke の接続レコードを作成

Jenkins アカウントへの接続レコードを作成します。Jenkins スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Jenkins でアクションを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Jenkins** のレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Jenkins` 接続を入力します。
認証情報	Jenkins 用に作成した認証情報レコードを選択します。たとえば、**Jenkins** 認証情報を選択します。
接続 URL	Jenkins がインストールされているホストマシンの URL です。

5. [送信] をクリックします。

Jenkins v2 スポーク

Jenkins サーバーでビルド、ユーザー、設定、ジョブを管理します。フローで使用する Jenkins データを取得します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

Jenkins v2 スポーク v1.2.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークの要件

Jenkins v2 スポークv2 では API トークンを生成する必要があります。API トークンの詳細については、「セキュリティ強化：Jenkins 2.129+ での新しい API トークンシステム」を参照してください。

サポートされているバージョン

2.176.2 ～ 2.222.1 のすべてのバージョン

スポークモジュール

ServiceNowインスタンスで Jenkins から更新を受信するようにJenkins v2 スポーク v2 を設定できます。ルーティングポリシーでは、ServiceNowインスタンスで更新を受信するために満たさなければならない条件が定義されています。条件が満たされると、ルーティングポリシーが関連するサブフローをトリガーし、Jenkins タスクを自動化します。これには別途セットアップが必要で、スポークアクションを使用しないで単独で使用できます。Webhook の設定と構成の詳細については、Jenkins スポークの Webhook を設定するを参照してください。ルーティングポリシーで他の条件を使用したり、デフォルトのサブフローをカスタマイズしたりするには、Webhook をカスタマイズを参照してください。

ルーティングポリシーとサブフローは次のフィールドをサポートしています。

- キーワード
- ビルド番号
- ジョブ
- ジョブパス
- 関連フィールドを表示

デフォルトでは、Jenkins v2 アプリケーションがJenkins v2 スポークで利用可能で、次のモジュールがあります。

モジュール	説明
Webhook 応答サブフロー	Jenkins からの要求を承認するための Webhook 認証キーの詳細です。
Webhook クライアントの詳細	Jenkins v2 スポークのサブフローの詳細です。

Jenkins v2 スポーク v2 には次のテーブルが含まれます。

- Jenkins v2 Webhook 応答サブフロー [sn_jenkinsv2_spoke_webhook_answer_subflow]
- Jenkins Webhook クライアントの詳細 [sn_jenkinsv2_spoke_webhook_client_details]

スポークのサブフロー

Jenkins v2 スポークでは、Jenkins タスクの自動化をデモするためのサブフローが提供されます。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフロー	説明
Jenkins ジョブをビルド	ServiceNowインスタンスで Jenkins から更新を受信します。
Jenkins Webhook 応答サブフロー：プロセスビルド情報	Jenkins ジョブをビルドし、情報を取得します。このサブフローをカスタマイズするには、サブフローのコピーを作成し、要件に従ってサブフローを変更します。
パラメーターを使用して Jenkins ジョブをビルド	指定されたパラメーターで Jenkins ジョブをビルドし、情報を取得します。

スポークのアクション

Jenkins v2 スポークでは、ServiceNowでイベントが発生したとき、Jenkins タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ビルド管理	ビルドを削除	Jenkins サーバージョブからビルドを削除します。
	ビルド ID を取得	実行されたジョブのビルド ID を Jenkins サーバーから取得します。
	ビルドタイムスタンプを取得	指定されたジョブのビルドタイムスタンプを Jenkins サーバーから取得します。
	コンソール出力を取得	指定されたジョブのビルドコンソール出力を Jenkins サーバーから取得します。
	ビルドをリスト	指定されたジョブのすべてのビルドを Jenkins サーバーから取得します。
	パラメーターを指定してビルドを実行	Jenkins サーバー上で、パラメーターを指定してジョブを実行します。
	ビルド履歴を取得	指定されたジョブの一定範囲のビルド履歴を Jenkins サーバーから取得します。
	ビルド情報を取得	指定されたジョブのビルドタイムスタンプ、ビルドステータス、および完全なビルド情報を Jenkins サーバーから取得します。
	ビルド番号を取得	前回成功したビルドなど、事前定義済みのビルドフィルターに基づいて Jenkins サーバージョブのビルド番号を取得します。
	ビルドを実行	Jenkins サーバー上でジョブを実行します。
	日付範囲でビルドを検索	指定されたジョブの日付範囲のすべてのビルドを Jenkins サーバーから取得します。
	ビルドでコミットを検索	指定されたジョブの特定のビルドのコミットを Jenkins サーバーから取得します。
	ビルドでステージノードを検索	特定のパイプラインジョブの特定のビルドのすべてのステージのソナーアクション、再起動可能なステージ、およびノードに関する情報を Jenkins サーバーから取得します。
	ビルドでステージを検索	指定されたパイプラインジョブの特定のビルドのビルドステータス、開始時間、終了時間、期

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		間、およびステージを Jenkins サーバーから取得します。
	ビルドでテストレポートを検索	テストサマリー、実行されたテストの合計数、合格したテスト、失敗したテスト、スキップされたテスト、および Jenkins サーバーから特定ジョブの特定ビルドで JUnit テストの実行にかかった時間に関する情報を取得します。
構成管理	ノードを作成	Java Web Start ソフトウェアで起動できるノードを作成します。ノードは、Jenkins 環境の一部であり、ジョブを実行できるマシンです。
	ノードを削除	Jenkins サーバーからノードを削除します。
	バージョンを取得	Jenkins サーバーのバージョンを取得します。
	Jenkins を再起動	Jenkins サーバーを再起動します。
	接続をテスト	Jenkins サーバーへの接続をテストします。
ジョブ管理	ジョブをコピー	既存の Jenkins サーバージョブをコピーすることでジョブを作成します。
	フォルダーを作成	ジョブを整理するための Jenkins サーバーフォルダーを作成します。
	ジョブを作成	XML ファイルから Jenkins サーバージョブを作成します。
	フォルダーを削除	既存の Jenkins サーバーフォルダーを削除します。
	ジョブを削除	Jenkins サーバージョブを削除します。
	フォルダー別にジョブをリスト	指定された Jenkins サーバーフォルダーからすべてのジョブを取得します。
	ジョブ構成を取得	Jenkins サーバージョブの XML 構成を取得します。
	ジョブを再ロード	Jenkins サーバージョブを再ロードします。
	ジョブの名前を変更	Jenkins サーバージョブの名前を変更します。
ユーザー管理	ユーザーを作成	Jenkins サーバーのユーザーを作成します。
	ユーザーを削除	既存の Jenkins サーバーユーザーを削除します。
ビュー管理	ジョブをビューに追加	Jenkins サーバービューにジョブを追加します。ビューは、ジョブを整理するためのコンテナです。Jenkins インスタンスが大きくなるにつれて、適切なグループとカテゴリのビューを作成できます。たとえば、ビルド固有のジョブのみを表示するビルドビューを作成できます。
	ビューを作成	Jenkins サーバービューを作成します。
	ビューを削除	Jenkins サーバービューを削除します。
	ビュー別にジョブをリスト	Jenkins サーバーのビューからすべてのジョブを取得します。
	ビューからジョブを削除	Jenkins サーバービューからジョブを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続と資格情報の要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークでは Jenkins v2 接続および資格情報エイリアスレコードを使用してアクションを許可します。スポーク接続エイリアスを使用するには、関連付けられた接続レコードと関連付けられた認証情報レコードを作成します。スポークの設定については、「 Jenkins スポークの設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはMID サーバーで実行できます。Jenkins エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所およびMID サーバー選択属性を設定します。 詳細については「 MID サーバー 」を参照してください。

Jenkins スポークの設定

ベーシック認証を使用してServiceNowインスタンスと Jenkins をデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Jenkins スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Jenkins v2 スポークの接続の設定

Jenkins v2 接続を追加して設定し、Jenkins v2 スポークで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

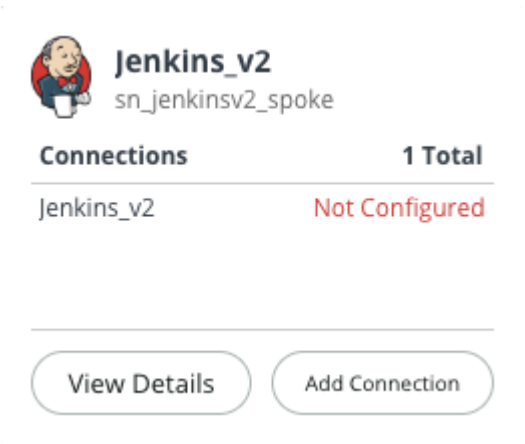
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. **Jenkins_v2** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

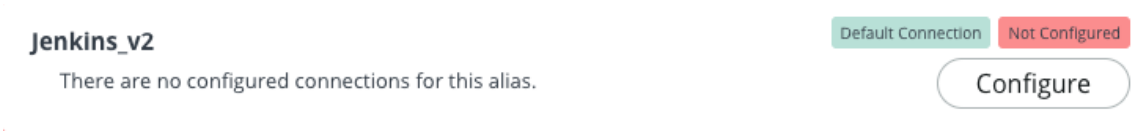
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Jenkins v2 スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



- 複数の Jenkins v2 スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

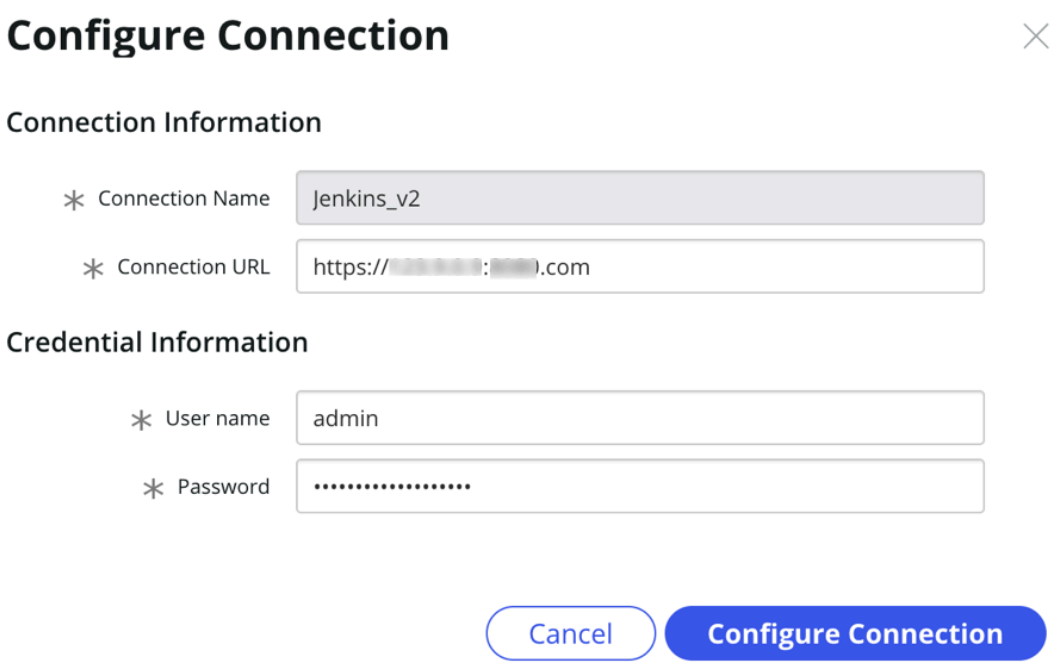
スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。



5. [接続] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続を一意に識別する名前。例：`Jenkins v2` 接続。
接続 URL	Jenkins に接続するためのベース URL。URL の形式は http://<host_ip_address>:<port> である必要があります。例：`http://198.51.100.24:8080`。
ユーザー名	Jenkins アカウントのユーザー名。
パスワード	Jenkins アカウントの API トークン。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. [接続を作成] をクリックします。
7. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続]に移動します。
8. Jenkins v2 スポーク用に新しく作成された接続レコードを開きます。
9. **[MID** サーバー詳細構成] タブで、MID サーバーの設定を指定します。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

Jenkins スポークの **Webhook** を設定する

ServiceNow インスタンスで Jenkins から必要な更新を受信するように Webhook アプリケーションを設定します。

始める前に
必要なロール：admin

Jenkins v2 スポークの認証キーを作成

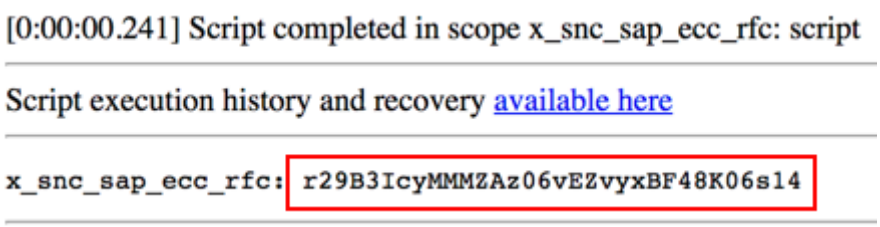
Jenkins からの要求を承認するための認証キーを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [システム定義] > [スクリプト - バックグラウンド]に移動します。
2. [スクリプトを実行 (サーバー上で実行される **JavaScript)]** テキストフィールドで、次のコマンドを入力します。
   ```
   gs.info(GlideSecureRandomUtil.getSecureRandomString(32));
   ```
3. [スクリプトを実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 後で使用するために生成された値をコピーして記録します。



Webhook の認証キーを指定

ServiceNowインスタンスに Webhook の認証キーを指定して、Jenkins からの要求を承認します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Jenkins v2]** > **[Webhook** クライアントの詳細]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、これらの値を入力します。

Jenkins Webhook クライアントの詳細フォーム

フィールド	説明
認証キー	生成された認証キー詳細については、「Jenkins v2 スポークの認証キーを作成」を参照してください。
名前	Webhook クライアントレコードを識別する名前です。

4. [送信] をクリックします。

Jenkins での認証キーを指定

Jenkins での認証キーを指定して、Jenkins から更新を受信します。

始める前に

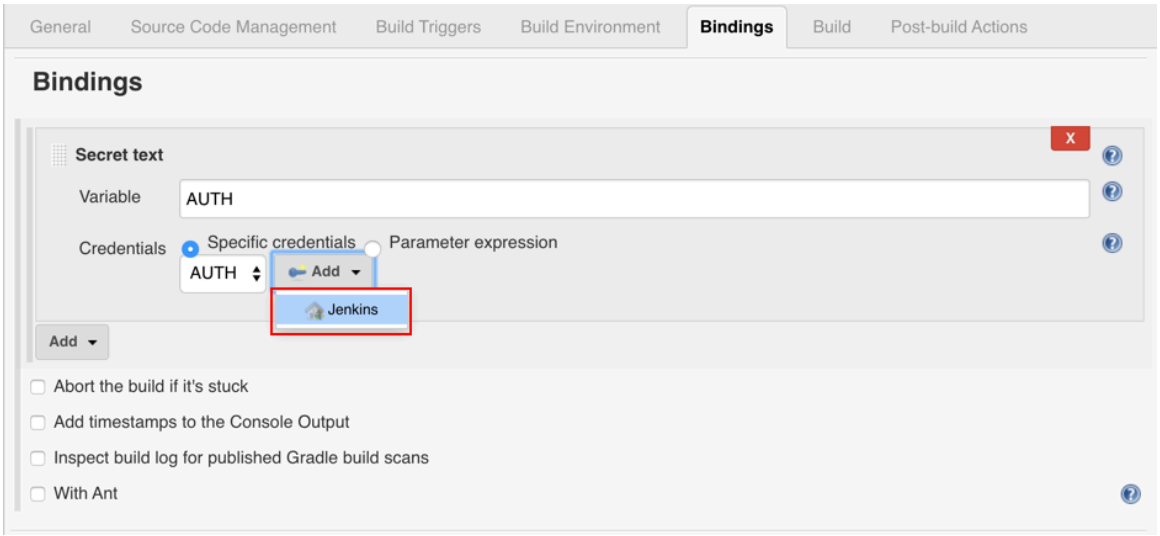
必要なロール：admin

手順

1. Jenkins アカウントにログインします。
2. Webhook を構成するジョブをクリックして開きます。
3. [構成] をクリックします。
4. [バインディング] タブで、[追加] をクリックし、**[Jenkins]** を選択します。

プラグインの使用の詳細については、「 認証情報のバインディング 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. フォームのフィールドに入力します。

Jenkins 認証情報プロバイダーフォーム

フィールド	説明
種類	シークレットテキスト を選択します。
シークレット	認証キーを入力します。 詳細については、「Jenkins v2 スポークの認証キーを作成」を参照してください。
ID	レコードを識別するための一意の識別子を指定します。

6. [追加] をクリックします。
7. [ビルド後のアクション] タブで、タスクを設定し、ServiceNowインスタンスで更新を受信するスクリプトを指定します。
   - サンプルWindows スクリプト：`curl "https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_jenkinsv2_spoke/jenkins_v2_webhook/build_status" -X POST -H "content-type:application/json" -H "jenkinsKey: %<ID>%" -d "{\"Job_Name\":\"%JOB_NAME%\",\"Job_Path\":\"%JOB_URL%\",\"Build_Number\":\"%BUILD_NUMBER%\"}"`
   - サンプルシェルスクリプト：`curl "https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_jenkinsv2_spoke/jenkins_v2_webhook/build_status" -X POST -H "content-type:application/json" -H "jenkinsKey: ${<ID>}" -d "{\"Job_Name\":\"${JOB_NAME}\",\"Job_Path\":\"${JOB_URL}\",\"Build_Number\":\"${BUILD_NUMBER}\"}"`

   注: スクリプト内の ID は、Jenkins 認証情報プロバイダーフォームで指定した ID です。

   プラグインの使用の詳細については、「ビルド後のタスク」を参照してください。
8. [適用] をクリックします。

サブフローに説明を入力

Jenkins v2 スポークのサブフローにわかりやすい説明を入力します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[Jenkins v2]** > **[WebHook** 応答サブフロー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
説明	サブフローの説明です。
サブフロー	Jenkins v2 スポークに必要なサブフローです。

4. [送信] をクリックします。

ディシジョンテーブルに回答を入力

ディシジョンテーブルに記載されている条件に対する回答としてサブフローが提供されます。指定された条件が満たされたら、関連するサブフローがトリガーされます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [意思決定テーブル]の順に移動します。
2. **Jenkins v2 Spoke** のレコードを開きます。
3. [意思決定] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームに、これらの値を入力します。

意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。
デフォルトの回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。
条件	Jenkins で必要なイベントが発生したときに満たされるべき条件です。サポートされているフィールドの詳細については、Jenkins v2 スポークを参照してください。
回答	指定された条件が満たされるとトリガーされるサブフローです。 **a.** 検索アイコン ( ) をクリックします。 **b.** ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。 注: テーブル名が `Jenkins v2 Webhook 回答サブフロー [sn_jenkinsv2_spoke_webhook_answer_subflow]` であることを確認します。

5. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Webhook をカスタマイズ

Webhook ルーティングポリシーを作成し、要件に応じてサブフローをカスタマイズします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [フローデザイナー] > [デザイナー] に移動します
2. [サブフロー] をクリックします。
3. 必要なデフォルトのサブフローのコピーを作成します。
4. Jenkins Webhook 応答サブフローをカスタマイズ：プロセスビルド情報のサブフローを要件に応じでカスタマイズして、公開します。
   サブフローの作成および使用の詳細については「サブフローのビルド」を、ルーティングポリシーおよびサブフローがサポートするフィールドについては、「Jenkins v2 スポーク」を参照してください。
5. **[Jenkins v2]** > **[WebHook** 応答サブフロー]に移動します。
6. [新規] をクリックします。
7. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
説明	サブフローの説明です。
サブフロー	Jenkins v2 スポークに必要なサブフローです。

8. [送信] をクリックします。

   注: これらのルーティングポリシーは意思決定テーブルに保存されます。ユーザーは、これらのテーブルのデータを直接更新または変更しないように注意してください。

9. [システム定義] > [意思決定テーブル] の順に移動します。
10. **Jenkins v2 Spoke** のレコードを開きます。
11. [意思決定] タブで、[新規] をクリックします。
12. フォームの各フィールドに入力します。

意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。
デフォルトの回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。
条件	Jenkins で必要なイベントが発生したときに満たされるべき条件です。サポートされているフィールドの詳細については、Jenkins v2 スポークを参照してください。
回答	指定された条件が満たされるとトリガーされるサブフローです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	a. 検索アイコン ( ) をクリックします。 **b.** ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。 **注:** テーブル名が `Jenkins v2 Webhook 回答サブフロー [sn_jenkinsv2_spoke_webhook_answer_subflow]` であることを確認します。

13. [送信] をクリックします。

Jira サービス管理スポーク

ServiceNow インスタンスから Jira Service Management のサービス管理タスクを自動化します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、 法務スケジュール - 統合ハブ概要を参照してください。

スポークバージョン

Jira Service Management スポーク v1.1.1 が最新バージョンです。

スポークの要件

JIRA サービス管理アカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 統合 - 外部認証フレームワーク (com.glide.external.app)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Jira サービス管理スポーク では、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
メタデータ	サービスデスク ID (メタデータ) を検索	指定された JIRA インスタンスからすべてのサービスデスク ID のリストを取得します。
組織管理	サービスデスクに組織を追加	指定された組織 ID を指定されたサービスデスクインスタンスに追加します。
	組織にユーザーを追加	指定された組織にユーザーを追加します。
	組織を作成	指定されたサービス管理インスタンスの組織アカウントを作成します。
	組織を削除	指定されたサービス管理インスタンスから組織アカウントを削除します。
	組織を検索	サービス管理インスタンス内の組織のリストを取得します。
	組織内のユーザーを検索	組織内のユーザーのリストを取得します。
	サービスデスクから組織を削除	指定された組織を指定されたサービスデスクインスタンスから削除します。
	組織からユーザーを削除	指定された組織からユーザーを削除します。
要求管理	顧客要求の参加者を追加	指定されたサービスデスクインスタンスの要求に顧客を追加します。
	顧客要求を作成	指定されたサービスデスクインスタンスの顧客要求を作成します。
	顧客要求コメントを作成	指定されたサービスデスクインスタンスの顧客要求コメントを作成します。
	一時添付ファイルを作成	指定された要求の一時添付ファイルを作成します。 注: このアクションは、Jira Service Management Cloud でのみ機能します。
	一時ファイルを作成	指定された要求の一時ファイルを作成します。
	コメント添付ファイルを検索	指定された問題 ID または問題キーのコメント添付ファイルを取得します。 注: このアクションは、Jira Service Management Cloud でのみ機能します。
	顧客要求コメントを検索	サービスデスクの顧客要求コメントのリストを取得します。
	顧客要求の参加者を検索	指定されたサービスデスクインスタンスの顧客要求に関連する要求参加者のリストを取得します。
	顧客要求ステータス履歴を検索	指定されたサービスデスクインスタンスの顧客要求ステータス履歴を取得します。
	顧客要求移行を検索	指定されたサービスデスクインスタンスの顧客要求移行のリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	顧客要求を検索	指定されたサービスデスクインスタンスの顧客要求のリストを取得します。
	SLA 情報を検索	指定されたサービスデスクインスタンスの SLA 情報を取得します。
	サブスクリプションステータスを検索	指定されたサービスデスクインスタンスのサブスクリプションステータスを取得します。 注: このアクションは、Jira Service Management Cloud でのみ機能します。
	顧客要求移行を実行	指定されたサービスデスクインスタンスの顧客要求のステータスを変更します。 注: このアクションは、Jira Service Management Cloud でのみ機能します。
	顧客要求の参加者を削除	指定されたサービスデスクインスタンスから顧客要求を削除します。
	顧客要求を登録	指定されたサービスデスクインスタンスの顧客要求を登録します。
ServiceDesk 管理	顧客を追加	指定されたユーザーをサービスデスクに追加します。
	キュー内の問題を検索	指定されたサービスデスクインスタンスのキュー内の問題のリストを取得します。
	キューを検索	指定されたサービスデスクインスタンスのキューのリストを取得します。
	要求タイプフィールドを検索	指定されたサービスデスクインスタンスの要求タイプフィールドのリストを取得します。
	要求タイプを検索	指定されたサービスデスクインスタンスの要求タイプのリストを取得します。
	サービスデスクを検索	JIRA インスタンスから、指定されたサービス管理インスタンスのすべてのサービスデスクのリストを取得します。
	ユーザーアカウント ID を検索	ユーザーのユーザーアカウント ID を取得します。 注: このアクションは、Jira Service Management Cloud でのみ機能します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、以下を参照してください Jira Service Management Spoke を設定。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Jira Service Management Spoke を設定

[基本認証]の認証情報を使用して、ServiceNowインスタンスと Jira Service Management をデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Jira Service Management スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Atlassian アカウント API トークンの生成

Atlassian アカウント API トークンを生成し、Atlassian アカウントに関連付けられたスポークの要求を認証できるようにします。

始める前に

Atlassian アカウントを持っていることを確認してください。

必要なロール：Atlassian アドミニストレーター認証情報

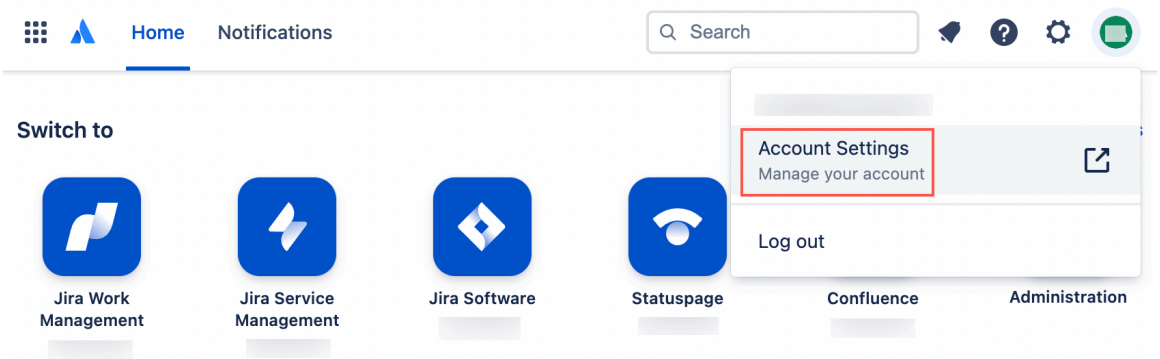
このタスクについて

Atlassian アカウントから、次の手順を完了します。API トークンを生成する手順については、Atlassian Developer Portal ドキュメントを参照してください。

注: この手順は、Jira Cloud サブスクリプションを使用している 場合にのみ適用されます。

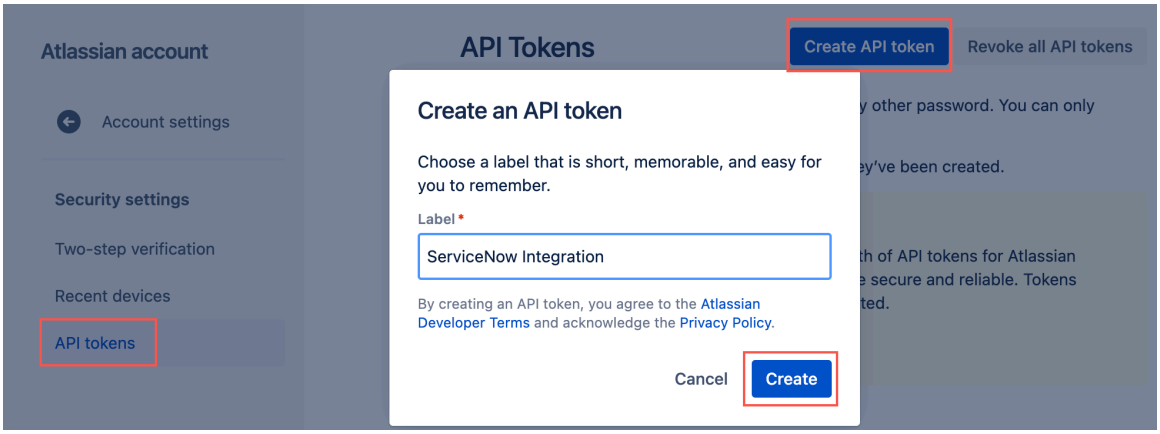
手順

1. アドミニストレーターとしてログインして Atlassian開始 します。
2. アカウントのプロフィール写真に移動し、[アカウント設定 **(Account Settings)]** を選択します。



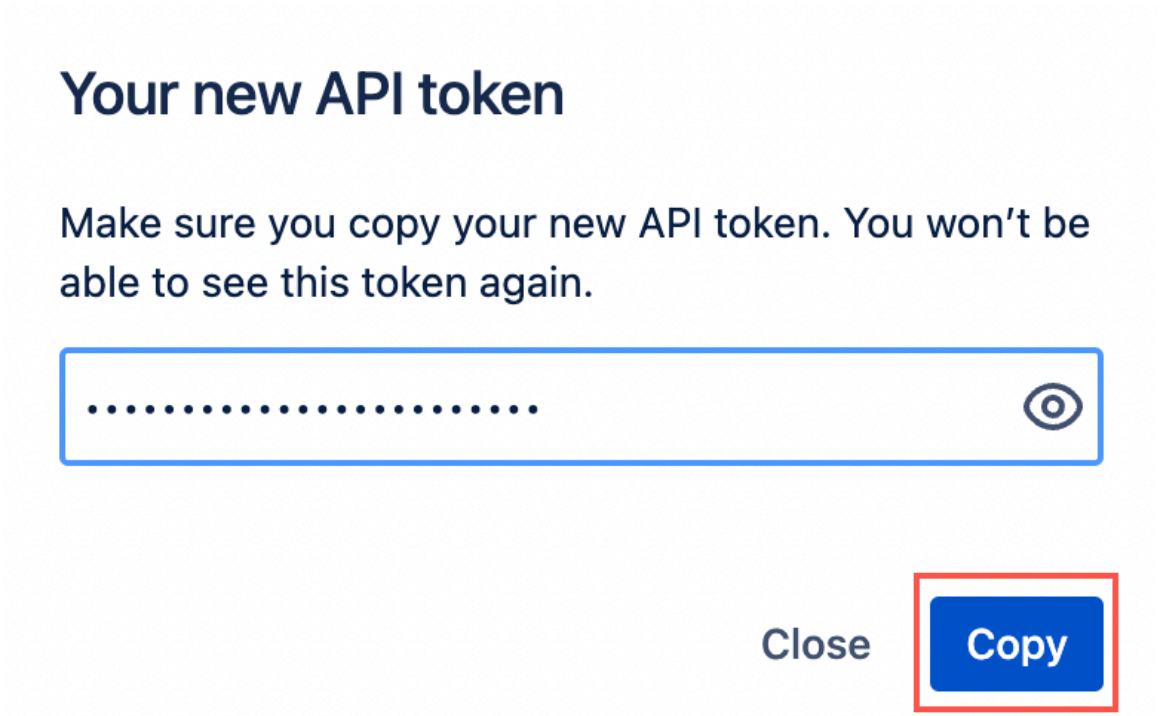
3. [セキュリティ] に移動します。
4. [API トークン] セクションで、**[API** トークンの作成と管理 **(Create and manage API tokens)]** を選択します。
5. **[API** トークン]を選択します。
6. フォームの [ラベル] フィールドに統合名を入力します。
7. [作成] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



API トークンが生成されます。

8. [コピー] を選択し、後で使用するためにトークンの値を記録します。



次のタスク
API トークンを使用して、Jira または Jira サービス管理スポークのクラウド接続を構成します。

Jira サービス管理スポークの接続の構成

Jira Service Management 接続を追加して設定し、Jira サービス管理スポークで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

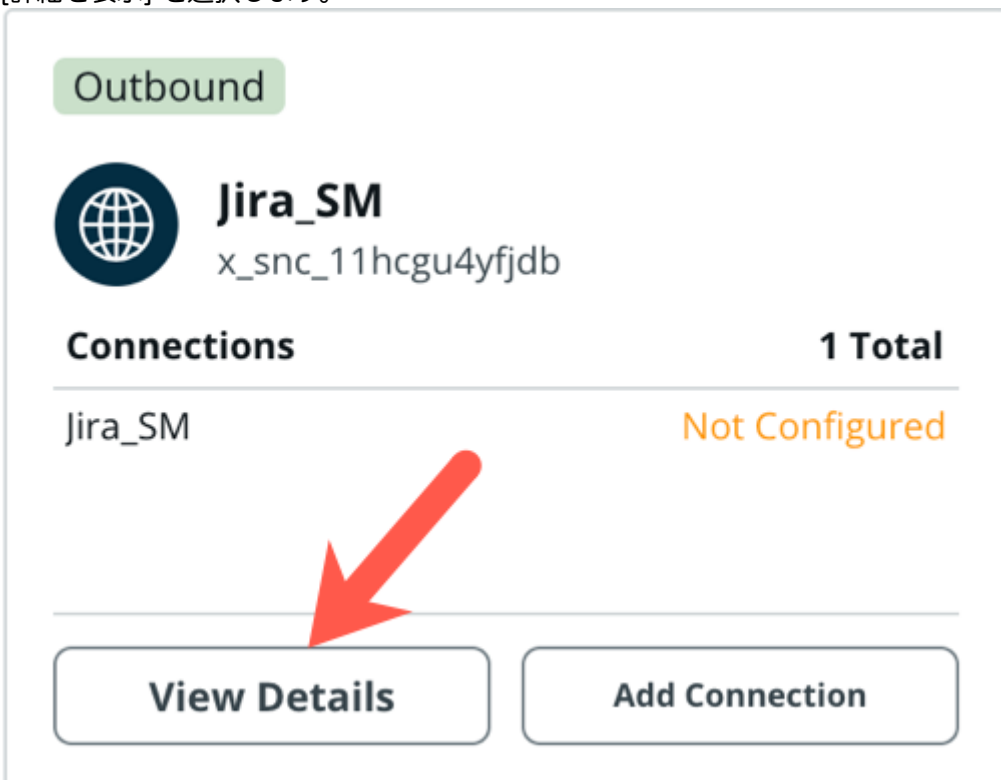
必要なロール：admin

手順

1. [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ]に移動します。
2. [統合] を選択します。
3. [接続] タブを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

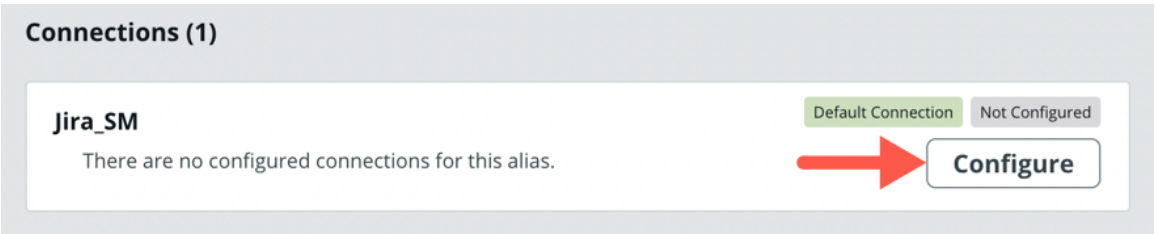
4. 検索ボックスを使用して、**Jira_SM** 接続エイリアスを検索します。
5. [詳細を表示] を選択します。



6. クラウド接続を構成します。

   a. クラウド接続を追加、または編集します。

   - 既存の接続を設定するには、[構成] または [編集] を選択します。



   - 新しい接続を作成して構成するには、[接続を追加] を選択します。

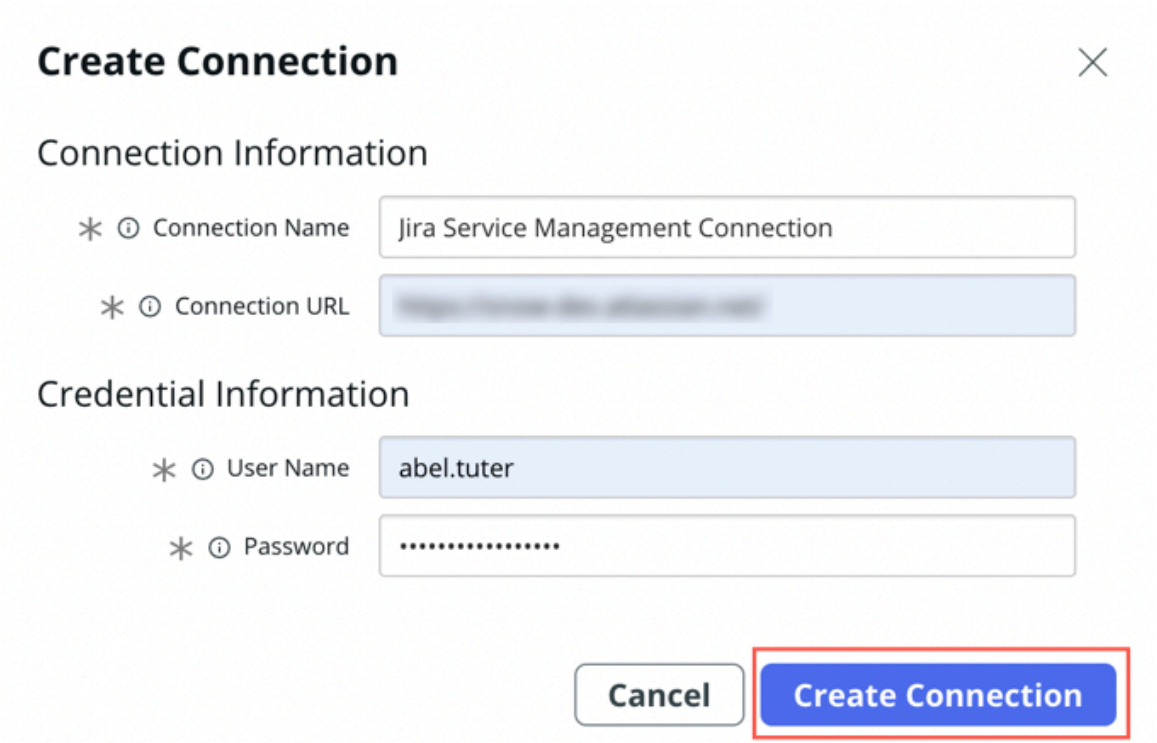
   > **注:** スポークを介した複数接続をサポートするには、「複数接続のサポート」を参照してください。

   b. 構成フォームの、クラウド接続のフィールドに記入します。

フィールド	値
接続名	例：`jira_sm_cloud_conn`。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
接続 URL	インスタンス URL の形式： `<provider-domain-name>.atlassian.net`。
ユーザー名	Atlassian アドミンアカウントのメールアドレス。
パスワード	Atlassian アカウント API トークンの生成 で生成された API トークン。



c. 構成を確認します。

- 既存の接続については、[接続を編集 **(Edit Connection)]** を選択します。
- 新規接続については、[接続を作成] を選択します。

d. 次の情報を使用して、サーバー接続のステップを繰り返します。

フィールド	値
接続名	例：`jira_sm_server_conn` 。
接続 URL	Jira サーバーインスタンスの URL。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
ユーザー名	アドミンユーザーのユーザー名。
パスワード	アドミンユーザーのパスワード。

Jira スポーク

Jira で問題、ユーザー、ストーリー、グループを管理します。フローで使用する Jira データを取得します。双方向 webhooks を使用して、ServiceNow コールバック URL で Jira に登録します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Jira スポーク v5.1.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート：データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- Complex Object (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - 接続情報の取得 (com.glide.hub.action_step.get_connection_info)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 統合 - 外部認証フレームワーク (com.glide.external.app)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

このスポークは API version v2 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- Jira インスタンスが別の API バージョンをサポートしている場合は、属性関連リストの **[API バージョン]** で API バージョンを指定します。デフォルトでは、**API バージョン** は 2 です。接続レコードの作成については、「Jira スポークの接続の設定」を参照してください。
- Jira サービスデスクはスポークではサポートされていません。

Jira Webhook モジュール

双方向 Webhook をセットアップして、必須イベントに関する通知を受けることができます。ルーティングポリシーでは、 ServiceNow インスタンスに通知するために満たすべき条件が定義されます。これらの条件は、通知を希望するJiraのイベントに基づいています。条件が満たされると、ルーティングポリシーが関連するサブフローをトリガーし、Jira タスクを自動化します。

双方向 Webhook には別途セットアップが必要で、スポークアクションを使用しないで単独で使用できます。デフォルトでは、Jira Webhooks アプリケーションが Jira で利用可能で、次のモジュールがあります。

- Jira Webhook レジストリ
- Jira WebHook ルーティングポリシー

Jira Webhook レジストリモジュールを使用してトークンを割り当て、API パスを指定します。コールバック URL を生成し、URL を Jira アカウントに入力する必要があります。デフォルトのルーティングポリシーは、Jira WebHook ルーティングポリシーモジュールで提供されます。デフォルトのルーティングポリシーは、次のフィールドをサポートしています。

カテゴリ	フィールド
問題	• Jira インスタンス URL • Webhook イベント • 問題の説明 • 作成日時 • 更新日時 • 問題の解決 • 以前の問題の解決 • 問題サマリー • 問題タイプ • 以前の問題タイプ • 問題の優先度 • 以前の問題の優先度 • 問題のステータス • 以前の問題ステータス • 問題ステータスカテゴリ • 以前の問題ステータスカテゴリ • プロジェクト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	フィールド
コメント	• Jira インスタンス URL • Webhook イベント • コメント • 作成日時 • 更新日時 • 問題サマリー • 問題タイプ • 問題の優先度 • 問題のステータス • 問題ステータスカテゴリ • プロジェクト
作業ログ	• Jira インスタンス URL • Webhook イベント • 作業ログの所要時間 • 作成日時 • 更新日時
添付ファイル	• Jira インスタンス URL • Webhook イベント • 作成日時 • 添付ファイル名 • 添付ファイルサイズ • 添付 MIME タイプ
プロジェクト	• Jira インスタンス URL • Webhook イベント • プロジェクト
バージョン	• Jira インスタンス URL • Webhook イベント • バージョン • バージョン説明 • バージョンに結合 • バージョン説明に結合

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ルーティングポリシーの他の条件を使用するには、Jira WebHook ルーティングポリシーモジュールにルーティングポリシーを作成し、要件に従って条件を指定します。Webhook の設定と構成の詳細については、Jira スポーク用双方向 Webhook の設定を参照してください。

スポークのサブフロー

Jiraでは、さまざまな JiraWebhook イベントを処理するためのサンプルサブフローが提供されます。利用可能なサンプルサブフローは、[Jira Webhook の処理] です。[Jira Webhook の処理] サブフローは、次のフィールドをサポートしています。

カテゴリ	フィールド
問題	• ユーザー • 問題 • 添付ファイル • 問題変更ログ • プロジェクト
コメント	• 問題 • プロジェクト • コメント
作業ログ	作業ログ
添付ファイル	添付ファイル
プロジェクト	プロジェクト
バージョン	バージョン
Webhook イベント	
タイムスタンプ	
ペイロード **注:** これは Jira ペイロード全体です。	

デフォルトのサブフローをカスタマイズするには、サンプルサブフローのコピーを作成し、ペイロードを解析して、要件に従ってサブフローをカスタマイズする必要があります。ペイロードは、サブフローへの入力の 1 つです。

サブフローをカスタマイズするときは、サブフローが無限ループを回避するように構成されていることを確認する必要があります。

注:

- スポークサブフローを使用するように Webhook を設定する必要があります。Webhook の設定と構成の詳細については、Jira スポーク用双方向 Webhook の設定を参照してください。
- デフォルトで、サンプルサブフローはユーザーとして実行されます。サブフローは、システムとして実行するように設定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのトリガー

Jira スポークのトリガーを使用して、必要なイベントに登録します。エンドポイントにより、Webhook が ServiceNow インスタンスに接続できるようになります。指定したトリガー条件が満たされた場合にのみ実行されるようにフローを設定できます。サポートされているイベントは次のとおりです。

カテゴリ	トリガー	説明
ボード管理	ボードの削除完了	ボードが削除されると、トリガーが開始されます。
	ボードの更新完了	ボードが更新されると、トリガーが開始されます。
	ボードの作成完了	ボードが作成されると、トリガーが開始されます。
コメント管理	コメントの削除完了	コメントが削除されると、トリガーが開始されます。
	コメントの更新完了	コメントが更新されると、トリガーが開始されます。
	コメントの作成完了	コメントが作成されると、トリガーが開始されます。
問題管理	問題の更新完了	問題が更新されると、トリガーが開始されます。問題のアサイン、問題の解決、問題のクローズ、問題の再オープン、問題の移動などのイベント、および問題の更新に関連するその他のイベントが、この Webhook イベントに該当します。
	問題のアサイン完了	問題がアサインされると、トリガーが開始されます。
	問題の削除完了	問題が削除されると、トリガーが開始されます。
	問題の作成完了	問題が作成されると、トリガーが開始されます。
スプリント管理	スプリントの更新完了	スプリントが更新されると、トリガーが開始されます。
	スプリントの削除完了	スプリントが削除されると、トリガーが開始されます。
	スプリントの作成完了	スプリントが作成されると、トリガーが開始されます。
	スプリントのクローズ完了	スプリントがクローズされると、トリガーが開始されます。
	スプリントの開始完了	スプリントが開始されると、トリガーが開始されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Jira スポークのトリガーの設定については、「Jira スポークのトリガーの設定」を参照してください。インバウンド統合の詳細については、「条件付きおよびイベント駆動型のインバウンド統合」を参照してください。

スポークのアクション

フローデザイナーでJira スポークのアクションを使用して、Now Platformでイベントが発生したときにJiraタスクを自動化します。使用可能なアクションは次のとおりです。

注:

- このリリース以降の一部のスポークアクションに、接続エイリアスの入力はありません。

  以前のバージョンのアクションを使用するインスタンス内の既存のフローは、引き続き機能します。ただし、こうした以前のアクションは、廃止されたサフィックスを追加すると名前が変更され、このバージョン以降は使用できなくなります。

- 一部のスポークアクションでは、エラー評価機能が提供されています。

カテゴリ	アクション	説明
Audit Management	監査ログストリームを検索	Atlassian Jira ユーザーサブスクリプションのログインアクティビティを取得します。
グループ管理	グループにユーザーを追加	Jiraのグループに指定されたユーザーを追加します。
	グループを作成	Jiraにグループを作成します。
	グループストリームを検索	デフォルトグループを含む、Atlassian アカウント内のすべてのグループを取得します。 **注:** このアクションは、Jira Cloud サブスクリプションでのみ使用できます。
	グループ名ストリームでユーザーを検索	Atlassian グループ内のすべてのメンバーの詳細を取得します。
	グループを削除	指定されたグループをJiraから削除します。
	グループからユーザーを削除	Jiraのグループから指定されたユーザーを削除します。
問題管理	コメントを追加	Jiraで指定した問題にコメントを追加します。
	ウォッチャーを追加	指定された問題のウォッチャーとして、指定されたユーザーを追加します。
	問題を割り当て	Jiraの問題をユーザーに割り当てます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	添付ファイルをコピー	ServiceNow レコードに関連付けられている必要な添付ファイルを、Jira の必要な問題にコピーします。
	問題を作成	Jiraに問題を作成します。組織がJiraをどのように使用しているかに応じて、ソフトウェアのバグ、プロジェクトタスク、ヘルプデスクチケットなど、様々な形で問題が現れます。Jiraの問題は、Now Platformのタスクを表します。
	問題を作成	最大 50 件の問題を一括で作成します。アクションによって作成される問題のタイプは、Jira セットアップによって異なります。
	添付ファイルを削除	Jiraの必要な添付ファイルを削除します。
	問題を削除	Jiraの問題を削除します。
	監視を削除	指定された問題のウォッチャーとして、ユーザーを削除します。
	移行を実行	Jiraの問題をある状態から別の状態に移行します。
	プロジェクトで問題タイプステータスを検索 (Look up Issue Type Statuses by Project)	プロジェクトのステータスの詳細を取得します。
	問題を検索	問題の詳細を取得します。
	問題の優先度を検索	問題の優先度のリストと個々の問題の優先度の詳細を取得します。
	問題ストリームを検索	JQL クエリ文字列に一致する問題のリストを取得します。
	Sprint 問題ストリームを検索	指定されたスプリントのすべての問題の詳細を取得します。
	移行を検索	指定された問題 ID のすべての移行に関する情報を取得します。
	ウォッチャーを検索	指定された問題のウォッチャーのリストを取得します。
	問題を更新	入力として渡された値でJiraの問題の一連のフィールドを更新します。
メタデータの取得	ボード (メタデータ) を取得 (Get Boards (Metadata))	Jiraのすべてのボードの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	作成可能なフィールド (メタデータ) を取得 (Get Creatable Fields (Metadata))	必要な Jira プロジェクトのすべてのフィールドのリストを取得します。
	編集可能なフィールド (メタデータ) を取得 (Get Editable Fields (Metadata))	必要なJira問題のすべての編集可能なフィールドのリストを取得します。
	問題タイプ (メタデータ) を取得 (Get Issue Types (Metadata))	必要なJiraプロジェクト内のすべての問題タイプのリストを取得します。
	プロジェクト (メタデータ) を取得 (Get Projects (Metadata))	すべての Jira プロジェクトのリストを取得します。
プロジェクト管理 (PM)	プロジェクト作成	Jira でプロジェクトを作成します。
	プロジェクトを検索	ID またはキーで指定されたプロジェクトの詳細を取得します。
	プロジェクトを検索	すべてのプロジェクトの詳細を取得します。 **注:** このアクションは Jira サーバーでのみ機能します。
	プロジェクトストリームを検索	すべてのプロジェクトの詳細を取得します。 **注:** このアクションは Jira クラウドでのみ機能します。
	プロジェクトにアサイン可能なユーザーを検索	1 つ以上のプロジェクトの問題にアサインできるユーザーのリストを取得します。
スプリント管理	スプリントを作成	Jiraにスプリントを作成します。
	スプリントを削除	Jiraのスプリントを削除します。
	スプリントを検索 (Look up Sprint)	必要なスプリントの詳細を複合オブジェクトとして取得します。
	ボードでスプリントを検索 (Look up Sprints by Board)	必要なボードのすべてのスプリントの詳細を取得します。
	スプリントを更新	Jiraのスプリントの詳細を更新します。
ストーリー管理	ストーリーの作成	Jira Cloud インスタンスでストーリーを作成します。これは、ServiceNow Agile

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		Development プラグインのストーリーに相当します。
	ストーリーストリームを検索	すべてのストーリーの詳細を取得します。
	ストーリーを更新	提供された入力値で Jira Cloud におけるストーリーの一定数のフィールドを更新します。
ユーザー管理	ユーザーを作成	Jira にユーザーを作成します。 **注:** OAuth 2.0 認証を使用する場合、このアクションはサポートされません。
	認証ユーザーを検索	認証されたユーザーアカウントの詳細を取得します。
	ユーザーのグループメンバーシップを検索	Atlassian ユーザーのすべてのグループの詳細を取得します。
	ユーザーストリームを検索	すべての Atlassian Jira ユーザーサブスクリプションの詳細を取得します。 **注:** このアクションは、Jira クラウドサブスクリプションでのみ使用できます。
	名前でユーザーストリームを検索	検索文字列に一致するユーザーのリストを取得します。 **注:** このアクションは、Jira サーバーサブスクリプションでのみ使用できます。
	ユーザーを削除	Jiraからユーザーを削除します。 **注:** OAuth 2.0 認証を使用する場合、このアクションはサポートされません。
ユーティリティアクション	問題の添付ファイルをレコードにコピー	添付ファイルをJiraからServiceNowインスタンスの任意のレコードにコピーします。サブフローでこのアクションを使用する場合は、[添付ファイル URL] フィールドに [コンテンツ URL] データピルが

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		指定されていることを確認してください。
	フィールドを検索	Jiraの必須フィールドラベルの内部名とその他の詳細を取得します。
	コメントから問題を検索	指定されたコメントのペイロードを解析して、問題の詳細を取得します。このアクションは、Jira 問題に関する詳細なしでコメント関連情報のみが指定されている場合に、Jira オンプレミスサーバーの [Jira Webhook の処理] サブフローで使用できます。たとえば、コメント情報のみが指定されている場合、このアクションはペイロードを解析し、問題の詳細を抽出します。
	問題に関する最新の添付ファイルを検索	指定された問題の最新の添付ファイルを Jira から取得します。このアクションは、検証のためにフローまたはサブフローで使用できます。たとえば、サブフローは、Jira の問題の最新の添付ファイルが指定された添付ファイルと同じではない場合にのみ、追加の添付ファイルを追加します。
	問題に関する最新のコメントを検索	指定された問題の最新のコメントを Jira から取得します。このアクションは、検証のためにフローまたはサブフローで使用できます。たとえば、Jira の問題に関する最新のコメントが、指定されたコメントと同じではない場合のみ、サブフローでさらにコメントが追加されます。
Webhook 管理	Webhook を検索	登録されているすべての Webhook の詳細をJiraインスタンスから取得します。
	Webhook を登録	Webhook をJiraインスタンスに登録します。
	Webhook を登録解除	Jira インスタンスに登録されている Webhook を削除します。
	Webhook を更新	Jira 内の指定された ID の Webhook を更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		注：OAuth 2.0 認証を使用する場合、このアクションはサポートされません。

Jiraアカウント要件

Jiraでは、Atlassian アカウントを使用してJiraの API トークンを生成する必要があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークでは、Jiraエイリアス レコードを使用します。これらのアクションを使用するには、接続レコードと認証情報レコードを作成し、それらを Jira エイリアスレコードに関連付ける必要があります。

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスで実行できます。Jira エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行するエンドポイントを構成します。

Jira クラウド用の Jira スポークの設定

ServiceNow インスタンスと Jira クラウドインスタンスを統合し、ServiceNow からの要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Jira スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

要件に応じて、ベーシック認証または OAuth 認証を使用して Jira クラウドインスタンスの Jira スポークを設定できます。

オプション 1：ベーシック認証の使用

API キーを使用して ServiceNow インスタンスと Jira クラウドインスタンスを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

API キーを使用して ServiceNow インスタンスと Jira クラウドインスタンスを統合する方法を示します

始める前に

必要なロール：admin。

このタスクについて

ServiceNow インスタンスを複数の Jira インスタンスと統合できます。この統合に対して、接続および資格情報エイリアスレコードを作成し、Jira インスタンスごとに接続レコードを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Atlassian アカウント API トークンの生成

Atlassian アカウント API トークンを生成し、Atlassian アカウントに関連付けられたスポークの要求を認証できるようにします。

始める前に

Atlassian アカウントを持っていることを確認してください。

必要なロール：Atlassian アドミニストレーター認証情報

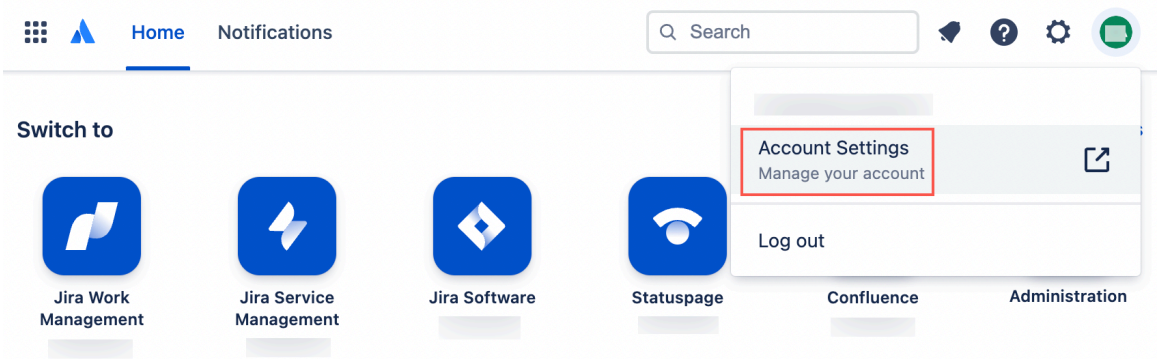
このタスクについて

Atlassian アカウントから、次の手順を完了します。API トークンを生成する手順については、Atlassian Developer Portal ドキュメントを参照してください。

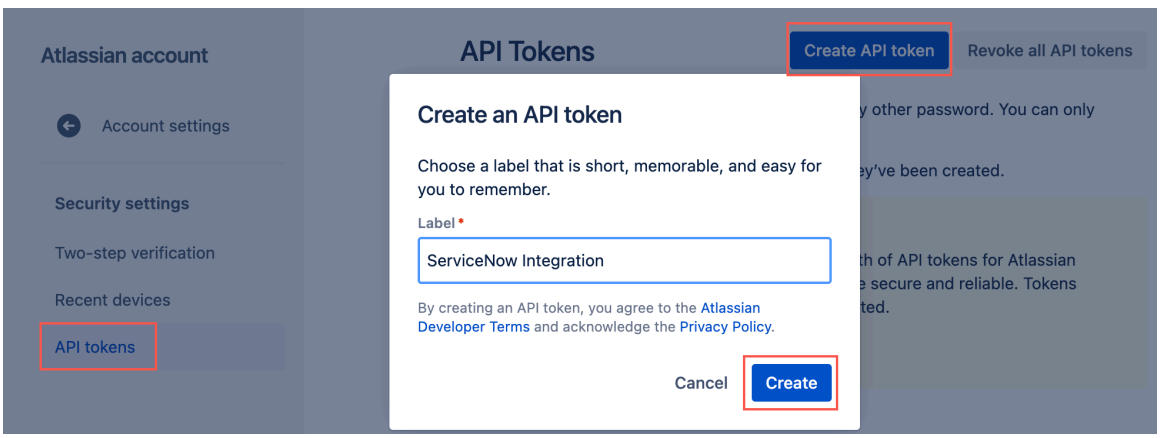
注: この手順は、Jira Cloud サブスクリプションを使用している 場合にのみ適用されます。

手順

1. アドミニストレーターとしてログインして Atlassian開始 します。
2. アカウントのプロフィール写真に移動し、[アカウント設定 **(Account Settings)]** を選択します。



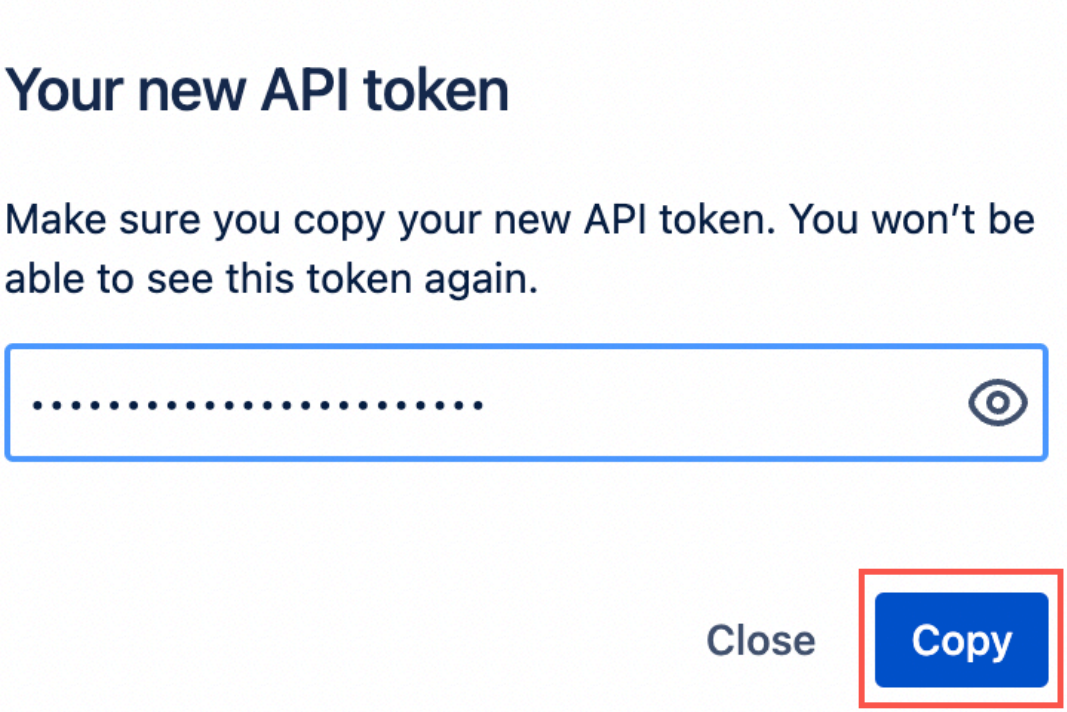
3. [セキュリティ] に移動します。
4. [API トークン] セクションで、**[API** トークンの作成と管理 **(Create and manage API tokens)]** を選択します。
5. **[API** トークン]を選択します。
6. フォームの [ラベル] フィールドに統合名を入力します。
7. [作成] を選択します。



API トークンが生成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [コピー] を選択し、後で使用するためにトークンの値を記録します。



次のタスク
API トークンを使用して、Jira または Jira サービス管理スポークのクラウド接続を構成します。

Jira スポークの接続の設定

Jira 接続を追加して設定し、Jira スポークで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

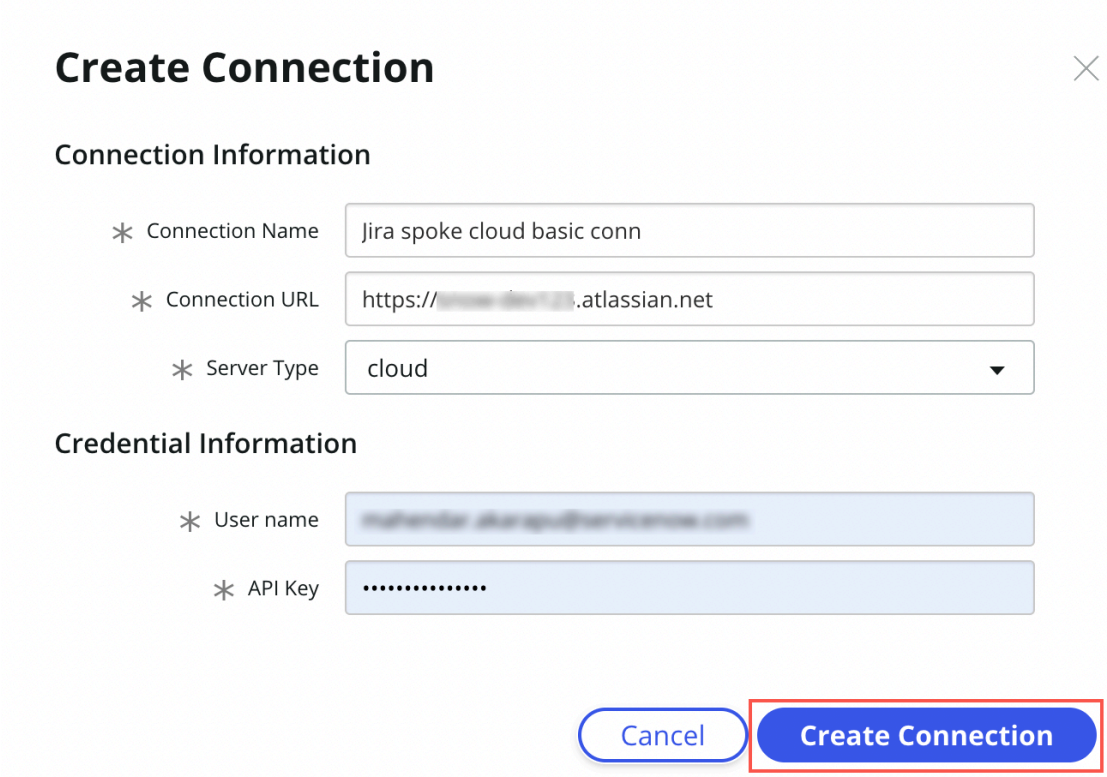
1. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブをクリックします。
3. **Jira** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
   - Jira スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。
   - 複数の Jira スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

   スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)**] をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。
4. [接続] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続を一意に識別する名前。例：`Jira スポーククラウドベーシック接続`。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続 URL	`https://<provider-domain-name>.atlassian.net` 形式の Jira インスタンスの URL。
サーバータイプ	[クラウド] を選択します。
ユーザー名	ユーザーのメールアドレスを入力します。
API キー	Jira クラウドインスタンスに対して生成した API トークンを入力します。



5. [接続を作成] をクリックします。

オプション 2：**OAuth** 認証の使用

OAuth を使用して ServiceNow インスタンスと Jira アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

https://player.vimeo.com/video/975244143?h=e12ca3f6f8&badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

始める前に
必要なロール：admin。

Jira アカウントでの **OAuth 2.0** 統合の作成

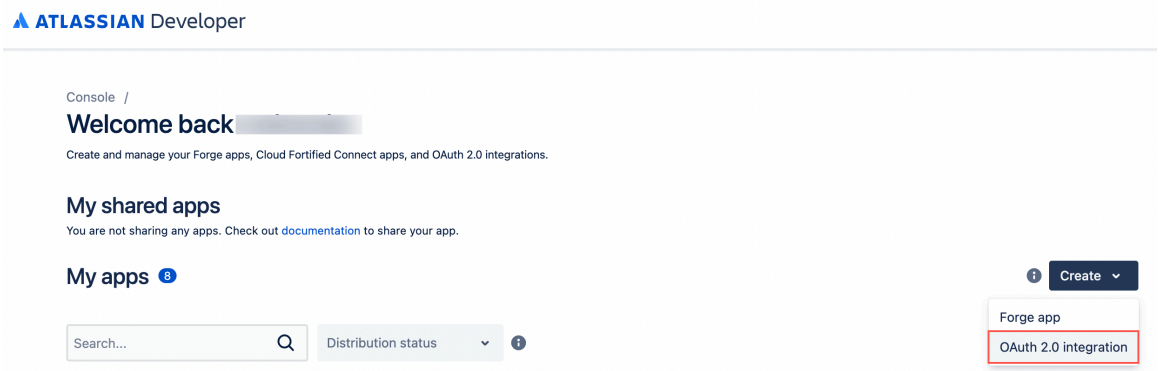
Atlassian 開発者コンソールで OAuth 2.0 統合を作成して、要求を認証します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

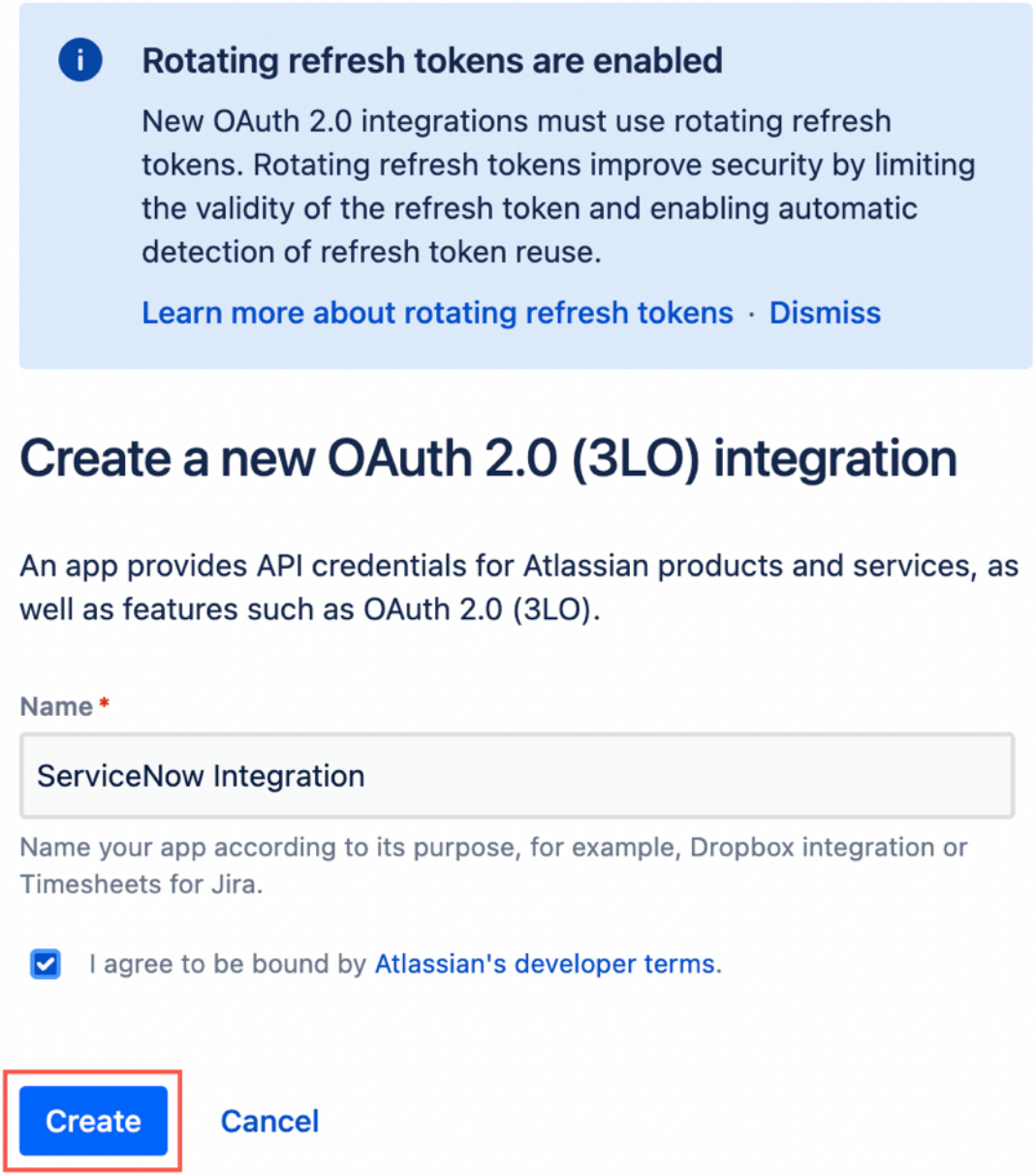
手順

1. アドミニストレーターとして Atlassian 開発者コンソール にログインします。
2. [自分のアプリ] で [作成] をクリックし、**[OAuth 2.0 統合 (OAuth 2.0 integration)]** を選択します。



3. フォームで、統合の名前を入力し、[作成] をクリックします。

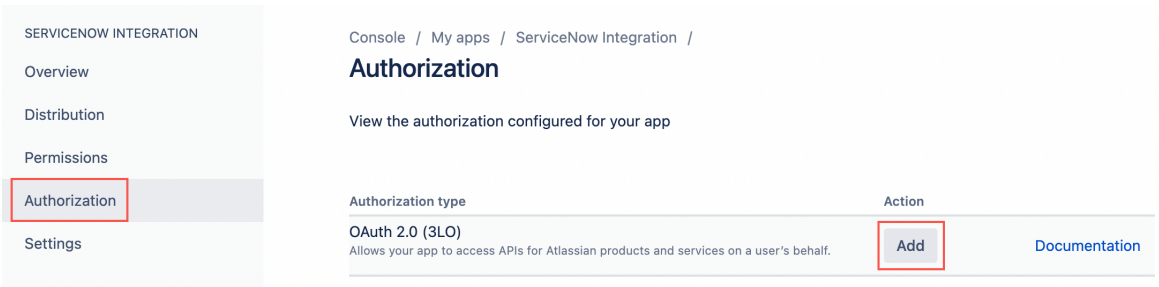
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



統合が作成され、アプリ **ID** の値が表示されます。

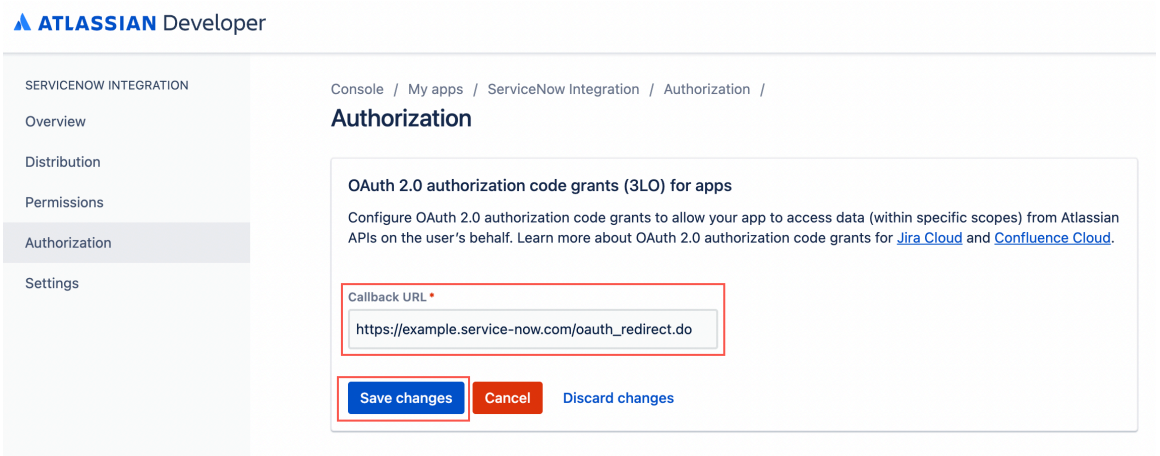
4. [認証] をクリックします。

   a. [アクション] の下にある [追加] をクリックします。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

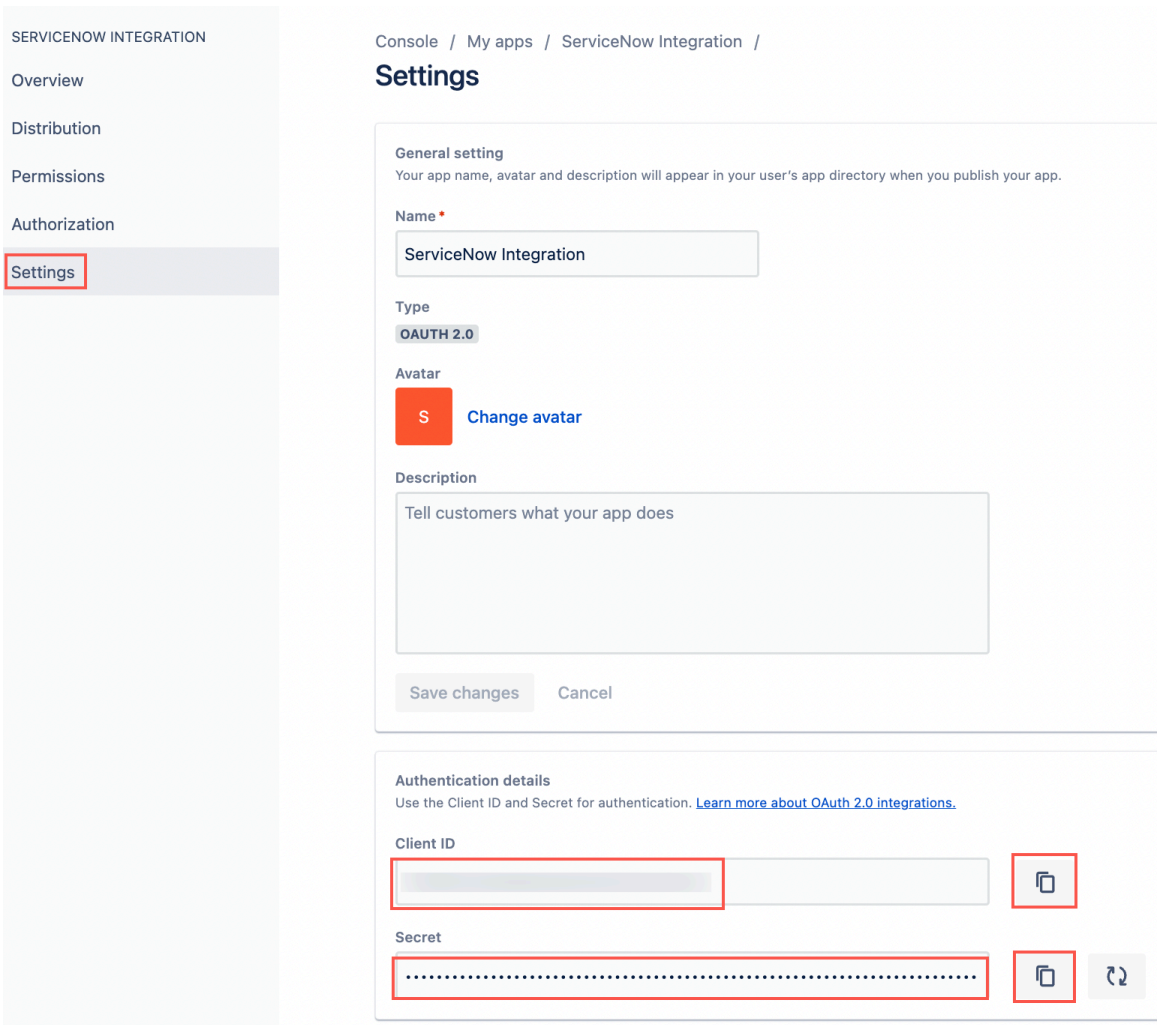
b. [コールバック **URL**] に、`https://<ServiceNow-Instance-Name>.service-now.com/oauth_redirect.do` の形式で ServiceNow インスタンスの URL を入力します。
例：`https://example.service-now.com/oauth_redirect.do`



c. [変更を保存] をクリックします。

5. [設定] をクリックします。

[認証の詳細] で、[クライアント **ID**] と [クライアントシークレット] の値をコピーします。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [権限] をクリックします。

   a. [クラシックスコープ **(Classic scopes)**] では、必ず以下のスコープを選択してください。
      - manage:jira-configuration
      - manage:jira-project
      - manage:jira-webhook
      - read:jira-work
      - read:jira-user
      - write:jira-work

   b. [詳細スコープ **(Granular scopes)**] では、必ず以下のスコープを選択してください。
      - delete:sprint:jira-software
      - read:issue-details:jira
      - read:jql:jira
      - read:sprint:jira-software
      - write:sprint:jira-software
      - read:board-scope:jira-software
      - read:project:jira

   要件に応じて他のスコープを構成できます。

クラウド **ID** の値の取得

Jira クラウドインスタンスのクラウド ID の値を取得します。この値は、ServiceNow インスタンスの接続レコードを構成するときに必要です。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. アドミニストレーターとして Atlassian[管理] にログインします。
2. 必要な組織で [選択] をクリックします。
3. **Jira** ソフトウェア製品から、[製品アクセスの管理 **(Manage product access)**] をクリックします。
   新しいウィンドウが開き、URL が `https://admin.atlassian.com/s/<Cloud-ID>/apps` の形式になります。
4. 後で使用するためにクラウド ID の値をコピーします。

ServiceNow インスタンスでのアプリケーションレジストリの作成

OAuth 2.0 統合の作成中に生成された情報を使用して、ServiceNow インスタンスでアプリケーションレジストリレコードを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「どのような OAuth アプリケーションですか？」というメッセージが表示されます。
3. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択します。
4. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
名前	アプリケーションレジストリレコードを識別する名前です。例：`Jira クラウド OAuth アプリレジストリ`。
クライアント ID	Atlassian 開発者コンソールで OAuth 2.0 統合を作成したときに生成されたクライアント ID。
クライアントシークレット	Atlassian 開発者コンソールで OAuth 2.0 統合を作成したときに生成されたクライアントシークレット。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可のタイプ。[認証コード] を選択します。
認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイントです。「`https://auth.atlassian.com/authorize`」と入力します。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイントです。「`https://auth.atlassian.com/oauth/token`」と入力します。
リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイント。アプリケーションレジストリの保存時に URL が生成されます。
リフレッシュトークン URL	トークンを更新する URL です。「`https://auth.atlassian.com/oauth/token`」と入力します。 **注:** このフィールドはフォーマットのレイアウトで非表示になります。フォームレイアウトを設定してこのフィールドを表示します。

5. **[OAuth** エンティティスコープ] タブで、以下のエンティティスコープレコードを作成します。

名前	**OAuth** スコープ
`delete:sprint:jira-software`	`delete:sprint:jira-software`
`manage:jira-configuration`	`manage:jira-configuration`
`manage:jira-project`	`manage:jira-project`
`manage:jira-webhook`	`manage:jira-webhook`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	OAuth スコープ
offline_access	offline_access
read:issue-details:jira	read:issue-details:jira
read:jira-user	read:jira-user
read:jira-work	read:jira-work
read:jql:jira	read:jql:jira
read:sprint:jira-software	read:sprint:jira-software
write:jira-work	write:jira-work
write:sprint:jira-software	write:sprint:jira-software
read:board-scope:jira-software	read:board-scope:jira-software
read:project:jira	read:project:jira

6. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
7. **[OAuth** エンティティプロファイル] タブをクリックして、デフォルトのレコードを開きます。
例：**Jira OAuth** プロファイル。
8. **[OAuth** エンティティプロファイルスコープ] で、同じエンティティスコープが指定されていることを確認します。
または、新しい行を挿入し、以前に **[OAuth** エンティティスコープ] タブで指定したものと同じエンティティスコープを選択します。
9. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

Jira スポークの認証情報レコートを作成

Jira アカウント用の認証情報レコードを作成します。Jira スポーク接続および資格情報エイリアスでは、この認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	Jira スポークの認証情報レコードを識別する名前です。例：Jira クラウド OAuth 認証情報
OAuth エンティティプロファイル	アプリケーションレジストリレコードの構成時に作成されるデフォルトの OAuth エンティティプロファイルレコードです。

5. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JiraSpoke の接続レコードを作成します。

Jiraアカウントの接続レコードを作成します。接続および資格情報エイリアスでは、この接続を使用して Jira でアクションを実行します。

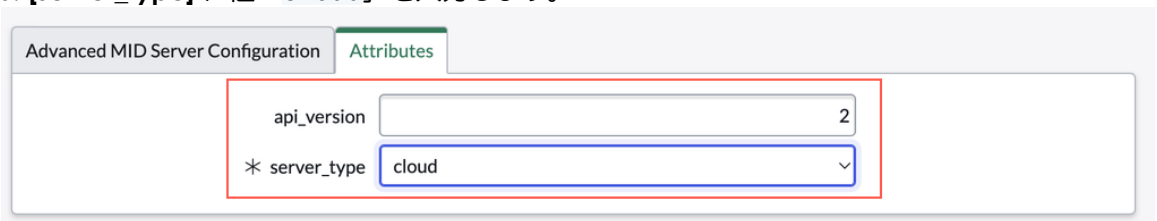
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. スポークに付属している **Jira** のエイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。
4. 次の値を入力し、[送信] をクリックします。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`Jira クラウド OAuth 接続`」と入力します。
認証情報	Jira 用に作成された認証情報レコードを選択します。たとえば、**[Jira クラウド OAuth 認証情報]** を選択します。
接続 URL	Jira インスタンスの URL を `https://api.atlassian.com/ex/jira/<Cloud-ID>` の形式で入力します。 クラウド ID の値の取得については、「クラウド ID の値の取得」を参照してください。

5. [属性] 関連リストで、次の値を入力します。
   a. **[api_version]** に値「`2`」を入力します。
   b. **[server_type]** に値「`cloud`」を入力します。



6. [送信] をクリックします。
7. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
8. Jira スポーク用に作成された認証情報レコードを開きます。
   例：**Jira OAuth** 認証情報。
9. [OAuth トークンの取得] 関連リンクをクリックします。
   新しいウィンドウで、Atlassian アカウントへのアクセスが要求されます。
10. [承認] をクリックします。
    Atlassian アカウントにアクセス権が付与され、リフレッシュトークンが利用可能であることを示す確認メッセージが ServiceNow インスタンスに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Jira Server の Jira スポークの設定

ServiceNow インスタンスと Jira Server インスタンスを統合し、ServiceNow からの要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Jira スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

ベーシック認証を使用して、Jira Server インスタンスの Jira スポークを設定することができます。このベーシック認証では、要件に応じて API キーまたはユーザー名とパスワードのいずれかを使用できます。

オプション 1：ユーザー名とパスワードを使用する

ユーザー名とパスワードを使用して ServiceNow インスタンスと Jira Server を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

ユーザー名とパスワードを使用して ServiceNow インスタンスを Jira サーバーと統合する方法を示します。

始める前に

必要なロール：admin

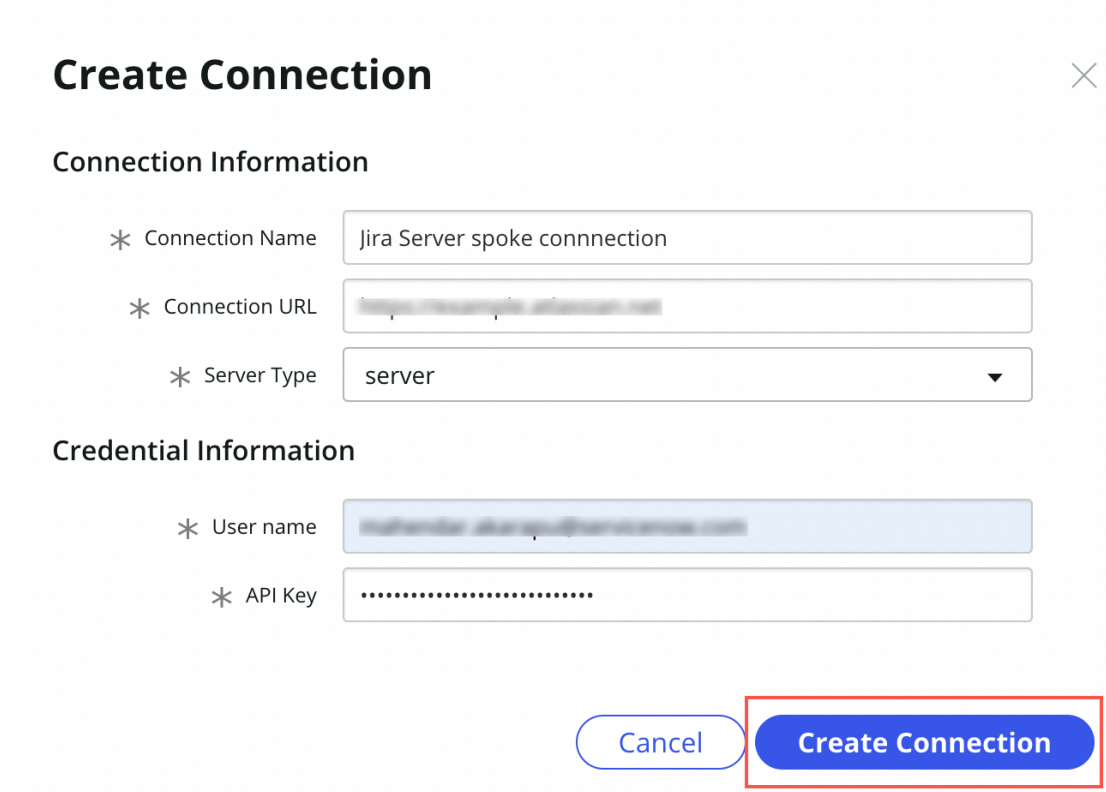
手順

1. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブをクリックします。
3. **Jira** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
   - Jira スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。
   - 複数の Jira スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

   スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。
4. [接続] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続を一意に識別する名前。例：`Jira Server` スポーク接続。
接続 URL	Jira インスタンスの URL です。
サーバータイプ	[サーバー] を選択します。
ユーザー名	関連付けられた Jira Server アカウントのユーザー名を入力します。
API キー	関連付けられた Jira Server アカウントのパスワードを入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [接続を作成] をクリックします。

オプション 2：**API** キーの使用

API キーを使用して ServiceNow インスタンスと Jira Server を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

API キーを使用して ServiceNow インスタンスと Jira サーバーを統合する方法を示します。

始める前に

必要なロール：admin

個人アクセストークンの生成

Jira Server インスタンスから個人アクセストークンを生成します。

始める前に

- Jira Server インスタンスにアクセスします。
- 必要なロール：admin

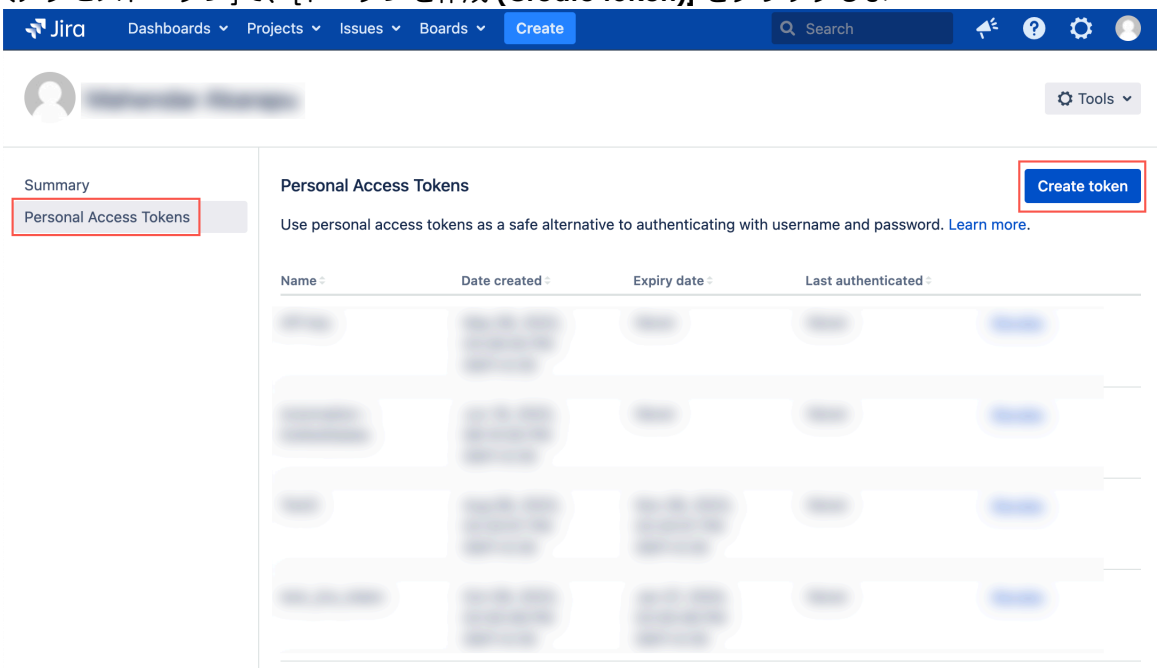
手順

1. アドミニストレーターとして Jira Server インスタンスにログインします。

2. [ユーザープロファイル] アイコンをクリックし、[プロファイル] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

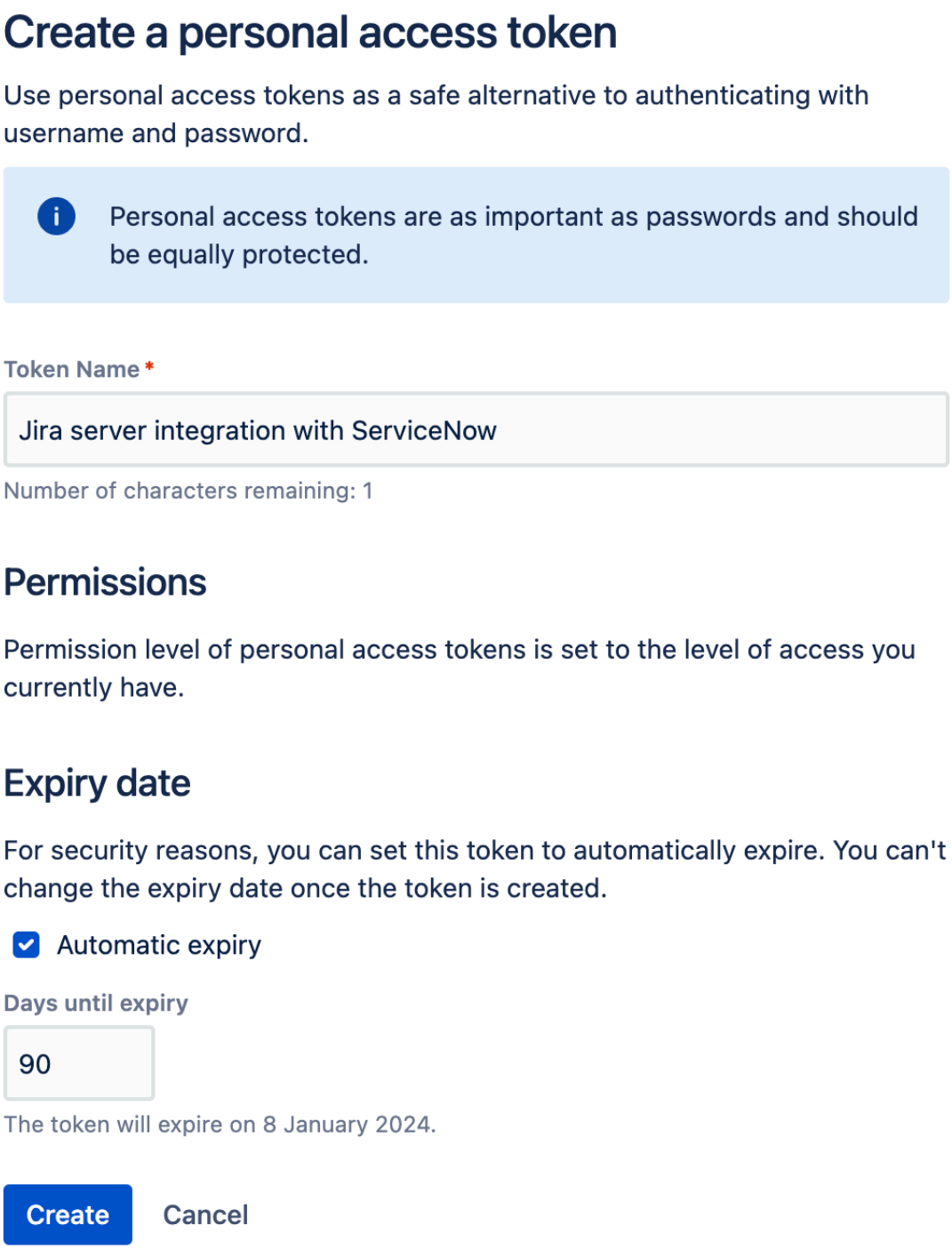
3. [個人アクセストークン]で、[トークンを作成 **(Create token)]** をクリックしま



す。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

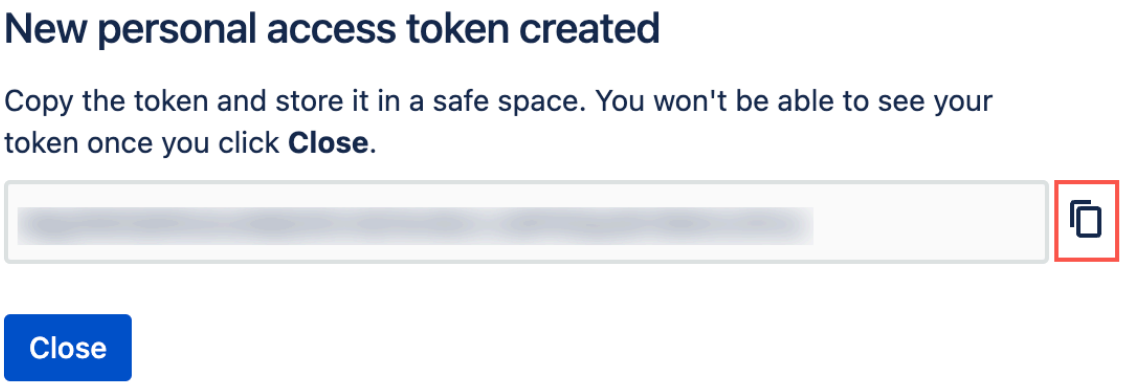
4. [個人アクセストークンを作成 (Create a personal access token)] フォームで、必要な値を入力しま



す。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

個人アクセストークンの値が生成され、表示されます。後で使用するためにこの値をコピーしま



す。

Jira スポークの認証情報レコードの作成

API キー認証情報レコードを作成し、ServiceNow からの要求を認証できるようにします。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報エイリアス] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   システムかに「作成する認証情報のタイプ」というメッセージが表示されます。
3. **[API** キー認証情報] を選択します。
4. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する名前です。 例：`Jira Server API Key Cred`
API キー	値を `Bearer <Personal Access Token>` 形式で入力します。 `<Personal Access Token>` は、Jira システムダッシュボードで作成した個人アクセストークンの値です。

5. [送信] をクリックします。

JiraSpoke の接続レコードを作成します。

Jiraアカウントの接続レコードを作成します。接続および資格情報エイリアスでは、この接続を使用して Jira でアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

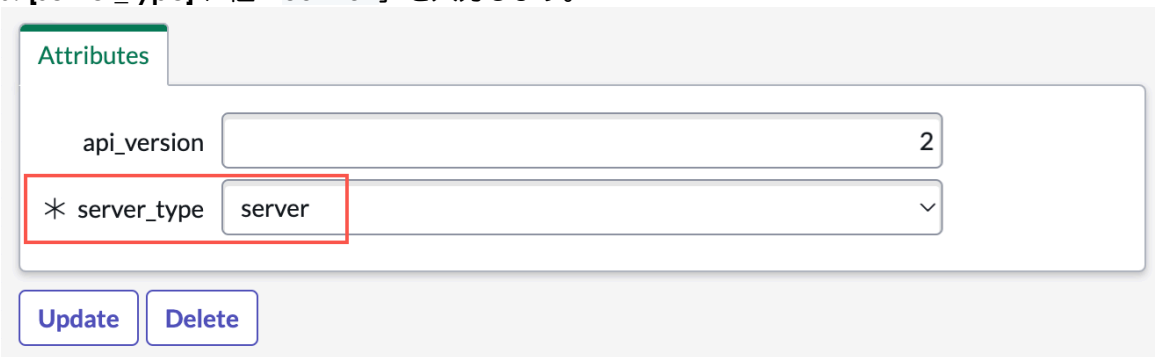
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. スポークに付属している **Jira** のエイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。
4. 次の値を入力し、[送信] をクリックします。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`Jira Server API キー接続`」と入力します。
認証情報	Jira 用に作成された認証情報レコードを選択します。たとえば、**[Jira Server API Key Cred]** を選択します。
接続 URL	Jira Server インスタンスの URL を入力します。

5. [属性] 関連リストで、次の値を入力します。
   a. **[api_version]** に値「`2`」を入力します。
   b. **[server_type]** に値「`server`」を入力します。



6. [送信] をクリックします。

Jira スポーク用双方向 Webhook の設定

ServiceNow コールバック URL で Jira を登録するための Webhook を設定します。

Jira スポーク用の双方向 Webhook の設定方法を説明します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Jira スポークの有効化
- 必要なロール：admin

トークンを作成

JiraWebhook URL に埋め込むトークンを作成します。

始める前に

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ナビゲーションフィルターで、`token_verification.list` と入力します。
   トークン検証テーブルにレコードが表示されます。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームの各フィールドに入力します。

トークン検証フォーム

フィールド	説明
名前	トークンを識別する一意の名前です。 例：`Jira トークン`
説明	トークンの説明です。
トークン	認証トークンです。このトークンは暗号化され、URL に埋め込まれます。

タスクの結果
JiraWebhook URL に埋め込むトークンが作成されます。

ServiceNowに JiraWebhook を登録

ServiceNowにJiraWebhook を登録して、Jiraでイベントが発生したときにServiceNowアプリに通知します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Jira Webhooks]** > **[Jira Webhook** レジストリ]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

Jira Webhook レジストリフォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前です。例：`Jira webhook`
説明	レコードの説明です。
トークン	認証トークンです。このトークンは暗号化され、URL に埋め込まれます。例：`Jira トークン`
パス	JiraWebhook パスです。デフォルトでは、このパスは `api/sn_jira_spoke/jira_webhook_callbacks/wh_entry` に設定されています。

4. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
5. [コールバック **URL]** をクリックします。
   Webhook コールバック URL が表示されます。
6. Webhook コールバック URL をコピーして記録します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
JiraWebhook がServiceNowインスタンスに登録されます。

Jira でのコールバック URL の追加

JiraAtlassian アカウントで Webhook コールバック URL を指定して、Webhook を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. JiraAtlassian アカウントにログインします。
2. Atlassian アカウント に Webhook を作成します。
3. **[URL]** フィールドに Webhook コールバック URL を入力します。
   Webhook を作成する手順については、Atlassian Developer Portal ドキュメントを参照してください。

タスクの結果
コールバック URL は Jira Atlassian アカウントに追加されます。要件に応じてルーティングポリシーとサブフローを作成できます。新しいルーティングポリシーとサブフローの作成の詳細については、「双方向 Webhook をカスタマイズ」を参照してください。

双方向 Webhook をカスタマイズ

要件に応じて、Webhook ルーティングポリシーとサブフローを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
Jira WebHook ルーティングポリシーモジュールのデフォルトのルーティングポリシーは、[Jira Webhook の処理] サブフローをトリガーし、Jira で特定のイベントが発生すると ServiceNow アプリに通知します。 デフォルトのルーティングポリシーとサブフローがサポートするフィールドについては、「Jira スポーク」を参照してください。カスタムサブフローで他のフィールドを使用し、ルーティングポリシーの条件をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

手順

1. [すべて] > [フローデザイナー] > [デザイナー] に移動します
2. [サブフロー] をクリックします。
3. デフォルトサブフローの Process Jira Webhooks のコピーを作成します。
4. 要件に応じてサブフローをカスタマイズし、公開します。サブフローを作成および使用する方法の詳細については「 サブフローのビルド 」を、またデフォルトのルーティングポリシーおよびサブフローがサポートするフィールドについては、「Jira スポーク」を参照してください。
5. **[Jira Webhooks]** > **[Jira Webhook** ルーティングポリシー]に移動します。
6. [新規] をクリックします。
7. フォームのフィールドに入力します。

意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
デフォルトの回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。 デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。 **a.** [ルックアップ] アイコン ( ) をクリックします。 **b.** ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。 注: [テーブル名] がフロー `[sys_hub_flow]` であることを確認します。
条件	Jiraで必須イベントが発生したときに満たされるべき条件です。サポートされているフィールドの詳細については、「Jirawebhooks」 を参照してください。
回答	指定された条件が満たされるとトリガーされるサブフローです。

8. [送信] をクリックします。

注: これらのルーティングポリシーは意思決定テーブルに保存されます。ユーザーは、これらのテーブルのデータを直接更新または変更しないように注意してください。

タスクの結果
ルーティングポリシーとサブフローが作成されます。

Jira スポークのトリガーの設定

必要なイベントについて、Jira スポークのトリガーを設定します。エンドポイントにより、Webhook が ServiceNow インスタンスに接続できるようになります。

始める前に
必要なロール：admin

ServiceNow インスタンスでトリガーを構成する

トークン認証をサポートする、Jira の Webhook のエンドポイントを構成します。

始める前に
必要なロール：flow_designer および connection_admin

手順

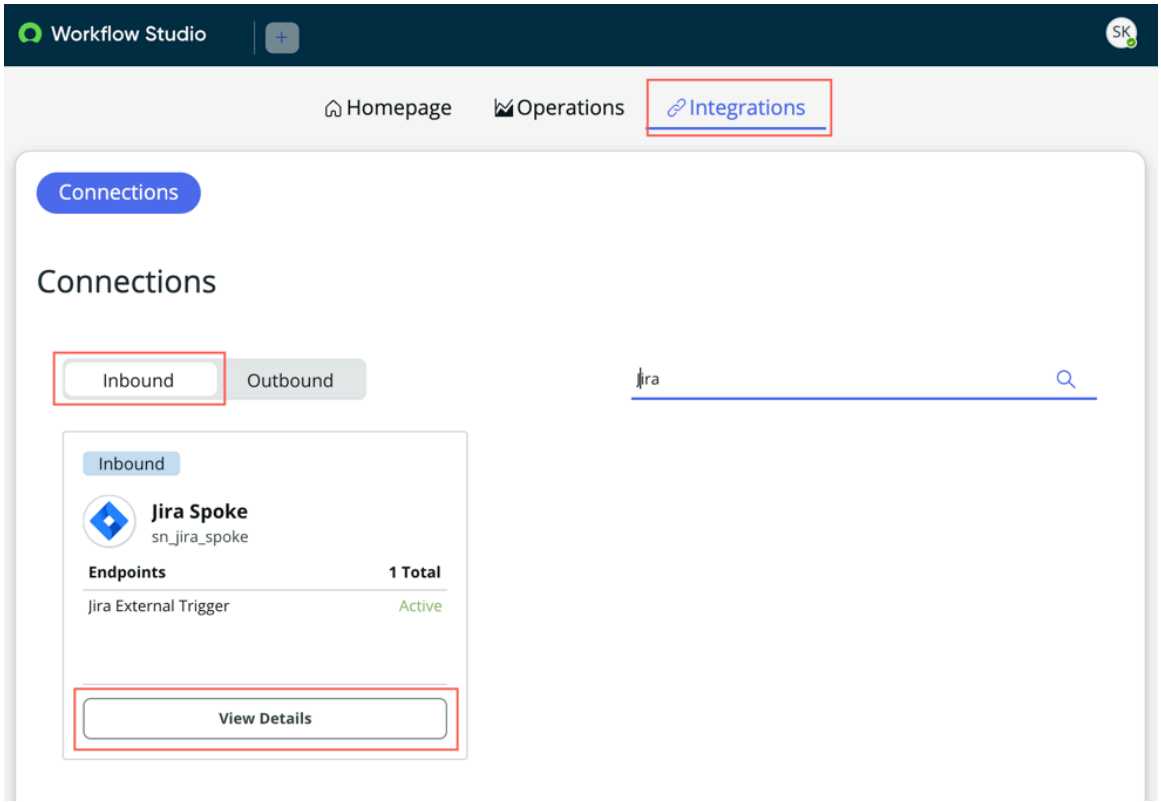
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ]に移動します。

2. [統合] タブをクリックします。

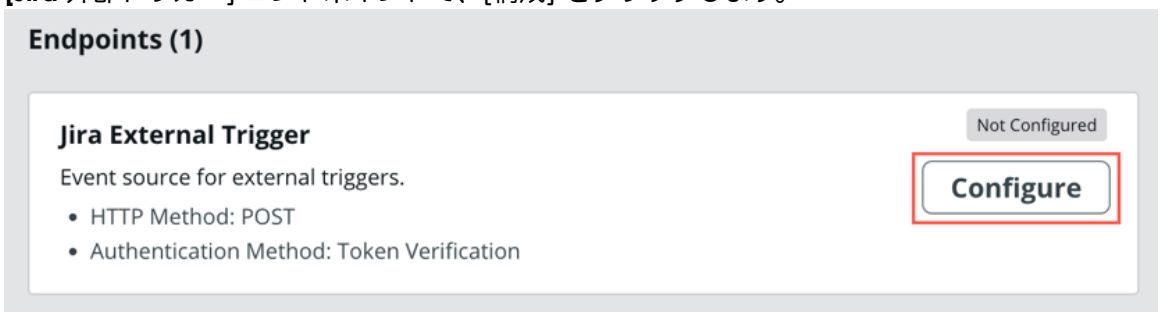
3. [受信] 接続を切り替えて有効にします。

4. [Jira スポーク] エンドポイントを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

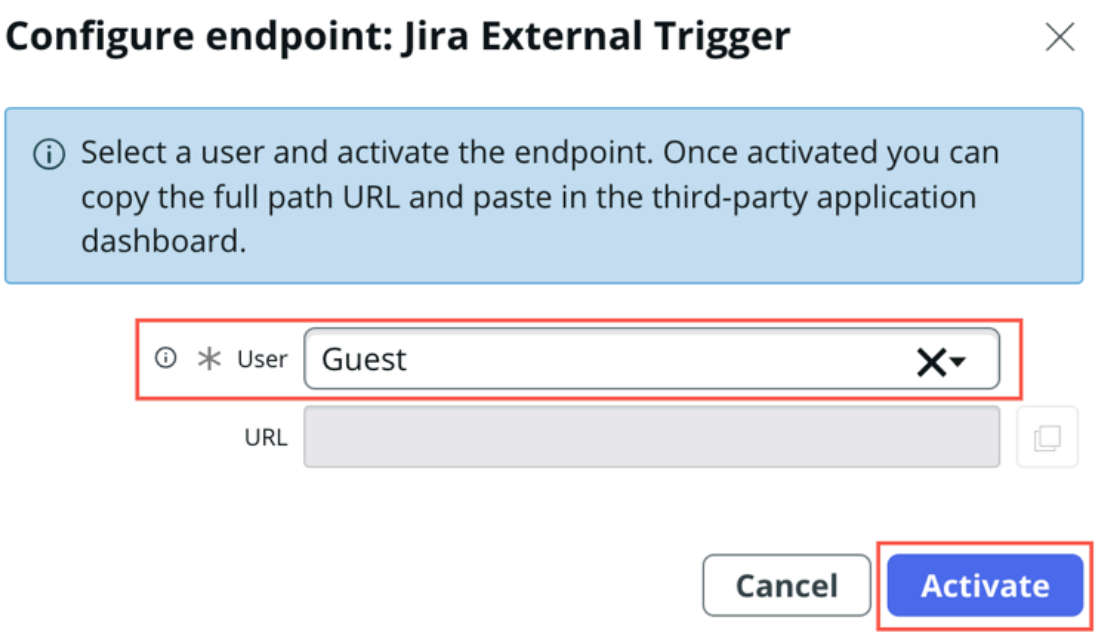
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. **[Jira** 外部トリガー] エンドポイントで、[構成] をクリックします。

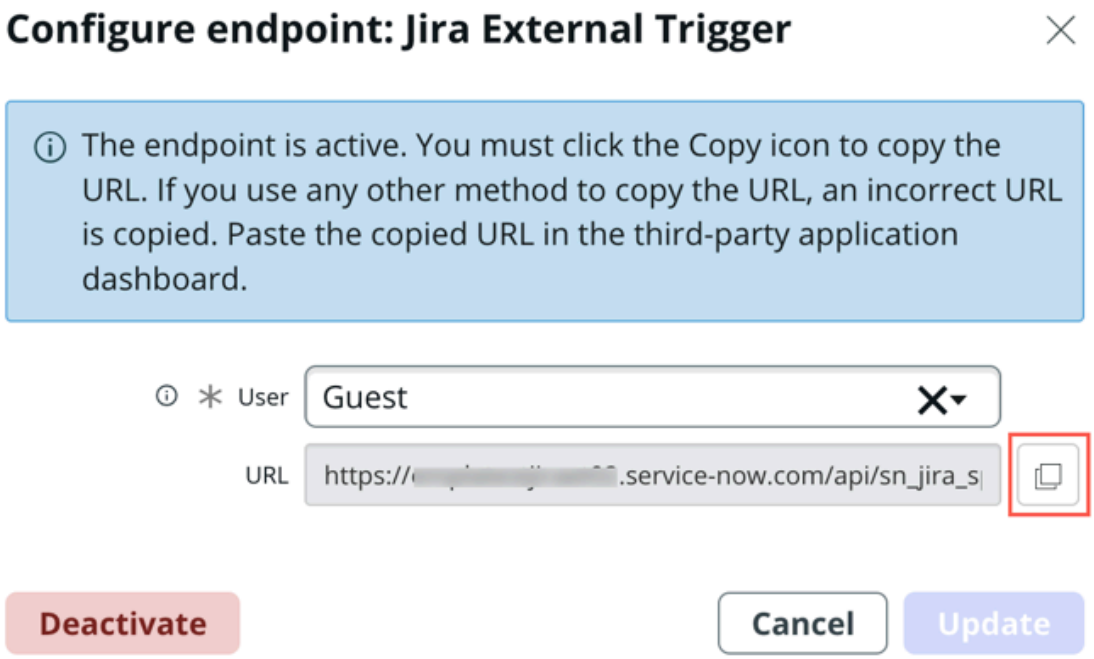


6. エンドポイントをトリガーできるユーザーを選択し、[アクティブ化] をクリックします。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. 生成されたエンドポイント URL をコピーします。



Jira のエンドポイント URL を追加する

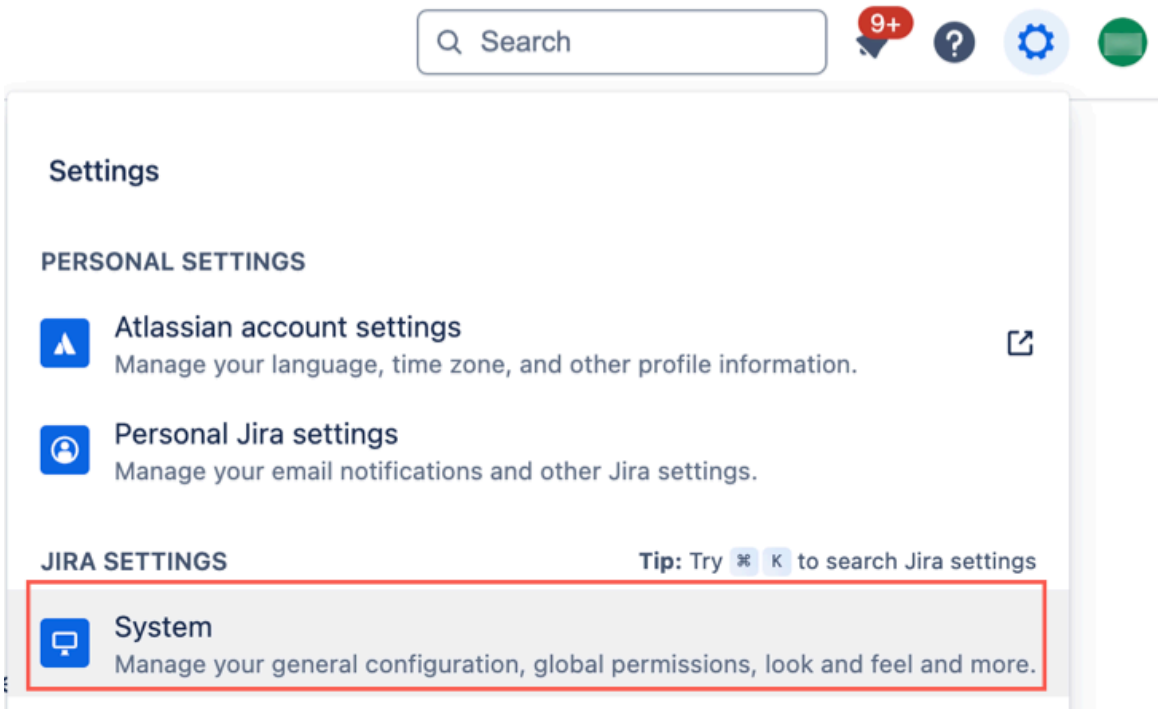
Jira Atlassian アカウントの ServiceNow インスタンスで生成されたエンドポイント URL を追加して、Webhook が ServiceNow インスタンスに接続できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. JiraAtlassian アカウントにログインします。
2. **[JIRA の設定 (JIRA SETTINGS)]** > [システム]に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



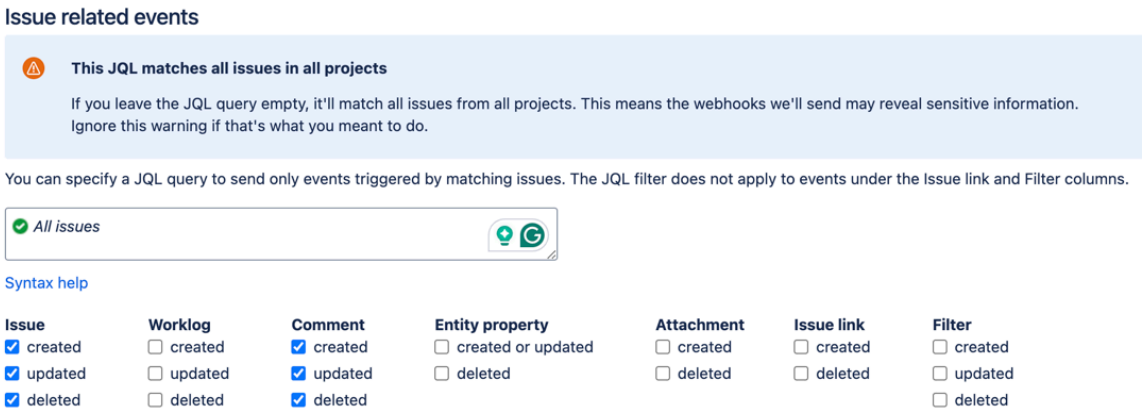
3. [詳細] の **[WebHooks]** をクリックします。
4. **[+Webhook** を作成] をクリックします。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
名前	Webhook を識別する名前です。
URL	ServiceNow インスタンスでトリガーを構成した後に生成されたエンドポイント URL を貼り付けます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. 要件に応じて、サポートされているイベントを選択します。

   サポートされているイベントのリストについては、「スポークのトリガー」セクションを参照してください。



7. [作成] をクリックします。

Kubernetes スポーク

ServiceNow でイベントが発生した際に、Kubernetes の変更を自動化します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート 」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要 」を参照てください。

スポークバージョン

Kubernetes スポークv1.2.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

API バージョン v1。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Kubernetes スポークでは、ServiceNowでイベントが発生したときに Kubernetes タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
エンドポイント管理	エンドポイントを作成	Kubernetes インスタンスにエンドポイントを作成します。
	エンドポイントを削除	Kubernetes インスタンスからエンドポイントを削除します。
名前空間管理	名前空間を作成	Kubernetes インスタンスに名前空間を作成します。
	名前空間を削除	Kubernetes インスタンスから名前空間を削除します。
ノード管理	ノードを作成	Kubernetes インスタンスにノードを作成します。
	ノードを削除	Kubernetes インスタンスのノードを削除します。
	ノードを検査	Kubernetes インスタンス内の指定されたノードを検査し、ノード情報とステータスを返します。
ポッド管理	ポッドを作成	Kubernetes インスタンスにポッドを作成します。
	ポッドを削除	Kubernetes インスタンスからポッドを削除します。
	ポッドを検査	Kubernetes インスタンス内の指定されたポッドを検査し、ノード情報とステータスを返します。
シークレット管理	Docker Hub シークレットを作成	Kubernetes インスタンスにシークレットを作成します。
	Docker Hub シークレットを削除	Kubernetes インスタンスからシークレットを削除します。
サービス管理	サービスを作成	Kubernetes サーバー上にサービスを作成します。
	サービスを削除	Kubernetes サーバーからサービスを削除します。
ボリューム管理	永続ボリュームを作成	Kubernetes インスタンスに永続ボリュームを作成します。
	永続ボリューム要求を作成	Kubernetes インスタンスに永続ボリューム要求を作成します。
	永続ボリュームを削除	Kubernetes インスタンスから永続ボリュームを削除します。
	永続ボリューム要求を削除	Kubernetes インスタンスから永続ボリューム要求を削除します。
	永続ボリューム要求を検査	Kubernetes インスタンス内の永続ボリューム要求を検査し、要求情報とステータスを返します。

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

AI エージェント	説明
Kubernetes エンドポイント管理 AI エージェント	Kubernetes インスタンスのエンドポイントを管理 (作成または削除) します。
Kubernetes 名前空間管理 AI エージェント	Kubernetes インスタンスの名前空間を管理 (作成または削除) します。
Kubernetes ノード管理 AI エージェント	Kubernetes インスタンスの指定されたノードを管理 (作成または削除) および検査します。
Kubernetes ポッド管理 AI エージェント	Kubernetes インスタンスの指定されたポッドを管理 (作成または削除) および検査します。
Kubernetes シークレット管理 AI エージェント	Kubernetes インスタンスのシークレットを管理 (作成または削除) します。
Kubernetes サービス管理 AI エージェント	Kubernetes インスタンスのサービスを管理 (作成または削除) します。
Kubernetes ボリューム管理 AI エージェント	• 永続ボリュームを管理 (作成または削除) します。 • 指定された永続ボリューム要求を管理 (作成または削除) および検査します。

ユースケースで使用されていない AI エージェントが、Now Assist アプリケーションとともにインストールされている場合があります。利用可能なすべてのエージェントを表示する方法については、「Find AI agents (AI エージェントの検索)」を参照してください。

Kubernetes アカウント要件

Kubernetes スポークでは、Web API キーを使用するために、Kubernetes アカウントを生成し構成する必要があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このスポークでは、Kubernetes エイリアスレコードを使用して、アクションを許可します。スポーク接続エイリアスを使用するには、関連付けられた接続レコードと関連付けられた認証情報レコードを作成します。スポークの設定については、「 Kubernetes スポークの設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。Kubernetes エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所およびMID サーバー選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー 」を参照してください。

Kubernetes スポークの設定

API キーを使用してServiceNowインスタンスと Kubernetes をデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Kubernetes スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Kubernetes API トークンと証明書を生成

API キー認証のために、Kubernetes アカウントからアクセストークンと証明書を生成します。

始める前に

Kubernetes 要件：

- Kubernetes アカウント。
- 必要なロール：Kubernetes がインストールされているホストマシンの認証情報を持つアドミン。

このタスクについて

Kubernetes ホストマシンからこれらの手順を実行します。API トークンとクライアント証明書を生成する手順については、Kubernetes ドキュメント を参照してください。

手順

1. Kubernetes ホストマシンから、Kubernetes API とやり取りするためのアクセストークンを生成します。
   このトークンには期限がありません。
2. アクセストークンをコピーして記録し、ServiceNowインスタンスに認証情報レコードを作成します。
3. ServiceNowインスタンスにアップロードするクライアント証明書を生成します。

Kubernetes クライアント証明書をアップロード

Kubernetes クライアント証明書をServiceNowインスタンスにアップロードして、Kubernetes ホストマシンへの API 要求を承認します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **LDAP]** > [証明書]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. フォームに記入し、**[PEM 証明書]** フィールドに証明書を入力します。
   証明書のアップロードの詳細については、「証明書をインスタンスにアップロードする」を参照してください。
4. [送信] をクリックします。

Kubernetes スポーク接続の構成

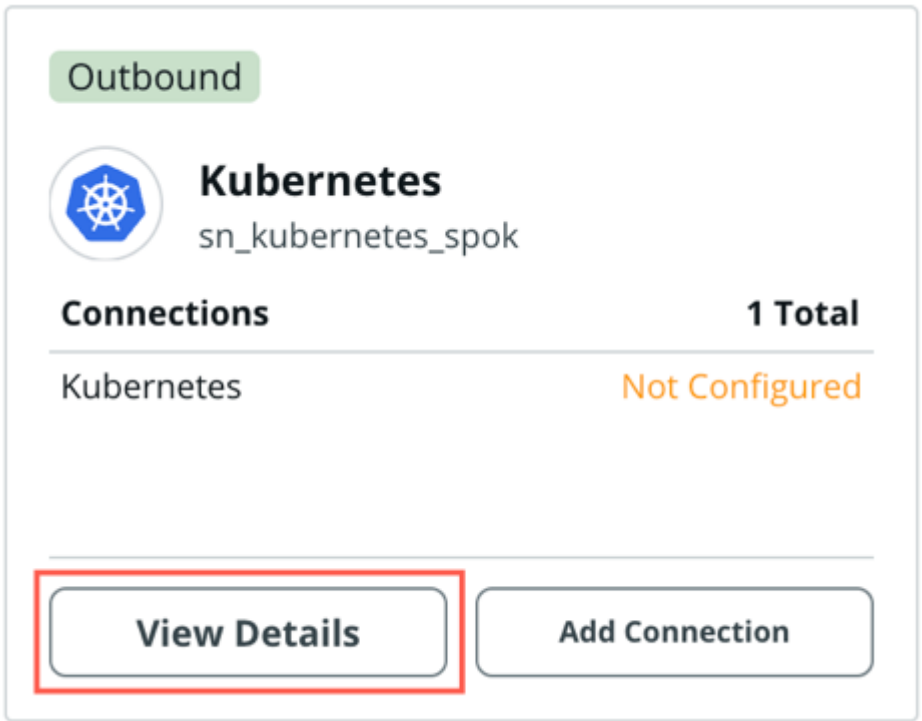
Kubernetes 接続を追加して構成し、Kubernetes スポークで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

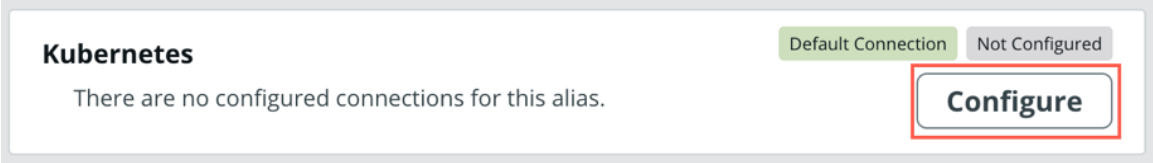
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. **[Kubernetes]** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
   - Kubernetes スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



   - 複数の Kubernetes スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

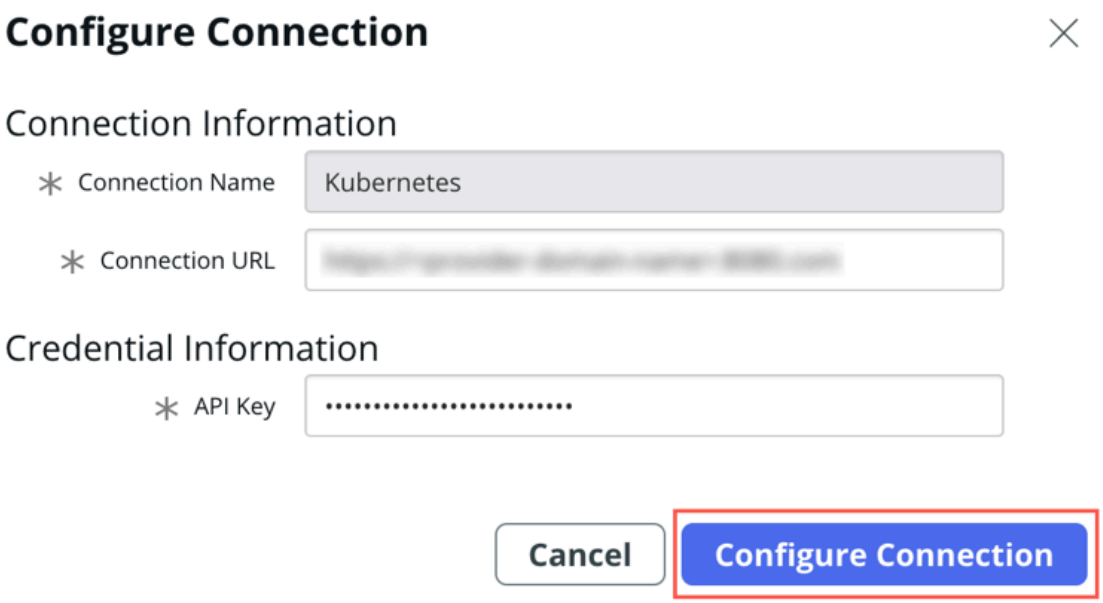
スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [接続] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	Kubernetes 接続エイリアスレコードを識別するための名前です。
接続 URL	Kubernetes がインストールされているホストマシンの IP アドレスとポートです。
API キー	Kubernetes から `Bearer {access token}` の形式で取得したトークンです。



6. [接続を設定] をクリックします。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

リモート SSL ホスト検証をオフにする

システムのプロパティによって、Kubernetes スポークが Kubernetes 応答を処理されないようにします。データ連携を有効にするには、*com.glide.communications.httpclient.verify_hostname*システムのプロパティを false に設定します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. アプリケーションナビゲーターで「`sys_properties.list`」と入力します。
   システムプロパティ [sys_properties] テーブルが開きます。
2. *`com.glide.communications.httpclient.verify_hostname`* システムプロパティを検索します。
3. 値を false に設定します。

Legal Tracker スポーク

Legal Tracker スポークを使用すると、Thomson Reuters Legal Tracker アプリケーションを ServiceNow® インスタンスとシームレスに統合して、法務部門が外部企業や社外弁護士とのエンゲージメントに関する事項を作成し、支出を追跡できるようになります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Legal Tracker Spoke v1.0.2 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow® 統合ハブアクションステップ — REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow® 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow® 統合ハブアクションテンプレート — Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポート対象のバージョン

Legal Tracker API (REST API v1)

スポークのアクション

Legal Tracker では、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに、以下のテーブルのタスクを自動化するアクションが提供されます。

注: 不正アクセスを防ぐために、必要なユーザーに、スポークアクションに対する最小限の特権を付与するようにしてください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
ユーザー管理	ユーザーストリームを検索	現在の会社のすべてのユーザーを取得します。
会社リスト	会社ストリームを検索	現在のユーザーがアクセスできる会社のリストを取得します。
場所管理	国ストリームを検索	OData フィルタークエリに基づいて国をクエリします。
データウェアハウスアクセス管理	組織単位ストリームを検索	すべてのエンティティを取得します。
	実務グループストリームを検索	すべての実務グループを取得します。
	実質法ストリームを検索	実質法からエンティティを取得します。
買掛金データ交換管理	AP ルートストリームを検索	ユーザーが利用できるすべての AP ルートを取得します。
事項管理	事項を作成	Legal Tracker アプリケーションで事項レコードを作成します。
	事項ステータスを検索	事項の既存のステータスを事項 ID 別に取得します。
	事項予算を検索	事項 ID、ソース、FirmID、firmType で指定した事項予算に関する情報を取得します。
	事項ストリームを検索	事項のリストを取得します。
	ID で事項を検索	事項に関する情報を事項 ID 別に取得します。
	テンプレートを検索	事項テンプレートのリストを取得します。
	テンプレートタイプを検索	事項テンプレートのタイプのリストを取得します。
	ID で事項フィールドを検索	事項フィールドをフォールド ID 別に取得します。
	事項財務を検索	事項の構成済み通貨で事項の合計支出と予算情報を取得します。

スポークユーザーロール

Legal Tracker スポークユーザー [sn_legal_trckr_spk.user] は、Legal Tracker スポークがインストールされている場合に使用できます。このロールは、Legal Tracker にアクセスするユーザーに必要です。

Legal Tracker online アカウント要件

Legal Tracker スポークでは、OAuth 2.0 トークンを生成するために、Legal Tracker アカウントが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Legal Tracker スポークの設定。

Legal Tracker スポークの設定

Legal Tracker 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Legal Tracker スポークを統合し、ServiceNow の法的要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Legal Tracker スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

OAuth プロバイダーとして **Legal Tracker** を登録

Legal Tracker を OAuth プロバイダーとして登録し、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようします。

始める前に

Legal Tracker OAuth プロバイダーを登録するには、次のセットアップが必要です。

- 統合ハブ サブスクリプション
- Legal Tracker アクセス認証情報
- Legal Tracker スポークはアクティブである必要があります。

必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow® インスタンスで、[すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ] の順に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. **[OAuth** アプリケーションの種類] ページで、[サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
名前	たとえば「Legal Tracker OAuth プロファイル」など、レコードを識別する一意の名前です。
クライアント ID	Legal Tracker アプリケーションのアプリケーション ID です。
クライアントシークレット	アプリケーションを作成したときに生成したクライアントシークレットです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
デフォルトの権限許可タイプ	このフィールドの値は [パスワード] である必要があります。
トークン URL	このフィールドの値は **https://api.thomsonreuters.com/auth/oauth2/token** である必要があります。値を入力するために、フィールドのロックを解除する必要がある場合があります。
リダイレクト URL	このフィールドの値は、**https://<your-instance>.service-now.com/oauth_redirect.do** である必要があります。値を入力するために、フィールドのロックを解除する必要がある場合があります。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。
   OAuth 認証情報が検証されます。

タスクの結果
Legal Tracker が OAuth プロバイダーとして登録され、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようになります。

次のタスク
Legal Tracker スポークの ServiceNow インスタンスとの統合。

Legal Tracker スポークの **ServiceNow** インスタンスとの統合

接続を作成して Legal Tracker アカウントに統合します。Legal Tracker スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Legal Tracker でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **[Legal Tracker]** を選択します。
3. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクを選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	必要な値
接続名	接続を識別する名前です。このフィールドは自動的に Legal Tracker スポークの接続に設定されます。
接続 URL	スポークに接続するための URL です。このフィールドは自動的に **https://api.thomsonreuters.com** に設定されます。
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。デフォルトでは、この値は **[Legal Tracker** スポーク認証情報 **(Legal Tracker Spoke Credential)]** ですが、変更可能です。
OAuth 名	OAuth エンティティプロファイルの名前です。このフィールドは自動的に Legal Tracker スポークの認証情報に設定されます。
OAuth クライアント ID	登録ポータルに登録した Legal Tracker アプリケーションのクライアント ID です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
OAuth クライアントシークレット	Legal Tracker ポータルにアプリケーションを登録したときに生成されたクライアントシークレット です。
OAuth リダイレクト URL	リダイレクト URL です。URL の形式は、https://<your-instance>.service-now.com/oauth_redirect.do です。

5. **[OAuth** トークンを作成して取得] を選択します。

タスクの結果
Legal Tracker スポークが設定され、ServiceNow インスタンスと統合されます。

Lenovo スポーク

ハードウェア資産の保証の詳細を Lenovo から取得します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークは Lenovo Warranty API v2.5 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Lenovo から提供されたクライアント ID が必要です。お持ちでない場合は、組織の Lenovo 営業担当者またはサービス担当者にお問い合わせください。

スポークの依存関係

Lenovoスポークは他のプラグインに依存しません。

スポークのアクション

Lenovo スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに資産保証のダウンロードを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

アクション	説明
資産保証のダウンロード	Lenovo Warranty API に接続して、資産の保証情報をダウンロードします。

注: Lenovo からの資産保証の詳細取得の情報については、「Lenovo との統合による資産保証の詳細の確認」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

Lenovo スポークでアクションを使用するには、認証と Lenovo への接続を行うために、接続と資格情報レコードを作成する必要があります。詳細については、「Lenovo スポークの接続と資格情報の作成」を参照してください。

Lenovo スポークの接続と資格情報の作成

Lenovo の接続と資格情報を作成し、Lenovo スポークの ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Lenovo スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

手順

1. [すべて] > [接続と資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]の順に移動します。
2. **[Lenovo]** を選択します。
3. [関連リンク] セクションから、[接続と資格情報の新規作成 **(Create New Connection and Credential)]** をクリックします。
4. オプション: [接続名] フィールドで、Lenovo の保証 API への接続用に、デフォルト接続名を変更します。
   デフォルトでは、このフィールドは **[Lenovo** 接続 **(Lenovo Connection)]** に設定されます。

   重要: [接続 URL] フィールドに指定されているデフォルトの URL は変更しないでください。

5. [クライアント **ID]** フィールドに、Lenovo から提供されたクライアント ID を入力します。
6. [作成] を選択します。

タスクの結果

Lenovo の接続が正常に作成され、[接続] タブに一覧表示されます。

Looker スポーク

最後のログインの時間とアクティビティセッションに基づいて使用状況を分析し、古いライセンスを特定することで、これらのライセンスを再利用して、見込まれる節減を実現できるようにすることにより、Looker のサブスクリプションを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Looker Spoke v1.0.0 が最新バージョンです。

スポークの要件

admin ロールを持つ Looker アカウントです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム入力 (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Lookerスポークでは、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにLookerタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ロール管理	ロールを検索	アカウントのすべてのロールを取得します。
ユーザー管理	ユーザーストリームを検索	アカウントのすべてのユーザーを取得します。
	ユーザーを更新	指定されたユーザーの詳細を変更します。
	ユーザーを削除	指定したユーザーと関連レコードをアカウントから削除します。
	ユーザー入力：動的	動的入力として使用するフィールドのリストを取得します。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Looker Spoke を設定。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Looker Spoke を設定

Looker 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Looker を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

LookerAPI キー設定を構成

LookerAPI キーを管理および取得するための API キー設定を構成します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Looker スポークを有効化します。
- 必要なロール：Looker admin

手順

1. Looker (https://<instancename>.looker.com/) インスタンスへ移動します。
2. 歯車アイコンを選択して、[アドミン設定 (Admin settings)] を開きます。
3. [ユーザー] > [アドミンユーザーアカウントを開く **(Open the admin user account)]**を選択します 。
4. [プロファイル] タブで **[API3** キーを編集 **(Edit API3 Keys)]** を選択します。
5. [新しい**API3** キー **(New API3 Key)]** を選択します。
6. 後で使用するために [クライアント ID (Client ID)] と [クライアント シークレット (Client secret)] をコピーします。

Lucidchart Diagramming スポーク

Lucidchart を使用してアーキテクチャ図を作成します。アプリケーションポートフォリオ管理 インスタンスを Lucidchart アカウントと統合して、APM から Lucid 図に直接アクセスします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Lucidchart Diagramming スポークバージョン 1.0。

サポートされているバージョン

Lucidchart API バージョン 1.0。

スポークの要件

Lucidchart Diagramming スポークでは、Lucid アカウントでワークスペースおよびカスタムアプリを作成し、Lucidchart Diagramming スポークの OAuth 2.0 トークンを生成する必要があります。「Lucidchart で OAuth 2.0 クライアントを作成する」および「Lucidchart Diagramming スポークの接続および資格情報エイリアスの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Lucidchart Diagramming スポークでは、ServiceNow® インスタンスから直接、Lucid アカウントにアクセスしてアーキテクチャ図を作成する [図を作成] アクションが提供されます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Lucidchart Diagramming スポークの接続および資格情報エイリアスの作成。

Lucidchart で **OAuth 2.0** クライアントを作成する

Lucidchart アカウントと ServiceNow インスタンスを統合します。Lucidchart でカスタム OAuth アプリケーションを作成し、ServiceNow の要求を認証します。

始める前に

- Lucidchartアカウント
- 必要なロール：Lucidchart admin

このタスクについて

Lucid アカウントでカスタム OAuth アプリケーションを作成し、Lucidchart Diagramming スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

手順

1. アドミン認証情報を使用して、Lucid アカウント (www.ucid.app) にログインします。
2. 左側のナビゲーションで、 [アドミン] をクリックします。
3. [アプリの統合 **(App Integration)]** > [全般]を選択します。
4. [カスタム OAuth (Custom OAuth)] カードで、[設定]をクリックします。
   [OAuth 2.0 クライアント (OAuth 2.0 Clients)] ページが表示されます。
5. クライアントの名前を入力し、**[OAuth 2.0** クライアントを作成 **(Create OAuth 2.0 Client)]** をクリックします。
6. [詳細] をクリックし、クライアント ID とクライアントシークレットの詳細を表示します。
   サードパーティ OAuth プロバイダーとして ServiceNow インスタンスでアプリケーションを登録するには、クライアント ID とクライアントシークレットの詳細が必要です。

タスクの結果

Lucid アカウントでカスタム OAuth アプリケーションが作成され、それを ServiceNow インスタンスと統合できます。

Lucidchart Diagramming スポークの接続および資格情報エイリアスの作成

Lucidchart アプリケーションの接続および認証情報レコードを作成します。Lucidchart接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Lucidchart スポークを有効化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Lucid API コンソールを使用してアプリケーションを登録し、クライアント ID とクライアントシークレットを記録します。詳細については、「Lucidchart で OAuth 2.0 クライアントを作成する」を参照してください。
- 必要なロール：ServiceNow admin

手順

1. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. Lucidchart レコードを開きます。
3. 「関連リンク」セクションで、[新しい接続および認証情報を作成] をクリックします。
4. ポップアップウィンドウでフィールドに入力します。

[接続および認証情報を作成] ポップアップウィンドウ

フィールド	説明
接続名	接続の名前。このフィールドは自動的に **Lucid Spoke Connection** に設定されます。
接続 URL	Lucid API への接続に使用される URL です。このフィールドは自動的に `https://api.lucid.co` に設定されます。
OAuth エンティティ名	OAuth エンティティプロファイルの名前です。このフィールドは自動的に **[Lucid** 認証情報 **(Lucid Credentials)]** に設定されます。
OAuth クライアント ID	Lucid API コンソールに OAuth クライアントアプリケーションを作成したときに生成されたクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	Lucid API コンソールに OAuth クライアントアプリケーションを作成したときに生成されたクライアントシークレットです。
OAuth 認証 URL	Lucid 認証 URL です。このフィールドは自動的に [https://lucid.app/oauth2/authorizeUser] に設定されます。
OAuth トークン URL	Lucid トークン URL です。このフィールドは自動的に [https://api.lucid.co/oauth2/token] に設定されます。
OAuth リダイレクト URL	リダイレクト URL です。このフィールドは自動生成値です。統合のために、この URL をコピーして Lucid OAuth クライアントに貼り付ける必要があります。URL フォーマットは `https://<your-instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` です。

5. **[OAuth** トークンを作成して取得] をクリックします。

タスクの結果

アプリケーションレジストリ、接続レコード、および認証情報レコードが ServiceNow インスタンスに作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Metrikus スポーク

Metrikus スポークは、職場に設置された各種センサー (占有センサー、空気質センサー、温度センサーなど) からデータを取得するアクションを提供します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには統合ハブのサブスクリプションが必要です。詳細については、Metrikus スポーク - 統合ハブの概要を参照してください。

サポートされているバージョン

このスポークは Metrikus Beta v1.0 用にビルドされました。

主な機能

Metrikus スポークをフローデザイナー統合ハブと統合します。Metrikus から占有センサーデータをフェッチし、以下を実現します。

- イベントデータの取得。たとえば、従業員が会議室に入室したとき、従業員がデスクを占有したときなどです。Metrikus からワークプレイスコネクタスペースレコードの占有データを取得します。
- 占有データの取得。
- 占有データは、自動予約チェックインの構成に使用されます。
- ワークプレイスサービスデリバリの場所ディレクトリには、選択した場所またはスペースの占有状況が表示されます。

スポークの要件

- Metrikus ログイン認証情報があることを確認している。
- Metrikus からクライアント ID とクライアントシークレットキーが提供されている。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム [com.glide.hub.integration.runtime]
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - OpenAPI [com.glide.hub.action_step.openapi]
- Metrikus スポーク [com.sn.wsd.metrikus.spoke]

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Metrikus スポーク は、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション

アクション	説明
スペースツリーを検索	Metrikus から場所階層とともにすべてのスペースを取得します。
スペース占有バッチを検索	スペースのバッチ (例：2000) を取得し、Metrikus からすべてのバッチの占有データを取得して結合し、マッピングします。
最新のデスク占有率を検索	バッチ内のデスク (例：2000) の占有データを取得します。
最新のスペース占有率を検索	バッチ内のスペース (例：2000) の占有データを取得します。
デスク占有バッチを検索	デスクのバッチ (例：2000) を取得し、占有データを取得して結合し、Metrikus スポーク とマッピングします。

スポークのサブフロー

Metrikus スポークでは、ワークプレイスコネクタ タスクの自動化をデモするためのサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
ID 別のすべての占有率を取得	ワークプレイスコネクタのスペースとデスクの両方の占有データを取得します。
ID 別、デスク別の占有率を取得	すべてのデスクの占有データを取得します。**[ID** 別のすべての占有率を取得 **(Get All Occupancy by Ids)]** サブフローによって呼び出されます。
スペース別の占有率を取得	すべてのスペースの占有率を取得します。**[ID** 別のすべての占有率を取得 **(Get All Occupancy by Ids)]** サブフローによって呼び出されます。

スポークユーザーロール

Metrikus スポークは、データへのアクセスを制御するためのシステムアドミニストレーターユーザーロールを提供します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

Metrikus スポークの設定

ServiceNow インスタンスと Metrikus スポークを統合します。Metrikus スポークの接続および資格情報エイリアスを作成し、ServiceNow 要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Metrikus スポーク プラグイン依存関係がアクティブ化されていることを確認します。
- Metrikus スポーク プラグイン (sn_wsd_metrikus_spoke) をアクティブ化します。
- Metrikus のクライアント ID とクライアントシークレットキー。
- 必要なロール：admin

Metrikus と ServiceNow インスタンスの統合

Metrikus アカウントへの接続レコードを作成します。Metrikus スポーク接続および資格情報エイリアスでは、こうした接続を使用して Metrikus でアクションを実行します。

手順

1. [すべて] > 統合ハブ > [接続および認証情報] > *Metrikus*に移動します。
2. [新しい接続と認証情報の作成] 関連リンクを選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

接続情報を入力します

フィールド	説明と必要な値
接続名	接続を識別する名前です。 このフィールドは自動的に Metrikus スポークの接続に設定されます。
接続 URL	Spoke に接続するための URL です。このフィールドは自動的に [https://nextgen-api.metrikus.io] に設定されます。

認証情報を入力します

フィールド	説明と必要な値
認証情報名	Metrikus スポーク認証情報の名前。 例：**Metrikus** 認証情報
トークン URL	トークンの URL アドレス https://nextgen-api.metrikus.io/oauth/token。
OAuth クライアント ID	登録ポータルに登録する Metrikus アプリケーションのクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	Metrikus ポータルに Metrikus アプリケーションを登録しているときに生成されたクライアントシークレットキー。

4. **[OAuth** トークンを作成して取得] を選択します。

Metrikus スポークが設定され、ServiceNow® Store インスタンスと統合されます。

次のタスク

[すべて] > ワークプレイスコネクタ > [プロバイダーコネクタ構成 **(Provider Connector Configuration)]**テーブルに移動します。このテーブルで提供されるワークプレイスコアの場所

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

は、Metrikus が提供する外部 ID にマッピングされます。Metrikus が提供する外部 ID は、ワークプレイスコネクタスペース占有データテーブルのワークプレイス占有データを取得するために変換されます。

Magnit スポーク

ServiceNow® Magnit スポークは、派遣就業者を Magnit アプリケーションから ServiceNow インスタンスにプルし、ServiceNow インスタンスから派遣就業者のオンボーディングタスクを作成します。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Magnit スポーク v1.1.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Magnit スポークアクションは、データを Magnit アプリケーションから ServiceNow インスタンスにプルするために使用されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

アクション	説明
デルタプルの相関 ID を検索	デルタプルの相関 ID をフェッチします。このアクションは、Magnit アプリケーション側から処理されます。
完全プルの相関 ID を検索	完全プルの相関 ID をフェッチします。このアクションは、Magnit アプリケーション側から処理されます。
派遣就労者ストリームを検索	[デルタプルの相関 **ID** を検索] または [完全プルの相関 **ID** を検索] は、完全なデータまたは部分的なデータをプルするために [派遣就労者ストリームを検索] アクションを経由します。

インストールされたスクリプトインクルード

以下のスクリプトインクルードは、Magnit アプリケーションとともにインストールされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Magnit のスクリプトインクルード

スクリプトインクルード	説明
MagnitErrorHandler	Magnit スポークアクションのエラーハンドラースクリプト。たとえば、アクションが失敗したときに表示する必要があるエラーメッセージが含まれています。
MagnitUtil	Magnit スポークアクションのユーティリティ機能。たとえば、必須入力を検証します。

Magnit OAuth の編集

Magnit OAuth フォームを編集して、アプリケーションレジストリ、認証情報、および接続を自動的に作成します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Magnit スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

注: Magnit スポークを有効にすると、接続および資格情報エイリアスのデフォルトレコードが使用可能になります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. Magnit スポークのレコードを開きます。
3. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。
4. [接続および認証情報レコードを作成] ウィンドウで、以下のフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを一意に識別する名前です。
接続 URL	Magnit インスタンスの URL です。
認証情報名	認証情報レコードを識別する一意の名前です。
OAuth 名	アプリケーションレジストリレコードを識別する名前です。
OAuth クライアント ID	Magnit から受信したクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	Magnit から受信したクライアントシークレットです。
OAuth トークン URL	トークン生成 URL

5. **[OAuth** トークンを作成して取得] をクリックします。
6. ユーザー名とパスワードを入力します。
7. **[OAuth** トークンを取得 **(Get OAuth Token)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Mastercard スポーク

ServiceNow インスタンスを Mastercard アカウントと統合し、カード異議申し立ての解決のため、Mastercard の API スイート、Mastercom にアクセスできるようにします。この統合により、トランザクションの検索、請求の作成、チャージバックの処理などのタスクを実行できます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「Legal schedules - 統合ハブ overview

スポークバージョン

Mastercard スポーク v2.0.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Mastercom v6 用にビルドされました。

主な機能

Mastercard スポークを使用すると、フローデザイナーで Mastercom を呼び出すアクションを使用して、ワークフローを構築できます。これには、次の機能が含まれます。

- トランザクションの検索
- 請求とチャージバックの作成
- マーチャントとの連携によるチャージバックの防止
- 異議申し立てライフサイクル全体にわたる異議申し立ての監視
- エンドツーエンドの異議申し立て管理プロセスの迅速化

スポークの要件

- 統合ハブサブスクリプション
- 証明書、キーエイリアス、コンシューマーキー、キーストアパスワードなど、Mastercard 構成の詳細

スポークの依存関係

これらの依存プラグインがインストールされていることを確認します。

- ServiceNow 統合ハブ ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Mastercard スポークは、カード異議申し立ての解決を簡素化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

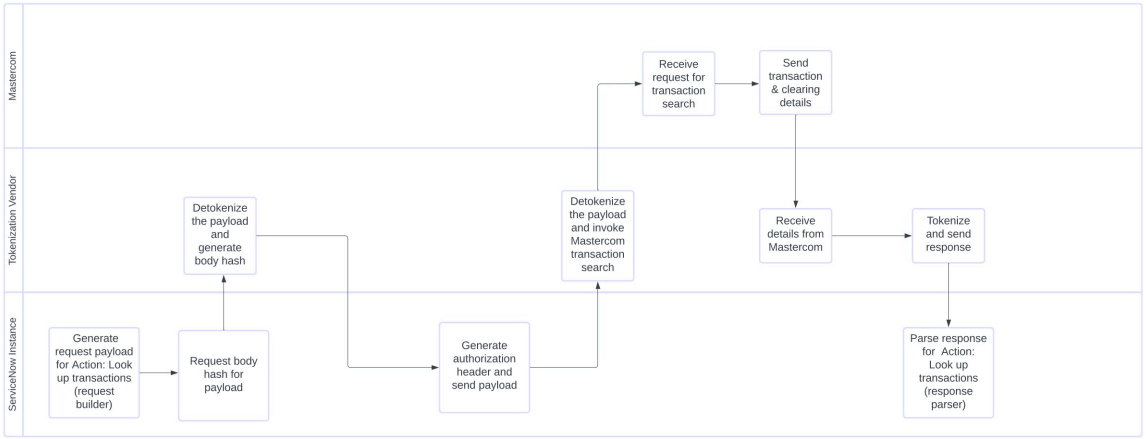
- 機密情報を含むアクション：これらのアクションには、要求と応答の本文に機密情報が含まれています。Mastercom API を使用する場合は、トークン化ソリューションを使用することをお勧めします。これには、リクエストを安全に作成するためのリクエストビルダーと、暗号化された API 応答を処理するためのレスポンスパーサーの使用が含まれます。

機密情報を含む **Mastercom** アクション

カテゴリ	アクション	説明
トランザクション	トランザクション承認の詳細を検索 (要求ビルダー)	発行者が請求を作成した後、請求に含まれる元のトランザクションの承認の詳細を発行者が検索できるようにします。
	トランザクション承認の詳細を検索 (応答パーサー)	
	トランザクションの清算の詳細を検索 (要求ビルダー)	発行者が、請求に含まれる元のトランザクションの清算の詳細を取得できるようにします。取得者がこれを使用して、元のトランザクションに関連付けられた清算の詳細を取得することもできます。
	トランザクションの清算の詳細を検索 (応答パーサー)	
	トランザクションを検索 (要求ビルダー)	発行者が元のトランザクションに関する情報を検索できるようにします。発行者はこの情報を使用して、元のトランザクションに対して、請求の作成などのアクションを実行できます。
	トランザクションを検索 (応答パーサー)	
クレーム	キュー内の請求を検索 (要求ビルダー)	発行者が、日付間隔要求ビルダー内のキューの請求のリストを取得できるようにします。
	キュー内の請求を検索 (応答パーサー)	
	請求 ID で請求の詳細を検索 (要求ビルダー)	発行者と取得者が、請求が関連付けられているケースを含む既存の請求の詳細を取得できるようにします。
	請求 ID で請求の詳細を検索 (応答パーサー)	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例は、トークン化ソリューションと統合する場合のソリューションの概要を示しま



す： • The sensitive infromation like PAN number from the Card Managment System will be tokenized by the tokenization vendor and stored in ServiceNow

- 機密でない情報を含むアクション - これらの Mastercom/Mastercom Extended API を ServiceNow インスタンスから直接呼び出すことができます。

機密でない情報を含む **Mastercom** アクション

カテゴリ	アクション	説明
Mastercom チャージバック管理	チャージバックを確認	チャージバックまたは 2 回目のプレゼントメントを確認すると、請求が未処理キューから作業済みキューに移ります。
	チャージバックを作成	サポートドキュメントをアップロードするオプション付きで、チャージバックと 2 回目のプレゼントメントを作成します。
	チャージバックのデータをロード	チャージバックを作成する前に、考えられる最初のチャージバックまたは 2 回目のプレゼントメントに関する情報を取得します。
	チャージバックドキュメントをルックアップ	チャージバックタイプに関連付けられた必要な形式でドキュメントを取得します。
	チャージバックイメージステータスをルックアップ	チャージバックについて、ステータス (完了、保留中、失敗、利用不可、または該当ドキュメントなし) のドキュメントを取得します。
	チャージバックのステータスを検索	請求 ID とチャージバック ID の特定のリストでドキュメントステータスを取得します。 **注:** 発行者と取得者は、1 回の要求で最大 2,000 のチャージバック ID を送信できます。
	チャージバックを取り消す	発行者または取得者がエラーでチャージバックを作成したときに、既存のチャージバックを取り消します。
	チャージバックを更新	既存のチャージバックをメモまたはドキュメント付きで更新します。
Mastercom 請求管理	請求を作成	このエンドポイントを使用して、回収要求または最初のチャージバックを作成する前に必要な請求を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	既存の請求に対するアクションを実行	このエンドポイントを使用して、既存の請求に対する操作 (再オープンまたはクローズ) を実行します。
Mastercom 不正管理	不正アイテムを作成	発行者がトランザクションは不正だったと判断した場合に不正アイテムを作成します。 注: Mastercom を使用すると、発行者は不正および損失データベースに不正アイテムを作成できます。ただし、発行者が不正アイテムをさらに更新するには、不正および損失アプリケーションを使用する必要があります。
	不正関連情報を検索	このエンドポイントを使用して、請求の不正アイテムを作成する前に、請求に関連付けられた不正関連情報を取得します。
Mastercom キュー管理	キュー名を検索	キュー名のリストを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「Mastercard スポークの設定」を参照してください。

Mastercard スポークの設定

安全な認証のための OAuth プロトコル (バージョン 1.0a) を使用して ServiceNow インスタンスを Mastercard アカウントと統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Mastercard スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

Mastercard 証明書を添付する

Mastercard アカウントの構成中に生成された証明書を使用して、要求とペイロードに署名します。

始める前に

- 有効な Mastercard 証明書
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [証明書]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

X.509 証明書フォームのフィールド

フィールド	説明
名前	証明書を識別する名前を入力します。
タイプ	証明書のタイプ[PKCS12 キーストア]を選択します。
期限切れ時に通知	証明書の有効期限が切れたときに通知されるユーザーのリストを選択します。
有効期限切れ前に警告	証明書の有効期限が切れる前にユーザーに通知を送信するときの日数を入力します。
キーストアパスワード	証明書にアクセスするためのパスワードです。証明書の作成時に指定した宛先キーストアのパスワードを使用します。
アクティブ	クライアント証明書をアクティブにするオプション。
簡単な説明	ユーザーのクライアント証明書の簡単な説明。

4. 添付ファイルを管理アイコン ( ) を選択して、Mastercard 証明書を添付します。
5. 証明書を検証するには、[ストア/証明書を検証] を選択します。
6. [送信] を選択します。

Mastercard スポークの接続レコードの作成

Mastercard アカウント設定の接続レコードを作成します。Mastercard スポーク接続および資格情報エイリアスでは、こうした接続を使用して、Mastercard でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Mastercard** のレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	必要な値
接続 URL	Mastercard インスタンスに接続するためのベース URL。例： ◦ Mastercom の場合、`https://sandbox.api.mastercard.com` ◦ Mastercom Extended の場合、`https://sandbox.dispute.mastercard.com`
認証情報	Mastercard 用に作成した認証情報レコード。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。
6. Mastercom の場合、[属性] 関連リストで **api_version** が `V6` に設定されていることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Mastercard スポークの認証情報レコードの作成

Mastercard アカウント設定用の認証情報レコードを作成します。Mastercard スポーク接続および資格情報エイリアスでは、こうした認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] を選択します。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[Mastercard 認証情報 (Mastercard Credential)]** を選択します。
   Mastercard 認証情報フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`Mastercard 認証情報`。
アクティブ	有効化
キーのエイリアス	Mastercard アカウントに関連付けられたキーエイリアス。
キーストアパスワード	証明書に関連付けられたパスワード
コンシューマーキー	Mastercard の構成中に生成されたコンシューマーキー。
証明書	新しく作成した Mastercard 証明書を選択します。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズムです。**[Mastercard]** を選択します。 **注:** デフォルトの認証アルゴリズムを直接変更しないように警告されます。

5. [送信] を選択します。

Microsoft 365 Excel スポーク

Microsoft OneDrive に保存されている Microsoft Office 365 の Excel ワークブックを ServiceNow インスタンスから管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Microsoft 365 Excel スポーク v1.0.4 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは、Microsoft Office 365 Excel v1.0 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Microsoft Azure ポータルアカウント
- Azure ポータルに登録されているアプリケーションのクライアント ID およびクライアントシークレット

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Microsoft 365 Excel Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

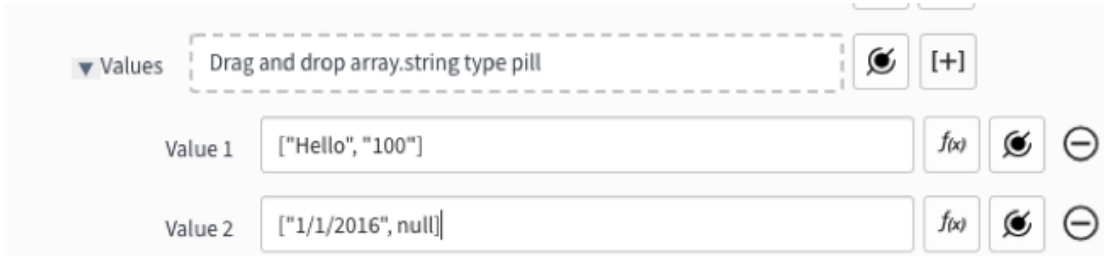
カテゴリ	アクション	説明
セルと範囲の管理	セルの詳細を取得	指定されたセルのプロパティを取得します。
	セルを取得	セルの選択された範囲のプロパティを取得します。
	セルを更新	選択されたセル範囲のプロパティを更新します。
テーブル管理	行を追加	指定されたテーブルに 1 つ以上の行を追加します。
	テーブルを作成	ワークシートにテーブルを追加します。
	テーブルセルを取得	テーブルセルの選択された範囲のプロパティを取得します。
	テーブルの詳細を取得	指定されたテーブルのプロパティを取得します。
	テーブルの列を検索	選択されたテーブル内の指定された範囲の列の詳細をリストします。
	テーブルの行を検索	選択されたテーブル内の指定された範囲の行の詳細をリストします。

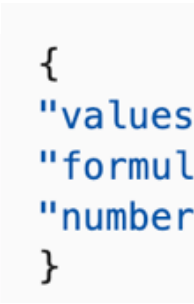
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
ワークブック管理	ワークブックを検索	指定されたフォルダー内のすべてのワークブックをリストします。
ワークシート管理	ワークシートを追加	ワークブックにワークシートを追加します。
	使用済みセルを取得	ワークシートの指定された範囲のセルのプロパティを取得します。
	ワークシートの詳細を取得	ワークシートのプロパティを取得します。
	ワークシートを検索	ワークブック内のすべてのワークシートをリストします。
	ワークシートを更新	ワークブックのワークシートを更新します。

注: 次の例に示すように、[セルを更新] および [行を追加] アクションの入力値を指定する必要があります。

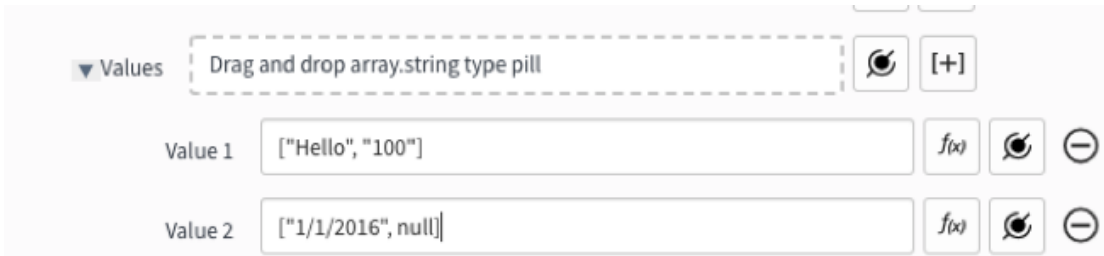
[行を追加] アクション：アクション入力値 1 はテーブルの最初の行に対応します。値 Hello と 100 は、それぞれ 1 列目と 2 列目の値に対応しま

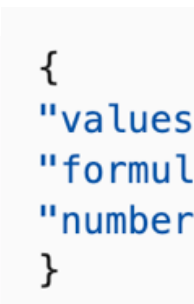




す。
クションの入力には、計算式、計算式 R1C1、ローカル計算式、数値形式の値を同じ形式で指定する必要があります。詳細については、[行を追加] を参照してください。

[セルを更新] アクション：アクション入力値 1 は範囲の最初の行に対応します。値 Hello と 100 は、それぞれ 1 列目と 2 列目の値に対応しま





す。
クションの入力には、計算式、計算式 R1C1、ローカル計算式、数値形式の値を同じ形式で指定する必要があります。詳細については、[範囲の更新] を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Microsoft 365 Excel Spoke を設定。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft 365 Excel Spoke を設定

OAuth 認証情報を使用して、ServiceNow インスタンスと Microsoft 365 Excel を統合し、ServiceNow 要求の認証を行います。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft 365 Excel スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Microsoft 365 Excel Spoke の認証情報レコードを作成します。

Microsoft Azure ポータルの認証情報レコードを作成します。 。Microsoft 365 Excel Spoke 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

- ServiceNow インスタンスを Microsoft Azure ポータル に登録し、クライアント ID とクライアントシークレットを記録します。また、offline_access、Files.ReadWrite.All、Files.ReadWrite の各スコープをアプリケーションの API 権限に追加します。詳細については、「クイックスタート：アプリケーションを Microsoft ID プラットフォームに登録する 」を参照してください。

  注: インスタンスのリダイレクト URI が、`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` のフォーマットである ことを確認します。

- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Microsoft_365_Excel** レコードを開きます。
3. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。
4. フォームに、これらの値を入力します。

接続と資格情報フォーム

フィールド	説明
接続名	接続の名前。このフィールドは、`Microsoft 365 Excel Spoke` 接続および資格情報に自動的に設定されます。
接続 URL	Microsoft Office 365 Excel に接続するために使用される URL です。このフィールドは自動的に `https://graph.microsoft.com/v1.0` に設定されます。
認証情報名	認証情報の名前です。このフィールドは、`Microsoft 365 Excel Spoke` 認証情報に自動的に設定されます。
OAuth エンティティ名	OAuth エンティティプロファイルの名前です。このフィールドは、`Microsoft 365 Excel Spoke OAuth` に自動的に設定されます。
OAuth クライアント ID	Azure ポータルに登録した Microsoft Office 365 Excel アプリケーションのクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	Azure ポータルで登録済みアプリケーションに要求するクライアントシークレットです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
OAuth リダイレクト URL	リダイレクト URL です。URL 形式は、`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` です。

5. **[OAuth** トークンを作成して取得] をクリックします。

Microsoft Dynamics 365 スポーク

Microsoft Dynamics 365スポークを使用して、Dynamics 365 のユーザーとアクティビティを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークは、Microsoft Graph: v1.0 および Microsoft Dynamics 365: v9.0 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークバージョン

Microsoft Dynamics 365 v1.0.8 が最新バージョンです。

スポークの要件

- Microsoft 管理センターでグローバル管理者と Microsoft Dynamics 365 管理者のロールを持っていることを確認してください。
- Azure AD で OAuth 2.0 アプリを作成し、OAuth 2.0 トークンを生成する必要があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNowIntegrationHub アクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Microsoft Dynamics 365 スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Microsoft Dynamics 365 タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ユーザー管理	ユーザーストリームを検索	組織内のすべてのユーザーを取得します。
	Dynamics CRM ユーザーストリームを検索	Microsoft Dynamics CRM システムへのアクセス権を持つすべてのユーザーの詳細を取得します。
	Dynamics オブジェクトスキーマを検索 (動的)	動的入力として使用される、指定されたエンティティ名のフィールドのリストを取得します。
SKU 管理	登録済み SKU を検索	組織が取得したすべてのサブスクリプションを取得します。
Audit Management	監査ログストリームを検索	システム内のすべての監査ログを取得します。
アクティビティポインター管理	アクティビティポインターストリームを検索	実行されたすべてのカレンダーアクティビティを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

「スポークの設定については、「 Microsoft Dynamics 365 の設定」および「Microsoft Azure Active Directory の設定」

このスポークには統合ハブのサブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

サポートされているバージョン

このスポークは、Microsoft Graph: v1.0 および Microsoft 365 Dynamics: v9.0 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Microsoft 管理センターでグローバル管理者と Microsoft Dynamics 365 管理者のロールを持っていることを確認してください。
- Azure AD で OAuth 2.0 アプリを作成し、OAuth 2.0 トークンを生成する必要があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Microsoft Dynamics 365 スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Microsoft 365 タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ユーザー管理	ユーザーストリームを検索	組織内のすべてのユーザーを取得します。
SKU 管理	登録済み SKU を検索	組織が取得したすべてのサブスクリプションを取得します。
Audit Management	監査ログストリームを検索	システム内のすべての監査ログを取得します。
アクティビティポインター管理	アクティビティポインターストリームを検索	実行されたすべてのカレンダーアクティビティを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

「スポークの設定については、以下を参照してください Microsoft Dynamics 365 の設定」

Microsoft Dynamics 365 の設定

Microsoft Dynamics 365 のシステムレベルの設定を行います。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 「https://admin.powerplatform.microsoft.com/」に進みます。
2. [環境] で、Dynamics アクティビティを引き出す環境を選択します。
   選択された環境の詳細が表示されます。
3. 上部のリボンから、[設定] をクリックします。
   [設定] ページが表示されます。
4. [監査とログ] をクリックします。
   監査設定セクションが表示されます。
5. 次のすべてのチェックボックスをオンにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 監査を開始
- ログアクセス
- ログを読み取る

6. [追加の監査設定] をクリックします。
7. [設定] リストから、[監査] を選択し、[グローバル監査設定] をクリックします。
8. 次のチェックボックスをオンにします。
   - 監査を開始
   - ユーザーアクセスを監査
   - 監査の読み込みを開始
   - 共通エンティティ
   - 営業エンティティ
   - カスタマーサービスエンティティ
9. **[OK]** をクリックします。

Microsoft AzureActive Directory を設定

Microsoft AzureActive Directory (AD) を設定します。

始める前に

必要なロール：Microsoft アドミンセンターのグローバルアドミニストレーターおよび Dynamics 365 アドミニストレーター。

手順

1. Microsoft Azureアプリ登録ページを開き、アドミンアカウントを使用してログインします。
2. **[+** 新規登録] をクリックします。
   [アプリケーションの登録] ページが表示されます。
3. [名前] フィールドに、登録するアプリケーションの名前を入力します。
4. [サポートされているアカウントの種類] で、必要な組織ディレクトリーを持つアカウントを選択します。
5. [登録] をクリックします。
6. 登録したアプリケーションを開き、[概要] セクションに移動します。
7. アプリケーション (クライアント) ID とアプリケーション (テナント) ID を収集します。
8. [証明書とシークレット] セクションに移動します。
9. 新しいクライアントシークレットを作成します。
10. クライアントシークレットキーを収集します。
    ServiceNowインスタンスを構成する際には、クライアントシークレットキーが必要になります。
11. [API 権限] で、**[+** 権限を追加] をクリックし、組織が使用する API を選択します。
12. [Microsoft Graph] を選択し、次の [アプリケーションのアクセス許可] を追加します。
    - `Organization.Read.All`
    - `User.Read.All`
    - `Offline_access`
13. [Dynamics CRM] を選択し、次の [アプリケーションのアクセス許可] を追加します。
    `user_impersonation`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

14. [同意を付与]で、[アドミンの同意を付与する] をクリックします。
15. [認証] セクションの [リダイレクト URI] で、ServiceNowインスタンスのリダイレクト URI を入力します。

Microsoft Active Directory スポーク

ユーザー、グループ、およびコンピューターなどの、Microsoft Active Directory 内のオブジェクトを作成、削除、および管理します。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

重要:

- Vancouver リリース以降、Microsoft Active Directory スポークは将来の廃止に備えて準備されます。これは非表示になり、新しいインスタンスではアクティブ化されなくなりますが、引き続きサポートされます。Microsoft Active Directory v2 スポークは、この機能の最新のエクスペリエンスを提供します。詳細については、Now Support ナレッジベースの「Deprecation Process (廃止プロセス) [KB0867184]」の記事を参照してください。
- このスポークは、ファミリーリリースの一部として利用可能です。このスポークは、コンピューターオブジェクトを処理するために使用できます。

スポークの要件

Microsoft AD がインストールされているサーバーに Active Directory Web Services (ADWS) が展開されていることを確認します。ADWS を展開する方法については、https://learn.microsoft.com/en-us/services-hub/unified/health/remediation-steps-ad/configure-the-active-directory-web-services-adws-to-start-automatically-on-all-servers を参照してください。

インスタンスでは MID サーバーをセットアップし、PowerShell を使用するように構成する必要があるため、MID サーバーはポート 9389 で ADWS にアクセスできる必要があります。

MID サーバーおよび Microsoft AD サーバーで、次の PowerShell コマンドを実行して Active Directory モジュールをインストールします。

```
PS> Import-Module ServerManager
PS> Install-WindowsFeature -Name RSAT-AD-PowerShell
```

スポークのフロー

Microsoft Active Directory スポークでは、Active Directory のタスクの自動化をデモするドラフトステータスのサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
ユーザーの退職	ServiceNow のユーザーレコードが無効化されたら、AD ユーザーアカウントを削除し、AD グループからユーザーを削除します。
ユーザーのオンボーディング	ServiceNow のユーザーレコードが有効化されたら、AD ユーザーアカウントを作成して有効にします。

スポークのサブフロー

このスポークにはサンプルサブフローがありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

イベントが Now Platform で発生したら、Microsoft AD スポーク は、Microsoft Active Directory のタスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
コンピュータ管理	コンピューターを作成	Active Directory に新しいコンピューターアカウントを作成します。
	コンピューターを削除	Active Directory からコンピューターを削除します。
	コンピュータを無効化	Active Directory でコンピューターアカウントを無効にします。
	コンピュータを有効化	Active Directory でコンピューターアカウントを有効にします。
	コンピューターの OU を取得	コンピューター アカウントの組織単位 (OU) を取得します。
	コンピュータが有効かどうか	Active Directory 内の指定したコンピューターアカウントのステータスを確認します。
	コンピューターを OU に移動	Active Directory でコンピューターアカウントの組織単位 (OU) を変更します。
グループ管理	グループにユーザーを追加	Active Directory のグループに既存の Active Directory ユーザーを追加します。
	グループを作成	Active Directory にグループを作成します。
	グループを削除	Active Directory からグループを削除します。
	ルックアップグループ	グループのカテゴリ、範囲、および識別名など、Active Directory の特定のグループの詳細を取得します。
	グループからユーザーを削除	Active Directory のグループから既存のユーザーを削除します。
パスワード管理	ユーザーパスワードを変更	AD のユーザーパスワードを変更します。パスワード入力は、Active Directory のパスワード要件に準拠する必要があります。
	ユーザー アカウントがロックされているか	Active Directory 内の指定したユーザーアカウントのロックステータスを確認します。
	AD ユーザーパスワードをリセット	Active Directory のユーザーのパスワードをリセットします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
ユーザー管理	ユーザーを作成	パスワードを持たないユーザーを Active Directory に作成します。ユーザーがパスワードを設定できるようにするには、AD にログインし、ユーザーのデフォルトのパスワードを作成し、パスワードリセットを有効にします。
	ユーザーを削除	Active Directory からユーザーを削除します。
	ユーザーを無効化	Active Directory でユーザーアカウントを無効にします。
	ユーザーを有効化	Active Directory でユーザーアカウントを有効にします。
	ユーザーが有効かどうか	Active Directory 内のユーザーアカウントのステータスを確認します。
	グループ内のユーザーか	既存の Active Directory ユーザーが Active Directory のグループのメンバーかどうかを確認します。
	ルックアップユーザー	Active Directory の特定のユーザーの詳細を取得します。
	AD アカウントのロックを解除	Active Directory でユーザーアカウントのロックを解除します。
	ユーザーを更新	Active Directory のユーザー属性を更新します。
	ユーザーのホームの場所を更新	Active Directory のユーザーのホームディレクトリーを更新します。
オブジェクト管理	AD オブジェクトを作成	Active Directory でサポートされている任意のタイプのオブジェクトを作成します。
	AD オブジェクトを削除	Active Directory から任意のタイプのオブジェクトを削除します。
	クエリ AD	検索フィルターに指定されたオブジェクトを AD で照会します。
	AD オブジェクトの OU を更新	Active Directory でオブジェクトの組織単位 (OU) を変更します。
	AD オブジェクトの有効期限を更新	Active Directory のオブジェクトのアカウント有効期限を更新します。

MID サーバーの要件

これらのアクションを使用するには、MID サーバーをセットアップし、PowerShell を使用するように構成する必要があります。MID サーバーでのアクションの実行の詳細については、「統合ステップ」を参照してください。詳細については、「MID サーバー」を参照してください。

注: MID と Microsoft Active Directory は別々のサーバーにインストールする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークでは、AD エイリアスレコードを使用して、Microsoft Active Directory のアクションを許可します。

接続エイリアス	説明	接続 URL
AD	Microsoft Active Directory への接続。	Microsoft Active Directory がインストールされているホストマシンの URL。

スポークの設定については、「 Microsoft Active Directory スポークの設定。

Microsoft Active Directory スポークの設定

Windows 資格情報を使用して、ServiceNowインスタンスと Microsoft AD アカウントをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft Active Directory スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

Microsoft AD スポーク の認証情報レコードの作成

Microsoft Active Directory ホストの認証情報レコードを作成します。Microsoft AD スポーク 接続および資格情報エイリアスでは、この認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[Windows** 資格情報] を選択します。
   空の Windows 資格情報フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`AD` 認証情報」と入力します。
有効	有効化

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
ユーザー名	ターゲット Windows ホストへのアクセス権を持つユーザー名を入力します。Windows の権限の詳細については、「Windows 資格情報」を参照してください。
パスワード	アカウントのパスワードを入力します。
適用先	この認証情報を使用できる MID サーバーを選択します。たとえば、[すべての **MID** サーバー] を選択します。
順番	この認証情報を適用する順番を選択します。たとえば、「`100`」と入力します。

5. [送信] をクリックします。

Microsoft AD スポーク の接続レコードの作成

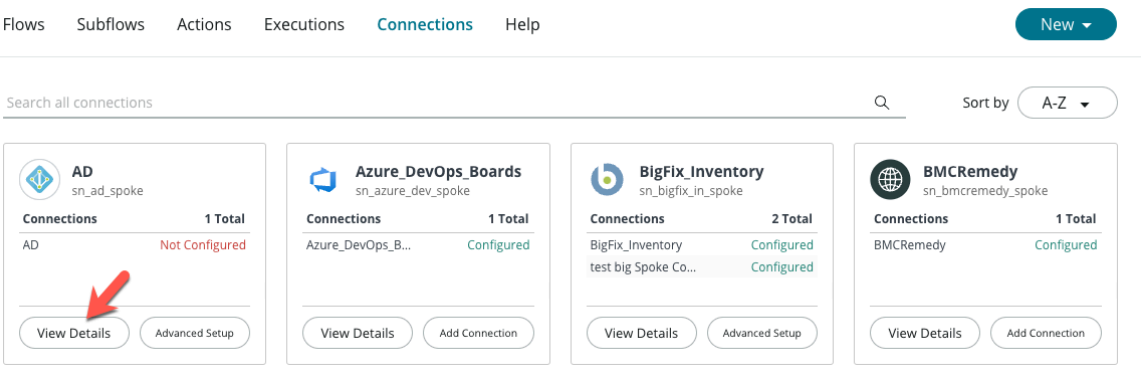
Microsoft Active Directory ホストマシンへの接続レコードを作成します。Microsoft AD スポーク接続および資格情報エイリアスでは、この接続を使用して Microsoft Active Directory でアクションを実行します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Microsoft AD スポーク の認証情報レコードの作成
- 必要なロール：admin

手順

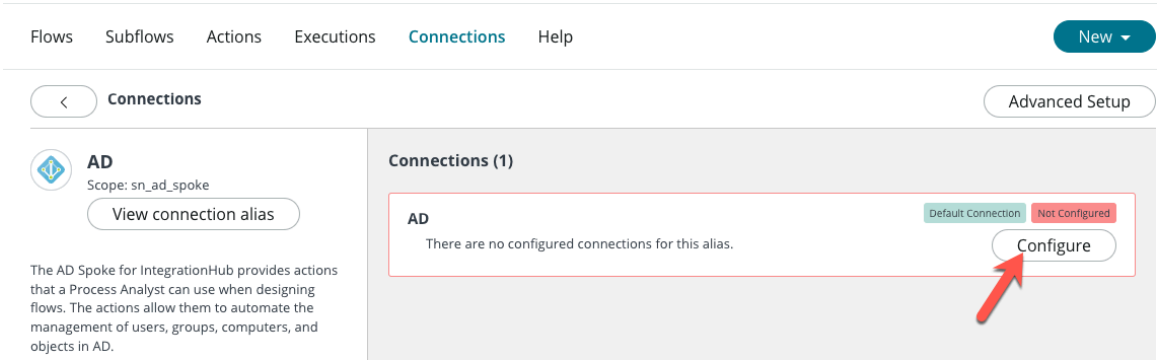
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] をクリックします。
3. AD カードで、[詳細を表示] をクリックします。



す。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [構成] をクリックしま



す。

5. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「AD 接続」と入力します。
認証情報	Windows Active Directory 用に作成した認証情報レコードを選択します。たとえば、**Azure AD** 認証情報を選択します。
ホスト	Microsoft Active Directory がインストールされているターゲットホストの完全修飾ドメイン名を入力します。たとえば、「<host>.<domain>.com」と入力します。
MID サーバーを使用	有効化
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	接続で使用されるターゲットポートを入力します。空白の場合は、デフォルトのポートが使用されます。

6. [送信] をクリックします。

Microsoft Active Directory v2 スポーク

ユーザー、グループ、コンピューターなどの、Microsoft Active Directory 内のオブジェクトを作成、削除、および管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Active Directory v2 スポーク v2.4.0 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Microsoft Active Directory のためにビルドされました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

Microsoft Active Directory がインストールされている同じサーバーに Active Directory Web サービス (ADWS) が展開されていることを確認します。MID サーバーは、ポート 9389 で Active Directory Web サービス (ADWS) にアクセスできます。ADWS の展開の詳細は、Microsoft ドキュメントを参照してください。

MID サーバー および Microsoft Active Directory v2 サーバーで、次の PowerShell コマンドを実行して Active Directory モジュールをインストールします。

```
PS> Import-Module ServerManager
PS> Install-WindowsFeature -Name RSAT-AD-PowerShell
```

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- IHUB スポークユーティリティパック (com.snc.ihub_spoke_util_pack)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - PowerShell (com.glide.hub.action_step.powershell)

注: スポーク実装の外部で使用する場合、これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、ライセンスが必要です。

スポークのアクション

Microsoft Active Directory v2 スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
グループ管理	コンピューターをグループに追加	Active Directory (AD) 内の 1 つ以上のグループにコンピューターアカウントを追加します。
	コンピューターをグループに追加	Active Directory (AD) 内の 1 つ以上のコンピューターアカウントをグループに追加します。
	グループにユーザーを追加	Active Directory (AD) 内の 1 つ以上のグループにユーザーを追加します。
	グループにユーザーを追加	Active Directory (AD) 内の 1 つ以上のユーザーアカウントをグループに追加します。
	グループを作成	Active Directory (AD) にグループを作成します。
	グループを削除	Active Directory (AD) からグループを削除します。
	グループが存在するか	Active Directory (AD) にグループが存在するか確認します。
	グループ内のユーザーか	既存のユーザーが Active Directory (AD) 内のグループのメンバーかどうかを確認します。
	グループを検索	Active Directory (AD) からグループを取得します。
	グループからコンピューターを削除	Active Directory (AD) 内の 1 つ以上のグループからコンピューターアカウントを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	グループからコンピューターを削除	Active Directory (AD) 内のグループから 1 つ以上のコンピューターを削除します。
	グループからユーザーを削除	Active Directory (AD) 内の 1 つ以上のグループからユーザーを削除します。
	グループからユーザーを削除	Active Directory (AD) 内のグループから 1 人以上のユーザーを削除します。
ユーザー認証	ユーザーパスワードを変更	Active Directory (AD) 内のユーザーパスワードを変更します。パスワードは、AD パスワード要件と一致する必要があります。
	ユーザーパスワード期限切れの詳細を検索	ユーザーのパスワード期限切れの詳細を Active Directory (AD) から取得します。
	ランダムなパスワードを生成	Active Directory (AD) パスワードポリシーに従ってランダムパスワードを生成します。
	ユーザーがロックされているか	Active Directory (AD) 内のユーザーアカウントのロックステータスを確認します。
	ユーザーパスワードをリセット	Active Directory (AD) 内のユーザーのパスワードをリセットします。
	ユーザーのロック解除	Active Directory (AD) 内のユーザーアカウントのロックを解除します。
コンピュータ管理	コンピューターを作成	Active Directory (AD) にコンピューターアカウントを作成します。
	コンピュータを無効化	Active Directory (AD) 内のコンピューターアカウントを無効にします。
	コンピュータが存在するか	Active Directory 内のコンピューターアカウントのステータスを確認します。
	コンピューターが無効か	Active Directory (AD) 内のコンピューターアカウントのステータスを確認します。
	コンピュータを有効化	Active Directory (AD) 内のコンピューターアカウントを有効にします。
	コンピューターを検索	Active Directory (AD) からコンピューターアカウントを取得します。
	コンピューターを更新	Active Directory (AD) 内のコンピューターアカウントを更新します。
	コンピューターを削除	Active Directory (AD) からコンピューターアカウントを削除します。
オブジェクト管理	オブジェクトを作成	Active Directory (AD) にオブジェクトアカウントを作成します。
	オブジェクトの OU を更新	Active Directory 内のオブジェクトアカウントの組織単位 (OU) を更新します。
	オブジェクトの有効期限を更新	Active Directory 内のオブジェクトアカウントの有効期限を更新します。
	フィルターでオブジェクトを検索	検索フィルターに基づいて Active Directory (AD) 内のオブジェクトアカウントを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	オブジェクトを削除	Active Directory (AD) からオブジェクトアカウントを削除します。
ユーザー管理	ユーザーを削除	Active Directory (AD) からユーザーを削除します。
	ユーザーを作成	Active Directory (AD) にユーザーアカウントを作成し、パスワードを設定します。 **注:** Microsoft Active Directory v2 スポーク v2.1.1 以降では、次の変更が適用されます。 • **[SAM アカウント名]** は、[追加フィールド] ドロップダウンで使用できます。 • ユーザーが作成されると、ユーザープリンシパル名 (UPN) が `<username>@<DNS-domain-name>` の形式で生成されます。
	ユーザーを無効にする (会話型対応)	Active Directory (AD) でユーザー アカウントを無効にします。
	ユーザーが存在するか	ユーザーアカウントが Active Directory (AD) に存在するかどうかを確認します。
	ユーザーを更新	Active Directory (AD) 内のユーザーアカウントを更新します。
	ユーザーを有効にする (会話型対応)	Active Directory (AD) のユーザーアカウントを有効にします。
	ユーザーを検索 (会話型対応)	Active Directory (AD) からユーザーアカウントを取得します。 **注:** アクションの会話機能を使用するには、Now Assist for Conversational Spokes プラグインが必要です。
	ユーザーが無効か	Active Directory (AD) 内のユーザーアカウントが非アクティブかどうかを確認します。
	ユーザーの追加フィールド (メタデータ) を取得	Active Directory (AD) 内のユーザーアカウントの追加フィールドから情報を取得します。

注: このスポークはロードバランサーでテストされていません。

利用可能な会話アクション

Now Assist for Conversational Spokes をインストールし、統合ハブスポークの会話機能の使用を開始します。詳細については、「Now Assist in Conversational Spokes」を参照してください。

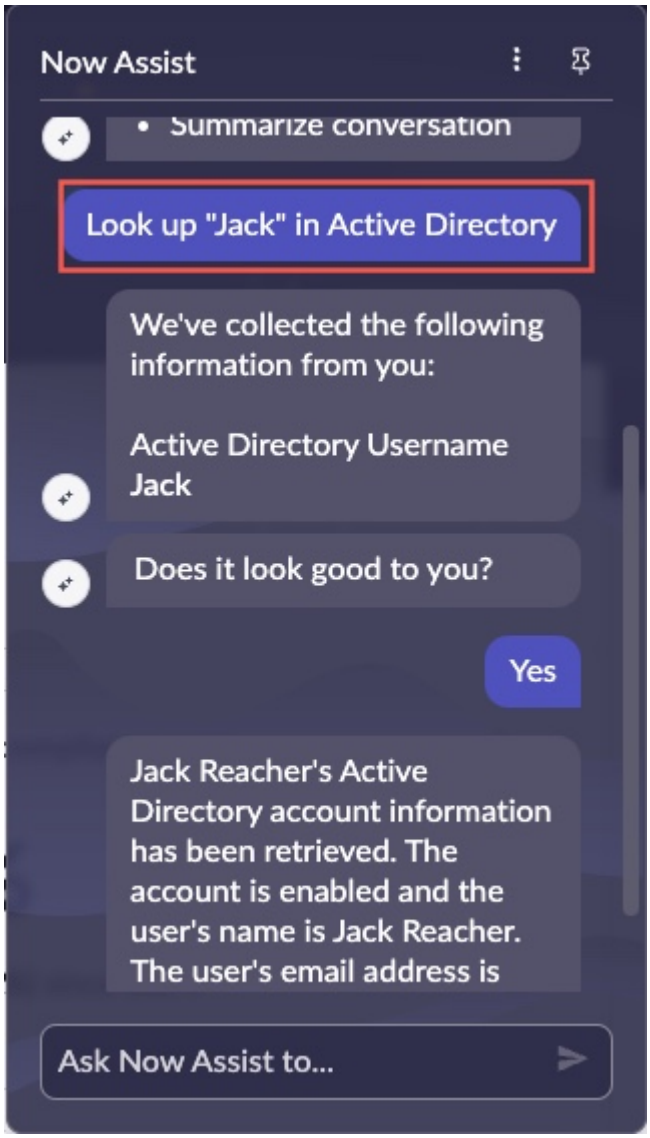
サポートされるアクション

アクション	使用法
ユーザーを無効にする	[Now Assist へのリクエストを入力…] フィールドに、Now Assist にアクションの実行を求めるフレーズを入力し、**Enter** キーを押します。`ユーザー「Jack」を Active Directory で無効にする。`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされるアクション (続く)

アクション	使用法
ユーザーを有効にする	[Now Assist へのリクエストを入力…] フィールドに、Now Assist にアクションの実行を求めるフレーズを入力し、**Enter** キーを押します。 例：ユーザー「Jack」を `Active Directory` で有効にする。
ユーザーを検索	[Now Assist へのリクエストを入力…] フィールドに、Now Assist にアクションの実行を求めるフレーズを入力し、**Enter** キーを押します。 例：ユーザー「Jack」を `Active Directory` で検索する。



ユースケースで使用されていない AI エージェントが、Now Assist アプリケーションとともにインストールされている場合があります。利用可能なすべてのエージェントを表示する方法については、「Find AI agents (AI エージェントの検索)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

AI エージェント	説明
Microsoft Active Directory オブジェクトマネージャー	Active Directory (AD) のオブジェクトアカウントを管理し、その詳細を取得します。
Microsoft Active Directory ユーザー認証システム	Active Directory (AD) のユーザーアカウントとパスワードを管理し、その詳細を取得します。
Microsoft Active Directory グループマネージャー	Active Directory (AD) のグループを管理し、その詳細を取得します。
Microsoft Active Directory コンピューターマネージャー	Active Directory (AD) のコンピューターを管理し、その詳細を取得します。
Microsoft Active Directory ユーザーマネージャー	Active Directory (AD) のユーザーを管理し、その詳細を取得します。

ユースケースで使用されていない AI エージェントが、Now Assist アプリケーションとともにインストールされている場合があります。利用可能なすべてのエージェントを表示する方法については、「Find AI agents (AI エージェントの検索)」を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Microsoft Active Directory v2 スポークの設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションを使用するには、MID サーバーをセットアップし、PowerShell を使用するように設定する必要があります。MID サーバーでのアクションの実行の詳細については、「統合ステッ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プ」を参照してください。MID サーバー の詳細については、「MID サーバー 」を参照してください。

注: MID サーバー と Microsoft Active Directory は別々のサーバーにインストールする必要があります。

Microsoft Active Directory v2 スポークの設定

Windows 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Microsoft Active Directory v2 スポークを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションを要求します。
- Microsoft Active Directory v2 スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

Microsoft Active Directory v2 の接続および認証情報レコードの作成

Microsoft Active Directory v2 スポークホストに接続するための接続および認証情報レコードを作成し、Microsoft Active Directory v2 スポーク接続および資格情報エイリアスを有効にしてアクションを許可します。

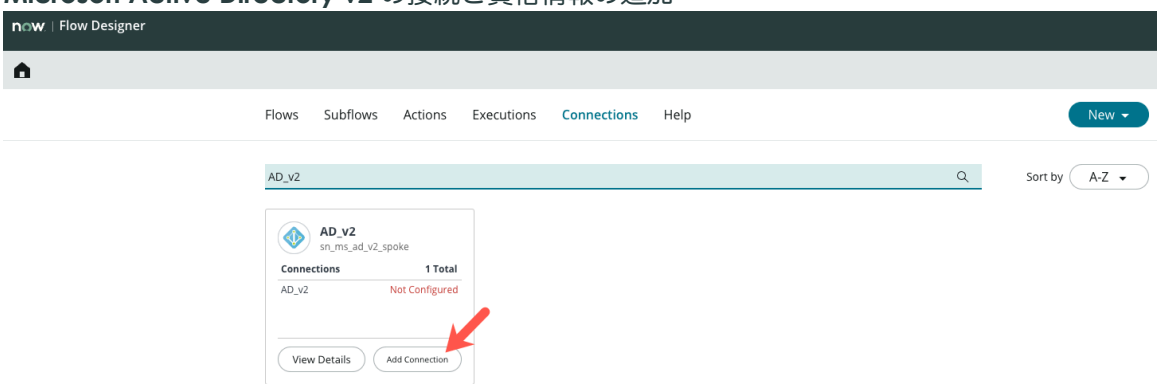
始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [フローデザイナー] に移動します
2. [接続] をクリックします。
3. [すべての接続を検索] フィールドに「AD_v2」と入力します。
4. AD_v2 カードで、[接続を追加] をクリックします。

Microsoft Active Directory v2 の接続と資格情報の追加



5. フォームに以下の詳細を入力します。

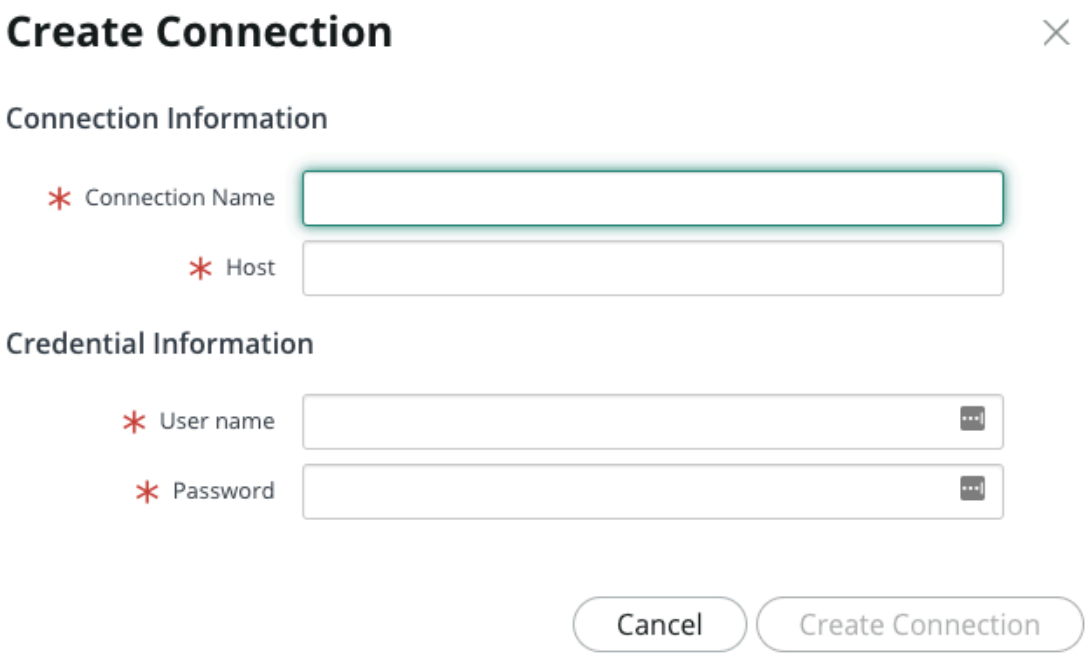
接続フォームの作成

フィールド	情報
接続名	レコードを一意に識別する名前を入力します。 例：`Microsoft AD v2 Connection`。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	情報
ホスト	Microsoft AD がインストールされているターゲットホストの完全修飾ドメイン名です。たとえば、「<host>.<domain>.com」と入力します。
ユーザー名	ターゲット Windows ホストへのアクセス権を持つユーザー名です。
パスワード	アカウントのパスワードです。

接続フォームの作成



6. [接続を作成] をクリックします。

Microsoft Azure Application Insights スポーク

ServiceNowインスタンスからMicrosoft Azure Application Insightsアカウントのクエリ、イベント、およびメトリクスを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Azure Application Insights スポーク v2.0.0 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポート対象のバージョン

このスポークはMicrosoft Azure Application InsightsAPI バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- アプリケーションを Microsoft Azure ポータルに登録し、アクセスキーとディレクトリー ID を記録します。詳細については、Azure Application Insights REST API ドキュメント の「Azure Application Insights Search API 」を参照してください。
- 登録済みアプリケーションにServiceNowインスタンスのリダイレクト URL を追加します。リダイレクト URL は、`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` のフォーマットでなければなりません。詳細については、Microsoft Docs の「Azure Time Series Insights API の認証と承認 」を参照してください。
- API キーを作成し、API キーとアプリ ID の値を記録します。これらの値は、スポークアクションへの入力として必要です。詳細については、Azure Application Insights REST API ドキュメント の「API キーとアプリケーション ID の取得 」を参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNowIntegrationHub アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- フローデザイナーアクションステップ - ペイロードビルダー (com.glide.hub.action_step.payload)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Microsoft Azure Application Insights Spoke ではServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
イベント管理	イベントを検索	単一のイベントのデータを取得します。
	タイプでイベントを検索	イベントに対する OData クエリを実行します。
	OData メタデータを検索	イベントデータモデルを説明する OData EDMX メタデータを取得します。
メトリクス管理	メトリックのメタデータを検索する	利用可能なメトリクスを説明するメタデータを取得します。
	メトリックを検索する	単一のメトリクスのメトリクス値を取得します。
	メトリックを検索する	複数のメトリクスのメトリクス値を取得します。
クエリ管理	クエリを実行	データのアナリティクスクエリを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	クエリを検索する	データのアナリティクスクエリを実行します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Azure Application Insights スポークの設定。

Azure Application Insights スポークの設定

ServiceNow インスタンスに接続エイリアスを作成します。エイリアスを使用すると、ServiceNow インスタンスは Microsoft Azure Application Insights に OAuth トークンを要求し、その要求を認証できるようにします。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft Azure Application Insights スポーク を有効にします。
- 必要なロール：admin

OAuth プロバイダーとして Microsoft Azure Application Insights を登録する

ServiceNow インスタンスからの OAuth トークンの要求を認証する OAuth アプリケーションを Microsoft Azure 上に作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. https://portal.azure.com/ にログインします。
2. [アプリの登録] を選択します。
3. [新規登録] を選択します。
4. フォームに入力します。

OAuth アプリケーションの詳細

フィールド	説明
名前	OAuth アプリケーションの名前。
サポートされているアカウントの種類	Microsoft Azure Blob Storage にアクセスするために作成している OAuth アプリケーションを使用できるユーザーを指定するオプション。
リダイレクト URI (オプション)	リダイレクト URI を指定するオプション。リダイレクト URI の形式は「https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do」です。[プラットフォームの選択 (Select a platform)] リストから **[Web]** を選択します。

5. [登録 **(Register)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OAuth アプリケーションが登録されます。

6. [重要項目 (Essentials)] 見出しの下にある次のフィールドから値をコピーします。
   - アプリケーション (クライアント) ID
   - ディレクトリー (テナント) ID
7. [クライアント認証情報] フィールドで、[証明書またはシークレットの追加 **(Add a certificate or secret)]** を選択します。
8. [クライアントシークレット] の見出しの下で、[新しいクライアントシークレット **(New client secret)]** を選択します。
9. [クライアントシークレットの追加 (Add a client secret)] ウィンドウで、次のアクションを実行します。

   a. [説明] フィールドに、クライアントシークレットに関する説明を入力します。

   b. [有効期限] フィールドに、クライアントシークレットの有効期限を入力します。

   c. [追加] を選択します。
   クライアントシークレットが生成されます。

10. [値] 見出しの下で、クライアントシークレットをコピーして安全な場所に保存します。
Microsoft Azure Application Insights が OAuth プロバイダーとして登録され、接続レコードの設定に必要な情報が利用可能になります。

接続エイリアスレコードの作成

接続エイリアスフォームに詳細を入力します。ServiceNow インスタンスはこれらの詳細を使用して、Microsoft Azure Application Insights に OAuth トークンを要求します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
3. [統合] を選択します。
4. **[Connections** (接続)] を選択します。
5. [すべての接続を検索] フィールドで、Microsoft Azure Application Insights 接続エイリアスレコードを検索します。

   注: [送信] タブがデフォルトで有効になっています。有効になっていない場合は、切り替えて有効にします。

6. [Microsoft Azure Application Insights 接続エイリアス] タイルで、[詳細の表示] を選択します。
7. [構成 **(Configure)]** を選択します。
8. フォームに入力します。

Microsoft Azure Application Insights 接続エイリアス

フィールド	説明
接続名	接続エイリアスレコードの名前です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証 URL	ServiceNow インスタンスが Microsoft Azure Application Insights から OAuth トークンを要求するために使用する URL。URL は次の形式にする必要があります：`https://login.microsoftonline.com/{tenant ID}/oauth2/v2.0/authorize`。
トークン URL	ServiceNow インスタンスが OAuth トークンを取得するために使用する URL。URL は次の形式にする必要があります：`https://login.microsoftonline.com/{tenant ID}/oauth2/v2.0/token`。
トークン失効 URL	ServiceNow インスタンスが OAuth トークンをキャンセルするために使用する URL。URL は次の形式にする必要があります：`https://login.microsoftonline.com/{tenant ID}/oauth2/v2.0/revoke` **注:** このフィールドは必須ではありません。
クライアント ID	Microsoft Azure Application Insights で作成した OAuth アプリケーションの一意の ID。Microsoft Azure Application Insights はこの ID を使用して、ServiceNow インスタンス要求の認証を行います。
クライアントシークレット	ServiceNow インスタンスの要求を認証するために Microsoft Azure Application Insights が使用するシークレット。Microsoft Azure Application Insights で OAuth アプリケーションを作成するときに、クライアントシークレットを生成します。
リダイレクト URL	要求が認証された後にサードパーティアプリケーションが ServiceNow インスタンスを返送する特定のアドレス。Microsoft Azure Application Insights で OAuth アプリケーションを作成するときに、リダイレクト URL を設定する必要があります。

9. [**OAuth トークンを設定して取得 (Configure and get OAuth Token)**] を選択します。
   OAuth トークンが指定される前に、https://portal.azure.com/ にログインする必要があります。

   認証に成功すると、要求が認証され、OAuth トークンが使用可能になります。

Microsoft Azure Artifacts スポーク

ServiceNow インスタンスから Microsoft Azure Artifacts を管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Azure Artifacts スポーク v1.0.3 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは、Microsoft Azure Artifacts 6.0-preview.1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Azure Devops アカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Microsoft Azure Artifacts Spoke ではServiceNowインスタンスでイベントが発生したときに Microsoft Azure Artifacts タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アーティファクト管理	パッケージの詳細を取得	指定されたパッケージの詳細を取得します。
	パッケージバージョンの詳細を取得	指定されたパッケージバージョンの詳細を取得します。
	パッケージバージョンを検索	パッケージバージョンのリストを取得します。
	パッケージを検索	パッケージのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
変更トラッキング管理	フィードの変更を取得	フィードの現在のステータスの詳細を取得します。
	フィードの変更を検索	フィードの変更のリストを取得します。
	パッケージの変更を検索	フィード内で変更されたパッケージのリストを取得します。
フィード管理	フィードを作成	さまざまなパッケージタイプを処理するフィードを作成します。
	フィードを削除	フィードとすべての関連パッケージを削除します。
	フィードの詳細を取得	フィードの詳細を取得します。
	フィードを検索	フィードのリストを取得します。
	フィードを更新	指定されたフィードを更新します。
メタデータの取得	パッケージ ID を検索	パッケージ ID のリストのメタデータを取得します。
	パッケージバージョン ID を検索	パッケージバージョン ID のリストのメタデータを取得します。
	プロジェクトを検索	組織内のすべてのプロジェクトのリストを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Microsoft Azure Artifacts Spoke を設定。

Microsoft Azure Artifacts Spoke を設定

ベーシック認証を使用してServiceNowインスタンスと Microsoft Azure Artifacts をデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft Azure Artifacts スポークを有効にします。
- Azure Devops アカウントにパーソナルアクセストークンを作成し、後で使用できるように記録します。
- 必要なロール：admin

個人用アクセストークンの取得

Microsoft Azure ポータルで個人用アクセストークンを作成して記録します。個人用アクセストークンは、ServiceNow 要求を認証するために必要です。

始める前に

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. アドミンとして Azure Artifacts ポータルにログインします。
2. [ユーザー設定] > [個人用アクセストークン **(Personal access tokens)]** に移動します。
3. [新しいトークン **(New Token)]** をクリックします。
4. フォームの必須フィールドに入力します。
5. [作成] をクリックします。
   トークンが表示されます。
6. 後で使用するためにトークンの値をコピーして記録します。

Microsoft Azure Artifacts スポークの接続を設定する

ServiceNow 要求の認証を行うために、Microsoft Azure Artifacts 接続を追加して設定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. **sn_ms_artfcts_spke** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
   - Microsoft Azure Artifacts スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。
   - 複数の Microsoft Azure Artifacts スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

   スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。
5. [接続を設定] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを一意に識別する名前です。たとえば、「`Microsoft Azure Artifacts Connection`」と入力します。
接続 URL	Microsoft Azure Artifacts インスタンスの URL。たとえば、`https://feeds.dev.azure.com/` の形式で URL を入力します。
認証情報名	認証情報レコードを識別する一意の名前です。たとえば、「`Microsoft Azure Artifacts Credential`」と入力します。
ユーザー名	Azure Artifacts インスタンスにログインするためのユーザー名。
パスワード	Azure Artifacts を認証するための個人用アクセストークン。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [接続を設定] をクリックします。
   Microsoft Azure Artifacts スポークの接続が作成されます。
7. [すべて] > [接続 **&** 認証情報] > [接続および資格情報エイリアス] に移動します。
8. `Microsoft Azure Artifacts` の接続と認証情報の種類を開きます。
9. [接続] タブで、接続テンプレートから作成された認証情報レコードを開きます。
10. [認証情報エイリアス **(Credential alias)]** フィールドの横にあるロックアイコンをクリックします。
11. `sn_ms_artfcts_spke.Microsoft_Azure_Project` を検索し、リストから選択します。
12. レコードを保存します。

タスクの結果
これで、Microsoft Azure Artifacts スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

Microsoft Azure Automation スポーク

ServiceNow インスタンスを Microsoft Azure Automation と統合します。ServiceNow インスタンスからクラウドベースの自動化および構成サービスを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Azure Automation スポーク v2.0.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは Microsoft Azure Automation 2023-11-01 バージョン用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Microsoft Azureアカウント

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー：動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream)
- Azure Resource Management スポーク (sn_azure_rm_spoke) v2.0.0 がインストールされ、インスタンスに接続エイリアスが作成されている。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのアクション

Microsoft Azure Automation スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Microsoft Azure タスクを自動化するアクションが提供されます。 使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アカウント管理	アカウントを作成	自動化アカウントを作成します。
	アカウントを削除	アカウントを削除します。
	アカウントを検索	リソースグループを使用して自動化アカウントの詳細を取得します。
	リソースグループでアカウントストリームを検索	指定されたリソースグループに存在するアカウントのリストを取得します。Microsoft によると、ページサイズは 100 に固定されています。
	サブスクリプション ID でアカウントストリームを検索	指定されたサブスクリプション ID に存在するアカウントのリストを取得します。Microsoft によると、ページサイズは 100 に固定されています。
	アカウントを更新	自動化アカウントの詳細を更新します。
ジョブ管理	ジョブを作成	Runbook のジョブを作成します。
	ジョブを検索	Runbook ジョブの詳細を取得します。
	ジョブ出力を検索	ジョブ ID で識別された実行済みジョブ出力の詳細を取得します。
	ジョブスケジュールを検索	スケジュール済みジョブの詳細を取得します。
	ジョブスケジュールストリームを検索	自動化アカウントに存在するスケジュール済みジョブのリストを取得します。Microsoft によると、ページサイズは 100 に固定されています。
	ジョブストリームを検索	自動化アカウントに存在する Runbook ジョブのリストを取得します。Microsoft によると、ページサイズは 100 に固定されています。
	ジョブを再開	ジョブ名で識別されたジョブを再開します。
	ジョブを停止	ジョブ名で識別されたジョブ実行を停止します。
	ジョブを一時停止	ジョブ名で識別されたジョブを一時停止します。
スケジュール済みジョブ管理	ジョブスケジュールを作成	ジョブ実行のスケジュールを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ジョブスケジュールを削除	ジョブスケジュールを削除します。
Runbook 管理	Runbook を作成	Runbook を作成します。
	Runbook を削除	Runbook を削除します。
	Runbook を検索	Runbook の詳細を取得します。
	Runbook コンテンツを検索	Runbook のコンテンツを取得します。
	Runbook ストリームを検索	自動化アカウントに存在する Runbook のリストを取得します。Microsoft によると、ページサイズは 100 に固定されています。
	Runbook を更新	Runbook の詳細を更新します。
スケジュール管理	スケジュールを作成	スケジュールを作成します。
	スケジュールを削除	スケジュールを削除します。
	スケジュールを検索	スケジュールの詳細を取得します。
	スケジュールストリームを検索	自動化アカウントに存在するスケジュールのリストを取得します。Microsoft によると、ページサイズは 100 に固定されています。
	スケジュールを更新	スケジュールの詳細を更新します。
ソフトウェア更新構成管理	ソフトウェア更新構成マシン実行ストリームを検索	自動化アカウントに存在するソフトウェア更新構成マシン実行のリストを取得します。Microsoft によると、ページサイズは 100 に固定されています。
	ソフトウェア更新構成実行を検索	ソフトウェア更新構成実行の詳細を取得します。
	ソフトウェア更新構成実行ストリームを検索	自動化アカウントに存在するソフトウェア更新構成実行のリストを取得します。Microsoft によると、ページサイズは 100 に固定されています。
ステータス構成管理	DSC 構成をコンパイル	適切な状況構成コンパイルジョブを作成します。
	DSC 構成を作成	適切な状況構成を作成します。
	DSC 構成を検索	適切な状況構成の詳細を取得します。
	DSC 構成コンテンツを検索	適切な状況構成のコンテンツを取得します。
	DSC 構成ストリームを検索	自動化アカウントに存在する DSC 構成のリストを取得します。Microsoft によると、ページサイズは 100 に固定されています。
	ノードストリームを検索	自動化アカウントに存在するノードのリストを取得します。Microsoft によると、ページサイズは 100 に固定されています。
	DSC 構成を更新	適切な状況構成を更新します。
	ノードの DSC 構成を更新	指定されたノード (VM) の希望するステータス構成の詳細を更新します。
監視管理	監視を削除	ウォッチャーを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ウォッチャーストリームを検索	自動化アカウントに存在するウォッチャーのリストを取得します。Microsoft によると、ページサイズは 100 に固定されています。
	監視を開始	ウォッチャーを開始します。
	監視を停止	ウォッチャーを停止します。

Microsoft Azure Automation スポークの設定

Microsoft Azure Automation スポークのアクションを実行するには、先に Microsoft Azure Resource Management スポークをインストールして構成する必要があります。Microsoft Azure Automation スポークを別途構成する必要はありません。Microsoft Azure Resource Management スポークを設定する手順については、「Microsoft Azure Resource Management スポークの設定」を参照してください。

Microsoft Azure BLOB Storage スポーク

ServiceNow インスタンスから Azure BLOB とコンテナを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Azure Blob Storage スポーク v2.0.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：JSON パーサー (com.glide.hub.action_step.jsonparser)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- IHUB スポークユーティリティパック (com.snc.ihub_spoke_util_pack)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

サポート対象のバージョン

このスポークは API バージョン 2023-11-03 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

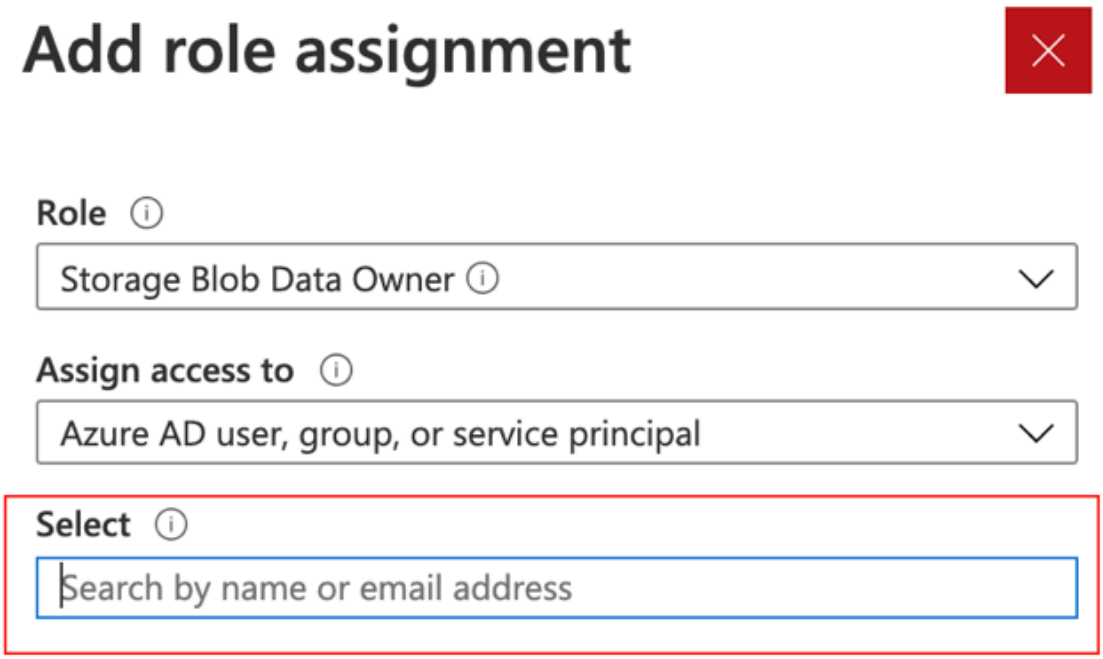
スポークの要件

- ServiceNow インスタンスとデータ連携するための Microsoft Azure ポータルのストレージアカウント。

  注: ストレージ Blob データ所有者ロールがあることを確認します。

  ロールをアサインするには、以下の手順を実行します。

  1. ストレージアカウントにログインし、アクセス制御 (IAM) に移動します。
  2. [ロールのアサインを追加 (Add a role assignment)] を選択し、[ストレージ BLOB データ所有者 (Storage Blob Data Owner)] ロールを選択します。
  3. 必要な Azure AD ユーザー、グループ、またはサービスプリンシパルオプションにアクセス権をアサインします。Azure アカウントのメールアドレスを選択し、変更を保存します。



  詳細については、「Azure ポータルを使用して BLOB およびキューデータにアクセスするための Azure ロールをアサインする (Use the Azure portal to assign an Azure role for access to blob and queue data)」を参照してください。

- 後で使用するためにアクセスキーとディレクトリ ID を記録して保存します。

スポークのサブフロー

Azure Blob Storage スポークでは、Azure Blob Storage タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
BLOB を移動 (Move Blob)	BLOB をソースコンテナから宛先コンテナに移動します。
Blob の名前を変更 (Rename Blob)	指定された BLOB の名前を変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフロー	説明
BLOB ストリームを検索	コンテナ内のすべての BLOB の詳細を取得します。
コンテナストリームを検索	指定されたストレージアカウントのコンテナのリストを取得します。

スポークのアクション

Azure Blob Storage スポークでは、Now Platform でイベントが発生したときに Azure Blob Storage タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
BLOB 管理	BLOB を ServiceNow レコードに添付	ServiceNow レコードに BLOB を添付します。
	BLOB をコピー	あるコンテナから別のコンテナに BLOB をコピーします。
	BLOB を削除	指定した BLOB を削除します。
	BLOB をリース	書き込みおよび削除操作のために BLOB にロックを作成します。
	BLOB を検索	指定した BLOB の詳細を取得します。
	BLOB を検索	コンテナ内のすべての BLOB の詳細を取得します。
	BLOB のリースをリリース	BLOB のロックを解除します。
	BLOB のスナップショットを撮る (Snapshot Blob)	指定された BLOB のスナップショットを作成します。
	添付ファイルをコンテナにアップロード	指定されたコンテナ内の BLOB をアップロードします。
コンテナ管理	コンテナを作成	指定されたアカウントでコンテナを作成します。
	コンテナを削除	コンテナを削除します。
	コンテナをリース	削除操作のためにコンテナにロックを作成します。
	コンテナを検索	指定したコンテナの詳細を取得します。
	コンテナを検索	指定されたストレージアカウントのコンテナのリストを取得します。
	コンテナのリースをリリース	コンテナのロックを解除します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Microsoft Azure Blob Storage スポークの設定。

Microsoft Azure Blob Storage スポークの設定

ServiceNow インスタンスで Microsoft Azure Blob Storage 接続エイリアスレコードを構成します。これにより、Microsoft Azure ポータルで ServiceNow インスタンスからの接続要求の認証が可能になります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Azure Blob Storage スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

OAuth プロバイダーとして Microsoft Azure Blob Storage を登録する

ServiceNow インスタンスからの OAuth トークンの要求を認証する OAuth アプリケーションを Microsoft Azure 上に作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. https://portal.azure.com/ にログインします。
2. [アプリの登録] を選択します。
3. [新規登録] を選択します。
4. フォームに入力します。

OAuth アプリケーションの詳細

フィールド	説明
名前	OAuth アプリケーションの名前。
サポートされているアカウントの種類	Microsoft Azure Blob Storage にアクセスするために作成している OAuth アプリケーションを使用できるユーザーを指定するオプション。
リダイレクト URI (オプション)	リダイレクト URI を指定するオプション。リダイレクト URI の形式は「https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do」です。[プラットフォームの選択 (Select a platform)] リストから **[Web]** を選択します。

5. [登録 **(Register)]** を選択します。
   OAuth アプリケーションが登録されます。
6. [重要項目 (Essentials)] 見出しの下にある次のフィールドから値をコピーします。
   - アプリケーション (クライアント) ID
   - ディレクトリー (テナント) ID
7. [クライアント認証情報] フィールドで、[証明書またはシークレットの追加 **(Add a certificate or secret)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [クライアントシークレット] の見出しの下で、[新しいクライアントシークレット **(New client secret)]** を選択します。
9. [クライアントシークレットの追加 (Add a client secret)] ウィンドウで、次のアクションを実行します。

   a. [説明] フィールドに、クライアントシークレットに関する説明を入力します。

   b. [有効期限] フィールドに、クライアントシークレットの有効期限を入力します。

   c. [追加] を選択します。
   クライアントシークレットが生成されます。

10. [値] 見出しの下で、クライアントシークレットをコピーして安全な場所に保存します。
11. API 権限を追加します。

    a. 左側のパネルで、**[API** 権限] を選択します。

    b. [権限を追加 **(Add a permission)]** を選択します。

    c. [Request API permissions (API 権限の要求)] ウィンドウで、**[Azure Storage]** を選択します。

    d. [委任されたアクセス許可] を選択します。

    e. [権限] で、**[Azure Storage** へのアクセス **(Access Azure Storage)]** を選択します。

    f. [権限を追加] を選択します。
    権限が追加され、[API/権限の名前 (API / Permissions name)] の見出しの下に表示されます。

    g. **[ServiceNow** にアドミンの同意を付与 **(Grant admin consent for ServiceNow)]** を選択します。

    h. [はい] を選択します。

    これで、Microsoft Azure Blob Storage が OAuth サービスプロバイダーとして登録されます。

Microsoft Azure への接続の設定

ServiceNow インスタンスから OAuth トークンの要求を送信し、要求が Microsoft Azure ポータルで認証されるように、Microsoft Azure Blob Storage の接続および資格情報エイリアスレコードを構成します。認証後、Microsoft Azure Blob Storage にアクセスするためにインスタンスに対して OAuth トークンが使用可能になります。

始める前に
必要なロール：admin。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブを選択します。
3. [すべての接続を検索] フィールドに「Microsoft Azure Blob Storage」と入力します。
   [送信] タブがデフォルトで有効になっています。タブが有効になっていない場合は、切り替えて選択し、有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [Microsoft Azure Blob Storage] タイルで、[詳細を表示] を選択します。
5. [構成 **(Configure)**] を選択します。
6. フォームに入力します。

Microsoft Azure Blob Storage 接続エイリアス

フィールド	説明
接続名	接続エイリアスレコードの名前です。最初の接続レコードのデフォルト名はエイリアスのものと同じです。名前を更新することはできません。
認証 URL	ServiceNow インスタンスが Microsoft Azure ポータルから OAuth トークンを要求するために使用する URL。URL は次の形式にする必要があります：`https://login.microsoftonline.com/{tenant ID}/oauth2/v2.0/authorize`。OAuth アプリケーションの登録時に生成したテナント ID を使用します。
トークン URL	ServiceNow インスタンスが OAuth トークンを取得するために使用する URL。URL は次の形式にする必要があります：`https://login.microsoftonline.com/{tenant ID}/oauth2/v2.0/token`。OAuth アプリケーションの登録時に生成したテナント ID を使用します。
トークン失効 URL	ServiceNow インスタンスが OAuth トークンをキャンセルするために使用する URL。URL は次の形式にする必要があります：`https://login.microsoftonline.com/{tenant ID}/oauth2/v2.0/revoke` OAuth アプリケーションの登録時に生成したテナント ID を使用します。 **注:** このフィールドは必須ではありません。
クライアント ID	Microsoft Azure ポータルで作成した OAuth アプリケーションの一意の ID。Microsoft Azure ポータルでは、この ID を使用して ServiceNow インスタンス要求を認証します。
クライアントシークレット	Microsoft Azure ポータルで ServiceNow インスタンス要求を認証するために使用するシークレット。Microsoft Azure ポータルで OAuth アプリケーションを作成するときに、クライアントシークレットを生成します。
リダイレクト URL	要求が認証された後にサードパーティアプリケーションが ServiceNow インスタンスを返送する特定のアドレス。リダイレクト URL の形式は「`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do`」です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. **[OAuth** トークンを設定して取得] を選択します。
   OAuth トークンが指定される前に、https://portal.azure.com/ にログインする必要があります。

   認証に成功すると、要求が認証され、OAuth トークンが使用可能になります。

Microsoft Azure Cosmos DB スポーク

ServiceNow インスタンスから Microsoft Azure Cosmos DB を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Azure Cosmos DB スポークは v2.0.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは、Microsoft Azure Cosmos DB v2 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Microsoft Azure ポータルアカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- Microsoft Azure Resource Management スポーク (com.sn.ms.azure.resource.mgmt.spoke) v 2.0.0 がインストールされ、インスタンスに接続エイリアスが作成されている。
- Microsoft Azure Cosmos DB SAS の接続エイリアスがインスタンスで構成されている。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Microsoft Azure Cosmos DB スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Microsoft Azure Cosmos DB タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
Cassandra データベース管理	Cassandra キースペースを作成	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループ内で Cassandra キースペースを作成します。
	Cassandra キースペースを削除	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループ内の指定された Cassandra キースペースを削除します。
	Cassandra キースペースを検索	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループ内の指定された Cassandra キースペースの詳細を取得します。
	Cassandra キースペーススループットを検索	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループ内の指定された Cassandra キースペースのスループットの詳細を取得します。
	Cassandra キースペースを検索	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループのすべての Cassandra キースペースをリストします。
	Cassandra キースペーススループットを更新	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループ内の指定された Cassandra キースペースのスループットを更新します。
コア SQL データベース管理	データベースの作成	指定されたデータベースアカウントにデータベースを作成します。
	権限を作成	指定されたデータベースに権限を作成します。
	ユーザーの作成	指定したデータベースにユーザーを作成します。
	データベースを削除	指定されたデータベースアカウント内の指定されたデータベース情報を削除します。
	権限を削除	ユーザーの指定された権限情報を削除します。
	ユーザーを削除	指定されたデータベースのユーザーを削除します。
	データベースを検索	指定されたデータベースアカウント内の指定されたデータベース情報を取得します。
	データベースを検索	指定されたデータベースアカウント内のすべてのデータベースをリストします。
	権限を検索	ユーザーの指定された権限情報を取得します。
	権限を検索	指定されたデータベースのすべての権限をリストします。
	ユーザーを検索	指定されたデータベース内の指定されたユーザー情報を取得します。
	ユーザーを検索	指定されたデータベースのすべてのユーザーをリストします。
	権限を置換	指定の権限を置換します。
	ユーザーを置換	指定されたデータベース内の指定されたユーザーを別のユーザーに置き換えます。
データベースアカウント管理	DB アカウントを作成	Azure Cosmos DB にアカウントを作成します。
	DB アカウントを削除	指定した Cosmos DB アカウントを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	DB アカウントのオプションを有効化/無効化	指定されたデータベースアカウントの詳細を更新します。
	アクセスキーを検索	指定した Azure Cosmos DB データベースアカウントのすべてのアクセスキーをリストします。
	接続文字列を検索	指定された Azure Cosmos DB アカウントのすべての接続文字列をリストします。
	DB アカウントを検索	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループの DB アカウントを取得します。
	リソースグループで DB アカウントを検索	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループの DB アカウントのリストを取得します。
	サブスクリプション ID で DB アカウントを検索	指定されたサブスクリプション ID の DB アカウントのリストを取得します。
	使用状況を検索	指定したデータベースアカウントの最新のデータを取得します。
	アクセスキーの再生成	指定された Azure Cosmos DB アカウントのアクセスキーを再生成します。
	フェイルオーバー優先度を更新	指定されたデータベースアカウントの詳細を更新します。
Mongo データベース管理	MongoDB データベースを作成	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループ内の指定された MongoDB データベースを作成します。
	MongoDB データベースを削除	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループ内の指定された MongoDB データベースを削除します。
	MongoDB データベースを検索	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループ内の指定された MongoDB データベースの詳細を取得します。
	MongoDB データベーススループットを検索	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループ内の指定された MongoDB データベースのスループットの詳細を取得します。
	MongoDB データベースを検索	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループのすべての MongoDB データベースをリストします。
	MongoDB データベーススループットを更新	指定されたサブスクリプション ID とリソースグループ内で Cassandra キースペースを作成します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Microsoft Azure Cosmos DB Spokeの設定。

次の依存関係を満たして、Microsoft Azure Cosmos DB スポークを設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Microsoft Azure Resource Management スポークの接続エイリアスをインストールして構成します。手順を表示するには、「Microsoft Azure Resource Management スポークの設定」を参照してください。
- Microsoft Azure Cosmos DB SAS の接続エイリアスを構成します。手順を表示するには、「Microsoft Azure Cosmos DB SAS の接続エイリアスレコードを作成する」を参照してください。

Microsoft Azure Cosmos DB Spokeの設定

Microsoft Azure Resource Management スポーク接続エイリアスをインストールして構成し、Microsoft Azure Cosmos DB SAS 接続エイリアスを構成して、ServiceNow インスタンスと Microsoft Azure Cosmos DB を統合します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft Azure Cosmos DB スポーク を有効にします。
- 必要なロール：admin

Microsoft Azure Cosmos DB SAS の接続エイリアスレコードを作成する

Microsoft Azure Cosmos DB SAS の接続エイリアスレコードを作成し、Microsoft Azure Cosmos DB スポークの [Core SQL Database Management] カテゴリでアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー]の順に移動します。
2. **[Connections** (接続)] を選択します。
3. [すべての接続を検索] フィールドに「Microsoft Azure`Cosmos DB SAS`」と入力します。
   [送信] タブがデフォルトでアクティブになっています。タブがアクティブでない場合は、切り替えてアクティブ化します。
4. [Microsoft Azure Cosmos DB SAS] タイルで、[詳細を表示] を選択します。
5. [構成 **(Configure)]** を選択します。
6. フォームに入力します。

Cosmos DB SAS 接続エイリアスのセットアップ情報

フィールド	説明
接続名	接続レコードの名前。
認証情報名	Cosmos DB SAS へのアクセスに使用される認証情報の名前。
共有アクセスキー名	Cosmos DB SAS への共有アクセスキーの名前。
共有アクセスキー	Cosmos DB SAS への共有アクセスキー。Microsoft Azure ポータルからキーを生成します。

7. [接続を作成] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Azure DevOps Boards スポーク

ServiceNow インスタンスから Azure DevOps ボード の作業アイテムを管理するプロセスを自動化します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Azure DevOps ボード スポーク v2.0.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは Azure DevOps ボード REST API バージョン 4.1 と TFS 2018 Update 3 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー：動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow IntegrationHub ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream)
- iHUB スポークユーティリティパック (com.snc.ihub_spoke_util_pack)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークの要件

- Azure DevOps インスタンス
- Azure DevOps を認証するための個人用アクセストークン (PAT)

個人用アクセストークンの作成方法の詳細については、「Azure DevOps ドキュメント」を参照してください。

スポークのアクション

Azure DevOps ボード スポーク では、ServiceNow でイベントが発生したときに作業アイテムを管理するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
コアプロセス管理	反復を作成	Azure DevOps 反復を作成します。
	反復を削除	パスによって Azure DevOps 反復を削除します。
	チームの反復を削除	チームから反復をリンク解除または削除します。
	作成可能フィールドを検索	必要な Azure DevOps プロジェクトですべてのフィールドのリストを取得します。
	エリアパスを検索	プロジェクトのすべてのエリアパスを取得します。
	編集可能フィールドを検索	必要な作業アイテムのすべてのフィールドのリストを編集用に取得します。
	チームのエリアパスを検索	チームのすべてのエリアパスを取得します。
	パスで反復を検索	パスにより反復を取得します。
	反復パスを検索	プロジェクトのすべての反復パスを取得します。
	チームの反復パスを取得	チームのすべての反復パスを取得します。
	プロセスを検索	すべての Azure DevOps プロセスのリストを取得します。
	プロジェクトストリームを検索	すべての Azure DevOps プロジェクトの詳細を取得します。
	作業アイテムリビジョンのストリームを検索	バッチ処理用のレポート作業アイテムのリビジョンを検索します。
	作業アイテムリンクのストリームを検索	バッチ処理用のレポート作業アイテムのリンクを取得します。
	WIQL でクエリを検索	WIQL を指定してクエリの結果を取得します。
	チーム設定を検索	チームのバックログとデフォルトの反復設定を取得します。
	チームを検索	プロジェクト内のすべてのチームを取得します。
	ID で作業アイテムデータを検索	作業アイテムのすべてのデータを取得します。
	ID で作業アイテムの関連を検索	作業アイテムのすべての関連を取得します。
	作業アイテムタイプを検索	必要な Azure DevOps プロジェクトで、すべての作業アイテムタイプのリストを取得します。
	プロセス別の作業アイテムタイプフィールドを検索	Azure DevOps からプロセス別の作業アイテムタイプのすべてのフィールドのリストを取得します。
	チームに反復を投稿	Azure DevOps 反復を Azure DevOps チームに追加します。
	レポート作業アイテムのリビジョン	バッチ処理用のレポート作業アイテムのリビジョンを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	(Reporting Work Items Revisions)	
	反復を更新	Azure DevOps の反復を更新します。
	プロジェクトストリームを検索	すべての Azure DevOps プロジェクトのリストを取得します。
	プロセス別の作業アイテムタイプを取得	必要な Azure DevOps プロセスのすべての作業アイテムタイプのリストを取得します。
	作業アイテムタイプを取得	必要な Azure DevOps プロジェクトのすべての作業アイテムタイプのリストを取得します。
	パスでエリアを検索	プロジェクトのエリアをそのパスで取得します。
	チームのエリアパスを検索	チームのすべてのエリアパスを取得します。
	エリアパスを検索	プロジェクトのすべてのエリアパスを取得します。
	作成可能フィールドを検索	必要な Azure DevOps プロジェクトですべてのフィールドのリストを取得します。
	編集可能フィールドを検索	必要な作業アイテムのすべてのフィールドのリストを編集用に取得します。
	パスで反復を検索	パスにより反復を取得します。
	反復パスを検索	プロジェクトのすべての反復パスを取得します。
	チームの反復パスを取得	チームのすべての反復パスを取得します。
	プロセスを検索	すべての Azure DevOps プロセスのリストを取得します。
	作業アイテムを検索	作業アイテムのリストを取得します。
	チーム設定を検索	チームのバックログとデフォルトの反復設定を取得します。
	チームを検索	プロジェクト内のすべてのチームを取得します。
	ID で作業アイテムデータを検索	作業アイテムのすべてのデータを取得します。
	ID で作業アイテムの関連を検索	作業アイテムのすべての関連を取得します。
	プロセス別の作業アイテムタイプフィールドを検索	Azure DevOps からプロセス別の作業アイテムタイプのすべてのフィールドのリストを取得します。
	作業アイテムタイプを検索	必要な Azure DevOps プロジェクトで、すべての作業アイテムタイプのリストを取得します。
	プロセス別の作業アイテムタイプを検索	Azure DevOps からプロセス別のすべての作業アイテムタイプのリストを取得します。
	WIQL でクエリを検索	WIQL を指定してクエリの結果を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
作業アイテム管理	作業アイテム間のリンクを作成	作業アイテム間に親子関係を作成します。
	作業アイテムを作成	Azure DevOps クラウドのインスタンスに新しい作業アイテムを作成します。この作業アイテムは、組織での Azure DevOps のカスタマイズ方法に応じて、特定の作業アイテムタイプにすることも、カスタム作業アイテムタイプにすることもできます。
	サービスフックを作成	Azure DevOps のサービスフックの新しいサブスクリプションを作成します。
	作業アイテムを削除	Azure DevOps インスタンスの必要な作業アイテムを削除します。
	作業アイテム間のリンクを削除	作業アイテム間のリンクを削除します。
	作業アイテムを更新	Azure DevOps クラウドのインスタンスの作業アイテムを更新します。
	作業アイテムプロジェクトの詳細を更新	同じ組織内のプロジェクト間を移動します。
	添付ファイルの追加	ServiceNow レコードに関連付けられた添付ファイルを、Azure DevOps インスタンスの必要な作業アイテムに追加します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

フロー、サブフロー、およびアクションで異なる接続を使用する場合は、子エイリアスを作成し、デフォルトのエイリアスレコードをその親として選択します。子エイリアスを設定するには、親エイリアスの設定に必要な同じ手順を実行します。要件と設定に応じて、フロー、サブフロー、およびアクションで親エイリアスまたは子エイリアスのいずれかを選択できます。

複数の Azure DevOps アカウントを使用することもできます。この場合、認証情報レコードを構成するときにそれぞれのパスワードを指定し、接続レコードを構成するときに関連する接続 **URL** を指定する必要があります。

- OAuth を使用して Microsoft Azure DevOps Boards スポークを設定する場合は、「OAuth を使用した Microsoft Azure DevOps Boards スポークの設定」を参照してください。
- 個人用アクセストークンを使用して Microsoft Azure DevOps Boards スポークを設定する場合は、「個人用アクセストークンを使用した Microsoft Azure DevOps Boards スポークの設定」を参照してください。

OAuth を使用した **Microsoft Azure DevOps Boards** スポークの設定

OAuth 2.0 認証を使用して ServiceNow インスタンスと Azure DevOps ボード を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

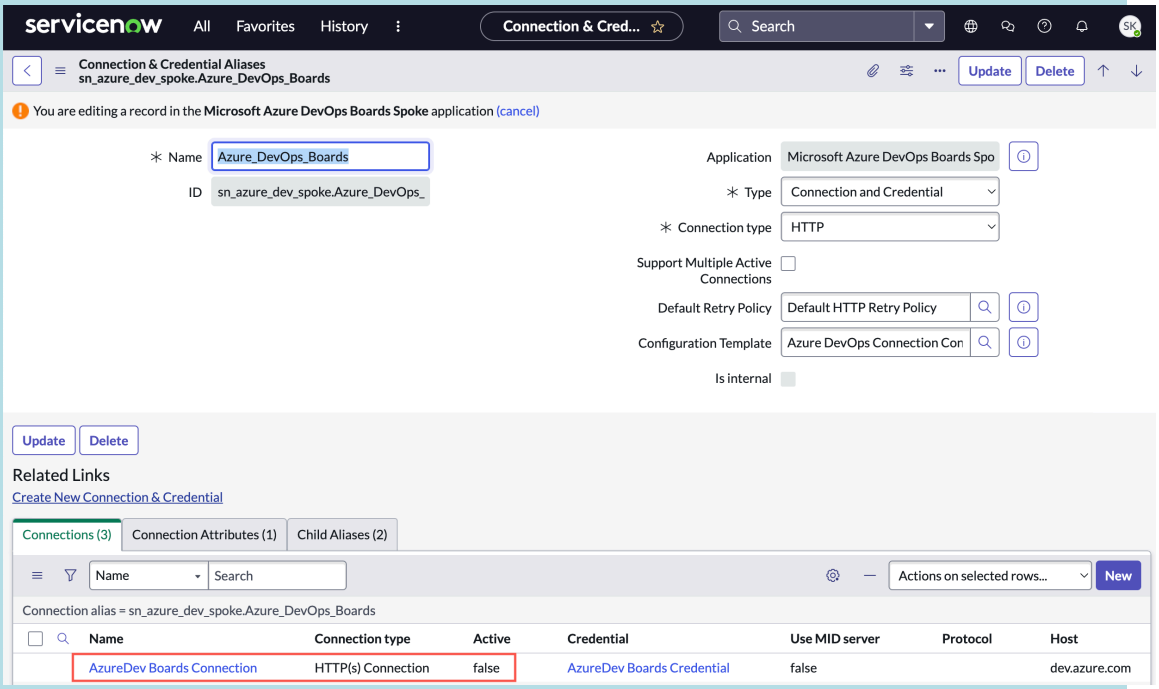
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブのサブスクリプションを要求します。
- Azure DevOps ボード スポーク のアクティブ化
- 必要なロール：admin。

重要:

- OAuth を使用して　Azure DevOps ボード スポークを設定する場合は、個人用アクセス トークンを使用してスポークを設定する必要はありません。
- Azure DevOps ボード スポークが既に構成および設定されている場合は、OAuth を使用したスポークの設定に進む前に、既存の接続の値 [アクティブ] が **[false]** に設定されていることを確認します。



Microsoft Azure ポータルを使用してアプリケーションを登録する

Microsoft Azure ポータルにアプリケーションを登録して、ServiceNow インスタンスへの認証を行います。

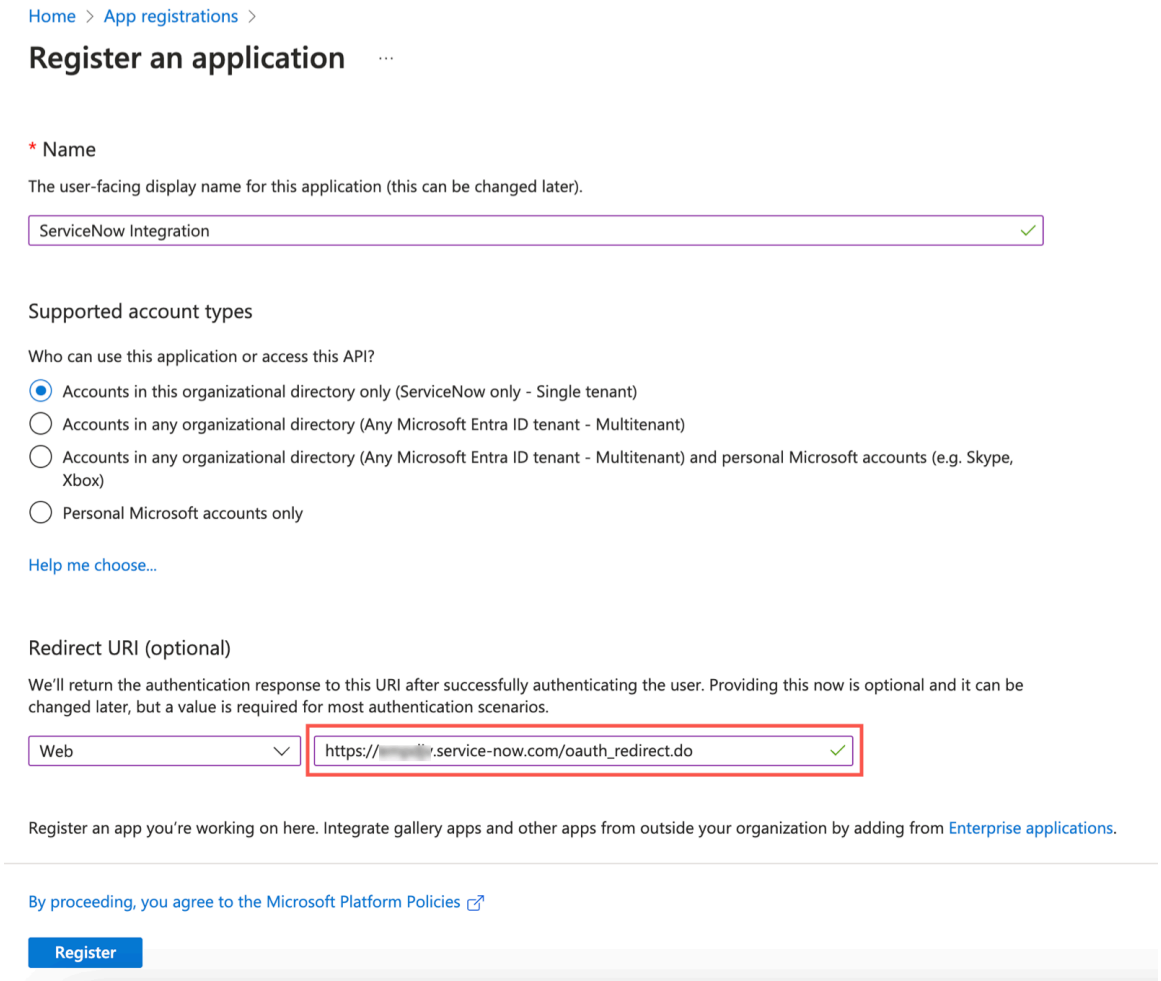
始める前に
必要なロール：admin。

このタスクについて
Microsoft Azure ポータルから次の手順を実行します。

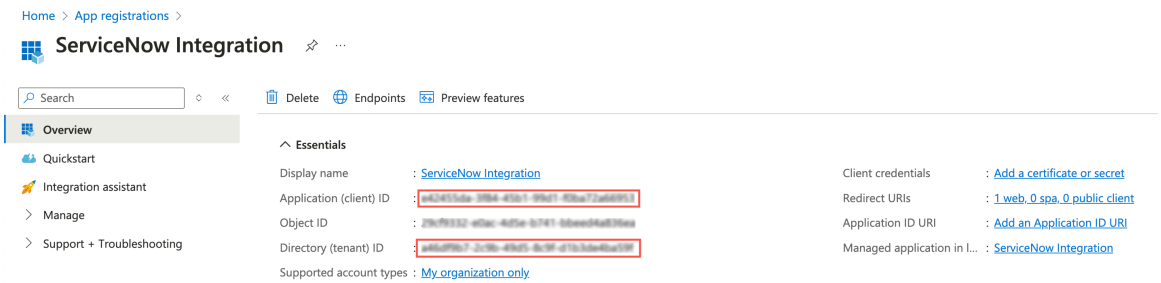
手順

1. Microsoft Azure ポータル にアドミンとしてログインします。
2. [アプリの登録] をクリックします。
3. [新規登録] をクリックします。
4. フォームで、要件に従ってフィールドに入力します。
   リダイレクト URL の場合、ServiceNow インスタンスの URL は `https://<ServiceNow-Instance-Name>.service-now.com/oauth_redirect.do` という形式で指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



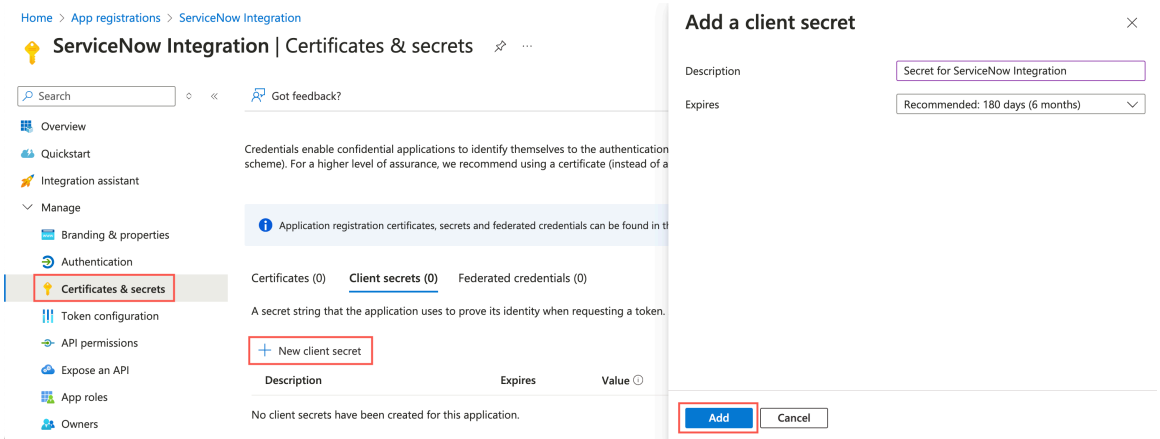
5. [登録] をクリックします。
   アプリケーションが作成され、[アプリケーション (クライアント) **ID**] と [ディレクトリ (テナント) **ID**] の値が表示されます。



6. [アプリケーション (クライアント) **ID**] と [ディレクトリ (テナント) **ID**] の値をコピーして記録します。
7. アプリケーションのクライアントシークレットを生成します。
   a. [管理] で、[証明書とシークレット **(Certificates & secrets)**] を選択します。
   b. [新しいクライアントシークレット **(New client secret)**] をクリックします。
   c. フォームで、説明を入力し、シークレットの有効期限が切れるまでの期間を指定します。

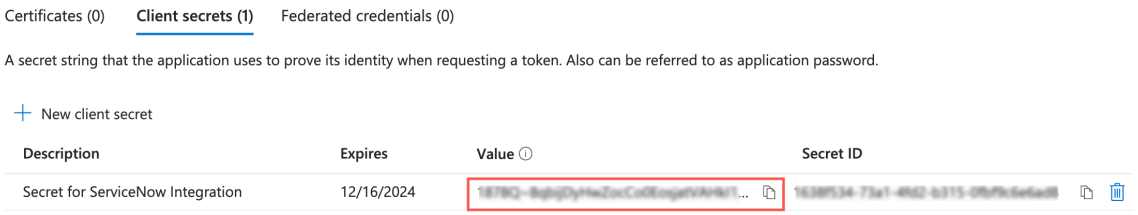
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. [追加] をクリックします。



クライアントシークレットが作成され、その値が表示されます。

e. 後で使用するためにクライアントシークレットの値をコピーします。

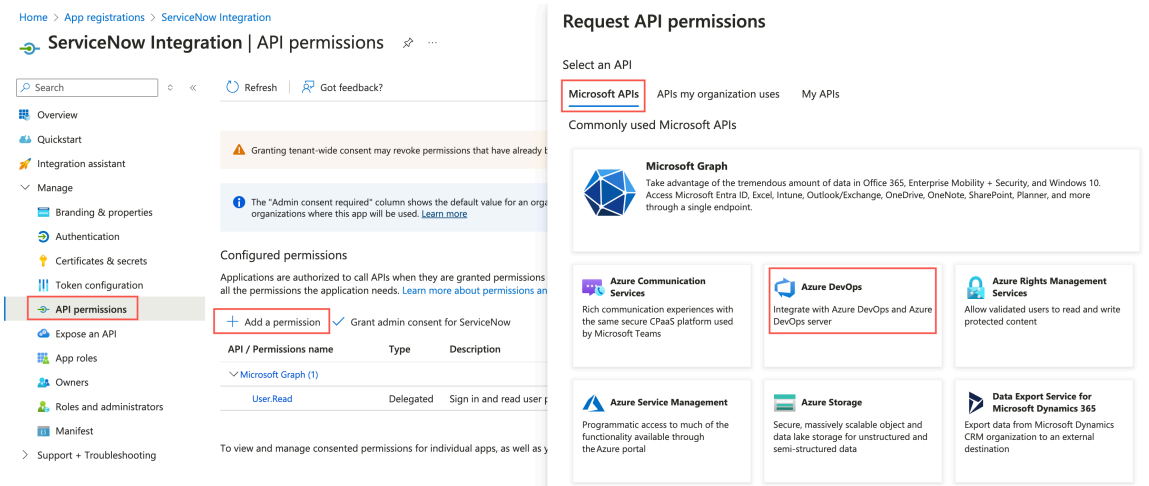


8. アプリケーションに必要な API 権限を与えます。

a. [管理] で、**[API 権限]** をクリックします。

b. [アクセス許可の追加] をクリックします。

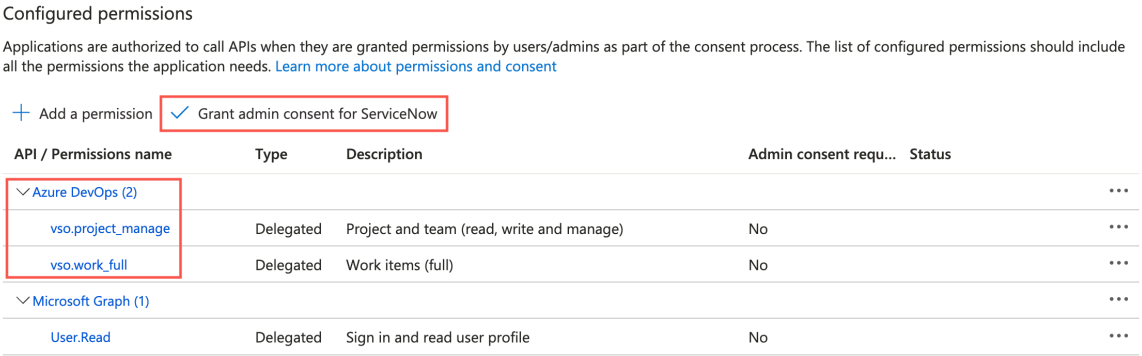
c. [Microsoft API] で **[Azure DevOps]** をクリックします。



d. vso を展開し、権限 **[vso.project_manage]** と **[vso.work_full]** を選択します。
デフォルトでは、**[Microsoft Graph]** の **[User.Read]** 権限が選択されています。要件に応じて他の権限を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. **[ServiceNow にアドミンの同意を付与 (Grant admin consent for ServiceNow)]** をクリックします。



f. プロンプトが表示されたら、ServiceNow にアドミンの同意を付与する選択を確定します。

タスクの結果

アプリケーションが Microsoft Azure ポータルに登録されました。このアプリケーションを使用して、ServiceNow インスタンスから Azure DevOps プロジェクトに接続できます。

Microsoft Azure DevOps Boards スポークの接続レコードを作成する

ServiceNow インスタンスが Microsoft Azure DevOps Boards に接続要求を送信できるようにする接続レコードを作成します。

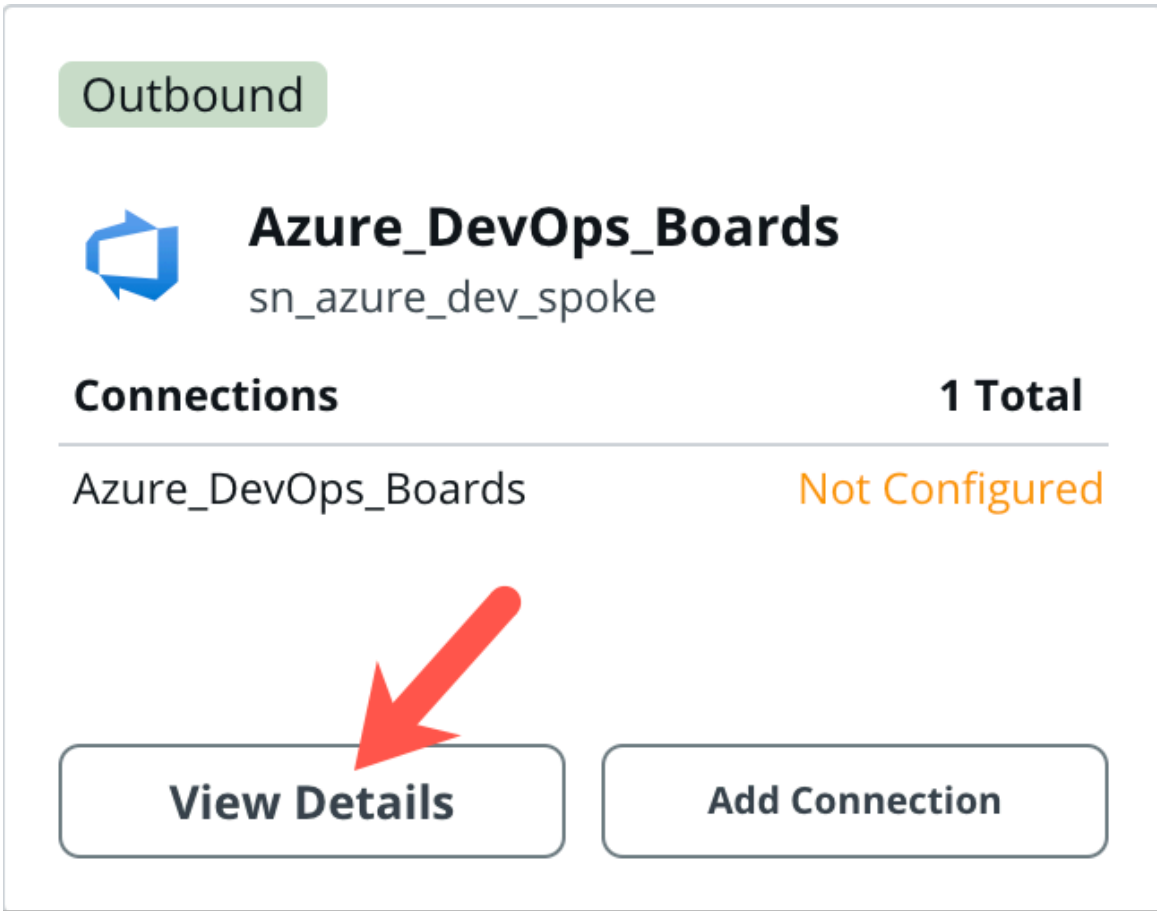
始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] を選択します。
3. [すべての接続を検索] フィールドに、「`Azure DevOps Boards`」と入力します。
   [送信] タブが選択されていることを確認します。
4. [Azure_DevOps_Boards] タイルで、[詳細を表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



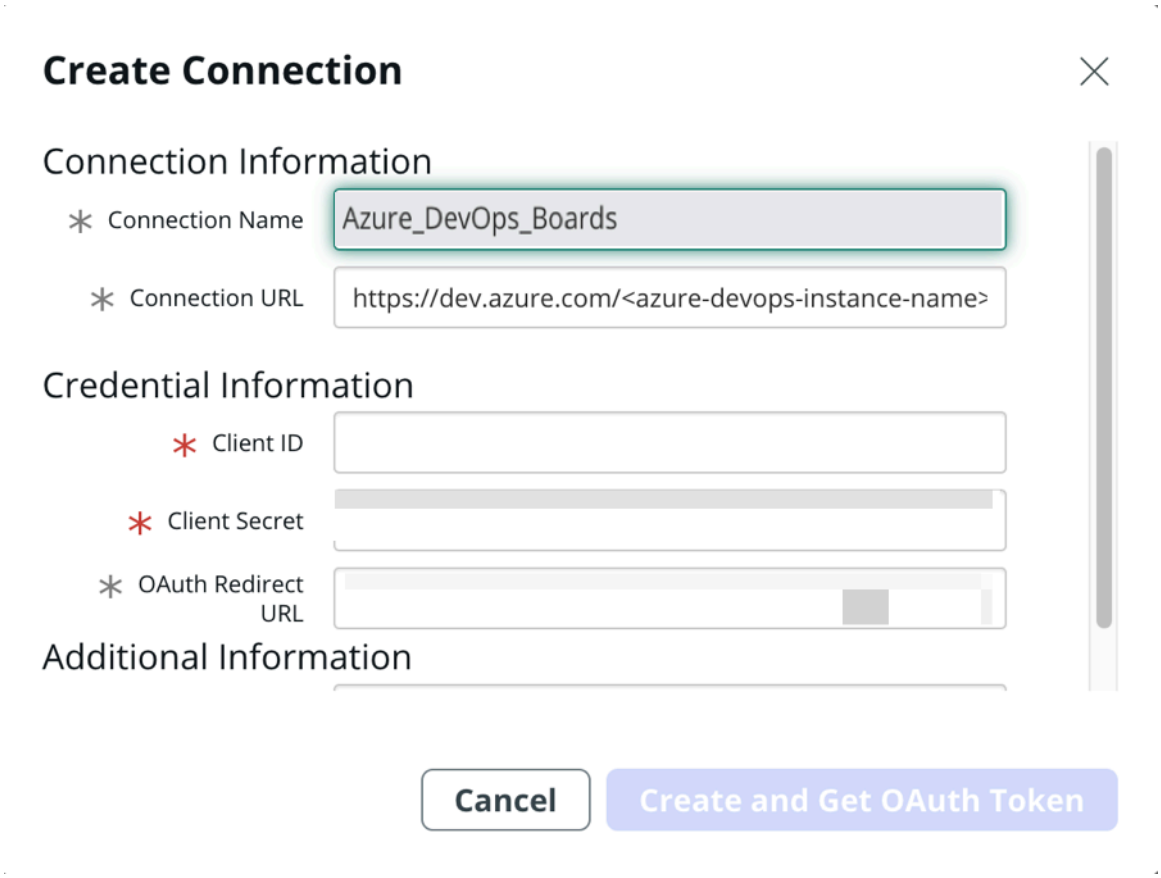
5. [構成 **(Configure)**] を選択します。
6. フォームに入力します。

Azure DevOps Board 接続フォーム

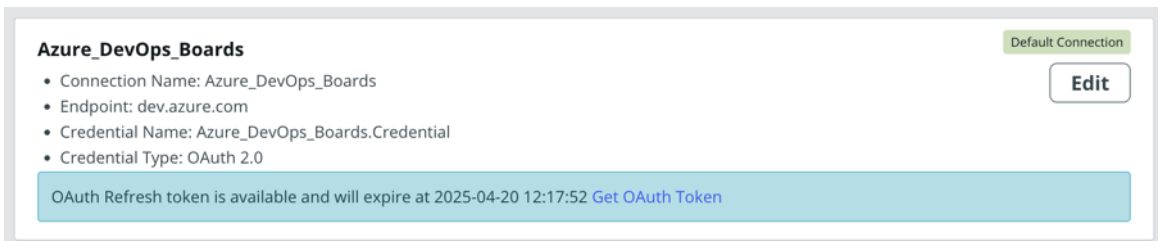
フィールド	説明
接続名	接続レコードの名前を指定するオプション。作成する最初の接続レコードのデフォルトの名前は「Azure_DevOps_Boards」で、読み取り専用です。
接続 URL	エイリアスが Azure DevOps 環境とやり取りするために使用するエンドポイントを指定するオプション。
クライアント ID	Microsoft Azure ポータルでアプリケーションを登録するときに生成したクライアント ID を指定するオプション。
クライアントシークレット	Microsoft Azure ポータルでアプリケーションを登録するときに生成したクライアントシークレットを指定するオプション。
OAuth リダイレクト URL	リダイレクト URL を指定するオプション。リダイレクト URL は `https://<your-instance-name>.service.now.com/oauth_redirect.do` の形式で指定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
テナント ID	Microsoft Azure ポータルでアプリケーションを登録するときに生成したテナント ID を指定するオプション。



7. **[OAuth** トークンを作成して取得] を選択します。
   Microsoft Azure ポータルにログインし、認証が成功すると、OAuth トークンが発行されます。



個人用アクセストークンを使用した **Microsoft Azure DevOps Boards** スポークの設定

ベーシック認証を使用して ServiceNow インスタンスと Azure DevOps ボード をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Azure DevOps ボード スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
フロー、サブフロー、およびアクションで異なる接続を使用する場合は、子エイリアスを作成し、デフォルトのエイリアスレコードをその親として選択します。子エイリアスを設定するには、親エイリアスの設定に必要な同じ手順を実行します。要件と設定に応じて、フロー、サブフロー、およびアクションで親エイリアスまたは子エイリアスのいずれかを選択できます。
複数の Azure DevOps アカウントを使用することもできます。この場合、認証情報レコードを構成するときにそれぞれのパスワードを指定し、接続レコードを構成するときに関連する接続 **URL** を指定する必要があります。

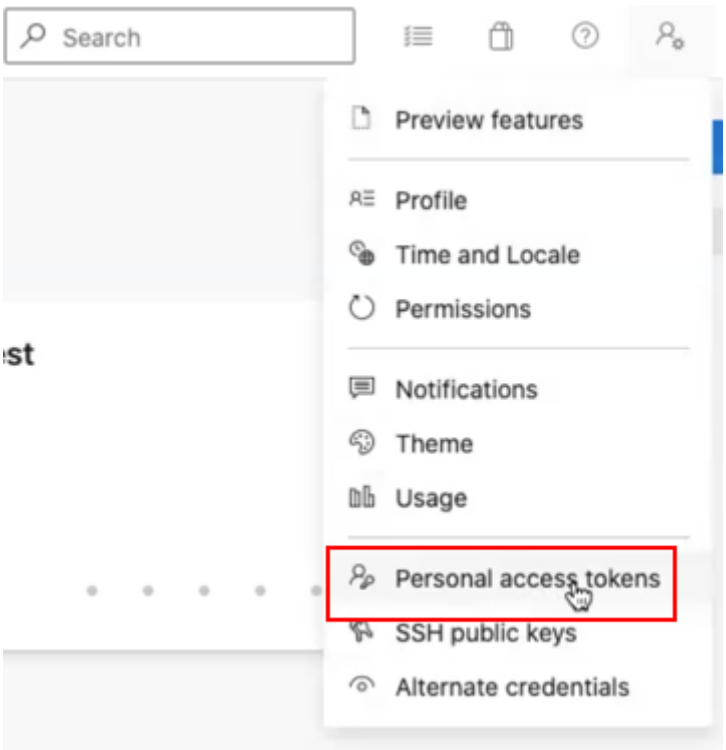
個人用アクセストークンの取得

個人用アクセストークンを使用して Azure DevOps ボード を認証します。

始める前に
必要なロール：admin

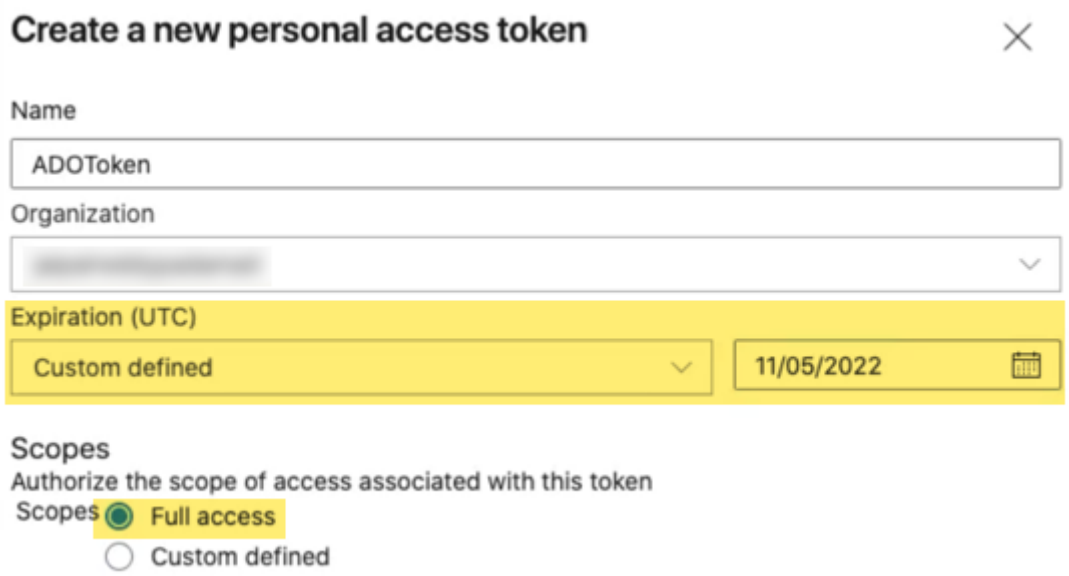
手順

1. アドミニストレーターとして Azure DevOps ポータルにログインします。
2. [ユーザー設定] > [個人用アクセストークン **(Personal access tokens)]** に移動します。

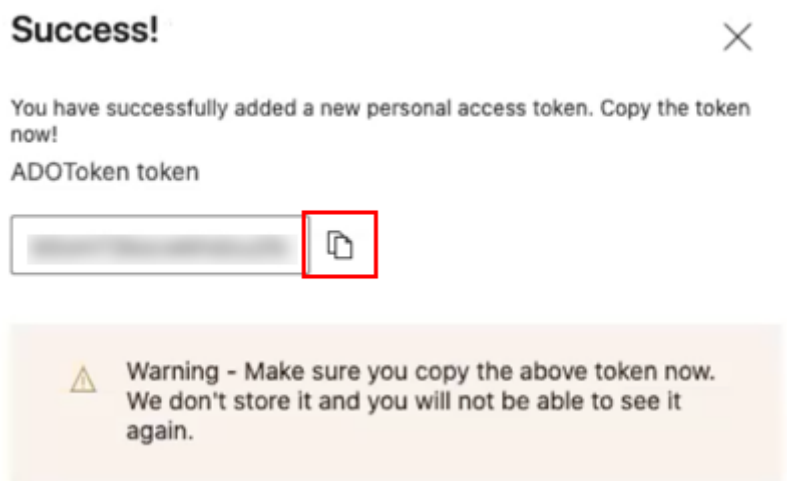


3. [新しいトークン **(New Token)]** をクリックします。
4. フォームの必須フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [作成] をクリックします。



トークンが表示されます。

6. 後で使用するためにトークンの値をコピーして記録します。

Microsoft Azure DevOps Boards スポークの接続レコードを設定

ServiceNow 要求を認証するための Azure DevOps ボード 接続を追加して設定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続 & 認証情報] > [認証情報] の順に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. [作成する認証情報の種類は？ (What type of Credentials would you like to create?)] で [基本認証情報] を選択します。
4. フォームに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

認証情報テーブル

フィールド	詳細
名前	レコードを識別する名前を指定するオプション。
順序	認証情報が使用される順序を指定するオプション。たとえば、「`100`」と入力します。
ユーザー名	認証情報として入力するユーザー名を指定するオプション。
パスワード	認証情報として入力するパスワードを指定するオプション。
アクティブ	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。オプションを選択します。

5. [送信] を選択します。
   認証情報が作成されます。
6. [すべて] > [統合ハブ] > [接続 & 認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
7. Azure_DevOps_Boards エイリアスを検索します。
8. Azure_DevOps_Boards エイリアスを選択します。
9. [接続] タブで、[新規] を選択します。
10. フォームに入力します。

HTTP(S) 接続

フィールド	説明
名前	接続の一意の名前を指定するオプション。
アクティブ	この接続がアクティブであることを示すオプション。 **注:** OAuth 2.0 の接続レコードまたは基本認証の接続レコードのいずれかをアクティブにしておくことができます。両方の接続レコードをアクティブなままにする場合は、Azure_DevOps_Boards 接続および資格情報エイリアスの子エイリアスの下にいずれかの接続レコードを作成します。
認証情報	以前に作成した認証情報を選択するオプション。
ドメイン	接続が属するドメインを指定するオプション。
接続エイリアス	親接続エイリアスを指定するオプション。このフィールドは自動的に `sn_azure_dev_spoke.Azure_DevOps_Boards` に設定されます。
URL ビルダー	手動で接続 URL を入力するか、システムを使用して入力に基づいて URL を作成します。デフォ

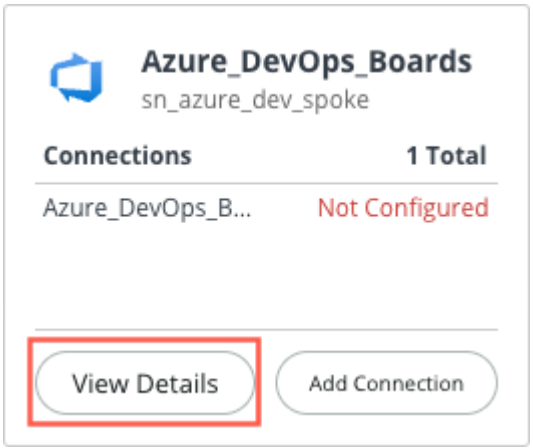
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ルトはオフです。オンにすると、次のフィールドから接続 URL が計算されます。 ◦ [相互認証] - 相互認証を使用する場合はオンにします。 ◦ [プロトコル] - 相互認証を使用しない場合は、プロトコルを入力します。デフォルトは HTTPs です。 ◦ [プロトコル プロファイル] - 相互認証を使用する場合は、sys_protocol_profile からプロトコル プロファイルを入力します。 ◦ ホスト ◦ ポート ◦ ベースパス - 接続文字列のパス。 **注:** 相互認証をオンにした場合は、接続 URL が作成されます (プロトコル + :// + host:port +URL)。相互認証をオフにした場合は、接続 URL が作成されます (プロトコル プロファイル + :// + host:port +URL)。
接続 URL	URL ビルダーをオフにした場合は、このフィールドに接続 URL を入力します。 **注:** 相互認証をオンにした場合は、接続 URL が作成されます (プロトコル + :// + host:port +URL)。相互認証をオフにした場合は、接続 URL が作成されます (プロトコル プロファイル + :// + host:port +URL)。
MID サーバーを使用	MID サーバーを指定するオプション。
接続タイムアウト	システムがホスト接続の成功を待機するミリ秒数。この間に接続が成功しない場合、接続要求はタイムアウトします。システムのデフォルトの接続タイムアウト値を使用するには、このフィールドを空のままにします。

11. [送信] を選択します。
12. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
13. [統合] タブをクリックします。
14. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。
15. **Azure_DevOps_Boards** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

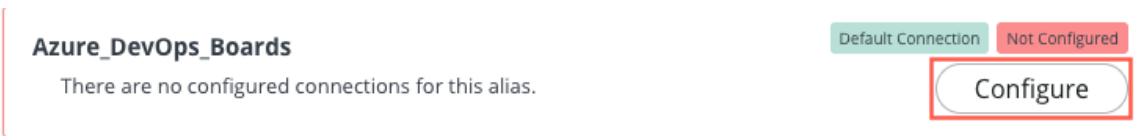
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ Azure DevOps Boards スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



◦ 複数の Azure DevOps Boards スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

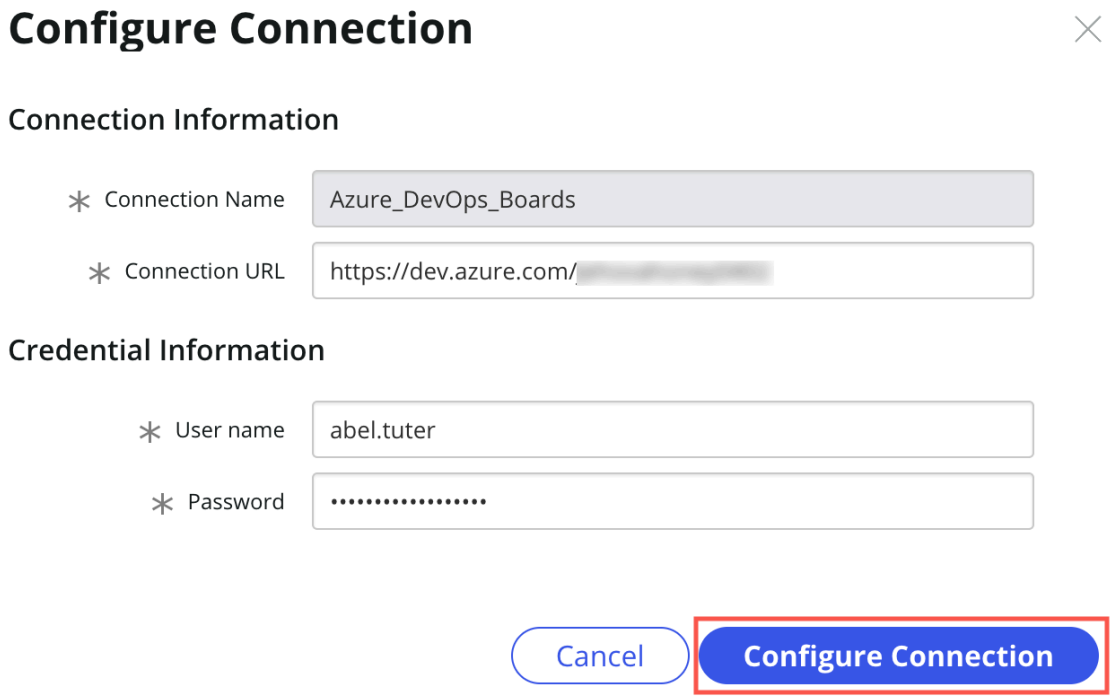
スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。



16. [接続を設定] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを一意に識別する名前です。たとえば、「`Azure DevOps Boards 接続`」と入力します。
接続 URL	Azure DevOpsインスタンスの URL です。たとえば、`https://dev.azure.com/<instance-name>` の形式で URL を入力します。
ユーザー名	Azure DevOps インスタンスにログインするためのユーザー名。
パスワード	Azure DevOps を認証するための個人用アクセストークン。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



17. [接続を設定] をクリックします。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

Microsoft Azure DevOps Pipelines スポーク

Microsoft Azure DevOps Pipelines スポークを使用すると、Azure DevOps でのパイプラインの作業を自動化できます。Azure DevOps での作業を自動化するアクションを含むフローを作成します。たとえば、パイプラインのログ詳細の取得を自動化するフローを作成します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、法務スケジュール - IntegrationHubの概要を参照してください。

サポートされているバージョン

このスポークは Azure DevOps Pipelines REST API バージョン 7.0 および Azure DevOps Server 2022 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークバージョン

Microsoft Azure DevOps Pipelines スポーク v1.0.0 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

- スポークの依存関係がインストールされている
- 個人用アクセストークンが Azure DevOps 上で生成されている
- Microsoft Azure DevOps Pipelines エイリアスが ServiceNow インスタンスに設定されている
- Microsoft Azure DevOps Pipelines スポークプラグインが ServiceNow インスタンスにインストールされている

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- com.glide.hub.action_type.datastream
- com.glide.hub.integration.runtime
- com.glide.cobject
- com.glide.hub.action_step.rest

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのアクション

Microsoft Azure DevOps スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Azure DevOps Pipelines のタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

注: アクションを実行するには、Microsoft Azure DevOps Pipelines スポークの接続および認証情報レコードを設定することで、最初にアウトバウンド統合を設定する必要があります。

カテゴリ	アクション	説明
パイプライン管理	Pipelines ストリームを検索	Azure DevOps プロジェクトの ID や名前など、すべてのパイプラインの詳細を取得します。
	パイプラインを検索	パイプラインの ID や名前などのパイプラインの詳細を取得します。
実行管理	パイプラインを実行	指定した詳細に基づいてパイプラインを実行します。
	実行を検索	パイプラインの名前や ID など、実行の詳細を取得します。
	実行を検索	パイプラインの名前や ID など、上位 10000 件の実行のリストを取得します。
ログ管理	ログを検索	対応するパイプライン実行の URL や署名されたコンテンツなど、すべてのログの詳細を取得します。
	ログを検索	対応するパイプライン実行の ID や URL など、ログオブジェクトの詳細を取得します。
アーティファクト管理	アーティファクトを検索	パイプライン実行からアーティファクトオブジェクトを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
ユーティリティアクション	ServiceNow レコードにファイルを添付する	ServiceNow レコードにログファイルまたはアーティファクトファイルを添付します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

Microsoft Azure DevOps Pipelines スポークの設定

接続レコードを設定して、ServiceNow インスタンスと Azure DevOps Pipelines アプリケーションを統合します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft Azure DevOps Pipelines スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

接続レコードの設定

Azure DevOps Pipelines アプリケーションの接続レコードを作成し、ServiceNow インスタンスを Azure DevOps Pipelines アプリケーションと統合できるようにします。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 個人アクセストークンを作成します。
   Azure DevOps アプリケーションは、提示された個人アクセストークンに基づいて、 ServiceNow インスタンスのアクセス要求を認証します。

   a. Azure DevOps ポータルにログインします。

   b. ランディングページで、ユーザー設定アイコン ( ) を選択します。

   c. メニューで、[個人アクセストークン] を選択します。

   d. [個人アクセストークン] ページで、**[+ 新しいトークン (+ New Token)]** を選択します。

   e. 新しい個人アクセストークンの作成フォームに入力します。

   新しい個人アクセストークンの作成

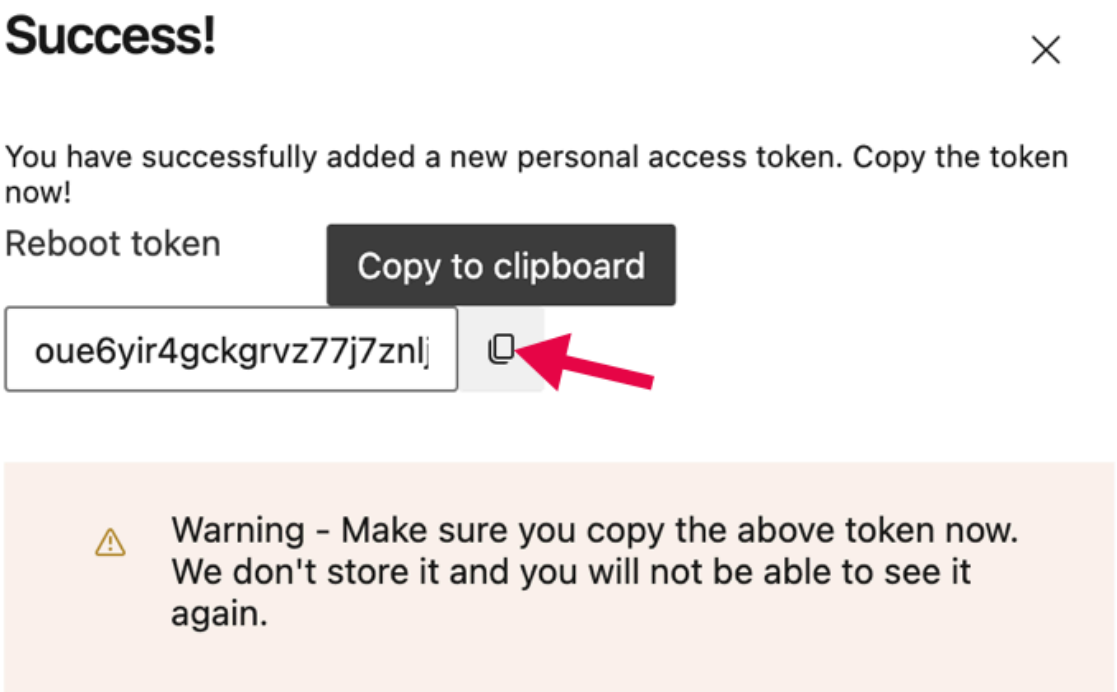
フィールド	説明
名前	個人アクセストークンのカスタム名です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
組織	DevOps パイプラインとプロジェクト管理に関連するすべてのリソースと設定が含まれています。 ヒント: 組織の名前を見つけるには、DevOps Pipeline アプリケーションのホームページに移動します。組織の名前は、[プロジェクト] タブの上に表示されます。
有効期限 (UTC)	個人アクセストークンの有効期限です。
スコープ	個人アクセストークンでアクセスできる Azure DevOps Pipelines アプリケーションのリソースまたは設定です。[カスタム定義 (Custom defined)] を選択し、[ビルド (Build)] セクションで [読み取りおよび実行] を選択します。

f. [作成] を選択します。

g. 個人アクセストークンをコピーするには、[クリップボードにコピー] ボタンをクリックします。



h. [クローズ] を選択します。

2. 接続レコードを設定します。

a. ServiceNow インスタンスにログインします。

b. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

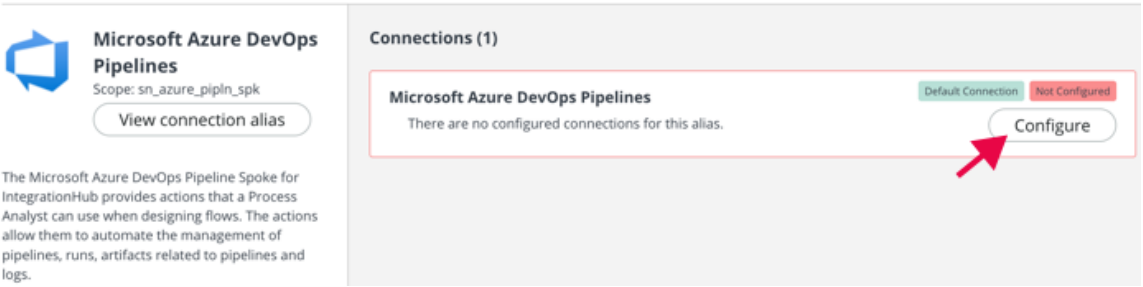
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [接続] を選択します。

d. [すべての接続を検索] フィールドに、「`Microsoft Azure DevOps Pipelines`」と入力します。

e. [Microsoft Azure DevOps Pipelines] カードで、[詳細を表示] を選択します。

f. [設定] を選択しま



す。

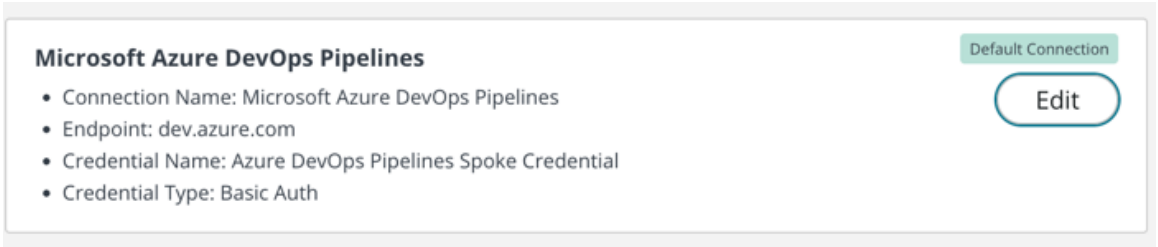
g. フォームに入力します。

接続を設定

フィールド	説明
接続名	接続レコードの名前。最初の接続のデフォルトの読み取り専用名は、Microsoft Azure DevOps Pipelines です。 **注:** 接続のカスタム名を指定するには、接続レコードを作成する必要があります。作成するには、[接続を追加] を選択します。
接続 URL	Azure DevOps Pipelines アプリケーションへの URL です。URL の形式は、`https://dev.azure.com/<organization>` です。 プレースホルダー <organization> を Azure DevOps Pipelines アプリケーションの組織名で置き換えます。 **ヒント:** 組織名は、[個人アクセストークン] ページの [組織] 列で確認できます。
個人アクセストークン	作成した個人アクセストークンを入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

h. [接続を設定] を選択します。
接続レコードが作成されま



す。

Microsoft Azure Managed Storage スポーク

ServiceNow インスタンスから Microsoft Azure 管理対象ディスクを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Azure Managed Storage スポーク v2.0.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- Microsoft Azure Resource Management スポーク (com.sn.ms.azure.resource.mgmt.spoke) が ServiceNow インスタンスにインストールされ、構成されている。
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - 接続情報の取得
- Microsoft Azure Virtual Network スポークが ServiceNow インスタンスにインストールされ、構成されている。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポート対象のバージョン

このスポークは API バージョン 2023-10-02 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Microsoft Azure 管理対象ディスクへのフルアクセス権を持つユーザーアカウントです。
- Microsoft Azure Resource Management スポーク

スポークのフローおよびサブフロー

このスポークにはフローまたはサブフローがありません。

スポークのアクション

Microsoft Azure Managed Storage スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Microsoft Azure ディスクとディスクスナップショットを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

スポークのアクション

カテゴリ	アクション	説明
ディスク管理	ディスクからのアクセスを取り消す	指定したディスクからのアクセスを取り消します。
	管理対象アップロードディスクを作成	指定したアップロードサイズでディスクを作成します。 ヒント: Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作の現在のステータスを検索します。
	ディスクサイズを更新	指定したディスクのサイズを更新します。
	ディスクタグを設定	指定したディスクのタグを更新します。指定したタグは、ディスク上の既存のタグを置き換えます。
	ディスクへのアクセスを許可	指定したディスクへのアクセスを許可します。 ヒント: Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作の現在のステータスを検索します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
	ディスクストレージアカウントを更新	指定したディスクに関連付けられているストレージアカウントの詳細を更新します。 ヒント: Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作の現在のステータスを検索します。
	ディスクを削除	指定されたディスクを削除します。 ヒント: Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作の現在のステータスを検索します。
	管理対象ディスクを作成	指定されたディスクサイズ (GB) でディスクを作成します。 ヒント: Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作の現在のステータスを検索します。
	ディスクを検索	指定されたリソースグループ内の指定されたディスクに関する情報を取得します。
	リソースグループでディスクストリームを検索	指定されたリソースグループに含まれるディスクのリストを取得します。
	スナップショットから管理対象ディスクを作成	スナップショットを使用してディスクを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
		ヒント: Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作の現在のステータスを検索します。
	サブスクリプション ID でディスクストリームを検索	指定された Azure サブスクリプションのディスクのリストを取得します。
ディスクスナップショット管理	スナップショットへのアクセスを許可	指定されたスナップショットへのアクセスを付与します。 ヒント: Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作の現在のステータスを検索します。
	リソースグループでスナップショットストリームを検索	指定されたリソースグループに含まれるスナップショットのリストを取得します。
	スナップショットサイズを更新	指定したスナップショットのサイズを更新します。 ヒント: Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作の現在のステータスを検索します。
	スナップショットストレージアカウントを更新	指定したスナップショットのタグを更新します。 ヒント: Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作の現在のステータスを検索します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
	サブスクリプション ID でスナップショットストリームを検索	指定された Azure サブスクリプションのスナップショットのリストを取得します。
	スナップショットを作成	ディスクからスナップショットを作成します。 ヒント: Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作の現在のステータスを検索します。
	スナップショットを削除	指定されたスナップショットを削除します。 ヒント: Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作の現在のステータスを検索します。
	スナップショットからのアクセスを取り消す	指定されたスナップショットへのアクセスを取り消します。 ヒント: Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作の現在のステータスを検索します。
	スナップショットを検索	指定したリソースグループ内の指定したスナップショット情報を取得します。
	スナップショットタグを設定	指定したスナップショットのタグを更新します。指定したタグは、スナップショット上の既存のタグを置き換えます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

「スポークの設定については、「Microsoft Azure Resource Management スポークの設定」および「」。

Microsoft Azure Notification Hub スポーク

ServiceNow インスタンスを Microsoft Azure Notification Hub とデータ連携します。ServiceNow インスタンスから Microsoft Azure Notification Hub を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Azure Notification Hub スポークは v2.0.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは Azure Notification Hub バージョン 2023-09-01 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- ServiceNow インスタンスとの統合用の Microsoft Azure ポータルのストレージアカウントです。
- アプリケーションを Microsoft Azure ポータルに登録し、アクセスキーとディレクトリー ID を記録します。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow IntegrationHub Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- フローデザイナーアクションステップ - ペイロードビルダー (com.glide.hub.action_step.payload)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- Complex Object (com.glide.cobject)
- Get Connection Info (com.glide.hub.action_step.get_connection_info)
- ServiceNow IntegrationHub Action Template - Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream)
- IHUB Spoke Util Pack (com.snc.ihub_spoke_util_pack)
- Microsoft Azure Resource Management スポークがインストールされ、ServiceNow インスタンスに接続レコードが構成されている。
- Microsoft Azure Notification Hub SAS の接続および資格情報エイリアスレコードが ServiceNow インスタンスに構成されている。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Microsoft Azure Notification Hub スポーク では、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Azure Notification Hub タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
インストール管理	インストールを作成または更新	インストールを作成または更新します。
	インストールを削除	インストールを削除します。
	インストールを検索	インストール ID に基づいてインストールを取得します。
	インストールを更新	JSON-Patch を使用してインストールを部分的に更新します。
	リソースグループで名前空間ストリームを検索	リソースグループ内で利用可能な名前空間のリストを返します。
	サブスクリプション ID で名前空間ストリームを検索	サブスクリプション内で利用可能な名前空間のリストを返します。
名前空間管理	名前空間を検索	指定された名前空間の詳細を返します。
	名前空間を作成または更新する	Notification Hub 名前空間を作成または更新します。 注: この操作はべき等です。
	名前空間を削除	既存の名前空間を削除します。この操作では、名前空間に属するすべての関連する通知ハブも削除します。
	名前空間を更新	既存の名前空間にパッチを適用します。
通知ハブの管理	Notification Hubs を作成または更新	名前空間で Notification Hubs を作成または更新します。
	通知ハブを削除	名前空間に関連付けられている通知ハブを削除します。
	通知ハブを検索	指定された通知ハブの詳細を返します。
	名前空間で通知ハブストリームを検索	名前空間に関連付けられた利用可能な通知ハブのリストを返します。
登録管理	APNS の登録を作成	Apple プッシュ通知サービス (APNS) デバイスの登録を作成します。この方法では、この登録を取得、更新、および削除するために使用できる登録 ID が生成されます。
	GCM 登録を作成	Google Cloud メッセージング (GCM) デバイスの登録を作成します。この方法では、この登録を取得、更新、および削除するために使用できる登録 ID が生成されます。
	登録 ID を作成	登録 ID を返します (登録を作成しません)。
	登録を削除	登録を削除します。
	登録を検索	登録に関する情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	APNS 登録を更新	既存の APNS 登録を更新します。
	GCM 登録を更新	既存の GCM 登録を更新します。
	登録ストリームを検索	すべての登録を取得します。
通知管理	APNS ネイティブ通知を送信	通知ハブを介して APNS ネイティブ通知を送信します。
	GCM ネイティブ通知を送信	通知ハブを介して GCM ネイティブ通知を送信します。
	デバイスハンドルに通知を送信	通知をデバイスハンドルに直接送信します (通知タイプで表される有効なトークン)。 **注:** この API のユーザーは、登録またはインストールを使用する必要はありません。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「Microsoft Azure Notification Hub Spoke の設定。

Microsoft Azure Notification Hub Spoke の設定

Microsoft Azure Notification Hub と統合するために ServiceNow インスタンスを設定します。この設定により、Microsoft Azure Notification Hub は ServiceNow インスタンスからの要求を認証できるようになります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft Azure Notification Hub スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Microsoft Azure Resource Management 接続エイリアスの設定

Microsoft Azure Resource Management 接続エイリアスを設定して、Microsoft Azure Notification Hub スポークの [通知ハブ管理] および [名前空間管理] カテゴリでアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

- Microsoft Azure Resource Management 接続エイリアスを設定する手順については、「Microsoft Azure Resource Management スポークの設定」を参照してください。

Microsoft Azure Notification Hub SAS 接続エイリアスの設定

Microsoft Azure Notification Hub SAS 接続エイリアスと Microsoft Azure ポータルの間の接続を確立します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
Microsoft Azure Notification Hub SAS 接続エイリアスにより、Microsoft Azure Notification Hub スポークのインストール管理、通知管理、および登録管理カテゴリのアクションを
実行できます。

手順

1. ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
3. [統合] タブを選択します。
4. **[Connections** (接続)] を選択します。
5. [すべての接続を検索] フィールドで、Microsoft Azure Notification Hub SAS 接続エイリアスレコードを検索します。

   注: [送信] タブがデフォルトで有効になっています。有効になっていない場合は、切り替えて有効にします。

6. [Microsoft Azure Notification Hub SAS 接続エイリアス] タイルで、[詳細の表示] を選択します。
7. [構成 **(Configure)]** を選択します。
8. フォームに入力します。

Microsoft Azure Notification Hub SAS エイリアスのセットアップ情報

フィールド	説明
接続名	接続レコードの名前。
認証情報名	Microsoft Azure Notification Hub SAS へのアクセスに使用される認証情報の名前。
共有アクセスキー名	Microsoft Azure Notification Hub SAS への共有アクセスキーの名前。
共有アクセスキー	Microsoft Azure Notification Hub SAS への共有アクセスキー。Microsoft Azure ポータルからキーを生成します。手順を表示するには、「Microsoft Azure Notification Hub SAS の共有アクセスキーを生成する」を参照してください。

9. **[Create** (作成)] を選択します。

Microsoft Azure Notification Hub SAS の共有アクセスキーを生成する

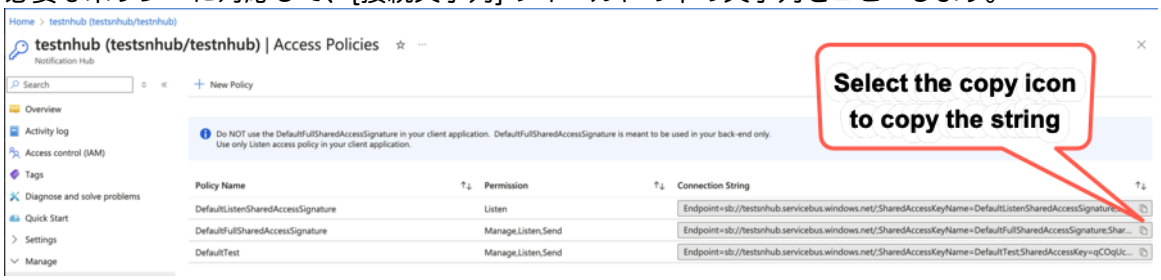
Microsoft Azure Notification Hub SAS 接続エイリアスと Microsoft Azure ポータル間の接続を作成するために指定する必要がある共有アクセスキーを生成します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. https://portal.azure.com にログインします。
2. [通知ハブ **(Notification Hubs)]** を選択します。
3. 必要な通知ハブを選択し、[適用] を選択します。
4. 通知ハブを選択して開きます。
   スポークは、ユーザーが開いた通知ハブに対してアクションを実行します。
5. [管理] で、[アクセスポリシー] を選択します。
6. 必要なポリシーに対応して、[接続文字列] フィールドの下の文字列をコピーします。



7. コピーした文字列から、共有アクセスキーをコピーします。
   文字列内の SharedAccessKey の値をコピーします。

関連情報

Microsoft Azure Notification Hub SAS 接続エイリアスの設定

Microsoft Azure リソース管理スポーク

Azure リソース管理 を使用すると、ServiceNow 内から Microsoft Azure サブスクリプションのリソースを作成、更新、および削除できます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

以下のスポークは、Microsoft Azure Resource Management スポークプラグインのインストールと、アクション実行のためのセットアップに依存します。

- Microsoft Azure SQL Database スポーク
- Microsoft Azure Virtual Network スポーク
- Microsoft Azure Managed Storage スポーク
- Microsoft Azure Cosmos DB スポーク
- Microsoft Azure Notification Hub スポーク
- Microsoft Azure Traffic Manager スポーク
- Microsoft Azure Automation スポーク
- Microsoft Azure Virtual Machine スポーク

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Microsoft Azure Resource Management スポーク v2.0.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポート対象のバージョン

このスポークは API バージョン 2021-04-01 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークのアクション

Microsoft Azureリソース管理スポークでは、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにリソース管理タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
メタデータの取得	データベースを検索	サーバー内のデータベースのリストを取得します。
	エラスティックプールを検索	Microsoft Azure の可変プールのリストを取得します。
	場所を検索	場所のリストを取得します。
	リソースの運用ステータスを検索	作成または更新されたリソース (仮想マシン、ネットワーク、ディスクなど) の運用ステータスを返します。
	リソースグループを検索	リソースグループのリストを取得します。
	SQL Server を検索	リソースグループ内のサーバーのリストを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Microsoft Azure Resource Management スポークの設定。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Azure Resource Management スポークの設定

ServiceNow インスタンスで Microsoft Azure Resource Management 接続レコードを設定して、ServiceNow インスタンスと Microsoft Azure Resource Management を統合します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft Azure ポータルでカスタム OAuth アプリケーションを作成します。
- Microsoft Azure Resource Management スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

OAuth プロバイダーとして Microsoft Azure Resource Management を登録する

ServiceNow インスタンスからの OAuth トークンの要求を認証する OAuth アプリケーションを Microsoft Azure 上に作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. https://portal.azure.com/ にログインします。
2. [アプリの登録] を選択します。
3. [新規登録] を選択します。
4. フォームに入力します。

OAuth アプリケーションの詳細

フィールド	説明
名前	OAuth アプリケーションの名前。
サポートされているアカウントの種類	Microsoft Azure Resource Management にアクセスするために作成している OAuth アプリケーションを使用できるユーザーを指定するオプション。
リダイレクト URI (オプション)	リダイレクト URI を指定するオプション。リダイレクト URI の形式は「https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do」です。[プラットフォームの選択 (Select a platform)] リストから **[Web]** を選択します。

5. [登録 **(Register)]** を選択します。
   OAuth アプリケーションが登録されます。
6. [重要項目 (Essentials)] 見出しの下にある次のフィールドから値をコピーします。
   - アプリケーション (クライアント) ID
   - ディレクトリー (テナント) ID
7. [クライアント認証情報] フィールドで、[証明書またはシークレットの追加 **(Add a certificate or secret)]** を選択します。
8. [クライアントシークレット] の見出しの下で、[新しいクライアントシークレット **(New client secret)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. [クライアントシークレットの追加 (Add a client secret)] ウィンドウで、次のアクションを実行します。

   a. [説明] フィールドに、クライアントシークレットに関する説明を入力します。

   b. [有効期限] フィールドに、クライアントシークレットの有効期限を入力します。

   c. [追加] を選択します。
   クライアントシークレットが生成されます。

10. [値] 見出しの下で、クライアントシークレットをコピーして安全な場所に保存します。
Microsoft Azure Resource Management が OAuth プロバイダーとして登録され、接続レコードの設定に必要な情報が利用可能になります。

接続レコードの作成

ServiceNow インスタンスで Microsoft Azure Resource Management 接続レコードを設定して、ServiceNow インスタンスと Microsoft Azure Resource Management を統合します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
3. [統合] タブを選択します。
4. **[Connections** (接続)] を選択します。
5. [すべての接続を検索] フィールドで、Microsoft Azure Resource Management 接続エイリアスレコードを検索します。

   注: [送信] タブがデフォルトで有効になっています。有効になっていない場合は、切り替えて有効にします。

6. [Microsoft Azure Resource Management 接続エイリアス] タイルで、[詳細の表示] を選択します。
7. [構成 **(Configure)]** を選択します。
8. フォームに入力します。

Microsoft Azure Resource Management 接続エイリアス

フィールド	説明
接続名	接続エイリアスレコードの名前です。
認証 URL	ServiceNow インスタンスが Microsoft Azure ポータルから OAuth トークンを要求するために使用する URL。URL は次の形式にする必要があります：`https://login.microsoftonline.com/{tenant ID}/oauth2/v2.0/authorize`。
トークン URL	ServiceNow インスタンスが OAuth トークンを取得するために使用する URL。URL は

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	次の形式にする必要があります：`https://login.microsoftonline.com/{tenant}/oauth2/v2.0/token`
トークン失効 URL	ServiceNow インスタンスが OAuth トークンをキャンセルするために使用する URL。URL は次の形式にする必要があります：`https://login.microsoftonline.com/{tenant ID}/oauth2/v2.0/revoke` **注:** このフィールドはオプションです。
クライアント ID	Microsoft Azure ポータルで作成した OAuth アプリケーションの一意の ID。Microsoft Azure ポータルでは、この ID を使用して ServiceNow インスタンス要求を認証します。
クライアントシークレット	Microsoft Azure ポータルで ServiceNow インスタンス要求を認証するために使用するシークレット。Microsoft Azure ポータルで OAuth アプリケーションを作成するときに、クライアントシークレットを生成します。
リダイレクト URL	要求が認証された後にサードパーティアプリケーションが ServiceNow インスタンスを返送する特定のアドレス。Microsoft Azure ポータルで OAuth アプリケーションを作成するときに、リダイレクト URL を設定する必要があります。

9. **[OAuth** トークンを設定して取得] を選択します。
   OAuth トークンが指定される前に、https://portal.azure.com/ にログインする必要があります。

   認証に成功すると、要求が認証され、OAuth トークンが使用可能になります。

Microsoft Azure SQL Database スポーク

ServiceNow インスタンス内から Microsoft Azure SQL データベースを設定および管理します。Microsoft Azure SQL database スポークをインストールすると、Microsoft Azure SQL Resource Management スポークも取得されます。Microsoft Azure Resource Manager では、Microsoft Azure サブスクリプションのリソースを作成、更新、および削除できるようにする管理レイヤーが提供されます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Microsoft Azure SQL Database スポーク v2.0.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは API バージョン 2021-11-01 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Microsoft Azure クラウドコンピューティングへのフルアクセス権を持つユーザーです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー：動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream)
- Azure Resource Management スポーク (sn_azure_rm_spoke) v2.0.0 がインストールされ、インスタンスに接続エイリアスが作成されている。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのアクション

Microsoft Azure Microsoft Azure SQL インスタンスでイベントが発生したときに ServiceNow タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
データベース管理	汎用データベースを作成	Microsoft Azure で汎用データベースを作成します。
	ハイパースケールデータベースを作成	Microsoft Azure でハイパースケールデータベースを作成します。
	VCore データベースを作成	Microsoft Azure で VCore データベースを作成します。
	データベースを削除	サーバーで必要なデータベースを削除します。
	データベースを検索	データベースの詳細を取得します。
	エラスティックプールでデータベースストリームを検索	可変プール内のデータベースのリストを取得します。
	サーバーでデータベースストリームを検索	サーバー内のデータベースのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	運用ステータスを検索	作成または更新されたデータベースの運用ステータスを生成します。
	データベースの名前を変更	データベースの名前を変更します。
	データベースを更新	データベースの SKU またはプロパティを更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

Microsoft Azure SQL Database スポークを設定

Microsoft Azure SQL Database スポークのアクションを実行するには、先に Microsoft Azure Resource Management スポークをインストールして構成する必要があります。Microsoft Azure SQL Database スポークを別途構成する必要はありません。Microsoft Azure Resource Management スポークを設定する手順については、「Microsoft Azure Resource Management スポークの設定」を参照してください。

Microsoft Azure Traffic Manager スポーク

ServiceNow インスタンスを Azure Traffic Manager とデータ連携します。ServiceNow インスタンスから DNS ベースのトラフィック分散と負荷分散を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Azure Traffic Manager スポークは v2.0.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは Azure Traffic Manager 2022-04-01 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Azure ポータルに登録されている Azure Traffic Manager のクライアント ID およびクライアントシークレット。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー：動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream)
- Azure Resource Management スポーク (sn_azure_rm_spoke) v2.0.0 がインストールされ、インスタンスに接続エイリアスが作成されている。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのアクション

Azure Traffic Manager スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに DNS ベースのトラフィック負荷分散タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
エンドポイント管理	エンドポイントを作成	トラフィックマネージャーエンドポイントを作成します。
	エンドポイントを削除	トラフィックマネージャーエンドポイントを削除します。
	エンドポイントを検索	トラフィックマネージャーエンドポイントの詳細を取得します。
	エンドポイントを更新	トラフィックマネージャーエンドポイントを更新します。
プロファイル管理	プロファイルの作成	トラフィックマネージャープロファイルを作成します。
	プロファイルを削除	トラフィックマネージャープロファイルを削除します。
	DNS 名可用性を検索	トラフィックマネージャーの相対 DNS 名が利用可能かどうかを確認します。
	プロファイルを検索	トラフィックマネージャープロファイルを検索します。
	リソースグループでプロファイルを検索	リソースグループでトラフィックマネージャープロファイルを検索します。
	サブスクリプション ID でプロファイルを検索	サブスクリプション ID でトラフィックマネージャープロファイルを検索します。
	プロファイルを更新	トラフィックマネージャープロファイルを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

Microsoft Azure Traffic Manager スポークの設定

Microsoft Azure Traffic Manager スポークのアクションを実行するには、先に Microsoft Azure Resource Management スポークをインストールして構成する必要があります。Microsoft Azure Traffic Manager スポークを別途構成する必要はありません。Microsoft Azure Resource Management スポークを設定する手順については、「Microsoft Azure Resource Management スポークの設定」を参照してください。

Microsoft Azure Virtual Machine スポーク

ServiceNow インスタンスから Microsoft Azureで仮想マシン (VM) を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Azure Virtual Machine スポーク v2.0.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - 接続情報の取得 (com.glide.hub.action_step.get_connection_info)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream)
- Microsoft Azure Resource Management スポーク v2.0。インストール後、Microsoft Azure Resource Management スポーク v2.0 接続レコードの接続を構成して、Microsoft Azure Portal から OAuth トークンを要求する必要があります。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポート対象のバージョン

このスポークはアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) バージョン 2024-03-01 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Microsoft Azure Resource Management Spoke (com.sn.ms.azure.resource.mgmt.spoke)
- Microsoft Azure Virtual Network Spoke (com.sn.ms.azure.virtual.network.spoke)
- Microsoft Azure Managed Storage Spoke (com.sn.ms.azure.managed.storage.spoke)

スポークのフローおよびサブフロー

このスポークにはフローまたはサブフローがありません。

スポークのアクション

Microsoft Azure Virtual Machine スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Microsoft Azure 仮想マシンのタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

スポークのアクション

カテゴリ	アクション	説明
イメージ管理	仮想マシンからイメージを作成	既存の仮想マシンからイメージを作成します。
	イメージを削除	イメージを削除します。 **注:** Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作のステータスを検索します。
	イメージを検索	指定したリソースグループからイメージ情報を取得します。
	リソースグループでイメージストリームを検索	リソースグループのイメージのリストを取得します。
	サブスクリプション ID でイメージストリームを検索	サブスクリプション内のイメージのリストを取得します。
	イメージにタグを設定	イメージにタグを設定します。 **注:** Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作のステータスを検索します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
仮想マシンの管理	ディスクを接続	データディスクを仮想マシンに接続します。
	仮想マシンを作成	仮想マシンを作成します。
	イメージから仮想マシンを作成	イメージから仮想マシンを作成します。
	仮想マシンの割り当て解除	仮想マシンをシャットダウンし、計算リソースを解放します。
	仮想マシンを削除	仮想マシンを削除します。
	ディスクをデタッチ	仮想マシンからデータディスクを切り離します。 **注:** Azure Resource Management スポークの「リソースの運用ステータスを検索」アクションを使用して、操作のステータスを検索します。
	仮想マシンを一般化	仮想マシンの OS ステータスを [一般化済み] に設定します。
	仮想マシンを検索	仮想マシンに関する情報を取得します。
	仮想マシンランタイムの詳細を検索	仮想マシンの実行時の状態に関する情報を取得します。
	リソースグループで仮想マシンストリームを検索	リソースグループの仮想マシンのリストを取得します。
	サブスクリプション ID で仮想マシンストリームを検索	指定されたサブスクリプション内のすべての仮想マシンを取得します。
	仮想マシンの電源をオフ	仮想マシンの電源をオフするか、仮想マシンを停止します。
	仮想マシンの再展開	仮想マシンをシャットダウンして新しいノードに移動し、電源を入れ直します。
	仮想マシンのサイズを変更	指定された仮想マシンのサイズを変更します。 **注:** この操作は完了するまでに時間がかかる場合があります。
	仮想マシンを再起動	仮想マシンを再起動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
	仮想マシンを起動	仮想マシンを起動します。
仮想マシンイメージのリソース管理	仮想マシンイメージを検索	仮想マシンイメージを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

Microsoft Azure Virtual Machine スポークの設定

Microsoft Azure Virtual Machine スポークのアクションを実行するには、先に Microsoft Azure Resource Management スポークをインストールして構成する必要があります。Microsoft Azure Virtual Machine スポークを別途設定する必要はありません。Microsoft Azure Resource Management スポークを設定する手順については、「Microsoft Azure Resource Management スポークの設定」を参照してください。

Microsoft Azure Virtual Network スポーク

ServiceNow インスタンスから Microsoft Azure Virtual Network (VNet) を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Azure Virtual Network スポーク v2.0.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー：動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - 接続情報の取得
- Azure Resource Management スポーク (sn_azure_rm_spoke) v2.0.0 がインストールされ、インスタンスに接続エイリアスが作成されている。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

このスポークは、「リソースグループ別にネットワークインターフェイス名をリスト」と「リソースグループ別にネットワークインターフェイスを検索」の API バージョン 2023-09-01 用、その他のアクションの API バージョン 2019-11-01 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Microsoft Azure Resource Management Spoke (com.sn.ms.azure.resource.mgmt.spoke)
- Azure Virtual Network サービスにアクセスできる Microsoft Azure サブスクリプション

スポークのフローおよびサブフロー

このスポークにはフローまたはサブフローがありません。

スポークのアクション

Microsoft Azure Virtual Network Spoke では ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Microsoft Azure Virtual Network タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

スポークのアクション

カテゴリ	アクション	説明
ネットワークインターフェイス管理	ネットワークインターフェイスを作成	ネットワークインターフェイスを作成します。
	ネットワークインターフェイスを削除	指定されたネットワークインターフェイスを削除します。
	ネットワークインターフェイスを検索	指定されたリソースグループ内の指定されたネットワークインターフェイス情報を取得します。
	リソースグループでネットワークインターフェイスストリームを検索	指定されたリソースグループ内のすべてのネットワークインターフェイスをリストします。ページサイズは、Microsoft により 100 に固定されています。
	サブスクリプション ID でネットワークインターフェイスストリームを検索	指定したサブスクリプション ID のすべてのネットワークインターフェイスをリストします。ページサイズは、Microsoft により 100 に固定されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
	ネットワークインターフェイスタグを更新	ネットワークインターフェイスでタグを更新します。
パブリック IP アドレス管理	パブリック IP アドレスを作成	指定されたリソースグループに従ってパブリック IP アドレスを作成します。
	パブリック IP アドレスを削除	指定したリソースグループ内の指定したパブリック IP アドレスを削除します。
	パブリック IP アドレスを検索	指定したリソースグループ内の指定したパブリック IP アドレス情報を取得します。
	リソースグループでパブリック IP アドレスのストリームを検索	指定されたリソースグループ内のすべてのパブリック IP アドレスをリストします。ページサイズは、Microsoft により 100 に固定されています。
	サブスクリプション ID でパブリック IP アドレスストリームを検索	指定したサブスクリプションのすべてのパブリック IP アドレスをリストします。ページサイズは、Microsoft により 100 に固定されています。
	パブリック IP アドレスタグを更新	パブリック IP アドレスのタグを更新します。
サブネット管理	サブネットを作成	指定された仮想ネットワークにサブネットを作成します。
	サブネットを削除	指定した仮想ネットワークおよびリソースグループから指定したサブネットを削除します。
	サブネットを検索する	指定した仮想ネットワークおよびリソースグループから指定したサブネット情報を取得します。
	サブネットストリームを検索	指定された仮想ネットワーク内のすべてのサブネットをリストします。ページサイズは、Microsoft により 100 に固定されています。
仮想ネットワーク管理	仮想ネットワークを作成	指定したリソースグループに仮想ネットワークを作成します。
	サブネットを使った仮想ネットワークを作成	指定したリソースグループに指定されたサブネットを持つ仮想ネットワークを作成します。
	仮想ネットワークを削除	指定したリソースグループから指定した仮想ネットワークを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
	仮想ネットワークを検索	指定したリソースグループから指定した仮想ネットワーク情報を取得します。
	仮想ネットワーク使用率ステータスストリームを検索	指定されたリソースグループの仮想ネットワーク使用率の状況をリストします。ページサイズは、Microsoft により 100 に固定されています。
	リソースグループで仮想ネットワークストリームを検索	指定したリソースグループ内のすべての仮想ネットワークをリストします。ページサイズは、Microsoft により 100 に固定されています。
	サブスクリプション ID で仮想ネットワークストリームを検索	指定されたサブスクリプション内のすべての仮想ネットワークをリストします。ページサイズは、Microsoft により 100 に固定されています。
	仮想ネットワークタグを更新	仮想ネットワークでタグを更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

Microsoft Azure Virtual Network スポークの設定

Microsoft Azure Virtual Network スポークのアクションを実行するには、先に Microsoft Azure Resource Management スポークをインストールして構成する必要があります。Microsoft Azure Virtual Network スポークを別途構成する必要はありません。Microsoft Azure Resource Management スポークを設定する手順については、「Microsoft Azure Resource Management スポークの設定」を参照してください。

Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations スポーク

ServiceNow インスタンスを Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations と統合するためのベースラインアクションを提供します。Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations アプリケーションでトリガーされたビジネスイベントを取得して処理できます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations スポーク v2.2.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは Microsoft Dynamics バージョン：10.0.16 PU40 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations アカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- IHUB スポークユーティリティパック (com.snc.ihub_spoke_util_pack)
- ServiceNow 統合ハブスターターパックインストーラー (com.glide.hub.integrations)
- Explicit Roles (com.glide.explicit_roles)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート：データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的出力 (com.glide.hub.dynamic_outputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations スポークには、データ同期タスクの自動化を示すサンプルフローが用意されています。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
Microsoft D365 FinOps レコード同期	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations のデータを ServiceNow インスタンスと同期します。

スポークのサブフロー

Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations スポークには、Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations タスクの自動化を示すサンプルフローが用意されています。サンプルサブ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
固定資産レコードを作成	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations の複数の固定資産レコードを作成します。
発注書 (PO) と発注明細を作成	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations の発注書 (PO) と複数の発注明細を作成します。
メタデータをダウンロード / リフレッシュ	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からメタデータをダウンロードして更新します。
発注書 (PO) と発注明細を更新	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations の発注書 (PO) と発注明細を更新します。

スポークのアクション

Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations spoke では、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アカウントコード管理	アカウントコードストリームを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からアカウントコードを取得します。
配送場所の管理	配送場所ストリームを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations から配送場所を取得します。
固定資産管理	固定資産を作成	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations の固定資産レコードを作成します。
アイテムマスターの管理	アイテムマスターストリームを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からアイテムマスターを取得します。
法人管理	法人管理	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations から法人を取得します。
メタデータの取得	選択肢メタデータを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations から選択肢の値を取得します。
	作成可能フィールドのメタデータを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からエンティティ用の作成可能フィールドを取得します。
	編集可能なエンティティのメタデータを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations から編集可能なエンティティを取得します。
	エンティティフィルターのメタデータを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からエンティティのフィルターフィールドを取得します。
	ナビゲーションプロパティのメタデータを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からエンティティのナビゲーションプロスペリティを取得します。
	OData のメタデータを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からメタデータドキュメントを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	読み取り可能なエンティティのメタデータを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からすべての読み取り可能なエンティティを取得します。
	レコードスキーマのメタデータを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からレコードのスキーマテーブルを取得します。
	関連レコードスキーマのメタデータを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations から関連エンティティのスキーマを取得します。
	更新可能フィールドのメタデータを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からエンティティの更新可能なフィールドを取得します。
発注書管理	発注書を作成	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations の発注書レコードを作成します。
	発注明細を作成	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations の発注明細レコードを作成します。
レコード管理	レコードを作成	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations のレコードを作成します。
	レコードを削除	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations のレコードを削除します。
	ビジネスキーでレコードを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations から指定されたビジネスキー用のレコードの詳細を取得します。
	検索クエリでレコードを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations から指定された検索クエリ用のレコードを取得します。
	レコードストリームを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からデータストリーミングを通してテーブルのレコードを取得します。
	関連レコードを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からエンティティの関連レコードを取得します。
	レコードを更新	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations の指定したレコードを更新します。
サプライヤー管理	サプライヤーストリームを検索	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からサプライヤー情報を取得します。

スポークモジュール

Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations スポークは、 アプリケーションをインスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

モジュール	説明
Microsoft D365 FinOps メタデータ	すべての Microsoft Dynamic 365 Finance and Operations エンティティの詳細を表示します。 **注:** [更新可能フィールドのメタデータを検索 **(Look up Updatable Fields Metadata)]** および [作成可能フィールドメタデータを検索 **(Look up Creatable Fields Metadata)]** のアクションは、このモジュールのエンティティレコードを使用して、動的入力フィールドを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations スポークの設定。

Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations スポークの設定

Microsoft Azure でカスタム OAuth アプリケーションを作成して、ServiceNow インスタンスと Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

> **注:** 接続および資格情報エイリアスを設定した後、必ず Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations アプリケーションから最新のメタデータを取得してください。

Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations を OAuth プロバイダーとして登録

Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations を OAuth プロバイダーとして登録して、ServiceNow インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. Microsoft D365 Fin and Ops Spoke OAuth のレコードを開きます。
3. フォームに、これらの値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、次のように入力します。`Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations OAuth`
クライアント ID	Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations 中に作成されたクライアント ID アプリケーション構成。
クライアントシークレット	Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations アプリケーション構成中に作成されたクライアントシークレット
認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイントです。次のように入力します：「`https://login.microsoftonline.com/<AzureTenantID>/oauth2/v2.0/authorize`」
トークン URL	OAuth サーバートークンのエンドポイントです。次のように入力します：「`https://login.microsoftonline.com/<AzureTenantID>/oauth2/v2.0/token`」

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
トークン失効 URL	OAuth サーバートークン失効エンドポイントです。
リダイレクト URL	次の形式の OAuth コールバックエンドポイント： `https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do`
OAuth API スクリプト	要求と応答をカスタマイズするスクリプトです。[] を選択します。
ロゴ URL	アプリケーションロゴとして使用するイメージを含む URL です。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可タイプです。[クライアント認証情報] を選択します。
リフレッシュトークンの有効期間	リフレッシュトークンが有効になる時間 (秒) デフォルトの時間は 8,640,000 秒です。
PKCE が必要 (PKCE required)	パブリッククライアントが認証に PKCE を要求できるようにするオプション。 注: **PKCE** が有効になっている場合、[デフォルトの権限許可タイプ] として使用できるのは [認証コード] のみです。
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープです。
アクセス可能	このレジストリにアクセスできるアプリケーションスコープです。
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプションです。
相互認証を有効にします	トークンの要求と取り消しに相互認証を使用するオプション。このオプションでは、相互認証プロファイルを指定する必要があります。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations 用に接続レコードを作成

Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations 用に接続レコードを作成します。Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations スポークの接続および資格情報エイリアスは、これらの接続を使用して、Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations のアクションを実行します。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **MicrosoftD365FinAndOps** のエイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例を次に示します。 `Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations Connection`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証情報	Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations 用に作成された認証情報レコード。 `[MicrosoftD365FinAndOps.Credential]` を検索して選択します。
接続エイリアス	この接続に関連付けられているエイリアスレコード。「`sn_ms_fin_ops_spk.MicrosoftD365FinAndOps`」と入力します。
接続 URL	**Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations** に接続するベース URL。次のように入力します：「`https://<instance_ID>.cloudax.dynamics.com/`」
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。

5. [送信] をクリックします。

Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からメタデータを取得

Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からメタデータを取得し、ServiceNow インスタンスに保存します。ダイナミックアクションは、Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations からの最新のメタデータを必要とします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Microsoft D365 FinOps** メタデータ] > **[Microsoft D365 FinOps** メタデータのコンテンツ]に移動 します。
2. [メタデータを取得またはリフレッシュ] をクリックします。
3. Microsoft Dynamics 365 Finance and Operation アプリケーションから更新されたメタデータを取得するエイリアスを選択し、**[OK]** をクリックします。

> **注:** Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations アプリケーションに変更がある場合は、必ず最新のメタデータを取得してください。

Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations スポーク用の双方向 Webhook の設定

ServiceNow コールバック URL で Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations スポークに登録するように Webhook を設定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Microsoft D365 FnO** スポーク] > **[FnO Webhook** レジストリ] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前	Webhook レジストリの一意の名前。 例：`Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations Webhook`。
説明	Webhook のオプションの説明。
コールバック URL を生成	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations ポータルに Webhook を登録するために使用されるコールバック URL を生成するオプション。
新しいシークレットを生成	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations Webhook の秘密キーを生成するオプション。 **注:** 新しいシークレットを生成する場合は、シークレットを生成した後にコールバック URL も生成します。 Azure ポータルにアプリを登録するためのコールバック URL を記録します。

Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations スポーク用の双方向 Webhook のカスタマイズ

Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations スポークの要件に応じて、Webhook ルーティングポリシーとサブフローを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [フローデザイナー] > [デザイナー] に移動します
2. [サブフロー] をクリックします。
3. 必要なサブフローのコピーを作成します。
4. 要件に応じて必要なサブフローをカスタマイズし、公開します。
5. **[Microsoft D365 FnO** スポーク] > **[FnO Webhook** ルーティングポリシー]に移動します。
6. [新規] をクリックします。
7. フォームのフィールドに入力します。

意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。
デフォルト	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
の回答	**a.** 検索アイコンをクリックします。 **b.** ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。 注: [テーブル名] がフロー `[sys_hub_flow]` であることを確認します。
条件	Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations で必要なイベントが発生したときに満たされるべき条件です。サポートされているフィールドの詳細については、Microsoft Dynamics 365 for Finance and Operations スポークを参照してください。
回答	指定された条件が満たされるとトリガーされるサブフローです。

8. [送信] をクリックします。

注: これらのルーティングポリシーは意思決定テーブルに保存されます。ユーザーは、これらのテーブルのデータを直接更新または変更しないように注意してください。

タスクの結果
ルーティングポリシーとサブフローが作成されます。

Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations スポーク用 Microsoft Azure ポータルへのアプリの登録

Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations スポークを使用するために、Microsoft Azure ポータルに ServiceNow インスタンスを登録します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. Azure ポータルにログインします。
2. [アプリの登録] に移動し、Webhook のアプリを登録します。
3. Azure ポータルを使用して Key Vault を作成します。
   詳細については、「Azure portal を使用してキーコンテナーを作成する」を参照してください。
4. [アクセスポリシー] に移動します。
5. アクセスポリシーを作成します。
6. [シークレット権限 (Secret permissions)] の [取得] を選択し、[次へ] をクリックします。
7. [プリンシパル **(Principal)**] タブで、先ほど登録したアプリの名前を検索し、[次へ] をクリックします。
8. [アプリケーション (オプション) **(Application (optional))**] タブで、[次へ] をクリックします。
9. [レビュー + 作成 **(Review + create)**] タブで、[作成] をクリックします。
10. [シークレット] セクションに移動します。
11. [+生成/インポート **(+ Generate/Import)**] をクリックします。
12. [シークレットの作成 (Create a secret)] ページで、名前を入力し、ServiceNow インスタンスから生成されたコールバック URL を指定します。
13. [作成] をクリックします。
14. Microsoft Dynamics 365 Finance and Operations ポータルにログインします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

15. [システム管理] > [ビジネスイベント **(Business events)]** > [ビジネスイベントカタログ **(Business events catalog)]**に移動します。
16. [エンドポイント] タブに移動し、[新規] をクリックします。
17. 標準ビューからエンドポイントタイプとして [HTTPS] を選択し、[次へ] をクリックします。
18. フォームで、詳細を入力します。

エンドポイント名	エンドポイントの名前。
エンドポイントタイプ	エンドポイントのタイプ。
Key Vault	アプリケーション用に作成された Key vault。
Azure Active Directory アプリケーション ID	アプリケーションのオブジェクト ID。
Azure アプリケーションシークレット	アプリケーション用に作成されたシークレット
Key Vault の DNS 名	アプリケーションの Vault URI。
Key Vault シークレット名	key Vault シークレットの名前。

19. [**OK**] をクリックします。

> **注:** アプリケーション用の Key Vault アクセスポリシーが作成されていることを確認します。アクセスポリシーでは、アプリケーションレジストリが Key Vault からシークレットにアクセスできる必要があります。

20. [ビジネスイベント (Business events)] タブに移動し、カテゴリを検索します。
例：発注書 (PO)。
21. リストから必要なカテゴリを選択し、[アクティブ化] をクリックします。
22. [新しいビジネスイベントの構成 (Configure new business event)] セクションで、法人とエンドポイント名を選択します。
23. [OK] をクリックします。

> **注:** 以下の API 権限がアプリケーションで有効になっていることを確認します。
> - Dynamics AX カスタムサービスへのアクセス
> - Dynamics AX データへのアクセス
> - 組織ユーザーとしての Dynamics AX オンラインへのアクセス

タスクの結果
Webhook が登録され、テストの準備が整いました。

Microsoft Dynamics CRM スポーク

イントロスペクションを通じて、Microsoft Dynamics Entities とやり取りするためのベースラインアクションを提供します。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Microsoft Dynamics CRM スポーク v1.6.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的出力 (com.glide.hub.dynamic_outputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Infoblox スポークでは、Dynamics CRM で機会を作成するためのサンプルフローが提供されます。

フロー	説明
Dynamics CRM で機会を作成	Dynamics CRM で機会を作成し、ServiceNow インスタンスの機会レコードを更新します。

スポークのサブフロー

このスポークには、次のサブフローが付属しています。

サブフロー	説明
Dynamics CRM Webhook を処理	Dynamic CRM Webhook 通知を受信し、オブジェクトのアレイに変換して詳細を記録します。
Dynamics CRM Webhook の機会を処理	Dynamic CRM Webhook 通知を受信し、機会テーブルレコードを更新します。

使用可能なサンプル対話型サブフロー

Now Assist for Conversational Spokes をインストールし、統合ハブスポークの会話機能の使用を開始します。詳細については、「Now Assist in Conversational Spokes」を参照してください。

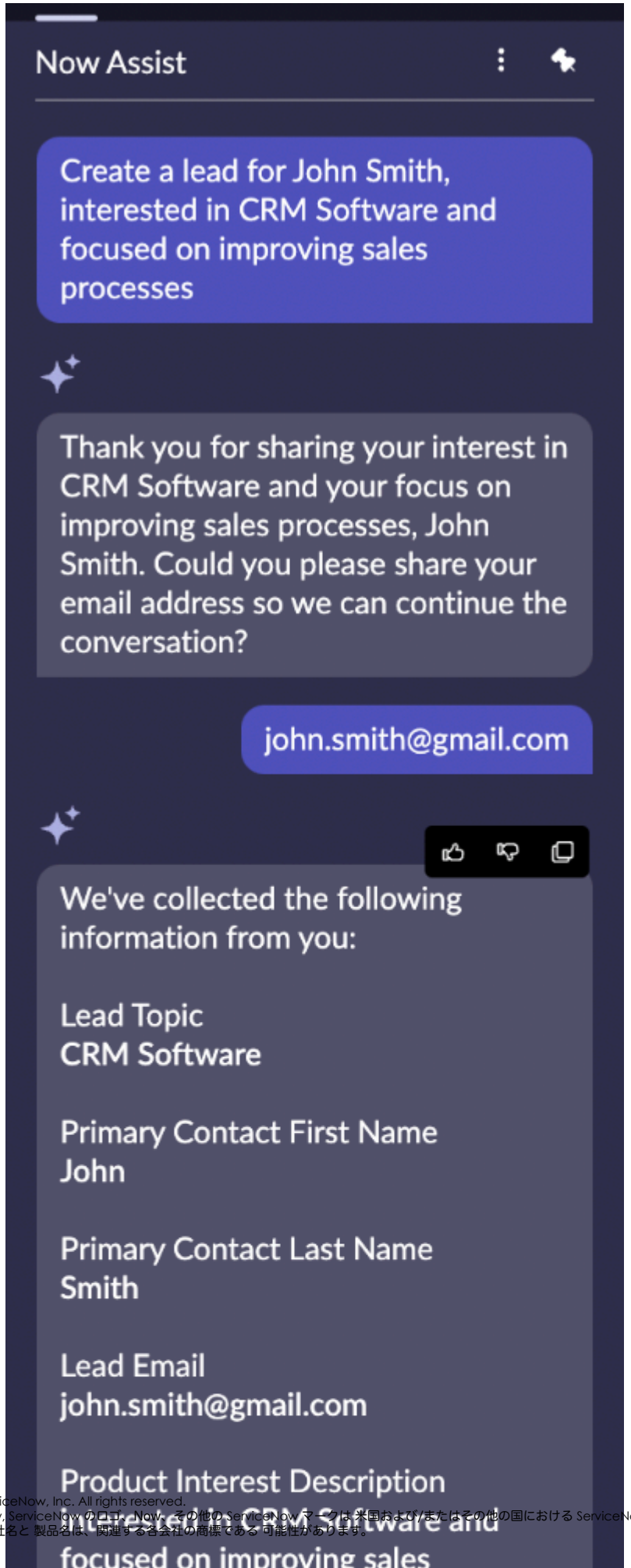
対話型サブフロー	使用法
機会を検索 - サンプル	指定されたフィルター基準に基づいて、Microsoft Dynamics CRM から機会の詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

対話型サブフロー	使用法
連絡先を検索 - サンプル	指定されたフィルター基準に基づいて、Microsoft Dynamics CRM から連絡先の詳細を取得します。
アカウントを検索 - サンプル	指定されたフィルター基準に基づいて、Microsoft Dynamics CRM からアカウントの詳細を取得します。
リードを検索 - サンプル	指定されたフィルター基準に基づいて、Microsoft Dynamics CRM からリードの詳細を取得します。
リードを作成 - サンプル	Microsoft Dynamics CRM にリードを作成します。

この例では、CRM ソフトウェアに関心があり、営業プロセスの改善に重点を置いている John Smith のリードが作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Microsoft Dynamics CRM スポークでは、イントロスペクションを通じて、Microsoft Dynamic Entities とやり取りするためのベースラインアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アカウント管理	アカウントを作成	Microsoft Dynamics CRMにアカウントを作成します。
	アカウント ID でアカウントの詳細を検索	Microsoft Dynamics CRM内の必要なアカウントの詳細を取得します。
	アカウントストリームを検索	Microsoft Dynamics CRM のすべてのアカウントの詳細を取得します。
ケース管理	ケースを作成	Microsoft Dynamics CRMにケースを作成します。
	ケース ID でケースの詳細を検索	Microsoft Dynamics CRM内の指定されたケースの詳細を取得します。
連絡先管理	連絡先を作成	Microsoft Dynamics CRMに連絡先を作成します。
	連絡先 ID で連絡先の詳細を検索	Microsoft Dynamics CRM内の必要な連絡先の詳細を取得します。
	連絡先ストリームを検索	Microsoft Dynamics CRM のすべての案件の詳細を取得します。
リード管理	リードを作成	Microsoft Dynamics CRMにリードを作成します。
	リード ID でリードの詳細を検索	Microsoft Dynamics CRM内の必要なリードの詳細を取得します。
メタデータの取得	エンティティを検索	Microsoft Dynamics CRMのすべてのエンティティとその論理名を取得します。
	エンティティメタデータを検索	Microsoft Dynamics CRMで必要なエンティティタイプに対して利用可能なすべてのメタデータを取得します。
	エンティティ URL を検索	Microsoft Dynamics CRMで利用可能なすべてのエンティティとそのエンティティセット名 (パブリック URL 名) を取得します。
	フィールド選択リストを検索	名前とラベルのペア形式になっているフィールドのすべての選択リストを取得します。
オポチュニティ管理	機会を作成	Microsoft Dynamics CRMに機会を作成します。
	機会ストリームを検索	Microsoft Dynamics CRM のすべての機会の詳細を取得します。
	機会 ID で機会の詳細を検索	Microsoft Dynamics CRM内の必要な機会の詳細を取得します。
レコード管理	レコードを作成	Microsoft Dynamics CRMにレコードを作成します。
	レコードを削除	Microsoft Dynamics CRMのレコードを削除します。
	プライマリ属性と論理名を検索	指定されたエンティティのプライマリ属性と論理名を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	レコード ID でレコードを検索	エンティティ内の指定されたレコードの情報を取得します。
	検索クエリでレコードを検索	検索クエリと選択リストから選択されたエンティティに基づいてレコードを取得します。
	レコードを検索 (Paris バージョン以前)	検索クエリと特定のエンティティに基づいてレコードを取得します。
	レコードストリームを検索	検索クエリと特定のエンティティに基づいてレコードを取得します。
	サブフローヘルパーアクション	JSON 入力を解析し、アレイオブジェクトに変換します。このアクションは、サブフローの作成に使用できます。
	レコードを更新	Microsoft Dynamics CRMのレコードを更新します。

スポークモジュール

Microsoft Dynamics CRMスポークは、 Microsoft Dynamics CRMモジュールをServiceNowインスタンスに追加します。機会モジュールには、機会の詳細が表示されます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークは、Microsoft_Dynamics_CRM エイリアスレコードを使用してアクションを許可します。

接続エイリアス	説明	接続 **URL**
Microsoft_Dynamics_CRM	Microsoft Dynamics CRM への接続	Azure でアプリケーションを作成するときに設定された URL です。この URL は、`dynamics.com` で終わります。

スポークの設定については、「 Microsoft Dynamics CRM スポークを設定。

Microsoft Dynamics CRM スポークを設定

Windows認証情報を使用してServiceNowインスタンスと Microsoft Dynamics CRMをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft ADをインストールします。
- Microsoft Dynamics CRM スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
すべての Microsoft Dynamics CRM スポークアクションを使用するには、次の手順を実行します。

Microsoft Dynamics CRMアプリケーションを構成

Microsoft Dynamics CRMアカウントからカスタム OAuth アプリケーションを作成し、 Microsoft Dynamics CRMで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に
Microsoft Dynamics CRMの要件：

- Microsoft Dynamics CRM アカウント
- Microsoft Azure アカウント
- 必要なロール：admin Microsoft Dynamics CRM

このタスクについて
Azure Developer アカウントから、次の手順を完了します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、Azure の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. 組織の認証情報を使用して、 Microsoft Azure アプリ登録ポータル にログインします。
2. アプリケーション名、サポートされているアカウントタイプ、およびリダイレクト URI を入力して新しいカスタムアプリケーションを登録し、[登録] をクリックします。
   アプリケーションの基本情報の概要が表示されます。
3. アプリケーション ID をテキストファイルにコピーします。
   サードパーティ OAuth プロバイダーとしてServiceNowインスタンスでアプリを登録するため、この ID と次のステップで生成されたクライアントシークレットを使用します。アプリケーションをServiceNowに接続するときに、クライアント ID としてアプリケーション ID を使用します。
4. クライアントシークレットを追加します。

   a. Microsoft Azure で、[管理] > [証明書とシークレット]に移動します。

   b. 説明と有効期限を入力し、[追加] をクリックします。

      注: クライアントシークレットは、短時間だけプレーンテキストで表示されます。アプリケーションをServiceNowに接続するときに、クライアントシークレットを使用します。

5. アプリでサポートする必要がある権限を有効にします。
   詳細については、「Microsoft Graph 権限の参照」を参照してください。

   a. Microsoft Azure で、[管理] > **[API** 権限]に移動します。

   b. Microsoft Graph のタイルをクリックします。

   c. アプリケーションがサポートする [委任されたアクセス許可] または [アプリケーションのアクセス許可] を選択します。
      [委任されたアクセス許可] を使用すると、アプリケーションはサインインしたユーザーとして API にアクセスできます。[アプリケーションのアクセス許可] を使用すると、サインインしているユーザーがいなくてもアプリケーションをバックグラウンドサービスまたはデーモンとして実行できます。

   d. [アクセス許可の追加] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
OAuth プロバイダーとして Microsoft Dynamics CRMを登録。

OAuth プロバイダーとして Microsoft Dynamics CRMを登録

Microsoft Dynamics CRMアカウントの構成中に生成された情報を使用し、 Microsoft Dynamics CRMを OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft Dynamics CRMを有効にします。
- Microsoft Dynamics CRMアプリケーションを作成します。
- 必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow で、[システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]へ移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 「**OAuth** アプリケーションの種類は？」というタイトルの画面で、[サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

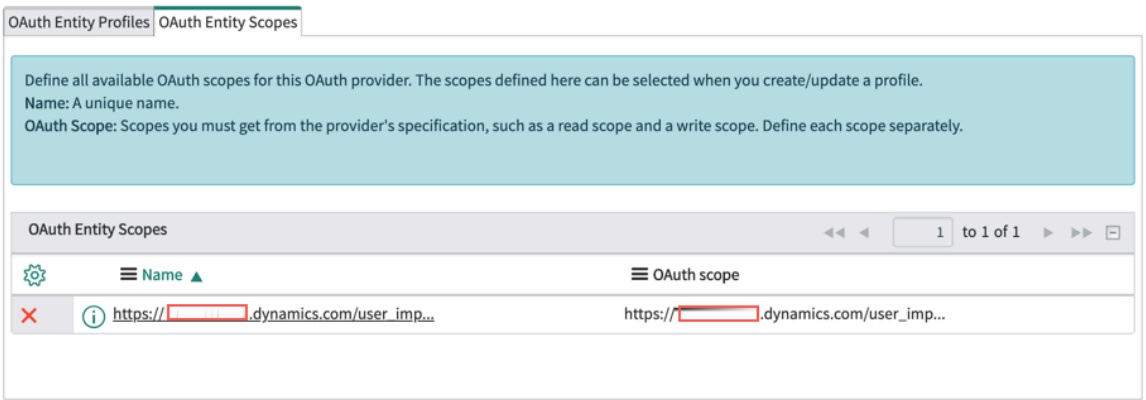
フィールド	必要な値
名前	たとえば、`Dynamics CRM OAuth プロファイル`など、レコードを識別する一意の名前を入力します。
クライアント ID	Azure で作成した Microsoft Dynamics CRMアプリケーションのアプリケーション ID を入力します。
クライアントシークレット	Azure でアプリケーションを作成したときに生成したクライアントシークレットを入力します。
デフォルトの権限許可タイプ	[認証コード] を選択します。
認証 URL	ロックアイコン (🔒) をクリックし、`https://login.microsoftonline.com/common/oauth2/v2.0/authorize` の後に疑問符とインスタンスのリソース属性を入力し、ロックアイコンをもう一度クリックします。URL のリソース属性です。例：`?`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
	`resource=https://mycompany.crm.dynamics.com` この属性は、Microsoftアプリケーションの URL です。
トークン URL	ロックアイコン ( ) をクリックし、`https://login.microsoftonline.com/common/oauth2/v2.0/token` を入力し、ロックアイコンをもう一度クリックします。
リダイレクト URL	ロックアイコン (をクリックし、`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力し、ロックアイコンをもう一度クリックします。

5. **OAuth** エンティティスコープの関連リストで、提供されたエンティティスコープを編集して、Microsoft Dynamics CRMアプリケーションの URL を含めます。

   多くの場合、名前と OAuth スコープは同じ文字列です。



6. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
   OAuth 認証情報が検証されます。

次のタスク
Microsoft Dynamics CRMの認証情報レコードを作成します。

Microsoft Dynamics CRM スポークの認証情報レコードを作成

Microsoft Dynamics CRMアカウントの構成時に作成した Microsoft Dynamics CRMカスタム OAuth アプリケーションに対して認証情報レコードを作成します。 Microsoft Dynamics CRM スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
   ポップアップウィンドウに、空の OAuth 2.0 認証情報フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Dynamics 認証情報`を入力します。
有効	有効化
OAuth エンティティ プロファイル	カスタム Microsoft Dynamics CRMアプリケーションを OAuth プロバイダーとして登録したときに作成した OAuth プロファイルを選択します。たとえば、**Dynamics OAuth** プロファイルを選択します。
順番	この認証情報を適用する順番を選択します。たとえば、「`100`」と入力します。

5. レコードを保存します。
6. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] をクリックします。
   OAuth トークンフローが正常に完了したことを示す確認メッセージが表示されます。フローが正常に完了していない場合は、詳細を確認してください。

   注: ブラウザでポップアップウィンドウが許可されていることを確認してください。

Microsoft Dynamics CRM スポークの接続レコードを作成

Microsoft Azure アカウントへの接続レコードを作成します。 Microsoft Dynamics CRM スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Microsoft Dynamics CRMでアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. Microsoft Dynamics CRMアプリケーションの接続および資格情報エイリアスを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   空の **HTTP(s)** 接続フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`MS Dynamics CRM 接続`を入力します。
認証情報	Microsoft Dynamics CRM用に作成された認証情報レコードを選択します。たとえば、**MS Dynamics** 認証情報を選択します。
接続エイリアス	Microsoft Dynamics CRMに作成した [接続エイリアス] のレコードを選択します。
有効	有効化
接続 URL	ルート Dynamics URL を入力します。例：`https://<SiteName>.dynamics.com`

5. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Dynamics CRMWebhook の詳細を構成

ServiceNowに Microsoft Dynamics CRMwebhook を登録して、 Microsoft Dynamics CRMで特定のイベントが発生したときにServiceNowアプリケーションに通知します。

始める前に
必要なロール：admin

- Microsoft Dynamics CRMには、Windows Plugin Registration Tool による登録が必要です。Windows Plugin Registration Tool をインストールするには、Microsoft ドキュメントの「NuGet からツールをダウンロードする」を参照してください。
- エンドポイント URL は、イベント情報が投稿されるServiceNowインスタンス URL です。例：`https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_ms_crm_spoke/dynamics_webhook_callbacks`
- Plugin Registration Tool で Webhook を登録するために使用するキーと値のペアは、[Dynamics CRM Webhook の詳細] の [名前] と [認証キー] と同じです。

手順

1. [すべて] > **[Dynamics CRM Webhook** の詳細] > [クライアントの詳細]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. [名前] フィールドに、Webhook のプラグインキーを入力します。
4. [認証キー] フィールドに、Webhook のキーと値のペアの値を入力します。

Microsoft Dynamics CRMWebhook 決定ポリシーを構成

要件に従って、Webhook ルーティングポリシーとサブフローを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [フローデザイナー] > [デザイナー]に移動します。
2. [サブフロー] をクリックします。
3. デフォルトサンプルサブフローの Process Dynamics CRM Webhook のコピーを作成します。
4. 要件に応じてサブフローをカスタマイズし、公開します。
   サブフローの作成と使用の詳細については、「ワークフロースタジオ でサブフローを作成」を参照してください。
5. **[Dynamics CRM Webhook** の詳細] > [決定ポリシー] に移動します。
6. [決定] タブで [新規] をクリックします。
7. フォームのフィールドに入力します。

意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。
回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	a. 検索アイコンをクリックします。 **b.** ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。 注: [テーブル名] が `Dynamics CRM Webhook Answer Subflow [sn_ms_crm_spoke_dynamic_crm_webhook_answer_subflow]` であることを確認します。
条件	Microsoft Dynamics CRMで必須イベントが発生したときに満たされるべき条件です。

8. [送信] をクリックします。

注: これらのルーティングポリシーは意思決定テーブルに保存されます。ユーザーは、これらのテーブルのデータを直接更新または変更しないように注意してください。

タスクの結果
決定ポリシーおよびサブフローが作成されます。

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポーク

Microsoft Endpoint Configuration Manager (MECM) スポークは、ユーザーコレクション、デバイスコレクション、デバイス、およびアプリケーション展開を管理するアクションを自動化します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポーク v1.8.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは Configuration Manager 2006 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow IntegrationHub ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - PowerShell (com.glide.hub.action_step.powershell)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - JDBC [com.glide.hub.action_step.jdbc]
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのサブフロー

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークでは、タスクの自動化を示すサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークのサブフローの説明

サブフロー	説明
アプリケーションの取り消し	ユーザーまたはデバイスを、アンインストールされたコレクションに追加してから、MECM サーバーのインストールされたコレクションから削除します。
構成データを検索	要求アイテムの構成データを取得します。
アプリケーションの展開	ユーザーまたはデバイスを、インストールされたコレクションに追加してから、MECM サーバーのアンインストールされたコレクションから削除します。
データの検出および保存	サーバーからデータを検出し、アプリケーション、コレクション、および展開テーブルのレコードを更新します。

注: これらのサブフローは、クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション がインストールされている場合にのみ使用できます。

スポークのアクション

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークアクションの説明

カテゴリ	アクション	説明
詳細なアクション	デバイスコレクションストリーム (データベース) を検索	Java Database Connectivity (JDBC) 接続を使用して、MECM サーバーからデバイスコレクションデータを取得します。
	ユーザーコレクションストリーム (データベース) を検索	JDBC 接続を使用して、MECM サーバーからユーザーコレクションデータを取得します。
アプリケーション	アプリケーションを検索	MECM サーバーからアプリケーションデータを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークアクションの説明 (続く)

カテゴリ	アクション	説明
デバイス管理	操作 ID で CMPivot 応答を検索	MECM サーバーから CMPivot 応答を取得します。
	ID でデバイスを検索	MECM サーバーからデバイスデータを取得します。
	CMPivot クエリを実行	CMPivot クエリを実行し、MECM サーバーから操作 ID を取得します。
	MECM スクリプトを実行	MECM スクリプトを実行し、MECM サーバーから操作 ID を返します。
	名前で MECM スクリプトを検索	MECM サーバーから MECM スクリプトのグローバル一意識別子 (GUID) を取得します。
	操作 ID で MECM スクリプト応答を検索	MECM サーバーから MECM スクリプト応答を取得します。
	MECM スクリプト実行応答を検索	MECM サーバーから MECM スクリプト実行応答を取得します。
データ管理 **注:** これらのアクションは、クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション がインストールされている場合にのみ使用できます。	構成データを検索	要求アイテムの構成データまたはソフトウェア構成を取得します。
	展開データの準備	要求アイテムの展開データを準備します。
	失効データの準備	要求アイテムの失効データを準備します。
	検出されたデータを保存	対応するテーブルにアプリケーションと展開データを保存します。
展開	展開を検索	MECM サーバーから展開データを取得します。
デバイスコレクション	デバイスコレクションに追加	指定されたデバイスを指定されたコレクションに追加します。
	コレクションのデバイス	デバイスが MECM サーバーのデバイスコレクションに存在するかどうかを確認します。
	デバイスコレクションの検索	MECM サーバーからデバイスコレクションデータを取得します。
	デバイス コレクションから削除	MECM サーバーのコレクションから指定されたデバイスを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークアクションの説明 (続く)

カテゴリ	アクション	説明
ユーザーコレクション	ユーザーコレクションに追加	コレクションにユーザーを追加します。
	コレクションのユーザー	ユーザーが MECM サーバーのユーザーコレクションに存在するかどうかを確認します。
	ユーザーコレクションの検索	MECM サーバーからユーザーコレクションデータを取得します。
	ユーザー コレクションから削除	MECM サーバーのコレクションからユーザーを削除します。

スポークモジュール

MECM スポークは MECM アプリケーションをインスタンスに追加します。アプリケーションには以下のモジュールが含まれており、スポークモジュールを介してアクセスされるデータはそれぞれのテーブルに保存されます。

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークモジュールの説明

モジュール	説明	テーブル
アプリケーション	Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーからのアプリケーションのリストを表示します。	アプリケーション [sn_ms_epcfgmgr_spk_ap
構成管理	アプリケーションのソフトウェア構成の詳細を保存します。	構成 [sn_ms_epcfgmgr_spk
サーバーインスタンス	提供されたサーバーの詳細を保存します。	サーバーインスタンス [sn_ms_epcfgmgr_spk_ser
展開	Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーからの展開のリストを表示します。	展開 [sn_ms_epcfgmgr_spk_de
コレクション	Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーからのコレクションのリストを表示します。	コレクション [sn_ms_epcfgmgr_spk_co

注: これらのモジュールは、クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション がインストールされている場合にのみ使用できます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Microsoft Endpoint Configuration Manager を構成してスポークを設定。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MID サーバー の要件

これらのアクションを使用するには、MID サーバーをセットアップし、PowerShell を使用するように設定する必要があります。MID サーバーでのアクションの実行の詳細については、「統合ステップ」を参照してください。詳細については、「MID サーバー」を参照してください。

Microsoft Endpoint Configuration Manager を構成してスポークを設定

表示された順序で Microsoft Endpoint Configuration Manager の構成手順に従います。

注: ユーザーが MECM サーバーとのリモート PowerShell セッションを確立できる必要があることを確認します。スポークスクリプトは、セッションを作成するために *Microsoft.PowerShell32* 構成を使用します。ユーザー権限については、「Microsoft Learn」の「ユーザー権限」を参照してください。

Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーでのアプリケーションアドミニストレーターロールの構成

Microsoft Endpoint Configuration Manager 管理ユーザーにソフトウェアを展開するための適切な権限があること、および PowerShell が適切に構成されていることを確認します。

始める前に

必要なロール： Microsoft Endpoint Configuration Manager アプリケーションアドミニストレーター

このタスクについて

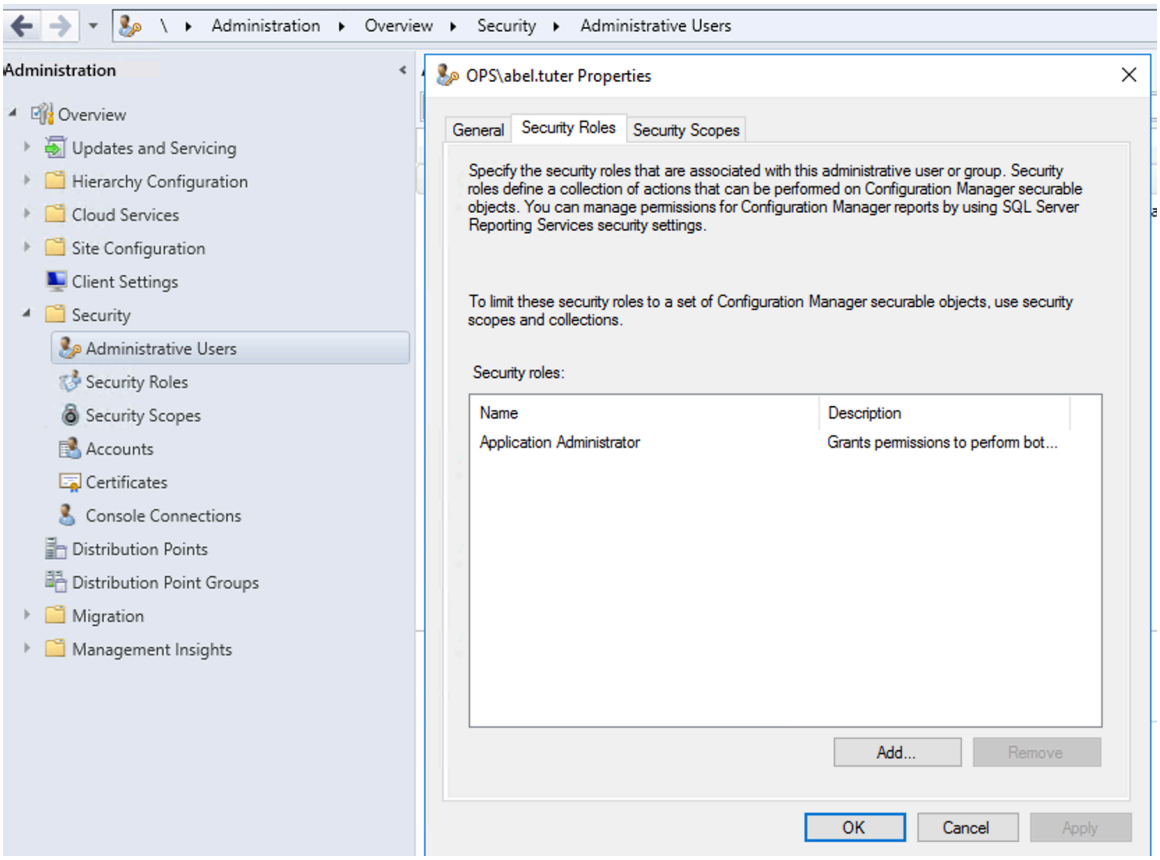
これらの手順は、Microsoft Windows Server 2016 Standard 用です。

手順

1. Microsoft Endpoint Configuration Manager コンソールで、[管理] > [セキュリティ] > [管理ユーザー]に移動します。
2. アプリケーションアドミニストレーターロールを付与するユーザーを右クリックします。
3. ドロップダウン メニューから [プロパティ] を選択します。
4. [プロパティ] ダイアログ ボックスで、[セキュリティ ロール] タブを選択します。
5. ユーザーにアプリケーションアドミニストレーターロールがあることを確認します。
6. ユーザーがまだこのロールを持っていない場合は、[追加] をクリックし、このロールをリストから選択し、**[OK]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

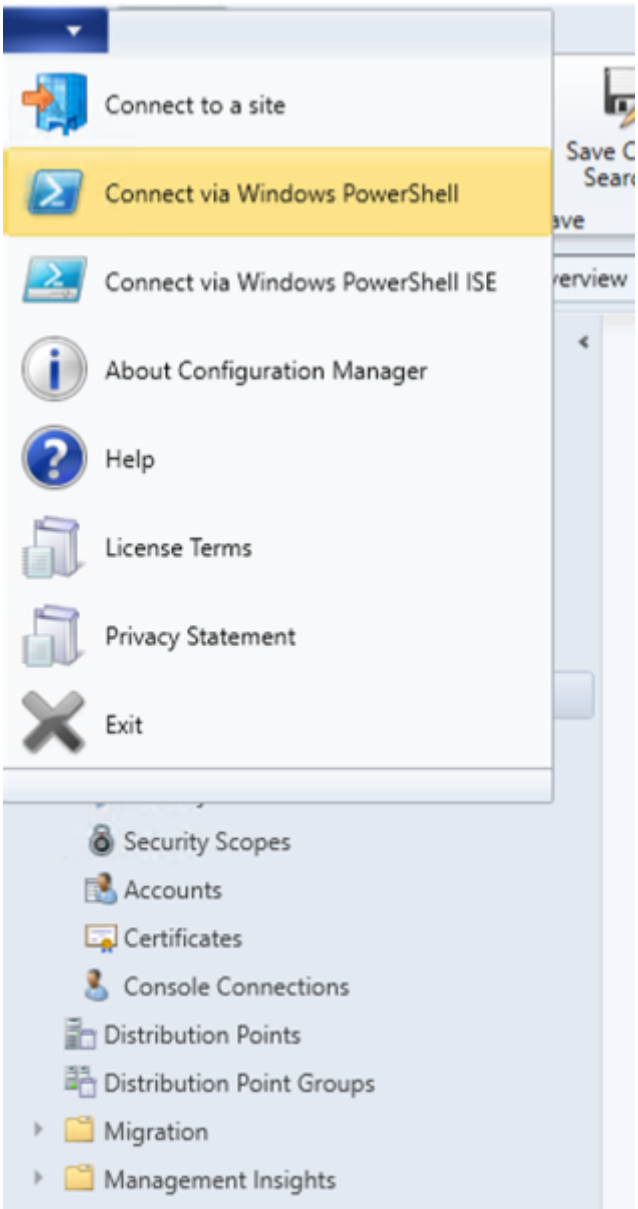
Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーでのアプリケーションアドミニストレーターロールの付与



7. アプリケーションアドミニストレーターロールを持つユーザーとして Microsoft Endpoint Configuration Manager にログインします。
8. コンソールの左上隅からメニューを開き、**[Windows PowerShell** で接続する] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PowerShell への接続



9. ユーザーが CM コンソールにアクセスできることを確認します。
   このアクションにより、ログインしているアプリケーション管理者ユーザーに対し PowerShell への環境パスが確立されます。

Microsoft Endpoint Configuration Manager のコマンドレットライブラリーを更新する

Microsoft Endpoint Configuration Manager コマンドレットライブラリーが最新であることを確認します。

始める前に

必要なロール：設定に応じて、 Microsoft Endpoint Configuration Manager の現在のユーザーまたはシステムアドミニストレーター。

このタスクについて

Microsoft Endpoint Configuration Manager コマンドレットライブラリは、Windows PowerShell モジュールをインストールして更新します。 Microsoft Endpoint Configuration Manager はライブラリーの更新を毎日チェックします。システムは Microsoft Endpoint Configuration Manager アクティビティ出力を解析できないため、古くなったライブラリーによって Microsoft Endpoint

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Configuration Manager サーバーのディスカバリーが失敗する可能性があります。これは警告メッセージの例です。

```
WARNING: An update to the  Microsoft Endpoint Configuration Manager  Cmdlet
Library is available. Please go to
'http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=528947' to download the latest
 version.
Running cmdlet version: 5.0.8231.1004 Latest cmdlet version:
 5.0.8328.1155
```

コマンドレット ライブラリーの最新バージョンを http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=528947 からダウンロードします。インストール手順については、https://technet.microsoft.com/en-us/library/dn958404(v=sc.20).aspx を参照してください。

以前のバージョンのライブラリーの使用を選択する場合は、この手順を使用して CM 更新チェックを無効にします。これにより、問題なく検出を実行できます。

手順

1. アドミニストレーターとして Microsoft Endpoint Configuration Manager コンソールにログインします。
2. コンソールの左上隅からメニューを開きます。
3. **[Windows PowerShell** で接続する] を選択します。
4. 更新チェックを無効にするには、次のいずれかのコマンドを実行します。
   - ユーザーごと：*`Set-CMCmdletUpdateCheck -CurrentUser -IsUpdateCheckEnabled 0`*
   - システムごと：*`Set-CMCmdletUpdateCheck -System -IsUpdateCheckEnabled 0`*

   > **重要:** システムごとのコマンドレットは、昇格した Windows PowerShell セッションで実行する必要があります。

5. *`Get-CMCmdletUpdateCheck`* コマンドを実行してコンソールを更新し、設定を確認します。
6. *`IsEnabled`*構成変数が **False** に変更されたことを確認します。
   これは、古くなったコマンドレット ライブラリーの警告が、指定されたユーザーに対して無効になっていることを示します。
7. 更新チェックを再度有効にするには、現在のユーザーまたはシステムのいずれかに対して *`-IsUpdateCheckEnabled 1`* コマンドを実行します。

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークを設定

PowerShell および JDBC 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Microsoft Endpoint Configuration Manager アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. デフォルトの接続および資格情報エイリアスを構成し、要求を認証します。

   a. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

   b. レコード **[Microsoft** エンドポイント構成スポーク **(Microsoft Endpoint Configuration Spoke)]** を開きます。

   c. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。

   d. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
サーバーインスタンス名	Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーの名前。
ホスト	プロバイダーのドメイン名。
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。
ユーザー名	Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーにログインするためのユーザー名。
パスワード	Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーにログインするためのパスワード。

   e. [作成] をクリックします。

2. [デバイスコレクションストリームの検索 (Look up Device Collections Stream)] (データベース) と [ユーザーコレクションストリームの検索 (Look up User Collections Stream)] (データベース) の 2 つの詳細アクションを使用するには、JDBC 認証情報を設定します。

   注: クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション で Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークを使用している場合は、JDBC 認証情報を設定する必要があります。

   a. [接続および認証情報] > [認証情報] に移動します。

   b. レコード **[Microsoft** エンドポイント構成 **JDBC (Microsoft Endpoint Configuration JDBC)]** を開きます。

   c. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。

   d. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続名	JDBC 接続レコードを識別する名前。たとえば、`[JDBC Connection]`。
ホスト	データベース サーバーのホスト名または IP アドレス。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
データベース名	データベースの名前。
認証情報名	接続レコードを識別する名前です。たとえば、`[JDBC 認証情報]`。
ユーザー名	JDBC データベース にログインするためのユーザー名。[db_datareader] でユーザーロールが少なくとも公開であることを確認します。
パスワード	JDBC データベース にログインするためのパスワード。

e. [作成] をクリックします。
MecmConnector jar が MID サーバーに存在しない場合は、MID サーバーを再起動して、jar ファイルがインスタンスから MID サーバーに同期されるようにします。

次のタスク

クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション で Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークを使用するには、「Microsoft Endpoint Configuration Manager 用 CSD 2.0」を参照してください。

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポーク REST アクションの接続および認証情報レコードの作成

Microsoft Endpoint Configuration Manager の接続レコードを作成します。Microsoft Endpoint Configuration Manager の接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Microsoft Endpoint Configuration Manager でアクションを実行します。

始める前に

- Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーから [領域] 値を取得するには、次の手順を実行します。
  1. [プログラム] > [管理ツール **(Administrative Tools)**] > **[Active Directory** 管理 **(Active Directory Management)]**を開きます。
  2. **[Active Directory** のドメインと信頼 **(Active Directory Domains and Trusts)]** を選択します。

     Active Directory ドメイン名がリストされます。Active Directory ドメイン名は、関連する Kerberos 領域名および DNS ドメイン名でもあります。統合に使用するドメインを選択します。
- 領域の詳細を取得した後、コマンドラインから次のコマンドを実行してキー配布センターの値を取得します。

  ```
  nslookup -type=srv _kerberos._tcp.<REALM_NAME_IN_UPPER_CASE>
  ```

  リストから `svr hostname` 値をコピーし、[キー配布センター] 値として使用します。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **[Microsoft Endpoint Configuration REST]** のエイリアスレコードを開きます。
3. [関連リンク] タブから、[新しい接続および資格情報の作成] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続フォーム

フィールド	説明
接続名	接続を一意に識別する名前。例：「`MS Endpoint Configuration Manager REST Connection`」
接続 URL	**Microsoft Endpoint Configuration Manager** に接続するためのベース URL です。「`https://<computer_name>.com`」のように入力します。
認証情報名	Microsoft Endpoint Configuration Manager 用に作成された認証情報レコードです。たとえば、「`MS Endpoint Configuration Manager Cred`」のように入力します。
ユーザー名	Microsoft Endpoint Configuration Manager アカウントに接続するためのユーザー名です。 **注:** ドメイン名をプリフィックスとして付けずにユーザー名を指定する必要があります。
パスワード	Microsoft Endpoint Configuration Manager アカウントに接続するためのパスワードです。
キー配布センター	Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーのキー配布センターです。
領域	Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーの Active Directory ドメイン名 (大文字) です。たとえば、「`OPS.LAB3.EXAMPLE.COM`」のように入力します。

注: 認証情報レコードでキー配布センターまたは領域のいずれかの値が変更された場合は、MID サーバーを再起動して更新を同期してください。これは、キー配布センターと領域の値が MID サーバーの JRE プロパティとして設定されているためです。

5. [送信] をクリックします。

次のタスク

REST ベースのアクションを使用する前に、MID JAR ファイルである MecmConnector が MID サーバーの `<MID Folder>\agent\extlib` に存在することを確認してください。

Microsoft Entra ID スポーク (旧 Microsoft Azure Active Directory スポーク)

ユーザー、アプリケーション、グループ、デバイス、テナント、サービスプリンシパル、およびパスワードを管理します。Office 365 でライセンスを適用し、ユーザーをプロビジョニングします。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Entra ID スポーク (旧 Microsoft Azure Active Directory スポーク) v4.4.0 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- IHUB スポークユーティリティパック (com.snc.ihub_spoke_util_pack)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - PowerShell (com.glide.hub.action_step.powershell)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- リモートディレクトリ同期

スポークのフロー

Microsoft Entra ID スポークでは、Microsoft Entra のタスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
ユーザーの退職	ServiceNow のユーザーレコードが無効化されたら、Entra ID ユーザーアカウントを削除し、Entra ID グループからユーザーを削除します。
ユーザーのオンボーディング	ServiceNow のユーザーレコードが有効化されたら、Entra ID ユーザーアカウントを作成して有効にします。

スポークのサブフロー

Microsoft Entra ID スポークでは、Entra のタスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
グループにユーザーを追加	ServiceNow のユーザーレコードが属するグループを検索し、関連 Entra ID ユーザーアカウントを同じ Entra ID グループに追加します。

使用可能なサンプル対話型サブフロー

Now Assist for Conversational Spokes をインストールし、統合ハブスポークの会話機能の使用を開始します。詳細については、「Now Assist in Conversational Spokes」を参照してください。

サンプル対話型サブフロー

対話型サブフロー	説明
グループを検索 - サンプル	Entra ID の指定したグループに関する情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サンプル対話型サブフロー (続く)

対話型サブフロー	説明
グループメンバーを検索 - サンプル	Entra ID の指定したグループメンバーに関する情報を取得します。
ユーザーを検索 - サンプル	Entra ID のユーザーに関する情報を取得します。
直属の部下を検索 - サンプル	Entra ID の直属の部下に関する情報を取得します。
メールアドレスを使用してグループにユーザーを追加 - サンプル	ユーザーのメールアドレスを使用して、指定した Entra ID ユーザーを、指定した Entra ID グループに追加します。
グループにユーザーを追加 - サンプル	指定した Entra ID ユーザーを、指定した Entra ID グループに追加します。

スポークのアクション

Microsoft では、 ServiceNow でイベントが発生したときに Entra のタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

注:

- API を呼び出すには、前述のいずれかの権限が必要です。
- 次の考慮事項に注意してください。
  - Entra ID を OAuth プロバイダーとして登録するときに [認証コード] 権限許可タイプを使用する場合は、[委任] 権限を選択します。
  - Entra ID を OAuth プロバイダーとして登録するときに [クライアント認証情報] 権限許可タイプを使用する場合は、[アプリケーション] 権限を選択します。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
監査ログ	サインインストリームを検索	サインインのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	AuditLog.Read.All, Directory.Read.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	AuditLog.Read.All , Directory.Read.All
グループ管理	所有者をグループに追加	Microsoft Entra ID 既存のグループに所有者を追加します。	委任済み (職場または学校の	Group.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite.All, Directory.A

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
			アカウント)	
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Group.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite.All
	グループにユーザーを追加	既存のユーザーを Microsoft Entra ID のグループに追加します。 **注:** メールが有効なセキュリティグループへのユーザーの追加は、Microsoft Graph Security API ではサポートされていません。詳細については、「https://learn.microsoft.com/en-us/graph/api/resources/groups-overview?view=graph-rest-1.0&tabs=http」を参照してください。	委任済み (職場または学校のアカウント)	GroupMember.ReadWrite.All, Group.ReadWrite.All, Direc
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	GroupMember.ReadWrite.All, Group.ReadWrite.All and
	Office 365 グループを作成	グループ内の他のメンバーと共有できる Office 365 グループを作成します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Group.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite.All, Directory.A
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Group.Create, Group.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite
	ディレクトリでグループメンバーシッ	グループメンバーシップのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	GroupMember.Read.All、Directory.Read.All、Group.Rea
			委任済み (個人の	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
	プストリームを検索		Microsoftアカウント)	
			アプリケーション	GroupMember.Read.All、Directory.Read.All、Group.Rea
	セキュリティグループを作成	ユーザーのグループにアクセス権限を付与する際のセキュリティグループを作成します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Group.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite.All, Directory.A
			委任済み (個人のMicrosoftアカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Group.Create, Group.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite
	グループを検索	検索条件に基づいて見つかったグループ情報を返します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	GroupMember.Read.All, Group.Read.All, Directory.Read Directory.AccessAsUser.All
			委任済み (個人のMicrosoftアカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	GroupMember.Read.All、Group.Read.All、Directory.Rea
	グループメンバーのストリームを検索	指定されたグループのメンバーのリストを取得します。	アプリケーション	GroupMember.Read.All, Group.Read.All, GroupMembe
			委任済み (個人のMicrosoftアカウント)	サポート対象外
			委任済み (職場または学校のアカウント)	GroupMember.Read.All、Group.Read.All、GroupMembe
	グループメンバー	指定されたユーザーのグループのリストを複合オ	委任済み (職場または学校の	User.Read, GroupMember.Read.All, Directory.Read.All, D

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
	シップストリームを検索	ブジェクトとして取得します。	アカウント)	
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Directory.Read.All、Directory.ReadWrite.All
	グループ推移メンバーシップストリームを検索	指定されたユーザーのグループのリストを複合オブジェクトとして取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	サポート対象外
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Groups.Read.All、User.Read.All、Sites.FullControl.All、
	グループを削除	指定されたグループを Entra ID から削除します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Group.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Group.ReadWrite.All
	所有者をグループに追加	Entra ID の指定されたグループに、指定されたユーザーを所有者として追加します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Group.ReadWrite.All、Directory.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
			アプリケーション	Group.ReadWrite.All、Directory.ReadWrite.All
	グループから所有者を削除	Microsoft Entra ID のグループから所有者を削除します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Group.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite.All, Directory.A
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Group.ReadWrite.All、Directory.ReadWrite.All
	グループからユーザーを削除	Microsoft Entra ID のグループから既存のユーザーを削除します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	GroupMember.ReadWrite.All, Group.ReadWrite.All, Direc
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	GroupMember.ReadWrite.All、Group.ReadWrite.All, Dire
	ディレクトリでグループストリームを検索	ディレクトリ統合のグループのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	GroupMember.Read.All, Group.Read.All, Directory.Read Directory.AccessAsUser.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	GroupMember.Read.All、Group.Read.All、Directory.Rea
	グループストリームを検索	組織内のすべてのグループをリストします。	委任済み (職場または学校のアカウント)	GroupMember.Read.All, Group.Read.All, Directory.Read Directory.AccessAsUser.All

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	GroupMember.Read.All、Group.Read.All、Directory.Rea
	グループにユーザーを追加	既存のユーザーを Microsoft Entra ID のグループに追加します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	GroupMember.ReadWrite.All、Group.ReadWrite.All, Dire
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	GroupMember.ReadWrite.All, Group.ReadWrite.All and
	Office 365 グループを更新	指定された Office 365 グループを更新します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Group.ReadWrite.All、Directory.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Group.ReadWrite.All、Directory.ReadWrite.All
ライセンス管理	登録済み SKU を検索	指定された登録済み SKU の詳細を取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Organization.Read.All、Directory.Read.All、Directory.R
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Organization.Read.All、Directory.Read.All、Directory.R

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
	登録済み SKU を検索	組織が取得した商用サブスクリプションのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Organization.Read.All、Directory.Read.All、Directory.R
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Organization.Read.All、Directory.Read.All、Directory.R
	ユーザーライセンスをアサイン	Microsoft Entra ID の既存のユーザーを Office 365 にオンボーディングし、サービスへのアクセス権を付与します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	User.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite.All
	ユーザーライセンスを削除	Microsoft Entra ID のユーザーからライセンスを削除します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	User.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite.All
アプリケーション管理	アプリロールアサインストリームを検索	ユーザーにアサインされたアプリロールのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.ReadBasic.All, Directory.Read.All, AppRoleAssignme
			委任済み (個人の Microsoft	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
			アカウント)	
			アプリケーション	Directory.Read.All, AppRoleAssignment.ReadWrite.All
	ユーザーアプリケーションアクセスを取り消す	ユーザーに付与されているアプリロールのアサインを削除します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	AppRoleAssignment.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	AppRoleAssignment.ReadWrite.All
	アプリケーションストリームを検索	アプリケーションのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Application.Read.All, Application.ReadWrite.All, Director
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Application.Read.All and User.Read, Application.ReadW
			アプリケーション	Application.Read.All, Application.ReadWrite.OwnedBy,
デバイス管理	グループにデバイスを追加	既存のデバイスを Entra ID のグループに追加します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	GroupMember.ReadWrite.All、Group.ReadWrite.All, Dire
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	GroupMember.ReadWrite.All, Group.ReadWrite.All and
	デバイスがグループ	既存のデバイスが Entra ID のグループのメンバーかどうかを確認します。	委任済み (職場または学校の	Device.Read.All, Directory.Read.All, Directory.ReadWrite

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
	内にあるか		アカウント)	
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Device.Read.All、Device.ReadWrite.All、Directory.Read
	グループにデバイスを追加	Entra ID の指定されたグループに、指定されたデバイスを追加します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Group.ReadWrite.All、Directory.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Group.ReadWrite.All、Directory.ReadWrite.All
	デバイスストリームを検索	組織内のすべてのデバイス、または指定したフィルタークエリを満たすデバイス (ある場合) をリスト化します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Device.Read.All, Directory.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Device.Read.All、Device.ReadWrite.All、Directory.Read
	グループからデバイスを削除	Entra ID のグループから既存のデバイスを削除します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	GroupMember.ReadWrite.All、Group.ReadWrite.All, Dire
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
			アプリケーション	GroupMember.ReadWrite.All、Group.ReadWrite.All, Dire
組織管理	テナントを検索	現在認証されているテナントの詳細を取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	DeviceManagementServiceConfig.Read.All, DeviceMar
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	DeviceManagementServiceConfig.Read.All, DeviceMar
ユーザー認証	ユーザーサインインセッションの取り消し	ユーザーのサインインセッションを無効にして、アドミニストレーターが、指定したユーザーのすべてのサインインセッションの無効化を自動化できるようにします。		
サービスプリンシパル管理	サービスプリンシパルストリームにアサインされたアプリロールを検索	サービスプリンシパルのアサインのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Application.Read.All, Directory.Read.All, Application.Rea
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	Application.Read.All、Directory.Read.All、Application.R
	サービスプリンシパルストリームを検索	サービスプリンシパルのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Application.Read.All, Application.ReadWrite.All, Director
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
			アプリケーション	Application.Read.All, Application.ReadWrite.All, Director
パスワード管理	パスワードをリセット	Entra ID ユーザーアカウントのパスワードをリセットします。 **注:** このスポークアクションでは、Entra ID で作成されたユーザーのパスワードのみがリセットされ、フェデレーションユーザーのパスワードはリセットされません。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Directory.AccessAsUser.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	サポート対象外
	パスワードの期限切れを検索	指定されたユーザーのパスワード期限切れの詳細を Microsoft Entra ID から取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.ReadBasic.All、User.Read.All、User.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	User.Read.All、User.ReadWrite.All、Directory.Read.All、
	パスワード変更	Microsoft Entra ID のユーザーのパスワードを変更します。パスワードが Entra ID パスワード要件を満たしていることを確認してください。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Directory.AccessAsUser.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	サポート対象外
	ランダムなパスワードを生成	デフォルトの Entra ID パスワードポリシーに従ってランダムパスワードを生成します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	なし。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
		注: このアクションを実行する前に、KMF プラグインをインストールする必要があります。	委任済み (個人の Microsoft アカウント)	
			アプリケーション	
ユーザー管理	ユーザーを検索	Entra からユーザーアカウントを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.ReadBasic.All、User.Read.All、User.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	User.Read.All、User.ReadWrite.All、Directory.Read.All、
	ディレクトリでユーザーストリームを検索	ディレクトリーからユーザーのリストを取得します。	アプリケーション	User.ReadBasic.All、User.Read.All、User.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			委任済み (職場または学校のアカウント)	GroupMember.Read.All、Group.Read.All、GroupMembe
	ユーザーサインインセッションの取り消し	ユーザーのすべてのサインイン済みセッションを無効にします。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
	ユーザーを作成	指定された詳細を持つユーザーを作成します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite.All, Directory.Ac
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	User.ReadWrite.All, Directory.ReadWrite.All
	ユーザーを削除	Microsoft Entra ID からユーザーを削除します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Directory.AccessAsUser.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	User.ReadWrite.All
	ユーザーを無効にする	Microsoft Entra ID のユーザーを無効にします。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.ReadWrite, User.ReadWrite.All, User.ManageIdentitie
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	User.ReadWrite
			アプリケーション	User.Read.All、User.ReadWrite.All、Directory.Read.All、
	ユーザーを有効にする	Microsoft Entra ID のユーザーアカウントを有効にします。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.ReadWrite, User.ReadWrite.All, User.ManageIdentitie
			委任済み (個人の Microsoft	User.ReadWrite

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
			アカウント)	
			アプリケーション	User.ReadWrite.All, User.ManageIdentities.All, Directory.R
	ユーザーの最新のデルタトークンをフェッチ	ユーザーの最新のデルタトークンを返します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.ReadBasic.All、User.Read.All、User.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	User.Read.All、User.ReadWrite.All、Directory.Read.All、
	ユーザーが有効かどうか	指定されたユーザーアカウントが Microsoft Entra ID で有効であるかどうかを確認します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.Read, User.ReadWrite, User.ReadBasic.All, User.Read Directory.ReadWrite.All, Directory.AccessAsUser.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	User.Read, User.ReadWrite
			アプリケーション	User.Read.All、User.ReadWrite.All、Directory.Read.All、
	グループ内のユーザーか	指定されたユーザーアカウントが、Entra の指定グループのメンバーであるかどうかを確認します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.ReadBasic.All, User.Read.All, Directory.Read.All, Use Directory.AccessAsUser.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	User.ReadBasic.All, User.Read.All, Directory.Read.All, Use
	ユーザーストリー	指定された検索クエリ、フィルター、および次のトークン (存在する場合)	アプリケーション	User.ReadBasic.All、User.Read.All、User.ReadWrite.All

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
	ムを検索	を満たす組織内のすべてのユーザーをリストします。	委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			委任済み (職場または学校のアカウント)	GroupMember.Read.All、Group.Read.All、GroupMembe
	ユーザーを更新	指定した詳細を使用して Entra ID のユーザープロパティを更新します。 **注:** Entra ID では値を null に更新することはできません。Entra ID では、null が入力として渡されたときに、null 値または空値が破棄されます。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.ReadWrite, User.ReadWrite.All, User.ManageIdentitie
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	User.ReadWrite
			アプリケーション	User.ReadWrite.All、User.ManageIdentities.All、Directo
	グループを所有しているユーザーか	既存のユーザーが Entra ID のグループの所有者かどうかを確認します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	GroupMember.Read.All、Group.Read.All、GroupMembe
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
			アプリケーション	GroupMember.Read.All、Group.Read.All、GroupMembe
	ユーザーストリームの増分変更を検索	Entra ID でユーザーのリストを取得します。デルタトークンを使用することで、ユーザーのセット全体をフェッチしなくてもユーザーの変更を検出できます。	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.Read, User.ReadWrite, User.ReadBasic.All, User.Read Directory.ReadWrite.All
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
			アプリケーション	User.Read.All、User.ReadWrite.All、Directory.Read.All、

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

AI エージェント	説明
Microsoft Entra ID ユーザーマネージャー	Microsoft Entra ID のユーザーおよびグループの管理タスクを自動化します。AI エージェントは、ユーザーの作成/有効化/無効化、セキュリティグループとオフィスグループの管理、増分変更や直属の部下の取得などの高度なクエリの実行を行います。
Microsoft Entra ID グループマネージャー	Microsoft Entra ID のユーザーおよびグループの管理タスクを自動化します。AI エージェントは、グループの詳細を取得し、グループメンバーシップを管理し、セキュリティグループを作成し、Office 365 へのユーザープロビジョニングを自動化します。
Microsoft Entra ID ライセンスマネージャー	Microsoft Entra ID のユーザー、セキュリティグループ、オフィスグループの管理を自動化します。AI エージェントは、登録済み SKU の詳細を取得し、ユーザーライセンスをアサインし、ユーザーライセンスを削除します。

ユースケースで使用されていない AI エージェントが、Now Assist アプリケーションとともにインストールされている場合があります。利用可能なすべてのエージェントを表示する方法については、「Find AI agents (AI エージェントの検索)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Entra ID アカウント要件

Microsoft Entra ID スポークでは、Microsoft Entra アカウントでカスタムアプリを作成し、OAuth 2.0 トークンを生成する必要があります。「Microsoft Entra ID アプリケーションの作成」を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークでは、AzureAD エイリアスレコードを使用して、Microsoft Entra ID のアクションを許可します。

接続エイリアス	説明	接続 URL
AzureAD	Microsoft Entra ID への接続。	https://graph.microsoft.com

スポークの設定については、「 Microsoft Entra ID スポークの設定。

Microsoft Entra ID スポークの設定

Microsoft Entra ID にカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと Microsoft Entra アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

Microsoft Entra ID スポーク (旧 Microsoft Azure Active Directory スポーク) を設定する手順について説明します。

> **注:** このビデオは ServiceNow インスタンスの Utah バージョンを使用して作成されており、フローデザイナー UI が表示されています。Washington DC バージョン以降の ServiceNow インスタンスを使用している場合は、同じ手順を実行して、フローデザイナーではなくワークフロースタジオに移動します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションを要求します。
- Microsoft Entra ID スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

Microsoft Entra ID アプリケーションの作成

Azure ポータルを使用してカスタムアプリを作成し、Microsoft Entra ID スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

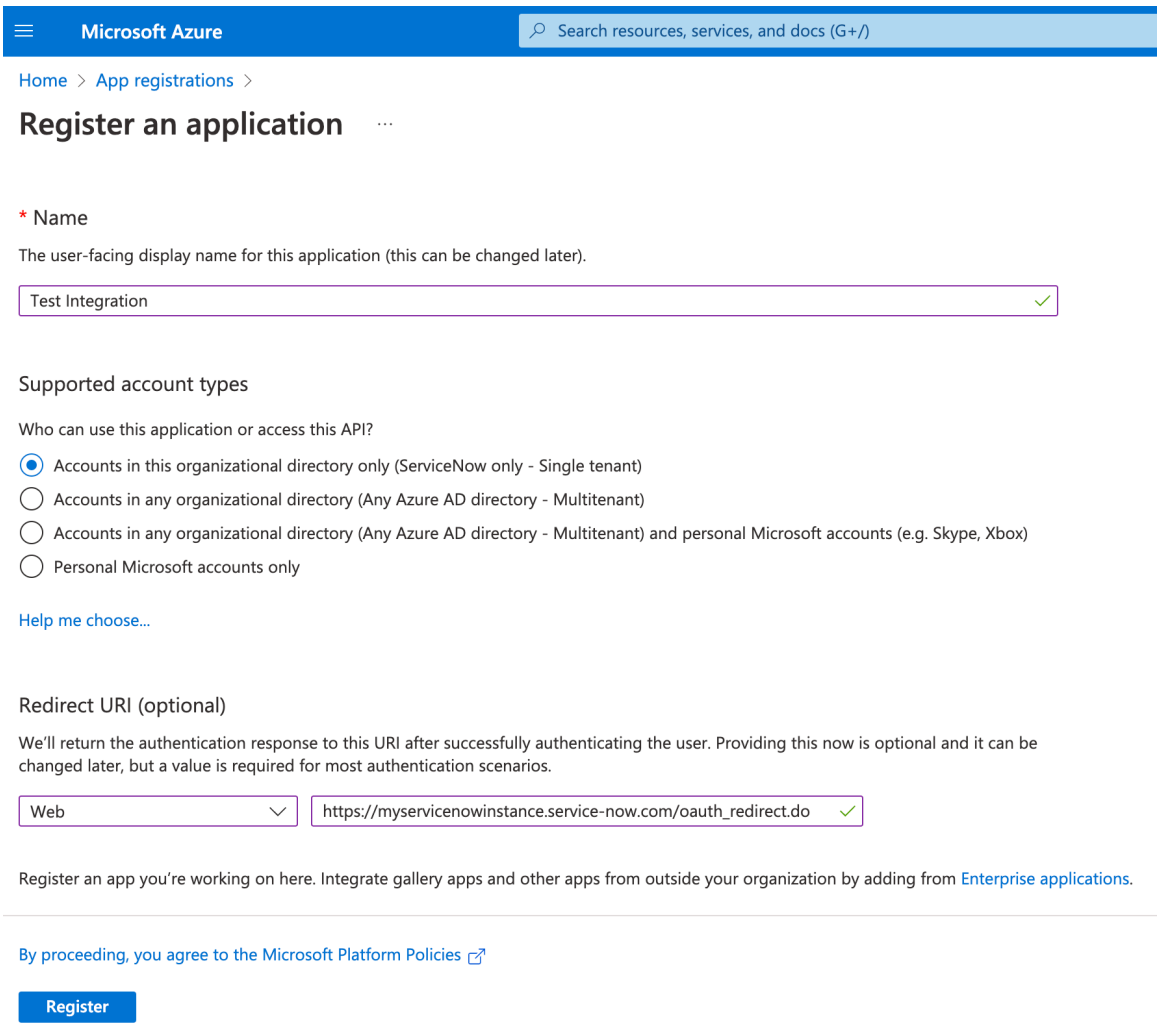
- 統合ハブ サブスクリプションを要求します。
- Microsoft Entra ID スポークをアクティブ化します。
- Microsoft Entra ID スポークの要件：
  - Microsoft Entra ID アカウント
  - Microsoft Entra ID アドミニストレーター認証情報
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
Azure ポータルからこれらの手順を実行します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、Microsoft ID プラットフォームのドキュメント を参照してください。

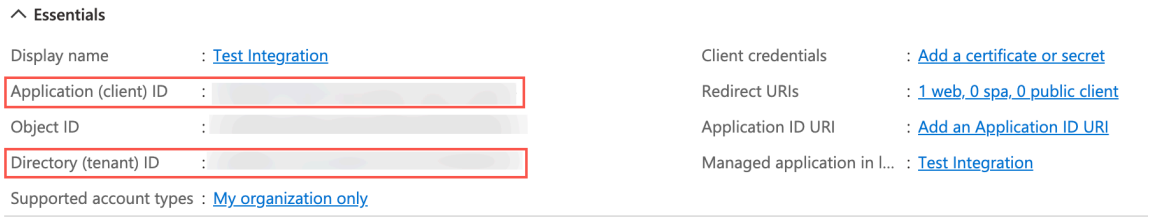
手順

1. Azure ポータルから、Microsoft Entra ID にアクセスします。
2. Microsoft Entra ID アプリケーションを作成します。
   または、既存のアプリケーションを使用することができます。ここで説明されているように必ず既存のアプリケーションを構成してください。
3. [アプリ登録 **(App registrations)]** に移動し、[新規登録] をクリックします。
4. フォームに値を入力します。
5. [リダイレクト **URI]** に、`https://<Instance-Name>.service-now.com/oauth_redirect.do` のフォーマットでServiceNowインスタンス URL を入力します。
   アプリケーションの登録と構成の手順については、「リソースにアクセスできる Microsoft Entra アプリケーションとサービスプリンシパルを作成する 」を参照してください。

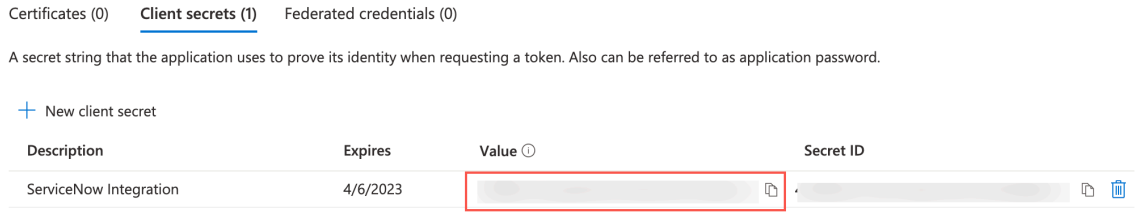


6. [登録] をクリックします。
   アプリケーションが作成され、必要な詳細が表示されます。
7. ディレクトリー ID の値をコピーして記録します。
   この値は、ServiceNow インスタンスでサードパーティ OAuth プロバイダーとしてアプリを登録する場合に必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

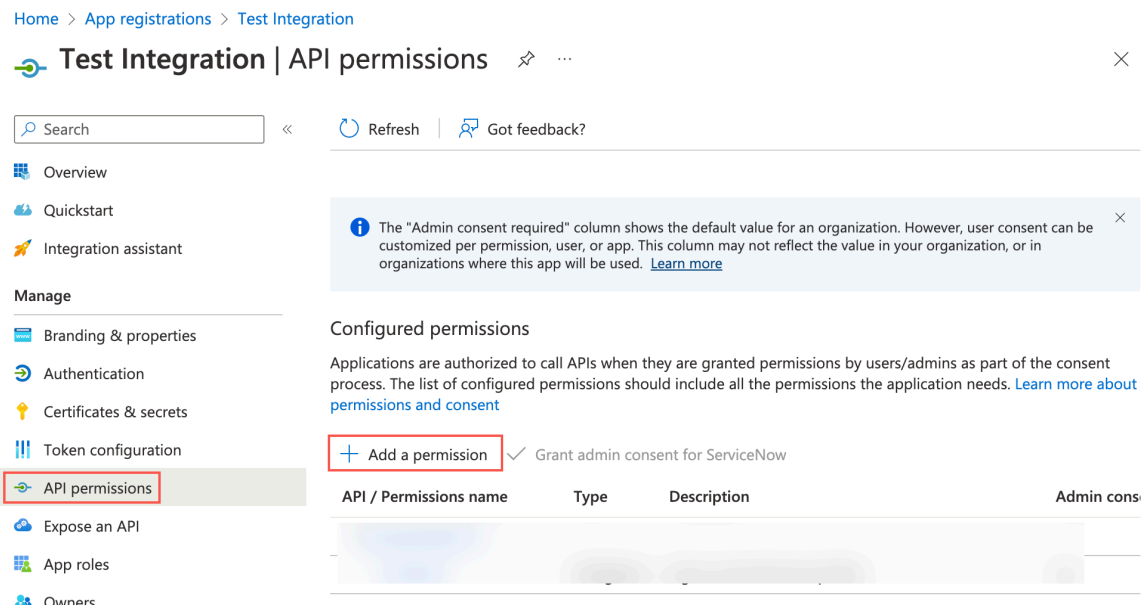


8. [証明書とシークレット **Certificates & secrets)]** をクリックします。
9. [新しいクライアントシークレット **(New client secret)]** をクリックします。
   シークレットが生成され、表示されます。
10. 値をコピーして記録します。
    この値は、ServiceNow インスタンスでサードパーティ OAuth プロバイダーとしてアプリを登録する場合に必要です。



11. **[API** 権限] をクリックします。
12. [アクセス許可の追加] をクリックして、API にアクセスするために必要な権限を追加します。

    必要なアクションを実行するために必要な権限については、「Microsoft Entra ID スポーク (旧 Microsoft Azure Active Directory スポーク)」の「スポークのアクション」セクションを参照してください。



13. アプリケーションにアドミンの同意を付与します。
    詳細については、「クイックスタート：Web API にアクセスするようにクライアントアプリケーションを構成する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

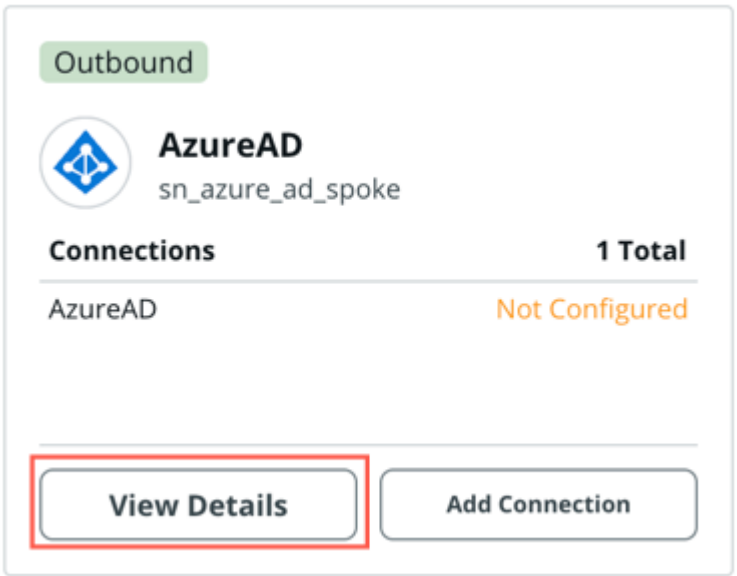
Microsoft Entra ID スポークの接続の構成

Microsoft Entra ID アカウントへの接続を構成します。Microsoft Entra ID スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Microsoft Entra ID でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin。

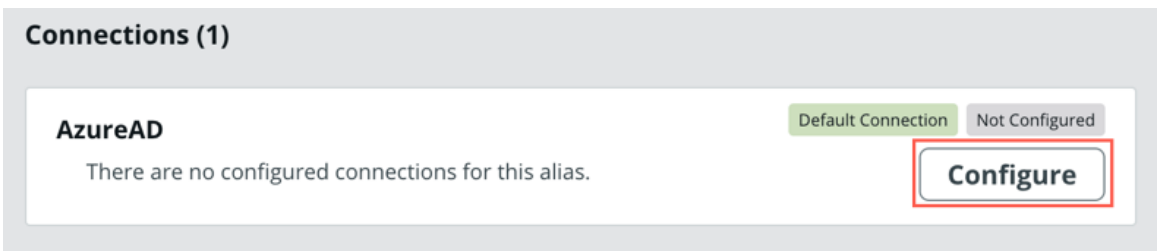
手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. **AzureAD** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
   - Entra ID スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



   - 複数の Entra ID スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

   スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

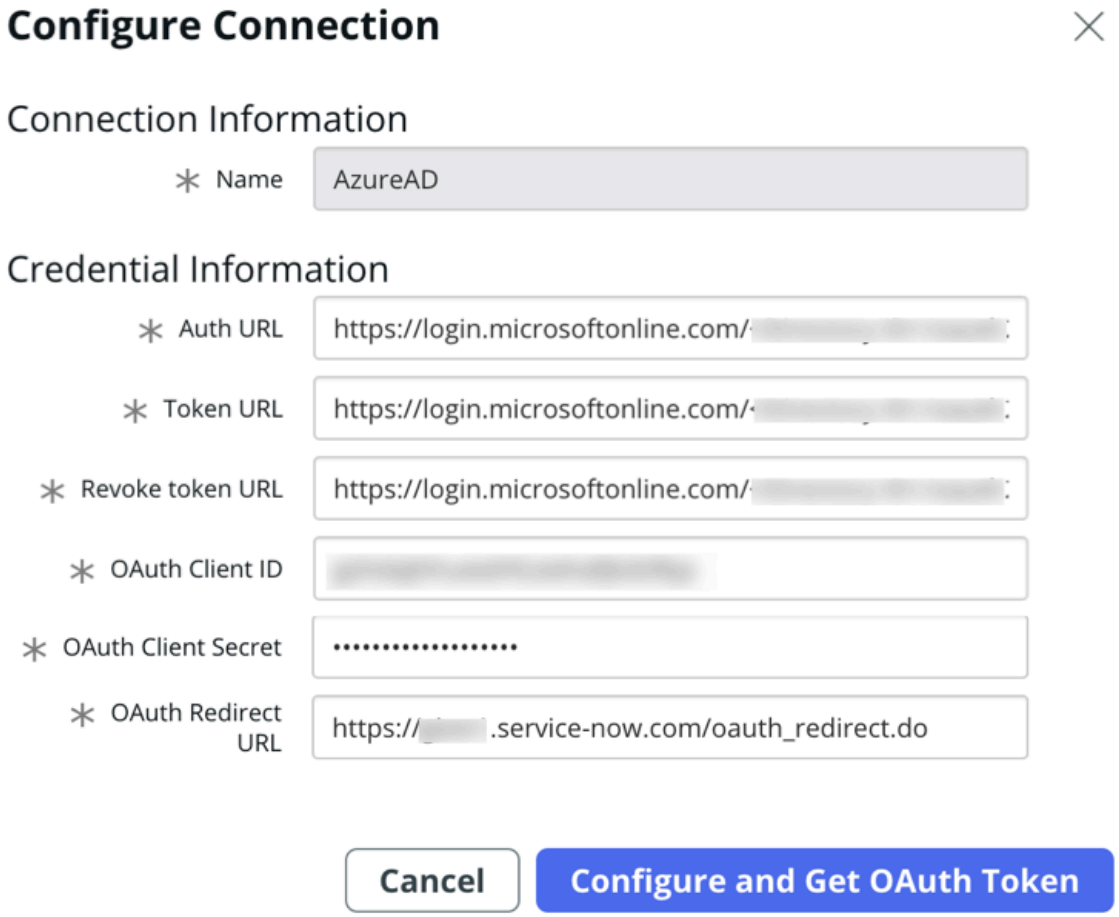


5. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
接続情報	
名前	接続レコードを識別するために自動生成された名前。
認証情報	
認証 URL	次の形式の認証 URL：`https://login.microsoftonline.com/<Directory ID>/oauth2/v2.0/authorize`。`<Directory ID>` は、Entra ID 構成のディレクトリ ID で置き換えます。
トークン URL	次の形式のトークン URL：`https://login.microsoftonline.com/<Directory ID>/oauth2/v2.0/token`。`<Directory ID>` は、Microsoft Entra ID 構成プロパティのディレクトリ ID で置き換えます。
トークン URL の取り消し (Revoke token URL)	`https://login.microsoftonline.com/<Directory ID>/oauth2/v2.0/revoke` の形式のトークン URL を取り消します。`<Directory ID>` は、Entra ID 構成プロパティのディレクトリ ID で置き換えます。
OAuth クライアント ID	Entra ID アプリケーション登録時に作成したクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	Entra ID アプリケーション登録時に作成したキー値。
OAuth リダイレクト URL	ServiceNow インスタンスの URL を `https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` の形式でリダイレクトします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. **[OAuth トークンを設定して取得 (Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。

タスクの結果
Microsoft Entra ID スポークがセットアップされて、ServiceNow インスタンスと統合されます。

注: アプリケーションレジストリレコードの権限許可タイプは、デフォルトで [認証コード] に設定されます。

- Azure ユーザーの認証情報を使用して OAuth トークンを取得し、そのユーザーの委任を受けてすべてのフローを実行する場合は、[認証コード] を使用します。現在、ログインしている各 ServiceNow ユーザーへの権限の委任はサポートされていません。
- 個々のユーザーではなくアプリに権限を付与する場合は、権限許可タイプを [クライアント認証情報] に変更します。これにより、インタラクティブまたはバックグラウンドのすべてのフローがアプリ権限を使用してフローを実行するようになります。クライアント認証情報の使用方法の詳細については、KB0993701 を参照してください。
- 1 つの権限許可タイプを使用することはできないが、アクションを実行するために [認証コード] と [クライアント認証情報] の両方の権限許可タイプが必要な場合は、子エイリアスを作成します。

Entra ID OAuth トークンの再生成

Entra ID OAuth トークンが期限切れになるときに再生成します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. Entra ID スポーク OAuth 認証情報レコードを選択します。

   Example
   たとえば、**[Azure AD** 資格情報] を選択します。
3. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] をクリックします。

Microsoft Exchange Online スポーク

Microsoft Exchange Online スポーク は Microsoft Exchange Online でカレンダーとメールを作成して管理します。ユーザーとグループを作成、管理、または削除するには、 Microsoft Azure AD スポークを使用します。

注: ユーザーとグループの管理は、 Microsoft Exchange Online スポークではなくMicrosoft Azure ADのみを使用して行うことができます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Exchange Online スポークv3.8.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- リモートテーブル (com.glide.script.vtable)
- システムインポートデータソース (com.glide.system_import_data_source)
- iHUB スポークユーティリティパック (com.snc.ihub_spoke_util_pack)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているバージョン

MicrosoftGraph REST API v1.0

スポークモジュール

Microsoft Exchange Online スポークは Microsoft Exchange Online アプリケーションをインスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

モジュール	説明
イベント	Microsoft Exchange Online のイベントのリストを表示します。
サブスクリプション	Microsoft Exchange Online のサブスクリプションのリストを表示します。
Webhook レジストリ	Microsoft Exchange Online の Webhook レジストリのリストを表示します。
カレンダー	Microsoft Exchange Online のカレンダーのリストを表示します。
カレンダーイベント変換データ	データソースのレコードリストを表示します。

スポークのフロー

Microsoft Exchange Online スポークでは、サブスクリプション更新の自動化をデモするサンプルフローが公開スタータスで提供されます。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
サブスクリプションを更新	すべてのサブスクリプションレコードを取得し、更新が必要な場合は有効期限に基づいてサブスクリプションを更新します。サブスクリプションのステータスが「削除中」としてマークされている場合、そのレコードは削除され、更新の対象にはなりません。

スポークのサブフロー

スポークでは、Microsoft Exchange Online サービスと統合するためのサブフローが公開ステータスで提供されます。これらのサブフローは、他のサブフローおよびフローの一部として使用できます。

カテゴリ	サブフロー	説明
Webhook 管理	イベントサブスクリプションを確認	指定されたイベントリソース、通知 URL、および変更タイプを含む Webhook サブスクリプションが存在するかどうかを確認します。
	サブスクリプションレコードを作成または更新	指定されたサブスクリプションレコードが Microsoft Exchange Online に存在するかどうかを確認し、存在する場

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	サブフロー	説明
		合はサブスクリプションレコードを更新します。サブスクリプションレコードが存在しない場合は、新しいサブスクリプションレコードが作成されます。
	リソースのサブスクリプションを作成または更新	指定されたリソースのサブスクリプションをチェックします。指定されたリソースのサブスクリプションが存在しない場合は、新しいサブスクリプションが作成されます。 **注:** このサブフローは、ワークスペースカレンダーの同期 プラグインが既にインストールされている場合にのみ使用できます。
	サブスクリプションを削除	指定されたサブスクリプションが指定されたアプリケーションにのみ関連付けられている場合、そのサブスクリプションを削除します。
	削除されたサブスクリプションを再作成	関連付けられたサブスクリプションレコードの詳細を使用して、削除された Webhook サブスクリプションを再作成します。
	サブスクリプションライフサイクル管理	Webhook サブスクリプションのライフサイクルを管理します。
カレンダー管理	カレンダー同期	[Exchange Online 予定表イベント変換済みデータ] テーブルからイベントを取得し、取得したイベントを Microsoft Exchange Online イベントテーブルに追加して、カレンダーを同期させます。ユーザーの指定したカレンダーに有効なサブスクリプションが存在しない場合は、サブスクリプションを作成します。
	イベントレコードの作成または更新	特定の既存のイベントレコードをチェックし、指定されたプロパティで更新します。指定されたイベントレコードが存在しない場合は、新しいイベントレコードが作成されます。
	カレンダースケジュールイベントを削除	Microsoft Exchange Online の指定されたイベントとイベント

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	サブフロー	説明
		テーブルの関連するレコード、関連する添付ファイル、イベント出席者からの関連するレコード、およびイベントからサブスクリプションへの m2m テーブルを削除します。
	イベントレコードを削除	イベントテーブルと関連する添付ファイルの指定されたイベントレコード、イベント出席者からの関連するレコード、およびイベントからサブスクリプションへの m2m テーブルを削除します。
	イベントライフサイクル管理	イベント詳細を取得し、イベントのレコード、出席者、イベントからサブスクリプションへの m2m テーブルを適宜更新します。
	イベントレコードへの添付ファイルを検索して更新	Microsoft Exchange Online から特定のイベントレコードの添付ファイルを取得して更新します。
	カレンダースケジュールの変更を検索して更新	指定されたイベントレコードのイベントの詳細を取得して更新します。
	イベントを同期	[Exchange Online 予定表イベント変換済みデータ] テーブルのデータに基づいて、カレンダービューを同期します。
	カレンダースケジュールイベントを更新	Microsoft Exchange Online のイベントオブジェクトのプロパティ、およびイベントテーブルの関連するレコードを更新します。

注:

- Microsoft Exchange Online Webhook レジストリテーブルを使用して、Webhook サブスクリプションのコールバック URL を生成し、シークレット値 (クライアントステータス) を保存します。
- [ステータス] フィールドが [アクティブ] に設定された状態で、Webhook サブスクリプションが Microsoft Exchange Online サブスクリプションテーブルに保存されていることを確認します。

スポークのアクション

Microsoft Exchange Online スポークでは、ServiceNowインスタンスでインシデントが作成されたときに、カレンダーとメールのタスクを自動化するアクションが提供されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Exchange Online スポークのアクション

カテゴリ	アクション	説明
カレンダー管理	添付ファイルをカレンダーイベントにコピー	ServiceNow添付ファイルをExchangeカレンダーイベントにコピーします。
	カレンダーイベントを作成	ユーザーのデフォルトカレンダーにイベントを作成し、イベントの開始時間と終了時間のタイムゾーンを指定します。
	繰り返し発生するカレンダーイベントを作成	ユーザーのデフォルトカレンダーに繰り返し発生するイベントを作成し、イベントの開始時間と終了時間のタイムゾーンを指定します。
	添付ファイルを削除	指定されたイベントの特定の添付ファイルを削除します。
	カレンダーイベントを削除	カレンダーイベントを削除します。
	会議の時間を検索	指定された時間と場所での会議の主催者と出席者の空き状況に合わせて、会議の時間と場所を取得します。
	イベント ID で添付ファイルを検索	指定されたイベント内のすべての添付ファイルを取得します。
	ID でカレンダーを検索	指定された ID のカレンダーの詳細を取得します。
	ユーザー ID でカレンダーイベントを検索	ユーザーのメールボックス内のイベントオブジェクトのリストを取得します。
	カレンダービューストリームを検索	指定されたユーザー ID について、指定された期間の会議エントリのリストを取得します。
	カレンダーストリームを検索	すべてのユーザーのカレンダーの詳細を取得します。
	ID でイベントを検索	指定された ID のカレンダーイベントの詳細を取得します。
	スケジュールを検索	スケジュールのリストを取得します。
	不在の設定を検索	指定された受信者の不在設定の詳細を取得します。
	タイムゾーンを検索	利用可能なすべてのタイムゾーンの詳細を取得します。
	カレンダーイベントを更新	イベントオブジェクトのプロパティを更新します。
メール管理	メッセージを削除	ユーザーの受信箱内またはカスタムフォルダーからメッセージを削除します。
	ユーザー ID でメールフォルダーを検索	指定されたユーザー ID のすべてのメールフォルダーを取得します。
	メールフォルダー ID でメッセージを検索	メールフォルダー内のすべてのメッセージを取得します。
	ユーザー ID でメッセージを検索	ユーザーの受信箱フォルダー内のすべてのメッセージを取得します。
	メールを送信	メッセージの件名とメッセージの本文を含むメールを、指定された受信者リストに送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Exchange Online スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
	メールボックスの自動返信を設定	指定された期間のユーザーの自動返信メッセージを設定します。
Webhook 管理	ID でサブスクリプションを検索	指定された ID の Webhook サブスクリプションの詳細を取得します。
	サブスクリプションストリームを検索	すべての Webhook サブスクリプションの詳細を取得します。
	Webhook サブスクリプションを更新	指定された Webhook のサブスクリプションを更新します。
	Webhook を登録	指定されたリソースの Webhook サブスクリプションを作成します。
	Webhook を登録解除	指定された Webhook サブスクリプションを削除します。
メールボックス管理	メールボックスを作成	メールボックスとユーザーアカウントを同時に作成します。
	メールボックスの削除	メールボックスとユーザーアカウントを同時に削除し、無効化します。
	メールボックスを有効化	Microsoft Exchange Online でメールボックスを有効化します。メールボックスはアーカイブ済みの状態にすることができます。
	メールボックスを検索	メールボックスのリストを取得します。

これらのアクションを実行するために必要な権限は次のとおりです。

Microsoft Exchange Online スポークアクションに必要な権限

カテゴリ	アクション	権限タイプ	権限 (権限の低いものから順に)
カレンダー管理	添付ファイルをカレンダーイベントにコピー	委任済み (職場または学校のアカウント)	Calendars.ReadWrite
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Calendars.ReadWrite
		アプリケーション	Calendars.ReadWrite
	カレンダーイベント	委任済み (職場または学校の	Calendars.ReadWrite

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Exchange Online スポークアクションに必要な権限 (続く)

カテゴリ	アクション	権限タイプ	権限 (権限の低いものから順に)
	を作成	アカウント)	
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Calendars.ReadWrite
		アプリケーション	Calendars.ReadWrite
	繰り返し発生するカレンダーイベントを作成	委任済み (職場または学校のアカウント)	Calendars.ReadWrite
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Calendars.ReadWrite
		アプリケーション	Calendars.ReadWrite
	添付ファイルを削除	委任済み (職場または学校のアカウント)	Calendars.ReadWrite
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Calendars.ReadWrite
		アプリケーション	Calendars.ReadWrite
	カレンダーイベントを削除	委任済み (職場または学校のアカウント)	Calendars.ReadWrite
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Calendars.ReadWrite

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Exchange Online スポークアクションに必要な権限 (続く)

カテゴリ	アクション	権限タイプ	権限 (権限の低いものから順に)
		アプリケーション	Calendars.ReadWrite
	会議の時間を検索	委任済み (職場または学校のアカウント)	Calendars.Read, Calendars.ReadWrite
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
		アプリケーション	サポート対象外
	イベント ID で添付ファイルを検索	委任済み (職場または学校のアカウント)	Calendars.Read
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Calendars.Read
		アプリケーション	Calendars.Read
	ID でカレンダーを検索	委任済み (職場または学校のアカウント)	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.ReadWrite
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.ReadWrite
		アプリケーション	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.ReadWrite
	ユーザー ID でカレ	委任済み (職場または学校の	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.ReadWrite

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Exchange Online スポークアクションに必要な権限 (続く)

カテゴリ	アクション	権限タイプ	権限 (権限の低いものから順に)
	ンダーイベントを検索	アカウント)	
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.ReadWrite
		アプリケーション	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.ReadWrite
	カレンダービューストリームを検索	委任済み (職場または学校のアカウント)	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.ReadWrite
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.ReadWrite
		アプリケーション	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.ReadWrite
	カレンダーストリームを検索	委任済み (職場または学校のアカウント)	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.Read.Shared、Calendars.ReadW
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.Read.Shared、Calendars.ReadW
		アプリケーション	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.ReadWrite
	ID でイベントを検索	委任済み (職場または学校のアカウント)	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Exchange Online スポークアクションに必要な権限 (続く)

カテゴリ	アクション	権限タイプ	権限 (権限の低いものから順に)
		アプリケーション	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read
	スケジュールを検索	委任済み (職場または学校のアカウント)	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.ReadWrite
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	サポート対象外
		アプリケーション	Calendars.ReadBasic、Calendars.Read、Calendars.ReadWrite
	不在の設定を検索	委任済み (職場または学校のアカウント)	Mail.Read、Mail.Read.Shared
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Mail.Read
		アプリケーション	Mail.Read
	タイムゾーンを検索	委任済み (職場または学校のアカウント)	User.Read、User.ReadBasic.All
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	User.Read
		アプリケーション	User.Read.All
	カレンダーイベント	委任済み (職場または学校の	Calendars.ReadWrite

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Exchange Online スポークアクションに必要な権限 (続く)

カテゴリ	アクション	権限タイプ	権限 (権限の低いものから順に)
	を更新	アカウント)	
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Calendars.ReadWrite
		アプリケーション	Calendars.ReadWrite
メール管理	メッセージを削除	委任済み (職場または学校のアカウント)	Mail.ReadWrite
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Mail.ReadWrite
		アプリケーション	Mail.ReadWrite
	ユーザー ID でメールフォルダーを検索	委任済み (職場または学校のアカウント)	Mail.ReadBasic、Mail.Read、Mail.ReadWrite
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Mail.ReadBasic、Mail.Read、Mail.ReadWrite
		アプリケーション	Mail.ReadBasic、Mail.Read、Mail.ReadWrite
	メールフォルダー ID でメッセージを検索	委任済み (職場または学校のアカウント)	Mail.ReadBasic、Mail.Read、Mail.ReadWrite
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Mail.ReadBasic、Mail.Read、Mail.ReadWrite

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Exchange Online スポークアクションに必要な権限 (続く)

カテゴリ	アクション	権限タイプ	権限 (権限の低いものから順に)
		アプリケーション	Mail.ReadBasic、Mail.Read、Mail.ReadWrite
	ユーザー ID でメッセージを検索	委任済み (職場または学校のアカウント)	Mail.ReadBasic、Mail.Read、Mail.ReadWrite
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Mail.ReadBasic、Mail.Read、Mail.ReadWrite
		アプリケーション	Mail.ReadBasic、Mail.Read、Mail.ReadWrite
	メールを送信	委任済み (職場または学校のアカウント)	Mail.Send
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Mail.Send
		アプリケーション	Mail.Send
	メールボックスの自動返信を設定	委任済み (職場または学校のアカウント)	MailboxSettings.ReadWrite
		委任済み (個人の Microsoft アカウント)	MailboxSettings.ReadWrite
		アプリケーション	MailboxSettings.ReadWrite
メールボッ	メールボックス	これらのアクションでは PowerShell コマンドレットが使用されるため、API 権限は必要ありません。	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Exchange Online スポークアクションに必要な権限 (続く)

カテゴリ	アクション	権限タイプ	権限 (権限の低いものから順に)
クス管理	を作成		
	メールボックスを削除		
	メールボックスを有効化		
	メールボックスを検索		

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント」を参照してください。

利用可能な AI エージェントには、Microsoft Exchange Online メールマネージャーが含まれます。Microsoft Exchange Online エージェントは、メールフォルダーとメッセージの検索、メッセージの削除、メールボックスの自動返信の設定などの機能を提供することで、ユーザーが Microsoft Exchange Online のタスクを自動化および管理するのを支援します。

ユースケースで使用されていない AI エージェントが、Now Assist アプリケーションとともにインストールされている場合があります。利用可能なすべてのエージェントを表示する方法については、「Find AI agents (AI エージェントの検索)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoftアカウント要件

Microsoft Exchange Online スポークで OAuth 2.0 トークンを生成するには、Microsoft Azure ポータルを使用してアプリケーションを登録する必要があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Microsoft Exchange Online スポーク を設定。

Microsoft Exchange Online スポーク を設定

Microsoft Exchange Onlineにカスタム OAuth アプリケーションを作成してServiceNowインスタンスと Microsoft Exchange Onlineアカウントをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Microsoft Exchange Online スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

MicrosoftAzure ポータルを使用してアプリケーションを登録

アプリケーションをAzure ADに登録して、ServiceNowインスタンスへの認証を行います。

始める前に

必要なロール：Azure Active Directory アドミン

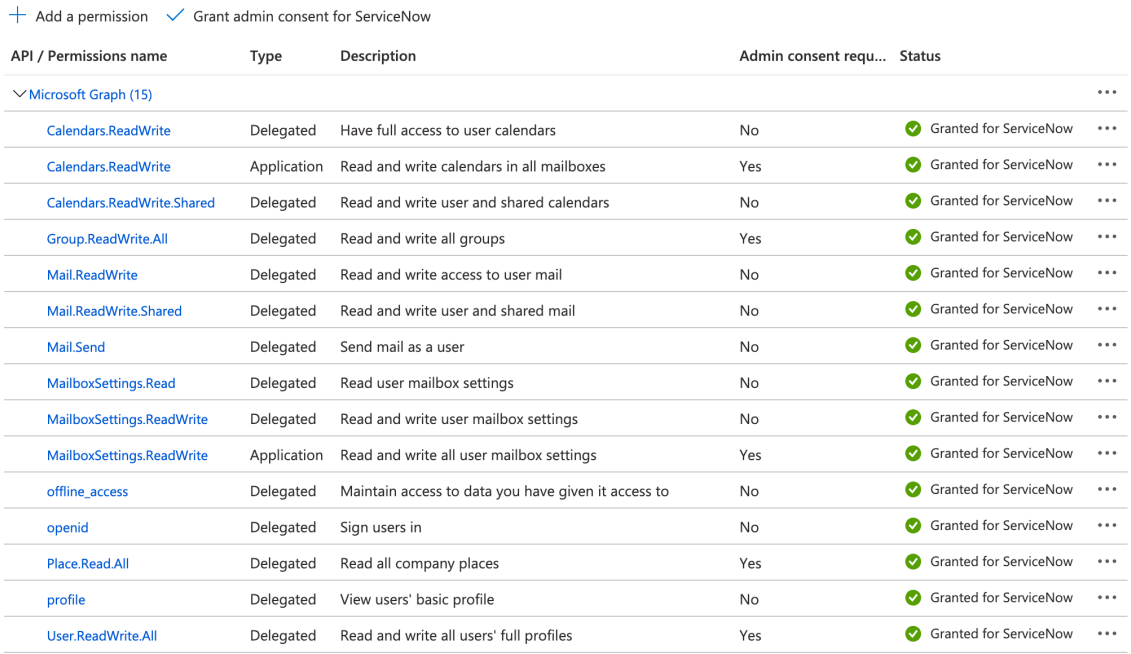
このタスクについて

MicrosoftAzure ポータルからこれらの手順を実行します。アプリケーションの登録手順については、MicrosoftAzure のドキュメント を参照してください。

手順

1. MicrosoftAzure ポータルで、[リダイレクト **URI]** をこのフォーマットで追加します：`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do`
2. [必須権限] については、**[Microsoft Graph]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



API / Permissions name	Type	Description	Admin consent requ...	Status
Microsoft Graph (15)				
Calendars.ReadWrite	Delegated	Have full access to user calendars	No	Granted for ServiceNow
Calendars.ReadWrite	Application	Read and write calendars in all mailboxes	Yes	Granted for ServiceNow
Calendars.ReadWrite.Shared	Delegated	Read and write user and shared calendars	No	Granted for ServiceNow
Group.ReadWrite.All	Delegated	Read and write all groups	Yes	Granted for ServiceNow
Mail.ReadWrite	Delegated	Read and write access to user mail	No	Granted for ServiceNow
Mail.ReadWrite.Shared	Delegated	Read and write user and shared mail	No	Granted for ServiceNow
Mail.Send	Delegated	Send mail as a user	No	Granted for ServiceNow
MailboxSettings.Read	Delegated	Read user mailbox settings	No	Granted for ServiceNow
MailboxSettings.ReadWrite	Delegated	Read and write user mailbox settings	No	Granted for ServiceNow
MailboxSettings.ReadWrite	Application	Read and write all user mailbox settings	Yes	Granted for ServiceNow
offline_access	Delegated	Maintain access to data you have given it access to	No	Granted for ServiceNow
openid	Delegated	Sign users in	No	Granted for ServiceNow
Place.Read.All	Delegated	Read all company places	Yes	Granted for ServiceNow
profile	Delegated	View users' basic profile	No	Granted for ServiceNow
User.ReadWrite.All	Delegated	Read and write all users' full profiles	Yes	Granted for ServiceNow

3. 後の構成で使用できるように [クライアントシークレット] を記録します。

タスクの結果
ServiceNowアプリケーションはMicrosoft Azure ADで作成されます。

OAuth プロバイダーとして Microsoft Exchange Onlineを登録

Microsoft Exchange Onlineを OAuth プロバイダーとして登録し、ServiceNowインスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
MicrosoftAzure ポータルでのアプリケーションの登録時に生成された情報を使用します。

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. **Microsoft Exchange Online** レコードを開きます。
3. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`Microsoft Exchange Online`
クライアント ID	アプリケーション登録時に作成されたアプリケーション ID です。
クライアントシークレット	アプリケーション登録時に作成したクライアントシークレットです。
OAuth API スクリプト	要求と応答をカスタマイズするオプションのスクリプト。
ロゴ URL	アプリケーションロゴとして使用するイメージを含む URL です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可のタイプ。[認証コード] を選択します。
リフレッシュトークンの有効期間	リフレッシュトークンが有効になる時間 (秒) デフォルトの時間は 8,640,000 秒です。
PKCE が必要 (PKCE required)	パブリッククライアントが認証に PKCE を要求できるようにするオプション。 注: **PKCE** が有効になっている場合、[デフォルトの権限許可タイプ] として使用できるのは [認証コード] のみです。
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープです。
アクセス可能	このレジストリにアクセスできるアプリケーションスコープです。
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプション。
認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイントです。`https://login.microsoftonline.com/<Directory-ID>/oauth2/v2.0/authorize` を入力します。
トークン URL	OAuth サーバートークンのエンドポイントです。`https://login.microsoftonline.com/<Directory-ID>/oauth2/v2.0/token` を入力します。
トークン失効 URL	OAuth サーバートークン失効エンドポイントです。
リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイント`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` と入力します。
相互認証を有効にします	トークンの要求と取り消しに相互認証を使用するオプション。このオプションでは、相互認証プロファイルを指定する必要があります。
認証情報の送信	要求内のクライアント認証情報。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
システムで生成された OAuth エンティティプロファイルが作成され、OAuth エンティティプロファイル関連リストに表示されます。例：`Microsoft Exchange Online default_profile`
5. [システム **OAuth]** > [アプリケーション レジストリ] へ移動します。
6. **Microsoft Exchange Online_clientCredentials** レコードを開きます。
7. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
クライアント ID	アプリケーション登録時に作成されたアプリケーション ID です。
クライアント シークレット	アプリケーション登録時に作成したクライアントシークレットです。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可タイプです。[クライアント認証情報] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
トークン URL	OAuth サーバートークンのエンドポイントです。`https://login.microsoftonline.com/<Directory-ID>/oauth2/v2.0/token` を入力します。
リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイント`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` と入力します。

8. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
システムで生成された OAuth エンティティプロファイルが作成され、OAuth エンティティプロファイル関連リストに表示されます。例：`Microsoft Exchange Online_clientCredentials default_profile`

Microsoft Exchange Online スポーク の認証情報レコードを作成

MicrosoftAzure ポータルに登録されているアプリケーションの認証情報レコードを作成して、Microsoft Exchange Online スポークアクションを承認します。 Microsoft Exchange Online接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。 例：`Exchange_Online_Credentials`
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
OAuth エンティティ プロファイル	Microsoft Exchange Online スポークを OAuth プロバイダーとして登録する際に作成された OAuth プロファイルで、[デフォルトの権限許可タイプ] を [認証コード] として設定しています。例：`Microsoft Exchange Online`
適用先	この認証情報を使用できる MID サーバー。たとえば、[すべての **MID** サーバー] を選択します。
順番	認証情報が使用される順番です。たとえば、「`100`」と入力します。

5. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
6. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンを取得] 関連リンクをクリックします。
7. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。
8. [新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
9. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. フォームのフィールドに入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`Exchange_Online_Credentials_clientCred`
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
OAuth エンティティ プロファイル	Microsoft Exchange Online スポークを OAuth プロバイダーとして登録する際に作成された OAuth プロファイルで、[デフォルトの権限許可タイプ] を [クライアント認証情報] として設定しています。例：`Microsoft Exchange Online_clientCredentials default_profile`
適用先	この認証情報を使用できる MID サーバー。たとえば、[すべての **MID** サーバー] を選択します。
順番	認証情報が使用される順番です。たとえば、「`100`」と入力します。

11. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
12. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンを取得] 関連リンクをクリックします。

タスクの結果
Microsoft Exchange Online スポークの認証情報レコードが作成されます。

Microsoft Exchange Online スポークのメールボックスアクションの認証情報レコードの作成

Microsoft Exchange Online スポークのメールボックスアクションの認証情報レコードを作成します。Microsoft Exchange Online スポーク接続および資格情報エイリアスは、これらの認証情報を使用してメールボックスアクションを許可します。

始める前に
- MID サーバーがセットアップされて構成されていることを確認する
- Power Shell with EXO V2 モジュールがインストールされていることを確認する。このモジュールは、メールボックス管理アクションを実行するために必要です。
- 必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **[Windows** 資格情報] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

Windows 資格情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：MS Exchange Online Mailbox Cred。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
ユーザー名	ターゲット Windows ホストへのアクセス権を持つユーザー名です。
パスワード	アカウントのパスワードです。
適用先	認証情報がネットワークのすべてのMID サーバーに適用されるか、または 1 つ以上の特定の **MID** サーバーに適用されるかを指定するオプションです。**[MID** サーバー] フィールドでこの認証情報を使用する MID サーバーを指定します。
順番	この認証情報を適用する順番です。たとえば、`100` です。
認証情報エイリアス	スポークに関連付けられた認証情報エイリアスです。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

タスクの結果
Microsoft Exchange Online スポークのメールボックスアクションの Windows 資格情報レコードが作成されます。

Microsoft Exchange Online スポークの接続レコードを作成

Microsoft Exchange Onlineアカウントの接続レコードを作成し、 Microsoft Exchange Onlineでアクションを実行します。 Microsoft Exchange Online スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Microsoft_Exchange_Online** レコードを開きます。
3. [接続] 関連リストで、[新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

HTTP(S) 接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`Exchange_Online_Connection`
認証情報	Microsoft Exchange Online用に作成された認証情報レコードです。 例：`Exchange_Online_Credentials`
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
URL ビルダー	**注:** チェックボックスをオンにしないでください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続 URL	接続 URL です。「`https://graph.microsoft.com`」と入力します。
MID サーバーを使用	MID サーバーを使用するオプションです。チェックボックスがオンの場合は、MID サーバー詳細構成関連リストのフィールドを定義します。
アクティブ	接続を積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションまたはアクティビティを実行するドメインです。

5. [更新] をクリックします。
6. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
7. **Microsoft_Exchange_Online_clientCred** レコードを開きます。
8. [接続] 関連リストで、[新規] をクリックします。
9. フォームのフィールドに入力します。

HTTP(S) 接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`Exchange_Online_Connection_clientCred`
認証情報	Microsoft Exchange Online用に作成された認証情報レコードです。例：`Exchange_Online_Credentials_clientCred`
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
URL ビルダー	注: チェックボックスをオンにしないでください。
接続 URL	接続 URL です。「`https://graph.microsoft.com`」と入力します。
MID サーバーを使用	MID サーバーを使用するオプションです。チェックボックスがオンの場合は、MID サーバー詳細構成関連リストのフィールドを定義します。
アクティブ	接続を積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションまたはアクティビティを実行するドメインです。

10. [更新] をクリックします。

タスクの結果
Microsoft Exchange Online スポークが設定されて、ServiceNowインスタンスとデータ連携されます。

Microsoft Exchange Online スポーク メールボックスアクションの接続レコードの作成

Microsoft Exchange Online スポーク メールボックスアクションの接続レコードを作成します。Microsoft Exchange Online スポーク の接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してメールボックスアクションのみを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- MID サーバーがセットアップされて構成されていることを確認する
- Power Shell with EXO V2 モジュールがインストールされていることを確認する。このモジュールは、メールボックス管理アクションを実行するために必要です。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Microsoft Exchange Online MID** レコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例を次に示します。`MS Exchange Online メールボックス接続`。
認証情報	Microsoft Exchange Online スポークのメールボックスアクション用に作成された認証情報レコードです。 例：`MS Exchange Online Spoke Mailbox Cred`。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
接続 URL	**Microsoft Exchange Online** に接続するためのベース URL。入力：`127.0.0.1`
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	接続で使用されるターゲット ポート。空白の場合は、デフォルトのポートが使用されます。
MID サーバーを使用	この接続に MID サーバー を使用するオプション。チェックボックスが選択されている場合、[MID サーバー詳細構成] 関連リストのフィールドを定義します。

5. [送信] をクリックします。

タスクの結果

Microsoft Exchange Online Spoke のメールボックスアクションの認証情報レコードが作成されます。

Microsoft Exchange OnlineOAuth トークンを再生成

Microsoft Exchange OnlineOAuth トークンの有効期限が切れた後に再生成して、 Microsoft Exchange Online スポークを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. Microsoft Exchange Online スポーク OAuth 認証情報レコードを選択します。
3. OAuth トークンを再生成するには、**[OAuth** トークンを取得] 関連リンクをクリックします。

タスクの結果
Microsoft Exchange Online スポークは、新しい OAuth アクセストークンを受け取ります。

Microsoft Exchange Server スポーク

Microsoft Exchange Server スポークは、Microsoft Exchange メールシステムのアドレスリスト、メールボックス、カレンダーイベントを作成して管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Exchange Server スポーク v2.5.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - PowerShell (com.glide.hub.action_step.powershell)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

> **注:** これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

- Windows Server2016 にインストールされたExchange Server2016

  > **注:** [ユーザーのカレンダーイベントを作成] および [空室状況を検索] アクションは、Exchange Server2013 でのみサポートされています。

- Windows Server2012 R2 にインストールされたExchange Server2013

このスポークは、以前のバージョンのMicrosoft Exchange Serverと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

ターゲットのExchange Serverで PowerShell リモート機能を有効にする必要があります。Microsoft Exchange Serverの詳細については、Exchange Server のドキュメント を参照してください。

スポークのフロー

Exchange Serverスポークでは、Exchange Serverタスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
サブスクリプションからプル	[サブスクリプション ID でアイテムを検索] サブフローを使用して、アクティブなサブスクリプション内の変更されたアイテムを定期的に取得し、詳細をServiceNowインスタンスに保存します。
[アイテム ID でカレンダーアイテムを検索] フロー	[サブスクリプション ID でアイテムを検索] サブフローを使用して、サブスクリプションの変更されたアイテムの詳細を [イベントマッピングのサブスクリプション] モジュールに表示します。
サブスクリプションを更新	[サブスクリプションを更新] サブフローを使用してサブスクリプションを更新します。

注: サブスクリプションは 24 時間有効で、フローは定期的にサブスクリプションを更新します。サードパーティアプリケーションでエラーが発生した場合、サブスクリプションは更新されません。つまり、[有効] は **[False]** に設定されます。エラーの場合は、サブスクリプションの作成フローを使用してサブスクリプションを作成する必要があります。

スポークのサブフロー

Exchange Serverスポークでは、Exchange Serverタスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
サブスクリプション ID でアイテムを検索	サブスクリプションの変更されたアイテムの詳細を [イベントからサブスクリプションへのマッピング] テーブルに保存します。
サブスクリプションを作成	指定されたメールボックスのサブスクリプションを作成し、[サブスクリプション] テーブルに追加します。サブスクリプションがすでに存在する場合、サブフローはアプリケーションの詳細をサブスクリプションレコードに追加します。
サブスクリプションを更新	指定されたメールボックスのサブスクリプションを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Microsoft Exchange Server スポークでは、アドレスリスト、メールボックス、およびカレンダーイベントの各タスクを自動化するアクションが提供されます。

Microsoft Exchange Server スポークのアクション

カテゴリ	アクション	説明
アドレスリスト管理	含まれる受信者を使用してアドレスリストを作成	[含まれる受信者] フィールドを使用して、Exchange Serverに新しいアドレスリストを作成します。
	受信者フィルターを使用してアドレスリストを作成	[受信者] フィールドを使用して、Exchange Serverに新しいアドレスリストを作成します。
	アドレスリストの削除	必須のExchange Serverで必須のアドレスリストを削除します。
	アドレスリストの詳細を取得	必須のExchange Serverで必須のアドレスリストの詳細を取得します。
	アドレスリストを検索	検索クエリを使用して、必須のExchange Serverのアドレスリストの詳細を取得します。
	アドレスリストの詳細を検索	指定されたアドレスリストの詳細を ID 別に取得します。
	アドレスリストの移動	アドレス階層内の別の場所にアドレス リストを移動します。
	アドレスリストを同期	Exchange Serverの必須アドレスリストの最新の詳細でメールクライアントを更新します。
	含まれる受信者を使用してアドレスリストを更新	[含まれる受信者] フィールドを使用して、必須アドレスリストの詳細と受信者を更新します。
	受信者フィルターを使用してアドレスリストを更新	[受信者フィルター] フィールドを使用して、必須アドレスリストの詳細と受信者を更新します。
メールボックス管理	ユーザーのカレンダーイベントを作成	Exchange Serverにカレンダーイベントを作成します。カレンダーイベントは、会議または予約のいずれかになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Exchange Server スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
		注: • このアクションは、Exchange Server2013 でのみサポートされています。 • このアクションでは、Exchange_https 接続および資格情報エイリアスを使用します。
	メールボックスを作成	メールボックスとユーザーアカウントを同時に作成します。
	メールボックスの削除	Exchange Serverのメールボックスを削除します。
	メールボックスを無効化	Exchange Serverのメールボックスを無効にします。
	メールボックスを有効化	Exchange Serverのメールボックスを有効にします。
	イベント ID でカレンダーを検索	カレンダーイベントのリストを取得します。
	メールボックスを検索	Exchange Serverで指定されたメールボックスのメールボックスプロパティを取得します。
	ルームの使用可否を検索	ルームオブジェクトの指定されたアレイに対する使用可否の応答を取得します。
	メールボックスを更新	Exchange Serverでメールボックスのプロパティを更新します。
	メールボックスの自動返信を設定	Exchange Serverで指定されたメールボックスの自動返信をスケジュールします。
	ルームメールボックスを検索	Exchange Server内のすべてのルームメールボックスを取得します。
会議管理	会議提案を検索	指定されたメールボックスの会議提案を取得します。
	カレンダー会議を更新	作成済みの既存のカレンダーイベントを更新します。会議の更新中に、変更された予約アイテムをカレンダーフォルダーに保存することに加えて、更新された会議要求がすべての出席者に送信されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Exchange Server スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
	会議ストリームを検索	指定された開始時間と終了時間内のユーザーの会議の詳細を取得します。
	フォルダー ID を検索	必要なフォルダーのフォルダー ID を取得します。
	ユーザーのカレンダーイベントを削除	指定された既存のカレンダーイベントを削除します。更新がすべての出席者に送信されます。
	ユーザーの可用性を検索	指定されたメールボックスの可用性の応答を取得します。
Subscription Management **注:** Exchange Serverスポークは、カレンダーイベントのみをサポートしています。	サブスクリプションを作成	指定されたメールボックスの新しいサブスクリプションを作成します。
	アイテム ID でカレンダーアイテムを検索	指定されたカレンダー ID のカレンダー情報を取得します。
	サブスクリプション ID でイベントを検索	前回のウォーターマーク以降のサブスクリプションのカレンダーフォルダー内の最新の変更を取得します。
添付ファイル管理	添付ファイルをイベントレコードにコピー	カレンダーイベントの添付ファイルを ServiceNow インスタンスの指定されたレコードにコピーします。
	添付ファイルを作成	添付ファイルをイベントに追加します。
	添付ファイルを削除	指定された添付ファイル ID に関連付けられている添付ファイルを削除します。
	イベントレコードから添付ファイルを削除	指定されたイベントレコードに関連付けられている 1 つ以上の添付ファイルを削除します。
	添付ファイル ID で添付ファイルを検索	指定された添付ファイルを取得します。

スポークモジュール

Exchange Serverスポークは、Microsoft Exchange Serverスポークモジュールを ServiceNowインスタンスに追加します。関連するフローが実行されると、これらのモジュールにデータが入力されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
サブスクリプション	Exchange Serverにサブスクリプションの詳細を表示します。[サブスクリプションを作成] および [サブスクリプションを更新] サブフローが実行されると、このモジュールにデータが入力されます。
イベント	Exchange Serverにイベントの詳細を表示します。[アイテム ID でカレンダーアイテムを検索] フローが実行されると、このモジュールにデータが入力されます。
イベントの出席者	イベントの出席者の詳細を表示します。[アイテム ID でカレンダーアイテムを検索] フローが実行されると、このモジュールにデータが入力されます。
イベントマッピングのサブスクリプション	サブスクリプションおよびイベントの詳細を表示します。[サブスクリプション ID でアイテムを検索] サブフローが実行されると、このモジュールにデータが入力されます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

Microsoft Exchange Server スポークが有効になると、Exchange と Exchange_https の 2 つの接続および資格情報エイリアスが作成されます。

注:

- Exchange_https エイリアスは、Exchange Server2013 でのみサポートされています。
- Exchange_https エイリアスは、[ユーザーのカレンダーイベントを作成] および [ルームの使用可否を検索] アクションを使用するために必要です。

スポークの設定については、「Microsoft Exchange Server スポークの設定。

MID サーバー の要件

インスタンスには、MID サーバーをセットアップし、PowerShell 2.0 を実行するように構成を行う必要があります。Microsoft Exchangeエイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所およびMID サーバー選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー」を参照してください。

Microsoft Exchange Server スポークの設定

ServiceNow インスタンスを Microsoft Exchange Server に接続するには、インスタンスに統合ハブをインストールするときに提供される双方の Microsoft Exchange Server の接続レコードと認証情報レコードを設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- ServiceNow インスタンスの最新の Microsoft Exchange Server スポークプラグインをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

Microsoft Exchange Server スポークでは、Microsoft Exchange Server をインストールすると、Exchange および Exchange_https という 2 つのエイリアスとそれぞれの構成テンプレートが、すぐに利用可能なコンポーネントとして提供されます。これらのすぐに利用可能なコンポーネントを使用すると、接続と資格情報を指定するだけで、両方のエイリアスの接続と資格情報レコードを簡単に設定できます。すぐに利用可能なコンポーネントは既に設定されています。接続と資格情報レコードを作成する方法については、以下を参照してください。

- Exchange エイリアスの接続を構成する
- Exchange_https エイリアスの接続を構成する

[ユーザーのカレンダーイベントを作成] および [ルームの使用可否を検索] アクションを除くすべてのスポークアクションを実行できます。 [ユーザーのカレンダーイベントを作成] および [ルームの使用可否を検索] アクションは、Exchange Server 2013 でのみサポートされています。

> **注:** 認証情報レコードで指定されたユーザーの詳細には、アプリケーションの代理操作ロールが必要です。

[ユーザーのカレンダーイベントを作成] および [ルームの使用可否を検索] アクションを使用するには、Exchange_https の接続および資格情報エイリアスに対して同じ手順を再度実行します。このアクションを実行するためにMID サーバーは必要ありません。

Exchange エイリアスの接続を構成する

Exchange エイリアスの接続を構成して、ServiceNow® インスタンスと Microsoft Exchange Server ホスト間の接続を確立します。

始める前に

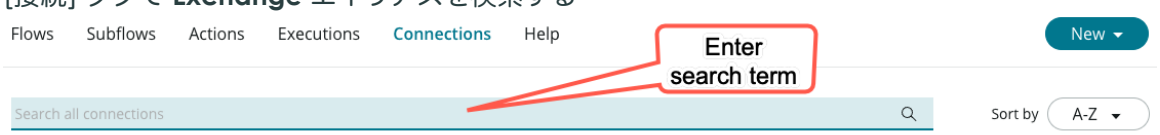
必要なロール：admin。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. **Exchange** エイリアスを見つけます。

   > **ヒント:** エイリアスを検索するには、 [すべての接続を検索] フィールドに「`Exchange`」と入力します。

   [接続] タブで **Exchange** エイリアスを検索する

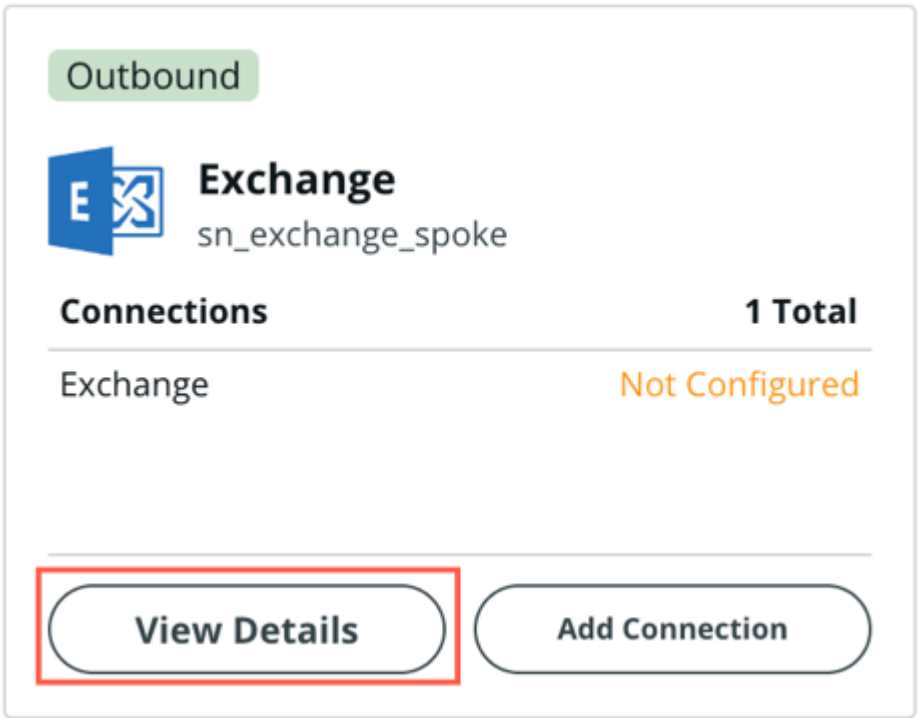
   

   Exchange エイリアスタイルが [接続] タブの下に表示されます。
5. [詳細を表示] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Microsoft Exchange Server スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。

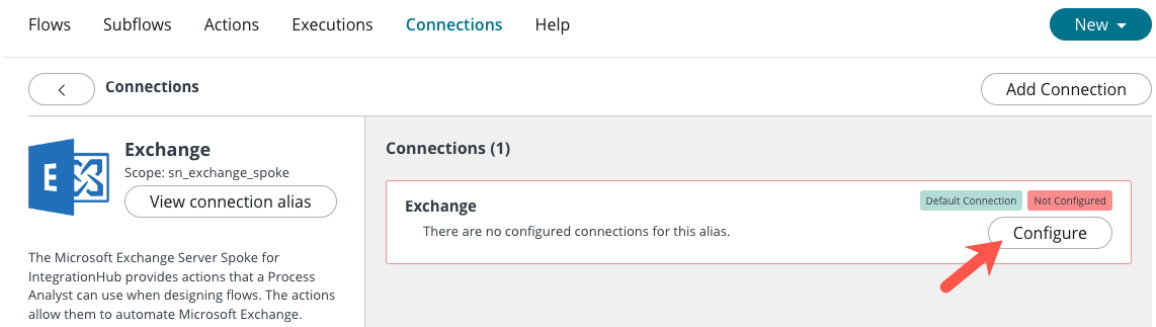
デフォルトの接続レコード



- 複数の Microsoft Exchange Server スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

Exchange エイリアスのボタンを構成する



6. フォームのフィールドに入力します。

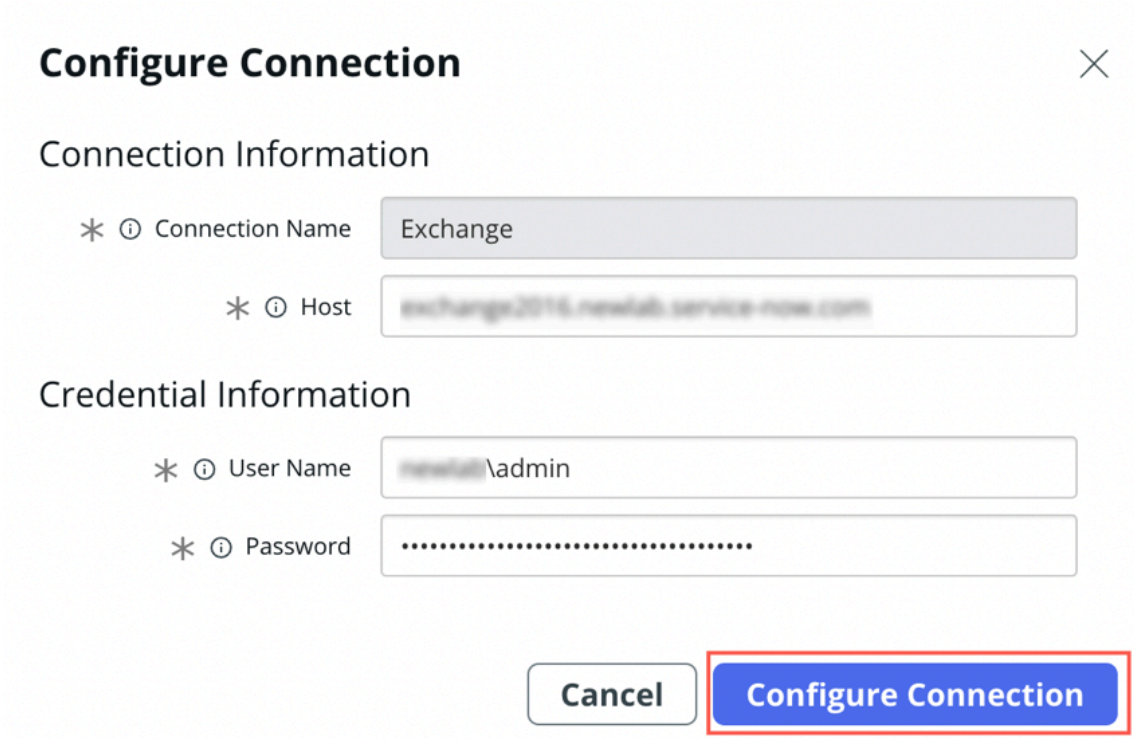
Exchange エイリアスの接続と資格情報フォーム

フィールド	説明
接続名	接続および認証情報レコードを識別する一意の名前。例：Microsoft Exchange。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 最初のレコードの接続名は読み取り専用です。後続のレコードにカスタム名を指定できます。
ホスト	Microsoft Exchange Server がインストールされるターゲットホストの完全修飾ドメイン名。たとえば、「`<host>.<domain>.com`」と入力します。
ユーザー名	ターゲットのWindowsホストへのアクセス権を持つユーザー名。
パスワード	アカウントのパスワードです。

接続の設定フォーム



7. [接続を設定] を選択します。
   Exchange エイリアスの接続と資格情報レコードが作成されます。

Exchange_https エイリアスの接続を構成する

Exchange_https エイリアスの接続を構成して、ServiceNow® インスタンスと Microsoft Exchange Server ホスト間の接続を確立します。

始める前に
必要なロール：admin。

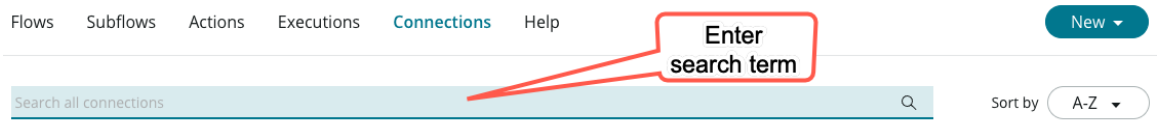
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. **Exchange_https** エイリアスを見つけます。

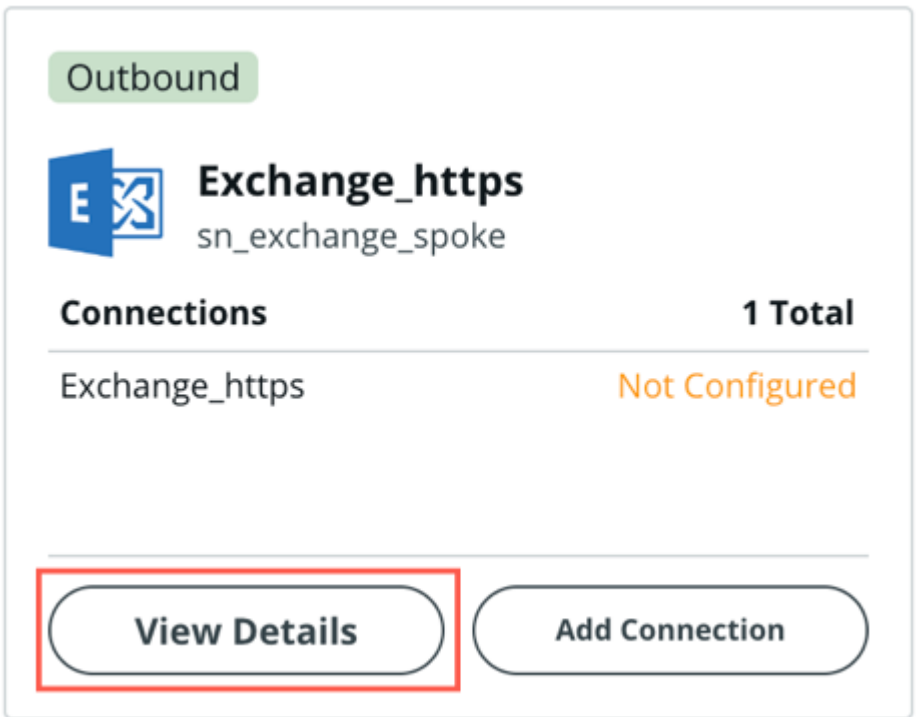
   ヒント: エイリアスを検索するには、 [すべての接続を検索] フィールドに「`Exchange`」と入力します。

   [接続] タブで **Exchange_https** エイリアスを検索する

   Exchange_https エイリアスタイルが [接続] タブの下に表示されます。
5. [詳細を表示] をクリックします。
   - Microsoft Exchange Server スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。

     デフォルトの接続レコード

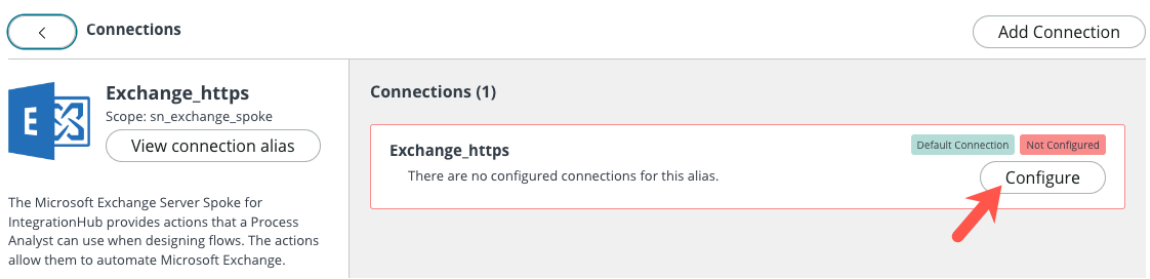
     

   - 複数の Microsoft Exchange Server スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Exchange_https 接続レコードエイリアスのボタンを構成する



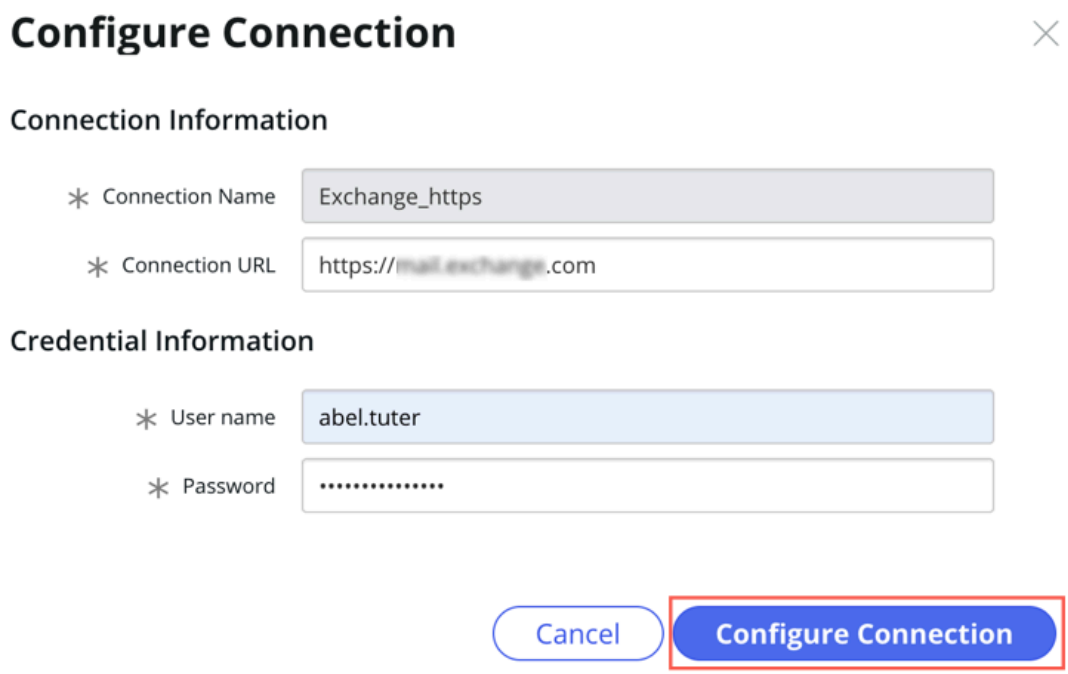
6. フォームのフィールドに入力します。

Exchange_https 接続フォーム

Field (フィールド)	説明
接続名	接続および認証情報レコードを識別する一意の名前。例： Exchange_https。 **注:** 最初のレコードの接続名は読み取り専用です。後続のレコードにカスタム名を指定できます。
ホスト	Microsoft Exchange Server がインストールされるターゲットホストの完全修飾ドメイン名。 たとえば、`https://mail.example.com/EWS/Exchange.asmx` はホスト URL の形式にすることができます ◦ `mail.example.com` は、Exchange サーバーのドメインのプレースホルダーです ◦ `/EWS/Exchange.asmx` は、Exchange Web サービス (EWS) エンドポイントへのパスです
ユーザー名	ターゲットのWindowsホストへのアクセス権を持つユーザー名。
パスワード	アカウントのパスワードです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続の設定フォーム



7. [接続を設定] を選択します。
   Exchange_https エイリアスの接続と資格情報レコードが作成されます。

Microsoft Intune スポーク

ServiceNow インスタンスから Microsoft Intune アカウントのデバイスおよびアプリケーションを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Intune スポーク v1.1.8 が最新バージョンです。

注: Android デバイスでのアプリケーションの展開はサポートされていません。

サポートされているバージョン

このスポークは Microsoft Intune アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- Microsoft Entra ID スポーク (旧 Microsoft Azure Active Directory スポーク)
- ServiceNowIntegrationHub アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNowIntegrationHub アクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのサブフロー

Microsoft Intune スポークでは、タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
アプリケーションの展開	指定されたユーザーまたはデバイスを Microsoft Intune サーバーのグループに追加します。
データの検出および保存	Microsoft Intune サーバーからデータを検出し、アプリケーション [sn_ms_intune_spoke_application]、グループ [sn_ms_intune_spoke_group]、および展開 [sn_ms_intune_spoke_deployment] テーブルのレコードを更新します。
アプリケーションの詳細をルックアップ	アプリケーションの追加の展開の詳細を取得し、展開テーブルの各レコードを更新します。
構成データを検索	指定された要求アイテムの構成データまたはソフトウェア構成レコードを取得します。
アプリケーションの取り消し	指定されたユーザーまたはデバイスを Microsoft Intune サーバーの指定されたグループから削除します。

注: これらのサブフローは、クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション がインストールされている場合にのみ使用できます。

スポークのアクション

Microsoft Intune スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アプリケーション管理	管理対象アプリケー	アプリケーションの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ションを取得	
	アプリケーションのアサインを検索	Microsoft Intune サーバーからアプリケーションアサインデータを取得します。
	管理対象アプリケーションを検索	すべてのアプリケーションのリストを取得します。
デバイス管理	管理対象デバイスを削除	管理対象デバイスを削除します。
	管理対象デバイスを取得	管理対象デバイスの詳細を取得します。
	管理対象デバイスを検索	管理対象デバイスの詳細を取得します。
	アプリケーションで管理対象デバイスを検索	アプリケーション内の管理対象デバイスの詳細を取得します。
	ユーザーで管理対象デバイスを検索	ユーザーの管理対象デバイスの詳細を取得します。
	管理対象デバイスを更新	管理対象デバイスの詳細を更新します。
メタデータの取得	アプリケーション ID を検索	[アプリケーションで管理対象デバイスを検索] アクションの動的入力のアプリケーション ID を返します。
データ管理 **注:** これらのアクションは、クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション がインストールされている場合にのみ適用できます。	構成データを検索	要求アイテムの構成データまたはソフトウェア構成を取得します。
	ソフトウェアデータを準備	展開または取り消しに使用できる、指定された要求アイテムのソフトウェアデータを準備します。

スポークモジュール

Microsoft Intune スポークは Microsoft Intune アプリケーションをインスタンスに追加し、以下のモジュールを含みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明	テーブル
アプリケーション	Microsoft Intune サーバーからのアプリケーションのリストを表示します。	アプリケーション [sn_ms_intune_spoke_application]
グループ	Microsoft Intune サーバーからのグループのリストを表示します。	グループ [sn_ms_intune_spoke_group]
構成管理	アプリケーションのソフトウェア構成の詳細を保存します。	構成 [sn_ms_intune_spoke_sf_config]
展開	Microsoft Intune サーバーで展開のリストを表示します。	展開 [sn_ms_intune_spoke_deployment]
サーバーインスタンス	プロバイダーサーバーの詳細を保存します。	サーバーインスタンス [sn_ms_intune_spoke_server]

注: これらのモジュールとテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション がインストールされている場合にのみ使用できます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Microsoft Intune スポークの設定。

Microsoft Intune スポークの設定

Microsoft Intune にカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと Microsoft Intune アカウントを統合します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションを要求します。
- Microsoft Intune プラグインをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

Microsoft Azure ポータルを使用して **OAuth** アプリケーションを登録

Microsoft Azure AD にアプリケーションを登録して、ServiceNowインスタンスへの認証を行います。

始める前に

必要なロール：Azure Active Directory アドミン

このタスクについて

MicrosoftAzure ポータルからこれらの手順を実行します。

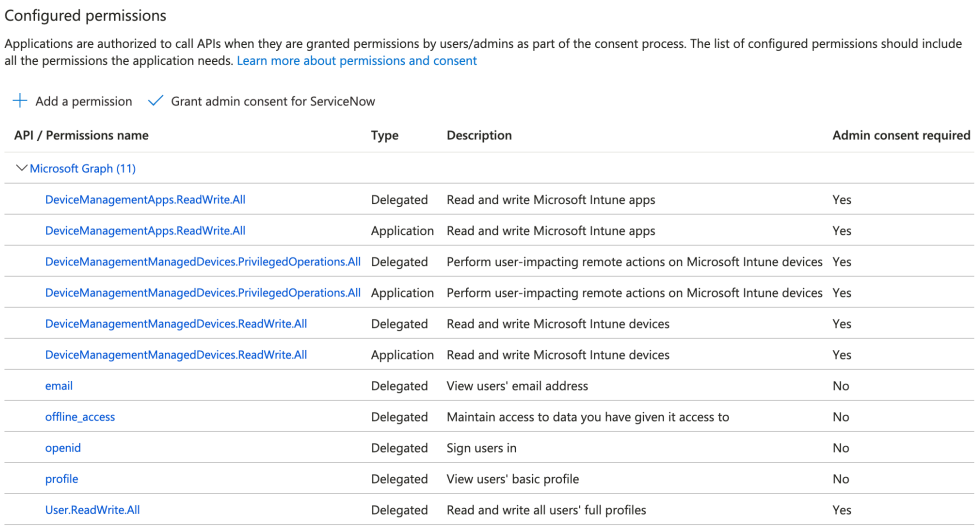
手順

1. Microsoft Azure ポータルにログインします。
   アプリケーションの登録手順については、MicrosoftAzure ドキュメント の「チュートリアル：Azure Active Directory にアプリを登録する 」を参照してください。
2. Azure ポータルで、[リダイレクト **URI]** を追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リダイレクト URI の形式は、`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` にする必要があります。詳細については、「Azure Time Series Insights API の認証と承認」を参照してください。

3. [必要な権限] に次の権限が提供されていることを確認します。



Configured permissions

Applications are authorized to call APIs when they are granted permissions by users/admins as part of the consent process. The list of configured permissions should include all the permissions the application needs. Learn more about permissions and consent

+ Add a permission ✓ Grant admin consent for ServiceNow

API / Permissions name	Type	Description	Admin consent required
Microsoft Graph (11)			
DeviceManagementApps.ReadWrite.All	Delegated	Read and write Microsoft Intune apps	Yes
DeviceManagementApps.ReadWrite.All	Application	Read and write Microsoft Intune apps	Yes
DeviceManagementManagedDevices.PrivilegedOperations.All	Delegated	Perform user-impacting remote actions on Microsoft Intune devices	Yes
DeviceManagementManagedDevices.PrivilegedOperations.All	Application	Perform user-impacting remote actions on Microsoft Intune devices	Yes
DeviceManagementManagedDevices.ReadWrite.All	Delegated	Read and write Microsoft Intune devices	Yes
DeviceManagementManagedDevices.ReadWrite.All	Application	Read and write Microsoft Intune devices	Yes
email	Delegated	View users' email address	No
offline_access	Delegated	Maintain access to data you have given it access to	No
openid	Delegated	Sign users in	No
profile	Delegated	View users' basic profile	No
User.ReadWrite.All	Delegated	Read and write all users' full profiles	Yes

要件に応じて、権限のタイプは、[アプリケーション] または [委任] になります。詳細については、Microsoft Docs の「クイックスタート：Web API にアクセスするためのクライアントアプリケーションの設定」を参照してください。

4. Azure ポータルで、クライアントシークレットを作成します。
詳細については、「オプション 2：新しいアプリケーションシークレットを作成する」セクションを参照してください。
5. 後で参照するためにクライアント シークレットをコピーします。

タスクの結果
ServiceNowアプリケーションはMicrosoft Azure ADで作成されます。

OAuth プロバイダーとして Microsoft Intuneを登録

Microsoft Azure ポータルでアプリケーションの構成中に生成された情報を使用し、 Microsoft Intune を OAuth プロバイダーとして登録して、ServiceNow インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. **Microsoft Intune** レコードを開きます。
3. フォームに、次の値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
クライアント ID	アプリケーション登録時に作成されたアプリケーション ID です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
クライアントシークレット	アプリケーション登録時に作成したクライアントシークレット
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプション。
認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイント`https://login.microsoftonline.com/<Directory-ID>/oauth2/v2.0/authorize` と入力します。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント`https://login.microsoftonline.com/<Directory-ID>/oauth2/v2.0/token` と入力します。
トークン失効 URL	OAuth サーバートークン失効エンドポイントです。
リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイント`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` と入力します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

Microsoft IntuneSpoke の認証情報レコードを作成

MicrosoftAzure ポータルに登録されているアプリケーションの認証情報レコードを作成して、Microsoft Intuneスポークアクションを承認します。 Microsoft Intune 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`MS Intune Cred`
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
OAuth エンティティ プロファイル	Microsoft Intuneを OAuth プロバイダーとして登録する際に作成される OAuth プロファイルです。例：`Microsoft Intune default_profile`

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。
6. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft IntuneSpoke の接続レコードを作成します。

Microsoft Intuneアカウントの接続レコードを作成し、 Microsoft Intuneでアクションを実行します。 Microsoft Intuneの接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Microsoft Intune** エイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

HTTP(S) 接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`MS Intune` 接続
認証情報	Microsoft Intune Spoke 用に作成した認証情報レコードです。 例：`MS Intune Cred`
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
URL ビルダー	注: チェックボックスをオンにしないでください。
接続 URL	接続 URL です。「`https://graph.microsoft.com`」と入力します。
有効	接続を積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションまたはアクティビティを実行するドメインです。

5. [属性] タブで、**u_version** に `v1.0` を指定します。
6. [送信] をクリックします。

タスクの結果
Microsoft Intuneスポークがセットアップされて、 Microsoft IntuneがServiceNowインスタンスとデータ連携されます。

Microsoft OneDrive スポーク

Microsoft OneDrive で、ファイルとフォルダーの管理とコラボレーションを自動化します。Microsoft OneDrive データを ServiceNow インスタンスに追加します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft OneDrive スポーク v2.5.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

API バージョン v1

スポークのフロー

Microsoft OneDrive スポーク では、Microsoft OneDrive タスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
サブスクリプションを更新	サブスクリプションの有効期限を更新して、期限切れのサブスクリプションを更新します。

スポークのサブフロー

Microsoft OneDrive スポークでは、Microsoft OneDriveタスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
新しい OneDrive ファイルを ServiceNow にダウンロード	リソースにアップロードされた新しいファイルを ServiceNow レコードにダウンロード
Webhook に登録	データが変更されたときに通知を受信するリスナーアプリケーションを登録します。
変更を同期	ドライブとその子に対する変更を経時的に追跡します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフロー	説明
ドキュメントの最新 URL を取得	ドキュメントのシステム ID を入力として使用して、OneDrive のファイルの最新のパスを取得します。このサブフローを使用するには、対応する OneDrive 接続と資格情報が作成されており、OneDrive 認証トークンが利用可能である必要があります。
Microsoft OneDrive からドキュメントを再接続	ドキュメントシステム ID、プロバイダー詳細システム ID、ターゲットテーブル名、ターゲットテーブルシステム ID、およびドキュメント名を使用して、Microsoft OneDrive からドキュメントの最新の Web URL と webdav URL を取得します。このサブフローを使用するには、対応する OneDrive 接続と資格情報が作成されており、OneDrive 認証トークンが利用可能である必要があります。

スポークのアクション

Microsoft OneDrive スポーク は、ServiceNow でイベントが発生したときに Microsoft OneDrive タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ドライブ管理	ドライブ情報を検索	特定の Microsoft OneDrive ドライブのメタデータを取得
フォルダー管理	ファイルまたはフォルダーアイテムを移動	Microsoft OneDrive内のファイルまたはフォルダーをターゲットの場所に移動します。
	フォルダーを作成	Microsoft OneDriveにフォルダーを作成します。
	ファイルまたはフォルダー名を更新	ファイルまたはフォルダーのアイテムの名前を ID で更新します。
	ファイルまたはフォルダーアイテムを削除	Microsoft OneDriveからファイルまたはフォルダーを削除します。
ファイル管理	ファイルをチェックイン	ドライブアイテムをチェックインし、共有への招待を送信します。ファイルをチェックインすると、チェックインしたファイルに他のユーザーがアクセスできます。
	ファイルをチェックアウト	OneDrive からドライブアイテムをチェックアウトします。ドライブアイテムをチェックアウトすると、他のユーザーはドキュメントを編集できません。ドキュメントをチェックインするまで、他のユーザーもドキュメントに加えた変更を表示できません。
	OneDrive ファイルを添付ファイルにコピー	Microsoft OneDriveのファイルをServiceNowレコードの添付ファイルにコピーします。
	添付ファイルを OneDrive にコピー	ServiceNowの添付ファイルレコードをMicrosoft OneDriveにコピーします。
	ファイルまたはフォルダーアイテムをコピー	新しい親アイテムまたは新しい名前を使用して、Microsoft OneDriveアイテム (子を含む) のコピーを非同期に作成します。
	アイテムを検索	パスやドライブアイテムのソースとソース ID からドライブアイテムのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ID でファイルまたはフォルダーアイテム情報を検索	Microsoft OneDriveのファイルまたはフォルダー ID からファイルのメタデータ情報を取得します。
	パスでファイルまたはフォルダーアイテム情報を検索	Microsoft OneDriveのファイルパスからファイルのメタデータ情報を取得します。
	パスを使用して添付ファイルを OneDrive にコピー	ServiceNow の添付ファイルレコードを OneDrive にコピーします。
	ファイルパスを使用して OneDrive ファイルを添付ファイルにコピー	OneDrive のパスを使用するファイルを ServiceNow のレコードの添付ファイルにコピーします。
	OneDrive ファイルのバージョンを添付ファイルにコピー	OneDrive のファイルを ServiceNow のレコードの添付ファイルにコピーします。
	ファイルのバージョンを削除	指定されたバージョンのファイルを OneDrive から削除します。
	ファイルのすべてのバージョンを検索	OneDrive のファイルのすべてのバージョンを取得します。
	ファイルバージョンを復元	指定されたファイルバージョンを復元し、このバージョンを最新にします。
	ファイルをアップロードして置換	既存のファイルの更新バージョンをアップロードするか、既存のファイルを新しいファイルに置き換えます。 **注:** ファイルの最大サイズは 4 MB を超えることはできません。
ドキュメントの検索	ファイルまたはフォルダーのアイテムを検索	アイテム名などのメタデータ属性に基づいて、ドライブアイテム (ファイルまたはフォルダー) を検索します。
ドキュメント共有	協力者を追加	協力者とその権限をファイルまたはフォルダーに追加します。協力者は、Azure AD エイリアスまたはオブジェクト ID で識別できます。
	協力者を検索	Microsoft OneDrive内のファイルまたはフォルダーに関連付けられているすべての協力者の詳細をリストします。
	協力者を削除	Microsoft OneDriveのファイルまたはフォルダーから協力者を削除します。
権限管理	権限を追加	ドライブアイテムの共有への招待を送信します。共有への招待によって、受信者はドライブアイテムにアクセスでき、オプションで共有リンクを含むメールを送信できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	共有リンクを作成	ドライブアイテムを他のユーザーと共有できる共有リンクを作成します。
	権限を削除	ドライブアイテムへのアクセスを削除します。
	権限を検索	ドライブアイテムの共有権限を取得します。
	権限を更新	サブスクリプションの有効期限を更新します。
Webhook 管理	Webhook を登録	データが変更されたときに通知を送信するサブスクリプションを作成します。
	Webhook を登録解除	指定されたサブスクリプション ID を削除します。
	サブスクリプションの同期トークンを取得	指定されたサブスクリプション ID の最新の同期トークンを取得します。
	サブスクリプションを検索	アクティブなサブスクリプションのリストを取得します。
	サブスクリプションを更新	サブスクリプションの有効期限を更新します。
	変更を同期	ドライブとその子に対する変更を経時的に追跡します。

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

AI エージェント	説明
Microsoft OneDrive ドキュメント共有 AI エージェント	協力者を追加または削除し、Microsoft OneDrive のファイルまたはフォルダーに対する権限を管理します。また、ファイルまたはフォルダーに関連付けられているすべての協力者の詳細をリストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI エージェント	説明
Microsoft OneDrive ドライブ管理 AI エージェント	Microsoft OneDrive の特定のドライブのメタデータを取得します。
Microsoft OneDrive ファイル管理 AI エージェント	Microsoft OneDrive のファイル、ファイルバージョン、添付ファイルを管理します。また、必要なファイルの詳細を取得します。
Microsoft OneDrive フォルダー管理 AI エージェント	Microsoft OneDrive のフォルダーを管理します。
Microsoft OneDrive 権限管理 AI エージェント	ドライブアイテムの共有リンクを作成し、権限を管理します。

ユースケースで使用されていない AI エージェントが、Now Assist アプリケーションとともにインストールされている場合があります。利用可能なすべてのエージェントを表示する方法については、「Find AI agents (AI エージェントの検索)」を参照してください。

スポークモジュール

双方向 Webhook をセットアップして、必須イベントに関する通知を受けることができます。ルーティングポリシーは、ServiceNow アプリに通知するために満たすべき条件を定義しています。これらの条件は、通知を受けたい OneDrive のイベントに基づいています。条件が満たされると、ルーティングポリシーが関連するサブフローをトリガーし、OneDrive タスクを自動化します。

双方向 Webhook には別途セットアップが必要で、スポークアクションを使用しないで単独で使用できます。デフォルトで、OneDrive Webhooks アプリケーションが OneDrive スポークで利用可能になっており、次のモジュールが含まれています。

モジュール	説明
OneDrive 同期トークン	OneDrive の同期 Token を表示できます。
OneDrive Webhook レジストリ	ServiceNow で OneDrive Webhook を作成および表示できます。
OneDrive Webhook ルーティングポリシー	ServiceNow で OneDrive Webhook のルーティングポリシーを作成および表示できます。また、ルーティングポリシーの条件を要件に応じてカスタマイズすることもできます。

OneDrive Online アカウント要件

Microsoft OneDrive スポークには、Microsoft Azure で作成したカスタムアプリが必要です。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

単一のテナント

OneDrive スポークには、Microsoft OneDrive のアクションを承認するための OneDrive エイリアスレコードが含まれています。単一テナントについて、Microsoft OneDriveの変更を認証するテナントレコードにあるエイリアスを選択します。

スポークの設定については、「 Microsoft OneDrive スポークの設定。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。Microsoft OneDrive エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー」を参照してください。

Microsoft OneDrive スポークの設定

OAuth 2.0 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Microsoft OneDrive スポークを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft OneDrive スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

Microsoft OneDriveアプリケーションを構成

Microsoft OneDriveアカウントからカスタム OAuth アプリケーションを作成し、Microsoft OneDrive スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

Microsoft OneDriveの要件：

- Microsoft OneDrive アカウント
- Microsoft Azure アカウント
- 必要なロール：Microsoft OneDrive テナントアドミニストレーター認証情報

このタスクについて

Azure Developer アカウントから、次の手順を完了します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、Azure の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. 組織の認証情報を使用して、 Microsoft Azure アプリ登録ポータル にログインします。
2. 新しいカスタムアプリケーションを登録します。
   アプリケーション名、サポートされているアカウントの種類、およびリダイレクト URI を入力し、[登録] をクリックします。
   アプリケーションの基本情報の概要が表示されます。

   > **注:** このフォーマットでリダイレクト URI を入力していることを確認してください：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do`。

3. アプリケーション ID をテキストファイルにコピーします。
   サードパーティ OAuth プロバイダーとしてServiceNowインスタンスでアプリを登録するため、この ID と次のステップで生成されたクライアントシークレットを使用します。アプリケーションをServiceNowに接続するときに、クライアント ID としてアプリケーション ID を使用します。
4. クライアントシークレットを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. Microsoft Azure で、[管理] > [証明書とシークレット]に移動します。

b. 説明と有効期限を入力し、[追加] をクリックします。

注: クライアントシークレットは、短時間だけプレーンテキストで表示されます。アプリケーションをServiceNowに接続するときに、クライアントシークレットを使用します。

5. アプリでサポートする必要がある権限を有効にします。
詳細については、「Microsoft Graph 権限の参照」を参照してください。

a. Microsoft Azure で、[管理] > **[API** 権限]に移動します。

b. Microsoft Graph のタイルをクリックします。

c. アプリケーションがサポートする [委任されたアクセス許可] または [アプリケーションのアクセス許可] を選択します。
[委任されたアクセス許可] を使用すると、アプリケーションはサインインしたユーザーとして API にアクセスできます。[アプリケーションのアクセス許可] を使用すると、サインインしているユーザーがいなくてもアプリケーションをバックグラウンドサービスまたはデーモンとして実行できます。アプリケーションレジストリを構成するときに、**[OAuth** エンティティスコープ] タブでこれらの API 権限について言及する必要があります。

注: これらの API 権限がカスタムアプリに提供されていることを確認する必要があります。

名前	**OAuth** スコープ
Calendars.ReadWrite	Calendars.ReadWrite
Calendars.ReadWrite.Shared	Calendars.ReadWrite.Shared
メール	メール
Files.Read	Files.Read
Files.Read.All	Files.Read.All
offline_access	offline_access

d. [アクセス許可の追加] をクリックします。

OAuth プロバイダーとして**Microsoft OneDrive**を登録

Microsoft OneDriveアカウントの構成中に生成された情報を使用し、Microsoft OneDriveを OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft OneDrive スポークを有効にします。
- Microsoft OneDriveアプリケーションを作成します。
- シングルテナントアプリの登録を使用している場合は、Azure ポータルから [ディレクトリー (テナント) **ID]** の値を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow で、[システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]へ移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 「**OAuth** アプリケーションの種類は？」というタイトルの画面で、[サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続] を選択します。
4. アプリケーションレジストリフォームに次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	たとえば、`OneDrive OAuth` プロファイルなど、レコードを識別する一意の名前を入力します。
クライアント ID	Azure で作成した OneDrive アプリケーションのアプリケーション ID を入力します。
クライアントシークレット	Azure でアプリケーションを作成したときに生成したクライアントシークレットを入力します。
デフォルトの権限許可タイプ	[認証コード] を選択します。
認証 URL	◦ マルチテナントアプリの登録を使用している場合は、ロックアイコン (🔓) をクリックし、「`https://login.microsoftonline.com/common/oauth2/v2.0/authorize`」と入力し、ロックアイコンをもう一度クリックします。 ◦ シングルテナントアプリの登録を使用している場合は、ロックアイコン (🔓) をクリックし、「`https://login.microsoftonline.com/<Directory-ID>/oauth2/v2.0/authorize`」と入力し、ロックアイコンをもう一度クリックします。 URL で、`<Directory-ID>` を Azure ポータルから取得した [ディレクトリー (テナント) **ID]** の値に置き換えます。
トークン URL	ロックアイコン (🔓) をクリックし、`https://login.microsoftonline.com/common/oauth2/v2.0/token` を入力し、ロックアイコンをもう一度クリックします。
リダイレクト URL	🔓 をクリックし、`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力して、再度ロックアイコンをクリックします。

5. **[OAuth** エンティティスコープ] 関連リストで、 Microsoft OneDriveアプリケーションの構成時に定義した権限に一致するスコープを追加します。
[新規行を挿入] をクリックして、権限の名前と OAuth スコープを入力します。多くの場合、名前とOAuthスコープは同じ文字列です。これらのスコープが提供されていることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	OAuth スコープ
Calendars.ReadWrite	Calendars.ReadWrite
Calendars.ReadWrite.Shared	Calendars.ReadWrite.Shared
メール	メール
Files.Read	Files.Read
Files.Read.All	Files.Read.All
offline_access	offline_access

注: ここに言及されているスコープは、カスタムアプリの設定時に指定した API 権限と同じである必要があります。

6. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
OAuth 認証情報が検証されます。

Microsoft OneDriveSpoke の接続および資格情報エイリアスを作成

Microsoft OneDriveアカウントへの接続レコードを作成します。Microsoft OneDriveスポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してMicrosoft OneDriveでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および認証情報] > **[OneDrive]**に移動します。
2. [関連リンク] から、[新しい接続および資格情報の作成] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	必要な値
接続名	接続を識別する名前です。このフィールドは、Microsoft Onedrive Spoke 接続に自動的に設定されます。
接続 URL	Spoke に接続するための URL です。このフィールドは自動的に https://graph.microsoft.com に設定されます。
OAuth エンティティ名	OAuth エンティティプロファイルの名前です。このフィールドは、Microsoft Onedrive Spoke Auth に自動的に設定されます。
OAuth クライアント ID	Microsoft Azure アプリ登録ポータルに登録した OneDrive アプリケーションのクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	Microsoft Azure ポータルにアプリケーションを登録したときに生成されたクライアントシークレットです。
OAuth リダイレクト URL	リダイレクト URL です。URL のフォーマット：https://<your-instance>.service-now.com/oauth_redirect.do

4. [OAuth トークンを作成して取得] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
Microsoft OneDrive スポークが設定され、ServiceNow インスタンスと統合されます。

Microsoft OneDrive スポーク用の双方向 Webhook の設定

ServiceNow コールバック URL を使用して、OneDrive を登録する Webhook を構成します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft OneDrive スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

ServiceNow に OneDrive Webhook を登録

ServiceNow に OneDrive Webhook を登録して、OneDrive で特定のイベントが発生したときに ServiceNow アプリに通知します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Microsoft OneDrive Spoke]** > **[OneDrive Webhook** レジストリ] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

Microsoft OneDrive Webhook レジストリ

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前です。 例：`OneDrive webhook`
説明	レコードの説明です。
パス	OneDrive のパスです。デフォルトでは、このパスは `api/sn_onedrive_spoke/onedrive/subscription` に設定されています。
秘密キー	OneDrive Webhook にアクセスするためのシークレットキーです。 **注:** [シークレットキー] フィールドの値は、Webhook レジストリレコードが保存されると自動的に入力されます。

4. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
5. [コールバック **URL]** をクリックします。
   Webhook コールバック URL が表示されます。
6. Webhook コールバック URL をコピーして記録します。

OneDrive の双方向 Webhook をカスタマイズ

要件に従って、Webhook ルーティングポリシーとサブフローを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
OneDrive Webhook ルーティングポリシーモジュールのルーティングポリシーは、OneDrive アカウントで特定のイベントが発生すると、サブフローをトリガーし、ServiceNow インスタンスに通知します。ルーティングポリシーとサブフローがサポートするフィールドの詳細については、OneDrive Spoke を参照してください。

手順

1. [すべて] > [フローデザイナー] > [デザイナー] に移動します
2. [サブフロー] をクリックします。
3. デフォルトのサブフローのコピーを作成します (例：変更を同期)。
4. 要件に応じてサブフローをカスタマイズし、公開します。
   サブフローの作成および使用の詳細については「サブフローのビルド」を、サポート対象のサブフローの詳細については「OneDrive スポーク v1.6」を参照してください。
5. **[Microsoft OneDrive Spoke]** > **[OneDrive Webhook** ルーティングポリシー] に移動します。
6. [新規] をクリックします。
7. フォームのフィールドに入力します。

意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。
デフォルトの回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。 a. [ルックアップ] アイコン ( ) をクリックします。 b. ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。 注: テーブル名がフロー `[sys_hub_flow]` であることを確認します。
条件	OneDrive で必要なイベントが発生したときに満たされるべき条件です。
回答	指定された条件が満たされたらトリガーされるサブフローです。

8. [送信] をクリックします。

タスクの結果
ルーティングポリシーとサブフローが作成されます。

Microsoft SCCM スポーク

Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) サーバー上のユーザーコレクション、デバイスコレクション、およびアプリケーション展開の管理を自動化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

Microsoft SCCM Spoke v1.1.2 が最新バージョンです。

スポークのフローおよびサブフロー

このスポークにはサンプルフローまたはサブフローがありません。

スポークのアクション

Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) スポークでは、Now Platform でイベントが発生したとき、SCCM のタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アプリケーション管理	アプリケーションを入手	SCCM サーバーからアプリケーションデータを取得します。
展開の管理	展開を取得	SCCM サーバーから展開データを取得します。
デバイス管理	デバイスコレクションに追加	SCCM のコレクションにデバイスを追加します。
	デバイスコレクションを取得	SCCM サーバーからデバイスコレクションデータを取得します。
	コレクションのデバイス	指定されたデバイスがデバイスコレクションに存在するかどうかを確認します。
	デバイスコレクションから削除	既存のデバイスコレクションからデバイスを削除します。
ユーザー管理	ユーザーコレクションに追加	SCCM のコレクションにユーザーを追加します。
	ユーザーコレクションを取得	SCCM サーバーからユーザーコレクションデータを取得します。
	コレクションのユーザー	指定されたユーザーがユーザーコレクションに存在するかどうかを確認します。
	ユーザーコレクションから削除	ユーザーをユーザーコレクションから削除します。

これらのアクティビティの入力と出力を確認するには、「SCCM アクティビティパック」を参照してください。

MID サーバーの要件

これらのアクションを使用するには、MID サーバーをセットアップし、PowerShell を使用するように設定する必要があります。MID サーバーでのアクションの実行の詳細については、「統合ステップ」を参照してください。詳細については、「MID サーバー」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

このスポークでは SCCM エイリアスレコードを使用し、Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) サーバーでアクションを許可します。

接続エイリアス	説明	接続 URL
SCCM	SCCM サーバーへの接続。	SCCM サーバーがインストールされているホストマシンの URL。

スポークの設定については、「 Microsoft SCCM スポークの設定。

Microsoft SCCM スポークの設定

Windows 資格情報を使用してServiceNowインスタンスと SCCM をデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft SCCM スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin
- SCCM アクティビティ用の MID サーバーを構成します 。

> **注:** ユーザーが MECM サーバーとのリモート PowerShell セッションを確立できる必要があることを確認します。スポークスクリプトは、セッションを作成するために *Microsoft.PowerShell32* 構成を使用します。ユーザー権限については、「Microsoft Learn 」の「ユーザー権限 」を参照してください。

SCCM スポークの認証情報レコードの作成

SCCM サーバーの認証情報レコードを作成します。SCCM スポーク接続および資格情報エイリアスでは、この認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- 必要なロール：admin
- SCCM アクティビティ用の MID サーバーの構成

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[Windows** 資格情報] を選択します。
   空の Windows 資格情報フォームが表示されます。
4. 次の値を入力し、[送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「SCCM 認証情報」と入力します。
有効	有効化
ユーザー名	ターゲット Windows ホストへのアクセス権を持つユーザー名を入力します。Windows の権限の詳細については、「Windows 資格情報」を参照してください。
パスワード	アカウントのパスワードを入力します。
適用先	この認証情報を使用できる MID サーバーを選択します。たとえば、[すべての **MID** サーバー] を選択します。
順番	この認証情報を適用する順番を選択します。たとえば、「100」と入力します。

SCCM スポークの接続レコードの作成

SCCM ホストマシンの接続レコードを作成します。SCCM スポーク接続および資格情報エイリアスでは、この接続を使用して SCCM でアクションを実行します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- SCCM スポークの認証情報レコードの作成
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **SCCM** レコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   空の基本接続フォームが表示されます。
4. 次の値を入力し、[送信] をクリックします。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「SCCM 接続」と入力します。
認証情報	Windows 用に作成した認証情報レコードを選択します。たとえば、**[SCCM** 認証情報] を選択します。
ホスト	SCCM サーバーがインストールされるターゲットホストの完全修飾ドメイン名を入力します。たとえば、「<host>.<domain>.com」と入力します。
MID サーバーを使用	有効化
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	接続で使用されるターゲットポートを入力します。空白の場合は、デフォルトのポートが使用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
MID サーバーを WinRM の信頼できるホストとして構成する

Microsoft Security Response Center スポーク

Microsoft Security Response CenterAPI をServiceNowインスタンスと統合して、Microsoft製品およびサービスに影響するセキュリティ脆弱性のすべてのレポートを調査し、情報を収集してセキュリティリスクを管理し、システムを保護します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Security Response Center スポーク v1.2.0 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Microsoft Security Response Center API バージョン 2020 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Microsoft Security Response Center Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
悪用管理	悪用報告を送信	一般的な悪用報告システム (CARS) を使用して、Microsoft のコンピューター緊急応答チームにレポートを送信します。
セキュリティ管理	セキュリティ更新プログラムの詳細を取得	特定の CVRF ID に関する情報を取得します。
	セキュリティ更新プログラムを検索	すべての Microsoft セキュリティ更新プログラムのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	キーでセキュリティ更新プログラムを検索	指定された ID、CVE、または年に基づいてセキュリティ更新プログラムのリストを取得します。

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは Microsoft セキュリティレスポンスセンター セキュリティマネージャーです。この AI エージェントは、指定された ID、CVE、または年に基づいて、セキュリティ更新の詳細を取得します。

ユースケースで使用されていない AI エージェントが、Now Assist アプリケーションとともにインストールされている場合があります。利用可能なすべてのエージェントを表示する方法については、「Find AI agents (AI エージェントの検索)」を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Microsoft セキュリティレスポンスセンター スポークの設定。

Microsoft セキュリティレスポンスセンター スポークの設定

接続と資格情報レコードを設定することで、ServiceNow インスタンスと Microsoft セキュリティレスポンスセンター インスタンス間のアウトバウンド統合を設定します。

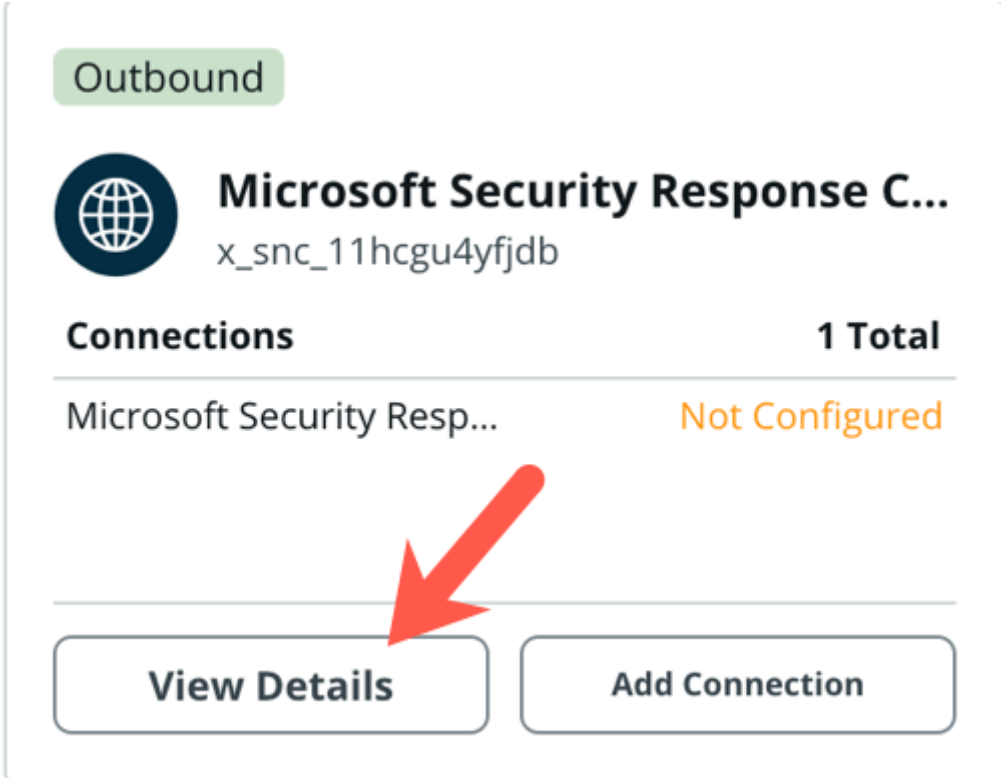
始める前に

- Microsoft セキュリティレスポンスセンター ポータルへのアドミンアクセス権。
- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft セキュリティレスポンスセンター スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

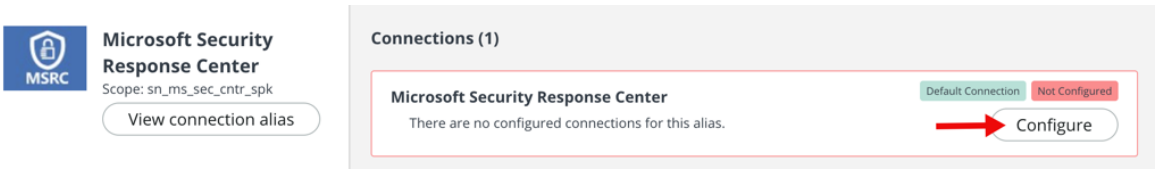
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 接続および認証情報レコードで指定する必要がある Microsoft セキュリティレスポンスセンターポータルの API キーを取得します。
2. [すべて] > [プロセスオートメーション **(Process Automation)]** > [ワークフロースタジオ] に移動します。
3. [統合] タブをクリックします。
4. [接続] タブをクリックします。
5. [すべての接続を検索] フィールドに「`Microsoft Security Response Center`」と入力します。
6. [Microsoft Security Response Center] タイルで、[詳細を表示]を選択します。



7. [構成 **(Configure)]** を選択します。



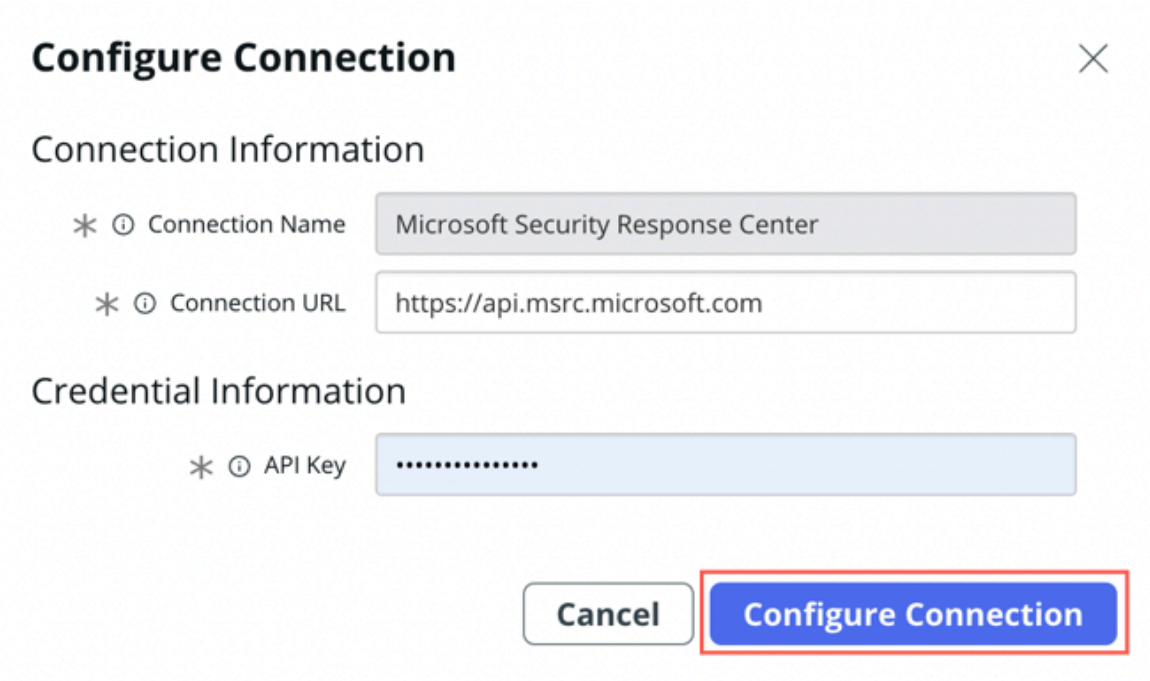
8. [接続を設定] フォームに入力します。

接続を設定

フィールド	説明
接続名	接続レコードの一意の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 最初の接続レコードのデフォルトの読み取り専用名は、Microsoft Security Response Center です。カスタム接続名を指定するには、[接続を追加] を選択し、接続レコードを作成します。
接続 URL	Microsoft Security Response Center サーバーへの URL です。URL は https://api.msrc.microsoft.com です。
API キー	Microsoft[セキュリティ更新 API] ページからコピーされた API キーです。



9. [接続を設定 **(Configure Connection)]** を選択します。

スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

Microsoft SharePoint Online スポーク

Microsoft SharePoint Online スポークは ServiceNow® インスタンスを Microsoft SharePoint Online と統合するため、ワークフロー の一部として事前定義されたさまざまなアクションを自動化できます。たとえば、データベースのレコードが更新されたときに Microsoft SharePoint Online のフォルダーの名前を変更できます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft SharePoint Online スポーク v2.8.0 が最新バージョンです。

注: Microsoft SharePoint Online スポークは、オンプレミス SharePoint をサポートしていません。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポート対象のバージョン

Microsoft SharePoint アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) バージョン v1。

スポークのフロー

Microsoft SharePoint Online スポークでは、Microsoft SharePoint Online タスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。次の表は、利用可能なサンプルフローを示しています。

フロー	説明
レコードの新しい添付ファイルによってフォルダーが作成され、添付ファイルがコピーされます	添付ファイルがデータベーステーブルに作成されると、Microsoft SharePoint Online スポークにナレッジレコード用のフォルダーが作成されます。添付ファイルがフォルダーにコピーされます。
ナレッジベースのサイトを作成	ナレッジベースがデータベーステーブルに作成されると、フローは Microsoft SharePoint Online でそのサイトを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- シングルサインオン (SSO) が設定されている場合は、[ログイン名でユーザー情報を検索] アクションを使用して、スポークアクションの実行が承認されていることを確認できます。
- フローデザイナーとアクションデザイナーは、フローまたはアクションを実行する前に、ユーザー認証チェックが実行されていることを確認する必要があります。

スポークのサブフロー

Microsoft SharePoint Online スポークでは、Microsoft SharePoint Online タスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルサブフローが提供されます。サブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。

サブフロー	説明
ユーザーを削除してからグループに追加	Microsoft SharePoint Online グループからユーザーを削除し、新しいユーザーを追加します。
モダンサイトを削除 (O365 グループなし)	非 O365 グループ (コミュニケーションサイト) に関連付けられているモダンサイトを削除します。
(O365 グループを含む) モダンサイトを削除のために送信	(O365 グループを含む) モダンサイトを削除のために送信します。 注: サイトが SharePoint アドミンポータルの削除されたサイトセクションに移動するまでに最大 30 分かかる場合があります。

注: フローデザイナーとアクションデザイナーは、フローまたはアクションを実行する前に、ユーザー認証チェックが実行されていることを確認する必要があります。

スポークのアクション

Microsoft SharePoint Online スポークは、 ServiceNow インスタンスのトリガーに基づいてさまざまな Microsoft SharePoint Online タスクを自動化するアクションを提供します。

SharePoint Online 接続を使用して一部のアクションを実行し、SharePoint Graph 接続を使用して残りのアクションを実行できます。

次の表のアクションでは、SharePoint Online の接続および資格情報エイリアスレコードが使用されます。

SharePoint Online の接続および資格情報エイリアスレコードが使用されるアクション		
カテゴリ	アクション	説明
サイト管理	モダンサイトを作成	コミュニケーションサイトとグループに関連付けられていないチームサイトのタイプのモダンサイトを作成します。
	サブサイトを作成	Sharepoint Online にサブサイトを作成します。テナントはルートの場所を決定します。
	モダンサイトを削除	非 O365 グループに関連付けられているモダンサイト (コミュニケーションサイト) を削除します。
	O365 グループを含	O365 グループ (チームサイト) に関連付けられているモダンサイトを削除のために送信します。関連付けられている 0365 グループを削除し、サイトを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SharePoint Online の接続および資格情報エイリアスレコードが使用されるアクション		
カテゴリ	アクション	説明
	むモダンサイトを削除	注: 実行後、サイトが削除されるまでに最大 30 分かかる場合があります。
	サブサイトを削除	Sharepoint Online からサブサイトを削除します。使用する接続 URL によってルートの場所が決まります。
	モダンサイトグループ情報を検索	モダンサイト (チームサイト) の関連付けられている O365 グループの詳細を取得します。
	モダンサイト情報を検索	モダンサイトの詳細を取得します。
	サイトの変更を検索	クエリ条件に基づいてサイトの変更を取得します。
	ロールのアサインを検索	サイトで定義されているすべてのロールのアサインを取得します。
	サイトコレクション ID を検索	特定のサイト ID を検索します。
	サブサイトの詳細を検索	サブサイトに関する情報を検索します。
	サイト情報を更新	Microsoft SharePoint Onlineサイトを更新します。
フォルダー管理	フォルダーを作成	Microsoft SharePoint Onlineサイトのドキュメントライブラリーにフォルダーを作成します。
	フォルダーを削除	Microsoft SharePoint Onlineのフォルダーを削除します。 注: フォルダーが削除される前に警告または通知を受け取ることはありません。
	フォルダー内のファイルをリスト	フォルダー内のファイルのリストを取得します。
	フォルダー内のフォルダーをリスト	フォルダー内のフォルダーのリストを取得します。
	フォルダーを検索	Microsoft SharePoint Online でフォルダーを検索し、フォルダーのプロパティを返します。たとえば、出力にはプロパティ「相対 URL」を含めることができます。
	フォルダーの名前を変更	Microsoft SharePoint Online内のフォルダーの名前を変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SharePoint Online の接続および資格情報エイリアスレコードが使用されるアクション		
カテゴリ	アクション	説明
	グループとフォルダーを共有	Microsoft SharePoint Online内のグループとフォルダーを共有します。グループはMicrosoft SharePoint Onlineテナントアカウントに属している必要があります。
	ユーザーとフォルダーを共有	Microsoft SharePoint Online 内のユーザーとフォルダーを共有します。ユーザーはMicrosoft SharePoint Onlineテナントアカウントに属している必要があります。
	グループとのフォルダーの共有を解除	グループからフォルダーへのアクセス権を削除します。グループはMicrosoft SharePoint Onlineテナントアカウントに属している必要があります。
	ユーザーとのフォルダーの共有を解除	ユーザーからフォルダーへのアクセス権を削除します。ユーザーはMicrosoft SharePoint Onlineテナントアカウントに属している必要があります。
ファイル管理	Sharepoint ファイルをレコードに添付	ServiceNowレコードにMicrosoft SharePoint Onlineファイルを添付します。
	ファイルをチェックイン	Microsoft SharePoint Online のファイルのステータスを「チェックイン」に設定します。ステータスが「チェックイン」に設定された後にファイルのバージョン番号を検索するには、[ファイルの詳細を検索] アクションを使用します。 **注:** ファイルは既にアップロードされているため、チェックインするファイルのステータスが更新されるだけです。
	ファイルをチェックアウト	Microsoft SharePoint Online のファイルのステータスを「チェックアウト」に設定します。ステータスが「チェックアウト」に設定された後にファイルのバージョン番号を検索するには、[ファイルの詳細を検索] アクションを使用します。 **注:** ファイルは既にダウンロードされているため、チェックアウトするファイルのステータスが更新されるだけです。
	添付ファイルをフォルダーにコピー	ServiceNow 添付ファイルを Microsoft SharePoint Online フォルダーにコピーします。
	ファイルをコピー	新しい名前でファイルをコピーします。
	テキストファイルを作成	指定した情報を使用してテキストファイルを作成します。
	ファイルを削除	Microsoft SharePoint Onlineのファイルを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SharePoint Online の接続および資格情報エイリアスレコードが使用されるアクション		
カテゴリ	アクション	説明
	ファイルの詳細を検索	Microsoft SharePoint Online 内でファイルの詳細を検索します。
	ファイルを移動	ファイルをMicrosoft SharePoint Online内の別の場所に移動します。
	グループとファイルを共有	ファイルを Microsoft SharePoint Online 内のグループと共有します。グループはMicrosoft SharePoint Onlineテナントアカウントに属している必要があります。
	ユーザーとファイルを共有	Microsoft SharePoint Onlineユーザーとファイルを共有します。ユーザーはMicrosoft SharePoint Onlineテナントアカウントに属している必要があります。
	グループとのファイルの共有を解除	Microsoft SharePoint Online グループからファイルへのアクセス権を削除します。グループはMicrosoft SharePoint Onlineテナントアカウントに属している必要があります。
	ユーザーとのファイルの共有を解除	Microsoft SharePoint Online ユーザーからファイルへのアクセス権を削除します。ユーザーはMicrosoft SharePoint Onlineテナントアカウントに属している必要があります。
ユーザー管理	ログイン名でユーザー情報を検索	Microsoft SharePoint Online サイトでユーザーに関する情報を検索し、情報を返します。
	メールでユーザー情報を検索	指定された Microsoft SharePoint Online サイトから指定されたユーザーを検索し、そのアカウントに関する SharePoint 情報を返します。
	ユーザーの SharePoint グループを検索	Microsoft SharePoint Online サイトで、ユーザーがメンバーになっているすべてのグループに関する情報を検索し、情報を返します。
検索管理	検索クエリの結果ストリームを検索	SharePoint ルートサイトを検索し、指定した検索クエリに基づく結果を取得します。
グループ管理	サイトにロールを追加	ロールを Microsoft SharePoint Online ユーザーまたはグループに追加します。
	グループにユーザーを追加	ユーザーを Microsoft SharePoint Online サイトグループに追加します。
	グループを作成	Microsoft SharePoint Onlineサイトにグループを作成します。
	グループを削除	Microsoft SharePoint Onlineサイトのグループを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SharePoint Online の接続および資格情報エイリアスレコードが使用されるアクション		
カテゴリ	アクション	説明
	名前でグループを検索	Microsoft SharePoint Online 内のサイトの場所でグループを名前で検索します。サイトの場所が指定されていない場合、テナントのルートサイトが検索されます。
	サイトからロールを削除	グループまたはユーザーから権限を削除します。
	グループからユーザーを削除	Microsoft SharePoint Onlineサイトグループからユーザーを削除します。
	グループオーナー(ユーザー)を更新	グループオーナーとしてユーザーを更新します。
	サイトグループ別にM365 メンバーを検索	Microsoft SharePoint Onlineサイトグループに関連付けられているユーザーと M365 グループのリストを取得します。
リスト管理	リストを作成	タイトルと説明とともに、Microsoft SharePoint Online サイトにリストを作成します。
	サブスクリプションリストを作成	リストの Webhook サブスクリプションを作成します。
	ID でリストを削除	Microsoft SharePoint Online サイト内のリストを ID に基づいて削除します。
	ID でリストの詳細を検索	Microsoft SharePoint Online サイト内のリストを ID で検索します。
	タイトルでリスト ID を検索	Microsoft SharePoint Online サイト内のリストをタイトルで検索します。
	サイト内のリストを ID で更新	Microsoft SharePoint Online サイト内のリストを ID に基づいて更新します。
リストアイテム管理	リストアイテムを作成	リスト内にリストアイテムを作成します。
	ID でリストアイテムを削除	リスト ID とリストアイテム ID の両方に基づいて、リストアイテムを削除します。
	ID でリストアイテムを検索	リスト ID とリストアイテム ID の両方で、リストアイテムを検索します。
	リスト内のリストアイテムを検索	さまざまな形式のリストからアイテムのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SharePoint Online の接続および資格情報エイリアスレコードが使用されるアクション		
カテゴリ	アクション	説明
	ID でリストアイテムを更新	リストアイテムタイトルを ID に基づいて更新します。

注: フローデザイナーとアクションデザイナーは、フローまたはアクションを実行する前に、ユーザー認証チェックが実行されていることを確認する必要があります。

これらのアクションでは、SharePoint Graph 接続および資格情報エイリアスレコードが使用されます。

SharePoint Graph の接続および資格情報エイリアスレコードが使用されるアクション		
カテゴリ	アクション	説明
変更管理	変更クエリプロパティを取得	変更ログに対して実行されるクエリを定義するために使用される、変更クエリプロパティを取得します。
	ドライブのデルタリンクトークンを取得	ドライブの最新のデルタリンクトークンを取得します。
	次のトークンを取得	[SharePoint リソースの次のリンクトークン] テーブルから次のリンクトークンを取得します。
ファイル管理	ファイルのダウンロードリンクを取得	ファイルのダウンロード URL を取得します。
	ファイルの権限を検索	ファイルの権限を取得します。
	ファイルを検索	ドライブ内のすべてのファイルを取得します。
リスト管理	サブスクリプションリストを作成	リストの Webhook サブスクリプションを作成します。
	サブスクリプションリストを更新	リストの Webhook サブスクリプションを更新します。
	サブスクリプションリストを削除	リストの Webhook サブスクリプションを削除します。
	リストを取得	SharePoint テナントからリストの詳細を取得します。
	ドライブを検索	サイトのすべてのドライブを取得します。
サイト管理	サイトコレクションを検索	すべてのサイトコレクションを取得します。
	サブサイトを検索	サイトのすべてのサブサイトの詳細を取得します。
	ルートサイトのサブスクリプションを作成	ルートサイトの Webhook サブスクリプションを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SharePoint Graph の接続および資格情報エイリアスレコードが使用されるアクション		
カテゴリ	アクション	説明
	サイト権限を検索	サイトのすべての権限を取得します。
	サイトを取得	サイトの詳細を取得します。

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

AI エージェント	説明
Microsoft SharePoint Online ファイルマネージャー	ユーザーまたはグループとのファイルの共有、ファイルのコピー、ファイルの移動、テキストファイルの作成、ファイルの詳細の取得、ファイル権限の管理などのファイル関連タスクを自動化します。
Microsoft SharePoint Online リストマネージャー	リストの管理、サブスクリプションの作成と更新、リストの詳細の取得、ワークフローの自動化などの SharePoint 操作を自動化します。
Microsoft SharePoint Online サイトマネージャー	サイトの作成と削除、サイトコレクションの管理、サイト情報の取得、SharePoint ワークフローの自動化などの SharePoint 操作を自動化します。
Microsoft SharePoint Online グループマネージャー	グループに対するユーザーの追加または削除、グループの作成または削除、グループ所有権の更新、SharePoint サイト内のロールの管理などのグループ管理プロセスを自動化します。
Microsoft SharePoint Online リストアイテムマネージャー	リストアイテムの作成、更新、削除、取得などの SharePoint 操作を自動化します。
Microsoft SharePoint Online ユーザーマネージャー	ユーザーの SharePoint グループ、ログイン名別のユーザー情報、メール別のユーザー詳細を取

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI エージェント	説明
	得するなどのユーザー管理タスクを自動化します。
Microsoft SharePoint Online フォルダーマネージャー	フォルダーの名前変更、フォルダーの作成、ユーザーまたはグループとのフォルダーの共有と共有解除、ファイルやフォルダーのリスト表示、フォルダーの削除などのフォルダー管理タスクを自動化します。
Microsoft SharePoint Online 変更マネージャー	「次のトークンを取得」アクションと「ドライブのデルタリンクトークンを取得」アクションを実行します。

ユースケースで使用されていない AI エージェントが、Now Assist アプリケーションとともにインストールされている場合があります。利用可能なすべてのエージェントを表示する方法については、「Find AI agents (AI エージェントの検索)」を参照してください。

SharePoint Online アカウントの要件

Microsoft SharePoint Online スポークでは、SharePoint Online アカウントでカスタムアプリを作成し、OAuth 2.0 トークンを生成する必要があります。「Microsoft Azure での OAuth アプリケーションの設定」を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

単一のテナント

このスポークには、Microsoft SharePoint Online でのアクションを許可するための MicrosoftSharepointOnline エイリアスレコードが含まれます。単一テナントについて、Microsoft SharePoint Onlineの変更を認証するテナントレコードにあるエイリアスを選択します。

複数のテナント

このスポークには、Microsoft SharePoint Online でのアクションを許可するための MicrosoftSharepointOnline エイリアスレコードが含まれます。サポートする各追加テナントサイトに、接続および資格情報エイリアスレコードを作成します。Microsoft SharePoint Online での変更を認可するテナントレコード内の適切なエイリアスを選択します。サポートする各追加テナントサイトに、接続および資格情報エイリアスレコードを作成します。Microsoft SharePoint Online での変更を認可するテナントレコード内の適切なエイリアスを選択します。。「複数のテナントのエイリアスを作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

スポークでは、デフォルトで 3 つのエイリアスレコードを使用できます。Sharepoint Online、SharePoint Graph、および SharePoint Graph ルートサイトのサブスクリプションです。各エイリアスレコードには、テナントを関連付ける必要があります。スポークで SharePoint Online、Graph、およびルートサブスクリプションのすべてのアクションを使用する場合は、Microsoft SharePoint Online スポークのテナントテーブルに 3 つのテナントレコードが作成されており、各テナントレコードがそれぞれのエイリアスレコードに関連付けられていることを確認します。

- 単一テナントの統合を構成する場合は、既存の **MicrosoftSharepointOnline** エイリアスレコードを使用します。
- **Microsoft SharePoint Graph** 接続エイリアスでのみ、複数のテナントを使用できます。

Microsoft Azure での OAuth アプリケーションの設定

ServiceNow インスタンスからの接続要求を検証して認証する OAuth アプリケーションを Microsoft Azure で作成します。

始める前に

必要なロール：admin

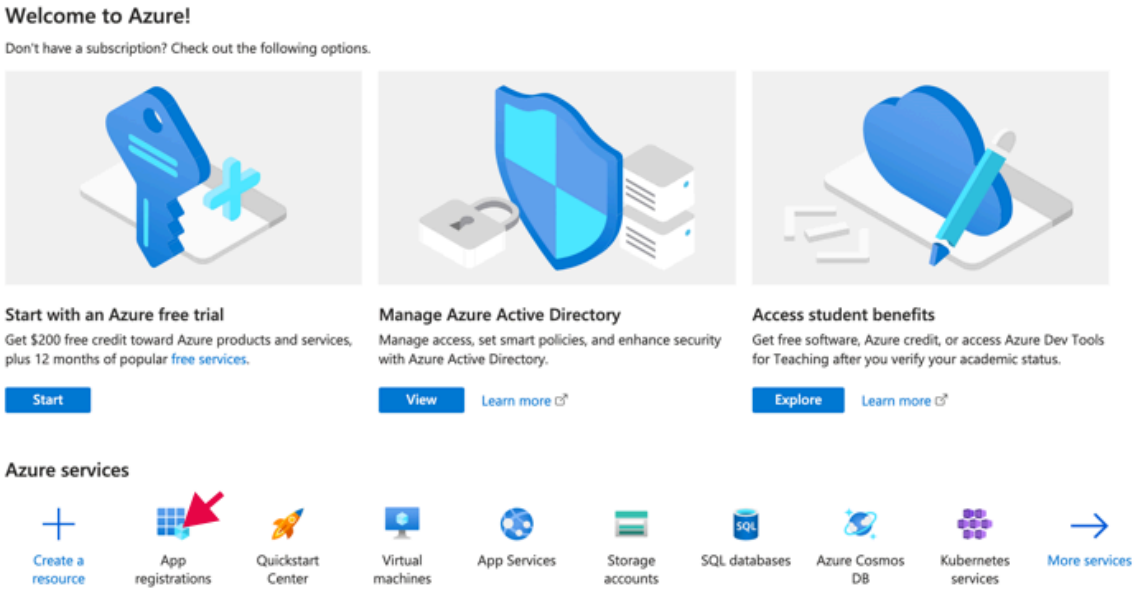
Microsoft Azure ポータルにアクセスし、OAuth アプリケーションを作成します。

手順

1. Microsoft Azure でアプリケーションを登録します。

   a. https://portal.azure.com/ にログインします。

   b. [アプリの登録] を選択します。



   c. [アプリの登録] ページで、**[+ 新規登録 (+ New registration)]**を選択します。

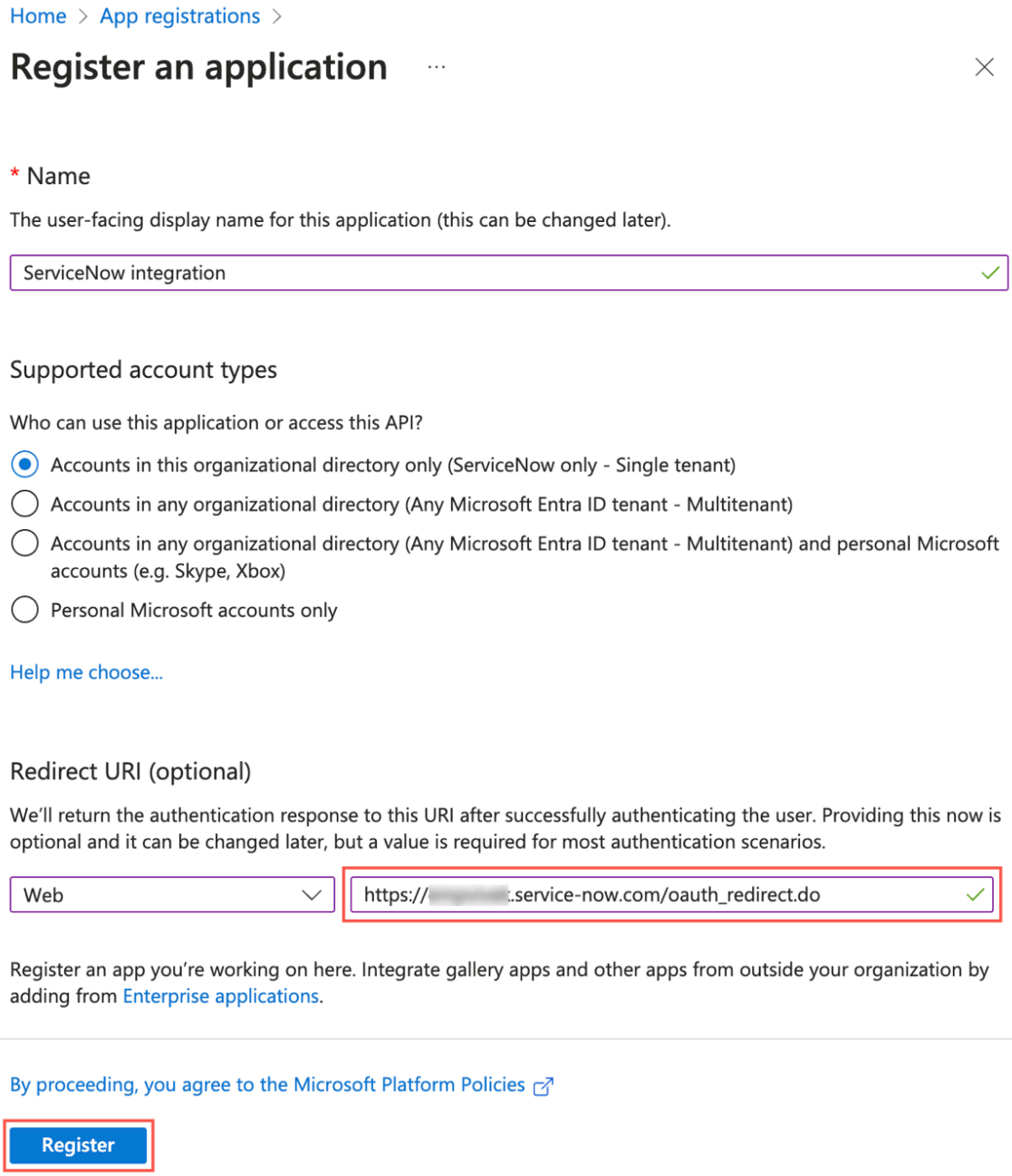
   d. フォームに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションの登録

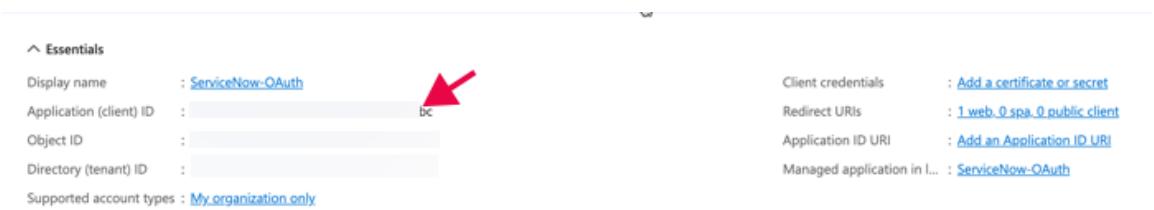
フィールド	説明
名前	作成する OAuth アプリケーションのカスタム名です。
サポートされているアカウントの種類	Microsoft Azure AD ディレクトリのテナントがサポートするアカウントです。
リダイレクト URI	Microsoft SharePoint オンラインへの接続を要求する ServiceNow インスタンスへのリダイレクト URL です。[プラットフォームを選択] リストから [Web] を選択し、ServiceNow インスタンスの URL を `https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` の形式で入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



e. [登録 **(Register)**] を選択します。
OAuth アプリが登録されました。

2. アプリケーション ID を取得するには、[OAuth アプリケーション] ページから、アプリケーション (クライアント) ID をコピーします。

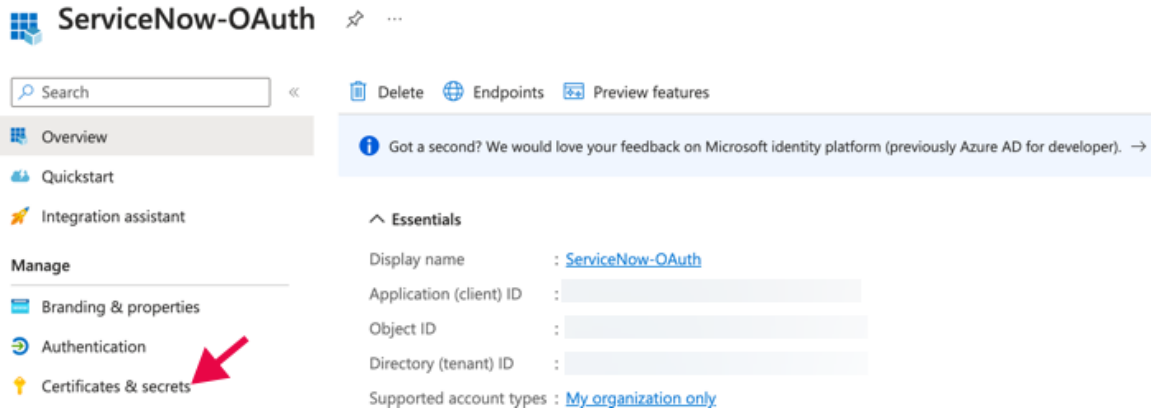


Microsoft SharePoint Graph の接続レコードを設定するときに、アプリケーション (クライアント) ID が必要です。

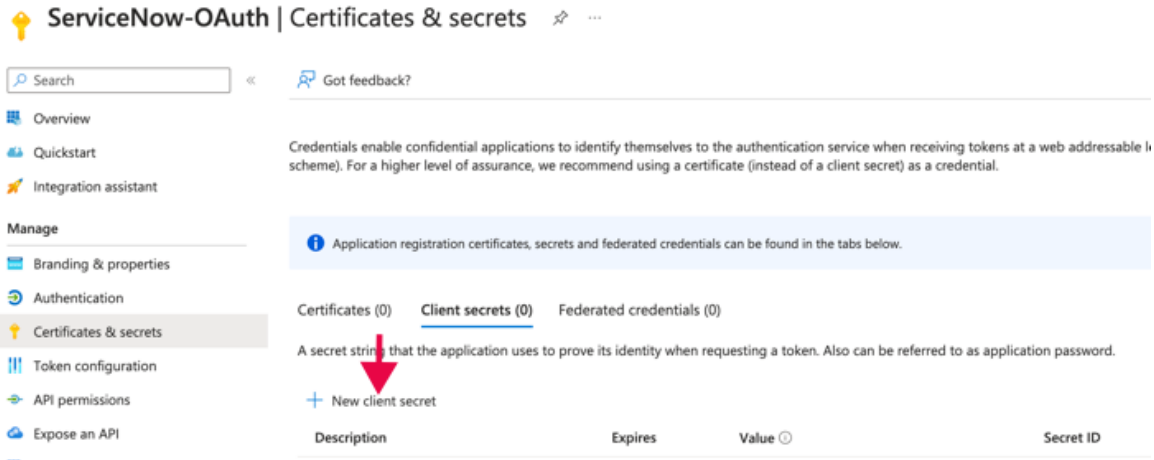
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. クライアントシークレットを取得します。

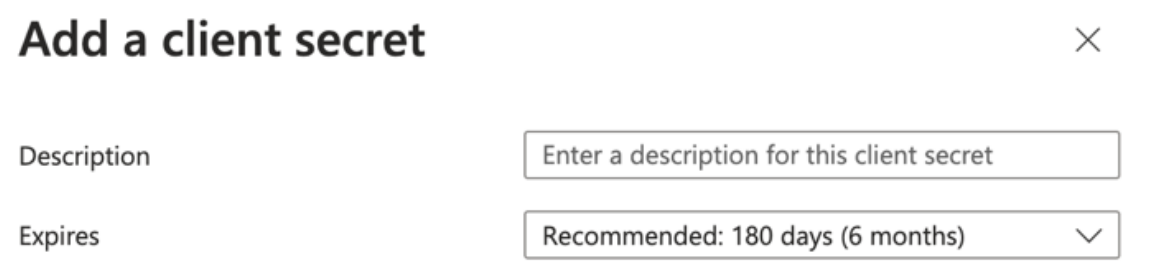
a. [OAuth アプリケーション] ページで、[証明書とシークレット (Certificates & secrets)] を選択します。



b. **[+ 新しいクライアントシークレット (+ New client secret)]** を選択します。



c. クライアントシークレットを設定します。



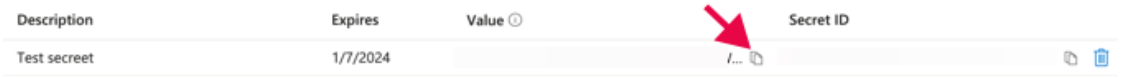
- 説明：クライアントシークレットのコンテキストの説明。
- 有効期限：クライアントシークレットが無効になるまでの時間制限。

注: Microsoft SharePoint Graph の接続レコードを設定するときに、クライアントシークレットが必要です。

d. [追加] を選択します。
クライアントシークレットが生成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. シークレットをコピーし、安全な場所に保存します。



Microsoft SharePoint Graph 接続の構成

Microsoft SharePoint Graph の接続と接続レコードを構成し、Microsoft Graph を使用して ServiceNow インスタンスが Microsoft SharePoint と統合できるようにします。

始める前に

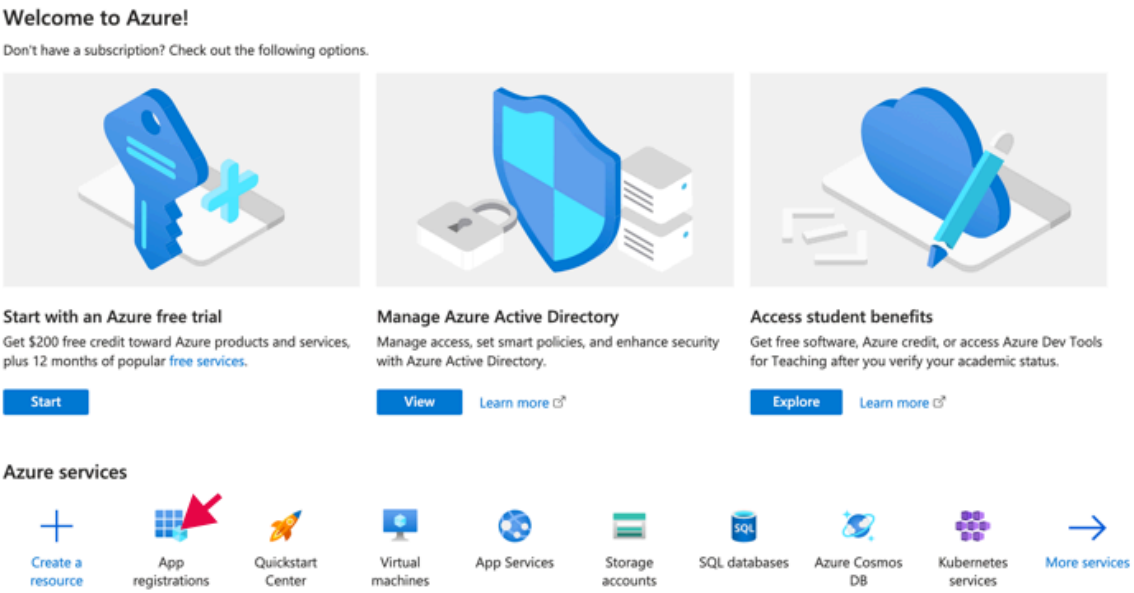
- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Microsoft SharePoint Online スポークを有効にします。
- Microsoft Azure ポータルへのアクセス
- Microsoft Azure ポータルでの OAuth アプリケーションの作成
- 必要なロール：admin。

手順

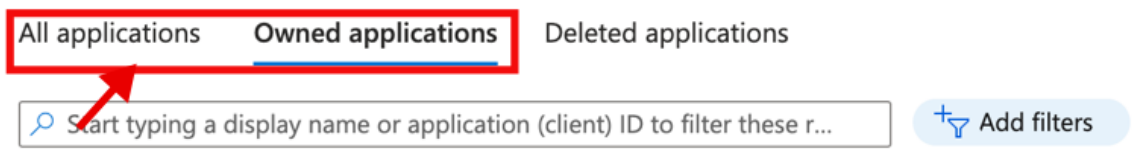
1. 権限を追加して、SharePoint Graph 接続を構成します。

   a. https://portal.azure.com/ にログインします。

   b. [アプリの登録] を選択します。



   c. [すべてのアプリケーション] または [所有アプリケーション **(Owned applications)]** を選択します。

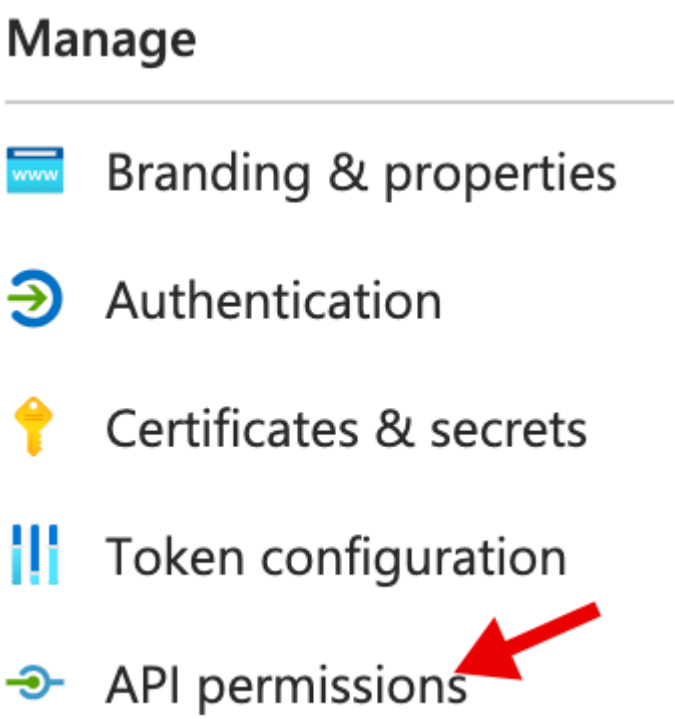


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. 検索フィールドに、作成した OAuth アプリケーションの名前を入力します。
OAuth アプリケーションの構成方法については、「Microsoft Azure での OAuth アプリケーションの設定」を参照してください。

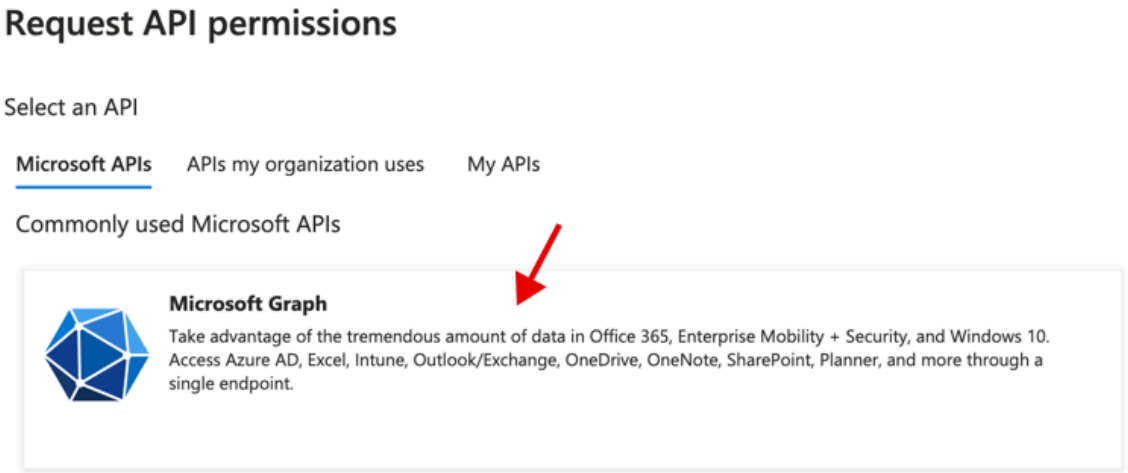
e. 検索結果で、構成済みの OAuth アプリケーションの名前を選択します。

f. 左側のパネルの [管理] 見出しで、[API 権限] を選択します。



g. [構成済みの権限 (Configured permissions)] 見出しの下にある **[+ アクセス許可の追加 (+ Add a permission)]** をクリックします。

h. [API 権限の要求] ウィンドウで、**[Microsoft Graph]** を選択します。

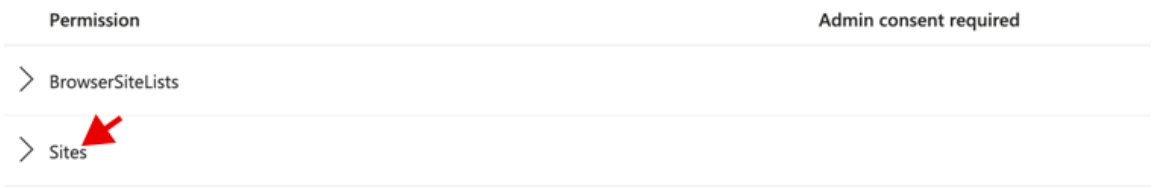


i. [委任されたアクセス許可] を選択します。

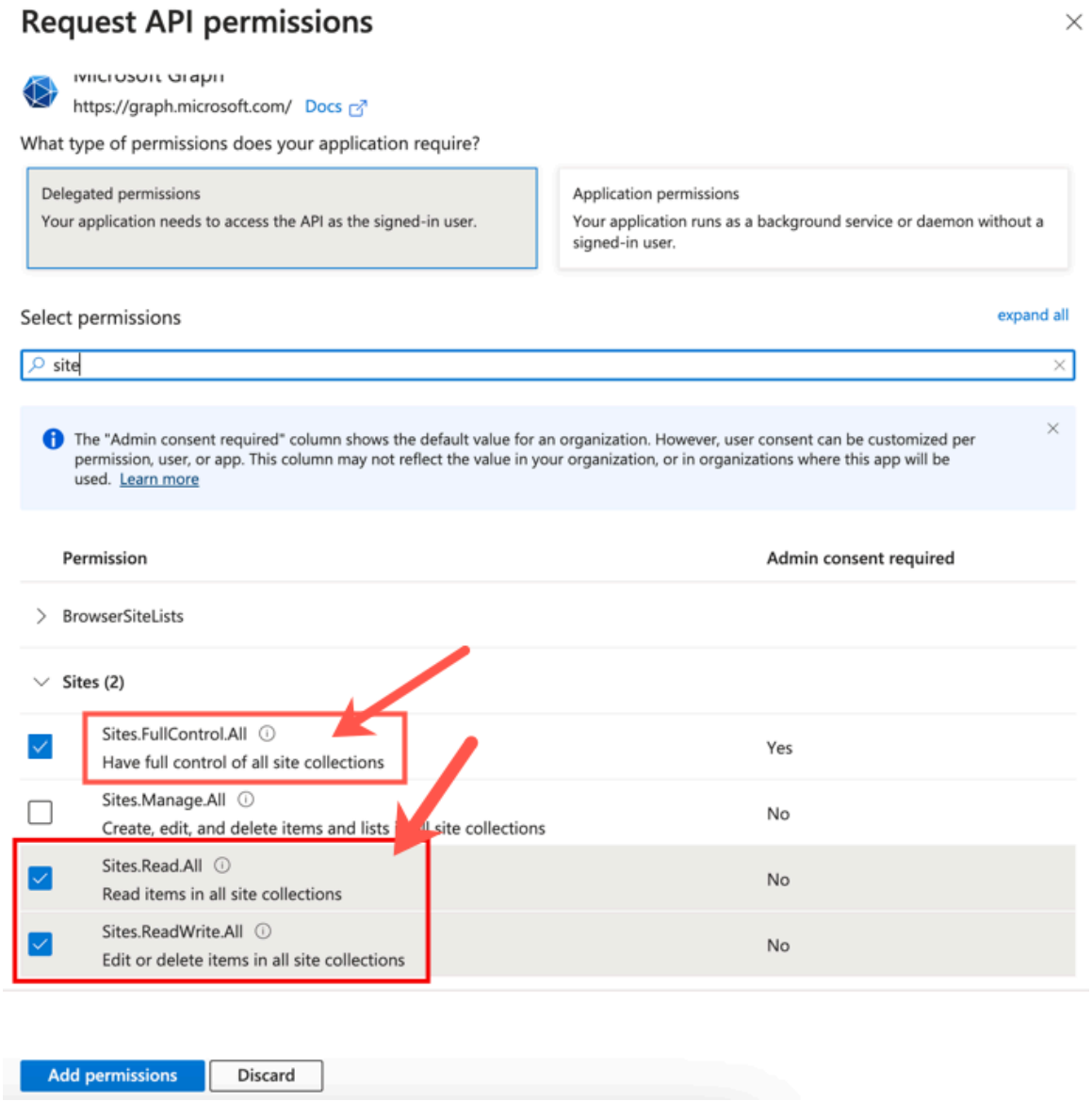
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

j. [権限を選択 (Select permissions)] 見出しの下にある検索フィールドに、「`site`」と入力します。

k. サイトリストを展開します。

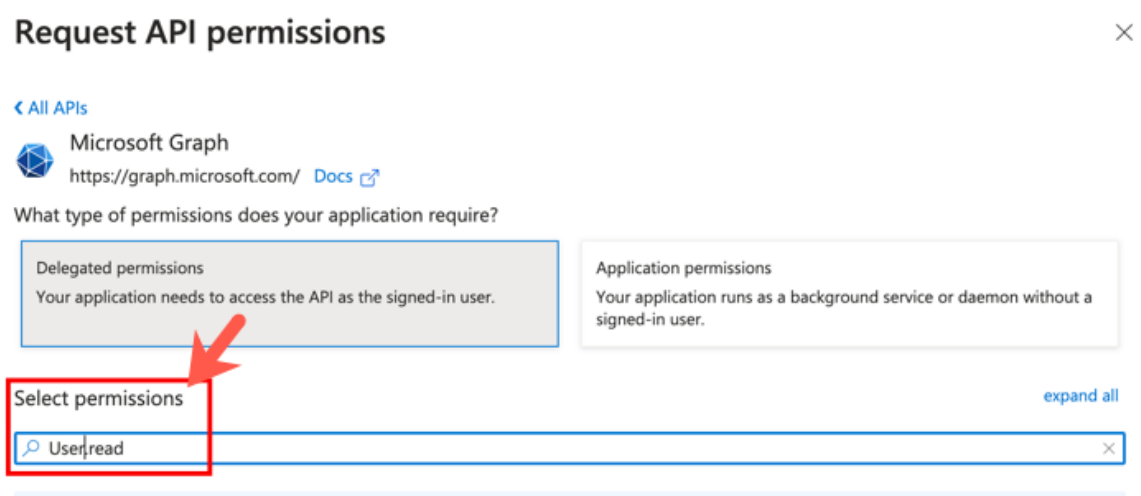


l. `Sites.FullControl.all`、`Sites.Read.All`、および `Sites.ReadWrite.All` を選択します。



m. [権限を選択 (Select permissions)] 見出しの下にある検索フィールドに、「`User.read`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



n. [権限を追加] を選択します。
権限が追加されます。

o. オプション: アドミンの同意を付与するには、[構成済みの権限 (Configured permissions)] 見出しの下にある [アドミンの同意を付与する] を選択します。

p. オプション: [はい] を選択します。
[Sites.Read.All] 権限の [アドミンの同意が必要 (Admin consent required)] 列の値が [はい] の場合、アドミンの同意は必須です。

2. Microsoft SharePoint Graph 接続レコードを構成します。

a. ServiceNow インスタンスにログインします。

> 注: インスタンスの URL と、リダイレクト URL として指定したインスタンスの URL は同じでなければなりません。

b. [すべて] > [プロセスオートメーション **(Process Automation)]** > [ワークフロースタジオ] に移動します。

c. [統合] タブを選択します。

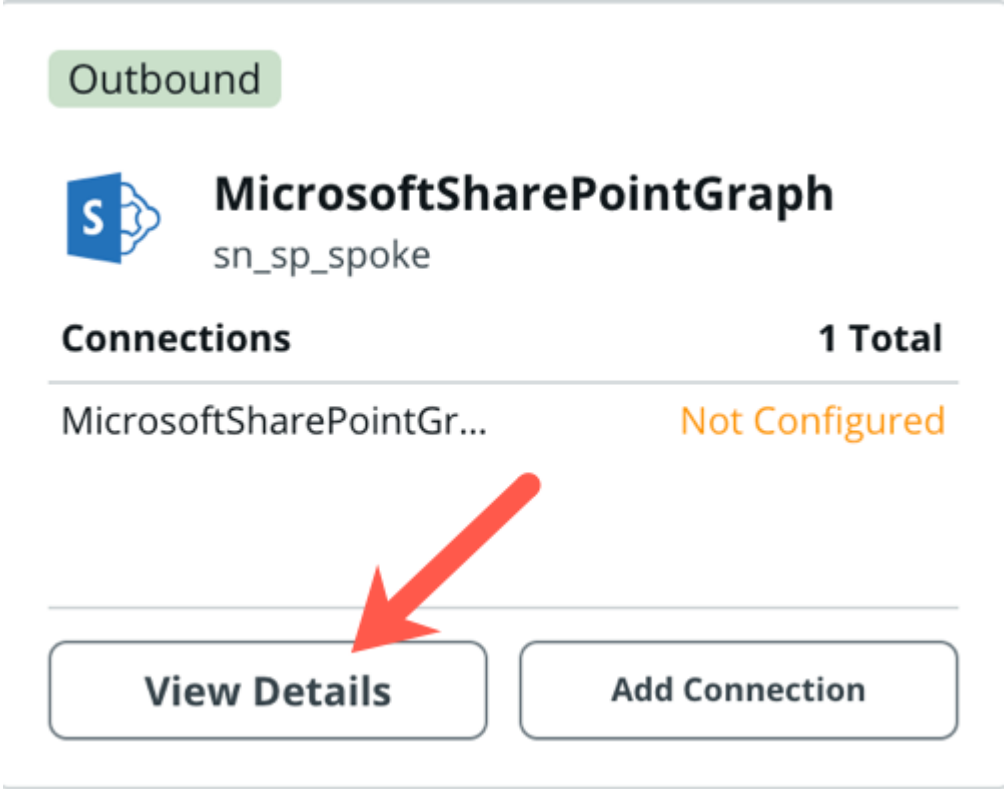
d. [すべての接続を検索] フィールドに「`Microsoft SharePoint`」と入力します。

> 注: [送信] タブがデフォルトで選択されています。[送信] タブが既に選択されていることを確認します。

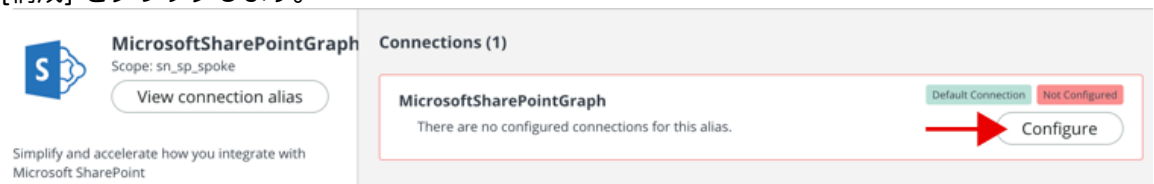
e. [すべての接続を検索] フィールドに「`Microsoft SharePoint`」と入力します。

f. [MicrosoftSharePointGraph] タイルで、[詳細を表示] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



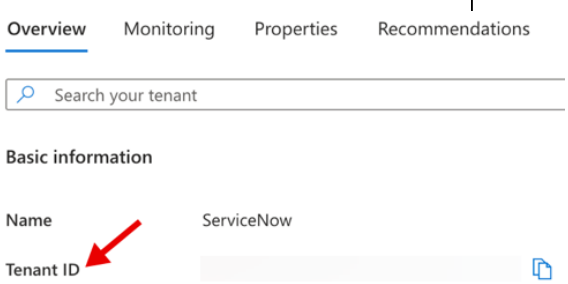
g. [構成] をクリックします。



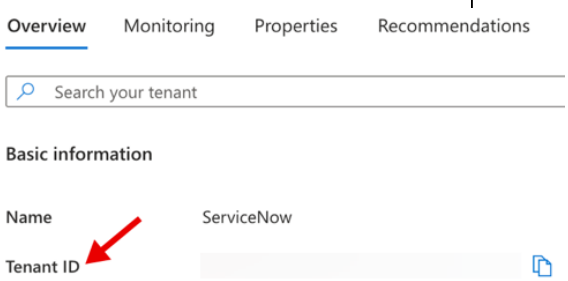
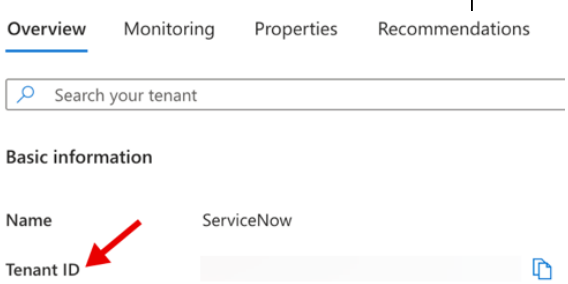
h. フォームで、詳細を入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードの名前。最初の接続レコードのデフォルトの読み取り専用名は、MicrosoftSharePointGraph です。カスタム名を指定するには、[接続を追加] をクリックして、接続レコードを作成する必要があります。
接続 URL	Microsoft Graph API に接続するための URL。URL は https://graph.microsoft.com/v1.0 です。
OAuth エンティティ名	作成した OAuth アプリケーションの名前です。OAuth アプリの作成方法については、「Microsoft Azure での OAuth アプリケーションの設定」を参照してください。
OAuth クライアント ID	OAuth アプリを作成したときに生成されたクライアント ID。クライアント ID の場所については、「Microsoft Azure での OAuth アプリケーションの設定」を参照してください。

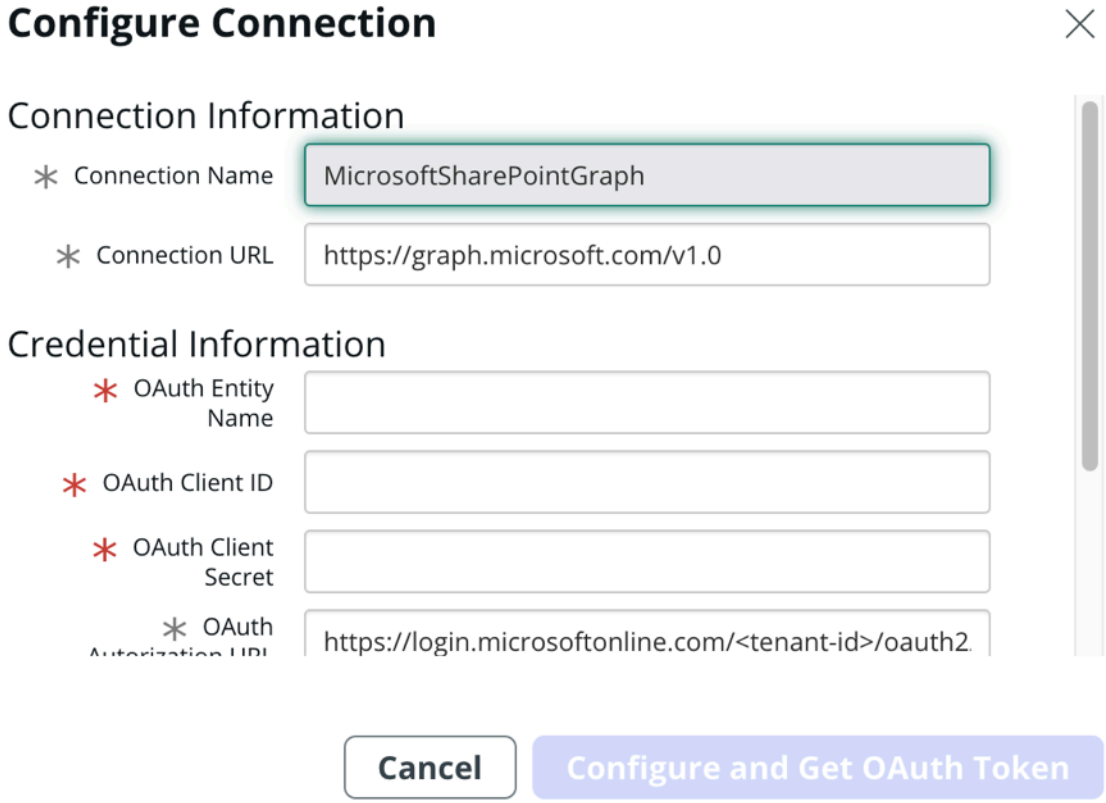
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
OAuth クライアントシークレット	OAuth アプリを作成したときに生成されたクライアントシークレット。クライアント ID の場所については、「Microsoft Azure での OAuth アプリケーションの設定」を参照してください。
OAuth 認証 URL	URL は、`https://login.microsoftonline.com/<tenant-id>/oauth2/v2.0/authorize?response_mode=query` の形式にする必要があります。 **ヒント:** テナント ID を見つけるには、次の手順を実行します。 i. https://portal.azure.com/ にログインします。 ii. [Azure Active Directory の管理 (Manage Azure Active Directory)] の見出しの下で、[表示] を選択します。 テナント ID は、[基本情報] の見出しの下に表示されます。 
OAuth トークン URL	URL は、`https://login.microsoftonline.com/<tenant-id>/oauth2/v2.0/token` の形式にする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

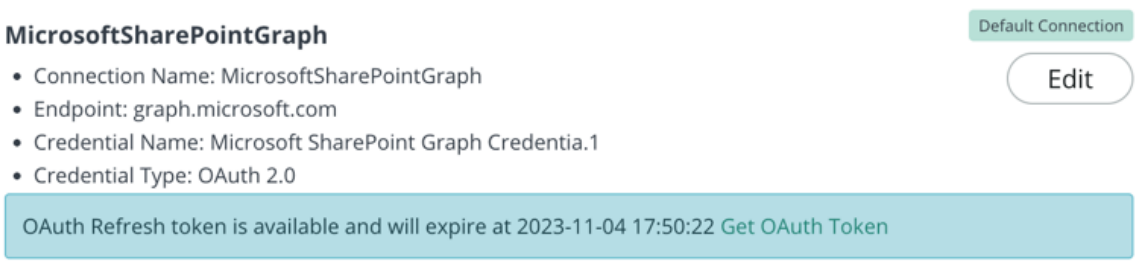
フィールド	説明
	ヒント: テナント ID を見つけるには、次の手順を実行します。 i. https://portal.azure.com/ にログインします。 ii. [Azure Active Directory の管理 (Manage Azure Active Directory)] の見出しの下で、[表示] を選択します。 テナント ID は、[基本情報] の見出しの下に表示されます。 
トークン失効 URL	URL は、`https://login.microsoftonline.com/<tenant-id>/oauth2/v2.0/token` の形式にする必要があります。 **ヒント:** テナント ID を見つけるには、次の手順を実行します。 i. https://portal.azure.com/ にログインします。 ii. [Azure Active Directory の管理 (Manage Azure Active Directory)] の見出しの下で、[表示] を選択します。 テナント ID は、[基本情報] の見出しの下に表示されます。 
OAuth リダイレクト URL	URL は、`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` の形式にする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



i. **[OAuth** トークンを設定して取得 **(Configure and Get OAuth Token)]** を選択します。

3. **[OAuth** トークンを設定して取得 **(Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。
接続レコードが作成されます。



4. Microsoft Graph アクションを使用するには、ServiceNow インスタンスのテナントテーブル (sn_sp_spoke_tenant) にレコードを作成します。

> **注:** OAuth トークンを構成して取得すると、指定した詳細を使用してアプリケーションレジストリレコードが作成されます。このアプリケーションレコードでは、**[OAuth API** スクリプト] を選択しないでください。

Microsoft SharePoint Online 接続レコードの構成

Microsoft SharePoint Online と接続レコードを設定して、ServiceNow インスタンスを Microsoft SharePoint Online と統合します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Microsoft SharePoint Online スポーク のアクティブ化
- Microsoft Azure ポータルでの OAuth アプリケーションの作成
- Microsoft Azure ポータルへのアクセス
- 必要なロール：admin

Windows 用の証明書の生成

デジタル証明書ファイルを .cer 形式で生成し、Microsoft Azure にアップロードします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. https://learn.microsoft.com/en-us/sharepoint/dev/solution-guidance/security-apponly-azuread#setting-up-an-azure-ad-app-for-app-only-access に移動します。
2. PowerShell スクリプトを実行します。
   このスクリプトは、拡張子が .PFX と .CER の 2 つのファイルを生成します。

   注: 秘密鍵を暗号化して .PFX ファイルと .CER ファイルを生成するために使用されるパスワードを保存するか、記憶します。

3. Java Key Store (JKS) ファイルを作成するには、.PFX ファイルを使用します。

   注: .PFX ファイルから .JKS ファイルを生成するために使用されるパスワードを保存するか、記憶します。

Mac 用の自己署名証明書の生成

デジタル証明書ファイルを .cer 形式で生成し、Microsoft Azure にアップロードします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. Mac マシンでターミナルを開きます。
2. プレースホルダー `<filename>` を希望するファイル名で置き換え、スクリプト `keytool -genkey -keyalg RSA -alias selfsigned -keystore <filename>.jks -storepass <enter password for keystore> -validity 720 -keysize 2048` を実行します。

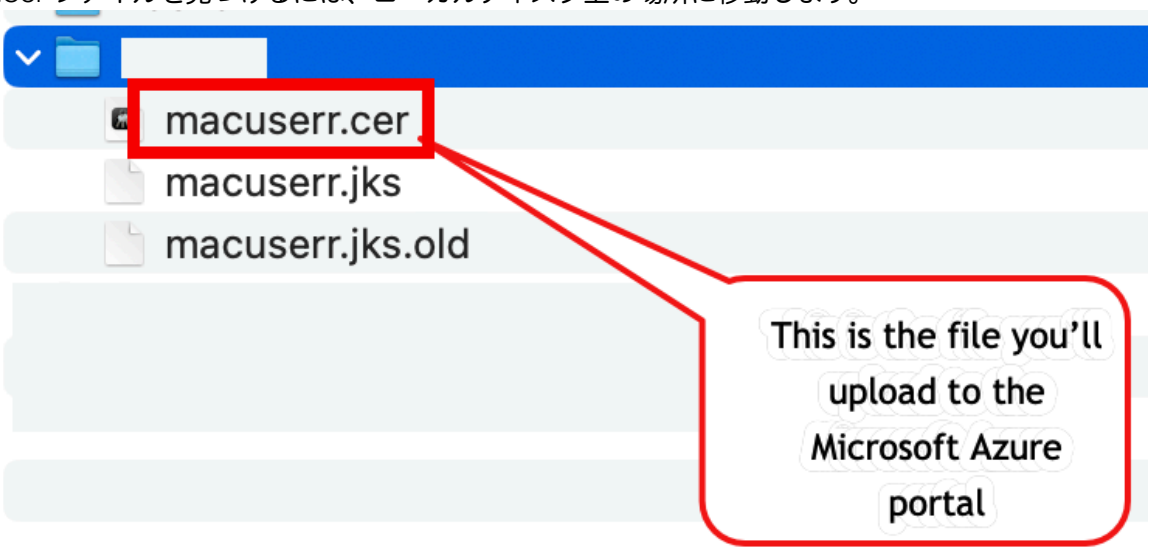
   注: キーストアのパスワードは 6 文字以上にする必要があります。

   キーストアにより、特定の情報を入力するよう求められます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 説明用の画像に示すように、カスタム情報を入力しま
```
What is your first and last name?
  [Unknown]:  John Smith
What is the name of your organizational unit?
  [Unknown]:  UIN
What is the name of your organization?
  [Unknown]:  UTR
What is the name of your City or Locality?
  [Unknown]:  Texas
What is the name of your State or Province?
  [Unknown]:  Texas
What is the two-letter country code for this unit?
  [Unknown]:  1
Is CN=John Smith, OU=UIN, O=UTR, L=Texas, ST=Texas, C=1 correct?
```
す。 [no]: Yes

4. **Return** キーを押します。
PKCS12 形式に移行することをお勧めします。
5. プレースホルダー `<filename>` を希望するファイル名で置き換え、スクリプト `keytool -importkeystore -srckeystore <filename>.jks -destkeystore <filename>.jks -deststoretype pkcs12` を実行します。
6. ソースキーストアのパスワードを入力します。
PKCS12 への移行に成功しました。
7. プレースホルダー `<filename>` を希望するファイル名で置き換え、スクリプト `keytool -exportcert -keyalg RSA -alias selfsigned -keystore <filename>.jks -storepass <password to the keystore> -rfc -file <filename>.cer` を実行します。
スクリプトにより .cer ファイルが生成されます。
8. .cer ファイルを見つけるには、ローカルディスク上の場所に移動します。



Microsoft Azure でのアプリケーションの設定

Azure ポータルを使用してカスタムアプリを作成し、要求の認証を行います。

始める前に

- Microsoft Azure ポータルへのアクセス
- 必要なロール：admin

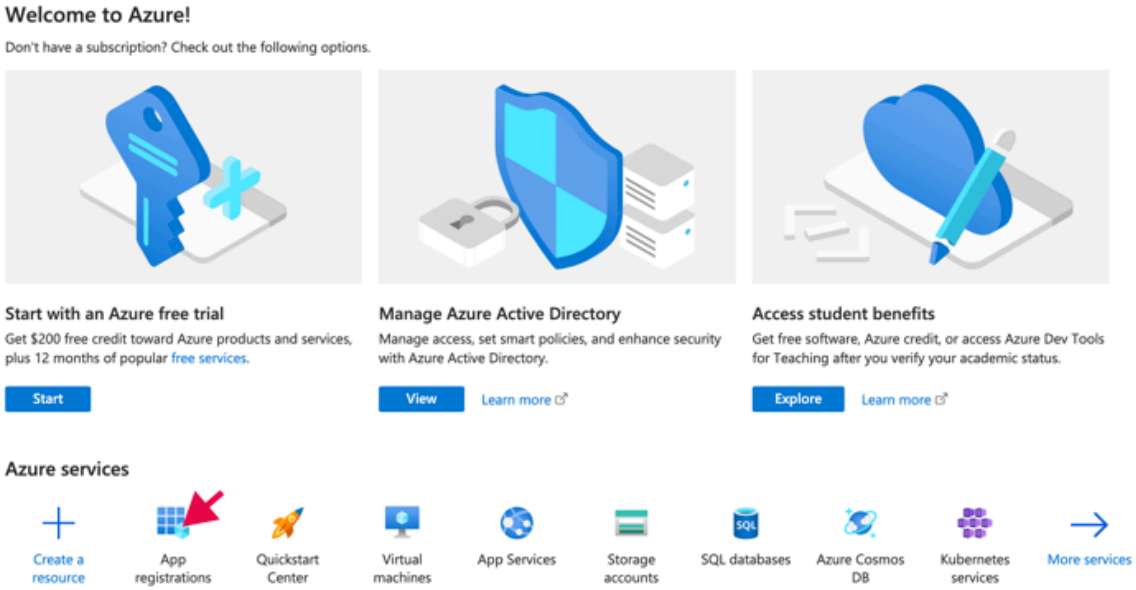
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

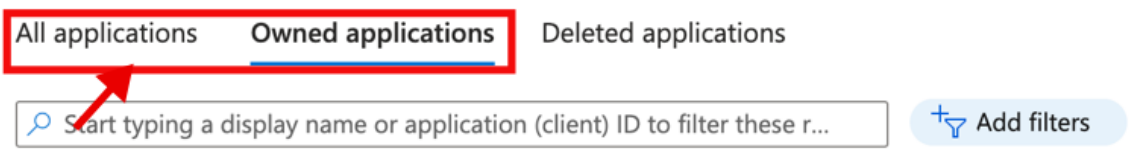
1. 証明書を Microsoft Azure ポータルにアップロードします。

   a. https://portal.azure.com/ にログインします。

   b. [アプリの登録] を選択します。



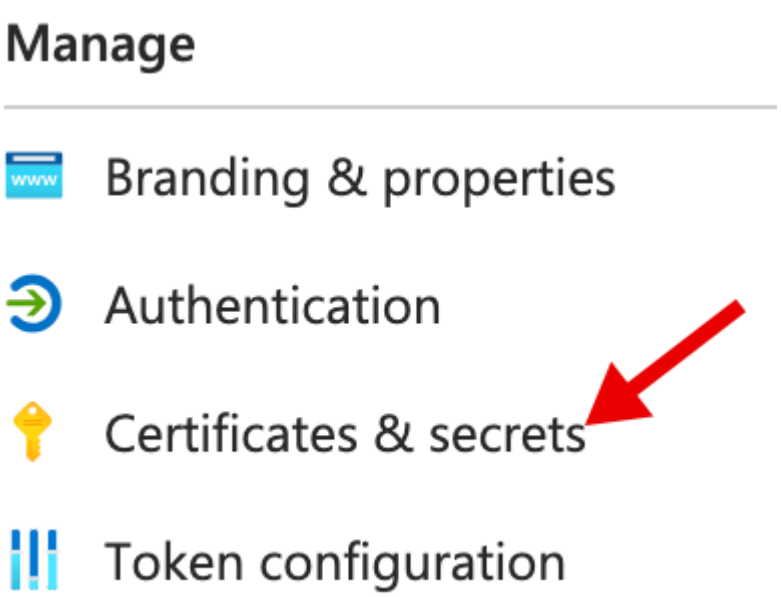
   c. [すべてのアプリケーション] または [所有アプリケーション **(Owned applications)]** を選択します。



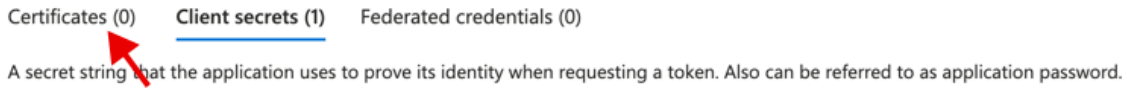
   d. 検索フィールドに、作成した OAuth アプリケーションの名前を入力します。
   OAuth アプリケーションの構成方法については、「Microsoft Azure での OAuth アプリケーションの設定」を参照してください。

   e. 左側のパネルの [管理] の見出しで、[証明書とシークレット (Certificates & secrets)] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



f. [証明書とシークレット (Certificates & secrets)] で、[証明書] を選択します。



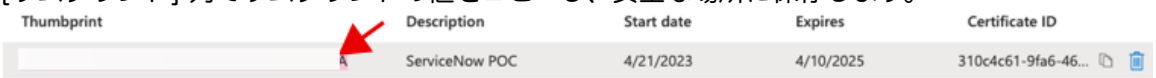
g. [証明書をアップロード] を選択します。

h. [証明書をアップロード] ウィンドウでフォルダーアイコン ( ) を選択して、生成した .cer ファイルに移動します。

i. [説明] フィールドに、証明書の説明を入力します。

j. [追加] を選択します。
証明書がアップロードされます。

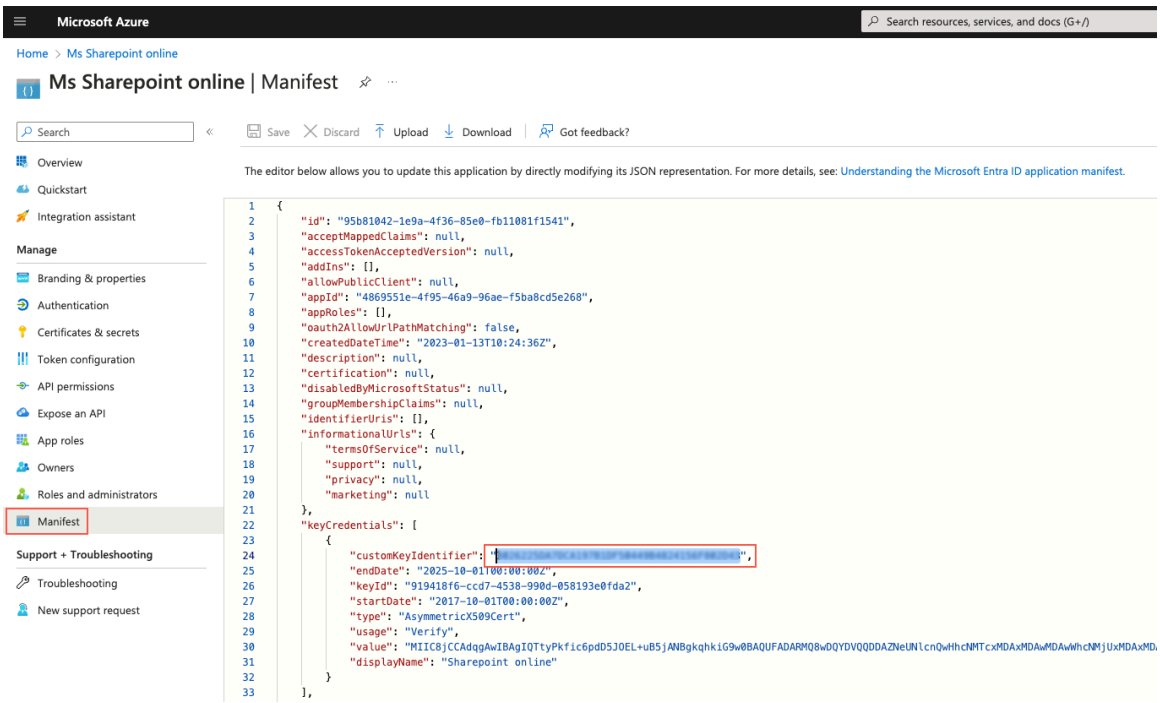
k. [サムプリント] 列でサムプリントの値をコピーし、安全な場所に保存します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: [サムプリント] の値全体をコピーしていることを確認してください。

または、[マニフェスト] をクリックして [サムプリント] をコピーすることもできます。



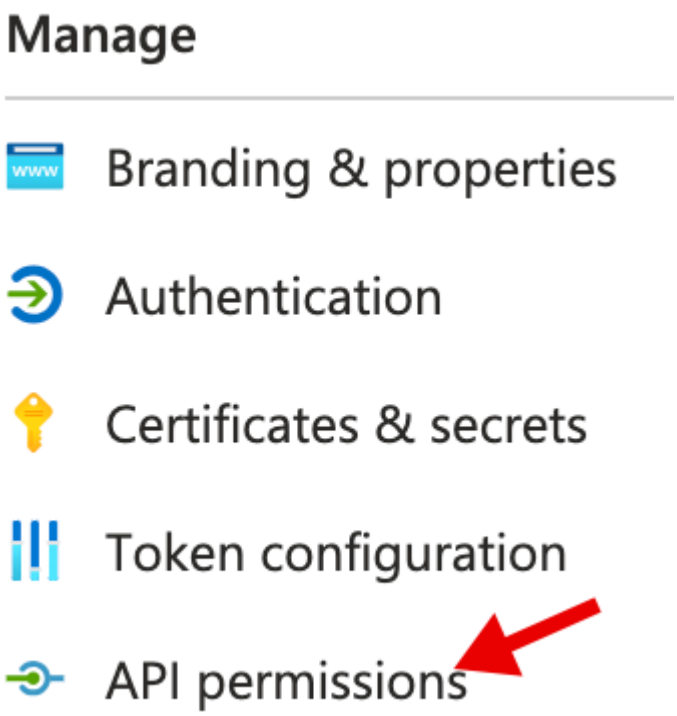
I. [サムプリント] の値を Base64 値にエンコードして記録し、後で使用できるようにします。

注: 16 進値から Base64 への (Hex to Base64) 変換ツールを使用して、[サムプリント] の値を Base64 値にエンコードできます。

2. スポークがアクションを自動化するために必要な REST API にアクセスする権限を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

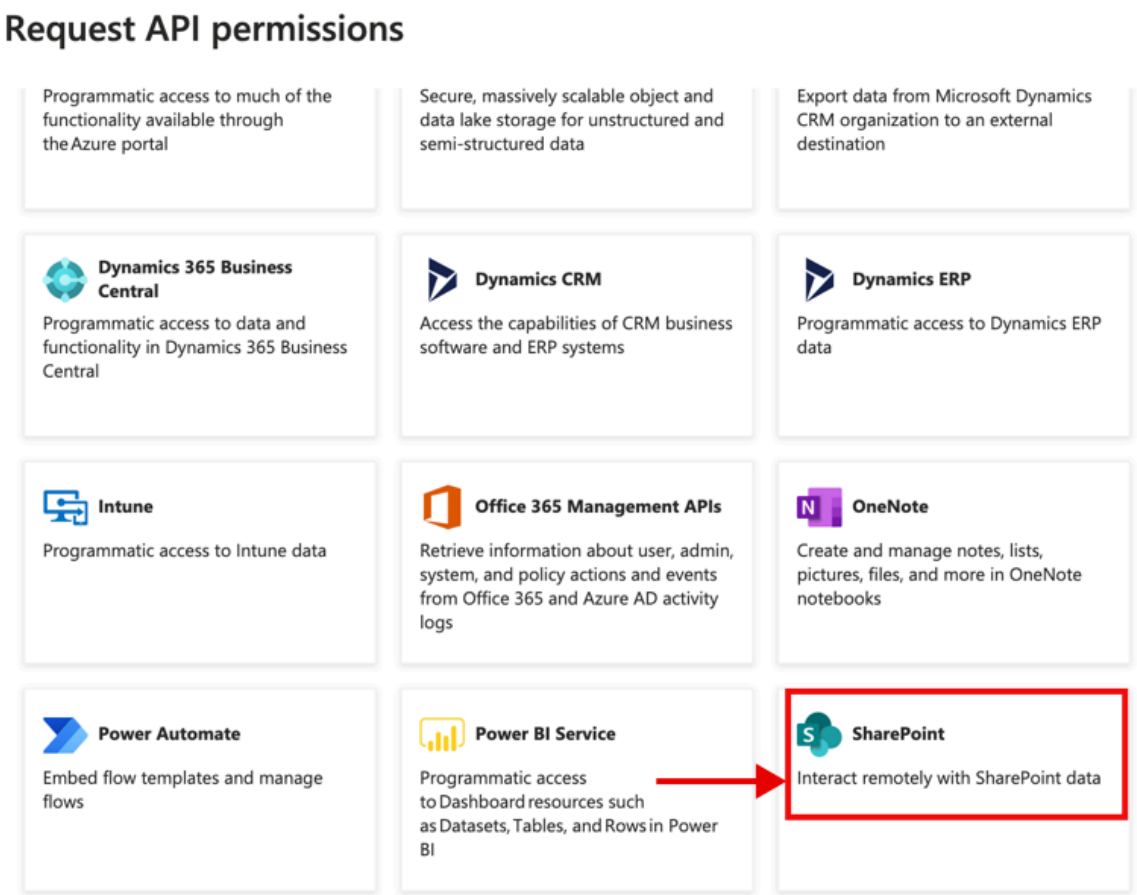
a. 左側のパネルの [管理] 見出しで、[API 権限] を選択します。



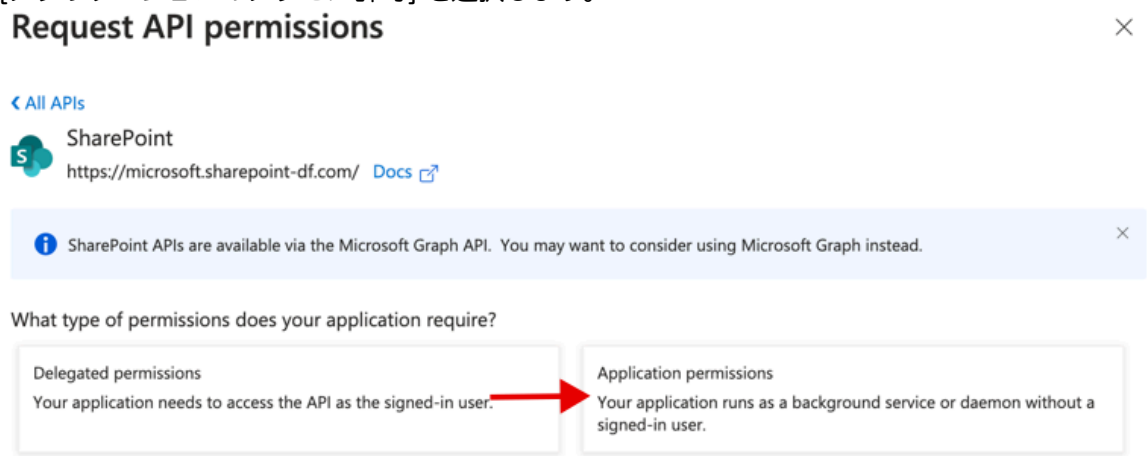
b. [構成済みの権限 (Configured permissions)] 見出しの下にある **[+ アクセス許可の追加 (+ Add a permission)]** をクリックします。

c. [API 権限の要求] ウィンドウで、**[SharePoint]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



d. [アプリケーションのアクセス許可] を選択します。

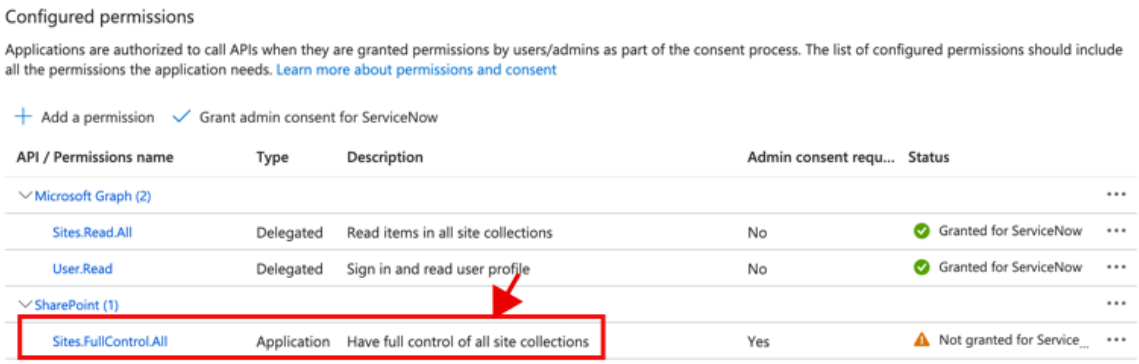


e. サイトリストを展開します。

f. Sites.FullControl.All を選択します。
これで、ServiceNow インスタンスが Microsoft SharePoint Online のすべてのサイトを完全に制御できるようになりました。

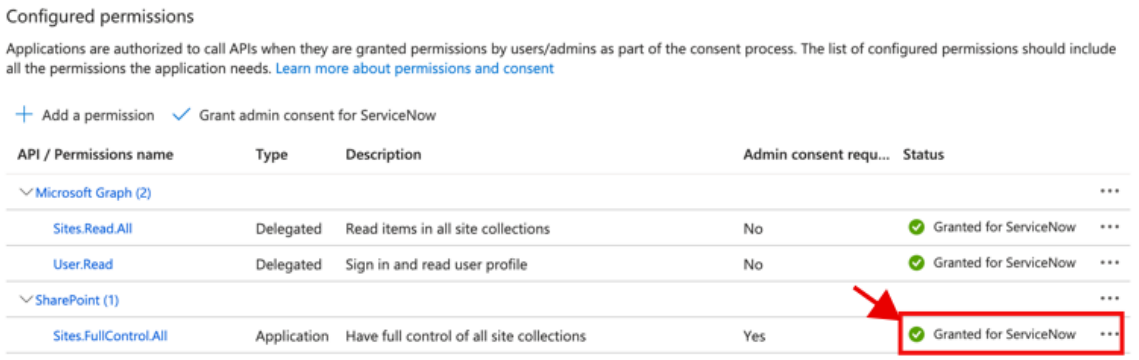
g. [権限を追加] を選択します。
権限が追加されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



h. アドミンの同意を付与するには、**[ServiceNow** にアドミンの同意を付与する **(Grant admin consent for ServiceNow)]** を選択します。

i. [アドミンの同意を付与する (Grant admin consent)] 確認ウィンドウで [はい] を選択します。アドミンの同意が付与されます。



ヒント: `Sites.FullControl.All` 以外のアクセス許可を使用する場合は、SharePoint アドミニストレーターと Azure アドミニストレーターに問い合わせて、組織のポリシーに必要な適切なアクセス許可を決定してください。

Java Key Store 証明書を添付

有効な Java Key Store (JKS) 証明書を添付して、JWT ベアラー権限許可トークン認証を有効にします。

始める前に

- 有効な Java Key Store 証明書
- 必要なロール：admin

手順

1. [システム定義] > [証明書] に移動します。
2. レコード **[Microsoft SharePoint Online Certificate]** を開きます。

   注: デフォルトレコードの **Microsoft SharePoint Online** 証明書のみを使用してください。

3. JKS ファイルに関連付けられたパスワードを [キーストアパスワード] に入力します。
4. [タイプ] で **[Java** キーストア] を選択します。
5. 添付ファイルアイコン ( ) をクリックし、生成した JKS 証明書を添付します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細については、「Microsoft Azure での OAuth アプリケーションの設定」を参照してください。

6. [ストア/証明書を検証] をクリックします。
7. [更新] をクリックします。

JWT 署名キーを構成

Java Key Store 証明書に割り当てる JSON Web トークン (JWT) 署名キーを作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [システム **OAuth]** > **[JWT** キー]に移動します。
2. レコード **[Microsoft SharePoint Online JWT Keys]** を開きます。
3. 秘密鍵を暗号化し、.PFX ファイルと .CER ファイルを生成するために使用するパスワードを、[署名キーパスワード] に入力します。
4. [更新] をクリックします。

JWT プロバイダーの構成

JSON Web トークン (JWT) プロバイダーを ServiceNow インスタンスに追加します。

始める前に

- Azure ポータルに登録したアプリケーションの [アプリケーション (クライアント) **ID]** と [ディレクトリ (テナント) **ID]** の値をコピーして記録します。

- 必要なロール：admin

手順

1. [システム **OAuth]** > **[JWT** プロバイダー]に移動します。
2. レコード **[Microsoft SharePoint Online JWT Provider]** を開きます。
3. [標準要求] 関連リストで、**[iss]**、**[sub]**、および **[aud]** の各値を入力します。

フィールド	値
aud	次の形式の Microsoft Online URL：`https://login.microsoftonline.com/<tenant-id>/oauth2/token`。`<tenant-id>` を、Azure ポータルにアプリケーションが登録した [ディレクトリ (テナント)] の値と置き換えます。
iss	Azure ポータルに登録したアプリケーションの [アプリケーション (クライアント) ID]。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
sub	Azure ポータルに登録したアプリケーションの [アプリケーション (クライアント) ID]。

4. [更新] をクリックします。

OAuth プロバイダーとして Microsoft SharePoint Online を登録

Microsoft SharePoint Onlineアカウントの構成中に生成された情報を使用し、Microsoft SharePoint Onlineを OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

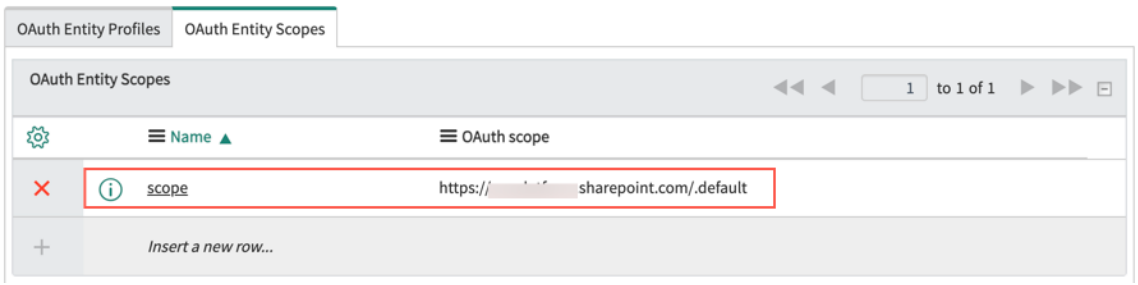
1. [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ] へ移動します。
2. [新規] をクリックします。
「どのような **OAuth** アプリケーションですか？」というメッセージが表示されます。
3. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択します。
空のアプリケーションレジストリフォームが表示されます。
4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`SharePoint OAuth プロファイル`を入力します。
クライアント ID	クライアント ID のフォーマット：`<ClientID>`
クライアント シークレット	Microsoft SharePoint Onlineアカウントの構成中に作成されたクライアントシークレット
OAuth API スクリプト	**[OAuthUtilSPJWTOnline]** を選択します。
デフォルトの権限許可タイプ	[クライアント認証情報] を選択します。
トークン URL	トークン URL の形式：`https://login.microsoftonline.com/<tenant-id>/oauth2/token<tenant-id>` を、Azure ポータルにアプリケーションが登録した [ディレクトリ (テナント)] の値と置き換えます。

5. [OAuth エンティティスコープ] 関連リストに、次の値を持つレコードを挿入します。

名前	**OAuth** スコープ
スコープ	`https://<MS-SharePoint-tenant-name>.sharepoint.com/.default`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
   OAuth 認証情報が検証され、[OAuth エンティティプロファイル] 関連リストが作成されます。

タスクの結果
インスタンスは、スポークの OAuth 2.0 トークンを要求できます。

Microsoft SharePoint Online スポークの認証情報レコードの作成

Microsoft SharePoint Onlineアカウントの構成時に作成したMicrosoft SharePoint Onlineカスタム OAuth アプリケーションに対して認証情報レコードを作成します。Microsoft SharePoint Online スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
   ポップアップウィンドウに、空の OAuth 2.0 認証情報フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`SharePoint` 認証情報を入力します。
有効	有効化
OAuth エンティティ プロファイル	カスタムMicrosoft SharePoint Onlineアプリケーションを OAuth プロバイダーとして登録したときに作成した OAuth プロファイルを選択します。たとえば、**SharePoint OAuth** プロファイルを選択します。
適用先	この認証情報を使用できる MID サーバーを選択します。たとえば、[すべての **MID** サーバー] を選択します。
順番	この認証情報を適用する順番を選択します。たとえば、「`100`」と入力します。

5. [保存] をクリックしてレコードを保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft SharePoint Online スポークの接続レコードの作成

Microsoft SharePoint Onlineアカウントへの接続レコードを作成します。Microsoft SharePoint Online スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してMicrosoft SharePoint Onlineでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. MicrosoftSharePointOnline の接続および資格情報エイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`SharePoint` 接続を入力します。
認証情報	Microsoft SharePoint Online用に作成された認証情報レコードを選択します。たとえば、**SharePoint** 認証情報を選択します。
接続エイリアス	Microsoft SharePoint Onlineに作成した [接続エイリアス] のレコードを選択します。
有効	有効化
接続 URL	ルート SharePoint URL を入力します。例：`https://<SiteName>.sharepoint.com`

5. [属性] タブで、Base64 でエンコードされた **[Thumbprint]** の値を入力します。

   注: [サムプリント] の値は 16 進値です。16 進値から Base64 への (Hex to Base64) 変換ツールを使用して、[サムプリント] の値を Base64 値にエンコードできます。

6. [送信] をクリックします。
   Microsoft SharePoint OnlineアカウントがServiceNowインスタンスに統合され、スポークを使用する準備が整いました。

   注: シングルサインオンがセットアップされている場合は、スポークアクション [ログイン名でユーザー情報を検索 (Look Up User Information By Login Name)] を使用してMicrosoft SharePoint Onlineからユーザーの詳細を取得するようにフローを設定し、ユーザーが必要なアクションを実行する権限を持っているかどうかを確認します。

次のタスク

1. [接続および認証情報] > [認証情報] に移動します。
2. 作成された認証情報レコードを開きます。例：**SharePoint** 認証情報。
3. [関連リンク] から、**[OAuth** トークンの取得] をクリックします。

   OAuth トークンフローが正常に完了したことを示す確認メッセージが表示されます。フローが正常に完了していない場合は、詳細を確認してください。

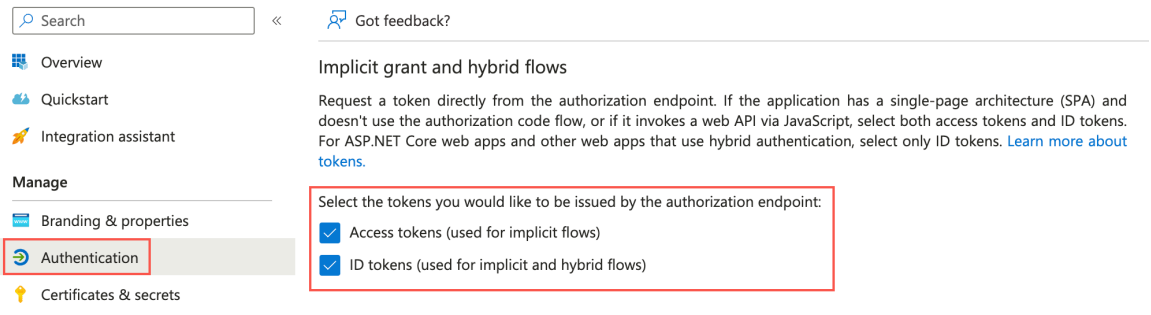
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- 接続レコードでサムプリントが定義されていることを確認します。
- ブラウザでポップアップウィンドウが許可されていることを確認します。

スポークのセットアップが完了し、要件に応じてフローを使用できるようになりました。

注: スポークのセットアップ後に生成されたトークンが機能しない場合は、Azure ポータルで OAuth アプリケーションを開き、[暗黙的な権限許可とハイブリッドフロー **(Implicit grant and hybrid flows)]** の下にある 2 つのチェックボックスをオンにします。



複数のテナントのエイリアスを作成

サポートする各追加テナントサイトに、接続および資格情報エイリアスレコードを作成します。Microsoft SharePoint Online での変更を認可するテナントレコード内の適切なエイリアスを選択します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

単一テナントの統合を構成する場合は、既存の **MicrosoftSharepointOnline** エイリアスレコードを使用します。

注:

- **Microsoft SharePoint Graph** 接続エイリアスでのみ、複数のテナントを使用できます。
- スポークでは、デフォルトで 3 つのエイリアスレコードを使用できます。Sharepoint Online、SharePoint Graph、および SharePoint Graph ルートサイトのサブスクリプションです。各エイリアスレコードには、テナントを関連付ける必要があります。スポークで SharePoint Online、Graph、およびルートサブスクリプションのすべてのアクションを使用する場合は、Microsoft SharePoint Online スポークのテナントテーブルに 3 つのテナントレコードが作成されており、各テナントレコードがそれぞれのエイリアスレコードに関連付けられていることを確認します。

手順

1. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   空の接続および資格情報エイリアスが開きます。
3. [接続および資格情報エイリアス] フォームで、次の値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[接続および資格情報エイリアス] フォームの各フィールド

フィールド	値
名前	個別の名前
タイプ	接続と資格情報
接続タイプ	HTTP

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
認証情報レコードと接続レコードをエイリアスに関連付けて、SharePoint テナントサイトでのアクションを許可します。サポートする各テナントのエイリアスレコードと関連する接続および認証情報レコードを作成します。

Microsoft SharePoint Onlineテナントを定義

Microsoft SharePoint Onlineテナントサイトのプロファイルを定義します。Microsoft SharePoint Online スポークは、テナントレコードと関連する接続および資格情報エイリアスを使用して、Microsoft SharePoint Onlineに対してアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. **[Microsoft Sharepoint Online]** > [テナント]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	テナントの名前を入力します。
エイリアス	接続および資格情報エイリアスを選択します。単一テナントの統合を構成する場合は、**MicrosoftSharepointOnline** のエイリアスを使用します。複数のテナントの統合を構成する場合は、目的のエイリアスを選択します。
Sharepoint ルート URL	https:// prefix を付けないでルート SharePoint URL を入力します。 例：`<SiteName>.sharepoint.com`
テナント ID	テナント ID を入力します。これは、接続先のMicrosoft SharePoint Onlineテナントをサポートしている Azure AD Directory のディレクトリー ID です。「Microsoft Azure での OAuth アプリケーションの設定」を参照してください。
リソース ID	**00000003-0000-0ff1-ce00-000000000000** が自動入力されます。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
複数のMicrosoft SharePoint Onlineテナントとの統合を構成する場合は、必要に応じて追加のテナントプロファイルを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SharePoint Graph ルートサイトのサブスクリプションの接続および資格情報エイリアスレコードを構成

Microsoft SharePoint Onlineでカスタム OAuth アプリケーションを作成してServiceNowインスタンスとMicrosoft SharePoint Onlineをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Microsoft SharePoint Online スポーク のアクティブ化
- 必要なロール：admin

このタスクについて

[ルートサイトのサブスクリプションを作成] を使用し、**SharePointGraphRootSiteSubscription** の接続および資格情報エイリアスレコードを構成する場合は、別のテナントを作成する必要があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **SharePointGraphRootSiteSubscription** レコードを開きます。
3. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。
4. フォームで、詳細を入力します。

フィールド	説明
OAuth エンティティ名	OAuth アプリケーションレジストリレコードを識別する名前。
OAuth クライアント ID	このフォーマットの Client ID：`<ClientID>@<TenantID>`
OAuth クライアントシークレット	Microsoft SharePoint Onlineアカウントの構成中に作成されたクライアントシークレット
OAuth トークン URL	トークン URL のフォーマット：`https://login.microsoftonline.com/<tenant-id>/oauth2/v2.0/token`

> **注:** 要件に応じてデフォルト値を変更できます。

5. **[OAuth** トークンを作成して取得] をクリックします。

Microsoft Teams Communications スポーク

ServiceNow インスタンスから Microsoft Teams Communications アカウントのグループコールと会議を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Teams Communications スポーク v1.4.1 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは Microsoft Teams Communications API バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

注: [オンライン会議を作成] および [参加者をミュート] のスポークアクションでは、ベータ API バージョンが使用されます。残りのすべてのアクションでは、API バージョン v1 が使用されます。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブ 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Microsoft Teams Communications Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
コール管理	グループコールを削除	指定されたアクティブなグループコールを削除します。
	グループコールの詳細を取得	指定されたアクティブなグループコールの詳細を取得します。
	グループコール参加者の詳細を取得	参加者オブジェクトのプロパティと関係または参加者オブジェクトのリストをMicrosoftGraph API から取得します。
	参加者をグループコールに招待	参加者を指定されたアクティブなグループコールに招待します。
	グループコールを維持	前の要求から 45 分以内にキープアライブ要求が行われた場合、グループコールを維持します。要求が 45 分以内に行われない場合、グループコールは非アクティブな通話と見なされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	グループコールの参加者をミュート	アクティブなグループコールの 1 人以上の参加者をミュートします。
	グループコールを開始	グループコールを開始します
会議管理	ユーザーオンライン会議を作成	[/users/{userId}/onlineMeetings]Microsoft Graph API エンドポイントを使用してユーザーオンライン会議を作成します。
	オンライン会議を作成	[/communications/onlineMeeting]Microsoft Graph API エンドポイントを使用してユーザーオンライン会議を作成します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Microsoft Teams Communications Spoke を設定。

Microsoft Teams Communications Spoke を設定

Microsoft Teams CommunicationsにカスタムOAuthアプリケーションを作成してServiceNowインスタンスと Microsoft Teams Communicationsアカウントをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft Teams Communications スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

MicrosoftAzure ポータルを使用したカスタムアプリケーションの登録

カスタムアプリケーションをAzure ADに登録して、ServiceNowインスタンスへの認証を行います。

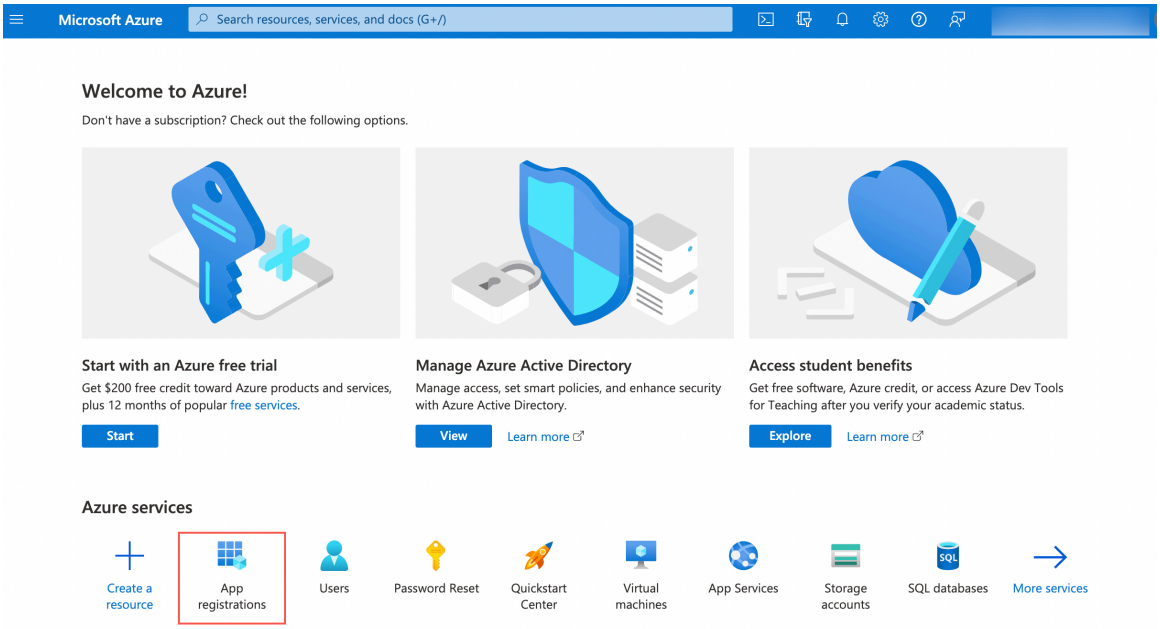
始める前に

必要なロール：Azure Active Directory アドミン。

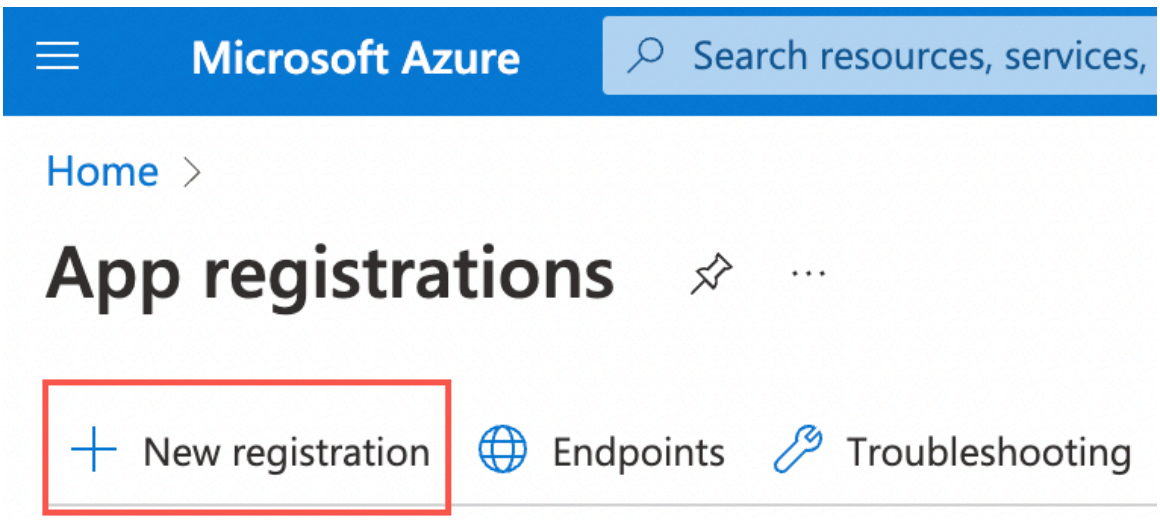
手順

1. MicrosoftAzure ポータル にログインします。
2. **[Azure** サービス] で、[アプリの登録] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

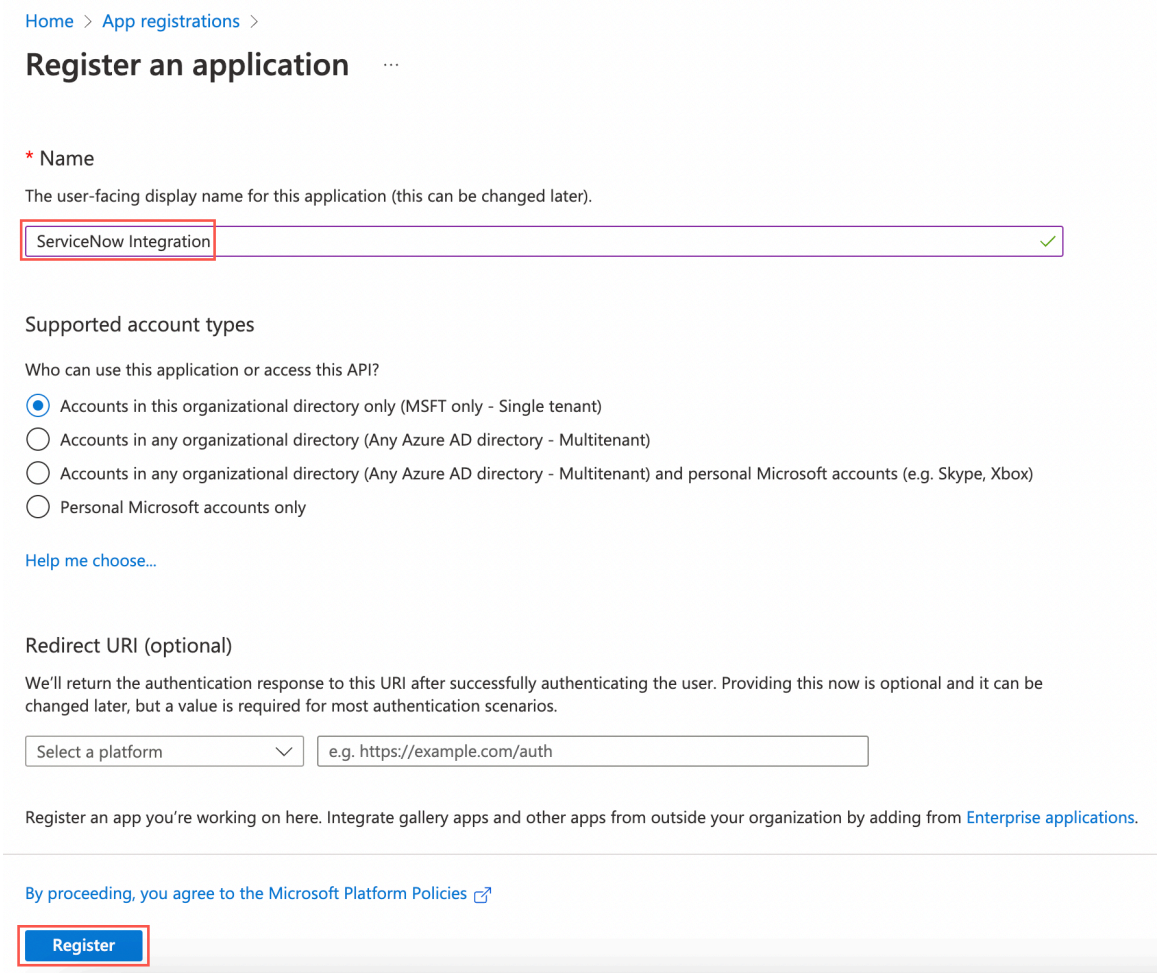


3. [アプリの登録] から、[新規登録] をクリックします。



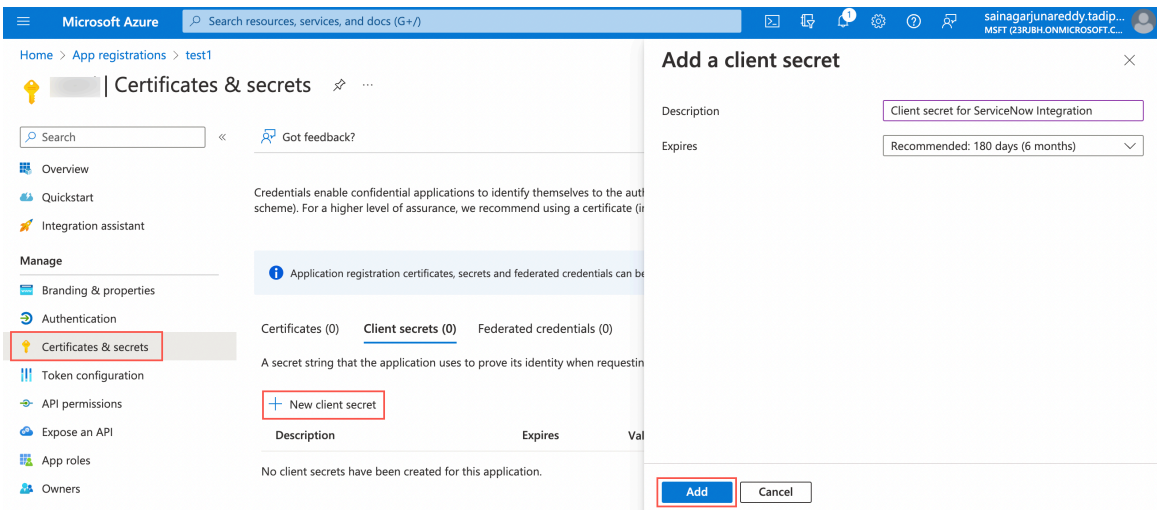
4. 名前を入力し、[登録] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



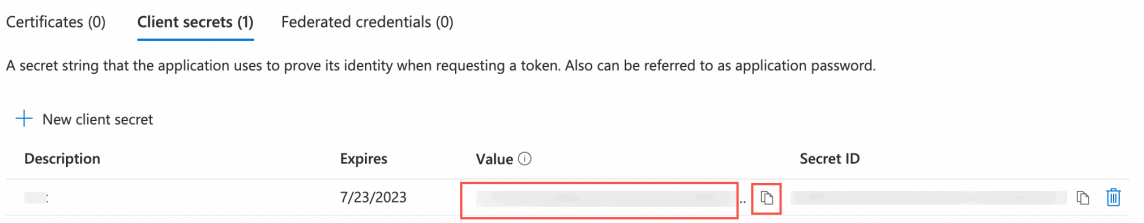
アプリケーションが登録され、アプリケーションの重要な詳細が表示されます。

5. [アプリケーション (クライアント) **ID]** と [ディレクトリ (テナント) **ID]** の値をコピーして記録します。
6. [証明書とシークレット **(Certificates & secrets)]** をクリックしてから、[新しいクライアントシークレット **(New client secret)]** をクリックします。
7. フォームで [説明] を入力し、[追加] をクリックします。

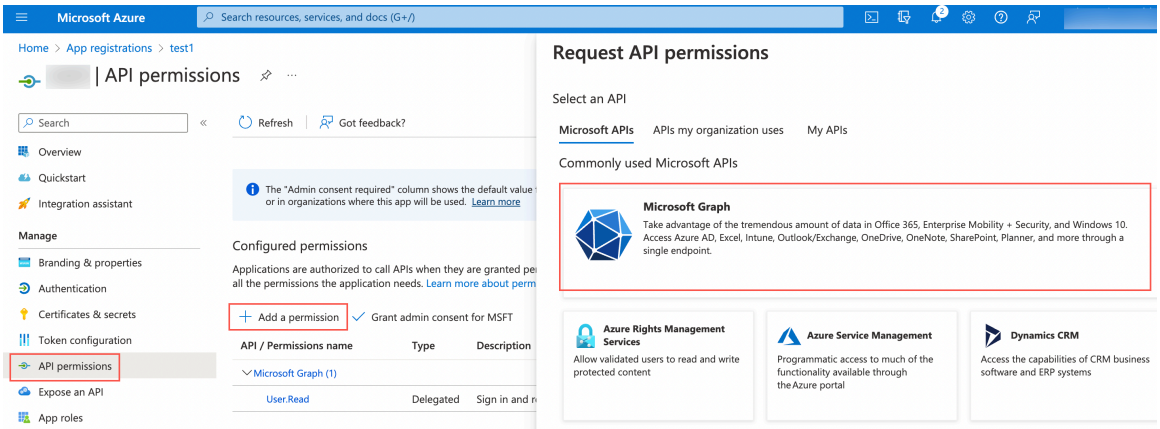


8. 後で使用するためにクライアントシークレットの値をコピーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



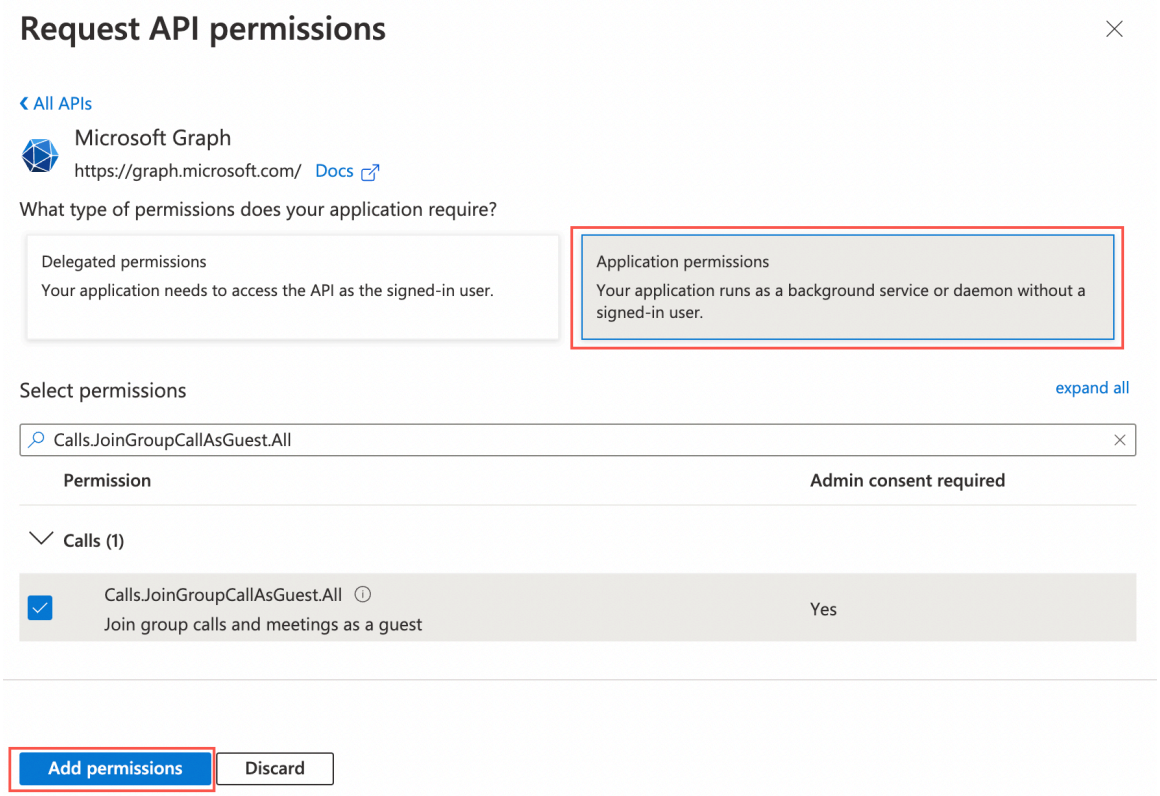
9. **[API 権限]** をクリックします。
10. [構成されたアクセス許可] で、[アクセス許可の追加] をクリックします。
11. **[API 権限の要求]** で、**[Microsoft Graph]** を選択します。



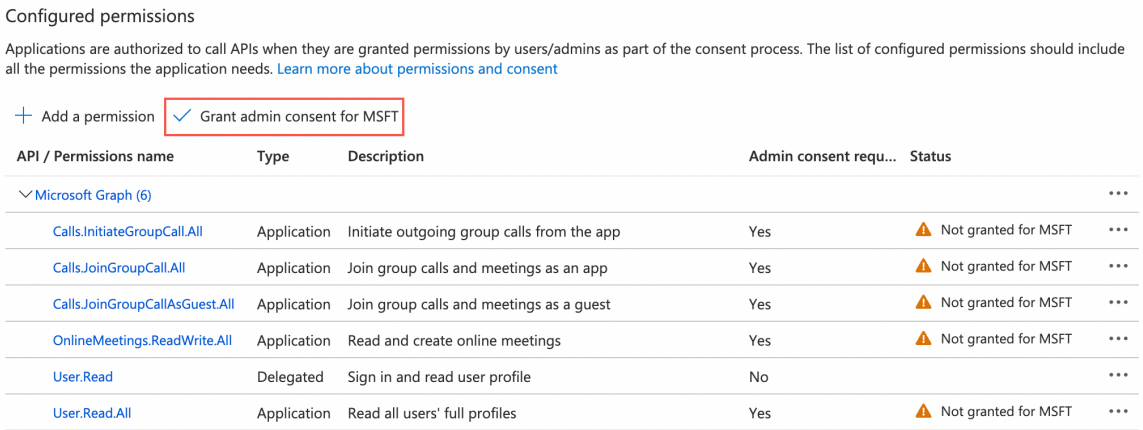
12. [アプリケーションのアクセス許可] をクリックします。
13. 次の権限がカスタムアプリに提供されていることを確認します。
    - User.Read.All
    - OnlineMeetings.ReadWrite.All
    - Calls.InitiateGroupCall.All
    - Calls.JoinGroupCall.All
    - Calls.JoinGroupCallAsGuest.All

    API 権限の詳細については、Microsoft Learn の「Web API にアクセスするための権限を追加」を参照してください。
14. [アクセス許可の追加] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



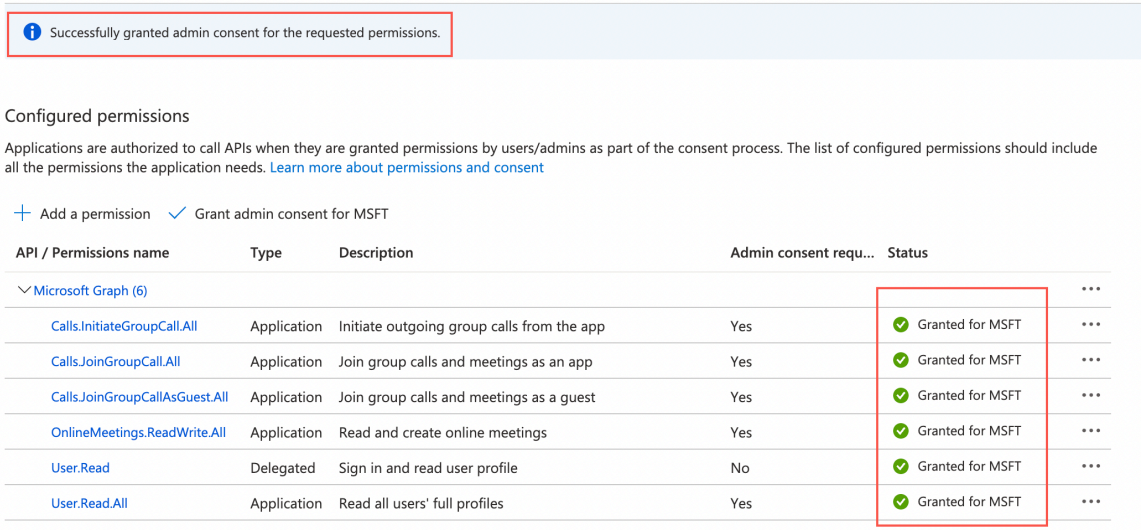
15. **[MSFT** にアドミンの同意を付与する **(Grant admin consent for MSFT)]** をクリックします。



同意を確認するように求められます。

16. [はい] をクリックします。
要求された権限に対してアドミンの同意が付与されたことを示す確認メッセージが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



17. ボットを作成し、要件に従って構成します。
ボットの作成と設定については、Microsoft Learn の「ボットを作成する」を参照してください。ボットを指すようにボットエンドポイントアドレスを更新します。

OAuth プロバイダーとして Microsoft Teams Communicationsを登録

Microsoft Azure ポータルでアプリケーションの構成中に生成された情報を使用し、 Microsoft Teams Communications を OAuth プロバイダーとして登録して、ServiceNow インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
「どのような OAuth アプリケーションですか？」というメッセージが表示されます。
3. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
クライアント ID	アプリケーション登録時に作成されたアプリケーション ID です。
クライアントシークレット	アプリケーション登録時に作成したクライアントシークレット
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプション。
認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイント`https://login.microsoftonline.com/<Directory-ID>/oauth2/v2.0/authorize` と入力します。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント`https://login.microsoftonline.com/<Directory-ID>/oauth2/v2.0/token` と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
トークン失効 URL	OAuth サーバートークン失効エンドポイントです。
リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイント`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` と入力します。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可タイプです。[クライアント認証情報] を選択します。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
6. **[OAuth** エンティティプロファイル] タブで、行を挿入し、次の値を入力します。

フィールド	説明
名前	エンティティプロファイルレコードを識別する名前例：`MS Teams Comm OAuth Prof`
デフォルトである	レコードがデフォルトのエンティティプロファイルかどうかを指定します。
権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可のタイプ[クライアント認証情報] を選択します。

7. **[OAuth** エンティティスコープ] タブで、行を挿入し、次の値を入力します。

フィールド	説明
名前	エンティティスコープレコードを識別する名前例：`MS Teams Comm OAuth Scope`
OAuth スコープ	OAuth エンティティスコープ`.default` と入力します。

8. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
9. **[OAuth** エンティティプロファイル] タブで、作成したエンティティプロファイルレコードを開きます。
10. **[OAuth** エンティティスコープ] タブで、レコードを挿入します。
11. 作成した OAuth エンティティスコープを検索して選択します。
12. [更新] をクリックします。

Microsoft Teams Communicationsの認証情報レコードを作成

MicrosoftAzure ポータルに登録されているアプリケーションの認証情報レコードを作成して、 Microsoft Teams Communicationsスポークアクションを承認します。 Microsoft Teams Communications 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. エイリアスレコード **MSTeamsCommunicationsSpoke** を開きます。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

4. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`MS Teams Comm Cred`
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
OAuth エンティティ プロファイル	Microsoft Teams Communicationsを OAuth プロバイダーとして登録する際に作成される OAuth プロファイル例：`MS Teams Comm OAuth Prof`

6. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。
7. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

Microsoft Teams Graph スポーク

Microsoft Teams Graph スポーク は、 Microsoft Teams のアプリケーション、カレンダー、チーム、チャネル、チャット、通知、Webhook を管理します。ユーザーとグループを作成、管理、削除するには、MicrosoftEntra ID スポーク (旧Microsoft Azure Active Directory スポーク) を使用します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

注:

- Microsoft Teams Graph スポーク のチームは、Microsoft Entra ID (旧 Microsoft Azure Active Directory) のグループから作成されます。 Microsoft Teams Graph スポークを使用してチームを作成するには、関連付けられたグループが Microsoft Entra ID に存在している必要があります。
- ユーザーとグループの管理は、Microsoft Entra ID のみを使用して行うことができ、Microsoft Teams Graph スポークを使用することはできません。
- チームは、MicrosoftOffice 365 のグループからのみ作成できます。
- Microsoft Teams のチーム ID は、Microsoft Entra ID の関連グループのグループ ID と同じです。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Microsoft Teams Graph スポーク v4.1.2 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

Microsoft Graph REST API v1.0

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- フローデザイナーのデザイナーモデル (com.glide.hub.designer_backend.model)
- Complex Object (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブ Action Template - Data Stream (com.glide.hub.action_type.datastream)
- Remote Tables (com.glide.script.vtable)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - Get Connection Info (com.glide.hub.action_step.get_connection_info)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Microsoft Teams Graph スポーク では、インシデントに追加された最新作業メモに関する詳細とともに Microsoft Teams チャットメッセージをアサインされたユーザーに投稿するタスクの自動化をデモするために、サンプルフロー「ServiceNow インシデント作業メモの更新を Microsoft Teams チャットに投稿」が提供されます。

スポークのサブフロー

Microsoft Teams Graph スポーク では、タスクの自動化をデモするためのサンプルサブフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

Microsoft Teams Graph スポークのサブフロー

サブフロー	説明
インシデントの詳細を投稿	必要なインシデントの詳細を Microsoft Teams チャネルに投稿します。
受信通知の処理	Webhook サブスクリプションから受信した入力データに基づいて、指定されたメッセージの詳細を取得します。
Webhook サブスクリプションヘルパーサブフローの更新	更新が必要な場合にサブスクリプションを更新します。これは入力に基づいて決定されます。
Webhook サブスクリプションを更新	すべての Webhook サブスクリプションを取得し、更新が必要な場合は更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Teams Graph スポークのサブフロー (続く)

サブフロー	説明
Webhook を登録	指定されたチームのチャネルの Webhook サブスクリプションを作成します。

スポークのアクション

Microsoft Teams Graph スポークでは、ServiceNowインスタンスでインシデントが作成されたときに、チームとチャネルのタスクを自動化するアクションが提供されます。

一部のアクションは、Microsoft Teams スポーク接続を使用して実行でき、残りのアクションについては、Microsoft Teams Graph クライアント資格情報接続を使用して実行することができます。

次の表に示すアクションでは、Microsoft Teams スポークの接続および資格情報エイリアスレコードが使用されます。これらのアクションには、委任された権限が必要です。

Microsoft Teams スポークの接続および資格情報エイリアスを使用する **Microsoft Teams Graph** スポークアクション

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
アプリケーション管理	ユーザーにアプリケーションをインストール	指定されたアプリケーションをユーザーの個人スコープにインストールします。	委任済み (職場または学校のアカウント)	TeamsAppInstallation.ReadWrite
	ユーザーアプリのインストールを検索	ユーザーに対して指定されたアプリケーションのインストールの詳細を取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	TeamsAppInstallation.ReadForUs TeamsAppInstallation.ReadWrite TeamsAppInstallation.ReadWriteF
カレンダー管理	スケジュールを検索	指定された期間のユーザー、配布リスト、またはリソース (ルームまたは機器) のコレクションの可用性情報 (空き/ビジー) を取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Calendars.Read, Calendars.ReadWrite
チャネル管理	チャネルにメンバーを追加	指定されたメンバーを指定されたチャネルに追加します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	ChannelMember.ReadWrite.All
	チャネルを作成	チームの新しいチャネルを作成します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Channel.Create、Group.ReadWri
	チャネルを削除	指定されたチームから指定されたチャネルを削除し、すべての会話を削除します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Channel.Delete.All、Group.ReadW

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Teams スポークの接続および資格情報エイリアスを使用する **Microsoft Teams Graph** スポークアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
	チャネルを検索	チャネルのプロパティと関係を取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Channel.ReadBasic.All, ChannelSettings.Read.All, ChannelSettings.ReadWrite.All, Group.Read.All**, Group.ReadWrite.All**, Directory.Read.All**, Directory.ReadWrite.All**
	名前でチャネルを検索	チャネル ID、およびチャネル名とチーム ID が指定されたプロパティを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Channel.ReadBasic.All, ChannelSettings.Read.All, ChannelSettings.ReadWrite.All, Group.Read.All**, Group.ReadWrite.All**, Directory.Read.All**, Directory.ReadWrite.All**
	チャネルメンバーを検索	チャネルメンバーのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	ChannelMember.Read.All、Chann
	チャネルメッセージを検索	チームのチャネル内のメッセージのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	ChannelMessage.Read.All
	チャネルを検索	該当するチームのチャネルのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Channel.ReadBasic.All, ChannelSettings.Read.All, ChannelSettings.ReadWrite.All, Group.Read.All**, Group.ReadWrite.All**, Directory.Read.All**, Directory.ReadWrite.All**
	チャネルからメンバーを削除	指定されたチャネルから指定されたユーザーを削除します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	ChannelMember.ReadWrite.All
チャット管理	チャットを作成	ユーザー間のチャットを作成します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Chat.Create、Chat.ReadWrite
	チャットメッセージデルタストリームを検索	チームのチャネルからメッセージのリスト (返信は除外) を取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Mail.ReadBasic、Mail.Read、Mai
			委任済み (個人の Microsoft アカウント)	Mail.ReadBasic、Mail.Read、Mai
	チャットメッセージを検索	チャット内のメッセージのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Chat.Read、Chat.ReadWrite

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Teams スポークの接続および資格情報エイリアスを使用する **Microsoft Teams Graph** スポークアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
	チャットを検索	ユーザーが参加しているチャットのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Chat.ReadBasic、Chat.Read、Ch
	メッセージを検索	指定されたメッセージの詳細を取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Chat.Read、Chat.ReadWrite
	メッセージ返信ストリームを検索	チームのチャネルから指定されたメッセージに対する返信のリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	ChannelMessage.Read.All
	チャットにメッセージを投稿	Microsoft Teams チャットにメッセージを投稿します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	ChatMessage.Send、Chat.ReadW
通知管理	変更の詳細を投稿	必要な変更の詳細を Microsoft Teams チャネルに投稿します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	ChannelMessage.Send, Group.ReadWrite.All**
	インシデントの詳細を投稿	必要なインシデントの詳細を Microsoft Teams チャネルに投稿します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	ChannelMessage.Send, Group.ReadWrite.All**
	メッセージを投稿	メッセージを Microsoft Teams チャネルに投稿します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	ChannelMessage.Send, Group.ReadWrite.All**
	問題の詳細を投稿	必要な問題の詳細を Microsoft Teams チャネルに投稿します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	ChannelMessage.Send, Group.ReadWrite.All**
	メッセージに返信を投稿	指定されたメッセージへの返信を投稿します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	ChannelMessage.Send, Group.ReadWrite.All**
	レコードの詳細を投稿	指定されたレコードの詳細を、指定された Microsoft Teams チャネルに投稿します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	ChannelMessage.Send, Group.ReadWrite.All**
チーム管理	チームにメンバーを追加	指定されたチームに指定されたユーザーを追加します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	TeamMember.ReadWrite.All

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Teams スポークの接続および資格情報エイリアスを使用する **Microsoft Teams Graph** スポークアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
	チームをアーカイブ	チームがアーカイブされると、ユーザーはチーム内のどのチャネルでもメッセージを送信したり、いいねしたり、チーム設定を更新したりできなくなります。	委任済み (職場または学校のアカウント)	TeamSettings.ReadWrite.All、Gr Directory.ReadWrite.All**
	チームを作成	既存の Office 365 グループからチームを作成します。 **注:** チーム ID はグループ ID と同じです。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Group.ReadWrite.All、Directory.
	チームを削除	指定されたチームを削除します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Group.ReadWrite.All
	チームを検索	チームのプロパティと関係を取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Team.ReadBasic.All、TeamSettin
	チームメンバーのストリームを検索	チームメンバーのリストを取得します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	TeamMember.Read.All、TeamMe
	ユーザーでチームを検索	ID とその表示名を含め、ユーザーのチームをリストします。	委任済み (職場または学校のアカウント)	Team.ReadBasic.All、TeamSettin
	チームからメンバーを削除	指定されたチャネルから指定されたメンバーを削除します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	TeamMember.ReadWrite.All
	チームをアーカイブ解除	アーカイブされたチームを復元します。メンバーは、チーム内のチャネルに投稿したり、コメントを作成したり、もう一度投稿にいいねしたりできます。	委任済み (職場または学校のアカウント)	TeamSettings.ReadWrite.All、Gr Directory.ReadWrite.All**
	チームを更新	特定のチームのプロパティを更新します。	委任済み (職場または学校のアカウント)	TeamSettings.ReadWrite.All、Gr Directory.ReadWrite.All**

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の表に示すアクションでは、Microsoft Teams Graph クライアント資格情報の接続および資格情報エイリアスレコードが使用されます。これらのアクションには、アプリケーション権限が必要です。

Microsoft Teams Graph クライアント資格情報の接続および資格情報エイリアスを使用する **Microsoft Teams Graph** スポークアクション

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
カレンダー管理	会議を作成	MS Teams カレンダーのオンライン会議イベントを作成します。	アプリケーション	Calendars.ReadWrite
	会議を削除	MS Teams カレンダーから会議イベントを削除します。	アプリケーション	Calendars.ReadWrite
	会議を検索	MS Teams カレンダーから会議イベントの詳細を取得します。	アプリケーション	Calendars.Read
	会議を検索	MS Teams カレンダーから繰り返し子会議 ID を取得します。	アプリケーション	Calendars.Read
	会議ストリームを検索	MS Teams カレンダーから会議イベントの詳細を取得します。	アプリケーション	Calendars.Read, Calendars.ReadWrite
	会議を更新	MS Teams カレンダーのオンライン会議イベントを作成します。	アプリケーション	Calendars.ReadWrite
Webhook 管理	Webhook サブスクリプションを検索	必要な Webhook サブスクリプションの詳細を取得します。	アプリケーション	ChannelMessage.Read.All、Chat
	Webhook サブスクリプションストリームを検索	すべての Webhook サブスクリプションの詳細を取得します。	アプリケーション	ChannelMessage.Read.All、Chat
	Webhook サブスクリプションを更新	指定された Webhook サブスクリプションを更新します。	アプリケーション	ChannelMessage.Read.All、Chat
	Webhook を登録	指定されたリソースの Webhook サブスクリプションを作成します。	アプリケーション	ChannelMessage.Read.All、Chat
	Webhook を登録解除	指定された Webhook サブス	アプリケーション	ChannelMessage.Read.All、Chat

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Teams Graph クライアント資格情報の接続および資格情報エイリアスを使用する **Microsoft Teams Graph** スポークアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明	必要な権限 (権限の低いものから順に)	
		クリプションを削除します。		

重要: これらのデフォルトのスポーク設定を把握しておいてください。

- 権限許可タイプは、デフォルトで [認証コード] に設定されます。
- [アプリケーション管理]、[チャネル管理]、[チャット管理]、[通知管理]、[チーム管理] カテゴリのすべてのアクション、および [カレンダー管理] カテゴリの [スケジュールを検索] アクションでは、**Microsoft Teams** スポーク接続および資格情報エイリアスを使用します。これらのアクションには委任された権限が必要です。
- カレンダーおよび Webhook 管理スポークアクション (カレンダー管理の [スケジュールを検索] アクションを除く) では、**Microsoft Teams Graph** クライアント認証情報の接続および資格情報エイリアスを使用します。これらのアクションにはアプリケーション権限が必要です。

ユーザーの操作なしで Microsoft Teams Graph スポークを使用する場合は、ユーザーが関与しなくても ServiceNow アプリケーションが Microsoft Teams Graph API にアクセスできるように、権限許可タイプを [クライアント認証情報] に変更する必要があります。権限許可タイプと必要な構成を変更する方法については、ServiceNow - NOW Support のナレッジベース記事「KB1635160」を参照してください。

必要な権限の詳細については、 Microsoft Teamsドキュメントを参照してください。

注: 一部のスポークアクションでは、入力の 1 つとしてチャネル ID、グループ ID、またはチーム ID が必要です。これらの詳細を確認するには、 Microsoft Teamsにログインし、[チーム] に移動して、必要なチャネルの [チャネルへのリンクを取得 **(Get link to channel)]** をクリックします。チャネルリンクには、必要な詳細が含まれています。たとえば、チャネルリンクが `https://teams.microsoft.com/l/channel/ 19%3a1aa3730712e245a0af31e4095d66d613%40thread.skype / New%2520channel%2520in%2520team? groupId= 7fb91938-5e8c-4968-bf7d-3987df7716f3 &tenantId= a46df9b7-2c9b-49d5-8c9f-d1b3de4ba59f`、グループ ID およびチーム ID が `7fb91938-5e8c-4968-bf7d-3987df7716f3`、チャネル ID が `19:1aa3730712e245a0af31e4095d66d613@thread.skype` または `1aa3730712e245a0af31e4095d66d613` などです。

Microsoft Teamsを使用してチャネル ID とグループ ID にアクセスする方法の詳細については、 Microsoft Teamsドキュメントを参照してください。

スポークモジュール

Microsoft Teams Graph スポーク は、Microsoft Teams Graph スポークを ServiceNow インスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

Microsoft Teams Graph スポークモジュール

モジュール	説明
デルタトークン	利用可能なデルタトークンのリストを表示します。
Webhook レジストリ	使用可能な Webhook レジストリのリストを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Teams Graph スポークモジュール (続く)

モジュール	説明
Webhook 決定ポリシー	決定ポリシーのリストを表示します。
Webhook サブスクリプション	Webhook サブスクリプションの詳細を表示します。

Microsoftアカウント要件

Microsoft Teams Graph スポークで OAuth 2.0 トークンを生成するには、MicrosoftAzure ポータルを使用してアプリケーションを登録する必要があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Microsoft Teams Graph スポークの設定。

MID サーバー の要件

Microsoft Teams Graph スポークのアクションは REST コールを使用しており、インスタンスでもMID サーバーでも実行できます。Microsoftエイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所およびMID サーバー選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー 」を参照してください。

Microsoft Teams Graph スポークの設定

Microsoft Azure ポータルにカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと Microsoft Teams アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

Microsoft Teams Graph スポークの設定方法について説明します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Microsoft Teams Graph スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Microsoft Azure ポータルを使用してアプリケーションを登録

アプリケーションを Microsoft Entra ID (Microsoft 旧 Azure Active Directory) に登録して、ServiceNow インスタンスへの認証機能を提供します。

始める前に

必要なロール：Microsoft Entra ID admin

このタスクについて

Microsoft Azure ポータルからこれらの手順を実行します。

手順

1. MicrosoftAzure ポータルで、後で使用するためにディレクトリー **ID** をコピーして記録します。詳細については、MicrosoftEntra ID ドキュメント の「Get tenant and app ID values for signing in (サインインするためのテナントとアプリ ID の値の取得) 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. Azure ポータルでアプリケーションを登録します。アプリケーションの登録手順については、 Microsoft ドキュメント の「 Tutorial: Register an app with Microsoft Entra ID (チュートリアル：Microsoft Entra ID に登録する) 」を参照してください。
3. 後で使用するために、アプリケーション **ID** をコピーして記録します。
4. [リダイレクト **URL**] を `https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` の形式で追加します。
   詳細については、Microsoft Docs の「Azure Time Series Insights API の認証と承認 」を参照してください。
5. [必須権限] については、**[Microsoft Graph]** を選択します。

   詳細については、Microsoft Docs の「Microsoft ID プラットフォームでの権限と同意 」を参照してください。

   スポークアクションを使用するために必要な権限については、Microsoft Teams Graph スポーク の「Spoke actions (スポークのアクション)」のセクションを参照してください。要件に応じて、権限を指定します。権限の詳細については、Microsoft Docs の「Microsoft Graph REST API v1.0 reference (Microsoft Graph REST API v1.0 リファレンス) 」を参照してください。
6. 後の構成で使用できるように [クライアントシークレット] を記録します。

タスクの結果
ServiceNow アプリケーションは Microsoft Entra ID で作成されます。

Microsoft Teams Graph スポーク の接続の構成

Microsoft Teams 接続を追加して構成し、 Microsoft Teams Graph スポーク で ServiceNow 要求を認証します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブをクリックします。
3. **[Microsoft Teams** スポーク] 接続を設定します。

   a. **[Microsoft Teams** スポーク] 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

   > **注:** [接続を追加] はクリックしないでください。

   b. [編集] をクリックするか、スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。

   c. [接続を設定] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	この接続に関連付けられたエイリアスレコードを識別する名前です。
接続 URL	接続 URL です。「`https://graph.microsoft.com`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
API バージョン	値はデフォルトで **[v1.0]** に設定されています。 他の API バージョンを使用している場合は、ここでバージョン番号を更新します。
認証 URL	OAuth 認証コードのエンドポイント`https://login.microsoftonline.com/<Directory-ID>/oauth2/v2.0/authorize` と入力します。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント`https://login.microsoftonline.com/<Directory-ID>/oauth2/v2.0/token` と入力します。
トークン失効 URL	OAuth サーバートークン失効エンドポイントです。
OAuth クライアント ID	アプリケーション登録時に作成されたアプリケーション ID です。
OAuth クライアントシークレット	アプリケーション登録時に作成したクライアントシークレット
OAuth リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイント。`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` と入力します。

d. [OAuth トークンを設定して取得] をクリックします。

4. [Microsoft Teams Graph クライアント認証情報 **(Microsoft Teams Graph Client Credentials)]** 接続を設定します。
[スケジュールを検索] アクションを除き、他のすべてのカレンダーおよび Webhook 管理スポークアクションでは、この接続レコードを使用します。

a. [Microsoft Teams Graph クライアント認証情報 **(Microsoft Teams Graph Client Credentials)]** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

> **注:** [接続を追加] はクリックしないでください。

b. [編集] をクリックするか、スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。

c. フォームのフィールドに入力します。

[接続を設定] フォーム

フィールド	説明
名前	この接続に関連付けられたエイリアスレコードを識別する名前です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続 URL	接続 URL です。「`https://graph.microsoft.com`」と入力します。
API バージョン	値はデフォルトで **[v1.0]** に設定されています。 他の API バージョンを使用している場合は、ここでバージョン番号を更新します。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイント`https://login.microsoftonline.com/<Directory-ID>/oauth2/v2.0/token` と入力します。
OAuth クライアント ID	アプリケーション登録時に作成されたアプリケーション ID です。
OAuth クライアントシークレット	アプリケーション登録時に作成したクライアントシークレット

d. [OAuth トークンを設定して取得] をクリックします。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、スポークの使用準備ができました。

Microsoft Teams Graph スポーク用の双方向 **Webhook** の設定

ServiceNow コールバック URL を使用して、Microsoft Teams を登録する Webhook を構成します。

https://player.vimeo.com/video/1017605866?h=b990f0cb15&badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

始める前に
- 必要な統合ハブサブスクリプションの要求
- Microsoft Teams Graph スポーク の有効化
- 必要なロール：admin

ServiceNow インスタンスでの **Microsoft Teams Graph Webhook** の登録

Microsoft Teams で特定のイベントが発生したときに ServiceNow アプリに通知するために、Microsoft Teams を ServiceNow インスタンスに登録します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. **[Microsoft Teams Graph** スポーク] > **[Webhook** レジストリー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	Webhook レジストリを識別する名前です。例：`MS Teams Graph Webhook レジストリ`。
クライアントステータス	クライアントステータス
パス	Microsoft Teams Graph Webhook パス。このフィールドは `api/sn_msteams_ahv2/ms_teams_webhook` に自動入力されます。
説明	Webhook レジストリの説明です。

4. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
5. [コールバック **URL]** をクリックします。
   Webhook コールバック URL が自動入力されます。

チャネルの **Webhook** サブスクリプションの作成

[Webhook を登録] サブフローをテストして、チーム内の必要なチャネルの Webhook サブスクリプションを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

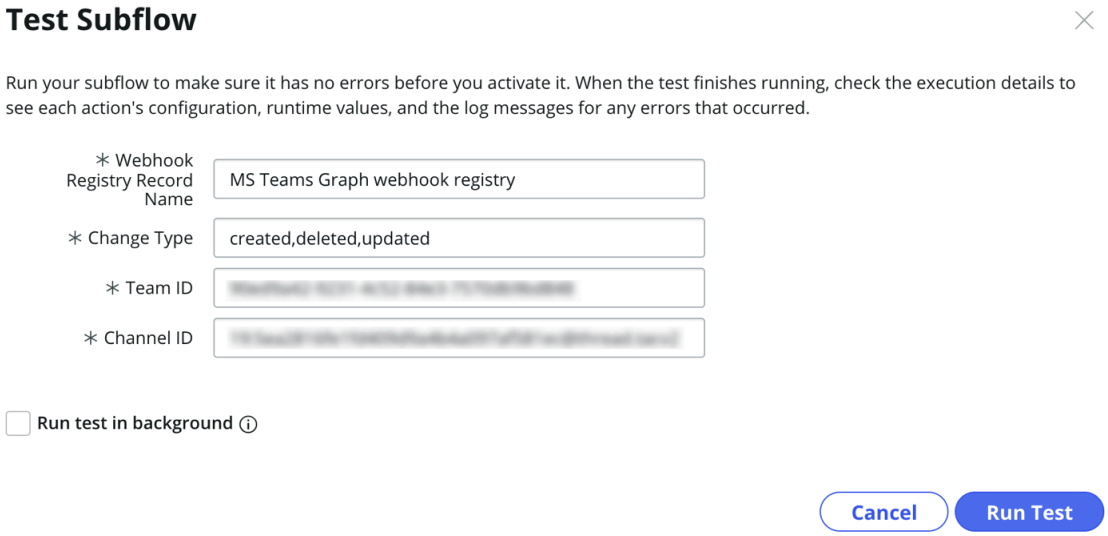
手順

1. [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ]に移動します。
2. [サブフロー] をクリックします。
3. **[Webhook** を登録] サブフローを開きます。
4. [テスト] をクリックします。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
Webhook レジストリレコード名	ServiceNow インスタンスに Webhook を登録したときに指定した Webhook レコードの名前。例：`MS Teams Graph Webhook レジストリ`。
変更タイプ	変更通知を送信する登録済みリソースの変更のタイプ。サポートされている値は、[作成済み]、[更新済み]、[削除済み] です。複数の値をカンマで区切って指定できます。
チーム ID	チームの一意の識別子。
チャネル ID	チャネルの一意の識別子。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[Webhook を登録] サブフローをテストする



6. [テストを実行] をクリックします。
   必要なチャネルのサブスクリプションが作成されます。

   サブフローのテストの詳細については、「サブフローのビルド」を参照してください。

スポークサブフローのカスタマイズ

スポークに付属する必要なサブフローのコピーを作成してカスタマイズします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ]に移動します。
2. [サブフロー] をクリックします。
3. Microsoft Teams Graph スポークに付属する必要なサブフローを開きます。
   たとえば、受信通知の処理のサブフローです。
4. その他のアクションアイコン ( ) をクリックし、[サブフローのコピー] を選択します。
5. [新しいフロー名] に、コピーしたサブフローに付ける一意の名前を入力します。
   たとえば、受信通知の処理のコピーのサブフローです。
6. [コピー] をクリックします。
   サブフローのコピーが作成されます。
7. 要件に応じてサブフローをカスタマイズし、公開します。
   サブフローの作成と使用の詳細については、「サブフローのビルド」を参照してください。

Microsoft Teams Graph Webhook 決定ポリシーの構成

要件に従って、Webhook ルーティングポリシーとサブフローを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. **[Microsoft Teams Graph** スポーク] > **[Webhook** 決定ポリシー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。
回答	条件が満たされるとトリガーされるサブフローです。 a. [ルックアップ] アイコンをクリックします。 b. ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。たとえば、受信通知の処理のコピーなどです。
デフォルトの回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。
条件	受信 Webhook が Microsoft Teams からデータを配信するときに満たすべき条件です。

4. [送信] をクリックします。

> **注:** これらのルーティングポリシーは意思決定テーブルに保存されます。ユーザーは、これらのテーブルのデータを直接更新または変更しないように注意してください。

Microsoft Teams スポーク

Microsoft Teams スポークは、メッセージ、ServiceNow のインシデント、問題、および変更レコードの詳細を Microsoft Teams のチャネルに投稿するアクションを提供します。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Microsoft Teams Spoke v1.1.3 が最新バージョンです。

Microsoft Teams のアクション

Microsoft Teams スポークは 統合ハブ を通じて利用できる統合です。次の Microsoft Teams アクションをフローの中で指定できます。

アクション	説明
メッセージを投稿	Webhook コネクタを使用して、Microsoft Teams チャネルにメッセージを送信しま

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明
	す。Webhook の URL、タイトル、および送信するメッセージを指定します。
変更の詳細を投稿	Webhook コネクタを使用して、ServiceNow の変更レコードの詳細を Microsoft Teams チャネルに送信します。Webhook の URL と送信する変更レコードを指定します。
インシデントの詳細を投稿	Webhook コネクタを使用して、ServiceNow インシデント レコードの詳細を Microsoft Teams チャネルに送信します。Webhook の URL と送信するインシデント レコードを指定します。
問題の詳細を投稿	Webhook コネクタを使用して、ServiceNow の問題レコードの詳細を Microsoft Teams チャネルに送信します。Webhook の URL と送信する問題レコードを指定します。

Microsoft Teams の入力

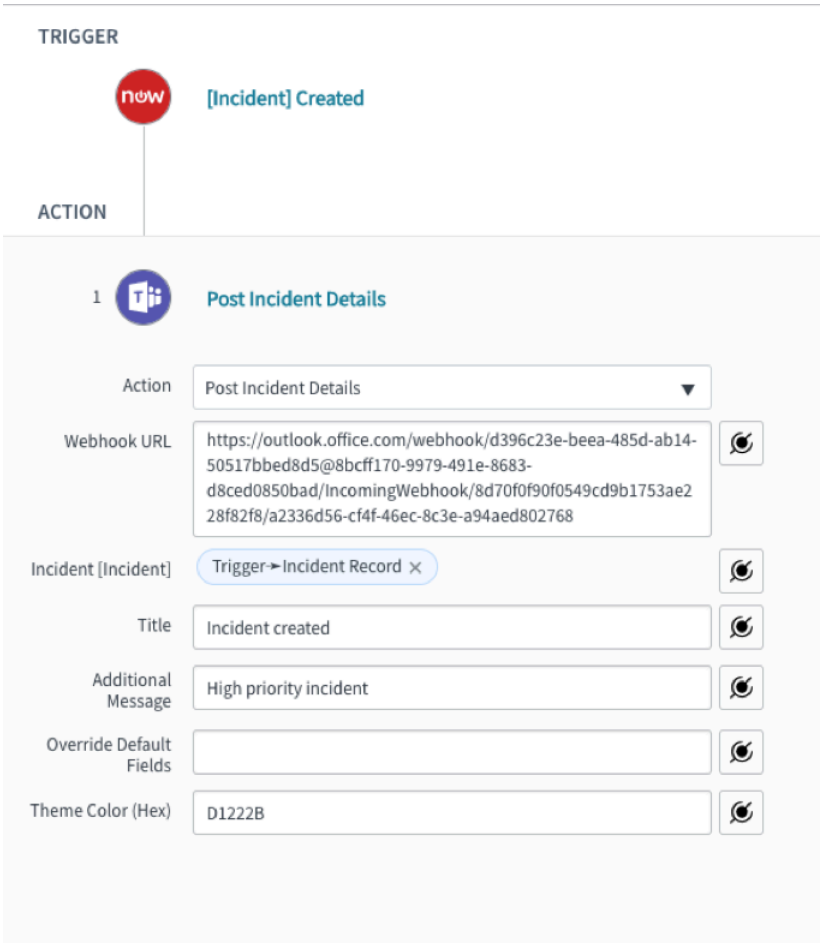
次の入力は Microsoft Teams のアクションに共通のものです。

入力	説明
[必須] Webhook の URL	メッセージを送信するための Microsoft Teams Webhook。このアクションの設定を行う前に Webhook をセットアップしてください。Microsoft Teams のマニュアルでカスタムの受信 Webhook を参照してください。
[オプション] タイトル	メッセージのタイトル。
[オプション] 追加メッセージ	レコードの詳細の前にメッセージを追加します。
[オプション] デフォルト フィールドを上書きする	デフォルトのフィールドの代わりにカンマ区切りのフィールド名のリストを指定して送信することができます。デフォルトのフィールドは、簡単な説明、カテゴリ、ステータス、優先度、およびアサイン先グループです。
[オプション] テーマの色 (16 進数)	メッセージを強調表示するための色の 16 進コード値。
[オプション] アクションの URL	ボタンをクリックしたときに開くページの URL。詳細については、「https://learn.microsoft.com/en-us/microsoftteams/platform/webhooks-and-connectors/how-to/connectors-using?tabs=cURL」を参照してください。
[オプション] アクション名	フローで自動化できるアクションの名前。

例

Microsoft Teams の「インシデントの詳細を投稿」アクションをフローに追加して、新しく作成された優先度の高いインシデントと指定されたテーマの色を識別できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



Miro スポーク

Miro スポークは、Miro ソフトウェアサブスクリプションの有意義な使用状況データを表示および分析するアクションを提供します。Miro Enterprise アカウントの使用状況を分析して古いライセンスを特定することで、これらのライセンスを再利用して見込まれる節減を実現できるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Miro スポーク v3.0.8 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは、Miro Enterprise バージョン v2 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

- Miro会社アドミンアカウント
- Miroアカウントで SSO/SAML が有効

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Miro Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにMiroタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

注: 不正アクセスを防ぐために、Miro で必要なスコープには、スポークアクションに対する最小限の特権を付与するようにしてください。

カテゴリ	アクション	説明	Miro で必要なスコープ
ボードアイテム管理	ボードにカードアイテムを追加	Miro のボードにカードアイテムを追加します。	boards:write
	ボードに形状アイテムを追加	Miro のボードに形状アイテムを追加します。	boards:write
	ボードに固定メモアイテムを追加	Miro のボードに固定メモアイテムを追加します。	boards:write
	ボードにテキストアイテムを追加	Miro のボードにテキストアイテムを追加します。	boards:write
ボード管理	ボードの作成	Miro でボードを作成します。	boards:write
	ボードを削除	Miro の指定されたボードを削除します。	boards:write
	ボードを検索	指定されたボードに関する情報を Miro から取得します。	boards:read
	ボードストリームを検索	Miro 内のすべてのボードに関する情報を取得します。	boards:read
	ボードの更新	Miro の指定されたボードを更新します。	boards:write
チーム管理	チームにユーザーを追加	チームに Miro ユーザーを追加します。	organizations:teams:write
	チームを作成	Miro で新しいチームを作成します。	organizations:teams:write

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明	Miro で必要なスコープ
	チームを削除	組織からチームを削除します。	organizations:teams:write
	チームを検索	指定されたチームに関する情報を Miro から取得します。	organizations:teams:read
	チームストリームを検索	組織内のチームのリストを取得します。	organizations:teams:read
	チームからユーザーを削除	チームから Miro ユーザーを削除します。	organizations:teams:write
	チームを更新	Miro の指定されたチームを更新します。	organizations:teams:write
ユーザー管理	ユーザーを有効化	Miro アカウントの指定されたユーザーを有効にします。	適用外です。これは Miro SCIM アクションです。
	ユーザーを作成	Miro アカウントにユーザーを作成します。	適用外です。これは Miro SCIM アクションです。
	ユーザーの非アクティブ化	Miro ユーザーアカウントを無効にします。	適用外です。これは Miro SCIM アクションです。
	ユーザーを削除	Miroアカウントからユーザーを削除します。	適用外です。これは Miro SCIM アクションです。
	認証ユーザーを検索	認証されたユーザーアカウントに関する情報を取得します。	なし。
	組織メンバーのストリームを検索	組織内のすべてのメンバーの詳細を取得します。	organizations:read
	ユーザーを検索	指定されたユーザーの情報を取得します。	適用外です。これは Miro SCIM アクションです。
	ユーザーストリームを検索	組織内のユーザーのリストを取得します。	適用外です。これは Miro SCIM アクションです。
	ユーザーを更新	Miro の指定されたユーザーを更新します。	適用外です。これは Miro SCIM アクションです。

スポークのフロー

Miro スポークでは、Miro タスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
Miro チームにユーザーを追加	ServiceNow インスタンスのグループメンバーとグループに基づいて、Miro のユーザーと関連チームを検索して、ユーザーを Miro チームに追加します。
Miro チームから非アクティブユーザーを削除	Miro チームのユーザー、つまり ServiceNow インスタンスのグループメンバーを検索し、Miro の各チームからユーザーを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークモジュール

Miro スポークは、Miro スポークモジュールを ServiceNow インスタンスに追加します。Miro スポークモジュールは、Miro チームと Miro ユーザーに関する情報を同期して保存します。Miro スポークには次のテーブルが含まれています。

- Miro チーム (sn_miro_spoke_teams)
- Miro ユーザー (sn_miro_spoke_users)

モジュール	説明
Miro チーム	Miro のすべてのチームをリストします。
Miro ユーザー	Miro のすべてのユーザーをリストします。

Integration Hub インポート

Miro スポークは、次の Integration Hub インポートを ServiceNow インスタンスに追加します。Integration Hub インポートは、Miro アカウントから ServiceNow インスタンスにデータを自動的にインポートするのに役立ちます。Integration Hub インポートの詳細については、「統合ハブ - インポート」を参照してください。

インポート	説明
Miro チームのレコードを作成または更新	Miro アカウントから Miro チームテーブルにチームの詳細をインポートします。
Miro ユーザーのレコードを作成または更新	Miro アカウントから Miro ユーザーテーブルにユーザーの詳細をインポートします。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Miro Spoke を設定。

Miro Spoke を設定

Miroでカスタム OAuth アプリケーションを作成してServiceNowインスタンスとMiroをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Miro スポークを有効にします。
- 必要なロール：
  - ServiceNow アドミン
  - Miro 会社の管理者

Miro EnterpriseOAuth 2.0 アプリケーションを作成

Miro EnterpriseOAuth 2.0 アプリケーションを作成して、MiroAPI へのアクセスを有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：Miro 会社アドミン。

手順

1. Web ブラウザーから Miro プラットフォーム を開きます。
2. 組織内にチームを作成していない場合、または偽のデータを使用して OAuth 2.0 アプリケーションをビルドしてテストする場合は、 開発者チームを取得します 。
3. Miroプラットフォームのページヘッダーで、[ご使用のアプリ **(Your Apps)**] をクリックします。
サインアップページが開きます。
4. 会社アドミンの認証情報を使用してサインインします。
デフォルトの組織プロファイルが開きます。
5. 左側のナビゲーションペインの上部にある組織プロファイルアイコンをクリックして、OAuth 2.0 アプリケーションをビルドする組織を選択します。
選択された組織のプロファイルが開きます。
6. 左側のナビゲーションペインで、[プロファイル設定 **(Profile settings)**] をクリックします。
7. プロファイル設定の [API、SDK、および埋め込み **(API, SDK & Embed)**] タブを選択します。
8. アプリセクションで、[契約条件に同意し ます] チェックボックスをオンにして、[新規アプリを作成 **(Create new app)**] をクリックします。
[新規アプリを作成 (Create new app)] ダイアログボックスが開きます。
9. ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

[新規アプリを作成 **(Create new app)**] ダイアログボックス

フィールド	説明
アプリ名	OAuth 2.0 アプリケーションの名前
説明	OAuth 2.0 アプリケーションの簡単な説明

10. OAuth 2.0 アプリケーションをビルドするチームを選択します。
11. [アプリを作成] をクリックします。
新しく作成したアプリの設定が開きます。
12. アプリの <*app-name*> セクションで、[クライアント **ID**] と [クライアントシークレット] フィールドの値をコピーします。
後で使用できるように安全な場所に保存してください。
13. リダイレクト URL セクションで、認証後にユーザーがリダイレクトされる OAuth プロバイダーの URL を入力し、[追加] をクリックします。
`https://`*`instance`*`.service-now.com/oauth_redirect.do` と入力します。<*instance*> はServiceNowインスタンスの名前です。
14. OAuth スコープセクションで、**organizations:read** OAuth スコープを有効にします。
OAuth スコープは、アプリケーションが保護されたリソースに対して持つアクセスのレベルを指定します。organizations:read OAuth スコープを使用すると、アプリケーションで組織および組織メンバーに関する情報を読み取ることができます。

次のタスク
組織プロファイルを開いたままにして、Miro Enterpriseアカウントで SCIM (クロスドメイン ID 管理システム) を有効にできるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Miro Enterpriseアカウントで **SCIM** を有効化

Miro Enterpriseアカウントで SCIM (クロスドメイン ID 管理システム) を有効にして、MiroAPI 要求を認証するための API アクセストークンを生成できるようにします。

始める前に
必要なロール：Miro 会社アドミン

手順

1. Miro組織プロファイルの左側のナビゲーションペインで、[セキュリティ] をクリックします。
2. セキュリティのページで、**SSO/SAML** を有効にするオプションを選択します。
3. SSO/SAML を有効にした後、**SCIM** プロビジョニングを有効にするオプションを選択します。
   Miroは、API アクセストークンを自動的に生成し **[API** トークン] フィールドに表示します。
4. オプション: MiroSCIM を使用してプロビジョニングされたすべてのユーザーにメール通知を送信できるようにするには、**[SCIM** によってプロビジョニングされたユーザーにメール通知を送信] チェックボックスをオンにします。
5. **[API** トークン] フィールドに API アクセストークンをコピーします。
   後で使用できるように安全な場所に保存してください。

Miro Enterprise接続を作成

Miro EnterpriseアプリケーションとServiceNowインスタンスの間に接続を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ServiceNowインスタンスで、[プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
   フローデザイナーが新しいタブで起動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. Miro Enterprise接続の [詳細を表示] をクリックします。
4. Miro Enterprise接続の詳細から、[接続を追加] をクリックします。
   [接続を作成] ダイアログボックスが開きます。
5. ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

[接続を作成] ダイアログボックス

フィールド	説明
接続情報	
接続名	Miro Enterprise接続の名前です。このフィールドは、自動的に入力されます。
認証情報	
OAuth クライアント ID	Miro EnterpriseOAuth 2.0 アプリケーションに割り当てられているクライアント ID
OAuth クライアントシークレット	Miro EnterpriseOAuth 2.0 アプリケーションに割り当てられているクライアントシークレット

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
OAuth リダイレクト URL	認証後にユーザーがリダイレクトされる OAuth プロバイダーの URL。このフィールドは、Miro EnterpriseOAuth 2.0 アプリケーションを作成で指定したリダイレクト URL に基づいて自動的に入力されます。

6. **[OAuth** トークンを作成して取得] クリックします。
   Miro [OAuth 認証] ダイアログボックスが開きます。
7. ダイアログボックスで、Miro EnterpriseOAuth 2.0 アプリケーションをビルドしたチームを見つけて、[インストール] をクリックします。
   OAuth アクセストークンは、Miro Enterprise接続を許可するために使用できるようになります。

Miro EnterpriseSCIM 接続を作成

Miro EnterpriseSCIM とServiceNowインスタンスの間に接続を作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. ServiceNowインスタンスで、[プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
   フローデザイナーが新しいタブで起動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. Miro EnterpriseSCIM 接続の [詳細を表示] をクリックします。
4. Miro EnterpriseSCIM 接続の詳細から、[接続を追加] をクリックします。
   [接続を作成] ダイアログボックスが開きます。
5. ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

[接続を作成] ダイアログボックス

フィールド	説明
接続情報	
接続名	Miro EnterpriseSCIM 接続の名前このフィールドは、自動的に入力されます。
認証情報	
API トークン	MiroAPI 要求を認証するための API アクセストークン生成してコピーした同じ API アクセストークンをMiro Enterpriseアカウントで SCIM を有効化に入力します。

6. [接続を作成] をクリックします。

monday.com スポーク

monday.com スポークは、monday.com ソフトウェアサブスクリプションの有意義な使用状況データを表示および分析するアクションを提供します。monday.com アカウントの使用状況を分析して古いライセンスを特定することで、これらのライセンスを再利用して見込まれる節減を実現できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークの要件

monday.com アドミンアカウント。

スポークバージョン

monday.com v1.1.4 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

monday.com Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにmonday.comタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ボード管理	登録者をボードに追加	指定された登録者をボードに追加します。
	ボードをアーカイブ	指定されたボードをアーカイブします。
	ボードの作成	ボードを作成します。
	ボードを削除	指定されたボードを削除します。
	ボードから登録者を削除	指定された登録者をボードから削除します。
	ボードを複製	指定されたボードの複製を作成します。
	ボードアクティビティストリームを検索	指定されたボードのアクティビティを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ID でボードを検索	指定されたボードの詳細を取得します。
	ボードストリームを検索	ボードのリストを取得します。
	ボードの説明を更新	指定されたボードの説明を更新します。
列管理	列を作成	指定されたボードに列を作成します。
	ボード ID で列を検索	指定されたボードのすべての列の詳細を取得します。
	列タイトルを更新	指定された列のタイトルを更新します。
列値の管理	列値を検索	指定されたボードとアイテムの列値の詳細を取得します。☒
ファイル管理	ファイル列にファイルを追加	特定のアイテムのファイル列にファイルを追加します。☒
	更新するファイルを追加	指定された更新にファイルを追加します。
	ID でファイルを検索	指定されたファイルの詳細を取得します。
	ボード ID でファイルを検索	指定されたボードのファイルの詳細を取得します。
グループ管理	グループをアーカイブ	指定されたグループをアーカイブします。
	グループを作成	指定されたボードに空のグループを作成します。☒
	グループを削除	指定したグループを削除します。
	グループを複製	指定されたグループの複製を作成します。
	ID でグループを検索	指定されたボード ID とグループ ID のグループの詳細を取得します。
	ボード ID でグループを検索	ボードのすべてのグループの詳細を取得します。
アイテム管理	アイテムをアーカイブ	指定されたアイテムをアーカイブします。
	アイテムの更新をクリア	返信やいいねを含む、特定のアイテムのすべての更新をクリアします。☒
	アイテムを作成	グループ内にアイテムを作成します。
	サブアイテムを作成	指定された親アイテムの新しいサブアイテムを作成します。 **注:** API を使用してサブアイテムを作成するには、ボードにサブアイテム列が既に存在するか、少なくとも 1 つのサブアイテムが作成されている必要があります。
	アイテムを削除	指定されたアイテムをグループから削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	アイテムを複製	グループ内に指定されたグループの複製を作成します。☒
	アイテムを検索	指定されたボードとグループのアイテムの詳細を取得します。☒
	ID でアイテムを検索	指定されたアイテムの詳細を取得します。
	ボード ID でアイテムストリームを検索	指定されたボードのアイテムを取得します。
	アイテムをグループに移動	同じボード内のグループ間でアイテムを移動させます。
通知管理	通知を作成	指定された詳細を含む通知を作成します。
タグ管理	タグを作成または検索	指定されたタイプのタグが存在しない場合にタグを作成します。タグが既に存在する場合は、タグの詳細を取得します。
	共有可能タグまたはプライベートタグを検索	ボード固有のプライベートタグまたは共有可能タグの詳細を取得します。☒
	ID でタグを検索	メインボードに表示されている指定された公開タグの詳細を取得します。デフォルトでは、すべてのメンバーレベルおよびビューアーレベルのユーザーがメインボードにアクセスできます。
	タグを検索	メインボードに表示されているすべての公開タグの詳細を取得します。デフォルトでは、すべてのメンバーレベルおよびビューアーレベルのユーザーがメインボードにアクセスできます。☒
チーム管理	ID でチームを検索	指定されたチームの詳細を取得します。☒
	チームを検索	チームの詳細を取得します。☒
更新管理	更新を作成	指定されたアイテムに更新を追加します。
	更新を削除	アイテムの指定された更新を削除します。
	更新ストリームを検索	更新のリストを取得します。☒
ユーザー管理	ユーザーを検索	指定されたタイプのユーザーの詳細を取得します。☒
	ID でユーザーを検索	指定されたユーザーの詳細を取得します。
	ユーザーストリームを検索	ユーザーのリストを取得します。☒
Webhook 管理	Webhook を作成	指定されたイベントに基づいて Webhook サブスクリプションを作成します。☒
	Webhook を削除	指定された Webhook を削除します。
ワークスペース管理	ワークスペースにチームを追加	指定されたチームを必要なワークスペースに追加します。☒
	ワークスペースにユーザーを追加	指定されたユーザーを必要なワークスペースに追加し、ユーザーを通常のサブスクライバーとして追加するか、ワークスペースの所有者として追加するかを指定します。☒

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ワークスペースを作成	ワークスペースを作成します。
	ワークスペースからチームを削除	指定されたチームを必要なワークスペースから削除します。☒
	ワークスペースからユーザーを削除	指定されたユーザーをワークスペースから削除します。☒

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

スポークモジュール

monday.com スポークは、Monday スポークアプリケーションをインスタンスに追加し、以下のモジュールを含めます。

モジュール	説明
ユーザー	monday.com のユーザーのリストを表示します。
ボード	monday.com のすべてのボードのリストを表示します。
ルーティングポリシー	monday.com スポークのルーティングポリシーのリストを表示します。
Webhook レジストリ	monday.com スポークの Webhook レジストリーのリストを表示します。

スポークのサブフロー

monday.com スポークでは、monday.com アプリケーションと統合するためのサブフローが「公開済み」ステータスで提供されています。

カテゴリ	サブフロー	説明
Webhook 管理	Monday Webhook を処理	monday.com で関連する登録済みイベントがトリガーされたときに実行します

スポークテーブル

monday.com スポークは、次のテーブルを追加します。

テーブル	説明
Monday ボード	monday.com アカウントに存在するすべてのボードを保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 monday.com Spoke を設定。

monday.com Spoke を設定

monday.comでカスタム OAuth アプリケーションを作成してServiceNowインスタンスとmonday.comをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- monday.com スポークを有効にします。
- monday.com の必要なロール：admin
- 必要なロール：admin

mondayOAuth2 アプリケーションを作成

mondayOAuth2 アプリケーションを作成して、monday.comAPI へのアクセスを許可します。

始める前に

必要なロール：monday.com admin

このタスクについて

mondayアプリケーションを使用すると、既存のmonday.com作業のオペレーティングシステム (作業 OS) の上にワークフロー、ユーザーエクスペリエンス、および製品をビルドできます。OAuth2 を使用するようにmondayアプリケーションを構成すると、monday.comAPI へのアクセス権が付与され、ユーザーデータを読み取って変更できるようになります。

手順

1. Web ブラウザから、 monday.com にアクセスします。
2. アドミン認証情報を使用してログインします。
3. 左側のナビゲーションメニューの下部にあるプロファイルアイコンをクリックし、[開発者] を選択します。
   [自分のアプリケーション] ページが開きます。
4. [アプリを作成] をクリックします。
   新しいアプリケーションの [基本情報] ページが開きます。
5. [情報を表示] セクションで、フィールドに入力します。

   情報を表示

フィールド	説明
名前	mondayアプリケーションの名前
簡単な説明	アプリケーションの説明

6. オプション: 同じセクションで、自動生成されたアイコンをクリックしてアイコン画像を選択し、独自のアプリケーションアイコンを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[アプリの色] をクリックしてプリセットまたはカスタムの色を選択し、アイコンの色を変更することもできます。独自のアプリケーションアイコンを追加しない場合、またはアイコンの色を選択しない場合、アプリケーションは自動生成されたアイコンとデフォルトのアイコン色を使用します。

7. [アプリの認証情報] セクションで、[クライアント **ID]** と [クライアントシークレット] フィールドの値をコピーします。
   後で使用できるように安全な場所に保存してください。
8. [アプリを保存 **(Save App)]** をクリックします。
9. 新しいアプリケーションの左側のナビゲーションメニューから、[一般] > **[OAuth]**に移動します。
   [OAuth と権限 (OAuth & Permissions)] のページの [スコープ] タブが開きます。
10. [スコープ] セクションで、要件に応じて次の OAuth スコープのチェックボックスをオンにして、アプリケーションがさまざまなタイプのユーザーデータにアクセスしたり、それらを使用したりする方法を指定します。
    - **me:read**
    - **boards:read**
    - **boards:write**
    - **workspaces:read**
    - **workspaces:write**
    - **users:read**
    - **users:write**
    - **account:read**
    - **notifications:write**
    - **updates:read**
    - **updates:write**
    - **assets:read**
    - **tags:read**
    - **teams:read**
    - **webhooks:write**

    権限スコープの詳細については、「Set Up Permission Scopes (権限スコープの設定)」を参照してください。
11. [機能を保存 **(Save Feature)]** をクリックします。
12. [OAuth と権限 (OAuth & Permissions)] ページの [リダイレクト **URL]** タブを選択します。
13. [リダイレクト URL] セクションで、ユーザーが認証後にリダイレクトされる OAuth プロバイダーの URL を入力します。
    `https://instance.service-now.com/oauth_redirect.do` と入力します。<*instance*> はServiceNowインスタンスの名前です。
14. [機能を保存 **(Save Feature)]** をクリックします。
15. [管理] > [アプリバージョン]に移動します。
16. [アクション] の下にある 3 つのドットメニューをクリックし、[ライブに昇格 **(Promote to live)]** を選択します。
    詳細については、「Promoting a draft version to live (ライブへのドラフトバージョンの昇格)」を参照してください。
17. [選択したバージョンを昇格 **(Promote selected version)]** ポップアップで、[昇格] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

mondayの接続を作成

mondayアプリケーションとServiceNowインスタンスの間に接続を作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. ServiceNowインスタンスで、[プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
   フローデザイナーが新しいタブで起動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. monday接続を見つけて、[接続を追加] をクリックします。
   [接続と資格情報を作成] ダイアログボックスが開きます。
4. ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

[接続と資格情報を作成] ダイアログボックス

フィールド	説明
接続名	接続の名前。
接続 URL	monday.comAPI のベース URL このフィールドは自動的に `https://api.monday.com/v2` に設定されます。
OAuth クライアント ID	mondayアプリケーションに割り当てられているクライアント ID
OAuth クライアントシークレット	mondayアプリケーションに割り当てられているクライアントシークレット
OAuth リダイレクト URL	認証後にユーザーがリダイレクトされる OAuth プロバイダーの URL。このフィールドは、mondayOAuth2 アプリケーションを作成で指定したリダイレクト URL に基づいて自動的に入力されます。

5. **[OAuth** トークンを作成して取得] をクリックします。
   [アプリを認証] ダイアログボックスが開きます。
6. ダイアログボックスで、mondayアプリケーションの作成に使用した同じmonday.com認証情報を使用してサインインします。
7. [許可] をクリックします。
   OAuth アクセストークンは、monday接続を許可するために使用できるようになります。

monday.com スポークの双方向 **Webhook** の設定

ServiceNow コールバック URL で monday.com に登録するための Webhook を設定します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- monday.com スポークを有効にします。
- monday.com Spoke を設定。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow への monday Webhook の登録

ServiceNow に monday Webhook を登録して、monday.com で特定のイベントが発生したときに ServiceNow アプリに通知します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Monday スポーク]** > **[Webhook]** > [ルーティングポリシー] > **[Webhook レジストリー]**に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	Webhook レジストリーを一意に識別する名前です。例：`monday スポーク Webhook レジストリー`。
パス	monday Webhook パス。
トークン	monday.com スポーク要求を検証するために使用される ServiceNow インスタンスからの認証トークン。

4. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
5. [コールバック **URL]** をクリックします。
   Webhook コールバック URL が表示されます。
6. Webhook コールバック URL をコピーして記録します。

タスクの結果
monday Webhook が ServiceNow インスタンスに登録され、コールバック URL が生成されます。

monday.com のコールバック URL の追加

monday アカウントで Webhook コールバック URL を指定して、Webhook を作成します。

始める前に

- ServiceNow インスタンスに monday Webhook を登録し、コールバック URL を生成します。
- 必要なロール：admin

手順

1. monday.com にログインします。
2. [ワークスペース] > [統合] > [統合センター **(Integrations Center)]** > **[Webhooks]** > [ボードに追加 **(Add to board)]**に移動します。
3. ワークスペースを開き、[統合] を右クリックします。
4. [統合センター **(Integrations Center)]** タブで、**[Webhooks]** をクリックします。
5. イベントタイプを選択し、[ボードに追加 **(Add to board)]** をクリックします。
6. 生成されたコールバック URL を ServiceNow インスタンスから指定し、[コネクト] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

monday.com スポークの双方向 Webhook のカスタマイズ

Webhook ルーティングポリシーを作成し、要件に従ってサブフローをカスタマイズします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [サブフロー] をクリックします。
3. 利用可能ないずれかのサブフローのコピーを作成します。
4. 要件に応じてサブフローをカスタマイズし、公開します。
5. **[Monday** スポーク] > [ルーティングポリシー]に移動します。
6. [新規] をクリックします。
7. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。
回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。 **a.** 検索アイコンをクリックします。 **b.** ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。 注: テーブル名が「フロー [sys_hub_flow]」であることを確認します。
条件	受信 Webhook が monday.com からデータを配信するときに満たすべき条件。

8. [送信] をクリックします。

注: これらのルーティングポリシーは意思決定テーブルに保存されます。ユーザーは、これらのテーブルのデータを直接更新または変更しないように注意してください。

Metrikus スポーク

Metrikus スポークは、職場に設置された各種センサー (占有センサー、空気質センサー、温度センサーなど) からデータを取得するアクションを提供します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには統合ハブのサブスクリプションが必要です。詳細については、Metrikus スポーク - 統合ハブの概要 を参照してください。

サポートされているバージョン

このスポークは Metrikus Beta v1.0 用にビルドされました。

主な機能

Metrikus スポークをフローデザイナー統合ハブと統合します。Metrikus から占有センサーデータをフェッチし、以下を実現します。

- イベントデータの取得。たとえば、従業員が会議室に入室したとき、従業員がデスクを占有したときなどです。Metrikus からワークプレイスコネクタスペースレコードの占有データを取得します。
- 占有データの取得。
- 占有データは、自動予約チェックインの構成に使用されます。
- ワークプレイスサービスデリバリの場所ディレクトリには、選択した場所またはスペースの占有状況が表示されます。

スポークの要件

- Metrikus ログイン認証情報があることを確認している。
- Metrikus からクライアント ID とクライアントシークレットキーが提供されている。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム [com.glide.hub.integration.runtime]
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - OpenAPI [com.glide.hub.action_step.openapi]
- Metrikus スポーク [com.sn.wsd.metrikus.spoke]

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Metrikus スポーク は、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

アクション

アクション	説明
スペースツリーを検索	Metrikus から場所階層とともにすべてのスペースを取得します。
スペース占有バッチを検索	スペースのバッチ (例：2000) を取得し、Metrikus からすべてのバッチの占有データを取得して結合し、マッピングします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション (続く)

アクション	説明
最新のデスク占有率を検索	バッチ内のデスク (例：2000) の占有データを取得します。
最新のスペース占有率を検索	バッチ内のスペース (例：2000) の占有データを取得します。
デスク占有バッチを検索	デスクのバッチ (例：2000) を取得し、占有データを取得して結合し、Metrikus スポーク とマッピングします。

スポークのサブフロー

Metrikus スポークでは、ワークプレイスコネクタ タスクの自動化をデモするためのサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
ID 別のすべての占有率を取得	ワークプレイスコネクタのスペースとデスクの両方の占有データを取得します。
ID 別、デスク別の占有率を取得	すべてのデスクの占有データを取得します。**[ID** 別のすべての占有率を取得 **(Get All Occupancy by Ids)]** サブフローによって呼び出されます。
スペース別の占有率を取得	すべてのスペースの占有率を取得します。**[ID** 別のすべての占有率を取得 **(Get All Occupancy by Ids)]** サブフローによって呼び出されます。

スポークユーザーロール

Metrikus スポークは、データへのアクセスを制御するためのシステムアドミニストレーターユーザーロールを提供します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

Metrikus スポークの設定

ServiceNow インスタンスと Metrikus スポークを統合します。Metrikus スポークの接続および資格情報エイリアスを作成し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Metrikus スポーク プラグイン依存関係がアクティブ化されていることを確認します。
- Metrikus スポーク プラグイン (sn_wsd_metrikus_spoke) をアクティブ化します。
- Metrikus のクライアント ID とクライアントシークレットキー。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Metrikus と ServiceNow インスタンスの統合

Metrikus アカウントへの接続レコードを作成します。Metrikus スポーク接続および資格情報エイリアスでは、こうした接続を使用して Metrikus でアクションを実行します。

手順

1. [すべて] > 統合ハブ > [接続および認証情報] > *Metrikus*に移動します。
2. [新しい接続と認証情報の作成] 関連リンクを選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

接続情報を入力します

フィールド	説明と必要な値
接続名	接続を識別する名前です。 このフィールドは自動的に Metrikus スポークの接続に設定されます。
接続 URL	Spoke に接続するための URL です。このフィールドは自動的に [https://nextgen-api.metrikus.io] に設定されます。

認証情報を入力します

フィールド	説明と必要な値
認証情報名	Metrikus スポーク認証情報の名前。 例：**Metrikus** 認証情報
トークン URL	トークンの URL アドレス https://nextgen-api.metrikus.io/oauth/token 。
OAuth クライアント ID	登録ポータルに登録する Metrikus アプリケーションのクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	Metrikus ポータルに Metrikus アプリケーションを登録しているときに生成されたクライアントシークレットキー。

4. **[OAuth** トークンを作成して取得] を選択します。

Metrikus スポークが設定され、ServiceNow® Store インスタンスと統合されます。

次のタスク

[すべて] > ワークプレイスコネクタ > [プロバイダーコネクタ構成 **(Provider Connector Configuration)]**テーブルに移動します。このテーブルで提供されるワークプレイスコアの場所は、Metrikus が提供する外部 ID にマッピングされます。Metrikus が提供する外部 ID は、ワークプレイスコネクタスペース占有データテーブルのワークプレイス占有データを取得するために変換されます。

Now Learning スポーク

ServiceNow インスタンスから Now Learning プラットフォームでのコースを管理します。たとえば、ServiceNow インスタンスからスポークアクションを実行して、Now Learning でのすべてのコースの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

Now Learning スポークサブスクリプション

Now Learning スポークは ITSM Enterprise (ISTM エンタープライズ) ライセンスで利用できます。ラーニングのコーチング を Now Learning と統合できます。詳細については、「外部コンテンツ統合ソース」を参照してください。

スポークのアクション

Now Learning スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Now Learning タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

アクション	説明
コースストリームを検索	コースの詳細を提供します。
ユーザーコースアクティビティストリームを検索	特定の期間、すべてのユーザーのコースアクティビティを提供します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

Now Learning Spoke を設定

ラーニングのコーチング で Now Learning に接続して、Now Learning から ServiceNow インスタンスにコースをプルします。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Now Learning スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

- ラーニングのコーチングを Now Learning と統合します。詳細については、「外部コンテンツ統合ソース」を参照してください。
- スポーク認証情報を取得するには、nowlearningapi@servicenow.com にご連絡ください。

  注: スポーク認証情報を取得する場合は、ITSM Enterprise ライセンスサブスクリプションが必要です。

- OAuth 認証情報の詳細については、「OAuth 2.0 認証情報」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. [*Now Learning*] を選択します。
3. [新しい接続 **&** 資格情報を作成] 関連リンクを選択します。
   [接続と認証情報を作成 **(Create Connection and Credential)]** フォームが表示されます。
4. Now Learning 接続を作成します。

   a. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続の一意の名前。例：Now Learning 接続。
接続 URL	API 情報を取得するための ServiceNow サーバー。 デフォルト値：https://api.servicenow.com 。
API バージョン	接続サーバーに接続するための接続 URL のバージョン。 デフォルト値：v1
Ocp-Apim-Subscription-Key	Now Learning サブスクリプションの暗号化キー。暗号化キーを取得するには、nowlearningapi@servicenow.com にご連絡ください。
OAuth 認証情報	
認証情報名	認証情報の一意の名前。例：Now Learning 認証情報。
トークン URL	Web ブラウザで、次のように入力します：https://ssosignon.servicenow.com/oauth2/ausxfcnusg830r7kp0x7/v1/token これは、OAuth サーバートークンエンドポイントへのリンクです。
クライアント ID	サードパーティの OAuth サーバーに登録されているアプリケーションのクライアント ID。クライアント ID を取得するには、nowlearningapi@servicenow.com にご連絡ください。
クライアントシークレット	サードパーティの OAuth サーバーに登録されているアプリケーションのクライアントシークレット。クライアントシークレットを取得するには、nowlearningapi@servicenow.com にご連絡ください。
ユーザー名	認証情報にアクセスするためのユーザー名。ユーザー名を取得するには、nowlearningapi@servicenow.com にご連絡ください。
パスワード	認証情報にアクセスするためのパスワード。パスワードを取得するには、nowlearningapi@servicenow.com にご連絡ください。
スコープ	アプリケーションスコープで設定されたパラメーターに基づき、Now Learning アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) を検証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	デフォルト値： openid email offline_access

b. [OAuth トークンを作成して取得] を選択します。

タスクの結果
作成した接続エイリアスは、接続および認証情報の関連リストに表示されます。

重要:

- 接続関連リストに含めることができる接続は 1 つだけです。別の接続を作成する場合は、最初の接続を非アクティブにする必要があります。
- OAuth トークンは、**[Now Learning** スポーク] > [認証情報]にも表示されます。有効な Now Learning 認証情報は 1 つだけです。別の認証情報を作成する場合は、最初の認証情報を非アクティブにする必要があります。

フローデザイナーでの **Now Learning** アクションフローの構成

Oauth 認証情報を使用して、ServiceNow インスタンスと Now Learning を統合し、ServiceNow の要求を認証します。

始める前に

- ITSM Enterprise ライセンスのサブスクリプションがあります。
- ラーニングのコーチングを Now Learning と統合します。詳細については、「外部コンテンツ統合ソース」を参照してください。
- 必要なロール：admin。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [アクション] タブを選択します。
3. コースの詳細を ServiceNow Now Learning から取得します。

   a. [コースストリームを検索] を選択します。

   b. [入力] アクションアウトラインで、[テスト] を選択し、次のフィールドに入力値を指定します。

フィールド	説明
タイプ	コースのタイプ。たとえば、パスなどです。
更新日時	指定された日付以降のコースの更新をフェッチします。
作成完了	指定された日付以降に作成されたコースをフェッチします。
順番	コースを表示する順番。
ページサイズ	ページあたりのコース数。
オフセット	指定されたオフセットからアイテムをフェッチします。たとえば、オフセットが 10 の場

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	合、アプリケーションは 10 番目のアイテムからオフセットをフェッチします。

c. [テストを実行] を選択します。

[出力] アクションアウトラインには、次のコースの詳細が表示されます。

フィールド	説明
番号	コース識別番号。
名前	コンテンツの名前。
簡単な説明	コンテンツの簡単な説明。
説明	コンテンツの説明。
タイプ	コースタイプ。たとえば、コースがパスかコレクションかなどです。
状況	各コースのステータス。たとえば、ステータスがドラフトか公開かなどです。
ポータルリンク (Portal link)	コースにアクセスするための URL。

4. 特定の期間、すべてのユーザーのコースアクティビティを構成します。

注: コースアクティビティのデフォルトの期間は 30 日間です。

a. [ユーザーコースアクティビティストリームを検索] を選択します。

b. [入力] タブで、以下のフィールドのデータタイプを指定します。

フィールド	説明
状況	各コースのステータス。たとえば、ステータスがドラフトか公開かなどです。
ユーザーメール	コースアクティビティに関連付けられているユーザーのメールアドレス。
登録済み	ユーザーがコースに登録した日付。
完了	指定された日付以降に完了したコースをフェッチします。
更新日時	指定された日付以降のコースの更新をフェッチします。
順番	コースを表示する順番。
ページサイズ	フェッチするページ数。
オフセット	指定されたオフセットからアイテムをフェッチします。たとえば、オフセットが 10 の場

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	合、アプリケーションは 10 番目のアイテムからオフセットをフェッチします。

c. [テストを実行] を選択します。

[出力] タブで、以下のフィールドの出力タイプを指定します。

フィールド	説明
ユーザーメール	コースアクティビティに関連付けられているユーザーのメールアドレス。
コンテンツ名	コンテンツの名前。
コンテンツ番号 (Content Number)	コンテンツ識別番号
完了率 (%)	コースの完了率
状況	コースのステータス。
完了日	コースを完了した日付。
登録日	ユーザーがコースに登録した日付。

関連情報

アクションのビルド

Navex EthicsPoint スポーク

Navex EthicsPoint スポーク を使用すると、労務問題ケースを Navex Ethicspoint インスタンスから ServiceNow インスタンスにプルできます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Navex EthicsPoint スポーク v1.0.1 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：JSON パーサー [com.glide.hub.action_step.jsonparser]
- 統合ハブ標準スポーク [com.glide.hub.action_step.xmlparser]

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのアクション

Navex EthicsPoint スポーク では、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Navex EthicsPoint スポーク スポークの設定。

Navex EthicsPoint スポーク スポークの設定

基本認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Navex EthicsPoint スポークインスタンスを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Navex EthicsPoint スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

基本認証情報の作成

基本認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Navex EthicsPoint インスタンスを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. [基本認証情報] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	レコードを識別する名前。
ユーザー名	認証情報として入力するユーザー名。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
パスワード	認証情報として入力するパスワード。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。オプションを選択します。
順番	認証情報が使用される順番です。たとえば、「`100`」と入力します。

5. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

接続レコードの作成

Navex EthicsPoint インスタンスへの接続レコードを作成します。Navex EthicsPoint スポーク の接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Navex EthicsPoint インスタンスでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. 次のレコードを開き、各レコード用の接続を作成します。
   接続ごとに 基本認証情報の作成 も必要です。
   - 添付ファイル用 NavexConnection
   - ケース管理用 NavexConnection
   - ルックアップリスト用 NavexConnection
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

HTTP(S) 接続フォーム

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前です。
認証情報	Navex EthicsPoint 用に作成した基本認証情報レコード。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
接続 URL	Navex EthicsPoint インスタンスの URL。
有効	接続を積極的に使用にするオプションです。オプションを選択します。
ドメイン	アクションまたはアクティビティを実行するドメインです。

5. [属性] タブで、[パスワード] フィールドと [ユーザー名] フィールドに値を入力します。
6. [送信] をクリックします。

Okta スポーク

Okta を使用し、ユーザー、パスワード、およびグループを管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Okta スポーク v4.2.6 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- com.glide.cobject:sys,com.glide.script.vtable
- com.snc.remote_directory_sync
- ServiceNow 統合ハブ の XML パーサー (com.glide.hub.action_step.xmlparser)
- フローデザイナーのデザイナーモデル (com.glide.hub.designer_backend.model)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

サポートされているバージョン

API バージョン v1

スポークのフロー

Okta スポークでは、ユーザーおよびグループ管理タスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
Okta グループにユーザーを追加	ユーザーが作成されると、指定されたグループにユーザーが追加されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー	説明
Okta のオンボードユーザー	ServiceNowでユーザーが作成されると、Okta でユーザーを作成して有効にします。
非アクティブ化されている Okta グループメンバーシップを削除	ユーザーが非アクティブ化されると、すべての Okta グループからユーザーを削除します。

注: Okta には、ServiceNowのユーザーをプロビジョニングする ServiceNow_UD アプリケーションがあります。ServiceNowは、Okta のユーザーをプロビジョニングするように構成することもできます。したがって、ServiceNowアドミニストレーターは循環的なユーザー作成が行われないようにする必要があります。

スポークのサブフロー

Okta Spoke では、Okta タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。利用可能なサブフロー：

サブフローカテゴリ	サブフロー	説明
Webhook 管理	アクティブなアプリケーションイベントフックを確認	application-lifecycle-activate のイベントフックが Okta に存在するかどうかを検証します。
	Okta から ServiceNow へのインバウンドデータ連携	Okta から ServiceNow インスタンスへのインバウンドデータ連携を可能にします。アプリケーションのイベントフックがすでに存在するかどうかを検証します。イベントフックが存在しない場合は、新しいイベントフックが作成されます。 **注:** [構成 **URI**] フィールドの値がこのフォーマット `https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_okta_spoke/oktawebhook` であることを確認します。
グループ管理	グループを取得	既存のグループを更新するか、Okta にグループを作成します。
アプリケーション管理	Okta アプリケーションレコードの作成または更新	Okta アプリケーションレコードを作成するか、既存の Okta アプリケーションレコードを更新します。

スポークモジュール

Okta Spoke は、Okta アプリケーションを ServiceNow インスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
Okta アプリケーション	アプリケーションのリストを表示します。
Okta グループ	Okta のユーザーグループのリストを表示します。
Okta ユーザー	Okta のユーザーのリストを表示します。
Okta Webhook レジストリ	Webhook レジストリのリストを表示します。

スポークのアクション

Okta スポークでは、ユーザーとグループを認証および管理するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ユーザー管理	ユーザーをアクティブ化	新規または復帰したユーザーがアクティベーション URL から Okta アカウントを構成できるようにして、Okta でユーザーをアクティブ化するプロセスを開始します。このアクションは、Okta がアクティベーション URL をメールとしてユーザーに送信するか、アクティベーション URL をデータピルとして返し、後でメールや通知を送信するアクションで使用できます。
	ユーザーセッションをクリア	指定されたユーザーの Okta でのすべてのアクティブセッションをクリアします。これにより、次回ユーザーが Okta を使用するときにはログインし直す必要があります。
	ユーザーを作成	指定された標準、オプション、および必須のフィールド値を使用して、指定されたユーザーを Okta に作成します。 **注:** Okta には、ServiceNowのユーザーをプロビジョニングする ServiceNow_UD アプリケーションがあります。ServiceNowは、Okta のユーザーをプロビジョニングするように構成することもできます。したがって、ServiceNowアドミニストレーターは循環的なユーザー作成が行われないようにする必要があります。
	ユーザーの非アクティブ化	Okta で指定されたユーザーを非アクティブ化します。これにより、ユーザーのグループとアプリケーションの割り当てが削除され、ユーザーステータスが非アクティブに変わります。このアクションは、ユーザーが無期限に退社する場合によく使用されます。 **注:** プロビジョニング解除済みステータスのユーザーに対してこのアクションを実行しないでください。
	ユーザーを削除	Okta 内の指定されたユーザーを削除します。これにより、ユーザーは完全に削除されます。このアクションは通常、コンプライアンス規制が満たされた後にユーザーベースをクリーンアップするために使用されます。
	ユーザーアカウントがロックされているか	ユーザーアカウントがロックされているかどうかを判断します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	Okta ユーザー ID を検索	指定された Okta ログイン ID またはログインの短い名前の Okta ユーザー ID を取得します。
	ユーザー ID でユーザーアカウントの詳細を検索	指定された Okta ユーザー ID のユーザーの詳細を取得します。
	ユーザー ID でユーザープロファイルを検索	指定された Okta ユーザー ID のユーザープロファイルの詳細を取得します。
	ユーザーのアクティベーションを再開	Okta 内で指定されたユーザーのアクティベーションを再開します。ユーザーが [ユーザーをアクティブ化] アクションで指定されたアクティベーションコードまたはリンクを使用してアクティベーションを完了しなかった場合は、このアクションを使用します。
	ユーザーを一時停止	ユーザーステータスをアクティブから一時停止に変更することで、Okta 内の指定されたユーザーを一時停止します。たとえば、このアクションを使用して、一時的に離脱しているユーザーのアクセスが一時停止されます。一時停止されたユーザーを再アクティブ化するには、[一時停止を解除] アクションを使用します。
	ユーザーの一時停止を解除	Okta で指定されたユーザーの一時停止を解除します。
	ユーザープロファイルを更新	Okta 内の指定されたユーザーのユーザープロファイルの詳細を更新します。
	ユーザーストリームを検索	フィルター値に基づいて Okta からユーザーを取得します。
パスワード管理	ユーザーのパスワードを変更	ユーザーの現在のパスワードを検証した後、指定されたユーザーのパスワードを変更します。
	ユーザーパスワードを期限切れにする	Okta 内で指定されたユーザーのパスワードを期限切れにします。このアクションは、侵害の試みを阻止するためによく使用されます。
	一時パスワードにリセット	Okta 内の指定されたユーザーのパスワードを一時パスワードにリセットします。このアクションは、パスワードを忘れたユーザーをログインさせるためによく使用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ユーザー要素をリセット	Okta 内の指定されたユーザーのすべてのマルチファクターアクセスデバイスをリセットします。このアクションは、ユーザーがマルチファクター認証デバイスまたはメソッドを失った場合によく使用されます。
	ユーザーパスワードを設定	指定されたユーザーのパスワードを Okta で設定します。
	ユーザーのロック解除	Okta の指定されたユーザーをロック解除します。
グループ管理	グループにユーザーを追加	指定されたユーザーを Okta 内の指定されたグループに追加します。
	グループを作成	Okta に指定されたグループを作成します。
	グループを取得	Okta 内のすべての新規および更新されたグループを取得します。
	グループ内のユーザーか	指定されたユーザーが Okta 内の指定されたグループのメンバーかどうかを判別します。
	グループ ID でグループの詳細を検索	指定された Okta グループ ID のグループの詳細を取得します。
	名前でグループ ID を検索	指定された Okta グループ名のグループの詳細およびグループ ID を取得します。
	グループからユーザーを削除	指定された Okta グループ ID から指定されたユーザーを削除します。
	グループを更新	指定された Okta グループ ID のグループの詳細を更新します。
	グループストリームを検索	フィルター基準に基づいて、Okta からグループを取得します。
グループメンバーシップ管理	グループメンバーのストリームを検索	指定された Okta グループからユーザーを取得します。
	ユーザーグループストリームを検索	ユーザーが属する Okta からグループ情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
アプリケーションアクセス管理	アプリケーション ID ストリームでユーザーを検索	特定のアプリケーションへのアクセス権を持つユーザーを取得します。
	アプリケーション ID ストリームでグループを検索	特定のアプリケーションへのアクセス権を持つグループを取得します。
	ユーザーアプリケーションアクセスを取り消す	必要なユーザーのアプリケーションへのアクセス権を取り消します。
アプリケーション管理	アプリケーションストリームを検索	フィルター基準に基づいて、Okta からアプリケーションを取得します。[フィルター] 入力で指定できる基準の詳細については、Okta 開発者ドキュメント の「アプリケーションのリスト 」を参照してください。
	アプリケーション ID でアプリケーションを検索	Okta 内で指定されたアプリケーション ID の詳細を取得します。
	アプリランチャーアプリケーションストリームを検索	アクティブなアプリケーション、またはユーザーに割り当てられているアプリケーションを取得します。
ログ管理	Okta ログストリームを検索	指定されたフィルター値によって、指定された期間内にフィルターされた Okta 内のログを取得します。イベントタイプおよびシステムログの詳細については、Okta 開発者ドキュメント の「イベントタイプ 」を参照してください。
メタデータの取得	ユーザーの追加フィールドを検索	Okta 内のユーザーの追加フィールドのメタデータを取得します。
	アプリケーションメタデータを検索	Okta 内のアプリケーションのメタデータを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	イベントフックメタデータを検索	Okta 内のイベントフックメタデータを取得します。 注: このアクションは、イベントフック ID を動的入力として使用するアクションと一緒に使用するようにしてください。
	グループメタデータを検索	Okta 内のグループのメタデータの詳細を取得します。
Webhook 管理	イベントフックを有効化	指定されたイベントフックの Okta 内でのステータスをアクティブに変更します。
	イベントフックを作成	Okta にアクティブなイベントフックを作成します。 注: [構成 **URI**] フィールドの値がこのフォーマット `https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_okta_spoke/oktawebhook` であることを確認します。
	イベントフックを非アクティブ化	指定された Okta イベントフックのステータスを非アクティブに設定します。
	ID でイベントフックを検索	指定された ID の Okta イベントフックの詳細を取得します。
	イベントフックを検索	Okta 内のすべてのイベントフックの詳細を取得します。
	イベントフックを更新	Okta 内で指定されたイベントフックを更新します。 注: [構成 **URI**] フィールドの値がこのフォーマット `https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_okta_spoke/oktawebhook` であることを確認します。
	イベントフックを検証	Okta 内のイベントフック用に構成された外部サービスエンドポイントを検証して取得します。

Okta アカウント要件

Okta スポークでは、Web API キーを使用するために、Okta アカウントを生成し構成する必要があります。

認証情報および接続エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

このスポークでは Okta 接続および資格情報エイリアスレコードを使用して、アクションを許可します。スポークの設定については、「 Okta スポークの設定。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。Okta エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所およびMID サーバー選択属性を設定します。 詳細については「 MID サーバー 」を参照してください。

Okta スポークの設定

Okta スポークを Okta と統合して、Okta でのさまざまなアクションを自動化します。たとえば、Okta でのユーザーのアクティブ化を自動化することができます。統合するには、API キーまたは OAuth 認証を使用して ServiceNow インスタンスを Okta と接続します。

Okta スポークを設定する。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- ServiceNow インスタンスの Okta スポークをアクティブ化します。
- Okta 開発者ポータルのアカウント
- 必要なロール：admin

このタスクについて

要件に応じて、API キーまたは OAuth 認証情報を使用してスポークを設定できます。ただし、ServiceNow ドメインに対して一度に使用できるエイリアスは 1 つだけです。

API キーを使用して Okta スポークを設定

API キーを使用して ServiceNow インスタンスと Okta アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

認証を要求するための API キーの生成

Okta の組織または開発者アカウントで API キーを生成して、Okta の開発者または組織のアカウントによって接続レコードを認証できるようにします。

始める前に

Okta の要件：

- Okta の組織または開発者アカウント
- 必要なロール：Okta アドミニストレーター

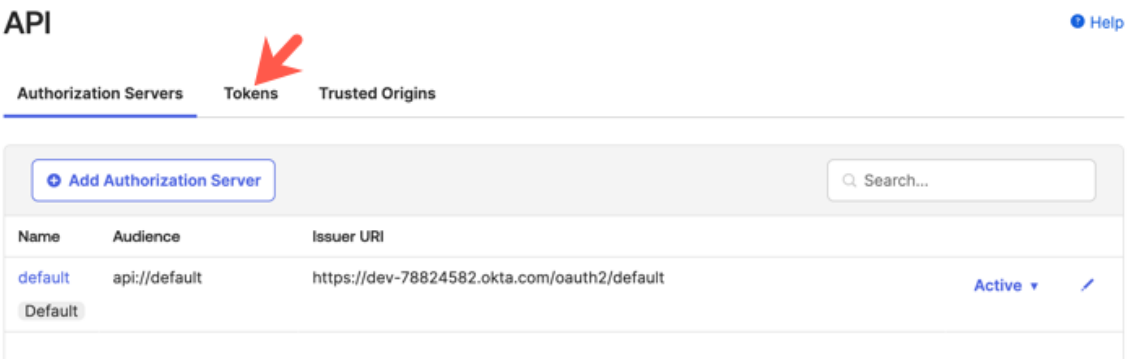
このタスクについて

API キーを使用すると、Okta の組織または開発者アカウントが ServiceNow インスタンスからのアクセス要求を認証できるようになります。

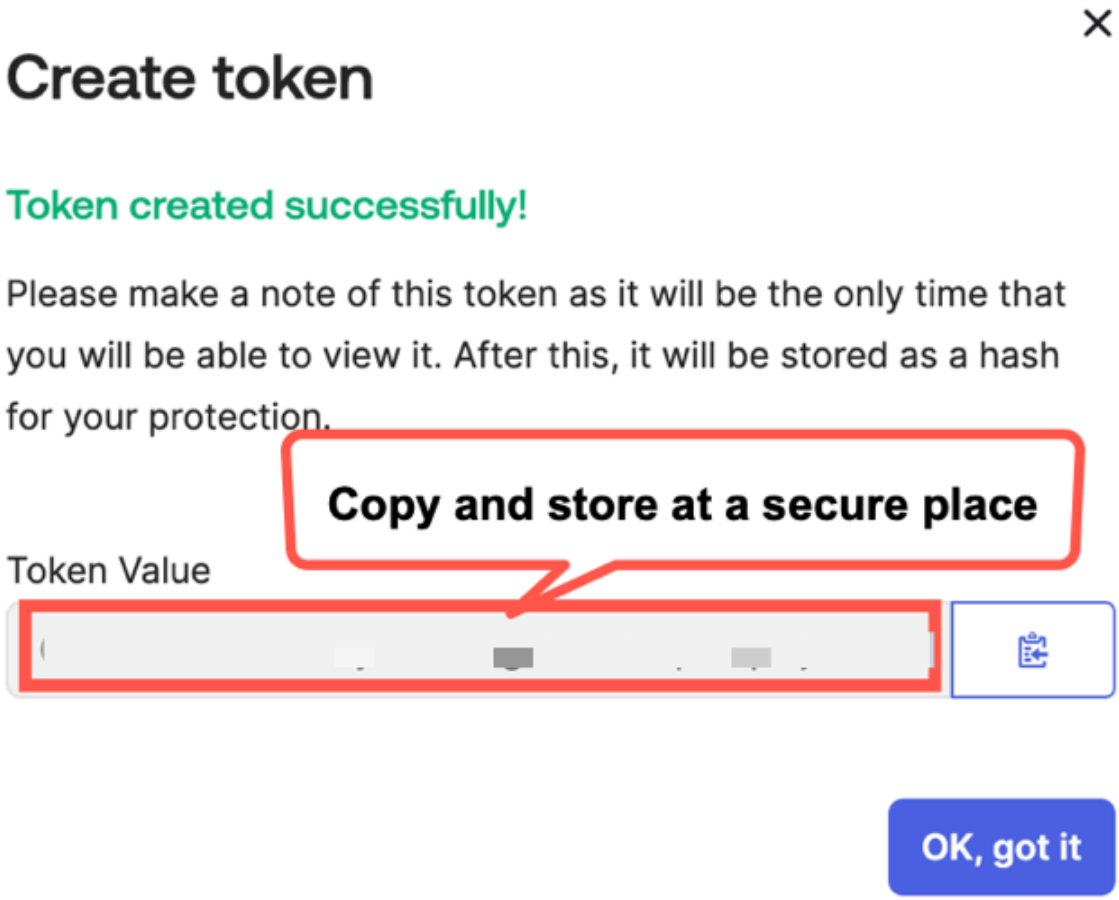
手順

1. https://developer.okta.com/login/ にログインします。
2. 左側のパネルで、[セキュリティ] > **[API]** の順に移動します。
3. [API] ページで、 [トークン] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



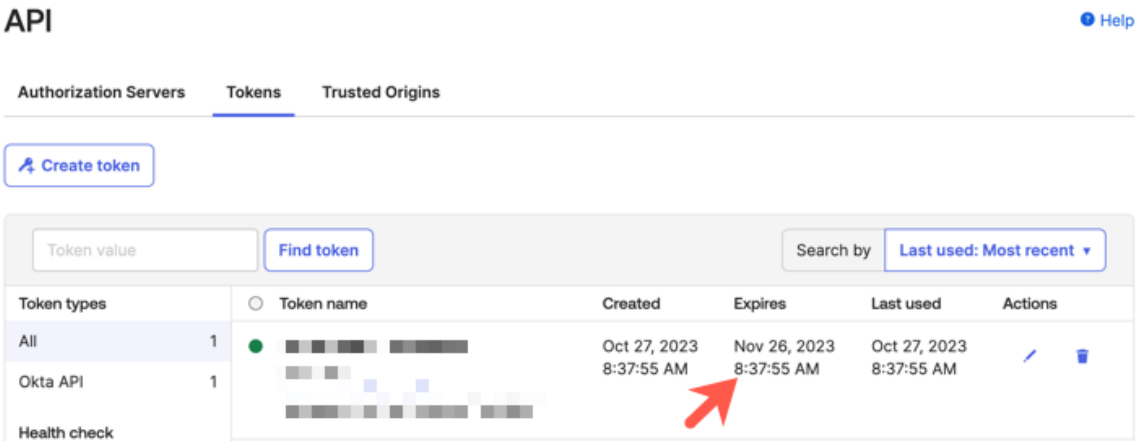
4. [トークンを作成 **(Create token)]** を選択します。
5. [トークンを作成 (Create token)] ウィンドウで、トークンの名前を入力します。
6. [トークンを作成 **(Create token)]** を選択します。
   トークンが作成されます。



7. API トークンをコピーし、安全な場所に保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トークンの有効期限に注意してください。



Okta スポークの API キー認証情報レコードの作成

認証情報レコードを、作成した Okta アプリケーションに作成します。Okta スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. **[API** キー認証情報] を選択します。
4. フォームに入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別するカスタムの名前です。たとえば、「`Okta` 認証情報」などです。
アクティブ	認証情報レコードをアクティブ化して、Okta アカウントへの接続に使用できるようにします。
API キー	Okta アカウントで `SSWS {API token}` 形式で生成した API トークン。API トークンの生成方法については、「認証を要求するための API キーの生成」を参照してください。
適用先	この認証情報を使用できる MID サーバーです。たとえば、[すべての **MID** サーバー] を選択します。
順番	この認証情報が Okta API へのアクセスを試行するときに使用される順序 (シーケンス)。番号が小さいほど、この認証情報がリストの上位に表示されます。多くの認証情報を使用する場合、またはログイン試行が 3 回失敗してセキュリティによってユーザーがロックアウトされた場合、認証情報の順序を確立します。すべての認証情報の順序番号が同じ (または順序番号がない) 場合、インスタンスは認証情報をランダムな順序で試行します。たとえば、「`100`」と入力します。
認証情報エイ	Okta スポークの認証情報エイリアスで、Okta API への接続時に、ランタイムで解決します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
リアス	

5. [送信] を選択します。

Okta スポークの接続レコードの作成

接続レコードを Okta API に作成します。Okta スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Okta でアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **[Okta]** のレコードを開きます。
3. [接続] タブから、[新規] を選択します。
4. フォームに入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Okta` 接続を入力します。
認証情報	Okta 用に作成された認証情報レコードを選択します。たとえば、**[Okta** 認証情報] を選択します。
接続 URL	Okta の組織 URL を入力します。たとえば、`https://dev-418994.oktapreview.com` を入力します。

5. [送信] を選択します。

OAuth 認証情報を使用した Okta の設定

Okta にカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと Okta アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- Okta 開発者コンソールにアクセスします。
- 必要なロール：admin

Okta での OAuth アプリケーションの作成

Okta 開発者アカウントでカスタム OAuth アプリケーションを作成し、ServiceNow インスタンスからの要求の OAuth 2.0 認証を有効にします。

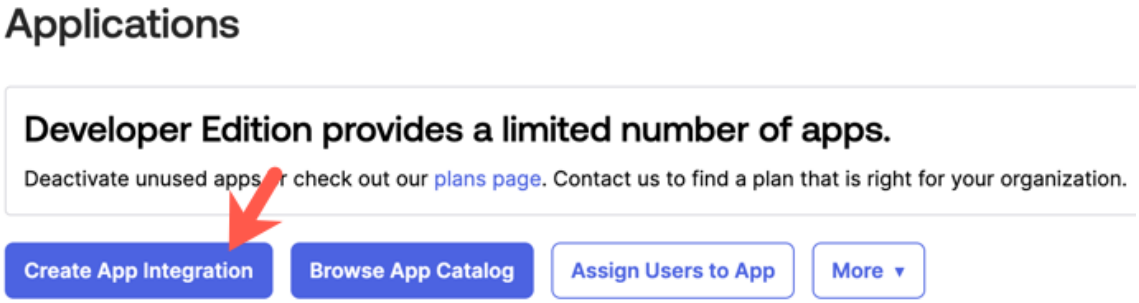
始める前に

必要なロール：admin
Okta 開発者または組織アカウントへのアドミニストレーターアクセス

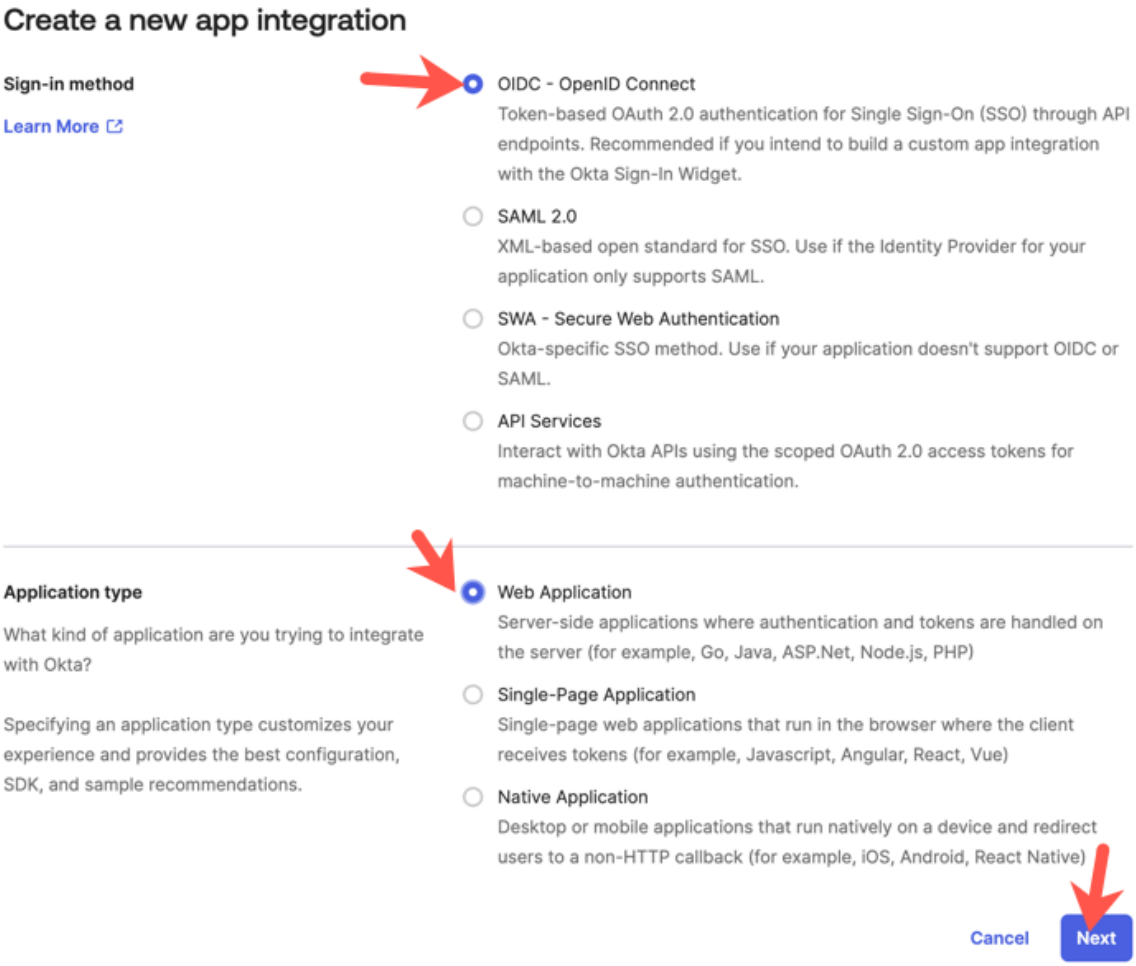
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. https://developer.okta.com/login/ にログインします。
2. 左側のパネルで、[アプリケーション] > [アプリケーション] > **[.]** を選択します。
3. 「アプリケーション」ページで、 [アプリ統合の作成 **(Create App Integration)]** を選択します。



4. [アプリ統合の新規作成 (Create a new app integration)] ウィンドウで、[OIDC - OpenID コネクト] を選択します。
5. 選択
   - OIDC - OpenID コネクト
   - Web アプリケーション
6. [次へ] を選択しま



す。

7. フォームに入力します。

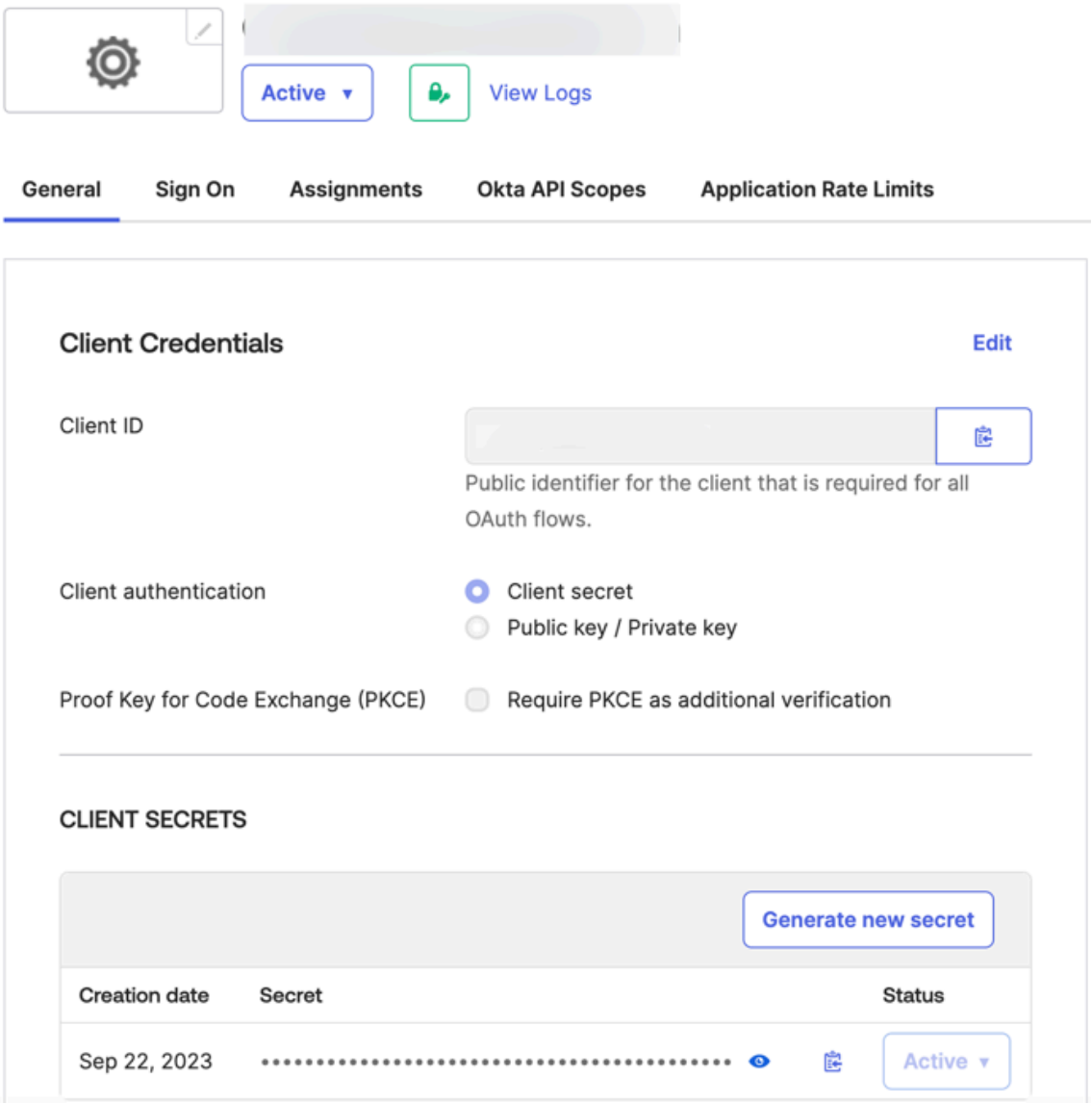
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい **Web** アプリの統合

フィールド	説明
アプリ統合名	OAuth アプリケーションのカスタム名です。
ロゴ	OAuth アプリケーションのロゴです。ロゴのアップロードはオプションです。
権限許可タイプ	ビルドしているアプリケーションのタイプに応じて使用する OAuth 2.0 フローのタイプです。適切なオプションを選択する方法については、「https://developer.okta.com/docs/concepts/oauth-openid/#openid-connect」を参照してください。以下のオプションを選択します。 ◦ 認証コード ◦ トークンのリフレッシュ ◦ 暗黙 (ハイブリッド) ▪ 暗黙的な許可タイプの ID トークンを許可 ▪ 暗黙的な許可タイプのアクセストークンを許可 (Allow access token with implicit grant type)
サインインリダイレクト URI (Sign-in redirect URIs)	Okta から認証応答と ID トークンを受信する URI です。次の形式で ServiceNow インスタンス URL を入力します： `https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do`。
サインアウトリダイレクト URI (Sign-out redirect URIs)	ユーザーセッションをクローズするために Okta に接続する URI です。次の形式で ServiceNow インスタンス URL を入力します：`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do`。
ベース URI	自己ホスト Okta ウィジェットの URI です。ベース URI の指定はオプションです。
制御対象アクセス (Controlled access)	組織内の Okta 統合へのアクセス権を割り当てるオプションです。アクセス権を割り当てるには： ◦ 組織内の全員にアクセス権を割り当てるには、[組織内の全員にアクセスを許可する **(Allow everyone in your organization to access)]** を選択します。 ◦ 選択したグループにアクセス権を割り当てるには、[アクセスを選択したグループに制限 **(Limit access to selected groups)]** を選択し、[選択されたグループ] フィールドにグループ名を入力します。 ◦ 統合後にアクセス権を割り当てるには、[今はグループの割り当てをスキップ **(Skip group assignment for now)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [保存] を選択します。
   OAuth アプリケーションが作成されま

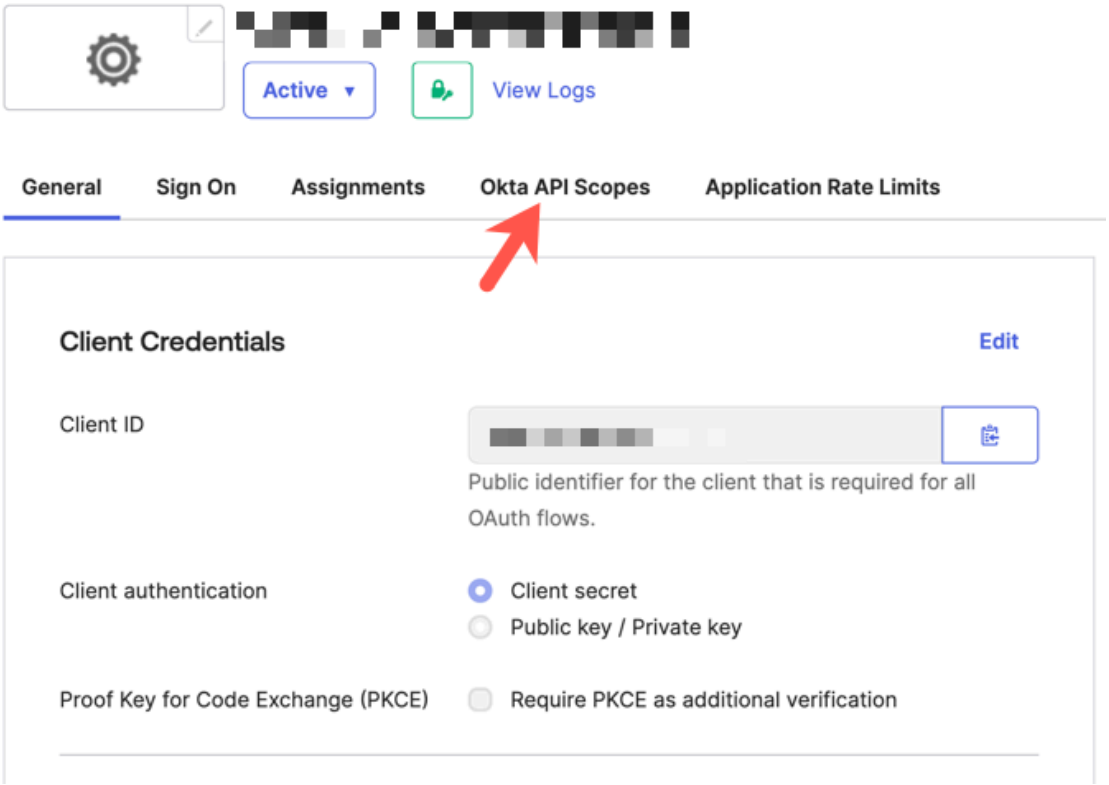


す。

9. Okta API にアクセスするための権限を付与します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [Okta API スコープ (Okta API Scopes)] を選択します。



b. [アクション] で、API の [権限許可] を選択します。

- okta.users.manage
- okta.apps.manage
- okta.logs.read
- okta.groups.read
- okta.groups.manage
- okta.users.read
- okta.apps.read
- okta.eventHooks.read
- okta.eventHooks.manage

API スコープの詳細については、Okta 開発者向けドキュメント の「許可されたスコープを定義 」を参照してください。

Okta スポークの接続レコードの作成

Okta サーバーに接続するための情報を含む接続レコードを作成します。ServiceNow インスタンスはこのフォームを使用して、OAuth アプリケーションに認証要求を送信します。

始める前に

必要なロール：admin。

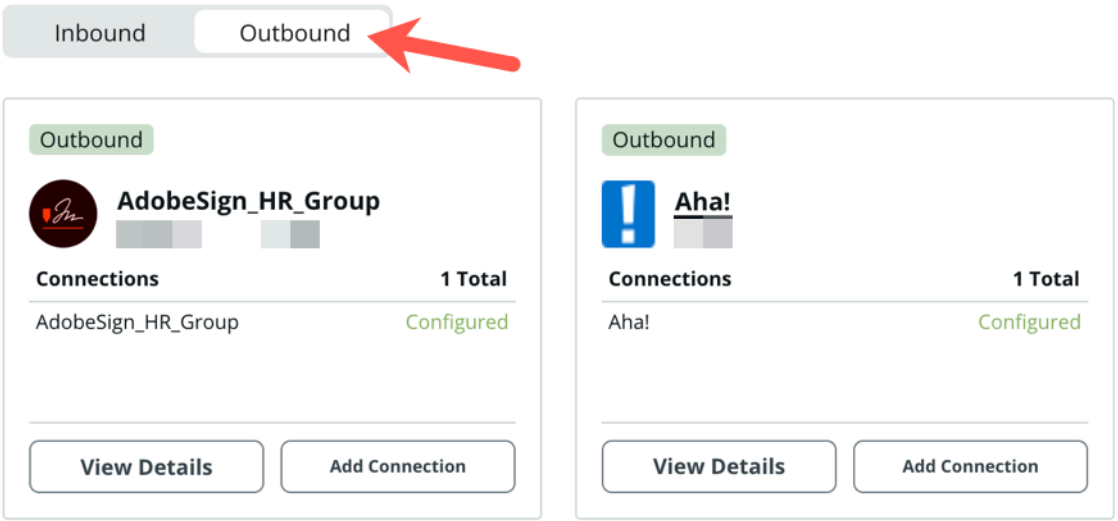
手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブを選択します。

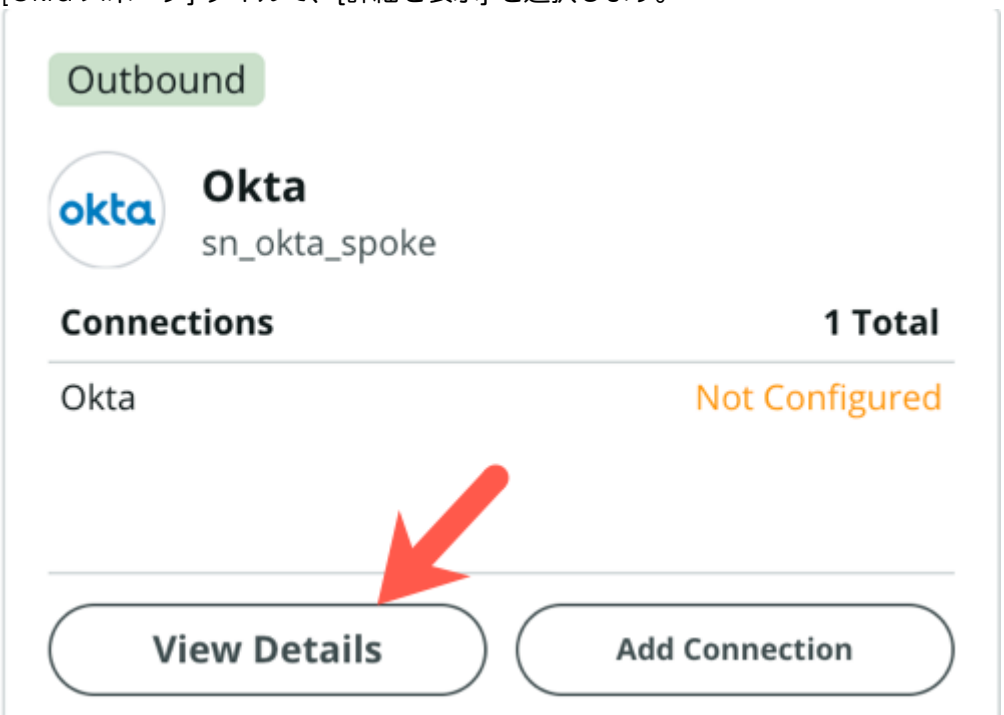
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [すべての接続を検索] フィールドに「`Okta`」と入力します。

   注: [送信] タブがデフォルトで有効になっています。これが有効になっていることを確認します。



4. [Okta スポーク] タイルで、[詳細を表示] を選択します。



5. [設定] を選択します。
6. フォームに、これらの値を入力します。

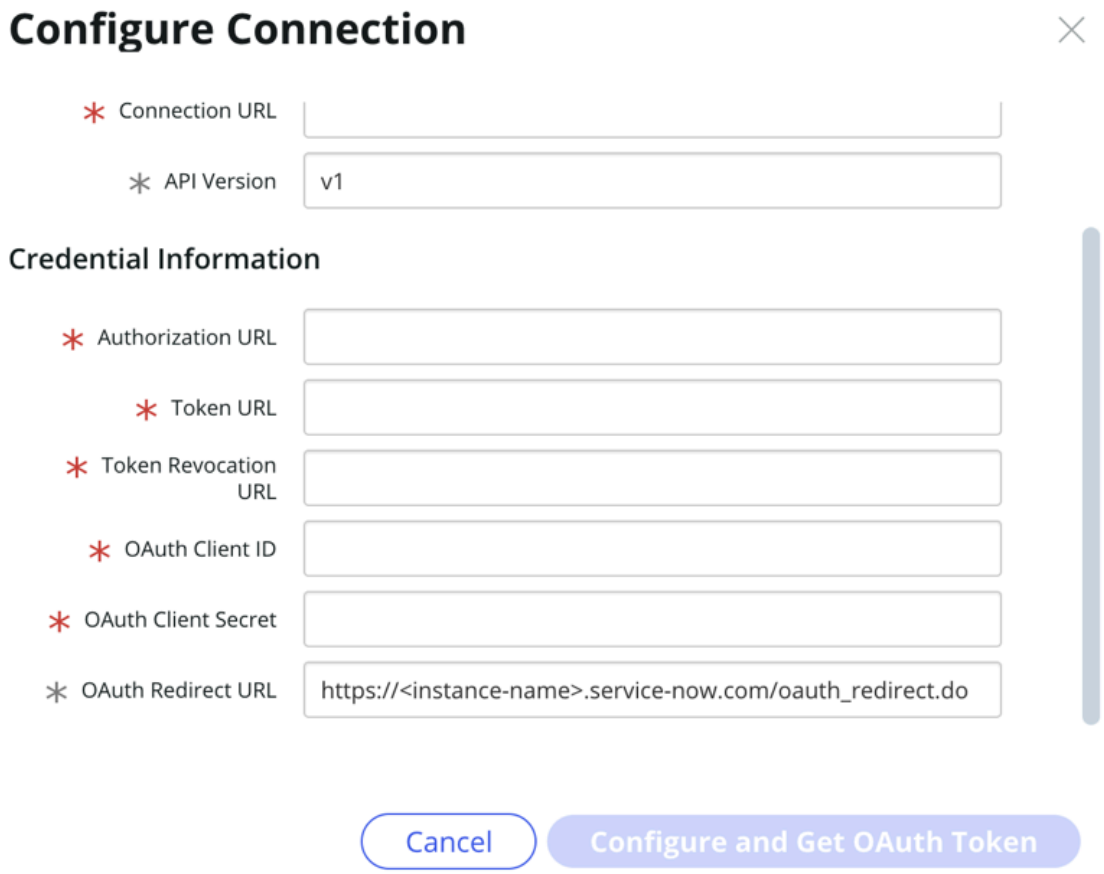
接続を設定

フィールド	説明
名前	Okta インスタンスとの間で確立された接続の名前最初の接続のデフォルト名は、[接続および資格情報エイリアス] ページの [接続および資格情報] フォームで指定された

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	名前と一致するように自動的に割り当てられます。カスタム名を指定するには、[接続を追加] を選択し、接続を作成します。
接続 URL	Okta サーバーに接続するための URL。URL 形式は https://[yourOktaDomain].com です。
API バージョン	Okta API のバージョン。
認証 URL	Okta の OAuth アプリケーションが Okta リソースサーバーへのアクセス認証を求めるために提供する URL。形式は `https://{youroktadomain}.com/oauth2/{API version}/authorize` です。
トークン URL	アクセストークンを取得するための URL。形式は `https://{youroktadomain}.com/oauth2/{API version}/token` です。
トークン失効 URL	以前に発行されたアクセストークンとリフレッシュトークンの取り消しまたはキャンセルをクライアントアプリケーションが要求できるようにする、OAuth 承認サーバーによって提供される URL。形式は `https://{youroktadomain}.com/oauth2/{API version}/revoke` です。
OAuth クライアント ID	Okta 開発者のアカウントで生成されたクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	Okta 開発者のアカウントで生成されたクライアントのシークレット。
OAuth リダイレクト URL	URL を ServiceNow インスタンスにリダイレクトします 。形式は `https://{instance-name}.service-now.com/oauth_redirect.do` です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. **[OAuth** トークンを設定して取得 **(Configure and Get OAuth Token)]** を選択します。
   Okta Spoke に対して OAuth アクセストークンが生成されます。

   注: OAuth アクセストークンを付与する前に、Okta にログインする必要があります。

Okta グループのフェッチ

Okta グループをフェッチして、そのグループを別のユーザーに割り当てられるようにします。必要に応じて、またはスケジュールに基づいてグループをフェッチできます。

始める前に

必要なロール：okta.admin

手順

1. 必要に応じて Okta グループをフェッチします。

   a. **[Okta** スポーク] > **[Okta** グループ]に移動します。

   b. **[Okta** グループのフェッチ] を選択します。
      [グループを取得] サブフローがトリガーされます。

   c. Okta グループリストから、以下を確認できます。

列	説明
名前	Okta グループの名前

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

列	説明
説明	Okta グループの説明
グループ ID	Okta グループのグループ ID
タイプ	Okta グループのタイプ
グループ作成日	Okta グループが作成された日付
グループの最終更新日	Okta グループが最後に更新された日付
作成日時	Okta グループが ServiceNow インスタンスと最初に同期された日付
更新日時	Okta グループが ServiceNow インスタンスと最後に同期された日付

2. スケジュールに基づいて Okta グループをフェッチします。

a. [システム定義] > [スケジュール済みジョブ]に移動します。

b. [Okta グループのフェッチ] レコードを開きます。

c. 必要に応じてフィールドを更新します。

注:

- スケジュール済みジョブが有効化されて使用できるように、[アクティブ] オプションが選択されていることを確認します。
- ServiceNow インスタンスの [更新済み] 列には、Okta グループの詳細が更新された時刻が表示されます。

d. [更新] をクリックします。

Okta スポーク用の双方向 Webhook の設定

ServiceNow コールバック URL を使用して、Okta を登録する Webhook を構成します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求
- Okta spoke プラグインのインストールまたはアクティブ化
- 必要なロール：admin

Okta Webhook の登録

ServiceNow インスタンスに Okta Webhook を登録して、Okta で特定のイベントが発生したときに ServiceNow アプリに通知します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Okta** スポーク] > **[Okta Webhook** レジストリ] に移動します。

2. [新規] を選択します。

3. フォーム上で、以下のフィールドに記入します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前	Webhook レジストリを識別する一意の名前 注: 名前は、`Okta Webhook` 認証のみとします。
説明	Webhook レジストリの簡単な説明
認証キー	Okta Webhook への接続に使用される認証キー
認証値	Okta Webhook への接続に使用される認証値

4. [送信] を選択します。

OneLogin スポーク

ServiceNow インスタンスから OneLogin アカウントのユーザー、パスワード、ロール、およびグループを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

OneLogin v1.0.2 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

OneLogin スポーク は、ユーザー、パスワード、ロール、およびグループを管理するためのアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
グループ管理	グループを検索	OneLogin アカウントで利用可能なグループのリストを取得します。
パスワード管理	ロックステータスを取得	OneLogin でユーザーのロックステータスを取得します。
	ユーザーのロック	OneLogin で指定されたユーザーアカウントをロックします。
	ユーザーのロック解除	OneLogin でユーザーのロックを解除します。
	パスワードを更新	OneLogin でユーザーのパスワードを更新します。
ユーザー管理	ユーザーを作成	OneLogin にユーザーを作成します。
	ユーザーの詳細を取得	OneLogin で要求されたユーザーの詳細を取得します。
	ユーザーを検索	要求されたユーザーの詳細を取得します。
	ユーザーを更新	OneLogin でユーザーの属性を更新します。
ユーザーロール管理	ロールを割り当て	OneLogin アカウントのユーザーにロールを割り当てます。
	ユーザー別にロールを取得	OneLogin アカウントのユーザーに割り当てられたロール ID を取得します。
	ロールを検索	ロールの詳細を取得します。
	ロールを削除	OneLogin アカウントのユーザーに割り当てられた指定されたロールを削除します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 OneLoginSpoke を設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所およびMID サーバー選択属性を設定します。MID サーバーでのアクションの実行の詳細については、「統合ステップ」を参照してください。

OneLoginSpoke を設定

OAuth 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと OneLogin アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

OneLogin ポータルで API 認証情報を作成

OneLogin ポータルで API 認証情報を作成して OAuth 2.0 認証を有効にし、クライアント ID とクライアントシークレットの値を取得します。

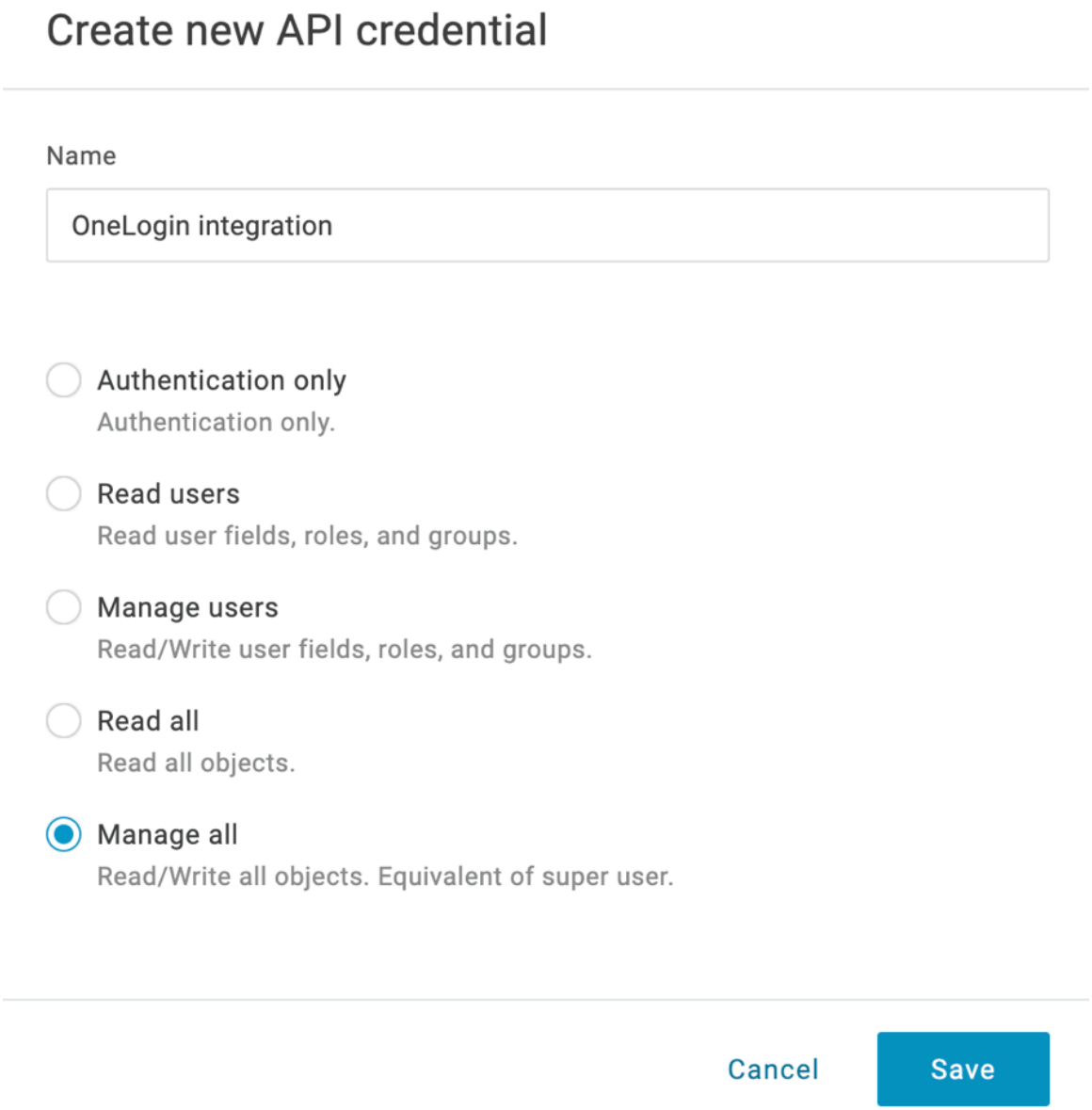
始める前に
必要なロール：admin またはアカウントオーナー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

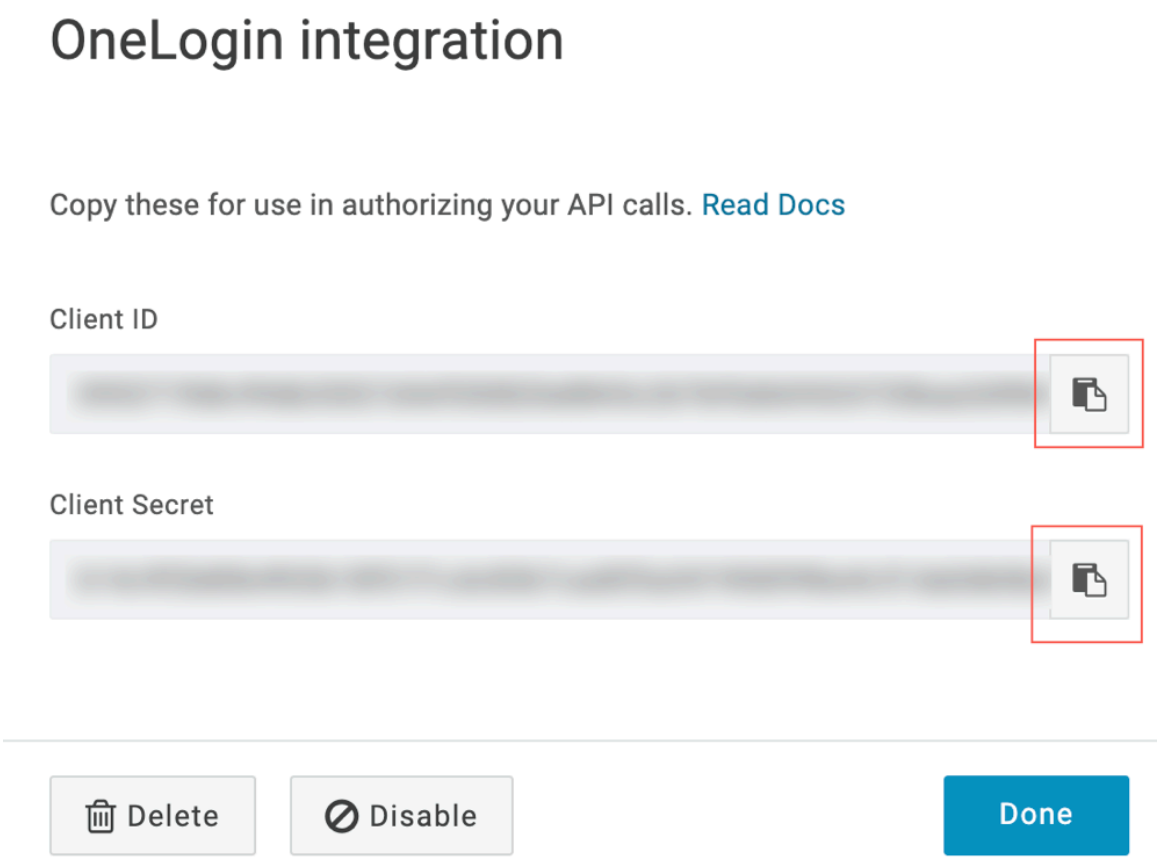
1. アカウントオーナーまたはアドミニストレーターとして OneLogin アカウントにログインします。
2. [開発者] > **[API** 認証情報]に移動します。
3. [API アクセス] ページで、[新しい認証情報] をクリックします。
4. フォームで、認証情報名を入力し、認証情報のスコープを選択します。
   詳細については、「API 認証情報の操作 (Working with API Credentials)」を参照してください。

   注: 必ず [ユーザーの管理] または [すべての管理 **(Manage all)]** 権限を選択してください。



5. [保存] をクリックします。
   クライアント ID とクライアントシークレットの値が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. 後で使用するために [クライアント ID] と [クライアントシークレット] の値をコピーして記録します。

OneLogin の接続および資格情報エイリアスレコードを構成

デフォルトの接続および資格情報エイリアスを構成して ServiceNow インスタンスと OneLogin アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- OneLogin スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. レコード、**[OneLogin]** を開きます。
3. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。
4. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続 URL	この形式の接続 URL：`https://api.<region>.onelogin.com`。`<region>` を OneLogin アカウントのリージョンで置き換えます。
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。
OAuth エンティティ名	OAuth レコードを識別する名前です。
OAuth クライアント ID	OneLogin ポータルで作成された認証情報のクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	OneLogin ポータルで作成された認証情報のクライアントシークレット。
OAuth トークン URL	この形式のトークン URL：`https://api.<region>.onelogin.com/auth/oauth2/v2/token` 。`<region>` を OneLogin アカウントのリージョンで置き換えます。

5. **[OAuth** トークンを作成して取得] クリックします。
   ServiceNow インスタンスは OneLogin アカウントと統合されます。

Oracle Autonomous DB スポーク

ServiceNow インスタンスから Oracle Autonomous Database の操作を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Oracle Autonomous DB スポークは v1.0.6 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは、Oracle Autonomous DB 20160918 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Oracle Autonomous DB アカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- Oracle Cloud IAM Spoke (com.sn.oci.iam.spoke)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Oracle Autonomous DB Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときに Oracle Autonomous DB タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
データベースバックアップ管理	データベースバックアップを作成	指定された要求パラメーターに基づいて、指定されたデータベースの Autonomous Database バックアップを作成します。
	データベースバックアップを取得	指定された Autonomous Database バックアップの詳細を取得します。
	データベースバックアップを検索	指定されたデータベース ID またはコンパートメント ID に基づいて、Autonomous Database バックアップのリストを取得します。
データベース管理	データベースを作成	Autonomous Database を作成します。
	クローンによりデータベースを作成	既存の Autonomous Database のクローンを作成します。
	データベースを削除	指定された Autonomous Database を削除します。
	データベースの Data Safe を登録解除	指定された Autonomous Database の Data Safe を非同期に登録解除します。
	データベースをフェイルオーバー	指定された Autonomous Database のスタンバイへのフェイルオーバーデータベースを開始します。
	データベースを取得	指定された Autonomous Database の詳細を取得します。
	データベースを検索	Autonomous Database のリストを取得します。
	データベースの Data Safe を登録	指定された Autonomous Database を非同期に Data Safe に登録します。
	データベースを再起動	指定された Autonomous Database を再起動します。
	データベースを開始	指定された Autonomous Database を起動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	データベースを停止	指定された Autonomous Database を停止します。
	データベースを更新	指定された Autonomous Database を更新します。
データベースのバージョン	データベースバージョンを検索	サポートされている Autonomous Database バージョンのリストを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Oracle Autonomous DB Spoke を設定。

Oracle Autonomous DB Spoke を設定

認証情報を使用してServiceNowインスタンスと Oracle Autonomous DB を統合し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Oracle Cloud IAM スポークを有効にして設定します。
- Oracle Autonomous DB スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Oracle Cloud IAM Spoke の認証情報レコードを作成

Oracle Cloud IAM アカウントの認証情報レコードを作成します。Oracle Cloud IAM Spoke 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

Java Keystore (JKS) ファイルの公開鍵を使用し、Oracle Cloud アカウントから指紋を生成します。指紋の詳細については、「必須キーと OCID」を参照してください。

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **OCI SHA256WithRSA Signature** を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OCI SHA256WithRSA Signature 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：Oracle IAM Cloud Cred
証明書システム ID	OCI 署名証明書のシステム ID です。
エイリアス	KeyStore のエイリアスです。
エイリアスパスワード	KeyStore のエイリアスパスワードです。
キー ID	キー ID は、複数のキーを使ってトークンに署名する際に、どのキーを使用するかを識別するのに役立ちます。キー ID は、この形式では、テナント OCID、ユーザー OCID、および指紋をスラッシュ (/) で区切ったものです：`ocid1.tenancy.oc1..<unique_ID>/ocid1.user.oc1..<unique_ID>/<key_fingerprint>`
適用先	認証情報をネットワーク内のすべての MID サーバーに適用するかどうかを指定するオプションです。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズムです。`OCI SHA256RSA Signing Algorithm` を選択

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

Oracle Cloud IAM Spoke の接続レコードを作成

Oracle Cloud IAM アカウントの接続レコードを作成します。Oracle Cloud IAM Spoke の接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Oracle Cloud IAM でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **OracleIAM_credentialANDconnecton** のエイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例を次に示します。`Oracle IAM conn`
認証情報	Oracle Autonomous DB Spoke 用に作成された認証情報レコード。例：`Oracle IAM Cred`
接続エイリアス	この接続に関連付けられているエイリアスレコード。`sn_oci_iam_spoke.OracleIAM_credentialAN` を検索して選択
ホスト	**Oracle Cloud IAM** サーバーがホストされているターゲットホストの完全修飾ドメイン名例：`database.ap-mumbai-1.oraclecloud.com` 。
接続 URL	**Oracle Cloud IAM** に接続するためのベース URL です。例：`https://database.ap-mumbai-1.oraclecloud.com`
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	接続で使用されるターゲット ポート。空白の場合は、デフォルトのポートが使用されます。
MID サーバーを使用	この接続に MID サーバー を使用するオプション。チェックボックスが選択されている場合、[MID サーバー詳細構成] 関連リストのフィールドを定義します。

5. [送信] をクリックします。

Oracle Autonomous DB Spoke の認証情報レコードを作成

Oracle Autonomous DB アカウントの認証情報レコードを作成します。Oracle Autonomous DB Spoke 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **OCI SHA256WithRSA Signature** を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OCI SHA256WithRSA Signature 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：Oracle IAM Cloud Cred
証明書システム ID	OCI 署名証明書のシステム ID です。
エイリアス	KeyStore のエイリアスです。
エイリアスパスワード	KeyStore のエイリアスパスワードです。
キー ID	Key ID (kid) は、複数のキーを使ってトークンに署名する際に、どのキーを使用するかを識別するのに役立ちます。キー ID は、この形式では、テナント OCID、ユーザー OCID、および指紋をスラッシュ (/) で区切ったものです：ocid1.tenancy.oc1..<unique_ID>/ocid1.user.oc1..<unique_ID>/<key_fingerprint>
適用先	認証情報をネットワーク内のすべての MID サーバーに適用するかどうかを指定するオプションです。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプション
認証情報エイリアス	関連する認証情報レコード認証情報エイリアスをすでに作成している場合は、レコードを検索して選択します。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズムです。`OCI SHA256RSA Signing Algorithm` を選択

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

Oracle Autonomous DB Spoke の接続レコードを作成

Oracle Autonomous DB アカウントの接続レコードを作成します。Oracle Autonomous DB Spoke の接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Oracle Autonomous DB でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **[Oracle Autonomous Database]** のエイリアスレコードを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例を次に示します。`Oracle Auto DB` 接続
認証情報	Oracle Autonomous DB Spoke 用に作成された認証情報レコード。たとえば、`Oracle ADB Creds` を入力します。
接続エイリアス	この接続に関連付けられているエイリアスレコード。`sn_ci_adb_spoke.Oracle_Autonomous_Database` を検索して選択します。
ホスト	**[Oracle Autonomous DB]** サーバーがホストされているターゲットホストの完全修飾ドメイン名例：`database.ap-mumbai-1.oraclecloud.com` 。
接続 URL	**[Oracle Autonomous DB]** に接続するためのベース URL。例：`https://database.ap-mumbai-1.oraclecloud.com`
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	接続で使用されるターゲット ポート。空白の場合は、デフォルトのポートが使用されます。
MID サーバーを使用	この接続に MID サーバー を使用するオプション。チェックボックスが選択されている場合、[MID サーバー詳細構成] 関連リストのフィールドを定義します。

5. [送信] をクリックします。

Oracle Block Storage スポーク

ServiceNowインスタンスから Oracle Block Storageアカウントのブロックストレージとボリュームを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Oracle Block Storage スポーク v1.0.4 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているバージョン

このスポークは Oracle Block StorageAPI バージョン 20160918 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- Oracle Cloud IAM スポーク
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Oracle Block Storage Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにOracle Block Storageタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ボリュームバックアップ管理	ボリュームバックアップのコンパートメントを変更	ボリュームバックアップを同じテナント内の別のコンパートメントに移動します。
	ボリュームバックアップを作成	指定されたボリュームの新しいバックアップを作成します。
	ボリュームバックアップを削除	ボリュームバックアップを削除します。
	ボリュームバックアップを取得	指定されたボリュームバックアップに関する情報を取得します。
	ボリュームバックアップを検索	指定されたコンパートメント内のボリュームバックアップのリストを取得します。
	ボリュームバックアップを更新	指定されたボリュームバックアップを更新します。
ボリュームバックアップポリシー管理	ボリュームバックアップポリシーを作成	ユーザー定義のバックアップポリシーを作成します。
	ボリュームバックアップポリシーを削除	ユーザー定義のバックアップポリシーを削除します。
	ボリュームバックアップポリシーを取得	指定されたボリュームバックアップポリシーの詳細を取得します。
	ボリュームバックアップポリシーを検索	指定されたコンパートメント内のボリュームバックアップポリシーのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ボリュームバックアップポリシーを更新	ユーザー定義のバックアップポリシーを更新します。
ボリュームグループバックアップ管理	ボリュームグループバックアップのコンパートメントを変更	ボリュームグループバックアップを同じテナント内の別のコンパートメントに移動します。
	ボリュームグループバックアップを作成	指定されたボリュームグループの新しいバックアップボリュームグループを作成します。
	ボリュームグループバックアップを削除	指定されたボリュームグループバックアップを削除します。
	ボリュームグループバックアップを取得	指定されたボリュームグループバックアップの詳細を取得します。
	ボリュームグループバックアップを検索	指定されたコンパートメント内のボリュームグループバックアップのリストを取得します。
	ボリュームグループバックアップを更新	指定されたボリュームグループバックアップを更新します。
ボリュームグループ管理	ボリュームグループコンパートメントを変更	ボリュームグループを同じテナント内の別のコンパートメントに移動します。
	ボリュームグループを作成	指定されたコンパートメントに新しいボリュームグループを作成します。
	ボリュームグループを削除	指定されたボリュームグループを削除します。
	ボリュームグループを取得	指定されたボリュームグループの詳細を取得します。
	ボリュームグループを検索	指定されたコンパートメント内のボリュームグループのリストを取得します。
	ボリュームグループを更新	指定されたボリュームグループを更新します。
ボリューム管理	ボリュームを添付	指定されたストレージボリュームを指定されたインスタンスに接続します。
	ボリュームコンパートメントを変更	ボリュームを同じテナント内の別のコンパートメントに移動します。
	ボリュームを作成	指定されたコンパートメントに新しいボリュームを作成します。
	ボリュームを削除	指定されたボリュームを削除します。
	ボリュームをデタッチ	インスタンスからストレージボリュームをデタッチします。
	ボリュームを取得	指定されたボリュームの詳細を取得します。
	ボリューム添付ファイルを取得	指定されたボリューム添付ファイルに関する情報を取得します。
	ボリューム添付ファイルを検索	指定されたコンパートメント内のボリューム添付ファイルのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ボリュームを検索	指定されたコンパートメント内のボリュームのリストを取得します。
	ボリュームを更新	指定されたコンパートメントの指定されたボリュームを更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Oracle Block StorageSpoke を設定。

Oracle Block StorageSpoke を設定

OCI SHA256WithRSA Signature の認証情報を使用してServiceNowインスタンスと Oracle Block Storageアカウントを統合し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Oracle Cloud IAM スポークを有効にして設定します。
- Oracle Block Storage スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. オプション: JKS 証明書を作成します。
   Oracle Block StorageSpoke に JKS 証明書を作成したり、OracleCloud IAM Spoke に作成した証明書を使用したりできます。JKS 証明書の作成については、Java KeyStore (JKS) 証明書を作成を参照してください。
2. オプション: X.509 証明書を作成します。
   Oracle Block StorageSpoke に X.509 証明書を作成したり、OracleCloud IAM Spoke に作成した証明書を使用したりできます。X.509 証明書の作成については、Oracle Cloud IAM Spoke の X.509 証明書を作成を参照してください。
3. Oracle Cloud IAM Spoke の接続および資格情報エイリアスに子エイリアスを作成します。

   a. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

   b. [新規] をクリックします。

   c. フォームに、これらの値を入力します。

   接続および資格情報エイリアスフォーム

フィールド	説明
名前	エイリアスレコードを識別する名前。たとえば、`Oracle Block Storage` エイリアスを入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
親エイリアス	OracleCloud IAM Spoke の接続および資格情報エイリアスレコード。たとえば、**sn_oci_iam_spoke.OracleIAM_credentialANDconnecto** を入力します。

d. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

4. Oracle Block StorageSpoke の認証情報レコードを作成します。

a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

b. [新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

c. OCI SHA256WithRSA Signature を選択します。

d. フォームのフィールドに入力します。

> **注:** Oracle Block StorageSpoke 専用に作成した証明書の詳細を指定したり、Oracle Cloud IAM Spoke 用に作成した既存の証明書の詳細を指定したりできます。

OCI SHA256WithRSA Signature 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Oracle Block Storage Cred` を入力します。
証明書システム ID	署名証明書のシステム ID です。
エイリアス	KeyStore のエイリアスです。
エイリアスパスワード	KeyStore のエイリアスパスワードです。
キー ID	キー ID は、複数のキーを使ってトークンに署名する際に、どのキーを使用するかを識別するのに役立ちます。キー ID は、この形式では、テナント OCID、ユーザー OCID、および指紋をスラッシュ (/) で区切ったものです：`ocid1.tenancy.oc1..<unique_ID>/ocid1.user.oc1..<unique_ID>/<key_fingerprint>`
適用先	認証情報をネットワーク内のすべての MID サーバーに適用するかどうかを指定するオプションです。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズムです。`OCI SHA256RSA Signing Algorithm` を選択

e. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

5. Oracle Block StorageSpoke の接続レコードを作成します。

a. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. 作成した子エイリアスレコードを開きます (例：**Oracle Obj Storage** エイリアス)。

c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。

d. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Oracle Block Storage conn` を入力します。
認証情報	Oracle Block StorageSpoke 用に作成された認証情報レコードたとえば、`Oracle Block Storage Cred` を入力します。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
接続 URL	Oracle Block Storageに接続するためのベース URL 例：`https://iaas.ap-mumbai-1.oraclecloud.com`
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。

e. [送信] をクリックします。

ServiceNowインスタンスと Oracle Block Storageアカウントは統合されます。必要に応じて、スポークアクションを使用してフローをビルドし、タスクを自動化できます。

Oracle Boot Volume スポーク

ServiceNowインスタンスから Oracle Boot Volumeアカウントのブートボリューム、バックアップ、および KMS キーを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Oracle Boot Volume v1.0.6 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Oracle Boot VolumeAPI バージョン 20160918 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- Oracle Cloud IAM スポーク
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Oracle Boot Volume Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ブートボリュームバックアップ管理	ブートボリュームバックアップコンパートメントを変更	ブートボリュームバックアップを同じテナント内の別のコンパートメントに移動します。
	ブートボリュームのバックアップをコピー	指定されたリージョンにブートボリュームのバックアップコピーを作成します。
	ブートボリュームのバックアップを作成	指定されたブートボリュームのブートボリュームバックアップを作成します。
	ブートボリュームのバックアップを削除	ブートボリュームのバックアップを削除します。
	ブートボリュームのバックアップを取得	指定されたブートボリュームバックアップの情報を取得します。
	ブートボリュームバックアップを検索	指定されたコンパートメントのブートボリュームバックアップをリストします。
	ブートボリュームのバックアップを更新	指定されたブートボリュームバックアップを更新します。
ブートボリューム KMS キー管理	ブートボリューム KMS キーを削除	指定されたブートボリュームにアサインされているキー管理暗号化キーを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ブートボリューム KMS キーを取得	指定されたブートボリュームにアサインされているキー管理暗号化キーを取得します。
	ブートボリューム KMS キーを更新	指定されたボリュームを新しいキー管理暗号化キーで更新します。
ブートボリューム管理	ブートボリュームを接続	指定されたブートボリュームを指定されたインスタンスに接続します。
	ブートボリュームコンパートメントを変更	ブートボリュームを同じテナント内の別のコンパートメントに移動します。
	ブートボリュームを作成	指定されたコンパートメントにブートボリュームを作成します。
	ブートボリュームを削除	指定されたブートボリュームを削除します。
	ブートボリュームをデタッチ	インスタンスからブートボリュームをデタッチします。
	ブートボリュームを取得	指定されたブートボリュームの情報を取得します。
	ブートボリューム添付ファイルを取得	指定されたブートボリューム添付ファイルに関する情報を取得します。
	ブートボリューム添付ファイルを検索	指定されたコンパートメントのブートボリューム添付ファイルをリストします。
	ブートボリュームを検索	指定されたコンパートメントのブートボリュームをリストします。
	ブートボリュームを更新	指定されたブートボリュームを更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Oracle Boot VolumeSpoke を設定。

Oracle Boot VolumeSpoke を設定

OCI SHA256WithRSA Signature の認証情報を使用してServiceNowインスタンスと Oracle Boot Volumeアカウントを統合し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Oracle Cloud IAM スポークを有効にして設定します。
- Oracle Boot Volume スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. オプション: JKS 証明書を作成します。
   Oracle Boot VolumeSpoke に JKS 証明書を作成したり、OracleCloud IAM Spoke に作成した証明書を使用したりできます。JKS 証明書の作成については、Java KeyStore (JKS) 証明書を作成を参照してください。
2. オプション: X.509 証明書を作成します。
   Oracle Boot VolumeSpoke に X.509 証明書を作成したり、OracleCloud IAM Spoke に作成した証明書を使用したりできます。X.509 証明書の作成については、Oracle Cloud IAM Spoke の X.509 証明書を作成を参照してください。
3. Oracle Boot VolumeSpoke の認証情報レコードを作成します。

   a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

   b. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

   c. **OCI SHA256WithRSA Signature** を選択します。

   d. フォームのフィールドに入力します。

   > 注: Oracle Boot VolumeSpoke 専用に作成した証明書の詳細を指定したり、Oracle Cloud IAM Spoke 用に作成した既存の証明書の詳細を指定したりできます。

OCI SHA256WithRSA Signature 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Oracle Boot Vol Cred` を入力します。
証明書システム ID	署名証明書のシステム ID です。
エイリアス	KeyStore のエイリアスです。
エイリアスパスワード	KeyStore のエイリアスパスワードです。
キー ID	キー ID は、複数のキーを使ってトークンに署名する際に、どのキーを使用するかを識別するのに役立ちます。キー ID は、この形式では、テナント OCID、ユーザー OCID、および指紋をスラッシュ (/) で区切ったものです：`ocid1.tenancy.oc1..<unique_ID>/ocid1.user.oc1..<unique_ID>/<key_fingerprint>`
適用先	認証情報をネットワーク内のすべての MID サーバーに適用するかどうかを指定するオプションです。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズムです。`OCI SHA256RSA Signing Algorithm` を選択

e. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

4. Oracle Boot VolumeSpoke の接続レコードを作成します。

a. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. Oracle Boot Volume スポークのエイリアスレコードを開きます (例：**Oracle_Boot_Volume_Connection**)。

c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。

d. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Oracle Boot Volume Conn` を入力します。
認証情報	Oracle Boot VolumeSpoke 用に作成された認証情報レコードたとえば、`Oracle Boot Vol Cred` を入力します。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
接続 URL	Oracle Boot Volumeに接続するためのベース URL 例：`https://iaas.ap-mumbai-1.oraclecloud.com`
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。

e. [送信] をクリックします。

ServiceNowインスタンスと Oracle Boot Volumeアカウントは統合されます。必要に応じて、スポークアクションを使用してフローをビルドし、タスクを自動化できます。

Oracle Cloud IAM スポーク

ServiceNow インスタンスから Oracle Infrastructure Identity and Access Management (IAM) でユーザー ID とユーザーアクセスを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Oracle Cloud IAM スポークは v1.1.3 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Oracle Cloud IAM 20160918 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Oracle Cloud アカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Oracle Cloud IAM Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにOracle Cloud IAM タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
コンパートメント管理	リソースを一括削除	指定されたコンパートメントから複数のリソースを一括削除します。
	リソースを一括移動	複数のリソースをあるコンパートメントから別のコンパートメントに一括移動します。
	コンパートメントを作成	指定された親コンパートメントに子コンパートメントを作成します。
	コンパートメントを取得	指定されたコンパートメントの詳細を取得します。
	コンパートメントを検索	指定されたテナント内のコンパートメントのリストを取得します。
	コンパートメントを移動	指定された子コンパートメントを同じテナント内の別の親コンパートメントに移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	コンパートメントを復元	削除されたコンパートメントを復旧し、そのステータスをアクティブに変更します。
	コンパートメントを更新	指定されたコンパートメントを更新します。
グループ管理	グループを作成	指定したテナントでグループを作成します。
	グループを削除	指定したグループを削除します。
	グループを取得	指定されたグループに関する情報を取得します。
	グループを検索	指定されたテナント内のグループのリストを取得します。
	グループを更新	指定されたグループを更新します。
OCI メタデータ	テナントを取得	指定したテナントに関する情報を取得します。
	利用可能なドメインを検索	指定されたテナント内の利用可能なドメインのリストを取得します。
	リージョンを検索	Oracle Cloud Infrastructure によって提供されるすべてのリージョンのリストを取得します。
ポリシー管理	ポリシーを作成	指定されたコンパートメントにポリシーを作成します。
	ポリシーを削除	指定されたポリシーを削除します。
	ポリシーを取得	指定されたポリシーの情報を取得します。
	ポリシーを検索	指定されたコンパートメント内のポリシーのリストを取得します。
	ポリシーを更新	指定されたポリシーを更新します。
ユーザー管理	グループにユーザーを追加	指定されたグループに指定されたユーザーを追加します。
	ユーザーを作成	ユーザーを作成します。
	ユーザーを削除	指定されたユーザーを削除します。
	ユーザーを取得	指定されたユーザーの詳細を取得します。
	ユーザーグループメンバーシップを検索	指定されたテナントのユーザーグループメンバーシップのリストを取得します。
	ユーザーを検索	指定されたテナントのユーザーのリストを取得します。
	グループからユーザーを削除	対応するユーザーグループメンバーシップを削除して、グループからユーザーを削除します。
	ユーザーを更新	指定したユーザーの詳細を更新します。
	ユーザー機能を更新	指定されたユーザーの機能を更新します。
	ユーザーステータスを更新	指定されたユーザーのブロックを解除します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの設定については、「 Oracle Cloud IAM Spoke を設定。

Oracle Cloud IAM Spoke を設定

OCI SHA256WithRSA 署名の認証情報を使用してServiceNowインスタンスと Oracle Cloud IAM を統合し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Oracle Cloud IAM スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Java KeyStore (JKS) 証明書を作成

keytool ユーティリティを使用して、証明書を生成、インポート、およびエクスポートします。

始める前に

- keytool ユーティリティがコンピューターにインストールされていることを確認してください。
- 必要なロール：admin

手順

1. 証明書を保存するディレクトリーに移動します。
   デフォルトでは、keytool はキーストアコマンドが実行されるディレクトリーにキーストアファイルを作成します。
2. 次の keytool コマンドを入力して、キーストアファイル keystore.jks に証明書を生成します。
   ```
   keytool -genkeypair -alias <mycertificate> -keyalg RSA -keysize 2048
   -validity 365 -keystore keystore.jks -storepass your_keystore_password
   -keypass your_key_password
   ```

   注: すべてのサンプルコマンドのプレースホルダー <mycertificate>、<your_keystore_password>、および <your_key_password> を、自分の証明書名、キーストアパスワード、およびキーパスワードに置き換えます。

3. keytool プロンプトで、氏名、組織、およびその他の詳細を入力します。
   これらの詳細は、証明書を生成するために必要です。
4. 次のコマンドを次の順序で入力します。

```
keytool -export -alias sample -storepass <storepassword> -file
 server.cer -keystore keystore.jks
keytool -import -v -trustcacerts -alias sample -file server.cer
 -keystore cacerts.jks -keypass <keypassword> -storepass
 <storepassword>
keytool -export -alias sample -keystore keystore.jks -rfc -file
 public.cert
keytool -export -alias sample -keystore keystore.jks -rfc -file
 certificate.pem
keytool -list -rfc -keystore keystore.jks -alias sample -storepass
 <storepassword>
keytool -importkeystore -srckeystore keystore.jks -destkeystore
 keystore.p12 -deststoretype PKCS12 -srcalias <alias> -deststorepass
 <storepassword> -destkeypass <keypassword>
openssl pkcs12 -in keystore.p12 -nokeys -out cert.pem
openssl pkcs12 -in keystore.p12 -nodes -nocerts -out PrivateKey.pem
openssl rsa -in key.pem -pubout -out PublicKey.pem
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
keytool -list -v -keystore keystore.p12 -storetype PKCS12 -storepass
 <storepassword>
```

ターゲットディレクトリーに生成された keystore.jks ファイルを検証します。

5. 次のコマンドを入力して、Java Keystore ファイルから公開鍵を抽出します。
`openssl x509 -pubkey -noout -in cert.pem > publickey.pem`

Oracle Cloud IAM Spoke の X.509 証明書を作成

X.509 証明書を作成し、Java Keystore ファイルを添付する必要があります。この証明書は、Oracle Cloud IAM への接続に使用されます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [証明書]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[X.509 証明書] フォーム

フィールド	説明
名前	証明書を識別する一意の名前。たとえば、`OCI IAM 証明書` を入力します。
タイプ	証明書のタイプ**[Java** キーストア] を選択します。
期限切れ時に通知	証明書の有効期限が近づいたときに通知を受けるユーザーのリスト
キーストアパスワード	キーストアのパスワードです。
有効期限切れ前に警告	証明書の有効期限が切れる前に、警告がユーザーに送信される日数
有効	証明書を有効にするオプション
簡単な説明	キーストアの簡単な説明です。

4. 添付ファイルアイコンをクリックし、keystore.jks ファイルをアップロードします。
5. [ストア/証明書を検証] をクリックします。

Oracle Cloud IAM Spoke の認証情報レコードを作成

Oracle Cloud IAM アカウントの認証情報レコードを作成します。Oracle Cloud IAM Spoke 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
Java Keystore (JKS) ファイルの公開鍵を使用し、Oracle Cloud アカウントから指紋を生成します。指紋の詳細については、「必須キーと OCID」を参照してください。

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **OCI SHA256WithRSA Signature** を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

OCI SHA256WithRSA Signature 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：Oracle IAM Cloud Cred
証明書システム ID	OCI 署名証明書のシステム ID です。
エイリアス	KeyStore のエイリアスです。
エイリアスパスワード	KeyStore のエイリアスパスワードです。
キー ID	キー ID は、複数のキーを使ってトークンに署名する際に、どのキーを使用するかを識別するのに役立ちます。キー ID は、この形式では、テナント OCID、ユーザー OCID、および指紋をスラッシュ (/) で区切ったものです：`ocid1.tenancy.oc1..<unique_ID>/ocid1.user.oc1..<unique_ID>/<key_fingerprint>`
適用先	認証情報をネットワーク内のすべての MID サーバーに適用するかどうかを指定するオプションです。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズムです。`OCI SHA256RSA Signing Algorithm` を選択

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

Oracle Cloud IAM Spoke の接続レコードを作成

Oracle Cloud IAM アカウントの接続レコードを作成します。Oracle Cloud IAM Spoke の接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Oracle Cloud IAM でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **OracleIAM_credentialANDconnecton** のエイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例を次に示します。 `Oracle IAM conn`
認証情報	Oracle Autonomous DB Spoke 用に作成された認証情報レコード。 例：`Oracle IAM Cred`
接続エイリアス	この接続に関連付けられているエイリアスレコード。`sn_oci_iam_spoke.OracleIAM_credentialAN` を検索して選択
接続 URL	**Oracle Cloud IAM** に接続するためのベース URL です。例：`https://database.ap-mumbai-1.oraclecloud.com`
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。

5. [送信] をクリックします。

Oracle Compute Engine スポーク

ServiceNowインスタンスから Oracle Compute Engineアカウントのイメージとインスタンスを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Oracle Compute Engine v1.0.4 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Oracle Compute EngineAPI バージョン 20160918 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Oracle Cloud IAM スポーク
- Oracle Object Storage Management スポーク
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Oracle Compute Engine Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにOracle Compute Engineタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
カスタムイメージ管理	イメージコンパートメントを変更	イメージを同じテナント内の別のコンパートメントに移動します。
	イメージを作成	指定されたコンパートメントにカスタムイメージを作成します。
	イメージを削除	指定されたカスタムイメージを削除します。
	イメージをエクスポート	指定されたイメージを Oracle Cloud Infrastructure Object Storage サービスにエクスポートします。
	イメージを取得	指定されたカスタムイメージを取得します。
	イメージを検索	指定されたコンパートメント内の利用可能なイメージのリストを取得します。
	イメージを更新	指定されたカスタムイメージの詳細を更新します。
イメージ形状互換性管理	イメージ形状互換性を追加	イメージの互換性のある形状リストに形状を追加します。
	イメージ形状互換性を削除	イメージ形状互換性エントリを削除します。
	イメージ形状互換性を取得	指定されたイメージ形状互換性エントリを取得します。
	イメージ形状互換性を検索	指定されたイメージのすべての互換性のある形状のリストを取得します。
インスタンス構成管理	インスタンス構成コンパートメントを変更	インスタンス構成を同じテナント内の別のコンパートメントに移動します。
	インスタンス構成を作成	インスタンス構成を作成します。
	インスタンス構成を削除	指定されたインスタンス構成を削除します。
	インスタンス構成を取得	指定されたインスタンス構成を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	インスタンス構成を検索	指定されたコンパートメント内のインスタンス構成のリストを取得します。
	インスタンス構成を更新	指定されたインスタンス構成の詳細を更新します。
インスタンス管理	インスタンスコンパートメントを変更	インスタンスを同じテナント内の別のコンパートメントに移動します。
	インスタンスを作成	インスタンスを作成
	インスタンスを削除	指定されたインスタンスを削除します。
	インスタンスを取得	指定されたインスタンスに関する情報を取得します。
	インスタンスアクション	インスタンスで指定された電源アクションを実行します。
	インスタンスを検索	指定されたコンパートメント内のインスタンスのリストを取得します。
	インスタンスを更新	指定されたインスタンスの詳細を更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Oracle Compute EngineSpoke を設定。

Oracle Compute EngineSpoke を設定

OCI SHA256WithRSA Signature の認証情報を使用してServiceNowインスタンスと Oracle Compute Engineアカウントを統合し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Oracle Cloud IAM スポークを有効にして設定します。
- Oracle Object Storage Management スポークを有効にして設定します。
- Oracle Compute Engine スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. オプション: JKS 証明書を作成します。
   Oracle Compute EngineSpoke に JKS 証明書を作成したり、OracleCloud IAM Spoke に作成した証明書を使用したりできます。JKS 証明書の作成については、Java KeyStore (JKS) 証明書を作成を参照してください。
2. オプション: X.509 証明書を作成します。
   Oracle Compute EngineSpoke に X.509 証明書を作成したり、OracleCloud IAM Spoke に作成した証明書を使用したりできます。X.509 証明書の作成については、Oracle Cloud IAM Spoke の X.509 証明書を作成を参照してください。
3. Oracle Compute EngineSpoke の認証情報レコードを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

b. [新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

c. **OCI SHA256WithRSA Signature** を選択します。

d. フォームに、これらの値を入力します。

> **注:** Oracle Compute EngineSpoke 専用に作成した証明書の詳細を指定したり、Oracle Cloud IAM Spoke 用に作成した既存の証明書の詳細を指定したりできます。

OCI SHA256WithRSA Signature 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`Oracle CE Cred`
証明書システム ID	署名証明書のシステム ID です。
エイリアス	KeyStore のエイリアスです。
エイリアスパスワード	KeyStore のエイリアスパスワードです。
キー ID	キー ID は、複数のキーを使ってトークンに署名する際に、どのキーを使用するかを識別するのに役立ちます。キー ID は、この形式では、テナント OCID、ユーザー OCID、および指紋をスラッシュ (/) で区切ったものです：`ocid1.tenancy.oc1..<unique_ID>/ocid1.user.oc1..<unique_ID>/<key_fingerprint>`
適用先	認証情報をネットワーク内のすべての MID サーバーに適用するかどうかを指定するオプションです。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズムです。`OCI SHA256RSA Signing Algorithm` を選択

e. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

4. Oracle Compute EngineSpoke の接続レコードを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. Oracle Boot Volume スポークのエイリアスレコードを開きます (例：**Oracle_Compute_Engine**)。

c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。

d. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Oracle CE Conn` を入力します。
認証情報	Oracle Boot VolumeSpoke 用に作成された認証情報レコードです。 例：`Oracle CE Cred`
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
接続 URL	Oracle Compute Engineに接続するためのベース URL 例：`https://iaas.ap-mumbai-1.oraclecloud.com`
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。

e. [送信] をクリックします。

ServiceNowインスタンスと Oracle Compute Engineアカウントは統合されます。必要に応じて、スポークアクションを使用してフローをビルドし、タスクを自動化できます。

Oracle EBS スポーク

ServiceNow インスタンスから Oracle EBS インスタンスで受注、調達、経理、顧客、元帳などを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースメモ情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

注: OracleEBS Spoke v1 から OracleEBS Spoke v1.1 にアップグレードする場合は、パッケージを再展開する必要があります。詳細については、「Oracle EBSSpoke を設定」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Oracle EBS スポーク v1.13.0 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポート対象のバージョン

このスポークは、次のバージョン用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

- オペレーティングシステムバージョン：Red Hat Enterprise Linux リリース 8.9 (Ootpa)
- Oracleデータベースバージョン：19.6.0.0.0
- Oracle E-Business Suite アプリケーション tier バージョン：12.2.12
- Oracle WebLogic サーバーバージョン：10.3.6.0.171017 PSU
- Oracle WebTier バージョン：11.1.1.9
- Oracle フォームおよびレポート：10.1.2.3

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Oracle EBS Spoke では、タスクの自動化をデモするサンプルフロー「日次の評価の検索」が提供されます。フローは毎日実行され、OracleEBS から現在の日付について日次通貨為替レートが取得されて、詳細がServiceNowインスタンスに保存されます。

スポークのサブフロー

Oracle EBS Spoke では、タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
AP 請求書 - インターフェイスエントリーを作成	OracleEBS に AP 請求書のインターフェイスエントリーを作成します。
AP 請求書 - 処理詳細を取得	同時プログラムのステータスとその他の詳細を OracleEBS から取得します。
AP 請求書詳細をフェッチ	Oracle EBS から AP 請求書の詳細を取得します。
固定資産 - インターフェイスエントリーの作成	OracleEBS に固定資産のインターフェイスエントリーを作成します。
固定資産 - 処理詳細を取得	同時プログラムのステータスとその他の詳細を OracleEBS から取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフロー	説明
ジャーナルの投稿ステータスを取得	GL ジャーナルヘッダーの現在のステータスを取得します。
物品受領書 - インターフェイスエントリーの作成	OracleEBS に物品受領書のインターフェイスエントリーを作成します。
物品受領書 - 処理詳細を取得	同時プログラムのステータスとその他の詳細を OracleEBS から取得します。
発注書 - インターフェイスエントリーの作成	Oracle EBS に発注書 (PO) のインターフェイスエントリーを作成します。
発注書 - 処理詳細を取得	同時プログラムのステータスとその他の詳細を OracleEBS から取得します。

スポークのアクション

Oracle EBS Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
承認管理	承認要求を承認または却下	Oracle EBS で指定された承認要求を承認または却下します。
	承認をキャンセル	Oracle EBS で指定された承認要求をキャンセルします。
ファイナンス	AP 請求書の作成：同時プログラムの実行	インターフェイステーブルからOracleEBS のベーステーブルに請求書データをインポートする同時実行プログラムを実行します。
	AP 請求書を取得	要求された AP 請求書の詳細を取得します。
	固定資産を取得	要求された固定資産の詳細を取得します。
	ベンダーを取得	要求されたベンダーの詳細を取得します。
	ベンダーサイトを取得	要求されたベンダーサイトの詳細を取得します。
	固定資産をインポート - 同時実行プログラムの実行	インターフェイステーブルからOracleEBS のベーステーブルに固定資産データをインポートする同時実行プログラムを実行します。
	AR 請求書を検索	AR 請求書の詳細を取得します。
	日次レートを検索	入力基準に基づいて、指定された日次の評価の詳細を取得します。
	法人を検索	要求された法人の詳細を取得します。
	配送先場所を検索	入力基準に基づいて、要求された配送先場所の詳細を取得します。
インベントリ管理	インベントリを送信 - 同時プログラムを実行	インベントリアイテム CC プログラムを送信します。
	インベントリアイテムを更新	インベントリアイテムの詳細を更新します。
請求書管理	支払いを承認 - 保留を適用	Oracle EBS で指定された承認済み支払請求書に保留を適用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	支払いを承認 - 保留を解除	Oracle EBS で指定された承認済み支払請求書の保留を解除します。
	請求書をキャンセル	Oracle EBS で請求書をキャンセルします。
	AP 請求書を作成	Oracle EBS で買掛金 (AP) 請求書を作成します。
	AP 請求書を検索	Oracle EBS から買掛金 (AP) 請求書の詳細を取得します。
	請求書支払ステータスを検索	Oracle EBS から請求書の支払ステータスを取得します。
	インベントリを送信 - 同時プログラムを実行	請求書を送信 - Oracle EBS で同時プログラムを実行します。
ジャーナル元帳	ジャーナルを作成	ジャーナルを作成します。
	GL ジャーナルバッチを取得	要求された GL ジャーナルバッチの詳細を取得します。
	GL ジャーナルヘッダーを取得	要求された GL ジャーナルヘッダーの詳細を取得します。
	GL 元帳を取得	要求された GL 元帳の詳細を取得します。
	GL 補助元帳アカウントを取得	要求された GL 補助元帳アカウントの詳細を取得します。
	ジャーナルをインポート - 同時実行プログラムを実行	インターフェイステーブルからOracleEBS のベーステーブルにジャーナルデータをインポートする同時実行プログラムを実行します。
	GL 残高を検索	入力基準に基づいて、要求された GL 残高の詳細を取得します。
	GL 残高を検索	入力クエリに基づいて、要求された GL 残高の詳細を取得します。
	GL コードの組み合わせを検索	入力クエリに基づいて、要求された GL コードの組み合わせの詳細を取得します。
	GL ジャーナルを検索	入力基準に基づいて、要求された GL ジャーナルの詳細を取得します。
	GL 元帳を検索	入力基準に基づいて、要求された GL 元帳の詳細を取得します。
	GL 補助元帳アカウントを検索	入力基準に基づいて、要求された GL 補助元帳アカウントの詳細を取得します。
	ジャーナルを投稿 - 同時実行プログラムを実行	非投稿ジャーナルを投稿する同時実行プログラムを実行します。
	ジャーナルを逆にする - 同時実行プログラムを実行	投稿済みジャーナルを逆にする同時実行プログラムを実行します。
マスター	アイテムを作成	アイテムを作成します。
	コストセンターを検索	要求されたコストセンターの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	アイテムを検索 (Look up Item)	要求されたアイテムの詳細を取得します。
	アイテムカテゴリを検索	要求されたアイテムカテゴリの詳細を取得します。
ユーティリティアクション	相互参照を使用して入力ペイロードを生成	構成済みの相互参照フィールドを ServiceNow ID に割り当てながら、サブフロー入力ペイロードからアクションを作成するためのアレイタイプ入力ペイロードを生成します。
	追加の EBS フィールドを取得	入力文字列 (アクションの内部名) に基づいて、動的テンプレートまたは動的オブジェクトとしても使用可能なフィールドのリストを取得します。
	レコードを取得	SQL クエリを使用して Oracle EBS モジュールからデータを取得します。
	オブジェクトの一般的な詳細を検索	指定されたオブジェクトの一般的な詳細を取得します。
	同時実行プログラムのステータスを検索	同時実行要求のステータスを取得します。
	OEBS レコードの詳細を解析	「レコードを取得」アクションの JSON 出力を構造化オブジェクト形式に変換します。
	要求の完了を待機	要求のステータスが完了になるまで待機します。
転送注文管理	転送注文の作成	指定した詳細を使用して転送注文を作成します。
	転送注文を検索	要求された転送注文の詳細を取得します。
Procurement (調達)	物品受領書の作成	物品受領書を作成します。
	事前出荷通知を取得	要求された事前出荷通知の詳細を取得します。
	事前出荷通知を検索	入力クエリに基づいて、複数の事前出荷通知の詳細を取得します。
資産管理	資産を作成	指定された詳細で資産を作成します。
	資産カテゴリのストリームを検索	資産カテゴリ検索の詳細を取得します。
	資産を送信 - 同時プログラムを実行	Oracle EBS の指定された資産の同時ステータスを返します。
請求書と支払い	請求の詳細を検索	要求された請求の詳細を取得します。
	残高を検索	要求された残高の詳細を取得します。
	支払いの詳細を検索	要求された支払いの詳細を取得します。
	支払いステータスを検索	要求された支払いステータスを取得します。
顧客	顧客アカウントを作成	顧客アカウントを作成します。
	顧客アカウントロールを作成	顧客アカウントロールを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	顧客連絡先を作成	顧客アカウント連絡先を作成します。
	顧客関係を作成	顧客関係レコードを作成します。
	ユーザーを作成	ユーザーレコードを作成します。
	顧客アカウントを検索	要求された顧客アカウントの詳細を取得します。
	顧客連絡先を検索	要求された顧客連絡先を取得します。
	顧客アカウントを更新	要求された顧客アカウントの詳細を取得します。
	顧客連絡先を更新	要求された顧客連絡先の詳細を更新します。
受注	受注ステータスストリームを検索	要求された受注ステータスの詳細を取得します。
	受注ストリームを検索	要求された受注の詳細を取得します。
契約管理	契約を作成	Oracle EBS で契約を作成します。
	契約を作成 - 同時実行プログラムの実行	Oracle EBS で契約の同時実行状況を取得します。
発注書 (PO) 管理	発注書 (PO) をキャンセル	発注書 (PO) をキャンセルします。
	一括リリースを作成	Oracle EBS で一括リリースを作成します。
	一括リリースを作成 - 同時実行プログラムの実行	Oracle EBS で一括リリースの同時実行状況を取得します。
	発注書を作成	Oracle EBS で発注書を作成します。
	発注書 (PO) の作成：同時プログラムの実行	インターフェイステーブルからOracleEBS のベーステーブルに発注書データをインポートする同時実行プログラムを実行します。
	一括購入契約を更新	指定された一括購入契約の詳細を更新します。
	発注書 (PO) を更新	発注書 (PO) を更新します。
受領書管理	PO 物品受領書をキャンセル	発注書 (PO) 物品受領書をキャンセルします。
	物品受領書を作成 - 同時プログラムを実行	同時プログラムモードで物品受領書を作成します。
	PO 物品受領書を作成	Oracle EBS で発注書 (PO) 物品受領書を作成します。
	PO 受領書を検索	Oracle EBS から発注書 (PO) 受領書を取得します。
	PO 物品受領書を更新	Oracle EBS で発注書 (PO) 物品受領書を更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
サプライヤー管理	銀行口座を作成	銀行口座を作成します。
	サプライヤーを作成	Oracle EBS でサプライヤーを作成します。
	サプライヤーサイトを作成	Oracle EBS でサプライヤーサイトを作成します。
	サプライヤーを非アクティブ化	Oracle EBS で指定されたサプライヤーを非アクティブ化します。
	サプライヤーサイトを非アクティブ化	Oracle EBS で指定されたサプライヤーサイトを非アクティブ化します。
	銀行口座ストリームを検索	サプライヤーの銀行口座の詳細を取得します。
	サプライヤーサイトのストリームを検索	Oracle EBS からサプライヤーサイトの詳細を取得します。
	サプライヤーストリームを検索	Oracle EBS からサプライヤーの詳細を取得します。
	銀行口座を更新	Oracle EBS で指定された銀行口座を更新します。
	サプライヤーを更新	Oracle EBS で指定されたサプライヤーの詳細を更新します。
	サプライヤーサイトを更新	Oracle EBS で指定されたサプライヤーサイトの詳細を更新します。
	サプライヤーの銀行口座を無効化	サプライヤーの銀行口座を無効にします。
プライマリデータ管理	添付ファイルを検索	発注書 (PO)、サプライヤー、およびその他の指定された詳細に関連する添付ファイルを Oracle EBS から取得します。
	通貨を検索	Oracle EBS から通貨の詳細を取得します。
	GL 勘定科目ストリームの検索	Oracle EBS から GL アカウントの詳細を取得します。
	GL コストセンターストリームを検索	Oracle EBS からコストセンターの詳細を取得します。
	GL の日次レートを検索	Oracle EBS から GL の日次レートの詳細を取得します。
	GL の元帳を検索	Oracle EBS から元帳の詳細を取得します。
	GL の法人を検索	Oracle EBS から GL の法人の詳細を取得します。
	HR の場所ストリームを検索	Oracle EBS から HR の場所の詳細を取得します。
	インベントリアイテムストリームを検索	Oracle EBS からインベントリアイテムの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	アイテムカテゴリのストリームを検索	Oracle EBS からアイテムカテゴリの詳細を取得します。
	運用単位を検索	Oracle EBS から運用単位の詳細を取得します。
	支払い条件を検索	支払条件の詳細を取得します。
	購買グループを検索	Oracle EBS から購買グループの詳細を取得します。
	購買組織を検索	Oracle EBS から購入組織の詳細を取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Oracle EBSSpoke を設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。OracleEBS エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所およびMID サーバー選択属性を設定します。MID サーバーでのアクションの実行の詳細については、「統合ステップ」を参照してください。

> **注:** OracleEBS インスタンスにプライベートネットワークでのみアクセスできる場合は、MID サーバーを使用する必要があります。

Oracle EBSSpoke を設定

ベーシック認証を使用してServiceNowインスタンスと Oracle EBSインスタンスを統合し、ServiceNow要求を認証します。

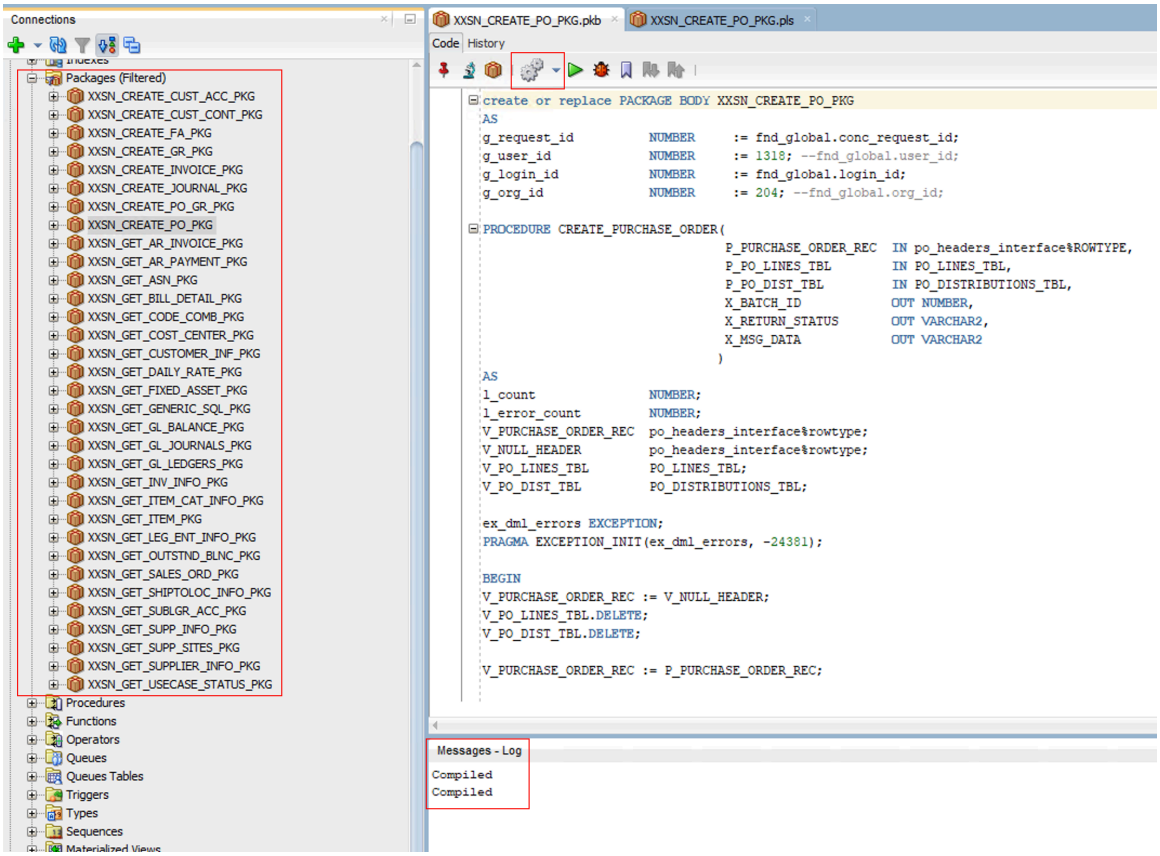
始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Oracle EBS スポークを有効化します。
- Oracle EBSアカウントへのアドミンアクセス
- 必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow® Store から、プロジェクトファイル Oracle_e-business_suite spoke_dependencies.zip をダウンロードし、必要なローカルフォルダーに保存します。
2. Oracle_e-business_suite spoke_dependencies.zip ファイルのコンテンツを解凍します。
3. SQL Developer または SQL クライアントで、APPS スキーマ内のすべての PKB ファイルと PLS ファイルをコンパイルします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. Oracle EBS サーバーで、 Oracle EBSREST API を展開します。

   拡張子ごとに REST API を有効にする手順については、「カスタムデータ連携インターフェイスとサービスの管理」を参照してください。

   これらの手順は、すべての PLS ファイルに対して行う必要があります。各 PLS ファイルを展開する際には、関連する値を指定する必要があります。ここでは、例として *XXSN_CREATE_PO_PKG.pls* を使用して手順を概説します。

   a. コンパイル済みパッケージ .pls ファイルをコピーして、次の各ディレクトリーにアップロードします。

      - `$PO_TOP/patch/115/sql/tmp/`
      - `$PO_TOP/patch/115/sql/`

      注: `$PO_TOP` を、パッケージが属するモジュール (`$AP_TOP`、`$PO_TOP` など) に置き換えていることを確認してください。

   b. Oracle EBSサーバーの PuTTY にログインし、データ連携リポジトリパーサーを実行します。

      i. iLDT (* .ildt) ファイルを生成するには、次の構文を使用してデータ連携リポジトリパーサーを実行します。

```
$IAS_ORACLE_HOME/perl/bin/perl $FND_TOP/bin/irep_parser.pl -g -v
 -username=sysadmin
 po:patch/115/sql:XXSN_CREATE_PO_PKG.pls:12.0=$PO_TOP/patch/115/s
ql/tmp/XXSN_CREATE_PO_PKG.pls
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ii. XXSN_CREATE_PO_PKG.pls ファイルの .ildt ファイルを生成していない場合は、`po` と `$PO_TOP` を必要な `Top`に置き換えます。

iii. XXSN_CREATE_PO_PKG.pls ファイルの .ildt ファイルを生成していない場合は、`XXSN_CREATE_PO_PKG.pls` を必要なパッケージ名に置き換えます。

```
# Interface Repository Annotation Processor, 12.0.0

#
# Generating annotation output.
# Processing file 'XXSN_CREATE_PO_PKG.pls'.
# Using YAPP-based parser.
#  Found a package-level annotation for 'XXSN_CREATE_PO_PKG'.
#  Found a detail-level annotation...
# Found a procedure named 'CREATE_PURCHASE_ORDER'.
#  Found a detail-level annotation...
# Found a procedure named 'SUBMIT_PURCHASE_ORDER_CC'.
#  Found a detail-level annotation...
# Found a procedure named 'CANCEL_PO'.
# Done all files.
```

c. 次のコマンドを実行して、生成された iLDT ファイルをデータ連携リポジトリにアップロードします。

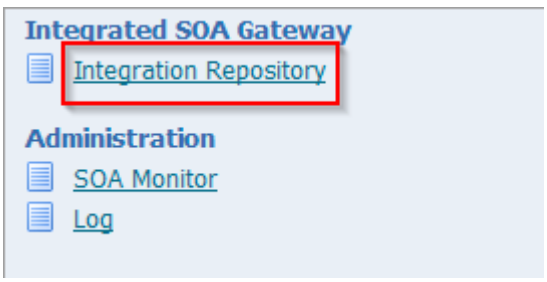
```
$FND_TOP/bin/FNDLOAD apps/apps 0 Y UPLOAD
 $FND_TOP/patch/115/import/wfirep.lct XXSN_CREATE_PO_PKG_pls.ildt
```

注: `XXSN_CREATE_PO_PKG_` を必要なパッケージ名に置き換えます。

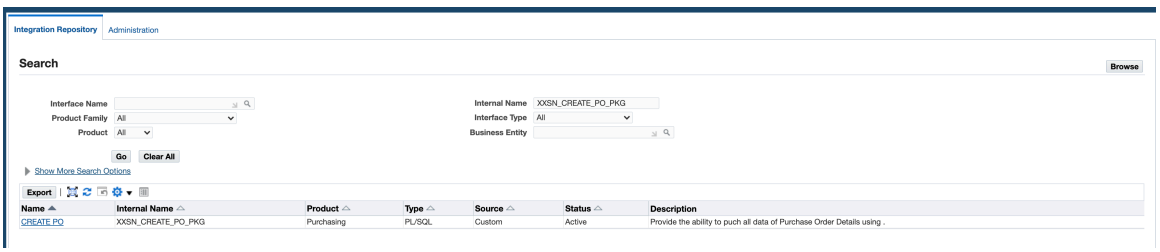
```
bash-4.2$ $FND_TOP/bin/FNDLOAD apps/apps 0 Y UPLOAD $FND_TOP/patch/115/import/wfirep.lct XXSN_CREATE_PO_PKG_pls.ildt
Log filename : L7734829.log


Report filename : O7734829.out
```

d. システムアドミニストレーターとしてOracleE-Business Suite インスタンスにログインします。

e. [統合された **SOAP** ゲートウェイ] の責任に切り替えて、[データ連携リポジトリ] を選択します。

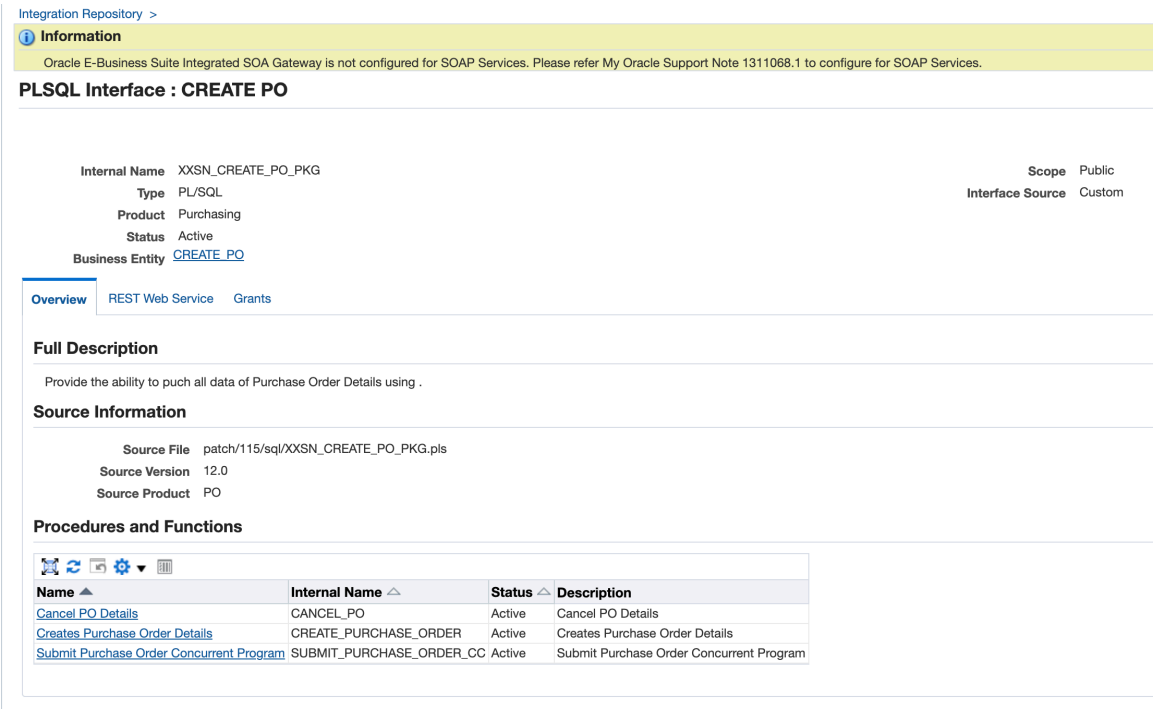


f. 内部名 `XXSN_CREATE_PO_PKG` の Web サービスを検索します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

g. 検索結果のリンクをクリックして、インターフェイスパッケージで利用可能なメソッドのリストにアクセスします。



注: PLC/SQL インターフェイスタイプでは、SOAP Web サービスと REST Web サービスの両方を利用できます。ただし、この手順は REST Web サービスに焦点を当てています。

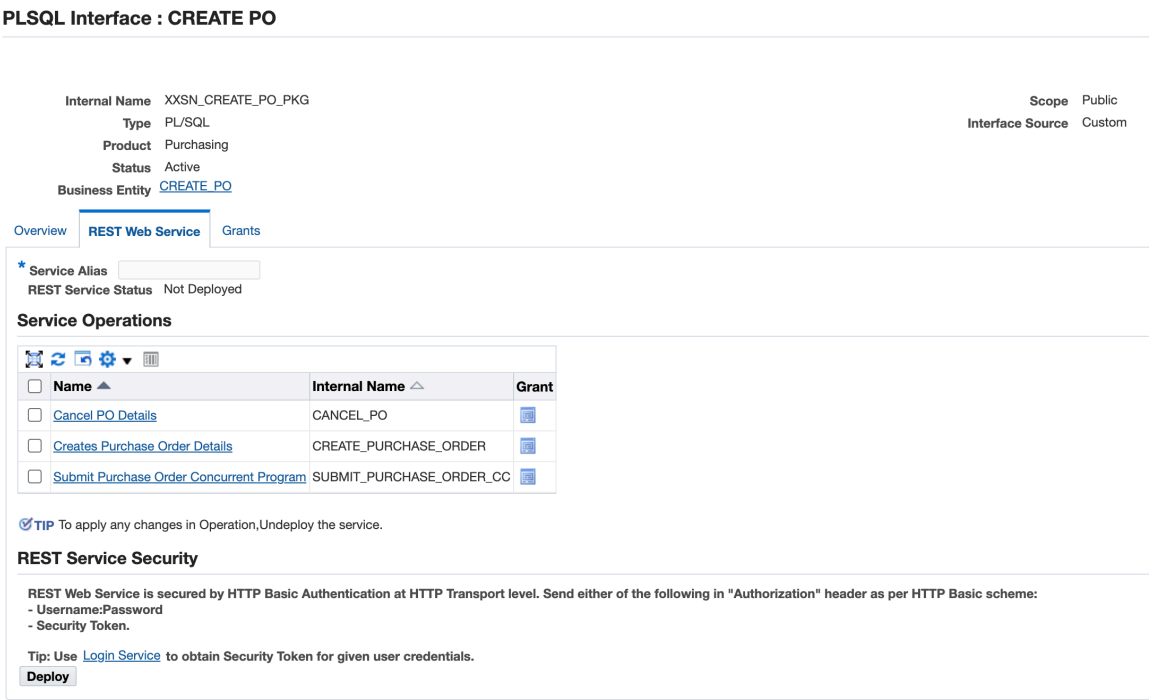
h. **[REST Web サービス]** タブをクリックします。

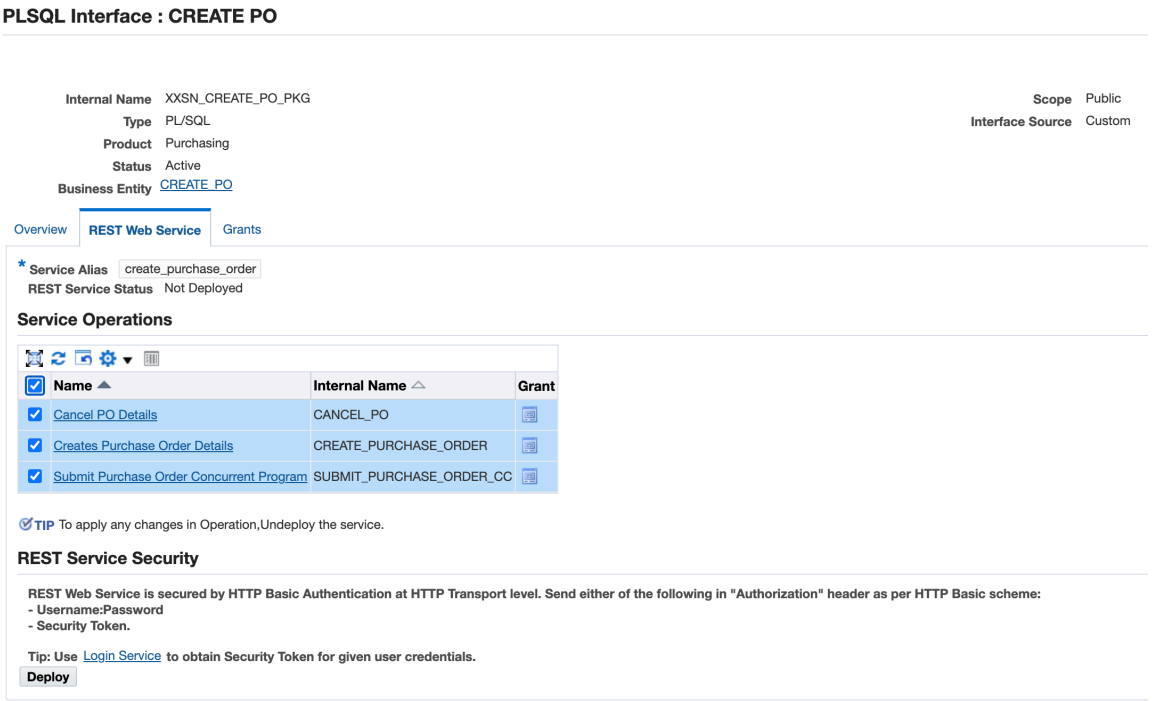
i. このサービスのエイリアスを設定します。たとえば、`hr` です。

ii. [展開] をクリックします。

i. **[REST Web サービス]** タブをクリックして、[PO の作成] メソッドを表示します。

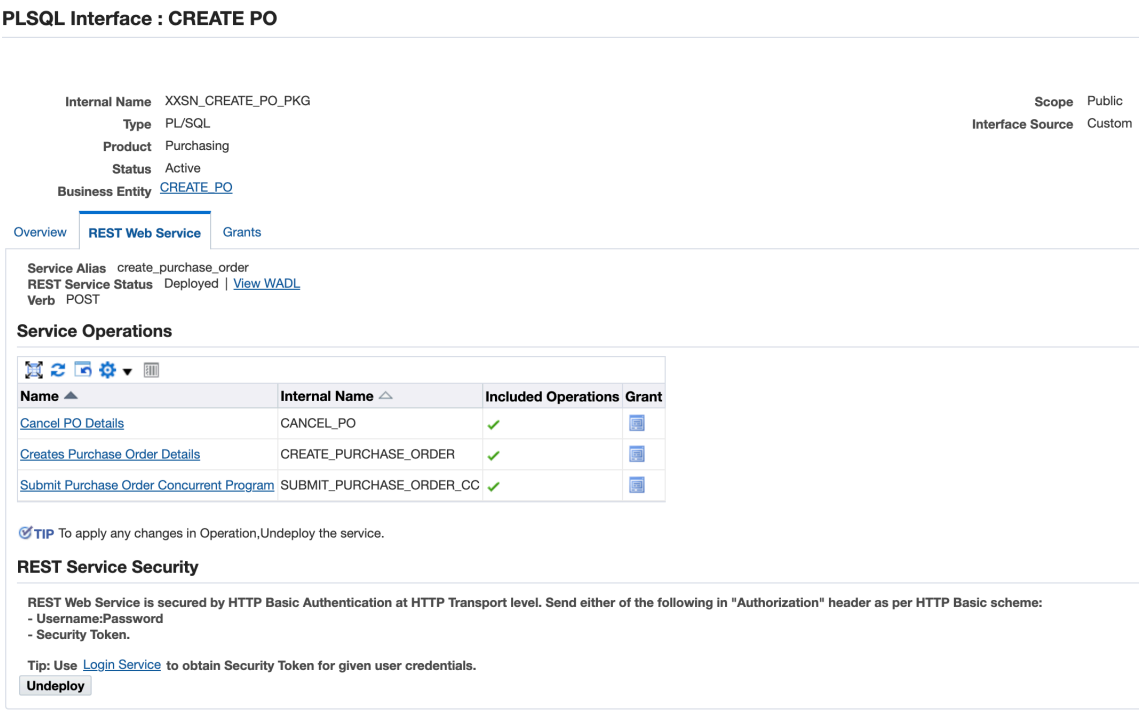
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。





j. 一意のサービスエイリアス名を入力し、**[PO の作成]** メソッドを選択して、[展開] をクリックします。

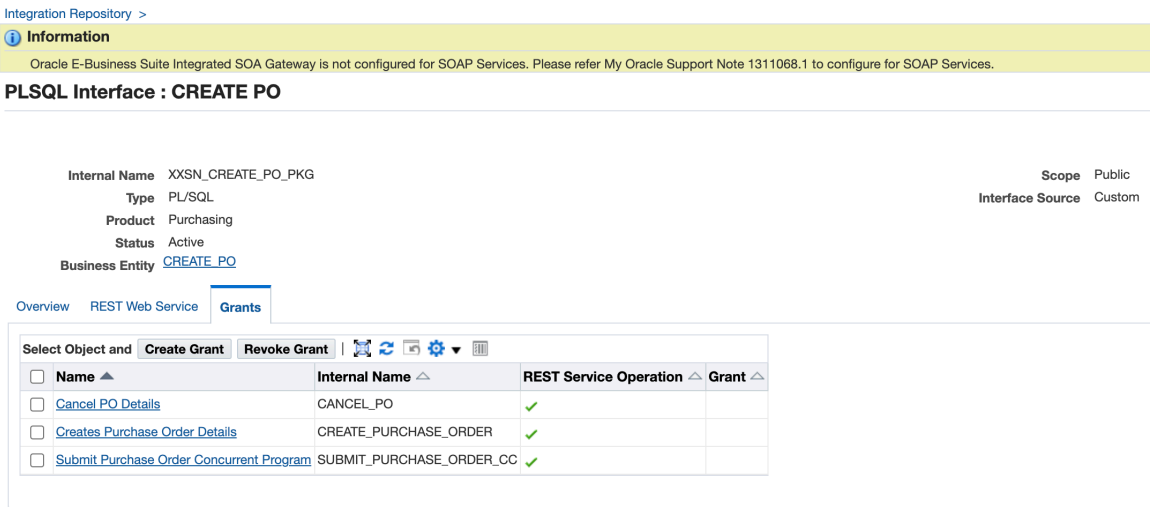
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



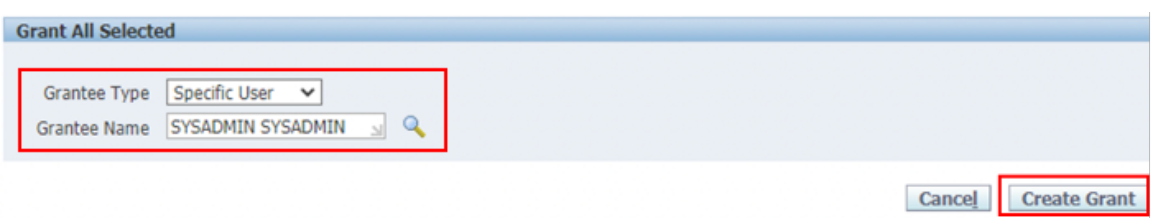
サービスが正常に展開されたことを示す確認メッセージが表示されます。

k. **[WADL** の表示] をクリックして、サービスがホストされているサービスエンドポイントの物理的な場所にアクセスします。

l. [権限許可] タブを開き、**[PO** の作成] を選択して、[権限の作成] をクリックします。

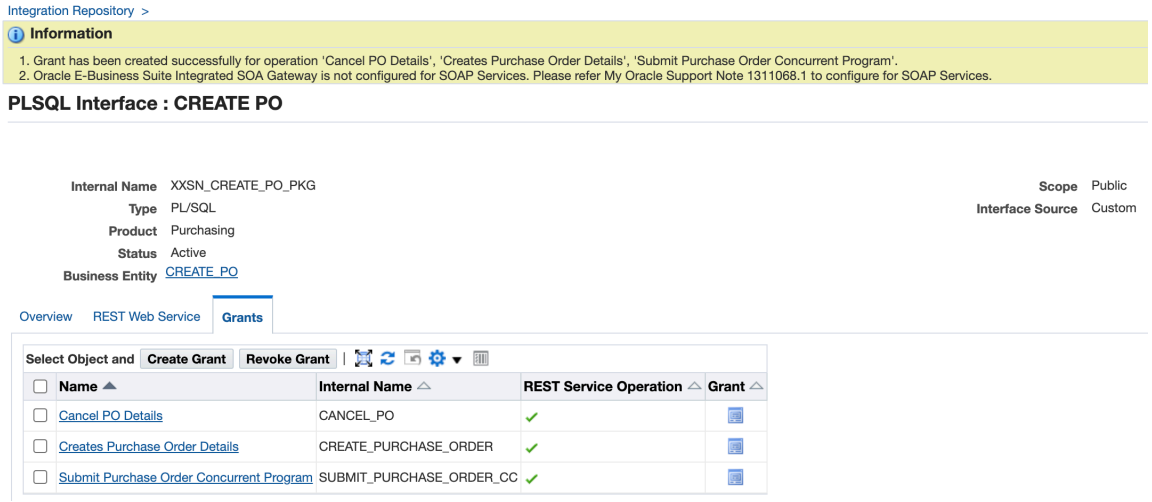


m. 付与対象タイプを選択し、Web サービスを使用するための権限を付与するユーザー名を入力して、[権限を作成] をクリックします。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

権限が正常に作成されたことを示す確認メッセージが表示されます。



注: 権限を取り消すには、[権限許可] タブの [権限を取り消す] をクリックし、必要なユーザーを選択します。

n. 必要なすべてのアクションに対して上記の手順を実行し、次の表の [リソースパス] 列に示されているものと同じ名前 (それぞれのアクションに関連付けられている名前) を使用していることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Action Name	Category	Resource Path
Cancel Purchase Order	Procurement	webservices/rest/create_purchase_order/cancel_po/
Create AP Invoice	Finance	webservices/rest/create_ap_invoice/create_ap_invoice/
Create AP Invoice - Run Concurrent Program	Finance	webservices/rest/create_ap_invoice/submit_ap_invoice_cc/
Create Customer Account	Customer	webservices/rest/create_customer_acc/create_cust_accounts/
Create Customer Account Role	Customer	webservices/rest/create_customer_contact/create_cust_acct_role/
Create Customer Contact	Customer	webservices/rest/create_customer_contact/create_contact_points/
Create Customer Relation	Customer	webservices/rest/create_customer_contact/create_cust_relation/
Create Fixed Assets	Finance	webservices/rest/create_fa_mass/create_fa_entries/
Create Goods Receipt- Run Concurrent Program	Procurement	webservices/rest/create_po_gr/submit_rcv_trans_cc/
Create Goods Receipts	Procurement	webservices/rest/create_gr/create_goods_rec/
Create Item	Master	webservices/rest/item/process_item/
Create Journals	Journal Ledger	webservices/rest/create_gl_journal/create_journal_entries/
Create Person	Customer	webservices/rest/create_customer_contact/create_person/
Create Purchase Order	Procurement	webservices/rest/create_purchase_order/create_purchase_order/
Create Purchase Order - Run Concurrent Program	Procurement	webservices/rest/create_purchase_order/submit_purchase_order_cc/
Create Vendor	Finance	webservices/rest/supplier/create_vendor/
Create Vendor Site	Finance	webservices/rest/supplier/create_vendor_site/
Generate Input Payload With Crossreference	Utility Actions	N/A
Get Additional EBS Fields	Utility Actions	N/A
Get Advance Shipment Notice	Procurement	webservices/rest/get_adv_ship_notice_info/get_asn_info/
Get AP Invoice	Finance	webservices/rest/get_ap_inv_info/get_inv_info/
Get Fixed Asset	Finance	webservices/rest/get_fa_inf/get_fixed_asset_info/
Get GL Journal Batch	Journal Ledger	webservices/rest/get_je_journals/get_gl_journals_info/
Get GL Journal Header	Journal Ledger	webservices/rest/get_je_journals/get_gl_je_info/
Get GL Ledger	Journal Ledger	webservices/rest/get_gl_ldgr/get_gl_ledgers_info/
Get GL Subledger Account	Journal Ledger	webservices/rest/get_gl_sub_ledger_acc/get_gl_subldgr_acc_info/
Get OEBS Processed Records	Utility Actions	webservices/rest/get_usecase_status/get_usecase_sql_proc/
Get Records	Utility Actions	webservices/rest/get_generic_sql/get_generic_sql_proc/
Get Ship To Location	Finance	webservices/rest/get_shipto_loc_info/get_shipto_loc_info/
Get Vendor	Finance	webservices/rest/get_ap_supplier_info/get_ap_supp_info/
Get Vendor Site	Finance	webservices/rest/get_supp_sites/get_supp_sites_info/
Import Fixed Asset - Run Concurrent Program	Finance	webservices/rest/create_fixed_asset/post_mass_additions_cc/
Import Journals - Run Concurrent Program	Journal Ledger	webservices/rest/create_gl_journal/submit_journal_import_cc/
Look up Advance Shipment Notices	Procurement	webservices/rest/get_adv_ship_notice_info/get_asn_info/
Look up AP Invoices	Finance	webservices/rest/get_ap_inv_info/get_invoice_tree_info/
Look up AR Invoices	Finance	webservices/rest/get_ar_invs_info/get_ar_invoice/
Look up Bill Details	Bills and Payment	webservices/rest/get_bill_detail_info/get_bill_detail_info/
Look up Cost Center	Master	webservices/rest/get_cost_center_info/get_cc_info/
Look up Cost Centers	Master	webservices/rest/get_cost_center_info/get_cc_info/
Look up Customer Accounts	Customer	webservices/rest/get_cust_inf/get_customer_acc/
Look up Customer Contacts	Customer	webservices/rest/get_cust_inf/get_customer_contact/
Look up Daily Rate	Finance	webservices/rest/get_daily_rate/get_gl_daily_rates_info/
Look up Daily Rates	Finance	webservices/rest/get_daily_rate/get_gl_daily_rates_info/
Look up Fixed Assets	Finance	webservices/rest/get_fa_inf/get_fixed_asset_info/
Look up GL Balance	Journal Ledger	webservices/rest/get_gl_balances/get_gl_balances_info/
Look up GL Balances	Journal Ledger	webservices/rest/get_gl_balances/get_gl_balances_info/
Look up GL Code Combinations	Journal Ledger	webservices/rest/get_code_combination/get_code_comb_info/
Look up GL Journals	Journal Ledger	webservices/rest/get_je_journals/get_gl_je_tree_info/
Look up GL Ledgers	Journal Ledger	webservices/rest/get_gl_ldgr/get_gl_ledgers_info/
Look up GL Subledger Accounts	Journal Ledger	webservices/rest/get_gl_sub_ledger_acc/get_gl_subldgr_acc_info/
Look up Item	Master	webservices/rest/get_items_info/get_item_master/
Look up Item Categories	Master	webservices/rest/get_item_categories/get_item_category/
Look up Item Category	Master	webservices/rest/get_item_categories/get_item_category/
Look up Items	Master	webservices/rest/get_items_info/get_item_master/
Look up Legal Entities	Finance	webservices/rest/get_legal_entity_info/get_le_info/
Look up Legal Entity	Finance	webservices/rest/get_legal_entity_info/get_le_info/
Look up Outstanding Balances	Bills and Payment	webservices/rest/get_outstnd_blnc_info/get_ar_outstnd_blnc_info/
Look up Payment Details	Bills and Payment	webservices/rest/get_ar_payment_info/get_ar_payment_details_info/
Look up Payment Status	Bills and Payment	webservices/rest/get_ar_payment_info/get_ar_payment_status_info/
Look up Sales Order Status	Sales Order	webservices/rest/get_sales_ords_info/get_order_status_info/
Look up Sales Orders	Sales Order	webservices/rest/get_sales_ords_info/get_so_info/
Look up Ship To Locations	Finance	webservices/rest/get_shipto_loc_info/get_shipto_loc_info/
Look up Vendor Sites	Finance	webservices/rest/get_supp_sites/get_supp_sites_info/
Look up Vendors	Finance	webservices/rest/get_ap_supplier_info/get_ap_supp_info/
Parse OEBS Record Details	Utility Actions	N/A
Post Journals - Run Concurrent Program	Journal Ledger	webservices/rest/create_gl_journal/post_journal_batches_cc/
Reverse Journals - Run Concurrent Program	Journal Ledger	webservices/rest/create_gl_journal/reverse_journal_batches_cc/
Update Customer Account	Customer	webservices/rest/create_customer_acc/update_cust_accounts/
Update Customer Contact	Customer	webservices/rest/create_customer_contact/update_contact_points/
Update Purchase Order	Procurement	webservices/rest/update_purchase_order/update_po/

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

o. サーバーを再起動し、PuTTY を使用して、 Oracle EBSサーバーへのログイン時に次の手順を実行します。

i. コマンド *cd $ADMIN_SCRIPTS_HOME* および *./adadminsrvctl.sh stop* を実行します。

ii. WebLogic パスワードと EBS パスワードを入力します。

iii. コマンド *./adadminsrvctl.sh start* を実行します。

iv. WebLogic パスワードと EBS パスワードを入力します。

v. ステータスを確認するには、コマンド *./adadminsrvctl.sh status* を実行します。

5. Oracle EBSSpoke の認証情報レコードを作成します。

a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

b. [新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

c. [基本認証情報] を選択します。

d. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する一意の名前たとえば、`OEBS Cred` を入力します。
ユーザー名	Oracle EBSインスタンスにログインするためのユーザー名
パスワード	Oracle EBSインスタンスにログインするためのパスワード
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。

e. [送信] をクリックします。

6. Oracle EBSSpoke の接続レコードを作成します。

a. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. Oracle EBSSpoke のレコードを開きます。

c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。

d. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
名前	接続レコードを一意に識別する名前です。たとえば、`OEBS Conn` を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証情報	Oracle EBSSpoke 用に作成された認証情報レコードです。
接続 URL	Oracle EBSインスタンスに接続するための接続 URL です。

e. [送信] をクリックします。

Oracle Financial Cloud スポーク

ServiceNow インスタンスから Oracle Financial Cloud インスタンスの請求書、元帳、およびレコードを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Oracle Financial Cloud スポークは v1.0.6 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Oracle Financial CloudAPI version 11.13.18.05 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- Utility Actions スポーク
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的出力 (com.glide.hub.dynamic_outputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのフロー

Oracle Financial Cloud Spoke では、Oracle Financial Cloudタスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
計上済み AP 請求書を取得	計上済み AP 請求書に関する情報を取得します。このフローは、「計上済み AP 請求書を取得」サブフローをトリガーし、「レコードの詳細を検索」アクションを含みます。
ジャーナルをインポート	ジャーナルレコードをServiceNowインスタンスからOracle Financial Cloudシステムにインポートします。 ジャーナルレコードをインポートするには、GL インターフェイスモジュールで必要なレコードを作成する必要があります。
AP 請求書をインポート	買掛金請求書の明細行レコードと買掛金請求書レコードをServiceNowインスタンスからOracle Financial Cloudシステムにインポートします。 買掛金請求書の明細行レコードと買掛金請求書レコードをインポートするには、AP 請求書インターフェイスモジュールと AP 請求書明細行インターフェイスモジュールでそれぞれ必要なレコードを作成する必要があります。

注: ServiceNowインスタンスからOracle Financial Cloudシステムへのデータインポート中、フローが実行された後で表示される成功メッセージは、データがOracle Financial Cloudシステムに正常にプッシュされたことのみを示します。Oracle Financial Cloudシステムにアクセスして、データのインポートが正常に完了したことを確認する必要があります。

スポークのサブフロー

Oracle Financial Cloud Spoke では、Oracle Financial Cloudタスクの自動化をデモするサンプルサブフロー「計上済み AP 請求書を取得」が提供されます。サブフローでは、計上済み AP 請求書レコードが取得され、「計上済み AP 請求書を取得」フローで使用されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのアクション

Oracle Financial Cloud Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにOracle Financial Cloudタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
すべてのレコード管理	レコードを作成	オブジェクトを作成します。
	レコード詳細を検索	オブジェクトのレコードの詳細を取得します。
	ID でレコード詳細を検索	オブジェクト内の指定されたレコードの詳細を取得します。
AP 請求書管理	AP 請求書をインポート	実行可能な支払請求書をインポートします。
	AP 請求書明細行を検索	買掛金請求書の明細行に関する情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

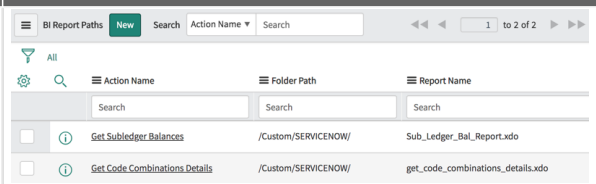
カテゴリ	アクション	説明
	AP 請求書を検索	実行可能な支払い請求書に関する情報を取得します。
通貨変換	通貨レートを検索	通貨レートに関する情報を取得します。
総勘定元帳	コードの組み合わせの詳細を取得	コードの組み合わせに関する情報を取得します。
	補助元帳残高を取得	補助元帳残高に関する情報を取得します。
	ジャーナルをインポート	ジャーナルの詳細をインポートします。
	元帳残高を検索	元帳残高に関する情報を取得します。
サプライヤーレコード管理	サプライヤーを検索	サプライヤーに関する情報を取得します。

スポークモジュール

Oracle Financial Cloud Spoke はOracle Financial Cloudアプリケーションをインスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

モジュール	説明
計上済み AP 請求書	計上済み AP 請求書に関する情報を表示します。 この情報は、計上済み AP 請求書の取得フローがトリガーされたときに取得されます。
AP 請求書インターフェイス	買掛金請求書レコードを表示します。 アドミニストレーターは、このモジュールのServiceNowインスタンスにこれらのレコードを作成する必要があります。AP 請求書をインポートのフローでは、これらの請求書をServiceNowインスタンスからOracle Financial Cloudシステムにインポートします。
AP 請求書明細行インターフェイス	買掛金請求書の明細行レコードを表示します。 アドミニストレーターは、このモジュールのServiceNowインスタンスにこれらのレコードを作成する必要があります。AP 請求書のインポートのフローでは、これらの請求書をServiceNowインスタンスからOracle Financial Cloudシステムにインポートします。
BI レポートパス	必要なレポートが保存されているフォルダーパスに関する情報を表示します。「補助元帳残高を取得」および「コードの組み合わせの詳細を取得」の各アクションでは、これらのフォルダーパスから補助元帳残高が取得されます。 アドミニストレーターは、2 つのアクションに対して 2 つのレコードを作成し、このモジュールでフォルダーパスを指定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
	
通貨レートの取得	通貨レートに関する情報を表示します。 通貨レートは、「通貨レートの取得 」[sn_ofc_spoke_st_get_currency_rates] リモートテーブルから取得されます。リモートテーブルを参照として使用し、要件に応じて通貨レート用の別のリモートテーブルを作成できます。
GL インターフェイス	ジャーナルレコードを表示します。「ジャーナルをインポート」のフローでは、これらのレコードがServiceNowインスタンスからOracle Financial Cloudシステムにインポートされます。 アドミニストレーターは、このモジュールに必要なジャーナルレコードを作成する必要があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークに加えて、2 つの接続および認証情報レコードを使用できます。スポークを使用するには、これらのエイリアスレコードを設定する必要があります。詳細については、「Oracle Financial Cloud Spoke を設定」を参照してください。

注: Oracle Financial Cloudポリシーとアカウント設定によっては、認証情報レコードの認証情報を定期的に変更または更新しなければならない場合があります。

スポークの設定については、「 Oracle Financial Cloud Spoke を設定。

Oracle Financial Cloud Spoke を設定

基本認証情報を使用してServiceNowインスタンスとOracle Financial Cloudインスタンスを統合し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Oracle Financial Cloud スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Oracle Financial Cloud スポークの接続の構成

Oracle Financial Cloud スポークの接続を構成し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. **OracleCloudFinancials** 接続を構成します。

   a. **OracleCloudFinancials** 接続エイリアスを検索します。
   オプションが 2 つあります。

オプション	説明
詳細を表示	スポークに同梱のデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成します。
接続を追加	複数のスポーク接続レコードを管理します。詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

   b. [詳細を表示] を選択します。

   c. 接続を構成、編集、または追加します。

   - 既存の接続を設定するには、[構成] または [編集] を選択します。
   - 新しい接続を作成して構成するには、[接続を追加] を選択します。

   d. 構成フォームの各フィールドに記入します。

フィールド	値
接続名	`OracleCloudFinancials`
接続 URL	インスタンス URL の形式：`<provider-domain-name>.fa.ocs.oraclecloud.com/`
ユーザー名	Oracle アカウントのユーザー名
パスワード	Oracle アドミンアカウントのパスワード

   e. 構成を確認します。

   既存の接続については、[接続を編集 **(Edit Connection)]** を選択します。新規接続については、[接続を作成] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. ステップ 3 を繰り返して、次の情報を使用して **OrancleCloudFinancialsReport** を構成します。

フィールド	値
接続名	`OracleCloudFinancialsReport`
接続 URL	インスタンス URL の形式：`<provider-domain-name>.fa.ocs.oraclecloud.com/xmlpserver/services/v2/ReportService`
ユーザー名	Oracle アカウントのユーザー名
パスワード	Oracle アドミンアカウントのパスワード

次のタスク
次のスポークモジュールに必要なレコードを作成します。

- AP 請求書インターフェイス
- AP 請求書明細行インターフェイス
- BI レポートパス
- GL インターフェイス

Oracle HCM Cloud スポーク

Oracle インスタンスから ServiceNow HCM Cloud インスタンスの作業構造と人材を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Oracle HCM Cloud スポーク v4.1.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Oracle HCM Cloud API バージョン 11.13.18.05 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Oracle HCM Cloud サブスクリプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNowIntegrationHub アクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的出力 (com.glide.hub.dynamic_outputs)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - SOAP (com.glide.hub.action_step.soap)
- 大規模 JSON および XML ペイロードビルダー API (com.glide.streaming_builder)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのサブフロー

Oracle HCM Cloud スポークでは、Oracle HCM Cloud のタスクの自動化をデモするためのサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
アクティブな部門を取得	[部門を検索] アクションを呼び出して、アクティブな部門の情報を取得します。

スポークのアクション

Oracle HCM Cloud スポークは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
すべてのレコード管理	レコード詳細を検索	すべてのレコード詳細を取得します。
	タイムレコードの詳細を検索	指定された時間の従業員のタイムシートを取得します。
休暇管理	休暇残日数を検索	従業員の休暇の詳細を取得します。
従業員情報管理	個人情報の更新	メールアドレス、電話番号、生年月日、血液型などの従業員の詳細情報を更新します。
従業員ドキュメント管理	従業員 ID で従業員ドキュメントを取得	従業員 ID で従業員のドキュメントを取得します。
	従業員ドキュメント添付ファイルを取得	従業員のドキュメントの添付ファイルを取得します。
福利厚生管理	福利厚生登録を検索	従業員の福利厚生登録の詳細を取得します。
報酬管理	総合報酬を取得	従業員の総合報酬の詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	個人の報酬を検索	従業員の個々の報酬の詳細を取得します。
従業員 Atom フィード	Atom フィードの従業員アサインストリームを検索	従業員のアサインに加えられた変更を取得します。
	Atom フィードの従業員の新規雇用ストリームを検索	最近採用された従業員に関する情報を取得します。
	Atom フィードの従業員の退職ストリームを検索	退職した従業員に関する情報を取得します。
	Atom フィードの従業員の更新ストリームを検索	従業員の更新に関する情報を取得します。
フィードバック管理	フィードバックを検索	従業員について受け取ったフィードバックを取得します。
目標管理	目標を検索	従業員の目標を取得します。
人材管理	部門ストリームを検索	部門に関する情報を取得します。
	従業員アサインを検索	従業員のアサインに関する情報を取得します。
	従業員ストリームを検索	従業員に関する情報を取得します。
	ユーザーの祝日カレンダーを取得	指定された国の指定された年の祝日に関する情報を取得します。
	ジョブストリームを検索	ジョブに関する情報を取得します。
	場所ストリームを検索	場所に関する情報を取得します。
	組織のストリームを検索	Oracle HCM から組織のリストを取得します。
	ポジションストリームを検索	ポジションに関する情報を取得します。
	ワーカーストリームを検索	ワーカーに関する情報を取得します。
	アクティブおよび非アクティブのワーカーストリームを検索	アクティブおよび非アクティブのワーカーに関する情報を取得します。
ジョブ管理	求職申し込みの添付ファイルを検索	求職申し込みの添付ファイルを取得します。
	求職申し込みストリームを検索	Oracle HCM から求職申し込みのリストを取得します。
	採用候補者を検索	採用候補者の詳細を取得します。
	採用ジョブ要求事項ストリームを検索	採用ジョブ要求事項のリストを取得します。
メタデータの取得	Oracle Cloud HCM Array.Object スキーマを取得	Oracle Cloud HCM アレイオブジェクトスキーマに関する情報を取得します。
	Oracle Cloud HCM オブジェクトメタデータを取得	Oracle Cloud HCM オブジェクトメタデータに関する情報を取得します。
	Oracle Cloud HCM オブジェクトを取得	Oracle Cloud HCM オブジェクトから情報を取得します。
給与管理	外部銀行口座を検索	従業員の外部銀行口座情報を取得します。
	給与を検索	従業員の給与情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	立法データグループを検索	従業員の立法データグループの詳細を取得します。
	給与明細書を検索	従業員の給与明細書の詳細を取得します。
	給与要素を検索	従業員の給与要素情報を取得します。
作業構造 Atom フィード	Atom フィードジョブストリームを検索	ジョブに加えられた変更を取得します。
	Atom フィード場所ストリームを検索	場所に加えられた変更を取得します。
	Atom フィードの組織ストリームを検索	組織に加えられた変更を取得します。
	Atom フィードポジションストリームを検索	ポジションに加えられた変更を取得します。

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

この Oracle HCM Cloud スポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣する AI エージェントを提供し、ServiceNow インスタンスのタスクを実行します。AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント 」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

AI エージェント	説明
総合報酬明細レトリーバー	従業員の総合報酬の詳細を取得します。
祝日カレンダーレトリーバー	指定された年の祝日情報を取得します。
休暇リクエスタ	以下のような休暇関連の要求を支援する統合を呼び出します。 • 休暇を要求 • 休暇残日数を取得
ワーカープロファイルレトリーバー	従業員が同僚に関する詳細を見つけるのを支援する統合サブフローを呼び出します。詳細には、従業員の要求 (名前による) に基づいて、部門、ジョブ、メール、または電話番号が含まれます。
経費マネージャー	次の詳細を尋ねて入力することで、経費の追加を支援する統合サブフローを呼び出します。 • 経費カテゴリ • マーチャントの名前 • 経費が発生した日付

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AI エージェント	説明
	• 経費額 • 経費の理由
従業員詳細マネージャー	以下のような個人情報に関連する要求を支援する統合を呼び出します。 • メールアドレスを更新 • 郵送先住所を更新 • 電話番号を更新 • 血液型を更新 • 生年月日を更新
HCM フィードバックレトリーバー	従業員がマネージャーから HCM で取得したフィードバックを得るのを支援する統合サブフローを呼び出します。
福利厚生登録情報レトリーバー	従業員が登録した福利厚生の情報を取得するための統合サブフローを呼び出します。
ケース詳細マネージャー	HT 総合報酬ケースの詳細を取得します。
ユーザー情報レトリーバー	雇用日、マネージャー、雇用タイプ、場所などのユーザーに関する情報を取得します。
奨学金制度ポリシーレトリーバー	奨学金制度に関するポリシーを取得します。
奨学金制度の事前承認	マネージャーが事前承認要求を承認したか、新しい事前承認要求を作成したかをチェックします。
奨学金制度適格性チェッカー	奨学金制度要求の適格性をチェックします。
総合報酬ケースクローザー	実行した解決手順と共に作業メモを追加し、 ケースを「承認待ち」または「完了してクローズ」に移行します。

スポークモジュール

Oracle HCM Cloud スポークは、Oracle HCM Cloud アプリケーションをインスタンスに追加し、以下のテーブルのモジュールを含みます。

モジュール	説明
BI レポートパス	アクションの BI レポートパスをリストします。
祝日カレンダーを検索	祝日カレンダーをリストします。
新規ポジション	利用可能な新しいポジションをリストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Oracle HCM Cloud スポーク接続レコードの設定。

Oracle HCM Cloud スポークの設定

ServiceNow インスタンスを Oracle REST API と統合するように Oracle HCM スポークを設定します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Oracle HCM Cloud スポークを有効にします。
- Oracle HCM テナントサイトにアクセスします。
- OpenSSL がマシンにインストールされていることを確認します。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

Oracle REST API は、ServiceNow インスタンスが行う要求の JWT 認証を義務付けています。Oracle HCM Cloud スポーク を設定するには、ServiceNow インスタンスで JWT 認証を処理できるようにし、接続レコードを構成して、Oracle HCM Cloud スポーク アクションの実行に必要なロールを追加する必要があります。

Mac マシンで X.509 キーペアとフィンガープリントを生成する

Oracle HCM テナントにアップロードする X.509 キーペアとそのフィンガープリントを Mac マシンで生成します。

始める前に

必要なロール：admin

OpenSSL がインストールされていることを確認します。OpenSSL がインストールされていることを確認するには、ターミナルでコマンド `openssl version` を実行します。

手順

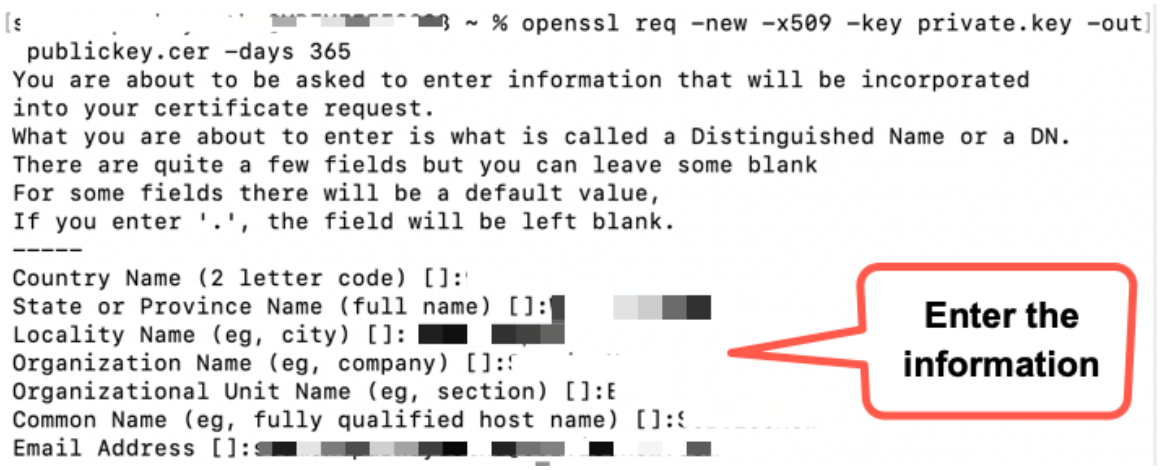
1. ターミナルを開きます。
2. 秘密鍵を生成するには、コマンド `openssl genrsa -out private.key 2048` を実行します。秘密鍵が生成されま

```
Generating RSA private key, 2048 bit long modulus
.....+++++
..........+++++
```

す。`e is 65537 (0x10001)`

3. 公開鍵を生成するには、コマンド `openssl req -new -x509 -key private.key -out publickey.cer -days 365` を実行します。
4. 情報を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



公開鍵が生成されます。

5. フィンガープリントを生成するには、コマンド `openssl x509 -sha1 -in publickey.cer -noout -fingerprint` を実行します。
   フィンガープリントは、16 進値の形式で生成されます。
6. 16 進値を Base64 値に変換します。
7. Base64 値をコピーし、安全な場所に保存します。
   Base64 値は、ServiceNow インスタンスの接続と資格情報レコードを設定するときに必要です。

Windows マシンで X.509 キーペアとフィンガープリントを生成する

Oracle HCM テナントにアップロードする X.509 キーペアとそのフィンガープリントを Windows マシンで生成します。

始める前に

必要なロール：admin

OpenSSL がインストールされていることを確認します。

手順

1. Windows マシンで、`OpenSSL-Win<bit>` フォルダー配下の `bin` フォルダーへのパスをコピーします。
2. アドミニストレーターとしてコマンドプロンプトを実行します。
3. プロンプトで、`cd` コマンドを使用して、現在のディレクトリを `bin` フォルダーに変更します。
4. 秘密鍵を生成するには、コマンド `openssl genrsa -out private.key 2048` を実行します。
   秘密鍵は bin フォルダーの下に生成されます。
5. 公開鍵を生成するには、コマンド `openssl req -new -x509 -key private.key -out publickey.cer -days 365` を実行します。
6. 情報を入力します。
   1 つ以上のフィールドを空のままにすることができます。

す。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

公開鍵は bin フォルダーに生成されます。

7. フィンガープリントを生成するには、コマンド `openssl x509 -sha1 -in publickey.cer -noout -fingerprint` を実行します。
   フィンガープリントは、16 進値の形式で生成されます。
8. 16 進値を Base64 値に変換します。
9. Base64 値をコピーし、安全な場所に保存します。
   Base64 値は、ServiceNow インスタンスの接続と資格情報レコードを設定するときに必要です。

信頼できる発行者を作成する

Mac または Windows マシンで生成したパブリック証明書の信頼性を証明する信頼できる発行者を Oracle HCM テナントサイトに作成します。

始める前に

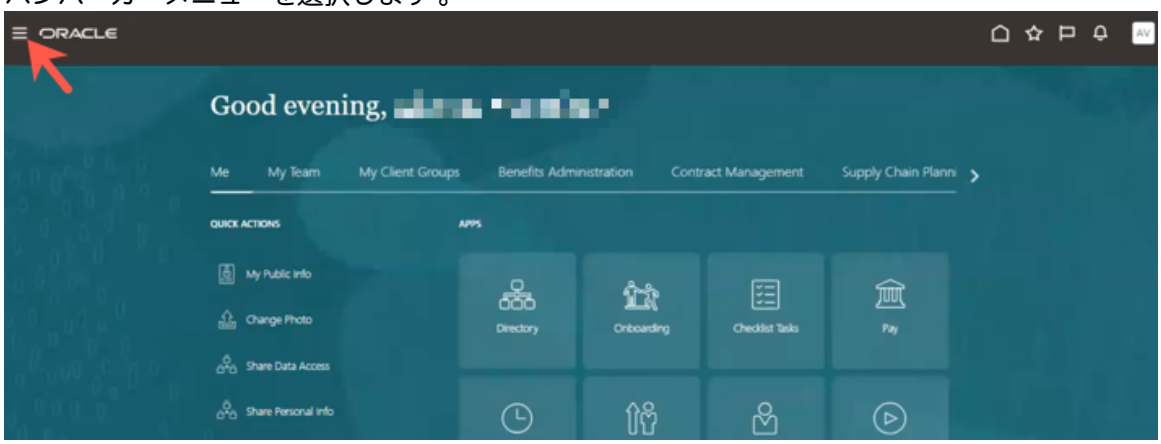
必要なロール：admin

プライベート証明書とパブリック証明書を生成しました。

Oracle HCM テナントサイトにアクセスします。

手順

1. Oracle HCM テナントサイトにログインします。
2. ハンバーガーメニューを選択します 。



3. [ツール] > [セキュリティコンソール] に移動します。
4. 左側のパネルで、[API 認証 (API Authentication.)] を選択します。
5. **[Oracle API** 認証プロバイダーの作成 **(Create Oracle API Authentication Provide)]** を選択します。
6. [編集] を選択します。
7. [信頼できる発行者 (Trusted Issuer)] フィールドに、信頼できる発行者のカスタム名を入力します。

   ヒント：信頼できる発行者の名前をコピーして、安全な場所に保存します。

8. [トークンタイプ] フィールドで、**[JWT]** を選択します。
9. [保存して閉じる] を選択します。
10. 左側のパネルで、[受信 **API** 認証のパブリック証明書 **(Inbound API Authentication Public Certificates)]** を選択します。
11. [新しい証明書を追加] を選択します。
12. [証明書エイリアス] フィールドに、作成した信頼できる発行者の名前を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

13. [公開証明書をインポート (Import Public Certificate)] フィールドで [ファイルを選択] を選択し、生成した公開証明書を選択してアップロードします。
14. [保存] を選択します。

Java KeyStore ファイルの生成

ServiceNow インスタンスは Java KeyStore ファイルをサポートしているため、生成した公開証明書をマシン上の Java KeyStore ファイルに変換します。生成後、ファイルを ServiceNow インスタンスにアップロードする必要があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. マシンでコマンドプロンプトを開きます。
2. `cd` コマンドを使用して、公開証明書を生成した場所にディレクトリを変更します。
3. コマンドプロンプトで、 コマンド `openssl pkcs12 -export -in publickey.cer -inkey private.key -out <your-file-name>.p12 -name "<your-custom-name>"` を実行します。
4. Enter Export Password プロンプトで、エクスポートパスワードを作成します。
5. Verifying - Enter Export Password prompt プロンプトで、作成したエクスポートパスワードを再入力します。
   P12 ファイルが作成されます。
6. P12 ファイルをマシンのそれぞれの JDK/bin フォルダーにコピーします。

   注: マシンの OS によっては、JDK/bin フォルダーの場所が異なる場合があります。

7. パスを JDK/bin フォルダーにコピーします。
8. コマンドプロンプトで、`cd` コマンドを使用して、現在のディレクトリを JDK/bin フォルダーに変更します。
9. P12 ファイルを Java KeyStore ファイルに変換するには、コマンド `keytool -importkeystore -srckeystore <P12-file-name>.p12 -srcstoretype pkcs12 -destkeystore <Java-KeyStore-filename>.jks` を実行します。
10. Enter destination keystore password プロンプトで、パスワードを作成します。
11. Re-enter new password プロンプトで、作成した宛先 Keystore パスワードを再入力します。
12. Enter source keystore password プロンプトで、P12 ファイルを生成するために作成したものと同じパスワードを入力します。
    Java KeyStore ファイルが JDK/bin の場所に作成されます。

ServiceNow インスタンスに Java KeyStore 証明書をアップロードする

Java KeyStore 証明書を ServiceNow インスタンスにアップロードして、接続と資格情報の作成を有効にします。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

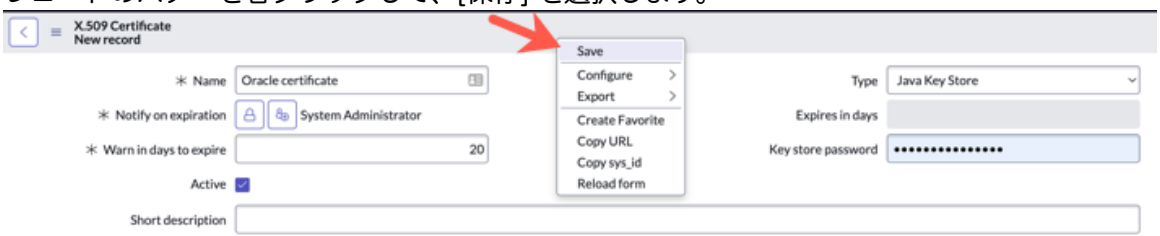
手順

1. ServiceNow インスタンスで、ナビゲーションフィルターに「`sys_certificate.LIST`」と入力し、[X.509 証明書] リストに移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォームに入力します。

新規レコード

フィールド	説明
名前	カスタム証明書名。
タイプ	証明書のタイプ。[Java キーストア] を選択します。
期限切れ時に通知	証明書の有効期限が切れたときに通知を受信するロール。
数日中に期限切れ	証明書の有効期間。
有効期限切れ前に警告	ロールが期限切れの警告を受け取るまでの日数。
キーストアパスワード	作成したキーストアパスワード。
有効	Java キーストア証明書がアクティブであることを示します。
簡単な説明	レコードの簡単な説明。

4. レコードのバナーを右クリックして、[保存] を選択します。

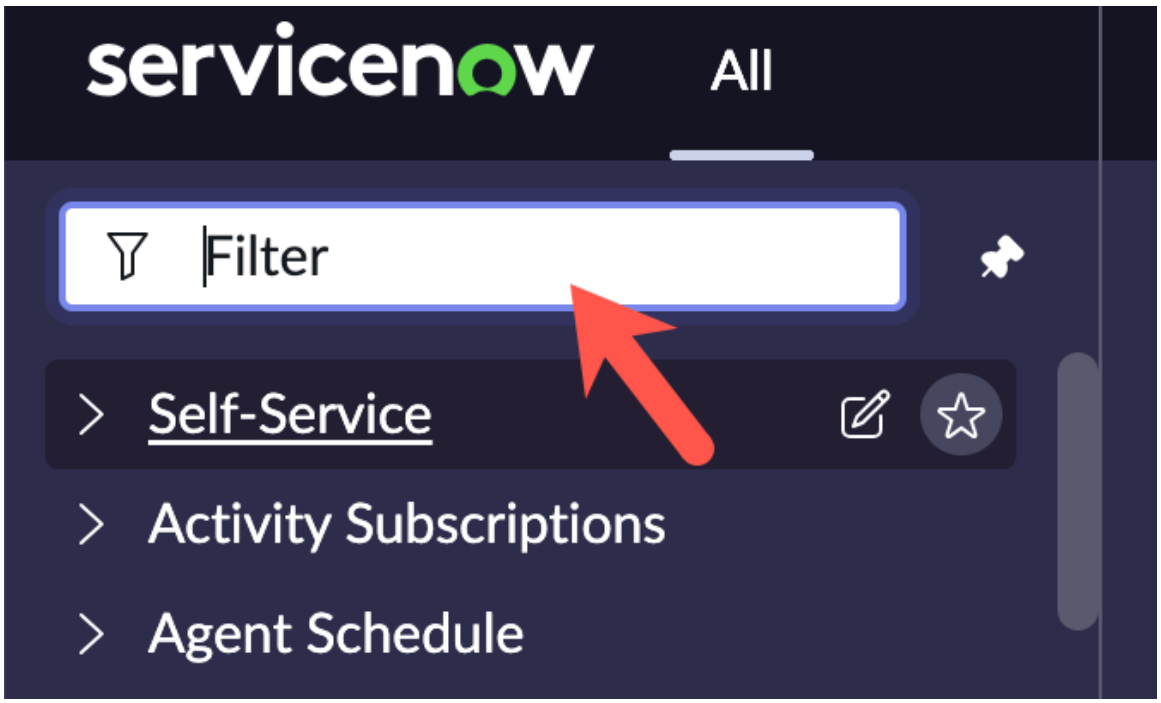


5. [添付ファイルを管理] アイコン ( ) を選択して、Java KeyStore ファイルを添付します。

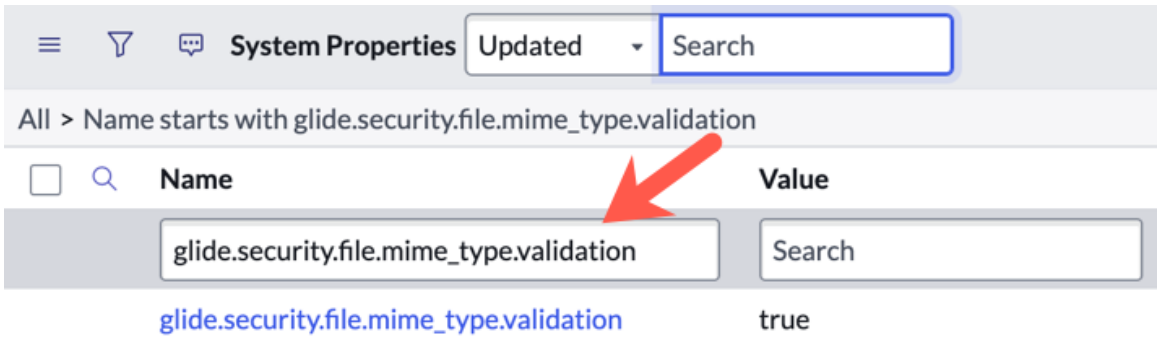
Trouble?
インスタンスで「<file-name>.jks ファイルタイプが許可されていないか、mime タイプがファイルコンテンツと一致しません」というエラーが表示された場合は、次の手順を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. インスタンスのフィルターフィールドで「`sys_properties.LIST`」と入力し、**Enter** キーを押します。



b. [システムプロパティ] ページの [名前] フィールドに「`glide.security.file.mime_type.validation`」と入力し、**Enter** キーを押します。



c. システムプロパティ [glide.security.file.mime_type.validation] を選択します。

d. [値] フィールドで、値を「`False`」に更新します。

e. フォームのバナーを右クリックして、[保存] を選択します。

6. [保存] を選択します。

7. 証明書を検証するには、[ストア/証明書を検証] リンクを選択します。
これで Java キーストア証明書を ServiceNow インスタンスにアップロードできました。

Oracle HCM Cloud スポーク接続レコードの設定

接続と資格情報レコードを設定することで、ServiceNow インスタンスと Oracle HCM インスタンス間のアウトバウンド統合を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- ServiceNow インスタンスの スポークプラグインをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. Oracle Cloud HCM インスタンスの接続と資格情報を設定します。

   a. [接続] を選択します。

   b. [送信] タブをオンにします。

   c. [すべての接続を検索] フィールドに「`Oracle HCM`」と入力します。

   d. [OracleCloudHCM] タイルで、[詳細を表示] を選択します。

   e. [設定] を選択します。

   f. フォームに入力します。

Oracle HCM Cloud 接続および認証情報の構成フォーム

フィールド	説明
名前	接続の名前。 注: 最初の接続では、デフォルト名は OracleCloudHCM で読み取り専用です。ただし、最初のレコード以降に設定するすべての接続レコードには、カスタム名を指定できます。
接続 URL	Oracle HCM テナントに接続するための URL。
バージョン	Oracle API のバージョン。
JWT プロバイダー名 (JWT Provider Name)	JWT プロバイダーの名前。
JWT キー名 (JWT Keys Name)	JWT キーの名前。
署名キーストア	作成したキーストアの名前。キーストアの作成方法については、「ServiceNow インスタンスに Java KeyStore 証明書をアップロードする」を参照してください。
署名キーパスワード	Java KeyStore ファイルの作成時に作成したパスワード。
発行者 (iss) クレーム値 (Issuer (iss) Claim value)	信頼できる発行者の作成時に設定した値。詳細については、「信頼できる発行者を作成する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
件名 (sub) クレーム値 (Subject (sub) Claim value)	REST API エンドポイントにアクセスできるユーザー名 。
指紋 / x5t 値 (Fingerprint/x5t value)	指紋の生成中に取得した Base 64 の値。

g. [接続を設定] を選択します。

注: トークンのデフォルトの有効期限を更新するには、次の手順を実行します。

a. インスタンスのフィルターフィールドで「`sys_properties.LIST`」と入力し、**Enter** キーを押します。

b. [システムプロパティ] ページの [名前] フィールドに「`jwt.provider.expiry.interval.limit`」と入力し、**Enter** キーを押します。

c. [jwt.provider.expiry.interval.limit] ページで、[値] フィールドの値を更新します。

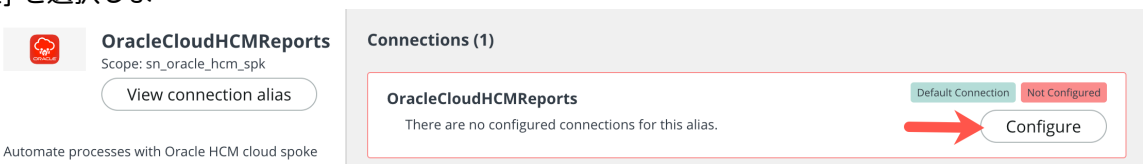
d. [すべて] > **[JWT** プロバイダー]に移動します。

e. [有効期限の間隔 (秒)] フィールドに同じ有効期限の値を秒単位で設定します。

3. Oracle Cloud HCM Reports インスタンスの接続と資格情報を設定します。

a. [OracleCloudHCMReports] タイルで、[詳細を表示] を選択します。

b. [設定] を選択しま



す。

c. フォームで、詳細を入力します。

Oracle Cloud HCM Reports 接続レコードフォーム

フィールド	説明
接続名	接続の名前。 注: 最初の接続では、デフォルト名は OracleCloudHCMReports で読み取り専用です。ただし、最初のレコード以降に設定するすべての接続レコードには、カスタム名を指定できます。
接続 URL	Oracle HCM Cloud Reports インスタンスに接続する URL です。形式は、`https://<provider-domain-name>.com` です。
ユーザー名	Oracle Cloud HCM Reports がインストールされているターゲットホストにログインするためのユーザー名です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
パスワード	Oracle Cloud HCM Reports がインストールされているターゲットホストを認証してログインするためのパスワードです。

d. [接続を設定] を選択します。

Oracle HCM Cloud でのロールの作成

Oracle HCM スポークのすべてのアクションを実行するロールを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

IT セキュリティマネージャーロールで Oracle HCM Cloud テナントにアクセスします。

このタスクについて
Oracle HCM Cloud ではシードロールとカスタムロールの両方が必要です。テーブルには、必要なロールが記載されています。

Oracle HCM Cloud のロール

ロール名	ロールコード
アプリケーションアドミニストレーター	ORA_FND_APPLICATION_ADMINISTRATOR_JOB
アプリケーション実行アドミニストレーター	ORA_ASM_APPLICATION_IMPLEMENTATION_ADMIN_ABSTRAC
アプリケーション実行コンサルタント	ORA_ASM_APPLICATION_IMPLEMENTATION_CONSULTANT_JO
アプリケーション実行マネージャー	ORA_ASM_APPLICATION_IMPLEMENTATION_MANAGER_JOB
Employee_SN	PER_EMPLOYEE_ABSTRACT_SN
Human Capital Management 統合スペシャリスト_SN	HUMAN_CAPITAL_MANAGEMENT_INTEGRATION_SPECIALIST_SI
Human Resource Analyst_ViewAll	PER_HUMAN_RESOURCE_ANALYST_JOB_VIEWALL
Human Resource Manager_ViewAll	PER_HUMAN_RESOURCE_MANAGER_JOB_VIEWALL
Human Resource Specialist_ViewAll	PER_HUMAN_RESOURCE_SPECIALIST_JOB_VIEWALL
Line Manager_SN	PER_LINE_MANAGER_ABSTRACT_CUSTOM
プロダクトマネジメント VP	ORA_ACE_PRODUCT_MANAGEMENT_VP_JOB
プロダクトマネージャー	ORA_EGP_PRODUCT_MANAGER_JOB
採用担当者	ORA_IRC_RECRUITER_JOB
採用アドミニストレーター	ORA_PER_RECRUITING_ADMINISTRATOR_JOB
採用エージェント	ORA_IRC_RECRUITING_AGENT_JOB
採用担当マネージャー	ORA_IRC_RECRUITING_MANAGER_JOB
SN_Access オポチュニティマーケットプレイス	SN_Access_Opportunity_Marketplace

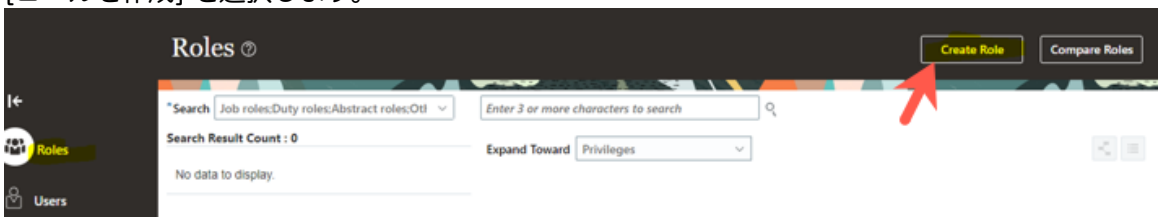
手順

1. Oracle HCM Cloud にログインします。

2. 左側のパネルで、[ツール] > [セキュリティコンソール] の順に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

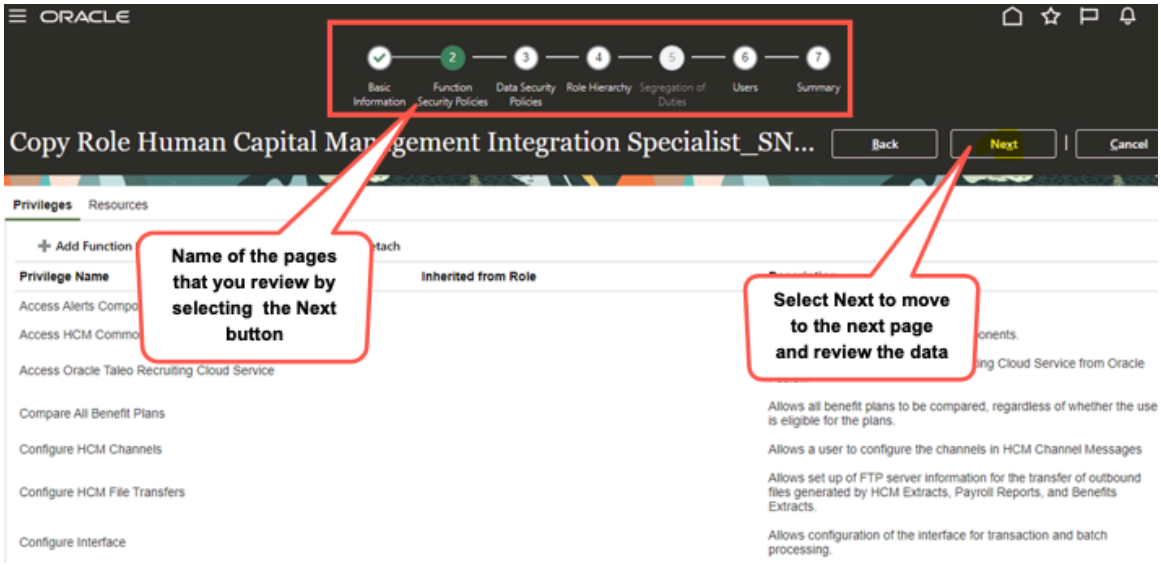
3. ロールを選択します。
4. [ロールを作成] を選択します。



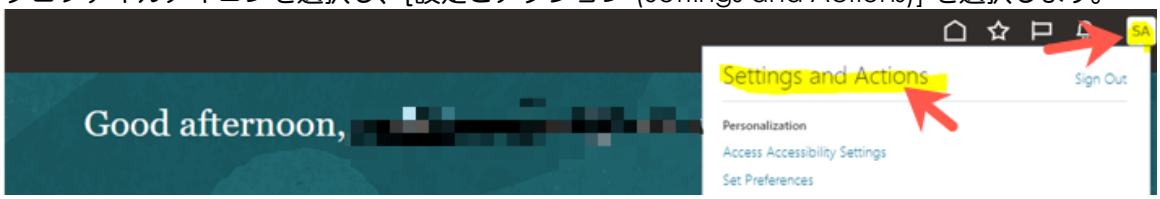
5. 検索フィールドにロール名を入力し、**Enter** キーを押します。
検索結果には、結果の 1 つとしてロール名が表示されます。
6. [アクション] ボタンを選択し、[ロールをコピー **(Copy Role)]** を選択します。

7. [コピーオプション (Copy Options)] ウィンドウで、 [ロールをコピー **(Copy Role)]** を選択します。
8. [ロール名] フィールドにロール名を入力し、[次へ] を選択します。
9. 次のページに移動して表示された情報を確認するには、後続のページで [次へ] を選択します。
ページ情報
   a. 基本情報
   b. 機能セキュリティポリシー
   c. データセキュリティポリシー
   d. ロール階層
   e. 職務の分離
   f. ユーザー
   g. サマリー

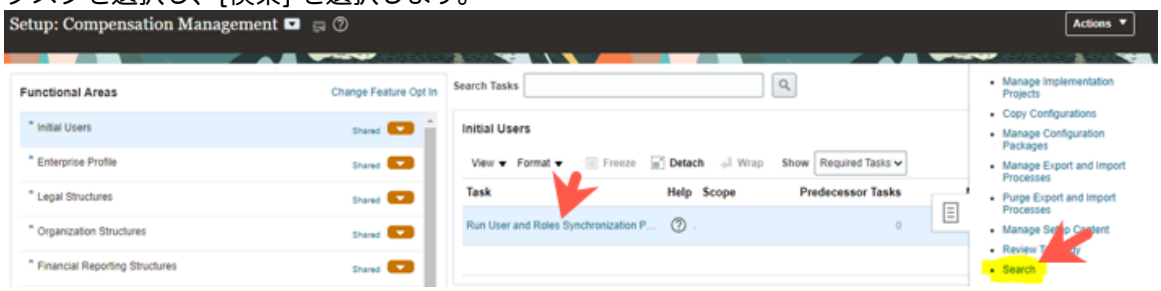
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



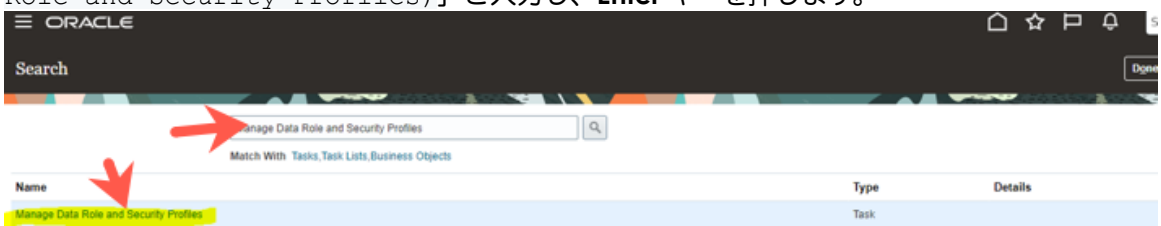
10. [送信して閉じる **(Submit and Close)]** を選択します。
11. プロファイルアイコンを選択し、[設定とアクション (Settings and Actions)] を選択します。



12. [セットアップとメンテナンス **(Setup and Maintenance)]** を選択します。
13. タスクを選択し、[検索] を選択します。

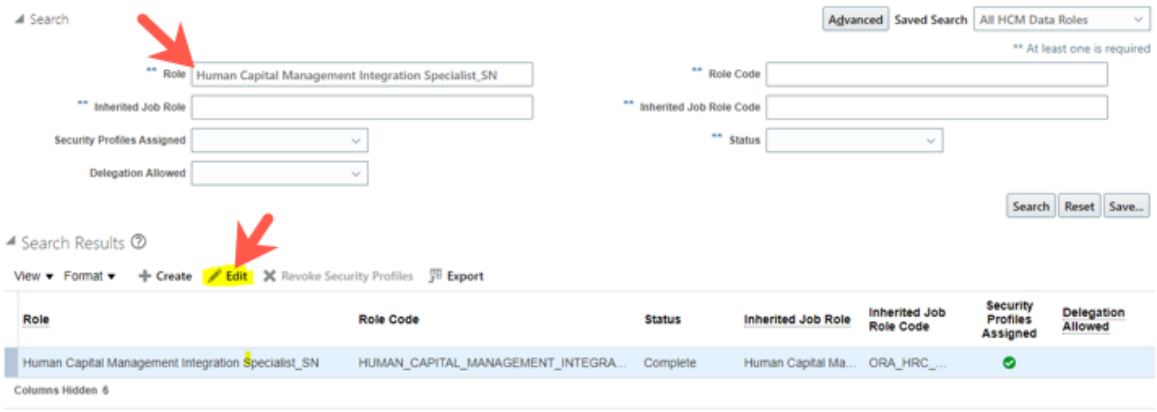


14. 「検索」フィールドに「データロールとセキュリティープロファイルを管理 `(Manage Data Role and Security Profiles)`」と入力し、**Enter** キーを押します。

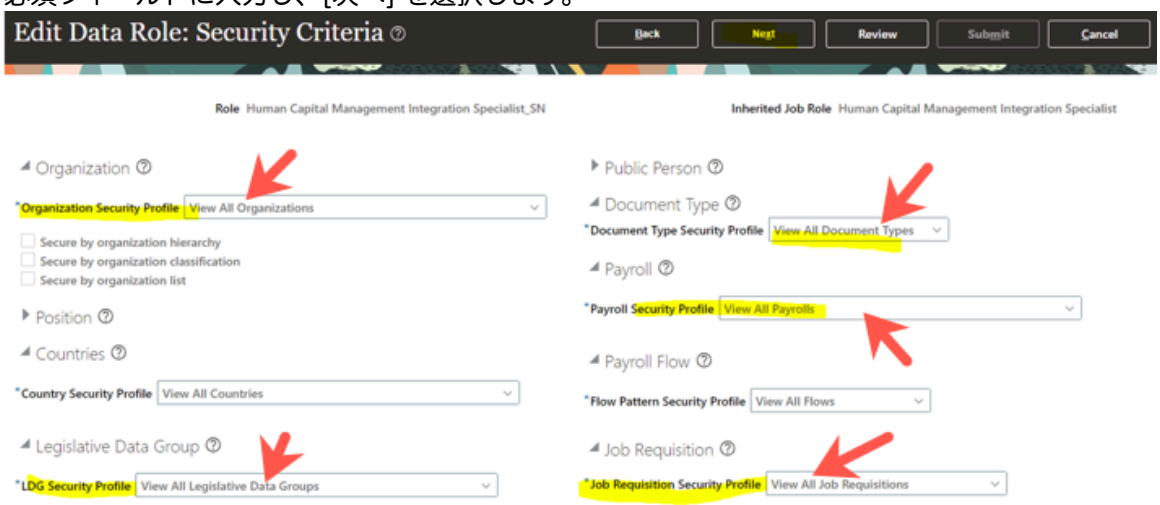


15. [ロール] フィールドにロール名を入力し、[編集] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



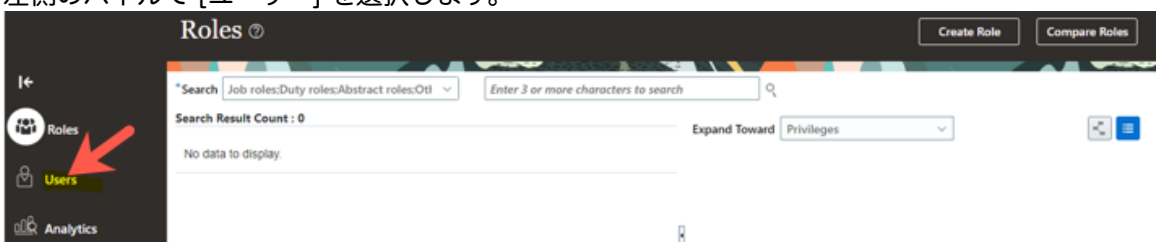
16. [次へ] を選択します。
17. 必須フィールドに入力し、[次へ] を選択します。



18. 次の数ページを移動するには、後続のページで [次へ] を選択します。
19. [送信] を選択します。
20. ユーザーにユーザーロールをアサインします。

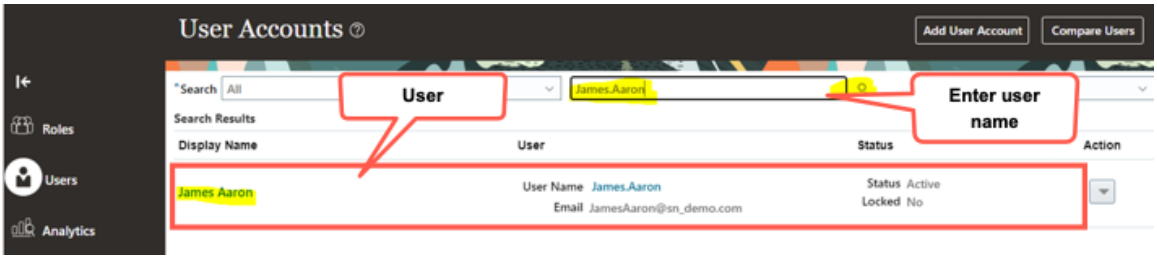
    a. 左側のパネルで、[ツール] > [セキュリティコンソール] の順に移動します。

    b. 左側のパネルで [ユーザー] を選択します。



    c. [ユーザー名] フィールドで、ユーザー名を入力し、[検索] アイコンを選択します。
    ユーザー名とその詳細が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



d. ユーザー名のリンクを選択します。

e. [ユーザーアカウントの編集 (Edit User Account)] ページで、[編集] を選択します。

f. [ユーザーアカウントの編集 (Edit User Account)] ページで、[ロールを追加] を選択します。

g. [検索] フィールドで、[ロール] オプションが選択されていることを確認し、ロール名を入力します。

h. [ロールメンバーシップを追加 **(Add Role Membership)]** を選択します。

i. [完了] を選択します。

j. [保存して閉じる] を選択します。

Oracle HCM Cloud Spoke の BI レポートパスを作成

BI レポートパスを作成して、レポートが保存されるフォルダーパスを指定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Oracle HCM Cloud]** > **[BI** レポートパス]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
レポート名	BI レポートの名前です。
アクション名	アクションの名前。
フォルダーパス	Oracle HCM Cloud のフォルダーパスです。

サンプル BI レポートパス

レポート名	アクション名	フォルダーパス
Holiday Calendar Report.xdo	祝日カレンダーを検索	/カスタム/人材管理/
Legislativedatagroup Report.xdo	立法グループ ID を取得	/カスタム/人材管理/

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レポート名	アクション名	フォルダーパス
USOnlinePayslip.xdo	給与を検索	/人材管理/給与/給与配分/US/
Element Screen Entry Values.xdo	給与要素を検索	/カスタム/人材管理/
Individual Compensation Report.xdo	個人の報酬を検索	/カスタム/人材管理/

注: レポート名とフォルダーパスは、Oracle HCM Cloud インスタンスによって異なる場合があります。

Oracle Object Storage Management スポーク

Oracle Object Storage Management インスタンスから ServiceNow アカウントのオブジェクト、バケット、および名前空間を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Oracle Object Storage Management Spoke v1.0.3 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Oracle Object Storage ManagementAPI バージョン 20160918 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- Oracle Cloud IAM スポーク
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Oracle Object Storage Management Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときに Oracle Object Storage Managementタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
バケット管理	バケットを作成	指定されたOracle Cloud 名前空間にバケットを作成します。
	バケットを削除	指定されたバケットを削除します。
	バケットを取得	指定されたバケットの詳細を取得します。
	バケットを検索	指定されたコンパートメント内のバケットのリストを取得します。
	バケットを再暗号化	指定されたバケットを再暗号化します。
	バケットを更新	指定されたバケットの詳細を更新します。
名前空間メタデータ	名前空間を取得	ユーザーのオブジェクトストレージの名前空間の名前を取得します。
オブジェクト管理	Copy Object	リージョン内で、または別のリージョンにオブジェクトをコピーする要求を作成します。
	オブジェクトを作成または更新	新しいオブジェクトを作成するか、同じ名前の既存のオブジェクトを上書きします。
	オブジェクトを削除	指定されたオブジェクトを削除します。
	オブジェクトを取得	指定されたオブジェクトを取得します。
	オブジェクトを検索	指定されたバケット内のオブジェクトのリストを取得します。
	オブジェクトを再暗号化	指定されたオブジェクトを再暗号化します。
	オブジェクトの名前を変更	指定されたオブジェクトの名前を変更します。
	オブジェクトを復元	指定されたオブジェクトを復元します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Oracle Object Storage ManagementSpoke を設定。

Oracle Object Storage ManagementSpoke を設定

OCI SHA256WithRSA Signature の認証情報を使用してServiceNowインスタンスと Oracle Object Storage Managementアカウントを統合し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Oracle Cloud IAM スポークを有効にして設定します。
- Oracle Object Storage Management スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. オプション: JKS 証明書を作成します。
   Oracle Object Storage ManagementSpoke に JKS 証明書を作成したり、OracleCloud IAM Spoke に作成した証明書を使用したりできます。JKS 証明書の作成については、Java KeyStore (JKS) 証明書を作成を参照してください。
2. オプション: X.509 証明書を作成します。
   Oracle Object Storage ManagementSpoke に X.509 証明書を作成したり、OracleCloud IAM Spoke に作成した証明書を使用したりできます。X.509 証明書の作成については、Oracle Cloud IAM Spoke の X.509 証明書を作成を参照してください。
3. Oracle Cloud IAM Spoke の接続および資格情報エイリアスに子エイリアスを作成します。

   a. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

   b. [新規] をクリックします。

   c. フォームに、これらの値を入力します。

   接続および資格情報エイリアスフォーム

フィールド	説明
名前	エイリアスレコードを識別する名前 例：`Oracle Obj Storage エイリアス`
親エイリアス	OracleCloud IAM Spoke の接続および資格情報エイリアスレコード。たとえば、**sn_oci_iam_spoke.OracleIAM_credentialANDconnecto**を入力します。

   d. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

4. Oracle Object Storage ManagementSpoke の認証情報レコードを作成します。

   a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

   b. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

   c. **OCI SHA256WithRSA Signature** を選択します。

   d. フォームに、これらの値を入力します。

   注: Oracle Object Storage ManagementSpoke 専用に作成した証明書の詳細を指定したり、Oracle Cloud IAM Spoke 用に作成した既存の証明書の詳細を指定したりできます。

   OCI SHA256WithRSA Signature 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`OCI Obj Cred`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
証明書システム ID	署名証明書のシステム ID です。
エイリアス	KeyStore のエイリアスです。
エイリアスパスワード	KeyStore のエイリアスパスワードです。
キー ID	キー ID は、複数のキーを使ってトークンに署名する際に、どのキーを使用するかを識別するのに役立ちます。キー ID は、この形式では、テナント OCID、ユーザー OCID、および指紋をスラッシュ (/) で区切ったものです：`ocid1.tenancy.oc1..<unique_ID>/ocid1.user.oc1..<unique_ID>/<key_fingerprint>`
適用先	認証情報をネットワーク内のすべての MID サーバーに適用するかどうかを指定するオプションです。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズムです。`OCI SHA256RSA Signing Algorithm` を選択

e. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

5. Oracle Object Storage ManagementSpoke の接続レコードを作成します。

a. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. 作成した子エイリアスレコードを開きます。例：**Oracle Obj Storage** エイリアス

c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。

d. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Oracle Obj Storage conn` を入力します。
認証情報	Oracle Object Storage ManagementSpoke 用に作成された認証情報レコード 例：`OCI Obj Cred`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
接続URL	Oracle Object Storage Managementに接続するためのベース URL です。たとえば、`https://objectstorage.ap-mumbai-1.oraclecloud.com` です。
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。

e. [送信] をクリックします。

ServiceNowインスタンスと Oracle Object Storage Managementアカウントは統合されます。必要に応じて、スポークアクションを使用してフローをビルドし、タスクを自動化できます。

Oracle Peoplesoft Financial スポーク

ServiceNowインスタンスから Oracle Peoplesoft Financialアカウントの経理および調達を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Oracle Peoplesoft Financial スポークは v1.0.7 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

- PeopleSoft FSCM 9.2 Update Image 37
- PeopleTools 8.58.05
- Oracle Database 19.3.0.0
- Elasticsearch 7.0.0
- Kibana 7.0.0
- Oracle Linux 7.8x
- Oracle Database バージョン 12.2.0.0 以上
- PeopleTools 8.56 以上

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- リモートテーブル (com.glide.script.vtable)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的出力 (com.glide.hub.dynamic_outputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - SOAP (com.glide.hub.action_step.soap)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - XML パーサー (com.glide.hub.action_step.xmlparser)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Oracle Peoplesoft Financial Spoke では、PO 作成の自動化をデモするサンプルフロー「PO の作成」が提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのサブフロー

Oracle Peoplesoft Financial Spoke では、タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
BU とベンダーの検証	ベンダーまたは事業部門が Oracle Peoplesoft Financialに存在するかどうかを検証します。
BU 検証後に PO を作成	事業部門を使用して発注書を作成する前に、事業部門を検証します。
サプライヤーのポーリング	言及したポーリング頻度に基づいて日次サプライヤーの詳細を取得し、ベンダー ID に基づいて PSFT データテーブルのレコードを作成または更新します。

スポークのアクション

Oracle Peoplesoft Financial Spoke では、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ファイナンス	ジャーナルを一括作成	ジャーナルを一括作成します。
	請求書を作成	Oracle Peoplesoft Financialに請求書を作成します。
	事業部門 ID で事業部門を取得	指定された事業部門の詳細を取得します。
	部門 ID で部門を取得	指定された部門の部門コストセンターの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	GI アカウントの詳細を取得	指定された GI アカウントの詳細を取得します。
	アイテムの詳細を取得	入力基準に基づいて、アイテムの詳細を取得します。
	AP 請求書明細行を検索	指定されたバウチャーの AP 請求書明細行の詳細を取得します。
	AP 請求書ヘッダーを検索	入力基準に基づいて、AP 請求書ヘッダーの詳細を取得します。
	事業部門を検索	入力基準に基づいて、事業部門の詳細を取得します。
	通貨レートを検索	入力基準に基づいて、通貨市場価格の詳細を取得します。
	部門を検索	入力基準に基づいて、部門の詳細を取得します。
	GI 残高を検索	入力基準に基づいて、GI 残高の詳細を取得します。
	請求書支払いステータスを検索	入力基準に基づいて、 請求書ステータスのリストを取得します。
調達	PO をキャンセル	指定された PO をキャンセルします。
	入札イベントを作成	指定された事業部門に入札イベントを作成します。
	資産を一括作成	指定された詳細で資産を作成します。
	物品受領書を一括作成	指定された詳細で物品受領書を作成します。
	PO の作成	指定された詳細で PO を作成します。
	ベンダーを作成	指定された詳細でベンダーを作成します。
	配送先 ID で配送先場所を取得	入力された配送先 ID に基づいて、すべての配送先場所の詳細を取得します。
	ベンダー ID でサプライヤーを取得	入力されたベンダー ID に基づいて、サプライヤーの詳細を取得します。
	固定資産を検索	入力基準に基づいて、すべての固定資産の詳細を取得します。
	事前出荷受領書を検索	入力基準に基づいて、事前出荷受領書の詳細を取得します。
	入札イベントを検索	入力基準に基づいて、すべての入札イベントの詳細を取得します。
	PO ヘッダーを検索	入力基準に基づいて、PO ヘッダーの詳細を取得します。
	PO 明細行を検索	入力基準に基づいて、PO 明細行の詳細を取得します。
	配送先場所を検索	入力基準に基づいて、 すべての配送先場所のリストを取得します。
	サプライヤーを検索	入力基準に基づいて、すべてのサプライヤーの詳細を取得します。
	発注書 (PO) の更新	PO の詳細を更新します。
ユーティリティ	プロセストリガー	指定されたプロセスをトリガーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Oracle Peoplesoft Financial スポークの設定。

Oracle Peoplesoft Financial スポークの設定

ベーシック認証を使用して Oracle Peoplesoft Financial と ServiceNow のインスタンスを統合して、要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Oracle Peoplesoft Financial スポークを有効化します。
- Oracle Peoplesoft Application Designer にアクセスできることを確認します。
- 必要なロール：ServiceNow admin および Oracle Peoplesoft Financial システムアドミニストレーター

手順

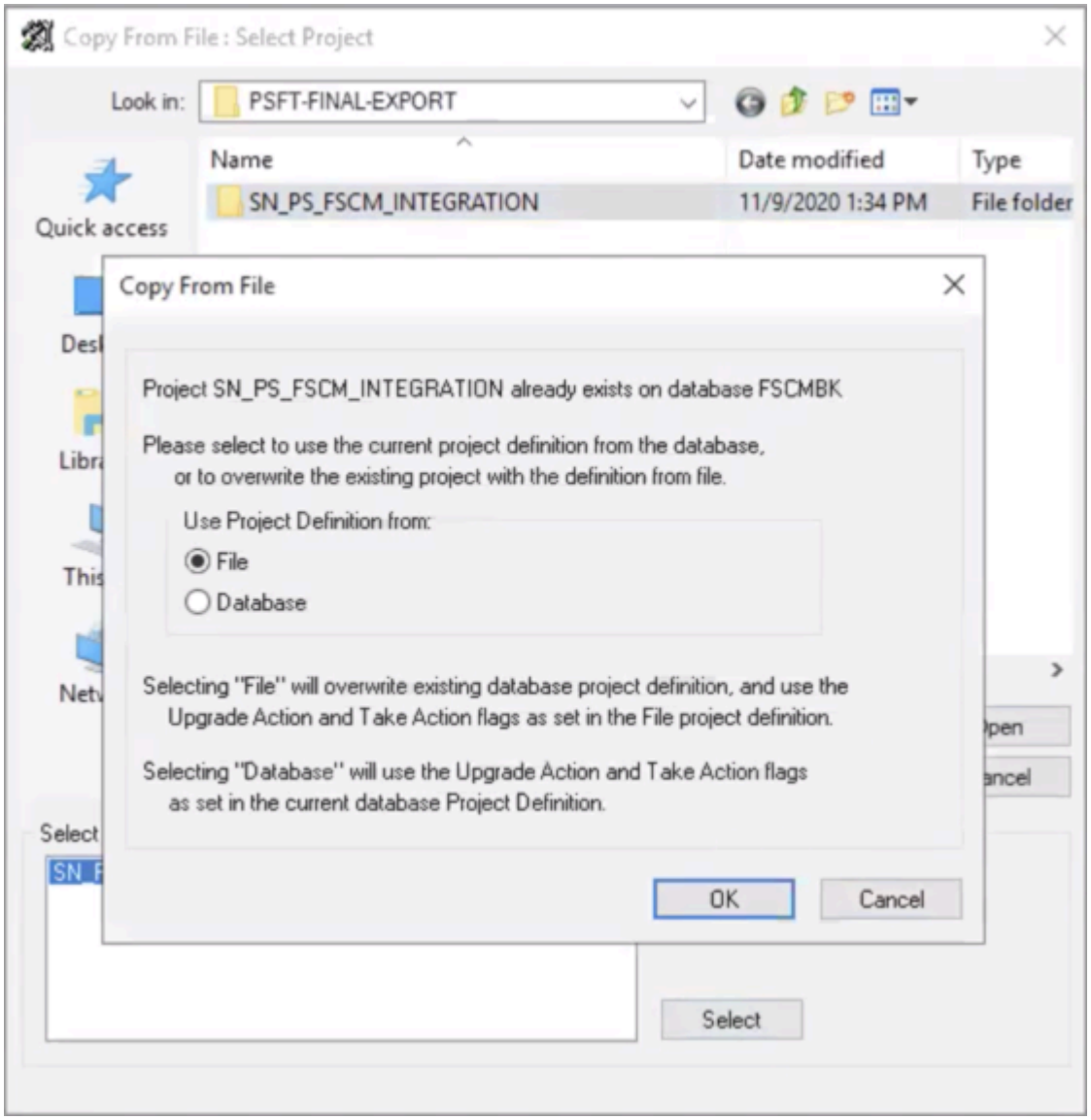
1. Application Designer で Oracle Peoplesoft Financial プロジェクトをインポートします。

   a. ServiceNow® Store から、プロジェクトファイル SN_PS_FSCM_INTEGRATION.zip をダウンロードし、必要なローカルフォルダーに保存します。

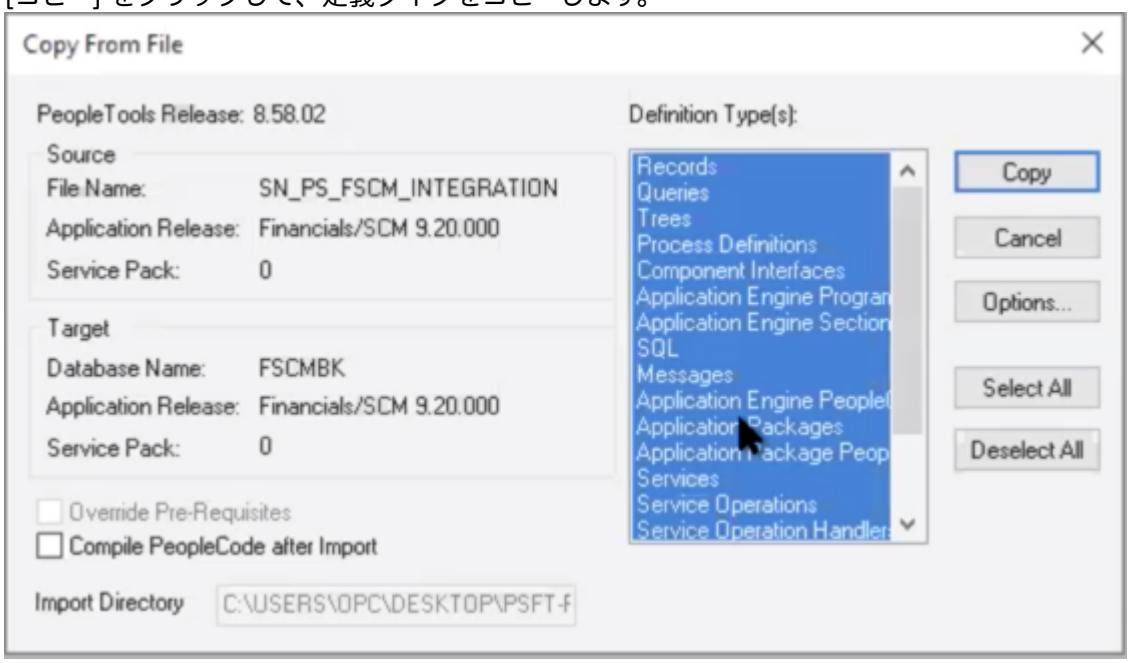
   b. Oracle Peoplesoft Financial プロジェクトをターゲット環境 (Oracle Peoplesoft Application Designer) にインポートします。

   c. [プロジェクトをコピー] > [ファイルから]に移動し、プロジェクトファイルを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



d. [コピー] をクリックして、定義タイプをコピーします。

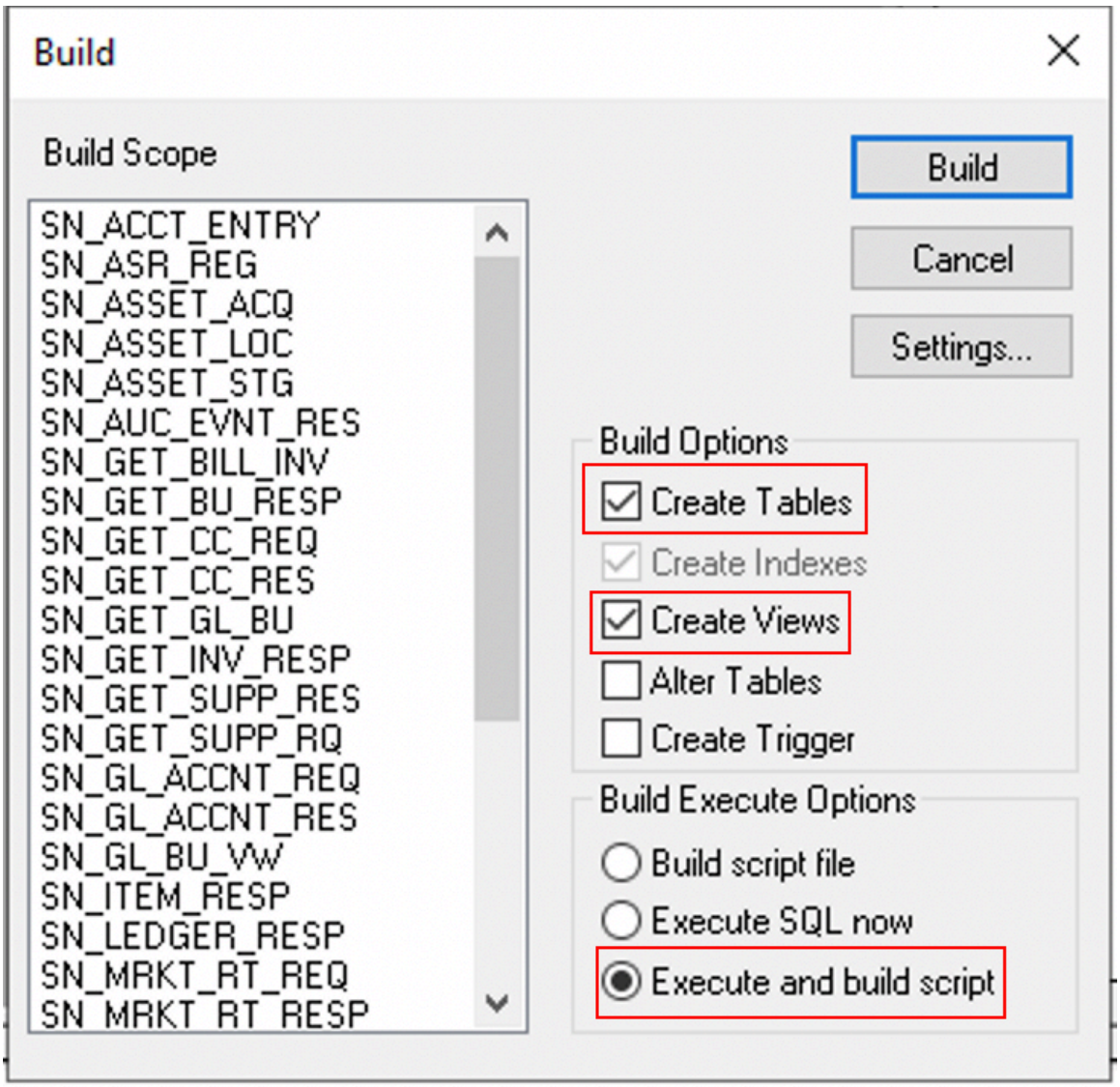


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. プロジェクトに、アプリケーションパッケージ、レコード、サービス、およびサービスオペレーションのすべてのオブジェクトがあることを確認します。

f. [ビルド] > [プロジェクト]に移動して、プロジェクトをビルドします。

g. [テーブルの作成]、[ビューを作成]、および[スクリプトを実行およびビルド] オプションを選択します。



必要なテーブルがターゲット Oracle Peoplesoft Financial データベースに作成されます。

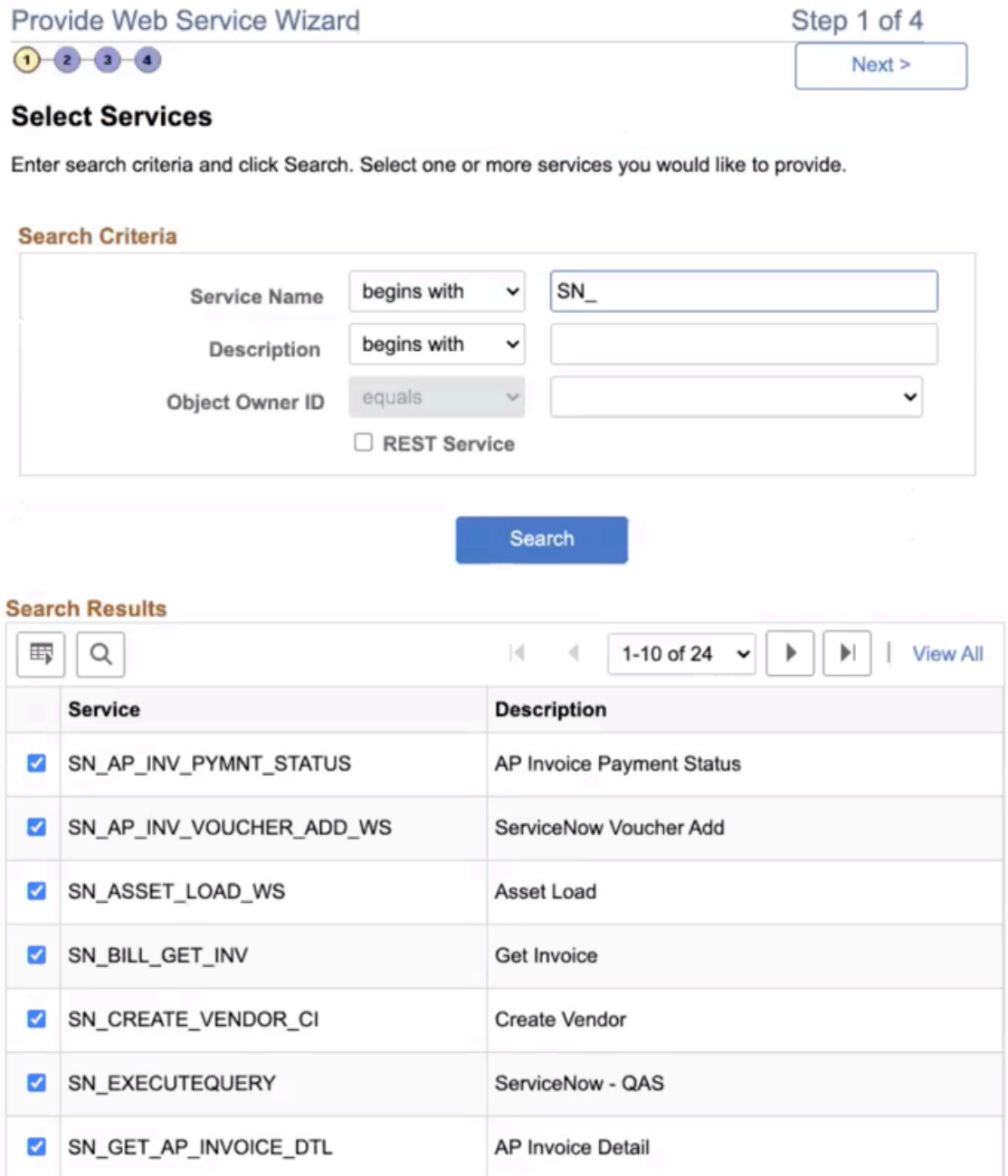
2. Oracle Peoplesoft Financial インスタンスで必要な Web サービスを有効にします。

a. システムアドミンとして Oracle Peoplesoft Financialインスタンスにログインします。

b. [ナビゲーター] > **[People Tools]** > [データ連携ブローカー] > **[Web** サービス] > **[Web** サービスを提供]に移動します。

c. 検索条件で [サービス名] に `sn_` を指定して、[検索] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



d. 必要な Web サービスのチェックボックスをオンにして、[次へ] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 24 個の ServiceNow Web サービスが選択されていることを確認してください。

サービス	説明
SN_AP_INV_PYMNT_STATUS	AP 請求書支払いステータス
SN_AP_INV_VOUCHER_ADD_WS	ServiceNow バウチャーを追加
SN_ASSET_LOAD_WS	資産をロード
SN_BILL_GET_INV	請求書を取得
SN_CREATE_VENDOR_CI	ベンダーを作成
SN_EXECUTEQUERY	ServiceNow - QAS
SN_GET_AP_INVOICE_DTL	AP 請求書詳細
SN_GET_ASR	事前出荷受領書
SN_GET_ASSET	SN_GET_ASSET
SN_GET_BID_EVENT	ServiceNow 入札イベント
SN_GET_CC	定数センターを取得
SN_GET_CURRENCY_RATES	通貨レートを取得
SN_GET_GL_ACCOUNT	GI アカウントを取得
SN_GET_GL_BALANCE	元帳データ
SN_GET_GL_BU	GL BU を取得
SN_GET_ITEM_MASTER	アイテムマスター
SN_GET_POHDR	PO ヘッダー
SN_GET_POLN	PO 明細行を取得
SN_GET_SHIPTO_LOCATIONS	配送先場所を取得
SN_GET_SUPPLIERS	サプライヤー/ベンダーを取得
SN_JOURNAL_LOAD	ServiceNow ジャーナルをロード
SN_MANAGE_PROCESSES	ServiceNow プロセス Web サービス
SN_PO_CANCEL	SN PO キャンセル
SN_RECPT_LOAD	SN からの受領書

e. [操作] で必要な Web サービスのチェックボックスをオンにして、[次へ] をクリックします。

f. **[WSDL** を表示] をクリックして WSDL ファイルを表示し、[次へ] をクリックします。

g. [公開オプションの指定] で [完了] をクリックします。
生成された WSDL の URL は次のフォーマットで表示されます：`<Base-URL>/<webservice-endpoint>.wsdl`

h. [ナビゲーター] > **[People Tools]** > [データ連携ブローカー] > **[Web** サービス] > **[CI** に基づくサービス]に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

i. Web サービスに対して前に実行したのと同じ手順を実行します。

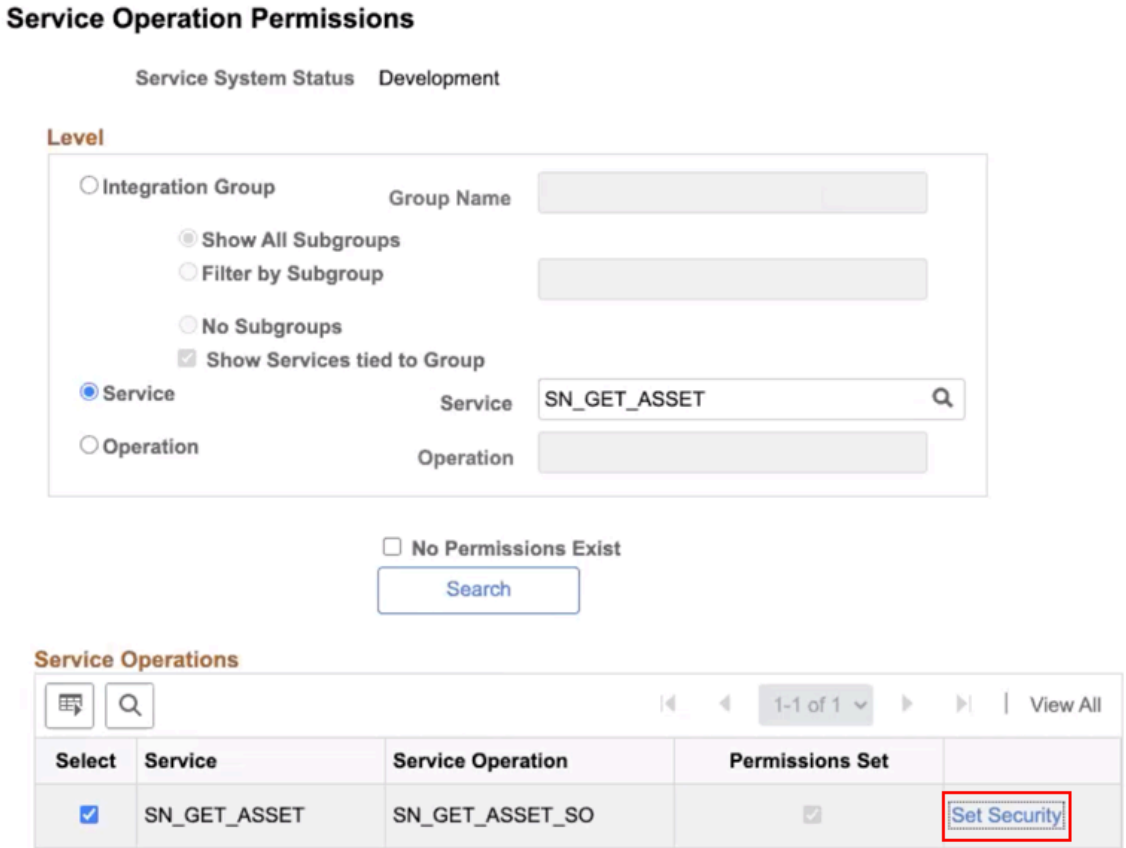
注: 要件に従って、Web サービスを構成します。

3. Web サービスに必要な権限を与えます。

a. システムアドミニストレーターとして Oracle Peoplesoft Financial インスタンスにログインします。

b. [ナビゲーター] > **[People Tools]** > [データ連携ブローカー] > **[Web** サービス] > [サービスユーティリティ] > [サービスオペレーション権限]に移動します。

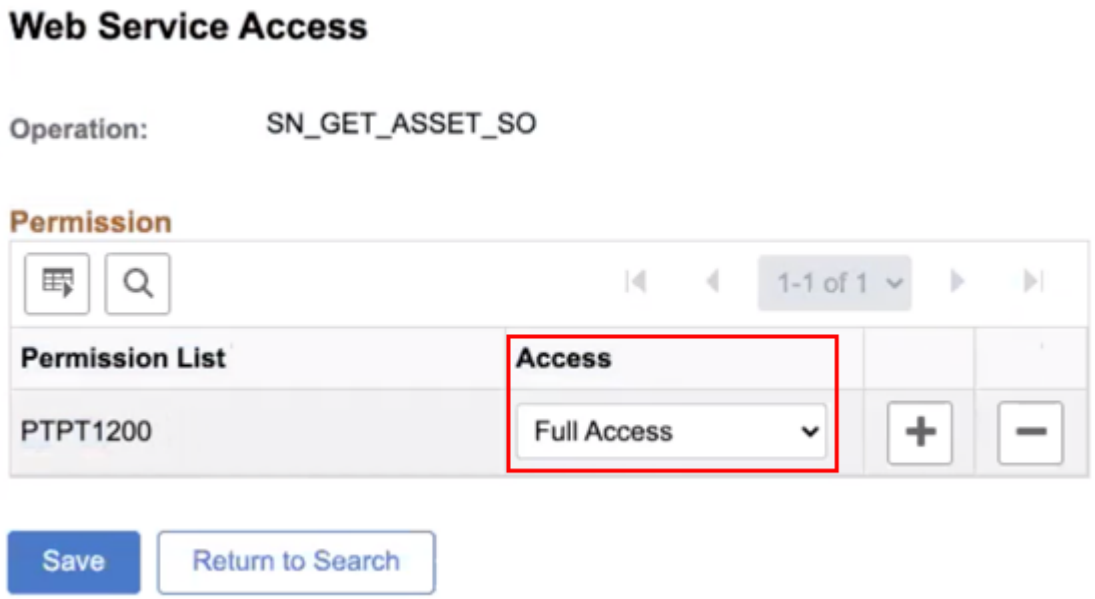
c. [サービス] オプションを選択し、[サービス] でサービス名を指定して、[検索] をクリックします。



d. 必要な Web サービスのチェックボックスをオンにして、[セキュリティの設定] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. **[Web** サービスへのアクセス] で要件に従ってアクセス権を指定し、[保存] をクリックします。



4. OraclePeoplesoft Application Designer の SQL 開発者またはデータムーバーを使用して、データベースに接続し、次のスクリプトを実行して、ジャーナルエントリー SN_ACCT_ENTRY がビルドされていることを確認します。

```
SET DEFINE OFF;

Insert into PS_SOURCE_TBL
 (SETID,SOURCE,EFFDT,EFF_STATUS,DESCR,JRNL_BALANCE_OPTN,JRNL_EDIT_ERR_O
PTN,JRNL_AMT_ERR_OPTN,JRNL_DT_ERR_OPTN,JRNL_DT_ERR_OPTN2,CONTROL_TOTAL_
OPTN,CURRENCY_BAL_OPTN,EXCHANGE_RATE_OPTN,BASE_CUR_ADJ_OPTN,JRNL_FOREIG
N_OPTN,POST_ZERO_SW,JRNL_APPRVL_OPTN,BD_JRNL_APPR_OPTN,BUSPROCNAME,APPR
_RULE_SET,BUSPROCNAME_BD,APPR_RULE_SET_BD,PHYSICAL_NATURE,DOC_TYPE_OPTN
,DOC_TYPE) values
 ('SHARE','SN',to_date('01-JAN-00','DD-MON-RR'),'A','ServiceNow','R','R
','R','D','D','R','D','D','D','D','N','D','D',' ',' ',' ',' ',' ','D',' 
 ');
```

```
Insert into PS_JRNLGEN_DEFN
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,DESCR,RECNAME,RECNAME_UPDATE,RECNAME_REFREC_KEY,
FIELDNAME_ACCTDATE,FIELDNAME_MON_AMT,FIELDNAME_FRN_AMT,FIELDNAME_STAT_A
MT,FIELDNAME_DESCR,FIELDNAME_JRNL_REF,FIELDNAME_OPEN_KEY,FIELDNAME_STLM
T_DT,FIELDNAME_DT_STAMP,SYSTEM_SOURCE,BUDGET_AMT_TYPE,PNLNAME,DRILL_DOW
N_OPTN,KK_SKIP,JGEN_KK_OPTN,KK_AMOUNT_TYPE,APPL_JRNL_ID_DFLT)
 values ('SHARE','SNOW_PSFT','ServiceNow Accounting
 Entries','SN_ACCT_ENTRY','SN_ACCT_ENTRY','
 ','ACCOUNTING_DT','MONETARY_AMOUNT','FOREIGN_AMOUNT','STATISTIC_AMOUNT
','LINE_DESCR','
 ','JRNL_LN_REF','ACCOUNTING_DT','DTTM_STAMP','GOT','OT','JGEN_ACCTG_DR
ILL','Y','1','V','1',' ');
```

```
Insert into PS_JRNLGEN_DEFNV
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,FIELD_SEQUENCE,FIELDNAME,CHARTFIELD,CF_SUMMARIZE
_OPT) values ('SHARE','SNOW_PSFT',1,'ACCOUNT','ACCOUNT','Y');
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
Insert into PS_JRNLGEN_DEFNV
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,FIELD_SEQUENCE,FIELDNAME,CHARTFIELD,CF_SUMMARIZE
_OPT) values ('SHARE','SNOW_PSFT',2,'ALTACCT','ALTACCT','Y');
Insert into PS_JRNLGEN_DEFNV
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,FIELD_SEQUENCE,FIELDNAME,CHARTFIELD,CF_SUMMARIZE
_OPT) values
 ('SHARE','SNOW_PSFT',3,'OPERATING_UNIT','OPERATING_UNIT','Y');
Insert into PS_JRNLGEN_DEFNV
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,FIELD_SEQUENCE,FIELDNAME,CHARTFIELD,CF_SUMMARIZE
_OPT) values ('SHARE','SNOW_PSFT',4,'DEPTID','DEPTID','Y');
Insert into PS_JRNLGEN_DEFNV
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,FIELD_SEQUENCE,FIELDNAME,CHARTFIELD,CF_SUMMARIZE
_OPT) values ('SHARE','SNOW_PSFT',5,'PRODUCT','PRODUCT','Y');
Insert into PS_JRNLGEN_DEFNV
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,FIELD_SEQUENCE,FIELDNAME,CHARTFIELD,CF_SUMMARIZE
_OPT) values ('SHARE','SNOW_PSFT',6,'PROJECT_ID','PROJECT_ID','Y');
Insert into PS_JRNLGEN_DEFNV
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,FIELD_SEQUENCE,FIELDNAME,CHARTFIELD,CF_SUMMARIZE
_OPT) values ('SHARE','SNOW_PSFT',7,'AFFILIATE','AFFILIATE','Y');
Insert into PS_JRNLGEN_DEFNV
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,FIELD_SEQUENCE,FIELDNAME,CHARTFIELD,CF_SUMMARIZE
_OPT) values
 ('SHARE','SNOW_PSFT',8,'STATISTICS_CODE','STATISTICS_CODE','Y');
```

```
Insert into PS_JRNLGEN_DEFMB
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,FIELD_SEQUENCE,FIELDNAME) values
 ('SHARE','SNOW_PSFT',1,'BUSINESS_UNIT');
Insert into PS_JRNLGEN_DEFMB
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,FIELD_SEQUENCE,FIELDNAME) values
 ('SHARE','SNOW_PSFT',2,'TRANSACTION_ID');
Insert into PS_JRNLGEN_DEFMB
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,FIELD_SEQUENCE,FIELDNAME) values
 ('SHARE','SNOW_PSFT',3,'LEDGER_GROUP');
Insert into PS_JRNLGEN_TGRP
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,FIELD_SEQUENCE,FIELDNAME,FIELD_VALUE1) values
 ('SHARE','SNOW_PSFT',1,'BUSINESS_UNIT',' ');
Insert into PS_JRNLGEN_TGRP
 (SETID,ACCTG_DEF_NAME,FIELD_SEQUENCE,FIELDNAME,FIELD_VALUE1) values
 ('SHARE','SNOW_PSFT',2,'TRANSACTION_ID',' ');
Insert into PS_JRNLGEN_APPL_ID
 (SETID,APPL_JRNL_ID,EFFDT,EFF_STATUS,DESCR,JOURNAL_ID_MASK,JRNL_DT_OPT
N,JRNL_DT_ALT_OPTN,JOURNAL_DATE,STAY_IN_PERIOD,SOURCE,CURR_EFFDT_FLG,JR
NL_DESCR,LINE_DESCR,TRANS_REF_NUM,JRNL_LN_REF,HOW_SPECIFY,ACCOUNT_SPECI
FY,DEFAULT_SPECIFY,TREE_NAME,TREE_LEVEL,REVERSAL_CD,ENTRY_SYNC,BUS_UNIT
_OPTN,DOC_TYPE) values
 ('SHARE','SNOW_PSFT',to_date('01-JAN-00','DD-MON-RR'),'A','ServiceNow
 Journal Template','SN','A','BF',null,'N','SN','J','ServiceNow External
 Journals','ServiceNow Journal Template',' ',' ','D','1','D',' ','
 ','N','Y','A','GN-JG');
```

```
Insert into
 PS_JRNLGEN_REQUEST(OPRID,RUN_CNTL_ID,REQUEST_NBR,PROCESS_FREQUENCY,PRO
CESS_STATUS,PROCESS_INSTANCE,PROCESS_ORIG,DTTM_STAMP_SEC,SETID,FROM_DT_
OPTN,FROM_DT,TO_DT_OPTN,TO_DT,APPL_JRNL_ID,LEDGER_GROUP,BUSINESS_UNIT,A
CCTG_DEF_NAME,JRNL_EDIT_OPTN,JRNL_BGTCHK_OPTN,JRNL_POST_OPTN,RTM_PRCS_F
LG) values
 ('VP1','SN-PSFT',1,'A','C',200255,'P',to_timestamp('16-JUL-20
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
 02.03.43.204000000 PM','DD-MON-RR HH.MI.SSXFF
 AM'),'SHARE','N',null,'C',null,'SNOW_PSFT','RECORDING','
 ','SNOW_PSFT','Y','N','N',' ');
```

```
Insert into PS_PRCSRUNCNTL
 (OPRID,RUN_CNTL_ID,LANGUAGE_CD,LANGUAGE_OPTION) values
 ('VP1','SN-PSFT','ENG','O');
Insert into PS_PRCSRUNCNTL
 (OPRID,RUN_CNTL_ID,LANGUAGE_CD,LANGUAGE_OPTION) values
 ('VP1','SN_LOAD_1','ENG','O');
Insert into PS_PRCSRUNCNTL
 (OPRID,RUN_CNTL_ID,LANGUAGE_CD,LANGUAGE_OPTION) values
 ('VP1','SN_PSFT_AP_VOUCHER_BUILD','ENG','O');
```

5. Oracle Peoplesoft FinancialSpoke の認証情報レコードを作成します。

a. アドミニストレーターとしてServiceNowインスタンスにログインします。

b. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

c. [新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

d. [基本認証情報] を選択します。

e. フォームに、これらの値を入力します。

名前	認証情報レコードを識別する名前です。たとえば、`Peoplesoft Cred` を入力します。
ユーザー名	Oracle Peoplesoft Financialインスタンスにログインするために必要な権限を持つユーザー名
パスワード	Oracle Peoplesoft Financialインスタンスにログインするためのパスワード
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。

f. [送信] をクリックします。

6. Oracle Peoplesoft Financial スポークの接続レコードを作成します。

a. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。

b. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

c. Oracle Peoplesoft Financial スポークのレコードを開きます。

d. [接続] タブで、[新規] をクリックします。

e. フォームに、次の値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前です。たとえば、`Peoplesoft 接続` を入力します。
認証情報	Jenkins 用に作成した認証情報レコードです。たとえば、**[Peoplesoft Cred]** を選択します。
接続 URL	生成された WSDL の URL から取得されたベース URL です。

f. [送信] をクリックします。

7. プロセストリガーアクションを使用するために、 Oracle Peoplesoft Financial 認証情報を入力します。
   a. アドミンとして ServiceNow インスタンスにログインします。
   b. **[Oracle PeopleSoft** 認証情報] > **[Oracle PeopleSoft** 認証情報]に移動します。
   c. [新規] をクリックします。
   d. フォームで、必要な権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
   e. [送信] をクリックします。
8. 必要な日付までの日次サプライヤーの詳細を取得します。
   a. アドミンとして ServiceNow インスタンスにログインします。
   b. **[PSFT** フロー実行] > **[PSFT** フロー実行]に移動します。
   c. [新規] をクリックします。
   d. [最後に成功した実行] で日次サプライヤーデータを取得する最終日を選択します。
   e. [送信] をクリックします。
   Polling Supplier サブフローで設定したトリガーに基づいて、データが定期的に取得されます。
   データを表示するには、**[PSFT]** > **[PSFT** データ]に移動します。

Oracle Virtual Cloud Network スポーク

ServiceNowインスタンスから Oracle Virtual Cloud Networkアカウントのネットワーク、ルーティングテーブル、セキュリティリスト、およびサブネットを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

Oracle Virtual Cloud Network スポーク v1.0.4 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているバージョン

このスポークは Oracle Virtual Cloud NetworkAPI バージョン 20160918 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- Oracle Cloud IAM スポーク
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Oracle Virtual Cloud Network Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときに Oracle Virtual Cloud Networkタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ネットワーク管理	ネットワークコンパートメントを変更	指定された VCN を同じテナント内の別のコンパートメントに移動します。
	ネットワークを作成	仮想クラウドネットワークを作成します。
	Delete Network	指定された VCN を削除します。
	Get Network	要求された VCN の詳細を取得します。
	ネットワークを検索	指定されたコンパートメントの VCN をリストします。
	Update Network	指定された VCN の詳細を更新します。
ルーティングテーブル管理	ルーティングテーブルのコンパートメントを変更	ルーティングテーブルを同じテナント内の別のコンパートメントに移動します。
	ルーティングテーブルを作成	指定された VCN のルーティングテーブルを作成します。
	ルーティングテーブルを削除	指定されたルーティングテーブルを削除します。
	ルーティングテーブルを取得	指定されたルーティングテーブルの詳細を取得します。
	ルーティングテーブルを検索	指定されたコンパートメントのルーティングテーブルをリストします。
	ルーティングテーブルを更新	指定されたルーティングテーブルの詳細を更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
セキュリティリスト管理	セキュリティリストコンパートメントを変更	指定されたセキュリティリストを同じテナント内の別のコンパートメントに移動します。
	セキュリティリストを作成	指定された VCN のセキュリティリストを作成します。
	セキュリティリストを削除	指定されたセキュリティリストを削除します。
	セキュリティリストを取得	指定されたセキュリティリストの情報を取得します。
	セキュリティリストを検索	指定されたコンパートメントのセキュリティリストをリストします。
	セキュリティリストを更新	指定されたセキュリティリストの表示名またはルールを更新します。
サブネット管理	サブネットコンパートメントを変更	指定されたサブネットを同じテナント内の別のコンパートメントに移動します。
	サブネットを作成	指定された VCN にサブネットを作成します。
	サブネットを削除	指定されたサブネットを削除します。
	サブネットを取得	指定されたサブネットの詳細を取得します。
	サブネットを検索	指定されたコンパートメントのサブネットをリストします。
	サブネットを更新	指定された VCN のサブネットを更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Oracle Virtual Cloud NetworkSpoke を設定。

Oracle Virtual Cloud NetworkSpoke を設定

OCI SHA256WithRSA Signature の認証情報を使用してServiceNowインスタンスと Oracle Virtual Cloud Networkアカウントを統合し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Oracle Cloud IAM スポークを有効にして設定します。
- Oracle Virtual Cloud Network スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. オプション: JKS 証明書を作成します。
   Oracle Virtual Cloud NetworkSpoke に JKS 証明書を作成したり、OracleCloud IAM Spoke に作成した証明書を使用したりできます。JKS 証明書の作成については、Java KeyStore (JKS) 証明書を作成を参照してください。
2. オプション: X.509 証明書を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Oracle Virtual Cloud NetworkSpoke に X.509 証明書を作成したり、OracleCloud IAM Spoke に作成した証明書を使用したりできます。X.509 証明書の作成については、Oracle Cloud IAM Spoke の X.509 証明書を作成を参照してください。

3. Oracle Virtual Cloud NetworkSpoke の認証情報レコードを作成します。

a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

b. [新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

c. **OCI SHA256WithRSA Signature** を選択します。

d. フォームに、これらの値を入力します。

注: Oracle Virtual Cloud NetworkSpoke 専用に作成した証明書の詳細を指定したり、Oracle Cloud IAM Spoke 用に作成した既存の証明書の詳細を指定したりできます。

OCI SHA256WithRSA Signature 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`Oracle Virtual Cloud Network Cred`
証明書システム ID	署名証明書のシステム ID です。
エイリアス	KeyStore のエイリアスです。
エイリアスパスワード	KeyStore のエイリアスパスワードです。
キー ID	キー ID は、複数のキーを使ってトークンに署名する際に、どのキーを使用するかを識別するのに役立ちます。キー ID は、この形式では、テナント OCID、ユーザー OCID、および指紋をスラッシュ (/) で区切ったものです：`ocid1.tenancy.oc1..<unique_ID>/ocid1.user.oc1..<unique_ID>/<key_fingerprint>`
適用先	認証情報をネットワーク内のすべての MID サーバーに適用するかどうかを指定するオプションです。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
認証アルゴリズム	送信署名要求のカスタム認証アルゴリズムです。`OCI SHA256RSA Signing Algorithm` を選択

e. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. Oracle Virtual Cloud NetworkSpoke の接続レコードを作成します。

   a. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

   b. Oracle Virtual Cloud Network スポークのエイリアスレコードを開きます (例：**Oracle_VCN_Connection**)。

   c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。

   d. フォームの各フィールドに入力します。

   接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Oracle_VCN_Conn` です。
認証情報	Oracle Virtual Cloud NetworkSpoke 用に作成された認証情報レコードです。例：`Oracle Virtual Cloud Network Cred`
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
接続 URL	Oracle Virtual Cloud Networkに接続するためのベース URL 例：`https://iaas.ap-mumbai-1.oraclecloud.com`
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。

   e. [送信] をクリックします。

   ServiceNowインスタンスと Oracle Virtual Cloud Networkアカウントは統合されます。必要に応じて、スポークアクションを使用してフローをビルドし、タスクを自動化できます。

PagerDuty スポーク

PagerDuty スポークは、PagerDuty ソフトウェアサブスクリプションの有意義な使用状況データを表示および分析するアクションを提供します。オンコールユーザーを分析して古いライセンスを特定することで、これらのライセンスを再利用して見込まれる節減を実現できるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Sotre Web サイトにアクセスして、利用可能なすべてのアプリを表示し、要求をストアに送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのこれまでのリリースメモ情報については、「ServiceNow Store のバージョン履歴リリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

サポート対象のバージョン

このスポークは PagerDuty v1.4.0 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

PagerDuty グローバルアドミンアカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのサブフロー

PagerDuty Spoke では、PagerDutyタスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
PagerDutyサブスクリプションをダウンロード	PagerDutyポータルからユーザーサブスクリプションをダウンロードします。 このサブフローを使用するには、「PagerDuty との統合」で概説されている手順を実行します。
PagerDutyサブスクリプションを回収	PagerDutyのユーザーアカウントを無効にします。 このサブフローを使用するには、「PagerDuty との統合」で概説されている手順を実行します。
PagerDutyユーザーアクティビティを更新	オンコールスケジュールにあるユーザーのアクティビティを取得します。 このサブフローを使用するには、「PagerDuty との統合」で概説されている手順を実行します。

スポークのアクション

PagerDuty Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにPagerDutyタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
Audit Management	監査レコードストリームを検索	監査のリストに関する情報を取得します。
ビジネスサービス管理	ビジネスサービスの作成	[番号] フィールドに入力してビジネスサービスを作成します。
	ビジネスサービス登録者を作成	ビジネスサービス登録者を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ビジネスサービスを削除	ビジネスサービスを削除します。
	ID でビジネスサービスを検索	指定されたビジネスサービスに関する情報を取得します。
	ビジネスサービス ID でビジネスサービスの依存関係を検索	ビジネスサービス ID でビジネスサービスの依存関係を取得します。
	ビジネスサービス ID でビジネスサービス登録者を検索	ビジネスサービス ID でビジネスサービス登録者を取得します。
	ビジネスサービスストリームを検索	ビジネスサービスストリームを取得します。
	ビジネスサービス登録者を削除	ビジネスサービス登録者を削除します。
	ビジネスサービスの更新	ビジネスサービスを更新します。
エスカレーションポリシー管理	エスカレーションポリシーを削除	指定されたエスカレーションポリシーを削除します。
	エスカレーションポリシーストリームを検索	エスカレーションポリシーのリストに関する情報を取得します。
	ID でエスカレーションポリシーを検索	ID でエスカレーションポリシーを取得します。
	エスカレーションポリシーを更新	エスカレーションポリシーを更新します。
	エスカレーションポリシーを作成	エスカレーションポリシーを作成します。
拡張管理	拡張を作成	拡張を作成します。
	ID で拡張を検索	指定された拡張に関する情報を取得します。
	拡張ストリームを検索	拡張のリストに関する情報を取得します。
	拡張を更新	拡張を更新します。
インシデント管理	インシデントの作成	指定された詳細でインシデントを作成します。
	ID でインシデントを検索	ID でインシデントに関する情報を取得します。
	インシデントストリームを検索	インシデントのリストに関する情報を取得します。
	インシデントの更新	指定された詳細でインシデントを更新します。
Notification Management	通知ストリームを検索	通知のリストを取得します。
スケジュール管理	スケジュールを作成	スケジュールを作成します。
	ID でスケジュールを検索	スケジュール ID に関する情報を取得します。
	スケジュールストリームを検索	スケジュールのリストに関する情報を取得します。
	スケジュールを更新	指定された情報でスケジュールを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
サービス管理	サービスを作成	サービスを作成します。
	ID でスサービスを検索	ID でサービスの詳細を取得します。
	サービスストリームを検索	サービスのリストに関する情報を取得します。
	サービスを更新	指定された情報でサービスを更新します。
タグ管理	タグを作成	タグを作成します。
	タグを削除	指定されたタグを削除します。
	ID でタグを検索	特定のタグに関する情報を取得します。
	タグストリームを検索	必要なタグに関する情報を取得します。
	タグのアサイン	必要なエンティティにタグをアサインします。
チーム管理	チームにエスカレーションポリシーを追加	指定された詳細でチームにエスカレーションポリシーを追加します。
	チームにユーザーを追加	指定されたチームにユーザーを追加します。
	チームを作成	チームを作成します。
	チームサブスクリプションを作成	チームサブスクリプションを作成します。
	チームを削除	指定されたチームを削除します。
	チーム内のサブスクリプションを検索	チーム内の指定されたサブスクリプションに関する情報を取得します。
	ID でチームを検索	ID で特定のチームを取得します。
	チームストリームを検索	チームのリストに関する情報を取得します。
	チーム内のユーザーを検索	チームから指定されたユーザーに関する情報を取得します。
	チームからエスカレーションポリシーを削除	指定されたチームから指定されたエスカレーションポリシーを削除します。
	チームサブスクリプションを削除	指定されたチームサブスクリプションを削除します。
	チームからユーザーを削除	指定されたチームから指定されたユーザーを削除します。
	チームを更新	チームの詳細を更新します。
Webhook 管理	Webhook サブスクリプションを作成	Webhook サブスクリプションを作成します。
	Webhook を削除	Webhook を削除します。
	ID で Webhook サブスクリプションを検索	指定された Webhook サブスクリプション ID に関する情報を取得します。
	Webhook サブスクリプションストリームを検索	Webhook サブスクリプションのリストに関する情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	Webhook サブスクリプションを更新	指定された Webhook サブスクリプションを更新します。
ユーザー管理	ユーザーを検索	すべてのPagerDutyユーザーサブスクリプションを取得します。
	オンコールユーザーを検索	ユーザーが前回オンコールスケジュールだったときの情報を取得します。
	ユーザーを削除	PagerDutyのユーザーアカウントを無効にします。
	ユーザーストリームを検索	ユーザーのリストに関する情報を取得します。
	ユーザーを作成	ユーザーを作成します。
	ユーザーを更新	指定されたユーザーの詳細を更新します。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

PagerDuty スポークの設定

接続と資格情報レコードを使用して、ServiceNow インスタンスと PagerDuty サーバー間のアウトバウンド統合を設定します。

始める前に

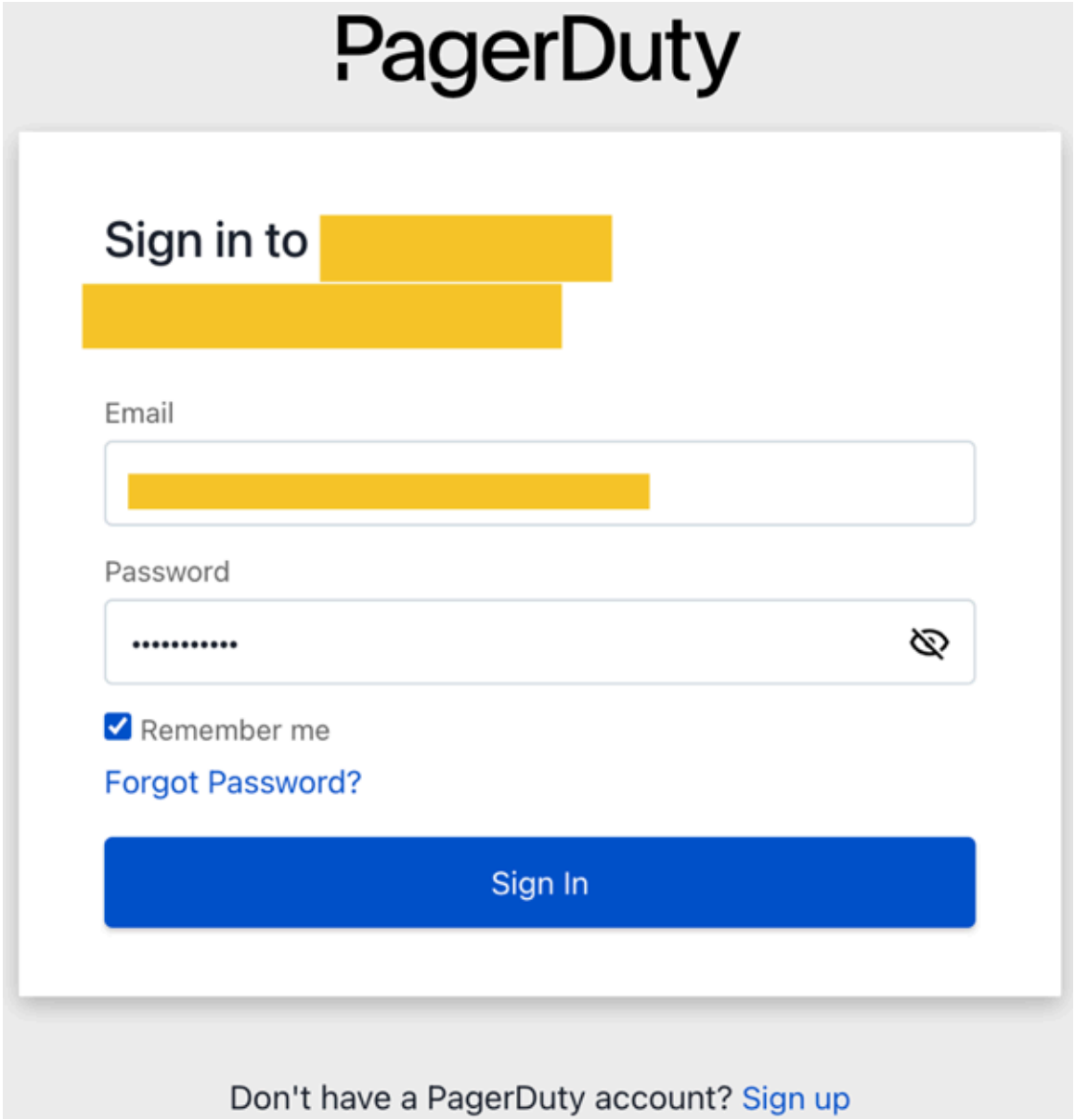
- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- PagerDuty スポークを有効化します。
- OAuth 2.0 アプリを設定できるように、PagerDuty アプリケーションにアクセスします。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

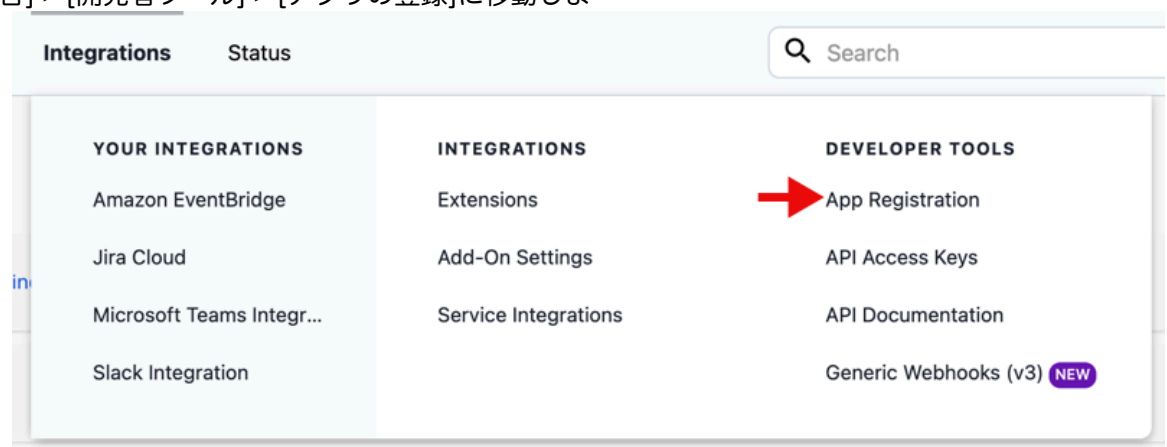
1. PagerDuty を OAuth プロバイダーとして設定します。

   a. PagerDuty アプリケーションにログインしま



   す。

   b. [統合] > [開発者ツール] > [アプリの登録]に移動しま



   す。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

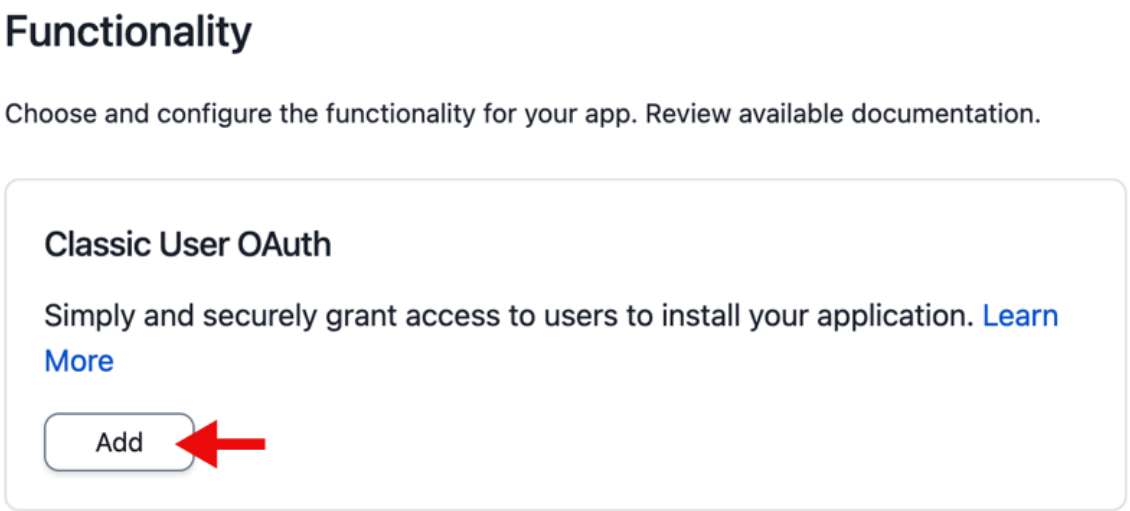
c. [新しいアプリを作成 **(Create new app)]** を選択します。

d. [アプリ名] フィールドに、OAuth アプリの一意の名前を入力します。

e. [簡単な説明 (Brief Description)] フィールドに、OAuth アプリの簡単な説明を入力します。

f. [保存] を選択します。

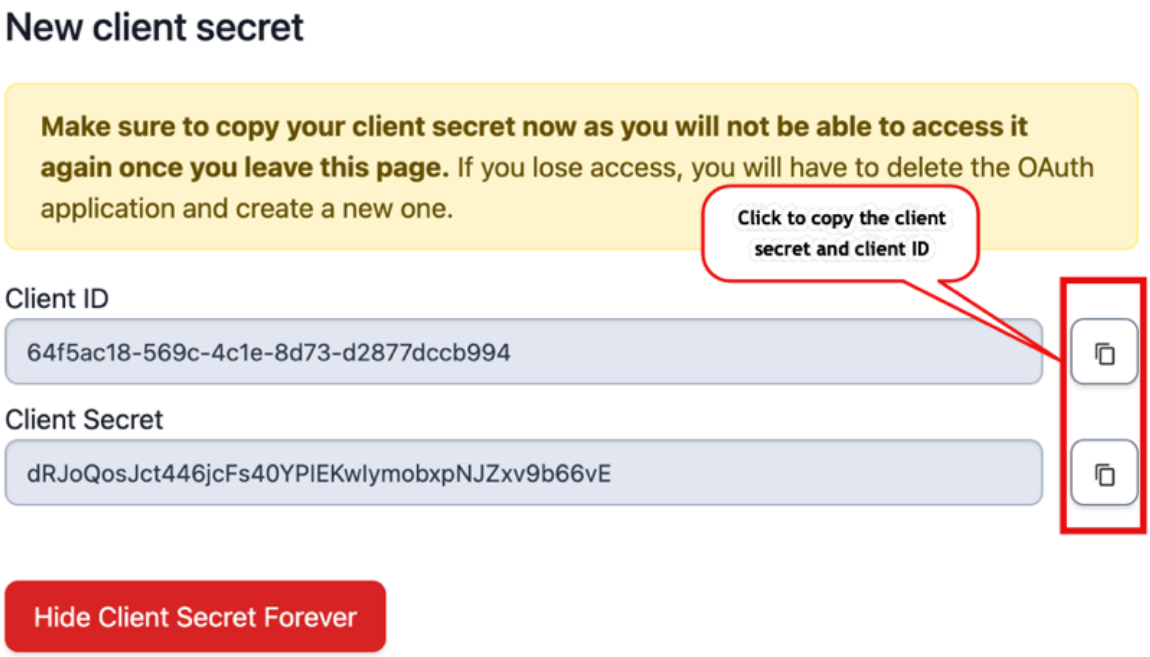
g. [Classic User OAuth] 見出しで、[追加] を選択しま



す。

h. [リダイレクト URL] フィールドに、ServiceNow インスタンスの URL を入力します。

i. [保存] を選択します。
PagerDuty がクライアント ID とクライアントシークレットを生成しま



す。

j. クライアント ID とクライアント シークレットをコピーし、保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続と資格情報レコードを設定するときに、クライアント ID とクライアントシークレットが必要です。
PagerDuty OAuth アプリが設定されました。

2. 接続および認証情報レコードを設定します。

   a. ServiceNow インスタンスにログインします。

   b. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] に移動します。

   c. [接続] を選択します。

   d. [すべての接続を検索] フィールドに「`PagerDuty`」と入力します。

   e. [PagerDuty] タイルで、[詳細を表示] を選択します。

   f. [設定] を選択します。

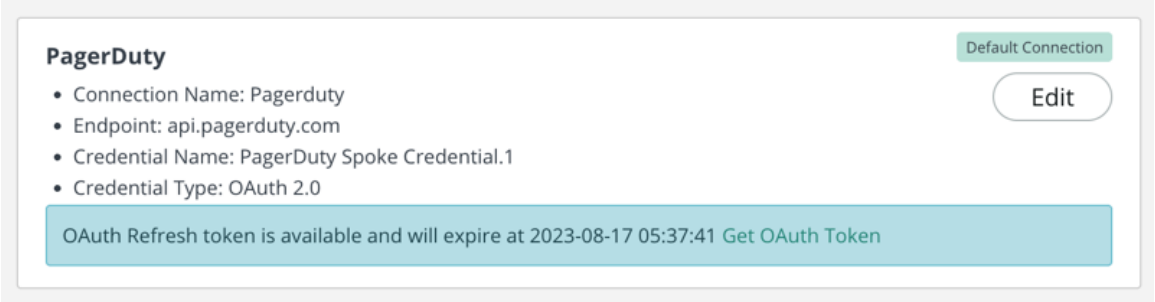
   g. [接続を作成] フォームに入力します。

接続を作成

フィールド	説明
接続名	接続の名前。 注: 最初の接続のデフォルトの読み取り専用名は、PagerDuty です。接続にカスタム名を指定するには、[接続を追加] を選択します。
名前	認証情報の名前です。 注: 最初の認証情報のデフォルトの読み取り専用名は、PagerDuty です。認証情報にカスタム名を指定するには、[接続を追加] を選択します。
OAuth クライアント ID	OAuth アプリの設定時に生成した OAuth クライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	OAuth アプリの設定時に生成した OAuth クライアントシークレットです。
OAuth リダイレクト URL	OAuth アプリを設定時に指定したリダイレクト URL です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

h. **[OAuth** トークンを作成して取得] を選択します。
OAuth トークンが利用可能になりま



す。

Plivo スポーク

ServiceNowインスタンスからPlivoプラットフォームを使用して、顧客との通信を有効にします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Plivo スポークは v1.0.4 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークはPlivoAPI バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Plivoコンソールへのアドミンアクセス
- **[AUTH ID]** および **[AUTH** トークン] これらの値は、Plivoアカウントのダッシュボードで見つけることができます。詳細については、Plivo ドキュメント の「認証」を参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート：データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのサブフロー

Plivo Spoke では、Plivoタスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
Plivo コールハンドラー	Plivoアカウントに関連付けられたコールを管理します。
Plivo SMS ハンドラー	Plivoアカウントに関連付けられた SMS を管理します。

サブフローをカスタマイズするときは、サブフローが無限ループを回避するように構成されていることを確認する必要があります。

注:

- スポークサブフローを使用するように Webhook を設定する必要があります。Webhook の設定と構成の詳細については、「Plivo スポーク用の双方向 Webhook の設定 」を参照してください。
- デフォルトで、サンプルサブフローはユーザーとして実行されます。サブフローは、システムとして実行するように設定できます。

スポークのアクション

Plivo Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにPlivoタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アプリケーション管理	アプリケーションの作成	アプリケーションを作成します。
	アプリケーションを削除	アプリケーションを削除します。
	アプリケーションを取得	アプリケーションの詳細を取得します。
	アプリケーションを検索	すべてのアプリケーション ID のリストを取得します。
	アプリケーションを更新	アプリケーションの詳細を更新します。
コール管理	コールを取得	コールのコール詳細レコード (CDR) を取得します。
	コールを終了	進行中のコールを終了するか、キューに入れられた発信コールをキャンセルします。
	コールを検索	指定されたコールの詳細を取得します。
	通話を行う	発信コールを開始します。
	コールの記録を開始	進行中の発信コールの記録を開始します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	コールの記録を停止	指定されたコール UUID の進行中のすべての記録を停止します。
会議の管理	会議を取得	会議の詳細を取得します。
	会議を終了	アカウントで進行中のすべての会議を終了します。
	メンバーを切断	会議のメンバーを切断します。
	メンバーを除外	会議のメンバーを切断します。
	会議を検索	アカウントで進行中のすべての会議のリストを取得します。
	メンバーをミュート	会議のメンバーをミュートします。
	メンバーのミュート状態を解除	会議のメンバーのミュート状態を解除します。
SMS 管理	メッセージを取得	指定されたメッセージの詳細を取得します。
	メッセージを検索	メッセージの詳細を取得します。
	SMS を一括送信	複数の番号に SMS を送信します。
	SMS を送信	指定された番号に SMS を送信します。

スポークモジュール

Webhook は、必須イベントに関する通知を受けるように設定できます。ルーティングポリシーでは、ServiceNowインスタンスに通知するために満たすべき条件が定義されます。これらの条件は、通知を希望するPlivoのイベントに基づいています。条件が満たされると、ルーティングポリシーが関連するサブフローをトリガーし、 Plivoタスクを自動化します。

Webhook には別途セットアップが必要で、スポークアクションを使用しないで単独で使用できます。Plivo Spoke は Plivo Spoke アプリケーションをインスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

モジュール	説明
Plivo Webhook レジストリ	ServiceNowでPlivoWebhook を作成し表示します。
Plivo Webhook ルーティングポリシー	ServiceNowでPlivoWebhook のルーティングポリシーを作成し表示します。要件に応じてルーティングポリシーの条件をカスタマイズすることもできます。

Plivo Webhook レジストリモジュールを使用して、PlivoWebhook を登録します。コールバック URL を生成し、この URL を Plivo アカウントに入力する必要があります。

ルーティングポリシーとサブフローは次の Plivo フィールドをサポートしています。

- キーワード
- コールイベント
- 発信者名
- イベントタイプ
- SMS テキスト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 宛先番号
- 関連フィールドを表示

Plivo WebHook ルーティングポリシーモジュールでルーティングポリシーを作成し、要件に従って条件を指定します。Webhook の設定と構成の詳細については、「Plivo スポーク用の双方向 Webhook の設定 」を参照してください。

スポークユーザーロール

Plivo Spoke では、Plivo アドミン (sn_plivo_spoke.Plivo_Admin) ロールが提供されます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報 」を参照してください。

スポークの設定については、「 Plivo Spoke を設定。

Plivo Spoke を設定

ベーシック認証を使用してServiceNowインスタンスとPlivoアカウントを統合し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Plivo スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

Plivo スポークの接続の構成

Plivo 接続を追加して構成し、Plivo スポークで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

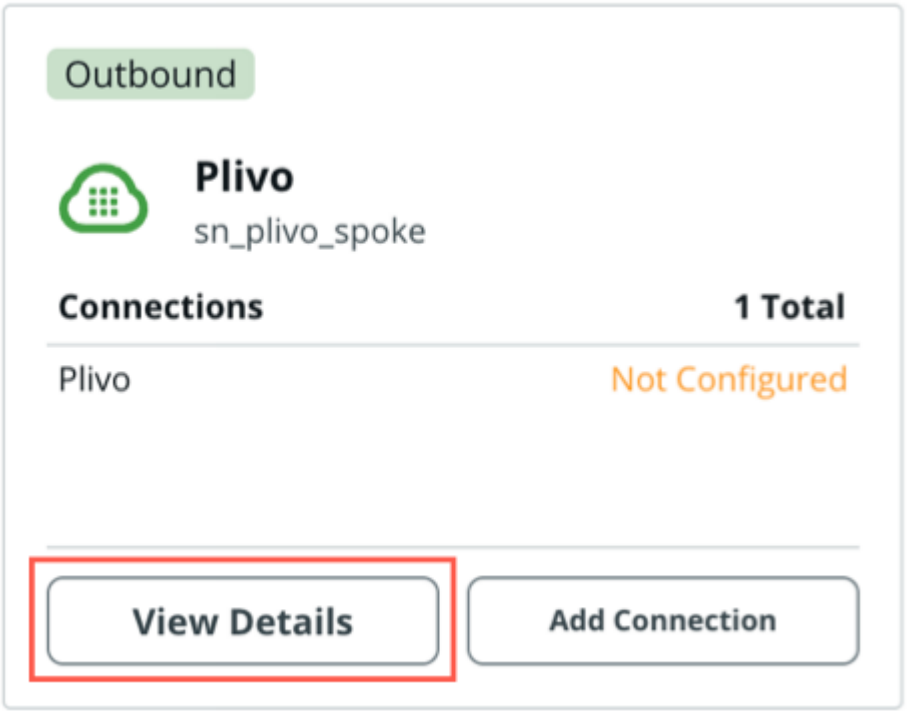
- **[AUTH ID]** および **[AUTH** トークン] の値これらの値は、Plivoアカウントのダッシュボードで見つけることができます。詳細については、Plivo ドキュメント の「認証 」を参照してください。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] で、[送信] 接続に切り替えて有効にします。
4. **[Plivo]** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

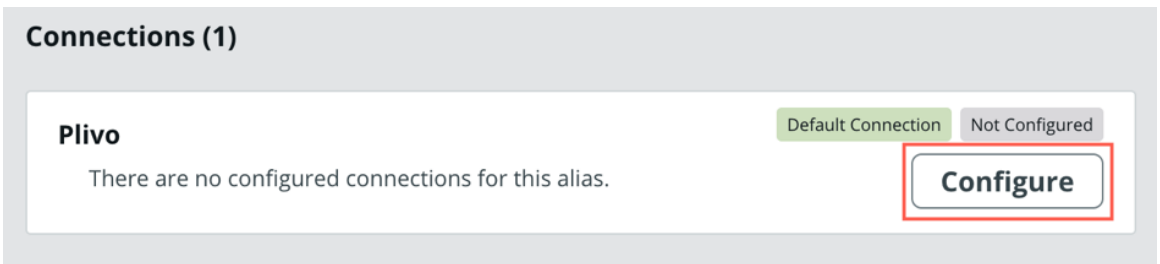
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ Plivo スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



◦ 複数の Plivo スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続を使用する方法の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。



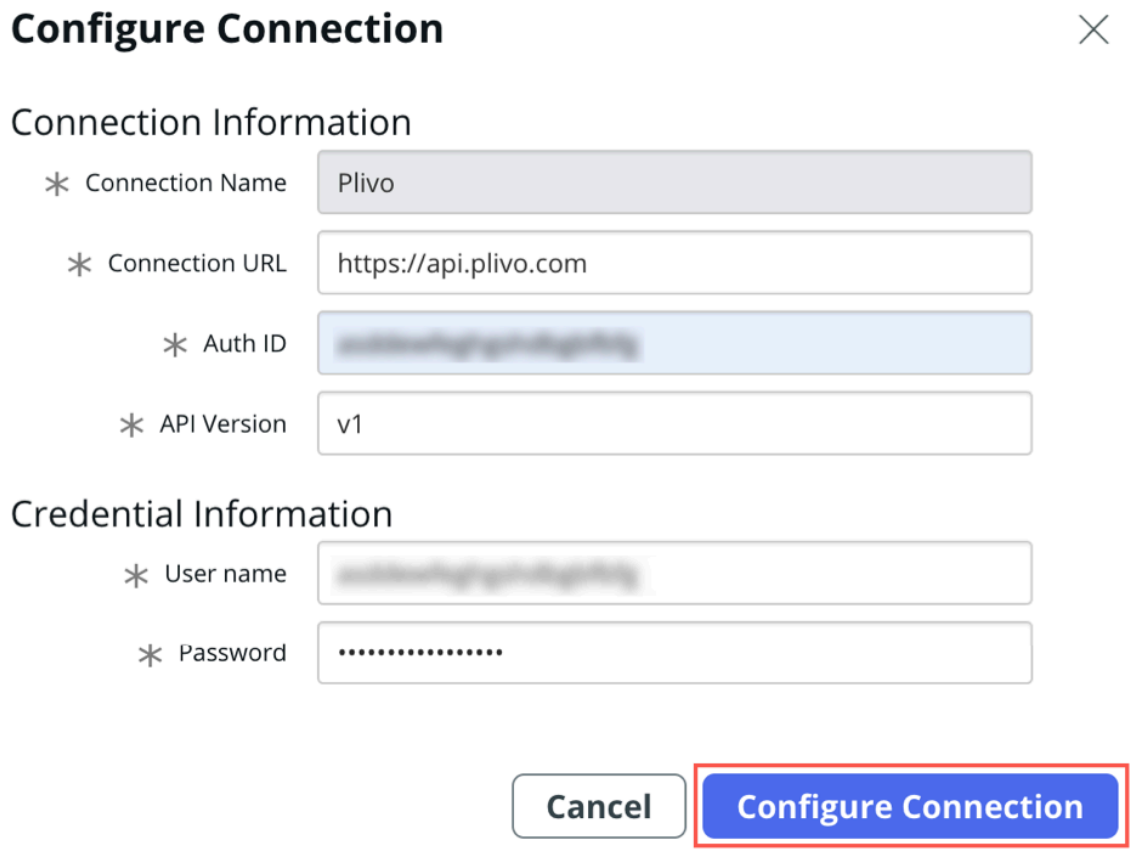
5. [接続を設定] フォームのフィールドに入力します。

構成フォーム

フィールド	説明
接続名	接続レコードを一意に識別する名前です。
接続 URL	Plivoに接続するためのベース URL です。`https://api.plivo.com` を入力します。
認証 ID	Plivoアカウントの認証 ID です。
API バージョン	Plivoアカウントの API バージョンです。`v1` と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ユーザー名	Plivoアカウントの認証 ID です。
パスワード	Plivoアカウントの認証トークンです。



6. [接続を設定 **(Configure Connection)]** をクリックします。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

Plivo スポーク用の双方向 **Webhook** の設定

ServiceNowコールバック URL を使用して、Plivoアカウントを登録する Webhook を構成します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Plivo スポークを有効化します。
- Plivo Spoke を設定
- 必要なロール：sn_plivo_spoke.Plivo_Admin および decision_table_admin

ServiceNowに**PlivoWebhook** を登録

ServiceNowインスタンスにPlivoWebhook を登録して、Plivoで特定のイベントが発生したときにServiceNowアプリに通知します。

始める前に
必要なロール：sn_plivo_spoke.Plivo_Admin および decision_table_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > **[Plivo Spoke]** > **[Plivo Webhook** レジストリ]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

Plivo Webhook レジストリフォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前です。たとえば、`Plivo webhook` を入力します。
説明	レコードの説明です。
パス	PlivoWebhook パスです。デフォルトでは、このパスは `api/sn_plivo_spoke/plivo_webhook_handler/wh_entry` に設定されています。

4. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
5. [コールバック **URL]** をクリックします。
   Webhook コールバック URL が表示されます。
6. Webhook コールバック URL をコピーして記録します。

タスクの結果
PlivoWebhook がServiceNowインスタンスに登録されます。

Plivo にコールバック **URL** を追加

Plivo アカウントに Webhook コールバック URL を入力して、Webhook を作成します。

始める前に
必要なロール：sn_plivo_spoke.Plivo_Admin および decision_table_admin

手順

1. Plivoコンソールにログインします。
2. 要件に従って、Plivoコンソールでアプリケーションを作成します。
   Plivoコンソールでのアプリケーションの作成に関する詳細については、Plivo ドキュメント の「最初の発信を行う 」ページの「アプリケーションを作成する」セクションを参照してください。PlivoAPI を使用したアプリケーションの作成と更新の詳細については、Plivo アプリケーションのドキュメント を参照することもできます。
3. [メッセージ **URL]** と [回答 **URL]** に Webhook コールバック URL を入力し、要件に従ってアプリケーションを構成します。

タスクの結果
コールバック URL がPlivoアカウントに追加されます。要件に応じてルーティングポリシーとサブフローを作成できます。新しいルーティングポリシーとサブフローの作成の詳細については、「ルーティングポリシーを作成し、Webhook をカスタマイズ」を参照してください。

ルーティングポリシーを作成し、Webhook をカスタマイズ

要件に応じて、Webhook ルーティングポリシーとサブフローを作成します。

始める前に
必要なロール：sn_plivo_spoke.Plivo_Admin および decision_table_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

Plivo WebHook ルーティングポリシーモジュールのルーティングポリシーはサブフローをトリガーし、Plivoアカウントで特定のイベントが発生するとServiceNowインスタンスに通知します。ルーティングポリシーとサブフローがサポートするフィールドの詳細については、「Plivo スポーク」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [フローデザイナー] > [デザイナー] に移動します
2. [サブフロー] をクリックします。
3. デフォルトのサブフローのコピーを作成します。
   Plivoスポークとともに 2 つのサブフロー [Plivo コールハンドラー] と [Plivo SMS ハンドラー] を使用できます。要件に応じて、これらのサブフローのいずれかのコピーを作成できます。
4. 要件に応じてサブフローをカスタマイズし、公開します。
   サブフローの作成および使用の詳細については「サブフローのビルド」を、サポート対象のフィールドの詳細については「Plivo スポーク」を参照してください。
5. **[Plivo Spoke]** > **[Plivo Webhook** ルーティングポリシー]に移動します。
6. [新規] をクリックします。
7. フォームのフィールドに入力します。

   意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。
デフォルトの回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。 **a.** [ルックアップ] アイコン ( ) をクリックします。 **b.** ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。 注: [テーブル名] がフロー `[sys_hub_flow]` であることを確認します。
条件	Plivoで必須イベントが発生したときに満たされるべき条件です。
回答	指定された条件が満たされるとトリガーされるサブフローです。

   ルーティングポリシーとサブフローは次の Plivo フィールドをサポートしています。
   - キーワード
   - コールイベント
   - 発信者名
   - イベントタイプ
   - SMS テキスト
   - 宛先番号
   - 関連フィールドを表示
8. [送信] をクリックします。

   注: これらのルーティングポリシーは意思決定テーブルに保存されます。ユーザーは、これらのテーブルのデータを直接更新または変更しないように注意してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
ルーティングポリシーとサブフローが作成されます。

Pluralsight スポーク

ServiceNowインスタンスからPluralsightSkills アカウントでユーザー、学習、コースなどを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Pluralsight スポーク v1.2.0 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Pluralsight GraphQL API バージョン v1 用にビルドされていますが、将来の他の API バージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Pluralsight Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したとき、Pluralsightタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
コース管理	コースを検索	指定されたPluralsightコースの詳細を取得します。
学習管理	コースの学習ステータスを検索	指定されたPluralsightコースの学習ステータスを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ユーザーの学習ステータスを検索	指定されたPluralsightユーザーの学習ステータスを取得します。
	学習ステータスデータストリームを検索	Pluralsightで指定されたコースの学習ステータスを取得します。
スキル管理	スキルアセスメント結果を検索	Pluralsightのスキルアセスメント結果を取得します。 **注:** • このアクションを使用するには、**Pluralsight** Enterprise Plan が必要です。 • アクション出力の [試行番号] は **[0]** から始まり、この値はPluralsightの値と同期されます。
	スキルアセスメントを検索	ユーザーが取得できる、Pluralsightの利用可能なすべてのスキルアセスメントのリストを取得します。
	スキル IQ サマリを検索	Pluralsightでスキル IQ サマリを取得します。
ユーザー管理	ユーザーを作成	Pluralsightにユーザーを作成します。 **注:** このアクションを実行するには、API キーに書き込み権限が必要です。
	ユーザーの非アクティブ化	Pluralsightのプランからユーザーのライセンスを削除します。 **注:** このアクションを実行するには、API キーに書き込み権限が必要です。
	ユーザーを招待	指定されたユーザーをPluralsightの計画に招待します。 **注:** このアクションを実行するには、API キーに書き込み権限が必要です。
	ユーザーを検索	Pluralsightでユーザーの詳細を取得します。

Pluralsightスポークの設定の詳細については、Pluralsight スポークの設定を参照してください。

Pluralsight スポークの設定

API キーを使用して ServiceNow インスタンスと Pluralsight Skills アカウントを統合し、ServiceNow インスタンス要求を Pluralsight ホストで認証します。

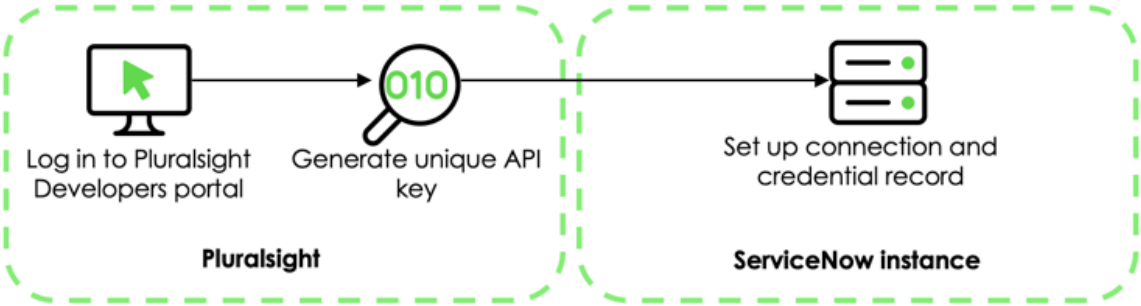
始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Pluralsight スポークを有効化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Pluralsight Skills アカウントにアドミンとしてアクセスします。
- 必要なロール：admin

このタスクについて
このタスクにより、ServiceNow インスタンスを Pluralsight ホストと統合できます。以下の画像のフローを参照してくださ



い。

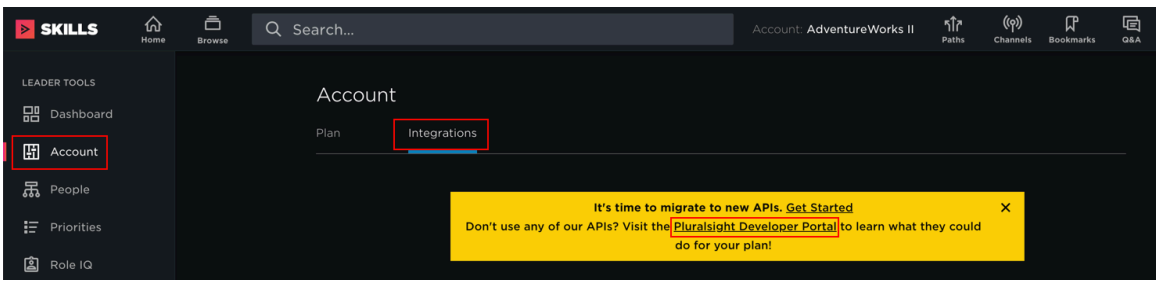
手順

1. Pluralsight Skills アカウントで API キーを作成します。

   a. アドミニストレーターとして Pluralsight Skills アカウント にログインします。

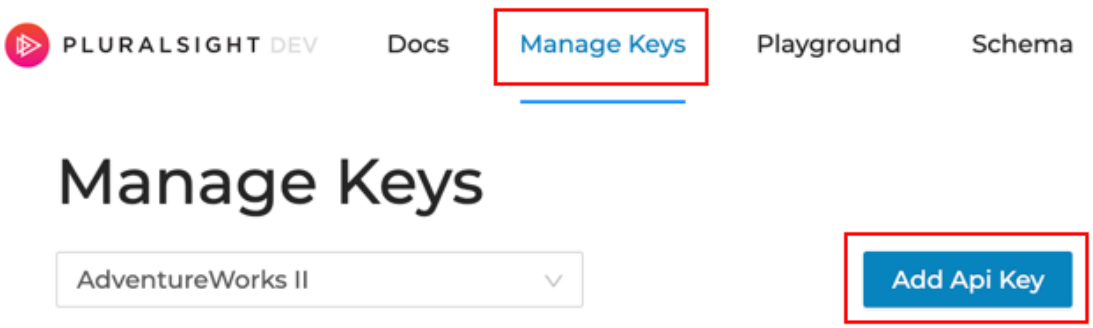
   b. [アカウント] に移動して、[統合] タブをクリックします。

   c. PluralsightDeveloper Portal リンクをクリックします。



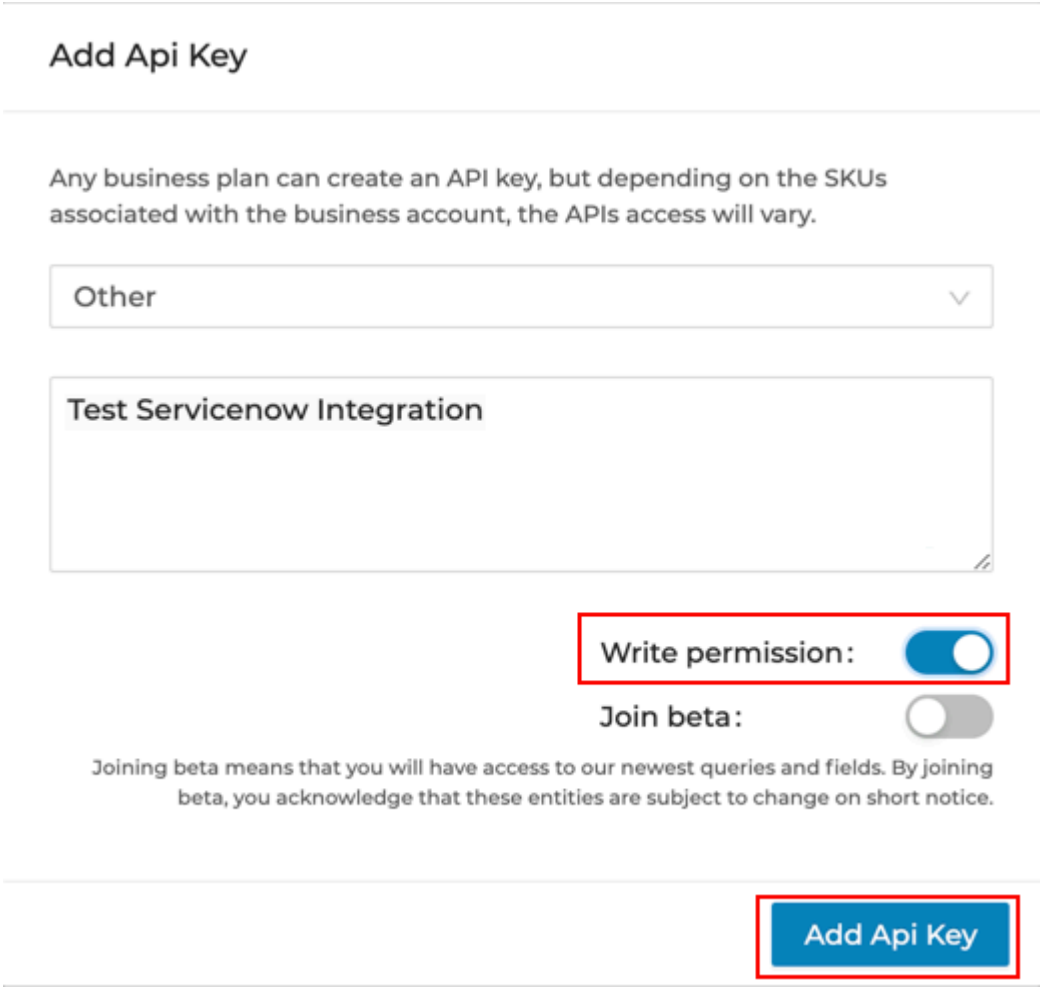
   d. PluralsightDeveloper Portal で、 [キーを管理] タブをクリックします。

   e. **[API** キーを追加] をクリックします。

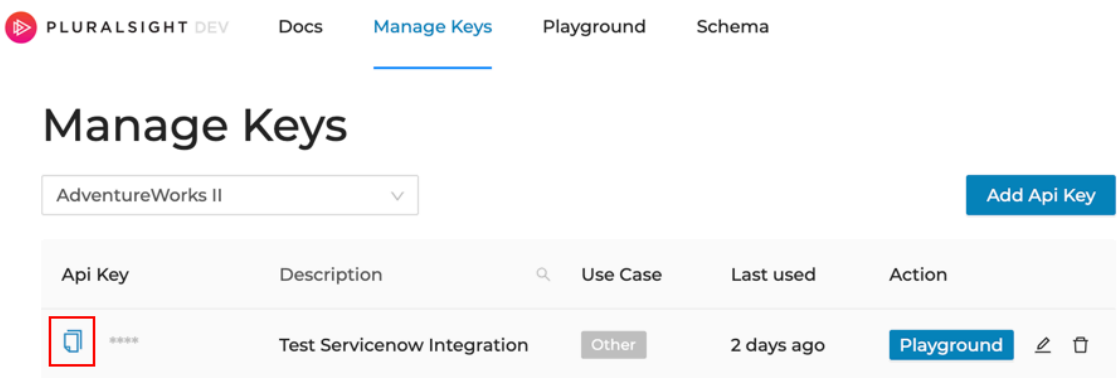


   f. フォームでフィールドに入力し、API キーへの書き込み権限を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



g. 後で使用するために API キーをコピーします。



2. ServiceNow インスタンスにログインします。

3. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。

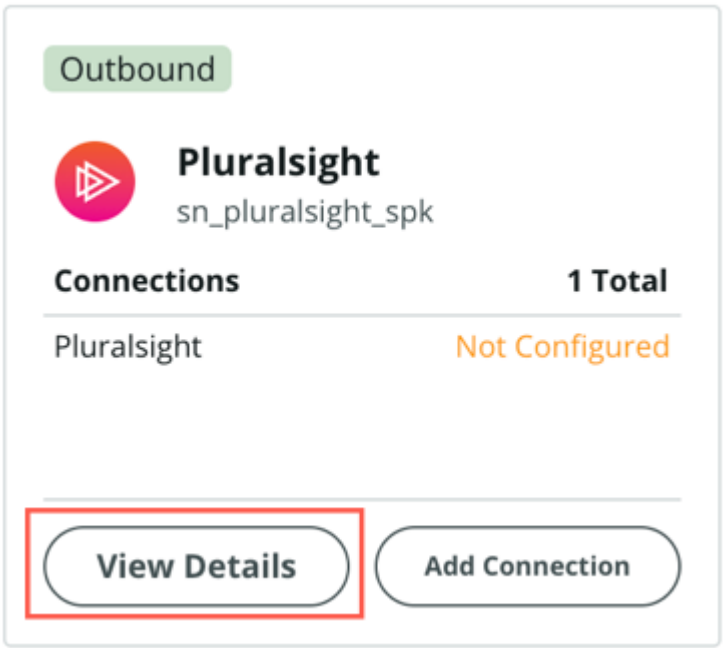
4. [統合] タブをクリックします。

5. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。

6. **Pluralsight** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

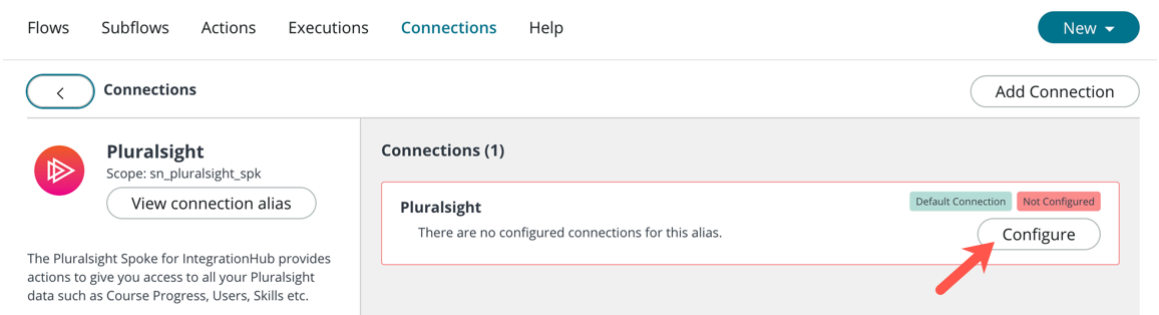
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

◦ Pluralsight スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



◦ 複数の Pluralsight スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

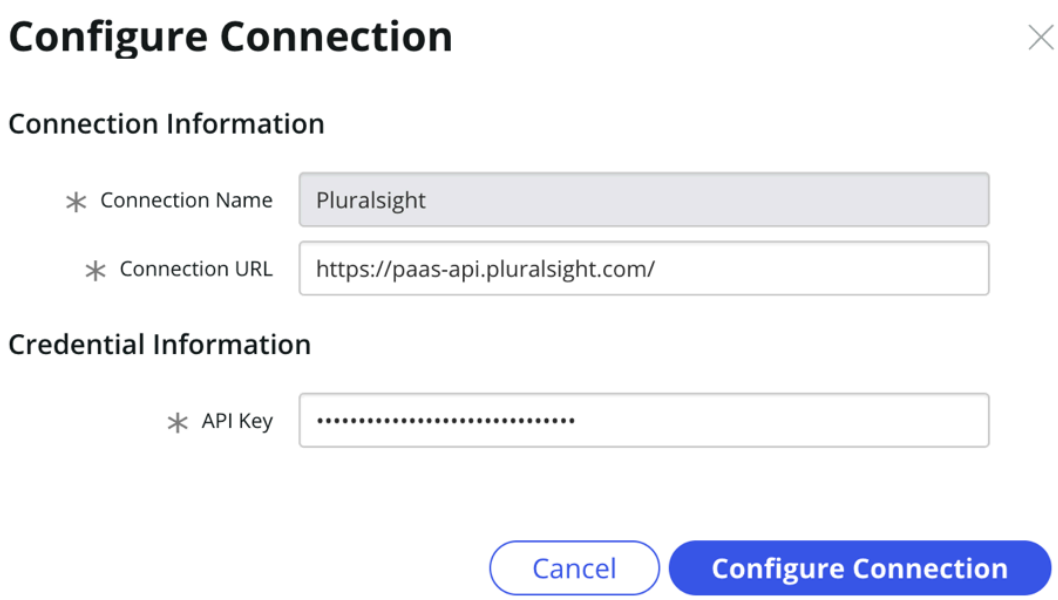


7. [接続を設定] フォームに値を入力します。

接続の設定フォーム

接続名	ServiceNow インスタンスと Pluralsight ホスト間の接続の名前。接続名は読み取り専用です。
接続 URL	Pluralsight Skills アカウントへの URL。`https://paas-api.pluralsight.com/` を入力します。
API キー	Pluralsight 開発者ポータルで以前に生成された API キー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. [接続を設定] をクリックします。
   接続および認証情報接続レコードが作成されます。

Qualtrics スポーク

ServiceNow インスタンスを Qualtrics と統合します。ServiceNow インスタンスから、Qualtrics で Web ベースのサーベイの配布を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Qualtrics スポーク v1.2.4 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Qualtrics v3 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Qualtricsアカウント

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Qualtrics スポークでは、Qualtricsタスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
インシデントのクローズ時に配布を作成	インシデントがクローズされるときに、サーベイの配布を作成し、インシデントの問い合わせユーザーにサーベイを送信します。
メールで連絡先を検索	顧客の詳細と顧客スコアを取得します。つまり、顧客価値と顧客満足度は、構成された意思決定ポリシーに基づいて高い場合と低い場合があります。
連絡先またはコンシューマーを Qualtrics にアップサート	既存のコンシューマーレコードの詳細を更新するか、Qualtrics でコンシューマーレコードを作成します。 このフローは、ServiceNow インスタンスの連絡先およびコンシューマーモジュールでレコードが作成または更新されたときにトリガーされます。 レコードが ServiceNow インスタンスの連絡先およびコンシューマーモジュールで作成されると、連絡先またはコンシューマーを Qualtrics にアップサートするフローがトリガーされ、Qualtrics にレコードが作成されます。また、Qualtrics で生成された参照 ID は、ServiceNow インスタンスの連絡先およびコンシューマーモジュールで更新されます。

スポークのサブフロー

Qualtrics スポークでは、Qualtrics タスクの自動化をデモするためのサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
メーリングリストの連絡先を検索	指定された連絡先のルックアップ ID を取得します。
名前でメーリングリストを検索	指定された名前のメーリングリストの ID を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフロー	説明
名前でメッセージを検索	指定された名前のメッセージの ID を取得します。
名前でサーベイを検索	指定された名前でサーベイの ID を取得します。

スポークのアクション

Qualtrics スポークでは、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにQualtricsタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
連絡先管理	連絡先を作成	指定されたディレクトリーに連絡先を作成します。
	メールで連絡先を検索	必要なメールアドレスから成るディレクトリーで連絡先を取得します。
	連絡先の配布メール履歴ストリームを検索	ディレクトリー内の指定された連絡先の配布メール履歴を取得します。
	連絡先の配布応答履歴ストリームを検索	ディレクトリー内の指定された連絡先の配布応答履歴のリストを取得します。
	連絡先ストリームを検索	ディレクトリーから連絡先のリストを取得します。
	連絡先を更新	指定されたディレクトリー内の指定された連絡先の詳細を更新します。
配布管理	配布を作成	サーベイの配布を作成します。
	配布リンクストリームを検索	指定されたサーベイの既存の配布に対する配布リンクのリストを取得します。
	配布ストリームを検索	サーベイの配布のリストを取得します。
ライブラリー管理	ライブラリメッセージストリームを検索	ライブラリー内のメッセージのリストを取得します。
メーリングリスト管理	メーリングリストの連絡先を作成	指定されたメーリングリストにディレクトリーの連絡先を作成します。
	メーリングリストストリームで連絡先を検索	指定されたディレクトリーのメーリングリストから連絡先を取得します。
	メーリングリストを検索	ディレクトリー内のメーリングリストのリストを取得します。
	メーリングリストから連絡先を削除	指定されたメーリングリストから連絡先を削除します。
メタデータの取得	ディレクトリメタデータを検索	ブランド内のディレクトリーのリストのメタデータを取得します。 **注:** このアクションが、動的入力を使用する関連アクションとともに常に使用されることを確認してください。
	ライブラリメタデータを検索	ライブラリーのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		注: このアクションが、動的入力を使用する関連アクションとともに常に使用されることを確認してください。
サーベイ管理	サーベイを検索	ユーザーが利用可能なサーベイのリストを取得します。
イベントサブスクリプション管理	サブスクリプションを作成	イベントサブスクリプションを作成します。
	サブスクリプション ID でサブスクリプションを検索	すべてのイベントサブスクリプションを取得します。
	サブスクリプションストリームを検索	すべてのイベントサブスクリプションを取得します。

スポークモジュール

Qualtrics スポーク はこれらのモジュールを提供します。

モジュール	説明
連絡先とコンシューマー	連絡先およびコンシューマーレコードを作成、表示、および変更します。ここでレコードが作成または更新されると、連絡先またはコンシューマーを Qualtrics にアップサートするフローがトリガーされます。
Qualtrics スコアマッピングの回答	スコアマッピングの回答を表示します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Qualtrics スポークを設定。

Qualtrics スポークを設定

Qualtrics を OAuth プロバイダーとして登録してServiceNowインスタンスと Qualtrics を統合し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Qualtrics スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Qualtrics アカウントから必要な詳細を取得

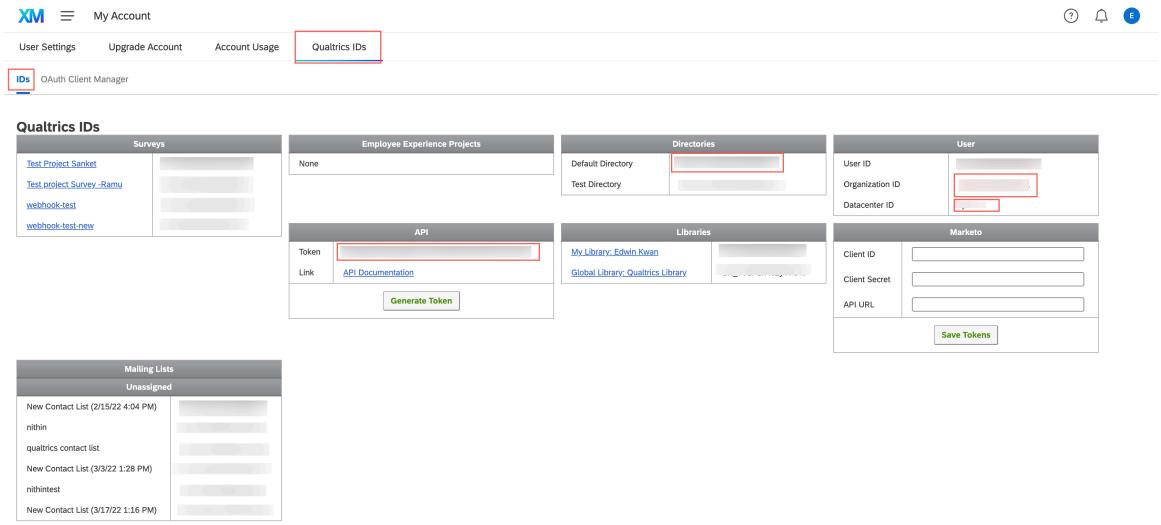
認証のために、Qualtrics アカウントからトークン、組織 ID、クライアント ID、およびクライアントシークレットの値をコピーして記録します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. アドミニストレーターとして Qualtrics アカウントにログインします。
2. [アカウント設定 **(Account Settings)]** > **[Qualtrics ID (Qualtrics ID)]** に移動します。
3. [ユーザー] で、[組織 **ID]** と [データセンター **ID (Datacenter ID)]** の値をコピーして記録します。
4. [ディレクトリ] で、[デフォルトディレクトリ **(Default Directory)]** の値をコピーして記録します。
5. **[API]** で、[トークン] の値をコピーして記録します。

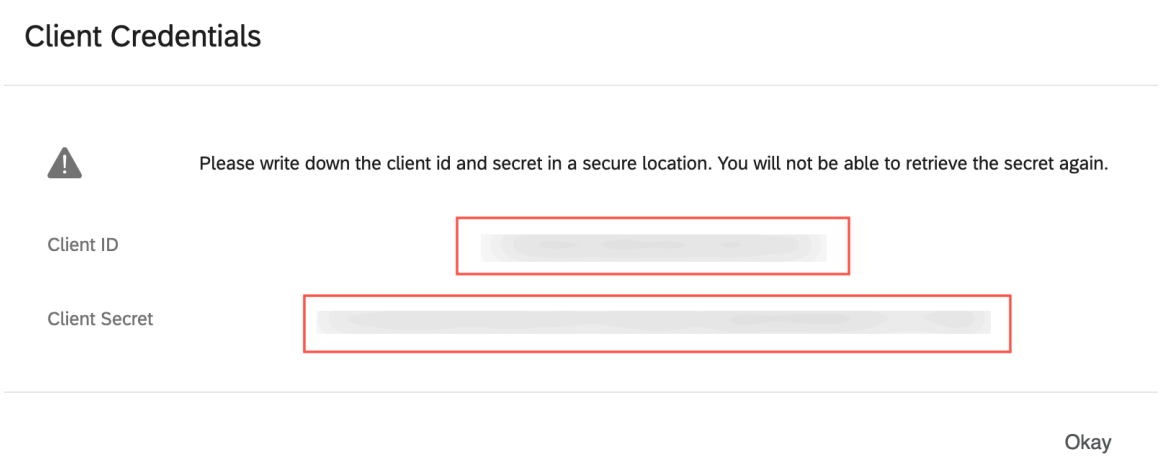


6. **[OAuth** クライアントマネージャー **(OAuth Client Manager)]** タブをクリックします。
7. [クライアントを作成 **(Create Client)]** をクリックします。
8. フォームに値を入力します。

フィールド	説明
名前	クライアントレコードを識別する名前。
スコープ	`[manage:all]` を選択します。
権限許可タイプ	[クライアント認証情報] を選択します。

9. [クライアントを作成 **(Create Client)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



クライアント ID とクライアントシークレットの値が表示されます。後で使用するためにこれらの値をコピーして記録します。

接続の設定

ServiceNow 要求を認証するための Qualtrics 接続を追加して設定します。

始める前に

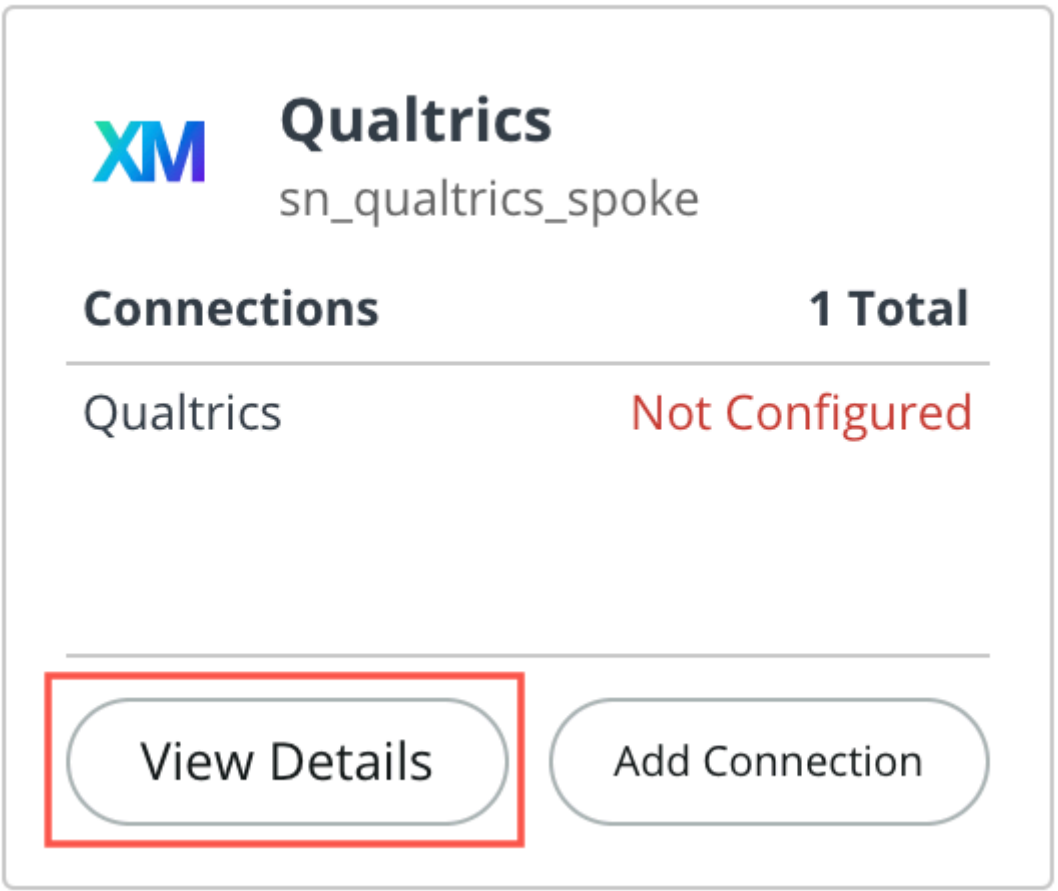
必要なロール：admin

手順

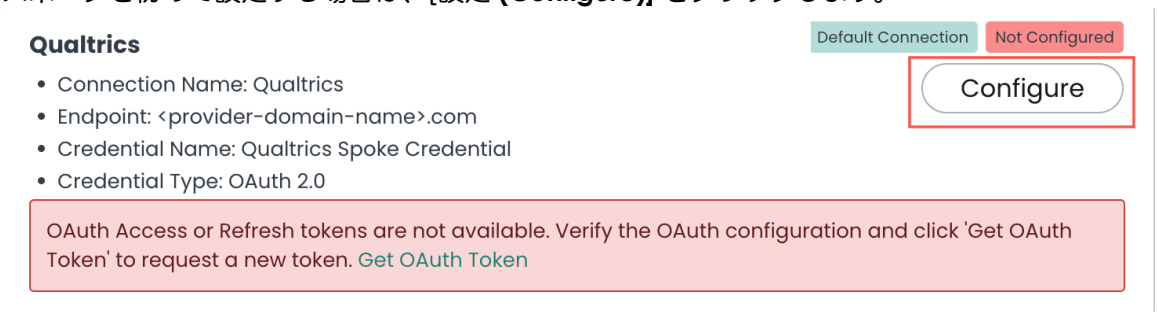
1. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブをクリックします。
3. **[Qualtrics]** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

> **注:** [接続を追加] はクリックしないでください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。



5. [接続の設定] フォームのフィールドに記入します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	**[Qualtrics]** に接続するためのベース URL です。次のように入力します。`https:<Organization-ID>.qualtrics.com/API/v3`
X-API-TOKEN	Qualtrics アカウント設定からコピーした一意のトークンです。
OAuth 名	アプリケーションレジストリレコードを識別する名前です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
OAuth クライアント ID	Qualtrics アカウントでクライアントを作成したときにコピーしたクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	Qualtrics アカウントでクライアントを作成したときにコピーしたクライアントシークレットです。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイントです。次のように入力します。`https://<Data-Center-ID>.qualtrics.com/oauth2/token` **注:** 地理的な場所に基づいて、Qualtrics データセンターを選択します。

6. **[OAuth** トークンを設定して取得] をクリックします。

タスクの結果
スポークが設定され、使用する準備ができました。

システムパラメーターの構成

システムパラメーター *sn_qualtrics_spoke.qualtrics_directory* を設定し、フローで使用できる Qualtrics ディレクトリ ID を指定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. フィルターナビゲーターで、「`sys_properties.list`」と入力します。
2. [名前] が **sn_qualtrics_spoke.qualtrics_directory** のレコードを検索して開きます。
3. [値] で、Qualtrics ディレクトリ ID を指定します。
4. [更新] をクリックします。

Rally スポーク

最後のログイとアクティビティ時間に基づいて使用状況を分析し、古いライセンスを特定することで、これらのライセンスを再利用して、見込まれる節減を実現できるようにすることにより、Rally のサブスクリプションを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Rally Spoke v1.0.3 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

admin ロールを持つ Rally アカウントです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム入力 (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Rallyスポークでは、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにRallyタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
サブスクリプション管理	サブスクリプションストリームを検索	すべてのサブスクリプションを取得します。
ユーザー管理	ユーザーストリームを検索	アカウントのすべてのユーザーを取得します。
	ユーザーを更新	指定されたユーザーの詳細を変更します。
	ユーザーを削除	指定したユーザーと関連レコードをアカウントから削除します。
	ユーザー入力：動的	動的入力として使用するフィールドのリストを取得します。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Rally スポークの設定。

Rally スポークの設定

Rally 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Rally を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Rally OAuth アプリケーションの登録

Rally OAuth アプリケーションを登録して Rally API 2.0 にアクセスし、クライアント ID とクライアントシークレットを受信します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Rally スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. アドミン認証情報を使用して [CA Agile Central] にログインします。
2. **[OAUTH** クライアント] > [新規クライアントの作成 **(Create New Client)]** を選択します。
3. [Oauth クライアントを作成 (Create Oauth Client)] ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

フィールド	値
アプリケーション名	アプリケーションの名前を入力します。
コールバック URL	アプリケーションを統合する ServiceNow インスタンスのコールバック URL。たとえば、`[https://<instance_url>/oauth_redirect.do]`。

4. [次へ] を選択します。
5. 後で使用するために [クライアント ID (Client ID)] と [クライアント シークレット (Client secret)] をコピーします。

Redox Electronic Health Record Spoke

ServiceNowインスタンスから Redox プラットフォームを使用して、顧客との通信を有効にします。

重要:

Yokohama リリース以降、Redox Electronic Health Record Spoke は将来の廃止に向けて準備中です。これは非表示になり、新しいインスタンスではアクティブ化されなくなりますが、引き続きサポートされます。

詳細については、Now Support ナレッジベースの「Deprecation Process (廃止プロセス) [KB0867184]」の記事を参照してください。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Redox Electronic Health Record Spoke v1.0.3 が最新バージョンです。

主な機能

Redox Electronic Health Record Spoke により、病院、支払人 (保険)、または生命科学企業は次のことができます。

- 医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律 (HIPAA) および Health Level Seven International (HL7 協会) の業界標準に基づく ServiceNow 医療および生命科学のデータモデルを活用することで、電子医療記録 (EMR) または別の医療システムとの相互運用性を実現します。詳細については、「Healthcare and Life Sciences data model (医療および生命科学のデータモデル)」を参照してください。
- データの重複と入力を減らすことで、患者のケアを向上させ、コストを削減します。
- 患者中心のワークフローを有効にして、医療エコシステムに接続します。

スポークの要件

- Redox ダッシュボード へのアドミニストレーターアクセス。
- **API** キーとソースシークレット。これらの値は、 Redox アカウントのダッシュボードで見つけることができます。詳細については、 Redox ドキュメント の「Authenticate an API key (API キーの認証)」を参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow IntegrationHub ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow IntegrationHub アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Redox Electronic Health Record Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときに Redox タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
Scheduling	予約を作成	新しい予約を作成します。
	予約を再スケジュール	既存の予約を再スケジュールします。
	予約の変更	既存の予約を変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	予約をキャンセル	既存の予約をキャンセルします。
	予約を検索	指定された時間範囲内の予約を照会して返します。
	利用可能なスロットを検索	指定された時間範囲内で予約可能な時間を照会して返します。
臨床サマリー	最新の臨床サマリーを検索	指定された医療システムで特定の患者の最新の臨床サマリーを照会して返します。
	訪問サマリーを検索	指定された医療システムで指定された期間内の特定の患者の訪問サマリーを照会して返します。
	訪問情報を送信	訪問サマリーを別のアプリケーションまたは EHR に送信します。
メディア	メディアドキュメントを作成	患者のチャートに新しいメディアドキュメントを追加します。
	メディアドキュメントを置換	以前に患者のチャートに追加されたメディアドキュメントを置き換えます。
	メディアドキュメントを削除	以前に患者のチャートに追加されたメディアドキュメントを削除します。
	メディアドキュメントを検索	指定されたフィルター基準に基づいてメディアドキュメントを照会して返します。
メモ	メモドキュメントを作成	患者のチャートに新しいメモドキュメントを追加します。
	メモドキュメントを置換	以前に患者のチャートに追加されたメモドキュメントを置き換えます。
	メモドキュメントを削除	以前に患者のチャートに追加されたメモドキュメントを削除します。
	メモドキュメントを検索	指定されたフィルター基準に基づいてメモドキュメントを照会して返します。
患者教育	患者教育を送信	患者のチャートに教育の割り当てを追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	患者の更新を送信	患者のチャートの教育の割り当てを更新します。
	患者教育の削除を送信	患者のチャートから教育の割り当てを削除します。
患者アドミン	患者人口統計と訪問情報を検索	患者人口統計と訪問情報を照会して返します。
	入院患者を検索	施設から現在入院しているすべての患者を照会して返します。
紹介	紹介を更新	紹介を変更します。
結果	結果を検索	ラボ、放射線、画像診断などの診断テストの結果を照会して返します。
	診断情報をプル	診断結果メッセージを表示します。
予防接種	患者の予防接種を検索	人口統計データに基づいて、患者の予防接種を照会して返します。
	予防接種管理を検索	予防接種管理情報を照会して返します。
患者検索	患者を検索	既存の患者レコードを照会して返します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Redox Electronic Health Record Spokeのセットアップ。

Redox Electronic Health Record Spokeのセットアップ

ServiceNow インスタンスと Redox エンジンを受信構成と送信構成の両方で統合します。

始める前に

重要:

Yokohama リリース以降、Redox Electronic Health Record Spoke は将来の廃止に向けて準備中です。これは非表示になり、新しいインスタンスではアクティブ化されなくなりますが、引き続きサポートされます。

詳細については、Now Support ナレッジベースの「Deprecation Process (廃止プロセス) [KB0867184]」の記事を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Redox エンジンダッシュボード https://dashboard.redoxengine.com/#/login へのアドミンアクセス権があることを確認してください。
- Redox Electronic Health Record Spokeを有効にします。
- 必要なロール：admin

このタスクについて
このタスクでは、ServiceNow インスタンスと Redox エンジンの間で受信トランザクションと送信トランザクションの両方を設定する手順を示します。受信トランザクションを設定すると、Redox エンジンは ServiceNow REST アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) を呼び出せるようになります。送信セットアップにより、ServiceNow インスタンスが認証され、Redox エンジンに接続できるようになります。

手順

1. Redox Electronic Health Record Spoke 接続および認証情報レコードの作成。
   この手順により、送信トランザクションが有効になります。
2. Redox Electronic Health Record Spoke のソースシステムとして外部の Redox 医療システムを構成。
   この手順により、受信トランザクションが有効になります。

Redox Electronic Health Record Spoke 接続および認証情報レコードの作成

接続と資格情報レコードを設定することで、ServiceNow インスタンスが Redox エンジンとコネクトできるようにします。

始める前に

重要:

Yokohama リリース以降、Redox Electronic Health Record Spoke は将来の廃止に向けて準備中です。これは非表示になり、新しいインスタンスではアクティブ化されなくなりますが、引き続きサポートされます。

詳細については、Now Support ナレッジベースの「Deprecation Process (廃止プロセス) [KB0867184]」の記事を参照してください。

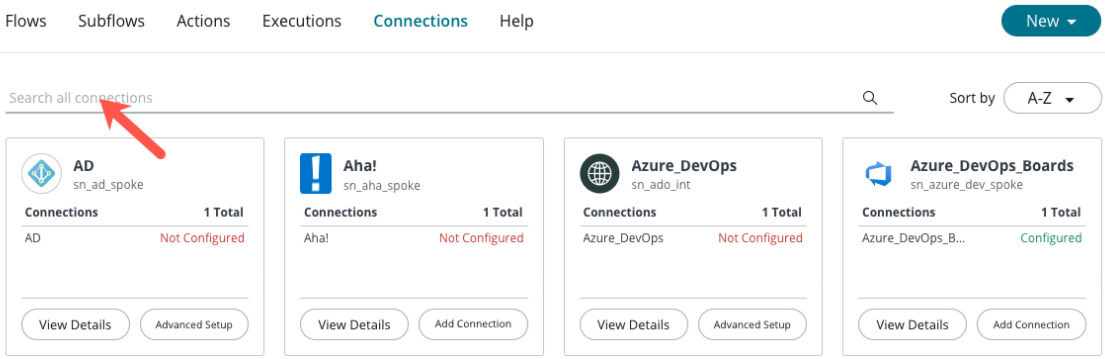
必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
3. [フローデザイナー] ページで、[接続] を選択します。

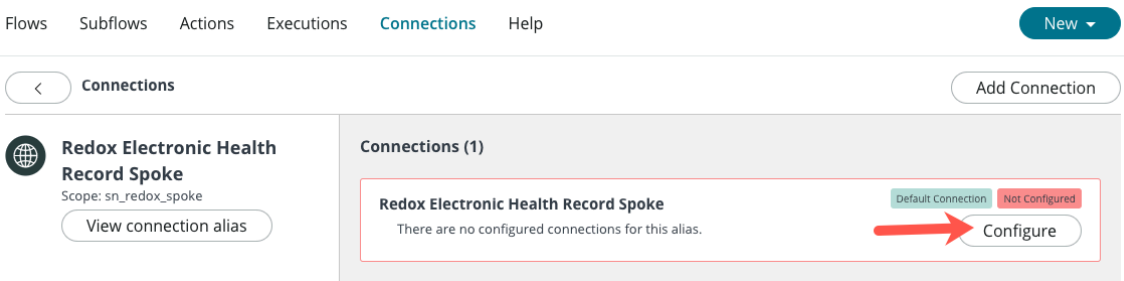
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [すべての接続を検索] フィールドに「*Redox*」と入力しま



す。

5. Redox Electronic Health Record Spoke カードで、[詳細を表示] をクリックします。
6. [構成] をクリックしま



す。

7. [接続を設定] フォームに詳細を入力します。

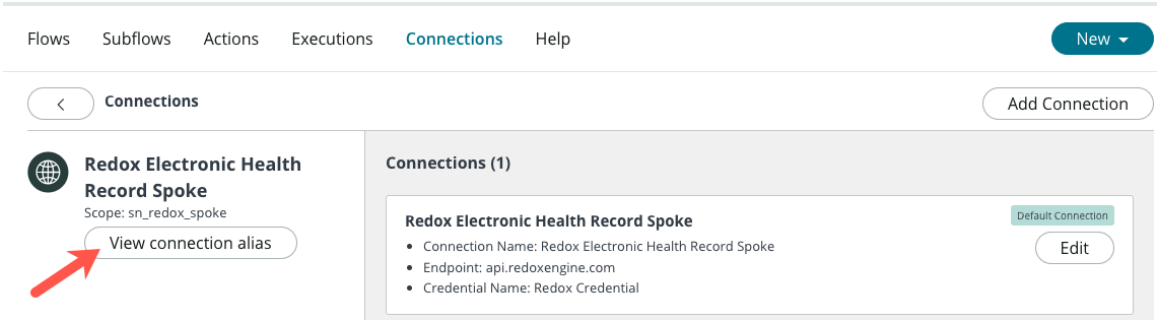
接続の設定フォーム

フィールド	説明
接続名	接続の名前。 **注:** 最初のレコードを作成する場合、Redox Electronic Health Record Spoke はデフォルト名であり、読み取り専用です。それ以降にレコードを作成する場合は、カスタム接続名を指定できます。
接続 URL	Redox エンジンに接続するための URL です。「https://api.redoxengine.com/」を入力します。
名前	Redox Electronic Health Record Spoke 認証情報の名前です。デフォルト名は Redox 認証情報ですが、更新することもできます。
API キー	Redox エンジンダッシュボードにアクセスするための API キーです。Redox エンジンダッシュボード https://dashboard.redoxengine.com/#/login でキーを生成する必要があります。 **ヒント:** API キーの生成方法については、Redox 開発者向けドキュメントを参照してください。
シークレット	Redox エンジンダッシュボードにアクセスするためのソースシークレットです。Redox エンジンダッシュボード https://dashboard.redoxengine.com/#/login でシークレットを生成する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

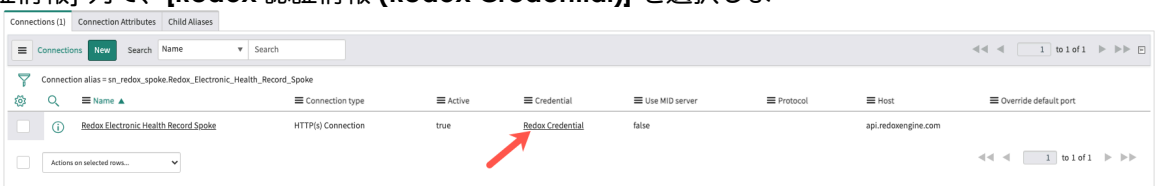
フィールド	説明
	ヒント: シークレットの生成方法については、Redox 開発者向けドキュメントを参照してください。

8. [接続を設定] をクリックします。
   接続および認証情報レコードが作成されます。
9. [接続エイリアスを表示] をクリックしま



す。

10. [認証情報] 列で、**[Redox 認証情報 (Redox Credential)]** を選択しま



す。

11. [Redox 認証情報 (Redox Credential)] ページで、[トークンを取得] をクリックして、スポークアクションから認証対象の要求を作成するためのトークンを生成します。

Redox Electronic Health Record Spoke のソースシステムとして外部の **Redox** 医療システムを構成

ServiceNow インスタンスでシステムのソース ID と宛先 ID を設定することで、 Redox Electronic Health Record Spoke が外部の Redox 医療システムにデータを送信できるようにします。

始める前に

重要:

Yokohama リリース以降、Redox Electronic Health Record Spoke は将来の廃止に向けて準備中です。これは非表示になり、新しいインスタンスではアクティブ化されなくなりますが、引き続きサポートされます。

詳細については、Now Support ナレッジベースの「Deprecation Process (廃止プロセス) [KB0867184]」の記事を参照してください。

必要なロール：admin

手順

- Redox Inbound Integration アプリケーションを使用して外部の Redox 医療システムにデータを送信するように、ソースシステム [sn_hcls_source_system] テーブルを構成します。
  詳細については、「Configure an external Redox healthcare system as a source system for a custom integration (カスタム統合のソースシステムとして外部の Redox 医療システムを構成)」を参照してください。
- フロー内の各スポークアクションのソースシステム [sn_hcls_source_system] テーブルで使用される宛先 ID を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Roadmunk スポーク

Roadmunk スポークは、Roadmunk ソフトウェアサブスクリプションの有意義な使用状況データを表示および分析するアクションを提供します。Roadmunk アカウントの使用状況を分析して古いライセンスを特定することで、これらのライセンスを再利用して見込まれる節減を実現できるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Roadmunk スポーク v1.6.4 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークはRoadmunkの 2021 年 6 月リリースのバージョン用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

アカウントアドミンユーザーロールを持つ Roadmunk アカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Roadmunk Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにRoadmunkタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アカウント管理	アカウントを検索	Roadmunkアカウントに関する情報を取得します。
フィードバック管理	フィードバックストリームを検索	すべてのフィードバックのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
アイデア管理	アイデアストリームを検索	すべてのアイデアのリストを取得します。
ロードマップ管理	ロードマップストリームを検索	すべてのロードマップのリストを取得します。
ユーザー管理	ユーザーストリームを検索	アカウント内のすべてのユーザーのリストを取得します。
	ファイルを使用してユーザーを検索	レコードに添付されているファイルからユーザーのリストを取得します。
	ユーザーの非アクティブ化	Roadmunk ユーザーを非アクティブ化します。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Roadmunk Spoke を設定。

Roadmunk Spoke を設定

API アクセストークンを使用して ServiceNow インスタンスと Roadmunk を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Roadmunk スポークを有効にします。
- 必要な Roadmunk ロール：Account Admin (アカウントアドミン)
- 必要なロール：admin

RoadmunkAPI アクセストークンを生成

RoadmunkGraphQL API へのアクセスを許可する API アクセストークンを生成します。

始める前に

必要なロール：Roadmunk アカウントアドミン

手順

1. Web ブラウザーから、 Roadmunk を開きます。
2. アカウントアドミン認証情報を使用してログインします。
   Roadmunkダッシュボードが開きます。
3. Roadmunkダッシュボードの左側のナビゲーションメニューで、プロファイルアイコンをクリックし、[アカウントの設定] を選択します。
   アカウント設定が開きます。
4. アカウント設定のページヘッダーで、[統合] タブを選択します。
5. 既存の統合で、[統合を追加] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. 構成するデータ連携を選択するプロンプトが表示されたら、**[API** トークン] を選択します。
   RoadmunkAPI トークンフォームが開きます。
7. [アプリケーション名] フィールドに API アクセストークンの名前を入力します。
8. **[API** トークンを作成] をクリックします。
   API アクセストークンが生成され、[作成済み API トークン] ダイアログボックスが開きます。
9. ダイアログボックスで、[クリップボードにコピー] をクリックして API アクセストークンをコピーします。
   後で使用できるように安全な場所に保存してください。

Roadmunk接続を作成

インスタンスがアプリケーションからユーザーデータを取得できるように、Roadmunk アプリケーションと ServiceNow インスタンスの間に接続を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ServiceNowインスタンスで、[プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
   フローデザイナーが新しいタブで起動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. Roadmunk 接続を見つけて、[接続を追加] をクリックします。
   [接続を作成] ダイアログボックスが開きます。
4. ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

[接続を作成] ダイアログボックス

フィールド	説明
接続情報	
接続名	Roadmunk接続の名前です。このフィールドは、自動的に入力されます。
接続 URL	接続の URL です。このフィールドは自動的に **[https://app-gateway.roadmunk.com]** に設定されます。**[app]** は接続が作成されるデフォルトの地理的リージョン (北米) です。デフォルトの **[app]** (北米) リージョン外で接続を作成する場合は、リージョンの値を **[eu]** (欧州) または **[acap]** (アジア太平洋リージョン) に変更できます。
認証情報	
API トークン	RoadmunkGraphQL API へのアクセスを許可する API アクセストークン。RoadmunkAPI アクセストークンを生成で生成したものと同じ API アクセストークンを入力します。

5. [接続を作成] をクリックします。

Saba スポーク

Saba スポークを使用すると、Saba インスタンスから ServiceNow インスタンスに、学習コース、コースアクティビティ、およびユーザーをプルできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Saba スポーク v1.0.4 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ：JSON パーサー [com.glide.hub.action_step.jsonparser]
- 統合ハブ標準スポーク [com.glide.hub.action_step.xmlparser]

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのフロー

Saba スポークは、スケジュールに基づいてトークンをプルするフローを提供します。フローを有効にして、スポークアクションが正しく機能するようにします。

フロー	説明
Saba トークンを取得	Saba のアクセストークンを取得し、新しいリフレッシュトークンを 6 日ごとに生成します。

スポークのアクション

Saba スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Saba タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	説明
認証コードを取得	Saba システムでアクセストークンを取得するために必要な認証コードを取得します。
アクセストークンを取得	ユーザー名、パスワード、認証コード、接続エイリアス、およびアプリケーションレジストリに基づいて、Saba のアクセストークンを取得します。
リフレッシュトークンを取得	Saba のリフレッシュトークンを取得します。
Saba システムタイムゾーンの時差を取得	Saba システムと ServiceNow プラットフォームのタイムゾーンを比較し、時差を取得します。
コースストリームを検索	メインビューを取得して、コースのデータを取得します。これは、ページあたりのカウントや開始ページなどのフィルターに基づいています。
ユーザーコースアクティビティストリームを検索	コースアイテムのユーザーの進捗状況を取得します。
ユーザーストリームを検索	Saba システムから従業員のデータを取得します。
アサインを保存	標準アサインを作成または更新します。

スポークモジュール

Saba スポークは Saba アプリケーションを ServiceNow インスタンスに追加します。Saba アプリケーションには次のモジュールがあります。

モジュール	説明
認証情報	Saba システムからトークンをプルするために必要な詳細。

Saba スポークアカウントの要件

Saba スポークは、Saba スポークの OAuth 2.0 トークンを生成するために、Saba アカウントに OAuth 2.0 アプリケーションを登録する必要があります。後で使用するために、生成されたクライアント ID、クライアントシークレット、アプリケーションキー、統合ユーザー名、およびパスワードを記録します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Saba スポークの設定。

Saba スポークの設定

Saba アプリケーションを ServiceNow インスタンスと統合させます。OAuth アプリケーションをSabaに登録し、ServiceNowインスタンスからの要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Saba スポークを有効化します。
- Saba 統合ユーザーまたは管理者の認証情報。
- 必要なロール：admin

注: アプリケーションレジストリ、接続、および認証情報がアプリケーションスコープの範囲内にあることを確認してください。

OAuth プロバイダーとしてSabaを登録

Sabaアプリケーションの作成および構成中に生成された情報を使用し、Sabaを OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ] へ移動します。
2. SabaSpoke のレコードを開きます。
3. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーションレジストリ

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。
クライアント ID	Sabaのアプリケーション構成中に作成されたクライアント ID
クライアント シークレット	Sabaのアプリケーション構成中に作成されたクライアントシークレットです。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可タイプ：認証コード
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープ：**Saba** スポーク
アクセス可能	このレジストリにアクセスできるアプリケーションスコープです。
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプションです。オプションを選択します。
トークン URL	OAuth サーバートークンのエンドポイントです。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

Sabaスポークの接続レコードの作成

Sabaアプリケーションへの接続レコードを作成します。Sabaスポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してSabaでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. SabaSpoke のレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームに、これらの値を入力します。

HTTP(S) 接続フォーム

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前です。
認証情報	Saba 用に作成した OAuth 認証情報レコード。
接続エイリアス	この接続に関連付けられているエイリアスレコード。例：「`sn_saba_spoke.Saba`」と入力します。
URL ビルダー	注: チェックボックスをオンにしないでください。
接続 URL	Sabaインスタンスの URL です。
MID サーバーを使用	このフィールドは適用されません。
有効	接続を積極的に使用にするオプションです。オプションを選択します。
ドメイン	アクションまたはアクティビティを実行するドメインです。

5. [送信] をクリックします。

Saba スポークの認証情報レコードの作成

Saba に登録されているアプリケーションの認証情報レコードを作成して、Saba スポークアクションを許可します。Saba スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. [OAuth 2.0 認証情報] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、Saba。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。オプションを選択します。
OAuth エンティティ プロファイル	Saba スポークのデフォルトの OAuth エンティティプロファイル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
順番	認証情報が使用される順番です。たとえば、「100」と入力します。

5. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

Saba スポークの基本認証情報の作成

基本認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Saba インスタンスを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. [基本認証情報] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前。Saba など。
ユーザー名	認証情報として入力するユーザー名。
パスワード	認証情報として入力するパスワード。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。オプションを選択します。
順番	認証情報が使用される順番です。たとえば、「100」と入力します。

5. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

Saba ユーザー認証情報を入力

必要な Saba ユーザーの詳細と認証情報を提供するレコードを作成します。Saba スポークは、これらのユーザー認証情報を使用して Saba でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. **[Saba]** > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、これらの値を入力します。

Saba 認証情報フォーム

フィールド	説明
認証情報	Saba 統合ユーザー認証情報レコードへの参照。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続および資格情報エイリアス	Sabaスポークに関連付けられたデフォルトのエイリアスレコードです。
リフレッシュトークンの有効期限	Sabaリフレッシュトークンの有効期限が切れる日時です。[Saba トークンを取得] フローが有効化されると、Saba スポークは、現在のリフレッシュトークンが期限切れになる前に、新しいリフレッシュトークンを定期的に生成します。

4. [送信] をクリックします。
5. Saba トークンを生成するには、**[Saba** トークンを取得] 関連リンクをクリックします。

Salesforce Marketing Cloud スポーク

Salesforce Marketing Cloud スポークは Bristlecone, Inc のビルドによるものです。Salesforce Marketing Cloud データ拡張からレコードを取得し、ユーザー情報を取得して更新するアクションを提供します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Salesforce Marketing Cloud スポーク v1.5.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Salesforce Marketing Cloud Corporate エディション用にビルドされました。

スポークの要件

Salesforce Marketing Cloud で新しいユーザーとロールを作成する権限を持つアドミンユーザー。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ：SOAP (com.glide.hub.action_step.soap)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Salesforce Marketing Cloud スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Salesforce Marketing Cloud タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
データ拡張管理	データ拡張属性を検索	レコード数が 2500 未満のデータ拡張からレコードを取得します。
	一括レコードストリームのデータ拡張属性を検索	データ拡張から一括レコードを取得します。
ユーザー管理	ユーザーストリームを検索	指定されたユーザープロパティと関連するフィルターに基づいて、Salesforce Marketing Cloud ユーザーのユーザープロパティを取得します。
	ユーザー ID でユーザーを更新	ユーザー ID に基づいてユーザーのプロパティを更新します。

スポークテーブル

Salesforce Marketing Cloud スポークは、次のテーブルを追加します。

テーブル	説明	フィールド
構成管理	データ拡張などの Salesforce Marketing Cloud 構成のリストを表示します。	• 構成タイプ • 構成値

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

接続および資格情報エイリアスの要件

Salesforce Marketing Cloud スポークは、接続セットアップに接続および資格情報エイリアスを使用し、認証情報セットアップに SOAP セキュリティポリシーに添付されているユーザープロファイルを使用します。複数の Salesforce Marketing Cloud 環境に接続する場合は、各環境で同じ認証情報を使用する必要があります。

スポークの設定については、「Salesforce Marketing Cloud スポークの設定。

Salesforce Marketing Cloud スポークの設定

Salesforce Marketing Cloud 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Salesforce Marketing Cloud を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Salesforce Marketing Cloud スポークを有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Salesforce Marketing Cloud の必要なロール：新規ユーザーとロールを作成する権限を持つ admin ユーザー。
- 必要なロール：admin

手順

1. オプション: Salesforce Marketing Cloud スポークのベーシック認証の使用
2. オプション: Salesforce Marketing Cloud スポークの OAuth 2.0 の使用

Salesforce Marketing Cloud スポークのベーシック認証の使用

ベーシック認証を使用して、Salesforce Marketing Cloud スポークで ServiceNow 要求インスタンスを検証できます。

Salesforce Marketing Cloud SOAP API にアクセスするためのユーザーを作成

Salesforce Marketing Cloud SOAP API にアクセスできるユーザーを作成します。SOAP API を使用すると、Salesforce Marketing Cloud データ拡張からレコードを取得し、Salesforce Marketing Cloud ユーザーに関する情報を取得できます。

始める前に

必要なロール：新しいユーザーとロールを作成する権限を持つ Salesforce アドミンユーザー。

手順

1. Web ブラウザーから Salesforce Marketing Cloud インスタンスに移動します。
2. アドミン認証情報を使用してログインします。
3. インスタンスのページヘッダーで、プロファイルアイコンをクリックし、[設定] を選択します。[セットアップ] ページが開きます。
4. Salesforce Marketing Cloud ユーザーの作成

   a. [管理 **(Administration)**] > [ユーザー] > [ユーザー]に移動して、[作成] をクリックします。[新規ユーザー (New User)] フォームが開きます。

   b. [全般設定 (General Settings)] フォームセクションで、フィールドに入力します。

全般設定

フィールド	説明
名前	ユーザーの名前。
返信先メールアドレス	メールメッセージの送信と返信を行うメールアドレス。Salesforce Marketing Cloud は、パスワードを忘れた場合の要求もこのメールアドレスに送信します。 メールアドレスを入力したら、[検証] をクリックして、メールアドレスを検証します。
[送信者名 (From Name)] ドロップダウンに追加	メールアドレスがメールに入力される前に、ドメイン検証プロセスを通じて返信メールアドレスを送信するオプション。
通知メールアドレス	Salesforce Marketing Cloud 通知を送信するメールアドレス。
ユーザー名	ユーザーのユーザー名。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
外部キー	API 呼び出し中にユーザーを一意に識別するキー。
タイムゾーン	ユーザーが所在するタイムゾーン。
カルチャーコード	このユーザーの Salesforce Marketing Cloud ユーザーインターフェイスで使用される言語。
API ユーザー	ユーザーが Salesforce Marketing Cloud API にアクセスできるかどうかを示すオプション。このオプションを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
一時パスワード	ユーザーが初めてログインするために使用する一時パスワード。ユーザーは、初回ログイン時にこのパスワードを変更するように求められます。
パスワードを検証	一時パスワードを検証するフィールド。

c. [保存] をクリックします。

5. 割り当てられたユーザーが Salesforce Marketing Cloud SOAP API にアクセスし、ユーザーとデータ拡張を管理できるようにするユーザーロールを作成します。

a. [管理 **(Administration)]** > [ユーザー] > [ロール]に移動して、[作成] をクリックします。[新規ロール (New Role)] フォームが開きます。

b. [プロパティ] フォームセクションのフィールドに入力します。

プロパティ

フィールド	説明
名前	ユーザーロールの名前。
外部キー	ユーザーロールを一意に識別するキー。
説明	ユーザーロールの説明

c. [権限] フォームセクションで、[メール] > [登録者] > [データ拡張]の権限カテゴリを展開し、[表示] と [管理] のデータアクセス権限に対する [許可] チェックボックスをオンにします。

d. [メール] > [管理 **(Admin)]** > **[API** アクセス **(API Access)]** の権限カテゴリを展開し、Web サービス API アクセス権限に対する [許可] チェックボックスをオンにします。

e. [管理 **(Administration)]** > [ユーザー]の権限カテゴリを展開し、次のアクセス権限に対する [許可] チェックボックスをオンにします。

- 表示
- 更新
- 無効化
- 事業部門を管理

f. [保存] をクリックします。

6. Salesforce Marketing Cloud ユーザーにユーザーロールを割り当てます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [管理 **(Administration)]** > [ユーザー] > [ユーザー]に移動します。

b. 利用可能なユーザーのリストから、ステップ 4 で作成したユーザーのチェックボックスをオンにします。

c. [ロールを管理 **(Manage Roles)]** をクリックします。
選択したユーザーの [ロール] フォームが開きます。

d. [ロール] フォームセクションで、[ロールを編集] をクリックします。

e. 利用可能なロールのリストが表示されたら、ステップ 5 で作成したユーザーロールのチェックボックスをオンにします。

f. [保存] をクリックします。

Salesforce Marketing Cloud の接続と資格情報を作成

ServiceNow インスタンスを Salesforce Marketing Cloud SOAP API に接続できるように、Salesforce Marketing Cloud の接続と資格情報を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスから、[接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. 利用可能な接続および資格情報エイリアスのリストから、**[SalesforceMarketingCloud]** を選択します。
3. [接続および資格情報エイリアス] フォームで、[新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。
[接続と資格情報を作成] ダイアログボックスが開きます。
4. ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

[接続と資格情報を作成] ダイアログボックス

フィールド	説明
接続情報を入力してください	
接続名	接続の名前。
SOAP 接続 URL	SOAPConnection エンドポイントの URL。「`https://<subdomain>.soap.marketingcloudapis.com/Service.asmx`」と入力します。ここで、<*subdomain*> は Salesforce Marketing Cloud サブドメインです。
認証情報を入力してください	
ユーザー名プロファイル名	認証情報の名前。
ユーザー名	Salesforce Marketing Cloud SOAP API にアクセスできるユーザーのユーザー名。Salesforce Marketing Cloud SOAP API にアクセスするためのユーザーを作成で作成したユーザーのユーザー名を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
パスワード	Salesforce Marketing Cloud SOAP API にアクセスできるユーザーのパスワード。Salesforce Marketing Cloud SOAP API にアクセスするためのユーザーを作成 で作成したユーザーのパスワードを入力します。

5. [作成] をクリックします。

Salesforce Marketing Cloud スポークの OAuth 2.0 の使用

OAuth 2.0 を使用して、Salesforce Marketing Cloud スポークで ServiceNow 要求インスタンスを検証できます。

Salesforce Marketing Cloud スポークの OAuth 2.0 認証情報の作成

Salesforce Marketing Cloud スポークの Salesforce Marketing Cloud OAuth 2.0 認証情報を作成します。

始める前に
必要なロール：Salesforce Marketing Cloud admin

手順

1. Salesforce Marketing Cloud テナントにログインします。
2. [設定ホーム **(Setup Home)**] > [プラットフォームツール **(Platform Tools)**] > [アプリ] > [インストール済みパッケージ **(Installed Packages)**] の順に移動します。
3. [新規] を選択してパッケージを作成します。
4. [コンポーネントを追加] 選択します。
5. **[API** 統合] を選択して、Salesforce Marketing Cloud API をアプリケーションと統合します。
6. [次へ] を選択します。
7. 統合タイプとして [サーバー間 **(Server-to-Server)]** を選択します。
8. [次へ] を選択します。
9. 統合に必要なスコープを選択します。
10. [保存] を選択します。
    クライアント ID とクライアントシークレットが構成のサマリーに表示されます。[セットアップ] > [インストール済みパッケージ **(INSTALLED PACKAGES)]** > [詳細] で [コンポーネント] セクションに移動して、クライアント ID とクライアントシークレットを表示します。後で使用できるように値をコピーします。

Salesforce Marketing Cloud スポークの接続および認証情報の作成

Salesforce Marketing Cloud スポークの OAuth 2.0 認証用の接続および認証情報を作成します。

始める前に
必要なロール：admin

- Salesforce Marketing Cloud スポークの OAuth 2.0 認証情報の作成

手順

1. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **SalesforceMarketingCloudSOAPConnection** レコードを開きます。
3. [関連リンク] タブから、[新しい接続および資格情報の作成] リンクをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [接続および資格情報エイリアス] フォームで、フィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続を一意に識別する名前。例：`SFMC SOAP` 接続。
SOAP 接続 URL	SOAP 接続エンドポイントの URL。「`https://<subdomain>.soap.marketingcloudapis.com/Service.asmx`」と入力します。ここでの *`<subdomain>`* は Salesforce Marketing Cloud のサブドメインです。
OAuth クライアント ID	Salesforce Marketing Cloud スポーク用に作成されたクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	Salesforce Marketing Cloud スポーク用に作成されたクライアントシークレット。
OAuth リダイレクト URL	OAuth リダイレクト URL。URL は次の形式です：`https://<instance-name.service-now.com>/oauth_redirect.do`。
連絡先数データエクステンション (Contacts Counts Data Extension)	連絡先数のレポートデータを取得するデータエクステンションの名前。

5. **[OAuth** トークンを作成して取得] を選択します。

Salesforce スポーク

Salesforce スポークは Bristlecone, Inc のビルドによるものです。ServiceNow インスタンスから Salesforce インスタンスのアカウント、連絡先、ケース、リード、機会、注文、ユーザーオブジェクトのデータにアクセスし、管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Salesforce スポーク v2.3.3 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Salesforce API バージョン v48.0 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

- Salesforce アカウント
- Salesforceアドミン認証情報
- ServiceNowとデータ連携するように構成されたSalesforce接続アプリ
- コンシューマーキー、コンシューマー シークレットなどのSalesforce接続アプリの詳細
- 統合ハブサブスクリプション

注: Salesforceスポーク v1 をインストールしているユーザーの場合、Salesforceスポーク v1 からSalesforceスポーク v1.2 に直接アップグレードすることはできません。アップグレードするには、Salesforceスポーク v1 をアンインストールしてから、Salesforceスポーク v1.2 をインストールする必要があります。

また、Salesforceスポーク v1 はNew Yorkで、Salesforceスポーク v1.2 はオーランドとパリで認定されています。

スポークのサブフロー

Salesforce スポークでは、Salesforceのアカウント、ケース、契約、および機会の各オブジェクトのデータにアクセスして管理するためのサブフローが提供されます。

サブフロー	説明
アカウントサブフロー	SalesforceWebhook がトリガーされたときにアカウントオブジェクトのデータを処理します。
ケースサブフロー	SalesforceWebhook がトリガーされたときにケースオブジェクトのデータを処理します。
契約サブフロー	SalesforceWebhook がトリガーされたときに契約オブジェクトのデータを処理します。
機会サブフロー	SalesforceWebhook がトリガーされたときに機会オブジェクトのデータを処理します。
Salesforce サブフロー	SalesforceWebhook がトリガーされたときにSalesforceオブジェクトのデータを処理します。

スポークのアクション

Salesforce スポークでは、Salesforce 、アカウント、契約、ケース、リード、機会、注文、およびユーザーオブジェクトのデータにアクセスして管理するためのアクションが提供されます。

カテゴリ	アクション	説明
アカウント管理	アカウントを作成	Salesforceにアカウントを作成します。
	アカウントを検索	指定された SOQL クエリに基づいてすべてのアカウント詳細を取得します。
	アカウントのレコードを検索	指定された関係名に基づいてアカウントのすべてのレコードを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
レコード管理	レコードを作成	Salesforceにレコードを作成します。 **注:** 関連するアクションを使用して、アカウント、連絡先、ケース、リード、機会、注文、およびユーザーのレコードを作成していることを確認してください。
	レコードを削除	Salesforceのレコードを削除します。
	レコード詳細を取得	レコード ID でSalesforce内の特定のレコードを取得します。
	レコードから添付ファイルを検索	Salesforce Classic ビューを使用してアップロードされた場合、レコードから添付ファイルを取得します。
	契約を検索	指定された SOQL クエリに基づいてすべての契約の詳細を取得します。
	関連レコードを検索	指定されたオブジェクト名の、指定された関係名に関連付けられたすべてのレコードを取得します。
	サブフローヘルパーアクション	サブフローの JSON 入力を解析し、オブジェクトのアレイを生成します。
	レコードを更新	Salesforceのレコードを更新します。
	レコードからドキュメントを検索	Salesforce Lightning ビューを使用してアップロードされた場合、レコードからドキュメントを取得します。
ケース管理	ケースを作成	Salesforceにケースを作成します。
リード管理	リードを作成	Salesforceにリードを作成します。
メタデータの取得	メタデータ - サービスクラウド機能を確認	ターゲットSalesforceインスタンスでSalesforce Service Cloudが有効かどうかを確認します。このアクションを使用するには、「Integrating with Salesforce CRM (Salesforce CRM との統合)」の「Create a SalesforceCRM integration profile (Salesforce CRM 統合プロファイルを作成)」セクションで概説されている手順を実行します。
	メタデータ - アカウントタイプを取得	Salesforce で利用可能なすべてのアカウントタイプを取得します。
	メタデータ - 作成可能なフィールドを取得	必須の標準またはカスタムSalesforceテーブルの作成可能なフィールドのリストを取得します。
	メタデータ - 作成可能	Salesforce内の作成可能なオブジェクトのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	なオブジェクトを取得	
	メタデータ - 削除可能なオブジェクトを取得	Salesforce内の削除可能なオブジェクトのリストを取得します。
	メタデータ - 更新可能なフィールドを取得	必須の標準またはカスタムSalesforceテーブルの更新可能なフィールドのリストを取得します。
	メタデータ - 更新可能なオブジェクトを取得	Salesforce内の更新可能なオブジェクトのリストを取得します。
	メタデータ - アカウントフィールドを取得	Salesforceアカウントオブジェクトのフィールドのリストを取得します。
	メタデータ - ケース発生元値を取得	Salesforceのケース発生元のリストを取得します。Salesforce応答本文のケース発生元の値フィールドが、JSON 出力の名前フィールドにマッピングされます。
	メタデータ - ケース優先度を取得	Salesforceのケース優先度のリストを取得します。Salesforce応答本文のケース優先度の値フィールドが、JSON 出力の名前フィールドにマッピングされます。
	メタデータ - ケース理由を取得	Salesforceのケース理由のリストを取得します。Salesforce応答本文のケース理由の値フィールドが、JSON 出力の名前フィールドにマッピングされます。
	メタデータ - ケースステータス値を取得	Salesforceのケースステータス値のリストを取得します。Salesforce応答本文のケースステータスの値フィールドが、JSON 出力の名前フィールドにマッピングされます。
	メタデータ - アカウントの業界を取得	Salesforce のアカウントで利用可能なすべての業界を取得します。
	メタデータ - リードの業界を取得	Salesforceリードオブジェクトの業界のリストを取得します。Salesforce応答本文の業界の値フィールドが、JSON 出力の名前フィールドにマッピングされます。
	メタデータ - リードステータスを取得	Salesforceのリードステータス値のリストを取得します。Salesforce応答本文のリードステータスの値フィールドが、JSON 出力の名前フィールドにマッピングされます。
	メタデータ - オブジェクトを取得	Salesforce で利用可能なすべてのオブジェクト名を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	メタデータ - 機会ステージを取得	Salesforceの機会ステージのリストを取得します。Salesforce応答本文の機会ステージの値フィールドが、JSON 出力の名前フィールドにマッピングされます。
	メタデータ - 機会タイプを取得	Salesforceの機会タイプのリストを取得します。Salesforce応答本文の機会タイプの値フィールドが、JSON 出力の名前フィールドにマッピングされます。
	メタデータ - 注文ステータス値を取得	Salesforceの注文ステータス値のリストを取得します。Salesforce応答本文の注文ステータスの値フィールドが、JSON 出力の名前フィールドにマッピングされます。
	メタデータ - 組織タイプを取得	Salesforceインスタンスの組織タイプを取得します。このアクションを使用するには、「Integrating with Salesforce (Salesforce との統合)」の「Create a Salesforce integration profile (Salesforce 統合プロファイルを作成)」セクションで概説されている手順を実行します。
	メタデータ - レコードフィールドを取得	指定されたテーブル名のすべてのレコードフィールドを取得します。
	メタデータ - 関係フィールドを取得	指定されたオブジェクト名のすべての関係フィールドを取得します。
	メタデータ - 関係名を取得	指定されたオブジェクト名のすべての関係名を取得します。
	メタデータ - ユーザーメールエンコーディングを取得	Salesforceユーザーオブジェクトのメールエンコーディングのリストを取得します。Salesforce応答本文のメールエンコーディングの値フィールドが、JSON 出力の名前フィールドにマッピングされます。
	メタデータ - ユーザーの言語を取得	Salesforceユーザーオブジェクトの言語のリストを取得します。Salesforce応答本文のユーザー言語の値フィールドが、JSON 出力の名前フィールドにマッピングされます。
	メタデータ - ユーザーのロケールを取得	Salesforceユーザーオブジェクトのロケールのリストを取得します。Salesforce応答本文のユーザーロケールの値フィールドが、JSON 出力の名前フィールドにマッピングされます。
	メタデータ - ユーザーのタイムゾーンを取得	Salesforceユーザーオブジェクトのタイムゾーンのリストを取得します。Salesforce応答本文のタイムゾーンの値フィールドが、JSON 出力の名前フィールドにマッピングされます。
オポチュニ	機会を作成	Salesforceに機会を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
ティ管理		
オーダー管理	オーダーを作成	Salesforceにオーダーを作成します。
ライセンス管理	ユーザーライセンスストリームを検索	Salesforce で利用可能なユーザーサブスクリプション情報を取得します。 このアクションを使用するには、「Integrating with Salesforce CRM (Salesforce CRM との統合)」の「Create a SalesforceCRM integration profile (Salesforce CRM 統合プロファイルを作成)」セクションで概説されている手順を実行します。
	使用状況ベースのエンタイトルメントストリームを検索	リソースの消費状況の詳細を取得します。 このアクションを使用するには、「Integrating with Salesforce CRM (Salesforce CRM との統合)」の「Create a SalesforceCRM integration profile (Salesforce CRM 統合プロファイルを作成)」セクションで概説されている手順を実行します。
ユーザー管理	ユーザーを作成	Salesforceにユーザーを作成します。
	ユーザープロファイルを検索	Salesforceのユーザープロファイルのリストを取得します。Salesforce応答本文のユーザープロファイルの名前フィールドと ID フィールドは、それぞれ JSON 出力のラベルフィールドと名前フィールドにマッピングされます。
	ユーザーロールを検索	Salesforceのユーザーロールのリストを取得します。Salesforce応答本文のユーザープロファイルの名前フィールドと ID フィールドは、それぞれ JSON 出力のラベルフィールドと名前フィールドにマッピングされます。
	ユーザーを検索	Salesforceユーザーのユーザー属性を取得します。 このアクションを使用するには、「Integrating with Salesforce CRM (Salesforce CRM との統合)」の「Create a SalesforceCRM integration profile (Salesforce CRM 統合プロファイルを作成)」セクションで概説されている手順を実行します。
	ユーザーを削除	Salesforceのユーザーアカウントを再利用します。 このアクションを使用するには、「Integrating with Salesforce CRM (Salesforce CRM との統合)」の「Create a SalesforceCRM integration profile (Salesforce CRM 統合プロファイルを作成)」セクションで概説されている手順を実行します。

Salesforceアカウント要件

Salesforce スポークでは、OAuth 2.0 JWT ベアラー権限トークンを生成するために、Salesforceアカウントを設定する必要があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなく

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

なります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Salesforce スポークの設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。Salesforce エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー 選択属性を設定します。 詳細については「MID サーバー」を参照してください。

Salesforce スポークの設定

SalesforceアカウントとServiceNowインスタンスをデータ連携します。Salesforce でカスタム OAuth アプリケーションを作成し、ServiceNow からの要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求
- Salesforce スポーク を有効にします。
- 必要なロール：admin

注: ここでは、2 つのスポークセットアップ手順の概要を説明します。要件に従って、いずれかの手順を実行します。

- OAuth 認証テンプレートを使用してスポークを設定するには、「オプション 1：OAuth 認証テンプレートを使用して Salesforce スポーク を設定」を参照してください。
- JWT 署名キーを使用してスポークを設定するには、「オプション 2：JWT 署名キーを使用して Salesforce スポーク を設定」を参照してください。

注: デフォルトの接続エイリアスレコードは削除しないでください。想定外の動作をすることがあります。デフォルトの接続エイリアスを使用して接続を設定します。

Salesforceに接続済みアプリを作成

Salesforceアカウントで接続済みアプリを作成し、Salesforce スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

- Salesforce アカウント
- 必要なロール：adminSalesforce

このタスクについて

Salesforceアカウントから、次の手順を完了します。接続済みアプリの作成と構成の手順については、Salesforce Trailblazer フォーラム ドキュメントの「Create a Connected App (接続済みアプリを作成) 」を参照してください。

手順

1. Salesforceアカウントから、接続済みアプリを作成します。
2. Salesforceアプリケーションが ServiceNowインスタンスとデータを共有できるように、接続済みアプリを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. **[OAuth** 設定を有効にする] を選択し、認証設定を構成します。

b. JWT 署名キーを使用してスポークを設定する場合は、[デジタル署名を使用 **(Use Digital Signatures)]** を選択し、Java KeyStore (JKS) 証明書をアップロードします。

c. OAuth スコープを選択します。
   - データ **(api)** へのアクセスと管理
   - いつでも代理で要求を実行 **(refresh_token, offline_access)**

d. コールバック URL にServiceNowインスタンス URL を次のフォーマットで指定します：`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do`

e. 接続済みアプリを作成した後、ポリシーを編集ページの **[OAuth** ポリシー] で、次の値を設定します。

フィールド	値
許可されたユーザー	アドミニストレーターが承認したユーザーは事前に承認されています
IP 制限	IP 制限を緩和

f. 要件に従って、接続済みアプリのユーザープロビジョニングを構成します。

3. [コンシューマーキー] と [コンシューマーシークレット] の値を記録します。

> 注:
> - 要件に従ってプロファイルと権限セットを割り当てます。
> - [OAuth アプリの IP 制限 (OAuth app IP restrictions)] で、接続されたアプリがデフォルトアプリのように動作するように OAuth ポリシーを指定します。

タスクの結果
接続済みアプリはSalesforceに作成されます。

オプション 1：**OAuth** 認証テンプレートを使用して **Salesforce** スポーク を設定

Salesforce アカウントと ServiceNow インスタンスをデータ連携します。Salesforce でカスタム OAuth アプリケーションを作成し、[OAuth 認証] テンプレートを使用して ServiceNow からの要求を認証します。

始める前に
- Salesforceに接続済みアプリを作成
- 必要なロール：admin

手順
1. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **[Salesforce]** レコードを開きます。
3. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。
4. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前。
接続 URL (インスタンス URL)	この形式で Salesforce インスタンスに接続するためのベース URL：`https://<instance-name>.salesforce.com`
OAuth クライアント ID	Salesforce 接続済みアプリの構成中に生成されたコンシューマーキー。
OAuth クライアントシークレット	Salesforce 接続済みアプリの構成中に生成されたコンシューマーシークレット。
OAuth リダイレクト URL	認証後にユーザーがリダイレクトされる OAuth プロバイダーの URL。このフィールドは、自動的に入力されます。

5. **[OAuth** トークンを作成して取得] をクリックします。
   [OAuth2 認証] ダイアログボックスが表示されます。
6. Salesforce アプリケーションの作成に使用した Salesforce admin アカウントにログインします。
   ServiceNow インスタンスは Salesforce の OAuth トークンを作成し、自動的に [統合プロファイル] フォームに戻ります。
7. [公開] をクリックします。

オプション 2：**JWT** 署名キーを使用して **Salesforce** スポーク を設定

Salesforce アカウントと ServiceNow インスタンスをデータ連携します。Salesforce でカスタム OAuth アプリケーションを作成し、JWT 署名キーを使用して ServiceNow からの要求を認証します。

始める前に

- Salesforceに接続済みアプリを作成
- 必要なロール：admin

Java キーストア証明書を **Salesforce** スポーク に添付する

有効な Java KeyStore (JKS) 証明書をSalesforce スポークに添付して、JSON Web トークン (JWT) ベアラー権限トークン認証を有効にします。

始める前に

- 有効な Java KeyStore 証明書
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [証明書]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[X.509 証明書] フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Salesforce` 証明書です。
有効期限通知	証明書の有効期限が近づいたときに通知を送信するオプション。
期限切れ時に通知	証明書の有効期限が切れたときに通知を受信するユーザー
有効期限切れ前に警告	証明書の有効期限が切れる前に通知を送信する日数。
有効	証明書を積極的に使用するオプション。
フォーマット	証明書のフォーマット。インスタンスは、PEM および DER フォーマットをサポートしています。
タイプ	証明書のタイプ。**[Java Key Store (Java** キーストア)]を選択します。
有効開始日	証明書が有効になる日付。
有効期限	証明書の有効期限が切れる日付。
数日中に期限切れ (Expires in days)	証明書の有効期限が切れるまでの日数。
キーストアパスワード	証明書に関連付けられたパスワード。
簡単な説明	証明書のサマリー。
PEM 証明書	X509 証明書のコンテンツ。

4. 添付ファイルアイコン ( ) をクリックし、JKS 証明書を添付します。
5. [ストア/証明書を検証] をクリックします。

タスクの結果
JKS 証明書が作成され、Salesforce スポークに添付されます。

Salesforce スポークの JWT 署名キーの作成

Java KeyStore 証明書にアサインする JSON Web トークン (JWT) 署名キーを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [システム **OAuth]** > **[JWT** キー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

JWT キーフォーム

フィールド	説明
名前	JWT 署名キーを一意に識別する名前です。たとえば、`Salesforce JWT キー`です。
署名キーストア	前のタスクで添付された有効な JKS 証明書です。たとえば、`Salesforce` 証明書です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
キー ID	キー ID は、複数のキーを使ってトークンに署名する際に、どのキーを使用するかを識別します。
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープ。[Salesforce スポーク] を選択します。
署名アルゴリズム	JWT キーで署名するアルゴリズム。
署名キーパスワード	署名キーに関連付けられたパスワード。
有効	証明書を積極的に使用するオプション。

4. [送信] をクリックします。

タスクの結果
JWT キーが作成され、JKS 証明書にアサインされます。

Salesforce スポークの JWT プロバイダーの作成

JSON Web トークン (JWT) プロバイダーを ServiceNow インスタンスに追加します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [システム **OAuth]** > **[JWT** プロバイダー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

JWT プロバイダーフォーム

フィールド	説明
名前	JWT プロバイダーを一意に識別する名前です。たとえば、`Salesforce JWT プロバイダー`です。
有効期限の間隔 (秒)	JWT プロバイダートークンの有効期間を設定する秒数です。
署名構成	前のステップの JWT 署名キーです。たとえば、`Salesforce JWT キー`です。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
   [標準要求] および [カスタム要求] 関連リストが表示されます。
5. [標準要求] 関連リストで、**[iss]**、**[sub]**、および **[aud]** の各値を入力します。
   手順については、Salesforce Trailblazer フォーラム ドキュメントの「OAuth 2.0 JWT Bearer Flow for Server-to-Server Integration (サーバー間統合のための OAuth 2.0 JWT ベアラーフロー) 」を参照してください。
6. [更新] をクリックします。

タスクの結果
JWT プロバイダーが ServiceNow インスタンスに追加されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OAuth プロバイダーとしてSalesforceを登録

Salesforce接続済みアプリの構成中に生成された情報を使用し、Salesforceを OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「どのような `OAuth` アプリケーションですか？」というメッセージが表示されます。
3. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択します。
   空のアプリケーション登録フォームが表示されます。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Salesforce OAuth` を入力します。
クライアント ID	Salesforce接続済みアプリの構成中に生成されたコンシューマーキー
クライアント シークレット	Salesforce接続済みアプリの構成中に生成されたコンシューシークレット
OAuth API スクリプト	要求と応答をカスタマイズするオプションのスクリプトです。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可のタイプ。**[JWT** ベアラー] を選択します。
リフレッシュ トークンの有効期間	リフレッシュトークンが有効になる時間 (秒) デフォルトの時間は 8,640,000 秒です。
PKCE が必要 (PKCE required)	パブリッククライアントが認証に PKCE を要求できるようにするオプション。 **注：PKCE** が有効になっている場合、[デフォルトの権限許可タイプ] として使用できるのは [認証コード] のみです。
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープ。[Salesforce] を選択します。
アクセス可能	このレジストリにアクセスできるアプリケーションスコープです。
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプション。
認証 URL	このフィールドは空白のままにする必要があります。
トークン URL	OAuth サーバートークンのエンドポイントです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
	◦本番インスタンスには、`https://login.salesforce.com/services/oauth2/token` を入力します。 ◦サンドボックスインスタンスには、`https://test.salesforce.com/services/oauth2/token` を入力します。
トークン失効 URL	このフィールドは空白のままにする必要があります。
リダイレクト URL	このフィールドは空白のままにする必要があります。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
   - OAuth 認証情報が検証され、[リダイレクト **URL**] フィールドに情報が入力されます。
   - 権限許可タイプを **JWT** ベアラーとして **[OAuth** エンティティプロファイル] に情報が入力されます。たとえば、**OAuth** エンティティプロファイルは、デフォルトの名前「**Salesforce JWT provider default_profile** 」で作成されます。
6. [リダイレクト **URL**] フィールドから値をコピーします。
7. **[Update]** をクリックします。
8. Salesforce アカウントにログ インして、接続済みアプリの構成を編集します。
   手順については、SalesforceTrailblazer フォーラム のドキュメントを参照してください。
9. [リダイレクト URL] の値を Salesforce 接続済みアプリのコールバック URL に貼り付けます。
   たとえば、`https://<インスタンス名>.service-now.com/oauth_redirect.do` を貼り付けます。

タスクの結果
インスタンスは、Salesforce スポークの OAuth 2.0 トークンを要求できます。

> **注:** OAuth トークンの有効期限が切れると、ほとんどの場合、スポークは新しいトークンを自動的に再生成します。トークンの有効期限が切れて再生成されない場合、アドミンロールを持つユーザーはスポーク OAuth トークンを再生成できます。

Salesforce スポークの認証情報レコードを作成

作成したSalesforce接続済みアプリの認証情報レコード を作成します。Salesforce スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？ 」というメッセージが表示されます。
3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
   ポップアップウィンドウに、空の OAuth 2.0 認証情報フォームが表示されます。
4. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Salesforce` 認証情報を入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
OAuth エンティティ プロファイル	Salesforce接続されたアプリを OAuth プロバイダーとして登録したときに作成した OAuth プロファイルです。たとえば、**[Salesforce OAuth default_profile]** を選択します。
適用先	この認証情報を使用できる MID サーバーです。たとえば、[すべての **MID** サーバー] を選択します。
順番	この認証情報を適用する順番。たとえば、「`100`」と入力します。

5. レコードを保存します。
6. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンを取得] 関連リンクをクリックします。

タスクの結果
Salesforce スポークの認証情報レコードが作成されます。

Salesforce スポークの接続レコードを作成

Salesforceアカウントへの接続レコードを作成します。Salesforce スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してSalesforceでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **[Salesforce]** のレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。
4. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前です。たとえば、`Salesforce` 接続を入力します。
認証情報	Salesforce用に作成した認証情報レコードです。たとえば、**[Salesforce** 認証情報] を選択します。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
URL ビルダー	**注:** チェックボックスをオンにしないでください。
接続 URL	Salesforceインスタンスに接続するためのベース URL です。例： `https://<instance-name>.salesforce.com`。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
MID サーバーを使用	MID サーバーを使用するためのオプションです。このチェックボックスを選択する場合、[MID サーバー詳細設定] 関連リストでフィールドを定義します。
有効	接続を積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションまたはアクティビティを実行するドメイン。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
6. [属性] 関連リストで **api_version** が `v48.0` に設定されていることを確認します。

タスクの結果
Salesforce スポーク が設定されて、ServiceNow インスタンスとデータ連携されます。

双方向 **Webhook** を設定

ServiceNowコールバック URL でSalesforceイベントを登録する Webhook を構成します。

始める前に
- オプション 2：JWT 署名キーを使用して Salesforce スポーク を設定
- 必要なロール：admin

手順
1. アドミニストレーターとしてSalesforceインスタンスにログインします。
2. Salesforceインスタンスの詳細を取得します。
   詳細については、SalesforceTrailblazer フォーラム の「Salesforce 組織のインスタンス情報を表示 」のナレッジ記事を参照してください。

   a. Salesforceカスタムドメインがない場合は、会社情報ページからSalesforceインスタンス名を取得します。

   b. カスタムドメインがある場合は、[ドメイン管理] > [自分のドメイン]に移動し、ドメイン名をコピーします。
   たとえば、ページ上の完全なドメイン名が **[newdomain-customdomain.my.salesforce.com]** である場合は、値 `newdomain-customdomain` をコピーして記録します。

3. Salesforceインスタンスの 18 桁の組織 ID を取得します。

   a. Salesforceインスタンスの開発者コンソールに移動し、次のクエリを実行します。

   ```
   Select Id from Organization
   ```

   b. 18 桁の組織 ID の値をコピーして記録します。

4. ServiceNow インスタンスにログインします。
5. Webhook レジストリを作成します。

   a. **[Salesforce Webhook** レジストリ] > **[Salesforce Webhook** レジストリ]に移動します。

   b. [新規] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
組織 ID	Salesforceインスタンスの 18 桁の組織 ID です。
インスタンス名	会社情報ページから取得したSalesforceインスタンスの名前、または[ドメイン管理] > [自分のドメイン]から取得したSalesforceインスタンスのカスタムドメインです。

d. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

6. ServiceNowインスタンスからリソースパスを取得します。

a. [システム **Web** サービス] > [スクリプト **Web** サービス] > [スクリプト利用 **REST API]**に移動します。

b. レコード **[Salesforce Webhook** コールバック] を開きます。

c. [リソース **]** タブで、[デフォルトコールバック] レコードをクリックします。

d. [リソースパス] の値をコピーして記録します。
必要なServiceNowエンドポイント URL は `https://<intance-name>.service-now.com/<resource-path>` です。

7. デフォルトのサブフローを構成するか、カスタムサブフローを作成します。
これらのサブフローは、必要なイベントがSalesforceインスタンスで発生したときにトリガーされます。詳細については、「サブフローのビルド」を参照してください。
8. Webhook ルーティングポリシーを構成します。

a. [システム定義] > [意思決定テーブル] の順に移動します。

b. レコード **[Salesforce Decision Webhook Policy]** を開きます。

c. [意思決定] タブで、[新規] をクリックします。

d. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。
回答	指定された条件が満たされるとトリガーされるサブフローです。
デフォルトの回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
条件	Salesforceで必須イベントが発生したときに満たされるべき条件です。

注: デフォルトでは、次のSalesforceオブジェクトが Webhook ルーティングポリシーでサポートされています。

- アカウント
- ケース
- 契約
- 機会

要件に応じて、他のSalesforceオブジェクトをサポートするようにデフォルトのディシジョンテーブルを構成できます。

e. [保存] をクリックします。

9. Salesforceインスタンスから、送信メッセージを作成します。

   送信メッセージの作成の詳細については、SalesforceTrailelabser フォーラム の「送信メッセージアクション 」を参照してください。

10. [エンドポイント URL] には、エンドポイント URL を https://<intance-name>.service-now.com/<resource-path> の形式で入力します。
11. Salesforceインスタンスから、ワークフロールールを作成し、前に作成した送信メッセージをトリガーするように構成します。
    ワークフロールールの作成の詳細については、SalesforceTrailblazer フォーラム の「ワークフロールールの作成 」を参照してください。

SAP Ariba スポーク

SAP Ariba スポークは、Bristlecone, Inc. によってビルドされています。SAP Ariba インスタンスでの購入スイートおよび調達スイートのプライマリデータおよびトランザクションデータを ServiceNow インスタンスから管理します。SAP Ariba システムでは単一の SaaS オファリングエディションが提供され、SAP Ariba スポークは選択したデータセンターに関係なくそのまま機能します。

重要: SAP Ariba スポークは、ITK jar ではなく、MIME マルチパート形式を介して ITK スタイルのサービス (ファイルのアップロードまたはファイルのダウンロード) の REST API を使用します。そのため、SAP Ariba は 2023 年 12 月 31 日での ITK jar の提供終了 を発表し、その結果、SAP ダウンロードサイトと SAP ポータルから ITK が削除されましたが、既存の SAP Ariba スポークの機能への影響はありません。

ストアでアプリを要求

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして、利用可能なすべてのアプリを表示し、要求をストアに送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのこれまでのリリースメモ情報については、「ServiceNow Store のバージョン履歴リリースノート 」を参照してください。

2022 年 3 月 1 日以降、すべての SAP スポークはストアでのみ入手可能になります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要 」を参照てください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

SAP Ariba スポーク v1.9.0 が最新バージョンです。

スポークの要件

- 共有シークレットを作成して、ファイルのアップロードまたはファイルのダウンロードの REST サービスを有効にします。後で使用するためにデータ連携パスワードをコピーして記録します。

  注: 調達スイート用と購入スイート用の 2 つの共有シークレットを作成する場合は、同じ共有シークレットを指定する必要があります。

  - 調達スイート用の共有シークレットを作成するには、SAP Ariba ソリューションで [管理] に移動します。
  - 購入スイート用の共有シークレットを作成するには、SAP Ariba ソリューションで [コア管理] に移動します。

  新しい共有シークレットを作成するには、次の手順を実行します。

  1. SAP Ariba ソリューションにログインします。
  2. ナビゲーションメニューの [管理] を選択します。
  3. [コア管理] または [管理] を選択します。
  4. [統合マネージャー **(Integration Manager)]** の展開矢印を選択します。
  5. [統合ツールキットセキュリティ **(Integration Toolkit Security)]** を選択します。
  6. [共有シークレット認証 **(Shared Secret Authentication)]** で、[統合パスワード **(Integration password)]** に統合パスワードを入力します。
  7. [保存] を選択します。

  詳細については、 SAP ヘルプポータル の「 マスタデータ統合のセキュリティ設定 」を参照してください。

- SAP Aribaインスタンスの領域をコピーして記録します。
- [管理] で、[データ連携マネージャー] の [エンドポイント構成] に受信エンドポイントを作成します。**[HTTP** 認証] で指定したログインパスワードをコピーして、記録します。エンドポイント作成の詳細については、 SAP ヘルプポータル の「 SAP Ariba ソリューションの設定 」を参照してください。

  SAP Ariba ソリューションで統合エンドポイントを作成するには、次の手順を実行します。

  1. SAP Ariba ソリューションにログインします。
  2. ナビゲーションメニューの [管理] を選択します。
  3. [管理] を選択します。
  4. [統合マネージャー **(Integration Manager)]** の展開矢印を選択します。
  5. [エンドポイント構成 **(End Point Configuration)]** を選択します。
  6. [新規作成] を選択します。
  7. [エンドポイント構成 (End Point Configuration)] - [エンドポイント作成 (Create End Point)] ページで、エンドポイントの名前を [名前] に入力し、[タイプ] で [受信] を選択します。
  8. **[HTTP** 認証 **(HTTP Authentication)]** セクションで、[ログイン] フィールドにユーザー ID を入力し、[パスワード] にパスワードを入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザー ID とパスワードは、後で HTTP 呼び出しを認証するために必要になります。

9. [保存] を選択します。

[データ連携マネージャー] の [データ連携設定] で、受信エンドポイントの調達プロジェクトインポートタスクの SOAP サービスを有効にします。

◦ [データ連携タスク **URL**] フィールドの URL をコピーして、記録します。

◦ WSDL ファイルを開きます。*targetNamespace*パラメーターの値をコピーして、記録します。
統合タスクの **URL** と *targetNamespace* の詳細については、 SAP ヘルプポータル の「 SAP Ariba ソリューションの設定 」を参照してください。

統合タスクを有効にして既存のエンドポイントにリンクするには、次の手順を実行します。

1. SAP Ariba ソリューションにログインします。
2. ナビゲーションメニューの [管理] を選択します。
3. [管理] を選択します。
4. [統合マネージャー **(Integration Manager)]** の展開矢印を選択します。
5. [統合構成 **(Integration Configuration)]** を選択します。
6. 有効にするタスクを見つけます。

   [すべてをリスト **(List All)]** を選択するか、検索条件を入力します。

7. [検索] を選択します。
8. [アクション] を選択し、必要なタスクで [編集] を選択します。
9. [データのインポート/エクスポートタスクの編集 (Edit data import/export task)] ページの [ステータス] で [有効] を選択します。
10. [エンドポイント] で、必要なエンドポイントを選択します。
11. [保存] を選択します。

- [コア管理] で、[データ連携マネージャー] の [エンドポイント構成] に受信エンドポイントを作成します。**[HTTP** 認証] で指定したログインパスワードをコピーして、記録します。エンドポイント作成の詳細については、SAP ヘルプポータル の「SAP Ariba ソリューションの設定 」を参照してください。

  SAP Ariba ソリューションで統合エンドポイントを作成するには、次の手順を実行します。

  1. SAP Ariba ソリューションにログインします。
  2. ナビゲーションメニューの [管理] を選択します。
  3. [コア管理] を選択します。
  4. [統合マネージャー **(Integration Manager)]** の展開矢印を選択します。
  5. [エンドポイント構成 **(End Point Configuration)]** を選択します。
  6. [新規作成] を選択します。
  7. [エンドポイント構成 (End Point Configuration)] - [エンドポイント作成 (Create End Point)] ページで、[名前] にエンドポイントの名前を入力します。
  8. [タイプ] で [受信] を選択します。
  9. **[HTTP** 認証 **(HTTP Authentication)]** セクションで、[ログイン] フィールドにユーザー ID を入力し、[パスワード] にパスワードを入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ユーザー ID とパスワードは、後で HTTP 呼び出しを認証するために必要になります。

10. [保存] を選択します。

[データ連携マネージャー] の [データ連携設定] で、受信エンドポイントのサプライヤーインポートタスクの SOAP サービスを有効にします。

- [データ連携タスク **URL**] フィールドの URL をコピーして、記録します。
- WSDL ファイルを開きます。*targetNamespace*パラメーターの値をコピーして、記録します。

統合タスクを有効にして既存のエンドポイントにリンクするには、次の手順を実行します。

1. SAP Ariba ソリューションにログインします。
2. ナビゲーションメニューの [管理] を選択します。
3. [コア管理] を選択します。
4. [統合マネージャー **(Integration Manager)**] の展開矢印を選択します。
5. [統合構成 **(Integration Configuration)**] を選択します。
6. 有効にするタスクを見つけます。

   [すべてをリスト **(List All)**] を選択するか、検索条件を入力します。

7. [検索] を選択します。
8. [アクション] を選択し、必要なタスクで [編集] を選択します。
9. [データのインポート/エクスポートタスクの編集 (Edit data import/export task)] ページの [ステータス] で [有効] を選択します。
10. [エンドポイント] で、必要なエンドポイントを選択します。
11. [保存] を選択します。

統合タスクの **URL** と *targetNamespace* の詳細については、SAP ヘルプポータル の「SAP Ariba ソリューションの設定 」を参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - SOAP (com.glide.hub.action_step.soap)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー：動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- フローデザイナーアクションステップ - MID のスクリプト (com.glide.hub.action_step.script_mid)
- Utility Actions スポーク

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのフロー

SAP Ariba Spoke では、SAP Aribaタスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
サプライヤー組織の購入者をインポート	サプライヤー組織を ServiceNow から SAP Ariba インスタンスの購入スイートにインポートします。
サプライヤー組織の調達をインポート	サプライヤー組織を ServiceNow から SAP Ariba インスタンスの調達スイートにインポートします。

スポークのサブフロー

SAP Ariba スポークには、フロー内の再利用可能なアクションのシーケンスを示すサンプルサブフローが用意されています。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのサブフロー

サブフロー	説明
エクスポートタスクを検索 - サブフロー	エクスポートタスクイベントの ZIP ファイルを検索し、ZIP ファイルを SFTP の場所にコピーします。次に、ファイルが解凍され、解凍された XLS または CSV ファイルが指定された ServiceNow テーブルレコードにコピーされます。
要求の更新サンプルサブフロー	ペイロードで指定された要求を更新します。
要求の作成サンプルサブフロー	指定された要求の詳細を持つ要求が存在しないことを確認した後、要求レコードを作成します。

注: サンプルサブフローには、サーバーホスト、ポート、作業ディレクトリが必要です。

スポークのアクション

SAP Ariba Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにSAP Aribaタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
エクスポート管理	Ariba ファイルをデータソースにコピー	ソースレコードのシステム ID を取得し、添付ファイルをターゲットデータソースに転送します。
	Ariba エキスポートタスクを実行	ファイルが応答として受信され、Ariba タスク実行テーブルレコードに格納される Ariba エクスポートタスクイベントを実行します。
インポート管理	Ariba インポートタスクを実行	指定された操作の SAP Ariba インポートタスクをトリガーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	エクスポートタスクを検索	ZIP ファイルが応答として受信され、選択したデータソースに保存される、Ariba エクスポートタスクイベントを実行します。
請求書管理	請求書を CXML でルックアップ	SAP ビジネスネットワークから請求書を cXML 形式で取得します。
	処理待ちのメッセージ ID を CXML でルックアップ	処理待ちのメッセージ ID を CXML 形式で取得します。
	請求書 CXML を却下	SAP ビジネスネットワークのサプライヤーによって送信された、指定された請求書を却下します。
承認調達管理	承認ステータスを検索	承認待ちのタスクを取得します。
	下流の承認のストリームを検索	承認可能な請求書または要求事項に関連する詳細を取得します。
	下流の承認ステータスを更新	承認の対象物に関する詳細を取得します。
承認ソーシング管理	承認ステータスを作成	エンティティに対して指定のアクションを実行します。エンティティタスクに指定できる値は、[Approve]、[Deny]、および [DenyWithResubmit] です。
	承認の対象物を検索	承認の対象物に関する詳細を取得します。
購入者管理	発注明細ストリームを検索	指定された購入者の発注書 (PO) の品目から情報を取得します。
	発注書 (PO) ストリームを検索	指定された購入者の発注書 (PO) のヘッダー情報を取得します。
調達エクスポート管理	ダウンストリームサプライヤーの場所を検索	Ariba エクスポートプロセスを開始し、ユーザーが選択したデータソース内に応答として保存された重要なデータを含む ZIP ファイルを生成して配信するようにシステムに求めます。
	受領書を検索	Ariba エクスポートプロセスを開始し、ユーザーが選択したデータソース内に応答として保存された重要なデータを含む ZIP ファイルを生成して配信するようにシステムに求めます。
調達インポート管理	下流のサプライヤーをインポート	Ariba システムで、サプライヤーの所在地およびサプライヤーの送金場所と併せてサプライヤーの詳細を作成または更新します。
受領書管理	受領書を作成	受領書を作成するか、外部アプリケーションから受領書をインポートします。
要求管理 (SOAP ベース)	要求の作成	提供された詳細情報で要求レコードを作成します。
	要求の更新	要求レコードを指定された情報で更新します。
調達管理 (REST ベース)	換算レートストリームを検索	換算レートに関連する詳細を取得します。
	コストセンターのストリームを検索	SAP ARIBA REST からコストセンターの詳細を取得します。
	通貨レートのストリームを検索	通貨レートに関連する詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	固定資産ストリームを検索	SAP ARIBA REST から固定資産の詳細を取得します。
	GL 勘定科目ストリームの検索	利用可能なプライマリデータエンティティの詳細を取得します。
	法人ストリームを検索	法人のメタデータを取得します。
	品目グループのストリームを検索	SAP Ariba から品目グループのプライマリデータを取得します。
	品目ストリームを検索	SAP Ariba REST で品目の一般データを取得します。
	支払条件ストリームを検索	利用可能なプライマリデータエンティティの詳細を取得します。
	購買グループストリームを検索	SAP システムから購買グループの詳細を取得します。
	購買組織ストリームを検索	SAP ARIBA REST から購買組織の詳細を取得します。
	上流サプライヤーの所在地を検索	サプライヤー所在地のプライマリデータを取得します。
ソーシングイベント管理	認定シナリオを作成	指定された詳細で認定シナリオを作成します。
	イベント品目を作成	指定されたイベントに品目を追加し、指定された期間の値を設定します。
	イベントの質問を作成	指定されたイベントに質問を追加し、指定された期間の値を設定します。
	アイテムの添付ファイルを作成	指定されたイベントの指定されたアイテムと期間を、添付ファイルとしてアップロードします。アイテムと期間は存在している必要があります。イベントのステータスは [ドラフト] である必要があります。
	ソーシングイベントを作成	SAP Ariba イベント管理内で、提案依頼 (RFP) などのソーシングイベントを作成するプロセスを開始します。
	サプライヤー認定を作成	成功した提案を承認して、サプライヤーを認定します。
	サプライヤー招待状を作成	指定されたイベントに複数のサプライヤーを招待します。
	サプライヤー招待状を削除	指定されたイベントの複数のサプライヤーを削除します。
	サプライヤー入札応答から添付ファイルをダウンロード	サプライヤーの応答の詳細を取得します。
	イベントテンプレートを検索	ソーシングテンプレート ID とその他のテンプレートの詳細 (アイテム定義を含む) を取得します。
	サプライヤー入札を検索	イベントのサプライヤー入札を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	イベントステータスを更新	一意の識別子であるイベント ID を使用して、イベントのステータスを変更します。
サプライヤー管理	調達プロジェクトを作成	指定された詳細でソーシングプロジェクトを作成します。
	調達プロジェクトを更新	既存の調達プロジェクトのプロジェクトヘッダーフィールドを更新します。
ソーシング管理 (REST ベース)	部門ストリームを検索	システムで利用可能な部門プライマリデータを取得します。
SSH 管理	添付ファイルを SFTP サーバーにコピー	SSH コマンドを実行して、指定された添付ファイルレコードを、選択したサーバーの作業ディレクトリにコピーします。
	ファイルを解凍して ServiceNow ターゲットテーブルにコピー	SSH コマンドを実行して、選択したサーバーの作業ディレクトリに保存されている zip 添付ファイルを解凍し、展開されたファイルを ServiceNow インスタンスにコピーします。
サプライヤー管理 (REST ベース)	上流サプライヤーのストリームを検索	プライマリサプライヤーの一般データを取得します。
	下流送金地ストリームを検索	利用可能なマスターデータエンティティの詳細を取得します。
	下流サプライヤーストリームを検索	サプライヤーに関連する詳細を取得します。
サプライヤー管理 (SOAP ベース)	サプライヤーを作成	指定された詳細でサプライヤーを作成します。

スポークモジュール

SAP Ariba Spoke は SAP AribaSpoke アプリケーションをインスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

モジュール	説明
Ariba エクスポート構成定義	利用可能なエクスポート構成のリストを表示します。デフォルトでは、33 個のエクスポート構成をスポークと一緒に使用できます。要件に応じて、デフォルトのエクスポート構成を変更したり、エクスポート構成を作成したりできます。 たとえば、フローの [Ariba エクスポートタスクを実行] アクションを使用して受領書をエクスポートした場合、データはSAP Aribaインスタンスからの ServiceNowインスタンスに取得されます。これらのレコードをデータソースにコピーする必要があります。そうしないと、*Ariba* エクスポートタスクスケジューラのスケジュール設定済みスクリプトに記載さ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
	れている期間が経過すると、レコードが削除されます。フローの [Ariba ファイルをデータソースにコピー] アクションを使用して、レコードをデータソースにコピーできます。
Ariba エクスポートタスク実行	データがSAP AribaインスタンスからServiceNowインスタンスにエクスポートされたときに生成された CSV ファイルを表示します。 これらのレコードをデータソースにコピーする必要があります。そうしないと、*Ariba* エクスポートタスクスケジューラのスケジュール設定済みスクリプトに記載されている期間が経過すると、レコードが削除されます。
Ariba インポート構成定義	利用可能なインポート構成のリストを表示します。デフォルトでは、2 個のインポート構成をスポークと一緒に使用できます。必要なレコードを作成するには、フローで [Ariba インポートタスクを実行] アクションを使用する必要があります。 • [Ariba インポートタスクを実行] アクションで **[MasterDataBatchPull]** タスクを選択した場合、SAP Ariba インスタンスで調達スイート用のプライマリデータレコードが作成または更新されます。 • [Ariba インポートタスクを実行] アクションで **[CombinedDataPull]** タスクを選択した場合、SAP Ariba インスタンスで購入スイート用のプライマリデータレコードが作成または更新されます。
サプライヤー ID 購入者	購入スイートのサプライヤーに関する情報を表示します。アドミンは、ここでサプライヤーレコードを作成する必要があります。 インポートサプライヤー組織の購入者サンプルフローの [サプライヤー ID 購入者レコードの検索 (Look Up Supplier IDs Buyer Records)] アクションでは、これらのレコードを使用してフローを実行します。
サプライヤー ID の調達	調達スイートのサプライヤーに関する情報を表示します。アドミンは、ここでサプライヤーレコードを作成する必要があります。 インポートサプライヤー組織の調達サンプルフローの [サプライヤー ID 調達レコードの検索 (Look Up Supplier IDs Sourcing Records)] アクションでは、これらのレコードを使用してフローを実行します。
サプライヤー組織の購入者	購入スイートのサプライヤー組織に関する情報を表示します。アドミンは、ここでレコードを作成する必要があります。 インポートサプライヤー組織の購入者サンプルフローの [サプライヤー組織の購入者レコードの検索 (Look Up Supplier Organizations Buyer Records)] アクションでは、これらのレコードを使用してフローを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
サプライヤー組織の調達	調達スイートのサプライヤー組織に関する情報を表示します。アドミンは、ここでレコードを作成する必要があります。 インポートサプライヤー組織の調達サンプルフローの [サプライヤー組織調達レコードの検索 (Look Up Supplier Organizations Sourcing Records)] アクションでは、これらのレコードを使用してフローを実行します。

これらのスポークモジュールを介してアクセスされるデータは、次のテーブルに保存されます。

テーブル	説明
Ariba エクスポート構成定義 [sn_sap_ariba_spoke_ariba_file_definition]	エクスポート構成に関する情報を格納します。
Ariba インポート構成定義 [sn_sap_ariba_spoke_ariba_import_configuration_definition]	インポート構成に関する情報を格納します。
Ariba エクスポートタスク実行 [sn_sap_ariba_spoke_ariba_task_execution]	CSV ファイルを表示します。に関する情報を格納します。
サプライヤー組織調達 [sn_sap_ariba_spoke_import_supplier_organizations_csv]	のサプライヤー組織に関するを格納します。アドミンは、これらのレコードをサプライヤー組織調達モジュールで作成する必要があります。
サプライヤー ID の調達 [sn_sap_ariba_spoke_supplier_ids]	のサプライヤーに関するを格納します。アドミンは、これらのレコードをサプライヤー ID 調達モジュールで作成する必要があります。
サプライヤー ID 購入者 [sn_sap_ariba_spoke_supplier_ids_buyer]	のサプライヤーに関するを格納します。アドミンは、これらのレコードをサプライヤー ID 購入者モジュールで作成する必要があります。
サプライヤー組織の購入者 [sn_sap_ariba_spoke_supplier_organizations]	購入スイートのサプライヤー組織に関するを格納します。アドミンは、これらのレコードをサプライヤー組織購入者モジュールで作成する必要があります。

スポークのスケジュール設定済みスクリプトとシステムプロパティ

スケジュール設定済みスクリプト、*Ariba* エクスポートタスクスケジューラ、およびシステムプロパティ*sn_sap_ariba_spoke.ariba.export.task.scheduler*は、スポークと一緒に使用できます。システムプロパティでは、これよりも古いすべてのレコードが消去されるまでの日数を定義します。スクリプトでは、この値を使用して、データソースにコピーされていないレコードを消去します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- スケジュール設定済みスクリプトを表示するには、フィルターナビゲーターに `sysauto_script_list.do` と入力し、スクリプト *`Ariba`* エクスポートタスクスケジューラーを検索します。
- システムプロパティを表示するには、[システムのプロパティ] > [すべてのプロパティ]に移動して、システムのプロパティを検索します。*`sn_sap_ariba_spoke.ariba.export.task.scheduler`*

スケジュール設定済みスクリプトとシステムプロパティは、要件に応じて構成できます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

以下の接続および資格情報エイリアスレコードを、スポークとともに使用できます。

接続および資格情報エイリアス	関連するスポークアクションカテゴリ
SAP_Ariba_Import	インポート管理
SAP_Ariba_Export	エクスポート管理
SAP_Ariba_Sourcing	ソーシング管理
SAP_Ariba_Suppliers	サプライヤー管理 (SOAP ベース)
SAP Ariba SSH	SSH 管理
SAP Ariba REST 調達	調達管理 (REST ベース)
SAP Ariba REST 購入者	購入者管理
SAP Ariba REST ソーシング	ソーシング管理 (REST ベース)
SAP Ariba 調達エクスポート	調達エクスポート管理
SAP Ariba SOAP 受領書	受領書管理
SAP Ariba 調達インポート	調達インポート管理
SAP Ariba REST サプライヤー	サプライヤー管理 (REST ベース)
SAP Ariba 承認調達	承認調達管理
SAP Ariba 承認ソーシング	• 承認ソーシング管理 • 承認調達管理
SAP Ariba REST イベント	ソーシングイベント管理
SAP Ariba SOAP 要求	要求管理 (SOAP ベース)

スポークの設定については、「SAP Ariba スポークの設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。SAP Aribaエイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アク

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ションを実行する場所およびMID サーバー選択属性を設定します。MID サーバーでのアクションの実行の詳細については、「統合ステップ 」を参照してください。

注:

- [Ariba エクスポートタスクを実行]、[添付ファイルを SFTP サーバーにコピー]、および [ファイルを解凍して ServiceNow ターゲットテーブルにコピー] の各アクションを使用するには、MID サーバー を設定する必要があります。
- SSH 認証情報レコードの作成に必要な Linux サーバーは、MID サーバーがインストールされているのと同じネットワークのマシンまたは仮想マシンにインストールする必要があります。

SAP Ariba スポークの設定

SSH、基本認証および API キー認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと SAP Ariba を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SAP Ariba スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

アクションカテゴリのアクションを使用するために構成する必要がある接続および資格情報エイリアスレコードの詳細については、「接続および資格情報エイリアスの要件」を参照してください。

手順

1. **SAP_Ariba_Import** の接続および資格情報エイリアスレコードを構成します。

   a. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

   b. レコード **[SAP_Ariba_Import]** を開きます。

   c. [新しい接続および資格情報を作成] 関連リンクをクリックします。

   d. フォームに、これらの値を入力します。

   接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続情報を入力してください	
接続名	接続レコードを識別する名前です。例：`SAP Ariba Import Connection`
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL です。例：`https://s1.ariba.com`
領域値 (Realm value)	SAP Ariba インスタンスの領域
共有シークレット	共有シークレットベースの認証用に提供された統合パスワードです。詳細については、SAP ヘルプポータル の「共有シークレットベースの認証 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証情報を入力してください	
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。 例：`SAP Ariba Import Credential`
API キー	共有シークレットベースの認証用に提供された統合パスワードです。詳細については、SAP ヘルプポータル の「共有シークレットベースの認証 」を参照してください。

e. [作成] をクリックします。

2. **SAP_Ariba_Export** の接続および資格情報エイリアスレコードを構成します。

a. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. レコード **[SAP_Ariba_Export]** を開きます。

c. [新しい接続および資格情報を作成] 関連リンクをクリックします。

d. フォームに、これらの値を入力します。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続情報を入力してください	
接続名	接続レコードを識別する名前です。例：`SAP Ariba Export Connection`
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL です。例：`https://s1.ariba.com`
領域値 (Realm value)	SAP Ariba インスタンスの領域
認証情報を入力してください	
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。 例：`SAP Ariba Export Credential`
API キー	共有シークレットベースの認証用に提供された統合パスワードです。 詳細については、 SAP ヘルプポータル の「 マスタデータ統合のセキュリティ設定 」を参照してください。

e. [作成] をクリックします。

3. **SAP_Ariba_Sourcing** の接続および資格情報エイリアスレコードを構成します。

a. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. レコード **[SAP_Ariba_Sourcing]** を開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [新しい接続および資格情報を作成] 関連リンクをクリックします。

d. フォームに、これらの値を入力します。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続情報を入力してください	
接続名	接続レコードを識別する名前です。例：`SAP Ariba Sourcing Connection`
接続 URL	[管理] で受信エンドポイントの調達プロジェクトのインポートタスクの SOAP サービスを有効にしたときに作成されるデータ連携タスクの **[URL]** です。統合タスク **URL** と *targetNamespace* の詳細については、SAP ヘルプポータル の「統合タスクの有効化 」を参照してください。
ターゲット名前空間	[管理] で作成された WSDL ファイル内の *targetNamespace* パラメーターの値です。統合タスク **URL** と *targetNamespace* の詳細については、SAP ヘルプポータル の「統合タスクの有効化 」を参照してください。
認証情報を入力してください	
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。例：`SAP Ariba Sourcing Credential`
ユーザー名	SAP Ariba インスタンスにログインするためのユーザー名。
パスワード	[管理] で受信エンドポイントを作成したときに [HTTP 認証] で指定したログインパスワード。エンドポイントの作成の詳細については、SAP ヘルプポータル の「新規統合エンドポイントの作成 」を参照してください。

e. [作成] をクリックします。

4. **SAP_Ariba_Suppliers** の接続および資格情報エイリアスレコードを構成します。

a. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. レコード **[SAP_Ariba_Suppliers]** を開きます。

c. [新しい接続および資格情報を作成] 関連リンクをクリックします。

d. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続情報を入力してください	
接続名	接続レコードを識別する名前です。例：`SAP Ariba Suppliers Connection`
接続 URL	[管理] で受信エンドポイントの調達プロジェクトのインポートタスクの SOAP サービスを有効にしたときに作成されるデータ連携タスクの **[URL]** です。統合タスク **URL** と *`targetNamespace`* の詳細については、SAP ヘルプポータル の「統合タスクの有効化 」を参照してください。
ターゲット名前空間	[管理] で作成された WSDL ファイル内の *`targetNamespace`* パラメーターの値です。統合タスク **URL** と *`targetNamespace`* の詳細については、SAP ヘルプポータル の「統合タスクの有効化 」を参照してください。
認証情報を入力してください	
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。例：`SAP Ariba Sourcing Credential`
ユーザー名	SAP Ariba インスタンスにログインするためのユーザー名。
パスワード	[管理] で受信エンドポイントを作成したときに [HTTP 認証] で指定したログインパスワード。エンドポイントの作成の詳細については、SAP ヘルプポータル の「新規統合エンドポイントの作成 」を参照してください。

e. [作成] をクリックします。

5. SSH 認証情報レコードを作成します。

a. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. レコード **[SAP Ariba SSH]** を開きます。

c. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

d. **[SSH** 認証情報] を選択します。

e. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する名前です。例：`SAP Ariba SSH Credential`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ユーザー名	SFTP および SSH が設定されている Linux サーバーにログインするためのユーザー名。
パスワード	SFTP と SSH が設定されている Linux サーバーにログインするためのパスワード。

注: Linux サーバーは、MID サーバーがインストールされているのと同じネットワークのマシンまたは仮想マシンにインストールする必要があります。

f. [送信] をクリックします。

6. **SAP Ariba REST** 調達接続を設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。

b. [統合] タブをクリックします。

c. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。

d. **SAP Ariba REST** 調達接続を検索します。

e. [詳細を表示] をクリックします。

f. [接続を追加] をクリックします。

g. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL。例：`https://s1.ariba.com`。
API バージョン	SAP Ariba インスタンスの API バージョン。
領域値	SAP Ariba インスタンスの領域
API キー	共有シークレットベースの認証用に提供された統合パスワードです。 詳細については、 SAP ヘルプポータル の「マスタデータ統合のセキュリティ設定 」を参照してください。
認証情報	
OAuth クライアント ID	SAP Ariba インスタンスのクライアント ID。詳細については、SAP ヘルプポータル の「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーションのアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索) 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
OAuth クライアントシークレット	SAP Ariba インスタンスのクライアントシークレット。詳細については、SAP ヘルプポータル の「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーションのアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索)」を参照してください。

h. **[OAuth** トークンを作成して取得] をクリックします。

7. **SAP Ariba REST** 購入者接続を設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

b. [接続] タブをクリックします。

c. [送信] 接続を切り替えて有効にします。

d. **SAP Ariba REST** 購入者接続を検索します。

e. [詳細を表示] をクリックします。

f. [接続を追加] をクリックします。

g. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL。例：`https://s1.ariba.com`。
API バージョン	SAP Ariba インスタンスの API バージョン。
領域値	SAP Ariba インスタンスの領域
API キー	共有シークレットベースの認証用に提供された統合パスワードです。 詳細については、 SAP ヘルプポータル の「 マスタデータ統合のセキュリティ設定 」を参照してください。
Ariba ネットワーク ID	SAP Ariba ネットワークアカウントの一意の識別子。
認証情報	
OAuth クライアント ID	SAP Ariba インスタンスのクライアント ID。詳細については、SAP ヘルプポータル の「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	のアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索) 」を参照してください。
OAuth クライアントシークレット	SAP Ariba インスタンスのクライアントシークレット。詳細については、SAP ヘルプポータル の「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーションのアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索) 」を参照してください。

h. [OAuth トークンを作成して取得] をクリックします。

8. **SAP Ariba REST** ソーシング接続を設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

b. [接続] タブをクリックします。

c. [送信] 接続を切り替えて有効にします。

d. SAP Ariba REST ソーシング接続を検索します。

e. [詳細を表示] をクリックします。

f. [接続を追加] をクリックします。

g. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL。例：`https://s1.ariba.com`。
API バージョン	SAP Ariba インスタンスの API バージョン。
領域値	SAP Ariba インスタンスの領域
API キー	共有シークレットベースの認証用に提供された統合パスワードです。 詳細については、 SAP ヘルプポータル の「 マスタデータ統合のセキュリティ設定 」を参照してください。
認証情報	
OAuth クライアント ID	SAP Ariba インスタンスのクライアント ID。詳細については、SAP ヘルプポータル の「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	のアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索) 」を参照してください。
OAuth クライアントシークレット	SAP Ariba インスタンスのクライアントシークレット。詳細については、SAP ヘルプポータル の「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーションのアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索) 」を参照してください。

h. **[OAuth** トークンを作成して取得] をクリックします。

9. **SAP Ariba** 調達エクスポート接続を設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

b. [接続] タブをクリックします。

c. [送信] 接続を切り替えて有効にします。

d. **SAP Ariba** 調達エクスポート接続を検索します。

e. [詳細を表示] をクリックします。

f. [接続を追加] をクリックします。

g. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL。例：`https://s1.ariba.com`。
領域値	SAP Ariba インスタンスの領域
共有シークレット	共有シークレットベースの認証用に提供された統合パスワードです。詳細については、SAP ヘルプポータル の「共有シークレットベースの認証 」を参照してください。

h. [接続を作成] をクリックします。

10. **SAP Ariba SOAP** 受領書接続を設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

b. [接続] タブをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [送信] 接続を切り替えて有効にします。

d. **SAP Ariba SOAP** 受領書接続を検索します。

e. [詳細を表示] をクリックします。

f. [接続を追加] をクリックします。

g. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL。例：`https://s1.ariba.com`。
認証情報	
ユーザー名	SAP Ariba インスタンスにログインするためのユーザー名。
パスワード	[管理] で受信エンドポイントを作成したときに [HTTP 認証] で指定したログインパスワード。エンドポイントの作成の詳細については、SAP ヘルプポータル の「新規統合エンドポイントの作成 」を参照してください。

h. [接続を作成] をクリックします。

11. **SAP Ariba** 調達インポート接続を設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

b. [接続] タブをクリックします。

c. [送信] 接続を切り替えて有効にします。

d. **SAP Ariba** 調達インポート接続を検索します。

e. [詳細を表示] をクリックします。

f. [接続を追加] をクリックします。

g. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続情報	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL。例：`https://s1.ariba.com`。
領域	SAP Ariba インスタンスの領域
認証情報	
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。
ユーザー名	SAP Ariba インスタンスにログインするためのユーザー名。
パスワード	[管理] で受信エンドポイントを作成したときに [HTTP 認証] で指定したログインパスワード。エンドポイントの作成の詳細については、SAP ヘルプポータル の「新規統合エンドポイントの作成 」を参照してください。

h. [接続を作成] をクリックします。

12. SAP Ariba REST サプライヤー接続を設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

b. [接続] タブをクリックします。

c. [送信] 接続を切り替えて有効にします。

d. SAP Ariba REST サプライヤー接続を検索します。

e. [詳細を表示] をクリックします。

f. [接続を追加] をクリックします。

g. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL。例：`https://s1.ariba.com`。
API バージョン	SAP Ariba インスタンスの API バージョン。
領域値 (Realm value)	SAP Ariba インスタンスの領域
API キー	共有シークレットベースの認証用に提供された統合パスワードです。 詳細については、 SAP ヘルプポータル の「 マスタデータ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	統合のセキュリティ設定」を参照してください。
認証情報	
OAuth クライアント ID	SAP Ariba インスタンスのクライアント ID。詳細については、SAP ヘルプポータルの「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーションのアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索)」を参照してください。
OAuth クライアントシークレット	SAP Ariba インスタンスのクライアントシークレット。詳細については、SAP ヘルプポータルの「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーションのアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索)」を参照してください。

h. **[OAuth** トークンを作成して取得] をクリックします。

13. **SAP Ariba** 承認調達接続を設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

b. [接続] タブをクリックします。

c. [送信] 接続を切り替えて有効にします。

d. **SAP Ariba** 承認調達接続を検索します。

e. [詳細を表示] をクリックします。

f. [接続を追加] をクリックします。

g. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL。例：`https://openapi.ariba.com/`。
API バージョン	SAP Ariba インスタンスの API バージョン。
領域値 (Realm value)	SAP Ariba インスタンスの領域
API キー	共有シークレットベースの認証用に提供された統合パスワードです。 詳細については、 SAP ヘルプポータルの「 マスタデータ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	統合のセキュリティ設定」を参照してください。
認証情報	
OAuth クライアント ID	SAP Ariba インスタンスのクライアント ID。詳細については、SAP ヘルプポータルの「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーションのアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索)」を参照してください。
OAuth クライアントシークレット	SAP Ariba インスタンスのクライアントシークレット。詳細については、SAP ヘルプポータルの「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーションのアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索)」を参照してください。

h. [OAuth トークンを作成して取得] をクリックします。

14. SAP Ariba 承認ソーシング接続を設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

b. [接続] タブをクリックします。

c. [送信] 接続を切り替えて有効にします。

d. SAP Ariba 承認ソーシング接続を検索します。

e. [詳細を表示] をクリックします。

f. [接続を追加] をクリックします。

g. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL。例：`https://openapi.ariba.com/`。
API バージョン	SAP Ariba インスタンスの API バージョン。
領域値 (Realm value)	SAP Ariba インスタンスの領域
API キー	共有シークレットベースの認証用に提供された統合パスワードです。 詳細については、 SAP ヘルプポータルの「 マスタデータ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	統合のセキュリティ設定」を参照してください。
認証情報	
OAuth クライアント ID	SAP Ariba インスタンスのクライアント ID。詳細については、SAP ヘルプポータルの「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーションのアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索)」を参照してください。
OAuth クライアントシークレット	SAP Ariba インスタンスのクライアントシークレット。詳細については、SAP ヘルプポータルの「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーションのアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索)」を参照してください。

h. [OAuth トークンを作成して取得] をクリックします。

15. **SAP Ariba REST** イベント接続を設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

b. [接続] タブをクリックします。

c. [送信] 接続を切り替えて有効にします。

d. SAP Ariba REST イベント接続を検索します。

e. [詳細を表示] をクリックします。

f. [接続を追加] をクリックします。

g. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL。例：`https://openapi.ariba.com/`。
API バージョン	SAP Ariba インスタンスの API バージョン。
領域値 (Realm value)	SAP Ariba インスタンスの領域
API キー	共有シークレットベースの認証用に提供された統合パスワードです。 詳細については、 SAP ヘルプポータルの「 マスタデータ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	統合のセキュリティ設定」を参照してください。
認証情報	
OAuth クライアント ID	SAP Ariba インスタンスのクライアント ID。詳細については、SAP ヘルプポータルの「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーションのアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索)」を参照してください。
OAuth クライアントシークレット	SAP Ariba インスタンスのクライアントシークレット。詳細については、SAP ヘルプポータルの「Finding Your Application's Application Key and OAuth Client ID (アプリケーションのアプリケーションキーと OAuth クライアント ID の検索)」を参照してください。

h. [OAuth トークンを作成して取得] をクリックします。

16. SAP Ariba SOAP 要求接続を設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

b. [接続] タブをクリックします。

c. [送信] 接続を切り替えて有効にします。

d. SAP Ariba SOAP 要求接続を検索します。

e. [詳細を表示] をクリックします。

f. [接続を追加] をクリックします。

g. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前。
領域	SAP Ariba インスタンスの領域
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL。例：`https://example.ariba.com/Buyer/soap/sample/RequisitionImportPull`。
認証情報	
ユーザー名	SAP Ariba インスタンスにログインするためのユーザー名。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
パスワード	[管理] で受信エンドポイントを作成したときに [HTTP 認証] で指定したログインパスワード。エンドポイントの作成の詳細については、SAP ヘルプポータル の「新規統合エンドポイントの作成 」を参照してください。

h. [OAuth トークンを作成して取得] をクリックします。

17. **[SAP Ariba Rest Invoices (SAP Ariba REST** 請求書)] 接続を設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー]の順に移動します。

b. [接続] タブをクリックします。

c. [送信] 接続を切り替えて有効にします。

d. [SAP Ariba Rest Invoices (SAP Ariba REST 請求書)] 接続を検索します。

e. [詳細を表示] をクリックします。

f. [接続を追加] をクリックします。

g. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続情報	
接続名	接続レコードを識別する名前です。
Buyer Network ID (バイヤーネットワーク ID)	Ariba Network 内のバイヤーの組織に割り当てられた一意の識別子。
共有シークレット	Ariba Network と ServiceNow インスタンス間の統合を認証するために使用される一意のコードまたはキー。
ユーザーエージェント	Ariba Network へのアクセスに使用されるソフトウェアまたはアプリケーション。
接続 URL	SAP Ariba インスタンスに接続するためのベース URL。例：`https://example.ariba.com`

h. [OAuth トークンを作成して取得] をクリックします。

次のタスク

次のスポークモジュールで購入者とサプライヤーのレコードを作成します。

- サプライヤー ID 購入者
- サプライヤー ID の調達

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- サプライヤー組織の購入者
- サプライヤー組織の調達

サンプルフローのアクションには、これらのレコードが必要です。

SAP Commerce Cloud スポーク

SAP Commerce Cloud Spoke は、Bristlecone, Inc. によってビルドされています。選択された顧客の買い物かごの内容、注文の詳細、および注文履歴を取得します。

ストアでアプリを要求

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。2022 年 3 月 1 日以降、すべての SAP スポークはストアでのみ入手可能になります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークは、SAP Commerce クラウドバージョン: 2011.4-2011-20210310.1-32b1627-2011-spartacus (Major Version: 201) 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

SAP Commerce Cloud サブスクリプション。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート：データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークバージョン

SAP Commerce Cloud スポーク v1.1.0 が最新バージョンです。

スポークのアクション

SAP Commerce Cloud では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
注文管理	注文の詳細を検索	指定された注文の注文詳細を取得します。
	注文を検索	指定されたユーザー ID の注文履歴を取得します。
買い物かご	買い物かごを検索	指定されたユーザー ID の買い物かごの内容を取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 SAP Commerce Cloud スポークのセットアップ。

SAP Commerce Cloud スポークのセットアップ

ServiceNow インスタンスを SAP Commerce Cloud と統合して、SAP Commerce Cloud でのさまざまなアクションを自動化します。たとえば、毎日指定された時間に買い物かごを検索するフローを設定することができます。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SAP Commerce Cloud プラグインをインストールします。
- 必要なロール：admin
- SAP Backoffice アカウントにアクセスします。

SAP Commerce Cloud 認証情報の作成

SAP Commerce Cloud スポークの接続レコードの作成に使用する認証情報を生成します。ServiceNow インスタンスが、接続レコードを使用して SAP Commerce Cloud レコードに接続できるようにします。

始める前に

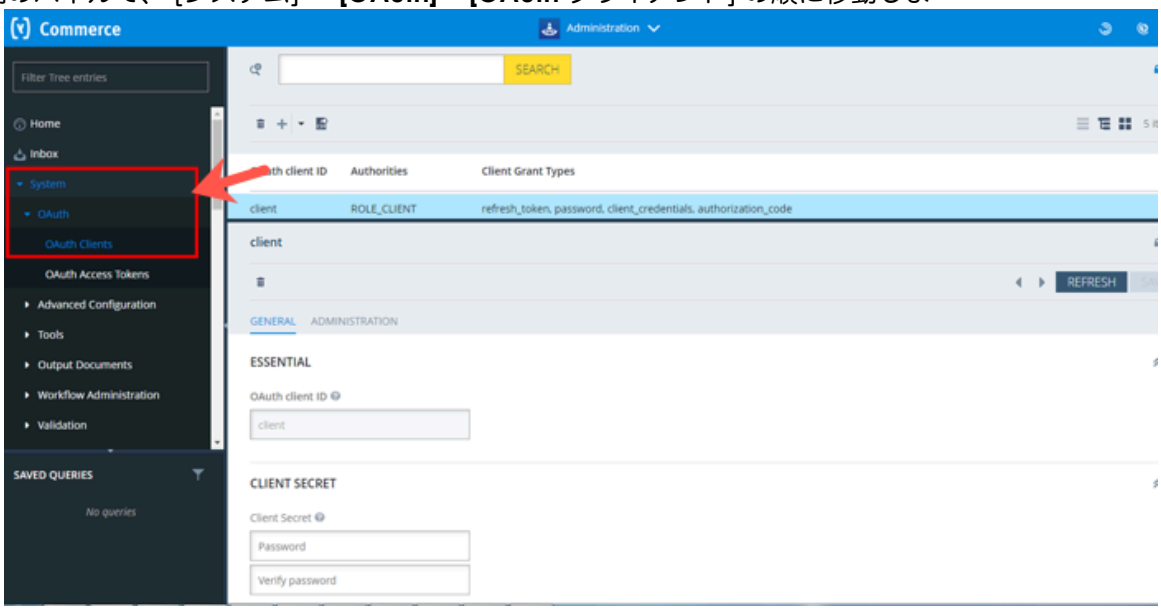
必要なロール：admin

SAP Backoffice アカウントにアクセスします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

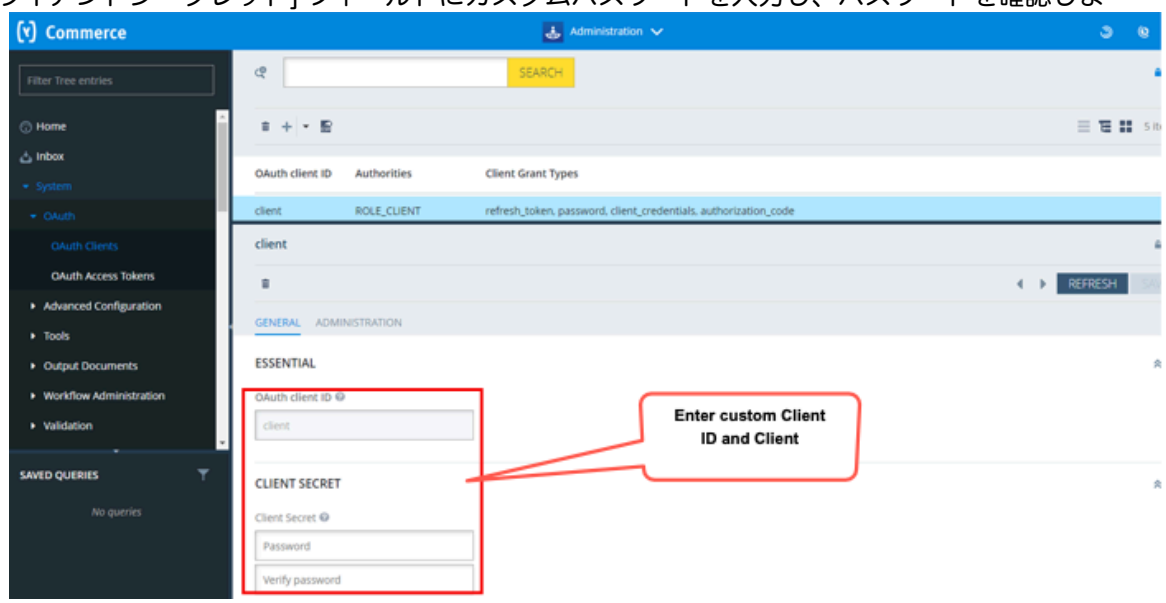
手順

1. SAP Backoffice アカウントにログインします。
2. 左側のパネルで、 [システム] > **[OAuth]** > **[OAuth** クライアント] の順に移動しま



す。

3. クライアント ID を作成するには、[クライアント ID の追加] アイコン ( ) を選択します。
4. [OAuth クライアント ID] にカスタムクライアント ID を入力します。
5. [クライアントシークレット] フィールドにカスタムパスワードを入力し、パスワードを確認しま



す。

6. [基本] で詳細を追加します。

   a. [権限 (Authorities)] で ROLE_CLIENT を追加します。

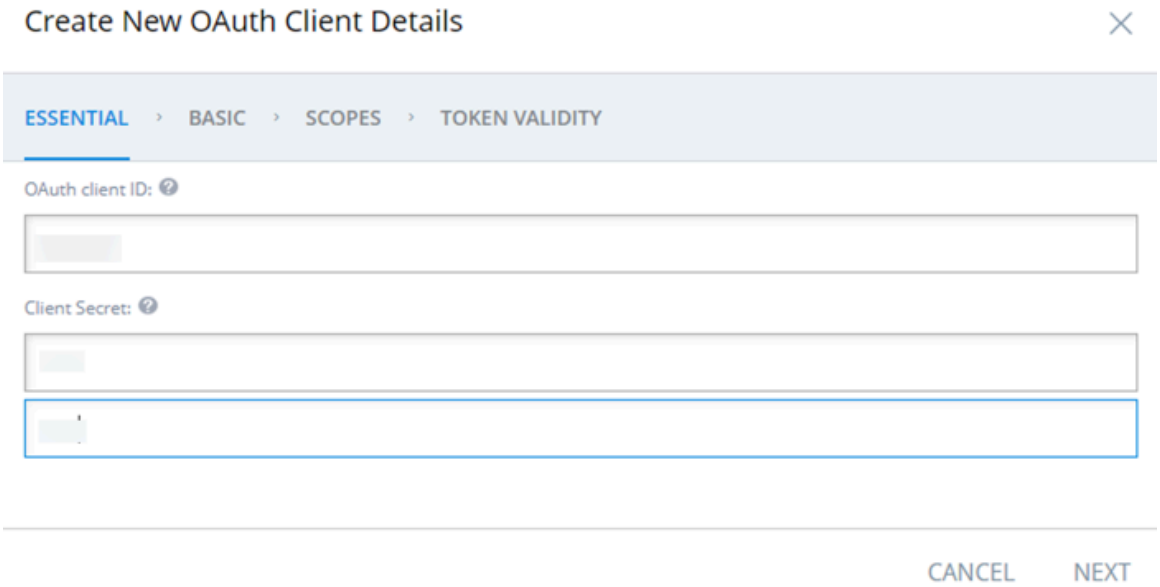
   b. [クライアント権限許可タイプ (Client Grant Types)] で、詳細を追加します。
      - client_credentials
      - refresh_token

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- password
- authorization_code

c. [スコープ] で、基本情報を追加します。

7. [新規 OAuth クライアントの詳細を作成 (Create New OAuth Client Details)] ウィンドウで、次の手順を実行しま



す。

a. [必須 (ESSENTIAL)] で、カスタム OAuth クライアント ID とクライアントシークレットを入力します。

b. [基本] で ROLE_CLIENT を追加し、[クライアント権限許可タイプ (Client Grant Types)] で値を追加します。

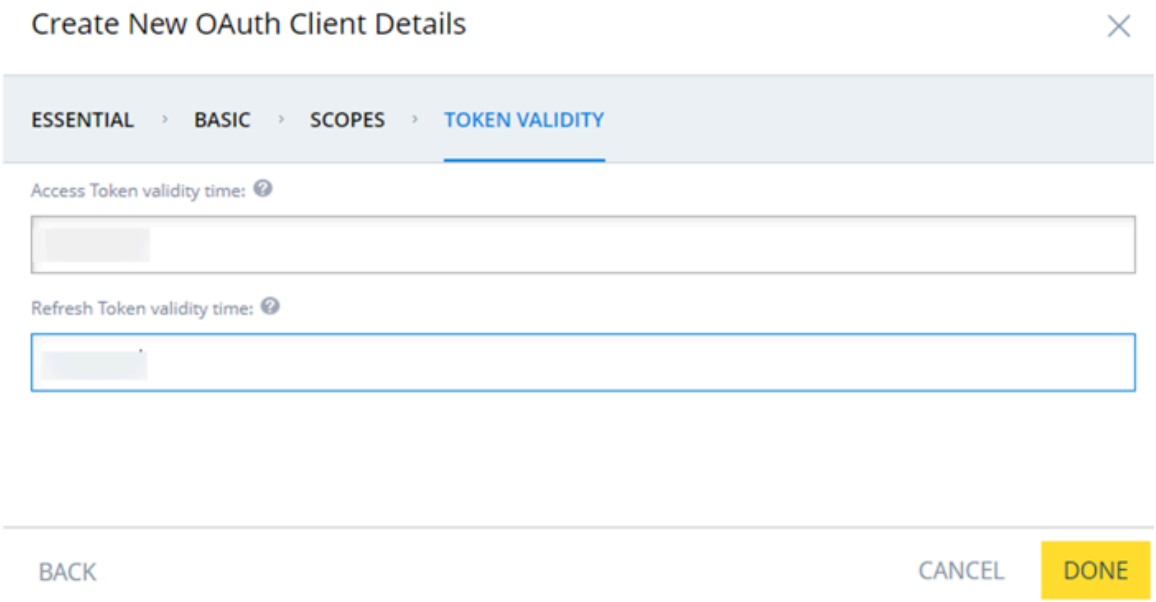
- client_credentials
- refresh_token
- password
- authorization_code

c. [スコープ] で、基本情報を入力して追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. [トークンの有効期間 (TOKEN VALIDITY)] に、SAP Commerce Cloud にアクセスするための トークンの有効期間を入力します。

e. [完了] を選択しま



す。

SAP Commerce Cloud 接続レコードを作成するための認証情報が作成されます。

SAP Commerce Cloud スポークの接続レコードの作成

接続レコードを作成し、ServiceNow インスタンスが SAP Commerce Cloud レコードに接続できるようにします。接続レコードには、SAP Commerce Cloud との統合に必要な基礎となる接続情報が含まれています。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] を選択します。
3. [送信] タブをオンにします。
4. [すべての接続を検索] フィールドに「`SAP Commerce Cloud`」と入力します。
5. SAPCommerceCloud カードで、[詳細を表示] を選択します。
6. [構成] を選択します。
7. フォームに入力します。

接続を設定

フィールド	説明
接続名	接続レコードの名前。最初の接続レコードのデフォルトの読み取り専用名は、SAPCommerceCloud です。接続レコードにカスタム名を付けるには、[接続を追加] を

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	選択し、接続レコードを作成する必要があります。
接続 URL	ServiceNow インスタンスが SAP Commerce Cloud への接続に使用する URL。
OAuth クライアント ID	SAP Backoffice アカウントで生成したクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	SAP Backoffice アカウントで生成したクライアントシークレット。
OAuth リダイレクト URL	ServiceNow インスタンスの URL は、`https://<instance-name>.service-now.com/oauth-redirect.do` の形式です。
OAuth トークン URL	URL の形式：`https://<instance-name>/authorizationserver/oauth/token`。

8. **[OAuth** トークンを作成して取得] を選択します。
   OAuth トークンが生成され、ServiceNow は SAP Commerce Cloud に接続されます。

SAP Commerce Cloud の認証情報レコードを作成

SAP Commerce Cloud でカスタム OAuth アプリケーションを作成してServiceNowインスタンスと SAP Commerce Cloud Spoke をデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションを要求します。
- SAP Commerce Cloud を有効にします。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、SAP Commerce Cloud cred Cred です。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
OAuth エンティティプロファイル	SAP Commerce Cloud を OAuth プロバイダーとして登録する際に作成される OAuth プロファイルです。たとえば、SAP Commerce Cloud default_profile OAuth プロファイルです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
適用先	認証情報がネットワークのすべてのMID サーバーに適用されるか、または 1 つ以上の特定の **MID** サーバーに適用されるかを指定するオプションです。**[MID** サーバー] フィールドでこの認証情報を使用する MID サーバーを指定します。
順番	この認証情報を適用する順番です。たとえば、`100` です。
認証情報エイリアス	スポークに関連付けられた認証情報エイリアスです。

SAP Commerce Cloud の接続レコードを作成

SAP Commerce Cloud アカウントの接続レコードを作成します。SAP Commerce Cloud の接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して SAP Commerce Cloud でアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. SAP Commerce Cloud のエイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例を次に示します。 `SAP Commerce Cloud 接続`
認証情報	SAP Commerce Cloud Spoke 用に作成された認証情報レコードです。 たとえば、`SAP Commerce Cloud Cred` です。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
ホスト	SAP Commerce Cloud サーバーがインストールされているターゲットホストの IP アドレスです。
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	接続で使用されるターゲット ポート。空白の場合は、デフォルトのポートが使用されます。

5. [送信] をクリックします。

SAP Concur スポーク

SAP Concur スポークは、Bristlecone, Inc. によってビルドされています。ServiceNow インスタンスから SAP Concur アカウントの経費、支払い、購入、ユーザー、出張などを管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。2022 年 3 月 1 日以降、すべての SAP スポークはストアでのみ入手可能になります。

統合ハブサブスクリプション

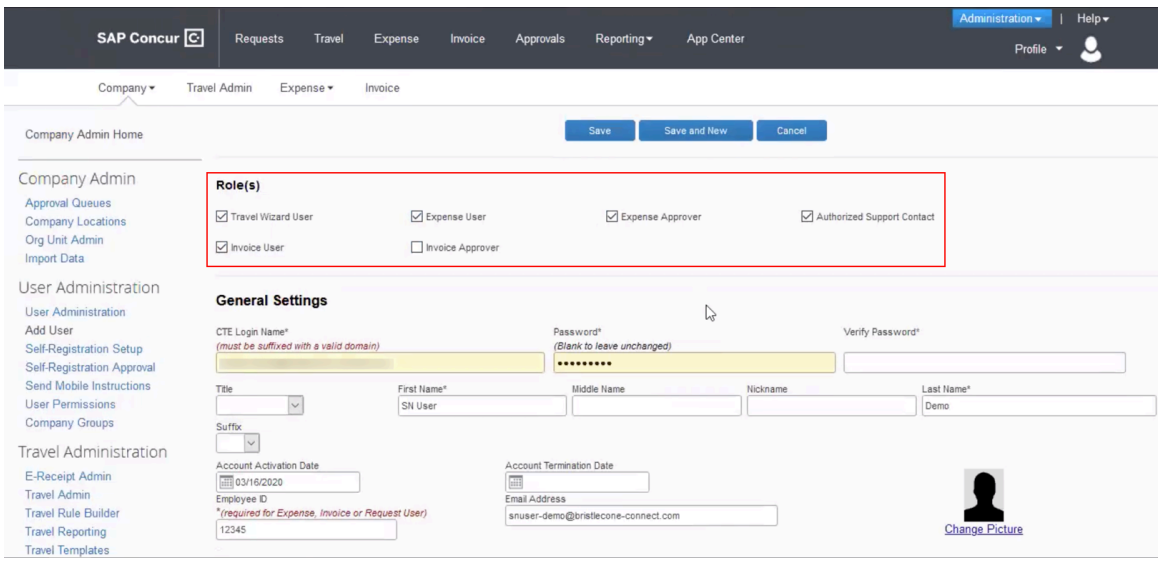
このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

SAP Concur スポーク v2.1.2 が最新バージョンです。

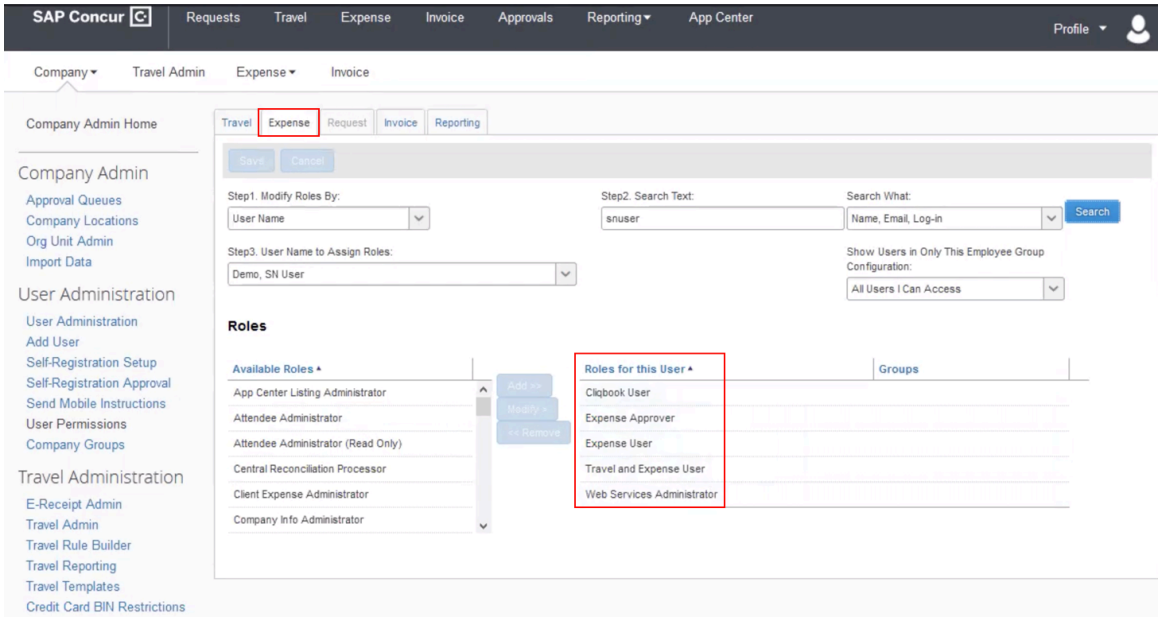
スポークの要件

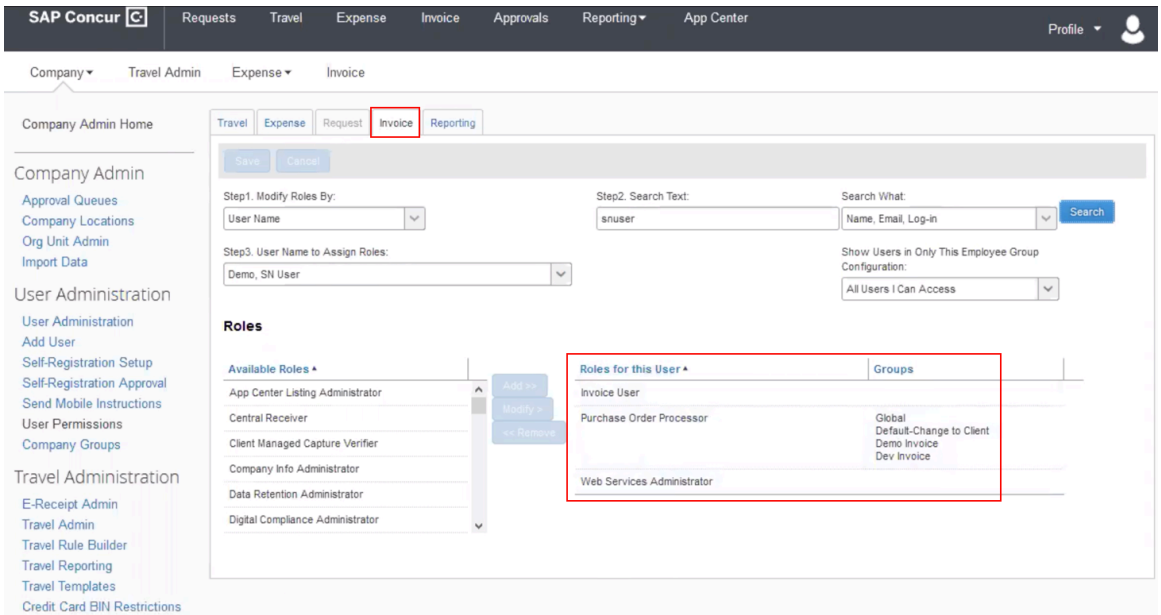
- 次のロールを持つ SAP ConcurAPI ユーザー：
  - 出張ウィザードユーザー
  - 経費ユーザー
  - 経費承認者
  - 認定サポート担当者
  - 請求書ユーザー



- 次の経費 API および請求書ユーザーの権限を持つ SAP ConcurAPI ユーザー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。





- SAP Concur 実装チームに連絡し、クライアント ID、クライアントシークレット、会社 ID、会社要求トークンの各値を取得し、クライアントアプリケーションのスコープを定義します。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- リモートテーブル (com.glide.script.vtable)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

SAP Concur Spoke では、変更されたすべての経費レポートを取得するサンプルフローが提供され、経費レポート最終変更日から 24 時間以内に変更された経費レポートを取得するデモが示されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのサブフロー

SAP Concur Spoke では、経費レポートワークフローのステップ ID を取得するサンプルサブフローが提供され、指定された経費レポートが送信されたかどうかに基づいて、経費レポートのワークフローステップ ID を取得するデモが示されます。経費レポートのワークフローアクションを実行するには、出力ワークフローステップ ID が必要です。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのアクション

SAP Concur Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
経費構成管理	経費グループ構成を取得	指定されたユーザーのすべての経費グループ構成を取得します。
経費エントリ管理	経費エントリを作成	指定されたユーザーの新しい経費エントリを作成します。
	経費エントリを削除	指定された経費エントリを削除します。
	経費エントリの詳細を取得	指定された経費エントリの詳細を取得します。
	経費エントリを検索	ユーザーが所有するすべての経費エントリを取得します。
	経費箇条書きストリームを検索	ユーザーが所有するすべての経費箇条書きを取得します。
	経費エントリを更新	指定された経費エントリの詳細を更新します。
経費レポート管理	経費レポートを作成	指定されたデータを使用して経費レポートを作成します。
	経費レポートのワークフローアクションを実行	経費レポートのワークフローステップ ID を使用して、経費レポートのワークフローアクションを実行します。 **注:** アクション入力の 1 つはワークフローステップ ID です。経費レポートのワークフローステップ ID を取得するデフォルトのサブフローを使用して、必要なワークフローステップ ID 値を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	経費レポートの詳細を取得	指定された経費レポートの詳細を取得します。
	コメントを検索	指定されたレポートヘッダーと経費レポート内の特定の経費からコメントを取得します。
	経費レポートを検索	検索条件に基づいて、ユーザーが所有するすべての経費レポートを取得します。
	最終変更日後の経費レポートを検索	指定されたレポート最終変更日から 24 時間以内に変更されたレポートを取得します。
	経費レポートを送信	指定されたレポートの経費レポートを送信します。
	経費レポートを更新	指定された経費レポートの詳細を更新します。
旅程管理	出張 ID で旅程を検索	必要な出張に関する情報を取得します。
支払い要求管理	支払い要求を作成	品目や関連割り当てなどのすべての関連詳細を含む支払い要求を作成します。
	支払い要求の詳細を取得	指定された支払い要求について、支払い要求ヘッダー、支払い要求品目、支払い要求割り当てなどの詳細を取得します。
	支払い要求を更新	品目や関連割り当てなど、指定された支払い要求の詳細を更新します。
発注書管理	発注書を作成	SAP Concurで発注書を作成します。
	発注書 (PO) の詳細を取得	指定された発注書 (PO) に関する情報を取得します。
	発注書を更新	指定された発注書 (PO) の詳細を更新します。
受領書管理	経費エントリの受領書イメージ URL を取得	指定された経費エントリの経費エントリ受領書イメージ URL を取得します。
	経費レポートの受領書イメージ URL を取得	指定された経費レポートの経費レポート受領書イメージ URL を取得します。
	経費レポートの受領書イメージを投稿	指定された経費レポートの受領書イメージを作成します。
ユーザー管理	ユーザーの詳細を取得	指定されたユーザーの詳細を取得します。 **注:** このアクションを使用すると、経費ユーザーのみの詳細が取得されます。
	ユーザーを検索	指定された検索基準に基づいて、要求されたユーザーの詳細を取得します。
	ユーザーストリームを検索	指定された会社のすべてのユーザーの詳細を取得します。フィルター操作を使用して、必要なユーザーの ID 情報の取得に使用することもできます。
Webhook 管理	Webhook サブスクリプションを作成	指定されたエンドポイントを使用して、選択されたトピックのサブスクリプションを SAP Concur に作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークモジュール

SAP Concur Spoke は SAP ConcurSpoke アプリケーションをインスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

モジュール	説明
SAP Concur 経費エントリ	経費エントリの詳細を表示します。SAP Concur スポークのセットアップおよび SAP Concur ユーザーマッピングモジュールでのユーザーのマッピングの後、経費エントリの詳細が取得され、このモジュールに入力されます。
SAP Concur 経費レポートの詳細	経費レポートの詳細を表示します。データを取得して入力するための要件に従って、すべての変更済み経費レポートを取得するデフォルトフローを構成します。
SAP Concur 経費レポート最終変更日	フローが実行された、またはレポートがフィルタリングされた最新のタイムスタンプまたは最終変更日を表示します。データを取得して入力するための要件に従って、すべての変更済み経費レポートを取得するデフォルトフローを構成します。
SAP Concur 経費レポート	経費レポートを表示します。SAP Concur スポークのセットアップの設定およびユーザーのマッピングの後、経費レポートの詳細が取得され、このモジュールに入力されます。
SAP Concur ユーザーマッピング	ServiceNowユーザーを SAP Concurの対応するユーザー ID にマッピングします。

スポークユーザーロール

SAP Concur Spoke では、データへのアクセスを制御するために次のユーザーロールが提供されます。

ユーザーロール	説明
sn_sap_concur_spok.SAP Concur Spoke アドミン	このロールを持つユーザーは、すべての操作を実行できます。
sn_sap_concur_spok.SAP Concur 経費エントリユーザー	このロールを持つユーザーは、SAP Concur 経費エントリモジュールで利用可能なデータのみを表示できます。
sn_sap_concur_spok.SAP Concur 経費レポートユーザー	このロールを持つユーザーは、SAP Concur 経費レポートモジュールで利用可能なデータのみを表示できます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 SAP Concur スポークのセットアップ。

SAP Concur スポークの構成

SAP Concur スポークを構成し、ServiceNow のインスタンスを SAP Concur と統合できるようにします。統合後は、SAP Concur でフローを作成してアクションを自動化できます。たとえば、フ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ローを作成して、トリガーが発生したときには、旅行 ID に基づいて旅程の詳細を取得できるようにします。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SAP Concur スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin。

手順

1. SAP Concur Event Subscription Service エイリアスを設定します。

   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー]の順に移動します。

   b. [接続] を選択します。

   c. [送信] タブをオンにします。

   d. [すべての接続を検索] フィールドに「`SAP Concur`」と入力します。

   e. SAP Concur Event Subscription Service カードで、[詳細を表示] を選択します。

   f. [設定] を選択します。

   g. フォームに入力します。

   接続を設定

フィールド	説明
名前	接続レコードの名前。最初の接続レコードのデフォルトの読み取り専用名は、SAP Concur Event Subscription Service です。カスタム名を付けたレコードを作成するには、[接続を追加] を選択します。
接続 URL	SAP Concur API に接続する URL の形式は `https://www-{region}.api.concursolutions.com` です。
バージョン	API バージョン。
トークン URL	OAuth トークンを取得するためのトークン URL の形式は `https://{region}.api.concursolutions.com/oauth2/v0/token` です。
クライアント ID	SAP Concur で生成されたクライアント ID。 **注:** クライアント ID がない場合は、SAP Concur SME にお問い合わせください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
クライアント シークレット	SAP Concur で生成されたクライアントシークレット。 注: クライアントシークレットがない場合は、SAP Concur SME にお問い合わせください。

h. **[OAuth トークンを設定して取得 (Configure and get OAuth Token)]** を選択します。
OAuth トークンが生成され、SAP Concur Event Subscription Service エイリアスの接続レコードが作成されます。

2. SAP Concur v4 APIs エイリアスを設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー]の順に移動します。

b. [接続] を選択します。

c. [送信] タブをオンにします。

d. [すべての接続を検索] フィールドに「`SAP Concur`」と入力します。

e. SAP Concur v4 API カードで、[詳細を表示] を選択します。

f. [設定] を選択します。

g. フォームに入力します。

接続を設定

フィールド	説明
名前	接続レコードの名前。最初の接続レコードのデフォルトの読み取り専用名は、SAP Concur v4 APIs です。カスタム名を付けたレコードを作成するには、[接続を追加] を選択します。
接続 URL	SAP Concur API に接続する URL の形式は `https://{region}.api.concursolutions.com` です。
バージョン	API バージョン。
トークン URL	OAuth トークンを取得するためのトークン URL の形式は `https://{region}.api.concursolutions.com/oauth2/v0/token` です。
クライアント ID	SAP Concur で生成されたクライアント ID。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: クライアント ID がない場合は、SAP Concur SME にお問い合わせください。
クライアント シークレット	SAP Concur で生成されたクライアントシークレット。 注: クライアントシークレットがない場合は、SAP Concur SME にお問い合わせください。

h. **[OAuth トークンを設定して取得 (Configure and get OAuth Token)]** を選択します。
OAuth トークンが生成され、SAP Concur v4 API エイリアスの接続レコードが作成されます。

3. SAP Concur エイリアスを設定します。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー]の順に移動します。

b. [接続] を選択します。

c. [送信] タブをオンにします。

d. [すべての接続を検索] フィールドに「`SAP Concur`」と入力します。

e. SAP Concur カードで、[詳細を表示] を選択します。

f. [設定] を選択します。

g. フォームに入力します。

接続を設定

フィールド	説明
名前	接続レコードの名前。最初の接続レコードのデフォルトの読み取り専用名は、SAPConcur です。カスタム名を付けたレコードを作成するには、[接続を追加] を選択します。
接続 URL	SAP Concur API に接続する URL の形式は `https://{region}.api.concursolutions.com` です。
トークン URL	OAuth トークンを取得するためのトークン URL の形式は `https://{region}.api.concursolutions.com/oauth2/v0/token` です。
クライアント ID	SAP Concur で生成されたクライアント ID。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: クライアント ID がない場合は、SAP Concur SME にお問い合わせください。
クライアント シークレット	SAP Concur で生成されたクライアントシークレット。 注: クライアントシークレットがない場合は、SAP Concur SME にお問い合わせください。
OAuth リダイレクト URL	OAuth リダイレクト URL の形式は `https://<instancename>.service-now.com/oauth-redirect.do` です。

h. **[OAuth** トークンを設定して取得 **(Configure and get OAuth Token)]** を選択します。
OAuth トークンが生成され、SAPConcur エイリアスの接続レコードが作成されます。

SAP Concur スポークのセットアップ

SAP Concur でカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと SAP Concur を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SAP Concur スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. OAuth プロバイダーとして SAP Concur を登録します。

   a. [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ] へ移動します。

   b. [新規] をクリックします。
   「どのような **OAuth** アプリケーションですか？」というメッセージが表示されます。

   c. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択します。
   空のアプリケーション登録フォームが表示されます。

   d. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	アプリケーションレジストリを一意に識別する名前です。たとえば、`SAP Concur OAuth` です。
クライアント ID	SAP Concur クライアントアプリケーションのクライアント ID です。この値を取得するに

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	は、 SAP Concur 実装チームにお問い合わせください。
クライアント シークレット	SAP Concur クライアントアプリケーションのクライアントシークレットです。この値を取得するには、 SAP Concur 実装チームにお問い合わせください。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可タイプです。[リソース所有者のパスワード認証情報] を選択します。
トークン URL	ServiceNow インスタンスがアクセストークンを取得する URL です。トークン URL のフォーマットは、`https://<host-name>/oauth2/v0/token` です。ここでは、ホスト名は SAP Concur がインストールされているターゲットホストの完全修飾ドメイン名です。
リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイントのフォーマット：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do`

e. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

- OAuth 認証情報が検証され、[リダイレクト **URL]** に情報が入力されます。
- **[OAuth** エンティティプロファイル] に [リソース所有者のパスワード認証情報] として [権限許可タイプ] が入力されます。たとえば、**[OAuth** エンティティプロファイル] が、デフォルトの [名前]、**[SAPConcur]** で作成されます。

2. SAP Concur スポークの認証情報レコードを作成します。

a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

b. [新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

c. [OAuth 2.0 認証情報] を選択します。

d. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`SAP Concur Cred` を入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
OAuth エンティティ プロファイル	カスタム SAP Concur アプリケーションを OAuth プロバイダーとして登録したときに作成した OAuth プロファイルです。たとえば、 **SAPConcur** を選択します。
適用先	この認証情報を使用できる MID サーバーを選択します。たとえば、[すべての **MID** サーバー] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
順番	この認証情報を適用する順番を選択します。たとえば、「`100`」と入力します。

e. レコードを保存します。

3. SAP Concur スポークの接続レコードを作成します。

a. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. レコードの **[SAPConcur]** を開きます。

c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。

d. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前です。たとえば、`SAP Concur 接続`を入力します。
認証情報	SAP Concur のために作成された認証情報レコードです。たとえば、**[SAP Concur Cred]** を選択します。
接続 URL	SAP Concur に接続するための接続 URL を次のフォーマットで入力します：`<Host>/api`
ホスト	SAP Concur がインストールされているターゲットホストの完全修飾ドメイン名です。たとえば、`us.api.concursolutions.com` や `eu.api.concursolutions.com` です。
プロトコル	`https`
ベースパス	`/api`

e. [送信] をクリックします。

4. SAP Concur API ユーザー認証情報を指定して、OAuth トークンを生成します。

a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

b. 作成された認証情報レコードを開きます。
たとえば、**[SAP Concur Cred]** です。

c. **[OAuth** トークンの取得] 関連リンクをクリックし、 SAP Concur API ユーザー認証情報を指定して OAuth トークンを生成します。

5. **[SAP Concur Event Subscription Service]** 接続を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

b. [接続] タブをクリックします。

c. **[SAP Concur Event Subscription Service]** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

d. スポークを初めて設定する場合は、[設定] を選択するか、または [編集] をクリックします。

e. [接続] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	接続エイリアスレコードの名前です。
接続 URL	接続 URL の形式は `https://www-<Region>.api.concursolutions.com` です。 `<Region>` を適切な SAP Concur リージョンに置き換えます。
バージョン	「`v4`」と入力します。
トークン URL	トークン URL の形式は `https://<Region>.api.concursolutions.com/oauth2/v0/token` です。 `<Region>` を適切な SAP Concur リージョンに置き換えます。
クライアント ID	SAP Concur クライアントアプリケーションのクライアント ID です。この値を取得するには、 SAP Concur 実装チームにお問い合わせください。
クライアント シークレット	SAP Concur クライアントアプリケーションのクライアントシークレットです。この値を取得するには、 SAP Concur 実装チームにお問い合わせください。

f. **[OAuth** トークンを作成して取得] をクリックします。

OAuth トークンが正常に生成された旨の確認メッセージが表示されます。

6. **[SAP Concur v4 APIs]** 接続を設定します。

a. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

b. [接続] タブをクリックします。

c. **[SAP Concur v4 APIs]** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

d. [編集] をクリックするか、スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. [接続] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	接続エイリアスレコードの名前です。
接続 URL	接続 URL の形式は `https://<Region>.api.concursolutions.com` です。 `<Region>` を適切な SAP Concur リージョンに置き換えます。
バージョン	「`v4`」と入力します。
トークン URL	トークン URL の形式は `https://<Region>.api.concursolutions.com/oauth2/v0/token` です。 `<Region>` を適切な SAP Concur リージョンに置き換えます。
クライアント ID	SAP Concur クライアントアプリケーションのクライアント ID です。この値を取得するには、 SAP Concur 実装チームにお問い合わせください。
クライアント シークレット	SAP Concur クライアントアプリケーションのクライアントシークレットです。この値を取得するには、 SAP Concur 実装チームにお問い合わせください。

f. **[OAuth** トークンを作成して取得] をクリックします。
新しいウィンドウでは、[ユーザー名] と [パスワード] の入力を求められます。

g. [ユーザー名] には SAP Concur インスタンスの会社 ID を入力し、[パスワード] には会社要求トークンの値を入力します。

> 注: SAP Concur 実装チームに連絡し、会社 ID と会社要求トークンの値を入手してください。

h. **[OAuth** トークンを取得 **(Get OAuth Token)]** をクリックします。

7. SAP Concur ユーザーマッピングモジュールで、 SAP Concur ユーザーを ServiceNow ユーザーにマッピングします。

a. **[SAP Concur Spoke]** > **[SAP Concur** ユーザーマッピング]に移動します。

b. [新規] をクリックします。

c. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ServiceNow ユーザー	ユーザー [sys_user] テーブルのユーザーレコードへの参照です。
SAP Concur ユーザー ID	SAP Concur で必要なユーザーのユーザー ID です。

d. [送信] をクリックします。

注: ユーザーが SAP Concur ユーザーマッピングモジュールの対応する SAP Concur ユーザー ID にマッピングされることなく SAP Concur 経費エントリモジュールのデータにアクセスしようとすると、このエラーメッセージが表示されます。ユーザー名がアドミンのユーザーは存在しません。

ServiceNow ユーザーを SAP Concur の対応するユーザー ID にマッピングし、SAP Concur 経費エントリモジュールのデータにアクセスします。

- SAP Concur スポークが設定されます。
- データが取得され、 SAP Concur経費エントリモジュールおよび SAP Concur経費レポートモジュールに表示されます。

SAP ECC IDoc スポーク

SAP ECC IDoc Spoke は、Bristlecone, Inc. によってビルドされています。ServiceNow インスタンスから SAP ECC IDoc アカウントのファイナンス、アイテム、および調達を管理します。

ストアでアプリを要求

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。2022 年 3 月 1 日以降、すべての SAP スポークはストアでのみ入手可能になります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

SAP ECC IDoc スポーク v1.5.0 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは、次のSAP ECC IDocバージョン用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

- SAP アプリケーションバージョン：SAP ECC6 (スポークは EHp8 で開発されています。)
- NetWeaver バージョン：SAP NW 7.5
- SAP JCo：3.0.20

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

- SAP ECC IDocアカウントのアドミンに連絡し、次の SAP 独自の JAR ファイルおよびその他の必要なファイルを入手します。
  - `sapidoc3.jar` および `sapjco3.jar`
  - `libsapjco3.so`：MID サーバーがLinuxマシンにインストールされている場合は、このファイルを取得してください。
  - `sapjco3.dll`：MID サーバーがWindowsマシンにインストールされている場合は、このファイルを取得してください。

  JAR ファイル `sapConnector-1.0.1.jar` は、SAP ECC IDocアカウントとServiceNowインスタンス間のカスタムインターフェイスを提供するためにスポークとともに提供されています。JAR ファイルは、ServiceNowインスタンスのスポークの一部としてインストールされます。
- SAP ECC IDocサーバーがインストールされているターゲットホストのクライアント値をコピーして記録します。
- スポークのアップグレード時に、SAP ECC RFC とともにこのスポークを使用している場合、必ず両方のスポークをアップグレードします。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- フローデザイナーアクションステップ - MID のスクリプト (com.glide.hub.action_step.script_mid)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

SAP ECC IDoc Spoke では、ServiceNowインスタンスでSAP ECC IDocイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
経理	固定資産を作成	SAP ECC IDocアカウントに固定資産を作成します。
	GL アカウントを作成	SAP ECC IDocアカウントに GL アカウントを作成します。
	請求書を作成	SAP ECC IDocアカウントに請求書を作成します。
	ジャーナルエントリを投稿	SAP ECC IDocアカウントでジャーナルエントリを投稿します。
	固定資産を更新	SAP ECC IDocアカウントで固定資産の詳細を更新します。
	GL アカウントを更新	SAP ECC IDocアカウントで指定された GL アカウントの詳細を更新します。
アイテム	資料を作成	SAP ECC IDocアカウントに資料 (アイテム) を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	資料を更新	SAP ECC IDocアカウントで指定された資料 (アイテム) の詳細を更新します。
調達	物品受領書を作成	SAP ECC IDocアカウントで物品受領書を作成します。
	発注書を作成	SAP ECC IDocアカウントで発注書を作成します。
	ベンダーを作成	SAP ECC IDocアカウントでベンダーを作成します。
	発注書を更新	SAP ECC IDocアカウントで指定された発注書 (PO) の詳細を更新します。
顧客	顧客を作成	SAP ECC IDocで顧客アカウントを作成します。
	顧客を更新	SAP ECC IDocで要求された顧客アカウントの詳細を更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは、リモートファンクションコール (RFC) プロトコル (SAP 独自のプロトコル - SAP 標準インターフェイス) を使用し、インスタンスまたは MID サーバーで実行できる、Application Link Enabling (ALE) フレームワークを活用します。SAP ECC IDoc エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー選択属性を設定します。MID サーバーでのアクションの実行の詳細については、「統合ステップ」を参照してください。

SAP ECC IDoc Spoke を設定

基本認証情報を使用してServiceNowインスタンスとSAP ECC IDocスポークをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SAP ECC IDoc スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

SAP ECC IDocスポークのMID サーバーを構成

SAP 独自の JAR ファイルを使用してMID サーバーを構成し、SAP ECC IDocアカウントをServiceNow®インスタンスとデータ連携します。

始める前に

必要なロール：admin

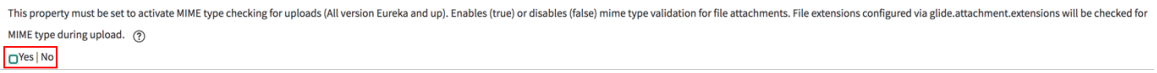
手順

1. オプション: [すべて] > [システムプロパティ] > [セキュリティ]に移動します。

   注: これは、MID サーバーがLinuxマシンにインストールされている場合にのみ適用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. オプション: 添付ファイルに対する MIME タイプの妥当性確認を無効化します。



> **注:** これは、MID サーバーが Linux マシンにインストールされている場合にのみ当てはまります。

3. **[MID** サーバー] > **[JAR** ファイル]に移動します。
4. SAP ECC IDocアドミニストレーターに連絡して取得した必要な SAP 独自のファイル (JAR、SO、または DLL) をアップロードします。
詳細については、「JAR ファイルを MID サーバーと同期させる」を参照してください。

次のタスク

ファイルが `<MID-Server-root-directory>/agent/extlib` ディレクトリーで同期されていることを確認します。ファイルが同期されていない場合は、MID サーバーを再起動します。

SAP ECC IDoc Spoke の認証情報レコードを作成

SAP ECC IDocアカウント用の認証情報レコードを作成します。SAP ECC IDoc Spoke の接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. [基本認証情報] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

ベーシック認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`SAP ECC IDoc Cred` です。
ユーザー名	にログインするためのユーザー名 SAP ECC IDocアカウント
パスワード	SAP ECC IDocアカウントを認証してログインするためのパスワードです。
有効	認証情報レコードをアクティブに使用するオプション。
順番	この認証情報を適用する順番です。たとえば、`100` です。
認証情報エイリアス	スポークに関連付けられた認証情報エイリアスです。

5. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SAP ECC IDoc Spoke の接続レコードを作成

SAP ECC IDoc アカウントの接続レコードを作成します。SAP ECC IDoc Spoke の接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してSAP ECC IDocでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. SAP ECC IDocのエイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例を次に示します。 `SAP ECC IDoc` 接続
認証情報	SAP ECC IDoc Spoke の認証情報レコードです。 たとえば、`SAP ECC IDoc Cred` です。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
ホスト	SAP ECC IDocサーバーがインストールされるターゲットホストの完全修飾ドメイン名です。
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	接続で使用されるターゲット ポート。空白の場合は、デフォルトのポートが使用されます。
MID サーバーを使用	この接続に MID サーバー を使用するオプション。チェックボックスを選択し、**[MID** サーバー詳細構成] タブでフィールドを定義します。

5. **[MID** サーバー詳細設定] タブで、次の詳細を入力します。

フィールド	説明
できること	選択対象となるためにMID サーバーがサポートする必要がある機能です。選択した機能をサポートする MID サーバーからアクションまたはアクティビティが実行されます。 必要な機能によって、実行時にどの MID サーバーが選択されるかが決定されます。 実行時に MID サーバー が選択される方法の詳細については、「 MID サーバーの選択 」を参照してください。
MID アプリケーション	選択対象となるためにMID サーバーがサポートする必要があるアプリケーションです。選択したアプリケーションをサポートする MID サーバーからアクションが実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	実行時に MID サーバー が選択される方法の詳細については、「MID サーバーの選択」を参照してください。

6. [属性] タブで、次の詳細を入力します。

フィールド	説明
クライアント	SAP ECC IDocサーバーがインストールされているターゲットホストのクライアント値です。
u_system_number	SAP ECC IDocサーバーがインストールされているターゲットホストのシステム番号です。
u_lang	SAP ECC IDocサーバーがインストールされているターゲットホストで選択されている言語です。

7. [送信] をクリックします。

SAP ECC RFC スポーク

SAP ECC RFC Spoke は、Bristlecone, Inc. によってビルドされています。ServiceNow® インスタンスから SAP ECC RFC アカウントのアイテム、ジャーナル、および調達を管理します。

ストアでアプリを要求

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。2022 年 3 月 1 日以降、すべての SAP スポークはストアでのみ入手可能になります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

SAP ECC RFC スポーク v2.7.2 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは以下の SAP ECC RFC バージョン向けにビルドされており、スポークは以下のバージョンと互換性があります。

- スポークが開発されている SAP アプリケーションバージョン：SAP EHP8 for ERP6.0
- 互換性のある SAP アプリケーションバージョン：最新の SAP EHP8 for ERP6.0 までの SAP ECC6.0 ベースパック
- SAP JCo：3.0.20 以降

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

- SAP ECC RFCアカウントのアドミンに連絡し、次の SAP 独自の JAR ファイルおよびその他の必要なファイルを入手します。
  - `sapjco3.jar`。
  - `libsapjco3.so`：MID サーバーがLinuxマシンにインストールされている場合は、このファイルを取得してください。
  - `sapjco3.dll`：MID サーバーがWindowsマシンにインストールされている場合は、このファイルを取得してください。

  JAR ファイル `sapConnector-1.0.1.jar` は、SAP ECC RFC アカウントでやり取りして RFC や IDoc を実行するカスタムインターフェイスを実現するためにスポークとともに使用できます。JAR ファイルは、ServiceNowインスタンスのスポークの一部としてインストールされます。
- SAP ECC RFCサーバーがインストールされているターゲットホストのクライアント値をコピーして記録します。
- 次のシステムプロパティの値を構成します。
  - *`com.snc.process_flow.reporting.serialized.val_size_limit`*：このプロパティは JSON オブジェクトをシリアル化し、データが必要な形式であることを確認します。要件に従ってバイト数を指定します。詳細については、「フローデザイナー のシステムプロパティ」を参照してください。
  - *`glide.rest.max_content_length`*：このプロパティではペイロードサイズが指定されます。フローで使用する最大ペイロードサイズを指定します。このプロパティに指定できる最大値は 25 MB です。
- このスポークをSAP ECC IDoc、SAP S4 HANA IDoc、SAP S4 HANA RFC スポークと併用している場合は、スポークのアップグレード時に、必ずすべてのスポークを最新バージョンにアップグレードしてください。

  注: 以前のバージョンからスポークをアップグレードする場合は、必ず MID サーバーを再起動します。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的出力 (com.glide.hub.dynamic_outputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

SAP ECC RFC Spoke では、SAP ECC RFCタスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー	説明
ロール別にユーザーを取得	指定されたロールを持つSAP ECC RFCユーザーの詳細を取得します。**[SAP ECC RFC Spoke]** > **[SAP ECC** ユーザー]に移動すると、ユーザーの詳細にアクセスできます。
着信請求書を取得	着信SAP ECC RFC請求書の詳細を取得します。**[SAP ECC RFC Spoke]** > **[SAP ECC** 請求書データ]に移動すると、請求書の詳細にアクセスできます。
受注を作成してステータスを検索	受注を作成し、ステータス情報を取得します。
コストセンターを作成	「RFC を実行」および「テーブルフィールドオブジェクトを作成」アクションの使用方法を示します。

スポークのアクション

SAP ECC RFC Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにSAP ECC RFCタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アイテム	資料グループを検索	SAP ECC RFCアカウントから資料グループのリストを取得します。
	プラントで資料を検索	プラント選択基準に基づいて資料 (アイテム) のリストを取得します。
	ストレージの場所で資料を検索	ストレージ場所選択基準に基づいて資料 (アイテム) のリストを取得します。
ジャーナル	ジャーナルエントリを投稿	SAP ECC RFCアカウントで GL アカウントへのジャーナルエントリを投稿します。
	ジャーナルエントリを取り消す	SAP ECC RFCアカウントで GL アカウントへのジャーナルエントリを取り消します。
検索	コントロールエリアでコストセンターを検索	SAP ECC RFCアカウントからコントロールエリアに基づいてコストセンターを取得します。
メタデータの取得	RFC 入力スキーマを検索	RFC の入力スキーマをSAP ECC RFCから動的に取得します。
	RFC 出力スキーマを検索	選択された RFC の出力スキーマをSAP ECC RFCから動的に取得します。
	RFC テーブルフィールド入力メタデータを検索	RFC テーブルの選択されたフィールドの入力スキーマをSAP ECC RFCから動的に取得します。
	RFC テーブルフィールド出力メタデータを検索	RFC テーブルの選択されたフィールドの出力スキーマをSAP ECC RFCから動的に取得します。
	RFC テーブル入力メタデータを検索	RFC のテーブル入力スキーマをSAP ECC RFCから動的に取得します。
	RFC 入力メタデータを検索	SAP ECC – RFC から、RFC の入力スキーマを動的に取得します。
	RFC 出力メタデータを検索	SAP ECC – RFC から、選択した RFC の出力スキーマを動的に取得します。
調達	支払いを承認	SAP ECC RFC で支払承認の文書を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	固定資産を作成	SAP ECC RFCで固定資産を作成します。
	サービス物品受領書を作成	SAP ECC - RFC でサービス物品受領書を作成します。
	物品受領書を作成	SAP ECC RFCで物品受領書を作成します。
	請求書を作成	SAP ECC RFCに請求書を作成します。
	請求書をキャンセル	SAP ECC - RFC で請求書ドキュメントをキャンセルします。
	物品受領書をキャンセル	SAP ECC - RFC で物品受領書ドキュメントをキャンセルします。
	発注書なし請求書を作成	SAP ECC – RFC で発注書なし請求書ドキュメントを作成します。
	発注書を作成	SAP ECC RFCで発注書を作成します。
	ベンダーを作成	SAP ECC RFC でベンダーを作成します。
	ベンダーを更新	SAP ECC RFC でベンダーの詳細を更新します。
	資産カテゴリを検索	SAP ECC - RFC から、指定された資産の詳細を取得します。
	請求書を検索	SAP ECC - RFC から、指定された請求書の詳細を取得します。
	日付で請求書を検索	指定された日付に基づいてSAP ECC RFCから請求書を取得します。
	発注書と購入明細を検索	SAP ECC - RFC から発注明細と購入明細の詳細を取得します。
	発注書 (PO) の添付ファイルを検索	SAP ECC - RFC から発注書 (PO) の詳細を取得します。
	受領書を検索	SAP ECC - RFC から受領書の詳細を取得します。
	ベンダーを検索	SAP ECC - RFC からベンダーの詳細を取得します。
	事前出荷通知を検索	SAP ECC - RFC で事前出荷通知の詳細を取得します。
	請求書の支払いステータスを検索	SAP ECC - RFC から請求書の支払ステータスを取得します。
	発注書を更新	SAP ECC RFCの既存の発注書を更新します。
レコード管理	RFC を実行	作成、更新、または読み取り操作に使用可能なリストから RFC を実行します。
	検索操作の RFC を実行	読み取り操作に使用可能なリストから RFC を実行します。
請求書と支払い	ID で請求の詳細を検索	SAP ECC RFCから受注に基づく請求書を取得します。
	残高を検索	SAP ECC RFCから、顧客の未払い残高を取得します。
	支払いを検索	SAP ECC RFCから、顧客の支払い処理待ちを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
顧客	顧客情報を検索	SAP ECC RFCから会社コードと顧客に基づいて顧客情報を取得します。
転送注文	転送注文および品目を作成	SAP ECC - RFC で転送注文を作成します。
	転送注文および品目を検索	SAP ECC - RFC から転送注文を取得します。
ユーティリティ	テーブルフィールドオブジェクトを作成	オブジェクトの指定された BAPI の選択されたテーブルフィールドのユーザー入力をエンベロープします。
インベントリ (または) 営業	部品のインベントリを検索	SAP ECC RFCからプラントと品目のインベントリを取得します。
財務管理	資産を作成	指定された詳細を使用して SAP ECC - RFC で資産を作成します。
受注	受注を作成	SAP ECC RFCで受注を作成します。
	受注を検索	SAP ECC RFCから受注の詳細を取得します。
	受注を検索	SAP ECC RFCから顧客に基づく受注を取得します。
	受注を更新	SAP ECC RFCで必要な受注の詳細を更新します。

スポークモジュール

SAP ECC RFC Spoke はSAP ECC RFCSpoke アプリケーションをインスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

モジュール	説明
SAP ECC フロー実行	「着信請求書を取得」フローの前回の正常実行日を表示します。 最初のフローを実行する前に、このモジュールでレコードを作成して、着信請求書の詳細をフェッチする日付を指定する必要があります。
SAP ECC 請求書データ	「着信請求書を取得」フローによって取得されたレコードを表示します。
SAP ECC RFC	BAPI のリストを表示します。「RFC を実行」アクションおよび「検索操作の RFC を実行」アクションでは、これを入力として使用します。 **注:** 操作タイプの値は、BAPI で実行する必要がある操作の種類を指定するために使用されます。操作が読み込まれると、その操作は「検索操作の RFC を実行」および「RFC を実行」アクションの両方で使用可能になります。操作が書き込みの場合、操作は入力が「RFC を実行」アクションの場合のみ可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
SAP ECC ユーザー	SAP ECC RFCユーザーの詳細を表示します。「ロール別にユーザーを取得」フローでは、指定されたロールを持つユーザーの詳細が取得されます。

スポークユーザーロール

SAP ECC RFC Spoke では、データへのアクセスを制御するユーザーロールが提供されます。

- sn_sap_ecc_rfc_spo.SAP_ECC_RFC_Spoke_Admin ロールを持つユーザーは、スポークテーブルにアクセスできます。
- sn_sap_ecc_rfc_spo.SAP_ECC_RFC_Spoke_Read ロールを持つユーザーは、SAP ECC RFC テーブルおよびモジュール内のデータを表示できます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 SAP ECC RFC Spoke を設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは、インスタンスまたは MID サーバーで実行できる、リモートファンクションコール (RFC) プロトコル (SAP 独自のプロトコル - SAP 標準インターフェイス) を使用します。SAP ECC RFCスポークエイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所およびMID サーバー選択属性を設定します。MID サーバーでのアクションの実行の詳細については、「統合ステップ」を参照してください。

注:

- MID サーバーがLinuxマシンにインストールされている場合は、SAP ECC RFCスポークの MID サーバーを構成で概説されている手順で設定を行います。
- MID サーバーがWindowsマシンにインストールされている場合、設定の必要はありません。

SAP ECC RFC Spoke を設定

基本認証情報を使用してServiceNowインスタンスとSAP ECC RFCアカウントをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SAP ECC IDoc スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

SAP ECC RFCスポークのMID サーバーを構成

SAP 独自の JAR ファイルを使用してMID サーバーを構成し、SAP ECC RFCアカウントをServiceNow®インスタンスとデータ連携します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

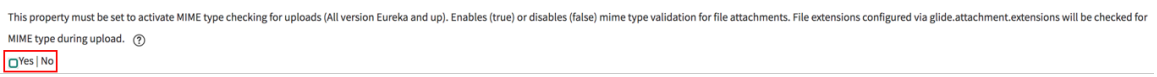
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. オプション: [すべて] > [システムプロパティ] > [セキュリティ]に移動します。

   注: これは、MID サーバーがLinuxマシンにインストールされている場合にのみ適用されます。

2. オプション: 添付ファイルに対する MIME タイプの妥当性確認を無効化します。



   注: これは、MID サーバーがLinuxマシンにインストールされている場合にのみ適用されます。

3. **[MID Server]** > **[JAR** ファイル]に移動します。
4. SAP ECC RFCアドミニストレーターに連絡して取得した必要な SAP 独自のファイル (JAR、SO、または DLL) をアップロードします。
   詳細については、「JAR ファイルを MID サーバーと同期させる」を参照してください。

次のタスク
ファイルが `<MID-Server-root-directory>/agent/extlib` ディレクトリーで同期されていることを確認します。ファイルが同期されていない場合は、MID サーバーを再起動します。

SAP ECC RFC Spoke の認証情報レコードを作成

SAP ECC RFCアカウント用の認証情報レコードを作成します。SAP ECC RFC spoke の接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. [基本認証情報] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

ベーシック認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`SAP ECC RFC Cred` です。
ユーザー名	にログインするためのユーザー名 SAP ECC RFCアカウント
パスワード	SAP ECC RFCアカウントを認証してログインするためのパスワードです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
有効	認証情報レコードをアクティブに使用するオプション。
順番	この認証情報を適用する順番です。たとえば、`100` です。
認証情報エイリアス	スポークに関連付けられた認証情報エイリアスです。

5. [送信] をクリックします。

SAP ECC RFC Spoke の接続レコードを作成

SAP ECC RFC アカウントの接続レコードを作成します。SAP ECC RFC Spoke の接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してSAP ECC RFCでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. SAP ECC RFCのエイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例を次に示します。`SAP ECC RFC 接続`
認証情報	SAP ECC RFC Spoke 用に作成した認証情報レコードです。 たとえば、`SAP ECC RFC Cred` です。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
ホスト	SAP ECC RFCサーバーがインストールされているターゲットホストの IP アドレスです。
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	接続で使用されるターゲット ポート。空白の場合は、デフォルトのポートが使用されます。
MID サーバーを使用	この接続に MID サーバー を使用するオプション。チェックボックスを選択し、**[MID** サーバー詳細構成] タブでフィールドを定義します。

5. **[MID** サーバー詳細設定] タブで、次の詳細を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
できること	選択対象となるためにMID サーバーがサポートする必要がある機能です。選択した機能をサポートする MID サーバーからアクションまたはアクティビティが実行されます。 必要な機能によって、実行時にどの MID サーバーが選択されるかが決定されます。実行時に MID サーバー が選択される方法の詳細については、「 MID サーバーの選択 」を参照してください。
MID アプリケーション	選択対象となるためにMID サーバーがサポートする必要があるアプリケーションです。選択したアプリケーションをサポートする MID サーバーからアクションが実行されます。 実行時に MID サーバー が選択される方法の詳細については、「MID サーバーの選択 」を参照してください。

6. [接続属性] タブで、次の詳細を入力します。

フィールド	説明
クライアント	SAP ECC RFCサーバーがインストールされているターゲットホストのクライアント値です。
システム番号	SAP ECC RFCサーバーがインストールされているターゲットホストのシステム番号です。
言語	SAP ECC RFCサーバーがインストールされているターゲットホストで選択されている言語です。

7. オプション: SAP 負荷分散環境に接続する場合は、[接続属性] タブの追加フィールドに値を入力します。
   - メッセージサーバー
   - グループ
   - ホスト
8. [送信] をクリックします。

SAP Fieldglass スポーク

SAP Fieldglass Spoke は、Bristlecone, Inc. によってビルドされています。ServiceNow インスタンスから SAP Fieldglass アカウントの求人情報、ワーカー、タイムシートと経費、および承認を管理します。

ストアでアプリを要求

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート 」を参照してください。2022 年 3 月 1 日以降、すべての SAP スポークはストアでのみ入手可能になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

SAP Fieldglass スポーク v1.2.1 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは SAP Fieldglass 2020.05 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

注: SAP FieldglassAPI はデフォルトでは JSON をサポートしていません。API の JSON サポートを有効にするには、SAP Fieldglassサポートに連絡する必要があります。

スポークの要件

- API キーをコピーして記録します。値がない場合は、SAP Fieldglassサポートチームにお問い合わせください。
- デフォルトでは、すべての API が有効になっていません。SAP Fieldglassサポートチームに連絡して、次の API を有効にし、次の API の JSON サポートを有効にしてください。

API タイプ	API
求人情報	求人情報のアップロード
	求人情報の更新のアップロード
	求人情報の再配布のアップロード
	求人情報のコストセンター割り当てのアップロード
	標準的な求人情報の認証情報のアップロード
	求人情報のクローズのアップロード
	求職者の却下のアップロード
サプライヤー求人情報	求人情報を取得
	求職者を送信
作業指示管理	作業指示書のアップロード
	作業指示書のリビジョンのアップロード
	作業指示書のクローズのアップロード
サプライヤー - 作業指示書	作業指示書オファーを取得
	作業指示書オファーを承認
	作業指示書の複数のレートを承認
	作業指示書オファーを拒否
	作業指示書のリビジョンを承認
	作業指示書のリビジョンを拒否

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

API タイプ	API
ワーカー	アクティブワーカーデルタ単一行のダウンロード (LastRundate)
	アクティブワーカーダウンロード
タイムシートと経費	タイムシートのアップロード
	経費シートのアップロード
	承認済み経費シートのダウンロード (LastRundate)
	承認済みタイムシート固定フォーマットのダウンロード (LastRundate)
	タイムシートの却下のアップロード
承認と却下	承認
マスターデータ	サプライヤーのダウンロード
	理由コードのダウンロード
	事業部門のダウンロード
	コストセンターのダウンロード
	法人のダウンロード
	シフトのダウンロード
	レートスケジュールのダウンロード
	サイト詳細のダウンロード

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的出力 (com.glide.hub.dynamic_outputs)
- 暗号化のサポート (com.glide.encryption)
- Key Management Framework プラグイン (com.glide.kmf.global)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

SAP Fieldglass Spoke では、タスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー	説明
承認とメタデータの検索のサンプルフロー	SAP Fieldglassで承認待ちを承認します。
検索のサンプルフロー	現在アクティブなワーカーに関連するデータ、および前回コネクタが正常に動作した日以降にリビジョンがあったワーカーに関連するデータを取得またはダウンロードします。

スポークのアクション

SAP Fieldglass Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
購入者 - 承認および却下	承認	SAP Fieldglassで承認待ちを承認します。
	承認待ちを検索	承認待ちのリストを取得します。
	却下理由を検索	利用可能な却下理由のリストを取得します。
	却下	SAP Fieldglassで承認待ちを却下します。
購入者 - 求人情報	求人情報をクローズ	SAP Fieldglassで指定された求人情報をクローズします。
	求人情報を一括クローズ	SAP Fieldglassの複数の求人情報をクローズします。
	求人情報を作成	SAP Fieldglassで求人情報を作成します。
	求職者を却下	SAP Fieldglassで指定された求職者を却下します。
	求職者を一括却下	SAP Fieldglassで複数の求職者を却下します。
	求人情報を更新	必要な求人情報の詳細を更新します。
	求人情報のコストセンター割り当てを更新	既存の求人情報のコストセンターコードを更新します。
	求人情報のコストセンター割り当てを一括更新	複数の既存の求人情報のコストセンターコードを更新します。
	求人情報の配布を更新	サプライヤーに単一または一括の求人情報を配布します。
	求人情報の応募資格を更新	必要な求人情報の 1 つ以上の求人情報テンプレートまたは資格データを更新またはアップロードします。
購入者 - タイムシートと経費	承認済み経費シートを検索	承認済み経費シートの詳細を取得します。
	承認済みタイムシートを検索	承認済みタイムシートの詳細を取得します。
	タイムシートを一括却下	単一または一括のタイムシートを却下します。
	経費シートをアップロード	SAP Fieldglassで経費シートをアップロードします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	タイムシートをアップロード	SAP Fieldglassでタイムシートをアップロードします。
購入者 - 作業指示管理	作業指示書をクローズ	ワーカーがオンボーディングされていない場合、作業指示書をクローズします。
	作業指示書を変更	SAP Fieldglassで指定された作業指示書を変更します。
	作業指示書をアップロード	作業指示書をSAP Fieldglassにアップロードします。
購入者 - ワーカー	アクティブなワーカーを検索	現在アクティブなワーカーに関連するデータを取得またはダウンロードします。
	アクティブなワーカーデルタを検索	前回コネクタが正常に動作した日以降にリビジョンがあったワーカーに関連するデータを取得またはダウンロードします。
	SOW ワーカーをアップロード	既存の作業指示書に SOW ワーカーをアップロードまたは作成します。
メタデータの取得	購入者トークンを取得	SAP Fieldglass購入者のアクセストークンを生成します。
	サプライヤートークンを取得	SAP Fieldglassサプライヤーのアクセストークンを生成します。
	最終実行日	最終実行日以降の必要なデータを取得します。
	事業部門を検索	利用可能な事業部門のリストを取得します。
	コストセンターを検索	利用可能なコストセンターのリストを取得します。
	法人を検索	利用可能な法人のリストを取得します。
	レートスケジュールを検索	利用可能なレートスケジュールのリストを取得します。
	理由コードを検索	利用可能な理由コードのリストを取得します。
	シフトの詳細を検索	利用可能なシフトのリストを取得します。
	サイトの詳細を検索	利用可能なサイトのリストを取得します。
	サプライヤーを検索	利用可能なサプライヤーのリストを取得します。
	JSON パーサーアクションのサンプル	JSON オブジェクトを解析し、オブジェクトのアレイに変換します。
サプライヤー - 求人情報	求人情報を取得	必要な求人情報の詳細を取得します。
	求職者を送信	SAP Fieldglassで求職者を送信します。
サプライヤー - 作業指示書	作業指示書の複数のレートを承認	SAP Fieldglassで作業指示書の複数のレートを承認します。
	作業指示書オファーを承認	SAP Fieldglassで作業指示書を承認します。
	作業指示書のリビジョンを承認	SAP Fieldglassで作業指示書のリビジョンを承認します。
	作業指示書のリビジョンの複数のレートを承認	複数のレートを含む作業指示書のリビジョンを承認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	作業指示書オファーを拒否	指定された作業指示を拒否します。
	作業指示書のリビジョンを拒否	作業指示書のリビジョンを拒否します。
	作業指示書オファーを取得	要求された作業指示書の詳細を取得します。

スポークモジュール

SAP Fieldglass Spoke は SAP FieldglassSpoke アプリケーションをインスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

モジュール	説明
アクティブワーカーダウンロード	アクティブワーカーの詳細を表示します。[アクティブワーカーを検索] スポークアクションを実行すると、データが取得されます。
求人情報を作成	求人情報の詳細を表示します。Webhook を設定すると、SAP Fieldglassインスタンスからデータが取得されます。詳細については、「SAP Fieldglassスポークの Webhook を設定」を参照してください。
SAP Fieldglass 購入者認証情報	購入者の認証情報レコードを表示します。
SAP Fieldglass モジュール	モジュールの詳細を表示します。スポークアクションは、フローの実行中にこれらのモジュールを内部的に使用します。モジュールは要件に応じて管理できます。
SAP Fieldglass サプライヤー認証情報	サプライヤーの認証情報レコードを表示します。
SAP Fieldglass Webhook レジストリ	Webhook レジストリを表示します。要件に応じて、イベントの Webhook レジストリを作成できます。詳細については、「SAP Fieldglassスポークの Webhook を設定」を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

1 つはサプライヤー用レコード、もう 1 つは購入者用レコードとして、2 つの接続および資格情報エイリアスをスポークと一緒に使用できます。スポークの設定については、「 SAP Fieldglass Spoke を設定

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

API キーの生成

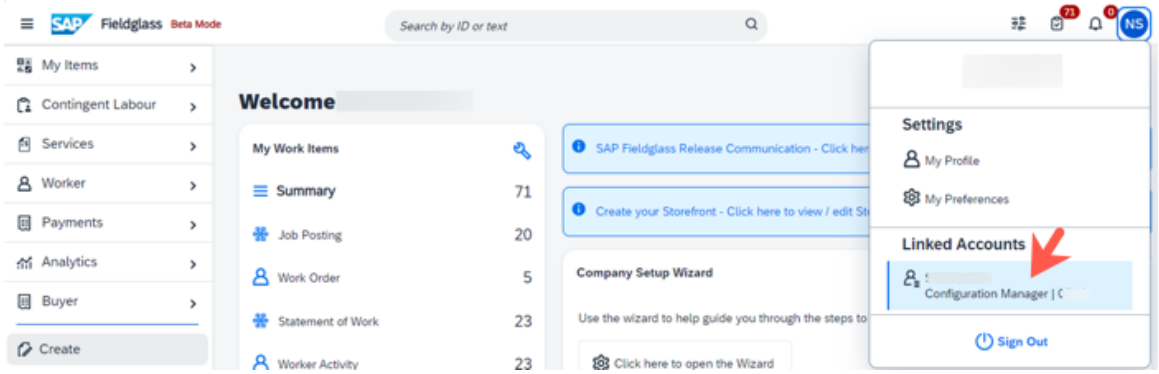
SAP Fieldglass テナントで API キーを生成して、ServiceNow インスタンスが SAP Fieldglass テナントに接続できるようにします。SAP Fieldglass Spoke 接続レコードで API キーを指定すると、SAP Fieldglass テナントがその API キーに基づいて ServiceNow インスタンスを認証します。

始める前に
必要なロール：admin

SAP Fieldglass テナントアカウントにアクセスします。

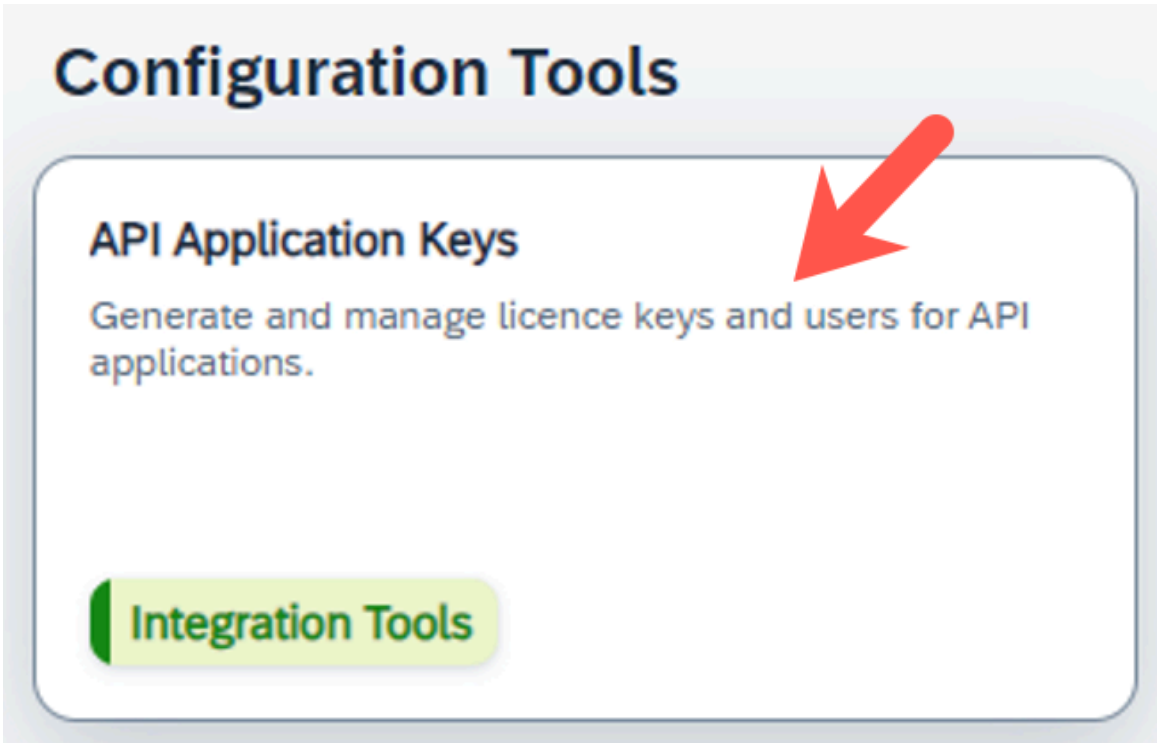
手順

1. SAP Fieldglass テナントアカウントにログインします。
2. リンクされたアカウントを選択しま



す。

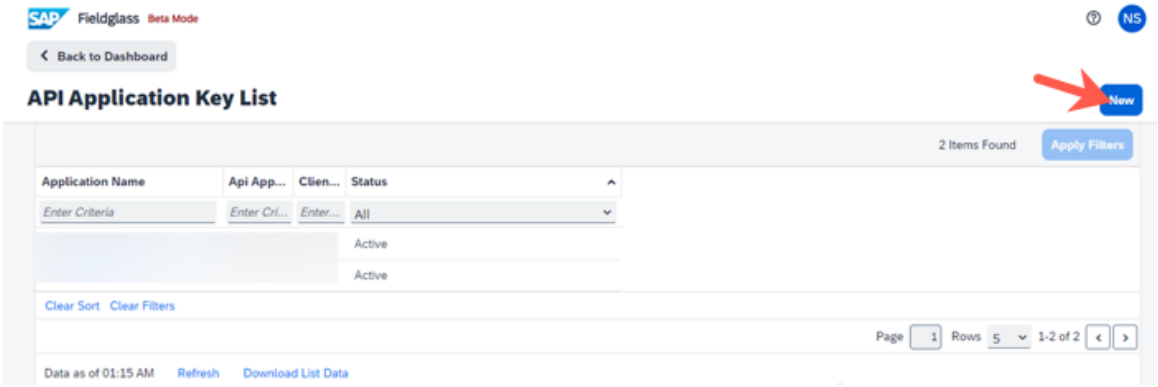
3. [セルフサービス] ダッシュボードで、[API アプリケーションキー (API Application Keys)] カードを選択しま



す。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [新規] を選択しま

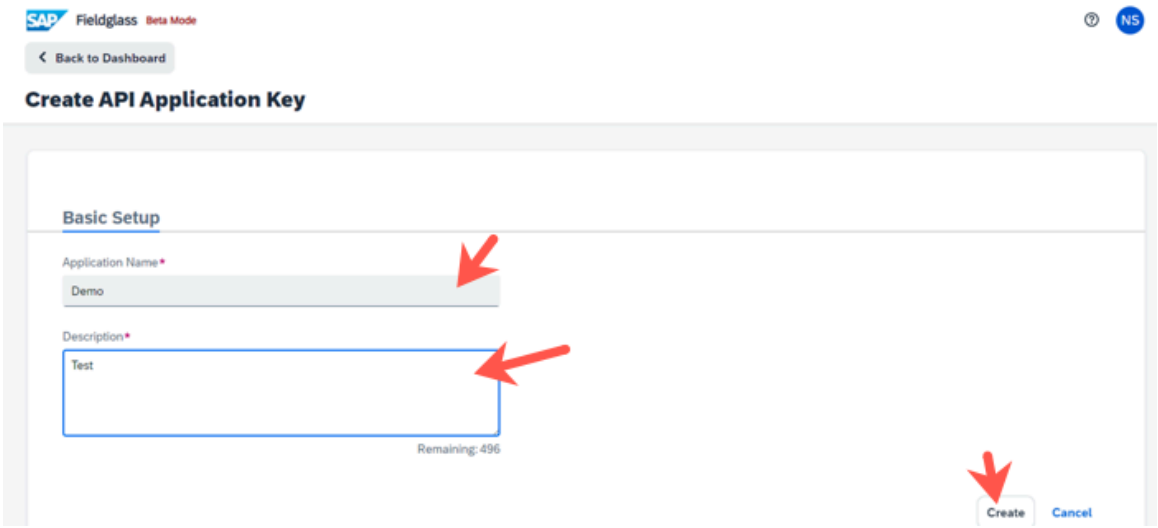


す。

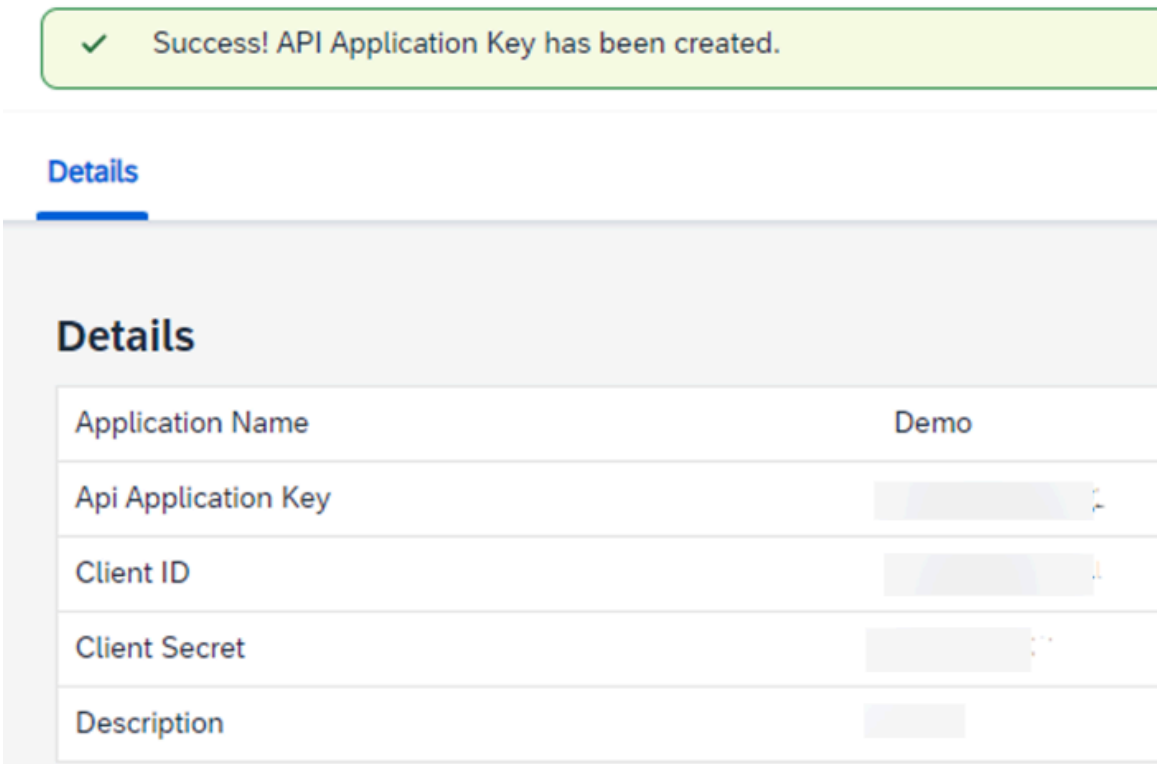
5. [アプリケーションキーの作成 (Create Application Key)] ページで、値を入力します。
   - アプリケーション名：アプリケーションの名前。
   - 説明：API キーのカスタムの説明。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [作成] を選択しま



す。
API キーとその他の詳細情報が生成されま



す。

SAP Fieldglass 接続レコードの構成

接続レコードを構成し、ServiceNow インスタンスが SAP Fieldglass テナントに接続できるようにします。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SAP Fieldglass テナントから API キーが生成されていることを確認します 。
- SAP Fieldglass スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. SAPFieldGlassBuyer エイリアスの接続レコードを構成します。

   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

   b. [接続] を選択します。

   c. [送信] タブをオンにします。

   d. [すべての接続を検索] フィールドに「`SAP Fieldglass`」と入力します。

   e. SAP SAPFieldGlassBuyer カードで、[詳細を表示] を選択します。

   f. [設定] を選択します。

   g. フォームに入力します。

      接続を設定

フィールド	説明
名前	接続レコードの名前。最初の接続レコードのデフォルトの読み取り専用名は、SAPFieldglassBuyer Connection です。カスタム名を付けたレコードを作成するには、[接続を追加] を選択します。
接続 URL	SAP Fieldglass API に接続する URL の形式は `https://<SAP Fieldglass environment URL>.com/api` です。
名前	SAP Fieldglass テナントにアクセスするための認証情報のカスタム名。
ユーザー名	SAP Fieldglass テナントにログインするためのユーザー名。
パスワード	SAP Fieldglass テナントにログインするためのパスワード。
APIKey	購入者の API キー。

   h. [接続を設定] を選択します。

2. SAPFieldGlassSupplier エイリアスの接続レコードを構成します。

   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

   b. [接続] を選択します。

   c. [送信] タブをオンにします。

   d. [すべての接続を検索] フィールドに「`SAP Fieldglass`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. SAP SAPFieldGlassSupplier カードで、[詳細を表示] を選択します。

f. [設定] を選択します。

g. フォームに入力します。

接続を設定

フィールド	説明
名前	接続レコードの名前。最初の接続レコードのデフォルトの読み取り専用名は、SAPFieldGlassSupplier Connection です。カスタム名を付けたレコードを作成するには、[接続を追加] を選択します。
接続 URL	SAP Fieldglass API に接続する URL の形式は `https://<SAP Fieldglass environment URL>.com/api` です。
名前	SAP Fieldglass テナントにアクセスするための認証情報のカスタム名。
ユーザー名	SAP Fieldglass 購入者テナントにログインするためのユーザー名。
パスワード	SAP Fieldglass 購入者テナントのパスワード。
APIKey	サプライヤーの API キー。

h. [接続を設定] を選択します。

SAP Fieldglass Spoke を設定

API キーを使用してServiceNowインスタンスとSAP Fieldglassアカウントをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SAP Fieldglass Spoke を有効にします。
- 必要なロール：admin

手順

1. SAP Fieldglass 購入者インスタンスの接続および資格情報エイリアスレコードを構成します。

a. [接続および認証情報] > [接続および認証情報エイリアス]に移動します。

b. レコード **[SAPFieldGlassBuyer]** を開きます。

c. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。

d. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続情報を入力してください	
名前	接続レコードを識別する名前です。たとえば、`SAP Fieldglass` 購入者接続です。
接続 URL	SAP Fieldglass 購入者インスタンスの URL です。
認証情報を入力してください	
名前	認証情報レコードを識別する名前です。たとえば、`SAP Fieldglass` 購入者認証情報です。
ユーザー名	SAP Fieldglass 購入者インスタンスにログインするためのユーザー名です。
パスワード	SAP Fieldglass 購入者インスタンスにログインするためのパスワードです。
APIKey	SAP Fieldglass 購入者インスタンスの API キーです。

e. [作成] をクリックします。

2. SAP Fieldglass サプライヤーインスタンスの接続および資格情報エイリアスレコードを構成します。

a. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. レコード **[SAPFieldGlassSupplier]** を開きます。

c. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。

d. フォームに、これらの値を入力します。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続情報を入力してください	
名前	接続レコードを識別する名前です。たとえば、`SAP Fieldglass` サプライヤー接続です。
接続 URL	SAP Fieldglass サプライヤーインスタンスの URL です。
認証情報を入力してください	
名前	認証情報レコードを識別する名前です。たとえば、`SAP Fieldglass` サプライヤー認証情報です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ユーザー名	SAP Fieldglass サプライヤーインスタンスにログインするためのユーザー名です。
パスワード	SAP Fieldglass サプライヤーインスタンスにログインするためのパスワードです。
APIKey	SAP Fieldglass サプライヤーインスタンスの API キーです。

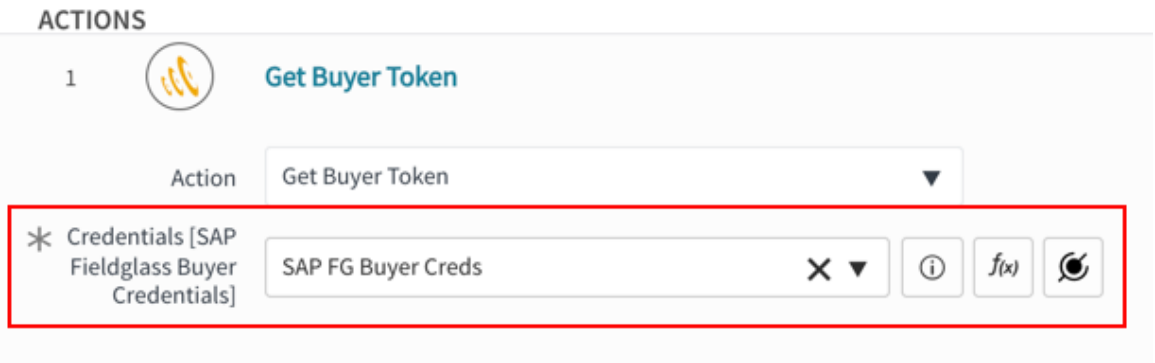
e. [作成] をクリックします。

3. 購入者トークンを生成するフローを作成します。

a. [フローデザイナー] > [デザイナー]に移動します。

b. フローを作成し、「購入者トークンを取得」スポークアクションを含めます。
フローの作成の詳細については、「フローのビルド」を参照してください。

c. 認証情報 **[SAP Fieldglass Buyer** 認証情報] の購入者認証情報レコードを選択します。



d. フローをテストします。
正常に実行されると、次のフィールドがSAP Fieldglass購入者認証情報レコードに自動入力されます。

- [アクセストークン]：アクセストークンが生成されます。
- [トークンステータス]：ステータスは [アクティブ] に設定されます。
- [有効期限]：アクセストークンの有効期限の日時が表示されます。

4. サプライヤートークンを生成するフローを作成します。

a. [フローデザイナー] > [デザイナー]に移動します。

b. フローを作成し、「サプライヤートークンを取得」スポークアクションを含めます。
フローの作成の詳細については、「フローのビルド」を参照してください。

c. 認証情報 **[SAP Fieldglass** サプライヤー認証情報] のサプライヤー認証情報レコードを選択します。

d. フローをテストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

正常に実行されると、次のフィールドがSAP Fieldglassサプライヤー認証情報レコードで自動入力されます。

- [アクセストークン]：アクセストークンが生成されます。
- [トークンステータス]：ステータスは [アクティブ] に設定されます。
- [有効期限]：アクセストークンの有効期限の日時が表示されます。

SAP Fieldglassスポークの Webhook を設定

Webhook を設定して要求を認証し、ServiceNowインスタンスからSAP Fieldglassインスタンスに必要な情報を取得します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[SAP Fieldglass Spoke]** > **[SAP Fieldglass Webhook** レジストリ]に移動します。
2. **[New]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

SAP Fieldglass Webhook レジストリフォーム

フィールド	説明
SAP Fieldglass イベント	Webhook を設定するイベントです。たとえば、求人情報を作成です。
ユーザー名	このフィールドは空のままにします。
パスワード	このフィールドは空のままにします。
SAP Fieldglass インスタンス	SAP Fieldglassインスタンスの URL です。

4. [ユーザー名とパスワードを生成] をクリックします。
   [ユーザー名] と [パスワード] が表示されます。
5. 値をコピーして記録します。
6. 適切なチームと情報を共有します。
   - Webhook エンドポイントの構成については、SAP Fieldglassチームにお問い合わせください。
   - ユーザー名とパスワードの組み合わせを SAP Fieldglass チームと共有します。

SAP S4 HANA IDoc スポーク

SAP S4 HANA IDoc スポークは、Bristlecone, Inc.によってビルドされています。ServiceNow インスタンスから SAP S4 HANA IDoc アカウントの経理、アイテム、および調達を管理します。

ストアでアプリを要求

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。
2022 年 3 月 1 日以降、すべての SAP スポークはストアでのみ入手可能になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

SAP S4 HANA IDoc スポーク v1.2.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは、次の SAP S4 HANA IDocバージョン用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

- SAP アプリケーションバージョン：SAP S/4HANA 1909 以降
- NetWeaver バージョン：SAP NW 7.5
- SAP JCo：3.0.20

スポークの要件

- SAP S4 HANA IDocアカウントのアドミンに連絡し、次の SAP 独自の JAR ファイルおよびその他の必要なファイルを入手します。
  - `sapidoc3.jar` および `sapjco3.jar`
  - `libsapjco3.so`：MID サーバーがLinuxマシンにインストールされている場合は、このファイルを取得してください。
  - `sapjco3.dll`：MID サーバーがWindowsマシンにインストールされている場合は、このファイルを取得してください。

  JAR ファイル `sapConnector-1.0.1.jar` は、 SAP S4 HANA IDocアカウントとServiceNowインスタンス間のカスタムインターフェイスを提供するためにスポークとともに提供されています。JAR ファイルは、ServiceNowインスタンスのスポークの一部としてインストールされます。
- SAP S4 HANA IDocサーバーがインストールされているターゲットホストのクライアント値をコピーして記録します。
- 認証目的で情報を取得するには、SAP S4 HANA RFC スポークの「RFC を実行」 スポークアクションを使用します。
- このスポークを SAP ECC IDoc、SAP ECC RFC、SAP S4 HANA RFC スポークと併用している場合は、スポークのアップグレード時に、必ずすべてのスポークを最新バージョンにアップグレードしてください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- フローデザイナーアクションステップ - MID のスクリプト (com.glide.hub.action_step.script_mid)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

SAP S/4 HANA IDoc Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときに SAP S4 HANA IDocタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
顧客アカウント	顧客アカウントを作成	SAP S/4HANA で顧客アカウントを作成します。
	顧客アカウントを更新	SAP S/4HANA で指定された顧客アカウントの詳細を更新します。
経理	固定資産を作成	SAP S4 HANA IDocで固定資産を作成します。
	GL アカウントを作成	SAP S4 HANA IDocに GL アカウントを作成します。
	請求書を作成	SAP S4 HANA IDocに請求書を作成します。
	ジャーナルエントリを投稿	SAP S4 HANA IDocで GL アカウントへのジャーナルエントリを投稿します。
	固定資産を更新	SAP S4 HANA IDocの固定資産の詳細を更新します。
	GL アカウントを更新	SAP S4 HANA IDocアカウントで指定された GL アカウントの詳細を更新します。
アイテム	資料を作成	SAP S4 HANA IDocに資料 (アイテム) を作成します。
	資料を更新	SAP S4 HANA IDocで指定された資料 (アイテム) の詳細を更新します。
調達	物品受領書を作成	SAP S4 HANA IDocで物品受領書を作成します。
	発注書を作成	SAP S4 HANA IDocで発注書を作成します。
	ベンダーを作成	SAP S4 HANA IDocでベンダーを作成します。
	発注書を更新	SAP S4 HANA IDocで指定された発注書 (PO) の詳細を更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 SAP S4 HANA IDocスポークを設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは、リモートファンクションコール (RFC) プロトコル (SAP 独自のプロトコル - SAP 標準インターフェイス) を使用し、インスタンスまたは MID サーバーで実行できる、Application Link Enabling (ALE) フレームワークを活用します。 SAP S4 HANA IDoc エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー選択属性を設定します。MID サーバーでのアクションの実行の詳細については、「統合ステップ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SAP S4 HANA IDocスポークを設定

基本認証情報を使用してServiceNowインスタンスと SAP S4 HANA IDocスポークをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SAP S4 HANA IDoc スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

> **注:** 情報を取得するには、SAP S4 HANA RFC スポークの「RFC を実行」 スポークアクションを使用します。

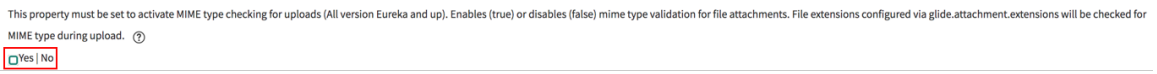
手順

1. SAP 独自の JAR ファイルを使用して、MID サーバーを構成します。

   a. オプション: [システムプロパティ] > [セキュリティ] に移動します。

   > **注:** これは、MID サーバーがLinuxマシンにインストールされている場合にのみ適用されます。

   b. オプション: 添付ファイルに対する MIME タイプの妥当性確認を無効化します。

   > **注:** これは、MID サーバーがLinuxマシンにインストールされている場合にのみ適用されます。

   c. **[MID Server]** > **[JAR** ファイル]に移動します。

   d. SAP S4 HANA IDocアドミニストレーターに連絡して取得した必要な SAP 独自のファイル (JAR、SO、または DLL) をアップロードします。
   詳細については、「JAR ファイルを MID サーバーと同期させる」を参照してください。

   > **注:** ファイルが `<MID-Server-root-directory>/agent/extlib` ディレクトリーで同期されていることを確認します。ファイルが同期されていない場合は、MID サーバーを再起動します。

2. SAP S4 HANA IDocアカウント用の認証情報レコードを作成します。

   a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

   b. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

   c. [基本認証情報] を選択します。

   d. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ベーシック認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`SAP S4 HANA IDoc` 認証情報 などです。
ユーザー名	SAP S4 HANA IDocアカウントにログインするためのユーザー名です。
パスワード	SAP S4 HANA IDocアカウントを認証してログインするためのパスワードです。
有効	認証情報レコードをアクティブに使用するオプション。
順番	この認証情報を適用する順番です。たとえば、`100` です。
認証情報エイリアス	スポークに関連付けられた認証情報エイリアスです。

e. [送信] をクリックします。

3. SAP S4 HANA IDocアカウントへの接続レコードを作成します。

a. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. SAP S4 HANA IDocのエイリアスレコードを開きます。

c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。

d. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`SAP S4 HANA IDoc` 接続です。
認証情報	SAP S/4 HANA IDoc Spoke の認証情報レコードです。たとえば、`SAP S4 HANA IDoc` 認証情報 などです。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
ホスト	SAP S4 HANA IDocサーバーがインストールされるターゲットホストの完全修飾ドメイン名です。
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	接続で使用されるターゲット ポート。空白の場合は、デフォルトのポートが使用されます。
MID サーバーを使用	この接続に MID サーバー を使用するオプション。チェックボックスを選択し、**[MID** サーバー詳細構成] タブでフィールドを定義します。

e. [MID サーバー詳細設定] タブで、次の詳細を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
できること	選択対象となるためにMID サーバーがサポートする必要がある機能です。選択した機能をサポートする MID サーバーからアクションまたはアクティビティが実行されます。 必要な機能によって、実行時にどの MID サーバーが選択されるかが決定されます。 実行時に MID サーバー が選択される方法の詳細については、「 MID サーバーの選択 」を参照してください。
MID アプリケーション	選択対象となるためにMID サーバーがサポートする必要があるアプリケーションです。選択したアプリケーションをサポートする MID サーバーからアクションが実行されます。 実行時に MID サーバー が選択される方法の詳細については、「MID サーバーの選択 」を参照してください。

f. [属性] タブで、次の詳細を入力します。

フィールド	説明
クライアント	SAP S4 HANA IDocサーバーがインストールされているターゲットホストのクライアント値です。
u_system_number	SAP S4 HANA IDocサーバーがインストールされているターゲットホストのシステム番号です。
u_lang	SAP S4 HANA IDocサーバーがインストールされているターゲットホストで選択されている言語です。

g. [送信] をクリックします。

SAP S4 HANA OData スポーク

SAP S4 HANA OData スポークは Bristlecone, Inc. によってビルドされています。ServiceNow® インスタンスから、SAP S4 HANA OData アカウントのアイテム、ジャーナル、調達、およびトランザクションを管理します。

ストアでアプリを要求

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート 」を参照してください。2022 年 3 月 1 日以降、すべての SAP スポークはストアでのみ入手可能になります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要 」を参照てください。

スポークバージョン

SAP S4 HANA OData スポーク v1.9.0 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポート対象のバージョン

このスポークは SAP S4 HANA 1909 および SAP バージョン 2020 (発注書 (PO) 向け) 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- SAP S4 HANA OData アカウント
- 次のシステムプロパティの値を構成します。

  com.snc.process_flow.reporting.serialized.val_size_limit：このプロパティは JSON オブジェクトをシリアル化し、データが必要な形式であることを確認します。要件に従ってバイト数を指定します。詳細については、「フローデザイナー システムのプロパティ」を参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブ ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スケジュール済みジョブ

SAP S4 HANA OData スポークは、*Generate Token and Cookie* スケジュール済みジョブに付属しています。

Generate Token and Cookie：このスケジュール済みジョブは 26 分ごとに実行され、トークンと Cookie が作成されます。

注: [トークンをフェッチ] アクションは、このスケジュール済みジョブに依存します。

スポークのアクション

SAP S4 HANA OData スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに SAP S4 HANA OData タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
プライマリデータ管理	会社コードストリームを検索	利用可能なすべての会社コードの詳細を取得します。☒
	通貨ストリームを検索	利用可能なすべての通貨の詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ビジネスパートナーのストリームを検索	システムで利用可能な全レコードのビジネスパートナーのデータフィールドを取得します。
	FX レートストリームを検索	すべての通貨の外国為替レートの詳細を取得します。☒
	コストセンターストリームを検索	すべてのコストセンターの詳細を取得します。☒
	アカウントストリームのチャートで GL アカウントを検索	システムで利用可能なすべての総勘定元帳口座の詳細を取得します。☒
	アカウントストリームのチャートを検索	利用可能なアカウントのチャートの詳細を取得します。
	プラントの住所ストリームを検索	指定されたプラントの住所マスターの詳細を取得します。☒
	購買組織ストリームを検索	すべての購買組織の詳細を取得します。☒
	支払条件ストリームを検索	支払条件のすべての詳細を取得します。☒
	購買グループストリームを検索	指定された購買グループマスターを取得します。
	品目グループのストリームを検索	品目グループのストリームを同期的に取得します。
	基本測定単位ストリームを検索	測定単位のテキストからエントリのリストを取得します。
	ビジネスパートナーの住所ストリームを検索	SAP S4 HANA OData アカウントで、利用可能なすべてのレコードのビジネスパートナー住所データフィールドを取得します。
	素材ストリームを検索	製品マスターのすべての一般的なデータの詳細を取得します。
ユーティリティ管理	前回の実行日を検索	フローの前回の実行日時を取得します。
	トークンをフェッチ	他のスポークアクションの CSRF (Cross-Site Request Forgery) トークンと cookie を取得します。 **注:** このアクションは、[トークンと Cookie の生成 (Generate Token and Cookie)] のスケジュール済みジョブで 6 時間ごとに実行され、システムプロパティが更新されます。
発注書 (PO) 管理	発注明細の更新	発注書 (PO) 番号と発注書 (PO) アイテムを使用して、発注書のアイテムの詳細を更新します。
	ASN の発注書を更新	発注書 (PO) の品目の詳細を更新します。
	発注書 (PO) を更新	指定された発注書番号のヘッダー詳細を更新します。
	発注書 (PO) ストリームを検索	指定された製品マスターの一般的な詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	発注書なし請求書を作成	たとえば、会社コード、請求書総額、請求先などを使用してサプライヤー請求書を作成します。
	発注明細をキャンセル	指定した発注書番号とアイテム番号の発注書内アイテムを削除します。
	発注書 (PO) を作成	指定された詳細情報で発注書を作成します。
	既存の発注書 (PO) に明細を作成	要求本文で渡されたヘッダーとアイテムの詳細を使用して、既存の発注書 (PO) の明細を作成します。
支払管理	支払いを承認	伝票作成時に設定された支払ブロックを削除します。
	支払条件を検索	支払条件の詳細を取得します。
	支払いと支払ステータスのストリームを検索	取引通貨、顧客、支払ステータス、会計伝票、転記日などの支払情報を取得します。
受領書管理	サービス物品受領書を作成	SAP S4 HANA OData でサービス物品受領書を作成します。
	物品受領書をキャンセル	指定した品目ドキュメント番号と品目ドキュメント年度の品目ドキュメントをキャンセルします。
	物品受領書を作成	特定のビジネスプロセスのヘッダーとアイテムによって構成された材料ドキュメントを作成します。
	事前出荷通知の受領書を作成	ビジネスプロセス用のヘッダーと明細を持つ入出庫伝票を作成します。
	受領書を検索	指定された入出庫伝票の受領書の詳細およびその他の入出庫伝票の詳細を取得します。
請求書管理	請求書を作成	会社コード、請求書の総額、請求先など、指定された詳細情報に基づいてサプライヤー請求書を作成します
	請求書をキャンセル	サプライヤー請求書と会計年度を使用して、転記されていないサプライヤー請求書を削除します。
	請求書ストリームを検索	サプライヤーマスターの一般データを取得します。
出荷管理	事前出荷通知を作成	指定された発注書 (PO) に基づいて入荷指示を作成します。
	事前出荷通知を検索	指定された納品書番号の事前出荷通知の詳細を取得します。
	出荷先住所ストリームを検索	出荷先住所の詳細を取得します。
サプライヤー管理	サプライヤーを作成	サプライヤーを作成します。
	サプライヤー銀行口座を削除	指定されたビジネスパートナー番号と銀行識別番号の銀行データを削除します。
	サプライヤーストリームを検索	指定されたサプライヤーマスターの詳細を取得します。
	ビジネスパートナーの住所を更新	住所 ID とビジネスパートナー番号で識別されるレコードのビジネスパートナー住所データを更新します。
	サプライヤー会社を更新	[サプライヤー] および [会社コード] フィールドを使用して、サプライヤーの会社データを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ビジネスパートナーの銀行を更新	ビジネスパートナー番号と銀行 ID によって識別されるビジネスパートナーレコードの銀行データを更新します。
	サプライヤーを更新	指定されたサプライヤーの詳細を更新します。
	サプライヤーの FAX 番号を更新	住所 ID を使用して FAX 番号を更新します。
	サプライヤーのメールアドレスを更新	住所 ID を使用してメールアドレスを更新します。
	サプライヤーの電話番号を更新	住所 ID で識別されるレコードのビジネスパートナーの携帯電話、電話、または住所データを更新します。
	既存サプライヤーの会社コードを作成	既存のサプライヤーの会社コードを作成します。
	既存のサプライヤーの銀行詳細を作成	ビジネスパートナーにリンクされた新しいビジネスパートナー銀行データを作成します。

スポークモジュール

SAP S4 HANA OData スポークは、SAP S4 HANA OData モジュールを ServiceNow インスタンスに追加します。

モジュール	説明
リモートテーブル > 発注書	SAP S4 HANA OData の既存のすべての発注書 (PO) を取得します。
受信フロー > 発注書 **(PO)**	直近の成功したランタイムと現在のランタイムの間の発注書ステータスの最新の変更を一覧表示します。
受信フロー > 前回の正常実行	フローの前回の正常実行の詳細を一覧表示します。

スポークのフロー

SAP S4 HANA OData スポークにより、次のフローが追加されます。

フロー	説明
発注書 (PO) の検索のサンプルフロー	直近の成功したランタイムと現在のランタイムの間の発注書ステータスの最新の変更のリストを取得します。

スポークのサブフロー

SAP S4 HANA OData スポークにより、次のサブフローが追加されます。

サブフロー	説明
発注書 (PO) の作成のサンプルサブフロー	発注書 (PO) が存在するかどうかを検索し、結果が見つからない場合は発注書を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

SAP S4 HANA OData スポークの設定

基本認証認証情報を使用して、ServiceNow インスタンスと SAP S4 HANA OData スポークを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SAP S4 HANA OData スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

SAP S4 HANA OData スポークの接続レコードの作成

SAP S4 HANA OData スポークの認証情報レコードを作成します。SAP S4 HANA OData スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを認証します。

始める前に

必要なロール：admin。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報エイリアス]の順に移動します。
2. **[SAP S4 HANA OData]** レコードを開きます。
3. [関連リンク] タブから、[新しい接続および資格情報を作成] を選択します。
4. 接続および認証情報を作成フォームで、フィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを一意に識別する名前。たとえば、`SAP S4 HANA OData` 接続です。
接続 URL	SAP S4 HANA OData サーバーがインストールされるターゲットホストの完全修飾ドメイン名です。
MID サーバーを使用	MID サーバーを選択するためのオプションです。デフォルトでは、このフィールドが選択されます。
ユーザー名	SAP S4 HANA OData アカウントのユーザー名。
パスワード	SAP S4 HANA OData アカウントのパスワード。

5. [作成] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SAP S4 HANA パブリッククラウドスポーク

SAP S4 HANA パブリッククラウドスポーク は、Bristlecone, Inc. によってビルドされています。ServiceNow インスタンスから、SAP S4 HANA パブリッククラウドインスタンスのプライマリデータ、発注書 (PO)、受領書、およびサプライヤーを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

SAP S4 HANA パブリッククラウドスポーク v1.3 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは SAP S4 HANA 1909 向けにビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- SAP S4 HANA パブリッククラウドアカウント
- 次のシステムプロパティの値を構成します。

  com.snc.process_flow.reporting.serialized.val_size_limit：このプロパティは JSON オブジェクトをシリアル化し、データが必要な形式であることを確認します。要件に従ってバイト数を指定します。詳細については、「フローデザイナー システムのプロパティ」を参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

SAP S4HANA パブリッククラウドスポークは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
プライマリデータ管理	ビジネスパートナーの住所ストリームを検索	システムで利用可能な全レコードのビジネスパートナーの住所データフィールドを取得します。
	ビジネスパートナーのストリームを検索	システムで利用可能な全レコードのビジネスパートナーのデータフィールドを取得します。
	基本測定単位ストリームを検索	測定単位のテキストから一連のエントリを読み取ります。
	アカウントストリームのチャートを検索	利用可能なアカウントのチャートの詳細を取得します。
	会社コードストリームを検索	会社コードに関連する詳細を取得します。
	コストセンターのストリームを検索	すべてのコストセンターの詳細を取得します。
	アカウントストリームのチャートの GL アカウントを検索	アカウントのチャートについて、利用可能な総勘定元帳 (GL) アカウントの詳細を取得します。
	品目グループのストリームを検索	品目グループのストリームを同期的に取得します。
	品目ストリームを検索	製品マスターのすべての一般的なデータの詳細を取得します。
発注書 (PO) 管理	発注書 (PO) ストリームを検索	必要な製品マスターの一般データを取得します。
	発注書 (PO) と PO 明細行を作成	要求本文で渡されたヘッダーとアイテムの詳細を使用して、新しい発注書 (PO) を作成します。
受領書管理	受領書を作成	特定のビジネスプロセスのヘッダーとアイテムによって入出庫伝票を作成します。
	サービス物品受領書を作成	SAP S4 HANA クラウドでサービス物品受領書を作成します。
	受領書ストリームを検索	入出庫伝票に関連する詳細を取得します。
サプライヤー管理	サプライヤーを作成	指定された詳細で新規サプライヤーを作成します。
	サプライヤーストリームを検索	サプライヤーマスターの一般データを取得します。
請求書管理	請求書を作成	会社コード、請求書総額、請求先を使用してサプライヤー請求書を作成します。
	請求書ストリームを検索	サプライヤー請求書、会計年度、会社コード、取引通貨、伝票日付、請求書総額、請求先、転記日などを使用して、サプライヤー請求書データを読み取ります。
出荷管理	事前出荷通知ストリームを検索	要求された事前出荷通知の一般データを取得します。
ユーティリティ管理	トークンと Cookie をフェッチ	他のスポークアクションの CSRF (Cross-Site Request Forgery) トークンと cookie を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		注: このアクションは、「トークンと Cookie の生成」のスケジュール済みジョブで 6 時間ごとに実行され、システムプロパティが更新されます。
ユーザー管理	ユーザーストリームを検索	システムに存在するユーザーの一般データを取得します。フェッチされるデータは、ユーザー ID、ユーザー名、説明、メールアドレスなどです。

スポークのスケジュール済みジョブ

SAP S4HANA パブリッククラウドスポーク には、スケジュール済みジョブ「トークンと Cookie の生成 - クラウドスポーク (Generate Token and Cookie - Cloud Spoke)」が用意されています。このスケジュール済みジョブは 26 分ごとに実行され、トークンと Cookie が作成されます。トークンと Cookie をフェッチ」スポークアクションは、このスケジュール済みジョブに依存します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 SAP S4 HANA パブリッククラウドスポークのセットアップ。

SAP S4 HANA パブリッククラウドスポークのセットアップ

ベーシック認証を使用して ServiceNow インスタンスと SAP S4 HANA パブリッククラウドインスタンスを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SAP S4 HANA Public Cloud スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **[SAP S4 HANA** クラウド **(SAP S4 HANA Cloud)]** レコードを開きます。
3. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。
4. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	SAP S4 HANA パブリッククラウドインスタンスに接続するための URL。
ユーザー名	SAP S4 HANA パブリッククラウドインスタンスにログインするためのユーザー名。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
パスワード	SAP S4 HANA パブリッククラウドインスタンスにログインするためのパスワード。

5. [**Create** (作成)] をクリックします。

SAP S4 HANA RFC スポーク

SAP S4 HANA RFC Spoke は、Bristlecone, Inc. によってビルドされています。ServiceNow® インスタンスから SAP S4 HANA RFC アカウントの調達、レコード、ジャーナルなどを管理します。

ストアでアプリを要求

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。2022 年 3 月 1 日以降、すべての SAP スポークはストアでのみ入手可能になります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

SAP S4 HANA RFC スポーク v2.4.1 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは、次のSAP S4 HANA RFCバージョン用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

- SAP アプリケーションバージョン：SAP S4 HANA 1909 以降
- NetWeaver バージョン：SAP NW 7.5
- SAP JCo：3.0.20

スポークの要件

- SAP S4 HANA RFCアカウントのアドミンに連絡し、次の SAP 独自の JAR ファイルおよびその他の必要なファイルを入手します。
  - `sapjco3.jar`。
  - `libsapjco3.so`：MID サーバーがLinuxマシンにインストールされている場合は、このファイルを取得してください。
  - `sapjco3.dll`：MID サーバーがWindowsマシンにインストールされている場合は、このファイルを取得してください。

  JAR ファイル `sapConnector-1.0.jar` は、SAP S4 HANA RFC アカウントで RFC や IDocs をやり取りして実行するためのカスタムインターフェイスを提供するためにスポークとともに利用可能です。JAR ファイルは、ServiceNowインスタンスのスポークの一部としてインストールされます。
- SAP S4 HANA RFCサーバーがインストールされているターゲットホストのクライアント値をコピーして記録します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 次のシステムプロパティの値を構成します。
  - *com.snc.process_flow.reporting.serialized.val_size_limit*：このプロパティは JSON オブジェクトをシリアル化し、データが必要な形式であることを確認します。要件に従ってバイト数を指定します。詳細については、「フローデザイナー のシステムプロパティ」を参照してください。
  - *glide.rest.max_content_length*：このプロパティではペイロードサイズが指定されます。フローで使用する最大ペイロードサイズを指定します。このプロパティに指定できる最大値は 25 MB です。
- このスポークを、SAP ECC IDoc、SAP S4 HANA IDoc、 SAP ECC RFC スポークと併用している場合は、スポークのアップグレード時に、必ずすべてのスポークを最新バージョンにアップグレードします。

注: 認証目的で情報を取得するには、「RFC を実行」 スポークアクションを使用します。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的出力 (com.glide.hub.dynamic_outputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

SAP S/4 HANA RFC Spoke では、SAP S4 HANA RFCタスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
着信請求書を取得	請求書データを定期的に取得します。このデータは、SAP S/4HANA 請求書データモジュールに表示されます。
ロール別にユーザーを取得	指定されたユーザーロールに基づいて、ユーザーの詳細を取得します。このデータは、SAP S/4HANA ユーザーレコードモジュールに表示されます。

スポークのアクション

SAP S/4 HANA RFC Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにSAP S4 HANA RFCタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アイテム	資料グループを検索	資料グループの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	プラントで資料を検索	プラント選択基準に基づいて資料 (アイテム) のリストを取得します。
	ストレージの場所で資料を検索	ストレージ場所選択基準に基づいて資料 (アイテム) の詳細を取得します。
ジャーナル	ジャーナルエントリを投稿	SAP S4 HANA RFCで GL アカウントへのジャーナルエントリを投稿します。
	ジャーナルエントリを取り消す	SAP S4 HANA RFCで GL アカウントでのジャーナルエントリを取り消します。
検索	コントロールエリアでコストセンターを検索	コントロールエリアに基づいてコストセンターの詳細を取得します。
メタデータの取得	RFC の入力スキーマを取得	RFC の入力スキーマを動的に取得します。
	RFC の出力スキーマを取得	RFC の出力スキーマを動的に取得します。
	RFC テーブルフィールド入力メタデータを検索	RFC テーブルの選択されたフィールドの入力スキーマを SAP S4 HANA RFC から動的に取得します。
	RFC テーブルフィールド出力メタデータを検索	RFC テーブルの選択されたフィールドの出力スキーマを SAP S4 HANA RFC から動的に取得します。
	RFC テーブル入力メタデータを検索	RFC のテーブルの入力スキーマを SAP S4 HANA RFC から動的に取得します。
調達	支払いを承認	SAP S/4 HANA – RFC で支払承認の文書を作成します。
	固定資産を作成	SAP S4 HANA RFCで固定資産を作成します。
	物品受領書を作成	SAP S4 HANA RFCで物品受領書を作成します。
	請求書を作成	SAP S4 HANA RFCに請求書を作成します。
	請求書をキャンセル	SAP S/4HANA RFC で請求書ドキュメントをキャンセルします。
	物品受領書をキャンセル	SAP S/4HANA - RFC で物品受領書ドキュメントをキャンセルします。
	発注書なし請求書を作成	SAP S/4HANA – RFC で発注書なし請求書ドキュメントを作成します。
	発注書を作成	SAP S4 HANA RFCで発注書を作成します。
	サービス物品受領書を作成	SAP S/4HANA - RFC でサービス物品受領書を作成します。
	ベンダーを作成	SAP S/4HANA - RFC でベンダーを作成します。
	資産カテゴリを検索	SAP S/4HANA - RFC から、指定された資産の詳細を取得します。
	請求書を検索	SAP S/4 HANA - RFC から請求書の詳細を取得します。
	発注書 (PO) の添付ファイルを検索	SAP S/4HANA RFC から発注書 (PO) の添付ファイルの詳細を取得します。
	日付で請求書を検索	エントリー日に基づいて請求書の詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	発注書と購入明細を検索	SAP S/4 HANA - RFC から発注書と購入明細の詳細を取得します。
	受領書を検索	SAP S/4HANA RFC から受領書の詳細を取得します。
	ベンダーを検索	SAP S/4HANA - RFC からベンダーの詳細を取得します。
	事前出荷通知を検索	SAP S/4HANA - RFC で事前出荷通知を取得します。
	請求書の支払いステータスを検索	SAP S/4HANA - RFC から請求書の支払ステータスを取得します。
	発注書を更新	指定された発注書 (PO) の詳細を更新します。
	ベンダーを更新	SAP S/4HANA - RFC でベンダーの詳細を更新します。
レコード管理	RFC を実行	作成、更新、または読み取り操作に使用可能なリストから RFC を実行します。
	検索操作の RFC を実行	利用可能なリストから RFC を実行します。
転送注文	転送注文および品目を作成	SAP S/4HANA - RFC で転送注文を作成します。
	転送注文および品目を検索	SAP S/4HANA - RFC から転送注文を取得します。
ユーティリティ	テーブルフィールドメタデータを作成	オブジェクトで与えられた BAPI の選択されたテーブルフィールドのユーザー入力をエンベロープします。
財務管理	資産を作成	指定された詳細を使用して SAP S4 HANA - RFC で資産を作成します。
受注	受注を作成	SAP S/4HANA - RFC で受注を作成します。
	受注を検索	SAP S/4HANA - RFC から受注の詳細を取得します。
	受注を検索	SAP S/4HANA - RFC から指定された顧客番号に基づく受注を取得します。
	受注を更新	SAP S/4HANA - RFC で指定された受注の詳細を更新します。
請求書と支払い	ID で請求の詳細を検索	SAP S/4HANA - RFC から指定されたドキュメント ID の請求の詳細を取得します。
	残高を検索	SAP S/4HANA - RFC から顧客の残高を取得します。
	支払いを検索	SAP S/4HANA - RFC から顧客の支払い処理待ちを取得します。
顧客管理	顧客情報を検索	SAP S/4HANA - RFC から指定された会社コードと顧客番号の顧客情報を取得します。
インベントリ (または) 営業	部品のインベントリを検索	SAP S/4HANA-RFC から指定されたプラントと品目のインベントリを取得します。

スポークモジュール

SAP S/4 HANA RFC Spoke は SAP S4 HANA RFCSpoke アプリケーションをインスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
SAP S/4 HANA - RFCs	RFC のリストを表示します。一部の RFC はスポークとともに提供されます。要件に応じて追加の RFC を作成できます。「RFC を実行」アクションでは、これらのレコードを入力として使用します。
SAP S/4 HANA フロー実行	「着信請求書を取得」フローが実行された日付を表示します。SAP S4 HANA RFCスポークを設定した後、請求書データを取得する日付を指定してレコードを作成します。詳細については、「SAP S4 HANA RFCスポークを設定」を参照してください。
SAP S/4 HANA 請求書データ	請求書データの詳細を表示します。デフォルトフローの「着信請求書を取得」フローをカスタマイズして実行し、請求書データを取得します。
SAP S/4 HANA ユーザーレコード	指定されたユーザーロールに基づいて、ユーザーの詳細を表示します。デフォルトフローの「ロール別にユーザーを取得」フローをカスタマイズして実行し、ユーザー情報を取得します。

スポークユーザーロール

SAP S4 HANA RFCでは、データへのアクセスを制御する sn_sap_s4_hana_rfc.SAP_S4_HANA_RFC_Spoke_Admin ユーザーロールが提供されます。sn_sap_s4_hana_rfc.SAP_S4_HANA_RFC_Spoke_Admin ロールを持つユーザーは、スポークテーブルにアクセスできます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

MID サーバーの要件

これらのアクションでは、インスタンスまたは MID サーバーで実行できる、リモートファンクションコール (RFC) プロトコル (SAP 独自のプロトコル - SAP 標準インターフェイス) を使用します。SAP S4 HANA RFCスポークエイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所およびMID サーバー選択属性を設定します。MID サーバーでのアクションの実行の詳細については、「統合ステップ」を参照してください。

注:

- MID サーバーがLinuxマシンにインストールされている場合は、SAP S4 HANA RFCスポークを設定で概説されている手順で設定を行います。
- MID サーバーがWindowsマシンにインストールされている場合、設定の必要はありません。

SAP S4 HANA RFCスポークを設定

基本認証情報を使用してServiceNowインスタンスとSAP S4 HANA RFCスポークをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SAP S4 HANA RFC スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

注: 認証目的で情報を取得するには、「RFC を実行」 スポークアクションを使用します。

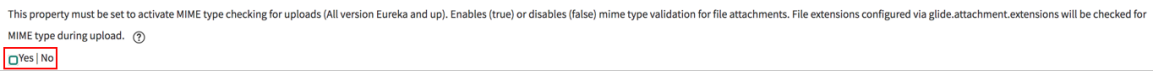
手順

1. SAP 独自の JAR ファイルを使用して、MID サーバーを構成します。

   a. オプション: [システムプロパティ] > [セキュリティ] に移動します。

      注: これは、MID サーバーがLinuxマシンにインストールされている場合にのみ適用されます。

   b. オプション: 添付ファイルに対する MIME タイプの妥当性確認を無効化します。

      注: これは、MID サーバーがLinuxマシンにインストールされている場合にのみ適用されます。

   c. **[MID Server]** > **[JAR** ファイル]に移動します。

   d. SAP S4 HANA RFCアドミニストレーターに連絡して取得した必要な SAP 独自のファイル (JAR、SO、または DLL) をアップロードします。
   詳細については、「JAR ファイルを MID サーバーと同期させる」を参照してください。

      注: ファイルが `<MID-Server-root-directory>/agent/extlib` ディレクトリで同期されていることを確認します。ファイルが同期されていない場合は、MID サーバー を再起動します。

2. SAP S4 HANA RFCアカウント用の認証情報レコードを作成します。

   a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

   b. [新規] をクリックします。

      「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

   c. [基本認証情報] を選択します。

   d. フォームに、これらの値を入力します。

      ベーシック認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`SAP S4 HANA RFC` 認証情報などです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ユーザー名	SAP S4 HANA RFCアカウントにログインするためのユーザー名です。
パスワード	SAP S4 HANA RFCアカウントを認証してログインするためのパスワードです。
有効	認証情報レコードをアクティブに使用するオプション。
順番	この認証情報を適用する順番です。たとえば、`100` です。
認証情報エイリアス	スポークに関連付けられた認証情報エイリアスです。

e. [送信] をクリックします。

3. SAP S4 HANA RFCアカウントへの接続レコードを作成します。

a. [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. SAP S4 HANA RFCのエイリアスレコードを開きます。

c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。

d. フォームのフィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`SAP S4 HANA RFC` 接続です。
認証情報	SAP S/4 HANA IDoc Spoke の認証情報レコードです。たとえば、`SAP S4 HANA RFC` 認証情報などです。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
ホスト	SAP S4 HANA RFCサーバーがインストールされるターゲットホストの完全修飾ドメイン名です。
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	接続で使用されるターゲット ポート。空白の場合は、デフォルトのポートが使用されます。
MID サーバーを使用	この接続に MID サーバー を使用するオプション。チェックボックスを選択し、**[MID** サーバー詳細構成] タブでフィールドを定義します。

e. [MID サーバー詳細設定] タブで、次の詳細を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
MID 選択	必要に応じて MID サーバー を選択するオプション。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	MID サーバー を使用して SFTP ステップを実行するオプション。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。 実行時に MID サーバー が選択される方法の詳細については、「MID サーバーの選択」を参照してください。
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。 必要な機能によって、実行時にどの MID サーバーが選択されるかが決定されます。 実行時に MID サーバー が選択される方法の詳細については、「 MID サーバーの選択」を参照してください。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、ソース接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。

f. [属性] タブで、次の詳細を入力します。

フィールド	説明
u_client	SAP S4 HANA RFCサーバーがインストールされているターゲットホストのクライアント値です。
u_system_number	SAP S4 HANA RFCサーバーがインストールされているターゲットホストのシステム番号です。
u_lang	SAP S4 HANA RFCサーバーがインストールされているターゲットホストで選択されている言語です。

g. [送信] をクリックします。

4. SAP S/4HANA フロー実行モジュールでレコードを作成し、請求書データを取得する日付を指定します。

a. [SAP S/4HANA - RFC Spoke] > **[SAP S/4HANA** フロー実行]に移動します。

b. [新規] をクリックします。

c. [前回の正常実行] で、請求書データを取得する最終日を指定します。

d. [送信] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

「着信請求書を取得」フローでは、この日付を入力として受け取り、請求書データが取得されます。設定されたフロートリガーに応じて、「着信請求書を取得」フローによって定期的に請求書データが取得されます。請求書データを表示するには、**[SAP S/4HANA - RFC** スポーク] > **[SAP S/4HANA** 請求書データ]に移動します。

タスクの結果
スポークが設定され、アクションが利用可能になります。

注: 複数の接続を使用する場合は、それらの接続をデフォルトの接続エイリアスレコードの下に子エイリアスレコードとして作成します。また、すべての接続レコードがアクティブであることを確認する必要があります。

SCCM Usage Metering スポーク

Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) Usage Metering サーバーからソフトウェア使用状況データを取得するためのプロセスを管理します。このスポークを使用して、ソフトウェア使用状況測定に関するデータと、ソフトウェアが最後に使用された日時を取得します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

SCCM Usage Metering スポークは v1.0.2 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークはMicrosoftSCCM バージョン 1602 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- ソフトウェア測定が有効になっている MicrosoftSystem Center Configuration Management Usage Metering サーバーバージョン 2012 R2。ソフトウェア測定の詳細については、「Configuration Manager のソフトウェア測定」を参照してください。

  注: 必要なソフトウェアの測定ルールが SCCM で構成されていることを確認します。

- Microsoft SQL サーバー 2014

スポークのフローおよびサブフロー

このスポークにはフローまたはサブフローがありません。

スポークのアクション

SCCM Usage Metering スポークでは、 MicrosoftSystem Center Configuration Management Usage Metering サーバーからソフトウェア使用状況データを取得するためのアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

アクション	説明
ソフトウェアで最後に使用されたデータを取得	Microsoft SCCM サーバーから必要なソフトウェアの前回の使用率のデータを取得します。
ソフトウェア使用率データを取得	Microsoft SCCM サーバーから必要なソフトウェアの使用率測定データを取得します。

注:

スポークアクションでは、JDBC ステップについて、SCCM サーバーから最大 10 MB のペイロードをサポートしています。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 SCCM Usage Meteringスポークを設定。

MID サーバーの要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。Microsoft SCCM 使用率測定エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー選択属性を設定します。 詳細については「 MID サーバー」を参照してください。

SCCM Usage Meteringスポークを設定

Java Database Connectivity (JDBC) 認証情報を使用してServiceNowインスタンスと SCCM をデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SCCM Usage Metering スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

SCCM Usage Meteringスポークの接続レコードの作成

SCCM サーバーへの認証情報レコードを作成します。SCCM Usage Metering Spoke の接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して SCCM でアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続]に移動します。
2. [新規] をクリックし、**[JDBC** 接続] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
   [フォーマット] フィールドのデータベース選択により、利用可能なフィールドが決定されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前	JDBC 接続の一意の名前です。たとえば、`JDBC MySQLProd` です。
認証情報	JDBC プロバイダーの認証情報です。データベースのユーザー名とパスワードを入力します。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
クエリタイムアウト	JDBC クエリが応答なしで実行される最大経過時間です。
接続タイムアウト	ターゲット データベースへの接続の試行中に JDBC アクティビティが待機する最大経過時間。
有効	接続を有効にするオプションです。
ドメイン	テーブルのドメインです。デフォルトでは、グローバル ドメインで JDBC 接続 [jdbc_connection] テーブルが実行されます。
フォーマット	接続のデータベースタイプです。以下から選択可能です。 ◦ **MySQL** ◦ **Oracle** ◦ **SQLServer** ◦ なし
ホスト	データベース サーバーのホスト名または IP アドレス。
Oracle ポート	Oracle データベースが使用しているポート。デフォルト値は **1521** です。 **注:** このフィールドは、フォーマットリストから **[Oracle]** が選択されている場合に使用できます。
Oracle SID	Oracle データベース サイトの識別子です。デフォルト値は **orcl** です。 **注:** このフィールドは、フォーマットリストから **[Oracle]** が選択されている場合に使用できます。
データベース名	データベースの名前。 **注:** このフィールドは、フォーマットリストから **[MySQL]** または **[SQLServer]** が選択されている場合に使用できます。
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	選択したデータベースが使用しているポート。 **注:** このフィールドは、フォーマットリストから **[MySQL]** または **[SQLServer]** が選択されている場合に使用できます。
インスタンス名	選択した SQLServer のインスタンス名です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: このフィールドは、フォーマットリストから **[SQLServer]** が選択されている場合に使用できます。
接続 URL	指定したデータベースへの接続にMID サーバーが使用する URL です。この URL は、フォームを保存したときに自動的に作成され、デフォルトのデータベースでは読み取り専用になります。例：jdbc:<database>://<hostname>;selectMethods=cursor;databaseName=<database_name> 注: 選択した形式がデフォルトのデータベースのものでない場合は、接続 URL を手動で作成する必要があります。これにより、MID サーバーが接続を作成できるようになります。
MID サーバーを使用	アクションにMID サーバーを使用するオプションです。選択した場合、**[MID** サーバー詳細構成] セクションでフィールドを定義します。
できること	選択対象となるためにMID サーバーがサポートする必要がある機能です。**[MID** サーバーを使用] が選択されている場合のみ表示されます。実行時に MID サーバー が選択される方法の詳細については、「MID サーバーの選択」を参照してください。
MID アプリケーション	選択対象となるためにMID サーバーがサポートする必要があるアプリケーションです。**[MID** サーバーを使用] が選択されている場合のみ表示されます。実行時に MID サーバー が選択される方法の詳細については、「MID サーバーの選択」を参照してください。

SCCM Usage Metering スポークの認証情報レコードの作成

SCCM サーバーの認証情報レコードを作成します。SCCM Usage Meteringスポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. **[JDBC** 認証情報] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	認証情報を一意に識別する名前です。
有効	認証情報を使用するオプションです。
適用先	認証情報がネットワークの [すべての **MID** サーバー] に適用されるか、または 1 つ以上の [特定の **MID** サーバー] に適用されるかを確認するオプションです。**[MID** サーバー] フィールドで

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	これらの認証情報を使用する MID サーバーを指定します。
順番	この認証情報を適用する順番。たとえば、「100」と入力します。
ユーザー名	データベースにアクセスするためのユーザー名です。
パスワード	データベースにアクセスするためのパスワードです。
認証情報エイリアス	スポークに関連付けられた認証情報エイリアスです。

5. [送信] をクリックします。

Secureworks CTP スポーク

ServiceNow インスタンスを Secureworks Counter Threat Platform (CTP) とデータ連携します。ServiceNow インスタンスから Secureworks Counter Threat Platform でイベントとチケットを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Secureworks CTP スポーク v1.0.3 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Secureworks CTP V4 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Secureworks ポータルアカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Secureworks CTP Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにSecureworks CTP タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
イベント管理	イベントの詳細を取得	特定のイベントの詳細を取得します。
	最新のイベントを取得	最近のイベントのリストの詳細を取得します。
チケット管理	Secureworks SOC にチケットをアサイン	Secureworks Security Operations Centers (SOC) チームにチケットをアサインします。
	Secureworks チケットをクローズ	指定された Secureworks チケットをクローズします。
	チケットの詳細を取得	指定された Secureworks チケットの詳細を取得します。
	チケットを検索	Secureworks からチケットのリストを取得します。
	Secureworks チケットに作業ログを投稿	Secureworks チケットに作業ログを追加します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Secureworks CTP Spoke を設定。

Secureworks CTP Spoke を設定

Secureworks ポータルでカスタムアプリケーションを登録してServiceNowインスタンスとSecureworks CTP をデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Secureworks CTP スポークを有効にします。
- Secureworks CTP アカウントの「アカウント管理」セクションから API パスワードを作成します。
- 必要なロール：admin

Secureworks CTP Spoke の認証情報レコードを作成

Secureworks CTP の認証情報レコードを作成します。 アカウントSecureworks CTP Spoke の接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **[API** キー認証情報] を選択します。
4. フォームの各フィールドに入力します。

API キー認証情報

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`Secureworks` 認証情報」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
API キー	Secureworks アカウントで生成された API キーです。API キーは次の形式で入力します：`APIKEY username:password`
適用先	この認証情報を使用できる MID サーバーです。
順番	認証情報が適用されるシーケンスです。
認証情報エイリアス	認証情報を使用するエイリアスです。パドロックアイコンをクリックし、「`sn_sw_ctp_spoke.Secureworks`」と入力します。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

Secureworks CTP Spoke の接続レコードを作成

Secureworks アカウントへの接続レコードを作成します。Secureworks CTP Spoke の接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Secureworks ポータルで API アクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **Secureworks** のエイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例を次に示します。 `Secureworks` 接続
認証情報	Secureworks CTP Spoke の認証情報レコードです。 作成した認証情報を入力します。たとえば、`Secureworks` 認証情報です。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。デフォルトのエイリアスは `sn_sw_ctp_spoke.Secureworks` です。
接続 URL	**Secureworks** に接続するためのベース URL です。次のように入力します：`https://api.secureworks.com`
有効	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。

5. [送信] をクリックします。

ServiceNow Remote Instance スポーク

ローカルインスタンスとリモート ServiceNowインスタンスをデータ連携し、ローカルインスタンスからレコードをエクスポート、インポート、および管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

ServiceNow Remote Instance スポークは v2.2.7 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは、Orlandoバージョン以降用にビルドされました。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的出力 (com.glide.hub.dynamic_outputs)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークの要件

スポークユーザーがServiceNowテーブルのデータにアクセスするために必要な最小限の権限のみを持っていることを確認してください。本当に必要な場合を除き、このスポークのユーザーに昇格された権限ロールを割り当てないでください。この方法により、データへの制御されたアクセスが保証されます。

注: コンテキストではリモートインスタンスおよびローカルインスタンスという用語が使用されます。

- ローカルインスタンス：通信が開始および確立される ServiceNow インスタンスです。
- リモートインスタンス：ローカルインスタンスが通信する ServiceNow インスタンスです。

スポークのアクション

ServiceNow Remote Instance Spoke では、ローカルServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにレコードをエクスポート、インポート、および管理するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
変更要求管理	変更要求レコードをエクスポート	ローカルインスタンスからリモートインスタンスに変更要求レコードをエクスポートします。
	変更要求レコードをインポート	リモートインスタンスの変更要求テーブルからのレコードをローカルインスタンスにインポートします。
インシデント管理	インシデントレコードをエクスポート	ローカルインスタンスからリモートインスタンスにインシデントレコードをエクスポートします。
	インシデントレコードをインポート	リモートインスタンスのインシデントテーブルからのレコードをローカルインスタンスにインポートします。
問題管理	問題レコードをエクスポート	ローカルインスタンスからリモートインスタンスに問題レコードをエクスポートします。
	問題レコードをインポート	リモートインスタンスの問題テーブルからのレコードをローカルインスタンスにインポートします。
テーブル管理	リモートテーブルでフィールドを検索	指定されたリモートテーブルからすべてのフィールドを取得します。
	ローカルインポートセットテーブルを検索	指定されたローカルインポートセットテーブルの詳細を取得します。
	リモートインポートセットテーブルを検索	指定されたリモートインポートテーブルの詳細を取得します。
	リモートテーブルを検索	指定されたリモートテーブルの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
添付ファイル管理	添付ファイルをリモートインスタンスからコピー	必要な添付ファイルをリモートインスタンスからコピーします。 **注:** 必要な添付ファイルは、データピルのみを使用して選択する必要があります。
	添付ファイルをリモートインスタンスにコピー	必要な添付ファイルをリモートインスタンスにコピーします。 **注:** 必要な添付ファイルは、データピルのみを使用して選択する必要があります。
	ローカル添付ファイル名を検索	必要な添付ファイルの名前を取得します。
ケース管理	ケースをインシデントとしてエクスポート	ローカルインスタンスからリモートインスタンスにインシデントレコードとしてケースレコードをエクスポートします。
	ケースレコードをエクスポート	ローカルインスタンスからリモートインスタンスにケースレコードをエクスポートします。
	ケースタスクレコードをエクスポート	ローカルインスタンスからリモートインスタンスにケースタスクレコードをエクスポートします。
	インシデントをケースとしてエクスポート	ローカルインスタンスからリモートインスタンスにケースレコードとしてインシデントレコードをエクスポートします。
	ケースをインシデントとしてインポート	リモートインスタンスのケーステーブルからレコードをインシデントレコードとしてローカルインスタンスにインポートします。
	ケースレコードをインポート	リモートインスタンスのケーステーブルからレコードをローカルインスタンスにインポートします。
	ケースタスクレコードをインポート	リモートインスタンスのタスクテーブルからレコードをローカルインスタンスにインポートします。
	インシデントをケースとしてインポート	リモートインスタンスのインシデントテーブルからレコードをケースレコードとしてローカルインスタンスにインポートします。
レコード管理	リモートレコードを作成または更新	リモートインスタンスでレコードを作成するか、既存のレコードを更新します。
	インポートセットを使用してリモートレコードを作成または更新	リモートインポートセットでレコードを作成します。
	リモートレコードを作成	リモートインスタンスでレコードを作成します。
	リモートレコードを削除	リモートインスタンスでレコードを削除します。
	インポートセットを使用してレコードをエクスポート	選択されたローカルテーブルからリモートインスタンスにレコードをエクスポートします。
	リモートレコードを取得	リモートインスタンスから必要なレコード情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	インポートセットを使用してレコードをインポート	リモートインスタンスのテーブルからレコードをローカルインスタンスにインポートします。
	リモートレコードを検索	リモートインスタンスから必要なレコード情報を取得します。
	リモートレコードを検索	リモートインスタンステーブルから複数のレコードを取得します。
	リモートレコードを更新	リモートインスタンスで必要なレコードを更新します。

注: [会社] フィールドは、デフォルトの変換マップを使用してレコードをインポートまたはエクスポートするために必要です。ただし、ユーザーは要件に応じて変換マップを変更できます。また、データ転送を伴うデータ連携を行う場合は、インポートセットを使用します。

スポーク変換マップ

ServiceNow Remote Instance Spoke では、リモートのServiceNowインスタンスデータをローカルServiceNowテーブルに保存するための変換マップの使用をデモするために、アクティブ状態のサンプル変換マップとそれに関連するサンプルターゲットテーブルが提供されます。これらのサンプル変換マップとターゲットテーブルを参照して、要件に従って変換マップを作成できます。

詳細については、「変換マップ」を参照してください。

注:

- デフォルトでは、サンプル変換マップは **[sys_id]** を結合フィールドとして使用します。要件に応じて変換マップスクリプトをカスタマイズし、結合フィールドを変更できます。
- デフォルトでは、エクスポートアクションとインポートアクションはスポークテーブルを使用します。これを変更して、異なるインポートセットを使用できます。
- ServiceNowインスタンスではタイムゾーンが異なる場合があります。状況に応じて適切にフローをカスタマイズしてください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

このスポークには、1 つはローカルインスタンス用、もう 1 つはリモートインスタンス用の 2 つの接続および資格情報エイリアスが必要です。スポークの設定については、「 ServiceNow Remote Instance Spoke を設定。

ServiceNow Remote Instance Spoke を設定

リモートServiceNowインスタンスに OAuth API エンドポイントを作成してローカルインスタンスとリモートServiceNowインスタンスをデータ連携し、要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- リモートおよびローカルの ServiceNow インスタンスで ServiceNow Remote Instance スポークを有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: コンテキストではリモートインスタンスおよびローカルインスタンスという用語が使用されます。

- ローカルインスタンス：通信が開始および確立される ServiceNow インスタンスです。
- リモートインスタンス：ローカルインスタンスが通信する ServiceNow インスタンスです。

- 必要なロール：admin

注: admin ロールは、スポークを設定する場合にのみ必要です。

スポークを使用するには、スポークユーザーがServiceNowテーブルのデータにアクセスするために必要な最小限の権限のみを持っていることを確認してください。本当に必要な場合を除き、このスポークのユーザーに昇格された権限ロールを割り当てないでください。この方法により、データへの制御されたアクセスが保証されます。

データ連携ユーザーは、やり取りするテーブルにアクセスするためには flow_operator およびその他の必要なロールを持っている必要があります。また、テーブル [sys_db_object] および辞書エントリ [sys_dictionary] の各テーブルにアクセスして、テーブル内のテーブル名やフィールドなどの動的オプションを表示するためのロールも必要です。

OAuth プロバイダーとしてリモート**ServiceNow**インスタンスを登録

リモートServiceNowインスタンスを OAuth プロバイダーとして登録し、ローカルServiceNowインスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に

- リモートServiceNowインスタンス：
  - 外部クライアント用の OAuth API エンドポイントを作成します。[リダイレクト **URL]** に、ローカルServiceNowインスタンスの URL を次のフォーマットで指定します：`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` 詳細については、「インスタンスにアクセスするクライアント用のエンドポイントを作成し ます。」を参照してください。
  - [クライアント ID] と [クライアントシークレット] の値をコピーして記録します。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. レコード **[RemoteSpoke]** を開きます。
3. フォームに、これらの値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
クライアント ID	リモートServiceNowインスタンスに作成されたクライアント ID です。
クライアント シークレット	リモートServiceNowインスタンスに作成されたクライアントシークレットです。
認証 URL	リモートServiceNowインスタンスの URL のフォーマット：`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_auth.do`
トークン URL	リモートServiceNowインスタンスの URL のフォーマット：`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_token.do`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
リダイレクト URL	ローカル ServiceNowインスタンスの URL のフォーマット：`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do`
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可のタイプ。[認証コード] を選択します。
リフレッシュ トークンの有効期間	リフレッシュトークンが有効になる時間 (秒) デフォルトの時間は 8,640,000 秒です。
PKCE が必要 (PKCE required)	パブリッククライアントが認証に PKCE を要求できるようにするオプション。 注：**PKCE** が有効になっている場合、[デフォルトの権限許可タイプ] として使用できるのは [認証コード] のみです。
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープです。
アクセス可能	このレジストリにアクセスできるアプリケーションスコープです。
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプション。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

リモート**ServiceNow**インスタンスの認証情報レコードを作成

リモートServiceNowインスタンスの認証情報レコードを作成します。ServiceNow Remote Instance Spoke 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`リモート認証情報`です。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
OAuth エンティティ プロファイル	ServiceNowインスタンスを OAuth プロバイダーとして登録する際に作成される OAuth プロファイルです。たとえば、**[RemoteSpoke default_profile]** を選択します。
順番	認証情報が使用される順番です。たとえば、「`100`」と入力します。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。
6. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リモート**ServiceNow**インスタンスの接続レコードを作成

リモートServiceNowインスタンスの接続レコードを作成します。ServiceNow Remote Instance Spoke 接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. エイリアスレコード **[ServiceNowRemoteInstance]** を開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

HTTP(S) 接続フォーム

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、リモート接続です。
認証情報	リモートServiceNowインスタンス用に作成された認証情報レコードです。たとえば、リモート認証情報です。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
URL ビルダー	注: チェックボックスをオンにしないでください。
接続 URL	リモートServiceNowインスタンスの URL です。例：`https://<remote-instance-name>.service-now.com/`。
アクティブ	接続を積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションまたはアクティビティを実行するドメインです。

5. [送信] をクリックします。

ローカル**ServiceNow**インスタンスの認証情報レコードを作成

ローカルServiceNowインスタンスの認証情報レコードを作成します。ServiceNow Remote Instance Spoke 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. [基本認証情報] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`ローカル認証情報`などです。
ユーザー名	ローカルServiceNowインスタンスにログインするためのユーザー名です。
パスワード	ローカルServiceNowインスタンスにログインするためのパスワードです。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。

ローカル**ServiceNow**インスタンスの接続レコードを作成

ローカルServiceNowインスタンスの接続レコードを作成します。ServiceNow Remote Instance Spoke 接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. エイリアスレコード **[ServiceNowRemoteInstanceLocalAlias]** を開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームのフィールドに入力します。

HTTP(S) 接続フォーム

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`ローカル接続`です。
認証情報	ローカルServiceNowインスタンス用に作成された認証情報レコードです。たとえば、ローカル認証情報などです。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
接続 URL	ローカルServiceNowインスタンスの URL です。例：`https://<local-instance-name>.service-now.com/`。
アクティブ	接続を積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションまたはアクティビティを実行するドメインです。

5. [送信] をクリックします。

Shodan スポーク

ServiceNow® インスタンスから Shodan アカウントで、エクスプロイト、アラート、ホストなどを管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Shodan スポーク v1.1.0 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNowIntegrationHub アクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Shodan スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Shodan タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
エクスプロイト管理	エクスプロイト検索	脆弱性データソースからエクスプロイトを検索します。
	エクスプロイト数を取得	特定のクエリのエクスプロイト数を取得します。
ネットワークアラート管理	アラートの詳細を取得	特定のネットワークアラートの詳細を取得します。
	アラートを検索	ネットワークアラートのリストを取得します。
検索管理	ホストの詳細を取得	指定されたホスト IP に関連付けられているすべてのサービスの詳細を取得します。
	ホスト数を取得	指定されたクエリと要求されたファセット情報に一致したホストの合計数を取得します。
	Shodan を検索	Shodan検索から詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

2 つの接続および資格情報エイリアスレコードはShodanスポークと一緒に使用できます。

スポークの設定については、「 Shodanスポークを設定。

Shodanスポークを設定

API キーを使用して、ShodanアカウントとServiceNow®インスタンスをデータ連携します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Shodan スポークを有効化します。
- Shodanアカウントの API キー
- 必要なロール：admin

Shodan スポークの接続の設定

Shodan サーバーに対する ServiceNow® 要求を認証するための Shodan 接続を追加して設定します。

このタスクについて

Shodan と Shodan Exploit の 2 つの接続を設定する必要があります。

始める前に

- 必要なロール：admin
- Shodan アカウントにログインし、API キーを取得します。

手順

1. Shodan 接続を設定します。

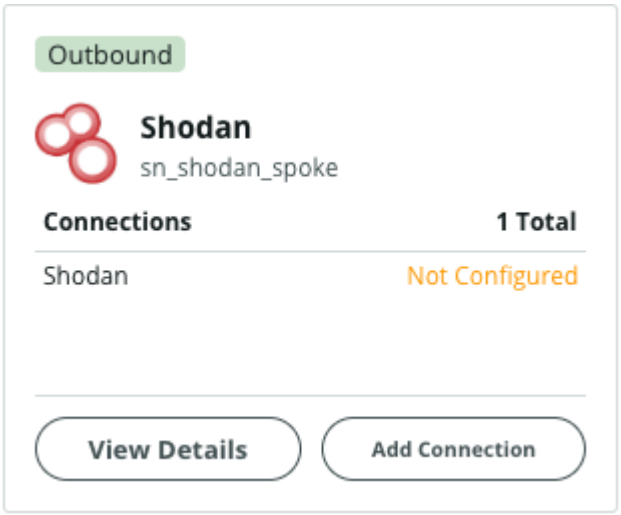
   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。

   b. [統合] タブを選択します。

   c. [すべての接続を検索] フィールドに「`Shodan`」と入力します。
   [送信] タブがデフォルトでアクティブになっています。アクティブでない場合は、切り替えてアクティブ化します。

   d. [Shodan] エイリアスタイルで、[詳細を表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

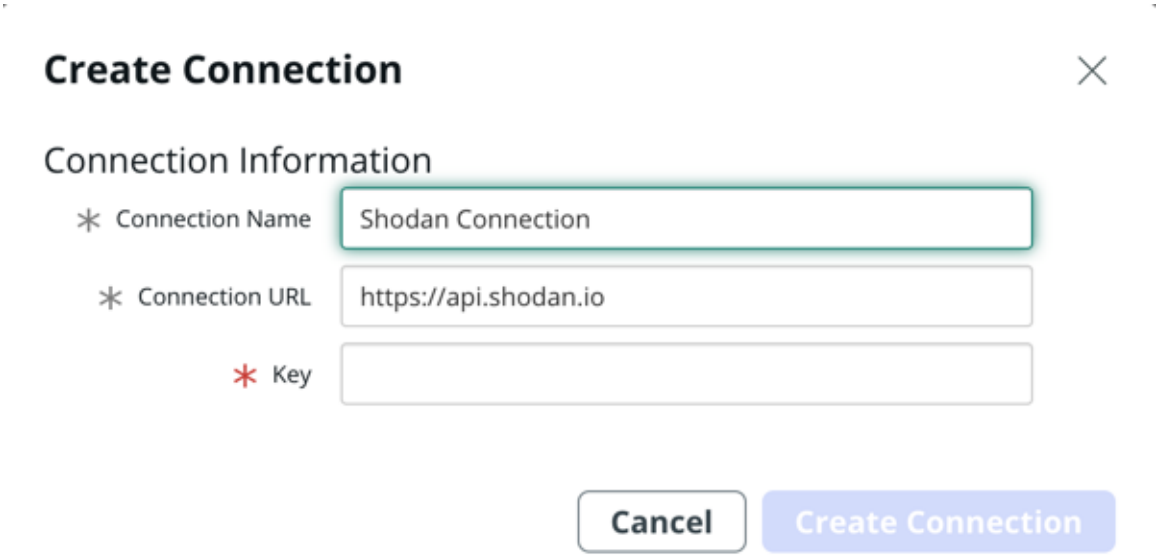


e. [構成 **(Configure)**] を選択します。

f. フォームに入力します。

Shodan エイリアス接続フォーム

フィールド	説明
接続名	接続を識別する名前です。デフォルト値は Shodan です。
接続 URL	Shodanに接続するための URL です。デフォルト値は `https://api.shodan.io` です
キー	Shodan アカウントの API キー



g. [接続を作成] を選択します。

2. Shodan Exploit 接続を設定します。

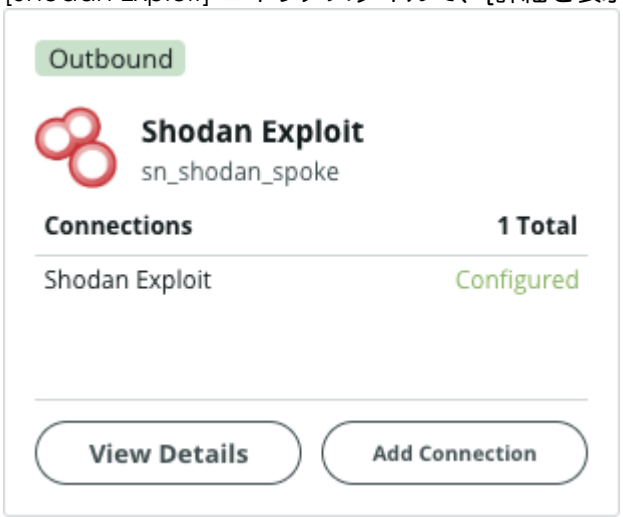
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。

b. [統合] タブを選択します。

c. [すべての接続を検索] フィールドに「`Shodan Exploit`」と入力します。
[送信] タブがデフォルトでアクティブになっています。アクティブでない場合は、切り替えてアクティブ化します。

d. [Shodan Exploit] エイリアスタイルで、[詳細を表示] を選択します。



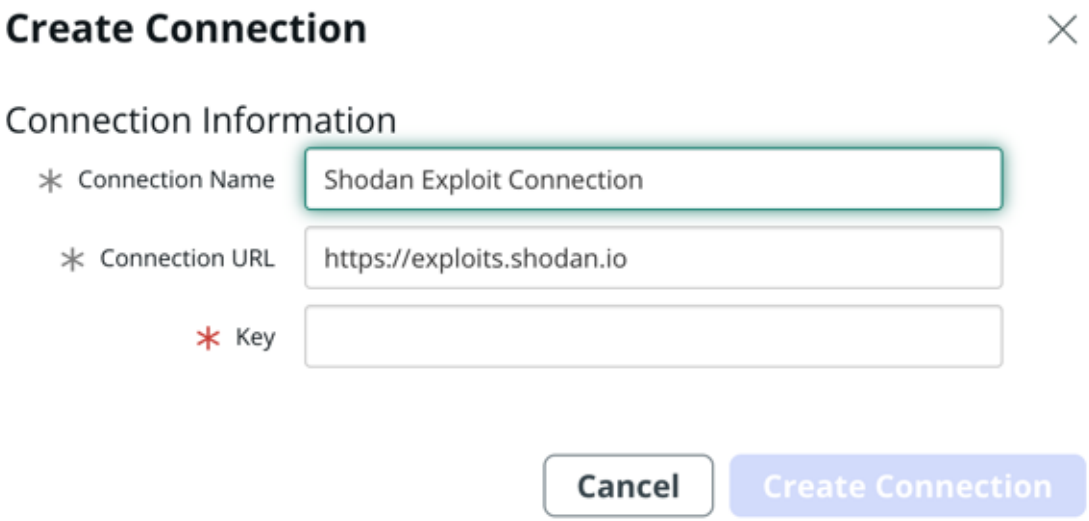
e. [構成 **(Configure)]** を選択します。

f. フォームに入力します。

Shodan Exploit エイリアス接続フォーム

フィールド	説明
接続名	接続を識別する名前です。デフォルト値は Shodan です。
接続 URL	Shodanに接続するための URL です。デフォルト値は `https://api.shodan.io` です
キー	Shodan アカウントの API キー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



g. [接続を作成] を選択します。

Slack スポーク

Slack スポークを使用し、メッセージを投稿したり、チャネルへのアクセスを管理したりします。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。 サブスクリプションの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークバージョン

Slack スポーク v1.7.0 が最新バージョンです。

Slack アカウントの要件

Slack スポークでは、Slack アカウントでワークスペースおよびカスタムアプリを作成し、Slack スポークの OAuth 2.0 トークンを生成する必要があります。「Slack アプリを構成」を参照してください。

注: ここで説明するスポークの設定手順には、ボットユーザートークンのみが必要です。ボットトークンスコープの使用中は、「ユーザーを作成」および「ユーザーを非アクティブ化」アクションを使用できません。これらのアクションを使用するには、Slack アカウントからユーザートークンを取得する必要があります。

スポークのサブフロー

Slack スポークでは、Slack ワークスペースタスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
メンバー ID 別に Slack ユーザーの詳細を挿入	メンバー ID に基づいて、必要なユーザーの詳細を Slack ユーザーキャッシュモジュールに挿入します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフロー	説明
ユーザー ID 別に Slack ユーザーの詳細を挿入	ユーザー ID に基づいて、必要なユーザーの詳細を Slack ユーザーキャッシュモジュールに挿入します。
アクション可能なメッセージを投稿	アクション可能なメッセージを Slack チャネルに投稿します。 **注:** このサブフローでは、入力として送信構成が必要です。デフォルトの送信構成をカスタマイズしたり、要件に応じて送信構成を作成したりします。詳細については、「ServiceNowインスタンスで送信構成を設定」を参照してください。
承認メッセージを投稿	承認メッセージを Slack チャネルに投稿します。 **注:** このサブフローでは、入力として送信構成が必要です。デフォルトの送信構成をカスタマイズしたり、要件に応じて送信構成を作成したりします。詳細については、「ServiceNowインスタンスで送信構成を設定」を参照してください。
Slack 承認メッセージに応答	確認応答メッセージを Slack チャネルに投稿します。
Slack コマンドに応答	コマンドへの応答を Slack チャネルに投稿します。
Slack メッセージアクションに応答	通知を Slack チャネルに投稿します。

サブフローをカスタマイズするときは、サブフローが無限ループを回避するように構成されていることを確認する必要があります。

スポークのアクション

Slack スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Slack ワークスペースタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
会話管理	チャネルにユーザーを追加	Slack ワークスペース内の指定されたチャネルに既存ユーザーを追加します。
	チャネルのアーカイブ	Slack ワークスペース内のチャネルをアーカイブします。
	会話の名前を変更	会話の名前を変更します。
	会話情報を検索	会話に関する情報を取得します。
	チャネルを作成	Slack ワークスペースにチャネルを作成します。
	会話またはメンバー ID で添付ファイルストリームを検索	適切なチャネル、メンバー、またはボットユーザーに関連付けられた添付ファイルを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	チャネル履歴ストリームを検索	チャネルの履歴を取得します。チャネル ID、開始日、終了日を入力する必要があります。
	会話を検索	指定されたチャネルからスレッドの会話メッセージを取得します。
	会話を開く	1 つのダイレクトメッセージまたは複数ユーザーのダイレクトメッセージを開くか再開します。
	メンバー ID で会話 ID ストリームを検索	Slack の指定されたメンバーに関連付けられた会話 ID の詳細を取得します。
	チャネルのトピックを設定	Slack チャネルのトピックを設定します。
	チャネルからユーザーを削除	Slack ワークスペース内のチャネルからユーザーを削除します。
通知管理	アクション可能なメッセージを投稿	アクション可能なメッセージを Slack チャネルに投稿します。 注: このアクションでは、入力として送信構成が必要です。デフォルトの送信構成をカスタマイズしたり、要件に応じて送信構成を作成したりします。詳細については、「ServiceNowインスタンスで送信構成を設定」を参照してください。
	承認メッセージを投稿	承認メッセージを Slack チャネルに投稿します。 注: このアクションでは、入力として送信構成が必要です。デフォルトの送信構成をカスタマイズしたり、要件に応じて送信構成を作成したりします。詳細については、「ServiceNowインスタンスで送信構成を設定」を参照してください。
	変更の詳細を投稿	変更レコードの詳細をチャネルに投稿します。
	インシデントの詳細を投稿	インシデントレコードの詳細をチャネルに投稿します。
	メッセージを投稿	メッセージをSlackチャネルに投稿します。
	応答を Slack に投稿	応答を Slack に投稿します。
	承認レコードを更新	承認レコードを更新します。
	問題の詳細を投稿	問題レコードの詳細をチャネルに投稿します。
ユーザー管理	ユーザーを作成	Slack ワークスペースにユーザーを作成します。 注: このアクションには、Slack アカウントのユーザートークンが必要です。ボットユーザートークンがある場合、このアクションは使用できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ユーザーの非アクティブ化	Slack ワークスペースから指定されたユーザーを非アクティブ化します。 **注:** このアクションには、Slack アカウントのユーザートークンが必要です。ボットユーザートークンがある場合、このアクションは使用できません。
	ユーザーを検索	指定されたユーザーまたはボットに関する情報を返します。情報としては、ユーザーまたはボットの名前、タイムゾーン、ワークスペースアドミニストレーター権限、チームの所有権などがあります。
	サブスクリプションを非アクティブ化	Slack のユーザーサブスクリプションを非アクティブ化します。このアクションを使用するには、「Slack との統合」の「Slack Enterprise Grid アプリケーションの作成」および「Slack Enterprise 接続を作成」セクションで概説されている手順を実行します。
	アクセスログストリームを検索	指定された最も古い日付以降のすべてのユーザーのアクセスログを取得します。このアクションを使用するには、「Slack との統合」の「Slack ワークスペースアプリケーションを作成」および「Slack ワークスペース接続を作成」セクションで概説されている手順を実行します。
	ユーザーストリームを検索	Slack エンタープライズグリッドのすべてのユーザーを取得します。このアクションを使用するには、「Slack との統合」の「Slack Enterprise Grid アプリケーションの作成」および「Slack Enterprise 接続を作成」セクションで概説されている手順を実行します。

注:

- 「ユーザーを作成」および「ユーザーを非アクティブ化」のアクションには、アドミンスコープが必要です。 ここで説明するスポークの設定手順には、ボットユーザートークンのみが必要です。ボットトークンスコープの使用中は、「ユーザーを作成」および「ユーザーを非アクティブ化」アクションを使用できません。これらのアクションを使用するには、Slack アカウントからユーザートークンを取得する必要があります。
- アドミンスコープは、Slack ワークスペース所有者のみが利用可能です。

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「Now Assist AI エージェント」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

AI エージェント	説明
Slack ユーザーマネージャー	Slack ユーザーを管理し、Slack アクションを ServiceNow ワークフローと統合します。ユーザーを検索し、Slack チャネル内のユーザーの管理とコミュニケーションを簡素化します。
Slack 通知マネージャー	Slack スポークアクションを実行して、ワークフローを自動化します。これにより、ユーザーはインシデント、問題、変更、要求の詳細などの通知と更新を Slack チャネルに送信できます。コミュニケーションを簡素化し、通知をより適切に管理できます。
Slack 会話マネージャー	チャネルトピックの設定、会話の名前の変更、チャネルに対するユーザーの追加または削除、チャネルの作成とアーカイブなどのアクションを実行します。

ユースケースで使用されていない AI エージェントが、Now Assist アプリケーションとともにインストールされている場合があります。利用可能なすべてのエージェントを表示する方法については、「Find AI agents (AI エージェントの検索)」を参照してください。

スポークモジュール

Slack スポークは、ServiceNow インスタンスに Slack アプリケーションを追加します。Slack アプリケーションには、以下のモジュールが含まれています。

モジュール	説明
Slack モーダル構成	モーダルを作成し、Slackモーダルに表示するフィールドを指定します。
Slack ユーザーキャッシュ	ServiceNow インスタンスの更新または ServiceNow インスタンスからの応答を必要とするアクションを Slack チャネルで実行したユーザーに関する情報にアクセスします。
Slack チャネルキャッシュ	ServiceNow インスタンスでの更新または ServiceNow インスタンスからの応答を必要とするアクションが実行されたチャネルに関する情報にアクセスします。
受信決定	ServiceNow インスタンスでアクションを実行する必要がある Slack アプリケーションのイベントを指定します。 たとえば、承認者が関連するSlackチャネルでタスクを承認したときに、ServiceNowインスタンスのタスクの詳細を更新する受信決定を指定できます。5 つの受信決定のサンプルが参照用に用意されています。これらの決定をカスタマイズするか、要件に従って受信決定を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
	受信決定に記載されている条件が満たされると、関連するサブフローがトリガーされ、受信アクションを開始した Slack ユーザーの Slack ユーザーキャッシュモジュールにレコードが作成されます。
モーダルの受信決定	必要な受信決定が満たされたときにトリガーする必要があるサブフローを指定します。 受信決定に記載されている条件が満たされると、関連するサブフローがトリガーされ、受信アクションを開始した Slack ユーザーの Slack ユーザーキャッシュモジュールにレコードが作成されます。
Slack 送信選択肢	Slack チャネルにリストとして表示する必要がある選択肢です。
受信 Slack メッセージ	Slack アプリケーションから ServiceNow インスタンスへの受信メッセージに関する情報にアクセスします。
送信構成	Slack アプリケーションでアクションを実行する必要がある ServiceNow インスタンスのイベントを指定します。 たとえば、 ServiceNow インスタンスでタスクが作成されたときに、承認を求めるメッセージを Slack チャネルで送信するように送信構成を指定できます。3 つの送信構成のサンプルが参照用に用意されています。これらの構成をカスタマイズしたり、要件に応じて送信構成を作成したりします。 送信構成では、「アクション可能なメッセージを投稿」と「承認メッセージを投稿」アクションにテンプレートが提供されます。たとえば、送信構成では、関連するSlackチャネルで送信される承認メッセージに [承認] および [却下] ボタンを表示するように設定できます。 送信構成に記載されている構成が満たされると、適切なサブフローがトリガーされ、Slack アプリケーションでアクションが実行されます。
Slack 構成	Slack アプリと署名キーに関する情報を入力します。

これらのモジュールのデータは、次のスポークテーブルから入力されます。

テーブル	フィールド
Slack チャネルキャッシュ [sn_slack_ah_v2_slack_channel_cache]	• チャネル ID • チャネルリンク • チャネル名 • 作成者 • ドキュメント ID • アーカイブ化済み • プライベート • ソーステーブル
Slack 構成 [sn_slack_ah_v2_slack_configurations]	• クライアント シークレット • 接続エイリアス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	フィールド
	• プロパティ名 • Slack アプリ
Slack 認証情報 [sn_slack_ah_v2_slack_credential]	• 認証キー • 有効 • コンテキスト名 • ドメイン名 • プライバシーキー
Slack 送信選択肢 [sn_slack_ah_v2_slack_outbound_choices]	• 名前 • 有効 • 言語 • シーケンス • ドメイン • 値
Slack ユーザーキャッシュ [sn_slack_ah_v2_slack_user_details]	• 表示名 • Slack メンバー ID • Team ID • ユーザー
Slack ワークスペーストークン [sn_slack_ah_v2_slack_workspace_tokens]	• 接続エイリアス • Slack アプリ • ワークスペース名
Slack モーダル構成 [sn_slack_ah_v2_slack_modal_configuration]	• モーダルタイトル • 名前 • スクリプトの検証 • カスタムモーダル

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「Slack スポークを設定。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Slack スポークを設定

Slack にカスタム OAuth アプリケーションを作成してServiceNowインスタンスと Slack アカウントをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Slack スポークを有効にします。
- Slack アカウント
- Slack ユーザーをServiceNowインスタンスのユーザー [sys_user] テーブルに追加し、[メール] を一意の識別子とします。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

ここで説明するスポークの設定手順には、ボットユーザートークンのみが必要です。ボットトークンスコープの使用中は、「ユーザーを作成」および「ユーザーを非アクティブ化」アクションを使用できません。これらのアクションを使用するには、Slack アカウントからユーザートークンを取得する必要があります。

Slack スポークを設定するには、次の手順を実行します。

1. Slack アプリを構成。
2. ServiceNow インスタンスに Slack 接続を追加。
3. ServiceNowインスタンスでの署名キーの指定。
4. ServiceNowインスタンスで送信構成を設定。
5. ServiceNowインスタンスで受信決定を構成。

Slack アプリを構成

Slack ワークスペースでカスタム OAuth アプリケーションを作成し、Slack スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

必要なロール：admin

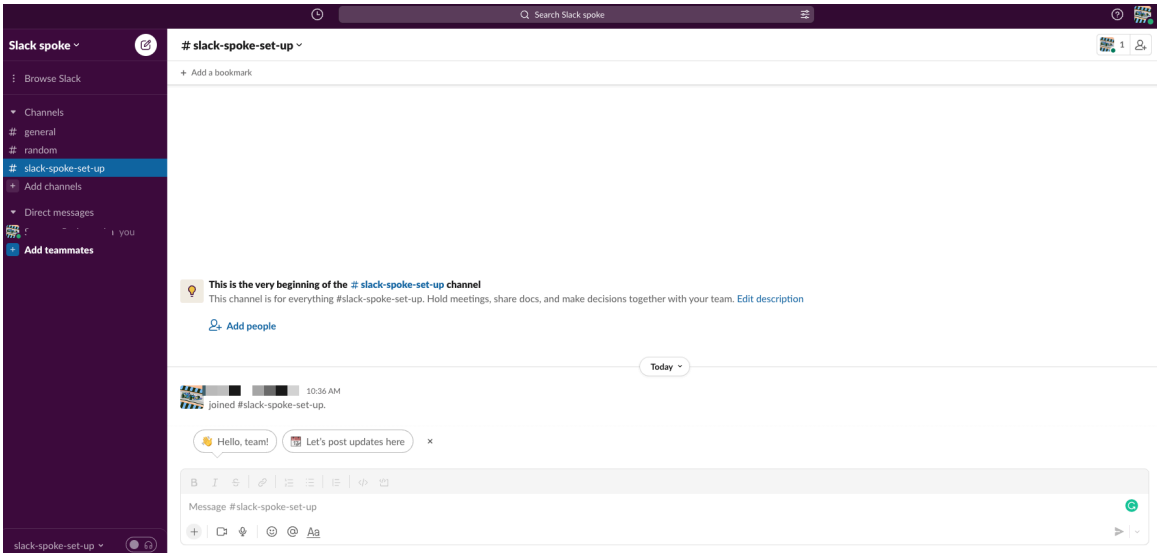
このタスクについて

Slack アカウントから、次の手順を完了します。アプリを作成したり、以下の構成の概要に従って既存のアプリを構成することもできます。

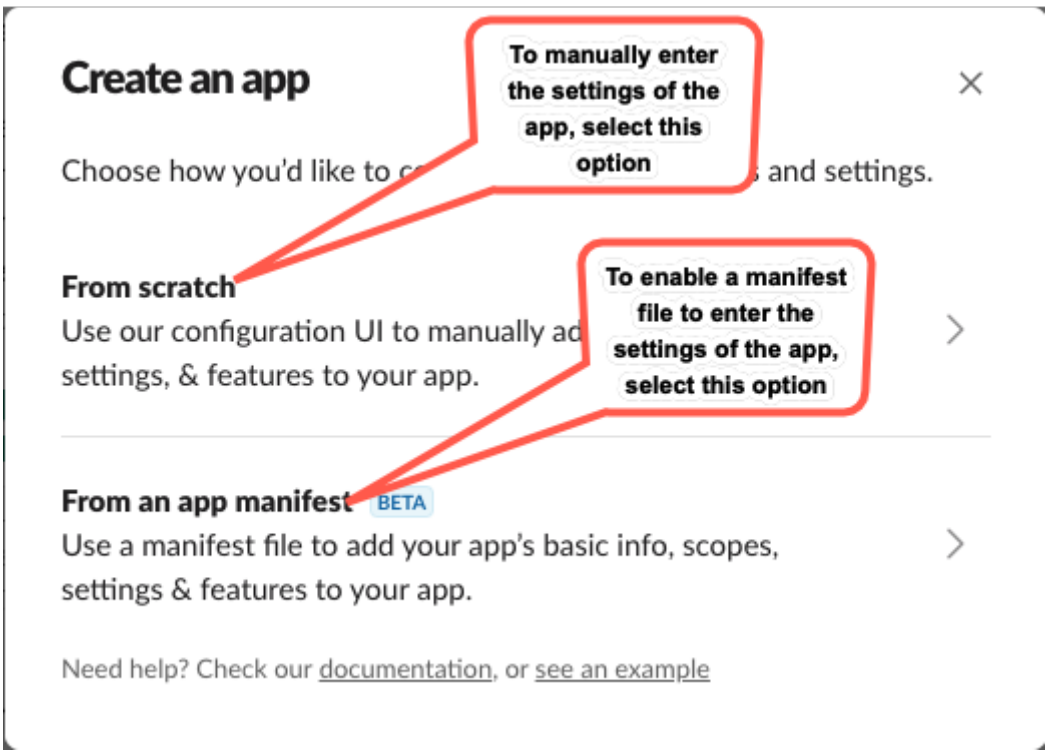
手順

1. Slackワークスペースを作成します。
   ワークスペースの作成方法については、「Create a Slack workspace (Slack ワークスペースの作成)」を参照してください。次の画像は、一般的な Slack ワークスペースを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

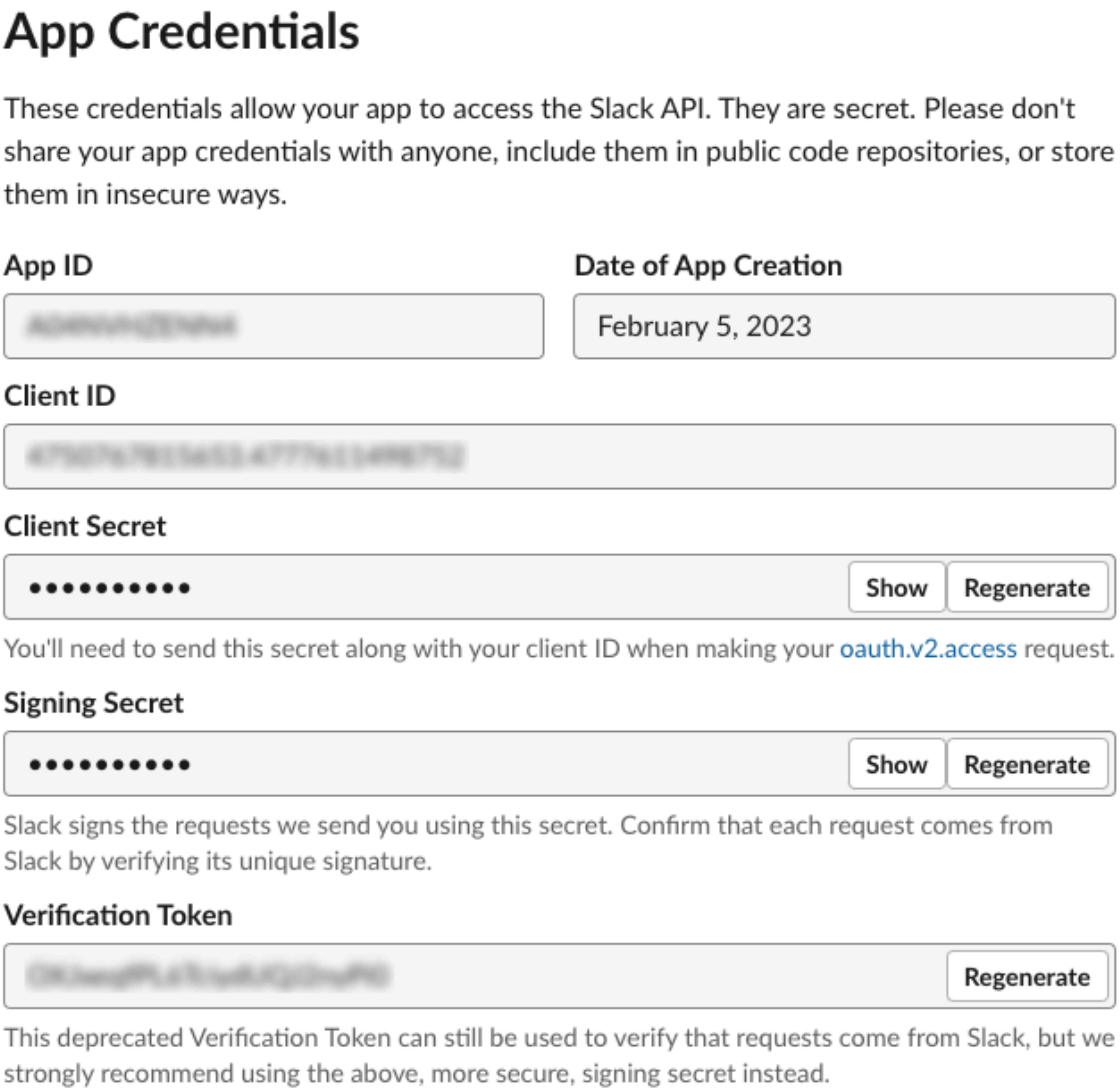


2. Slack API コンソールに移動します。
3. [アプリを作成] をクリックします。
4. [アプリを作成] ウィンドウで、アプリを作成するための最適な方法を選択します。



5. 基本情報ページのアプリの認証情報ページから、Slack アプリのクライアント ID、クライアントシークレット、署名シークレットの各値をコピーして記録します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



詳細については、「Obtain Client ID and Client Secret (クライアント ID およびクライアントシークレットの取得)」で後続の手順を確認してください。

6. OAuth と権限のページ：

   a. [リダイレクト **URL**] にServiceNowインスタンス URL を次のフォーマットで指定します：`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do`

   b. 次のボットトークンスコープを追加します。

   - channels:history
   - channels:manage
   - channels:read
   - chat:write
   - chat:write.customize
   - groups:read
   - im:read
   - mpim:read

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- groups:history
- groups:write
- im:history
- im:write
- mpim:history
- mpim:write
- users:read
- users:read.email
- files:read

詳細については、「スコープと権限」を参照してください。

> **注:** ここで説明するスポークの設定手順には、ボットユーザートークンのみが必要です。ボットトークンスコープの使用中は、「ユーザーを作成」および「ユーザーを非アクティブ化」アクションを使用できません。これらのアクションを使用するには、Slack アカウントからユーザートークンを取得する必要があります。

7. スラッシュコマンドのページで、コマンドを作成して次の値を指定します。

フィールド	値
コマンド	/now
要求 URL	https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_slack_ah_v2/command_service/<slack-app-name>
簡単な説明	コマンドに関する説明です。
使用上のヒント	渡すことができるパラメーターのリストです。たとえば、`[operation] [table]` です。

詳細については、「Slash コマンドを作成」の手順を参照してください。

8. インタラクティブ機能とショートカットのページ：

   a. インタラクティブ機能を有効にし、[要求 **URL**] に ServiceNow インスタンス URL を `https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_slack_ah_v2/slack/<slack-app-name>/interactivepayload` という形式で指定します。
   詳細については、「ユーザーインタラクションのためのアプリの準備」セクションを参照してください 。

   b. メッセージに表示されるショートカットを作成し、 [コールバック **ID**] に値 `post_message_now` を入力します。
   詳細については、「ショートカットを作成」セクションを参照してください。

9. Slack ボットを作成し、ボットを Slack アプリと必要なチャネルに追加します。
   詳細については、「ワークスペース用のボットの作成」を参照してください。

ServiceNow インスタンスに Slack 接続を追加

フローデザイナー に Slack 接続を追加し、Slack スポークを構成します。

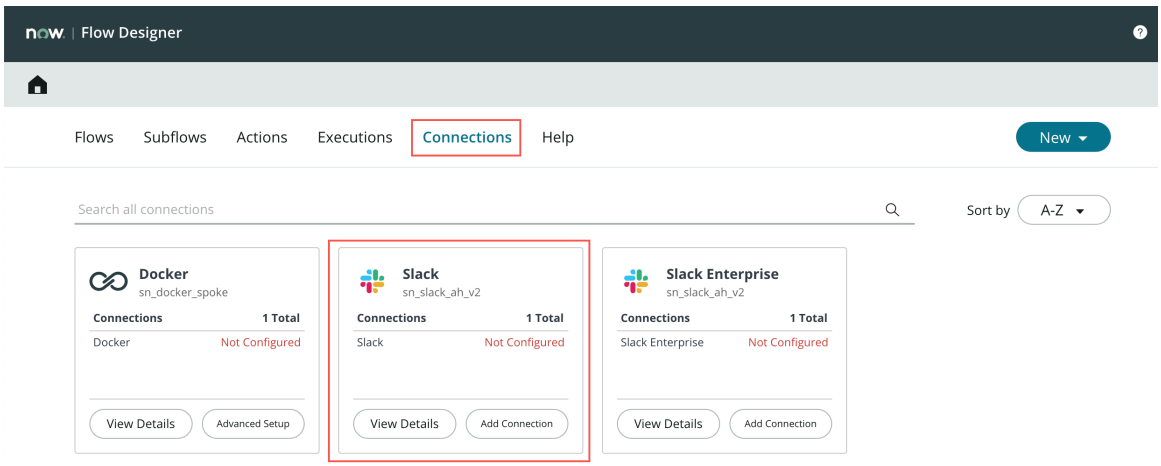
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [フローデザイナー] > [デザイナー] に移動します
2. [接続] をクリックします。

   注: Slack ワークスペースごとに 1 つずつ、Slack スポークに複数の接続を追加できます。



3. Slack スポークタイルで、[詳細を表示] をクリックします。
4. 接続ページで、[構成] をクリックします。
   ポップアップウィンドウに、空白のままの接続の設定フォームが表示されます。
5. フォームに、これらの値を入力します。

接続の設定フォーム

フィールド	説明
接続 URL	Slack に接続するための URL です。`https://slack.com` を入力します。
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。たとえば、`Slack Cred` です。
OAuth 名	OAuth レコードを識別する名前です。たとえば、`Slack OAuth` です。
OAuth クライアント ID	Slack アプリのクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	Slack アプリのクライアントシークレットです。
OAuth リダイレクト URL	Slack アプリで指定されたリダイレクト URL です。この値は自動入力されます。

6. **[OAuth** トークンを設定して取得] をクリックします。
7. ポップアップウィンドウで、[許可] をクリックします。
   Slack スポークに対して OAuth アクセストークンが生成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNowインスタンスでの署名キーの指定

ServiceNowからの要求を認証するために、ServiceNowインスタンスにSlackアプリの詳細と署名キーを指定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Slack]** > **[Slack** 構成]に移動します。
2. デフォルトレコードを開きます。
   新しいレコードを作成して、他の署名キーを提供することもできます。
3. フォームに、これらの値を入力します。

Slack 構成フォーム

フィールド	説明
Slack アプリ	Slackアプリの名前です。 注: この名前は、Slack アプリの作成時に指定したアプリ名と同じにする必要があります。
接続エイリアス	[接続] タブで選択したアプリに関連付けられている接続エイリアスです。
プロパティ名	Slack構成の名前です。署名シークレットを入力します。
署名シークレット	Slackアプリの署名シークレットです。

4. [更新] をクリックします。

ServiceNowインスタンスで送信構成を設定

Slack スポークアプリケーションでアクションを実行する必要があるイベントをServiceNowインスタンスで指定します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
送信構成では、「アクション可能なメッセージを投稿」と「承認メッセージを投稿」アクションおよびサブフローにテンプレートが提供されます。デフォルトの送信構成をカスタマイズしたり、要件に応じて送信構成を作成したりできます。

手順

1. [すべて] > **[Slack]** > [送信構成]に移動します。
2. [新規] をクリックして送信構成テンプレートを作成するか、デフォルトの送信構成をクリックして設定します。
3. 送信構成フォームに、次の値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

送信構成フォーム

フィールド	説明
名前	送信構成レコードを識別する名前です。
メッセージのタイトル	Slack スポークチャネルに投稿されるメッセージのタイトルです。たとえば、`{0}` の承認待ちです。
ターゲットテーブル	ServiceNowレコードの詳細を取得するテーブルです。
フィールド	Slack スポークチャネルに投稿されるメッセージに値を表示する必要があるServiceNowテーブルのフィールドです。
ボタン	関連するユーザーがSlack スポークチャネルでアクションを実行するためのボタンです。たとえば、要求を [承認] または [却下] します。ボタンとそのスタイルの詳細については、「ボタン要素」を参照してください。 **注:** ユーザーは、必要なアクションを実行するために必要な権限を持っていなければなりません。たとえば、ユーザーは要求を承認または却下するために必要な権限を持っていなければなりません。これらの権限は、ServiceNowインスタンスでユーザーに割り当てられたユーザーロールに基づいています。
選択リスト	却下などの Slack 送信選択肢です。これらのオプションは、Slack チャネルにリストとして表示されます。
アクション ID	送信構成の一意の識別子です。 **注:** フローを完了するには、送信構成の [アクション **ID**] を関連する受信決定で使用する必要があります。たとえば、承認メッセージの送信構成の [アクション **ID**] は、承認決定の受信決定で指定されます。これにより、要求の承認または却下時に、ServiceNowインスタンスの関連レコードが更新されます。

4. [送信] をクリックします。

ServiceNowインスタンスで受信決定を構成

ServiceNowインスタンスでアクションを実行する必要があるイベントをSlack スポークアプリケーションで指定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Slack]** > [受信決定]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 意思決定フォームで、次の値を入力します。

意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	受信決定を識別する名前です。
回答	指定された条件が満たされるとトリガーされるサブフローです。
デフォルトの回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。 a. [ルックアップ] アイコン (🔍) をクリックします。 b. ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。 注: [テーブル名] がフロー `[sys_hub_flow]` であることを確認します。
条件	Slackアプリケーションで満たすべき条件で、ServiceNowインスタンスでアクションを実行する必要があります。 ServiceNowインスタンスの関連レコードを更新するために、条件に送信構成を設定する際に使用した [アクション **ID**] 値を指定します。 注: フローを完了するには、送信構成の [アクション **ID**] を関連する受信決定で使用する必要があります。たとえば、承認メッセージの送信構成の [アクション **ID**] は、承認決定の受信決定で指定されます。これにより、要求の承認または却下時に、ServiceNowインスタンスの関連レコードが更新されます。

4. [送信] をクリックします。
イベントがポリシーで指定された条件を満たすと、関連するサブフローがトリガーされます。

注: これらの受信決定は意思決定テーブルに保存されます。ユーザーは、これらのテーブルのデータを直接更新または変更しないように注意してください。

Slack でモーダルを表示する場合は、「ServiceNowインスタンスでSlackモーダルを設定」を参照してください。

ServiceNowインスタンスでSlackモーダルを設定

モーダルを作成し、Slackモーダルに表示するフィールドを指定します。モーダル UI は、ServiceNow テーブルを使用した自動生成と、カスタムの [ペイロードを表示] を使用した手動生成の 2 つの方法で生成できます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
たとえば、Slackでモーダルを使用してインシデントを作成する場合、「インシデントを作成」モーダルには [優先度]、[カテゴリ]、および [簡単な説明] フィールドが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: モーダルは、次のインタラクティブSlackコンポーネントからトリガーできます。

- コマンド
- ブロックアクション
- グローバルショートカット
- メッセージショートカット

手順

1. ServiceNowテーブルを使用して自動生成される UI でモーダルを作成するには：

   a. **[Slack]** > **[Slack** モーダル構成]に移動します。

   b. [新規] をクリックします。

   c. Slack モーダル構成フォームで、次の値を入力します。

Slack モーダル構成フォーム

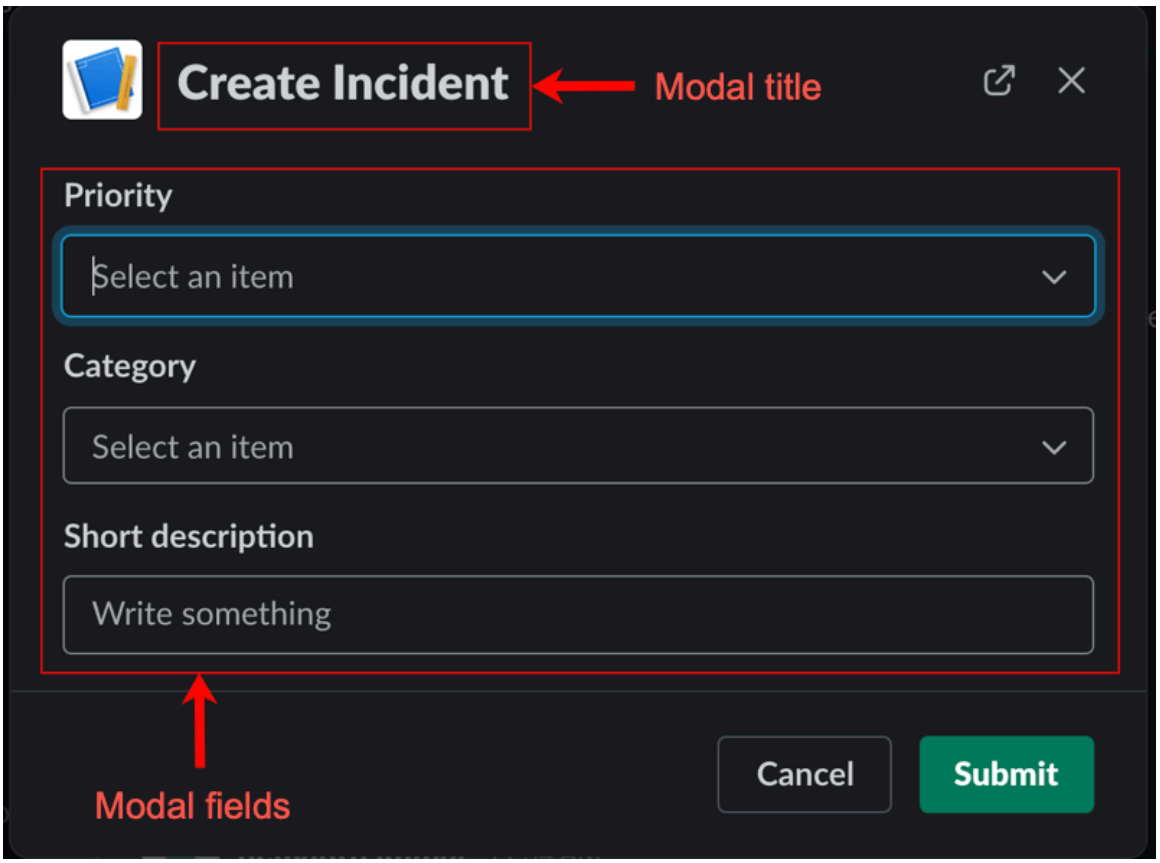
フィールド	説明
名前	レコードを識別する名前です。たとえば、`インシデントを作成するためのモーダル`です。
モーダルタイトル	Slackに表示されるモーダルタイトルです。たとえば、`インシデントを作成`です。
テーブル	モーダルフィールドに対応するServiceNowテーブルです。たとえば、インシデント **[incident]** です。
カスタムモーダル	カスタムモーダルを構成するオプションです。
入力フィールド	Slackに表示するフィールドを入力します。たとえば、[優先度]、[カテゴリ]、および [簡単な説明] を選択します。これらのモーダルフィールドが選択したServiceNowテーブルに対応していることを確認してください。たとえば、インシデントを作成するモーダルにタスク関連フィールドを表示することはできません。 注: 文字列、日付、および選択肢フィールドタイプのみがサポートされています。
有効	レコードを積極的に使用するオプションです。
スクリプトの検証	モーダルでユーザーが入力した内容を検証するスクリプトです。ユーザー指定の入力を検証するには、モーダルから値を取得するフォーマットを把握し、Slackからの応答を解析していることを確認します。 ユーザーが [インシデントを作成] モーダルの [優先度]、[カテゴリ]、および [簡単な説明] フィールドに値を入力したときのサンプルペイロードは次のとおりです。 `{"priority":{"4gk":{"type":"static_select","selected_option":{"text":{"type":"plain_text","text":"1 - Critical","emoji":true},"value":"1"}}},"category":{"iV7":{"type":"static_select","selected_option":{"text":{"type":"plain_text","text":"Softwar`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明

	e","emoji":true},"value":"software"}}},"short_description":{"XS/Q=":{"type":"plain_text_input","value":"hemanth"}}}
	
	検証エラーをモーダルに表示するには、オブジェクトキー、ステータス、および errorObject を返すようにスクリプトを設定します。errorObject には、Slack に表示されるオブジェクトの値が必要です。オブジェクトには response_action と error が必要です。
	
	また、検証エラーがない場合に status および statusMessage のキーを持つオブジェクトを返すようにスクリプトを設定します。statusMessage はオプションであり、要件に応じて設定できます。
	
	`var data = JSON.parse(payload);`
	`var key = Object.keys(data.short_description);`
	`var shortdesc = data.short_description[key[0]].value;`
	`var result = new Object;`
	`if (shortdesc.length > 10) {`
	`var obj = {`
	`'response_action': "errors",`
	`"errors": {`
	`"short_description": "You have reached your maximum limit of characters allowed"`
	`}`
	`};`
	`result = {`
	`"status": "error",`
	`"errorObject": obj`
	`};`
	`return result;`
	`} else {`
	`result = {`
	`"status": "success",`
	`"statusMessage": "`Request submitted successfully.`"`
	`};`
	`return result;`
	`}`
	`})();`

d. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
[インシデントを作成] モーダルはSlackで作成されます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. カスタムの [ペイロードを表示] を使用して手動生成される UI でモーダルを作成するには：

   a. **[Slack]** > **[Slack** モーダル構成]に移動します。

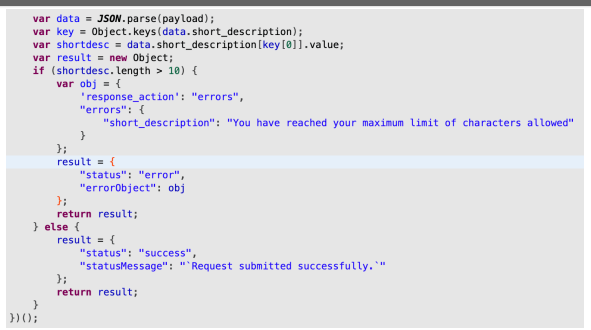
   b. [新規] をクリックします。

   c. Slack モーダル構成フォームで、次の値を入力します。

Slack モーダル構成フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを識別する名前です。たとえば、`インシデントを作成するためのモーダル`です。
カスタムモーダル	カスタムモーダルを構成するオプションです。このチェックボックスをオンにします。
ペイロードを表示	モーダル UI を定義するSlackブロックキットビルダーによって生成されるペイロードです。詳細については、「ブロックキット」および「ブロックキットを使用したビルド」を参照してください。
有効	レコードを積極的に使用するオプションです。
スクリプトの検証	モーダルでユーザーが入力した内容を検証するスクリプトです。ユーザー指定の入力を検証するには、モーダルから値を取得するフォーマットを把握し、Slackからの応答を解析していることを確認します。 ユーザーが [インシデントを作成] モーダルの [優先度]、[カテゴリ]、および [簡単な説明] フィールドに値を入力したときのサンプルペイロードは次のとおりです。 `{"priority":{"4gk":{"type":"static_select","selected_option":{"text":{"type":"plain_text","text":"1 - Critical","emoji":true},"value":"1"}}},"category":{"iV7":{"type":"static_select","selected_option":{"text":{"type":"plain_text","text":"Software","emoji":true},"value":"software"}}},"short_description":{"XS/Q=":{"type":"plain_text_input","value":"hemanth"}}}` 検証エラーをモーダルに表示するには、オブジェクトキー、ステータス、および errorObject を返すようにスクリプトを設定します。errorObject には、Slack に表示されるオブジェクトの値が必要です。オブジェクトには response_action と error が必要です。 また、検証エラーがない場合に status および statusMessage のキーを持つオブジェクトを返すようにスクリプトを設定します。statusMessage はオプションであり、要件に応じて設定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	

d. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
[インシデントを作成] モーダルはSlackで作成されます。

3. モーダルを表示するタイミングを定義する条件を指定します。

a. **[Slack]** > [モーダルの受信決定] に移動します。

b. 意思決定フォームで、次の値を入力します。

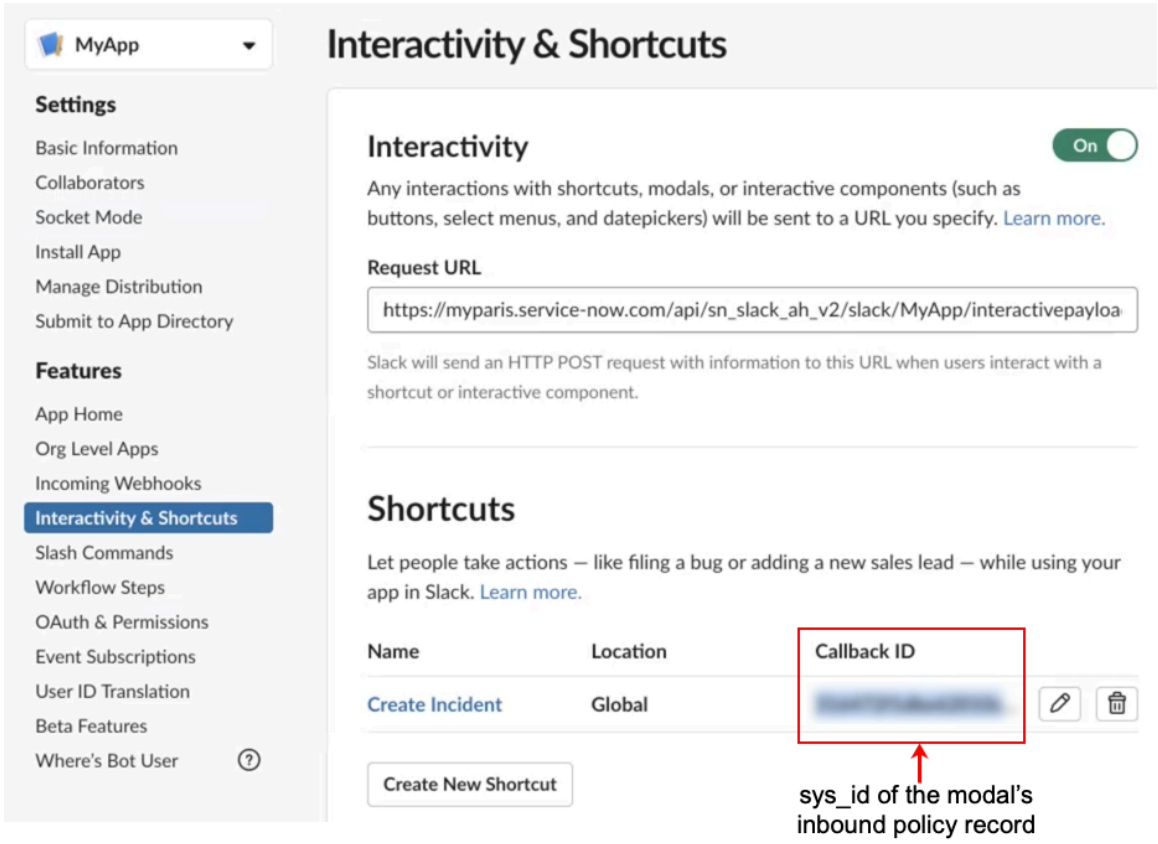
意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	受信モーダル決定を識別する名前です。
回答	指定された条件が満たされたときに表示される必要があるモーダルです。Slack モーダル構成 [sn_slack_ah_v2_slack_modal_configuration] テーブルから必要なレコードが選択されていることを確認します。
デフォルトの回答	デフォルトのモーダルであるかどうかを指定するオプションです。デフォルトのモーダルは、条件が満たされない場合に適用されます。
条件	モーダルを表示するために Slack アプリケーションで満たす必要のある条件です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- sys_id の値をコピーして記録します。Slack アプリでショートカットまたはメッセージショートカットを設定するときに、この sys_id を [コールバック **ID]** の一意の値として使用できます。



注: 受信通信を処理するために、次の 2 つのシステムプロパティが追加されています。

システムプロパティ

カテゴリ	プロパティ名	説明	例
スラッシュコマンド	sn_slack_ah_v2.encodeURIComponent.special_characters	encodeURIComponent メソッドを使用してエンコードされた文字は、内部で処理されます。Slack アプリケーションの Slash コマンドで使用されている追加の特殊文字をエンコードされた URI 文字に置き換えるには、JSON 形式で文字を追加します。	{ "~" : "%7E", "\(" : "%28", }
インタラクティブ機能とショートカット：	sn_slack_ah_v2.interactivity.special_characters	encodeURIComponent メソッドを使用してエンコードされた文字と以	{ "~" : "%7E", "\(" : "%28"

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [送信] をクリックします。
Slackのイベントがポリシーで指定された条件を満たすと、関連するモーダルが表示されます。

> 注: これらの受信決定は意思決定テーブルに保存されます。ユーザーは、これらのテーブルのデータを直接更新または変更しないように注意してください。

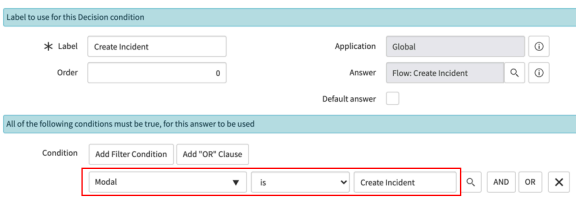
4. ユーザーがインバウンドポリシーを作成してモーダルに値を入力したときに実行するタスクを指定します。

a. **[Slack]** > [受信決定]に移動します。

b. [新規] をクリックします。

c. 意思決定フォームで、次の値を入力します。

意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	受信決定を識別する名前です。
回答	指定された条件が満たされるとトリガーされるサブフローです。
デフォルトの回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。 i. [ルックアップ] アイコン (🔍) をクリックします。 ii. ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。 注: [テーブル名] がフロー `[sys_hub_flow]` であることを確認します。 タスクを自動化するためにSlackからの応答ペイロードを処理するようにサブフローが構成されていることを確認してください。
条件	ServiceNowインスタンスでタスクを実行するために満たす必要のある条件です。 条件でモーダルレコードを指定します。  注: [条件] には、モーダルレコードにのみ固有の条件が必要です。

d. [送信] をクリックします。
Slack ユーザーがモーダルに入力すると、入力を検証した後に関連するサブフローがトリガーされます。サブフローで構成された自動化に応じて、タスクが実行されます。

Slack タスクの自動化とカスタマイズ

サンプルのシナリオを参照として、要件に従って Slack タスクを自動化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デフォルトの送信構成、受信決定、およびサブフローを参照として、要件に応じてタスクをカスタマイズできます。

Example: Slack コマンドを自動化

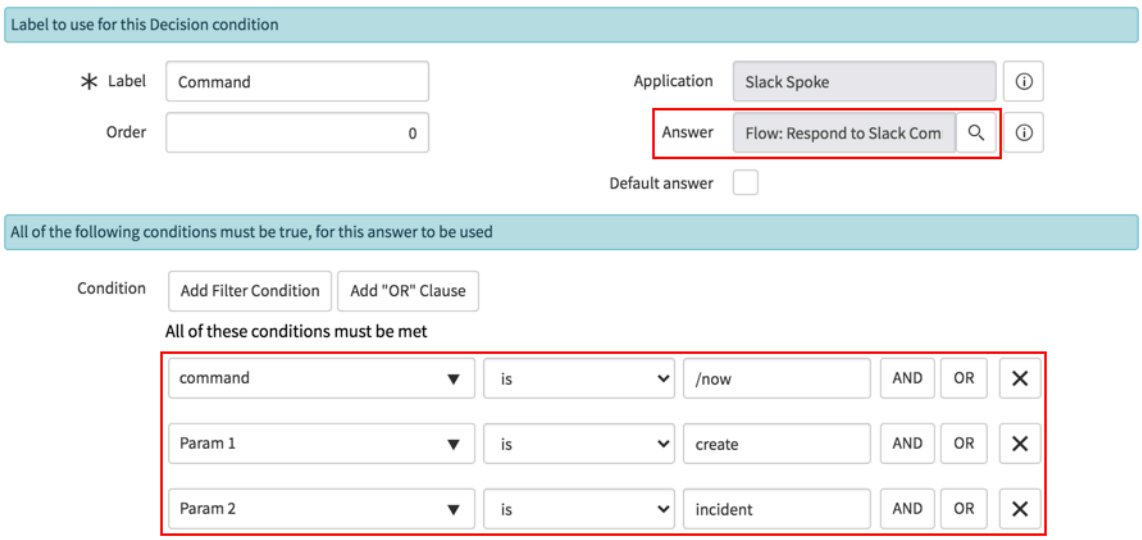
Slack コマンドに基づいて、インシデントレコードの作成などのイベントを自動化するには、次の手順を実行します。

1. カスタムアプリケーションのスラッシュコマンドのページで、Slack コマンドを設定します。詳細については、「Slack アプリを構成」を参照してください。
2. フローデザイナーで、要件に応じてインシデントレコードを作成するためのサブフロー構成を作成するか、またはデフォルトのサブフロー「Slack コマンドに応答」のコピーを作成し、構成します。

   注: アクションを作成し、要件に応じてサブフロー入力でペイロードを使用します。

3. ServiceNowインスタンスで受信決定を構成。
   a. [条件] で、[コマンド] の値を `[/ now]` とし、必要なパラメーターを指定していることを確認します。

      注: 必要なサブフローをトリガーするには、条件に最大 2 つのパラメーターを指定できます。



   b. [回答] で、構成したサブフローを選択します。

Slack ユーザーが `/now create incident <text>` というコマンドを入力すると、受信決定で指定された条件が満たされ、関連するサブフローがトリガーされます。同様に、サブフローと受信決定をカスタマイズして、次のようなその他の Slack コマンドを設定できます。

- `/now list incidents`：ログインしたユーザーに割り当てられたすべてのアクティブなインシデントをリストします。
- `/now help`：すべての利用可能なコマンドとその使用方法を表示します。
- `/now note [note]`：必要なインシデントにメモを追加します。
- `/now create incident [short description] > [optional: urgency] > [optional: impact]`：指定された簡単な説明、緊急度、および影響を含むインシデントを作成します。たとえば、`/now create incident Email is not working > 3 > 2` です。

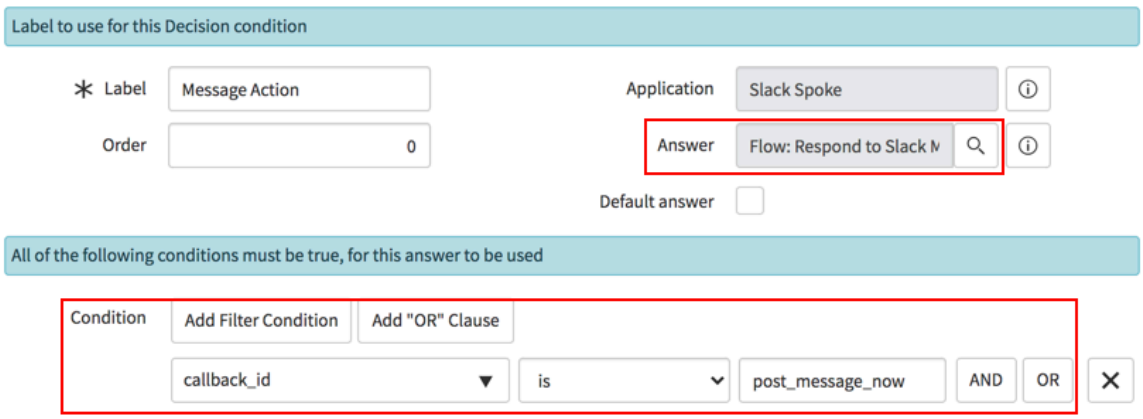
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: メッセージアクションを自動化

1. Slack カスタムアプリケーションで、メッセージに表示されるショートカットを作成し、[コールバック **ID**] に値 `post_message_now` を入力します。詳細については、「Slack アプリを構成」を参照してください。
2. フローデザイナーで、要件に応じてインシデントレコードを作成するためのサブフロー構成を作成するか、またはデフォルトのサブフロー「Slack メッセージアクションに応答」のコピーを作成し、構成します。

   注: アクションを作成し、要件に応じてサブフロー入力でペイロードを使用します。

3. ServiceNowインスタンスで受信決定を構成。
   a. [条件] で、**[callback_id]** の値を `/ now` とし、必要なパラメーターを指定していることを確認します。



   b. [回答] で、構成したサブフローを選択します。

Example: 承認メッセージを投稿

Slack チャネルへの承認メッセージの投稿を自動化するには、次の手順を実行します。

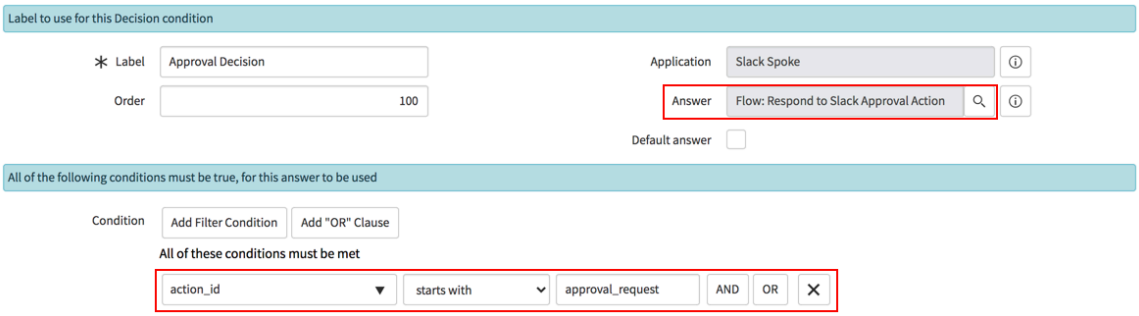
1. フローデザイナーで、デフォルトのサブフロー「Slack 承認メッセージに応答」のコピーを作成し、要件に応じて構成します。

   注: アクションを作成し、要件に応じてサブフロー入力でペイロードを使用します。

2. ServiceNowインスタンスで送信構成を設定
   a. デフォルトの送信構成である [承認メッセージ] を開きます。
   b. [アクション **ID**] で、確認メッセージを投稿するタスクを自動化するための一意の識別子を指定します。たとえば、 [アクション **ID**] の値は `approval_request` になります。
3. ServiceNowインスタンスで受信決定を構成。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [条件] で、 [アクション **ID**] の値が `approval_request` に指定されていることを確認します。要件に応じて他の条件を指定できます。



b. [回答] で、構成したサブフローを選択します。

Slack イベントが関連するアクション ID と一致すると、関連するサブフロー、つまり「Slack 承認アクションに応答」サブフローがトリガーされます。このサブフローには、必要なレコードを更新し、関連する確認メッセージを Slack チャネルで送信するロジックが含まれています。

Example: 確認応答に基づいて要求を割り当て

要求の割り当てを自動化するには、次の手順を実行します。

1. フローデザイナーで、デフォルトのサブフロー「オンコール：確認応答による割り当て」のコピーを作成し、要件に応じて構成します。

   注: アクションを作成し、要件に応じてサブフロー入力でペイロードを使用します。

2. ServiceNowインスタンスで送信構成を設定。
   a. デフォルトの送信構成 [オンコール：確認応答による割り当て] を開きます。
   b. [アクション **ID**] で、確認メッセージを投稿するタスクを自動化するための一意の識別子を指定します。たとえば、 [アクション **ID**] の値は `on_call_assign_by_acknowledgement` になります。
3. ServiceNowインスタンスで受信決定を構成。
   a. [条件] で、[アクション **ID**] の値が `on_call_assign_by_acknowledgement` に指定されていることを確認します。要件に応じて他の条件を指定できます。
   b. [回答] で、構成したサブフローを選択します。

Example: アクション可能なメッセージを投稿

アクション可能なメッセージの投稿を自動化するには、次の手順を実行します。

1. ServiceNowインスタンスで送信構成を設定。
   a. デフォルトの送信構成 [オンコール：確認応答による割り当て] を開きます。
   b. 要件に応じて、[ターゲットテーブル] および [フィールド] を選択します。たとえば、[タスク **[task]]** テーブルの **[short_description]** と **[priority]** です。
   c. 要件に応じて [ボタン] を選択します。たとえば、[承認] および [却下] です。
   d. [アクション **ID**] で、確認メッセージを投稿するタスクを自動化するための一意の識別子を指定します。たとえば、 [アクション **ID**] の値は `on_call_assign_by_acknowledgement` になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. フローデザイナーで、デフォルトのサブフロー「アクション可能なメッセージを投稿」のコピーを作成し、要件に応じて構成します。

   注: アクションを作成し、要件に応じてサブフロー入力でペイロードを使用します。

   a. [レコード **Sys_ID]** 入力で、必要なレコードのシステム ID を入力します。たとえば、タスクレコードのシステム ID を指定します。

   b. [テンプレート] 入力で、送信構成で作成したテンプレートを選択します。

3. ServiceNowインスタンスで受信決定を構成。

   a. [条件] で、[アクション **ID]** の値が `on_call_assign_by_acknowledgement` に指定されていることを確認します。要件に応じて他の条件を指定できます。

   b. [回答] で、構成したサブフローを選択します。

SmartRecruiters スポーク

SmartRecruiters スポークは、SmartRecruiters ソフトウェアサブスクリプションの有意義な使用状況データを表示および分析するアクションを提供します。ジョブアプリケーションやジョブ広告の作成など、60 を超えるアクティビティに基づいて SmartRecruiters アカウントの使用状況を分析します。このデータを使用して古いライセンスを特定することで、これらのライセンスを再利用して見込まれる節減を実現できるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークはSmartRecruitersの 2021 年 1 月リリースのバージョン用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

SmartRecruiters アドミンアカウント

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

SmartRecruiters Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにSmartRecruitersタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
Audit Management	監査イベントストリームを検索	すべてのユーザーの監査イベントのリストを取得します。
ユーザー管理	ユーザーをアクティブ化	指定されたユーザーのアカウントを有効にします。
	ユーザーの非アクティブ化	指定されたユーザーのアカウントを非アクティブにします。
	ユーザーストリームを検索	アカウント内のすべてのユーザーのリストを取得します。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 SmartRecruiters スポークを設定。

SmartRecruiters スポークを設定

API 認証情報を使用してServiceNowインスタンスとSmartRecruitersをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SmartRecruiters スポークを有効にします。
- SmartRecruiters の必要なロール：admin
- 必要なロール：admin

SmartRecruiters API キーの生成

SmartRecruitersAPI 要求を認証するための API キーを生成します。

始める前に

必要なロール：adminSmartRecruiters

手順

1. Web ブラウザから SmartRecruiters を開きます。
2. アドミン認証情報を使用してサインインします。
   SmartRecruiters ポータルのアドミンビューが開きます。
3. SmartRecruitersポータルのページヘッダーで、プロファイルアイコンをクリックし、[設定] / [アドミン] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SmartRecruiter 設定が開きます。

4. 会社の設定で、管理セクションを見つけ、[アプリと統合] を選択します。
[アプリと統合] ページが開きます。
5. [認証情報] タブを 選択し、[新しい認証情報]をクリックします。
6. アプリケーションに対して生成する認証情報のタイプを選択するように求められたら、**[API** キー] を選択します。
7. [次へ **(Next)]** をクリックします。
8. [認証情報名] フィールドに API キーの名前を入力します。
9. [説明] フィールドに API キーの説明を入力します。
10. [生成] をクリックします。
SmartRecruitersで API キーが自動的に生成され、表示されます。
11. API キーをコピーして、後で使用できるように安全な場所に保存します。

SmartRecruiters接続を作成

インスタンスがアプリケーションからユーザーデータを取得できるように、SmartRecruiters アプリケーションと ServiceNow インスタンスの間に接続を作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. ServiceNowインスタンスで、[プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
フローデザイナーが新しいタブで起動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. SmartRecruiters 接続を見つけて、[接続を追加] をクリックします。
[接続を作成] ダイアログボックスが開きます。
4. ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

[接続を作成] ダイアログボックス

フィールド	説明
接続情報	
接続名	SmartRecruiters接続の名前です。このフィールドは、自動的に入力されます。
接続 URL	接続の URL です。このフィールドは、自動的に **https://api.smartrecruiters.com** に設定されます。
認証情報	
API キー	SmartRecruiters アプリケーションの API キー。SmartRecruiters API キーの生成 で生成した API キーを入力します。

5. [接続を作成] をクリックします。

Smartsheet スポーク

Smartsheet スポークは ServiceNow® プラットフォームを Smartsheet と統合するため、データベーステーブルの更新時に特定のシートにセルを作成するなど、さまざまなアクションを自動化できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Smartsheet スポーク v2.3.1 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークはSmartsheet v1.0.1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Smartsheet アドミンアカウントが必要です。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- 最新の Smartsheet スポークプラグイン

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの情報については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのサブフロー

Smartsheet Spoke では、Smartsheetタスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。次の表に、利用可能なサンプルサブフローを示します。

Smartsheet Spoke サブフローの説明

サブフロー	説明
Smartsheetサブスクリプションをダウンロード	Smartsheetポータルからユーザーサブスクリプションをダウンロードします。 このサブフローを使用するには、「Smartsheetとの統合」で概説されている手順を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Smartsheet Spoke サブフローの説明 (続く)

サブフロー	説明
Smartsheetユーザーアクティビティを更新	Smartsheetユーザーアクティビティを取得します。 このサブフローを使用するには、「Smartsheetとの統合」で概説されている手順を実行します。
Smartsheetサブスクリプションを回収	Smartsheetのユーザーアカウントを無効にします。 このサブフローを使用するには、「Smartsheetとの統合」で概説されている手順を実行します。

スポークのアクション

Smartsheet Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにSmartsheetタスクを自動化するアクションが提供されます。次の表に、利用可能なアクションを示します。

Smartsheet Spoke の説明

カテゴリ	アクション	説明
添付ファイル管理	シートにファイルを添付	シートにファイルを添付します。
	シートに URL を添付	シートに URL を添付します。
	添付ファイルを ID で検索	シートの添付ファイルに関する情報を取得します。
	添付ファイルストリームを検索	シートのすべての添付ファイルに関する情報を取得します。
セル履歴	セル履歴ストリームを検索	セル変更履歴に関する情報を取得します。
列管理	列を作成	シートに列を作成します。
	ID で列を検索	シートの列に関する情報を取得します。
	列ストリームを検索	シートからすべての列に関する情報を取得します。
	列を更新	シートの列を更新します。
コメント管理	コメントを作成	シートにコメントを作成します。
	添付ファイル付きのコメントを作成	シートに添付ファイルを付けて、ディスカッションに関するコメントを作成します。コメントには、コンテキストと有用な情報が記載されます。
	コメントを ID で検索	コメントに関する情報を取得します。
	コメントを更新	シートのコメントを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Smartsheet Spoke の説明 (続く)

カテゴリ	アクション	説明
クロスシート参照管理	クロスシート参照を作成	2 つのシート間でクロスシート参照を作成します。
	ID でクロスシート参照を検索	特定のシートのクロスシート参照に関する情報を取得します。
	クロスシート参照ストリームを検索	特定のシートのすべてのクロスシート参照に関する情報を取得します。
イベント管理	イベントレポートを確認	顧客のイベントレポートアドオンが有効になっているかどうかを確認します。有効になっている場合、値 0 が返されます。有効になっていない場合、値 1 が返されます。
フォルダー管理	フォルダーを作成	Smartsheet プロジェクトの [ホーム] ペインにフォルダーを作成します。
	フォルダーストリームを検索	Smartsheet プロジェクトの [ホーム] ペインにあるトップレベルのすべての子フォルダーに関する情報を取得します。
	フォルダーを更新	フォルダーの名前と固定リンクを更新します。
グループ管理	グループを作成	グループを作成します。
	組織グループストリームを検索	組織内のすべてのグループに関する情報を取得します。
	グループを更新	グループの詳細を更新します。
行管理	行を作成	シートに行を作成します。
	ID で行を検索	特定のシートの行に関する情報を取得します。
	行を更新	シートの行を更新します。
メール管理を介して送信	レポートをメールで送信	レポートを添付ファイルとしてメールに送信します。
	メールシート	シートを添付ファイルとしてメールに送信します。
	メールで行を送信	メールで行を送信します。
共有管理	共有シートを作成	ユーザーおよびグループとシートを共有します。
	シート共有ストリームを検索	シートを共有するすべてのユーザーとグループのリストを取得します。
	共有シートを更新	シートのユーザーまたはグループのアクセスレベルを更新します。
シート管理	シートを作成	フォルダー ID が指定されている場合は、フォルダーにシートを作成します。それ以外の場合は、ユーザーのシートフォルダーにシートが作成されます。
	ID でシートを検索	シートに関する情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Smartsheet Spoke の説明 (続く)

カテゴリ	アクション	説明
	シートストリームを検索	ユーザーがアクセスできるすべてのシートのリストを取得します。
	シートを更新	シートを更新します。
ユーザー管理	ユーザーを作成	ユーザーを作成します。
	ユーザーを非アクティブ化	Smartsheet で指定されたユーザーアカウントを非アクティブにします。
	admin ユーザーを検索	アクセストークンを生成したアドミンユーザーの詳細を取得します。
	ユーザーアクティビティストリームを検索	ユーザーアクティビティの詳細を取得します。
	ID でユーザーを検索	ユーザーの詳細を取得します。
	ユーザーストリームを検索	すべてのユーザーに関する情報を取得します。
	ユーザーを削除	ユーザーアカウントを非アクティブ化します。
	ユーザーを更新	ユーザーの詳細を更新します。
Webhook 管理	Webhook を作成	Webhook を作成します。
	Webhook を削除	Webhook を削除します。
	ID で Webhook を検索	Webhook の詳細を取得します。
	Webhook ストリームを検索	すべての Webhook の詳細を取得します。
	Webhook 共有シークレットをリセット	Webhook の共有シークレットをリセットします。
	Webhook を更新	Webhook の詳細を更新します。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Smartsheet スポークを設定

ServiceNow® インスタンスと Smartsheet の間の統合を有効にするには、Smartsheet スポークを設定します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションを要求します。
- Smartsheet プラグインをアクティブ化します。
- Smartsheet アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) キーのエイリアスを作成します。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

設定では、Smartsheet で API キーを生成し、ServiceNow インスタンスで接続および認証情報レコードを作成します。

Smartsheet アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) キーの生成

HTTP 認証ヘッダー内のすべての API 呼び出しに含まれる Smartsheet API キーを生成します。API キーの認証は、ServiceNow® インスタンスと Smartsheet の統合プロセスの一環として行われます。

始める前に

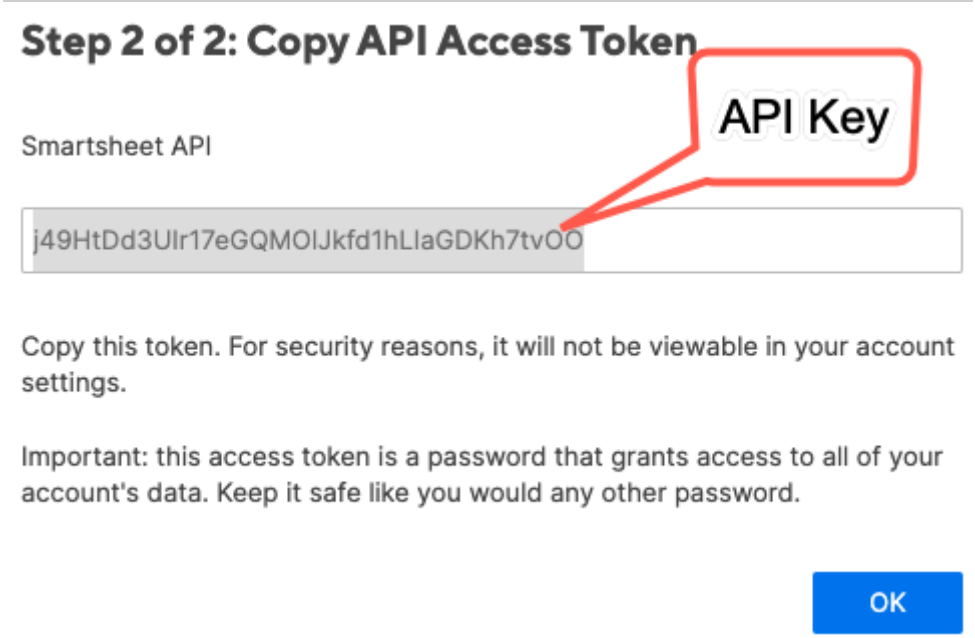
- API キーの生成を許可する、Smartsheet のアカウントを作成します。
- 必要なロール：admin

手順

1. https://app.smartsheet.com/ にログインします。
2. 左側のペインで、Smartsheet アカウントアイコン を選択します。
3. [個人設定 **(Personal Settings)]** を選択します。
4. **[API** アクセス] タブを選択します。
5. [新しいアクセストークンを生成 **(Generate new access token)]** を選択します。
6. [API アクセストークン名 (API Access Token Name)] ボックスに、API トークンの名前を入力します。
7. **[OK]** を選択します。
   次の例に示すように、API キーが生成されます。

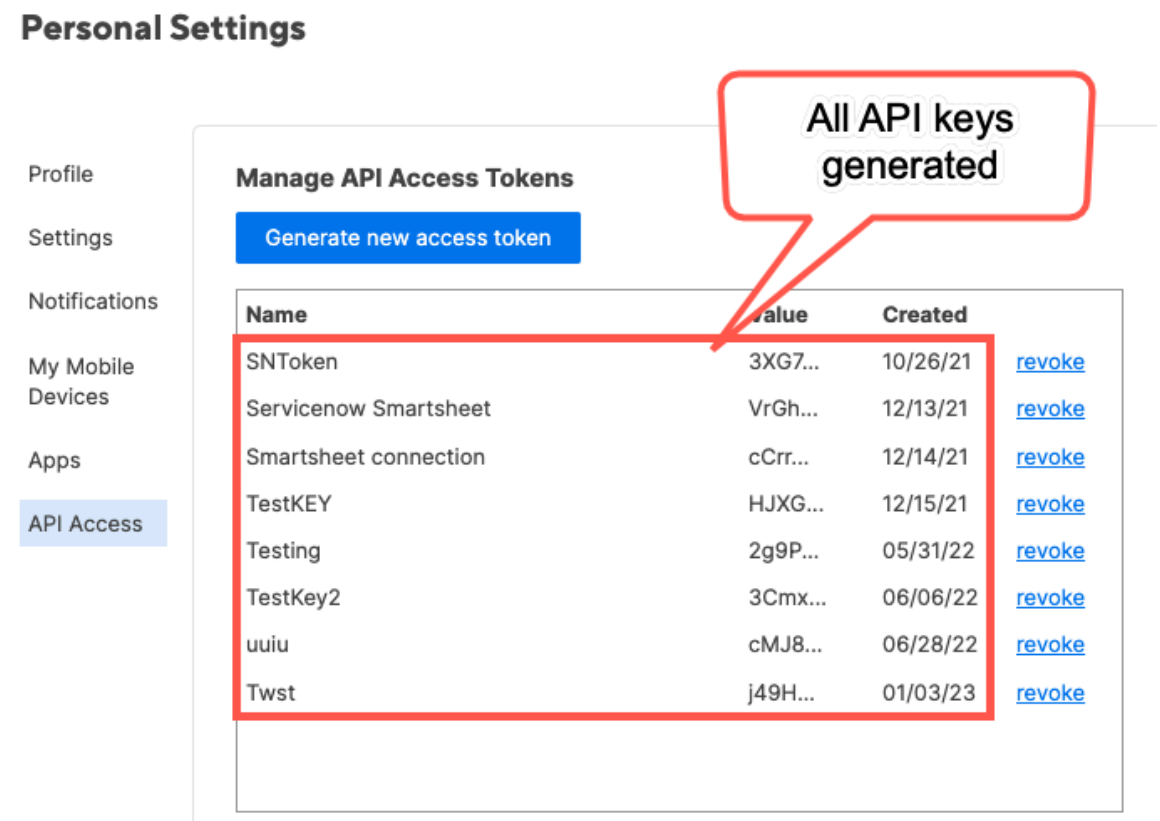
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

生成された **Smartsheet API** キー



8. **[OK]** を選択します。
   次の例に示すように、生成された API キーは [API アクセストークンの管理 (Manage API Access Tokens)] セクションで利用可能になります。

利用可能なすべての **Smartsheet API** キー



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Smartsheet スポークの接続および認証情報の設定

ServiceNow® インスタンスを認証して Smartsheet に接続できるように、接続および認証情報レコードを設定します。

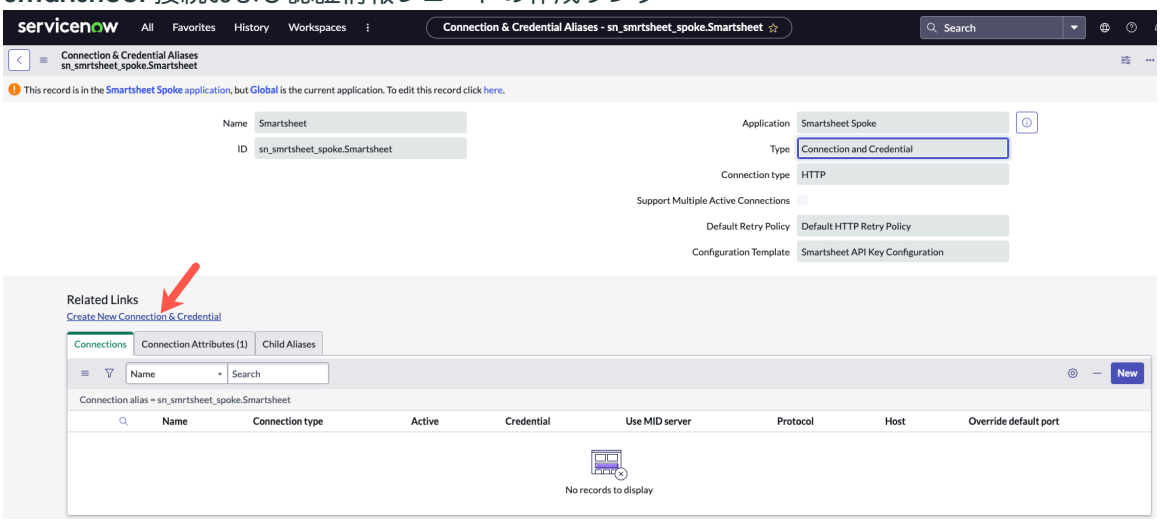
始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. Smartsheet のエイリアスレコードを開きます。
3. [関連リンク] セクションから、[新しい接続および資格情報の作成] をクリックします。
   次の例は、接続および認証情報レコードを設定するために選択する [新しい接続および資格情報の作成] リンクを示しています。

Smartsheet 接続および認証情報レコードの作成リンク



4. フォーム上で、以下のフィールドに記入します。

Smartsheet 接続および認証情報フォーム

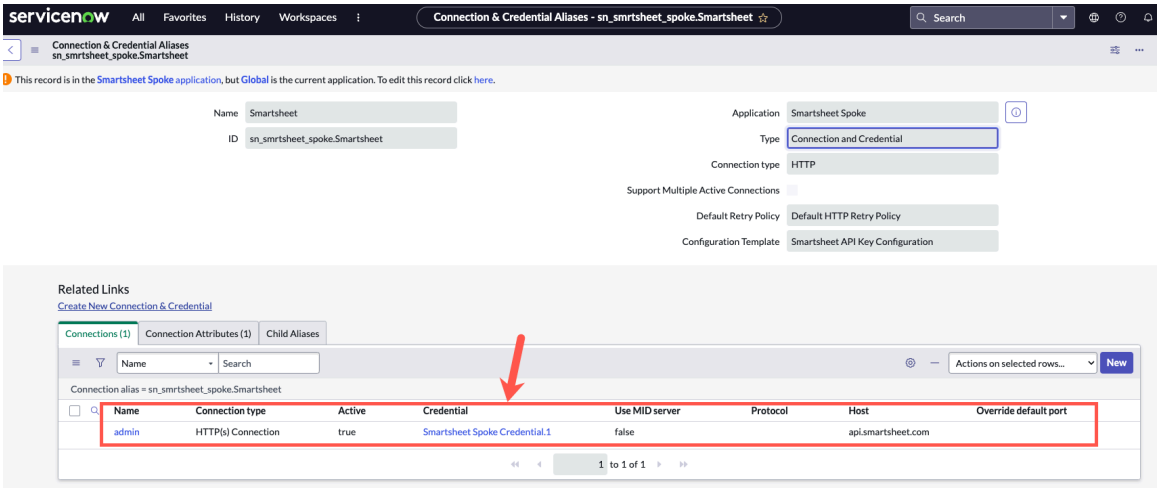
フィールド	説明
名前	Smartsheet への接続に使用されるユーザー名。
API キー	Smartsheet で生成されるアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) キー。 **注:** API キーの生成方法については、「Smartsheet アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) キーの生成」を参照してください。

5. [作成] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しい接続および認証情報レコードが [接続] タブに作成されます。別のレコードを作成してデフォルトとして設定しない限り、このレコードがデフォルトのレコードになります。

次の例は、接続および認証情報レコードが作成され、[接続] タブで利用可能になっている様子を示しています。



Snowflake スポーク

Snowflake のデータウェアハウス機能を ServiceNow インスタンスから直接管理します。ServiceNow インスタンスから、Snowflake でレコードの作成、削除、検索、クエリの実行、およびその他のデータ操作タスクを実行できます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークは Snowflake v2 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Snowflake アカウント

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- Complex Object (com.glide.cobject)
- ServiceNow Flow Designer - Dynamic Inputs (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow フローデザイナー - Dynamic Outputs (com.glide.hub.dynamic_outputs)
- ServiceNow IntegrationHub Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow IntegrationHub Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- Flow Designer - Flow Engine (com.glide.hub.flow_engine)
- Flow Designer Action Step - Payload Builder (com.glide.hub.action_step.payload)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Snowflake スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Snowflake データ操作タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
レコード管理	レコードの作成	INSERT ステートメントを使用して、指定された詳細で Snowflake テーブルにレコードを作成します。
	レコードを削除	DELETE ステートメントを使用して、Snowflake テーブル内の指定されたレコードを削除します。
	カスタムクエリを実行	カスタムステートメントを使用して Snowflake データベースでカスタムクエリを実行し、結果を取得します。
	列を検索	Snowflake テーブルから列のリストを取得します。 **注:** Snowflake サービスアカウントに、フェッチする列へのアクセス権限があることを確認してください。
	レコードを検索	SELECT ステートメントを実行し、Snowflake テーブルから一致するレコードを取得します。
	テーブルを検索	Snowflake の指定されたデータベースと指定されたウェアハウスからテーブルのリストを取得します。 **注:** Snowflake サービスアカウントに、フェッチするテーブルへのアクセス権限があることを確認してください。
	レコードを更新	UPDATE ステートメントを使用して、Snowflake テーブル内の指定されたレコードを更新します。

Snowflake スポークの設定

Oauth 認証情報を使用して、ServiceNow インスタンスと Snowflake スポークを統合し、ServiceNow の要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Snowflake スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Snowflake スポークの接続の設定

ServiceNow 要求を認証するための Snowflake 接続を追加して設定します。

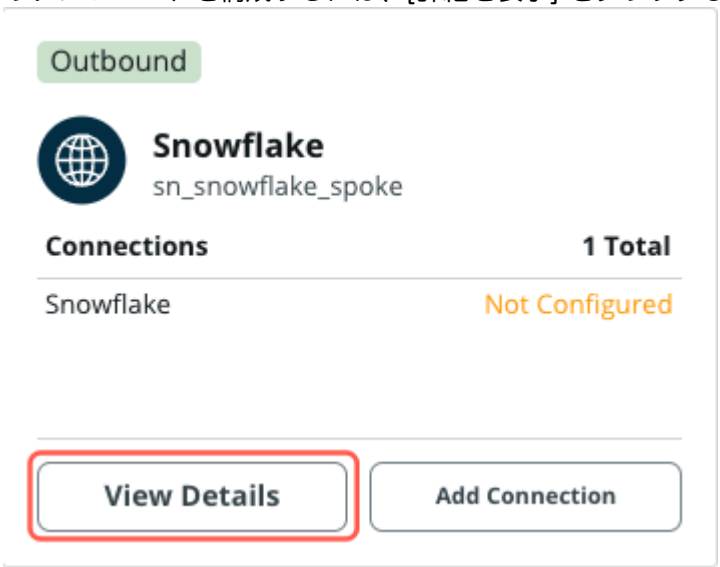
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- Snowflake アカウントの OAuth クライアント ID とクライアントシークレットを取得します。詳細については、「Snowflake OAuth」を参照してください。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。
4. **Snowflake** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
   - Snowflake スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



   - 複数の Snowflake 接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

スポークを初めて設定する場合は、[設定] をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

5. [接続を設定] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続を一意に識別する名前。
接続 URL	Snowflake に接続するための URL。URL を `https://<your_domain>.snowflakecomputing.com` の形式で入力します。
アプリケーションレジストリ名 (Application Registry Name)	アプリケーションレジストリの名前です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証情報名	認証情報を一意に識別する名前です。 例：`Snowflake credential`
OAuth クライアント ID	Snowflake アカウントの OAuth クライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	Snowflake アカウントの OAuth クライアントシークレット。
認証 URL	Snowflake の認証 URL です。URL を `https://<your_domain>.snowflakecomputing.com/oauth/authorize` の形式で入力します。
トークン URL	ServiceNow インスタンスがアクセストークンを取得する URL です。URL を `https://<your_domain>.snowflakecomputing.com/oauth/token-request` の形式で入力します。
Oauth エンティティプロファイル名 (Oauth Entity Profile Name)	Snowflake アカウントの OAuth エンティティプロファイル名。
OAuth リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイントが `https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` の形式で自動入力されます。

6. **[OAuth トークンを設定して取得 (Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

Socure Spoke

ServiceNow インスタンスを Socure アカウントと統合して、スコア、ウォッチリストなどに関する情報にアクセスします。

ストアでアプリを要求

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Socure スポーク v1.1.0 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Socure V3.0 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Socure Spoke では、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクション (ID モジュールのカテゴリ) が提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

アクション	説明
住所リスクスコアを検索	住所リスクスコアと理由コードを取得します。
詐欺スコアを検索	詐欺スコアと理由コードを取得します。
メールリスクスコアを検索	メールリスクスコアと理由コードを取得します。
KYC スコアを検索	KYC (Know your Customer) スコアと理由コードを取得します。
理由コードと説明を検索	理由コードと説明を取得します。
電話リスクスコアを検索	電話リスクスコアと理由コードを取得します。
ウォッチリストを検索	グローバルウォッチリストの一致を取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Socureスポークを設定。

Socureスポークを設定

API キーを使用して ServiceNow インスタンスと Socure アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Socure スポークを有効化します。
- Socure サポートチームに連絡し、Socure アカウントに接続するための接続 URL を取得します。
- 必要なロール：admin

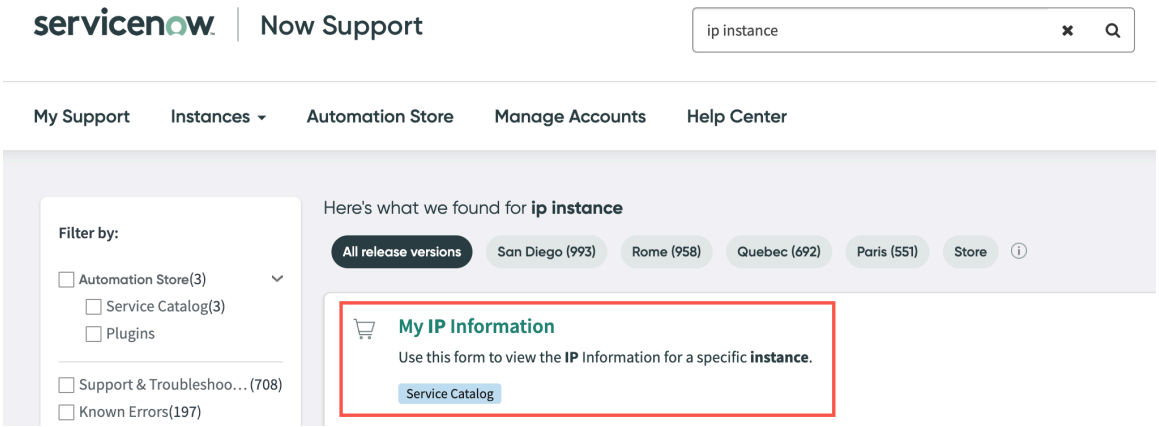
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ServiceNow インスタンスの IP アドレスを取得します。

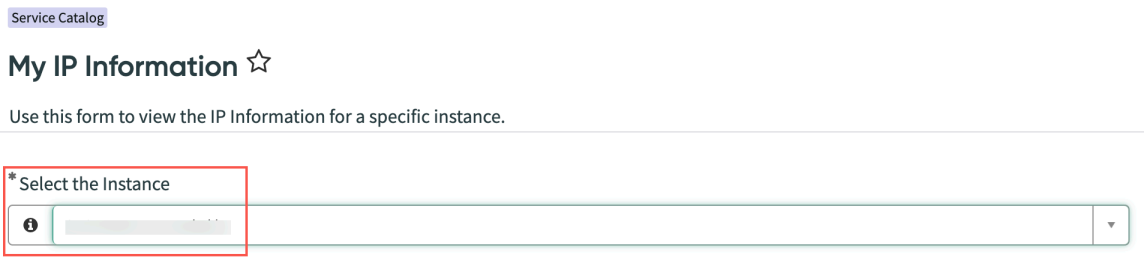
   a. ServiceNow - NOW Support にログインします。

   b. [自分の **IP** 情報 **(My IP Information)]** サービスカタログアイテムを検索します。



   c. サービスカタログアイテムをクリックします。

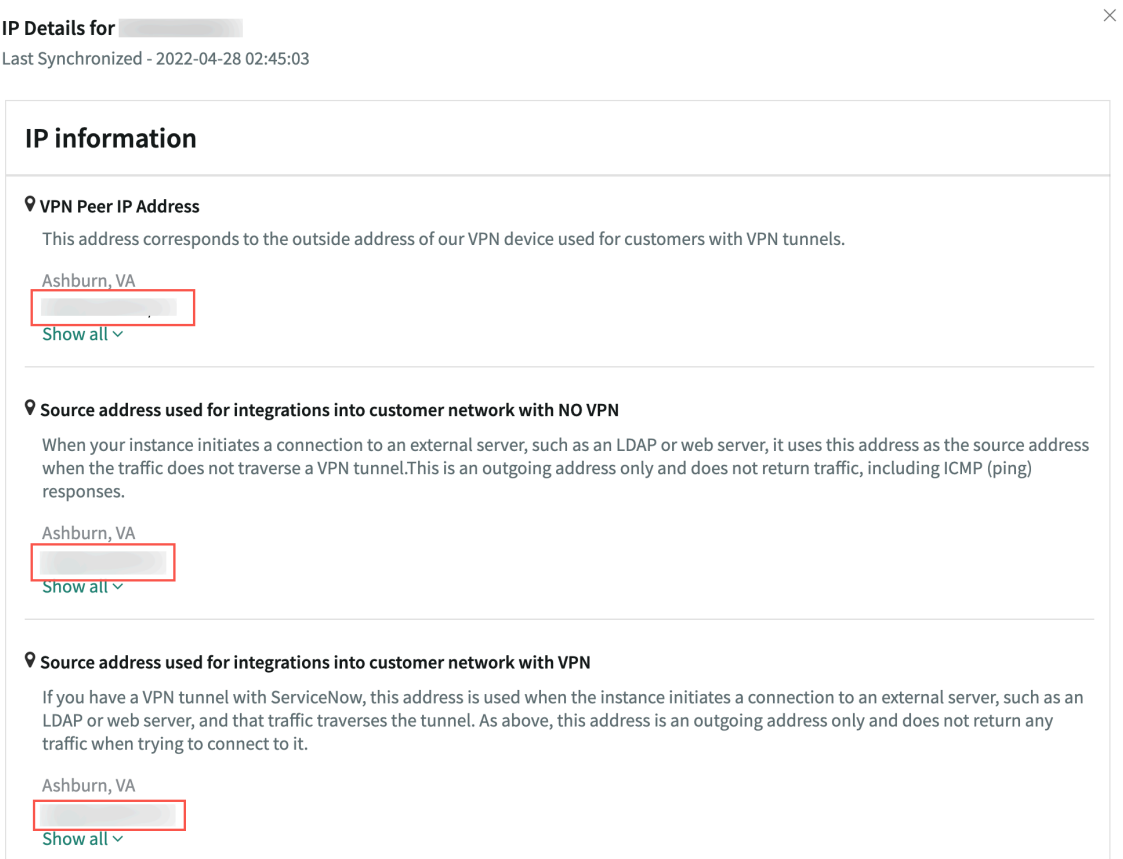
   d. [インスタンスを選択 **(Select the instance)]** にインスタンス名を入力します。



   e. [送信] をクリックします。
   IP アドレスが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. 後で使用するために IP アドレスをコピーして記録します。



2. Socure アドミンアカウントからトークンの値を取得します。

a. アドミン認証情報を使用して Socureアドミンアカウント にログインします。

b. [設定] タブをクリックします。

c. [アカウント設定 **(Account Settings)]** タブで、次の値を入力します。

- [環境] リストから [本番] を選択します。
- [許可されたドメイン **(Allowed Domains)]** で、ServiceNow インスタンスの IP アドレスを指定します。複数の IP アドレスはカンマ (,) で区切ります。
- 後で使用するために **[ID+** キー **(ID+key)]** の値をコピーして記録します。

3. ServiceNow インスタンスで Socure スポーク の認証情報レコードを作成します。

a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

b. [新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

c. **[API** キー認証情報] を選択します。
空の API キー認証情報フォームが表示されます。

d. 値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`Socure Credentials`」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
API キー	Socure トークンの形式：`SocureApiKey <Value of ID+key>`。
適用先	注: このオプションは、このスポークには適用されません。
順番	この認証情報を適用する順番。たとえば、「`100`」と入力します。

e. [送信] をクリックします。

4. ServiceNow インスタンスで Socure スポークの接続レコードを作成します。

a. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. [ソース] のレコードを開きます。

c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。

d. 値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前です。たとえば、「`Socure Connection`」と入力します。
認証情報	Socure 用に作成された認証情報レコードを選択します。たとえば、**[Socure Credentials]** を選択します。
接続 URL	Socure アカウントに接続するための接続 URL です。

e. [送信] をクリックします。

SuccessFactors Learning スポーク

SuccessFactors Learning スポークは、ユーザーデータ、コースデータ、ユーザーアクティビティの同期、アサイン/登録の取得など、すべてのラーニング関連情報を取得するために使用できます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

サポートされているバージョン

このスポークはバージョン 1.5 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

主要な機能

SuccessFactors Learning により、フローデザイナーで以下が有効になります。

- 学習情報の取得
- ユーザーデータ
- コースデータ
- ユーザーアクティビティの同期

スポークの要件

-
-

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- TBD
- TBD

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

SuccessFactors Learning では、ラーニング タスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明

スポークのサブフロー

SuccessFactors Learning では、ラーニング タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
ユーザーを検索	ユーザー関連情報を取得します。
コースを検索	コース関連情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

SuccessFactors Learning は、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに ラーニングタスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
メタデータの取得	アクセストークンを取得	SuccessFactors Learning からアクセストークンを取得します。
ユーザー管理	ユーザーを検索	SuccessFactors Learning からユーザーの詳細を取得します。
コース管理	コースを検索	SuccessFactors Learning からコースの詳細を取得します。
	ユーザーアクティビティを検索	SuccessFactors Learning からユーザーアクティビティを取得します。
	承認の追跡	SuccessFactors Learning から承認を取得します。
	登録を検索	SuccessFactors Learning から登録の詳細を取得します。
	アサイン登録を作成	SuccessFactors Learning へのアサイン登録を作成します。

スポークモジュール

これらのスポークモジュールを介してアクセスされるデータは、次のテーブルに保存されます。

テーブル	説明	フィールド

スポークユーザーロール

SuccessFactors Learning では、データへのアクセスを制御するために次のユーザーロールが提供されます。

ユーザーロール	説明

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

SuccessFactors Learning スポークの設定

SuccessFactors Learning REST 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと SuccessFactors Learning を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SuccessFactors Learning スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

SuccessFactors Learning スポークの接続レコードの作成

スポークの接続レコードを作成します。SuccessFactors Learning 接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して SuccessFactors ラーニング でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. *SuccessFactors* **Learning** のエイリアスレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例を次に示します。`<Application-Name>` 接続。
認証情報	*SuccessFactors* Learning 用に作成された認証情報レコード。例：`<Application-Name> Cred`。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
ホスト	ラーニングサーバーがインストールされるターゲットホストの完全修飾ドメイン名です。例を次に示します。`<host>.<domain>.com`
接続 URL	ラーニングに接続するためのベース URL です。「`https://scfpart001153.scdemo.successfactors.eu/learning`」と入力します。
アクティブ	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションを実行するドメインです。
Override default port (デフォルト ポートに上書きする)	接続で使用されるターゲット ポート。空白の場合は、デフォルトのポートが使用されます。
MID サーバーを使用	この接続に MID サーバー を使用するオプション。チェックボックスが選択されている場合、[MID サーバー詳細構成] 関連リストのフィールドを定義します。

5. [送信] をクリックします。

SuccessFactors Learning スポークの認証情報レコードの作成

スポークの認証情報レコードを作成します。SuccessFactors Learning 接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
「作成する認証情報の種類は？ (What type of Credentials would you like to create?)」というメッセージが表示されます。
3. **[SuccessFactors Learning REST 認証情報 (SuccessFactors Learning REST Credentials)]** を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、ローカル認証情報などです。
アクティブ	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
ユーザー名	ローカルの ServiceNow インスタンスにログインするためのユーザー名です。
会社 ID	クライアントから提供された会社 ID 情報。
ユーザータイプ	ローカルの ServiceNow インスタンスにログインするためのパスワードです。
リソースタイプ	クライアントから提供されたリソースタイプ情報。
クライアント ID	クライアントから提供された登録情報を表す一意の文字列。
クライアントシークレット	アプリケーションと認証サーバーのみが知るシークレットコード。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信] をクリックします。

SuccessFactors スポーク

SuccessFactors スポークは、Bristlecone, Inc. によってビルドされています。ServiceNow インスタンスから SuccessFactors のデータとエンティティを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。2022 年 3 月 1 日以降、すべての SAP スポークはストアでのみ入手可能になります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

SuccessFactors スポークv4.5.0 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - SOAP (com.glide.hub.action_step.soap)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - XML パーサー (com.glide.hub.action_step.xmlparser)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的出力 (com.glide.hub.dynamic_outputs)
- リモートテーブル (com.glide.script.vtable)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのフロー

SuccessFactors スポークでは、SuccessFactors タスクの自動化をデモするドラフト状況のサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
To Do を作成	SuccessFactors に To Do レコードを作成します。
To Do を更新	SuccessFactors で指定された To Do レコードの詳細を更新します。
SuccessFactors 統合フローを実行	選択したエンティティについて、SuccessFactors から ServiceNow インスタンスに、データ全体または前回の更新後に行われた更新のみを取得します。デフォルトでは、SuccessFactors で次のエンティティからデータを取得できます。 • 部門 • ロケーション • ジョブプロファイル • ワーカープロファイル • 有効なワーカープロファイル • セカンダリアサインを含むジョブ履歴 • To Do

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 「To Do を作成」フローと「To Do を更新」フローは、ServiceNow でイベントが発生したときの To Do レコード管理を示すものです。要件に応じてこれらのフローをカスタマイズし、ServiceNow インスタンスから他のエンティティのレコードを管理できます。

スポークのサブフロー

SuccessFactors スポークでは、SuccessFactors タスクの自動化をデモするドラフトステータスのサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、そのサンプルサブフローを新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
部門を取得	SuccessFactors から部門データを取得し、SuccessFactors 部門ステージングテーブルに保存します。
有効なワーカープロファイルを取得	SuccessFactors から有効なワーカープロファイルデータを取得し、SuccessFactors ワーカープロファイルステージングテーブルに保存します。
セカンダリアサインを含む完全なジョブ履歴を取得	SuccessFactors からすべてのプライマリおよびセカンダリジョブ履歴データを取得します。
ジョブプロファイルを取得	SuccessFactors からジョブプロファイルデータを取得し、SuccessFactors ジョブプロファイルステージングテーブルに保存します。
場所を取得	SuccessFactors から場所データを取得し、SuccessFactors 場所ステージングテーブルに保存します。
To Do を取得	SuccessFactors から To Do データを取得し、SuccessFactors 受信 To Do ステージングテーブルに保存します。
ワーカープロファイルを取得	SuccessFactors からワーカープロファイルデータを取得し、SuccessFactors ワーカープロファイルステージングテーブルに保存します。
SuccessFactors サービスを実行	選択したエンティティについて、データ全体または最後に成功したランタイムからの更新のみを取得します。
SuccessFactors Webhook を処理	SAP SuccessFactors Webhook イベントを処理します。Webhook の設定の詳細については、「SuccessFactors スポークの Webhook を設定」を参照してください。

スポークのアクション

SuccessFactors スポークは、ServiceNow でイベントが発生したときに SuccessFactors タスクの自動化をデモするドラフトステータスのサンプルアクションを提供します。サンプルアクションをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルアクションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- 権限のないユーザーが機密データにアクセスできないようにするために、SuccessFactors スポークの機密アクションに hasRole 機能が実装されました。その結果、システムアドミニストレーターロールを持たないユーザーは、SuccessFactors スポークアドミンロールを持っていない場合にアクションを正常に実行でなくなります。このルールは、SuccessFactors スポーク v3.1.5 と v4.0.3 からそれぞれ適用されます。詳細については、NOW Support のナレッジベース記事「SuccessFactors Spoke hasRole fix details (SuccessFactors スポーク hasRole 修正の詳細)」を参照してください。
- 権限のないユーザーが SuccessFactors スポークテーブルのレポートを生成できないようにするために、report_view ACL がスポークアドミンロールに組み込まれています。したがって、レポートを生成するには、SuccessFactors スポークのアドミンロールを持っている必要があります。

カテゴリ	アクション	説明
従業員管理	従業員住所情報	指定された従業員の住所情報を取得します。
	従業員年俸	指定された従業員の年俸の詳細を取得します。
	従業員報酬の詳細	指定された従業員の報酬の詳細を取得します。
	従業員ドキュメント	指定された従業員の表示可能なすべてのドキュメントを取得します。
	従業員の支払い方法の詳細	指定された従業員の支払い方法の詳細を取得します。
	従業員の休暇	指定された従業員によって取得された休暇を取得します。
	従業員の休暇残日数	指定された従業員の休暇残日数の詳細を取得します。
	自分のタイムカードの詳細	指定された従業員のタイムシートの詳細を取得します。
	ユーザーロールを変更	指定された権限グループにユーザーを追加します。
	従業員のすべての支払い方法の詳細	指定された従業員のすべての支払い方法の詳細を取得します。
	繰り返し発生する従業員の報酬	指定された従業員の報酬の繰り返しコンポーネントを管理します。
	従業員の福利厚生登録を取得	指定された従業員の特定の期間中の福利厚生登録の詳細を取得します。
	従業員の退職を処理	指定された従業員の退職プロセスをトリガーします。
	組織変更	指定された従業員の組織関連情報を変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	無断欠勤をレポート	指定された従業員の無断欠勤をレポートします。
	レポート構造	指定された従業員のレポート構造を取得します。
	休みを申請	指定された従業員の休暇申請を適用します。
	従業員の住所を更新	指定された従業員の住所を更新します。
	従業員 DOB を更新	指定された従業員の生年月日を更新します。
	従業員メールを更新	指定された従業員のメールの詳細を更新します。
	従業員電話を更新	指定された従業員の電話の詳細を更新します。
	従業員の個人情報を更新	指定された従業員の個人情報を更新します。
	従業員の個人情報を更新 - グローバル	指定された従業員のグローバル情報を更新します。
	従業員の開始日を更新	指定された従業員の雇用開始日を更新します。
人事基盤データ	SuccessFactors にログイン	SuccessFactors にログインし、セッション ID を取得します。
	現在の雇用情報を取得	SuccessFactors から現在の雇用情報を取得します。
	部門を取得	SuccessFactors から部門データを取得します。
	セカンダリアサインを含む完全なジョブ履歴を取得	SuccessFactors からセカンダリアサインを含む完全なジョブ履歴データを取得します。
	有効なワーカー ID を取得	SuccessFactors から有効なワーカープロファイル ID を取得します。
	個人 ID で個人を取得	個人 ID で SuccessFactors からワーカープロファイルデータを取得します。
	有効なワーカープロファイルを取得	SuccessFactorsから有効なワーカープロファイルデータを取得します。
	セカンダリアサインを含むジョブ履歴を取得 (廃止)	SuccessFactors からセカンダリアサインを含むジョブ履歴データを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ジョブプロファイルを取得	SuccessFactors からジョブプロファイルデータを取得します。
	場所を取得	SuccessFactors から場所データを取得します。
	ワーカープロファイルを取得	SuccessFactors からワーカープロファイルデータを取得します。
	祝日カレンダーを取得	国の祝日カレンダーを取得します。
メタデータの取得 **注:** 作成可能、削除可能、更新可能、メタデータのリスト表示の各アクションを実行するには、グローバルスコープに *com.glide.attachment.max_size* という名前のシステムプロパティを作成し、その値を `20000000` に設定します。	動的出力フィールドを取得	指定されたエンティティの応答でフィールドをマッピングするための動的出力構造を作成します。
	エンティティを取得 - 作成可能	作成操作がサポートされているエンティティを取得します。
	エンティティを取得 - 削除可能	削除操作がサポートされているエンティティを取得します。
	エンティティを取得 - 更新可能	更新操作がサポートされているエンティティを取得します。
	エンティティリストを取得	すべてのエンティティのリストを取得します。
	フィールドを取得 - 作成可能	エンティティの作成可能な非ナビゲーションプロパティをすべて取得します。
	フィールドを取得 - 更新可能	エンティティのすべての更新可能な非ナビゲーションフィールドを取得します。
	キーフィールドを取得	指定されたエンティティのすべてのキーフィールドを取得します。
	必須フィールドを取得 - 作成可能	指定されたエンティティの挿入可能なすべての必須フィールドを取得します。
	更新可能な To Do フィールドを取得	送信 To Do ステージングテーブルの更新可能なフィールドのリストを取得します。
	利用可能なポジションを取得	指定された会社および場所コードで利用可能なすべてのポジションを取得します。
	事業部門の取得	SuccessFactorsで利用可能なすべての事業部門を取得します。
	会社を取得	SuccessFactorsでアクティブなすべての会社を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	国を取得	SuccessFactorsでアクティブなすべての国を取得します。
	国コードを取得	国の国コードを取得します。
	動的権限グループを取得	利用可能なすべての動的権限グループを取得します。
	イベント ID でイベント理由を取得	指定されたイベント ID のすべてのイベント理由を取得します。
	エンティティでグローバル情報を取得	グローバル情報をフェッチするために指定されたエンティティのメタデータを取得します。
	グローバルな個人情報をサポートしている国を取得	個人のグローバル情報の作成と変更をサポートする国の詳細を取得します。
	会社コードで場所を取得	SuccessFactors から、指定された会社コードのすべてのアクティブな場所を取得します。
	グループ ID でユーザープールを取得	指定されたグループのユーザー名カテゴリのみを持つすべてのユーザープールを取得します。
	選択リストオプションを取得	指定された選択リスト ID で利用可能なすべての選択リストオプションを取得します。
	国別の選択リストオプションを取得	指定された国の選択リストオプションを取得します。
	従業員向けに定義された繰り返し発生する支払いコンポーネントを取得	指定された従業員の繰り返し発生する支払いコンポーネントと関連情報を取得します。
	必須フィールドを取得 - 作成可能	指定されたエンティティの挿入可能なすべての必須フィールドを取得します。
	ユーザー ID で時刻タイプを取得	SAP SuccessFactors の指定された従業員の利用可能なすべての時刻タイプを取得します。
	更新可能な To Do フィールドを取得	SuccessFactors 送信 To Do ステージングテーブルの更新可能なフィールドのリストを取得します。
レコード管理	レコードを作成	SuccessFactors にレコードを作成します。
	レコードを削除	SuccessFactors で指定されたレコードを削除します。
	URL でエンティティを実行	ナビゲーション URL を入力として使用し、そのナビゲーション URL の応答を提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	レコードを取得	選択されたエンティティと指定されたキーフィールドのレコードを取得します。
	レコードを更新	指定されたレコードの詳細を更新します。
To Do	To Do を作成	SuccessFactors に To Do レコードを作成します。
	ID で To Do を取得	SuccessFactors から To Do の詳細を取得します。
	To Do を取得	カテゴリ ID が 57 の場合を除き、SuccessFactors から To Do データを取得します。
	To Do を更新	指定された To Do レコードの詳細を更新します。
ユーザー管理	ユーザーアクティビティを検索	SAP SuccessFactorsユーザーの前回のアクティビティ時間を取得します。
	ユーザーアクティビティ SFTP を検索	SSH ファイル転送プロトコル (SFTP) の場所で公開されたレポートをフェッチして、SAP SuccessFactorsユーザーの前回のアクティビティ時間を取得します。
	ユーザーを検索	SAP SuccessFactors ユーザーのリストを取得します。
	ユーザー ID でユーザーを検索	SuccessFactors ユーザーのワーカーの詳細を取得します。
	ユーザー個人の詳細を検索	指定された従業員のユーザー個人の詳細を取得します。
	ユーザーを一時停止	ユーザーアカウントを一時停止します。
ユーティリティカテゴリ	SuccessFactors サブフローを呼び出し	指定されたSuccessFactorsスポークサブフローを同期的に実行します。
	SuccessFactors サービスの実行サブフローを呼び出し	SuccessFactors サービスの実行サブフローを非同期に実行します。
	フローステータスを確認	フローのコンテキストが実行されているかどうかを確認します。
	最終実行日を取得	フローの前回の実行日時を取得します。
	送信 To Do ステージングテーブルのレコードを更新	SuccessFactors 送信 To Do ステージングテーブルで指定された To Do レコードの詳細を更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		注: このアクションを実行できるのは、アドミンユーザーのみです。
ゴール管理	ユーザー ID で目標を検索	指定されたユーザー ID の目標情報を SuccessFactors から取得します。 注: このアクションを実行できるのは、アドミンユーザーのみです。
給与管理	従業員の給与を検索	指定された従業員の給与の詳細を取得します。
スキル管理	スキルプロファイルを作成または更新	特定の従業員のスキルプロファイルとプロファイルスキルマッピングを作成または更新します。
	従業員のスキルストリームを検索	必要な従業員のスキル情報を取得します。
	スキルストリームを検索	スキル情報を取得します。
ジョブ管理	ID で添付ファイルを検索	添付ファイルのコンテンツを取得し、指定された添付ファイル ID の SuccessFactors 添付ファイルデータソースに保存します。 添付ファイルにアクセスするには、[すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動し、レコード **[SuccessFactors** 添付ファイル **(SuccessFactors Attachments)]** を開きます。必要なファイルはデータソースレコードに添付されています。 注: このアクションを実行できるのは、アドミンユーザーのみです。
	ID で候補を検索	候補情報を、指定された候補 ID の SuccessFactors から取得します。 注: このアクションを実行できるのは、アドミンユーザーのみです。
	求職申し込みストリームを検索	SuccessFactors から求職申し込み情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		注: このアクションを実行できるのは、アドミンユーザーのみです。
	ジョブコードストリームを検索	SuccessFactors からジョブレベル、雇用タイプ、ジョブタイプ情報を取得します。 注: このアクションを実行できるのは、アドミンユーザーのみです。
	ID でジョブ要求事項を検索	指定された要求事項 ID のジョブ要求事項の詳細を取得します。 注: • ジョブレベル ID と雇用タイプ ID の API 属性が customString3 と customString4 以外のカスタム属性で構成されている場合は、「ID でジョブ要求事項を検索」アクションのコピーを作成し、予想される API 属性パスで後処理スクリプトを変更します。 • このアクションを実行できるのは、アドミンユーザーのみです。
	ジョブ要求事項求人情報ストリームを検索	SuccessFactors から求人情報を取得します。 注: このアクションを実行できるのは、アドミンユーザーのみです。
	従業員ジョブストリームを検索	SuccessFactors からすべての従業員ジョブ情報を取得します。
	ジョブプロファイルストリームを検索	SuccessFactors からジョブプロファイル情報を取得します。

注: スポークアクションで入力として日付または時刻が必要な場合は、必ず GMT タイムゾーンでのみ値を指定してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークモジュール

SuccessFactors スポークは、ServiceNow でイベントが発生したときに SuccessFactors タスクの自動化をデモするドラフトステータスのサンプルモジュールを提供します。モジュールをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルモジュールは次のとおりです。

モジュール	説明
部門ステージングテーブル	SuccessFactorsから取得された部門データを表示します。
場所のステージングテーブル	SuccessFactorsから取得された場所データを表示します。
ジョブプロファイルステージングテーブル	SuccessFactorsから取得されたジョブプロファイルデータを表示します。
ワーカープロファイルステージングテーブル	SuccessFactorsから取得されたワーカープロファイルデータを表示します。
受信 To Do ステージングテーブル	SuccessFactors から取得されたた To Do レコードを表示します。
送信 To Do ステージングテーブル	ServiceNowで作成された To Do レコードを表示します。 ServiceNowで To Do レコードが作成または更新されると、「To Do を作成」または「To Do を更新」フローがトリガーされ、SuccessFactorsでも同じレコードが作成または更新されます。関連するすべてのレコードの詳細は、SuccessFactorsから取得され、このステージングテーブルに保存されます。フローがSuccessFactorsでのレコードの作成または更新に失敗した場合、ServiceNowの関連するレコードや更新も削除されます。
従業員のジョブ情報と履歴	すべてのユーザーのジョブ情報とジョブ履歴を表示します。
自分の休暇残日数を表示	ログインユーザーの休暇残日数を表示します。
自分の休暇詳細を表示	ログインユーザーの休暇申請の詳細を表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
Webhook レジストリー	Webhook レジストリのリストを表示します。アドミンはここで Webhook レジストリを作成する必要があります。詳細については、「SuccessFactors スポークの Webhook を設定」を参照してください。
過去 1 か月のタイムカードの詳細を表示	ログインユーザーの過去 1 か月のタイムカードの詳細を表示します。
自分のワーカープロファイルを表示	ログインユーザーのワーカープロファイルの詳細を表示します。
自分の祝日カレンダーを表示	ログインユーザーに適用される祝日カレンダーを表示します。
自分のレポート構造を表示	ログインユーザーのレポート構造の詳細を表示します。
自分の口座振込情報を表示	ログインユーザーの口座振込の詳細を表示します。
自分の合計報酬を表示	ログインユーザーの合計報酬を表示します。

データを取得するには、SuccessFactors データ連携フローを実行します。ステージングテーブルのデータは 7 日間利用可能です。この期間中は、変換マップを使用して、要件に応じて必要なターゲット ServiceNow テーブルにこのデータを保存する必要があります。

スポーク変換マップ

SuccessFactors スポークでは、ServiceNowテーブルにSuccessFactorsデータを保存するための変換マップの使用をデモするために、非アクティブ状態のサンプル変換マップと関連するサンプルターゲットテーブルが提供されます。これらのサンプル変換マップとターゲットテーブルを参照として使用し、要件に従って変換マップを作成できます。

詳細については、「変換マップ」を参照してください。

スポークユーザーロール

次のユーザーロールは、スポークと一緒に利用可能です。

- SuccessFactors アドミン (sn_successfactors.SuccessFactors Admin)：このロールを持っていると、すべてのスポークモジュールとテーブルにアクセスできます。
- SuccessFactors プライベートデータ (sn_successfactors.SuccessFactors Private Data)：このロールを持っていると、次のスポークモジュールのデータにアクセスできます。
  - 自分の口座振込情報を表示
  - 自分の合計報酬を表示

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- SuccessFactors パブリックデータ (sn_successfactors.SuccessFactors Public Data)：このロールを持っていると、次のスポークモジュールのデータにアクセスできます。
  - 自分の休暇残日数を表示
  - 自分の休暇詳細を表示
  - 過去 1 か月のタイムカードの詳細を表示
  - 自分のワーカープロファイルを表示
  - 自分の祝日カレンダーを表示
  - 自分のレポート構造を表示

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

2 つの接続および資格情報エイリアスを SuccessFactors スポーク で使用できます。1 つは SOAP API 用で、もう 1 つは OData API 用です。

スポークの設定については、「 SuccessFactors スポーク v4.x.x の設定。

SuccessFactors スポーク v4.x.x の設定

OAuth クライアントアプリケーションと API キーを使用して、ServiceNow インスタンスを SuccessFactors インスタンスと統合します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- SuccessFactors スポークを有効にします。
- システムプロパティを有効にします：
  - *glide.pf.rest.response_payload_max_size*：最大値は `10240`です。
  - *com.snc.process_flow.reporting.serialized.val_size_limit*：最大値は `16384`です。
  - *com.glide.transform.json.max-partial-length*：最大値は `65536`です。
- 必要なロール：admin

> **注:** この手順は、 SuccessFactors スポーク v4.5.0 を初めて設定する場合に適用されます。以前のバージョンの SuccessFactors スポークを使用している場合、移行手順については、「SuccessFactors スポーク v4.5.0 への移行」を参照してください。
>
> スポークの設定の詳細については、ServiceNow コミュニティ の「SAP SuccessFactors Spoke - OAuth Setup & Migration - Pre-Tokyo, Tokyo and beyond (SAP SuccessFactors スポーク - OAuth 設定と移行 - Tokyo 以前、Tokyo 以降)」を参照してください。

SuccessFactors への OAuth クライアントアプリケーションの登録

keystore.jks ファイルと keystore.cer ファイルを生成して、SAP マスターデータサービスからのアウトバウンド通信のクライアント証明書の認証を有効にします。

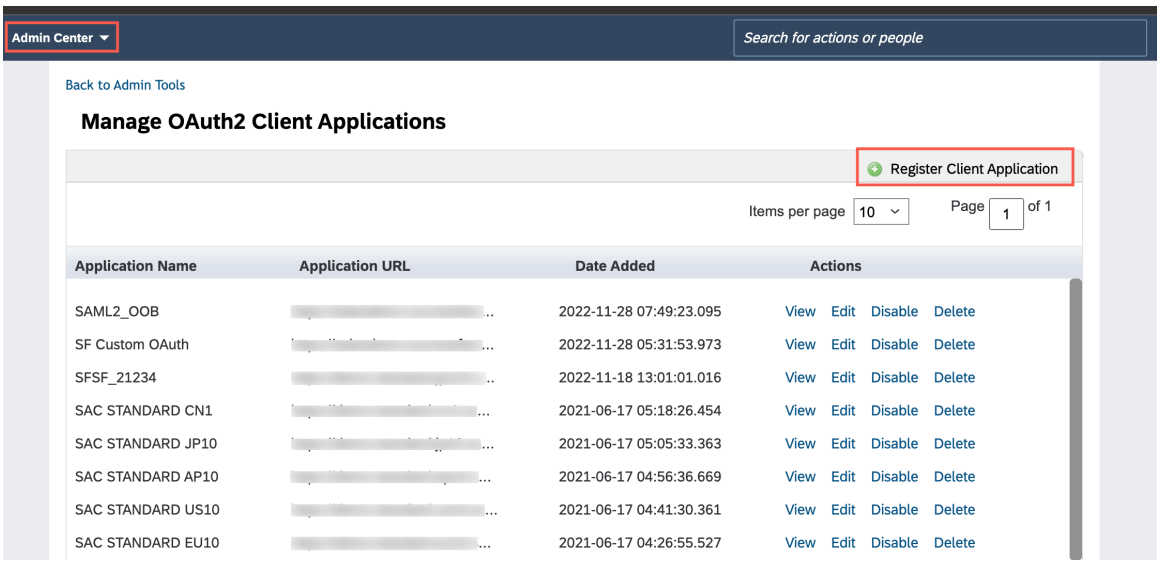
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 有効な JKS 証明書。JKS 証明書の作成については、SAP ヘルプポータル の「Creating Java Keystore(JKS) with Private Key and Certificate Chain (秘密鍵と証明書チェーンを使用した Java Keystore (JKS) の作成) 」を参照してください。
- 必要なロール：admin

手順

1. アドミニストレーターとして SuccessFactors アカウントにログインします。
2. [アドミンセンター] に移動し、[会社設定 **(Company Settings)]** をクリックします。
3. **[OAuth2** クライアントアプリケーションの管理 **(Manage OAuth2 Client Applications)]** をクリックします。
4. [クライアントアプリケーションの登録 **(Register Client Application)]** をクリックします。



5. フォームで必要な詳細を入力します。
   [X.509 証明書] フィールドに、ヘッダーなしで cert.pem ファイル (公開鍵) の内容を入力します。
6. [送信] をクリックします。
   API キーが生成され、表示されます。後で使用するために値をコピーして記録します。

ServiceNow インスタンスへの JKS 証明書のアップロード

ServiceNow インスタンスに JKS 証明書をアップロードして、アウトバウンド通信のクライアント証明書の認証を有効にします。

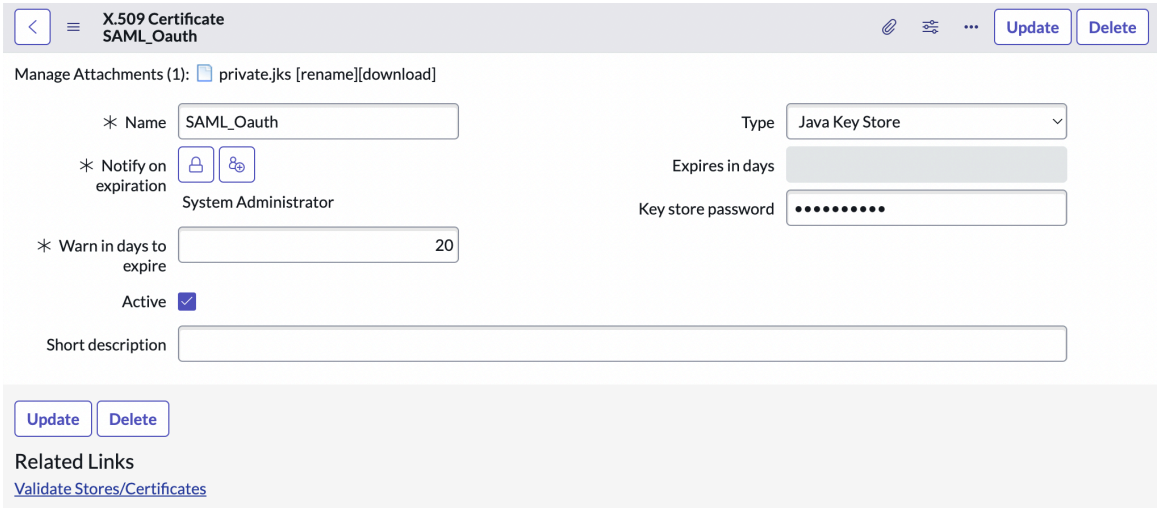
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。
2. JKS 証明書を ServiceNow インスタンスにアップロードします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JKS 証明書をアップロードする手順については、「Upload a certificate to an instance (インスタンスへの証明書のアップロード)」を参照してください。



OAuth プロバイダーとしてSuccessFactorsを登録

クライアントアプリケーションの構成中に生成された API キーを使用して、アプリケーションを OAuth プロバイダーとして登録します。

始める前に
必要なロール：admin

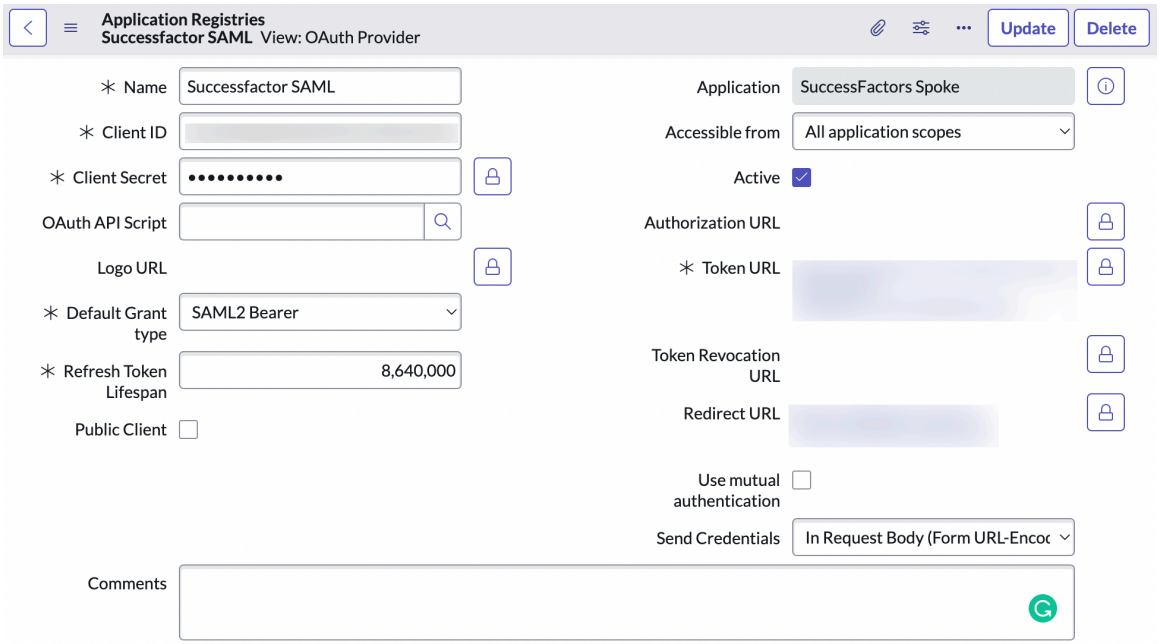
手順

1. ServiceNow インスタンスで、[システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	証明書を識別する一意の名前。 例：`SuccessFactors SAML`。
クライアント ID	OAuth クライアントアプリケーションを SuccessFactors に登録した後、コピーした API キーの値。
クライアントシークレット	**注:** クライアントシークレットは、アプリケーションを OAuth プロバイダーとして登録する場合には必要ありません。このフィールドには任意の値を指定できます。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用するデフォルトの権限許可タイプです。**[SAML2** ベアラー] を選択します。
トークン URL	次の形式の会社 ID を含む SuccessFactors OAuth サーバーエンドポイント URL：`https://`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	`<SuccessFactors_Instance_Name>/oauth/token?company_id=<Company_ID>`。 例：`https://example.successfactors.eu/oauth/token?company_id=SFCPART123456`。



4. [送信] をクリックします。

SAML2 アサーションプロデューサーレコードの作成

SAML2 アサーションレコードを作成し、SAML2 アサーションを生成して、プロバイダーとアクセストークンのアサーションを交換します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスで、SAML2 アサーションプロデューサーレコードを作成します。

   a. [すべて] > [システム **OAuth]** > **[SAML2** アサーションプロデューサー]に移動します。

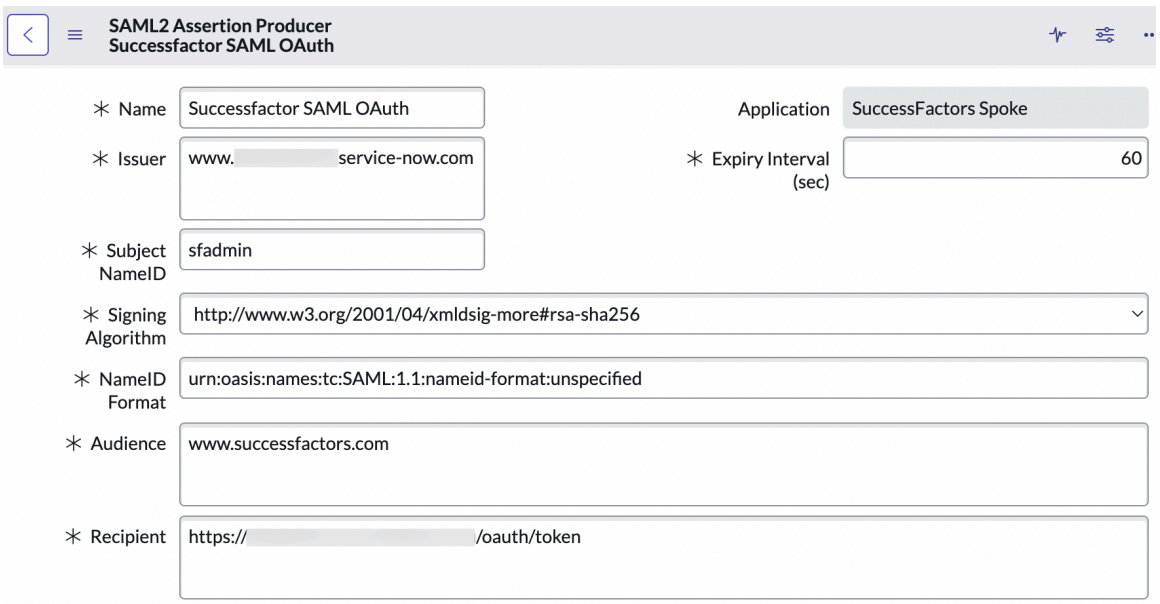
   b. [新規] をクリックします。

   c. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	SAML2 アサーションプロデューサーレコードを一意に識別する名前です。 例：`Successfactor SAML OAuth`。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
Issuer	アサーション発行エンティティの一意の識別子。ServiceNow インスタンス URL を指定します。
件名 NameID	SuccessFactorsインスタンスにログインするためのユーザー名例：`sfadmin`。
対象者	アサーションの対象者。値「`www.successfactors.com`」を入力します。
受信者	アサーションの対象受信者。`https://<SuccessFactors-Instance-Name>/oauth/token` の形式で URL を入力します。



d. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

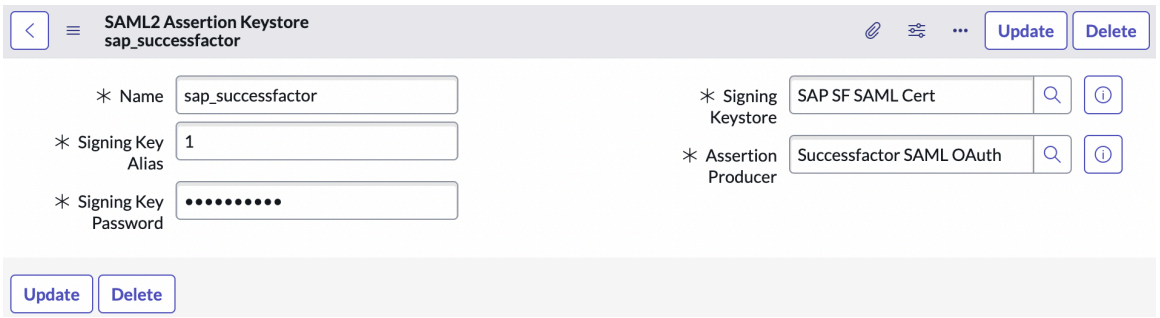
e. **[SAML2** アサーションキーストア] タブで、[新規] をクリックします。

f. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	SAML2 アサーションキーストアレコードを識別する一意の名前です。例：`sap_successfactor`。
署名キーエイリアス	アサーションの署名に使用するキーストアに保存されるキーエントリのエイリアス。例では、`1`。
署名キーパスワード	アサーションの署名に使用するキーストアに保存されるキーエントリのパスワード。
署名キーストア	必要な X.509 証明書レコード。以前に作成した X.509 証明書レコードを選択します。詳細については、「ServiceNow インスタンスへ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	の JKS 証明書のアップロード」を参照してください。



g. [送信] をクリックします。

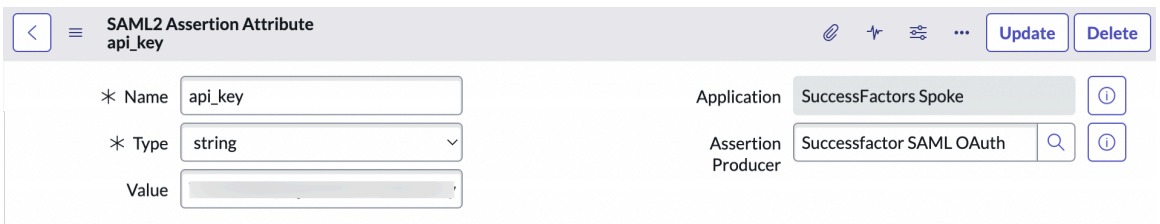
h. [すべて] > [システム **OAuth]** > **[SAML2** アサーションプロデューサー]に移動します。

i. 作成した SAML2 アサーションプロデューサーレコードを開きます。
例：**Successfactor SAML OAuth**。

j. [SAML2 アサーション属性] タブで、[新規] をクリックします。

k. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	SAML2 アサーション属性レコードを識別する名前です。「`api_key`」と入力します。
タイプ	[値] フィールドのタイプ。文字列を選択します。
値	OAuth クライアントアプリケーションが SuccessFactors に作成された後に生成された API キー。



l. [送信] をクリックします。

2. SAML2 アサーションプロデューサーをアプリケーションレジストリーレコードに関連付けます。

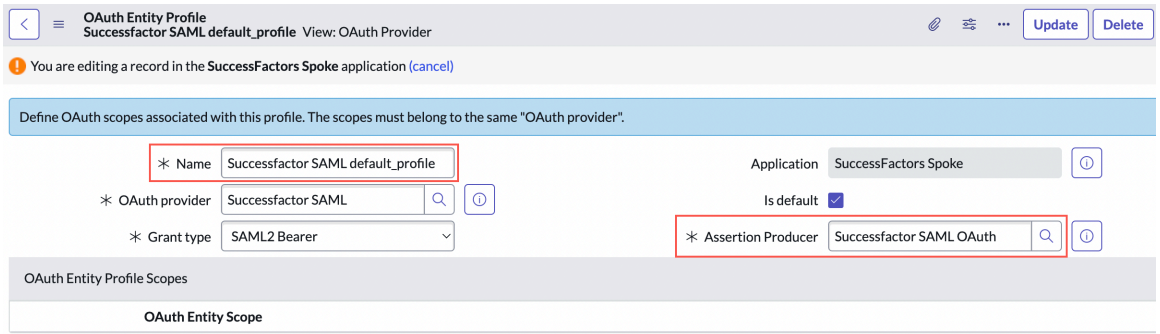
a. [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリー]に移動します。

b. 作成したアプリケーションレジストリーレコードを開きます。
例：**SuccessFactors OAuth Reg**。アプリケーションレジストリの作成の詳細については、「OAuth プロバイダーとしてSuccessFactorsを登録」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. **[OAuth** エンティティプロファイル] タブで、デフォルトの OAuth エンティティプロファイルレコードを開きます。
例：**Successfactor SAML default_profile**。

d. [アサーションプロデューサー] フィールドで、作成した SAML2 アサーションプロデューサーレコードを選択します。
例：**Successfactor SAML OAuth**。



e. [更新] をクリックします。

OData API の認証情報レコードを作成

SuccessFactorsに OData API の認証情報レコードを作成します。 SuccessFactors スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用して、OData API を使用したアクションを許可します。

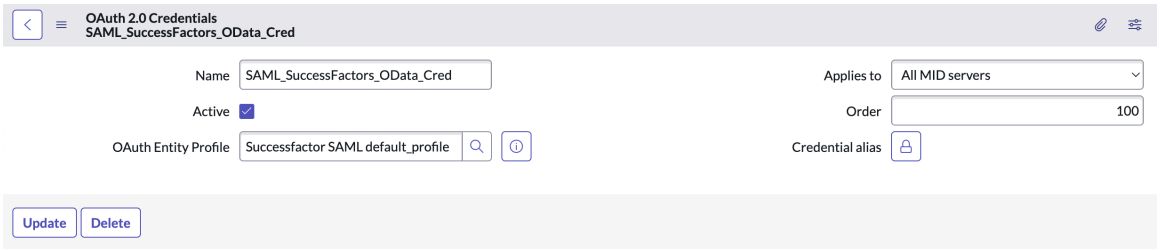
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
空の OAuth 2.0 認証情報フォームが表示されます。
4. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`SAML_SuccessFactors_OData_Cred`」と入力します。
OAuth エンティティ プロファイル	作成した OAuth アプリケーションレジストリーに関連付けられている OAuth エンティティプロファイルレコード。例：`Successfactor SAML default_profile`。 アプリケーションレジストリの作成の詳細については、「OAuth プロバイダーとしてSuccessFactorsを登録」を参照してください。
有効	認証情報レコードをアクティブに使用するオプション。
順番	この認証情報を適用する順番。たとえば、「`100`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [送信] をクリックします。

タスクの結果
OData API を使用してアクションを許可する認証情報レコードが作成されます。

OData API の認証情報レコードを作成

SuccessFactorsに OData API の認証情報レコードを作成します。 SuccessFactors スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用して、SOAP API を使用したアクションを許可します。

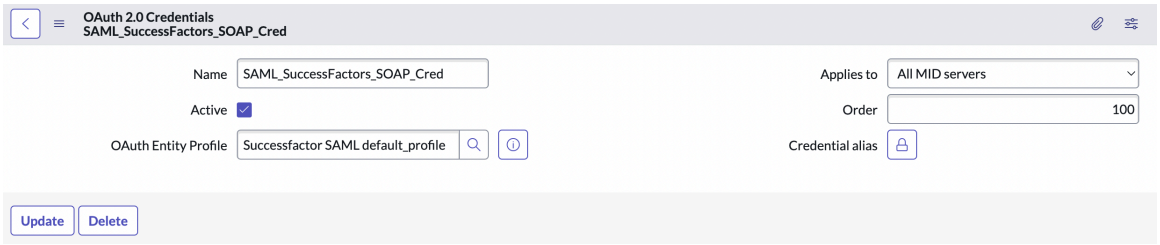
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
   空の OAuth 2.0 認証情報フォームが表示されます。
4. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`SAML_SuccessFactors_SOAP_Cred`」と入力します。
OAuth エンティティ プロファイル	作成した OAuth アプリケーションレジストリーに関連付けられている OAuth エンティティプロファイルレコード。例：`Successfactor SAML default_profile`。 アプリケーションレジストリの作成の詳細については、「OAuth プロバイダーとしてSuccessFactorsを登録」を参照してください。
有効	認証情報レコードをアクティブに使用するオプション。
順番	この認証情報を適用する順番。たとえば、「`100`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [送信] をクリックします。

タスクの結果
SOAP API を使用してアクションを許可する認証情報レコードが作成されます。

OData API の接続レコードの作成

SuccessFactorsに OData API の接続レコードを作成します。 SuccessFactors スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してSuccessFactorsでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

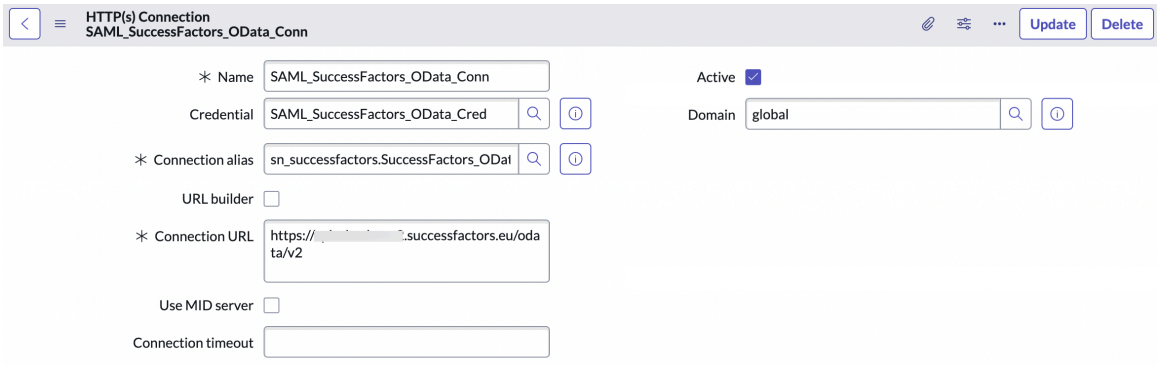
1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **[SuccessFactors OData]** のレコードを開きます。
   例：**SuccessFactors_OData**。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。
4. フォームに、これらの値を入力します。

HTTP(S) 接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。 例： `SAML_SuccessFactors_OData_Conn`。
認証情報	REST API 用に作成された 認証情報レコードです。 例：`SAML_SuccessFactors_OData_Cred`。
接続 URL	`https://<SuccessFactors_Instance_Name>/odata/v2` 形式の SuccessFactors サービスルート URL。例：`https://example.successfactors.eu/odata/v2`。 **注:** SAP Cloud アカウントを使用している場合は、SAP ヘルプポータル の SAP SuccessFactors API サーバーのリスト を参照して、API サーバーをターゲットにするために必要な正しいエンドポイントを選択してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アクティブ	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。



5. [送信] をクリックします。

タスクの結果
SuccessFactors の REST API の接続レコードが作成されます。

SOAP API の接続レコードを作成

SuccessFactorsに SOAP API の接続レコードを作成します。 SuccessFactors スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してSuccessFactorsでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **[SuccessFactors SOAP API]** のレコードを開きます。
   たとえば、**[SuccessFactors_Comp_Emp]** です。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。
4. フォームに、これらの値を入力します。

HTTP(S) 接続フォーム

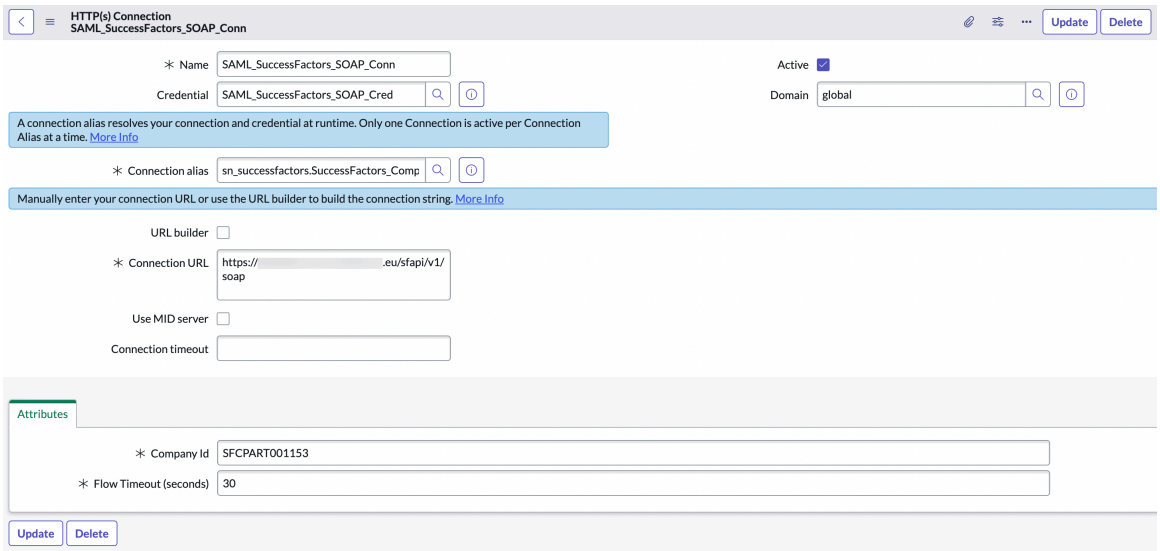
フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。 例：`SAML_SuccessFactors_SOAP_Conn`。
認証情報	SOAP API 用に作成された 認証情報レコードです。 例：`SAML_SuccessFactors_SOAP_Cred`。
接続 URL	SuccessFactors 接続 URL。例：`https://<SuccessFactors_Instance_Name>/sfapi/v1/soap`。例：`https://example.successfactors.eu/sfapi/v1/soap`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: SAP Cloud アカウントを使用している場合は、SAP ヘルプポータル の SAP SuccessFactors API サーバーのリスト を参照して、API サーバーをターゲットにするために必要な正しいエンドポイントを選択してください。
アクティブ	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。

5. [属性] タブで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
会社 ID	SuccessFactorsインスタンスの不変の会社 ID
フロータイムアウト (秒)	フロー実行中にSuccessFactorsからデータを受信できる最大時間 (秒) です。SuccessFactors からデータを取得するのに要した時間がタイムアウト期間を超えると、フローまたはサブフローはキャンセルされます。デフォルト値は「30」です。



6. [送信] をクリックします。

タスクの結果

SuccessFactorsの SOAP API の接続レコードが作成されます。

SuccessFactors と ServiceNow 間のデータ同期

要件に応じてサンプルフローをカスタマイズし、SuccessFactors と ServiceNow のインスタンスの間でデータを同期します。

To Do エンティティ

SuccessFactors スポークでは、To Do エンティティのデータを双方向で同期するためのサンプルフローが提供されます。サンプルフローである「SuccessFactors データ連携を実行」フロー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

は、SuccessFactorsからデータを取得するようにカスタマイズできます。一方、「To Do を作成」および「To Do を更新」フローは、ServiceNowでイベントが発生したときにSuccessFactorsの To Do レコードを作成または更新します。サンプルフローをカスタマイズするときは、変換マップを使用して将来の更新を取得して保存するための適切なトリガーを指定していることを確認してください。

その他のデフォルトエンティティ

これらのエンティティの場合、サンプルフローである「SuccessFactors データ連携を実行」フローをカスタマイズして、SuccessFactorsからデータを取得できます。

- 部門
- ロケーション
- ジョブプロファイル
- ワーカープロファイル
- 有効なワーカープロファイル
- セカンダリアサインを含むジョブ履歴

ServiceNowでイベントが発生したときに、これらのエンティティのSuccessFactorsのレコードを作成または更新するには：

- 選択に従ってフローまたはサブフローを作成するか、サンプルフローとサブフローをカスタマイズします。
- フローでメタデータ取得アクションとレコード管理アクションを使用します。
- 変換マップを使用して将来の更新を取得して保存するための適切なトリガーを指定していることを確認してください。

その他の**SuccessFactors**エンティティ

SuccessFactors 権限と構成、および要件に応じて、その他のエンティティのデータを同期することもできます。

SuccessFactors スポーク **v3.x.x** をセットアップする

基本的な認証情報を使用して、 SuccessFactors スポークインスタンスをServiceNowインスタンスとデータ連携します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- SuccessFactors スポークを有効にします。
- システムプロパティを有効にします：
  - *glide.pf.rest.response_payload_max_size*：最大値は `10240`です。
  - *com.snc.process_flow.reporting.serialized.val_size_limit*：最大値は `16384`です。
  - *com.glide.transform.json.max-partial-length*：最大値は `65536`です。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: SuccessFactors は 2026 年 11 月までにベーシック認証を廃止するため、誰もが SuccessFactors スポーク v4.5.0 でサポートされている OAuth SAML を使用する必要があります。

- SuccessFactors スポーク を初めてインストールする場合は、 SuccessFactors スポーク v4.5.0 をインストールしてください。 SuccessFactors スポーク v4.5.0 の設定の詳細については、「SuccessFactors スポーク v4.x.x の設定」を参照してください。
- 以前のバージョンの SuccessFactors スポーク を使用している場合、 SuccessFactors スポーク v4.5.0 に移行してください。詳細については、「SuccessFactors スポーク v4.5.0 への移行」を参照してください。

OData API の認証情報レコードを作成

SuccessFactorsに OData API の認証情報レコードを作成します。 SuccessFactors スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用して、OData API を使用したアクションを許可します。

手順

1. [接続および認証情報] > [認証情報] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. [基本認証情報] を選択します。
   空の基本認証情報フォームが表示されます。
4. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`SAPSF OData Credentials`」と入力します。
ユーザー名	次のフォーマットで OData API 権限を持つユーザー名を入力します：`<username>@<SAP-SuccessFactors-CompanyID>`
パスワード	関連付けられたパスワードです。
有効	認証情報レコードをアクティブに使用するオプション。
順番	この認証情報を適用する順番。たとえば、「`100`」と入力します。

5. [送信] をクリックします。

タスクの結果

OData API を使用してアクションを許可する認証情報レコードが作成されます。

OData API の認証情報レコードを作成

SuccessFactorsに OData API の認証情報レコードを作成します。 SuccessFactors スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用して、SOAP API を使用したアクションを許可します。

手順

1. [接続および認証情報] > [認証情報] に移動します。
2. [新規] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

3. **[SuccessFactors SOAP** 認証情報] を選択します。
   空の SuccessFactors SOAP 認証情報フォームが表示されます。
4. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`SAPSF Comp Emp` 認証情報」と入力します。
ユーザー名	SOAP API 権限を持つユーザー名です。
パスワード	関連付けられたパスワードです。
有効	認証情報レコードをアクティブに使用するオプション。
順番	この認証情報を適用する順番。たとえば、「`100`」と入力します。

5. [送信] をクリックします。

タスクの結果
SOAP API を使用してアクションを許可する認証情報レコードが作成されます。

OData API の接続レコードの作成

SuccessFactorsに OData API の接続レコードを作成します。 SuccessFactors スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してSuccessFactorsでアクションを実行します。

手順

1. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **SuccessFactors OData API** のレコードを開きます (例：**SuccessFactors_Odata**)。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。
4. フォームに、これらの値を入力します。

HTTP(S) 接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`SF_REST`」です。
認証情報	OData API 用に作成された認証情報レコードです。たとえば、「`SAPSF OData` 認証情報」です。
接続 URL	SuccessFactorsサービスルートの URL です。たとえば、「`https://apisalesdemo4.successfactors.com/odata/v2`」です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: SAP Cloud アカウントを使用している場合は、SAP ヘルプポータル の SAP SuccessFactors API サーバーのリスト を参照して、API サーバーをターゲットにするために必要な正しいエンドポイントを選択してください。
アクティブ	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。

5. [送信] をクリックします。

タスクの結果
SuccessFactorsの OData API の接続レコードが作成されます。

SOAP API の接続レコードを作成

SuccessFactorsに SOAP API の接続レコードを作成します。 SuccessFactors スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用してSuccessFactorsでアクションを実行します。

手順

1. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **SuccessFactors SOAP API** のレコードを開きます (例：**SuccessFactors_Comp_Emp**)。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。
4. フォームに、これらの値を入力します。

HTTP(S) 接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、「`SF_REST`」です。
認証情報	SOAP API 用に作成された認証情報レコードです。たとえば、「`SAPSF Comp Emp` 認証情報」です。
接続 URL	SuccessFactors接続 URL です。たとえば、「`https://salesdemo4.successfactors.com/sfapi/v1/soap`」です。 注: SAP Cloud アカウントを使用している場合は、SAP ヘルプポータル の SAP SuccessFactors API サーバーのリスト を参照して、API サーバーをターゲットにするために必要な正しいエンドポイントを選択してください。
アクティブ	接続レコードを積極的に使用にするオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [属性] タブで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
会社 ID	SuccessFactorsインスタンスの不変の会社 ID
フロータイムアウト (秒)	フロー実行中にSuccessFactorsからデータを受信できる最大時間 (秒) です。SuccessFactors からデータを取得するのに要した時間がタイムアウト期間を超えると、フローまたはサブフローはキャンセルされます。デフォルト値は「30」です。

6. [送信] をクリックします。

タスクの結果
SuccessFactorsの SOAP API の接続レコードが作成されます。

SuccessFactors と ServiceNow 間のデータ同期

要件に応じてサンプルフローをカスタマイズし、SuccessFactors と ServiceNow のインスタンスの間でデータを同期します。

To Do エンティティ

SuccessFactors スポークでは、To Do エンティティのデータを双方向で同期するためのサンプルフローが提供されます。サンプルフローである「SuccessFactors データ連携を実行」フローは、SuccessFactorsからデータを取得するようにカスタマイズできます。一方、「To Do を作成」および「To Do を更新」フローは、ServiceNowでイベントが発生したときにSuccessFactorsの To Do レコードを作成または更新します。サンプルフローをカスタマイズするときは、変換マップを使用して将来の更新を取得して保存するための適切なトリガーを指定していることを確認してください。

その他のデフォルトエンティティ

これらのエンティティの場合、サンプルフローである「SuccessFactors データ連携を実行」フローをカスタマイズして、SuccessFactorsからデータを取得できます。

- 部門
- ロケーション
- ジョブプロファイル
- ワーカープロファイル
- 有効なワーカープロファイル
- セカンダリアサインを含むジョブ履歴

ServiceNowでイベントが発生したときに、これらのエンティティのSuccessFactorsのレコードを作成または更新するには：

- 選択に従ってフローまたはサブフローを作成するか、サンプルフローとサブフローをカスタマイズします。
- フローでメタデータ取得アクションとレコード管理アクションを使用します。
- 変換マップを使用して将来の更新を取得して保存するための適切なトリガーを指定していることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

その他のSuccessFactorsエンティティ

SuccessFactors 権限と構成、および要件に応じて、その他のエンティティのデータを同期することもできます。

SuccessFactors スポークの Webhook を設定

ServiceNowコールバック URL を使用して、SuccessFactorsアカウントを登録する Webhook を構成します。

始める前に

- SuccessFactors スポーク v4.x.x の設定
- 必要なロール：admin

手順

1. デフォルトのディシジョンテーブルを構成します。
   a. [システム定義] > [意思決定テーブル] の順に移動します。
   b. レコード「`Successfactors Webhook`」を検索して開きます。
   c. [意思決定入力] タブで、**[Webhook** イベント] レコードを開きます。
   d. [選択肢] タブで、登録するイベントのレコードを作成します。たとえば、[ラベル] と [名前] に [従業員の休暇] と入力して、従業員の休暇イベントに登録します。
   e. 「`Successfactors Webhook`」レコードに戻ります。
   f. [意思決定] タブで、[デフォルトの意思決定] レコードを開きます。
   g. [条件] で必要な Webhook イベントを選択し、[回答] でサブフローを選択します。
   指定された Webhook イベントが発生すると、関連するサブフローがトリガーされます。

      注: デフォルトのサブフローをカスタマイズするか、要件に応じてサブフローを作成します。

2. Webhook レジストリを作成します。
   a. **[SuccessFactors Spoke]** > **[Webhook** レジストリ]に移動します。
   b. [新規] をクリックします。
   c. フォームで、[名前] に「`SuccessFactors Webhook 認証`」と入力し、[説明] を入力します。

      注: Webhook レジストリの [名前] は、「`SuccessFactors Webhook 認証`」である必要があります。

   d. [ユーザー名とパスワードを生成] をクリックします。
   ユーザー名とパスワードが生成され、値が表示されます。
   e. 生成された値を後で使用するためにコピーして記録します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [リソースパス] の値をコピーして記録します。
   a. [システム **Web** サービス] > [スクリプト化された **REST API]** に移動します。
   b. レコード「`SuccessfactorsWebhook`」を検索して開きます。
   c. [リソース **]** タブで、**[processWebhook]** レコードをクリックします。
   d. [リソースパス] に入力された値をコピーして記録します。
4. SuccessFactorsインスタンスでイベントを構成します。

   a. SuccessFactorsインスタンスにログインし、[アドミンセンター] > [イベント通知サブスクリプション]に移動します。

   b. [外部イベント] タブで、次の値を入力します。

フィールド	説明
エンドポイント URL	ServiceNowインスタンスエンドポイントの URL を次のフォーマットで指定します：`https://<servicenow-instance>.com/<resource-path>`
認証	[基本] を選択します。
ユーザー	Webhook レジストリの作成時に生成されるユーザー名です。
パスワード	Webhook レジストリの作成時のパスワードです。

   c. 要件に応じて、[登録者] タブで登録者を設定します。

   d. 要件に応じて、**[SEB** 外部イベント] タブで必要な [サービスイベントバストピック] を選択し、通知を受信するイベントを選択します。たとえば、「従業員の休暇」です。

SuccessFactors スポーク **v4.5.0** への移行

SuccessFactors スポーク v4.5.0 に関連付けられている認証情報レコードを選択して、SuccessFactors スポーク の以前のバージョンから SuccessFactors スポーク v4.5.0 に移行します。

始める前に

- SuccessFactors スポーク v4.5.0 に移行するには、次の手順を実行します。
  - SuccessFactors への OAuth クライアントアプリケーションの登録
  - ServiceNow インスタンスへの JKS 証明書のアップロード
  - OAuth プロバイダーとしてSuccessFactorsを登録
  - SAML2 アサーションプロデューサーレコードの作成
  - OData API の認証情報レコードを作成
  - OData API の認証情報レコードを作成
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: この手順は、現在 SuccessFactors スポーク の以前のバージョンを使用していて、SuccessFactors スポーク v4.5.0 にアップグレードする場合に適用されます。

SuccessFactors スポーク 4.5.0 を初めて設定する場合は、「SuccessFactors スポーク v4.x.x の設定」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **SuccessFactors_OData** レコードを開きます。
3. [接続] タブで、既存の接続レコードを開きます。
4. [認証情報] で、 SuccessFactors スポーク v4.5.0 に作成した認証情報レコードを選択します。
例：`SAML_SuccessFactors_OData_Cred`。
5. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
6. **SuccessFactors_Comp_Emp** レコードを開きます。
7. [接続] タブで、既存の接続レコードを開きます。
8. [認証情報] で、 SuccessFactors スポーク v4.5.0 に作成した認証情報レコードを選択します。
例：`SAML_SuccessFactors_SOAP_Cred`。

SumTotal スポーク

学習コースをSumTotalインスタンスからServiceNowインスタンスにプルして、データ連携された学習コンテンツリポジトリをビルドします。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

SumTotal スポーク v1.0.2 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークはSumTotalバージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

アクション	説明
アクティビティストリームを検索	メインビューを取得して、アクティビティやコースのデータを取得します。
学習ステータスストリームを検索	メインビューを取得して、すべてのユーザーの成績証明書関連データを取得します。
ユーザーストリームを検索	SumTotalで必要な従業員のコアデータを取得します。
アサインを保存	標準アサインを作成または更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 SumTotal スポークの設定。

SumTotal スポークの設定

ServiceNow インスタンスを SumTotal アプリケーションホストと統合して、SumTotal スポークが SumTotal サーバーでアクションを実行できるようにします。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SumTotal スポークをアクティブ化します。
- SumTotal エイリアスページで SumTotal 構成テンプレートが選択されていることを確認します。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

このタスクでは、ServiceNow インスタンスが SumTotal ホストと統合できるように、接続および認証情報レコードを設定できます。接続および資格情報エイリアスレコードは、SumTotal スポーク構成テンプレートと SumTotal ホストに接続するための接続および認証情報の詳細を含むフォームです。

SumTotal スポークの接続および認証情報レコードを設定

接続および認証情報レコードを設定して、ServiceNow インスタンスを SumTotal ホストと統合します。

始める前に

- 必要なロール：admin

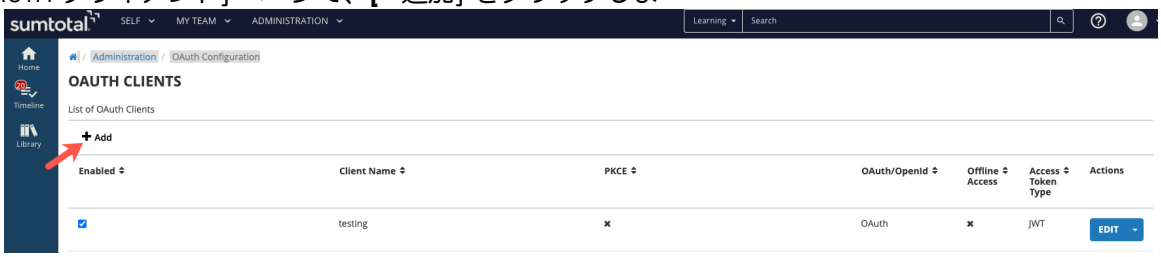
このタスクについて

この画像は、接続および認証情報レコードを作成するフローを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

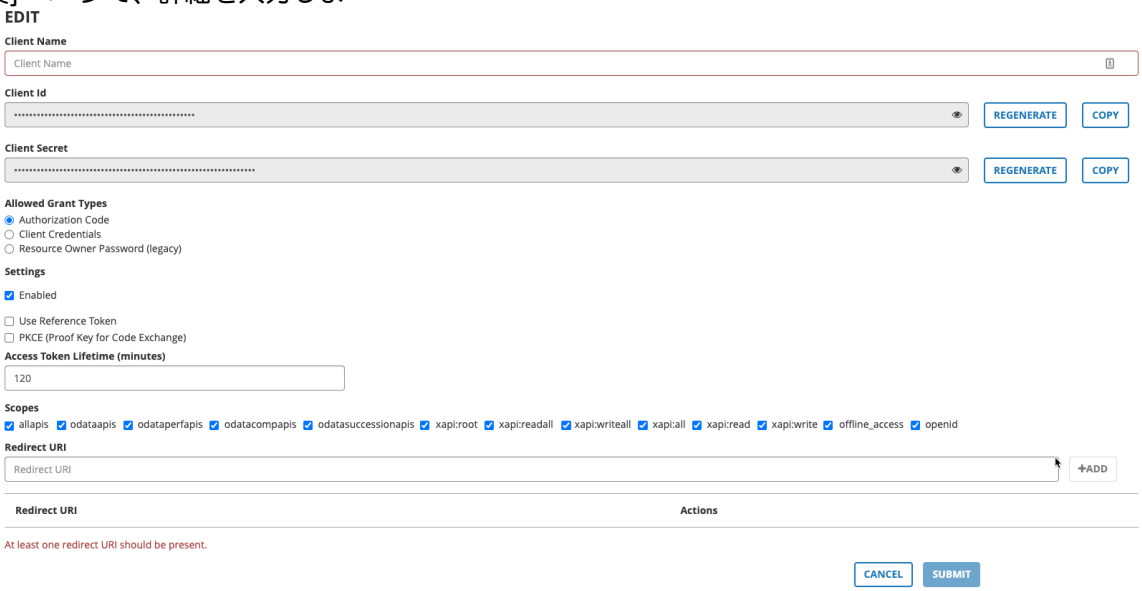
手順

1. SumTotal ホストにログインします。
2. [管理] > [システム] > [構成] > [技術構成] > **[OAuth** 構成] > に移動します。
3. [OAUTH クライアント] ページで、**[+** 追加] をクリックしま



す。

4. [編集] ページで、詳細を入力しま



す。

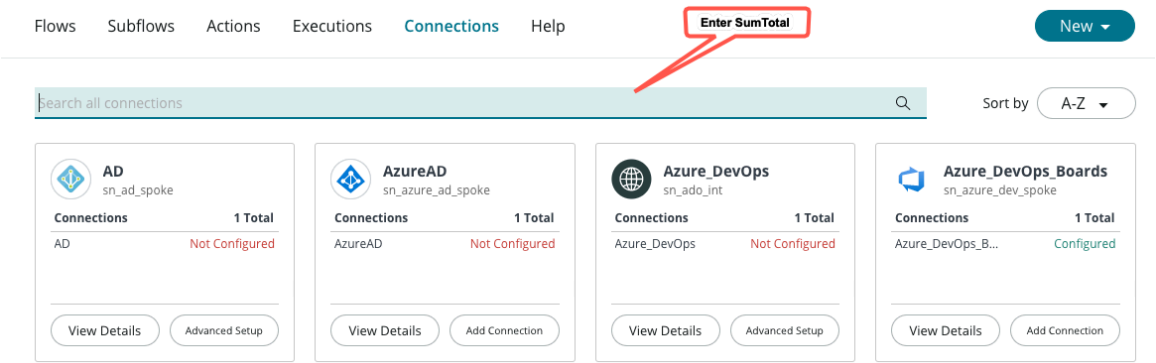
SumTotal OAuth クライアントセットアップフォーム

フィールド	説明
クライアント名	OAuth クライアントのカスタム名。
クライアント ID	OAuth クライアントの一意の ID。ServiceNow インスタンスで接続および認証情報レコードを設定するときに必要です。 **ヒント:** ID をコピーするには、[コピー] をクリックします。
クライアントシークレット	ServiceNow インスタンスで接続および認証情報レコードを設定するためのクライアントシークレット。 **ヒント:** ID をコピーするには、[コピー] をクリックします。
許可された権限許可タイプ	[クライアント認証情報] を選択します。
設定	[有効] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

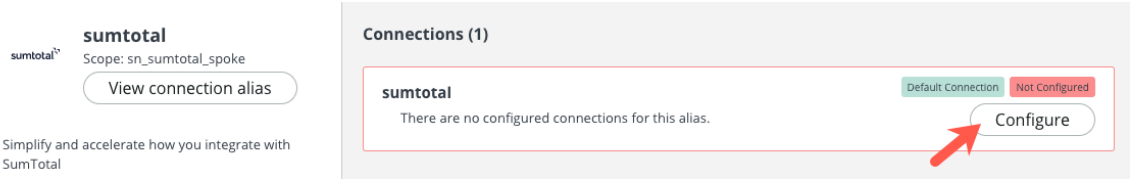
フィールド	説明
アクセストークンのライフタイム (分)	アクセストークンの期間。
スコープ	**[allapis]** を選択します。
リダイレクト URI	アプリが正常に承認され、アクセストークンが付与された後の場所の URL。

5. [送信] をクリックします。
   SumTotal OAuth クライアントが作成されます。
6. ServiceNow インスタンスにログインします。
7. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] に移動します。
8. [接続] をクリックします。
9. SumTotal 接続レコードを検索するには、「`SumTotal`」と入力しま



す。

10. SumTotal 接続カードで、[詳細を表示] をクリックします。
11. 接続ページで、[構成] をクリックしま



す。

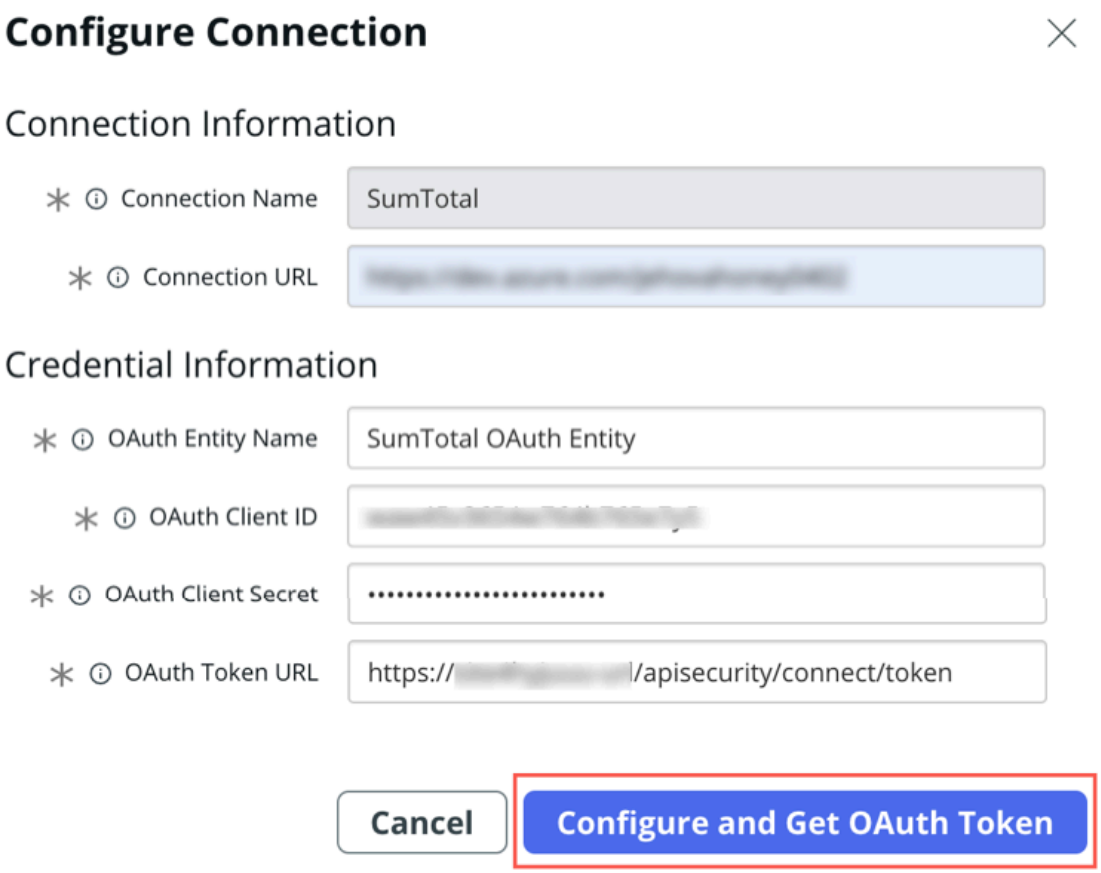
12. [接続を設定] フォームに詳細を入力します。

[接続を設定] フォーム

フィールド	説明
接続名	接続の名前。 **注:** 名前は読み取り専用です。
接続 URL	SumTotal ホストに接続するための URL。
OAuth エンティティ名	OAuth エンティティのカスタム名。
OAuth クライアント ID	SumTotal ホストから生成およびコピーされたクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	SumTotal ホストから生成およびコピーされたクライアントシークレット。
OAuth トークン URL	SumTotal ホストにアクセスするためのトークンへの URL。URL は、https://{site-url}/

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	apisecurity/connect/token の形式で入力する必要があります。



13. **[OAuth** トークンを設定して取得 **(Configure and Get OAuth Token)]** をクリックします。

スポークが設定され、使用する準備ができました。

SurveyMonkey スポーク

ServiceNowインスタンスからSurveyMonkeyアカウントでサーベイ、応答、コレクターなどを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

SurveyMonkey スポーク v2.0.6 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているバージョン

このスポークは SurveyMonkeyAPI バージョン v3 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

SurveyMonkeyAPI 開発者ポータル への admin アクセス

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

SurveyMonkey Spoke では、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにSurveyMonkeyタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
コレクター管理	コレクターを作成	指定されたサーベイのコレクターを作成します。公開アプリユーザーには、コレクターの作成/変更スコープへのアクセスが必要です。
	コレクターを削除	指定されたコレクターを削除します。公開アプリユーザーには、コレクターの作成/変更スコープへのアクセスが必要です。
	コレクターの詳細を取得	指定されたコレクターの詳細を取得します。公開アプリユーザーには、コレクターの表示スコープへのアクセスが必要です。
	コレクターストリームを検索	指定されたサーベイのコレクターの詳細を取得します。
連絡先管理	連絡先を連絡先リストに追加	連絡先リストに複数の連絡先を作成します。公開アプリユーザーには、連絡先の作成/変更スコープへのアクセスが必要です。
	連絡先リストを作成	連絡先リストを作成します。公開アプリユーザーには、連絡先の作成/変更スコープへのアクセスが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	連絡先リストを削除	指定された連絡先リストを削除します。公開アプリユーザーには、連絡先の作成/変更スコープへのアクセスが必要です。
	連絡先リストを検索	すべての連絡先リストを取得します。公開アプリユーザーには、連絡先の表示スコープへのアクセスが必要です。
	連絡先リスト内の連絡先を検索	連絡先リスト内のすべての連絡先を取得します。公開アプリユーザーには、連絡先の表示スコープへのアクセスが必要です。
	連絡先リストを更新	連絡先リストを変更します。公開アプリユーザーには、連絡先の作成/変更スコープへのアクセスが必要です。
フォルダー管理	フォルダーを作成	フォルダーを作成します。
	フォルダーを検索	利用可能なフォルダーを取得します。
応答管理	サーベイ応答を検索	応答のリストを取得します。公開アプリユーザーには、応答の表示スコープへのアクセスが必要です。
	サーベイの傾向を検索	指定された期間内の回答数を取得します。公開アプリユーザーには、応答の詳細の表示スコープへのアクセスが必要です。
サーベイおよび質問管理	質問を作成	サーベイページに質問を作成します。公開アプリユーザーには、サーベイの作成/変更スコープへのアクセスが必要です。
	サーベイを作成	空のサーベイを作成します。公開アプリユーザーには、サーベイの作成/変更スコープへのアクセスが必要です。
	質問を削除	指定された質問を削除します。公開アプリユーザーには、サーベイの作成/変更スコープへのアクセスが必要です。
	サーベイを削除	指定されたサーベイを削除します。公開アプリユーザーには、サーベイの作成/変更スコープへのアクセスが必要です。
	サーベイの詳細を取得	すべての質問に対する回答を含む、完全な応答のリストを取得します。公開アプリユーザーには、応答の詳細の表示スコープへのアクセスが必要です。
	質問を検索	指定されたサーベイのすべての質問を取得します。
	サーベイページを検索	ページの詳細を取得します。公開アプリユーザーには、サーベイの表示スコープへのアクセスが必要です。
	サーベイを検索	認証されたユーザーが所有または共有しているサーベイのリストを取得します。公開アプリユーザーには、サーベイの表示スコープへのアクセスが必要です。
	質問を更新	指定された質問の詳細を更新します。公開アプリユーザーには、サーベイの作成/変更スコープへのアクセスが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	サーベイを更新	指定されたサーベイのタイトル、ニックネーム、または言語を変更します。公開アプリユーザーには、サーベイの作成/変更スコープへのアクセスが必要です。
チーム管理	チームアクティビティストリームを検索	指定されたチームのアクティビティデータを取得します。
	チームメンバーの詳細を検索	指定されたチームメンバーの詳細を取得します。
	チームメンバーのストリームを検索	指定されたチームのすべてのメンバーの詳細を取得します。
	チームストリームを検索	認証されたユーザーアカウントが属するすべてのチームの詳細を取得します。
ユーザー管理	ユーザーの詳細を取得	計画を含む現在のユーザーのアカウントの詳細を取得します。公開アプリユーザーには、ユーザーの表示スコープへのアクセスが必要です。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 SurveyMonkey スポークの設定。

SurveyMonkey スポークの設定

SurveyMonkey API Developer Portal でカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと SurveyMonkey アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- SurveyMonkey スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. アドミニストレーターとして SurveyMonkeyAPI Developer Portal にログインし、アプリを追加します。

   a. **[OAuth リダイレクト URL]** に、ServiceNowインスタンス URL を次のフォーマットで指定します：`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do`

   b. [クライアント **ID]** と [シークレット] の値をコピーして記録します。

   c. アプリに次のスコープを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- サーベイを作成/変更
- コレクターを作成/変更
- 応答を作成/変更
- レスポンスの詳細を表示
- 連絡先を表示
- Webhook を作成/変更
- ライブラリー資産を表示
- サーベイを表示
- コレクターを表示
- レスポンスを表示
- 連絡先を作成/変更
- ユーザーを表示
- Webhook を表示

注: 追加のスコープを指定する場合は、ServiceNow インスタンスで使用可能なデフォルトのアプリケーションレジストリの **[OAuth** エンティティスコープ] タブにこれらのスコープを追加してください。

2. デフォルトのアプリケーションレジストリを設定します。

   a. [システム **OAuth]** > [アプリケーション レジストリ] へ移動します。

   b. レコード [サーベイモンキー] を開きます。

   c. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
クライアント ID	SurveyMonkeyAPI Developer Portal で作成されたアプリのクライアント ID です。
クライアント シークレット	SurveyMonkeyAPI Developer Portal で作成されたアプリのシークレットです。
リダイレクト URL	次の形式でServiceNowインスタンスの URL を入力します：`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` 「`<instance-name>`」をインスタンス名に置き換えます。

注: 追加のスコープを指定した場合は、**[OAuth** エンティティスコープ **]** タブでスコープのレコードを作成します。

3. 認証情報レコードを作成します。

   a. [接続および資格情報] > [認証情報] に移動します。

   b. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。

d. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。「`SurveyMonkey` 認証情報」と入力します。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
OAuth エンティティ プロファイル	SurveyMonkey アプリを OAuth プロバイダーとして登録したときに作成した OAuth プロファイルです。[サーベイモンキー **default_profile]** を選択します。
適用先	この認証情報を使用できる MID サーバーです。[すべての **MID** サーバー] を選択します。
順番	この認証情報を適用する順番です。「`100`」と入力します。

e. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

4. 接続レコードを作成します。

a. [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

b. レコード [サーベイモンキー] を開きます。

c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
空の HTTP(s) 接続フォームが表示されます。

d. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前です。「`SurveyMonkey` 接続」と入力します。
認証情報	Zoom 用に作成した認証情報レコードです。**[SurveyMonkey** 認証情報] を選択します。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
接続 URL	SurveyMonkey アカウントに接続するためのベース URL です。「`https://api.surveymonkey.net`」と入力します。
有効	接続を積極的に使用にするオプションです。
ドメイン	アクションまたはアクティビティを実行するドメインです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. オプション: デフォルト値の v3 と異なる場合は、[属性] タブで、SurveyMonkey API バージョンを入力します。

f. [送信] をクリックします。

ServiceNow インスタンスと SurveyMonkey アカウントが統合されます。

Tableau スポーク

Tableau スポークは、ソフトウェアサブスクリプションに関する有意義な使用状況データを表示および分析するためのアクションを提供し、古いライセンスを再利用できるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、法務スケジュール - IntegrationHubの概要を参照してください。

サポートされているバージョン

このスポークは、Tableau API バージョン v3.21 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- Tableau Cloud アカウント
- Tableau Cloud 必要なロール：サイトアドミニストレーター
- ServiceNow インスタンスを認証するための JSON Web トークン (JWT) 接続済みアプリまたは個人用アクセストークン (PAT)。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNowIntegrationHub アクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Tableauスポークでは、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにTableauタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ユーザー管理	ユーザーストリームを検索	Tableau Cloudアプリケーションからユーザーを取得します。
	ユーザーを削除	Tableau Cloudアプリケーションのユーザーライセンスを取り消します。
組織管理	アクセストークンを取得	API 呼び出しを認証するためのアクセストークンを取得します。

スポークユーザーロール

Tableau スポークはデータへのアクセスを制御するために、次のユーザーロールを提供します。

ユーザーロール	説明
Tableau アドミン (sn_tableau_spoke.tableau_admin)	Tableau Cloudアプリケーションの接続を作成します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定の詳細については、「Tableau スポークの設定」を参照してください。

Tableau スポークの設定

ServiceNow インスタンスと Tableau Cloudを統合してフローを自動化し、Tableau Cloudアプリケーションでアクションを実行します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Tableau スポークを有効化します。
- 必要な Tableau Cloud のロール：サイトアドミニストレーター

手順

次のいずれかの認証タイプを使用して、Tableau スポークで ServiceNow インスタンス要求を検証します。

- 個人用アクセストークン (PAT)
- JSON Web トークン (JWT)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. PAT 認証タイプを使用して、Tableau スポークで ServiceNow インスタンス要求を検証します。
   i. アドミン認証情報を使用して、Tableau Cloud アカウントにログインします。
   ii. [プロファイル] アイコンを選択します。
   iii. [マイアカウント設定 **(My Account Settings)]** を選択します。
   iv. [プロファイル] ページの [個人アクセストークン] セクションまで下にスクロールします。
   v. [テキスト] フィールドに、トークン名を入力します。

      たとえば、「`Test 1`」などを入力します。

   vi. [トークンを作成 **(Create token)]** を選択します。

      個人用アクセストークンは、トークン名とシークレットを使用して生成されます。

   vii. 個人用アクセストークンをコピーするには、**[Copy Secret** (シークレットをコピー)] を選択します。

> **重要:**
>
> 個人用アクセストークンは、安全な場所でシークレットな状態を維持してください。これは、Tableau の接続レコードを作成するときに必要になります。

b. JWT 認証タイプを使用して、Tableau スポークで ServiceNow インスタンス要求を検証します。
   i. アドミン認証情報を使用して、Tableau Cloud アカウントにログインします。
   ii. [プロファイル] アイコンを選択します。
   iii. 左ペインで、[設定] を選択します。
   iv. [接続済みアプリ **(Connected Apps)]** タブを選択します。
   v. [接続済みアプリ (Connected Apps)] ページで、[新規接続済みアプリ **(New Connected Apps)]** ドロップダウンリストから [直接信頼 **(Direct Trust)]** オプションを選択します。
   vi. [接続済みアプリを作成 **(Create Connected App)]** ダイアログボックスで、接続済みアプリ名、アクセスレベル、およびドメイン許可リストの詳細を入力します。
   vii. [作成] を選択します。

      作成した接続済みアプリが [接続済みアプリ (Connected Apps)] ページに表示されます。デフォルトでは、接続済みアプリは非アクティブです。

   viii. 接続済みアプリを有効にするには、[アクション] 列で省略記号アイコン (•••) を選択し、[有効化] を選択します。

      接続済みアプリのステータスが [有効] と表示されます。

   ix. 接続済みアプリ名を選択します。

      シークレット ID とシークレット値は、安全な場所で保管してください。これは、Tableau の接続レコードを作成するときに必要になります。

   x. クライアント ID をコピーするには、[クライアント **ID** をコピー **(Copy Client ID)]** を選択します。

      クライアント ID は安全な場所で保管してください。これは、Tableau の接続レコードを作成するときに必要になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
Tableau スポークの接続と認証情報の作成

Tableau スポークの接続と認証情報の作成

Tableau Cloud アプリケーションの接続および認証情報レコードを作成します。Tableau接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：ServiceNow admin または Tableau Cloud Site administrator

Tableau Cloud アプリケーションを登録します。

- 個人用アクセストークン (PAT) 認証タイプを使用している場合は、個人用アクセストークンシークレットを記録します。
- JSON Web トークン (JWT) 認証タイプを使用している場合は、クライアント ID とクライアントシークレットを記録します。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **[TableauCloud]** レコードを選択します。
   [接続および認証情報エイリアス] ページが開きます。
3. [関連リンク] セクションから、[新しい接続 **&** 資格情報を作成] を選択します。
4. ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

接続と資格情報を作成

フィールド	説明
接続情報を入力してください	
接続名	接続の名前。 このフィールドは自動的に [*Tableau Cloud*接続] に設定されます。
接続 URL	Tableau Cloud がインストールされたサーバーへの接続に使用される URL。
コンテンツの URL	サインインするためのサイトの永続的な名前。コンテンツの URL は、ブラウザのアドレスバーの Tableau コンテンツの URL パスで、Tableau サーバー URL の後に表示されます。 mySite は、この例 `http://<server or cloud URL>/#/site/mySite/explore` のコンテンツ URL です。
認証情報を入力してください PAT または JWT 認証タイプを選択します。選択した認証タイプに応じてフィールドが変わります。	
PAT 認証タイプのフィールド	
トークン名	PAT 認証タイプを使用して Tableau スポークを設定するときに指定したトークン名。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	詳細については、「Tableau スポークの設定」を参照してください。
トークンシークレット	PAT 認証タイプを使用して Tableau スポークを設定するときにコピーしたトークンシークレット。 詳細については、「Tableau スポークの設定」を参照してください。 。
有効期限の間隔 (秒)	生成された個人用アクセストークン (PAT) の有効期間。 デフォルト値：14400 秒 **重要:** このフィールドの値は変更しないでください。
JWT 認証タイプのフィールド	
シークレット ID	JWT 認証タイプを使用して Tableau スポークを設定するときにコピーしたシークレット ID。 詳細については、「Tableau スポークの設定」を参照してください。
シークレット値	JWT 認証タイプを使用して Tableau スポークを設定するときにコピーしたシークレット値。 詳細については、「Tableau スポークの設定」を参照してください。
ユーザー名	ユーザー名、つまり認証された Tableau Cloud ユーザーのメールアドレス。
クライアント ID	JWT 認証タイプを使用して Tableau スポークを設定するときにコピーしたクライアント ID。 詳細については、「Tableau スポークの設定」を参照してください。
有効期限の間隔 (秒)	生成された JSON Web トークン (JWT) の有効期間。 デフォルト値：3600 秒 **重要:** このフィールドの値は変更しないでください。

5. **[OAuth** トークンを作成して取得] を選択します。

タスクの結果
接続と認証情報レコードは、ServiceNow インスタンスに作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Trello スポーク

ServiceNow インスタンスを使用して Trello エンタープライズサブスクリプションを管理します。Trello エンタープライズのデータ使用状況を分析し、アイドル状態のサブスクリプションを再利用します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Trello Spoke v1.3.0 が最新バージョンです。

スポークの要件

- Trelloエンタープライズアドミンアクセス
- Trello サブスクリプションが Atlassian アカウントにリンクされていることを確認してください。
- 許可されたアカウントに Trello エンタープライズ admin と Atlassian アカウント admin の両方のアクセス権があることを確認してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Trello スポークが提供する Upsert Trello ボードフローでは、Trello ボードテーブルに新しいボードが作成されたかどうか、または既存のボードが更新されたかどうかをチェックし、それに応じて Trello で同期させます。サンプルフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのサブフロー

Trello スポークでは、Trello で発生した変更に基づいてデータを取得するために、Process Trello Webhook サブフローが提供されます。サブフローは、Webhook がトリガーされると実行されます。サンプルフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Trello スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Trello タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アクションを取得	ID でアクションを検索	必要なアクションの詳細を取得します。
	ボード ID でアクションを検索	指定されたボードからアクションの詳細を取得します。
	カード ID でアクションを検索	指定されたカードからアクションの詳細を取得します。
	リスト ID でアクションを検索	指定されたカードからアクションの詳細を取得します。
	組織 ID でアクションを検索	指定された組織からアクションの詳細を取得します。
	更新アクション	アクションのコメント内容を更新します。
添付ファイル管理	カードの添付ファイルを作成	必要なカードにファイルを添付します。
	ID で添付ファイルを削除	指定した添付ファイルを削除します。
	添付ファイルを ID で検索	必要な添付ファイルの詳細を取得します。
	カード ID で添付ファイルを検索	カードの添付ファイルを取得します。
ボード管理	ボードの作成	指定された詳細を使用してボードを作成します
	ID でボードを削除	指定されたボードを削除します。
	ID でボードを検索	必要なボードの詳細を取得します。
	組織 ID でボードを検索	指定された組織からボードの詳細を取得します。
	ボードの更新	指定されたボードの詳細を更新します。
カード管理	カードを作成	指定された詳細でカードを作成します。
	ID でカードを削除	指定されたカードを削除します。
	ID でカードを検索	必要なカードの詳細を取得します。
	カードを更新	カードの詳細を更新します。
チェックリスト管理	チェックリストの作成	指定された詳細でチェックリストを作成します。
	ID でチェックリストを検索	必要なチェックリストの詳細を取得します。
カスタムフィールド管理	カスタムフィールドを作成	指定された詳細でカスタムフィールドを作成します。
	ID でカスタムフィールドを検索	必要なカスタムフィールドの詳細を取得します。
ラベル管理	ID でラベルを検索	必要なラベルの詳細を取得します。
リスト管理	リストを作成	指定された詳細でリストを作成します。
	ID でリストを検索	指定されたリストの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
組織管理	ID で組織を検索	必要な組織の詳細を取得します。
ステッカー管理	カードにステッカーを追加	必要なカードにステッカーを追加します。
	ID でステッカーを削除	指定されたステッカーを削除します。
	ID でステッカーを検索	必要なステッカーの詳細を取得します。
	カード ID でステッカーを検索	カードのステッカーの詳細を取得します。
	ステッカーを更新	指定されたステッカーの詳細を更新します。
ユーザー管理	エンタープライズ ID を検索	認証されたユーザーアカウントの組織 ID を取得します。
	エンタープライズメンバーのストリームを検索	エンタープライズ組織内のすべてのメンバーの詳細を取得します。
	Enterprise メンバーのアクティブなステータスを更新	エンタープライズ内の指定されたメンバーのアクティブなステータスを更新します。
	Enterprise メンバーのライセンスステータスを更新	指定されたメンバーがエンタープライズの利用可能なライセンスの 1 つを使用する必要があるかどうかを更新します。
Webhook 管理	Webhook を作成	指定された詳細で Webhook を作成します。
	ID で Webhook を削除	指定された Webhook を削除します。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

スポークモジュール

Trello スポークは Trello スポークアプリケーションを ServiceNow インスタンスに追加します。Trello スポークアプリケーションには次のモジュールが含まれています。

モジュール	説明
ボード	Trello でボードを作成できるようにします。ここでレコードを作成すると、Trello ボードのアップサートフローがトリガーされ、Trello でボードの詳細が作成または更新されます。
リモートテーブル	
ユーザー	Trello ユーザーの詳細にアクセスできるようになります。
Webhook	
ルーティングポリシー	Trello Webhook のルーティングポリシーを保存します。スポークと一緒に、デフォルトのレコードも用意されています。デフォルトのルーティングポリシーは要件に応じてカスタマイズできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
Webhook レジストリ	Webhook レジストリを保存します。Webhook レジストリは ServiceNow に Trello Webhook を登録し、Trello で特定のイベントが発生したときに ServiceNow に通知します。 必要なボードの Webhook を作成できます。ボードで変更が発生すると、Webhook がトリガーされ、Trello Webhook を処理するサブフローが実行され、ボードの変更をサブフローログで表示できます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

「スポークの設定については、「 TrelloAPI キーとトークンを生成」および「Trello 接続の作成」。

Trelloスポークの設定

Trello に API キーを作成することで ServiceNow インスタンスと Trello を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Trello スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin。

TrelloAPI キーとトークンを生成

TrelloAPI キーとトークンを生成して、Trelloポータルにアクセスします。

始める前に

Trello 必要なロール：admin

管理ユーザーアカウントと Atlassian アドミンアクセス権があることを検証します。

手順

1. Trello に移動します。
2. エンタープライズアドミニストレーターとしてログインします。
3. 開発者 API キー に移動します。
4. 開発者 API キーのページにある個人キーから API キーをコピーします。
5. 次のリンクで、{YourAPIKey} を前の手順でコピーした API キーに置き換え、リンクを開きます。

   ```
   https://trello.com/1/authorize?
   expiration=never&scope=read,write,account&response_type=token&name=ServerToken&key={Yo
   ```

   たとえば、API キーが 123xyz の場合は、次のリンクを開きます：`https://trello.com/1/authorize?expiration=never&scope=read,write,account&response_type=token&name=ServerToken&key=123`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MyPersonalToken ページが表示され、アカウントへのアクセス権を与えるかどうかを尋ねられます。

6. [許可] を選択します。
API トークンが生成されます。この API トークンをコピーして安全に保管してください。

Trello 接続の作成

ServiceNow インスタンスを設定し、Trello API キーと API トークンを追加します。

始める前に
ServiceNow 必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
3. [接続] タブを選択します。
4. Trello 接続エイリアスを見つけて [詳細を表示 **(View Details)]** を選択します。
5. Trello スポークを構成します。
   - スポークを初めて構成する場合は、[構成] をクリックします。
   - スポークを初めて構成するのでない場合は、[編集] をクリックします。
6. フォームのフィールドに入力します。

接続フォームを編集

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	URL を「`https://api.trello.com/`」と入力します。
API キー	Trello ポータルからコピーした API キー。
API トークン	Trelloポータルからコピーした API トークンです。

7. [接続を設定] を選択します。

Webhook の設定

ServiceNow コールバック URL を使用して、Trello を登録する Webhook を構成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. admin として ServiceNow インスタンスにログインします。
2. ベース API パスの値をコピーします。
   a. [すべて] > [システム **Web** サービス] > [スクリプト **Web** サービス] > [スクリプト済み **REST API]**に移動します。
   b. レコード **[Trello Webhooks]** を見つけます。
   c. 後で使用するために [ベース **API** パス] の値をコピーして記録します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. Trello スポークの Webhook レジストリを作成します。
   a. [すべて] > **[Trello スポーク]** > **[Webhook]** > **[Webhook レジストリ]**に移動します。
   b. [新規] をクリックします。
   c. フォームに値を入力します。

フィールド	説明
名前	Webhook レジストリレコードを識別する名前。
パス	コピーしたベース API パス URL です。
トークン	要件に応じたトークンレコードです。

   d. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
   e. [コールバック **URL**] をクリックします。

      Webhook コールバック URL が生成され、表示されます。

   f. 後で使用するために Webhook コールバック URL をコピーして記録します。

次のタスク
[Webhook を作成] スポークアクションを実行するときに、Webhook コールバック URL を指定します。必要なボードに対して Webhook が作成されます。

Twilio スポーク

Twilio スポーク を使用して、SMS の送信、音声通話の発信、カンファレンスコールの作成、通話の管理、ショートコードの管理、サービスの通知、メッセージングサービスを行います。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Twilio スポーク v1.2.0 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークはTwilioベースバージョン 2010-04-01、Twilioメッセージングバージョン v1、およびTwilio通知バージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

- Twilioアカウント
- 基本認証情報を作成するためのアカウントの **[AccountSid]** および **[AuthToken]** です。
- Twilio スポークをインストールすると、以下のプラグインがインストールされます。
  - ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
  - ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
  - ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

アカウントの作成手順については、Twilioドキュメント を参照してください。

スポークのアクション

Twilio スポークでは、ServiceNowでイベントが発生したときに、SMS の送信、音声通話の発信、およびカンファレンスコールの作成を自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アカウント管理	アプリケーションの作成	Twilioアカウントにアプリケーションリソースを作成します。
	アプリケーションを削除	Twilioアカウントからアプリケーションリソースを削除します。
	アプリケーションを取得	必要なアプリケーションリソースを取得します。
	アカウントを検索	Twilioアカウントのアカウントリソースを取得します。リストには、アカウントリソースとそのサブアカウントリソースが含まれます。
	アプリケーションを検索	Twilioアカウントのアプリケーションリソースを取得します。
	アプリケーションを更新	Twilioアカウントでアプリケーションリソースのプロパティを更新します。
コール管理	コールをキューから取り出す	キューからコールを削除します。
	コールを取得	必要なコールリソースを取得します。
	着信電話番号を取得	着信電話番号リソースを取得します。
	コールを終了	進行中の通話を終了します。
	着信電話番号を検索	Twilioアカウントの着信電話番号リソースを取得します。
	録音しながら通話を行う	電話をかけ、通話を録音します。
	録音せずに通話を行う	電話をかけますが、通話は録音しません。
	コールを変更	進行中の通話を変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	参加者をミュートまたはミュート解除	カンファレンスコールで参加者リソースをミュートまたはミュート解除します。
	カンファレンスから参加者を削除	カンファレンスから参加者リソースを削除します。
	着信電話番号を更新	Twilioアカウントで着信電話番号リソースのプロパティを更新します。
メッセージングサービス管理	電話番号をメッセージングサービスに追加	メッセージングサービスに電話番号リソースを追加します。
	短縮コードをメッセージングサービスに追加	短縮コードリソースをメッセージングサービスに追加します。
	メッセージングサービスを作成	Twilioアカウントで新しいメッセージングサービスリソースを作成します。
	メッセージングサービスを削除	Twilioアカウントからメッセージングサービスリソースを削除します。
	メッセージングサービスの電話番号を検索	メッセージングサービスの電話番号リソースを取得します。
	メッセージングサービスの短縮コードを検索	メッセージングサービスに関連付けられている短縮コードリソースを取得します。
	メッセージングサービスを検索	Twilioアカウントのメッセージングサービスリソースを取得します。
	メッセージングサービスから電話番号を削除	メッセージングサービスから電話番号リソースを削除します。
	メッセージングサービスから短縮コードを削除	メッセージングサービスから短縮コードリソースを削除します。
通知サービス管理	通知サービスを作成	Twilioアカウントで新しい通知サービスリソースを作成します。
	通知サービスを削除	Twilioアカウントから通知サービスリソースを削除します。
	通知サービスを検索	Twilioアカウントの通知サービスリソースを取得します。
短縮コード管理	短縮コードを取得	短縮コードリソースを取得します。
	短縮コードを検索	Twilioアカウントの短縮コードリソースを取得します。
	短縮コードをリセット	短縮コードリソースをリセットします。
	短縮コードを更新	Twilioアカウントで短縮コードリソースのプロパティを更新します。
テキストメッセージング	SMS を一括送信	複数の電話番号に SMS を送信します。
	SMS を送信	電話番号に SMS を送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: ステータスコールバックに関する情報を受け取るには、Twilioで Webhook を設定する必要があります。Webhook の作成および設定手順については、Twilioドキュメント を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報 」を参照してください。

注: Twilio スポーク には 3 つの接続および資格情報エイリアスレコードが必要です。Twilio ベース、Twilio 通知、および Twilio メッセージングにそれぞれ 1 つずつです。各エイリアスは、それぞれの Twilio API に関連付ける必要があります。

スポークの設定については、「 Twilio スポークのセットアップ。

Twilio スポークのセットアップ

ベーシック認証を使用して ServiceNow インスタンスと Twilio をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Twilio スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Twilio スポークの接続の設定

Twilio Base、 Twilio Messaging、Twilio 通知の各接続を追加して設定し、Twilio スポークで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. **[Twilio_Base]** 接続エイリアスを構成します。

   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。

   b. [統合] タブをクリックします。

   c. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。

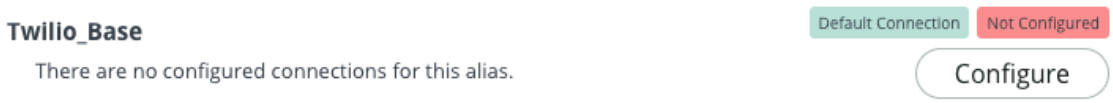
   d. **Twilio_Base** のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Twilio スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。

- 複数の Twilio Base スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

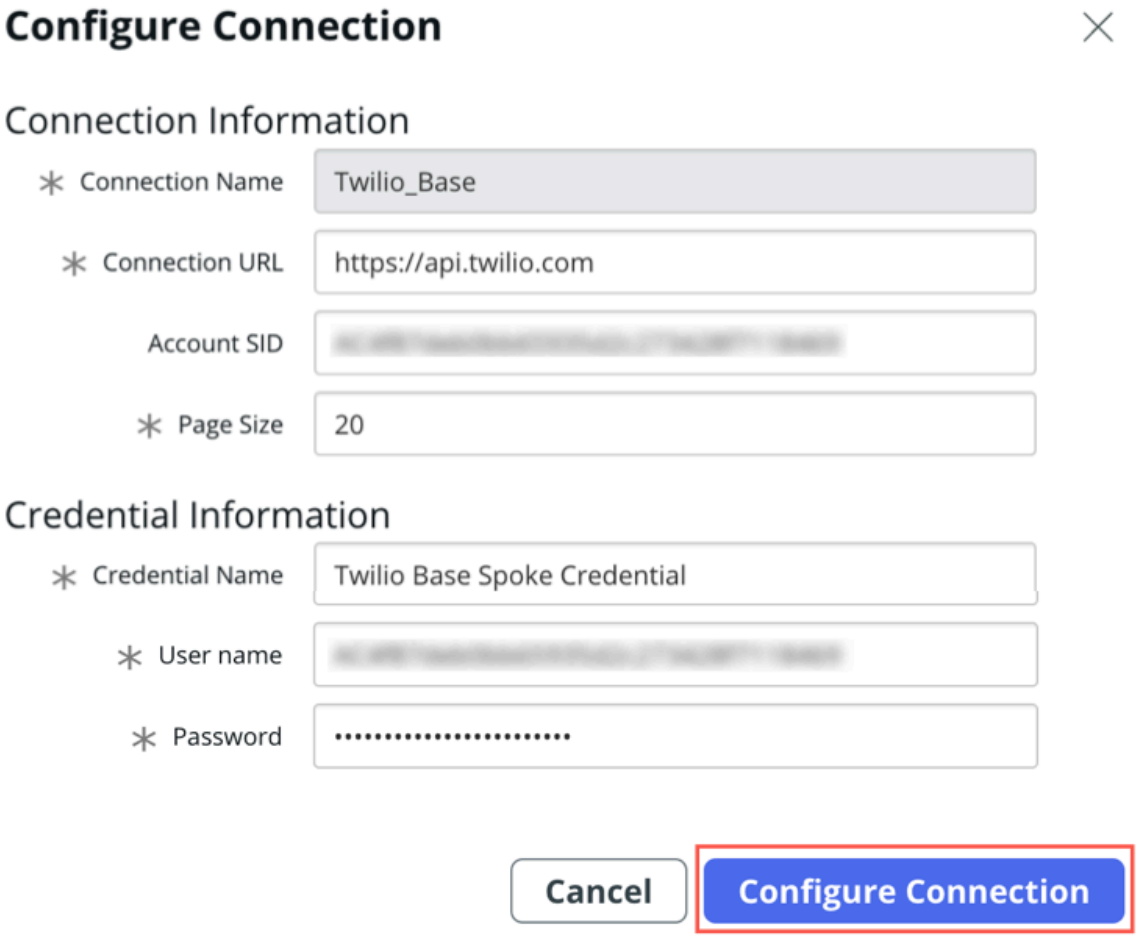


e. フォームのフィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
接続名	接続レコードを一意に識別する名前です。入力例：`Twilio_Base`
接続 URL	Twilio Base の接続 URL。このフィールドは自動的に `https://api.twilio.com` に設定されます。
アカウント SID	Twilio Base のアカウント文字列識別子 (SID)。
ページサイズ	Twilio Base のデータストリームのページサイズ。
認証情報名	Twilio Base の認証情報レコードを一意に識別する名前。例：`Twilio Base スポーク認証情報`。
ユーザー名	Twilio Base のアカウント文字列識別子 (SID)。
パスワード	Twilio アカウントの認証トークン。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



f. [接続を設定] をクリックします。

2. **[Twilio_Messaging]** 接続エイリアスを構成します。

   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。

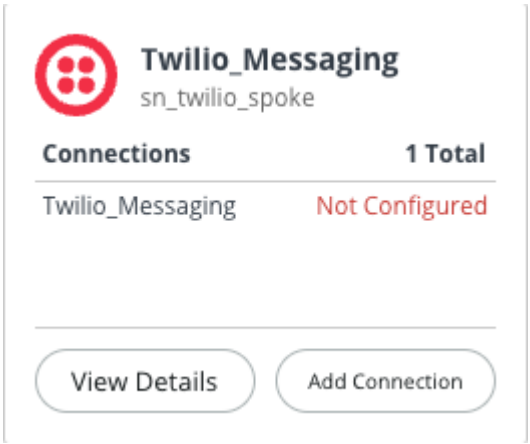
   b. [統合] タブをクリックします。

   c. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。

   d. Twilio_Messaging のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

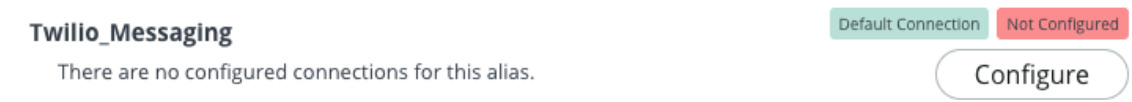
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Twilio スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。



- 複数の Twilio Messaging スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

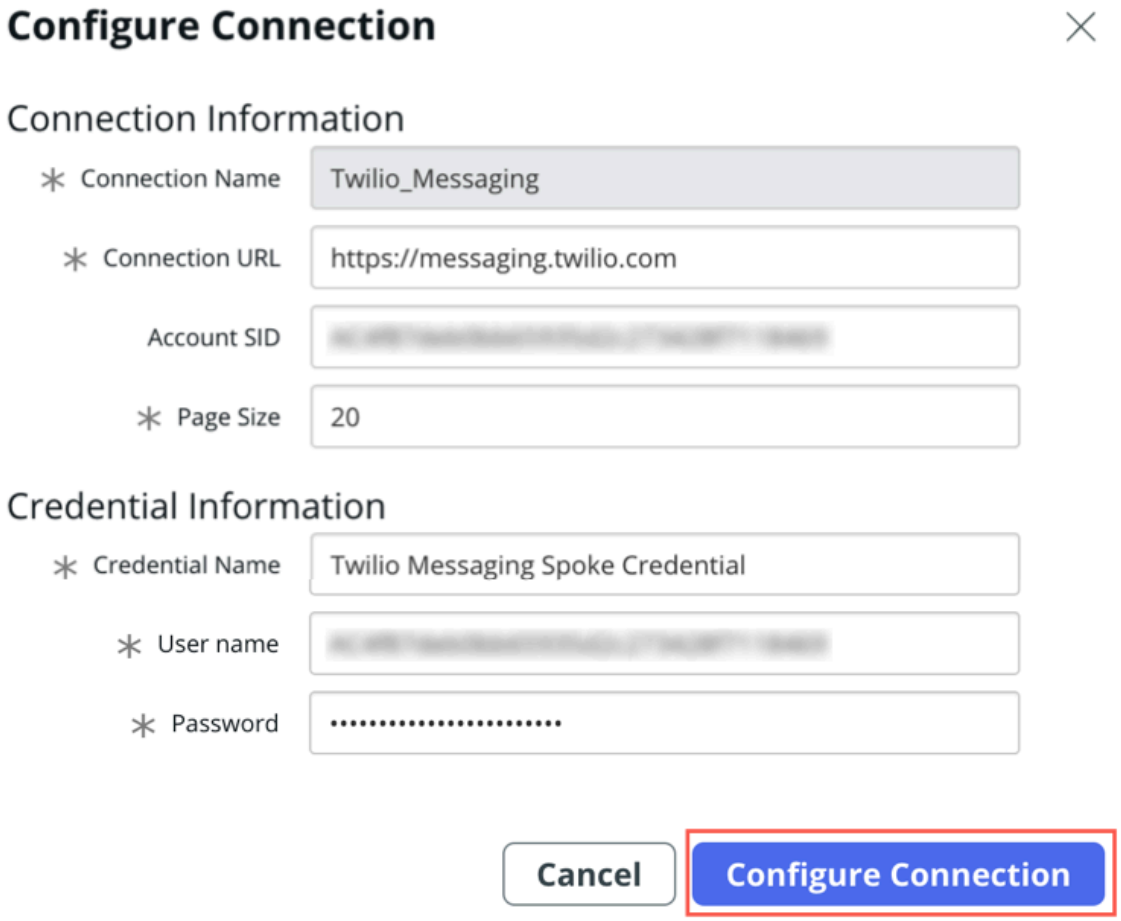


e. フォームのフィールドに入力します。

接続フォーム

フィールド	説明
接続名	接続レコードを一意に識別する名前です。入力例：`Twilio_Messaging`
接続 URL	Twilio Messaging の接続 URL。このフィールドは自動的に `https://messaging.twilio.com` に設定されます。
アカウント SID	Twilio Messaging のアカウント文字列識別子 (SID)。
ページサイズ	Twilio Messaging のデータストリームのページサイズ。
認証情報名	Twilio Messaging の認証情報レコードを一意に識別する名前。例： `Twilio Messaging` スポークの認証情報。
ユーザー名	Twilio Messaging アカウントのアカウント文字列識別子 (SID)。
パスワード	Twilio アカウントの認証トークン。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



f. [接続を設定] をクリックします。

3. **[Twilio_Notify]** 接続エイリアスを構成します。

   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。

   b. [統合] タブをクリックします。

   c. [接続] の項目で、[送信] 接続を切り替えて有効にします。

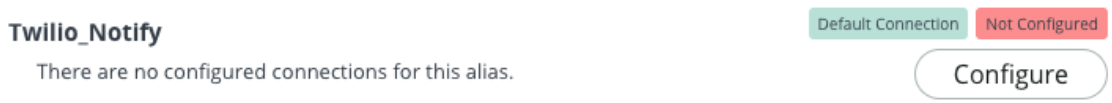
   d. Twilio_Notify のエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Twilio スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。

- 複数の Twilio Notify スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続の使用の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

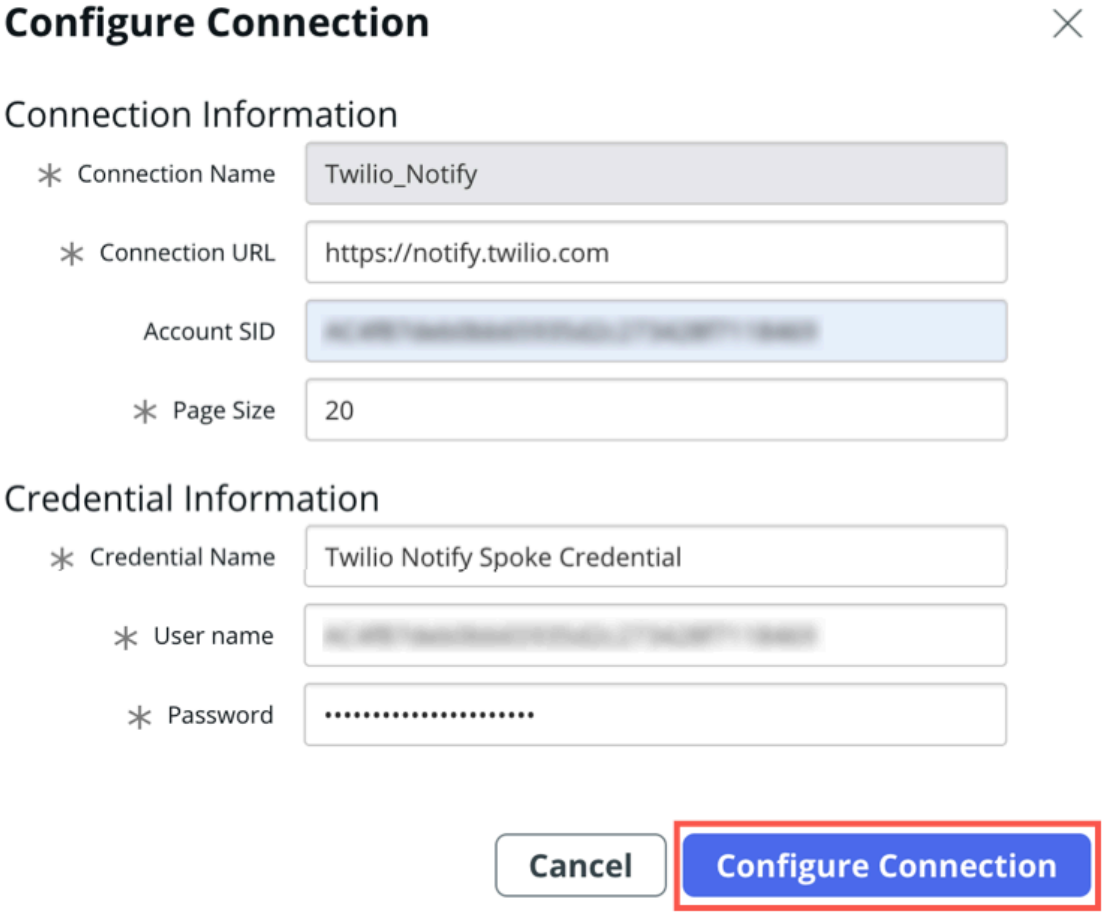
スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)]** をクリックします。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。



e. [接続] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを一意に識別する名前です。入力例：`Twilio_Notify`
接続 URL	Twilio 通知の接続 URL。このフィールドは自動的に `https://notify.twilio.com` に設定されます。
アカウント SID	Twilio 通知のアカウント文字列識別子 (SID)。
ページサイズ	Twilio 通知のデータストリームのページサイズ。
認証情報名	Twilio 通知の認証情報レコードを一意に識別する名前。例：`Twilio Notify Spoke Credential`
ユーザー名	Twilio 通知アカウントのアカウント文字列識別子 (SID)。
パスワード	Twilio アカウントの認証トークン。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



f. [接続を設定] をクリックします。

タスクの結果
スポーク接続が設定され、使用する準備ができました。

UCF スポーク

ServiceNowインスタンスから組織に適用されるコンプライアンス要件を収集し、調整するためのプロセスを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

UCF スポーク v1.1.0 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているバージョン

このスポークはUCF v2.0 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークの要件

- Common Control Hub (CCH) アカウント
- CCH アドミン認証情報

スポークのアクション

UCF スポーク は、ServiceNow でイベントが発生したときに UCF タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
コンテンツレコード管理	各種法令・基準等を取得	UCFCommon Controls Hub からダウンロードされる各種法令・基準等を取得します。
	引用とコントロール目標のマッピングを取得	引用とコントロール目標のマッピング情報を取得します。
	引用ドキュメントを取得	UCFCommon Controls Hub からダウンロードされる引用を取得します。
	コントロール目標ドキュメントを取得	UCFCommon Controls Hub からダウンロードされるコントロールの引用を取得します。
メタデータの取得	各種法令・基準等リストを取得	現在のユーザーの各種法令・基準等リストを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの設定については、「 UCF スポークを設定。

UCF スポークを設定

UCFでカスタム OAuth アプリケーションを作成してServiceNowインスタンスとUCFをデータ連携し、ServiceNow要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- UCF スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

ユニファイドコンプライアンスフレームワーク (UCF) でのアプリケーションの作成

Common Controls Hub (CCH) でアプリケーションを作成し、 UCF スポーク で OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に
必要なロール：CCH アドミン

手順

1. UCF でアプリケーションを作成します。
   CCH アカウントを使用してアプリケーションを作成する順を追った手順については、CCH サポート ドキュメントを参照してください。
2. アプリケーションを作成するときは、次の情報を必ず入力してください。
   - [リダイレクト **URL**]：ServiceNowインスタンス URL をフォーマット「`https://<Instance-Name>.service-now.com/oauth_redirect.do`」で指定します。
   - [認証 **URL**]：CCH が関係ユーザーをリダイレクトする Web サイト上の場所。
3. 後で使用するために [クライアント **ID**] と [クライアントシークレット] をコピーして記録します。

タスクの結果
CCH でアプリケーションを作成し、 UCF スポーク で OAuth 2.0 認証を有効にします。

UCF スポークの接続の構成

UCF 接続を追加して構成し、UCF スポークで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブをクリックします。
3. **[UCF]** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
4. [編集] をクリックするか、スポークを初めて設定する場合は、[設定 **(Configure)**] をクリックします。
5. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続 URL	`https://api.unifiedcompliance.com/` と入力します。
OAuth エンティティ名	OAuth エンティティレコードを識別する名前です。
OAuth クライアント ID	CCH でのアプリケーション構成中に作成されたクライアント ID です。
OAuth クライアントシークレット	CCH でのアプリケーション構成中に作成されたクライアントシークレットです。
OAuth リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイント。アプリケーションレジストリの保存時に URL が生成されます。ServiceNow インスタンスの URL の形式は、`https://<Instance-Name>/service-now.com/oauth_redirect.do` です。

6. **[OAuth** トークンを作成して取得] をクリックします。

Udemy スポーク

ServiceNow インスタンスから Udemy プラットフォームでのコースを管理します。たとえば、ServiceNow インスタンスからスポークアクションを実行して、Udemy でのすべてのコースの詳細を取得します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

Udemy スポークは v1.0.2 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Udemy API バージョン v2 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスに関するサポートが必要な場合は、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのアクション

Udemy スポークアクションは、Udemy プラットフォームでのコースの管理方法を自動化します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
デフォルト	コースストリームを検索	Udemy でのコースの詳細を取得します。たとえば、コースの長さ、説明、ビデオの長さ、コースのタイトルなどです。
学習管理	コース同期ストリームを検索	コースの詳細を取得します。たとえば、コースのタイトル、説明、長さ、などです。アクションが正常に実行された場合、ステータスは「成功」になります。それ以外の場合、ステータスは「失敗」になり、適切なエラーコードが表示されます。
	コース同期トークンを検索	更新または作成されたコースの次のセットをフェッチするための同期トークンを取得します。
	ユーザーコースアクティビティストリームを検索	コース登録者の進捗状況に関するデータを取得します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Udemy スポークの設定。

スポークの設定については、「Udemy スポークの設定」を参照してください。

Udemy スポークの設定

Udemy スポークの接続と資格情報レコードを設定することで、ServiceNow インスタンスが Udemy インスタンスと接続できるようにします。Udemy インスタンスは、レコードを使用して ServiceNow インスタンスからの要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Udemy スポークプラグインをアクティブ化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

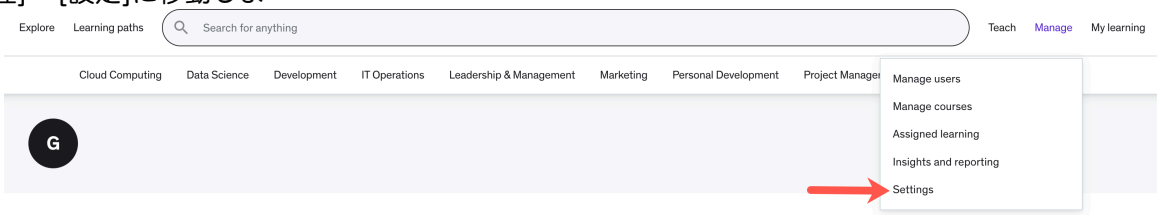
- Udemy インスタンスへのアドミンアクセス権があることを確認します。
- 必要なロール：admin

手順

1. Udemy インスタンス からアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) キーを生成します。

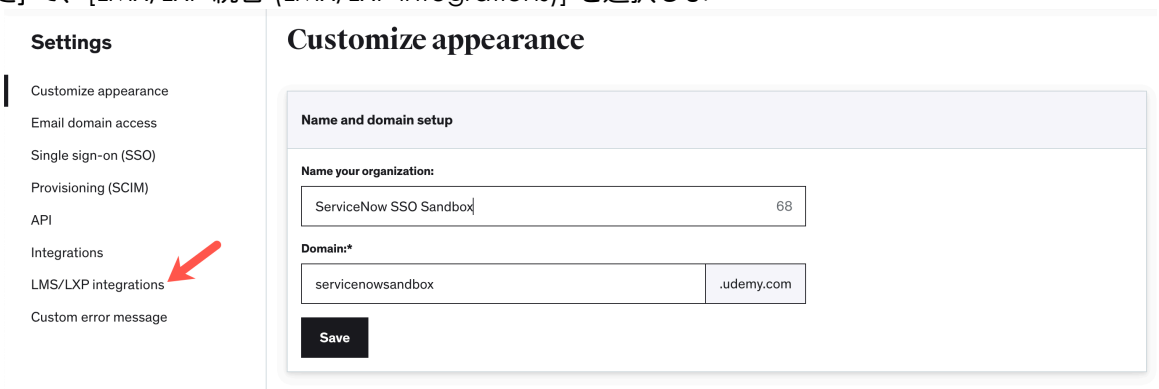
   a. Udemy インスタンスにログインします。

   b. [管理] > [設定]に移動しま



す。

   c. [設定] で、[LMX/LXP 統合 (LMX/LXP integrations)] を選択しま

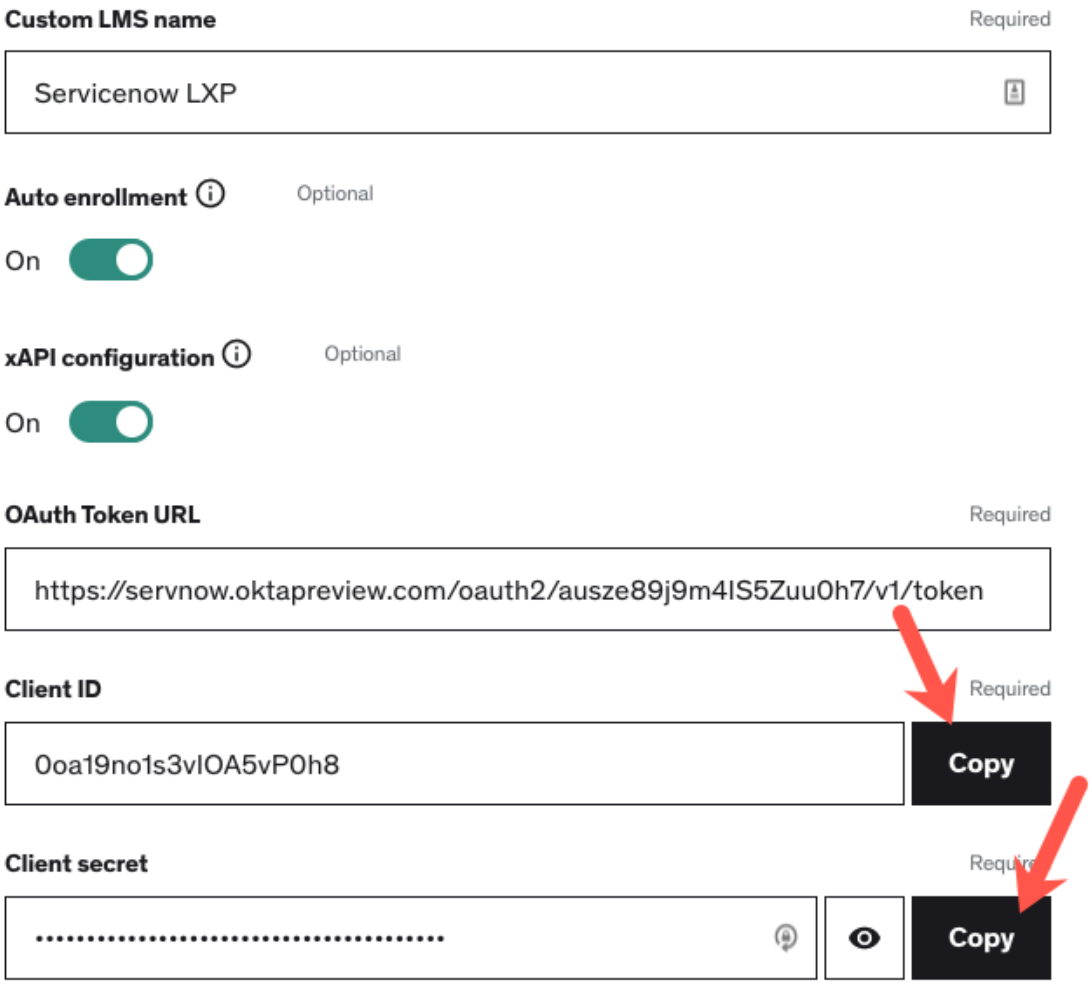


す。

   d. [コピー] をクリックして、クライアント ID をコピーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. [コピー] をクリックして、クライアントシークレットをコピーしま



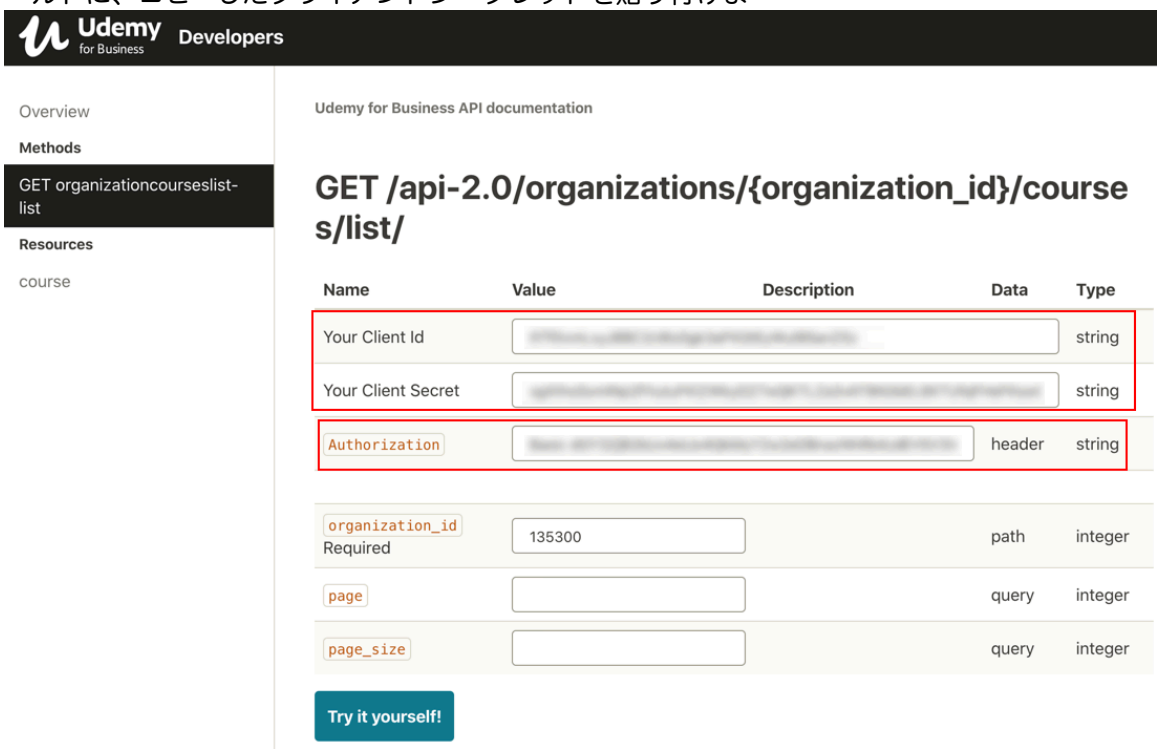
す。

f. GET /api-2.0/organizations/{organization_id}/courses/list/ に移動します。

g. [ユーザーのクライアント ID (Your Client ID)] フィールドに、コピーしたクライアント ID を貼り付けます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

h. [ユーザーのクライアントシークレット (Your Client Secret)] フィールドに、コピーしたクライアントシークレットを貼り付けます。



API キーが生成され、[認証] フィールドに表示されます。後で使用するために値をコピーして記録します。

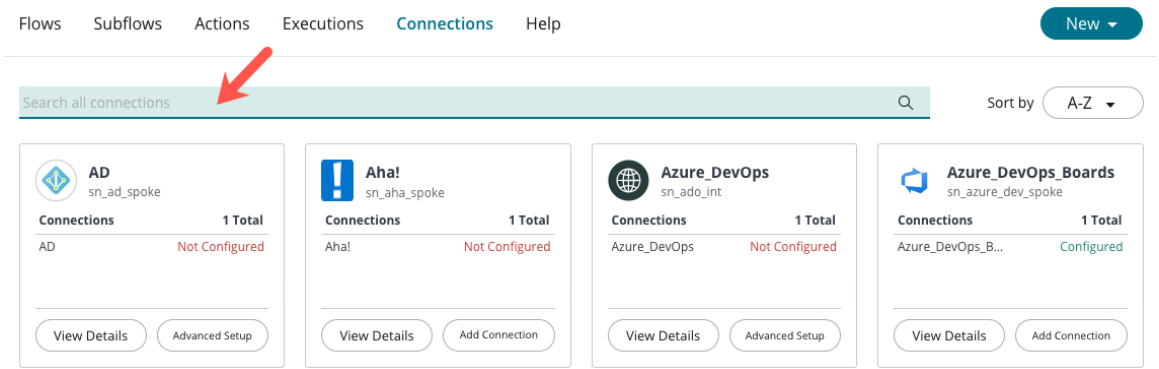
2. Udemy インスタンスに接続するための接続および認証情報レコードを作成します。

a. ServiceNow インスタンスにログインします。

b. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

c. [接続] を選択します。

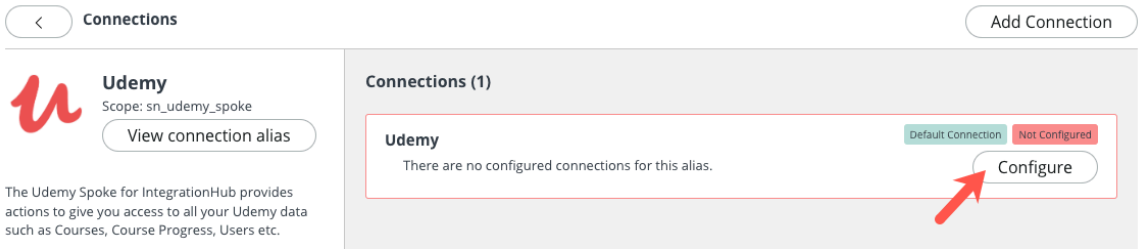
d. [すべての接続を検索] フィールドに、「`Udemy`」と入力します。



e. Udemy 接続カードで、[詳細を表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. [構成] をクリックしま



す。

g. 詳細をフォームに入力します。

[接続を設定] フォーム

フィールド	説明
接続名	接続レコードの名前。 **注:** 作成する最初のレコードでは、接続のデフォルトの読み取り専用名は Udemy です。ただし、最初のレコード以降に作成するすべての接続レコードには、カスタム名を指定できます。
接続 URL	Udemy サーバーまたはインスタンスへの接続に使用される URL です。フォーマットは、`https://<provider-domain-name>.com` です。
ドメイン名	Udemy インスタンスのドメイン名です。
ドメイン ID	Udemy インスタンスのドメイン ID です。 **注:** ドメイン ID を取得するには、次の手順を実行します。 i. Udemy インスタンスにログインします。 ii. [管理] > [設定] に移動します。 iii. 左側のパネルの [設定] で、[API] を選択します。 iv. [API] 見出しで、[コース API] セクションの API ドキュメントリンクを選択します。 API クライアントとアカウント ID は、[ユーザーの API クライアントとアカウント ID (Your API Client and Your Account Id)] セクションの下にあります。
API バージョン	Udemy インスタンスまたはサーバーへの接続に使用する API のバージョンです。デフォルトバージョンは api-2.0 です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
API キー	生成した API キーです。
認証情報名	接続および認証情報レコードのカスタム名です。

h. [接続を設定] をクリックします。
接続および認証情報レコードが作成されます。

UiPath スポーク

ServiceNow®インスタンスからUiPathのビジネスプロセスを自動化します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

UiPath スポーク v2.3.0 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは、次のUiPathバージョン用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

- プラットフォームバージョン 2020.4.1
- クラウドプラットフォームバージョン 2022.7.14

スポークの要件

以下を行う前に、UiPathアカウント情報があることを確認してください：UiPath スポークを設定

- UiPathクラウドプラットフォームを使用する場合：
  - トークン URL
  - クライアント ID
  - アカウント論理名
  - テナント論理名
  - ユーザーキー
- プライベートクラウドやパブリッククラウドにインストールされているUiPathプラットフォームを使用する場合：
  - テナント名
  - UiPathOrchestrator API を認証するための認証情報

必要な情報を入手する詳細については、UiPathドキュメントを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのサブフロー

UiPath スポーク は、ジョブ、プロセス、ロボットなどに関する情報を取得するサブフローを提供します。利用可能なサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
UiPath ジョブの処理 Webhook	UiPath のジョブに関する情報を取得します。このサブフローは、デフォルトのフロー：UiPath ジョブの処理 Webhook ルーティングポリシーに対する回答です。
UiPath プロセスの処理 Webhook	UiPath 内のプロセスに関する情報を取得します。このサブフローは、デフォルトのフロー：UiPath プロセスの処理 Webhook ルーティングポリシーに対する回答です。
UiPath ロボットの処理 Webhook	UiPath 内のロボットに関する情報を取得します。このサブフローは、デフォルトのフロー：UiPath ロボットの処理 Webhook ルーティングポリシーに対する回答です。
UiPath その他の処理 Webhook	その他の必要なエンティティに関する情報を取得します。必要なエンティティについての情報を処理するには、このサブフローのコピーを作成し、それを要件に従ってカスタマイズします。

注: 新しいサブフローをカスタマイズするときに、デフォルトのサブフローの 1 つのコピーを作成して、すべてのデフォルト入力ペイロードアイテムが存在することを確認します。

スポークのアクション

UiPath スポーク では、ServiceNow でイベントが発生したときに、環境、ジョブ、マシン、プロセス、ロボット、キュー、リリースなどを管理するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
環境管理 **注:** これらのアクションは、クラシックフォルダー内でのみ機能します。	ID で環境を検索 (Look up Environment by ID)	要求された環境の詳細を取得します。
	環境を検索	要求された環境の詳細を取得します。環境は、フィルタークエリに基づいて取得されます。
	フォルダーを検索	UiPath でテナント配下のフォルダーを検索し、フォルダー名と ID を取得します。
ジョブ管理	ID でジョブを検索 (Look up Job By ID)	要求されたジョブの詳細を取得します。
	ジョブを検索	要求されたジョブの詳細を取得します。ジョブは、フィルタークエリに基づいて取得されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ジョブを開始	要求されたプロセスを実行するジョブを開始します。 **注:** 最新のフォルダーで作業する場合は、[実行ターゲット] リストから [動的に割り当て] を選択します。
マシン管理	ID でマシンを検索 (Look up Machine By ID)	要求されたマシンの詳細を取得します。
	マシンを検索	要求されたマシンの詳細を取得します。マシンは、フィルタークエリに基づいて取得されます。
プロセス管理	プロセスを検索	要求されたプロセスの詳細を取得します。プロセスは、フィルタークエリに基づいて取得されます。
キュー管理	キューにアイテムを追加	指定されたキューに新しいアイテムを追加します。
	キューを作成	指定された構成でキューを作成します。
	キューを削除	指定されたキューを削除します。
	キューアイテムを削除	指定されたキューアイテムを削除します。
	キューアイテムを検索	キューアイテム定義レコードリストを取得します。
	キューを検索	要求されたキュー定義レコードの詳細を取得します。キューは、フィルタークエリに基づいて取得されます。
リリース管理	ID でリリースを検索 (Look up Release By ID)	要求されたリリースの詳細を取得します。
	リリースを検索	要求されたリリースの詳細を取得します。リリースは、フィルタークエリに基づいて取得されます。
ロボット管理 **注:** これらのアクションは、クラシックフォルダー内でのみ機能します。	ロボットを作成	UiPathにロボットを作成します。
	ロボットを削除	UiPathのロボットを削除します。
	ID でロボットを検索 (Look up Robot By ID)	要求されたロボットの詳細を取得します。
	ロボットを検索	要求されたロボットの詳細を取得します。ロボットは、フィルタークエリに基づいて取得されます。
セッション管理	セッションを検索	要求されたセッションの詳細を取得します。セッションは、フィルタークエリに基づいて取得されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
注: これらのアクションは、クラシックフォルダー内でのみ機能します。		

スポークモジュール

UiPath スポークは UiPath アプリケーションを ServiceNow インスタンスに追加します。UiPathアプリケーションには、次のモジュールが含まれています。

モジュール	説明
UiPath Webhook レジストリ	Webhook レジストリレコードの詳細が含まれています。
UiPathWebhook ルーティングポリシー	Webhook ルーティングポリシーレコードの詳細が含まれています。スポークでは、ジョブ、ロボット、およびプロセスに関する情報を取得する 3 つのルーティングポリシーを使用できます。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 UiPath スポークを設定。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはインスタンスまたは MID サーバーで実行できます。UiPath エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および MID サーバー 選択属性を設定します。 詳細については「 MID サーバー」を参照してください。

注: MID サーバー ユーザーには、sn_uipath_spoke.uipath_admin ロールが必要です。

UiPath スポークを設定

ServiceNow インスタンスと UiPath アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- UiPath スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin。

このタスクについて

要件に応じて、OAuth 認証または API キーを使用して UiPath スポークを設定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- OAuth 認証を使用して UiPath スポークを設定するには、「オプション 1：OAuth 認証の使用」を参照してください。
  - この認証は UiPath スポーク v2.2.1 から利用できます。
  - OAuth 認証を使用してスポークを設定する場合は、MID サーバー を使用できません。
- API キーを使用して UiPath スポークを設定するには、「オプション 2：API キーの使用」を参照してください。

オプション 1：**OAuth** 認証の使用

OAuth を使用して ServiceNow インスタンスと UiPath アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

必要なロール：admin

注:

- この認証は UiPath スポーク v2.2.1 から利用できます。
- OAuth 認証を使用してスポークを設定する場合は、MID サーバー を使用できません。

手順

1. アプリケーションを UiPath アカウントで登録します。

   a. アドミニストレーターとして UiPath アカウントにログインします。

   b. **[admin]** > [外部アプリケーション] に移動します。

   c. **[+** アプリケーションを追加] をクリックします。

   d. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
アプリケーション名	OAuth アプリケーションの名前。
アプリケーションタイプ	OAuth アプリケーションのタイプ。[機密アプリケーション **(Confidential application)]** を選択します。
リソース	必要なリソースとスコープ。 i. **[+** スコープの追加] をクリックします。 ii. [リソース] リストから [オーケストレーター **API** アクセス **(Orchestrator API Access)]** を選択します。 iii. 次のようなアプリケーションスコープを選択します。 ▪ OR.Robots.Read ▪ OR.Robots.Write ▪ OR.Jobs.Read ▪ OR.Jobs.Write

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	▪ OR.Machines.Read ▪ OR.Execution.Read ▪ OR.Queues.Read ▪ OR.Queues.Write ▪ OR.Folders.Read **iv.** [保存] をクリックします。
リダイレクト URL	ServiceNow インスタンスのリダイレクト URL は次の形式になります：`https://<ServiceNow-instance>.service-now.com/oauth_redirect.do`

e. [追加] をクリックします。
アプリケーションが登録され、アプリ ID とアプリシークレットの値が表示されます。

f. アプリ ID とアプリ シークレットの値をコピーして記録します。

2. ServiceNow インスタンスで、必要な接続および資格情報エイリアスを構成します。

a. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。

b. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

c. **[UiPath]** のレコードを開きます。

d. [構成テンプレート] に、**[UiPath** 構成テンプレート **- OAuth** クライアント認証情報] を選択します。

e. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。

f. フォームの各フィールドに入力します。

接続および認証情報フォームを作成

フィールド	説明
接続情報	
名前	OAuth アプリケーションレジストリレコードを識別する名前。
接続 URL	接続 URL は次の形式となります：`https://{base_url}/{organization_name}/{tenant-name}/orchestrator_`。この URL は UiPath 展開のタイプによって異なります。
認証情報	
名前	認証情報レコードを識別する名前です。
トークン URL	トークンを取得および更新するためにインスタンスが使用するトークンエンドポイントの

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	場所です。 この URL は UiPath 展開のタイプによって異なります。
OAuth クライアント ID	UiPath アカウントにアプリケーションを登録した後にコピーしたアプリ ID。
OAuth クライアントシークレット	UiPath アカウントにアプリケーションを登録した後にコピーしたアプリ シークレット。
OAuth リダイレクト URL	ServiceNow インスタンスのリダイレクト URL は次の形式になります：`https://<ServiceNow-instance>.service-now.com/oauth_redirect.do`。

g. [作成] をクリックします。

h. [送信] をクリックします。
接続および認証情報レコードが作成されます。

i. [接続 **]** タブから UiPath 接続レコードを開きます。

j. [Orchestrator 機能の有効化] フィールドの値を選択します。

タスクの結果
接続および資格情報エイリアスが構成され、OAuth 認証を使用して UiPath スポークが設定されます。

オプション 2：**API** キーの使用

API キーを使用して ServiceNow インスタンスと UiPath アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. UiPath クラウドアカウントから、必要な API リフレッシュトークンの値を取得します。

> **注:** これらの手順は、UiPath クラウドアカウントに適用されます。

a. アドミニストレーターとして UiPath アカウントにログインします。

b. [設定] > [プライバシーとセキュリティ] に移動します。

c. 必要なテナントで、**[API** アクセスを表示 **(View API access)]** をクリックします。
[ユーザーキー]、[組織 **ID]**、[テナント名]、[クライアント **ID]** の値が表示されます。

d. これらの値をコピーして記録します。

2. ServiceNow インスタンスで、必要な接続および資格情報エイリアスを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。

b. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。

c. **[UiPath]** のレコードを開きます。

d. [構成テンプレート] で、要件に応じて **[UiPath** 構成テンプレート **- UiPath** クラウド] または **[UiPath** 構成テンプレート **-** プライベート/パブリッククラウド] を選択します。

e. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。

f. フォームの各フィールドに入力します。

- [構成テンプレート] に **[UiPath** 構成テンプレート **- UiPath** クラウド] を選択した場合は、次のフィールドに入力します。

  注: このオプションは、UiPath クラウドアカウントを使用している場合に適用されます。

  接続および認証情報フォームを作成

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前。たとえば、`UiPath` 接続です。
接続 URL	接続 URL のフォーマット：`https://platform.uipath.com/<account-logical-name>/<instance-logical-name>`
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。たとえば、`UiPath` 認証情報です。
トークン URL	トークンを取得および更新するためにインスタンスが使用するトークンエンドポイントの場所です。たとえば、`https://account.uipath.com/oauth/token` です。
クライアント ID	UiPath Orchestrator アプリケーションからコピーしたクライアント ID の値。
アカウント論理名	UiPath Orchestrator アプリケーションからコピーした組織 ID。
テナント論理名	UiPath Orchestrator アプリケーションからコピーしたテナント名。
ユーザーキー	UiPath Orchestrator アプリケーションからコピーしたユーザーキー。

- [構成テンプレート] に **[UiPath** 構成テンプレート **-** プライベート/パブリッククラウド] を選択した場合は、次のフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および認証情報フォームを作成

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前。たとえば、`UiPath` 接続です。
接続 URL	UiPathインスタンスの URL です。
認証情報名	認証情報レコードを識別する名前です。たとえば、`UiPath` 認証情報です。
トークン URL	トークンを取得および更新するためにインスタンスが使用するトークンエンドポイントの場所のフォーマット：`http://<instance-URL>/api/account/authenticate`
テナント名	テナント論理名
ユーザー名またはメール	UiPathOrchestrator API を認証するためのユーザー名またはメールアドレスです。
パスワード	関連付けられたパスワードです。

注:

- オンプレミスをサポートするには、接続レコードで **[MID** サーバーを使用] オプションを有効にし、信頼できる機関から SSL 証明書を作成する必要があります。
- MID サーバー ユーザーには、sn_uipath_spoke.uipath_admin ロールが必要です。

g. [作成] をクリックします。

h. [送信] をクリックします。
接続および認証情報レコードが作成されます。

i. [接続 **]** タブから UiPath 接続レコードを開きます。

j. [Orchestrator 機能の有効化] フィールドの値を選択します。

タスクの結果
接続および資格情報エイリアスが構成され、API キーを使用して UiPath スポークが設定されます。

Webhook の設定

ServiceNow コールバック URL で UiPath アカウントのイベントを登録する Webhook を構成します。

始める前に

- UiPath スポークを設定
- 必要なロール：sn_uipath_spoke.uipath_webhook_registry_user および decision_table_writer、または admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ServiceNow インスタンスに Webhook レジストリを作成します。

   a. ServiceNow インスタンスにログインします。

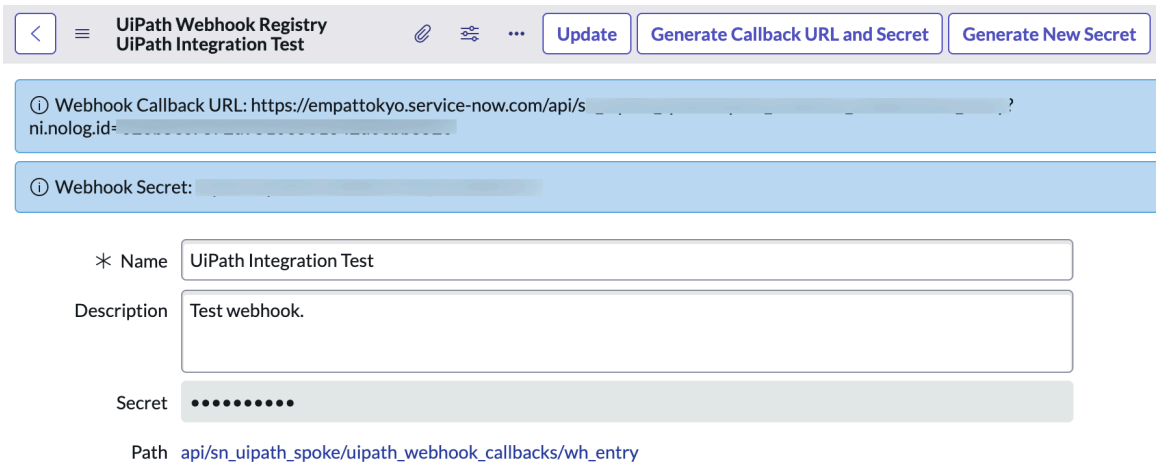
   b. **[UiPath]** > **[UiPath Webhook** レジストリ] に移動します。

   c. [新規] をクリックします。

   d. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	Webhook レジストリレコードを識別する名前。
説明	Webhook レジストリの説明です。

   e. [コールバック **URL** とシークレットを生成] をクリックします。
   Webhook コールバック URL とシークレットが生成され、表示されます。



   f. Webhook コールバック URL とシークレットの値をコピーして記録します。

   > **注:** [新しいシークレットを生成] をクリックすると、Webhook シークレットを定期的に変更できます。シークレットを変更した後、UiPath アカウントで値を更新する必要があります。

2. ServiceNow インスタンスで Webhook ルーティングポリシーを指定します。

   a. ServiceNow インスタンスにログインします。

   b. **[UiPath]** > **[UiPath Webhook** ルーティングポリシー] に移動します。
   スポークとともに 3 つのルーティングポリシーを使用できます。これらのレコードを構成し、要件に応じて追加のレコードを作成することもできます。

   c. 必要なレコードを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. 満たす必要がある条件を指定します。

e. [答え **(Answer)]** に対して、指定された条件が満たされたときにトリガーされる必要がある必須のサブフローを選択します。

f. [更新] をクリックします。

3. コールバック URL を UiPath アカウントに登録します。

a. アドミニストレーターとして UiPath アカウントにログインします。

b. [オーケストレーター] > [テナント] に移動します。

c. **[Webhooks]** タブをクリックします。

d. **[+ Webhook** を追加 **(+ Add webhook)]** をクリックします。

e. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
URL	ServiceNow インスタンスからコピーした Webhook コールバック URL。
有効	このチェックボックスをオンにします。
シークレット	ServiceNow インスタンスからコピーした Webhook シークレット。
イベントタイプ	登録するイベント。

f. [保存] をクリックします。

UKG スポーク

ServiceNowインスタンスからKronosの休暇申請を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

UKG スポーク v3.3.0 が最新バージョンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているバージョン

このスポークはKronosバージョン v1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのフロー

UKG スポークでは、Kronosタスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
Kronos - マネージャーの休暇申請を作成	マネージャーまたは従業員の休暇申請を作成します。
Kronos - 新しいリフレッシュトークンおよびアクセストークンを取得	Kronosのアクセストークンを取得し、新しいリフレッシュトークンを定期的に生成します。
Kronos - アクセストークンを更新	Kronosのアクセストークンを更新します。
Kronos - マネージャーの休暇申請ステータスの取得と更新	休暇申請ステータスのステータスを取得し、関連する要求アイテムの詳細を更新します。
Kronos - 休暇の詳細のハウスキーピング	指定された基準に基づいて休暇申請を削除します。デフォルトでは、フローは 7 日前に承認された休暇申請を削除します。

すべてのフローで、関連するサブフローがトリガーされます。

スポークのサブフロー

Kronosでは、Kronosタスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフロー	説明
Kronos - Kronos トークンを取得	スポークのセットアップ時に提供された詳細を使用して、Kronosから有効なリフレッシュトークンを取得します。
Kronos - マネージャーの休暇申請を作成	休暇申請を作成し、情報をServiceNowインスタンスに保存します。
Kronos - マネージャーの休暇申請	マネージャーまたは従業員の休暇申請を作成します。
Kronos - マネージャーの休暇申請ステータスの更新を取得	休暇申請ステータスのステータスを取得し、関連する要求アイテムの詳細を更新します。
Kronos - 休暇申請ハウスキーピング	指定された基準に基づいて休暇申請を削除します。デフォルトでは、サブフローは 7 日前に承認された休暇申請を削除します。
Kronos - 従業員のパンチミスを報告	このサブフローでは、従業員のマネージャーが従業員の入力ミスをパンチできるようにするタスクが作成されます。

スポークのアクション

UKG スポークでは、ServiceNowでイベントが発生したときにKronosタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
認証管理	Kronos リフレッシュトークンを取得	Kronosのリフレッシュトークンを取得します。
	Kronos トークンを取得	Kronosのトークンを取得します。
個人	個人を作成	1 人以上の個人のレコードを作成します。
	ID で個人を取得	指定されたレコード ID の個人の詳細を取得します。
	個人を取得	検索条件に基づいて、個人リストのレコード詳細を取得します。
	個人を更新	1 人以上の個人のレコードを更新します。
スケジュール	マネージャースケジュールを取得	従業員リストのスケジュールを取得します。
デフォルト	タイムスタンプを追加	従業員のパンチトランザクションのタイムスタンプを追加または記録します。
	従業員タイムカードを承認	指定された日付範囲の従業員タイムカードを承認します。
	タイムカードマネージャーを承認	指定された従業員のタイムカードのマネージャー承認を追加します。
	シフトカバー要求をマネージャーとして検索	指定された検索条件に一致する 1 つ以上のシフトカバー要求を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	オープンシフト要求マネージャーを検索	従業員 ID または個人番号に基づいて、オープンシフト要求のリストを取得します。
	セルフスケジュール要求マネージャーを検索	従業員 ID または個人番号に基づいて、セルフスケジュール要求のリストを取得します。
	シフトスワップ要求マネージャーを検索	従業員 ID または個人番号に基づいて、スワップ要求のリストを取得します。
	マネージャーの可用性要求を検索	指定された基準のすべての可用性要求を取得します。
	従業員タイムカード要求を取得	指定された従業員のタイムカード詳細を取得します。
	従業員タイムカード要求を取得	指定された従業員または指定されたハイパー検索詳細のタイムカードのリストの詳細を取得します。
	マネージャータイムカードを取得	指定されたマネージャーのタイムカードを取得します。
	マネージャータイムカードを取得	指定されたマネージャーまたは指定されたハイパー検索詳細のタイムカードのリストの詳細を取得します。
	タイムカード承認従業員を取得	指定された日付範囲の従業員タイムカード承認のリストを取得します。
	タイムカード承認マネージャーを取得	指定された日付範囲のマネージャータイムカード承認のリストを返します。
	タイムカードを更新	指定された従業員のタイムカードを更新します。
メタデータの取得	見越コードを取得	ユーザーのアクセス権限に応じて見越コードタイプのリストを取得します。
	コストセンターを検索	利用可能なコストセンターのリストを取得します。
	ジョブを検索	利用可能なジョブのリストを取得します。
	労力カテゴリを検索	利用可能なカテゴリのリストを取得します。
	労力カテゴリエントリを検索	利用可能な労力カテゴリエントリのリストを取得します。
	作業ルールを検索	利用可能な作業ルールのリストを取得します。
	ハイパー検索クエリを取得	ハイパー検索クエリのリストを取得します。
	ライセンスを取得	ライセンスのリストを取得します。
	支払いルールを取得	支払いルールのリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	シンボリック期間 ID を取得	指定されたシンボリック期間を取得します。
	すべての支払いコードを取得	Kronos内のすべての支払いコードを取得します。
	従業員リクエストのサブタイプを取得	必要な個人番号に関連付けられている要求サブタイプのリストを取得します。
	従業員 ID でマネージャーの要求サブタイプを取得	必要な従業員 ID に関連付けられている要求サブタイプのリストを取得します。
	マネージャーの要求サブタイプを個人番号で取得	必要な個人番号に関連付けられている要求サブタイプのリストを取得します。アクションの出力は、マネージャーの観点から見た「従業員の見越残日数を取得」アクションなどの後続のアクションに必要です。
	従業員 ID でマネージャーのシンボリック金額修飾子を取得	半日、1 日など、さまざまなタイプのマネージャーシンボリック金額修飾子を従業員 ID 別に取得します。
	個人番号でマネージャーのシンボリック金額修飾子を取得	半日、1 日など、さまざまなタイプのマネージャーシンボリック金額修飾子を個人番号別に取得します。
	シンボリック期間を取得	すべてのシンボリック期間を取得します。
スケジューリング管理	従業員の休暇申請を作成	指定された入力に基づいて休暇申請を作成します。
	マネージャーの休暇申請を作成	指定された入力に基づいて休暇申請を作成します。
	従業員スケジュールを検索	従業員のスケジュールを取得します。
	従業員の見越残日数を取得	PTO、病欠日数など、さまざまなタイプの従業員の見越残日数の詳細を取得します。
	従業員の休暇申請を取得	指定された検索基準に基づいて、休暇申請の詳細を取得します。
	従業員 ID でマネージャーの見越残日数を取得	従業員 ID を使用して、さまざまなタイプのマネージャー見越残日数の詳細を取得します。
	個人番号でマネージャーの見越残日数を取得	個人番号を使用して、さまざまなタイプのマネージャー見越残日数の詳細を取得します。
	従業員 ID でマネージャーの休暇申請を取得	指定された検索基準および従業員 ID に基づいて、休暇申請の詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	個人番号でマネージャーの休暇申請を取得	指定された検索基準および個人番号に基づいて、休暇申請の詳細を取得します。
	従業員の休暇申請を更新	従業員の休暇申請のステータスを更新します。
	マネージャーの休暇申請を更新	マネージャーの休暇申請のステータスを更新します。
時間管理	個人番号で従業員の見越残日数を取得	さまざまなタイプの従業員の従業員の見越残日数を取得します。
	タイムカード承認マネージャーを取得	指定された日付範囲のタイムカード承認のリストを取得します。

スポークモジュール

KronosスポークはKronosアプリケーションをServiceNowインスタンスに追加します。[Kronos] アプリケーションには次のモジュールがあります。

モジュール	説明
認証情報	必要なアクションを実行する権限を持つKronos ユーザーの詳細です。
休暇申請の詳細	休暇申請の詳細とステータス
休暇申請の詳細ステージングテーブル	ステージングテーブルからの休暇申請の詳細

Kronos スポークアカウントの要件

Kronosスポークは、Kronosスポークの OAuth 2.0 トークンを生成するために、KronosアカウントにOAuth 2.0 アプリケーションを登録する必要があります。後で使用するために、生成されたクライアント ID、クライアントシークレット、およびアプリケーションキーを記録します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 UKG スポークのセットアップ。

UKG スポークのセットアップ

Kronos アプリケーションを ServiceNow インスタンスとデータ連携させます。OAuth アプリケーションを Kronos に登録し、ServiceNow からの要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- UKG スポークを有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Kronos マネージャーユーザーまたはスーパーユーザーの認証情報。
- 必要なロール：admin

> **注:** アプリケーションレジストリ、接続、および認証情報がアプリケーションスコープの範囲内にあることを確認してください。

要件に応じて、接続テンプレートを使用するか、接続レコードと認証情報レコードを使用して UKG スポークを設定するかを選択できます。

オプション 1：UKG スポークの接続を設定する

接続テンプレートを使用して接続を追加して設定し、UKG スポークの ServiceNow 要求を認証します。

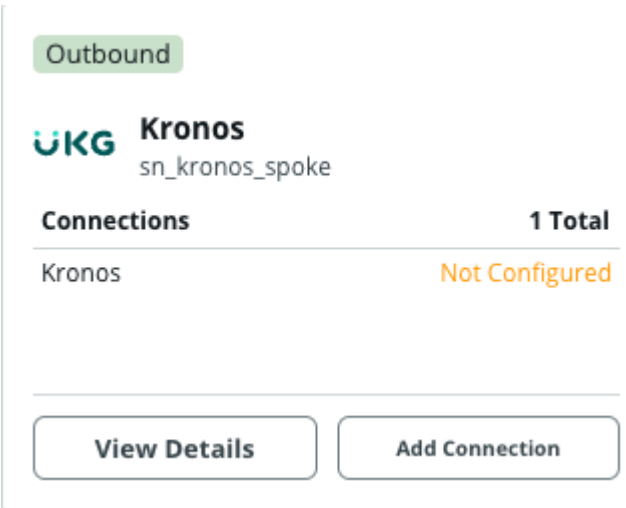
始める前に
必要なロール：admin

> **注:** 以前のバージョン (バージョン 3.3.0 より前) のスポークから更新する場合は、まず現在の接続レコード、認証情報レコード、および Kronos ユーザー認証情報を削除する必要があります。その後、テンプレートを使用して接続を設定できます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. **[UKG** 接続] エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

   > **注:** [接続を追加] はクリックしないでください。



4. [**Edit**] をクリックします。
   スポークを初めて設定する場合は、[設定] をクリックします。

5. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを一意に識別する名前です。たとえば、「Kronos Conn」と入力します。
接続 URL	Kronosインスタンスの URL です。
アプリキー	Kronos インスタンスのアプリケーション キー。
OAuth エンティティ名	UKG スポークの OAuth エンティティプロファイルを識別する一意の名前。たとえば、`UKG OAuth entity` を選択します。
OAuth クライアント ID	Kronosのアプリケーション構成中に作成されたクライアント ID
OAuth クライアントシークレット	Kronosのアプリケーション構成中に作成されたクライアントシークレットです。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイントです。たとえば、`https://<Kronos-Instance>.com/api/authentication/access_token` です。

6. **[OAuth** トークンを設定して取得 **(Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。
   Kronos 認証情報を入力するためのモーダルページが表示されます。
7. Kronos ユーザー名とパスワードを入力し、**[OAuth** トークンの取得] をクリックします。

タスクの結果
OAuth トークンが正常にフェッチされたら、UKG スポーク接続の使用を開始できます。

オプション 2：**UKG** スポークセットアップに接続レコードと認証情報レコードを使用する

UKG スポークのセットアップ用の接続レコードと認証情報レコードを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

> **注:** 接続テンプレートを使用して接続を既に設定している場合は、この手順を無視してかまいません。

OAuth プロバイダーとして **Kronos** を登録

Kronosアプリケーションの作成および構成中に生成された情報を使用し、Kronosを OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. Kronos スポークのレコードを開きます。
3. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Kronos OAuth プロファイル`を入力します。
クライアント ID	Kronosのアプリケーション構成中に作成されたクライアント ID
クライアントシークレット	Kronosのアプリケーション構成中に作成されたクライアントシークレットです。
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可タイプです。[リソース所有者のパスワード認証情報] を選択します。
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープです。**[Kronos Spoke]** を選択します。
アクセス可能	このレジストリにアクセスできるアプリケーションスコープです。
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプションです。オプションを選択します。
トークン URL	OAuth サーバートークンエンドポイントです。たとえば、`https://<Kronos-Instance>.com/api/authentication/access_token` です。
リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイントです。たとえば、`https://<ServiceNow-Instance>.com/oauth_redirect.do` です。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
5. **[OAuth** エンティティスコープ] タブで、行を挿入し、次の値を入力します。

フィールド	値
名前	Kronos
OAuth スコープ	givenName mail nonce openid profile sn uid

6. [更新] をクリックします。
7. **[OAuth** エンティティプロファイル] タブで、デフォルトプロファイルの **[Kronos oAuth default_profile]** をクリックします。
8. [OAuth エンティティスコープ] 関連リストにレコードを挿入し、Kronos スポークのデフォルトエンティティスコープを選択します (例：`Kronos`)。
9. [更新] をクリックします。

Kronosスポークの認証情報レコードを作成

Kronos に登録されているアプリケーションの認証情報レコードを作成して、Kronos スポークアクションを許可します。Kronosスポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	必要な値
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、`Kronos Cred` です。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。オプションを選択します。
OAuth エンティティ プロファイル	Kronosスポークのデフォルトの OAuth エンティティプロファイルです。たとえば、**[Kronos oAuth default_profile]** を選択します。
順番	認証情報が使用される順番です。たとえば、「`100`」と入力します。

5. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

Kronosユーザー認証情報を入力

必要なKronosユーザーの詳細と認証情報を提供するレコードを作成します。Kronosスポークは、これらのユーザー認証情報を使用してKronosでアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
マネージャーユーザーまたはKronosスーパーユーザーの認証情報を入力していることを確認してください。これらの認証情報を使用して、従業員とマネージャーの両方の休暇申請を管理できます。

手順

1. [すべて] > **[Kronos]** > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、これらの値を入力します。

Kronos 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。
アプリケーションキー	Kronosユーザーのアプリケーションキーです。
ユーザー名	Kronosでユーザーのアカウントにログインするためのユーザー名です。
パスワード	Kronosユーザーアカウントのパスワードです。
接続および資格情報エイリアス	Kronosスポークに関連付けられたデフォルトのエイリアスレコードです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
リフレッシュトークンの有効期限	Kronosリフレッシュトークンの有効期限が切れる日時です。Kronosスポークは、現在のリフレッシュトークンが期限切れになる前に、新しいリフレッシュトークンを定期的に生成します。

4. [送信] をクリックします。
5. Kronosトークンを生成するには、**[Kronos** トークンを取得] 関連リンクをクリックします。

タスクの結果

「Kronos - Kronos トークンを取得」サブフローがトリガーされます。サブフローでは、スポークの設定時に提供された詳細を使用して、Kronosから有効なリフレッシュトークンが取得されます。その後、サブフローでは [リフレッシュトークンの有効期限] の値が更新されます。

> **注:** Kronosリフレッシュトークンの詳細にアクセスするには、[システム **OAuth]** > [トークンを管理]に移動します。ここでは、リフレッシュトークンごとにレコードが作成されます。

Kronos スポークの接続レコードの作成

Kronos アプリケーションへの接続レコードを作成します。Kronos スポークの接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Kronos でアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. KronosSpoke のレコードを開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームに、これらの値を入力します。

HTTP(S) 接続フォーム

フィールド	必要な値
名前	接続レコードを一意に識別する名前です。たとえば、`Kronos Conn` を入力します。
認証情報	Kronosのために作成された認証情報レコードです。たとえば、**[Kronos Cred]** を選択します。詳細については、「Kronosスポークの認証情報レコードを作成」を参照してください。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。
URL ビルダー	**注:** チェックボックスをオンにしないでください。
接続 URL	Kronosインスタンスの URL です。
MID サーバーを使用	このフィールドは適用されません。
有効	接続を積極的に使用にするオプションです。オプションを選択します。
ドメイン	アクションまたはアクティビティを実行するドメイン。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [属性] タブで、次の値を入力します。

フィールド	説明
u_app_key	Kronosユーザーのアプリケーションキーです。
u_version	インスタンスのKronosバージョンです。`v1` と入力します。

6. [送信] をクリックします。

Kronosカタログアイテムを使用してマネージャーとして要求を作成

サービスカタログでアイテムが要求されたときに、Kronosでイベントをトリガーします。

始める前に

- UKG スポークのセットアップ
- 必要なロール：admin

このタスクについて

Kronosスポークは、Kronosスポークのサンプルフローで使用するカタログアイテムを追加します。

手順

1. [すべて] > [セルフサービス] > [サービスカタログ]に移動します。
2. **[Kronos]** をクリックします。
3. **[Kronos -** マネージャーとして休暇申請を作成 (スーパーアクセス)] をクリックします。
4. 休暇申請の詳細を入力します。

   注: 有効な [従業員 **ID]** または [個人番号 (修飾子)] を指定した後、[従業員 **ID** を使用したサブタイプ名] と [従業員 **ID** によるシンボリック金額修飾子]、または [個人番号を使用したサブタイプ名] と [個人番号によるシンボリック金額修飾子] の各リストへの値の入力に時間がかかる場合があります。

5. [注文する] をクリックします。
   要求アイテムが生成され、生成された番号が表示されます。
6. 要求番号をクリックし、[承認] の値を [要求済み]、[承認済み]、または [却下] に変更します。
7. [更新] をクリックします。

タスクの結果

- 「Kronos - マネージャーの休暇申請を作成」フローがトリガーされます。
- レコードは、休暇申請の詳細モジュールに作成されます。休暇申請のステータスは、「Kronos - マネージャーの休暇申請ステータスの取得と更新」フローがトリガーされたときに更新されます。

Utility Actions スポーク

ServiceNow インスタンスに添付ファイルと Zip 添付ファイルを作成します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Utility Actions スポーク v1.3.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは、Yokohama 以降のバージョンの ServiceNow インスタンスと互換性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

ユーティリティアクションスポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときにタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
デフォルト	Zip にファイルを追加	圧縮するファイルのリストにファイルを追加します。
	区切りファイルに追加	区切りファイルの行に対応するファイル行レコードを作成します。
	ファイルに追加	作成するファイルの行に対応するファイル行レコードを作成します。
	ファイルを開始	実際のファイルが添付されるファイルレコードを作成します。
	Zip を開始	Zip ファイルが添付されるファイルセットレコードを作成します。
	ファイルをビルド	ファイルを生成して、指定されたファイルレコードに添付します。
	Zip をビルド	Zip ファイルを生成して、指定されたファイルセットレコードに添付します。 **注:** このアクションには、統合ハブユーティリティ機能を備えた MID サーバー が少なくとも 1 つ必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
スポーク Util のアクション	レコードをオブジェクトに変換	指定されたレコードをオブジェクトに変換します。
	レコードをオブジェクトのアレイに変換	指定されたレコードリストをオブジェクトのアレイに変換します。 注: これらのテーブルからテーブルスキーマが入力されるため、このアクションを使用するには、フローデザイナーが sys_dictionary および sys_db_object テーブルへの読み取りアクセス権を持っている必要があります。
	エンコードされたクエリを生成	指定された名前と値のペアでエンコードされたクエリを生成します。 出力エンコードされたクエリは、動的テンプレートタイプの任意のフィールドで使用できます。たとえば、[生成されたエンコードされたクエリ (Generated Encoded Query)] アクションのエンコードされたクエリ出力は、[問題を作成] アクションの [追加フィールド] の入力として指定できます。
	レコードに関する最新のコメントを検索	ServiceNow インスタンスの必要なレコードから最新のコメントを取得します。 出力コメントは文字列の形式です。

スポークモジュールとテーブル

Utility Actions Spoke には、次のテーブルが含まれています。

テーブル	説明	フィールド
ファイル [sn_utility_spoke_file]	作成されたすべてのファイルに関する情報です。関連するファイルがレコードに添付されます。 注: [ファイルタイプ] に [区切りファイル] を指定する場合は、[スキーマ] を指定する必要があります。	• ファイル名 • ファイルタイプ • スキーマ
ファイル行 [sn_utility_spoke_file_line]	区切りファイルの各行に関する情報です。	• ファイル • 行コンテンツ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明	フィールド
ファイルマッピング [sn_utility_spoke_file_mapping]	Zip ファイルにマッピングされたファイルに関する情報です。たとえば、4 つのファイルを Zip ファイルに圧縮すると、ファイルごとにこのテーブルに 4 つのレコードが作成されます。	• ファイル • ファイルセット
ファイルスキーマ [sn_utility_spoke_file_schema]	区切りファイルに関する情報です。	• スキーマ名 • 列 • 区切り文字 • ヘッダーあり • 引用符付き
ファイルセット [sn_utility_spoke_file_set]	Zip ファイルに関する情報です。関連する Zip ファイルがレコードに添付されます。	Zip ファイル名

Utility Actions Spoke は、統合ハブユーティリティアプリケーションをインスタンスに追加し、ファイルスキーマモジュールを含みます。モジュールは、ファイルスキーマテーブルのレコードを表示します。

自動フラッシュデータ保持ポリシーは、ファイルテーブルとファイルセットテーブルで使用できます。デフォルトでは、ファイルスキーマテーブルを除くスポークテーブルのデータは、最大 7 日間保持されます。

注:

- 自動フラッシュデータ保持ポリシーは、ファイルスキーマテーブルのレコードには適用されません。
- ファイルテーブルのファイルレコードが削除されると、ファイル行テーブルの対応するファイル行レコードも削除されます。
- ファイルセットテーブルのファイルセットレコードが削除されると、ファイルマッピングテーブルの対応するファイルマッピングレコードも削除されます。

データ保持ポリシーを変更するには、必要なテーブルの自動フラッシュフォームで [経過時間 (秒)] の値を変更します。詳細については、「自動フラッシュフォーム」を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

このスポークでは、接続および資格情報エイリアスの構成は必要ありません。スポークの設定については、「 スキーマを作成。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MID サーバー の要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しはMID サーバーで実行できます。 詳細については「 MID サーバー 」を参照してください。

注:

- スポークの「Zip をビルド」アクションには、統合ハブユーティリティまたは ALL の機能を備えたMID サーバーが少なくとも 1 つ必要です。MID サーバーを設定して構成するには、ユーザーに sn_utility_spoke.utility_actions_admin ロールが必要です。
- [値] に「`*.service-now.com`」を入力して MID サーバープロパティを作成 します。

スキーマを作成

ServiceNowインスタンスに区切りファイルを作成するスキーマを作成します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- ユーティリティアクションスポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：sn_utility_spoke.utility_actions_admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブユーティリティ] > [ファイルビルダー] > [ファイルスキーマ]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、次の値を入力します。

ファイルスキーマフォーム

フィールド	説明
スキーマ名	スキーマレコードを識別するための名前です。たとえば、`インシデントスキーマ`です。
区切り文字	ファイル内の区切り文字です。たとえば、`,` と `\t` です。デフォルト値はカンマです。
ヘッダーあり	スキーマにヘッダーがあるかどうかを指定するオプションです。
引用符付き	区切り文字をエスケープし、すべての値を引用符で囲むオプションです。
列	スキーマの列を JSON アレイで指定します。各列について、列名とデータタイプを指定します。例を次に示します。 `[ { "name" : "Number", "type" : "string" }, { "name" : "Caller First Name", "type" : "string" }, { "name" : "Caller Last Name",`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	 。詳細については、「動的テンプレートのデータ収集アクションの作成」を参照してください。 注: キーと値は必ず引用符で囲んでください。


```
        "type" : "string"
    },
    {
        "name" : "Short Description",
        "type" : "string"
    },
    {
        "name" : "State",
        "type" : "choice",
        "choices" : [
            {
                "label" : "New",
                "value" : "New"
            },
            {
                "label" : "In Progress",
                "value" : "In Progress"
            },
           {
                "label" : "On Hold",
                "value" : "On Hold"
            },
            {
                "label" : "Resolved",
                "value" : "resolved"
            },
            {
                "label" : "Closed",
                "value" : "closed"
            }
        ]
    },
    {
        "name" : "Active",
        "type" : "boolean"
    }
]
```


4. [送信] をクリックします。

Utility Actions Spoke アクションを使用してフローをビルド

フローデザイナーで Utility Actions Spoke アクションを使用してフローを作成し、インシデントレコードファイルとユーザーレコードファイルの 2 つのファイルを作成し、ZIP で圧縮します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
このサンプルフローでは、Utility Actions Spoke アクションを使用してファイルを作成する方法を示しています。要件に従ってフローを構成できます。

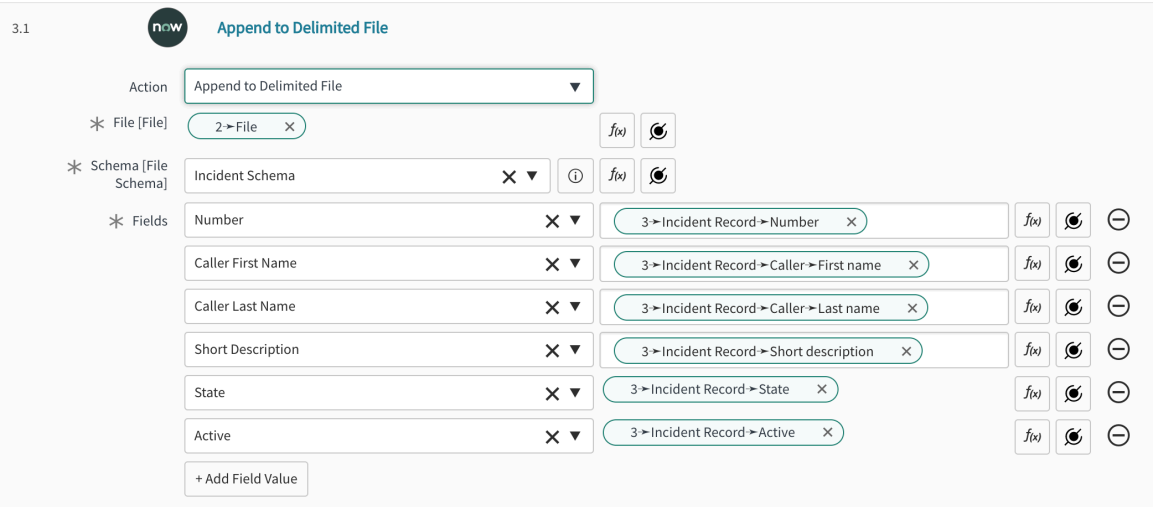
手順

1. [すべて] > [フローデザイナー] > [デザイナー] に移動します
2. フローを作成します。
   詳細については、「フローのビルド」を参照してください。
3. フローに、次のスポークアクションやフローロジックを追加します。

   a. インシデントレコードを取得するための 「インシデントレコードを検索」アクション

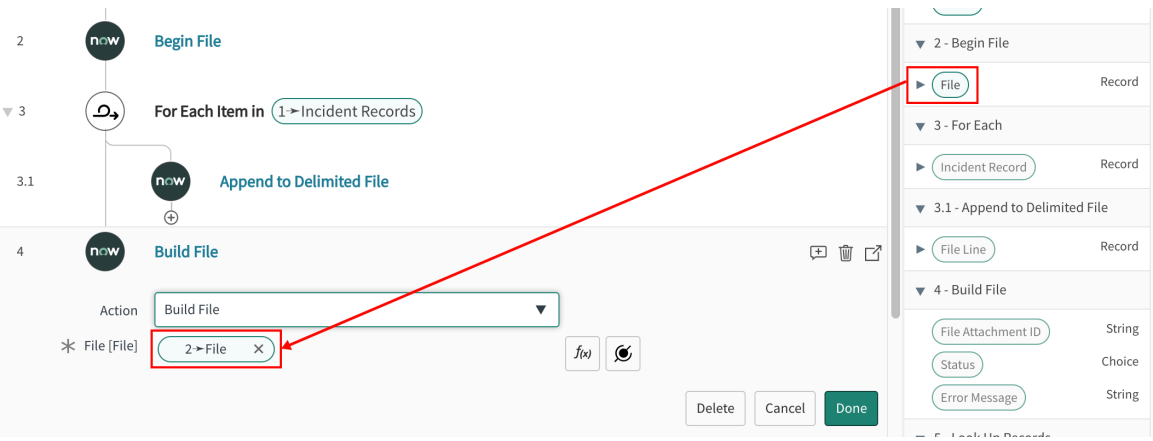
   b. インシデントレコードを含むファイルを作成するための「ファイルを開始」アクション

   c. 「区切りファイルに追加」アクションをインシデントレコードリストに適用するための各フローロジック



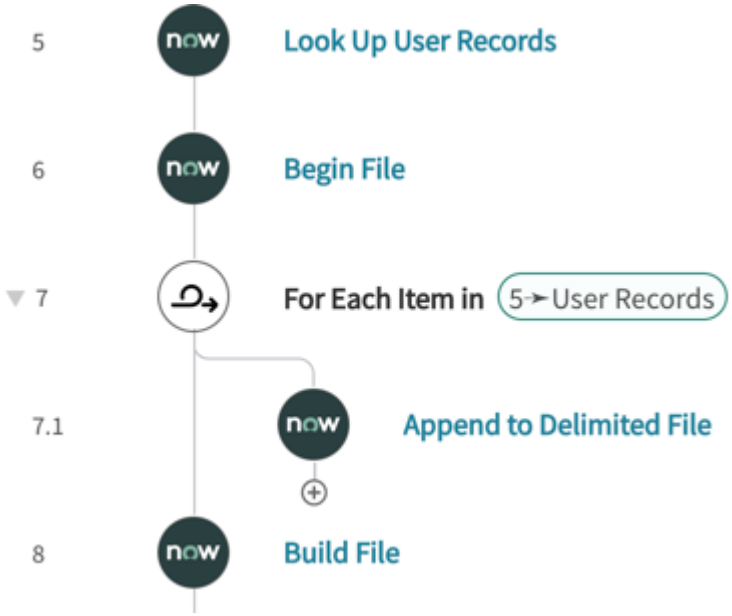
   d. 行を追加するための「ビルドファイル」アクション。

   各インシデントレコードは、ファイルに行として追加されます。



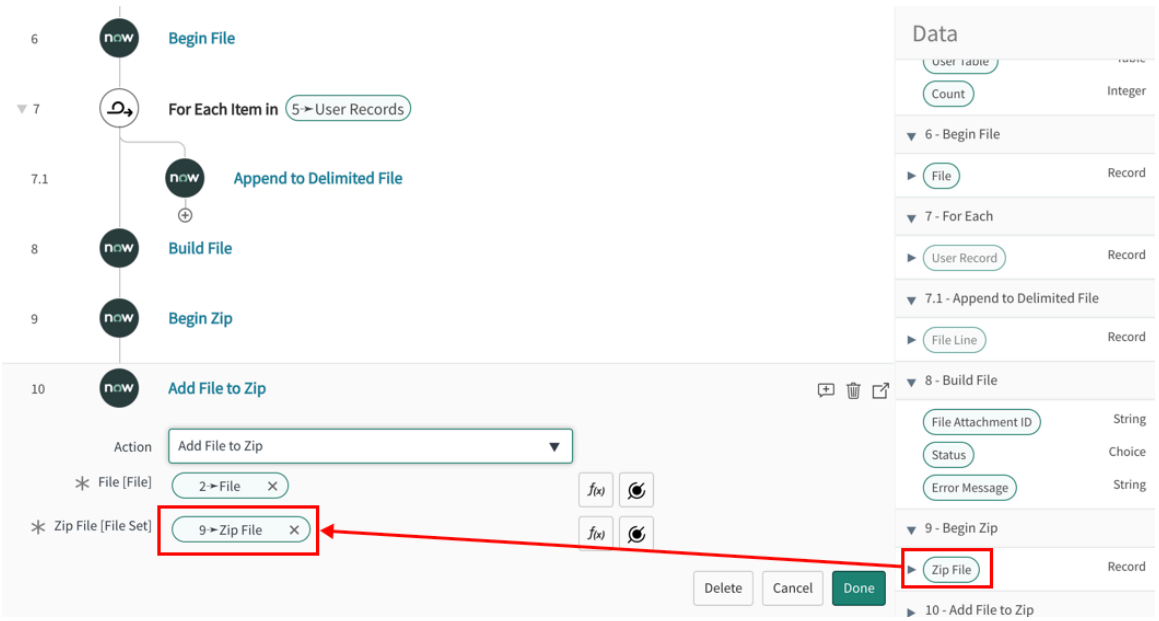
   e. 同様の手順で、ユーザー [sys_user] テーブルからレコードを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



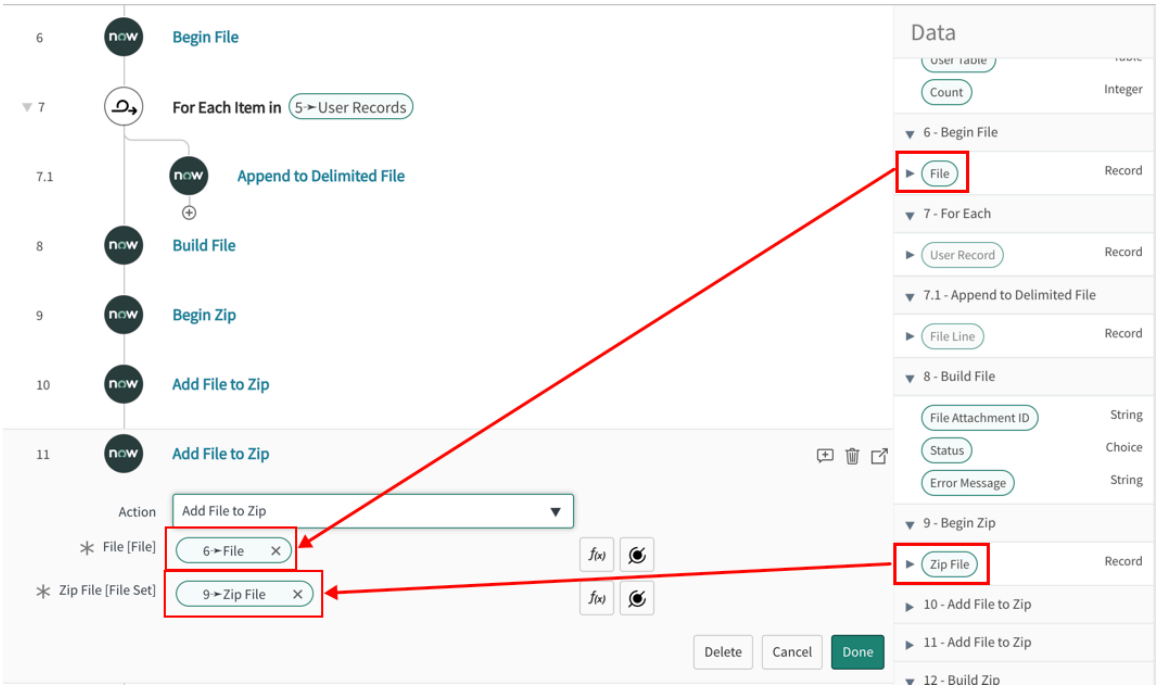
f. インシデントレコードおよびユーザーレコードの Zip ファイルをビルドするための「Zip を開始」 アクションです。

g. インシデントレコードを含むファイルを Zip ファイルに追加するための「Zip にファイルを追加」アクションです。

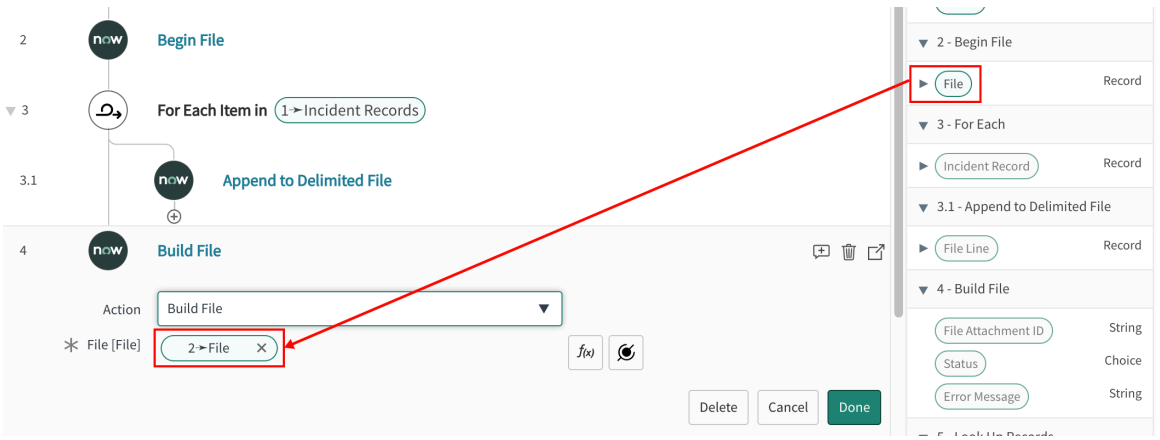


h. ユーザーレコードを含むファイルを Zip ファイルに追加するための「Zip にファイルを追加」アクションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



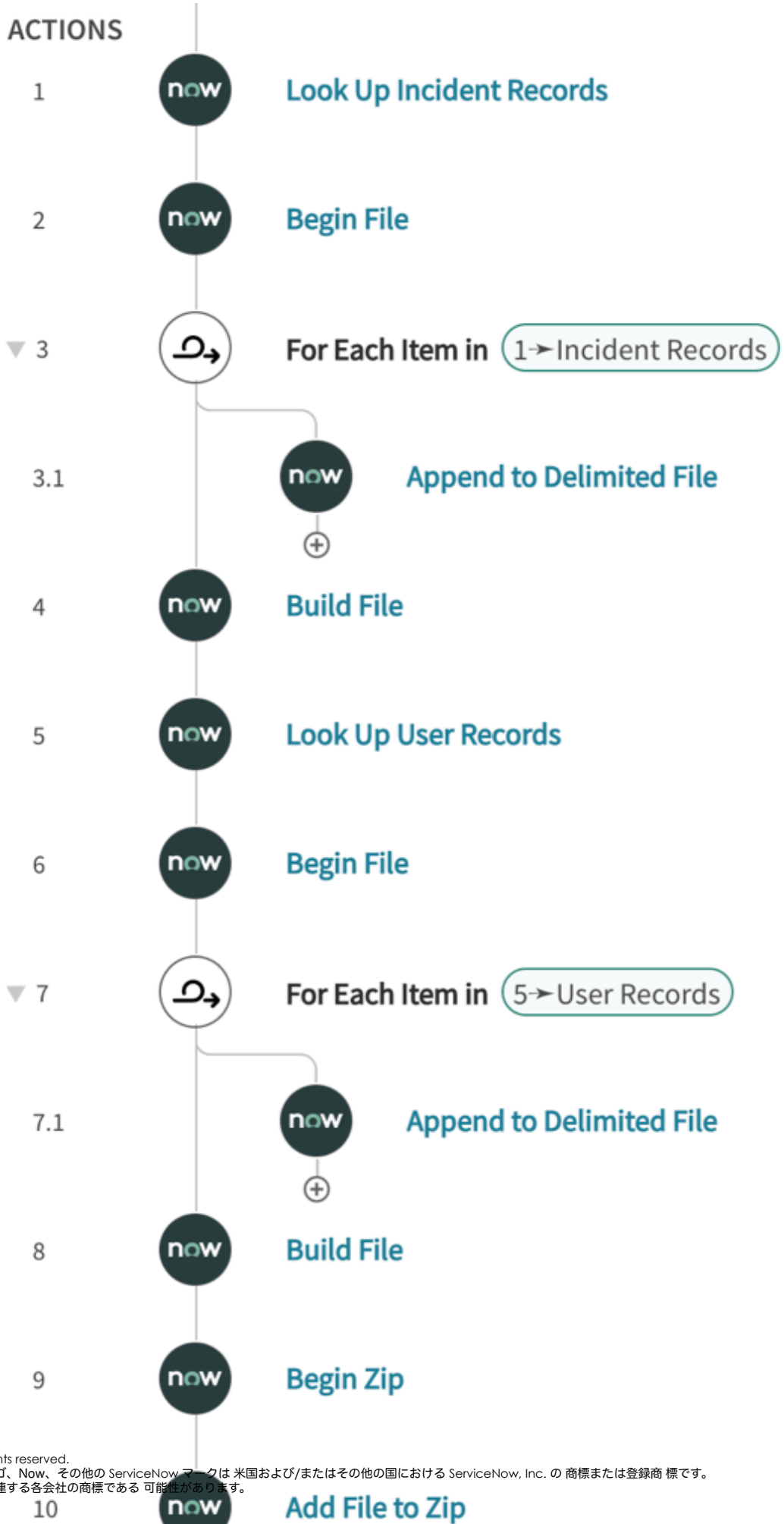
i. インシデントレコードおよびユーザーレコードを含む Zip ファイルを作成するための「Zip をビルド」アクション



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. フローを保存し、テストし、公開することで使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Verifi スポーク

ServiceNow インスタンスを Verifi スポークと統合し、Verifi API を使用して、カード異議申し立て解決プロセスを簡素化します。この統合により、異議申し立てのライフサイクルにおける発行者とマーチャント間の早期接続が容易になり、異議申し立て前の段階での競合の解決が簡素化され、チャージバックを最小限に抑えられます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

Verifi スポーク v1.0 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Verifi API バージョン 4.0 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

主な機能

Verifi スポークを使用すると、フローデザイナーが Verifi API を呼び出すアクションを使用して、ワークフローを構築できます。この統合により、次のタスクを実行できるようになります。

- マーチャントとの争議に対処してエスカレーションを防ぎ、発行者とカード名義人の双方の時間とリソースを節約します。
- API アクションを使用して異議申し立てケースを作成、管理、およびクローズすることで、よりスムーズな運用とステークホルダー間のコラボレーションの強化を実現します。
- マーチャントが直接関与して異議申し立てを早期に解決し、チャージバックを最小限に抑えます。
- 簡素化されたプロセスを活用して異議申し立て前の段階で解決し、異議申し立ての管理に必要な労力を減らします。
- カード名義人、発行者、マーチャント間の協力とコミュニケーションを改善します。

スポークの要件

- 統合ハブサブスクリプション
- 共有キー (HMAC) を使用して JSON Web トークン (JWT) キーを設定し、JWT キー参照を使用して JWT プロバイダーを署名構成に接続します。

スポークの依存関係

これらの依存プラグインがインストールされていることを確認します。

- ServiceNow 統合ハブ ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Verifi スポークは、カード名義人の異議申し立てを効率的に解決するためのアクションを提供します。

機密情報を含むアクションには、要求と応答の本文に機密情報が含まれています。1 つのアクションには、要求を安全に作成するための要求ビルダーと、暗号化された API 応答を処理する応答パーサーが含まれます。次の表に、機密情報を含むアクションを示します。

機密情報を含むアクション

カテゴリ	アクション	説明
Verifi ケース管理	ケース要求ビルダーを作成	Verifi Create Case API の要求ビルダーと応答パーサーを使用して、カード名義人の異議申し立てを表すケースを作成し、それをマーチャントとのコミュニケーションのために送信します。
	ケース応答パーサーを作成	
	ケース要求ビルダーを検索	Look up Case API の要求ビルダーと応答パーサーを使用して、Verifi API からケースの詳細を取得します。
	ケース応答パーサーを検索	
	複数のケース要求ビルダーを検索	Look up Multiple Cases API の要求ビルダーと応答パーサーを使用して、Verifi API から複数のケースの詳細を取得します。発行者は、1 回取得するだけで複数のケース ID を識別できます。
	複数のケース応答パーサーを検索	
	CDRN 適格性要求ビルダー	CDRN ケース照会専用コールを使用して、ケースに対するマーチャントの適格性を確認するためのリアルタイムチェックを送信します。これは、Verifi eligibility API の要求ビルダーと応答パーサーによって容易に行われます。
	CDRN 適格性応答パーサー	
	ケース要求ビル	Verifi patch API の要求ビルダーと応答パーサーを使用して、ケースのステータスを [クローズ済み] または [取り消し済み] に更新します。この機能により、発行者はケースの結果を効率的に管理できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

機密情報を含むアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明
	ダーを更新	
	ケース応答パーサーを更新	

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「Verifi スポーク の設定」を参照してください。

Verifi スポーク の設定

JWT 認証 を使用して ServiceNow インスタンスと Verifi アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Verifi スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

JSON Web トークン (JWT) を使用すると、ServiceNow と外部 API プロバイダーの間でユーザーの介入を必要とせずにサーバー間 API のやり取りを設定する機能が有効化されます。

手順

1. JSON Web トークン (JWT) を生成します。
   JWT 認証を有効にするには、このリンクを使用してインスタンスに対する JWT を作成します。Verifi スポークの場合、*VerifiAuthorizationTokenGenerator* スクリプトを使用して承認を生成します。詳細については、「JSON Web トークン (JWT) の生成」を参照してください。
2. Verifi スポークの認証情報レコードを作成します。
   Verifi スポーク アプリケーションの接続および認証情報レコードを作成します。Verifi スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。詳細については、「Verifi スポークの接続および認証情報レコードの作成」を参照してください。

Verifi スポークの接続および認証情報レコードの作成

Verifi スポーク アプリケーションの接続および認証情報レコードを作成します。Verifi スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 認証トークンに署名するための共有シークレット。
- JSON Web トークン (JWT) キーを作成します。JWT キーを参照して、JWT プロバイダーを署名構成に関連付けます。
- Verifi によってアサインされた発行者 ID。この ID は、API 呼び出しを行う発行者を識別するために、要求ヘッダーと認証トークンに含まれています。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. **[Verifi]** レコードを選択します。
   [接続および認証情報エイリアス] ページが開きます。
3. フォームのフィールドに入力します。

接続および資格情報エイリアス

フィールド	説明
名前	エイリアスの名前。エイリアスには、英数字とアンダースコアだけを使用できます。
ID	形式 `sn_verifi_spoke.Verifi` に基づく、接続および資格情報エイリアスの一意の識別子。
アプリケーション	接続および資格情報エイリアスの割り当て対象のアプリケーションスコープです。アプリケーションピッカーで最後に選択した現在のセッションスコープが表示されます。たとえば、**Verifi** スポークがこのセッションの現在のスコープである場合は、そのように表示されます。
タイプ	エイリアスタイプ。[接続と資格情報] を選択します。
接続タイプ	接続タイプの名前 (基本、HTTP、JDBC、JMS、Kafka のいずれか) です。デフォルトは [HTTP] です。
複数の有効な接続をサポート	エイリアスが複数の有効な接続をサポートするかどうかを指定する指定子です。接続テーブルを使用して接続を追加し、接続関連リストを使用してその接続をエイリアスに関連付けます。
デフォルトの再試行ポリシー	エイリアスの再試行ポリシーです。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
構成テンプレート	接続および認証情報レコードの作成に使用する構成テンプレートです。

4. [保存] を選択します。
   接続と接続属性関連リストが表示されます。

関連リスト	説明
接続	このエイリアスに関連付けられた関連接続レコード。エイリアスを作成した後、接続レコードを定義して、エイリアスに関連付けることができます。[複数の有効な接続をサポート] を選択した場合、複数の接続をエイリアスに関連付けることができます。
接続	接続の属性です。接続に固有のデータを定義し、統合ハブ統合ステップでそのデータを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連リスト	説明
属性	
子エイリアス	親エイリアスに関連付けられた子エイリアス。接続および資格情報エイリアスを作成した後、子エイリアスを作成して、同じアプリケーション統合のために複数の接続を設定できます。

5. オプション: 認証情報エイリアスに関連付けられた新しい認証情報と接続を作成する場合は、*Related Links*で [新しい接続 & 資格情報を作成] を選択します。
ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

接続と資格情報を作成

フィールド	説明
接続情報を入力してください	
接続名	接続の名前。
接続 URL	Verifi スポークがインストールされたサーバーへの接続に使用される URL。
発行者	JWT 認証タイプを使用して Verifi スポークを設定するときにコピーした発行者 ID。
API バージョン	関連するスポークがビルドされる API バージョンです。デフォルト値は `4.0` です。
JWT プロバイダー	PAT 認証タイプを使用して Verifi スポークを設定するときに指定した JWT プロバイダー。

6. オプション: 接続および資格情報エイリアスの子エイリアスを作成する場合は、子エイリアス関連リストで [新規] を選択します。

   a. 子エイリアスの名前を入力し、[送信] を選択します。
   子エイリアスは、親エイリアスからプロパティを継承します。その後、子エイリアスを設定して、独自の接続および認証情報のセットを含めることができます。

タスクの結果
接続と認証情報レコードは、ServiceNow インスタンスに作成されます。

Visa スポーク

ServiceNow インスタンスを Visa スポークと統合して、Visa カード異議申し立てプロセスのための Visa Resolve Online (VROL) で Visa API をシームレスに呼び出します。スポークを使用して、トランザクションの検索、マーチャントとのコラボレーション、異議申し立ての管理、セキュリティが強化されたその他の機能を実行できます。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Visa スポーク v1.2.0 が最新バージョンです。

主要な機能

この機能には、VROL (Visa Resolve Online) を介して Visa API を呼び出し、エンドツーエンドのカード異議申し立てプロセスを管理するアクションの作成が含まれています。これには、次のようなタスクがあります。

- 拡張トランザクション情報の取得
- トランザクション検索の実行
- 異議申し立てケースの作成の開始
- Visa アンケートの送信
- 既存の異議申し立てケースの事前仲裁および仲裁の開始

スポークの要件

統合ハブサブスクリプション

スポークの依存関係

これらの依存プラグインがインストールされていることを確認します。

- ServiceNow 統合ハブ ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Visa スポークは、VROL (Visa Resolve Online) で Visa API を呼び出して、カード異議申し立てプロセス全体を管理するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

- 機密情報を含むアクション：これらのアクションには、要求と応答の本文に機密情報が含まれています。これらの VROL API を呼び出すときは、トークン化ソリューションを使用する必要があります。

重要: 個人識別可能情報 (PII) データを含む、Visa API のフロー実行ログを無効にする必要があります。これを行うには、システムプロパティの *com.snc.process_flow.reporting.level* プロパティをオフに設定する必要があります。

機密情報を含むアクション

カテゴリ	アクション	説明
注文インサイトデジタル管理	カード名義人の購入問い合わせ (要求ビルダー)	CardholderPurchaseInquiry の要求ペイロードを生成します。この API は、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーに、トランザクションに関する追加のマーチャント情報を要求する機能を提供します。また、VisaNet

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		以外の取引の購入情報を取得する場合にも使用できます。
	カード名義人の購入問い合わせ (応答パーサー)	CardholderPurchaseInquiry の応答を解析します。この API は、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーに、トランザクションに関する追加のマーチャント情報を要求する機能を提供します。また、VisaNet 以外の取引の購入情報を取得する場合にも使用できます。
トランザクション照会管理	すべてのトランザクションの詳細を検索 (要求ビルダー)	ユーザーが、ユーザーの組織のすべてのスケジュール済みレポート、またはユーザーが知りたい特定のレポートの詳細を取得できるようにします。
	すべてのトランザクションの詳細を検索 (応答パーサー)	getAllTransDetails の応答を解析します。発行者は、この API を使用して、検索パラメーターとして 1～10 個の VisaNet トランザクション ID を使用するトランザクションの完全なトランザクションの詳細を取得する別の方法を使用できます。
	ケース要求ビルダーからトランザクションの詳細を検索	getTransactionsFromCase の要求ペイロードを生成します。発行者はこの API を使用して、ケースの「選択された」トランザクションの TI の詳細を取得できます。つまり、異議が申し立てられている元のトランザクションです。また、TI 検索から返された「選択済された」トランザクションと「選択されていない」トランザクションのサマリーも返し、ケースと共に保存されます。
	ケース応答パーサーからトランザクションの詳細を検索	getTransactionsFromCase の応答を解析します。発行者はこの API を使用して、ケースの「選択された」トランザクションの TI の詳細を取得できます。つまり、異議が申し立てられている元のトランザクションです。また、TI 検索から返された「選択済された」トランザクションと「選択されていない」トランザクションのサマリーも返し、ケースと共に保存されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	トランザクションの詳細を検索 (要求ビルダー)	getTransDetails の要求ペイロードを生成します。発行者は、この API を使用して、返されたトランザクションの詳細レベルのデータを取得できます。
	トランザクションの詳細を検索 (応答パーサー)	getTransDetails の応答を解析します。発行者は、この API を使用して、返されたトランザクションの詳細レベルのデータを取得できます。
	トランザクション照会結果を検索 (要求ビルダー)	getTransInquiryResults の要求ペイロードを生成します。これにより、トランザクション照会 (TI) イベント ID が受け入れられ、トランザクションのサマリー情報が返されます。
	トランザクション照会結果を検索 (応答パーサー)	getTransInquiryResults の応答を解析します。これにより、トランザクション照会 (TI) イベント ID が受け入れられ、トランザクションのサマリー情報が返されます。
	複数のトランザクション照会を送信 (要求ビルダー)	submitMultiTranInquiry の要求ペイロードを生成します。これにより、検索パラメーターとして 1〜10 個の VisaNet トランザクション ID を使用してトランザクションを検索する別の方法が提供されます。
	複数のトランザクション照会を送信 (応答パーサー)	submitMultiTranInquiry の応答を解析します。これにより、検索パラメーターとして 1〜10 個の VisaNet トランザクション ID を使用してトランザクションを検索する別の方法が提供されます。
	トランザクション照会を送信 (要求ビルダー)	submitTranInquiry の要求ペイロードを生成します。このアクションは、一連の検索条件を使用してトランザクションを検索するために使用されます。
	トランザクション照会を送信 (応答パーサー)	submitTranInquiry の要求ペイロードを生成します。このアクションは、一連の検索条件を使用してトランザクションを検索するために使用されます。
不正行為レポート管理	不正行為レポートを送信 (要求ビルダー)	SubmitFraudReport の要求ペイロードを生成します。この API を使用すると、ユー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		ザーは、インターフェイス要素スプレッドシート (IES) に記載されている必要なすべての不正データを含む不正行為レポートを Visa Resolve Online (VROL) に送信できます。
	不正行為レポートを送信 (応答パーサー)	SubmitFraudReport の応答を解析します。この API を使用すると、ユーザーは、インターフェイス要素スプレッドシート (IES) に記載されている必要なすべての不正データを含む不正行為レポートを Visa Resolve Online (VROL) に送信できます。
	異議申し立て届出詳細を検索 (要求ビルダー)	このアクションは、API getDisputeFilingDetails の入力ペイロードをビルドします。
	異議申し立て届出の詳細を検索 (応答パーサー)	getDisputeFilingDetails の応答を解析します。getDisputeFilingDetails は、異議申し立ての届出を含むメッセージと、異議申し立ての届出アイテムタイプとともに画像の詳細を取得するために使用されます。
	不正行為レポートの詳細を検索 (要求ビルダー)	ユーザーが以前に送信された不正行為レポートに関する追加情報をリアルタイムで要求できるようにします。
	不正行為レポートの詳細を検索 (応答パーサー)	このアクションは、不正行為レポートの詳細取得 API を呼び出した後に、VROL システムによって返された応答本文を解析します。
異議申し立て財務管理	異議申し立て財務アドバイスの詳細を検索 (要求ビルダー)	GetDisputeFinancialAdviceDetails API の要求ペイロードを生成します。これにより、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーは、異議申し立ての財務アドバイスデータを要求できます。
	異議申し立ての財務アドバイスの詳細を検索 (応答パーサー)	GetDisputeFinancialAdviceDetails API の応答を解析します。これにより、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーは、異議申し立ての財務アドバイスデータを要求できます。
	異議申し立て財務の詳細を検索 (要求ビルダー)	GetDisputeFinancialDetails API の要求ペイロードを生成し

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		ます。この API は、取得者または発行者のケースにおける異議申し立ての財務詳細を取得します。
	異議申し立ての財務の詳細を検索 (応答パーサー)	GetDisputeFinancialDetails API の応答を解析します。この API は、取得者または発行者のケースにおける異議申し立ての財務詳細を取得します。
ケース管理	手動ケース作成を送信 (要求ビルダー)	SubmitFraudReport の応答を解析します。この API を使用すると、ユーザーは、インターフェイス要素スプレッドシート (IES) に記載されている必要なすべての不正データを含む不正行為レポートを Visa Resolve Online (VROL) に送信できます。
	手動ケース作成を送信 (応答パーサー)	SubmitManualCaseCreation API の要求ペイロードを生成します。これにより、ユーザーはトランザクションなしでケースを作成できます。
	ケースの詳細を検索 (要求ビルダー)	GetCaseDetails の要求ペイロードを生成します。この API を使用すると、ユーザーは VisaCaseNumber と MemberRole を指定するときに、トランザクション情報、異議申し立て管轄、ケースタイプ、その他のケース関連フィールドなど、特定の VROL ケースの詳細を要求できます。応答で返される情報は、要求を行うユーザーのロール、およびケースが現在どのステージとステータスにあるかによって異なります。
	ケースの詳細を検索 (応答パーサー)	GetCaseDetails の応答を解析します。この API を使用すると、ユーザーは VisaCaseNumber と MemberRole を指定するときに、トランザクション情報、異議申し立て管轄、ケースタイプ、その他のケース関連フィールドなど、特定の VROL ケースの詳細を要求できます。応答で返される情報は、要求を行うユーザーのロール、およびケースが現在どのステージとス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		テータスにあるかによって異なります。
アンケート管理	承認通知の詳細を検索 (要求ビルダー)	GetAcceptanceNotificationDetails の要求ペイロードを生成します。この API は、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーに、承認されてクローズされた異議申し立てまたは異議申し立て応答の承認通知の詳細を取得する機能を提供します。
	承認通知の詳細を検索 (応答パーサー)	GetAcceptanceNotificationDetails の応答を解析します。この API は、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーに、承認されてクローズされた異議申し立てまたは異議申し立て応答の承認通知の詳細を取得する機能を提供します。
	異議申し立て詳細を検索 (要求ビルダー)	getDisputeDetails の要求ペイロードを生成します。発行者は、この API を使用して、異議申し立てのアンケートデータを画像形式および XML で返送するよう要求します。
	異議申し立ての詳細を検索 (応答パーサー)	getDisputeDetails の応答を解析します。発行者は、この API を使用して、異議申し立てのアンケートデータを画像形式および XML で返送するよう要求します。
	異議申し立て応答の詳細を検索 (要求ビルダー)	GetDisputePreArbResponseDetails の要求ペイロードを生成します。この API を使用すると、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーは、事前調停応答のアンケートデータを画像形式および XML で返送するよう要求できます。
	異議申し立て応答の詳細を検索 (応答パーサー)	GetDisputePreArbResponseDetails の要求ペイロードを生成します。この API を使用すると、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーは、事前調停応答のアンケートデータを画像形式および XML で返送するよう要求できます。
キュー管理	キュー要求ビルダーを検索	GetQueue API の要求ペイロードを生成します。この API は、受信コラボレーションキュー、却下された異議申し立

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		てフォームなど、異議申し立てのライフサイクル中に指定されたキューに関する情報を取得します。
	キューを検索 (応答パーサー)	GetQueue API の応答を解析します。この API は、受信コラボレーションキュー、却下された異議申し立てフォームなど、異議申し立てのライフサイクル中に指定されたキューに関する情報を取得します。
ケース届出管理	連絡先メッセージ詳細を検索 (要求ビルダー)	GetContactMessageDetails の要求ペイロードを生成します。この API は、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーに、連絡先メッセージのアンケートデータを画像形式と XML で返すように要求する機能を提供します。
	連絡先メッセージ詳細を検索 (応答パーサー)	GetContactMessageDetails の応答を解析します。この API は、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーに、連絡先メッセージのアンケートデータを画像形式と XML で返すように要求する機能を提供します。返される画像は TIFF または PDF 形式になります。異議申し立てを画像として取得するには、ユーザーが <IncludeDisputeAsImageInd>=true w と設定する必要があります。
	連絡先メッセージ応答詳細を検索 (要求ビルダー)	getContactMessageResponseDetails の要求ペイロードを生成します。このアクションにより、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーは、連絡先メッセージ応答の詳細を取得できます。
	連絡先メッセージ応答の詳細を検索 (応答パーサー)	getContactMessageResponseDetails の応答を解析します。このアクションにより、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーは、連絡先メッセージ応答の詳細を取得できます。
HyperSearch 要求管理	HyperSearch 要求ビルダー	HyperSearch の要求ペイロードを生成します。この API はケース一致パラメーターを受け

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		取り、見つかったすべてのケースに関する情報を返します。
	HyperSearch 応答パーサー	HyperSearch の応答を解析します。この API はケース一致パラメーターを受け取り、見つかったすべてのケースに関する情報を返します。
バッチキュー管理	バッチキュー要求ビルダーを検索	GetBatchQueue API の要求ペイロードを生成します。この API は、指定された RTSI バッチキューからトランザクションを取得します。
	バッチキューを検索 (応答パーサー)	GetBatchQueue API の応答を解析します。この API は、指定された RTSI バッチキューからトランザクションを取得します。
バッチキュー管理	バッチキュー要求ビルダーを検索	GetBatchQueue API の要求ペイロードを生成します。この API は、指定された RTSI バッチキューからトランザクションを取得します。
	バッチキューを検索 (応答パーサー)	GetBatchQueue API の応答を解析します。この API は、指定された RTSI バッチキューからトランザクションを取得します。
異議申し立て事前調停管理	異議申し立て事前調停応答の詳細を検索 (要求ビルダー)	GetDisputePreArbResponseDetails の応答を解析します。この API を使用すると、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーは、事前調停応答のアンケートデータを画像形式および XML で返送するよう要求できます。返される画像は TIFF または PDF 形式になります。異議申し立てを画像として取得するには、ユーザーが <IncludeDisputeAsImageInd>=true w と設定する必要があります。画像データは、SIGetDisputePreArbResponseDetailsRes の <Image> グループに返されます
	異議申し立て事前調停の詳細応答を検索 (応答パーサー)	GetDisputePreArbResponseDetails の要求ペイロードを生成します。この API を使用すると、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーは、事前調停応答のアンケート

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		データを画像形式および XML で返送するよう要求できます。
	異議申し立て事前調停の詳細を検索 (要求ビルダー)	GetDisputePreArbDetails API の要求ペイロードを生成します。事前調停のアンケートデータを画像形式および XML で返送するよう要求します。
	異議申し立て事前調停の詳細を検索 (応答パーサー)	GetDisputePreArbDetails API の応答を解析します。事前調停のアンケートデータを画像形式および XML で返送するよう要求します。
例外ファイルリスト管理	照会例外を検索 (要求ビルダー)	このアクションは、例外について照会する API の要求ペイロードをビルドします。
	照会例外を検索 (応答パーサー)	このアクションは、照会例外の検索 API を呼び出した後に、VROL システムによって返された応答本文を解析します。
	例外の詳細を検索 (要求ビルダー)	このアクションは、API getExceptionDetails の要求ペイロードをビルドします。
	例外の詳細を検索 (応答パーサー)	このアクションは、getExceptionDetails API を呼び出した後に、VROL システムによって返された応答本文を解析します。
	例外要求ビルダーを送信	submitException の要求ペイロードを生成します。発行者は submitExceptionRequest を使用して、新規または既存のケースの例外ファイルリストを追加、更新、または削除することができます。また、拒否された例外ファイルリストを修復するためにも使用されます。
	例外応答パーサーを送信	submitException の応答を解析します。発行者は submitExceptionRequest を使用して、新規または既存のケースの例外ファイルリストを追加、更新、または削除することができます。また、拒否された例外ファイルリストを修復するためにも使用されます。
雑費管理	雑費の詳細を検索 (要求ビルダー)	getMiscFeeDetails の要求ペイロードを生成します。GetMiscFeeDetailsRequest

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		を使用すると、クライアントは雑費の詳細を要求できます。
	雑費の詳細を検索 (応答パーサー)	getMiscFeeDetailsRequest の応答を解析します。GetMiscFeeDetailsRequest を使用すると、クライアントは雑費の詳細を要求できます。
	雑費を送信 (要求ビルダー)	SubmitMiscFee API の要求ペイロードを生成します。これにより、クライアントはデータを使用して雑費を要求できます。
	雑費を送信 (応答パーサー)	SubmitMiscFee API の応答を解析します。これにより、クライアントはデータを使用して雑費を要求できます。
不正行為監視プログラム管理	GMFP の詳細を検索 (要求ビルダー)	このアクションは、API GetGMFPDetails の要求ペイロードをビルドします。
	GMFP の詳細を検索 (応答パーサー)	このアクションは、GMFP の詳細 API を呼び出した後に、VROL システムによって返された応答本文を解析します。

- 機密でない情報を含むアクション - これらの Visa API を ServiceNow インスタンスから直接呼び出すことができます。

機密でない情報を含むアクション

カテゴリ	アクション	説明
異議申し立て財務管理	トランザクションまたはケースから異議申し立てを開始	ユーザーがトランザクションまたはケースから異議申し立てを開始できるようにします。
	異議申し立てステータスを変更	CardholderPurchaseInquiry の応答を解析します。この API は、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーに、トランザクションに関する追加のマーチャント情報を要求する機能を提供します。また、VisaNet 以外の取引の購入情報を取得する場合にも使用できます。
ケース管理	画像を検索	新しく作成されたケースに追加された画像を取得します。
	画像をアップロード	UploadImage は、ケースに画像を追加するために使用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	画像をダウンロードして添付	Visa ケース画像をダウンロードして ServiceNow レコードに添付します。
	ケース解決ステータスの更新	ユーザーがケースのケース解決ステータスを更新できるようにします。これにより、行われたステータス変更によっては、ケースがクローズする場合があります。
	トランザクションからケースを作成	発行者はこの API を使用して、トランザクション照会要求からケースを作成します。
アンケート管理	異議申し立てアンケートの送信	このアクションにより、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーは異議申し立てアンケートを送信または保存できます。
	不正行為バンドル異議申し立てアンケートステータスを検索	送信された不正行為バンドル異議申し立ての詳細を取得する機能をリアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーに提供します。
	不正行為バンドル異議申し立てアンケートを送信	リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーに、不正バンドル異議申し立てアンケートを送信または保存する機能を提供します。この要求には画像を含めることができます。
バッチキュー管理	バッチキューアイテムを既読としてマーク	トランザクションを読み取りとしてマークし、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) バッチキューから削除します。
キュー管理	GMFP を無視	発行者がキュー内の各 Visa 不正行為監視プログラム (VFMP) トランザクションを確認した後、GMFPItemID を使用して要求を送信することで、VFMP トランザクションのステータスを [無視] に変更できるようにします。
	雑費のクローズ	雑費トランザクションを削除する機能を提供します。
	メッセージを閉じる	投稿証明要求 (RPP) メッセージトランザクションを削除する機能を提供します。
	異議申し立てを受諾	異議申し立て責任を受け入れるか、相手側の決定を受け入

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		れて、異議申し立てトランザクションをキューから削除します。
トランザクション照会管理	トランザクションのクローズ	このアクションは、特定のトランザクションをクローズし、それぞれのキューから削除するために使用されます。
	関連トランザクションを選択	AssociatedTranSelection を使用すると、ユーザーは、グループ内の関連付けられたトランザクションの一部またはすべての関連付けを、ケース内の選択したトランザクションで確認または反論できます。
	関連トランザクションリストを検索	ユーザーが関連トランザクショングループ ID を指定して、関連トランザクションのリストを取得できるようにします。
	関連トランザクション選択を検索	ユーザーは、グループ内の関連付けられたトランザクションの一部またはすべての関連付けを、ケース内の選択したトランザクションで確認または反論できます。
異議申し立て事前調停管理	異議申し立て事前調停を作成	この API を使用して事前調停の作成を開始します。
	異議申し立て事前調停の応答を作成	リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーに事前調停に応答する機能を提供します。
ケース届出管理	連絡先メッセージ応答を送信	SubmitContactMessageResponse を使用すると、リアルタイムシステムインターフェイス (RTSI) ユーザーは連絡先メッセージへの応答を送信できます。
	異議申し立て届出を送信	異議申し立て要求、取り下げ、または要請を送信します。
レポート配布管理	レポート出力を検索	ユーザーが特定の実行日のレポートを CSV 形式で取得できるようにします。
	アクティブなスケジュールを検索	ユーザーが、ユーザーの組織のすべてのスケジュール済みレポート、またはユーザーが知りたい特定のレポートの詳細を取得できるようにします。
バッチキュー管理	バッチキューアイテムを既読としてマーク	トランザクションを読み取りとしてマークし、リアルタイ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		ムシステムインターフェイス (RTSI) バッチキューから削除します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定の詳細については、「Visa スポークのセットアップ」を参照してください。

Visa スポークのセットアップ

ベーシック認証を使用して ServiceNow インスタンスと Visa スポーク をデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Visa スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

クライアント証明書をインスタンスにアップロードする

クライアント証明書を ServiceNow インスタンスにアップロードして、接続と資格情報の作成を有効にします。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **LDAP**] > [証明書]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

X.509 証明書フォームのフィールド

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`Visa Client Certificate`
タイプ	**[PKCS12** キーストア] を選択します。
期限切れ時に通知	証明書の有効期限が切れたときに通知を受信するユーザーを定義します。
有効期限切れ前に警告	証明書の有効期限が切れる前に通知を送信する日数を入力します。
有効	有効化
数日中に期限切れ	証明書の有効期限が切れるまでの日数を入力します。
キーストアパスワード	証明書に関連付けられたパスワードを入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
簡単な説明	証明書のサマリーを入力します。

4. 添付ファイルアイコンをクリックし、クライアント証明書 (.p12) ファイルを添付します。
5. [ストア/証明書を検証] をクリックして、証明書が正しいかどうかを確認します。
   インスタンスで証明書またはキーストアに関するエラーが発生した場合は、エラーメッセージが表示されます。

信頼できるサーバー証明書をアップロードする

Visa Resolve Online (VROL) エンドポイントの証明書を生成し、TrustCertificate として ServiceNow インスタンスにアップロードします。信頼できるサーバー証明書をアップロードすることで、インスタンスが有効で安全なサービスに接続していることを確認できます。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
インスタンスは、サービスプロバイダーによって提供される証明書を使用して、送信 Web サービス呼び出しを検証します。

手順

1. 形式が **[PEM]** で、タイプが [信頼ストア証明書] の新しい証明書レコードを作成します。
2. 次のいずれかのアクションを実行します。
   - サービスプロバイダーの DER 形式の証明書を添付します。
   - サービスプロバイダーの PEM 形式の証明書を **[PEM** 証明書] フィールドにコピーして貼り付けます。

プロトコルプロファイルの作成

カスタム HTTPS プロトコルプロファイルを作成して、送信 Web サービスに使用する認証情報と証明書を指定できます。たとえば、相互認証を有効にするカスタム HTTPS プロトコルプロファイルを作成できます。

始める前に

- 必要なロール：admin
- クライアント証明書をインスタンスにアップロードするを行い、インスタンスのクライアント証明書を認証します。
- 信頼できるサーバー証明書をアップロードするを行い、Web サービスプロバイダーのサーバー証明書を認証します。

手順

1. [すべて] > [システムセキュリティ] > [プロトコルファイル]の順に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 必要に応じて、フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォームの名前

フィールド	説明
プロトコル	この HTTPS プロトコルを識別する一意の名前を入力します (`visahttps` など)。プロトコル名を使用すると、通常の HTTPS 接続と、このプロトコルプロファイルを使用する HTTPS 接続を区別できます。入力した名前は、URL のプロトコル名になります。 例：`visahttps://endpoint.service.com` **注:** 名前が HTTPS などの既存のプロトコル名と一致するカスタムプロトコルを作成することはできません。
キーストア	クライアント証明書のアップロード時に作成したキーストア証明書を選択します。 例：`Visa クライアント証明書`。
デフォルトポート	このプロトコルを使用する接続のポート番号を入力します。

基本認証サーバー認証情報の作成

ServiceNow インスタンスにアクセスするための認証情報を作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. [基本認証情報] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

基本認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	この認証情報のわかりやすい一意の名前を入力します。
ユーザー名	ユーザーを識別する名前。
パスワード	この認証情報を使用するためのパスワード。
アクティブ	この認証情報を使用できるようにするオプション。
順序	プラットフォームがデバイスへのログインを試行するときにこの認証情報を試行する順序 (シーケンス)。番号が小さいほど、この認証情報がリストの上位に表示されます。多くの認証情報を使用する場合、またはログイン試行が 3 回失敗してセキュリティによってユーザーがロックアウトされた場合、認証情報の順序を確立します。すべての認証情報の順序番号

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	が同じ (または順序番号がない) 場合、インスタンスは認証情報をランダムな順序で試行します。デフォルト値：`100`

5. [送信] を選択します。

Visa の接続および資格情報エイリアスの作成

Visa スポーク アカウント用の認証情報レコードを作成します。Visa スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [認証情報 **&** 接続] > [接続]に移動し、[新規] をクリックして **[HTTP(S)** 接続] を選択します。
2. 次の接続情報を追加して [送信] をクリックします。

フィールド	説明
名前	この HTTP(S) 接続の一意の名前。
認証情報	接続を許可するために使用する認証情報レコードを選択します。
接続エイリアス	この接続に関連付けるエイリアス レコードを選択します。エイリアスを使用すると、エイリアスを使用するアクションまたはアクティビティを再設定しなくても接続レコードを更新できます。
URL ビルダー	手動で接続 URL を入力するか、システムを使用して入力に基づいて URL を作成します。デフォルトはオフです。オンにすると、次のフィールドから接続 URL が計算されます。 ◦ [相互認証] - 相互認証を使用する場合はオンにします。 ◦ プロトコルプロファイル：作成したプロトコルを選択します。例：`visahttps`。 ◦ ホスト：Visa エンドポイントを入力します。例：`xxx.visa.com` ◦ ベースパス - 接続文字列のパス。 **注:** 相互認証をオンにした場合は、接続 URL が作成されます (プロトコル + :// + host:port +URL)。相互認証をオフにした場合は、接続 URL が作成されます (プロトコル プロファイル + :// + host:port +URL)。
接続 URL	URL ビルダーをオフにした場合は、このフィールドに接続 URL を入力します。 **注:** 相互認証をオンにした場合は、接続 URL が作成されます (プロトコル + :// + host:port +URL)。相互認証をオフにした場合は、接続 URL が作成されます (プロトコル プロファイル + :// + host:port +URL)。
アクティブ	この接続を有効にする場合にオンにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ドメイン	アクションまたはアクティビティが実行されるドメインを決定します。

3. [送信] をクリックします。
   これで、カスタム HTTP(S) アクションまたはアクティビティを作成する準備ができました。

Vonage スポーク

ServiceNow インスタンスから Vonage アカウントを使用して、通話、SMS、 WhatsApp による通信を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Vonage スポーク v1.1.4 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは、次の Vonage バージョン用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

- Message API バージョン v0.1
- Voice API バージョン v1

スポークの要件

- Vonage アカウントと Vonage API ダッシュボードへのアドミンアクセス。
- **API** キー と **API** シークレットの値を記録します。これらの値には、Vonage API ダッシュボードからアクセスできます。詳細については、 Vonage API Developer ドキュメントサイトの「認証」ページを参照してください。
- 署名シークレットの値を記録して保存します。この値には、Vonage API ダッシュボードの [アカウント設定 (Account Settings)] からアクセスできます。 詳細については、 Vonage API Developer ドキュメントサイトの「認証」ページを参照してください。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNowIntegrationHub アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Complex Object (com.glide.cobject)
- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのサブフロー

Vonage スポークでは、Vonage タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
Vonage SMS Webhook	Vonage からの SMS 要求を処理します。
Vonage 音声 Webhook	Vonage からの音声要求を処理します。
Vonage WhatsApp Webhook	Vonage からの WhatsApp 要求を処理します。

デフォルトのサブフローをカスタマイズするには、サンプルサブフローのコピーを作成し、要件に従ってサブフローをカスタマイズする必要があります。サブフローをカスタマイズするときは、サブフローが無限ループを回避するように構成されていることを確認する必要があります。

スポークのアクション

Vonage スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したとき、Vonage タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アカウント管理	アカウント残高を取得	Vonage アカウントの現在の残高を取得します。
コール管理	DTMF トーンをコールに再生	DTMF (デュアルトーンマルチ周波数) トーンをアクティブなコールに再生します。
	記録を ServiceNow レコードに添付	通話記録をターゲット ServiceNow レコードに添付します。
	発信コールを作成	電話番号への発信コールを作成します。
	NCCO を生成	発信コールの作成アクションで使用される Nexmo Call Control Object (NCCO) をビルドします。
	コールの詳細を取得	指定されたコールの詳細を取得します。
	コールを検索	指定されたコールの詳細を取得します。
	オーディオをコールに再生	アクティブなコールにオーディオファイルを再生します。
	テキスト読み上げをコールに再生	アクティブなコールにテキスト読み上げを再生します。
	コールへのオーディオ再生を停止	アクティブなコールへのオーディオファイルの再生を停止します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	コールへのテキスト読み上げを停止	アクティブなコールへのテキスト読み上げを停止します。
	コールを更新	アクティブなコールのステータスを更新します。
番号管理	自分の番号を検索	Vonage アカウントに関連付けられているすべての受信番号を取得します。
SMS 管理	SMS 送信	SMS (ショートメッセージサービス) を電話番号に送信します。
WhatsApp 管理	連絡先を送信	連絡先を WhatsApp 番号に送信します。
	場所を送信	場所の地理座標を WhatsApp 番号に送信します。
	メディアメッセージを送信	メディアメッセージを WhatsApp 番号に送信します。
	テキストメッセージを送信	テキストメッセージを WhatsApp 番号に送信します。
	テンプレートを使用してテキストメッセージを送信	テンプレートを使用してテキストメッセージを WhatsApp 番号に送信します。

スポークモジュール

双方向 Webhook をセットアップして、必須イベントに関する通知を受けることができます。ルーティングポリシーでは、 ServiceNow インスタンスに通知するために満たすべき条件が定義されます。これらの条件は、通知を希望するVonageのイベントに基づいています。条件が満たされると、ルーティングポリシーが関連するサブフローをトリガーし、Vonage タスクを自動化します。デフォルトでは、 Vonage スポークアプリケーションが利用可能で、次のモジュールがあります。

- Vonage Webhook レジストリ
- Vonage Webhook ルーティングポリシー

Vonage Webhook レジストリモジュールを使用してトークンを割り当て、API パスを指定します。コールバック URL を生成し、この URL を Vonage アカウントに入力する必要があります。デフォルトのルーティングポリシーは、Vonage WebHook ルーティングポリシーモジュールで参照として提供されます。これらのルーティングポリシーを要件に応じてカスタマイズします。ルーティングポリシーは、次のフィールドをサポートしています。

- キーワード
- コール方向
- コールのステータス
- イベントタイプ
- 送信元
- SMS ステータス
- SMS テキスト
- 宛先
- WhatsApp メッセージステータス
- WhatsApp 1 行テキスト
- 関連フィールドを表示

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

Vonage スポークで使用できる 2 つの接続および資格情報エイリアス：

Vonage エイリアス	説明
VonagePrimary	SMS、番号、およびアカウントを管理するアクションに必須です。
Vonage	コールおよび WhatsApp を管理するアクションに必須です。

スポークの設定については、「 Vonage スポークの設定。

Vonage スポークの設定

ServiceNow インスタンスを Vonage インスタンスと統合して、それらの間の通信を有効にします。この統合により、ServiceNow インスタンスは Vonage インスタンスに対するアクションを自動化できると同時に、Vonage インスタンスはペイロードを ServiceNow インスタンスに送信できます。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- ServiceNow インスタンスの Vonage スポークプラグインをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin
- Vonage 開発者インスタンスアカウント。

Vonage 開発者インスタンスの構成

API キー、シークレット、署名シークレットなどの重要な認証情報を生成して、Vonage 開発者インスタンスを設定します。ServiceNow インスタンスは、接続レコードでこれらの認証情報を使用して Vonage 開発者インスタンスに接続します。

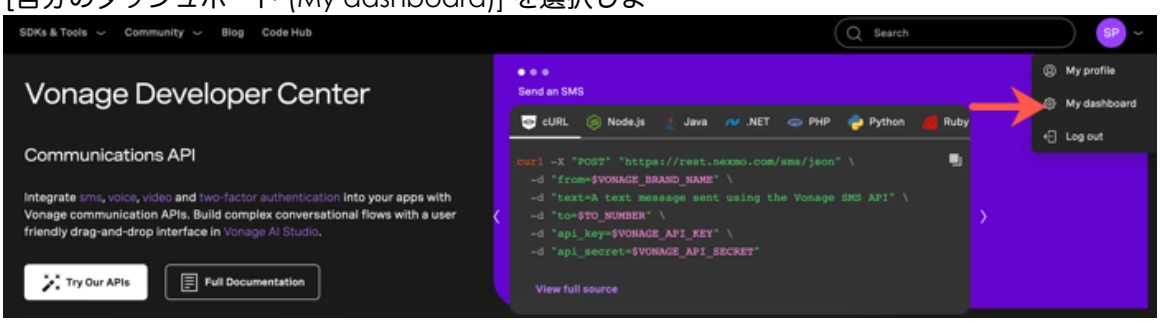
始める前に

必要なロール：admin

Vonage 開発者アカウントにアクセスします。

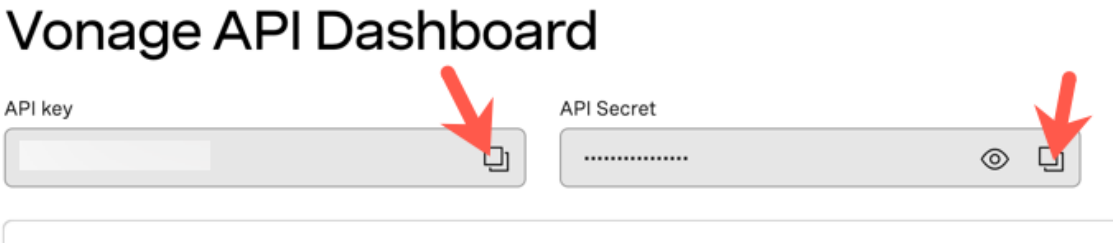
手順

1. https://developer.vonage.com/en/home にログインします。
2. Vonage[開発者センター (Developer Center)] ページで、[自分のダッシュボード (My dashboard)] を選択します。



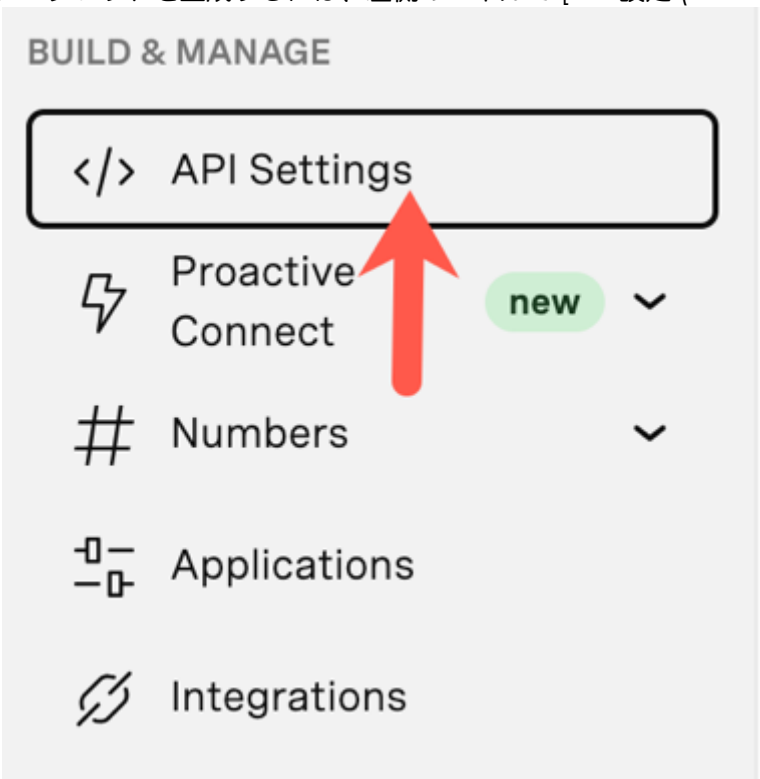
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [Vonage API ダッシュボード (Vonage API Dashboard)] ページで、デフォルトの API キーと API シークレットを使用するか、またはカスタム API キーと API シークレットを作成します。
   a. デフォルトの API キーと API シークレットを使用するには、デフォルトの API キーと API シークレットの値をコピーしま



す。

   b. カスタム API キーと API シークレットを生成するには、左側のパネルで [API 設定 (API Settings)] を選択します。



   c. [追加の **API** キーを要求する **(Request more API keys)]** を選択します。
   d. フォームに入力して送信します。
   e. [シークレットを新規作成 **(Create new secret)]** を選択します。
   f. [シークレットの新規追加 (Add a new secret)] ウィンドウで、カスタムシークレットを入力します。
   g. [保存] を選択します。
4. [署名シークレット (Signature secret)] フィールドから、署名シークレットをコピーします。

Vonage 接続および資格情報エイリアスに対する接続レコードを構成する

ServiceNow インスタンスが Vonage インスタンスに接続し、Vonage インスタンスに対するさまざまなアクションを自動化できるようにする接続レコードを構成します。たとえば、Vonage 口座の残高を取得する フローデザイナー のフローを作成します。

始める前に

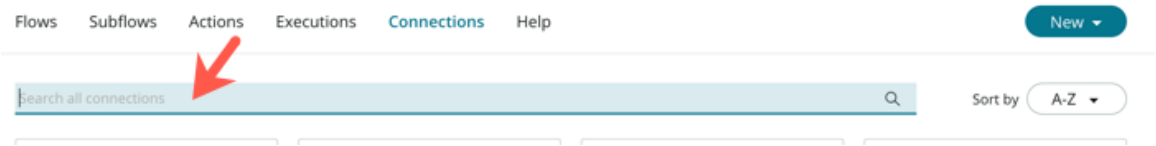
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: [Vonage スポーク] スコープ内にいることを確認します。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] を選択します。
3. [すべての接続を検索] フィールドに「`Vonage`」と入力しま



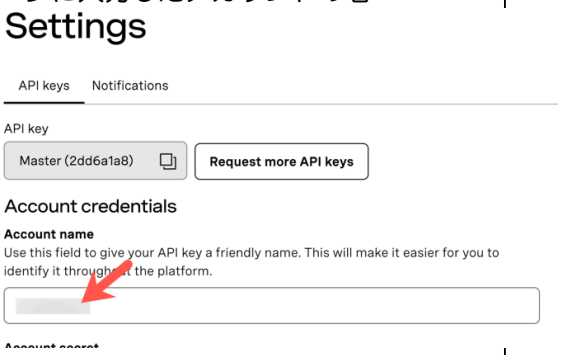
す。

4. Vonage カードで、[詳細を表示] を選択します。
5. [設定] を選択します。
6. フォームに入力します。

接続を作成

フィールド	説明
接続名	接続レコードのデフォルトの読み取り専用名です。接続レコードにカスタム名を付けるには、[接続を追加] を選択し、接続レコードを作成します。
接続 URL	Vonage API に接続するための URL。
Message API バージョン	接続レコードが Vonage インスタンスの SMS 機能の使用を要求する API のバージョン。
Voice API バージョン	接続レコードが Vonage インスタンスの Voice 機能の使用を要求する API のバージョン。
認証情報名	認証情報レコードの名前。更新可能な Vonage 認証情報のデフォルト名。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アプリケーション名	Vonage 開発者アカウントの [設定] ページに入力したアカウントの名前。 
API キー	Vonage 開発者インスタンスで取得した API キー。
API シークレット	Vonage 開発者インスタンスで取得した API シークレット。
署名シークレット	Vonage 開発者インスタンスで取得した署名シークレットキー。

7. [接続を作成] を選択します。

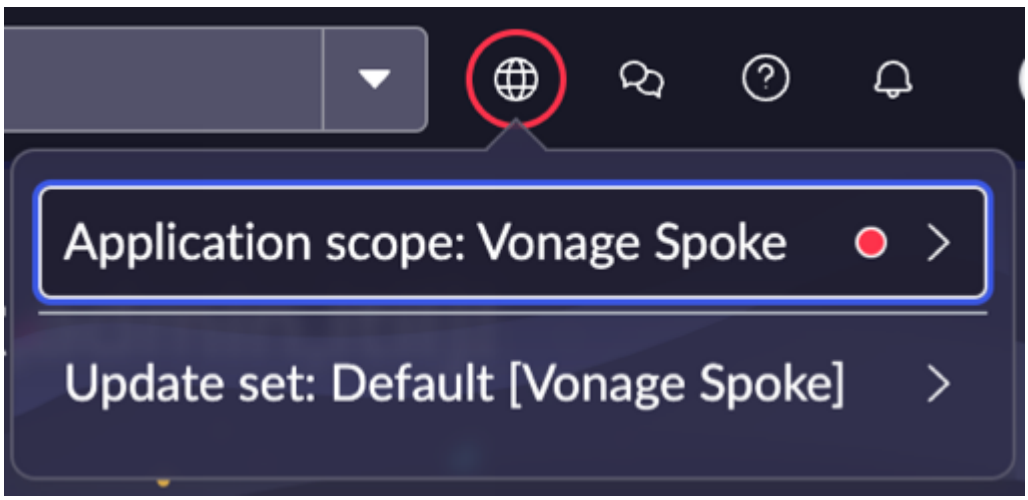
Vonage プライマリエイリアスに対する接続レコードを構成する

ServiceNow インスタンスが Vonage インスタンスに接続し、Vonage インスタンスに対するさまざまなアクションを自動化できるようにする接続レコードを構成します。たとえば、Vonage 口座の残高を取得する フローデザイナー のフローを作成します。

始める前に

必要なロール：admin

注: **[Vonage** スポーク] スコープ内にいることを確認します。

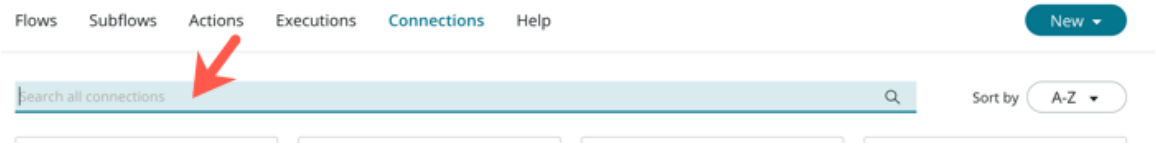


手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [すべての接続を検索] フィールドに「`Vonage`」と入力します。



4. VonagePrimary カードで、[詳細を表示] を選択します。
5. [設定] を選択します。
6. フォームに入力します。

接続を作成

フィールド	説明
接続名	接続レコードのデフォルトの読み取り専用名です。接続レコードにカスタム名を付けるには、[接続を追加] を選択し、接続レコードを作成します。
接続 URL	Vonage API に接続するための URL。「https://rest.nexmo.com」を入力します。
API キー	Vonage 開発者インスタンスで取得した API キー。
API シークレット	Vonage 開発者インスタンスで取得した API シークレット。

7. [接続を作成] を選択します。

Vonage からデータを受信する Webhook を作成する

SMS 用の Webhook を設定して、Vonage API プラットフォームが ServiceNow インスタンスにデータを送信できるようにします。たとえば、ServiceNow インスタンスのフローが呼び出しの詳細の API 要求を Vonage API に送信したにもかかわらず、その要求が最初に失敗した場合、Webhook は Vonage API が後でデータを送信するようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Vonage** スポーク] > **[Vonage Webhook** レジストリ]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォーム上で、以下のフィールドに記入します。

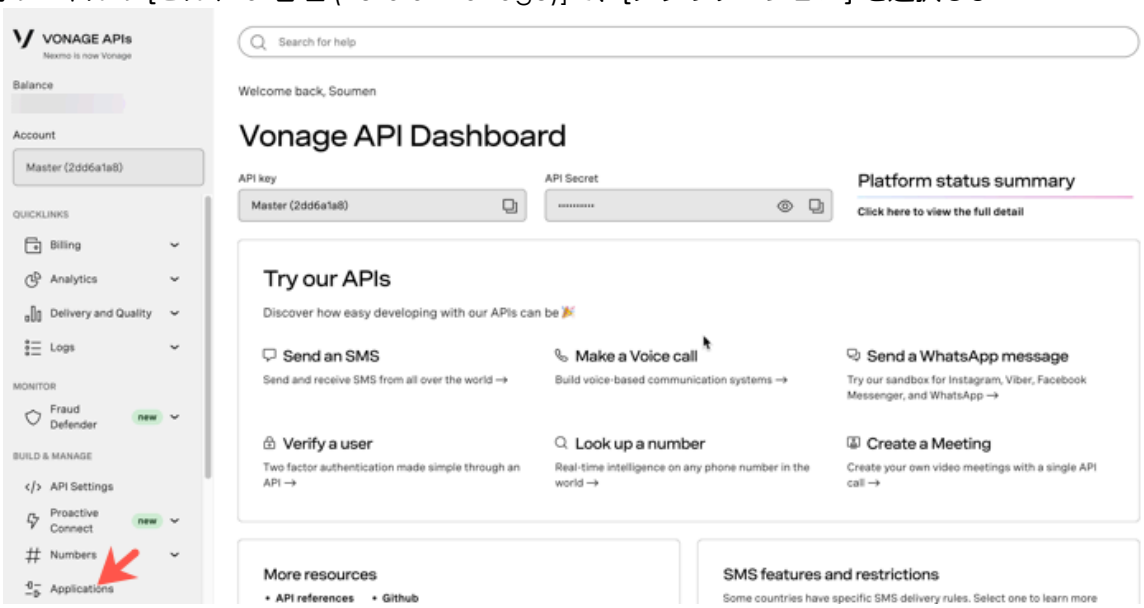
Vonage Webhook レジストリフォーム

フィールド	説明
名前	Webhook レコードを一意に識別する名前を入力します。
説明	Webhook レコードの説明を入力します。
イベントタイプ	Webhook が設定されているイベントのタイプを入力します。**[SMS]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

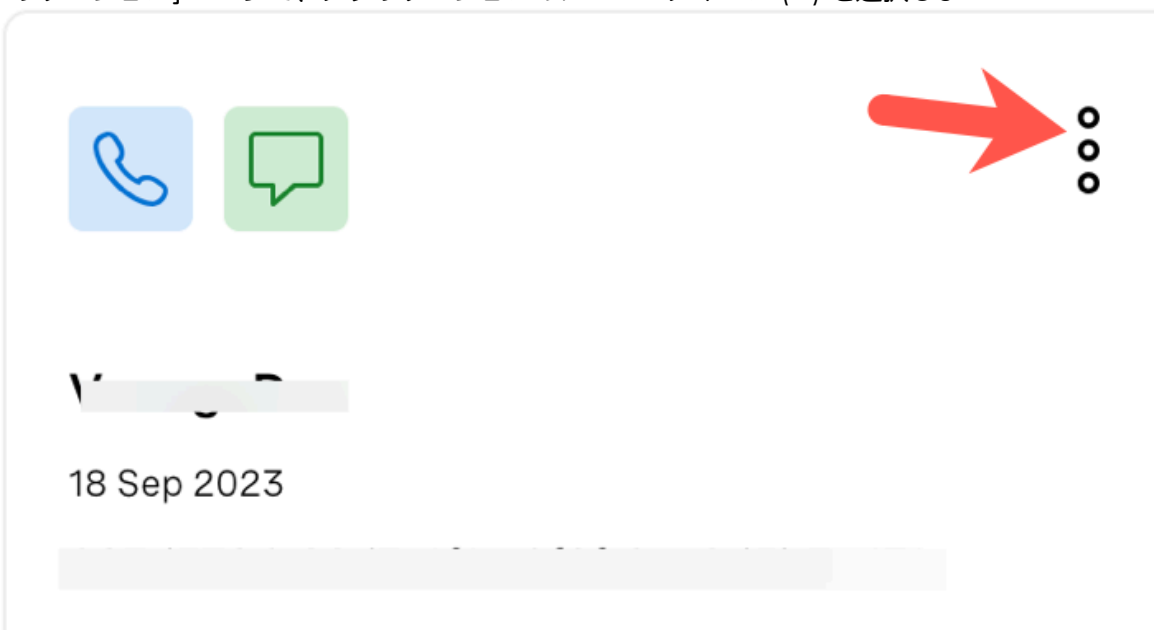
フィールド	説明
秘密キー	Webhook 要求を認証するための秘密キーを入力します。カスタムの秘密キーを入力します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。
5. [コールバック **URL**] を選択します。
   Webhook コールバック URL が表示されます。
6. Webhook コールバック URL をコピーして記録します。
7. https://developer.vonage.com/en/home にログインします。
8. 左側のパネルの [ビルド & 管理 (Build & Manage)]で、[アプリケーション] を選択しま



す。

9. [アプリケーション] ページで、アプリケーションのメニューアイコン (⋮) を選択しま

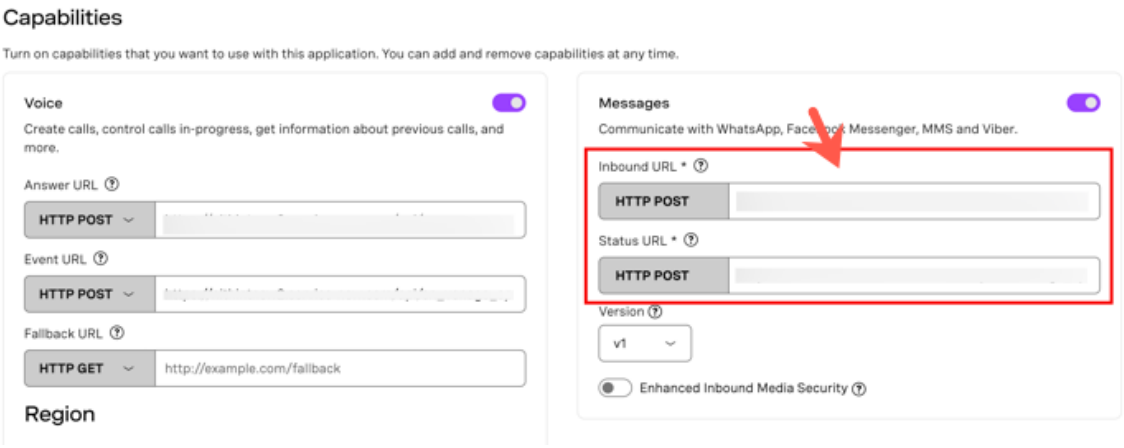


す。

10. [編集] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

11. [メッセージ] 見出しの下で、[受信 URL] フィールドと [ステータス URL] フィールドにコールバック URL を入力します。



12. 左側のパネルで、[API 設定 (API Settings)] を選択します。
13. [設定] ページの [SMS 設定] 見出しで、**[SMS API]** が選択されていることを確認します。
14. 値を入力します。

フィールド	値
配送受領書 (DLR) Webhook (Delivery receipts (DLR) webhooks)	Webhook コールバック URL
受信 SMS Webhook (Inbound SMS webhooks)	Webhook コールバック URL

15. [変更内容を保存] を選択します。
アプリケーションの SMS 設定が保存されます。

Webhook とルーティングポリシーをカスタマイズする

要件に応じて、Webhook ルーティングポリシーとサブフローをカスタマイズします。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [フローデザイナー] > [デザイナー] に移動します
2. [サブフロー] をクリックします。
3. 必要なデフォルトのサブフローのコピーを作成します。
4. 要件に応じてサブフローをカスタマイズし、公開します。
サブフローを作成および使用する方法の詳細については「サブフローのビルド」を、またデフォルトのルーティングポリシーおよびサブフローがサポートするフィールドについては、「Vonage スポーク」を参照してください。
5. **[Vonage** スポーク] > **[Vonage Webhook** ルーティングポリシー]に移動します。
6. [新規] をクリックします。
7. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

意思決定フォーム

フィールド	説明
ラベル	ルーティングポリシーを識別する一意のラベルです。
デフォルトの回答	この回答がデフォルトの回答かどうかを指定するオプションです。デフォルトの回答は、条件が満たされない場合に適用されます。 **a.** [ルックアップ] アイコン ( ) をクリックします。 **b.** ドキュメントリストから必要なサブフローを選択します。 注: [テーブル名] がフロー `[sys_hub_flow]` であることを確認します。
条件	Vonage で必要なイベントが発生したときに満たされる条件。サポートされている Vonage フィールドは次のとおりです。 ◦ キーワード ◦ コール方向 ◦ コールのステータス ◦ イベントタイプ ◦ 送信元 ◦ SMS ステータス ◦ SMS テキスト ◦ 宛先 ◦ WhatsApp メッセージステータス ◦ WhatsApp 1 行テキスト ◦ 関連フィールドを表示
回答	指定された条件が満たされるとトリガーされるサブフローです。

8. [送信] をクリックします。

注: これらのルーティングポリシーは意思決定テーブルに保存されます。ユーザーは、これらのテーブルのデータを直接更新または変更しないように注意してください。

Workday Financials スポーク

Workday Financials スポークは、Bristlecone, Inc. によってビルドされています。ServiceNow インスタンスから Workday Financials アプリケーションで、リソース、事業部門、ジャーナル、コストセンターなどを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークバージョン

Workday Financials スポーク v2.0.2 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Workday Financials SOAP API バージョン v33.2 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

データ連携を設定するには、次を実行します。

1. データ連携システムユーザーを登録します。

   注: アカウント情報の詳細を入力するときは、必ず **[UI** セッションを許可しない] チェックボックスをオンにしてください。

2. セキュリティグループを作成し、データ連携システムユーザーに割り当てます。
   a. [アクション] で、[セキュリティグループ] > [セキュリティグループのドメイン権限を維持] に移動し、次の権限を指定します。

ドメインセキュリティ方針の権限

運用	ドメインセキュリティ方針	ドメインセキュリティ方針の継承権限	機能エリア
取得のみ	設定：作業タグ - 事業部門		一般的な財務管理作業タグ
取得のみ	設定：元帳と帳簿		一般的な財務管理
取得して配置	プロセス：ジャーナル - コア		財務会計
取得のみ	プロセス：ジャーナル - ビュー		財務会計
取得して配置	プロセス：発注書 - キャンセル		調達
取得のみ	プロセス：事前出荷通知 - ビュー		調達
取得のみ	プロセス：サプライヤー請求書 - 新規		サプライヤーアカウント
取得のみ	プロセス：見積もりの要求 - ビュー		調達
取得のみ	設定：アカウント		一般的な財務管理
取得のみ	作成：コストセンター		組織とロール
取得のみ	セットアップ：通貨レート		一般的な財務管理
取得のみ	設定：通貨（報酬機能エリア）		コア報酬
取得のみ	データ連携ビルド		データ連携

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

運用	ドメインセキュリティ方針	ドメインセキュリティ方針の継承権限	機能エリア
取得のみ	プロセス：ビジネス資産		ビジネス資産トラッキング
取得のみ	設定：経費アイテム		経費
取得のみ	設定：購入アイテム		調達
取得のみ	レポート：サプライヤー		サプライヤー
表示のみ	プロセス：発注書 - レポート		調達
取得して配置	データ連携イベント		データ連携
表示のみ	データ連携のセキュリティ		データ連携

注: セキュリティグループに対してドメインセキュリティ方針がアクティブ化されていることを確認します。

b. セキュリティグループのビジネスプロセス方針を設定し、次の権限を付与します。

ビジネスプロセスのセキュリティ方針権限

運用	ビジネスプロセスのタイプ	機能エリア
開始（資産の登録（Web サービス））	資産登録イベント	▪ ビジネス資産会計 ▪ ビジネス資産トラッキング
開始 (発注書変更指示の送信 (Web サービス))	順序変更	調達
開始 (発注書 (PO) の送信 (Web サービス))	発注書イベント	調達
開始 (受領書の送信 (Web サービス))	受領書	調達
開始 (サプライヤーの送信 (Web サービス))	サプライヤーイベント	サプライヤー
開始 (サプライヤー請求書の送信 (Web サービス))	サプライヤー請求書イベント	サプライヤーアカウント

注: セキュリティグループに対してビジネスプロセスセキュリティ方針がアクティブ化されていることを確認します。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - SOAP (com.glide.hub.action_step.soap)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - Dynamic Inputs (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow フローデザイナー - Dynamic Outputs (com.glide.hub.dynamic_outputs)
- Complex Object (com.glide.cobject)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

認証

Workday は、オンデマンドのビジネス管理サービスにプログラムでアクセスするためのオープン SOAP API を提供します。Workday SOAP API にはベーシック認証が必要です。つまり、ユーザー名とパスワードは必須です。

注: このスポークでは接続および資格情報エイリアスを設定する必要はありません。

スポークのサブフロー

Workday Financials スポークでは、 Workday Financials タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
PO の作成	発注書テーブルに発注書レコードを作成します。サブフローを使用する方法については、「Workday Financials スポーク用 Webhook の設定」を参照してください。
サプライヤー請求書の詳細を取得	指定されたサプライヤー請求書の詳細を取得します。

スポークのアクション

Workday Financials スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ファイナンシャルマネジメント	ID でアカウントセットを取得	指定されたアカウントセットの詳細を取得します。
	ID で事業部門を取得	指定された事業部門の詳細を取得します。
	ID でコストセンターを取得	指定されたコストセンターの詳細を取得します。
	ID で元帳を取得	指定された元帳レコードの詳細を取得します。
	アカウントセットを検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求されたアカウントセットの詳細を取得します。
	事業部門を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求された事業部門の詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	コストセンターを検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求されたコストセンターの詳細を取得します。
	FX レートを検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求された FX レートの詳細を取得します。
ジャーナルエントリー管理	会計ジャーナルを作成	会計ジャーナルを作成します。
	ジャーナルを検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求されたジャーナルレコードの詳細を取得します。
	会計ジャーナルを転記	会計ジャーナルレコードを転記します。
	会計ジャーナルを取り消す	指定した会計ジャーナルを取り消します。
メタデータの取得	Workday Finance のその他のフィールドを取得	各アクションの追加フィールドを取得します。
	参照 ID リストを取得	指定された参照タイプに基づいて参照 ID の値を取得します。
	アクセストークンを取得	OAuth 2.0 を使用して SOAP ベースのアクションを認証するためのアクセストークンを取得します。
リソース管理	発注書をキャンセル	指定された発注書をキャンセルします。
	固定資産シェルを作成	固定資産シェルを作成します。
	サプライヤーを作成	指定された詳細でサプライヤーを作成します。
	サプライヤー請求書を作成	指定された詳細でサプライヤー請求書を作成します。
	番号で事前出荷通知を取得	指定された事前出荷通知の詳細を取得します。
	ID でサプライヤーを取得	指定されたサプライヤーの詳細を取得します。
	ID でサプライヤー請求書を取得	指定されたサプライヤー請求書の詳細を取得します。
	事前出荷通知を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求された事前出荷通知の詳細を取得します。
	経費アイテムを検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求された経費アイテムの詳細を取得します。
	固定資産の詳細を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求された固定資産の詳細を取得します。
	購入アイテムを検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求された購入アイテムの詳細を取得します。
	見積もり要求を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求された見積もり要求の詳細を取得します。
	サプライヤー請求書を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求されたサプライヤー請求書の詳細を取得します。
	サプライヤーを検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求されたサプライヤーの詳細を取得します。
	発注書を送信	指定された発注書を送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	発注書変更指示を送信	指定された発注書 (PO) に関連する変更指示を送信します。
	受領書を送信	指定された受領書を送信します。

スポークモジュール

Workday Financials スポークは、Workday 経理アプリケーションをインスタンスに追加し、これらのモジュールを含みます。

モジュール	説明
接続の詳細	Workday インスタンスまたはテナントのベース URL と API バージョンに関する情報が含まれています。
事業部門の取得	事業部門に関する情報を表示します。アドミニストレーターは、要件に従ってサンプルリモートテーブルを設定する必要があります。
発注書	Workday アプリケーションで発注書 (PO) が作成されるたびに、発注書 (PO) に関する情報を表示します。この情報を ServiceNow インスタンスに取得する方法については、「Workday Financials スポーク用 Webhook の設定」を参照してください。
Webhook レジストリ	Webhook レジストリのレコードが含まれています。アドミニストレーターは、必須の Workday イベントのレコードをここ Workday Financials スポーク用 Webhook の設定 に作成する必要があります。

「スポークの設定については、「 Workday Financials スポークの設定」および「Workday Financials スポーク用 Webhook の設定」。

Workday Financials スポークの設定

WS-Security ユーザー名プロファイルを使用して ServiceNow インスタンスと Workday インスタンスを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Workday Financials スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

Workday Financials ベース URL を指定する

Workday Financials インスタンスのベース URL を接続の詳細 [connection_details] テーブルに指定します。SOAP API に基づくスポークアクションでは、これらの詳細をアクションの実行に使用します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [テーブル]に移動します。
2. [接続の詳細] テーブルをフィルタリングして検索します。
3. [リストを表示] 関連リストをクリックします。
4. [新規] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. フォームに、これらの値を入力します。

[接続の詳細] フォーム

フィールド	説明
ベース URL	Workday インスタンスのベース URL またはテナント名を入力します。
バージョン	API のバージョンを入力します。例： `v33.2`。

6. [保存] をクリックします。

Workday Financials スポークの WS-Security ユーザー名プロファイルを作成する

WS-Security ユーザー名プロファイルを作成して、ServiceNow からの要求を認証するための Workday 認証情報を提供します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > **[SOAP 統合]** > **[WS-Security ユーザー名プロファイル]**に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	認証情報を一意に識別する名前。たとえば、「`WorkdayFinancials ユーザー`」と入力します。
アプリケーション	レコードが適用可能なアプリケーション。**[Workday Financials スポーク]** を選択します。
ユーザー名	Workday Web サービスを使用するデータ連携の権限を持つ Workday ユーザー。
パスワード	Workday ユーザーのパスワード。

4. [保存] をクリックします。

Workday Financials スポークの SOAP セキュリティ方針を構成する

ServiceNow からの要求を認証するために作成したセキュリティユーザー名プロファイルを追加して、SOAP セキュリティプロファイルを設定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > **[SOAP 統合]** > **[SOAP セキュリティ方針]**に移動します。
2. レコード **WorkdayFinancials** を開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. **[WS-Security** ユーザー名プロファイル] で、 Workday Financials スポーク用に作成したセキュリティユーザー名プロファイルを選択します。
詳細については、「Workday Financials スポークの WS-Security ユーザー名プロファイルを作成する」を参照してください。
4. **WS-Security X.509** プロファイルには値を指定しないでください。
5. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

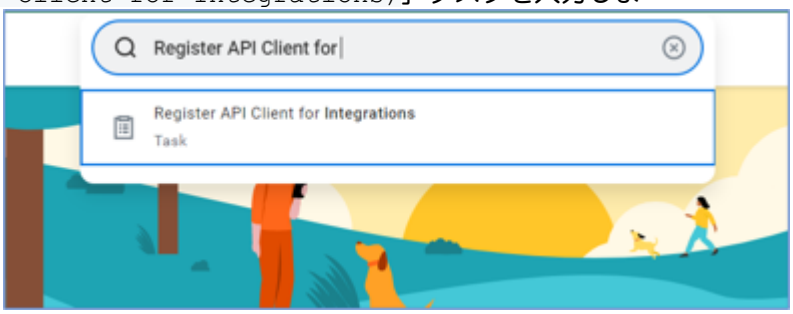
Workday Financials スポークのクライアント **ID** とクライアントシークレットの生成

Workday Financial スポーク を API クライアントとして Workday アカウントに登録し、クライアント ID、クライアントシークレットを生成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

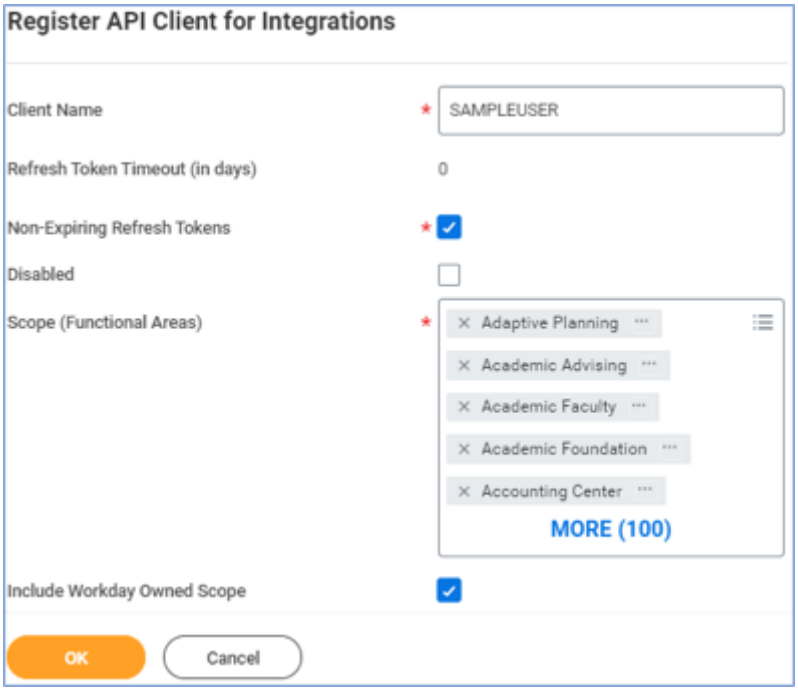
1. Workday テナントにログインします。
2. [検索] に移動し、「統合用 `API` クライアントの登録 `(Register API Client for Integrations)`」タスクを入力します。

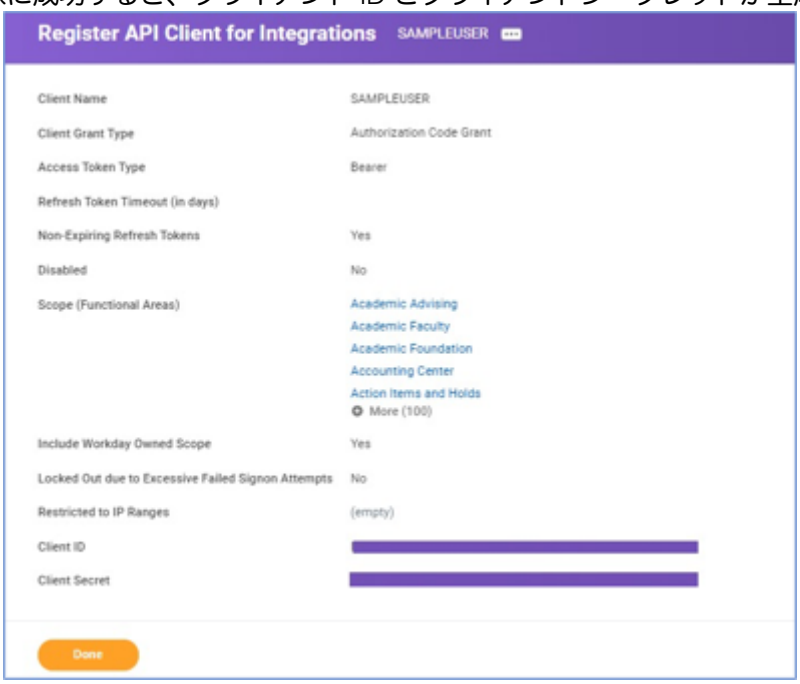


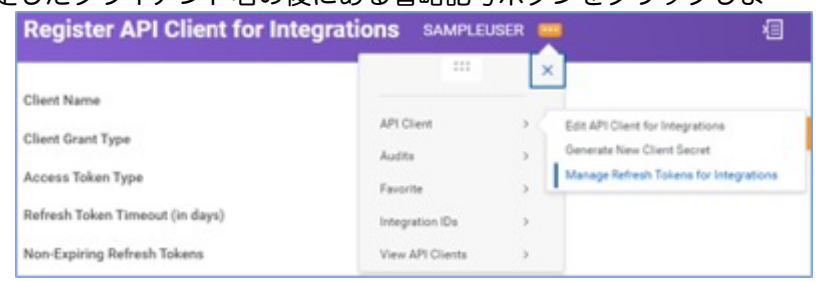
3. [統合用 API クライアントの登録 (Register API Client for Integrations)] フォームで、詳細を入力します。

フィールド	説明
クライアント名	アプリのクライアント名です。たとえば、「`Workday Financials スポーク`」と入力します。
期限切れがないリフレッシュトークン	期限切れがないリフレッシュトークンを有効にするオプションです。
スコープ (機能エリア)	必要な機能エリアを選択します。
Workday 所有スコープを含める	Workday 所有スコープを選択するオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



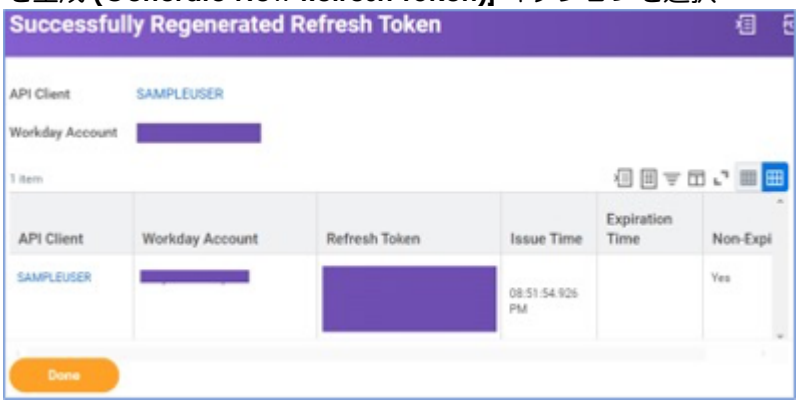
4. **[OK]** をクリックします。
   登録に成功すると、クライアント ID とクライアントシークレットが生成されま
   

   す。
5. 指定したクライアント名の後にある省略記号ボタンをクリックしま
   

   す。
6. **[API** クライアント] > [統合用リフレッシュトークンの管理 **(Manage Refresh Tokens for Integrations)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. Workday アカウントを選択し、**[OK]** をクリックします。
   リフレッシュトークンを削除または再生成する画面が表示されます。
8. [新しいリフレッシュトークンを生成 **(Generate New Refresh Token)]** オプションを選択し、**[OK]** をクリックします。



タスクの結果
新しいリフレッシュトークンが生成されました。システムプロパティを構成するために、リフレッシュトークンはコピーして保存してください。

Workday Financials スポークのトークン URL を生成する

Workday アカウントに API クライアントを登録し、Workday Financials スポークのトークン URL を生成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. Workday テナントにログインします。
2. [検索] に移動し、`[API クライアントの登録 (Register API Client)]` タスクを入力します。
3. [API クライアントの登録 (Register API Client)] で、詳細を入力します。

フィールド	説明
クライアント名	アプリのクライアント名です。たとえば、「`Workday Financials スポーク`」です。
クライアント権限許可タイプ	認証コード権限を選択します。
アクセストークンタイプ	アクセストークンタイプ： [ベアラー (Bearer)] を選択します。
リダイレクト URI	ServiceNow URL は、`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` 形式で入力します。
期限切れがないリフレッシュトークン	期限切れがないリフレッシュトークンを有効にするオプションです。
スコープ (機能エリア)	必要な機能エリアを選択します。
Workday 所有スコープを含める	Workday 所有スコープを選択するオプションです。

4. **[OK]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
システムプロパティを構成するために、生成されたトークンエンドポイント値はコピーして保存してください。

Workday Financials スポークのシステムプロパティの構成

システムプロパティを構成し、Workday Financials スポーク用の SOAP API に基づくアクションの OAuth を有効にします。

始める前に

- Workday Financials スポークのクライアント ID とクライアントシークレットの生成
- Workday Financials スポークのトークン URL を生成する
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システムのプロパティ] > [すべてのプロパティ]に移動します。
2. [アプリケーション] 列で、`[Workday Financials スポーク]` を検索します。
3. *sn_workdayfin_spke.glide.hub.clientid* システムプロパティを開きます。
4. Workday アカウントから生成されたクライアント ID を [値] フィールドに入力し、[更新] をクリックします。
5. *sn_workdayfin_spke.glide.hub.clientsecret* システムプロパティを開きます。
6. Workday アカウントから生成されたクライアントシークレットを [値] フィールドに入力し、[更新] をクリックします。
7. *sn_workdayfin.glide.hub.refreshtoken* システムプロパティを開きます。
8. Workday アカウントから生成されたリフレッシュトークンを [値] フィールドに入力し、[更新] をクリックします。
9. *sn_workdayfin_spke.glide.hub.tokenurl* システムプロパティを開きます。
10. Workday アカウントから生成されたトークン URL を [値] フィールドに入力し、[更新] をクリックします。

タスクの結果
必要なシステムプロパティが Workday Financials スポークに構成されました。

Workday Financials スポーク用 Webhook の設定

イベントが発生したときに Workday Financials アプリケーションから ServiceNow インスタンスにデータを取得するように Webhook を設定します。

始める前に

- Workday Financials スポークの設定
- 必要なロール：admin

ServiceNow インスタンスでユーザー名とパスワードを生成する

要求を認証し、Workday アプリケーションから必要なデータを取得するために、ServiceNow インスタンスでユーザー名とパスワードを生成します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [テーブル]に移動します。
2. Workday Financials スポーク Webhook レジストリテーブルをフィルタリングして検索します (例：**Workday Financials Webhook** レジストリ)。
3. [リストを表示] 関連リストをクリックします。
4. [新規] をクリックします。
5. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
説明	Webhook レジストリレコードの説明。「`CreatePO の Workday イベントと認証`」と入力します。
UserName	Workday Web サービスを使用するデータ連携の権限を持つ Workday ユーザー。
パスワード	Workday ユーザーのパスワード。
Workday イベント	Webhook が設定されているイベント。「`CreatePO`」と入力します。
Workday インスタンス	Workday インスタンスのベース URL またはテナント名。

6. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
7. [ユーザー名とパスワードを生成] をクリックします。
   ユーザー名とパスワードの値をコピーして記録します。これらの値は、Webhook 要求を認証するために Workday インスタンスで指定する必要があります。

ServiceNow インスタンスからリソースパスを取得する

後で要求を認証し、Workday アプリケーションから必要なデータを取得するために、ServiceNow インスタンスからリソースパスを取得します

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **Web** サービス] > [スクリプト **Web** サービス] > [スクリプト利用 **REST API**]に移動します。
2. Workday FinancialsSpoke のレコードを開きます。
3. [リソース **]** タブで、[コールバック] レコードをクリックします。
4. 後で使用するために、リソースパス の値を記録して保存します。

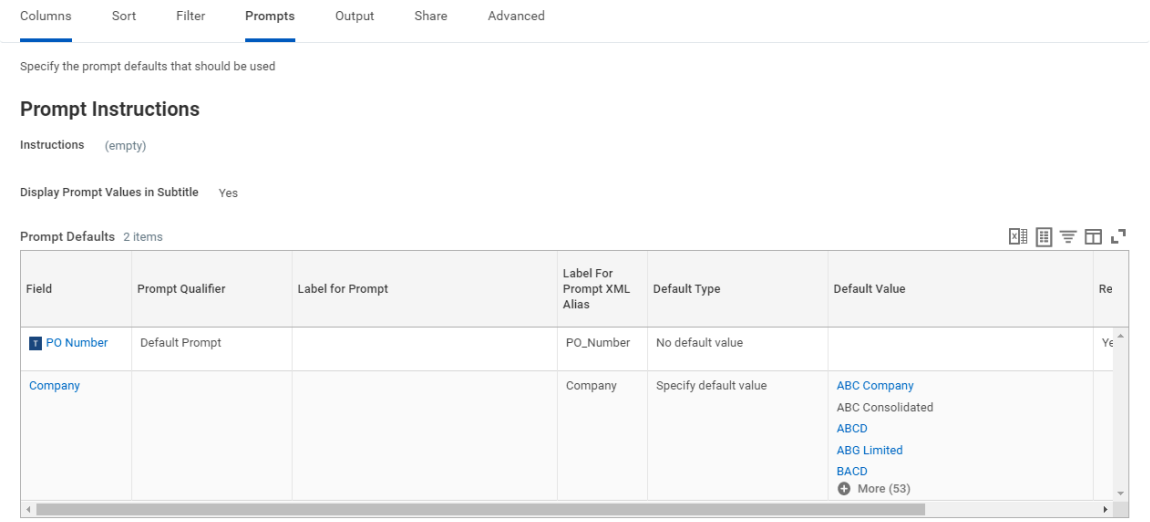
CLAR ファイルを **Workday** インスタンスにインポートする

ServiceNow Store で入手可能な CLAR ファイルをインポートして、Webhook を設定し、ServiceNow インスタンスからの要求を認証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- Workday スタジオをインストールする必要があります。
- カスタムレポート作成ポリシーにアクセスします。
  - Purchase_order_report 構造に基づいて Workday でカスタムレポートを作成し、そのレポートを ISU ユーザーと共有します。
  - レポートの「会社」プロンプトですべての会社を選択していることを確認してください。



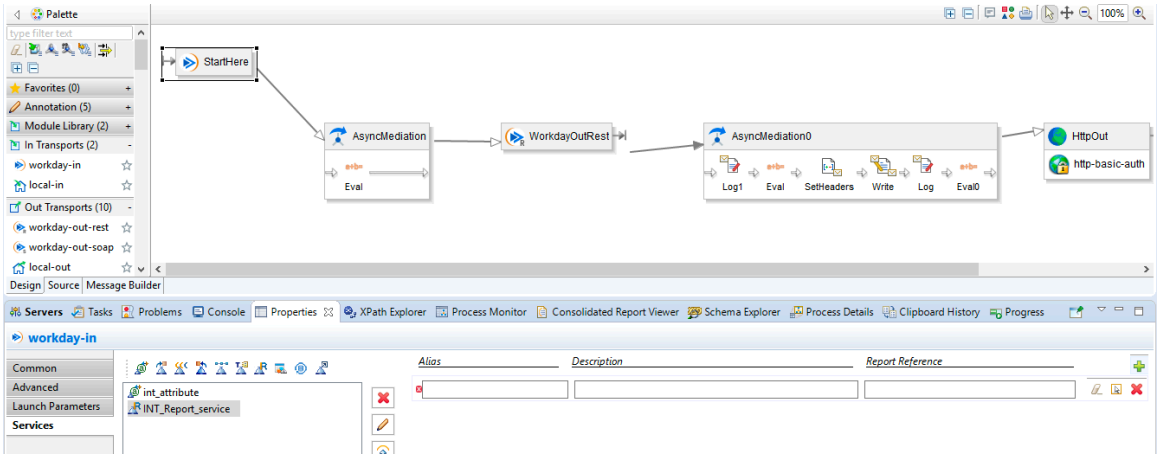
- ビジネスプロセス定義を編集するためにアクセスします。
- データ連携システムを作成および編集するためにアクセスします。
- 必要なロール：admin

注: データ連携名、レポートフィールド XPath (必要な場合)、および Workday インスタンスヘッダーを除いて、ユーザーは CLAR ファイルのフィールドまたはプロパティの値を変更しないように警告されます。

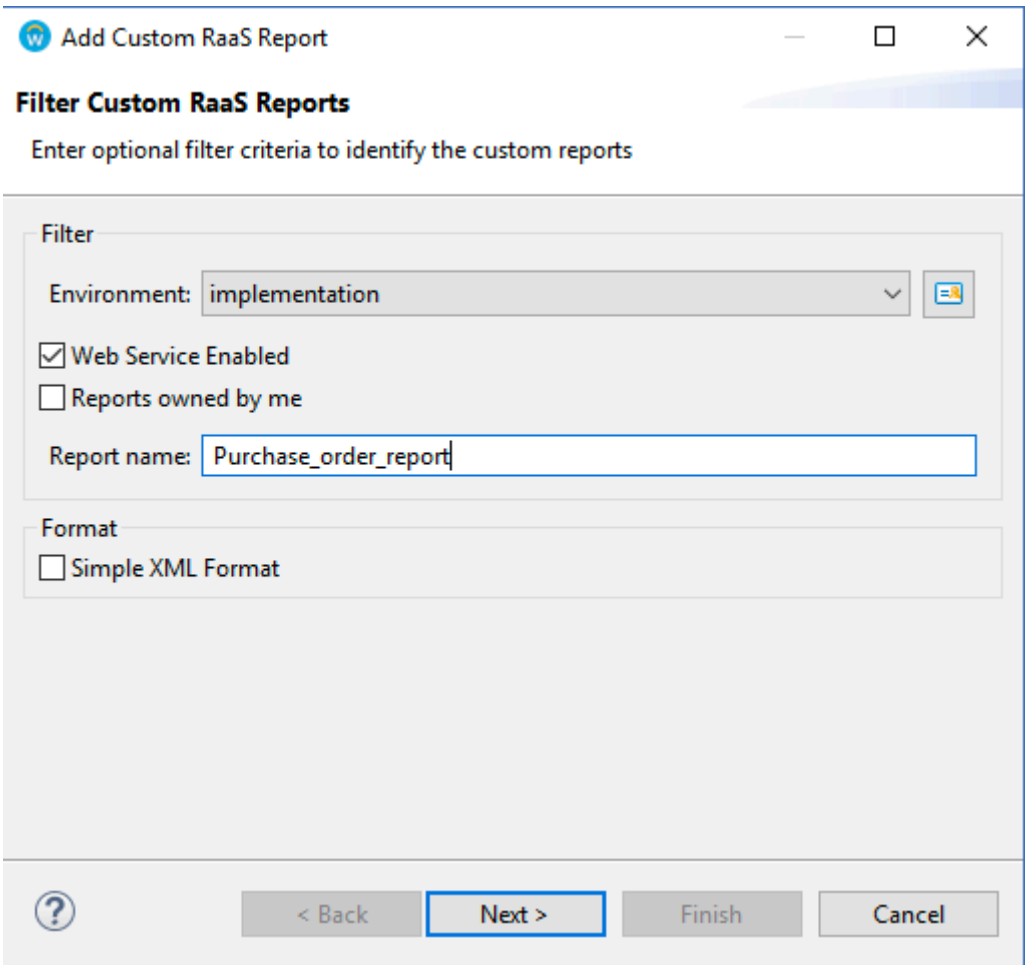
手順

1. ServiceNow Store の「Workday Financials スポーク」ページで、[サポートリンクおよびドキュメント] から `Workday-Finance-Webhook-Studio-Sample` ファイルをダウンロードします。
2. サンプルファイルを解凍して、CLAR ファイルを取得します。
3. CLAR ファイルを Workday スタジオにインポートします。
4. **[StartHere]** コンポーネントの [プロパティ] タブで、[サービス] に移動し、この Webhook に対して作成された RAAS レポートを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

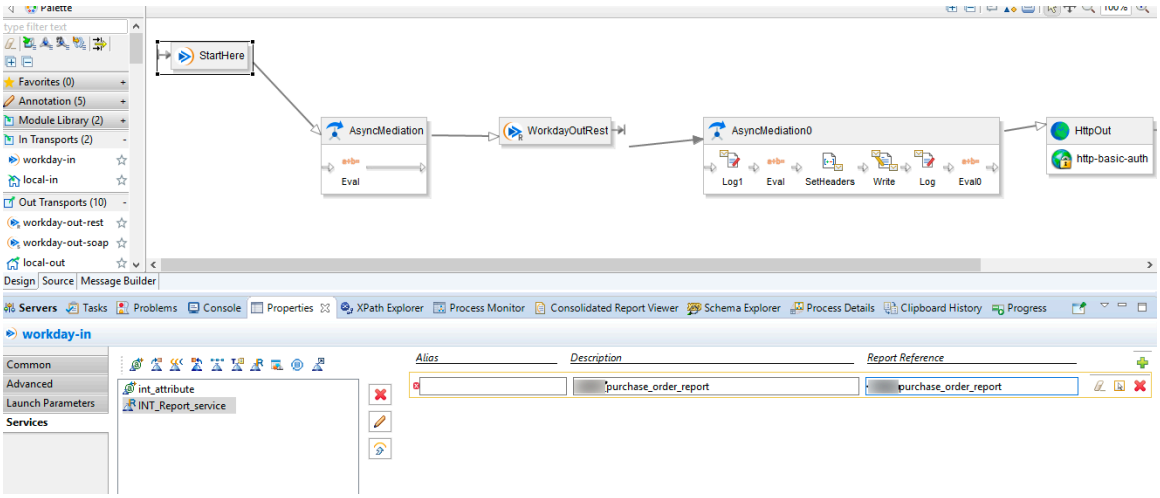


5. 実装やサンドボックスなど、レポートが存在する環境を選択し、要件に従ってレポートを構成します。
6. レポート名を入力し、必要なレポートを選択します。

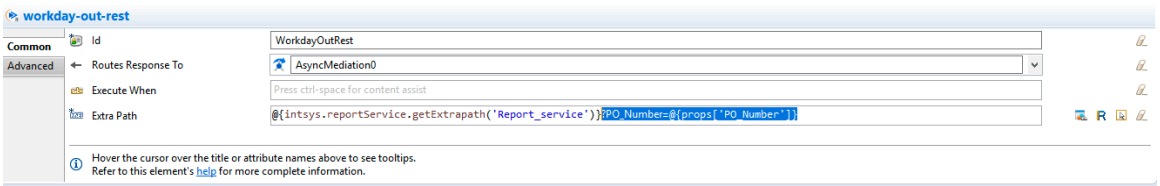


7. レポートのエイリアス名を入力します。

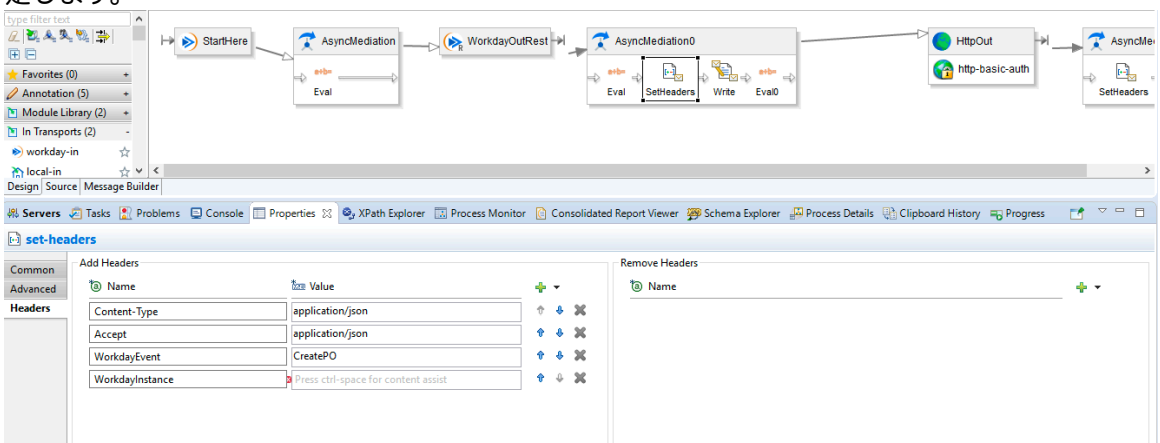
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. レポートエイリアスを追加したら、プロンプトに基づいてレポートを実行するために使用する [追加パス] に、選択したレポートのパスを追加します。



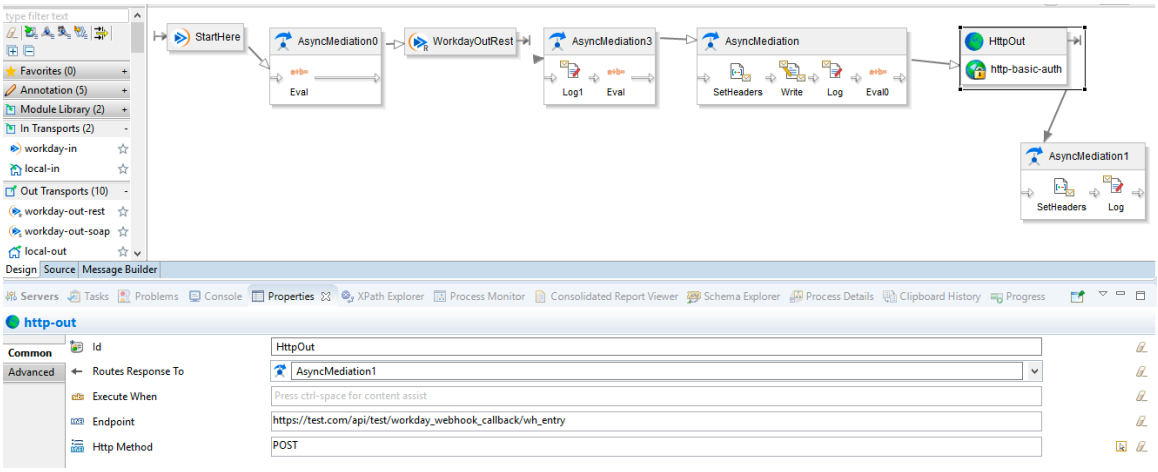
9. [ヘッダーの設定] コンポーネントで、**WorkdayInstance** ヘッダーに Workday インスタンスを指定します。



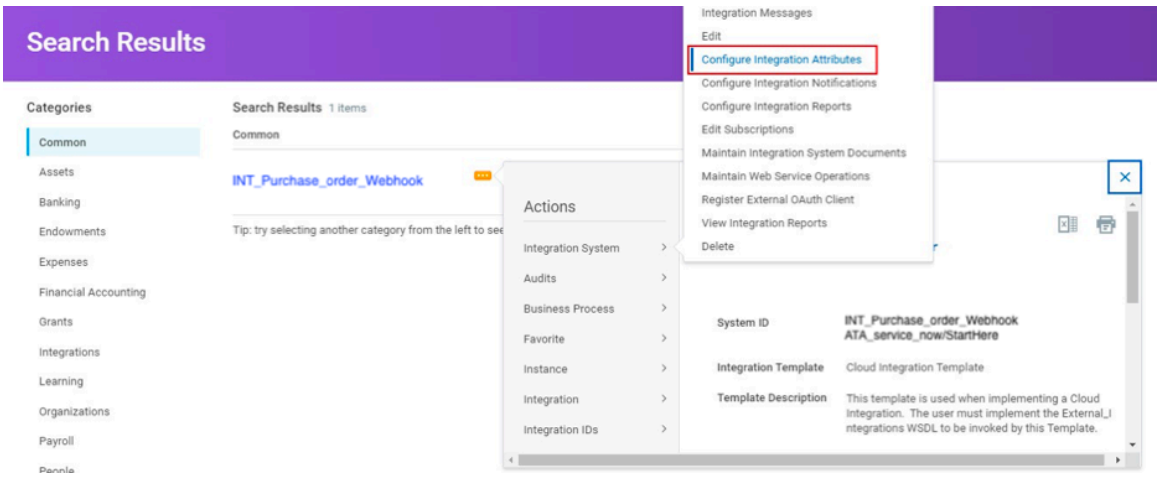
10. **HttpOut** のプロパティで、これらの値を入力します。

フィールド	値
エンドポイント	REST エンドポイント 注: 詳細については、「ServiceNow インスタンスからリソースパスを取得する」を参照してください。
HTTP メソッド	POST

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

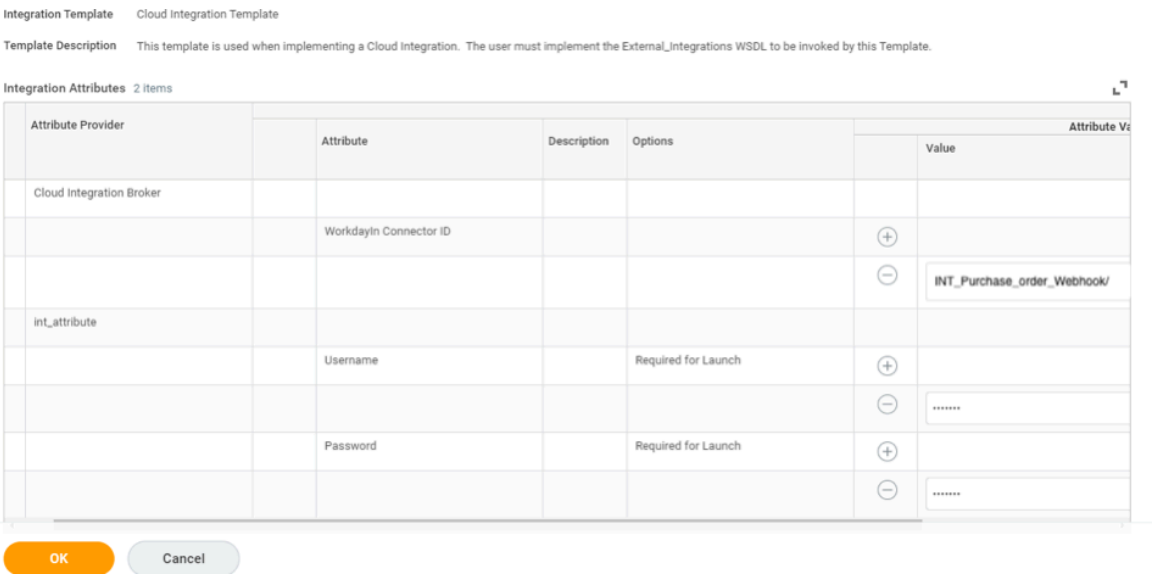


11. 変更内容を保存します。
12. プロジェクトエクスプローラーで、データ連携を選択し、Workday システムに展開します。
13. Workday インスタンスにログインし、[統合] > **[** 統合システム **]** > **[** 統合属性の構成 **]** に移動します。



14. ServiceNow インスタンスでユーザー名とパスワードを生成するで生成した [データ連携属性の設定] にユーザー名とパスワードを入力します。

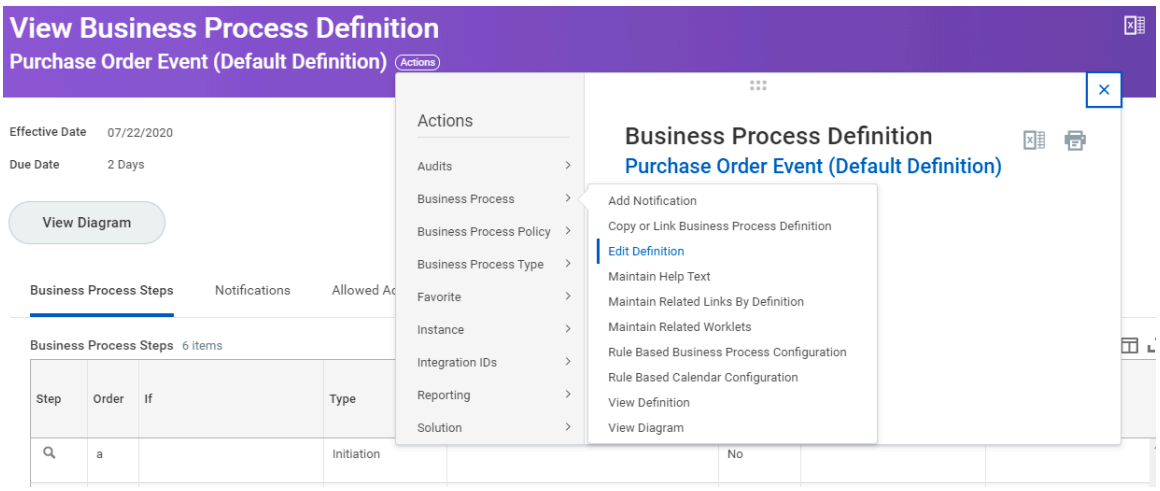
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



15. ビジネスプロセスを変更し、このデータ連携をビジネスプロセスに追加します。

    a. ビジネスプロセスの定義を編集します。

    b. Workday で発注書ビジネスプロセスを検索します。
    1 つの顧客環境内に複数の発注書ビジネスプロセスがある場合は、すべての発注書 (PO) に対してこの Webhook を有効にするようにすべてのビジネスプロセスを構成する必要があります



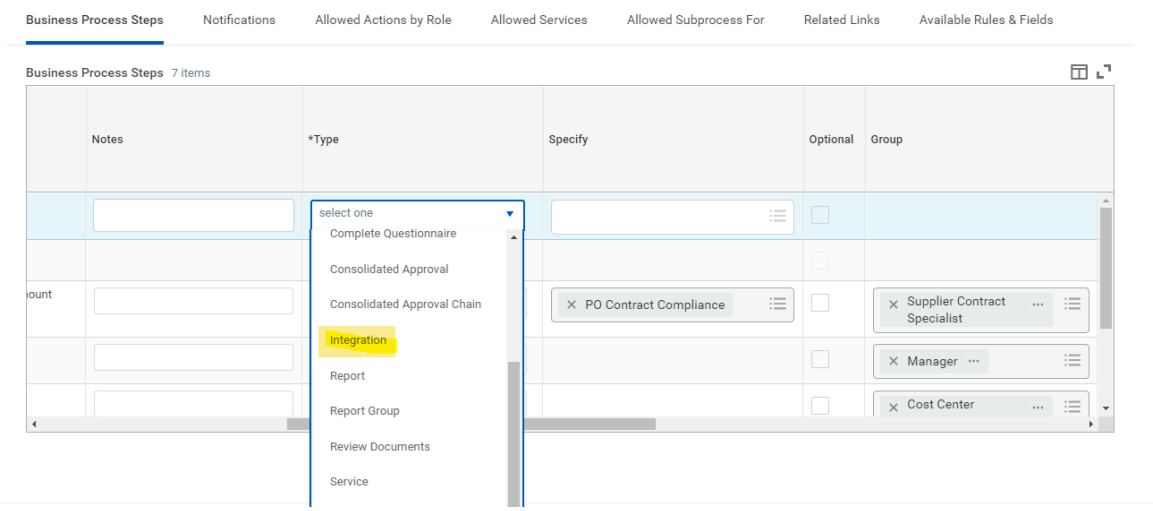
    c. 有効日を選択し、**[OK]** をクリックします。

    d. [+] 記号をクリックし、BP で新しいビジネスプロセスステップを追加します。

    e. ビジネスプロセスの完了ステップの後のオーダーを選択します。

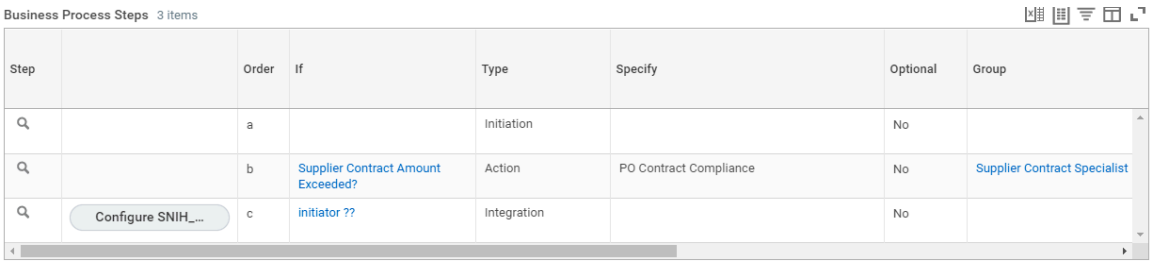
    f. [タイプ] として [データ連携] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



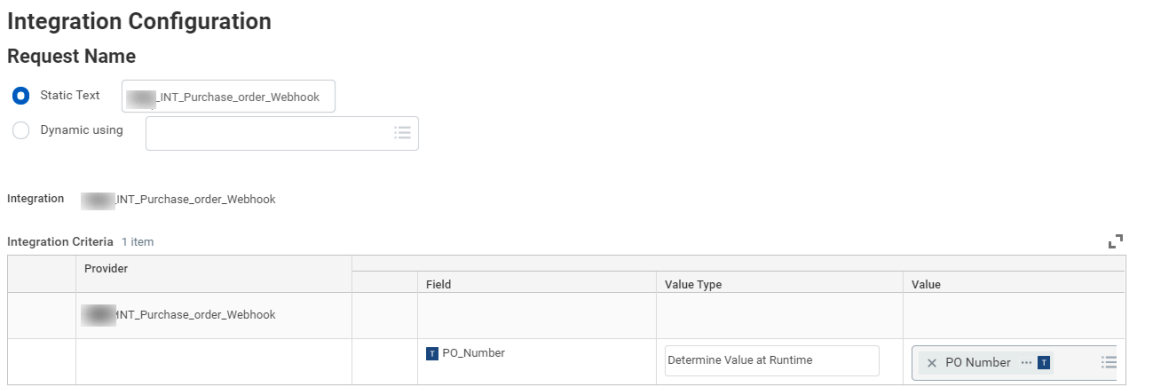
g. [ユーザーとして実行] に ISU ユーザー名を入力し、**[OK]** をクリックします。

h. BP の雇用に新しく追加されたビジネスプロセスステップで、[データ連携の構成] をクリックします。



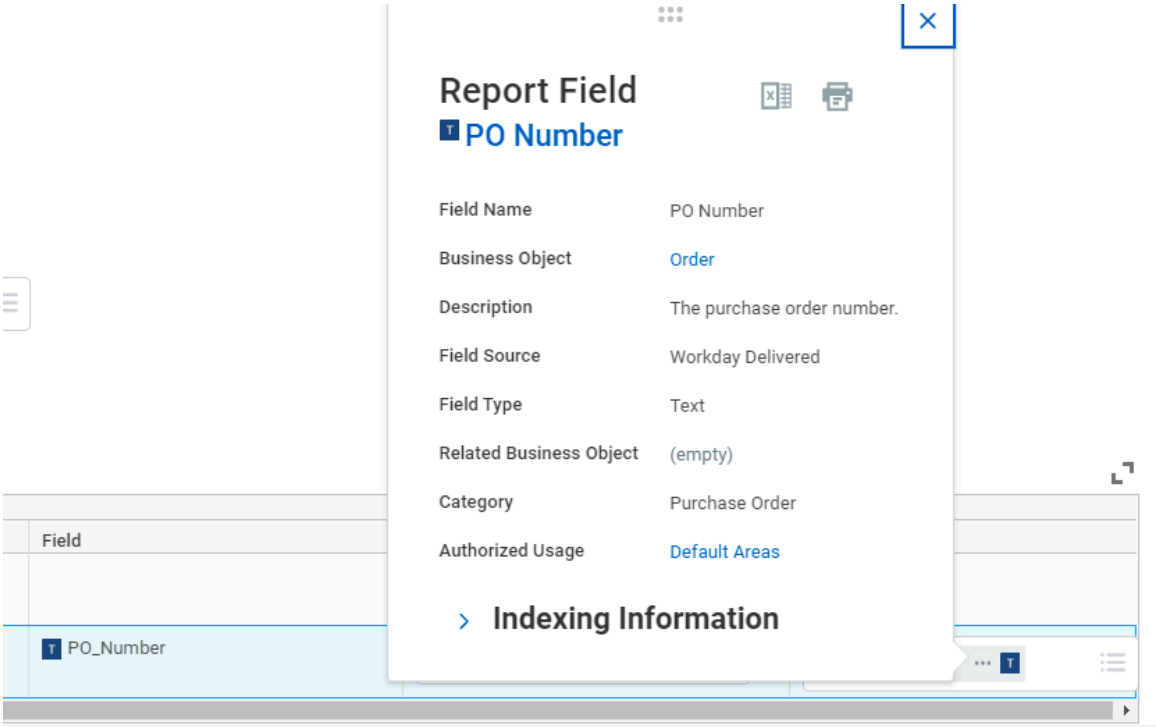
i. [データ連携の構成] ページで、**[OK]** をクリックします。

j. [データ連携基準] で、[値タイプ] に [実行時に値を決定] を選択し、[値] に **[PO 番号]** を選択します。



選択した **PO** 番号は次のようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



k. **[OK]** をクリックします。

l. 次の詳細を含む Webhook のレポートを作成します。

発注書レポートの定義：

Report Definition	SNIH_purchase_order_report
Report Name	SNIH_purchase_order_report
Report Type	Advanced
Data Source	Purchase Orders
Data Source Filter	Purchase Orders Filter
Data Source Type	Indexed
Primary Business Object	Purchase Order

列ラベル：

Columns

Business Object	Field	Column Heading Override XML Alias	Format	Options
Purchase Order	PO Number	PO_Number		
Purchase Order	Company	Company		
Purchase Order	Created Moment	Created_Moment		
Purchase Order	Issued Date	Issued_Date		
Purchase Order	Payment Terms	Payment_Terms		

フィルター：

Filter

Filter on Instances

Filter conditions for filtering on instances

And/Or	(	Field	Operator	Comparison Type	Comparison Value	)	Indexed
And		PO Number	equal to	Prompt the user for the value and ignore the filter condition if the value is blank	Default Prompt		Yes

Condition as Text	PO Number equal to from user input

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロンプトのデフォルト：

Prompt Defaults

Field	Prompt Qualifier	Label for Prompt	Label For Prompt XML Alias	Default Type	Default Value	Required	Do Not Prompt at Runtime	Do Not Include in Subtitle
PO Number	Default Prompt		PO_Number	No default value		Yes		
Company			Company	Specify default value	ABC Company ABC Consolidated ABCD ABG Limited BACD		Yes	

Workday HR スポーク

Workday HR スポークは、Bristlecone, Inc. によってビルドされています。ServiceNow インスタンスからシステムの人員配置、リソース、給与、福利厚生などを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイト にアクセスして、利用可能なすべてのアプリを表示し、要求をストアに送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのこれまでのリリースメモ情報については、「ServiceNow Store のバージョン履歴リリースノート 」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub (統合ハブ) のサブスクリプションが必要です。詳細については、「https://www.servicenow.com/content/dam/servicenow-assets/public/en-us/doc-type/legal/snc-addendum-integrationhub.pdf 」を参照してください。

スポークバージョン

Workday HR スポーク v2.6 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Workday HR SOAP アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) バージョン v33.2 および REST API バージョン v1 用にビルドされており、Workday HR SOAP API バージョン v39.0 まで互換性があります。

Workday に必要な構成

統合を設定するには、最初に Workday で次の手順を実行する必要があります。

1. データ連携システムユーザーを登録します。

   注: アカウント情報の詳細を入力するときは、必ず **[UI** セッションを許可しない **(Do Not Allow UI Sessions)]** チェックボックスをオンにしてください。

2. セキュリティグループを作成し、データ連携システムユーザーに割り当てます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [アクション] で、[セキュリティグループ] > [セキュリティグループのドメイン権限を維持] に移動し、次の権限を指定します。

ドメインセキュリティ方針の権限

運用	ドメインセキュリティ方針	ドメインセキュリティ方針の継承権限	機能エリア
表示のみ	レポート：マネージャー		人員配置
表示のみ	レポート：マトリクスマネージャー		人員配置
表示および変更	ビジネスプロセス管理	ビジネスプロセス委任	システム
表示のみ	ワーカーデータ：給付金	▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者および扶養家族 ▪ ワーカーデータ：給付金年次クレジット ▪ ワーカーデータ：給付金適格性 ▪ ワーカーデータ：給付金の年率 ▪ ワーカーデータ：裁判所命令の詳細 ▪ ワーカーデータ：退職の詳細 ▪ ワーカーデータ：健康	▪ 利点 ▪ パーソナル データ
表示のみ	レポート：学習レコード		ラーニングコア
表示のみ	ワーカーデータ：資金調達済み計画のアサイン		高度な報酬
表示のみ	ビジネスプロセスレポート		システム
表示のみ	Workday アカウント		システム
表示のみ	個人データ：性別		パーソナル データ
表示のみ	管理：組織のロール		組織とロール
表示のみ	個人データ：勤務先住所		連絡先
表示のみ	個人データ：自宅電話		連絡先
表示のみ	個人データ：勤務先電話		連絡先
取得して配置	管理：支払選択		経費

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

運用	ドメインセキュリティ方針	ドメインセキュリティ方針の継承権限	機能エリア
取得して配置	個人データ：パーソナルデータ	▪ 個人データ：民族外観サーベイ ▪ 個人データ：ライセンス ▪ 個人データ：その他の ID ▪ 個人データ：パスポートとビザ ▪ ワーカーデータ：たばこの使用	パーソナル データ
取得して配置	ワーカーデータ：給与 (支払選択)		コア給与
取得して配置	ワーカーデータ：給与インターフェイス (支払選択)		給与インターフェイス
取得して配置	ワーカーデータ：福利厚生対象者	▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者の追加住所 ▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者の追加メール ▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者の追加インスタントメッセンジャー ▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者の追加電話 ▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者の追加 Web アドレス ▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者の生年月日 ▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者の性別 ▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者の政府 ID ▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者の国民 ID ▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者のその他の ID ▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者のプライマリアドレス ▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者のプライマリメール ▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者のプライマリインスタントメッセンジャー	利点

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

運用	ドメインセキュリティ方針	ドメインセキュリティ方針の継承権限	機能エリア
		▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者の代表電話 ▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者のプライマリ Web アドレス	
取得して配置	プロセス：時間ブロックのインポート		▪ 時間の追跡 ▪ 時間追跡ハブ
取得のみ	ワーカーデータ：現在の人員配置情報		人員配置
取得のみ	設定：カレンダー		システム
取得のみ	ジョブ情報		ジョブとプロファイル
取得のみ	ワーカーデータ：給与 (所得源泉徴収命令)		コア給与
取得のみ	ワーカーデータ：給与 (所得源泉徴収命令) - CAN		CAN 給与
取得のみ	ワーカーデータ：給与 (会社固有) - 米国		米国給与
取得のみ	マネージャー：場所	場所：ビュー	組織とロール
取得のみ	ワーカーデータ：給付金	▪ ワーカーデータ：福利厚生対象者および扶養家族 ▪ ワーカーデータ：給付金年次クレジット ▪ ワーカーデータ：給付金適格性 ▪ ワーカーデータ：給付金の年率 ▪ ワーカーデータ：裁判所命令の詳細 ▪ ワーカーデータ：退職貯蓄 ▪ ワーカーデータ：健康	▪ 利点 ▪ パーソナル データ
取得のみ	ワーカーデータ：プロジェクトタイムシートとワークシート		プロジェクト追跡
取得のみ	ワーカーデータ：パブリックワーカーレポート		人員配置

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

運用	ドメインセキュリティ方針	ドメインセキュリティ方針の継承権限	機能エリア
取得のみ	給与インターフェイス		給与インターフェイス
取得のみ	レポート：ワーカーの給与計算結果	▪ レポート：ワーカーの給与計算結果 (監査) ▪ レポート：ワーカーの給与計算結果 (給与明細書) ▪ レポート：ワーカーの給与計算結果 (結果)	コア給与
取得のみ	管理：組織統合		組織とロール
取得のみ	ワーカーデータ：給付金選択		▪ 利点 ▪ パーソナル データ
取得のみ	個人データ：緊急連絡先		連絡先
取得のみ	ワーカーデータ：ワーカードキュメントの編集と削除		パーソナル データ
取得のみ	ワーカーデータ：組織別の報酬		コア報酬
取得のみ	データ連携ビルド		データ連携
取得のみ	ワーカーデータ：休暇 (休暇残日数)		休みと休暇
取得のみ	個人データ：個人情報		パーソナル データ
表示のみ	ワーカーデータ：パブリックワーカーレポート		人員配置
表示のみ	データ連携のセキュリティ		データ連携
取得して配置	データ連携イベント		データ連携

注: セキュリティグループに対してドメインセキュリティ方針がアクティブ化されていることを確認します。

b. セキュリティグループのビジネスプロセス方針を設定し、次の権限を付与します。

ビジネスプロセスのセキュリティ方針権限

運用	ビジネスプロセスのタイプ	機能エリア
開始 (ロールのアサイン (Web サービス))	ロールをアサイン	組織とロール
開始 (組織のアサインの変更 (Web サービス))	ワーカーの組織割り当てを変更	組織とロール

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

運用	ビジネスプロセスのタイプ	機能エリア
開始 (連絡先情報の管理 (Web サービス))	連絡先の変更	連絡先
開始 (依存を追加 (Web サービス))	依存イベント	▪ 利点 ▪ パーソナル データ
開始 (ワーカー追加データの編集 (Web サービス))	ワーカー追加データの編集イベント	人員配置
開始 (正式名の変更 (Web サービス))	正式名の変更	連絡先
開始 (無断欠勤 (Web サービス))	無断欠勤	人員配置
開始 (個人情報の変更 (Web サービス))	個人情報の変更	パーソナル データ
開始 (休暇の申請 (Web サービス))	休暇の申請	休みと休暇
開始 (休みを入力 (Web サービス))	休みを申請	休みと休暇
開始 (従業員の退職 (Web サービス))	終了	人員配置

注: セキュリティグループに対してビジネスプロセスセキュリティポリシーがアクティブ化されていることを確認します。

注: スポーク v1 がインストールされている場合は、それをアンインストールしてスポーク v1.1 をインストールします。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - SOAP (com.glide.hub.action_step.soap)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - Dynamic Inputs (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow フローデザイナー - Dynamic Outputs (com.glide.hub.dynamic_outputs)
- Complex Object (com.glide.cobject)
- System Import Data Source (glide.system_import_data_source)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Workday HR スポークには、Workday タスクの自動化をデモするサンプルフローである「ユーザー検証サンプルフロー」が用意されています。このフローは、同じ名前のサブフローを呼び出して、要求を出したユーザーが Workday システムで有効なユーザーであるかどうかを確認します。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのサブフロー

Workday HR スポークでは、Workday HR タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
ユーザー検証サブフロー	要求を出したユーザーが Workday システムの有効なユーザーかどうかを確認します。
ワーカーの WID を取得	[ワーカープロファイルを検索] アクションを使用して、従業員の WID 詳細を取得します。
ユーザーを作成	ユーザーが Workday システムでオンボーディングされたときに、ServiceNow にユーザーを作成します。このサブフローを使用するには、Workday HR スポーク用 Webhook の設定 を行う必要があります。
休暇	LeaveofAbsence Webhook を使用して、Workday から従業員の休暇の詳細を取得します。
ユーザーの非アクティブ化	Workday の Deactivate User Webhook を使用して、Workday でユーザーを非アクティブ化します。
ジョブ要求事項を検索	Workday アプリケーションからジョブ要求事項テーブルに、既存のジョブ要求情報をすべて取得します。
ジョブ要求事項を更新	UpdateJobRequisition Webhook を使用して Workday の既存のジョブ要求事項に加えられた変更を取得し、変更をジョブ要求事項テーブルに保存します。

Workday SOAP API を使用するスポークアクション

Workday 自体は、API を SOAP パブリック API と REST API の 2 つの主要なカテゴリに分類しています。したがって、Workday HR スポークにも同様に反映されます。使用すべきスポークアクションに応じて、これら 2 つの API のいずれかを使用してスポークを使用できますが、必ずしも両方を使用する必要はありません。

Workday HR スポークは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Workday タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

注: SOAP ベースのアクションは Workday SOAP Web Services を使用するため、WS-Security で Workday SOAP 基本認証を使用する構成 に記載されている設定を実行する必要があります。

Workday SOAP API を使用するアクション		
カテゴリ	アクション	説明
休暇管理	従業員 ID で休暇残日数を取得	指定した従業員の休暇残日数の詳細を取得します。
	休暇残日数を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、休暇残日数の詳細を取得します。
	長期休暇を申請	長期休暇申請を作成するか、既存の申請を更新します。
	短期休暇を申請	短期休暇申請を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workday SOAP API を使用するアクション		
カテゴリ	アクション	説明
承認管理	ビジネスプロセスを承認	Workday で指定されたビジネスプロセスを承認します。
	ビジネスプロセスを却下	Workday で指定されたビジネスプロセスを却下します。
福利厚生管理	扶養家族を追加	指定されたワーカーに扶養家族を追加します。
	福利厚生対象者を変更	指定されたワーカーの福利厚生対象者の詳細を更新します。
現金管理	口座振込情報を更新	現在の支払選択の詳細を更新します。
メタデータの取得	追加の Workday フィールドを取得	各アクションの追加フィールドをすべて取得します。
	カスタム動的入力フィールドを取得	すべてのカスタム動的入力フィールドを取得します。
	カスタム動的出力フィールドを取得	すべてのカスタム動的出力フィールドを取得します。
	カスタム動的フィールドのオブジェクトを取得	指定されたカスタム動的フィールドのオブジェクトを取得します。
	カスタム動的フィールドの親オブジェクトを取得	指定されたカスタム動的フィールドの親オブジェクトを取得します。
	参照 ID リストを取得	参照タイプに基づいて参照 ID の値を取得します。
	参照 WID を取得	指定された参照タイプに基づいて参照 ID の値を取得します。
	アクセストークンを取得	OAuth 2.0 を使用して SOAP ベースのアクションを認証するためのアクセストークンを取得します。
給与管理	自分の源泉徴収情報 (カナダ) を従業員 ID で取得	指定された従業員に対するカナダからのすべてのタイプの源泉徴収命令を取得します。
	自分の源泉徴収情報 (米国) を従業員 ID で取得	指定された従業員に対する米国からのすべてのタイプの源泉徴収命令を取得します。
	従業員 ID で給与連邦 W4 税選択を取得	指定された従業員の連邦 W-4 税選択データを取得します。
	従業員 ID で給与受取人 FUTA を取得	指定された従業員の FUTA 税選択データを取得します。
	従業員 ID で給与計算米国および地方税選択を取得	指定された従業員について、州および地方税務当局の税選択に関する情報を取得します。
	口座振込情報の詳細を検索	外部支払グループに属する指定された受取人に関する情報を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workday SOAP API を使用するアクション		
カテゴリ	アクション	説明
	給与連邦 W4 税選択を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求された従業員の連邦 W4 税選択の詳細を取得します。
	給与受取人 FUTA の詳細を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求された従業員の給与受取人 FUTA の詳細を取得します。
	給与計算結果を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求された従業員の給与計算結果を取得します。
	給与計算米国および地方税選択を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求された従業員について、州および地方税務当局のワーカー税選択の詳細を取得します。
	税選択進行中の作業管轄の詳細を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求された従業員について、進行中の作業管轄税選択の詳細を取得します。
	源泉徴収情報の詳細 (カナダ) を検索	指定されたフィルター条件に基づいて、要求された従業員に対するカナダからのすべてのタイプの源泉徴収命令を取得します。
	源泉徴収情報の詳細 (米国) を検索	指定されたフィルター条件に基づいて、要求された従業員に対する米国からのすべてのタイプの源泉徴収命令を取得します。
リソース管理	正式名を変更	指定された従業員の正式名を変更または設定します。
	個人情報を変更	指定した従業員の個人情報を変更します。
	従業員 ID で従業員ドキュメントを取得	指定された従業員のドキュメントを取得します。
	従業員 ID で自分の報酬詳細を取得	指定した従業員の報酬の詳細を取得します。
	従業員 ID で自分の連絡先詳細を取得	住所、電話番号、メールアドレス、福利厚生対象者など、指定された従業員の連絡先情報を取得します。
	従業員 ID で自分の組織構造を取得	指定した従業員の組織構造の詳細を取得します。
	従業員 ID で福利厚生登録全体を取得	指定した従業員の福利厚生登録の詳細を取得します。
	従業員 ID で総合報酬を取得	指定した従業員の総合報酬の詳細を取得します。
	報酬の詳細を検索	フィルター基準に基づいて、要求された従業員の報酬の詳細を取得します。
	連絡先詳細を検索	フィルター条件に基づいて、住所、電話番号、メールアドレス、福利厚生対象者など、要求された従業員の連絡先情報を取得します。
	従業員ドキュメントを検索	フィルター基準に基づいて、要求された従業員のドキュメントを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workday SOAP API を使用するアクション		
カテゴリ	アクション	説明
	祝日カレンダーを検索	祝日カレンダーの詳細を取得します。
	ジョブプロファイルを検索	指定された基準に基づいて、ジョブプロファイルの詳細を取得します。
	場所の詳細を検索	指定された基準に基づいて、場所の詳細を取得します。
	組織を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、組織の詳細を取得します。
	タイムシートの詳細を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、タイムシートの詳細を取得します。
	福利厚生登録全体を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、福利厚生登録の詳細を取得します。
	総合報酬を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、従業員報酬の詳細を取得します。
	作業スケジュールカレンダーを検索	作業スケジュールカレンダーの詳細を取得します。
	ワーカージョブ履歴レポートを検索	ワーカーのジョブ履歴を取得します。
	ワーカープロファイルを検索	ワーカータイプに基づいて、従業員プロファイルの詳細を取得します。
	ワーカーを検索	指定されたフィルター基準に基づいて、名、姓、住所、電話番号、メールアドレス、インスタントメッセンジャー、ワーカーポジション、管理チェーンなどの詳細を取得します。
	ワーカー雇用データを検索	指定されたフィルター基準に基づいて、ポジション、ポジション組織、ポジション管理チェーン、ワーカーステータスなどの詳細を取得します。
	自分の住所を更新	住所、電話番号、メールアドレス、インスタントメッセンジャー、Web アドレスなどの従業員の詳細を更新します。
	ワーカーおよび雇用情報を検索	Workday からワーカープロファイル情報を取得します。
	専門家プロファイルストリームを検索	Workday から専門家のワーカープロファイル情報を取得します。
人員配置	組織を変更	人員配置用に構成された会社、コストセンター、リージョンなどの値を就任ポジションにアサインします。
	ロールを変更	指定した従業員のロールを変更します。
	無断欠勤	採用した従業員が入社日に出社しない場合、採用プロセスを取り消します。
	従業員の退職を処理	指定された従業員の退職を処理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workday SOAP API を使用するアクション		
カテゴリ	アクション	説明
	従業員を雇用	指定されたジョブの従業員としてユーザーを雇用します。
	雇用制限を設定	ジョブ管理監督組織の採用制限を作成します。
	ポジションを作成	ポジション管理人員配置モデルを使用して、監督組織のポジションを作成またはオープンします。
	ポジションを検索	Workday のポジション ID に基づいて、ポジション関連の詳細を取得します。
	ポジションを編集	既に入力されているポジションを編集します。
	雇用制限を編集	ジョブ管理監督組織の採用制限を編集します。
	ジョブを変更	従業員または派遣社員のジョブを変更します。変更のタイプには、異動、昇格、降格、横移動、およびその他のジョブ情報の変更が含まれます。
	ポジションをクローズ	ポジションをクローズします。
	契約派遣社員	臨時のポジションまたはジョブにユーザーを雇用します。
時間の追跡	レポート済み時間ブロックを更新	レポート済み時間ブロックの詳細を更新します。
スキル管理	従業員スキルの管理	従業員に関連付けられたスキルを追加または削除します。
ジョブ管理	ジョブ要求事項を作成	Workday でジョブ要求を作成します。
	候補者ストリームを検索	候補データ、ソーシャルメディアのアカウントデータなどの候補情報を Workday から取得します。
	報酬グレードストリームを検索	報酬支払範囲のデフォルトの最小値と最大値などの報酬の詳細を Workday から取得します。
	求人情報ストリームを検索	求人情報のタイトル、求人情報の説明、教育データ、認定データなどの求人情報の詳細を Workday から取得します。
	ジョブ要求事項ストリームを検索	Workday から採用開始日、採用の目標日などのジョブ要求事項の詳細を取得します。
	ジョブ要求事項を更新	指定されたジョブ要求事項を更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workday REST API を使用するスポークアクション

Workday 自体は、API を SOAP パブリック API と REST API の 2 つの主要なカテゴリに分類しています。したがって、Workday HR スポークにも同様に反映されます。使用すべきスポークアクションに応じて、これら 2 つの API のいずれかを使用してスポークを使用できますが、必ずしも両方を使用する必要はありません。

Workday HR スポークは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Workday タスクを自動化するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

注: REST ベースのアクションは、Workday REST API を使用し、Workday REST API を使用する構成 に記載されている設定を実行する必要があります。

Workday REST API を使用するアクション		
カテゴリ	アクション	説明
休暇管理	ワーカーの休暇および休暇申請を検索	RaaS レポートを使用して、ワーカーの休暇と休暇の詳細を取得します。
承認管理	進行中の承認要求を検索	指定された日付範囲の進行中の承認要求を Workday から取得します。
カスタムアクション **注:** これらのアクションを使用するには、Workday カスタムオブジェクト [x_snc_sn_workday_s_workday_custom_objects] テーブルにレコードを作成し、次の詳細を指定する必要があります。 • 親オブジェクト WS エイリアス • 拡張オブジェクト WS エイリアス • 拡張オブジェクトフィールド • 拡張オブジェクトフィールドのデータタイプ • フィールド タイプ	オブジェクトカスタムフィールドを検索	指定されたカスタムオブジェクトに関連するデータを取得します。
	カスタムレポートを検索	カスタムレポートを取得します。
	オブジェクトカスタムフィールドを更新	指定されたカスタムオブジェクトのフィールドを更新します。
給与管理	給与明細書を検索	指定された従業員の給与明細書の詳細を取得します。
目標管理	従業員のゴールを検索	Workday から従業員のゴールを取得します。
フィードバック管理	受け取ったフィードバックを検索	Workday からフィードバック要求を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workday REST API を使用するアクション		
カテゴリ	アクション	説明
パフォーマンス管理	従業員の最新のパフォーマンスレビューを検索	Workday から従業員の最新のパフォーマンスレビューをプルします。 **重要:** このアクションを実行する前に、レポートを設定する必要があります。このアクションを実行すると、レポートが呼び出され、データが Workday HR から ServiceNow インスタンスに送信されます。レポートを設定する方法については、「「従業員の最新パフォーマンスレビュー」レポートの構成」を参照してください。
	従業員のパフォーマンスレビュー履歴データを検索	Workday から従業員パフォーマンスレビュー の履歴データをプルします。 **重要:** このアクションを実行する前に、レポートを設定する必要があります。このアクションを実行すると、レポートが呼び出され、データが Workday HR から ServiceNow インスタンスに送信されます。レポートを設定する方法については、「ワーカーの履歴パフォーマンスレビューレポートの構成」を参照してください。
	後継者計画を検索	Workday から後継者計画をプルします。 **重要:** このアクションを実行する前に、レポートを設定する必要があります。このアクションを実行すると、レポートが呼び出され、データが Workday HR から ServiceNow インスタンスに送信されます。レポートを設定する方法については、「後継者計画レポートの構成」を参照してください。
	後継者プールを検索	Workday から後継者プールをプルします。 **重要:** このアクションを実行する前に、レポートを設定する必要があります。このアクションを実行すると、レポートが呼び出され、データが Workday HR から ServiceNow インスタンスに送信されます。レポートを設定する方法については、「後継者プールレポートの構成」を参照してください。
スキル管理	従業員のスキルを検索	Workday から指定した日付範囲の従業員スキルを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workday REST API を使用するアクション		
カテゴリ	アクション	説明
		重要: このアクションを使用するには、Workday インスタンスでレポートを作成する必要があります。 • Skills Cloud を使用してワーカーのスキルを抽出する方法の詳細については、「ワーカーのスキルを抽出 (スキルクラウドを使用)」を参照してください。 • Skills Cloud を使用せずにワーカーのスキルを抽出する方法の詳細については、「ワーカースキルを抽出 (Skills Cloud なし)」を参照してください。
	スキルを検索	Workday からスキルを取得します。 **重要:** このアクションを使用するには、Workday インスタンスでレポートを作成する必要があります。詳細については、「スキルを抽出するレポートの作成」を参照してください。
リソース管理	自分のフィードバック構造を取得	指定した従業員のレポート構造の詳細を取得します。
	従業員の祝日カレンダーを検索	指定した従業員の祝日カレンダーの詳細を取得します。
	従業員の祝日カレンダー参照 WID を検索	指定した従業員の祝日カレンダー WID の詳細を取得します。
	受信箱アイテムを検索	指定された日付範囲の受信箱アイテムを Workday から取得します。
	従業員のメリットおよび利益計画の詳細を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、要求された従業員のメリットおよび利益計画の詳細を取得します。
	従業員のスケジュールカレンダー参照 WID を検索	要求された従業員の作業スケジュールカレンダーを取得します。
	レポートを使用して総合報酬を検索	指定されたレポート所有者とレポートの総合報酬を取得します。

スポークモジュール

Workday HR スポークは Workday アプリケーションをインスタンスに追加し、次のモジュールを含みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要: リモートテーブルの [自分の合計報酬の表示] [sn_workday_hr_spke_st_get_payroll_results] と、[給与計算結果の取得] [sn_workday_hr_spke_st_view_my_total_rewards] には、機密データが格納されます。したがって、これらのテーブルに格納されているデータを表示する権限をユーザーに付与する前に、慎重に検討することをお勧めします。

モジュール	説明
接続の詳細	Workday インスタンスまたはテナントのベース URL と API バージョンに関する情報が含まれています。
カスタムオブジェクト	カスタムアクションを使用するには、カスタムオブジェクトモジュールでレコードを作成し、次の詳細を入力します。 • 親オブジェクト WS エイリアス • 拡張オブジェクト WS エイリアス • 拡張オブジェクトフィールド • 拡張オブジェクトフィールドのデータタイプ • フィールド タイプ
自分の祝日カレンダーの取得	ログインしている従業員の祝日カレンダーの詳細を取得するためにカスタマイズする必要があるサンプルリモートテーブル。[自分の祝日カレンダーを取得] リモートテーブル定義から、[自分の祝日カレンダーを取得] アクションが呼び出されてデータが取得されます。
給与計算結果の取得	給与情報を取得するためにカスタマイズする必要があるサンプルリモートテーブル。[給与計算結果の取得] リモートテーブル定義から、[給与計算結果を検索] アクションが呼び出されてデータが取得されます。 **重要:** このリモートテーブルには機密データが格納されます。したがって、これらのテーブルに格納されているデータを表示する権限をユーザーに付与する前に、慎重に検討することをお勧めします。
RAAS レポートアクセスの詳細	Workday Report as a Service API に基づくアクションを使用するには、RAAS レポートアクセス詳細モジュールでレコードを作成し、 Workday レポート所有者名および Workday レポート名とともに ServiceNow ユーザーの詳細を指定します。ユーザーがこれらのレポートにアクセスする資格があることを確認します。 レコードを作成し、次の値を入力します。 • ユーザー **ID**：必要なレポートにアクセスする資格を持つ ServiceNow ユーザーのユーザー ID。 • レポート名： Workday システムで構成する際の RAAS API の名前。 • レポート所有者ユーザー名：RAAS 所有者のユーザー名。
リモートテーブル構成	ログインユーザーの Workday 従業員 ID で構成される列とテーブル名のエントリを、このテーブルに作成する必要があります。たとえば、ユーザーテーブルの [従業員番号] 列などで

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
	す。つまり、 テーブル名 は `sys_user` で、 フィールド名 は `employee_number` です。 **注:** テーブルとフィールドの内部名が入力されていることを確認します。
自分の口座振込情報を表示	口座振込情報を取得するためにカスタマイズする必要があるサンプルリモートテーブル。[自分の口座振込情報を表示] リモートテーブル定義から、[口座振込情報の詳細を検索] アクションが呼び出され、データが取得されます。
自分の合計報酬を表示	ログインしている従業員の総合報酬を取得するためにカスタマイズする必要があるサンプルリモートテーブル。[自分の合計報酬を表示] リモートテーブル定義から、[総合報酬を検索] アクションが呼び出されてデータが取得されます。 **重要:** このリモートテーブルには機密データが格納されます。したがって、これらのテーブルに格納されているデータを表示する権限をユーザーに付与する前に、慎重に検討することをお勧めします。
休暇残日数の表示	ログインしている従業員の休暇残日数を取得するためにカスタマイズする必要があるサンプルリモートテーブル。[休暇残日数を表示] リモートテーブル定義から、[休暇残日数を検索] アクションが呼び出されてデータが取得されます。
Webhook レジストリ	Webhook レジストリのレコードが含まれています。アドミニストレーターはレコードをここに作成し、必須の Workday HR イベントについて、次のことを行う必要があります：Workday HR スポーク用 Webhook の設定。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

WS-Security で Workday SOAP 基本認証を使用する構成

WS-Security で Workday SOAP 基本認証を使用するアクションを実行するように ServiceNow インスタンスを設定します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
これは、最も従来型の Workday SOAP 認証セットアップです。

注: これらの設定は、SOAP ベーススポークのアクションを使用するために必要です。SOAP ベーススポークのアクションについては、「Workday HR スポーク」の「Spoke actions that use Workday SOAP APIs (Workday SOAP API を使用するスポークアクション)」セクションを参照してください。

Workday HR ベース URL を指定する

Workday HR インスタンスのベース URL を接続の詳細 [connection_details] テーブルに指定します。SOAP API に基づくスポークアクションでは、これらの詳細をアクションの実行に使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [テーブル]に移動します。
2. [接続の詳細] テーブルをフィルタリングして検索します。
3. [リストを表示] 関連リストをクリックします。
4. [新規] をクリックします。
5. フォームに、これらの値を入力します。

[接続の詳細] フォーム

フィールド	説明
ベース URL	Workday インスタンスのベース URL またはテナント名。次の形式でベース URL を入力します。`https://<workday_host_url>/ccx/service/<workday_tenant_name>`
バージョン	API のバージョンを入力します。例： `v33.2`。
Web サービスタイプ	Web サービスのタイプ。`[SOAP]` を選択します。

6. [保存] をクリックします。

Workday HR スポークの WS-Security ユーザー名プロファイルを作成する

WS-Security ユーザー名プロファイルを作成して、ServiceNow からの要求を認証するための Workday 認証情報を提供します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > **[SOAP** 統合] > **[WS-Security** ユーザー名プロファイル]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	認証情報を一意に識別する名前。例えば、「`WorkdayHR User`」と入力します。
アプリケーション	レコードが適用可能なアプリケーション。**[Workday HR**スポーク] を選択します。
ユーザー名	Workday Web サービスを使用するデータ連携の権限を持つ Workday ユーザー。
パスワード	Workday ユーザーのパスワード。

4. [保存] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workday HR スポークの SOAP セキュリティ方針を構成する

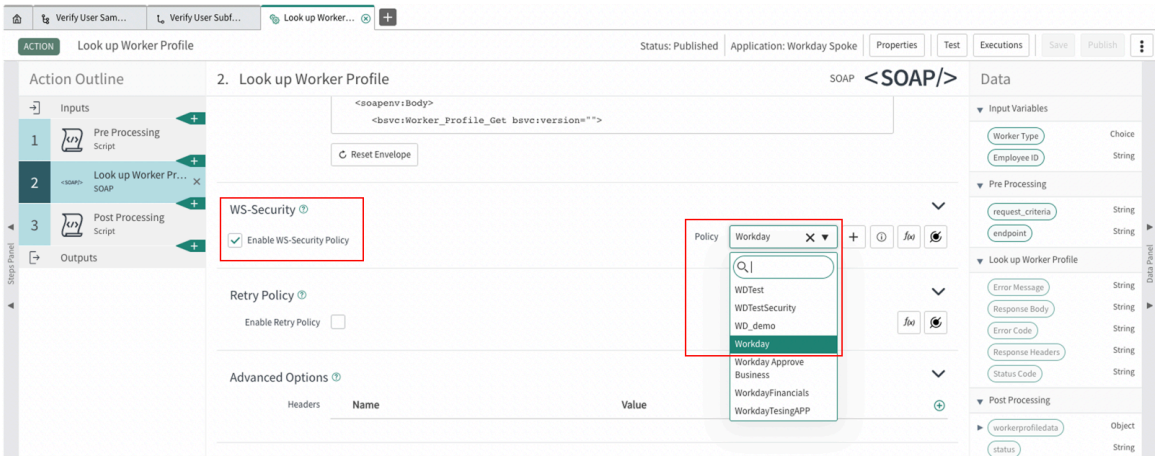
ServiceNow からの要求を認証するために作成したセキュリティユーザー名プロファイルを追加して、SOAP セキュリティプロファイルを設定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > **[SOAP 統合]** > **[SOAP セキュリティ方針]**に移動します。
2. スポークの Workday HR レコード (**WorkdayHR** など) を開きます。

> **注:** デフォルトレコードではなく、別の SOAP セキュリティ方針レコードを使用する場合は、Workday SOAP Web Services を使用するすべてのアクションでそのレコードを選択していることを確認する必要があります。



リストされているこれらのアクションを除き、他のすべてのアクションは Workday SOAP Web Services を使用します。

3. **[WS-Security** ユーザー名プロファイル] で、 Workday HR スポーク用に作成したセキュリティユーザー名プロファイルを選択します。
詳細については、「Workday HR スポークの WS-Security ユーザー名プロファイルを作成する」を参照してください。
4. **WS-Security X.509** プロファイルには値を指定しないでください。
5. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

Workday HR SOAP OAuth を使用するための構成

OAuth 2.0 で Workday HR SOAP ベースのアクションを実行するように ServiceNow インスタンスを構成します。

> **注:** SOAP ベースのアクションをベーシック認証から OAuth 2.0 に移行する場合は、移行前に必ずベーシック認証構成を削除してください。

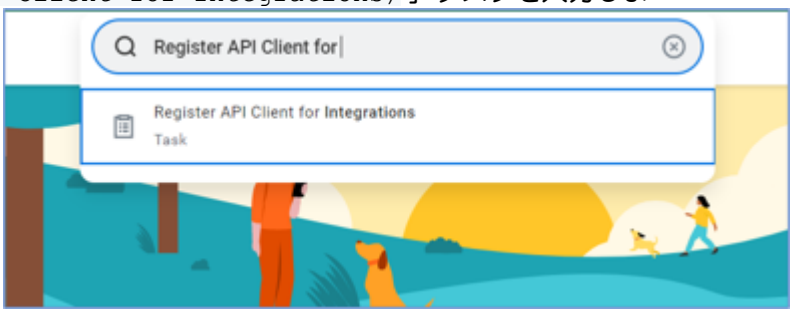
Workday HR スポークのクライアント ID とクライアントシークレットの生成

Workday HR スポークを API クライアントとして Workday アカウントに登録し、クライアント ID、クライアントシークレットを生成します。

始める前に
必要なロール：admin

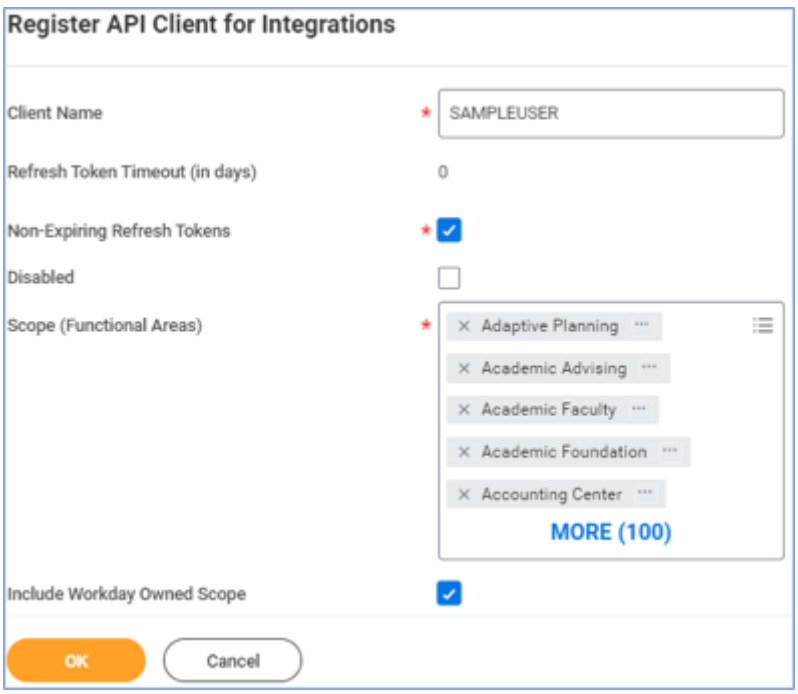
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. Workday テナントにログインします。
2. [検索] に移動し、「統合用 API クライアントの登録 (Register API Client for Integrations)」タスクを入力しま


す。
3. [統合用 API クライアントの登録 (Register API Client for Integrations)] フォームで、詳細を入力します。

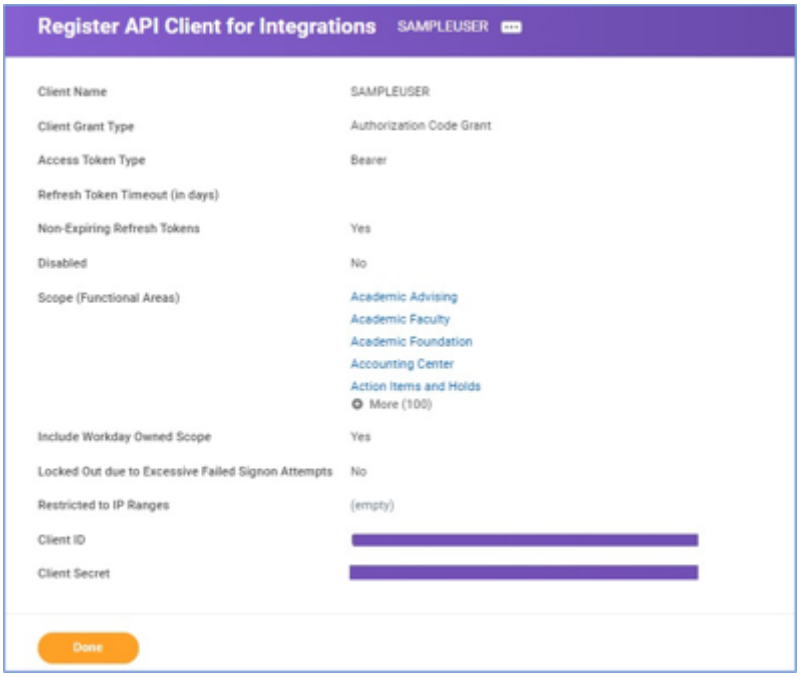
フィールド	説明
クライアント名	アプリのクライアント名です。たとえば、「Workday HR スポーク」と入力します。
期限切れがないリフレッシュトークン	期限切れがないリフレッシュトークンを有効にするオプションです。
スコープ (機能エリア)	必要な機能エリアを選択します。
Workday 所有スコープを含める	Workday 所有スコープを選択するオプションです。



4. **[OK]** をクリックします。

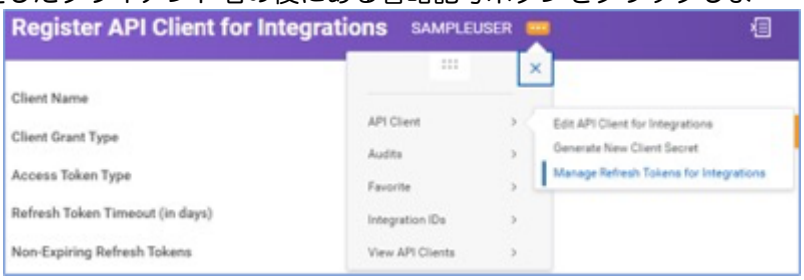
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

登録に成功すると、クライアント ID とクライアントシークレットが生成されま



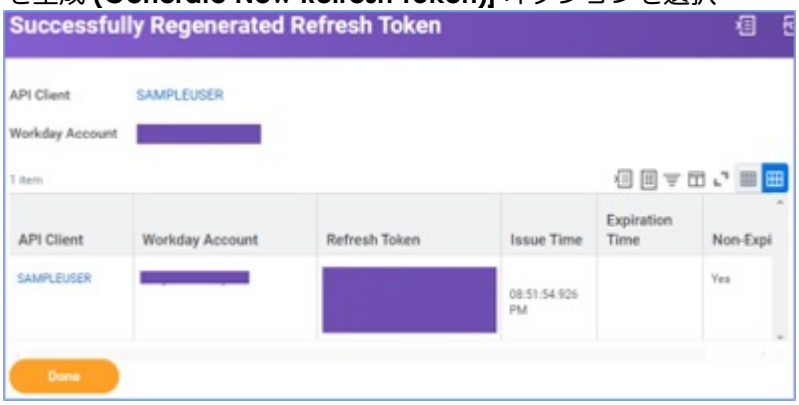
す。

5. 指定したクライアント名の後にある省略記号ボタンをクリックしま



す。

6. **[API** クライアント] > [統合用リフレッシュトークンの管理 **(Manage Refresh Tokens for Integrations)]** を選択します。
7. Workday アカウントを選択し、**[OK]** をクリックします。
   リフレッシュトークンを削除または再生成する画面が表示されます。
8. [新しいリフレッシュトークンを生成 **(Generate New Refresh Token)]** オプションを選択



し、**[OK]** をクリックします。

タスクの結果
新しいリフレッシュトークンが生成されました。システムプロパティを構成するために、リフレッシュトークンはコピーして保存してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workday HR スポークのトークン URL の生成

Workday アカウントに API クライアントを登録し、Workday HR スポークのトークン URL を生成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. Workday テナントにログインします。
2. [検索] に移動し、`[API クライアントの登録 (Register API Client)]` タスクを入力します。
3. [API クライアントの登録 (Register API Client)] で、詳細を入力します。

フィールド	説明
クライアント名	アプリのクライアント名です。たとえば、「`Workday HR スポーク`」です。
クライアント権限許可タイプ	認証コード権限を選択します。
アクセストークンタイプ	アクセストークンタイプ： [ベアラー (Bearer)] を選択します。
リダイレクト URI	ServiceNow URL は、`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` 形式で入力します。
期限切れがないリフレッシュトークン	期限切れがないリフレッシュトークンを有効にするオプションです。
スコープ (機能エリア)	必要な機能エリアを選択します。
Workday 所有スコープを含める	Workday 所有スコープを選択するオプションです。

4. **[OK]** をクリックします。

タスクの結果
システムプロパティを構成するために、生成されたトークンエンドポイント値はコピーして保存してください。

Workday HR スポークのシステムプロパティの構成

システムプロパティを構成し、Workday HR スポーク用の SOAP API に基づくアクションの OAuth 2.0 を有効にします。

始める前に

- Workday HR スポークのクライアント ID とクライアントシークレットの生成
- Workday HR スポークのトークン URL の生成
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システムのプロパティ] > [すべてのプロパティ]に移動します。
2. [アプリケーション] 列で、`[Workday HR スポーク]` を検索します。
3. *`sn_workday_hr_spke.glide.hub.clientid`* システムプロパティを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. Workday アカウントから生成されたクライアント ID を [値] フィールドに入力し、[更新] をクリックします。
5. *sn_workday_hr_spke.glide.hub.clientsecret* システムプロパティを開きます。
6. Workday アカウントから生成されたクライアントシークレットを [値] フィールドに入力し、[更新] をクリックします。
7. *sn_workday_hr.glide.hub.refreshtoken* システムプロパティを開きます。
8. Workday アカウントから生成されたリフレッシュトークンを [値] フィールドに入力し、[更新] をクリックします。
9. *sn_workday_hr_spke.glide.hub.tokenurl* システムプロパティを開きます。
10. Workday アカウントから生成されたトークン URL を [値] フィールドに入力し、[更新] をクリックします。

タスクの結果
必要なシステムプロパティが Workday HR スポークに構成されました。

Workday REST API を使用する構成

Workday REST API を使用するアクションを実行するように ServiceNow インスタンスを設定します。

始める前に
- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Workday HRスポークを有効にします。
- Workday からこれらの値を取得し、後で使用するために記録します。これらの値は、クライアントの登録に必要です。
  - クライアント ID
  - クライアント シークレット
  - Workday REST API エンドポイント
  - トークンエンドポイント
  - 認証エンドポイント
- 必要なロール：admin

このタスクについて
Workday REST および Report-as-a-Service (RAAS) API は、OAuth 2.0 と連携し、Workday テナント内のリソースへのアクセスを許可します。OAuth 2.0 を使用するには、API クライアントの登録タスクを使用してクライアントをテナントに登録する必要があります。

これらの REST ベースのスポークアクションを使用する必要がある場合には、Workday REST API を使用するように ServiceNow インスタンスを設定します。

- 自分のフィードバック構造を取得
- オブジェクトカスタムフィールドを検索
- オブジェクトカスタムフィールドを更新
- 給与明細書を検索
- レポートを使用して総合報酬を検索
- カスタムレポートを検索
- 受信箱アイテムを検索
- 従業員のメリットおよび利益計画の詳細を検索

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 従業員の祝日カレンダー参照 WID を検索
- 従業員のスケジュールカレンダー参照 WID を検索
- 従業員の祝日カレンダーを検索

注: これらの構成は、REST ベースのスポークアクションを使用するために必要です。

OAuth プロバイダーとして Workday HRを登録

Workday HR インスタンスを OAuth プロバイダーとして登録し、ServiceNowインスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
   「どのような OAuth アプリケーションですか？」というメッセージが表示されます。
3. [サードパーティ **OAuth** プロバイダーに接続します] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。たとえば、次のように入力します。 `Workday HR OAuth`
アプリケーション	レコードが適用可能なアプリケーション。**[Workday HR**スポーク] を選択します。
クライアント ID	クライアントの登録時に生成されたクライアント ID。
クライアントシークレット	クライアントの登録時に生成されたクライアントシークレット。
認証 URL	クライアントの登録時に生成された認証エンドポイント。
トークン URL	クライアントの登録時に生成されたトークンエンドポイント。
リダイレクト URL	次の形式の OAuth コールバックエンドポイント： `https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do`
デフォルトの権限許可タイプ	トークンを確立するために使用される権限許可のタイプ。[認証コード] を選択します。
有効	アプリケーションレジストリを積極的に使用するためのオプション。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
   OAuth エンティティプロファイルが作成されます。

Workday HRSpoke の認証情報レコードを作成

Workday HR インスタンスの認証情報レコードを作成します。 Workday HRスポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。

   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。
3. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
4. フォームに、これらの値を入力します。

OAuth 2.0 認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例：`Workday HR Cred`。
有効	認証情報レコードを積極的に使用するオプションです。
OAuth エンティティ プロファイル	Workday HR を OAuth プロバイダーとして登録する際に作成される OAuth エンティティプロファイル。例えば、 OAuth プロファイル。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。
6. OAuth トークンを生成するには、**[OAuth** トークンの 取得] 関連リンクをクリックします。

Workday HR スポークの接続レコードの作成

Workday HR インスタンスの接続レコードを作成します。Workday HR スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの接続を使用して Workday HR でアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. エイリアスレコード **WorkdayHR** を開きます。
3. [接続] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームの各フィールドに入力します。

   注: **Workday HR** スポークアプリケーションで接続レコードを作成していることを確認してください。

接続フォーム

フィールド	説明
名前	レコードを一意に識別する名前を入力します。例を次に示します。`Workday HR 接続`。
認証情報	Workday HR スポーク用に作成された認証情報レコード。 例：`Workday HR Cred`。
接続エイリアス	接続に関連付けられているエイリアスレコードです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続 URL	Workday HR インスタンスに接続するための URL。
有効	接続レコードを積極的に使用するオプション

5. [属性] タブで、次の値を入力します。

フィールド	値
テナント名	Workday アプリケーションのテナント名。
バージョン	v1

6. [送信] をクリックします。

Workday HR スポーク用 Webhook の設定

Webhook を設定して、ServiceNow インスタンスに Workday HR アプリケーションから必要な従業員の詳細を取得します。

始める前に

必要なロール：admin

Workday での OAuth 2.0 用 ServiceNow Webhook API クライアントの構成

Workday で API クライアントを構成して、Webhook 要求を認証します。

始める前に

必要なロール：Workday アドミンロール、または Workday で OAuth 2.0 クライアントをセットアップする権限が付与されたロール。

このタスクについて

ServiceNow プラットフォームをリスナーエンドポイントとして使用し、Workday からイベント通知を受信する場合にのみ、この手順を設定する必要があります。Workday からイベント通知を受信する必要がない場合は、このセクションで説明する構成を省略できます。

注: これらの構成は、Workday で実行する必要があります。

手順

1. Workday で、[テナントセットアップの編集 - セキュリティ (Edit Tenant Setup - Security)] タスクにアクセスします。
2. **[OAuth 2.0** 設定] セクションから **[OAuth 2.0** クライアント有効 **(OAuth 2.0 Clients Enabled)]** オプションを選択します。
3. [API クライアントの登録 (Register API Client)] タスクにアクセスします。
4. クライアント名を入力します。
5. [認証コード許可 (Authorization Code Grant)] で [クライアント権限許可タイプ **(Client Grant Type)]** を選択します。
6. [アクセストークンタイプ **(Access Token Type)]** で [ベアラー (Bearer)] を選択します。
7. 有効なリダイレクト URI を入力します。

注: OAuth 2.0 リダイレクト URI が有効な HTTPS URL であることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. オプション: [リフレッシュトークンのタイムアウト (Refresh Token Timeout)] を日数で選択します。
9. オプション: リフレッシュトークンがタイムアウトしないようにするには、[期限切れがないリフレッシュトークン (Non-Expiring Refresh Tokens)] オプションを選択します。
10. REST API クライアントテナント全体に OAuth 権限を許可するには、[アドミンの同意を付与する **(Grant Administrative Consent)]** オプションを選択します。
このオプションを選択する場合、Workday 機能エリアへのクライアントアクセスを明示的に許可する必要はありません。
11. [機能エリア] プロンプトから、OAuth 2.0 クライアントがアクセスする必要がある機能エリアを選択します。
12. オプション: OAuth 2.0 クライアントが機能エリアにないコア Workday ドメインへのアクセスを必要とする場合は、**[Workday** 所有スコープを含める **(Include Workday Owned Scope)]** オプションを選択します。

Workday HR スポーク用 CreateUser Webhook の設定

CreateUser Webhook を使用して、Workday から ServiceNow インスタンスに新しくオンボーディングされた従業員の詳細を取得します。

ServiceNow インスタンスでの Create User Webhook 用ユーザー名とパスワードの生成

Create User Webhook の要求を認証し、Workday アプリケーションから必要なデータを取得するために、ServiceNow インスタンスでユーザー名とパスワードを生成します。

始める前に
必要なロール：ServiceNow admin

注: これらの設定は、ServiceNow インスタンスで実行される必要があります。

手順
1. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [すべて] > [システム定義] > [テーブル]に移動します。
3. Workday HR スポーク Webhook レジストリテーブルをフィルタリングして検索します。
例：**Workday Webhook** レジストリ。
4. [リストを表示] 関連リストをクリックします。
5. [新規] をクリックします。
6. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
説明	Webhook レジストリレコードの説明。「`CreateUser の Workday イベントと認証`」と入力します。
UserName	Workday Web サービスを使用するデータ連携の権限を持つ Workday ユーザー。
パスワード	Workday ユーザーのパスワード。
Workday イベント	Webhook が設定されているイベント。「`Offboarding`」と入力します。
Workday インスタンス	Workday ホスト URL とテナント名。次の形式で URL を入力しま

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	す。`https://<workday_host_url>/<workday_tenant_name>`

7. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
8. [ユーザー名とパスワードを生成] をクリックします。
   ユーザー名とパスワードの値をコピーして記録します。これらの値は、Webhook 要求を認証するために Workday インスタンスで指定する必要があります。

   注: 環境に複数の HIRE BP がある場合は、すべての HIRE BP を構成して、すべての HIRE 従業員トランザクションに対して CreateUser Webhook を有効にする必要があります。

ServiceNow インスタンスからの Create User Webhook 用リソースパスの取得

後で Create User Webhook 要求を認証し、Workday アプリケーションから必要なデータを取得するために、ServiceNow インスタンスからリソースパスを取得します。

始める前に

必要なロール：ServiceNow admin

注: これらの設定は、ServiceNow インスタンスで実行される必要があります。

手順

1. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [すべて] > [システム **Web** サービス] > [スクリプト **Web** サービス] > [スクリプト済み **REST API**]に移動します。
3. Workday HRSpoke のレコードを開きます。
4. [リソース **]** タブで、[コールバック] レコードをクリックします。
5. 後で使用するために、リソースパス の値を記録して保存します。

Workday インスタンスへの Create User Webhook 用 CLAR ファイルのインポート

ServiceNow Store で入手可能な CLAR ファイルをインポートして、Create User Webhook を設定し、ServiceNow インスタンスからの要求を認証します。

始める前に

- Workday スタジオをインストールする必要があります。
- カスタムレポート作成ポリシーにアクセスします。

  New_Hire_record レポート構造に基づいて Workday でカスタムレポートを作成し、そのレポートを ISU ユーザーと共有します。
- ビジネスプロセス定義を編集するためにアクセスします。
- データ連携システムを作成および編集するためにアクセスします。
- 必要なロール：admin

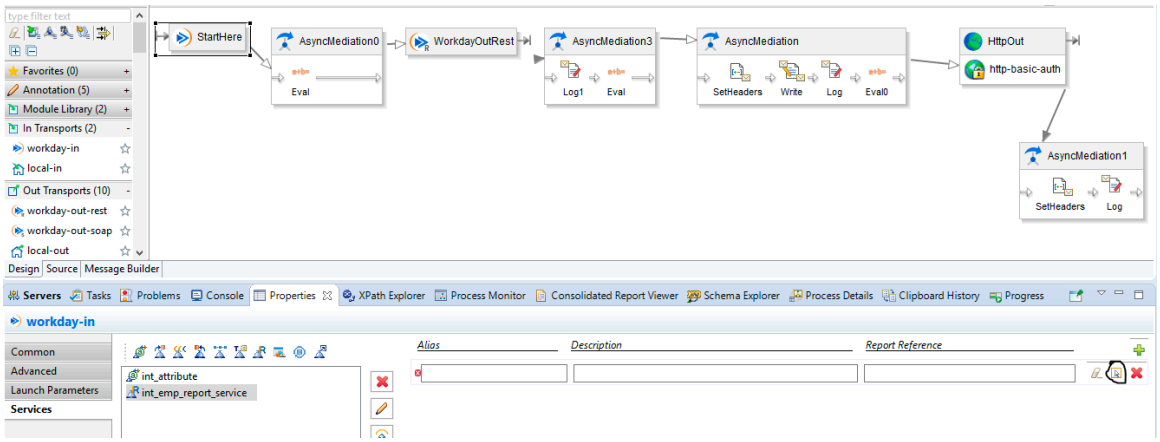
注:

- データ連携名、レポートフィールド XPath (必要な場合)、および Workday インスタンスヘッダーを除いて、ユーザーは CLAR ファイルのフィールドまたはプロパティの値を変更しないように警告されます。
- これらの構成は、Workday Studio で実行する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

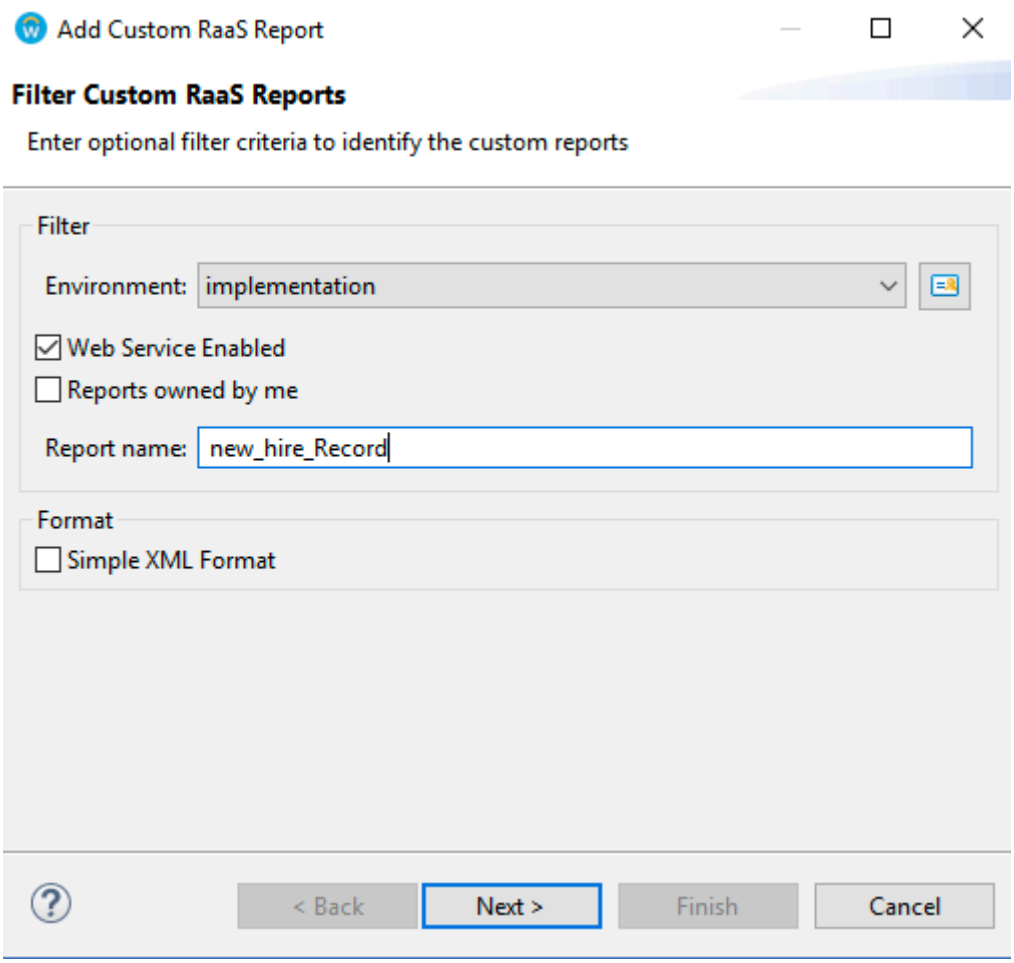
手順

1. ServiceNow Store の Workday HR スポーク ページで、 [サポートリンクおよびドキュメント] から `Workday-HR-Webhook-Studio-Sample` ファイルをダウンロードします。
2. サンプルファイルを解凍して、CLAR ファイルを取得します。
3. CLAR ファイルを Workday スタジオにインポートします。
4. **[StartHere]** コンポーネントの [プロパティ] タブで、[サービス] に移動し、この Webhook に対して作成された RAAS レポートを選択します。

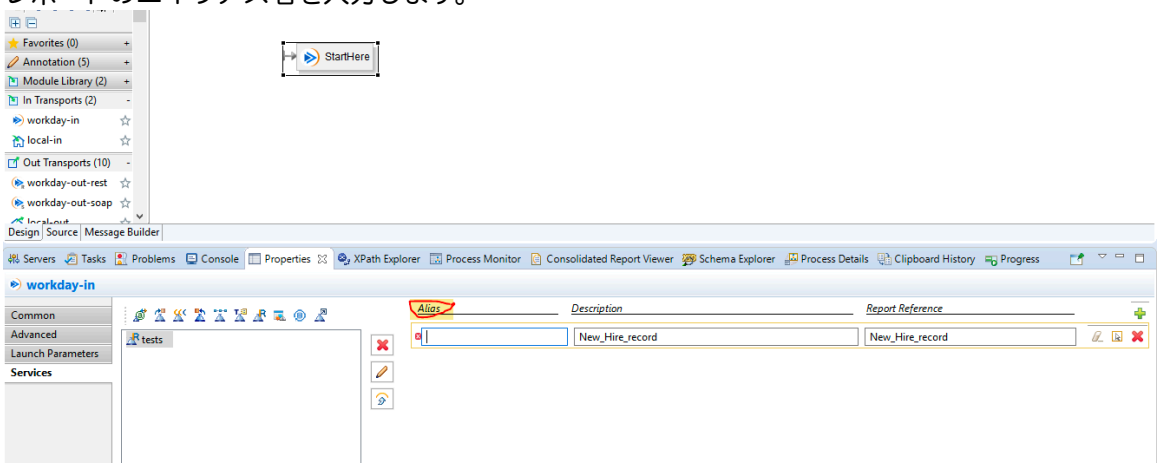


5. 実装やサンドボックスなど、レポートが存在する環境を選択し、要件に従ってレポートを構成します。
6. レポート名を入力し、必要なレポートを選択します。

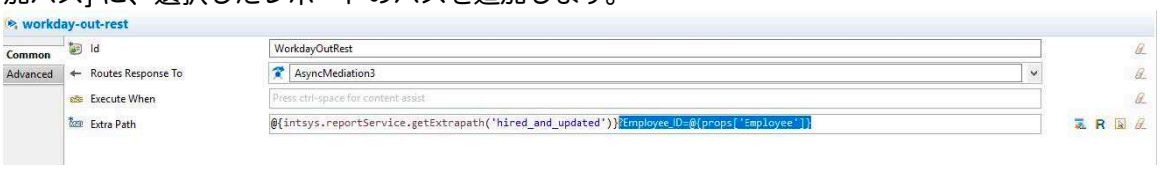
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. レポートのエイリアス名を入力します。

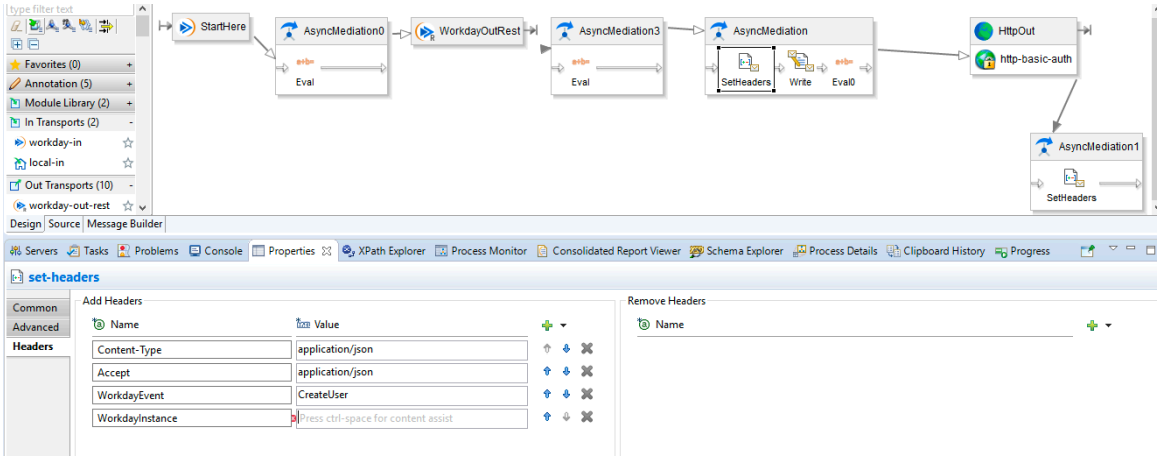


8. レポートエイリアスを追加したら、プロンプトに基づいてレポートを実行するために使用する [追加パス] に、選択したレポートのパスを追加します。



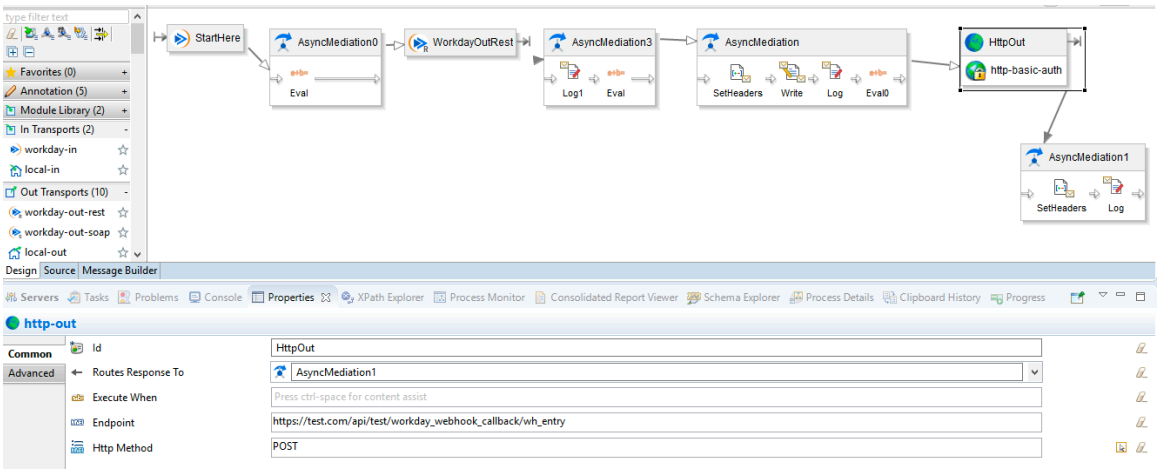
9. [ヘッダーの設定] コンポーネントで、**WorkdayInstance** ヘッダーに Workday インスタンスを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



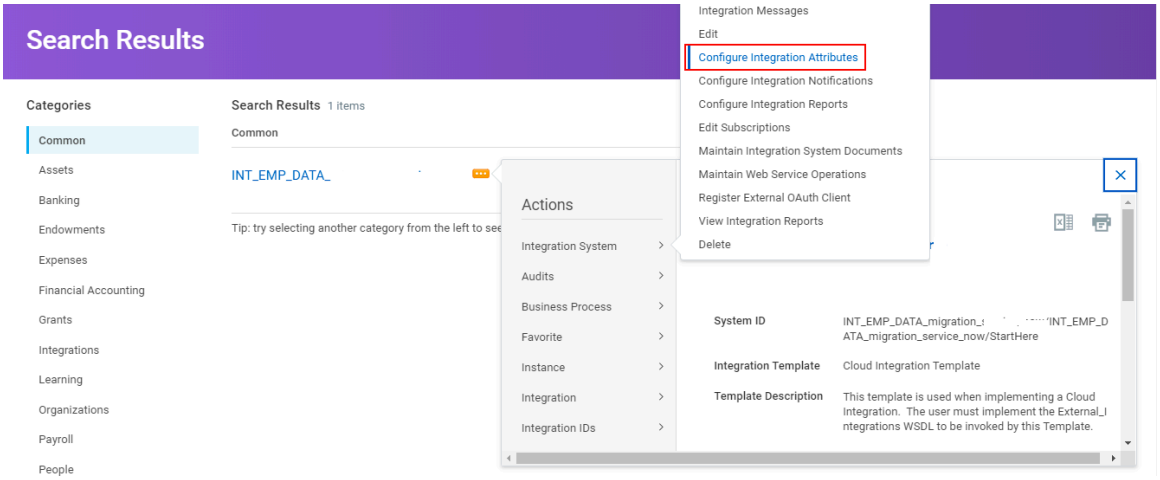
10. **HttpOut** のプロパティで、これらの値を入力します。

フィールド	値
エンドポイント	REST エンドポイント **注:** 詳細については、「ServiceNow インスタンスからリソースパスを取得する」を参照してください。
HTTP メソッド	POST

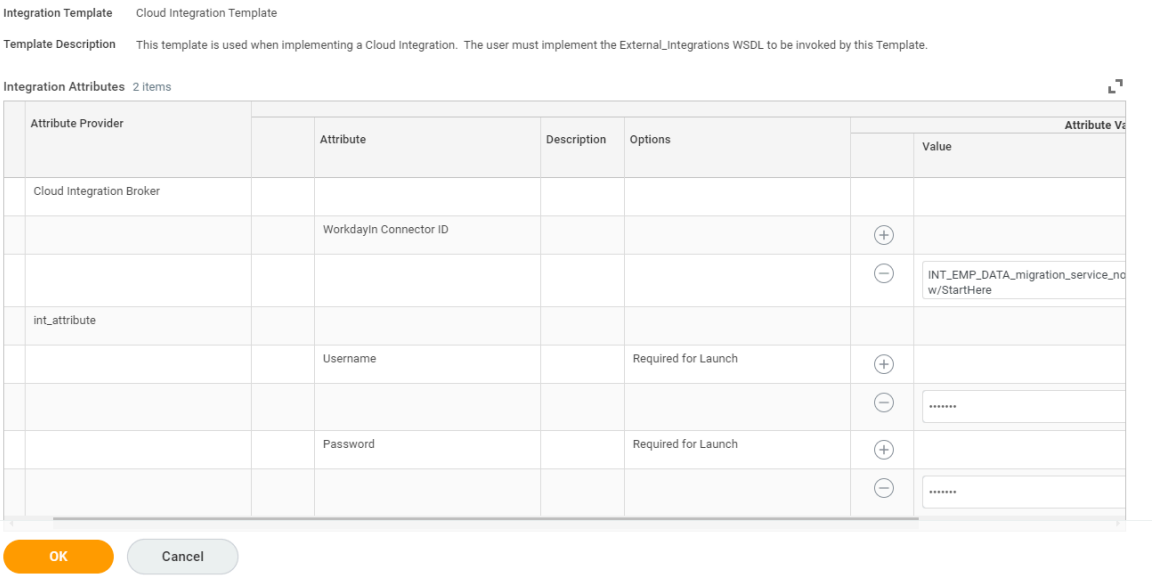


11. 変更内容を保存します。
12. プロジェクトエクスプローラーで、データ連携を選択し、Workday システムに展開します。
13. Workday インスタンスにログインし、[統合] > **[** 統合システム **]** > **[** 統合属性の構成 **]** に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



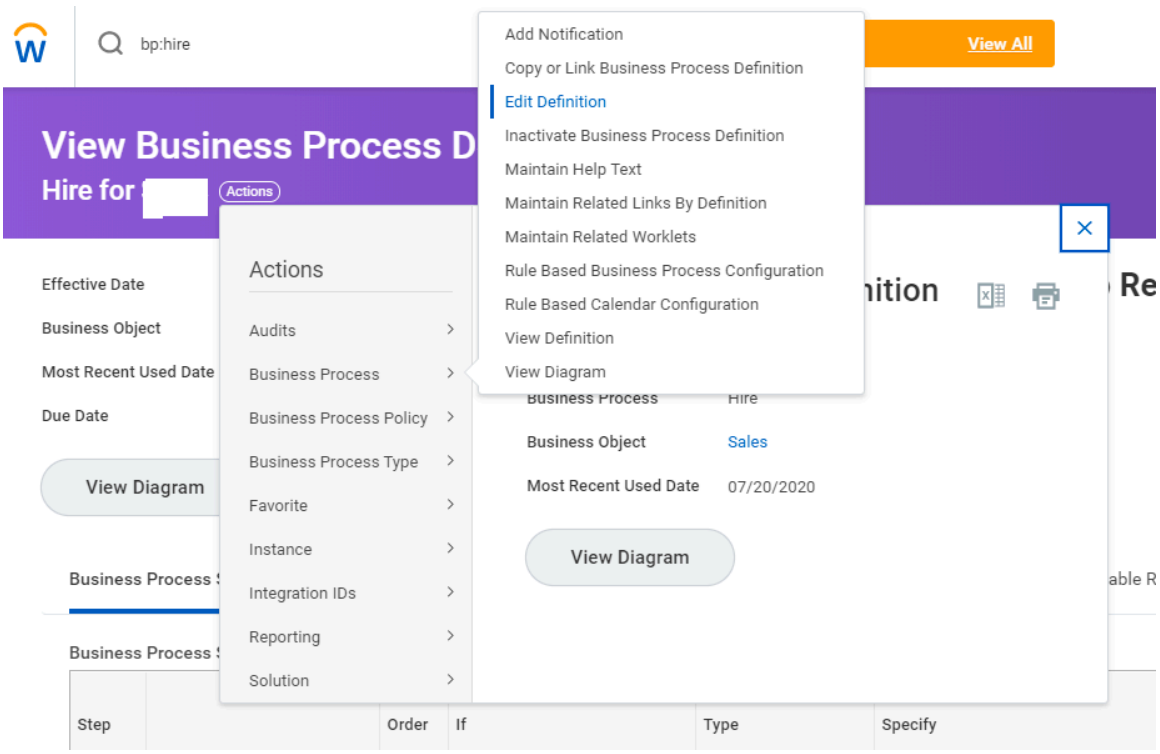
14. ServiceNow インスタンスでユーザー名とパスワードを生成するで生成した [データ連携属性の設定] にユーザー名とパスワードを入力します。



15. ビジネスプロセスを変更し、このデータ連携をビジネスプロセスに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. ビジネスプロセスの定義を編集します。

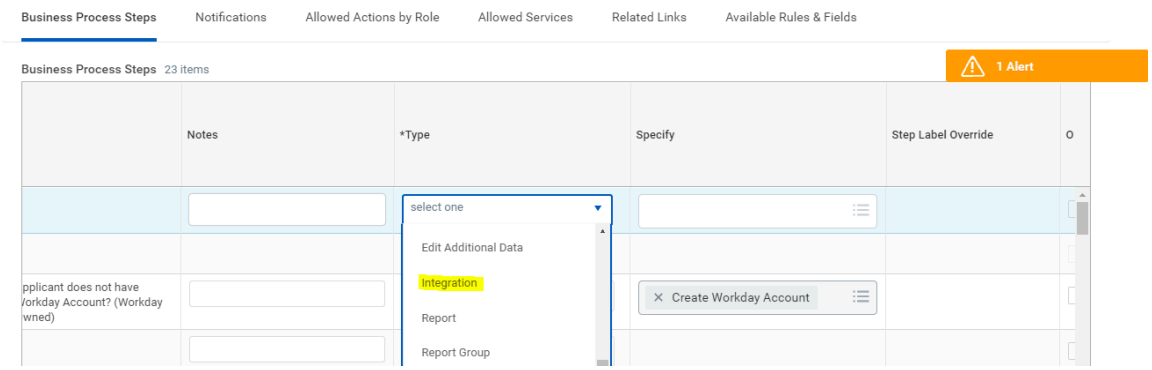


b. 有効日を選択し、**[OK]** をクリックします。

c. [+] 記号をクリックし、BP で新しいビジネスプロセスステップを追加します。

d. ビジネスプロセスの完了ステップの後のオーダーを選択します。

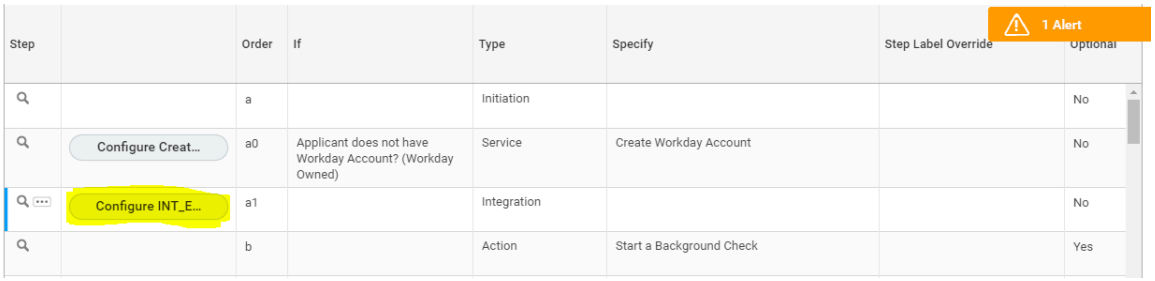
e. ビジネスプロセスを追加し、[タイプ] を [データ連携] として選択します。



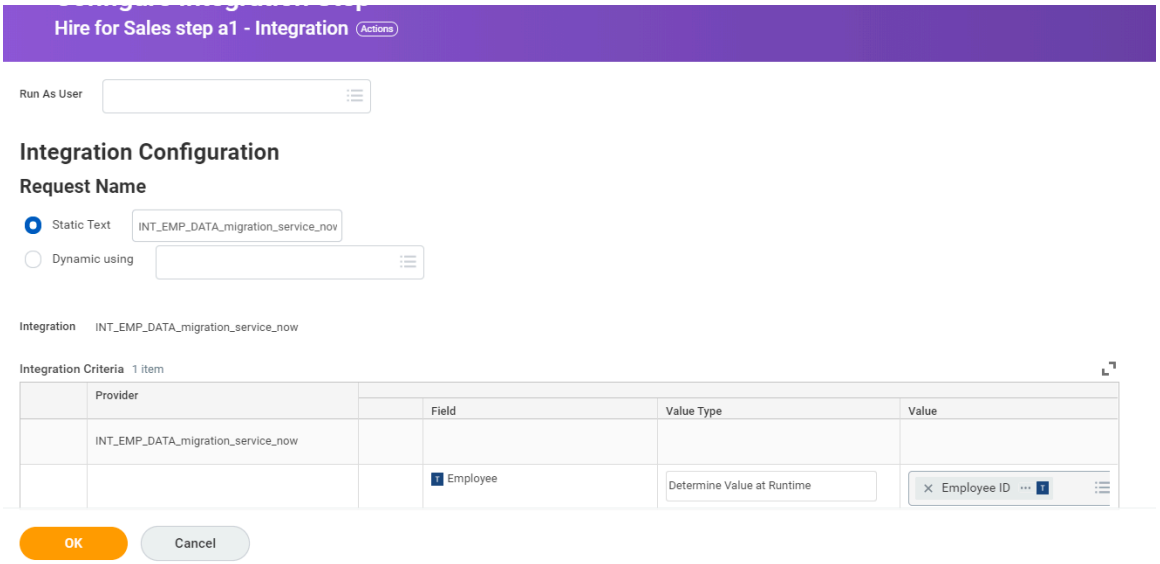
f. [ユーザーとして実行] に ISU ユーザー名を入力し、**[OK]** をクリックします。

g. BP の雇用に新しく追加されたビジネスプロセスステップで、[データ連携の構成] をクリックします。

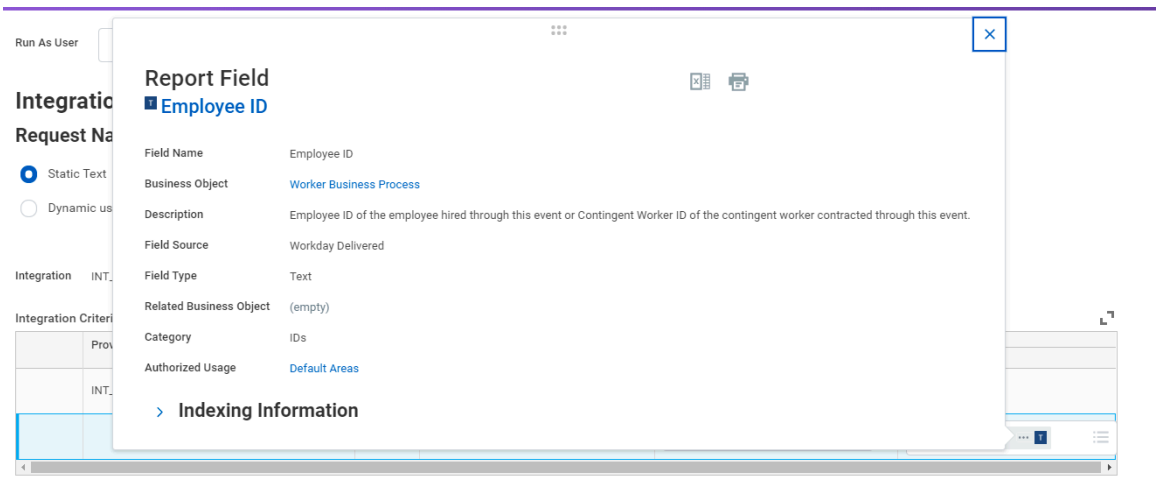
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



h. [データ連携基準] で、[値タイプ] に [実行時に値を決定] を選択し、[値] に [従業員 **ID]** を選択します。



[値]で選択した [従業員 **ID]** フィールドが表示されます。



i. **[OK]** をクリックします。

j. 次の詳細を含む Webhook のレポートを作成します。

レポート定義：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Report Definition	New_Hire_record
Report Name	New_Hire_record
Report Type	Advanced
Data Source	All Workers
Data Source Type	Standard
Primary Business Object	Worker

列ラベル：

Columns

Business Object	Field	Column Heading Override	Column Heading Override XML Alias	Format	Options
Worker	Employee ID		Employee_ID		
Worker	First Name	First Name	First_Name		
Worker	Middle Name		Middle_Name		
Worker	Last Name		lastName		
Worker	Gender	Gender	Gender		
Worker	Email - Work	Email	Email_Work		
Worker	Preferred Language	Language	Language		
Worker	Supervisory Organization	Department	Department		
Worker	Business Title		Business_Title		
Worker	Organization Roles		Organization_Roles		
Worker	Manager - Level 01	Manager	Manager		
Worker	Company		Company		
Worker	Location		Location		
Worker	Work Address - City	City	City		
Primary Work Address - Country	Alpha-3 Code	Country	Country		
Worker	CF_Street	Street	Street		
Location	Primary Address - State/Province	State	state		
Worker	Work Address - Postal Code	Postal Code	Work_Address_-_Postal_Code		
Worker	Mobile Phone Number		Mobile_Phone_Number		
Worker	Phone - Primary Work	Phone	Business_Phone		
Worker	User Name		User_Name		
Termination History - Approved	Effective Date		effective		

Group Column Headings

Business Object	Group Column Heading XML Alias
Location	location_group
Primary Work Address - Country	Primary_Work_Address_-_Country_group
Termination History - Approved	Termination_History_-_Approved_group

計算されたフィールドの詳細：

Field Name	CF_Street
Business Object	Worker

Calculation

Concatenates a series of text fields together.

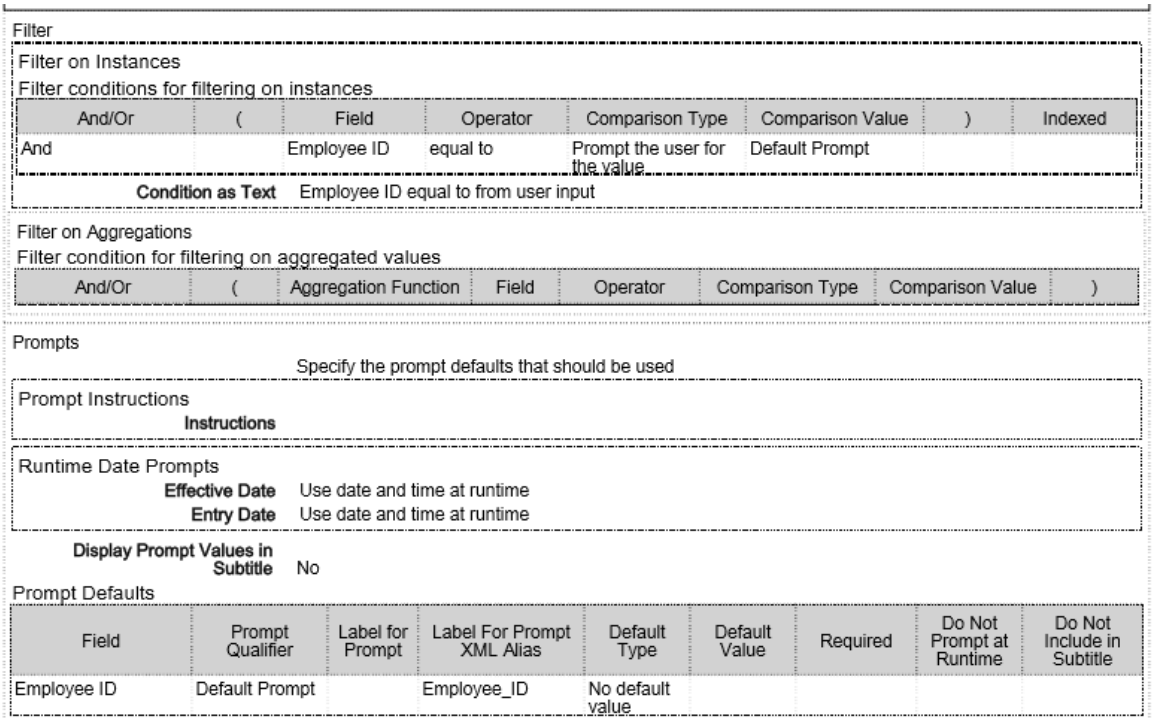
Field
Work Address - Formatted Line 1
Work Address - Formatted Line 2

Additional Info

Description	
Category	Uncategorized
Authorized Usage	Default Areas
Intermediate Calculation	
Do Not Use	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィルターとプロンプトの詳細：



Filter

Filter on Instances

Filter conditions for filtering on instances

And/Or	(	Field	Operator	Comparison Type	Comparison Value	)	Indexed
And		Employee ID	equal to	Prompt the user for the value	Default Prompt		

Condition as Text Employee ID equal to from user input

Filter on Aggregations

Filter condition for filtering on aggregated values

And/Or	(	Aggregation Function	Field	Operator	Comparison Type	Comparison Value	)

Prompts

Specify the prompt defaults that should be used

Prompt Instructions

Instructions

Runtime Date Prompts

Effective Date Use date and time at runtime

Entry Date Use date and time at runtime

Display Prompt Values in Subtitle No

Prompt Defaults

Field	Prompt Qualifier	Label for Prompt	Label For Prompt XML Alias	Default Type	Default Value	Required	Do Not Prompt at Runtime	Do Not Include in Subtitle
Employee ID	Default Prompt		Employee_ID	No default value				

Workday HR スポーク用 Offboarding Webhook の設定

Offboarding Webhook を使用して、Workday から ServiceNow インスタンスに退職した従業員の詳細を取得します。

ServiceNow インスタンスでの Offboarding Webhook 用ユーザー名とパスワードの生成

Offboarding Webhook の要求を認証し、Workday アプリケーションから必要なデータを取得するために、ServiceNow インスタンスでユーザー名とパスワードを生成します。

始める前に
必要なロール：admin

注: これらの設定は、ServiceNow インスタンスで実行される必要があります。

手順

1. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [すべて] > [システム定義] > [テーブル]に移動します。
3. Workday HR スポーク Webhook レジストリテーブルをフィルタリングして検索します。
   例：**Workday Webhook** レジストリ。
4. [リストを表示] 関連リストをクリックします。
5. [新規] をクリックします。
6. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
説明	Webhook レジストリレコードの説明。「`Offboarding の Workday イベントと認証`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
UserName	Workday Web サービスを使用するデータ連携の権限を持つ Workday ユーザー。
パスワード	Workday ユーザーのパスワード。
Workday イベント	Webhook が設定されているイベント。「`Offboarding`」と入力します。
Workday インスタンス	Workday ホスト URL とテナント名。次の形式で URL を入力します。`https://<workday_host_url>/<workday_tenant_name>`

7. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
8. [ユーザー名とパスワードを生成] をクリックします。
   ユーザー名とパスワードの値をコピーして記録します。これらの値は、Webhook 要求を認証するために Workday インスタンスで指定する必要があります。

   注: 環境に複数の HIRE BP がある場合は、すべての HIRE BP を構成して、すべての HIRE 従業員トランザクションに対して CreateUser Webhook を有効にする必要があります。

ServiceNow インスタンスからの Offboarding Webhook 用リソースパスの取得

後で Offboarding Webhook 要求を認証し、Workday アプリケーションから必要なデータを取得するために、ServiceNow インスタンスからリソースパスを取得します

始める前に
必要なロール：admin

注: これらの設定は、ServiceNow インスタンスで実行される必要があります。

手順

1. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [すべて] > [システム **Web** サービス] > [スクリプト **Web** サービス] > [スクリプト済み **REST API**]に移動します。
3. Workday HRSpoke のレコードを開きます。
4. [リソース **]** タブで、[コールバック] レコードをクリックします。
5. 後で使用するために、リソースパス の値を記録して保存します。

Workday インスタンスへの Offboarding Webhook 用 CLAR ファイルのインポート

ServiceNow Store で入手可能な CLAR ファイルをインポートして、Offboarding Webhook を設定し、ServiceNow インスタンスからの要求を認証します。

始める前に

- Workday スタジオをインストールする必要があります。
- カスタムレポート作成ポリシーにアクセスします。

  New_terminated_record レポート構造に基づいて Workday でカスタムレポートを作成し、そのレポートを ISU ユーザーと共有します。

- ビジネスプロセス定義を編集するためにアクセスします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

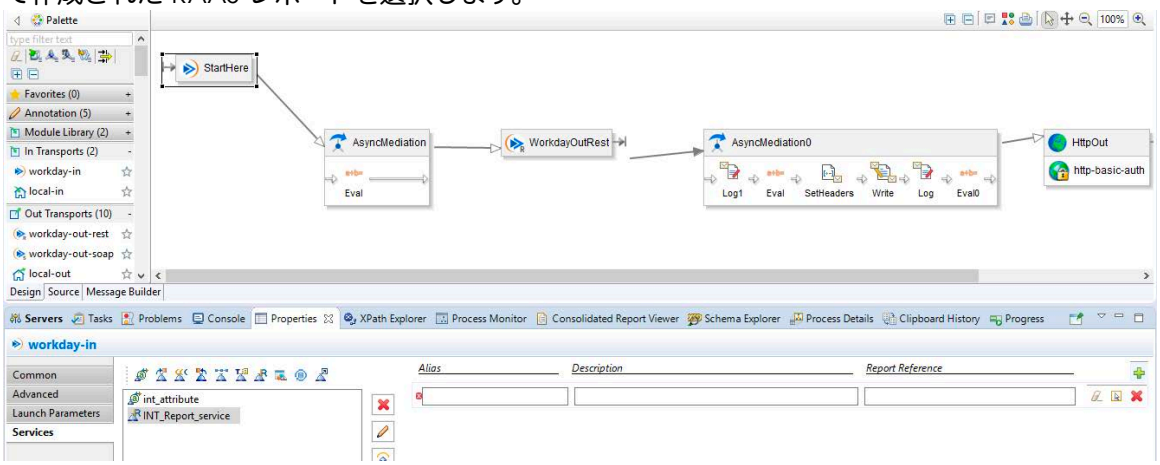
- データ連携システムを作成および編集するためにアクセスします。
- 必要なロール：admin

注:

- データ連携名、レポートフィールド XPath (必要な場合)、および Workday インスタンス ヘッダーを除いて、ユーザーは CLAR ファイルのフィールドまたはプロパティの値を変更しないように警告されます。
- これらの構成は、Workday Studio で実行する必要があります。

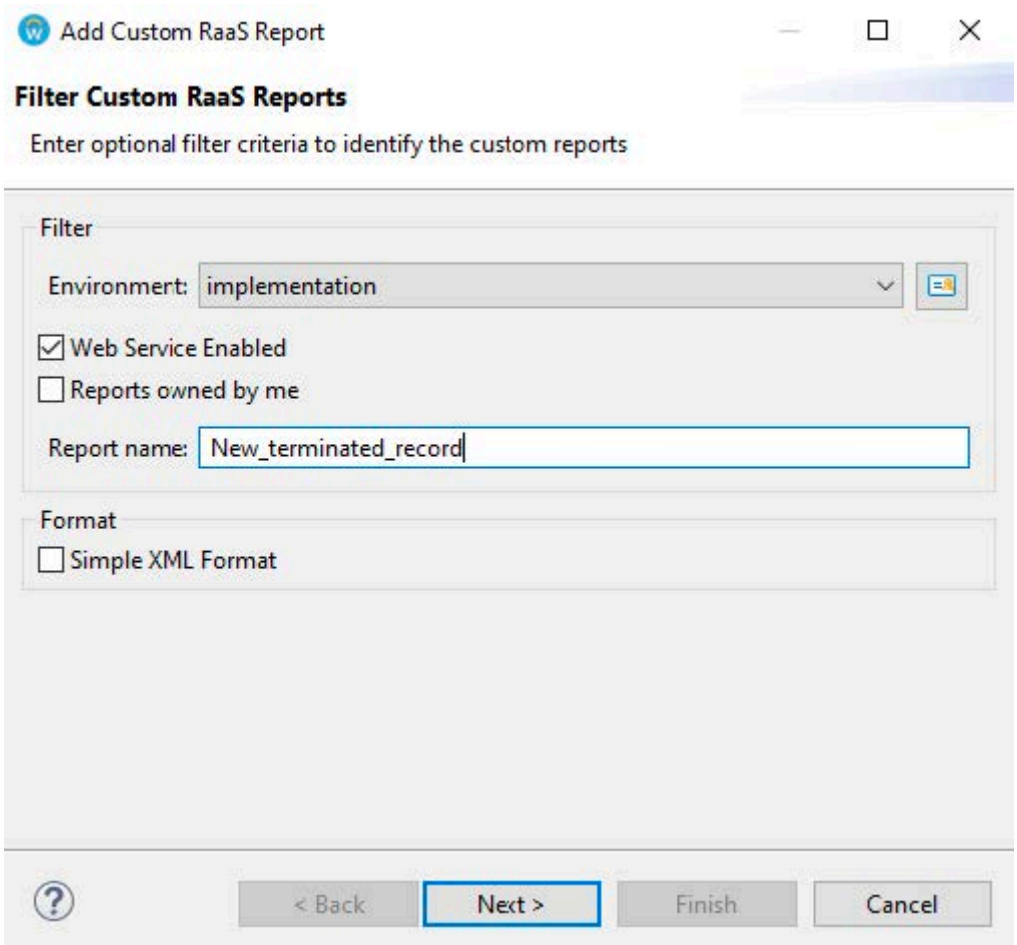
手順

1. ServiceNow Store の Workday HR スポーク ページで、 [サポートリンクおよびドキュメント] から `Workday-HR-Offboarding-Webhook-Studio-Sample` ファイルをダウンロードします。
2. サンプルファイルを解凍して、CLAR ファイルを取得します。
3. CLAR ファイルを Workday スタジオにインポートします。
4. **[StartHere]** コンポーネントの [プロパティ] タブで、[サービス] に移動し、この Webhook に対して作成された RAAS レポートを選択します。

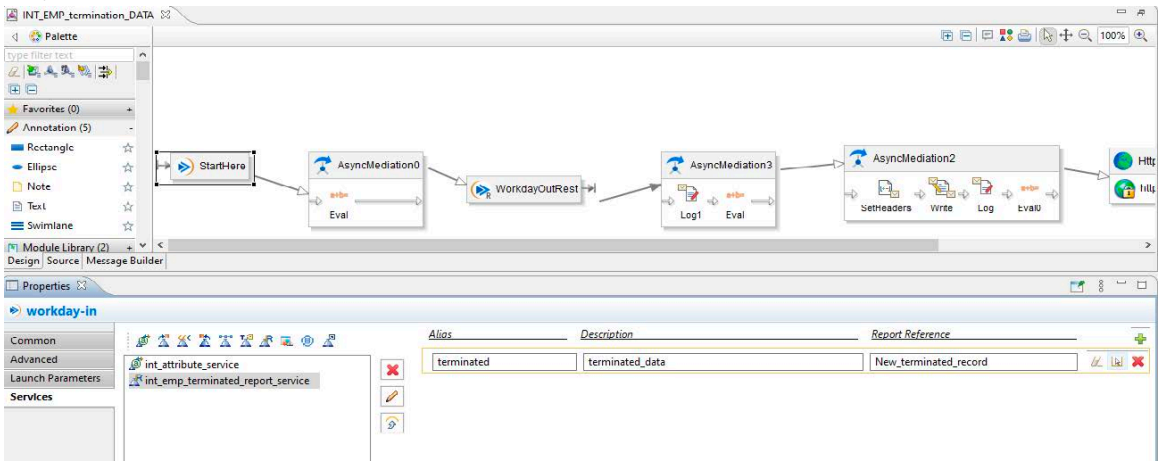


5. 実装やサンドボックスなど、レポートが存在する環境を選択し、要件に従ってレポートを構成します。
6. レポート名を入力し、必要なレポートを選択します。

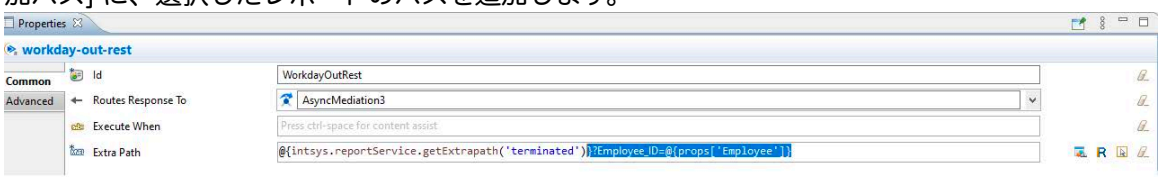
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. レポートのエイリアス名を入力します。

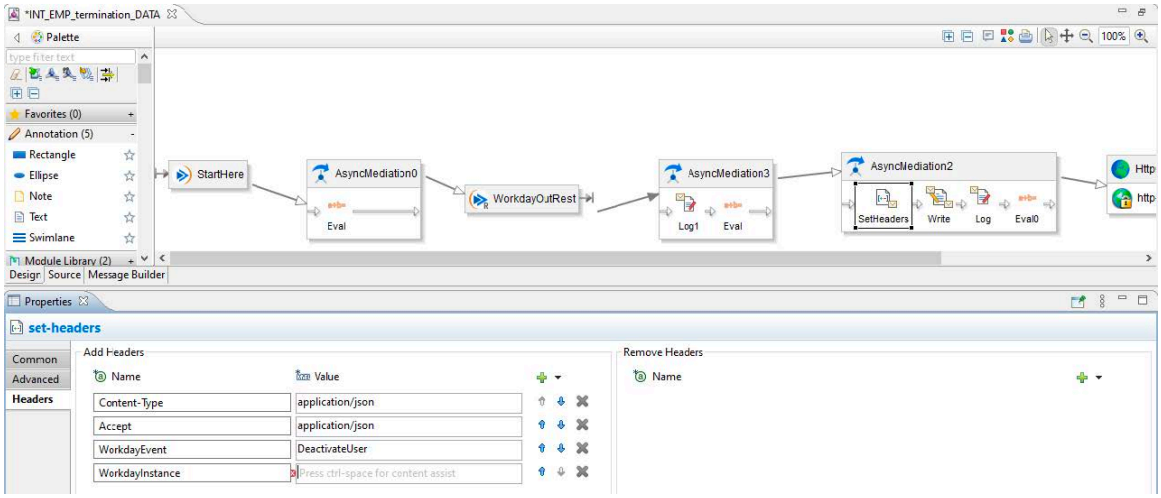


8. レポートエイリアスを追加したら、プロンプトに基づいてレポートを実行するために使用する [追加パス] に、選択したレポートのパスを追加します。



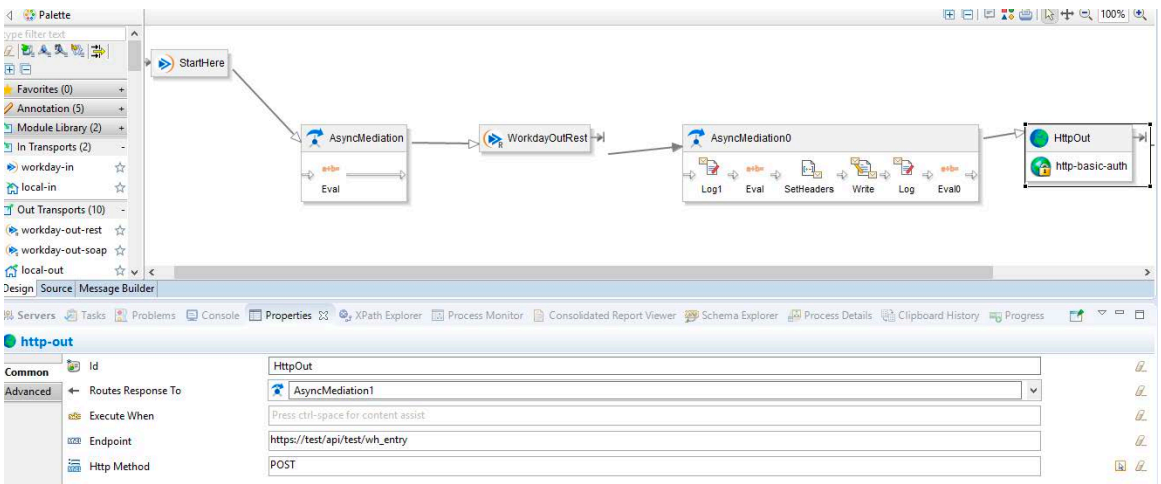
9. レポートエイリアスを選択します。
10. [ヘッダーの設定] コンポーネントで、**WorkdayInstance** ヘッダーに Workday インスタンスを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



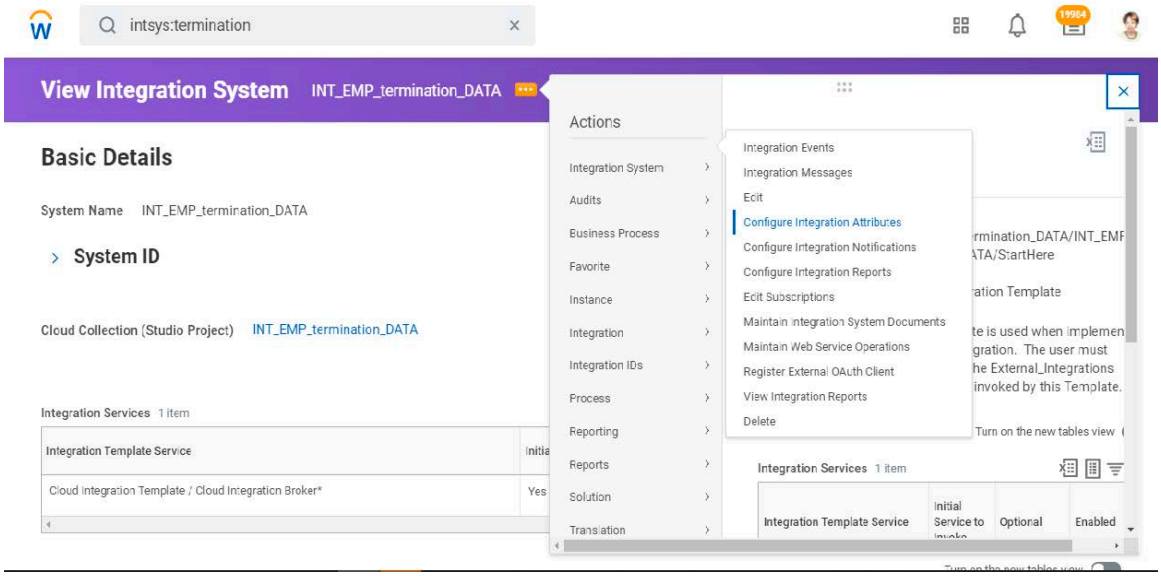
11. **HttpOut** のプロパティで、これらの値を入力します。

フィールド	値
エンドポイント	REST エンドポイント **注:** 詳細については、「ServiceNow インスタンスからリソースパスを取得する」を参照してください。
HTTP メソッド	POST

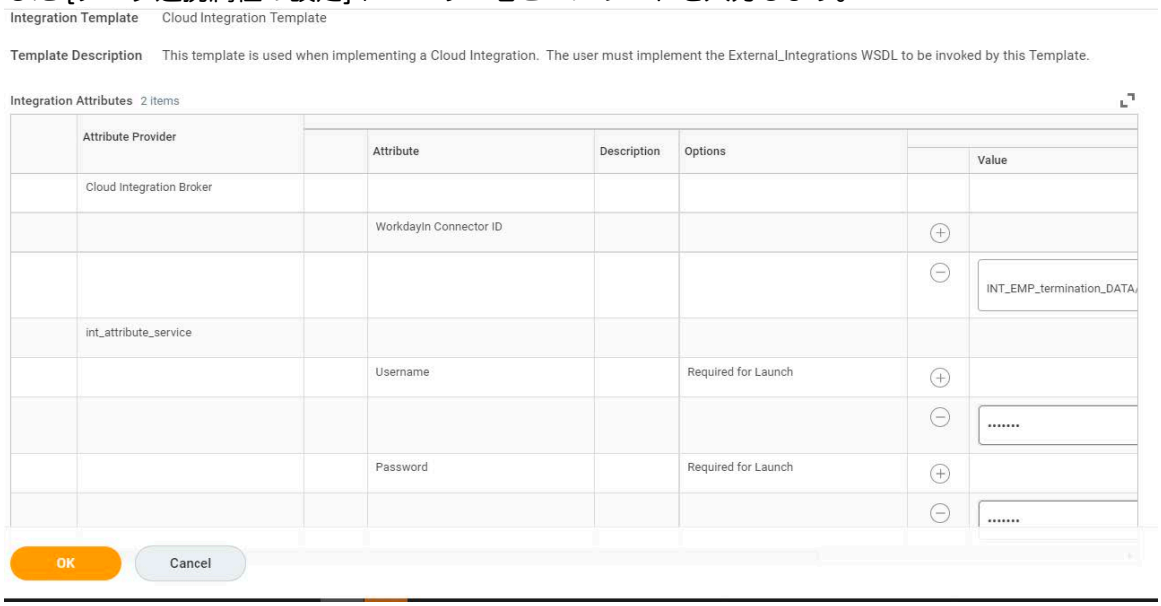


12. 変更内容を保存します。
13. プロジェクトエクスプローラーで、データ連携を選択し、Workday システムに展開します。
14. Workday インスタンスにログインし、[統合] > **[** 統合システム **]** > **[** 統合属性の構成 **]** に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

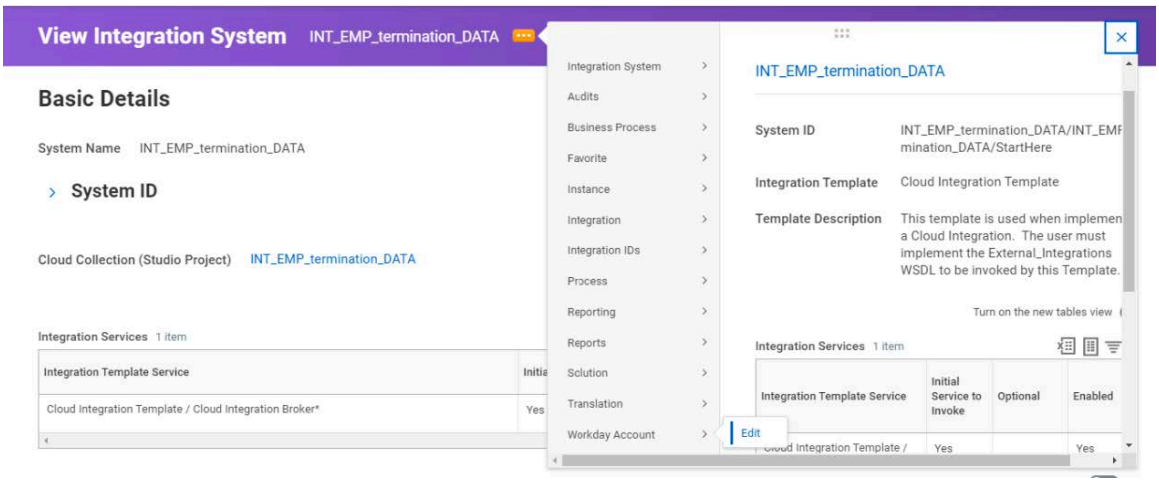


15. ServiceNow インスタンスでの Offboarding Webhook 用ユーザー名とパスワードの生成で生成した [データ連携属性の設定] にユーザー名とパスワードを入力します。



16. ビジネスプロセスを変更し、このデータ連携をビジネスプロセスに追加します。

a. ビジネスプロセスの定義を編集します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

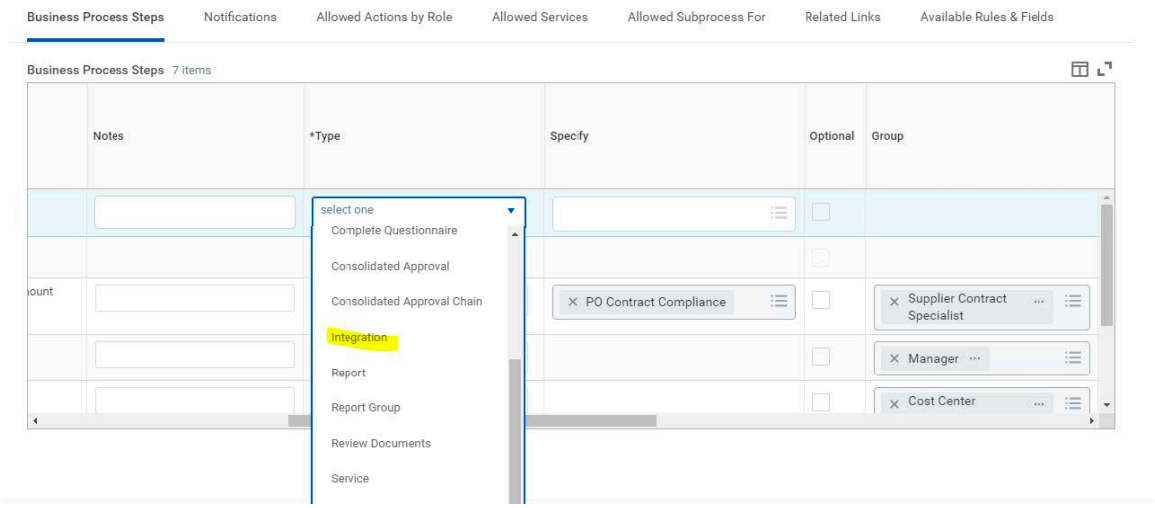
b. [Workday アカウント] ボックスで ISU ユーザーを選択します。

c. 有効日を選択し、**[OK]** をクリックします。

d. [+] 記号をクリックし、BP で新しいビジネスプロセスステップを追加します。

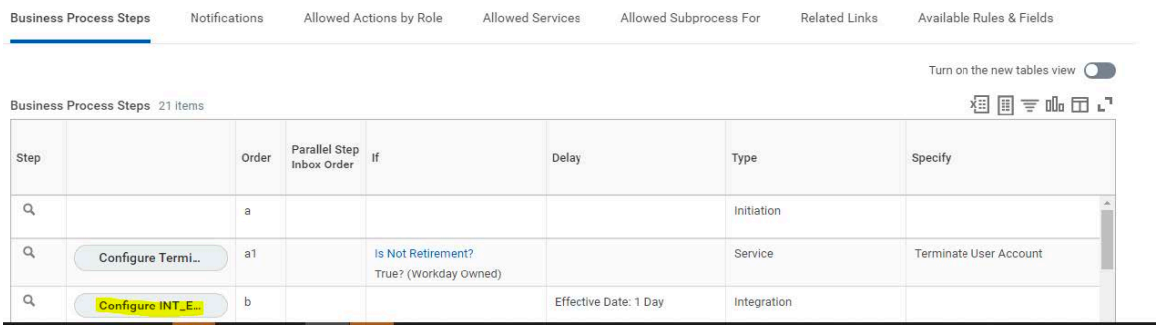
e. ビジネスプロセスの完了ステップの後のオーダーを選択します。

f. ビジネスプロセスを追加し、[タイプ] を [データ連携] として選択します。



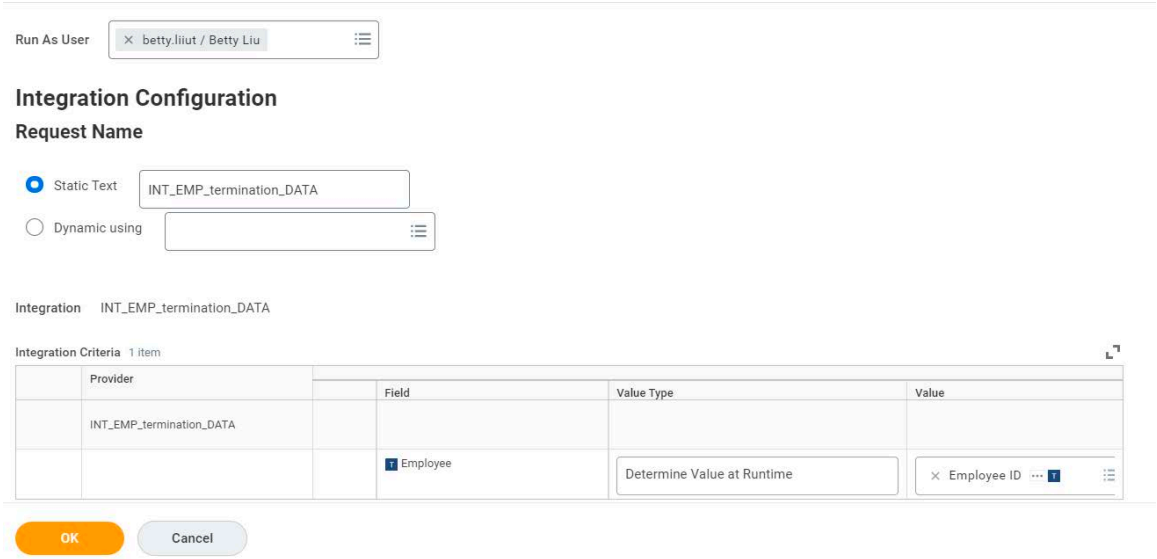
g. [ユーザーとして実行] に ISU ユーザー名を入力し、**[OK]** をクリックします。

h. BP の雇用に新しく追加されたビジネスプロセスステップで、[データ連携の構成] をクリックします。

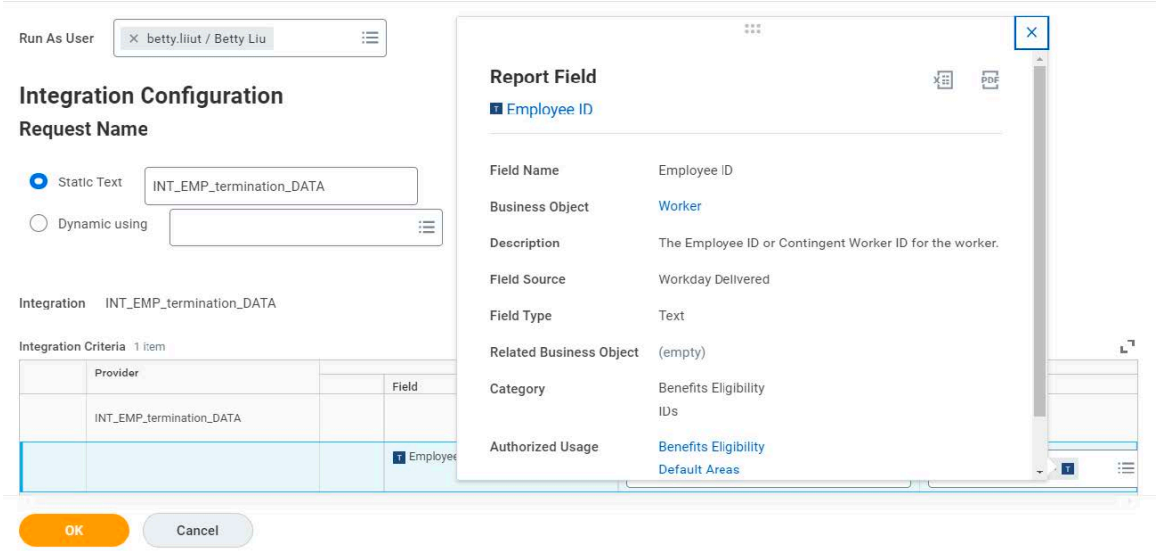


i. [データ連携基準] で、[値タイプ] に [実行時に値を決定] を選択し、[値] に [従業員 **ID]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[値] で選択した [従業員 **ID]** フィールドが表示されます。



j. [OK] をクリックします。

k. [カスタムレポートの作成] タスクを開きます。

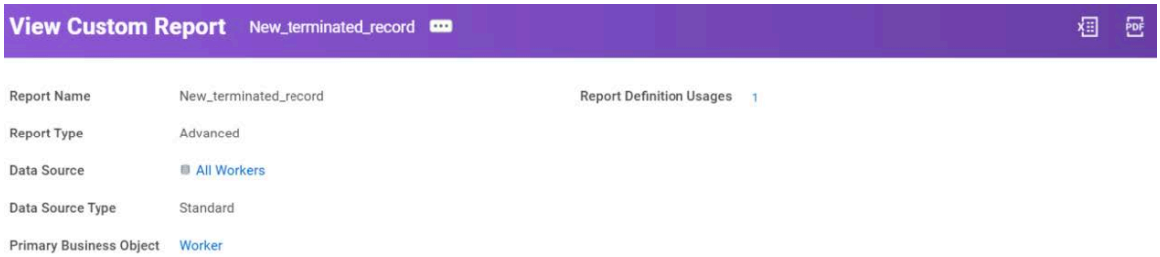
l. レポート名を入力します (例：`New_terminated_record`)。

m. [レポートタイプ] に [詳細] を選択します。

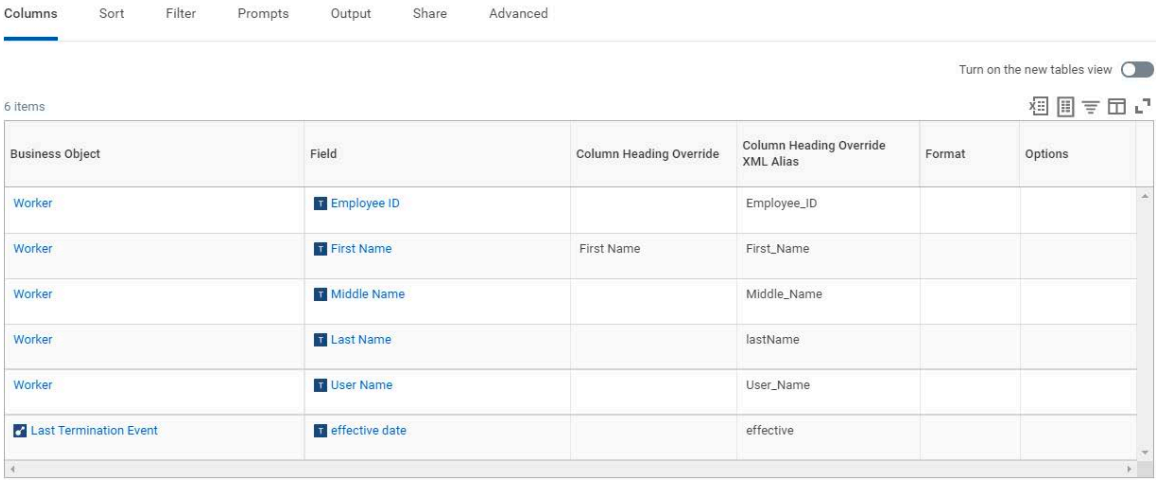
n. [パフォーマンスに最適化] オプションをオフにします。

o. [データソース] に [すべてのワーカー] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

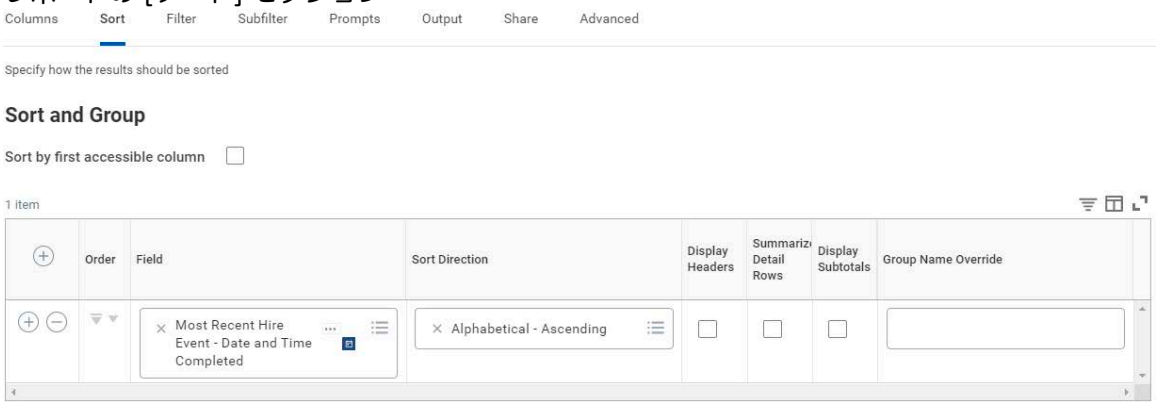


p. 次のようにレポートを作成します。

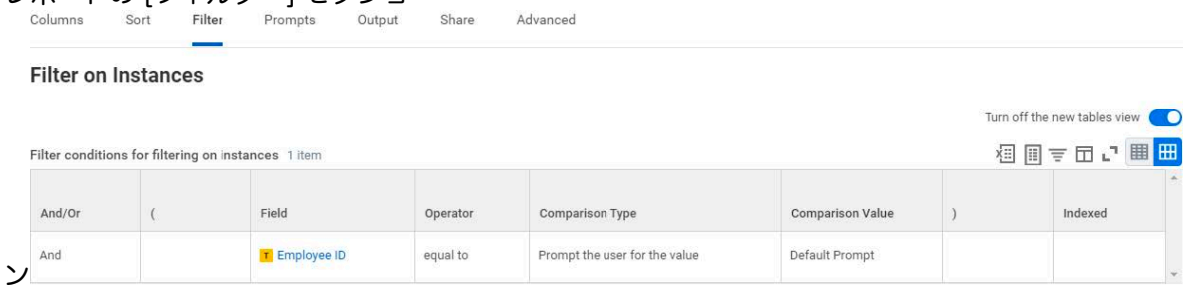


レポートの [グループ列見出し]

レポートの [ソート] セクション



レポートの [フィルター] セクション



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

q. [プロンプト] タブから [未定義のプロンプトのデフォルトを入力] オプションを選択します。

r. [詳細] タブから **[Web** サービスとして有効化] オプションを選択します。

Workday HR スポーク用 LeaveofAbsence Webhook の設定

LeaveofAbsence Webhook を使用して、Workday から ServiceNow インスタンスに従業員の休暇の詳細を取得します。

ServiceNow インスタンスでの LeaveofAbsence Webhook 用ユーザー名とパスワードの生成

LeaveofAbsence Webhook の要求を認証し、Workday アプリケーションから必要なデータを取得するために、ServiceNow インスタンスでユーザー名とパスワードを生成します。

始める前に
必要なロール：admin

注: これらの設定は、ServiceNow インスタンスで実行される必要があります。

手順

1. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [すべて] > [システム定義] > [テーブル]に移動します。
3. Workday HR スポーク Webhook レジストリテーブルをフィルタリングして検索します (例：**Workday Webhook** レジストリ)。
4. [リストを表示] 関連リストをクリックします。
5. [新規] をクリックします。
6. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
説明	Webhook レジストリレコードの説明。「`LeaveofAbsence の Workday イベントと認証`」と入力します。
UserName	Workday Web サービスを使用するデータ連携の権限を持つ Workday ユーザー。
パスワード	Workday ユーザーのパスワード。
Workday イベント	Webhook が設定されているイベント。「`LeaveofAbsence`」と入力します。
Workday インスタンス	Workday ホスト URL とテナント名。次の形式で URL を入力します。`https://<workday_host_url>/<workday_tenant_name>`

7. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
8. [ユーザー名とパスワードを生成] をクリックします。
ユーザー名とパスワードの値をコピーして記録します。これらの値は、Webhook 要求を認証するために Workday インスタンスで指定する必要があります。

注: 環境に複数の HIRE BP がある場合は、すべての HIRE BP を構成して、すべての HIRE 従業員トランザクションに対して CreateUser Webhook を有効にする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow インスタンスからの LeaveofAbsence Webhook 用リソースパスの取得

後で Offboarding Webhook 要求を認証し、Workday アプリケーションから必要なデータを取得するために、ServiceNow インスタンスからリソースパスを取得します。

始める前に
必要なロール：admin

注: これらの設定は、ServiceNow インスタンスで実行される必要があります。

手順

1. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [すべて] > [システム **Web** サービス] > [スクリプト **Web** サービス] > [スクリプト済み **REST API**]に移動します。
3. Workday HRSpoke のレコードを開きます。
4. [リソース **]** タブで、[コールバック] レコードをクリックします。
5. 後で使用するために、リソースパス の値を記録して保存します。

Workday インスタンスへの LeaveofAbsence Webhook 用 CLAR ファイルのインポート

ServiceNow Store で入手可能な CLAR ファイルをインポートして、LeaveofAbsence Webhook を設定し、 ServiceNow インスタンスからの要求を認証します。

始める前に

- Workday スタジオをインストールする必要があります。
- カスタムレポート作成ポリシーにアクセスします。

  Leave_of_absence_request レポート構造に基づいて Workday でカスタムレポートを作成し、そのレポートを ISU ユーザーと共有します。
- ビジネスプロセス定義を編集するためにアクセスします。
- データ連携システムを作成および編集するためにアクセスします。
- 必要なロール：admin

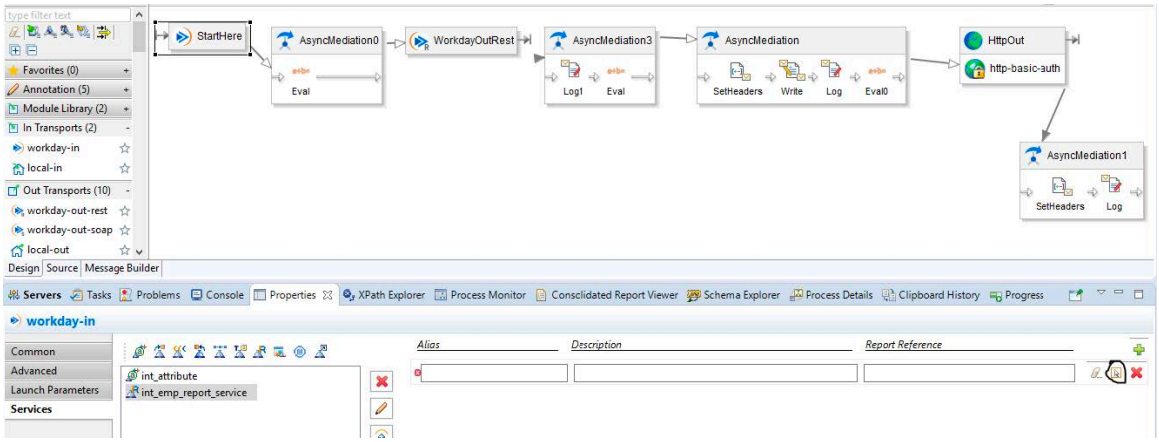
注:

- データ連携名、レポートフィールド XPath (必要な場合)、および Workday インスタンスヘッダーを除いて、ユーザーは CLAR ファイルのフィールドまたはプロパティの値を変更しないように警告されます。
- これらの構成は、Workday Studio で実行する必要があります。

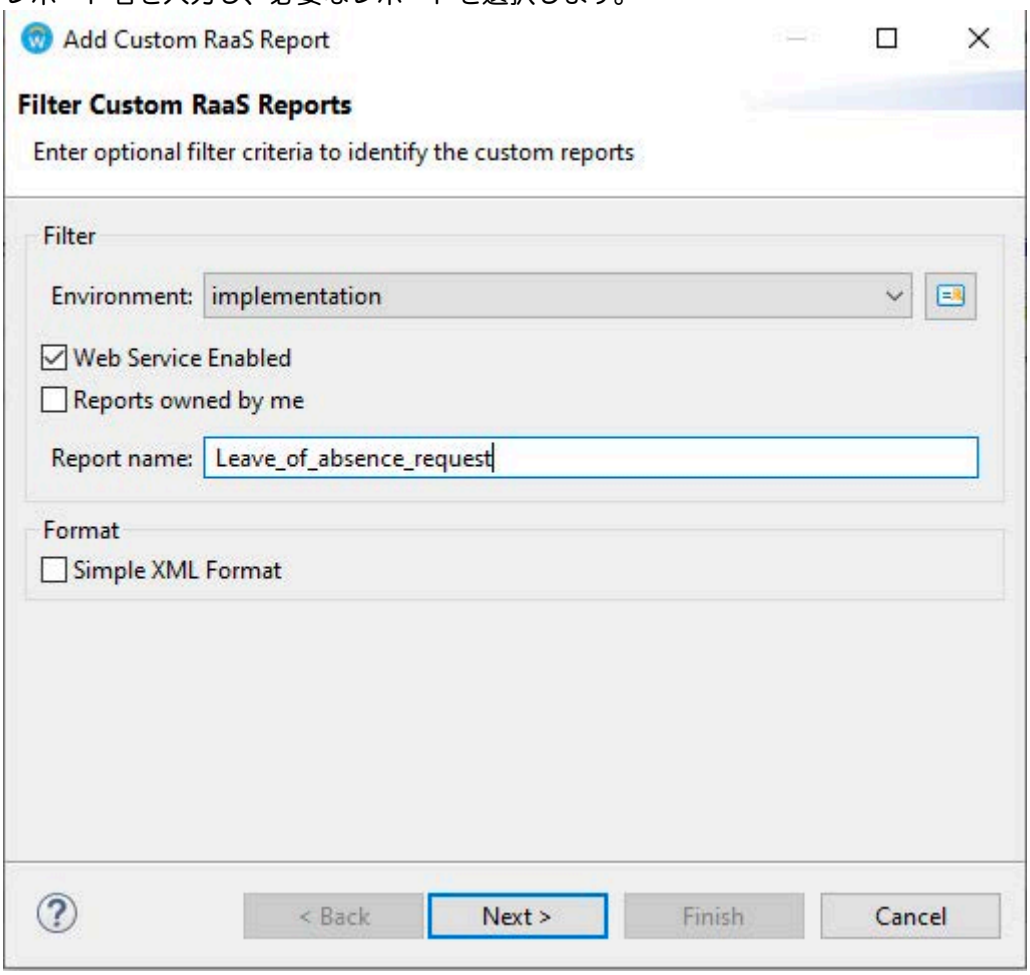
手順

1. ServiceNow Store の Workday HR スポーク ページで、 [サポートリンクおよびドキュメント] から `Workday-HR-Leave-of-Absence-Webhook-Studio-Sample` ファイルをダウンロードします。
2. サンプルファイルを解凍して、CLAR ファイルを取得します。
3. CLAR ファイルを Workday スタジオにインポートします。
4. **[StartHere]** コンポーネントの [プロパティ] タブで、[サービス] に移動し、この Webhook に対して作成された RAAS レポートを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

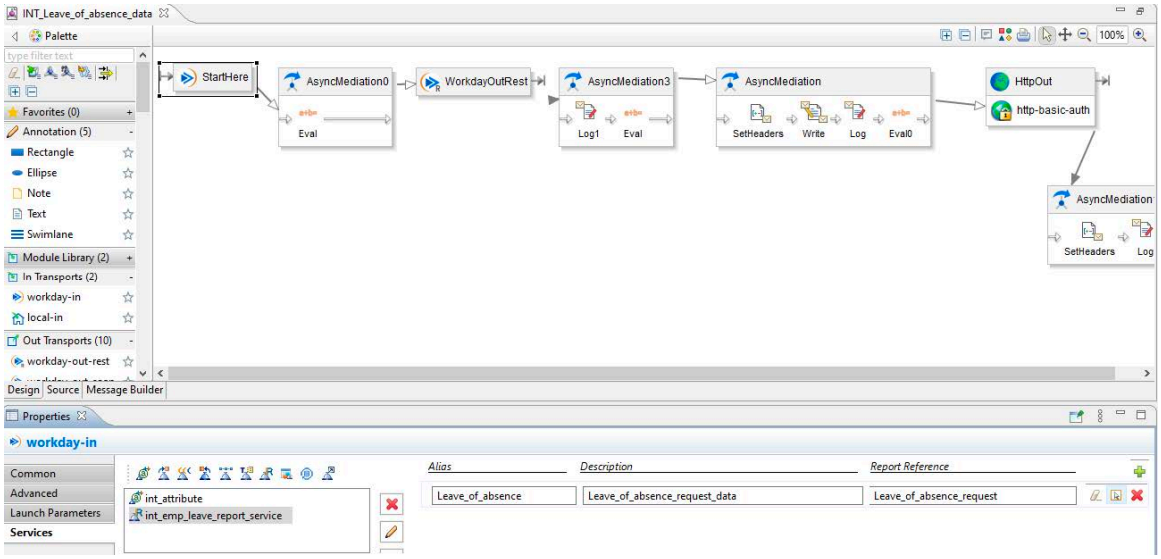


5. 実装やサンドボックスなど、レポートが存在する環境を選択し、要件に従ってレポートを構成します。
6. レポート名を入力し、必要なレポートを選択します。

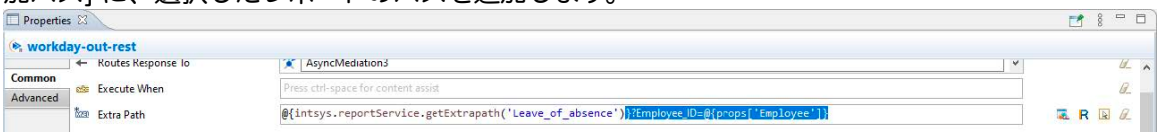


7. レポートのエイリアス名を入力します。

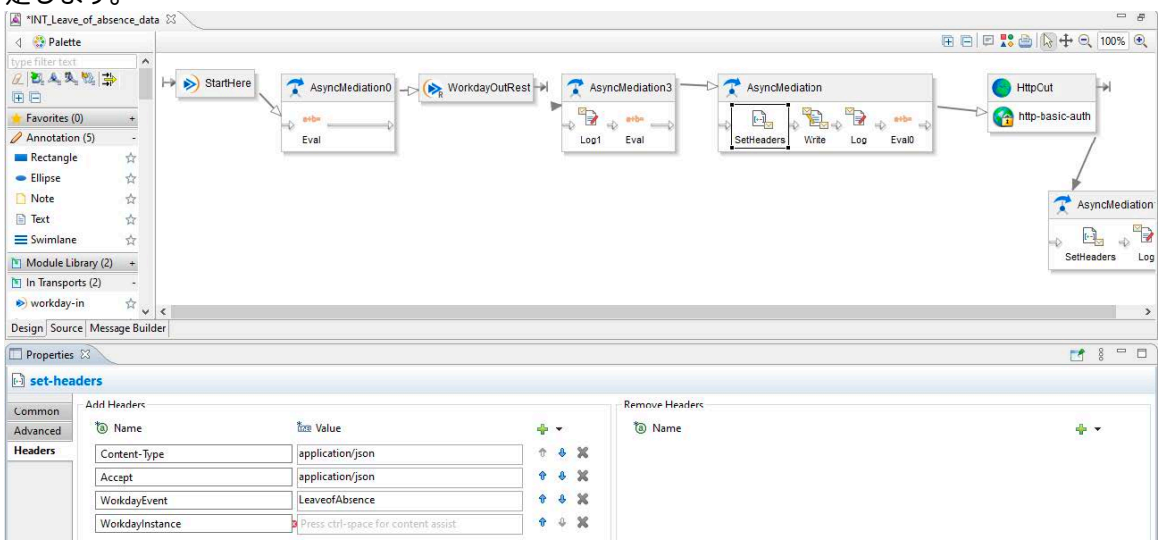
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. レポートエイリアスを追加したら、プロンプトに基づいてレポートを実行するために使用する [追加パス] に、選択したレポートのパスを追加します。



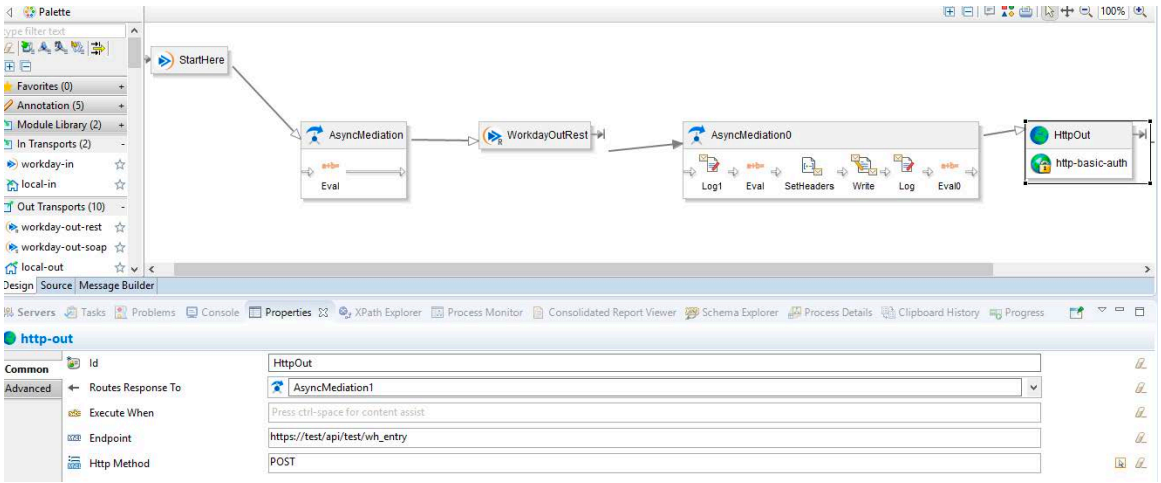
9. レポートエイリアスを選択します。
10. [ヘッダーの設定] コンポーネントで、**WorkdayInstance** ヘッダーに Workday インスタンスを指定します。



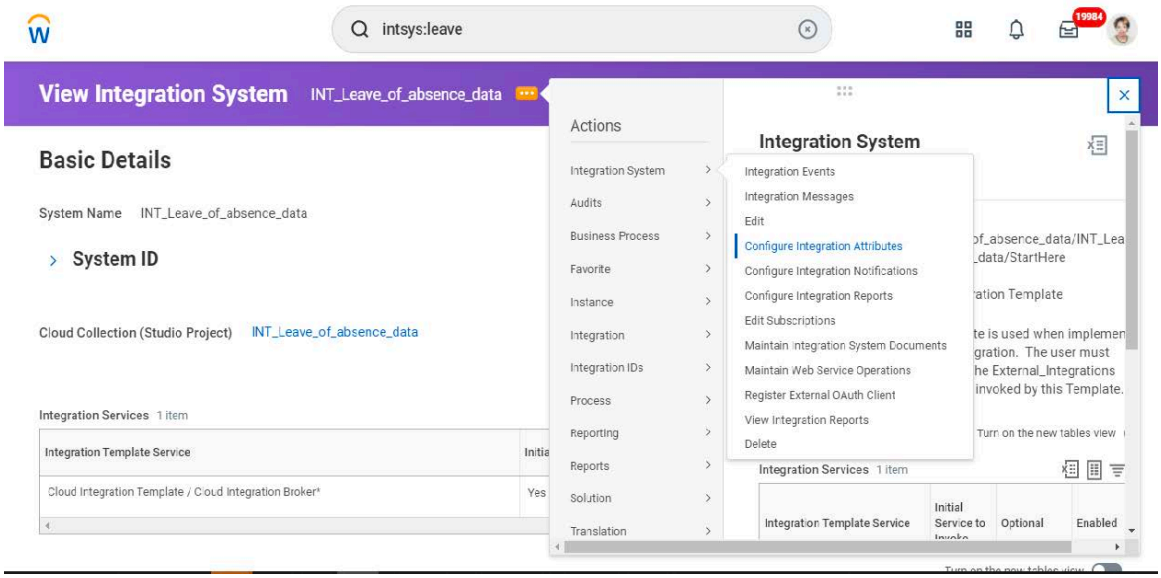
11. **HttpOut** のプロパティで、これらの値を入力します。

フィールド	値
エンドポイント	REST エンドポイント **注:** 詳細については、「ServiceNow インスタンスからリソースパスを取得する」を参照してください。
HTTP メソッド	POST

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

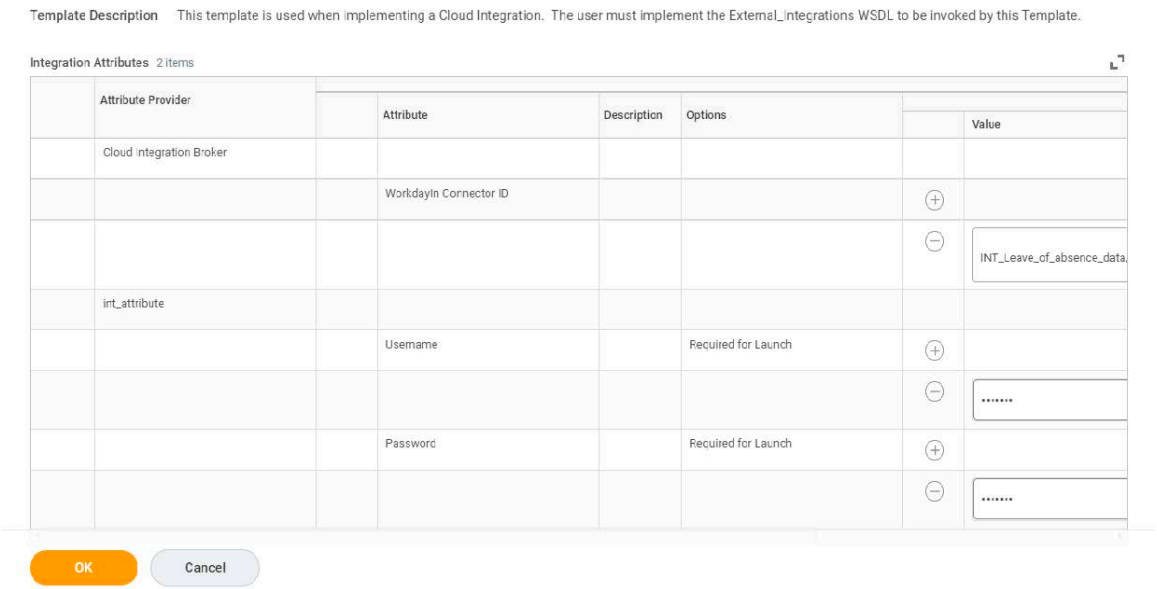


12. 変更内容を保存します。
13. プロジェクトエクスプローラーで、データ連携を選択し、Workday システムに展開します。
14. Workday インスタンスにログインし、[統合] > **[** 統合システム **]** > **[** 統合属性の構成 **]** に移動します。



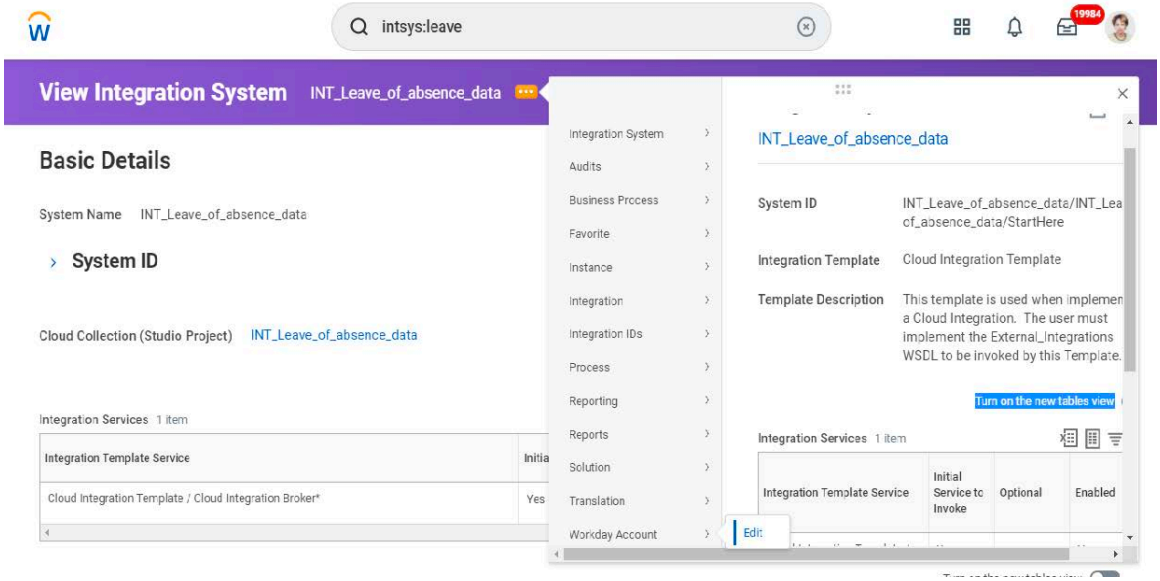
15. ServiceNow インスタンスでの LeaveofAbsence Webhook 用ユーザー名とパスワードの生成で生成した [データ連携属性の設定] にユーザー名とパスワードを入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



16. ビジネスプロセスを変更し、このデータ連携をビジネスプロセスに追加します。

    a. ビジネスプロセスの定義を編集します。



    b. [Workday アカウント] ボックスで ISU ユーザーを選択します。

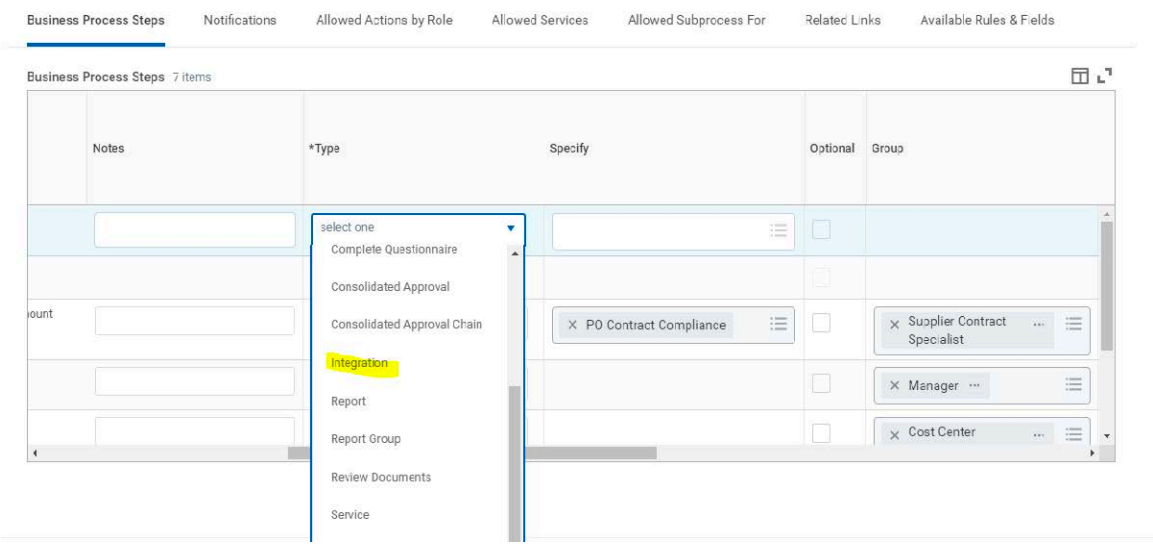
    c. 有効日を選択し、**[OK]** をクリックします。

    d. [+] 記号をクリックし、BP で新しいビジネスプロセスステップを追加します。

    e. ビジネスプロセスの完了ステップの後のオーダーを選択します。

    f. ビジネスプロセスを追加し、[タイプ] を [データ連携] として選択します。

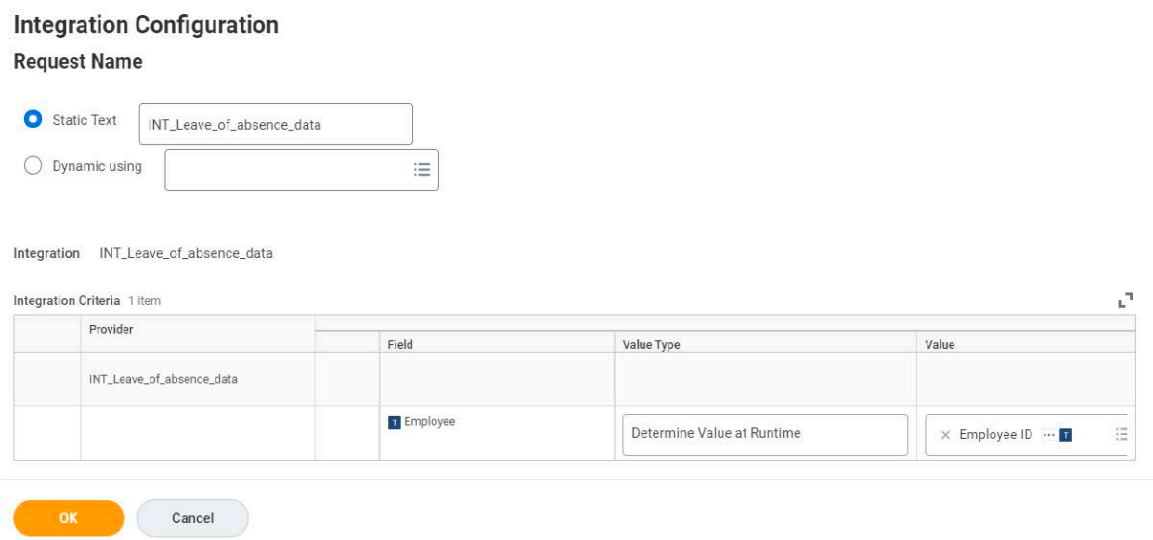
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



g. [ユーザーとして実行] に ISU ユーザー名を入力し、**[OK]** をクリックします。

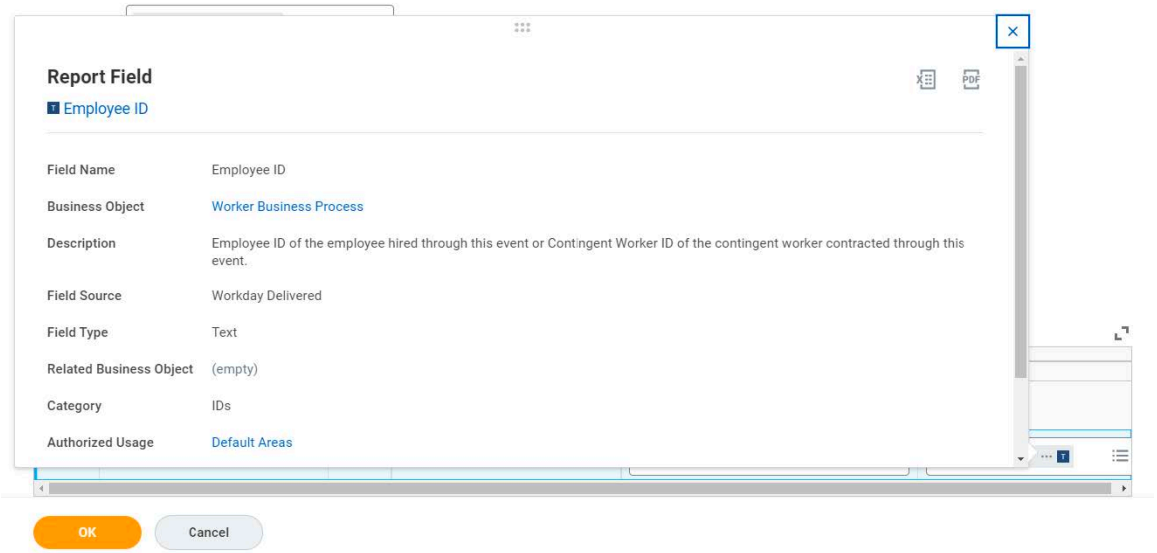
h. BP の雇用に新しく追加されたビジネスプロセスステップで、[データ連携の構成] をクリックします。

i. [データ連携基準] で、[値タイプ] に [実行時に値を決定] を選択し、[値] に [従業員 **ID]** を選択します。



[値]で選択した [従業員 **ID]** フィールドが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



j. **[OK]** をクリックします。

k. [カスタムレポートの作成] タスクを開きます。

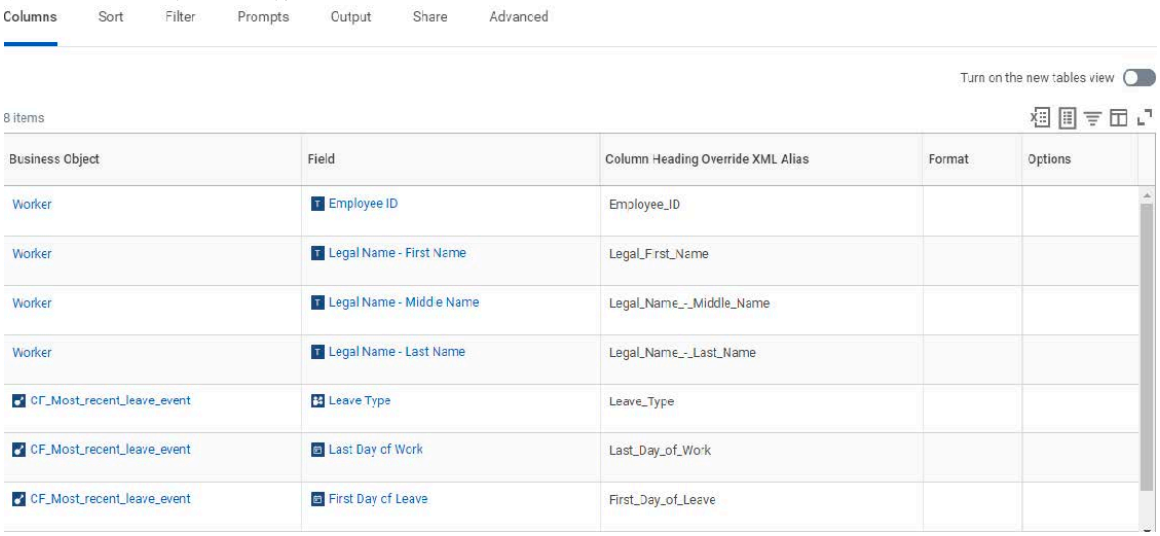
l. レポート名を入力します (例：`Leave_of_absence_request`)。

m. [レポートタイプ] に [詳細] を選択します。

n. [パフォーマンスに最適化] オプションをオフにします。

o. [データソース] に [すべてのアクティブなワーカーと終了したワーカー **(All Active and Terminated Workers)]** を選択します。

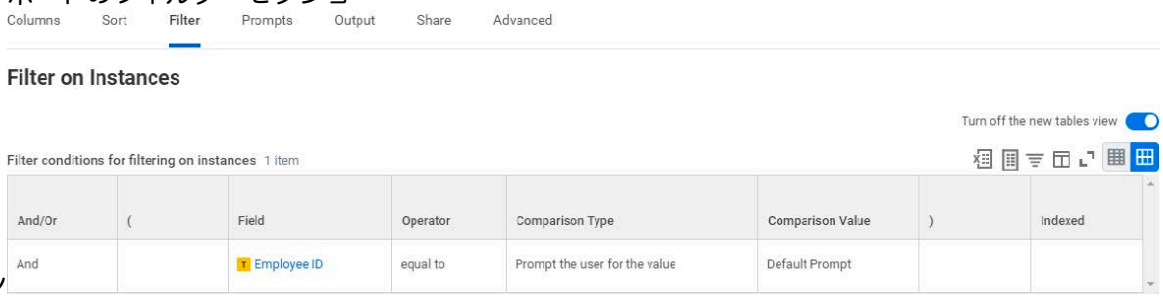
p. 次のようにレポートを作成します。



レポートのグループ列見出しセクション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レポートのフィルターセクション



q. [プロンプト] タブから [未定義のプロンプトのデフォルトを入力] オプションを選択します。

r. [詳細] タブから **[Web** サービスとして有効化] オプションを選択します。

Workday HR スポークの機能を拡張

Workday HR スポークをデフォルトの機能を超えて拡張します (新しい入力および出力フィールドの追加など)。

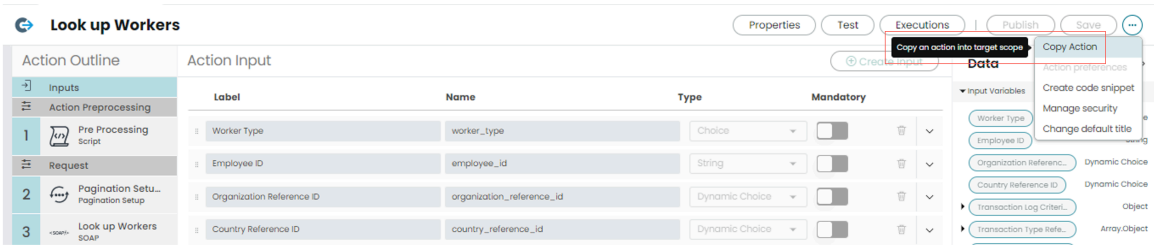
Workday HR スポークを拡張するには、アドミニストレーターがWorkdayパブリック Web サービス API を認識し、Workday システムを構成できる必要があります。

Example: [ワーカーの検索 (Look up Workers)] アクションを拡張

スポークとともに使用可能な [ワーカーを検索 (Look up Workers)] アクションは、必要な入力と出力のほとんどを提供します。このアクションに入力と出力を追加する前に、デフォルトのスポークアクションを使用する方法を確認してください。

このアクションは、 Workday HR スポークの入力フィールドデータピルを関連する Workday 要求 XML メッセージに変換し、Workday 応答 XML メッセージを ServiceNow フローデザイナー の出力フィールドデータピルとして同期的にレンダリングします。サンプル要求メッセージ とサンプル応答メッセージ を必ず確認します。

デフォルトの [ワーカーを検索] アクションのコピーを作成して、変更または拡張します。



このアクションの要求基準の一部としてポジション参照 ID を追加するには、次を行います。

注:

- 通常の入力フィールドまたは [追加フィールド] 入力フィールドに目的の入力があるかどうかを必ず確認します。目的の入力が含まれていない場合は、次の手順を実行して、必要な入力フィールドを手動で作成します。
- [ワーカーを検索] アクションは、[追加フィールド] 入力フィールドのポジション参照 ID 要求要素をサポートしています。デモンストレーションの目的で、このフィールドは UI に手動で追加されています。

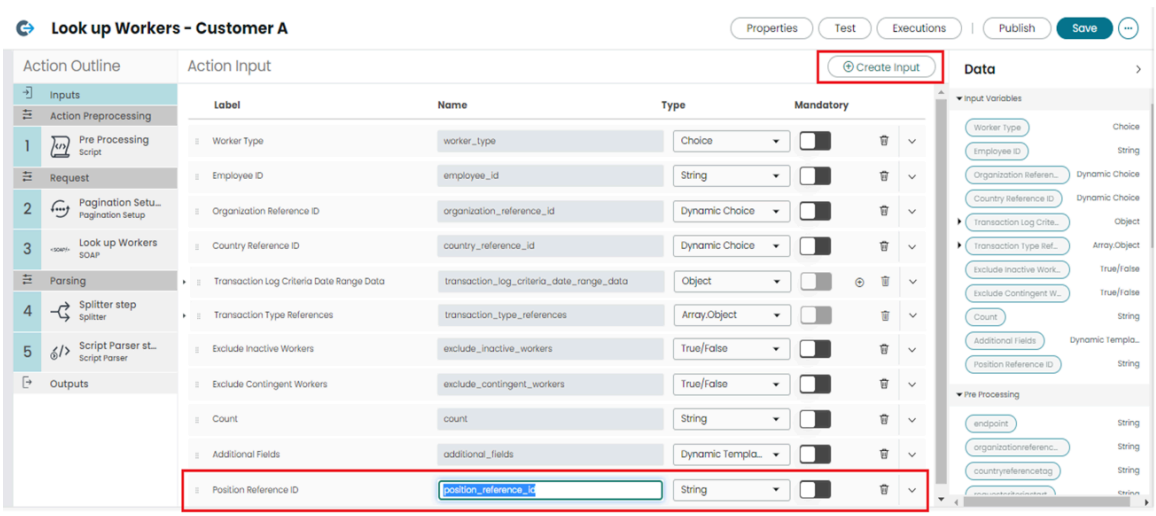
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. Workday 要求メッセージ でポジション参照 ID がどのように構成されているかを評価して、理解します。ポジション参照 ID を要求メッセージに追加するための XPath は、Workday Public Web Services コミュニティ投稿 のとおり、2 つあります。
   a. ポジション参照タイプ属性 ： Get_Workers_Request/Request_Criteria/Position_Reference/@type
   b. Public Web Services のドキュメントによると、上記の属性値はハードコードされた「ポジション ID」です。

Position_ElementObjectID
part of: Position_ElementObject
Contains a unique identifier for an instance of an object.

Parameter name	Type/Value	Cardinality	Description
#text	string		
@type	WID, Position_ID	[1..1]	The unique identifier type. Each "ID" for an instance of an object contains a type and a value. A single instance of an object can have multiple "ID" but only a single "ID" per "type".

   c. ポジション参照値：Get_Workers_Request/Request_Criteria/Position_Reference
   d. 上記の実際の値は、スポークアクションの新しい入力フィールドです。
2. [アクションの入力] ステップで入力変数を作成します。[入力の作成] をクリックし、単純な文字列タイプの入力変数を追加します。



3. 前処理スクリプトステップで入力変数を作成します。
   a. [変数の作成] をクリックします。
   b. 入力変数名を **[position_reference_id]** という名前で追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [入力変数] から [ポジション参照 **ID]** データピルをドラッグし、入力変数の値にドロップします。

4. [スクリプト] セクションの [var organizationReferenceStr] のデザインパターンを活用します。

a. この例の [Workday Get Worker Request] メッセージ に一致する XML ノードを作成します。

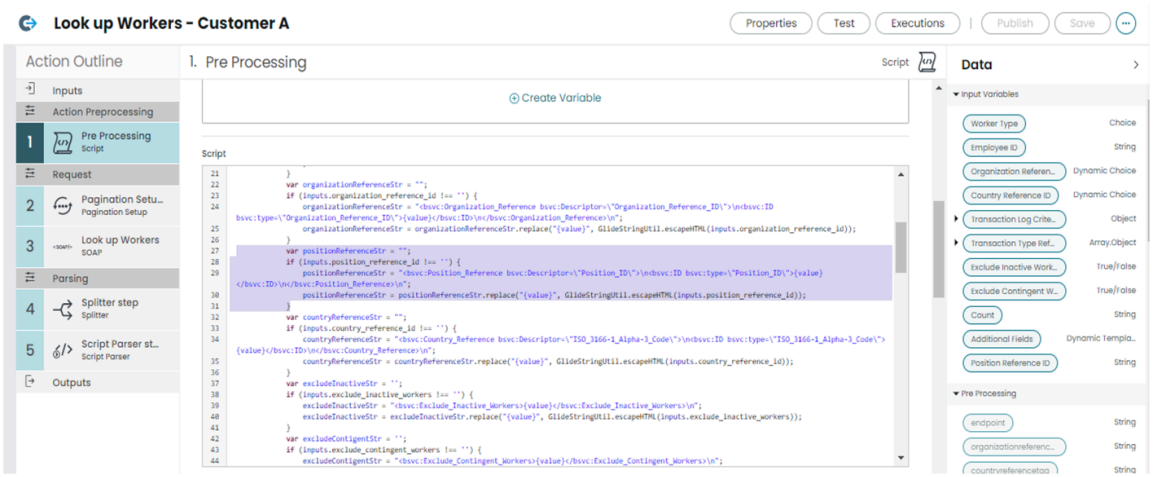
b. それに応じて、[スクリプト] セクションで適切なデザインパターンを見つけます。この例では、ポジション参照用にこの XML ノードをビルドする必要があります。

```
<bsvc:Position_Reference bsvc:Descriptor="string">
<bsvc:ID bsvc:type="Position_ID">string</bsvc:ID>
</bsvc:Position_Reference>
```

c. 上記の XML を類似の XML ノードと比較する場合、関連するデザインパターンスクリプトを活用するために、組織参照が適しています。[スクリプト] セクションでは、関連するスクリプトスニペットは「var organizationReferenceStr」の下にあります。

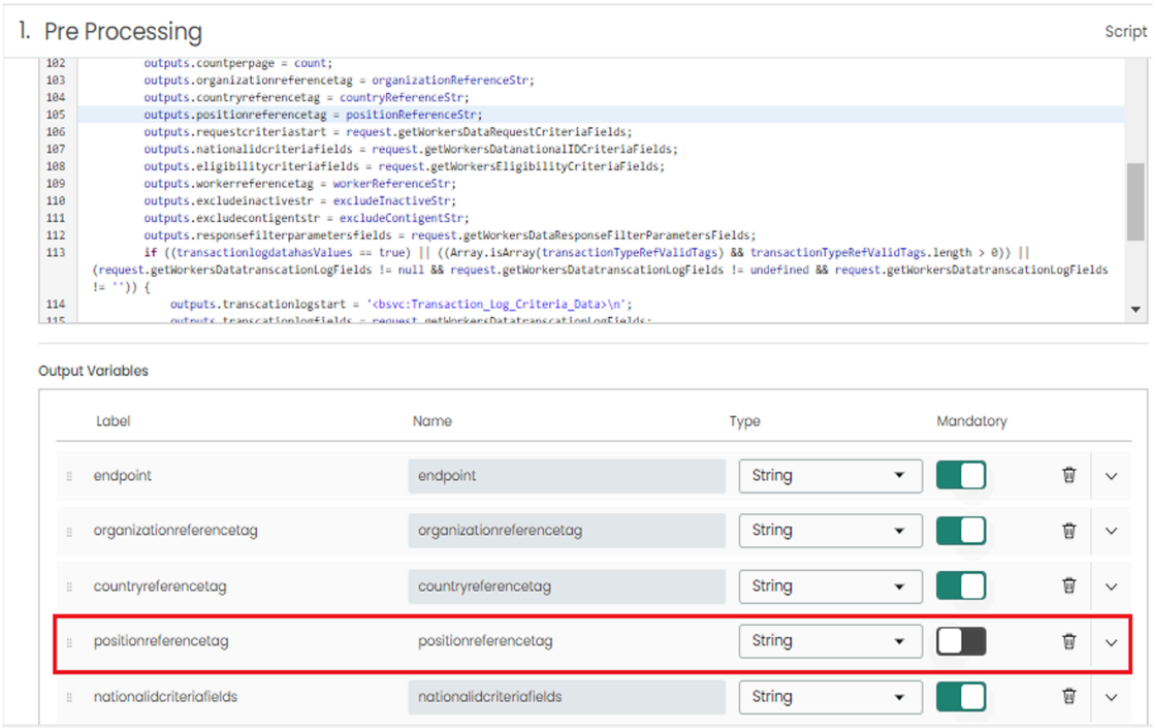
```
<bsvc:Organization_Reference bsvc:Descriptor="string">
<bsvc:ID bsvc:type="Organization_ID">string</bsvc:ID>
</bsvc:Organization_Reference>
```

d. [var organizationReferenceStr] コードスニペットを利用して、ポジション参照 XML ノードを適切にビルドします。



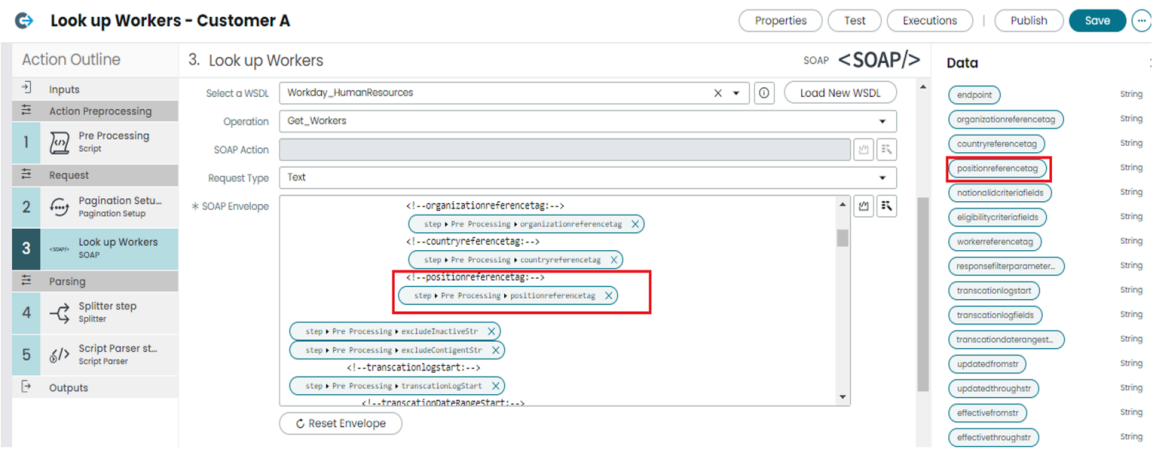
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. 同じスクリプトの **[var request]** セクションで、デザインパターンを活用し、出力変数を定義します。



5. SOAP ステップにポジション XML ノードを作成します。

a. 適宜、「Workday Get Worker Request メッセージ」およびポジション参照ノードを参照してください。

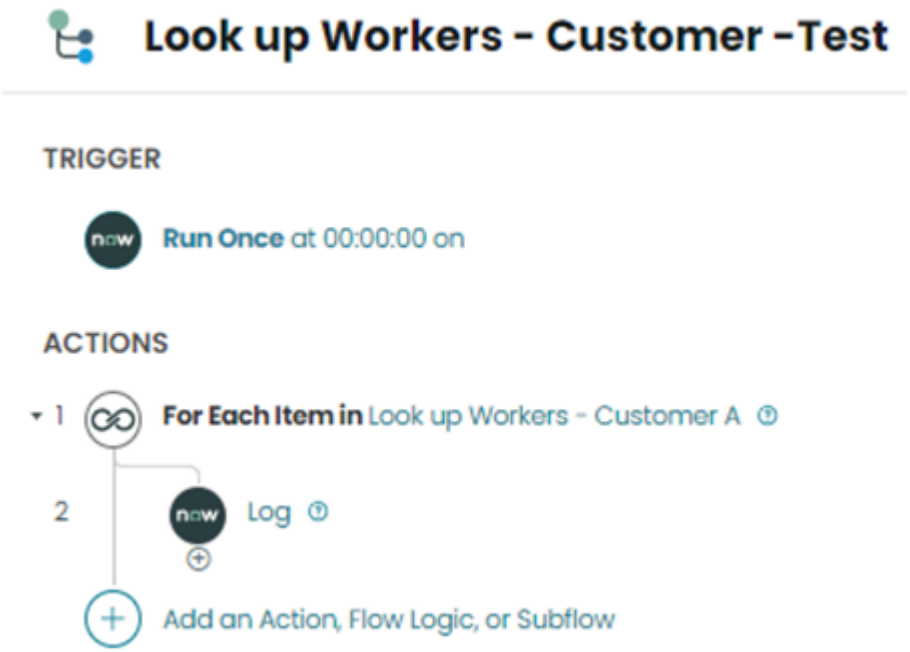


b. 保存して公開します。

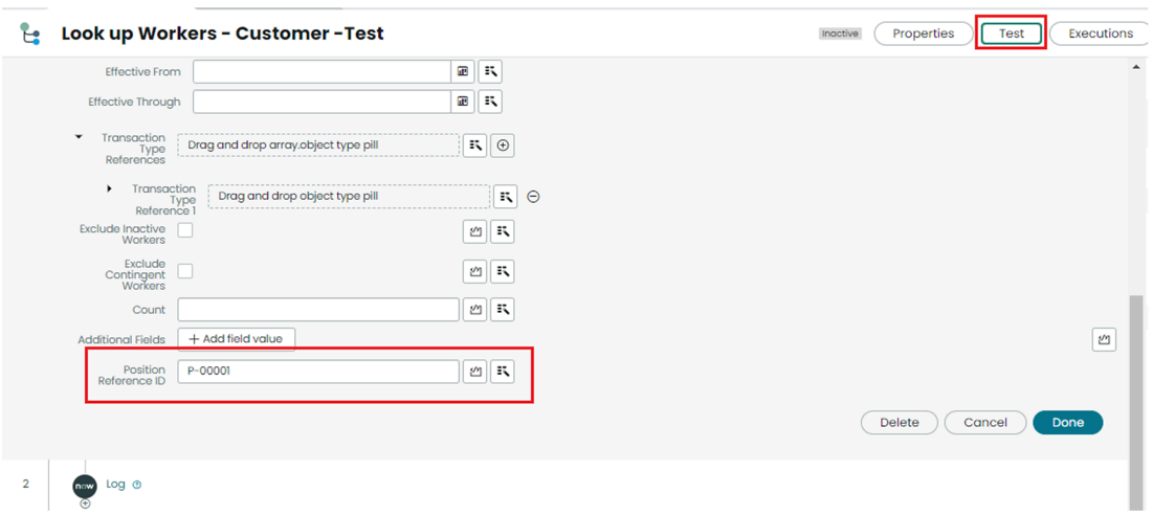
6. アクションをテストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. これはデータストリームアクションであるため、フローを使用してテストする必要があります。その中でアクションを含むサンプルフローを作成します。



b. ポジション **ID** を入力し、フローをテストします。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [実行 (execution)]を開き、SOAP ステップに移動して、ポジション参照を含む更新済み XML 要素ノードが作成されているかどうかを確認します。

Example: Workday スポークアクションの出力フィールドを追加および変更

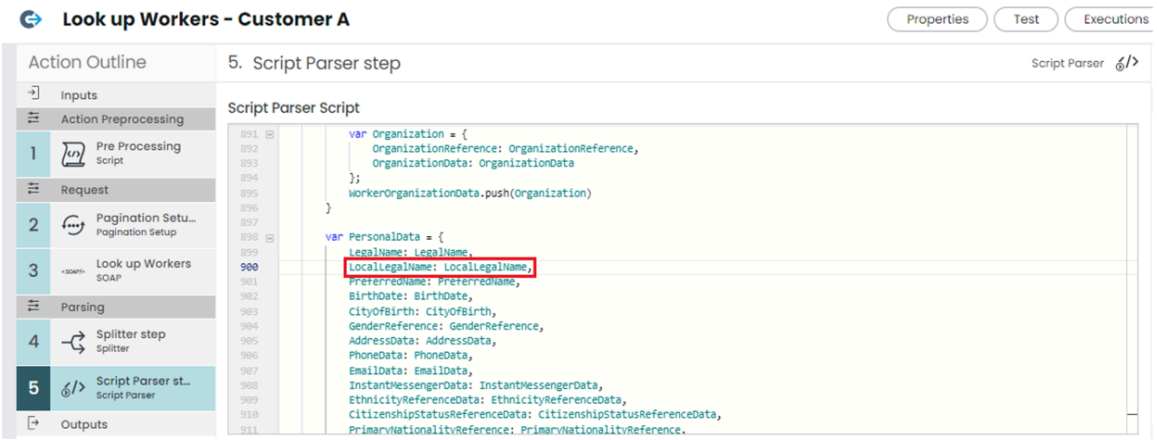
Workday スポークを拡張して、ローカルの名と姓を取得します。

1. Workday 要求メッセージ でローカルの名前がどのように構成されているかを評価して、理解します。
   - ローカルの名：この要素の XPath は、Get_Workers_Response/Response_Data/Worker/Worker_Data/Personal_Data/Name_Data/Legal_Name_Data/Name_Detail_Data/Local_Name_Detail_Data/First_Name
   - ローカルの姓：この要素の XPath は、Get_Workers_Response/Response_Data/Worker/Worker_Data/Personal_Data/Name_Data/Legal_Name_Data/Name_Detail_Data/Local_Name_Detail_Data/Last_Name
2. [スクリプトパーサー] ステップの正式名デザインパターンを活用して、ローカルの正式名のスニペットを作成します。

```
var LocalFirstName =
 xmlDoc.getNodeText(Worker_DataXpath.concat("wd:Personal_Data/wd:Name_Data/wd:Legal_Name_Data/wd:Name_Detail_Data/wd:Local_Name_Detail_Data/wd:First_Name"));
        var LocalLastName =
 xmlDoc.getNodeText(Worker_DataXpath.concat("wd:Personal_Data/wd:Name_Data/wd:Legal_Name_Data/wd:Name_Detail_Data/wd:Local_Name_Detail_Data/wd:Last_Name"));

        var LocalLegalName = {
            LocalFirstName: LocalFirstName,
            LocalLastName: LocalLastName,
        };
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [LocalLegalName] を [PersonalData] オブジェクトに追加します。

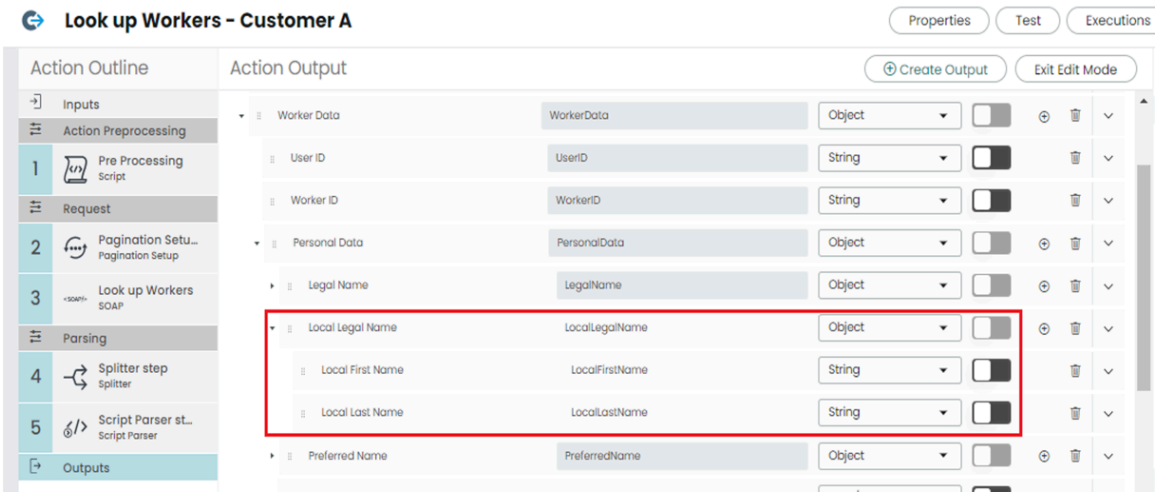


4. [出力] ステップで出力変数を作成します。

a. [出力を編集 **(Edit Output)]** をクリックします。

b. 出力フィールドは、正確な Workday 応答メッセージ階層に従う必要はありません。ステップ 2 の XPath が正しい Workday XPath に従っている限り、スポークアクションはそれに応じて要素をレンダリングできます。この場合、[個人データ **(Personal Data)]** の下に [ローカル正式名 **(Local Legal Name)]** を追加するだけで十分です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



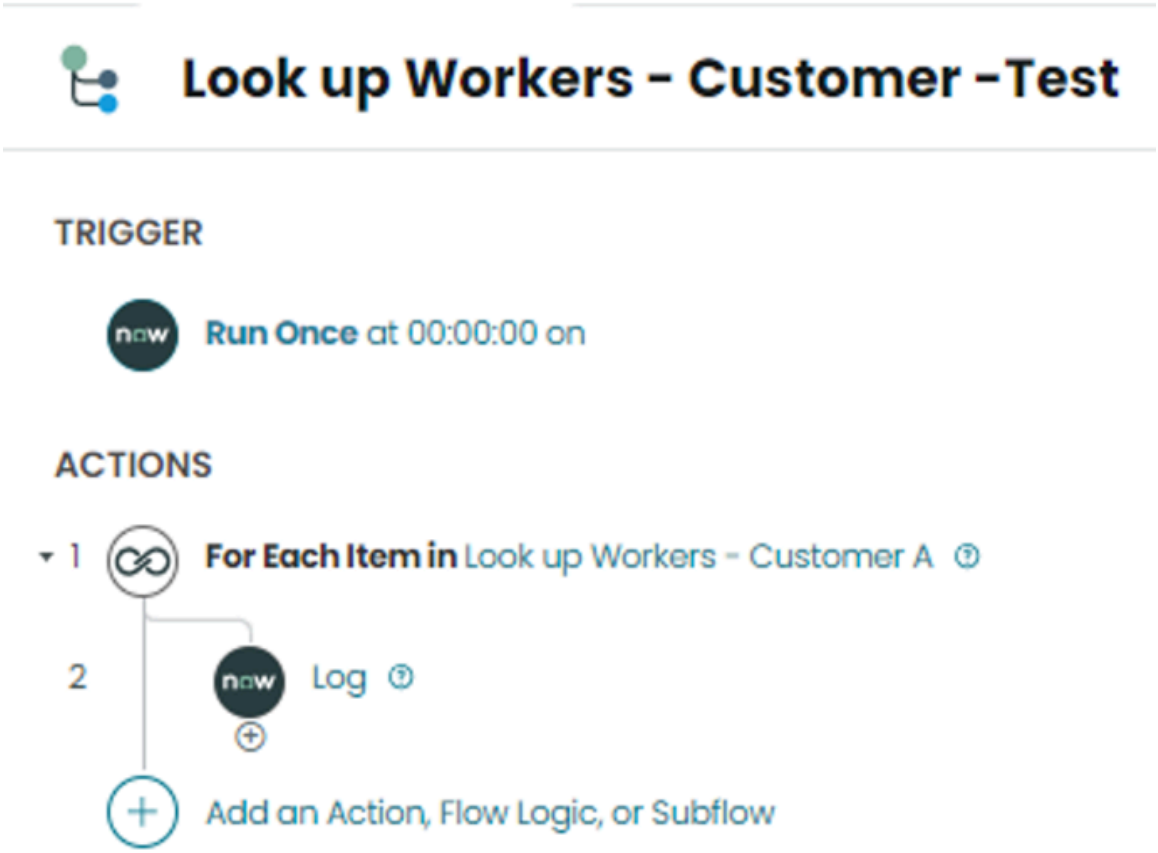
> **注:** [名前] セクションの文字列変数名は、上記の手順 2 で定義したものと同じ変数名と一致する必要があります。

5. アクションを保存して公開します。

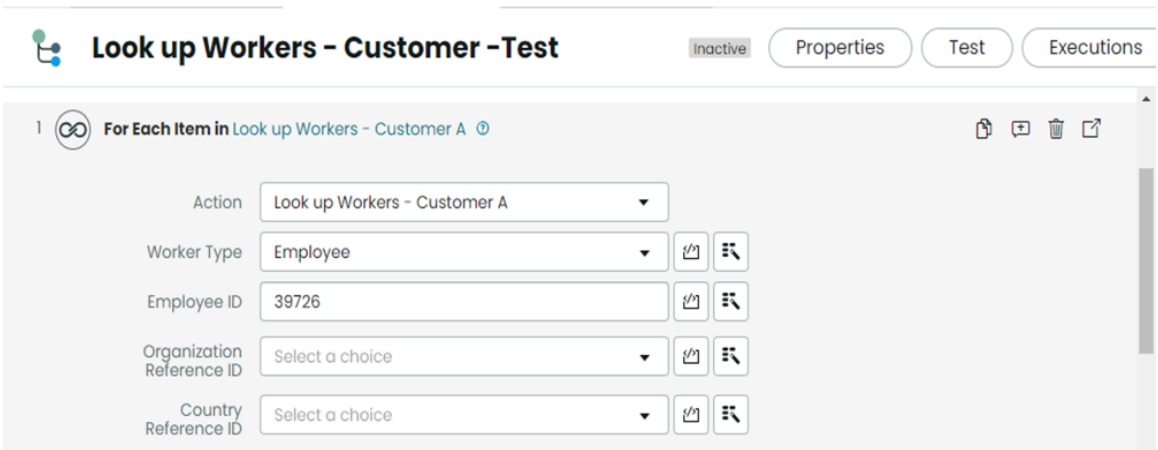
> **注:** [ワーカーを検索 (Look up Workers)] アクションには、データストリームアクションが保持できる出力要素の最大数があります。コピーしたアクションを新しい出力要素で公開中にエラーが発生した場合は、不要な出力要素をいくつか削除して、もう一度公開を試みます。

6. アクションをテストします。
   a. テストワーカーのサブジェクトが Workday でローカルの名と姓を持っていることを確認します。
   b. サンプルフローを作成し、それにアクションを追加し、応答をログに記録して出力要素を検証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



c. フローをテストして実行するために、関連するテストワーカーサブジェクトの従業員 ID を入力します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. ログと実行を検証して、ローカルの名と姓が正しく取得されているかどうかを検証します。

スキルを抽出するレポートの作成

期間に基づいて Workday からスキル (維持スキルとスキルクラウドスキル) の詳細を抽出するレポートを作成します。

始める前に

- 必要なロール：レポート作成および [維持されたスキルとスキルクラウドスキル (Maintained Skills and Skills Cloud Skills)] のレポートデータソースへのアクセス権を持つユーザー。
- レポートを作成する前に、このレポートの計算されたフィールドをすべて作成します。これにより、レポートの作成時にすべてのフィールドを使用できるようになります。

このタスクについて

この手順は、Workday インスタンスで実行する必要があります。

- レポート作成中に、レポート名、レポートフィールド名またはそれぞれのフィールドの列見出しのオーバーライド (レポートドキュメントで指定されている場合) がレポートドキュメントと同じであることを確認してください。

  重要: レポートフィールドラベルはレポートドキュメントと同じである必要があります。

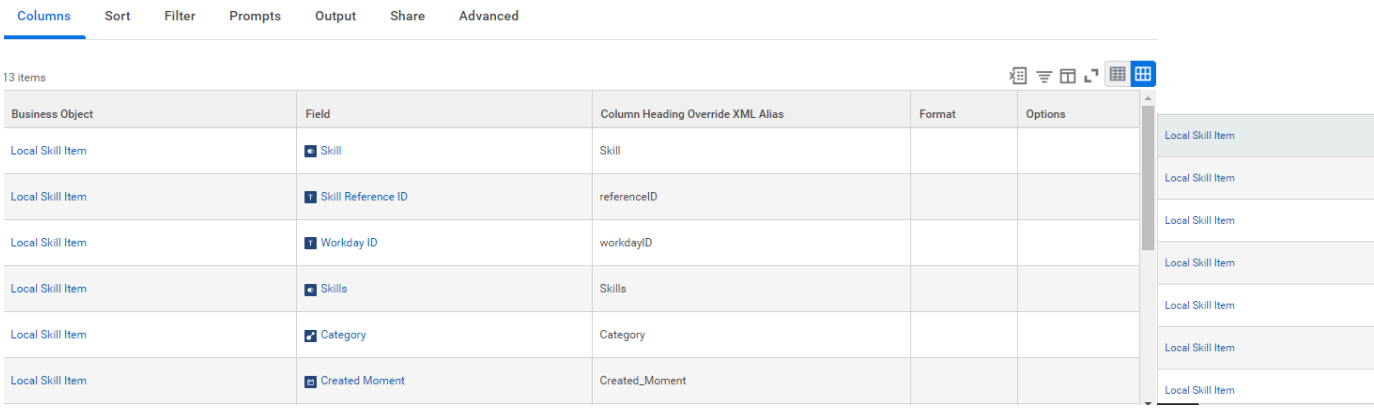
- フィルターを作成するときは、必ず括弧を加えます。
- すべてのレポートは ISU ユーザーが所有する必要があり、ServiceNow プラットフォームでこれらのアクションにアクセスするために使用されます。
- [詳細] セクションで、**[Web サービスとして有効化 (Enable as webservice)]** チェックボックスがオンになっていることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

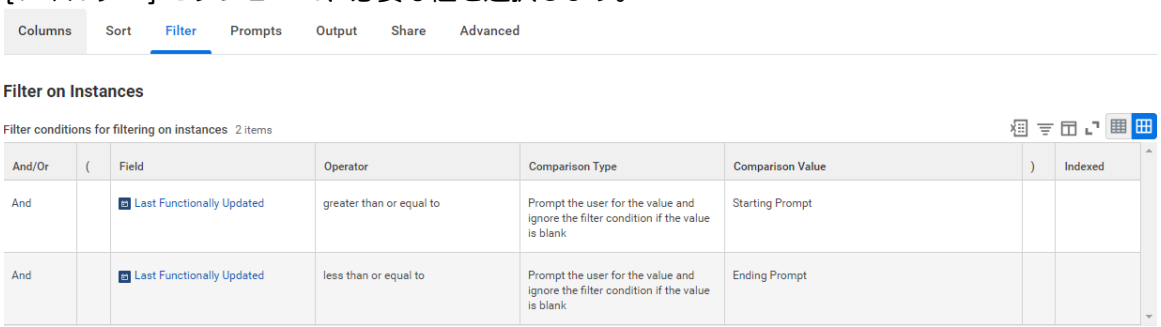
手順

1. [カスタムレポートの作成] タスクにアクセスします。
2. レポート名を入力します。
   この例では、「`CR Skills details (CR` スキルの詳細)」とします。
3. [レポートタイプ] に [詳細] を選択します。
4. [パフォーマンスに最適化] チェックボックスをオフにします。
5. [データソース] に [維持されたスキルとスキルクラウドスキル **(Maintained Skills and Skills Cloud Skills)]** を選択します。
6. [一時レポート **(temporary report)]** チェックボックスはオフにしたままで *[OK]* をクリックします。

7. レポートビジネスオブジェクトとレポートのフィールドを選択します。

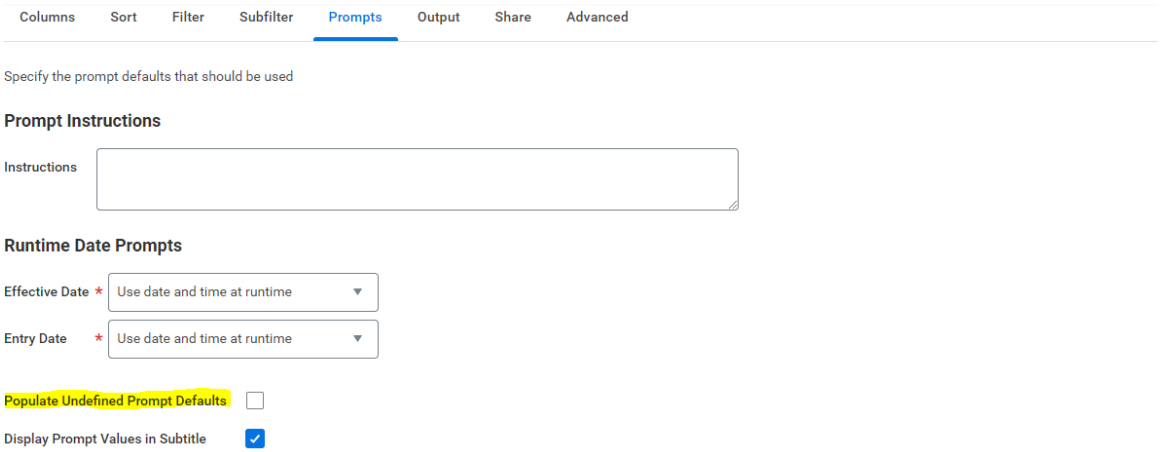


8. [フィルター] セクションで、必要な値を選択します。



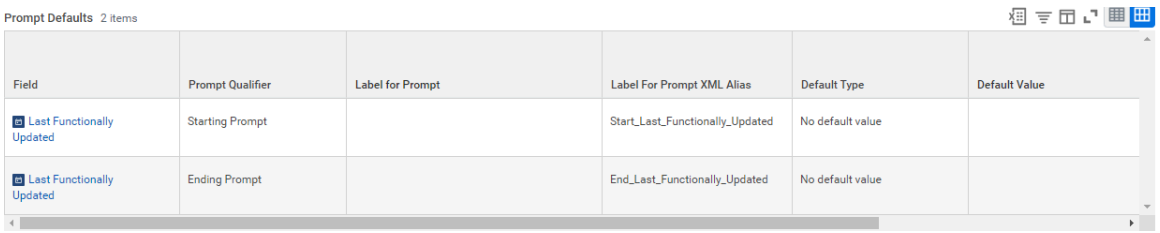
9. [プロンプト **(Prompts)]** セクションで、[未定義のプロンプトのデフォルトを入力] チェックボックスをオンにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

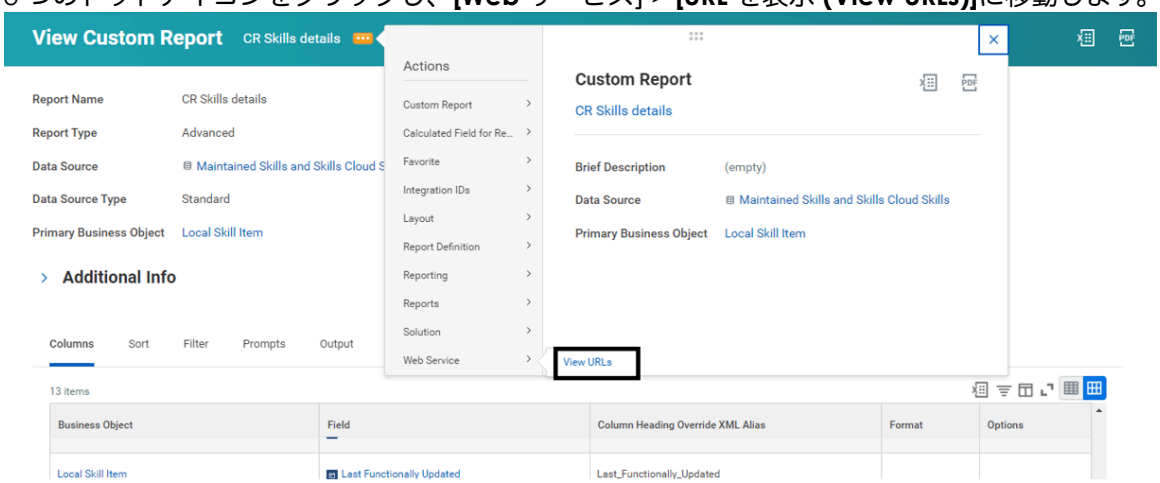


10. [プロンプトのデフォルト **(Prompt Default)]** セクションでプロンプトの値を選択します。

    すべてのプロンプトフィールドの [プロンプト **XML** エイリアスのラベル **(Label For Prompt XML Alias)]** の値が次のようになっていることを確認します。

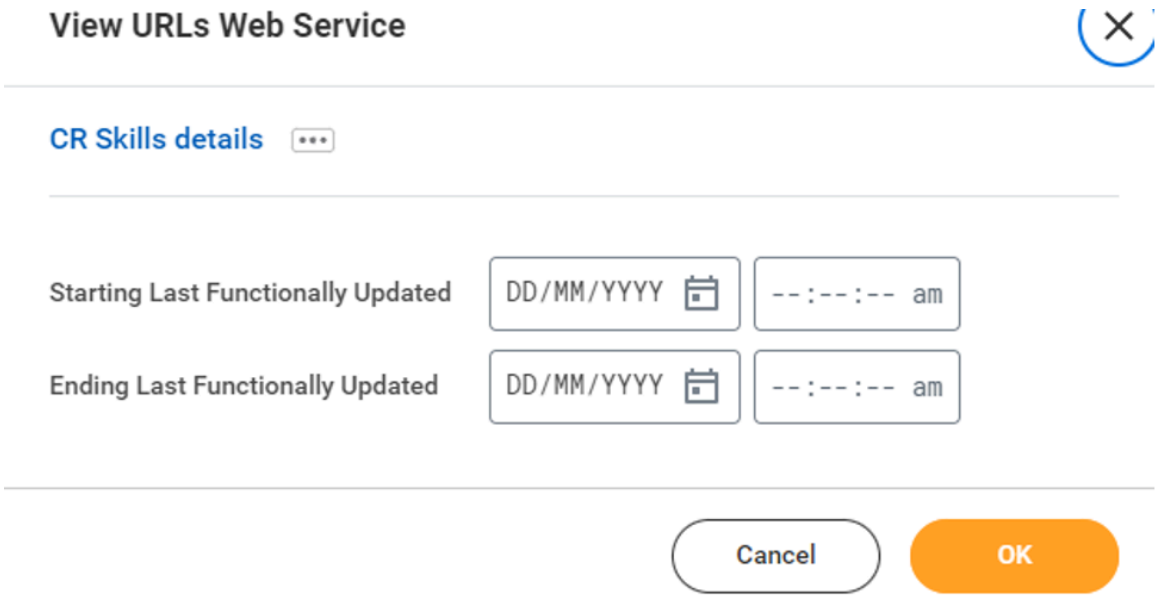


11. [詳細] セクションで、**[Web** サービスとして有効化 **(Enable as webservice)]** チェックボックスをオンにして、**[OK]** をクリックします。
12. 3 つのドットアイコンをクリックし、**[Web** サービス] > **[URL** を表示 **(View URLs)]**に移動します。

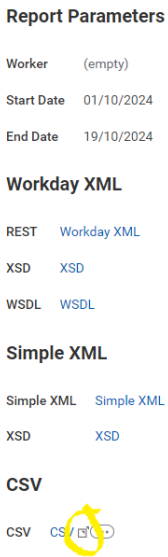


13. データを抽出する期間を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

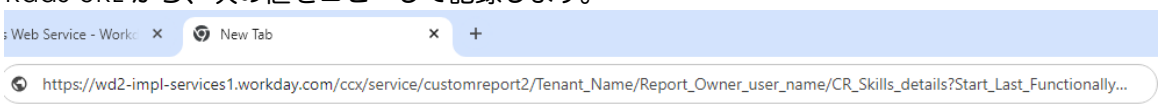


14. [URL を表示 Web サービス (View URLs Web Service)] ページで、**[CSV]** セクションの下のマーク付きアイコンをクリックします。



新しいブラウザーに移動し、レポートの RaaS URL が表示されます。

15. RaaS URL から、次の値をコピーして記録します。



- `https://wd2-impl-services1.workday.com` は Workday テナントのベース URL です。
- **Tenant_Name** は Workday テナントです。
- **Report_Owner_user_name** はレポートの所有者のユーザー名です。
- **CR_Skills_details** はレポート名です。

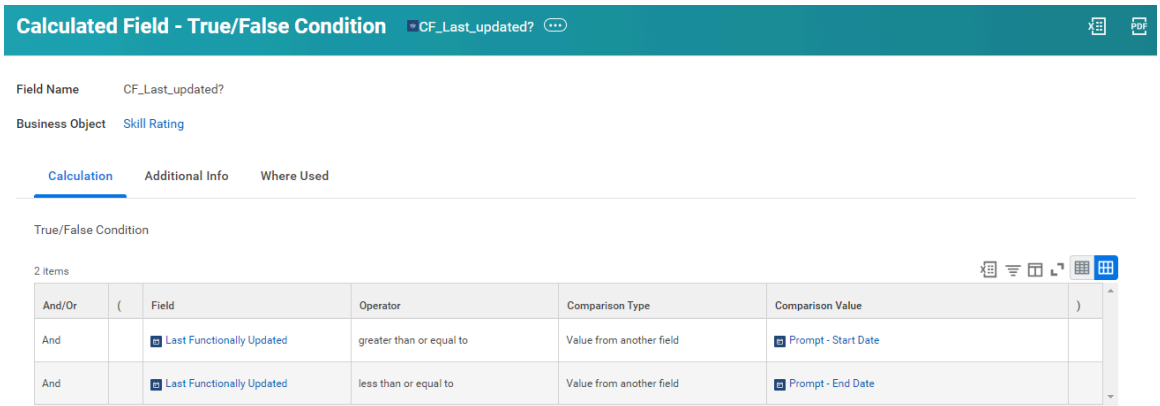
ワーカーのスキルを抽出 (スキルクラウドを使用)

従業員 ID と期間に基づいて、ワーカーのスキルの詳細を抽出します。

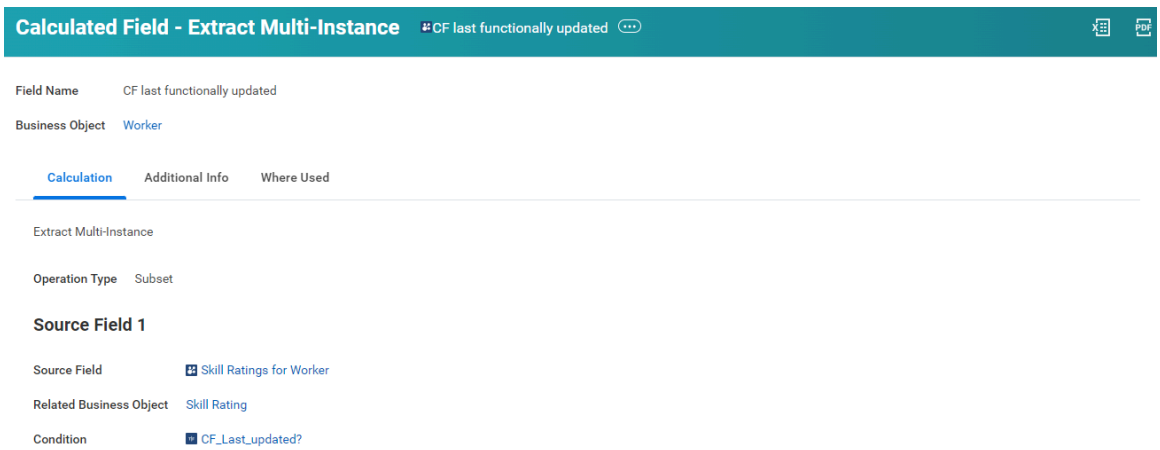
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 必要なロール：レポート作成および [すべてのアクティブなワーカーと終了したワーカー (All Active and Terminated Workers)] レポートデータソースへのアクセス権を持つユーザー。
- レポートを作成する前に、このレポートの計算されたフィールドをすべて作成します。これにより、レポートの作成時にすべてのフィールドを使用できるようになります。
  - 「**CF_Last_updated?**」という名前の True/False 条件タイプの計算されたフィールドを作成します。



  - 「**CF last functionally updated**」という名前のマルチインスタンス抽出タイプの計算されたフィールドを作成します。



このタスクについて

この手順は、Workday インスタンスで実行する必要があります。

- レポート作成中に、レポート名、レポートフィールド名またはそれぞれのフィールドの列見出しのオーバーライド (レポートドキュメントで指定されている場合) がレポートドキュメントと同じであることを確認してください。

> **重要:** レポートフィールドラベルはレポートドキュメントと同じである必要があります。

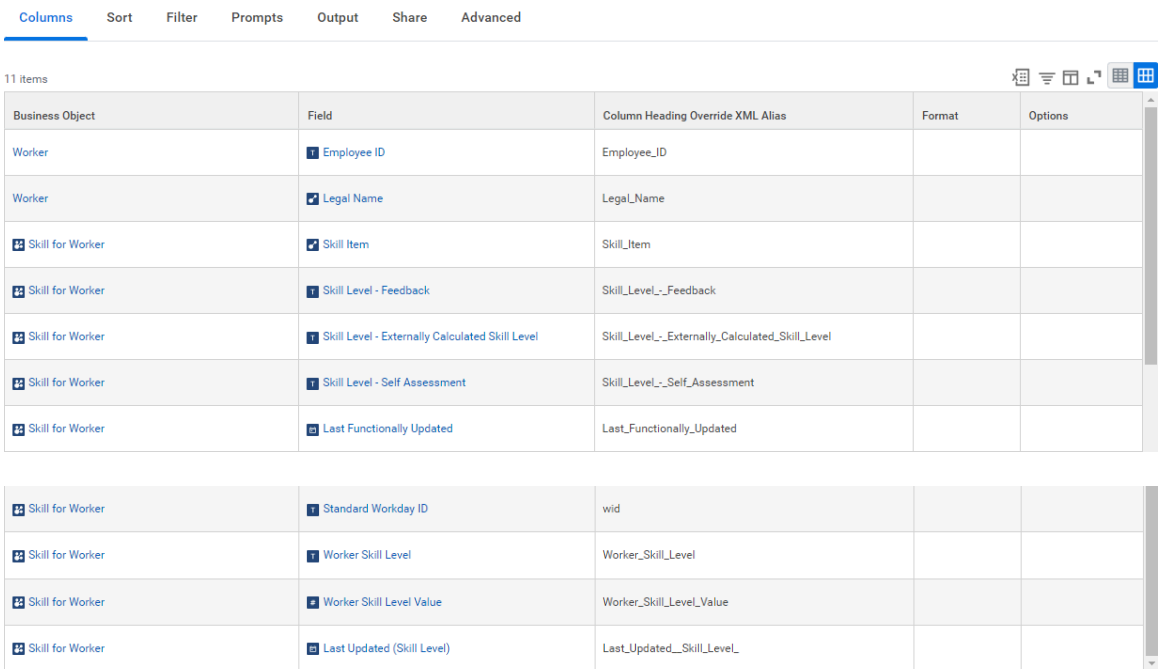
- フィルターを作成するときは、必ず括弧を加えます。
- すべてのレポートは ISU ユーザーが所有する必要があり、ServiceNow プラットフォームでこれらのアクションにアクセスするために使用されます。
- [詳細] セクションで、**[Web サービスとして有効化 (Enable as webservice)]** チェックボックスがオンになっていることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

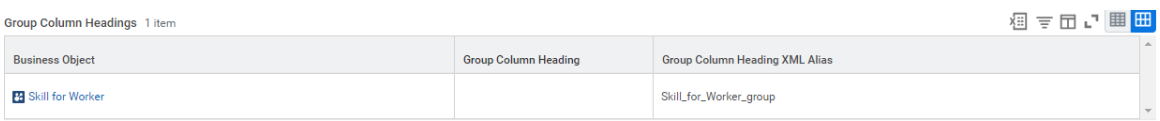
手順

1. [カスタムレポートの作成] タスクにアクセスします。
2. レポートを識別するためのレポート名を入力します。
   例：`CR Worker's skill details`
3. レポートタイプに [詳細] を選択します。
4. [パフォーマンスに最適化] チェックボックスをオフにします。
5. [データソース] に [すべてのアクティブなワーカーと終了したワーカー **(All Active and Terminated Workers)]** を選択します。
6. [一時レポート **(temporary report)]** チェックボックスはオフにしたままで **[OK]** をクリックします。

7. レポートビジネスオブジェクトとレポートのフィールドを選択します。

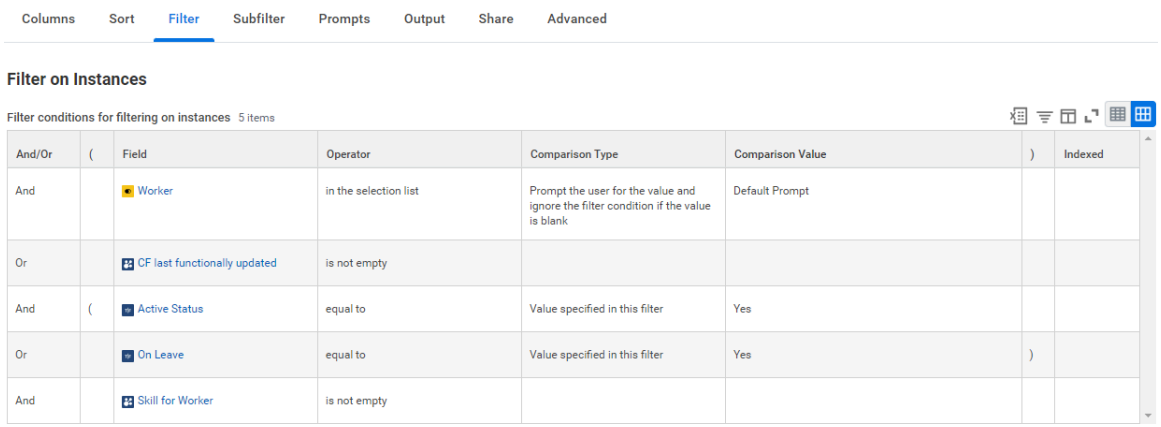


8. [グループ列見出し **(Group Column Heading)]** セクションで、すべてのビジネスオブジェクトを選択します。
   各ビジネスオブジェクトの [グループ列見出し (Group Column Heading)] が空白です。

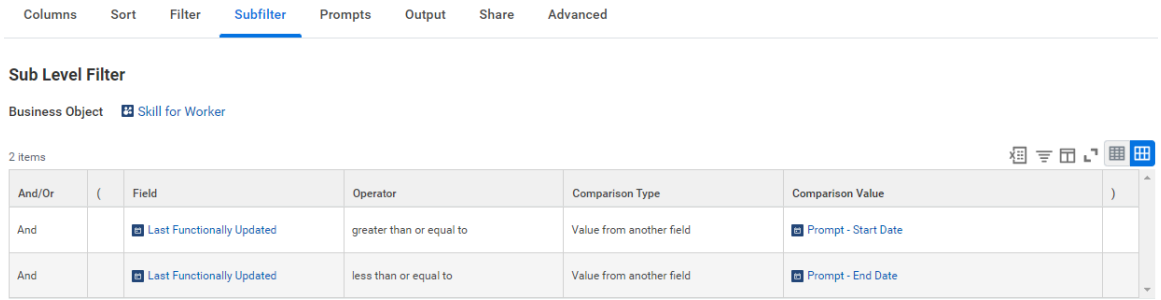


9. [フィルター] セクションで、次のように値を選択します。
   以下に示されているように、必ず括弧を追加してください。

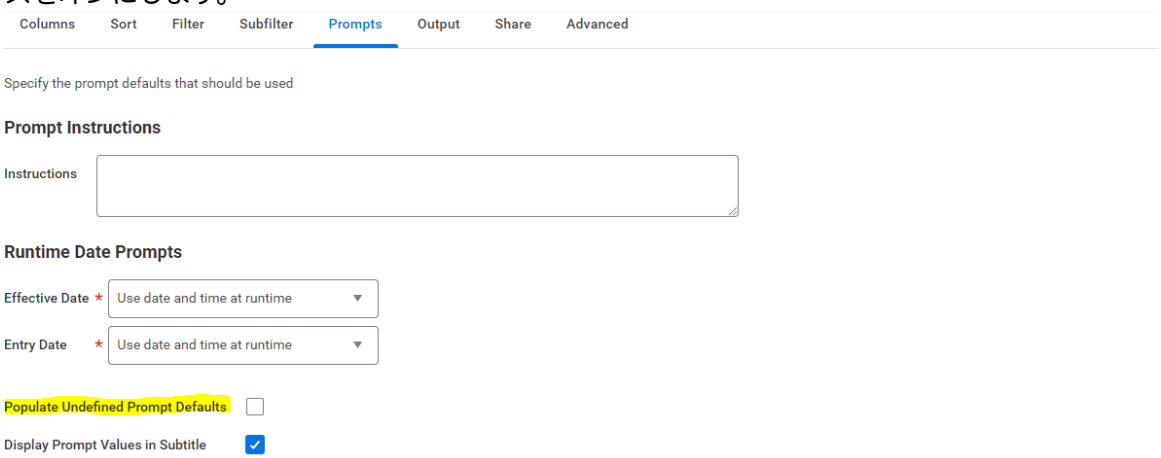
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



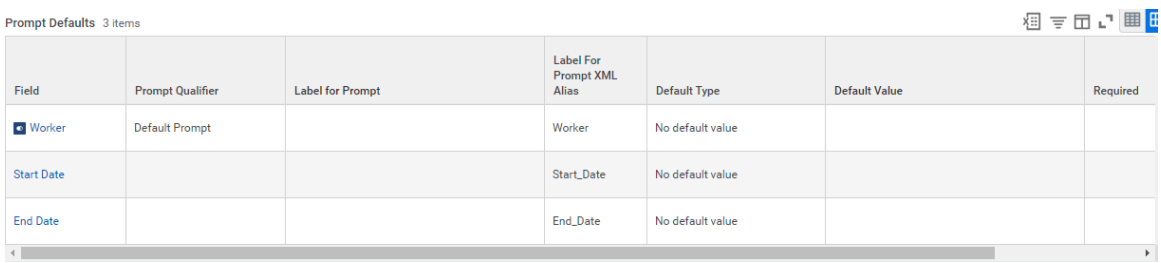
10. [サブフィルター] セクションで、次のように値を選択します。



11. [プロンプト **(Prompts)]** セクションで、[未定義のプロンプトのデフォルトを入力] チェックボックスをオンにします。



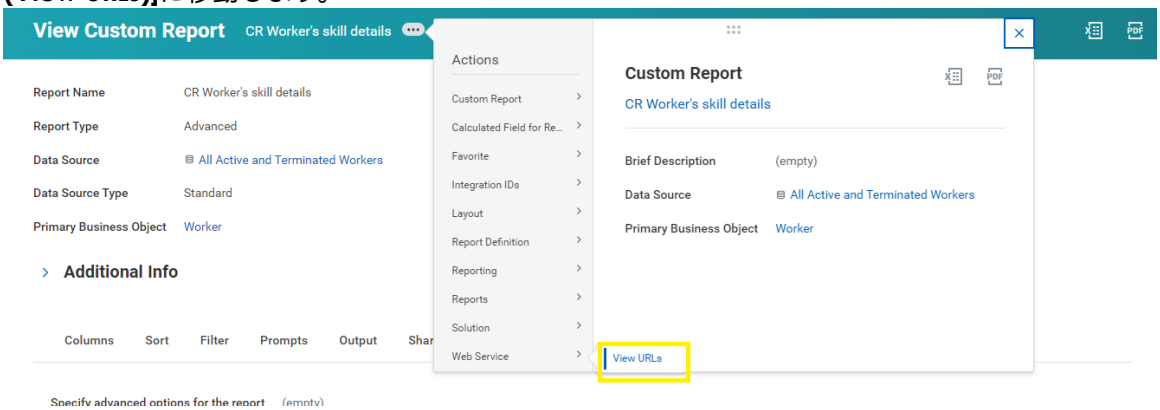
12. [プロンプトのデフォルト **(Prompt Default)]** セクションで、次のようにプロンプトの値を選択します。
すべてのプロンプトフィールドの [プロンプト **XML** エイリアスのラベル **(Label For Prompt XML Alias)]** の値が次のようになっていることを確認します。



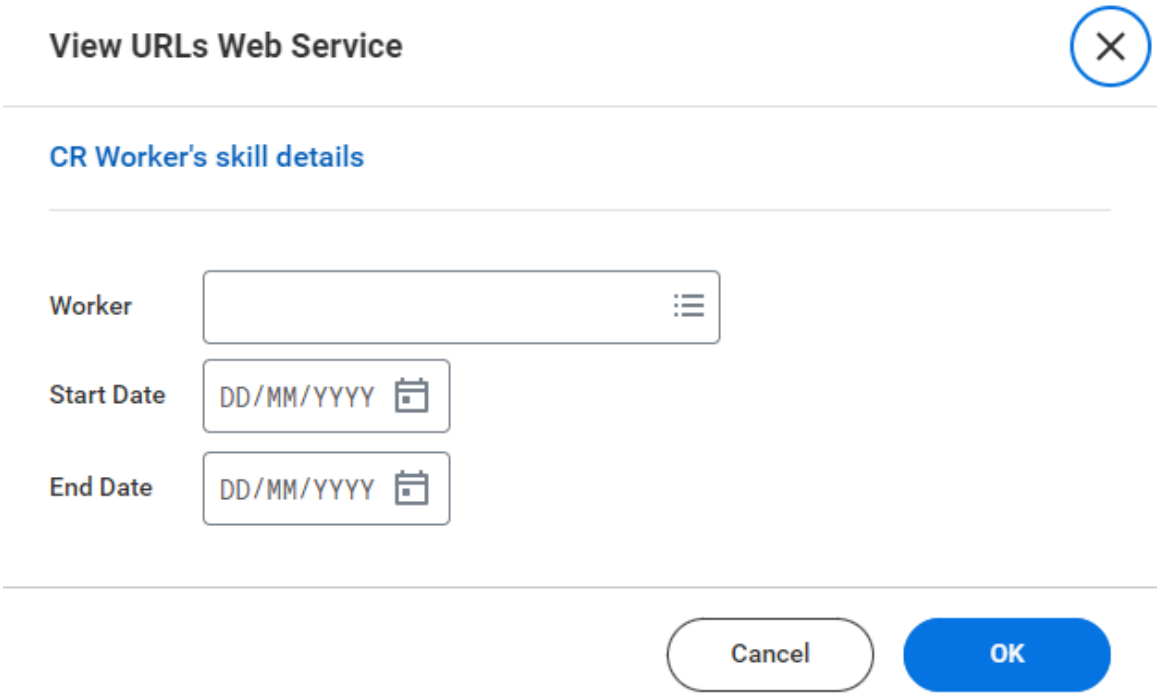
13. [詳細] セクションで、**[Web** サービスとして有効化 **(Enable as webservice)]** チェックボックスをオンにして、**[OK]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

14. レポートを構成した後は、3 つのドットアイコンをクリックし、**[Web サービス]** > **[URL を表示 (View URLs)]**に移動します。

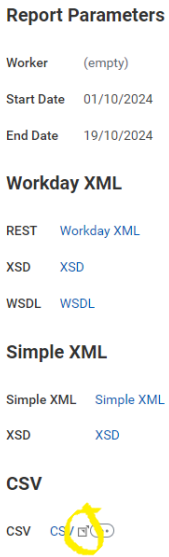


15. 詳細を表示するワーカーを選択するか、データを表示する期間を選択します。



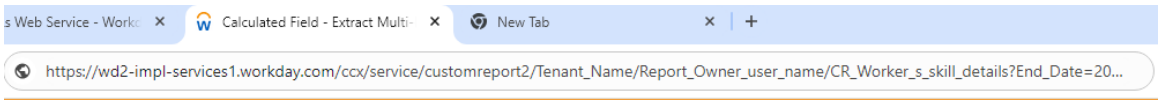
16. [URL を表示 Web サービス (View URLs Web Service)] ページで、**[CSV]** セクションの下のマーク付きアイコンをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



新しいブラウザーに移動し、レポートの RaaS URL が表示されます。

17. RaaS URL から、次の値をコピーして記録します。



- `https://wd2-impl-services1.workday.com` は Workday テナントのベース URL です。
- **Tenant_Name** は Workday テナントです。
- **Report_Owner_user_name** はレポートの所有者のユーザー名です。
- **CR_Worker_s_skill_details** はレポート名です。

ワーカースキルを抽出 (**Skills Cloud** なし)

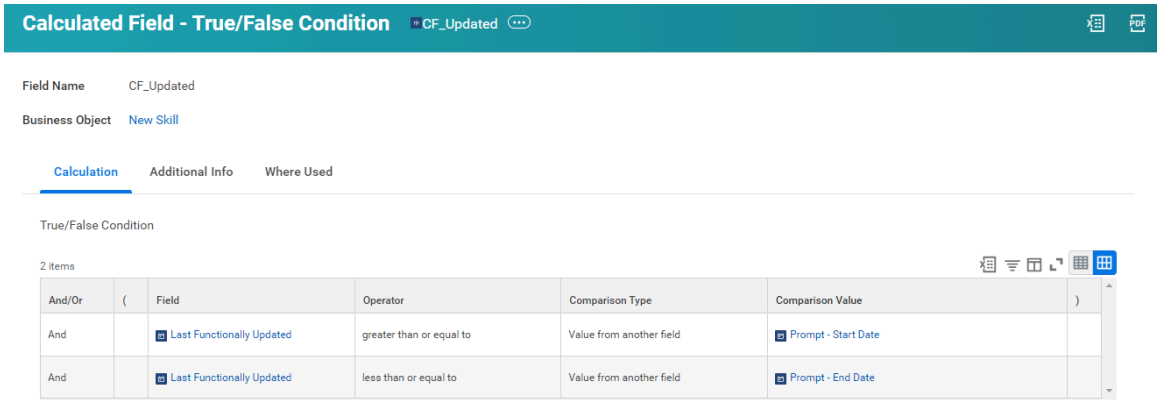
Skills Cloud を使用せずに、従業員 ID または期間に基づいてワーカーのスキルの詳細を抽出します。

始める前に

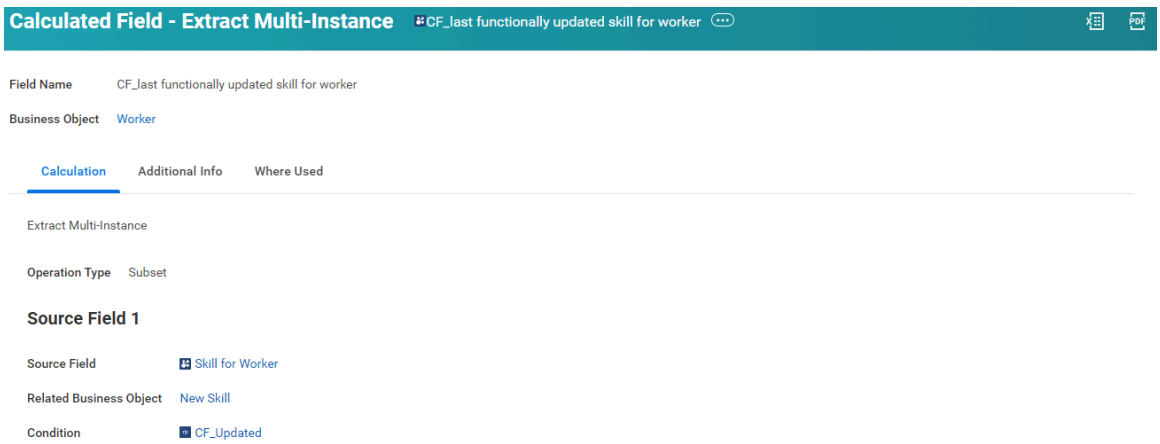
- 必要なロール：レポート作成および [すべてのアクティブなワーカーと終了したワーカー (All Active and Terminated Workers)] レポートデータソースへのアクセス権を持つユーザー。
- レポートを作成する前に、このレポートの計算されたフィールドをすべて作成します。これにより、レポートの作成時にすべてのフィールドを使用できるようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 「**CF_updated**」という名前を付けて、[True/False 条件 (True/False condition)] タイプの計算されたフィールドを作成します。



- 「**CF_last functionally updated skill for worker**」という名前を付けて、[マルチインスタンス抽出 (Extract Multi-instance)] の計算されたフィールドを作成します。



このタスクについて
この手順は、Workday インスタンスで実行する必要があります。

- レポート作成中に、レポート名、レポートフィールド名またはそれぞれのフィールドの列見出しのオーバーライド (レポートドキュメントで指定されている場合) がレポートドキュメントと同じであることを確認してください。

> **重要:** レポートフィールドラベルはレポートドキュメントと同じである必要があります。

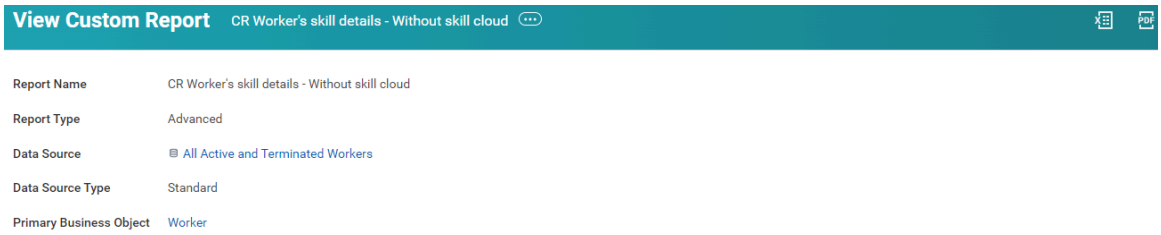
- フィルターを作成するときは、必ず括弧を加えます。
- すべてのレポートは ISU ユーザーが所有する必要があり、ServiceNow プラットフォームでこれらのアクションにアクセスするために使用されます。
- [詳細] セクションで、**[Web サービスとして有効化 (Enable as webservice)]** チェックボックスがオンになっていることを確認します。

手順

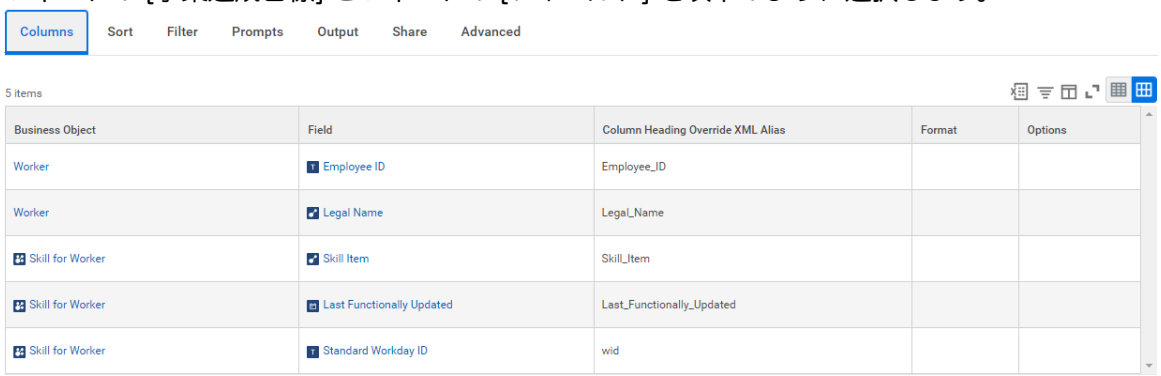
1. [カスタムレポートの作成] タスクにアクセスします。
2. レポートを識別するためのレポート名を入力します。
   例：`CR Worker's skill details`
3. レポートタイプに [詳細] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [パフォーマンスに最適化] チェックボックスをオフにします。
5. [データソース] に [すべてのアクティブなワーカーと終了したワーカー **(All Active and Terminated Workers)]** を選択します。
6. [一時レポート **(temporary report)]** チェックボックスはオフにしたままで **[OK]** をクリックします。



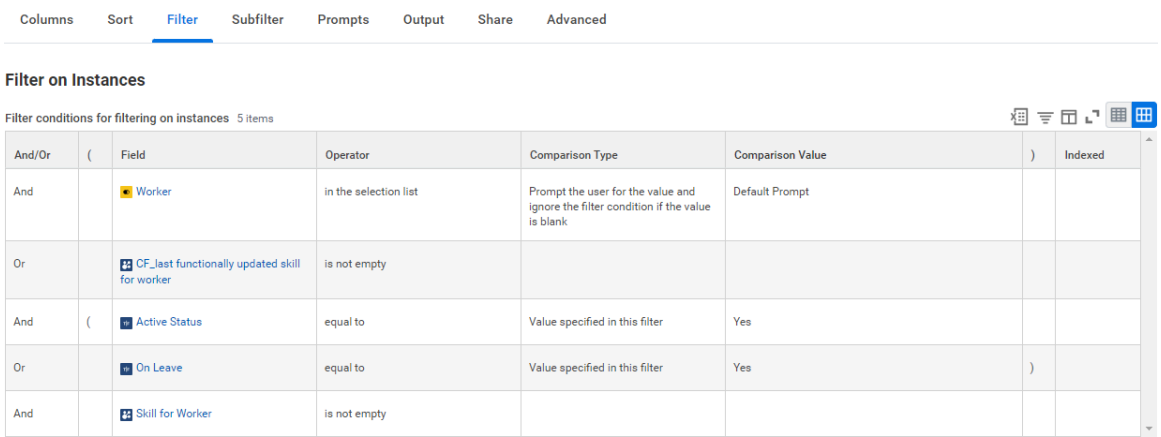
7. レポートの [事業達成目標] とレポートの [フィールド] を以下のように選択します。



8. [グループ列見出し **(Group Column Heading)]** セクションで、すべてのビジネスオブジェクトを選択します。

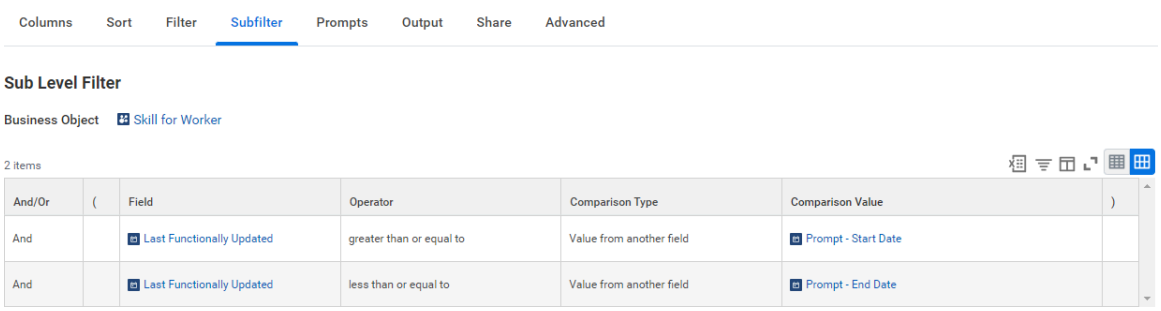
   各ビジネスオブジェクトの [グループ列見出し (Group Column Heading)] が空白です。

9. [フィルター] セクションで、次のように値を選択します。
   次のように、必ず括弧を追加してください。

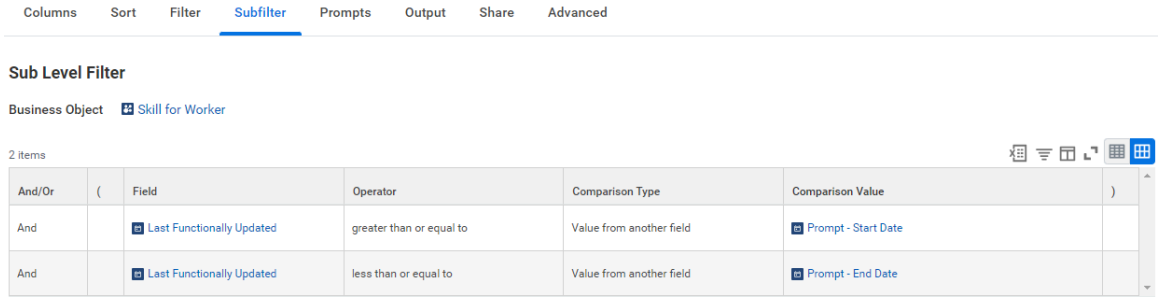


10. [サブフィルター] セクションで、次のように値を選択します。

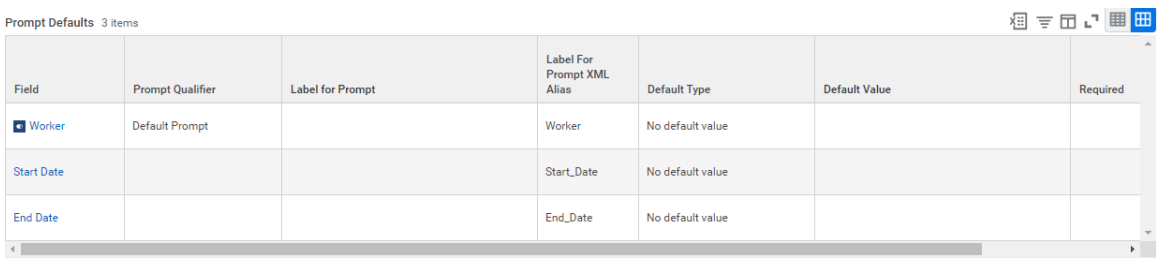
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



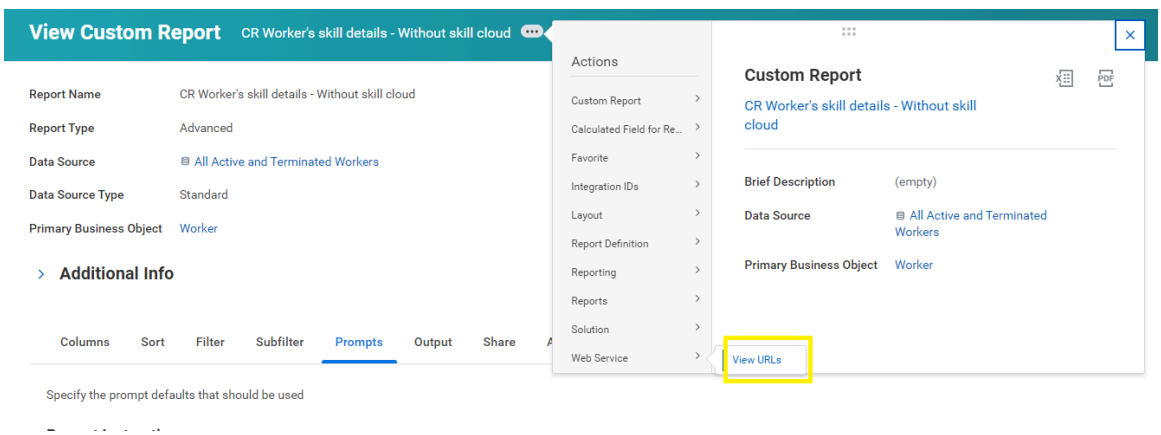
11. [プロンプト **(Prompts)]** セクションで、[未定義のプロンプトのデフォルトを入力 (未定義のプロンプトのデフォルトを入力)] チェックボックスをオンにします。



12. [プロンプトのデフォルト **(Prompt Default)]** セクションで、次のようにプロンプトの値を選択します。
すべてのプロンプトフィールドの [プロンプト **XML** エイリアスのラベル **(Label For Prompt XML Alias)]** の値が次のようになっていることを確認します。

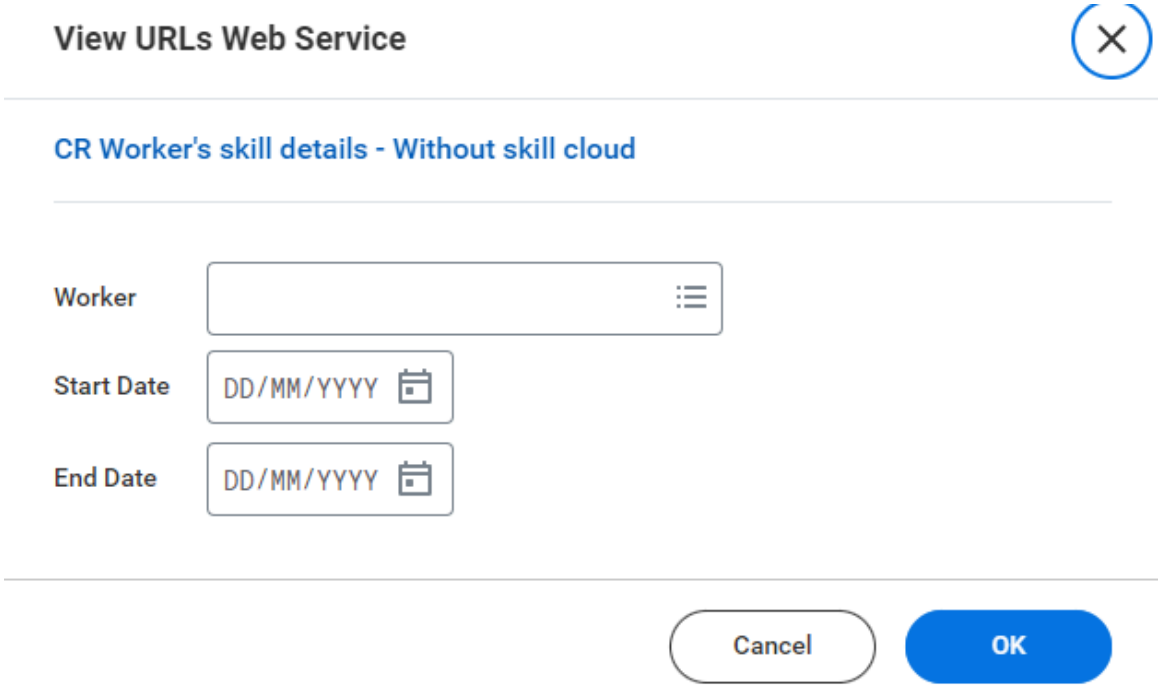


13. [詳細] セクションで、**[Web** サービスとして有効化 **(Enable as webservice)]** チェックボックスをオンにして、**[OK]** をクリックします。
14. レポートを構成した後は、3 つのドットアイコンをクリックし、**[Web** サービス] > **[URL** を表示 **(View URLs)]**に移動します。

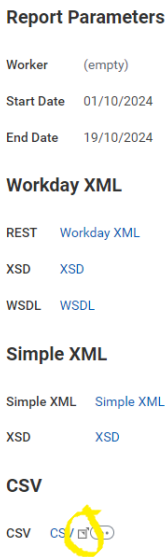


15. 詳細を表示するワーカーを選択するか、データを表示する期間を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

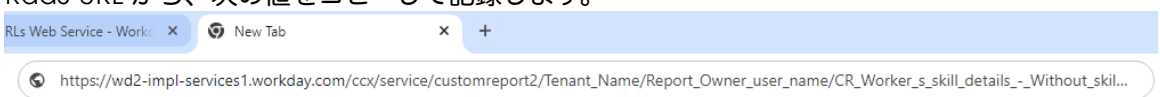


16. [URL を表示 Web サービス (View URLs Web Service)] ページで、**[CSV]** セクションの下のマーク付きアイコンをクリックします。



新しいブラウザーに移動し、レポートの RaaS URL が表示されます。

17. RaaS URL から、次の値をコピーして記録します。



- `https://wd2-impl-services1.workday.com` は Workday テナントのベース URL です。
- **Tenant_Name** は Workday テナントです。
- **Report_Owner_user_name** はレポートの所有者のユーザー名です。
- **CR_Worker_s_skill_details** はレポート名です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

「従業員の最新パフォーマンスレビュー」レポートの構成

最新のパフォーマンスレビューレポートを取得する「従業員の最新パフォーマンスレビューを検索」アクションを有効にするようにレポートを設定します。

始める前に

必要なロール：レポートを作成するためのアクセス権があることを確認します。

「組織別ワーカー」レポートデータソースへのアクセス権があることを確認します。

レポートを作成する前に、このレポートの計算されたフィールドをすべて作成します。

レポート名、フィールド名、および列見出しが、レポートドキュメントに表示されているものと正確に一致していることを確認します。

フィルターに括弧が追加されていることを確認します。

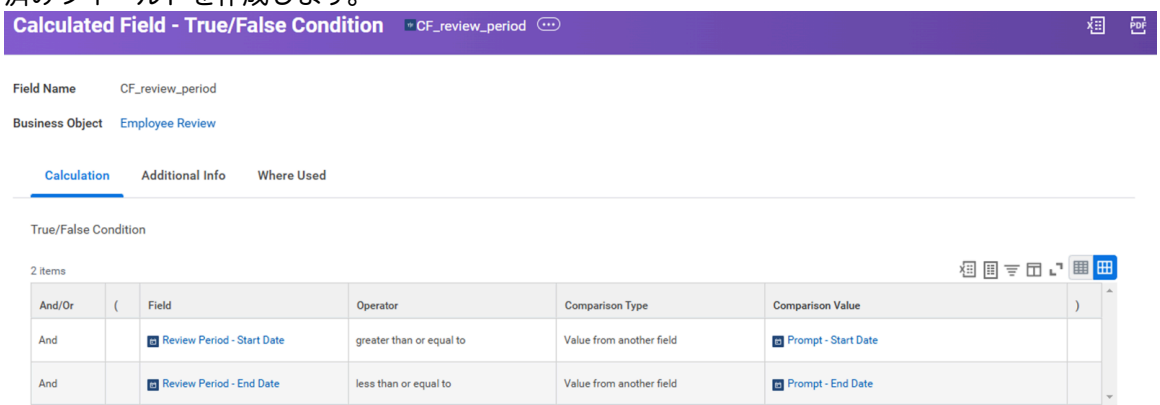
レポートが ISU ユーザーに所有されていることを確認します。これらは、ServiceNow プラットフォームでこれらのアクションにアクセスするために使用されます。

[Web サービスとして有効化 **(Enable as webservice)]** オプションが有効になっていることを確認します。

手順

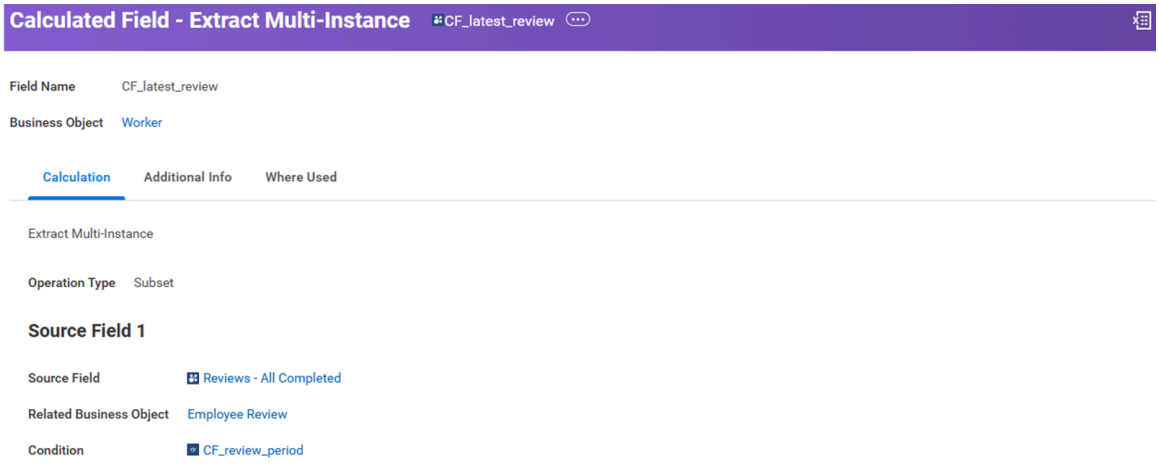
1. 計算済みフィールドをすべて作成し、レポートの作成時にこれらのフィールドを使用できるようにします。

   a. 「CF_review_period」という名前の「True/False 条件 (True/False Condition)」タイプの計算済みフィールドを作成します。

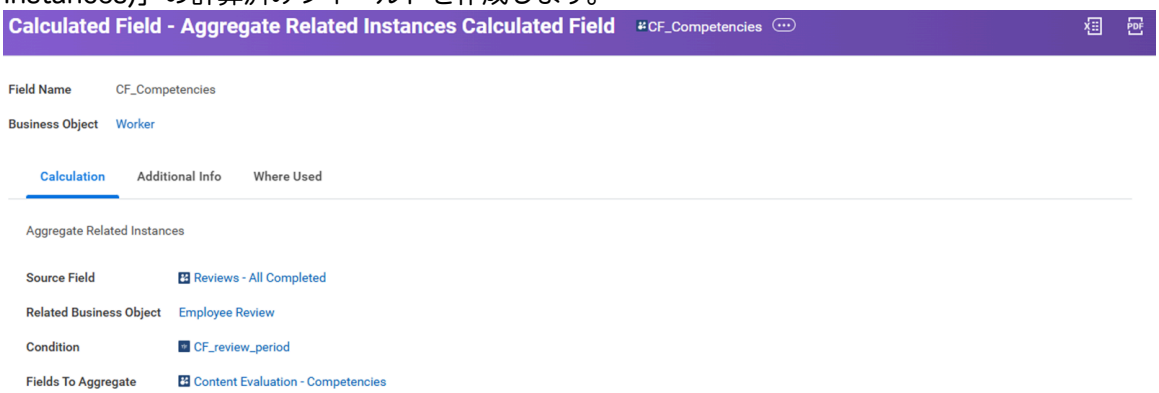


   b. 「CF_latest_review」という名前の「マルチインスタンス抽出 (Extract Multi-Instance)」の計算済みフィールドを作成します。

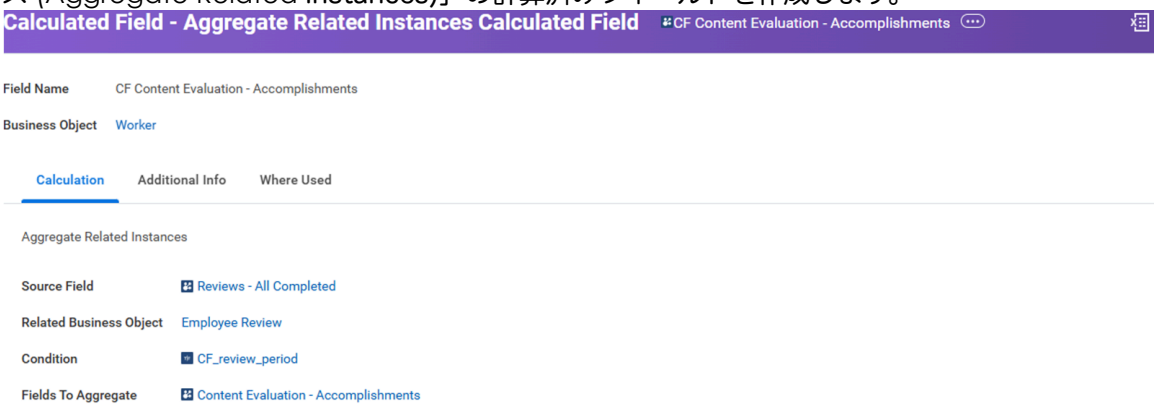
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



c. 「CF_Competencies」という名前の「アグリゲート関連インスタンス (Aggregate Related Instances)」の計算済みフィールドを作成します。

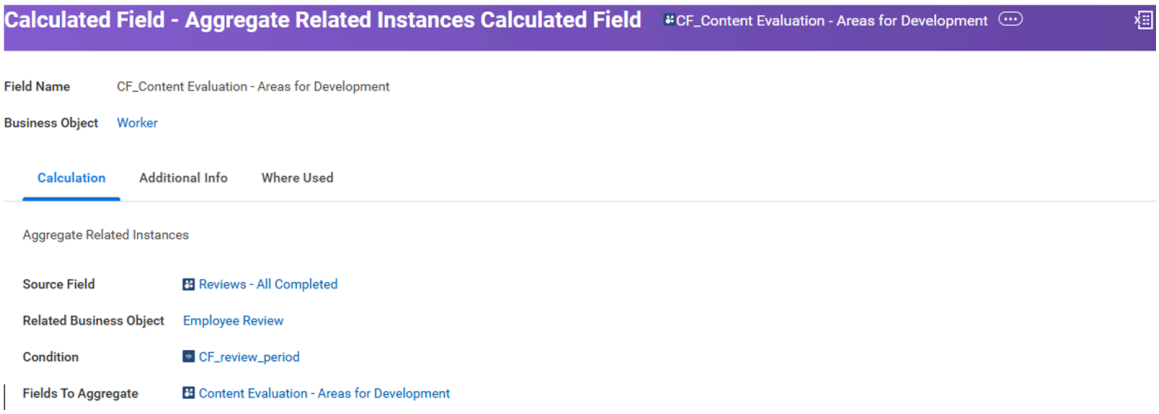


d. 「CF Content Evaluation – Accomplishments」という名前の「アグリゲート関連インスタンス (Aggregate Related Instances)」の計算済みフィールドを作成します。

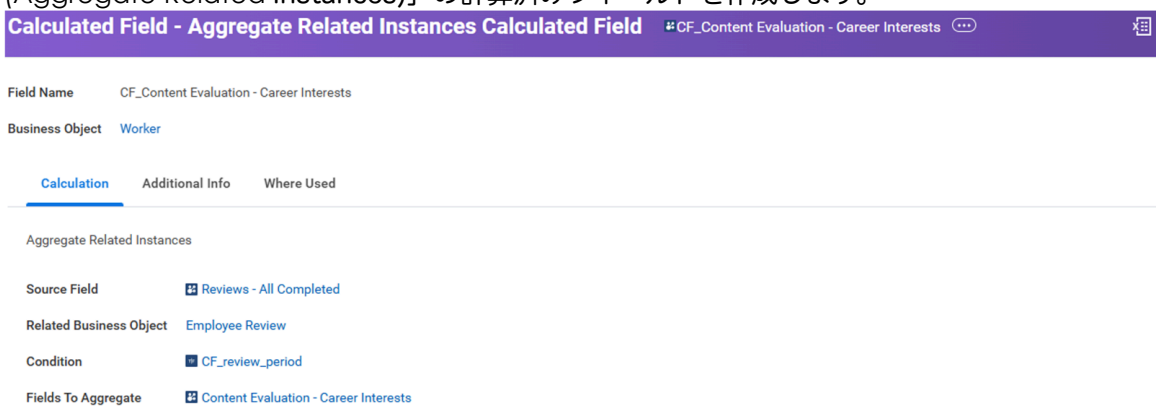


e. 「CF_Content Evaluation - Areas for Development」という名前の「アグリゲート関連インスタンス (Aggregate Related Instances)」の計算済みフィールドを作成します。

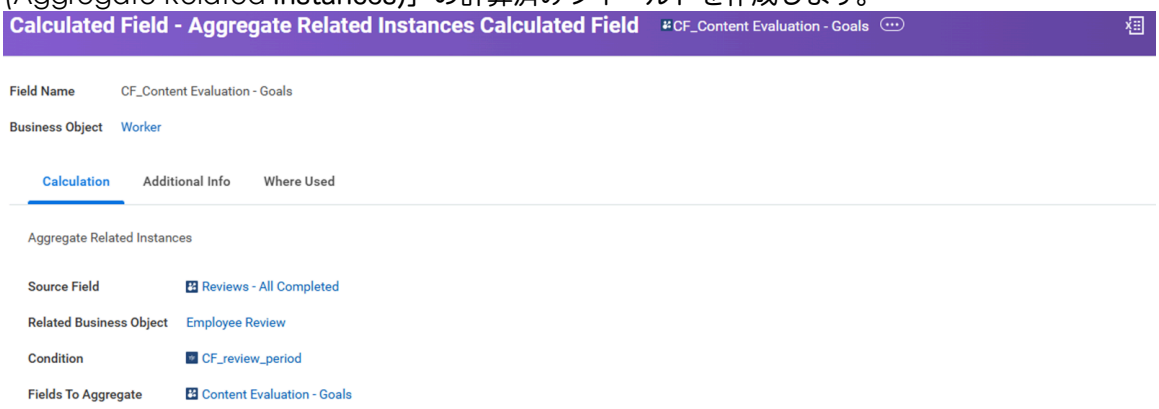
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



f. 「CF_Content Evaluation - Career Interests」という名前の「アグリゲート関連インスタンス (Aggregate Related Instances)」の計算済みフィールドを作成します。

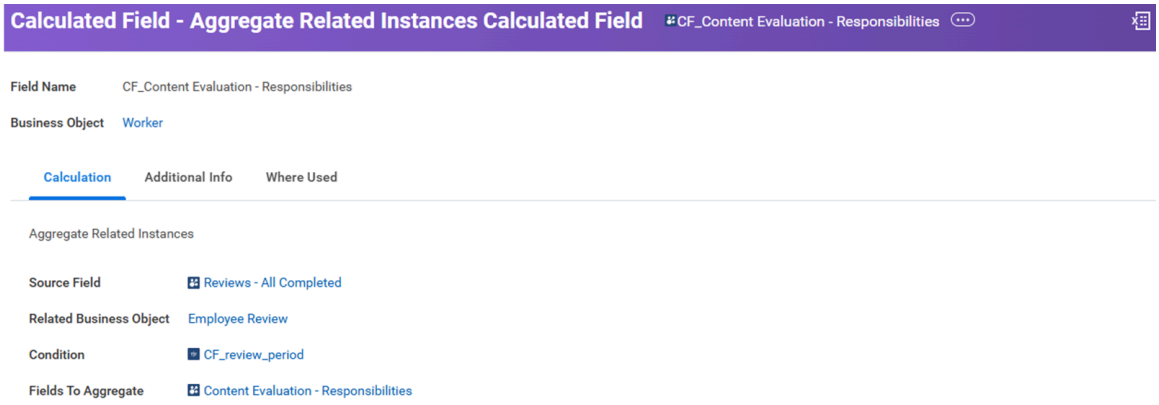


g. 「CF_Content Evaluation - Goals」という名前の「アグリゲート関連インスタンス (Aggregate Related Instances)」の計算済みフィールドを作成します。

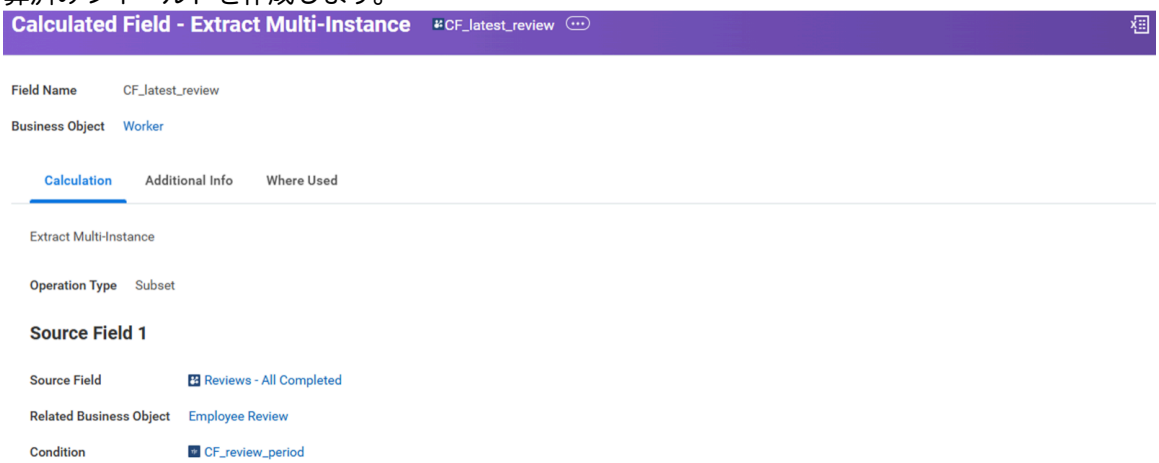


h. 「CF_Content Evaluation - Responsibilities」という名前の「アグリゲート関連インスタンス (Aggregate Related Instances)」の計算済みフィールドを作成します。

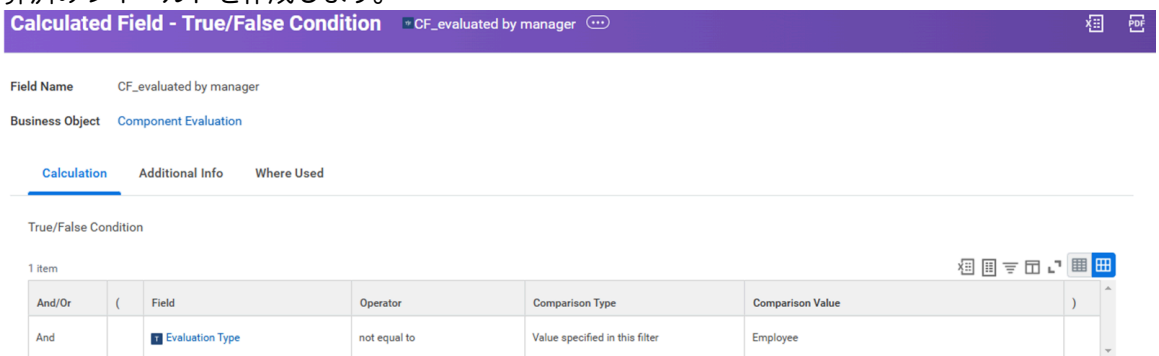
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



i. 「CF_latest_review」という名前の「マルチインスタンス抽出 (Extract Multi-Instance)」の計算済みフィールドを作成します。



j. 「CF_evaluated by manager」という名前の「True/False 条件 (True/False Condition)」の計算済みフィールドを作成します。



2. レポートを作成します。

a. [カスタムレポートの作成 (Create Custom Report)] タスクにアクセスします。

b. レポート名を入力します。
レポート名の例：CR 従業員の最新パフォーマンスレビューとフィードバックの詳細 (CR Employee latest performance review and feedback details)。

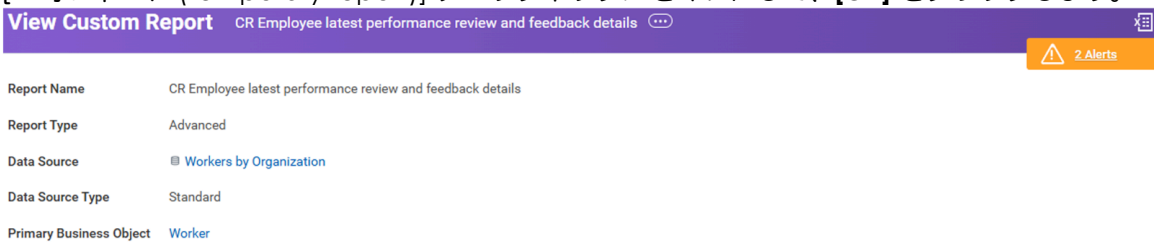
c. レポートタイプで [詳細] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

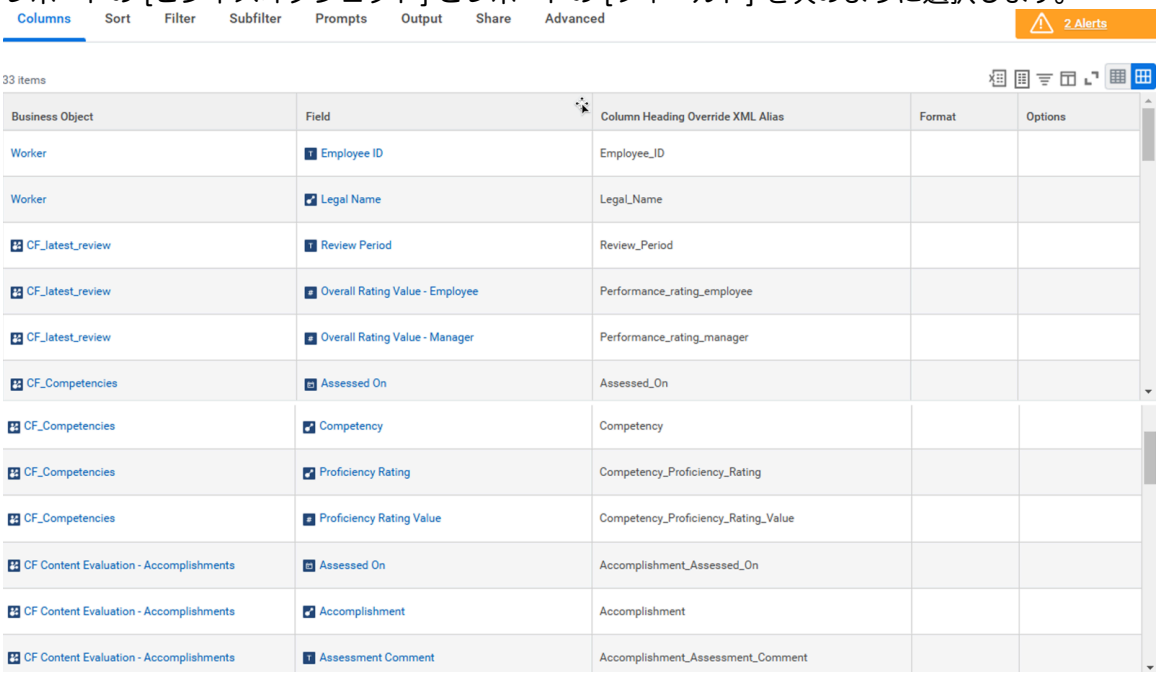
d. [パフォーマンス用に最適化 (Optimized for performance)] ボックスをオフにします。

e. [データソース] で [組織別ワーカー (Workers by Organization)] を選択します。

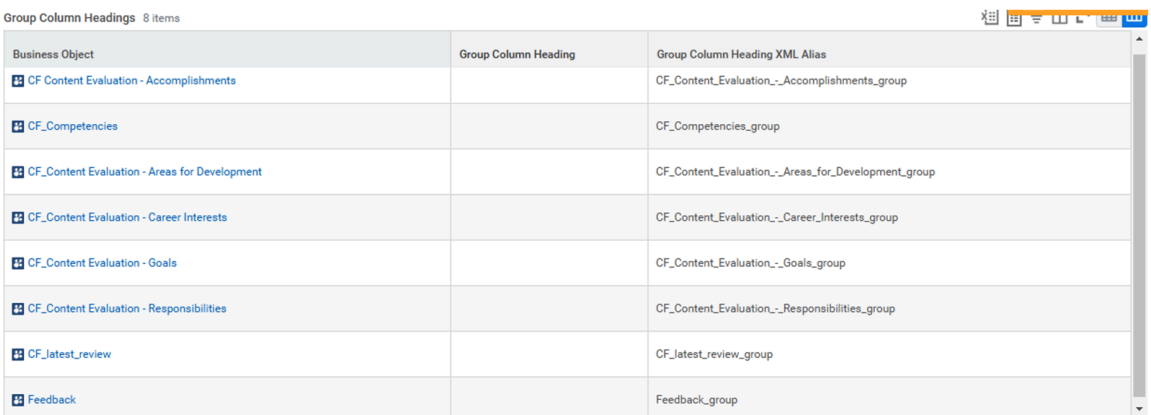
f. [一時レポート (temporary report)] チェックボックスをオフにして、**[OK]** をクリックします。



g. レポートの [ビジネスオブジェクト] とレポートの [フィールド] を次のように選択します。



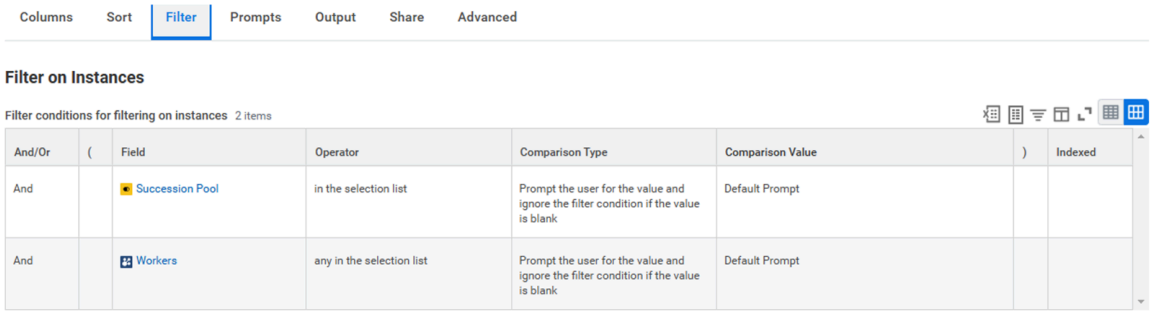
h. [グループ列見出し (Group Column Heading)] セクションで、次のようにすべてのビジネスオブジェクトを選択します。
各ビジネスオブジェクトの [グループ列見出し (Group Column Heading)] は空白になります。



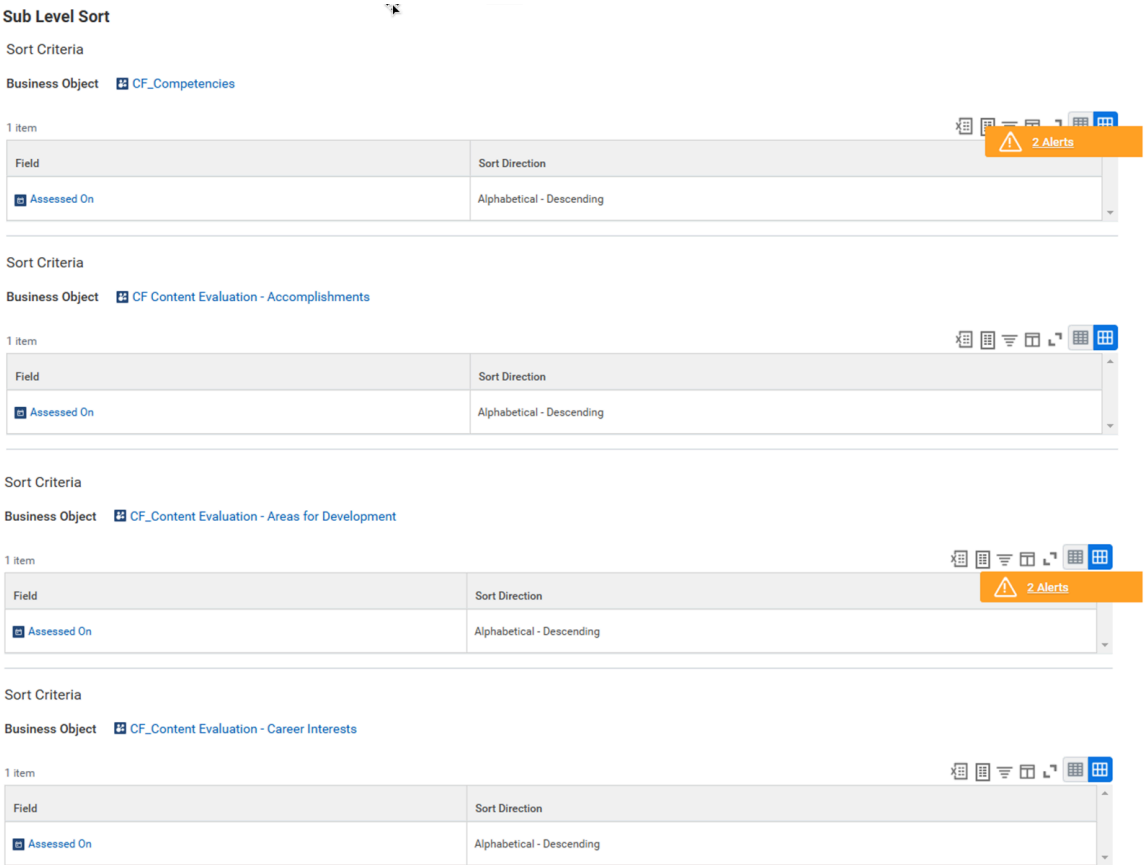
i. [フィルター] セクションで、次のように値を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

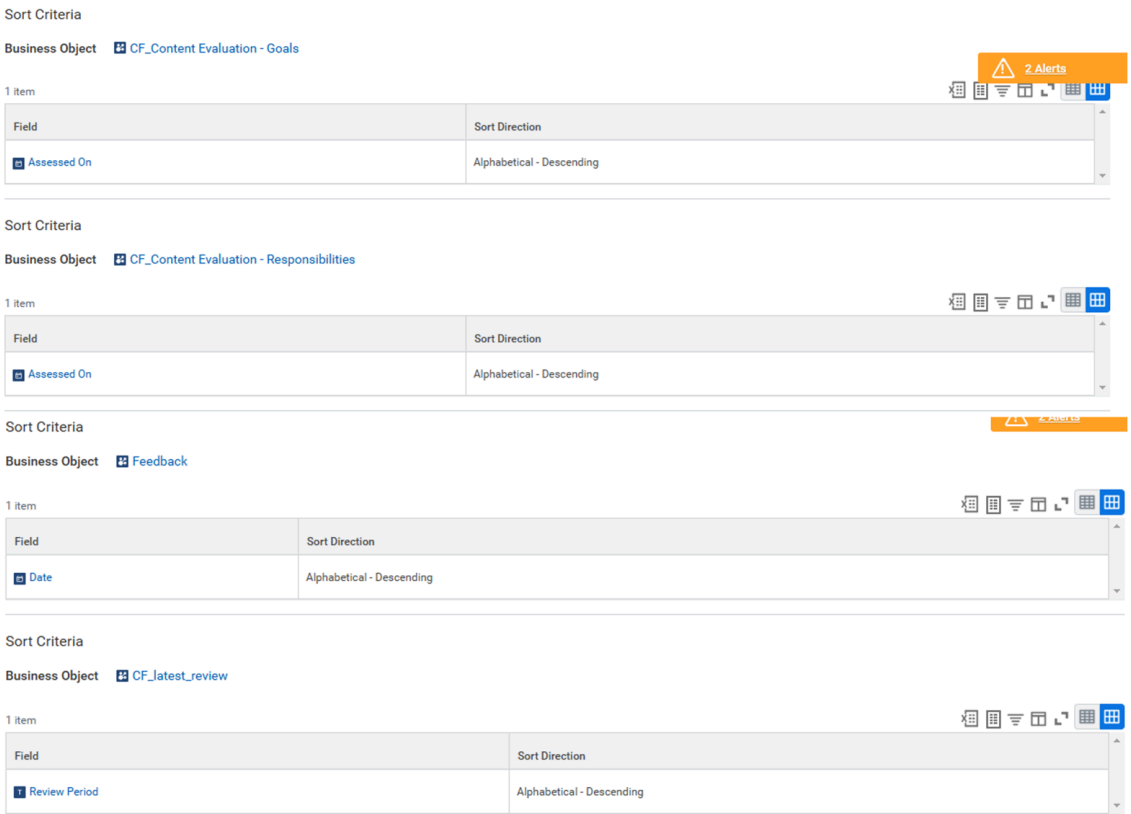
下の画像に示すように、括弧が追加されたことを確認します。



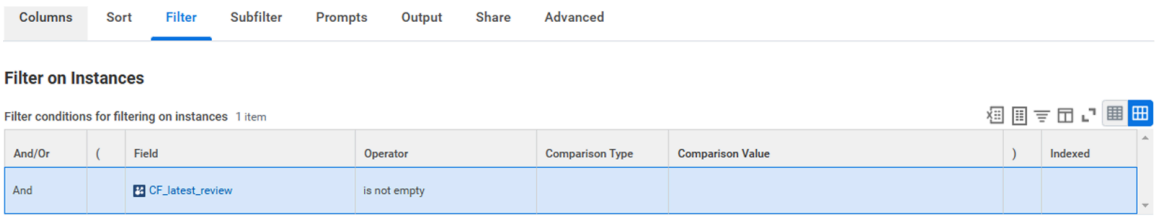
j. [サブレベルソート (Sub level sort)] の [ソート] セクションで、以下に示すように値を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



k. [フィルター] セクションで、次のように値を選択します。
下の画像に示すように、括弧が追加されたことを確認します。



l. [サブフィルター] セクションで、次のように値を選択します。
下の画像に示すように、括弧が追加されたことを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Columns | Sort | Filter | Subfilter | Prompts | Output | Share | Advanced

Sub Level Filter

Business Object Feedback

2 items — 2 Alerts

And/Or	(	Field	Operator	Comparison Type	Comparison Value	)
And		Date	greater than or equal to	Value from another field	Prompt - Start Date	
And		Date	less than or equal to	Value from another field	Prompt - End Date	

Condition as Text Date greater than or equal to Prompt - Start Date And Date less than or equal to Prompt - End Date

Sub Level Filter

Business Object CF_Competencies

1 item

And/Or	(	Field	Operator	Comparison Type	Comparison Value	)
And		CF_evaluated by manager	equal to	Value specified in this filter	Yes	

Sub Level Filter

Business Object CF Content Evaluation - Accomplishments

1 item — 2 Alerts

And/Or	(	Field	Operator	Comparison Type	Comparison Value	)
And		CF_evaluated by manager	equal to	Value specified in this filter	Yes	

Condition as Text CF_evaluated by manager equal to Y

Condition as Text CF_evaluated by manager equal to Y

Sub Level Filter

Business Object CF_Content Evaluation - Areas for Development

1 item

And/Or	(	Field	Operator	Comparison Type	Comparison Value	)
And		CF_evaluated by manager	equal to	Value specified in this filter	Yes	

Sub Level Filter

Business Object CF_Content Evaluation - Career Interests

1 item — 2 Alerts

And/Or	(	Field	Operator	Comparison Type	Comparison Value	)
And		CF_evaluated by manager	equal to	Value specified in this filter	Yes	

Condition as Text CF_evaluated by manager equal to Y

Sub Level Filter

Business Object CF_Content Evaluation - Goals

1 item

And/Or	(	Field	Operator	Comparison Type	Comparison Value	)
And		CF_evaluated by manager	equal to	Value specified in this filter	Yes	

Sub Level Filter

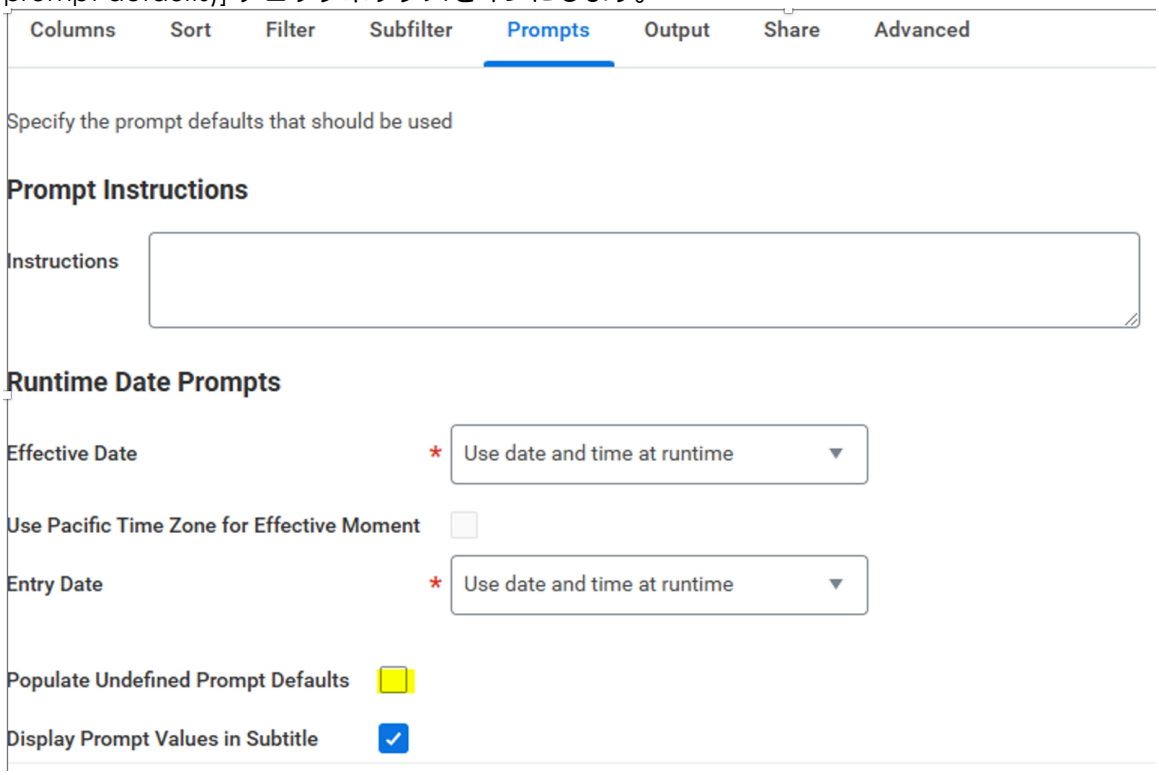
Business Object CF_Content Evaluation - Responsibilities

1 item

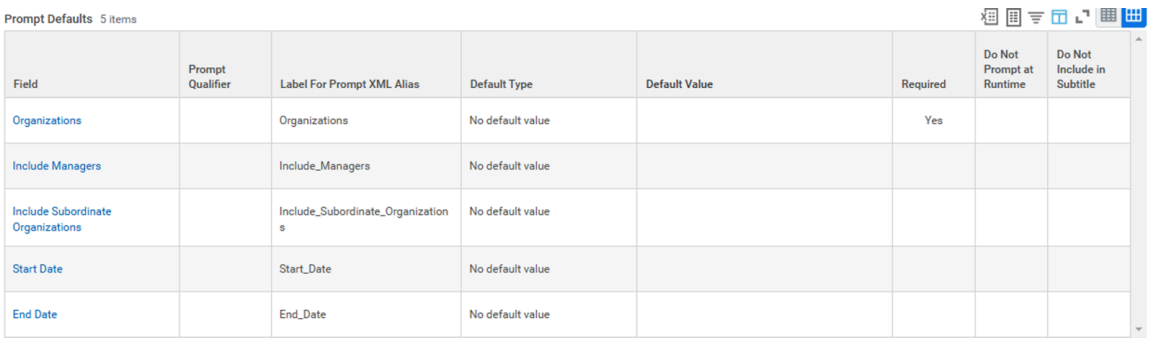
And/Or	(	Field	Operator	Comparison Type	Comparison Value	)
And		CF_evaluated by manager	equal to	Value specified in this filter	Yes	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

m. [プロンプト] セクションで、[未定義のプロンプトのデフォルトを入力 (Populate undefined prompt defaults)] チェックボックスをオンにします。



n. [プロンプトのデフォルト (Prompt Defaults)] セクションで、以下のようにプロンプトの値を選択します。
すべてのプロンプトの [プロンプト XML エイリアスのラベル (Label For Prompt XML Alias)] フィールドが、次の画像に示されているものと同じであることを確認します。

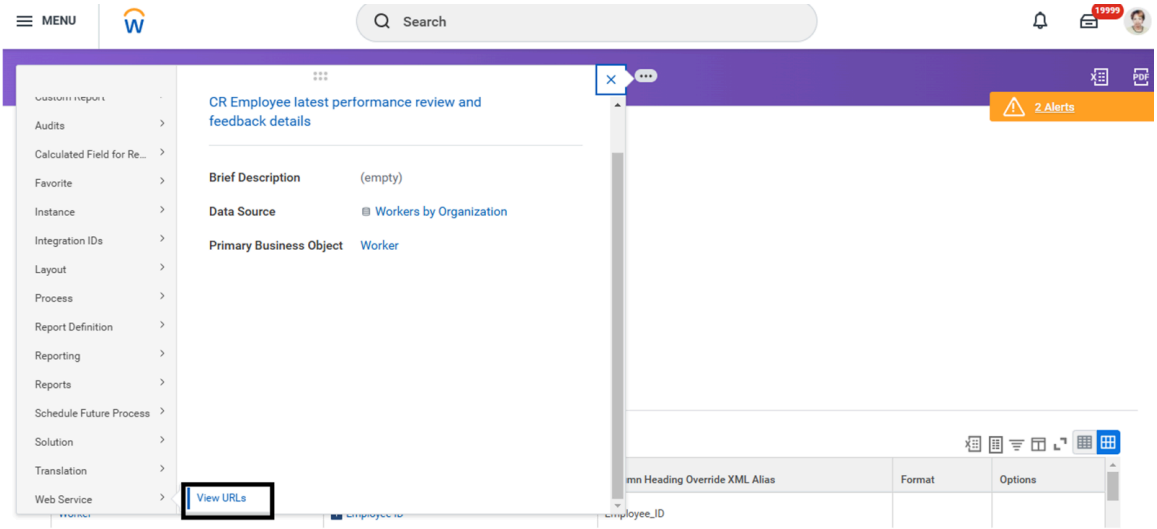

Prompt Defaults 5 items

Field	Prompt Qualifier	Label For Prompt XML Alias	Default Type	Default Value	Required	Do Not Prompt at Runtime	Do Not Include in Subtitle
Organizations		Organizations	No default value		Yes		
Include Managers		Include_Managers	No default value				
Include Subordinate Organizations		Include_Subordinate_Organizations	No default value				
Start Date		Start_Date	No default value				
End Date		End_Date	No default value				

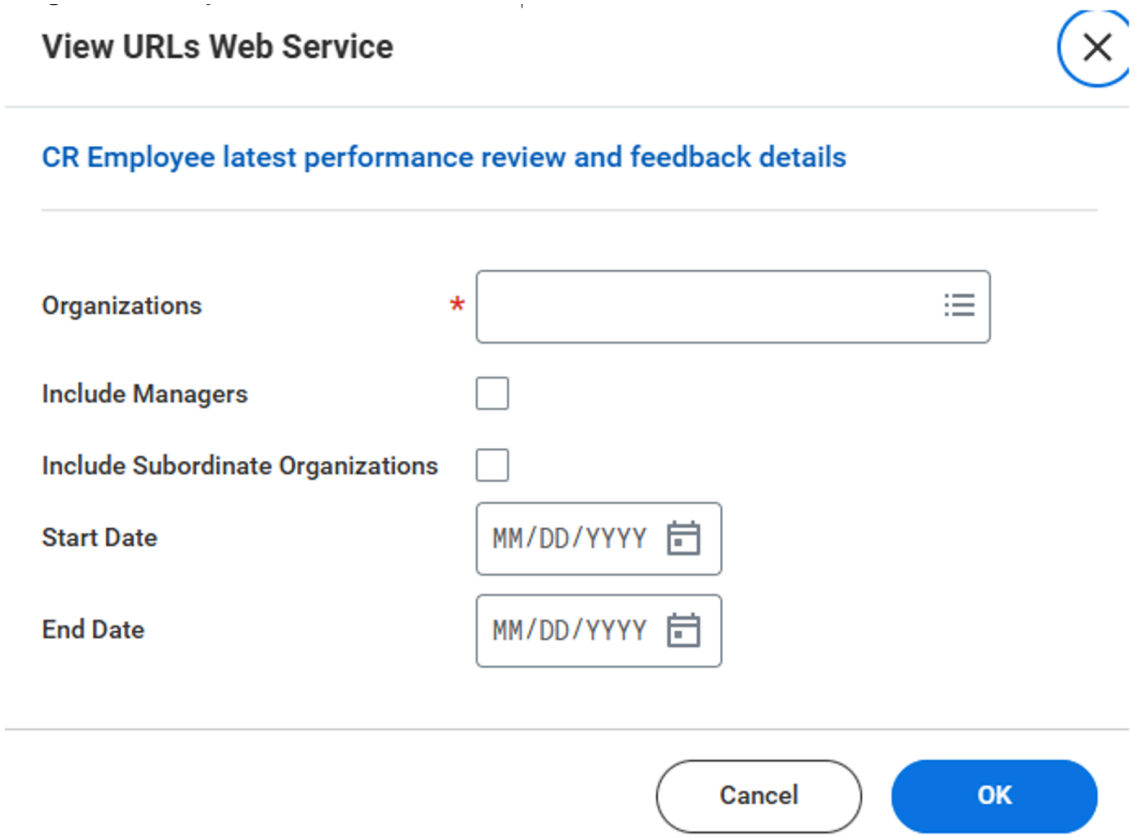
o. [詳細] セクションで、**[Web** サービスとして有効化 **(Enable as webservice)]** を選択して、[OK] をクリックします。

p. 3 つのドットアイコンをクリックし、**[Web** サービス] **> [URL** を表示 **(View URLs)]** に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



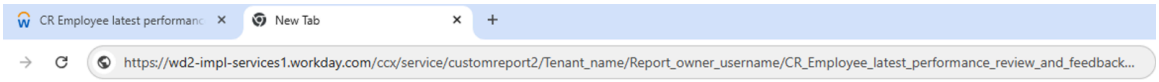
q. このレポートを実行する [組織] を選択し、下部組織とマネージャーを含める場合はそのチェックボックスをオンにして、データを表示する日付範囲を選択します。



r. [URL を表示 Web サービス (View URLs Web Service)] ページで、[CSV] セクションの下のマーク付きアイコンをクリックします。
新しいブラウザタブが開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

s. 新しいブラウザタブでレポートの RaaS URL を表示すると、このリンクから以下の詳細を取得できます。



https://wd2-impl-services1.workday.com represents the Base URL of customer's workday tenant.
Tenant_Name represents customer's workday tenant.
Report_Owner_user_name represents user name of the report's owner.
Report_Name Represents report name.

後継者計画レポートの構成

Workday HR スポークの「後継者計画を検索」アクションが後継者計画の詳細を表示するために使用する後継者計画レポートを構成します。

始める前に

必要なロール：レポートを作成する権限があることを確認します。

「組織別後継者計画 (Succession Plans by Organization)」データソースへのアクセス権があることを確認します。

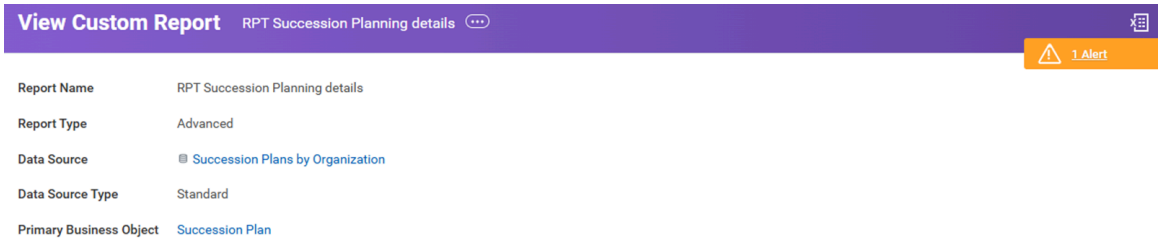
すべてのレポートが ISU ユーザーによって所有されていることを確認します。

[詳細] セクションの **[Web サービスとして有効化 (Enable as webservice)]** オプションが選択されていることを確認します。

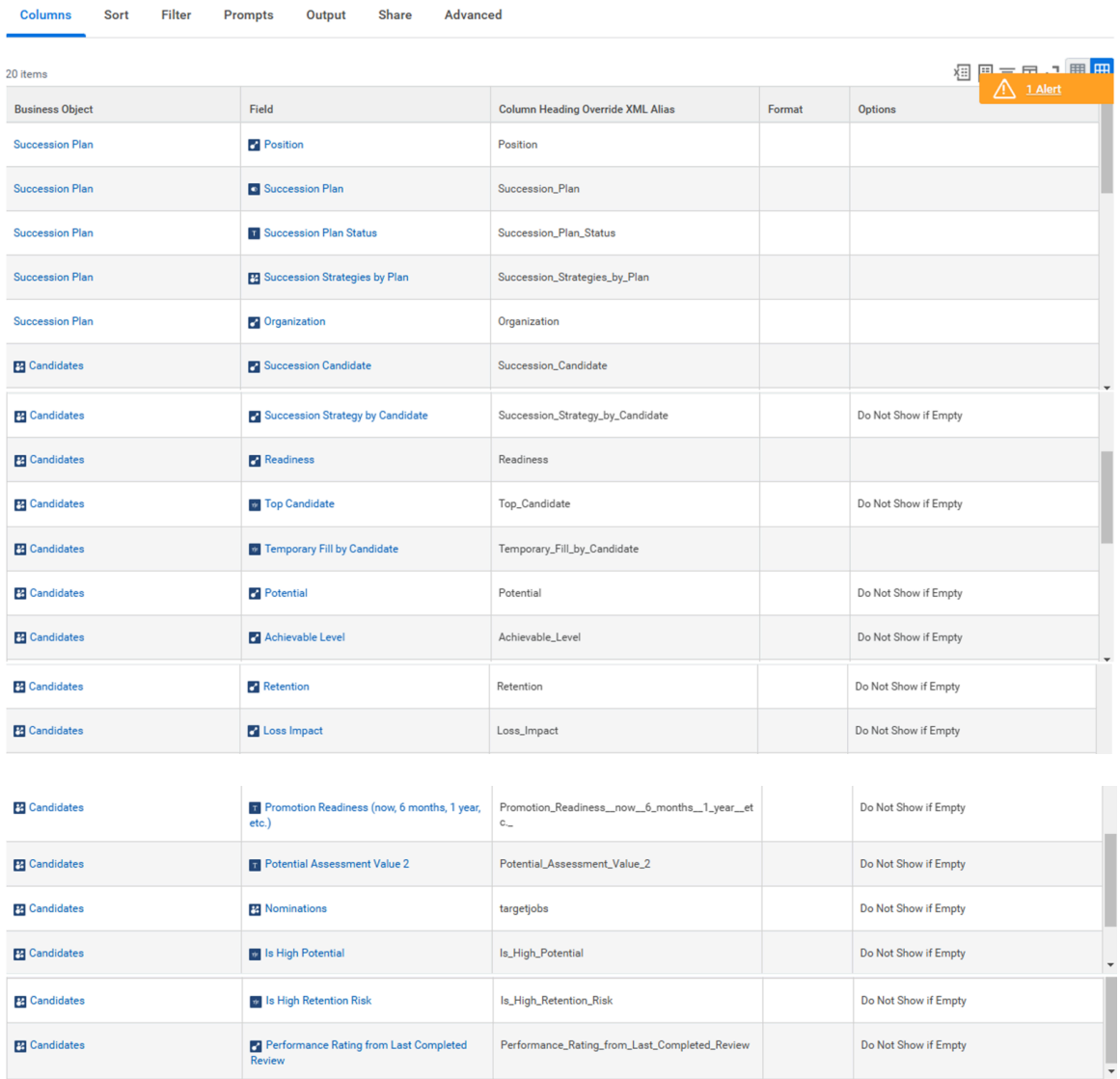
手順

1. [カスタムレポートの作成 (Create Custom Report)] タスクにアクセスします。
2. レポート名を入力します。
3. レポートタイプで [詳細] を選択します。
4. [パフォーマンス用に最適化 **(Optimized for performance)]** オプションをオフにします。
5. [組織別後継者計画 (Succession Plans by Organization)] データソースを選択します。
6. [一時レポート (Temporary report)] オプションの選択が解除されていることを確認し、**[OK]** を選択します。

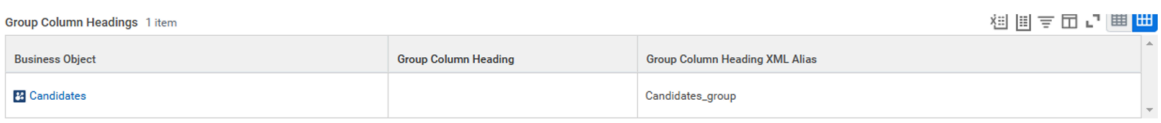
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. 以下のように、レポートの [ビジネスオブジェクト] とレポートの [フィールド] を選択します。

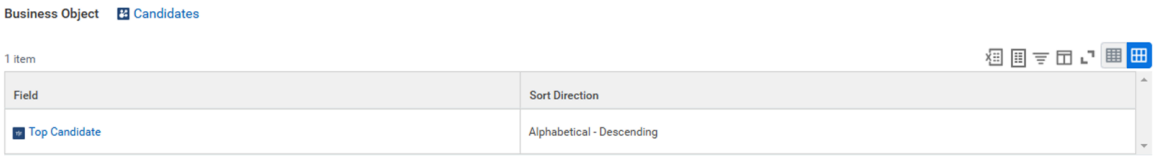


8. [グループ列見出し (Group Column Heading)] セクションで、すべてのビジネスオブジェクトを選択します。
各ビジネスオブジェクトの [グループ列見出し (Group Column Heading)] は空です。

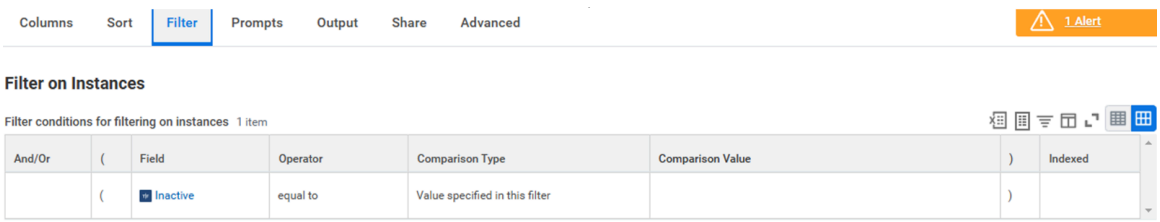


9. [サブレベルソート (Sub level sort)] の [ソート] セクションで、次のように値を選択します。

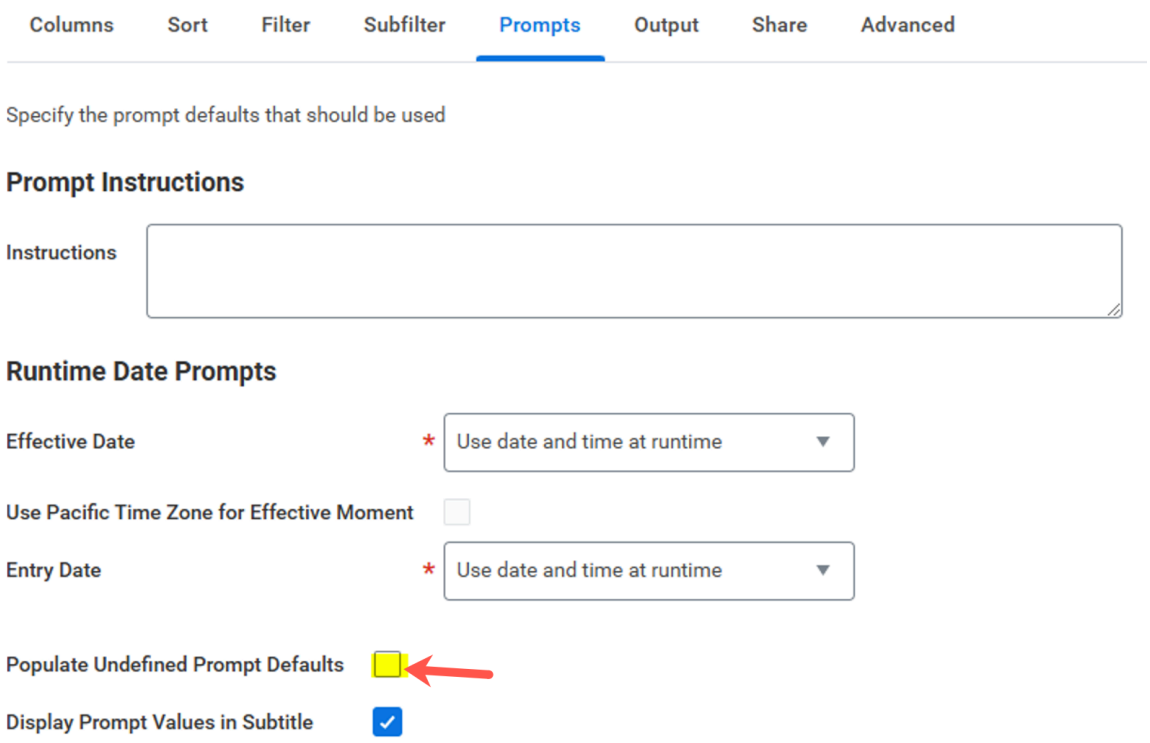
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



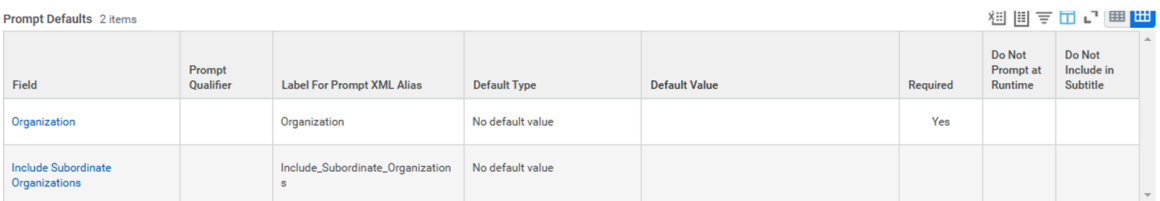
10. [フィルター] セクションで、次のように値を選択します。
画像に示すように括弧を追加します。



11. [プロンプト] セクションで、[未定義のプロンプトのデフォルトを入力 **(Populate Undefined Prompt Defaults)]** オプションをクリックします。



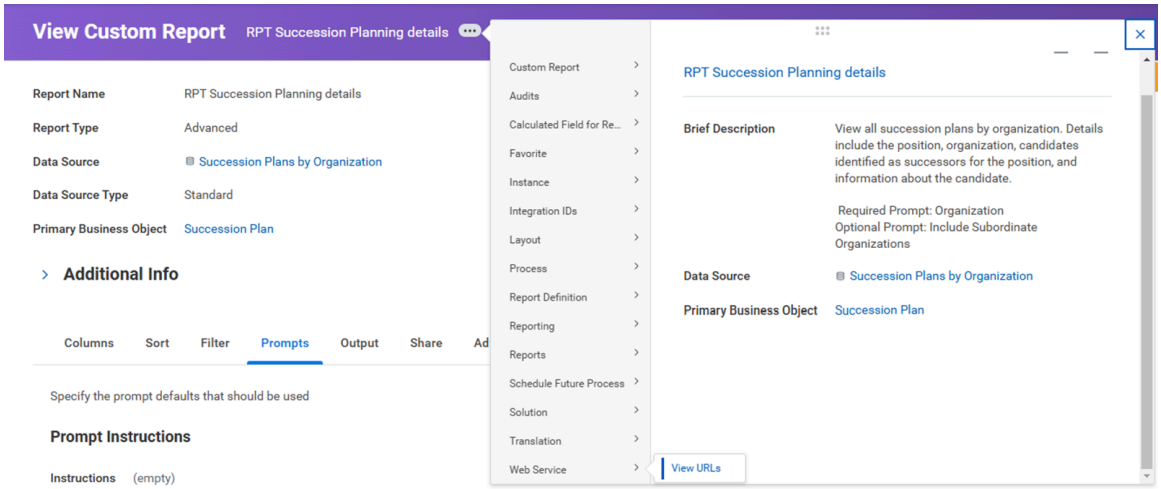
12. [プロンプトのデフォルト (Prompt Defaults)] セクションで、以下のようにプロンプトの値を選択します。
すべてのプロンプトの [プロンプト XML エイリアスのラベル (Label For Prompt XML Alias)] フィールドが以下と同じであることを確認します。



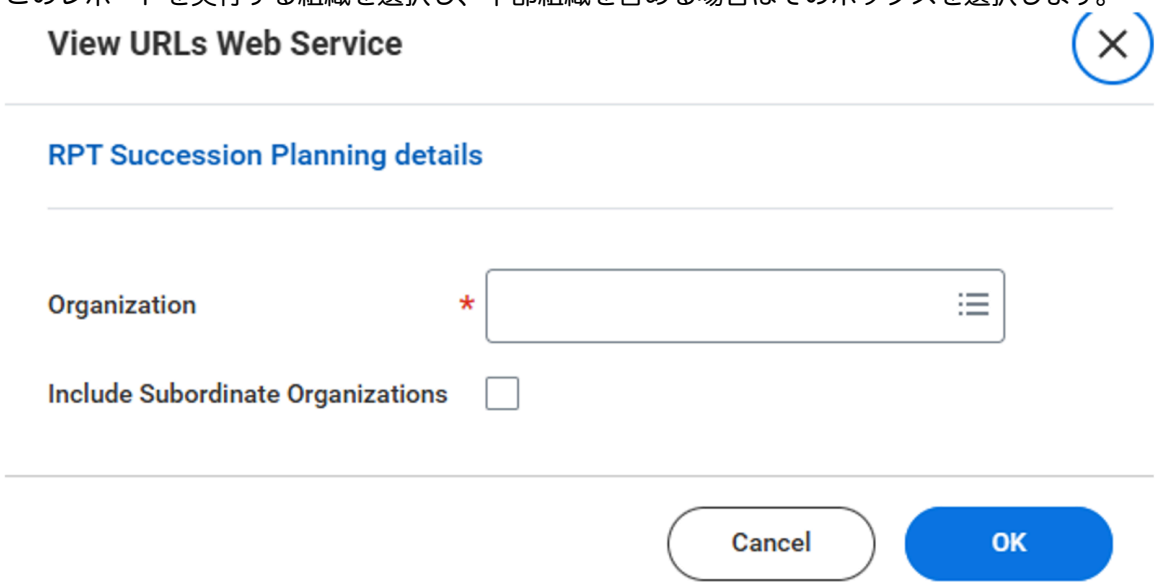
13. [詳細] セクションで、**[Web** サービスとして有効化 **(Enable as webservice)]** を選択して、**[OK]** をクリックします。

14. 3 つのドットアイコンを選択し、**[Web** サービス] > **[URL** を表示 **(View URLs)]** に移動します。

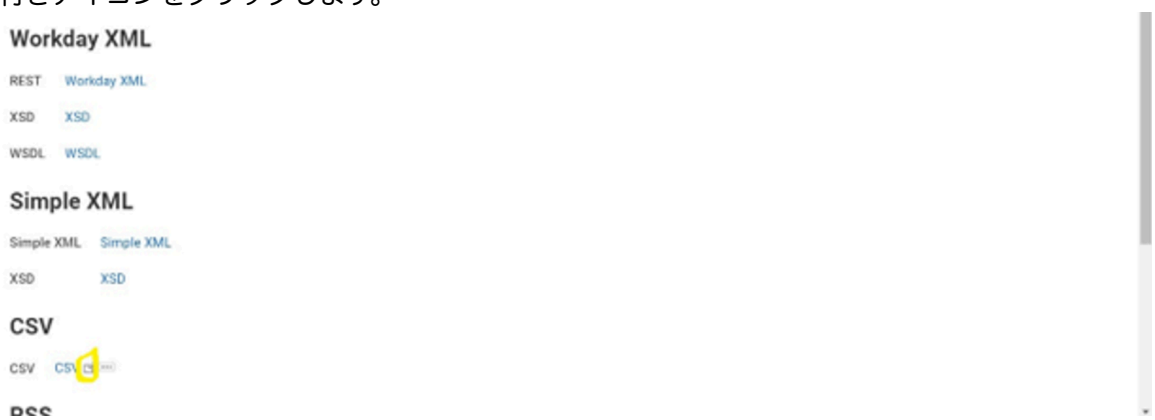
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



15. このレポートを実行する組織を選択し、下部組織を含める場合はそのボックスを選択します。



16. [URL を表示 Web サービス (View URLs Web Service)] ページで、[CSV] セクションの下のマーク付きアイコンをクリックします。



新しいブラウザタブに次の結果が表示されます。

詳細：

- https://wd2-impl-services1.workday.com は、顧客の Workday テナントのベース URL です。
- Tenant_Name は、顧客の Workday テナントを表します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Report_Owner_user_name は、レポートの所有者のユーザー名です。
- Report_Name は、レポート名を表します。

後継者プールレポートの構成

後継者プールと従業員に基づいて後継者プールのデータを取得するように、後継者プールレポートを構成します。

始める前に

必要なロール：レポートを作成するためのアクセス権があることを確認します。

レポートデータソース「すべての後継者プール (All Succession Pools)」へのアクセス権があることを確認します。

レポートを作成する前に、このレポートの計算されたフィールドをすべて作成します。

それぞれのフィールドのレポート名、レポートフィールド名または列見出しオーバーライド (レポートドキュメントで指定されている場合) がレポートドキュメントのものと同じであることを確認します。

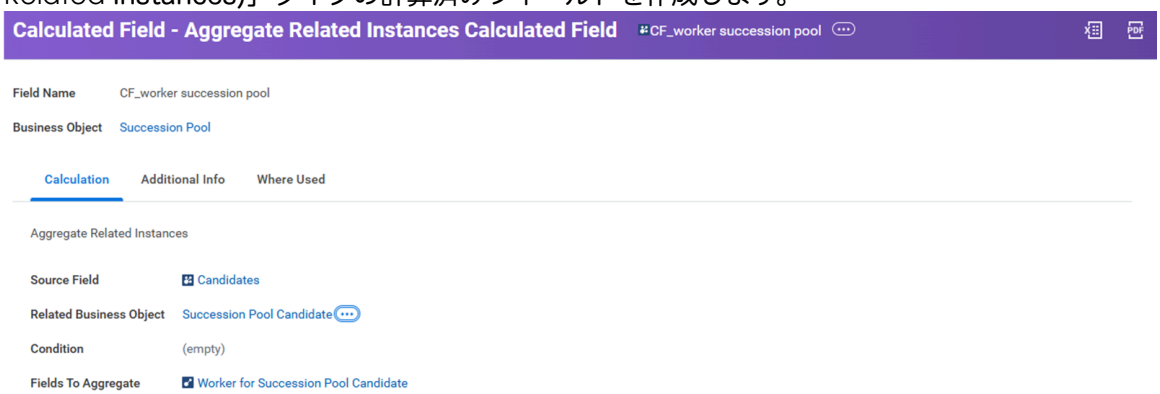
レポートフィールドのラベルがレポートのものと同じであることを確認します。

すべてのレポートが ISU ユーザーによって所有されていることを確認します。

[詳細] セクションの **[Web サービスとして有効化 (Enable as webservice)]** が選択されていることを確認します。

手順

1. 「CF_worker succession pool」という名前の「アグリゲート関連インスタンス (Aggregate Related Instances)」タイプの計算済みフィールドを作成します。

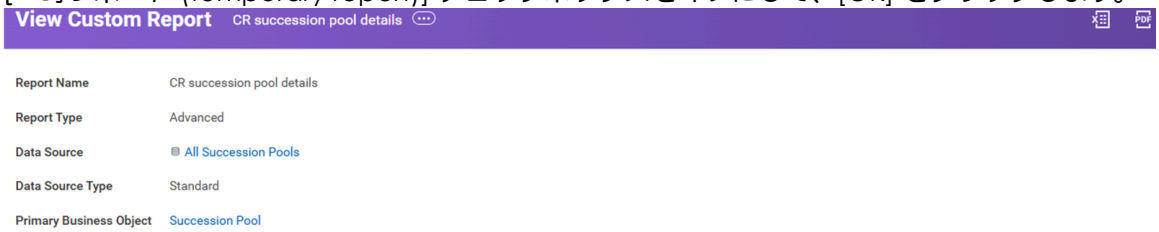


2. レポートを作成します。
   a. [カスタムレポートの作成 (Create Custom Report)] タスクにアクセスします。
   b. レポート名を入力します。
   c. レポートタイプで [詳細] を選択します。
   d. [パフォーマンス用に最適化 (Optimized for performance)] オプションをオフにします。

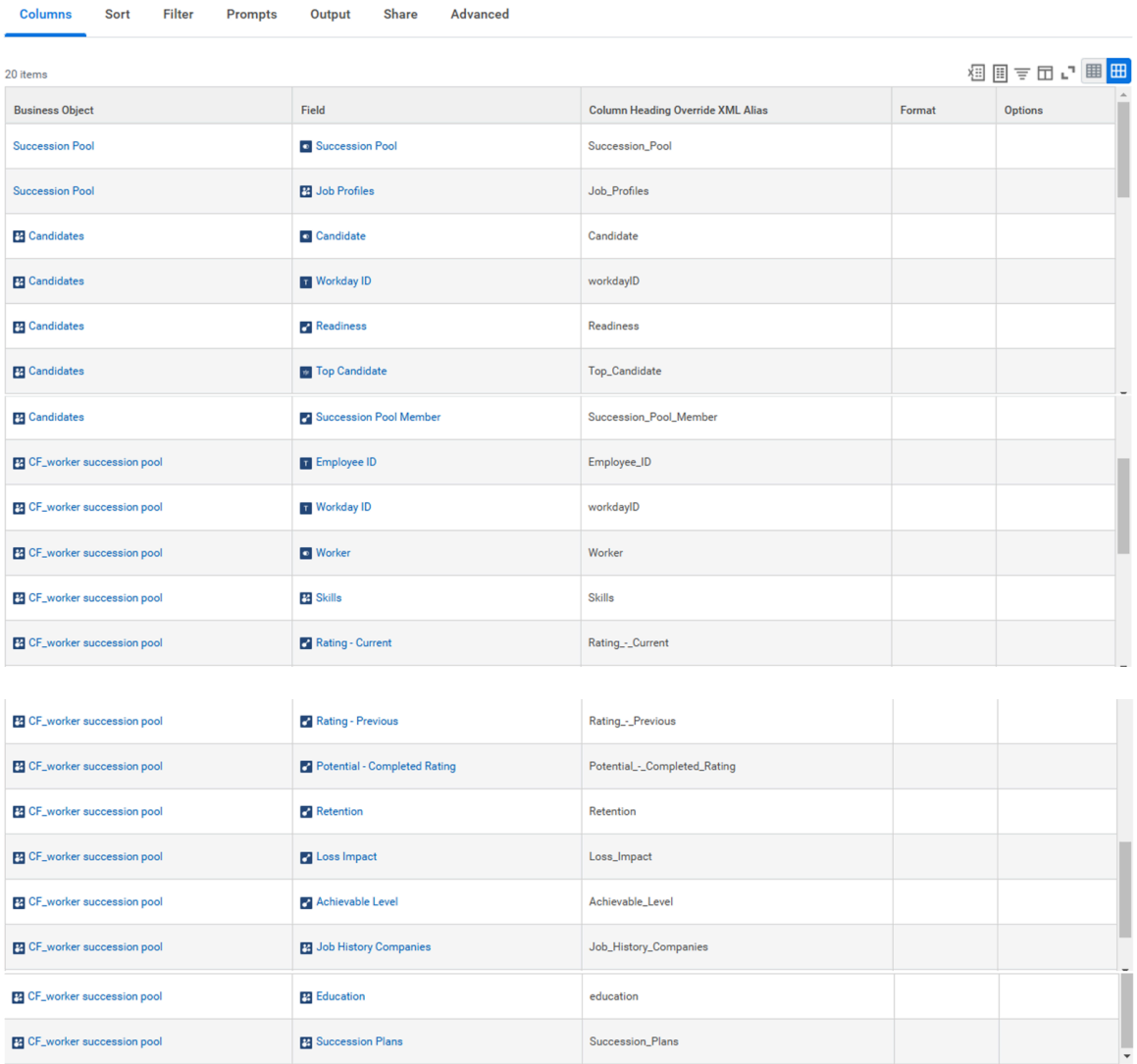
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. [データソース] で [すべての後継者プール (All Succession Pools)] を選択します。

f. [一時レポート (temporary report)] チェックボックスをオフにして、[OK] をクリックします。



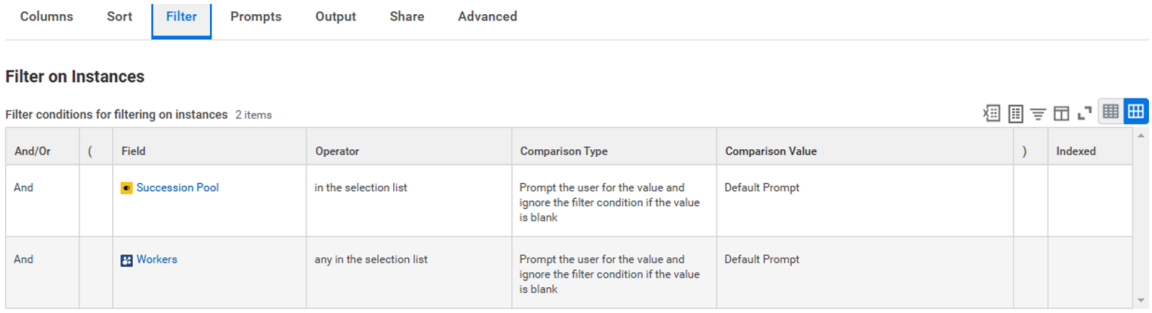
g. レポートの [ビジネスオブジェクト] とレポートの [フィールド] を次のように選択します。



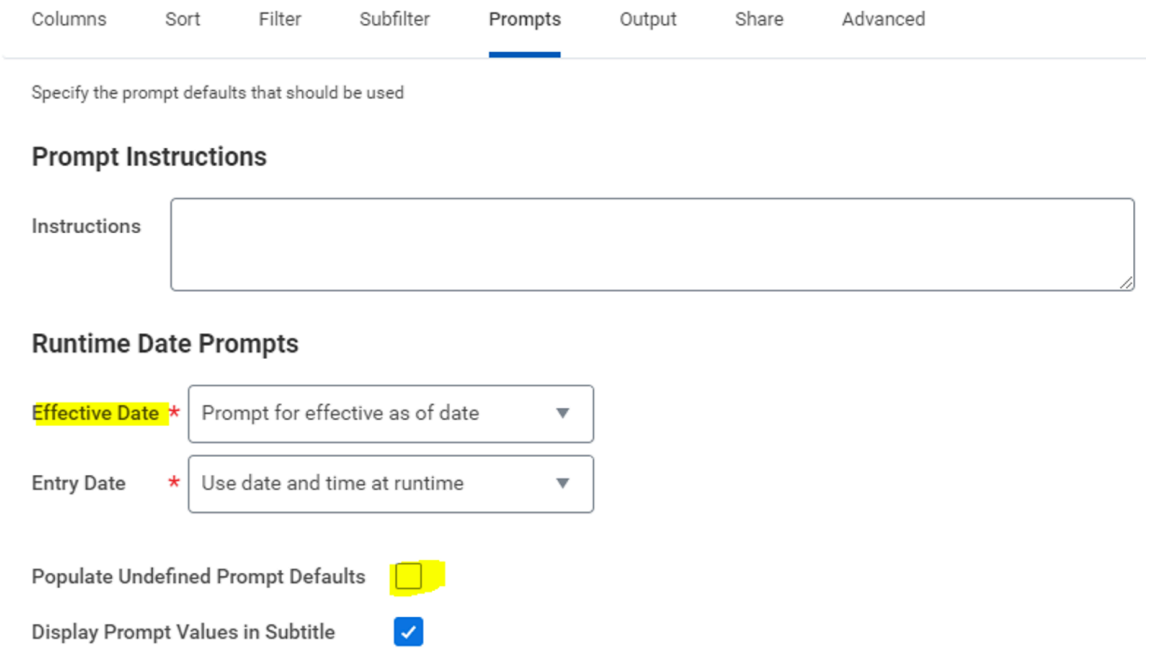
h. [グループ列見出し (Group Column Heading)] セクションで、すべてのビジネスオブジェクトを次のように選択します。
各ビジネスオブジェクトの [グループ列見出し (Group Column Heading)] は空白になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

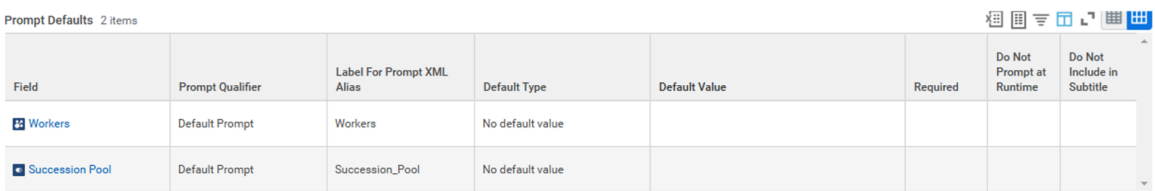
i. [フィルター] セクションで、次のように値を選択します。



j. [プロンプト] セクションの [有効日] (強調表示) で [有効日のプロンプト (Prompt for effective as of date)] を選択し、[未定義のプロンプトのデフォルトを入力 (Populate undefined prompt defaults)] チェックボックスをクリックします。



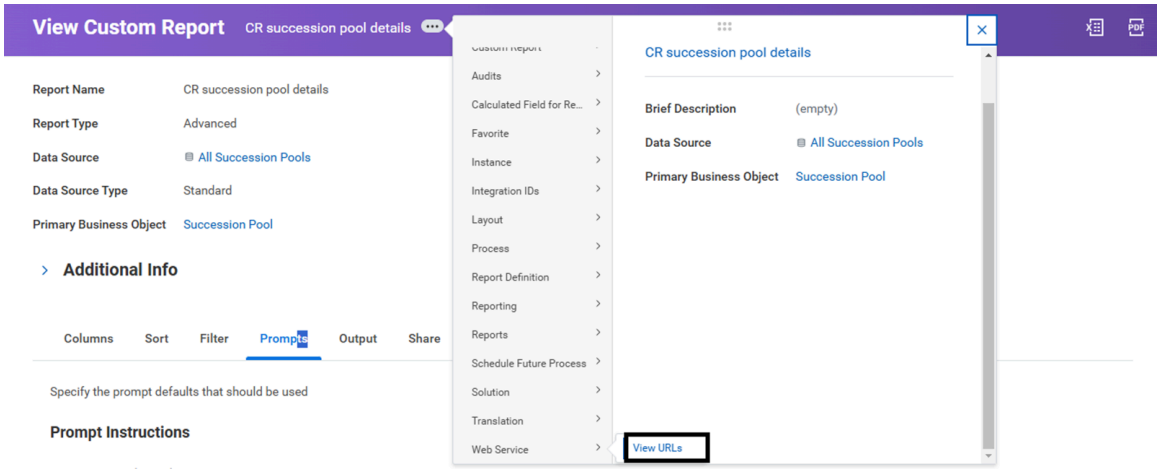
k. [プロンプトのデフォルト (Prompt Defaults)] セクションで、以下のようにプロンプトの値を選択します。
すべてのプロンプトの [プロンプト XML エイリアスのラベル (Label For Prompt XML Alias)] フィールドが以下の画像と同じであることを確認します。



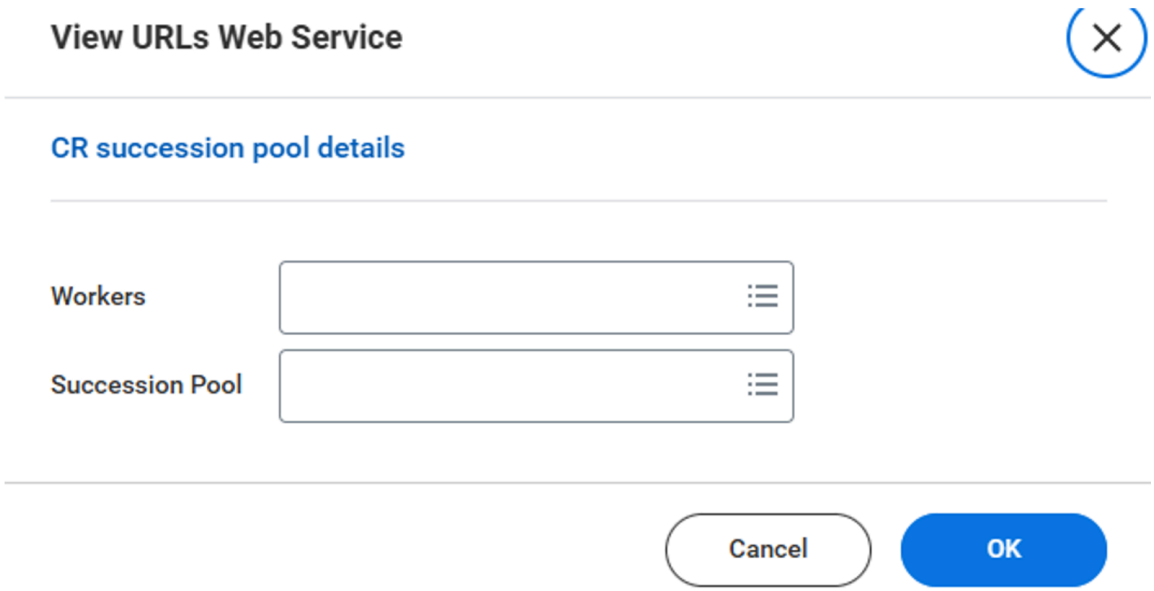
l. [詳細] セクションで、**[Web サービスとして有効化 (Enable as webservice)]** を選択して、[OK] をクリックします。

m. 3 つのドットアイコンを選択し、**[Web サービス] > [URL を表示 (View URLs)]** オプションに移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



n. このレポートを実行する後継者プールを選択します。
後継者プールから特定のワーカーが必要な場合は [ワーカー] を選択し、それ以外の場合は空白のままにします。



o. [URL を表示 Web サービス (View URLs Web Service)] ページで、[CSV] セクションの下のマーク付きアイコンをクリックします。
新しいブラウザタブが開き、新しいブラウザタブにレポートの RaaS URL が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワーカーの履歴パフォーマンスレビューレポートの構成

ワーカー履歴パフォーマンスレビューの情報を取得するようにレポートを構成します。

始める前に

必要なロール：レポートを作成するためのアクセス権があることを確認します。

レポートデータソース「組織別ワーカー (Workers by Organization)」へのアクセス権があることを確認します。

レポートを作成する前に、このレポートの計算されたフィールドをすべて作成します。

それぞれのフィールドのレポート名、レポートフィールド名または列見出しオーバーライド (レポートドキュメントで指定されている場合) がレポートドキュメントのものと同じであることを確認します。

レポートフィールドのラベルがレポートのものと同じであることを確認します。

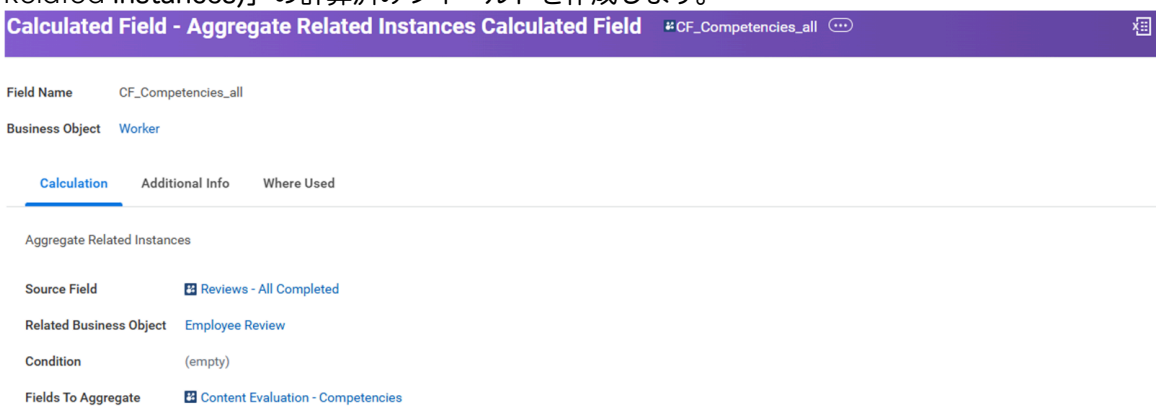
すべてのレポートが ISU ユーザーによって所有されていることを確認します。

[詳細] セクションの **[Web サービスとして有効化 (Enable as webservice)]** が選択されていることを確認します。

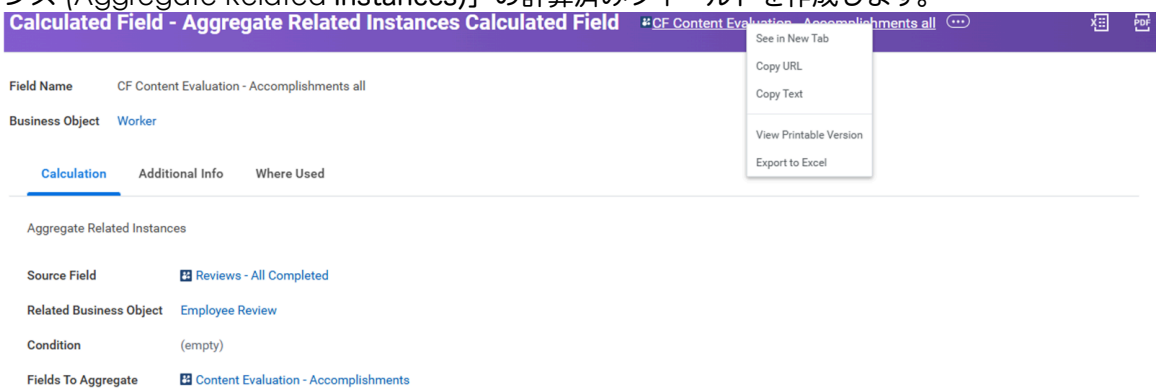
手順

1. 計算済みフィールドを作成します。

   a. 「CF_Competencies_all」という名前の「アグリゲート関連インスタンス (Aggregate Related Instances)」の計算済みフィールドを作成します。

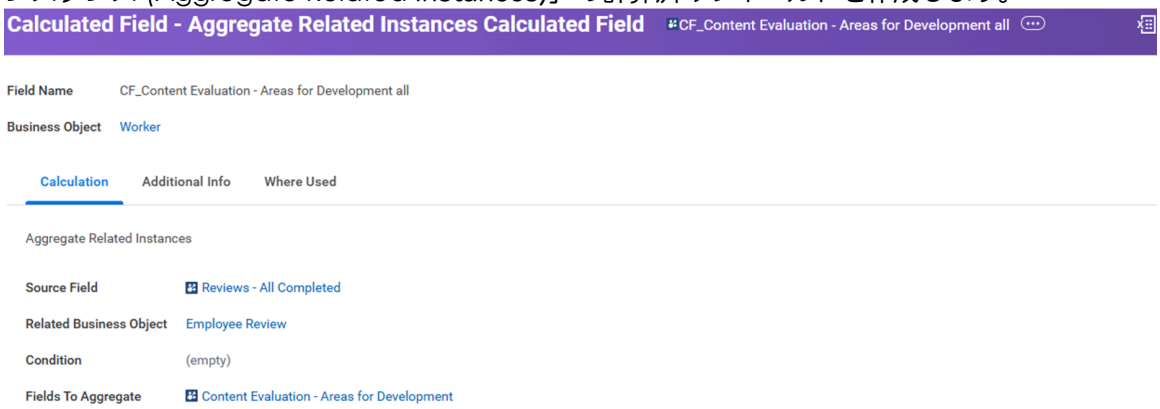


   b. 「CF Content Evaluation – Accomplishments all」という名前の「アグリゲート関連インスタンス (Aggregate Related Instances)」の計算済みフィールドを作成します。

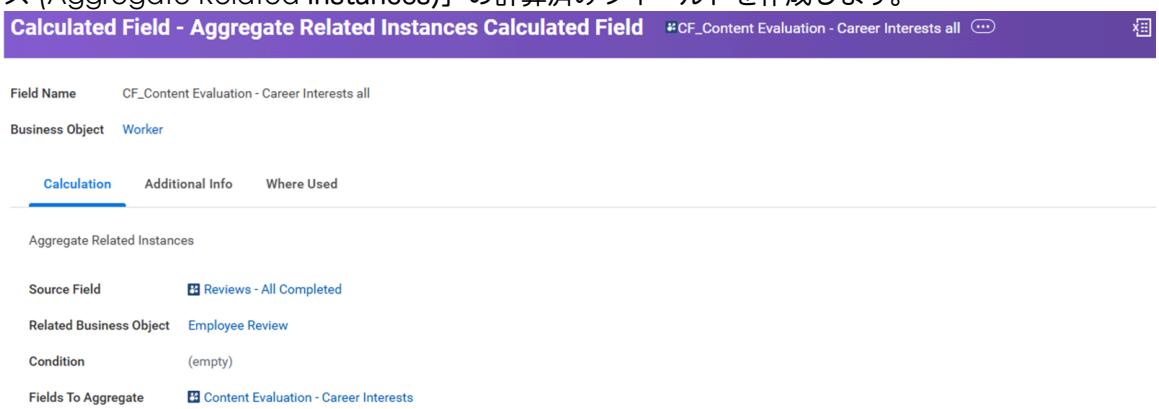


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

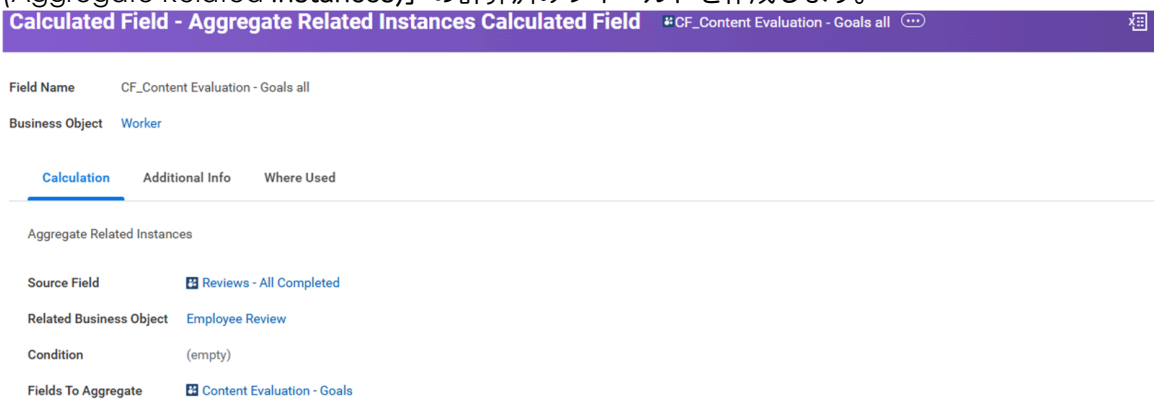
c. 「CF_Content Evaluation - Areas for Development all」という名前の「アグリゲート関連インスタンス (Aggregate Related Instances)」の計算済みフィールドを作成します。



d. 「CF_Content Evaluation - Career Interests all」という名前の「アグリゲート関連インスタンス (Aggregate Related Instances)」の計算済みフィールドを作成します。

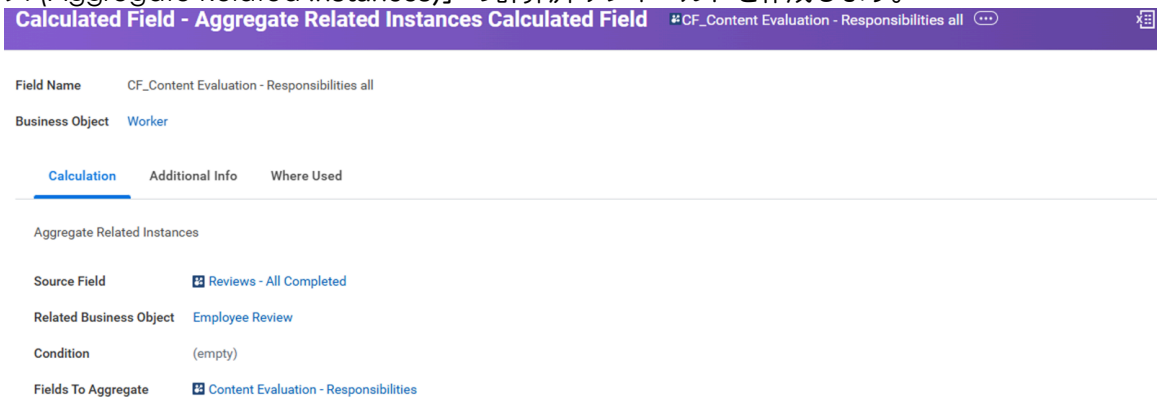


e. 「CF_Content Evaluation - Goals all」という名前の「アグリゲート関連インスタンス (Aggregate Related Instances)」の計算済みフィールドを作成します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. 「CF_Content Evaluation - Responsibilities all」という名前の「アグリゲート関連インスタンス (Aggregate Related Instances)」の計算済みフィールドを作成します。



2. レポートを作成します。

a. [カスタムレポートの作成 (Create Custom Report)] タスクにアクセスします。

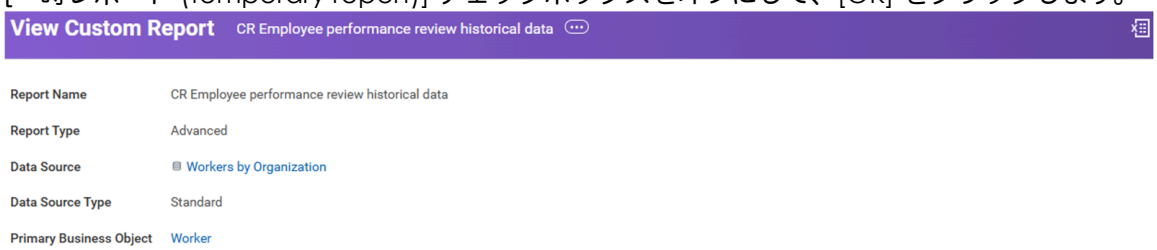
b. レポート名を入力します。

c. レポートタイプで [詳細] を選択します。

d. [パフォーマンス用に最適化 (Optimized for performance)] オプションをオフにします。

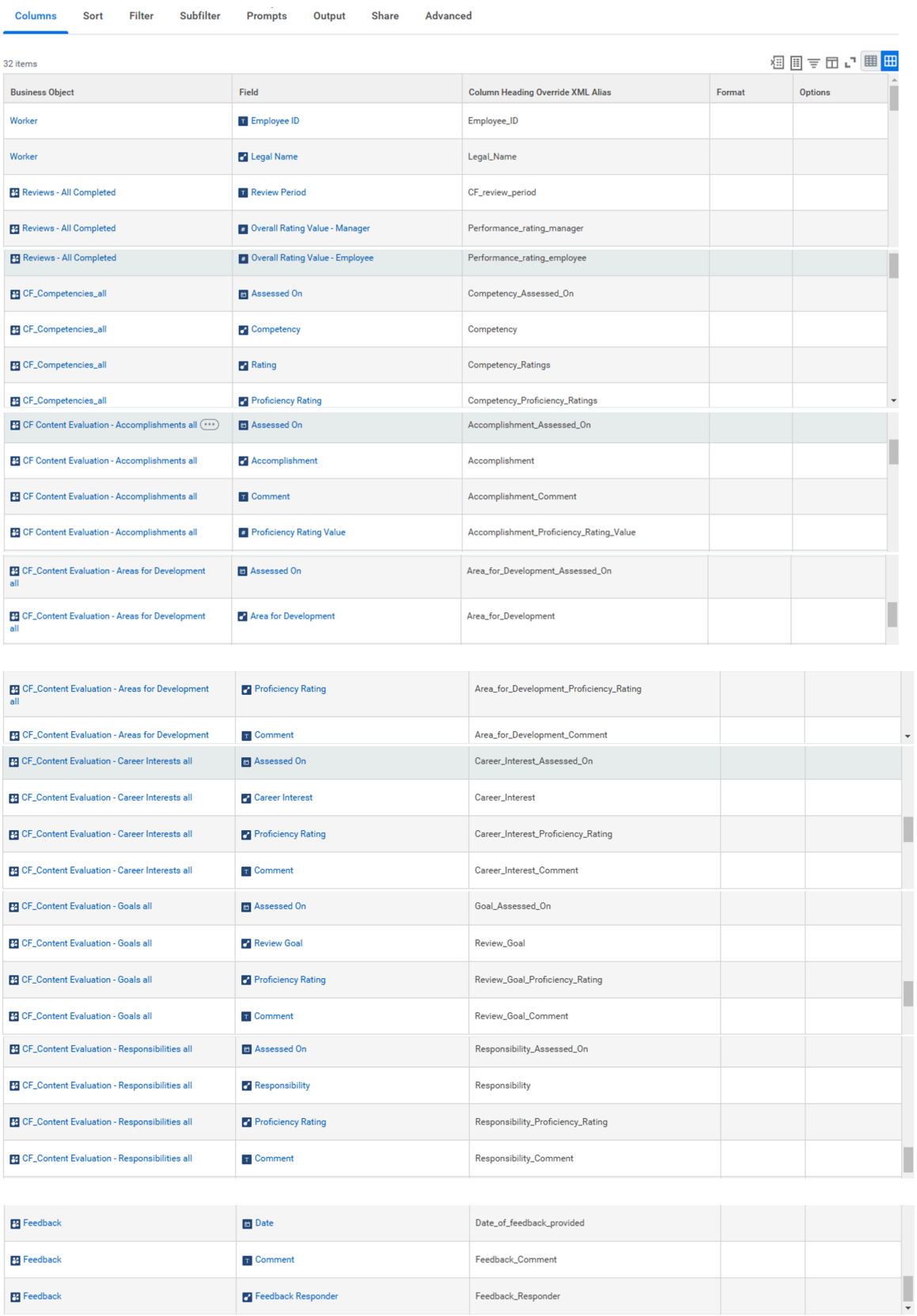
e. [データソース] で [組織別ワーカー (Workers by Organization)] を選択します。

f. [一時レポート (temporary report)] チェックボックスをオフにして、[OK] をクリックします。



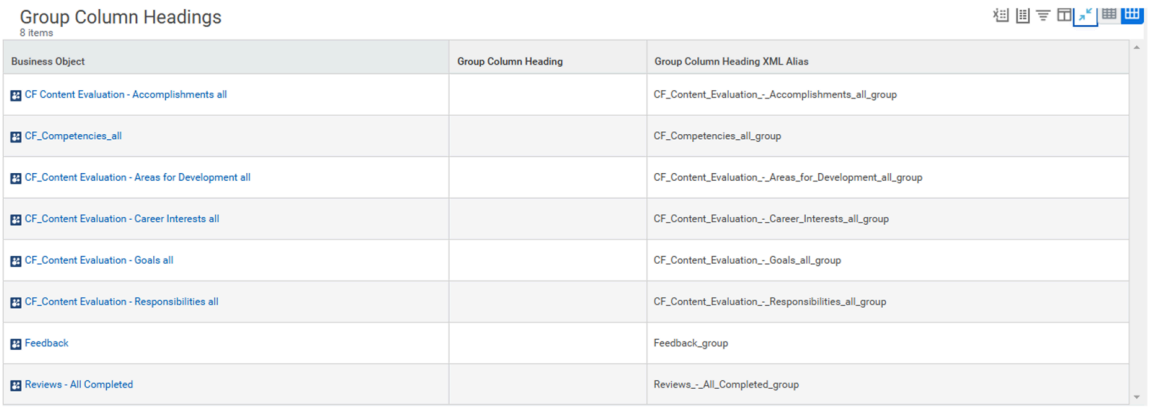
g. レポートビジネスオブジェクトとレポートのフィールドを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

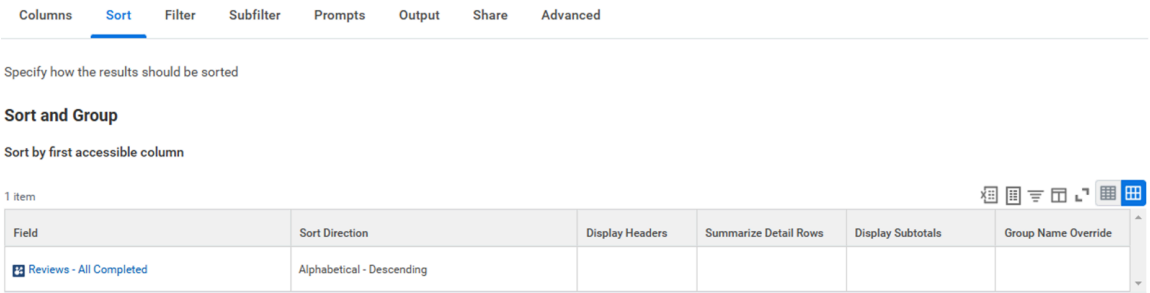


h. [グループ列見出し (Group Column Heading)] セクションで、次のようにすべてのビジネスオブジェクトを選択します。
各ビジネスオブジェクトの [グループ列見出し (Group Column Heading)] は空白になります。

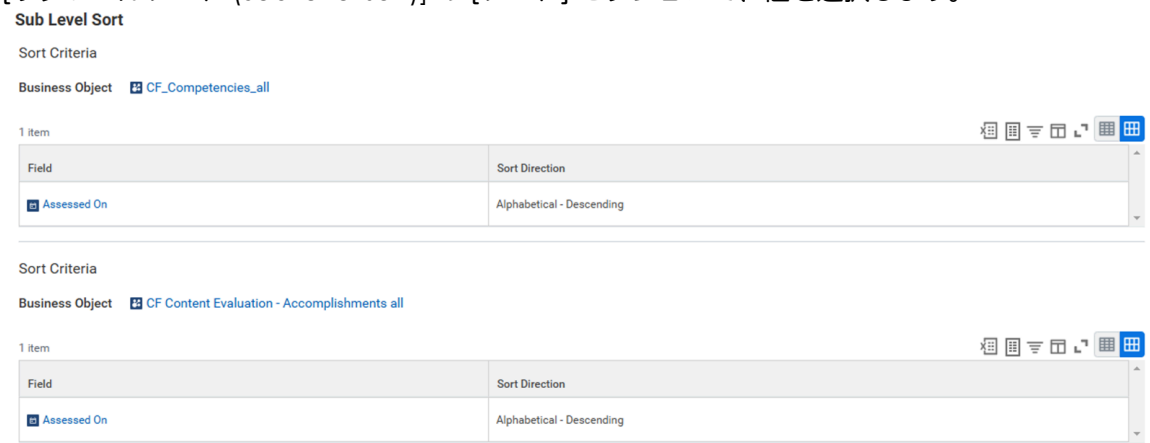
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



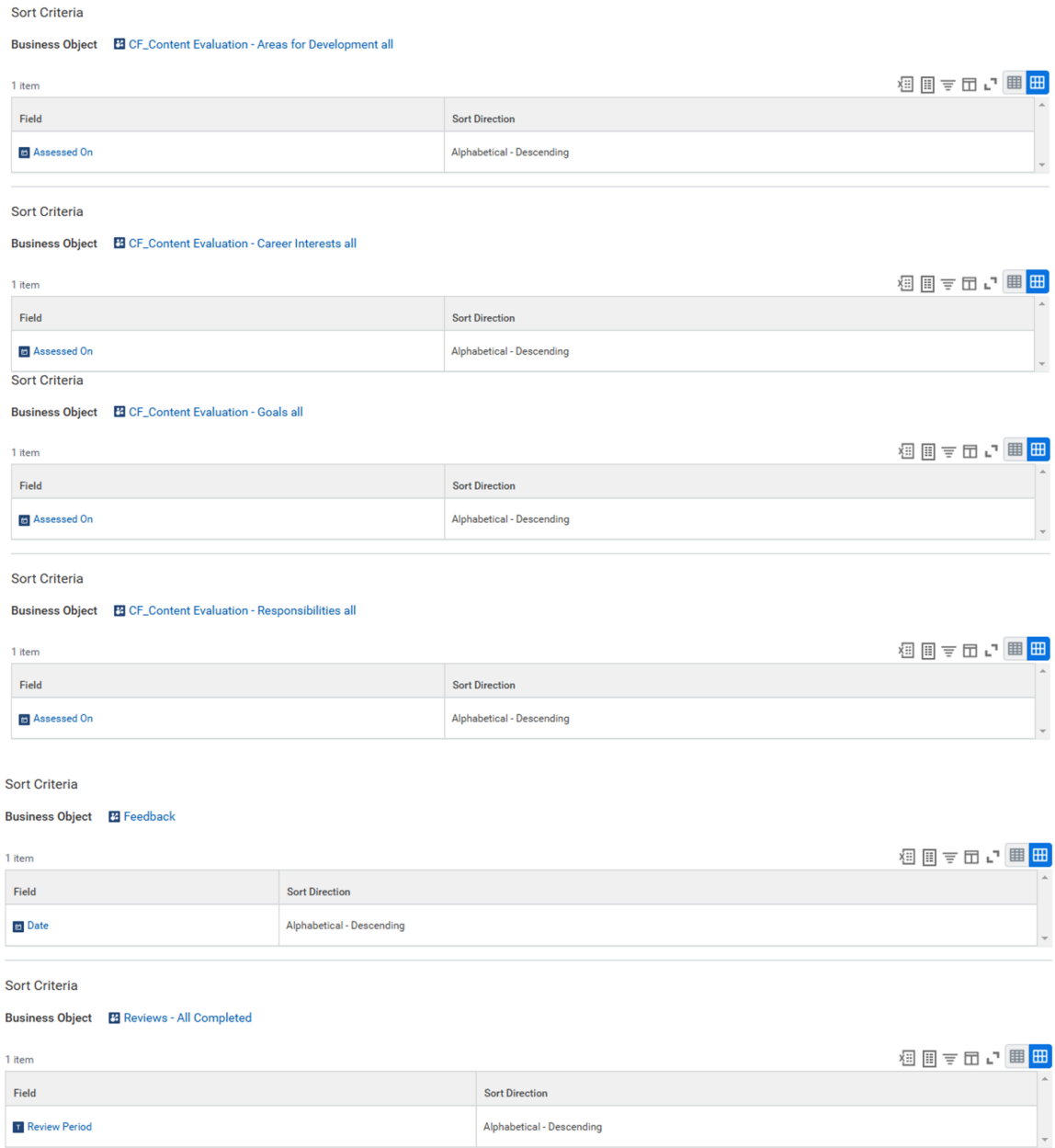
i. [ソート] セクションで、値を選択します。



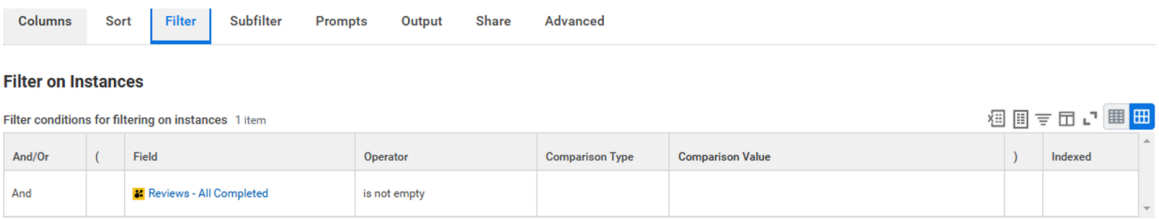
j. [サブレベルソート (Sub level sort)] の [ソート] セクションで、値を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

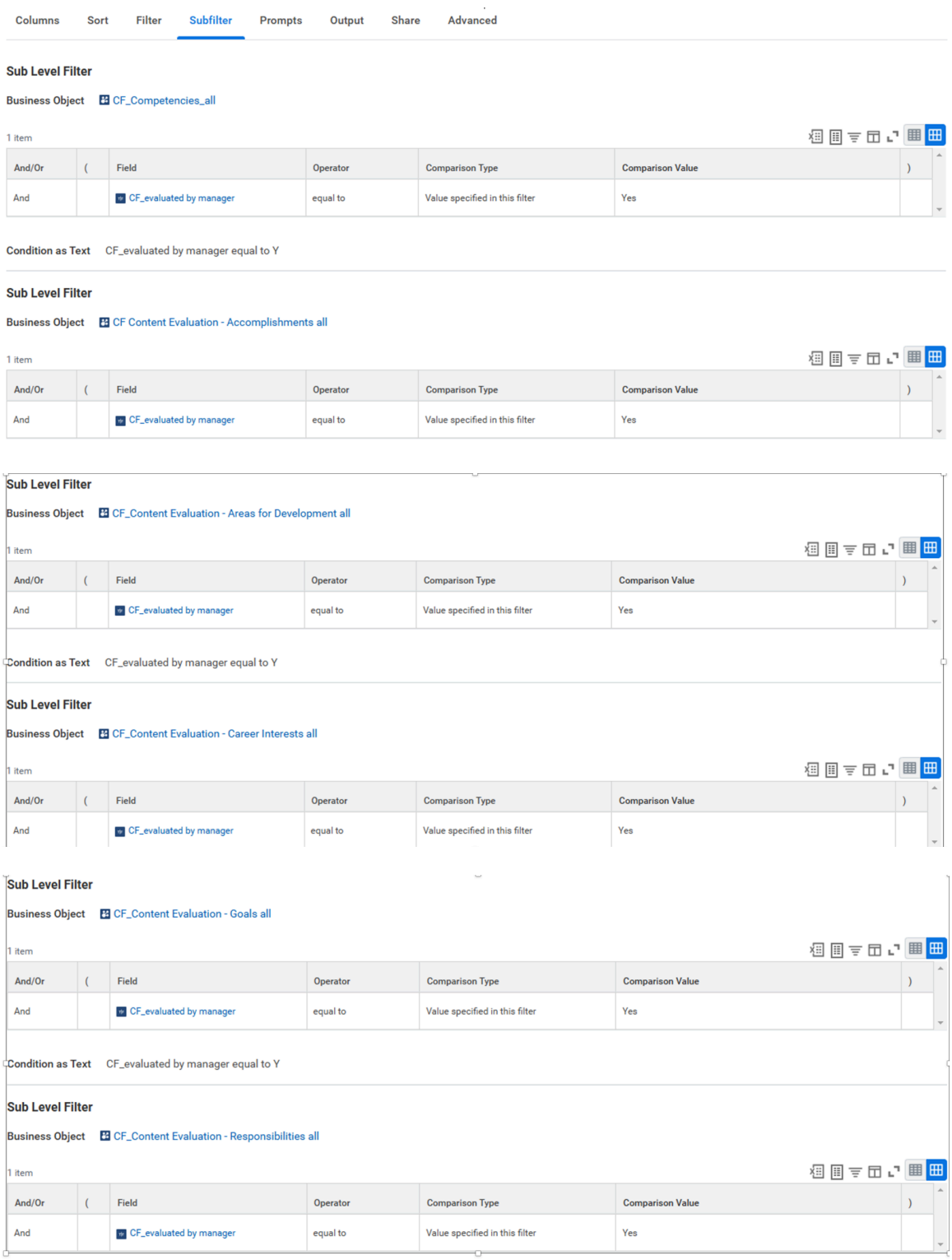


k. [フィルター] セクションで、次のように値を選択します。
画像に示すように括弧を追加します。



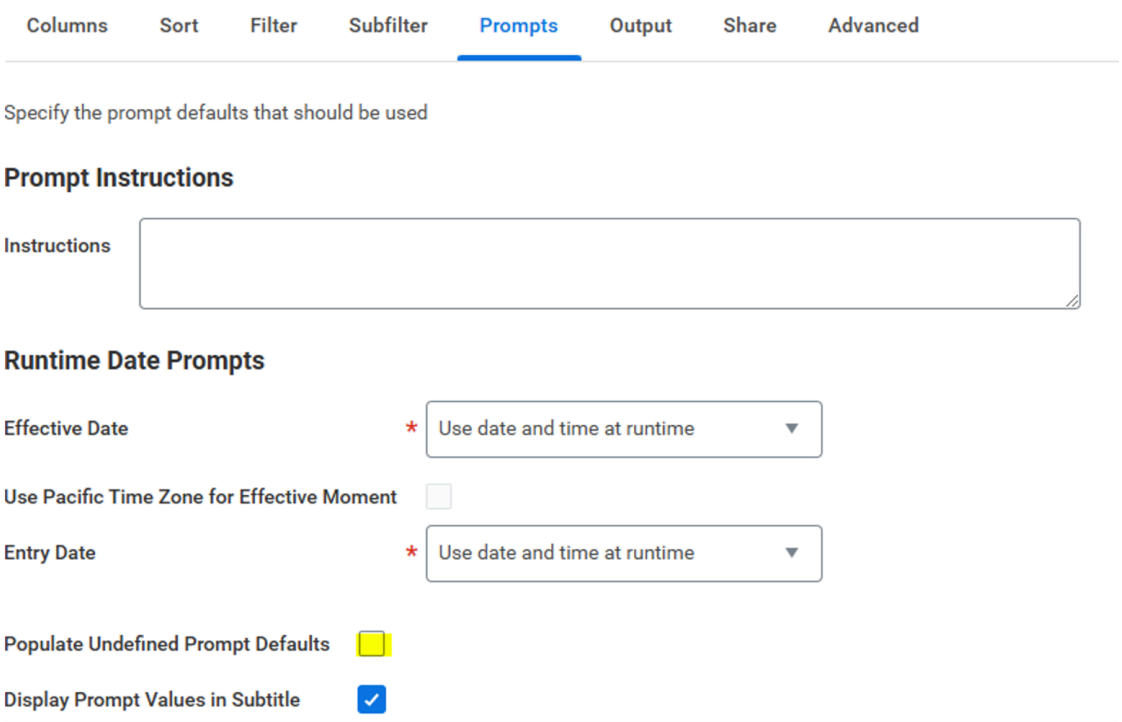
l. [サブフィルター] セクションで、値を選択します。
画像に示すように括弧を追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

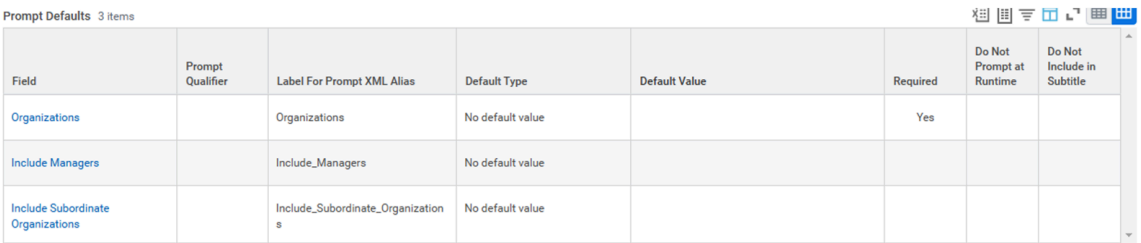


m. [プロンプト] セクションで、[未定義のプロンプトのデフォルトを入力 (Populate undefined prompt defaults)] チェックボックスをオンにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



n. [プロンプトのデフォルト (Prompt Defaults)] セクションで、以下のようにプロンプトの値を選択します。
すべてのプロンプトの [プロンプト XML エイリアスのラベル (Label For Prompt XML Alias)] フィールドが、次の画像と同じであることを確認します。



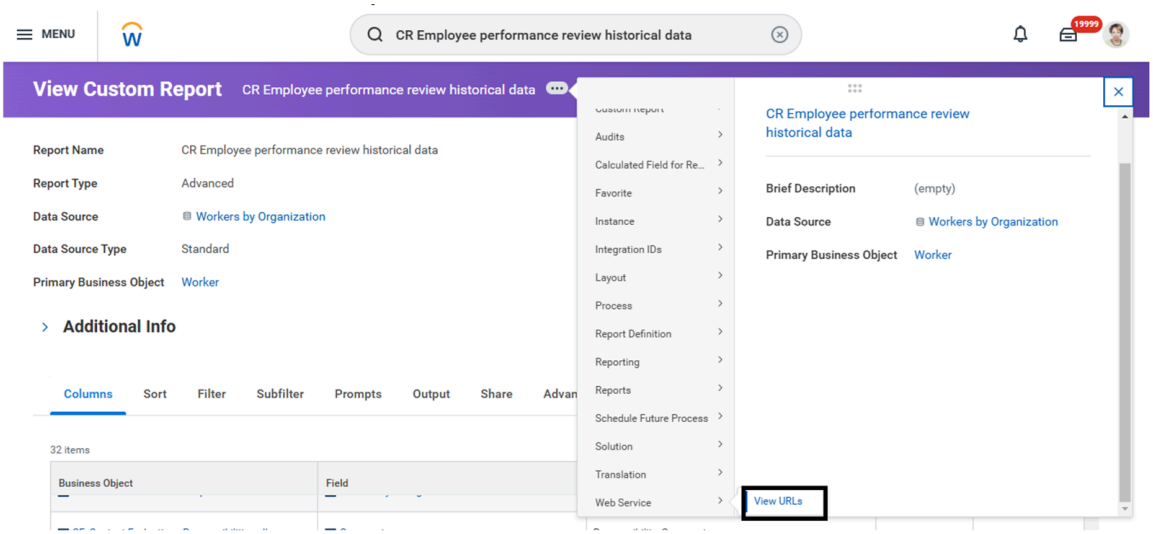
Prompt Defaults 3 items

Field	Prompt Qualifier	Label For Prompt XML Alias	Default Type	Default Value	Required	Do Not Prompt at Runtime	Do Not Include in Subtitle
Organizations		Organizations	No default value		Yes		
Include Managers		Include_Managers	No default value				
Include Subordinate Organizations		Include_Subordinate_Organizations	No default value				

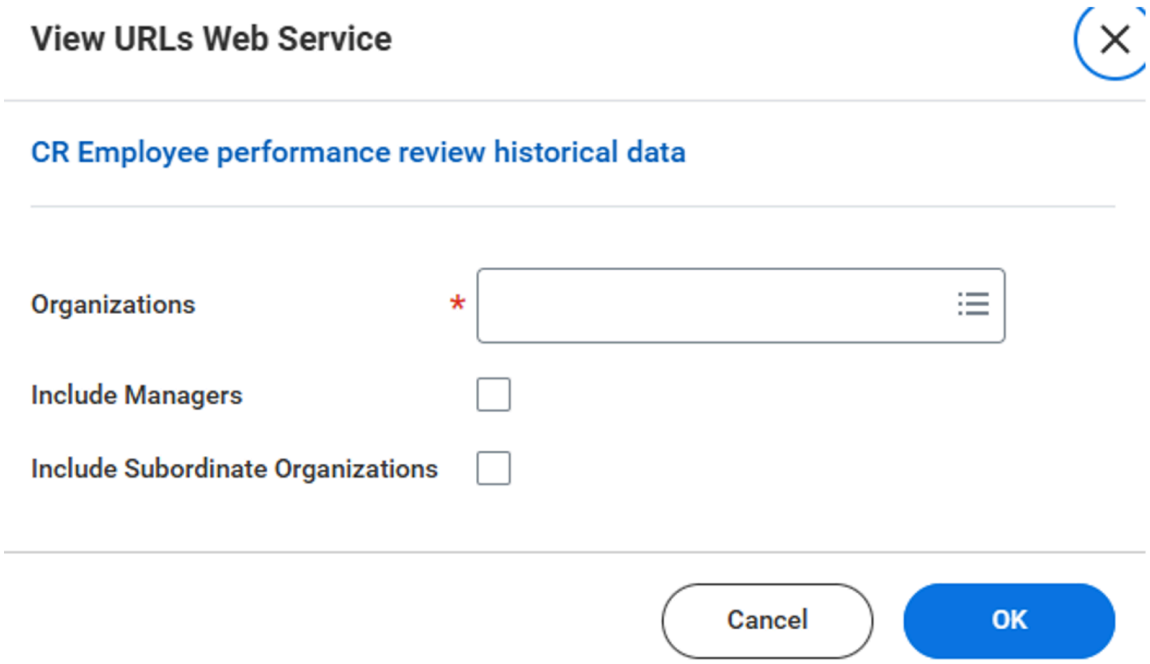
o. [詳細] セクションで、**[Web サービスとして有効化 (Enable as webservice)]** を選択して、[OK] をクリックします。

p. 3 つのドットアイコンを選択し、**[Web サービス] > [URL を表示 (View URLs)]** オプションに移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



q. このレポートを実行する [組織] を選択し、下部組織とマネージャーを含める場合はそのボックスをオンにします。



r. [URL を表示 Web サービス (View URLs Web Service)] ページで、[CSV] セクションの下のマーク付きアイコンをクリックします。
新しいブラウザタブが開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

新しいブラウザタブにレポートの RaaS URL が表示されます。

Workday ラーニング スポーク

Workday HR スポークは、Bristlecone, Inc. によってビルドされています。ServiceNow インスタンスから Workday ラーニング インスタンスの承認、コース、およびユーザーを管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Workday Learning スポーク v1.1.4 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Workday ラーニング v36.0 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

- データ連携システムユーザーを登録します。

  注: アカウント情報の詳細を入力するときは、必ず **[UI** セッションを許可しない] チェックボックスをオンにしてください。

- Workday REST および Report-as-a-Service (RAAS) API は、OAuth 2.0 と連携し、Workday テナント内のリソースへのアクセスを許可します。OAuth 2.0 を使用するには、API クライアントの登録タスクを使用してクライアントをテナントに登録する必要があります。

  クライアントの登録時に、次の値を記録して保存します。

  - クライアント ID
  - クライアント シークレット

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Workday REST API エンドポイント
- トークンエンドポイント
- 認証エンドポイント

- セキュリティグループを作成し、統合システムユーザーに割り当て、以下の権限を付与します。

ドメインセキュリティポリシーの権限

運用	ドメインセキュリティ方針	ドメインセキュリティ方針の継承権限	機能エリア
表示のみ	ワーカーデータ：パブリックワーカーレポート		人員配置
取得のみ	ワーカーデータ：パブリックワーカーレポート		人員配置
取得のみ	管理：学習コンテンツ		ラーニングコア
表示のみ	レポート：学習レコード		ラーニングコア
取得のみ	レポート：学習レコード		ラーニングコア
表示のみ	個人データ：学習		ラーニングコア
取得のみ	個人データ：学習		ラーニングコア
表示のみ	ビジネスプロセスレポート		システム
表示のみ	レポート：学習レコード		ラーニングコア
取得のみ	レポート：学習レコード		ラーニングコア
取得して配置	管理：学習コース登録		ラーニングコア
表示および変更	ビジネスプロセス管理	ビジネスプロセス委任	システム
取得のみ	設定：スキルと経験		ワーカープロファイルとスキル

ビジネスプロセスのセキュリティポリシーの権限

運用	ビジネスプロセスのタイプ	機能エリア
開始 (学習コンテンツに登録 (Web サービス))	コンテンツに登録	ラーニングコア

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - SOAP (com.glide.hub.action_step.soap)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow フローデザイナー - Dynamic Inputs (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow フローデザイナー - Dynamic Outputs (com.glide.hub.dynamic_outputs)
- Complex Object (com.glide.cobject)
- System Import Data Source (glide.system_import_data_source)
- ServiceNow Integration Hub ランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Workday ラーニング スポークは、サンプルフロー「Workday ラーニング統合のトリガー」を提供します。このフローは、タスクを自動化するサブフローをトリガーします。サンプルフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのサブフロー

Workday ラーニングでは、 Workday ラーニングタスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
Workday ラーニングへのコースのアサイン	ServiceNow 人のユーザーに学習コースをアサインします。
Workday ラーニングからコースをプル	学習コースの詳細を取得し、コースを Workday ラーニング から ServiceNow にマッピングします。
Workday ラーニングからのユーザーアクティビティのプル	Workday ラーニング からユーザーのコースアクティビティデータを取得し、ServiceNow インスタンスに保存します。
Workday ラーニングの承認の追跡	Workday ラーニング から学習 To Do の詳細を取得し、ServiceNow インスタンスに保存します。
Workday ラーニングユーザーマッピング	Workday ラーニング と ServiceNow のインスタンス間でユーザーをマッピングします。

スポークのアクション

Workday ラーニングスポークでは、ServiceNowインスタンスでイベントが発生したときにWorkdayタスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
承認管理	承認を検索	受信ボックスから承認アイテムを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
コース管理	アサインの作成	学習コンテンツの登録を作成します。
	アサインを検索	学習アサインの詳細を取得します。
	混合コースストリームを検索	混合コースの詳細を取得します。
	コースオファリングストリームを検索	混合コースオファリングの詳細を取得します。
	デジタルコースストリームを検索	デジタルコースの詳細を取得します。
	登録を検索	自己学習登録の詳細を取得します。
	レッスンストリームを検索	スタンドアロンレッスンの詳細を取得します。
	プログラムストリームを検索	学習プログラムの詳細を取得します。
ユーザー管理	ユーザーストリームを検索	個人データ、雇用データ、メールデータ、ワーカー参照データなどのワーカー詳細を取得します。
スキル管理	スキルストリームを調べる	学習プログラムに必要なスキルの詳細を取得します。

スポークモジュール

Workday ラーニング スポークは、以下のモジュールを含む Workday ラーニングアプリケーションを提供します。

モジュール	説明
レポート構成	RAAS レポート構成を指定するレコードを作成できます。このモジュールで作成できるレコードは 1 つだけです。
プロファイル同期構成	Workday テナントのタイムゾーンを指定できます。
データソース	
ユーザーアクティビティを同期	ユーザーのコースアクティビティの詳細を添付ファイルとして保存します。これらの詳細は、[アサインを検索] アクションで取得されます。
自己登録アクティビティ	ユーザーコース自己登録の詳細を添付ファイルとして保存します。これらの詳細は、[登録を検索] アクションで取得されます。
承認の追跡	To Do 承認の詳細を添付ファイルとして保存します。これらの詳細は、[承認を検索] アクションで取得されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

モジュール	説明
スケジュール済みインポート	
ユーザーアクティビティを同期	ユーザーアクティビティの同期中の変換エラー処理を有効にします。
自己登録アクティビティ	自己登録アクティビティの同期中の変換エラー処理を有効にします。
承認の追跡	承認の同期中の変換エラー処理を有効にします。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Workday ラーニング スポークの設定。

承認の追跡レポートの構成

Workday の学習アサインレポートを構成して、To Do、アクションアイテム、承認などのワーカーの受信ボックスアイテムを取得します。

始める前に

レポート作成および [ビジネスプロセスイベントステップ (Business process event steps)] レポートデータソースへのアクセス権を持つユーザー。

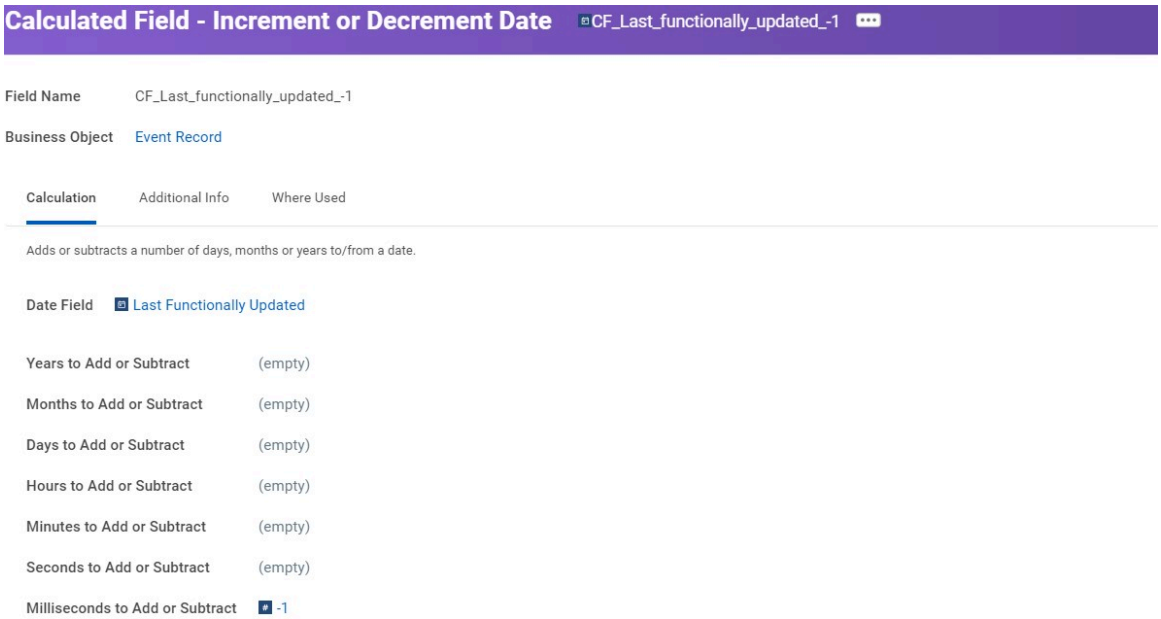
このタスクについて

- 識別のため、計算されたフィールド名はすべて **CF** で始まります。
- レポートを作成する前に、このレポートの計算されたフィールドをすべて作成します。したがって、レポートの作成中はすべてのフィールドを使用できます。
- レポートの作成中にレポート名を変更できます。ただし、それぞれのフィールドのレポートフィールド名または列見出し (レポートドキュメントで指定されている場合) がレポートドキュメントと同じであることを確認してください。レポートフィールドラベルはレポートドキュメントと同じである必要があります。それ以外の場合、作成されたアクションは失敗します。
- [グループ列見出し **(Group Column Heading)]** セクションの各ビジネスオブジェクトの [グループ列見出し **(Group Column Heading)]** は空にする必要があります。
- フィルターを作成するときは、必ず括弧を加えます。
- すべてのレポートは、ServiceNow プラットフォームでこれらのアクションにアクセスする ISU ユーザーが共有または所有する必要があります。
- [詳細] セクションで、**[Web** サービスとして有効化 **(Enable as webservice)]** チェックボックスをオンにします。

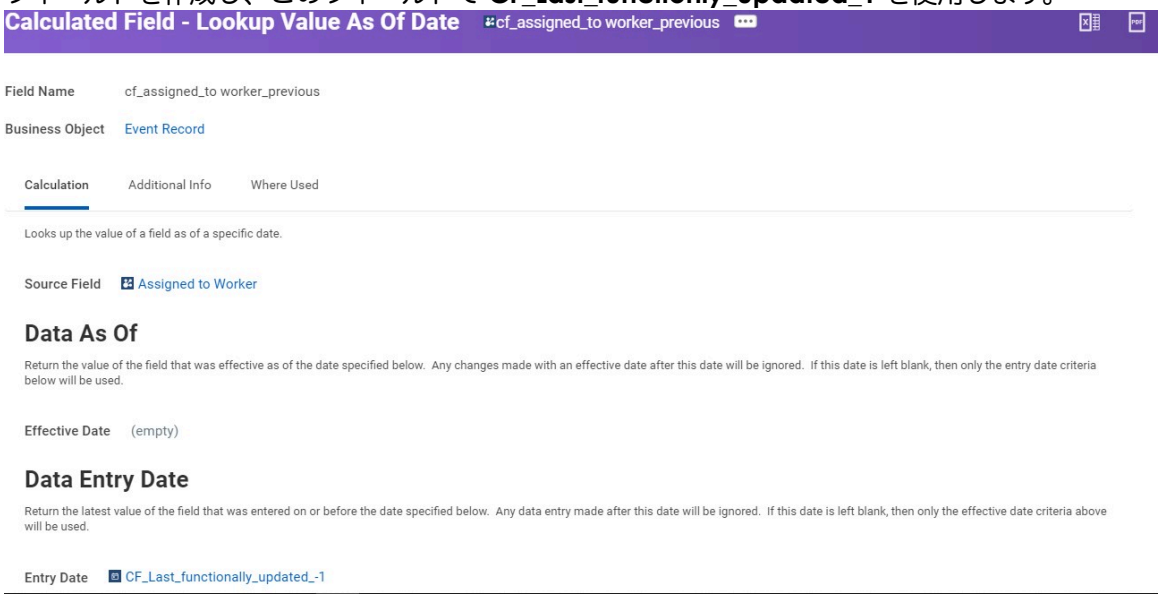
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. **CF_Last_functionly_updated_1** という名前のインクリメントおよびデクリメントタイプの計算されたフィールドを作成します。



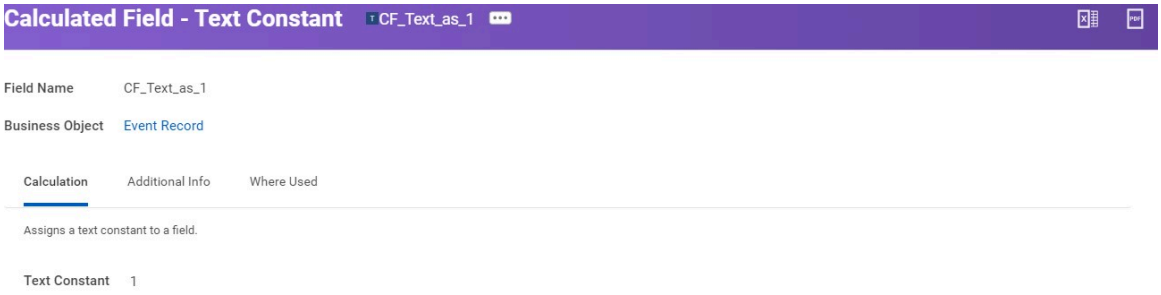
2. **cf_assigned_to_worker_previous** という名前のルックアップ値 (特定日付) タイプの計算されたフィールドを作成し、このフィールドで **CF_Last_functionly_updated_1** を使用します。



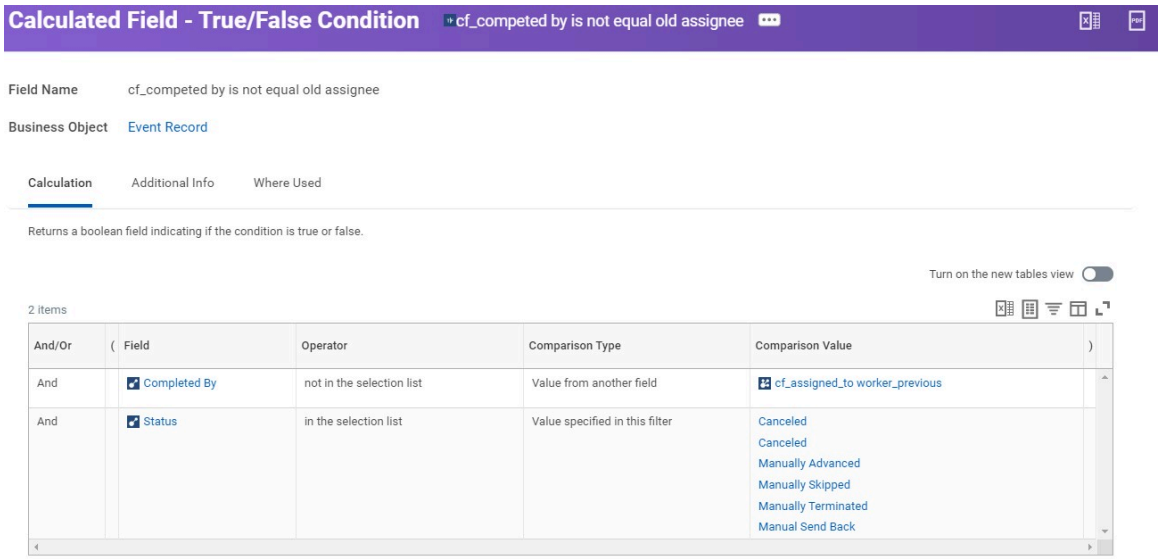
3. **Cf_text_0** という名前のテキスト定数タイプの計算されたフィールドを作成します。

4. **CF_Text_as_1** という名前のテキスト定数タイプの計算されたフィールドを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



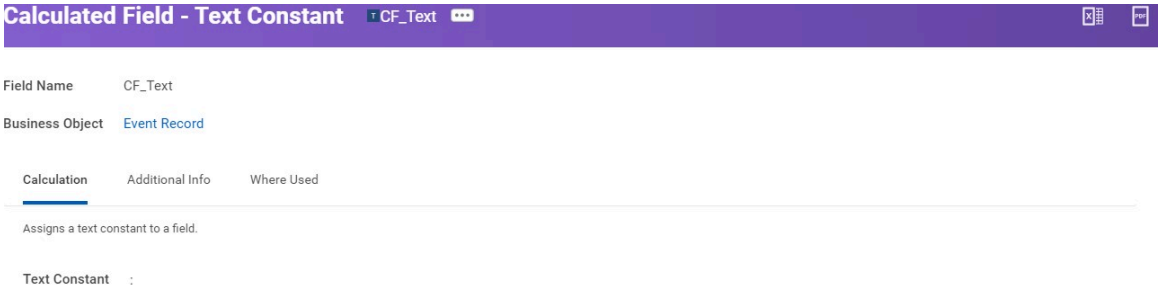
5. **cf_competed_by_is_not_equal_old_assignee** という名前の True/False 条件タイプの計算されたフィールドを作成します。



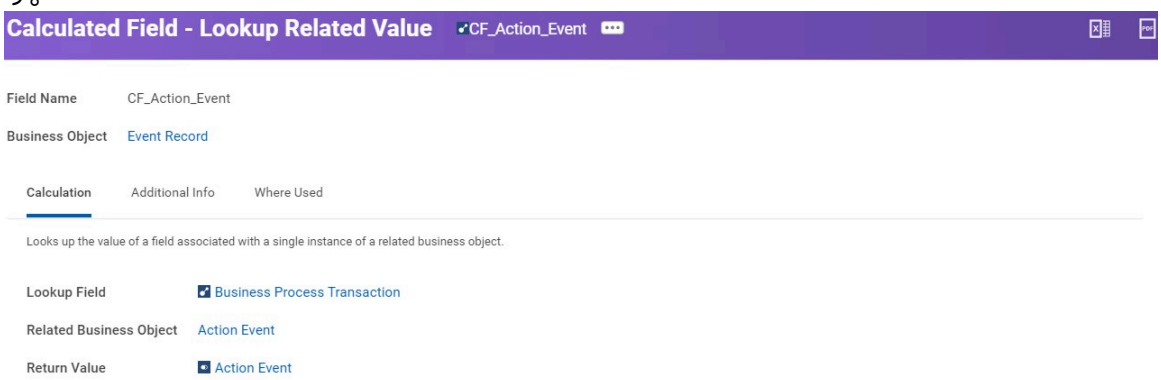
6. **CF_EE_Completed_by_admin_exist_as_old_Assignee_or_not** という名前の評価式 の計算されたフィールドを作成します。

7. **CF_Text** という名前のテキスト定数タイプの計算されたフィールドを作成します。

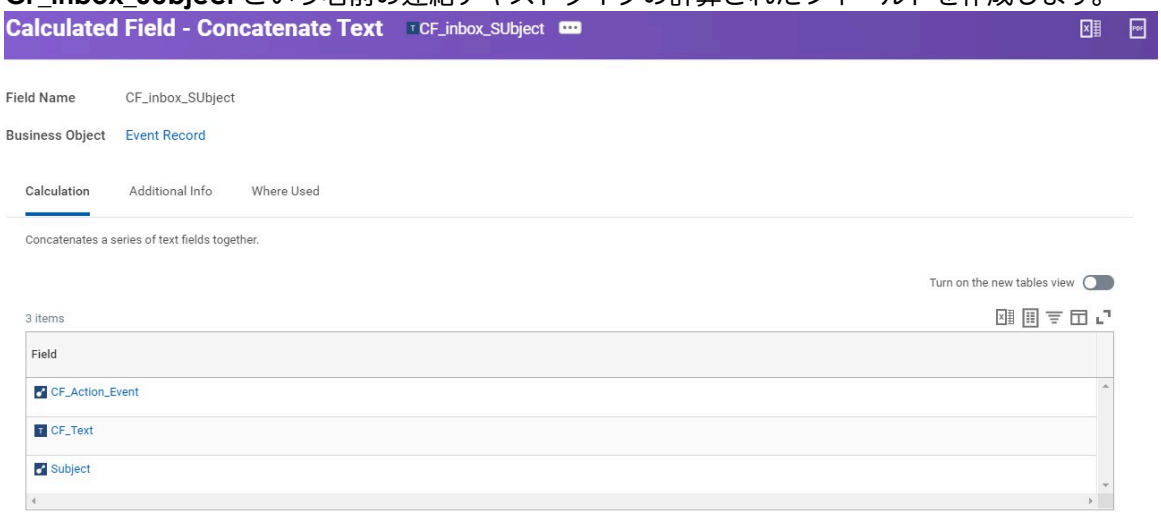
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. **CF_Action_Event** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。



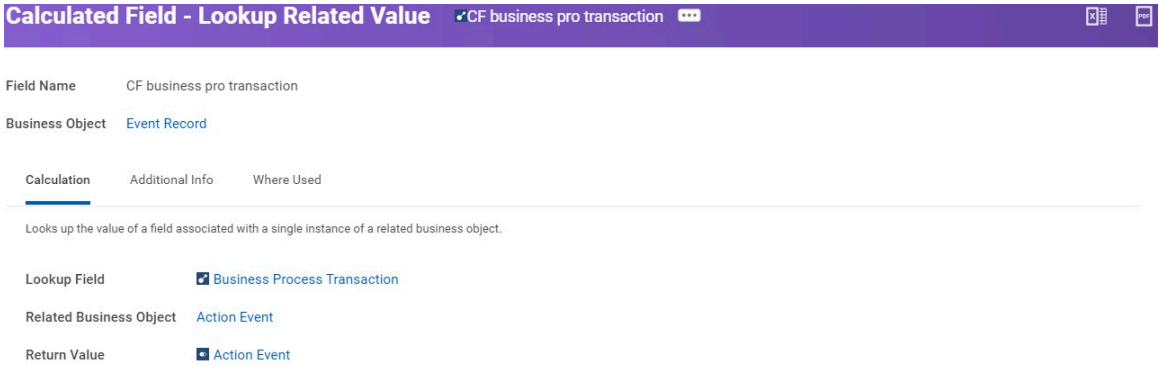
9. **CF_inbox_SUbject** という名前の連結テキストタイプの計算されたフィールドを作成します。



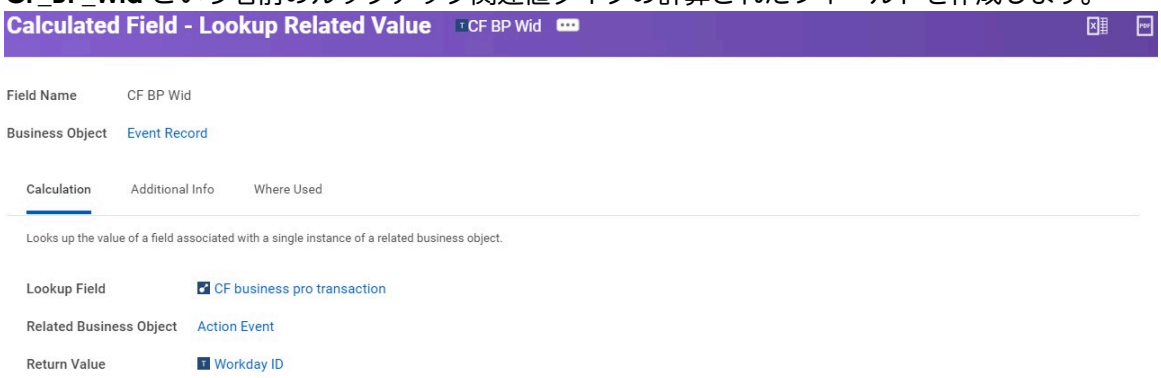
10. **CF_url** という名前のテキスト定数タイプの計算されたフィールドを作成します。

11. **CF_business_pro_transaction** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

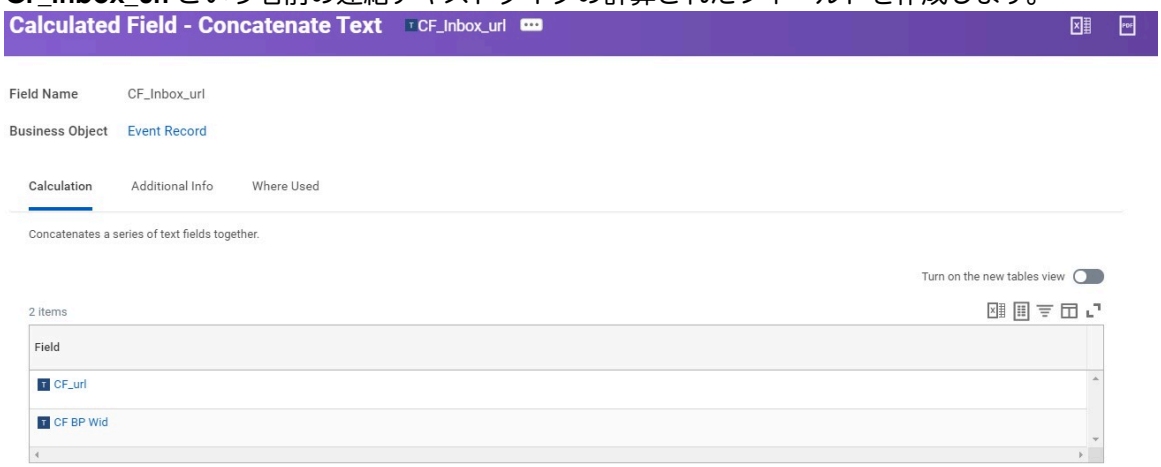
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



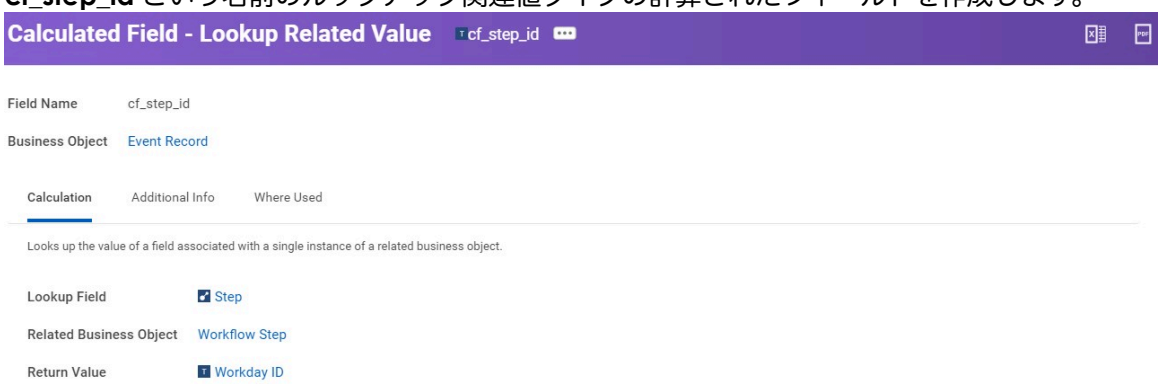
12. **CF_BP_Wid** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。



13. **CF_Inbox_url** という名前の連結テキストタイプの計算されたフィールドを作成します。

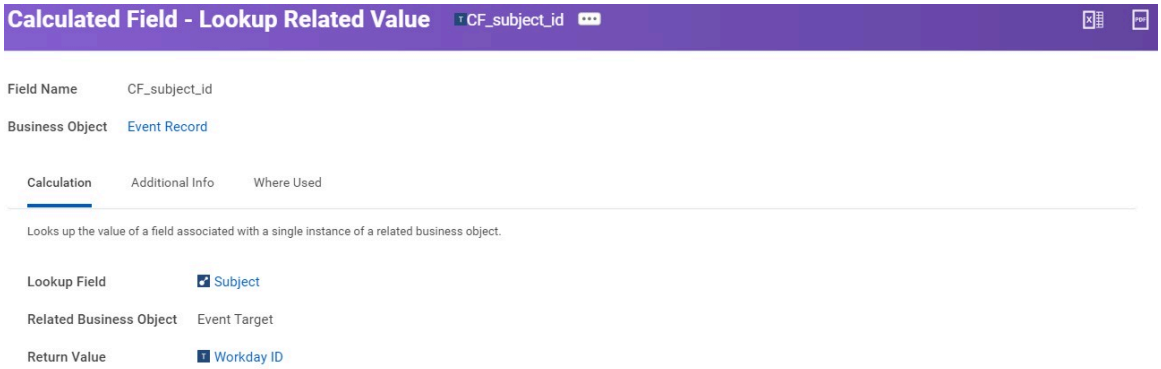


14. **cf_step_id** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

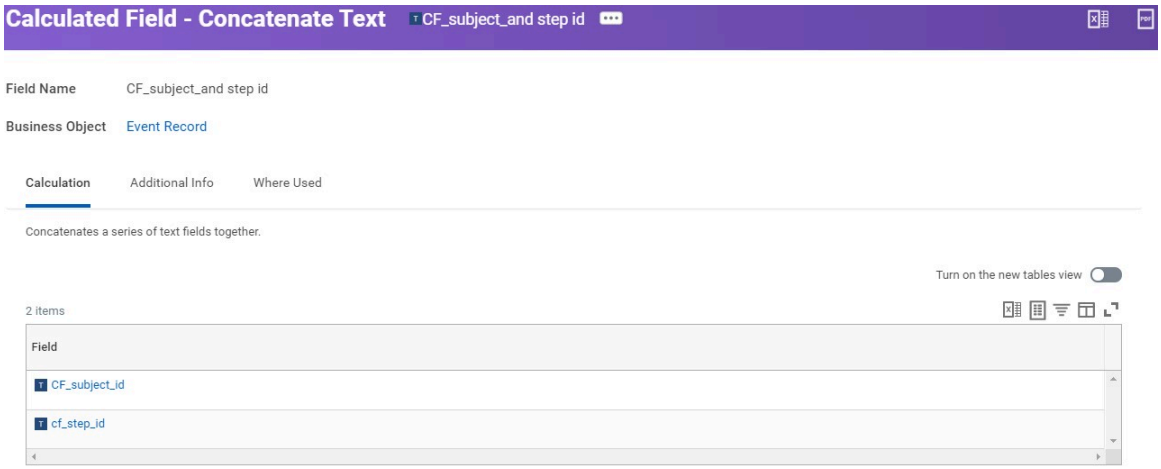


15. **CF_subject_id** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

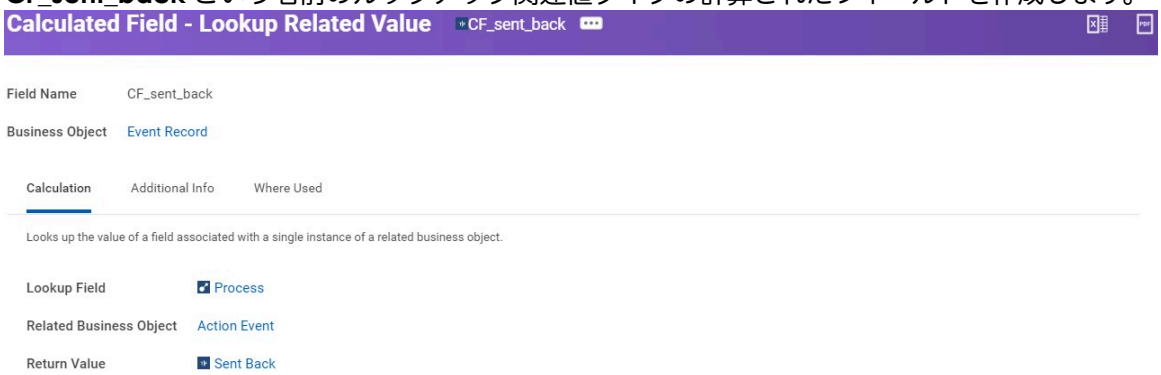
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



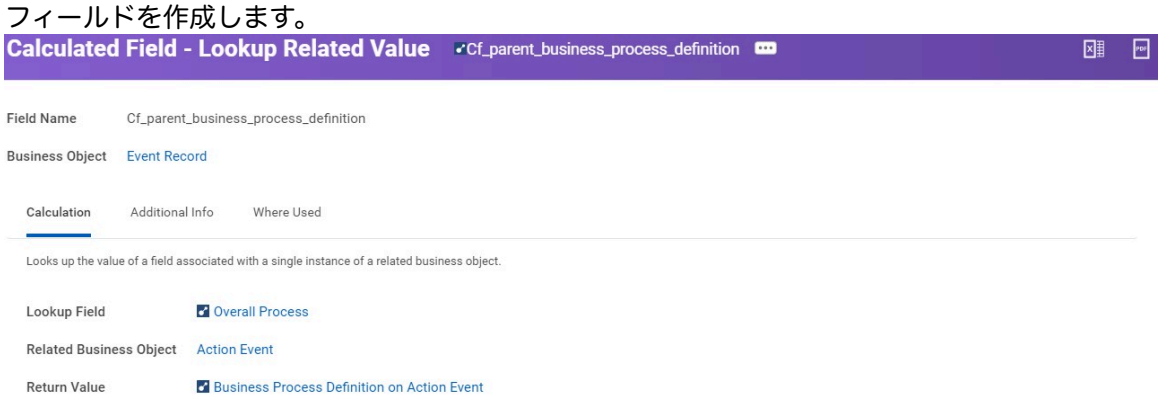
16. **CF_subject_and_step_id** という名前の連結テキストタイプの計算されたフィールドを作成します。



17. **CF_sent_back** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

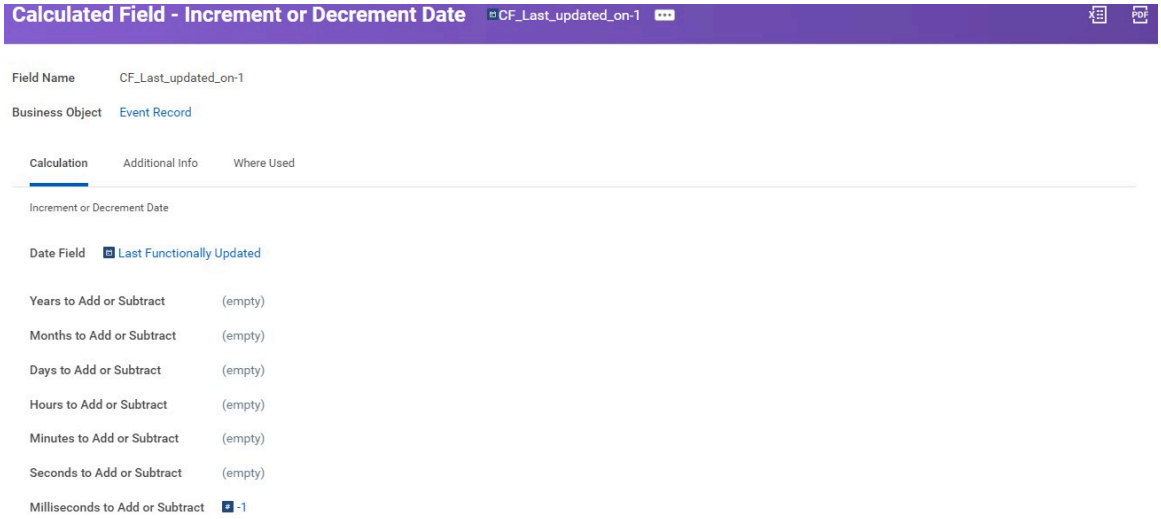


18. **Cf_parent_business_process_definition** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

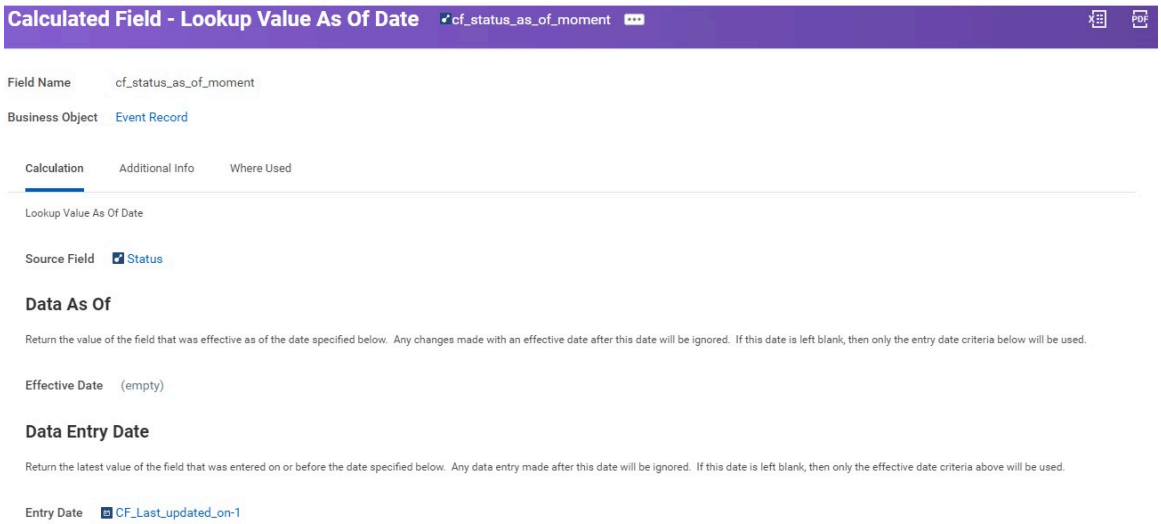


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

19. **CF_Last_updated_on-1** という名前のインクリメントまたはデクリメント日タイプの計算されたフィールドを作成します。



20. **cf_status_as_of_moment** という名前のルックアップ値 (特定日付) タイプの計算されたフィールドを作成し、このフィールドで **CF_Last_updated_on-1** を使用します。



21. 承認の追跡レポートを作成します。

    a. [カスタムレポートの作成] タスクにアクセスします。

    b. レポート名 (**SNIH_Inbox_Items** など) を指定します。

    c. レポートタイプに [詳細] を選択します。

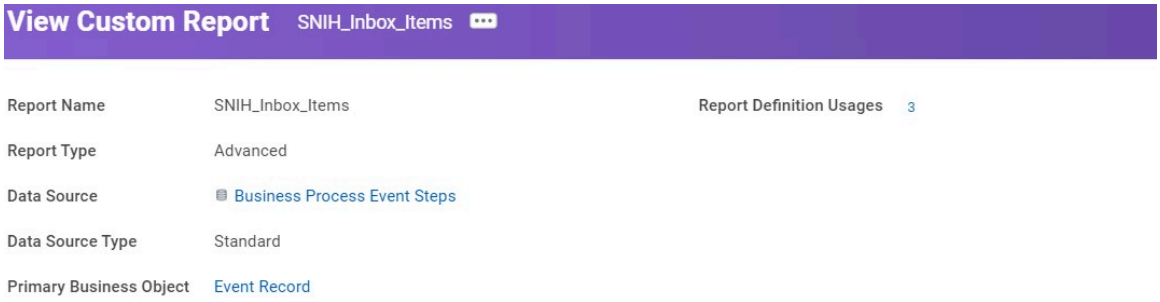
    d. [パフォーマンスに最適化] チェックボックスをオフにします。

    e. [データソース] の [ビジネスプロセスイベントステップ **(Business process event steps)]** を選択します。

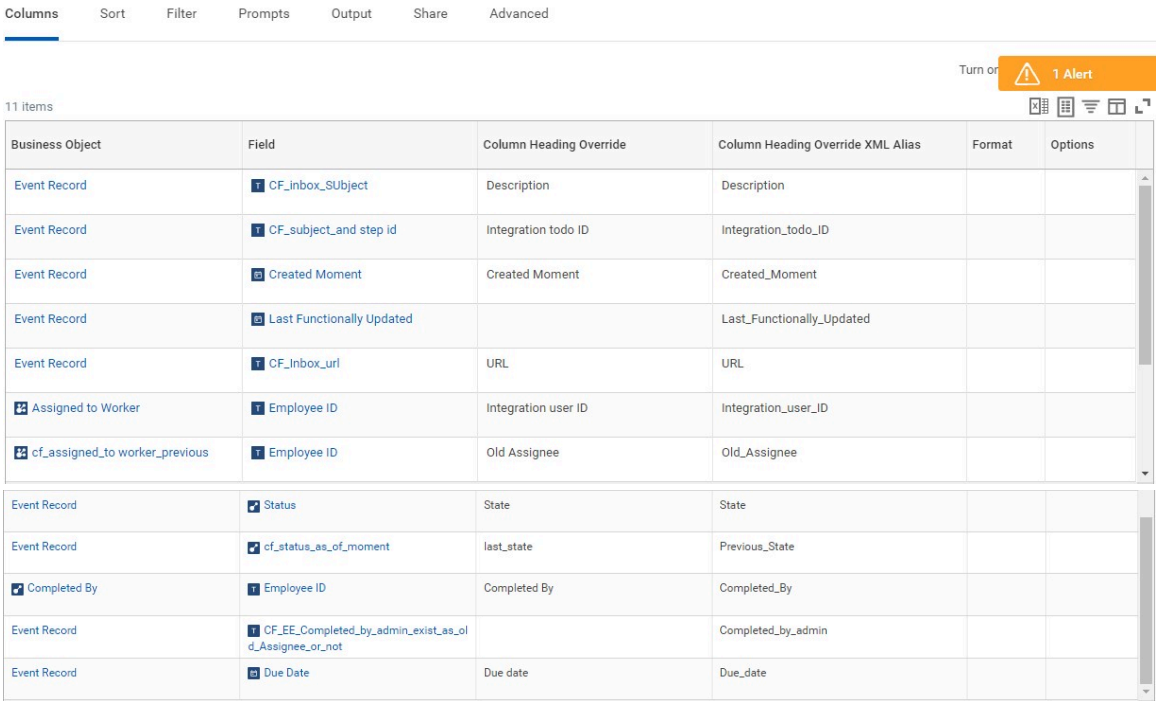
    f. [一時レポート **(temporary report)]** チェックボックスをオンにしないでください。

    g. **[OK]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



h. 次のようにレポートビジネスオブジェクトとレポートのフィールドを選択します。



i. [グループ列見出し **(Group Column Heading)]** セクションで、次のようにビジネスオブジェクトを選択します。

各ビジネスオブジェクトの [グループ列見出し **(Group Column Heading)]** が空です。

j. [インスタンスでフィルタリングするためのフィルター条件 **(Filter conditions for filtering on instances)]** セクションで、次のように値を選択します。

必ず括弧を追加してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Filter on Instances

Filter conditions for filtering on instances 21 items

And/Or	(	Field	Operator	Comparison Type	Comparison Value	)	Indexed
And		Business Process Name	in the selection list	Value specified in this filter	Cancel Course Offering Cancel Learning Enrollment Drop Learning Enrollment Edit Course Additional Data Edit Course Offering Additional Data Edit Program Additional Data Enroll in Content Manage Course Manage Course Offering Manage Equivalency Rule Manage Extended Enterprise Learner Manage External Learning Instructor Manage External Learning User		
					Manage External Learning User Auto Manage Internal Learning Instructor Manage Learning Certification Rule Manage Lesson Manage Program Mass Cancel Learning Enrollments Request Extended Enterprise Learner Less (15)		
And	((	Status	in the selection list	Value specified in this filter	Awaiting Action In Progress Saved for Later Saved for Later		
And		Assigned to Worker	is not empty			)	
Or	(	Status	in the selection list	Value specified in this filter	Approved Approvers Added Canceled Canceled Declined Declined Declined Denied Denied In Progress		
					Manually Advanced Manually Terminated Manual Send Back Saved for Later Saved for Later Sent Back Step Completed Submitted Submitted Less (14)		
And		Step Type	not in the selection list	Value specified in this filter	Initiation Integration Service		
And		Completed By	is not empty			)	
Or	(	Step Type	in the selection list	Value specified in this filter	Initiation		
And		cf_status_as_of_moment	is not empty				
And		cf_assigned_to worker_previous	is not empty			)	
Or	(	Step Type	in the selection list	Value specified in this filter	Initiation		
And		CF_sent_back	equal to	Value specified in this filter	Yes	)	
Or	(	Step Type	in the selection list	Value specified in this filter	Initiation		
And		Cf_parent_business_process_definition	not in the selection list	Value from another field	Business Process Definition	)	
And	(	Status	not in the selection list	Value specified in this filter	Automatic Approval Automatic Cancel Automatic Complete Automatic Initiate Automatic Move Automatic Skip Notification Not Required Less (3)	)	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

And		Status	is not empty				
And	(	Assigned to Worker	is not empty				
Or		cf_assigned_to worker_previous	is not empty				
Or		Completed By	is not empty			)	
And		Last Functionally Updated	greater than or equal to	Prompt the user for the value	Starting Prompt		
And		Last Functionally Updated	less than or equal to	Prompt the user for the value and ignore the filter condition if the value	Ending Prompt		
And		Step Type	is not empty			)	

k. [プロンプト **(Prompts)]** セクションで、[未定義のプロンプトのデフォルトを入力] チェックボックスをオンにします。

l. [プロンプトのデフォルト] セクションで値を選択し、[プロンプト **XML** エイリアスのラベル **(Label For Prompt XML Alias)]** の値が次のようになっていることを確認します。

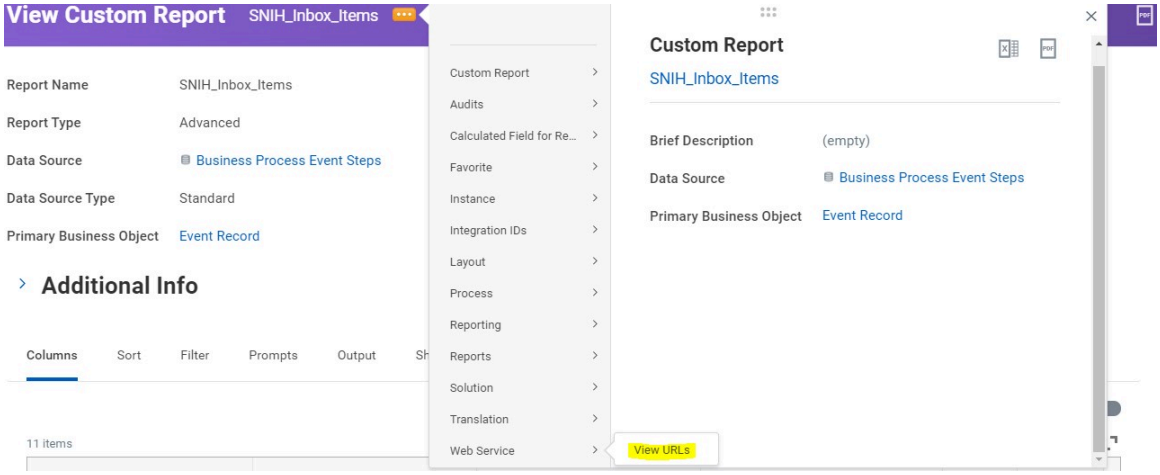
Prompt Defaults 7 items

Field	Prompt Qualifier	Label for Prompt	Label For Prompt XML Alias	Default Type	Default Value	Required	Do Not Prompt at Runtime	Do Not Include in Subtitle
Workers			Workers	No default value			Yes	
Start Date			Start_Date	No default value		Yes		
End Date			End_Date	No default value		Yes		
Business Process Types			Business_Process_Types	No default value			Yes	
Event Record Actions			Event_Record_Actions	No default value			Yes	
Last Functionally Updated	Starting Prompt		Start_Date_and_time	No default value		Yes		
Last Functionally Updated	Ending Prompt		End_Date_and_time	No default value				

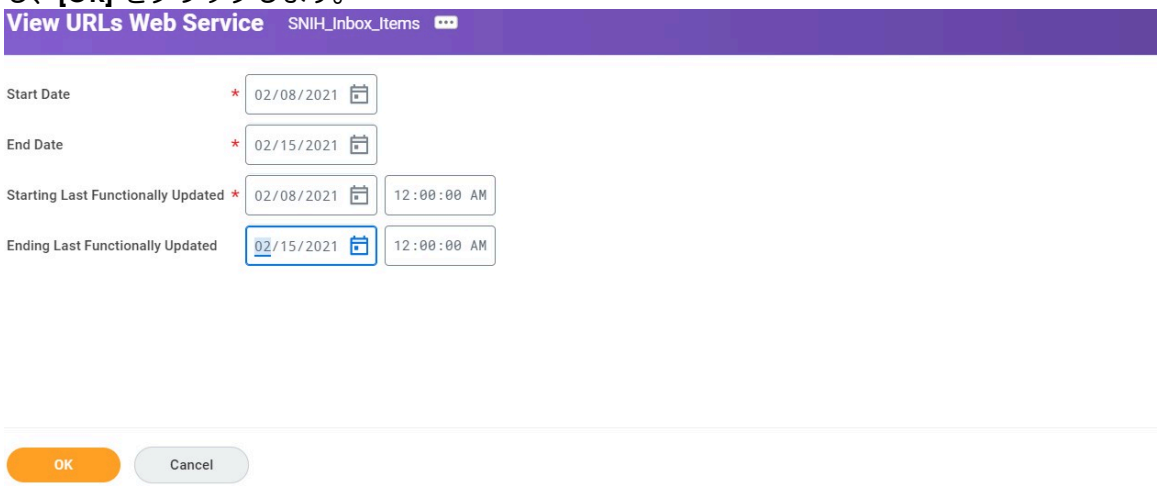
m. [詳細] セクションで、**[Web** サービスとして有効化 **(Enable as webservice)]** チェックボックスをオンにして、**[OK]** をクリックします。

n. レポートの構成が完了したら、3 つのドットアイコンをクリックし、**[Web** サービス] > **[URL** を表示 **(View URLs)]**に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



o. [URL を表示 Web サービス (View URLs Web Service)] フォームのフィールドの値を指定し、**[OK]** をクリックします。



p. [URL を表示 Web サービス (View URLs Web Service)] ページで、**[CSV]** アイコンをクリックします。

レポートの RaaS URL が新しいブラウザーのタブに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- `https://wd2-impl-services1.workday.com` は Workday テナントのベース URL です。
- `Tenant_Name` は Workday テナントです。
- `Report_Owner_user_name` はレポートの所有者のユーザー名です。
- `SNIh_Inbox_Items` はレポート名です。

学習登録レポートの構成

Workday で学習登録レポートを構成して、ユーザーの学習登録を取得します。

始める前に

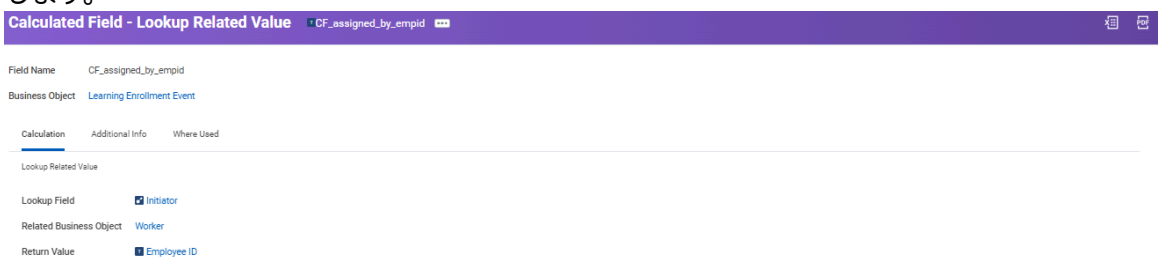
レポート作成と [学習登録] データソースへのアクセス権を持つユーザー。

このタスクについて

- 識別のため、計算されたフィールド名はすべて **CF** で始まります。
- レポートを作成する前に、このレポートの計算されたフィールドをすべて作成します。したがって、レポートの作成中はすべてのフィールドを使用できます。
- レポートの作成中にレポート名を変更できます。ただし、それぞれのフィールドのレポートフィールド名または列見出し (レポートドキュメントで指定されている場合) がレポートドキュメントと同じであることを確認してください。レポートフィールドラベルはレポートドキュメントと同じである必要があります。それ以外の場合、作成されたアクションは失敗します。
- [グループ列見出し **(Group Column Heading)**] セクションの各ビジネスオブジェクトの [グループ列見出し **(Group Column Heading)**] は空にする必要があります。
- フィルターを作成するときは、必ず括弧を加えます。
- すべてのレポートは、ServiceNow プラットフォームでこれらのアクションにアクセスする ISU ユーザーが共有または所有する必要があります。
- [詳細] セクションで、**[Web** サービスとして有効化 **(Enable as webservice)]** チェックボックスをオンにします。

手順

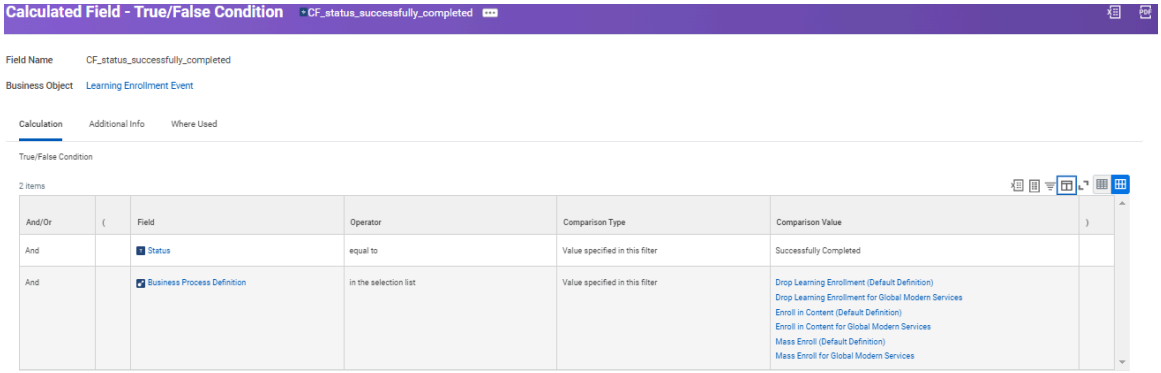
1. **CF_assigned_by_empid** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。



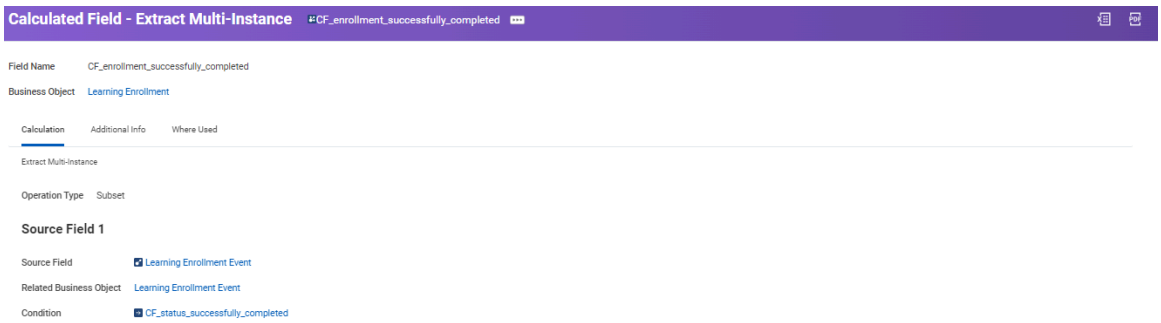
2. **cf_initiator_wid** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

3. **CF_status_successfully_completed** という名前の True/False 条件タイプの計算されたフィールドを作成します。

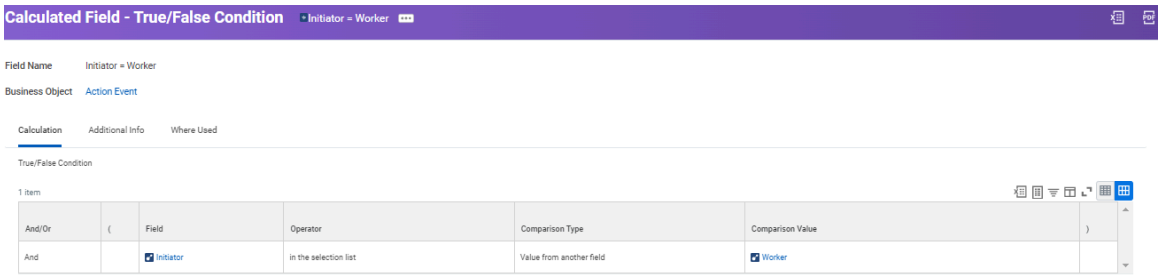
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. **CF_enrollment_successfully_completed** という名前のマルチインスタンス抽出タイプの計算されたフィールドを作成し、リターン値として **[CF_status_successfully_completed]** を選択します。



5. 「イニシエーター = ワーカー」という名前の True/False 条件タイプの計算されたフィールドを作成します。



6. **cf_initiator** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

7. 学習登録レポートを作成します。

   a. [カスタムレポートの作成] タスクにアクセスします。

   b. レポート名を入力します (例：`Test -Learning Assignment`)。

   c. レポートタイプに [詳細] を選択します。

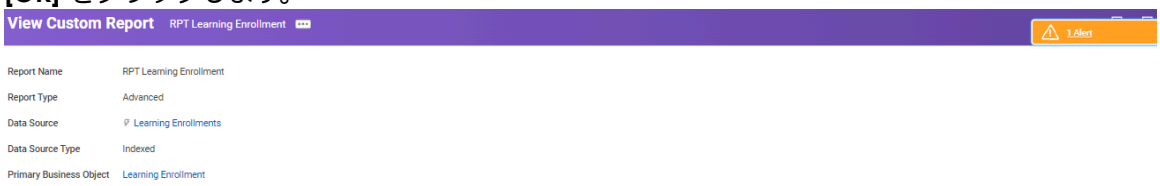
   d. [パフォーマンスに最適化] チェックボックスをオフにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

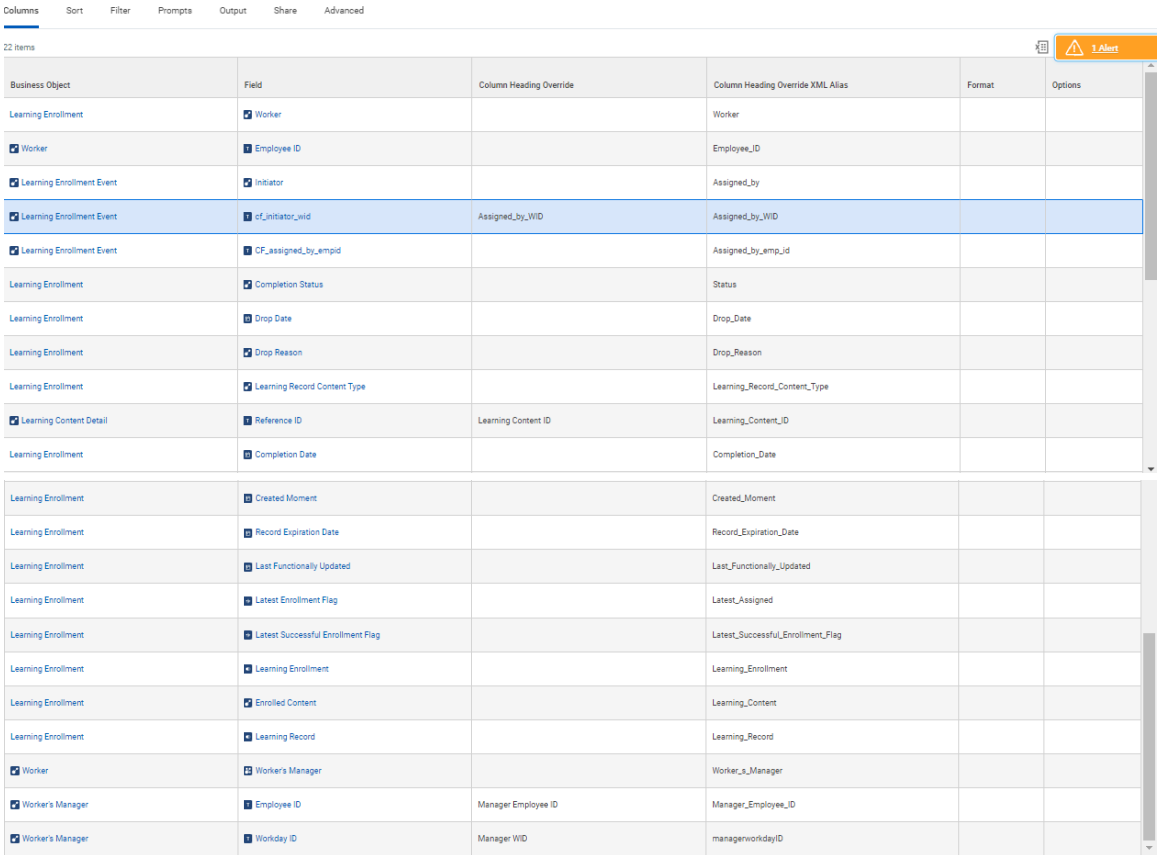
e. [データソース] に [学習登録] を選択します。

f. [一時レポート (temporary report)] チェックボックスをオンにしないでください。

g. **[OK]** をクリックします。



h. レポートビジネスオブジェクトとレポートのフィールドを選択します。



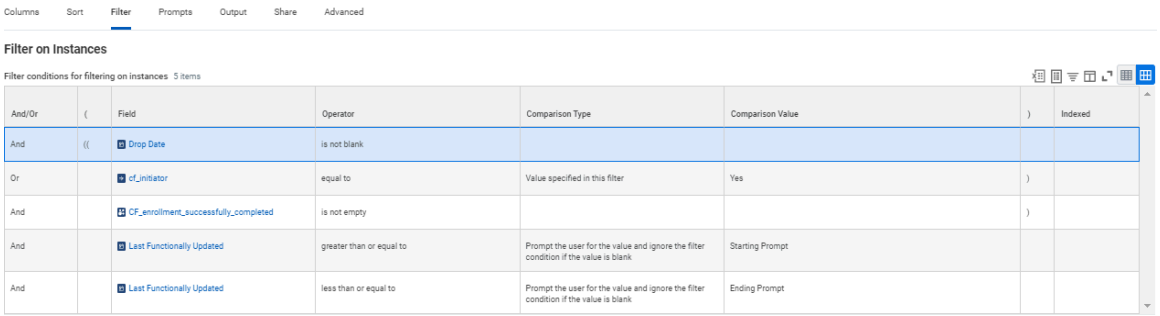
i. [グループ列見出し **(Group Column Heading)]** セクションで、次のようにすべてのビジネスオブジェクトを選択します。

各ビジネスオブジェクトの [グループ列見出し **(Group Column Heading)]** が空です。

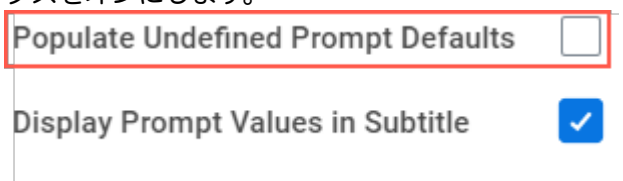
j. [フィルター] セクションで、次のように値を選択します。

必ず括弧を追加してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



k. [プロンプト **(Prompts)]** セクションで、[未定義のプロンプトのデフォルトを入力] チェックボックスをオンにします。

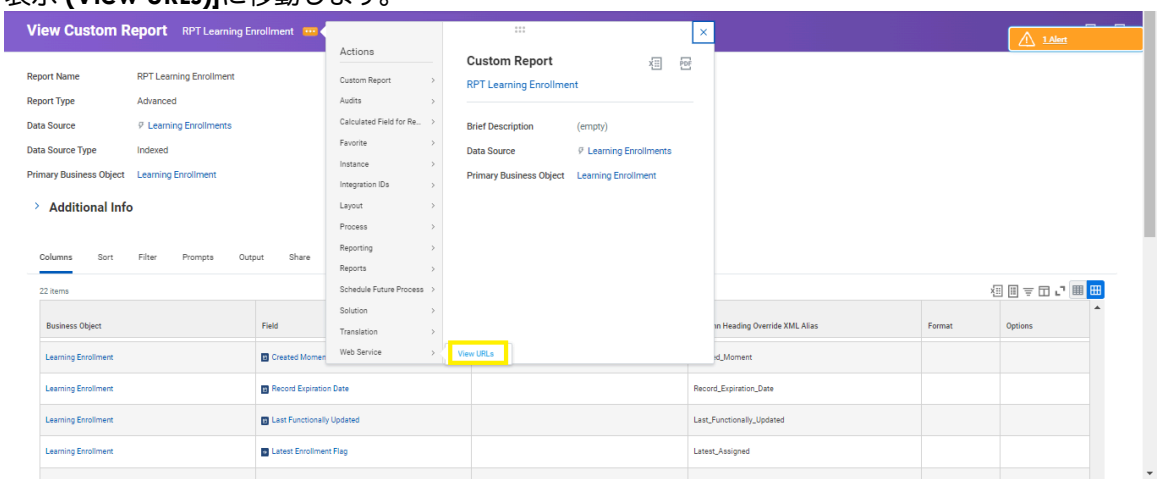


l. [プロンプト **(Prompts)]** セクションで、次のように値を選択します。

すべてのプロンプトフィールドの [プロンプト **XML** エイリアスのラベル **(Label For Prompt XML Alias)]** の値が次のようになっていることを確認します。

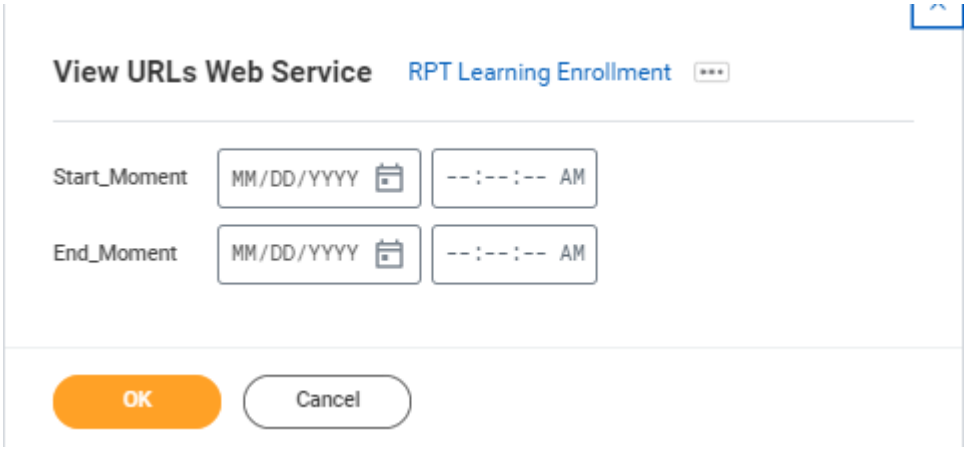
m. [詳細] セクションで、**[Web** サービスとして有効化 **(Enable as webservice)]** チェックボックスをオンにして、**[OK]** をクリックします。

n. レポートの構成が完了したら、3 つのドットアイコンをクリックし、**[Web** サービス] > **[URL** を表示 **(View URLs)]**に移動します。



o. 時間範囲を選択し、**[OK]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



p. [URL を表示 (View URLs)] Web サービスページで、生成するアクティブなリンクをクリックします。
新しいブラウザータブで、RaaS URL にアクセスできます。

学習アサインレポートの構成

Workday で学習アサインレポートを構成して、ユーザーの学習アサインを取得します。

始める前に

レポート作成および [学習組織別学習アサイン (Learning Assignments by Learning Organization)] データソースへのアクセス権を持つユーザー。

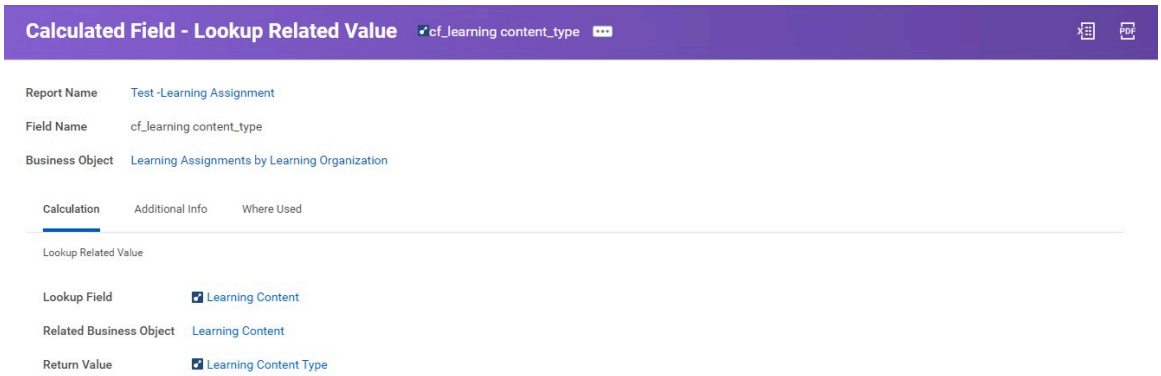
このタスクについて

- 識別のため、計算されたフィールド名はすべて **CF** で始まります。
- レポートを作成する前に、このレポートの計算されたフィールドをすべて作成します。したがって、レポートの作成中はすべてのフィールドを使用できます。
- レポートの作成中にレポート名を変更できます。ただし、それぞれのフィールドのレポートフィールド名または列見出し (レポートドキュメントで指定されている場合) がレポートドキュメントと同じであることを確認してください。レポートフィールドラベルはレポートドキュメントと同じである必要があります。それ以外の場合、作成されたアクションは失敗します。
- [グループ列見出し **(Group Column Heading)]** セクションの各ビジネスオブジェクトの [グループ列見出し **(Group Column Heading)]** は空にする必要があります。
- フィルターを作成するときは、必ず括弧を加えます。
- すべてのレポートは、ServiceNow プラットフォームでこれらのアクションにアクセスする ISU ユーザーが共有または所有する必要があります。
- [詳細] セクションで、**[Web** サービスとして有効化 **(Enable as webservice)]** チェックボックスをオンにします。

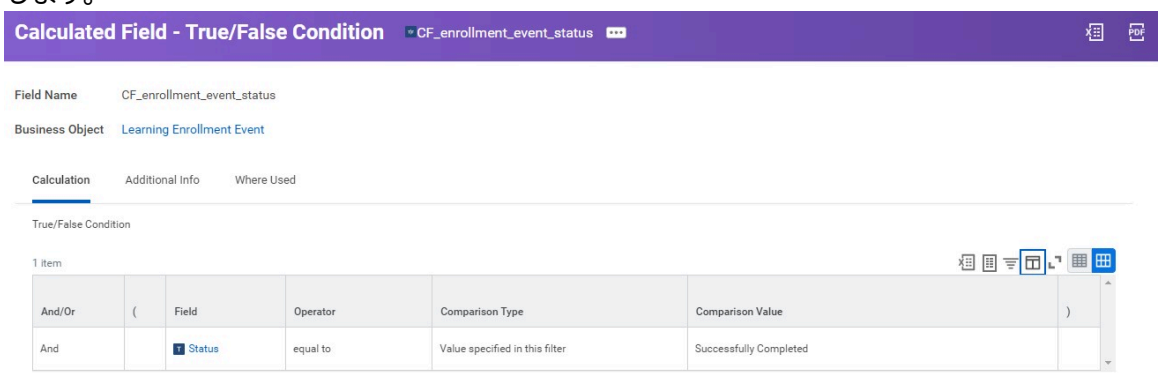
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

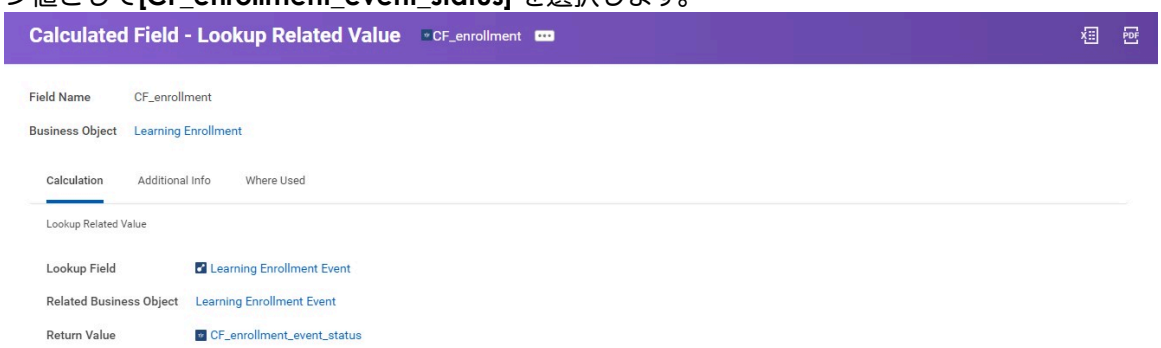
1. **cf_learning content_type** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。



2. **CF_enrollment_event_status** という名前の True/False 条件タイプの計算されたフィールドを作成します。

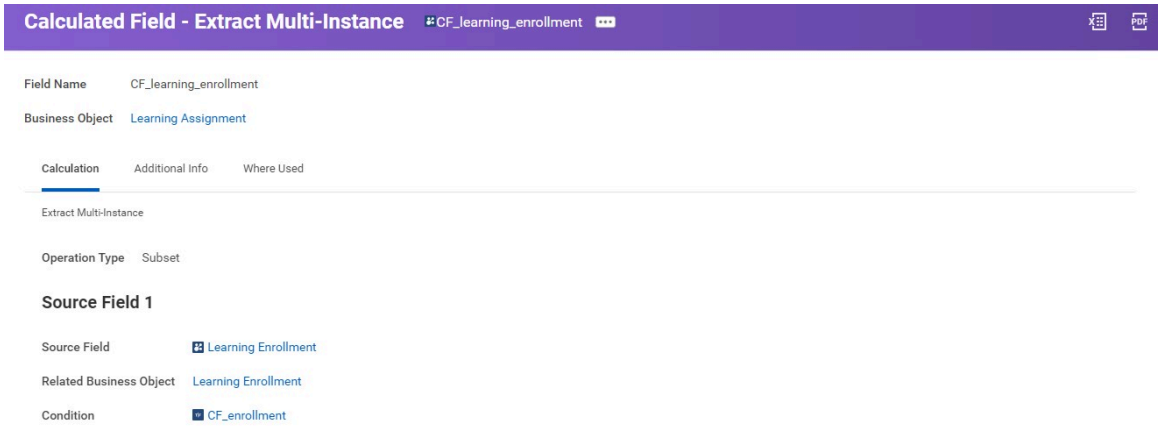


3. **CF_enrollment** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成し、リターン値として**[CF_enrollment_event_status]** を選択します。

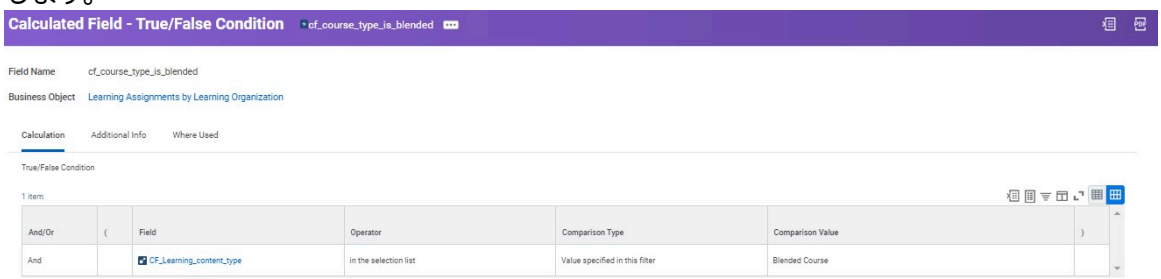


4. **CF_learning_enrollment** という名前のマルチインスタンス抽出タイプの計算されたフィールドを作成し、リターン値として**[CF_enrollment]** を選択します。

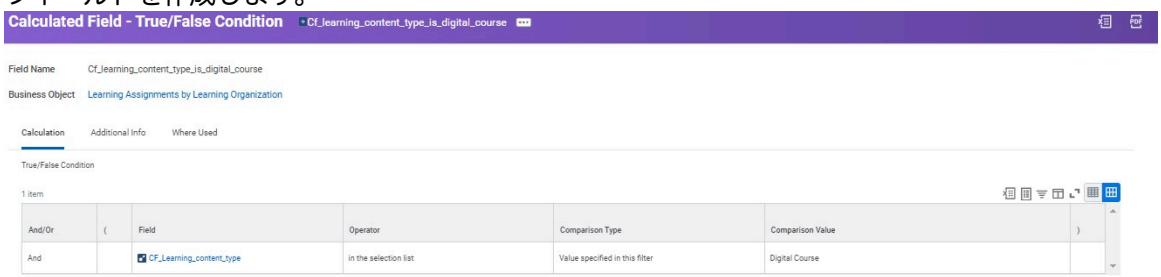
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



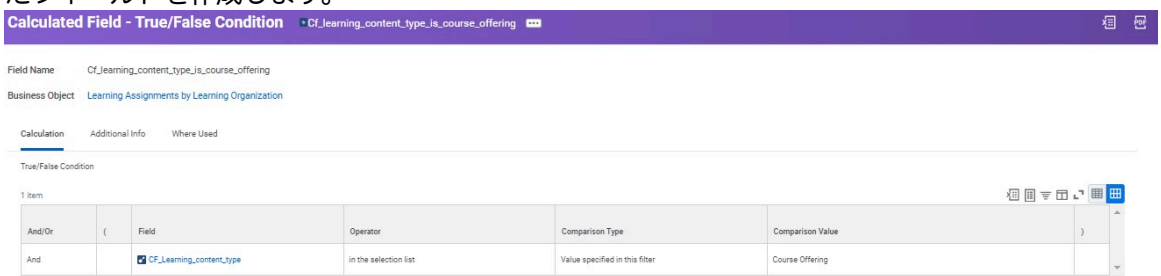
5. **cf_course_type_is_blended** という名前の True/False 条件タイプの計算されたフィールドを作成します。



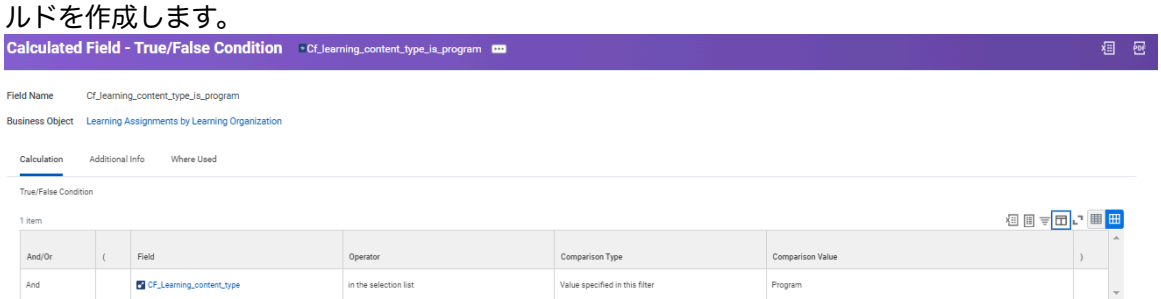
6. **Cf_learning_content_type_is_digital_course** という名前の True/False 条件タイプの計算されたフィールドを作成します。



7. **Cf_learning_content_type_is_course_offering** という名前の True/False 条件タイプの計算されたフィールドを作成します。

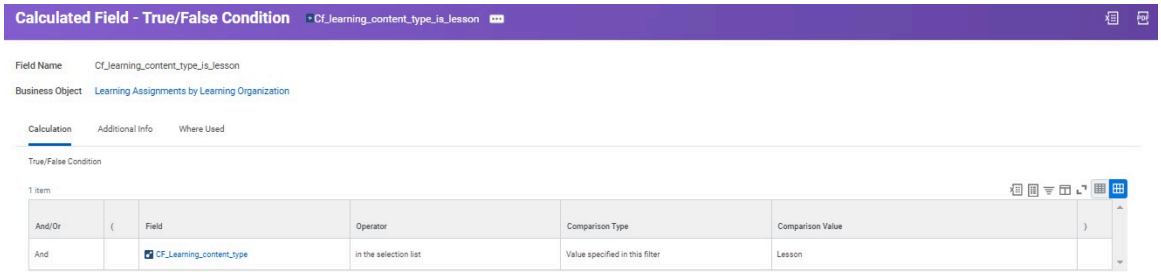


8. **Cf_learning_content_type_is_program** という名前の True/False 条件タイプの計算されたフィールドを作成します。

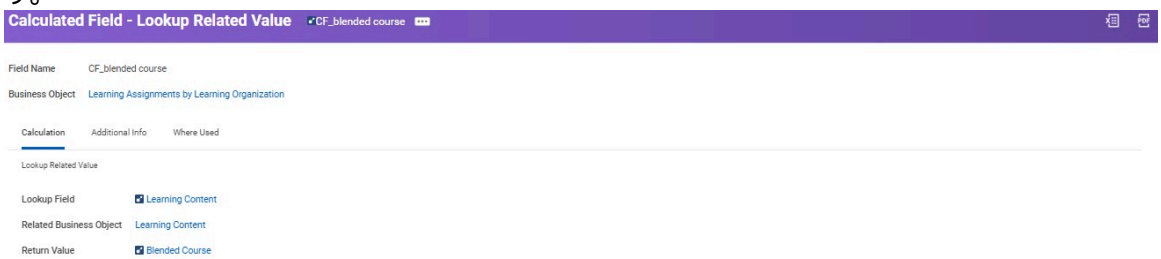


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

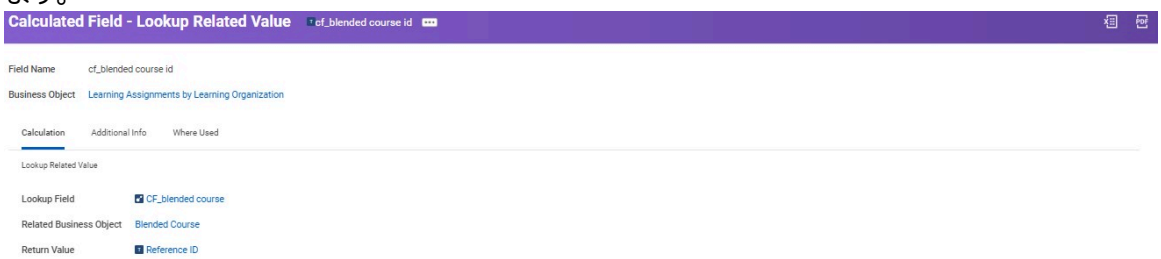
9. **Cf_learning_content_type_is_lesson** という名前の True/False 条件タイプの計算されたフィールドを作成します。



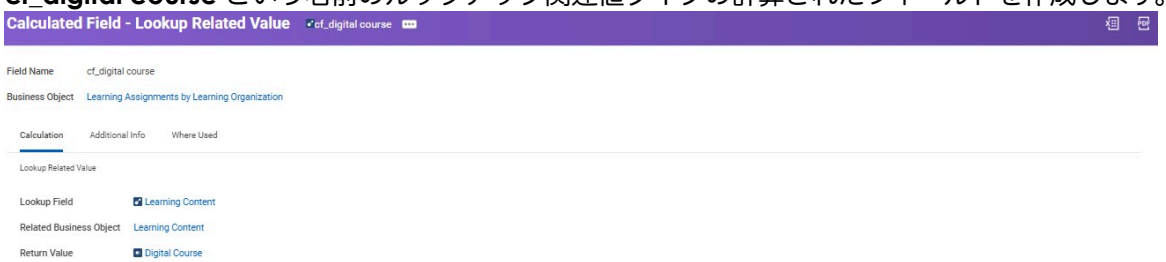
10. **CF_blended course** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。



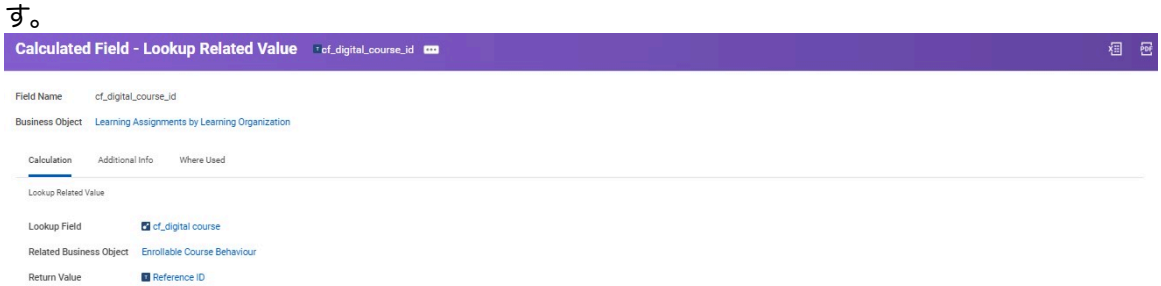
11. **cf_blended course id** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。



12. **cf_digital course** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

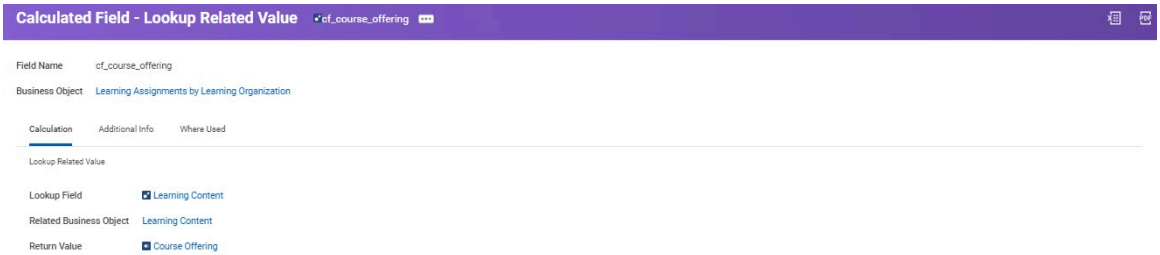


13. **cf_digital_course_id** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

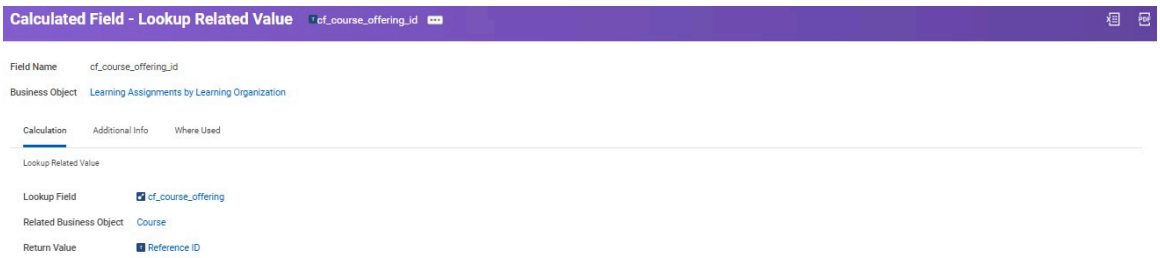


14. **cf_course_offering** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



15. **cf_course_offering_id** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

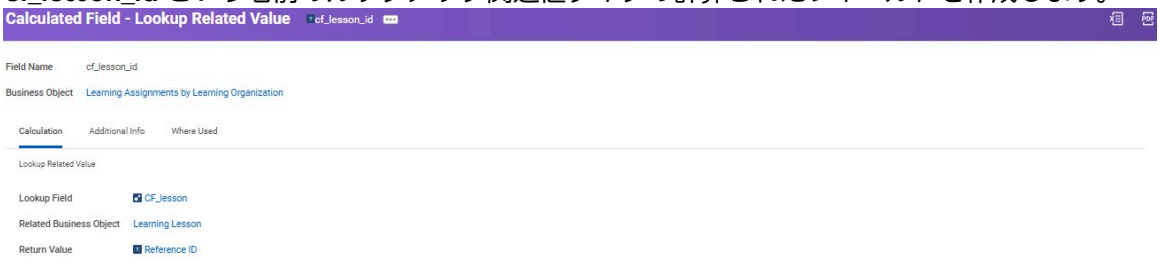


16. **CF_Program** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

17. **Cf_program_id** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

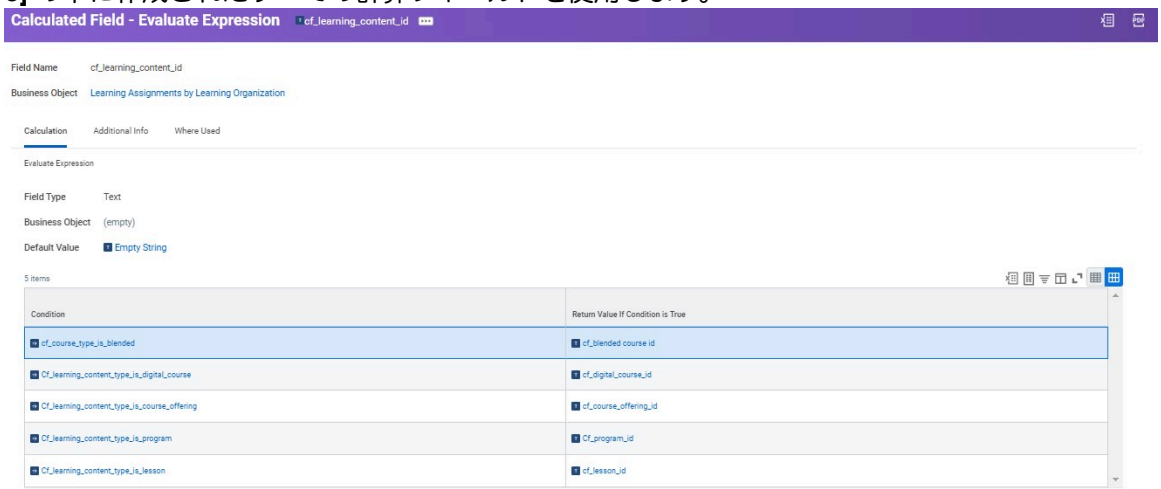
18. **CF_lesson** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。

19. **cf_lesson_id** という名前のルックアップ関連値タイプの計算されたフィールドを作成します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

20. **cf_learning_content_id** という名前の評価式タイプの計算フィールドを作成し、**[計算フィールド 3]** の下に作成されたすべての計算フィールドを使用します。



21. 学習アサインレポートを作成します。

    a. [カスタムレポートの作成] タスクにアクセスします。

    b. レポート名を入力します (例：`Test -Learning Assignment`)。

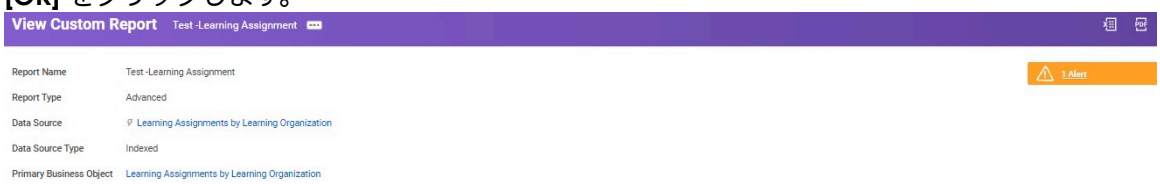
    c. レポートタイプに [詳細] を選択します。

    d. [パフォーマンスに最適化] チェックボックスをオフにします。

    e. [データソース] に [学習組織別学習アサイン **(Learning Assignments by Learning Organization)]** を選択します。

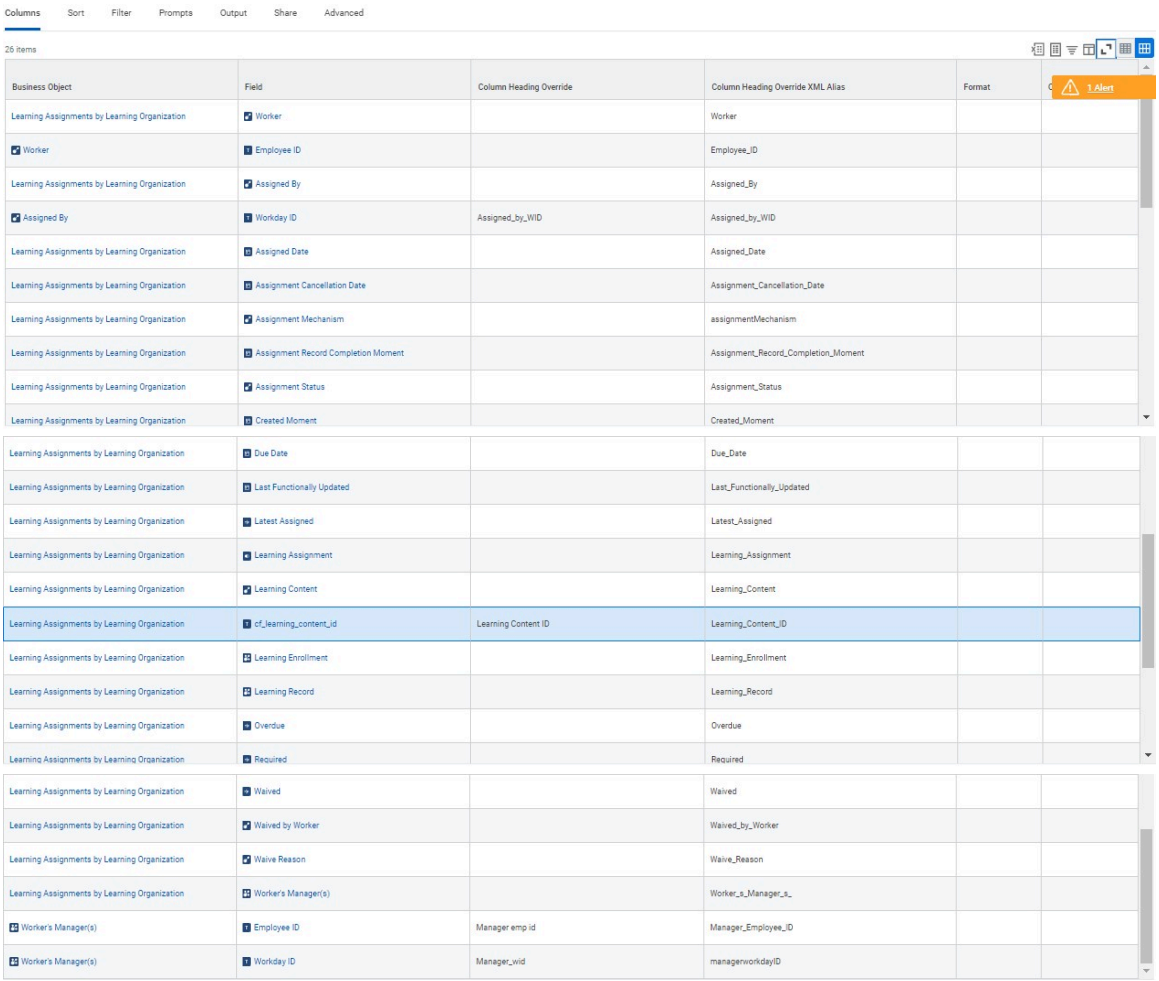
    f. [一時レポート (temporary report)] チェックボックスをオンにしないでください。

    g. **[OK]** をクリックします。



    h. レポートビジネスオブジェクトとレポートのフィールドを選択します。

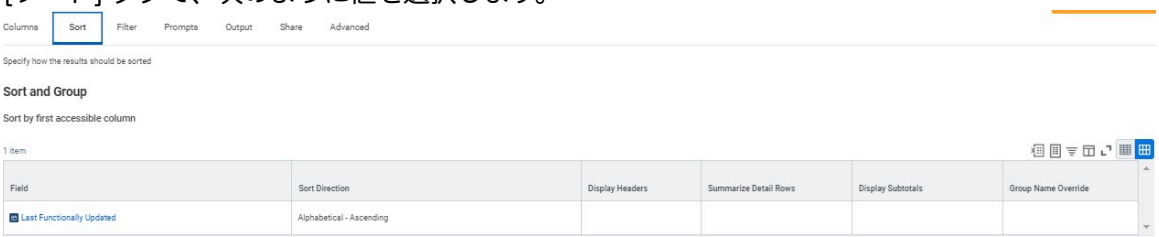
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



i. [グループ列見出し **(Group Column Heading)]** セクションで、すべてのビジネスオブジェクトを選択します。

各ビジネスオブジェクトの [グループ列見出し **(Group Column Heading)]** が空です。

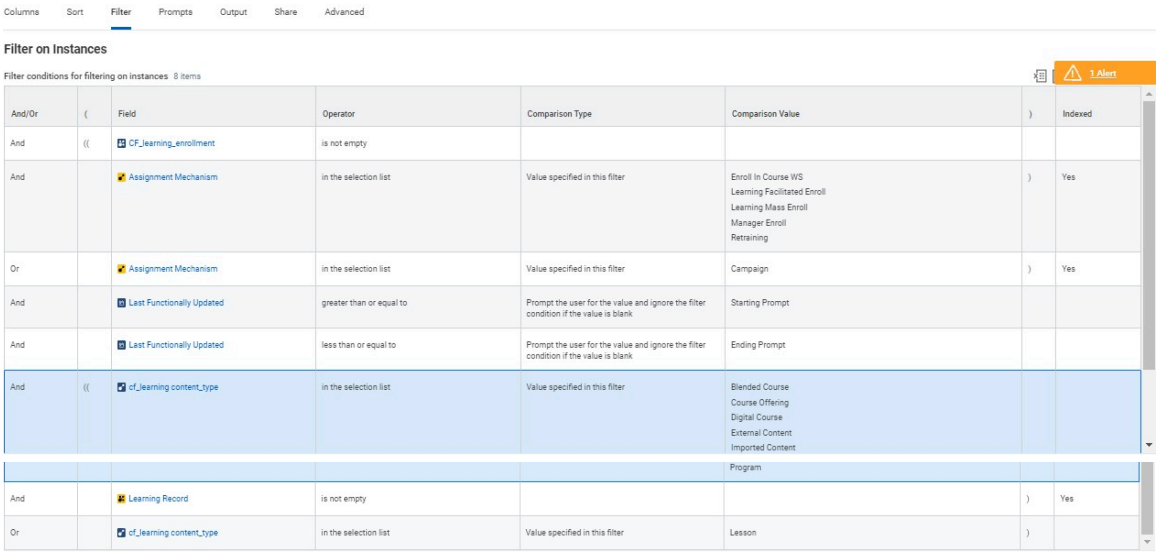
j. [ソート] タブで、次のように値を選択します。



k. [フィルター] タブで、次のように値を選択します。

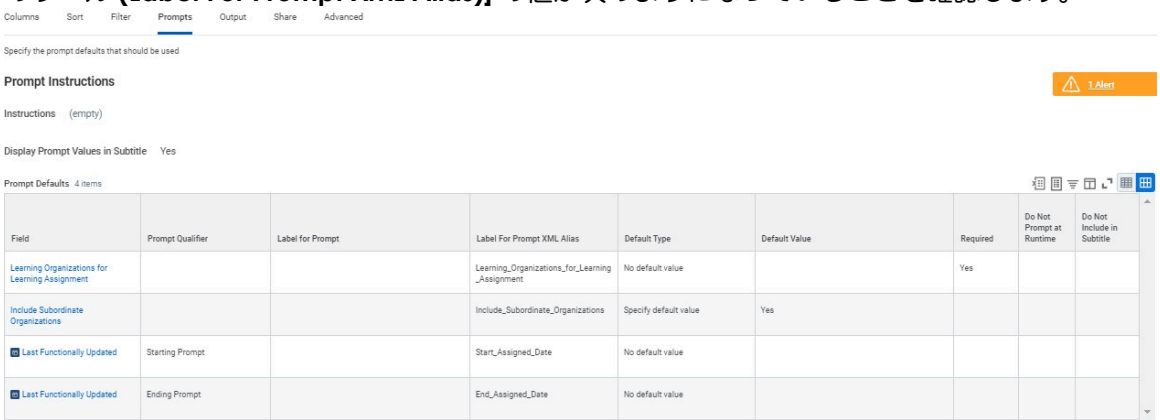
必ず括弧を追加してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



l. [プロンプト **(Prompts)]** タブで、[未定義のプロンプトのデフォルトを入力] チェックボックスをオンにします。

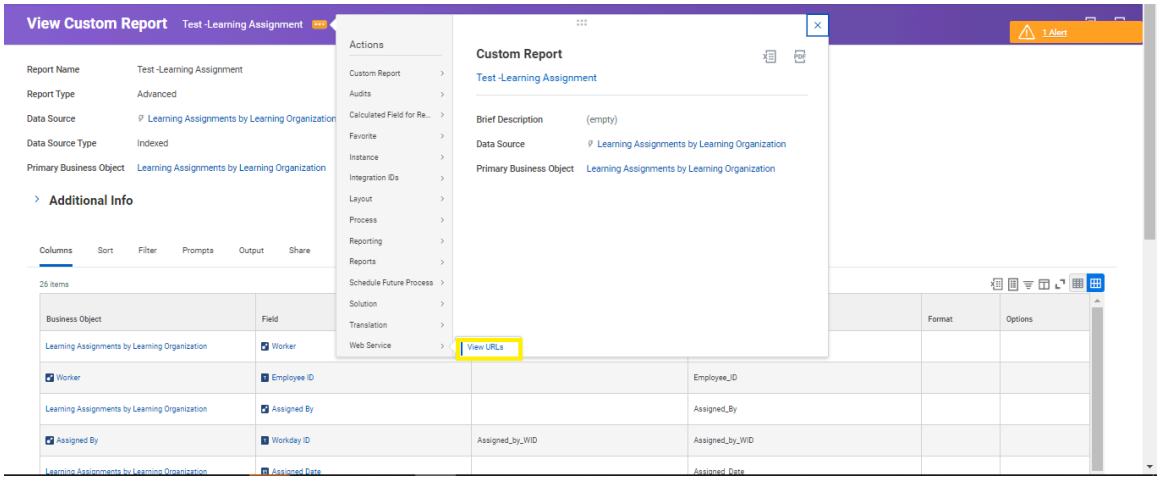
m. [プロンプトのデフォルト] セクションでプロンプトの値を選択し、[プロンプト **XML** エイリアスのラベル **(Label For Prompt XML Alias)]** の値が次のようになっていることを確認します。



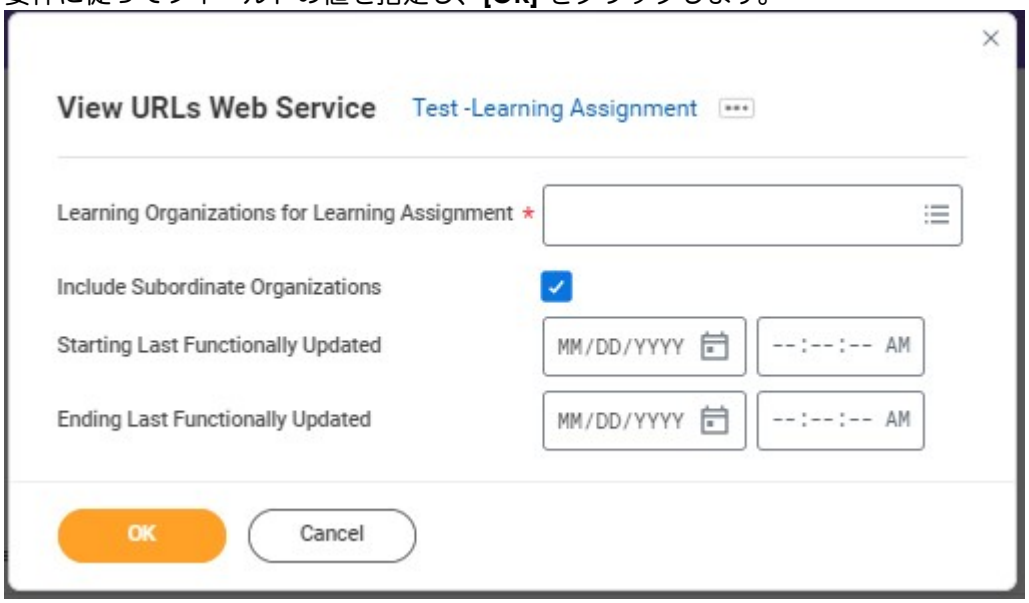
n. [詳細] セクションで、**[Web** サービスとして有効化 **(Enable as webservice)]** チェックボックスをオンにして、**[OK]** をクリックします。

o. レポートの構成が完了したら、3 つのドットアイコンをクリックし、**[Web** サービス] > **[URL** を表示 **(View URLs)]**に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



p. 要件に従ってフィールドの値を指定し、**[OK]** をクリックします。



q. [URL を表示 (View URLs)] Web サービスページで、生成するアクティブなリンクをクリックします。
RaaS URL が新しいブラウザーのタブに表示されます。

Workday ラーニング スポークの設定

OAuth 2.0 を使用して、ServiceNow® インスタンスと Workday インスタンスを統合し、ServiceNow® 要求を認証します。

始める前に

- Workday インスタンスで以下のレポートを構成します。
  - 学習アサイン
  - 学習登録
  - 承認の追跡
- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Workday ラーニング スポークを有効化します。
- 必要なロール：admin。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workday SOAP Web Services を使用するための構成

Workday SOAP Web Services を使用するアクションを実行するように ServiceNow® インスタンスを設定します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. WS-Security ユーザー名プロファイルを作成して、ServiceNow® からの要求を認証するための Workday 認証情報を提供します。

   a. [すべて] > **[IntegrationHub]** > **[SOAP** 統合] > **[WS-Security** ユーザー名プロファイル]に移動します。

   b. [新規] をクリックします。

   c. フォームに、これらの値を入力します。

   WS-Security ユーザー名プロファイル (送信)

フィールド	説明
名前	認証情報を一意に識別する名前。たとえば、「`Workday ラーニングユーザー`」と入力します。
アプリケーション	レコードが適用可能なアプリケーション。**[Workday** ラーニングスポーク **(Workday Learning Spoke)]** を選択します。
ユーザー名	Workday Web サービスを使用するデータ連携の権限を持つ Workday ユーザー。
パスワード	Workday ユーザーのパスワード。

   d. [送信] をクリックします。

2. ServiceNow からの要求を認証するために作成したセキュリティユーザー名プロファイルを追加して、SOAP セキュリティプロファイルを設定します。

   a. [すべて] > [統合ハブ] > **[SOAP** 統合] > **[SOAP** セキュリティ方針]に移動します。

   b. Workday ラーニングスポークのレコードを開きます (例：**Workday** ラーニング)。

   > **注:** デフォルトレコードではなく、別の SOAP セキュリティポリシーレコードを使用する場合は、Workday SOAP Web Services を使用するすべてのアクションで、作成したレコードが選択されていることを確認する必要があります。

   c. **[WS-Security** ユーザー名プロファイル] で、Workday ラーニングスポーク用に作成したセキュリティユーザー名プロファイルを選択します。

   d. **WS-Security X.509** プロファイルには値を指定しないでください。

   e. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Workday REST API を使用する構成

要求を認証するために必要な詳細を入力して、デフォルトの接続および認証情報レコードを設定します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. Workday ラーニングを OAuth プロバイダーとして登録するように、デフォルトのアプリケーションレジストリーを設定します。

   a. [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリー] に移動します。

   b. **[Workday** ラーニング] レコードを開きます。

   c. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
クライアント ID	Workday インスタンスに API クライアントを登録したときにコピーしたクライアント ID。
クライアントシークレット	Workday インスタンスに API クライアントを登録したときにコピーしたクライアントシークレット。
認証 URL	Workday インスタンスに API クライアントを登録したときにコピーした認証 URL。
トークン URL	Workday インスタンスに API クライアントを登録したときにコピーしたトークン URL。
リダイレクト URL	ServiceNow® インスタンスのリダイレクト URL (形式：`https://<ServiceNow-Instance-Name>.service-now.com/oauth_redirect.do`)。
デフォルトの権限許可タイプ	OAuth トークンを確立するためのデフォルトの権限許可タイプ。[認証コード] を選択します。

   d. [更新] をクリックします。

2. 認証情報レコードを作成します。

   a. **[Integration Hub]** > [認証情報] に移動します。

   b. [新規] をクリックします。
   「作成する認証情報のタイプは？」というメッセージが表示されます。

   c. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。

   d. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前	認証情報レコードを識別する名前です。 例：`Workday Learning Cred`。
OAuth エンティティプロファイル	デフォルトの OAuth エンティティプロファイルレコード。例：`Workday Learning default_profile`。

e. [送信] をクリックします。

3. デフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを設定します。

a. **[IntegrationHub]** > [接続および資格情報エイリアス] に移動します。

b. **[Workday** ラーニング] レコードを開きます。

c. [接続] タブで、[新規] をクリックします。

d. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	接続レコードを識別する名前です。 例：**Workday Learning Conn**。
認証情報	関連する認証情報レコード。以前に作成した認証情報レコードを選択します。 例：`Workday Learning Cred`。
接続 URL	Workday インスタンスに接続するための URL。

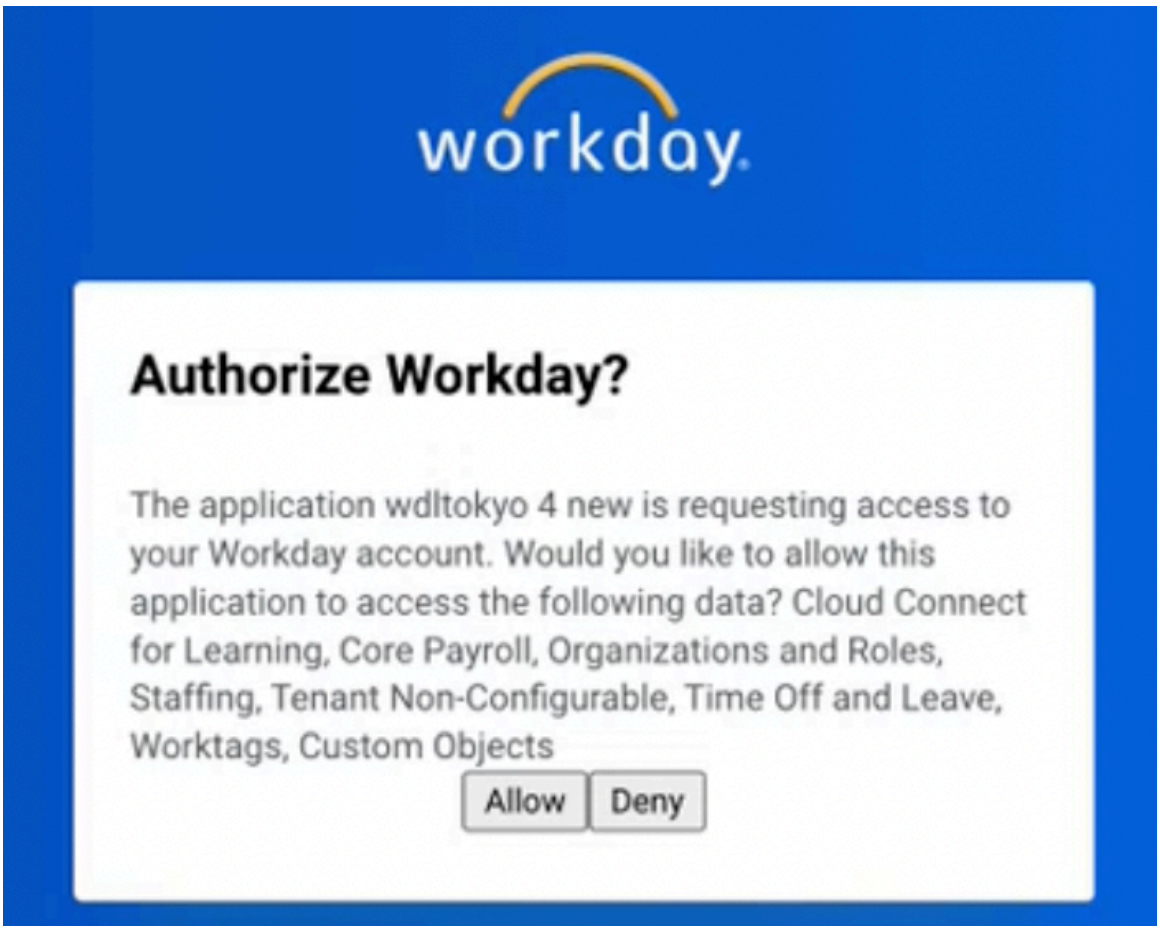
e. [属性] タブで、[テナント名] に Workday インスタンスのテナント名を指定します。

f. [送信] をクリックします。

4. **[Integration Hub]** > [認証情報] に移動します。
5. **[Workday Cred]** レコードを開きます。
6. **[OAuth** トークンを取得 **(Get OAuth Token)]** をクリックします。
Workday を許可するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [許可] をクリックします。



Workday レポートの構成

ServiceNow® インスタンスで必要な Workday レポートを構成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. **[Workday** ラーニング] > [レポート構成] に移動します。
2. フォームの各フィールドに入力します。

フィールド	説明
Workday ラーニングアサイン RAAS レポート名	学習アサイン RAAS レポートのレポート名。
Workday ラーニング To Do レポートオーナーのユーザー名	学習 To Do RAAS レポート所有者のユーザー名。
Workday ラーニング To Do RAAS レポート名	学習 To Do RAAS レポートのレポート名。
Workday ラーニング登録 RAAS レポート名	学習登録 RAAS レポートのレポート名。
学習組織タイプ	従業員が属する組織タイプ。[組織参照 **ID]** または **[WID]** のいずれかを選択できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
Workday ラーニング登録レポートオーナーのユーザー名	学習登録 RAAS レポート所有者のユーザー名。
初期ロード開始日時	[承認を検索] アクションに必要な最初の開始日時です。
Workday ラーニングアサインレポートオーナーのユーザー名	学習アサイン RAAS レポート所有者のユーザー名。
学習組織 ID	カンマ (,) で区切られた組織の一意の識別子。最大 999 の識別子を指定できます。

3. [送信] をクリックします。

注: このモジュールで管理できるレコードは 1 つだけです。

タイムゾーンの更新

ServiceNow インスタンスの Workday テナントのタイムゾーンを更新します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. **[Workday** ラーニング] > [プロファイル同期構成] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームで、要件に応じて **[Workday** テナントのタイムゾーン] と [ドメイン] を選択します。
4. [送信] をクリックします。

Workfront スポーク

Workfront スポークは、Workfront ソフトウェアサブスクリプションの有意義な使用状況データを表示および分析するアクションを提供します。Workfront アカウントの使用状況を分析して古いライセンスを特定することで、これらのライセンスを再利用して見込まれる節減を実現できるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Workfront v1.2.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは Workfront v1.1.1 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

Adobe Workfront アドミンアカウント。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Workfront スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したときに Workfront タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
ドキュメント管理	ドキュメントのチェックイン	チェックアウトされたドキュメントを、その ID に基づいてチェックインします。
	ドキュメントのチェックアウト	チェックインされたドキュメントを、その ID に基づいてチェックアウトします。
	ドキュメントがリンクされている	ドキュメントが一意の識別子でリンクされているかどうかを決定します。
	証明の自動生成が有効か	対応する ID に対して証明が自動で有効かどうかを決定します。
	ドキュメントストリームを検索	すべてのアクセスレベルの詳細を取得します。
	添付ファイルのアップロード	Workfront インスタンスにドキュメントを作成します。
	ドキュメントのリンクを解除	Workfront からドキュメントのリンクを解除します。
	処理する添付ファイルのアップロード	Workfront インスタンスに新しいドキュメントを作成します。
	証明テンプレートを検索	すべての証明テンプレート情報を取得します。
	ドキュメントを移動	ドキュメントをプロジェクト、タスク、または問題に移動します。
	証明受信者を検索	指定されたテンプレートと証明ステージ ID の受信者の詳細を返します。
	証明ステージを検索	証明 ID のステージ情報を取得します。
	合計ドキュメントサイズを検索	ドキュメントのサイズを決定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	添付ファイルをオブジェクトにアップロード	[処理する添付ファイルのアップロード] アクションの後にドキュメントを Workfront オブジェクトに作成/リンクします。
	ドキュメントストリームを検索	すべてのドキュメントのリストを取得します。
	テンプレートストリームを検索	すべてのテンプレートのリストを取得します。
財務管理	経費ストリームを検索	すべての経費のリストを取得します。
問題管理	問題を別のプロジェクトに移動	問題をプロジェクトに移動します。
	問題をタスクに移動	Workfront から 1 つ以上の問題を移動します。
	問題の一括移動	問題を一括でタスクに移動します。
ポートフォリオ管理	ポートフォリオストリームを検索	すべてのポートフォリオのリストを取得します。
プログラムマネジメント	プログラムストリームを検索	すべてのプログラムのリストを取得します。
プロジェクト管理 (PM)	プロジェクトタイムラインを計算	ID に基づいてプロジェクトのタイムラインを計算します。
	プロジェクトファイナンスを計算	指定された一意の ID を使用してプロジェクトの経理を計算します。
	プロジェクト予算を設定	指定された一意の ID を使用して特定のプロジェクトの予算を設定します。
	問題ストリームを検索	すべての問題のリストを取得します。
	プロジェクトストリームを検索	すべてのプロジェクトのリストを取得します。
	タスクストリームを検索	すべてのタスクのリストを取得します。
レコード管理	オブジェクト作業を承認	最近作成されたオブジェクトの Workfront での作業を承認します。
	オブジェクトの承認を承認	オブジェクトの承認の要求を承認します。
	アサイニーをオブジェクトにアサイン	チーム、ユーザー、またはロールを Workfront オブジェクトにアサインします。
	複数のアサイニーをオブジェクトにアサイン	複数のユーザー、ロール、またはチームを Workfront オブジェクトにアサインします。
	オブジェクトデータ拡張を計算	指定されたオブジェクトのデータ拡張を計算します。
	オブジェクトを作成	Workfront インスタンスにオブジェクトを作成します。
	オブジェクトを削除	Workfront インスタンスからオブジェクトを削除します。
	ID でオブジェクトを検索	指定されたオブジェクト ID の詳細を入力として取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	オブジェクト数を検索	現在のアイテム数を返します。
	オブジェクト承認を取り消す	Workfront オブジェクトの承認要求を取り消します。
	オブジェクトの承認を却下	Workfront オブジェクトの承認要求を却下します。
	オブジェクト作業を却下	オブジェクトに関する作業アクションを却下します。
	オブジェクトのアサインに返信	オブジェクトのアサインに応答します。
	オブジェクトからユーザーのアサインを解除	Workfront オブジェクトからユーザーのアサインを解除します。
	オブジェクトを完了として更新	Workfront でオブジェクトを完了として更新します。
	オブジェクトを未完了として更新	Workfront でオブジェクトを未完として更新します。
	ID でオブジェクトを更新	Workfront でオブジェクトを更新します。
レポート管理	フィルターストリームを検索	すべてのフィルターのリストを取得します。
	レポートストリームを検索	すべてのレポートのリストを取得します。
タスク管理	タスクの一括コピー	Workfront から 1 つ以上のタスクをコピーします。
	タスクの一括移動	Workfront から 1 つ以上のタスクを移動します。
	移動タスク	特定のタスクを別のプロジェクトまたはタスクに移動します。
テンプレート管理	タスクテンプレートを検索	すべてのタスクテンプレート情報を取得します。
	プロジェクトテンプレートを検索	すべてのプロジェクトテンプレート情報を取得します。
ユーザー管理	API 入力 (メタデータ)	動的入力として使用される、指定されたオブジェクトコードのフィールドのリストを取得します。
	API 出力 (メタデータ)	動的出力として使用される、指定されたオブジェクトコードのフィールドのリストを取得します。
	アクセスレベルストリームを検索	Workfront ライセンスのすべてのアクセスレベルのリストを取得します。
	ユーザーストリームを検索	アカウント内のすべてのユーザーのリストを取得します。
	ユーザーを更新	指定されたユーザーの詳細を変更します。
Webhook 管理	イベントサブスクリプションストリームを検索	すべてのイベントサブスクリプションの詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	イベントサブスクリプション ID でイベントを検索	指定された ID のイベントサブスクリプションの詳細を取得します。
	イベントサブスクリプションを作成	Workfront インスタンスに新しいイベントサブスクリプションを作成します。
	イベントサブスクリプションを削除	Workfront インスタンスからサブスクリプションを削除します。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Workfront スポークの設定。

Workfront スポークの設定

ServiceNow インスタンスと Workfront インスタンスの間でアウトバウンド統合を設定します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Workfront スポークを有効化します。
- 必要な Workfront のロール： アドミン
- 必要なロール：admin

Workfront API キーの生成

WorkfrontAPI 要求を認証するための API キーを生成します。

始める前に

必要なロール：Workfront アドミニストレーター

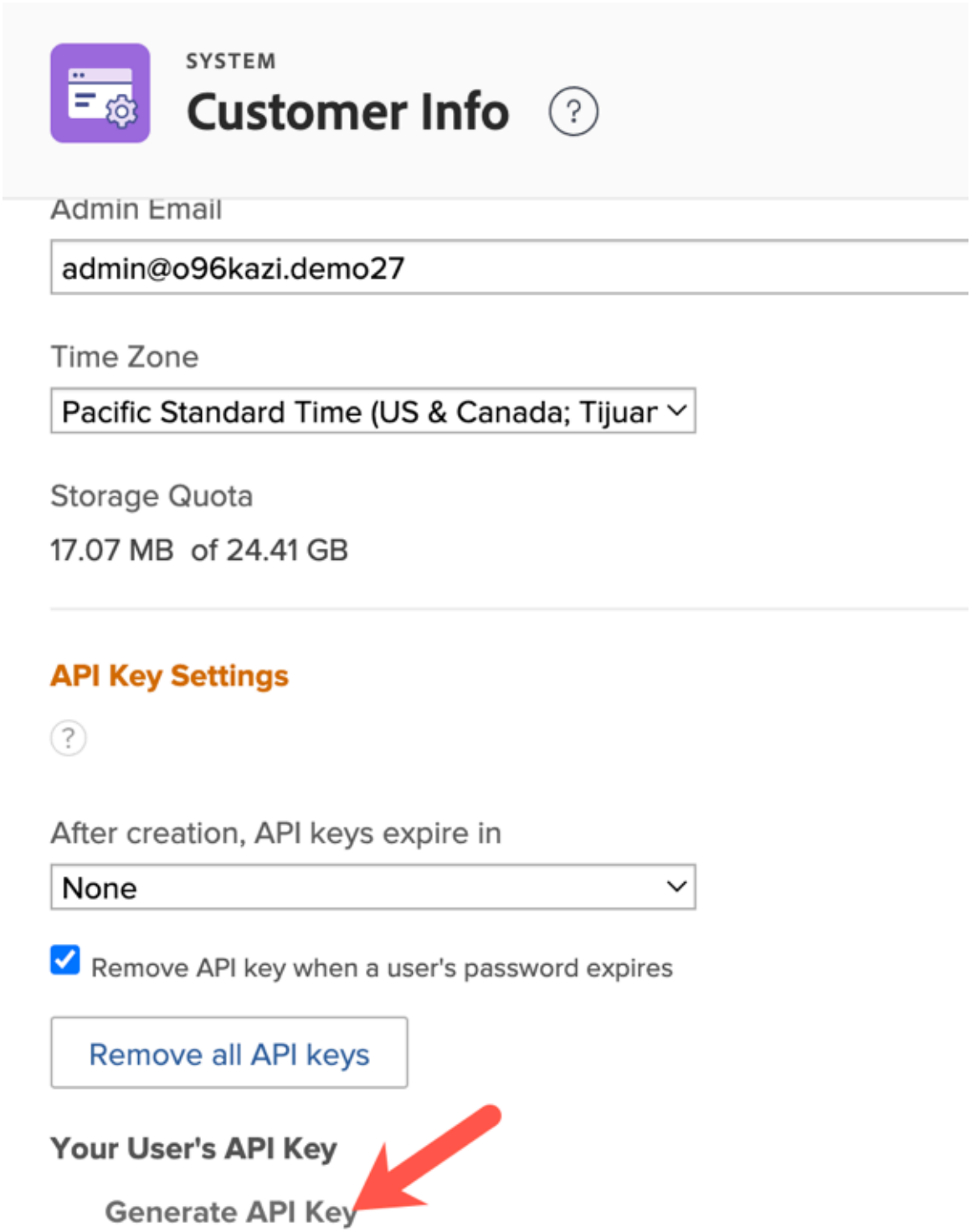
手順

1. Web ブラウザーから、 Adobe Workfront を開きます。
2. Adobe Workfront インスタンスにログインします。
3. Adobe Workfront インスタンスのページヘッダーで、メインメニューアイコン ( ) をクリックします。

4. セットアップアイコン ( ) を選択します。
5. [セットアップ] ページの左側のナビゲーションメニューから、[システム] > [顧客情報]に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. [API キー設定] セクションで、**[API キーの生成]** を選択しま



す。
API キーが生成されます。

7. 後で使用するために API キーをコピーして保存します。
8. オプション: API キーの有効期限を設定するには、[作成後の **API** キーの有効期限 **(After creation, API keys expire in)]** リストで期間を選択します。
9. [保存] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

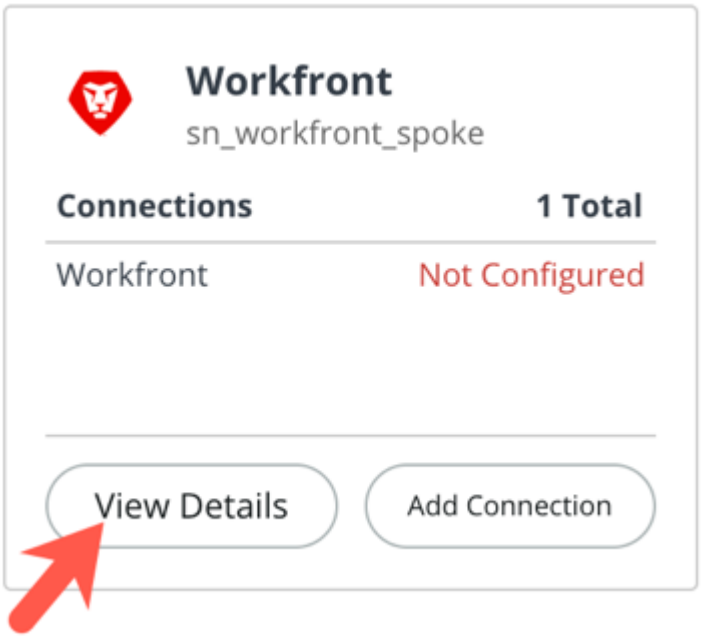
Workfront 接続レコードの作成

ServiceNow インスタンスおよび Workfront インスタンスの間の接続レコードを作成します。接続レコードは、接続の詳細と API キーで構成されています。

始める前に
必要なロール：admin

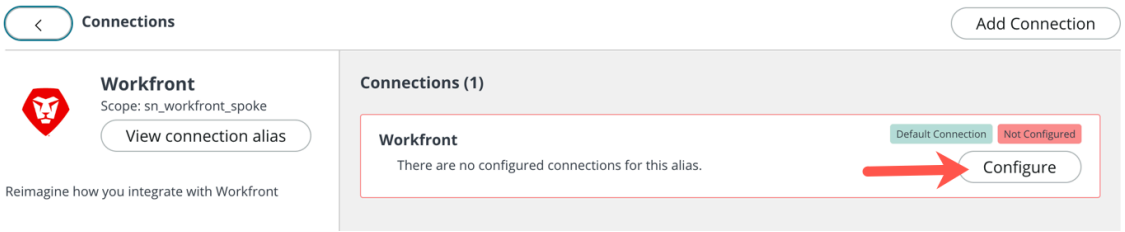
手順

1. ServiceNow インスタンスにログインします。
2. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
3. [接続] を選択します。
4. [すべての接続を検索] フィールドに「`workfront`」と入力します。
5. Workfront タイルで、[詳細を表示] をクリックしま



す。

6. [構成] をクリックしま



す。

7. フォームに入力します。

[接続を作成] ダイアログボックス

フィールド	説明
接続名	Workfront接続の名前です。 **注:** 最初の接続レコードのデフォルト名は Workfront で、読み取り専用名です。カスタム名を指定するには、別の接続レコードを作成する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続 URL	接続の URL。`https://<domain-name>.my.workfront.com` と入力します。ここで、<domain-name> は会社のサブドメインです。
API キー	Workfront インスタンスから生成した API キーです。API キーの生成方法については、「Workfront API キーの生成」を参照してください。

8. [接続を設定] をクリックします。

Workplace from Facebook スポーク

ServiceNow インスタンスのアカウントから、Workplace from Facebook でユーザー、グループ、および通知を管理します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブ サブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

注: Workplace from Facebook は ServiceNow バージョンと互換性があり、Paris はパッチ 3 以降と互換性があります。

スポークバージョン

Workplace from Facebook スポーク v4.1.1 が最新バージョンです。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装以外で使用する場合は適切なライセンスが必要です。ライセンスの詳細については、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

スポークのサブフロー

Workplace from Facebook スポーク には、グループ管理タスクの自動化をデモする「Workplace from Facebook グループのフェッチ」サンプルフローがあります。サンプルサブフローをカスタマイズするには、必要なアプリケーションスコープにコピーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション

Workplace from Facebook スポーク は、ユーザー、グループ、および通知を管理するアクションを提供します。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
グループ管理	グループにユーザーを追加	Workplace from Facebook のグループにユーザーを追加します。
	グループを作成	Workplace from Facebook にグループを作成します。
	グループを非アクティブ化	「Workplace from Facebook グループのフェッチ」サブフローの前回の実行時に更新されていないグループを非アクティブ化します。
	グループ ID を検索	Workplace from Facebook で指定されたグループ名のグループ ID を取得します。
	グループを検索	Workplace from Facebook のすべてのグループをリストします。
	グループからユーザーを削除	Workplace from Facebook のグループからユーザーを削除します。
グループ投稿管理	メッセージを投稿	Workplace from Facebook グループにメッセージを投稿します。
	画像を投稿	Workplace from Facebook グループに画像とメッセージを投稿します。
	変更の詳細を投稿	変更要求の詳細を Workplace from Facebook グループに投稿します。
	インシデントの詳細を投稿	インシデントの詳細を Workplace from Facebook グループに投稿します。
	問題の詳細を投稿	問題の詳細を Workplace from Facebook グループに投稿します。
ユーザー管理	ユーザー ID を検索	Workplace from Facebook に登録されたメールからユーザー ID を取得します。
	組織メンバーのストリームを検索	Workplace from Facebook でユーザーのリストを取得します。
	ユーザーを非アクティブ化	Workplace from Facebook ユーザーを非アクティブ化します。
	ユーザーを作成	Workplace from Facebook にユーザーを作成します。
	ユーザーを検索	Workplace from Facebook でユーザーが登録したメールに基づいてユーザーの詳細を取得します。
イベント管理	イベントストリームを検索	Workplace from Facebook コミュニティのイベントを取得します。
ナレッジライブラリーカテゴリ管理	ナレッジライブラリーカテゴリストリームを検索	Workplace from Facebook で作成されたナレッジライブラリーカテゴリを取得します。
メッセージ管理	会話ストリームを検索	指定されたユーザーの会話を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	フィードストリームを検索	指定されたグループのフィードを取得します。
	変更の詳細を送信	Workplace from Facebook グループのユーザーに変更の詳細を送信します。
	画像を送信	Workplace from Facebook のユーザーに画像またはファイルを送信します。
	インシデントの詳細を送信	Workplace from Facebook グループのユーザーにインシデントの詳細を送信します。
	メッセージの送信	Workplace from Facebook のユーザーにメッセージを送信します。
	問題の詳細を送信	Workplace from Facebook グループのユーザーに問題の詳細を送信します。

スポークモジュール

Workplace from Facebook スポーク は Workplace from Facebook アプリケーションを ServiceNow インスタンスに追加し、次のモジュールを含みます。

モジュール	説明
認証情報	Workplace from Facebook スポーク に対して作成された認証情報レコードを表示します。要件に応じて認証情報レコードを作成できます。たとえば、各 Workplace from Facebook インスタンスの認証情報レコードなどです。
Workplace にインストール	Workplace from Facebook スポーク を設定するためのデフォルトの認証情報レコードを表示します。詳細については、「Workplace from Facebook スポーク の設定」を参照してください。
グループキャッシュ	Workplace from Facebook でグループの詳細を表示します。 [キャッシュを同期] をクリックすると、[Workplace from Facebook グループのフェッチ] サブフローがトリガーされ、グループの詳細が取得されます。

スポークの設定については、「 Workplace from Facebook スポーク の設定。

Workplace from Facebook スポーク の設定

Workplace from Facebook 認証情報を使用して ServiceNow インスタンスと Workplace from Facebook アカウントをデータ連携し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

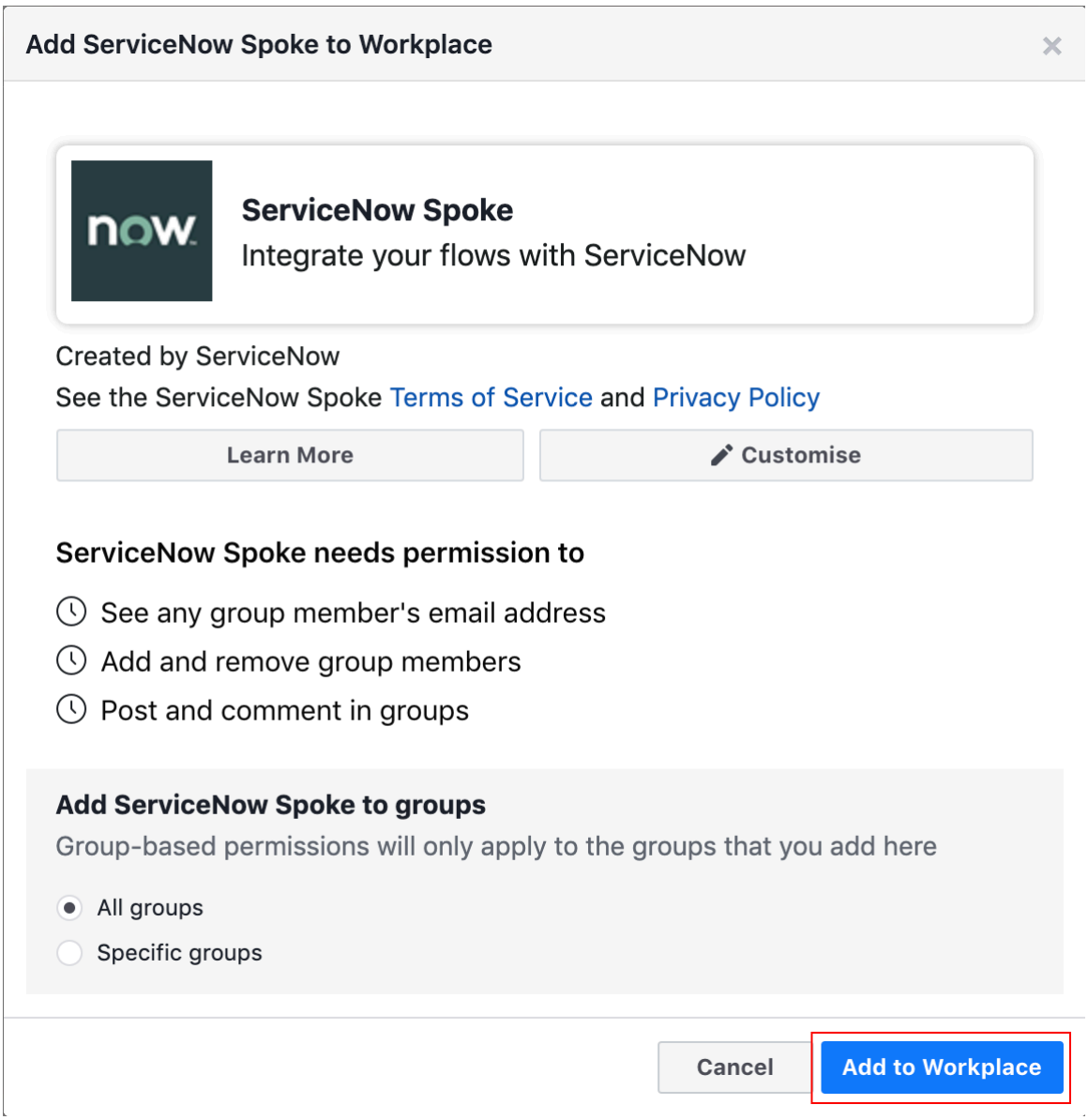
- 統合ハブサブスクリプションの要求
- Workplace from Facebook スポーク を有効にします。
- 必要なロール：admin

手順

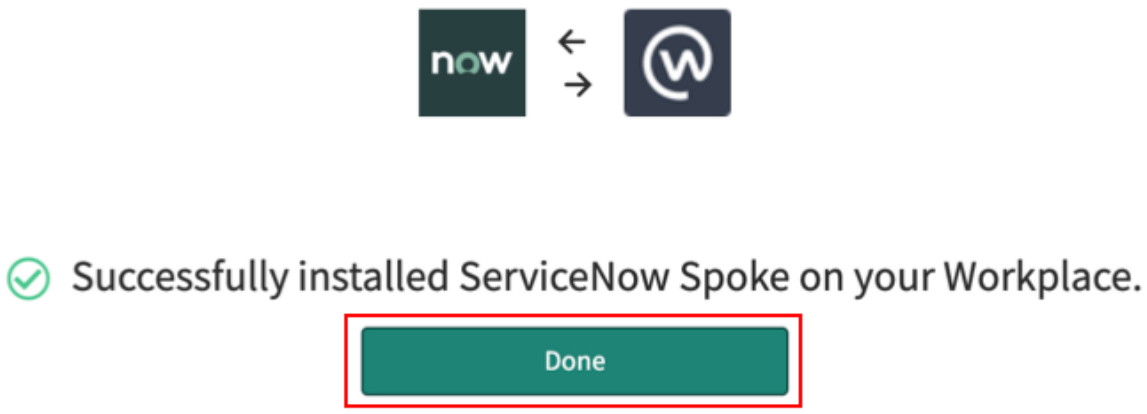
1. [すべて] > **[Workplace from Facebook]** > **[Workplace** にインストール **(Install on your Workplace)]**に移動します。
2. **[Workplace** にインストール] をクリックします。
   「Workplace 登録/ログイン 」ページにリダイレクトされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 認証情報を使用して Workplace from Facebook アカウントにログインします。
   [ServiceNow スポークを Workplace に追加 (Add ServiceNow Spoke to Workplace)] ポップアップウィンドウが表示されます。
4. [ワークスペースに追加] をクリックします。



ServiceNow スポークが Workplace アカウントに追加され、確認メッセージが表示されます。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [完了] をクリックします。
   ServiceNow インスタンスにリダイレクトされて戻り、関連するフィールドが更新されます。
6. オプション: 複数の接続レコードを作成する場合は、次の手順を実行します。

   a. [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

   b. [接続] タブをクリックします。

   c. **[FB_Workplace_Alias]** 接続エイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。

   d. [接続を追加] をクリックします。

   e. [接続名] に新しい接続レコードを識別する名前を入力します。

   f. [接続を作成] をクリックします。

   g. [すべて] > **[Workplace from Facebook]** > [認証情報]に移動します。

   h. 作成した接続レコードに関連付けられている認証情報レコードを開きます。

   i. **[Workplace** にインストール] をクリックします。
      「Workplace 登録/ログイン」ページにリダイレクトされます。

   j. 認証情報を使用して Workplace from Facebook アカウントにログインします。
      [ServiceNow スポークを Workplace に追加 (Add ServiceNow Spoke to Workplace)] ポップアップウィンドウが表示されます。

   k. [ワークスペースに追加] をクリックします。
      ServiceNow スポークが Workplace アカウントに追加され、確認メッセージが表示されます。

   l. [完了] をクリックします。
      ServiceNow インスタンスにリダイレクトされて戻り、関連するフィールドが更新されます。

タスクの結果
Workplace from Facebook アカウントは ServiceNow インスタンスとデータ連携されます。

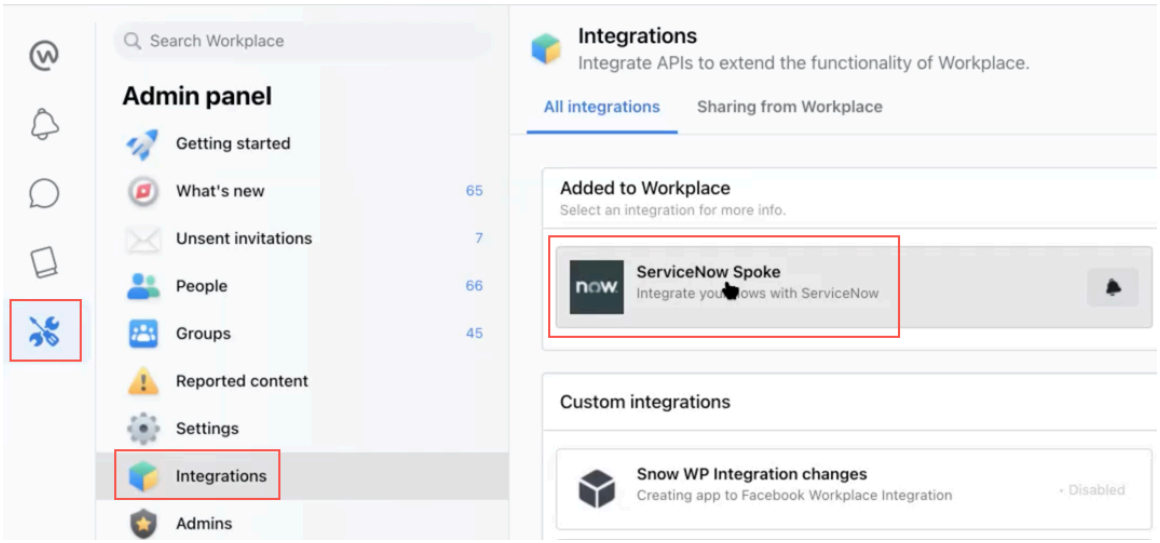
Workplace from Facebook スポーク をアンインストール

Workplace from Facebook アカウントにログインして Workplace from Facebook スポーク をアンインストールします。

始める前に
必要なロール：admin

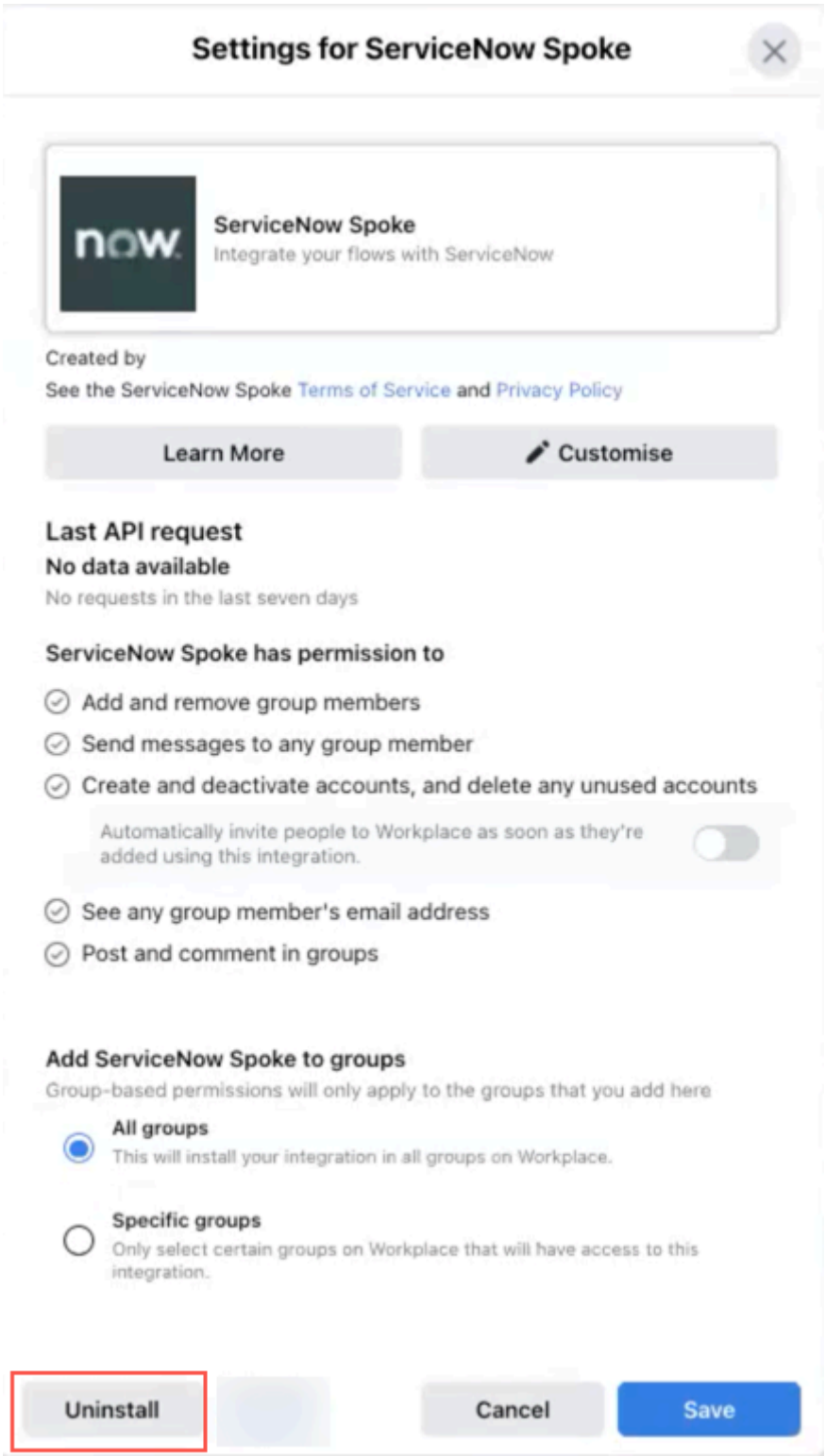
手順
1. アドミニストレーターとして Workplace from Facebook アカウントにログインします。
2. [管理パネル] > [統合]に移動します。
3. パスワードを入力します。
4. **[ServiceNow Spoke]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. [アンインストール] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. [アンインストール] ウィンドウで、もう一度 [アンインストール] をクリックして、選択を確定します。
   Workplace from Facebook スポーク がアンインストールされます。

Wrike スポーク

ServiceNow インスタンスから Wrike アカウントで承認、添付ファイル、フォルダー、プロジェクトなどを管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Wrike スポーク v1.0.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは Wrike API バージョン v4 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

注: アプリを作成し、Wrike アカウントからクライアント ID とクライアントシークレットの値を取得するには、Wrike エンタープライズアカウントが必要です。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow フローデザイナー - 動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

Wrike スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したとき、Wrike タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
承認管理	フォルダーの承認を作成	指定したフォルダーまたはプロジェクトの承認を作成します。
	タスクの承認を作成	指定したフォルダータスクの承認を作成します。
	承認を削除	指定した承認をキャンセルします。
	承認を検索	指定されたフィルター基準に基づいて、承認の詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	フォルダーで承認を検索	指定したフォルダーまたはプロジェクトのすべての承認を取得します。
	タスクで承認を検索	指定したタスクのすべての承認を取得します。
	承認を更新	指定した承認の詳細を更新します。
添付ファイル管理	添付ファイルを削除	指定した添付ファイルを削除します。
	添付ファイルを ServiceNow にダウンロード	指定された ServiceNow レコードに添付ファイルをダウンロードします。
	添付ファイルを検索	添付ファイルのリストを取得します。
	添付ファイルを更新	以前にアップロードした添付ファイルを新しいバージョンで更新します。
	添付ファイルをフォルダーに更新	指定したフォルダーに添付ファイルをアップロードします。
	タスクの添付ファイルを更新	タスクレコードに添付ファイルを追加します。
コメント管理	フォルダーのコメントを作成	フォルダーのコメントを作成します。
	タスクのコメントを作成	タスクのコメントを作成します。
	コメントを削除	指定したコメントを削除します。
	フォルダー ID でコメントを検索	フォルダーのコメントを取得します。
	タスク ID でコメントを検索	タスクのコメントを取得します。
	コメントを更新	指定したコメントを更新します。
フォルダーおよびプロジェクト管理 (PM)	フォルダーを作成	フォルダーを作成します。
	プロジェクト作成	フォルダー内にプロジェクトを作成します。
	フォルダーまたはプロジェクトを削除	削除スコープ外に親がない限り、フォルダー、プロジェクト、およびすべての子孫フォルダーとタスクをゴミ箱に移動します。
	フォルダーを検索	現在のアカウントのフォルダーツリーをビルドするために必要なエントリーのリストを取得します。
	フォルダーを更新	フォルダーの詳細を更新します。
	プロジェクトを更新	プロジェクトの詳細を更新します。
グループ管理	グループを作成	アカウントにグループを作成します。
	グループを削除	指定したグループを削除します。
	グループを検索	アカウント内のすべてのグループを取得します。
	グループを更新	指定したグループの詳細を更新します。
タスク管理	タスクの作成	フォルダーにタスクを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	タスクの削除	指定したタスクを削除します。
	タスクを検索	現在のアカウントのすべてのタスクの詳細を取得します。
	タスクを更新	指定したタスクの詳細を更新します。
ユーザー管理	ユーザーの詳細を取得	指定したユーザーに関する情報を取得します。
	連絡先を検索	現在のアカウントのすべてのユーザーとユーザーグループの連絡先を取得します。
	ユーザーの詳細を更新	指定したユーザーの詳細を更新します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続情報および認証情報、および OAuth 認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。

スポークの設定については、「 Wrike スポークの設定。

Wrike スポークの設定

Wrike API Developer サイトで、カスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと Wrike アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Wrike スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

手順

1. アドミニストレーターとして Wrike アカウント にログインし、アプリを追加します。
   アプリを作成する方法の詳細については、「OAuth 2.0 Authorization (OAuth 2.0 認証) 」を参照してください。
2. 後で使用するために [クライアント **ID]** と [クライアント シークレット] の値をコピーして記録します。

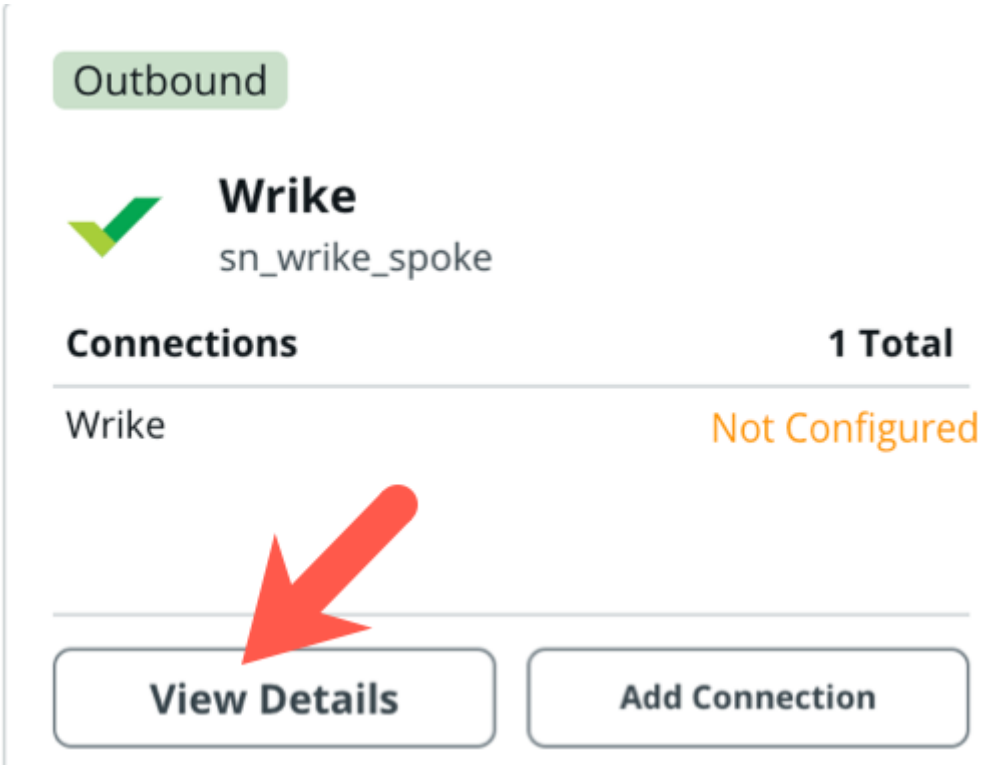
   > **注:** アプリを作成し、Wrike アカウントからクライアント ID とクライアントシークレットの値を取得するには、Wrike エンタープライズアカウントが必要です。

3. ServiceNow インスタンスにログインします。
4. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
5. [統合] を選択します。
6. [接続] タブを選択します。
7. [すべての接続を検索] フィールドに「`Wrike`」と入力します。

   > **注:** [送信] タブがデフォルトで選択されています。それ以外の場合は、切り替えて選択します。

8. [Wrike] 接続エイリアスタイルで、[詳細の表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

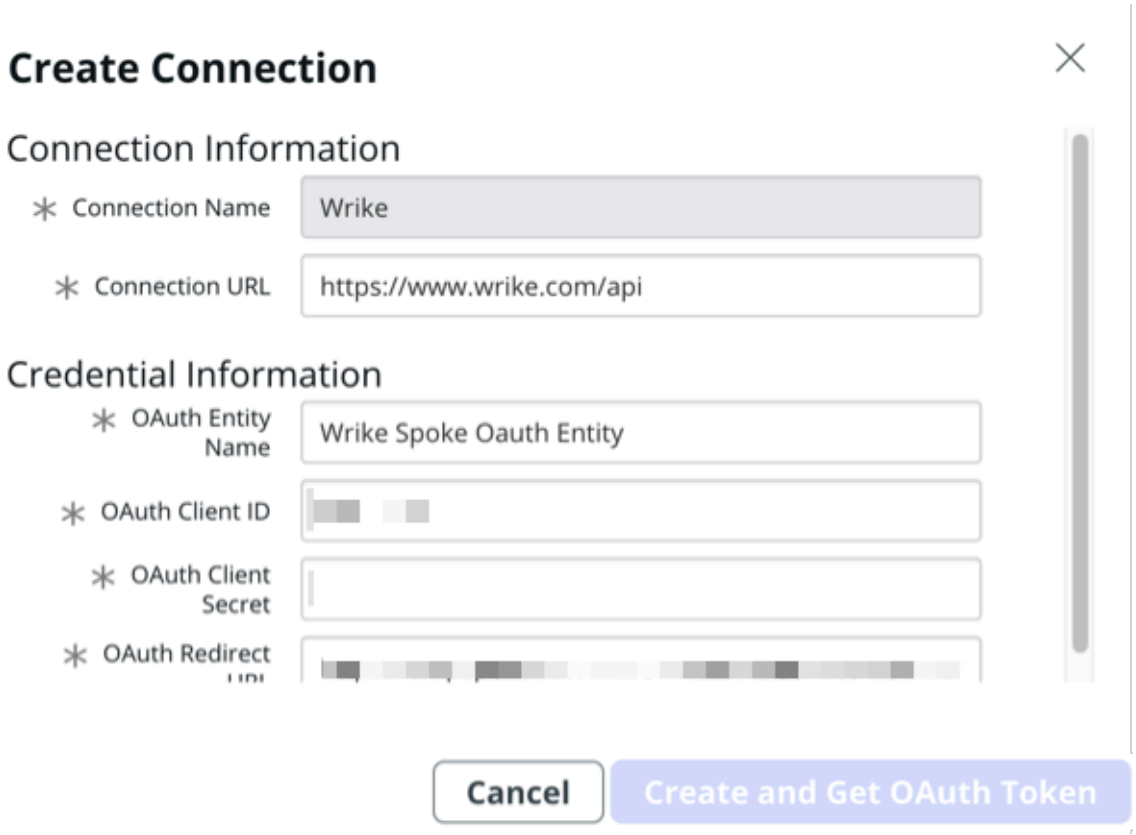


9. [構成 **(Configure)**] を選択します。
10. フォームに入力します。

接続フォームの作成

フィールド	説明
接続名	接続の名前。
接続 URL	Wrike ポータルの場所とアクセスの詳細を指定する Web アドレスを指定するオプション。
OAuth クライアント ID	OAuth アプリの設定時に生成した OAuth クライアント ID を指定するオプション。
OAuth クライアントシークレット	OAuth アプリの設定時に生成した OAuth クライアントシークレットを指定するオプション。
OAuth リダイレクト URL	OAuth アプリの設定時に指定したリダイレクト URL を指定するオプション。リダイレクト URL は `https://instance-name.service-now.com/oauth_redirect.do` 形式にする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



11. **[OAuth** トークンを作成して取得] を選択します。
    OAuth トークンを取得する前に、Wrike API 開発者のポータルにログインする必要があります。

X スポーク (旧 **Twitter** スポーク)

X スポーク (旧 Twitter スポーク) を使用して、プライベートチャットやグループチャットを行ったり、ServiceNow インスタンスから X アカウントのメッセージやメディアを自動的にツイートしたりできます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

X スポーク v2.2.1 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

API バージョン v1.1.

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

- X 開発者アカウント
- X API にアクセスするための X 開発者アプリ
- X 開発者アプリのアクセストークンとシークレット
- X 開発者アプリからのコンシューマーキーとシークレット

開発者アプリケーションを作成し、必要な情報を収集する手順については、X開発者 ドキュメントを参照してください。

スポークのアクション

X スポークでは、ServiceNow でイベントが発生したときにツイートを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

アクション	説明
ツイート	メッセージやメディアをツイートします。メッセージとメディアは X の制限に従ってツイートされます。 **注:** メディアをツイートする場合は、カスタムフローでこのアクションの前に [添付ファイルレコードを検索] アクションを使用して、必要なメディアを取得します。

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

X スポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して、ServiceNow インスタンスでタスクを実行する AI エージェントを提供します。AI エージェント の詳細については、「 Now Assist AI エージェント 」を参照してください。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

AI エージェント	説明
X ツイートマネージャー	この AI エージェントは、テキストを含む、構成した X ハンドルにツイートを投稿します。 **注:** この AI エージェントを使用する前に、有効な X ハンドルを構成する必要があります。

ユースケースで使用されていない AI エージェントが、Now Assist アプリケーションとともにインストールされている場合があります。利用可能なすべてのエージェントを表示する方法については、「Find AI agents (AI エージェントの検索) 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

注: X スポークには 2 つの接続および資格情報エイリアスレコードが必要です。メッセージのツイート用とメディアのツイート用にそれぞれ 1 つずつです。各エイリアスは、それぞれの X API に関連付ける必要があります。

スポークの設定については、「 X スポークの設定。

X スポークの設定

ServiceNow インスタンスを X アカウントと統合し、ServiceNow からの要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- X スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

X 開発者アカウントからトークンとシークレットの値を取得する

X 開発者アカウントでアプリを作成し、要求を認証するためのアクセストークン、アクセストークンシークレット、コンシューマーキー、コンシューマーシークレットの値を取得します。

始める前に

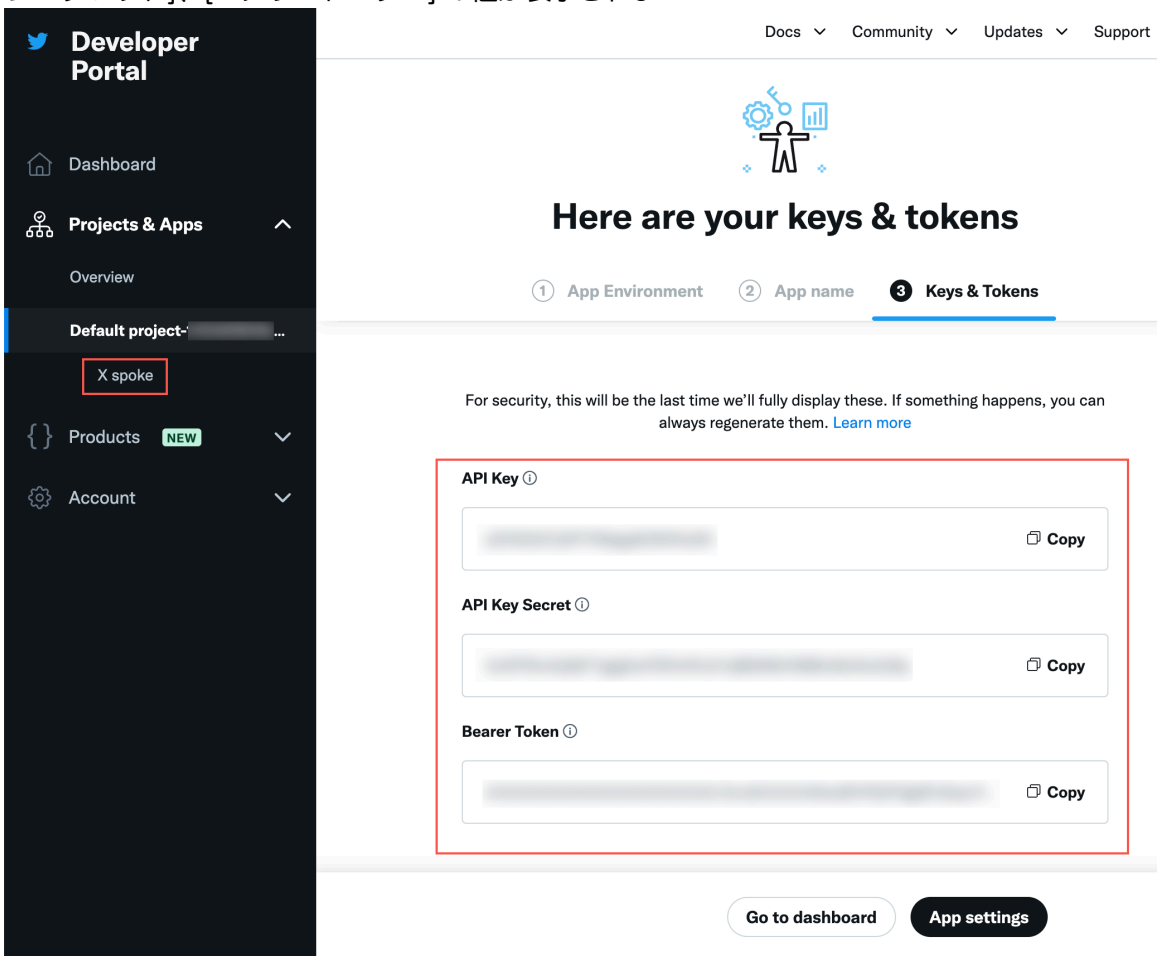
必要なロール：X 管理者

手順

1. [Developer Portal] - [Twitter Developer] - X (旧 Twitter) にログインします。
2. **[API** キー]、**[API** キーシークレット]、[ベアラートークン] の値を取得します。
   a. [プロジェクト **&** アプリ] > [デフォルトプロジェクト] に移動します。
   b. [アプリ] で、**[+** アプリを追加 **(Add app)]** をクリックします。
   c. [アプリ環境 **(App Environment)]**で、必要な環境を選択し、[次へ] をクリックします。
   d. [アプリ名] の [開発アプリ **(DEVELOPMENT APP)]** にアプリ名を入力し、[次へ] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[キー & トークン **(Keys & Tokens)]** の下に、**[API** キー]、**[API** キーシークレット]、[ベアラートークン] の値が表示されま



す。

e. 後で使用するためにこれらの値をコピーして記録します。

3. OAuth 1.0 に必要な権限を指定します。

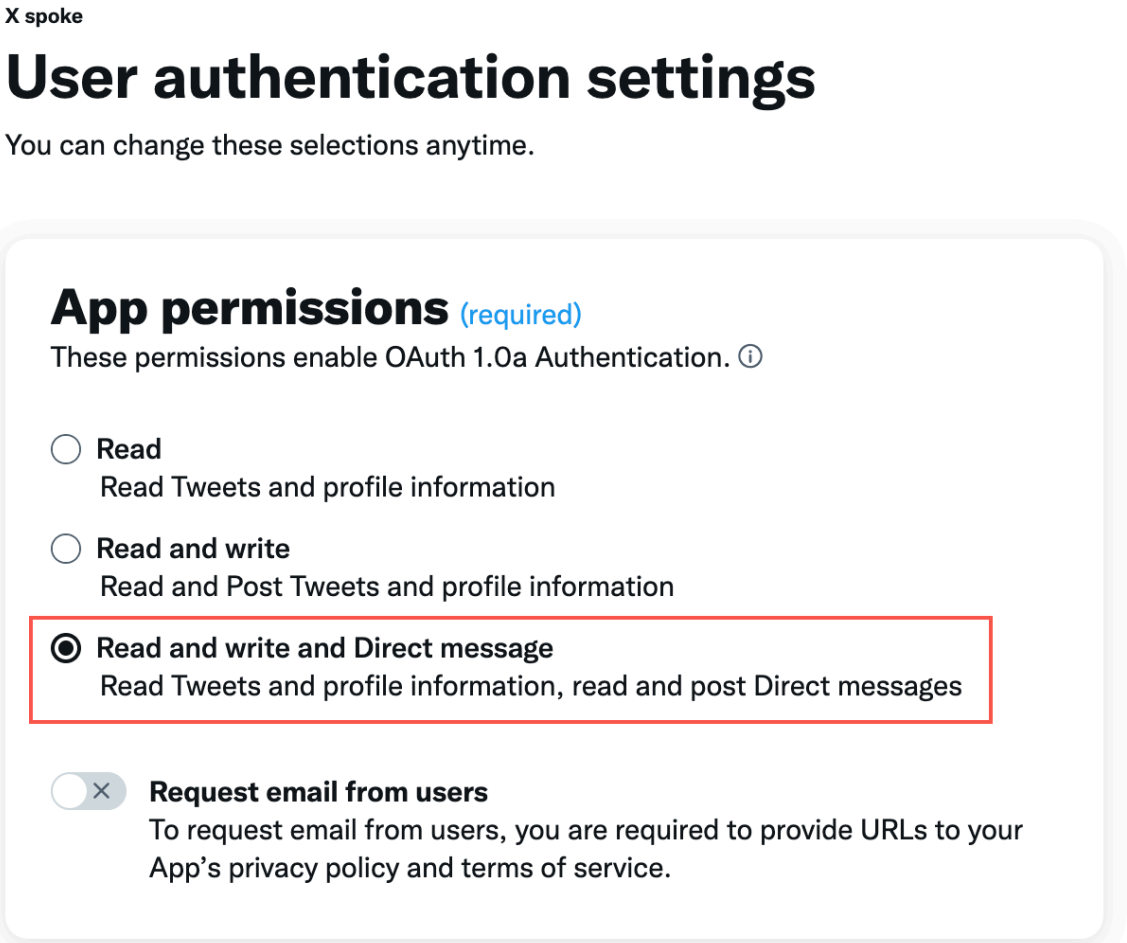
a. [プロジェクト **&** アプリ] > [デフォルトプロジェクト] に移動します。

b. 作成したアプリに移動します。

c. [設定]タブの [ユーザー認証設定 **(User authentication settings)]** で、[セットアップ] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. [ユーザー認証設定 (User authentication settings)] ページの [アプリの権限] で、[読み取りと書き込みとダイレクトメッセージ **(Read and write and Direct message)]** オプションを選択します。



e. [保存] をクリックします。
システムから権限の確認を求められます。

f. 後で使用するためにこれらの値をコピーして記録します。

g. [完了] をクリックします。

4. [アクセストークン] と [アクセストークンシークレット] の値をコピーします。

a. [プロジェクト & アプリ] > [デフォルトプロジェクト] に移動します。

b. 作成したアプリに移動します。

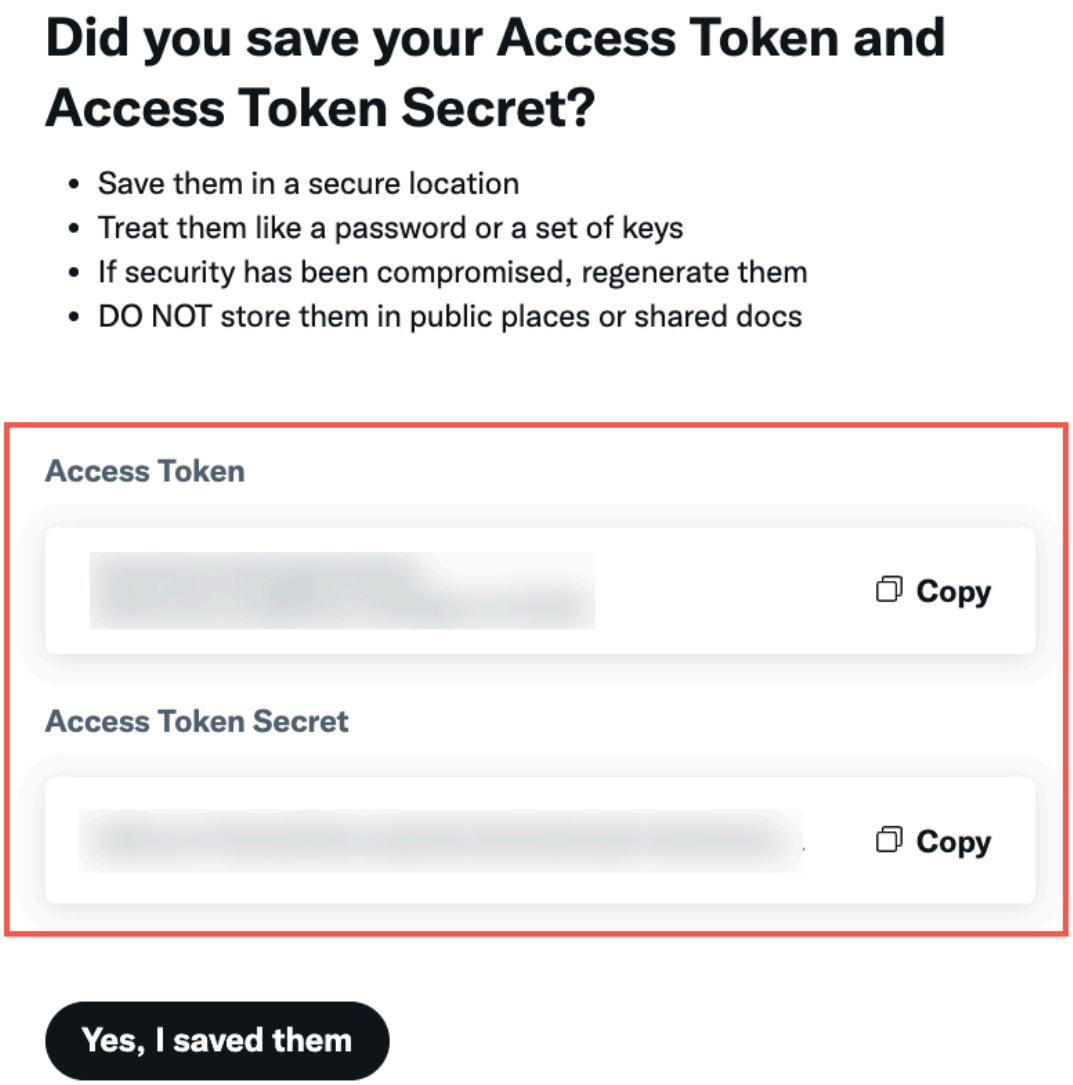
c. [キーとトークン **(Keys and tokens)]** タブをクリックします。

d. [認証トークン] で、[アクセストークンとシークレット] の [再生成] をクリックします。
確認するように求められます。

e. [はい、再生成します **(Yes, regenerate)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[アクセストークン] と [アクセストークンシークレット] の値が表示されま



す。

f. 後で使用するためにこれらの値をコピーします。

X スポーク (旧 Twitter スポーク) の接続の構成

X 接続を追加して構成し、X スポークで ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- X 開発者アプリのアクセストークンとアクセストークンシークレットです。
- X 開発者アプリのコンシューマーキーとコンシューマーシークレットです。
- [アプリケーションスコープ] が [X スコープ (X Spoke)] であることを確認します。
- 必要なロール：ServiceNow admin

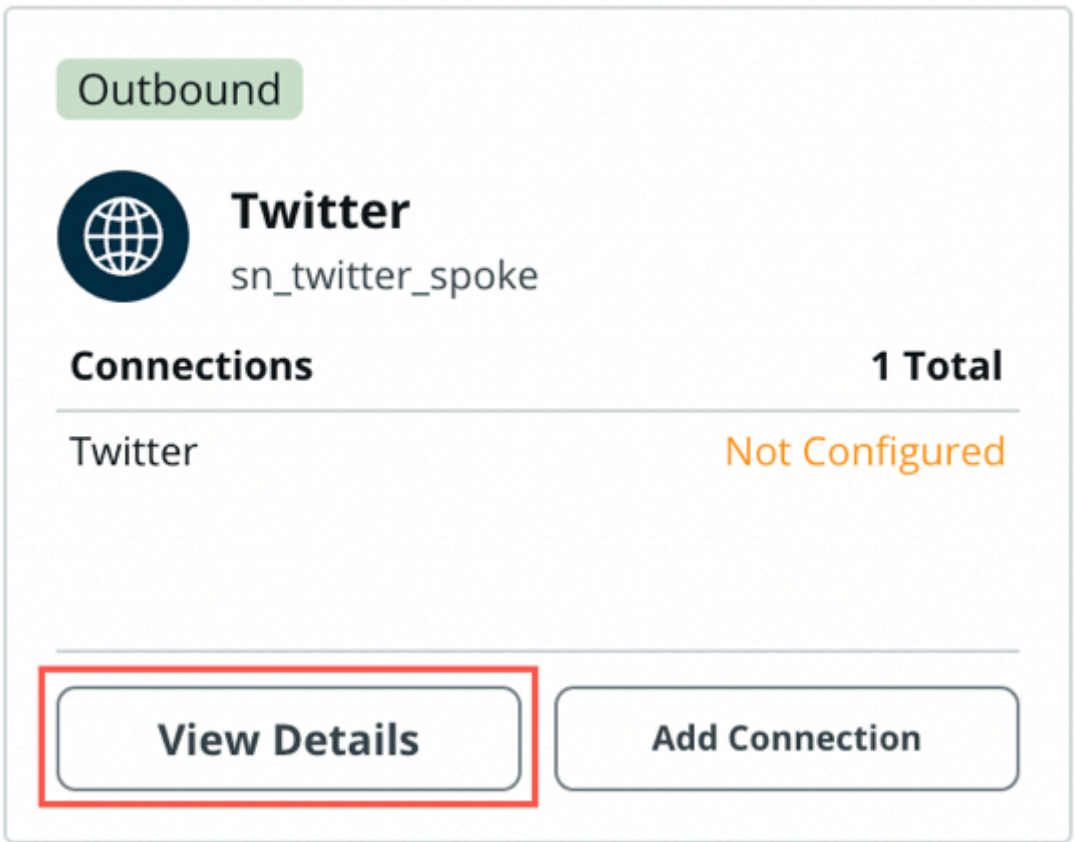
開発者アプリケーションを作成し、必要な情報を収集する手順については、X開発者 ドキュメントを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
フローデザイナーでは、**[Twitter]** と **[Twitter_Media]** の 2 つの接続が提供されます。これらの接続の両方を設定する必要があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブをクリックします。
3. [接続] タブを選択します。
4. [すべての接続を検索] フィールドに「`Twitter`」と入力します。
5. [Twitter] タイルで、[詳細を表示] を選択します。

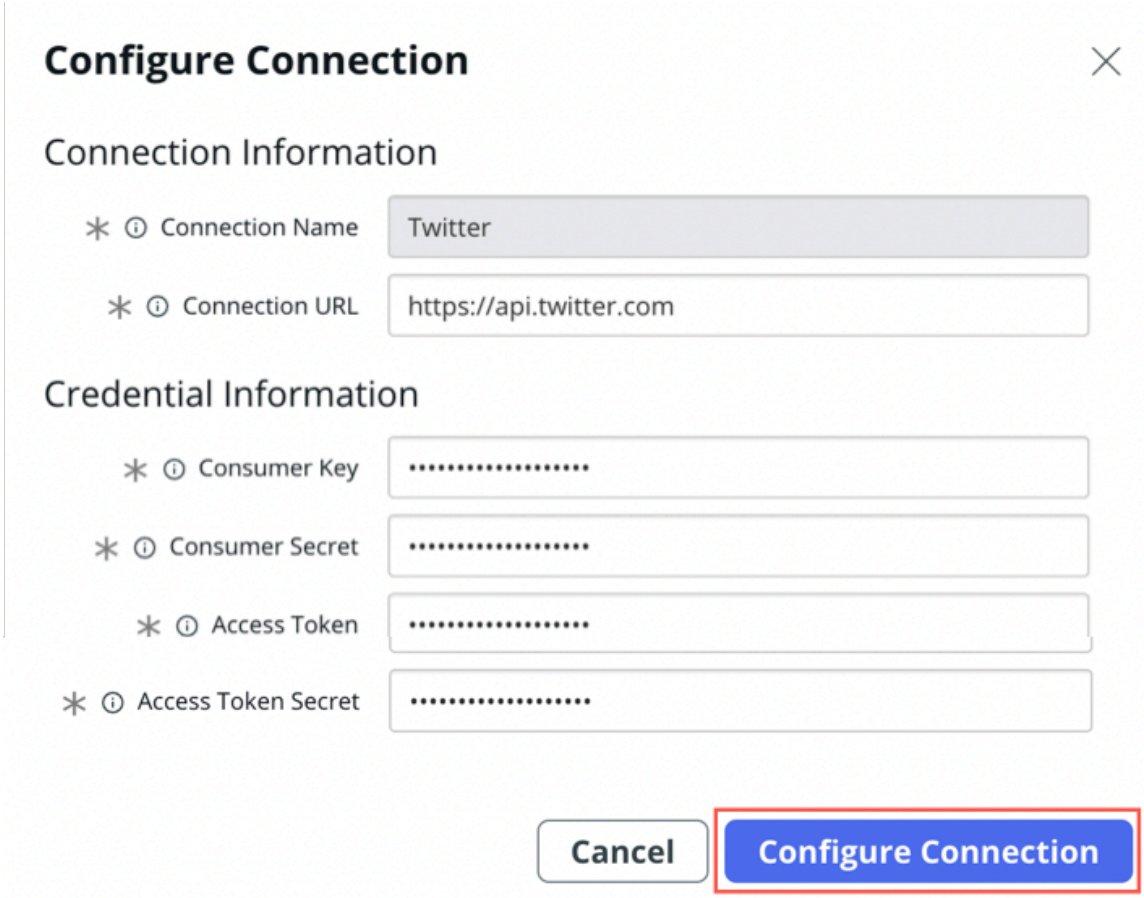


6. [構成 **(Configure)**] を選択します。
7. [接続を設定] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	Twitter 接続エイリアスレコードを識別するための名前です。
接続 URL	「`https://api.twitter.com`」と入力します。
コンシューマーキー	X開発者アプリのコンシューマーキーです。
コンシューマーシークレット	X開発者アプリのコンシューマーシークレットです。
アクセストークン	X 開発者アプリのアクセストークンです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アクセストークンシークレット	X開発者アプリのアクセストークンシークレットです。



8. [接続を作成] を選択します。
9. **[Twitter_Media]** 接続エイリアスを構成します。

   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。

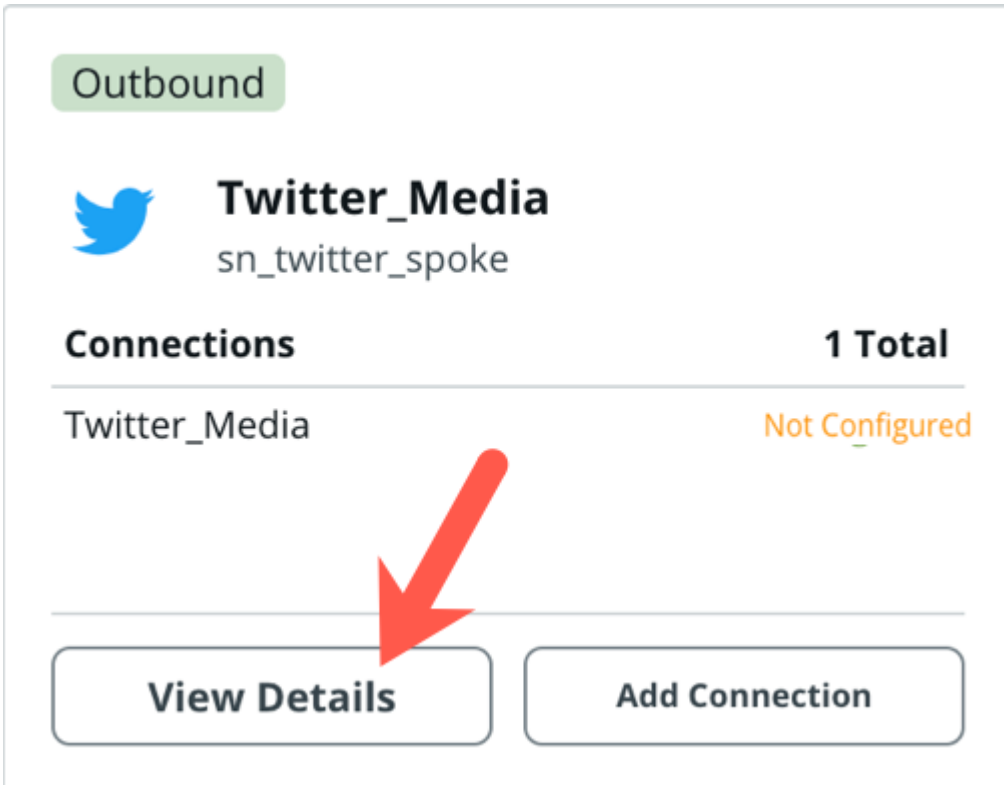
   b. [統合] タブをクリックします。

   c. [接続] タブを選択します。

   d. [すべての接続を検索] フィールドに「`Twitter_Media`」と入力します。

   e. [Twitter_Media] タイルで、[詳細を表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

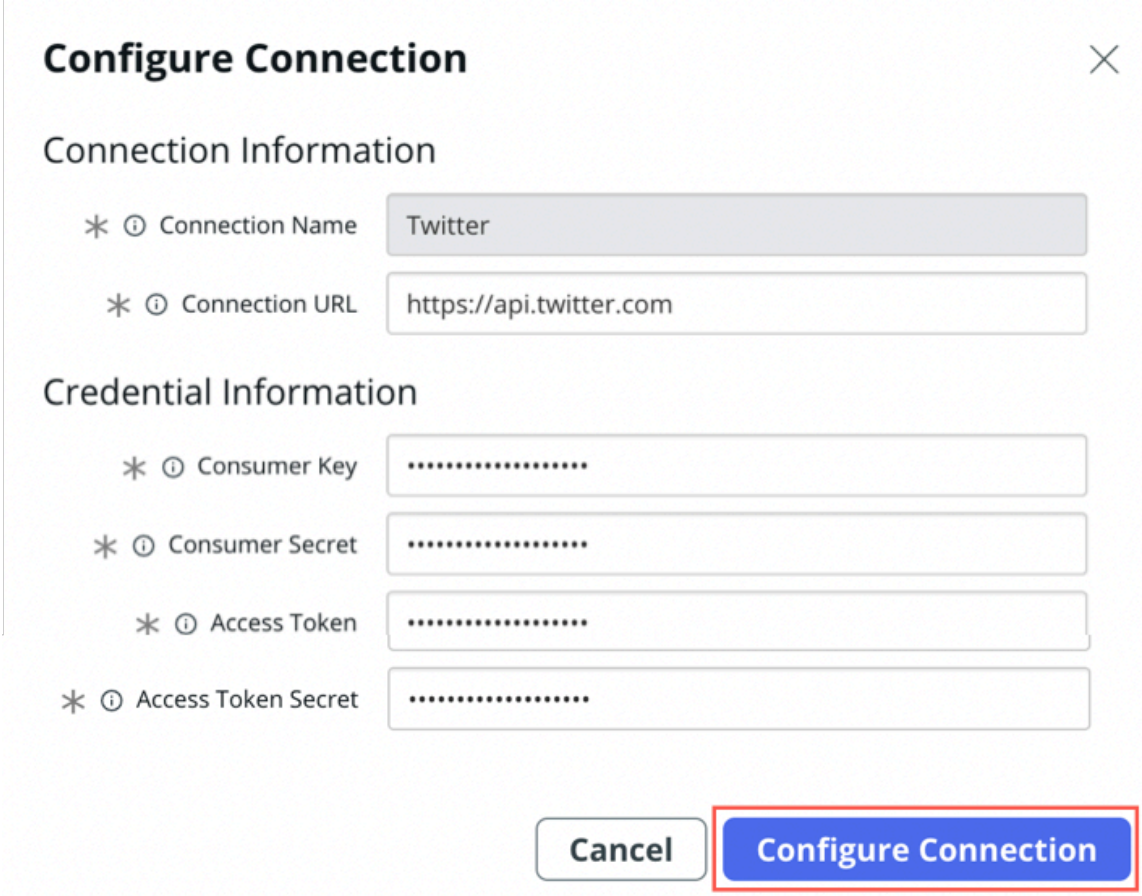


f. [構成 **(Configure)]** を選択します。

g. [接続を作成] フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
接続名	Twitter 接続エイリアスレコードを識別するための名前です。
接続 URL	「`https://upload.twitter.com`」と入力します。
コンシューマーキー	X開発者アプリのコンシューマーキーです。
コンシューマーシークレット	X開発者アプリのコンシューマーシークレットです。
アクセストークン	X 開発者アプリのアクセストークンです。
アクセストークンシークレット	X開発者アプリのアクセストークンシークレットです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



h. [接続を作成] を選択します。

YouTube スポーク

ServiceNow インスタンスから YouTube アカウントでビデオ、チャネル、サブスクリプション、およびプレイリストを管理し、またアナリティクスと統計にアクセスします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

スポークバージョン

YouTube スポーク v1.0.4 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

このスポークは、次のYouTubeバージョン用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Reporting API バージョン v1
- Data API バージョン v3
- Analytics API バージョン v2

YouTube スポークの要件

YouTubeスポークには、 Google Cloud Platformで作成したカスタムアプリが必要です。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow フローデザイナー：動的入力 (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- ServiceNowIntegrationHub アクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
- ServiceNowIntegrationHub アクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのアクション

YouTube スポークでは、Now Platform でイベントが発生したときに YouTube タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
分析	視聴者維持率の統計情報	視聴者維持率の統計に関する情報を取得します。
	基本的な統計情報	基本的な統計に関する情報を取得します。
	人口統計	人口統計に関する情報を取得します。つまり、視聴者の年齢、性別、地理的な場所に関する詳細です。
	デバイス/OS 統計情報	視聴者がコンテンツにアクセスするデバイスに関する情報を取得します。
	国コード (メタデータ) を取得	国とその ISO コードの詳細を取得します。 **注:** このアクションはメタデータアクションです。
	トラフィックソース統計	さまざまなトラフィックソースに関する情報を取得します。
キャプション	キャプションを削除	ビデオのキャプションを削除します。
	キャプションを検索	ビデオのキャプションに関する情報を取得します。
コメント	コメントを削除	ビデオの指定したコメントを削除します。
	コメントを検索	コメントスレッドのトップレベルのコメントに関する詳細を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	コメントを投稿	ビデオに関するトップレベルのコメントを投稿します。
	コメントに返信	ビデオに関するトップレベルのコメントへの返信を投稿します。
グループ	グループの作成	ビデオ、チャネル、またはプレイリストのグループを作成します。
	グループを削除	指定したグループを削除します。
	グループアイテムを削除	指定したグループアイテムを削除します。
	アイテムをグループに挿入	指定したグループにアイテムを挿入します。
	グループアイテムを検索	グループ内のすべてのアイテムに関する情報を取得します。
	グループを検索	指定したグループに関する情報を取得します。
プレイリスト	プレイリストを作成	YouTube アカウントにプレイリストを作成します。
	プレイリストを削除	YouTube アカウントからプレイリストを削除します。
	プレイリストアイテムを削除	指定したプレイリストアイテムを削除します。
	プレイリストに挿入	指定したプレイリストにアイテムを挿入します。
レポート	レポートジョブを作成	YouTube アカウントにレポートジョブを作成します。YouTube は要求されたレポートを 24 時間以内に生成します。
	レポートタイプの選択肢 (メタデータ) を取得	レポートタイプリストに関する情報を取得します。
	レポートを検索	ジョブに対して生成されたレポートに関する情報を取得します。
	レポートを表示	CSV 形式のレポートでデータを取得します。
サブスクリプション	サブスクリプションを検索	指定したサブスクリプションに関する情報を取得します。
	チャネルに登録	必要なチャネルに登録します。
	チャネルを登録解除	必要なチャネルを登録解除します。
ビデオ	ビデオを削除	アップロードされたビデオを削除します。
	ビデオを検索	指定したビデオに関する情報を取得します。
	ビデオを検索	指定した複数のビデオに関する情報を取得します。
	ビデオを評価/評価解除	指定されたビデオに「いいね」または「よくないね」を付けます。また、ビデオの以前の評価を削除します。
	検索	必要なビデオ、チャネル、またはプレイリストを検索します。
	サムネイルをビデオに設定	アップロードされたビデオのサムネイル画像を設定します。
	ビデオメタデータを設定	ビデオのメタデータを設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ビデオをアップロード	YouTube のチャネルにビデオをアップロードします。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 YouTube スポークの設定。

YouTube スポークの設定

Google Cloud Platform にカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと YouTube アカウントを統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- YouTube スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

YouTube アプリケーションの構成

Google Cloud Platform アカウントでカスタム OAuth アプリケーションを作成し、YouTube スポークで OAuth 2.0 認証を有効にします。

始める前に

必要なロール：admin。

このタスクについて

「Google Cloud プロジェクトを作成する」手順を Google Cloud Platform で実行します。カスタムアプリケーションを作成および構成する方法については、「プロジェクトの作成および管理」の製品ドキュメントを参照してください。

手順

1. 新しいカスタムアプリケーションを登録して開きます。
   a. https://console.cloud.google.com に移動します。
   b. アドミン認証情報でプロジェクトを作成します。
   c. プロジェクトを開きます。
2. OAuth 認可済みドメイン名を指定します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、**[OAuth 同意画面 (OAuth consent screen)]** を選択します。
   b. アプリケーション名を入力します。
   c. 認可済みドメイン `service-now.com` を指定します。
   d. [保存] をクリックします。
3. 認証情報を作成します。
   a. [API とサービス (APIs & Services)] メニューから、[認証情報] を選択します。
   b. [認証情報の作成] リストから、**[OAuth クライアント ID の作成 (Create OAuth client ID)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. アプリケーションタイプ **[OAuth** クライアント **ID]** を選択します。
5. 承認済みのリダイレクト **URI** `https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do` を入力して、[作成] をクリックします。
6. クライアント ID とクライアントシークレットをテキストファイルにコピーして、OAuth プロバイダーとして YouTube を登録を行うときに使用できるようにします。

> **ヒント:** Google API とサービスインターフェイスで [認証情報] をクリックし、OAuth 2.0 クライアント ID 名を選択して、クライアント ID とシークレットにいつでもアクセスできます。

OAuth プロバイダーとして YouTube を登録

YouTube アプリケーションの構成中に生成された情報を使用し、YouTube を OAuth プロバイダーとして登録して、ServiceNow インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. レコード **YouTube**を開きます。
3. フォームに、次の値を入力します。

アプリケーションレジストリフォーム

フィールド	説明
クライアント ID	YouTube アプリケーションのクライアント ID
クライアントシークレット	YouTube アプリケーションのクライアントシークレット
リダイレクト URL	次の形式で OAuth コールバックエンドポイントを入力します：`https://<instance>.service-now.com/oauth_redirect.do`。

4. これらのスコープが **[OAuth** エンティティスコープ] タブで使用できることを確認します。

名前	**OAuth** スコープ
YouTube パートナー	`https://www.googleapis.com/auth/youtubepartner`
YouTube Reporting S1	`https://www.googleapis.com/auth/yt-analytics.readonly`
YouTube Reporting S2	`https://www.googleapis.com/auth/yt-analytics-monetary.readonly`
YouTube スコープ	`https://www.googleapis.com/auth/youtube`
YouTube スコープ強制 SSL	`https://www.googleapis.com/auth/youtube.force-ssl`

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

YouTube スポークの認証情報レコードを作成する

YouTube アプリケーションの認証情報レコードを作成します。YouTube スポーク接続および資格情報エイリアスでは、これらの認証情報を使用してアクションを許可します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [接続および認証情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. YouTube スポークのレコードを開きます (例：`YouTube`)。
3. [認証情報] タブで、[新規] をクリックします。
4. **[OAuth 2.0** 認証情報] を選択します。
5. 認証情報の一意の名前を入力します (例： `Yousub_Cred`)。
6. **OAuth** エンティティプロファイル検索アイコン ( ) をクリックして、OAuth プロバイダーとして YouTube サービスを登録したときに設定した OAuth アプリケーションレジストリ名を持つプロファイルを選択します。
   詳細については、「OAuth プロバイダーとして YouTube を登録」を参照してください。
7. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
8. **[OAuth** トークンを取得 **(Get OAuth Token)]** をクリックします。

Zendesk スポーク

Zendesk スポークは、Zendesk ソフトウェアサブスクリプションの有意義な使用状況データを表示および分析するアクションを提供します。Zendesk アカウントの使用状況を分析して古いライセンスを特定することで、これらのライセンスを再利用して見込まれる節減を実現できるようにします。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「 ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート 」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要 」を参照てください。

スポークバージョン

Zendesk スポーク v1.7.0 が最新バージョンです。

サポート対象のバージョン

このスポークは Zendesk バージョン 11015 用にビルドされていますが、それ以降のバージョンと互換性がある可能性があります。

スポークの要件

Zendesk アドミンアカウント

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブ Runtime (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブ Action Step - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - データストリーム (com.glide.hub.action_type.datastream)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

スポークのフロー

Zendesk スポークが提供する Zendesk チケットのアップサートフローは、Zendesk チケットテーブルで新しいチケットが作成されたかどうか、または既存のチケットが更新されたかどうかをチェックして、それに応じて Zendesk に同期します。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。

スポークのサブフロー

Zendesk スポークでは、 タスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
Zendesk Webhook を作成	Webhook レジストリ [sn_zendesk_spoke_webhook_registries] テーブルから要求を受信すると、Zendesk に Webhook を作成します。
Zendesk Webhook を処理	Zendesk で発生した変更に基づいて、Zendesk チケットテーブルでレコードを挿入および更新します。
Zendesk Webhook を更新	Webhook トークンを更新し、ServiceNow と Zendesk の両方で同期します。

スポークのアクション

Zendesk スポークでは、ServiceNow インスタンスでイベントが発生したとき、Zendesk タスクを自動化するアクションが提供されます。使用可能なアクションは次のとおりです。

カテゴリ	アクション	説明
アクティビティ管理	アクティビティストリームを検索	チケットアクティビティの詳細を取得します。チケットアクティビティには、エージェントへのチケットの割り当て、エージェントに割り当てられたチケットの優先度の引き上げ、エージェントに割り当てられたチケットへのコメントの追加が含まれます。
	アクティビティを ID で検索	指定されたチケットアクティビティの詳細を取得します。アクティビティには、エージェントへのチケットの割り当て、エージェントに割り当てられたチケットの優先度の引き上げ、エージェントに割り当てられたチケットへのコメントの追加が含まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
添付ファイル管理	添付ファイルを ID で検索	添付ファイル ID の値で添付ファイルの詳細を取得します。
	添付ファイルのアップロード	添付するファイルをアップロードします。
グループ管理	ID でグループを検索	指定されたグループに関する情報を取得します。
	グループストリームを検索	アカウント内のすべてのグループのリストを取得します。
組織管理	ID で組織を検索	指定された組織に関する情報を取得します。
	組織のストリームを検索	すべての組織のリストを取得します。
要求管理	要求を作成	1 つ以上のプロパティを設定して要求を作成します。
	コメントを ID で検索	要求 ID とコメント ID に対応する要求に追加されたコメントを取得します。
	要求 ID ストリームでコメントを検索	入力を介して送信した要求 ID に関連する要求に追加されたコメントを取得します。
	ID で要求を検索	要求 ID の値で要求の詳細を取得します。
	組織の ID ストリームで要求を検索	要求者 ID に対応するアカウントのすべての要求を取得します。
	要求者 ID ストリームで要求を検索	要求者 ID に対応するアカウントのすべての要求を取得します。
	要求ストリームを検索	要求のステータスに基づいて、アカウント内のすべての要求を取得します。
	要求を ID で更新	コメントまたは協力者 (cc) で要求を更新します。
ロール管理	ID でカスタムロールを検索	指定されたカスタムロールに関する情報を取得します。
	カスタムロールを検索	エンタープライズアカウント内のすべてのカスタムロールのリストを取得します。
検索	パラメーターストリームでエ	クエリに関連するアカウント内のすべてのチケット、要求、およびユーザーを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
	ンティティを検索	
	要求をキーワードストリームで検索	検索文字列に関連する、アカウントのすべての要求を取得します。
一時停止チケット管理	複数の一時停止されたチケットを ID で削除	複数の一時停止されたチケットを削除します。一時停止されたチケット ID のリストを指定する必要があります。
	ID で一時停止チケットを削除	特定の一時停止チケットを削除します。
	一時停止されたチケットを ID で検索	ID で特定の一時停止チケットを検索します。
	一時停止されたチケットストリームを検索	一時停止されたチケットの詳細を取得します。
	一時停止されたチケットを ID で復旧	指定された一時停止チケットの詳細を復旧します。
チケット監査	監査を ID で検索	監査に固有のチケットの監査の詳細を取得します。
	監査ログを ID で検索	監査に固有のチケットの監査ログの詳細を取得します。
	監査ログストリームを検索	Zendesk アカウントの作成以降からのアカウントのさまざまな変更を表示する監査ログを取得します。
	監査ストリームを検索	すべてのチケットの監査リストを取得します。
	チケット監査ストリームを検索	指定されたチケット監査を取得します。
	監査をプライベートとして更新	監査に固有のチケットのコメントを公開から非公開に更新します。
チケットコメント管理	チケット ID ストリームでコメントを検索	指定されたチケットに追加されたコメントを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
チケット管理	複数のチケットを作成	指定された詳細を持つ複数のチケットを一度に作成します。
	チケットを作成	Zendesk インスタンスでチケットを作成します。
	非同期チケットを作成	Zendesk インスタンスでチケットを作成します。複雑なビジネスルールが原因でチケット作成に時間がかかる場合があります。非同期作成を使用すると、応答をすばやく取得し、実際の作業を行うバックグラウンドジョブをキューに入れることができます。
	ジョブステータスを ID で検索	ジョブの開始時に作成されたステータスレコードを取得します。
	複数のチケットストリームを検索	複数のチケットの詳細を取得します。
	チケットを ID で検索	指定されたチケットの詳細を取得します。
	チケットストリームを検索	チケットプロパティを取得します。
	複数の一時停止されたチケットを ID で復旧	指定された一時停止チケットを復旧します。
	複数のチケットを更新	複数のチケットの詳細を更新します。
	チケットを更新	チケットの指定されたプロパティを更新します。
チケットメトリクス管理	メトリクスを ID で検索	特定のメトリクス、またはチケットの必要なメトリクスを取得します。
	メトリクスをチケットを ID で検索	指定されたチケットのメトリクス詳細を取得します。
	チケットメトリクスイベントストリームを検索	開始時間以降に発生したチケットメトリクスイベントを取得します。
	チケットメトリクスストリームを検索	チケットのリストを、メトリクスとともに取得します。
ユーザー管理	ユーザーを削除	指定したユーザーと関連レコードをアカウントから削除します。削除されたユーザーは復元できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	アクション	説明
		一般データ保護規則 (GDPR) に準拠するには、追加の [ユーザーを完全に削除] アクションを使用して、ユーザーを削除した後に完全にユーザーを削除する必要があります。
	ユーザーを作成	指定された詳細を使用してユーザーを作成します。
	削除済みユーザーストリームを検索	アカウント内の完全に削除されたユーザーを含む、すべての削除済みユーザーのリストを取得します。
	ID でユーザーを検索	指定されたユーザーの詳細を取得します。
	ユーザーストリームを検索	アカウント内のすべてのユーザーのリストを取得します。
	ユーザーを完全に削除	指定されたユーザーをアカウントから完全に削除します。 ユーザーを完全に削除する前に、[ユーザーを 削除] アクションを使用してユーザーを削除する必要があります。
	ユーザーを更新	指定されたユーザーの詳細を変更します。
Webhook 管理	Webhook を作成	指定された詳細で Webhook を作成します。
	Webhook を削除	指定された Webhook を削除します。
	ID でウェブフックの詳細を検索	指定された Webhook の詳細を取得します。
	Webhook 署名シークレットを ID で検索	必要な Webhook の署名シークレットを取得します。
	Webhook ストリームを検索	利用可能なすべての Webhook の詳細を取得します。
	ID で Webhook の署名シークレットをリセット	指定された Webhook の署名シークレットをリセットします。
	Webhook を更新	指定された Webhook の詳細を更新します。

注: このスポークにあるのは、[ユーザーを検索] アクションと ソフトウェア資産管理 関連アクションのみです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Integration Hub インポート

Zendesk スポークは、Import Zendesk Users Integration Hub インポートを ServiceNow インスタンスに追加します。Integration Hub インポートは、Zendesk アカウントから ServiceNow インスタンスにユーザーデータを自動的にインポートするのに役立ちます。Integration Hub インポートの詳細については、「統合ハブ - インポート」を参照してください。

スポークモジュール

Zendesk スポークは Zendesk スポークアプリケーションを ServiceNow インスタンスに追加します。Zendesk スポークアプリケーションには次のモジュールが含まれています。

モジュール	説明
ユーザー	Zendesk ユーザーの詳細を保存します。これらの詳細は、Import Zendesk Users Integration Hub インポートを使用してインポートされます。
リモートテーブル	
要求	指定された要求者が出した要求の詳細を取得して表示します。これには、[要求者 **ID**] の値を指定する必要があります。
Webhook	
Webhook レジストリ	Webhook レジストリを保存します。Webhook レジストリは、ServiceNow に Zendesk Webhook を登録して、Zendesk で特定のイベントが発生したときに ServiceNow に通知します。
ルーティングポリシー	Webhook の詳細を保存します。
チケット	Zendesk で作成または更新されたチケットの詳細を保存します。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

スポークの設定については、「 Zendesk スポークの設定。

Zendesk スポークの設定

Zendesk でカスタム OAuth アプリケーションを作成して ServiceNow インスタンスと Zendesk を統合し、ServiceNow 要求を認証します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Zendesk スポークをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ZendeskOAuth クライアントを作成

ZendeskAPI 要求を認証するための OAuth クライアントを作成します。

始める前に
必要なロール：adminZendesk

手順

1. Web ブラウザーから、 Zendesk を開きます。
2. アドミン認証情報を使用してログインします。
   Zendeskエージェントワークスペースが開きます。
3. Zendesk エージェントワークスペースの左側のナビゲーションメニューで、管理アイコン (⚙) を選択します。
   [アドミン] メニューが開きます。
4. [アドミン] メニューから、[チャネル] > **[API]**に移動します。
   [Zendesk API] ページが開きます。
5. **[OAuth** クライアント] タブを選択し、**[OAuth** クライアントの追加] をクリックします。
6. [新しい OAuth クライアントの作成] フォームが開きます。
7. フォームのフィールドに入力します。

[新しい **OAuth** クライアントの作成] フォーム

フィールド	説明
クライアント名	OAuth クライアントの名前です。
説明	OAuth クライアントの簡単な説明。
会社	OAuth クライアントが Zendesk API を介してデータへのアクセスを許可する会社の名前。会社名は、 Zendesk API 要求の認証時に表示されます。 このフィールドは、 Zendesk アカウントが関連付けられている会社に基づいて自動的に入力されます。ただし、会社名は必要に応じて変更できます。
ロゴ	Zendesk API 要求の認証時に表示されるロゴ。緑色の四角をクリックして、表示するロゴを見つけて選択します。
一意の識別子	OAuth クライアントの一意の識別子。このフィールドは、[クライアント名] フィールドで指定した OAuth クライアント名に基づいて自動的に入力されます。ただし、必要に応じて一意の識別子を変更できます。 注: 一意の識別子は Zendesk コードでのみ使用されます。
リダイレクト URL	認証後にユーザーがリダイレクトされる OAuth プロバイダーの URL。`https://instance.service-now.com/oauth_redirect.do` と入力します。<*instance*> はServiceNowインスタンスの名前です。

8. [保存] をクリックします。
   [表示されるシークレットを保存してください (Please store the secret that will appear)] ダイアログボックスが開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. ダイアログボックスで、**[OK]** をクリックします。
   ダイアログボックスが閉じ、フォームが再ロードされます。
10. [シークレット] フィールドの値をコピーします。
    後で使用できるように安全な場所に保存してください。

Zendesk接続を作成

インスタンスがアプリケーションからユーザーデータを取得できるように、Zendesk アプリケーションと ServiceNow インスタンスの間に接続を作成します。

始める前に

必要なロール：ServiceNow admin

手順

1. ServiceNowインスタンスで、[プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
   フローデザイナーが新しいタブで起動します。
2. [接続] タブを選択します。
3. Zendesk 接続を見つけて、[接続を追加] をクリックします。
   [接続を作成] ダイアログボックスが開きます。
4. ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

[接続を作成] ダイアログボックス

フィールド	説明
接続情報	
接続名	Zendesk接続の名前です。このフィールドは、自動的に入力されます。
接続 URL	接続の URL。`https://<subdomain>.zendesk.com` と入力します。<*subdomain*> は組織のサブドメインです。
認証情報	
OAuth クライアント ID	Zendesk OAuth クライアントの一意の識別子。ZendeskOAuth クライアントを作成 で指定したものと同じ一意の識別子を入力します。
OAuth クライアントシークレット	ZendeskOAuth クライアントに割り当てられているシークレット。ZendeskOAuth クライアントを作成 でコピーしたものと同じシークレットを入力します。
OAuth リダイレクト URL	認証後にユーザーがリダイレクトされる OAuth プロバイダーの URL。このフィールドは、ZendeskOAuth クライアントを作成で指定したリダイレクト URL に基づいて自動的に入力されます。

5. **[OAuth** トークンを作成して取得] クリックします。
   Zendesk [OAuth 認証] ダイアログボックスが開きます。
6. ダイアログボックスで、 [許可] をクリックします。
   OAuth アクセストークンは、Zendesk 接続を許可するために使用できるようになります。
7. ServiceNow インスタンスで、OAuth エンティティプロファイルスコープを追加します。

   a. [システム **OAuth]** > [アプリケーション レジストリ] へ移動します。

   b. Zendesk スポークのレコードを開きます。たとえば、**[Zendesk OAuth]** です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. **[OAuth** エンティティプロファイル] タブで、デフォルトのレコードを開きます (例：**Zendesk.OAuthProfile**)。

d. これらの値を使用して新しい行を挿入します。

フィールド	値
OAuth エンティティスコープ	users:write read
OAuth スコープ	write read

Webhook の設定

ServiceNowコールバック URL でZendeskを登録するための Webhook を設定します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow に Zendesk Webhook を登録して、Zendesk で特定のイベントが発生したときに ServiceNow に通知します。

   a. アドミニストレーターとして ServiceNow インスタンスにログインします。

   b. **[Zendesk** スポーク] > **[Webhook** レジストリ]に移動します。

   c. [新規] をクリックします。

   d. [名前] に Webhook レジストリレコードを識別するための名前を入力します。

   e. [トークンを生成] 関連リンクをクリックします。
   シークレットトークンが生成され、表示されます。この値は [トークン] でも更新されます。

   f. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。

   g. **[Webhook** を作成] をクリックします。
   Webhook の作成が開始され、**[Webhook ID]** の値が入力されたことを示す確認メッセージが表示されます。

2. Zendesk アカウントで、チケットが作成または更新されるたびに実行されるイベントベースのルールを設定します。

   a. Zendesk アカウントにログインします。

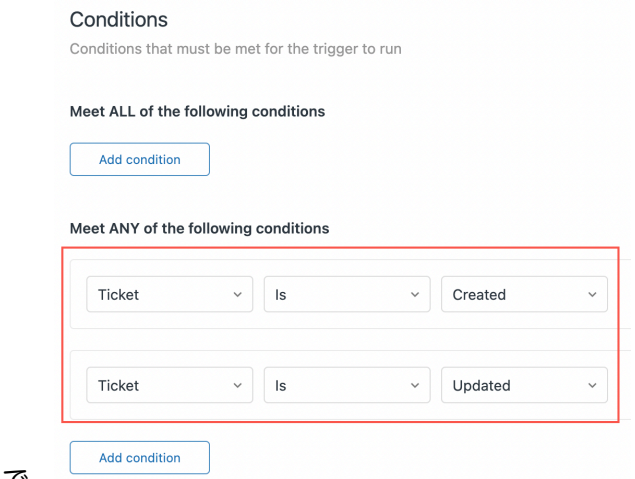
   b. Zendesk アドミンセンターに移動します。

   c. [オブジェクトとルール **(Objects and rules)]** > [ビジネスルール] > [トリガー]に移動します。

   d. [トリガーを追加] をクリックします。

   e. フォームに、これらの値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
トリガー名	トリガーを識別する名前です。
カテゴリ	必要なイベントカテゴリです。[チケット] を選択します。
条件	トリガー条件です。 [次のいずれかの条件を満たすこと **(Meet ANY of the following conditions)**]  で、 を指定します。

アクション	[通知] の [アクティブな **Webhook** に通知 **(Notify active webhook)**] を選択し、ServiceNow Webhook を選択します。
	
	[JSON 本文 **(JSON body)]** に、次のように入力します。
	`{`
	`"id":"{{ticket.id}}",`
	`"priority":"{{ticket.priority}}",`
	`"status":"{{ticket.status}}",`
	`"subject":"{{ticket.title}}",`
	`"description":"{{ticket.description}}",`
	`"due_at":"{{ticket.due_date}}",`
	`"requester":"{{ticket.requester.name}}"`
	`}`

f. [作成] をクリックします。
トリガーが作成されたことを示す確認メッセージが表示されます。

タスクの結果
Webhook がセットアップされました。Zendesk でチケットが作成または更新されると、詳細が ServiceNow インスタンスに保存されます。ServiceNow インスタンスで Zendesk チケットにアクセスするには、 **[Zendesk** スポーク] > **[Webhook]** > [チケット]に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Zoom スポーク

ServiceNow インスタンスの Zoom スポーク を使用して Zoom 件の会議を作成および管理します。このスポークを使用すると、参加者の追加、詳細の取得、会議の終了または削除、または会議参加者の詳細の取得を行うことができます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

スポークバージョン

Zoom スポークv4.2.0 が最新バージョンです。

サポートされているバージョン

Zoom API バージョン v2.0。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、以下の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - REST (com.glide.hub.action_step.rest)
- ServiceNow フローデザイナー - Dynamic Inputs (com.glide.hub.dynamic_inputs)
- Key Management Framework (com.glide.kmf.global)
- NOW Platform Encryption (com.glide.now.platform.encryption)
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- Complex Object (com.glide.cobject)

スポークのフロー

このスポークにはサンプルフローがありません。

スポークのサブフロー

Zoom スポークは、会議、録画、ウェビナー、およびユーザーに関連する受信イベントを処理するためのサンプルサブフローを提供します。次の表に、利用可能なサンプルサブフローを示します。

スポークのサブフロー

サブフロー	説明
Zoom プロセス会議イベント	Zoom 会議 Webhook イベントを処理します。
Zoom プロセス録画イベント	Zoom 録画 Webhook イベントを処理します。
Zoom プロセスユーザーイベント	Zoom ユーザー Webhook イベントを処理します。
Zoom プロセスウェビナーイベント	Zoom ウェビナー Webhook イベントを処理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークモジュール

Zoom スポーク は Zoom アプリケーションをインスタンスに追加し、以下のモジュールを含めます。

スポークモジュール

モジュール	説明
電話番号	Zoom 電話番号のリストを表示します。
Zoom Webhook レジストリ	Zoom に関連付けられている Webhook レジストリーのリストを表示します。

スポークのアクション

Zoom スポーク は、Now Platform でイベントが発生したときに Zoom タスクを自動化できるようにするアクションを提供します。次の表に、利用可能なアクションを示します。

スポークのアクション

カテゴリ	アクション	説明	必要な詳細なスコープ
クラウド記録管理	会議の記録設定を検索	会議のクラウド記録の設定を取得します。 **注:** 会議パスワードが取得され、プレーンテキストとして表示されます。	cloud_recording:read:recording_settings:admin
	会議レコーディング記録を検索	指定された会議 ID について記録されたすべての会議を取得します。	cloud_recording:read:list_recording_files:admin
	記録ストリームを検索	指定したユーザーの記録されたすべての会議をリストします。	cloud_recording:read:list_user_recordings:admin
電話管理	通話プランをユーザーにアサイン	コール計画をユーザーに割り当てます。	phone:write:calling_plan:admin
	電話番号をユーザーにアサイン	Zoom Phone を既に有効にしているユーザーに電話番号をアサインします。	phone:write:user_number:admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明	必要な詳細なスコープ
	国コード (メタデータ) を取得	国とその ISO コードのメタデータを取得します。	
	アカウントコールログストリームを検索	アカウントのコールログを取得します。	phone:read:list_call_logs:admin
	通話プランを検索	コール計画のリストを取得します。	phone:read:list_calling_plans:admin
	電話番号詳細を検索	Zoom アカウントで指定された電話番号の詳細を取得します。	phone:read:numbers:admin
	電話番号ストリームを検索	電話番号のリストを取得します。	phone:read:list_numbers:admin
	電話ユーザーストリームを検索	Zoom Phone ライセンスを割り当てたアカウントに関連付けられているすべてのユーザーを取得します。	phone:read:list_users:admin
	ユーザーコールログストリームを検索	ユーザーの Zoom Phone のコールログを取得します。	phone:read:list_call_logs:admin
	ユーザーの電話プロファイルを検索	Zoom Phone ユーザーのプロファイルを取得します。	phone:read:user:admin
	ユーザー記録ストリームを検索	Zoom Phone ユーザーの記録を取得します。	phone:read:list_recordings:admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明	必要な詳細なスコープ
	ユーザーの電話設定を検索	ユーザーの Zoom Phone プロファイルを取得します。	phone:read:user_setting:admin
	ユーザーボイスメールストリームを検索	Zoom Phone ユーザーのボイスメールを取得します。	phone:read:list_voicemails:admin
	ユーザー通話プランのアサインを解除	Zoom Phone を有効にしているユーザーへの通話プランのアサインを解除します。	phone:delete:users_calling_plan:admin
	ユーザーへの電話番号のアサインを解除	Zoom Phone を有効にしているユーザーへの電話番号のアサインを解除します。	phone:delete:user_number:admin
	メインの会社番号を更新	アカウントのメインの会社番号を更新します。	
	ユーザーの電話プロファイルを更新	ユーザーの Zoom Phone プロファイルを更新します。	phone:update:user:admin
	ユーザーの電話設定を更新	特定の Zoom Phone ユーザーの設定を更新します。	phone:update:user_setting:admin
会議管理	会議登録者を追加	参加者を特定の会議に登録します。	meeting:write:meeting:admin
	会議を作成	Zoom ユーザー ID またはメールアドレス、および開始時間、会議のタイプ、アジェンダなどのその他の	meeting:write:meeting:admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明	必要な詳細なスコープ
		詳細を使用して、ユーザーの会議を作成します。アクションでは、会議の詳細に 1 人以上の代替ホストのメール ID を含めることもできます。	
	会議を削除	会議 ID を使用して、特定の会議を削除します。	meeting:delete:meeting:admin
	会議を終了	進行中の会議を終了します。	meeting:delete:meeting:admin
	会議の詳細を検索	会議 ID で特定の会議の詳細を取得します。	meeting:read:meeting:admin
	会議を更新	ID で会議を識別し、開始時間、期間、トピックなどの詳細を更新します。	meeting:update:meeting:admin
	終了した会議のインスタンスを検索	終了したすべての会議インスタンスをリストします。	meeting:read:list_meetings:admin
	ユーザーストリームでライブ会議を検索	特定のユーザーのすべてのライブまたは進行中の会議をリストします。	meeting:read:list_meetings:admin
	会議ストリームを検索	指定されたユーザーの会議をリストします。	meeting:read:list_meetings:admin
ユーザー管理	ユーザーを作成	アカウントにユーザーを作成します。 **注:** このアクションには Zoom Pro プラン 以降が必要です。Zoom アカウントで SSO ユーザーの事前プロビジョニングを有効にする必要があります。	user:write:user:admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明	必要な詳細なスコープ
	ユーザーを削除	アカウントから特定のユーザーを削除します。	user:delete:user:admin
	ユーザーの関連付けを解除	アカウントから特定のユーザーのリンクを解除します。	user:delete:user:admin
	ユーザーの詳細を検索	ユーザー ID を使用してアカウントの特定のユーザーの詳細を取得します。	user:read:user:admin
	ユーザーストリームを検索	アカウントに関連付けられているすべてのユーザーを取得します。	user:read:list_users:admin
	ユーザー設定を更新	特定のユーザーの設定を更新します。	user:update:user:admin
チャット管理	チャネルにメンバーを追加	Zoom チャネルにメンバーを追加します。	team_chat:write:members:admin
	チャネルを作成	Zoom チャネルを作成します。	team_chat:write:user_channel:admin
	チャネルを検索	Zoom チャネルの詳細を取得します。	team_chat:read:user_channel:admin
	チャネルメンバーのストリームを検索	Zoom チャネルのメンバーの詳細を取得します。	team_chat:read:list_members:admin
	ユーザーチャットメッセージストリームを検索	Zoom チャネルのメンバーのチャットの詳細を取得します。	team_chat:read:list_user_messages:admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークのアクション (続く)

カテゴリ	アクション	説明	必要な詳細なスコープ
	ユーザーチャネルストリームを検索	Zoom チャネルの名前を取得します。	team_chat:read:list_user_channels:admin
	チャネルからメンバーを削除	Zoom チャネルからメンバーを削除します。	team_chat:delete:member:admin
	チャットメッセージを送信	Zoom チャネルにチャットメッセージを送信します。	team_chat:write:user_message:admin
	チャネルを更新	Zoom チャネルの詳細を更新します。	team_chat:update:user_channel:admin
ユーティリティアクション	チャットメッセージの添付ファイルをレコードにコピー	チャットメッセージを含む添付ファイルをインシデントレコードにコピーします。	team_chat:read:user_message:admin

利用可能な AI エージェント

Now Assist for Spokes をインストールし、利用可能な AI エージェントの使用を開始します。詳細については、「Now Assist for Spokes」を参照してください。

このスポークは、人間のようなインテリジェンスを模倣して ServiceNow インスタンスのタスクを実行する、スタンドアロンの AI エージェントを提供します。

- ServiceNow エージェントシステムでは、目標を実現するため、一連の大規模言語モデル (LLM) の指示と 1 つ以上のスタンドアロン AI エージェントで構成されたユースケースを作成できます。要件に従ってユースケースを作成し、必要なトリガーを提供する AI エージェントを追加する方法については、「ユースケースを作成」を参照してください。

  他の利用可能な AI エージェントを検索して、ユースケースに追加することもできます。詳細については、「で AI エージェントを検索する AI エージェントスタジオ」を参照してください。

- 必要なスポーク AI エージェントのクローンを作成し、要件に応じてカスタマイズできます。クローンを作成する方法の詳細については、「での AI エージェントのクローンの作成 AI エージェントスタジオ」を参照してください。
- AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

利用可能な AI エージェントは次のとおりです。

AI エージェント	説明
Zoom ユーザーマネージャー	ユーザーの詳細を検索し、ユーザーを作成、削除、関連付け解除します。
Zoom 会議マネージャー	会議の作成、終了、削除、会議の詳細の検索、会議登録者の追加を行います。
Zoom 会議レコーディングマネージャー	会議レコーディング記録と会議レコーディング記録の設定を検索します。

ユースケースで使用されていない AI エージェントが、Now Assist アプリケーションとともにインストールされている場合があります。利用可能なすべてのエージェントを表示する方法については、「Find AI agents (AI エージェントの検索)」を参照してください。

Zoomスポークの要件

これらのアクションでは REST 呼び出しを使用します。REST 呼び出しは、インスタンスまたは Zoom スポークで実行できます。詳細については、「フローのビルド」を参照してください。Zoom エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して、アクションを実行する場所および Zoom スポーク の選択属性を設定します。エイリアスの詳細については、「接続および資格情報エイリアス」を参照してください。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

このスポークでは、Zoom 接続および資格情報エイリアスレコードを使用してアクションを許可します。スポークの設定については、「 Zoom スポーク の設定。

Zoom スポーク の設定

Zoom アカウントを ServiceNow インスタンスと統合し、Zoom スポークを使用して Zoom アカウントでさまざまなアクションを実行できるようにします。Zoom アカウントでカスタム OAuth アプリケーションを作成して、 インスタンスからの要求の認証を可能にすることもできます。

始める前に

- 統合ハブ サブスクリプションの要求。
- Zoom スポーク のアクティブ化。
- 必要なロール：admin

Zoomに接続済みアプリを作成

Zoom アカウントに接続済みアプリを作成し、Zoom API と Zoom スポーク の Now Platform の間で OAuth 2.0 レベルの認証を確立します。接続済みアプリを作成したら、Zoom スポーク からさまざまなアクションを実行できるようにするスコープを追加できます。

始める前に

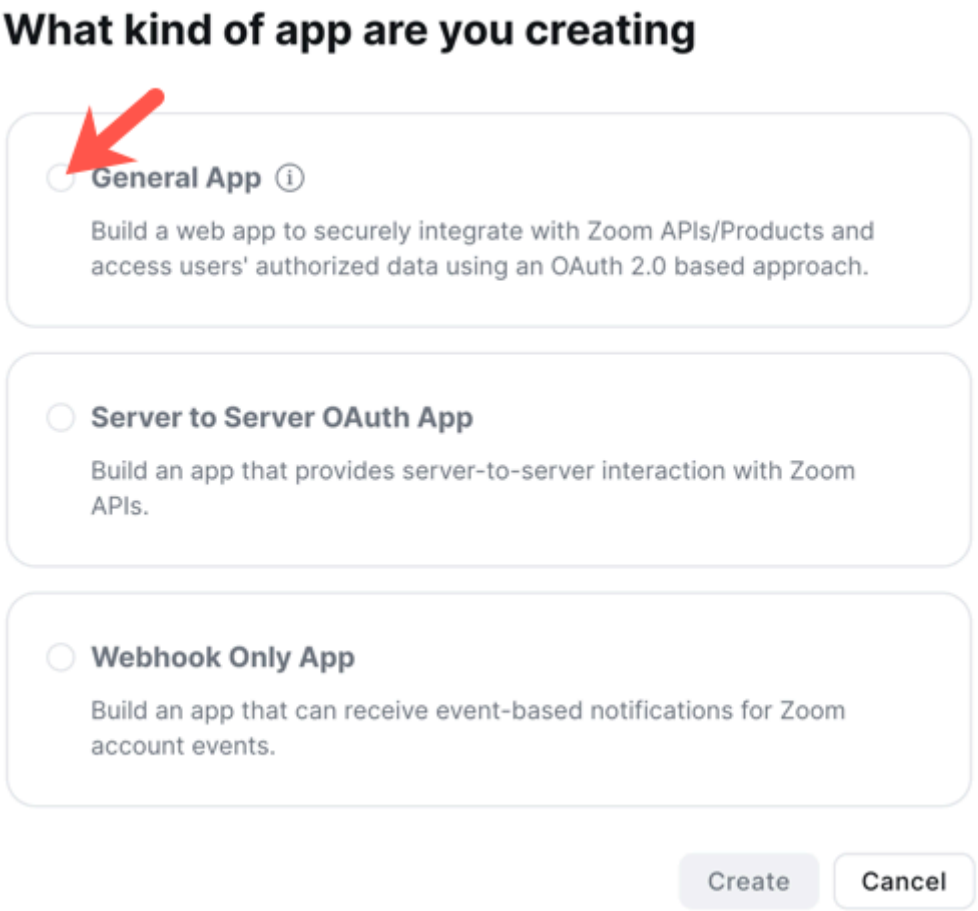
1. Zoom アカウントを作成します
2. 必要なロール：Zoom admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

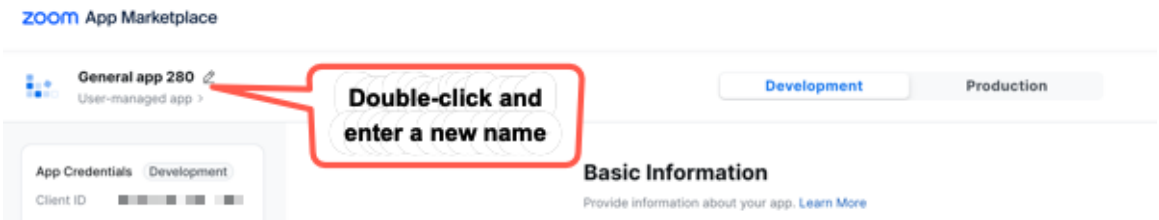
このタスクについて
接続済みアプリの作成は 1 回限りのアクティビティです。

手順

1. Zoom マーケットプレイス にログインします。
2. [開発] > [アプリのビルド **(Build App)**]に移動します。
3. [一般アプリ **(General App)**] を選択します。

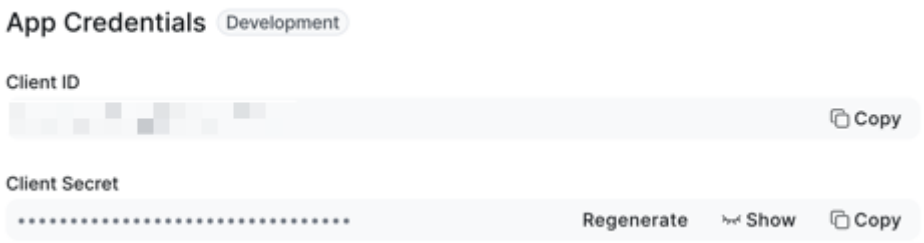


4. **[Create** (作成)] を選択します。
5. オプション: アプリのデフォルト名をダブルクリックし、名前を更新します。



6. **[Admin-managed]** を選択します。
7. [保存] を選択します。
8. [アプリの認証情報 (App Credentials)] セクションで、クライアント ID とクライアントシークレットをコピーし、安全な場所に保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



9. [OAuth 情報 (OAuth Information)] セクションで、次の手順を実行します。

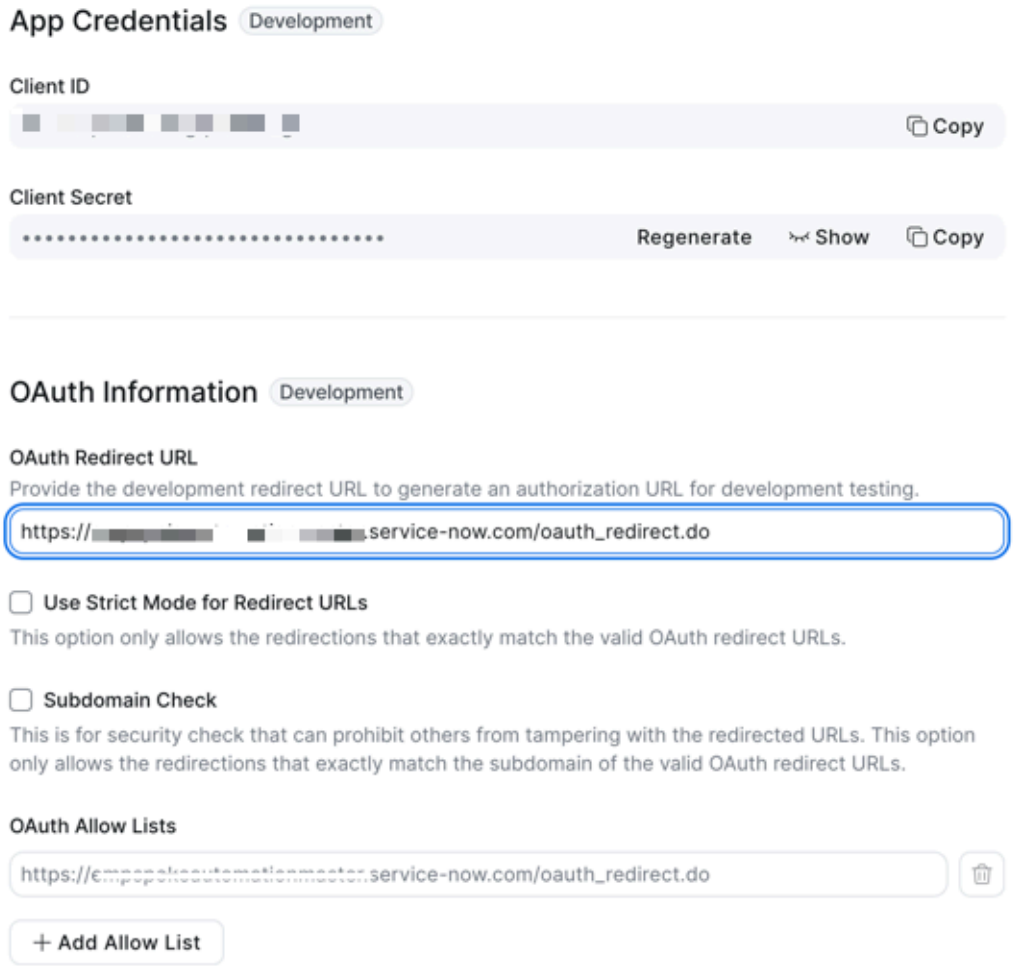
   a. **[OAuth の URL をリダイレクト (Redirect URL for OAuth)]** フィールドで、リダイレクト URL を `https://<ServiceNow-Instance-Name>.service-now.com/oauth_redirect.do` の形式で入力します。

   b. **[OAuth 許可リスト (OAuth Allow List)]** で、ServiceNow インスタンスのリダイレクト URL を `https://<ServiceNow-Instance-Name>.service-now.com/oauth_redirect.do` の形式で追加します。
   トークンが生成されます。このトークンは、Zoom スポークに Zoom API へのアクセス権を付与するために OAuth アプリで使用されます。

   c. オプション: 許可リストに別の URL を追加するには、[新しいリストを追加] をクリックします。
   次の例は、OAuth アプリの認証情報を生成するために使用する画面を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

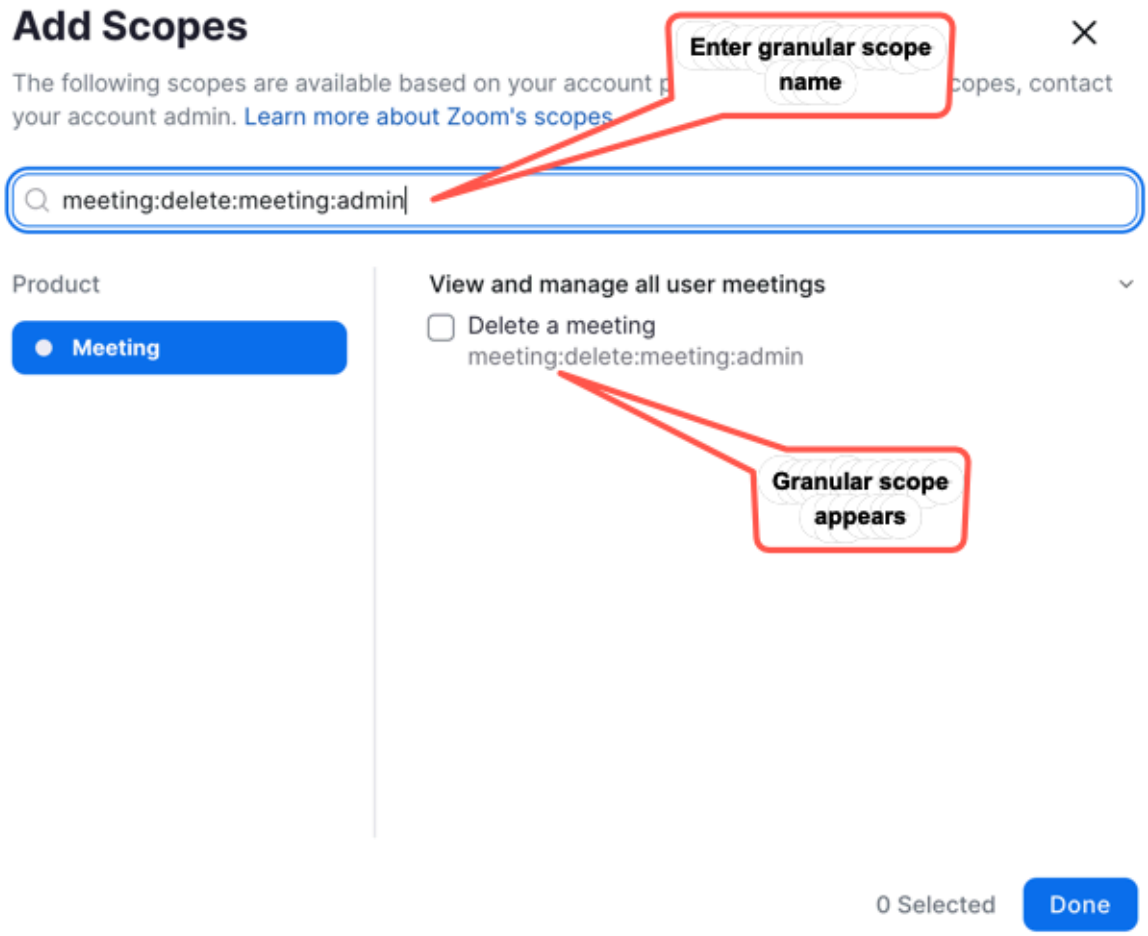
Zoom スポークの **OAuth** 認証情報構成



注: OAuth のリダイレクト URL と [OAuth 許可リスト (OAuth Allow List)] に表示される URL の違いについては、「Zoom Developer Forum (Zoom 開発者フォーラム)」を参照してください。

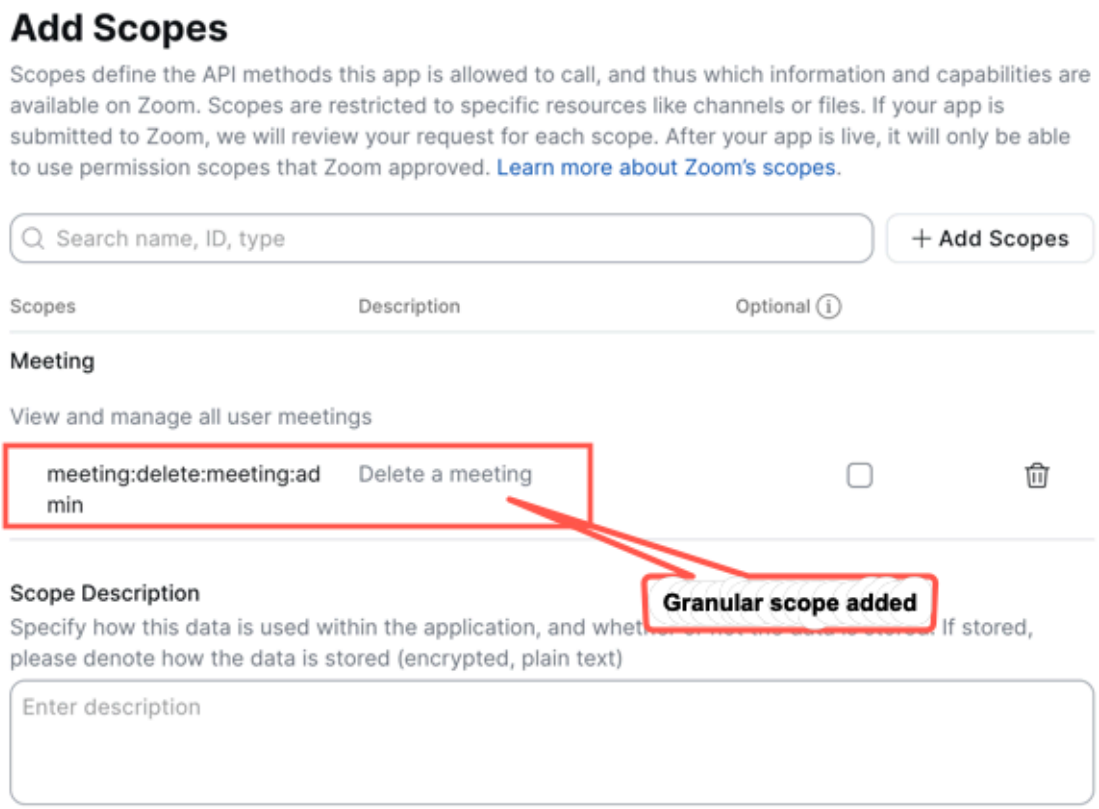
10. 左側のパネルで [アクセス] を選択します。
11. [アクセス] セクションで、シークレットトークンと検証トークンをコピーします。
12. 左側のパネルで、[スコープ] を選択します。
13. **[+** スコープの追加 **(+ Add Scopes)]** を選択します。
14. [検索スコープ (Search scope)] フィールドに、詳細なスコープを入力します。
    詳細なスコープの例：`meeting:delete:meeting:admin`
    詳細なスコープが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



15. スコープを選択し、[完了] を選択します。
詳細なスコープが追加されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



16. オプション: さらに詳細なスコープを追加するには、この手順を繰り返します。

ServiceNow インスタンスに Zoom 接続を追加

Zoom アカウントの構成中に生成された情報を使用し、Zoom スポーク を OAuth プロバイダーとして登録して、インスタンスが OAuth 2.0 トークンを要求できるようにします。フローデザイナー で Zoom 接続を追加して、Zoom のアクションを実行します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow インスタンスから、[プロセスオートメーション **(Process Automation)]** > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. [統合] タブを選択します。
3. [すべての接続を検索] フィールドに「`Zoom`」と入力します。

   注: [送信] タブがデフォルトで選択されています。[送信] タブが既に選択されていることを確認します。

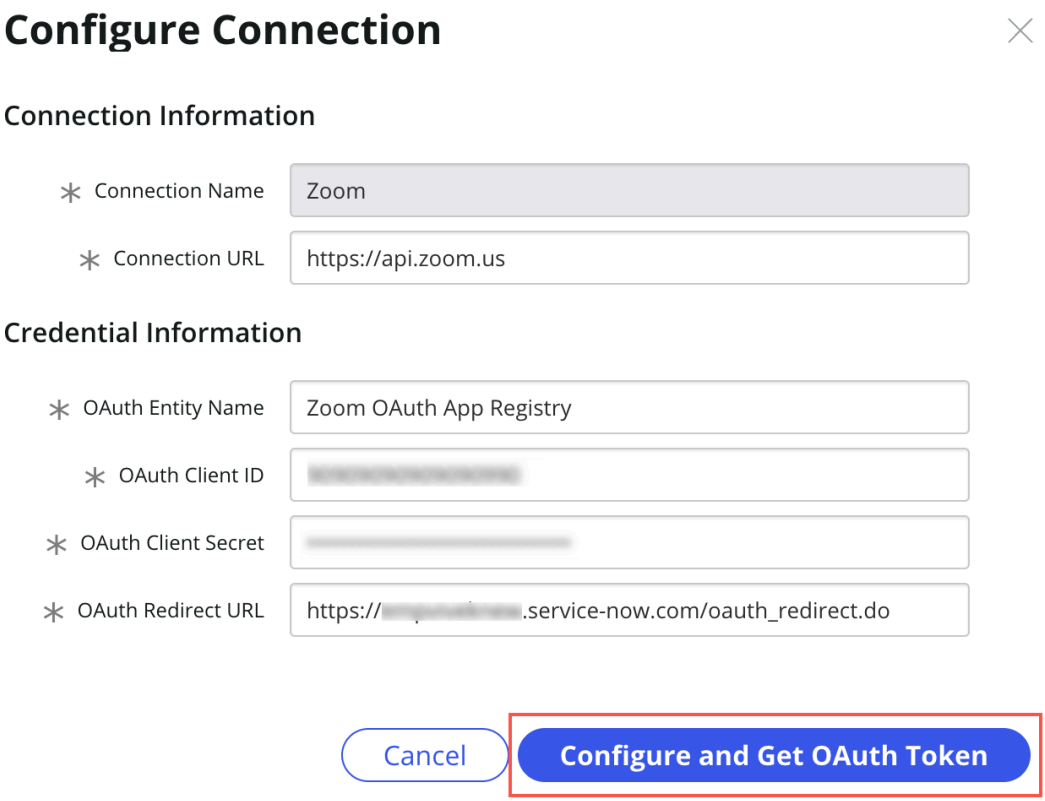
4. [Zoom] カードで、[詳細を表示] を選択します。
   - Zoom スポークに付属するデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードを構成するには、[詳細を表示] をクリックします。
   - 複数の Zoom スポーク接続レコードを管理するには、[接続を追加] をクリックして新しい子エイリアスレコードを作成する必要があります。複数の接続を使用する方法の詳細については、「複数接続のサポート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークを初めて構成する場合は、[構成] を選択します。それ以外の場合は、[編集] をクリックします。

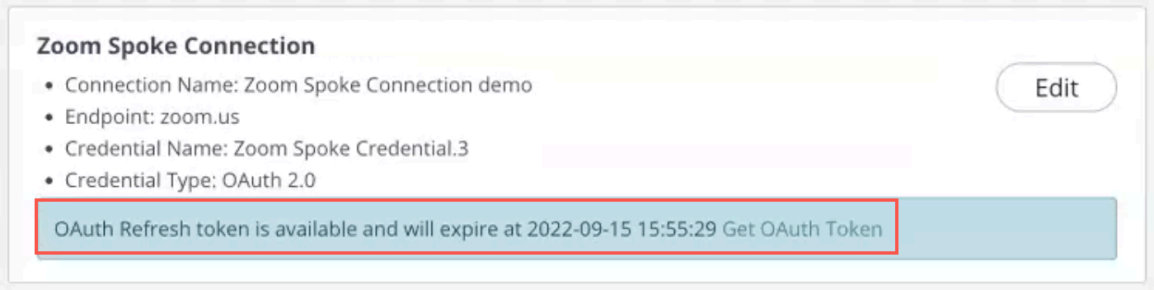
5. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
接続名	接続レコードを識別する名前です。
接続 URL	Zoom インスタンスに接続するためのベース URL 「`https://api.zoom.us`」と入力します。
OAuth エンティティ名	アプリケーションレジストリレコードを識別する名前です。
OAuth クライアント ID	アプリケーション登録時に作成したクライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	アプリケーション登録時に作成したクライアントシークレット
OAuth リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイント。`https://<instance-name>.service-now.com/oauth_redirect.do` と入力します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. **[OAuth トークンを設定して取得 (Configure and get OAuth Token)]** をクリックします。
トークンが利用可能である旨の確認メッセージが表示されま



す。

Zoom スポーク用の双方向 Webhook の設定

ServiceNow コールバック URL を使用して、Zoom を登録する Webhook を構成します。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Zoom スポークを有効にします。
- 必要なロール：admin

Zoom アカウントにエンドポイント URL を追加する

Zoom アカウントでエンドポイント URL を指定して、Zoom スポーク用 Webhook を作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. Zoom アカウントにログインします。
2. 要件に従って、Webhook アプリを作成します。
Zoom Webhook 専用アプリの詳細については、「Create a Webhook-only App (Webhook 専用アプリの作成)」を参照してください。
3. 検証トークンとシークレットトークンを生成し、トークン値を記録します。
4. Zoom スポークの Webhook 検証を作成します。

a. ServiceNow インスタンスにログインします。

b. **[Zoom スポーク] > [Zoom Webhook 検証 (Zoom Webhook Validations)]** に移動します。

c. フォームのフィールドに入力します。

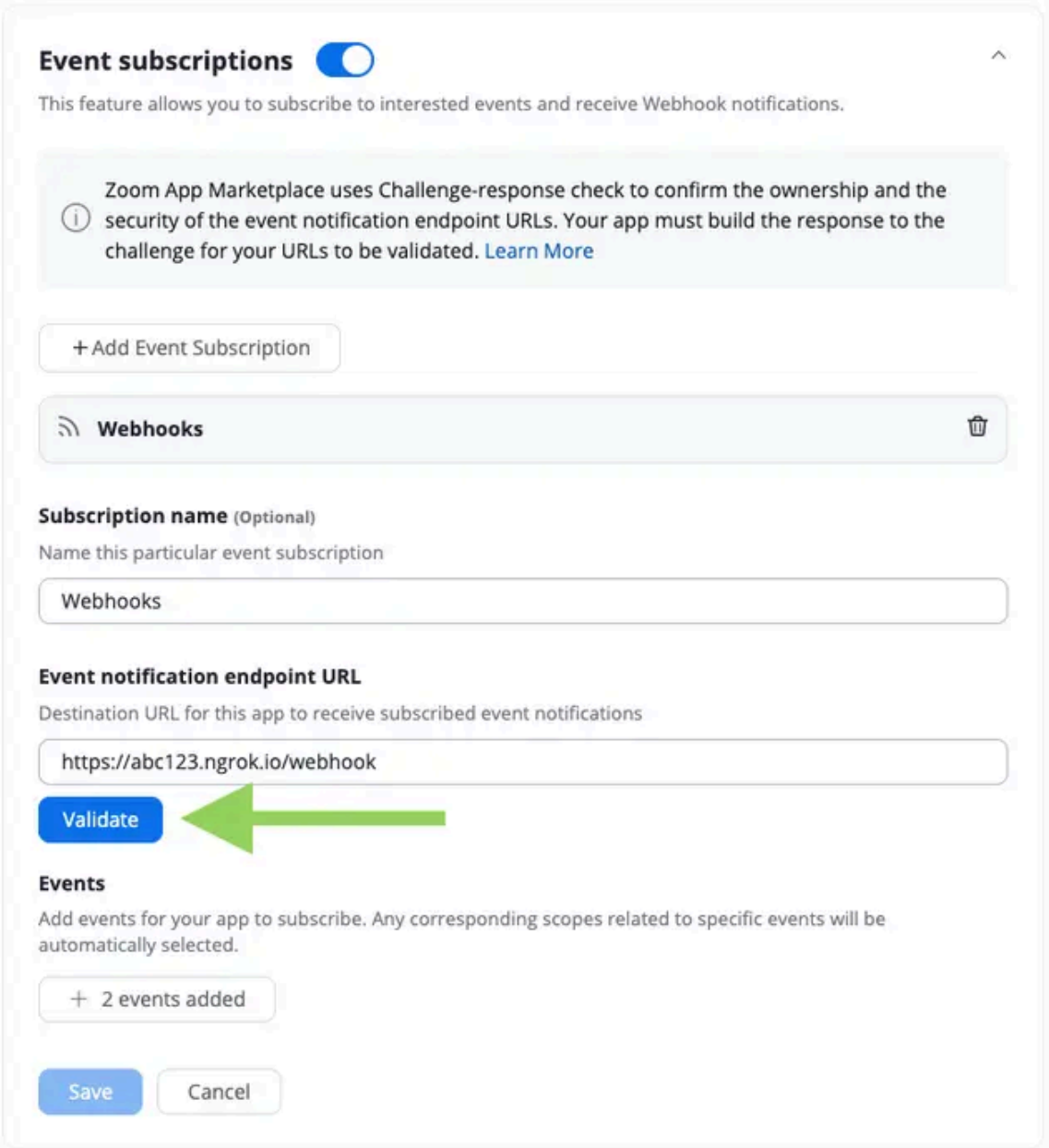
フィールド	説明
名前	webhook 検証レコードを一意に識別する名前です。たとえば、「Zoom スポーク Webhook 検証 (Zoom spoke webhook validation)」などです。
シークレットトークン (Secret Token)	Zoom アカウントのアプリのシークレットトークン。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
トークンの検証 (Verification Token)	Zoom アカウントのアプリの検証トークン。

d. [送信] をクリックします。

5. イベントサブスクリプションを有効にし、イベント通知エンドポイント URL を次の形式で入力します。
`https://<instance-name>.service-now.com/api/sn_zoom_spoke/zoom_webhook_endpoint/webhook`
6. イベント通知エンドポイント URL を検証します。
詳細については、「Validate your webhook endpoint (Webhook エンドポイントを検証する)」を参照してくださ



い。

7. 要件に応じてイベントタイプを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
エンドポイント URL が Zoom アカウントに追加されます。要件に従って Webhook レジストリとサブフローを作成できます。

ServiceNow に Zoom Webhook を登録する

ServiceNow に Zoom Webhook を登録して、Zoom で特定のイベントが発生したときに ServiceNow アプリに通知します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[Zoom スポーク]** > **[Zoom Webhook レジストリ]**に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

Zoom Webhook レジストリ

フィールド	説明
トリガータイプ	サブフローをトリガーする Zoom イベントのタイプ。
トークン	イベント通知の検証に使用される Zoom アカウントの検証トークン。
サブフロー名	指定された条件が満たされたらトリガーされるサブフロー。
入力	Webhook レジストリの入力。
トリガーオブジェクト	サブフローをトリガーするために使用される Zoom オブジェクト。
名前	Webhook レジストリの名前。

スポークへの MID サーバーの設定

MID サーバーを介してスポークをサードパーティアプリケーションと統合できるように、ServiceNow インスタンスで MID サーバー設定を構成します。

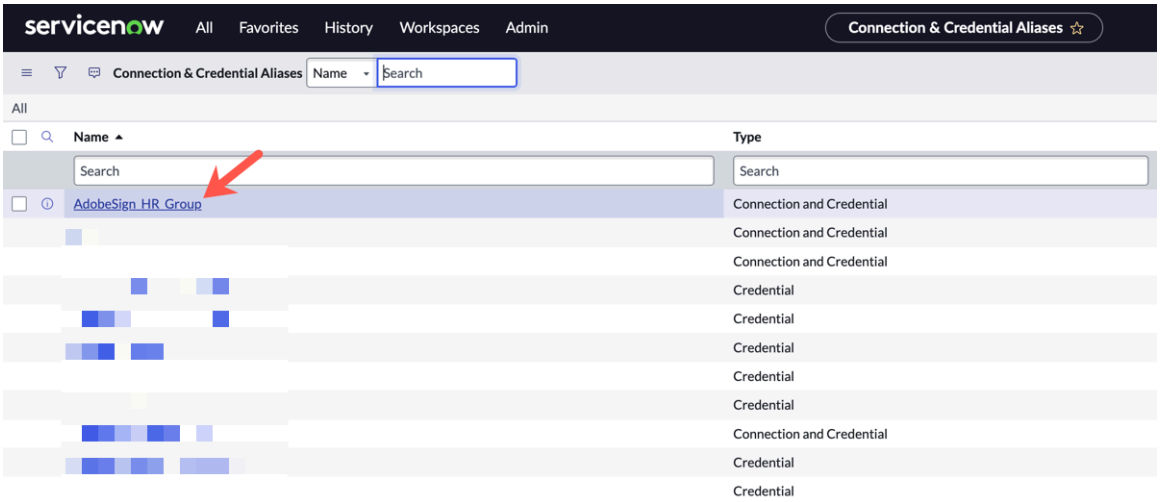
始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
設定したスポークでは、MID サーバーの設定が必須の場合とオプションの場合があります。たとえば、MID サーバーの設定は Microsoft Active Directory v2 スポークでは必須ですが、Jira スポークではオプションです。この手順を使用して、MID サーバーを設定します。

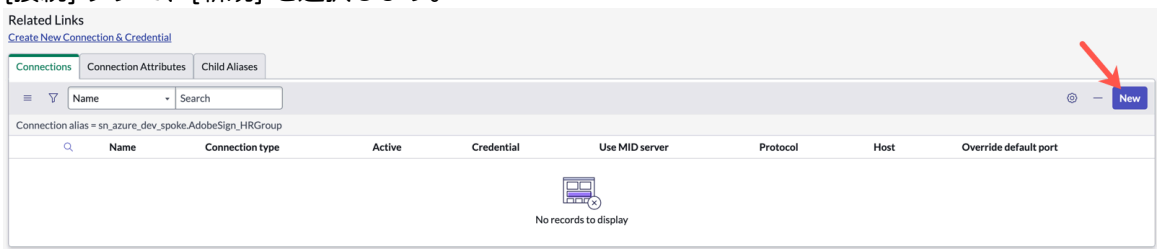
手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報エイリアス] に移動します。
2. [名前] 列の下で、接続および資格情報エイリアスを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. [接続] タブで、[新規] を選択します。



4. フォームに入力します。

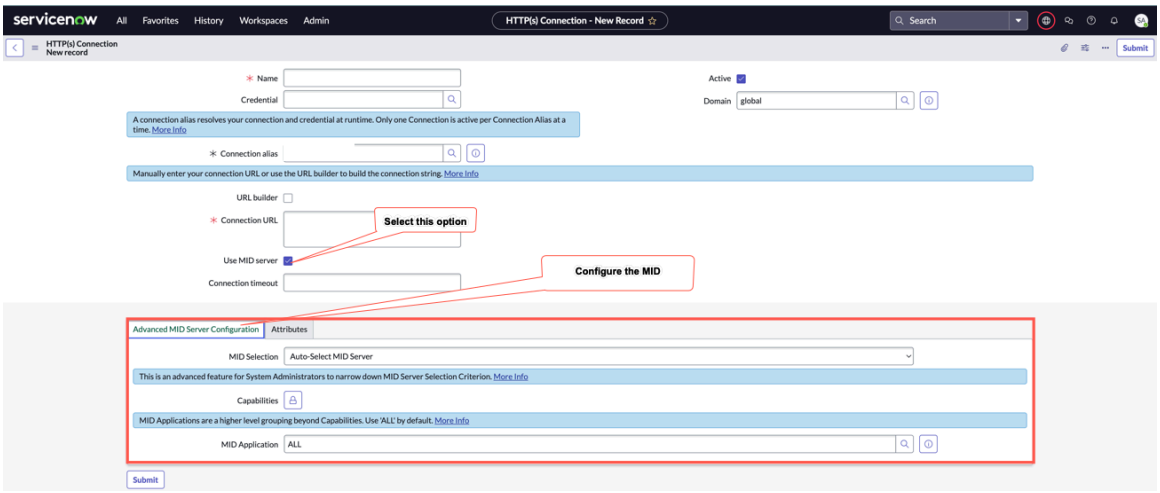
フィールド	説明
名前	この HTTPS 接続の一意の名前。
認証情報	接続を許可するために使用する認証情報レコードを選択します。
接続エイリアス	この接続に関連付けるエイリアス レコードを選択します。エイリアスを使用すると、エイリアスを使用するアクションまたはアクティビティを再設定することなく、接続レコードを更新できます。
URL ビルダー	手動で接続 URL を入力するか、システムを使用して入力に基づいて URL を作成します。デフォルトはクリアされています。オンにすると、次のフィールドから接続 URL が計算されます。 ◦ [相互認証] - 相互認証を使用する場合はオンにします。 ◦ [プロトコル] - 相互認証を使用しない場合は、プロトコルを入力します。デフォルトは HTTPs です。 ◦ [プロトコル プロファイル] - 相互認証を使用する場合は、sys_protocol_profile からプロトコル プロファイルを入力します。 ◦ ホスト ◦ ポート ◦ ベースパス - 接続文字列のパス。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

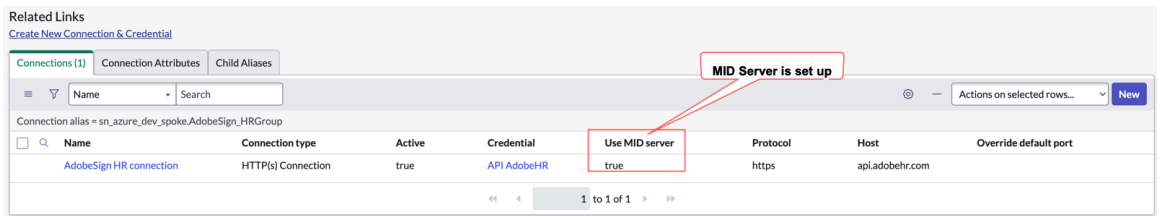
フィールド	説明
	注: 相互認証をオンにした場合は、接続 URL が作成されます (プロトコル + :// + host:port +URL)。相互認証をオフにした場合は、接続 URL が作成されます (プロトコルプロファイル + :// + host:port +URL)
接続 URL	URL ビルダーをオフにした場合は、このフィールドに接続 URL を入力します。 注: 相互認証をオンにした場合は、接続 URL が作成されます (プロトコル + :// + host:port +URL)。相互認証をオフにした場合は、接続 URL が作成されます (プロトコルプロファイル + :// + host:port +URL)
アクティブ	この接続を有効にする場合にオンにします。
ドメイン	アクションまたはアクティビティが実行されるドメインを決定します。
MID サーバーを使用	設定しているスポークの MID サーバー設定を有効にするオプション。このオプションを選択すると、[MID サーバー詳細構成] タブが有効になり、それに応じて設定を構成する必要があります。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 ◦ **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 ◦ 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 ◦ 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、**[MID** サーバーを使用] のチェックがオンの場合に利用可能です。 注: オーケストレーション接続レコードではなく、統合ハブ接続レコードが参照されていることを確認します。
機能	MID サーバーが選択対象となるためにサポートする必要がある機能です。選択した機能をサポートする MID サーバーからアクションまたはアクティビティが実行されます。**[MID** サーバーを使用] が選択されている場合のみ表示されます。 必要な機能によって、実行時にどのMID サーバーが選択されるかが決定されます。実行時に MID サーバー が選択される方法の詳細については、「MID サーバーの選択」を参照してください。このフィールドは、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合にのみ表示されます。
MID アプリケーション	MID サーバーが選択対象となるためにサポートする必要があるアプリケーションです。選択したアプリケーションをサポートする MID サーバーからアクションが実行されます。**[MID** サーバーを使用] が選択されており、MID 選択リストで **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合 実行時にMID サーバーがどのように選択されるかについての詳細は、「MID サーバーの選択」を参照してください。
MID サーバー	ステップが実行される特定の MID サーバー です。このフィールドは、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合にのみ表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
MID クラスター	使用する特定の MID クラスター。このフィールドは、**[MID** サーバーを使用] チェックボックスがオンになっていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
接続タイムアウト	システムがホスト接続の成功を待機するミリ秒数。この間に接続が成功しない場合、接続要求はタイムアウトします。システムのデフォルトの接続タイムアウト値を使用するには、このフィールドを空のままにします。



5. [送信] を選択します。
   このエイリアスの下に接続が作成されます。



Now Assist in Conversational Spokes

Now Assist in Conversational Spokes アプリケーションで使用して、統合ハブスポークアクションの会話機能の利用を開始します。

ストアでアプリを要求

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして、利用可能なすべてのアプリを表示し、要求をストアに送信する方法について確認してください。

機能

Now Assist のような会話型インターフェイスを介してビジネス関連のアクションを実行します。インタラクティブな会話型エクスペリエンスを活用して、ビジネスワークフローを自動化します。この機能には、統合ハブサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

会話型設定を構成する方法については、「会話アクション」を参照してください。現在会話型に対応している統合ハブスポークのアクションの詳細については、「利用可能な会話アクション」を参照してください。

サポート対象のバージョン

Now Assist in Conversational Spokes アプリケーションは、Xanadu パッチ 3 以降のリリースでサポートされています。

会話型アクションのアクティブ化

Now Assist in Conversational Spokes アプリケーションは、スポークアクションを会話型にするための生成 AI 機能を提供します。このアプリケーションには以下のサブスクリプションが必要です。

- Now Assist for Platform (sn_genai_platform) サブスクリプション
- 次のいずれかのオートメーションエンジンサブスクリプション:
  - 統合ハブ Professional V4 SKU
  - オートメーションエンジン Professional V5 SKU
  - オートメーションエンジン Enterprise V4 SKU
  - オートメーションエンジン Enterprise UU V4 SKU

Now Assist in Conversational Spokes アプリケーションをインストールすると、利用可能な会話型スポークアクションを構成できるようになります。

- 会話設定の構成の詳細については、「会話サブフロー」を参照してください。
- 会話エクスペリエンスとスキルの詳細については、「Now Assist プラットフォームワークフローのスキル」の「Now Assist 会話エクスペリエンス」を参照してください。

Now Assist for Spokes

ServiceNow Now Assist AI エージェントは、LLM (大規模言語モデル) を使用して人間のようなインテリジェンスを模倣し、単純な自動応答から複雑な問題解決まで、幅広いタスクを実行します。統合ハブスポークアクションの会話機能を活用します。

ストアでアプリを要求

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして、利用可能なすべてのアプリを表示し、要求をストアに送信する方法について確認してください。

機能

AI エージェントは、環境と対話してデータを収集し、意思決定を行い、人間が完了しなければならないタスクを完了する自律システムです。Now Assist 製品は、さまざまなワークフローでユーザーのニーズを満たすようにデザインされた AI エージェントを提供します。AI エージェントに一連の指示を提供することで、インシデントやケースを解決するなど、特定の目標に向かうアクションを実行できます。

Now Assist のような会話型インターフェイスを介してビジネス関連のアクションを実行します。インタラクティブな会話型エクスペリエンスを活用して、ビジネスワークフローを自動化します。

サポートされているバージョン

Now Assist for Spokes アプリケーションは、Xanadu パッチ 7 以降のリリースでサポートされています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションのアクティブ化

Now Assist for Spokes アプリケーションには、次のサブスクリプションが必要です。

- Now Assist for Platform (sn_genai_platform) サブスクリプション
- 統合ハブサブスクリプション。詳細については「Legal schedules - IntegrationHub overview (法務スケジュール - 統合ハブの概要)」を参照してください。

Now Assist for Spokes アプリケーションをインストールすると、利用可能な AI エージェントを使用して、会話型スポークアクションを構成できるようになります。

- AI エージェントの詳細については、「 Now Assist AI エージェント」を参照してください。
- 会話設定を構成する方法の詳細については、「会話サブフロー」を参照してください。
- ワークフロースタジオから会話スキルを作成して構成する方法の詳細については、「会話アクション」を参照してください。
- 会話エクスペリエンスとスキルの詳細については、「Now Assist プラットフォームワークフローのスキル」の「Now Assist 会話エクスペリエンス」を参照してください。

利用可能なスポーク **Now Assist AI** エージェント

AI エージェントは、統合ハブスポークの一部で提供されます。これらは、事前設定されていて、 AI エージェントスタジオや仮想エージェントなどのインターフェイスから呼び出せます。

スポーク	**AI** エージェント
Kubernetes スポーク	Kubernetes エンドポイント管理 AI エージェント
	Kubernetes 名前空間管理 AI エージェント
	Kubernetes ノード管理 AI エージェント
	Kubernetes ポッド管理 AI エージェント
	Kubernetes シークレット管理 AI エージェント
	Kubernetes サービス管理 AI エージェント
	Kubernetes ボリューム管理 AI エージェント
Microsoft Active Directory v2 スポーク	Microsoft Active Directory オブジェクトマネージャー
	Microsoft Active Directory ユーザー認証システム
	Microsoft Active Directory グループマネージャー
	Microsoft Active Directory コンピューターマネージャー
	Microsoft Active Directory ユーザーマネージャー
Microsoft Entra ID スポーク (旧 Microsoft Azure Active Directory スポーク)	Microsoft Entra ID ユーザーマネージャー
	Microsoft Entra ID グループマネージャー
	Microsoft Entra ID ライセンスマネージャー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポーク	AI エージェント
Microsoft Exchange Online スポーク	Microsoft Exchange Online メールマネージャー
Microsoft OneDrive スポーク	Microsoft OneDrive ドライブ管理 AI エージェント
	Microsoft OneDrive ファイル管理 AI エージェント
	Microsoft OneDrive フォルダー管理 AI エージェント
	Microsoft OneDrive 権限管理 AI エージェント
	Microsoft OneDrive ドキュメント共有 AI エージェント
Microsoft SharePoint Online スポーク	Microsoft SharePoint Online ファイルマネージャー
	Microsoft SharePoint Online リストマネージャー
	Microsoft SharePoint Online サイトマネージャー
	Microsoft SharePoint Online グループマネージャー
	Microsoft SharePoint Online リストアイテムマネージャー
	Microsoft SharePoint Online ユーザーマネージャー
	Microsoft SharePoint Online フォルダーマネージャー
	Microsoft SharePoint Online 変更マネージャー
Microsoft Security Response Center スポーク	Microsoft セキュリティレスポンスセンター セキュリティマネージャー
Oracle HCM Cloud スポーク	総合報酬明細レトリーバー
	祝日カレンダーレトリーバー
	休暇リクエスタ
	ワーカープロファイルレトリーバー
	経費マネージャー
	従業員詳細アップデーター
	HCM フィードバックレトリーバー
	福利厚生登録情報レトリーバー
	ケース詳細マネージャー
	ユーザー情報レトリーバー
	奨学金制度ポリシーレトリーバー
	奨学金制度の事前承認

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポーク	AI エージェント
	奨学金制度適格性チェッカー
	総合報酬ケースクローザー
X スポーク (旧 Twitter スポーク)	X ツイートマネージャー
Slack スポーク	Slack ユーザーマネージャー
	Slack 通知マネージャー
	Slack 会話マネージャー
Zoom スポーク	Zoom ユーザーマネージャー
	Zoom 会議マネージャー
	Zoom クラウド記録マネージャー
F5 BIG-IP スポーク	F5 BIG-IP プール管理 AI エージェント
	F5 BIG-IP サーバー管理 AI エージェント
Google Chat スポーク	Google Chat メンバーマネージャー
	Google Chat スペースマネージャー
	Google Chat メッセージマネージャー
Google Docs スポーク	Google Docs ドキュメントマネージャー
Google ドライブ スポーク	Google ドライブ 権限マネージャー
	Google ドライブ ファイルとフォルダーマネージャー
GovNotify スポーク	GovNotify メッセージマネージャー

統合ハブ の利用可能なソリューション

統合ハブ ソリューションで一般的なビジネスプロセスを自動化します。ソリューションは、ビルド済みのフロー、アクション、およびその他の統合専用のコンテンツを 1 つのパッケージにまとめ、より迅速でシンプルなプロセスを実現します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

利用可能なソリューション

アクセス管理オートメーション

サービスカタログ または サービスポータル を使用して、アクセス管理要求の実行を自動化します。カタログアイテムとフローは、Okta、Microsoft Azure AD、および Microsoft Active Directory での要求をサポートしています。

統合ハブ を使用したクライアントソフトウェアディストリビューション

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) を使用して、サードパーティの管理システムでサービスカタログからソフトウェアを配布します。

クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アドミニストレーターはクライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 (CSD 2.0) アプリケーションを使用し、サードパーティの管理システムでサービスカタログからソフトウェアを配布できます。

Cloud Deployment Automation

サービスカタログ または サービスポータル を使用して、AWS CloudFormation サービスの展開とプロビジョニングを自動化します。

Microsoft AD Spoke for Password Reset

Microsoft AD Spoke for Password Reset は、ServiceNow パスワードリセットソリューションを拡張して Microsoft Active Directory 環境にパスワード管理を提供します。

Microsoft Azure AD Spoke for Password Reset

Microsoft Azure AD Spoke for Password Reset は、ServiceNow Password Reset ソリューションを拡張して Microsoft Azure Active Directory 環境にパスワード管理を提供します。

Google Directory のパスワードリセット統合

パスワードリセット および Google ディレクトリ スポークを使用して、エンドユーザーが Google のパスワードをリセットまたは変更できるようにします。

Okta のパスワードリセット統合

Okta を使用し、ユーザー、パスワード、およびグループを管理します。

Retry Handler Framework

API レート制限を超え、「429 要求が多すぎます」のステータスコードが返されたときに、失敗した HTTP 要求を再試行するフレームワークです。retry-after time HTTP ヘッダーは、指定された retry-after time 後に要求を再試行するために使用されます。

ServiceNow Kafka コンシューマー

ServiceNow インスタンスを Kafka コンシューマーと統合し、データを ServiceNow テーブルに保存します。

統合ハブ を使用したクライアントソフトウェアディストリビューション

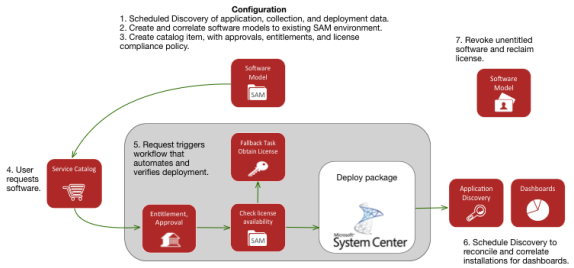
クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) を使用して、サードパーティの管理システムを使用して サービスカタログ からソフトウェアを配布します。

ソフトウェアモデルやカタログアイテムなど、サービスカタログ 要求からソフトウェアを展開するために必要なすべてのレコードを作成します。CSD アプリケーションを使用し、Microsoft SCCM スポークを使用して SCCM ホストからソフトウェアの展開および取り消しを自動化できます。サービスカタログ から配布されたソフトウェアのリース期間を定義し、場合によってはリース延長を許可し、承認待ちにすることができます。展開は、統合ハブ フロー、サブフロー、およびアクションを使用して実現されます。

ソフトウェア資産管理 と統合して、展開されたソフトウェアのライセンス数を管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SCCM を使用した CSD プロセス フロー



クライアントソフトウェアディストリビューションの要求

クライアントソフトウェアディストリビューションには、オーケストレーション - Client Software Distribution プラグイン (com.snc.orchestration.client_sf_distribution) が必要です。これは、統合ハブ のサブスクリプションによる要求で入手できます。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

Client Software Distribution プラグインは、System Center Configuration Manager プラグインを有効化します。このプラグインには、SCCM サーバーを使用して ソフトウェアを展開または取り消しするために使用される Microsoft SCCM スポークアクションが含まれています。その他のプラグインの依存関係については、「 クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるプラグイン」を参照してください。

> **注:** Client Software Distribution プラグインは、独自のアプリケーションスコープ内で実行されます。

手順

1. [すべて] > [システム定義] > [プラグイン]に移動します。
2. [プラグインの要求] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

フィールド	説明
ターゲットインスタンス	プラグインをアクティブにするインスタンス
プラグイン名	有効にするプラグインの名前です。
このプラグインを有効にする日時の指定	日時は、現時点から 2 営業日以降でなければなりません。 **注:** プラグインは、太平洋標準時で毎営業日に 2 回のバッチ (朝に 1 回、夜に 1 回) で有効になります。特定の時刻にプラグインを有効にする必要がある場合は、[理由/コメント] フィールドに要求を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
Reason/Comments (理由/コメント)	プラグインを有効にする ServiceNow 担当者に役立つ情報。たとえば、デフォルトの有効化ウィンドウの 1 つではなく、特定の時刻にプラグインを有効にする必要がある場合は、そのことをコメントに指定します。

4. [送信] をクリックします。

クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるコンポーネント

いくつかのタイプのコンポーネントが、クライアント ソフトウェア ディストリビューション (CSD) とともにインストールされます。

インストールされるテーブル

これらのテーブルは、Client Software Distribution プラグイン (com.snc.orchestration.client_sf_distribution) と一緒にインストールされます。

クライアント ソフトウェア ディストリビューションのテーブル

テーブル	説明
クライアントソフトウェアディストリビューション カタログ アイテム [sn_client_sf_dist_cat_item]	クライアントソフトウェアディストリビューション用に作成されたすべてのカタログ アイテムが含まれます。このテーブルは、カタログ アイテム [sc_cat_item] テーブルを拡張しています。
クライアントソフトウェアディストリビューション ソフトウェア要求 [sn_client_sf_dist_req_software]	要求されたすべてのソフトウェアとそのステータスが含まれます。
クライアントソフトウェアディストリビューション アプリケーション [sn_client_sf_dist_application]	検出されたすべての CSD アプリケーションが含まれます。
クライアントソフトウェアディストリビューション プロバイダー [sn_client_sf_dist_provider]	すべてのソフトウェア ディストリビューション プロバイダーが含まれます。
クライアントソフトウェアディストリビューション拡張キー [sn_client_sf_dist_extension_key]	定義済みの CSD 拡張キーが含まれます。
クライアントソフトウェアディストリビューション拡張ポイント [sn_client_sf_dist_extension_point]	拡張キーのカスタマイズ スクリプトが含まれています。
クライアントソフトウェアディストリビューション ソフトウェア構成 [sn_client_sf_dist_software_config]	すべてのソフトウェアプロバイダー構成のベーステーブル。
SCCM サーバー インスタンス [sn_client_sf_dist_cmdb_ci_sccm_server]	すべての SCCM サーバー インスタンスを含みます。このテーブルは、構成アイテム [cmdb_ci] テーブルを拡張しています。
SCCM アプリケーション [sn_client_sf_dist_sccm_application]	検出されたすべての SCCM アプリケーションが含まれます。このテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューション アプリケーション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアント ソフトウェア ディストリビューションのテーブル (続く)

テーブル	説明
	[sn_client_sf_dist_application] テーブルを拡張しています。
SCCM アプリケーションカタログアイテム [sn_client_sf_dist_sccm_app_cat_item]	SCCM アプリケーション用に作成されたすべてのカタログ アイテムが含まれます。このテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューション カタログ アイテム [sn_client_sf_dist_cat_item] テーブルを拡張しています。
SCCM コレクション [sn_client_sf_dist_sccm_collection]	検出されたすべての SCCM コレクションが含まれます。検出されたすべての SCCM コレクションが含まれます。
SCCM 展開 [sn_client_sf_dist_sccm_deployment]	検出されたすべての SCCM 展開が含まれます。検出されたすべての SCCM 展開が含まれます。
SCCM 構成 [sn_client_sf_dist_sccm_config]	SCCM アプリケーション、インストールおよびアンインストール コレクション、および ディスカバリー モデルが含まれます。このテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューション ソフトウェア構成 [sn_client_sf_dist_software_config] を拡張しています。

インストール済みプラグイン

これらのプラグインは、まだ有効でない場合、Client Software Distribution プラグインと一緒にインストールされます。

クライアント ソフトウェア ディストリビューション (CSD) の有効化を要求する手順については、「クライアントソフトウェアディストリビューションの要求」を参照してください。

統合ハブ - クライアントソフトウェアディストリビューションのプラグイン

プラグイン	説明
オーケストレーション - System Center Configuration Manager (com.snc.orchestration.sccm_mgnt)	SCCM ターゲット ホスト上で動作するカスタム SCCM オーケストレーション アクティビティをインストールします。
オーケストレーション - Asset Lease Management (com.snc.orchestration.asset_lease_management)	サービスカタログを介して配布されるソフトウェアのリース機能をインストールします。これには、リースの開始、停止、および延長が含まれます。
Service Catalog Scoped API (com.glideapp.servicecatalog.scoped.api)	サービスカタログでアプリケーション作成をサポートする API をインストールします。
ソフトウェア資産管理コア (com.snc.sam.core)	ソフトウェア資産管理のベーステーブルを提供します。ソフトウェアのインストール、使用状況、スイートの計算、およびディスカバリーモデルが含まれます。
ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)	統合ハブアクションとフローの実行を有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブ - クライアントソフトウェアディストリビューションのプラグイン (続く)

プラグイン	説明
サービスカタログのフローデザイナーサポート (com.glideapp.servicecatalog.flow_designer)	サービスカタログで フローデザイナー のサポートを提供します。
Microsoft SCCM Spoke for IntegrationHub (com.sn.sccm.spoke)	プロセスアナリストがユーザーコレクション、デバイスコレクション、およびアプリケーション展開の管理を自動化するために使用できる フローデザイナー のアクションを提供します。
ソフトウェア資産管理スポーク (com.sn_sam_spoke)	フローデザイナー でソフトウェア資産管理アクティビティのアクションを提供します。
Responsive Dashboards (com.glideapp.dashboard)	レスポンシブで動的なウィジェットレイアウトを使用して、ダッシュボードを作成、変更、および共有します。
Outbound Tracking (com.glide.outbound_tracking)	送信要求を追跡します。

インストールされるロール

これらのロールは、Client Software Distribution プラグインと一緒にインストールされます。

統合ハブ - クライアントソフトウェアディストリビューションのロール

ロール タイトル [名前]	説明	ロールを含む
クライアントソフトウェアディストリビューションアドミン [sn_client_sf_dist.csd_admin]	クライアントソフトウェアディストリビューション アプリケーションを管理するためのアドミンロール。	• sam • agent_admin • report_admin • catalog_admin • itil • workflow_admin

インストールされたスクリプトインクルード

これらのスクリプトインクルードは、Client Software Distribution プラグインと一緒にインストールされます。

クライアントソフトウェアディストリビューションのスクリプトインクルード

スクリプトインクルード	説明
CSDExtensionPoint	CSD プロバイダーの特定のコードを実行します。
CSDUtil	CSD アプリケーションのユーティリティ関数。
RefQualsCSD	参照修飾子フィルター。このスクリプトは、CSD プロバイダー、デバイス、SCCM アプリケーション、インストール コレクション、アンインストール コレクションのフィルター機能を提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントソフトウェアディストリビューションのスクリプトインクルード (続く)

スクリプトインクルード	説明
SCCMCatItemHandler	特定の SCCM カタログ アイテムのフィールド値を設定します。これらの値は、SCCM カタログ アイテム テーブル名、カタログ アイテム名、SCCM プロバイダー、および SCCM ソフトウェア構成です。
SoftwareCatItemCreator	ソフトウェアカタログアイテムを作成します。
CSDCatItemHandler	CSD カタログアイテム作成のための基底クラス。このスクリプトは、作成する [カタログ アイテムを作成] UI アクション、およびアプリケーション カタログによって使用されます。
CSDDemoDataUtil	デモデータを取り込みます。
CSDDemoDataUtilAjax	デモデータを取り込みます。

インストールされるプロパティ

クライアント ソフトウェア ディストリビューション (CSD) のプロパティは、要求されたソフトウェア展開のインストール状態を管理し、スケジュール済みの検出を構成します。

CSD プロパティにアクセスするには、[クライアント ソフトウェア ディストリビューション] > [プロパティ]に移動します。次のプロパティを使用できます。

クライアントソフトウェアディストリビューションのプロパティ

プロパティ	名前	説明
ステータス チェック有効期限 (日)	sn_client_sf_dist.softwareInstallExpDays	ソフトウェアのインストール ステータスを無視するまでにシステムが待機する日数を制御します。ソフトウェアをインストールするためのデフォルトの時間制限は、システムが展開のインストール ステータスのチェックを停止する 30 日前です。 インストール ステータスは次のとおりです。 • インストールされていません：構成済みの時間制限が切れるまでに、ユーザーが要求されたソフトウェアをインストールしていません。 • インストール済み：ソフトウェアが構成済みの時間制限内にインストールされました。 • ステータス チェック期限切れ：ユーザーが要求されたソフトウェアをインストールするための時間制限が切れています。システムは、この展開のステータスをチェックしなくなります。 • 取り消し済み：ソフトウェアはアドミニストレーターによって取り消しされました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントソフトウェアディストリビューションのプロパティ (続く)

プロパティ	名前	説明
		• タイプ：整数 • デフォルト値：30
ソフトウェアインストール ステータスの間隔 (時間) を調整	sn_client_sf_dist.softwareInstallIntervalHour	スケジュール済みジョブがいつ実行されるかを決定します。これにより、インストール ステータスが決まります。デフォルトでは、システムは 1 時間ごとにインストール ステータスをチェックします。 • タイプ：整数 • デフォルト値：24
スケジュール済みアプリケーション ディスカバリー間隔 (日) を設定	sn_client_sf_dist.discoveryExeDay	アプリケーションディスカバリーを実行するスケジュール済みジョブの繰り返し間隔を設定します。デフォルトでは、この値で設定された日の深夜にディスカバリーが実行されます。 • タイプ：整数 • デフォルト値：5
リース実行スケジュールジョブ間隔 (分) を設定	sn_client_sf_dist.lease_execution_interval	[CSD リース スケジュール] スケジュール済みジョブが、要求されたソフトウェア リースの開始、停止、または延長をチェックする間隔。 • タイプ：整数 • デフォルト値：1
リース終了の何日前に通知するか (日数) を設定	sn_client_sf_dist.lease_end_notification	ソフトウェア リースの終了の何日前に要求者に通知するのかを指定します。リース延長が許可されている場合は、リース期限が切れるまでに承認プロセスが完了するのに十分な時間が確保されるようにしてください。 • タイプ：整数 • デフォルト値：5

インストールされるフローとサブフロー

これらのフローとサブフローは、Client Software Distribution プラグインと一緒にインストールされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるフロー

フロー	
クライアントソフトウェアの注文	選択したデバイスへの注文したアプリケーションのインストールをスケジュールします。要求には、カタログアイテム構成のユーザー入力に基づく承認が必要です。
クライアントソフトウェアの展開	プロバイダー固有のサブフローを実行してソフトウェアを展開します。プロバイダーサブフローの実行でエラーが発生した場合にカタログタスクを作成します。

クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるサブフロー

サブフロー	説明
SCCM データの検出および保存	Microsoft SCCM スポークアクションを使用して、SCCM サーバーからアプリケーション、コレクション、および展開のリストを取得します。アドミニストレーターは、SCCM サーバーインスタンスレコードの UI アクションからこのサブフローを実行します。
SCCM アプリケーションの展開	[クライアントソフトウェアの注文] フローによってトリガーされ、SCCM サーバーを介してソフトウェアを展開します。このサブフローは、ユーザーまたはデバイスのいずれかを SCCM コレクションに追加します。
クライアントソフトウェアの取り消し	外部プロバイダーによって展開されたソフトウェアのソフトウェア取り消しプロセスを開始します。アドミニストレーターは、要求済みソフトウェアレコードとインストール済み権限なしソフトウェアレコードの UI アクションからこのサブフローを実行します。このサブフローは、実際の取り消しを実行する適切なプロバイダーサブフローをトリガーします。たとえば、このサブフローは、SCCM アンインストール コレクション内のアプリケーションに対して [SCCM アプリケーションの取り消し] サブフローをトリガーします。
SCCM アプリケーションの取り消し	アンインストール コレクションのメンバーである SCCM アプリケーションを取り消します。[クライアント ソフトウェアの取り消し] サブフローがこのサブフローをトリガーすることで、SCCM サーバーによって展開されたソフトウェアが取り消されます。このサブフローは、ユーザーまたはデバイスのいずれかを SCCM コレクションから適切なアンインストールコレクションへ移動します。
CSD リース終了通知	ソフトウェアのリース終了日をユーザーに通知し、リース終了日を延長するリンクを送信します。
CSD 展開ソフトウェアの後処理	ソフトウェアの展開が成功した後、後処理を実行します。クライアントソフトウェアの展開フローは、このサブフローをトリガーします。
CSD リース終了通知	ソフトウェアのリース終了日をユーザーに通知し、リース終了日を延長するリンクを送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるサブフロー (続く)

サブフロー	説明
失効データの準備	失効フローに必要なデータを準備します。

配布済みソフトウェアのライセンスとカウンタの作成

ライセンスとソフトウェア カウンタはソフトウェアモデルに関連付けられており、クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) によって配布されたソフトウェアのライセンスを追跡する場合は作成する必要があります。

始める前に

必要なロール：sam または admin

CSD によってサービスカタログから展開されたソフトウェアアイテムのソフトウェア資産管理で、ソフトウェアライセンスとカウンタを作成できます。CSD はソフトウェア カウンタの結果に応じて、要求されたソフトウェアでライセンスが利用可能かどうかを判断します。ライセンスの [評価] が 0 より大きく、ライセンス タイプが [未配分] である場合、CSD はライセンスがソフトウェアで利用可能であるとみなします。

手順

1. [すべて] > [ソフトウェア資産] > [ソフトウェアライセンス]に移動します。
2. CSD で使用したソフトウェアモデルの新しいソフトウェアライセンスを追加します。
3. [ソフトウェア資産] > [調整] > [ソフトウェア カウンタ]に移動します。
4. 作成したソフトウェアモデルのソフトウェア カウンタを作成します。
5. カウンタを実行してソフトウェアライセンス情報を取得します。

クライアントソフトウェアディストリビューションの注文プロセス

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) によって展開されたソフトウェアは、個々のユーザーによって、または他のユーザーの代わりに承認済みユーザーによって、サービスカタログから注文できます。

クライアント ソフトウェア ディストリビューション カタログ アイテムには、注文の構成方法によってさまざまなオプションがあります。

リースの開始日と終了日

CSD によって展開されたすべてのソフトウェアでは、ユーザーがリースの開始日を指定する必要があります。これは、CSD によって自動的に有効化される Asset Lease Management プラグインによって適用されます。[リース開始] フィールドには現在の日付と時刻が設定されます。

カタログ アイテムが取り消し (アンインストール) 用に構成されている場合は、フォームに [リース終了] フィールドが表示され、要求者がリースの終了日時を定義できます。選択された日付で将来の期間を定義するように、これらのフィールドのユーザー入力が検証されます。[リース終了] フィールドは必須ではなく、終了日なしでソフトウェアを注文する場合は空白のままにすることができます。

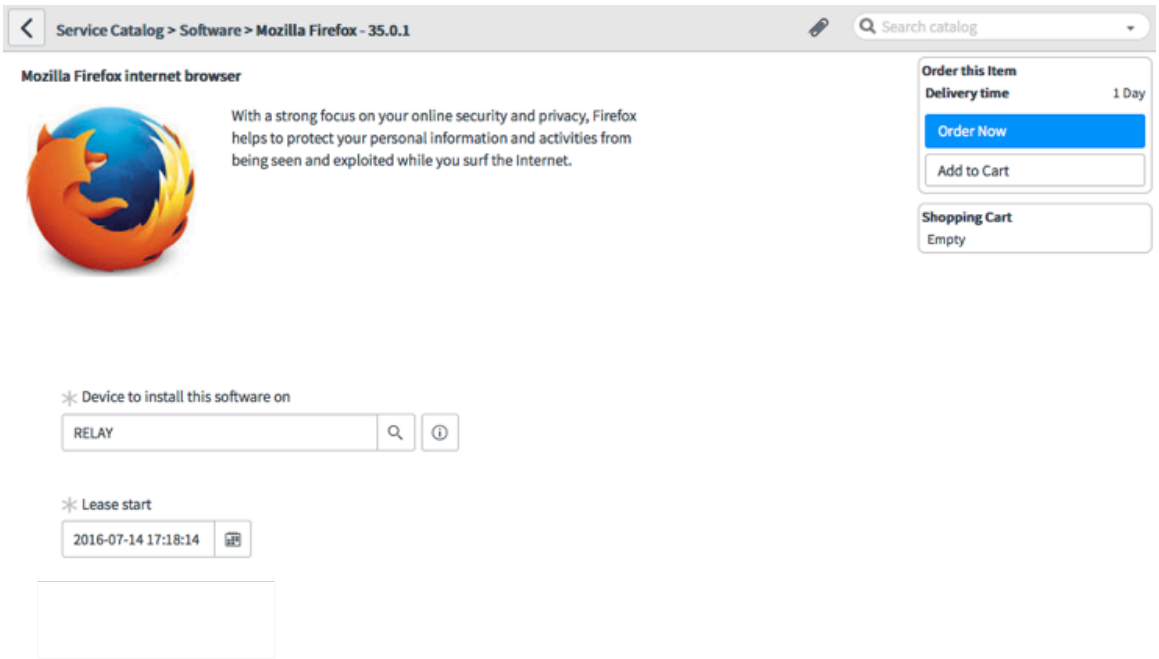
> **注:** Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) からソフトウェアを展開するシステムの場合、SCCM 構成の定義 でアンインストール　コレクションを指定する場合に限り、[リース終了] フィールドを使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ログインしたユーザーにのみ提供されるソフトウェア

[代理注文] チェック ボックスがオフの状態でソフトウェア カタログ アイテムが構成された場合、注文フォームに [ユーザー] フィールドが表示されません。ログインしたユーザーは、[このソフトウェアをインストールするデバイス] フィールドからソフトウェアの展開先デバイスを選択します。ログインしたユーザーに割り当てられたデバイスだけがリストに表示されます。

この例では、ユーザーがサービスカタログにログインし、割り当てられたコンピューター用に Firefox を注文します。ユーザーは、デバイスのリストからマシンを選択し、リースを開始する日時を選択します。このソフトウェアは、Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) を介して展開されますが、アンインストール コレクションが構成されておらず、システムによって自動的に取り消されることはありません。その結果、[リース終了] フィールドは使用できません。

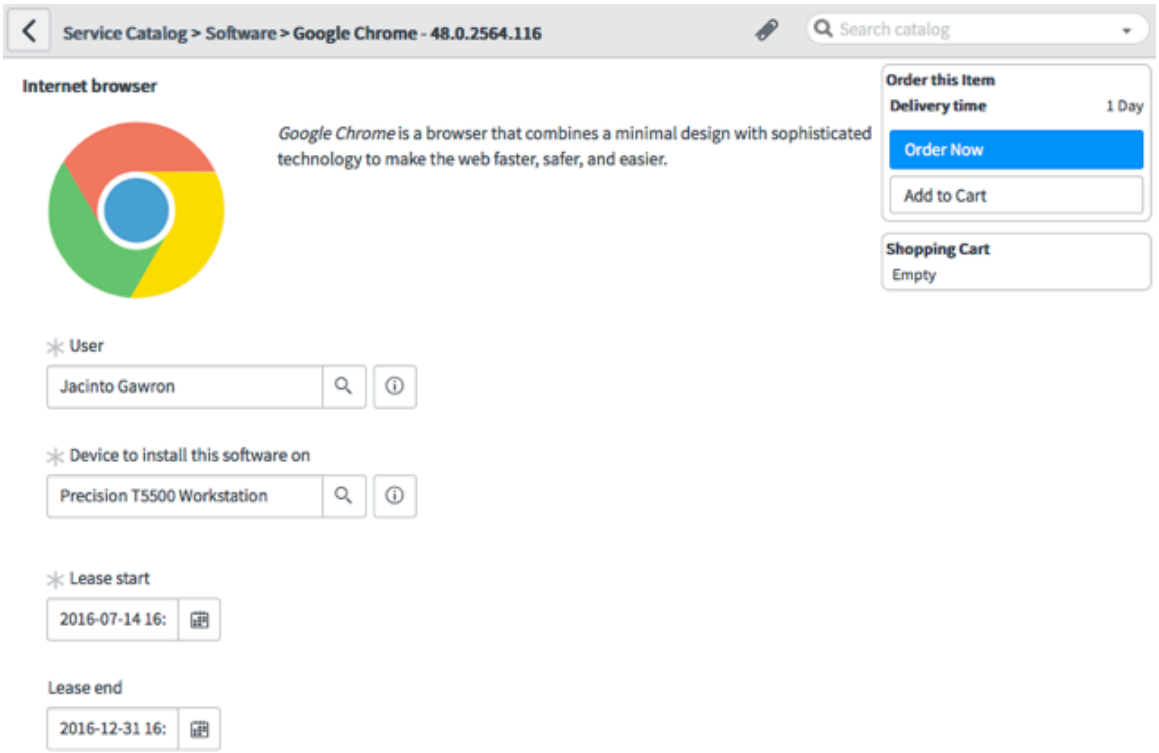


別のユーザーの代わりに注文したソフトウェア

[代理注文] チェック ボックスがオンの状態でソフトウェア カタログ アイテムが構成された場合、フォームに [ユーザー] フィールドが表示されます。ログインしたユーザーは、このフィールドから任意のユーザーを選択できます。[このソフトウェアをインストールするデバイス] フィールドには、[ユーザー] フィールドで選択されたユーザーに割り当てられたデバイスのみが表示されます。他のユーザーの代わりに注文されたソフトウェアに対して承認が必要な場合、システムはソフトウェアを受け取ったユーザーのマネージャーに承認要求を自動的に送信します。要求者が指定ユーザーのマネージャーである場合、承認はスキップされます。

この例では、マネージャーが契約社員のために Google Chrome を注文しています。マネージャーは、[ユーザー] フィールドから契約社員を選択し、その契約社員に割り当てられたデバイスのリストからコンピューターを選択します。このソフトウェアには SCCM アンインストール コレクションが構成されています。これにより、マネージャーはユーザーの契約終了と一致するリースの終了日を選択できます。リースが期限切れになると、SCCM は自動的にデバイスからソフトウェアをアンインストールします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ソフトウェア リースの延長

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) によって展開されたソフトウェアのユーザーは、ソフトウェア ディストリビューション システムによってソフトウェアが取り消される場合、リース期間の延長を要求することができます。

始める前に

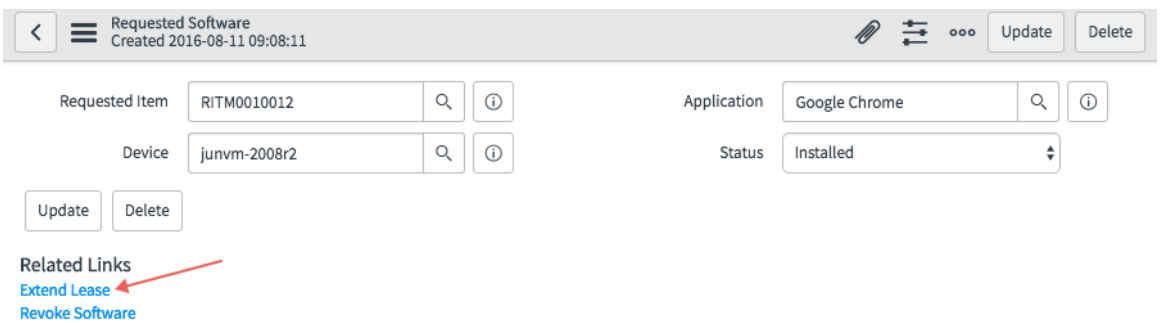
必要なロール：すべてのシステム ユーザー

このタスクについて

ソフトウェアのリース終了日が定義されており、ソフトウェア ステータスが [インストール済み] である場合、リースの延長を要求し、組織が必要とする承認を処理待ちにすることができます。

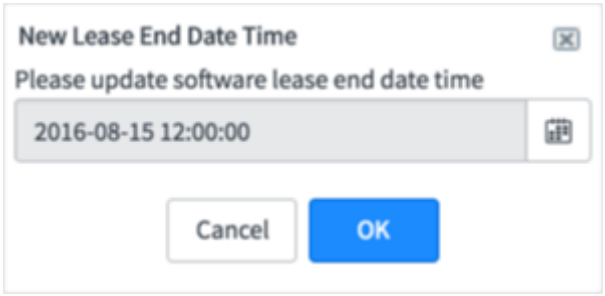
手順

1. [すべて] > [サービスカタログ] > [自分の要求されたソフトウェア]に移動します。
   リストには、サービスカタログから要求したソフトウェアのみが表示されます。
2. リースを延長するインストール済みソフトウェアのレコードを選択します。
3. [関連リンク] で、[リースの延長] をクリックします。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 表示されるダイアログ ボックスのカレンダーで新しいリース終了日を選択し、**[OK]** をクリックします。
   現在の日付より後の日付を選択する必要があります。



リース延長がマネージャーの承認を条件とする場合は、決定が通知されます。要求が承認されると、新しいリース終了日が通知に表示されます。新しい終了日が、要求を行った日付から 5 日以内 (デフォルトの通知期間) である場合、CSD は即時のリース終了通知を送信します。

重要: 組織内のリース延長に承認が必要な場合は、承認者が利用可能であり、延長要求を処理するのに十分な時間があることを確認してください。元の終了日が切れる前に延長を承認できない場合、ソフトウェアは取り消されます。

SCCM からのクライアント ソフトウェア ディストリビューション

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) を使用して、Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) からソフトウェアの展開や展開取り消しを実行し、SCCM ホスト上のディストリビューションを管理します。

Microsoft SCCM スポークには、CSD がサービスカタログ要求からソフトウェアを展開したり、SCCM サーバー上のユーザーおよびデバイス コレクションを管理したりするために使用するアクションが含まれています。さらに、CSD では、ServiceNow ソフトウェア資産管理を使用して展開済みソフトウェアのライセンス数を管理したり、SCCM によって展開されたソフトウェアをユーザー操作なしで取り消したり、リース期間を管理したりすることができます。

SCCM の構成

表示された順序で SCCM の構成手順に従います。

注: ユーザーが MECM サーバーとのリモート PowerShell セッションを確立できる必要があることを確認します。スポークスクリプトは、セッションを作成するために *Microsoft.PowerShell32* 構成を使用します。ユーザー権限については、「Microsoft Learn」の「ユーザー権限」を参照してください。

SCCM サーバーでのアプリケーションアドミニストレーターロールの構成

ServiceNow® クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) を使用してソフトウェアを展開する場合は、SCCM 管理ユーザーにソフトウェアを展開するための適切な権限があること、および PowerShell が適切に構成されていることを確認します。

始める前に

必要なロール：SCCM アプリケーションアドミニストレーター。

このタスクについて

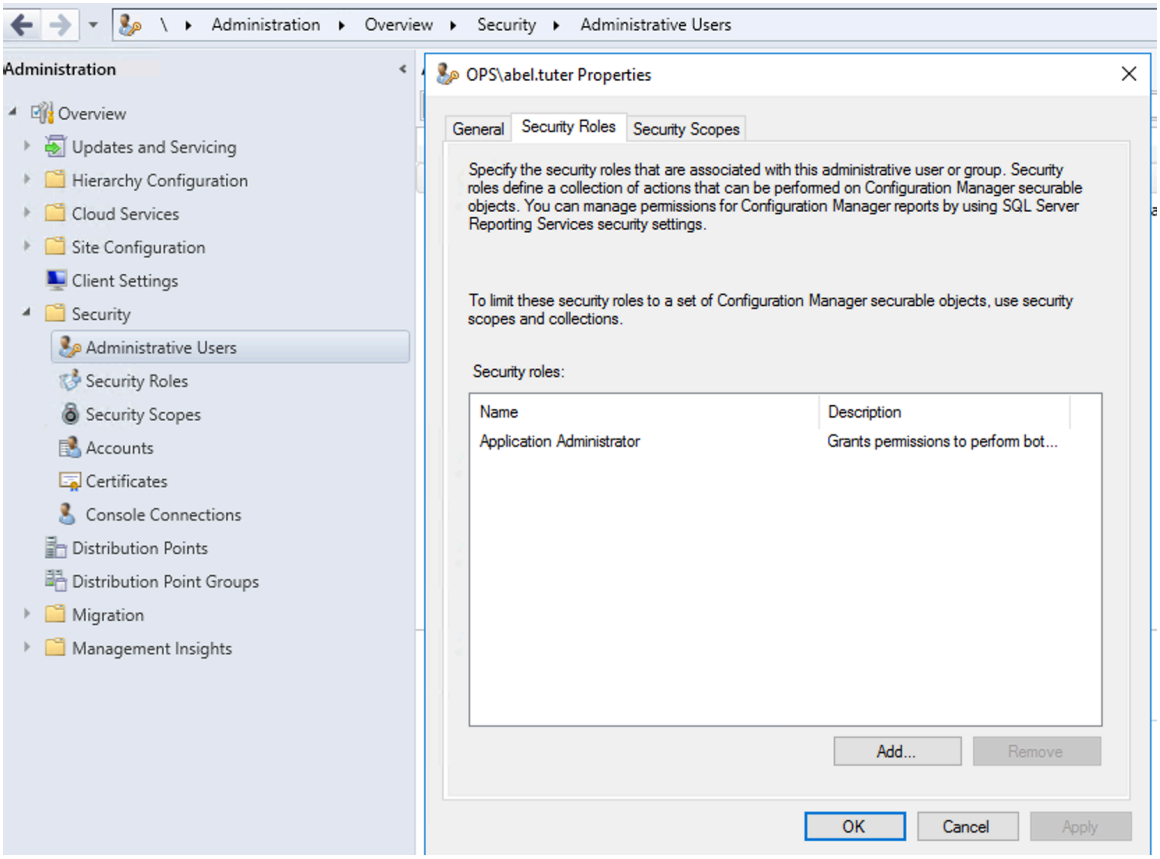
これらの手順は、Microsoft 2012 R2 Server 用です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. System Center Configuration Manager コンソールで、[管理] > [セキュリティ] > [管理ユーザー]に移動します。
2. アプリケーションアドミニストレーターロールを付与するユーザーを右クリックします。
3. ドロップダウン メニューから [プロパティ] を選択します。
4. [プロパティ] ダイアログ ボックスで、[セキュリティ ロール] タブを選択します。
5. ユーザーにアプリケーションアドミニストレーターロールがあることを確認します。
6. ユーザーがまだこのロールを持っていない場合は、[追加] をクリックし、このロールをリストから選択し、**[OK]** をクリックします。

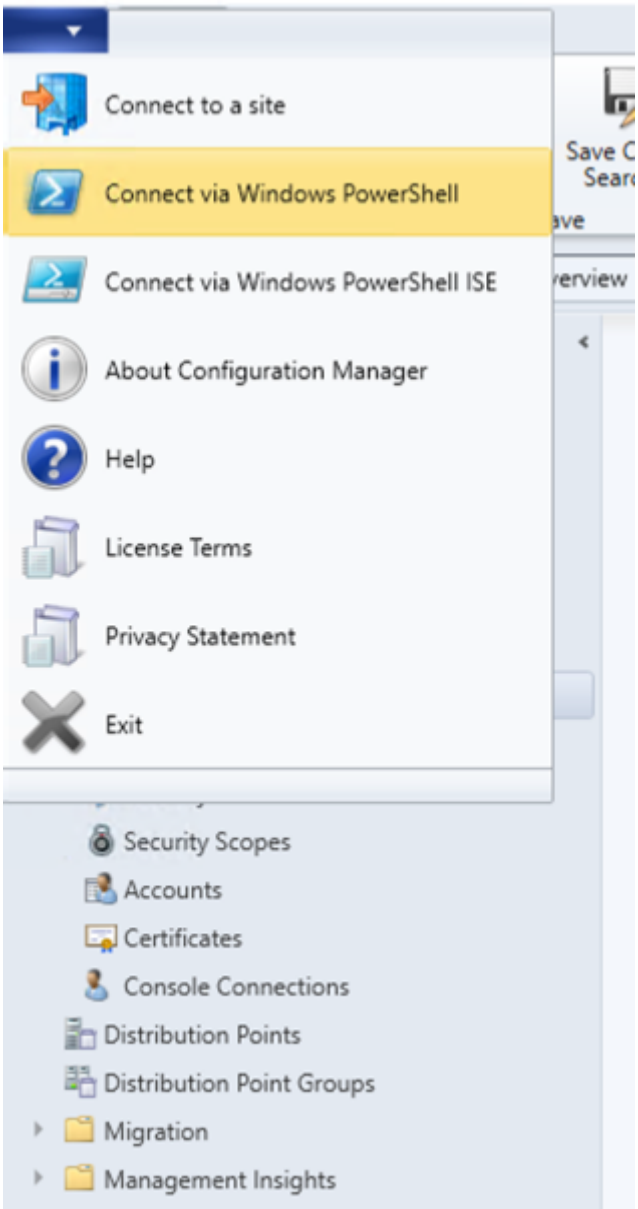
SCCM サーバーでのアプリケーションアドミニストレーターロールの付与



7. アプリケーションアドミニストレーターロールを持つユーザーとして SCCM にログインします。
8. コンソールの左上隅からメニューを開き、**[Windows PowerShell** で接続する] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PowerShell への接続



9. ユーザーが CM コンソールにアクセスできることを確認します。
   このアクションにより、ログインしているアプリケーション管理者ユーザーに対し PowerShell への環境パスが確立されます。

SCCM コマンドレット ライブラリーの更新

System Center Configuration Manager の SCCM コマンドレット ライブラリーが最新の状態であることを確認します。

始める前に
必要なロール：設定に応じて、 現在のユーザーまたはシステムアドミニストレーター。

このタスクについて
System Center Configuration Manager の SCCM コマンドレット ライブラリーは、SCCM 用の Windows PowerShell モジュールをインストールおよび更新します。SCCM は、ライブラリーの更新を毎日チェックします。システムは SCCM アクティビティ出力を解析できないため、古くなったライブラリーによって SCCM サーバーのディスカバリーが失敗する可能性があります。この警告メッセージは、SCCM GET アクティビティの ECC キュー入力レコードに出現します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
WARNING: An update to the System Center 2012 Configuration Manager Cmdlet
Library is available. Please go to
'http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=528947' to download the latest
 version.
Running cmdlet version: 5.0.8231.1004 Latest cmdlet version:
 5.0.8328.1155
```

コマンドレット ライブラリーの最新バージョンを http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=528947 からダウンロードします。インストール手順については、https://technet.microsoft.com/en-us/library/dn958404(v=sc.20).aspx を参照してください。

以前のバージョンのライブラリーの使用を選択する場合は、この手順を使用して CM 更新チェックを無効にします。これにより、問題なくディスカバリーを実行できます。

手順

1. アドミニストレーターとして SCCM コンソールにログインします。
2. コンソールの左上隅からメニューを開きます。
3. **[Windows PowerShell** で接続する] を選択します。
4. 更新チェックを無効にするには、次のいずれかのコマンドを実行します。
   - ユーザーごと：*Set-CMCmdletUpdateCheck -CurrentUser -IsUpdateCheckEnabled 0*
   - システムごと：*Set-CMCmdletUpdateCheck -System -IsUpdateCheckEnabled 0*

   重要: システムごとのコマンドレットは、昇格した Windows PowerShell セッションで実行する必要があります。
5. *Get-CMCmdletUpdateCheck* コマンドを実行してコンソールを更新し、設定を確認します。
6. *IsEnabled* 構成変数が **False** に変更されたことを確認します。
   これは、古くなったコマンドレット ライブラリーの警告が、指定されたユーザーに対して無効になっていることを示します。
7. 更新チェックを再度有効にするには、現在のユーザーまたはシステムのいずれかに対して *-IsUpdateCheckEnabled 1* コマンドを実行します。

SCCM アクティビティ用の MID サーバーの構成

Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) アクティビティで MID サーバーを使用するには、SCCM サーバーと通信するように構成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ナビゲーションフィルターに **cmdb_ci_dns_name.list** と入力します。
2. [新規] をクリックします。
3. [名前] フィールドに SCCM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。
5. **[IP** アドレス] 関連リストで、[新規] をクリックします。
6. **[IP** アドレス] フィールドに、SCCM サーバーの IP アドレスを入力します。
7. **[Nic]** フィールドで、**[eth0]** または任意のネットワークインターフェイスコントローラーを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [ネットマスク] フィールドは空白のままにします。
9. [送信] をクリックします。

SCCM 展開の接続および資格情報エイリアスの作成

Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) では、クライアントソフトウェアディストリビューションアプリケーションを使用してアプリケーションを展開するための適切な認証情報が必要です。

始める前に
必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin

このタスクについて
クライアント ソフトウェア ディストリビューションには、SCCM サーバーの管理権限を持つ Windows 資格情報が必要です。

手順
1. [すべて] > [接続および資格情報] > [接続および資格情報エイリアス]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

接続および資格情報エイリアスフォーム

フィールド	説明
名前	エイリアスを一意に識別する名前たとえば、「`CSD エイリアス`」。
ID	システムによって生成された一意の ID。
アプリケーション	このレコードを含むアプリケーションスコープ
タイプ	エイリアスタイプ。[接続と資格情報] を選択します。
接続タイプ	接続タイプ。[基本] を選択します。
複数の有効な接続をサポート	エイリアスが複数の有効な接続をサポートするかどうかを定義します。
デフォルトの再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。
構成テンプレート	スポークの設定に必要な入力を定義するテンプレート

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
5. [新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクをクリックします。
6. フォームのフィールドに入力します。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
SCCM サーバーインスタンス名	SCCM サーバーを一意に識別する名前を入力します。
ホスト	SCCM サーバーがインストールされるターゲットホストの完全修飾ドメイン名。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証情報名	接続および資格情報エイリアスに関連付けられた認証情報レコード。
ユーザー名	ターゲット Windows ホストへのアクセス権を持つユーザー名。
パスワード	アカウントのパスワードを入力します。

7. [作成] をクリックします。

タスクの結果
接続レコードと SCCM サーバーインスタンスが作成され、接続および資格情報エイリアスに関連付けられます。

クライアントソフトウェアディストリビューションの **SCCM** データの取得

SCCM サーバーから展開に利用可能なコレクションとアプリケーションのリストを取得します。

始める前に
必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin

この手順を開始する前に：

- Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーを設定し、アプリケーションとコレクションを作成し、必要な展開を構成します。詳細については、SCCM のドキュメントを参照してください。
- SCCM サーバーのアプリケーション展開アドミンロールを使用して、SCCM サーバーでのアプリケーションアドミニストレーターロールを構成 します。
- SCCM サーバーと通信するように MID サーバーを設定します。
- アプリケーション展開マネージャー ロールを持つ SCCM ユーザーについて、PowerShell 認証情報を ServiceNow 認証情報 [discovery_credentials] テーブルに追加します。

このタスクについて
クライアントソフトウェアディストリビューション アプリケーションに SCCM データを設定するには：

手順

1. [すべて] > [クライアントソフトウェアディストリビューション] > **[SCCM]** > **[SCCM** サーバーインスタンス]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. [SCCM サーバーインスタンス] フォームで、サーバーを名前で識別し、接続および資格情報エイリアスを選択します。

   注: [完全修飾ドメイン名] フィールドは空のままにします。

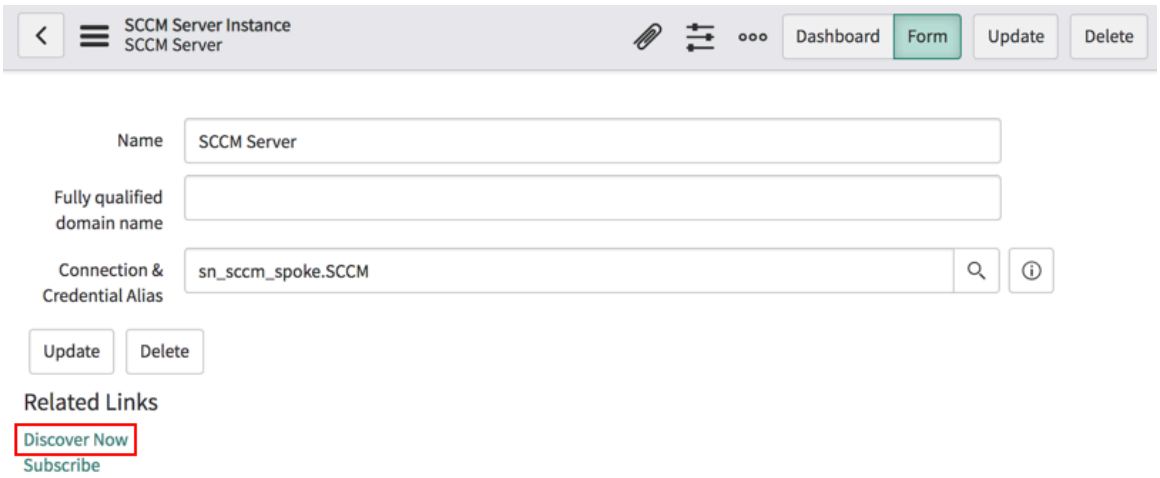
4. [送信] をクリックします。

   新しい SCCM サーバーがリストに表示されます。

5. 新しい SCCM レコードを開き、[関連リンク] の [今すぐ検出] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション、コレクション、および展開データを SCCM サーバーから取得する [SCCM の検出] フローが実行されます。



クライアント ソフトウェア ディストリビューションのための **SCCM** サーバーディスカバリー

ディスカバリーフローでは、SCCM サーバーから取得したコレクション、アプリケーション、および展開のデータを ServiceNow テーブルに入力します。

ユーザーは、SCCM サーバー インスタンス レコードから **[SCCM** の検出] フローを実行して、次の ServiceNow テーブルに入力します。

ServiceNow テーブルに入力される **SCCM** データ

テーブル	フィールド
SCCM アプリケーション [sn_client_sf_dist_sccm_application]	• name • publisher • version • モデル • sccm_server
SCCM コレクション [sn_client_sf_dist_sccm_collection]	• name • type • sccm_server
SCCM 展開 [sn_client_sf_dist_sccm_deployment]	• アプリケーション • collection • type

注: SCCM サーバーからデータを抽出するためにこのフローで使用されるアクションの詳細については、「Microsoft SCCM スポーク 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SCCM アプリケーションのソフトウェアモデルの設定

SCCM サーバーで検出されたアプリケーションを使用して、ソフトウェア資産管理アプリケーションで使用されるソフトウェアモデルを設定し、ライセンスを管理します。

始める前に

必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin
ソフトウェア モデルを作成する前に、SCCM サーバーの展開で利用できるアプリケーションを検出する必要があります。詳細については、「クライアントソフトウェアディストリビューションの SCCM データの取得」を参照してください。

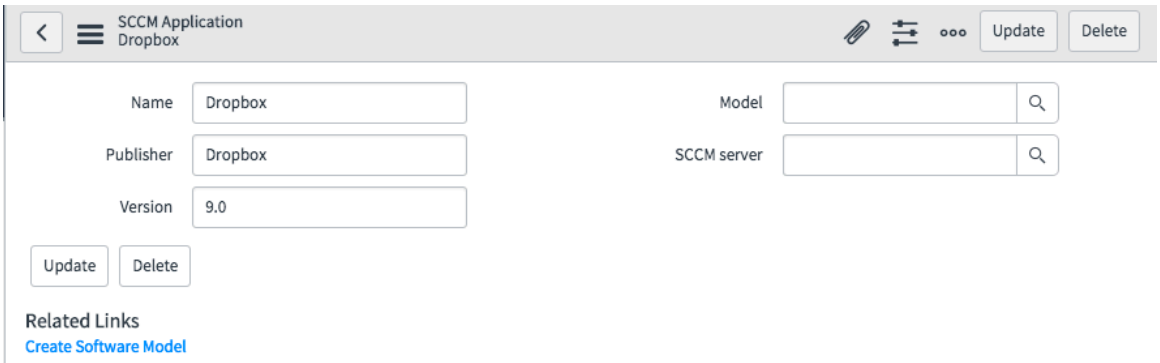
このタスクについて

SCCM アプリケーションを既存のソフトウェア モデルにリンクするか、新しいモデルを作成することができます。

手順

1. [すべて] > [クライアントソフトウェアディストリビューション] > **[SCCM]** > **[SCCM** アプリケーション]に移動します。
   SCCM サーバー上で検出されたアプリケーションのリストが表示されます。
2. SCCM アプリケーション レコードを開きます。
3. 既存のモデルにリンクするには、[モデル] フィールドの [虫眼鏡 (magnifying glass)] アイコンをクリックし、リストからモデルを選択します。

SCCM アプリケーション レコード



4. モデルを作成するには、[関連リンク] の [ソフトウェアモデルを作成] をクリックします。

   a. ソフトウェアモデルのフィールドを設定します。
      詳細については、「」を参照してください。

   b. [送信] をクリックします。
      ビューが [SCCM アプリケーション] フォームに戻ります。

SCCM 構成の定義

SCCM ソフトウェア展開用のカタログ アイテムを作成したり、または SCCM を介してソフトウェアを取り消すようにインスタンスを構成したりするには、まず SCCM 構成を介してそのソフトウェアをコレクションに関連付ける必要があります。

始める前に

SCCM 構成レコードを作成する前に、SCCM アプリケーション、コレクション、および展開を検出し、必要なソフトウェア モデルを設定していることを確認してください。

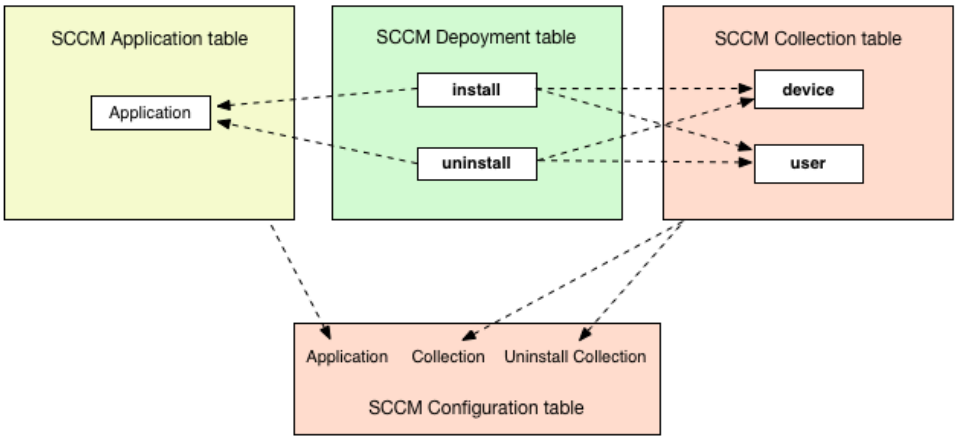
必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

SCCM 構成プロセスは、ソフトウェアと SCCM コレクションを関連付けます。SCCM サーバーからソフトウェアを展開するには、ユーザーまたはデバイスが、インストール展開に関連付けられた SCCM コレクションのメンバーである必要があります。クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) では、[アンインストール] コレクションを使用して権限のないソフトウェアを削除できる場合、SCCM サーバーを使用してその権限のないソフトウェアを取り消すことができます。サービスカタログから取り消し可能なソフトウェアを要求するユーザーは、リース開始日や終了日を定義したり、リース延長を要求したりすることもできます。

SCCM テーブル参照

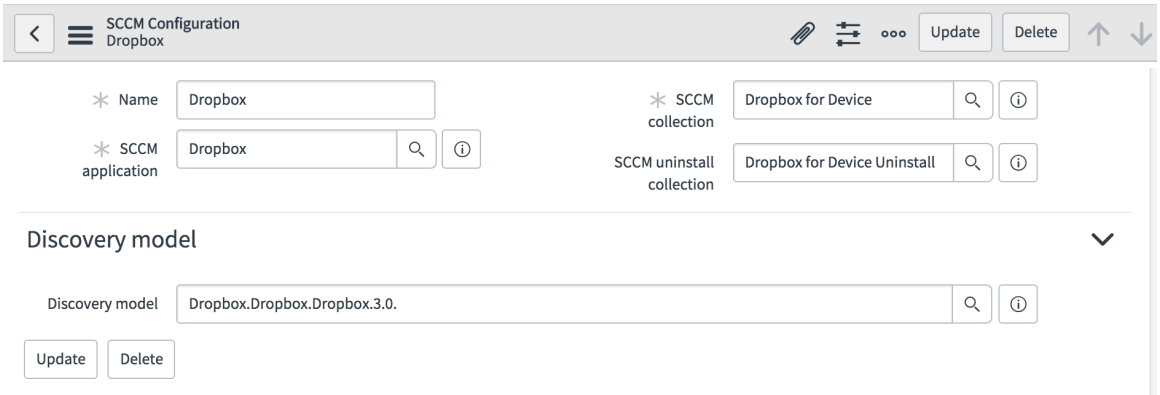


手順

1. [すべて] > [クライアント ソフトウェア ディストリビューション] > **[SCCM]** > **[SCCM** アプリケーション]に移動します。
2. 構成済みのソフトウェアモデルを持つアプリケーションを開きます。
3. [関連リンク] の [ソフトウェア構成の作成] をクリックします。
4. テーブル内のフィールドを使用して、フォームに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SCCM 構成フォーム



SCCM 構成フィールド

フィールド	説明
名前	この SCCM ソフトウェア構成の認識可能な名前。
SCCM アプリケーション	SCCM サーバーでホストされているアプリケーションの名前。
SCCM コレクション	SCCM サーバーで選択されたアプリケーションのインストール展開に関連付けられているコレクションの名前。アプリケーションに関連付けられたコレクションのみが選択可能です。
SCCM アンインストール コレクション	SCCM サーバーで選択されたアプリケーションのアンインストール展開に関連付けられているコレクションの名前。次の場合はアンインストール コレクションを指定する必要があります。 ◦ 展開済みソフトウェアのリース終了日を定義する。 ◦ リース延長を許可する。 ◦ ユーザーのマシンからソフトウェアを取り消す。
ディスカバリーモデル	権限のないソフトウェアのインストールを SCCM 構成とリンクするディスカバリーモデル。SCCM 構成レコードから、クライアント ソフトウェアディストリビューションはソフトウェアの取り消しに使用するコレクションを判別できます。権限のないソフトウェアとは、ユーザーのマシン上で検出され、ユーザーが使用する権限を持たないソフトウェアのことです。

SCCM アプリケーションのカタログ アイテムの作成

SCCM サーバー上で検出されたアプリケーションを使用して、サービスカタログから配布するために提供するアプリケーションのカタログ アイテムを作成します。

始める前に

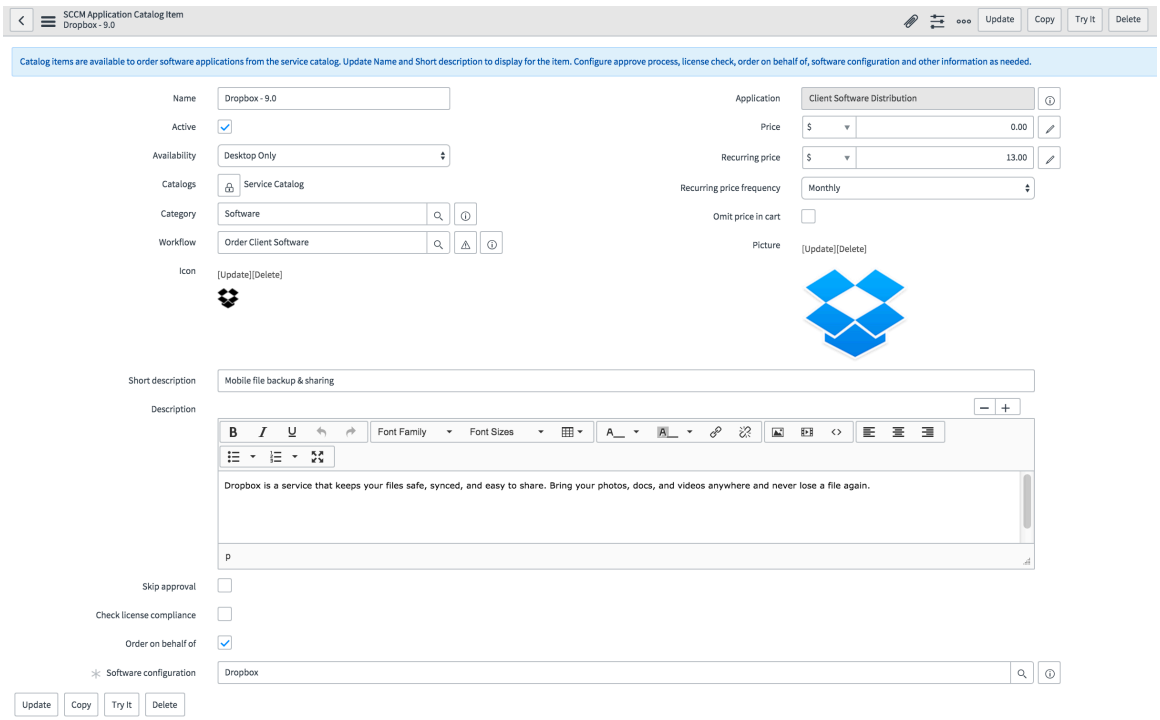
必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カタログ アイテムを作成する前に、アプリケーションをソフトウェアモデルにリンクし、少なくとも 1 つのソフトウェア構成を作成する必要があります。

手順

1. [すべて] > [クライアントソフトウェアディストリビューション] > **[SCCM]** > **[SCCM** アプリケーション]に移動します。
   SCCM サーバー上で検出されたアプリケーションのリストが表示されます。
2. SCCM アプリケーションのレコードを開きます。
3. [関連リンク] の [カタログ アイテムを作成] をクリックします。
   新しい SCCM アプリケーションカタログアイテムレコードが事前設定された情報とともに表示されます。。



4. 価格情報を追加し、Client Software Distribution プラグインによってクライアントソフトウェアディストリビューションカタログアイテム [sn_client_sf_dist_cat_item] テーブルに追加された次のフィールドを設定します。

カタログ アイテム フォームの **SCCM** フィールド

フィールド	説明
承認をスキップ (skip_approval)	ユーザーがサービスカタログから注文したときに、要求者のマネージャーがこのアイテムの承認をスキップできるようにするチェック ボックス。このフィールドは [代理注文] フィールドと一緒に使用して、別のユーザーの代わりにログインしたユーザーが注文したソフトウェアが承認されることを保証します。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっており、新しいカタログ アイテムすべてに対してマネージャーの承認が必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 可能な承認のレベルは 2 つあります。デフォルトでは、すべてのカテゴリアイテムで $1000 を超えるアイテムにはグループ承認が必要です。その承認が与えられるかスキップされると、システムは [承認をスキップ] チェック ボックスを評価して、ソフトウェアアイテムが要求者のマネージャーによる承認を必要としているかどうかを判断します。
ライセンスのコンプライアンスをチェック (check_license_compliance)	現在のライセンスでこのアイテムの展開が許可されているかどうかをシステムで強制的に判断するためのチェック ボックス。
代理注文	ログインしたユーザーが、このソフトウェアを別のユーザーのサービスカタログから注文できるようにするチェック ボックス。これにより、サービスデスク担当者は、システム内の他のユーザーに対して SCCM 展開を注文することができます。デフォルトでこの機能は有効になっています。権限のないユーザーがソフトウェアを注文できないようにするには、[承認をスキップ] チェック ボックスをオフにして、このタイプの展開に承認が必要になるようにします。 あるユーザーの代わりに注文されたソフトウェアに対して承認が必要な場合、システムはソフトウェアを受け取ったユーザーのマネージャーに承認要求を自動的に送信します。要求者が指定ユーザーのマネージャーである場合、承認はスキップされます。 別のユーザーの代わりにサービスカタログから要求されるソフトウェアアイテムには、次の情報が必要です。 ◦ ユーザー：展開のために選択されたユーザー。このフィールドには、ログインしているユーザーの名前が自動的に入力されます。リストから別のユーザーを選択することができます。 ◦ このソフトウェアをインストールするデバイス：選択されたユーザーに属する、ソフトウェアを展開するデバイス。そのユーザーに属するデバイスだけが選択リストに表示されます。 ◦ リース開始：ソフトウェアを展開する日時。これはリースの開始時刻です。リースは無期限にすることも、リース終了時間を設定することもできます。
SCCM 構成	このアプリケーションの SCCM 構成の定義 の名前。このレコードは、このアプリケーションのコレクションとアンインストール コレクションを定義します。この構成は、SCCM サーバーによって実行されるすべての展開、取り消し、およびリースに必要です。

5. コストが理由でカタログアイテムの承認が必要な場合は、[グループにより承認] 関連リストで承認グループを構成してください。
デフォルトでは、[サービスカタログ要求] フローは、$1000 以上のコストがかかるアイテムが注文されたときに実行され、適切な承認グループを探します。アイテムに対して承認グループが構成されていない場合、このフローは承認を一切スキップして終了します。システムは [クライアント

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソフトウェアの注文] フローを実行して [承認をスキップ] チェック ボックスを評価し、要求者のマネージャーによる承認を必要としているかどうかを判断します。

6. [更新] をクリックします。
ビューが [SCCM アプリケーション] リストに戻ります。
7. すべてのクライアント ソフトウェアアイテム (CSD) カタログ アイテムを表示するには、[クライアントソフトウェアディストリビューション] > [アイテムの管理] > [ソフトウェアアイテム] に移動します。

SCCM 展開プロセス

サービスカタログのクライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) カタログアイテムから SCCM アプリケーションを注文すると、[クライアントソフトウェアの注文] フローがトリガーされます。

このプロセスは、サービスカタログの注文で SCCM アプリケーションをユーザーまたはデバイスに展開します。

1. ソフトウェアカタログアイテムで [承認をスキップ] チェックボックスがオフになっている場合、[クライアントソフトウェアの注文] フローは、承認のために要求ユーザーのマネージャーにカタログ要求を送信します。
2. ソフトウェアカタログアイテムで [ライセンスコンプライアンスのチェック] チェックボックスがオンになっている場合、フローはソフトウェアライセンスのチェックを実行します。使用可能なライセンスがない場合、フローはより多くのライセンスを調達するカタログ タスクを作成し、そのタスクを CSD アドミングループに割り当てます。
3. [クライアント ソフトウェアの注文] フローは、[SCCM アプリケーションの展開] フローをサブフローとしてトリガーします。このフローは、Microsoft SCCM スポーク で [ユーザー コレクションに追加] または [デバイス コレクションに追加] アクションを使用して、ユーザーまたはデバイスのいずれかを SCCM コレクションに追加します。
4. ソフトウェア構成でソフトウェアカタログアイテムに **SCCM** アンインストールコレクションが指定されている場合、[SCCM アプリケーションの展開] フローは、ユーザーまたはデバイスがアンインストールコレクション内に存在するかどうかをチェックします。このフローは、Microsoft SCCM スポーク の [コレクションのデバイス] または [コレクションのユーザー] を使用します。ユーザーまたはデバイスがアンインストール コレクション内に存在する場合、フローはデバイスまたはユーザーを削除します。サブフローは、SCCM インストール コレクションに追加する前に Microsoft SCCM スポーク で [デバイスコレクションから削除] または [ユーザーコレクションから削除] アクションを使用します。

クライアントソフトウェアディストリビューションの検証プロセス

SCCM がソフトウェアをターゲット コンピューターに展開すると、クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) によってインストールが検出され、その状態が検証されます。

クライアント ソフトウェア ディストリビューションでは、ターゲット マシンにインストールされているソフトウェアを検出するために以下の方法を使用します。

- 検出：CSD は、ディスカバリー を利用してソフトウェアのインストールを検出するように構成されます。検出は、いつでも手動で実行することも、スケジュール済みジョブで実行することもできます。
- **Microsoft SCCM** 統合：インスタンス上でディスカバリーが有効でない場合は、統合 - Microsoft SCCM プラグインの機能を使用して、SCCM データを CMDB にインポートできます。

インスタンスは、ディスカバリーまたは SCCM 統合プラグインによって収集されたデータを使用して、ソフトウェア インストール [cmdb_sam_sw_install] テーブルにデータを設定します。このデータを使用してインストールを検証するために、CSD は CSD プロパティ設定を使用する [要求されたソフトウェアの調整] というスケジュール済みジョブを実行します。このプロセスは、CMDB に蓄積されたソフトウェア インストール データを調整し、以下のステータス更新を行います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [インストールされていません] から [インストール済み] ：ユーザーは、*sn_client_sf_dist.softwareInstallExpDays* プロパティで構成された時間制限内に、要求されたソフトウェアをインストールしています。
- [インストールされていません] から [ステータス チェック期限切れ]：ユーザーが要求されたソフトウェアをインストールする時間制限が切れています。時間制限が切れると、システムはインストールのチェックを停止します。

SCCM ソフトウェアの取り消し

ソフトウェアが他のプロセスやユーザーによってインストールされていても、ソフトウェア構成で SCCM アンインストール コレクションが指定されている場合は、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) を使用してユーザー操作なしでソフトウェアを取り消します。

サービスカタログを介して展開されたソフトウェアの取り消し

SCCM によって展開されたソフトウェアは取り消すことができますが、ソフトウェアのステータスが [インストール済み] であり、ソフトウェア構成に関連付けられているアプリケーションでアンインストールコレクションが構成されている場合に限られます。

始める前に

- 適切なアンインストールコレクションを指定するアプリケーションの場合は、SCCM 構成の定義 を作成します。
- アンインストール コレクションを指定する SCCM 構成を使用するアプリケーションの場合は、CSD カタログ アイテムを関連付けます。

必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin

[SCCM アプリケーションの取り消し] という名前のサブフローは、ユーザーまたはデバイスのいずれかをそれぞれのコレクションから移動し、適切なアンインストールコレクションに追加します。SCCM が内部ポリシー チェックを実行し、アンインストール コレクションでユーザーまたはデバイスを検出すると、SCCM は関連ソフトウェア パッケージをクライアント コンピューターから削除します。

手順

1. [すべて] > [クライアントソフトウェアディストリビューション] > [レポート] > [要求されたソフトウェア]に移動します。
2. 取り消す SCCM ソフトウェア パッケージのレコードを開きます。
   取り消すことができるパッケージは、[ステータス] が [インストール済み] になっている必要があります。
3. [関連リンク] で、[ソフトウェアの取り消し] をクリックします。

   [クライアント ソフトウェアの取り消し] フローが実行されます。このフローは、ユーザーまたはデバイスをインストール コレクションからアンインストール コレクションに移動する [SCCM アプリケーションの取り消し] サブフローをトリガーします。SCCM が内部ポリシー チェックを実行し、アンインストール コレクションでユーザーまたはデバイスを検出すると、SCCM は関連ソフトウェア パッケージをクライアント コンピューターから削除します。

権限のないソフトウェアの取り消し

ソフトウェアが他のプロセスやユーザーによってインストールされていても、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) を使用して、ユーザーが使用する権限のないソフトウェアを取り消します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

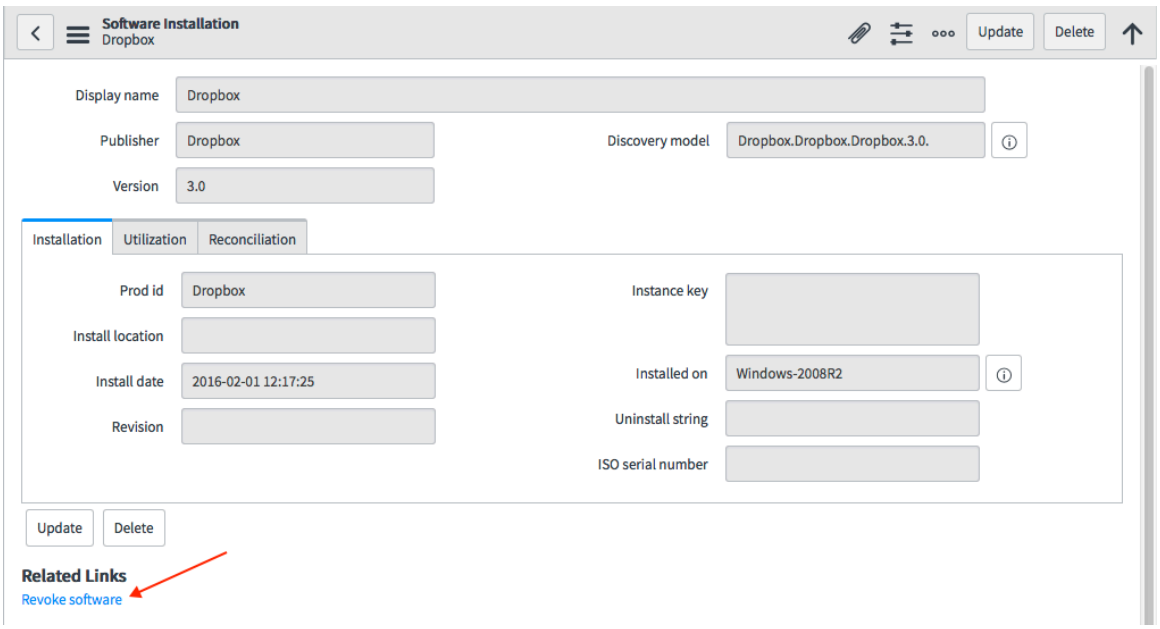
始める前に
SCCM を使用してソフトウェアを取り消すには、適切なソフトウェアディスカバリーモデルが定義された、アプリケーションの SCCM 構成の定義 を作成する必要があります。「ソフトウェアディスカバリーモデル ディスカバリーモデルとソフトウェアインストール 」を参照してください。

必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) は、ソフトウェア資産管理 を使用して、権限のないソフトウェアのインストールを識別します。ディスカバリーがユーザーのマシン上のソフトウェアを検出し、SAM がユーザーまたはデバイスがそのソフトウェアを使用する権限があるかどうかを判断します。これには、カタログ要求を介してインストールされなかったソフトウェア、またはユーザーが承認なしでインストールしたソフトウェアが含まれている可能性があります。ソフトウェアインストールのディスカバリーモデルがアンインストール コレクションの定義されている SCCM ソフトウェア構成に関連付けられている場合、アドミニストレーターは CSD を使用してユーザーのマシンからそのソフトウェアを取り消すことができます。ユーザーの介入は必要ありません。

手順

1. [すべて] > [クライアントソフトウェアディストリビューション] > [レポート] > [インストール済み権限なしソフトウェア]に移動します。
2. 権限のないユーザーがいるインストール レコードを選択します。
3. [関連リンク] で、[ソフトウェアの取り消し] をクリックします。
   [クライアント ソフトウェアの取り消し] フローが実行されます。このフローは、ユーザーまたはデバイスをインストール コレクションからアンインストール コレクションに移動する [SCCM アプリケーションの取り消し] サブフローをトリガーします。SCCM が内部ポリシー チェックを実行し、アンインストール コレクションでユーザーまたはデバイスを検出すると、SCCM は関連ソフトウェア パッケージをクライアント コンピューターから削除します。



SCCM ソフトウェア取り消しフロー

[SCCM アプリケーションの取り消し] フローは、ユーザーまたはデバイスをインストールコレクションからアンインストールコレクションに移動して、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) からインストールされたソフトウェアを取り消します。

取り消しサブフローを実行するには、ソフトウェアパッケージが「クライアントソフトウェアディストリビューションの検証プロセス 」のステータスになっており、適切なアンインストールコレクション用に事前に構成されている必要があります。構成手順については、「サービスカタログを通じて展開されたソフトウェアの取り消し 」を参照してください。アドミニストレーターが取り消しプ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロセスを開始すると、システムは [SCCM アプリケーションの取り消し] サブフローを起動して、インストールに関連付けられたユーザーまたはデバイスコレクションを適切な SCCM アンインストールコレクションに移動します。SCCM サーバーは、ポリシー チェックを実行するとユーザーまたはデバイスのアンインストール コレクションへの追加を検出し、そのコレクションに関連付けられているソフトウェア パッケージを取り消します。

サブフローは、Microsoft SCCM スポーク のカスタムアクション、[ユーザーコレクションから削除] および [デバイスコレクションから削除] を利用して、元のコレクションからユーザーまたはデバイスのいずれかを削除します。サブフローは、[ユーザーコレクションに追加] または [デバイスコレクションに追加] アクティビティを使用して、ユーザーまたはデバイスを SCCM サーバーの適切なアンインストールコレクションに追加します。

注: このサブフローは、[クライアント ソフトウェアの取り消し] サブフローによってトリガーされます。

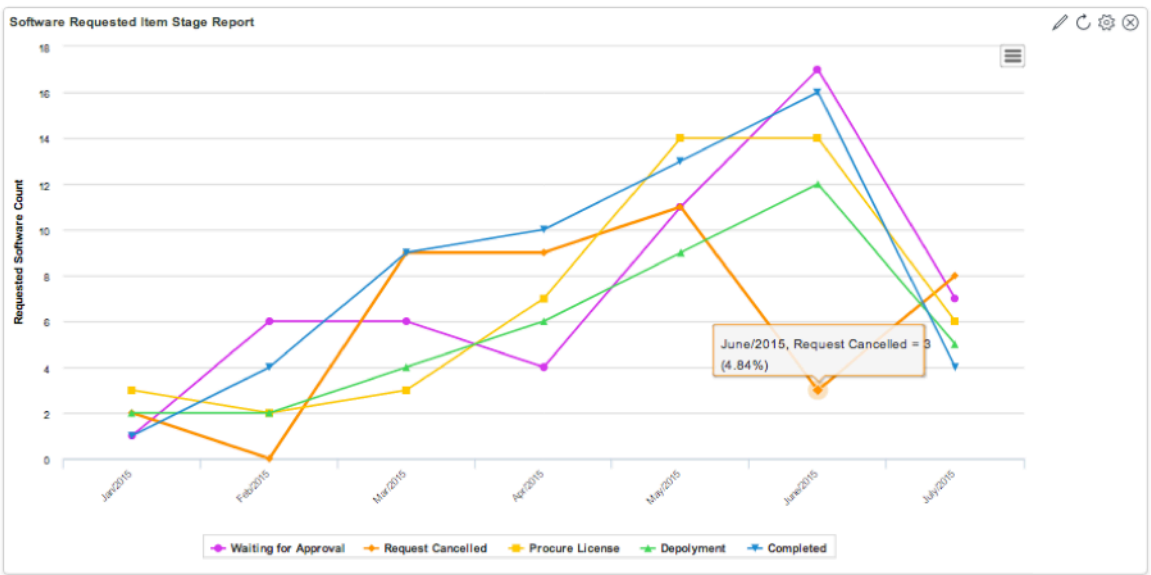
クライアントソフトウェアディストリビューション ダッシュボード

CSD ダッシュボードには、クライアントソフトウェアディストリビューション アプリケーションのビジュアル レポートのコレクションが用意されています。

CSD ダッシュボード

CSD ダッシュボードにアクセスするには、[クライアントソフトウェアディストリビューション] > [要求されたソフトウェア] > [ダッシュボード]に移動します。

CSD ダッシュボードからのサンプル レポート



クライアントソフトウェアディストリビューション レポート

レポート	説明
オープンタスク	要求されたアイテムのステージ値でグループ化して、すべてのオープンタスクを表示します。 • タイプ: 基本的なリストレポートの作成 • テーブル：カタログタスク [sc_task]
上位 10 件のインストー	要求数順に上位 10 件のインストール済みアプリケーションを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントソフトウェアディストリビューション レポート (続く)

レポート	説明
ル済みアプリケーション	• タイプ：棒グラフレポートを作成する • テーブル：要求されたソフトウェア [sn_client_sf_dist_req_software]
経時的なソフトウェア要求アイテムの合計	毎月要求されたソフトウェアアイテムの合計を表示します。 • タイプ：線グラフレポート • テーブル：要求されたソフトウェア [sn_client_sf_dist_req_software]
要求完了数レポート	毎月完了したソフトウェア要求の合計を表示します。 • タイプ：線グラフレポート • テーブル：要求されたソフトウェア [sn_client_sf_dist_req_software]
インストール済み権限なしソフトウェア	ユーザーまたはデバイスが使用する権限のないインストール済みソフトウェアを表示します。これは、CSD を介して展開されたソフトウェア、またはライセンスに準拠していない別のプロセスによって展開されたソフトウェアが該当します。このレポートは [ソフトウェア資産管理] テーブルにあります。 • タイプ: 基本的なリストレポートの作成 • テーブル：ソフトウェアインストール [cmdb_sam_sw_install]
ソフトウェアインストール ステータス	インストール ステータス別にグループ化された、毎月の要求されたソフトウェアの数を表示します。 • タイプ：線グラフレポート • テーブル：要求されたソフトウェア [sn_client_sf_dist_req_software]
ソフトウェア要求済みアイテム ステージ レポート	要求されたアイテムのステージ別にグループ化された、毎月の要求されたすべてのアイテムの合計を表示します。 • タイプ：線グラフレポート • テーブル：要求されたソフトウェア [sn_client_sf_dist_req_software]
利用可能なライセンス数	使用可能なすべてのアプリケーションのライセンス数を表示します。 • タイプ: 基本的なリストレポートの作成 • テーブル：SCCM アプリケーションカタログアイテム [sn_client_sf_dist_sccm_app_cat_item]

使用法の概要ダッシュボード

[クライアントソフトウェアディストリビューション] > [使用法の概要] に移動して、インスタンスの現在のトランザクション数を表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントソフトウェアディストリビューション拡張フレームワーク

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) には、Casper、Altiris、LANDesk などのクライアントソフトウェアディストリビューションプロバイダーと ServiceNow インスタンスを統合するために、ビルトインの拡張ポイントが用意されています。

重要: CSD 拡張ポイントの使用は、経験豊富な Now Platform 開発者のみが使用することを目的とした高度な手順です。ソフトウェア ディストリビューション プロバイダーからソフトウェアを展開および取り消すためにインスタンスをカスタマイズする手順については、『CSD 拡張実装ガイド』を参照してください。

クライアント ソフトウェア ディストリビューション プロバイダーの構成

プロバイダーを特定し、カスタマイズされたソフトウェアディストリビューションプロセスのフロー、サブフロー、および拡張ポイントを指定します。

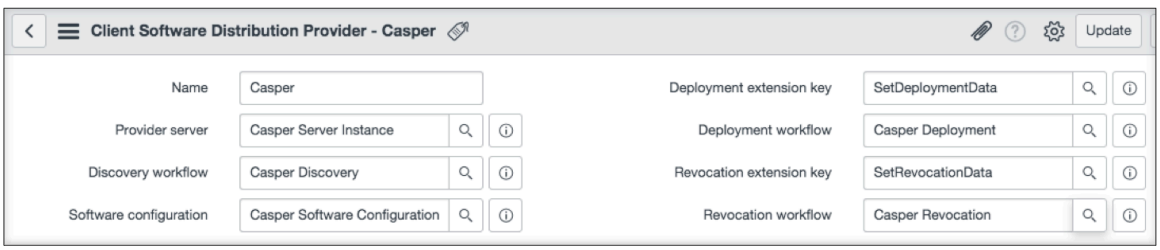
始める前に

この手順を実行する前に、『CSD 拡張実装ガイド』に記載されている開発タスクを実行します。

必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin、admin

手順

1. [すべて] > [クライアントソフトウェアディストリビューション] > [拡張] > [プロバイダー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. テーブル内のフィールド使用して、フォームに値を入力します。



クライアント ソフトウェア ディストリビューション プロバイダーのフィールド

フィールド	説明
名前	プロバイダーの記述名。
プロバイダー サーバー	プロバイダー サーバーのテーブル名。このテーブルは、構成アイテム [cmdb_ci] テーブルの拡張として作成する必要があります。たとえば、テーブルに Casper サーバー インスタンス [cmdb_ci_casper_server_instance] と名前を付けることができます。
SCCM データサブフローの検出および保存	プロバイダーサーバーを検出し、そのサーバーからインスタンスにデータを戻すサブフロー。これは、プロバイダー サーバーをクエリするカスタム アクティビティで作成するサブフローです。
ソフトウェア構成	このプロバイダーのソフトウェア構成のテーブル名。このテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューション ソフトウェア構成 [sn_client_sf_dist_software_config] の拡張として作成します。たと

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	えば、Casper ソフトウェア構成 [sn_client_sf_dist_casper_sf_config] というテーブルを作成します。
展開拡張キー	CSD に付属する **SetDeploymentData** キー。このキーは、ソフトウェアの注文および展開フロー用にデータを設定します。
クライアントソフトウェアの展開フロー	プロバイダー サーバーからソフトウェアを展開するフロー。これは、カスタムアクティビティで作成したフローで、サービスカタログから要求されたアプリケーションをどこに展開するのかプロバイダーに指示します。
取り消し拡張キー	CSD に付属する **SetRevocationData** キー。このキーは、インストールの取り消し用にデータを設定します。
SCCM アプリケーションの取り消しサブフロー	プロバイダー サーバーからインストールを取り消すサブフロー。これは、カスタムアクティビティで作成したサブフローで、デバイスから削除するアプリケーションをプロバイダーに指示します。

クライアントソフトウェアディストリビューション拡張キー

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) 拡張キーを使用すると、ディストリビューション プロバイダーからのソフトウェアの展開と取り消しをカスタマイズできます。

これらの事前定義済みキーを使用すると、外部ディストリビューション プロバイダーからソフトウェアを展開および取り消すフローの入力変数を生成できます。

- **SetDeploymentData**：ソフトウェア注文情報を設定し、展開フローの入力変数を生成します。
- **SetRevocationData**：取り消しフローの入力変数を生成します。
- **CheckRevocable**：インストールを取り消すことができるかどうかを決定する条件を指定します。インストール済みソフトウェアに関連付けられているソフトウェア構成でアンインストールが許可されている場合は、インストール済みソフトウェアを取り消すことができます。

クライアントソフトウェアディストリビューション拡張ポイント

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) 拡張ポイントは、特定のプロバイダーと拡張キーのカスタマイズ コードを作成します。

拡張ポイントの目的は、拡張キーを特定のプロバイダーに関連付け、カスタム展開および取り消しフローの入力変数を設定するスクリプトを作成することです。別の拡張ポイント スクリプトは、プロバイダーにソフトウェアを取り消す能力があるかどうかを CSD に通知します。ある場合、CSD はプロバイダーからの取り消しをトリガーする UI アクションを有効にします。

SetDeploymentData

この拡張キーに関連付けられたスクリプトは、次の属性を持つ *csdExtensionResult* オブジェクトを設定する必要があります。

- *deploymentWorkflowInputs*：展開フローの入力変数を指定するオブジェクト。
- *softwareModel*：ソフトウェアモデルの sys_id。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- *deploymentType*：整数。ユーザーへの展開の場合は **1**、デバイスへの展開の場合は **2** を使用します。
- *softwareApplication*：ソフトウェアアプリケーションの sys_id。

CheckRevocable

この拡張キーに関連付けられたスクリプトは、入力パラメーター *csdExtensionInputs.softwareConfiguration* を取得します。これは、ソフトウェア構成 [sn_client_sf_dist_software_config] テーブルのクライアントソフトウェアディストリビューションレコードです。すべてのプロバイダーのソフトウェア構成はこのテーブルから拡張されますが、属性が異なる場合があります。

このスクリプトは、ソフトウェア構成がアンインストールを指定するかどうかに応じて *csdExtensionResult*オブジェクトを **true** または **false** に設定する必要があります。

SetRevocationData

この拡張キーに関連付けられたスクリプトは、入力パラメーター *csdExtensionInputs.softwareConfiguration* を取得します。これは、ソフトウェア構成 [sn_client_sf_dist_software_config] テーブルのクライアントソフトウェアディストリビューションレコードです。すべてのプロバイダーのソフトウェア構成はこのテーブルから拡張されますが、属性が異なる場合があります。

スクリプトは、次の属性を持つ *csdExtensionResult* オブジェクトを設定する必要があります。

- *revocationWorkflowInput* ：取り消しフローの入力変数を指定するオブジェクト。
- *softwareModel*：ソフトウェアモデルの sys_id。
- *deploymentType*：整数。ユーザーへの展開の場合は **1**、デバイスへの展開の場合は **2** を使用します。

クライアントソフトウェアディストリビューション **2.0** アプリケーション

クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション (CSD 2.0) アプリケーションにより、アドミニストレーターは、サードパーティの管理システムを使用して、サービスカタログからソフトウェアを配布できます。

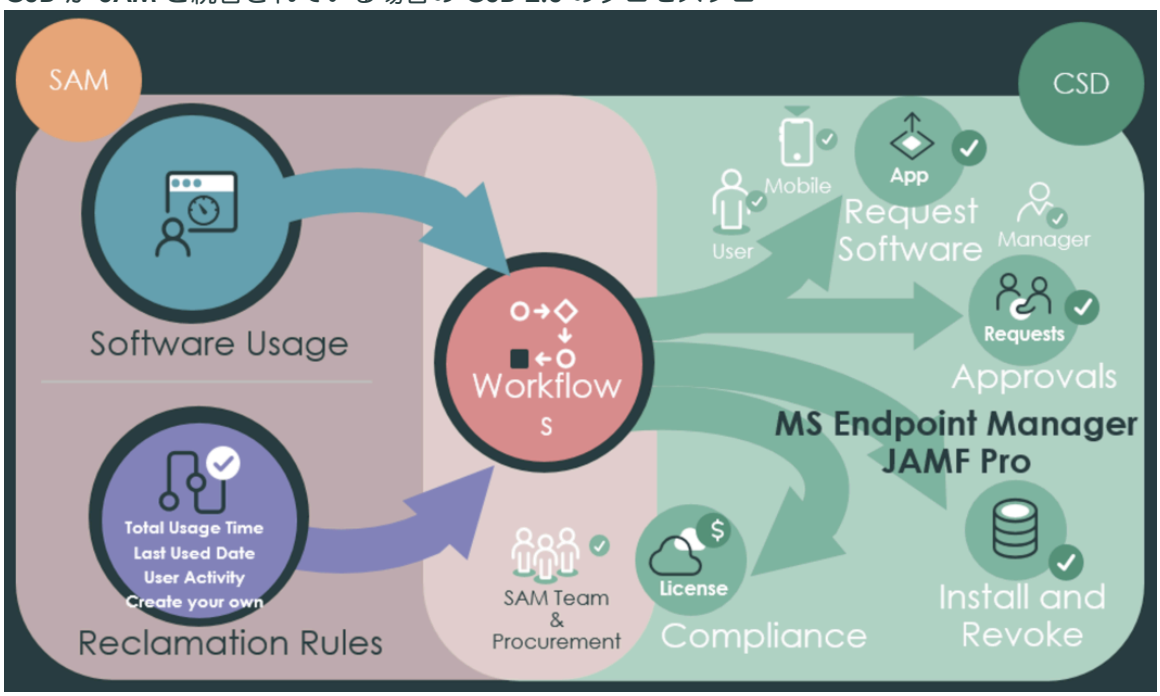
CSD 2.0 を使用すると、アドミニストレーターは、ソフトウェアモデルやカタログアイテムなど、サービスカタログ要求からソフトウェアを展開するために必要なすべてのレコードを作成できます。CSD 2.0 アプリケーションを使用すると、カスタムフローを使用するサードパーティソフトウェアプロバイダーから、ソフトウェアの展開および取り消しを自動化できます。サービスカタログから配布されたソフトウェアのリース期間を定義し、場合によってはリース延長を許可し、承認待ちにすることができます。展開は、プロバイダー固有のスポークフロー、サブフロー、およびアクションを使用して実行されます。たとえば、展開は、 Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークを使用して実行されます。

CSD 2.0 は、ソフトウェア資産管理 (SAM Professional または SAM Foundation) とも統合され、展開されたソフトウェアのライセンス情報を管理します。

注: CSD 2.0 は 統合ハブ を使用したクライアントソフトウェアディストリビューション とは異なります。CSD 2.0 は ServiceNow Store で利用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSD が **SAM** と統合されている場合の **CSD 2.0** のプロセスフロー



注: CSD 2.0 を SAM と統合するには、[クライアントソフトウェアディストリビューション **2.0]** > [プロパティ]に移動し、ソフトウェアモデルとライセンス情報を管理するために **SAM** プラグイン **(SAM Foundation** または **SAM Professional)** テーブルを使用するかどうかを決定するためのチェックボックスをオンにしま

す。

重要な考慮事項

CSD と CSD 2.0 の次の違いを認識してください。

	CSD	CSD 2.0
サポートされるプロバイダー	Microsoft System Center Configuration Management (SCCM)。	Microsoft Endpoint Configuration Manager、Jamf、および Microsoft Intune。
新しいプロバイダーを追加する手順	ユーザーは拡張ポイントスクリプトを記述する必要があります。	ユーザーは フローデザイナー でサブフローを使用できます。これは、CSD で拡張ポイントスクリプトを記述するよりも簡単です。
ライセンスコンプライアンスチェックとエンタイトルメント	SAM ライセンスデータとの緊密な連携。	SAM テーブルまたは CSD 2.0 テーブルのいずれかを選択できる柔軟性。
データ検出	Microsoft SCCM プロバイダーは、データディスカバリーに	Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークはデータディスカバリー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

	CSD	CSD 2.0
	PowerShell コマンドレットを使用します。	に REST プロトコルを使用するように更新されています。これにより、パフォーマンスが向上し、REST がページネーションをサポートするときの MID サーバー の負荷が軽減されます。
ソフトウェアの取り消し	CSD は、CSD と CSD 2.0 のどちらでインストールされたソフトウェアも取り消したり、アンインストールしたりできます。	CSD 2.0 は、 CSD 2.0 を使用してインストールされたソフトウェアのみを取り消したりアンインストールしたりできます。 CSD を使用してインストールされたソフトウェアは、CSD 2.0 を使用して取り消すことはできません。

アプリケーションバージョン

CSD 2.0 v1.2.2 が最新バージョンです。

CSD 2.0 アプリケーションの要求

クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション プラグイン (com.sn.csd) は ServiceNow Store で利用可能で、統合ハブ のサブスクリプションとともに使用できます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

CSD 2.0 アプリケーションは、 Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークフロー、サブフロー、およびアクションを使用して Microsoft Endpoint Configuration Manager と統合され、Endpoint サーバーを使用してソフトウェアを展開または取り消すことができます。

注:

- CSD 2.0 プラグインは、独自のアプリケーションスコープ内で実行されます。
- アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。
  - 複合オブジェクト (com.glide.cobject)
  - ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
  - サービスカタログ用フローデザイナーサポート (com.glideapp.servicecatalog.flow_designer)
  - サービスカタログ Scoped API (com.glideapp.servicecatalog.scoped.api)
- 必要な 統合ハブ サブスクリプションの詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

CSD 2.0 とともにインストールされるコンポーネント

数種類のコンポーネントが、CSD 2.0 アプリケーションと一緒にインストールされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インストールされるテーブル

これらのテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューション 2.0 アプリケーション プラグイン (com.sn.csd) とともにインストールされます。

CSD 2.0のテーブル

テーブル	説明
クライアントソフトウェアディストリビューションプロバイダー [sn_csd_provider]	すべてのソフトウェア ディストリビューションプロバイダーが含まれます。
CSD カタログアイテム履行構成 [sn_csd_cat_item_fulfilment_config]	CSD 2.0 を使用してカタログアイテムを注文するために必要な追加の構成情報が含まれます。
クライアントソフトウェアディストリビューションソフトウェア構成 [sn_csd_software_config]	すべてのソフトウェアプロバイダー構成のベーステーブル。
クライアントソフトウェアディストリビューションリース実行 [sn_csd_lease_execution]	展開、取り消し、およびリース管理に関連するサブフローとフローを実行するようにスケジュールされたスクリプトが含まれます。
デバイスエンタイトルメント [sn_csd_entitlement_asset]	デバイスのライセンス割り当てに関する情報が含まれます。
クライアントソフトウェアディストリビューションアプリケーション [sn_csd_application]	すべてのソフトウェアプロバイダーアプリケーションのベーステーブル。
クライアントソフトウェアディストリビューションリースマネージャー [sn_csd_lease_manager]	要求されたアイテムを必要なリースの実行とスケジュールにリンクします。
ユーザーエンタイトルメント [sn_csd_entitlement_user]	ユーザーのライセンス割り当てに関する情報が含まれます。
ライセンスエンタイトルメント [sn_csd_entitlement]	デバイスおよびユーザーエンタイトルメントテーブルの親テーブル。
クライアントソフトウェアディストリビューションリーススケジュール [sn_csd_lease_schedule]	展開、リース、および取り消しのスケジュールエントリが含まれます。
ソフトウェアエンタイトルメント [sn_csd_license]	必要なソフトウェアモデルのライセンス情報が含まれます。
ソフトウェアモデル [sn_csd_software_product_model]	必要なソフトウェアの詳細が含まれます。詳細には、表示名、メーカーなどが含まれます。
要求されたソフトウェア [sn_csd_req_software]	要求されたすべてのソフトウェアとそのステータスが含まれます。

インストールされるロール

これらのロールは CSD 2.0 アプリケーションと一緒にインストールされます。

統合ハブ **- CSD 2.0** のロール

ロールタイトル **[name]**	説明
CSD アドミン	CSD 2.0 を管理するためのアドミンロール。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブ - **CSD 2.0** のロール (続く)

ロールタイトル **[name]**	説明
[sn_csd.CSD Admin]	
CSD ユーザー [sn_csd.CSD User]	CSD 2.0 を使用してカタログからカタログアイテムを注文し、ソフトウェアの取り消し、リースの延長などのアクションを実行するロール。

インストールされるプロパティ

CSD 2.0 のプロパティは、要求されたソフトウェア展開のインストールステータスを管理し、スケジュール済みの検出を構成します。

CSD 2.0 プロパティにアクセスするには、[クライアントソフトウェアディストリビューション **2.0]** > [プロパティ]に移動します。次のプロパティを使用できます。

クライアントソフトウェアディストリビューションのプロパティ

プロパティ	名前	説明
ステータスチェック有効期限間隔 (日)。ソフトウェアのインストールステータスを無視するまでにシステムが待機する必要のある日数を構成します。	sn_csd.softwareInstallExpDay	ソフトウェアのインストール ステータスを無視するまでにシステムが待機する日数を制御します。ソフトウェアをインストールするためのデフォルトの時間制限は、システムが展開のインストール ステータスのチェックを停止する 30 日前です。 • タイプ：整数 • デフォルト値：30 インストール ステータスは次のとおりです。 • インストールされていません：構成済みの時間制限が切れるまでに、ユーザーが要求されたソフトウェアをインストールしていません。 • インストール済み：ソフトウェアが構成済みの時間制限内にインストールされました。 • ステータス チェック期限切れ：ユーザーが要求されたソフトウェアをインストールするための時間制限が切れています。システムは、この展開のステータスをチェックしなくなります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントソフトウェアディストリビューションのプロパティ (続く)

プロパティ	名前	説明
		• 取り消し済み：ソフトウェアはアドミニストレーターによって取り消しされました。 • 非同期 **(Not Synced)**：インストールステータスがサーバーのステータスと同期されていません。 **注:** SAM を CSD 2.0 と一緒に使用すると、ステータスが自動的に更新されます。それ以外の場合は、アドミニストレーターが手動でステータスを変更する必要があります。
ソフトウェアインストールステータスの間隔 (時間) を調整します。インストールステータスを決定するスケジュール済みジョブの繰り返し間隔を設定します。	sn_csd.softwareInstallIntervalHour	スケジュール済みジョブがいつ実行されるかを決定します。これにより、インストール ステータスが決まります。デフォルトでは、システムは 1 時間ごとにインストール ステータスをチェックします。 • タイプ：整数 • デフォルト値：24
スケジュール済みアプリケーションディスカバリー間隔 (日) を設定	sn_csd.discoveryExeDay	アプリケーションディスカバリーを実行するスケジュール済みジョブの繰り返し間隔を設定します。デフォルトでは、この値で設定された日の深夜にディスカバリーが実行されます。 • タイプ：整数 • デフォルト値：5
リース実行スケジュール ジョブ間隔 (分) を設定	sn_csd.lease_execution_interval	[CSD リース スケジュール] スケジュール済みジョブが、要求されたソフトウェア リースの開始、停止、または延長をチェックする間隔。 • タイプ：整数 • デフォルト値：1
リース終了の何日前に要求者に通知するか (日数) を設定します。	sn_csd.lease_end_notification	ソフトウェア リースの終了の何日前に要求者に通知するのかを指定します。リース延長が許可されている場合は、リース期限が切れるまでに承認プロセスが完了するのに十分な時間が確保されるようにしてください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントソフトウェアディストリビューションのプロパティ (続く)

プロパティ	名前	説明
		• タイプ：整数 • デフォルト値：5
ソフトウェアモデルとライセンス情報を管理するために SAM プラグイン (SAM Foundation または SAM Professional) テーブルを使用するかどうかを決定します	sn_csd.useSAMPlugin	SAM プラグインを CSD 2.0 とともに使用し、SAM テーブルを選択するオプション。

フロー、サブフロー、およびアクション

これらのフロー、サブフロー、およびアクションは、CSD 2.0 アプリケーションで使用できます。

CSD 2.0 で利用可能なフロー

フロー	
クライアントソフトウェアの注文	選択したデバイスへの注文したアプリケーションのインストールをスケジュールします。要求には、カタログアイテム構成のユーザー入力に基づく承認が必要です。
クライアントソフトウェアの展開	プロバイダー固有のサブフローを実行してソフトウェアを展開します。プロバイダーサブフローの実行でエラーが発生した場合にカタログタスクを作成します。

CSD 2.0 で使用可能なサブフロー

サブフロー	説明
ライセンスを割り当て	エンタイトルメントレコードを作成します。
クライアントソフトウェアリース延長	必要なソフトウェアのリース終了日を延長します。
CSD 展開ソフトウェアの後処理	ソフトウェアの展開が成功した後、後処理を実行します。
CSD リース終了通知	ソフトウェアのリース終了日をユーザーに通知し、リース終了日を延長するリンクを送信します。
リースレコードを削除	要求されたアイテムに関連付けられているリーススケジュール、リース実行、およびリースマネージャーレコードを削除します。
アプリケーションテンプレートの展開	アプリケーションの展開フローのフローテンプレート。
構成データ検索テンプレート	[構成データを検索] フローのフローテンプレート。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSD 2.0 で使用可能なサブフロー (続く)

サブフロー	説明
アプリケーション取り消しテンプレート	[アプリケーションの取り消し] フローのフローテンプレート。
ライセンスの取り消し	指定されたエンタイトルメントレコードを削除します。
クライアント ソフトウェアの取り消し	プロバイダーサーバーからソフトウェアを取り消します。

CSD 2.0 で利用可能なアクション

アクション	説明
CSD レコード URL を取得	要求されたソフトウェアのリンクを生成します。
日付が空	入力日付が空かどうかを検証します。
ライセンスの検証	ライセンスの使用可否を確認し、利用可能な場合はライセンス情報を取得します。
要求されたアイテムのリース終了を更新	要求されたアイテムレコードのリース終了日を更新します。

CSD 2.0 を使用した配布済みソフトウェアのライセンスの作成

ライセンスはソフトウェアモデルに関連付けられており、CSD 2.0 によって配布されたソフトウェアのライセンスを追跡する場合は作成する必要があります。

始める前に

必要なロール：sn_csd.CSD Admin

CSD 2.0 によって、サービスカタログから展開されたソフトウェアアイテムのソフトウェアライセンスを CSD 2.0 で作成できます。CSD 2.0 は、利用可能な割り当てに応じて、要求されたソフトウェアに対してライセンスが使用可能かどうかを判断します。[利用可能な割り当て **(Allocations Available)]** が `0` より大きい場合、CSD 2.0 はそのライセンスがソフトウェアで利用可能であるとみなします。

手順

1. [クライアントソフトウェアディストリビューション **2.0]** > [ソフトウェアエンタイトルメント]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
表示名	ライセンスレコードを識別する名前。
ソフトウェア モデル	CSD 2.0 テーブルのソフトウェアモデル。
権利	権利の総数。
割り当てタイプ	ライセンスエンタイトルメントのタイプ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: ◦ Microsoft Endpoint Configuration Manager の場合： ▪ ソフトウェア構成で指定されたインストールコレクション (カタログアイテムにリンクされている) が [デバイス] タイプである場合、割り当てタイプが [デバイス] であるソフトウェアエンタイトルメントに対してライセンスチェックが実行されます。 ▪ ソフトウェア構成で指定されたインストールコレクション (カタログアイテムにリンクされている) が [ユーザー] タイプである場合、割り当てタイプが [ユーザー] であるソフトウェアエンタイトルメントに対してライセンスチェックが実行されます。 ◦ の場合： ▪ ソフトウェア構成で指定されたグループ (カタログアイテムにリンクされている) が [モバイル] または[コンピューター] タイプである場合、割り当てタイプが [デバイス] であるソフトウェアエンタイトルメントに対してライセンスチェックが実行されます。 ▪ ソフトウェア構成で指定されたグループ (カタログアイテムにリンクされている) が [ユーザー] タイプである場合、割り当てタイプが [ユーザー] であるソフトウェアエンタイトルメントに対してライセンスチェックが実行されます。

4. [送信] をクリックします。
   必要な権限でライセンスが作成されます。

SAM を使用した配布済みソフトウェアのエンタイトルメントの作成

エンタイトルメントはソフトウェアモデルに関連付けられており、SAM を使用して CSD 2.0 によって配布されたソフトウェアのライセンスを追跡する場合は作成する必要があります。

始める前に
必要なロール：sam_admin または sam_user
ソフトウェア調整の詳細については、「コンプライアンスのソフトウェア調整」を参照してください。

クライアント ソフトウェア ディストリビューションの注文プロセス

CSD 2.0 によって展開されたソフトウェアは、個々のユーザーによって、または他のユーザーの代わりに承認済みユーザーによって、サービスカタログから注文できます。

CSD 2.0 カタログアイテムには、注文の構成方法によって、さまざまなオプションがあります。

リースの開始日と終了日

CSD 2.0 によって展開されたすべてのソフトウェアでは、ユーザーがリースの開始日を指定する必要があります。

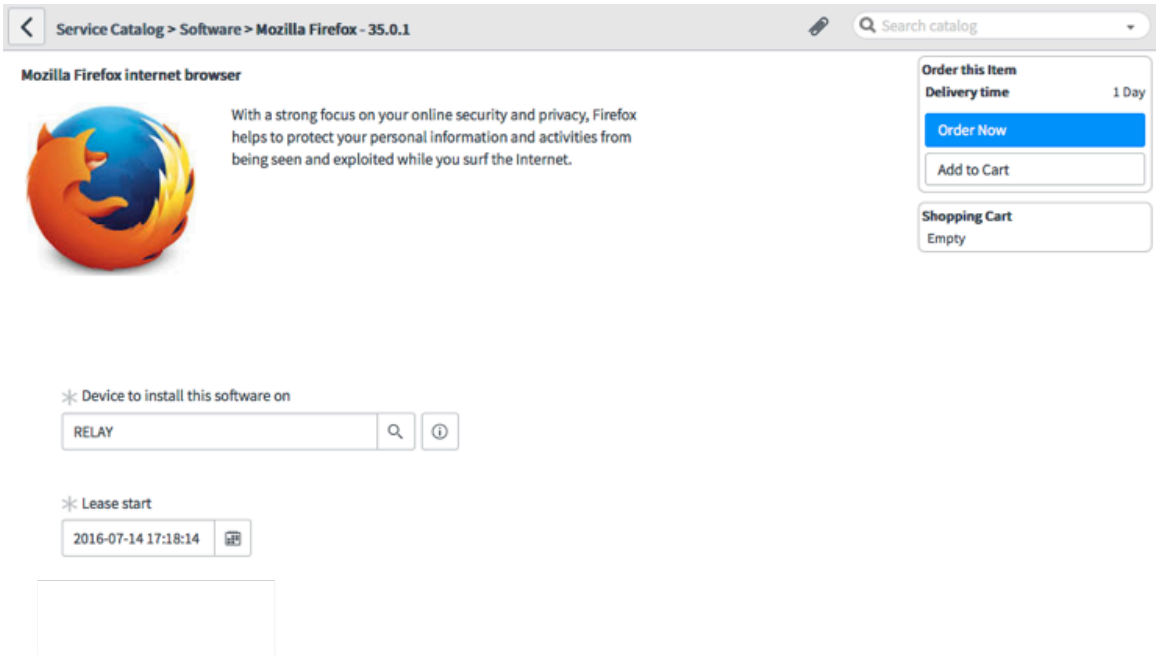
カタログ アイテムが取り消し (アンインストール) 用に構成されている場合は、フォームに [リース終了] フィールドが表示され、要求者がリースの終了日時を定義できます。選択された日付で将来の期間を定義するように、これらのフィールドのユーザー入力が検証されます。[リース終了] フィールドは必須ではなく、終了日なしでソフトウェアを注文する場合は空白のままにすることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ログインしたユーザーにのみ提供されるソフトウェア

アクセスタイプが [制限付き] の状態でソフトウェアカタログアイテムが構成された場合、注文フォームに [ユーザー] フィールドは表示されません。ログインしたユーザーは、[このソフトウェアをインストールするデバイス] フィールドからソフトウェアの展開先デバイスを選択します。ログインしたユーザーに割り当てられたデバイスだけがリストに表示されます。

この例では、ユーザーがサービスカタログにログインし、割り当てられたコンピューター用に Google Chrome を注文します。ユーザーは、デバイスのリストからマシンを選択し、リースを開始する日時を選択します。

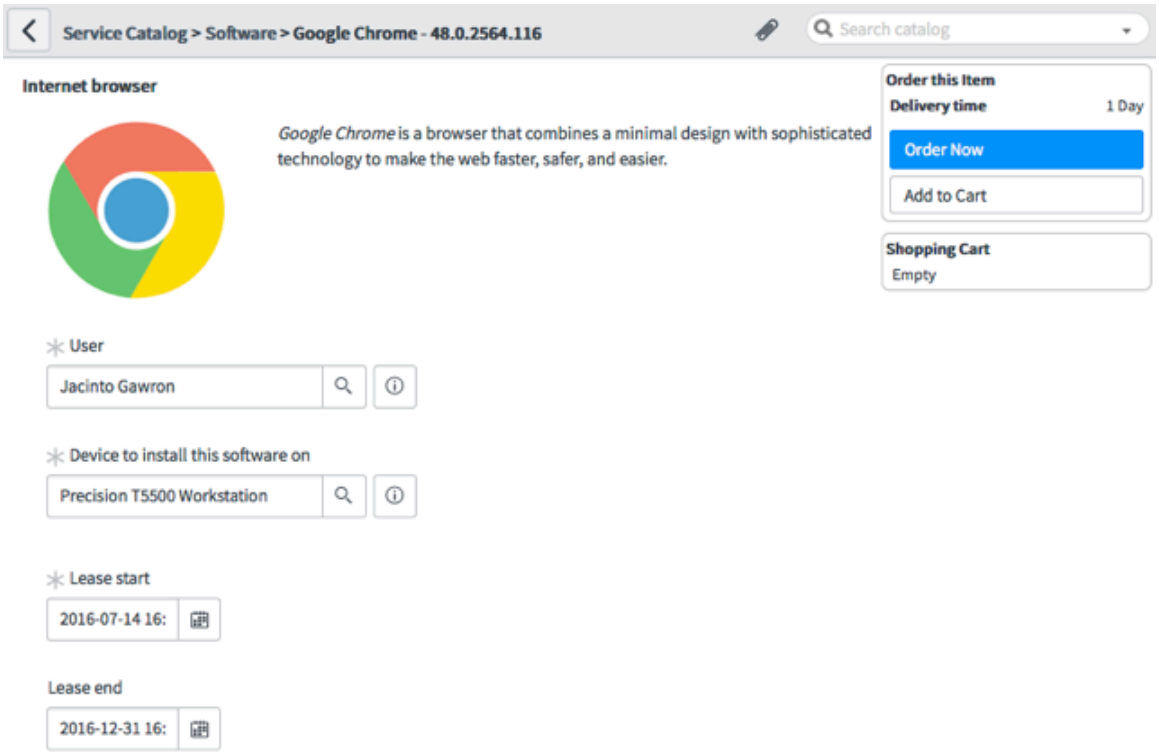


別のユーザーの代わりに注文したソフトウェア

アクセスタイプが [委任] の状態でソフトウェアカタログアイテムが構成された場合、フォームに [ユーザー] フィールドが表示されます。ログインしたユーザーは、このフィールドから任意のユーザーを選択できます。[このソフトウェアをインストールするデバイス] フィールドには、[ユーザー] フィールドで選択されたユーザーに割り当てられたデバイスのみが表示されます。他のユーザーの代わりに注文されたソフトウェアに対して承認が必要な場合、システムはソフトウェアを受け取ったユーザーのマネージャーに承認要求を自動的に送信します。要求者が指定ユーザーのマネージャーである場合、承認はスキップされます。

この例では、マネージャーが契約社員のために Google Chrome を注文しています。マネージャーは、[ユーザー] フィールドから契約社員を選択し、その契約社員に割り当てられたデバイスのリストからコンピューターを選択します。このソフトウェアには Microsoft Endpoint Configuration Manager アンインストールコレクションが構成されています。これにより、マネージャーはユーザーの契約終了と一致するリースの終了日を選択できます。リースが期限切れになると、 Microsoft Endpoint Configuration Manager は自動的にデバイスからソフトウェアをアンインストールします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注:

- Jamf の場合、デバイスのシリアル番号をデバイステーブルに入力する必要があります。
- Microsoft Endpoint Configuration Manager では、名前を入力する必要があります。

ソフトウェア リースの延長

CSD 2.0 によって展開されたソフトウェアのユーザーは、ソフトウェアディストリビューションシステムによってソフトウェアが取り消される場合、リース期間の延長を要求できます。

始める前に

必要なロール：

注: ユーザーが、前述の 2 つのロールセットのいずれかを持っていることを確認します。

- itil および sn_csd.CSD アドミン
- itil および sn_csd.CSD ユーザー

このタスクについて

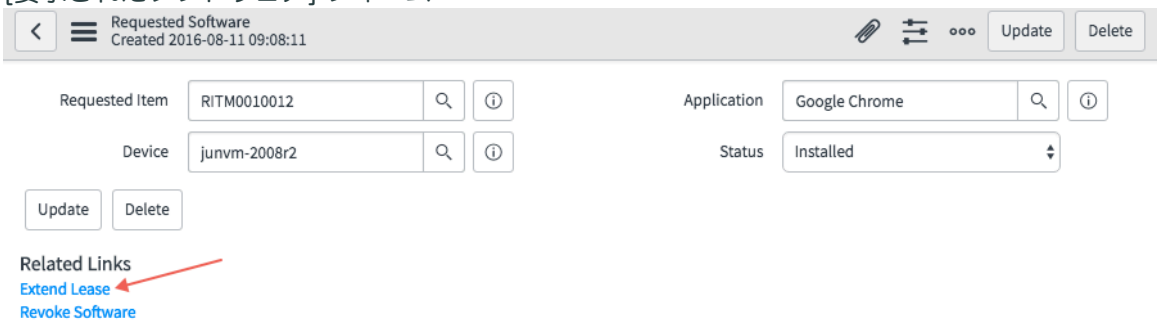
ソフトウェアのリース終了日が定義されており、ソフトウェアステータスが [インストール済み **(Installed)]** または [非同期 **(Not Synced)]** である場合、リースの延長を要求し、組織が必要とする承認を処理待ちにすることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

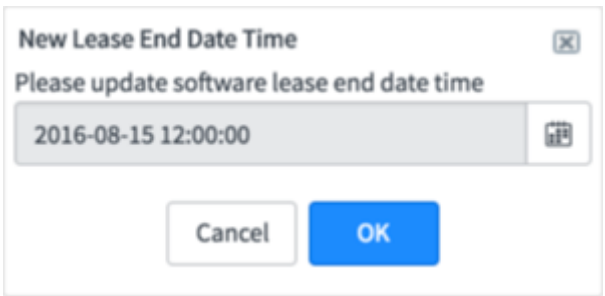
手順

1. [クライアントソフトウェアディストリビューション] > [要求されたソフトウェア]に移動します。
   リストには、サービスカタログから要求したソフトウェアのみが表示されます。
2. リースを延長するインストール済みソフトウェアのレコードを選択します。
3. [関連リンク] で、[リースの延長] をクリックします。

[要求されたソフトウェア] フォーム



4. 表示されるダイアログ ボックスのカレンダーで新しいリース終了日を選択し、**[OK]** をクリックします。
   現在の日付より後の日付を選択する必要があります。



リース延長がマネージャーの承認を条件とする場合は、決定が通知されます。要求が承認されると、新しいリース終了日が通知に表示されます。新しい終了日が、要求を行った日付から 5 日以内 (デフォルトの通知期間) である場合、CSD 2.0 は即時のリース終了通知を送信します。

重要: 組織内のリース延長に承認が必要な場合は、承認者が利用可能であり、延長要求を処理するのに十分な時間があることを確認してください。元の終了日が切れる前に延長を承認できない場合、ソフトウェアは取り消されます。

Microsoft Endpoint Configuration Manager 用 CSD 2.0

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークとともに CSD 2.0 を使用して、 Microsoft Endpoint Configuration Manager からソフトウェア展開を展開および取り消し、ホスト上の配布を管理します。

Microsoft Endpoint Configuration Managerスポークを CSD 2.0とともに使用するには、Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークと CSD 2.0 を有効にする必要があります。

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークには、CSD 2.0 がサービスカタログ要求からソフトウェアを展開したり、 Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバー上のユーザーおよびデバイスコレクションを管理するために使用するアクションが含まれています。さらに、CSD 2.0 では、展開済みソフトウェアのライセンス数を管理し、 Microsoft Endpoint Configuration Manager によって展開されたソフトウェアをユーザー操作なしで取り消し、またリース期間を管理できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: Microsoft Endpoint Configuration Manager からソフトウェアを展開するシステムの場合、構成でアンインストールコレクションを指定する場合に限り、[リース終了] フィールドを使用できます。

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークレコードを検証

Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークを設定して構成した後、スポークが CSD 2.0 と統合されていることを検証し、 Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークを CSD 2.0 とともに使用するサーバーインスタンスレコードを作成します。

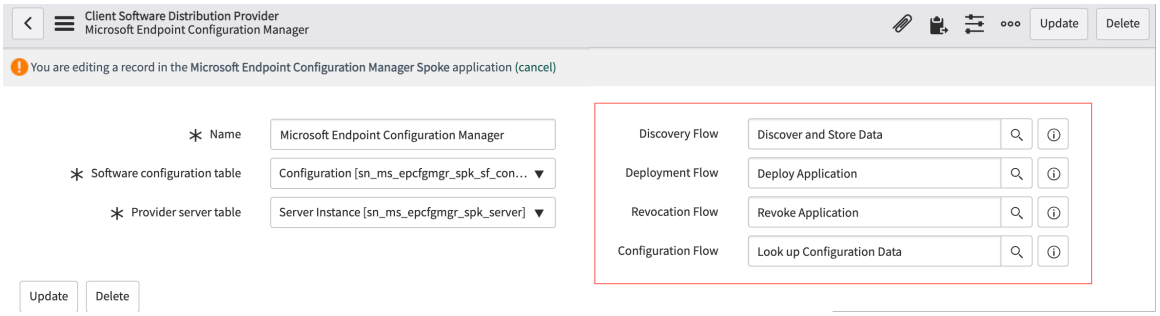
始める前に

- Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークをアクティブ化して、スポークを設定します。スポーク設定の詳細については、「Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークを設定」を参照してください。
- CSD 2.0 アプリケーションをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. これらのモジュールが利用可能であることを検証します。
   - アプリケーション
   - 構成
   - サーバーインスタンス
   - 展開
   - コレクション
2. [システム定義] > [テーブル]に移動し、これらのテーブルが利用可能であることを検証します。
   - 展開 [sn_ms_epcfgmgr_spk_deployment]
   - 構成 [sn_ms_epcfgmgr_spk_sf_config]
   - コレクション [sn_ms_epcfgmgr_spk_collection]
   - サーバーインスタンス [sn_ms_epcfgmgr_spk_server]
   - アプリケーション [sn_ms_epcfgmgr_spk_application]
3. フローがプロバイダーレコードで正しく構成されていることを検証します。
   a. [クライアントソフトウェアディストリビューション **2.0]** > [プロバイダー]に移動します。
   b. レコード **[Microsoft Endpoint Configuration Manager]** を開きます。
   c. フローがレコードで正しく構成されていることを検証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注: 要件に従ってデフォルトフローを構成できます。

プロバイダーサーバーの詳細を保存

アプリケーションを検出し、プロバイダーサーバーの詳細を保存するサーバーインスタンスレコードを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. **[Microsoft Endpoint Configuration Manager]** > [サーバーインスタンス]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
名前	サーバーインスタンスレコードを識別する名前。
Powershell 接続および資格情報エイリアス	Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークの設定中に構成した Powershell 接続および資格情報エイリアス。たとえば、**Microsoft Endpoint Configuration Spoke**。
JDBC 接続および資格情報エイリアス	Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークの設定中に構成した JDBC 接続および資格情報エイリアス。たとえば、**Microsoft Endpoint Configuration JDBC**。

注: Microsoft Endpoint Configuration Manager スポーク とともに出荷されたデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードのみを使用できます。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。
5. [今すぐ検出] 関連リンクをクリックして、すべてのアプリケーションを検出し、サーバーからデータを取得します。
[データの検出および保存 (Discover and Store Data)] サブフローがトリガーされます。データが取得され、Microsoft Endpoint Configuration Manager スポーク テーブルに保存されます。

Microsoft Endpoint Configuration Manager アプリケーションのソフトウェアモデルを設定

Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーで検出されたアプリケーションを使用して、ソフトウェアモデルを設定し、ライセンスを管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：

注: ユーザーが、前述の 2 つのロールセットのいずれかを持っていることを確認します。

- sn_ms_epcfgmgr_spk.Microsoft Endpoint Manager Admin および sn_csd.CSD Admin
- admin

ソフトウェアモデルを作成する前に、 Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーの展開で利用できるアプリケーションを検出する必要があります。詳細については、「Microsoft Endpoint Configuration Manager 用 CSD 2.0」を参照してください。

このタスクについて
Microsoft Endpoint Configuration Manager アプリケーションを既存のソフトウェアモデルにリンクするか、新しいモデルを作成できます。

手順

1. **[Microsoft Endpoint Configuration Manager]** > [アプリケーション]に移動します。
   Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバー上で検出されたアプリケーションのリストが表示されます。
2. アプリケーションレコードを開きます。
3. 既存のモデルにリンクするには、**[CSD** ソフトウェアモデル **(CSD software model)]** フィールドの [虫眼鏡 (magnifying glass)] アイコンをクリックし、リストからモデルを選択します。
4. モデルを作成するには、関連リンク下の [ソフトウェアモデルを作成] をクリックします。

   a. ソフトウェア モデルのフィールドを設定します。

   b. [送信] をクリックします。
      ビューが Microsoft Endpoint Configuration Manager アプリケーションリストに戻ります。

Microsoft Endpoint Configuration Manager 構成を定義

Microsoft Endpoint Configuration Manager ソフトウェア展開用のカタログアイテムを作成したり、または Microsoft Endpoint Configuration Manager を介してソフトウェアを取り消すようにインスタンスを構成するには、 Microsoft Endpoint Configuration Manager 構成を介してそのソフトウェアをコレクションに関連付けます。

始める前に
Microsoft Endpoint Configuration Manager 設定レコードを作成する前に、 Microsoft Endpoint Configuration Manager アプリケーション、コレクション、および展開を検出し、必要なソフトウェアモデルを設定してあることを確認します。

必要なロール：sn_ms_epcfgmgr_spk.Microsoft Endpoint Manager Admin または admin

このタスクについて
Microsoft Endpoint Configuration Manager 構成プロセスは、ソフトウェアと Microsoft Endpoint Configuration Manager コレクションを関連付けます。 Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーからソフトウェアを展開するには、ユーザーまたはデバイスが、インストール展開に関連付けられた Microsoft Endpoint Configuration Manager コレクションのメンバーである必要があります。CSD 2.0 を使用すると、アンインストールコレクションを使用してそのソフトウェアを削除できる場合に、 Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーを使用して、権限のないソフトウェアを取り消すことができます。サービスカタログから取り消し可能なソフトウェアを要求するユーザーは、リース開始日や終了日を定義したり、リース延長を要求したりすることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. **[Microsoft Endpoint Configuration Manager]** > [構成]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	Microsoft Endpoint Configuration Manager ソフトウェア設定レコードを識別する名前。
アプリケーション	Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーでホストされているアプリケーションの名前。
インストールコレクション	Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーで選択されたアプリケーションのインストール展開に関連付けられているコレクションの名前。アプリケーションに関連付けられたコレクションのみが選択可能です。
アンインストールコレクション	Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーで選択されたアプリケーションのアンインストール展開に関連付けられているコレクションの名前。アプリケーションに関連付けられたコレクションのみが選択可能です。次の場合はアンインストール コレクションを指定する必要があります。 ◦ 展開済みソフトウェアのリース終了日を定義する。 ◦ リース延長を有効にします。 ◦ ユーザーのマシンからソフトウェアを取り消す。

4. [送信] をクリックします。

Microsoft Endpoint Configuration Manager アプリケーションのカタログアイテムを作成

Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバー上で検出されたアプリケーションを使用して、サービスカタログから配布するために提供するアプリケーションのカタログアイテムを作成します。

始める前に
必要なロール：

注: ユーザーが、前述の 2 つのロールセットのいずれかを持っていることを確認します。

- sn_ms_epcfgmgr_spk.Microsoft Endpoint Manager Admin、catalog_admin、sn_csd.CSD Admin
- admin

カタログ アイテムを作成する前に、アプリケーションをソフトウェアモデルにリンクし、少なくとも 1 つのソフトウェア構成を作成する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. **[Microsoft Endpoint Configuration Manager]** > [アプリケーション]に移動します。
   Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバー上で検出されたアプリケーションのリストが表示されます。
2. Microsoft Endpoint Configuration Manager アプリケーションのレコードを開きます。
3. [カタログアイテムを作成] 関連リンクをクリックします。
4. フォームに、必要な値を入力します。

フィールド	説明
名前	レコードを識別する名前。
アクセスタイプ	[委任] が選択されている場合、ログインしたユーザーは、このソフトウェアを別のユーザーのサービスカタログから注文できます。これにより、サービスデスク担当者は、システム内の他のユーザーに対して Microsoft Endpoint Configuration Manager 展開を注文できます。デフォルトでこの機能は無効になっています。権限のないユーザーがソフトウェアを注文できないようにするには、[承認をスキップ] チェック ボックスをオフにして、このタイプの展開に承認が必要になるようにします。 あるユーザーの代わりに注文されたソフトウェアに対して承認が必要な場合、システムはソフトウェアを受け取ったユーザーのマネージャーに承認要求を自動的に送信します。要求者が指定ユーザーのマネージャーである場合、承認はスキップされます。 別のユーザーの代わりにサービスカタログから要求されるソフトウェアアイテムには、次の情報が必要です。 ◦ ユーザー：展開のために選択されたユーザー。このフィールドには、ログインしているユーザーの名前が自動的に入力されます。リストから別のユーザーを選択することができます。 ◦ このソフトウェアをインストールするデバイス：選択されたユーザーに属する、ソフトウェアを展開するデバイス。そのユーザーに属するデバイスだけが選択リストに表示されます。 ◦ リース開始：ソフトウェアを展開する日時。これはリースの開始時刻です。リースは無期限にすることも、リース終了時間を設定することもできます。 [制限付き] を選択した場合、注文フォームに [ユーザー] フィールドは表示されません。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
6. オプション: **[CSD** カタログアイテム履行構成 **(CSD Catalog Item Fulfillment Configuration)]** タブで、デフォルトレコードを開き、要件に従ってこれらの値を入力します。

フィールド	説明
ソフトウェア構成	このアプリケーションの設定レコードの名前。このレコードは、このアプリケーションのコレクションとアンインストール コレクションを定義します。この構成は、 Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーによって実行されるすべての展開、取り消し、およびリースに必要です。
承認をスキップ (skip_approval)	ユーザーがサービスカタログから注文したときに、要求者のマネージャーがこのアイテム

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	の承認をスキップできるようにするチェックボックス。このフィールドを [アクセスタイプ **(Access Type)]** フィールドと一緒に使用して、別のユーザーの代わりにログインしたユーザーが注文したソフトウェアが承認されることを確認します。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっており、新しいカタログアイテムすべてに対してマネージャーの承認が必要です。 **注:** 可能な承認のレベルは 2 つあります。デフォルトでは、すべてのカテゴリアイテムで $1000 を超えるアイテムにはグループ承認が必要です。その承認が与えられるかスキップされると、システムは [承認をスキップ] チェック ボックスを評価して、ソフトウェアアイテムが要求者のマネージャーによる承認を必要としているかどうかを判断します。
ライセンスのコンプライアンスをチェック (check_license_compliance)	現在のライセンスでこのアイテムの展開が許可されているかどうかをシステムで強制的に判断するためのチェック ボックス。

注: コストが理由でカタログアイテムの承認が必要な場合は、[グループにより承認] 関連リストで承認グループを構成してください。デフォルトでは、[サービスカタログ要求] フローは、$1000 以上のコストがかかるアイテムが注文されたときに実行され、適切な承認グループを探します。アイテムに対して承認グループが構成されていない場合、このフローは承認を一切スキップして終了します。システムは [クライアント ソフトウェアの注文] フローを実行して [承認をスキップ] チェック ボックスを評価し、要求者のマネージャーによる承認を必要としているかどうかを判断します。

7. [更新] をクリックします。
   カタログアイテムが作成され、サービスカタログから注文できるようになります。
8. オプション: すべての CSD 2.0 カタログアイテムを表示するには、[クライアントソフトウェアディストリビューション **2.0]** > [ソフトウェアアイテム]に移動します。

注: 上記のフィールドまたはタブが表示されない場合は、適宜、テーブルのフォームビューまたは関連リストを構成します。

展開プロセス

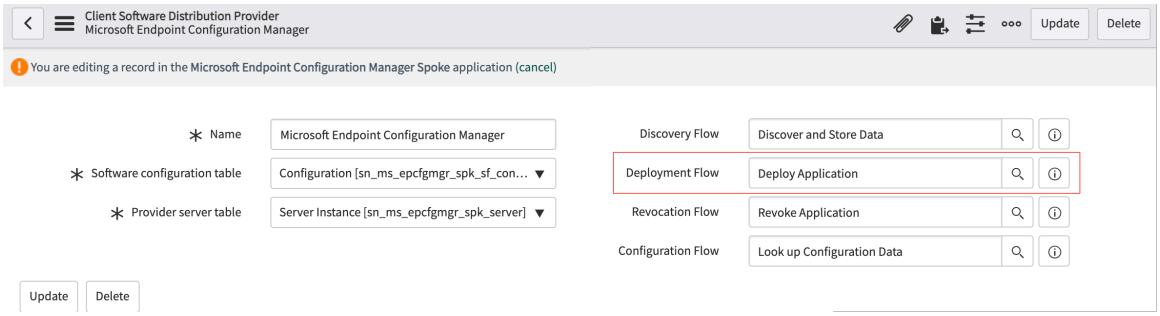
サービスカタログの CSD 2.0 カタログアイテムからアプリケーションを注文すると、[クライアントソフトウェアの注文] フローがトリガーされます。

このプロセスは、サービスカタログの注文によりアプリケーションをユーザーまたはデバイスに展開します。

1. ソフトウェアカタログアイテムで [承認をスキップ] チェックボックスがオフになっている場合、[クライアントソフトウェアの注文] フローは、承認のために要求ユーザーのマネージャーにカタログ要求を送信します。
2. ソフトウェアカタログアイテムで [ライセンスコンプライアンスのチェック] チェックボックスがオンになっている場合、フローは、SAM から、または CSD 2.0 構成に依存して、ソフトウェアライセンスのチェックを実行します。使用可能なライセンスがない場合、フローはより多くのライセンスを調達するカタログ タスクを作成し、そのタスクを CSD アドミングループに割り当てます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [クライアントソフトウェアの注文] フローは、[クライアントソフトウェアの展開] フローをトリガーし、プロバイダーレコードで指定されたプロバイダー固有の [展開フロー] をトリガーします。



Jamf 用 CSD 2.0

Jamf スポークとともに CSD 2.0 を使用して、Jamf からソフトウェア展開を展開および取り消し、ホスト上の配布を管理します。

Jamfスポークを CSD 2.0とともに使用するには、Jamf スポークと CSD 2.0 を有効にする必要があります。

Jamf スポークには、CSD 2.0 がサービスカタログ要求からソフトウェアを展開したり、Jamf サーバー上のユーザーおよびデバイスコレクションを管理するために使用するアクションが含まれています。さらに、CSD 2.0 では、ServiceNow ソフトウェア資産管理を使用して展開済みソフトウェアのライセンス数を管理し、Jamf によって展開されたソフトウェアをユーザー操作なしで取り消し、またリース期間を管理できます。

Jamf スポークレコードを検証

Jamf スポークを設定して構成した後、スポークが CSD 2.0 と統合されていることを検証し、Jamf スポークを CSD 2.0 とともに使用するサーバーインスタンスレコードを作成します。

始める前に

- Jamf スポークをアクティブ化して、スポークを設定します。スポーク設定の詳細については、「JamfSpoke を設定」を参照してください。
- CSD 2.0 アプリケーションをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. これらのモジュールが利用可能であることを検証します。
   - アプリケーション
   - 構成
   - サーバーインスタンス
   - 展開
   - コレクション
2. [システム定義] > [テーブル]に移動し、これらのテーブルが利用可能であることを検証します。
   - 構成 [sn_jamf_spoke_sf_config]
   - サーバーインスタンス [sn_jamf_spoke_server]
   - ポリシー [sn_jamf_spoke_policy]
   - アプリケーション [sn_jamf_spoke_application]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

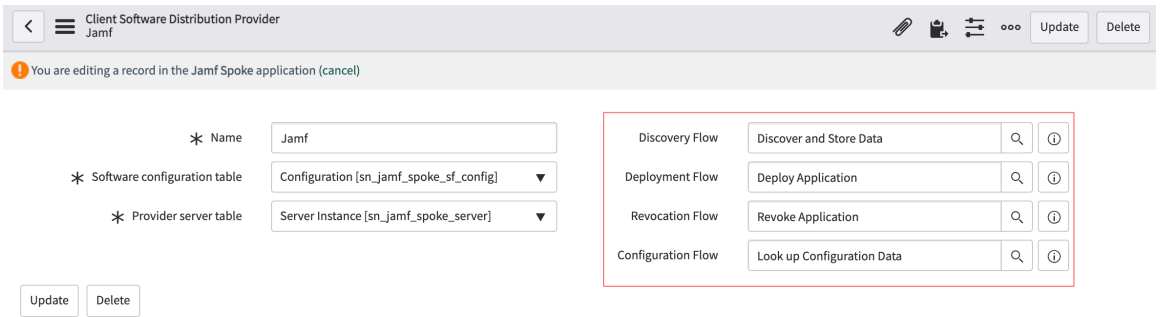
- グループ [sn_jamf_spoke_group]
- Jamf 認証情報 [sn_jamf_spoke_jamf_credential]

3. フローがプロバイダーレコードで正しく構成されていることを検証します。

   a. [クライアントソフトウェアディストリビューション **2.0]** > [プロバイダー]に移動します。

   b. レコード **[Jamf]** を開きます。

   c. フローがレコードで正しく構成されていることを検証します。



> 注: 要件に従ってデフォルトフローを構成できます。

Jamf サーバーの詳細を保存

アプリケーションを検出し、Jamf サーバーの詳細を保存するサーバーインスタンスレコードを作成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. **[JAMF]** > [サーバーインスタンス]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
名前	サーバーインスタンスレコードを識別する名前。
接続および資格情報エイリアス	Jamf スポークの設定中に構成した接続および資格情報エイリアス。たとえば、**[Jamf]**。

> 注: Jamf スポーク とともに出荷されたデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードのみを使用できます。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。
5. [今すぐ検出] 関連リンクをクリックして、すべてのアプリケーションを検出し、サーバーからデータを取得します。
   [データの検出および保存 (Discover and Store Data)] サブフローがトリガーされます。データが取得され、Jamf スポーク テーブルに保存されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソフトウェア モデルを設定

Jamf サーバーで検出されたアプリケーションを使用して、ソフトウェアモデルを設定し、ライセンスを管理します。

始める前に

ソフトウェアモデルを作成する前に、Jamf サーバーの展開に利用できるアプリケーションを検出する必要があります。詳細については、「Jamf 用 CSD 2.0」を参照してください。

Jamf アプリケーションとポリシーのソフトウェアモデルを設定するときは、次の手順を実行します。

必要なロール：ユーザーが、前述の 2 つのロールセットのいずれかを持っていることを確認します。

- sn_jamf_spoke.jamf_admin and sn_csd.CSD Admin
- admin

このタスクについて

Jamf アプリケーションを既存のソフトウェアモデルにリンクするか、新しいモデルを作成できます。

手順

1. アプリケーションとポリシーのどちらのソフトウェアモデルを設定するかを決定します。
   - Jamf アプリケーションのソフトウェアモデルを設定する場合は、**[Jamf]** > [アプリケーション] に移動します。
   - Jamf ポリシーのソフトウェアモデルを設定する場合は、**[Jamf]** > [ポリシー] に移動します。

   Jamf サーバー上で検出されたアプリケーションまたはポリシーのリストが表示されます。
2. 必要なレコードを開きます。
3. 既存のモデルにリンクするには、**[CSD** ソフトウェアモデル] フィールドの虫眼鏡アイコンをクリックし、リストからモデルを選択します。
4. モデルを作成するには、関連リンク下の [ソフトウェアモデルを作成] をクリックします。

   a. ソフトウェアモデルのフィールドを設定します。

   b. [送信] をクリックします。
   ビューが Jamf アプリケーションリストに戻ります。

Jamf 構成を定義

Jamf ソフトウェア展開用のカタログアイテムを作成し、または を介してソフトウェアを取り消すようにインスタンスを構成するには、Jamf 構成を介してそのソフトウェアをグループに関連付けます。

始める前に

Jamf 設定レコードを作成する前に、Jamf アプリケーション、グループ、および展開を検出し、必要なソフトウェアモデルを設定してあることを確認します。

必要なロール：sn_jamf_spoke.jamf_admin または admin

このタスクについて

Jamf 構成プロセスは、ソフトウェアと Jamf グループを関連付けます。Jamf サーバーからソフトウェアを展開するには、ユーザーまたはデバイスが、インストール展開に関連付けられた Jamf グループのメンバーである必要があります。CSD 2.0 を使用すると、インストールグループを使用してユーザーまたはデバイスを削除することでそのソフトウェアを削除できる場合に、Jamf サーバーを使用して、権限のないソフトウェアを取り消すことができます。サービスカタログから取り消し可能

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

なソフトウェアを要求するユーザーは、リース開始日や終了日を定義したり、リース延長を要求したりすることもできます。

Jamf アプリケーションとポリシーに対して次の手順を実行します。

手順

1. **[Jamf]** > [構成]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	Jamf ソフトウェア設定レコードを識別する名前。
グループ	Jamf サーバーで選択されたアプリケーションに関連付けられているグループの名前。同じグループをインストールとアンインストールの両方に使用できます。アプリケーションに関連付けられたグループのみが選択可能です。

4. [送信] をクリックします。

Jamf アプリケーションのカタログアイテムを作成

Jamf サーバー上で検出されたアプリケーションを使用して、サービスカタログから配布するために提供するアプリケーションのカタログアイテムを作成します。

始める前に
必要なロール：ユーザーが、前述の 2 つのロールセットのいずれかを持っていることを確認します。

- sn_jamf_spoke.jamf_admin、catalog_admin、および sn_csd.CSD Admin
- admin

カタログ アイテムを作成する前に、アプリケーションをソフトウェア モデルにリンクし、少なくとも 1 つのソフトウェア構成を作成する必要があります。

Jamf アプリケーションとポリシーに対して次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーションまたはポリシーのカタログアイテムを作成します。
   - Jamf アプリケーションのカタログアイテムを作成する場合は、**[Jamf]** > [アプリケーション] に移動します。
   - Jamf ポリシーのカタログアイテムを作成する場合は、**[Jamf]** > [ポリシー] に移動します。

   Jamf サーバー上で検出されたアプリケーションまたはポリシーのリストが表示されます。
2. 必要なレコードを開きます。
3. [カタログアイテムを作成] 関連リンクをクリックします。
4. フォームに、必要な値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名前	レコードを識別する名前。
アクセスタイプ	[委任] が選択されている場合、ログインしたユーザーは、このソフトウェアを別のユーザーのサービスカタログから注文できます。これにより、サービスデスク担当者は、システム内の他のユーザーに対して Jamf 展開を注文できます。デフォルトでこの機能は無効になっています。権限のないユーザーがソフトウェアを注文できないようにするには、[承認をスキップ] チェック ボックスをオフにして、このタイプの展開に承認が必要になるようにします。 あるユーザーの代わりに注文されたソフトウェアに対して承認が必要な場合、システムはソフトウェアを受け取ったユーザーのマネージャーに承認要求を自動的に送信します。要求者が指定ユーザーのマネージャーである場合、承認はスキップされます。 別のユーザーの代わりにサービスカタログから要求されるソフトウェアアイテムには、次の情報が必要です。 ◦ ユーザー：展開のために選択されたユーザー。このフィールドには、ログインしているユーザーの名前が自動的に入力されます。リストから別のユーザーを選択することができます。 ◦ このソフトウェアをインストールするデバイス：選択されたユーザーに属する、ソフトウェアを展開するデバイス。そのユーザーに属するデバイスだけが選択リストに表示されます。 ◦ リース開始：ソフトウェアを展開する日時。これはリースの開始時刻です。リースは無期限にすることも、リース終了時間を設定することもできます。 [制限付き] を選択した場合、注文フォームに [ユーザー] フィールドは表示されません。

5. フォームヘッダーを右クリックし、 [保存] をクリックします。
6. オプション: **[CSD** カタログアイテム履行構成 **(CSD Catalog Item Fulfillment Configuration)]** タブで、デフォルトレコードを開き、これらの値を入力します。

フィールド	説明
ソフトウェア構成	このアプリケーションの設定レコードの名前。このレコードは、このアプリケーションのコレクションとアンインストール コレクションを定義します。この構成は、Jamf サーバーによって実行されるすべての展開、取り消し、およびリースに必要です。
承認をスキップ (skip_approval)	ユーザーがサービスカタログから注文したときに、要求者のマネージャーがこのアイテムの承認をスキップできるようにするチェックボックス。このフィールドを [アクセスタイプ **(Access Type)]** フィールドと一緒に使用して、別のユーザーの代わりにログインしたユーザーが注文したソフトウェアが承認されることを確認します。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっており、新しいカタログアイテムすべてに対してマネージャーの承認が必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 可能な承認のレベルは 2 つあります。デフォルトでは、すべてのカテゴリアイテムで $1000 を超えるアイテムにはグループ承認が必要です。その承認が与えられるかスキップされると、システムは [承認をスキップ] チェック ボックスを評価して、ソフトウェアアイテムが要求者のマネージャーによる承認を必要としているかどうかを判断します。
ライセンスのコンプライアンスをチェック (check_license_compliance)	現在のライセンスでこのアイテムの展開が許可されているかどうかをシステムで強制的に判断するためのチェック ボックス。

注: コストが理由でカタログアイテムの承認が必要な場合は、[グループにより承認] 関連リストで承認グループを構成してください。デフォルトでは、[サービスカタログ要求] フローは、$1000 以上のコストがかかるアイテムが注文されたときに実行され、適切な承認グループを探します。アイテムに対して承認グループが構成されていない場合、このフローは承認を一切スキップして終了します。システムは [クライアント ソフトウェアの注文] フローを実行して [承認をスキップ] チェック ボックスを評価し、要求者のマネージャーによる承認を必要としているかどうかを判断します。

7. [更新] をクリックします。
   カタログアイテムが作成され、サービスカタログから注文できるようになります。
8. オプション: すべての CSD 2.0 カタログアイテムを表示するには、[クライアントソフトウェアディストリビューション **2.0]** > [ソフトウェアアイテム]に移動します。

   注: 上記のフィールドまたはタブが表示されない場合は、適宜、テーブルのフォームビューまたは関連リストを構成します。

展開プロセス

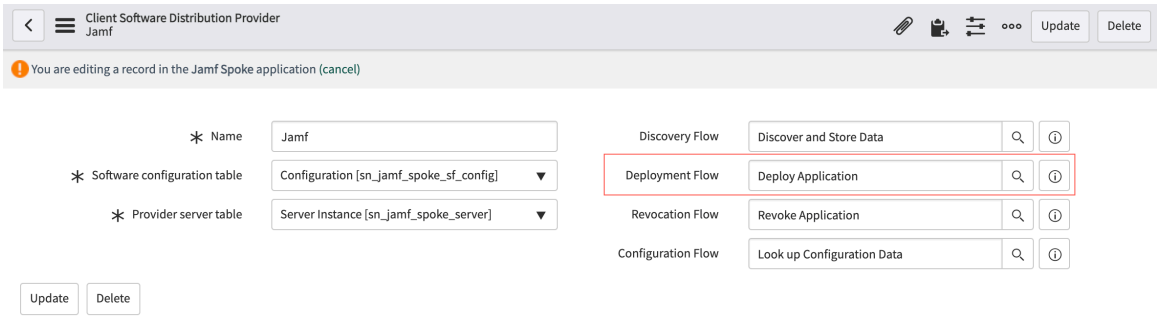
サービスカタログの CSD 2.0 カタログアイテムからアプリケーションを注文すると、[クライアントソフトウェアの注文] フローがトリガーされます。

このプロセスは、サービスカタログの注文によりアプリケーションをユーザーまたはデバイスに展開します。

1. ソフトウェアカタログアイテムで [承認をスキップ] チェックボックスがオフになっている場合、[クライアントソフトウェアの注文] フローは、承認のために要求ユーザーのマネージャーにカタログ要求を送信します。
2. ソフトウェアカタログアイテムで [ライセンスコンプライアンスのチェック] チェックボックスがオンになっている場合、フローは、SAM から、または CSD 2.0 構成に依存して、ソフトウェアライセンスのチェックを実行します。使用可能なライセンスがない場合、フローはより多くのライセンスを調達するカタログ タスクを作成し、そのタスクを CSD アドミングループに割り当てます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [クライアントソフトウェアの注文] フローは、[クライアントソフトウェアの展開] フローをトリガーし、プロバイダーレコードで指定されたプロバイダー固有の [展開フロー] をトリガーします。



Microsoft Intune 用 CSD 2.0

Microsoft Intune スポークとともに CSD 2.0 を使用して、ソフトウェア展開を展開および取り消し、ホスト上の配布を管理します。

Microsoft Intuneスポークを CSD 2.0とともに使用するには、 Microsoft Intune スポークと CSD 2.0 を有効にする必要があります。

Microsoft Intune スポークには、CSD 2.0 がサービスカタログ要求からソフトウェアを展開したり、Microsoft Intune サーバー上のユーザーおよびデバイスを管理するために使用するアクションが含まれています。さらに、CSD 2.0 では、ServiceNow ソフトウェア資産管理を使用して展開済みソフトウェアのライセンス数を管理し、 Microsoft Intune によって展開されたソフトウェアをユーザー操作なしで取り消し、またリース期間を管理できます。

アサイン先グループの構成

展開するすべてのアプリケーションのグループ割り当てを構成します。

始める前に

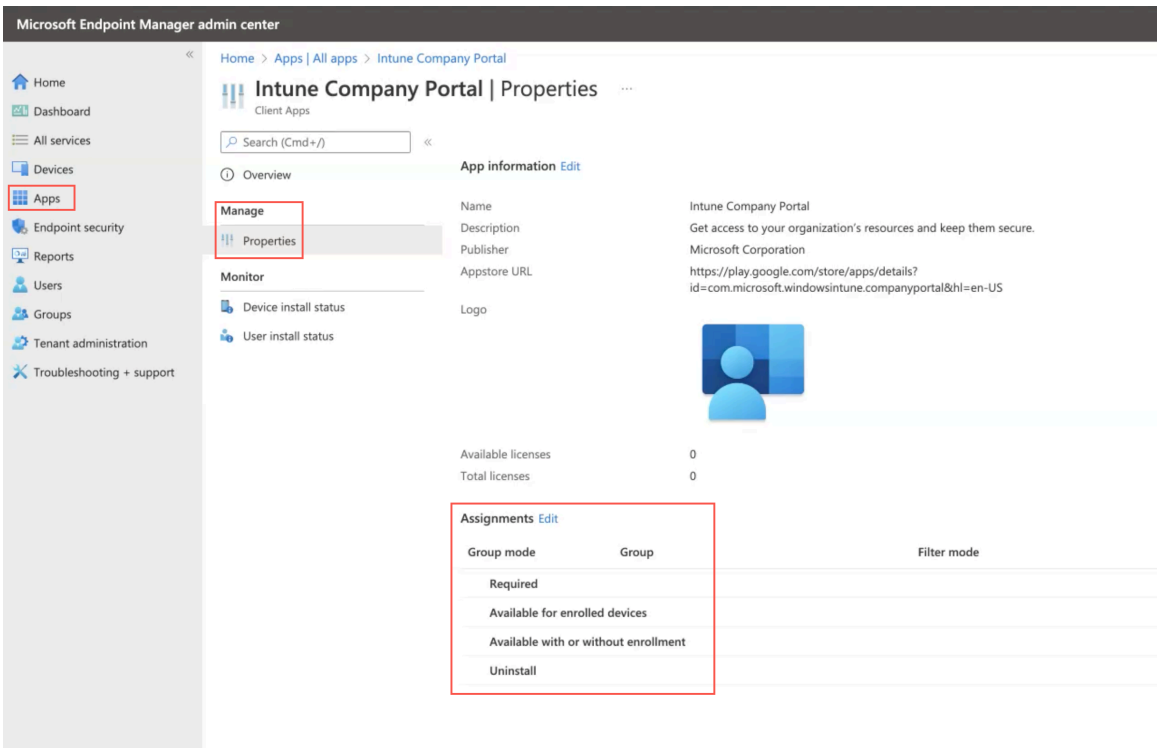
必要なロール：admin

手順

1. Microsoftエンドポイントマネージャーアドミンセンター にアドミンとしてログインします。
2. [アプリ] > [すべてのアプリ]に移動します。
3. 展開するアプリケーションをクリックします。
4. [管理] の [プロパティ] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [アサイン] で、展開するグループのアサインを実行します。



Microsoft Intune スポークレコードを検証

Microsoft Intune スポークを設定して構成した後、スポークが CSD 2.0 と統合されていることを検証し、 Microsoft Intune スポークを CSD 2.0 とともに使用するサーバーインスタンスレコードを作成します。

始める前に

- Microsoft Azure Active Directory スポーク スポークを有効にして、スポークを設定します。スポーク設定の詳細については、「Microsoft Entra ID スポークの設定」を参照してください。
- Microsoft Intune スポークをアクティブ化して、スポークを設定します。スポーク設定の詳細については、「Microsoft Intune スポークの設定」を参照してください。
- CSD 2.0 アプリケーションをアクティブ化します。
- 必要なロール：admin

手順

1. これらのモジュールが利用可能であることを検証します。
   - アプリケーション
   - 構成
   - サーバーインスタンス
   - 展開
   - グループ
2. [システム定義] > [テーブル]に移動し、これらのテーブルが利用可能であることを検証します。
   - 構成 [sn_ms_intune_spoke_sf_config]
   - 展開 [sn_ms_intune_spoke_deployment]
   - サーバーインスタンス [sn_ms_intune_spoke_server]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

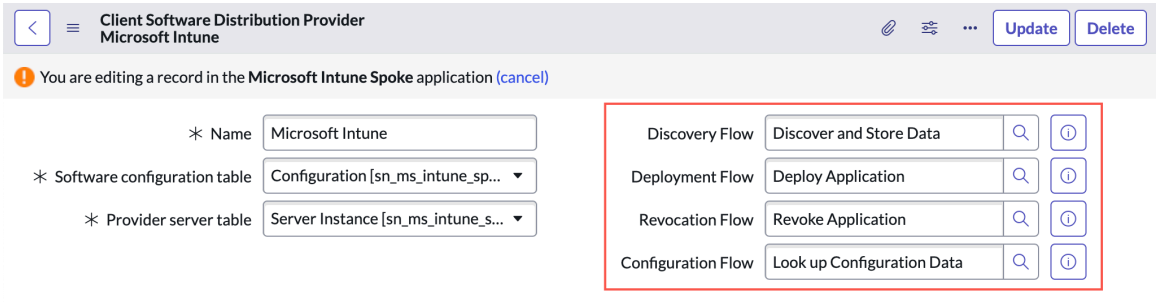
- アプリケーション [sn_ms_intune_spoke_application]
- グループ [sn_ms_intune_spoke_group]

3. フローがプロバイダーレコードで正しく構成されていることを検証します。

a. [クライアントソフトウェアディストリビューション **2.0**] > [プロバイダー]に移動します。

b. **Microsoft Intune** を開いて記録します。

c. フローがレコードで正しく構成されていることを検証します。



> 注: 要件に従ってデフォルトフローを構成できます。

Microsoft Intune サーバーの詳細を保存

アプリケーションを検出し、 Microsoft Intune サーバーの詳細を保存するサーバーインスタンスレコードを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. **[Microsoft Intune]** > [サーバーインスタンス] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、次の値を入力します。

フィールド	説明
名前	サーバーインスタンスレコードを識別する名前。
接続および資格情報エイリアス	Microsoft Intune スポークの設定中に構成した接続および資格情報エイリアス。例：**Microsoft_Intune**

> 注: Microsoft Intune スポーク とともに出荷されたデフォルトの接続および資格情報エイリアスレコードのみを使用できます。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[送信]をクリックします。
5. [今すぐ検出] 関連リンクをクリックして、すべてのアプリケーションを検出し、サーバーからデータを取得します。
[データの検出および保存 (Discover and Store Data)] サブフローがトリガーされます。データが取得され、Microsoft Intune スポーク テーブルに保存されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソフトウェア モデルを設定

Microsoft Intune サーバーで検出されたアプリケーションを使用して、ソフトウェアモデルを設定し、ライセンスを管理します。

始める前に

必要なロール：ユーザーが、前述の 2 つのロールセットのいずれかを持っていることを確認します。

- sn_ms_intune_spoke.microsoft_intune_admin および sn_csd.CSD アドミン
- admin

ソフトウェアモデルを作成する前に、 Microsoft Intune サーバーの展開で利用できるアプリケーションを検出する必要があります。

Microsoft Intune アプリケーションのソフトウェアモデルを設定するときは、次の手順を実行します。

このタスクについて

Microsoft Intune アプリケーションを既存のソフトウェアモデルにリンクするか、新しいモデルを作成できます。

手順

1. **[Microsoft Intune]** > [アプリケーション] に移動します。
   Microsoft Intune サーバー上で検出されたアプリケーションのリストが表示されます。
2. 必要なレコードを開きます。
3. 既存のモデルにリンクするには、**[CSD** ソフトウェアモデル **(CSD software model)]** フィールドの [虫眼鏡 (magnifying glass)] アイコンをクリックし、リストからモデルを選択します。
4. モデルを作成するには、関連リンク下の [ソフトウェアモデルを作成] をクリックします。

   a. ソフトウェア モデルのフィールドを設定します。

   b. [送信] をクリックします。
      ビューが Microsoft Intune アプリケーションリストに戻ります。

Microsoft Intune 構成を定義

Microsoft Intune ソフトウェア展開用のカタログアイテムを作成し、または Microsoft Intune を介してソフトウェアを取り消すようにインスタンスを構成するには、 Microsoft Intune 構成を介してそのソフトウェアをグループに関連付けます。

始める前に

Microsoft Intune 設定レコードを作成する前に、 Microsoft Intune アプリケーション、グループ、および展開を検出し、必要なソフトウェアモデルを設定してあることを確認します。

必要なロール：sn_ms_intune_spoke.microsoft_intune_admin または admin

このタスクについて

Microsoft Intune 構成プロセスは、ソフトウェアと Microsoft Intune グループを関連付けます。 Microsoft Endpoint Configuration Manager サーバーからソフトウェアを展開するには、ユーザーまたはデバイスが、インストール展開に関連付けられた Microsoft Intune グループのメンバーである必要があります。CSD 2.0 を使用すると、アンインストールグループを使用してそのソフトウェアを削除できる場合に、 Microsoft Intune サーバーを使用して、権限のないソフトウェアを取り消すことができます。サービスカタログから取り消し可能なソフトウェアを要求するユーザーは、リース開始日や終了日を定義したり、リース延長を要求したりすることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. **[Microsoft Intune]** > [構成] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	Microsoft Intune ソフトウェア設定レコードを識別する名前。
アプリケーション	Microsoft Intune サーバーでホストされているアプリケーションの名前。
インストールグループ	Microsoft Intune サーバーで選択されたアプリケーションのインストール展開に関連付けられているグループの名前。アプリケーションに関連付けられたグループのみが選択可能です。
アンインストールグループ	Microsoft Intune サーバーで選択されたアプリケーションのアンインストール展開に関連付けられているグループの名前。アプリケーションに関連付けられたグループのみが選択可能です。次の場合はアンインストール コレクションを指定する必要があります。 ◦ 展開済みソフトウェアのリース終了日を定義する。 ◦ リース延長を有効にします。 ◦ ユーザーのマシンからソフトウェアを取り消す。
展開タイプ	ソフトウェアの展開または取り消しが必要なエンティティ。

4. [送信] をクリックします。

Microsoft Intune アプリケーションのカタログアイテムの作成

Microsoft Intune サーバー上で検出されたアプリケーションを使用して、サービスカタログから配布するために提供するアプリケーションのカタログアイテムを作成します。

始める前に
必要なロール：ユーザーが、前述の 2 つのロールセットのいずれかを持っていることを確認します。

- sn_ms_intune_spoke.microsoft_intune_admin、catalog_admin、および sn_csd.CSD アドミン
- admin

カタログ アイテムを作成する前に、アプリケーションをソフトウェア モデルにリンクし、少なくとも 1 つのソフトウェア構成を作成する必要があります。

手順

1. **[Microsoft Intune]** > [アプリケーション] に移動します。
   Microsoft Intune サーバー上で検出されたアプリケーションのリストが表示されます。
2. Microsoft Intune アプリケーションのレコードを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [カタログアイテムを作成] 関連リンクをクリックします。
4. フォームに、必要な値を入力します。

フィールド	説明
名前	レコードを識別する名前。
アクセスタイプ	[委任] が選択されている場合、ログインしたユーザーは、このソフトウェアを別のユーザーのサービスカタログから注文できます。これにより、サービスデスク担当者は、システム内の他のユーザーに対して Microsoft Intune 展開を注文できます。デフォルトでこの機能は無効になっています。権限のないユーザーがソフトウェアを注文できないようにするには、[承認をスキップ] チェック ボックスをオフにして、このタイプの展開に承認が必要になるようにします。 あるユーザーの代わりに注文されたソフトウェアに対して承認が必要な場合、システムはソフトウェアを受け取ったユーザーのマネージャーに承認要求を自動的に送信します。要求者が指定ユーザーのマネージャーである場合、承認はスキップされます。 別のユーザーの代わりにサービスカタログから要求されるソフトウェアアイテムには、次の情報が必要です。 ◦ ユーザー：展開のために選択されたユーザー。このフィールドには、ログインしているユーザーの名前が自動的に入力されます。リストから別のユーザーを選択することができます。 ◦ このソフトウェアをインストールするデバイス：選択されたユーザーに属する、ソフトウェアを展開するデバイス。そのユーザーに属するデバイスだけが選択リストに表示されます。 ◦ リース開始：ソフトウェアを展開する日時。これはリースの開始時刻です。リースは無期限にすることも、リース終了時間を設定することもできます。 [制限付き] を選択した場合、注文フォームに [ユーザー] フィールドは表示されません。

5. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] をクリックします。
6. オプション: **[CSD** カタログアイテム履行構成 **(CSD Catalog Item Fulfillment Configuration)]** タブで、デフォルトレコードを開き、要件に従ってこれらの値を入力します。

フィールド	説明
ソフトウェア構成	このアプリケーションの設定レコードの名前。このレコードは、このアプリケーションのインストールグループとアンインストールグループを定義します。この構成は、 Microsoft Intune サーバーによって実行されるすべての展開、取り消し、およびリースに必要です。
承認をスキップ (skip_approval)	ユーザーがサービスカタログから注文したときに、要求者のマネージャーがこのアイテムの承認をスキップできるようにするチェックボックス。このフィールドを [アクセスタイプ **(Access Type)]** フィールドと一緒に使用して、別のユーザーの代わりにログインしたユーザーが注文したソフトウェアが承認されることを確認します。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっており、新しいカタログ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	アイテムすべてに対してマネージャーの承認が必要です。 注: 可能な承認のレベルは 2 つあります。デフォルトでは、すべてのカテゴリアイテムで $1000 を超えるアイテムにはグループ承認が必要です。その承認が与えられるかスキップされると、システムは [承認をスキップ] チェック ボックスを評価して、ソフトウェアアイテムが要求者のマネージャーによる承認を必要としているかどうかを判断します。
ライセンスのコンプライアンスをチェック (check_license_compliance)	現在のライセンスでこのアイテムの展開が許可されているかどうかをシステムで強制的に判断するためのチェック ボックス。

注: コストが理由でカタログアイテムの承認が必要な場合は、[グループにより承認] 関連リストで承認グループを構成してください。デフォルトでは、[サービスカタログ要求] フローは、$1000 以上のコストがかかるアイテムが注文されたときに実行され、適切な承認グループを探します。アイテムに対して承認グループが構成されていない場合、このフローは承認を一切スキップして終了します。システムは [クライアント ソフトウェアの注文] フローを実行して [承認をスキップ] チェック ボックスを評価し、要求者のマネージャーによる承認を必要としているかどうかを判断します。

7. [更新] をクリックします。
   カタログアイテムが作成され、サービスカタログから注文できるようになります。
8. オプション: すべての CSD 2.0 カタログアイテムを表示するには、[クライアントソフトウェアディストリビューション **2.0]** > [ソフトウェアアイテム]に移動します。

   注: 上記のフィールドまたはタブが表示されない場合は、適宜、テーブルのフォームビューまたは関連リストを構成します。

展開プロセス

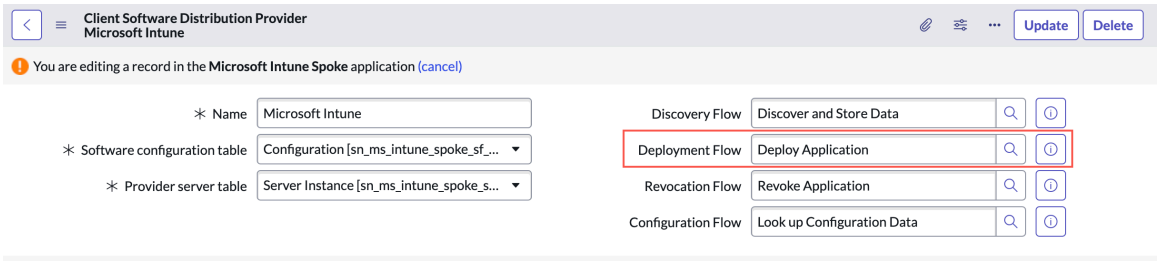
サービスカタログの CSD 2.0 カタログアイテムからアプリケーションを注文すると、[クライアントソフトウェアの注文] フローがトリガーされます。

このプロセスは、サービスカタログの注文によりアプリケーションをユーザーまたはデバイスに展開します。

1. ソフトウェアカタログアイテムで [承認をスキップ] チェックボックスがオフになっている場合、[クライアントソフトウェアの注文] フローは、承認のために要求ユーザーのマネージャーにカタログ要求を送信します。
2. ソフトウェアカタログアイテムで [ライセンスコンプライアンスのチェック] チェックボックスがオンになっている場合、フローは、SAM から、または CSD 2.0 構成に依存して、ソフトウェアライセンスのチェックを実行します。使用可能なライセンスがない場合、フローはより多くのライセンスを調達するカタログ タスクを作成し、そのタスクを CSD アドミングループに割り当てます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [クライアントソフトウェアの注文] フローは、[クライアントソフトウェアの展開] フローをトリガーし、プロバイダーレコードで指定されたプロバイダー固有の [展開フロー] をトリガーします。



CSD 2.0 検証プロセス

Microsoft Endpoint Configuration Manager がソフトウェアをターゲットコンピューターに展開すると、CSD 2.0 によってインストールが検出され、そのステータスが検証されます。

注: これは、SAM を使用している場合にのみ適用されます。

CSD 2.0 では、ターゲットマシンにインストールされているソフトウェアを検出するために以下の方法を使用します。

- ディスカバリー：CSD 2.0 は、ディスカバリー を利用してソフトウェアのインストールを検出するように構成されます。ディスカバリーは、いつでも手動で実行することも、スケジュール済みジョブで実行することもできます。
- Microsoft Endpoint Configuration Manager 統合：インスタンス上で検出が有効でない場合は、統合 - Microsoft Endpoint Configuration Manager プラグインの機能を使用して、プロバイダーデータを CMDB にインポートできます。

インスタンスは、ディスカバリーまたは Microsoft Endpoint Configuration Manager 統合プラグインによって収集されたデータを使用して、ソフトウェアインストール [cmdb_sam_sw_install] テーブルを入力します。このデータを使用してインストールを検証するために、CSD 2.0 は CSD プロパティの設定を使用する [要求されたソフトウェアの調整 (Reconcile Requested Software)] というスケジュール済みジョブを実行します。このプロセスは、CMDB に蓄積されたソフトウェア インストール データを調整し、以下のステータス更新を行います。

- [未インストール] または [非同期 **(Not Synced)**] から [インストール済み **(Installed)**]：ユーザーは、*sn_csd.softwareInstallExpDays* プロパティで構成された時間制限内に、要求されたソフトウェアをインストールしています。
- [未インストール] または [非同期 **(Not Synced)**] から[ステータスチェックの有効期限が切れました]：ユーザーが要求されたソフトウェアをインストールする時間制限が切れています。時間制限が切れると、システムはインストールのチェックを停止します。

ソフトウェアの取り消し

ソフトウェアが取り消し可能でリース終了日がある場合は、プロバイダー固有の取り消しフローを使用して、ユーザーの操作なしでソフトウェアを取り消します。

サービスカタログを介して展開されたソフトウェアの取り消し

ソフトウェア構成に関連付けられているアプリケーションでアンインストールコレクションが構成されている場合、ソフトウェアプロバイダーによって展開されたソフトウェアを取り消すことができます。CSD 2.0 は、CSD 2.0 でインストールされなかったアプリをアンインストールできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- アプリケーションにプロバイダー固有の設定レコードを作成して、適切なアンインストールコレクションを指定します。
- アプリケーションの CSD 2.0 カタログアイテムを、アンインストールコレクションを指定するプロバイダー構成と関連付けます。

必要なロール：itil、sn_csd.CSD Admin、または sn_csd.CSD User

手順

1. [クライアントソフトウェアディストリビューション **2.0]** > [要求されたソフトウェア]に移動します。
2. 取り消すソフトウェア パッケージのレコードを開きます。
   取り消すことができるパッケージは、[ステータス] が [インストール済み **(Installed)]** または [非同期 **(Not Synced)]** になっている必要があります。
3. [関連リンク] で、[ソフトウェアの取り消し] をクリックします。

> **注:** このアクションでは、[クライアントソフトウェアの取り消し] フローを実行します。これにより、プロバイダー固有の [アプリケーションの取り消し] サブフローがトリガーされます。

CSD 2.0 を他のソフトウェアプロバイダーと統合

CSD 2.0 を、Casper、Altiris、LANDesk などのクライアントソフトウェアディストリビューションプロバイダーと統合します。

> **注:** CSD 2.0 の拡張は、経験豊富な Now Platform 開発者のみが使用することを目的とした高度な手順です。

プロバイダーテーブルを作成

プロバイダーサーバーから検出されたデータを保存するテーブルを特定して作成します。

たとえば、アプリケーション、コレクション、および展開テーブルには Microsoft Endpoint Configuration Manager スポークが用意されています。同様に、検出されたデータを保存するテーブルを作成します。クライアントソフトウェアディストリビューションアプリケーション (sn_csd_application) テーブルを拡張するアプリケーションテーブルを作成する必要があります。

- 構成アイテム [cmdb_ci] テーブルを拡張するプロバイダーサーバーテーブルを作成します。
- クライアントソフトウェアディストリビューションソフトウェア構成 [sn_csd_software_config] テーブルを拡張するソフトウェア構成テーブルを作成します。

サブフローを作成

フローデザイナー でサブフローを作成し、データを検出して保存し、アプリケーションを展開します。

要件に従って、これらのサブフローを フローデザイナー に作成します。

- データサブフローの検出および保存：

  プロバイダーサーバーを検出し、プロバイダーサーバーからデータを取得し、ServiceNow インスタンスにそのデータを保存するサブフロー。このデータは、サーバーデータの保存用に以前作成したテーブルに保存する必要があります。

- アプリケーションサブフローの展開：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロバイダーサーバーからソフトウェアを展開するサブフロー。このサブフローは、サービスカタログから要求されたアプリケーションの展開に関する情報をプロバイダーに提供します。

- アプリケーションの取り消しサブフロー：

  プロバイダーサーバーからインストールを取り消すサブフロー。このサブフローは、アプリケーションを削除する必要があるユーザーまたはデバイスに関する情報をプロバイダーに提供します。

- 構成データ検索サブフロー：

  指定された要求アイテムの構成データまたはソフトウェア設定レコードを取得するサブフロー。

[アプリケーションの展開] テンプレート、[構成データを検索] テンプレート、および [アプリケーションの取り消し] テンプレートのサブフローは、CSD 2.0で提供されます。これらのサブフローを参照として使用し、要件に従ってサブフローを作成できます。

プロバイダーレコードを作成

プロバイダーレコードを作成してフローを設定します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

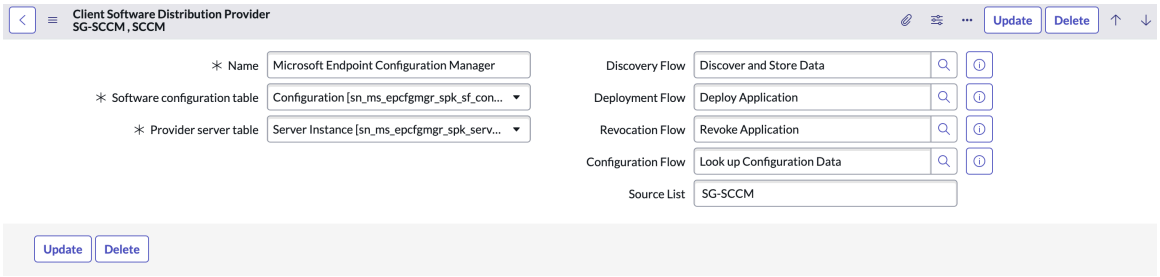
1. [クライアントソフトウェアディストリビューション **2.0]** > [プロバイダー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	プロバイダーレコードを識別する名前。
ソフトウェア構成テーブル	作成したソフトウェア構成テーブル。このテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューションソフトウェア構成 [sn_csd_software_config] テーブルを拡張します。
プロバイダーサーバーテーブル	作成したプロバイダーサーバーテーブル。このテーブルは、構成アイテム [cmdb_ci] テーブルを拡張します。
ディスカバリーフロー	プロバイダーサーバーを検出し、プロバイダーサーバーからデータを取得し、ServiceNow インスタンスにそのデータを保存するために作成したサブフロー。
展開フロー	プロバイダーサーバーからソフトウェアを展開するために作成したサブフロー。
取り消しフロー	プロバイダーサーバーからインストールを取り消すために作成したサブフロー。
構成フロー	指定された要求アイテムの構成データまたはソフトウェア設定レコードを取得するために作成したサブフロー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ソースリスト	カンマで区切られたディスカバリーソースのリスト。

プロバイダーレコードの例



4. [保存] をクリックします。

UI アクションの作成

データの検出、ソフトウェアモデルの作成、ソフトウェア構成の作成、およびカタログアイテムの作成を行う UI アクションを作成します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

UI アクションの作成の詳細については、「UI アクション」を参照してください。

手順

1. データを検出するための UI アクションを作成します。

   a. [システム定義] > **[UI アクション]** に移動します。

   b. [新規] をクリックします。

   c. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	UI アクションレコードを識別する名前。たとえば、[今すぐ検出]。
テーブル	作成したプロバイダーサーバーテーブル。このテーブルは、構成アイテム [cmdb_ci] テーブルを拡張しています。
スクリプト	UI アクションが実行されるときに実行するスクリプト。たとえば、次のように入力します。 `sn_csd.CSDUtil.startDiscovery(current);`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. 要件に従って他のフィールドを指定します。

e. [保存] をクリックします。

2. UI アクションを作成して、ソフトウェアモデルを作成し、プロバイダーアプリケーションまたはソフトウェアにリンクします。

a. [システム定義] > **[UI** アクション] に移動します。

b. [新規] をクリックします。

c. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	UI アクションレコードを識別する名前。たとえば、[ソフトウェアモデルを作成]。
テーブル	作成したアプリケーションテーブル。このテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューションアプリケーション (sn_csd_application) テーブルを拡張します。 **注:** SAM または CSD 2.0 ソフトウェアモデルとライセンステーブルのいずれかを使用できます。[ソフトウェアモデルとライセンス情報を管理するために SAM プラグイン (SAM Foundation または SAM Professional) テーブルを使用するかどうかを決定する] システムプロパティ (*sn_csd.useSAMPlugin*) がどのように設定されるかによって、対応するソフトウェアモデルテーブルを使用します。
条件	UI アクションの表示時期を制限する条件を定義します。たとえば、ソフトウェアモデルがアプリケーションまたはソフトウェアに関連付けられている場合は、この UI アクションを非表示にできます。したがって、次のように入力します。「`(gs.getProperty("sn_csd.useSAMPlugin") == 'true' && current.model=="" && (GlidePluginManager().isActive("com.snc.sams") || GlidePluginManager().isActive("com.snc.samp.core || (gs.getProperty("sn_csd.useSAMPlugin") == 'false'&& current.csd_model=="")`」。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明

スクリプト	UI アクションが実行されるときに実行するスクリプト。たとえば、次のように入力します。
	`var newModel = '';`
	`var tableName = '';`
	`if`
	`(gs.getProperty("sn_csd.useSAMPlugin") == 'true' &&`
	`current.model == "" &&`
	`(GlidePluginManager().isActive("com.snc.sams") ||`
	`GlidePluginManager().isActive("com.snc.samp.core"))) {`
	`tableName = 'cmdb_software_product_model';`
	`} else {`
	`tableName = 'sn_csd_software_product_model';`
	`}`
	`newModel = new sn_csd.CSDModelUtil().generateModel(current, tableName);`
	`if (newModel != '')`
	`gs.setRedirect(tableName + ".do?sys_id=" + newModel);`

d. 要件に従って他のフィールドを指定します。

e. [保存] をクリックします。

3. ソフトウェア構成を作成するための UI アクションを作成します。

a. [システム定義] > **[UI** アクション] に移動します。

b. [新規] をクリックします。

c. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	UI アクションレコードを識別する名前。たとえば、[ソフトウェア構成を作成]。
テーブル	作成したアプリケーションテーブル。このテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューションアプリケーション (sn_csd_application) テーブルを拡張します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: SAM または CSD 2.0 ソフトウェアモデルとライセンステーブルのいずれかを使用できます。[ソフトウェアモデルとライセンス情報を管理するために SAM プラグイン (SAM Foundation または SAM Professional) テーブルを使用するかどうかを決定する] システムプロパティ (*sn_csd.useSAMPlugin*) がどのように設定されるかによって、対応するソフトウェアモデルテーブルを使用します。
条件	UI アクションの表示時期を制限する条件を定義します。たとえば、ソフトウェアモデルが設定されている場合にのみ UI アクションを表示したい場合があります。したがって、次のように入力します。「`(gs.getProperty("sn_csd.useSAMPlugin") == 'true' && current.model!="" && (GlidePluginManager().isActive("com.snc.sams") || GlidePluginManager().isActive("com.snc.samp.core || (gs.getProperty("sn_csd.useSAMPlugin") == 'false' && current.csd_model! =="")`」。

スクリプト	UI アクションが実行されるときに実行するスクリプト。たとえば、次のように入力します。
	`var softwareConfig = createConfig(current); action.setRedirectURL(softwareConfig);`
	`function createConfig(appGr) { var gr = new GlideRecord("<Provider-software-configuration-table>"); gr.initialize(); gr.application = appGr.sys_id; gr.name = appGr.display_name; gr.insert(); return gr; }`
	この例では、`<Provider-software-configuration-table>` を、作成したプロバイダーサーバーテーブルと置き換えます。このテーブルは、構成アイテム [cmdb_ci] テーブルを拡張しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. 要件に従って他のフィールドを指定します。

e. [保存] をクリックします。

4. カタログアイテムを作成するための UI アクションを作成します。

a. [システム定義] > **[UI** アクション] に移動します。

b. [新規] をクリックします。

c. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	UI アクションレコードを識別する名前。たとえば、[カタログアイテムを作成]。
テーブル	作成したアプリケーションテーブル。このテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューションアプリケーション (sn_csd_application) テーブルを拡張します。 **注:** SAM または CSD 2.0 ソフトウェアモデルとライセンステーブルのいずれかを使用できます。[ソフトウェアモデルとライセンス情報を管理するために SAM プラグイン (SAM Foundation または SAM Professional) テーブルを使用するかどうかを決定する] システムプロパティ (*sn_csd.useSAMPlugin*) がどのように設定されるかによって、対応するソフトウェアモデルテーブルを使用します。
条件	UI アクションの表示時期を制限する条件を定義します。たとえば、ソフトウェアモデルが設定され、少なくとも 1 つのソフトウェア設定がある場合にのみ、この UI アクションを表示したい場合があります。したがって、次のように入力します。「`sn_csd.CSDUtil.isCSDSoftwareModelAndConfigurat "<プロバイダーソフトウェア設定テーブル>", "<プロバイダーのアプリケーションテーブルを示すソフトウェア設定テーブルの列の内部名>")`」。
スクリプト	UI アクションが実行されるときに実行するスクリプト。たとえば、次のように入力します。 `var catItemHandler = new sn_csd.CSDCatItemHandler(curren t);`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明

	`var catItem = catItemHandler.createCatalogItem(current);`
	
	`//first parameter - provider's software configuration table`
	`//second paramter - internal name of software configuration table's column that refers to the provider's application table`
	`var sfConfig = catItemHandler.getSoftwareConfig('<provider software configuration table>', '<internal name of software configuration table's column that refers to provider's application table>);`
	`var gr = new GlideRecord('sn_csd_cat_item_fulfilment_config');`
	`gr.initialize();`
	`gr.cat_item = catItem.sys_id;`
	`gr.provider = '<provider's Sys ID from sn_csd_provider table record>'; //provider's Sys ID from sn_csd_provider table record`
	`gr.software_config = sfConfig; //populating software configuration`
	`gr.insert();`
	`action.setRedirectURL(catItem);`

d. 要件に従って他のフィールドを指定します。

e. [保存] をクリックします。

Retry Handler Framework

API レート制限を超え、「429 要求が多すぎます」のステータスコードが返されたときに、失敗した HTTP 要求を再試行するフレームワークです。retry-after time HTTP ヘッダーは、指定された retry-after time 後に要求を再試行するために使用されます。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スポークの要件

注: Retry Handler Framework アプリは、Microsoft Exchange Online スポーク または ジャーニーアクセラレーター アプリの一部としてのみ利用できます。

- ジャーニーアクセラレーターアプリをインストール
- Microsoft Exchange Online スポーク

スポークのフロー

Retry Handler Framework では、ジャーニーアクセラレータータスクの自動化をデモするサンプルフローが提供されます。サンプルフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルフローは次のとおりです。

フロー	説明
サブスクリプションを更新	すべてのサブスクリプションレコードを取得し、期限切れが近づいているサブスクリプションを更新します。 注: ステータスが「削除中」であるサブスクリプションは、更新の対象にはなりません。
キューレコードをクリーンアップ	ステータス、実行状況、および最終更新時刻に基づいて、要求再試行キューからレコードを削除します。
スケジュール済みジョブ	要求再試行キューテーブルのレコードを処理します。

スポークのサブフロー

Retry Handler Framework では、ジャーニーアクセラレータータスクの自動化をデモするサンプルサブフローが提供されます。サンプルサブフローをカスタマイズするには、新しいアプリケーションスコープにコピーします。利用可能なサンプルサブフローは次のとおりです。

サブフロー	説明
カレンダー同期	[Exchange Online 予定表イベント変換済みデータ] テーブルからイベントを取得し、Microsoft Exchange Online イベントテーブルのイベントを更新します。有効なサブスクリプションが存在するかどうかを確認します。サブスクリプションが存在しない場合は、サブスクリプションを作成します。 注: イベントデータを同期する前に、[Exchange Online 予定表イベント変換済みデータ] テーブルで必要な詳細を更新する必要があります。
サブスクリプションレコードの作成または更新	指定された詳細のサブスクリプションが Microsoft Exchange Online に存在するかどうかを確認します。サブスクリプションが存在する場合、サブスクリプションレコードが更新されます。それ以外の場合、サブスクリプションは Microsoft Exchange Online で作成され、関連するレコードが作成されます。
カレンダースケジュール	Microsoft Exchange Online の指定されたイベントとイベントテーブルの関連するレコード、添付ファイル、イベント出席者のレコード、およびイベントからサブスクリプションへの m2m テーブルを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフロー	説明
イベントを削除	
イベントライフサイクル管理	イベント詳細を取得し、イベントのレコード詳細、出席者、イベントからサブスクリプションへの m2m テーブルを更新します。
イベントレコードへの添付ファイルを検索して更新	指定されたイベントの添付ファイルを Microsoft Exchange Online から取得し、取得した詳細を指定されたイベントのレコードに更新します。
カレンダースケジュールの変更を検索して更新	イベント詳細を Microsoft Exchange Online から取得し、詳細を指定されたイベントのレコードに更新します。サブスクリプションがまだ存在しない場合、このサブフローではサブスクリプションが作成され、イベントレコードとリンクされます。イベントが Microsoft Exchange Online に存在しない場合、関連するすべてのローカルレコードが削除されます。
カレンダーの詳細を検索	カレンダーの詳細を取得します。 **注:** このサブフローは、イベントライフサイクル管理のサブフローの一部であるため、再利用できません。
イベントの詳細を検索	イベントの詳細を取得します。 **注:** このサブフローは、カレンダースケジュールイベントを更新のサブフローの一部であるため、再利用できません。
削除されたサブスクリプションを再作成	関連付けられたサブスクリプションレコードの詳細を使用して、削除された Webhook サブスクリプションを再作成します。
サブスクリプションを更新	指定された入力に基づいて更新が必要な場合、Webhook サブスクリプションを更新します。
サブスクリプションライフサイクル管理	Webhook サブスクリプションのサブスクリプション管理のプロセスをデモします。このサブフローでは、イベントが作成され、Webhook サブスクリプションが存在するかどうか確認されます。Webhook サブスクリプションが存在しない場合、サブフローでは Webhook サブスクリプション、イベント、出席者、およびイベントからサブスクリプションへの m2m テーブルレコードが作成されます。
イベントを同期	[Exchange Online 予定表イベント変換済みデータ] テーブルとカレンダービューを同期します。このサブフローを使用して、サブスクリプションのライフサイクル通知漏れを管理します。 **注:** イベントデータを同期する前に、必要な情報で [Exchange Online 予定表イベント変換済みデータ] テーブルを更新する必要があります。
カレンダースケ	Microsoft Exchange Online のイベントオブジェクトのプロパティ、およびイベントテーブルの関連するレコードを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サブフロー	説明
ジュールイベントを更新	

注: イベントレコードへの添付ファイルを検索して更新、カレンダーの詳細を検索、イベントの詳細を検索、サブスクリプションサブフローを更新は、サブフローピッカーからは非表示になります。

ServiceNow Kafka コンシューマー

ServiceNowインスタンスを Kafka コンシューマーとデータ連携し、データをServiceNowテーブルに保存します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

統合ハブサブスクリプション

このスポークには Integration Hub のサブスクリプションが必要です。詳細については、「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照てください。

サポートされているバージョン

このスポークは、Confluent REST プロキシ API v2 用にビルドされています。

スポークの依存関係

アプリのインストールで問題が発生した場合は、次の依存プラグインがインストールされていることを確認してください。

- Confluent Kafka REST Proxy スポーク
- ServiceNow 統合ハブランタイム (com.glide.hub.integration.runtime)
- ServiceNow 統合ハブアクションステップ - RTE (com.glide.hub.action_step.rte)

注: これらのプラグインの一部はライセンス可能な機能であり、スポーク実装の外部で使用する場合は適切なライセンスが必要です。

接続および資格情報エイリアスの要件

統合ハブ は、エイリアスを使用して、接続および認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。接続または認証情報が変更された場合、接続を使用するどのアクションも更新する必要はありません。詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

ServiceNowKafka コンシューマーは、Confluent Kafka REST Proxy スポークの接続および資格情報エイリアスを使用します。

ServiceNow Kafka コンシューマー の構成

指定されたトピックに関連するイベントを取得し、必要なServiceNow テーブルに保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 統合ハブサブスクリプションを要求します。
- Confluent Kafka REST Proxy スポークを有効にして設定します。
- ServiceNow Kafka コンシューマーを有効にします。
- エンティティおよびエンティティ間のマッピングを定義します。詳細については、「強力なインポートセットトランスフォーマーのプロパティ」を参照してください。
- 必要なロール：import_admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > **[Kafka** コンシューマー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに、これらの値を入力します。

フィールド	説明
名前	レコードを識別する名前です。
ブローカー接続エイリアス	Confluent Kafka REST Proxy スポークの接続エイリアスです。
トピック	イベントを取得するトピックです。
強力な変換定義	ServiceNowテーブルのイベント変換とデータストレージに使用される強力な変換定義です。詳細については、「強力なインポートセットトランスフォーマーのプロパティ」を参照してください。
オフセット開始点	Kafka コンシューマーの auto.offset.reset の値です。これは、初期オフセットがない場合、または現在のオフセットがサーバー上に存在しなくなった場合に、Kafka コンシューマーが行うべきことを指定します。詳細については、Kafka2.7 ドキュメント を参照してください。
グループあたりのパーティション数	コンシューマースレッドあたりのパーティション数です。
ページサイズ (バイト)	要求の最大サイズです。
ページ制限	反復あたりの最大要求数です。
埋め込み形式	トピックの Kafka メッセージ形式です。
要求タイムアウト (ミリ秒)	Kafka コンシューマー consumer.request.timeout.ms. の値です。これは、クライアントが要求の応答を待つ最大時間を指定したものです。詳細については、Kafka2.7 ドキュメント を参照してください。
変換エラーの発生時に停止	変換エラーが発生したときにリスナーを停止するオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
詳細な変換	インポートされたすべてのイベントをインポートセットに記録し、変換のために追加のデバッグログを生成するオプションです。

注: トピックごとに 1 つの Kafka コンシューマーレコードを作成する必要があります。

4. [シンクリスナーを開始] 関連リンクをクリックします。
「Kafka パーティショングループリスナー状況」テーブルには、トピックのパーティションデータが入力されます。
5. オプション: リスナーを停止する場合は、[シンクリスナーを開始] 関連リンクをクリックします。
6. [システムスケジューラー] > [スケジュール済みジョブ]に移動します。
7. レコード **[Kafka** コンシューマートリガー] を開きます。
8. [トリガータイプ] リストから、[間隔] を選択します。
9. [更新] をクリックします。

データストリームアクションおよびページネーション

REST、SOAP、または JDBC 要求を フローデザイナー から API に送信します。この API は、10 MB を超える応答データのストリーム、またはページネーションされた結果を返します。ストリームデータを一連の複合オブジェクト出力に解析して、データピルをフローにある他のアクションで使用します。

たとえば、サードパーティの人事サイトから大量の従業員データをインポートする データストリーム アクションを作成します。データストリーム アクションは、REST 要求をサードパーティのサイトに送信し、応答を処理してユーザー [sys_user] テーブルのレコードに入力します。

注: データストリームアクションには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「 Legal schedules - 統合ハブ overview

利点

データストリーム アクションは以下の利点を提供します。

- 10 MB を超える応答データのストリームを解析してフォーマットします。
- 該当する場合、結果をページネーションする API に複数の要求を自動的に送信します。
- 統合ハブ - インポートで、またデータソースを作成するために使用できます。
- フローデザイナーが、複雑なコーディングや構成を行うことなく、大規模な要求を処理できるようにします。
- フローデザイナーで次のことを実行できます： では、データストリーム内の各オブジェクトを **For each** フローロジックを使用して処理します。たとえば、サードパーティのサイトからドキュメントデータをインポートする データストリーム アクションを作成できます。アクションをフローに追加すると、フローデザイナー ではアクションが **For each** フローロジックブロックに自動で追加されます。これにより、フローデザイナーが ServiceNow のレコードをデータストリームの各オブジェクトに対して簡単に作成できるようになります。「フロー内での データストリーム アクションの使用」を参照してください。
- フローデザイナーが、同じデータソースを複数の方法で使用して、複数のフローで データストリーム アクションを再利用できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データストリームアクションの実行

データストリーム アクションを実行するには、2 つの方法があります。

フローから

ユーザーは次のことを実行できます： では、データストリーム内の各オブジェクトを **For each** フローロジックを使用して処理します。たとえば、サードパーティのサイトからドキュメントデータをインポートする データストリーム アクションを作成できます。アクションをフローに追加すると、フローデザイナー ではアクションが **For each** フローロジックブロックに自動で追加されます。これにより、フローデザイナーが ServiceNow のレコードをデータストリームの各オブジェクトに対して簡単に作成できるようになります。「フロー内での データストリーム アクションの使用」を参照してください。

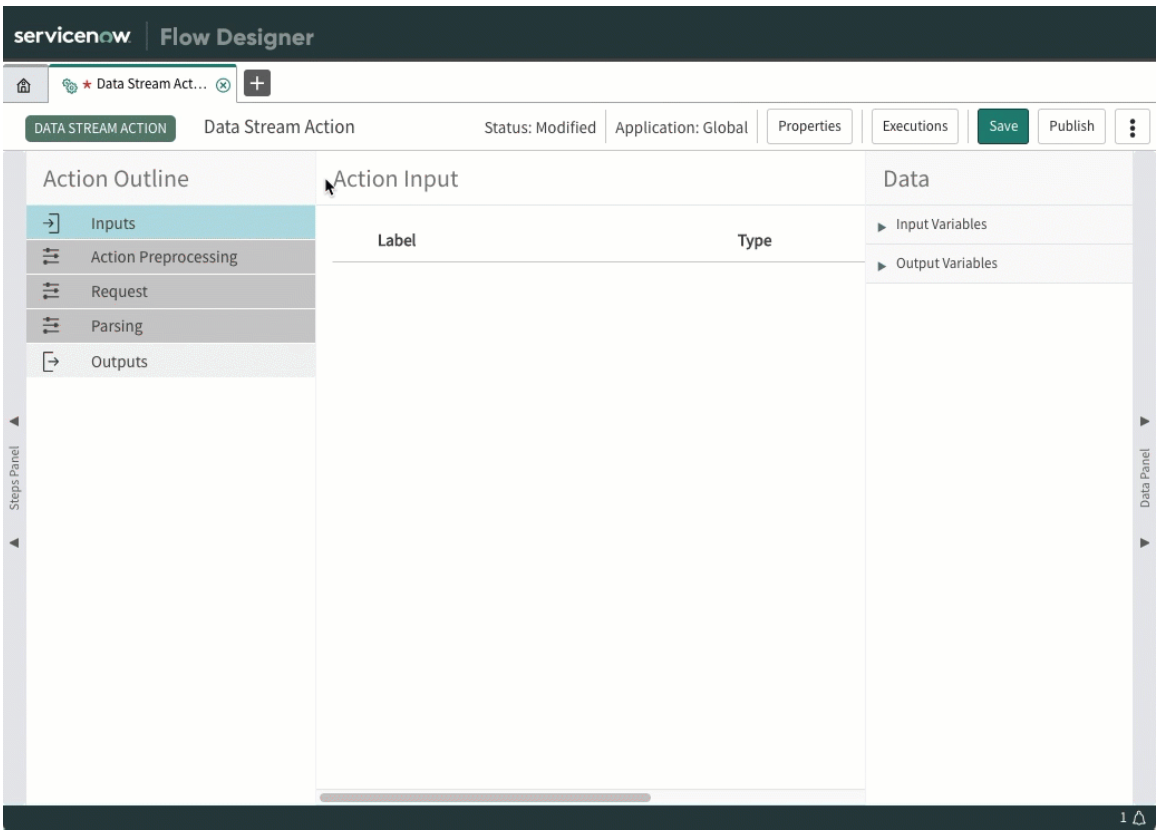
スクリプトから

FlowAPI クラスの executeDataStreamAction() メソッドを使用して データストリーム を開始できます。詳細については、「FlowAPI」を参照してください。

アクションアウトライン

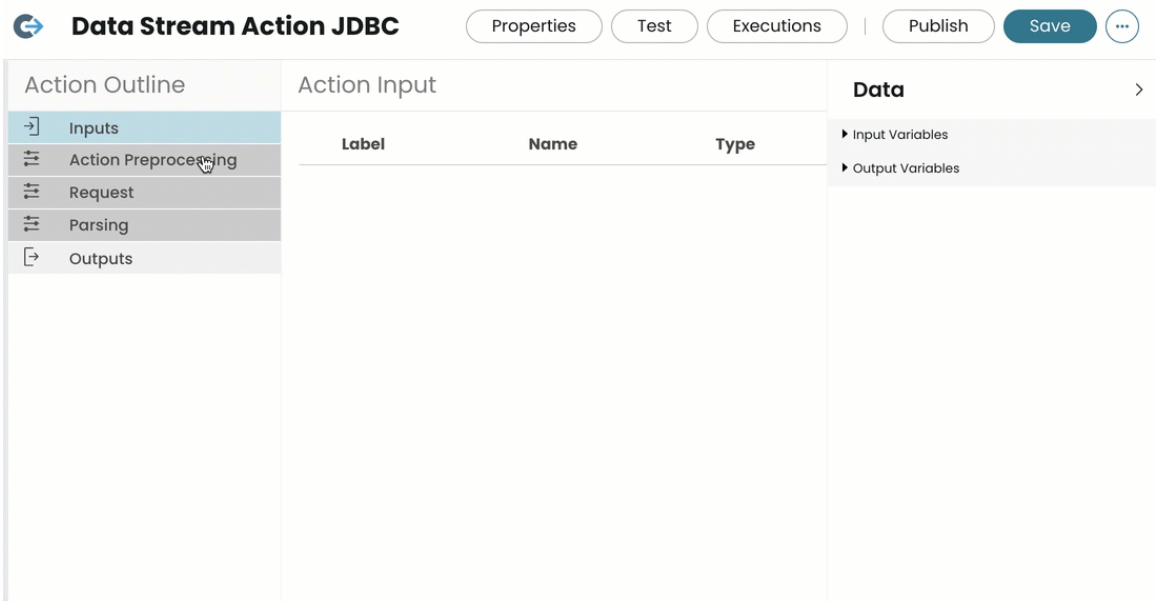
データストリーム アクションは設定された構造に従います。プロンプトに従って、アクションアウトラインのステップを追加および削除します。データストリーム アクションに手動でステップを追加することはできません。

REST および **SOAP** データストリームアクション



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JDBC データストリームアクション



注: 設定ページのオプションを消去すると手順が データストリーム アウトラインから削除されて、関連付けられるすべてのデータが削除されます。

アクションエラー評価

エラー評価 を使用してステップエラーをキャッチし、データストリームアクションに追加する各ステップのエラー動作を指定します。アクションがエラーステータスを返すタイミング、返されるステータスコード、およびメッセージを指定することにより、独自のエラー条件を作成することもできます。

アクションの前処理

アクション前処理カテゴリを使用して、接続と資格情報の詳細を取得したり、前処理スクリプトを実行したりします。

アクションで使用する接続と資格情報の詳細を取得するには、[接続情報を取得 **(Retrieve connection info)]** を選択します。このオプションを選択すると、アクション前処理の最初のステップとして「接続情報の取得」ステップが追加されます。詳細については、「接続情報の取得ステップ 」を参照してください。

アクションが最初の API 要求を送信する前の前処理スクリプトを実行するには、[前処理スクリプトを有効化] を選択します。たとえば、アクション入力を検証するかデフォルト値を設定します。 このオプションを選択すると、スクリプトステップが データストリーム アクションに追加されます。詳細については、「 スクリプトステップ 」を参照してください。

前処理は、最初の API 要求の前にアクションごとに 1 回実行されます。

これは、インスタンスまたは MID サーバー のいずれかで実行されるオプションの データストリーム アクションコンポーネントです。

要求

[要求] カテゴリを使用して、アクションが API 要求を送信する方法を設定します。[要求] セクションは、結果のページごとに 1 回実行されます。要求コンポーネントは、次の構成オプションを提供します。

ページネーションセットアップステップ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のことを要求します： 結果はバッチで表示されます。データの 1 つのページが処理されると データストリーム アクションによって要求セクションが再実行されて、次の一連の結果が返されます。。ページネーションセットアップステップを使用して、API に必要なページネーションオプションを設定します。ページネーションのセットアップ手順を手動で構成するか、ビルド済みのテンプレートを選択して一般的な構成を適用します。 たとえば、制限/オフセットテンプレートを適用して、ページごとに返されるアイテムの数 (制限) と最初のアイテムの開始番号 (オフセット) を指定します。テンプレートを適用後、値を更新して構成が API の要件に準拠していることを確認します。

注: ライセンスの目的では、各要求は、結果の次のページの各要求を含め、1 つのトランザクションとしてカウントされます。

予約済みの読み取り専用 `getNextPage` 変数の値は、結果の別のページを要求するかどうかを決定します。 `getNextPage` 変数が true で前のページにデータが含まれている限り、アクションは次のページの要求を送信し続けます。

注: スクリプトで値を明示的に true に設定する必要があります。そうしないと、デフォルトで false に設定されます。

これは、インスタンスのみで実行されるオプションのアクションコンポーネントです。

注: ページネーションは JDBC ステップには適用されません。

スクリプト ステップ

結果の次のページに対してすべての要求の前にスクリプトを実行します。このスクリプトは、ページネーションされた API を呼び出すときにデータの検証と変換に使用します。たとえば、次のページ要求の JSON ペイロードを生成します。 このオプションを選択すると、スクリプトステップが データストリーム アクションに追加されます。詳細については、「 スクリプトステップ 」を参照してください。

これは、インスタンスまたは MID サーバー のいずれかで実行されるオプションの要求コンポーネントです。

REST または SOAP ステップ

REST または SOAP 要求をサードパーティ API に送信します。関連するステップを データストリーム アクションに追加するデータ形式を選択します。詳細については、「REST ステップ」と「SOAP ステップ」を参照してください。

これは、インスタンスまたは MID サーバー のいずれかで実行される必須要求コンポーネントです。

JDBC ステップ

JDBC 要求をサードパーティ API に送信します。変換スクリプトを使用して、データをフォーマットし、関連するステップを データストリーム アクションに追加します。詳細については、「JDBC ステップ」と「JDBC ステップのテスト」を参照してください。すべてのデータが取得され、ページネーションは必要ありません。

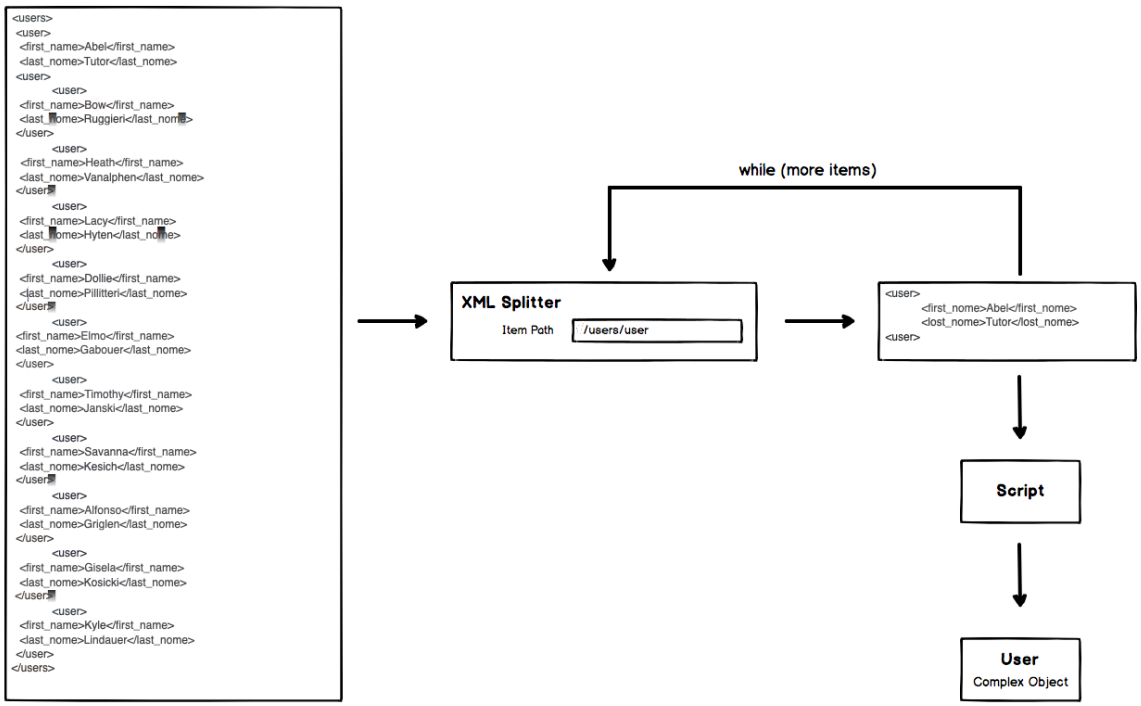
これは、MID サーバー で実行される必須要求コンポーネントです。

REST および SOAP ステップでの解析

[解析] カテゴリを使用して、アクションでデータストリーム要素を複雑なデータオブジェクトに分離する方法を設定します。スプリッターステップを使用してアイテムを識別し、XML または JSON ストリームから分離し、スクリプトパーサーステップを使用して各アイテムを複雑なオブジェクトに変換します。[解析中] セクションは、ストリーム内のアイテムごとに 1 回実行されます。 *`fd_data`* オブジェクトを使用して、データストリームアクションの前のステップの出力にアクセスできます。ただし、次のものは除きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- REST または SOAP ステップの応答本文、ストリーム、またはエラーメッセージの出力
- セパレーターステップ出力



複合データの詳細については「複合データ」を参照してください。解析コンポーネントは、これらの構成オプションを提供します。

スプリッターステップ

次のことを特定します：複合オブジェクトにマップする応答ストリームにある親ノード。たとえば、XML ペイロードのユーザー要素を識別して、応答ストリームのユーザーごとに複合オブジェクトを作成します。

XML または JSON データストリーム内の繰り返しアイテムを識別して区切るためにスプリッタータイプを選択します。

- **JSON**：JSON データのストリームからのオブジェクトを識別します。JSONPath 式を使用して、繰り返しデータが含まれる JSON アレイを識別します。
- **XML**：XML データのストリームからのオブジェクトを識別します。XPath 式を使用して、繰り返しデータが含まれる XML 要素を識別します。

これは、インスタンスのみで実行される必須解析コンポーネントです。

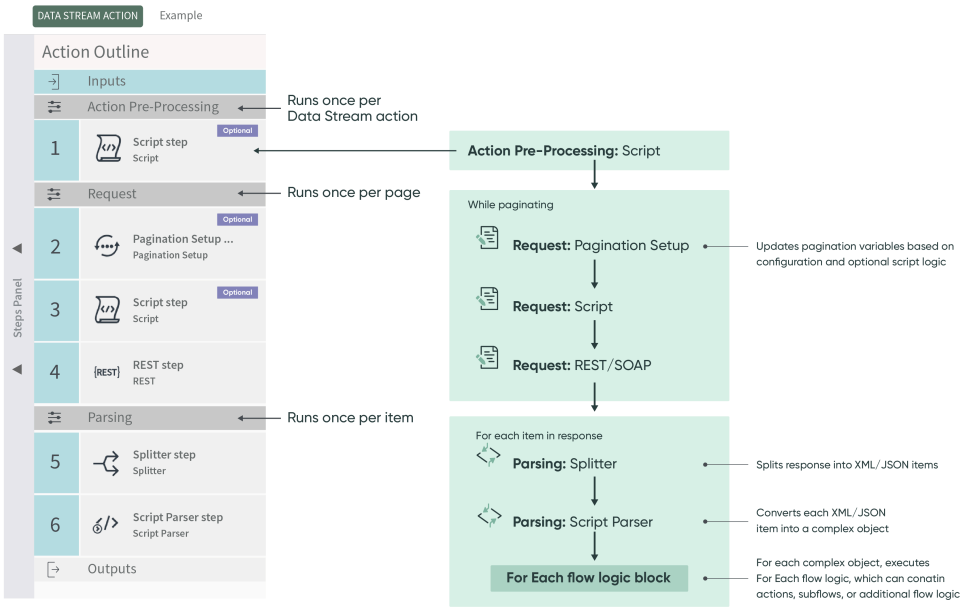
スクリプトパーサーステップ

使用 - JavaScript と ServiceNow API。応答ストリームのアイテムを `targetObject` グローバルオブジェクトによって表される複合オブジェクト出力にマッピングします。たとえば、スプリッターステップで識別されたインシデントレコード要素を、インシデントフィールドを含む複合オブジェクトにマッピングします。データストリームに、複合オブジェクトへマッピングしないスプリッターステップで識別されたアイテムの兄弟アイテムが含まれる場合は、それらのアイテムを除外する条件を含めます。。必要に応じて、[スクリプトパーサー] ステップの [スクリプト] セクションに `outputs.state = 'SKIP'` を追加することで、ストリーム内のアイテムをスキップできます。

これは、インスタンスのみで実行される必須解析コンポーネントです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

REST および SOAP データストリームアクション概要



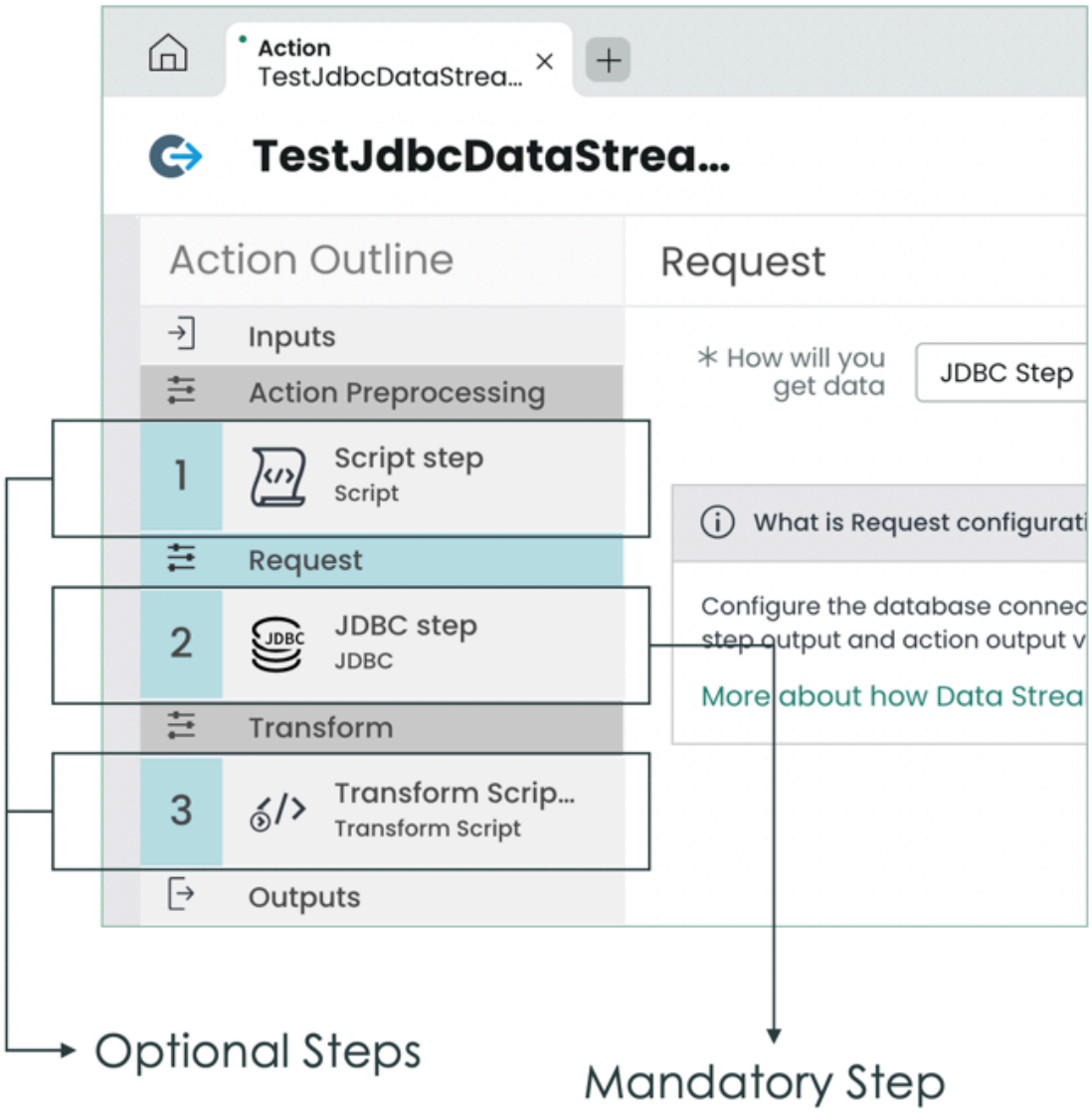
JDBC ステップの変換スクリプト

JDBC データストリームアクションはページネーションを必要としません。また、スプリッターステップとパーサーのステップは必要ありません。

JDBC ステップでは、取得したレコードごとに複合オブジェクトを生成します。したがって、JDBC データストリームアクションのアクション前処理と変換スクリプトはオプションです。変換スクリプトを使用する場合、アクションデザイナーは変換スクリプトのテーブル列の内部名を指定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JDBC データストリームアクションの概要



SOAP ステップおよび REST ステップでのデータストリーム出力

データストリーム アクションを設計するときは、オブジェクトタイプまたはダイナミックオブジェクトタイプの単一の出力を作成する必要があります。スクリプトパーサーステップは、`targetObject` グローバルオブジェクトを使用して、ストリーム内のアイテムをこのオブジェクトにマップします。

実行時に、システムは データストリーム 構成に従って応答データのストリームを分割して解析します。ストリーム内の各アイテムは、スクリプトパーサーステップで定義された複雑なオブジェクト構造とオブジェクト出力にマップされ、結果として一連の複雑なオブジェクトが大量に生成されます。複合データの詳細については「複合データ」を参照してください。

JDBC ステップでのデータストリーム出力

JDBC ステップの出力は、複雑なオブジェクトストリームです。データ全体は、1 回の要求でのみ取得されます。

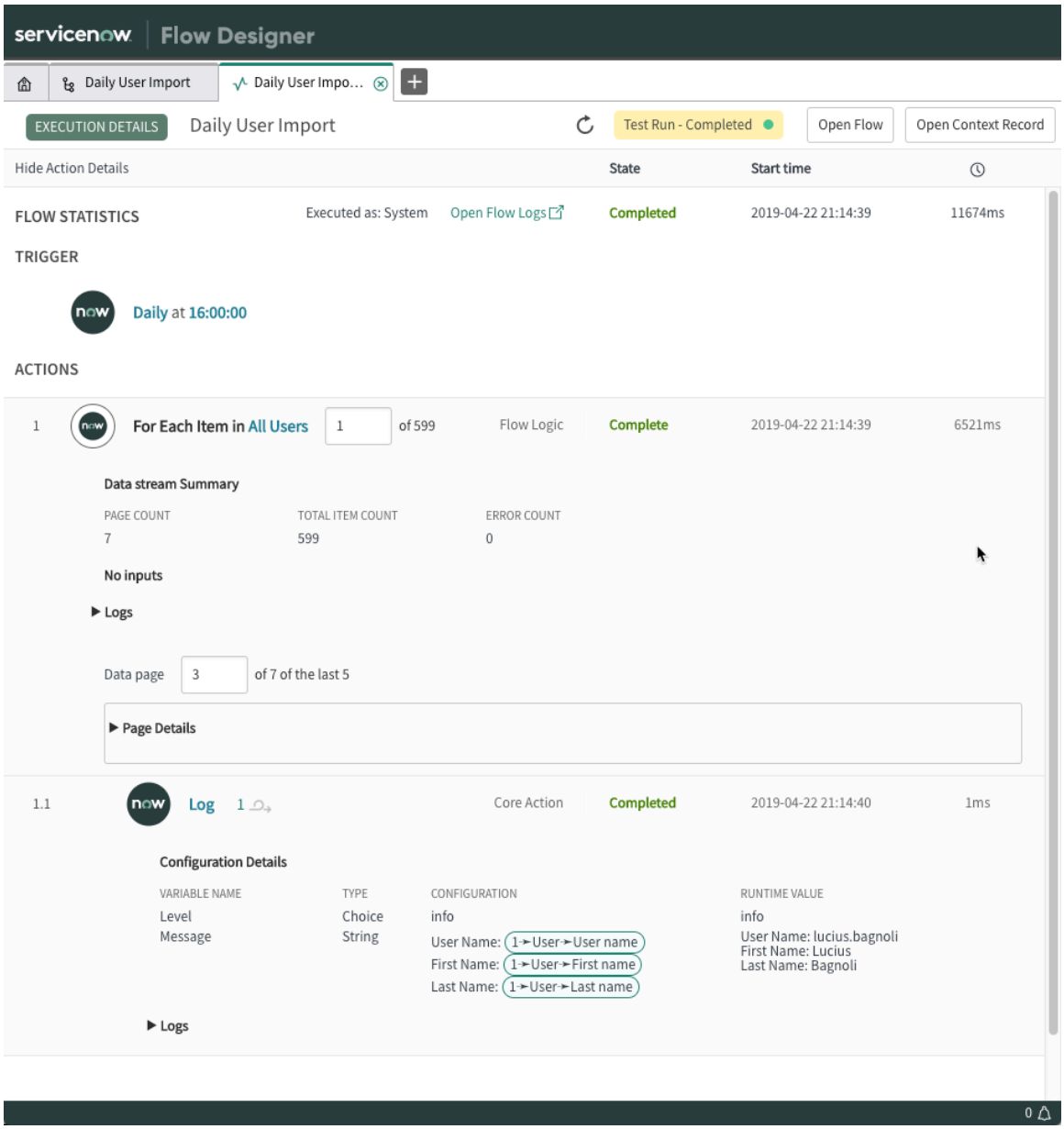
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- JDBC データストリームアクションを使用してデータを取得することはできますが、レコードを更新または削除することはできません。
- JDBC ステップで使用可能な [最大行] および [最大ペイロードサイズ **(KB)**] フィールドは、JDBC データストリームアクションでは使用できません。

REST および SOAP ステップの実行の詳細

データストリーム アクションによって処理された各アイテムの構成と実行時の結果を表示します。レコード番号を選択すると、その構成と実行時の詳細が表示されます。デフォルトでは、実行の詳細には最新の 1000 アイテムの要求が含まれます。実行の詳細のアイテム数を変更するには、*com.snc.process_flow.reporting.datastream.item.lastn* システムプロパティを更新します。



データストリームサマリー

次の情報を含む実行の概要を表示します。

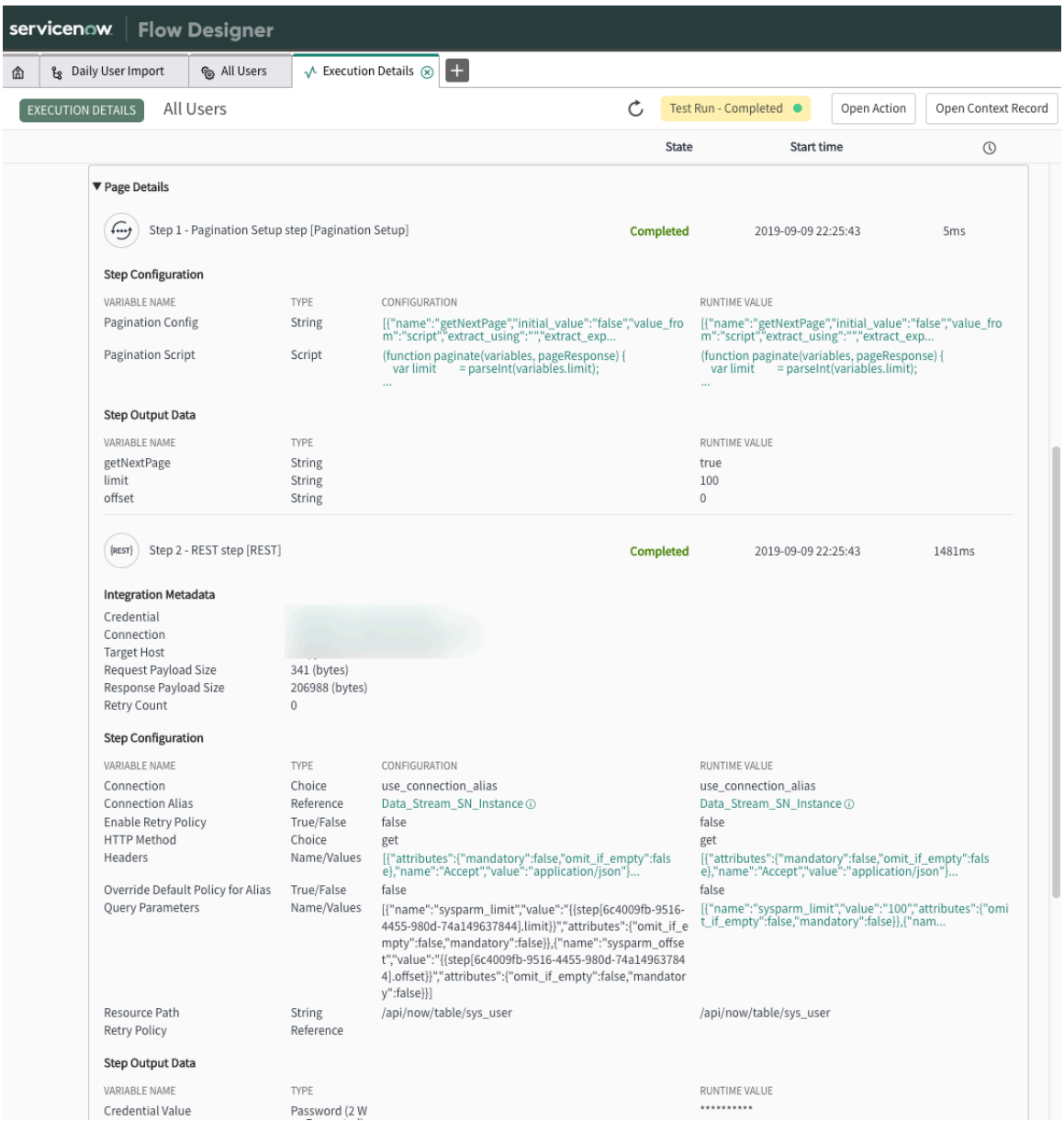
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [ページ数]：ページネーションされた API によって返されるページ数。
- [合計アイテム数]：複合オブジェクト出力にマップされた応答ストリーム内のアイテムの数。
- [エラー数]：発生したエラーの数。

ページの詳細

データストリーム アクション内の各ステップのランタイムデータを表示します。ページネーションされた API への各要求のランタイムの詳細を表示するページを選択します。デフォルトでは、[実行の詳細] には最後の 5 ページの要求が含まれます。実行の詳細の要求数を変更するには、 *com.snc.process_flow.page.reporting.lastn* システムプロパティを更新します。値を `0` に設定すると [実行の詳細] からページが削除され、 `-1` に設定するとすべてのページが含まれます。

注: すべてのページを含めるとパフォーマンスに影響する可能性があるため、お勧めしません。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JDBC ステップでの実行の詳細

JDBC データストリームアクションでは、出力複合オブジェクトスキーマのビルドは必要ありません。クエリをテストし、クエリ結果を確認できます。詳細については、「JDBC ステップのテスト」を参照してください。要件に従ってデータを取得するように MID サーバー プロパティ *mid.jdbc.datastream.max.record.size* および *mid.jdbc.datastream.fail.when.attachement.limit.exceeded* を設定します。詳細については、「MID サーバープロパティ」を参照してください。

データストリーム アクションデザインの検討

エラーやパフォーマンスの問題を防ぐために、データストリーム アクションを作成するときやフローに データストリーム アクションを追加するときは、次の考慮事項に従ってください。

データストリーム アクションを作成する際の考慮事項

これらの考慮事項を念頭に置いて データストリーム アクションを作成します。

サードパーティの要件に従ってページネーションロジックを記述する

サードパーティのエンドポイントに必要な形式を評価して理解します。たとえば、`nextPage` トークンが応答にある限り、組み込みの `getNextPage` 変数を true に設定するスクリプトの作成が必要な場合があります。トークンが応答に含まれていない場合は、変数を false に設定します。かっこまたはドット表記を使用して、スクリプトにある変数にアクセスします。たとえば、変数 `['getNextPage']` などです。この変数は、ブールデータ型のみを受け入れます。デフォルト値は false です。

前処理スクリプトが MID サーバー を呼び出したり、アクションを一時停止したりしないようにします。

データストリームアクションでは、応答ストリームへの常時接続が必要です。アクションを一時停止して MID サーバー を呼び出したり、アクションを一時停止して条件や期間を待機したりする前処理スクリプトはサポートされていません。何らかの理由でアクションを一時停止する前処理スクリプトは、エラーメッセージを返します。

ページネーション変数のデータタイプを変換して数学演算を実行する

ページネーション変数は、文字列データ型のみをサポートします。数式演算を実行するには、値を整数に変換して必要な操作を実行し、文字列に変換する必要があります。

```
variables['offset'] = (parseInt(variables['offset']) +
 parseInt(variables['limit'])).toString();
```

ページネーションスクリプトに終了条件があることを確認する

`getNextPage` 変数を false に設定する条件を作成することで、無限ループがページネーション要求で発生することを回避します。長実行時間のフローをキャンセルします。データストリーム アクションは、本番環境で使用する前に常にテストしてください。

構成ページのオプションを慎重にクリアする

設定ページのオプションを消去すると手順が データストリーム アウトラインから削除されて、関連付けられるすべてのデータが削除されます。

返される各ページのサイズを考慮する

ページネーションオプションを設定するときは、返される各ページのサイズが 1 GB 未満になるようにしてください。これにより、アクションを使用するフローデザイナーが MID サーバーからデータを取得するときにサイズ制限の問題が発生しなくなります。アクションがページあたり 1 GB を超えるデータを返す場合、フローデザイナーは添付ファイルのサイズ制限を増やす必要がある場合があります。詳細については、「データストリーム アクションの MID サーバー サポート」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- データストリーム をネストするアクションはサポートされていません。
- 再試行ポリシーを使用する場合は、次の考慮事項に注意してください。
  - 固定時間間隔戦略のみがデータストリームアクションに適用されます。
  - 合計遅延 (カウントに間隔を掛けたもの) は 30 秒を超えることはできません。たとえば、最大 3 回の再試行が必要な場合、各再試行の最大遅延は 10 秒です。
  - 再試行中にデータストリームステップは待機ステータスになりません。

データストリーム アクションをフローに追加する際の考慮事項

これらの考慮事項を念頭に置いて データストリーム アクションをフローに追加します。

待機条件のあるアクションを データストリーム For Each ロジックブロックに追加しない

フローを一時停止するアクションは データストリーム For Each フローロジックブロックには追加できません。データストリーム アクションには応答ストリームへの常時接続が必要です。たとえば、Ask for 承認または Wait for 条件の各アクションは データストリーム For Each フローロジック内では使用できません。

一部のアクションとステップは常にフローを一時停止し、データストリーム For Each フローロジックブロックに追加できません。ただし、一部のアクションとステップは、構成方法によってはフローを一時停止する場合があります。アクション構成を確認し、ランタイム時にフローが一時停止しないことを確認します。

フローを常に一時停止する (データストリームアクションではサポートされていません)	「承認を求める」アクション
	「承認を求める」ステップ
	「条件待ち」アクション
	「条件待ち」ステップ
構成によってはフローを一時停止する場合がある	「カタログ タスクの作成」アクション
	「タスクの作成」アクション
	「タスクの作成」ステップ

MID サーバー で実行されるアクションを データストリーム For Each ロジックブロックに追加しない

一部のアクションとステップは常に MID サーバー で実行され、データストリーム For Each フローロジックブロックに追加できません。ただし、一部のアクションとステップは、構成方法によっては MID サーバー で実行できる場合があります。アクション構成を確認し、ランタイム時に MID サーバー で実行されないことを確認します。

常に **MID** サーバーで実行する (データストリームアクションではサポートされていません)	JDBC ステップ
	PowerShell ステップ
	SSH ステップ
構成に応じて **MID** サーバーで実行される場合がある	REST ステップ
	スクリプト ステップ
	SOAP ステップ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

For Each ロジックブロックで多数のレコードを消費する場合はレポートをオフにする

特に For Each ロジックブロックに反復ごとに複合アクションが含まれている際は、多数のレコードの反復処理はリソースを集中的に使用する可能性があります。パフォーマンスの問題を回避するには、*com.snc.process_flow.reporting.level* システムプロパティを使用してレポートをオフにします。詳細については、「ワークフロースタジオ フローシステムプロパティ」を参照してください。

データストリーム アクションの **MID** サーバー サポート

データストリーム アクションを実行しているときに ServiceNow® MID サーバー を介してデータを取得します。

選択すると、 MID サーバー によってデータが取得され、各ページが添付ファイルとしてインスタンスに送信されて処理されます。

重要: フロー内で データストリーム アクションを実行する場合、**For Each** ブロックのアクションは常にインスタンスで実行されます。

次のステップは、 MID サーバー またはインスタンスのいずれかで実行できます。

- アクション前処理スクリプト
- 要求スクリプトステップ
- REST または SOAP ステップ

注: インスタンスと MID サーバー を複数回実行する環境間への移行は避けてください。たとえば、要求スクリプトステップを MID サーバー で実行するように構成できますが、REST 手順はインスタンスで実行されます。この場合、システムはデータのすべてのページについてインスタンスと MID サーバー 間で環境を移行します。これにより、パフォーマンスが低下する可能性があります。

MID サーバーでステップを実行する方法の詳細については、「統合ステップ」を参照してください。

サイズ制限

システムでタイムアウトまたはサイズ制限の問題が発生した場合は、次のいずれかの調整を試してください。

REST トランザクションクォータのルールを増やす

インスタンスと MID サーバー 間の接続が遅くなると、REST ステップからの応答を待っている間にタイムアウトが発生することがあります。*REST Attachment API request timeout* トランザクションクォータのルールを更新して、デフォルトのタイムアウトを大きくします。

- デフォルト：60 秒
- 最大：300 秒

インスタンスのタイムアウトを大きくする

デフォルトでは、1 ページのデータを MID サーバー から取得する際にインスタンスは 600 秒間待機します。MID サーバー で データストリーム アクションを実行しているときにタイムアウトが発生した場合は、*datastream_alternative_env_fetch_page_timeout_seconds* システムプロパティを増やしてこのデフォルトを変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- デフォルト：600 秒
- 最大：7200 秒

添付ファイルのサイズを大きくする

MID サーバー は、データの各ページを添付ファイルとしてインスタンスに送信します。データのページが大きい場合、許可されている添付ファイルサイズを超えることがあります。*com.glide.attachment.max_size* システムプロパティを更新して、許容サイズを大きくします。

- デフォルト：1024 MB
- 最大：なし

データストリームアクションの作成

フロー内の応答データのストリームを処理する再利用可能なアクションを作成します。

始める前に

- ガイド付きアプリケーションクリエーターでアプリケーションを設定 して フローデザイナー コンテンツを保存します。
- アクションを作成する前に、競合するビジネスルールまたはワークフローを無効にします。
- 必要なロール：action_designer または admin

このタスクについて

カスタム アプリケーションを作成して フローデザイナー のコンテンツを格納することで、アプリケーションリポジトリまたは ServiceNow Store を使用してコンテンツを展開 することができます。

注: 設定ページのオプションを消去すると手順が データストリーム アウトラインから削除されて、関連付けられるすべてのデータが削除されます。

手順

1. [すべて] > [フローデザイナー] > [デザイナー] に移動します
2. [アクション] タブをクリックし、[データストリーム] を選択します。
3. アクションのプロパティを入力し、[送信] をクリックします。

フィールド	説明
アクション名	データストリームアクションの一意の名前を入力します。
Description (説明)	データストリームアクションの説明。
アプリケーション	データストリームアクションのアプリケーションスコープ。
ドメイン	データストリームアクションのドメインスコープ。ドメインセパレーションの詳細については、「ドメインセパレーションの説明 」を参照してください。
追加のプロパティ	
アクセス可能	スコープ対象のすべてのアプリケーションから、または指定したアプリケーション スコープ内のみから、アクセス可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
カテゴリ	アクションのアプリケーション スコープ内で定義されたカテゴリ。Xanadu リリース以降、カスタムカテゴリを作成してデータストリームアクションを整理できます。
保護	データストリームアクションを読み取り専用にするかどうかを選択します。自分が所有するアプリケーションスコープでデータストリームアクションを作成する場合にのみ、値を選択できます。デフォルト値は「なし」です。
アクションの注釈	ワークフロースタジオ のデータストリームアクションのタイトルの下に表示されるヘルプテキストで、データストリームアクションの作成者がフローで使用されるときにデータストリームアクションが何を行うかを理解できるようにします。

空の データストリーム アクションが開きます。

4. アクション ステップでデータを利用できるように、アクションの入力を定義します。

   a. **[+** 入力の作成] を選択し、フィールドに入力します。
   入力は右側のペインにデータ ピルとして表示されます。

   アクションの入力の詳細については、「アクションデザイナー - カスタムアクションのビルド 」を参照してください。

5. データストリーム アウトラインの [アクション前処理] をクリックし、必要なオプションを設定します。

   a. [接続情報を取得 **(Retrieve connection info)]** を選択し、アクション前処理の最初のステップとして「接続情報の取得」ステップを追加します。
   「接続情報の取得」ステップを使用すると、アクションで使用する接続と資格情報の詳細を取得できるようになります。詳細については、「接続情報の取得ステップ 」を参照してください。

   b. [前処理スクリプトを有効化] を選択して次のことを実行します：アクションが最初の API 要求を送信する前の前処理スクリプト。たとえば、アクション入力を検証するかデフォルト値を設定します。前処理は、最初の API 要求の前にアクションごとに 1 回実行されます。

   このオプションを選択すると、スクリプトステップが データストリーム アクションに追加されます。詳細については、「 スクリプトステップ 」を参照してください。

   > **重要:** データストリームアクションでは、応答ストリームへの常時接続が必要です。アクションを一時停止して MID サーバー を呼び出したり、アクションを一時停止して条件や期間を待機したりする前処理スクリプトはサポートされていません。何らかの理由でアクションを一時停止する前処理スクリプトは、エラーメッセージを返します。

6. データストリーム アウトラインの [要求] をクリックし、必要なオプションを設定します。

   a. [データの取得方法] フィールドで **[REST** ステップ]、**[SOAP** ステップ]、または **[JDBC** ステップ] を選択し、関連するステップをデータストリームアクションに追加します。

   詳細については、「REST ステップ」、「SOAP ステップ」、「JDBC ステップ 」を参照してください。

   このセクションは、MID サーバー またはインスタンスのいずれかで実行できます。環境は、関連する接続 [sys_connection] レコードの **[MID** サーバーを使用] フィールドによって決定されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- JDBC ステップを使用している場合は、それをテストする必要があります。正常に実行されると、その結果を使用してステップ出力とデータストリームアクション出力を作成できます。
- REST ステップまたは SOAP ステップを使用している場合は、データストリームアクション出力を手動で作成する必要があります。

b. [ページネーションを有効化] を選択して次のことを要求します： 結果はバッチで表示されます。データの 1 つのページが処理されると データストリーム アクションによって要求セクションが再実行されて、次の一連の結果が返されます。。このオプションは、 データストリーム アウトラインにページネーションのセットアップステップを追加します。

注: JDBC ステップの場合、ページネーションは適用されません。各ページは最大 1 GB のデータを取得でき、1 つの要求は最大 8 GB のデータを取得できます。

c. ページネーションされた API を呼び出すときに次のページのすべての要求の前にスクリプトを実行するには、[各要求の前にスクリプトを実行] を選択します。

Example
たとえば、次のページの要求を送信する前に、最初の応答から変数データタイプを変換するスクリプトを作成します。

このオプションを選択すると、スクリプトステップが データストリーム アクションに追加されます。詳細については、「スクリプトステップ」を参照してください。

注: JDBC ステップの場合、これは適用されません。

このセクションは、MID サーバー またはインスタンスのいずれかで実行できます。環境は、スクリプトステップの [必須ランタイム] フィールドによって決定されます。

重要: インスタンスと MID サーバー を複数回実行する環境間への移行は避けてください。たとえば、要求スクリプトステップを MID サーバー で実行するように構成できますが、REST 手順はインスタンスで実行されます。この場合、システムはデータのすべてのページについてインスタンスと MID サーバー 間で環境を移行します。これにより、パフォーマンスが低下する可能性があります。

7. オプション: ページネーションが有効になっている場合は、ページネーションのセットアップ手順を設定します。
ページネーションのセットアップ手順を手動で構成するか、ビルド済みのテンプレートを選択して一般的な構成を適用します。 たとえば、制限/オフセットテンプレートを適用して、ページごとに返されるアイテムの数 (制限) と最初のアイテムの開始番号 (オフセット) を指定します。テンプレートを適用後、値を更新して構成が API の要件に準拠していることを確認します。

a. ページネーション変数を作成します。
たとえば、サードパーティ API が要求で `limit` パラメーターを受け取る場合は、 `limit` 変数を作成し、初期値を設定してページあたりの結果数を制限します。初期値は最初の要求でのみ使用されます。`getNextPage` は予約済みの読み取り専用変数です。 `getNextPage` 変数が true で前のページにデータが含まれている限り、アクションは次のページの要求を送信し続けます。

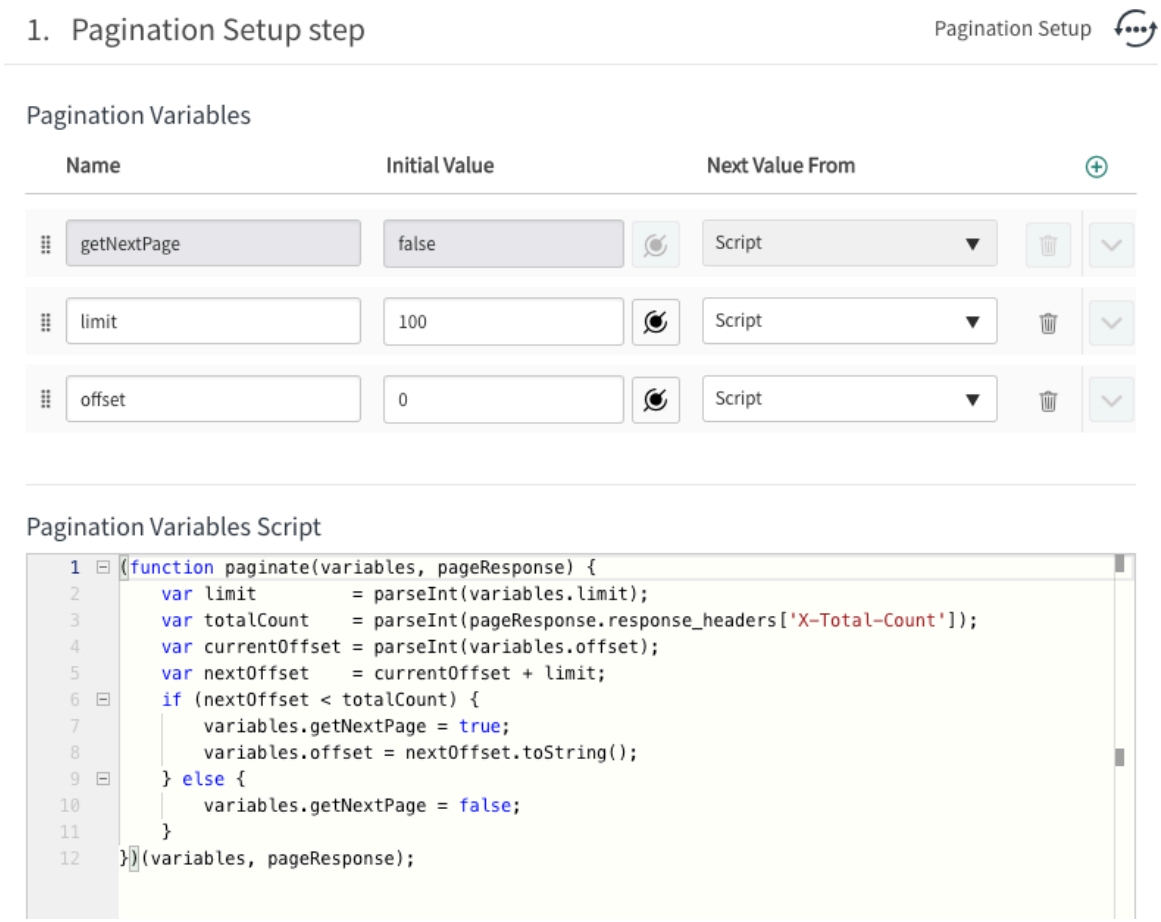
b. [次の値取得元] フィールドで、ページネーション変数が後続の要求の値を受け取る方法を定義します。

(Optional) 以下から選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [スクリプト]：ページネーション変数スクリプトを記述して、変数の入力方法を定義します。ページネーション変数は、文字列データ型のみをサポートします。数式演算を実行するには、値を整数に変換して必要な操作を実行し、文字列に変換する必要があります。
- [応答本文]：前の要求からの応答の値を使用して変数を設定します。応答が JSON 形式の場合は、[値の抽出に使用] を **JSONPath Expression** に設定し、[式] フィールドに値へのパスを指定します。応答が XML 形式の場合は、[値の抽出に使用] を **XPath Expression** に設定し、値へのパスを指定します。

Example
この例では、 `getNextPage` 変数は、 `nextOffset` 変数が API 応答ヘッダーに返される合計数の値に達するまで true です。`getNextPage` 変数が true で前のページにデータが含まれている限り、アクションは次のページの要求を送信し続けます。 この例には、一般的な制限/オフセットページネーション構成が含まれています。データストリーム アクションがやり取りするサードパーティ API は、ページトークンまたはその他のメソッドを使用する場合があります。



重要: `getNextPage` 変数を false に設定する条件を作成することで、無限ループがページネーション要求で発生することを回避します。長実行時間のフローをキャンセルします。データストリーム アクションは、本番環境で使用する前に常にテストしてください。

8. データストリーム アウトラインの [解析] をクリックし、必要なオプションを設定します。

注: JDBC ステップの場合、これは適用されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [各レコードを識別する方法] フィールドで **[JSON/XML スプリッター]** を選択し、Splitter ステップをデータストリームアウトラインに追加します。

b. [各アイテムをオブジェクトに解析する方法 **(How will you parse each item into an object)**] フィールドで [スクリプトパーサー] を選択し、スクリプトパーサーステップをデータストリームアウトラインに追加します。

9. スプリッターステップを設定します。

このステップでは、次のことを特定します：複合オブジェクトにマップする応答ストリームにある親ノード。たとえば、XML ペイロードのユーザー要素を識別して、応答ストリームのユーザーごとに複合オブジェクトを作成します。

注: JDBC ステップの場合、これは適用されません。

a. [ソース形式] フィールドで、[要求] セクションから返される形式を選択します。

- **JSON**：JSON データのストリームからのオブジェクトを識別します。JSONPath 式を使用して、繰り返しデータが含まれる JSON アレイを識別します。
- **XML**：XML データのストリームからのオブジェクトを識別します。XPath 式を使用して、繰り返しデータが含まれる XML 要素を識別します。

b. [アイテムパス] フィールドで、オブジェクトにマッピングするデータストリーム内のアイテムへの絶対パスを定義します。

JSON

オブジェクトのアレイへの絶対パスを JSONPath 式として識別します。たとえば、JSON の `result` アレイ内の各アイテムを `result` オブジェクトに分割するには、`$ .result` を使用します。

注: JSON データストリームのルートノードでアレイを選択すると、実行の詳細とエラーメッセージに絶対パスが `$.*` として表示されます。

XML

繰り返しデータオブジェクトへの絶対パスを XPath 式として識別します。たとえば、`result` XML 要素の各インスタンスを `result` オブジェクトに分割するには、`/result` を使用します。

注: スプリッターステップは、XML 名前空間を無視します。

Example
たとえば、REST ステップが JSON データのストリームを返すとします。アイテムパス `$.response.result.companies` は、`companies` アレイの各アイテムを返し ます 。

```
{
  "response": {
    "result": {
      "companies": [
        {
          "name": "company1"
        },
        {
          "name": "company2"
        },
        {
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
          "name": "company3"
        }
      ],
      "metadata": {
        "token": 1558666526
      }
    }
  }
}
```

Example
たとえば、REST ステップが XML データのストリームを返すとします。アイテムパス `/response/result/companies/company` は、XML データから各 `company` 要素を返します。

```
<response>
  <result>
    <companies>
      <company>
        <!-- company 1 info -->
      </company>
      <company>
        <!-- company 2 info -->
      </company>
      <company>
        <!-- company 3 info -->
      </company>
      <company>
        <!-- company 4 info -->
      </company>
      <batch>10645C53D4BED73YQ</batch>
    </companies>
    <metadata>
      <timestamp>1558666526</timestamp>
    </metadata>
  </result>
</response>
```

10. スクリプトパーサーステップで JavaScript と ServiceNow API を使用して、応答ストリームのアイテムを、`targetObject` グローバルオブジェクトによって表される複合オブジェクト出力にマッピングします。

    たとえば、スプリッターステップで識別されたインシデントレコード要素を、インシデントフィールドを含む複合オブジェクトにマッピングします。データストリームに、複合オブジェクトへマッピングしないスプリッターステップで識別されたアイテムの兄弟アイテムが含まれる場合は、それらのアイテムを除外する条件を含めます。

    注: JDBC ステップの場合、これは適用されません。

    fd_data オブジェクトを使用して、データストリームアクションの前のステップの出力にアクセスできます。ただし、次のものは除きます。

    - REST または SOAP ステップの応答本文、ストリーム、またはエラーメッセージの出力。
    - セパレーターステップ出力。

    Example
    JSON 応答を解析するスクリプト例。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
(function parse(inputs, outputs) {
    var record = JSON.parse(inputs.sourceItem);
    outputs.targetObject.id=record.number;
    outputs.targetObject.name=record.short_description;
})(inputs, outputs)
```

Example
XML 応答を解析するスクリプト例。

```
(function parse(inputs, outputs) {
    var xmlDoc = new XMLDocument(inputs.sourceItem, false);
    outputs.targetObject.id = xmlDoc.getNodeText("/result/number");
    outputs.targetObject.name =
 xmlDoc.getNodeText("/result/short_description");
})(inputs, outputs)
```

11. オプション: ユーザーが JDBC ステップを選択した場合は、**[Transform]** をクリックします。
JDBC ステップを正常にテストした後、[結果の使用] をクリックして、ステップ出力とデータストリームアクション出力を作成します。この結果を使用することも、変換スクリプトを使用してカスタマイズすることもできます。
    a. デフォルトのデータストリーム出力を変換およびカスタマイズするには、[変換スクリプトを有効にする] チェックボックスをオンにします。
12. 複雑なオブジェクト出力を作成します。

    注: JDBC ステップの場合、これは適用されません。

    a. [アクションのアウトライン] で [出力] を選択し、**[+]** をクリックして出力を作成します。

    b. [ラベル] フィールドを更新して、オブジェクトを表します。

    Example
    たとえば、アクションが会社レコードのストリームを解析する場合は、 会社ラベルを追加します。

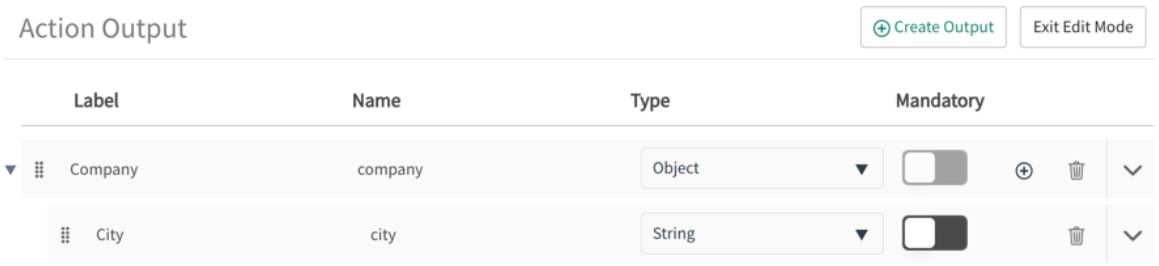
    c. [タイプ] フィールドを **[Object]** に更新します。
    これは、スクリプトパーサーステップの `targetObject` グローバルオブジェクトによって表される複合オブジェクト出力です。

    d. **[+]** アイコンを使用して複合オブジェクトに子フィールドを追加します。

    e. スクリプト内で意味のある参照ができるように、それぞれの子フィールドの名前を分かりやすくします。

    [名前] フィールドの値は、スクリプトパーサーステップで使用される内部名です。たとえば、スクリプトパーサーステップで市の出力を参照するには、 `outputs.targetObject.city` を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



⚠ 警告: データストリーム アクションを保存した後は、[名前] フィールドの値を変更できません。

13. [保存] をクリックします。
アクションデザイナー によってアクションのドラフトが保存されます。

次のタスク
データストリーム アクションのテスト。

データストリーム アクションのテスト

データストリーム アクションをテストして、フローに追加する前に想定どおりに動作することを確認してください。

始める前に

- データストリームアクションの作成
- 必要なロール：action_designer または admin

このタスクについて

データストリーム アクションをテストすると、デフォルトでは
最初の 20 個のアイテムが返されます。この値を変更するには、
com.glide.hub.action_type.datastream.test_max_iterations システムプロパティに 1 ～ 50 の値を追加します。

手順

1. テストする データストリーム アクションを開きます。
   a. [フローデザイナー] > [デザイナー]に移動します。
   b. [アクション] タブを選択します。
   c. テストする データストリーム アクションの行を選択します。
2. [テスト] を選択します。
[アクションのテスト] ダイアログが表示されます。[アクションのテスト] ダイアログの内容は、データストリーム アクションの入力によって異なります。
3. [アクションのテスト] ダイアログで、アクション入力の値を入力し、[テストの実行] を選択します。
4. [実行の詳細] を開き、アクションが想定どおりに実行されたことを確認します。
[実行の詳細] のランタイム値は、 データストリーム アクションによって返された最初の 20 個のアイテムを返します。

次のタスク
フロー内での データストリーム アクションの使用。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フロー内での データストリーム アクションの使用

データストリーム アクションは、**For Each** フローロジックオプションを使用して、フロー内のストリームデータを処理します。たとえば、サードパーティのサイトからドキュメントデータをインポートする データストリーム アクションを使用するとします。フローに追加されたとき、アクションは **For Each** フローロジックブロックとして表示され、フローデザイナーがデータストリームの各オブジェクトに対して簡単に ServiceNow でレコードを作成できるようになります。

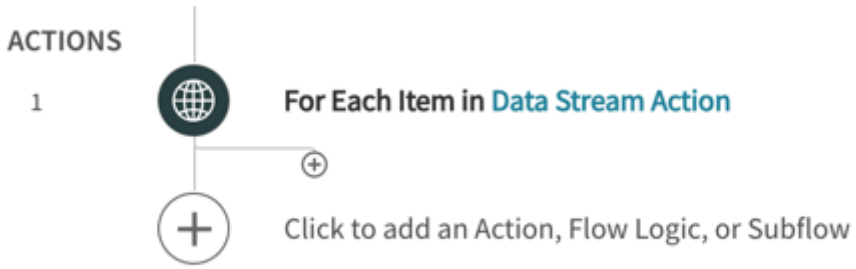
始める前に

データストリームアクションには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「 Legal schedules - 統合ハブ overview

必要なロール：flow_designer または admin

手順

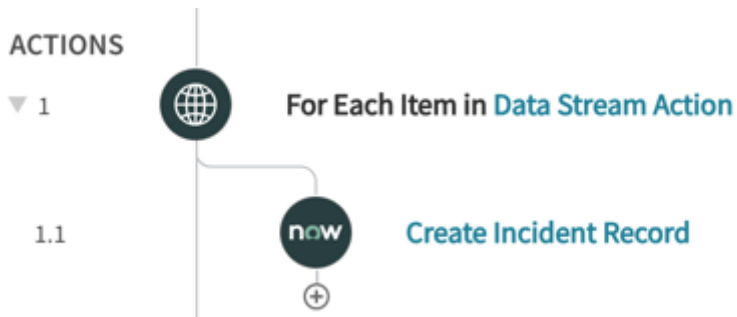
1. データストリーム アクションを追加するフローを開きます。
2. フローに データストリーム アクションを追加します。
   アクションは **For Each** フローロジックブロックとして表示されます。



3. **For Each** フローロジックブロック内に子アクションを追加します。

   このアクションは、データストリーム内の各オブジェクトで実行されます。

   注: フローを一時停止するアクションは データストリーム For Each フローロジックブロックには追加できません。データストリーム アクションには応答ストリームへの常時接続が必要です。たとえば、Ask for 承認または Wait for 条件の各アクションは データストリーム For Each フローロジック内では使用できません。 詳細については、「データストリーム アクションデザインの検討」を参照してください。



4. [保存] をクリックします。
   フローデザイナー によって、フロー、トリガー、およびアクションのドラフトが保存されます。

次のタスク

フローを有効化する準備ができるまで、フローをテストします。

注: システムでトリガーされるのは有効なフローのみです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件付きおよびイベント駆動型のインバウンド統合

統合ハブ では、サードパーティアプリケーションとの条件付きおよびイベント駆動型の両方のインバウンド統合が可能です。

サードパーティアプリケーションの外部 Webhook が使用するフローとエンドポイントを設定して、サードパーティアプリケーションとのインバウンド統合を設定します。新しいトリガーピッカーから外部トリガーを選択し、フローデザイナー のアクションピッカーからアクションを設定することで、条件付きフローとイベント駆動型フローを設定します。その後、サードパーティアプリケーションから外部 Webhook を構成するエンドポイントを設定します。これらのアクションはすべて ServiceNow インスタンスで実行します。

たとえば、ServiceNow インスタンスとサードパーティの問題追跡アプリケーションの間にインバウンド統合を設定しているとします。問題追跡アプリケーションで P1 優先度の問題を更新すると、ServiceNow インスタンスのインシデントデータベースレコードが更新されます。

統合を設定するには、新しいトリガーピッカーから外部トリガーを選択し、優先度を P1 に設定し、それに応じて フローデザイナー のアクションピッカーからアクションを設定して、フローを構成します。フローは、問題追跡アプリケーションからペイロードを受け取り、インシデントテーブルを更新します。次に、[受信接続] タブの [アプリケーション] タイルから ServiceNow インスタンスのベースシステム外部イベントソースにエンドポイントを生成し、問題追跡アプリケーションの外部 Webhook に同じエンドポイントを指定します。これで、問題追跡アプリケーションで P1 の問題を更新すると、その外部 Webhook がアクティブになり、ServiceNow インスタンスに設定したフローのトリガーとして機能します。その前に、ServiceNow インスタンスは、問題追跡アプリケーションがサポートする認証タイプに基づいて Webhook を認証します。認証に成功すると、Webhook がフローをトリガーし、フローが実行されます。

外部トリガー定義でフローを設定

サードパーティシステムからのイベント駆動型外部トリガーに応答して実行するフローを設定します。

始める前に

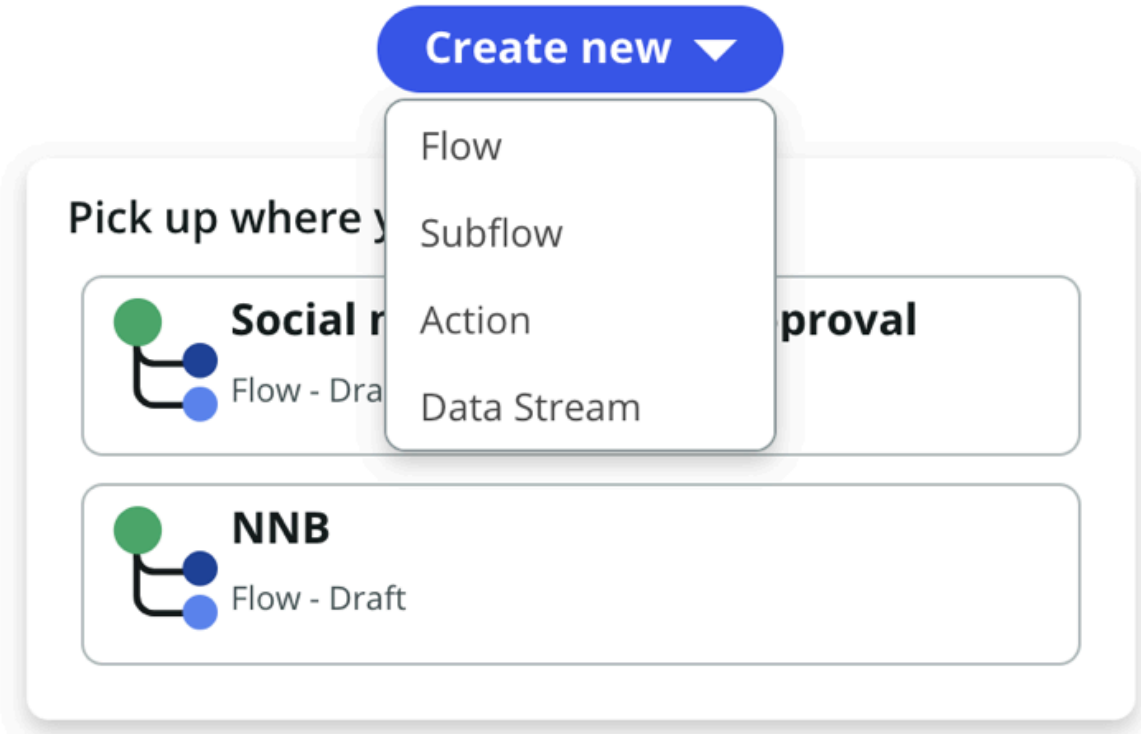
必要なロール：flow_designer

必要なサブスクリプション：統合ハブ Enterprise パック

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [新規作成] > [フロー]を選択しま



す。

3. [フロープロパティ] フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	フローを一意に識別する名前です。この名前からフローの内部名が作成されます。
説明	フローの説明です。
アプリケーション	フローを作成するアプリケーションスコープ。デフォルトは「グローバル」です。
保護	フローが読み取り専用の場合に指定します。 注: これは、[なし] と [読み取り専用] の 2 つの値を持つオプションのフィールドです。自分が所有するアプリケーションスコープ内にフローがある場合は、[読み取り専用] を選択します。
実行方法	そのフローをシステムユーザーとして実行するか、セッションを開始したユーザーとして実行するかを指定するオプションです。フローをトリガーしたユーザーから更新を実行する必要がある場合は、セッションオプションを開始したユーザーを選択します。たとえば、現在のユーザーからのインシデントレコードに関するコメントや、承認者から送信された承認メールが必要な場合に、このオプションを使用します。フローのオプションとして実行を設定しても、子サブフローには適用されません。 注: デフォルトでは、フローはセッションを開始するユーザーとして実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	個人用の OAuth トークンを使用して実行できるフローを作成するには、セッションを開始するユーザーのオプションを選択します。フローを実行しているユーザーが個人用の OAuth トークンを持っていれば、そのトークンでフローが実行されます。個人用の OAuth トークンの作成の詳細については、「 OAuth 2.0 認証情報 」を参照してください。 セッションを開始したユーザーとしてフローを実行すると、ユーザーのアクセス制御ルール (ACL) 制限によりフローアクションが制限されます。フローをトリガーするユーザーによるフローアクションの実行が、セキュリティ制限によって妨げられることがないようにしてください。開始ユーザーによって実行されるフローも、日時形式などのユーザー固有の設定に従って実行されます。 **注:** 受信メールフローはこの設定を無視し、常にセッションを開始するユーザーとして実行されます。受信メールフローのアクセス制御をテストするには、典型的な受信メールユーザーを代理操作してフローを手動でトリガーします。
ロールを使用して実行	フローを実行するロールです。[実行方法] が [セッションを開始するユーザー] に設定されている際にのみ、このオプションを利用できます。

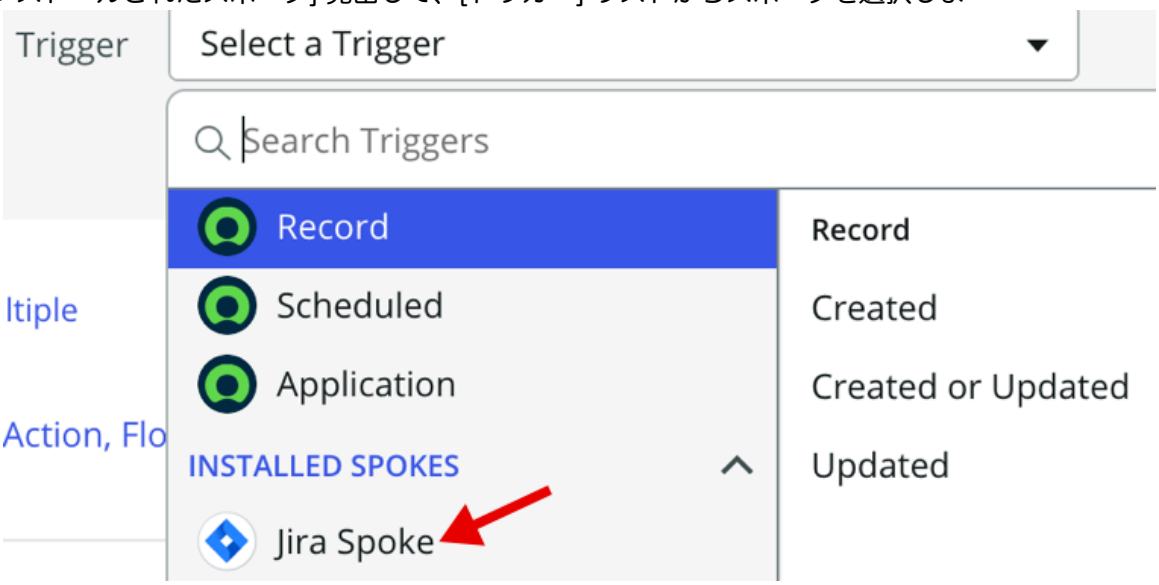
4. [送信] を選択します。

   注: フローデザイナー で初めて実行する場合は、ようこそ画面が表示されます。ウェルカムツアーを表示するか、スキップするかを選択できます。

5. フローにトリガーを追加します。

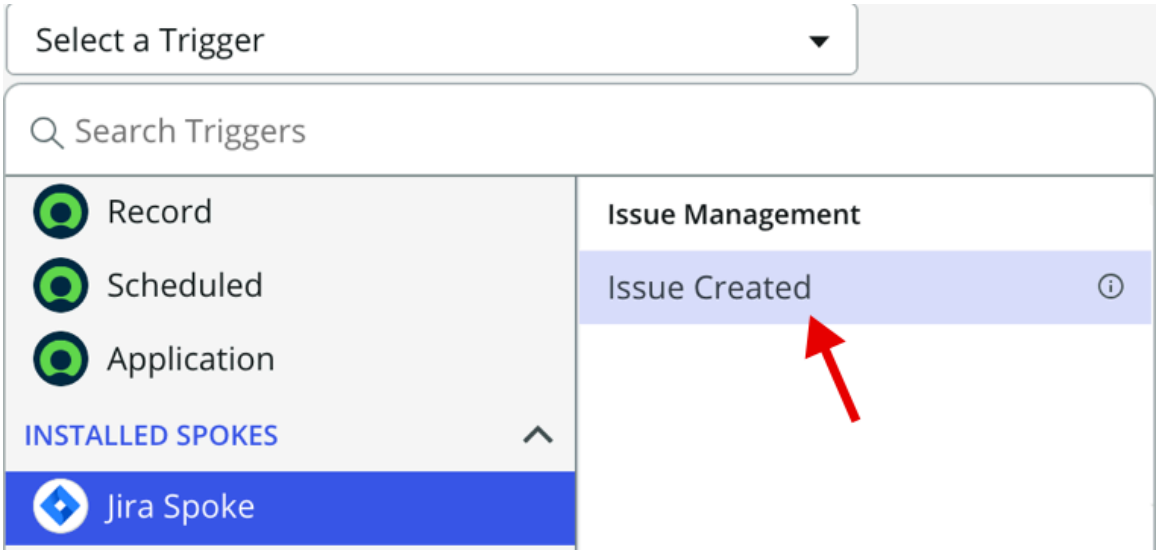
   a. [トリガー] セクションで [トリガーを追加] を選択します。

   b. [インストールされたスポーク] 見出しで、[トリガー] リストからスポークを選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. 事前定義された外部トリガー 定義を選択しま



す。

d. フローを実行する条件を定義するには、[条件 1] フィールドに適切なデータピルをドラッグして値を入力します。

e. オプション: 追加の条件を定義するには、**[OR]** または **[AND]**を選択します。
条件フィールドが追加されます。

f. オプション: 条件フィールドに、適切なデータピルをドラッグして値を入力します。

g. [完了] を選択します。
トリガーが設定されました。

6. アクションピッカーからアクションを設定します。

a. [アクション] で ⊕ を選択します。

b. [アクション] を選択します。

c. [インストールされたスポーク] でスポークを選択し、アクションを選択します。
[コアアクション] からアクションを選択することもできます。

d. アクションの詳細を入力します。

e. [完了] を選択します。

フローが設定されました。

外部トリガーエンドポイントの設定

サードパーティアプリケーションの外部 Webhook が ServiceNow インスタンスに接続するために使用するエンドポイントを生成します。エンドポイントが外部 Webhook を受け付けないようにする場合は、接続からエンドポイントの構成を非アクティブ化または削除できます。

始める前に

必要なロール：flow_designer および connection_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

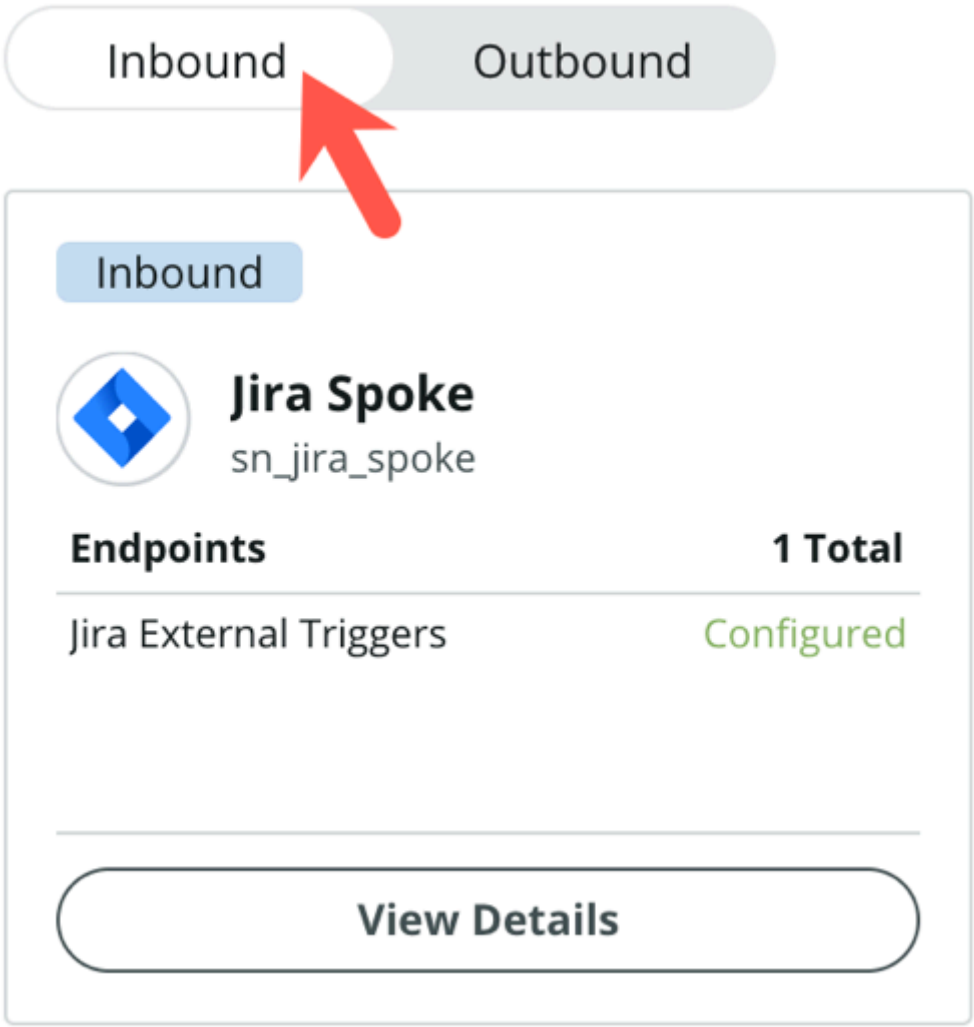
必要なサブスクリプション：この機能には統合ハブのサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

このタスクについて
エンドポイントを設定できるようにする接続は、ServiceNow ストアからスポークプラグインをインストールすると、ServiceNow インスタンスのベースシステムコンテンツとして利用できるようになります。その後、サードパーティアプリケーションがサポートする認証のタイプに基づいて、ベーシック認証、トークン、またはハッシュ認証のメカニズムでエンドポイントを生成できます。Webhook が ServiceNow インスタンスに接続しようとすると、まずエンドポイント接続で設定された認証方法で認証されます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. [接続] を選択します。
3. [すべての接続を検索] フィールドに、スポークの名前を入力します。
   デフォルトで [インバウンド] タブが選択された状態で、スポーク接続カードが表示されます。



4. [詳細を表示] を選択します。
5. さまざまな認証タイプで外部トリガーエンドポイントを設定します。
   a. ベーシック認証をサポートするエンドポイントの管理。
   b. ハッシュメッセージをサポートするエンドポイントの管理。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. トークンをサポートするエンドポイントの管理。

d. OAuth 2.0 をサポートするエンドポイントの管理

ベーシック認証をサポートするエンドポイントの管理

ベーシック認証をサポートするサードパーティアプリケーションで Webhook のエンドポイントを生成します。エンドポイントにより、Webhook が ServiceNow インスタンスに接続できるようになります。エンドポイントが外部 Webhook を受け付けないようにする場合は、接続からエンドポイントの構成を非アクティブ化または削除できます。

始める前に

必要なロール：flow_designer および connection_admin

必要なサブスクリプション：この機能には統合ハブのサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

ベーシック認証をサポートするエンドポイントの構成

サードパーティアプリケーションからの Webhook をリッスンするエンドポイントを構成します。

始める前に

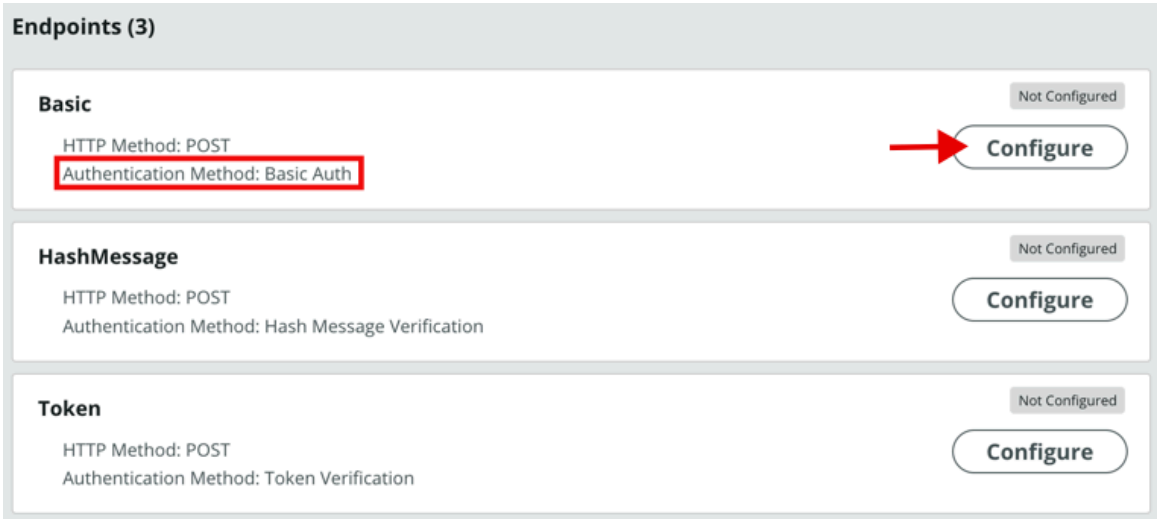
必要なロール：flow_designer および connection_admin

必要なサブスクリプション：統合ハブ Enterprise パック

必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

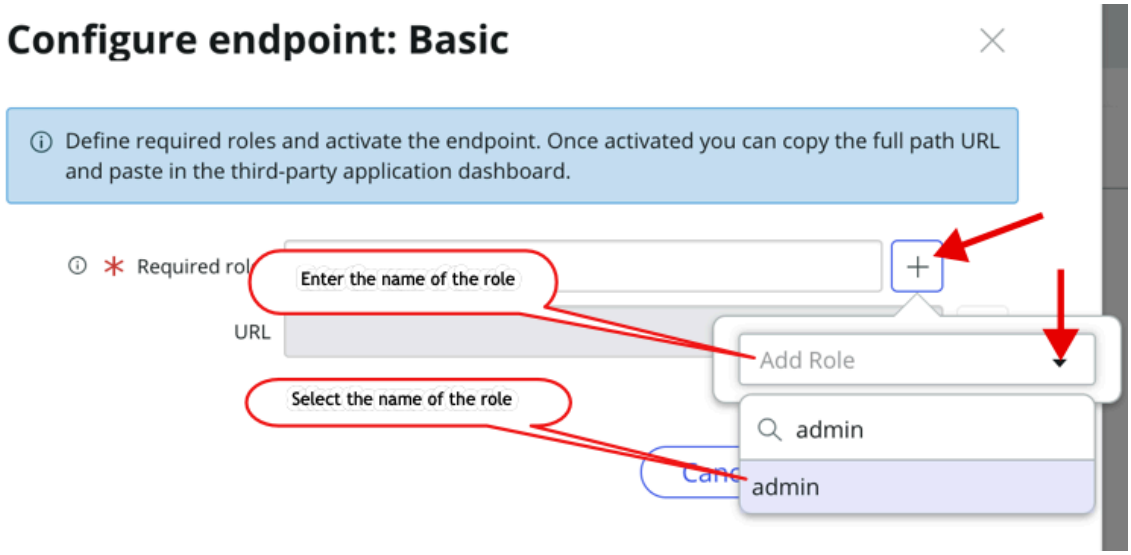
手順

1. [エンドポイント] 見出しで、接続の [構成] を選択して、ベーシック認証をサポートするエンドポイントを設定します。

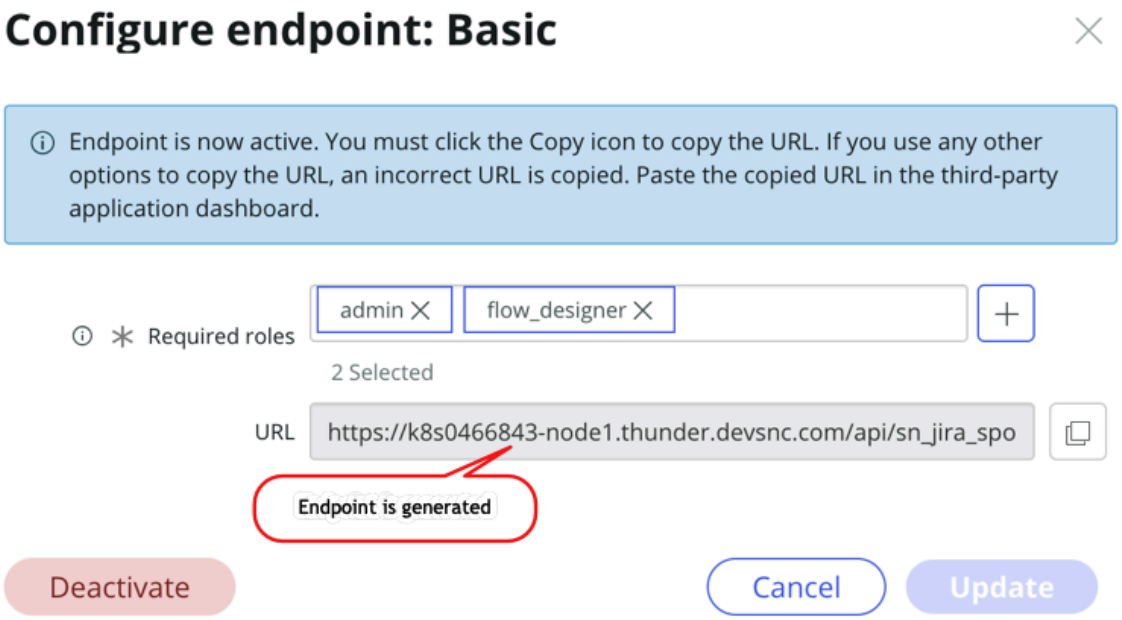


2. [ロールを追加] フィールドを表示するには、＋を選択します。
3. 1 つ以上のロールを選択するには、 ▾ を選択するか、または 1 つ以上のロールの名前を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [アクティブ化] を選択します。
サードパーティアプリケーション Webhook のエンドポイントが URL フィールドに生成されます。



5. エンドポイントをコピーするには、エンドポイントのコピーアイコン ( ) を選択します。

ヒント: 後でサードパーティアプリケーション Webhook で使用できるように、エンドポイントを安全な場所に保管します。

ベーシック認証をサポートするエンドポイントの非アクティブ化

エンドポイントを非アクティブ化して、Webhook のリッスンを停止します。ただし、再度アクティブ化できます。

始める前に
必要なロール：flow_designer および connection_admin

必要なサブスクリプション：統合ハブ Enterprise パック

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

手順

1. [非アクティブ化] を選択します。
2. 非アクティブ化を確定するには、[非アクティブ化] を選択します。
3. 再度アクティブ化するには、接続レコードで [編集] を選択します。
4. [アクティブ化] を選択します。

ベーシック認証をサポートするエンドポイントの構成解除

エンドポイントの構成を削除します。

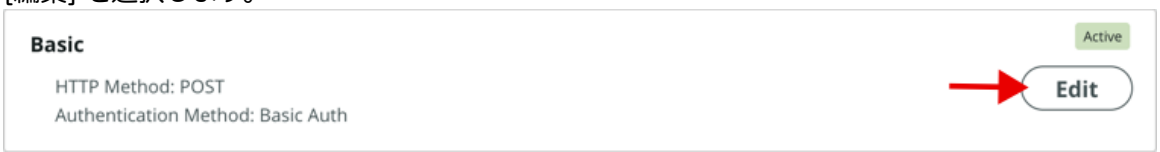
始める前に
必要なロール：flow_designer および connection_admin

必要なサブスクリプション：統合ハブ Enterprise パック

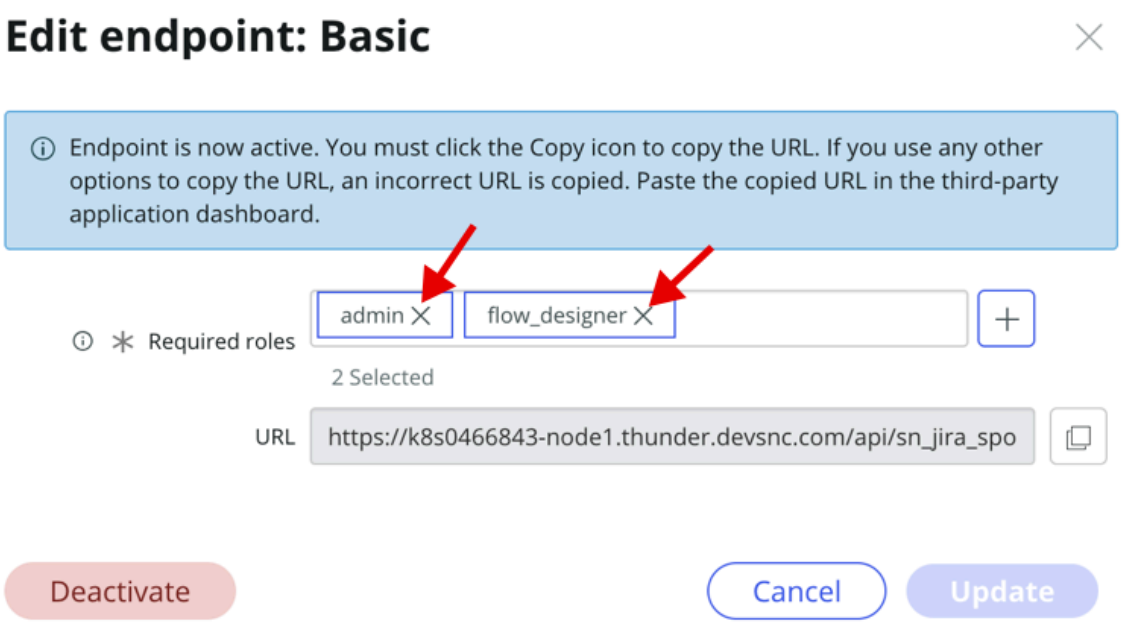
必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

手順

1. [編集] を選択します。



2. ロールを削除します。



3. [更新] を選択します。
4. [構成解除] を選択します。
   接続からエンドポイントの構成が削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ハッシュメッセージをサポートするエンドポイントの管理

ハッシュメッセージ認証をサポートするサードパーティアプリケーションで Webhook のエンドポイントを生成します。エンドポイントにより、Webhook が ServiceNow インスタンスに接続できるようになります。エンドポイントが外部 Webhook を受け付けないようにする場合は、接続からエンドポイントの構成を非アクティブ化または削除できます。

始める前に

必要なロール：flow_designer および connection_admin

必要なサブスクリプション：この機能には統合ハブのサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

ハッシュメッセージをサポートするエンドポイントの構成

Webhook をリッスンするエンドポイントを構成します。

始める前に

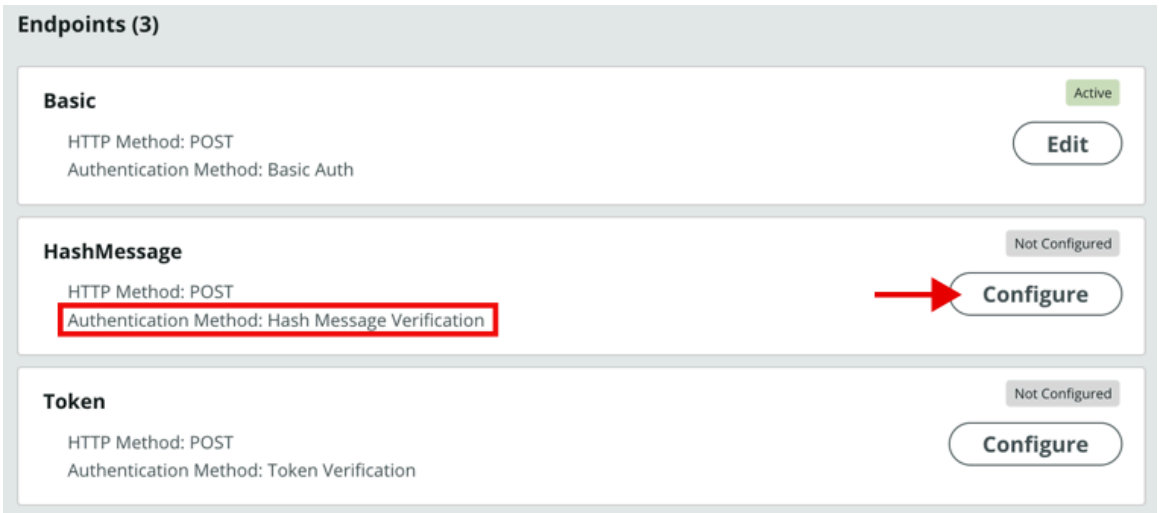
必要なロール：flow_designer および connection_admin

必要なサブスクリプション：統合ハブ Enterprise パック

必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

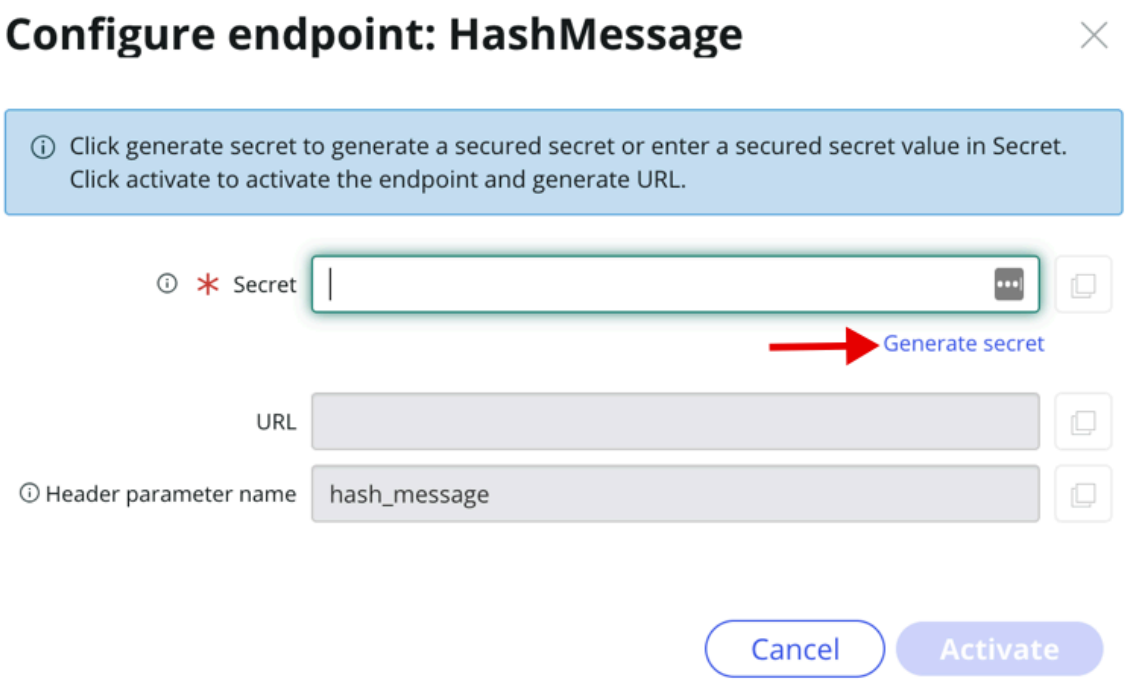
手順

1. [エンドポイント] 見出しで、接続の [構成] を選択して、ハッシュメッセージ認証をサポートするエンドポイントを設定します。



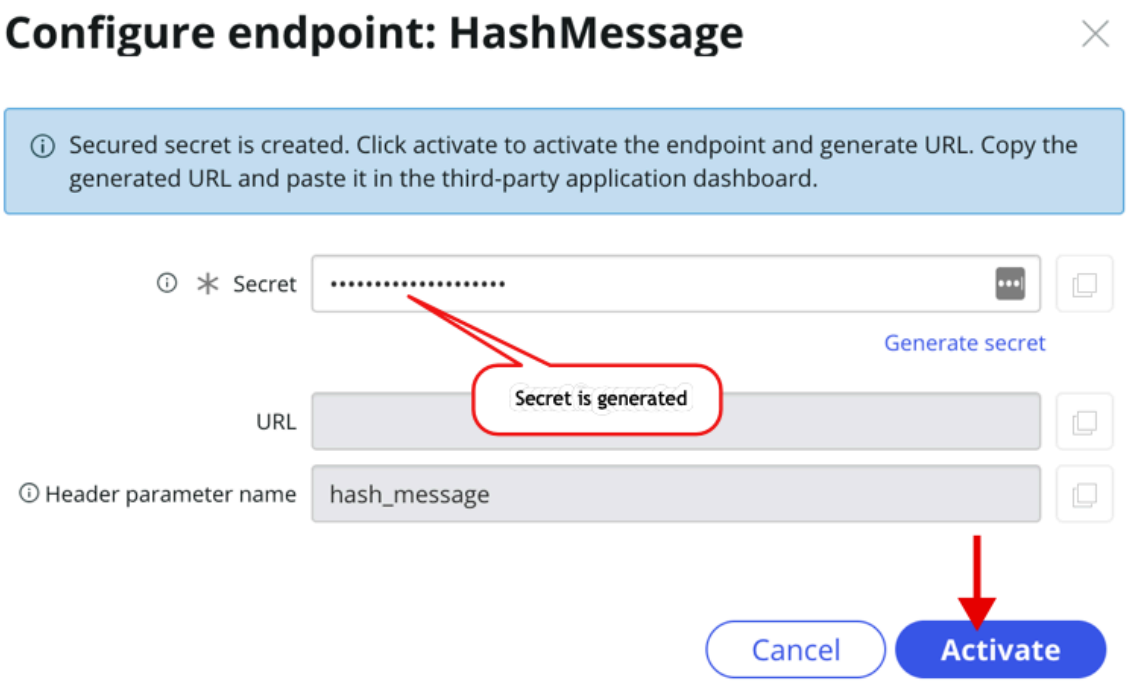
2. エンドポイントの構成フォームで、[シークレットの生成 (Generate secret)] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



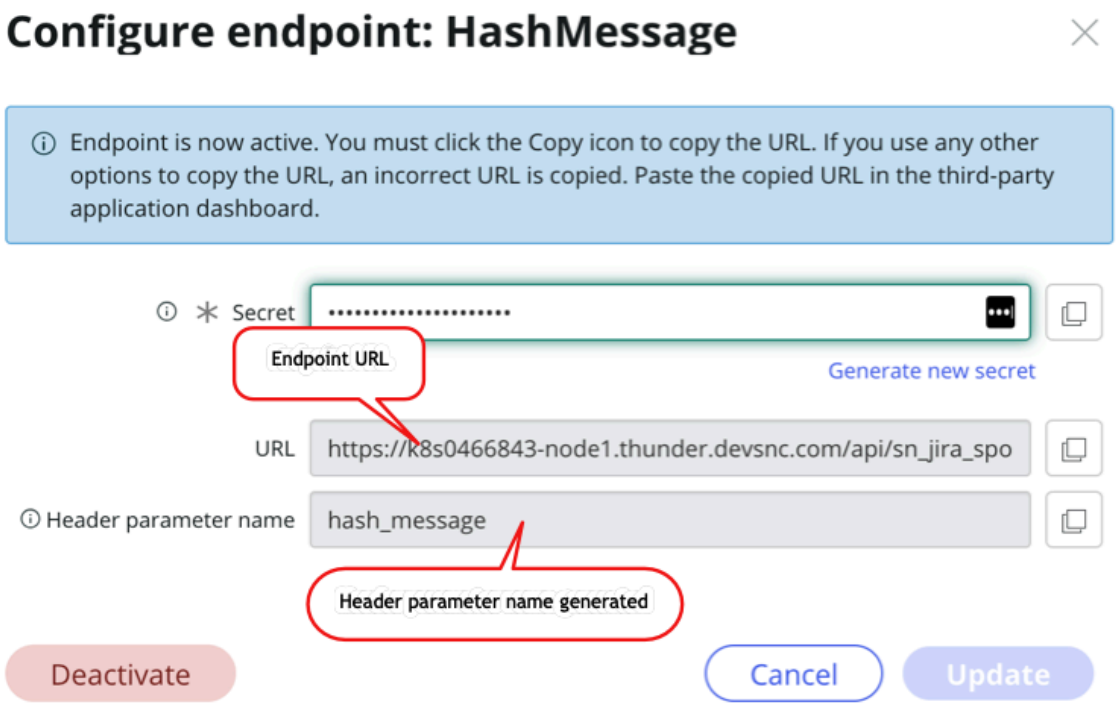
[シークレット] フィールドにシークレットが 生成されます。

3. 外部 Webhook が ServiceNow インスタンスに接続するために使用するエンドポイントを生成するには、[アクティブ化] を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ヘッダーパラメーター名フィールドの値は、エンドポイントを生成した後に使用できるようになりま



す。

4. エンドポイントをコピーするには、エンドポイントのコピーアイコン ( ) を選択します。

ヒント: 後でサードパーティアプリケーション Webhook で使用できるように、エンドポイントを安全な場所に保管します。

ハッシュメッセージをサポートするエンドポイントの非アクティブ化

エンドポイントを非アクティブ化して、Webhook のリッスンを停止します。ただし、再度アクティブ化できます。

始める前に

必要なロール：flow_designer および connection_admin

必要なサブスクリプション：統合ハブ Enterprise パック

必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

手順

1. エンドポイントを非アクティブ化するには、次の手順を実行します。
2. [非アクティブ化] を選択します。
3. 非アクティブ化を確定するには、[非アクティブ化] を選択します。
4. 再度アクティブ化するには、接続レコードで [編集] を選択します。
5. [アクティブ化] を選択します。

ハッシュメッセージをサポートするエンドポイントの構成解除

エンドポイントの構成を削除します。

始める前に

必要なロール：flow_designer および connection_admin

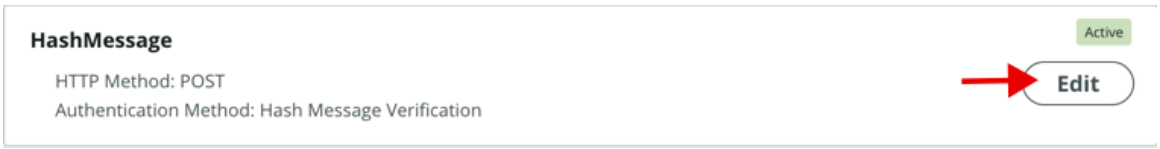
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なサブスクリプション：統合ハブ Enterprise パック

必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

手順

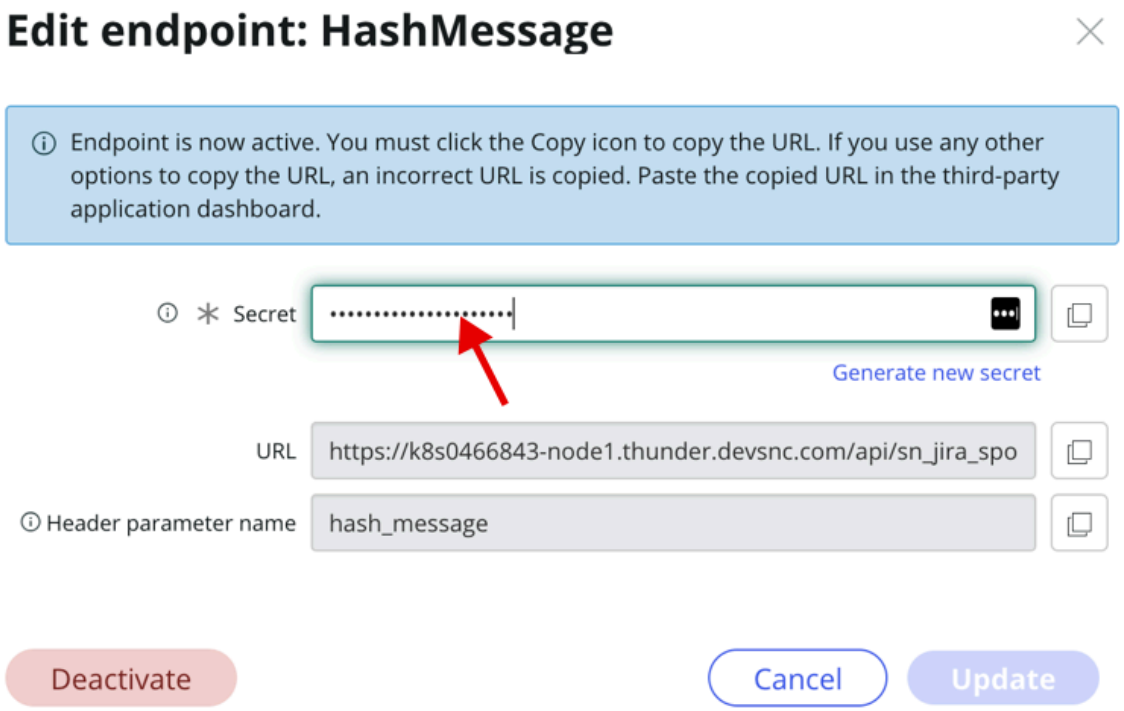
1. [編集] を選択します。



   a. [更新] を選択します。

   b. [構成解除] を選択します。
   接続からエンドポイントの構成が削除されます。

2. シークレットを削除します。



3. [更新] を選択します。

4. [構成解除] を選択します。

トークンをサポートするエンドポイントの管理

トークン認証をサポートするサードパーティアプリケーションで Webhook のエンドポイントを生成します。エンドポイントにより、Webhook が ServiceNow インスタンスに接続できるようになります。オプションで接続からエンドポイントの構成が削除できます。エンドポイントが外部 Webhook を受け付けないようにする場合は、接続からエンドポイントの構成を非アクティブ化または削除できます。

始める前に

必要なロール：flow_designer および connection_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なサブスクリプション：この機能には統合ハブのサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

トークンをサポートするエンドポイントの構成

Webhook をリッスンするエンドポイントを構成します。

始める前に

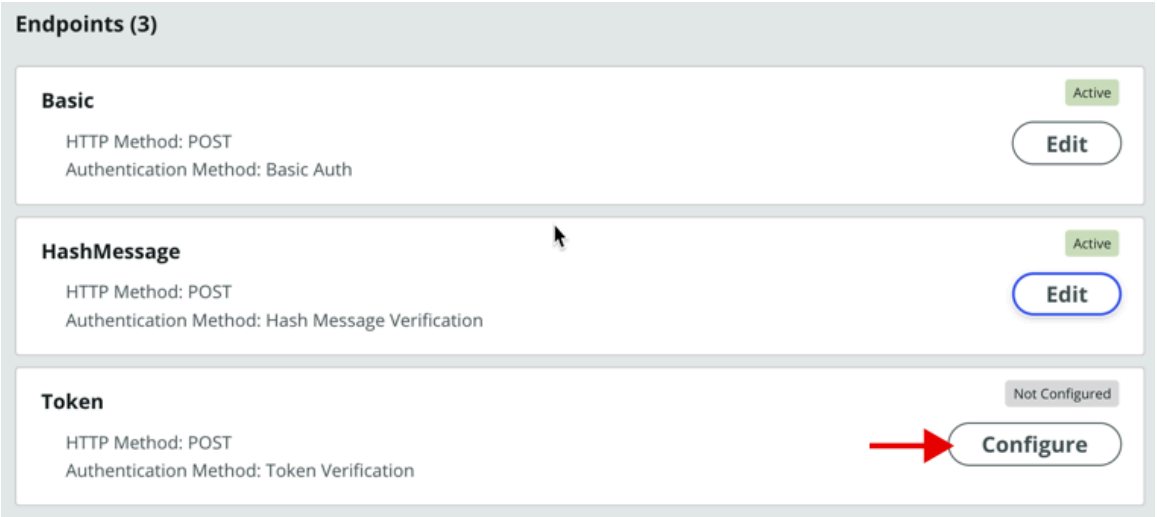
必要なロール：flow_designer および connection_admin

必要なサブスクリプション：統合ハブ Enterprise パック

必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

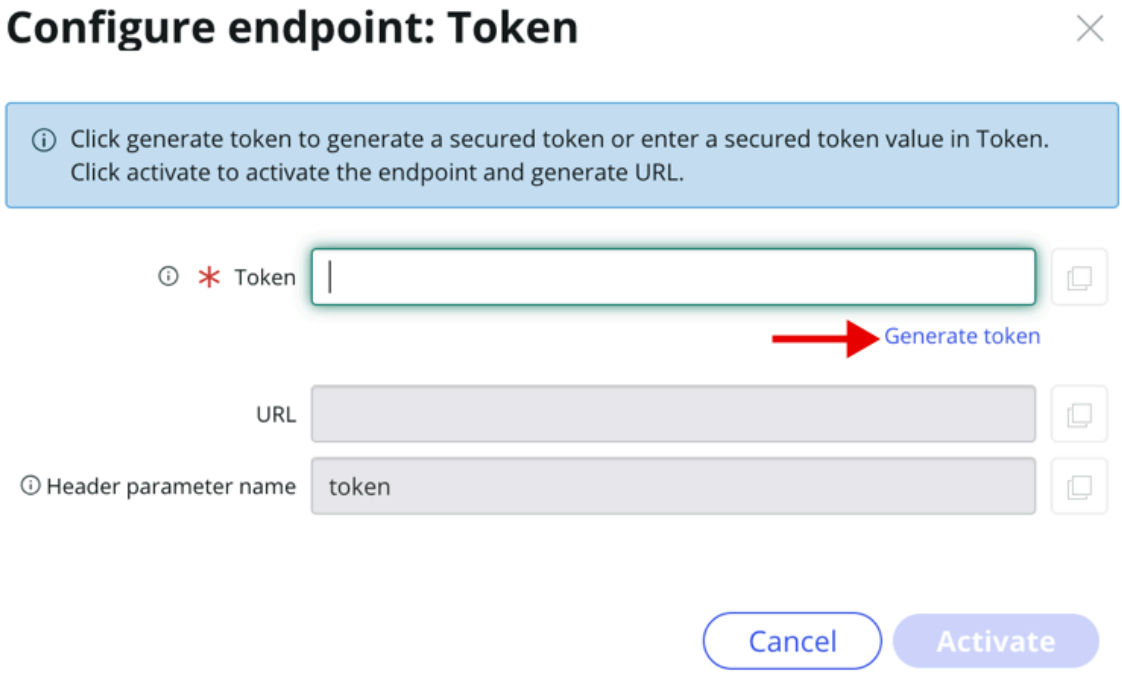
手順

1. [エンドポイント] 見出しで、接続の [構成] を選択して、トークン認証をサポートするエンドポイントを設定します。



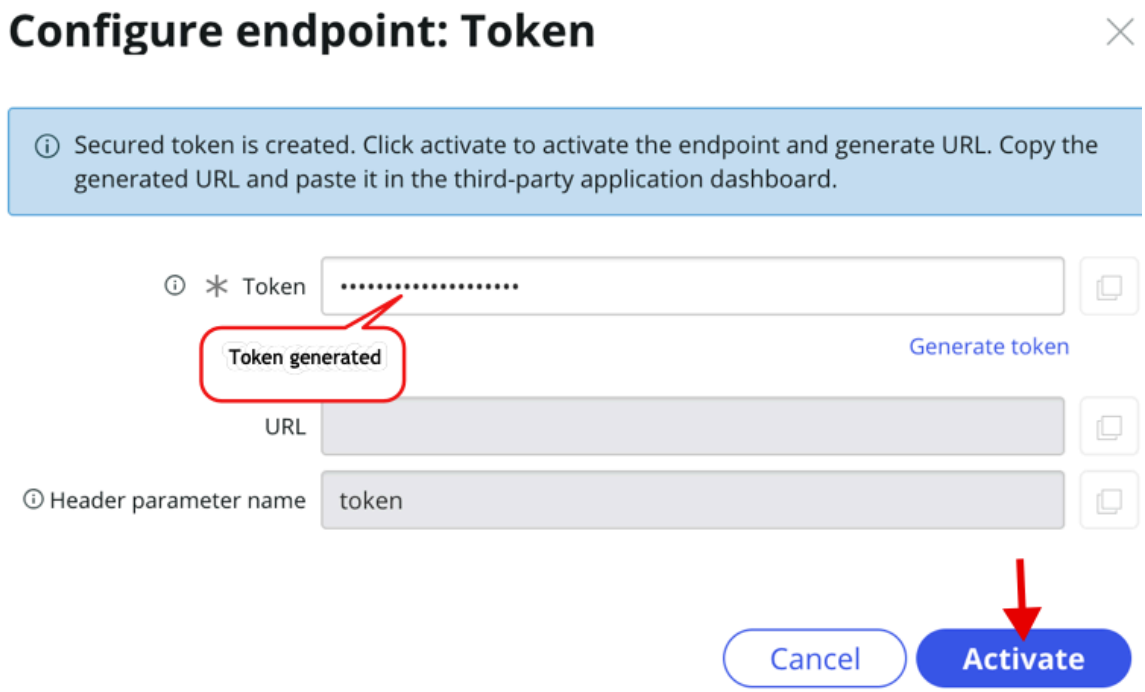
2. エンドポイントの構成フォームで、[トークンを生成] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



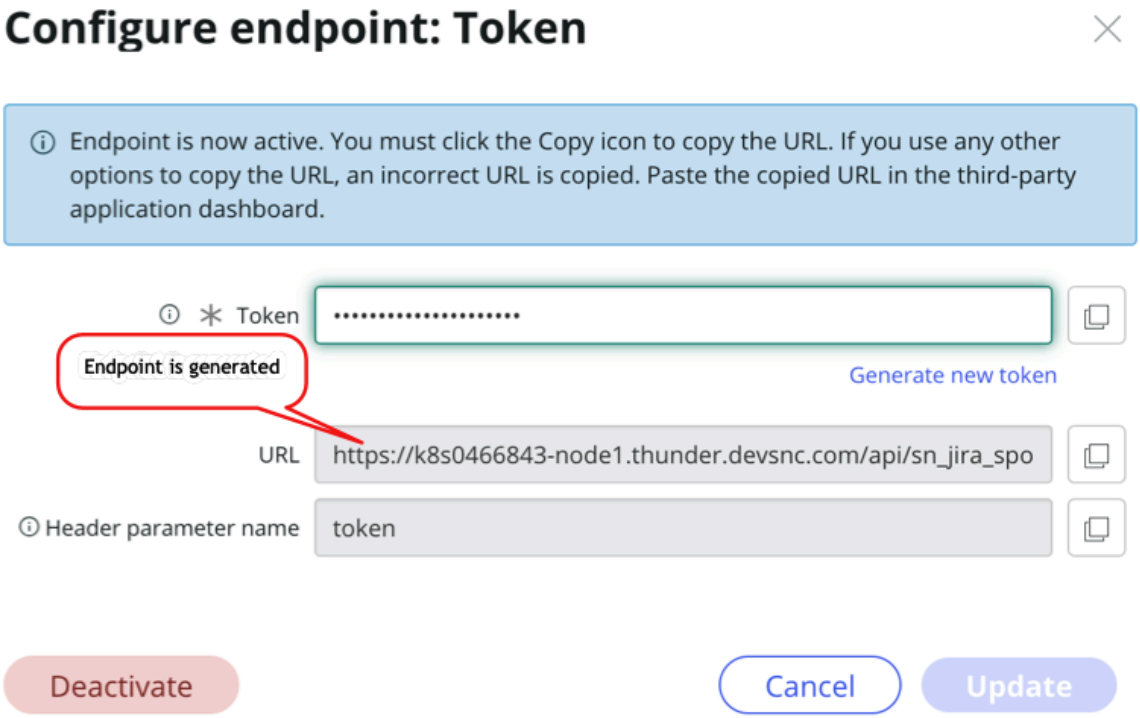
トークンが生成されます。

3. エンドポイントを生成するには、[アクティブ化] を選択します。



エンドポイント URL が [URL] フィールドに生成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. エンドポイントをコピーするには、エンドポイントのコピーアイコン ( ) を選択します。

> ヒント: 後でサードパーティアプリケーション Webhook で使用できるように、エンドポイントを安全な場所に保管します。

トークンをサポートするエンドポイントの非アクティブ化

エンドポイントを非アクティブ化して、Webhook をリッスンできないようにします。再度アクティブ化できます。

始める前に

必要なロール：flow_designer および connection_admin

必要なサブスクリプション：統合ハブ Enterprise パック

必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

手順

1. エンドポイントを非アクティブ化するには、次の手順を実行します。
2. [非アクティブ化] を選択します。
3. 非アクティブ化を確定するには、[非アクティブ化] を選択します。
4. オプション: 再度アクティブ化するには、接続レコードで [編集] を選択します。
5. オプション: [アクティブ化] を選択します。

トークンをサポートするエンドポイントの構成解除

エンドポイントの構成を削除します。

始める前に

必要なロール：flow_designer および connection_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

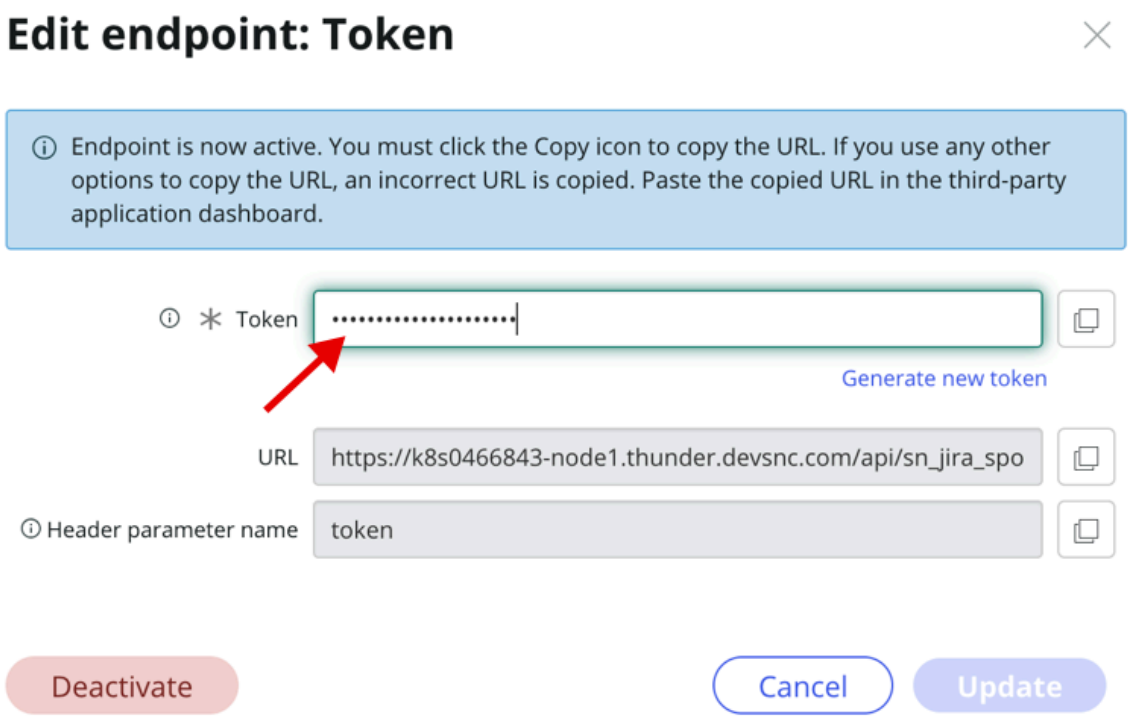
必要なサブスクリプション：統合ハブ Enterprise パック

必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

手順

1. [編集] を選択します。

2. トークンを削除します。



3. [更新] を選択します。
4. [構成解除] を選択します。
   接続からエンドポイントの構成が削除されます。

OAuth 2.0 をサポートするエンドポイントの管理

OAuth 2.0 認証をサポートするサードパーティアプリケーションで Webhook のエンドポイントを管理します。エンドポイントにより、Webhook が ServiceNow インスタンスに接続できるようになります。

始める前に
必要なロール：flow_designer および connection_admin

必要なサブスクリプション：この機能には統合ハブのサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

必要なスポークプラグインがインストールされていることを確認します。

外部クライアントアプリケーションが ServiceNow インスタンスにアクセスするための OAuth アプリケーションエンドポイントが作成されていることを確認します。受信 OAuth アプリケーションエンドポイントの作成の詳細については、「OAuth 受信」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 外部クライアントアプリケーションが ServiceNow インスタンスにアクセスするための OAuth アプリケーションエンドポイントを作成する場合は、「インスタンスにアクセスするクライアント用のエンドポイントを作成し ます。」を参照してください。
- 外部クライアントが ServiceNow インスタンスにアクセスするための OAuth JWT API エンドポイントを作成する場合は、「外部クライアント向けの OAuth JWT API エンドポイントの作成 (マシン間の統合)」を参照してください。

OAuth 2.0 をサポートするエンドポイントの構成

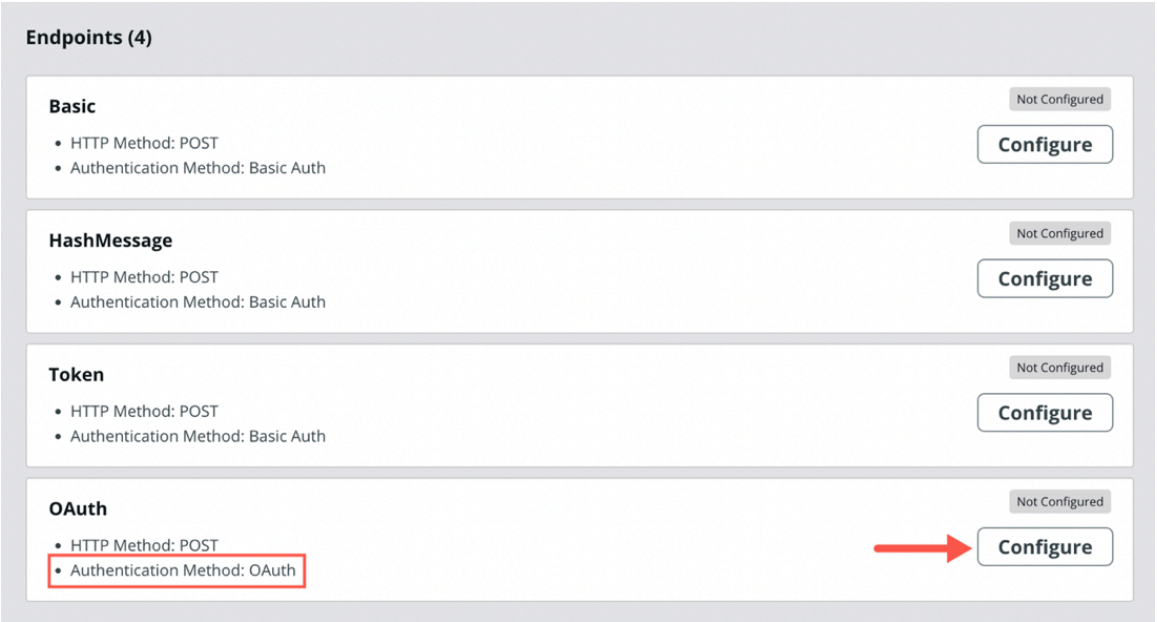
OAuth 2.0 認証をサポートするサードパーティアプリケーションで Webhook のエンドポイントを構成します。

始める前に

必要なロール：flow_designer および connection_admin

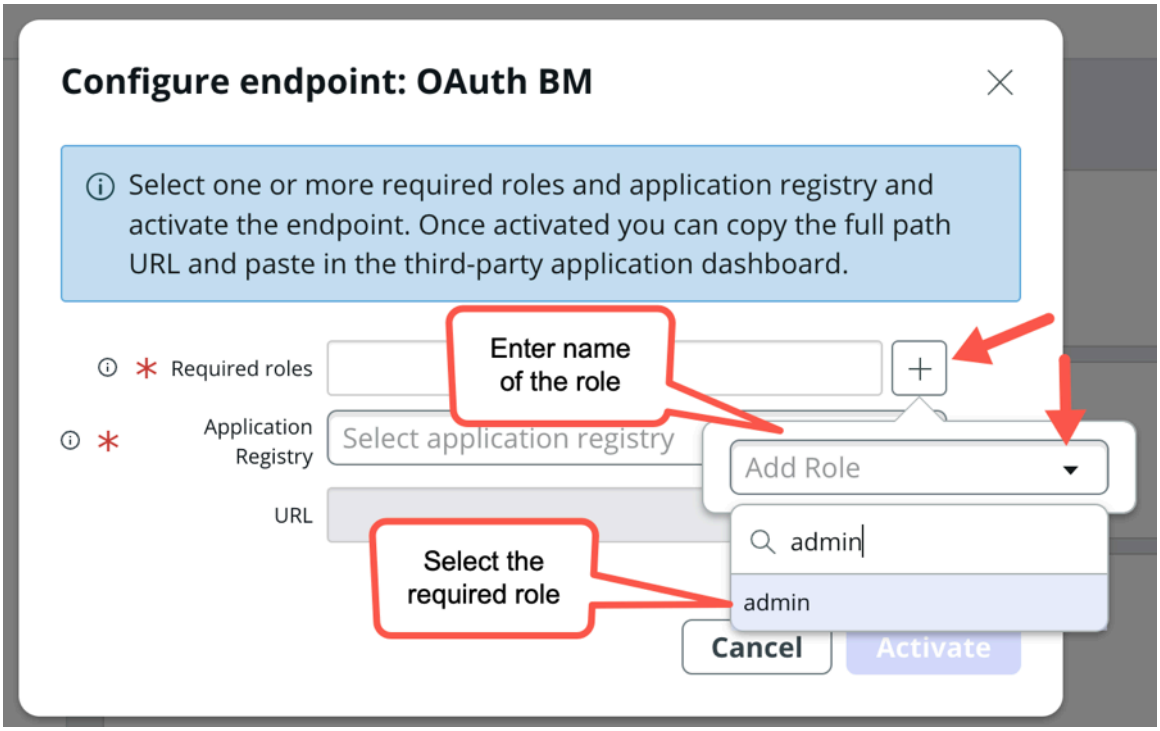
手順

1. [エンドポイント] 見出しで、接続の [構成] を選択して、OAuth 認証をサポートするエンドポイントを設定します。

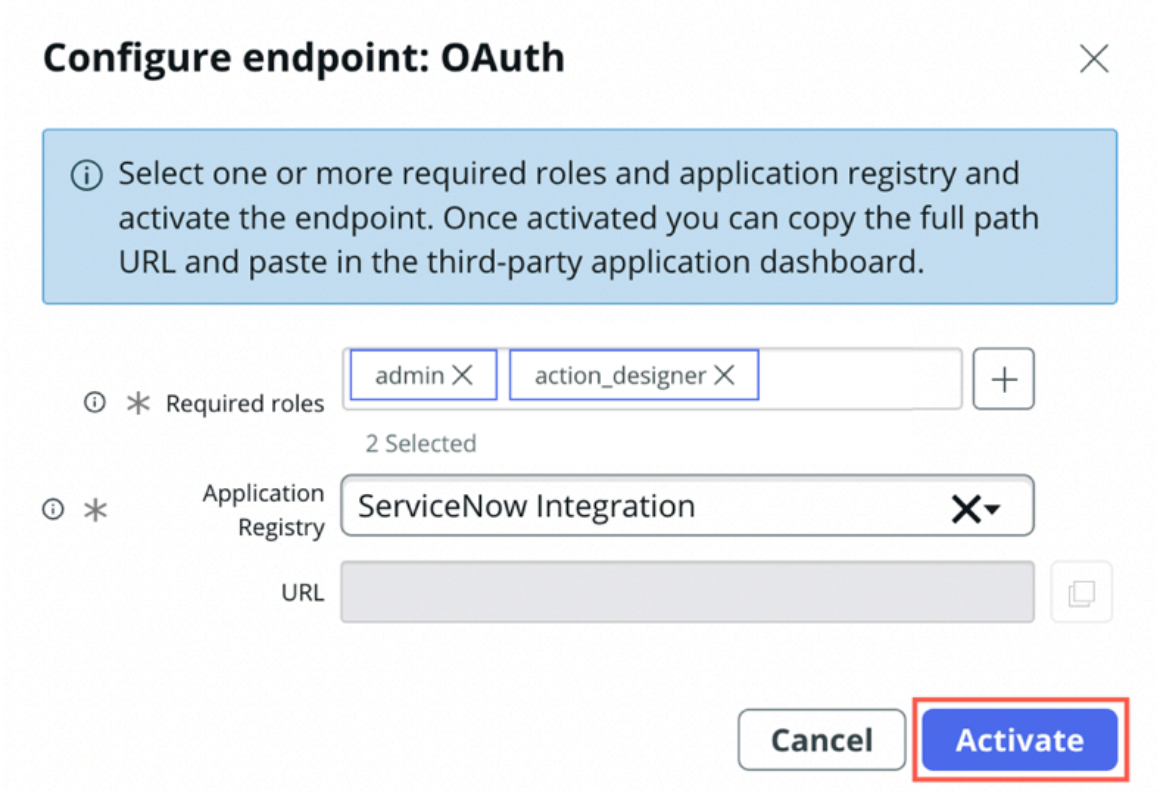


2. エンドポイントの構成フォームで、＋ をクリックして、[必要なロール] にロールを追加します。1 つ以上のロールを選択するには、▼ を選択するか、または 1 つ以上のロールの名前を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

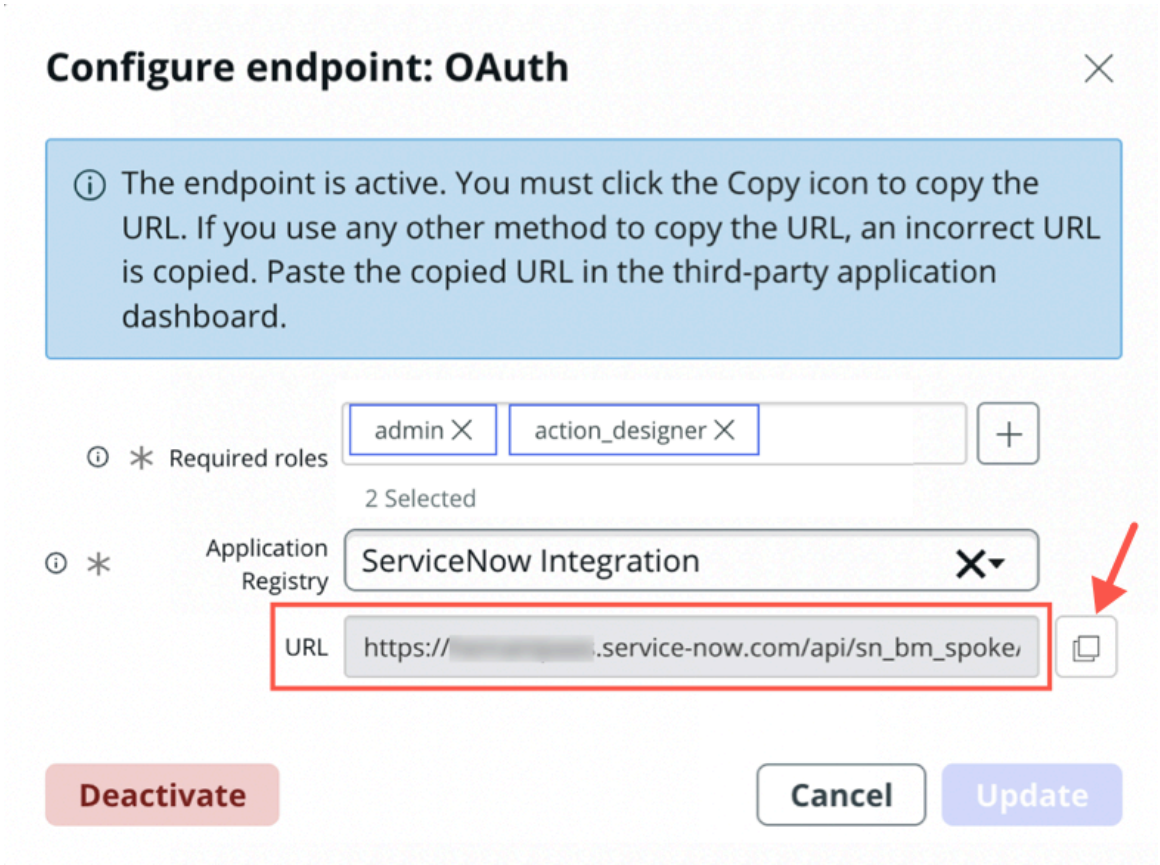


3. 必要なアプリケーションレジストリレコードを選択します。
4. エンドポイントを生成するには、[アクティブ化] を選択します。



エンドポイント URL は **[URL]** に生成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



5. エンドポイントをコピーするには、エンドポイントのコピーアイコン ( ) を選択します。

> ヒント: 後でサードパーティアプリケーション Webhook で使用できるように、エンドポイントを安全な場所に保管します。

OAuth 2.0 をサポートするエンドポイントの非アクティブ化

OAuth 2.0 をサポートするアクティブなエンドポイントを非アクティブ化しますが、後で必要に応じてアクティブ化できるよう、構成を保持します。

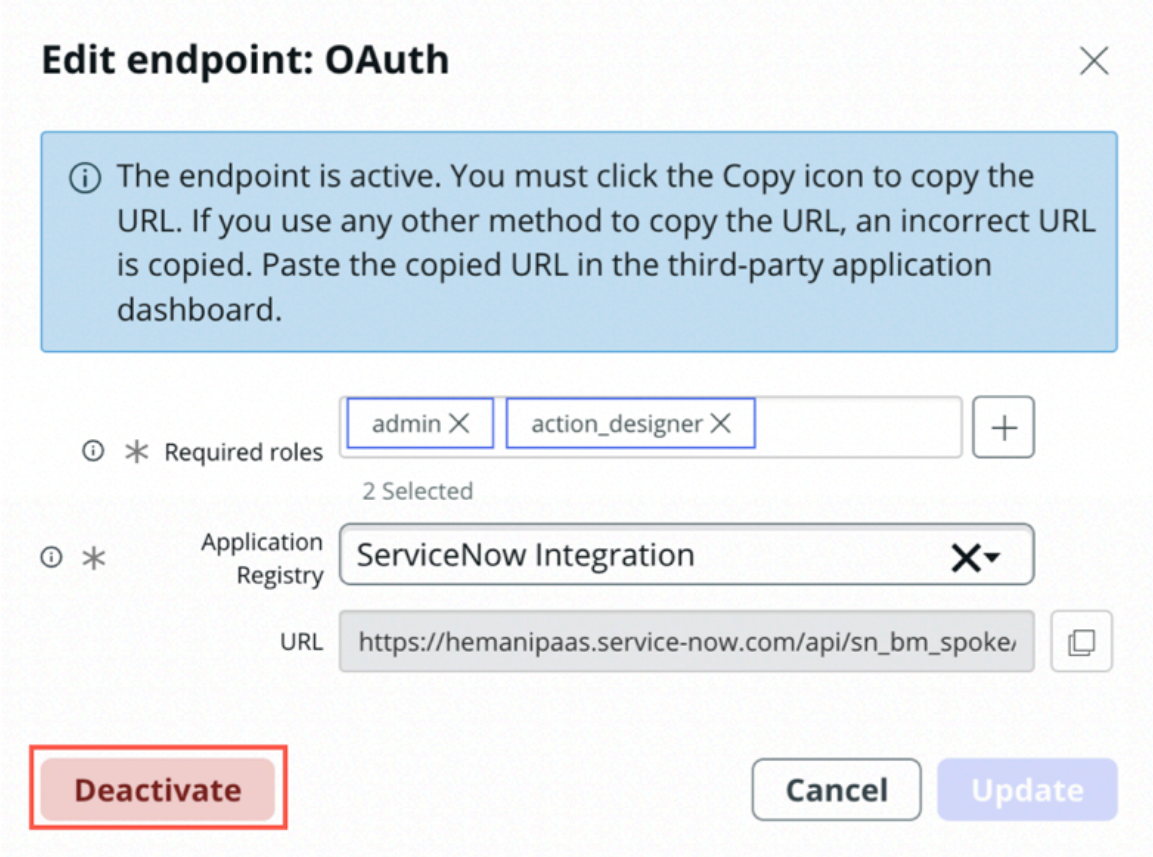
始める前に

必要なロール：flow_designer および connection_admin

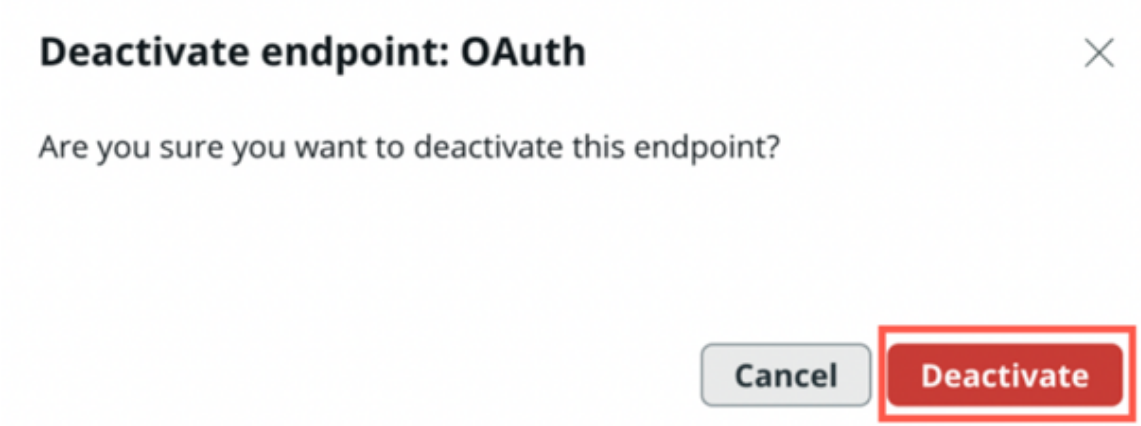
手順

1. エンドポイントの見出しの下の、必要なエンドポイントで、[編集] をクリックします
2. [非アクティブ化] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



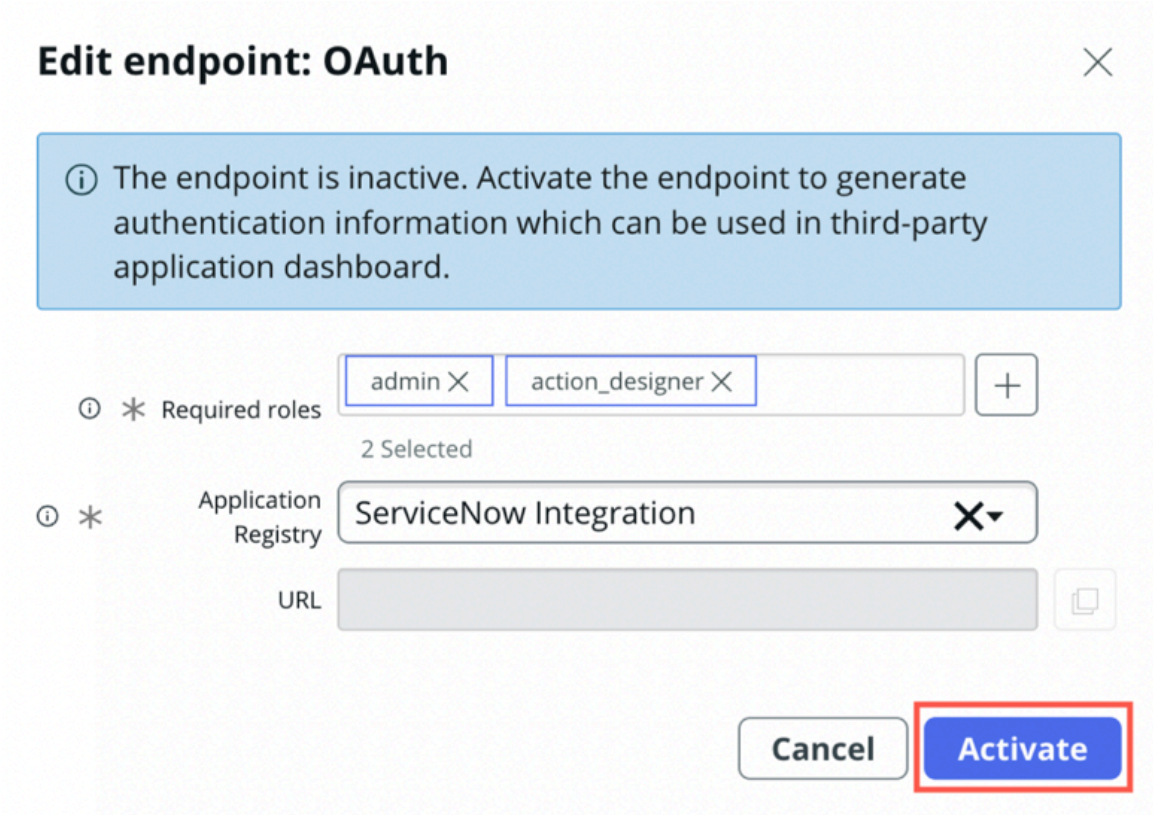
3. 非アクティブ化を確定するには、[非アクティブ化] を選択します。



4. 再度アクティブ化するには、接続レコードで [編集] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [アクティブ化] を選択します。



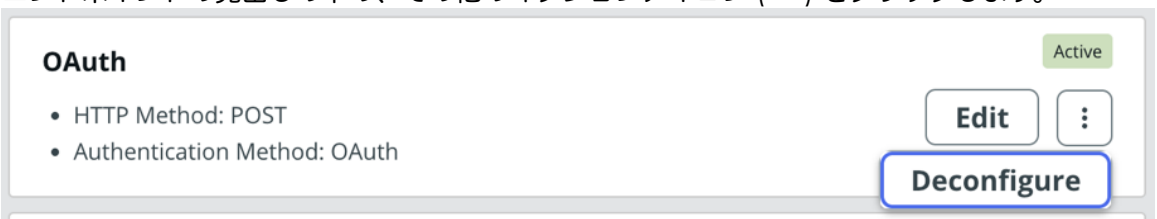
OAuth 2.0 をサポートするエンドポイントの構成解除

OAuth 2.0 をサポートするエンドポイントを非アクティブ化して、既存の構成を削除します。後で必要に応じて、エンドポイントをアクティブ化して構成します。

始める前に
必要なロール：flow_designer および connection_admin

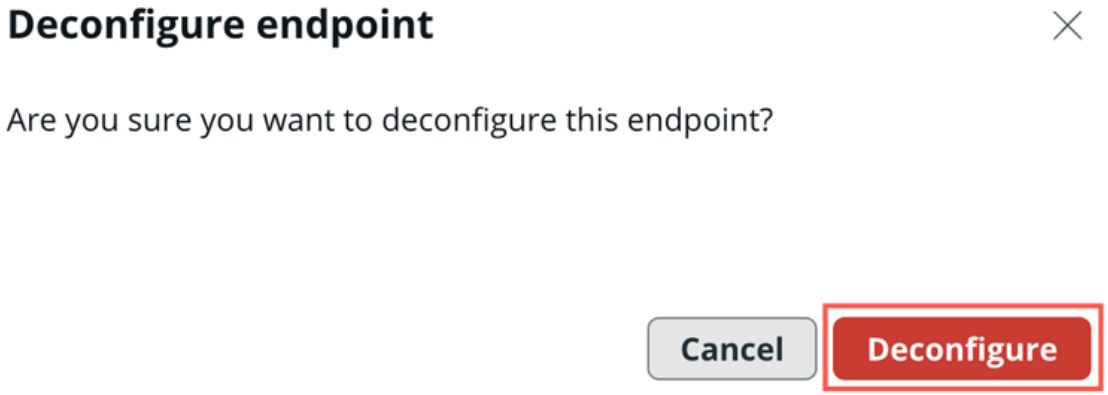
手順

1. エンドポイントの見出しの下の、その他のオプションアイコン ( ) をクリックします。



2. [構成解除] をクリックします。
3. プロンプトが表示されたら、構成解除するための選択を確定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



接続からエンドポイントの構成が削除されます。

統合ステップ

統合ハブ をアクティブ化して、外部システムと統合するためのカスタムアクションをアクティブ化します。これにより、アクションデザイナーインターフェイスに統合ステップが追加されます。

統合ステップは、インスタンスまたは MID サーバーで実行できます。 MID サーバーは、ServiceNow インスタンスと、外部アプリケーション、データソース、およびネットワーク内のサービスとの間で、通信したり、データを移動する必要があります。

注: 統合ハブ を使用してフローを実行できるのは、フローデザイナーアドミンと接続アドミンのみです。

レコード データに対する操作を実行するステップはインスタンスで実行されますが、ネットワーク内のシステムと連携するステップは MID サーバーで実行されます。ステップで MID サーバーの実行を必要とする場合、インスタンスは、REST 呼び出しでプロセス計画を送信して、フロー処理を適切な MID サーバーに委任します。MID サーバーは、プロセス計画の中でアクションまたはステップを実行し、結果を返します。ログ メッセージと実行状況は、インスタンスまたは MID サーバーから確認します。

利用できる統合ステップ

この統合ステップは、「アクションデザイナー - カスタムアクションのビルド」に記載されています。

統合ステップ	説明	ステップの実行元
JDBC ステップ	SQL コマンドをリレーショナルデータベースに送信するための再利用可能なアクションを作成します。	MID サーバー
JSON Builder ステップ	別のステップで使用する JSON ペイロードを作成します。値を入力するか、データピルを使用して動的ペイロードを生成します。このステップでは、ネストされた構造のオブジェクトやアレイなど、いくつかのデータタイプがサポートされています。	インスタンス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ステップ	説明	ステップの実行元
ペイロードビルダーステップ	アクションデザイナーが JSON および XML ペイロードで動的データを使用して名前/値ペアを簡単に作成できるようにします。	• インスタンス • MID サーバー
PowerShell ステップ	MID サーバーを介して、ServiceNow インスタンスからのリモートマシン上で PowerShell スクリプトを実行します。	MID サーバー
REST ステップ	送信 REST Web サービス要求を外部システムに送信します。	• インスタンス • MID サーバー
SOAP ステップ	アクションデザイナーが外部システムへの送信 SOAP Web サービス要求を送信できるようにします。	• インスタンス • MID サーバー
SSH ステップ	SSH ステップでは、ServiceNow® MID サーバー を通じて SSH コマンドを外部 *nix システムで実行します。また、このステップでは、*nix システムのスクリプトとコマンドも保存されます。	MID サーバー
XML パーサーステップ	構造化されたデータを XML ペイロードからスクリプト記述不要で識別します。受信 XML 要素を、他のステップまたはアクションで使用できる複合オブジェクト出力にマッピングします。実行時に、XML ペイロードの値が複合オブジェクト出力に入力されます。	• インスタンス • MID サーバー

トレーニング

統合ハブ開発者トレーニングの REST で REST ステップの使用方法に関する詳細トレーニングを完了します。

接続属性

統合ハブ統合ステップで使用できる接続固有の変数を定義します。 統合ステップを使用する場合は、外部システムとの接続を確立する必要があります。接続をインラインで定義する代わりに、接続および資格情報エイリアスを使用します。エイリアスを使用すると、すべてのアクションを再設定することなく、接続の詳細を 1 回で更新できます。エイリアスを使用するアクション ステップは、エイリアスに関連付けられた属性を継承します。フローデザイナーには、アクション ステップにドラッグできるデータ ピルとして属性が表示されます。たとえば、REST ステップのクエリー パラメーターになるページ サイズ属性を作成できます。接続属性の詳細については、「統合ハブの接続属性を作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MID サーバー の接続エイリアス

アクション デザイナーは、エイリアスに関連付けられた接続レコードを使用して MID サーバーの選択属性を設定し、そのエイリアスを統合ステップに関連付けることができます。フローが実行されるときは、属性を使用して、どの MID サーバーサーバーでステップを実行するかが決まります。詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスの概要」を参照してください。

MID サーバー および MID クラスターの選択

ほとんどの統合ステップでは、ステップの実行時に使用する MID サーバー または MID クラスターを指定できます。MID サーバー の場合は、設定済みのものを選択するか、ステップの [MID 選択] リストから **[MID** サーバーの自動選択] を選択してシステムで選択されるようにすることができます。実行時に MID サーバー が選択される方法の詳細については、「MID サーバーの選択」を参照してください。MID クラスターの場合は、ステップのロードバランシングまたはフェイルオーバークラスターを選択できます。MID クラスターの詳細については、「MID サーバークラスターの設定」を参照してください。ペイロードビルダーステップと XML パーサーステップは、MID サーバーの選択をサポートしていません。

MID サーバー の指定時に、フローデザイナーは、フローの実行時に MID サーバー 間での実行環境のシフトを回避する必要があります。複数のエンドポイントで操作を実行するように各 MID サーバーを設定するか、ネットワーク内の各 MID サーバー に複数の機能を提供してください。状況に応じて、アクションに関連付けられた接続レコードを更新するために connection_admin ロールを持つユーザーが必要になるか、MID サーバーのネットワーク設定を更新するためにネットワークアドミニストレーターが必要になります。

デザインの検討

統合ステップの設計にあたっては次のガイドラインに従ってください。

- インスタンスと MID サーバー間で実行環境を複数回移動することは避けてください。。可能であれば、類似するアクション ステップをグループ化してください。たとえば、レコード操作を実行するコアステップと、MID サーバーで実行される統合ステップをグループ化します。
- 統合ステップを使用するスポークを作成する場合は、適切な接続タイプを持つ接続および資格情報エイリアスレコードを含めます。スポークを誰でも使用できるようにするには、connection_admin ロールを持つユーザーが、接続タイプをサポートする接続レコードにエイリアスレコードを関連付ける必要があります。インラインで接続を定義する場合は、入力を使用して、アクションをフローに追加するときにプロセスアナリストが接続情報を定義できるようにします。
- MID サーバーは、GlideRecord オブジェクト内のすべての値にアクセスすることはできません。sys_id 参照にのみアクセスできます。参照タイプの入力は、MID サーバー では機能しません。代わりに、必要な GlideRecord 値を含むアクション入力を作成します。

ロール

統合ステップを作成するユーザーには、action_designer ロールまたは admin ロールが必要です。ステップを MID サーバーで実行する場合、ステップに関連付けられた接続と資格情報にアクセスするには、MID サーバー ユーザーに connection_admin ロールと credential_admin ロールが必要です。

JDBC ステップ

SQL コマンドをリレーショナルデータベースに送信するための再利用可能なアクションを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注:

- このステップには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「Legal schedules - 統合ハブ overview 必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。
- JDBC ステップ は、JDBC ステップ 機能を備えた ServiceNow® MID サーバー でのみ実行されます。プラグイン 統合ハブ 標準パックインストーラー (com.glide.hub.integrations.standard) 以降を有効化して、MID サーバー の JDBC 機能を使用します。

ロールと可用性

JDBC ステップ は アクションデザイナー のアクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力のサニタイズ

すべてのユーザー入力をエスケープして、悪意のあるユーザーが悪意のある SQL ステートメントを実行してターゲットデータベースで SQL インジェクションが発生する可能性を排除します。JDBC ステップ SQL ステートメントでデータピルを使用する場合は、最初に SQL のサニタイズ変換関数 を使用してサニタイズしてください。この変換関数カテゴリは、データピルが SQL ステートメント入力にドロップされると自動的に表示されます。

SQL 操作包含リスト

デフォルトでは、次の SQL 操作を実行できます。

- SELECT
- 挿入
- 更新
- 消去
- 表示
- DESCRIBE

これらの SQL 操作のうち、JDBC ステップ で実行できる一部のみを有効にするには、MID サーバープロパティ *mid.property.jdbc_operations* を作成し、SQL 操作をカンマで区切って入力します。MID サーバー プロパティの詳細については、「MID サーバープロパティ 」を参照してください。

注: 複数の SQL ステートメントを使用することはできません。出力パラメーターを持つストアドプロシージャはサポートされていません。

フィールド

フィールド	説明
接続の詳細	
接続	使用する接続のタイプ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「 資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
データベースタイプ	この接続のデータベース タイプ。以下から選択可能です。 • **MySQL** • **Oracle** • **SQLServer** • カスタム

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	デフォルトの選択は [カスタム] です。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
JDBC ドライバー	DB2 Universal や Sybase などのデフォルトのデータベースタイプでない場合に、この接続に使用するドライバー。データベースタイプは [カスタム] です。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、データベースタイプリストから [カスタム] が選択されている場合に利用可能です。
接続 URL	指定したデータベースへの接続に MID サーバー が使用する URL。この URL は、フォームを保存したときに自動的に作成され、デフォルトのデータベースでは読み取り専用になります。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、データベースタイプリストから [カスタム] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	選択対象となるために MID サーバー がサポートする必要があるアプリケーションです。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
できること	MID サーバー の機能。**[JDBC]** を選択します。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
接続タイムアウト	ターゲットデータベースへの接続の試行中にアクティビティが待機する最大経過時間 (秒)。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 **注:** 接続が古くなる可能性があるため、[接続タイムアウト] 値をゼロに設定しないでください。
クエリ タイムアウト	クエリを応答なしで実行できる最大経過時間 (秒)。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
JDBC 構成	
SQL ステートメント	ステップが実行する SQL ステートメント。 **注:** ステップ SQL ステートメントでデータピルを使用する場合は、最初に前処理スクリプトステップを使用してそれらをサニタイズします。詳細については、「エスケープ関数を使用した入力のサニタイズ」を参照してください。
最大行数	SQL ステートメントから返される最大行数。デフォルト値は **1,000** です。
最大ペイロードサイズ (KB)	SQL ステートメントから返される最大許容ペイロードサイズ (KB)。デフォルトのペイロードサイズは **5120 KB** です。最大ペイロードサイズは **10 MB** です。
JDBC ステップのテスト	JDBC ステップをテストします。[JDBC ステップのテスト (Test JDBC Step)] ウィンドウにテスト結果が直接表示されます。詳細については、「JDBC ステップのテスト」を参照してください。
再試行ポリシー	
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このオプションは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

JDBC ステップのテスト

JDBC ステップを含むアクションをテストまたは公開する前に、JDBC ステップをテストしてください。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

アクションをテストする前に JDBC ステップをテストする必要があります。テストすることにより、関連する複合オブジェクト出力スキーマがテーブル列から作成され、後続のステップでデータピルとして使用できることを確認できます。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. JDBC ステップを使用して アクションを作成 します。
3. **[JDBC** ステップのテスト] をクリックします。
   [JDBC ステップのテスト] ポップアップウィンドウが表示されます。
4. JDBC ステップが前のステップのアクション入力または出力を入力として受け取る場合は、JDBC ステップをテストするために必要な入力値を [ステップ入力ピル **(Step input pills)]** フィールドに入力します。

   注: レコードの更新、挿入、削除時には、[ステップ入力ピル **(Step input pills)]** フィールドへの入力値は必要ありません。

5. [テストを実行] をクリックします。
   - SELECT クエリを実行すると、サンプル結果が **[JDBC** ステップのテスト] ポップアップウィンドウに表示されます。サンプル結果には、列名、列タイプ、および最初の行の値が含まれます。
   - UPDATE、INSERT、または DELETE クエリが実行されると、影響を受ける行数を示すメッセージが表示されます。
6. サンプル結果を JDBC ステップ出力として使用するには、[結果の使用] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: レコードの更新、挿入、削除時に [結果の使用] は表示されません。

7. JDBC ステップで SELECT クエリが実行されたときに別のテーブルのスキーマを取得するには、[ステップ入力ピル **(Step input pills)**] フィールドに必要な値を入力し、[テストを実行] をクリックします。

タスクの結果
JDBC ステップで SELECT クエリが実行されると、[出力] の下に **ResultSet** が表示されます。関連する複合オブジェクト出力が設定されます。複合オブジェクトの詳細については、「複合データ」を参照してください。

次のタスク
アクションをテストして公開します。

JSON Builder ステップ

別のステップで使用する JSON ペイロードを作成します。値を入力するか、データピルを使用して動的ペイロードを生成します。このステップでは、ネストされた構造のオブジェクトやアレイなど、いくつかのデータタイプがサポートされています。

ロールと使用可用性

このステップには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「Legal schedules - 統合ハブ overview 必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップすることも、ピルピッカーから選択することもできます。

名前

データタイプ：*String*

名前と値のペアの名前の部分です。値を入力するか、データピルを使用して動的ペイロードを生成します。

値

データタイプ：*String*

名前と値のペアの値の部分です。値を入力するか、データピルを使用して動的ペイロードを生成します。複合オブジェクトピルを使用して行にオブジェクトデータタイプを入力できますが、そうすると、複合オブジェクトピルに既に存在する子がすべて削除されます。

タイプ

データタイプ：*Choice*

名前と値のペアのデータタイプです。名前または値にデータピルを使用する場合は、ピルのデータタイプがここで選択したデータタイプと一致していることを確認してください。オプションは次のとおりです。

- 文字列
- オブジェクト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 番号
- ブール
- アレイ

アレイとオブジェクトの場合は、プラスアイコン ( ) を使用して、アレイまたはオブジェクトに名前と値のペアを追加します。

空の値の場合

データタイプ：*Choice*

名前と値のペアの値が空または null の場合の処理を指定するオプションです。

- そのまま残す **(Leave as is)**：空または null 値を空の文字列として保持します。
- プロパティを省略 **(Omit property)**：値が空または null の場合、名前と値のペアを除外します。
- **null** として設定 **(Set as null)**：空または null 値を null データタイプとして返します。
- エラーをスロー：名前と値のペアの値が空または null 値の場合、エラーを返します。

外部の構造を含める

データタイプ：*True/False*

トップレベルの JSON コンテナに中括弧を含めるオプションです。

空の構造を省略

データタイプ：*True/False*

空のペイロードを省略するオプションです。名前と値のすべてのペアで [空の値の場合] フィールドの [プロパティを省略] を選択し、ペイロード内のすべての名前と値のペアが空の値を生成した場合に、空のペイロードが発生する可能性があります。

構造

データタイプ：*Structure*

ステップによって生成される読み取り専用ペイロードです。

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。アクションの任意の場所で入力として使用できます。

出力

データタイプ：*String*

文字列としての JSON ペイロードです。ペイロードをオブジェクトとして使用する場合は、JSON パーサーステップを使用して文字列を解析できます。

ステップステータス

データタイプ：*Object*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ステップに関するランタイムの詳細を含むオブジェクトデータピル。アクションの各ステップはステップステータスを返します。

[ステップステータス] > [コード]

データタイプ：*Integer*

ステップでエラーが発生したかどうかを示す整数データピルです。デフォルトでは、値 1 はステップでエラーが生成されたことを示します。値 0 は、ステップが正常に実行されたことを示します。これらのコードはカスタマイズできません。

[ステップステータス] > [メッセージ]

データタイプ：*String*

ステップまたはシステム操作によって生成されたエラーメッセージを含む文字列データピル。このメッセージはカスタマイズできません。

JSON ペイロードを生成

[ペイロードの **JSON** を追加 **(Add JSON for Payload)]** ボタンを使用して、JSON ペイロードを自動的に生成します。このボタンにより [ペイロードを追加 (Add Payload)] スクリプトエディターが開きます。そこで JSON ペイロードを入力すると、構造化入力に自動的に逆シリアル化できます。

JSON ペイロードジェネレーターを使用する際に注意すべき点がいくつかあります。

- JSON に空のキーがある場合でも、ペイロードは引き続き生成されます。
- スクリプトエディターに重複するキーがある場合、オブジェクト内の最後のキーエントリによって、同じ名前の以前のキーの値が上書きされます。
- ルートオブジェクトがアレイの場合、ルートアレイはルートオブジェクトにラップされます。
- アレイに複数のオブジェクトが含まれている場合、オブジェクト内のすべてのキーが 1 つの親オブジェクトに結合されます。

JSON ペイロードジェネレーターは、次をサポートしていません。

- 空のペイロード
- 非複合オブジェクトタイプ
- 無効な JSON
- 空のルートオブジェクト (空のアレイなど)
- 65,000 バイトを超えるペイロード

注: JSON ペイロードを生成すると、JSON ビルダーステップの既存の構造が上書きされます。

JSON パーサーステップ

構造化されたデータを JSON ペイロードからスクリプト記述不要で識別します。受信 JSON コンテンツを、他のステップまたはアクションで使用できる複合オブジェクト出力にマッピングします。実行時に、JSON ペイロードの値が複合オブジェクト出力に設定されます。

複合オブジェクトの詳細については、「複合データ」を参照してください。

注: このステップには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「Legal schedules - 統合ハブ overview 必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

ペイロードサイズ制限

実行時に、JSON パーサーステップ は最大 10 MB のペイロードをサポートします。ペイロードが大きい場合は、 データストリーム アクションを作成します。データストリームアクションの詳細については、「データストリームアクションおよびページネーション」を参照してください。

フィールド

フィールド	説明
ソース	[ソースデータ] フィールドで、ソース JSON ペイロードを含むデータピルを選択またはドラッグします。たとえば、REST ステップの 応答本文 データピルなどです。実行時に、データソースの値が複合オブジェクト出力に設定されます。 [ソースデータ] のスクリプトウィンドウで、サンプルペイロードを入力して複合オブジェクトを生成します。たとえば、ユーザーのリストを返す REST ステップからの応答を解析する場合は、1 人のユーザーに期待される JSON オブジェクトを入力します。JSON ペイロードの例を作成できますが、次の制限があります。 • 多次元アレイはサポートされていません。 • JSON キーのハイフン、ピリオド、スペース、二重コロン、および @ 記号はサポートされていません。 • サンプルペイロードは 2 MB を超えることはできません。
構造化ペイロードビュー	サンプルペイロードを通常の JSON として表示するか、[構造化ペイロードビュー] に切り替えて構造化ノードツリーにペイロードを表示します。ツリーでノードを選択し、要素の JSONPath をコピーします。[ターゲット] フィールドに新しい要素を手動で追加する場合は、この JSONPath を要素の詳細オプションの下に貼り付けることができます。
ターゲットを生成	サンプルペイロードからステップの出力構造を作成するには、[ターゲットを生成] を選択します。出力データ構造が [ターゲット] フィールドに表示されます。各オブジェクトの子要素は、String タイプとして自動的に生成されます。または、[ターゲット] フィールドで要素を追加して、ターゲット複合オブジェクトを手動で作成することもできます。
ターゲット	JSON ペイロードの出力構造を表示または編集します。[ターゲットを生成] をクリックして構造化出力を作成するか、手動で要素を追加します。 各要素には、[オブジェクトの編集] ビューに次の情報が含まれています。 • [ラベル]：データピルラベル。デフォルトでは、JSON キー名が使用されます。 • [名前]：出力要素の内部名。 注: 感嘆符、二重コロン、@ 記号、または数字のみは、要素名の有効な値ではありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

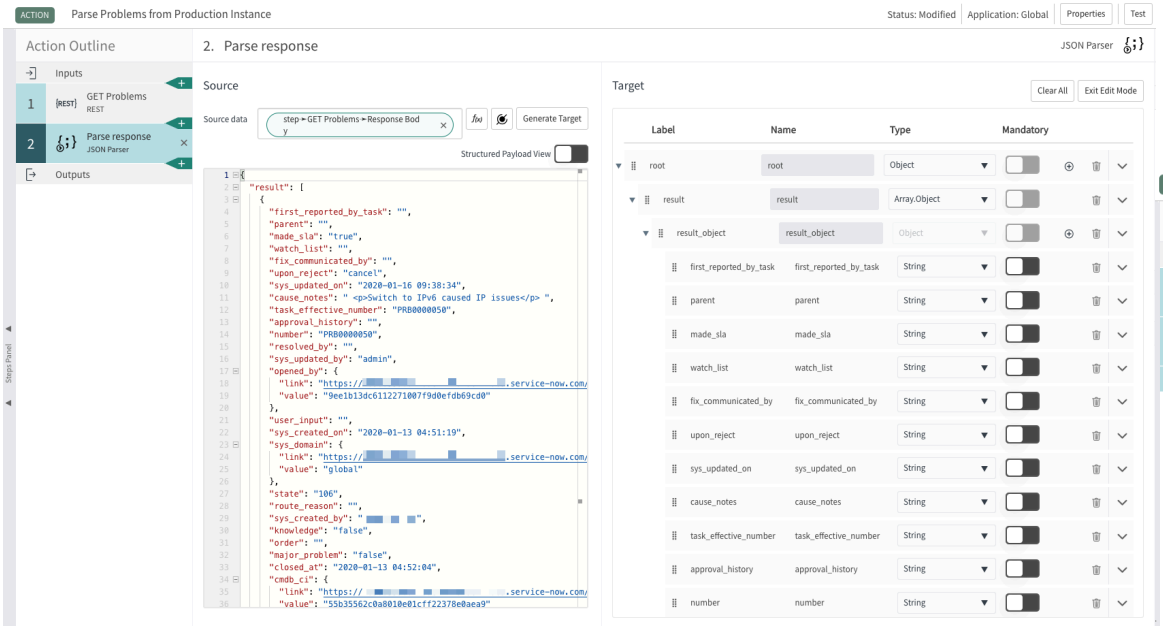
フィールド	説明
	• [タイプ]：データタイプ。String、Object、Array.String、または Array.Object である必要があります。最上位の要素は Object である必要があります。 • [必須]：要素を必須にするために切り替えます。これは String タイプの要素にのみ適用されます。 • [子アイテムを追加]：[子アイテムを追加] アイコン (⊕) を選択して、ネストされた子要素を追加します。 オブジェクトタイプの要素には、オブジェクトの構造を複合オブジェクトテンプレートとして保存できる [テンプレートとして保存] 詳細オプションが含まれています。このテンプレートを使用して、アクションの Object 出力のスキーマを定義できます。 文字列タイプの要素の場合、最大長、ヒント、およびデフォルト値を詳細オプションとして追加することもできます。 出力の構造を変更したら、[ターゲット] ヘッダーで [編集モードの終了] を選択します。[詳細入力の切り替え] アイコン (⌄) を選択すると、**[JSONPath]** オプションを表示できます。 JSONPath は要素へのパスです。JSONPath を変更して、ソースデータ要素を出力の要素にマップする方法を変更します。要素を手動で追加する場合は、サンプルペイロードのノードから JSONPath をコピーして、要素の詳細オプションの下に貼り付けることができます。

JSON パーサーステップの例

この例では、本番インスタンスから新しく作成された問題をテストインスタンスの欠陥として追跡します。まず、*`Parse Problems from Production`* という名前の新しいアクションを作成します。本番インスタンスから問題のリストを取得する REST ステップを追加します。次に、JSON パーサーステップを追加して REST ステップ *`Response Body`* を解析し、問題 [problem] テーブルのスキーマを表す複合オブジェクト出力を提供します。最後に、 *`Problems from Production`* という名前のオブジェクトタイプのアクション出力を作成します。JSON パーサーステップから *`root`* データピルをこの出力の値フィールドにドロップします。

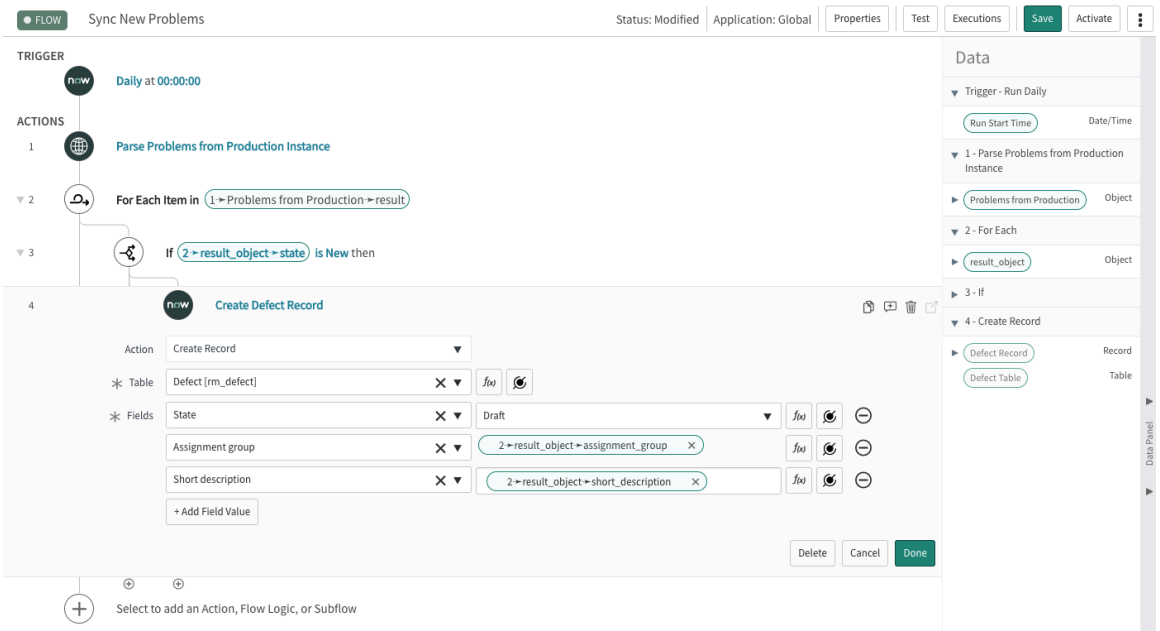
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

本番アクションからの問題解析



次に、毎日深夜にトリガーされる *Sync New Problems* という名前の新しいフローを作成します。フローの最初のアクションは *Parse Problems from Production* アクションです。次に、*For Each* フローロジックブロックを追加し、[本番の問題 **(Problems from Production)**] > [応答]データピルを [アイテム] フィールドにドロップします。**For Each** ブロック内に、各問題のステータスが新規かどうかをチェックする *If* フローロジックブロックを追加し、アサイン先グループと簡単な説明が本番インスタンスから新しい各問題にマップされているテストインスタンスに欠陥レコードを作成します。

新しい問題の同期フロー



ペイロードビルダーステップ

アクションデザイナーが JSON および XML ペイロードで動的データを使用して名前/値ペアを簡単に作成できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

注: JSON の場合、このステップは廃止され、JSON Builder ステップに置き換えられました。

フィールド

フィールド	説明

名前と値のペア	ペイロードに含める名前と値のペア。名前と値のペアを追加するには、プラスアイコンをクリックします。データピルをいずれかのフィールドにドラッグし、動的ペイロードを生成します。
	
	[名前] は JSON ではキーとなり、XML では要素になります。たとえば、次の名前と値のペアを作成するとします。
	• 名前：`short_description`
	• 値：`[action]->[short_description]`
	
	名前と値のペアが JSON として書式設定される場合は、次のようになります。
	`"short_description": "[action]->[short_description]"`
	
	名前と値のペアが XML として書式設定される場合は、次のようになります。
	`<short_description>[action]->[short_description]</short_description>`

空の場合省略	値が空または null である場合、名前と値のペアを除外するためのオプション。 **注:** このフィールドが表示されるのは、下向き矢印をクリックして詳細オプションを表示した後のみです。
出力の形式	ペイロードのファイル形式。 • **JSON**：JSON ドキュメントとしてペイロードを書式設定します。 • **XML**：XML ドキュメントとしてペイロードを書式設定します。
名前空間	各要素に適用する XML 名前空間。たとえば、名前空間をインシデントに設定すると、次のようになります。 `<incident:short_description>[action]->[short_description]</incident:short_description>` **注:** このフィールドは、[出力形式] が **[XML]** に設定されている場合にのみ表示されます。
外部の構造を含める	出力形式に適したトップレベルコンテナを含めるか除外するオプション。[出力形式] が JSON であるとき、中かっこで名前と値のペアを囲みます。[出力形式] が XML であるとき、指定した XML 要素に名前と値のペアが含まれます。 たとえば、名前と値のペアが JSON として書式設定される場合は、次のようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明

	<pre>{
	  "short_description": "[action]->[short_description]"
	}</pre>
	名前と値のペアが XML として書式設定される場合は、次のようになります。
	<pre><xml>
	
	 <short_description>[action]->[short_description]</short_descript
	ion>
	</xml></pre>

空の構造を送信	ペイロードが空の場合、有効な JSON 構造または XML 構造を送信するオプション。ペイロードに JSON または XML の構造テキストを含めるには、このオプションを有効にします。 たとえば、空の構造が JSON として書式設定される場合は、次のようになります。 <pre>{}</pre> 空の構造が XML として書式設定される場合は、次のようになります。 <pre><xml></xml></pre> 空のペイロードを生成するには、このオプションを無効にします。 名前と値のすべてのペアに [空の場合省略] オプションを選択すると、空のペイロードが発生することがあり、ペイロードの名前と値のすべてのペアによって空の値が生成されます。
親ノード	名前と値のペアを含む XML 要素の名前。デフォルトの親ノード要素は `xml` です。 **注:** このフィールドが表示されるのは、[出力形式] を **[XML]** に設定し、[外部の構造を含める] のオプションを有効にしたときのみです。
プレビュー	ステップによって生成される読み取り専用ペイロード。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

PowerShell ステップ

MID サーバーを介して、ServiceNow インスタンスからのリモートマシン上で PowerShell スクリプトを実行します。

PowerShell は Windows .NET Framework をベースとして開発されたもので、Windows マシンとアプリケーションの管理の制御および自動化を目的としています。ServiceNow は PowerShell 3.0

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

～ 5.1 をサポートしています。PowerShell 3.0 では Windows 2003 Server はサポートされていません。

注: このステップには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「Legal schedules - 統合ハブ overview」

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

フィールド

フィールド	説明
接続	使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 **注:** このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「 資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 **注:** このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ホスト	アクションステップが実行されるターゲットホストの完全修飾ドメイン名を指定します。たとえば、host.domain.com です。 **注:** このフィールドは、[接続] が [インラインで接続を定義] である場合にのみ表示されます。
ポート	ターゲットホストが接続をリッスンする通信ポートを指定します。たとえば、5985 です。デフォルトポートを使用する場合は空白のままにします。 **注:** このフィールドは、[接続] が [インラインで接続を定義] である場合にのみ表示されます。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	選択対象となるために MID サーバーがサポートする必要があるアプリケーションを指定します。選択したアプリケーションをサポートする MID サーバーからアクションステップが実行されます。 このフィールドにデータピルを使用する場合、ピルは MID アプリケーションレコードではなく、MID アプリケーションの名前を参照する必要があります。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	選択対象となるために MID サーバー がサポートする必要がある機能です。選択した機能をサポートする MID サーバー からアクションステップが実行されます。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	MID サーバー [ecc_agent_list] レコードへの sys_id 参照を含むデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
リモート処理タイプ	MID サーバーやリモート サーバーなど、PowerShell スクリプトが実行される場所。 • [明示的なリモート処理 (最も一般的)]：リモート サーバーとの接続を確立し、リモート サーバーでスクリプトを実行します。 • [暗黙的なリモート処理 (高度)]：MID サーバーでスクリプトを実行すると同時に、必要なモジュールをリモート サーバーからインポートします。選択した場合は、[リモート名のプリフィックス] フィールドと [インポートするモジュール] フィールドを定義します。最適なパフォーマンスを得るため、ステップに必要なモジュールのみをイ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ンポートします。空白にした場合、使用可能なすべてのモジュールがサーバーからインポートされます。 • **[MID** サーバーで実行するか、スクリプトでリモートセッションを確立します]：スクリプトを MID サーバーで直接実行します。またはスクリプトの中でリモート処理の仕様を定義することができます。この値がデフォルトです。 **注:** PowerShell スクリプトコマンドまたは PowerShell スクリプトファイル内の関数を呼び出す関数がパラメーターを入力している場合、コマンドは関数パラメーターブロックを定義する必要があります。この要件は、明示的および暗黙的なリモート処理に適用されます。パラメーターブロックの追加については、https://technet.microsoft.com/ の Windows Powershell パラメーターに関する Microsoft のドキュメントを参照してください。
リモート名のプリフィックス	リモート サーバーからロードするモジュールへのファイル パス (ファイル名を除く)。 **注:** このフィールドは、[リモート処理タイプ] が [暗黙的なリモート処理 (高度)] の場合のみ表示されます。
インポートするモジュール	定義したファイル パスにあるリモート サーバーからインポートするモジュールのカンマ区切りリスト。 **注:** このフィールドは、[リモート処理タイプ] が [明示的なリモート処理 (最も一般的)] または [暗黙的なリモート処理 (高度)] の場合のみ表示されます。
PowerShell ステップのテスト (Test PowerShell Step)	PowerShell ステップ用に設定された認証情報をテストするボタン。詳細については、「PowerShell ステップの認証情報のテスト」を参照してください。
スクリプト タイプ	PowerShell ホストで実行するスクリプトのタイプ。 • [インライン スクリプト]：ステップの [コマンド] フィールドに、実行するスクリプトを入力します。 • **[MID** サーバースクリプトファイル]：MID サーバー スクリプトファイル [ecc_agent_script_file] テーブルから、実行する PowerShell スクリプトを選択します。これはデフォルト値です。これによってスクリプトのロジックがアクションから分離されるため、アクションの変更や再展開をしなくてもスクリプトを更新することができます。
MID サーバー スクリプト	MID サーバー スクリプトファイル テーブル [ecc_agent_script_file] からの事前定義された PowerShell スクリプト。 **注:** このフィールドは、[スクリプト タイプ] が **[MID** サーバースクリプトファイル] の場合にのみ使用できます。
スクリプト パス	選択した MID サーバー スクリプトの読み取り専用パス。 **注:** このフィールドは、[スクリプト タイプ] が **[MID** サーバースクリプトファイル] の場合にのみ表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
入力変数	PowerShell スクリプト変数の値を表すオプションの名前と値のペア。PowerShell スクリプトの中で、アクションの入力や他のステップからのデータを使用できます。各変数について次のフィールドを定義します。 • [名前]：スクリプト変数の名前。この変数に値を渡します。この名前を、予約済みまたは禁止されている PowerShell 変数と一致させることはできません。一部の変数名は内部処理用に予約されているため、入力変数として使用しないでください。「**PowerShell** スクリプト変数」の「予約済みの変数」を参照してください。 • [タイプ]：PowerShell 変数のタイプ。テキスト、暗号化、またはブーリアンを選択します。暗号化を選択した場合、値はこのフィールドにテキストで表示され、ECC キューに渡されるときのみ暗号化されます。 • [値]：変数にマップする値。手動で値を入力するか、データ ピルをフィールドにドラッグします。
コマンド	ターゲット ホストで実行するインライン PowerShell スクリプト。 **注:** このフィールドは、[スクリプト タイプ] が [インライン スクリプト] の場合にのみ表示されます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

PowerShell スクリプト変数

[コマンド] フィールドから入力変数にアクセスするには、特殊な構文を使用して呼び出す必要があります。使用する構文はシステム プロパティの値によって異なります。[リモート処理タイプ] が **[MID** サーバーで実行するか、スクリプトでリモートセッションを確立します] の場合、入力変数に加えていくつかの予約済み変数が使用できます。

入力変数の構文

デフォルトでは、変数名の先頭に *$* 文字を付けます。たとえば、入力変数の名前が **message** の場合は、*$message* を使用してスクリプトの変数にアクセスします。

mid.powershell.command.script.parameter_passing パラメーターを false に設定している場合は、変数名の先頭に *$env:SNC_* を付けます。たとえば、入力変数の名前が **message** の場合は、*$env:SNC_message* を使用してスクリプトの変数にアクセスします。*mid.powershell.command.script.parameter_passing* パラメーターの詳細については、「MID サーバーパラメーター」を参照してください。

予約済みの変数

[リモート処理タイプ] が **[MID** サーバーで実行するか、スクリプトでリモートセッションを確立します] の場合、次の変数をスクリプトで使用できます。予約済みの変数をカスタムの入力変数名として使用することはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

予約済み変数	説明
$computer	接続エイリアス レコードで定義されているホスト IP アドレス。
$cred	接続レコードで定義されている認証情報が含まれている認証情報オブジェクト。この変数は、認証情報パラメーターをサポートしている PowerShell コマンドレットで使用します。たとえば、`New-PSSession -credential $cred` などと使用します。
$log_info	*mid.property.powershell.log_info* プロパティを true に設定している場合、ログ情報を PowerShell スクリプトに追加します。

次の変数名は内部処理用に予約されているため、入力変数として使用しないでください。

- スクリプト
- *useCred*
- *isMid*
- *isDiscovery*
- *debug*
- *user*
- パスワード
- *executingScriptDirectory*
- *midScriptDirectory*
- *hresult*

PowerShell ステップのログ記録を構成

PowerShell ステップのスクリプトにログメッセージを追加します。ログ記録とデバッグを改善するために、ログレベルを使用します。

始める前に

スクリプトにログメッセージを追加するには、*Write-SNCLog* 機能を使用する必要があります。この機能は IH\Logging.psm1 モジュールで定義されています。PSScript.ps1 を使用してこのモジュールをインポートし、インラインスクリプトが *Write-SNCLog* にアクセスできるようにします。詳細については、「MID サーバーの PowerShell ファイル」を参照してください。

必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > **[MID サーバー]** > [プロパティ]に移動します。
2. *mid.property.powershell.log_info* を **true** に設定します。
   このプロパティは、ログ記録を有効または無効にします。詳細については、「PowerShell ログプロパティ」を参照してください。
3. *mid.property.powershell.ih.log_level* を希望のログレベルに設定します。
   ログレベルにより、メッセージをログに記録するために必要なしきい値を指定します。指定されたレベル以上のメッセージがログに記録されます。たとえば、このプロパティが [WARN] に設定されている場合、WARN または ERROR レベルのメッセージがログに記録されます。レベルが

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

INFO、DEBUG、または TRACE のメッセージは、ログに記録されません。次のレベルがあります。低いレベルから高いレベルの順に記載しています。

- TRACE
- DEBUG
- INFO
- WARN
- ERROR

デフォルト値は INFO です。

4. オプション: インスタンスのログを表示できるように、システムプロパティを設定します。
   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] > [プロパティ] の順に移動します。
   b. フローログに複製するシステムログエントリのログレベルを指定します。システムは、指定されたレベル以上のログエントリのみ複製し、**[INFO]** または **[DEBUG]** に設定します。

   (Optional) PowerShell スクリプトをビルドして実行した後、ログは MID エージェントログで利用可能になります。このプロパティを設定すると、インスタンスで直接ログを表示することもできます。

   このステップでは、*com.glide.hub.flow_engine.listener_trace.threshold* プロパティを設定します。フローエンジンのログエントリ [sys_flow_log] テーブルにログを複製します。

5. PowerShell スクリプトで、*Write-SNCLog* 機能を使用してログ メッセージとレベルを追加します。

Write-SNCLog 機能とパラメーター

名前	説明
Write-SNCLog 機能	PowerShell ステップのメッセージをログに記録します。*Write-SNCLog* には、*-Level* と *-Message* の 2 つのパラメーターがあります。どちらのパラメーターも必須ですが、パラメーターの名前は省略できます。名前を省略すると、位置に基づき、レベルとメッセージが決定されます。例： ◦ `Write-SNCLog -Level WARN -Message "log warning"` ◦ `Write-SNCLog WARN "log warning"` これらの例はどちらも、`WARN: log warning` をログに記録します。
-Level パラメーター	ログメッセージのレベルを指定します。有効な値は次のとおりです。 ◦ ERROR ◦ 警告 ◦ INFO ◦ DEBUG ◦ TRACE このパラメーターは必須です。
-Message パラメーター	ログに記録するメッセージを指定します。文字列として入力します。このパラメーターは必須です。

6. アクションまたはフローのビルドを続行した後、テストして実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
新しいログは MID エージェントログで利用可能になり、MID サーバーからダウンロードできます。詳細については、「MID サーバーのファイルのダウンロード」を参照してください。

インスタンスのログを表示するようにシステムプロパティを設定すると、フローエンジンのコンテキストレコードの [フローエンジンのログエントリ] タブでログを確認できます。詳細については、「フロー実行の詳細」を参照してください。

PowerShell ステップの認証情報のテスト

PowerShell ステップで設定された認証情報をテストします。残りのステップをビルドする前に、認証情報が機能していることを確認します。

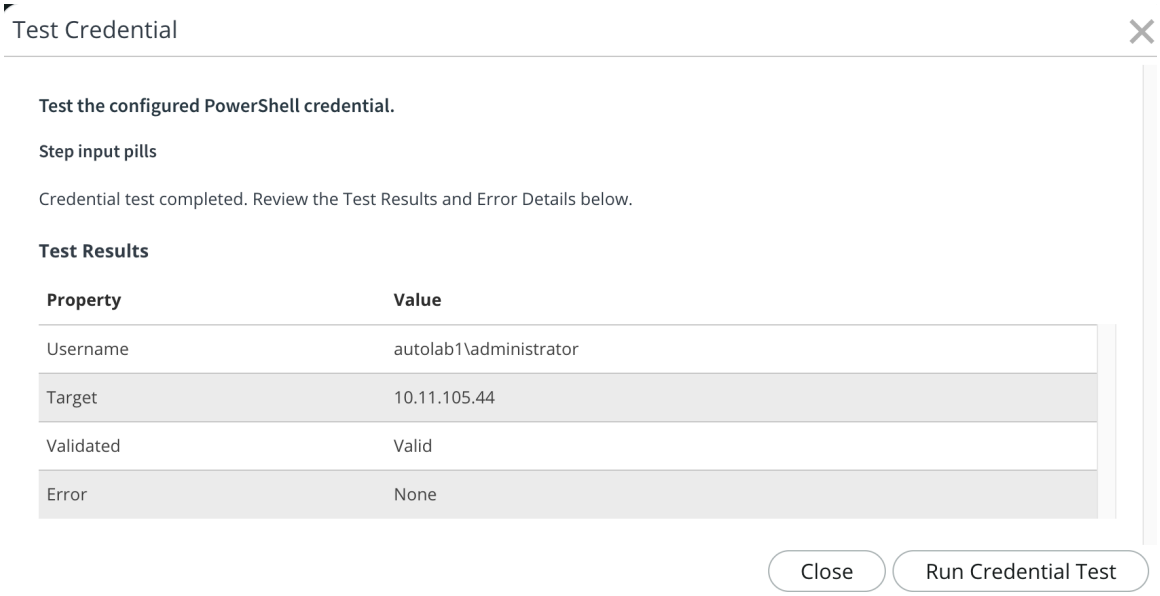
始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. テストする認証情報を持つ PowerShell ステップでアクションを開きます。
   既に作業している PowerShell ステップがない場合は、新しい PowerShell ステップを使用してアクションを作成できます。
3. [接続の詳細] セクションで、接続情報を入力します。
4. **[PowerShell ステップのテスト (Test PowerShell Step)]** をクリックします。
5. ステップが入力としてデータピルを持つ場合は、[ステップ入力ピル] フィールドに必要な入力を指定します。
6. [テストを実行] をクリックします。

タスクの結果
テストが完了すると、テスト済みの認証情報に関する情報が [テスト結果] セクションに表示されます。このセクションには、認証情報のユーザー名とターゲット、その検証ステータス、およびエラーメッセージ (存在する場合) が表示されます。

PowerShell ステップでの認証情報テストのサンプル結果



REST ステップ

送信 REST Web サービス要求を外部システムに送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: REST ステップ 基本システムでは使用できず、ServiceNow® 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。 必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。

送信 REST Web サービス は、REST アーキテクチャをサポートする Web サービス サーバー上でデータの取得、作成、更新、または削除を可能にするプラットフォーム機能です。

ロールと使用可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

フィールド

フィールド	説明
接続	使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて 」を参照してください。
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「 資格情報、接続、およびエイリアス 」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 **注:** このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス 」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID を使用	ServiceNow® MID サーバー を使用して REST ステップ を実行するためのオプション。**[MID** アプリケーション] フィールドと [機能] フィールドを表示するには、このチェックボックスを選択します。 注: システムは、送信 Web サービスのログ記録 と同じ方法で MID サーバー経由で送信された REST 要求、応答、およびパラメーターのランタイムデータをログに記録しません。代わりに、フロー実行の詳細 でこのデータを表示できます。
ベース URL	REST 要求のベース URL。 • [接続エイリアスを使用] を選択した場合、このフィールドにはエイリアスに関連付けられたベース URL が表示されます。ベース URL を上書きするには、ロックアイコン ( ) をクリックして独自の URL を入力します。 • [インラインで接続を定義] を選択した場合は、接続のベース URL を入力します。
REST ステップをテスト	REST ステップをテストするボタン。テストするには、**[REST** ステップをテスト] ボタンを選択します。必要な入力値を入力して [テストを実行] ボタンを選択します。テストの実行後、ステップの出力またはエラーメッセージがテストウィンドウの [テスト結果] セクションに表示されます。
接続タイムアウト	システムがホスト接続の成功を待機するミリ秒数。この間にステップが正常に接続されない場合、接続要求はタイムアウトします。[インラインで接続を定義] を選択した場合は、接続のタイムアウト値を入力します。システムのデフォルトの接続タイムアウト値を使用するには、このフィールドを空のままにします。 注: 接続が古くなる可能性があるため、[接続タイムアウト] 値をゼロに設定しないでください。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] のチェックがオンの場合に利用可能です。
MID アプリケーション	選択対象となるために MID サーバー がサポートする必要がある機能です。選択した機能をサポートする MID サーバー からアクションステップが実行されます。 このフィールドは、接続リスト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	から [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] チェックボックスがオンになっており、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	選択対象となるために MID サーバー がサポートする必要がある機能です。選択した機能をサポートする MID サーバー からアクションステップが実行されます。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] チェックボックスがオンになっており、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] チェックボックスがオンになっており、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] チェックボックスがオンになっており、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
ビルド要求	要求を手動で作成したり、OpenAPI 仕様をインポートしたり、REST メッセージをインポートしたりするオプション。 • 手動：アクション入力を作成し、REST ステップフォームに手動で入力します。 • **OpenAPI** 仕様から **(From OpenAPI specification)**：OpenAPI 仕様をインポートしてアクション入力を生成し、REST ステップフォームを完了します。詳細については、「REST ステップでの OpenAPI サポート」を参照してください。 • **[REST** メッセージから]：プラットフォーム REST メッセージをインポートします。詳細については、「REST ステップへの REST メッセージのインポート」を参照してください。
API ソース	要求の作成に使用する OpenAPI 仕様を選択するオプション、または **[OpenAPI** をインポート **(Import OpenAPI)]** を選択して新しい OpenAPI 仕様をインポートするオプション。YAML または JSON への URL を指定するかコンテンツをコピーして貼り付けて、仕様をインポートできます。 **注:** このフィールドは、[ビルド要求] リストから **[OpenAPI** 仕様から] を選択した場合に使用可能です。
API 操作	操作をリストから選択するオプション。利用可能な操作は、OpenAPI 仕様の **[API** ソース **(API Source)]** フィールドで提供されます。 **注:** このフィールドは、[ビルド要求] リストから **[OpenAPI** 仕様から] を選択した場合に使用可能です。
REST メッセージ	インポートする REST メッセージの名前。リストから REST メッセージを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: このフィールドは、[ビルド要求] リストから **[REST** メッセージから] を選択した場合に使用可能です。
REST メッセージ関数	REST メッセージからインポートする関数の名前。使用可能なオプションは、選択した REST メッセージに関連付けられた HTTP メソッドによって決まります。 注: このフィールドは、[ビルド要求] リストから **[REST** メッセージから] を選択した場合に使用可能です。
REST メッセージをインポート	REST メッセージをインポートするボタン。 注: このフィールドは、**[REST** メッセージ] フィールドから REST メッセージを選択する際に使用できます。
リソース パス	リソースのパス
HTTP メソッド	要求を処理するために使用する HTTP メソッド • **GET** • **POST** • **PUT** • **PATCH** • 消去
クエリ パラメーター	REST エンドポイントに渡す名前と値のペア。これらのパラメーターは手動で作成することも、入力変数をパラメーター フィールドにドラッグして値を割り当てることもできます。 重複するクエリパラメーター名を含む REST ステップ要求をサポートします。重複するクエリパラメーター名を含む REST 要求を作成すると、フローデザイナー は定義した順序と同じ順序でクエリパラメーターを要求に追加します。 注: OpenAPI 仕様をインポートする際は、システムは仕様にあるするすべてのパラメーターとヘッダーを REST ステップに追加します。最後の REST ステップの値を確認して、要求に送信しないパラメーターを削除します。たとえば API が JSON と XML の両方のコンテンツタイプヘッダーを受け入れた場合は、システムは両方のヘッダーを REST ステップに追加します。応答で受け取るコンテンツタイプに応じて、いずれかのヘッダーを削除します。
ヘッダー	要求と一緒に送信するヘッダー。手動でヘッダーを作成するか、入力変数をパラメーター フィールドにドラッグして値を割り当てることもできます。 重複する要求ヘッダーを含む REST ステップ要求をサポートします。重複する要求ヘッダーを含む REST 要求を作成すると、ヘッダーが定義した順序と同じ順序で送信されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: OpenAPI 仕様をインポートする際は、システムは仕様にあるするすべてのパラメーターとヘッダーを REST ステップに追加します。最後の REST ステップの値を確認して、要求に送信しないパラメーターを削除します。たとえば API が JSON と XML の両方のコンテンツタイプヘッダーを受け入れた場合は、システムは両方のヘッダーを REST ステップに追加します。応答で受け取るコンテンツタイプに応じて、いずれかのヘッダーを削除します。
要求タイプ	要求の形式。次のオプションがあります。 • [テキスト]：JSON、XML、その他のテキスト形式の要求。 • [バイナリ]：バイナリファイル形式の要求。 • [マルチパート]：複数のコンテンツタイプで構成される要求。 • **[URL** エンコードフォーム]：URL エンコードクエリの要求。 注: このフィールドは、**HTTP** メソッド が **POST**、**PUT**、**PATCH**、または **DELETE** の場合に編集できます。
要求本体 [テキスト]	JSON 形式または XML 形式の要求の本体。フロー実行の詳細には、応答の本体が、埋め込みテキストビューアーへのリンクか、応答が含まれている添付レコードの sys_id のどちらかとして表示されます。 注: このフィールドは、[要求タイプ] リストから [テキスト] を選択した場合に編集可能です。
添付ファイル	要求を含む添付ファイルレコード。前のステップでこのレコードを検索または作成して、入力変数として定義できます。スクリプトステップで JSONStreamingBuilder および XMLStreamingBuilder API を使用して作成します。 注: このフィールドは、[要求タイプ] リストから [バイナリ] を選択した場合に使用できます。
名前、パートタイプ (Part Type)、値	マルチパート要求のコンテンツ。パートごとに、フィールドを個別に使用するか、またはすべてのパートでインラインスクリプトを使用して、パートの名前、パートタイプ、および値を指定します。マルチパートの値を指定するには、スクリプト切り替えアイコン ( ) をクリックしてスクリプトを編集します。インラインスクリプトの詳細については、「インラインスクリプト」を参照してください。 • [名前]：パートの名前。任意の有効な文字列にすることができます。 • パートタイプ：パートのタイプ。[テキスト] または [ファイル] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ [テキスト]：パートのテキスト。[テキスト] を選択すると、コンテンツタイプを指定できます。 ◦ [ファイル]：パートのファイル。[ファイル] を選択した場合、[値] はコンテンツが含まれている添付ファイルレコードの sys_id にする必要があります。前のステップでこのレコードを検索するか、レコードを入力値として定義することができます。[ファイル] を選択すると、ファイル名とコンテンツタイプを指定できます。 ▪ [ファイル名を設定]で、[添付ファイルから **(From Attachment)]** を選択して添付レコードのファイル名を使用するか、[ファイル名の入力から] を選択して独自のファイル名を入力します。 ▪ [コンテンツタイプを設定] で、[添付ファイルから **(From Attachment)]** を選択して添付レコードのコンテンツタイプを使用するか、[コンテンツタイプの入力から] を選択して独自のコンテンツタイプを入力します。 • [値]：パートのコンテンツ。テキストの場合、値はテキストコンテンツです。ファイルの場合、値はコンテンツが含まれた添付ファイルレコードの sys_id です。 **注:** これらのフィールドは、[要求タイプ] リストから [マルチパート] を選択した場合に使用できます。
名前、値	URL エンコード フォームの要求のコンテンツ。フィールドを個別に使用するか、またはすべてのパートでインラインスクリプトを使用して、URL エンコードされた要求の各パートを名前と値のペアで指定します。フォーム URL エンコードの値のインラインスクリプトを指定するには、スクリプト切り替えアイコン ( ) をクリックしてスクリプトを編集します。インラインスクリプトの詳細については、「インラインスクリプト」を参照して ください。 **注:** このフィールドは、[要求タイプ] リストから [フォーム **URL** エンコード] を選択した場合に使用できます。
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。 接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このチェックボックスは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。
添付ファイルとして保存	応答をレコードとして添付ファイル [sys_attachment] テーブルに保存するかどうかを指定するオプション。
添付ファイル名	REST 応答によって作成される添付ファイルの名前。たとえば、`rest-response.txt` などです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: このフィールドは、 [添付ファイルとして保存] が選択されている場合に使用できます。
添付ファイルのレコード	添付ファイルが関連付けられているターゲットレコード。レコードタイプのデータピルである必要があります。たとえば、特定のインシデント レコードなどです。前のステップでこのレコードを検索するか、レコードを入力変数として定義することができます。フロー実行の詳細には、関連するレコードの sys_id が表示されます。 注: このフィールドは、 [添付ファイルとして保存] が選択されている場合に使用できます。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

REST 応答サイズの制限

デフォルトでは、添付ファイルとして保存されていない REST 応答のサイズが 5 MB に制限されます。この制限を超える直接の REST 応答はエラーとなります。応答のサイズを大きくするには、応答を添付ファイルとして保存するか、応答サイズの上限を *glide.pf.rest.response_payload_max_size* システムプロパティで増やします。このシステムプロパティは最大値として 10240 KB をサポートしており、これにより REST 応答のサイズが 10 MB に制限されます。

REST 応答を解析中

REST API 呼び出しは、応答本文でデータを返します。応答本文のデータは通常、JSON または XML 形式で構造化されます。スクリプトステップを使用して、構造化データを解析して変数にし、アクションまたはフローの他の場所で使用することができます。XML 形式の応答本文を解析するためのXML パーサーステップもあります 。

応答から抽出されたデータを取得する一般的な戦略は、次のとおりです。

1. 応答本文を確認して、返すデータを選択します。
2. スクリプトステップで入力変数と出力変数を作成します。
   - REST ステップから応答本文で渡す入力変数を作成します。
   - 応答からデータを返す出力変数を作成します。
3. データを解析してマッピングするためのスクリプトを作成します。
   - スクリプトステップで `JSON.parse()` メソッドを使用して、JSON 応答本文を解析します。
   - 解析されたデータを出力変数にマッピングします。
4. 出力変数のアクション出力を作成して、データをフローで使用できるようにします。

詳細な例については、統合ハブの REST 開発者トレーニングの REST 応答の解析に関するセクションを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

REST ステップへの REST メッセージのインポート

既存のプラットフォーム REST メッセージから REST ステップにデータを転送します。

始める前に

- このインポートは、フローデザイナー の REST ステップ内から実行されます。REST ステップを作成するには、アクションを作成 して、それに REST ステップを追加します。
- REST ステップでは認証の詳細に、接続および資格情報エイリアスを使用します。REST メッセージが認証の詳細情報を格納している場合は、そのための接続および資格情報エイリアスを作成します。詳細については、「接続および資格情報エイリアスの作成 」を参照してください。
- 必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。
2. フローデザイナー ランディングページで、[アクション] を選択し、インポートに使用する REST ステップを含むアクションを開きます。
3. REST ステップで、[ビルド要求] フィールドを見つけて **[REST** メッセージから] を選択します。
4. **[REST** メッセージ] フィールドで、インポートする REST メッセージを選択します。
5. **[REST** メッセージ関数] フィールドで、関数を選択します。
   使用可能なオプションは、選択した REST メッセージに関連付けられた HTTP メソッドによって決まります。
6. **[REST** メッセージをインポート] ボタンを選択します。
   [ServiceNowREST メッセージをインポート] ウィンドウには、選択した REST メッセージのデータが表示されます。
7. [ステップを構成] ボタンを選択します。

タスクの結果

REST メッセージのデータが REST ステップにロードされます。REST メッセージに対する今後の変更は、派生 REST ステップにコピーされません。2 つのバージョンの REST ロジックを維持するのではなく、REST ステップの維持と更新のみを行ってください。

インポートされた REST メッセージのいずれかの関数で MID サーバーが設定されている場合は、[接続の詳細] セクションの **[MID** を使用] チェックボックスがオンになり、MID サーバーにデータピルが提供されます。

次のタスク

他の必須フィールドに入力し、**[REST** ステップをテスト **(Test REST step)]** ボタンを使用してステップをテストします。

REST ステップでの OpenAPI サポート

OpenAPI 仕様からインポートされた情報を含む REST ステップフィールドとアクション入力を入力します。YAML または JSON への URL を指定するかコンテンツをコピーして貼り付けて、仕様をインポートします。

利点

REST ステップでの OpenAPI サポートには、次のようなメリットがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- OpenAPI 仕様からインポートした情報を使用して、REST ステップ操作、HTTP メソッド、パラメーター、要求本文、パス、およびヘッダーを構成します。
- フローデザイナーインターフェイスを離れずに利用可能な API 操作を確認します。
- 有効な要求を OpenAPI サービスに送信するために REST ステップに必要な入力を生成し、REST ステップの正しい場所に追加します。

注: 要求を送信する前に、OpenAPI 仕様からインポートされた REST ステップ値を必ず確認してください。API が必要としないパラメーター、ヘッダー、および入力を削除します。

生成された入力

OpenAPI 仕様をインポートすると、必要な入力がシステムによって作成され、必要に応じて REST ステップフォームに追加されます。実行時に、システムはアクションに提供された入力値を含む REST 要求を送信します。たとえば、API が要求で渡される name パラメーターを必要とする場合、システムは **name** 入力を作成し、それを REST ステップに追加します。アクションをフローに追加すると、name がアクションへの入力になります。

OpenAPI データタイプが フローデザイナー データタイプにマップされます。たとえば、OpenAPI 仕様でユーザーオブジェクトが必要な場合、システムは複雑なデータオブジェクトを入力として作成します。詳細については「複合データ」を参照してください。

仕様サイズの制限

デフォルトでは、システムは最大 10 MB の OpenAPI 仕様をインポートできます。インポートサイズを増やすには、*glide.rest.openapi.max_request_size* システムプロパティを更新します。最大値は 100 MB です。

仕様の管理

REST ステップでオプションを選択して、OpenAPI 仕様をインポートします。詳細については、「REST ステップ」を参照してください。OpenAPI 仕様をインポートすると、OpenAPI [sys_openapi] テーブルにレコードが作成されます。このテーブルから仕様レコードを直接表示または削除できます。仕様を更新するには、仕様を削除して再度インポートします。

デザインの検討

これらの考慮事項に注意して、OpenAPI 仕様から REST ステップを作成します。

不要な REST ステップパラメーターを削除する

OpenAPI 仕様をインポートする際は、システムは仕様にあるするすべてのパラメーターとヘッダーを REST ステップに追加します。最後の REST ステップの値を確認して、要求に送信しないパラメーターを削除します。たとえば API が JSON と XML の両方のコンテンツタイプヘッダーを受け入れた場合は、システムは両方のヘッダーを REST ステップに追加します。応答で受け取るコンテンツタイプに応じて、いずれかのヘッダーを削除します。

入力ラベルを分かりやすいものにする

REST ステップに必要な入力ラベルが明確でわかりやすいものであることを確認してください。クリアラベルを使用すると、フローデザイナーは、フローでアクションを使用するときに必要な入力を簡単に理解できます。

フローデザイナーの設定を必要としない入力を削除する

OpenAPI 仕様をインポートする際は、システムは仕様にあるするすべての入力をアクション入力セクションに追加します。フローデザイナーが設定する必要のない入力を削除するたとえば、REST ステップ変数がアクションの別のステップから値を受け取る場合、アクションの入力は必要ありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

API 操作の変更を避ける

[API 操作] フィールドの値を変更すると、その操作に依存するすべての値が削除されます。REST ステップフォームで OpenAPI 仕様の値を設定してから操作を変更すると、設定は保存されません。ユーザーが手動で入力した値は影響を受けません。

制限事項

これらの制限事項により OpenAPI 仕様から REST ステップを作成します。

要求本文メディアタイプ

要求本文は、JSON および XML ベースのメディアタイプのみをサポートしています。インポートされた OpenAPI 仕様から選択された操作に異なるメディアタイプの要求本文が含まれている場合、システムはタイプ文字列のデータピルを [要求本文] フィールドに追加します。

OpenAPI 3.0 コンポーネント

OpenAPI 3.0 では、API をさらに詳細に記述するための新しいコンポーネントが Swagger 2.0 に追加されています。REST ステップの OpenAPI サポートは、これらのコンポーネントの一部をサポートしていますが、すべてをサポートしているわけではありません。現在、REST ステップはこれらのコンポーネントをサポートしていません。

- スキーマオブジェクト：oneOf、anyOf プロパティ
- 識別子オブジェクト
- 情報オブジェクト：termsOfService、連絡先、ライセンスフィールド
- サンプルオブジェクト
- リンクオブジェクト
- コールバックオブジェクト
- セキュリティスキームオブジェクト
- セキュリティ要件オブジェクト
- タグオブジェクト
- 外部ドキュメントオブジェクト
- サーバーオブジェクト
- 仕様拡張
- 再帰参照

これらのコンポーネントの詳細については、OpenAPI ドキュメントを参照してください。「OpenAPI 仕様」を参照してください。

SOAP ステップ

アクションデザイナーが外部システムへの送信 SOAP Web サービス要求を送信できるようにします。

注: SOAP ステップ 基本システムでは使用できず、ServiceNow® 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。 必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと使用可用性

- ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。
- 次の Web サービスタスクを実行するには、アクションデザイナーに web_service_admin ロールが必要です。
  - WSDL の選択
  - 新しい WSDL のロード
  - WS セキュリティポリシーの選択
- ServiceNow® MID サーバー では、WS セキュリティポリシーはサポートされません。

フィールド

フィールド	説明
接続の詳細	
接続	使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 注: このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。 注: このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID を使用	MID サーバー を使用して SOAP ステップ を実行するオプション。**[MID** 選択]、**[MID** アプリケーション]、および [機能] フィールドを表示するには、このチェックボックスを選択します。 注: このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
エンドポイント	SOAP 要求の URL エンドポイント。[接続エイリアスを使用] を選択した場合、このフィールドは読み取り専用になり、エイリアスに関連付けられたエンドポイント URL が表示されます。[インラインで接続を定義] を選択した場合は、接続のエンドポイント URL を入力します。
SOAP ステップをテスト	SOAP ステップをテストするボタン。テストするには、**[SOAP** ステップをテスト **(Test SOAP Step)]** ボタンを選択します。必要な入力値を入力して [テストを実行] ボタンを選択します。テストの実行後、ステップの出力またはエラーメッセージがテストウィンドウの [テスト結果] セクションに表示されます。
接続タイムアウト	システムがホスト接続の成功を待機するミリ秒数。この間にステップが正常に接続されない場合、接続要求はタイムアウトします。[インラインで接続を定義] を選択した場合は、接続のタイムアウト値を入力します。システムのデフォルトの接続タイムアウト値を使用するには、このフィールドを空のままにします。 注: 接続が古くなる可能性があるため、[接続タイムアウト] 値をゼロに設定しないでください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] のチェックがオンの場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、**[MID** を使用] チェックボックスがオンになっており、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
要求の詳細	
エンベロープの作成	SOAP エンベロープを作成するときに使用する方法。 • **WSDL** から **(From WSDL)**：このオプションを選択すると、**[WSDL** の選択] および [操作] フィールドが表示されます。 • 手動：WSDL テキストを手動で入力するか貼り付けるには、このオプションを選択します。
WSDL の選択	SOAP エンベロープの作成に使用する WSDL。既存の WSDL レコードを選択するか、[新しい **WSDL** をロード **(Load New WSDL)]** をクリックし、WSDL ファイルをダウンロードするか手動で入力します。選択した WSDL により、[操作]、**[SOAP** アクション]、および **[SOAP** エンベロープ] のフィールドに値が入力されます。 **注:** このフィールドは、[エンベロープの作成 (Build Envelope)] リストから **[WSDL** から **(From WSDL)]** を選択した場合に使用できます。
新しい WSDL をロードします。	WSDL ファイルをダウンロードするか手動で入力するオプション。
運用	選択した WSDL から実行する操作。各 WSDL には、利用可能な操作の独自のリストがあります。
SOAP アクション	SOAP アクションを実行する URL。[エンベロープの作成 **(Build Envelope)]** を **[WSDL** から **(From WSDL)]** に設定すると、このフィールドは

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	読み取り専用となり、SOAP アクションを実行する URL が表示されます。[エンベロープの作成 **(Build Envelope)]** を [手動] に設定した場合は、SOAP アクションを実行する URL を入力します。
要求タイプ	要求の形式。次のオプションがあります。 • [テキスト]：JSON、XML、その他のテキスト形式の要求。 • [バイナリ]：バイナリファイル形式の要求。
SOAP エンベロープ	エンドポイントに送信する XML テキスト。[エンベロープの作成 **(Build Envelope)]** を **[WSDL から (From WSDL)]** に設定すると、選択した [操作] に必要な XML が追加されます。[エンベロープの作成 **(Build Envelope)]** を [手動] に設定した場合は、使用する XML テキストを入力します。適切な SOAP エンベロープ要素には、レコードの値を入力します。たとえば、`<short_description>`要素にはインシデントの簡単な説明を入力します。 **注:** このフィールドは、[要求タイプ] が [テキスト] の場合に使用可能です。
添付ファイル	要求を含む添付ファイルレコード。前のステップでこのレコードを検索または作成して、入力変数として定義できます。スクリプトステップで JSONStreamingBuilder および XMLStreamingBuilder API を使用して作成します。 **注:** このフィールドは、[要求タイプ] が [バイナリ] の場合に使用可能です。
エンベロープをリセットします。	SOAP エンベロープのすべての手動変更を破棄するオプション。SOAP エンベロープを元のステータスに復元するには、このチェックボックスをオンにします。 **注:** このフィールドは、[エンベロープの作成 (Build Envelope)] リストから **[WSDL から (From WSDL)]** を選択した場合に使用できます。
新しい WSDL	
名前	作成する WSDL レコードの名前。
メソッドをインポートします。	WSDL を入力する方法。 • **URL からダウンロード (Download from URL)**：**[WSDL URL]**、[ユーザー名]、および [パスワード] フィールドを表示して、外部ソース、一般的には Web サービスプロバイダー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	から WSDL を取得するには、これを選択します。 • **WSDL** コンテンツを手動で入力：**[WSDL** コンテンツ] フィールドを表示して WSDL テキストを手動で入力するか貼り付けるには、これを選択します。
WSDL の URL	SOAP Web サービスの URL。 注: このフィールドは、[インポート方法 (Import Method)] リストから **[URL** からダウンロード **(Download from URL)]** を選択すると使用可能になります。
ユーザー名	SOAP Web サービスで認証するユーザー名。 注: このフィールドは、[インポート方法 (Import Method)] リストから **[URL** からダウンロード **(Download from URL)]** を選択すると使用可能になります。
パスワード	SOAP Web サービスで認証するパスワード。ユーザーインターフェイスではパスワードが常にマスクされ、プレーンテキストでエクスポートすることが防止されます。 注: このフィールドは、[インポート方法 (Import Method)] リストから **[URL** からダウンロード **(Download from URL)]** を選択すると使用可能になります。
WSDL コンテンツ	SOAP Web サービスとそのオペレーションを説明する XML ドキュメント。 注: このフィールドは、[インポート方法 (Import Method)] リストから **[WSDL** コンテンツを手動で入力] を選択すると使用可能になります。
インポート	SOAP Web サービスの WSDL をインスタンスに追加するためのオプション。
WS-Security を使用	
WS セキュリティ ポリシーの有効化	SOAP Web サービスをセキュリティ方針に制限するためのオプション。このチェックボックスをオンにすると、[ポリシー] フィールドが表示されます。
ポリシー	Web サービス接続を制限するために使用するポリシーレコード。既存のポリシーレコードを選択します。
再試行ポリシー	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。 接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このチェックボックスは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。
詳細オプション	
ヘッダー	HTTP ヘッダーとして SOAP メッセージに含める名前と値のペア。ヘッダーを追加するには、プラスアイコン をクリックします。HTTP ヘッダーごとに [名前] と [値] を追加します。
ヘッダー > 空の場合省略	値が空または null である場合にヘッダーを除外するオプション。 注: このチェックボックスは、下向き矢印をクリックして詳細オプションを表示した後に使用可能になります。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

SOAP 応答サイズの制限

SOAP 応答のサイズは 5 MB に制限されています。この制限を超える直接の SOAP 応答はエラーとなります。応答のサイズを大きくするには、応答サイズの上限を *glide.pf.soap.response_payload_max_size* システムプロパティで増やします。このシステム プロパティは最大値 10 MB をサポートしています。

OpenAPI/Postman ステップ

サードパーティの送信 REST Web サービスの OpenAPI 仕様または Postman コレクションをインポートし、Web サービスとの統合を構築します。基になっている REST API 操作の要求の詳細は、OpenAPI 仕様または Postman コレクションから派生しています。

JSON 出力応答本文では、OpenAPI 仕様または Postman コレクションから複合データオブジェクト出力が作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: OpenAPI/Postman ステップ 基本システムでは使用できず、ServiceNow® 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。 必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。

ロールと使用可用性

アクションデザイナーのアクションステップとして使用できます。action_designer と open_api_admin、または admin のロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

フィールド

フィールド	説明
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。action_designer と connection_admin、または admin のロールを持つユーザーは、関連する接続エイリアスレコードを選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。
ベース URL	REST 要求の接続エイリアスからのベース URL です。
詳細ビューの切り替え	要求の詳細を表示または非表示にするオプション。有効にすると、要求のリソースパス、HTTP メソッド、クエリパラメーター、ヘッダー、およびアクション出力を表示および設定できます。
API ソース	利用可能なインポート済み API のリストから API を選択するオプション。
インポート仕様	OpenAPI (v2.0 または v3.0) 仕様または Postman コレクション (バージョン 2.0.0 または 2.1.0) をインポートできるオプション。仕様またはコレクションに対する URL および認証情報を指定するか、JSON コンテンツを手動でコピーして貼り付けると、OpenAPI 仕様または Postman コレクションをインポートできます。
API 操作	操作をリストから選択するオプション。利用可能な操作は、**[API** ソース] フィールドの OpenAPI 仕様または Postman コレクションで指定されます。
添付ファイルとして保存	応答をレコードとして添付ファイル [sys_attachment] テーブルに保存するかどうかを指定するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
リソースパス	リソースのパス
HTTP メソッド	要求を処理するために使用する HTTP メソッド • **GET** • **POST** • **PUT** • **PATCH** • 消去
クエリ パラメーター	REST エンドポイントに渡す名前と値のペア。これらのパラメーターは手動で作成することも、入力変数をパラメーター フィールドにドラッグして値を割り当てることもできます。 重複するクエリパラメーター名を含む REST ステップ要求をサポートします。重複するクエリパラメーター名を含む REST 要求を作成すると、フローデザイナー は定義した順序と同じ順序でクエリパラメーターを要求に追加します。 **注:** OpenAPI 仕様をインポートする際は、システムは仕様にあるするすべてのパラメーターとヘッダーを REST ステップに追加します。最後の REST ステップの値を確認して、要求に送信しないパラメーターを削除します。たとえば API が JSON と XML の両方のコンテンツタイプヘッダーを受け入れた場合は、システムは両方のヘッダーを REST ステップに追加します。応答で受け取るコンテンツタイプに応じて、いずれかのヘッダーを削除します。
ヘッダー	要求と一緒に送信するヘッダー。手動でヘッダーを作成するか、入力変数をパラメーター フィールドにドラッグして値を割り当てることもできます。 重複する要求ヘッダーを含む REST ステップ要求をサポートします。重複する要求ヘッダーを含む REST 要求を作成すると、ヘッダーが定義した順序と同じ順序で送信されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: OpenAPI 仕様をインポートする際は、システムは仕様にあるするすべてのパラメーターとヘッダーを REST ステップに追加します。最後の REST ステップの値を確認して、要求に送信しないパラメーターを削除します。たとえば API が JSON と XML の両方のコンテンツタイプヘッダーを受け入れた場合は、システムは両方のヘッダーを REST ステップに追加します。応答で受け取るコンテンツタイプに応じて、いずれかのヘッダーを削除します。
添付ファイル	要求を含む添付ファイルレコード。前のステップでこのレコードを検索または作成して、入力変数として定義できます。スクリプトステップで JSONStreamingBuilder および XMLStreamingBuilder API を使用して作成します。 注: このフィールドは、[要求タイプ] リストから [バイナリ] を選択した場合に使用できます。
再試行ポリシーを有効化	再試行ポリシーを有効にするオプション。詳細については、「再試行ポリシー」を参照してください。
エイリアスのデフォルトポリシーを上書き	デフォルトの再試行ポリシーを上書きするオプション。 接続リストの [インラインで接続を定義] が選択されている場合は、このチェックボックスは適用されません。
再試行ポリシー	接続エイリアスに関連付けられているデフォルトの再試行ポリシー。エイリアスのデフォルトポリシーを上書きが選択されている場合は、デフォルトの再試行ポリシーを上書きして要件に基づいて別の既存の再試行ポリシーを選択できます。

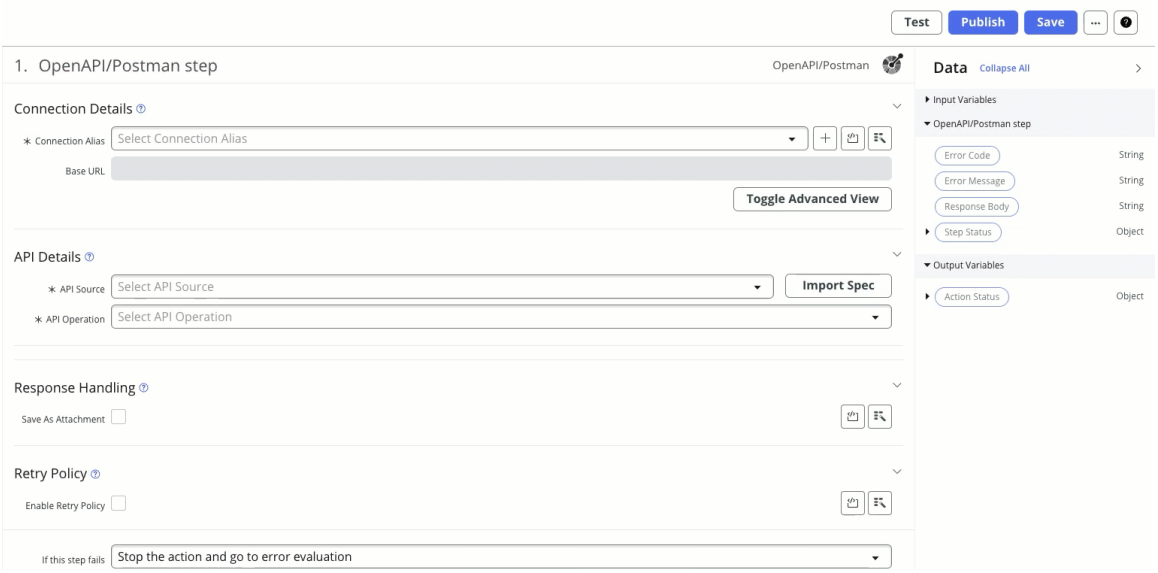
アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

既知の制限

これらの制限事項により OpenAPI 仕様から OpenAPI ステップを作成します。

要求本文メディアタイプ

要求本文は、JSON のメディアタイプのみをサポートしています。

> **注:** OpenAPI スキーマに additionalProperties プロパティがある場合、またはプロパティがひとつもない場合は、文字列タイプの出力オブジェクトが作成されます。

OpenAPI 3.0 コンポーネント

OpenAPI 3.0 では、API をさらに詳細に記述するための新しいコンポーネントが Swagger 2.0 に追加されています。OpenAPI ステップの OpenAPI サポートは、これらのコンポーネントの一部をサポートしていますが、すべてをサポートしているわけではありません。現在、OpenAPI ステップはこれらのコンポーネントをサポートしていません。

- スキーマオブジェクト：additionalProperties プロパティ
- 識別子オブジェクト
- 情報オブジェクト：termsOfService、連絡先、ライセンスフィールド
- サンプルオブジェクト
- リンクオブジェクト
- コールバックオブジェクト
- セキュリティスキームオブジェクト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- セキュリティ要件オブジェクト
- タグオブジェクト
- 外部ドキュメントオブジェクト
- サーバーオブジェクト
- 仕様拡張
- 再帰参照

これらのコンポーネントの詳細については、OpenAPI ドキュメントを参照してください。「OpenAPI 仕様」を参照してください。

サポートされる操作の最大数

API 操作の数は、デフォルトで 500 に制限されています。ただし、システムプロパティ *glide.rest.openapi.max_operation_limit* を使用すると、操作の数を 1 ～ 1000 の範囲で設定できます。

SSH ステップ

SSH ステップでは、ServiceNow® MID サーバー を通じて SSH コマンドを外部 *nix システムで実行します。また、このステップでは、*nix システムのスクリプトとコマンドも保存されます。

注:

- このステップには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「Legal schedules - 統合ハブ overview」
- 統合ハブ は ServiceNow SSH のみをサポートしています。

ロールと使用可用性

SSH ステップは アクションデザイナー のアクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

入力のサニタイズ

すべてのユーザー入力をエスケープして、悪意のあるユーザーがターゲットサーバー上で任意のコマンドを実行する可能性を排除します。コマンドフィールドでデータピルを使用する前に、シェル引数のサニタイズ変換関数を使用して引数をサニタイズすることにより、データピルをエスケープして検証します。この変換関数カテゴリは、データピルがコマンド入力にドロップされると自動的に表示されます。

フィールド

フィールド	説明
接続の詳細	
接続	使用する接続のタイプ。 • [インラインで接続を定義]：アクションステップ内の接続情報を定義します。 • [接続エイリアスを使用]：接続エイリアステーブルを使用して接続情報を定義します。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなく

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	なります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。 接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアスについて」を参照してください。
接続エイリアス	アクションステップを実行するために使用される接続および資格情報エイリアスレコード。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報と接続情報プロファイルを構成する必要がなくなります。また、接続情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、接続リストから [接続エイリアスを使用] が選択されている場合に利用可能です。
認証情報エイリアス	アクションステップを実行するために使用される認証情報エイリアス。flow_designer または admin ロールを持つユーザーは、関連する接続レコードを作成または選択できます。エイリアスを使用することで、複数の環境でアクションを使用する場合に、複数の認証情報を構成する必要がなくなります。また、認証情報が変更された場合に、カスタムアクションを更新する必要がありません。接続と資格情報の詳細については、「 資格情報、接続、およびエイリアス」を参照してください。 認証情報の値は、データパネルにパスワード (双方向暗号化) データピルとして表示されます。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。 **注:** SSH ステップには、SSH プライベートキー認証情報または SSH 認証情報のいずれかをサポートする認証情報レコードが必要です。このステップは、**[MID** サーバーのサービスアカウントを使用する] オプションが選択されている Windows 資格情報をサポートしていません。
ホスト	ターゲットサーバーのホスト名または IP アドレス。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ポート	サーバーと通信するポート番号。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。 • **MID** サーバーの自動選択：MID サーバーを自動的に選択します。 • 特定の **MID Server**：選択した MID サーバーを使用します。 • 特定の **MID** クラスター：選択した MID クラスターを使用します。 このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されている場合に利用可能です。
MID アプリケーション	MID サーバー を使用して SSH ステップを実行するオプション。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
できること	MID サーバー の機能。**[SSH]** を選択します。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから **[MID** サーバーの自動選択] が選択されている場合に利用可能です。
MID サーバー	必要な MID サーバー のデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** サーバー] が選択されている場合に利用可能です。
MID クラスター	使用する MID クラスターのデータピル。このフィールドは、接続リストから [インラインで接続を定義] が選択されていて、MID 選択リストから [特定の **MID** クラスター] が選択されている場合に利用可能です。
SSH 構成	
作業ディレクトリ	コマンドが実行されるターゲットホスト上のオプションのターゲットディレクトリー。
コマンド	ターゲットディレクトリーで実行されるコマンド。コマンドに MID サーバー スクリプトを含めることもできます。詳細については、「詳細な SSH スクリプトオプション」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: コマンドフィールドでデータピルを使用する前に、前処理スクリプトステップを使用して引数をサニタイズすることにより、データピルをエスケープして検証します。詳細については、「エスケープクラスと関数を使用した引数のサニタイズ」を参照してください。
長期間	コマンドの実行がデフォルトの 120 秒よりも長くかかる場合に SSH 接続タイムアウトを無効にするオプション。選択すると、エンジンは完了するまで実行スレッドからデタッチします。
Sudo モード	スクリプトを実行する権限を昇格するオプション。

詳細については、「SSH 認証情報」を参照してください。

アクションエラー評価

このステップが失敗した場合

データタイプ：*Choice*

次のステップの実行を続行するか、エラー評価に進むオプション。カスタムアクションのエラー条件のステップのステータスコードやメッセージを使用するには、「アクションエラー評価」を参照してください。

SSH スクリプトの詳細オプション

ターゲットホストで MID サーバー スクリプトを実行するには、スクリプトのタイプを指定して、スクリプトの名前を `${syncFile()}` パラメーターに渡します。システムでは、このパラメーターを使用して、MID サーバー スクリプトファイル [ecc_agent_script_file] テーブル内の名前付きのスクリプトを見つけ、ターゲットホストで実行します。たとえば、bash スクリプトは次のように表すことができます。

```
bash ${syncFile("<MID script name>")} argument1 argument2 argument3
```

基本スクリプト (`main_script.bash`) は、ターゲットホスト上にある別のファイル (`.my_profile`) に関する別のスクリプト (`my_include.bash`) を参照できます。`${syncFile()}` パラメーターを使用して適切に実行するには、スクリプトと参照されたファイルの両方を MID サーバー に同期する必要があります。

```
source ${syncFile(".my_profile")}
cp ${syncFile("my_include.bash")} /usr/ssmith/my_include.bash
bash ${syncFile("main_script.bash")} one two three four five six
rm /usr/ssmith/my_include.bash
```

インラインコメントのある Python の例は、次のようになります。

```
set $LIB_DIR=/usr/bin;.
# Sync a file that is referenced inside myF5CreateLBPool.py
cp ${syncFile("specialFunctions.py")} ~/specialFunctions.py
# set up environment variables
source ${syncFile(".python_profile")}
# call script that sets up dependencies on the box from remote package
 repos
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
python ${syncFile("setupPythonDependencies.py")} pycontrol
# call a script that requires functions from the package as well as a
 function from myIncludedFile
python ${syncFile("myF5CreateLBPool.py")} snow_pool myActualValue
# user is responsible for their own cleanup
rm ~/specialFunctions.py
```

利用可能な MID サーバー スクリプトのリストを表示するには、**[MID** サーバー] > [スクリプトファイル] に移動します。

XML パーサーステップ

構造化されたデータを XML ペイロードからスクリプト記述不要で識別します。受信 XML 要素を、他のステップまたはアクションで使用できる複合オブジェクト出力にマッピングします。実行時に、XML ペイロードの値が複合オブジェクト出力に入力されます。

複合オブジェクトの詳細については、「複合データ」を参照してください。

注: このステップには 統合ハブ のサブスクリプションが必要です。詳細については、「Legal schedules - 統合ハブ overview 必要なプラグインを有効化した後、ステップは [統合] の下に表示されます。

ロールと可用性

ワークフロースタジオ アクションステップとして利用可能です。action_designer ロールを持つユーザーは、1 つ以上のアクションステップを使用してカスタムアクションを作成できます。

ペイロードサイズ制限

実行時に、XML パーサーステップ は最大 10 MB のペイロードをサポートします。ペイロードが大きい場合は、データストリーム アクションを作成します。詳細については、「データストリームアクションおよびページネーション」を参照してください。

設計時、XML パーサーステップ は最大 64,000 文字のサンプルペイロードをサポートしています。

フィールド

フィールド	説明
ソース	[ソースデータ] フィールドで、ソース XML データを含むデータピルを選択またはドラッグします。たとえば、REST ステップの 応答本文 データピルなどです。実行時に、データソースの値が複合オブジェクト出力に設定されます。 [ソースデータ] のスクリプトウィンドウで、サンプルペイロードを入力して複合オブジェクトを生成します。たとえば、ユーザーのリストを返す REST API ステップからの応答を解析する場合は、1 人のユーザーに期待される XML を入力します。このフィールドは、次の制限付きの XML を受け入れます。 • XML 名前空間は複合オブジェクトには適用されません。XML ファイル内の複数の名前空間はサポートされていないため、エラーメッセージが生成されます。 • 多次元アレイはサポートされていません。 • ハイフンやピリオドなど、一部の特殊文字はサポートされていません。二重コロン (::) は属性値ではサポートされていません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• 2 MB を超えるペイロードは保存できず、エラーメッセージが生成されます。ただし、大きなサンプルで作業する場合は、ステップを保存する前に複合オブジェクトを生成し、サンプルペイロードを削除することができます。
構造化ペイロードビュー	サンプルペイロードのビューを選択します。 • **Raw** (編集モード)：編集可能な XML を表示します。 • 構造化：XML をツリービューで表示します。ツリー内の要素をクリックして、要素 XPath をコピーします。[ターゲット] フィールドに複雑なデータを手動で作成する場合は、XPath をターゲットの XPath フィールドに貼り付けることができます。
ターゲットを生成	サンプルペイロードからステップの出力構造を作成するには、[ターゲットを生成] を選択します。出力データ構造が [ターゲット] フィールドに表示されます。各オブジェクトの子要素は、String タイプとして自動的に生成されます。または、[ターゲット] フィールドで要素を追加して、ターゲット複合オブジェクトを手動で作成することもできます。
ターゲット	XML ペイロードの出力構造を表示または編集します。[ターゲットを生成] をクリックして構造化出力を作成するか、手動で要素を追加します。 各要素には、[オブジェクトの編集] ビューに次の情報が含まれています。 • [ラベル]：データピルラベル。デフォルトでは、XML 要素の名前が使用されます。 • [名前]：出力要素の内部名。 **注:** 感嘆符、二重コロン、@ 記号、または数字のみは、要素名の有効な値ではありません。 • [タイプ]：データタイプ。String、Object、Array.String、または Array.Object である必要があります。最上位の要素は Object である必要があります。 • [必須]：要素を必須にするために切り替えます。これは String タイプの要素にのみ適用されます。 • [子アイテムを追加]：[子アイテムを追加] アイコン (⊕) を選択して、ネストされた子要素を追加します。 オブジェクトタイプの要素には、オブジェクトの構造を複合オブジェクトテンプレートとして保存できる [テンプレートとして保存] 詳細オプションが含まれています。このテンプレートを使用して、アクションの Object 出力のスキーマを定義できます。 文字列タイプの要素の場合、最大長、ヒント、およびデフォルト値を詳細オプションとして追加することもできます。 出力の構造を変更したら、[ターゲット] ヘッダーで [編集モードの終了] を選択します。[詳細入力の切り替え] アイコン (⌄ アイコン) を選択すると、**[XPath]** オプションを表示できます。 XPath は要素へのパスです。XPath を変更して、ソースデータ要素を複雑なデータ変数にマップする方法を変更します。複雑なデータ変数を手動で追加

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	する場合は、[ペイロードビュー] フィールドから XPath をコピーし、それを複雑なデータ変数の [XPath] フィールドに貼り付けて、正しい階層を確保することができます。条件付き XPath 式はサポートされていません。

REST API トリガー

受信 API 呼び出しからフローを開始するか、外部システムから Webhook を開始します。カスタムコードを記述または管理する必要なく、トリガー開始条件を構成します。

たとえば、サードパーティの IT チケット追跡システムがインスタンスに受信要求を送信したときに開始するフローを作成できます。その後、受信 REST 要求からのデータを解析して複合データオブジェクトにし、その値を使用してインスタンスでインシデントを開くことができます。

フローを有効にすると、作成したエンドポイントが作成した名前空間の API Explorer に表示されます。このページを使用して、サードパーティシステムで Webhook を定義したり、フローをテストしたりすることができます。

フロートリガーの詳細については、「フローデザイナー トリガータイプ」を参照してください。

注:

- REST API トリガーを使用して、外部システムからの REST コールからフローを開始します。同じインスタンスからスクリプトまたは API コールからフローを開始するには、サブフロー、コードスニペット、または フローデザイナー API を使用します。「API アクセス先：フローデザイナー」および「フロー、サブフロー、アクションのコードスニペットの作成」を参照してください。

- ServiceNow は Boomi と提携し、顧客が API を検出、管理、保護、収益化できるようにするクラウドベースのプラットフォームである Boomi API 管理 を提供しています。Boomi は、ガバナンス、アナリティクス、API セキュリティを含むライフサイクル全体の API 管理をサポートします。

  Boomi は独自のポータルを通じてドキュメントを提供し、Boomi API 管理 のサポートを要求する顧客は、標準チャネルを通じて Boomi サポートに連絡します。

  開始するには、エンタイトルメントと必要なプラグインに関する情報、および Boomi API 管理ドキュメントへのリンクを含む ServiceNow® Store の Boomi API 管理 リストを参照してください。

利用可能なデータピル

エンドポイントの構成方法に応じて、フロー設計者はトリガーから次のデータピルにアクセスできます。

パスパラメーター
: 受信要求内のパスパラメーターを含むオブジェクト。

クエリパラメーター
: 受信要求内のクエリパラメーターを含むオブジェクト。

要求ヘッダー
: 受信要求内のヘッダーを含むオブジェクト。

要求本文
: 受信要求の本文構造を定義する複合データオブジェクト。複合オブジェクトの詳細については、「複合データ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トリガーを設定するときは、受信データがどのようになるかを定義します。その後、フロー内のアクション内で関連付けられたデータピルを使用できます。システムがフローを開始する受信要求を受信すると、要求で送信されたランタイム値を使用します。

REST API トリガーを使用してフローを作成する

サードパーティシステムが REST 要求をインスタンスに送信したときに開始するフローを作成します。

始める前に

必要なロール：flow_designer または admin

この機能には、統合ハブ サブスクリプションが必要です。詳細については「Legal schedules - IntegrationHub overview (法務スケジュール - 統合ハブの概要)」を参照してください。

手順

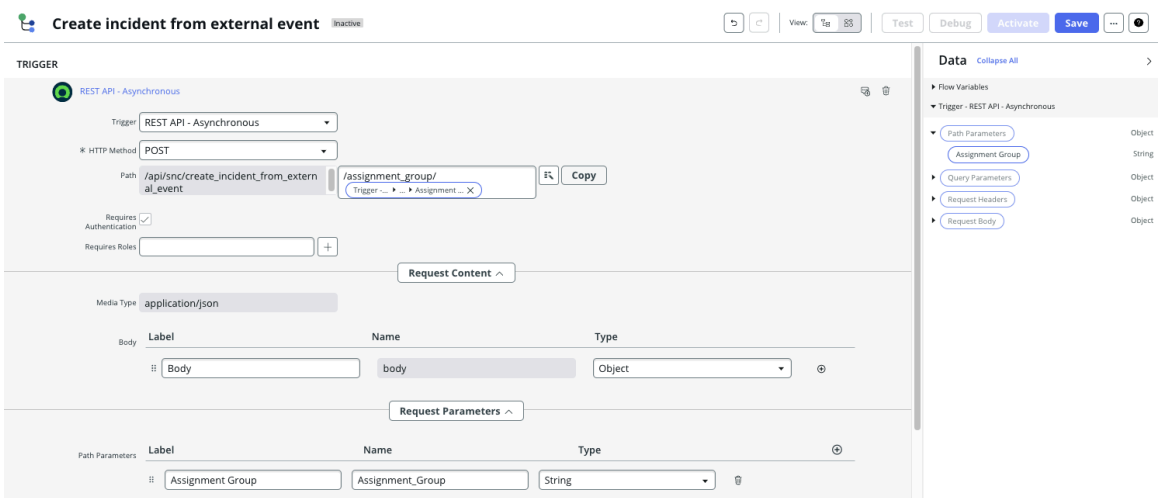
1. フローデザイナー を開き、フローを作成します。

   「Create a flow (フローの作成)」を参照してください。

   フローのスコープは、作成する REST エンドポイントに含まれていることに注意してください。

2. [トリガー] セクションで、**[REST API - 非同期]** トリガーを選択します。
3. **[HTTP** メソッド] フィールドで、エンドポイントの HTTP メソッドを設定します。
   次のオプションが含まれます。
   - POST
   - GET
   - 消去
   - PUT
   - パッチ
4. エンドポイントに必要なパスパラメーターを作成し、それらを [パス] フィールドの相対パスに追加します。
   エンドポイントへの相対パスの形式は、`/api/<flow-application-scope>/<flow-name>/<path-parameters>` です。

   [コピー] をクリックすると、完全パスをエンドポイントにコピーできます。サードパーティシステムで REST 呼び出しのエンドポイントを設定する場合は、このパスを使用します。

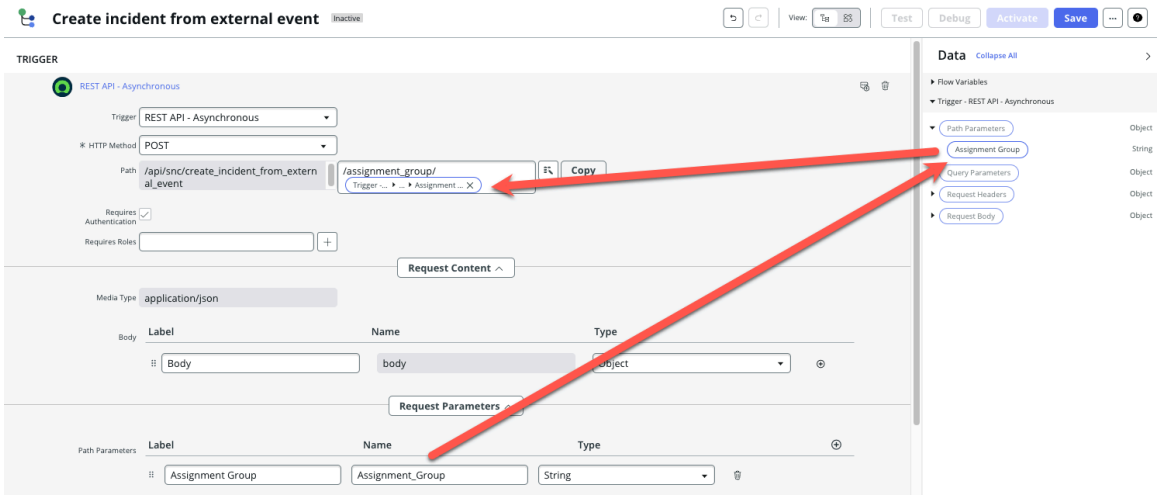


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [パスパラメーター] セクションで変数を作成します。

b. パスパラメーターを表すデータピルを [パス] フィールドの空の入力にドラッグします。

このフィールドは、[パスパラメーター] セクションからのデータピルのみを受け入れます。

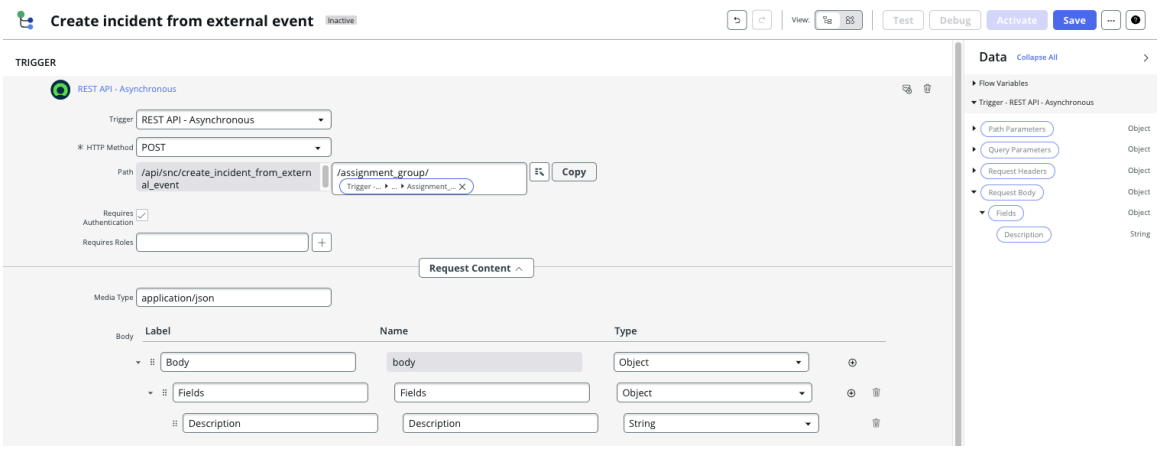


5. 受信 REST 要求で認証ヘッダーを要求するには、[認証が必要] を選択します。
6. [認証が必要] が選択されている場合は、要求を許可するために必要なロールを [ロールが必要] フィールドに追加します。
7. [要求コンテンツ] セクションの [本文] フィールドで、受信要求の本文構造を定義する複合データオブジェクトを作成します。

   複合オブジェクトのビルドの詳細については、「複合データ」を参照してください。

   注: [コンテンツの要求] セクションは、**[HTTP** メソッド] が POST、PUT、または PATCH の場合にのみ表示されます。

   このサンプル本文では、受信ペイロードの [説明] フィールドにサードパーティのチケット追跡システムからのチケット情報が含まれています。



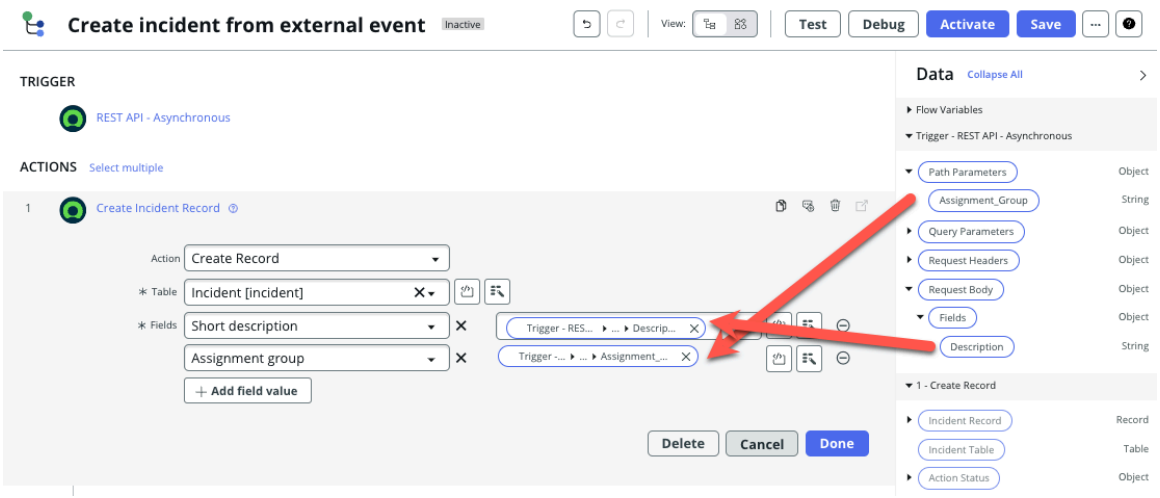
8. [ヘッダー] フィールドで、受信要求で送信されるヘッダーを定義します。
   受信要求にそれらを含めるように要求するには、[必須] を選択します。
9. [クエリパラメーター] フィールドで、受信要求で送信されるヘッダーを定義します。
   受信要求にそれらを含めるように要求するには、[必須] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

10. エンドポイントが呼び出されたときに実行するアクションをフローに追加します。

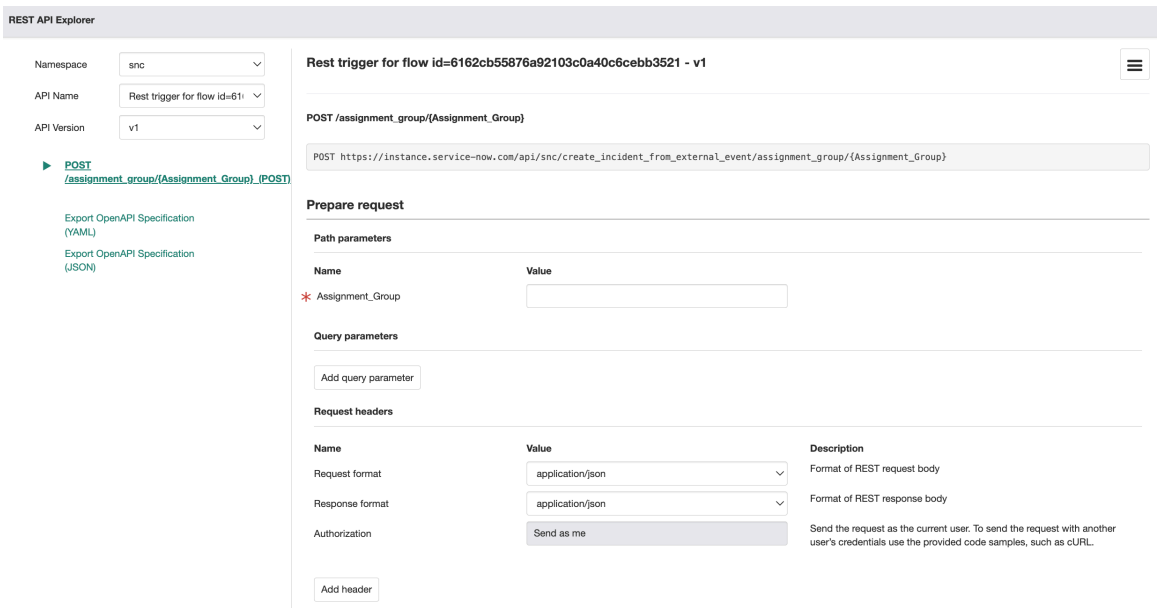
    フローアクションでは、REST API トリガーのデータピルを使用できます。

    このアクションでは、インシデントレコードを作成し、[説明]フィールドと [アサイン先グループ] フィールドを受信ペイロードからインシデントにマップします。



11. フローをテストしてアクティブ化します。
    詳細については、「フローをテストする」および「フローを有効化する」を参照してください。

    アクティブ化されると、エンドポイントが REST API エクスプローラーに表示されます。このページを使用して、エンドポイントをさらにテストしたり、サードパーティシステムからの要求を設定したりできます。



12. サードパーティシステムから REST 要求を設定します。

    Example
    たとえば、この cURL 要求を送信して、前のステップで定義したフローをトリガーできます。

```
curl
 "https:your-instance.servicenow.com/api/snc/create_incident_from_exter
nal_event/assignment_group/287ebd7da9fe198100f92cc8d1d2154e" \
```

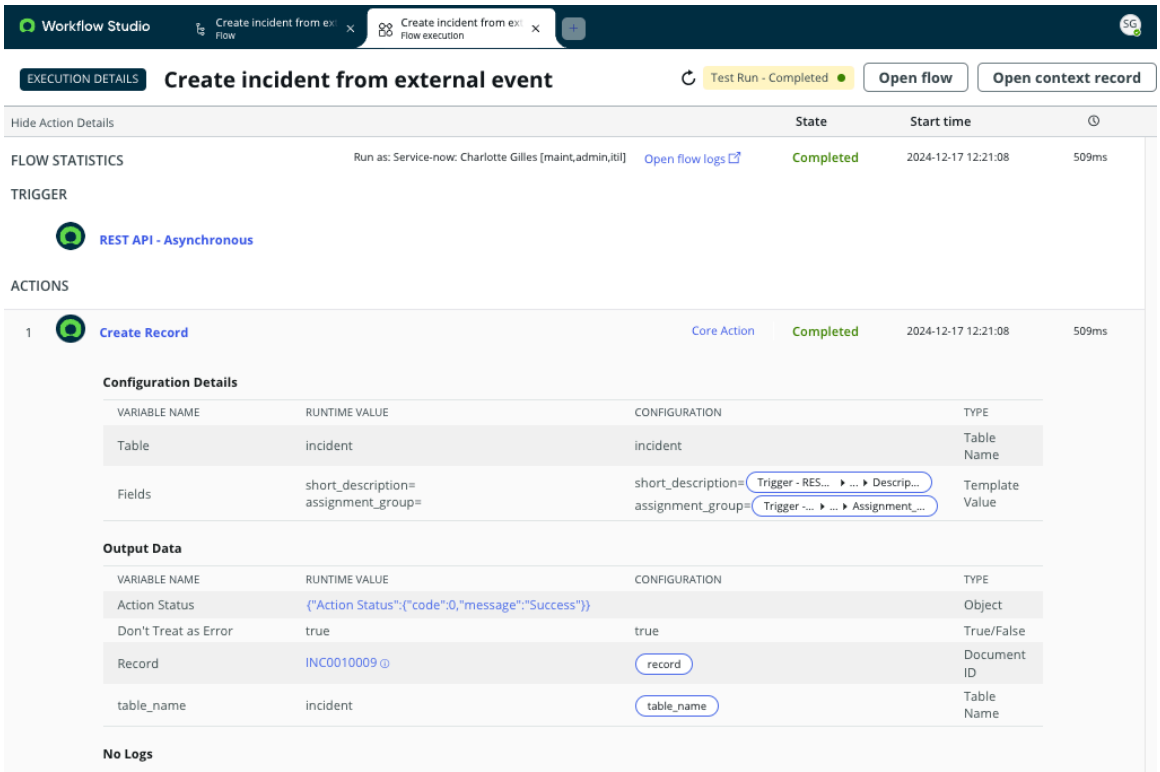
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
--request POST \
--header "Accept:application/json" \
--header "Content-Type:application/json" \
--data "{
fields: {
   description: \"Major outage with data loss\"
   }
}" \
--user 'username':'password'
```

タスクの結果
フローが実行され、REST 要求が実行 ID を返します。

```
{
  "result": {
    "executionId": "ndoxeRhshDSezldeGfbYlviFSeFnBjCO"
  }
}
```

次のタスク
結果の実行 ID をコピーし、フローデザイナーの [実行] タブに移動します。実行 ID でフィルター処理して、実行の詳細を特定し、実行のステータスを表示できます。



問題のトラブルシューティングを行うには、REST クエリをデバッグするか、フロー実行の詳細を確認します。「REST クエリのデバッグ」および「フロー実行の詳細」を参照してください。

統合ハブ を使用したパスワードリセット

サブフローを 統合ハブ で作成して、Okta や Microsoft Azure AD などのサードパーティアプリケーションによって管理されているユーザーのパスワードリセットプロセスを自動化してカスタマイズします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合ハブ にサブフローを作成して、パスワードリセットプロセスを自動化します。パスワードリセット を使用すると、エンドユーザーはセルフサービス　プロセスを使用してパスワードをリセットまたは変更できます。または、エンド ユーザーのパスワードをリセットするためにサービスデスク担当者を必要とするプロセスを組織で実装することもできます。詳細については、「パスワードリセットプロセスをカスタマイズし、サードパーティの認証情報サービスを統合する」を参照してください。

統合ハブ パスワードリセットの使用法の概要

[パスワードリセット] > [使用法の概要]に移動し、インスタンスの 統合ハブ を使用して実行されたパスワードリセットトランザクションの数を表示します。

注: アドミニストレーターは、ダッシュボードを表示するためにパスワードリセット - オーケストレーションアドオン (com.glideapp.password_reset.addon.orchestration) プラグインを有効にする必要があります。

統合ハブ でのデータのインポートとストリーミング

統合ハブ によるデータのインポート：Apache Kafka 向けストリームコネクト を使用して Apache Kafka 環境からデータをインポートまたはストリーミングします 。

統合ハブ を使用したデータのインポート：インポート

統合ハブ：インポートにより、データインポートの構成、実行、スケジュール設定をすべて単一の簡単なインターフェイスで行えます。

統合ハブ：インポートにより、複数のデータ連携機能を単一の環境に統合することで、プラットフォーム全体で複数のフォームの作成や管理をする必要がなくなります。段階的な経験を通して、データソースやターゲットテーブル、データマッピングの構成を案内します。データのインポートをスケジュールすることも、オンデマンドで実行することもできます。

Apache Kafka 向けストリームコネクト でのデータのストリーミング

Apache Kafka 向けストリームコネクト は Kafka 環境を ServiceNow インスタンスにリンクし、インスタンスと外部システム間でデータをストリーミングできるようにします。

ストリームコネクトはフローデザイナーと統合されているため、Kafka イベントを生成および消費するフローをビルドできます。ストリームコネクトには、スクリプトを使用するか、既存の RTE または変換マップ構成を使用してデータのストリーミングや処理ができるコンシューマーもいくつか用意されています。

統合ハブ - インポート

ガイド付きの手順を追って操作できる統合インターフェイスを介してデータインポートタスクを自動化します。外部データソースを定義し、ターゲットテーブルを指定し、ソースデータがどのようにターゲットデータになるかをマッピングし、定期的なインポートをスケジュール設定します。

統合ハブ でインポートを管理すると、外部ソースからデータをインポートして ServiceNow テーブルに変換するプロセスが簡素化されます。データインポートの設定、実行、スケジュール設定はすべて単一のインターフェイスで行えます。

App Engine Studio から直接 統合ハブ - インポートにアクセスして、カスタムアプリケーション用のデータ統合をビルドすることができます。詳細については、「App Engine Studio でのデータの追加」を参照してください。

メリット

統合ハブ でインポートを管理すると、次のようなメリットがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 複数のデータ連携機能を単一の環境に統合することで、プラットフォーム全体で複数のフォームを作成および管理する必要がなくなります。
- 単一のインターフェイスで複数の統合を管理できます。
- データソースとターゲットテーブルの構成についてガイドします。
- 単一の簡素化されたインターフェイスからデータをマッピングおよび変換できます。
- データのインポートをスケジュールしたり、オンデマンドで手動でデータをインポートしたりすることができます。
- データインポートの実行に関する使用情報と、インポートされた行、更新、およびエラーに関する詳細を提供します。

インポートプロセスの概要

データのインポートには 3 つのステップがあります。

1. データソースを設定します。

   データソースは、インポートするデータを取得する方法と場所を指定します。統合ハブでは、データソースは、Excel ファイル、CSV ファイル、またはデータストリームアクションを使用して外部ソースからデータを取得します。データストリームアクションは、REST、SOAP、または JDBC 要求を API に送信し、データのストリームを返します。

2. データをターゲットテーブルにマップします。

   ターゲットテーブルは、データの変換先のテーブルです。ターゲットテーブルを選択した後、ソースデータをそのテーブルに変換する方法を指定できます。データマップを作成すると、データを変換する方法の概要が示されます。インポートを実行するまでデータは変換されません。

3. インポートを実行またはスケジュールします。

   データソースを設定し、データマッピングを決定したら、インポートを実行できます。インポートを後で実行するようにスケジュールすることもできます。インポートが実行されると、データはソースから収集され、ステージングテーブルに移動され、マッピングの仕様に従ってターゲットテーブルに変換されます。

データインポートの仕組みの詳細については、「インポートセット」を参照してください。

統合ハブ インポート環境

統合ハブ インポート環境には、以下のインターフェイスが含まれています。

- ランディングページ
- ソース構成
- ターゲットにマッピング
- インポートのスケジュール
- 実行の詳細

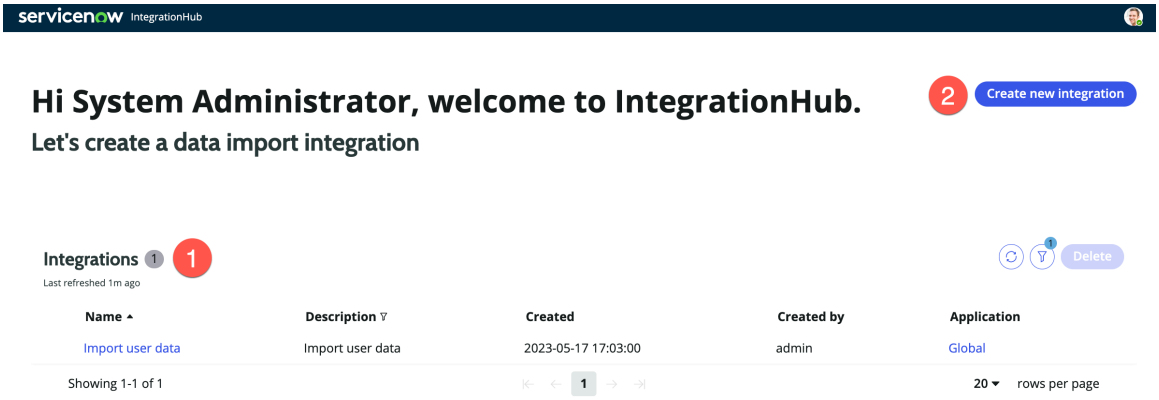
次のセクションでは、各インターフェイスについて詳しく説明します。

ランディングページ

ランディングページから統合を作成してアクセスします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ランディングページのユーザーインターフェイス



ランディングページには、次のコンポーネントがあります。

1. [統合] リスト

   統合ハブ インポートインターフェイスを介して作成された統合には、ここからアクセスできます。

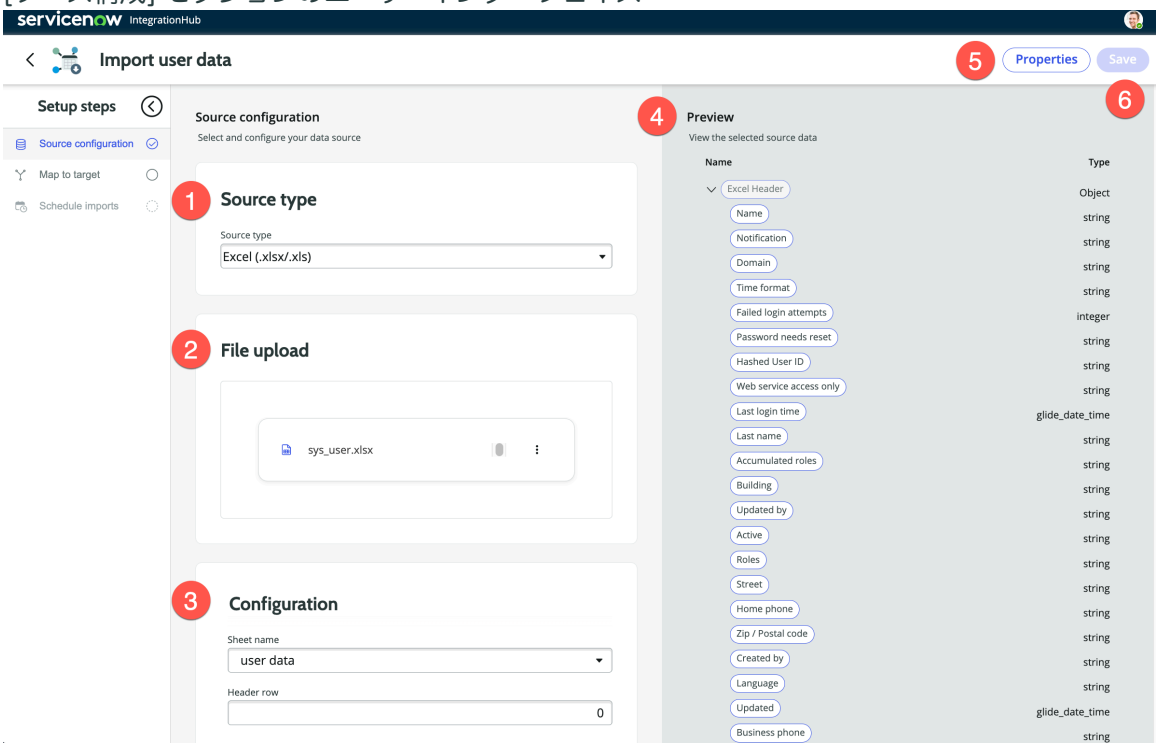
2. [新しいデータ連携を作成] ボタン

   新しいデータ連携のビルドを開始するボタン。

ソース構成

[ソース構成] ページからインポートするデータソースを定義します。データソースは、Excel ファイル、CSV ファイル、またはデータストリームアクションである必要があります。

[ソース構成] セクションのユーザーインターフェイス



[ソース構成] セクションには、次のコンポーネントがあります。

1. ソースタイプセレクター

   データソースタイプを選択するためのメニュー。以下のセクションがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- AD-HOC：データソースとして Excel ファイルまたは CSV ファイルを選択します。
- SPOKES：データソースとしてデータストリームアクションを選択します。アクティブなデータストリームをスポーク別に整理し、アルファベット順に表示します。

2. [ファイルのアップロード] または [接続] セクション ([接続] セクションは表示されていません)

   データソースが Excel ファイルまたは CSV ファイルの場合、ここには [ファイルのアップロード] セクションが表示されます。ファイルを上にドラッグするか、参照してアップロードできます。XLSX、XLS、CSV、および ZIP ファイルを受け入れます。

   データソースがデータストリームアクションの場合、ここには [接続] セクションが表示されます。接続エイリアスを使用するデータストリームアクションでは、デフォルトの接続エイリアスをその子エイリアスで上書きできます。メニューから接続エイリアスを選択します。詳細については、「接続および資格情報エイリアスの作成」を参照してください。

3. 設定セクション

   選択したデータソースを設定するセクション。使用可能なフィールドは、使用しているデータソースのタイプによって異なります。

   - Excel ファイルの場合は、シートを選択し、ヘッダーに使用する行番号を指定できます。
   - CSV ファイルの場合は、区切り文字を選択します。
   - データストリームアクションの場合は、その入力をここに入力します。このセクションは、データストリームアクションに入力がある場合にのみ表示されます。入力のあるデータストリームアクションには一意の入力があるため、ここに表示されるフィールドは、選択したデータストリームアクションとその設定によって異なります。スポーク入力によって既に設定されているデフォルト値は、事前に入力されています。

4. [ソースデータ構造] プレビュー

   ソースデータの構造を示すセクション。Excel ファイルまたは CSV ファイルの場合、プレビューには列ヘッダーが表示されます。データストリームアクションの場合は、複合オブジェクトの出力が表示されます。

5. [プロパティ] ボタン

   統合の名前、その説明、およびアプリケーションスコープを表示するためのボタン。名前と説明はいつでも編集できます。アプリケーションスコープは編集できません。統合の作成時に選択する必要があります。

6. [保存] ボタン

   ソース構成を保存するためのボタン。このボタンは、ソース構成が更新された場合にのみ有効になります。ソースタイプを選択すると、ソースデータの構造が [ソースデータ構造] プレビューペインに自動的にロードされます。ソース構成を編集した場合は、[保存] をクリックしてソースデータを再ロードします。データをターゲットテーブルにマップする前に、データを少なくとも 1 回プレビューする必要があります。

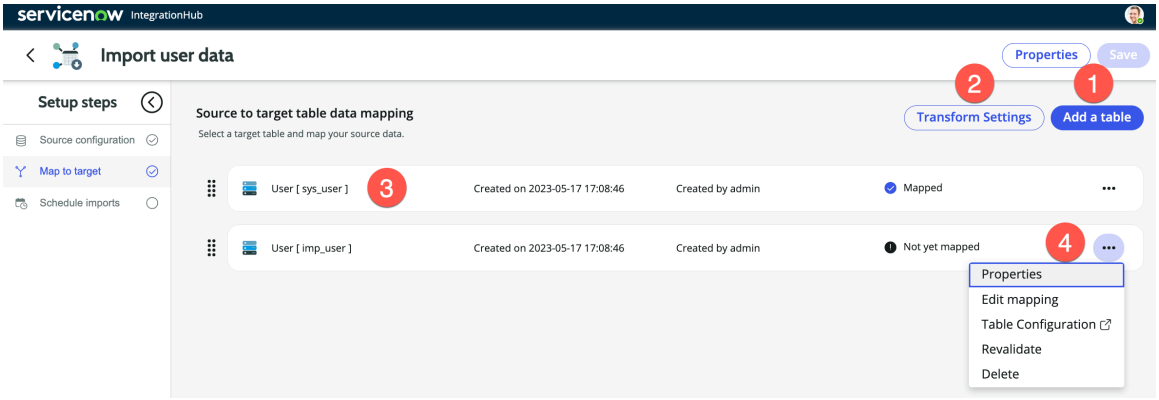
ターゲットにマッピング

ターゲットテーブルを選択し、ソースデータをそのテーブルにマッピングする方法を決定します。データピルをソースからターゲットにドラッグするか、ピルピッカーを使用するか、または [自動マッピング] を選択してデータをマッピングします。変換関数を適用してターゲットテーブルのデータを変換します。

[ターゲットにマッピング] セクションは 2 つの部分で構成されています。最初の部分で、ターゲットテーブルを選択します。2 番目の部分では、データをターゲットテーブルにマップします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル選択のユーザーインターフェイス



テーブル選択セクションには、次のコンポーネントがあります。

1. テーブルを追加します

   ターゲットテーブルに追加するボタン。

2. 変換設定

   統合の変換設定を行うボタンです。バッチサイズと空フィールドの処理を指定したり、詳細モードを有効にしたり、統合の前または後にスクリプトを実行したりできます。詳細については、「変換設定」を参照してください。

   [変換設定] ボタンは、少なくとも 1 つのターゲットテーブルを追加するまで表示されません。

3. ターゲットテーブルカード

   各カードには、ターゲットテーブルの名前、作成の詳細、およびマップの有無が表示されています。カードを選択して、データマッピングインターフェイスを開きます。

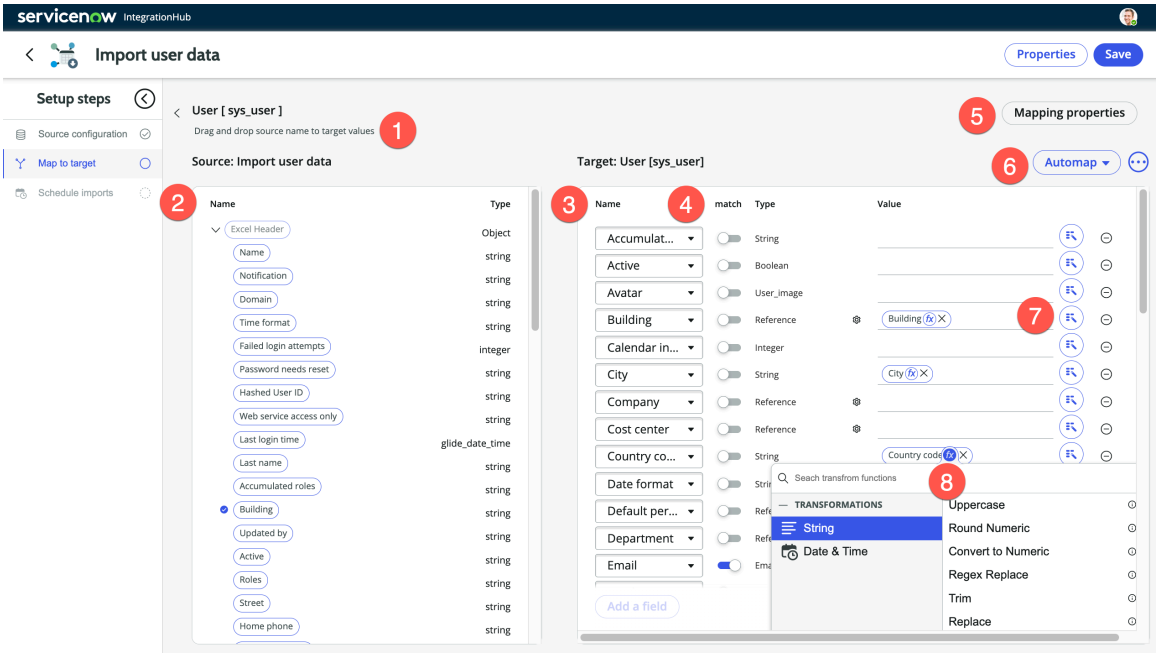
4. ターゲットテーブルドロップダウンリスト

   ターゲットテーブルのオプションのリストです。以下が含まれます。

   - [プロパティ]：[マッピングプロパティ] ウィンドウを開きます。ここでは、インポート時にテーブルのビジネスルールを実行するためのオプションを表示または編集し、インポートを同期的に実行することができます。
   - [マッピングを編集]：データマッピングを作成または編集できるデータマッピングセクションを開きます。
   - [テーブル構成]：ターゲットテーブルを構成できる テーブルビルダー を開きます。このオプションは、テーブルビルダー がインストールされている場合にのみ使用可能になります。詳細については、「テーブルビルダー」を参照してください。
   - [再検証]：ターゲットエンティティスキーマに変更があるかどうかを確認します。変更が検出されると、ターゲットテーブルカードに、ターゲットスキーマが変更されたことを示すメッセージが表示されます。ターゲットテーブルカードを選択するとウィンドウが開き、ターゲットエンティティスキーマを [更新] したり、スキーマをそのまま維持する場合は [キャンセル] を実行したりできます。ターゲットテーブルの構成を編集するたびに、テーブルを再検証してください。
   - [削除]：統合からターゲットテーブルを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データマッピングのユーザーインターフェイス



データマッピングセクションには、次のコンポーネントがあります。

1. ターゲットテーブル名

   現在マッピングしているターゲットテーブルの名前です。

2. ソースデータセクション

   ソースデータをデータピルとして表示するセクション。データをマップするには、データピルをターゲットテーブルデータセクションにドラッグします。ピルピッカーを使用することもできます。 ソースフィールドをターゲットフィールドにマップすると、ソースフィールド名の横に小さなチェックマークアイコン ( ) が表示されます。カーソルをチェックマークに移動すると、ソースフィールドがマッピングされているターゲットフィールド (最大 5 つのフィールド) がツールヒントに一覧表示されます。

3. ターゲットテーブルデータセクション

   ソースデータが選択されたターゲットテーブルの各フィールドにどのようにマッピングされるかを表示するセクションです。ターゲットテーブルのすべてのフィールドを表示したり、[フィールドを追加してください] ボタンで個々のフィールドを選択したりできます。選択フィールドと参照フィールドでは、データをマッピングする列を指定することも、デフォルトの表示列を使用することもできます。

4. [一致] トグルスイッチ

   スイッチを切り替えて、一致するデータをシステムがチェックするフィールドを指定し、見つかった場合は、新しいレコードを作成する代わりに既存のレコードを更新します。この画像では、[ユーザー **ID]** フィールドの [一致] トグルスイッチがオンになっています。ソースデータのレコードのユーザー ID がターゲットテーブルのレコードのユーザー ID と一致する場合、システムは新しいレコードを作成するのではなく、ターゲットテーブルの既存のレコードを更新します。

5. [マッピングプロパティ] ボタン

   インポート時にテーブルのビジネスルールを実行するためのオプションを表示または編集し、インポートを同期的に実行するためのボタン。

6. [自動マッピング] ボタン

   ソースエンティティを類似した名前のターゲットエンティティに自動的にマッピングするボタン。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. データピルピッカー

   データピルピッカーを開くボタン。ピルピッカーを使用して、ソースデータピルをターゲットテーブルのフィールド値にマップできます。

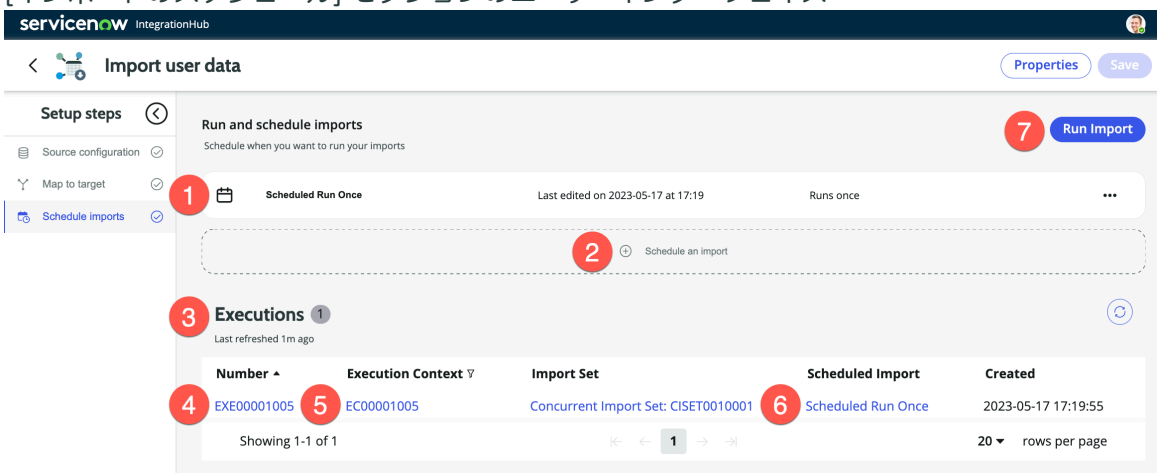
8. 変換機能アイコン

   利用可能な変換機能のリストを開くボタン。変換機能を使用して、データを変更または修正します。たとえば、Trim 変換機能は、入力文字列の最初と最後から空白を削除します。

インポートのスケジュール

インポートをすぐに実行するか、特定の時間、定期的な間隔、または親インポートの後に実行するようにスケジュールします。大規模なインポートを同時実行するようにスケジュールして、処理時間を短縮します。

[インポートのスケジュール] セクションのユーザーインターフェイス



[スケジュールのインポート] セクションには、次のコンポーネントがあります。

1. スケジュール済みインポート

   スケジュール済みインポートのリスト。各スケジュール済みインポートはそれぞれのボタンに表示されます。

1. [インポートをスケジュール] ボタン

   スケジュール済みインポートを作成するためのボタン。

3. [実行] セクション

   実行されたインポートに関する情報を含むセクション。実行レコード、実行コンテキストレコード、およびスケジュール済みインポートレコードへのリンクが含まれています。このセクションは、インポートが実行された後にのみ表示されます。

4. 実行レコード

   実行レコードリスト。各実行レコードは、インポートされた行、エラー、ログメッセージなど、実行に関する情報を提供します。

5. 実行コンテキストレコード

   実行コンテキストレコードリスト。各実行コンテキストレコードは、階層的なスケジュール済みインポートを処理するときに使用する次のスケジュール済みインポートを指定します。

6. スケジュール済みインポートレコード

   スケジュール済みインポートレコードリスト。各レコードは、スケジュール済みインポートの名前、データソース、スケジュール、およびパーティション方法を提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

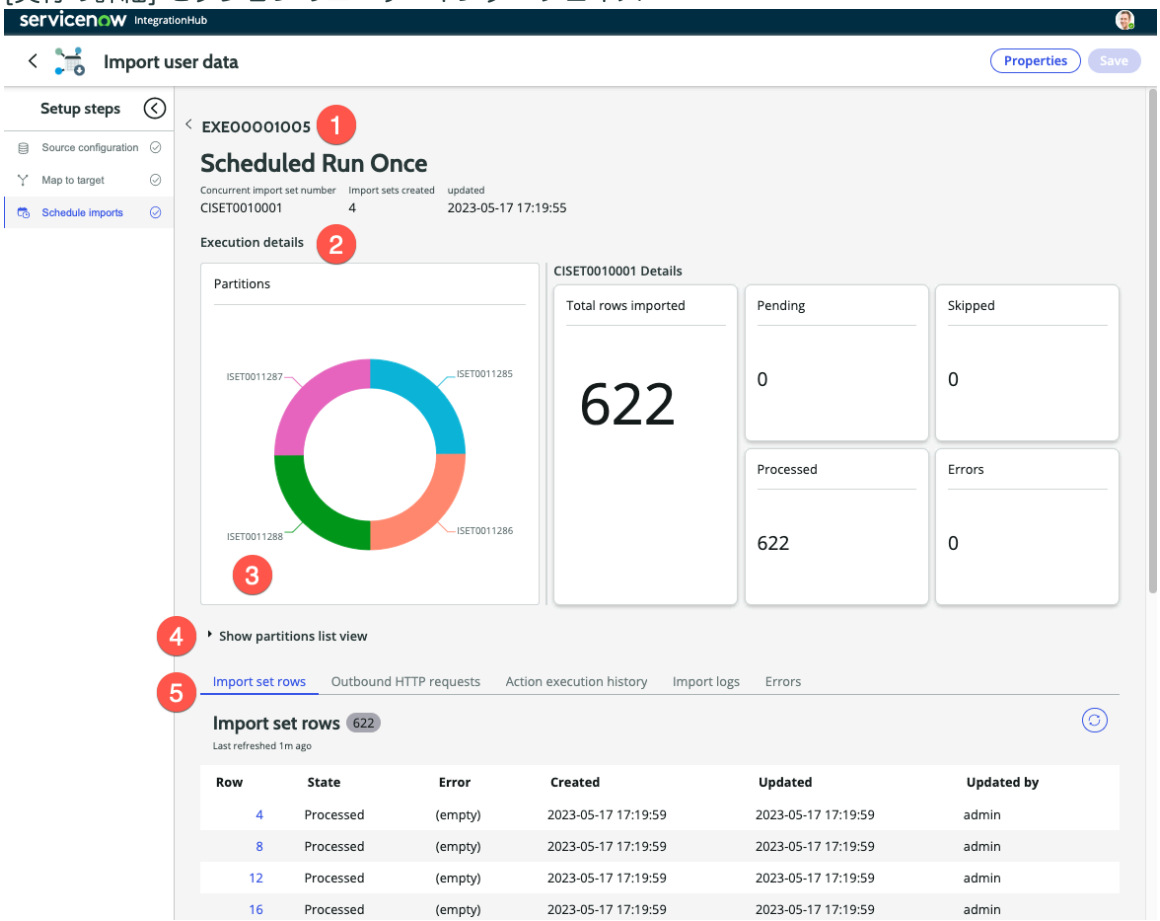
7. [インポート実行] ボタン

   インポートを 1 回実行するボタン。

実行の詳細

実行日時、実行コンテキストなど、各インポートの詳細を表示します。インポートの実行レコードを開き、インポートステータスとインポートされた行、エラー、およびログを表示します。

[実行の詳細] セクションのユーザーインターフェイス



[実行の詳細] セクションには、次のコンポーネントがあります。

1. 実行情報

   実行レコードの番号、スケジュール済みインポートの名前、インポートセット番号、および更新日など、実行に関する詳細を提供するセクション。

2. 実行の詳細

   インポート済み、処理済み、処理待ち、またはスキップ済みの行の合計数と、発生したエラーの数を表示するカードを含むセクション。インポートが同時に処理される場合、このセクションにはパーティションカードも含まれます。詳細については、「同時インポート」を参照してください。

   カードをクリックすると、結果をフィルター処理できます。フィルター処理された結果は、ページの下部にある [インポートセット行] タブに表示されます。たとえば、[処理待ち] のカードをクリックすると、処理待ちの行が表示されます。[インポートされた合計行数] をクリックするか、[選択のクリア] をクリックすると、フィルターがクリアされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> **注:** カードのフィルタリングは、インポートセット行でのみ使用できます。フィルター済みリストを表示するには、[インポートセット行] タブが表示されていることを確認してください。

3. パーティションカード

   インポートセットパーティションのグラフィカルビュー。パーティションカードは、同時インポートセットに対してのみ表示されます。パーティションをクリックすると、その詳細を表示できます。追加のフィルタリングに [実行の詳細] カードを使用することもできます。パーティションフィルターをカードフィルターと組み合わせると、AND 操作がフィルタリングに使用されます。たとえば、パーティションをクリックしてから [エラー] カードをクリックすると、[インポートセット行] タブにはそのパーティションのエラーのみが表示されます。

4. パーティションリストビュー

   インポートセット番号、各インポートセットジョブのタイプとステータスなど、各パーティションの詳細を表示するオプション。パーティションリストビューは、同時インポートセットに対してのみ表示されます。パーティションリストビューには、パーティションカードと同じフィルタリング機能があるため、どちらを使用してパーティションをフィルター処理できます。

5. インポートの詳細

   各実行レコードのインポートセット行、送信 HTTP 要求、アクション実行履歴、インポートログ、およびエラーの詳細を示すセクション。

統合ハブ インポートの条件

統合ハブ のインポートには、次のコンポーネントが含まれています。

データソース

データソースは、インポートするデータのタイプと、インスタンスがデータを取得できるエンドポイントを定義する設定レコードです。

データストリームアクション

データストリームアクションは、REST、SOAP、または JDBC 要求を フローデザイナー から API に送信し、応答データのストリームを返します。データストリームアクションを使用して 10 MB を超えるデータを取得するか、API を使用する場合は、ページネーションされた結果を返します。

ターゲットテーブル

ターゲットテーブルは、ソースデータの変換先のテーブルです。

変換機能

変換機能は、データを変更または修正する機能です。たとえば、入力文字列をすべて大文字に変換する機能などです。

実行

実行は、単一のインポートの実行の詳細を含むランタイムレコードです。実行するたびに、インポートされた行、ログメッセージ、エラーなど、特定のターゲットのインポートの詳細が提供されます。

実行コンテキスト

実行コンテキストは、階層的なスケジュール済みインポートを処理するときに使用する次のスケジュール済みインポートを指定するレコードです。

インポート セット番号

インポートセットは、データソースからインポートされた生データを含むランタイムレコードのセットです。インポートされたレコードは、インポートセットステージングテーブルに格納されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デザインの検討

統合ハブ インポートによるメリットを得るには、次のガイドラインに従ってください。

統合ハブ 内からすべての 統合ハブ インポートを作成

ここでは、統合ハブ インポート環境で作成された統合のみにアクセスできます。たとえば、プラットフォームフォームを使用してデータソースとマッピングを構成することはできませんが、統合ハブ 内からインポートをスケジュールします。統合ハブ で作成された統合のみがランディングページに表示されます。

統合ハブ 外部の設定レコードを変更しない

設定レコードを直接変更すると、データをインポートしてマッピングするかどうか、およびその方法が変わる可能性があります。データソース、マッピング、またはスケジュール済みインポートの構成を変更する必要がある場合は、統合ハブ インポートインターフェイス内から変更します。

データソースで使用されるデータストリームアクションの変更を避ける

データソースとして使用されるデータストリームアクションを変更すると、ソースからターゲットへのマッピングが変更される場合があります。データストリームアクションの出力が変更されると、[ターゲットにマッピング] ページに複合オブジェクトスキーマが変更されたという警告が表示されます。マッピングの再構成が必要になる場合があります。

データソースの設定

データソースを作成して、統合ハブ でデータのインポートを開始します。データソースは、インポートしたいデータを取得する方法と場所を指定します。

始める前に

- 統合ハブ でのインポートには、ServiceNow 統合ハブアクションテンプレート - Data Stream [com.glide.hub.action_type.datastream] プラグインが必要です。詳細については、「統合ハブの要求」を参照してください。
- 統合ハブ のデータソースは、Excel ファイル、CSV ファイル、またはデータストリームアクションを使用します。データストリームアクションには固有の入力があるため、使用する場合はアクションをよく理解する必要があります。詳細については、「データストリームアクションおよびページネーション」を参照してください。動的な出力を伴うデータストリームアクションは使用できますが、動的な入力はサポートされていません。
- 必要なロール：admin または ih_import。

このタスクについて

データソースの設定は、統合ハブ にデータをインポートするための最初のステップです。データソースを設定した後、ターゲットテーブルを選択し、データをターゲットテーブルに変換する方法を決定して、インポートを実行/スケジュール設定できます。

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [統合ハブ - インポート]に移動します。
2. [新しい統合を作成] を選択します。
   [新しいデータインポートの統合] 画面が表示されます。
3. データソースを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. データ統合のフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	統合の名前
簡単な説明	統合の説明。
アプリケーション	統合のアプリケーションスコープの名前。

b. [保存して続行] を選択します。

c. データソースタイプを選択するための [ソースタイプ] メニューを使用します。

- Excel ファイルまたは CSV ファイルを選択するには、**[AD-HOC]** > > [ファイル] を選択してから **[Excel]** または **[CSV]** 選択します。[ファイルのアップロード] セクションで、XLSX、XLS、CSV または ZIP ファイルをアップロードします。
- データストリームアクションを選択するには、[スポーク] を選択します。アクティブ化されているデータストリームがスポーク別に整理され、アルファベット順にリストされます。[接続] セクションで、接続エイリアスを選択します。接続エイリアスを使用するデータストリームアクションでは、デフォルトの接続エイリアスをその子エイリアスで上書きできます。詳細については、「接続および資格情報エイリアスの作成」を参照してください。

d. データソースの設定

- Excel スプレッドシートを設定するには、使用するシートとヘッダーに使用する行番号を指定します。1 つのシートと 1 つのヘッダーのみを指定できます。
- CSV ファイルを設定するには、区切り文字を選択します。
- データストリームアクションを設定するには、必要な入力項目を入力します。このセクションは、データストリームアクションに入力すべき項目がある場合にのみ表示されます。入力のあるデータストリームアクションには一意の入力があるため、このセクションのフィールドは、選択されたデータストリームアクションとその設定によって異なります。スポーク入力によって既に設定されているデフォルト値は、事前に入力されています。データストリームアクションの詳細を表示するには、その横にある情報アイコン ( ) をクリックします。このアイコンをクリックすると、データストリームアクションの設定ページが開きます。

4. [保存] を選択します。

タスクの結果

ソースデータの構造が [ソースデータ構造] プレビューペインに表示されます。Excel ファイルまたは CSV ファイルの場合、プレビューには列ヘッダーが表示されます。データストリームアクションの場合は、複合オブジェクトの出力が表示されます。ソース構成を編集した場合は、[保存] をクリックしてソースデータを再ロードします。データをターゲットテーブルにマップする前に、データを少なくとも 1 回プレビューする必要があります。

次のタスク

ソースデータをターゲットテーブルにマップします。「ソースデータのターゲットテーブルへのマッピング」を参照してください。

ソースデータのターゲットテーブルへのマッピング

ソースデータをターゲットテーブルに変換する方法を指定します。

始める前に

データソースの設定。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：admin または ih_import。

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [統合ハブ - インポート]に移動します。
2. ランディングページで、データ連携を選択します。
3. 左側のナビゲーションパネルで、[ターゲットにマッピング] を選択します。
4. ターゲットテーブルを追加します。

   a. [ソースからターゲットテーブルへのデータマッピング] ページで、[テーブルを追加する] をクリックします。

   b. マッピングプロパティウィンドウで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
ターゲットテーブル	データの変換先のテーブルの名前。
インポート時にテーブルのビジネスルールを実行する	データをインポートするときにターゲットテーブルのビジネスルールを実行するオプション。
インポートを同期的に実行	インポートを同期的に実行するオプション。データが並列変換され、特定の結合値を持つ複数のソースレコードが存在する場合、このオプションをオンにすると、その結合値を持つレコードが一度に 1 つだけ挿入されます。詳細については、「同時インポート」ページの「挿入を同期する」セクションを参照してください。

   c. [保存] を選択します。

   統合には複数のターゲットテーブルを追加できます。追加するターゲットテーブルごとに、ステップ 4a ~ 4c を繰り返します。

   テーブルは、追加された順に一覧表示されます。各テーブルカードの左側にあるドラッグアイコン を使用してカードを別の位置にドラッグすると、順序を変更できます。テーブルカードの順序によって、実行時にデータがターゲットテーブルに変換される順序が決まります。

   注: 同じテーブルを複数回選択することはできません。また、拡張テーブルまたは既に統合に含まれているテーブルの親テーブルを選択することもできません。

5. ソースデータのフィールドをターゲットテーブルにマッピングします。

   a. [ソースからターゲットテーブルへのデータマッピング] ページで、マッピング先のターゲットテーブルのボタンを選択します。
   これにより、テーブルのデータマッピングセクションが開きます。ページの左側にはソースデータが表示されます。右側はターゲットテーブル用です。

   b. [フィールドを追加 **(Add a field)**]、[すべてのフィールドを追加] または [自動マッピング] ボタンを使用して、ターゲットサイドを設定し、マッピングデータを開始します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ターゲットテーブルのすべてのフィールドを追加するには、[すべてのフィールドを追加] を選択します。フィールドはアルファベット順に追加されます。
- フィールドを個別に追加するには、[フィールドを追加 **(Add a field)]** を選択し、リストからフィールド名を選択します。フィールドは 1 回のみ追加できます。
- フィールドを追加して自動的にマッピングするには、[自動マッピング] を選択します。自動マッピングは、ソースエンティティを同様の名前のターゲットエンティティにマッピングします。[自動マッピング] ボタンには 2 つのオプションがあります。
  - [ターゲットテーブル内のすべての一致フィールド] に、すべてのフィールドが追加され、一致するフィールドがマッピングされます。
  - [ターゲット選択でマッピングされていないすべてのフィールド] は、既に追加されているがまだマッピングされていないフィールドのみをマッピングします。フィールドがまだ追加されていない場合、このオプションは使用できません。
- 既にマッピングされているターゲットエンティティの場合、[自動マッピング] を選択してもその値は変更されません。自動マッピングされたフィールドには、データピルに杖のアイコンがあります。

  デフォルトでは、自動マップは最大 1 つのソースエンティティをターゲットエンティティにマッピングします。これを変更するには、*glide.ih.automap.extractone* プロパティを false に設定します。

  自動マッピングは、80% 以上一致する列名を探して、ソースとターゲットのエンティティを照合します。これは、*glide.ih.automap.minimum.score* のプロパティで変更できます。たとえば、60% の類似性に基づいて照合するには、*glide.ih.automap.minimum.score* を 60 に設定します。

c. データをマッピングするには、データピルをソースからターゲットテーブルの [値]列にドラッグします。

ターゲットテーブルの右側にあるピルピッカー ( ) を使用してデータをマッピングすることもできます。[値] 列には複数の値を入力でき、テキストを入力することもできます。

ソースフィールドをターゲットフィールドにマッピングすると、ソースフィールド名の横に小さなチェックマークアイコン ( ) が表示されます。カーソルをチェックマークに移動すると、ソースフィールドがマッピングされているターゲットフィールド (最大 5 つのフィールド) がツールヒントに一覧表示されます。

d. オプション: [一致] トグルスイッチを使用して、一致するデータをシステムがチェックするフィールドを指定し、見つかった場合は、新しいレコードを作成する代わりに既存のレコードを更新します。

(Optional) たとえば、ターゲットテーブルに [注文番号] フィールドと注文番号が 743 のレコードがある場合、一致する可能性のあるものを処理するためのオプションが 2 つあります。

- [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオンの場合、システムは一致するデータをチェックします。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルの既存のレコードを更新します。
- [注文番号] フィールドの [一致] トグルスイッチがオフの場合、システムは一致するデータをチェックしません。ソースデータに同じ注文番号のレコードがある場合、システムはターゲットテーブルに新しいレコードを作成します。この場合、ターゲットテーブルには 2 つのレコードがあり、どちらも注文番号は 743 です。

e. オプション: 選択フィールドと参照フィールドでは、データのマッピング先の列を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

i. 歯車アイコン (⚙) を選択します。

ii. [フィールド] で、マッピング先の列を選択します。

iii. [一致するレコードがない場合は、次の操作を行います] で、その列が利用できない場合の対処方法を指定します。

- [新しい選択肢/レコードを作成]：ターゲットテーブルに選択肢またはレコードを作成します。
- [このフィールドを無視]：ターゲットテーブルのそのフィールドのみを無視します。
- [このレコードをスキップ]：ターゲットテーブルのレコード全体をスキップします。

iv. [完了] を選択します。

f. オプション: 変換機能を適用して、データを変更または修正します。
たとえば、大文字変換機能を使用して、入力文字列をすべて大文字に変換できます。詳細については、「変換機能」を参照してください。

> 注: フローおよびサブフローの作成時に利用可能なすべての変換機能が 統合ハブ - インポートで利用できるわけではありません。

i. 変換機能アイコン (fx) を選択します。

ii. メニューから変換機能を選択し、**[OK]** を選択します。

iii. 追加の変換関数を適用するには、[新しい変換を追加] を選択します。変換機能は、選択された順序で適用されます。

iv. すべての変換機能を追加したら、[完了] を選択します。

6. マッピングが完了したら、[保存] を選択します。
複数のターゲットテーブルにマッピングする場合は、テーブルごとにステップ 5 と 6 を繰り返します。

次のタスク
データインポートの実行またはスケジュール。

データインポートの実行またはスケジュール

スケジュールを作成して、データインポートを実行するタイミングを指定します。インポートを特定の時間、定期的な間隔、または親インポートの後に実行するようにスケジュールします。インポートをすぐに実行することもできます。

始める前に
データソースの設定 の次に ソースデータのターゲットテーブルへのマッピング を実行します。

必要なロール：admin または ih_import。

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [統合ハブ - インポート]に移動します。
2. ランディングページで、データ連携を選択します。
3. 左側のナビゲーションパネルで、[インポートのスケジュール] をクリックします。
4. [インポートの実行とスケジュール] ページで、[インポートのスケジュール] をクリックします。
5. 新しいスケジュールフォームで、フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
予定されているデータインポート	
名前	スケジュール済みインポートを一意に識別する名前。
データソース	インポート用のデータソース。このフィールドは、データ連携の名前に自動的に設定されます。
実行方法	インポートを実行するユーザーまたはユーザーロールの名前。たとえば、インポートをシステムアドミニストレーターとして実行することも、指定したユーザーのロールで実行することもできます。
アプリケーション	スケジュール済みインポートのアプリケーションスコープ。
実行	インポートをいつ実行するかを指定するオプション。次のいずれかを選択します。 ◦ [毎日]：毎日実行されます。 ◦ [毎週]：毎週実行されます。 ◦ [毎月]：毎月実行されます。 ◦ [定期的]：定期的に実行されます。 ◦ [親の実行後]：別のインポートの後に実行されます。
日	インポートを実行する曜日または日付。数字で入力されます。このフィールドは、[実行] から [毎週] または [毎月] が選択されている場合にのみ表示されます。
繰り返し間隔	インポートとインポートの間に待機する時間。日、時、分、秒単位で入力します。このフィールドは、[実行] から [定期的] が選択されている場合にのみ表示されます。
親	親インポートの名前。親インポートは、現在のインポートを開始する前に終了する必要があります。このフィールドは、[実行] から [親の実行後] が選択されている場合にのみ表示されます。
時刻	インポートを実行する時刻。時、分、秒単位で入力します。
有効	スケジュール済みインポートをアクティブにするオプション。
詳細	
同時インポート	データを複数のインポートセットに分割して同時に処理するオプション。
パーティションメソッド	データのパーティション分割する方法を指定するオプション。次のいずれかを選択します。 ◦ カスタムサイズ ◦ ラウンドロビン このフィールドは、[同時インポート] が選択されている場合にのみ表示されます。
パーティションサイズ	そのパーティションサイズのレコード数。1000 以上である必要があります。このフィールドは、[パーティションメソッド] で [カスタムサイズ] を選択した場合のみ表示されます。

6. [保存] をクリックします。
7. オプション: Prescript または Postscript を追加するには、その他のオプションアイコン (···) をクリックし、[詳細セットアップ] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このオプションでは、スケジュールされたデータインポートのフォームが開き、インポートの前後に実行するスクリプトを追加できます。

8. オプション: [インポート実行] ボタンをクリックしてスケジュール済みインポートをすぐに実行し、[実行] リストを更新して実行レコードを表示します。

次のタスク

インポートはスケジュールされた時刻に実行されます。実行後、[インポートの実行とスケジュール] ページに [実行] セクションが表示されます。[実行] セクションには実行レコードがあり、実行時間、インポートされた行数、エラーまたはログメッセージなど、インポートに関する詳細を表示できます。

変換設定

統合ハブ - インポート統合の変換設定を構成します。バッチサイズと空フィールドの処理を指定し、詳細モードを有効にするか、統合の前または後にスクリプトを実行します。

変換設定の構成

統合の変換設定を構成するには、 統合ハブ - インポートのターゲットにマッピングのページ上部にある [変換設定] ボタンを選択することで、統合の変換設定を構成できます。

注: [変換設定] ボタンは、1 つ以上のターゲットテーブルをターゲットにマッピングのページに追加するまで表示されません。詳細については、「ソースデータのターゲットテーブルへのマッピング」を参照してください。

フィールド	説明
全般	
バッチサイズ	各バッチで変換するアイテムの数です。 デフォルト値：10
詳細	変換操作、変換ルール、および複数のターゲットテーブルを持つ変換の詳細を含む変換ログを有効にするオプションです。 デフォルト値：false
空のフィールドをコピー	ソースフィールドの空の値をターゲットフィールドにコピーするオプションです。 このフィールドを選択すると、空のソース値がコピーされます。選択しない場合、空のソース値はターゲットフィールドにコピーされません。 デフォルト値：true
スクリプト	
OnBeforeスクリプトを実行	データを挿入または更新する前にスクリプトを実行するオプションです。統合が開始される前に、通知の送信、データの変更、またはその他のアクションを実行します。 onBefore スクリプトには 3 つのパラメーターがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• *source*：インポートレコードからのソースデータ。 • *target*：インポートレコードからの変換済みデータ。onBefore スクリプトでは、このパラメーターは、ターゲットテーブルに挿入される前に変換済みデータにアクセスします。 • *importLog*：データインポートアクティビティに関する情報を記録するログ。 onBefore スクリプトには 2 つの変数があります。 • *ignore*. タイプ：ブーリアン。**true** の場合、指定されたインポートセット行は無視されます。 • *ignore_reason*. タイプ：文字列。インポートセット行が無視された理由を説明するメッセージです。
OnAfter スクリプトを実行	データを挿入または更新した後にスクリプトを実行するオプションです。統合が完了した後、通知の送信、サマリーの計算、その他のアクションを実行します。 onAfter スクリプトには 3 つのパラメーターがあります。 • *source*：インポートレコードからのソースデータ。 • *target*：インポートレコードからの変換済みデータ。onAfter スクリプトでは、このパラメーターは、ターゲットテーブルに挿入された後で変換済みデータにアクセスします。レコードが挿入または更新されると、sys_id が割り当てられます。 • *importLog*：データインポートアクティビティに関する情報を記録するログ。

Apache Kafka のApache Kafka 向けストリームコネクトの使用

Apache Kafka 向けApache Kafka 向けストリームコネクトを使用して、Apache Kafka 環境を ServiceNow インスタンスに接続します。

Apache Kafka は、複数のシステム間でデータを交換するための統一された方法を提供する分散イベントストリーミングプラットフォームです。Apache Kafka 向けApache Kafka 向けストリームコネクトは Kafka 環境を ServiceNow インスタンスにリンクし、インスタンスと外部システム間でデータをストリーミングできるようにします。

注: Apache Kafka 向けストリームコネクトにはオートメーションエンジンとApache Kafka 向けストリームコネクトのサブスクリプション登録が必要です。詳細については、「https://www.servicenow.com/now-platform/workflow-data-fabric.html」を参照してください。

メリット

- Kafka イベントを大規模に公開して処理します。ServiceNow インスタンスから Kafka 環境にイベントを公開し、外部システムからの Kafka イベントを低レイテンシで大量に使用します。
- Kafka イベントを生成および消費するフローを構築します。Apache Kafka 向けストリームコネクトはワークフロースタジオと統合されているため、ローコードで Kafka メッセージを公開および処理できます。
- Kafka 環境からデータをインポートし、既存の強力な変換エンジン (RTE) または変換マップ構成を使用してそのデータを処理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 独自のスクリプトを使用して Kafka トピックからのデータを処理するコンシューマーを構成します。
- 統計情報とパフォーマンスメトリクスの詳細なレポートを使用して、コンシューマーのパフォーマンスを監視します。

コンポーネント

Apache Kafka 向けストリームコネクトには次のコンポーネントがあります。

プロデューサー

プロデューサーはイベントを Kafka 環境に公開します。Apache Kafka 向けストリームコネクトには次の 2 つのプロデューサーがあります。

- ワークフロースタジオ の Kafka プロデューサーステップ
- ProducerV2 API

コンシューマー

コンシューマーは Kafka 環境からイベントを読み取って処理します。Apache Kafka 向けストリームコネクトには次のような複数のコンシューマーがあります。

- ワークフロースタジオ での Kafka メッセージトリガー
- 抽出変換ロード (ETL) コンシューマー
- 変換マップコンシューマー
- スクリプトコンシューマー

トピックとトピックの名前空間

イベントはトピックに編成されて保存されます。1 つのトピックには同じタイプのイベントが格納されます。トピックはパーティションに分割されます。イベントにはキーがあります。同じキーを持つイベントは同じパーティションに格納されます。

トピックはトピックの名前空間にリンクされます。名前空間を使用して、論理的な方法でトピックを整理できます。たとえば、取得元の Kafka クラスターに基づいてトピックをグループ化できます。名前空間を使用して、どのドメインがドメインセパレーションされたインスタンスのどのトピックにアクセスできるかを設定することもできます。詳細については、「Hermes での名前空間とトピックの管理」を参照してください。

サブスクリプション

サブスクリプションは、コンシューマーに関連付けられたレコードです。メッセージを消費する Kafka トピックの名前やトピックが持つパーティションの数など、コンシューマーに関する構成情報が格納されます。サブスクリプションレコードは、Kafka ストリームがアクティブ化されると作成されます。

各サブスクリプションレコードにあるいくつかのメトリクスを使用すると、トピックからコンシューマー読み取りを行うパフォーマンスを表示できます。詳細については、「Kafka サブスクリプションと統計情報の表示」を参照してください。

パーティショングループ

パーティショングループは、一連のトピックパーティションです。たとえば、トピックに 6 つのパーティションがある場合、各グループに 2 つのパーティションがある 3 つのパーティショングループに分割できます。

Kafka コンシューマージョブ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トピック内に新しいイベントがないか Hermes を定期的にチェックするジョブ。ジョブは空きパーティショングループを選択し、そのサブスクリプションを取得します。サブスクリプションでトピック名が得られ、ジョブはそのトピックのメッセージのパーティションをチェックします。

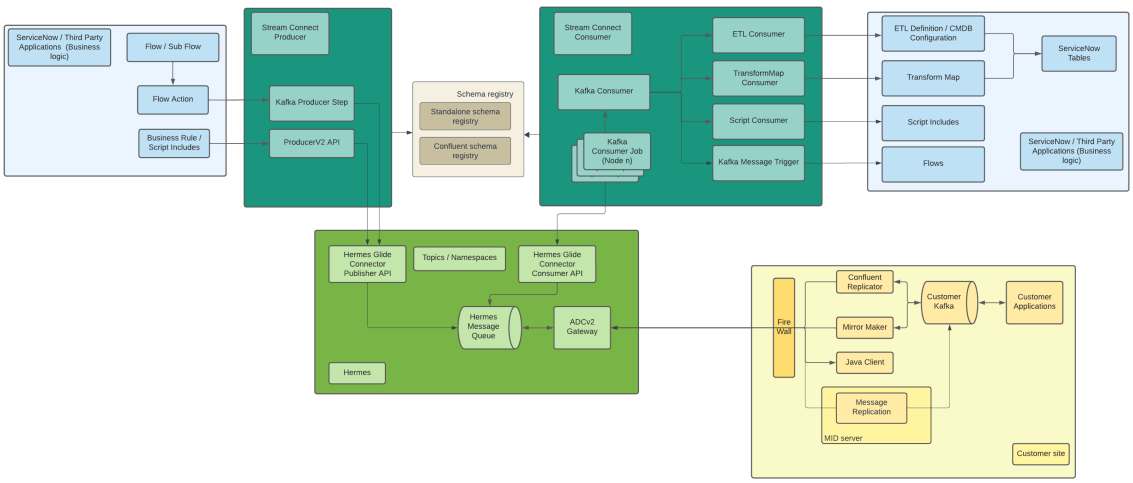
Kafka ストリーム (次の画像には表示されていません)

Kafka ストリームは、コンシューマーのデータストリームを定義するレコードです。ワークフロースタジオ で Kafka メッセージトリガーを使用している場合、Kafka ストリームが自動的に作成されます。別のコンシューマーを使用している場合は、手動で作成する必要があります。

Kafka 環境を ServiceNow インスタンスにリンクするために、ストリームコネクトは Hermes メッセージングサービス を使用します。Hermes メッセージングサービス を使用すると、インスタンスで大量の Kafka イベントを生成して消費できます。Kafka 環境とインスタンス間のデータフローを管理します。詳細については、「Hermes メッセージングサービス」を参照してください

次の図は、Apache Kafka 向けストリームコネクトの主要なコンポーネントと、ServiceNow およびサードパーティのアプリケーションとのこれらのコンポーネントの関連性、さらに Hermes を介した Kafka 環境との接続方法を示しています。

ストリームコネクトコンポーネントの概要



Apache Kafka 向けストリームコネクト および ワークフロースタジオ

Apache Kafka 向けストリームコネクトとワークフロースタジオを使用して Kafka イベントを生成および消費するフローを構築します。Apache Kafka 向けストリームコネクトには、Kafka イベントを消費するためのフロートリガーと、それらを生成するためのアクションステップがあります。

Kafka メッセージトリガー を使用して、Kafka イベントを処理するフローを作成します。Kafka からデータを消費してテーブルに挿入するフローをビルドするか、スポークを使用してサードパーティ環境にデータを伝達することができます。

フローがアクティブ化されると、トリガーが有効になります。アクティブ化されると、指定された Kafka トピックにメッセージがあるときはいつでもトリガーがフローを開始します。Kafka メッセージトリガーを使用する場合は、Kafka ストリームまたはサブスクリプションレコードを作成する必要はありません。フローがアクティブ化されると、どちらも自動的に作成されます。フローがアクティブである限り、トピックからメッセージが読み取られます。

Kafka プロデューサーステップ を使用して、Kafka 環境のトピックにイベントを公開するアクションを作成します。たとえば、このステップを使用して ServiceNow 内のインシデントの更新に関するメッセージを作成し、そのメッセージを Kafka 環境のトピックにプッシュすることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Apache Kafka 向けストリームコネクト アラート

Apache Kafka 向けストリームコネクトの統合に関するアラートとアラート通知を受信します。Apache Kafka 向けストリームコネクトは、アクティブモニタリングとスケジュール済みモニタリングの両方を使用して、複数のコンポーネントにわたるイベントを検出します。問題が検出されると、システムはアラートを作成し、Apache Kafka 向けストリームコネクトログにメッセージを記録して、アラート通知を送信します。詳細については、「Apache Kafka 向けストリームコネクト のアラート」を参照してください。

Avro 形式のメッセージのサポート

スキーマをインポートして作成し、Apache Avro 形式でメッセージを送受信します。Avro 形式を使用することで、ペイロードのサイズを減らし、ローカルの Kafka インスタンスへの統合を簡素化できます。

Avro スキーマを Confluent レジストリから直接インポートすることも、JSON ファイルまたは JSON 形式の文字列を使用して独自のスキーマを作成することもできます。スキーマは ServiceNow に保存され、プロデューサーとコンシューマーがプレーンテキストメッセージを Avro 形式に変換したり、その逆を行ったりすることができます。詳細については、「ストリームコネクトのスキーマ管理」を参照してください。

ETL、変換マップ、およびスクリプトコンシューマー

既存の RTE または変換マップ構成を使用して、Kafka 環境からデータをインポートします。抽出変換ロード (ETL) コンシューマーおよび変換マップコンシューマーは、Kafka メッセージからのペイロードの取得、データの変換、テーブルのレコードの挿入または更新を効率的に行えるようにして、データのインポートを簡素化します。予定されているデータインポートからストリームコネクトを使用する方法に切り替え、同じ構成でデータを処理できます。

スクリプトコンシューマーを使用して、Kafka 環境からデータを処理することもできます。スクリプトコンシューマーは、メッセージ内のデータが構造化されていない場合、またはコードを使用したデータルックアップが必要な場合など、より高度なユースケース用です。

抽出変換ロード (ETL) コンシューマーの構成、変換マップコンシューマーの構成、または スクリプトコンシューマーの構成 を行う場合は、Kafka ストリームの作成 も行う必要があります。

ProducerV2 API

ProducerV2 API を使用して Kafka トピックにイベントを公開します。

Apache Kafka 向けストリームコネクトメッセージレプリケーション

Kafka 環境と ServiceNow の間のデータを、Apache Kafka 向けストリームコネクトメッセージレプリケーションを使用して、レプリケートできます。

Apache Kafka 向けストリームコネクトメッセージレプリケーションを使用すると、ServiceNow インスタンスから直接メッセージのレプリケーションを設定し、管理できます。MID サーバーを使用してデータレプリケーションを実行するため、追加のレプリケーションサービスを構成またはホストする必要はありません。また、必要な証明書が自動的に生成されるため、メッセージレプリケーションのセットアップが簡略化されます。

詳細については、「ストリームコネクトメッセージレプリケーション」を参照してください。

未処理および未配信のメッセージ

メッセージを配信できない場合、メッセージは Kafka 未配信メッセージ [sys_kafka_delivered_messages] テーブルに格納されます。スケジュール済みジョブである Kafka プロデューサー再試行は、定期的にこのテーブルを読み取り、メッセージを再配信しようとします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイムアウトによりメッセージのバッチを処理できない場合、メッセージは Kafka 未処理メッセージ [sys_kafka_unprocessed_messages] テーブルに格納されます。メッセージバッチのタイムアウトは、*com.glide.kafka_consumer.timeout* プロパティで設定できます。デフォルト値は 60 秒です。このテーブルはローテーションされているため、レコードは自動的に消去されます。

ドメインセパレーション

Apache Kafka 向けストリームコネクトのトピックの名前空間を使用して、どのドメインがドメインセパレーションされたインスタンスの Kafka トピックにアクセスできるかを設定できます。トピックを ServiceNow の名前空間にグループ化してから、名前空間を特定のドメインにリンクします。詳細については、「ドメインセパレーションと Apache Kafka 向けストリームコネクト」を参照してください。

プラグイン

Apache Kafka 向けストリームコネクトには、ServiceNow Apache Kafka 向けストリームコネクト Installer [com.glide.hub.stream_connect.installer] プラグインが必要です。このプラグインにより、Apache Kafka 向けストリームコネクトでメッセージベースのストリーミングデータを操作するためのライセンスコンポーネントが有効になります。

ストリームコネクトメッセージレプリケーション

Apache Kafka 環境と ServiceNow の間でデータを複製します。

ストリームコネクトメッセージレプリケーションを使用すると、ServiceNow インスタンスから直接メッセージのレプリケーションを設定し、管理できます。

ストリームコネクトメッセージレプリケーションは MID サーバーを使用してデータレプリケーションを実行するため、追加のレプリケーションサービスを構成またはホストする必要はありません。また、必要な証明書が自動的に生成されるため、メッセージレプリケーションのセットアップが簡略化されます。

MID サーバーによるデータの複製の有効化

ストリームコネクトメッセージレプリケーションでは、レプリケーター拡張機能を持つ MID サーバーを使用して、ローカル Kafka との間でデータを複製します。MID サーバーの構成方法については、「MID サーバーの構成」を参照してください。

MID サーバーは、ファイアウォールを介して Hermes エンドポイントにアクセスできなければなりません。ネットワークアドミニストレーターと協力して、次のポート範囲が開いていることを確認します。

- プロデューサー： 4000 ～ 4050
- コンシューマー 1：4100 ～ 4150
- コンシューマー 2：4200 ～ 4250

Kafka の接続と資格情報の構成

ストリームコネクトコネクトレプリケーションは、接続および資格情報エイリアスを使用してローカル Kafka に接続します。接続および資格情報エイリアスの構成方法：

1. 接続に必要な認証データを使用して、Kafka SSL 認証情報の作成。
2. Kafka 接続の構成を行い、Kafka 環境に接続します。
3. 接続情報および認証情報エイリアスの作成を行い、接続情報と認証情報データを関連付けます。接続および資格情報エイリアスの [接続タイプ]は **[Kafka]** で、MID サーバーからアクセスできる必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これらの手順は、Kafka に接続するための接続および資格情報エイリアスを構成するためのものです。必要なキーストア、トラストストア、証明書の作成を MID サーバーが自動的に処理するため、Hermes に接続するための接続や認証情報を設定する必要はありません。

メッセージおよびトピックのレプリケーションの作成

メッセージレプリケーションには、メッセージレプリケーションレコードと Kafka トピックレプリケーションレコードが必要です。

メッセージレプリケーションレコードは、単一の Kafka クラスターを表します。たとえば、2 つの Kafka クラスターがある場合は、クラスターごとに 1 つずつ、合計 2 つの異なるメッセージレプリケーションレコードを作成します。メッセージレプリケーションレコードは、そのクラスターとの間で複製されるすべてのトピックの親レコードです。メッセージレプリケーションレコードは、メッセージレプリケーション [sys_sc_message_replication] テーブルに格納されます。

Kafka トピックレプリケーションレコードは、単一のソーストピックから単一の宛先トピックへのレプリケーションを指定します。単一のソーストピックを複数の宛先に複製することはできません。各宛先への複製は 1 回のみ可能です。Kafka トピックレプリケーションレコードは、Kafka トピックレプリケーション [sys_kafka_topic_replication] テーブルに格納されます。

メッセージおよびトピックのレプリケーションレコードを作成するためのステップバイステップのガイドについては、「ストリームコネクトでメッセージと Kafka トピックレプリケーションを作成する」を参照してください。

メッセージレプリケーション統計情報の表示

レプリケーションが実行されると、各アクティブなトピックのレプリケーションにメトリクスレコードが 60 秒ごとに作成されます。メトリクスレコードは、各収集間隔で複製されたメッセージの数を示す [メッセージ数] など、トピックのレプリケーションに関する情報を提供します。

メトリクスレコードは、メッセージレプリケーション統計情報 [sys_sc_channel_replication_metric] テーブルで表示できます。Kafka トピックレプリケーションレコードのメッセージレプリケーション統計情報を確認することで、特定のトピックのメトリクスレコードを表示することもできます。

メッセージレプリケーションメトリクスとその説明のリストについては、「ストリームコネクトメッセージレプリケーション統計情報の表示」を参照してください。

必須のプラグイン

ストリームコネクトメッセージレプリケーションには、ServiceNow Stream Connect Installer [com.glide.hub.stream_connect.installer] プラグインが必要です。

ロール

message_replication_admin ロールは、接続と資格情報テーブル、メッセージとトピックのレプリケーションテーブルなど、すべてのメッセージレプリケーションテーブルのレコードを作成、変更、削除できます。

message_replication_user ロールは、メッセージレプリケーションテーブルのレコードを表示できます。

ログ記録

ほとんどの問題は MID サーバーログに記録されます。追加のデバッグログ記録を有効にするには、*glide.stream_connect.message_replication.debug* MID サーバープロパティを **[true]** に設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストリームコネクトでメッセージと Kafka トピックレプリケーションを作成する

メッセージとトピックレプリケーションをセットアップして、Apache Kafka 環境と ServiceNow の間でデータを複製します。

始める前に

- 必要なロール：message_replication_admin
- この機能には サブスクリプションが必要です。詳細については、「Apache Kafka のApache Kafka 向けストリームコネクトの使用」を参照してください。
- Hermes メッセージングサービスとインスタンス PKI 証明書ジェネレーターが機能していることを確認します。
  - Hermes Kafka クラスターのステータスと接続の確認 。
  - キー管理フレームワークの健全性 をチェックして、インスタンス PKI セクションの 3 つの項目すべてが動作していることを確認します。
- MID サーバーを構成して開始します。詳細については、「MID サーバーの構成 」を参照してください。MID サーバーは、ファイアウォールを介して Hermes エンドポイントにアクセスできなければなりません。ネットワークアドミニストレーターと協力して、次のポート範囲が開いていることを確認します。
  - プロデューサー： 4000 ～ 4050
  - コンシューマー 1：4100 ～ 4150
  - コンシューマー 2：4200 ～ 4250
- ストリームコネクトメッセージレプリケーションは、接続および資格情報エイリアスを使用してローカル Kafka に接続します。[接続タイプ] が **[Kafka]** の接続情報および認証情報エイリアスの作成 。接続および資格情報エイリアスには、 [Kafka 接続 (Kafka Connection)] と [Kafka SSL 認証情報]が必要です。
- ストリームコネクトメッセージレプリケーションには、ServiceNow Stream Connect Installer [com.glide.hub.stream_connect.installer] プラグインが必要です。

このタスクについて

このページでは、メッセージレプリケーションレコードと関連する Kafka トピックレプリケーションレコードを作成する方法について説明します。

メッセージレプリケーションレコードは、単一の Kafka クラスターを表します。たとえば、2 つの Kafka クラスターがある場合は、クラスターごとに 1 つずつ、合計 2 つの異なるメッセージレプリケーションレコードを作成します。メッセージレプリケーションレコードは、そのクラスターとの間で複製されるすべてのトピックの親レコードです。メッセージレプリケーションレコードは、メッセージレプリケーション [sys_sc_message_replication] テーブルに格納されます。

Kafka トピックレプリケーションレコードは、単一のソーストピックから単一の宛先トピックへのレプリケーションを指定します。単一のソーストピックを複数の宛先に複製することはできません。各宛先への複製は 1 回のみ可能です。Kafka トピックレプリケーションレコードは、Kafka トピックレプリケーション [sys_kafka_topic_replication] テーブルに格納されます。

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [ストリームコネクト] > [メッセージレプリケーション **(Message Replications)]** の順に移動し、[新規] を選択します。
2. [メッセージレプリケーション] フォームで、フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メッセージレプリケーションフォーム

フィールド	説明
名前	メッセージレプリケーションの名前。
メッセージングサービス接続 (Messaging service connection)	接続先のメッセージングサービスを指定する接続および資格情報エイリアス。
状況	メッセージレプリケーションの前回の既知のステータス。このフィールドは自動的に設定されます。
エラーメッセージ	メッセージレプリケーションの前回の既知のステータスに基づいたエラーメッセージ。このフィールドは自動的に設定されます。
アプリケーション	メッセージレプリケーションのアプリケーションスコープ。このフィールドは自動的に設定されます。
アクティブ	メッセージのレプリケーションをアクティブ化するオプション。

3. [保存] を選択します。
フォームを保存すると、[Kafka トピックレプリケーション (Kafka Topic Replications)] タブがページの下部に表示されます。
4. [Kafka トピックレプリケーション (Kafka Topic Replications)] タブで、[新規] を選択します。
5. [Kafka トピックレプリケーション (Kafka Topic Replications)] フォームで、フィールドに入力します。

Kafka トピックレプリケーションフォーム

フィールド	説明
名前	トピックレプリケーションの名前。名前は、他のフィールドの値に基づいて自動的に生成されます。 [名前]を生成するには、[方向]、**[ServiceNow トピック (ServiceNow topic)]**、および [トピック名] フィールドに値を入力し、[保存] を選択します。 [方向] が **[ServiceNow へ (To ServiceNow)]** の場合、名前の形式は、`トピック名［レプリケーション名］-> ServiceNow トピック名 ［SN］` になります。 [方向] が **[ServiceNow から (From ServiceNow)]** の場合、名前の形式は、`ServiceNowトピック名 ［SN］ -> トピック名［レプリケーション名］` になります。
方向	トピックのレプリケーションの方向。 ◦ **[ServiceNow へ (To ServiceNow)]** は、ローカルの Kafka 環境から ServiceNow にトピックをレプリケートします。 ◦ **[ServiceNow から (From ServiceNow)]** は、ServiceNow からローカルの Kafka 環境にトピックをレプリケートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ServiceNow トピック	Kafka トピック [sys_kafka_topic] テーブルへの参照。
レプリケーション	このトピックのレプリケーションを管理するメッセージレプリケーション。
トピック名	ローカル Kafka 環境内のトピックの名前。
アクティブ	トピックのレプリケーションをアクティブ化するオプション。
状況	トピックレプリケーションの前回の既知のステータス。このフィールドは自動的に設定されます。
エラーメッセージ	トピックレプリケーションの前回の既知のステータスに基づいたエラーメッセージ。このフィールドは自動的に設定されます。
現在の更新セット内で追跡 (Track in current update set)	選択すると、トピックレプリケーションが現在の更新セットに追加されるため、準本番インスタンスから本番インスタンスに簡単に昇格できます。このフィールドを追加するためにフォームを構成しなければならない場合があります。

6. [送信] を選択します。
7. ステップ 1 ～ 6 に従って、すべての Kafka クラスターとトピックのメッセージとトピックレプリケーションを作成します。

タスクの結果
すべてのメッセージとトピックのレプリケーションレコードを作成したら、メッセージをレプリケートする必要があります。メッセージのレプリケーションレコードの [ステータス] フィールドと [エラーメッセージ] フィールドで、レプリケーションの動作に関する一般的なステータスを確認できます。

個々の Kafka トピックレプリケーションレコードの [ステータス] フィールドと [エラーメッセージ] フィールドで、特定のトピックのレプリケーションのステータスを確認することもできます。

各 Kafka トピックレプリケーションレコードには、[メッセージレプリケーション統計情報 (Message Replication Statistics)] という名前の関連リストもあります。レプリケーションが実行されると、このリストには、各トピックのレプリケーションに対して 60 秒ごとに作成されるメトリクスレコードが表示されます。各メトリクスレコードには、それぞれの収集間隔で複製されたメッセージの数を示す [メッセージ数] など、トピックレプリケーションに関する情報が含まれています。

次のタスク
ローカルの Kafka から ServiceNow にメッセージをレプリケートする場合は、スクリプト、ETL、または変換マップコンシューマーを構成してメッセージを処理するか、Kafka メッセージトリガー を設定してフローを開始できます。

ServiceNow からローカルの Kafka にメッセージをレプリケートする場合は、フローデザイナーの Kafka プロデューサーステップ を使用するか、ProducerV2 API を使用して、Hermes トピックとローカルの Kafka にメッセージを公開することができます。

Kafka SSL 認証情報の作成

Apache Kafka 接続の SSL 認証情報を構成します。

始める前に
必要なロール：connection_admin または message_replication_admin

このタスクについて
ローカルの Apache Kafka 環境に接続するための接続レコードと認証情報レコードを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 接続レコードには、ローカル Kafka への接続に必要な情報が含まれています。接続レコードは、Kafka 接続 [kafka_connection] テーブルに格納されています。
- 認証情報レコードには、接続に必要な認証データが保存されます。認証情報レコードは、Kafka SSL 認証情報 [kafka_ssl_credentials] テーブルに格納されます。

接続レコードと認証情報レコードの両方を作成した後、接続情報および認証情報エイリアスの作成を行い、接続情報と認証情報データを 1 つの名前でリンクできます。

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報] > [認証情報] の順に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. 作成する認証情報のタイプを尋ねるフォームで、**[Kafka SSL 認証情報]** を選択します。
4. Kafka SSL 認証情報フォームのフィールドに入力します。
   フィールドの説明については、「Kafka SSL 認証情報フィールド」を参照してください。
5. [送信] を選択します。

次のタスク
Kafka 接続の構成。

Kafka 接続の構成

Apache Kafka 環境への接続を構成します。

始める前に

- 必要なロール：connection_admin または message_replication_admin
- Kafka SSL 認証情報の作成。

このタスクについて
ローカルの Apache Kafka 環境に接続するための接続レコードと認証情報レコードを構成します。

- 接続レコードには、ローカル Kafka への接続に必要な情報が含まれています。接続レコードは、Kafka 接続 [kafka_connection] テーブルに格納されています。
- 認証情報レコードには、接続に必要な認証データが保存されます。認証情報レコードは、Kafka SSL 認証情報 [kafka_ssl_credentials] テーブルに格納されます。

接続レコードと認証情報レコードの両方を作成した後、接続情報および認証情報エイリアスの作成を行い、接続情報と認証情報データを 1 つの名前でリンクできます。

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報] > [接続] の順に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. 作成する接続のタイプを尋ねるフォームで、**[Kafka 接続 (Kafka Connection)]** を選択します。
4. Kafka 接続 (Kafka Connection) フォームのフィールドに入力します。

Kafka 接続 (Kafka Connection) フォーム

名前	接続の名前。
認証情報	この接続を許可するために使用する認証情報の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション	メッセージレプリケーションのアプリケーションスコープ。このフィールドは自動的に設定されます。
アクティブ	接続を有効にするオプション
接続エイリアス	この接続に関連付ける接続エイリアスの名前。
Bootstrap サーバー (Bootstrap servers)	「<ホスト>:<ポート>,<ホスト>:<ポート>」形式のカンマ区切りリスト。すべての Apache Kafka クラスターサーバーをリストに含める必要はありません。
コンシューマーグループ ID (Consumer group id)	Kafka コンシューマーグループ ID。指定しない場合、値は `{instance_name}-consumer-{kafka_connection.sys_id}` の形式で作成されます
追加のクライアントプロパティ (Additional client properties)	Kafka に接続するときに指定する必要がある追加のクライアントプロパティ。使用可能なプロパティの完全なリストと説明については、https://kafka.apache.org/documentation/ の Kafka のドキュメントを参照してください。
MID サーバー の使用	MID サーバーを使用するオプションです。このフィールドは自動的に選択されます。
高度な MID サーバーの構成	
MID 選択	特定の MID サーバーまたは MID クラスターを選択するオプション。このフィールドは、自動的に [特定の **MID** サーバー] に設定されます。
MID サーバー	使用する MID サーバー の名前。

5. [送信] を選択します。

次のタスク
[接続タイプ] が **[Kafka]** の 接続情報および認証情報エイリアスの作成 。

ストリームコネクトメッセージレプリケーション統計情報の表示

メッセージレプリケーションが実行されている場合、システムはそれぞれのアクティブなトピックのレプリケーションに 60 秒ごとにメトリクスレコードを作成します。メトリクスレコードは、トピックのレプリケーションに関する情報を提供します。メトリクスレコードは、メッセージレプリケーション統計情報 [sys_sc_channel_replication_metric] テーブルで表示できます。Kafka トピックレプリケーションレコードのメッセージレプリケーション統計情報を確認することで、トピックのメトリクスレコードを表示することもできます。

メッセージ レプリケーション統計情報

メトリクス	説明
収集時間 (Collection time)	メトリクスの収集が終了した時刻。形式：yyyy-MM-dd and HH:mm:ss。
収集間隔	収集間隔の長さ (秒単位)。
チャネルレプリケーション (Channel replication)	Kafka トピックレプリケーションレコードへの参照。
メッセージ数	収集間隔中にレプリケートされたメッセージの数。
バイト数	収集間隔中にレプリケートされたバイト数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メッセージ レプリケーション統計情報 (続く)

メトリクス	説明
遅延メッセージ (Lag messages)	収集間隔の終了時に、ソースで処理される残りのメッセージ数。
ソース	ソースとして使用されるトピックの名前。
宛先	宛先として使用されるトピックの名前。
方向	レプリケーションの方向 (**[ServiceNow へ (To ServiceNow)]** または **[ServiceNow から (From ServiceNow)]** のいずれか)。

Apache Kafka 向けストリームコネクト クイックスタートガイド

このクイックスタートガイドでは、ServiceNow インスタンスと Kafka 環境の間でデータを交換するために、6 つのストリームコネクトプロデューサーとコンシューマをそれぞれ設定して使用する方法の概要について説明します。

ストリームコネクトには、ServiceNow から Kafka 環境にデータを送信する 2 つのプロデューサーがあります。

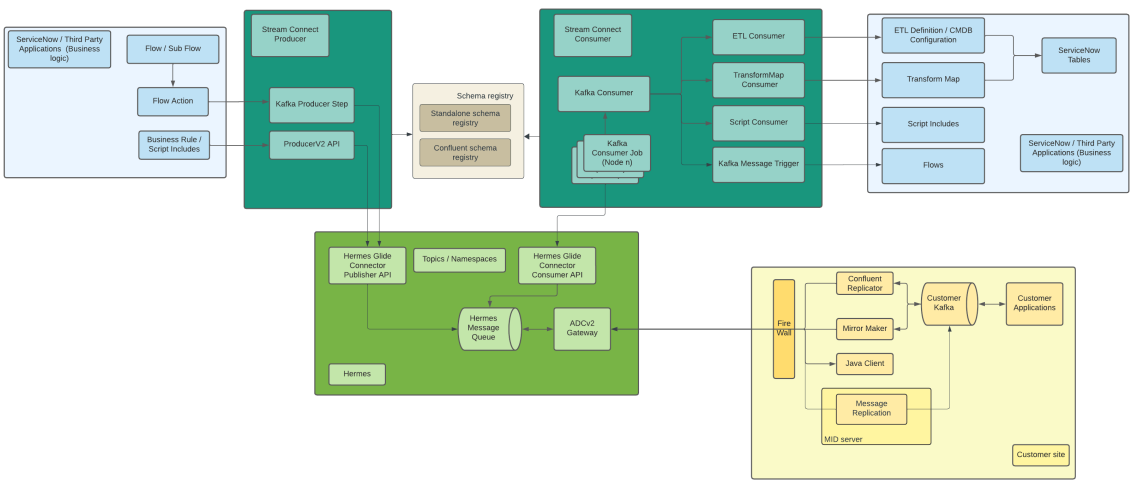
- フローデザイナー の Kafka プロデューサーステップ
- ProducerV2 API

ストリームコネクトには、Kafka 環境からデータを取得する 4 つのコンシューマーもあります。

- フローデザイナー での Kafka メッセージトリガー
- 抽出変換ロード (ETL) コンシューマー
- 変換マップコンシューマー
- スクリプトコンシューマー

ServiceNow インスタンスを Kafka 環境にリンクするために、ストリームコネクトは Hermes メッセージングサービス を使用します。次の図は、プロデューサーとコンシューマーのそれぞれと、それらが Hermes を介して Kafka 環境 (ここでは 顧客サイト) に接続する方法を示しています。

ストリームコネクトのプロデューサーとコンシューマー



詳細については、「Apache Kafka のApache Kafka 向けストリームコネクトの使用」および「Hermes メッセージングサービス」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

はじめに

顧客サイトを表すために、このガイドでは、コンピューターで実行される Apache Kafka コマンドラインツールを使用します。このツールで使用する設定パラメーターは、Kafka プロトコルを使用する Application Delivery Controller バージョン 2 (ADCv2) ゲートウェイへの任意のクライアント接続を構成するために使用できます。

指定されたすべてのコマンドは、OpenSSL バージョン (LibreSSL 2.8.3) および Apache Kafka バイナリディストリビューションバージョン kafka_2.13-3.4.0.tgz でテストされています。ただし、すべてのコマンドは、ローカル環境にあるどのバージョンでも機能するはずです。

クイックスタートステップ

このクイックスタートガイドには 5 つのステップがあります。ステップ 1 と 2 では、Hermes への接続を設定してテストする方法について説明します。ステップ 3 ~ 5 では、ストリームコネクトの各プロデューサーとコンシューマーを構成して使用しデータを送受信する方法を示します。

1. ADCv2 ゲートウェイは相互認証を使用して要求を認証するため、最初のステップでは、お気に入りの Kafka クライアントで使用するキーストアとトラストストアを作成します。次のページでは必要な証明書を作成する方法を示しています：Hermes メッセージングサービス への安全な接続の設定
2. Hermes への安全な接続を設定した後、 ADCv2 ゲートウェイを介して Hermes への接続をテストすることで、キーストアとトラストストアが正しく生成されていることを確認します。
3. これで、Kafka メッセージトリガーとスクリプトコンシューマーを使用してメッセージを消費するを実行できます。このページの前半では、フローデザイナー で Kafka メッセージトリガーを使用して Kafka からメッセージを取得する方法を説明します。後半では、スクリプトコンシューマーを使用してメッセージを取得する方法を説明します。
4. ETL および変換マップコンシューマーを使用したデータのインポート を実行します。ETL 定義と変換マップは、スケジュール済みインポートを通じてデータを取得するときに使用する変換ロジックを指定します。同じ ETL 定義と変換マップを使用して、Kafka を介して受信したイベントを変換できます。

   > **注:** ETL コンシューマーを使用するには、強力なインポートセットトランスフォーマーが必要です。同様に、変換マップコンシューマーを使用するには、変換マップが必要です。

5. 最後に、Kafka プロデューサーステップと ProducerV2 API を使用したメッセージの公開 を実行できます。このページでは、フローデザイナー の Kafka プロデューサーステップと ProducerV2 API の両方を使用して、Kafka にメッセージをプッシュする方法について説明します。

Hermes メッセージングサービス への安全な接続の設定

ServiceNow® インスタンス署名証明書を生成して Kafka トピックを保護します。

始める前に

Hermes メッセージングサービス を設定するには、ネットワーク管理者および Kafka 管理者との調整が必要です。ネットワークアドミニストレーターと協力して必要なセキュリティ証明書を取得し、必要なポートを開きます。Kafka アドミニストレーターと協力して、Kafka 環境が正しく構成され、アプリケーションが標準の Kafka プロトコルを使用して Hermes メッセージングサービス に接続できることを確認します。

次のセットアップが行われていることを確認します。

- Hermes メッセージングサービス がアクティブ化されている。「Hermes メッセージングサービスのアクティブ化」を参照してください。
- キー管理フレームワークプラグイン (com.glide.kmf.global) がアクティブ化されている。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 証明書 [sys_kmf_certificate] テーブルに、ServiceNow インスタンスのルート CA 証明書が含まれている。
- インスタンスがカスタム URL で構成されていない。カスタム URL が、インスタンス PKI 証明書ジェネレーターではサポートされていない。

必要なロール：hermes_admin、sn_kmf.cryptographic_manager または admin

KMF ロールのアサインの詳細については、「キー管理フレームワークとともにインストールされるロール」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [証明書ジェネレーター] > [インスタンス **PKI** 証明書ジェネレーター]に移動します。
2. オプション: 名前空間またはトピックレベルでアクセス制御リスト (ACL) を設定して、トピックへのアクセスを制御します。

オプション	説明
名前空間に ACL を適用する	a. **[ACL を構成 (Configure ACLs)]** を選択します。 b. [トピック ACL] ダイアログボックスで、[名前空間] を選択します。 c. 構成する名前空間を入力します。 d. [読み取り専用] または [読み取り/書き込み] を選択して、アクセス許可レベルを設定します。 e. [追加] を選択します。
定義されたトピックに ACL を適用する	a. **[ACL を構成 (Configure ACLs)]** を選択します。 b. [トピック ACL] ダイアログボックスで、[定義されたトピック] を選択します。 c. 設定する既存のトピックを入力します。 d. [読み取り専用] または [読み取り/書き込み] を選択して、アクセス許可レベルを設定します。 e. [追加] を選択します。

   証明書の対象者には、名前空間内のトピックまたは選択した既存のトピックへの読み取りアクセス権または読み取り/書き込みアクセス権が付与されます。

3. Hermes メッセージングサービス のセキュリティを設定します。
   a. [インスタンス PKI 証明書ジェネレーター] ページに戻ります。
   b. [証明書パスワード] フィールドにキーストアパスワードを入力します。
   c. [生成] を選択します。
   システムは、証明書 [sys_kmf_certificate] テーブルにインスタンス署名付き証明書を生成し、キーストアを作成して、トラストストアを作成します。

   IPKI 証明書ジェネレーターに対して制限付き発信者アクセスが承認されていない場合は、クロススコープアクセスエラーが表示されます。制限付き発信者アクセスの承認については、カスタマーサービス & サポートにお問い合わせください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [キーストアをダウンロード] を選択して、キーストアのコピーを保存します。
5. [トラストストアをダウンロード] を選択して、トラストストアのコピーを保存します。
6. キーストアファイルとトラストストアファイルを、Hermes メッセージングサービス に接続する各プロデューサーとコンシューマークライアントにコピーします。

タスクの結果
これで、Hermes メッセージングサービス への安全な接続を作成できます。

> **注:** Hermes に接続するには、インスタンス PKI 証明書ジェネレーターを使用して生成したキーストアを使用する必要があります。ServiceNow のドキュメントに従って作成されていないカスタム生成のキーストアは、サポートされていません。

次のタスク
ADCv2 ゲートウェイを介した Hermes への接続のテスト。

ADCv2 ゲートウェイを介した Hermes への接続のテスト

ADCv2 ゲートウェイを介して Hermes への接続をテストすることで、キーストアとトラストストアが正しく生成されていることを確認します。

始める前に
- 必要なロール： integration_hub_admin
- このページは Apache Kafka 向けストリームコネクト クイックスタートガイドの一部です。
- このドキュメントでは、Hermes への接続をテストする方法について説明します。接続を作成する場合は、「Hermes メッセージングサービス への安全な接続の設定」を参照してください。

手順
1. Apache Kafka をダウンロードしてインストールします。
   a. Apache Kafka バイナリをダウンロードします。
   b. 次のコマンドを実行して、Kafka パッケージを展開します。
   ```
   tar -zxvf kafka_2.13-3.1.2.tgz
   ```
2. 次のコマンドを実行して、Kafka ディレクトリに移動します。
   ```
   cd kafka_2.13-3.1.2
   ```
3. プロデューサーを構成します。
   a. `config/producer.properties` ファイルを開きます。
   b. 次の SSL プロパティを設定します。
   ```
   security.protocol=SSL

   ssl.truststore.password=<truststore password>

   ssl.truststore.location=<path to truststore.p12>

   ssl.truststore.type=PKCS12

   ssl.keystore.password=<keystore password>
   ```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
ssl.keystore.location=<path to keystore.p12>

ssl.keystore.type=PKCS12

ssl.key.password=<keystore password>
```

次のプレースホルダー変数を置き換えます。

- `<truststore password>` はトラストストアパスワードで置き換えます。
- `<path to truststore.p12>` はトラストストアファイルへのパスで置き換えます。
- `<keystore password>` はキーストアパスワードで置き換えます。
- `<path to keystore.p12>` はキーストアファイルへのパスで置き換えます。

ステップ 1 ~ 3 を実行すると、Apache Kafka がダウンロードされ、producer.properties が正しく構成されるはずです。次の手順で指定するすべてのコマンドは、Apache Kafka ホームディレクトリ内で実行する必要があります。

4. config/producer.properties ファイルを config/bootcamp.properties にコピーします。
この例では、`bootcamp` を一般的な名前として使用しています。

```
cp config/producer.properties config/bootcamp.properties
```

5. トピックを一覧表示するには、次のコマンドを使用します。

```
bin/kafka-topics.sh --list --command-config config/bootcamp.properties
  --bootstrap-server <instance name>.service-now.com:4000,<instance
 name>.service-now.com:4001,<instance
 name>.service-now.com:4002,<instance name>.service-now.com:4003
```

必ず `<instance name>` をインスタンス名で置き換えてください。
インスタンスにトピックがある場合は、ここにリストされます。

次のタスク

Kafka メッセージトリガーとスクリプトコンシューマーを使用してメッセージを消費する。

Kafka メッセージトリガーとスクリプトコンシューマーを使用してメッセージを消費する

フローデザイナー の Kafka メッセージトリガーとスクリプトコンシューマーを使用して、Hermes からメッセージを取得します。

始める前に

- 必要なロール： integration_hub_admin
- このページは Apache Kafka 向けストリームコネクト クイックスタートガイドの一部です。
- このドキュメントでは、Hermes への接続を介してメッセージを消費する方法について説明します。接続の設定とテストについては、「Hermes メッセージングサービス への安全な接続の設定」および「ADCv2 ゲートウェイを介した Hermes への接続のテスト」を参照してください。
- このページの前半では、フローデザイナー で Kafka メッセージトリガーを使用してメッセージを消費する方法を説明します。トリガーの詳細については、「Kafka メッセージトリガーを使用したフローの作成」を参照してください。フローデザイナー およびフローの構成の詳細については、「ワークフロースタジオ」を参照してください。
- このページの後半では、スクリプトコンシューマーを使用してメッセージを消費する方法を説明します。詳細については、「スクリプトコンシューマーの構成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. メッセージを消費するトピックを作成します。

   a. 次のコマンドを使用して、Hermes にトピックを作成します。

   ```
   bin/kafka-topics.sh --create --command-config
    config/bootcamp.properties  --bootstrap-server
    <instance name>.service-now.com:4000,<instance
    name>.service-now.com:4001,<instance name>.service-now.com:4002,
    <instance name>.service-now.com:4003 --topic snc.<instance
    name>.topic1
   ```

   必ず `<instance name>` をインスタンス名で置き換えてください。

   b. トピックを表示するには、インスタンスにログインし、[すべて] > [統合ハブ] > **[Stream Connect]** > [トピック]に移動します。

   注: トピックの作成には約 10 分かかります。

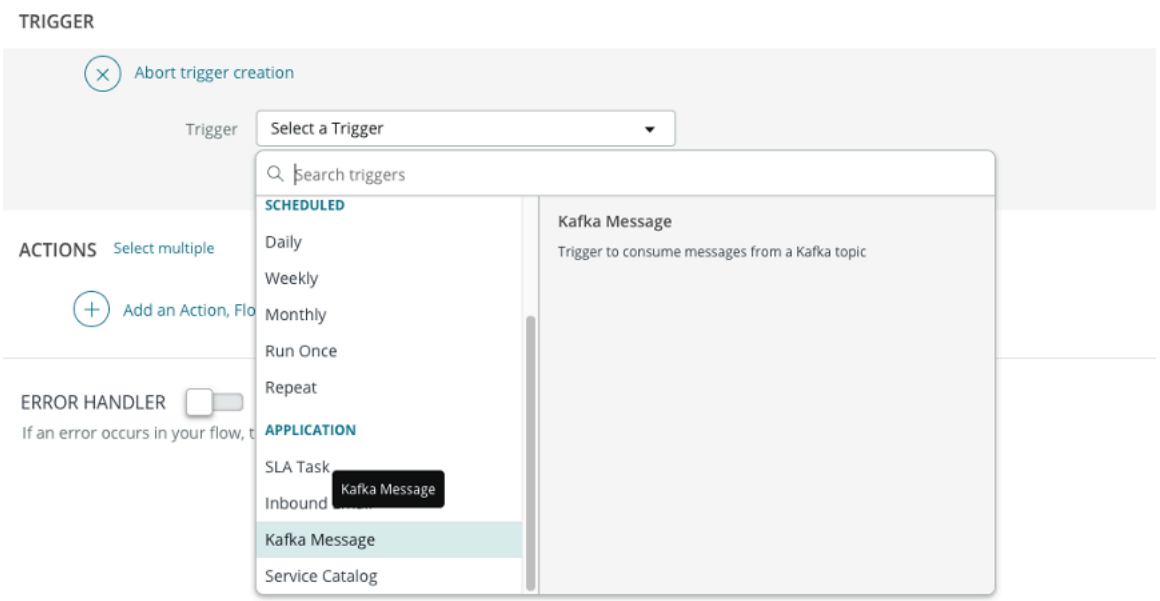
2. トピックからメッセージを消費するフロートリガーを作成します。

   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

   b. [新規作成] > [フロー]を選択します。

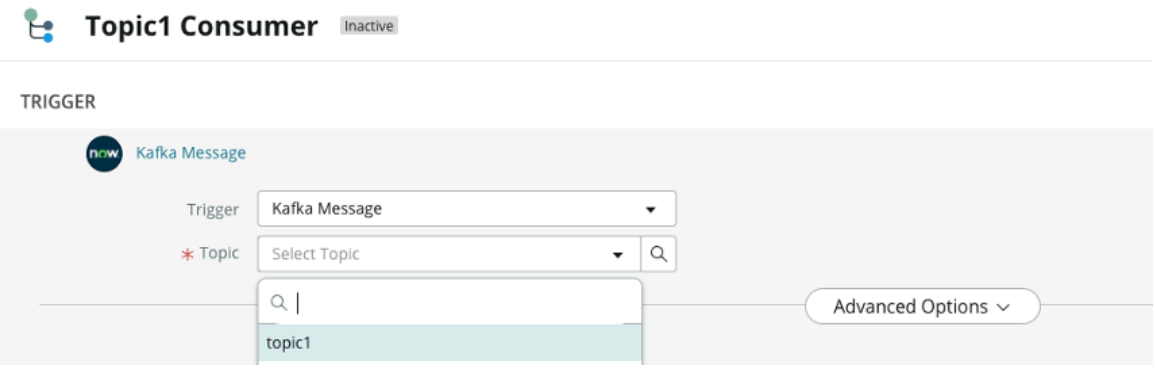
   c. [フロープロパティ] フォームで、フローの名前を入力し、[送信] を入力します。
   この例では、`Topic1 Consumer` という名前を使用しています。

   d. トリガーセクションで [トリガーを追加] を選択し、トリガータイプとして **[Kafka** メッセージ] を選択します。



   e. Topic1 トピックを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



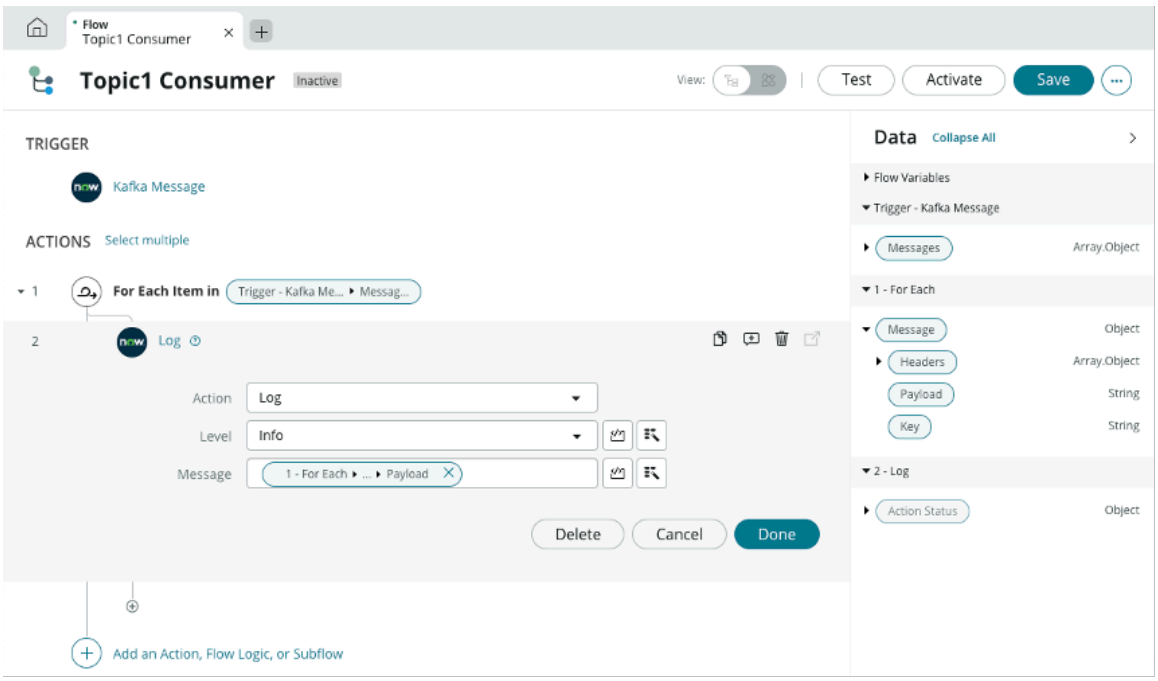
虫眼鏡アイコンを使用すると、利用可能なトピックのリストを表示できます。

f. フローの [アクション] セクションで、 [アクションを追加]、[フローロジック]、または [サブフロー] > [フローロジック] > [各々 **(For Each)]**に移動します。

g. [メッセージ] データピルを [アイテム] フィールドにドラッグし、[完了]を選択します。

h. フローの [アクション] セクションで、 [アクションを追加]、[フローロジック]、または [サブフロー] > [アクション] > **[ServiceNow** コア] > [ログ] に移動します。

i. [ペイロード] データピルを [メッセージ] フィールドにドラッグし、[完了]を選択します。

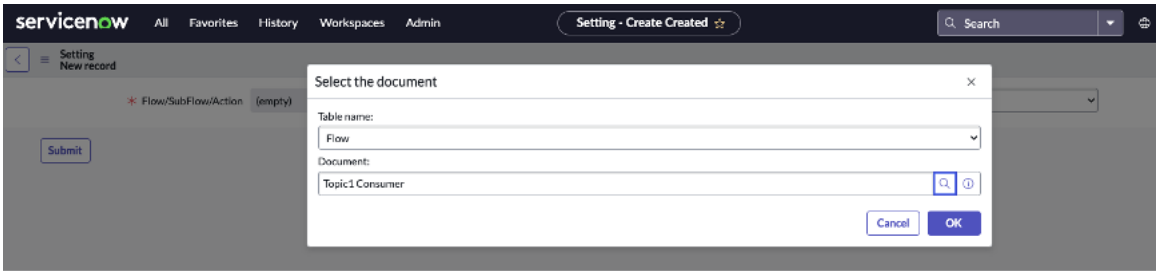


j. フロートリガーを [保存] します。

k. 設定 [sys_flow_execution_setting] テーブルに移動して、このフローのレポートを有効にします。

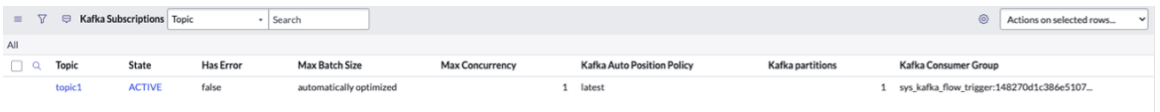
l. 新しいエントリを作成し、上記で作成したフローへのレポートを有効にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



m. フローに戻り、[アクティブ化 **(Activate)]** を選択します。

n. トピックのサブスクリプションを表示するには、[すべて] > **[Integration Hub]** > **[Stream Connect]** > [サブスクリプション]に移動します。



3. Kafka コマンドラインツールを使用して、トピックにメッセージを公開します。

a. 次のコマンドを実行して、topic にメッセージを公開します。

```
bin/kafka-console-producer.sh --topic snc.<instance
 name>.topic1  --producer.config  config/bootcamp.properties
 --bootstrap-server <instance name>.service-now.com:4000,<instance
 name>.service-now.com:4001,<instance
 name>.service-now.com:4002,<instance name>.service-now.com:4003
```

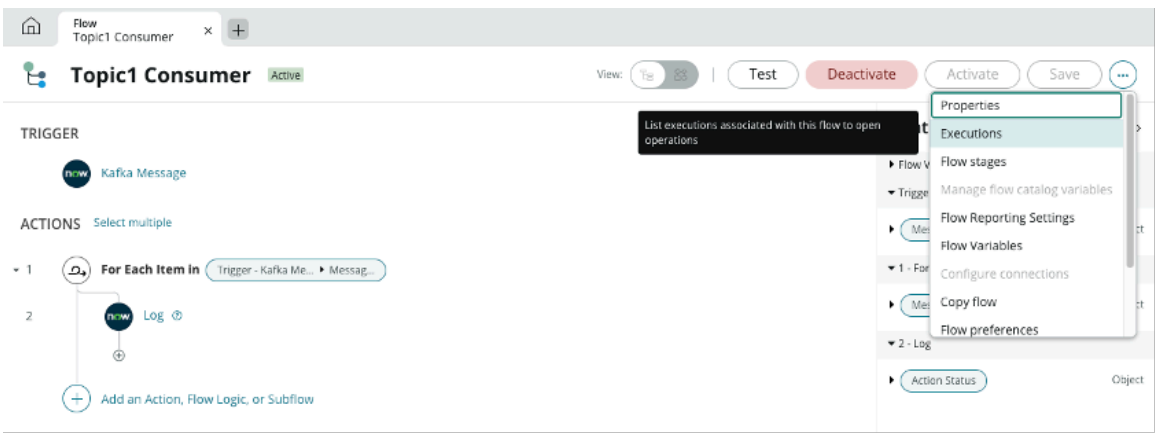
必ず `<instance name>` をインスタンス名で置き換えてください。

このコマンドはメッセージの入力を促すものです。サンプルメッセージをいくつか追加します。この例では、次のメッセージを使用します。

- テストメッセージ 1
- テストメッセージ 2
- テストメッセージ 3

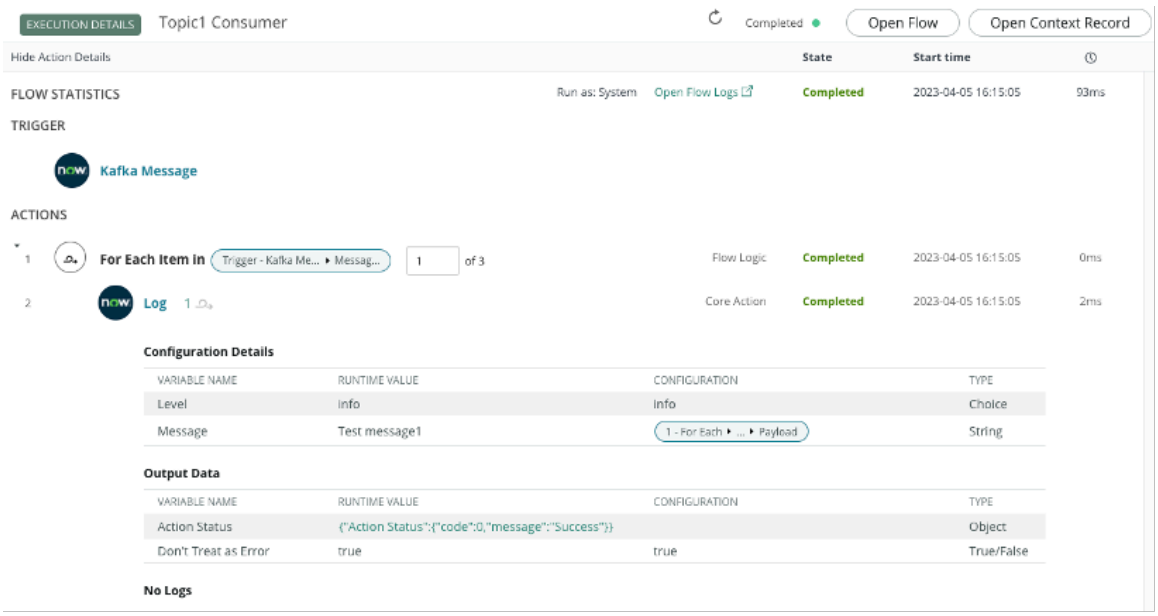
1 分ほどでメッセージを受信するはずです。

b. フローに戻り、[実行]を選択します。

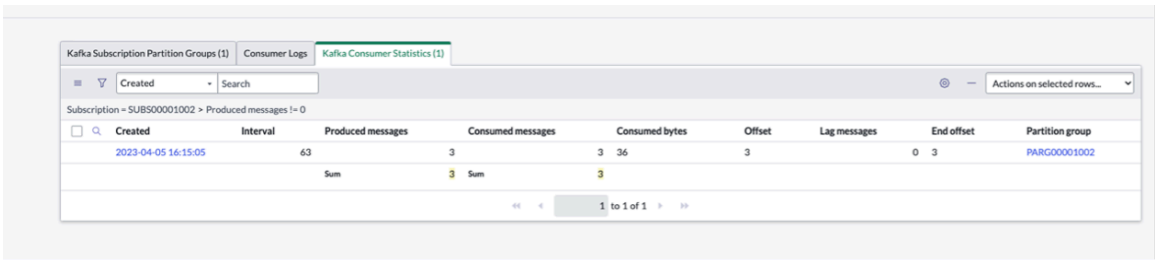


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. フロー実行を開きます。



d. このサブスクリプションの統計情報を表示するには、[すべて] > **[Integration Hub]** > **[Stream Connect]** > [サブスクリプション]に移動し、サブスクリプションを開き、統計ビューに移動します。



4. トピックからメッセージを消費するフローコンシューマーを作成します。

a. 統合ハブ] > [コンシューマー] > [スクリプトコンシューマー]に移動します。

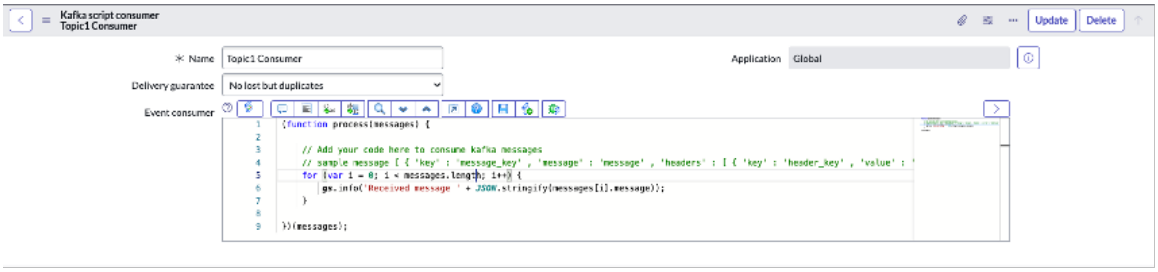
b. [新規] を選択します。

c. [名前] フィールドに、スクリプトコンシューマーの名前を入力します。
この例では、`Topic1 Consumer` を使用しています。

d. スクリプトボックスに次のロジックを追加して、メッセージをログに記録するスクリプトを設定します。

```
for (var i = 0; i < messages.length; i++) {
      gs.info('Received message ' +
 JSON.stringify(messages[i].message));
 }
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

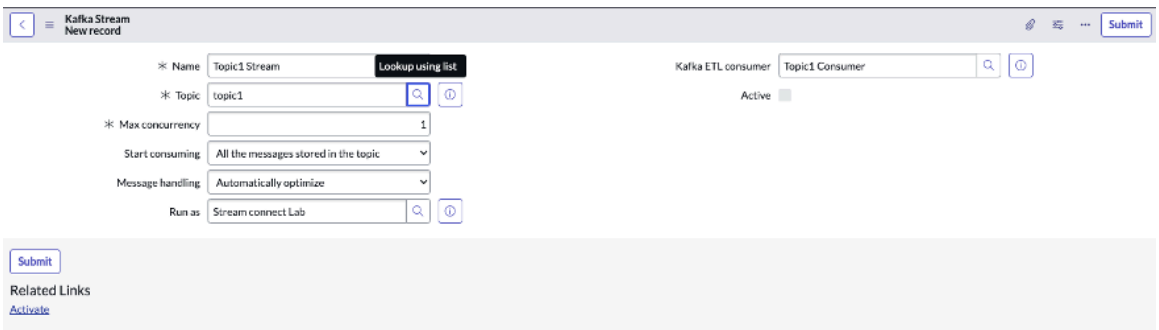


e. フォームを保存します。

f. [関連リンク] セクションで、[新規] を選択して、メッセージを消費する Kafka ストリームを追加します。

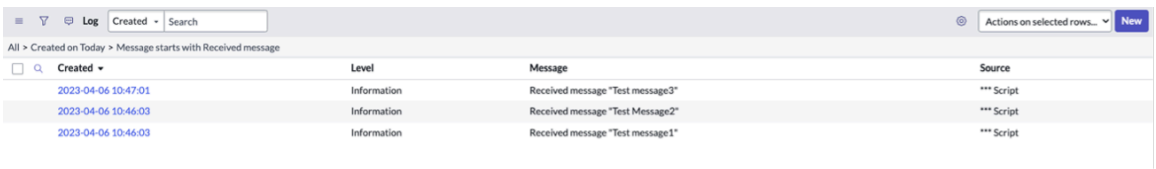
g. [Kafka ストリーム] フォームで、次のフィールド値を設定します。

- [名前] を「`Topic1 Stream`」を設定します。
- [トピック] を前に作成したトピック topic1 に設定します。
- [最大同時実行] を「`1`」に設定します。
- [トピックに保存されているすべてのメッセージ **(All the messages stored in the topic)**] に[消費を開始 **(Start Consuming)**] を設定します。このオプションを使用すると、このトピックに既に公開されているメッセージを読むことができます。
- [メッセージ処理 **(Message handling)**] を [自動的に最適化 **(Automatically optimize)**] に設定します。



h. [関連リンク] の下で [アクティブ化] リンクを選択します。
アクティブ化されたサブスクリプションを確認できるはずです。

i. メッセージを表示するには、[すべて] > [システムログ] > [システムログ]に移動し、「受信」メッセージで始まるメッセージをフィルタリングします。



j. 1 分後にすべてのメッセージが表示されるはずです。

次のタスク
ETL および変換マップコンシューマーを使用したデータのインポート。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ETL および変換マップコンシューマーを使用したデータのインポート

ETL 定義と変換マップを使用して、Kafka イベントを処理します。ETL 定義と変換マップは、スケジュール済みインポートを通じてデータを取得するときに使用する変換ロジックを指定します。同じ ETL 定義と変換マップを使用して、Kafka を介して受信したイベントを変換できます。

始める前に

- 必要なロール： integration_hub_admin
- このページは Apache Kafka 向けストリームコネクト クイックスタートガイドの一部です。
- このドキュメントでは、Hermes への接続を介してメッセージを消費する方法について説明します。接続の設定とテストについては、「Hermes メッセージングサービス への安全な接続の設定」および「ADCv2 ゲートウェイを介した Hermes への接続のテスト」を参照してください。
- このページの前半では、ETL コンシューマーを使用してメッセージを消費する方法を説明します。ETL コンシューマーを使用するには、強力なインポートセットトランスフォーマーが必要です。
- このページの後半では、変換マップコンシューマーを使用してメッセージを消費する方法を説明します。変換マップコンシューマーを使用するには、変換マップが必要です。

手順

1. ETL および変換マップのコンシューマーメッセージを消費するトピックを作成します。

   a. 次のコマンドを使用して、Hermes にトピックを作成します。
   この例では、トピック名は topic2 です。

   ```
   bin/kafka-topics.sh --create --command-config
    config/bootcamp.properties  --bootstrap-server
    <instance name>.service-now.com:4000,<instance
    name>.service-now.com:4001,<instance name>.service-now.com:4002,
    <instance name>.service-now.com:4003 --topic snc.<instance
    name>.topic2
   ```

   必ず `<instance name>` をインスタンス名で置き換えてください。

   b. トピックを表示するには、インスタンスにログインし、[すべて] > [統合ハブ] > **[Stream Connect]** > [トピック]に移動します。

   > **注:** トピックの作成には約 10 分かかります。

2. トピックからデータを消費する ETL コンシューマーを作成します。

   a. [すべて] > [統合ハブ] > [コンシューマー] > **[ETL** コンシューマー]に移動します。

   b. [新規] を選択します。

   c. Kafka コンシューマーフォームで、[名前] フィールドに名前を入力します。
   この例では、Member Import という名前を使用します。

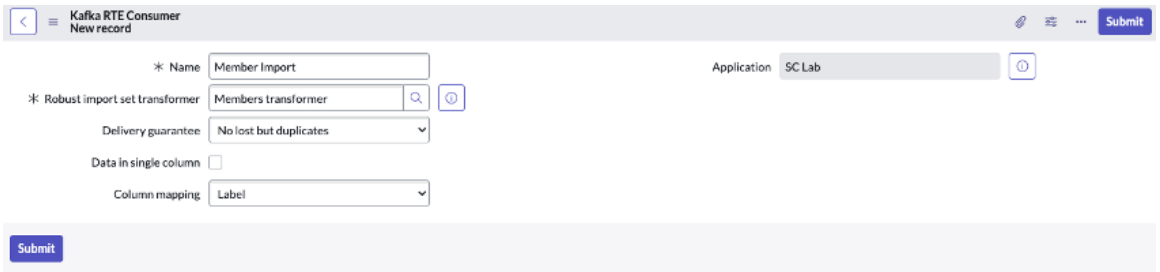
   d. [強力なインポートセットトランスフォーマー] フィールドで、既存の強力なインポートセットトランスフォーマーを選択します。
   強力なインポートセットトランスフォーマーの場合は、データを単一列に格納するオプションを使用していないものを選択します。メッセージを表示できるようにするには、強力なインポートセットトランスフォーマーで [詳細] オプションが有効になっていることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. [単一列のデータ] オプションの選択を解除します。
このオプションは、単一列のデータを含むインポートセットテーブルに対してのみ選択する必要があります。

f. [列マッピング] を [ラベル] に設定します。

これは、入力メッセージの JSON キーがインポートセットテーブルの列ラベルにマッピングされることを意味します。



g. フォームを保存します。

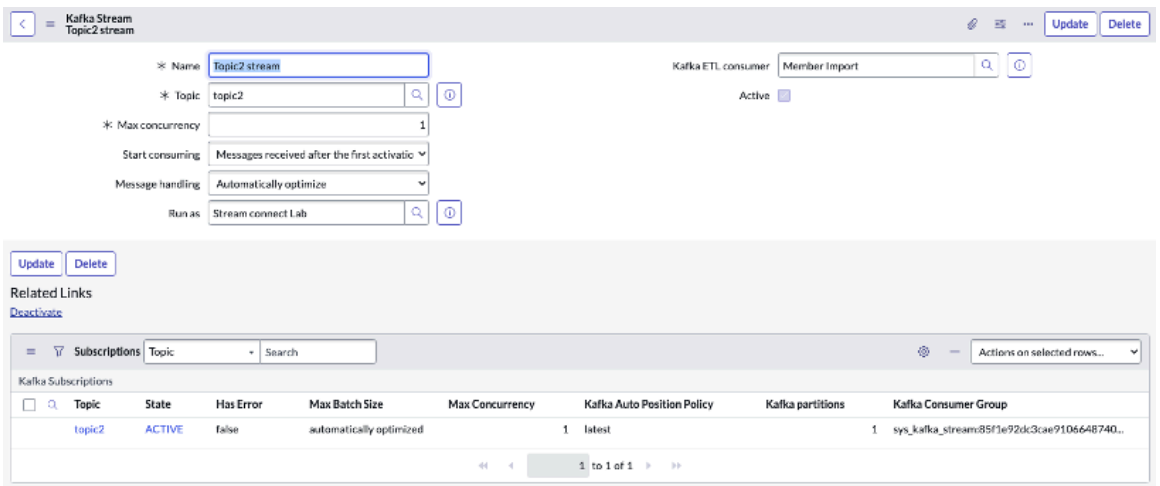
h. コンシューマー用に Kafka ストリームの作成 を行います。

i. [Kafka ストリーム] フォームで、次のフィールド値を設定します。

- [名前] を「`Topic2 Stream`」を設定します。
- [トピック] を前に作成したトピック topic2 に設定します。
- [最大同時実行] を「`1`」に設定します。
- [消費を開始] を [最初の有効化後に受信したメッセージ **(Messages received after the first activation)]** に設定します。
- [メッセージ処理 **(Message handling)]** を [自動的に最適化 **(Automatically optimize)]** に設定します。

j. [関連リンク] の下で [アクティブ化] リンクを選択します。

アクティブ化されたサブスクリプションを確認できるはずです。



3. topic2 にメッセージを公開します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. 次のコマンドを実行して、topic2 にメッセージを公開します。

```
bin/kafka-console-producer.sh --topic snc.<instance
 name>.topic2  --producer.config  config/bootcamp.properties
 --bootstrap-server <instance name>.service-now.com:4000,<instance
 name>.service-now.com:4001,<instance
 name>.service-now.com:4002,<instance name>.service-now.com:4003
```

必ず `<instance name>` をインスタンス名で置き換えてください。

このコマンドはメッセージの入力を促すものです。

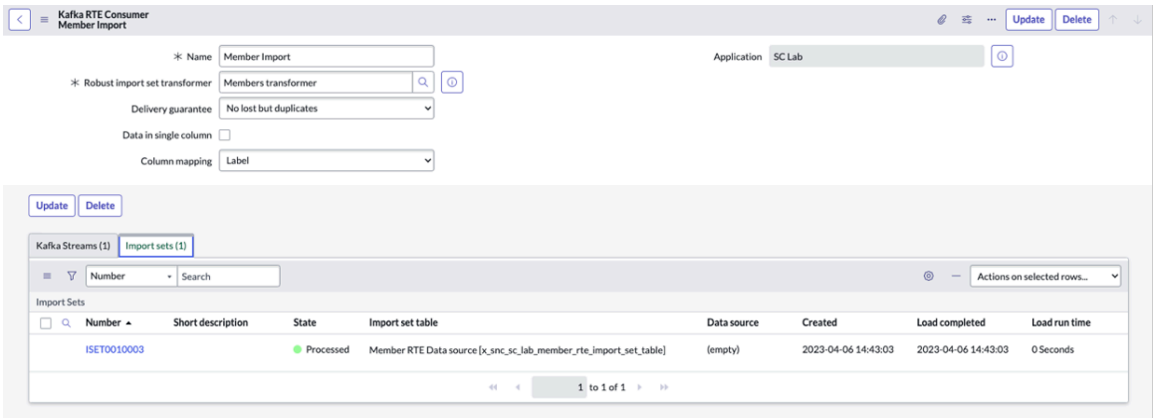
b. 次の JSON メッセージを送信します。

```
{"city":"San Diego","name":"Jhon","id":"SN001","state":"California"}
```

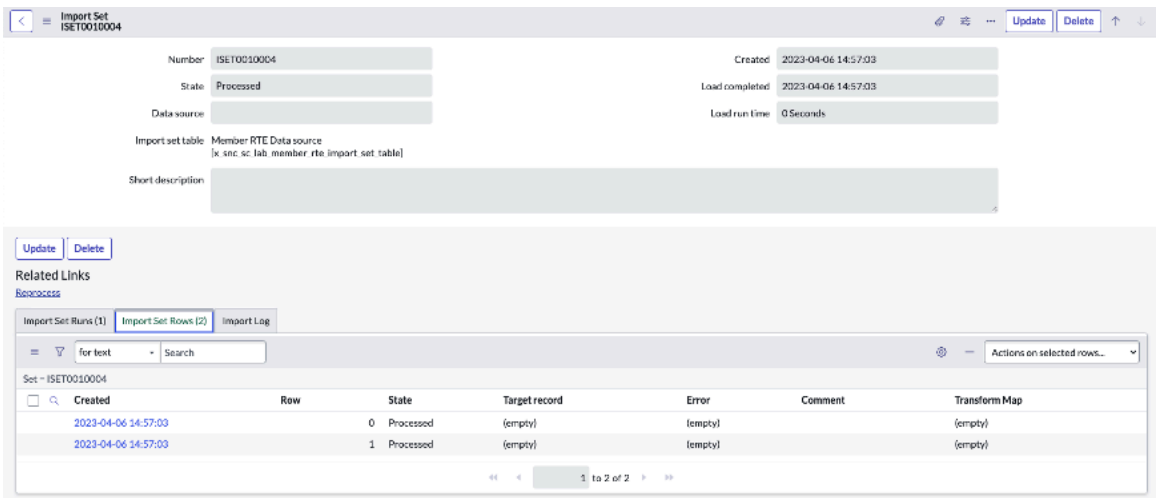
このメッセージは任意の値で送信できますが、JSON メッセージキーはインポートセットテーブルのラベルと一致する必要があります。

c. 作成した ETL コンシューマーに戻ります。

約 1 分後、インポートセットを介してデータがインポートされているはずです。

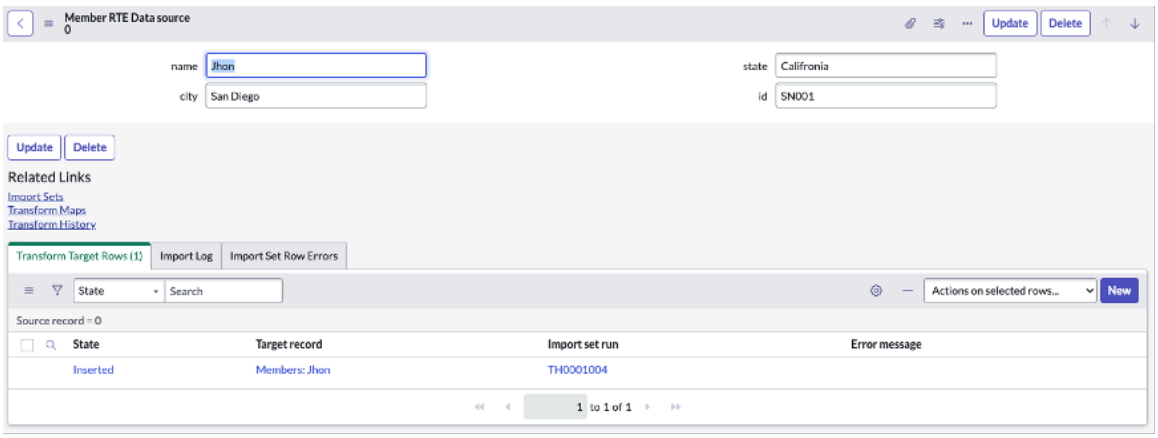


d. インポートセットに関する詳細情報を表示するには、インポートセット番号を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. インポートセット行に関する詳細情報を表示するには、インポートセット行番号を選択します。



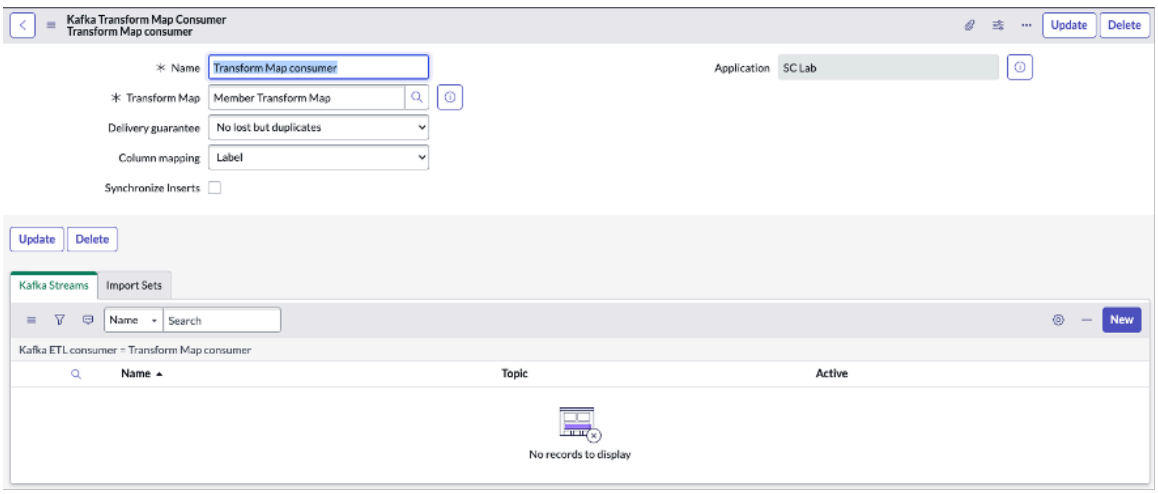
4. データを消費する変換マップコンシューマーを作成します。

a. [すべて] > [統合ハブ] > [コンシューマー] > [変換マップコンシューマー]に移動します。

b. [新規] を選択します。

c. [Kafka 変換マップコンシューマー] フォームで、[名前] フィールドに名前を入力します。

d. [変換マップ] フィールドで、既存の変換マップを選択します。



e. フォームを保存します。

f. コンシューマー用に Kafka ストリームの作成 を行います。

g. [Kafka ストリーム] フォームで、次のフィールド値を設定します。

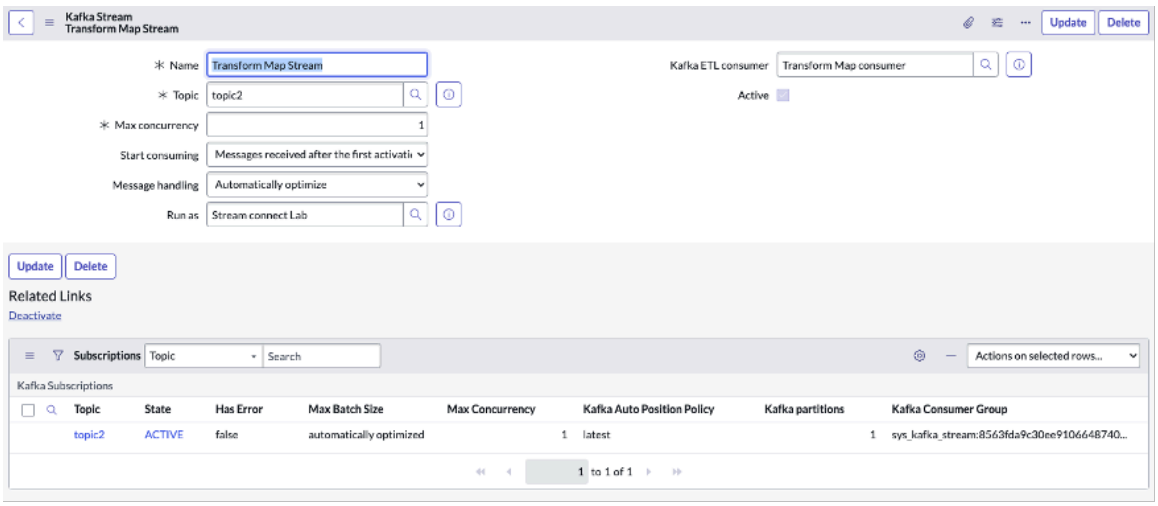
- [名前] を「変換マップストリーム」に設定します。
- [トピック] を前に作成したトピック topic2 に設定します。
- [最大同時実行] を「1」に設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [消費を開始] を [最初の有効化後に受信したメッセージ **(Messages received after the first activation)]** に設定します。
- [メッセージ処理 **(Message handling)]** を [自動的に最適化 **(Automatically optimize)]** に設定します。

h. [関連リンク] の下で [アクティブ化] リンクを選択します。

アクティブ化されたサブスクリプションを確認できるはずです。



5. topic2 にメッセージを公開します。

a. 次のコマンドを実行して、topic2 にメッセージを公開します。

```
bin/kafka-console-producer.sh --topic snc.<instance
 name>.topic2  --producer.config  config/bootcamp.properties
 --bootstrap-server <instance name>.service-now.com:4000,<instance
 name>.service-now.com:4001,<instance
 name>.service-now.com:4002,<instance name>.service-now.com:4003
```

必ず `<instance name>` をインスタンス名で置き換えてください。

このコマンドはメッセージの入力を促すものです。

b. 次の JSON メッセージを送信します。

```
{"city":"San Diego","name":"Jhon","id":"SN001","state":"California"}
```

このメッセージは任意の値で送信できますが、JSON メッセージキーはインポートセットテーブルのラベルと一致する必要があります。

c. 作成した変換マップコンシューマーに移動します。
約 1 分後、インポートセットを介してデータがインポートされているはずです。

d. インポートセットに関する詳細情報を表示するには、上記ステップ 3d と同様にインポートセット番号を選択します。

次のタスク
Kafka プロデューサーステップと ProducerV2 API を使用したメッセージの公開。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Kafka プロデューサーステップと ProducerV2 API を使用したメッセージの公開

ServiceNow から Hermes にデータをプッシュし、Kafka コンシューマーが読み取れるようにします。

始める前に

- 必要なロール： integration_hub_admin
- このページは Apache Kafka 向けストリームコネクト クイックスタートガイドの一部です。
- このドキュメントでは、Hermes への接続を介してメッセージを公開する方法について説明します。接続の設定とテストについては、「Hermes メッセージングサービス への安全な接続の設定」および「ADCv2 ゲートウェイを介した Hermes への接続のテスト」を参照してください。
- このページの前半では、フローデザイナー の Kafka プロデューサーステップを使用して、Hermes にメッセージを公開する方法を説明します。ステップの詳細については、「Kafka プロデューサーステップ 」を参照してください。
- このページの後半では、ProducerV2 API を使用して、メッセージを公開する方法を説明します。詳細については、「ProducerV2 API 」を参照してください。
- すべてのメッセージを受信するには、異なるデータセンターに対して 2 つのコンシューマーを実行する必要があります。詳細については、「Kafka クライアントを使用した Hermes トピックからのテストメッセージの消費 」を参照してください。

手順

1. メッセージを受信するために、2 つのコンシューマーを起動します。

   a. コマンドラインから次のコマンドを実行し、メッセージを受信します。

   ```
   bin/kafka-console-consumer.sh --consumer.config
    config/bootcamp.properties --topic snc.<instance name>.topic1
    --group snc.<instance name>.consumer_group1 --from-beginning
    --bootstrap-server <instance name>.service-now.com:4100,<instance
    name>.service-now.com:4101,<instance
    name>.service-now.com:4102,<instance name>.service-now.com:4103
   ```

   ```
   bin/kafka-console-consumer.sh --consumer.config
    config/bootcamp.properties --topic snc.<instance name>.topic1
    --group snc.<instance name>.consumer_group1 --from-beginning
    --bootstrap-server <instance name>.service-now.com:4200, <instance
    name>.service-now.com:4201, <instance name>.service-now.com:4202,
    <instance name>.service-now.com:4203
   ```

   必ず `<instance name>` をインスタンス名で置き換えてください。

2. フローステップを使用して、インスタンスからメッセージを公開します。

   a. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] の順に移動します。

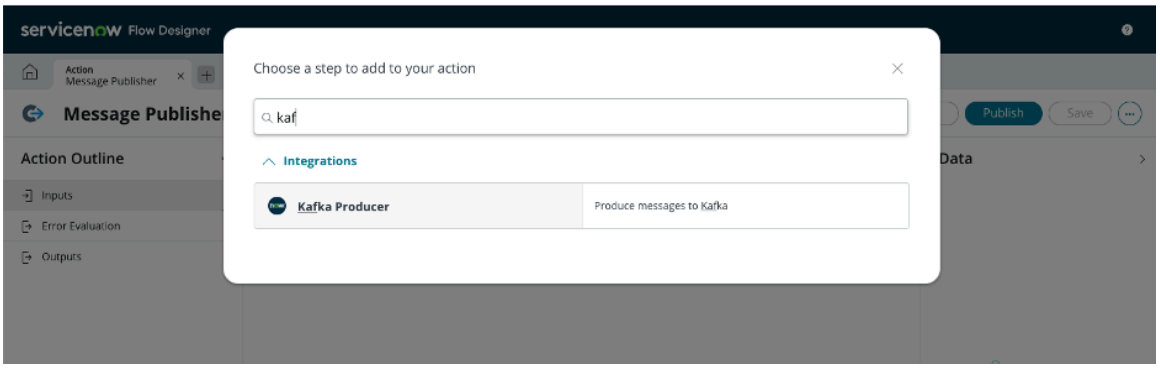
   b. [新規作成] > [アクション]を選択して、新しいアクションを作成します。

   c. [アクションプロパティ] フォームで、アクションに名前を付けた後、[送信] を選択します。
   この例では、Message Publisher という名前を使用しています。

   d. **[Kafka** プロデューサー] ステップをアクションに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

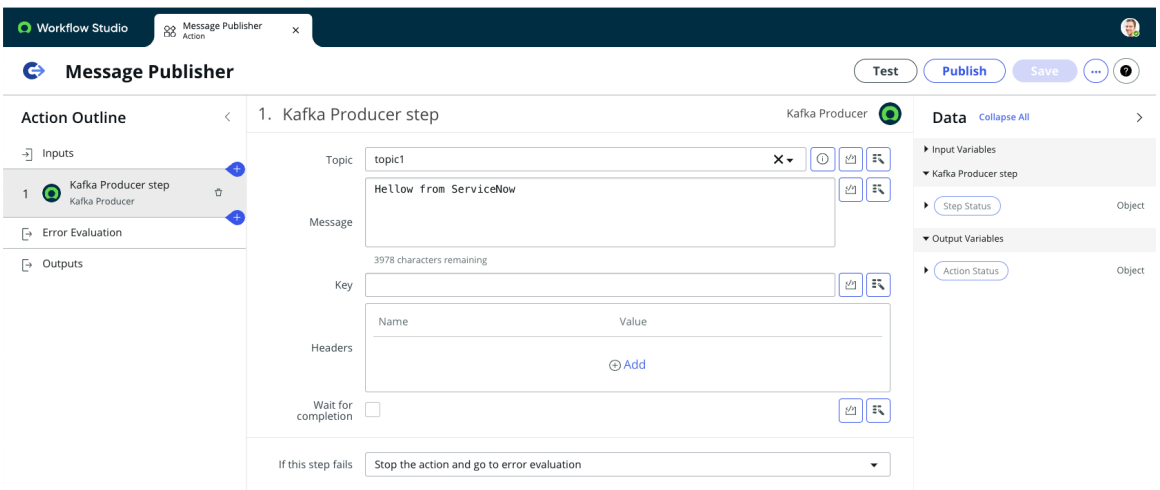
アクションステップを追加するには、[アクションアウトライン] で [入力] と [エラーの評価] の間のプラス記号を選択します。



e. ステップで、[トピック] フィールドを「`topic1`」に設定します。

f. [メッセージ] フィールドにメッセージを入力します。

他のフィールドを変更する必要はありません。



g. [保存] を選択してアクションを保存します。

h. [テスト] ボタンを選択してアクションをテストします。
アクションをテストすると、メッセージがトピックに公開されます。

i. メッセージを表示するには、ステップ 1 で作成したコマンドラインコンソールに移動します。
メッセージはいずれかのターミナルに表示されているはずです。

3. スクリプトを使用して、インスタンスからメッセージを公開します。

a. スクリプトバックグラウンドを使用して次のスクリプトを実行し、インスタンスからこのトピックにメッセージを公開します。

```
var producer = new sn_ih_kafka.ProducerV2();
producer.send('<sys id of the topic record>', gs.generateGUID(), 'Test
 message from ServiceNow', false, null);
```

必ず `<sys id of the topic record>` をトピックレコードの sys_id に置き換えてください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. メッセージを表示するには、ステップ 1 で作成したコマンドラインコンソールに移動します。メッセージはいずれかのターミナルに表示されているはずです。

Apache Kafka 向けストリームコネクト のアラート

Apache Kafka 向けストリームコネクトの統合に関するアラートとアラート通知を受信します。

Apache Kafka 向けストリームコネクトは、アクティブモニタリングとスケジュール済みモニタリングの両方を使用して、複数のApache Kafka 向けストリームコネクトコンポーネントにわたるイベントを検出します。問題が検出されると、システムはアラートを作成し、Apache Kafka 向けストリームコネクトログにメッセージを記録して、アラート通知を送信します。

アラート

Apache Kafka 向けストリームコネクトは、イベントタイプのアラートとしきい値アラートの両方を使用します。アラートのタイプごとに、アラートの処理方法を指定する一連のアラートプロパティがあります。

- イベントタイプのアラート (またはリアルタイムアラート) は、Apache Kafka 向けストリームコネクトのコンポーネントにエラーが発生した場合に作成されます。たとえば、プロデューサーがトピックに書き込めない場合や、コンシューマーがトピックから読み取ることができない場合などです。これらのアラートはコードに組み込まれており、アラートプロパティを使用して重大度レベルと通知を送信するタイミングを決定します。イベントタイプのアラートは、さまざまなメカニズムを使用して複数のApache Kafka 向けストリームコネクトコンポーネントにわたってイベントを検出するアクティブモニタリングによって検出されます。システムは設定をキャッシュし、イベントを発生時に検出します。

- しきい値アラートは、値がしきい値未満からしきい値以上に移行すると作成されます。たとえば、トピックの遅延が特定のメッセージ数を超えた場合や、トピック内のメッセージの処理時間が指定された値を超えた場合などです。しきい値アラートがしきい値以上からしきい値未満に減少すると、アラートのアクティブフラグが false に設定されます。しきい値アラートはスケジュール済みモニタリングによって検出され、スケジュール済みジョブがApache Kafka 向けストリームコネクトの統合に対してスクリプト化されたチェックを実行します。アラートは、アラートプロパティで指定されたアラートコンフィグレーションを満たすしきい値に対して生成されます。

アラートのリストと説明、またはアラートプロパティの構成については、「Apache Kafka 向けストリームコネクト アラートプロパティ」を参照してください。アラートプロパティを表示または変更するには、Kafka アドミンロールが必要です。

アラートテーブル

アラートが初めてトリガーされると、アラート [sys_sc_alert] レコードが Apache Kafka 向けストリームコネクト アラート [sys_sc_alerts] テーブルに追加されます。同じアラートが再度トリガーされ、元のアラートレコードがまだアクティブな場合は、レコードの [前回の検出 **[last_detection]]** フィールドが更新されます。元のアラートレコードがアクティブでない場合は、新しいレコードがアラートテーブルに追加されます。指定された時間にわたってアラートがトリガーされなかった場合、アラートレコードは非アクティブになります。この時間の間隔はアラートのタイプによって異なり、Apache Kafka 向けストリームコネクト アラートプロパティ UI で変更できます。

Apache Kafka 向けストリームコネクトのアラートテーブルには、アラートがアクティブかどうか、アラートの重大度レベル、タイプ、および更新日が表示されます。また、以下も表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アラートレコードを参照するアラートの番号。各アラートレコードには、影響を受けるコンポーネントの名前、重大度レベル、タイムスタンプなど、アラートに関する詳細情報が含まれています。
- アラートのターゲット (Kafka ストリームや Kafka フロートリガーなど) を参照するアラートのターゲット **ID**。

Apache Kafka 向けストリームコネクトのアラートテーブルを表示するには、[統合ハブ] > [ストリームコネクト] > [アラート]に移動します。

アラートは 30 日間有効です。テーブルクリーナージョブは、Apache Kafka 向けストリームコネクトのアラートテーブルの保持期間を処理します。指定された期間内にアラートが再発しなかった場合、アクティブなアラートは非アクティブ化されます。期間は、Apache Kafka 向けストリームコネクトのアラートプロパティでアラートタイプごとに設定されます。

アラートログ

Apache Kafka 向けストリームコネクトのアラートのログメッセージは、Apache Kafka 向けストリームコネクトログ [sys_consumer_log] に書き込まれます。このログには、関連するApache Kafka 向けストリームコネクトアラートレコードを参照するアラート [sc_alert] フィールドがあります。

ログは 30 日間有効です。ログの保持期間は、Apache Kafka 向けストリームコネクトログのテーブルローテーションスケジュールによって決まります。

通知

アラート通知は、メール、SMS、または ServiceNow® モバイルアプリで受信します。通知には、アラートの番号、レベル、説明などの詳細なアラート情報が含まれています。

アラートがトリガーされると、同じアラートの通知が最近トリガーされていない限り、通知もトリガーされます。各アラートには、検出したものを 2 つの別個のアラートとしてカウントできるようにアラート検出の間隔を秒単位で指定する時間間隔プロパティがあります。通知がトリガーされるのは、前回の通知から経過した時間がその時間間隔よりも長い場合、または、しきい値ベースのアラートではアラートの重大度が前回の検出以降に増加した場合のみです。これにより、同じアラートに対して短時間に複数の通知を受信せずに済みます。各アラートの時間間隔プロパティは、Apache Kafka 向けストリームコネクトアラートプロパティ UI から変更できます。

アドミニストレーターは、アラートタイプ、ユーザー設定、およびアラート重大度レベルに基づいて通知設定を構成できます。通知 [sysevent_email_action] テーブルには 3 つのアラート重大度レベルがあります。

- ストリームコネクトアラート：INFO
- ストリームコネクトアラート：警告
- ストリームコネクトアラート：重大

プラットフォームの標準システム通知機能を使用して、さまざまなレベルにオプトインできます。アドミニストレーターは、アラートの時間間隔やアラートを統合する基準など、通知デバウンス設定を構成することもできます。通知の詳細については、「通知」を参照してください。

通知は、Apache Kafka 向けストリームコネクトアラート通知グループのメンバーであるユーザーに送信されます。Apache Kafka 向けストリームコネクトアラート通知グループのメンバーはApache Kafka 向けストリームコネクトアラート閲覧者ロールを継承するため、通知を受信するすべてのユーザーが通知内のリンクを使用してアラートレコードを表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール

Apache Kafka 向けストリームコネクトアラートを表示するには、Kafka アドミンロール、またはApache Kafka 向けストリームコネクトアラート閲覧者ロールが必要です。

- Kafka アドミン [kafka_admin] ロールは、Apache Kafka 向けストリームコネクトのアラートレコードとログの表示、Apache Kafka 向けストリームコネクトのアラートプロパティの構成、アラート通知設定の構成を行うことができます。
- Apache Kafka 向けストリームコネクトアラート閲覧者 [stream_connect_alert_viewer] ロールは、Apache Kafka 向けストリームコネクトのアラートレコードとログに対する読み取り専用アクセス権を持ちます。

ACL とドメインセパレーション

Apache Kafka 向けストリームコネクトアラートテーブルの ACL を使用すると、Apache Kafka 向けストリームコネクトアラート閲覧者ロールを持つユーザーは、アラートテーブルとそのテーブルのレポートを表示できます。そのロールのないユーザーは、そのテーブルを読み取ったりレポートしたりすることはできません。Kafka アドミンロールを持つユーザーのみが、そのテーブルでレコードを挿入および更新できます。ACL により、Kafka アドミンのみがApache Kafka 向けストリームコネクトのアラートプロパティページを使用できるようになります。

ドメインセパレーションされたインスタンスでは、アラートを管理するプロパティをドメインごとに上書きできます。詳細については、「ドメインセパレーションアプリケーションプロパティ」を参照してください。

プロパティの検索に使用されるドメインは、トピックまたはコンシューマーのドメインです。プロパティを設定するためのApache Kafka 向けストリームコネクトアラートプロパティ UI は、ドメイン固有のオーバーライドではなくグローバルプロパティを設定します。ドメイン固有のオーバーライドを設定するための UI はありません。Apache Kafka 向けストリームコネクトアラートテーブルの sys_domain は、それをトリガーしたコンシューマーのドメイン (コンシューマーアラートの場合) または sys_kafka_topic レコードのドメイン (プロデューサーアラートの場合) と同じである必要があります。コンシューマーまたはトピックが不明なアラートの場合、sys_sc_alert ドメインはグローバルに設定されます。

プラグイン

Apache Kafka 向けストリームコネクトのアラートには、ServiceNow Apache Kafka 向けストリームコネクト Alerting [com.glide.hub.stream_connect.alerting] プラグインが必要です。このプラグインは、ServiceNow Apache Kafka 向けストリームコネクト Installer [com.glide.hub.stream_connect.installer] プラグインが有効になると自動的に有効になります。

Apache Kafka 向けストリームコネクト アラートプロパティ

Apache Kafka 向けストリームコネクト のアラートプロパティと、アラートの管理方法を指定します。

アラート

Apache Kafka 向けストリームコネクト のアラートプロパティを表示するには、[統合ハブ] > [ストリームコネクト] > [アラートプロパティ] に移動します。アラートプロパティを表示または変更するには、Kafka アドミンロールが必要です。

Apache Kafka 向けストリームコネクト のアラート UI には、次のアラートがあります。

- プロデューサー失敗アラート。プロデューサーがトピックへのメッセージの生成に失敗したときにトリガーされます。
- キュー深度の処理時間アラート。推定メッセージ処理時間が指定された値を超えたときにトリガーされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コンシューマーポーリングの失敗アラート。コンシューマーがトピックに接続できない、またはトピック内のメッセージを読み取れない場合にトリガーされます。たとえば、関連付けられたサブスクリプションがまだアクティブである間にトピックが Hermes から削除された場合などです。
- コンシューマー処理アラート。コンシューマーがトピックからのメッセージの処理に失敗したときにトリガーされます。
- トピックレプリケーション失敗経過時間アラート。トピックレプリケーションのステータスが指定された値よりも長く「失敗」のままである場合にトリガーされます。
- トピックレプリケーションの非アクティビティアラート。トピックレプリケーションが指定された値よりも長く非アクティブのままである場合にトリガーされます。

プロデューサー失敗アラート

アラートレベル	アラートの重大度。 オプションは次のとおりです。 • 無視 • INFO • 警告 • 重大 デフォルト：重大
2 つの検出を別々のイベントとしてカウントするために必要な時間間隔 (秒)。	同じアラートに対して別の通知を送信するまでの最小待機秒数。この時間間隔内の検出は単一のアラートとしてカウントされ、同じアラートレコードにリンクされます。 デフォルト：3600 秒
複数のトピックに対してプロデューサー失敗アラートが発生した場合に送信する個別の通知の数を指定します。単一の通知を受信する場合は [グローバル] を選択し、各トピックに対して通知を受信する場合は [トピックごと **(Per Topic)]** を選択します。	各トピックに対してアラートを作成するには [トピックごと **(Per Topic)]** を選択し、すべてのトピックに対して 1 つのアラートを作成するには [グローバル] を選択します。 デフォルト：グローバル

キュー深度の処理時間アラート

キュー深度の処理時間の推定が情報と見なされるしきい値 (秒)。	推定キュー処理時間がこの値を超える場合は、重大度が「INFO」のアラートを生成します。 デフォルト：0 秒 値を 0 にすると、指定した重大度レベルでアラートが無効になります。アラート

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

キュー深度の処理時間アラート (続く)

	を完全に無効にするには、3 つの重大度レベル (INFO、警告、および重大) すべての値を 0 に設定します。
キュー深度の処理時間の推定が警告と見なされるしきい値 (秒)。	推定キュー処理時間がこの値を超える場合は、重大度が「警告」のアラートを生成します。 デフォルト：14400 秒
キュー深度の処理時間の推定が重大と見なされるしきい値 (秒)。	推定キュー処理時間がこの値を超える場合は、重大度が「重大」のアラートを生成します。 デフォルト：86,400 秒
2 つの検出を別々のイベントとしてカウントするために必要な時間間隔 (秒)。	同じアラートに対して別の通知を送信するまでの最小待機秒数。この時間間隔内の検出は単一のアラートとしてカウントされ、同じアラートレコードにリンクされます。 デフォルト：3600 秒
複数のコンシューマーに対してキュー深度アラートが発生した場合に送信する個別の通知の数を指定します。単一の通知を受信する場合は [グローバル] を選択し、各トピックに対して通知を受信する場合は [コンシューマーごと **(Per Consumer)]** を選択します。	各コンシューマーに対してアラートを作成するには [コンシューマーごと **(Per Consumer)]** を選択し、すべてのコンシューマーに対して 1 つのアラートを作成するには [グローバル] を選択します。 デフォルト：グローバル

コンシューマーポーリングの失敗アラート

アラートレベル	アラートの重大度。 オプションは次のとおりです。 • 無視 • INFO • 警告 • 重大 デフォルト：重大
2 つの検出を別々のイベントとしてカウントするために必要な時間間隔 (秒)。	同じアラートに対して別の通知を送信するまでの最小待機秒数。この時間間隔内の検出は単一のアラートとしてカ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コンシューマーポーリングの失敗アラート (続く)

	ウントされ、同じアラートレコードにリンクされます。 デフォルト：3600 秒
複数のコンシューマーに対してコンシューマーポーリングの失敗アラートが発生した場合に送信する個別の通知の数を指定します。単一の通知を受信する場合は [グローバル] を選択し、各トピックに対して通知を受信する場合は [コンシューマーごと **(Per Consumer)]** を選択します。	各コンシューマーに対してアラートを作成するには [コンシューマーごと **(Per Consumer)]** を選択し、すべてのコンシューマーに対して 1 つのアラートを作成するには [グローバル] を選択します。 デフォルト：グローバル

コンシューマー処理アラート

アラートレベル	アラートの重大度。 オプションは次のとおりです。 • 無視 • INFO • 警告 • 重大 デフォルト：警告
2 つの検出を別々のイベントとしてカウントするために必要な時間間隔 (秒)。	同じアラートに対して別の通知を送信するまでの最小待機秒数。この時間間隔内の検出は単一のアラートとしてカウントされ、同じアラートレコードにリンクされます。 デフォルト：3600 秒
複数のコンシューマーに対してコンシューマー処理アラートが発生した場合に送信する個別の通知の数を指定します。単一の通知を受信する場合は [グローバル] を選択し、各トピックに対して通知を受信する場合は [コンシューマーごと **(Per Consumer)]** を選択します。	各コンシューマーに対してアラートを作成するには [コンシューマーごと **(Per Consumer)]** を選択し、すべてのコンシューマーに対して 1 つのアラートを作成するには [グローバル] を選択します。 デフォルト：コンシューマーごと (Per Consumer)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トピックレプリケーション失敗経過時間アラート

トピックレプリケーションの失敗経過時間の推定が情報と見なされるしきい値 (秒)。	トピックレプリケーションのステータスがこの値よりも長く「失敗」のままになっている場合は、重大度が INFO のアラートを生成します。 デフォルト：0 秒 値を 0 にすると、指定した重大度レベルでアラートが無効になります。アラートを完全に無効にするには、3 つの重大度レベル (INFO、警告、および重大) すべての値を 0 に設定します。
トピックレプリケーションの失敗経過時間の推定が警告と見なされるしきい値 (秒)。	トピックレプリケーションのステータスがこの値よりも長く「失敗」のままになっている場合は、重大度が「警告」のアラートを生成します。 デフォルト：1800 秒
トピックレプリケーションの失敗経過時間の推定が重大と見なされるしきい値 (秒)。	トピックレプリケーションのステータスがこの値よりも長く「失敗」のままになっている場合は、重大度が「重大」のアラートを生成します。 デフォルト：3600 秒
2 つの検出を別々のイベントとしてカウントするために必要な時間間隔 (秒)。	同じアラートに対して別の通知を送信するまでの最小待機秒数。この時間間隔内の検出は単一のアラートとしてカウントされ、同じアラートレコードにリンクされます。 デフォルト：3600 秒
複数のトピックレプリケーションに対してトピックレプリケーション失敗アラートが発生した場合に送信する個別の通知の数を指定します。単一の通知を受信する場合は [グローバル] を選択し、各トピックレプリケーションに対して通知を受信する場合は [トピックレプリケーションごと] を選択します。	各トピックレプリケーションに対してアラートを作成するには [トピックレプリケーションごと] を選択し、すべてのトピックレプリケーションに対して 1 つのアラートを作成するには [グローバル] を選択します。 デフォルト：グローバル

トピックレプリケーションの非アクティビティアラート

トピックレプリケーションの非アクティビティの推定が情報と見なされるしきい値 (秒)。	トピックレプリケーションがこの値よりも長く非アクティブのままになって

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トピックレプリケーションの非アクティビティアラート (続く)

	いる場合は、重大度が「INFO」のアラートを生成します。 デフォルト：14400 秒
トピックレプリケーションの非アクティビティ推定が警告と見なされるしきい値 (秒)。	トピックレプリケーションがこの値よりも長く非アクティブのままになっている場合は、重大度が「警告」のアラートを生成します。
トピックレプリケーションの非アクティビティの推定が重大と見なされるしきい値 (秒)。	トピックレプリケーションがこの値よりも長く非アクティブのままになっている場合は、重大度が「重大」のアラートを生成します。
2 つの検出を別々のイベントとしてカウントするために必要な時間間隔 (秒)。	同じアラートに対して別の通知を送信するまでの最小待機秒数。この時間間隔内の検出は単一のアラートとしてカウントされ、同じアラートレコードにリンクされます。 デフォルト：3600 秒
複数のレプリケーションに対してトピックレプリケーション非アクティビティアラートが発生した場合に送信する個別の通知の数を指定します。単一の通知を受信する場合は [グローバル] を選択し、各トピックレプリケーションに対して通知を受信する場合は [トピックレプリケーションごと] を選択します。	各トピックレプリケーションに対してアラートを作成するには [トピックレプリケーションごと] を選択し、すべてのトピックレプリケーションに対して 1 つのアラートを作成するには [グローバル] を選択します。 デフォルト：トピックレプリケーションごと

Apache Kafka 向けストリームコネクト ダッシュボードの使用

Apache Kafka 向けストリームコネクトの統合の詳細な統計情報を表示します。ServiceNow® Apache Kafka 向けストリームコネクトダッシュボードを使用して、プロデューサーとコンシューマーを管理し、トピックとレプリケーターを作成または編集します。

Apache Kafka 向けストリームコネクト ダッシュボードは、複数の機能を 1 つの環境にまとめているため、次のことができます。

- 単一のアプリケーションで複数の Apache Kafka 向けストリームコネクト 統合を管理します。
- 詳細なチャート、リスト、統計情報を使用して、統合でデータがどのように使用および処理されているかについてのインサイトを取得できます。
- 簡素化されたインターフェイスで、トピック、プロデューサー、コンシューマー、レプリケーターを編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

オートメーションエンジンサブスクリプション

このアプリケーションには、オートメーションエンジンのサブスクリプション登録とApache Kafka 向けストリームコネクトのサブスクリプション登録が必要です。詳細については、「https://www.servicenow.com/now-platform/workflow-data-fabric.html」を参照してください。

ストリームコネクトダッシュボードの構成

ダッシュボードを表示するには、[すべて] > [統合ハブ] > [ストリームコネクト] > [ストリームコネクトホーム **(Stream Connect Home)**]に移動します。

ダッシュボードには次のコンポーネントがあります。

- [概要] セクション
- トピック
- コンシューマー
- プロデューサー
- メッセージレプリケーション
- トピックレプリケーション

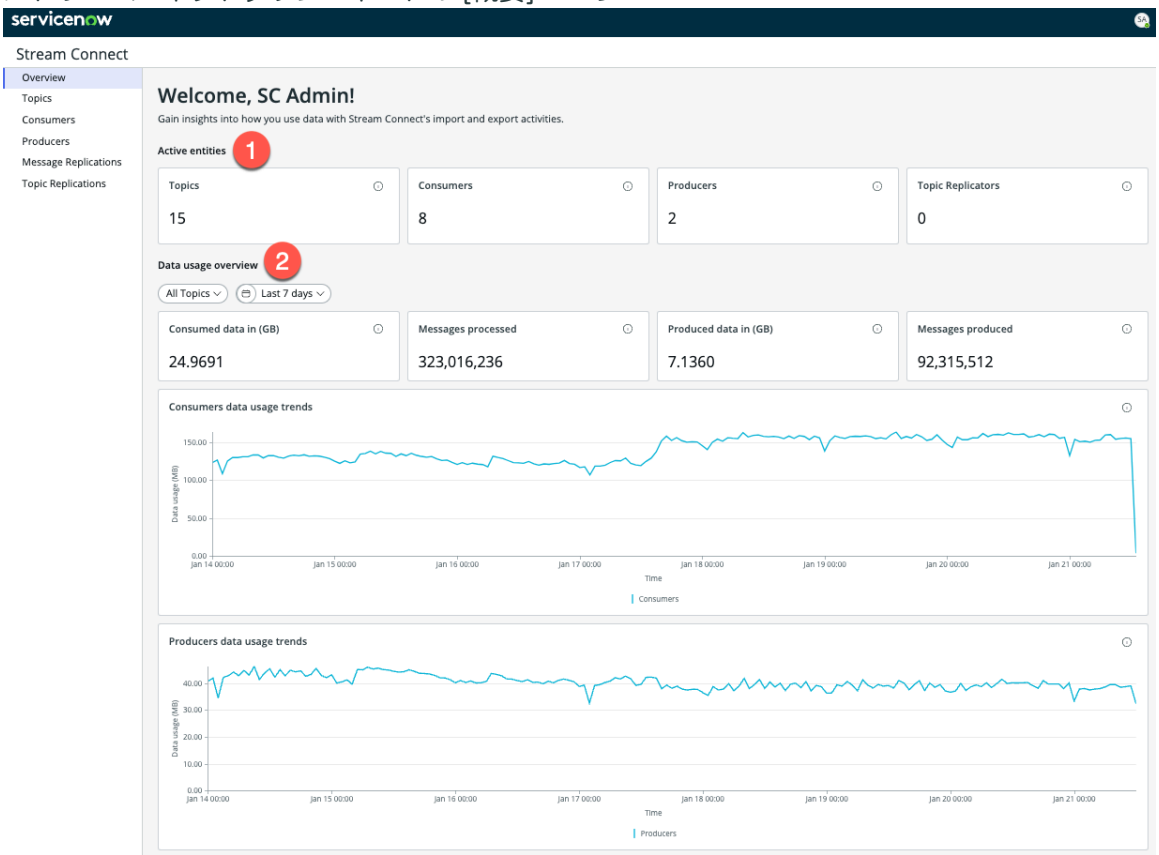
次のセクションでは、各コンポーネントについて詳しく説明します。

[概要] セクション

Apache Kafka 向けストリームコネクト 統合に関する詳細情報を表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストリームコネクトダッシュボードの [概要] ページ



概要には、次のコンポーネントがあります。

1. [アクティブなエンティティ (Active entities)] セクション

   作成されたトピック、コンシューマー、プロデューサー、およびトピックレプリケーターの数を表示します。

2. 使用状況の概要 (Data usage overview)

   次のチャートを表示します。

   - 消費データ (Consumed data)：消費されたデータの合計量 (GB 単位)。
   - 処理されたメッセージ：処理されたメッセージの合計数。
   - 生成データ (Produced data)：生成されたデータの合計数 (GB 単位)。
   - 生成されたメッセージ (Messages produced)：生成されたメッセージの合計数。
   - コンシューマーデータの使用傾向 (Consumers data usage trends)：過去 7 日間にコンシューマーが使用したデータ量 (MB 単位)。
   - プロデューサーデータの使用傾向 (Producers data usage trends)：過去 7 日間にプロデューサーが使用したデータ量 (MB 単位)。

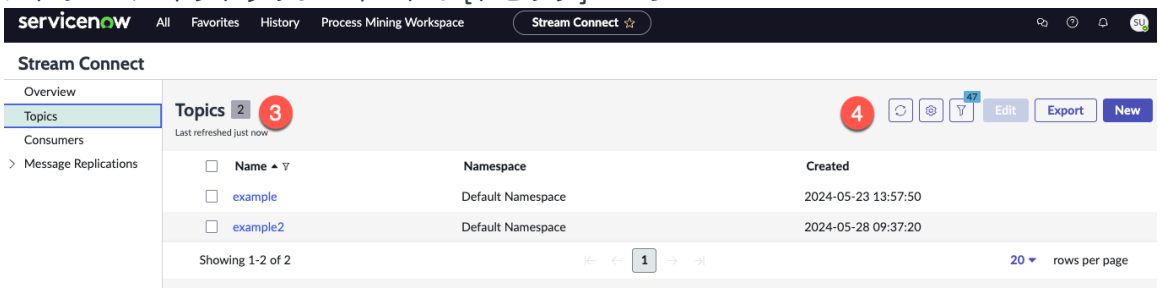
   単一の選択したトピック、またはすべてのトピックを組み合わせたデータを表示できます。また、過去 **24** 時間、過去 **2** 日間、過去 **7** 日間のデータを表示したり、カスタム範囲を設定したりして、データを時間別に整理することもできます。

トピック

トピックを表示し、トピックの追加、編集、またはエクスポートを行います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストリームコネクトダッシュボードの [トピック] ページ



[トピック] ページには、次のコンポーネントがあります。

3. トピックリスト

   すべてのトピックと、各トピックの名前、名前空間、作成日が表示されます。

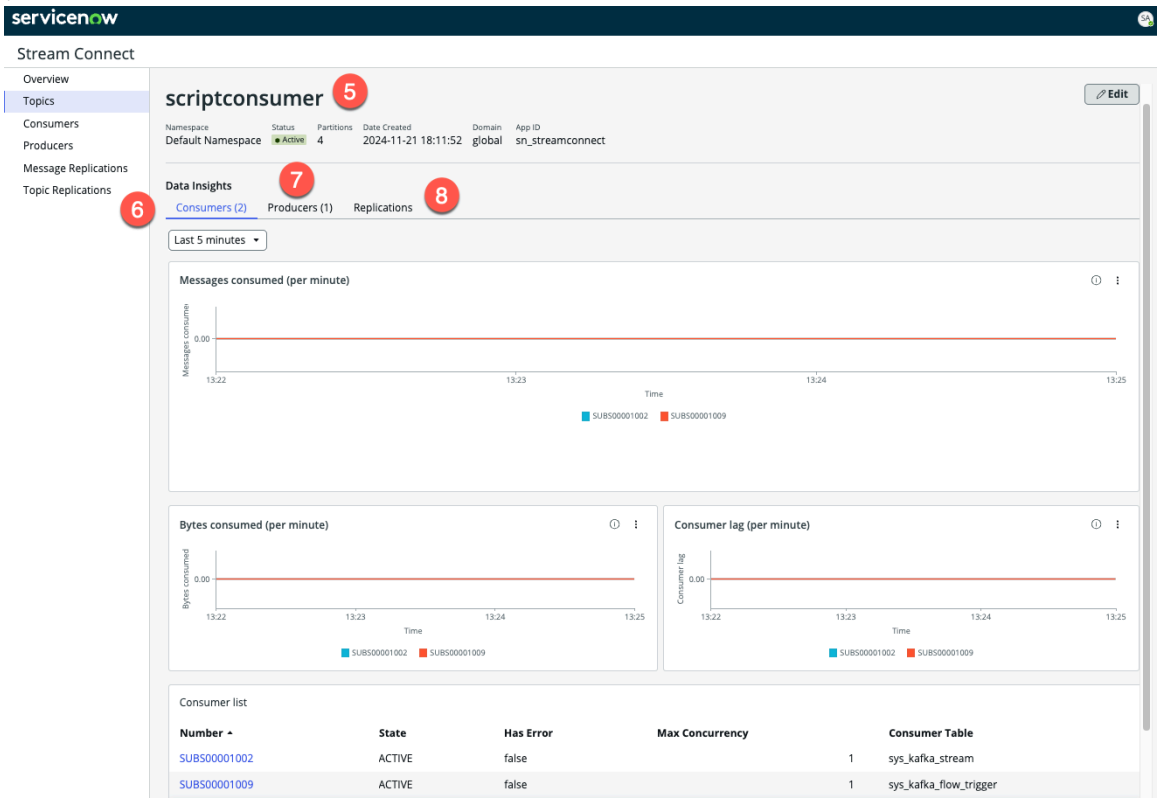
4. アクションボタン

   さまざまなタスクを実行するために使用できるいくつかのボタンが含まれています。トピックのリストの更新、リスト列の編集または列幅のリセット、リストフィルターの表示または編集を行います。トピックを編集したり、トピックをエクスポートしたり、新しいトピックを作成したりするボタンもあります。

   - トピックを編集するには、リストからトピックを選択し、[編集] ボタンを選択してから、Kafka トピックフォーム の編集のフィールドに入力します。
   - 新しいトピックを作成するには、[新規] を選択し、新しい Kafka トピックフォーム の作成のフィールドに入力します。

リストからトピックを選択して、そのトピックの詳細情報を表示できます。

個々のトピックページ



個々のトピックページには、次のコンポーネントもあります。

5. [トピック情報] セクション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

トピックの名前、名前空間、ステータス、パーティション数、作成日、ドメイン、アプリ ID など、トピックに関する詳細を表示します。このページから直接トピックを編集できる [編集] ボタンもあります。

6. [データインサイト (Data Insights)] セクションの [コンシューマー] タブ

   次のチャートを表示します。

   - 消費メッセージ数 (1 分あたり)：選択したトピックでコンシューマーによって消費されたメッセージの合計数。
   - 消費バイト数 (1 分あたり)：消費された合計バイト数。
   - コンシューマーラグ (1 分あたり)：このトピックグループ内のコンシューマー別のコンシューマーラグ。

   3 つのグラフはすべて、過去 **5** 分間、過去 **1** 時間、または過去 **24** 時間のデータを表示するようにフィルタリングできます。[過去 **24** 時間] を選択すると、1 分ごとではなく 5 分単位の増分でデータが表示されます。

   [コンシューマー] タブには、トピックに関連付けられたコンシューマーを一覧表示する [コンシューマー] リストもあります。各コンシューマーの数、ステータス、エラーステータス、最大同時実行、およびコンシューマーテーブルを表示します。コンシューマー番号を選択すると、そのコンシューマーの追加の詳細を表示できます。

7. [データインサイト (Data Insights)] セクションの [プロデューサー] タブ

   [プロデューサー] タブには次のチャートが表示されます。

   - 生成されたメッセージ (Messages produced)：生成されたメッセージの合計数。1 時間ごとに更新されます。
   - [生成されたバイト数 (Bytes Produced in (bytes))]： 生成されたバイトの合計数。1 時間ごとに更新されます。

   どちらのチャートも、過去 **2** 日間、過去 **7** 日間、今日、昨日、またはカスタム範囲のデータを表示するようにフィルタリングできます。

   [プロデューサー] タブには [プロデューサー] リストもあり、トピックに関連付けられたプロデューサーと、各プロデューサーの名前、タイプ、ID、テーブル、およびドメインが一覧表示されます。プロデューサーを選択すると、さらなる詳細を表示できます。

8. [データインサイト (Data Insights)] セクションの [レプリケーション] タブ

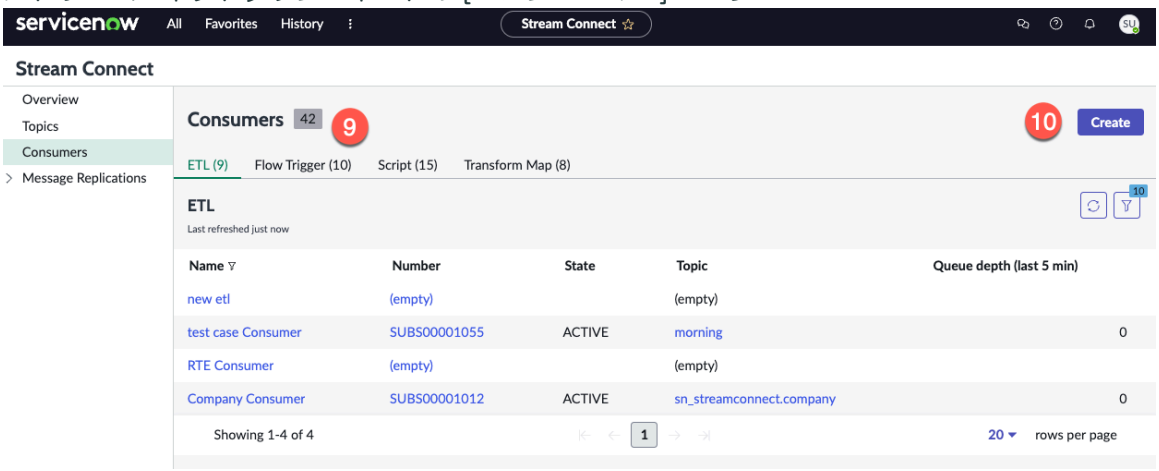
   トピックに関連付けられたトピックレプリケーションと、各レプリケーションの名前、トピック名、方向、ステータス、アクティブかどうか、およびエラーメッセージを表示します。レプリケーション名を選択すると、そのトピックレプリケーションのその他の詳細を表示できます。

コンシューマー

コンシューマーを表示および管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストリームコネクトダッシュボードの [コンシューマー] ページ



[コンシューマー] ページには、次のコンポーネントがあります。

9. コンシューマーリスト

   すべてのコンシューマーをタイプ別に表示します。可能なタイプは次のとおりです。

   - ETL
   - フロートリガー
   - スクリプト
   - 変換マップ

   各コンシューマーは、名前、番号、ステータス、関連トピック、更新日、更新者とともに一覧表示されます。

10. [作成] ボタン

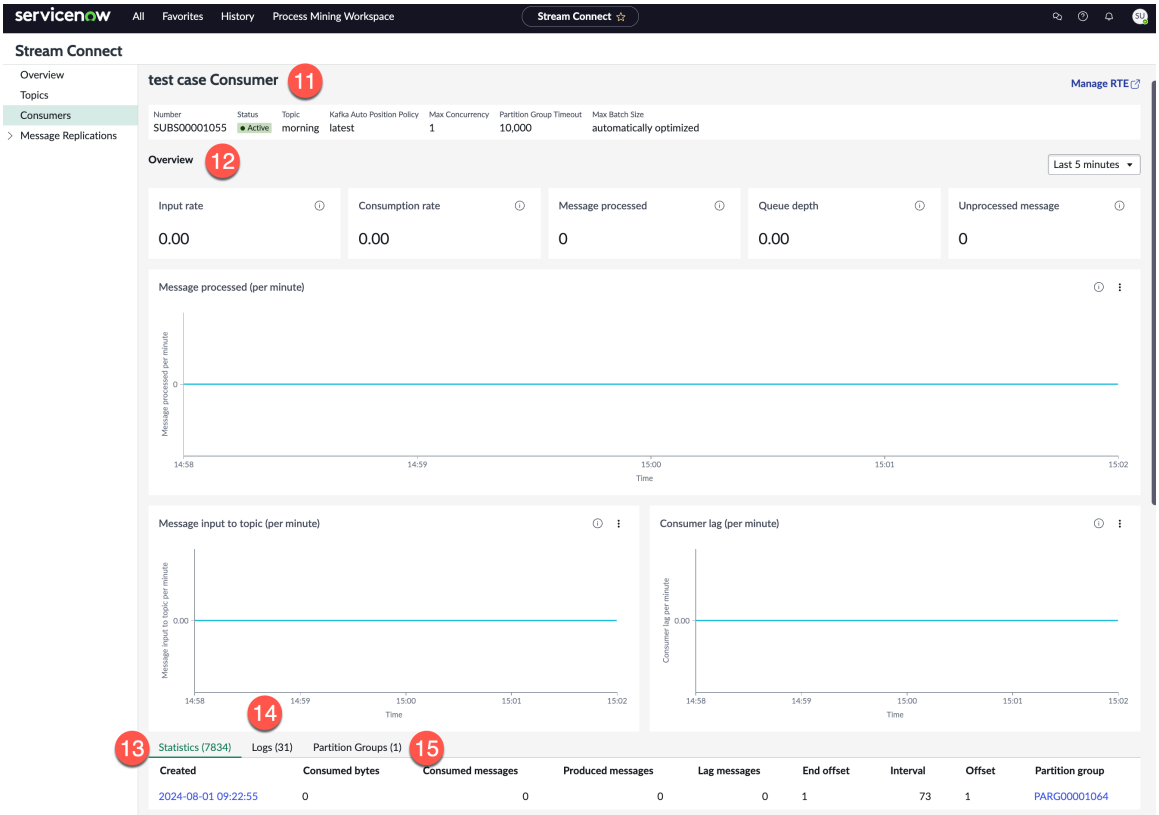
    新しいコンシューマーを作成するには、このボタンを選択し、作成するコンシューマーのタイプを選択してから、コンシューマーのフォームのフィールドに入力します。フォームフィールドの説明については、「ETL コンシューマー」、「変換マップコンシューマー」、または「スクリプトコンシューマー」のページを参照してください。

    注: フロートリガーコンシューマーを作成する場合、入力するフォームはありません。代わりに、ダッシュボードで ワークフロースタジオ が開き、そこでフロートリガーをビルドできます。詳細なガイドについては、「Kafka メッセージトリガーを使用したフローの作成」を参照してください。

リストからコンシューマーを選択すると、そのコンシューマーの詳細情報を表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

個々のコンシューマーページ



個々のコンシューマーページには、次のコンポーネントがあります。

11. [コンシューマー情報] セクション

    コンシューマーに関する詳細を表示します。コンシューマーの数、ステータス、関連トピック、Kafka 自動位置ポリシー、最大並行処理性、パーティショングループのタイムアウト、最大バッチサイズ、パーティション、エラーフラグなどが含まれます。

12. 概要

    コンシューマーの入力と消費率、処理されたメッセージ、キュー深度、未処理のメッセージを表示します。また、次のチャートも表示されます。

    - 処理されたメッセージ数 (1 分あたり)：処理されたメッセージの合計数。
    - トピックへのメッセージ入力 (1 分あたり)：トピックに入力されたメッセージの合計数。
    - コンシューマーラグ (1 分あたり)：選択したコンシューマーのラグ。

    3 つのグラフはすべて、過去 **5** 分間、過去 **1** 時間、または過去 **24** 時間のデータを表示するようにフィルタリングできます。[過去 **24** 時間] を選択すると、1 分ごとではなく 5 分ごとのデータが表示されます。

13. [統計情報] タブ

    コンシューマー統計情報を表示します。作成日、消費バイト数、消費メッセージ数、生成メッセージ数、遅延メッセージ数、終了オフセット、間隔、オフセット、パーティショングループなどが含まれます。

14. [ログ] タブ

    作成されたログと各ログのレベル、メッセージ、ソースを表示します。

15. [パーティショングループ] タブ

    パーティショングループを、各パーティションの番号、最初と最後のパーティション、ポーリング時間、1 秒あたりの生成数、キュー深度、入力レートとともに表示します。

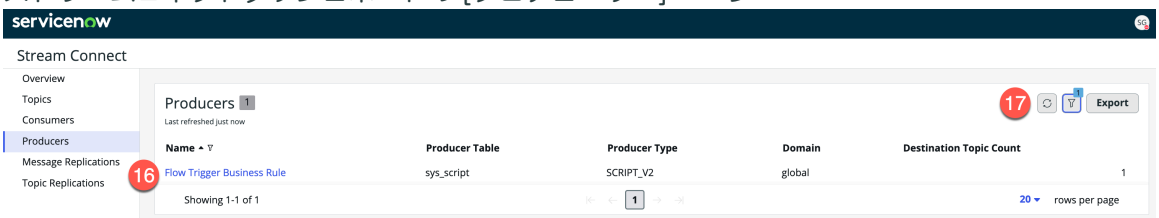
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ログやパーティショングループ情報など、コンシューマーデータと統計の詳細な説明については、「Kafka サブスクリプションと統計情報の表示」を参照してください。

プロデューサー

プロデューサーの表示、フィルター、およびエクスポートを行います。

ストリームコネクトダッシュボードの [プロデューサー] ページ



[プロデューサー] ページには次のコンポーネントがあります。

16. [プロデューサー] リスト

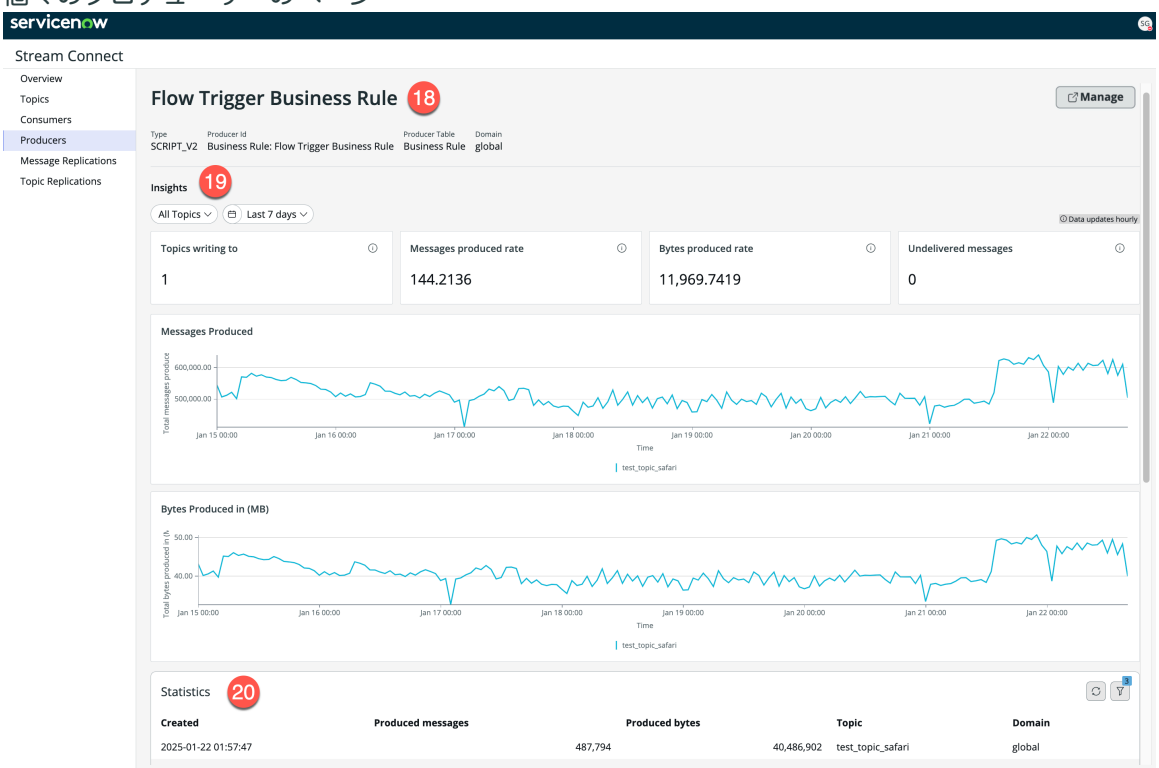
    すべてのプロデューサーと、各プロデューサーの名前、テーブル、タイプ、ドメイン、宛先トピック数を表示します。

17. アクションボタン

    プロデューサーのリストの更新、リストフィルターの表示または編集、プロデューサーのエクスポートに使用できるいくつかのボタンがあります。

リストからプロデューサーを選択すると、そのプロデューサーの詳細情報を表示できます。

個々のプロデューサーのページ



個々のコンシューマーページには、次のコンポーネントがあります。

18. プロデューサー情報セクション

    タイプ、ID、テーブル、ドメインなど、プロデューサーに関する詳細を表示します。[管理] ボタンもあります。[管理] ボタンを使用すると、メッセージを生成した対応するエンティティにリダイレクトされます。たとえば、ビジネスルールプロデューサー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

で [管理] ボタンをクリックすると、sys_script レコードが開きます。フローアクションで [管理] ボタンをクリックすると、そのアクションがワークフロースタジオで開きます。バックグラウンドスクリプトの場合、実行されたスクリプトはシステム上のどこにも保存されないため、[管理] ボタンは無効になります。

19. インサイト

    次のデータが表示されます。

    - 書き込み先トピック (Topics writing to)：プロデューサーの書き込み先であるトピックの合計数。
    - メッセージの生成速度 (Messages produced rate)：1 秒あたりに生成されたメッセージの平均数。
    - バイト生成速度 (Bytes produced rate)：1 秒あたりに生成された平均バイト数。
    - 未到着メッセージ：プロデューサーの未到達メッセージの合計数。
    - 生成されたメッセージ (Messages produced)：過去 7 日間に生成されたメッセージの数を示します。
    - 生成されたバイト数 (Bytes Produced)：過去 7 日間に生成されたバイト数を示します。

    データは 1 時間ごとに更新されます。[生成されたメッセージ (Messages produced)] チャートと [生成されたバイト数 (Bytes Produced)] チャートは、過去 **2** 日間、過去 **24** 時間、過去 **7** 日間、またはカスタム範囲のデータを表示するように、フィルタリングすることができます。

20. 統計情報

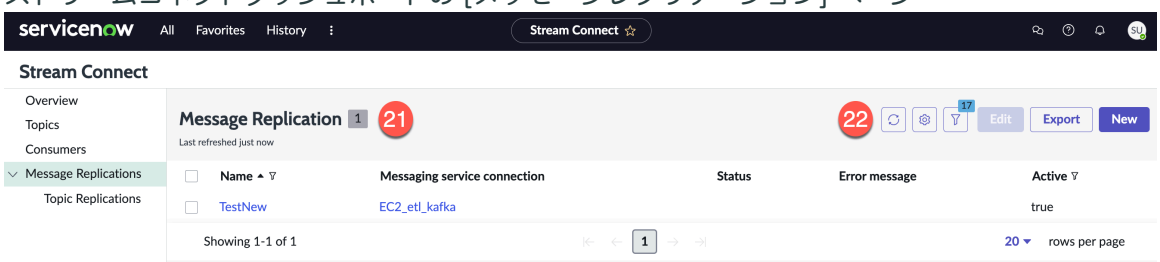
    日付、生成されたメッセージ数とバイト数、トピック、ドメインなどのプロデューサー統計情報を表示します。

プロデューサーのデータと統計の詳細については、「プロデューサー統計情報の表示」を参照してください。

メッセージレプリケーション

メッセージレプリケーションを表示し、メッセージレプリケーションの追加、編集、またはエクスポートを行います。

ストリームコネクトダッシュボードの [メッセージレプリケーション] ページ



[メッセージレプリケーション] ページには、次のコンポーネントがあります。

21. メッセージレプリケーションのリスト

    すべてのメッセージレプリケーションと、各レプリケーションの名前、メッセージングサービス接続、ステータス、エラーメッセージ (存在する場合)、アクティブかどうかを表示します。

22. アクションボタン

    さまざまなタスクを実行するために使用できるいくつかのボタンが含まれています。メッセージレプリケーションのリストの更新、リスト列の編集または列幅のリセット、リストフィルターの表示または編集を行います。また、メッセージレプリケーション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

を編集したり、メッセージレプリケーションをエクスポートしたり、新しいメッセージレプリケーションを作成したりするボタンもあります。

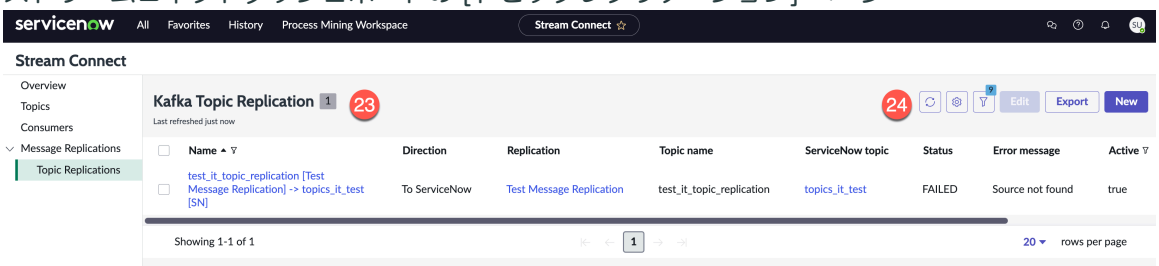
- メッセージレプリケーションを編集するには、リストからレプリケーションを選択し、[編集] ボタンを選択して、メッセージレプリケーションフォームの編集のフィールドに入力します。
- 新しいメッセージレプリケーションを作成するには、[新規] を選択し、新しいメッセージレプリケーションフォームの作成のフィールドに入力します。

メッセージレプリケーションを選択すると、レプリケーションの名前、メッセージングサービス接続、ステータス、エラーメッセージ (存在する場合)、アクティブかどうかを表示できます。関連する Kafka トピックレプリケーションを表示することもできます。

トピックレプリケーション

トピックレプリケーションを表示し、トピックレプリケーションの追加、編集、またはエクスポートを行います。

ストリームコネクトダッシュボードの [トピックレプリケーション] ページ



[トピックレプリケーション] ページには、次のコンポーネントがあります。

23. [トピックレプリケーション] リスト

    すべてのトピックレプリケーションと、各レプリケーションの名前、方向、レプリケーション、トピック名、ServiceNow トピック、ステータス、エラーメッセージ (存在する場合)、アクティブかどうか、現在の更新セットで追跡されているかどうかを表示します。

24. アクションボタン

    トピックレプリケーションのリストの更新、リスト列の編集または列幅のリセット、リストフィルターの表示または編集に使用できるいくつかのボタンがあります。また、トピックレプリケーションを編集したり、トピックレプリケーションをエクスポートしたり、新しいトピックレプリケーションを作成したりするボタンもあります。

    - トピックレプリケーションを編集するには、リストからレプリケーションを選択し、[編集] ボタンを選択してから、トピックレプリケーションフォームの編集のフィールドに入力します。
    - 新しいトピックレプリケーションを作成するには、[新規] を選択し、新しいトピックレプリケーションフォームの作成のフィールドに入力します。

トピックレプリケーションを選択すると、その名前、方向、レプリケーション、トピック名、ServiceNow トピック、ステータス、エラーメッセージ (存在する場合)、アクティブかどうか、現在の更新セットで追跡されているかどうかを表示できます。また、関連するメッセージレプリケーションの統計情報を表示することもできます。

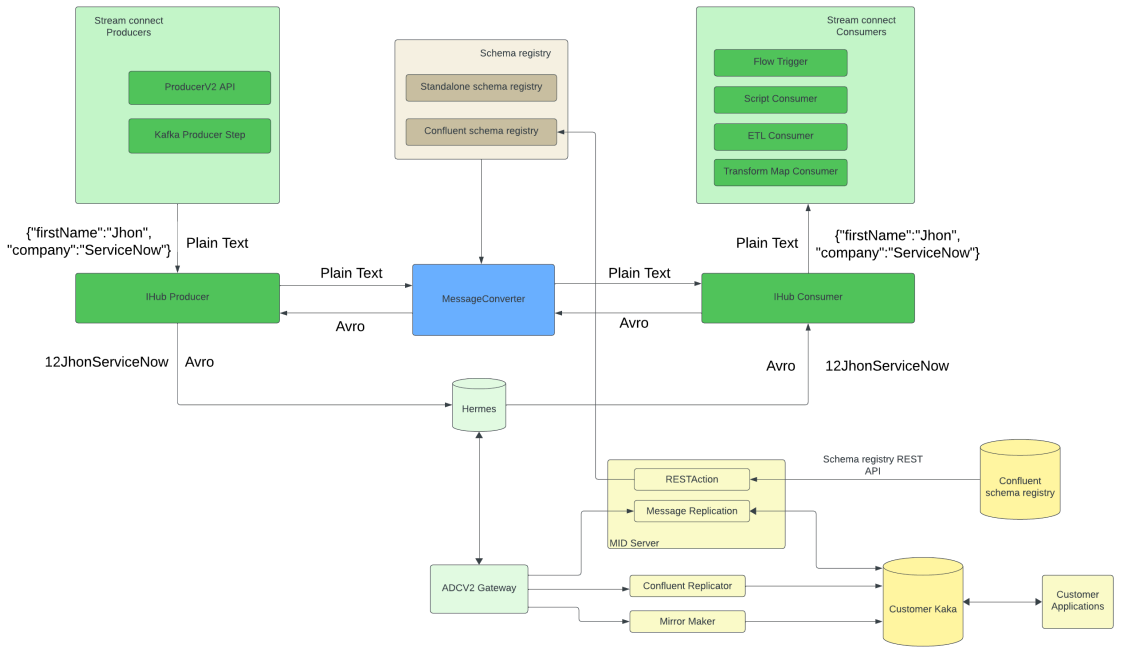
ストリームコネクトのスキーマ管理

スキーマをインポートして作成し、Apache Avro 形式でメッセージを送受信します。Avro 形式を使用することで、ペイロードのサイズを減らし、ローカルの Kafka インスタンスへの統合を簡素化できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Avro は、スキーマを使用してエンコードされたデータを構造化するオープンソースのデータシリアル化システムです。Avro スキーマを使用して、データをプレーンテキストの JSON から Avro バイナリ形式に変換したり、その逆を行ったりすることができます。スキーマを ServiceNow に保存することで、ストリームコネクトプロデューサーとコンシューマーがスキーマを使用して Avro メッセージをシリアル化できます。

次の画像は、ストリームコネクトのスキーマ管理の概要を示しています。スキーマレジストリに保存されるスキーマを使用して、プロデューサーとコンシューマーのメッセージをプレーンテキストから Avro 形式に変換したり、その逆を行ったりすることができます。



スキーマ

Confluent レジストリからスキーマをインポートするか、または JSON ファイルをアップロードするか、スキーマを JSON 形式の文字列として直接入力して独自のスタンドアロンスキーマを作成できます。

スキーマがインポートまたは作成されると、Confluent スキーマとスタンドアロンスキーマの両方が保存されるストリームコネクトスキーマ [stream_connect_schema] テーブルで確認できます。さらに、Confluent スキーマは Confluent ストリームコネクトスキーマ [confluent_stream_connect_schema] テーブルでも確認できます。スタンドアロンスキーマは、スタンドアロンストリームコネクトスキーマ [standalone_stream_connect_schema] テーブルにあります。

すべてのスキーマには、スキーマのグローバルな一意の識別子であるスキーマ ID があります。Confluent スキーマの場合、スキーマ ID は Confluent レジストリからインポートされます。スタンドアロンスキーマの場合、スキーマ ID はローカルで生成され、インスタンス上で一意です。デフォルトでは、生成されるスキーマ ID の値は、インスタンスで使用可能な最大スキーマ ID の次の値です。たとえば、スキーマの ID 番号が 1 から 5 の場合、次に作成するスキーマのスキーマ ID は 6 になります。このデフォルト値は変更できます。

スキーマ ID はレジストリごとに一意です。たとえば、2 つのスキーマは、異なるレジストリにある限り、両方とも 1 つの ID を持つことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スキーマレジストリ

すべてのスキーマはレジストリに属します。ServiceNow のスキーマレジストリには、Confluent スキーマレジストリとスタンドアロンスキーマレジストリの 2 種類があります。

どちらのスキーマレジストリにも、[更新セット内で追跡] オプションがあります。このオプションを有効にすると、そのレジストリ内のスキーマが更新セットに保存されます。スキーマを更新セットに保存すると、ある環境から別の環境に移行できるようになります。移行する環境によってはスキーマ ID が変わる可能性があるため、このオプションは、Confluent スキーマレジストリではデフォルトでオフになっています。スタンドアロンスキーマレジストリでこのオプションが有効になっているのは、スキーマを手動で作成している場合、移行する環境によってスキーマ ID が変わる可能性が低いためです。いずれかのレジストリのデフォルト設定を変更するには、[すべて] > [統合ハブ] > [スキーマレジストリ]に移動し、レジストリを選択して、[更新セット内で追跡] オプションを変更します。

ワイヤレベルのメッセージ形式

ServiceNow では、相互運用性を求めて、他のシステムで使用されるものと同様のワイヤレベルのメッセージ形式を使用します。最初のバイトは 0 に設定され、次の 4 バイトはスキーマ ID に使用されます。残りのバイトは、Avro 形式でシリアル化されたデータに使用されます。

バイト 0	マジックバイト。
バイト 1 ～ 4	スキーマ ID。
残りのバイト	Avro 形式でシリアル化されたデータ。

プロデューサーとコンシューマー

ストリームコネクトのプロデューサーとコンシューマーは、Avro 形式を使用するよう構成できます。

プロデューサーを構成する場合は、使用するスキーマを指定するだけです。その後、プロデューサーを実行すると、メッセージペイロードが JSON で生成され、指定されたスキーマを使用して Avro 形式に自動的に変換されます。プロデューサーの詳細については、「Kafka プロデューサーステップ」または「ProducerV2 API」を参照してください。

コンシューマーの構成も同様です。シリアル化形式を [エンコード済み] に指定し、スキーマレジストリを選択します。コンシューマーが Avro 形式でメッセージを受信すると、メッセージで受信したスキーマ ID のスキーマに従って、自動的に JSON に変換されます。詳細については、Kafka メッセージトリガー に関する情報、または ETL、変換マップ、スクリプトの各コンシューマーを参照してください。

プラグイン

スキーマ管理機能には、ServiceNow Stream Connect Installer [com.glide.hub.stream_connect.installer] プラグインが必要です。

Confluent レジストリからのスキーマのインポート

Confluent レジストリからスキーマをインポートして、ストリームコネクトのプロデューサーとコンシューマーが Apache Avro 形式で Kafka メッセージを送受信できるようにします。

始める前に

- 必要なロール：kafka_admin
- この機能は、ストリームコネクトのスキーマ管理に含まれています。詳細については、「ストリームコネクトのスキーマ管理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow Stream Connect Installer [com.glide.hub.stream_connect.installer] プラグインが必要です。
- スキーマをインポートするには、Confluent レジストリに接続するための接続および資格情報エイリアスが必要です。[すべて] > [統合ハブ] > [スキーマ管理] > [接続を設定]に移動して、エイリアスを設定します。手順については、「接続情報および認証情報エイリアスの作成」を参照してください。

このタスクについて

ストリームコネクトは、スキーマを使用して、メッセージをプレーンテキストから Avro 形式に変換したり、その逆の変換を行ったりします。Avro 形式を使用することで、ペイロードのサイズを減らし、ローカルの Kafka インスタンスへの統合を簡素化できます。

このドキュメントでは、Confluent レジストリからスキーマをインポートする方法を説明します。ストリームコネクトでスタンドアロンスキーマを作成することもできます。

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [スキーマ管理] > **[Confluent Registry からスキーマをインポート]**に移動します。
2. Confluent レジストリからインポートするスキーマのタイトルを選択します。
3. インポートするスキーマのバージョンを選択します。
   最新のバージョンがデフォルトです。
4. [送信] をクリックします。
   Confluent ストリームコネクトスキーマフォームの [スキーマ] フィールドにはレジストリからインポートした JSON 形式のスキーマが、[スキーマ **ID]** フィールドにはスキーマの ID が設定されます。

タスクの結果

スキーマは、ストリームコネクトスキーマ [stream_connect_schema] テーブルと Confluent ストリームコネクトスキーマ [confluent_stream_connect_schema] テーブルに表示されます。

次のタスク

ストリームコネクトのプロデューサーとコンシューマーを使用して、Avro 形式でメッセージを送受信します。

ストリームコネクトでスタンドアロンスキーマを作成

スキーマを作成して、ストリームコネクトのプロデューサーとコンシューマーが Apache Avro 形式で Kafka メッセージを送受信できるようにします。

始める前に

- 必要なロール：kafka_admin
- この機能は、ストリームコネクトのスキーマ管理に含まれています。詳細については、「ストリームコネクトのスキーマ管理」を参照してください。
- ServiceNow Stream Connect Installer [com.glide.hub.stream_connect.installer] プラグインが必要です。

このタスクについて

ストリームコネクトは、スキーマを使用して、メッセージをプレーンテキストから Avro 形式に変換したり、その逆の変換を行ったりします。Avro 形式を使用することで、ペイロードのサイズを減らし、ローカルの Kafka インスタンスへの統合を簡素化できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このドキュメントでは、JSON ファイルをアップロードするか、スキーマを JSON 形式の文字列として直接入力して、独自のスタンドアロンスキーマを作成する方法について説明します。Confluent レジストリからのスキーマのインポートすることもできます。

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [スキーマ管理] > [スタンドアロンスキーマを作成]に移動します。

   Avro スキーマを作成するフォームで、[スキーマ **ID]** の値が自動的に入力されます。提案された値を保持または変更できます。

   すべてのスキーマには、スキーマのグローバルな一意の識別子であるスキーマ ID があります。スタンドアロンスキーマの場合、スキーマ ID はローカルで生成され、インスタンス上で一意です。デフォルトでは、生成されるスキーマ ID の値は、インスタンスで使用可能な最大スキーマ ID の次の値です。たとえば、スキーマの ID 番号が 1 から 5 の場合、次に作成するスキーマのスキーマ ID は 6 になります。スキーマ ID はレジストリごとに一意です。たとえば、2 つのスキーマは、異なるレジストリにある限り、両方とも 1 つの ID を持つことができます。

2. [ソース] フィールドで、次のいずれかを選択します。

オプション	説明
ファイル	スキーマをインポートする JSON ファイルを選択します。インポートされると、ファイルの内容が **[JSON** スキーマ] フィールドに表示されます。
Avro 形式の文字列 **(JSON)**	スキーマを JSON 文字列形式で入力します。

3. **[Submit** (送信)] をクリックします。
   スタンドアロンストリームコネクトスキーマフォームの [スキーマ] フィールドには、アップロードまたは入力した JSON 形式のスキーマがあります。

タスクの結果

スキーマは、スタンドアロンストリームコネクトスキーマ [standalone_stream_connect_schema] テーブルとストリームコネクトスキーマ [stream_connect_schema] テーブルに表示されます。

次のタスク

ストリームコネクトのプロデューサーとコンシューマーを使用して、Avro 形式でメッセージを送受信します。

抽出変換ロード **(ETL)** コンシューマーの構成

Kafka 環境からデータをインポートし、既存の強力な変換エンジン (RTE) 構成を使用してそのデータを処理します。

始める前に

- 必要なロール： integration_hub_admin
- このコンシューマには Apache Kafka 向けストリームコネクトサブスクリプションが必要です。詳細については、「https://www.servicenow.com/now-platform/workflow-data-fabric.html 」を参照してください。
- ServiceNow Stream Connect Installer [com.glide.hub.stream_connect.installer] プラグインが必要です。
- このコンシューマーには、強力なインポートセットトランスフォーマーが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
コンシューマーを設定するには、2 つのレコードを作成する必要があります。

1. データのインポート方法と処理方法を指定するコンシューマーレコード。
2. コンシューマーへのデータストリームを定義する Kafka ストリームのレコード。

このタスクでは、コンシューマーの作成について説明します。Kafka ストリームの作成方法については、「Kafka ストリームの作成」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [コンシューマー] > **[ETL** コンシューマー]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

Kafka ETL コンシューマー

フィールド	説明
名前	ETL コンシューマーの名前。
強力なインポートセットトランスフォーマー	データの処理に使用する強力なインポートセットトランスフォーマーの名前。
配送保証	ノード障害が発生した場合に、受信メッセージの配信保証を指定するオプション。次のいずれかを選択します。 ◦ 紛失なし、重複なし：すべてのメッセージが少なくとも 1 回配信されます。一部のメッセージは複数回配信される可能性があります。 ◦ 一度、またはまったくない：メッセージは複数回配信されません。一部のメッセージがまったく配信されない可能性があります。
シリアル化形式	メッセージのシリアル化形式。次のいずれかを選択します。 ◦ プレーンテキスト：プレーンテキストメッセージの場合は、このオプションを選択します。これがデフォルトの形式です。 ◦ エンコード済み：Apache Avro 形式のメッセージには、このオプションを選択します。プレーンテキストメッセージを Avro 形式に変換するには、スキーマが必要です。[スキーマレジストリ] フィールドでスキーマレジストリを選択します。スキーマの詳細については、「ストリームコネクトのスキーマ管理」を参照してください。
単一列のデータ	単一列にインポートセットテーブルを格納させるオプション。
列マッピング	メッセージの JSON キーがデータをインポートセットテーブルの列の名前またはラベルにマッピングするかどうかを指定するオプション。次のいずれかを選択します。 ◦ ラベル ◦ 列名 このフィールドは、[単一列のデータ] チェックボックスがオフの場合にのみ表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
アプリケーション	ETL コンシューマーのアプリケーションスコープ。
スキーマレジストリ	選択したスキーマのレジストリ。次のいずれかを選択します。 ◦ スタンドアロンのスキーマレジストリ ◦ **Confluent Schema Registry** このフィールドは、[シリアル化形式] が [エンコード済み] に設定されている場合にのみ表示されます。 Confluent Schema Registry では、受信したメッセージのスキーマ ID がスキーマテーブルにない場合、構成された REST 接続を使用してスキーマが動的にインポートされます。

4. **[Save** (保存)] をクリックします。

次のタスク
このコンシューマーの Kafka ストリームの作成。ストリームがアクティブ化されると、Kafka 環境からのメッセージの受信を開始できます。

変換マップコンシューマーの構成

既存の変換マップ構成を使用して、Kafka 環境からデータをインポートして処理します。

始める前に

- 必要なロール： integration_hub_admin
- このコンシューマには Apache Kafka 向けストリームコネクトサブスクリプションが必要です。詳細については、「https://www.servicenow.com/now-platform/workflow-data-fabric.html 」を参照してください。
- ServiceNow Stream Connect Installer [com.glide.hub.stream_connect.installer] プラグインが必要です。
- このコンシューマーには、変換マップが必要です。

このタスクについて
コンシューマーを設定するには、2 つのレコードを作成する必要があります。

1. データのインポート方法と処理方法を指定するコンシューマーレコード。
2. コンシューマーへのデータストリームを定義する Kafka ストリームのレコード。

このタスクでは、コンシューマーの作成について説明します。Kafka ストリームの作成方法については、「Kafka ストリームの作成」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [コンシューマー] > [変換マップコンシューマー]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Kafka 変換マップコンシューマー

フィールド	説明
名前	変換マップコンシューマーの名前。
変換マップ	データの処理に使用する変換マップの名前。
配送保証	ノード障害が発生した場合に、受信メッセージの配信保証を指定するオプション。次のいずれかを選択します。 ◦紛失なし、重複なし：すべてのメッセージが少なくとも 1 回配信されます。一部のメッセージは複数回配信される可能性があります。 ◦一度、またはまったくない：メッセージは複数回配信されません。一部のメッセージがまったく配信されない可能性があります。
シリアル化形式	メッセージのシリアル化形式。次のいずれかを選択します。 ◦プレーンテキスト：プレーンテキストメッセージの場合は、このオプションを選択します。これがデフォルトの形式です。 ◦エンコード済み：Apache Avro 形式のメッセージには、このオプションを選択します。プレーンテキストメッセージを Avro 形式に変換するには、スキーマが必要です。[スキーマレジストリ] フィールドでスキーマレジストリを選択します。スキーマの詳細については、「ストリームコネクトのスキーマ管理」を参照してください。
列マッピング	メッセージの JSON キーがデータをインポートセットテーブルの列の名前またはラベルにマッピングするかどうかを指定するオプション。次のいずれかを選択します。 ◦ラベル ◦列名
挿入を同期する	レコード挿入を同期することで、一意の結合フィールド値を持つ 1 つのレコードのみを保証するオプション。
アプリケーション	変換マップコンシューマーのアプリケーションスコープ。
スキーマレジストリ	選択したスキーマのレジストリ。次のいずれかを選択します。 ◦スタンドアロンのスキーマレジストリ ◦**Confluent Schema Registry** このフィールドは、[シリアル化形式] が [エンコード済み] に設定されている場合にのみ表示されます。 Confluent Schema Registry では、受信したメッセージのスキーマ ID がスキーマテーブルにない場合、構成された REST 接続を使用してスキーマが動的にインポートされます。

4. **[Save** (保存)] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
このコンシューマーの Kafka ストリームの作成。ストリームがアクティブ化されると、Kafka 環境からのメッセージの受信を開始できます。

スクリプトコンシューマーの構成

スクリプトを使用して、Kafka 環境からデータをインポートして処理します。

始める前に

- 必要なロール： integration_hub_admin
- このコンシューマには Apache Kafka 向けストリームコネクトサブスクリプションが必要です。詳細については、「https://www.servicenow.com/now-platform/workflow-data-fabric.html」を参照してください。
- ServiceNow Stream Connect Installer [com.glide.hub.stream_connect.installer] プラグインが必要です。

このタスクについて

コンシューマーを設定するには、2 つのレコードを作成する必要があります。

1. データのインポート方法と処理方法を指定するコンシューマーレコード。
2. コンシューマーへのデータストリームを定義する Kafka ストリームのレコード。

このタスクでは、コンシューマーの作成について説明します。Kafka ストリームの作成方法については、「Kafka ストリームの作成」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [統合ハブ] > [コンシューマー] > [スクリプトコンシューマー]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

Kafka スクリプトコンシューマー

フィールド	説明
名前	スクリプトコンシューマーの名前。
配送保証	ノード障害が発生した場合に、受信メッセージの配信保証を指定するオプション。次のいずれかを選択します。 ◦紛失なし、重複なし：すべてのメッセージが少なくとも 1 回配信されます。一部のメッセージは複数回配信される可能性があります。 ◦一度、またはまったくない：メッセージは複数回配信されません。一部のメッセージがまったく配信されない可能性があります。
シリアル化形式	メッセージのシリアル化形式。次のいずれかを選択します。 ◦プレーンテキスト：プレーンテキストメッセージの場合は、このオプションを選択します。これがデフォルトの形式です。 ◦エンコード済み：Apache Avro 形式のメッセージには、このオプションを選択します。プレーンテキストメッセージを Avro 形式に変換するには、スキーマが必要です。[スキーマレジストリ] フィールドでスキーマレジストリを選択します。スキーマの詳細については、「ストリームコネクトのスキーマ管理」を参照してください。
イベントコン	Kafka トピックから受信したメッセージを消費するために使用するスクリプト。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
シューマー	
アプリケーション	変換マップコンシューマーのアプリケーションスコープ。
スキーマレジストリ	選択したスキーマのレジストリ。次のいずれかを選択します。 ◦ スタンドアロンのスキーマレジストリ ◦ **Confluent Schema Registry** このフィールドは、[シリアル化形式] が [エンコード済み] に設定されている場合にのみ表示されます。 Confluent Schema Registry では、受信したメッセージのスキーマ ID がスキーマテーブルにない場合、構成された REST 接続を使用してスキーマが動的にインポートされます。

4. **[Save** (保存)] をクリックします。

Example:
この例は、メッセージを処理するためのサンプルスクリプトを示しています。

```
(function process(messages) {
 // Add your code here to consume kafka messages
 // sample message [ { 'key' : 'message_key' , 'message' : 'message' ,
 'headers' : [ { 'key' : 'header_key' , 'value' : 'header_value' } ] } ]

 for (var i = 0; i < messages.length; i++) {
     var message = JSON.parse(messages[i].message);
     gs.info('Number ' + message.number + ', short description ' +
 message.short_description +
         ', headers ' + JSON.stringify(messages[i].headers));
 }
})(messages);
```

次のタスク
このコンシューマーの Kafka ストリームの作成。ストリームがアクティブ化されると、Kafka 環境からのメッセージの受信を開始できます。

Kafka ストリームの作成

抽出変換ロード (ETL)、変換マップ、スクリプトコンシューマーのデータストリームを定義します。Kafka ストリームは、コンシューマーへのデータのストリームを定義します。

始める前に

- 必要なロール： integration_hub_admin
- Kafka ストリームは Apache Kafka 向けストリームコネクト の一部であり、Apache Kafka 向けストリームコネクト サブスクリプションが必要です。詳細については、「https://www.servicenow.com/now-platform/workflow-data-fabric.html」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
ETL、変換マップ、またはスクリプトコンシューマーを使用するには、Kafka ストリームを作成する必要があります。コンシューマーを設定し、ストリームを作成してアクティブ化すると、Kafka 環境からメッセージの受信を開始できます。

手順

1. ETL、変換マップ、またはスクリプトコンシューマーのレコードを開きます。
   コンシューマーレコードを検索するには、[すべて] > [統合ハブ] > [コンシューマー] に移動し、**[ETL コンシューマー]**、[変換マップコンシューマー]、または [スクリプトコンシューマー **(Script Consumer)]** を選択します。
2. [Kafka ストリーム] セクションを探して、[新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

Kafka ストリーム

フィールド	説明
名前	Kafka ストリームの名前。
トピック	メッセージを監視するトピックの名前。
最大同時実行	メッセージを消費するために使用する並列プロセッサーの最大数と作成するパーティショングループの数。 デフォルト値：1
相対的重み付け	各サイクルについて、他のコンシューマーと比較して、メッセージを処理するためにコンシューマーに割り当てられた最大時間。たとえば、相対的な重み付けが別のコンシューマーの 2 倍であるコンシューマーは、2 倍の時間を取得します。相対的な重み付けが同じコンシューマーは、同じ時間になります。 最小値は 5、最大値は 2000 です。デフォルト値は、最大同時実行数に *glide.ih.kafka.consumer.max_seconds_per_partition_group* プロパティの値を掛けた値です。*glide.ih.kafka.consumer.max_seconds_per_partition_group* プロパティは、各パーティショングループに割り当てられる最大時間 (秒) を指定します。デフォルト値は 10 です。 相対重み付けを使用して、サブスクリプションのパーティショングループタイムアウトが計算されます。パーティショングループタイムアウトは、特定のサブスクリプションの各パーティショングループに割り当てられる最大時間 (ミリ秒) を指定します。 このフィールドは、[詳細] が選択されている場合にのみ表示されます。
消費を開始	トピックからメッセージの消費を開始する場所を指定するオプション。次のいずれかを選択します。 ◦最初の有効化後に受信したメッセージ **(Messages received after the first activation)**：ストリームがアクティブ化された後に受信したメッセージのみを消費します。 ◦トピックに保存されているすべてのメッセージ **(All the messages stored in the topic)**：ストリームがアクティブ化される前に受信したメッセージを含む、トピック内のすべてのメッセージを消費します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
メッセージ処理	実行ごとに処理されるメッセージの数を指定するか、システムがメッセージの数を決定するオプション。次のいずれかを選択します。 ◦ [自動的に最適化 **(Automatically optimize)]**：システムが 1 回の実行で処理するメッセージの数を指定します。 ◦ [手動で上書き **(Manually override)]**：実行ごとに処理するメッセージの数を指定します。 このフィールドは、[詳細] が選択されている場合にのみ表示されます。
最大メッセージ数	実行ごとに処理するメッセージの最大数。 このフィールドは、[メッセージ処理 **(Message handling)]** から [手動上書き] を選択した場合にのみ表示されます。
実行方法	指定したユーザーの認証情報を使用してコンシューマーを実行するオプション
Kafka ETL コンシューマー	データのストリーミング先のコンシューマーの名前。このフィールドは、ストリームの追加を開始したコンシューマーの名前に自動的に設定されます。
有効	ストリームを有効にするオプション。
詳細	詳細フィールド [相対的重み付け **(Relative weight)]** と [メッセージ処理 **(Message handling)]** を表示するオプションです。

4. [関連リンク] で、[有効化 **(Activate)]** を選択します。
   ストリームがアクティブ化されると、関連付けられたコンシューマーの Kafka サブスクリプションが自動的に作成されます。
5. [送信] を選択します。

タスクの結果

ストリームを有効にすると、コンシューマーは指定されたトピックで処理するメッセージの検索を開始します。サブスクリプションページにアクセスすると、コンシューマーとそのパフォーマンスに関する詳細情報を表示できます。詳細については、「Kafka サブスクリプションと統計情報の表示」を参照してください。

Kafka サブスクリプションと統計情報の表示

トピックに追加したレコード数、処理したレコード数、残りの処理レコード数など、Kafka コンシューマーとそのパフォーマンスに関する詳細情報を表示します。

サブスクリプションは、コンシューマーに関連付けられたレコードです。コンシューマーに関する構成とパフォーマンスの詳細を保存します。サブスクリプションは、Kafka ストリームがアクティブ化されると作成されます。

各サブスクリプションページには、以下のセクションが含まれています。

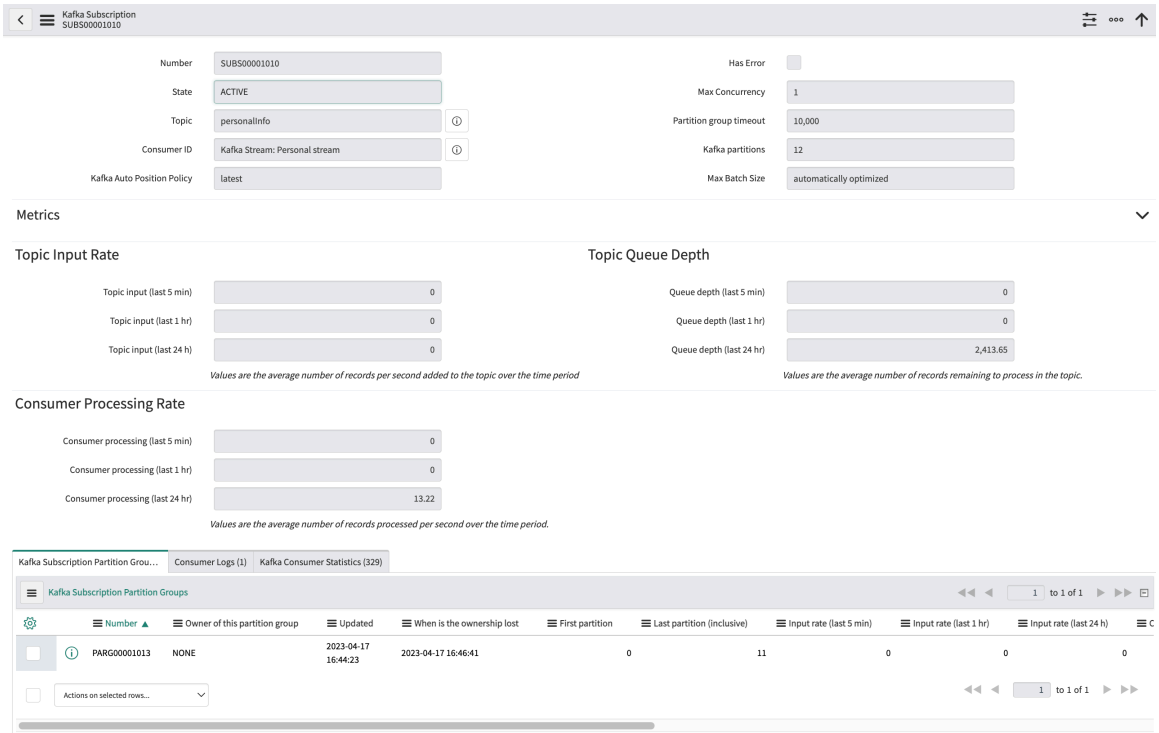
- Kafka サブスクリプション
- メトリクス
- Kafka サブスクリプションパーティショングループ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コンシューマーログ
- Kafka コンシューマー統計情報

サブスクリプションレコードを表示するには、[統合ハブ] > [ストリームコネクト] > [サブスクリプション]に移動します。表示するサブスクリプションの情報アイコン ( ) を選択し、[レコードを開く] を選択します。

Kafka コンシューマーのサンプルサブスクリプションページ



Kafka サブスクリプション

Kafka サブスクリプションセクションには、コンシューマーとサブスクリプションの構成の詳細が表示されます。

フィールド	説明
番号	サブスクリプションレコードの番号。
状況	コンシューマーのステータス。オプションは次のとおりです。 • アクティブ • 更新しています • 停止中
トピック	コンシューマーがメッセージを処理しているトピック。
コンシューマー ID	コンシューマーの一意の識別子。
Kafka 自動位置ポリシー (Kafka Auto Position Policy)	コンシューマーがトピックからメッセージの読み取りを開始する場所を指定します。オプションは次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• 最短：コンシューマーは、トピック内で利用可能な最も古いメッセージから読み取りを開始します。 • 最新：コンシューマーは、コンシューマーの開始後にトピックに配信されたメッセージのみを読み取ります。
エラーあり	サブスクリプションにエラーがあるかどうかを示します。
最大同時実行	メッセージの消費に使用される並列プロセッサーの最大数とパーティショングループの数。
パーティショングループタイムアウト	サブスクリプションの各パーティショングループに割り当てられる最大時間 (ミリ秒) です。
Kafka パーティション (Kafka partitions)	トピック内のパーティションの数。
最大バッチサイズ	実行ごとに処理されるメッセージの最大数。オプションは次のとおりです。 • 自動的に最適化 (automatically optimized)：システムがメッセージの数を選択します。 • 数 (a number)：ユーザーが手動で選択した数。

メトリクス

各メトリクスは、過去 5 分間、過去 1 時間、過去 24 時間の 3 つの時間間隔で測定されます。

- トピック入力率：トピックに追加された 1 秒あたりの平均レコード数。
- コンシューマー処理率：1 秒あたりの平均処理レコード数。
- トピックキューの深さ：トピック内の、処理が必要な残りの平均レコード数。

Kafka サブスクリプションパーティショングループ

[Kafka サブスクリプションパーティショングループ (Kafka subscription partition groups)] タブには、次の詳細が表示されます。

フィールド	説明
番号	パーティショングループの番号。
このパーティショングループの所有者 (Owner of this partition group)	パーティショングループの所有ステータス。オプションは次のとおりです。 • なし：パーティショングループは Kafka コンシューマージョブで所有されていません。取得と処理が可能です。 • 処理中：パーティショングループは Kafka コンシューマージョブで所有され、メッセージを処理しています。 • ロック中：パーティショングループは Kafka コンシューマージョブで所有されておらず、取得できません。 Kafka コンシューマージョブはアクティブ化されると、[なし] の所有者で初期に更新されたレコードを確認し、選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	次に、コンシューマージョブは所有者を [処理中] に変更し、10 秒間処理します。 処理が完了すると、ステータスが [なし] に戻るため、後で再度取得して処理できます。 コンシューマージョブがすべてのメッセージを処理する場合、所有者は 10 秒間 [ロック中] に設定され、その後再び [なし] に設定されます。
更新日時	パーティショングループが最後に更新された日時。
所有権の失効タイミング (When is the ownership lost)	所有権が失われる日時。
最初のパーティション (First partition)	パーティショングループの最初のパーティションの番号。
最後のパーティション (包含) (Last partition (inclusive))	パーティショングループの最後のパーティションの番号。
入力率 (Input rate) 過去 5 分間、過去 1 時間、過去 24 時間。	パーティショングループに追加された 1 秒あたりの平均レコード数。
コンシューマー処理 (Consumer processing) 過去 5 分間、過去 1 時間、過去 24 時間。	パーティショングループから消費された 1 秒あたりの平均メッセージ数。
キュー深度 (Queue depth) 過去 5 分間、過去 1 時間、過去 24 時間。	パーティショングループ内の、処理が必要な残りの平均レコード数。

コンシューマーログ

[コンシューマーログ (Consumer Logs)] タブには、関連するコンシューマーのログエントリーが表示されます。各エントリが作成された日時、そのログレベル、メッセージ、およびソースが表示されます。コンシューマーログは、コンシューマーログ [sys_consumer_log] テーブルに格納されます。

glide.ih.kafka.debug.consume プロパティを有効にすると、コンシューマーログに追加されるログメッセージ数を増やすことができます。

Kafka コンシューマー統計情報

[Kafka コンシューマー統計情報 (Kafka Consumer Statistics)] タブには、以下の詳細が表示されます。

フィールド	説明
作成済み	コンシューマー統計情報レコードが作成された日時。
間隔	コンシューマー統計情報レコードの期間 (秒単位)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	間隔の長さは *glide.ih.kafka.consumer.log_interval* プロパティで変更できます。デフォルト値は 60 秒です。 *glide.ih.kafka.consumer.log_empty_stats* プロパティを使用して、指定の期間中に Kafka メッセージが生成または消費されない場合に、メッセージをコンシューマーログに記録するかどうかを指定できます。デフォルト値は true です。
生成されたメッセージ (Produced messages)	指定の期間中にトピックに対して生成されたメッセージの数。
消費済みメッセージ (Consumed messages)	指定の期間中にコンシューマーで処理されたメッセージの数。
消費済みバイト (Consumed bytes)	指定の期間中コンシューマーで処理されたバイト数。
オフセット (OffSet)	パーティショングループのすべてのオフセットの合計。
遅延メッセージ (Lag messages)	終了オフセットと現在のオフセットの差。
終了オフセット	パーティショングループのすべての終了オフセットの合計。
パーティショングループ (Partition group)	パーティショングループのレコード。

プロデューサー統計情報の表示

プロデューサーのタイプと ID、トピックに生成されたバイト数とメッセージ数の合計など、Apache Kafka 向けストリームコネクトのプロデューサーとそのパフォーマンスに関する詳細情報を表示します。

Kafka プロデューサーステップと ProducerV2 API を含むApache Kafka 向けストリームコネクトのプロデューサーは、ServiceNow から Kafka トピックにメッセージを公開します。各プロデューサーの詳細情報と統計情報を表示できます。

各プロデューサーには、そのプロデューサーに関する情報 (タイプや ID など) を格納するレコードがあります。プロデューサーには、トピックに対して生成されたバイト数やメッセージ数など、プロデューサーのパフォーマンスに関する情報を含む、関連する統計レコードがある場合もあります。

プロデューサーの詳細と統計情報には、次の 2 つのテーブルが対応しています。

- Kafka プロデューサー [sys_kafka_producer] テーブル
- Kafka プロデューサー統計情報 [sys_kafka_producer_statistics] テーブル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

どちらのテーブルも、表示するには Kafka アドミン [kafka_admin] ロールが必要です。これらのテーブルは読み取り専用であり、その中のレコードを手動で作成、更新、または削除することはできません。

Kafka プロデューサーテーブル

Kafka プロデューサー [sys_kafka_producer] テーブルは、トピックごとのプロデューサー情報をキャプチャします。Kafka プロデューサーテーブルを表示するには、[すべて] > [統合ハブ] > [ストリームコネクト] > [プロデューサー **(Producers)]**に移動します。

Kafka プロデューサーテーブルのフィールド

フィールド	説明
番号	プロデューサーの一意の識別子。プロデューサーレコードにリンクしています。
プロデューサータイプ	プロデューサーのタイプとバージョン番号。 各プロデューサータイプの後には、プロデューサーのバージョン番号が続きます。たとえば、プロデューサーが ProducerV2 API の場合、表示されるタイプは SCRIPT_V2 です。 オプションは次のとおりです。 • ACTION：Kafka プロデューサーステップ。 • SCRIPT_ACTION：ワークフロースタジオのスクリプト化されたステップ内から呼び出されたプロデューサー。 • SCRIPT：プロデューサー API または ProducerV2 API。 • SYSTEM：ServiceNow プラットフォームでのサーバー側の実行で、実行に関連付けられたレコードをシステムが識別できないもの。
プロデューサーテーブル	レコードを生成するテーブルの名前。 たとえば、レコードがビジネスルールによって生成される場合、テーブルはビジネスルール [sys_script] です。Kafka プロデューサーステップによって生成された場合は、アクションタイプ [sys_hub_action_type_definition] です。
プロデューサー ID	メッセージを生成するレコードへの参照。
トピック	プロデューサーの Kafka トピックレコードへの参照。
ドメイン	イベントを生成するレコードのドメインの名前。

Kafka プロデューサー統計情報

Kafka プロデューサー統計情報 [sys_kafka_producer_statistics] テーブルは、各プロデューサーのプロデューサー統計情報をキャプチャします。統計は 1 時間に 1 回収集されます。

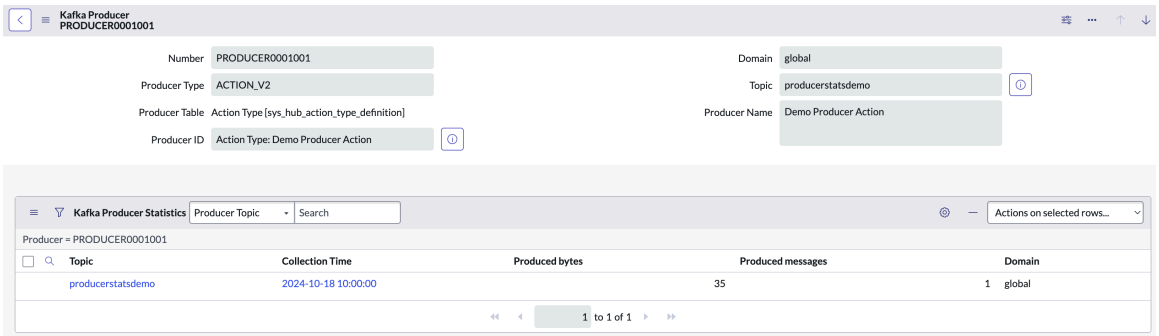
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Kafka プロデューサー統計情報テーブル

フィールド	説明
トピック	プロデューサーのトピックレコードへの参照。
収集時間	プロデューサー統計情報が収集された時刻。統計は 1 時間ごとに収集され、報告されます。
生成バイト	収集期間中に生成された合計バイト数。
生成メッセージ	収集期間中に生成された合計メッセージ数。
ドメイン	プロデューサーのドメインの名前。

テーブルからプロデューサーのレコードを選択して、特定のプロデューサーの統計情報を表示することもできます。

統計情報を含むプロデューサーレコードの例



統合ハブでの接続の管理

単独の統合プロバイダーへの複数の接続を作成します。接続ダッシュボードを使用して、簡素化されたインターフェイスで接続を表示し、構成します。

統合ハブの接続および認証情報

統合ハブは、外部システムとの統合時にエイリアスを利用して接続情報と認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報や接続情報プロファイルを設定する必要がなくなります。統合ハブで必要なのはエイリアスのみとなり、実行時に正しい認証情報と接続情報を使用するように解決されます。資格情報、接続、およびエイリアス の詳細を確認してください。

複数接続のサポート

統合ハブ は、単独の統合プロバイダーへの複数の接続をサポートします。たとえば、複数の異なる Jira 環境に接続することができます。

どの接続をフローで使用するかを選択し、フローデザイナーを介してフロー、サブフロー、およびアクションの事前設定された接続を直接上書きできます。フローが本番に昇格されたら、フローを変更することなく各アカウントへの接続を再確立できます。

また、統合アクションの接続を直接ワークフロースタジオで表示、編集、および作成することもできます。統合アクションには、[アクションプロパティ] セクションに 1 つ以上の接続フィールドがあり、アクションレベルでの接続管理が簡素化されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

個人認証ダッシュボード

個人認証ダッシュボード でサードパーティ統合に接続するには、個人の認証情報を使用します。簡素化された統合インターフェイスを介して、個人認証を表示、認証、取り消し、および更新します。

個人認証ダッシュボードでは、個人認証統合を簡素化された方法で管理できます。個人認証を使用すると、複数のユーザーがスーパーユーザー認証情報を共有しなくても統合ハブを使用できます。また、サードパーティシステムの ACL を管理する必要がなくなるため、セキュリティも強化されます。

接続ダッシュボード

接続ダッシュボードにより、接続および資格情報エイリアスを表示して構成することができます。接続ダッシュボードを使用すると、単一のインターフェイスで複数の接続を管理することができ、接続を追加、編集、構成するためのプロセスが簡素化されます。接続ダッシュボードにより、エイリアスと関連するすべての子接続に関する詳細を単一の場所に表示できます。

MID サーバーでの mTLS プロトコルの使用

MID サーバー から mTLS を使用して、送信 REST および SOAP の呼び出しを行います。mTLS 認証情報と証明書情報を、インスタンス、構成ファイル、または外部 Vault に保存します。MID サーバーは認証情報と証明書情報を取得し、mTLS プロトコルを使用して送信 REST および SOAP 呼び出しを行います。

複数接続のサポート

単独の統合プロバイダーへの複数の接続をサポートします。フローから直接、フロー、サブフロー、アクションの接続を選択します。

利点

複数接続のサポートには、以下のメリットがあります。

- 同じデータ連携プロバイダーに複数の接続を確立できる。たとえば、複数の異なる Jira 環境への接続を確立できます。
- フローで使用する接続を選択できる。フローデザイナー を介して、フロー、サブフロー、およびアクションの事前設定された接続を直接上書きできます。
- フローが本番に昇格されたら、フローを変更することなく各アカウントへの接続を再確立できる。

接続の詳細については、「接続と資格情報」を参照してください。

接続および資格情報エイリアス

統合ハブは、外部システムとの統合時にエイリアスを利用して接続情報と認証情報を管理します。エイリアスを使用することで、複数の環境を使用する場合に、複数の認証情報や接続情報プロファイルを設定する必要がなくなります。統合ハブで必要なのはエイリアスのみとなり、実行時に正しい認証情報と接続情報を使用するように解決されます。

接続および資格情報エイリアスを利用して、「子エイリアス」と呼ばれる追加のエイリアスまたは接続を作成することもできます。子エイリアスを使用すると、同じアプリケーションデータ連携内で複数の接続を作成できます。詳細については、「接続および資格情報エイリアスの作成」を参照してください。

フローレベルの接続の選択

フローまたはサブフローの接続は、フローのメインページから直接選択できます。新しい接続を選択すると、そのフローに事前設定された接続が上書きされます。接続を選択するには、[その他のア

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クション] メニューアイコン ( ) をクリックし、[接続を設定] オプションを選択します。このオプションを選択すると、フローの接続を選択できる [接続を設定] ウィンドウが開きます。[接続の設定] ウィンドウには次の項目が表示されます。

- フローで使用されるすべてのエイリアス。
- 各エイリアスのアイコンと名前。
- 各エイリアスに設定されている接続のリスト。デフォルトの接続が最初にリストされます。その他の接続はアルファベット順にリストされています。
- 各エイリアスの情報アイコン。アイコンを選択すると、リストに表示されているデフォルト接続の [接続および資格情報エイリアス] レコードが開きます。
- 接続ダッシュボードを開く [接続の管理] オプション。
- 接続選択を [キャンセル] するか、接続選択を [更新] するオプション。

各エイリアスは、そのエイリアスを使用できるアクションまたはサブフローの数に関係なく、[接続の設定] ウィンドウに 1 つのエントリーがあります。フローレベルで接続を選択すると、そのエイリアスを使用するすべてのアクションとサブフローに新しい接続が適用されます。たとえば、フローに Slack サービスを使用する複数のアクションがある場合、Slack サービスの接続を変更すると、フロー内のすべての Slack サービスアクションの接続が変更されます。

フローのエイリアスアイコンを [接続の設定] ウィンドウのエイリアスアイコンと一致させることで、接続の変更がフローのどの部分に影響するかを確認できます。Slack サービスに影響を与えるアクションには、フロー内のアクションの横に Slack アイコンがあります。[接続の設定] ウィンドウのエイリアス名の横にも Slack アイコンが表示されます。

[接続の設定] ウィンドウは、接続のあるフローコンポーネントを追加または削除するたびに自動的に更新されます。アクションまたはサブフローをフローに追加すると、[接続の設定] ウィンドウに、追加したアクションまたはサブフローの接続が表示されます。アクションまたはサブフローを削除すると、接続情報が [接続の設定]ウィンドウから削除されます。

*sn_flow_designer.connections_override_enabled*システムプロパティを使用して、[接続の設定] オプションを表示するかどうかを選択できます。プロパティを **true** に設定すると、 [接続の設定] オプションが表示され、 **false** に設定すると非表示になります。システムプロパティを削除した場合、またはシステムプロパティが存在しない場合は、[接続の設定] オプションがデフォルトで表示されます。

フローの実行の詳細の [ステップ設定] セクションを調べて、フローが実行された接続を表示します。[構成] 列にリストされている接続エイリアスは、フローを実行するために最初に設計されたエイリアスです。[ランタイム値] 列にリストされているエイリアスは、フローが実際に実行されたエイリアスです。

実行の詳細ページ

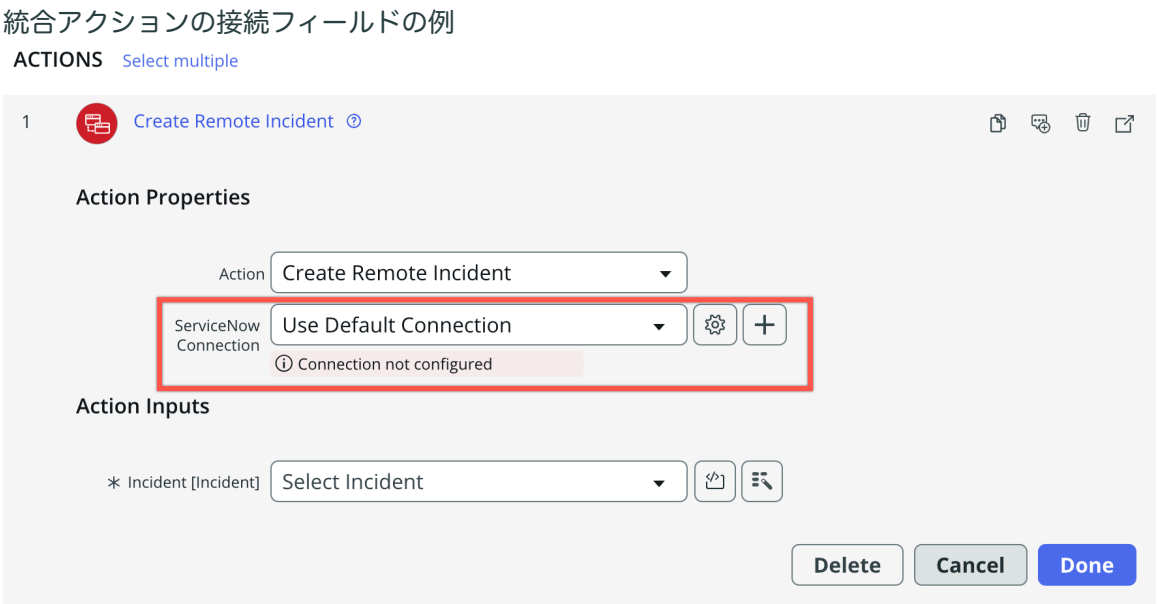
アクションレベルの接続の選択

フロー内の個々の統合アクションの接続を選択できます。この機能は、フローが同じプロバイダーの複数の構成とやり取りする必要がある場合に便利です。たとえば、ファイルストレージプロバイダーのある構成からファイルをダウンロードしてから、同じファイルストレージプロバイダーの別の構成にファイルをアップロードします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

統合アクションには、接続を編集または設定できる [アクションのプロパティ] セクションに、1 つ以上の接続フィールドがあります。次の例では、[リモートインシデントの作成] アクションに **[ServiceNow の接続 (ServiceNow Connection)]** という接続フィールドがあります。デフォルトの接続はまだ設定されていないため、接続フィールドの下に「接続が設定されていません (Connection not configured)」というメッセージが表示されます。このメッセージは、選択したエイリアスの接続が設定されていない場合に表示されます。

統合アクションの接続フィールドの例



歯車アイコン (⚙) を使用して、エイリアスを作成または設定します。

- 構成テンプレート を使用する接続の場合は、歯車アイコンをクリックすると、接続を作成または構成できるウィンドウが開きます。
- 構成テンプレートのない接続の場合は、歯車アイコンをクリックすると、接続および資格情報エイリアスを作成する ためのプラットフォームフォームが開きます。

プラスアイコン (+) を使用して、新しい子接続エイリアスを追加します。鉛筆アイコン (✎、画像には示されていません) を使用すると、選択した接続を編集できます。

動的入力

動的入力を使用するアクションを含むフローとサブフローの接続を選択できます。接続の上書きがフローレベルで指定されている場合、動的アクションはフローレベルの上書きを使用します。たとえば、データ収集アクションを含むフローでは、アクションのデフォルト接続ではなく、フローの上書き接続をデータ収集ステップに使用します。上書きがフローレベルで指定されている場合、動的アクションはアクションレベルの上書きを使用します。

フロー内の複数の上書き

フローに複数の上書きがある場合、それらは次のルールに従って適用されます。

- アクションレベルの上書きは常に適用されます。
- サブフローレベルの上書きは常にサブフローに適用されます。上書きは、独自の上書きが構成されていないサブフロー内のアクションにも適用されます。
- フローレベルの上書きは、独自の上書きが構成されていないサブフローとアクションに適用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローの昇格

フローを本番インスタンスに移動すると、エイリアス情報は一緒に転送されますが、基礎となる接続情報は転送されません。エイリアスは、接続のコンテナのタイプとして機能します。コンテナはフローとともに移動しますが、特定の接続情報は移動しません。エイリアスに関連付けられている接続はすべて未構成になり、新しい環境で使用する前に再構成する必要があります。

既にベースエイリアスが設定されているため、フローを変更することなく接続を設定できます。接続を設定する方法：

- エイリアスに構成テンプレートがある場合は、接続ダッシュボードから接続を構成します。手順については、「接続ダッシュボードでの接続の構成」を参照してください。
- エイリアスに構成テンプレートがない場合は、プラットフォームのユーザーインターフェイスから構成します。テンプレートのない接続の構成の詳細については、「接続を開始」を参照してください。

フロー内の接続の上書き

フロー、サブフロー、またはアクションの接続を上書きします。

始める前に

動的入力を使用するアクションへの影響や複数の上書きの適用方法など、フローの上書きの詳細については、複数接続のサポート を参照してください。

必要なロール：flow_designer または admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー]の順に移動します。
2. 変更する接続を持つフローまたはサブフローを選択します。
3. その他のアクションアイコン ( ) をクリックし、[接続の設定] をクリックします。
4. [接続の設定] ウィンドウで、上書きする接続に関連付けられているエイリアスを特定し、リストから新しい接続を選択します。
5. [更新] をクリックします。

> **注:** このオプションが有効になっている場合は、アクションレベルで接続を上書きすることもできます。アクションの下にある [詳細オプション] をクリックします。リストから新しい接続を選択し、[完了] をクリックします。このオプションは、アクションに上書き可能な接続がある場合にのみ使用できます。

次のタスク

フローをテストします。

個人認証ダッシュボードの使用

個人の認証情報を使用して、サードパーティ統合に接続します。簡素化された統合インターフェイスを介して、個人認証を表示、認証、取り消し、および更新します。

個人認証ダッシュボードでは、個人認証統合を簡素化された方法で管理できます。個人認証を使用すると、複数のユーザーがスーパーユーザー認証情報を共有しなくても統合ハブを使用できます。また、サードパーティシステムの ACL を管理する必要がなくなるため、セキュリティも強化されます。

この機能には、統合ハブ サブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブ の概要」を参照してください。

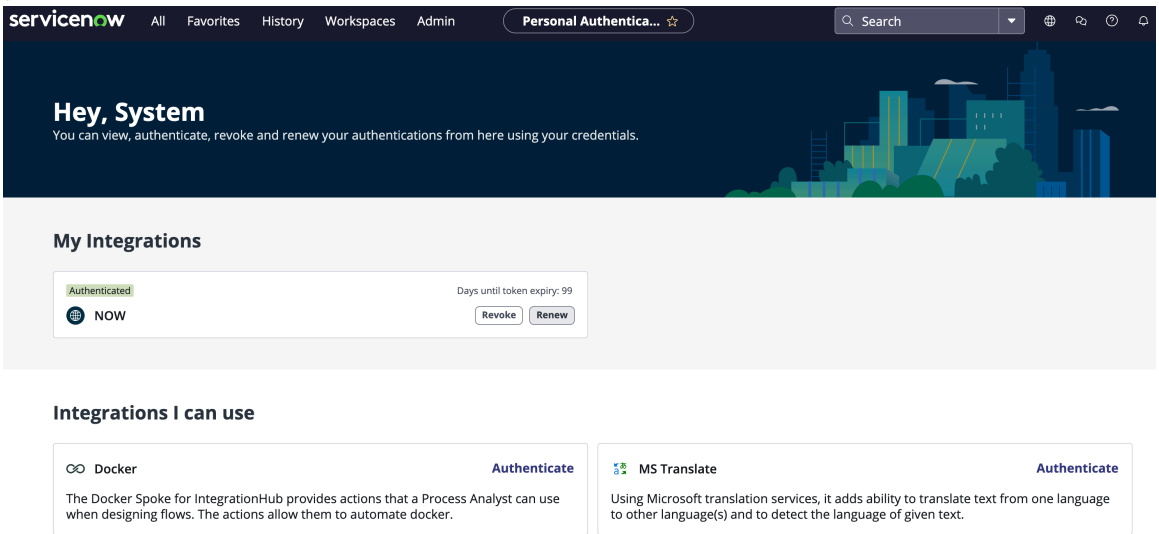
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ダッシュボードの概要

個人認証ダッシュボードには、2 つの主要なセクションがあります。

- ページ上部の [マイ統合 (My Integrations)] セクションには、認証された統合が表示されます。
- ページ下部の [使用可能な統合 (Integrations I can use)] セクションには、使用可能な統合が表示されます。

個人認証ダッシュボード



[マイ統合 (My Integrations)] セクション

認証された統合を表示します。各統合には独自のカードがあります。カードから、認証を取り消しまたは更新できます。

認証を取り消すと、統合に関連付けられた個人認証の認証情報に関連するアクセストークンまたはリフレッシュトークンが取り消されます。取り消すと、既存の認証が無効になります。後で再認証して接続を再確立できます。認証が取り消されると、統合カードはダッシュボードの [使用可能な統合 (Integrations I can use)] セクションに移動します。

認証を更新すると、関連付けられたトークンが更新され、有効期限が更新されます。更新するには、統合カードの [更新] ボタンを選択します。このボタンをクリックすると、認証情報を再認証できるポップアップウィンドウが開きます。ポップアップウィンドウの内容は、統合によって異なります。

- ServiceNow 統合の場合、ポップアップウィンドウには、認証情報のユーザー名とパスワードを入力できるフィールドがあり、**[OAuth** トークンの取得] を選択できます。
- 他のすべての統合では、ポップアップウィンドウにそのアプリケーションの OAuth 認証情報ページが表示されます。

[使用可能な統合 (Integrations I can use)] セクション

使用可能でも認証されていない統合が表示されます。認証するには、統合カードの [認証] ボタンを選択します。認証を行うと、統合を更新したときに開くのと同じポップアップウィンドウが開きます。ServiceNow 統合の場合、ポップアップウィンドウには [ユーザー名]、[パスワード] フィールド、および **[OAuth** トークンの取得] ボタンがあります。他のすべての統合では、ポップアップウィンドウにそのアプリケーションの OAuth 認証情報ページが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

認証情報が認証されると、統合カードはダッシュボード上部の [マイ統合 (My Integrations)] セクションに移動します。

必要なダッシュボードのセットアップ

既に個人認証の認証情報タイプを使用している場合は、Personal Authentication [com.snc.sn_ihub_personal_auth] プラグインをインストールして、ダッシュボードにアップグレードできます。プラグインをインストールした後、[すべて] > [統合ハブ] > [個人認証] > [個人統合] に移動して、ダッシュボードを表示します。

ダッシュボードの統合はすべて、接続および資格情報エイリアス [sys_alias] テーブルから行われます。認証情報に個人統合タイプがあるエイリアスは、次のガイドラインに従ってダッシュボードに表示されます。

- 認証情報に現在有効なトークンがある場合は、ダッシュボードの [マイ統合 (My Integrations)] セクションに一覧表示されます。
- 認証情報に現在有効なトークンがない場合は、ダッシュボードの [使用可能な統合 (Integrations I can use)] セクションに一覧表示されます。

個人認証の認証情報タイプをまだ使用していない場合は、[統合タイプ] が [個人] の OAuth 2.0 認証情報を使用する接続および資格情報エイリアスを作成することで構成できます。詳細および手順については、「接続情報および認証情報エイリアスの作成」を参照してください。

トークン失効 URL

認証を取り消すと、セッションを開始したユーザーのインスタンスに保存されているすべての関連するアクティブなトークンが取り消されます。[トークン失効 **URL]** フィールドにサーバーのトークン失効エンドポイントを指定することで、OAuth サーバーでトークン失効を有効にすることもできます。

OAuth サーバーで認証の取り消しを有効にするには、統合の OAuth プロバイダーのアプリケーションレジストリフォームの [トークン失効 **URL]** フィールドに入力します。このフィールドに入力するには、次の手順を実行します。

1. [すべて] > [システム **OAuth]** > [アプリケーションレジストリ]に移動します。
2. アプリケーションレジストリ [oauth_entity] テーブルから適切な OAuth プロバイダーのフォームを選択します。
3. [トークン失効 **URL]** フィールドに、OAuth サーバーのトークン失効エンドポイントを入力します。

ロール

個人認証ダッシュボードには、sn_personal_auth.personal_auth_user ロールが必要です。

接続ダッシュボードの使用

簡単なインターフェイスで、接続および資格情報エイリアスを表示して構成します。新しい接続を追加して既存の接続を編集し、接続の詳細を表示します。

利点

接続ダッシュボードには、次の利点があります。

- 接続アドミニストレーターは、単一のインターフェイスで複数のデータ連携を管理できます。
- 接続を追加、編集、および構成するための簡素化されたプロセスを提供します。
- エイリアスと関連するすべての子接続に関する詳細を単一の場所に表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ランディング ページ

ダッシュボードのランディングページには、インスタンスで利用可能なすべての接続および資格情報エイリアスが表示されます。名前でエイリアスを検索したり、作成した日付でエイリアスをソートしたり、アルファベット順に昇順または降順でソートしたりすることができます。

各エイリアスはカード形式で表示されます。カードには以下が表示されます。

- アプリケーションのアイコン。
- 親エイリアスの名前とスコープ。
- エイリアスに関連付けられているアプリケーションの簡単な説明。このオプションは、接続がない場合にのみ表示されます。
- 合計接続数。
- エイリアスに関連付けられているすべての接続のリスト。最初の接続は、デフォルトの親接続です。
- エイリアスと子接続に関する特定の情報を表示する [詳細を表示] オプション。
- [詳細セットアップ] オプション。このオプションは、エイリアスに構成テンプレートがない場合にのみ表示されます。
- [接続を追加] オプション。このオプションは、エイリアスに構成テンプレートがある場合にのみ利用できます。

接続ダッシュボードの各ページには、最大 12 のエイリアスが表示されます。ページをめくり、追加のエイリアスを確認します。

詳細ビュー

エイリアスカードの [詳細を表示] オプションをクリックして、エイリアスと子接続の詳細を表示します。詳細ページには 2 つの列があります。最初の列には以下が表示されます。

- アプリケーションのアイコン。
- 親エイリアスの名前とスコープ。
- [接続エイリアスを表示] するオプション。関連する接続および資格情報エイリアスレコードを開きます。

詳細ビューの 2 列目は以下を表示します。

- エイリアスに構成テンプレートがあるかどうかに応じて、[接続を追加] または [詳細セットアップ] オプション。
- エイリアスに関連付けられている接続の数。
- エイリアスに関連付けられている接続のリスト。デフォルトの接続がマークされます。

構成されていない接続には、[構成] オプションがあります。構成されている接続には、[編集] オプションがあります。構成された各接続には、接続名、エンドポイント、認証情報名、および認証情報タイプが表示されます。

エイリアスで OAuth 認証情報が使用されている場合は、接続ごとに OAuth アクセスまたはトークン更新のステータスが表示されます。新しいトークンが必要な接続の場合は、**[OAuth** トークンを取得] をクリックして要求できます。

構成テンプレート

構成テンプレートを使用すると、単一のフォームを使用して複雑な統合を設定できます。たとえば、OAuth データ連携の設定には、OAuth プロバイダーを登録し、トークンを生成し、接続レ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コードおよび認証情報レコードを作成する必要があります。ただし、構成テンプレートを使用して OAuth データ連携を設定する場合は、1 つのフォームに入力するだけで済みます。関連付けられたレコードが作成されます。テンプレートの詳細については、「接続と資格情報の構成テンプレート」を参照してください。

ダッシュボードから直接接続を追加、編集、または構成するには、エイリアスに構成テンプレートが必要です。テンプレートが含まれないエイリアスもあります。テンプレートが最初に導入されたのは Orlando リリースであるため、以前のバージョンにはまだない場合があります。 テンプレートのないエイリアスは、ダッシュボードと詳細ビューの両方に [詳細設定] オプションを表示します。[詳細設定] をクリックすると、エイリアスの接続と資格情報レコードが開き、エイリアスを設定できます。テンプレートのないエイリアスの操作の詳細については、「接続および資格情報エイリアスの作成」を参照してください。

未構成の接続

エイリアスを転送するか本番環境に昇格した場合は、その基礎になる接続情報は転送されません。このような状況では接続は未構成の状態であるため、使用前に再構成する必要があります。 基盤となる接続は、ダッシュボードまたはプラットフォームのユーザーインターフェイスから再確立できます。

- エイリアスにテンプレートがある場合は、ダッシュボードから接続を構成できます。
- テンプレートがない場合は、プラットフォームのユーザーインターフェイスから構成します。テンプレートのない接続の構成の詳細については、「接続を開始」を参照してください。

ロール

接続ダッシュボードにアクセスするには、connection_admin または admin ロールが必要です。

接続ダッシュボードでの接続の追加

接続ダッシュボードを介して接続を追加します。

始める前に

必要なロール：connection_admin または admin

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー]の順に移動し、[接続] タブをクリックします。
2. 接続を追加するエイリアスを見つけ、[接続を追加] を選択します。
   [接続を追加] オプションがない場合、エイリアスには構成テンプレートがありません。ダッシュボードから接続を追加するには、親エイリアスにテンプレートが必要です。テンプレートが含まれないエイリアスもあります。テンプレートが最初に導入されたのは Orlando リリースであるため、以前のバージョンにはまだない場合があります。 ない場合は、プラットフォームのユーザーインターフェイスからエイリアスを設定できます。[詳細セットアップ] オプションを選択して開始します。詳細については、「接続および資格情報エイリアスの作成」を参照してください。テンプレートの詳細については、「接続と資格情報の構成テンプレート」を参照してください。
3. フォームのフィールドに入力します。
   フォームに表示されるフィールドは、親エイリアスの構成テンプレートによって異なります。特定の各テンプレートの詳細については、「接続と資格情報の構成テンプレート」を参照してください。
4. フォームを送信するには、[接続を作成] をクリックします。

タスクの結果

エイリアスカードの [接続] リストに新しい接続が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続ダッシュボードでの接続の構成

接続ダッシュボードを介して接続を構成します。

始める前に
必要なロール：connection_admin または admin

このタスクについて
エイリアスを転送するか本番環境に昇格した場合は、その基礎になる接続情報は転送されません。このような状況では接続は未構成の状態であるため、使用前に再構成する必要があります。

手順

1. [すべて] > [プロセス自動化] > [フローデザイナー] > の順に移動し、[接続] タブをクリックします。
2. 接続を追加するエイリアスを見つけて、[詳細を表示] をクリックします。
3. 詳細ビューで、設定する接続を見つけて [構成] をクリックします。
4. [接続の設定] フォームのフィールドに記入します。
   フォームに表示されるフィールドは、親エイリアスの構成テンプレートによって異なります。特定の各テンプレートの詳細については、「接続と資格情報の構成テンプレート」を参照してください。

   ダッシュボードを介して接続を構成するには、親エイリアスに構成テンプレートが必要です。ない場合は、[構成] をクリックすると、[接続の設定] フォームではなく、エイリアスの接続および資格情報エイリアスレコードが開きます。接続および資格情報エイリアスレコードでの接続の構成の詳細については、「接続および資格情報エイリアスの作成」を参照してください。
5. フォームを送信するには、[構成] をクリックします。

タスクの結果
詳細ビューの [接続] リストに新しい接続が表示されます。

MID サーバーでの mTLS プロトコルの使用

mTLS を使用して、MID サーバーから送信 REST および SOAP 呼び出しを行います。mTLS 認証情報と証明書情報を、インスタンス、構成ファイル、または外部 Vault に保存します。MID サーバーは認証情報と証明書情報を取得し、mTLS プロトコルを使用して送信 REST および SOAP 呼び出しを行います。

トランスポートレイヤーセキュリティプロトコル (mTLS) を使用する相互認証は、サーバーとクライアントが相互に認証する、証明書ベースの安全な認証スキームです。mTLS を使用して、クライアントが証明書または証明書チェーンをサーバーに提示し、サーバーではクライアントがサーバーを認証するときと同じ方法でクライアントを認証します (相互認証)。

相互認証を使用する接続の MID プロトコルプロファイルを定義することにより、MID サーバーで mTLS を使用できます。MID プロトコルプロファイルで、接続に必要な mTLS 認証情報と証明書情報を指定します。MID サーバーは、MID プロトコルプロファイルの情報を使用してキーストアを取得し、プロトコルを HTTP クライアントに登録し、mTLS を使用して送信呼び出しを行います。

> **注:** この機能には、統合ハブ サブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブ の概要」を参照してください。

MID サーバーで mTLS を使用するための MID プロトコルプロファイルの作成

MID プロトコルプロファイルにより、MID サーバーで mTLS プロトコルを使用できます。MID プロトコルプロファイルを使用して、mTLS のパスワードと証明書情報をインスタンス、構成ファイル、または外部 Vault に直接保存できます。MID サーバーはこの情報を使用し、mTLS を使用して送信 REST および SOAP 呼び出しを行います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

- 必要なロール：admin または action_designer。
- MID サーバーを構成して開始します。詳細については、「MID サーバーの構成」を参照してください。

このタスクについて

このタスクは 4 つのステップに分かれています。

1. 接続および資格情報エイリアスを作成します。このタスクでは、基本的な接続および資格情報エイリアスを作成する方法について説明します。詳細については、「接続情報および認証情報エイリアスの作成」を参照してください。
2. 接続を作成します。このタスクでは、基本的な HTTP(S) 接続を作成する方法を示します。詳細については、「HTTP(S) 接続を作成」を参照してください。
3. MID プロトコルプロファイルを作成します。mTLS のキーストアとパスワードは、インスタンス上 (MID プロトコルプロファイル内)、インスタンス外 (MID サーバーの `config.xml` ファイル内)、または外部 Vault に保存できます。ServiceNow は、Vault ストレージ用に CyberArk Password Vault をサポートしています。
   - インスタンスに保存する場合は、キーストアとパスワードも MID サーバー上にある必要があります。
   - config.xml ファイルに保存する場合は、MID プロトコルプロファイルを構成する前に、mTLS プロトコルパラメーターをファイルに追加してください。`config.xml` は、MID サーバー インストールディレクトリの `/agent` ディレクトリにあります。「MID サーバーパラメーター」を参照してください。
   - 外部 Vault に保存する場合は、MID プロトコルプロファイルを作成する前に必ず CyberArk の統合設定を設定してください。
4. REST ステップとの接続をテストします。このステップはオプションです。

手順

1. 接続および資格情報エイリアスを作成します。
   a. [すべて] > [統合ハブ] > [接続および資格情報エイリアス]に移動し、[新規] を選択します。
   b. [接続および資格情報エイリアス] フォームで、[名前] フィールドに名前を入力し、[接続タイプ] が **[HTTP]** に設定されていることを確認します。
   c. [保存] をクリックします。
2. 接続を作成します。
   a. [接続および資格情報エイリアス] フォームの [接続] タブで、[新規] をクリックします。
   b. [HTTP(S) 接続] フォームで、[名前] を入力します。
   c. **[URL** ビルダー]、[相互認証]、**[MID** サーバーを使用 **(Use MID server)]** を選択します。
   d. **[MID** プロトコルプロファイル] フィールドで、虫眼鏡アイコンを使用して [MID プロトコルプロファイル] フォームを開き、[新規] を選択します。
3. MID プロトコルプロファイルを作成します。
   a. フォームのフィールドに入力します。

MID プロトコルプロファイルフォーム

フィールド	説明
プロトコル	プロトコル プロファイルの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
キーストアパス	MID ホスト上のキーストアへのパス。パスは、絶対パスまたは相対パスにすることができます。 インスタンスに mTLS 認証情報を保存している場合は、このフィールドにキーストアパスを入力します。キーストアも MID サーバー上にある必要があります。 MID サーバーの `config.xml` ファイルに mTLS 認証情報を保存する場合は、このフィールドを空のままにします。mTLS プロトコルパラメーターが `config.xml` ファイルに追加されたことを確認します。
適用先	この認証情報をすべての MID サーバーに適用するか、選択した MID サーバーのみに適用するかを指定します。次のいずれかを選択します。 ▪ すべての **MID** サーバー ▪ 特定の **MID** サーバー
MID サーバー	この認証情報を適用する MID サーバー。 このフィールドは、[適用先] フィールドで [特定の **MID** サーバー] を選択した場合のみ使用できます。
デフォルトポート	プロトコルのデフォルトポート。デフォルト値：443。
External credential store (外部の資格情報ストア)	外部認証情報ストレージシステムを使用するオプション。 このオプションは、CyberArk を使用して認証情報を保存する場合にのみ選択します。 このオプションを表示するには、フォームレイアウトの構成 が必要な場合があります。
パスワード	mTLS プロトコルのパスワード。暗号化された形式でデータベースに保存されます。 インスタンスに mTLS 認証情報を保存している場合は、このフィールドにパスワードを入力します。パスワードも MID サーバー上にある必要があります。 MID サーバーの `config.xml` ファイルに mTLS 認証情報を保存する場合は、このフィールドを空のままにします。mTLS プロトコルパラメーターが `config.xml` ファイルに追加されたことを確認します。 CyberArk に mTLS 認証情報を保存している場合は、認証情報の CyberArk ID を入力します。

b. [送信] を選択します。

c. [HTTP(S) 接続] フォームで、接続のターゲットホストを [ホスト] フィールドに入力し、接続フォームを保存します。
[HTTP(S) 接続] フォームの [接続 **URL**] フィールドに接続 URL が入力されます。

4. オプション: REST ステップで接続をテストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [すべて] > [プロセス自動化] > [ワークフロースタジオ] に移動します。

b. ワークフロースタジオのランディングページで、[新規] > [アクション] を選択します。

c. [アクション名] フィールドでアクションに名前を付け、[アクションを構築] を選択します。

d. [アクションアウトライン] セクションで、**[REST]** を選択します。

e. REST ステップにおいて、[接続] フィールドで [接続エイリアスを使用 **(Use Connection Alias)]** を選択し、[接続エイリアス] フィールドで、作成した接続エイリアスを選択します。
[ベース **URL]** フィールドには、ステップ 2 で作成した接続 URL を入力する必要があります。

f. REST ステップを保存し、[テスト] を選択します。

g. ポップアップウィンドウで、[テストを実行 **(Run Test)]** を選択します。
テストの実行後、[実行の詳細] ページが表示されます。[アクション] セクションで、ステップセクションを展開します。[ステップ出力データ] セクションまで下にスクロールして、[ステータスコード] を表示します。これは **200** のはずで、mTLS を使用して MID を正常に呼び出すことができたことを示します。

統合ハブ の参照

参照トピックには、統合ハブ とドメインセパレーションに関する追加情報が記載されています。

ドメインセパレーションと 統合ハブ

統合ハブ ではドメインセパレーションがサポートされています。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：標準*

サポートレベルは標準ですが、いくつかの例外または特別な条件があります。

- ベーシックレベルサポートのすべての側面を含みます。
- ビジネスロジック：サービスプロバイダー (SP) によって顧客ごとにプロセスを作成または変更できます。ユースケースには、単一のインスタンスでの複数のサービスプロバイダー顧客によるアプリケーションの正しい使用が反映されています。
- インスタンスオーナーは、MVP (minimum viable product) ビジネスロジックとデータパラメーターを設定できる必要があります。この構成は、特定のアプリケーションで前提とされているように、テナントごとに行います。

サンプルユースケース：アドミニストレーターは、レコードを他のテナントに対してはクローズしないが、1 つのテナントに対してクローズする場合、コメントを必須にすることができる必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

概要

一般に、統合ハブは フローデザイナー のドメインセパレーション機能を継承します。各スポーク (アプリケーション) は独自のドメインセパレーション関係を持つことができるため、統合ハブに関連付ける特定のサポートレベルはありません。詳細については、「ドメインセパレーションとフローデザイナー」を参照してください。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

ドメインセパレーションと **Apache Kafka** 向けストリームコネクト

Apache Kafka 向けストリームコネクト ではドメインセパレーションがサポートされています。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：標準

- ベーシックレベルサポートのすべての側面を含みます。
- アプリケーションプロパティは、必要に応じてドメイン対応です。
- ビジネスロジック：サービスプロバイダー (SP) によって顧客ごとにプロセスを作成または変更できます。ユースケースには、単一のインスタンスでの複数のサービスプロバイダー顧客によるアプリケーションの正しい使用が反映されています。
- インスタンスのオーナーは、特定のアプリケーションに期待される通りに、テナントごとに MVP ビジネスロジックとデータパラメーターを設定できる必要があります。

サンプルユースケース：アドミンは、レコードを他のテナントに対してはクローズしないが、1 つのテナントに対してクローズする場合、コメントを必須にすることができる必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

メッセージレプリケーション

次のストリームコネクトメッセージレプリケーションテーブルのレコードは、ドメインセパレーションされています。

- メッセージレプリケーション [sys_sc_message_replication]
- チャネルレプリケーション [sys_sc_channel_replication]
- メッセージレプリケーション統計情報 [sys_sc_channel_replication_metric]
- Kafka トピックレプリケーション [sys_kafka_topic_replication]

メッセージレプリケーションレコードのドメインは、レコードの **[sys_domain]** フィールドで指定されます。

チャネルレプリケーションおよびレプリケーションメトリクスレコードの場合、ドメインは *domain_master* の属性によって決定されます。*domain_master* の属性は、参照フィールドのドメインを使用して現在のレコードのドメインを決定します。チャネルレプリケーションレコードは、参照されたメッセージレプリケーションレコードからドメインを取得します。レプリケーションメトリクスレコードは、参照されたチャネルレプリケーションレコードからドメインを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Kafka トピックレプリケーションレコードは、関連するチャネルレプリケーションレコードと同じドメインを持ちます。その理由は、チャネルレプリケーションテーブルが Kafka トピックレプリケーションテーブルの親だからです。

トピックの名前空間

トピックの名前空間を使用して、どのドメインがドメインセパレーションされたインスタンスの Kafka トピックにアクセスできるかを設定できます。ServiceNow では、Kafka トピックが名前空間にリンクされます。名前空間は ServiceNow ドメインにリンクできます。名前空間が特定のドメインに割り当てられると、その名前空間で作成されたすべてのトピックが名前空間のドメインにも割り当てられます。ユーザーは、ドメインの可視化とアクセス制御リスト (ACL) に基づいて、アクセス可能なトピックのみを表示して操作できます。

詳細については、「Hermes での名前空間とトピックの管理」を参照してください。

プロデューサーとコンシューマー

ストリームコネクトのプロデューサーとコンシューマーもドメインセパレーションされています。プロデューサーの場合、ドメインに表示されるトピックに対してのみデータを生成できます。

コンシューマーの場合、ランタイムデータを保持するために使用されるすべてのテーブルがドメインセパレーションされています。こうしたテーブルには、以下が含まれています。

- Kafka ストリーム [sys_kafka_stream]
- Kafka サブスクリプション [sys_kafka_subscription]
- Kafka サブスクリプションパーティショングループ [sys_kafka_partition_group]
- Kafka コンシューマー統計情報 [sys_kafka_consumer_statistics]
- Kafka 未処理メッセージ [sys_kafka_unprocessed_messages]

ドメインユーザーは、ドメインに表示されるトピックを使用してドメイン固有の Kafka ストリームを作成できます。Kafka ストリームをアクティブ化すると、サブスクリプションとパーティショングループが同じドメイン内に作成されます。実行時に、すべてのデータが正しいドメインにインポートされるように、パーティショングループのドメインがコンシューマースレッドで設定されます。プロデューサー、コンシューマー、および Kafka ストリームの詳細については、「Apache Kafka の Apache Kafka 向けストリームコネクトの使用」を参照してください。

スキーマ管理

スキーマのテーブルとスキーマレジストリはドメインセパレーションされています。具体的な内容は次のとおりです。

- ストリームコネクトスキーマ [stream_connect_schema]
- スタンドアロンストリームコネクトスキーマ [standalone_stream_connect_schema]
- Confluent ストリームコネクトスキーマ [confluent_stream_connect_schema]
- ストリームコネクトスキーマレジストリ [stream_connect_schema_registry]
- Confluent ストリームコネクトスキーマ [confluent_stream_connect_schema]
- スタンドアロンストリームコネクトスキーマ [standalone_stream_connect_schema]

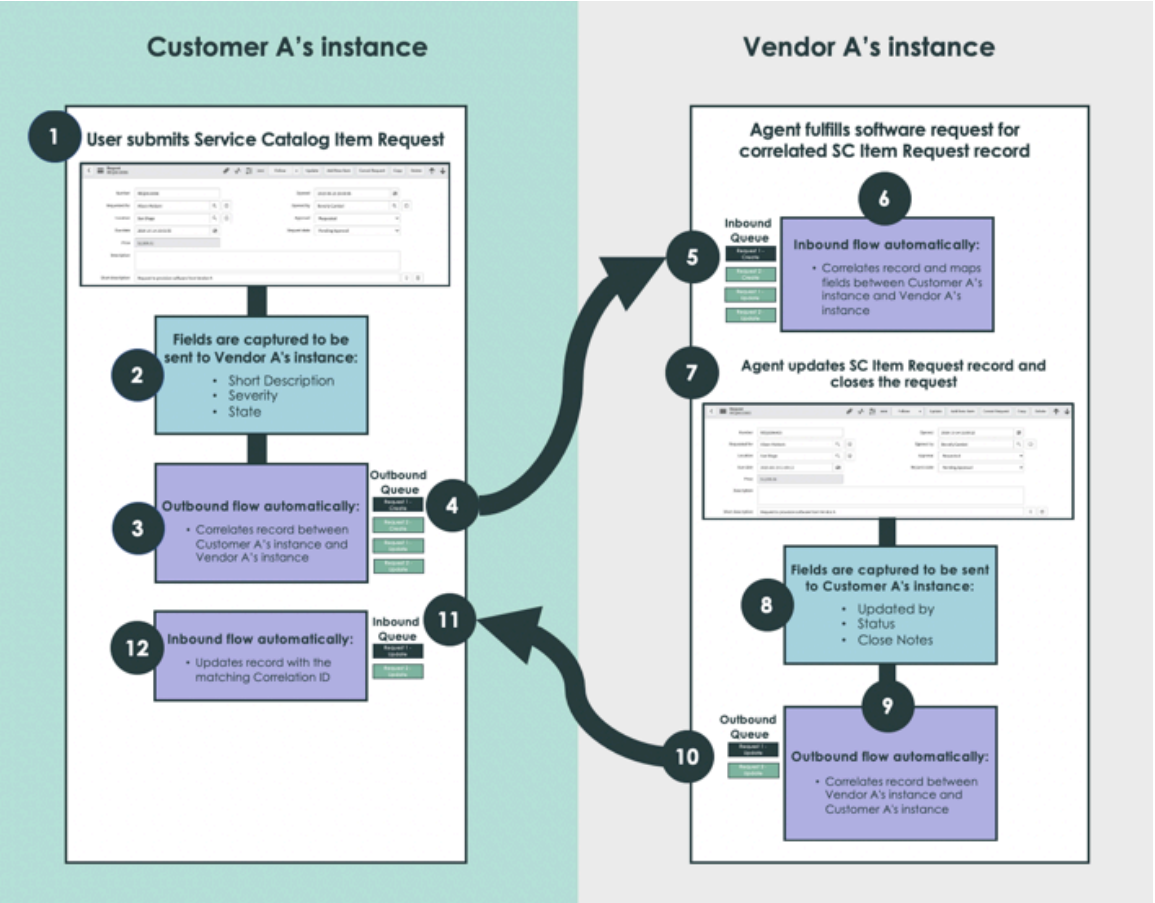
統合ハブ リモートプロセス同期

統合ハブリモートプロセス同期を使用すると、複数の ServiceNow インスタンス間で一方向または双方向の統合を設定して、プロセスフローの同期を維持できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 統合ハブリモートプロセス同期には、統合ハブまたはオートメーションエンジンサブスクリプションが必要です。詳細については「法務スケジュール - 統合ハブの概要」を参照してください。

統合ハブ リモートプロセス同期データ連携を使用すると、ビジネスプロセスの自動ワークフローを複数の ServiceNow インスタンスにスパンすることができます。サービスプロバイダーは、 フローデザイナー サブフローを使用してすべてのお客様のプロセスワークフローを自動化し、複数のカスタマーインスタンスを自動的に同期させます。



利点

統合ハブ プロセス同期には、次のメリットがあります。

- 複数のインスタンスにまたがるエンタープライズ間自動プロセスを自動化し、さまざまなプロセスのステークホルダーを最新の状態に保つ
- 複数のインスタンス間でレコード、添付ファイル、およびジャーナルフィールドデータを同期する方法および相互に関連付ける方法を管理する
- スタンドアロンの相関エンジンとキューイングシステムを使用して、リモートインスタンスでのデータ更新の注文が確実に配送されるようにする
- フローデザイナー のビルトイン実行エンジンを使用して、自動化されたマルチインスタンスプロセスのエラーと機能停止を管理し、トラブルシューティングを行う。

ロール

デフォルトでは、リモートプロセス同期には、ユーザーに割り当てることができる次のロールが用意されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール	このロールが割り当てられたユーザーは、次のことができます。
ih_process_sync	プロセス同期定義と関連レコードを作成、更新、または削除します。
ih_process_sync_api	リモートプロセス同期 API にのみアクセスします。
ih_process_sync_run_as	プロセス同期定義に関連付けられた送信フローと受信フローを実行します。このユーザーは、フローでレコードが作成または更新されるテーブルにアクセスできる必要があります。

ドメインセパレーション

リモートプロセス同期を使用して、複数のドメインセパレーションインスタンス間でプロセスフローを同期できます。ドメインセパレーション環境では、次の条件が適用されます。

1. データ連携をビルドするとき
   - 構成テーブルには sys_domain があり、データはドメインセパレーションされています。
   - 構成テーブルは、親設定レコードと同じドメイン内にあるように意図されています。
   - サブフローは、現在のドメインまたは任意の親ドメインから選択できます。
   - sys_overrides を持つテーブルはないため、親ドメインのビジネスルールや UI アクションを上書きすることはできません。
2. データ連携を実行するとき
   - 構成ドメインおよび関連する子ドメインからのレコードのみがキャプチャされます。
   - キューテーブルには sys_domain があります。送信レコードは、キャプチャされたソースレコードと同じドメインに保存されます。受信レコードは、リモートシステムレコードの受信 API ユーザーと同じドメインに保存されます。
   - 送信サブフローは、キューに格納されたレコードと同じドメインで実行されます。
   - 受信サブフローは、リモートシステムレコードの [受信フローを次のように実行] フィールドで指定されたユーザーと同じドメインで実行されます。

はじめに

統合フレームワークとしてのリモートプロセス同期への移行を決定する前に、このフレームワークが他のマルチインスタンス Now Platform® 統合と比較検討してください。インスタンスデータレプリケーション (IDR) やリモートインスタンススポークなどのソリューションは簡単なマルチインスタンス統合をサポートしていますが、リモートプロセス同期はより複雑なマルチインスタンス統合のユースケースをサポートし、高レベルのビジネスプロセスによるインスタンスの統合に焦点を当てています。

注: リモートプロセス同期は、インスタンスを統合するために eBonding スポークに代わるものです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インスタンスデータレプリケーション **(IDR)**、リモートインスタンススポーク、および リモートプロセス同期の比較

Instance Data Replication	Remote Instance spoke	Remote Process Sync

• Is optimized for **replicating an entire table** from one instance to another instance
• Supports **syncing of data in bulk** to build foundation for your integration
• Business rules can trigger **post-replication workflows**, such as send notifications or updating records
• Data that is in transit during a crash is **recoverable**
• Supports **data transformations and mapping**
	• Supports **ad-hoc integrations** in Flow Designer
	• Export, import, and manage data **in a single environment**
	• Queries data from remote instances **on-demand**
	• Interacts with **standard Platform APIs**, such as:
	  • Import Set
	  • Table
	  • Attachment
	• **Requires full privileges** when local and remote instances connect
		• Is **process-oriented**
		• Supports data transformations and mapping **via Flow Designer**
		• Focuses on executing **cross-instance workflows**
		• Has a standalone correlation framework that supports **multi-record and multi-instance correlation**
		• Supports **domain separation**
		• **Minimizes integration privileges** for secure data exchange

リモートプロセス同期データ連携のビルドと管理を開始する準備ができたら、「リモートプロセス同期の開始」の基本を学びます。

リモートプロセス同期の開始

2 つ以上の ServiceNow® インスタンス間で自動化されたプロセスをリンクしてまとめるために、リモートプロセス同期データ連携を設定する基本を学びます。

注: 統合ハブ リモートプロセス同期には、統合ハブ Enterprise パッケージへのサブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

リモートプロセス同期データ連携を開始する前に

統合フレームワークとしてのリモートプロセス同期への移行を決定する前に、このフレームワークが他のマルチインスタンス Now Platform® 統合と比較検討してください。インスタンスデータレプリケーション (IDR) やリモートインスタンススポークなどのソリューションは簡単なマルチインスタンス統合をサポートしていますが、リモートプロセス同期はより複雑なマルチインスタンス統合のユースケースをサポートし、高レベルのビジネスプロセスによるインスタンスの統合に焦点を当てています。

注: リモートプロセス同期は、インスタンスを統合するために eBonding スポークに代わるものです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インスタンスデータレプリケーション **(IDR)**、リモートインスタンススポーク、および リモートプロセス同期の比較

Instance Data Replication	Remote Instance spoke	Remote Process Sync

• Is optimized for **replicating an entire table** from one instance to another instance
• Supports **syncing of data in bulk** to build foundation for your integration
• Business rules can trigger **post-replication workflows**, such as send notifications or updating records
• Data that is in transit during a crash is **recoverable**
• Supports **data transformations and mapping**
	• Supports **ad-hoc integrations** in Flow Designer
	• Export, import, and manage data **in a single environment**
	• Queries data from remote instances **on-demand**
	• Interacts with **standard Platform APIs**, such as:
	  • Import Set
	  • Table
	  • Attachment
	• **Requires full privileges** when local and remote instances connect
		• Is **process-oriented**
		• Supports data transformations and mapping **via Flow Designer**
		• Focuses on executing **cross-instance workflows**
		• Has a standalone correlation framework that supports **multi-record and multi-instance correlation**
		• Supports **domain separation**
		• **Minimizes integration privileges** for secure data exchange

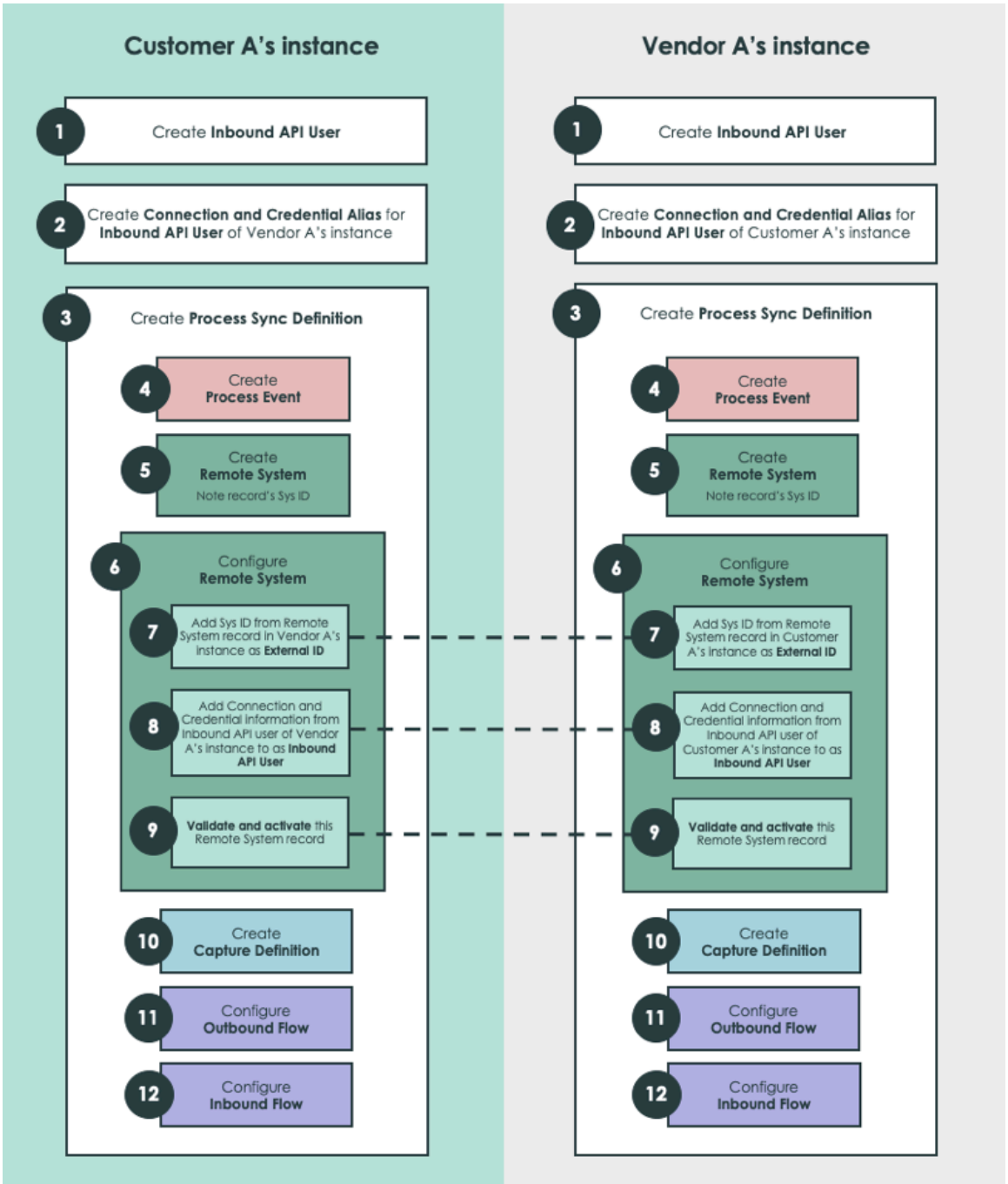
リモートプロセス同期をマルチインスタンスデータ連携フレームワークとして使用することを選択したら、次に以下の違いについて学習します。

1. データ連携のビルドと
2. データ連携の管理

データ連携のビルドでは、プロセス同期定義とその関連レコードを作成して構成する必要があります。リモートプロセス同期データ連携のビルドを開始する方法の詳細については、リモートプロセス同期データ連携のビルド を行う方法の例の手順に従うか、プロセス同期定義の詳細を確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

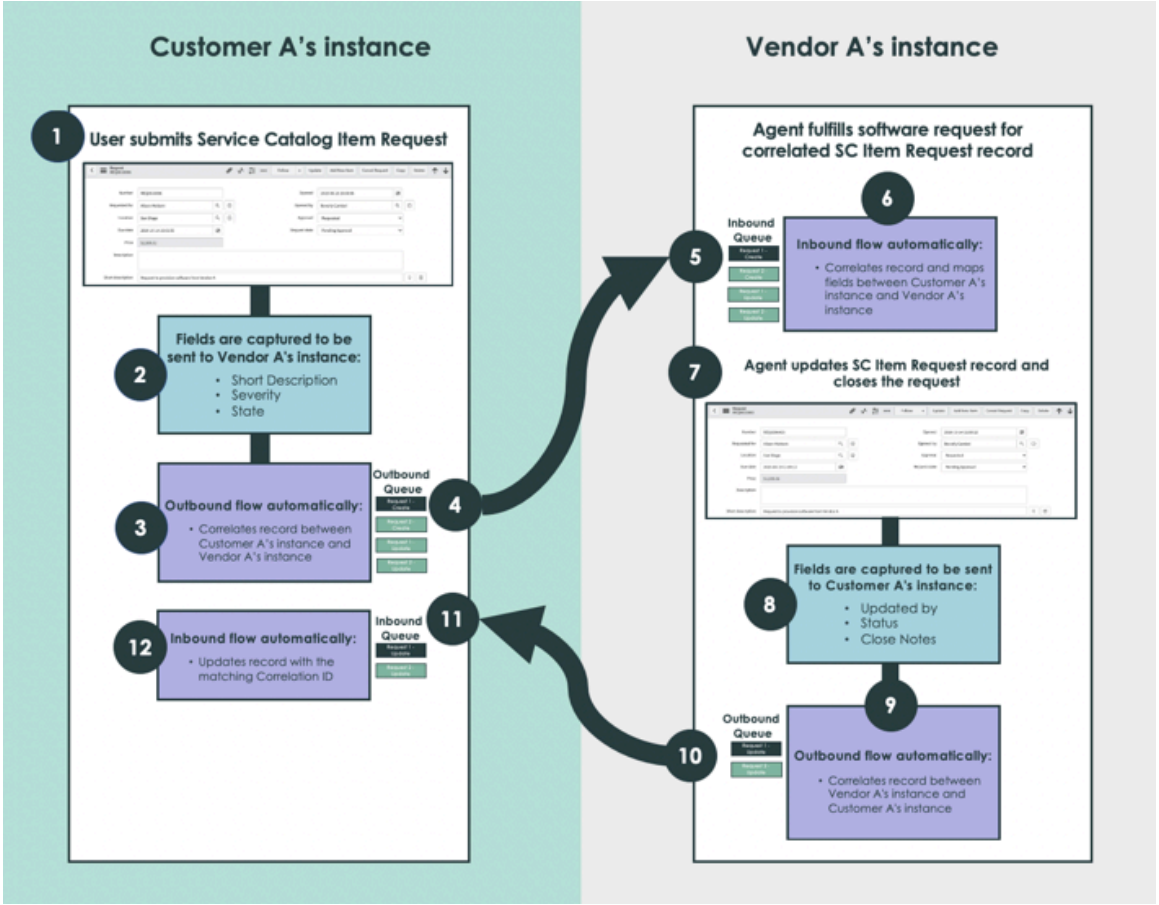
リモートプロセス同期データ連携のビルド



データ連携の管理では、送信キューと受信キューを監視し、トリガーされたプロセス同期定義に関連するエラーをチェックする必要があります。リモートプロセス同期データ連携でエラーを監視およびチェックする方法の詳細については、「送信キューと受信キュー」および「データ連携の監視とトラブルシューティング」を参照してください。また、データ連携のために自動的に実行される送信フローと受信フローを定期的に評価し、ワークフロースタジオ でこれらのフローに変更を加えるかどうかを決定することもできます。

注: インスタンス上でリモートプロセス同期データ連携をビルドおよび管理するためには、リモートインスタンス (単数または複数) のユーザーと効果的にコラボレーションする必要もあります。マルチインスタンスデータ連携が処理する自動ビジネスプロセスを計画、管理、および継続的に改善するために、データ連携に関与するステークホルダーと定期的に会うようにしてください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



プロセス同期定義

プロセス同期定義には、リモートプロセス同期データ連携のすべての構成が含まれています。まず、データ連携用の新しいプロセス同期定義レコードを作成します。[統合ハブ] > [リモートプロセス同期] > [プロセス同期定義]に移動し、[新規] をクリックします。[プロセス同期定義] フォームで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	インスタンスが処理するビジネスプロセスの部分を正確に表す名前を入力します。たとえば、インスタンスのユーザーがお客様のサービスカタログ要求を実行している場合は、「サービスカタログ要求の実行」などの名前を入力します。
説明	必要に応じて、このプロセス同期定義が処理するビジネスプロセスの部分について説明します。
アプリケーション	現在のアプリケーションスコープに自動的に設定されます。
ドメイン	プロセスが特定のドメインに関連している場合は、グローバル以外のドメインを選択します。詳細については、「サービスプロバイダーのドメインセパレーション」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[送信] をクリックすると、新しく作成したプロセス同期定義レコードがリストに表示されます。次に、作成したプロセス同期定義レコードを選択します。プロセス同期定義レコードに次の関連リストが表示されます。

- キャプチャ定義
- プロセスイベント
- リモートシステム
- 送信フロー
- 受信フロー

これらの各関連アイテムの構成を設定する方法については、次のセクションを参照してください。

キャプチャ定義

キャプチャ定義は、インスタンスがリモートインスタンスにデータを送信するタイミングと、インスタンスが送信するデータを指定します。キャプチャ定義には、プロセス同期定義のトリガーとキャプチャされたフィールドの構成が含まれています。トリガーは、レコードの作成、更新、削除など、インスタンスがリモートインスタンスにデータを送信するレコード操作を指定します。キャプチャ定義がトリガーされると、キャプチャされたフィールドを含むソースレコードからオブジェクトが作成されます。次に、送信フローが実行を開始し、ソースレコードから取得したフィールドをリモートシステム上の関連レコードのフィールドに関連付けます。

キャプチャ定義レコードには、次のフィールドがあります。

フィールド	説明
プロセスイベント	[キャプチャ定義] フォームで、リストから参照アイコン( )を使用して、このキャプチャ定義に関連付けるプロセスイベントレコードを選択します。プロセスイベントがまだ存在しない場合は、プロセスイベントの名前を入力するとプロセスイベントレコードが自動的に作成され、そのレコードがキャプチャ定義に関連付けられます。詳細については、「プロセスイベント」を参照してください。
状況	このフォームの [トリガー] セクションで設定した条件が満たされたときに親プロセス同期定義がトリガーされるようにするには、[アクティブ] を選択してこのキャプチャ定義をアクティブにします。
順番	他のキャプチャ定義と比較してキャプチャ定義をトリガーする順序の値を入力します。低い順序の値は高い順序の値よりも優先されます。
アプリケーション	現在のアプリケーションスコープに自動的に設定されます。
ドメイン	プロセスが特定のドメインに関連している場合は、グローバル以外のドメインを選択します。詳細については、「サービスプロバイダーのドメインセパレーション」を参照してください。

[トリガー] セクションで、プロセス同期定義をトリガーするレコードを持つ許可されたソーステーブルを選択します。また、フィールド条件が満たされると、プロセス同期定義をトリガーするフィー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ルド条件を追加することもできます。キャプチャ定義で指定されたトリガーの条件が満たされると、プロセス同期定義に関連付けられているすべての送信フローが実行を開始します。詳細については、「送信フローと受信フロー」を参照してください。

フィールド	説明
ソーステーブル名 (Source Table Name)	レコードが作成、更新、および削除されるたびに、プロセス同期定義をトリガーするレコードを持つ許可されたテーブルを選択します。
フィルター	条件ビルダーを使用して、条件が満たされるとプロセス同期定義をトリガーする条件を追加します。たとえば、 [ステータス] > [は] > [対応中] を選択すると、選択したテーブルの [ステータス] のレコードが [対応中] に更新されるたびにプロセス同期定義がトリガーされます。

最後に、[キャプチャ] セクションで、送信フローのペイロードに含める [選択済み (Selected)] リストにフィールドを追加します。

フィールド	説明
フィールドを含める	プロセス同期定義がトリガーされるたびにリモートインスタンスのフィールドと同期するフィールドを [選択済み] リストに追加します。 アイテムの追加アイコン ( ) を使用して、[利用可能] リストから [選択済み] リストにフィールドを追加します。 注: • データ連携が実行されると、リモートインスタンスに送信される送信ペイロードには、更新されたかどうかにかかわらず、キャプチャされたフィールドが常に含まれます。 • これらのキャプチャされたフィールドをリモートインスタンスのフィールドにマップするには、同じプロセスイベントに関連付けられているリモートインスタンスの受信フローでマッピングを構成します。詳細については、「送信フローおよび受信フロー」を参照してください。
添付ファイルを含める	選択すると、ローカルインスタンスのトリガーレコードに関連付けられている添付ファイルが、リモートインスタンスの相関レコードの添付ファイルと同期されます。詳細については、「」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: RPS は、インタラクティブと非インタラクティブの両方の変更をキャプチャします。*glide.hub.process.sync.capture.non_interactive.changes* プロパティを **false** に設定することで、スケジュール済みジョブを介して行われた変更など、非インタラクティブ変更を無視するように RPS を構成できます。詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「How to configure Remote Process Synchronization (RPS) framework to ignore non-interactive changes to records (レコードへの非対話型の変更を無視するようにリモートプロセス同期 (RPS) フレームワークを構成する方法)」[KB1565025] を参照してください。

プロセスイベント

プロセスイベントは、ビジネスプロセスのどの部分が、ローカルインスタンスで始まり、リモートインスタンスで終わるかを指定します。ローカルインスタンスとリモートインスタンスのプロセスイベントレコードは、同じ名前にする必要があります。プロセスイベントは、同じビジネスプロセスの一部を共有できる、これらのインスタンス間のリンクを意味するからです。プロセスイベントレコードには、次のフィールドがあります。

フィールド	説明
名前	ビジネスプロセスのどの部分が、ローカルインスタンスで始まり、リモートインスタンスで終わるかを説明する名前を入力します。たとえば、インスタンス内のユーザーがリモートインスタンスでプロビジョニングされるソフトウェアを要求する場合、プロセスイベントに`ユーザー要求ソフトウェア`という名前を付けることができます。 **注:** リモートインスタンス (単数または複数) のアドミンも、ここで使用するのと同じ名前でプロセスイベントを作成する必要があります。これらのプロセスイベントを別々のインスタンスで作成すると、複数のインスタンス間でデータをデータ連携できる論理リンクが作成されます。
アプリケーション	現在のアプリケーションスコープに自動的に設定されます。
ドメイン	プロセスが特定のドメインに関連している場合は、グローバル以外のドメインを選択します。詳細については、「サービスプロバイダーのドメインセパレーション」を参照してください。

リモートシステム

リモートシステムには、別の ServiceNow インスタンスに関連する送信接続と受信接続の構成が含まれています。リモートシステムレコードには、次のフィールドがあります。

フィールド	説明
名前	リモートインスタンスを説明する名前を入力します。たとえば、インスタンスがお客様の 1 人であるお客様 A によって管理されている場合

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	は、[名前] フィールドに「お客様 A のインスタンス」と入力します。
説明	必要に応じて、ビジネスプロセスにおけるリモートインスタンスの全般的な目的を説明する詳細を入力します。
外部 ID (External ID)	インスタンスと同じプロセスイベントを共有するリモートシステムレコードのシステム ID を入力します。レコードのシステム ID を取得するには、レコードのフォームビューのコンテキストメニュー ( ) から **[sys_id のコピー]** を選択します。たとえば、リモートプロセス同期のデータ連携がインスタンス A とインスタンス B の 2 つのインスタンスにまたがる場合、インスタンス A のリモートシステムレコードのシステム ID をインスタンス B の外部 ID として使用します。その逆も同様です。このようにシステム ID と外部 ID を接続すると、自動送信フローと受信フローの実行時に複数のインスタンスが接続先のインスタンスを知ることができます。
アプリケーション	現在のアプリケーションスコープ に自動的に設定されます。
ドメイン	プロセスが特定のドメインに関連している場合は、グローバル以外のドメインを選択します。詳細については、「サービスプロバイダーのドメインセパレーション 」を参照してください。
エラーサブフロー	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リモートインスタンスへの接続が失敗したときに実行するサブフローを検索して選択します。選択したサブフローは、プロセス同期定義がトリガーされた後、ローカルインスタンスがリモートインスタンスに接続できない場合に実行されます。インスタンスが接続に失敗したリモートシステムを表示するには、 [統合ハブ] > [リモートプロセス同期] > [リモートシステム - エラーあり]に移動します。
接続エイリアス	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リモートインスタンスの認証に使用する接続および資格情報エイリアスを検索して選択します。この目的のために接続および資格情報エイリアスレコードをまだ設定していない場合は、[タイプ] フィールドで [接続と資格情報] を使用して新しいレコードを作成します。詳細については、「接続および資格情報エイリアスの作成 」を参照してください。
送信ステータス	デフォルトでは [無効] に設定されます。このフィールドの値を [アクティブ] に変更するには、レコードの作成が完了した後で、このリモートシステムレコードのフォームビューで [リモートシステムを検証して有効化] 関連リンクを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
受信 API ユーザー	リモートインスタンスに接続できるユーザー。このユーザーは、リモートインスタンスの ih_process_sync_api ロールを持つユーザーの認証情報と一致する認証情報を持っている必要があります。
受信フローを次のように実行	リストから参照アイコン ( ) を選択し、関連付けられたプロセスイベントの受信フローを実行するユーザーを検索して選択します。 そのフローをシステムユーザーとして実行するか、セッションを開始したユーザーとして実行するかを指定するオプションです。フローをトリガーしたユーザーから更新を実行する必要がある場合は、セッションオプションを開始したユーザーを選択します。たとえば、現在のユーザーからのインシデントレコードに関するコメントや、承認者から送信された承認メールが必要な場合に、このオプションを使用します。フローのオプションとして実行を設定しても、子サブフローには適用されません。
受信ステータス	デフォルトでは [無効] に設定されます。このフィールドの値を [アクティブ] に変更するには、レコードの作成が完了した後で、このリモートシステムレコードのフォームビューで [リモートシステムを検証して有効化] 関連リンクを選択します。

注: 適切なフィールドが入力されたリモートシステムレコードを作成したら、[リモートシステムを検証して有効化] 関連リンクをクリックする必要があります。このリンクをクリックすると、リモートインスタンスに正常に接続できることが確認され、送信接続と受信接続が有効になります。

プロセスイベントレコードとリモートシステムレコードを作成した後、フローデザイナー サブフローをこれらのレコードに関連付けて、プロセス同期定義がトリガーされるたびに自動アクションが実行されるようにすることができます。

送信フローおよび受信フロー

送信フローは、インスタンスが次の目的で使用する フローデザイナー サブフローを指定します。

1. リモートインスタンスに送信されるキャプチャ定義でキャプチャされたフィールドとしてローカルデータを処理します
2. このデータをリモートインスタンスのデータと関連付けます
3. このデータをリモートインスタンスに送信します

送信フローレコードには、次のフィールドがあります。

フィールド	説明
プロセスイベント	リストから参照アイコン ( ) を選択し、この送信フローに関連付けるプロセスイベントレコードを検索して選択します。選択するプロセスイベントは、プロセス同期定義がトリガーされた

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ときに送信フローが実行する自動アクションに論理的に関連している必要があります。たとえば、送信フローがローカルインスタンスのユーザーによって送信されたサービスカタログアイテム要求レコードのフィールドをリモートインスタンスの関連フィールドにマッピングする場合は、サービスカタログアイテム要求を行うユーザーに関連するプロセスイベントを選択します。
送信サブフロー	リストから参照アイコン ( ) を選択し、プロセス同期定義がトリガーするときに実行する フローデザイナー サブフローを検索して選択します。インスタンスには、送信フローレコードのテンプレートとして使用できる、リモートプロセス同期送信フローテンプレート - 基本サブフローが用意されています。ただし、ビジネスプロセスのニーズを満たすように、リモートプロセス同期送信フローテンプレート-基本サブフローをカスタマイズできます。このサブフローは、リモートプロセス同期の送信アクションを使用してカスタマイズできます。詳細については、「リモートプロセス同期データ連携のビルド」を参照してください。
リモートシステム	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リモートインスタンスでの認証が必要な自動アクションを送信フローが実行するときに接続するリモートシステムレコードを検索して選択します。選択するリモートシステムレコードは、リモートプロセス同期データ連携の受信部分を処理するリモートインスタンスである必要があります。
アプリケーション	現在のアプリケーションスコープ に自動的に設定されます。
ドメイン	プロセスが特定のドメインに関連している場合は、グローバル以外のドメインを選択します。詳細については、「サービスプロバイダーのドメインセパレーション 」を参照してください。

送信フローは、インスタンスが次の目的で使用する フローデザイナー サブフローを指定します。

1. ローカルインスタンスのデータとリモートインスタンスから送信されたデータと関連付ける
2. リモートインスタンスから送信されたフィールドをローカルインスタンスのフィールドにマップする
3. リモートインスタンスからローカルインスタンスに送信されたデータを処理する

受信フローレコードには、次のフィールドがあります。

フィールド	説明
プロセスイベント	リストから参照アップアイコン ( ) を選択し、この受信フローに関連付けるプロセスイ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ベントレコードを検索して選択します。選択するプロセスイベントは、ローカルインスタンスがリモートインスタンスによって送信されたペイロードを処理する準備ができたときに受信フローが実行する自動アクションに論理的に関連している必要があります。たとえば、受信フローがリモートインスタンスのユーザーによって送信されたサービスカタログアイテム要求レコードのフィールドをローカルインスタンスの関連フィールドにマッピングする場合は、サービスカタログアイテム要求を行うユーザーに関連するプロセスイベントを選択します。
受信サブフロー	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リモートインスタンスにより送信されたデータをインスタンスが処理するときに実行する フローデザイナー サブフローを検索して選択します。インスタンスには、受信フローレコードのテンプレートとして使用できる、リモートプロセス同期受信フローテンプレート - 基本サブフローが用意されています。ただし、ビジネスプロセスのニーズを満たすように、リモートプロセス同期受信フローテンプレート-基本サブフローをカスタマイズできます。このサブフローは、リモートプロセス同期の受信アクションを使用してカスタマイズできます。詳細については、「リモートプロセス同期データ連携のビルド」を参照してください。
リモートシステム	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リモートインスタンスでの認証が必要な自動アクションを受信フローが実行するときに接続するリモートシステムレコードを検索して選択します。選択するリモートシステムレコードは、リモートプロセス同期データ連携の送信部分を処理するリモートインスタンスである必要があります。
アプリケーション	現在のアプリケーションスコープ に自動的に設定されます。
ドメイン	プロセスが特定のドメインに関連している場合は、グローバル以外のドメインを選択します。詳細については、「サービスプロバイダーのドメインセパレーション 」を参照してください。

注: 各送信フローと受信フローは、常に 1 つのプロセスイベントと 1 つのリモートシステムにのみ関連付ける必要があります。

プロセス同期定義に対して、システム提供のリモートプロセス同期送信フローテンプレート - 基本またはリモートプロセス同期受信フローテンプレート - 基本サブフローを選択する前に、フローデザイナーでこれらのサブフローをカスタマイズできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

添付ファイルの同期

キャプチャ定義の [添付ファイルを含める] オプションを使用して、ローカルレコードに関連付けられた添付ファイルを送信することを選択できます。ただし、リモートプロセス同期では、セキュリティと添付ファイルサイズの問題により、データ連携の他のデータとは異なる方法で添付ファイルを処理します。

- データ連携のレコードが初めて同期されるときに、すべての添付ファイルが送信ペイロードで送信されます。後続の同期では、添付ファイルへの変更またはすべての添付ファイルへの変更を送信できます。
- 添付ファイルのメタデータは、常に送信ペイロードとともに送信されます。このメタデータには、暗号化された総合キー、ハッシュ、ファイル名、コンテンツタイプ、およびサイズが含まれます。
- リモートインスタンスは、受信ペイロードの各ハッシュとファイル名をインスタンス上のものと比較して、受信する添付ファイルを決定します。次に以下のプロセスが発生します。

  1. 元のシステムはキーを検証し、添付ファイルを相関レコードにプッシュします。
  2. 元のシステムは、添付ファイルが完了したことをリモートシステムに通知します。
  3. リモートシステムは、添付ファイルを相関レコードからターゲットレコードに移動します。

コメントと作業メモの同期

統合では、コメントと作業メモは、それらのジャーナルフィールドが変更された場合にのみ、インスタンス間で同期されます。変更メタデータはペイロードに含まれているため、リモートシステムは、コメントまたは作業メモを作成したユーザーと、いつ作成されたかを識別できます。

送信キューと受信キュー

前のセクションで説明したレコードを作成して設定し、リモートプロセス同期のデータ連携をビルドした後、インスタンスの送信キューと受信キューを監視してデータ連携を管理できます。

送信キューには、インスタンスから送信されたデータに対して実行された送信サブフローのステータス、エラー情報、再試行データ、およびフローコンテキスト情報が含まれます。送信キューのレコードを表示するには、[統合ハブ] > [リモートプロセス同期] > [送信キューステータス]に移動します。

送信キューステータスレコードには、次のフィールドがあります。

フィールド	説明
作成日時	データ連携の自動アクションが発生した日付
エラー情報	送信ペイロードのステータスメッセージ
プロセスイベント	プロセスイベント
リモートシステム	リモートシステム
メタデータを再試行	送信ペイロード用に設定された再試行ポリシーのメタデータ
ステータス	送信キュー内のペイロードの処理ステータス。次のオプションが含まれます。 • 準備完了 • 処理日時 • エラー • スキップ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ドメイン	データ連携の自動アクションが実行されたドメイン
送信サブフローコンテキスト	ペイロードを処理した送信フローの実行レコードのシステム ID

注: 送信ペイロードの詳細なトラブルシューティング情報は、関連する送信キューレコードで取得できます。これらのレコードにアクセスするには、[統合ハブ] > [リモートプロセス同期] > [送信キュー]に移動します。

受信キューには、リモートインスタンスからローカルインスタンスに送信されたデータに対して実行された受信サブフローのステータス、処理シーケンス、および相関情報が含まれています。受信キューのレコードを表示するには、[統合ハブ] > [リモートプロセス同期] > [受信キュー]に移動します。

受信フローレコードには、次のフィールドがあります。

フィールド	説明
シーケンス	キュー内での順序。小さい数値は大きい数値の前に処理されます。
ステータス	送信キュー内のペイロードの処理ステータス。次のオプションが含まれます。 • 準備完了 • 処理日時 • エラー • スキップ **注:** 受信キューレコードのステータスが [エラー] の場合は、ステータスを [受信ペイロードの処理を再試行する準備完了 (Ready to retry processing the inbound payload)] に変更します。
プロセスイベント	データ連携アクションに関連付けられたプロセスイベント
運用	リモートインスタンスがトリガーしてデータを送信する原因となった、リモートインスタンスが実行したレコード操作のタイプ。次のオプションが含まれます。 • 作成 • 更新 • 削除
コンテキストを変換	ペイロードを処理した受信フローの実行レコードのシステム ID
ローカル相関 ID	ローカルインスタンスの相関 ID
リモート相関 ID	リモートインスタンスの相関 ID

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
リモートシステム	データを送信したインスタンスに関連付けられたリモートシステムレコード
ドメイン	データ連携の自動アクションが実行されたドメイン
ペイロード	受信データの JSON ペイロードとしての文字列

注: 送信キューテーブルと受信キューテーブルはどちらも、30 日ごとにこれらのテーブルからレコードを削除するテーブルクリーナーによって管理されます。

データ連携の監視とトラブルシューティング

リモートプロセス同期データ連携がビルドされ、実行されたら、次のテーブルを使用して監視できます。

テーブル	説明
XML 統計情報	*process_sync_queue* セクションを表示して、キューのサイズ、エラーおよび処理レートなど、データ連携のアウトバウンドキューとインバウンドキューに関する情報を確認します。
送信キュー	インスタンスから送信するためにステージングされたレコードのキャプチャデータを表示します。
送信キューのステータス	送信キューテーブルのレコードのステータスを表示します。
受信キュー	受信キューとレコードを組み合わせたテーブルを表示します。
ログ	まず、*glide.ih.process.sync.debug* システムのプロパティを `true` に設定してデバッグをオンにします。次に、ログをスキャンして `OutboundQueueDao` と `InboundQueueDao` で始まるエラーメッセージを探し、データ連携に関する潜在的な問題に関する詳細情報を含むログメッセージを見つけます。

リモートプロセス同期データ連携でエラーが発生した場合は、まず、エラーが接続エラーであるかデータ処理エラーであるかを確認します。

接続エラー

送信接続エラーは、リモートシステムレコードの送信ステータスを [エラー] に設定する前に、自動的に数回再試行します。送信接続でエラーが引き続き発生する場合は、ユーザーの認証情報の変更など、リモートシステムの受信 API ユーザーで何も変更されていないことを確認します。次に、リモートシステムレコードを再度検証して有効化します。

データ処理エラー

データ処理エラーは、通常、送信フローまたは受信フローのエラーの結果として発生します。これらのエラーのトラブルシューティングを行うために、フローのステータスが [エラー] に変更されたときに、ログアクションやメール送信アクションなどのエラー処理アクションをフローに追加できます。フローでエラーが発生した場合に、送信キュー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

または受信キューテーブルのレコードを再処理したり、処理をスキップしたりするアクションを追加することもできます。

リモートプロセス同期データ連携のビルド

2 つの ServiceNow® インスタンスの自動プロセスをリンクするために、リモートプロセス同期データ連携をビルドする方法の例を順を追って説明します。

始める前に

- 統合ハブ Enterprise パッケージを購入して、データ連携の各インスタンスでリモートプロセス同期を有効にします。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。
- データ連携の各インスタンスで明示的なロールのセキュリティ機能を有効にします。詳細については、「Explicit Role プラグイン」を参照してください。
- リモートプロセス同期の開始 をチェックアウトして、統合ハブ リモートプロセス同期データ連携をビルドおよび管理する方法について学びます。
- 次の例でリンクするインスタンスが本番インスタンスではないことを確認します。いずれかのインスタンスで重要なデータが上書きされないように、この例は準本番インスタンスでのみテストすることをお勧めします。このデータ連携の例をテストするために、個人開発者インスタンス を使用することもできます。
- 次の例で作成するフローとロジックが競合する既存のビジネスルール、ワークフロー、または フローデザイナー フローがないことを確認します。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

次の例では、2 つの ServiceNow インスタンスの自動プロセスをリンクする方法を順を追って説明します。この例のユースケースでは、お客様がベンダーによって履行されるハードウェアの要求を作成します。お客様のインスタンスをインスタンス A と呼び、ベンダーのインスタンスをインスタンス B と呼びます。まず、リモートインスタンスにアクセスできる各インスタンスの認証情報を設定します。また、各インスタンスで、送信フローと受信フローを実行できるユーザーを作成します。

手順

1. インスタンス A で、ドメインが [グローバル] に設定されていることを確認してから、[システムセキュリティ] > [ユーザーとグループ] > [ユーザー]に移動します。
2. [新規] を選択して新しいユーザーフォームビューを開き、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
ユーザー ID	`rps.api.instance.a` と入力します
名	「`インスタンス A の RPS API ユーザー`」と入力します。

   [保存] をクリックします。
3. ユーザーフォームで、[パスワードを設定] を選択してパスワードを設定します。
   詳細については、「ユーザーのパスワードの設定 」の手順 4 と 5 を参照してください。
4. インスタンス A の RPS API ユーザーの パスワードをリセット します。
5. [システムセキュリティ] > [ユーザーとグループ] > [ユーザー] に戻り、先ほど作成したユーザーレコードを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [ロール] 関連リストに移動して選択します。

b. [編集...] を選択して、ユーザーのロールを設定します。

c. [コレクション]の上の検索ウィンドウで、`ih_process_sync_api` と入力します。

d. [コレクション] リストから **[ih_process_sync_api]** および **[snc_external]** を選択し、追加ボタン ( ) を選択して、これらのロールを [ロール] リストに追加します。

> **注:** snc_external ロールは、外部ユーザーのアクセスを、明示的にアクセスが許可されたリソースのみに制限します。

e. [保存] をクリックします。

6. [新規] を選択して新しいユーザーフォームビューを開き、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
ユーザー ID	`rps.run.as` と入力します。
名	「`RPS Run as User A`」と入力します。

[保存] をクリックします。

7. ユーザーフォームで、[パスワードを設定] を選択してパスワードを設定します。
詳細については、「ユーザーのパスワードの設定」の手順 4 と 5 を参照してください。
8. RPS をユーザー A として実行するため、 パスワードをリセット します。
9. [システムセキュリティ] > [ユーザーとグループ] > [ユーザー] に戻り、先ほど作成したユーザーレコードを選択します。
   a. [ロール] 関連リストに移動して選択します。
   b. [編集...] を選択して、ユーザーのロールを設定します。
   c. [コレクション] の上の検索ウィンドウで、`ih_process_sync_run_as` と入力します。
   d. [コレクション] リストから **[ih_process_sync_run_as]** を選択し、追加ボタン ( ) を選択して、このロールを [ロール] リストに追加します。
   e. [コレクション] の上の検索ウィンドウに「`incident_manager`」と入力します。
   f. [コレクション] リストから **[incident_manager]** を選択し、追加ボタン ( ) を選択して、このロールを [ロール] リストに追加します。
   g. [保存] をクリックします。
10. インスタンス B で、ドメインが [グローバル] に設定されていることを確認してから、[システムセキュリティ] > [ユーザーとグループ] > [ユーザー]に移動します。
11. [新規] を選択して新しいユーザーフォームビューを開き、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
ユーザー ID	`rps.api.instance.b` と入力します

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
名	「`インスタンス B の RPS API ユーザー`」と入力します。

[保存] をクリックします。

12. ユーザーフォームで、[パスワードを設定] を選択してパスワードを設定します。
詳細については、「ユーザーのパスワードの設定」の手順 4 と 5 を参照してください。
13. インスタンス B の RPS API ユーザーの パスワードをリセット します。
14. [システムセキュリティ] > [ユーザーとグループ] > [ユーザー] に戻り、先ほど作成したユーザーレコードを選択します。
    a. [ロール] 関連リストに移動して選択します。
    b. [編集...] を選択して、ユーザーのロールを設定します。
    c. [コレクション]の上の検索ウィンドウで、`ih_process_sync_api` と入力します。
    d. [コレクション] リストから **[ih_process_sync_api]** および **[snc_external]** を選択し、追加ボタン ( ) を選択して、これらのロールを [ロール] リストに追加します。
    > 注: snc_external ロールは、外部ユーザーのアクセスを、明示的にアクセスが許可されたリソースのみに制限します。
    e. [保存] をクリックします。
15. [新規] を選択して新しいユーザーフォームビューを開き、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
ユーザー ID	`rps.run.as` と入力します。
名	「`RPS Run as User B`」と入力します。

[保存] をクリックします。

16. ユーザーフォームで、[パスワードを設定] を選択してパスワードを設定します。
詳細については、「ユーザーのパスワードの設定」の手順 4 と 5 を参照してください。
17. インスタンス B から RPS をユーザー B として実行するため、 パスワードをリセット します。
18. [システムセキュリティ] > [ユーザーとグループ] > [ユーザー] に戻り、先ほど作成したユーザーレコードを選択します。
    a. [ロール] 関連リストに移動して選択します。
    b. [編集...] を選択して、ユーザーのロールを設定します。
    c. [コレクション] の上の検索ウィンドウで、`ih_process_sync_run_as` と入力します。
    d. [コレクション] リストから **[ih_process_sync_run_as]** を選択し、追加ボタン ( ) を選択して、このロールを [ロール] リストに追加します。
    e. [コレクション] の上の検索ウィンドウに「`incident_manager`」と入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. [コレクション] リストから **[incident_manager]** を選択し、追加ボタン ( ) を選択して、このロールを [ロール] リストに追加します。

g. [保存] をクリックします。

19. インスタンス A で、[統合ハブ] > [接続と資格情報] > [認証情報] に移動して、[新規] を選択します。

a. 接続オプションのリストから、[基本認証情報] を選択します。

b. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	「RPS ベンダー認証情報」と入力します。
ユーザー名	rps.api.instance.b と入力します。
パスワード	インスタンス B の RPS API ユーザーのパスワードを入力します。

注: 入力する認証情報は、インスタンス B で作成した RPS API ユーザーの認証情報と一致する必要があります。

c. [送信] を選択します。

20. インスタンス A から移動する前に、[統合ハブ] > [接続と資格情報] > [接続および資格情報エイリアス] に移動して、[新規] を選択します。

a. [名前] フィールドに「RPS ベンダーデモ」と入力します。
他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

b. リストから、作成したばかりの [RPS ベンダーデモ] レコードを選択します。

c. [接続] 関連リストで、[新規] を選択します。

d. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	「RPS ベンダー」と入力します。
認証情報	リストから参照アップアイコン ( ) を選択し、リストから [RPS ベンダー認証情報] レコードを選択します。
接続 URL	インスタンス B のベース URL を入力します。URL は、https:// で始まり、.service-now.com/ で終わる必要があります。

e. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

21. インスタンス B で、[統合ハブ] > [接続と資格情報] > [認証情報] に移動して、[新規] を選択します。

    a. 接続オプションのリストから、[基本認証情報] を選択します。

    b. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	「RPS 顧客認証情報」と入力します。
ユーザー名	rps.api.instance.a と入力します。
パスワード	インスタンス A の RPS API ユーザーのパスワードを入力します。

    注: 入力する認証情報は、インスタンス A で作成した RPS API ユーザーの認証情報と一致する必要があります。

    c. [送信] を選択します。

22. インスタンス B から移動する前に、[統合ハブ] > [接続と資格情報] > [接続および資格情報エイリアス] に移動して、[新規] を選択します。

    a. [名前] フィールドに「RPS カスタマーデモ」と入力します。
    他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

    b. リストから、作成したばかりの [RPS カスタマーデモ] レコードを選択します。

    c. [接続] 関連リストで、[新規] を選択します。

    d. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	「RPS カスタマー」と入力します。
認証情報	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リストから [RPS 顧客認証情報] レコードを選択します。
接続 URL	インスタンス A のベース URL を入力します。URL は、https:// で始まり、.service-now.com/ で終わる必要があります。

    e. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

    各リモートインスタンスへのアクセスに使用できる認証情報を正常に作成しました。次に、各インスタンスでプロセス同期定義のリモートシステムレコードを設定して、インスタンス間でデータを送受信できることを確認しましょう。

23. インスタンス A で、[統合ハブ] > [リモートプロセス同期] > [プロセス同期定義]に移動し、[新規] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	「ハードウェア要求プロセス」と入力します。
説明	ハードウェアを要求し、履行されたハードウェア要求を処理するためのプロセスを入力します

b. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

c. リストから、作成したばかりのハードウェア要求プロセスを選択します。

24. [リモートシステム] 関連リストで、[新規] を選択します。

a. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	「ベンダーインスタンス - インスタンス B」と入力します。
説明	ハードウェア要求を満たすベンダーインスタンスを入力します。
接続エイリアス	リストから参照アイコン ( ) を使用してルックアップを選択し、次にリストから [RPS_Vendor_Demo] レコードを選択します。
受信 API ユーザー	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リストから [インスタンス A の RPS API ユーザー] レコードを選択します。
実行方法	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リストから [RPS ユーザーとして実行] レコードを選択します。

b. コンテキストヘッダーで、他のアクションアイコン ( ) を選択し、**[sys_id のコピー]** を選択します。
このシステム ID は、インスタンス B のリモートシステムレコードの [外部 ID] フィールドの値として必要になります。

c. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

25. インスタンス B で、[統合ハブ] > [リモートプロセス同期] > [プロセス同期定義]に移動し、[新規] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	「ハードウェア履行プロセス」と入力します。
説明	ハードウェア要求を履行するプロセスを入力します。

b. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

c. リストから、作成したばかりの [ハードウェア履行プロセス] レコードを選択します。

26. [リモートシステム] 関連リストで、[新規] を選択します。

a. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
名前	「カスタマーインスタンス - インスタンス A」と入力します。
説明	ハードウェアを要求するカスタマーインスタンスを入力します。
外部 ID (External ID)	インスタンス A のリモートシステムレコードからコピーしたシステム ID の値を貼り付けます。
接続エイリアス	リストから参照アイコン ( ) を使用してルックアップを選択し、次にリストから [RPS_Customer_Demo] レコードを選択します。
受信 API ユーザー	リストから参照アップアイコン ( ) を選択し、リストから [インスタンス B の RPS API ユーザー] レコードを選択します。
実行方法	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リストから [RPS ユーザーとして実行] レコードを選択します。

b. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

c. [リモートシステム] 関連リストから、[カスタマーインスタンス - インスタンス A] レコードを選択します。

d. コンテキストヘッダーで、他のアクションアイコン ( ) を選択し、**[sys_id のコピー]** を選択します。
このシステム ID は、インスタンス A のリモートシステムレコードの [外部 ID] フィールドの値として必要になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

27. インスタンス B で、[統合ハブ] > [リモートプロセス同期] > [リモートシステム - すべて]に移動し、リストから [カスタマーインスタンス – インスタンス A] レコードを選択します。

    a. [外部 ID] フィールドで、インスタンス A のリモートシステムレコードからコピーした Sys ID の値を貼り付けます。

    b. [更新] を選択して、レコードへの変更を保存します。

    c. リストから、[カスタマーインスタンス – インスタンス A] レコードを選択します。

    d. [関連リンク] セクションで、[リモートシステムを検証して有効化] を選択します。
    「リモートシステムが検証され、正常にアクティブ化されました」というメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、戻ってリモートシステムレコードの構成を確認してください。

    インスタンス A とインスタンス B が正常に接続し、プロセスワークフロー全体でデータを共有できるようになりました。次に、データ連携を自動的にトリガーして実行する方法と、インスタンス間でキャプチャして同期するフィールドを定義します。

28. インスタンス A で、[統合ハブ] > [リモートプロセス同期] > [プロセス同期定義]に移動し、リストから [ハードウェア要求プロセス] レコードを選択します。

29. [プロセスイベント] 関連リストで、[新規] を選択します。

    a. [名前] フィールドに「ハードウェアの要求」と入力します。

    > **注:** このフィールドでは大文字と小文字が区別されます。これは、API エンドポイントのメソッド名と同様に機能します。

    b. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

30. [プロセスイベント] 関連リストで、[新規] を選択します。

    a. [名前] フィールドに「ハードウェア要求履行済み」と入力します。

    b. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

31. [キャプチャ定義] 関連リストで、[新規] を選択します。

    a. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
プロセスイベント	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リストから [ハードウェアの要求] レコードを選択します。
状況	[アクティブ] を選択します
ソーステーブル名 (Source Table Name)	[インシデント **[incident]**] を選択します。
フィルター	条件ビルダーで、[アサイン先グループ] > [次の値と同じ]を選択し、 リストから参照アイコン ( ) を選択します。リストから [ハードウェア] レコードを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
フィールドを含める	次のフィールドを選択し、項目の追加ボタン ( ) を選択して [選択済み] リストに追加します。 ▪ 番号 ▪ 簡単な説明 ▪ アサイン先グループ ▪ 重大度 ▪ 状況 注: システム ID は、[選択済み] リストに既に含まれています。このフィールドも [選択済み] リストに残しておきます。

b. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

32. [送信フロー] 関連リストで、[新規] を選択します。

a. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
プロセスイベント	リストから、[ハードウェアの要求] を選択します。
送信サブフロー	[リモートプロセス同期送信フローテンプレート – 基本のコピー] レコードを選択します。 コピーを作成するには、次の手順に従います。 **i.** [送信サブフロー] フィールドの横にある [サブフローを構成] ボタンを使用して、フローデザイナーに移動します。 **ii.** フローデザイナーで、[サブフロー] タブを選択します。 **iii.** [名前] 列をフィルタリングして、[リモートプロセス同期送信フローテンプレート – 基本] レコードを見つけて選択します。 **iv.** サブフローで、[その他のアクション] メニューアイコンを選択し、[サブフローのコピー] を選択します。 **v.** サブフローのコピーを公開します。 このテンプレートサブフローは、ローカルレコードとリモートレコードの相関を処理し、キャプチャされたペイロードをリモートインスタンスに送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 独自のデータ連携をビルドする場合は、リモートプロセス同期アクションを追加して、このテンプレートサブフローをニーズに合わせてカスタマイズできます。フローデザイナー でこのテンプレートサブフローを編集するには、サブフローの構成アイコン ( ) を選択します。
リモートシステム	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リストから [ベンダーインスタンス - インスタンス B] レコードを選択します。

b. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

33. インスタンス B で、[統合ハブ] > [リモートプロセス同期] > [プロセス同期定義]に移動し、リストから [ハードウェア履行プロセス] レコードを選択します。
34. [プロセスイベント] 関連リストで、[新規] を選択します。
    a. [名前] フィールドに「ハードウェアの要求」と入力します。
    b. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。
35. [プロセスイベント] 関連リストで、[新規] を選択します。
    a. [名前] フィールドに「ハードウェア要求履行済み」と入力します。
    b. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

    注: 両方のインスタンスで、名前が一致するプロセスイベントレコードを作成します。これは、インスタンス間のリンクされたプロセスワークフローを追跡するのに役立ちます。

36. [キャプチャ定義] 関連リストで、[新規] を選択します。
    a. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
プロセスイベント	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リストから [ハードウェア要求履行済み] レコードを選択します。
状況	[アクティブ] を選択します
ソーステーブル名 (Source Table Name)	[インシデント **[incident]**] を選択します。
フィルター	条件ビルダーで、[アサイン先グループ] > [次の値と同じ]を選択し、 リストから参照アイコン ( ) を選択します。リストから [ハードウェア] レコードを選択します。次に、**[AND]** を選択して別の条件を追加し、[インシデント

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	状況] > [次の値と同じ] > [解決済み]を選択します。
フィールドを含める	次のフィールドを選択し、項目の追加ボタン ( ) を選択して [選択済み] リストに追加します。 ▪ 番号 ▪ 状況 ▪ 解決者 ▪ 解決メモ ▪ 解決コード 注: システム ID は、[選択済み] リストに既に含まれています。このフィールドも [選択済み] リストに残しておきます。

b. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

37. [送信フロー] 関連リストで、[新規] を選択します。

a. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
プロセスイベント	リストから、[ハードウェア要求履行済み] を選択します。
送信サブフロー	[リモートプロセス同期送信フローテンプレート － 基本のコピー] レコードを選択します。 コピーを作成するには、次の手順に従います。 **i.** [送信サブフロー] フィールドの横にある [サブフローを構成] ボタンを使用して、フローデザイナーに移動します。 **ii.** フローデザイナーで、[サブフロー] タブを選択します。 **iii.** [名前] 列をフィルタリングして、[リモートプロセス同期送信フローテンプレート － 基本] レコードを見つけて選択します。 **iv.** サブフローで、[その他のアクション] メニューアイコンを選択し、[サブフローのコピー] を選択します。 **v.** サブフローのコピーを公開します。 このテンプレートサブフローは、ローカルレコードとリモートレコードの相関を処理し、キャプチャされたペイロードをリモートインスタンスに送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: 独自のデータ連携をビルドする場合は、リモートプロセス同期アクションを追加して、このテンプレートサブフローをニーズに合わせてカスタマイズできます。フローデザイナー でこのテンプレートサブフローを編集するには、サブフローの構成アイコン ( ) を選択します。
リモートシステム	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リストから [カスタマーインスタンス - インスタンス A] レコードを選択します。

b. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

リモートプロセス同期データ統合をトリガーする方法と、キャプチャしていずれかのリモートインスタンスに送信するフィールドを正常に設定しました。この最後のセクションでは、フローデザイナーで受信フローをカスタマイズして、受信データが適切に変換されるようにします。

38. インスタンス B で、[統合ハブ] > [リモートプロセス同期] > [プロセス同期定義]に移動し、リストから [ハードウェア履行プロセス] レコードを選択します。

39. [リモートプロセス同期受信フローテンプレート - 基本] レコードをコピーします。

a. フローデザイナーに移動し、[サブフロー] タブを選択します。

b. [名前] 列をフィルタリングして、[リモートプロセス同期受信フローテンプレート - 基本] レコードを見つけて選択します。

c. サブフローで、[その他のアクション] メニューアイコンを選択し、[サブフローのコピー] を選択します。

40. サブフローで、ペイロードを更新します。

a. [着信サンプルからペイロードを変換] アクションを展開します。

b. [サンプルペイロード] フィールドに、次のサンプルペイロードを入力します。

```
{"capture_metadata":{"changed_by":"admin","timestamp":"2020-09-24
 19:26:59"},
"changed_fields":[
  {"display_value":"","value":"incident","key":"sys_class_name"},

 {"display_value":"","value":"552c48888c033300964f4932b03eb092","key":
"sys_id"},
  {"display_value":"","value":"INC0040015","key":"number"},
  {"display_value":"","value":"","key":"short_description"},

 {"display_value":"Hardware","value":"9f5b572d9cd82010f877a5cfd1fdce30
","key":"assignment_group"},
  {"display_value":"","value":"1","key":"severity"},
  {"display_value":"","value":"2","key":"state"}]}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: このペイロードは、インスタンス A からインスタンス B に送信される、キャプチャされたメタデータとフィールドを表す複合オブジェクトです。

c. **[Done** (完了)] を選択します。

41. サブフローの `[Else]` フローロジックで、[インシデントレコードの作成 **(Create Incident Record)]** を選択します。

a. 以下のフィールドおよび関連する値を追加します。

フィールド	値
簡単な説明	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] > **[short_description]**にドット連結して、選択します。
説明	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] > **[short_description]**にドット連結して、選択します。
アサイン先グループ	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] > **[short_description]**にドット連結して、選択します。
緊急度	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] > [重大度]にドット連結して、選択します。
状況	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] > [ステータス]にドット連結して、選択します。

b. **[Done** (完了)] を選択します。

42. `[Then]` の横にある `[If]` フローロジックで、[インシデントレコードの更新] を選択します。

a. [Fields] 入力で、次のフィールドと関連する値を追加します。

フィールド	値
簡単な説明	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] >

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
	[short_description]にドット連結して、選択します。
説明	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] > **[short_description]**にドット連結して、選択します。
アサイン先グループ	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] > **[short_description]**にドット連結して、選択します。
緊急度	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] > [重大度]にドット連結して、選択します。
状況	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] > [ステータス]にドット連結して、選択します。

b. [Done (完了)] を選択します。

43. サブフローを公開します。

44. ハードウェア履行プロセスレコードに戻り、受信フロー関連リストで [新規] を選択します。

a. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
プロセスイベント	リストから、[ハードウェアの要求] を選択します。
受信サブフロー	[リモートプロセス同期受信フローテンプレート – 基本のコピー] を選択します。
リモートシステム	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リストから [カスタマーインスタンス – インスタンス A] レコードを選択します。

b. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

45. インスタンス A で、[統合ハブ] > [リモートプロセス同期] > [プロセス同期定義]に移動し、リストから [ハードウェア要求プロセス] レコードを選択します。

46. [リモートプロセス同期受信フローテンプレート – 基本] レコードをコピーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. フローデザイナーに移動し、[サブフロー] タブを選択します。

b. [名前] 列をフィルタリングして、[リモートプロセス同期受信フローテンプレート - 基本] レコードを見つけて選択します。

c. サブフローで、[その他のアクション] メニューアイコンを選択し、[サブフローのコピー] を選択します。

47. サブフローで、ペイロードを更新します。

a. [着信サンプルからペイロードを変換] アクションを展開します。

b. [サンプルペイロード] フィールドに、次のサンプルペイロードを入力します。

```
{"capture_metadata":{"changed_by":"admin","timestamp":"2020-10-26
 14:18:45"},
"changed_fields":[
  {"display_value":"","value":"incident","key":"sys_class_name"},

 {"display_value":"","value":"d4cdfce8db4c2410cfe4d9595e96197b","key":
"sys_id"},
  {"display_value":"","value":"INC0040014","key":"number"},
  {"display_value":"","value":"101","key":"state"},
  {"display_value":"","value":"Resolved by
 caller","key":"close_code"},
  {"display_value":"System
 Administrator","value":"6816f79cc0a8016401c5a33be04be441","key":"reso
lved_by"},
  {"display_value":"","value":"","key":"close_notes"}]}
```

注: このペイロードは、インスタンス B からインスタンス A に送信される、キャプチャされたメタデータとフィールドを表す複合オブジェクトです。

c. **[Done** (完了)] を選択します。

48. [Then] の横にある [If] フローロジックで、[インシデントレコードの更新] を選択します。

a. [Fields] 入力で、次のフィールドと関連する値を追加します。

フィールド	値
状況	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] > [ステータス]にドット連結して、選択します。
解決者	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] > **[resolved_by]**にドット連結して、選択します。
解決メモ	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] > **[close_notes]**にドット連結して、選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	値
解決コード	データピルピッカーアイコン ( ) を選択します。**[1 -** 着信サンプルからペイロードを変換] > [変更されたフィールド] > **[close_code]**にドット連結して、選択します。

b. [Done (完了)] を選択します。

49. サブフローで、`Else` ステートメントを削除します。

50. サブフローを公開します。

51. ハードウェア履行プロセスレコードに戻り、受信フロー関連リストで [新規] を選択します。

a. フォームで次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
プロセスイベント	リストから、[ハードウェア要求履行済み] を選択します。
受信サブフロー	[リモートプロセス同期受信フローテンプレート – 基本のコピー] を選択します。
リモートシステム	リストから参照アイコン ( ) を選択し、リストから [ベンダーインスタンス – インスタンス B] レコードを選択します。

b. 他のすべてのフィールドはそのままにして、[送信] を選択します。

タスクの結果

リモートプロセス同期データ連携のビルドを完了しました。これで、ユーザーがインシデント A のハードウェア割り当てグループでインシデントレコードを作成するたびに、データ連携がトリガーされるようになりました。発生した場合：

- インスタンス A のキャプチャ定義で指定されたフィールドがキャプチャされ、ローカルレコードに保存されます。
- ローカルレコードは、インスタンス B のリモートレコードと関連付けられています。
- キャプチャされたフィールドは、インスタンス B の受信フローで指定したフィールドにマップされます。

次に、ユーザーがインスタンス B で相関インシデントレコードを解決すると、次のようになります。

- インスタンス B のキャプチャ定義で指定されたフィールドがキャプチャされ、ローカルレコードに保存されます。
- ローカルレコードは、インスタンス A のリモートレコードと関連付けられています。
- キャプチャされたフィールドは、インスタンス A の受信フローで指定したフィールドにマップされます。

次のタスク

インスタンス A でハードウェア割り当てグループを使用してインシデントレコードを作成し、リモートプロセス同期のデータ連携をテストします。次に、インスタンス B で相関インシデントレコードを解決します。相関レコードが期待どおりに同期されない場合は、各インスタンスで受信 API ユー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ザーの認証情報とプロセス同期定義の設定を確認してください。サンプルデータ連携で引き続き問題が発生する場合は、「データ連携の監視とトラブルシューティング」を参照してください。

リモートプロセス同期アクション

統合ハブ リモートプロセス同期データ連携の送信フローと受信フローでアクションを使用する方法について説明します。

リモートプロセス同期には、デフォルトの送信および受信フローテンプレートをカスタマイズするために使用できる フローデザイナー アクションのコレクションが用意されています。これらのアクションにより、次のことが可能になります。

- ローカルインスタンスとリモートインスタンスのレコード間に相関を作成する
- ローカルインスタンスとリモートインスタンス間で添付ファイルを管理する
- キャプチャしたペイロードをリモートインスタンスに送信する
- 受信ペイロードを複雑なオブジェクトに変換する

リモートプロセス同期アクションの依存関係

特定のリモートプロセス同期アクションは他のアクションに依存しているため、通常は一緒に使用することになっています。次のユースケースでは、送信フローと受信フローで依存リモートプロセス同期アクションの使用を検討できる状況について説明します。

キャプチャ済みペイロードとレコードの関連付け：これらのアクションを次の順序で使用して、リモートシステムに送信するキャプチャ済みペイロードとレコードを自動的に関連付けます。

1. [ローカル相関 ID による相関の検索]：このアクションを使用して、ステージングされたローカルレコードとリモートシステム上のレコードの間に相関レコードが存在するかどうかを判断します。
2. [キャプチャされたペイロードをリモートシステムに送信] - [ローカル相関 **ID** で相関をルックアップ **(Look Up Conrelation By Local Corelation ID)]** レコードの [相関の詳細] 出力データピルを、このアクションの [相関の詳細] 入力の値として使用します。これにより、送信ペイロードを含むローカルレコードをリモートシステム上のレコードに関連付けることができます。

> **注:** *`Remote Process Sync Outbound Flow Template - Basic`* には、この相関関係を自分で設定する必要がないように、これら 2 つのアクションが用意されています。

存在しない添付ファイルを特定してリモートシステムに要求：ローカルシステムに存在しない添付ファイルを自動的に検索してリモートシステムに要求するには、次のアクションを以下の順序で使用します。

1. [新しい添付ファイルを特定] - このアクションを使用して、リモートシステムには存在するがローカルシステムには存在しない添付ファイルを検索し、相関レコードを探します。
2. [リモートシステムから添付ファイルを要求]：このアクションを使用して、識別された添付ファイルのリモートシステムからローカルシステムへの転送を要求します。

相関の作成アクション

ローカルインスタンスのレコードとリモートインスタンスのレコードの間に相関を作成します。相関は、同期するリモートシステムとローカルレコードを識別します。各インスタンスは、一連の共有相関識別子を含む相関のコピーを保持します。リモートプロセス同期のアクションとフローは、相関識別子を使用してレコードを同期します。

ロールと使用可能性

[ServiceNow コア] [リモートプロセス同期] アクションとして利用できます。

サブスクリプション要件

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このアクションには、統合ハブ Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

ロール要件

このアクションには、委託開発によって付与されたロール、またはユーザーにアサインされたロールが必要です。詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップするか、ピルピッカーから選択します。

リモート相関 ID

データタイプ：*String*

プロセスを同期しているリモートインスタンス上の相関のグローバル一意識別子。この ID は、送信トランザクションの相関を一意に識別します。

ローカル相関 ID

データタイプ：*String*

プロセスと同期するローカルインスタンス上の相関のグローバル一意識別子。この ID は、受信トランザクションの相関を一意に識別します。

リモートシステム

データタイプ：*Record*

プロセスを同期しているリモートインスタンスのプロセス同期リモートシステムレコードへの参照。このレコードは、送信同期の変更を受信するインスタンス、または受信同期の変更を送信したインスタンスを識別します。

ローカルレコード

データタイプ：*Record*

別のインスタンスと同期しているローカルインスタンス上のレコードへの参照。データピルには、指定されたレコードのすべてのフィールド値が含まれています。たとえば、ローカルインスタンス上のケースレコードなどです。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

相関の詳細

データタイプ：*Object*

レコードに関する相関情報を含むオブジェクト。オブジェクトは、ローカルレコードに関連付けられたローカルおよびリモートの相関 ID を識別します。

ステータス

データタイプ：*String*

アクションによって返されたステータスコード。

エラー

データタイプ：*String*

アクションによって返されたエラー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ローカルレコードの添付ファイルメタデータを取得アクション

指定されたローカルレコードに関連付けられている添付ファイルのリストを取得します。このアクションの出力を使用して、ローカルレコードの添付ファイルをリモートレコードの添付ファイルと同期します。

ロールと使用可用性

[ServiceNow コア] [リモートプロセス同期] アクションとして利用できます。

サブスクリプション要件

このアクションには、統合ハブ Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

ロール要件

このアクションには、委託開発によって付与されたロール、またはユーザーにアサインされたロールが必要です。詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

ローカルレコード

データタイプ：*Record*

別のインスタンスと同期しているローカルインスタンス上のレコードへの参照。データピルには、指定されたレコードのすべてのフィールド値が含まれています。たとえば、ローカルインスタンス上のケースレコードなどです。

戦略

データタイプ：*Choice*

収集する添付ファイルの詳細レベル。使用可能なオプションは [すべて] または [デルタ] です。[すべて] オプションを使用して、同期されたすべての添付ファイルを収集します。前回の同期以降に変更された添付ファイルのみを収集するには、[デルタ] オプションを使用します。

リモートシステム

データタイプ：*Record*

プロセスを同期しているリモートインスタンスのプロセス同期リモートシステムレコードへの参照。このレコードは、送信同期の変更を受信するインスタンス、または受信同期の変更を送信したインスタンスを識別します。

相関の詳細

データタイプ：*Object*

同期されるレコードに関する相関情報を含むオブジェクト。オブジェクトは、ローカルレコードに関連付けられたローカルおよびリモートの相関 ID を識別します。

添付ファイル

データタイプ：*Array of Objects*

評価する添付ファイルオブジェクトのリストを含むアレイ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

添付ファイル：データタイプ：*Array of Objects*

同期する添付ファイルに関する情報を含むアレイ。

新しい添付ファイルを特定アクション

同期が必要なリモート添付ファイルを判別するために、ローカルレコードに既に存在する添付ファイルを特定します。このアクションの出力を使用して、リモートシステムに存在しない添付ファイルを要求します。

ロールと使用可用性

[ServiceNow コア] [リモートプロセス同期] アクションとして利用できます。

サブスクリプション要件

このアクションには、統合ハブ Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

ロール要件

このアクションには、委託開発によって付与されたロール、またはユーザーにアサインされたロールが必要です。詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグアンドドロップするか、ピルピッカーから選択します。

添付ファイル

データタイプ：*Array of Objects*

評価する添付ファイルオブジェクトのリストを含むアレイ。

ローカルレコード

データタイプ：*Record*

別のインスタンスと同期しているローカルインスタンス上のレコードへの参照。データピルには、指定されたレコードのすべてのフィールド値が含まれています。たとえば、ローカルインスタンス上のケースレコードなどです。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

添付ファイル

データタイプ：*Array of Objects*

同期する添付ファイルに関する情報を含むアレイ。

カウント

データタイプ：*Integer*

識別された添付ファイルの数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ローカル相関 ID による相関の検索アクション

指定されたローカル相関 ID によってアクティブな相関を検索します。ローカル相関 ID は、ローカルインスタンス上の相関を識別します。リモートプロセス同期のアクションとフローは、返された相関を使用して、ローカルレコードとリモートシステムのレコードを同期します。

ロールと使用可用性

[ServiceNow コア] [リモートプロセス同期] アクションとして利用できます。

サブスクリプション要件

このアクションには、統合ハブ Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

ロール要件

このアクションには、委託開発によって付与されたロール、またはユーザーにアサインされたロールが必要です。詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

リモートシステム

データタイプ：*Record*

プロセスを同期しているリモートインスタンスのプロセス同期リモートシステムレコードへの参照。このレコードは、送信同期の変更を受信するインスタンス、または受信同期の変更を送信したインスタンスを識別します。

ローカル相関 ID

データタイプ：*String*

プロセスと同期するローカルインスタンス上の相関のグローバル一意識別子。この ID は、受信トランザクションの相関を一意に識別します。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

相関の詳細

データタイプ：*Object*

レコードに関する相関情報を含むオブジェクト。オブジェクトは、ローカルレコードに関連付けられたローカルおよびリモートの相関 ID を識別します。

ステータス

データタイプ：*String*

アクションによって返されたステータスコード。

ローカルレコードによる相関の検索アクション

指定されたローカルレコード sys_id によってアクティブな相関を検索します。ローカルレコードは、相関がローカルインスタンスで同期するレコードです。リモートプロセス同期のアクションとフローは、返された相関を使用して、ローカルレコードとリモートシステムのレコードを同期します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールと使用可用性

[ServiceNow コア] [リモートプロセス同期] アクションとして利用できます。

サブスクリプション要件

このアクションには、統合ハブ Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

ロール要件

このアクションには、委託開発によって付与されたロール、またはユーザーにアサインされたロールが必要です。詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス 」を参照してください。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

リモートシステム

データタイプ：*Record*

プロセスを同期しているリモートインスタンスのプロセス同期リモートシステムレコードへの参照。このレコードは、送信同期の変更を受信するインスタンス、または受信同期の変更を送信したインスタンスを識別します。

ローカルレコード

データタイプ：*Record*

別のインスタンスと同期しているローカルインスタンス上のレコードへの参照。データピルには、指定されたレコードのすべてのフィールド値が含まれています。たとえば、ローカルインスタンス上のケースレコードなどです。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

相関の詳細

データタイプ：*Object*

レコードに関する相関情報を含むオブジェクト。オブジェクトは、ローカルレコードに関連付けられたローカルおよびリモートの相関 ID を識別します。

ステータス

データタイプ：*String*

アクションによって返されたステータスコード。

添付ファイルの移動アクション

添付ファイルを相関レコードから同期するローカルレコードに移動します。このアクションでは、sys_id によって相関レコードを検索します。

ロールと使用可用性

[ServiceNow コア] [リモートプロセス同期] アクションとして利用できます。

サブスクリプション要件

このアクションには、統合ハブ Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロール要件

このアクションには、委託開発によって付与されたロール、またはユーザーにアサインされたロールが必要です。詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

相関 ID：データタイプ：*String*

ローカルインスタンス上の相関レコードのグローバル一意識別子。

出力

このアクションには出力がありません。

リモートシステムから添付ファイルを要求アクション

指定した相関を使用して、識別された添付ファイルの転送を要求します。リモートシステムのレコードに関連付けられた添付ファイルがローカルシステムに移動されます。

ロールと使用可用性

[ServiceNow コア] [リモートプロセス同期] アクションとして利用できます。

サブスクリプション要件

このアクションには、統合ハブ Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

ロール要件

このアクションには、委託開発によって付与されたロール、またはユーザーにアサインされたロールが必要です。詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

添付ファイル

データタイプ：*Array of Objects*

評価する添付ファイルオブジェクトのリストを含むアレイ。

リモートシステム

データタイプ：*Record*

プロセスを同期しているリモートインスタンスのプロセス同期リモートシステムレコードへの参照。このレコードは、送信同期の変更を受信するインスタンス、または受信同期の変更を送信したインスタンスを識別します。

相関の詳細

データタイプ：*Object*

同期されるレコードに関する相関情報を含むオブジェクト。オブジェクトは、ローカルレコードに関連付けられたローカルおよびリモートの相関 ID を識別します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

ステータス：データタイプ：*String*

アクションによって返されたステータスコード。

キャプチャされたペイロードをリモートシステムに送信

キャプチャされたペイロードを生成し、リモートシステムに送信します。このアクションは、[相関を検索 (Look Up Correlation)] アクションに従う必要があります。リモートプロセス同期のフローでは、返された相関を使用して、新しい相関を作成する必要があるかどうかを確認します。

ロールと使用可用性

[ServiceNow コア] [リモートプロセス同期] アクションとして利用できます。

サブスクリプション要件

このアクションには、統合ハブ Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

ロール要件

このアクションには、委託開発によって付与されたロール、またはユーザーにアサインされたロールが必要です。詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス 」を参照してください。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

リモートシステム

データタイプ：*Record*

プロセスを同期しているリモートインスタンスのプロセス同期リモートシステムレコードへの参照。このレコードは、送信同期の変更を受信するインスタンス、または受信同期の変更を送信したインスタンスを識別します。

CRUD 操作

データタイプ：*Choice*

プロセスイベントをトリガーしたデータベース操作。使用可能なオプションは、 [作成]、 [更新]、または [削除] です。

プロセスイベント

データタイプ：*String*

実行するプロセスイベントの名前。名前は、プロセスの同期に参加する各インスタンスで同じです。例：case-to-incident

ペイロード

データタイプ：*Object*

キャプチャ定義によって生成された変更を含むオブジェクト。たとえば、ローカルインスタンス上のケースレコードのフィールド変更のリストなどです。システムは、このオブジェクトを JSON 文字列に変換してリモートインスタンスに送信します。

相関の詳細

データタイプ：*Object*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

同期されるレコードに関する相関情報を含むオブジェクト。オブジェクトは、ローカルレコードに関連付けられたローカルおよびリモートの相関 ID を識別します。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

ステータス

データタイプ：*String*

アクションによって返されたステータスコード。

エラーメッセージ

データタイプ：*String*

アクションによって返されたエラー。

ローカル相関 ID

データタイプ：*String*

プロセスと同期するローカルインスタンス上の相関のグローバル一意識別子。この ID は、受信トランザクションの相関を一意に識別します。

リモート相関 ID

データタイプ：*String*

プロセスを同期しているリモートインスタンス上の相関のグローバル一意識別子。この ID は、送信トランザクションの相関を一意に識別します。

着信サンプルからペイロードを変換アクション

リモートプロセス同期ペイロードを JSON 文字列から複合オブジェクトに変換します。受信ペイロードのサンプルからオブジェクト構造を生成します。

ロールと使用可用性

[ServiceNow コア] [リモートプロセス同期] アクションとして利用できます。

サブスクリプション要件

このアクションには、統合ハブ Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

ロール要件

このアクションには、委託開発によって付与されたロール、またはユーザーにアサインされたロールが必要です。詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

ペイロード

データタイプ：*String*

リモートインスタンスで生成された変更を含む JSON 文字列。たとえば、リモートインスタンスからのケースレコードのフィールド変更のリストなどです。システムは、ローカルインスタンスでこの JSON 文字列をオブジェクトに変換します。

サンプルペイロード

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ：*String*

オブジェクト構造を生成するために使用する JSON ペイロードの部分。オブジェクト構造の要素にマッピングする JSON 構造の要素を選択します。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

メタデータをキャプチャ

データタイプ：*Object*

ペイロードを作成したキャプチャ定義に関する情報を含むオブジェクト。

変更されたフィールド

データタイプ：*Dynamic Object*

フィールド値の変更に関する情報を含むオブジェクト。システムは、これらの変更を使用して相関レコードとローカルレコードを同期します。

添付メタデータ

データタイプ：*Array of Object*

同期する添付ファイルに関する情報を含むアレイ。

エラーメッセージ

データタイプ：*String*

アクションによって返されたエラー。

相関ステータスを更新アクション

指定された相関によるレコードの同期を有効または無効にします。レコードの同期を無効にするには、アクティブな相関を非アクティブに設定します。レコードの同期を再開にするには、非アクティブな相関をアクティブに設定します。

ロールと使用可用性

[ServiceNow コア] [リモートプロセス同期] アクションとして利用できます。

サブスクリプション要件

このアクションには、統合ハブ Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

ロール要件

このアクションには、委託開発によって付与されたロール、またはユーザーにアサインされたロールが必要です。詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

相関の詳細

データタイプ：*Object*

同期されるレコードに関する相関情報を含むオブジェクト。オブジェクトは、ローカルレコードに関連付けられたローカルおよびリモートの相関 ID を識別します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

状況

データタイプ：*Choice*

レコードの同期ステータス。使用可能なオプションは、[アクティブ] または [非アクティブ] です。アクティブなレコードは同期されています。非アクティブなレコードは同期されません。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

相関の詳細

データタイプ：*Object*

レコードに関する相関情報を含むオブジェクト。オブジェクトは、ローカルレコードに関連付けられたローカルおよびリモートの相関 ID を識別します。

ステータス

データタイプ：*Choice*

レコードの同期ステータス。使用可能なオプションは、[アクティブ] または [非アクティブ] です。アクティブなレコードは同期されています。非アクティブなレコードは同期されません。

エラー

データタイプ：*String*

アクションによって返されたエラー。

リモートプロセス同期のサンプルサブフロー

サンプルサブフローをコピーして設定し、複数のインスタンス間でプロセスを同期します。受信サブフローを使用して、受信レコードデータを解析します。送信サブフローを使用して、レコードデータをリモートインスタンスに送信します。

リモートプロセス同期には、テンプレートとして使用できるサンプルの受信および送信サブフローが用意されています。これらのサブフローにより、次のことが可能になります。

- リモートインスタンスからレコードデータを受信し、インシデントとして処理する
- インシデントレコードデータをリモートインスタンスに送信して処理する

リモートプロセス同期受信フローテンプレート - 基本

リモートインスタンスから受信した受信ペイロードを処理するためのサンプルのリモートプロセス同期サブフロー。このサブフローは、リモートレコードとローカルインシデントレコードの間に相関を作成します。このサブフローをコピーし、インシデントテーブルを参照するアクションを編集します。

ロールと使用可能性

[グローバル] [リモートプロセス同期] サブフローとして利用できます。

サブスクリプション要件

このアクションには、統合ハブ Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

ロール要件

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このアクションには、委託開発によって付与されたロール、またはユーザーにアサインされたロールが必要です。詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

完了待ち

データタイプ：*True/False*

親フローにサブフローの完了を待機するように要求するオプション。有効にすると、親フローはサブフローが完了するまで次のアクションに進むことができません。

リモートシステム

データタイプ：*Record*

プロセスを同期しているリモートインスタンスのプロセス同期リモートシステムレコードへの参照。このレコードは、送信同期の変更を受信するインスタンス、または受信同期の変更を送信したインスタンスを識別します。

リモート相関 ID

データタイプ：*String*

プロセスを同期しているリモートインスタンス上の相関のグローバル一意識別子。この ID は、送信トランザクションの相関を一意に識別します。

ローカル相関 ID

データタイプ：*String*

プロセスと同期するローカルインスタンス上の相関のグローバル一意識別子。この ID は、受信トランザクションの相関を一意に識別します。

プロセスイベント

データタイプ：*String*

実行するプロセスイベントの名前。名前は、プロセスの同期に参加する各インスタンスで同じです。例：case-to-incident

ペイロード

データタイプ：*String*

リモートインスタンスで生成された変更を含む JSON 文字列。たとえば、リモートインスタンスからのケースレコードのフィールド変更のリストなどです。システムは、ローカルインスタンスでこの JSON 文字列をオブジェクトに変換します。

CRUD 操作

データタイプ：*Choice*

プロセスイベントをトリガーしたデータベース操作。使用可能なオプションは、 [作成]、 [更新]、または [削除] です。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

エラーメッセージ

データタイプ：*String*

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクションによって返されたエラー。

ステータス

データタイプ：*Choice*

レコードの同期ステータス。使用可能なオプションは、[アクティブ] または [非アクティブ] です。アクティブなレコードは同期されています。非アクティブなレコードは同期されません。

リモートプロセス同期送信フローテンプレート - 基本

送信ペイロードをリモートインスタンスに送信するためのサンプルのリモートプロセス同期サブフロー。このサブフローは、リモートレコードとローカルインシデントレコードの間に相関を作成します。このサブフローをコピーし、選択したテーブルへのローカルレコードの入力を編集します。

ロールと使用可用性

[グローバル] [リモートプロセス同期] サブフローとして利用できます。

サブスクリプション要件

このアクションには、統合ハブ Enterprise サブスクリプションが必要です。詳細については、「統合ハブ を要求する」を参照してください。

ロール要件

このアクションには、委託開発によって付与されたロール、またはユーザーにアサインされたロールが必要です。詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

入力

アクションに必要な各入力の値を指定します。動的な値を追加するには、[データ] パネルからピルをドラッグするか、ピルピッカーから選択します。

完了待ち

データタイプ：*True/False*

親フローにサブフローの完了を待機するように要求するオプション。有効にすると、親フローはサブフローが完了するまで次のアクションに進むことができません。

ローカルレコード

データタイプ：*Record*

別のインスタンスと同期しているローカルインスタンス上のレコードへの参照。データピルには、指定されたレコードのすべてのフィールド値が含まれています。たとえば、ローカルインスタンス上のケースレコードなどです。

リモートシステム

データタイプ：*Record*

プロセスを同期しているリモートインスタンスのプロセス同期リモートシステムレコードへの参照。このレコードは、送信同期の変更を受信するインスタンス、または受信同期の変更を送信したインスタンスを識別します。

CRUD 操作

データタイプ：*Choice*

プロセスイベントをトリガーしたデータベース操作。使用可能なオプションは、 [作成]、 [更新]、または [削除] です。

トリガー/キャプチャ定義

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプ：*Record*

システムで送信ペイロードを作成するために使用されるキャプチャ定義レコードへの参照。データピルには、指定されたレコードのすべてのフィールド値が含まれています。たとえば、ケースレコードのキャプチャ定義などです。

プロセスイベント

データタイプ：*String*

実行するプロセスイベントの名前。名前は、プロセスの同期に参加する各インスタンスで同じです。例：case-to-incident

ペイロード

データタイプ：*Object*

キャプチャ定義によって生成された変更を含むオブジェクト。たとえば、ローカルインスタンス上のケースレコードのフィールド変更のリストなどです。システムは、このオブジェクトを JSON 文字列に変換してリモートインスタンスに送信します。

出力

これらの出力は [データ] パネルに表示されます。フローの他の場所で入力として使用できます。

ステータス

データタイプ：*Choice*

レコードの同期ステータス。使用可能なオプションは、[アクティブ] または [非アクティブ] です。アクティブなレコードは同期されています。非アクティブなレコードは同期されません。

エラーメッセージ

データタイプ：*String*

アクションによって返されたエラー。

相関

別々のインスタンスに存在するレコード間の同期関係を確立します。

相関は、ローカルインスタンスで使用するリモートインスタンスのレコードデータを識別します。データ連携では、相関リモートレコードのデータを使用してローカルレコードを更新できます。通常、統合はレコードを相互に関連付けて同期させ、レコードの変更がインスタンスにまたがって確実に伝播するようにします。

利用可能な相関には 2 つのタイプがあります。

- クラシック相関フィールド
- 統合ハブ 相関レコード

クラシック相関フィールド

統合ハブ リモートプロセス同期以前は、相関 ID フィールドを持つレコードタイプの限られたセットでのみ相関を作成できました。デフォルトでは、[相関 ID] フィールドは、構成アイテム、サービス、およびタスクの各レコードでのみ使用できます。[相関 ID] フィールドには、一致するリモートレコードのグローバルに一意な ID が格納されます。相関 ID は、ローカルレコードを更新するためにデータ値を使用する必要があるリモートレコードを識別します。たとえば、インシデントレコード INC100001 がリモートインスタンスの問題レコード PRB123456 に関連付けられているとします。リモート問題 PRB123456 のフィールドが変更されるたびに、システムは相関 ID を使用して、ローカルインシデント INC100001 が同じフィールド更新を受信することを識別します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

従来の相関では、ローカルシステムのレコードとリモートシステムのレコードの間に 1 対 1 の関係が作成されます。1 つのローカルレコードは、1 つのリモートレコードにのみ関連付けることができます。相関は、リモートシステムに関する情報も相関の現在のステータスに関する情報も提供しません。アドミニストレーターは、更新されるレコードから従来の相関を手動で管理します。

クラシック相関フィールドの例

Local Instance

Number	Short Description	State	Correlation ID
INC100001	Cannot connect to network	Work In Progress	sys_id of PRB123456

Remote Instance

Number	Short Description	State	Correlation ID
PRB123456	Cannot connect to network	Complete	sys_id of INC100001

統合ハブ 相関レコード

統合ハブ リモートプロセス同期は、専用の相関 [ih_sync_correlation] レコードの導入により、従来の相関の機能を拡張します。

相関レコードには、以下のフィールドが含まれています。

ローカル相関 ID

ローカルシステム上の相関を識別するグローバルに一意の ID。デフォルトでは、 統合ハブ リモートプロセス同期はこのフィールドに対して一意の sys_id 値を生成します。個別の sys_id は、ローカルレコードの変更によって相関が壊れるのを防ぐエイリアスとして機能します。統合ハブ リモートプロセス同期がこの ID 値をリモートシステムに送信すると、受信インスタンスはそれをリモート相関 ID として使用します。

リモート相関 ID

リモートシステム上の相関を識別するグローバルに一意の ID。デフォルトでは、 統合ハブ リモートプロセス同期はこのフィールドに対して一意の sys_id 値を生成します。個別の sys_id は、リモートコードの変更によって相関が壊れるのを防ぐエイリアスとして機能します。統合ハブ リモートプロセス同期がこの ID 値をリモートシステムに送信すると、受信インスタンスはそれをローカル相関 ID として使用します。

ローカルテーブル

相関によってレコードが作成または更新されるテーブル。統合ハブ リモートプロセス同期キャプチャ定義は、このテーブルのレコード変更を監視します。統合ハブ リモートプロセス同期では、このフィールドを使用してテーブル名で相関を検索します。

ローカルレコード

相関によって作成または更新されたレコード。このフィールドには、従来の相関の [相関 ID] フィールドと同じ値が格納されます。他のビジネスロジックがこのレコードに変更を加えても、その変更によって相関が上書きされることはありません。

リモートシステム

統合ハブ リモートプロセス同期がレコードの変更を送受信するリモートインスタンス。各相関レコードは、1 つのリモートインスタンスのみを参照できます。同じローカルレコードを複数のリモートシステムに同時に関連付けるために、複数の相関レコードを作成できます。

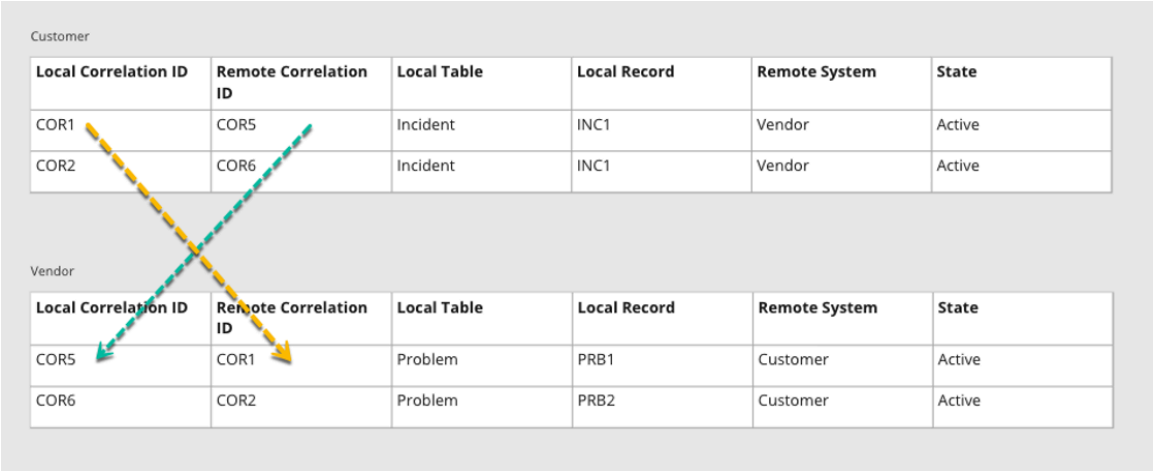
状況

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

相関の同期ステータス。アクティブな相関は、追加と更新を受け取ります。非アクティブな相関は追加や更新を生成しませんが、監査目的でクエリし、必要に応じて再アクティブ化することができます。

危険: 統合ハブ リモートプロセス同期はユーザーの代わりに相関レコードを管理します。相関レコードを直接編集すると、レコードの同期が妨げられ、データが失われる可能性があります。

統合ハブ 相関レコードの例



相関レコードには、単一の相関フィールドに比べていくつかの利点があります。

- リモートプロセス同期による相関の管理を許可する
- 相関に関連付けられているリモートシステムを識別する
- ローカルシステムとリモートシステムに別々の相関 ID 値を指定する
- 単一のローカルレコードと複数のリモートシステムとの相関を許可する
- 必要に応じて相関の非アクティブ化と再アクティブ化を許可する
- 相関 ID 値をリモートレコードの sys_id と区別できるようにする

リモートプロセス同期システムのプロパティ

プロセス指向のマルチインスタンスデータ連携を管理する方法については、リモートプロセス同期のシステムプロパティのリストを参照してください。

リモートプロセス同期システムのプロパティを設定するには、**[IntegrationHub]** > [リモートプロセス同期] > [プロパティ] に移動するか、システムプロパティ [sys_properties] テーブルで設定します。

システムのプロパティ	説明
glide.hub.process.sync.jobs.outbound.context_reporting	`true` に設定されている場合、送信スケジュール済みジョブでは、 • クイック API の代わりに標準 *FlowAPI* を使用します (デフォルト) • フローコンテキストを送信キューに書き込みます

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムのプロパティ	説明
	• 送信レコードを送信キューの状況 [ih_sync_outbound_record] テーブルに書き込みます • デフォルト値：`false` • 最小値：適用外 • 最大値：適用外
glide.hub.process.sync.jobs.inbound.context_reporting	`true` に設定されている場合、受信スケジュール済みジョブでは、 • クイック API の代わりに標準 *`FlowAPI`* を使用します (デフォルト) • フローコンテキストを受信キューに書き込みます • 受信レコードを受信レコード [ih_sync_inbound_record] テーブルに書き込みます • デフォルト値：`false` • 最小値：適用外 • 最大値：適用外
glide.hub.process.sync.jobs.outbound.process_maxtime	送信スケジュール済みジョブがタイムアウトするまでに実行される最大時間 (秒)。 • デフォルト値：`300` • 最小値：`60` • 最大値：`1800`
glide.hub.process.sync.jobs.inbound.process_maxtime	受信スケジュール済みジョブがタイムアウトするまでに実行される最大時間 (秒)。 • デフォルト値：`300` • 最小値：`60` • 最大値：`1800`
glide.hub.process.sync.jobs.outbound.subflow.execution_timeout	送信サブフローがタイムアウトするまでに実行される時間 (ミリ秒)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムのプロパティ	説明
	• デフォルト値：30000 • 最小値：なし • 最大値：なし
glide.hub.process.sync.jobs.inbound.subflow.execution_timeout	受信サブフローがタイムアウトするまでに実行される時間 (ミリ秒)。 • デフォルト値：30000 • 最小値：なし • 最大値：なし
glide.hub.process.sync.retry.time	キューの状態をエラーに設定する前に送信または受信キューの処理を再試行する回数。 • デフォルト値：3 • 最小値：0 • 最大値：10
glide.hub.process.sync.retry.interval.seconds	送信または受信キューの処理を再試行する間隔 (秒)。 • デフォルト値：60 • 最小値：0 • 最大値：300
glide.hub.process.sync.debug	true に設定すると、リモートプロセス同期テーブルの [システムログ] > [システムログ] > [すべて]にログエントリが作成されます。 • デフォルト値：false • 最小値：適用外 • 最大値：適用外
glide.hub.process.sync.record.successful.status	true に設定すると、キュー内のレコードの処理中にエラーがない場合、送信キューの [ステータス] フィールドが [成功] に更新されます。 • デフォルト値：false • 最小値：適用外 • 最大値：適用外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムのプロパティ	説明
glide.hub.process_sync.inbound_queue.error.ttl.seconds	エラーステータスのレコードが、期限切れになるまでに受信キューに存在できる秒数。システムは、期限切れのレコードを 1 日に 1 回キューから消去します。 **重要:** エラーステータスのレコードは処理されていません。プロセス定義とその関連レコードを確認して修正します。受信キューのレコードを再処理するには、ステータスを [準備完了] に設定します。これらのレコードを無視するには、状態を [スキップ] に設定します。 • デフォルト値：`2592000` (30 日) • 最小値：`0` • 最大値：`5184000` (60 日)
glide.hub.process_sync.inbound_queue.processed.ttl.seconds	エラーステータスのレコードが、期限切れになるまでに受信キューに存在できる秒数。システムは、期限切れのレコードを 1 日に 1 回キューから消去します。 • デフォルト値：`604800` (7 日) • 最小値：`0` • 最大値：`5184000` (60 日)
glide.hub.process_sync.inbound_queue.ready.ttl.seconds	処理済みステータスのレコードが、期限切れになるまでに受信キューに存在できる秒数。システムは、期限切れのレコードを 1 日に 1 回キューから消去します。 **重要:** 準備完了ステータスのレコードは処理されていません。システムバッチサイズ設定を確認して、期限切れになる前にすべての受信レコードを処理できることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムのプロパティ	説明
	• デフォルト値：2592000 (30 日) • 最小値：0 • 最大値：5184000 (60 日)
glide.hub.process_sync.inbound_queue.skipped.ttl.seconds	スキップステータスのレコードが、期限切れになるまでに受信キューに存在できる秒数。システムは、期限切れのレコードを 1 日に 1 回キューから消去します。 **重要:** スキップステータスのレコードは処理されません。プロセス定義とその関連レコードを確認して修正します。受信キューのレコードを再処理するには、ステータスを [準備完了] に設定します。これらのレコードを無視するには、ステータスを [スキップ] のままにしておきます。 • デフォルト値：604800 (7 日) • 最小値：0 • 最大値：5184000 (60 日)
glide.hub.process_sync.inbound_queue.table_cleaner_batch_size	期限切れレコードを消去するときにバッチごとに処理する受信キューレコードの数。 • デフォルト値：10000 • 最小値：1000 • 最大値：500000
glide.hub.process_sync.outbound_queue.error.ttl.seconds	エラーステータスのレコードが、期限切れになるまでに送信キューに存在できる秒数。システムは、期限切れのレコードを 1 日に 1 回キューから消去します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムのプロパティ	説明
	重要: エラーステータスのレコードは処理されていません。プロセス定義とその関連レコードを確認して修正します。送信キューのレコードを再処理するには、ステータスを [準備完了] に設定します。これらのレコードを無視するには、状態を [スキップ] に設定します。 • デフォルト値：`2592000` (30 日) • 最小値：`0` • 最大値：`5184000` (60 日)
glide.hub.process_sync.outbound_queue.processed.ttl.seconds	エラーステータスのレコードが、期限切れになるまでに送信キューに存在できる秒数。システムは、期限切れのレコードを 1 日に 1 回キューから消去します。 • デフォルト値：`604800` (7 日) • 最小値：`0` • 最大値：`5184000` (60 日)
glide.hub.process_sync.outbound_queue.ready.ttl.seconds	処理済みステータスのレコードが、期限切れになるまでに送信キューに存在できる秒数。システムは、期限切れのレコードを 1 日に 1 回キューから消去します。 **重要:** 準備完了ステータスのレコードは処理されていません。システムバッチサイズ設定を確認して、期限切れになる前にすべての送信レコードが処理できることを確認します。 • デフォルト値：`2592000` (30 日) • 最小値：`0` • 最大値：`5184000` (60 日)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムのプロパティ	説明
glide.hub.process_sync.outbound_queue.skipped.ttl.seconds	スキップステータスのレコードが、期限切れになるまでに送信キューに存在できる秒数。システムは、期限切れのレコードを 1 日に 1 回キューから消去します。 **重要:** スキップステータスのレコードは処理されません。プロセス定義とその関連レコードを確認して修正します。送信キューのレコードを再処理するには、ステータスを [準備完了] に設定します。これらのレコードを無視するには、ステータスを [スキップ] のままにしておきます。 • デフォルト値：`604800` (7 日) • 最小値：`0` • 最大値：`5184000` (60 日)
glide.hub.process_sync.outbound_queue.table_cleaner_batch_size	期限切れレコードを消去するときにバッチごとに処理する送信キューレコードの数。 • デフォルト値：`10000` • 最小値：`1000` • 最大値：`500000`

ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub

ServiceNow® ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub を使用して、組織のエンドツーエンドの自動化を有効にします。UI インタラクション、およびさまざまなビジネスアプリケーション間でやり取りする要素ベースの自動化を組み合わせて使用することで、ユーザーアクションをエミュレートし、日常の反復的な人的アクティビティをなくすことができます。

RPA ハブ の概要の詳細については、このビデオをご覧ください。

RPA Hub の概要

RPA デスクトップデザインスタジオ の自動化コンポーネントを使用してワークフローを設定する方法については、このビデオをご覧ください。

RPA ハブの使用を開始する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

servicenow

開始するには

詳細	参照
ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub の概念と機能について説明します。	ロボティックプロセス自動化 用語集やトラブルシューティング情報などの (RPA) Hub の詳細を取得します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

Now Assist for RPA ハブ

Now Assist for RPA ハブ アプリケーションを使用して、自動化開発プロセスを変革します。テキストの指示とプレビューオプションから、自動化、アクティビティ、また追加の自動化ロジックを作成することができます。詳細については、「Now Assist for RPA ハブ」を参照してください。

役に立つリソース

- ロボティックプロセスオートメーション (RPA) ハブアプリケーションに関する問題のトラブルシューティング
- コミュニティフォーラムで質問や回答をする
- 開発者ドキュメント
- 連絡先カスタマーサービス & サポート
- ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub 用語集
- RPA の一般的なガイドライン

ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub の詳細

ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub アプリケーション、自動化のタイプ、メリット、アーキテクチャの概要、およびワークフローについて説明します。

ロボティックプロセス自動化 (RPA) ハブの概要

次のロボティックプロセス自動化 (RPA) アプリケーションはエンタープライズ環境で動作および相互作用して、タスクを効率的に自動化します。

RPA ハブ

ServiceNow® RPA ハブアプリケーションは、エンタープライズレベルですべてのロボットのコンプライアンスを展開、監視、管理、測定、および検証するための一元化されたオーケストレーションを提供します。

無人ロボット

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow® 無人ロボット は、Windows マシンにインストールするソフトウェアエージェントです。無人ロボット は人の介在なしで無人の自動化を実行します。

ServiceNow® 無人ロボット ログインエージェントは、無人ロボット とともに Windows マシンにインストールするソフトウェアエージェントです。このアプリケーションを使用して、無人のボットプロセスがトリガーされたときに、ロック解除したり、ロボットマシンへのセルフログインを実行したりすることができます。

アテンド型ロボット

ServiceNow® アテンド型ロボット は Windows マシンにインストールするソフトウェアエージェントです。アテンド型ロボット は人の介在が必要な有人自動化を実行できます。

RPA デスクトップデザインスタジオ

ServiceNow® RPA デスクトップデザインスタジオ は、RPA 開発者が自動化ワークフローを設計または構成するための Windows ネイティブアプリケーションです。

自動化のタイプ

RPA デスクトップデザインスタジオで 2 つのタイプの自動化を作成し、無人ロボットまたは アテンド型ロボットでそれらを実行できます。

無人の自動化

この自動化では、タスク、プロセス、またはワークフローは、人間の直接の介入や監督を必要とせずに、ロボットによって実行されます。このタイプの自動化を使用して、繰り返しの多いタスクを自動化できます。

たとえば、レポートの生成などです。このユースケースでは、レポートが自動的に生成され、関連するステークホルダーに配布されます。

無人の自動化により、組織の効率が大幅に向上し、運用コストが削減され、精度が向上します。

有人の自動化

ヒューマンアシストオートメーションとも呼ばれます。この自動化では、ロボットは人間のユーザーと協力してタスクとアクティビティを強化します。このタイプの自動化は人の監督下で使用できます。

たとえば、カスタマーサービスなどです。このユースケースでは、ロボットは、関連情報を提供し、応答を提案し、データ入力を自動化することで、カスタマーサービス担当者を支援できます。ロボットはオペレーターのワークステーションにインストールされ、人間のオペレーターがオンデマンドでトリガーします。

有人自動化は、多くの場合、複雑なタスク、動的なタスク、または非標準のタスクを処理するために自動化と人間の判断の組み合わせが必要なシナリオに適しています。

ロボティックプロセス自動化 **(RPA)** ハブユーザー

ロボティックプロセス自動化 **(RPA)** ハブユーザー

ユーザー	説明
リリースマネージャー	RPA ハブでボットプロセスとロボットを作成します。ボットプロセスをカスタマイズできるように、ボットプロセスの [管理担当者グループ] に開発者を追加します。ボットプロセスを構成して公開します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロボティックプロセス自動化 **(RPA)** ハブユーザー (続く)

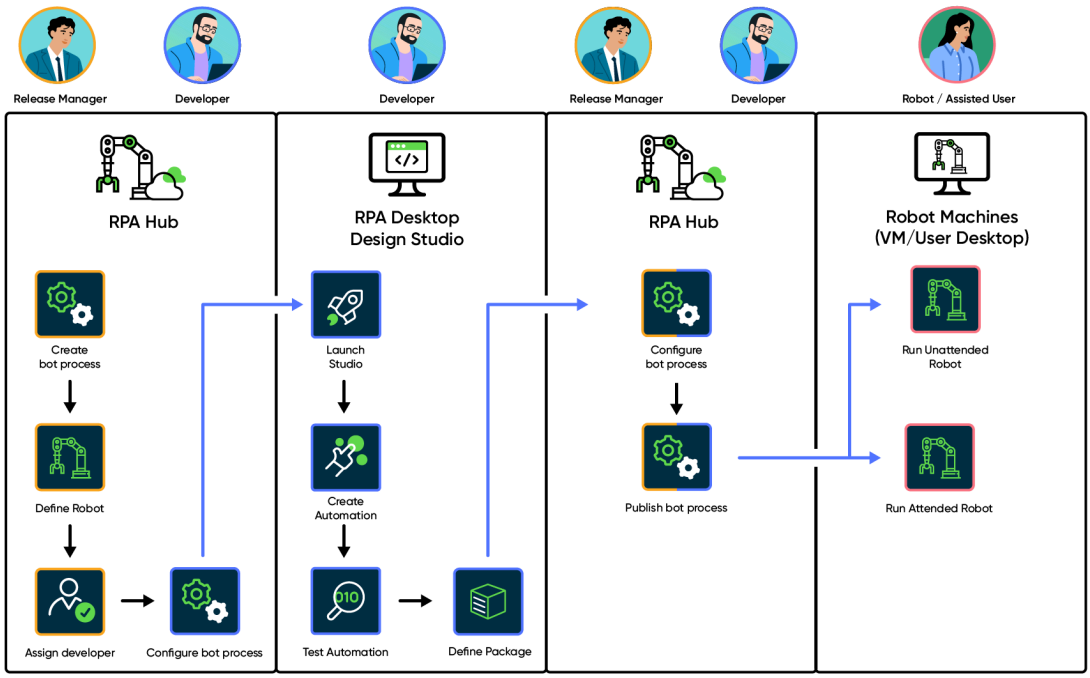
ユーザー	説明
開発者	ビジネスアプリケーション、ロボット、認証情報、プロセスパラメーター、スケジュールなどをアサインするためのボットプロセスを構成します。RPA デスクトップデザインスタジオで自動化パッケージをビルドし、自動化プロジェクトをテストして、例外を処理します。パッケージを RPA ハブに公開します。ローコード環境で自動化を作成して展開します。
ロボットユーザー/支援ユーザー	指定されたロボットマシンで自動化を実行します。

ロボティックプロセス自動化 **(RPA)** ハブワークフロー

プロセスワークフローの 3 つの主要な部分は、RPA ハブ、RPA デスクトップデザインスタジオ、およびロボットマシン (仮想マシンまたはユーザーデスクトップ) です。

次の図に、ロボティックプロセス自動化 (RPA) ハブアプリケーションのプロセスワークフローを示します。

ロボティックプロセス自動化 **(RPA)** ハブアプリケーションを使用して自動化を作成および実行するワークフロー



1. リリースマネージャーは、ボットプロセスを作成し、ロボットを定義して、ボットプロセスの構成を続行する開発者をアサインします。
2. 開発者は、パッケージ、ビジネスアプリケーション、ロボット、パラメーター、認証情報を関連付けるようにボットプロセスを構成し、ロボットがそれらを使用して自動化を実行できるようにします。
3. 開発者は、RPA デスクトップデザインスタジオで自動化パッケージをビルドし、自動化プロジェクトをテストして、例外を処理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 開発者は、構成済みのボットプロセスを公開して、自動化を実行、管理、監視します。
5. ロボットユーザーまたは支援ユーザーは、アテンド型ロボットまたは 無人ロボットがインストールされている指定された Windows マシンで自動化を実行します。

RPA ハブのメリット

- 生産性と運用効率が向上します。
- 処理エラーをなくして、精度を高めます。
- カスタマーサービスを強化し、お客様の非常に多様なデマンドに対応します。

ワークフロースタジオ との統合

ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub は ワークフロースタジオ アプリケーションとの統合を提供します。この統合により、ワークフロースタジオ 対応の ServiceNow コンポーネントを使用して、ServiceNow ワークフローを ロボティックプロセス自動化 と統合できます。RPA ハブ アクションとサブフローの詳細については、「RPA ハブのアクションとサブフロー」を参照してください。

キー管理フレームワーク

RPA ハブ は、アプリケーションに保存されているすべての機密データに対して ServiceNow® キー管理フレームワークを使用します。詳細については、「キー管理フレームワークの理解」を参照してください。

RPA ハブ を Yokohama にアップグレードする際の重要な情報

RPA アプリケーションをダウンロードして、現在インストールされている Microsoft ソフトウェアインストーラー (MSI) (RPA デスクトップデザインスタジオ、アテンド型ロボット、無人ロボット、無人ロボット ログインエージェント) をアップグレードしてください。詳細については、「RPA ハブからの RPA アプリケーションのダウンロード」を参照してください。

重要: 次のアップグレード手順は、San Diego または Tokyo から Yokohama にアップグレードする場合にのみ適用されます。

アプリケーションファイルテーブルのレコード数に基づいて、RPA ハブ アプリケーションを Tokyo 以前から Yokohama にアップグレードする際に遅延が発生する可能性があります。

RPA ハブ を Yokohama にアップグレードする前に、*glide.rollback.blacklist.TableParentChange.change* システムプロパティの値を **[false]** に設定する必要があります。このプロパティがシステムプロパティ [sys_properties] テーブルに存在しない場合は、プロパティを追加 し、その値を false に設定します。

Yokohama にアップグレードすると、ボットプロセス定義は新しい構造、つまりボットプロセス構成に変更されます。ただし、ボットプロセス構成がボットプロセスを完全に置き換えるわけではありません。ほとんどのフィールドがボットプロセスからボットプロセス構成に移動されます。

システムプロパティ値を更新せずに Utah バージョンにアップグレードすると、テーブルは [アプリケーションファイル] テーブルを拡張しません。テーブルの変更を手動で更新するには、Now Support ナレッジベースの記事「Restructuring RPA Hub tables to sys_metadata in Utah (Utah の sys_metadata への RPA Hub テーブルの再ビルド)」を参照してください。

次に探索する内容

ロボティックプロセス自動化 の構成の詳細については、以下を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

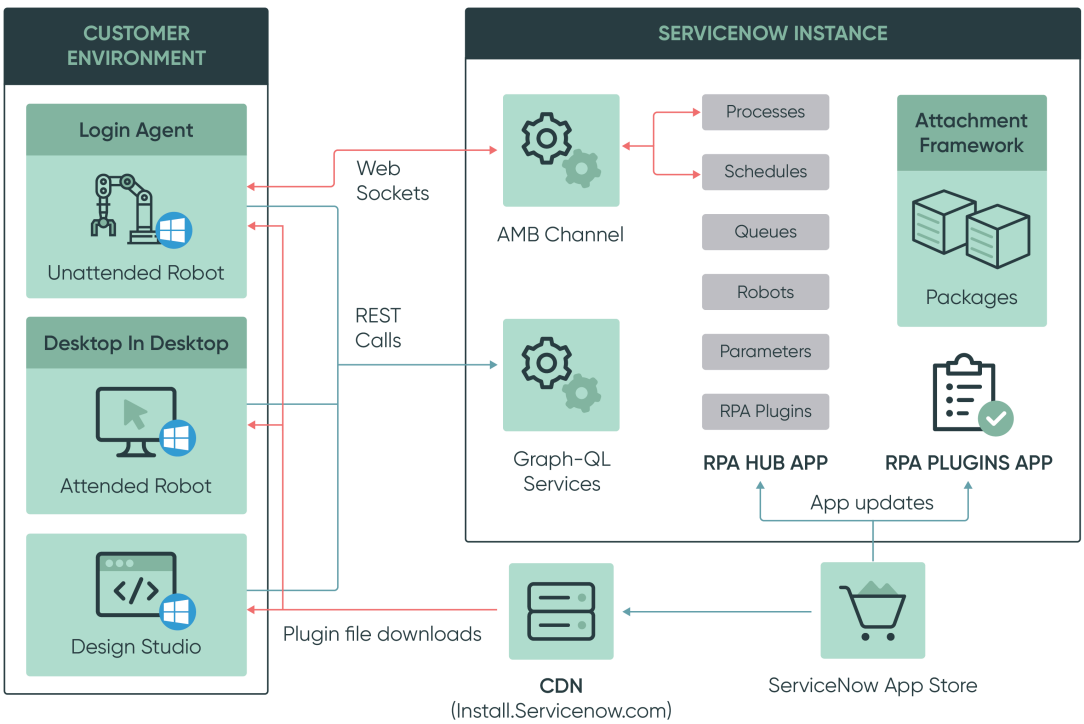
- RPA ハブ
- 無人ロボット
- アテンド型ロボット
- Now Assist for RPA ハブ
- RPA デスクトップデザインスタジオ
- ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub の参照

RPA ハブ アーキテクチャ

ロボティックプロセス自動化 (RPA) ハブのアーキテクチャについて説明します。

次の図は、ServiceNow インスタンスがお客様の環境と通信する方法を示しています。

ロボティックプロセス自動化 **(RPA) Hub** アプリケーションのアーキテクチャの概要



ServiceNow, the ServiceNow logo, Now, Now Platform, and other ServiceNow marks are trademarks and/or registered trademarks of ServiceNow, Inc. in the United States and/or other countries.
Other company names, product names, and logos may be trademarks of the respective companies with which they are associated.

ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub アプリケーションのアーキテクチャは、さまざまなコンポーネントで構成されています。

- RPA デスクトップデザインスタジオ、無人ロボット、および アテンド型ロボット は、インストールしてお客様の環境を形成する 3 つのアプリケーションです。
- 無人ロボット ログインエージェントは、無人ロボット とともに Windows マシンにインストールするソフトウェアエージェントです。このアプリケーションを使用して、無人のボットプロセスがトリガーされたときに、ロック解除したり、ロボットマシンへのセルフログインを実行したりすることができます。
- 無人ロボットは、人の介在なしで独立して動作します。無人ロボットは、Windows マシンまたは仮想デスクトップインフラストラクチャ (VDI) にインストールされます。たとえば、無人ロボットを作成するには、ロボットがインストールされているマシン名をメンションする必要があります。自動化はここから実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アテンド型ロボットは、人と協調してボットプロセスの効率を向上させます。アテンド型ロボットは、ユーザーのデスクトップにインストールされます。
- RPA デスクトップデザインスタジオ で自動化がビルドされた後、開発者はそれをローカルでテストしてから、さらにオーケストレーションするために ServiceNow® RPA ハブ インスタンスに公開します。
- RPA ハブ は ServiceNow インスタンス内のスコープ対象のアプリケーションです。これは、ロボット、パッケージ、およびボットプロセスを管理するためのコマンドアンドコントロールセンターです。これらの用語の詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub 用語集」を参照してください。
- RPA デスクトップデザインスタジオ からアップロードされた自動化は、ビルドリポジトリとしても機能するパッケージセクションの下に存在します。
- RPA ハブ アプリケーションとプラグインは ServiceNow Store からインストールできます。ServiceNow Store は、コンテンツ配信ネットワーク (CDN) で更新をチェックします。RPA プラグインは、自動化を作成するための構成要素を形成します。プラグインファイルは、CDN アプリケーション経由で、RPA デスクトップデザインスタジオ、無人ロボット、および アテンド型ロボット に展開されます。プラグインのインベントリは RPA プラグイン内で維持されます。
- ボットプロセスレコードでは、ロボットが特定のタスクを実行するために従う一連のアクションをスケジュールとともに定義します。この情報はロボットに渡されます。自動化がトリガーされると、自動化が実行されます。
- RPA ハブ アプリケーションでは、キューなどの追加機能です。キューは、さまざまな処理用ロボットへのタスク、作業アイテム、またはケースの配布を管理および制御するために使用される、構造化されたデータストレージメカニズムです。
- スコープ対象のアプリケーション全体は、アクセス制御リスト (ACL) で保護されます。

RPA ハブ

ServiceNow® ロボティックプロセス自動化 Hub (RPA ハブ) は、ロボットの労働力をオーケストレーションおよび管理して、さまざまなビジネスプロセスを効率的に実行するための強力なプラットフォームです。

開始するには

探索	構成	使用
RPA ハブの概念と機能について学びます。	RPA ハブをインストールしてセットアップします。	ボットプロセス、ロボット、パッケージ、キュー、アラートルール、およびパラメーターを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

管理	参照	
ボットプロセス、パッケージ、およびロボットを実行、公開、廃止します。	フィールド、テーブル、プロパティなどの RPA ハブ コンポーネントの詳細情報を取得します。	

役に立つリソース

- ロボティックプロセスオートメーション (RPA) ハブアプリケーションに関する問題のトラブルシューティング
- コミュニティフォーラムで質問や回答をする
- 開発者ドキュメント
- 連絡先カスタマーサービス & サポート
- ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub 用語集
- RPA の一般的なガイドライン

RPA ハブ の概要

デジタルワークフォースを統制、管理、監督するための RPA ハブ の機能について説明します。

RPA ハブの概要

RPA ハブ は、自動化プロセスを簡素化し、効率を高め、自動化イニシアチブを効果的に監視および最適化するために使用します。

マルチテナントを使用すると、論理パーティションを作成して、さまざまな顧客 (内部または外部) のロボット (無人および有人) を単一のインスタンスから効果的に管理できます。各論理インスタンスには、独自のアクセス制御リスト (ACL)、ロボット、ライセンス、および実行ログがあります。

RPA ハブユーザー

ユーザー

ユーザー	説明
リリースマネージャー	RPA ハブでボットプロセスとロボットを作成します。ボットプロセスをカスタマイズできるように、ボットプロセスの [管理担当者グループ] に開発者を追加します。ボットプロセスを構成して公開します。
開発者	ビジネスアプリケーション、ロボット、認証情報、プロセスパラメーター、スケジュールなどをアサインするためのボットプロセスを構成します。ローコード環境で自動化を作成して展開します。データ、スケジュール、作業アイテム、およびその他の設定パラメーターを管理します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

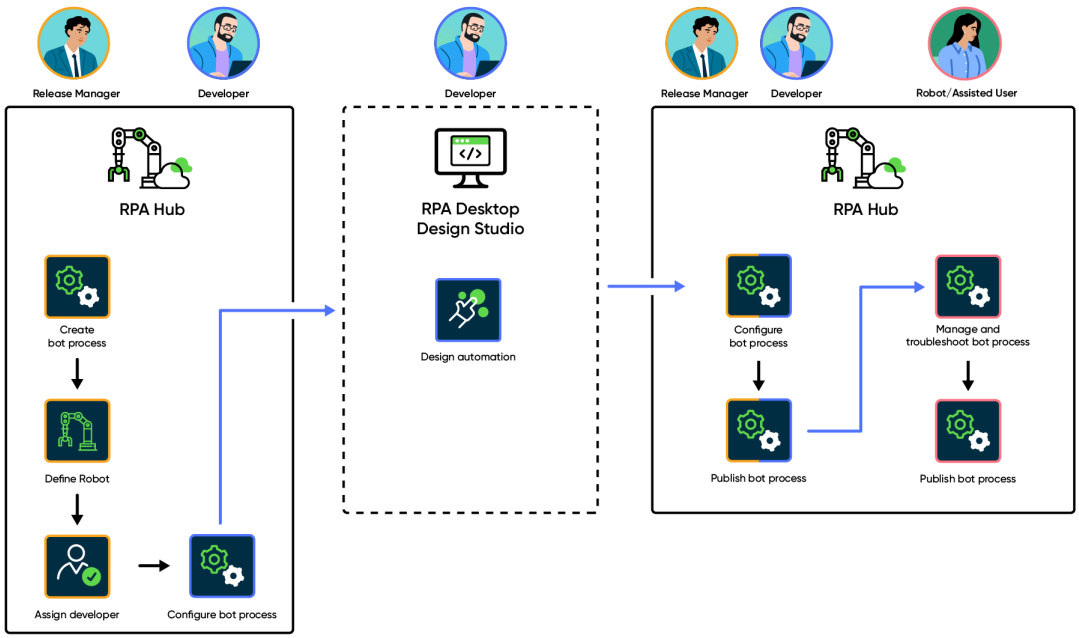
ユーザー (続く)

ユーザー	説明
サポートユーザー	ボットプロセスに関連する問題を特定、診断、解決します。第 1 レベルのトラブルシューティングを実行します。ボットプロセスを公開および管理します。

RPA ハブのワークフロー

次の図は、RPA ハブを使用した有人または無人の自動化の作成に関連する基本的なタスクを示しています。詳細な手順については、「RPA ハブ の構成」を参照してください。

RPA ハブを使用した自動化の作成



1. リリースマネージャーが、ボットプロセスを作成し、ロボットを定義します。開発者がボットプロセスの構成を続行できるように、ボットプロセスの [管理担当者グループ] に開発者を追加します。
2. 開発者は、パッケージ、ビジネスアプリケーション、ロボット、パラメーター、認証情報を関連付けるようにボットプロセスを構成し、ロボットがそれらを使用して自動化を実行できるようにします。
3. 開発者は、RPA デスクトップデザインスタジオで自動化パッケージをビルドし、自動化プロジェクトをテストして、例外を処理します。
4. 開発者は、構成済みのボットプロセスを公開して、自動化を実行、管理、監視します。
5. サポートユーザーは、ボットプロセスの問題を診断、トラブルシューティング、解決してから、ボットプロセスを公開します。

RPA ハブのメリット

- 一元的な場所から、エンタープライズレベルですべてのロボットの展開、監視、管理、および検証を行うことができます。
- ロボット、パッケージ、ボットプロセス、キュー、スケジュール、共有パラメーター、アラートなどのメタデータを管理します。これらの用語の詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub 用語集」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 実行の詳細に基づいて無人ロボットをトリガーします。
- ダッシュボードで、すべての ロボティックプロセス自動化 (RPA) プラクティスに関するインサイトを提供します。このダッシュボードから、現在の実行状況 (ジョブとキュー) とさまざまな構成アイテム間のイベント相関を確認できます。

次に探索する内容

RPA ハブ の設定と管理の詳細については、以下を参照してください。

- RPA ハブ の構成
- RPA ハブの使用
- RPA ハブ に関する参照情報

関連情報

RPA ハブ のインターナショナリゼーションサポート

RPA ハブ テーブルの再ビルド

RPA ハブ での下位環境から上位環境へのデータの移行

クライアント認証とコード署名証明書の取得

CSDM ガイドラインをRPA ハブに適用する

ドメインセパレーションと ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub

RPA ハブ でのボットプロセス構成の移行

RPA ハブ のインターナショナリゼーションサポート

Now Platform と共に言語プラグインを使用して、国際ユーザー向けに RPA ハブ アプリケーションをカスタマイズできます。インターナショナリゼーションは Now Platform の RPA ハブ インスタンスに対してのみ有効になり、RPA デスクトップデザインスタジオ、無人ロボット、アテンド型ロボット などのシッククライアントアプリケーションに対しては有効になりません。

インターナショナリゼーションのサポートは自動的に有効になり、構成することはできません。

Now Platform プラグインとして提供され、RPA ハブ でサポートされている言語の完全なリストを表示するには、「言語を有効にする」を参照してください。

RPA ハブ ワークスペース

RPA ハブ ワークスペースからすべてを管理できるデジタルワークフォースについて学びます。

RPA ハブ ワークスペースの概要

ServiceNow® RPA ハブ ワークスペースは、進行中のビジネスプロセスを実行する ServiceNow ロボットの調整に役立つ Web ベースのプラットフォームです。環境内でアテンド型ロボットおよび無人ロボットを使用して、デジタルワークフォースを作成、監視、管理、および展開できます。

RPA ハブ は RPA ハブ ワークスペースのデフォルトのランディングページです。このページには、次の 2 つの方法でアクセスできます。

- [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA　ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動し、ホームアイコン ( ) を選択します。
- [ワークスペース] > **[RPA Hub ワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。

このページには、デジタルワークフォースを管理するために使用できる次の基本的なスコアカードやリスト、レポートに関する説明が含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセスのサマリ

ボットプロセスまたはロボットを含むインシデントレコードの縦棒グラフ。[インサイト] セクションで、ロボット状況のドーナツグラフ形式のレポートを表示します。ロボット、ボットプロセス、およびボットプロセスに関連するビジネスアプリケーションに関連付けられた変更レコードの概要も表示することができます。

[ロボットの使用率] セクション

一定期間に最も使用率の高い、および最も使用率の低い無人ロボットとアテンド型ロボットのグラフの凡例。

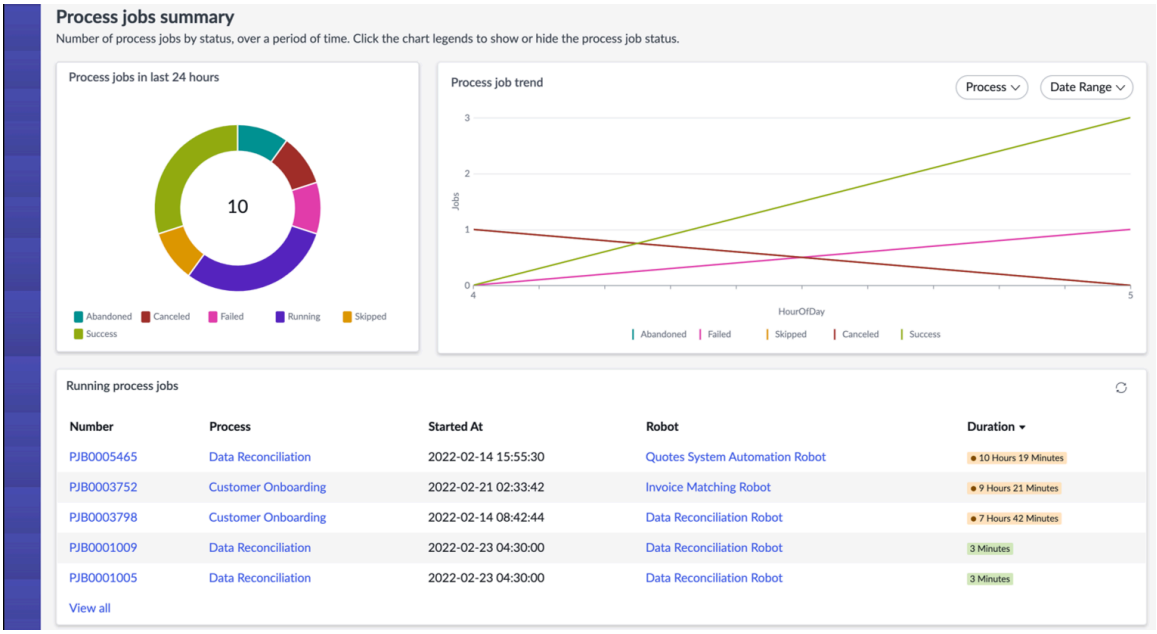
処理ジョブのサマリー

過去 24 時間のステータス別のプロセスジョブのドーナツレポート。たとえば、放棄、キャンセル、失敗、実行中、スキップ、成功などです。

一定期間におけるステータス別のプロセスジョブの傾向を示すスプラインレポート。スプラインレポートは、一連の既知のデータ ポイントを曲線で結び、1 つ以上の値がどのように変化するかを示して、個々のデータ ポイントの傾向を強調します。

現在実行中のプロセスジョブのリスト。

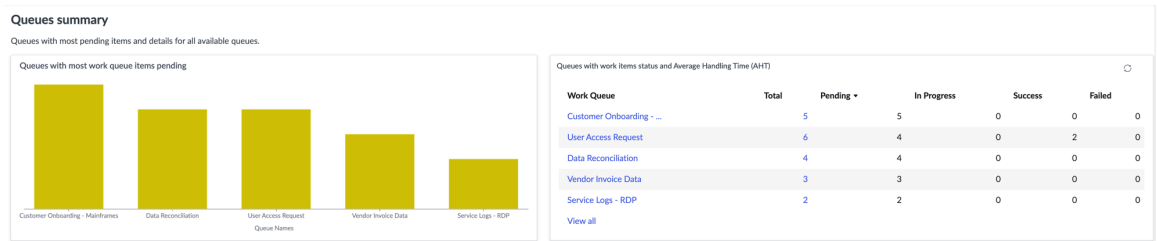
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



キューのサマリ

ほとんどの作業アイテムが処理待ちのキュー、作業アイテムのステータス、および平均処理時間 (AHT) の垂直棒グラフレポート。

作業アイテムのステータスが含まれるキューのリストです。



過去 7 日間の上位 5 つのビジネスアプリケーション

過去 7 日間の ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボットプロセスで使用された上位 5 つのビジネスアプリケーションの縦棒グラフレポート。

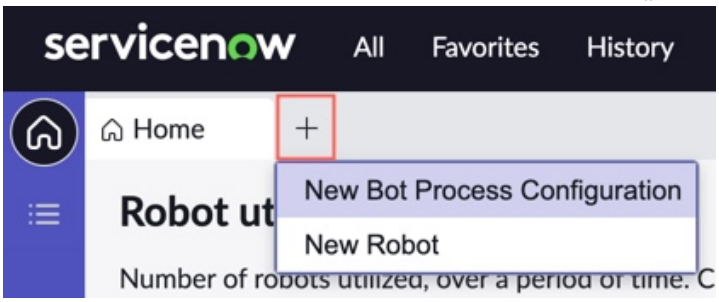
ライセンスの使用状況

無人ロボットとアテンド型ロボットのライセンス使用率の半ドーナツレポート。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プラスアイコン ( ) を選択すると、ボットプロセスレコードを構成し、ロボットを作成できます。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」と「RPA ハブ でのロボットの作成」を参照してください。

ランディングページからのボットプロセスレコードの構成とロボットの作成

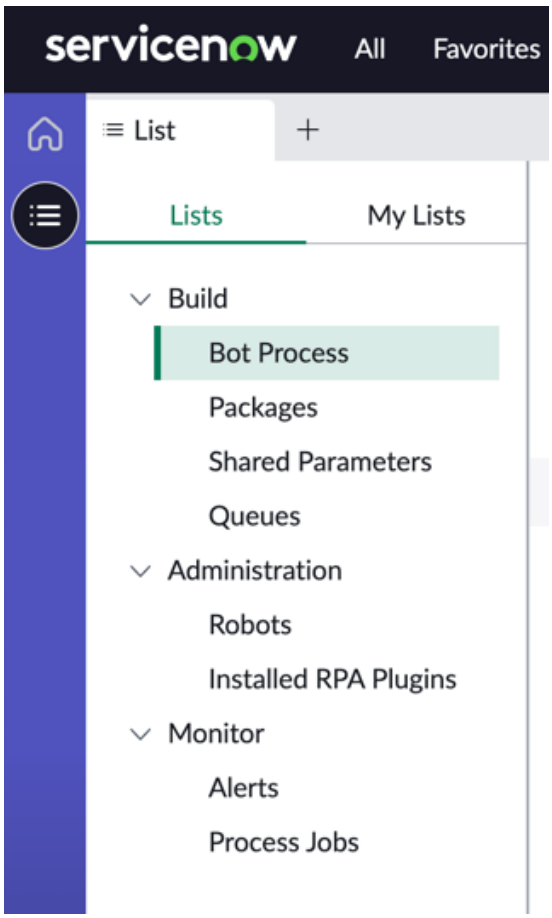


リストビュー

リストアイコン ( ) から、ボットプロセスレコードの構成と、パッケージ、共有パラメーター、キュー、およびロボットの作成を行えます。インストールされている RPA プラグイン、アラート、およびプロセスジョブを表示することもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

リストビュー



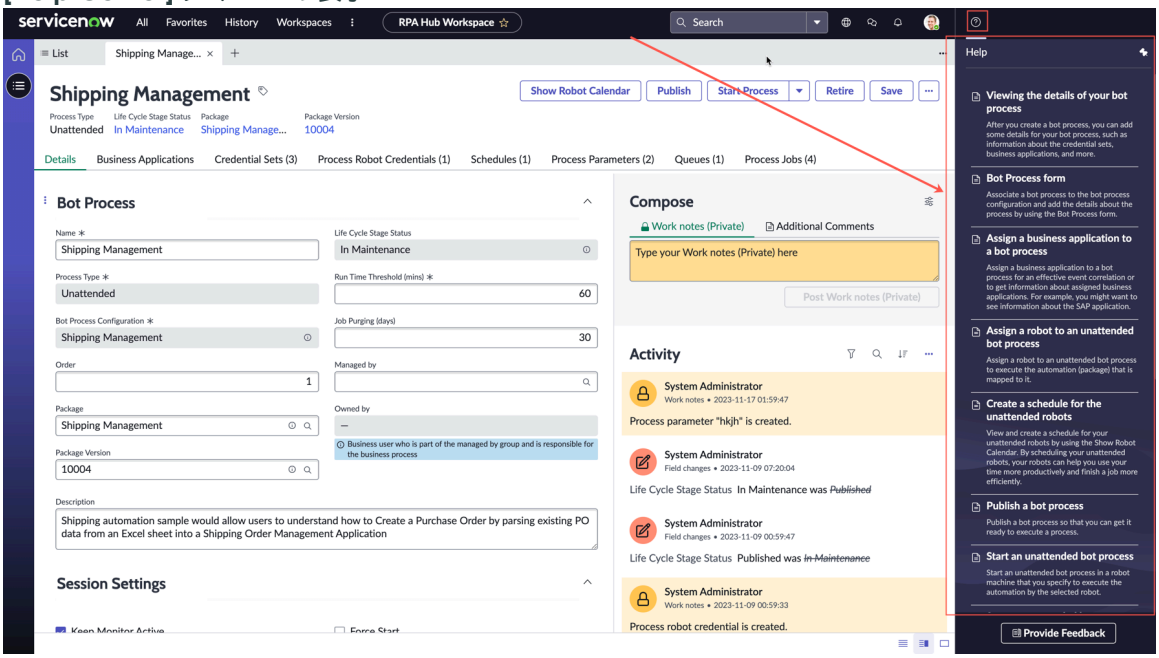
フィルタリングした独自のリストを作成し、[自分のリスト] を構成することで、デジタルワークフォースを監視することもできます。これらのリストは自分だけに表示されます。詳細については、「Create My Lists in Workspace (ワークスペースでの自分のリストの作成)」を参照してください。

Help Center

ヘルプセンター は、必要な情報をユーザーに提供し、ユーザーが構成可能ワークスペースを使用中に実行できることをユーザーに伝えます。ヘルプセンター のコンテンツは、ユーザーがヘルプアイコンをクリックすると右側のサイドバーに表示されます。現在の UI ページに ヘルプセンター のコンテンツが存在する場合、ヘルプアイコンにインジケーター ( ) が表示されます。ヘルプセンター では 、同じページの複数のヘルプトピックを使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[Help Center] アイコンの表示



ダークテーマ

RPA ハブ ランディングページ、ロボットカレンダー、概要ページ、および RPA ハブ システムプロパティの RPA ハブ ワークスペースで利用可能なダークテーマまたはモードに切り替えることにより、目の疲れを軽減することができます。ダークテーマの詳細については、「Next Experience でのテーマの探索」を参照してください。

RPA ハブ でのライセンスの配布

アドミニストレーターは、ロボットライセンスの配布レコードを作成して、組織内のライセンスの消費と配布を定義できます。ドメインセパレーションインスタンスで、ドメインごとに 1 件のロボットライセンス配布レコードのみを作成できます。作成したレコードは編集できますが、削除することはできません。

使用しているインスタンスがドメインセパレーションされている場合は、グローバルドメインにロボットライセンス配布レコードを 1 件のみ作成できます。

ロボットライセンス配布レコードの作成の詳細については、「RPA ハブ でのロボットライセンスの配布レコードの作成」を参照してください。

RPA スクリプトの実行の詳細については、「RPA スクリプトを実行してライセンス配布を再評価する」を参照してください。

無人ロボットの場合、ライセンスは現在のドメインで作成されたロボットでのみ使用できます。リリースマネージャーまたはアドミニストレーターは、無人ロボットを作成し、それを Windows または仮想マシンに関連付けます。無人ロボットは 1 つの Windows または仮想マシンのみにマッピングされます。

アテンド型ロボットの場合、ライセンスはロボットに関連付けられているドメインで使用できます。リリースマネージャーまたはアドミニストレーターはアテンド型ロボットを作成し、それらをユーザーに関連付けます。アテンド型ロボット プロパティ (sn_rpa_fdn.allow_rda_robot_auto_assignment) の自動アサインが有効な場合、ロボットレコードは先着順で自動的に作成されます。アテンド型ロボットは 1 人のユーザーのみにマッピングされます。

ユーザーをアサイン解除するには、関連付けられたアテンド型ロボットを廃止する必要があります。詳細については、「RPA ハブ での有人のボットプロセスからの Attended ユーザーまたはグループ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

のアサイン解除」を参照してください。グループからユーザーを削除するには、組織に問い合わせてください。

ロボットマシンが適切に機能していない場合にロボットを廃止するには、関連付けられた無人ロボットを廃止します。詳細については、「RPA ハブ ロボットの廃止」を参照してください。

ロボットライセンス配布レコードを更新できます。詳細については、「RPA ハブ でのロボットライセンス配布レコードの更新」を参照してください。

RPA ハブのロボット

RPA ハブのロボットを使用して、人間の動作を模倣し、ルールベースの反復タスクを実行します。これらのロボットは、ユーザーインターフェイスと対話し、タスクを自動化します。

ロボットとは

ロボットがボットプロセス (自動化) を実行します。ロボットは、人間のオペレーターと同じようにソフトウェアアプリケーション、データソース、ユーザーインターフェイスと対話するように設計されていますが、より効率的、正確、かつ一貫性のある方法で機能します。

RPA ハブ のロボットの種類

これら 2 つのタイプのロボットは異なる目的を果たし、組織内のさまざまなタイプのタスクを自動化するように設計されています。

無人ロボット

このロボットは、人間の介入を必要としない無人の自動化を実行します。人間の介入なしに自律的に働きます。通常、これらのロボットはサーバーに展開され、人間のユーザーがいなくてもタスクを実行できます。無人ロボットは、繰り返しが多く、ルールベースで、実行中に人間の意思決定を必要としないタスクに最適です。たとえば、財務部門の請求書処理などです。

アテンド型ロボット

このロボットは、人間の介入を必要とする有人の自動化を実行します。人間のユーザーと協力して、人間のタスクを支援します。これらのロボットは通常、人間のユーザーのデスクトップに展開され、リアルタイムでコラボレーションを行います。アテンド型ロボットは、人間の意思決定が必要なタスク、ユーザーインターフェイスとのインタラクションを伴うタスク、または従業員からの入力が必要なタスクに最適です。たとえば、注文処理のガイド付きデータ入力と検証などです。

ロボットの設定

アテンド型ロボットまたは無人ロボットを設定するには、「RPA ハブ でのロボットの作成」を参照してください。

関連情報

- RPA ハブ での無人ロボットの作成
- RPA ハブ でのアテンド型ロボットの作成
- アサインされたスタジオユーザーを無人ロボットに追加する
- RPA ハブの高密度ロボット

RPA ハブの高密度ロボット

高密度ロボットを使用して、単一の Windows Server マシンで複数の自動化 (ボットプロセス) を同時に独立して実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

高密度ロボットの概要

高密度ロボットは、リモートデスクトップサービスを活用して、同じ Windows サーバーマシンで複数の自動化を同時に実行します。高密度ロボットは、同じマシン上で同じ自動化を実行することも、別々のユーザーセッションで異なる自動化を実行することもできます。マシンは複数のユーザーセッションを同時にサポートしている必要があります。このセットアップでは、マシンのキャパシティを活用して複数のボットプロセスを並行して実行することで、リソース使用率を最大化します。

無人ロボットの設定中に、[高密度ロボット **(High Density Robot)]** オプションを選択することで、同じマシン名で複数のロボットを作成できます。同じマシン名を持つ高密度ロボットはすべて、異なる画面解像度を持つことができます。ただし、同じボットプロセスに関連付けられたすべての高密度ロボットの画面解像度値が、同じであることが理想的です。これらのフィールドの詳細については、「RPA ハブ での無人ロボットの作成」を参照してください。

注:

高密度ロボットに関連付けられているマシンを、非高密度ロボットに関連付けることはできません。高密度ロボットとしてマークされた同じマシン名のロボットが複数ある場合、これらのいずれのロボットも非高密度ロボットとして変換できません。

高密度ロボットはロボットプールに追加できません。

高密度ロボットの主な機能

- 同じマシンで複数の自動化を個別に実行します。
- 必要なマシンの数を減らし、インフラストラクチャのコストを削減します。
- 各ロボットが分離されたセッションで動作できるようにすることで、重複や干渉を防止できます。

高密度ロボットの設定

高密度ロボットを設定するには、「RPA ハブ での無人ロボットの作成」を参照してください。

既存の無人ロボットを高密度ロボットに変換するには、「既存の無人ロボットを高密度ロボットに変換する」を参照してください。

関連情報

- 無人ロボット の高密度ロボット
- 高密度ロボット向け Windows Server マシンの設定
- 無人ロボット を設定

RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化

埋め込みタスクの自動化機能を使用して、アテンド型ロボットアプリケーションから開始する以外に、ServiceNow フォームから有人ボットプロセス (有人自動化) をトリガーします。

重要: 埋め込みタスクの自動化は、公開された有人のボットプロセスに対してのみ実行されます。

API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出し

ワークスペース、プレイブック、またはその他のサービスポータルからボットプロセス (自動化) をトリガーするには、対応するアクションを作成し、`RPAInstanceFormHooks` アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) を呼び出します。API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出しの詳細については、「API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出し」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

埋め込みタスクの自動化の概要

埋め込みタスクの自動化機能を使用して、有人モードで ServiceNow の画面からシームレスに自動化を開始します。これにより、ロボットがマシン上で直接タスクを実行する透過的なビューがユーザーに提供されます。この機能は、個人が自動化プロセスをリアルタイムで観察および監視できるようにすることで、分かりやすいエクスペリエンスを提供します。

なぜ埋め込みタスクの自動化なのか

既存の有人自動化は、自動化自体の中でビルドされたフォームとやり取りするため、フォームの開発が必要です。ServiceNow の画面を使用する有人自動化には、埋め込みタスクの自動化機能を使用します。埋め込みタスクの自動化機能を使用すると、自動化でフォームを開発する必要なく、既存の ServiceNow の画面を再利用できます。

埋め込みタスクの自動化のしくみ

従業員バッジ作成のユースケースを考えてみましょう。

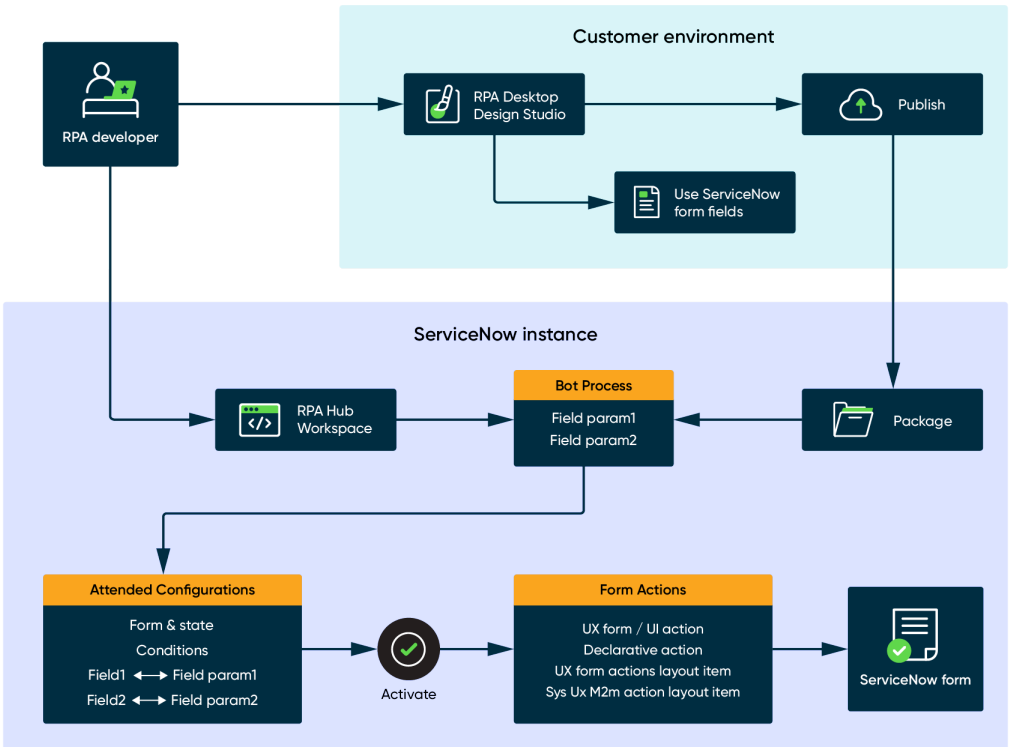
1. サービスカタログで、従業員バッジ生成の要求が作成されます。この要求フォームには、サードパーティアプリケーションでバッジを印刷するために、[要求元] や [場所] などの詳細が含まれています。アプリケーションでバッジが生成されると、バッジ ID が要求フォームに入力されます。
2. RPA デスクトップデザインスタジオで、新しいコンポーネントを使用して自動化をビルドし、ServiceNow インスタンスに公開します。新しいコンポーネントの詳細については、「フォーム」を参照してください。それぞれの UI アクションの自動化実行の完了に役立つ各 UI アクションの自動化ロジックには、終了コンポーネントを使用してください。コンポーネントの詳細については、「Terminate コンポーネントの使用」を参照してください。
3. RPA ハブ で、有人のボットプロセス (従業員バッジの生成など) を作成します。有人ボットプロセスの作成の詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。
4. 有人ボットプロセス (自動化) を ServiceNow フォームからトリガーするには、関連する有人ボットプロセスフォームで、[埋め込みタスクの自動化を有効にする **(Enable Embedded Task Automation)]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、[プロセスフィールドパラメーター (Process Field Parameters)] と [有人構成 (Attended Configuration)] の 2 つの追加タブがボットプロセスフォームに表示されます。ボットプロセスフォームの詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。
5. [プロセスフィールドパラメーター (Process Field Parameters)] タブで、自動化で使用する動的パラメーターを作成します。プロセスフィールドパラメーターは、特定のフォームの値を設定したり、フィールド値を取得したりするために使用されます。プロセスフィールドパラメーターの例としては、ユーザーの役職、名、姓、場所などがあります。これらの詳細情報は、バッジを生成する際に自動化ワークフローで使われます。プロセスフィールドパラメーター作成の詳細については、「RPA ハブ でのプロセスフィールドパラメーターの作成」を参照してください。
6. RPA ハブ で有人構成レコードを作成します。有人構成レコード作成の詳細については、「RPA ハブ での有人構成レコードの作成」を参照してください。
7. この有人構成レコードで、このボットプロセスをトリガーする必要がある [テーブル] フィールドから、必要なフォームに関連付けられたテーブルを選択します。次に、[条件] フィールドで基準を定義して、ボットプロセスをトリガーします。この例では、バッジの生成に必要な承認済みの要求の条件を設定します。有人構成の詳細については、「RPA ハブの有人構成フォーム」を参照してください。
8. [フィールドパラメーターマッピング (Field Parameter Mappings)] タブで、フォームフィールドを自動化で使用するプロセスフィールドパラメーターにマッピングします。このプロセスにより、ボットプロセス実行中のデータフローが容易になります。たとえば、[フルネーム] が、自動化で使用されるプロセスフィールドパラメーターである場合、フォームの [名前] フィールドにマッピングされます。フィールドパラメーターのマッピングの詳細については、「RPA ハブ のボットプロセスフィールドパラメーターへのテーブルフィールドのマッピング」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. [有人構成 (Attended Configuration)] タブで、[アクティブ化] ボタンを選択するとフォームがアクティブ化されます。バックグラウンドで、対応する要求フォームで UI アクション (ボタン) が作成されます。有人構成のアクティブ化については、「RPA ハブ の有人構成レコードを有効にしますか？」を参照してください。
10. RPA デスクトップデザインスタジオから公開された対応するパッケージを使用して、ボットプロセスを公開します。詳細については、「RPA ハブ ボットプロセスの公開」を参照してください。

    ボットプロセスを公開するには、有人ボットプロセスレコードの [Attended ユーザー/グループ] タブの [アサインされたユーザー] または [アサイン先グループ] フィールドで、ユーザーに RPA AU (RPA 支援ユーザー) をアサインします。自動アサインシステムプロパティ *sn_rpa_fdn.allow_rda_robot_auto_assignment* が false の場合、アサインされた RPA 支援ユーザーがアテンド型ロボットレコードを使用できます。自動アサインシステムプロパティが true の場合、アテンド型ロボットライセンスを使用して、トリガー時にアテンド型ロボットを自動作成できます。このシステムプロパティの詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」を参照してください。
11. その後、アサインされたユーザーは、対応する ServiceNow フォームで UI アクション (ボタン) (たとえば、[バッジの生成 (Generate Badge)]) を表示できます。このボタンを使用すると、ユーザーは有人ボットプロセス (有人自動化) をトリガーできます。このボタン (UI アクション) を表示するには、特定の条件があります。詳細については、「UI アクション (ボタン) の表示条件」を参照してください。

RPA ハブ での埋め込みタスクの自動化の構成



埋め込みタスクの自動化の構成

埋め込みのタスク自動化を構成するには、「埋め込みタスクの自動化の構成のステップリスト」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA デスクトップデザインスタジオの埋め込みタスクの自動化の新しいコンポーネント

次の 4 つの新しいコンポーネントが、RPA デスクトップデザインスタジオの新しい [フォーム] セクションに追加されます。これらのコンポーネントは、[ツールボックス] ペインの新しい ServiceNow カテゴリで使用できます。

- **AttendedConfigurations**：単一の自動化プロジェクトで自動化の実行を分離し、呼び出されたアクションに従ってそれぞれのロジックを呼び出します。詳細については、「AttendedConfigurations コンポーネントの使用」を参照してください。
- **GetProcessFieldParameters**：RPA ハブで対応する有人構成情報レコードのフィールドパラメーターマッピングに関連付けられている ServiceNowフォームフィールドの値をフェッチします。詳細については、「GetProcessFieldParameters コンポーネントの使用」を参照してください。
- **GetRecordContextID**：自動化のトリガー元である ServiceNow フォームの現在のレコード sys_id をフェッチします。詳細については、「GetRecordContextID コンポーネントの使用」を参照してください。
- **SetProcessFieldParameters**：RPA ハブで対応する有人構成情報レコードのフィールドパラメーターマッピングに関連付けられている ServiceNow フォームフィールドの値を更新します。詳細については、「SetProcessFieldParameters コンポーネントの使用」を参照してください。

有人自動化の Terminate コンポーネント

自動化の実行を完了するには、有人自動化の **Terminate** コンポーネントを使用します。コンポーネントの詳細については、「Terminate コンポーネントの使用」を参照してください。

ServiceNow フォームから有人自動化を起動する

ServiceNow フォームから有人自動化を起動する際の制限事項と、有人自動化の起動について説明します。詳細については、「埋め込みタスクの自動化でのアテンド型ロボットの認証過程と自動化の実行」を参照してください。

アテンド型ロボットの認証過程と自動化の実行

アテンド型ロボットアプリケーションの認証プロセスと、 自動化の実行について説明します。詳細については、「埋め込みタスクの自動化でのアテンド型ロボットの認証過程と自動化の実行」を参照してください。

重要:

既存の自動化に新しいバージョンが存在する場合、その変更を反映するには、アテンド型ロボットアプリケーションをクローズする必要があります。それまでは、アテンド型ロボットアプリケーションが既に起動されて実行されているため、既存のバージョンを引き続き使用します。

新しいバージョンの RPA ハブ がインスタンスにインストールされている場合、その変更を反映するには、アテンド型ロボットアプリケーションをクローズする必要があります。それまでは、アテンド型ロボットアプリケーションが既に起動されて実行されているため、既存の一連のプラグインを引き続き使用します。

埋め込みタスク自動化のランタイムフェーズ

ServiceNow フォームからの有人自動化のトリガーの詳細について説明します。詳細については、「埋め込みタスク自動化のランタイムフェーズ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

RPA ハブ の有人構成レコードの非アクティブ化

RPA ハブ の有人構成レコードの削除

RPA ハブ での有人構成レコードの編集

埋め込みタスクの自動化の構成のステップリスト

このステップリストを使用して埋め込みタスク自動化を構成するためのすべてのタスクを説明します。

次のステップに進む前に、ステップのすべてのタスクを完了してください。

示されている順序でステップを実行します。

埋め込みタスクの自動化の構成のステップリスト

タスク	参照
1) 埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。	詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。
2) RPA デスクトップデザインスタジオで、新しいコンポーネントを使用して自動化をビルドし、 ServiceNow インスタンスに公開します。	新しいコンポーネントの詳細については、「フォーム」を参照してください。 自動化 RPA デスクトップデザインスタジオの公開の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ での自動化プロジェクトの公開」を参照してください。
3) 有人ボットプロセスを作成します。ステップ 2 で公開したパッケージに関連付けます。	詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。
4) 関連する有人ボットプロセスフォームで、[埋め込みタスクの自動化を有効にする **(Enable Embedded Task Automation)]** チェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[プロセスフィールドパラメーター **(Process Field Parameters)]** と [有人構成 **(Attended Configuration)]** の 2 つの追加タブがボットプロセスフォームに表示されます。	詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。
5) [プロセスフィールドパラメーター (Process Field Parameters)] タブで、自動化で使用する動的パラメーターを作成します。	詳細については、「RPA ハブ でのプロセスフィールドパラメーターの作成」を参照してください。
6) 有人構成レコードを作成します。	詳細については、「RPA ハブ での有人構成レコードの作成」を参照してください。
7) [フィールドパラメーターマッピング (Field Parameter Mappings)] タブで、フォームフィールドを自動化で使用するプロセスフィールドパラメーターにマッピングします。	詳細については、「RPA ハブ のボットプロセスフィールドパラメーターへのテーブルフィールドのマッピング」を参照してください。
8) 有人構成レコードを有効にして、関連付けられた ServiceNow フォームで有人自動化をトリガーする UI アクションをアクティブ化します。	詳細については、「RPA ハブ の有人構成レコードを有効にしますか？」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

埋め込みタスクの自動化の構成のステップリスト (続く)

タスク	参照
9) ワークスペース、プレイブック、またはその他のサービスポータルからボットプロセス (自動化) をトリガーするには、対応するアクションを作成し、*RPAInstanceFormHooks* アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) を呼び出します。	詳細については、「API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出し」を参照してください。
10) ボットプロセスを公開するには、有人ボットプロセスレコードの [Attended ユーザー / グループ] タブの [アサインされたユーザー] または [アサイン先グループ] フィールドで、ユーザーに RPA AU (RPA 支援ユーザー) をアサインします。 自動アサインシステムプロパティ *sn_rpa_fdn.allow_rda_robot_auto_assignment* が false の場合、アサインされた RPA 支援ユーザーがアテンド型ロボットレコードを使用できます。 自動アサインシステムプロパティが true の場合、アテンド型ロボットライセンスを使用して、トリガー時にアテンド型ロボットを自動作成できます。	RPA AU でのユーザーのアサインの詳細については、「Attended ユーザーまたはグループの有人ボットプロセスへのアサイン」を参照してください。 このシステムプロパティの詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」を参照してください。
11) RPA デスクトップデザインスタジオから公開された対応するパッケージを使用して、ボットプロセスを公開します。	詳細については、「RPA ハブ ボットプロセスの公開」を参照してください。
12) その後、アサインされたユーザーは、対応する ServiceNow フォームで UI アクション (ボタン) を表示できます。このボタンを使用すると、ユーザーは有人ボットプロセス (有人自動化) をトリガーできます。このボタン (UI アクション) を表示するには、特定の条件があります。	表示条件の詳細については、「UI アクション (ボタン) の表示条件」を参照してください。

埋め込みタスク自動化のランタイムフェーズ

ServiceNow フォームからの有人自動化のトリガーの詳細について説明します。

埋め込みタスク自動化のランタイムフェーズのワークフロー

埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

RPA 支援ユーザーロールを持つユーザーが ServiceNow インスタンスにログインします。

自動化のトリガー元となる、該当の ServiceNow フォームに移動します。

ユーザーは、有人構成をアクティブ化したときに作成されるフォームアクションを選択します。

- ServiceNow フォームに変更が加えられた場合は、UI アクションをトリガーする前に保存するように求める確認メッセージが表示されます。ユーザーが [続行] または **[OK]** を選択すると、フォームが保存されます。自動化がトリガーされます。ユーザーが [キャンセル] を選択した場合、自動化はトリガーされず、ServiceNow フォームは保存されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ユーザーが UI アクションを選択し、成功した場合は有人自動化の開始が試行されます。アテンド型ロボットがマシンにインストールされていることを確認します。成功しなければ、アテンド型ロボットを開始するための接続は確立されません。再試行するかシステムアドミニストレーターに連絡するように促す情報メッセージが表示されます。

OAuth エンティティ ID、コードチャレンジ、ServiceNow フォームレコード SysID (自動化のトリガー元)、ボットプロセス Sys ID、パッケージ SysID (自動化 SysID) などの詳細情報を使用して、アテンド型ロボットを開始する URL が生成されます。

これらの詳細情報を使用して、アテンド型ロボットは OAuth を呼び出し、アクセス権とリフレッシュトークンを取得します。アテンド型ロボットアプリケーションでの認証過程と自動化の実行について説明します。詳細については、「埋め込みタスクの自動化でのアテンド型ロボットの認証過程と自動化の実行」を参照してください。

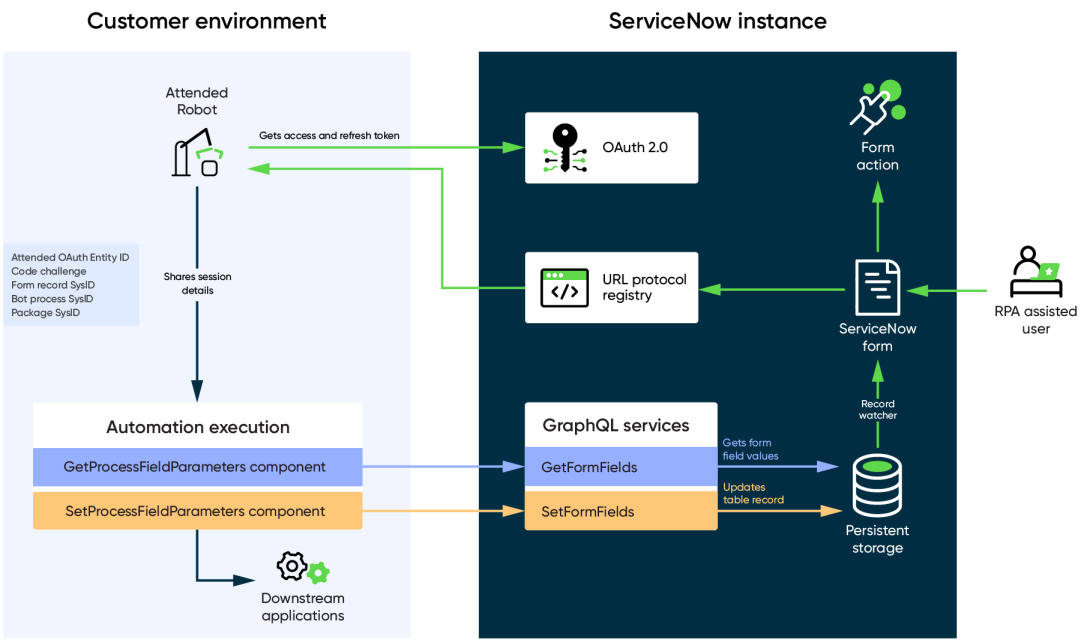
これらのトークンの詳細を使用して、アテンド型ロボットはセッションの詳細を ServiceNow フォームと共有し、自動化の実行を開始します。

GetProcessFieldParameters コンポーネントは、 ServiceNow インスタンスに対して GraphQL API を作成し、動的プロセスフィールドパラメーターにマッピングされたフォームフィールド値を読み取ります。**GetProcessFieldParameters** コンポーネントの詳細については、「GetProcessFieldParameters コンポーネントの使用」を参照してください。

自動化が実行されると、データはダウンストリームのアプリケーションに渡されます。

SetProcessFieldParameters コンポーネントは、ServiceNow インスタンスに対して GraphQL API を作成し、動的プロセスフィールドパラメーターにマッピングされたフォームフィールド値を設定します。**SetProcessFieldParameters** コンポーネントの詳細については、「SetProcessFieldParameters コンポーネントの使用」を参照してください。

埋め込みタスク自動化のランタイムフェーズのワークフロー



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow フォームから有人自動化を起動する

ServiceNow フォームから有人自動化を起動する際の制限事項と、有人自動化の起動について説明します。詳細については、「埋め込みタスクの自動化でのアテンド型ロボットの認証過程と自動化の実行」を参照してください。

関連情報

埋め込みタスクの自動化の構成のステップリスト

RPA ハブ のロボットカレンダーの使用

RPA ハブ のロボットカレンダーを使用して、無人ロボットのスケジュールを表示、作成できます。シンプルかつ効率のよいインタラクティブな方法でロボットとスケジュールを操作できます。カレンダーを使用すると、単一のビューでロボットのスケジュールを管理および計画できます。

注:

ロボットカレンダーは、無人ロボットと無人ボットプロセスにのみ適用されます。

ロボットカレンダーの概要

RPA ハブ のロボットカレンダーを使用すると、以下のメリットがあります。

- 異なるタイムゾーンにまたがる複数のスケジュールでロボットを管理します。
- ロボットのスケジュールを作成および管理します。
- ロボットの可用性をチェックし、潜在的な競合を回避し、ボットプロセスの実行をスケジュールします。☒
- 単一のビューで優れた可視化と豊富な視覚的プロットを使用して、ロボットのキャパシティ計画を実行します。
- ロボットの使用率を最適化し、定期メンテナンス期間に関連する潜在的な問題を回避します。

[ロボットカレンダー **(Robot Calendar)**] ボタン

ワークスペースのロボットまたはロボットプロセスのどちらからでもカレンダーを表示できます。ロボットが、アクティブな、非アクティブな、またはスケジュールがないボットプロセスに関連付けられている場合は、[ロボットカレンダー **(Robot Calendar)**] ボタンが表示されます。

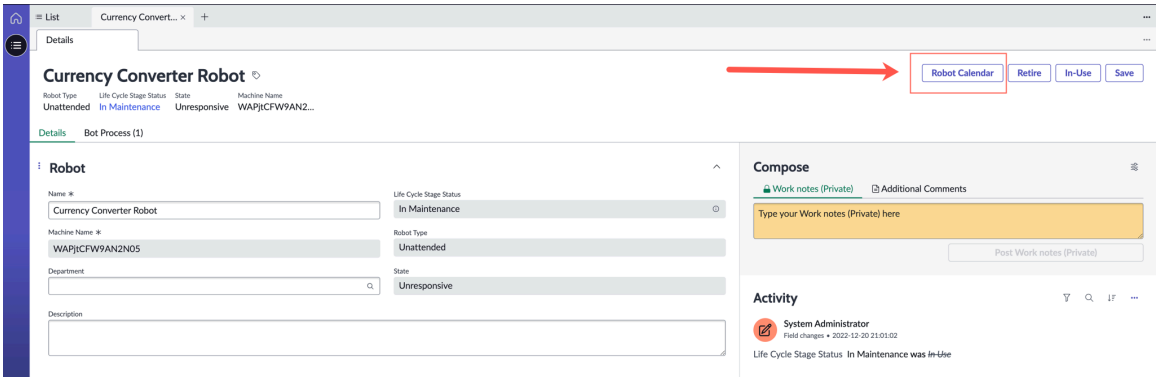
[ロボットカレンダー **(Robot Calendar)**] ボタンの表示には、次のロールが必要です。

- sn_rpa_fdn.rpa_release_manager
- sn_rpa_fdn.rpa_business_user
- sn_rpa_fdn.rpa_developer
- sn_rpa_fdn.rpa_support_user
- sn_rpa_fdn.rpa_admin

次の例は、ロボットからアクセスしたときに、[ロボットカレンダー **(Robot Calendar)**] ボタンがあるロボットのランディングページを示しています。

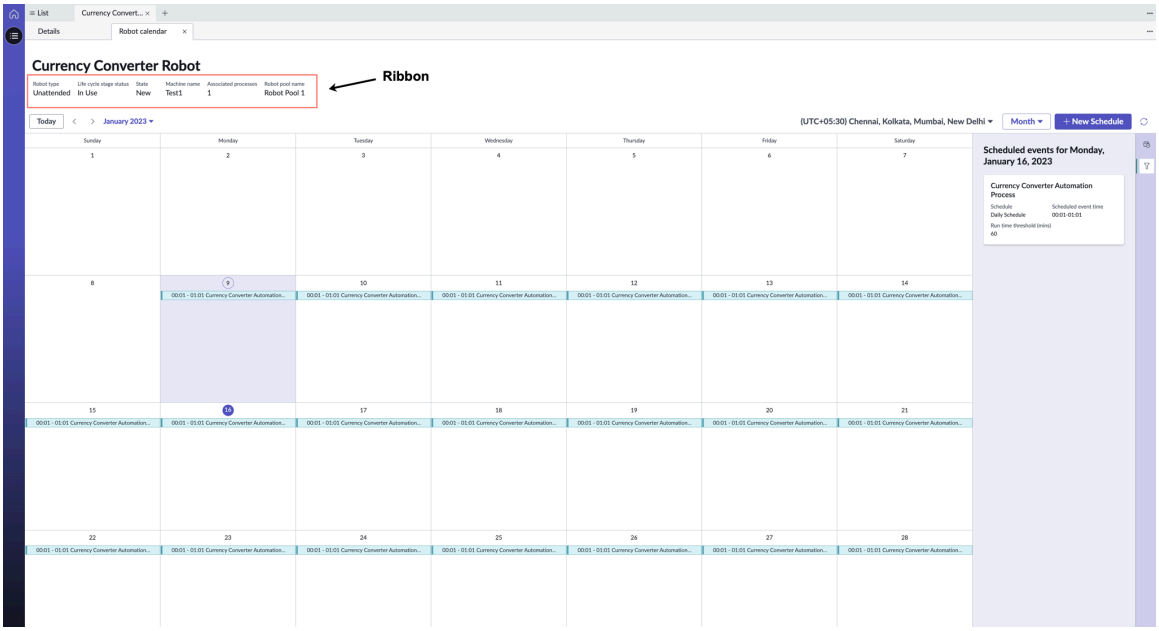
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** ボタンがある、ロボットのランディングページ



ロボットカレンダーのリボンには、ロボットタイプ、ライフサイクルステージステータス、ロボットのステータス、マシン名、関連するボットプロセス、および関連するロボットプール名が表示されます。

例：ロボットカレンダーリボンのスナップショット

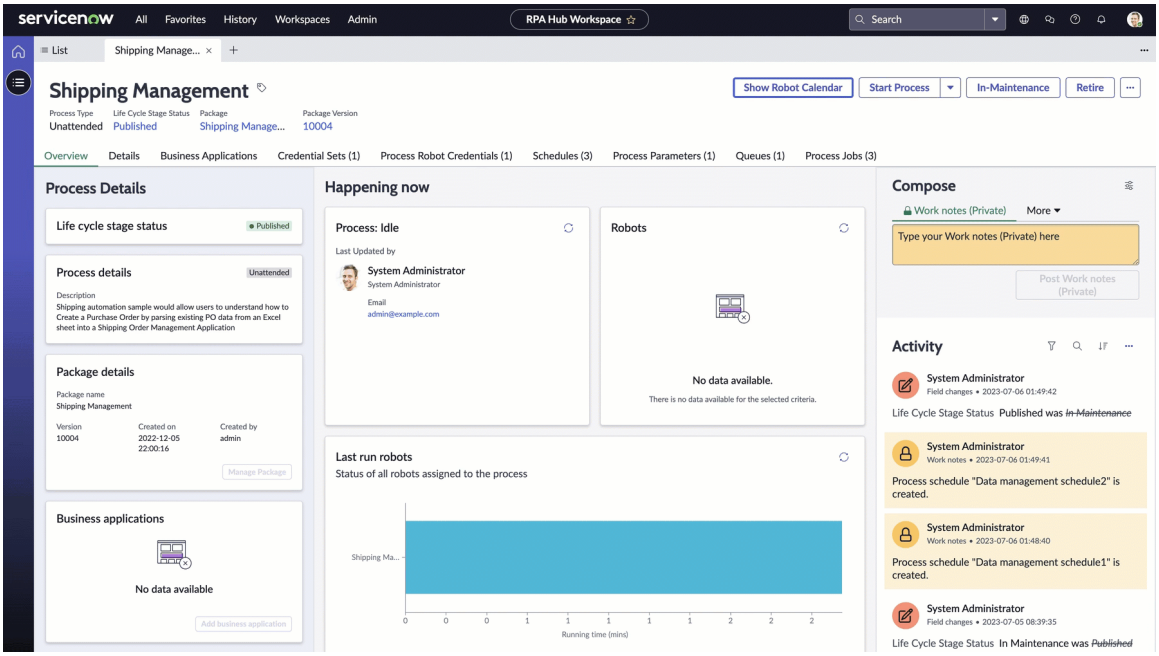


[ロボットカレンダーを表示] ボタンを選択すると、ワークスペースのボットプロセスからカレンダーを表示できます。[カレンダーを表示するロボットを選択 **(Select the robot to view the calendar)]** ダイアログボックスでは、[ロボット] リストからロボットを選択できます。次に、[続行] を選択します。

次の例は、ボットプロセスからアクセスしたときのロボットカレンダーを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセスからのロボットカレンダー



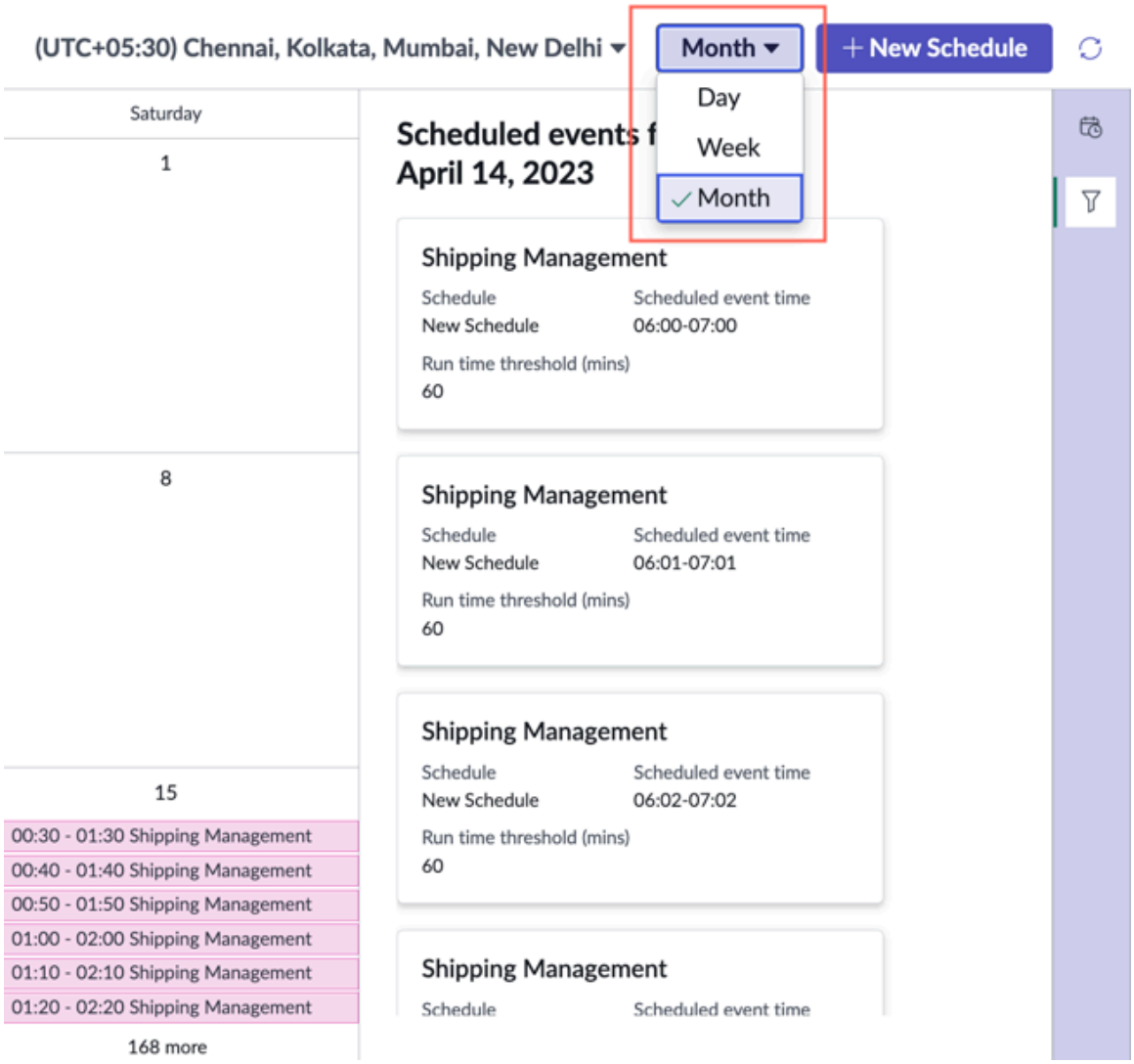
ロボットカレンダーのランディングページ

ロボットカレンダーのランディングページでは、ボットプロセスのイベントを表示できます。スケジュールには、分、毎時、毎日、毎週、毎月などのさまざまな間隔タイプがあります。ロボットイベントの表示の詳細については、「RPA ハブ でのロボットイベントの表示」を参照してください。ただし、ロボットカレンダーで過去のイベントを表示することはできません。

ロボットカレンダーは、日次、週次、または月次で表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロボットカレンダービュー - 日、週、月



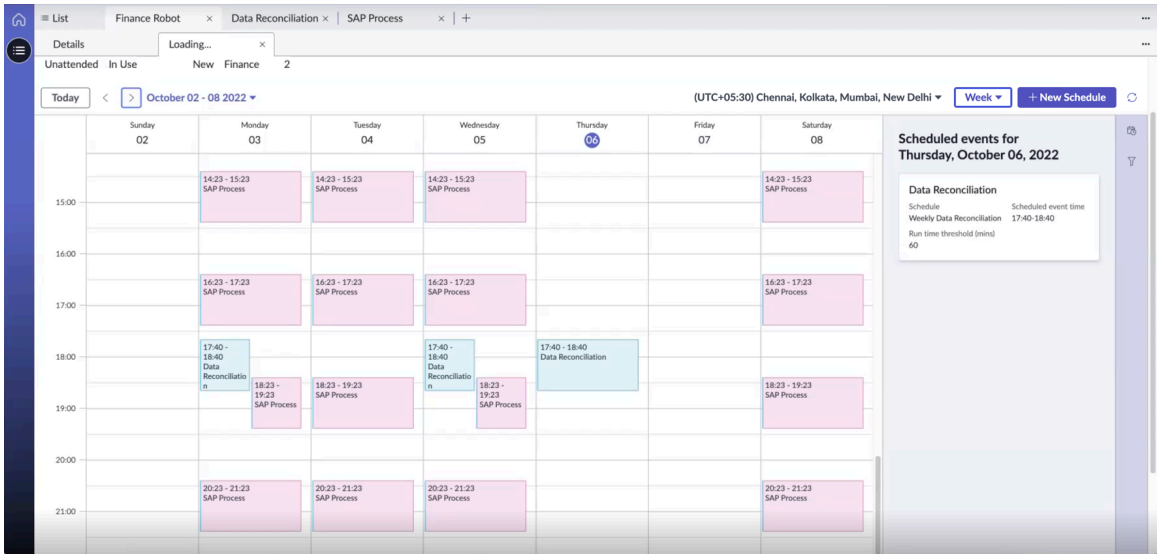
ロボットが複数のボットプロセスに関連付けられている場合、各ボットプロセスのイベントは一意の色で区別されます。

週次ビュー

次の例は、2 つのボットプロセスのある、ロボットカレンダーのランディングページの週次ビューを示しています。週次ビューは日曜日から土曜日までです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

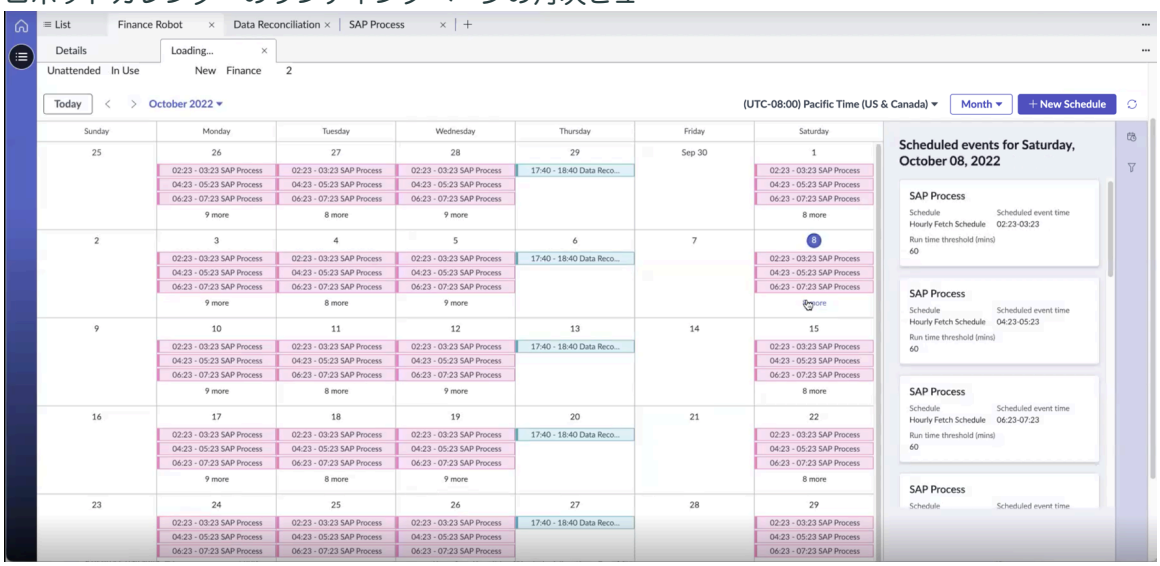
ロボットカレンダーのランディングページの週次ビュー



月ビュー

次の例は、ロボットカレンダーのランディングページの月次ビューを示しています。

ロボットカレンダーのランディングページの月次ビュー



スケジュールを管理

RPA ハブ の [ロボットカレンダー] タブで、 無人ロボットを実行するスケジュールを作成できます。[プレビュー] ボタンを選択して、スケジュール内の競合を特定することもできます。詳細については、「ロボットカレンダーでのスケジュールの作成」を参照してください。

ロボットスケジュールを編集し、競合スケジュールを解決したり、スケジュールフォームの詳細を変更したりできます。不要になった既存のロボットスケジュールを削除することもできます。詳細については、「RPA ハブ でのロボットスケジュールの編集」と「RPA ハブ でのロボットスケジュールの削除」を参照してください。

定期メンテナンス日

ロボットカレンダーで定期メンテナンス (SM) 日を追跡して、将来の自動化を管理します。ロボティックプロセス自動化 (RPA) リリースマネージャーと RPA アドミニストレーターは、現在または

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

将来の自動化実行による潜在的な影響を可視化し、ロボットカレンダーで関連する SM イベントカードを承認または却下するなど、適切なアクションを起こすことができます。

詳細については、「RPA ハブ の定期メンテナンス日」と「RPA ハブ での定期メンテナンス日の管理」を参照してください。

イベント期間のプロット

ボットプロセスフォームの [実行時間しきい値 (分) **(Run Time Threshold (mins))**] フィールドの値と、関連する *sn_rpa_fdn.process.runtime_threshold* システムプロパティの構成は、ロボットカレンダーにイベント期間をプロットするために使用されます。[実行時間しきい値 (分) **(Run Time Threshold (mins))**] フィールドの値に基づいて、ロボットカレンダーはビジーとして表示されます。たとえば、この値が 60 (つまり 1 時間) に設定されている場合、このロボットのロボットカレンダーでは、その 1 時間はブロック済みとして表示されます。

ボットプロセスフォームの詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

システムプロパティの詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」を参照してください。

RPA ハブ のロボットプール

RPA ハブ にロボットプールを作成し、無人ボットプロセス用の複数の無人ロボット間で作業負荷を分散および管理します。

注:

ボットプロセスのロボットプールオプションを有効にした後は、[ロボットをアサインする] タブからロボットをアサインすることはできません。非表示になります。

ロボットプール機能は、無人ロボットにのみ適用されます。

ロボットのアサインのタイプ

ロボットをアサインするには、次の 2 つの方法があります。

- ロボットの手動アサイン：ボットプロセスを作成したら、[ロボットをアサインする] タブからロボットをアサインします。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスへのロボットのアサイン」を参照してください。
- ロボットプール：ボットプロセスフォームの [詳細] タブで、ロボットプールオプションを有効にします。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスのロボットプールの有効化」を参照してください。

手動によるロボットのアサインに関する課題

ロボットを手動でアサインする場合、RPA リリースマネージャーはプロセスの作業負荷を予測し、それに応じてロボットをアサインする必要があります。

特定の曜日に作業負荷が変更された場合、RPA リリースマネージャーは異なるプロセス間でロボットを再アサインする必要があります。

作業負荷に関係なく、リソースやロボットが過剰に消費される可能性があります。

ロボットプールのメリット

RPA ハブ のロボットプールを使用すると、以下のメリットがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ロボットは自動的にアサインされるため、手動で再アサインする必要がなくなります。
- 保留中の作業負荷と平均処理時間 (AHT) に基づいて、ボットプロセスごとにロボットを割り当てます。
- プール内の利用可能なロボットを自動的に再割り当てすることで、ロボットの使用率を最大化します。

ロボットのアサインプロセス

次の図は、RPA ハブ でロボットをアサインする例を示しています。

ロボットプールオプションが有効になっていない場合、ロボットは [アサインされたロボット] タブから直接ボットプロセスにアサインされます。

たとえば、注文管理ボットプロセスでは、作業アイテムが少なかったとしても、すべてのロボットで実行が開始されます。作業負荷は考慮されません。

別の例として、請求書キューに多数の作業アイテムがあるとします。ロボットの動的割り当てがないため、アサインされた 2 つのロボットでのみ実行されます。

ロボットプールオプションを有効にすると、最初は 1 つのロボットで実行が開始されます。割り当てタイプ (SLA またはパーセンテージ削減) の構成に基づいて、作業負荷に応じてロボットが自動的に割り当てられます。

たとえば、ロボットプール RP1 に、R1 と R2 の 2 つの [利用可能] ステータスのロボットがあるとします。RP1 は、請求書処理と注文管理の 2 つのボットプロセスで使用されます。注文管理ボットプロセスは、SLA ベースの割り当てタイプを使用します。このボットプロセスに対して [プロセスの開始 **(Start Process)]** ボタンが選択されている場合、アサインされたロボットプールの 2 つのロボットがボットプロセスを実行します。これにより、R1 と R2 は [実行中] ステータスになります。

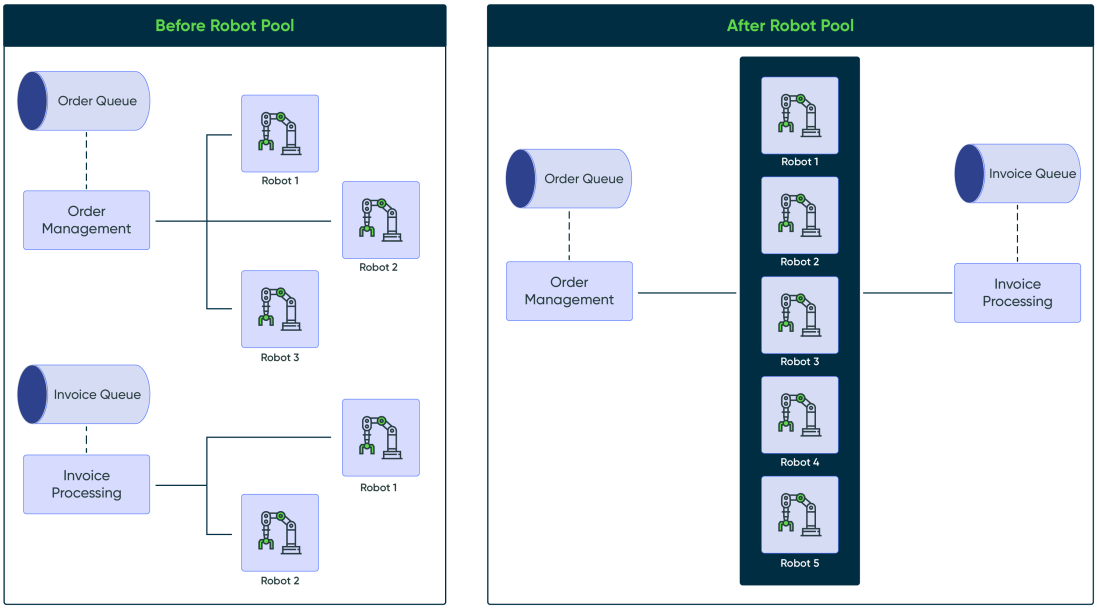
請求書ボットプロセスも SLA ベースの割り当てタイプを使用し、処理すべき優先度の高い請求書があります。注文管理ボットプロセスでは、SLA 内のすべての作業アイテムを完了するために 2 つのロボットが必要です。優先度が最も高い請求書の実行を開始するには、請求書の処理に 1 つのロボット、注文管理に 1 つのロボットが必要です。そこで、グレースフルストップ機能を使用して、注文管理ボットプロセスを停止できます。注文管理ボットプロセスの [処理の停止 **(Stop Process)]** ボタンを選択して、[グレースフルストップ **(Graceful Stop)]** トグルスイッチを有効にし、正常に終了させる R1 ロボットを選択します。すると、R1 は現在の注文処理を実行した後、ボットプロセスを正常に終了します。

R1 が注文管理ボットプロセスの実行を正常に完了した後、R1 を使用して請求処理の実行を開始できます。すべての請求書が処理された後、R1 は新しい実行により、注文処理ボットプロセスの実行を再度検討できます。つまり、手動またはスケジュールによって、[プロセスの開始 **(Start Process)]** アクションを介して請求書処理ボットプロセスをトリガーします。

プロセスの開始アクションの詳細については、「RPA ハブのアクションとサブフロー」を参照してください。ボットプロセスのグレースフルストップおよび停止の詳細については、「RPA ハブ でのグレースフルストップ機能の使用」と「RPA ハブ での無人のボットプロセスの停止」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ のロボットアサイン



ロボットプールに関連するボットプロセスフォームの新しいフィールド

RPA ハブ でボットプロセスのロボットプール機能を有効にするには、次のアクションを実行します。

- ロボットプールを作成する詳細については、「RPA ハブ でのロボットプールの作成」を参照してください。
- ボットプロセスのロボットプールオプションを有効にし、ボットプロセスをロボットプールにマッピングします。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスのロボットプールの有効化」を参照してください。

注: ロボットプールを有効にするには、キューをボットプロセスに関連付ける必要があります。1 つのキューが 1 つのボットプロセスにマッピングされます。

関連リストから、キューをボットプロセスに関連付けることができます。詳細については、「関連リストからボットプロセスへのキューの関連付け」を参照してください。

[ボットプロセス] フォームでは、ロボティックプロセス自動化 (RPA) リリースマネージャーまたは RPA アドミンは [ロボットプール] セクションの次の新しいフィールドを設定できます。

- ロボットプールを有効にする
- ロボットプール
- 割り当てタイプ
- パーセンテージ削減 ([割り当てタイプ] を [パーセンテージ削減] として選択した場合)

これらのフィールドの詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

ロボットの計算

[ボットプロセス] フォームの [計算] ボタンを選択することで、ボットプロセスの実行を完了するために必要なロボットの数を計算できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロボットプールに関連するキューフォームの新しいフィールド

[キュー] フォームでは、RPA リリースマネージャーまたは RPA アドミンは [平均処理時間 (AHT) - 作業アイテム] セクションの次の新しいフィールドを設定できます。

- すべての作業アイテムを含める
- 作業アイテム数

これらのフィールドの詳細については、「RPA ハブのキューフォーム」を参照してください。これらのフィールドを構成して、ボットプロセスを正常に実行するためにロボットプールに必要なロボットの数を計算します。

RPA ハブ の定期メンテナンス日

ボットプロセスが最適に機能するように、ロボットカレンダーで定期メンテナンス (SM) 日を追跡します。問題が発生した場合は、予防策を講じることができます。たとえば、ロボットまたはボットプロセスが利用できない日を事前に把握し、スキップされるプロセスジョブの数を減らすことができます。

定期メンテナンス日の概要

定期メンテナンス (SM) 日は、ロボットやボットプロセスなどの構成アイテム (CI) が実行できない日です。ロボティックプロセス自動化 (RPA) リリースマネージャーや RPA アドミニストレーターが、ロボットまたはボットプロセスの変更要求を受け付けて、定期メンテナンス日を作成した場合、その期間、ロボットまたはボットプロセスは実行できません。

RPA サポートユーザー、RPA 開発者、および RPA ビジネスユーザーは、ロボットカレンダーに定期メンテナンス日を表示できます。RPA ビジネスユーザーも [グループによる管理] リストに含まれていることを確認できます。

定期メンテナンス日は、ロボットプール内のロボットにも適用されます。

定期メンテナンス日のベネフィット

ロボットカレンダーに定期メンテナンス日を設定することで、次のメリットが得られます。

- 単一のビューで優れた可視化と豊富な視覚的プロットを使用して、ロボットのキャパシティ計画を実行します。
- ロボットの使用率を最適化し、定期メンテナンス期間に関連する潜在的な問題を回避します。
- 構成アイテム (ロボットまたはボットプロセス) に対して事後対応ではなく、積極的な対策を講じることができます。

ワークフロー

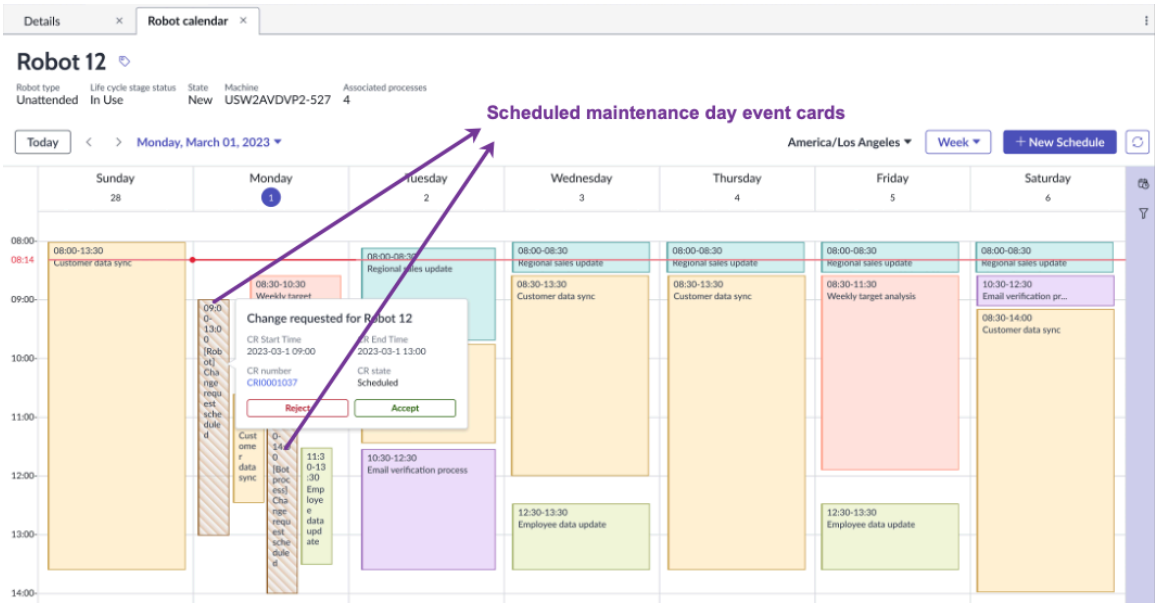
RPA ハブ に、開始予定日と終了予定日および時間の詳細を含む変更要求 (CR) が作成されます。この CR では、変更要求が [スケジュール済み]、[実装]、または [レビュー] 状況の場合にのみ、ロボットカレンダーに定期メンテナンス日として反映されます。CR 状況の詳細については、「状況モデルと移行」を参照してください。

関連する SM イベントカードがロボットカレンダーに表示され、定期メンテナンス日が表示されます。

ロボットカレンダー上の定期メンテナンス日イベントカードのスナップショットについては、次の例を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロボットカレンダー上の定期メンテナンス日イベントカード

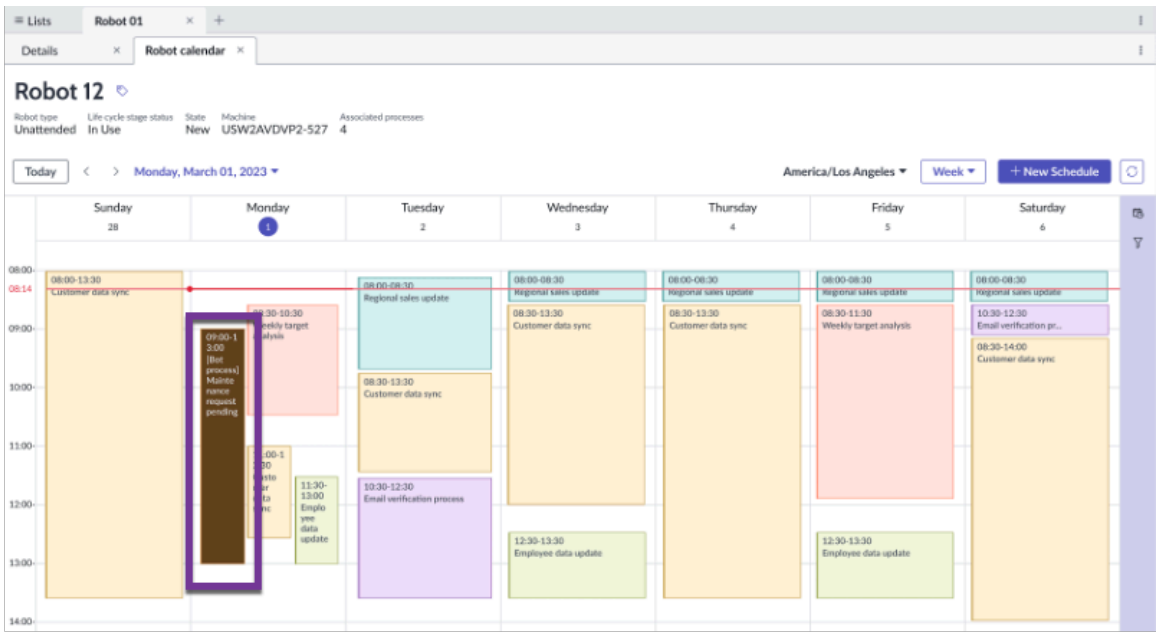


RPA ビジネスユーザー、RPA リリースマネージャー、RPA サポートユーザー、RPA 開発者、および RPA アドミニストレーターは、現在または将来の自動化実行に対する潜在的な影響を可視化できます。RPA リリースマネージャーと RPA アドミニストレーターは、ロボットカレンダー上の CI に関連する SM イベントカードを承認または却下するなど、適切なアクションを起こすことができます。

SM イベントカードが承認されると、ロボットカレンダー上に [処理待ち] ステータスのメンテナンス要求 (MR) が作成されます。

ロボットカレンダー上の承認済みの SM 日イベントカードのスナップショットについては、次の例を参照してください。

ロボットカレンダー上の承認済み定期メンテナンス日イベントカードのスナップショット

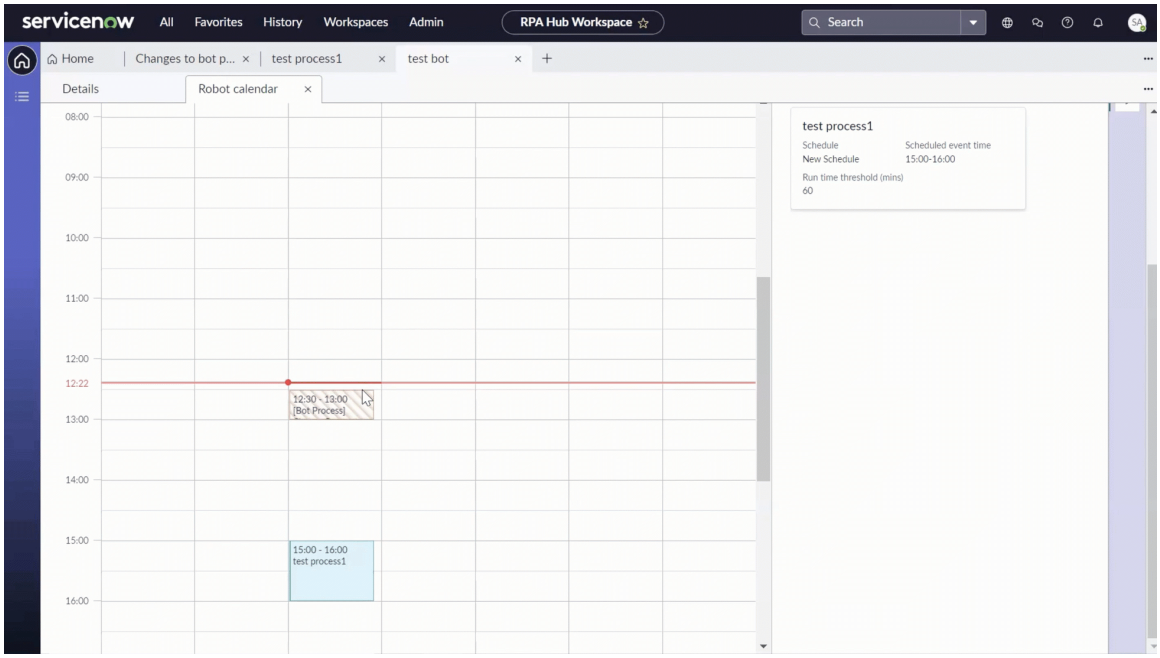


関連する CI が [公開済み] ステータスである場合、関連する CI は定期メンテナンスの予定期間中に [メンテナンス中] ステータスに移行します。実行は、CR がクローズされるまで停止されます。その後、CI は自動的に [公開済み] ステータスに移行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連する CI (ボットプロセス) が [公開済み] ステータスのときに SM イベントカードを承認するスナップショットについては、次の例を参照してください。

ロボットカレンダー上で定期メンテナンス日イベントカードを承認する



SM イベントカードが却下された場合、ロボットカレンダーには反映されません。MR が [却下済み] ステータスで作成されます。

メンテナンス要求を表示して、定期メンテナンスのステータスを追跡できます。詳細については、「RPA ハブ でのメンテナンス要求の表示」と「RPA ハブのメンテナンス要求フォーム」を参照してください。

定期メンテナンス日の管理の詳細については、「RPA ハブ での定期メンテナンス日の管理」を参照してください。

変更要求とメンテナンス要求の間のマッピング

変更要求 (CR) とメンテナンス要求 (MR) の間には、1 対 1 のマッピングがあります。既存の MR が CR にマッピングされていて、同じ CR の MR を作成する場合、前の MR をキャンセルし、同じ CR の MR を作成する必要があります。たとえば、CR1 が MR1 (CR1:MR1) にマッピングされているとします。MR2 を作成するには、MR1 をキャンセルし、CR1 を MR2 (CR1:MR2) にマッピングする必要があります。

同じ CI に対して複数または重複した CR が作成された場合、MR はいずれかの 1 つの CR に対して検討されます。RPA リリースマネージャーが決定を下します。

さまざまな **CR** 状況における定期メンテナンス日の動作

CR が [スケジュール]、[実装]、または [レビュー] のいずれかの状況であり、CR フォームの [開始予定日] フィールドと [終了予定日] フィールドに記載されている場合、定期メンテナンス日がこれらの日付に従って発生します。MR は次のように順番に更新されます。

- MR が [処理待ち] ステータスで作成されます。
- [開始予定日] が過ぎると、MR は [処理中] ステータスに更新されます。
- 関連する CI が [メンテナンス中] ステータスに移行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CR が [スケジュール]、[実装]、または [レビュー] のいずれかの状況であり、CR フォームの [開始予定日] フィールドが空の場合、SM 日はロボットカレンダーに反映されず、既存の MR は実行されません。

CR が [スケジュール]、[実装]、または [レビュー] のいずれかの状況であり、CR フォームの [終了予定日] フィールドが空の場合、たとえば、[開始予定日] が 1 月 21 日である場合、SM 日は、開始予定日から同日の午後 11 時 59 分までの 1 日のみに反映されます。1 月 21 日の MR が作成されます。日付が過ぎていても、CR がクローズされるまで CI は [メンテナンス中] ステータスになります。ただし、終了日を過ぎると、定期メンテナンスはロボットカレンダーに反映されません。

CR が [スケジュール]、[実装]、または [レビュー] のいずれかの状況であり、CR フォームの [開始予定日] フィールドと [終了予定日] フィールドが空の場合、SM 日はロボットカレンダーに反映されず、既存の MR は実行されません。

CR が [スケジュール]、[実装]、または [レビュー] のいずれかの状況であり、CR フォームの [開始予定日] フィールドと [終了予定日] フィールドが再スケジュールされた場合、その後、定期メンテナンスは、再スケジュールされた日付に自動的に更新されます。前の MR はキャンセルされ、RPA リリースマネージャーは SM イベントカードを承認することで、再スケジュールされた日付の MR を作成します。

CR フォームの [保留中] オプションが選択されている場合、SM 日はロボットカレンダーに反映されず、既存の MR は実行されません。

各 CI の CR が [クローズ済み] ステータスでない場合でも、CI は機能していれば、RPA リリースマネージャーは、CI のライフサイクルステージステータスを [公開済み] または [使用中] に更新できます。

CR がクローズされると、それぞれの CI のライフサイクルステージステータスが [公開済み] または [使用中] に更新されます。

CR がキャンセルされ、MR が [処理待ち] ステータスの場合、MR は実行されません。MR が実行対象として選択された場合は、MR をキャンセルします。詳細については、「RPA ハブ での定期メンテナンス日の管理」を参照してください。

CR がキャンセルされ、MR が [処理中] ステータスの場合、CI のライフサイクルステージステータスが [公開済み] ステータスに移行し、MR が [完了] ステータスに更新されます。

次の表は、さまざまな CR 状況における定期メンテナンス日の動作を示しています。

さまざまな **CR** 状況における定期メンテナンス日の動作

CR 状況	開始予定日	終了予定日	再スケジュールされた開始予定日	再スケジュールされた終了予定日	定期メンテナンス対応	**MR** ステータス
スケジュール/実装/レビュー	21-Jan	22-Jan	空	空	はい。	1 月 21 日の MR が作成されます。1 月 21 日に [処理中] に移行します。 CI が [メンテナンス中] に更新されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

さまざまな **CR** 状況における定期メンテナンス日の動作 (続く)

CR 状況	開始予定日	終了予定日	再スケジュールされた開始予定日	再スケジュールされた終了予定日	定期メンテナンス対応	MR ステータス
スケジュール/実装/レビュー	空	22-Jan	空	空	SM 日はロボットカレンダーに反映されません。	未実行。
スケジュール/実装/レビュー	21-Jan	空	空	空	SM 日は 1 月 21 日午後 11 時 59 分まで反映されます。 ただし、終了日を過ぎると、定期メンテナンスはロボットカレンダーに反映されません。	1 月 21 日の MR が作成されます。 日付が過ぎていても、CR がクローズされるまで CI は [メンテナンス中] ステータスになります。
スケジュール/実装/レビュー	空	空	空	空	SM 日はロボットカレンダーに反映されません。	未実行。
スケジュール/実装/レビュー	21-Jan	22-Jan	23-Jan	24-Jan	定期メンテナンスは、再スケジュールされた日付に自動的に更新されます。	前の MR がキャンセルされます (1 月 21 日が期限です)。 RPA リリースマネージャーは SM イベントカードを承認することで、再スケジュールされた日付の MR を作成します。
CR フォームの [保留中] オプションが選択されている	21-Jan	22-Jan	空	空	SM 日はロボットカレンダーに反映されません。	未実行。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

さまざまな **CR** 状況における定期メンテナンス日の動作 (続く)

CR 状況	開始予定日	終了予定日	再スケジュールされた開始予定日	再スケジュールされた終了予定日	定期メンテナンス対応	MR ステータス
クローズ済み	21-Jan	22-Jan	空	空	適用外	それぞれの CI のライフサイクルステージステータスが [公開済み] または [使用中] に更新されます。
キャンセル済み	21-Jan	22-Jan	空	空	適用外	MR が [処理待ち] ステータスの場合、MR は実行されません。 MR が実行対象として選択された場合は、MR をキャンセルします。 MR が [処理中] ステータスの場合、CI のライフサイクルステージステータスが [公開済み] ステータスに移行し、MR が [完了] ステータスに更新されます。

RPA ハブ でのグレースフルストップ機能の使用

グレースフルストップ機能は、ロボットが自動化をスムーズに終了する機能を提供します。自動化プロセス内で安全な終了ポイントを定義することができます。また、使用中のアプリケーションの終了などのクリーンアップタスクを実行することもできます。 これは、アサインされたロボットと、ロボットプール内のロボットに適用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

グレースフルストップ機能よりも前の課題

- グレースフルストップの前は、ボットプロセスで [処理の停止] ボタンを選択すると、ロボットは突然自動化を終了し、データの不整合やデータの非効率性につながっていました。
- RPA 開発者はハウスキーピングアクティビティを実行できません。

グレースフルストップ機能のメリット

- ロボットが既存のトランザクションアイテムを完了すると、データの健全性が維持されます。
- RPA 開発者は、ダウンストリームアプリケーションの終了などのハウスキーピングアクティビティを実行できます。

グレースフルストップの仕組み

スプレッドシートに 10 件の注文詳細レコードがある出荷注文のユースケースを考えてみましょう。これらの注文の詳細情報は、出荷管理アプリケーションなどのダウンストリームアプリケーションに入力されます。

RPA 開発者は、このユースケースの自動化を RPA デスクトップデザインスタジオでビルドします。スプレッドシートには 10 件のレコードがあるため、キューが自動化で使用され、出荷管理アプリケーションに入力されるデータが同期されます。

各ロボットが作業アイテムを選択し、ロジックを実行して、データを出荷管理アプリケーションにプッシュします。

すべてのロボットまたはロボットのサブセットに対して [処理の停止] を選択することによってボットプロセスが停止しときに [グレースフルストップ **(Graceful Stop)]** が有効になっていない場合、ロボットは自動化の実行を突然終了します。たとえば、スプレッドシートに 6 つの列がある場合、ロボットは列 D、E、F に情報を入力せずに列 C で突然停止します。開いているアプリケーションが終了していない可能性もあります。

RPA ハブ の [処理の停止] セクションで [グレースフルストップ **(Graceful Stop)]**トグルスイッチを有効にすると、すべての列 (D、E、F) のデータが設定され、ダウンストリームアプリケーションが終了します。詳細については、「RPA ハブ での無人のボットプロセスの停止」を参照してください。

RPA デスクトップデザインスタジオでは、自動化ロジックで **GracefulStop** コンポーネントを使用すると、自動化を確実に完了させることができます。詳細については、「GracefulStop コンポーネントの使用」を参照してください。この機能は、既存の作業アイテムを完了し、ダウンストリームアプリケーションにデータを入力し、開発者がアプリケーションの終了などのハウスキーピングアクティビティを実行するのに役立ちます。

無人ロボットの新しい **MSI**

ロボットプール内のロボットにグレースフルストップ機能を適用するには、最新の Washington DC リリース固有の無人ロボット MSI にアップグレードします。詳細については、「RPA ハブ からの RPA アプリケーションのダウンロード」を参照してください。

最新の MSI がインストールされておらず、特定のボットプロセスに対してロボットプールが有効になっている場合は、そのロボットプールのすべてのロボットの実行が停止されます。これらのボットプロセスに対して、ロボットプール内のロボットにグレースフルストップを使用することはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブでのボットプロセスの実行優先順位

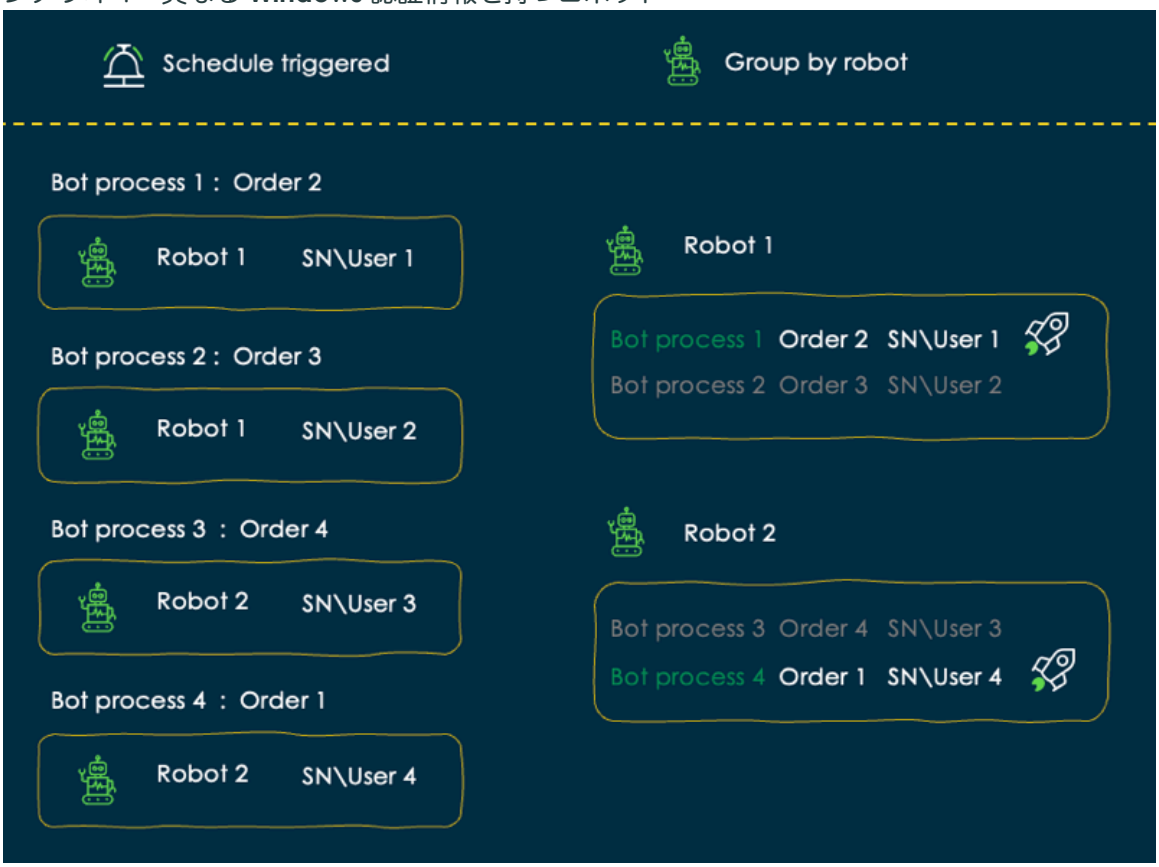
ボットプロセスを効率的に優先順位付けし、同じロボットで複数の自動化がトリガーされないようにする方法について説明します。ボットプロセスは、ロボット別と Windows ユーザー認証情報別の両方の方法で整理されます。

スケジュールされたトリガー

複数のボットプロセスが同時に実行されるようにスケジュールされている場合に、順位番号と Windows 認証情報に基づいて、どのようにボットプロセス実行の優先順位を付けるのかを理解するため、以下のシナリオについて考えてみましょう。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シナリオ 1：異なる **Windows** 認証情報を持つロボット



次のボットプロセスは、優先順位の異なるロボット 1 と 2 を使用し、それぞれのロボットは異なる認証情報を使用して Windows マシンにログインします。

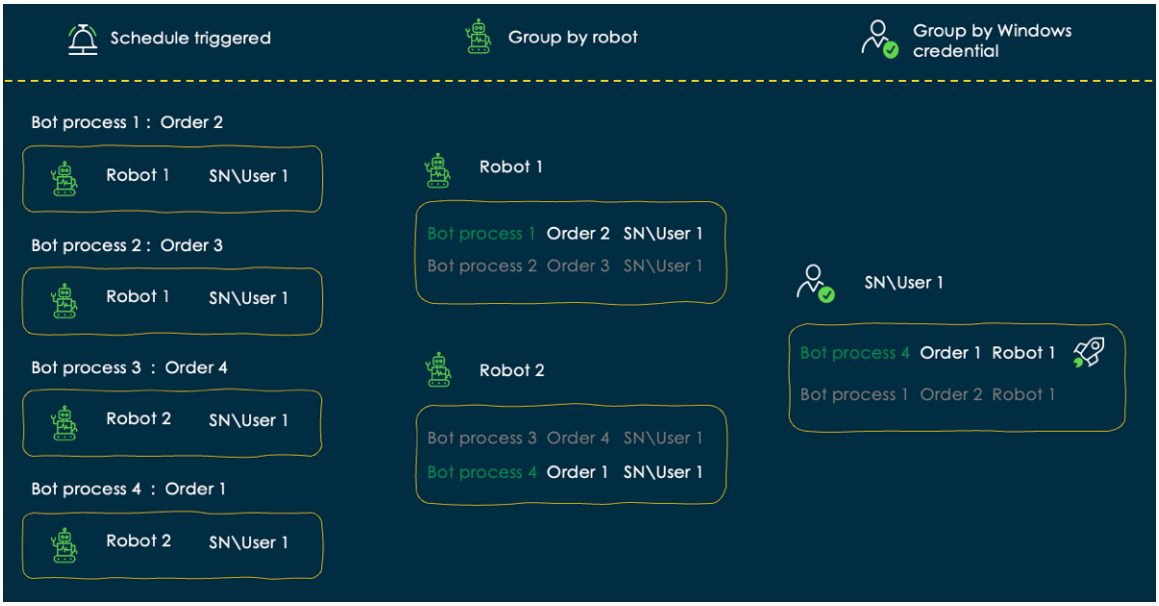
- ボットプロセス 1
  - ロボット：ロボット 1
  - 順位：2
  - Windows 認証情報：SN\User 1
- ボットプロセス 2
  - ロボット：ロボット 1
  - 順位：3
  - Windows 認証情報：SN\User 2
- ボットプロセス 3
  - ロボット：ロボット 2
  - 順位：4
  - Windows 認証情報：SN\User 3
- ボットプロセス 4
  - ロボット：ロボット 2
  - 順位：1
  - Windows 認証情報：SN\User 4

すべてのボットプロセスが同時に開始するようにスケジュールされている場合、実行は次のロジックに基づいて決定されます。

1. ボットプロセスはロボットごとにグループ化されます。
2. 各グループ内で、優先順位番号が最も小さいボットプロセスが実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である場合があります。

シナリオ 2：同じ **Windows** 認証情報を持つロボット



次のボットプロセスは、優先順位の異なる高密度ロボット 1 と 2 を使用し、同じ認証情報を使用して Windows マシンにログインします。

- ボットプロセス 1
  - ロボット：ロボット 1
  - 順位：2
  - Windows 認証情報：SN\User 1
- ボットプロセス 2
  - ロボット：ロボット 1
  - 順位：3
  - Windows 認証情報：SN\User 1
- ボットプロセス 3
  - ロボット：ロボット 2
  - 順位：4
  - Windows 認証情報：SN\User 1
- ボットプロセス 4
  - ロボット：ロボット 2
  - 順位：1
  - Windows 認証情報：SN\User 1

すべてのボットプロセスが同時に開始するようにスケジュールされている場合、優先順位は次のロジックに基づいて決定されます。

1. ボットプロセスは、最初にロボットごとにグループ化されます。
2. 各グループ内で、優先順位番号が最も小さいボットプロセスが選択されます。

優先順位の中間結果：

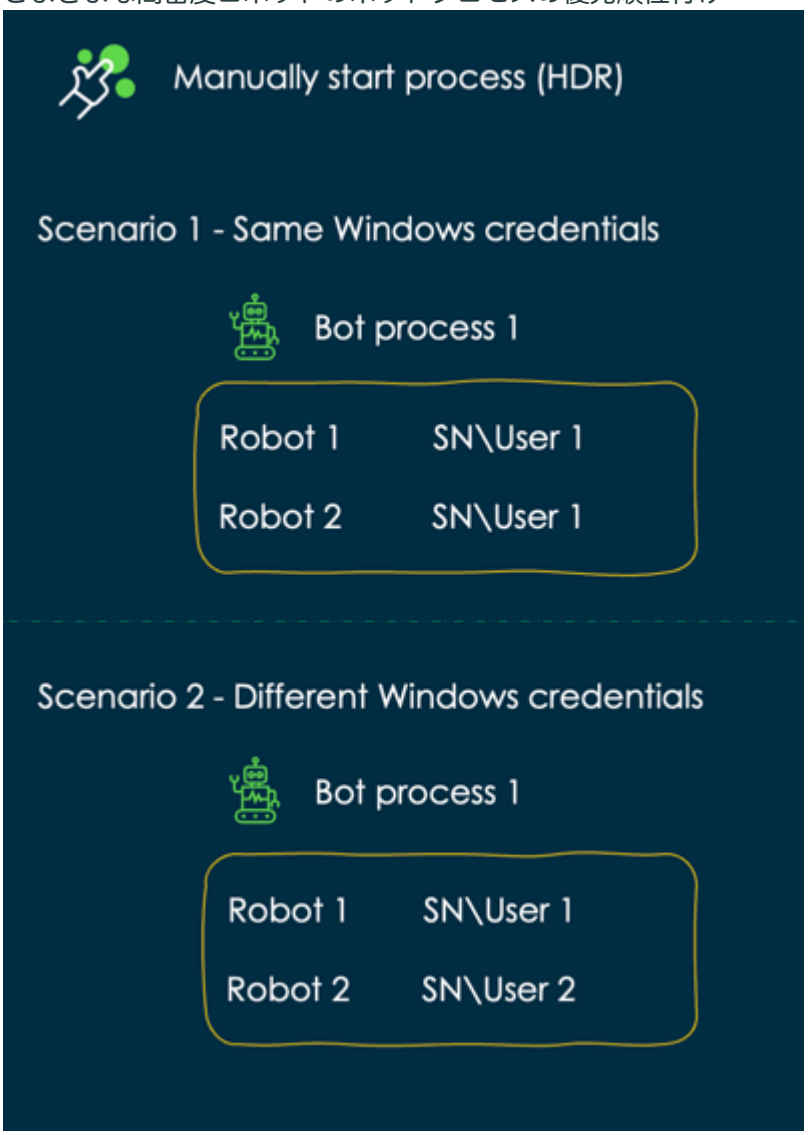
- ロボット 1：ボットプロセス 1 (優先順位 2) がボットプロセス 2 (優先順位 3) よりも優先して選択されます。
- ロボット 2：ボットプロセス 4 (優先順位 1) がボットプロセス 3 (優先順位 4) よりも優先して選択されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、およびその他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手動トリガー

[プロセスの開始 **(Start Process)]** ボタンを使用して複数の高密度ロボットを含むボットプロセスをトリガーする場合に、ロボットに対してボットプロセス実行をどのように優先順位付けするのかを理解するため、以下のシナリオについて考えてみましょう。

さまざまな高密度ロボットのボットプロセスの優先順位付け



シナリオ 1：同じ Windows 認証情報を持つロボット

ボットプロセス 1 は、Windows マシンにログインするための認証情報が同じである高密度ロボット 1 と 2 を使用します。ロボット 1 とロボット 2 のボットプロセス 1 で [プロセスの開始 **(Start Process)]** ボタンをクリックすると、ボットプロセスを実行するため任意の 1 つのロボットがランダムに選択されます。他のロボットに対しては、[スキップ済み **(Skipped)]** ステータスのプロセスジョブが作成されます。

シナリオ 2：異なる Windows 認証情報を持つロボット

ボットプロセス 1 は、Windows マシンにログインするため認証情報が異なる高密度ロボット 1 と 2 を使用します。ロボット 1 とロボット 2 のボットプロセス 1 で [プロセスの開始 **(Start Process)]** ボタンをクリックすると、両方のロボットがボットプロセスを同時に実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ での認証情報管理

ボットプロセスで定義した自動化を実行するためにロボットが使用する認証情報を簡素化します。ボットプロセスごとに同じ認証情報セットを作成する代わりに、ロボット認証情報、アプリケーション認証情報、および外部認証情報をはじめとする認証情報グループを作成できます。その後、認証情報グループを複数のボットプロセスに関連付けることができます。

認証情報管理の概要

RPA リリースマネージャー、RPA アドミニストレーター、または RPA 開発者は、認証情報グループを作成して無人のボットプロセスに関連付けることができます。また、外部認証情報 Vault を設定して、外部ソースからロボット認証情報、アプリケーション認証情報、または時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) シードを取得することもできます。シードは、TOTP の生成に使用される認証の秘密キーです。外部認証情報 Vault は、さまざまなアプリケーション、サービス、またはシステムのユーザー名、パスワード、その他のアクセス認証情報などの機密情報を保存、管理するためによく使用される安全なストレージシステムです。

認証情報管理のメリット

認証情報管理では、以下のタスクを実行できます。

- 認証情報を一度定義し、複数のボットプロセスで再利用して、リソースの全体的な生産性を向上させる。
- 異なるボットプロセスに同じ認証情報グループを構成するときに発生するエラーの数を減らす。
- 認証情報の一元管理により、認証情報へのアクセス方法を改善する。
- 外部認証情報 Vault を設定して、外部ストレージシステムから認証情報を安全に取得する。

ロボット認証情報

ロボット認証情報を作成することで、ロボットが Windows マシンにログインして自動化を実行できます。詳細については、「RPA ハブ でのロボット認証情報の作成」を参照してください。

次の表では、さまざまなロールを持つユーザーが実行できることとできないことについて説明します。

ロボット認証情報のアクセス制御リスト

ロール	実行できること	実行できないこと
RPA リリースマネージャー、RPA アドミニストレーター	ロボット認証情報を作成、表示、更新、または削除する。	-
RPA 開発者	• ロボット認証情報を作成する。 • 作成したロボット認証情報、またはアサインされているボットプロセスにマッピングされているロボット認証情報を表示する。 • 作成したロボット認証情報を更新または削除する。	アサインされていないボットプロセスのロボット認証情報、または作成していないロボット認証情報を表示、更新、および削除することはできない。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロボット認証情報のアクセス制御リスト (続く)

ロール	実行できること	実行できないこと
RPA ロボットユーザー	すべてのロボット認証情報を表示する。	ロボット認証情報を作成、更新、および削除することはできない。
RPA サポートユーザー	アサインされているボットプロセスにマッピングされているロボット認証情報を表示する。	ロボット認証情報を作成、更新、および削除することはできない。

アプリケーション認証情報

アプリケーション認証情報を作成することで、自動化の実行時にロボットによる特定のアプリケーションへのログインに使用できるユーザー名とパスワードを追加する。詳細については、「RPA ハブでのアプリケーション認証情報の作成」を参照してください。

次の表では、さまざまなロールを持つユーザーが実行できることとできないことについて説明します。

アプリケーション認証情報のアクセス制御リスト

ロール	実行できること	実行できないこと
RPA リリースマネージャー、RPA アドミニストレーター	アプリケーション認証情報を作成、表示、更新、または削除する。	-
RPA 開発者	• アプリケーション認証情報を作成または表示する。 • 作成したアプリケーション認証情報を更新または削除する。	作成していないアプリケーション認証情報は表示できない。
RPA ビジネスユーザー	• アプリケーション認証情報を作成する。 • 作成したアプリケーション認証情報、またはアサインされているボットプロセスにマッピングされているアプリケーション認証情報を表示する。 • 作成したアプリケーション認証情報を更新または削除する。	外部認証情報を追加することはできない。
RPA ロボットユーザー	すべてのアプリケーション認証情報を表示または編集する。	アプリケーション認証情報を作成することも削除することもできない。
RPA サポートユーザー	アサインされているボットプロセスにマッピングされているアプリケーション認証情報を表示する。	ロボット認証情報を作成、更新、および削除することはできない。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

TOTP 認証

時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) シードを設定すると、無人ロボットがマルチファクター認証 (MFA) 対応アプリケーションに対してシームレスに認証できるようになります。MFA 対応アプリケーションは、ユーザーとそのアカウントのセキュリティを強化します。

TOTP 認証レコードは編集できません。既存の TOTP 認証レコードを変更する必要がある場合は、既存のレコードを廃止してから、TOTP 認証レコードを作成する必要があります。詳細については、「RPA ハブ の TOTP 認証」と「RPA ハブ での TOTP 認証システムの作成」を参照してください。

次の表では、さまざまなロールを持つユーザーが実行できることとできないことについて説明します。

TOTP 認証のアクセス制御リスト

ロール	実行できること	実行できないこと
RPA リリースマネージャー、RPA アドミニストレーター	TOTP 認証を作成、表示、または削除する。	TOTP 認証を更新することはできない。
RPA 開発者	• TOTP 認証を作成する。 • 作成した TOTP 認証、またはアサインされているボットプロセスにマッピングされている TOTP 認証を表示する。	TOTP 認証を更新することも削除することもできない。
RPA ロボットユーザー	すべての TOTP 認証を表示する。	TOTP 認証を作成、更新、および削除することはできない。

認証情報グループ

認証情報グループを構成することで、アプリケーション認証情報とロボット認証情報を 1 つ以上のボットプロセスにマッピングできます。詳細については、「RPA ハブ での認証情報グループの作成」を参照してください。

次の表では、さまざまなロールを持つユーザーが実行できることとできないことについて説明します。

認証情報グループのアクセス制御リスト

ロール	実行できること	実行できないこと
RPA リリースマネージャー、RPA アドミニストレーター	認証情報グループを作成、表示、更新、または削除する。	-
RPA 開発者	• 認証情報グループを作成する。 • 作成した認証情報グループ、またはアサインされているボットプロセスにマッピング	アサインされていないボットプロセスの認証情報グループ、または作成していない認証情報グループを表示、更新、および削除することはできない。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

認証情報グループのアクセス制御リスト (続く)

ロール	実行できること	実行できないこと
	されている認証情報グループを表示する。 • 作成した認証情報グループを更新または削除する。	
RPA ロボットユーザー	すべての認証情報グループを表示する。	認証情報グループを作成、更新、および削除することはできない。
RPA サポートユーザー	アサインされているボットプロセスにマッピングされている認証情報グループを表示する。	認証情報グループを作成、更新、および削除することはできない。

外部認証情報 **Vault**

外部認証情報 Vault を設定して、ServiceNow 認証情報レコードの代わりに、外部ソースからロボット認証情報、アプリケーション認証情報、または時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) シードを取得できます。詳細については、「RPA ハブ の外部認証情報 Vault」と「RPA ハブ の外部認証情報 Vault レコードの作成」を参照してください。

次の表では、さまざまなロールを持つユーザーが実行できることとできないことについて説明します。

外部認証情報 **Vault** のアクセス制御リスト

ロール	実行できること	実行できないこと
RPA リリースマネージャー、RPA アドミニストレーター	外部認証情報を作成、表示、または更新する。	外部認証情報を削除することはできない。
RPA 開発者	外部認証情報を表示する。	外部認証情報を作成、更新、および削除することはできない。
RPA サポートユーザー	外部認証情報を表示する。	外部認証情報を作成、更新、および削除することはできない。
RPA ビジネスユーザー	外部認証情報を表示する。	外部認証情報を作成、更新、および削除することはできない。

RPA ハブ の **TOTP** 認証

RPA ハブ の時間に基づくワンタイムパスワード (TOTP) フィールドを設定すると、無人ロボットがマルチファクター認証 (MFA) 対応のアプリケーションに対してシームレスに認証できるようになります。

TOTP 認証の概要

認証アプリケーションは、一時的なパスコードを生成するサードパーティソフトウェアです。ユーザーは、これらのパスコードをパスワードとともに使用して、マルチファクター認証 (MFA) を必要とするインスタンスにログインできます。

TOTP 認証は、認証システムのシードストレージをインスタンスレベルで保護します。シードは、TOTP の生成に使用される認証の秘密キーです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

マルチファクター認証 (MFA) の概念について理解しておいてください。詳細については、「マルチファクター認証 (MFA)」を参照してください。

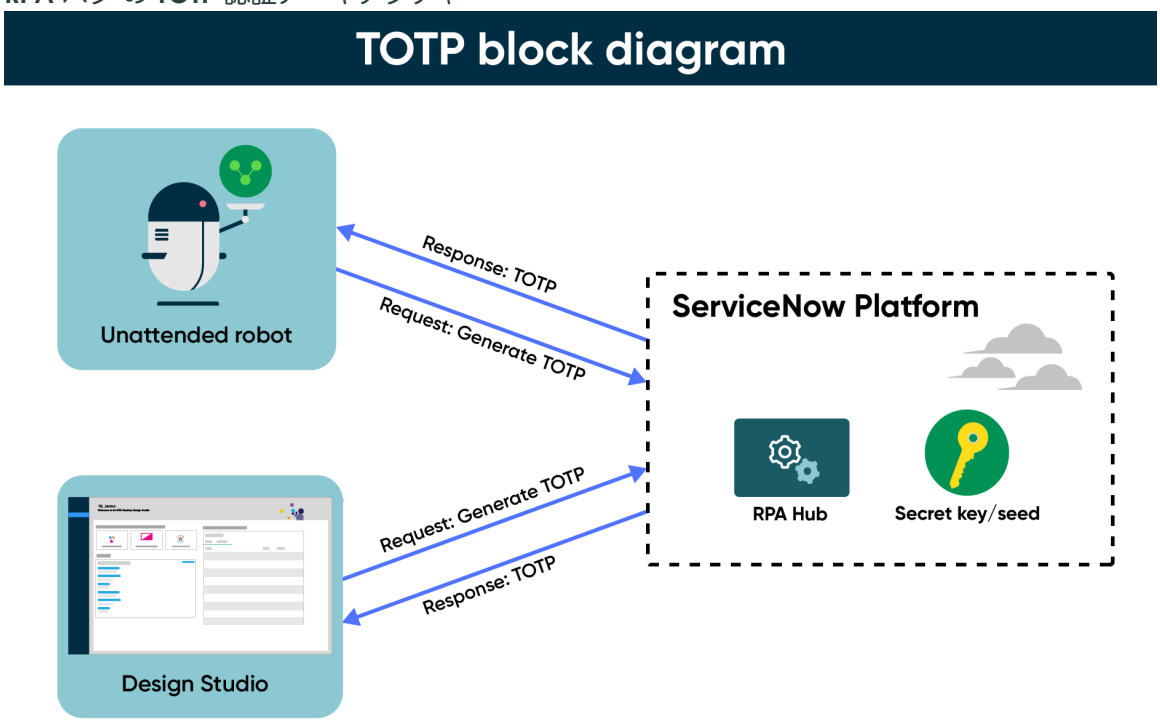
TOTP 認証アーキテクチャ

秘密キー (シード) は RPA ハブ サーバーにあります。

復号化された TOTP は、安全なチャネルを介して 無人ロボットと RPA デスクトップデザインスタジオに渡されます。

次の図は、RPA ハブ の TOTP 認証のアーキテクチャを示しています。

RPA ハブ の TOTP 認証アーキテクチャ



新しいフィールドとテーブルの構成

RPA ハブ の TOTP 認証を有効にするには、以下のアクションを実行します。

- クラシック環境でマルチファクター認証 (MFA) 認証システムレコードを作成します。詳細については、「RPA ハブ での MFA 認証システムの作成」を参照してください。
- TOTP 認証を、秘密キー (シード) を使用するロボット認証情報に関連付けます。このタスクは、ワークスペースとクラシック環境で実行する必要があります。詳細については、「RPA ハブ での TOTP 認証システムの作成」を参照してください。

RPA デスクトップデザインスタジオで、RPA 開発者は、AuthenticatorName を入力パラメーターとして使用して GetTOTP コンポーネント (以前の getOKTAtoken コンポーネント) を定義できます。コンポーネントから提供される認証システム名は、TOTP レコードの一意の認証システム名と比較されます。比較が成功すると、TOTP パスワードが生成されます。詳細については、「GetTOTP コンポーネントの使用」を参照してください。

関連情報

RPA ハブ での TOTP 認証システムの削除

RPA ハブ の MFA 認証システムの廃止

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ の外部認証情報 Vault

外部認証情報 Vault 機能を使用すると、ロボット認証情報、アプリケーション認証情報、または時間に基づくワンタイムパスワード (TOTP) シードを取得できます。

外部認証情報 Vault の RPA ハブ との統合

次の図は、外部認証情報ボールトの RPA ハブ との統合を示しています。

ロボットは顧客の環境に常駐します。自動化の実行中にロボットが機密データを必要とする場合、ロボットは RPA ハブ に対して GraphQL アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) 呼び出しを行います。機密データの例として、SAP アプリケーションへのログイン時のユーザー名とパスワードの詳細情報があります。

ロボット認証情報フォーム、アプリケーション認証情報フォーム、または TOTP 認証情報フォームのいずれかで、[外部認証情報 **(External Credential)]** チェックボックスで指定された入力に基づいて、以下のように動作します。

- 入力が「false」の場合 (チェックボックスが選択されていない場合)、認証情報は保存されるか、インスタンスから取得されます。
- 入力が「true」の場合 (ロボット認証情報フォーム、アプリケーション認証情報フォームでチェックボックスがオンになっている場合)、認証情報は構成済みの外部認証情報 Vault からフェッチされます。TOTP 認証システムフォームでチェックボックスがオンになっている場合、シードは構成済みの外部認証情報 Vault からフェッチされます。

これらのフィールドの構成の詳細については、「RPA ハブ でのロボット認証情報の作成」、「RPA ハブ でのアプリケーション認証情報の作成」、「RPA ハブ での TOTP 認証システムの作成」を参照してください。

外部認証情報 Vault の例としては CyberArk、Azure キー Vault などがあります。

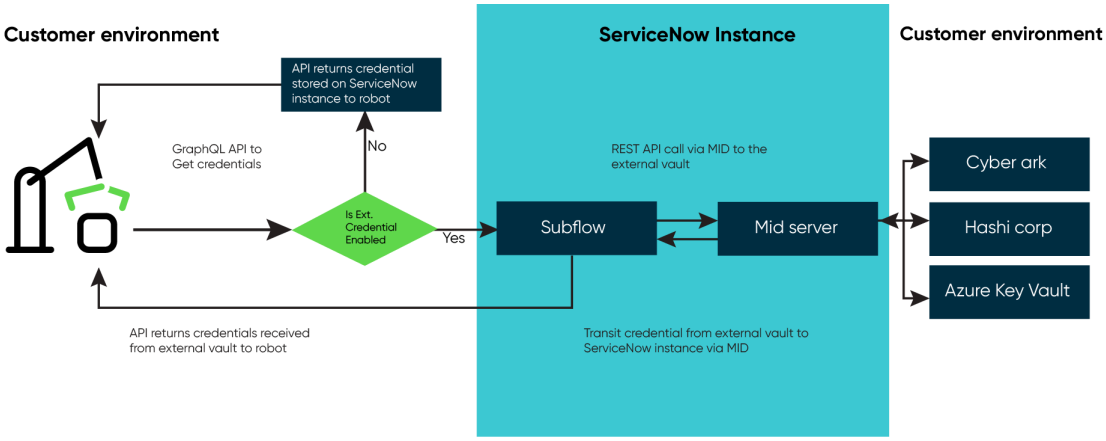
[外部認証情報 **(External Credential)]** チェックボックスがオンになっていない場合、API は ServiceNow インスタンスの **[Password2]** フィールドに保存されているデータを返し、ロボットは自動化実行用の機密データを使用します。

[外部認証情報 **(External Credential)]** チェックボックスがオンになっている場合、認証情報は構成済みの外部認証情報 Vault からフェッチされます。このシナリオでは、API は内部的にサブフローをトリガーします。このサブフローは、外部認証情報 Vault に対し REST API 呼び出しを行います。この REST API 呼び出しは、MID サーバー経由でルーティングできます。または、外部認証情報 Vault との接続を直接確立することもできます。この実装は、組織の要件によって異なります。MID サーバーは顧客の環境に常駐します。MID サーバーの詳細については、「MID サーバー」を参照してください。

REST API 呼び出しが Vault から認証情報をフェッチした後、認証情報がロボットに送信されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

外部認証情報 **Vault** の **RPA** ハブ との統合



重要な情報

データが ServiceNow インスタンスに保存されたり、ログに記録されたりしないように、外部認証情報の設定を適切に構成する必要があります。

外部認証情報 Vault のサブフロー (**Demo CyberArk** サブフロー **(Demo CyberArk Subflow)** など) の [レポート] フィールドの値が [オフ] に設定されていることを確認します。この設定では、機密データがキャプチャされたりログに記録されたりしないようにします。この設定の構成の詳細については、「フローのレポートの有効化」を参照してください。

RPA ハブ での外部認証情報 Vault の設定については、「RPA ハブ で外部認証情報 Vault を設定する手順」を参照してください。

送信要求のログ記録を使用すると、インスタンスがアクセスするサードパーティのサービスと送信要求の量を把握できます。さらに、ログ記録は送信の統合をデバッグする際に役立つ情報を提供します。システムログまたは送信ログの詳細については、「送信ログ記録の構成」および「送信 Web サービスのログ記録プロパティ」を参照してください。

RPA ハブ で外部認証情報 Vault を設定する手順

この手順リストを使用して、RPA ハブ で外部認証情報 Vault を構成するすべてのタスクをガイドします。

次のステップに進む前に、ステップのすべてのタスクを完了してください。

示されている順序でステップを実行します。

RPA ハブ で外部認証情報 **Vault** を設定する手順

タスク	参照
1. 外部認証情報 Vault を統合するサブフローを作成します。詳細については、「ワークフロースタジオ でサブフローを作成」を参照してください。	参考として、ServiceNow インスタンスの **[Demo CyberArk** サブフロー **(Demo CyberArk Subflow)]** のサンプルを参照してください。
1.A. 外部認証情報 Vault と統合するために作成するサブフローの入力タイプが JSON であることを確認します。 この入力は、ロボット認証情報、アプリケーション認証情報、または時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) 認証システムの [サブフロー入力] フィールドから値を取得します。	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ で外部認証情報 **Vault** を設定する手順 (続く)

タスク	参照
たとえば、**[Demo CyberArk]** の外部認証情報 Vault を使用する ロボット認証情報、アプリケーション認証情報、または TOTP 認証システムは、次の JSON 形式に合わせる必要があります。 `{ "appID" : "", "query" : "" }` **[appID]** と **[query]**の値を入力します。	
1.B. サブフローの REST ステップを使用して、外部認証情報 Vault に接続できます。SOAP などの他の統合ステップを使用することもできます。詳細については、「ワークフロースタジオのステップ」を参照してください。	
1.C. サブフローの出力を次の JSON スキーマに合わせる必要があることを確認します。 `{ "$schema": "http://json-schema.org/draft-07/schema#", "type": "object", "properties": { "result": { "type": "object", "properties": { "status": { "type": "string", "enum": ["success", "failure"] }, "data": { "type": "object", "properties": { "username": { "type": "string" }, "sensitiveValue": { "type": "string" }, "additionalData": {`	このスキーマは、サブフロー出力を検証するために、ロボティックプロセス自動化 (RPA) GraphQL API によって使用されます。出力がこのスキーマと一致していない場合は、エラーが発生します。 エラーメッセージ： サブフローから受信した JSON が、想定される JSON スキーマから逸脱しています。JSON 構造をドキュメントの指定されたスキーマに合わせて修正します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ で外部認証情報 **Vault** を設定する手順 (続く)

タスク	参照

<pre>"type": "object"
                        }
                    },
                    "required":
["sensitiveValue"]
                },
                "error": {
                    "type":
"object",
                    "properties":
{
 	
"errorType": {
 	
"type": "string"
                        },
 	
"errorMessage": {
 	
"type": "string"
                        },
 	
"additionalErrorData": {
 	
"type": "object"
                        }
                    },
                    "required":
["errorMessage"]
                }
            },
            "required": ["status"]
        }
    },
    "required": ["result"]
};</pre>	

1.D. サブフローに「result」という名前の JSON 出力を定義することで、予想される JSON スキーマ (1.C で説明) に合わせることができます。ステータスが成功 (success) の場合、この結果出力には次の構造の JSON オブジェクトをアサインする必要があります。JSON で定義されているキーの値を入力します。**status** キーと **sensitiveValue** キーは必須です。
<pre>{
  "status": "success", //Mandatory
  "data": {
    "username": "",
    "sensitiveValue":
"" //Mandatory</pre>	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ で外部認証情報 **Vault** を設定する手順 (続く)

タスク	参照

<pre>"additionalData": {}
}
}</pre>
ステータスが失敗 (failure) の場合、この結果出力には次の構造の JSON オブジェクトをアサインする必要があります。JSON で定義されているキーの値を入力します。**status** キーと **errorMessage** キーは必須です。
<pre>{
"status": "failure", //Mandatory
"error": {
"errorType": "",
"errorMessage":
"", //Mandatory
"additionalErrorData": {}
}
}</pre>	

2. 外部認証情報 vault レコードを作成します。詳細については、「RPA ハブ の外部認証情報 Vault レコードの作成」を参照してください。	参考として、ServiceNow インスタンスの **[Demo CyberArk]**の外部認証情報 vault のサンプルを参照してください。
3. ServiceNow 接続と資格情報を使用して、外部認証情報 Vault との接続を確立します。アクティブな接続の作成に関する詳細については、「HTTP(S) 接続を作成」を参照してください。 接続レコードを構成する際は、組織のセキュリティ要件に準拠していることを確認してください。	参考として、**[RPA CyberArk]** の接続および資格情報エイリアスを使用する **[Demo CyberArk** サブフロー **(Demo CyberArk Subflow)]**のサンプルを参照してください。 この接続および資格情報エイリアスに接続レコードを作成し、CyberArk 外部 Vault との接続を確立します。
4. ステップ 2 で作成した外部認証情報 Vault レコードを使用するには、ロボット認証情報、アプリケーション認証情報、または TOTP 認証システムのいずれかに移動し、[外部認証情報 **(External Credential)]** チェックボックスをオンにします。 また、[外部認証情報 **Vault (External Credential Vault)]** フィールドでレコードを選択し、 [サブフロー入力] フィールドに有効な JSON オブジェクトを入力します。JSON には、外部認証情報 Vault から認証情報を取得するために必要な情報が含まれていなければなりません。	これらのフィールドの構成の詳細については、「RPA ハブ でのロボット認証情報の作成」、「RPA ハブ でのアプリケーション認証情報の作成」、「RPA ハブ での TOTP 認証システムの作成」を参照してください。

RPA ハブ のキュー実装

RPA ハブ では、さまざまなロボット間で作業負荷を分散するためにキューが実装されています。キュー内の作業アイテム (WI) は、2 台以上のロボットによって同時に処理されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

キュー実装の概要

キューは、多数の作業アイテムを保持できるリポジトリです。作業アイテムには、トランザクション情報、お客様の詳細、ドキュメントからの情報など、複数のタイプのデータを保存できます。

キューは、さまざまな処理用ロボットへのタスク、作業アイテム、またはケースの配布を管理および制御するために使用される、構造化されたデータストレージメカニズムです。RPA キューは、自動化されたプロセスの実行をオーケストレーションし、タスクが効率的かつ正確に、望ましい順序で処理されるようにする上で重要な役割を果たします。

キューは、複数のボットまたはプロセス間でのタスクの分散、調整、および効率的な処理を容易にします。キューは、受信メール、顧客の注文、データ入力の処理など、さまざまなタスクが異なる時間に発生する動的なワークロードを自動化で処理する必要があるシナリオで特に役立ちます。

RPA ハブ では、公開済みのボットプロセスに関連付けられているキューは削除できません。

作業アイテムのライフサイクル

作業アイテムの状況移行により、そのライフサイクルのステージを進みます。

1. 作業アイテムは、[キューに作業アイテムを追加] フローアクションを使用してアップストリームシステムから作成されるか、または **CreateStringWorkItem** または **CreateJSONWorkItem** コンポーネントを使用してロボットによって作成されます。
2. ロボットは **PickWorkItem** コンポーネントを使用して、処理する作業アイテムを選択します。
3. 作業アイテムが選択されると、ロボットが作業アイテムにスタンプします。

   注: 他のロボットはこの作業アイテムを選択できません。

4. 作業アイテムは、指定した基準に基づいて処理されます。選択する必要があるアイテムを決定するためのさまざまな条件があり、そのアイテムは自動化ごとに異なります。この基準は、**PickWorkItem** コンポーネントの入力です。
5. 作業アイテムが選択されると、ロボットは **UpdateWorkItem** コンポーネントを使用して、選択したアイテムを処理しながら複数回更新します。

   このロボットは、この作業アイテムを部分的に処理してリリースし、他のロボットが選択できるようにすることもできます。このプロセスは、**UpdateWorkItem** コンポーネントの **ReleaseMode** フィールドの入力に基づいて実行されます。

6. ロボットは処理を完了すると、**UpdateWorkItem** コンポーネントを使用して作業アイテムを更新して完了させ、ステップ 2 で次の作業アイテムを選択します。

次の図は、RPA ハブ アプリケーションの作業アイテム (WI) のライフサイクルを示しています。

RPA ハブ の作業アイテム **(WI)** のライフサイクル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

- RPA ハブ でのキューの作成
- キューメニューからキューへのボットプロセスのアサイン
- 作業アイテムの管理
- RPA ハブ の失敗した作業アイテムに対する自動再試行機能の使用
- RPA ハブのキューフォーム
- RPA ハブの作業アイテムフォーム
- キュー

RPA ハブ の失敗した作業アイテムに対する自動再試行機能の使用

RPA ハブ の自動再試行機能を使用して、作業キュー内の失敗したアイテムを自動的に再試行できます。再試行機能は、[アプリケーション] 例外タイプのみに基づいています。

自動再試行の概要

通常、既存のロボティックプロセスオートメーション (RPA) 作業キューでは、指定した基準でアイテムが処理されます。このタイプの作業キュー内の実行するアイテムは、ロボットが選択します。

作業キューの最初のアイテムが正常に処理され、ステータスが「成功」に更新されるシナリオを考えてみましょう。しかし、ロボットが作業キュー内の 2 番目の実行するアイテムを選択すると、そのアイテムは正常に処理されず、ステータスが「失敗」に更新されます。

このシナリオで、代わりに自動再試行機能を使用すると、作業アイテムフォームの [例外タイプ] フィールドの値、および キューフォームの [最大試行回数] フィールドと [試行間の遅延 **(Attempt Delay)]** フィールドに入力した値に基づいて、作業アイテムが自動的に再試行されます。

例外タイプには、アプリケーションとビジネスの 2 つがあります。

作業アイテムフォームで、[例外タイプ] フィールドの値が [アプリケーション] で、[最大試行回数] フィールドの値が 1 より大きく、[試行回数] フィールドの現在の値が [最大試行回数] フィールドの値よりも小さい場合、作業キュー内の失敗したアイテムは自動的に再試行されます。

注: [例外タイプ] フィールドの値が [ビジネス] の場合、自動再試行機能は有効になりません。

キューフィールドとシステムプロパティ構成

自動再試行機能を有効にするには、*sn_rpa_fdn.queue.maximum_attempts_max_value* システムプロパティの値を定義する必要があります。こうした値の詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」を参照してください。

自動再試行機能を有効にするには、キューフォームで次のフィールドを設定します。

- 最大試行回数
- 試行間の遅延 (分)

[最大試行回数] フィールドで、失敗した作業アイテムの試行回数を定義します。[試行間の遅延 (分) **(Attempt Delay (mins))]** で、作業アイテムが再試行されるまでの最大遅延を分単位で定義します。これらのフィールドの詳細については、「RPA ハブのキューフォーム」と「RPA ハブ でのキューの作成」を参照してください。

作業アイテムフォームの自動再試行機能に関連する以下のフィールドを表示できます。

- 例外タイプ
- 試行回数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[例外タイプ] フィールドの値に基づいて、自動再試行機能が作業アイテムを再試行します。[試行回数] フィールドで、作業アイテムの自動再試行が行われる回数を確認できます。これらのフィールドの詳細については、「RPA ハブの作業アイテムフォーム」を参照してください。

自動再試行ワークフロー

自動化で選択されている作業アイテムのステータスが [処理中] の場合、自動再試行ワークフローは次のようになります。

- [例外タイプ] フィールドが [アプリケーション] で、[試行回数] フィールドが 1 ずつインクリメントされ、[試行回数] フィールドの現在の値が [最大試行回数] フィールドの値と等しい場合、作業アイテムのステータスは [失敗] に更新され、[例外タイプ] フィールドが [アプリケーション] に更新されます。作業アイテムは自動再試行できません。
- [例外タイプ] フィールドが [アプリケーション] で、[試行回数] フィールドが 1 ずつインクリメントされ、[試行回数] フィールドの現在の値が [最大試行回数] フィールドの値より小さい場合、作業アイテムのステータスは [処理中] に更新され、[例外タイプ] フィールドが [アプリケーション] に更新されます。作業アイテムは、[試行回数] フィールドで期間 (分) を設定した後にのみ自動再試行できます。
- [例外タイプ] フィールドが [ビジネス] で、[試行回数] フィールドが 1 ずつインクリメントされる場合、作業アイテムのステータスは [失敗] に更新され、[例外タイプ] フィールドが [ビジネス] に更新されます。作業アイテムは自動再試行できません。
- [例外タイプ] フィールドに値がなく、[試行回数] フィールドが 1 ずつインクリメントされない場合、作業アイテムのステータスは [処理中] に更新されます。[例外タイプ] は更新されません。作業アイテムは、[試行回数] フィールドで期間 (分) を設定した後にのみ自動再試行できます。

注: **[ReleaseMode]** フィールドの値がロックされている場合、ロボットがまだ作業アイテムを実行しているため、[試行回数] フィールドの値をインクリメントすることはできません。[試行回数] フィールドの値は、**[ReleaseMode]** フィールドの値が [リリース] の場合にのみインクリメントされます。[試行回数] フィールドの値は、アイテムがロボットによってリリースされたとき、またはアイテムのステータスが [失敗] に設定されたときにインクリメントされます。

次の表は、[処理中] の作業アイテムの自動再試行ワークフローを示しています。

[処理中] の作業アイテムの自動再試行ワークフロー

例外タイプ	試行回数 (1 ずつインクリメント)	条件	更新されたステータス	更新された例外タイプ
アプリケーション	はい	[試行回数] フィールドの現在の値が [最大試行回数] フィールドの値と等しい場合。	失敗	アプリケーション
アプリケーション	はい	[試行回数] フィールドの現在の値が [最大試行回数] フィールドの値より小さい場合。	処理中	アプリケーション
ビジネス	はい	<条件なし>	失敗	ビジネス
<空>	いいえ	<条件なし>	処理中	<更新なし>

自動化で選択されている作業アイテムのステータスが [成功] の場合、自動再試行ワークフローは次のようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [例外タイプ] フィールドが [アプリケーション] で、[試行回数] フィールドが 1 ずつインクリメントされる場合、作業アイテムのステータスは [成功] に更新され、[例外タイプ] フィールドが空に更新されます。作業アイテムは自動再試行できません。
- [例外タイプ] フィールドが [ビジネス] で、[試行回数] フィールドが 1 ずつインクリメントされる場合、作業アイテムのステータスは [成功] に更新されます。[例外タイプ] は空に更新され、作業アイテムは自動再試行できません。
- [例外タイプ] フィールドに値がなく、[試行回数] フィールドが 1 ずつインクリメントされる場合、作業アイテムのステータスは [成功] に更新されます。[例外タイプ] フィールドは空に更新され、作業アイテムは自動再試行できません。

次の表は、[成功] の作業アイテムの自動再試行ワークフローを示しています。

[成功] の作業アイテムの自動再試行ワークフロー

例外タイプ	試行回数 (1 ずつインクリメント)	更新されたステータス	更新された例外タイプ
アプリケーション	はい	成功	<空>
ビジネス	はい	成功	<空>
<空>	はい	成功	<空>

自動化で選択されている作業アイテムのステータスが [失敗] の場合、自動再試行ワークフローは次のようになります。

- [例外タイプ] が [アプリケーション] で、[試行回数] フィールドが 1 ずつインクリメントされ、[試行回数] フィールドの現在の値が [最大試行回数] フィールドの値より小さい場合、作業アイテムのステータスは [処理中] に更新されます。[例外タイプ] フィールドが [アプリケーション] に更新され、作業アイテムは、[試行回数] フィールドで設定した期間の終了後にのみ自動再試行できます。
- [例外タイプ] フィールドが [アプリケーション] で、[試行回数] フィールドが 1 ずつインクリメントされ、[試行回数] フィールドの現在の値が [最大試行回数] フィールドの値に等しい場合、作業アイテムのステータスは [失敗] に更新されます。[例外タイプ] フィールドは [アプリケーション] に更新され、作業アイテムは自動再試行できません。
- [例外タイプ] が [ビジネス] で、[試行回数] フィールドが 1 ずつインクリメントされる場合、作業アイテムのステータスは [失敗] に更新されます。[例外タイプ] フィールドは [ビジネス] に更新され、作業アイテムは自動再試行できません。
- [例外タイプ] フィールドに値がなく、[試行回数] フィールドが 1 ずつインクリメントされる場合、作業アイテムのステータスは [失敗] に更新されます。[例外タイプ] フィールドは更新されず、作業アイテムは自動再試行できません。

次の表は、自動化で [失敗] ステータスが選択されている場合の自動再試行ワークフローを示しています。

[失敗] の作業アイテムの自動再試行ワークフロー

例外タイプ	試行回数 (1 ずつインクリメント)	条件	更新されたステータス	更新された例外タイプ
アプリケーション	はい	[試行回数] フィールドの現在の値が [最大試行回数] フィールドの値より小さい場合。	処理中	アプリケーション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[失敗] の作業アイテムの自動再試行ワークフロー (続く)

例外タイプ	試行回数 (1 ずつインクリメント)	条件	更新されたステータス	更新された例外タイプ
アプリケーション	はい	[試行回数] フィールドの現在の値が [最大試行回数] フィールドの値と等しい場合。	失敗	アプリケーション
ビジネス	はい	<条件なし>	失敗	ビジネス
<空>	はい	<条件なし>	失敗	<更新なし>

注: [保留期間] フィールドの値はコンポーネントから取得されます。このフィールドは、常に [試行間の遅延 (分) **(Attempt Delay (mins))**] フィールドよりも優先されます。[保留期間] フィールドは、作業フォームの読み取り専用フィールドです。詳細については、「RPA ハブの作業アイテムフォーム」を参照してください。

関連情報

RPA ハブ のキュー実装

RPA ハブ のコード品質チェック

コード品質チェックとは、自動化ファイルまたはスクリプトを評価して、コーディング標準、ベストプラクティス、保守性、および全体的な品質への準拠を評価するプロセスのことです。

コード品質チェックの概要

コード品質チェックは RPA 開発ライフサイクルにおいて不可欠であり、自動化ファイルが堅牢で、効率的であり、将来エラーや問題につながる可能性のある一般的な問題がないことを確実にします。

RPA リリースマネージャーまたは RPA アドミニストレーターは、 RPA ハブ インスタンスで事前定義されたルールセットからコード品質チェックルールを選択します。

次に、RPA デスクトップデザインスタジオ は、パッケージを公開する前に、組み込みコードの品質チェックを実行します。RPA 開発者は、コード品質チェック機能を使用して、アクティビティまたは完全な自動化プロジェクトに問題がないかどうかを検査することで、RPA デスクトップデザインスタジオ 内のパッケージに対してプロアクティブなコード品質チェックを実行することもできます。

問題とその詳細が [コード品質チェック結果 **(Code Quality Check Results)**] ウィンドウに表示されます。個々のエントリをダブルクリックすると、エラーまたは警告が表示されたコンポーネントが表示されます。自動化プロジェクトを RPA ハブ に公開する前に、問題をトラブルシューティングします。RPA デスクトップデザインスタジオ でコード品質チェックを実行する方法の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェック」を参照してください。

自動化でエラーまたは警告が発生した場合、システムプロパティ [*sn_rpa_fdn.restrict_package_by_severity*] 構成 (エラー、警告、または制限なし) に基づいて、パッケージを正常に公開できるかどうかが決定されます。RPA デスクトップデザインスタジオのコンプライアンスルールの詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェックのコンプライアンス」を参照してください。

パッケージバージョンにコード品質の結果がエラーまたは警告とマークされている場合、システムプロパティ [*sn_rpa_fdn.restrict_package_by_severity*] 構成 (エラー、警告、または制限なし) に基づいて、ボットプロセスを正常に公開できるかどうかが決定されます。RPA ハブ のコンプライアンスルールの詳細については、「RPA ハブ のコード品質チェックのコンプライアンス」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ インスタンスで事前定義されたコード品質ルールのリストを表示します。詳細については、「RPA ハブのコード品質ルールリスト」を参照してください。

コード品質ルールフォームをタイプと説明とともに表示します。詳細については、「RPA ハブのコード品質ルールフォーム」を参照してください。

RPA リリースマネージャーとアドミニストレーターは、コード品質ルールフォームで、[重大度]、[正規表現]、[アクティブ]、および [値] フィールドを編集できます。

RPA ハブ の関連するパッケージバージョンの [コード品質結果 **(Code Quality Result)**] フィールドで、コード品質チェックの結果を表示します。詳細については、「RPA ハブのパッケージバージョンフォーム」を参照してください。

構成

インスタンスレベルでコード品質チェックを有効にするには、新しいシステムプロパティ *sn_rpa_fdn.enable_code_quality_check* を [true] としてマークしてください。

さらに、次のシステムプロパティを構成します。

- *sn_rpa_fdn.restrict_package_by_severity* - RPA デスクトップデザインスタジオ からのパッケージの公開と RPA ハブ でのボットプロセスの公開に対する制限を設定します。
- *sn_rpa_fdn.code_quality_check_timeout* - コード品質チェックの完了までの最大期間を分単位で入力します。

これらのシステムプロパティは、コード品質チェック機能 *sn_rpa_fdn.enable_code_quality_check* が有効になっている場合にのみ有効です。こうしたプロパティと値の詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」を参照してください。

RPA ハブ でのボットプロセス構成の移行

RPA ハブ では、有人または無人のボットプロセスのボットプロセス構成と関連する資産を、ある環境から別の環境に移行できます。この機能を使用して、自動化を作成して下位環境でテストしてから、上位環境または本番環境に移行できます。

ボットプロセス移行の概要

ボットプロセスを任意の環境から別の環境に移行できます。たとえば、ボットプロセスを開発者環境から UAT 環境に移行する準備ができたら、RPA 開発者または RPA アドミニストレーターは、公開されたボットプロセスの [移行準備完了 **(Ready for Migration)**] ボタンを選択できます。このアクションにより、[移行] ボタンが表示されるようになります。このボタンは、ボットプロセスの移行が進行中でない場合にのみ表示されます。その後、RPA リリースマネージャーまたは RPA アドミニストレーターは、[移行] ボタンを選択して移行プロセスを開始できます。ボットプロセスと関連する資産が移行された後、リリースマネージャーは必要な変更 (プロセスパラメーター、共有パラメーター、認証情報マッピングの追加作成など) を行い、認証情報を作成して関連付け、関連するボットプロセスレコードを作成し、ボットプロセスを UAT (ターゲット) 環境で公開することができます。

ボットプロセスで移行されるもの

無人のボットプロセスの移行では、以下のレコードと関連資産も移行されます。

- ボットプロセス構成
- パッケージ
- 添付ファイル付きのパッケージバージョン
- プロセスパラメーター
- ボットプロセスにアサインされている場合、共有プロセスパラメーター
- スケジュール

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- キュー
- 関連スキル

有人のボットプロセスの移行では、以下のレコードと関連資産も移行されます。

- ボットプロセス構成
- パッケージ
- 添付ファイル付きのパッケージバージョン
- プロセスパラメーター
- ボットプロセスにアサインされている場合、共有プロセスパラメーター
- 埋め込みタスクの自動化 (ETA) が有効になっている場合、プロセスフィールドパラメーター
- ETA が有効になっている場合、有人構成
- キュー
- 関連スキル

ボットプロセスで移行されないもの

ボットプロセス構成に関連付けられているロボット認証情報、アプリケーション認証情報、および認証情報グループは移行されません。ボットプロセス構成が移行された後、ターゲット環境で認証情報を作成または更新する必要があります。

ボットプロセスの共有パラメーターまたはプロセスパラメーターが機密としてマークされている場合、これらのパラメーターに保存されている機密の値は移行されず、ターゲット環境でこのパラメーター値は空になります。

デフォルトのフィールド値のみが移行されます。カスタムフィールドの値は移行されません。

再構築された **RPA** ハブ テーブル **(Tokyo** およびそれ以前のリリース)

Tokyo およびそれ以前のリリースでは、移行前に RPA ハブ テーブルを再構築する必要があります。詳細については、「RPA ハブ テーブルの再ビルド」を参照してください。

関連情報

ボットプロセスを移行準備完了としてマーク

別の環境にへのボットプロセス構成の移行

RPA ハブのプロセスジョブステータス

プロセスジョブは、ロボットでのボットプロセスの実行を表します。

プロセスジョブステータスのシナリオ

ステータス	シナリオ
実行中	ボットプロセスがロボットによって実行されている場合、プロセスジョブのステータスが更新されて [実行中] になります。
キャンセル	ボットプロセスの実行を手動でキャンセルすると、プロセスジョブのステータスが更新されて [キャンセル] になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスジョブステータスのシナリオ (続く)

ステータス	シナリオ
	ボットプロセス 1 が既に実行中で、強制開始が有効になっているボットプロセス 2 がトリガーされた場合、ボットプロセス 1 のプロセスジョブのステータスが更新されて [キャンセル] になり、ボットプロセス 2 のプロセスジョブのステータスも更新されて [実行中] になります。
成功	ボットプロセスがロボットによって正常に実行されると、プロセスジョブのステータスが更新されて [成功] になります。
失敗	ボットプロセスの実行が完了に失敗すると、プロセスジョブのステータスは更新されて [失敗] になります。
スキップ	同じ無人ロボットに対して複数のボットプロセスがトリガーされる場合の次のシナリオが考えられます。 • ボットプロセス 1 が既に実行中で、強制開始が無効になっているボットプロセス 2 がトリガーされた場合、ボットプロセス 2 のプロセスジョブステータスは更新されて [スキップ] になります。 • BP1 と BP2 という 2 つのボットプロセスが同じロボットで同時に実行されるようにスケジュールされており、BP2 の優先順位が低い (優先順位番号が大きい) 場合、BP2 のプロセスジョブのステータスは更新されて [スキップ] になります。 • 同じ優先順位の 2 つのボットプロセス (BP1 と BP2) が同じロボットで同時に実行されるようにスケジュールされている場合、ボットプロセスのうち 1 つだけが実行対象としてランダムに選択され、もう 1 つのプロセスジョブのステータスは更新されて [スキップ] になります。 • ボットプロセス 1 がトリガーされ、ロボットがログインを待機している間にボットプロセス 2 がトリガーされた場合、ボットプロセス 2 のプロセスジョブステータスが更新されて [スキップ] になります。 • ボットプロセス 1 に対して [プロセスの開始 **(Start process)]** アクションが呼び出され、実行が開始されるまでの間に他のボットプロセスがトリガーされた場合、他のすべてのプロセス開始要求のプロセスジョブが更新されて [スキップ] になります。 • ロボットが応答状態に戻ると、ロボットが応答不能状態であったときにトリガーされたプロセス開始要求の受信が開始されます。設定

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスジョブステータスのシナリオ (続く)

ステータス	シナリオ
	されたしきい値を下回る最新の要求は更新されて [実行中] になり、それ以外の古い要求はすべて更新されて [スキップ] になります。
放棄	• ロボットタイプにかかわらず、以前ボットプロセスが実行され、プロセスジョブのステータスが [完了] に更新されず、新しいプロセスジョブが作成された場合、以前実行されたプロセスジョブのステータスは更新されて [破棄] になります。 • プロセスジョブが実行されている場合、ロボットのステータスは [ビジー] ステータスから他のステータスに移行します。 たとえば、プロセスジョブがロボットマシンでローカルに実行されている場合、ネットワーク障害、証明書認証の失敗、マシンユーザープロファイルの破損などが原因で、ロボットがハートビート呼び出しで RPA ハブを更新できないことがあります。 このようなすべてのシナリオで、ロボットが中断後に RPA ハブを呼び出し、ステータスを [ビジー] または [切断] から [利用可能] に更新した場合、最後の既知のプロセスジョブのステータスが [破棄] に変更されます。

RPA ハブ の構成

組織での RPA ハブ の実装を計画および構成できます。

構成の概要

RPA ハブを構成するには、次のタスクを実行します。

1. ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub のインストール。

   admin ロールを持っている場合は、ロボティックプロセス自動化 (RPA) ハブアプリケーション (sn_rpa_fdn) をインストールします。このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow® Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

2. (オプション) RPA ハブテーブルを再構築する。

   ロボティックプロセス自動化 (RPA) テーブルをアプリケーションファイルに再構築することにより、テーブルに加えた変更は更新セットにキャプチャされ、環境間でシームレスに移動させることができます。このプロセスでは、ターゲット環境でデータレコードを再作成する必要はありません。

3. (オプション) RPA ハブ での下位環境から上位環境へのデータの移行。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

更新セット機能を使用して、下位 (非本番) 環境から上位 (本番) 環境にデータを移行することで、リアルタイムでの利用を可能にします。

4. クライアント認証とコード署名証明書を設定する。

   クライアント認証とコード署名証明書は 2 つの方法で生成できます。ユーザー証明書を生成してインストールするか、Active Directory 証明書をエクスポートできます。

   - KeyStore Explorer からユーザー証明書を生成してインストールします。

     無人ロボットアプリケーションでの認証用にクライアント認証証明書を生成します。RPA デスクトップデザインスタジオから自動化プロジェクトを公開するためのコード署名証明書を生成します。

   - Active Directory 証明書をエクスポートします。

     ルート証明書、中間証明書、クライアント認証証明書などの Microsoft Active Directory 証明書を認証用にエクスポートできます。次に、エクスポートされたルート証明書と中間証明書を ServiceNow インスタンスに登録し、エクスポートされたクライアント認証証明書をユーザーにマッピングできます。

5. CSDM ガイドラインをRPA ハブに適用する。

   CMDB で構成アイテム (CI) と CI 間の関係を定義するには、共通サービスデータモデル (CSDM) (CSDM) のガイドラインを適用します。このプロセスにより、データが適切な CMDB テーブルに存在することが保証され、Now Platform アプリケーションの価値が最大化されます。

6. RPA ハブ でのロボットライセンスの配布レコードの作成。

   クラシック環境では、RPA ハブでロボットライセンスの配布レコードを作成して、親子ドメインまたはグローバルドメインに対してライセンスの消費と配布を定義します。

7. RPA ハブ プロパティの設定。

   クラシック環境では、ロボットの自動アサインや認証メカニズムの定義などの RPA ハブのプロパティを設定して、エクスペリエンスをカスタマイズします。

ガイド付きセットアップを使用した **RPA** ハブの実装

ガイド付きセットアップには一連のタスクがあり、ServiceNow® のインスタンスで RPA ハブ を構成するうえで役立ちます。ガイド付きセットアップを使用すると、完了した内容が追跡されるため、設定を中断しても、その時点から再開することができます。RPA ハブ のガイド付きセットアップを開くには、[すべて] > [ロボティックプロセス自動化 **(Robotic Process Automation)]** > [管理] > [ガイド付きセットアップ]に移動します。

ガイド付きセットアップインターフェイスの使用の詳細については、「ガイド付きセットアップの使用」を参照してください。

ガイド付きツアーを使用して構成タスクに関連するヘルプを取得する

ガイド付きツアーでは、タスクの完了に役立つステップバイステップの手順を ServiceNow® インスタンスで提供します。ガイド付きツアーの使用の詳細については、「RPA ハブ でのガイド付きツアー　の使用」を参照してください。

関連情報

- 無人ロボットの構成
- アテンド型ロボット の構成

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ の Now Assist の構成

RPA デスクトップデザインスタジオ の構成

ロボティックプロセス自動化 **(RPA) Hub** のインストール

admin ロールを保持している場合は、ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub アプリケーション (sn_rpa_fdn) をインストールできます。 このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow® Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、「ServiceNow 製品またはアプリケーションのエンタイトルメントの取得」を参照してください。
- 依存関係、ライセンスまたはサブスクリプションの要件、およびリリースの互換性については、ServiceNow Store の RPA Hub アプリケーションリストを 確認してください。

必要なロール：admin

このタスクについて

ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub とともに、次のアイテムがインストールされます。

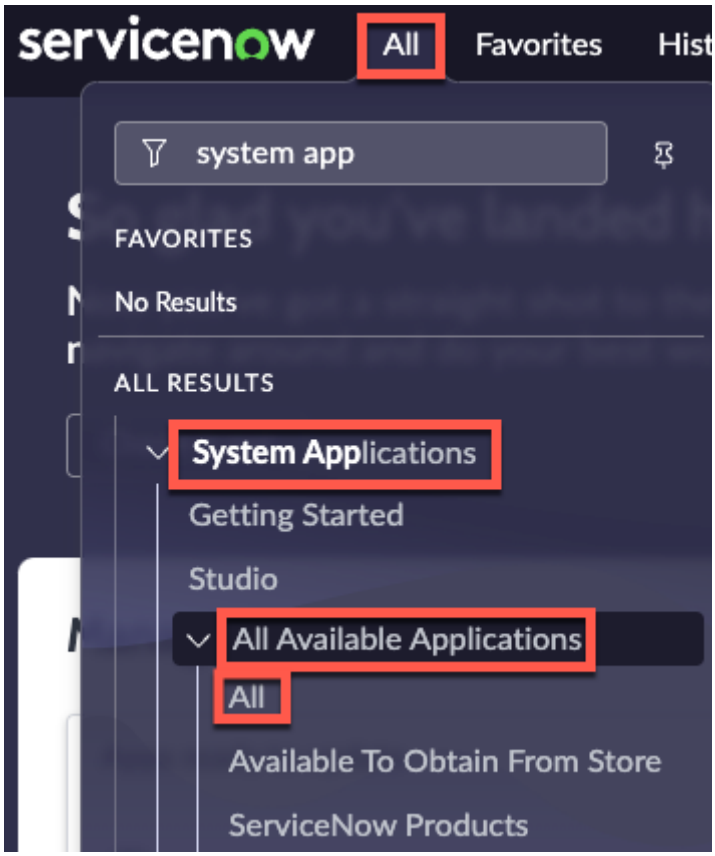
- ロール
- スケジュール済みジョブ
- テーブル
- アクションとサブフロー

詳細については、「RPA ハブ とともにインストールされるコンポーネント」と「RPA ハブのアクションとサブフロー」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。



2. フィルター基準と検索バーを使用して、ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub アプリケーション (sn_rpa_fdn) を検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

   ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

3. アプリケーションのインストールダイアログボックスで、アプリケーションの依存関係を確認します。

   依存するプラグインとアプリケーションがインストールされている場合、現在インストールされている場合、またはインストールする必要がある場合は、リストに表示されます。インストールする必要があるプラグインまたはアプリケーションがある場合は、ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub をインストールする前にそれらをインストールする必要があります。

4. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
   デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要: インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

5. [インストール] を選択します。

次のタスク
ロボティックプロセス自動化 (RPA) ガイド付きセットアップを使用して、インスタンスでアプリケーションを構成します。

ロボティックプロセス自動化 (RPA) ガイド付きセットアップにアクセスするには、[すべて] > **[Robotic Process Automation]** > [管理] > [ガイド付きセットアップ] に移動します。ガイド付きセットアップインターフェイスの使用の詳細については、「ガイド付きセットアップの使用」を参照してください。

RPA ハブ テーブルの再ビルド

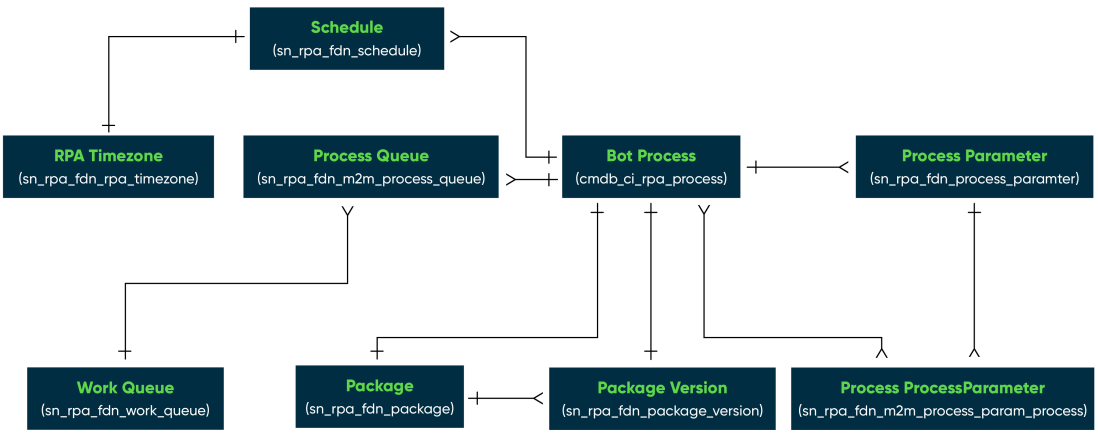
Utah リリース以降、ロボティックプロセス自動化 (RPA) テーブルはアプリケーションファイルに再ビルドされるため、テーブルに加えた変更は更新セットにキャプチャされ、環境間でシームレスに移動させることができます。このプロセスでは、ターゲット環境でデータレコードを再作成する必要はありません。

RPA ハブ アプリケーションをサポートするテーブルアーキテクチャが再ビルドされ、アプリケーションファイル (sys_metadata) が拡張されました。このアクションにより、すべてのデータが更新セットに自動的にキャプチャされます。

Tokyo 以前から Yokohama にアップグレードすると、ボットプロセス定義は新しい構造、つまりボットプロセス構成に変更されます。

次の図は、再ビルド前の RPA ハブ のテーブルを示しています。

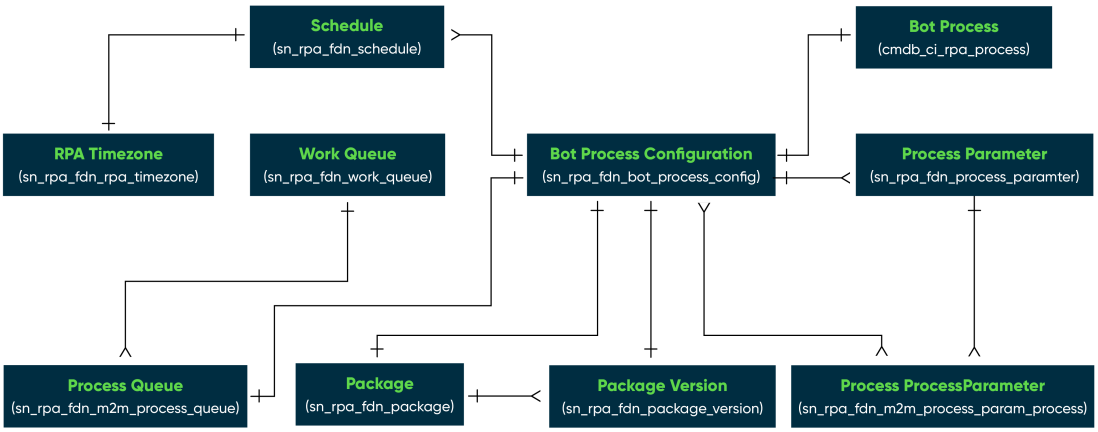
再ビルド前の **RPA** ハブ テーブル



次の図は、再ビルド後の RPA ハブ テーブルを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

再ビルド後の **RPA** ハブ テーブル



アップグレード中にテーブルを再ビルドするスクリプトの詳細については、Now Support ナレッジ ベース の「Utah の sys_metadata への RPA Hub テーブルの再ビルド」に関する記事を参照してください。

RPA ハブ での下位環境から上位環境へのデータの移行

システムアドミニストレーターは、RPA ハブ テーブルを再ビルドしてアプリケーションファイル (sys_metadata) を拡張した後、更新セット機能を使用して、下位 (非本番) 環境から上位 (本番) 環境にデータを移行できます。

下位環境から上位環境へデータを移行するには 2 つの方法があります。

- ある環境から別の環境にデータを移行するために、このページで説明する更新セット機能を使用する
- RPA ハブ の [移行] ボタンを使用する

  RPA ハブ では、ボタンをクリックするだけで、ボットプロセス構成と関連資産をある環境から別の環境に移行できます。移行が完了したら、ボットプロセスレコードを作成し、認証情報を作成し、必要な変更を加えてから、ボットプロセスを公開する必要があります。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセス構成の移行」を参照してください。

再構築された **RPA** ハブ テーブル **(Tokyo** およびそれ以前のリリース)

RPA ハブ テーブルの再ビルドの詳細については、「RPA ハブ テーブルの再ビルド」を参照してください。

更新セットの詳細については、「更新セットでスタートする」を参照してください。

機能

自動化のメタデータ (パッケージ、パッケージバージョン、スケジュールなど) は、更新セットにキャプチャされます。その後、システムアドミニストレーターは更新セットを上位 (本番) 環境に移動します。

メタデータレコードは上位 (本番) 環境に移動されますが、パッケージバージョンには自動化 zip ファイルが含まれていません。

RPA リリースマネージャーは、下位 (非本番) 環境から zip ファイルを手動でダウンロードし、上位 (本番環境) にアップロードします。RPA アドミンもこのアクションを実行できます。ただし、このタスクはクラシック環境に限定されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA リリースマネージャーは、パッケージバージョンの [添付ファイルをインポート] ボタンを選択することで、パッケージバージョンの添付ファイルを自動的にインポートします。RPA アドミンもこのアクションを実行できます。その後、フローが非同期にトリガーされ、API を使用して設定された接続から添付ファイルをプルします。自動化 zip ファイルがパッケージバージョンに添付され、HashCode 検証が自動的に実行されます。添付ファイルのインポートアクションを実行するユーザーにもメールが送信されます。

サードパーティツールから RPA ハブ 更新セットのオーケストレーションを実行するには、上位の環境でボットプロセスを再作成することが不可欠です。ワークフロースタジオの [ボットプロセスのライフサイクルステージステータスを変更 **(Change Life Cycle Stage Status of a Bot Process)]** アクションは、RPA ハブ プロセスの展開と有効化を確実に自動化するのに役立ちます。このアクションの詳細については、「RPA ハブのアクションとサブフロー」を参照してください。

移行タスクのステップリスト

このステップリストを使用して、すべての移行タスクをガイドします。

次のステップに進む前に、ステップのすべてのタスクを完了してください。

示されている順序でステップを実行します。

チェックリスト

タスク	環境
1. 更新セットを現在のセットとして作成し選択する。	下位 (非本番) 環境
2. RPA ハブ でのボットプロセス構成レコードの作成。	下位 (非本番) 環境
3. RPA ハブ でのボットプロセスの詳細の追加。	下位 (非本番) 環境
4. 現在の更新セットを完了としてマークする。	下位 (非本番) 環境
5. XML にエクスポートする。	下位 (非本番) 環境
6. RPA ハブ でのパッケージバージョンのダウンロード。 パッケージの添付ファイル (自動化 zip ファイル) を下位 (非本番) 環境から上位 (本番) 環境に手動で移行する場合は、このタスクを実行します。 ステップ 12 は省略できます。	下位 (非本番) 環境
7. 上位のインスタンスに切り替える。 更新セットを取得する。	上位 (本番) 環境
8. リモート更新セットをプレビューする。	上位 (本番) 環境
9. 更新セットをコミットする。	上位 (本番) 環境
10. ボットプロセス構成レコードへのボットプロセスの関連付け。	上位 (本番) 環境
11. RPA ハブ での関連するスケジュール、パラメーター、パッケージ、およびキューの確認。	上位 (本番) 環境

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

チェックリスト (続く)

タスク	環境
12. 必要な下位 (非本番) インスタンスでインスタンス接続が確立されている場合は、このインポートタスクを実行します。 インスタンス接続を確立するには、**[RPA 自動化パッケージ (RPA Automation Package)]** の接続および資格情報エイリアスにアクティブな接続を作成します。[接続 **URL]** フィールドには、下位 (非本番) 環境を指定するようにしてください。詳細については、「HTTP(S) 接続を作成」を参照してください。 パッケージの添付ファイル (自動化 zip ファイル) を下位 (非本番) 環境から上位 (本番) 環境に自動で移行する場合は、このタスクを実行します。 RPA ハブ でのパッケージバージョンの添付ファイルのインポート。 ステップ 13 および 14 は省略できます。	上位 (本番) 環境
13. RPA ハブ での自動化パッケージの添付ファイルのアップロード。 このタスクはクラシック環境で実行します。	上位 (本番) 環境
14. RPA ハブ でのパッケージバージョンのハッシュコードの確認。	上位 (本番) 環境
15. ビジネスアプリケーションのボットプロセスへのアサイン。	上位 (本番) 環境
16. RPA ハブ での認証情報グループの作成。	上位 (本番) 環境
17. RPA ハブ でのボットプロセスへのロボットのアサイン。	上位 (本番) 環境
18. ボットプロセス内でのプロセスロボット認証情報のアサイン。	上位 (本番) 環境
19. Attended ユーザーまたはグループの有人ボットプロセスへのアサイン。	上位 (本番) 環境

クライアント認証とコード署名証明書の取得

クライアント認証とコード署名証明書を生成して、自動化パッケージの信頼性を検証します。ユーザー証明書を生成してインストールするか、Active Directory 証明書をエクスポートできます。

クライアント認証は、無人ロボット アプリケーションと接続する際に mTLS 認証の目的で使用されます。コード署名証明書は、RPA デスクトップデザインスタジオからの自動化パッケージの署名と検証に使用されます。

RPA ハブ スコープ対象のアプリケーションで *sn_rpa_fdn.code_signing_required* システムプロパティを true に設定している場合は、自動化プロジェクトの公開時にコード署名証明書が必要になります。詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」と「RPA デスクトップデザインスタジオ での自動化プロジェクトの公開」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コード署名証明書は、無人ロボット と アテンド型ロボット の実行中に検証されます。

クライアント認証とコード署名証明書を生成するには、次のトピックを参照してください。

ユーザー証明書の生成とインストール

admin ロールを保持している場合は、Windows マシンでクライアント認証とコード署名用のユーザー証明書を生成してインストールできます。

クライアント認証は、無人ロボット アプリケーションと接続する際に mTLS 認証の目的で使用されます。コード署名証明書は、RPA デスクトップデザインスタジオからの自動化パッケージの署名と検証に使用されます。

Active Directory 証明書がない場合は、次のトピックのタスクを実行して、ユーザー証明書を生成してインストールします。詳細については、「Microsoft Active Directory 証明書のエクスポート」を参照してください。

KeyStore Explorer からのユーザー証明書の生成

KeyStore Explorer アプリケーションを使用して、Windows マシンでクライアント認証とコード署名のためのユーザー証明書を生成します。この参照手順は、ユーザー証明書を生成する数多くの方法のうちの 1 つです。

始める前に

Windows マシンでこのタスクを実行します。

ユーザー証明書が組織によって生成されている場合は、この手順をスキップできます。ユーザー証明書のインストールに進むことができます。

必要なロール：admin

このタスクについて

重要: 次の手順は参照用です。手順は、組織内で使用される証明書の生成方法によって異なる場合があります。詳細については、IT アドミニストレーターにお問い合わせください。

Windows マシンに KeyStore Explorer アプリケーションをインストールし、KeyStore Explorer アプリケーションからクライアント認証とコード署名証明書を生成できます。これらの証明書がすでにある場合は、このタスクをスキップします。

無人ロボット アプリケーションでの認証用にクライアント認証証明書を生成します。

RPA デスクトップデザインスタジオから自動化プロジェクトを公開するためのコード署名証明書を生成します。

手順

1. https://keystore-explorer.org/downloads.html に移動します。
2. Windows マシン用の最新の setup.exe ファイルをダウンロードします。
3. KeyStore Explorer をインストールするには、次のアクションを実行します。
   a. ダウンロードした setup.exe ファイルを開きます。
   b. [セットアップ言語の選択] ダイアログボックスで、インストール時に使用する言語を選択し、**[OK]** をクリックします。
   c. [KeyStore Explorer セットアップウィザードにようこそ] ダイアログボックスで [次へ] を選択します。
   d. [インストール先の選択 (Select Destination Location)] ダイアログボックスで、KeyStore Explorer をインストールするフォルダーを選択し [次へ] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. [スタートメニューフォルダーの選択] ダイアログボックスで、デフォルトフォルダーにプログラムのショートカットを作成するには、[次へ] を選択します。

f. [追加タスクを選択] ダイアログボックスで、KeyStore Explorer のインストール時にセットアップで実行する追加タスクを選択し [次へ] を選択します。

g. [インストールの準備ができました] ダイアログボックスで [インストール] を選択します。

h. インストールが完了したら [完了] を選択して終了します。

4. デスクトップから [KeyStore Explorer] アイコンをダブルクリックし、[新しい **KeyStore** を作成] を選択します。
5. [新しい KeyStore タイプ] ダイアログボックスで、新しい KeyStore のタイプとして **[JKS]** を選択し、**[OK]** を選択します。
   新しいキーストアが追加の [無題] タブとして表示されます。
6. [無題] タブで画面を右クリックし、[キーペアを生成] を選択します。
7. [キーペアを生成] ダイアログボックスで、**[OK]** をクリックします。
8. コード署名証明書またはクライアント認証証明書を生成するには、次のステップを実行します。
   a. [キーペア証明書を生成] ダイアログボックスで、[拡張を追加 **(Add Extensions)]** を選択します。
   b. [証明書の拡張機能を追加 (Add Certificate Extensions)] ダイアログボックスで [標準テンプレートを使用 **(Use Standard Template)]** を選択します。
   c. [標準証明書を選択 (Select a Standard Certificate)] ダイアログボックスで、[コード署名] を選択してコード署名証明書を生成するか、[クライアント認証 **(Client Authentication)]** を選択してクライアント認証証明書を生成します。
   d. **[OK]** を選択します。
   e. [証明書の拡張機能を追加 (Add Certificate Extensions)] ダイアログボックスで **[OK]** を選択します。
9. [キーペア証明書を生成] ダイアログボックスで、[名前] フィールドに対してブックアイコンを選択し、次のアクションを実行します。
   a. [名前] ダイアログボックスで、組織の詳細を入力します。
   b. **[OK]** を選択します。
10. [キーペア証明書を生成] ダイアログボックスで、**[OK]** を選択します。
11. [新しいキーペアエントリエイリアス] ダイアログボックスで、[エイリアスを入力] フィールドにエイリアス名を入力し、**[OK]** を選択します。
12. [新しいキーペア入力パスワード] ダイアログボックスで、次のアクションを実行してキーペアを生成します。
    a. [新しいパスワードを入力：] フィールドに、キーペアの新しいパスワードを入力します。
    b. [新しいパスワードの確認：] フィールドで、新しいパスワードを確認します。
    c. **[OK]** を選択します。
    d. キーペアが生成されたら、**[OK]** を選択します。
13. [無題] タブでこのキーを右クリックし、[詳細を表示] を選択して、[証明書チェーンの詳細] を選択します。
14. [エントリの証明書の詳細] ダイアログボックスで、**[PEM]** ボタンを選択します。
15. [証明書 PEM (Certificate PEM)] ダイアログボックスで、[エクスポート] を選択します。
16. このファイルを `.pem` ファイルとして保存する場所を選択し、[保存] を選択します。
    このファイルを使用して、認証局 (CA) チェーンレコードとユーザーレコードを作成するためのインスタンスにアップロードします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

17. PEM が正常にエクスポートされたら、**[OK]** を選択し、すべてのタブを閉じます。
18. [無題] タブで次のアクションを実行して、`.p12` ファイルを生成します。

    a. キーエントリを右クリックし、[エクスポート] を選択して、[キーペアをエクスポート] を選択します。

    b. [KeyStore エントリからキーペアをエクスポート] ダイアログボックスで、[出力ファイルのパスワード：] フィールドにパスワードを入力します。

    c. [パスワードの確認] フィールドで、パスワードを確認します。

    d. [エクスポート] を選択します。
    このファイルは `.p12` ファイルとして保存され、無人ロボット での認証に使用されます。

    e. キーペアが正常にエクスポートされたら、[キーペアをエクスポート] ダイアログボックスで **[OK]** を選択します。

次のタスク
admin ロールを保持している場合は、証明書ベースの認証プラグインをアクティブ化します。これは、インスタンスに証明書を登録するための前提条件です。詳細については、「証明書ベースの認証のアクティブ化」を参照してください。

ユーザーが生成したクライアント認証証明書を登録して、認証に使用できるようにします。詳細については、「CA 証明書の登録」を参照してください。

ユーザーが生成したクライアント認証証明書をユーザーにマッピングします。詳細については、「PEM 証明書をユーザーにマップ」を参照してください。

生成されたクライアント認証とコード署名証明書をインストールします。詳細については、「ユーザーが生成した証明書のインストール」を参照してください。

ユーザーが生成した証明書のインストール

admin ロールを保持している場合は、ユーザーが生成した (クライアント認証およびコード署名) 証明書を Windows マシンにインストールします。

始める前に
クライアント認証およびコード署名証明書を生成します。詳細については、「KeyStore Explorer からのユーザー証明書の生成」を参照してください。

admin ロールを保持している場合は、証明書ベースの認証プラグインをアクティブ化します。これは、インスタンスに証明書を登録するための前提条件です。詳細については、「証明書ベースの認証のアクティブ化」を参照してください。

ユーザーが生成したクライアント認証証明書を登録して、認証に使用できるようにします。詳細については、「CA 証明書の登録」を参照してください。

ユーザーが生成したクライアント認証証明書をユーザーにマッピングします。詳細については、「PEM 証明書をユーザーにマップ」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
重要: 次の手順は参照用です。インストール手順は、組織内で使用される証明書の生成方法によって異なる場合があります。詳細については、IT アドミニストレーターにお問い合わせください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 証明書ファイルをダブルクリックして[証明書のインポートウィザード] ダイアログボックスを開きます。
2. [ストアの場所] リストで、次のいずれかのオプションを選択します。
   - クライアント認証証明書をインストールする場合、証明書の場所を保存するには、[ローカルマシン] を選択します。
   - コード署名証明書をインストールする場合、証明書の場所を保存するには、[現在のユーザー] を選択します。
3. [次へ] を選択します。
4. [インポートするファイル] ダイアログボックスで、インポートするファイルを [ファイル名] フィールドに指定します。
5. [次へ] を選択します。
6. [秘密鍵の保護] ダイアログボックスで、秘密鍵の [パスワード] フィールドにパスワードを入力します。
7. [インポートオプション] セクションで、[すべての拡張プロパティを含める] オプションを選択します。
8. [次へ] を選択します。
9. [証明書ストア] ダイアログボックスで、[証明書のタイプに基づいて証明書ストアを自動的に選択する] オプションを選択し、Windows マシンが証明書ストアを自動的に選択できるようにします。
10. [次へ] を選択します。
11. [証明書のインポートウィザードの完了 (Completing the Certificate Import)] ダイアログボックスで [完了] を選択します。
12. [確認] ダイアログボックスで **[OK]** を選択します。

次のタスク
秘密キーを管理するユーザーを追加します。詳細については、「秘密キーを管理するユーザーの追加」を参照してください。

秘密キーを管理するユーザーの追加

admin ロールを保持している場合は、Windows マシンで秘密キーを管理するユーザーを追加して、証明書の生成を完了します。

始める前に
admin ロールを保持している場合は、ユーザーが生成した (クライアント認証およびコード署名) 証明書を Windows マシンにインストールします。詳細については、「ユーザーが生成した証明書のインストール」を参照してください。

必要なロール：admin

手順

1. Windows マシンで、[検索] メニューから「コンピューター証明書の管理」と入力します。
2. 証明書マネージャーツールで、[証明書 - ローカルコンピューター] > [パーソナル] > [証明書]に移動します。
3. [証明書のインポートウィザード (Certificate Import Wizard)] ダイアログボックスで、インストールされた証明書を右クリックし、[すべてのタスク] > [秘密キーの管理 **(Manage Private Keys)]** に移動します。
4. [権限] ダイアログボックスで、[追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [ユーザー、コンピューター、サービスアカウント、またはグループを選択 (Select Users, Computers, Service Accounts, or Groups)] ダイアログボックスの [選択するオブジェクト名を入力 **(Enter the Object names to select)**] フィールドに、ロボットがマシンにログインするために使用するユーザーアカウントを入力します。
6. [名前を確認] を選択します。
7. ユーザーアカウントを選択してから、**[OK]** を選択します。
8. [権限] ダイアログボックスで、追加したユーザーを選択し、[読み取り] チェックボックスをオンにして、[フルコントロール] チェックボックスをオフにします。
9. [適用] を選択し、**[OK]** を選択します。

次のタスク
[証明書] フィールドでインストールされた証明書を選択して、次のいずれかのアクションを実行します。

- 無人ロボット を設定します。詳細については、「無人ロボット を設定」を参照してください。
- RPA デスクトップデザインスタジオ で自動化プロジェクトを公開するには。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ での自動化プロジェクトの公開」を参照してください。

Microsoft Active Directory 証明書のエクスポート

ルート証明書、中間証明書、クライアント認証証明書などの Microsoft Active Directory 証明書を認証用にエクスポートできます。次に、エクスポートされたルート証明書と中間証明書を ServiceNow インスタンスに登録し、エクスポートされたクライアント認証証明書をユーザーにマッピングします。

Windows マシンで次のタスクを実行する必要があります。

ユーザーが生成した証明書 (クライアント認証とコード署名) がない場合は、次のトピックのタスクを実行して、Active Directory 証明書をエクスポートします。詳細については、「ユーザー証明書の生成とインストール」を参照してください。

ルート証明書のエクスポート

Windows マシンで Active Directory (AD) ルート証明書をエクスポートし、エクスポートされた証明書を ServiceNow インスタンスに登録します。

始める前に
Windows マシンでこのタスクを実行します。

必要なロール：admin

手順
1. Windows マシンで、[検索] メニューから「コンピューター証明書の管理」と入力します。
2. ルート証明書をエクスポートするには、次のアクションを実行します。

   a. 証明書マネージャーツールで、[証明書 - ローカルコンピューター] > [パーソナル] > [証明書]に移動します。

   b. 必要なクライアント認証ベースの証明書をダブルクリックします。

   c. [認定パス] タブで、ルート証明書をダブルクリックします。

   d. [詳細] タブでシリアル番号を確認し、**[OK]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

e. [証明書 - ローカルコンピューター] > **[Trusted Root Certification Authorities** (信頼できるルート認証局)] > [証明書]に移動します。

f. ルート証明書をシリアル番号と照合するには、ルート証明書をダブルクリックします。

g. [詳細] タブで、シリアル番号が一致することを確認し、**[OK]** を選択します。
一致が見つかるまで、このステップを繰り返します。

h. ルート証明書を特定したら、ルート証明書を右クリックし、[すべてのタスク] を選択して、[エクスポート...] を選択します。

i. [証明書エクスポートウィザードにようこそ (Welcome to the Certificate Export Wizard)] ダイアログボックスで、[次へ] を選択します。

j. [エクスポートファイル形式 (Export File Format)] ダイアログボックスで、**[Base-64 encoded X.509 (.CER)]** ファイル形式を選択し、[次へ] をクリックします。

k. [エクスポートするファイル (File to Export)] ダイアログボックスで、[ファイル名] フィールドでファイル名の場所を選択するか、[参照] を選択して証明書ファイルを保存し、[次へ] を選択します。

l. [証明書のエクスポートウィザードの完了 (Completing to the Certificate Export Wizard)] ダイアログボックスで [完了] を選択します。

m. エクスポートが完了した後、[証明書のエクスポートウィザード (Certificate Export Wizard)] ダイアログボックスで **[OK]** を選択します。

3. エクスポートされたルート証明書のファイル拡張子の名前を変更するには、次のアクションを実行します。

a. エクスポートされた証明書ファイルを見つけます。

b. 証明書ファイルを右クリックして、[名前の変更] を選択します。

c. ファイル名のファイル拡張子を **.cer** から **.pem**に変更します。
たとえば、Root CA.cer というファイル名を `Root CA.pem` に変更します。

d. [確認] ダイアログボックスで [はい] を選択します。

次のタスク
ルート証明書を登録して、認証に使用できるようにします。詳細については、「CA 証明書の登録」を参照してください。

中間証明書のエクスポート

Windows マシンで Active Directory (AD) 中間証明書をエクスポートして、エクスポートされた証明書を ServiceNow インスタンスに登録します。

始める前に
Windows マシンでこのタスクを実行します。

必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
組織が中間証明書を必要としない場合は、このタスクをスキップします。

手順

1. Windows マシンで、[検索] メニューから「コンピューター証明書の管理」と入力します。
2. ビジネス要件に基づいて中間証明書をエクスポートするには、次のアクションを実行します。

   a. 証明書マネージャーツールで、[証明書 - ローカルコンピューター] > [パーソナル] > [証明書]に移動します。

   b. 必要なクライアント認証ベースの証明書をダブルクリックします。

   c. [認定パス] タブで、中間証明書をダブルクリックします。

   d. [詳細] タブでシリアル番号を確認し、**[OK]** を選択します。

   e. [証明書 - ローカルコンピューター] > [中間認証局] > [証明書]に移動します。

   f. 中間証明書をシリアル番号と照合するには、中間証明書をダブルクリックします。

   g. [詳細] タブで、シリアル番号が一致することを確認し、**[OK]** を選択します。
   一致が見つかるまで、このステップを繰り返します。

   h. 中間証明書を特定した後、中間証明書を右クリックし、[すべてのタスク] を選択して、[エクスポート...] を選択します。

   i. [証明書エクスポートウィザードにようこそ (Welcome to the Certificate Export Wizard)] ダイアログボックスで、[次へ] を選択します。

   j. [エクスポートファイル形式 (Export File Format)] ダイアログボックスで、**[Base-64 encoded X.509 (.CER)]** ファイル形式を選択し、[次へ] を選択します。

   k. [エクスポートするファイル (File to Export)] ダイアログボックスで、[ファイル名] フィールドでファイル名の場所を選択するか、[参照] をクリックして証明書ファイルを保存し、[次へ] を選択します。

   l. [証明書のエクスポートウィザードの完了 (Completing to the Certificate Export Wizard)] ダイアログボックスで [完了] を選択します。

   m. エクスポートが完了した後、[証明書のエクスポートウィザード (Certificate Export Wizard)] ダイアログボックスで **[OK]** を選択します。

3. エクスポートされた中間証明書のファイル拡張子の名前を変更するには、次のアクションを実行します。

   a. エクスポートされた証明書ファイルを見つけます。

   b. 証明書ファイルを右クリックして、[名前の変更] を選択します。

   c. ファイル名のファイル拡張子を **.cer** から **.pem**に変更します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

たとえば、 Intermediate CA.cer というファイル名を `Intermediate CA.pem` に変更します。

d. [確認] ダイアログボックスで [はい] を選択します。

次のタスク
中間証明書を登録して、認証に使用できるようにします。詳細については、「CA 証明書の登録」を参照してください。

クライアント認証 **(Active Directory)** 証明書のエクスポート

Windows マシンで Active Directory (AD) クライアント認証証明書をエクスポートし、エクスポートされた証明書を ServiceNow インスタンス上のユーザーにマッピングします。

始める前に
Windows マシンでこのタスクを実行します。

必要なロール：admin

手順
1. Windows マシンで、[検索] メニューから「コンピューター証明書の管理」と入力します。
2. クライアント認証証明書をエクスポートするには、次のアクションを実行します。
   a. 証明書マネージャーツールで、[証明書 - ローカルコンピューター] > [パーソナル] > [証明書]に移動します。
   b. クライアント認証証明書を右クリックし、[すべてのタスク] を選択し、[エクスポート...] を選択します。
   c. [証明書エクスポートウィザードにようこそ (Welcome to the Certificate Export Wizard)] ダイアログボックスで、[次へ] を選択します。
   d. [エクスポートファイル形式 (Export File Format)] ダイアログボックスで、**[Base-64 encoded X.509 (.CER)]** ファイル形式を選択し、[次へ] をクリックします。
   e. [エクスポートするファイル (File to Export)] ダイアログボックスで、[ファイル名] フィールドでファイル名の場所を選択するか、[参照] を選択して証明書ファイルを保存し、[次へ] を選択します。
   f. [証明書のエクスポートウィザードの完了 (Completing to the Certificate Export Wizard)] ダイアログボックスで [完了] を選択します。
   g. エクスポートが完了した後、[証明書のエクスポートウィザード (Certificate Export Wizard)] ダイアログボックスで **[OK]** を選択します。
3. エクスポートされたクライアント認証証明書のファイル拡張子の名前を変更するには、次のアクションを実行します。
   a. エクスポートされた証明書ファイルを見つけます。
   b. 証明書ファイルを右クリックして、[名前の変更] を選択します。
   c. ファイル名のファイル拡張子を **.cer** から **.pem**に変更します。
   たとえば、User CA.cer というファイル名を `User CA.pem` に変更します。
   d. [確認] ダイアログボックスで [はい] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
PEM 証明書をユーザーにマッピングします。詳細については、「PEM 証明書をユーザーにマップ」を参照してください。

CSDM ガイドラインをRPA ハブに適用する

共通サービスデータモデル (CSDM) (CSDM) ガイドラインを RPA ハブに適用します。

CSDM は、ServiceNow 製品とアプリケーションをセットアップするときに従うデータフレームワークです。CMDB で構成アイテム (CI) と CI 間の関係を定義する場合は、CSDM のガイドラインに従います。このプロセスにより、データが適切な CMDB テーブルに存在することが保証され、Now Platform アプリケーションの価値が最大化されます。

CSDM は、構成管理データベース (CMDB) を使用するすべての製品のデータモデル標準となっています。

- CSDM ガイドラインは、 Now Platform 製品の統一されたデータアクセスを保証します。
- CSDM は、CMDB 内のサービスモデリングの明確で直接的な規範的ガイドラインを提供します。
- CSDM 用語と定義により、一貫性のある正確なサービスレポートが保証されます。
- CSDM データモデルは複数の構成戦略をサポートしています。このデータモデルには、ベースシステムのテーブルと関係を使用するためのガイドラインが含まれています。
- CMDB クエリビルダーを使用して、CMDB 構成アイテム (CI) とそれらの関係を示すレポートを作成できます。

CSDM の詳細については、「共通サービスデータモデル (CSDM)」を参照してください。

CSDM フレームワークを段階的に実装する方法の詳細については、「ステージに CSDM フレームワークを実装する」を参照してください。

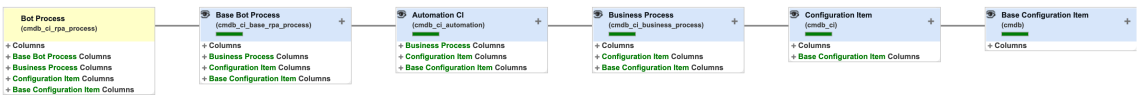
RPA ハブ と CSDM テーブル

RPA ハブ は CSDM テーブルを管理および使用します。いくつかの ServiceNow 製品は、RPA ハブのメリットを活用し、それに対して価値を付加します。

RPA ハブ によって管理される CSDM テーブル

1. ボットプロセス [cmdb_ci_rpa_process]
2. ロボット [cmdb_ci_rpa_robot]

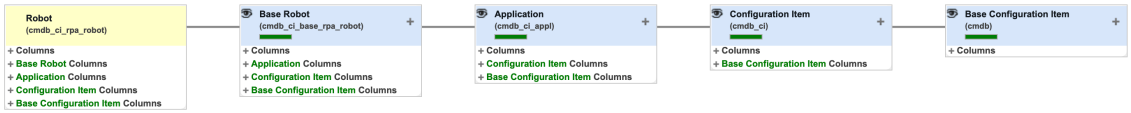
ボットプロセステーブル (cmdb_ci_rpa_process) には、ロボットで実行されるプロセスの構成の詳細が格納されます。このテーブルは、Base ボットプロセステーブル (cmdb_ci_base_rpa_process) から拡張されています。次の画像は、ボットプロセステーブル階層を視覚的に表したもので



す。

ロボットテーブル (cmdb_ci_rpa_robot) には、RPA デスクトップデザインスタジオでビルドされたボットプロセス (cmdb_ci_rpa_process) を実行するソフトウェアエージェントの詳細が格納されます。このテーブルは、Base ロボットテーブル (cmdb_ci_base_rpa_robot table) から拡張されています。次の画像は、ロボットテーブル階層を視覚的に表したものです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ボットプロセスとロボットは、CI 関係「Runs On::Runs」を使用して相互に関連付けられます。

RPA ハブ によって使用される CSDM テーブル

1. ビジネスアプリケーション [cmdb_ci_business_app] - ビジネスアプリケーションをボットプロセスに関連付け、後でそのアプリケーション認証情報を定義するためのテーブル。

   ボットプロセスへのビジネスアプリケーションのアサインに関する詳細については、「ビジネスアプリケーションのボットプロセスへのアサイン」を参照してください。

2. ハードウェア [cmdb_ci_hardware] - ロボットレコードのマシン名ルックアップ機能用のテーブル。

   マシン名フィールドの詳細については、「RPA ハブ での無人ロボットの作成」を参照してください。

RPA ハブ に付加価値を提供する製品

RPA ハブ を以下のいずれかの ServiceNow 製品と併用すると、RPA ハブ の価値をさらに高めることができます。

- ワークフロースタジオ
- 統合ハブ
- オートメーションセンター
- ドキュメントインテリジェンス (DocIntel)
- アダプションサービス

RPA ハブ からメリットを得る製品

次の ServiceNow 製品は、RPA ハブ により価値が向上します。

- オートメーションセンター
- ドキュメントインテリジェンス (DocIntel)
- ITSM

RPA ハブ でのロボットライセンスの配布レコードの作成

RPA ハブ で、ロボットライセンスの配布レコードを作成して、ライセンスの消費と配布を定義できます。

始める前に
このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

RPA ハブ の概念におけるライセンス配布について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブ でのライセンスの配布」を参照してください。

RPA ハブをインストールします。詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub のインストール」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：admin

このタスクについて
使用しているインスタンスがドメインセパレーションされている場合は、グローバルドメインにライセンス配布レコードを作成します。

使用しているインスタンスがドメインセパレーションされている場合は、トップレベルまたはプライマリドメインから始めて、トップダウンアプローチでライセンス配布レコードを作成します。グローバルドメインにライセンス配布レコードを作成しないでください。親ドメインにライセンス配布レコードがない場合は、子ドメインのライセンス配布レコードを作成できません。

ドメインごとに 1 つのライセンス配布レコードのみを作成できます。

各ドメインのインスタンス内にロボットを作成するためには、ライセンス配布レコードが必要です。

たとえば、トップドメインと 2 つの子ドメインを持つドメインセパレーションインスタンスには、20 個の無人ロボットライセンスと 45 個のアテンド型ロボットライセンスがあります。各ドメインで、5 個の無人ロボットライセンスと 15 個のアテンド型ロボットライセンスをアサインすることができます。[親から利用可能] フィールドには、まだアサインされていない 10 個の無人ロボットライセンスと、15 個のアテンド型ロボットライセンスが表示されます。子ドメインでロボットが作成されると、そのドメインでライセンスが自動的に利用されます。子ドメインのライセンス配布レコードでは、[使用中] フィールドには値が 1 と表示され、[使用または配布可能] フィールドには値が 4 と表示されます。これは、まだ使用されていない残りのアサイン済みライセンスです。

アサインされたライセンスよりも多くのロボットがある場合、インスタンスまたは特定のドメイン (およびその子ドメイン) はロックされます。その後、ロボットは現在のドメインと子ドメインで自動化を実行しません。

手順

1. [すべて] > **[Robotic Process Automation]** > [管理] > [ロボットライセンスの配布] に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

ロボットライセンスの配布フォーム

フィールド	説明
番号	自動生成されたロボットライセンスの配布レコード番号。 これは読み込み専用フィールドです。
親から利用可能 (無人)	親ドメインから利用可能で、まだアサインされていない無人ロボットライセンスの最大数。 これは読み込み専用フィールドです。
アサイン済み (無人)	現在のドメイン内の無人ロボットにアサインされたライセンスの合計数。 この値は、[親から利用可能 (無人)] フィールドの値を超えてはなりません。
使用中 (無人)	現在のドメインで作成された、廃止済み以外の無人ロボットによって使用されているライセンスの合計数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	これは読み込み専用フィールドです。
使用または配布可能 (無人)	子ドメインに配布可能な、または現在のドメインで利用可能な無人ロボットライセンスの最大数。 このフィールドには、割り当てられたライセンスと使用中のライセンスの違いが表示されます。 これは読み込み専用フィールドです。
ドメイン	現在のドメインの名前。 ドメインごとに 1 つのレコードのみを作成できます。このレコードは作成後に編集できますが、削除はできません。 これは読み込み専用フィールドです。
親から利用可能 (有人)	親ドメインから利用可能で、まだアサインされていないアテンド型ロボットライセンスの最大数。 これは読み込み専用フィールドです。
アサイン済み (有人)	現在のドメイン内のアテンド型ロボットにアサインされたライセンスの合計数。 この値は、[親から利用可能 (有人)] フィールドの値を超えてはなりません。
使用中 (有人)	現在のドメインで作成された、廃止済み以外のアテンド型ロボットによって使用されているライセンスの合計数。 これは読み込み専用フィールドです。
使用または配布可能 (有人)	子ドメインに配布可能な、または現在のドメインで利用可能なアテンド型ロボットライセンスの最大数。 このフィールドには、割り当てられたライセンスと使用中のライセンスの違いが表示されます。 これは読み込み専用フィールドです。

注: [アサイン済み (無人)] および [アサイン済み (有人)] フィールドの値を入力します。これらの値に基づいて、残りのフィールドが自動入力されます。

4. [送信] を選択します。

関連情報

RPA ハブ でのロボットライセンス配布レコードの更新

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ でのロボットライセンス配布レコードの更新

RPA ハブ でロボットライセンス配布レコードを更新して、組織内でのライセンスの消費と配布を評価します。

始める前に

RPA ハブ の概念におけるライセンス配布について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブ でのライセンスの配布」を参照してください。

このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

必要なロール：admin

このタスクについて

たとえば、トップドメインと 2 つの子ドメインを持つドメインセパレーションインスタンスには、20 個の無人ロボットライセンスと 45 個のアテンド型ロボットライセンスがあります。各ドメインで、5 個の無人ロボットライセンスと 15 個のアテンド型ロボットライセンスをアサインすることができます。[親から利用可能] フィールドには、まだアサインされていない 10 個の無人ロボットライセンスと、15 個のアテンド型ロボットライセンスが表示されます。子ドメインでロボットが作成されると、そのドメインでライセンスが自動的に利用されます。子ドメインのライセンス配布レコードでは、[使用中] フィールドには値が 1 と表示され、[使用または配布可能] フィールドには値が 4 と表示されます。これは、まだ使用されていない残りのアサイン済みライセンスです。

アサインされたライセンスよりも多くのロボットがある場合、インスタンスまたは特定のドメイン (およびその子ドメイン) はロックされます。その後、ロボットは現在のドメインと子ドメインで自動化を実行しません。

手順

1. [すべて] > **[Robotic Process Automation]** > [管理] > [ロボットライセンスの配布] に移動します。
2. 更新するライセンスレコードを開きます。
3. 必要に応じて、以下のフィールドを更新します。

ロボットライセンスの配布フォーム

フィールド	説明
アサイン済み (無人)	現在のドメイン内の無人ロボットにアサインされたライセンスの合計数。 この値は、[親から利用可能 (無人)] フィールドの値を超えてはなりません。
アサイン済み (有人)	現在のドメイン内のアテンド型ロボットにアサインされたライセンスの合計数。 この値は、[親から利用可能 (有人)] フィールドの値を超えてはなりません。

4. [更新] を選択します。

関連情報

RPA ハブ でのロボットライセンスの配布レコードの作成

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ プロパティの設定

[すべて] > **[Robotic Process Automation]** > [管理] > [プロパティ] に移動して、RPA ハブ のシステムプロパティにアクセスできます。

RPA Hub プロパティ

プロパティ	説明
アテンド型ロボットの自動アサインを有効にします。 sn_rpa_fdn.allow_rda_robot_auto_assignment	先着順で、ボットプロセスからユーザーイセンスを自動アサインします。 • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：いいえ 詳細については、「アテンド型ロボット動化の実行」を参照してください。
インスタンスとロボットマシンの認証メカニズムを設定します。 sn_rpa_fdn.instance_authentication	認証タイプを選択します。 • **mTLS**：相互トランスポートレイヤーセティ。前提条件として、ユーザー証明トールします。 admin ロールを持っている場合のユのインストールの詳細については、「成した証明書のインストール」を参照い。 • 基本：ユーザー名とパスワードに基づわれます。
自動セッション復元を有効にします。 sn_rpa_fdn.process.auto_session_restore	自動セッションを復元します。 • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：いいえ [はい] に設定されている場合は、新規ボスフォームの [自動セッションの復元 **(A Restore)]** チェックボックスがデフォルトります。このシステムプロパティ値が変既存のボットプロセスには影響しません ボットプロセスフォームの詳細について ハブのボットプロセスフォーム」を参照い。 有効にした場合は、無人ロボットがマシするかロックを解除して自動化を開始すの完了後にマシンセッションが元のステオフまたはロック) に復元されます。
インスタンスレベルでコード品質チェックを有効にします。 sn_rpa_fdn.enable_code_quality_check	インスタンスレベルでコード品質チェッます。 • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA Hub プロパティ (続く)

プロパティ	説明
	[はい] に設定されている場合は、*sn_rpa_fdn.restrict_package* および *sn_rpa_fdn.code_quality_check_* ステムプロパティを適切に構成します。
定義された選択のいずれかがパッケージに含まれている場合、RPA デスクトップデザインスタジオ からのパッケージの公開と RPA ハブ でのボットプロセスの公開に対する制限を設定します。このプロパティは、コード品質チェック機能が有効になっている場合にのみ適用されます。 sn_rpa_fdn.restrict_package_by_severity	RPA デスクトップデザインスタジオ から ジの公開と RPA ハブ でのボットプロセ する制限を設定します。このプロパティ 質チェック機能が有効になっている場合 れます。 制限タイプを選択します。 • [制限なし]：コード品質の結果に関係 スクトップデザインスタジオ からパッ 開できるようにします。エラーまたは パッケージも RPA デスクトップデザイ から公開できます。関連するパッケー のコード品質の結果に関係なく、ボッ 公開できるようにします。 • [エラー]：コード品質結果が「エラー ジを RPA デスクトップデザインスタジ するように制限します。コード品質チ ラーとしてマークされているパッケー を使用している場合、ボットプロセス します。 • [エラーまたは警告]：コード品質結果 または「警告」のパッケージを RPA デ プデザインスタジオ から公開するよう す。コード品質チェックが「エラー」 告」としてマークされているパッケー を使用している場合、ボットプロセス します。 デフォルト値：[制限なし]
コード品質チェックの完了までの最大期間 (単位：分) です。必ず正の整数値を入力してください。このプロパティは、コード品質チェック機能が有効になっている場合にのみ適用されます。 sn_rpa_fdn.code_quality_check_timeout	コード品質チェックの処理時間を制限し 品質チェックの完了までの最大期間を分 ます。必ず正の整数値を入力してくださ パティは、コード品質チェック機能が有 る場合にのみ適用されます。 • タイプ：整数 • デフォルト値： 5
これを有効にすると、コード署名によって公開パッケージのセキュリティが確保され、パッケージがデジタル検証されます。 sn_rpa_fdn.code_signing_required	RPA デスクトップデザインスタジオから パッケージのセキュリティを確保します。 • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA Hub プロパティ (続く)

プロパティ	説明
	無人ロボット と アテンド型ロボット に れます。
自動化パッケージの手動アップロードを有効にするには、これを true としてマークします。 sn_rpa_fdn.allow_manual_upload_of_automation_package	RPA リリースマネージャーが自動化パッ ファイル) を手動でアップロードできる。 す。 • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：いいえ このプロパティは、既存のパッケージバ コードの添付ファイルの直接アップロー のに役立ちます。
これを有効にすると、RPA デスクトップデザインスタジオ で作成されたデジタル署名されたパッケージ/パッケージバージョンを公開する際に、証明書の有効期限が無視されます。 sn_rpa_fdn.ignore_certificate_expiry_date	コード署名証明書の有効期限が切れた後 ケージが RPA デスクトップデザインスタ ンスタンスに公開されるようにします。 • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：いいえ
CMDB テーブルから無人ロボットのマシン名を参照できるようにします。 sn_rpa_fdn.enable_unattended _robot_machine_name_lookup	CMDB テーブル内の利用可能なマシンを きます。 • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：いいえ このプロパティを [はい] に設定して有効 は、*sn_rpa_fdn.machine_name_re* システムプロパティを適切に構成します **注:** このシステムプロパティが有効 ロボットレコードが存在する場合、 用するには、ロボットを廃止して新 ドを作成します。
無人ロボットのマシン名を参照する CI テーブルの名前を入力します。 sn_rpa_fdn.machine_name_reference_fields	無人ロボットのマシン名を参照する CI テ • タイプ：カンマ区切りのリスト • デフォルト値：`cmdb_ci_hardware`
実行ログを同期する頻度 (秒)。 sn_rpa_fdn.process.sync_execution_log	実行ログを同期する頻度 (秒) を定義しま • タイプ：整数 • デフォルト値：60 新しいボットプロセスが作成されると、 ムプロパティで定義したデフォルト値が 同期 (秒) **(Synchronize Execution Logs** フィールドに表示されます。このシステ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA Hub プロパティ (続く)

プロパティ	説明
	値が変更されても、既存のボットプロセ ません。 このシステムプロパティは、[実行ログの クボックスが有効になっているボットプ 適用されます。ログはローカルに保存さ パティで設定された間隔に基づいて同期 ボットプロセスフォームの詳細について ハブのボットプロセスフォーム」を参照 い。
実行ログを同期する頻度の上限 (秒)。 sn_rpa_fdn.process.sync_execution_logs_max_value	実行ログを同期する頻度 (秒) の上限を定 • タイプ：整数 • デフォルト値：300 このシステムプロパティは、[実行ログの クボックスが有効で、[ストレージ] フィ [インスタンス] であるボットプロセスに れます。 ボットプロセスフォームの詳細について ハブのボットプロセスフォーム」を参照 い。
実行ログの追跡を有効にします。 sn_rpa_fdn.process.track_execution_log	実行ログを追跡します。 • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：いいえ [はい] に設定されている場合は、新規ボ スフォームの [実行ログの追跡] チェック デフォルトでオンになります。このシス ティ値が変更されても、既存のボットプ 響しません。 ボットプロセスフォームの [実行ログの追 クボックスをオンにすると、アテンド型 たは無人ロボットのいずれかによって自 れたときにログがキャプチャされます。 は、自動化実行のエラーとエンドツーエ 録を理解するのに役立ちます。 実行ログの詳細については、「RPA ハブ ロセスフォーム」を参照してください。
プロセスジョブを保持する最大日数。 sn_rpa_fdn.max_purge_days_process_job	プロセスジョブを保持する最大日数を定 • タイプ：整数 • デフォルト値：90

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA Hub プロパティ (続く)

プロパティ	説明
	ボットプロセスレコードでは、プロセス システムプロパティに基づいて消去され このシステムプロパティに基づいて、ボ の [ジョブの消去 (日数)] フィールドの最 されます。 ボットプロセスフォームの詳細について ハブのボットプロセスフォーム」を参照 い。
プロセスジョブログを保持する日数のデフォルト値。 sn_rpa_fdn.process.job_purge_days	ジョブログを保持する日数を定義します • タイプ：整数 • デフォルト値：30 ボットプロセスレコードでは、プロセス システムプロパティに基づいて消去され 新しいボットプロセスが作成されると、 プロパティで定義したデフォルト値が [ジ (日数)] フィールドに表示されます。 ボットプロセスフォームの詳細について ハブのボットプロセスフォーム」を参照 い。
デスクトップインデスクトップで実行するには、有人の自動化を有効にします。 sn_rpa_fdn.process.rda_run_in_desktop_in_desktop	有人の自動化が [デスクトップインデスク ウィンドウで実行されることを確認しま • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：いいえ [はい] に設定されている場合は、新規ボ スフォームの [デスクトップインデスク にする] チェックボックスがデフォルトで ます。 [いいえ] に設定されている場合は、新規 セスフォームの [デスクトップインデスク 効にする] チェックボックスがデフォル ります。 ボットプロセスフォームの詳細について ハブのボットプロセスフォーム」を参照 い。
ロボットの強制開始を有効にします。 sn_rpa_fdn.process.force_start	ロボットを強制的に起動します。 • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA Hub プロパティ (続く)

プロパティ	説明
	[はい] に設定されている場合は、新しい セスフォームの [強制開始] チェックボッ フォルトでオンになります。 ボットプロセスフォームの詳細について ハブのボットプロセスフォーム」を参照 い。 たとえば、ロボット R1 が複数のボット ロセス BP1 と BP2 に割り当てられ、R1 が現在 BP1 を実行しているとします。次 に、*sn_rpa_fdn.process.force_st* ムプロパティが「はい」に設定されてい 制的にトリガーされると、BP1 が終了し
ボットモニターをアクティブに保ちます。 sn_rpa_fdn.process.keep_monitor_active	ボットモニターがアクティブであること す。 • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：はい このシステムプロパティはインスタンス されます。このプロパティは、オートメ ルでは設定されません。 [はい] に設定されている場合は、新規ボ スフォームの [モニターをアクティブに クボックスがデフォルトでオンになりま ロック後もシステムのロックが解除され [いいえ] に設定されている場合、自動化 やマウスクリックなどのフォアグラウン がないときに、ロボットマシンは (組織 ル時間設定に基づいて) ロックされます。 ボットプロセスフォームの詳細について ハブのボットプロセスフォーム」を参照 い。
デスクトップインデスクトップの画面解像度のリスト。 sn_rpa_fdn.process.rda_screen_resolution	[デスクトップインデスクトップ] ウィン 解像度をリストします。 • タイプ：文字列 • デフォルト値：1920x1080
ボットプロセスの予定実行時間。 sn_rpa_fdn.process.runtime_threshold	ボットプロセスの予定実行時間を定義し • タイプ：整数 • デフォルト値：60 ここで値を定義すると、新規ボットプロ ムの [実行時間しきい値 (分) **(Run Time** **(mins))]** フィールドに同じ値が表示され

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA Hub プロパティ (続く)

プロパティ	説明
	ボットプロセスフォームの詳細について ハブのボットプロセスフォーム」を参照 い。 ボットプロセスフォームの [実行時間しき **(Run Time Threshold (mins))]** フィール システムプロパティの構成は、ロボット イベント期間をプロットするために使用 ロボットカレンダーの詳細については、 のロボットカレンダーの使用」を参照し
作業アイテム名が一意になるようにします。 sn_rpa_fdn.queue.is_queue_item_name_unique	作業アイテム名が一意であることを確認 • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：はい [はい] に設定されている場合、新規キュ ムの [作業アイテム名が一意 **(Is Work Ite Unique)]** チェックボックスがデフォルト ります。既存のキューレコードへの影響 ん。 キューフォームの詳細については、「RP キューフォーム」を参照してください。
作業キューの最大試行回数フィールドの最大値。 sn_rpa_fdn.queue.maximum_attempts_max_value	キューフォームの [最大試行回数] フィー 値を定義します。 • タイプ：整数 • デフォルト値：99 • 最大値：99
作業アイテムを保持するデフォルトの日数を設定する。 sn_rpa_fdn.queue.purge_days	キューフォームの [消去まで (日数)] フィ フォルト値を定義します。 • タイプ：整数 • デフォルト値：30
作業アイテムを保持する最大日数。 sn_rpa_fdn.max_purge_days_work_queue_item	キューフォームの [消去まで (日数)] フィ 大値を定義します。 • タイプ：整数 • デフォルト値：90
最後のハートビート後にロボットが応答しなくなるまでの最大期間。値は 5 ～ 30 分の範囲内にする必要があります。 sn_rpa_fdn.robot.unresponsive	最後のハートビートからロボットが応答 での最大期間を定義します。値は 5 ～ 3 にする必要があります。 • タイプ：整数 • デフォルト値： 5

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA Hub プロパティ (続く)

プロパティ	説明
	ロボットが応答しない場合、スケジュー化はそのマシンで実行されません。
ボットプロセス内の順序フィールドのデフォルト値を設定します。 1 が最高で、999999 が最低です。 sn_rpa_fdn.process.order	ボットプロセスの [順序] フィールドのテを定義します。 デフォルト値の最大値は 1、最小値は 9 • タイプ：整数 • デフォルト値： 1
アラートトリガーを保持する最大日数。値は 1 ～ 30 の範囲内にする必要があります。 sn_rpa_fdn.alert.trigger_purge_days	アラートトリガーを保持する最大日数を値は 1 ～ 30 の範囲内にする必要があり • タイプ：整数 • デフォルト値：10
アラート通知を保持する最大日数。値は 1 ～ 60 の範囲内にする必要があります。 sn_rpa_fdn.alert.purge_days	アラート通知を保持する最大日数を定義1 ～ 60 の範囲内にする必要があります。 • タイプ：整数 • デフォルト値：30
クライアントログを保持する最大日数。値は 1 ～ 90 の範囲内にする必要があります。 sn_rpa_fdn.purge_client_logs	クライアントログ (製品ログと実行ログ)最大日数の限度を定義します。この値にライアントはロボットマシン内のファイす。値は 1 ～ 90 の範囲内にする必要が • タイプ：整数 • デフォルト値：7 このシナリオでは、7 日後にローカルフログが自動的に消去されます。
RPA デスクトップデザインスタジオの [ボットプロセスのアサイン] セクションで、マシン名がスタジオが実行されているマシン名と一致するロボットをフェッチする場合に設定します。 sn_rpa_fdn.restrict_robots_in_assign_bot_process_by_machine_name	[ボットプロセスをアサイン **(Assign bot**セクションでマシン名によりロボットを • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：いいえ この値が [はい] に設定されている場合はトフォームの [アサインされた Studio ユ(Assigned Studio Users)] タブに追加されとともに (存在する場合)、その特定のロンの RPA デスクトップデザインスタジオボットとして代理操作できます。 この値が [いいえ] に設定されている場合トフォームの [アサインされた スタジオ(Assigned Studio Users)] タブに追加されは、RPA デスクトップデザインスタジオ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA Hub プロパティ (続く)

プロパティ	説明
	トとして代理操作できます。アサインさ ユーザーの追加の詳細については、「ア スタジオユーザーを無人ロボットに追加 してください。 自動化プロジェクトへのボットプロセス 詳細については、「自動化プロジェクト ロセスのアサイン」を参照してくださ
高密度ロボットのロボットフォームに [画面解像度] フィールドのデフォルト値を設定します。 sn_rpa_fdn.robot_screen_resolution	高密度ロボットのロボットフォームに [フィールドのデフォルト値を定義します • タイプ：文字列 • デフォルト値：1920x1080
法的通知をバイパス sn_rpa_fdn.bypass_legal_notice	システムレベルポリシーによって設定さ メッセージを無人ロボットがクリアでき す。これにより、ロボットのログインプ 的通知が表示されなくなります。 • タイプ：はい | いいえ • デフォルト値：いいえ

RPA ハブの使用

開発者、リリースマネージャー、およびアドミニストレーターは、RPA ハブアプリケーションを使用してボットプロセスを構成し、パッケージ、ロボット、ビジネスアプリケーション、認証情報、およびプロセスパラメーターを関連付けて自動化を構成できます。

RPA ハブアプリケーションを使用して自動化を設定するには、次のタスクを実行します。

1. RPA ハブ からの RPA アプリケーションのダウンロード。

   RPA ハブから Windows マシンにロボティックプロセス自動化 (RPA) アプリケーションをダウンロードしてインストールします。

2. ServiceNow RPA Chrome 拡張の追加。

   ServiceNow RPA Chrome 拡張を Chrome ブラウザーに追加して、このブラウザーで開かれているアプリケーションとのインタラクションを確立します。

3. ボットプロセスにアサインするパッケージの作成。

   自動化を実行するための、自動化ロジックを含み、ボットプロセスにアサインされている無人または有人のパッケージを作成します。

4. RPA ハブでロボットを作成します。

   有人または無人のボットプロセスをそれぞれ実行するための、有人ロボットまたは無人ロボットを作成します。

5. ボットプロセスレコードを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセス構成情報レコードを作成し、アセットをアサインして、ボットプロセスを構成します。ボットプロセスは、ロボットが特定のタスクを実行したり、特定の目標を達成したりするために従う、事前定義された一連のアクションです。

無人ボットプロセスを構成するには、次のタスクを実行します。

a. RPA ハブで認証情報を設定します。

ロボットがアプリケーションにログインするためのアプリケーション認証情報と、自動化を実行するためにシステムにログインするためのロボット認証情報を作成します。無人ロボットがマルチファクター認証 (NFA) 対応アプリケーションに対してシームレスに認証できるようにする、時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) シードを作成します。

b. ビジネスアプリケーションのボットプロセスへのアサイン。

ビジネスアプリケーションをボットプロセスにアサインして、効果的なイベント相関を実現したり、アサインされたビジネスアプリケーションに関する情報を取得したりします。

c. ボットプロセスへの認証情報グループの関連付け。

認証情報グループを無人ボットプロセスにマッピングして、ロボットがシステムとアプリケーションにログインし、自動化を実行できるようにします。

d. RPA ハブ でのボットプロセスへのロボットのアサイン。

ロボットを無人のボットプロセスにアサインし、それにマッピングされている自動化 (パッケージ) を実行するようにします。

e. ボットプロセス内でのプロセスロボット認証情報のアサイン。

選択したロボットが Windows マシンで自動化を実行できるように、無人のボットプロセス内でプロセスロボット認証情報をアサインします。

f. (オプション) RPA ハブ でのロボットプールの作成。

ロボットを最適に利用してボットプロセスを実行するための、ロボットプールレコードを作成します。

g. (オプション) RPA ハブ のボットプロセス内でのプロセスパラメーターの作成。

ボットプロセス内で使用される変数を保存するプロセスパラメーターを作成します。作成したプロセスパラメーターは、このボットプロセスでのみ使用できます。

有人ボットプロセスを構成するには、次のタスクを実行します。

a. ビジネスアプリケーションのボットプロセスへのアサイン。

ビジネスアプリケーションをボットプロセスにアサインして、効果的なイベント相関を実現したり、アサインされたビジネスアプリケーションに関する情報を取得したりします。

b. Attended ユーザーまたはグループの有人ボットプロセスへのアサイン。

有人ユーザーまたはグループを有人ボットプロセスにアサインし、ユーザーまたはグループが Windows マシンでこの自動化にアクセスして実行できるようにします。

c. (オプション) RPA ハブ での有人構成レコードの作成。

有人構成情報レコードを作成して、埋め込みのタスク自動化が有効になっている有人ボットプロセスをトリガーします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. (オプション) RPA ハブ での共有パラメーターの作成。

   グローバル変数または構成可能なアイテムを一元的に保存し、ボットプロセス全体で使用できるように、共有パラメーターを作成します。

7. (オプション) RPA ハブ でのキューの作成。

   キューを作成し、ロボットが処理する作業アイテムを管理します。

8. RPA ハブ ボットプロセスの公開。

   ボットプロセスを構成し、そのプロセスにパッケージとロボットをアサインすると、ボットプロセスを公開して自動化を実行できるようになります。

RPA ハブ からの RPA アプリケーションのダウンロード

アプリケーションをインストールする、またはアップグレードするための前提条件として、RPA ハブ から Windows マシンに ロボティックプロセス自動化 (RPA) アプリケーションをダウンロードします。

始める前に

このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

RPA アプリケーションをダウンロードするには、RPA ハブ インスタンスへのアクセス権が必要です。

必要なロール：
admin、sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_business_user、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_r
または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

このタスクを実行して、次の RPA アプリケーションをダウンロードします。

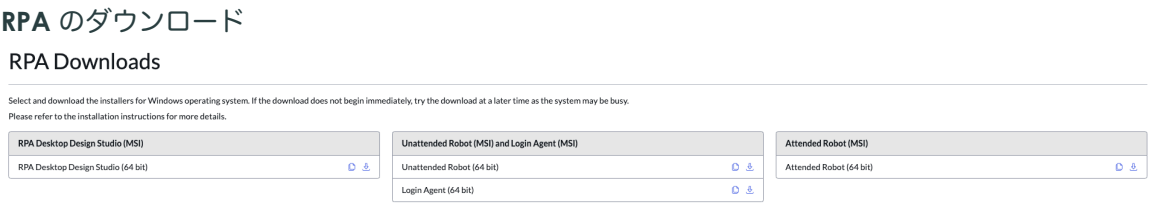
- RPA デスクトップデザインスタジオ
- 無人ロボット
- 無人ロボット ログインエージェント
- アテンド型ロボット

> **重要:** 現在 MSI (RPA デスクトップデザインスタジオ、アテンド型ロボット、および無人ロボット) がインストールされている場合は、RPA アプリケーションをダウンロードして必ずアップグレードしてください。

手順

1. [すべて] > **[Robotic Process Automation]** > [管理] > [ダウンロード]に移動します。
2. [RPA ダウンロード] ページで、次のいずれかのアクションを実行して、必要なアプリケーションをダウンロードします。
   - [ダウンロード] アイコン ( ) を選択します。
   - [リンクをコピー] ( ) をクリックします。ブラウザーで、右クリックして [貼り付けて移動 **(paste and go)]** オプションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



zip ファイルを保存するか開くかを尋ねるダイアログボックスが表示される場合があります。

注: ブラウザーの設定によっては、ブラウザーがファイルをダウンロードフォルダーに自動的に保存する場合があります。

3. ダウンロードされた zip ファイルから、アプリケーションインストールファイル (.msi ファイル) を展開します。

次のタスク
RPA デスクトップデザインスタジオ をインストールします。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ のインストール」を参照してください。

無人ボットプロセスを実行するには、無人ロボット および 無人ロボット ログインエージェントをインストールします。詳細については、「無人ロボット のインストール」と「無人ロボット ログインエージェントのインストール」を参照してください。

有人ボットプロセスを実行するには、アテンド型ロボット をインストールします。詳細については、「アテンド型ロボット のインストール」を参照してください。

ServiceNow RPA Chrome 拡張を Chrome ブラウザーに追加して、このブラウザーで ロボティックプロセス自動化 (RPA) アプリケーションを起動し、ブラウザーのインタラクションを確立します。詳細については、「ServiceNow RPA Chrome 拡張の追加」を参照してください。

RPA ハブ でのガイド付きツアー　の使用

RPA ハブ でガイド付きツアー　を使用して、タスクの実行方法に関する手順を確認します。ガイド付きツアー　では、複数のページにまたがる一連の手順を使用する場合があります。このツアーには、詳細なドキュメントへのリンクが含まれています。

始める前に
このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
ガイド付きツアー　は、RPA ハブ ユーザーインターフェイス (UI) 内でのユーザーのトレーニングやオンボーディングに役立ちます。各ツアーには、同じブラウザウィンドウ内で特定のタスクまたはプロセスを完了するのに役立つ一連のインタラクティブな手順が含まれています。必要に応じて、アドミニストレーターは別のツアーを作成できます。詳細については、「ガイド付きツアー　」を参照してください。

ガイド付きツアーがあるページに初めてアクセスすると、ようこそ画面が表示されます。ツアーを表示するか、スキップするかを選択できます。

ネクストエクスペリエンス が有効になっている場合、ガイド付きツアーはまだ利用できません。

RPA ハブ では現在、キューの作成と、ボットプロセスや関連資産の構成にガイド付きツアーを利用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション]に移動します。
2. 構成する機能を選択します。

   Example
   たとえば、ガイド付きツアーを使用してキューを作成するには、[ビルド] > [キュー] を選択します。
3. [ヘルプ表示] アイコン ( ) を選択します。
4. オプション: ヘルプセンターメニューを固定アイコン ( ) を選択して、ヘルプセンターのサイドパネルをページに固定します。
5. [ガイドを表示] を選択します。
6. 必要なアクションを実行し、[次へ] を選択してツアーを進めます。
   ツアーを終了するには、サイドパネルで [ツアーを終了] を選択するか、ポップアップウィンドウで終了アイコンを選択してツアーの終了を確定します。
7. ツアーが終了したら [完了] を選択します。

RPA スクリプトを実行してライセンス配布を再評価する

ロボティックプロセス自動化 (RPA) スクリプトをオンデマンドで実行して、ドメインとその子ドメイン内のロボットを検証してロックを解除します。

始める前に
RPA ハブ 概念におけるライセンス配布について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブ でのライセンスの配布」を参照してください。

ドメイン内のロボットのロックを解除するために、ライセンスエンタイトルメントと消費が準拠していることを確認します。

スケジュールスクリプトは 12 時間ごとに実行され、使用されているロボットを評価します。

このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

必要なロール：admin

このタスクについて
RPA スクリプトは、オンデマンドで実行されるスケジュールされたジョブです。
このスクリプトをオンデマンドで実行する場合は、このトピックの手順に従います。

手順

1. [すべて] > **[Robotic Process Automation]** > [管理] > **[RPA** スクリプト]に移動します。
2. [ライセンス配布の再評価 **(Re-evaluate License Distribution)]** を選択します。
3. [今すぐ実行] を選択します。
   スケジュールされたジョブを実行して、さまざまなドメイン間でのアテンド型ロボットと無人ロボットの配布を再評価します。不一致がある場合は、その特定のドメインと関連する子ドメインがロックされます。

ServiceNow RPA Chrome 拡張の追加

ServiceNow RPA Chrome 拡張を Chrome ブラウザーに追加して、このブラウザーで開かれているアプリケーションとのインタラクションを確立します。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. https://chrome.google.com/webstore/detail/servicenow-rpa-chrome-ext/bnaofpgjajbimmicdiipemhmheafhgkb に移動します。
2. **[Chrome** に追加] を選択します。
3. [ServiceNow RPA Chrome 拡張を追加 (Add ★ RPA Chrome Extension)] ダイアログボックスで、[拡張を追加] を選択します。
4. 拡張が追加されたかどうかを確認するには、次のアクションを実行します。
   a. [拡張] を選択します。
   b. [拡張] ダイアログボックスで、[拡張の管理 **(Manage Extensions)]** を選択します。
   c. ServiceNow RPA Chrome 拡張が有効になっているかどうかを確認します。
   d. オプション: 有効にするには、切り替えスイッチをスライドします。

タスクの結果
ServiceNow RPA Chrome 拡張は [拡張] ページで確認できます。

次のタスク
Chrome ブラウザーと RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションを再起動します。

ボットプロセスにアサインするパッケージの作成

RPA ハブ で無人または有人のパッケージを作成し、それをボットプロセスにアサインして自動化を実行します。

始める前に
(オプション) アクティビティストリームに関連するシステムプロパティを設定し、フィールドを追加または削除します。こうしたフィールドへの変更は、作業メモにキャプチャされます。詳細については、「RPA ハブ でのアクティビティストリームのシステムプロパティの設定」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
パッケージとは、特定のタスクまたはプロセスを自動化するために設計された一連のワークフロー、スクリプト、構成、および依存関係を指します。これらのパッケージは、RPA プラットフォームに公開またはインポートして、自動化ソリューションを迅速に展開できます。

パッケージは、機能、ライブラリ、またはアプリケーションをカプセル化するために使用され、開発者や RPA アドミニストレーターがソフトウェアコンポーネントを簡単に展開できるようにします。

パッケージは次の 2 通りの方法で作成できます。RPA ハブ からパッケージを作成するには、次の手順を実行します。

自動化ファイルの公開中に RPA デスクトップデザインスタジオからパッケージを作成するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ での自動化プロジェクトの公開」に記載されているステップを実行します。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [パッケージ] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

[パッケージ] フォーム

フィールド	説明
名前	公開されたパッケージの一意の名前。
パッケージタイプ	パッケージのタイプ： ◦ **Unattended**：無人の自動化 ◦ **Attended**：有人の自動化 ◦ スキル：再利用可能な自動化 ◦ 無人テンプレート：RPA デスクトップデザインスタジオで無人の自動化を作成するためのテンプレート ◦ 有人テンプレート：RPA デスクトップデザインスタジオで有人の自動化を作成するためのテンプレート
アプリケーション	[自動生成] このレコードが含まれるアプリケーション。 このフィールドを表示するために必要なロール：admin。
デフォルトとしてマークする	このパッケージを現在のドメインのデフォルトパッケージにできるオプション。ドメインのデフォルトパッケージとして選択できるパッケージは 1 つだけです。 このフィールドは、[パッケージタイプ] フィールドで [無人テンプレート **(Unattended Template)]** または [有人テンプレート **(Attended Template)]** フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 このフィールドを編集するために必要なロール：RPA admin
説明	パッケージの説明。

6. [保存] を選択します。
7. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

タスクの結果

パッケージが作成された後、RPA 開発者は RPA デスクトップデザインスタジオ から自動化を公開します。このプロセスにより、新しいパッケージバージョンが作成されます。

関連情報

RPA ハブのパッケージバージョンフォーム

RPA ハブ パッケージの廃止

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ でのパッケージバージョンのダウンロード

監査履歴の表示

RPA デスクトップデザインスタジオ での自動化プロジェクトの公開

RPA ハブ でのロボットの作成

RPA admin ロールまたは RPA リリースマネージャーロールがある場合は、RPA ハブ で有人または無人ロボットを作成して、ボットプロセスを実行できます。

構成タスク

タスク	説明
無人ロボットの作成	繰り返しが多く、ルールベースで、実行中に人間の意思決定を必要としないタスクに対する無人ボットプロセスを実行するための、無人ロボットを作成します。たとえば、財務部門の請求書処理などです。
アテンド型ロボットの作成	人間の意思決定が必要なタスク、ユーザーインターフェイスでの操作を伴うタスク、または従業員からの入力が必要なタスクに対するアテンド型ボットプロセスを実行するための、アテンド型ロボットを作成します。たとえば、注文処理のガイド付きデータ入力と検証などです。
アサインされたスタジオユーザーを無人ロボットに追加する	1 人以上のユーザー (RPA 開発者または RPA アドミン) を無人ロボットにアサインして、そのユーザーが RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションの [アサインされたボットプロセス **(Assigned Bot Process)]** セクションで、特定のロボットにアクセスできるようにします。

RPA ハブ での無人ロボットの作成

RPA ハブ で無人ロボットを作成し、無人のボットプロセスを実行します。

始める前に

関連するシステムプロパティを設定して、アクティビティストリームを表示します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスとロボットのアクティビティストリームの表示」を参照してください。

許可されたユーザーのみがロボットおよびロボット資産にアクセスできるように、*sn_rpa_fdn.enable_unattended_robot_user_mapping* システムプロパティが [True] に設定されていることを確認します。このシステムプロパティにより、無人ロボット フォームの [ユーザー] フィールドが有効になります。admin ロールを持っている場合は、このシステムプロパティを編集できます。デフォルトでは、このプロパティは [True] に設定されます。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

ロボットがボットプロセス (自動化) を実行します。

無人ロボットは無人のボットプロセス、つまり人間の介入を必要としない自動化を実行できます。

無人ロボットアプリケーションを使用して、無人ロボットを有効にし、スケジュール、API、または手動のいずれかでトリガーされる無人のボットプロセスを実行できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

複数の無人ロボットを高密度ロボットとして 1 つの仮想マシンにマッピングできます。詳細については、「RPA ハブの高密度ロボット」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. リストアイコンまたはプラスアイコンから無人ロボットを作成します。

オプション	アクション
リストアイコンから無人ロボットを作成します。	**a.** [リスト] アイコン ( ) を選択します。 **b.** [リスト] タブの [管理] で、 [ロボット] を選択します。 **c.** [新規] を選択します。
プラスアイコンから無人ロボットを作成します。	**a.** プラスアイコン ( ) を選択します。 **b.** [新しいロボット] を選択します。

3. フォームのフィールドに入力します。

ロボットフォーム

フィールド	説明
名前	無人ロボットの一意の名前。
ロボットタイプ	ロボットのタイプ。 **Unattended**：無人自動化用のロボット。
マシン名	無人ロボット アプリケーションがインストールされている物理マシンまたは仮想マシンのコンピューター名。 このフィールドは、[ロボットタイプ] フィールドで **[Unattended]** が選択されている場合にのみ表示されます。 マシン名は、*sn_rpa_fdn.enable_unattended_robot_machine_name_lookup* システムプロパティを有効にしない場合に使用する、文字列タイプのフィールドです。 *sn_rpa_fdn.enable_unattended_robot_machine_name_lookup* システムプロパティを有効にすると、この文字列タイプのフィールドがロボットフォームの参照タイプフィールドに変わります。 マシン名には、*sn_rpa_fdn.machine_name_reference_fields* システムプロパティで定義された構成アイテム (CI) テーブルから一意の値参照がフェッチされます。 ボットプロセステーブル (cmdb_ci_rpa_process) とロボットテーブル (cmdb_ci_rpa_robot) は、*sn_rpa_fdn.machine_name_reference_fields* システムプロパティで無人ロボットのマシン名を参照するために CI テーブルの名前を指定するときの検索結果から除外されます。 [*Machine Lookup value change*] スケジュール済みジョブは、[*Machine Name Lookup*] フィールドと [*Machine Name*] フィールドの値を検証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	詳細については、「RPA ハブ とともにインストールされるコンポーネント」および「RPA ハブ プロパティの設定」の「インストールされたスケジュール済みジョブ」セクションを参照してください。
高密度ロボット	同じマシン名で複数のロボットを作成するオプション。 複数の自動化を同時に実行できるように、マシンは複数のユーザーセッションを同時にサポートする必要があります。 このフィールドは、[ロボットタイプ] フィールドで **[Unattended]** が選択されている場合にのみ表示されます。
画面解像度	自動化を実行する前に RDP 接続を確立する際に、高密度ロボットによって使用される画面解像度。 高密度ロボットは、異なるボットプロセスを実行している場合でも、同じマシン上の各ロボットで異なる画面解像度で問題なく運用できます。ただし、同じマシン上のすべての高密度ロボットが同じプロセスを実行し、Computer Vision アクションを利用する場合は、同じ解像度を維持する必要があります。そうしないと、自動化が失敗する可能性があります。 このフィールドは、ロボットが高密度ロボットとしてマークされている場合にのみ表示されます。 **注:** 画面解像度のデフォルト値は、*sn_rpa_fdn.robot_screen_resolution* RPA ハブシステムプロパティを使用して変更できます。
ユーザー	このロボットにアクセスできる認定ユーザー。 Xanadu にアップグレードする場合は、[ユーザー] フィールドに、選択した無人ロボットのプロセスジョブを最近作成したユーザー名 (ユーザー) が自動的にマッピングされます。選択したロボットのプロセスジョブが見つからない場合、ロボットは [メンテナンス] ステータスに移行します。RPA リリースマネージャーは、適切なユーザーをロボットに手動でマッピングする必要があります。 **注:** このフィールドは、*sn_rpa_fdn.enable_unattended_robot_user_mapping* システムプロパティが有効な場合にのみ表示されます。
部門	ロボットの関連部門。 このフィールドは、関連付けられたアテンド型ロボットユーザーのレコードの部門情報に基づいて自動入力されます。 このフィールドの値は、リアルタイムデータに基づいているのではなく、ロボットレコードが作成された時点の値に対応しています。
説明	ロボットの簡単な説明。

4. [保存] を選択します。
5. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
無人ロボット をインストールします。詳細については、「無人ロボット のインストール」を参照してください。

無人ロボット アプリケーションを設定します。詳細については、「無人ロボット を設定」を参照してください。

ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

関連情報

- RPA ハブ での無人ロボットの編集
- RPA ハブ ロボットの廃止
- 監査履歴の表示

RPA ハブ でのアテンド型ロボットの作成

RPA ハブ でアテンド型ロボットを作成し、アテンド型ボットプロセスを実行します。

始める前に
関連するシステムプロパティを設定して、アクティビティストリームを表示します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスとロボットのアクティビティストリームの表示」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
ロボットがボットプロセス (自動化) を実行します。

アテンド型ロボットは、人間の介入を必要とする有人の自動化を実行できます。アテンド型ロボットアプリケーションを使用して、アテンド型ロボットを実行し、アテンド型ボットプロセス (アテンド型自動化) を実行できます。

アテンド型ロボットは 1 人のユーザーのみにマッピングされます。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. 次のいずれかのアクションを実行して、ロボットを作成します。

オプション	アクション
リストアイコンから	**a.** [リスト] アイコン ( ) を選択します。 **b.** [リスト] タブの [管理] で、 [ロボット] を選択します。 **c.** [新規] を選択します。
プラスアイコンから	**a.** プラスアイコン ( ) を選択します。 **b.** [新しいロボット] を選択します。

3. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロボットフォーム

フィールド	説明
名前	アテンド型ロボットの一意の名前。
ロボットタイプ	ロボットのタイプ。 **Attended**：有人自動化用のロボット。
アテンド型ロボット ユーザー	アテンド型ロボットにアサインされたユーザー。 アサインされたユーザーには、RPA 支援ユーザーロール (sn_rpa_fdn.rpa_assisted_user) が必要です。 このフィールドは、[ロボットタイプ] フィールドで **[Attended]** が選択されている場合にのみ表示されます。
部門	ロボットの関連部門。 このフィールドは、関連付けられたアテンド型ロボットユーザーのレコードの部門情報に基づいて自動入力されます。 このフィールドの値は、リアルタイムデータに基づいているのではなく、ロボットレコードが作成された時点の値に対応しています。
説明	ロボットの簡単な説明。

4. [保存] を選択します。
5. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

次のタスク

アテンド型ロボット をインストールします。詳細については、「アテンド型ロボット のインストール」を参照してください。

アテンド型ロボット アプリケーションを設定します。詳細については、「アテンド型ロボットの設定」を参照してください。

ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

関連情報

RPA ハブ ロボットの廃止

監査履歴の表示

アサインされたスタジオユーザーを無人ロボットに追加する

RPA ハブ で、1 人以上のユーザー (RPA 開発者または RPA アドミン) を無人ロボットにアサインして、ユーザーが RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションの [アサインされたボットプロセス **(Assigned Bot Process)**] セクションで、特定のロボットにアクセスできるようにします。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオのアサインされたボットプロセス機能について説明します。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA 開発者ロールまたは RPA アドミンロールを持つユーザーのみをロボットに関連付けることができます。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
ボットプロセスのアサイン機能は、ユーザーが RPA ハブのボットプロセス情報 (キュー、プロセスパラメーターなど) にアクセスして、RPA デスクトップデザインスタジオ で自動化をデバッグする機能を提供します。[アサインされた **Studio** ユーザー **(Assigned Studio Users)]** タブにリストされているユーザーは、関連付けられたボットプロセスのアクセス権に応じて、RPA デスクトップデザインスタジオからロボットを利用できます。

これは、ロボットとしての代理操作に役立ち、次のメリットが RPA デスクトップデザインスタジオから得られます。

- プロセスと共有パラメーターを取得する
- 作業アイテムやその他の RPA Hub 関連コンポーネント (該当する場合) を操作する

2 つの方法で、ロボットとして代理操作するロボットを選択できます。1 つの方法は、*sn_rpa_fdn.restrict_robots_in_assign_bot_process_by_machine_name* システムプロパティを有効にすることです。次に、ボットプロセスに割り当てられたロボットは、ロボットマシン名に基づいてフィルタリングされ、そこで RPA デスクトップデザインスタジオが起動されます。たとえば、ユーザーが `ABC` ロボットマシンから RPA デスクトップデザインスタジオを起動した場合、ユーザーは `ABC` ロボットマシンにのみアクセスできます。

このシステムプロパティの詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」を参照してください。

重要:

[アサインされたスタジオユーザー **(Assigned Studio Users)]** タブにリストされているユーザーは、定義された時間の間隔に基づいて削除されます。デフォルトの間隔値は 4 時間です。

時間の間隔を変更するには、ナビゲーションフィルターで「`sys_auto_flush.LIST`」と入力し、**sn_rpa_fdn_assigned_studio_user** というテーブル名を検索します。[経過時間 (秒)] フィールドの値を変更します。この設定を非アクティブ化するには、[アクティブ] チェックボックスをオフにします。アドミンのみが `sys_auto_flush.LIST` テーブルにアクセスできます。

もう 1 つの方法は、RPA ハブ の [アサインされたスタジオユーザー] タブから 1 人以上のユーザーを無人ロボットに追加する方法です。これを行うには、以下のタスクを実行します。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [管理] で、[ロボット] を選択します。
4. スタジオユーザーを関連付けるロボットを開きます。
5. [アサインされた **Studio** ユーザー **(Assigned Studio Users)]** タブで、[追加] を選択します。
6. [選択可能なスタジオユーザー] タブで、必要なユーザーを選択します。
7. [追加] を選択します。
8. [保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成

RPA ハブ では、ボットプロセス構成レコードを作成し、資産をアサインしてボットプロセスに関連付けることができます。ボットプロセス構成レコードの保存のみを行うこともできますが、ボットプロセスには関連付けられません。孤立したままです。

ボットプロセスとは

ボットプロセスは、ロボットが特定のタスクを実行したり、特定の目標を達成したりするために従う、事前定義された一連のアクションです。

会計システム更新ボットプロセスがあるとします。関連付けられたロボットは、SAP などの会社の会計システムにログインします。抽出された請求書データをロボットが入力すると、買掛金勘定のエントリが作成されます。次に、ロボットは参照用に元の請求書を会計システムに添付します。

ボットプロセスのメリット

ボットプロセスを使用すると、次のことが可能になります。

- 運用の合理化
- 効率性の向上
- 全体的な生産性の向上

ボットプロセス構成とは

ボットプロセス構成は、ボットプロセスの設定を含むレコードです。ボットプロセス構成レコードは、ボットプロセスレコードにマッピングされます。マッピングは 1 対 1 で行われます。

パッケージをアサインして、ロボットが実行するボットプロセス実行をスケジュールします。ビジネスアプリケーション、認証情報グループ、ロボット、プロセスロボット認証情報、プロセスパラメーター、Attended ユーザー、グループなどのボットプロセスに関連するその他の詳細を追加できます。これらの用語の詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub 用語集」を参照してください。

RPA ハブ でのボットプロセス構成レコードの作成

RPA ハブ にボットプロセス構成レコードを作成して、ボットプロセスレコードの予備フィールドを定義できるようにします。

始める前に

パッケージを作成します。詳細については、「ボットプロセスにアサインするパッケージの作成」を参照してください。

ロボットを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのロボットの作成」を参照してください。

関連するシステムプロパティを設定して、アクティビティストリームを表示します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスとロボットのアクティビティストリームの表示」を参照してください。

ボットプロセスにアクセスする前に、RPA ビジネスユーザー (sn_rpa_fdn.rpa_business_user)、RPA 開発者 (sn_rpa_fdn.rpa_developer)、または RPA サポートユーザー (sn_rpa_fdn.rpa_support_user) が [グループによって管理] リストに含まれていることを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

ボットプロセスは、ロボットが特定のタスクを実行したり、特定の目標を達成したりするために従う、事前定義された一連のアクションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセス構成レコードには、ボットプロセスの設定が含まれています。

ボットプロセス構成レコードは、ボットプロセスレコードにマッピングされます。マッピングは 1 対 1 で行われます。

ボットプロセス構成レコードをボットプロセスレコードに関連付けると、ボットプロセスのライフサイクルステージステータスに関係なく、マッピングを解除できません。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. リストアイコンまたはプラスアイコンからボットプロセス構成レコードを作成します。

オプション	アクション
リストアイコンからボットプロセス構成レコードを作成する	**a.** [リスト] アイコン ( ) を選択します。 **b.** [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。 **c.** [構成を作成] を選択します。
プラスアイコンからボットプロセス構成レコードを作成する	**a.** プラスアイコン ( ) を選択します。 **b.** [新しいボットプロセス構成 **(New Bot Process Configuration)]** を選択します。

3. フォームのフィールドに入力します。
フィールド値の説明については、「RPA ハブのボットプロセス構成フォーム」を参照してください。
4. 構成レコードの保存のみを行うか、または構成レコードとボットプロセスを作成してから、レコードをボットプロセスに関連付けます。

オプション	アクション
ボットプロセス構成レコードの保存のみを行う	[保存] を選択します。 事後要件タスクをスキップします。 この構成レコードはボットプロセスに関連付けられていません。孤立したままです。 後でボットプロセスレコードに関連付ける場合は、「ボットプロセス構成レコードへのボットプロセスの関連付け」のステップを実行します。
ボットプロセスとボットプロセス構成レコードとを作成します。次に、レコードをボットプロセスに関連付けます	**a.** [資産をアサイン **(Assign Assets)]** を選択します。 **b.** フォームの残りのフィールドに入力します。 フィールド値の説明については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。 **c.** [保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	d. [詳細] タブの [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

次のタスク
ビジネスアプリケーション、認証情報グループ、ロボット、プロセスロボット認証情報セット、スケジュール、プロセスパラメーター、Attended ユーザー、グループなど、ボットプロセスにその他の詳細を追加できます。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスの詳細の追加」を参照してください。

(オプション) ボットプロセス構成情報レコードで、[ボットプロセス] ボタンを選択して、ボットプロセスの [概要] タブに移動します。ボットプロセス構成情報レコードがどのボットプロセスにも関連付けられていない場合、この [ボットプロセス] ボタンは表示されません。

関連情報

RPA ハブ でのボットプロセスの編集

RPA ハブ ボットプロセスの公開

RPA ハブ ボットプロセスの廃止

監査履歴の表示

ボットプロセス構成レコードへのボットプロセスの関連付け

ボットプロセス構成レコードを選択して、ボットプロセスに関連付けます。このアクションにより、RPA ハブ にボットプロセスレコードが作成されます。

始める前に
パッケージを作成します。詳細については、「ボットプロセスにアサインするパッケージの作成」を参照してください。

ロボットを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのロボットの作成」を参照してください。

関連するシステムプロパティを設定して、アクティビティストリームを表示します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスとロボットのアクティビティストリームの表示」を参照してください。

ボットプロセスにアクセスする前に、RPA ビジネスユーザー (sn_rpa_fdn.rpa_business_user)、RPA 開発者 (sn_rpa_fdn.rpa_developer)、または RPA サポートユーザー (sn_rpa_fdn.rpa_support_user) が [グループによって管理] リストに含まれていることを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
ボットプロセスは、ロボットが特定のタスクを実行したり、特定の目標を達成したりするために従う、事前定義された一連のアクションです。

ボットプロセス構成レコードには、ボットプロセスの設定が含まれています。ボットプロセス構成レコードは、ボットプロセスレコードにマッピングされます。マッピングは 1 対 1 で行われます。ボットプロセスレコードを 1 つのみ選択して、ボットプロセス構成レコードに関連付けることができます。ボットプロセスに関連付けられているボットプロセス構成レコードは編集できません。

ボットプロセスを廃止する場合、関連するボットプロセス構成レコードを他のボットプロセスに関連付けることはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセス構成レコードは 2 通りの方法で作成できます。1 つ目は、ボットプロセス構成レコードを作成して保存する方法です。

2 つ目は、更新セットを下位の環境から上位の環境に移動する際に、孤立したボットプロセス構成レコードが作成される方法です。[構成をアサイン **(Assign Configuration)]** ボタンとそのレコードを選択すると、ボットプロセス構成に関連付けられているボットプロセスレコードが作成されます。

下位環境から上位環境へのメタデータ移行の詳細については、「RPA ハブ での下位環境から上位環境へのデータの移行」を参照してください。

手順

次のいずれかのオプションを選択して、ボットプロセスをボットプロセス構成レコードに関連付けることができます。

オプション	アクション
ワークスペースでこのタスクを実行する	**a.** [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。 **b.** [リスト] アイコン ( ) を選択します。 **c.** [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。 **d.** フォームヘッダーで、[構成を作成] ボタンの下矢印を選択します。 [構成を作成] ボタンの下矢印 **e.** [構成をアサイン **(Assign Configuration)]** を選択します。 **f.** ボットプロセス構成レコードを選択して、ボットプロセスに関連付けます。 **g.** [送信] を選択します。 **h.** フォームのフィールドに入力します。 フィールド値の説明については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照して ください。 **i.** [保存] を選択します。 **j.** [詳細] タブの [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。
このタスクをクラシック環境で実行します。	**a.** クラシック環境に切り替えます。 **b.** [すべて] > **[Robotic Process Automation]** > [ビルド] > [ボットプロセス] に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	c. フォームヘッダーで、[新規] を選択します。 d. ボットプロセス構成レコードを選択して、ボットプロセスに関連付けます。 e. [送信] を選択します。 f. フォームのフィールドに入力します。 フィールド値の説明については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照して ください。 g. [保存] を選択します。

次のタスク

ビジネスアプリケーション、認証情報グループ、ロボット、プロセスロボット認証情報セット、スケジュール、プロセスパラメーター、Attended ユーザー、グループなど、ボットプロセスに関連するその他の詳細を追加できます。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスの詳細の追加」を参照してください。

関連情報

- RPA ハブ でのボットプロセス構成レコードの作成
- RPA ハブのボットプロセス構成フォーム
- RPA ハブ でのボットプロセスの編集
- RPA ハブ ボットプロセスの公開
- RPA ハブ ボットプロセスの廃止
- 監査履歴の表示

RPA ハブ でのボットプロセスの詳細の追加

RPA ハブ でボットプロセスを作成した後、認証情報グループ、ビジネスアプリケーションなどに関する情報をはじめとする、ボットプロセスの詳細を追加できます。

ボットプロセスに関連する次の詳細を追加できます。

- ビジネスアプリケーション
- プロセス認証情報マッピング
- ロボットまたはロボットプール
- プロセスロボット認証情報
- スケジュール
- プロセスパラメーター
- Attended ユーザーまたはグループ
- キュー
- スキルの上書き

[ボットプロセス構成] フォームの [プロセスタイプ] フィールドで選択した内容に応じて、関連する詳細をボットプロセスに追加できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティストリームが表示されない場合は、アクティビティストリームを表示するようにシステムプロパティを設定します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスとロボットのアクティビティストリームの表示」を参照してください。

詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」、「RPA ハブのボットプロセス構成フォーム」、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

ボットプロセスのスナップショットの取得

無人プロセスと有人プロセスの両方のスナップショットを 1 つのビューで取得します。

始める前に

関連するシステムプロパティを設定して、アクティビティストリームを表示します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスとロボットのアクティビティストリームの表示」を参照してください。

ボットプロセスのライフサイクルステージが [公開済み]、[メンテナンス中]、または [廃止済み] のいずれかであることを確認します。詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_business_user、sn_rpa_fdn.r
または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

[概要] タブの詳細については、「RPA ハブ での [概要] タブを使用したボットプロセスの表示」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. ボットプロセスを開きます。
5. [概要] タブで、ボットプロセスのサマリー詳細を表示します。
6. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

ビジネスアプリケーションのボットプロセスへのアサイン

ビジネスアプリケーションをボットプロセスにアサインして、効果的なイベント相関を実現したり、アサインされたビジネスアプリケーションに関する情報を取得したりします。たとえば、SAP アプリケーションに関する情報を表示する場合があります。

始める前に

ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

この ServiceNow インスタンスにビジネスアプリケーションが存在することを確認します。新しいビジネスアプリケーションを追加するには、[すべて] > [セルフサービス] > [ビジネスアプリケーション]に移動します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
アサインされたビジネスアプリケーションの認証情報を追加できます。ビジネスアプリケーションを削除すると、関連付けられたアプリケーション認証情報セットも削除されます。

公開済みまたは廃止済みボットプロセスの場合、関連付けられたビジネスアプリケーションを削除したり編集したりすることはできません。

RPA ビジネスユーザー [sn_rpa_fdn.rpa_business_user] は、ビジネスアプリケーションを表示できます。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. ビジネスアプリケーションを関連付けるボットプロセスを開きます。
5. [ビジネスアプリケーション] タブで、[追加] を選択します。
6. [利用可能なビジネスアプリケーション **(Available Business Applications)]** タブで、必要なビジネスアプリケーションを選択します。
7. [追加] を選択します。
8. [保存] を選択します。
9. オプション: ビジネスアプリケーションを削除するには、ビジネスアプリケーションを選択し、[削除] を選択します。

ボットプロセスへの認証情報グループの関連付け

認証情報グループを無人のボットプロセスにマッピングすることで、ロボットが RPA ハブ で自動化を実行できるようにします。

始める前に
このタスクは、ボットプロセスの作成時に、ボットプロセス構成フォームの [プロセスタイプ] フィールドで [無人 **(Unattended)]** を選択している場合にのみ実行します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」、「RPA ハブのボットプロセス構成フォーム」、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

認証情報グループを作成します。詳細については、「RPA ハブ での認証情報グループの作成」を参照してください。

認証情報グループを、ライフサイクルステージのステータスが [廃止] にも [公開済み] にも設定されていない無人のボットプロセスに関連付けることができます。詳細については、「RPA ハブのボットプロセスのライフサイクルステージのステータス」を参照してください。

関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージステータスが [公開済み] に設定されている場合、プロセス認証情報マッピングレコードを編集することはできません。

認証情報グループを作成した RPA 開発者のみが、認証情報グループをボットプロセスに関連付けることができます。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
認証情報グループには、アプリケーション認証情報とロボット認証情報が含まれます。

> **注:** Xanadu にアップグレードしていて、[ボットプロセス関連リスト (bot process related-list)] タブをカスタマイズしている場合、[プロセス認証情報マッピング **(Process Credential Mappings)]** タブが表示されないことがあります。ただし、クラシック環境の [他のアクション **(Additional actions)]** > [構成] > [関連リスト]に移動することで、ボットプロセスレコードにこのタブを追加できます。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. 認証情報グループをマッピングするボットプロセスを選択します。
5. [プロセス認証情報マッピング **(Process Credential Mappings)]** タブで [追加] を選択します。
6. 必要な認証情報グループを選択します。
7. [追加] を選択します。
8. 認定ユーザーにアクセス権を付与します。
   詳細については、「ユーザーに認証情報グループへのアクセス権を付与する」を参照してください。
9. [保存] を選択します。

RPA ハブ でのボットプロセスへのロボットのアサイン

ロボットを無人のボットプロセスにアサインし、それにマッピングされている自動化 (パッケージ) を実行します。

始める前に
ボットプロセスの [詳細] タブの [ロボットプール] セクションで、[ロボットプールを有効にする **(Enable Robot Pool)]** オプションが選択されていないことを確認します。

ロボットプールのコンセプトについて理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブ のロボットプール」を参照してください。

ライフサイクルステージのステータスが [使用中] のロボットをボットプロセスにアサインできます。

このタスクは、ボットプロセスの作成時に、ボットプロセス構成フォームの [プロセスタイプ] フィールドで [無人 **(Unattended)]** を選択している場合にのみ実行します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」、「RPA ハブのボットプロセス構成フォーム」、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
ボットプロセスでロボットプールオプションが有効になっている場合、ロボットをアサインすることはできません。[アサインされたロボット] タブが非表示になります。

ロボットプールを介してロボットをアサインするには、ボットプロセスフォームでロボットプールオプションを有効にします。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスのロボットプールの有効化」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. ロボットを関連付けるボットプロセスを開きます。
5. [アサインされたロボット] タブで、[追加] を選択します。
6. [利用可能なロボット **(Available Robots)]** タブで、必要なロボットを選択します。
7. [追加] を選択します。
8. [保存] を選択します。

ボットプロセス内でのプロセスロボット認証情報のアサイン

選択したロボットが Windows マシンで自動化を実行できるように、無人のボットプロセス内でプロセスロボット認証情報をアサインします。

始める前に

このタスクは、ボットプロセスの作成時に、ボットプロセス構成フォームの [プロセスタイプ] フィールドで [無人 **(Unattended)]** を選択している場合にのみ実行します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」、「RPA ハブのボットプロセス構成フォーム」、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

ボットプロセスにロボットをアサインします。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスへのロボットのアサイン」を参照してください。

認証情報グループを作成します。詳細については、「RPA ハブ での認証情報グループの作成」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

1 つの認証情報グループを複数のロボットに関連付けることはできますが、1 つのロボットが複数の認証情報グループを持つことはできません。ボットプロセスにアサインされたすべてのロボットを、プロセスロボットの認証情報レコードにマッピングする必要があります。マッピングの完了後に認証情報グループやロボットを削除すると、プロセスロボット認証情報レコードも削除されます。

ロボットがロボットプールに含まれる場合は、ロボットプール内の各ロボットのプロセスロボット認証情報をマッピングしてください。

ロボットプール内のロボットが削除されると、関連するすべてのボットプロセスに関連付けられたプロセス認証情報も削除されます。

ロボットプールを使用しているボットプロセスが削除された場合、またはボットプロセスでロボットプールが非アクティブ化された場合、そのボットプロセスのすべてのプロセス認証情報も削除されます。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. ロボットに認証情報をアサインするボットプロセスを開きます。
5. [ロボット認証情報を処理] タブで [新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。

プロセスロボット認証情報フォーム

フィールド	説明
認証情報グループ	このボットプロセスとアサインされたロボットに関連付けられる認証情報グループ。
ロボット	このボットプロセスと認証情報グループの組み合わせに関連付けるロボット。
プロセス	ボットプロセスの名前。 このフィールドは読み取り専用です。

7. [保存] を選択します。
8. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

RPA ハブ のボットプロセス内でのスケジュールの作成

無人のボットプロセス内でスケジュールを作成し、ユーザーが計画どおり定期的にジョブを実行できるようにします。複数のスケジュールを 1 つのボットプロセスに関連付けることができます。

始める前に

このタスクは、ボットプロセスの作成時に、ボットプロセス構成フォームの [プロセスタイプ] フィールドで [無人 **(Unattended)]** を選択している場合にのみ実行します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」、「RPA ハブのボットプロセス構成フォーム」、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

(オプション) アクティビティストリームに関連するシステムプロパティを設定し、フィールドを追加または削除します。こうしたフィールドへの変更は、作業メモにキャプチャされます。詳細については、「RPA ハブ でのアクティビティストリームのシステムプロパティの設定」を参照してください。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

公開済みのボットプロセスに関連付けられているスケジュールは削除できません。

[ロボットカレンダー (Robot Calendar)] タブからスケジュールを作成することもできます。詳細については、「ロボットカレンダーでのスケジュールの作成」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. スケジュールを作成して関連付けるボットプロセスを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [スケジュール] タブで、[新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。
7. [保存] を選択します。
8. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

関連情報

RPA ハブのスケジュールフォーム

監査履歴の表示

RPA ハブ のボットプロセス内でのプロセスパラメーターの作成

ボットプロセス内で使用される変数を保存するプロセスパラメーターを作成します。作成したプロセスパラメーターは、このボットプロセスでのみ使用できます。

始める前に
ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

ボットプロセスにアクセスする前に、RPA ビジネスユーザー (sn_rpa_fdn.rpa_business_user)、RPA 開発者 (sn_rpa_fdn.rpa_developer)、または RPA サポートユーザー (sn_rpa_fdn.rpa_support_user) が [グループによって管理] リストに含まれていることを確認します。

(オプション) アクティビティストリームに関連するシステムプロパティを設定し、フィールドを追加または削除します。こうしたフィールドへの変更は、作業メモにキャプチャされます。詳細については、「RPA ハブ でのアクティビティストリームのシステムプロパティの設定」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
公開済みのボットプロセスに関連付けられているプロセスパラメーターは削除できません。

注: 複数のプロセスで変数を使用するには、共有パラメーターを作成します。詳細については、「RPA ハブ での共有パラメーターの作成」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. プロセスパラメーターを作成して関連付けるボットプロセスを開きます。
5. [プロセスパラメーター] タブで、[新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。
7. [保存] を選択します。
8. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

RPA ハブのプロセスパラメーターフォーム

監査履歴の表示

Attended ユーザーまたはグループの有人ボットプロセスへのアサイン

RPA ハブ で Attended ユーザーまたはグループを有人ボットプロセスにアサインし、ユーザーまたはグループが Windows マシンでこの自動化にアクセスして実行できるようにします。

始める前に
このタスクは、ボットプロセスの作成時に、ボットプロセス構成フォームの [プロセスタイプ] フィールドで [有人 **(Attended)]** を選択している場合にのみ実行します。そのフィールドを選択しないかぎり、このタスクを実行できません。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」、「RPA ハブのボットプロセス構成フォーム」、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
ユーザーまたはグループを有人ボットプロセスにアサインします。RPA 支援ユーザーロール (sn_rpa_fdn.rpa_assisted_user) を持つユーザーのみをアサインする必要があります。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. Attended ユーザーまたはグループをアサインするボットプロセスを開きます。
5. **[Attended** ユーザー/グループ] タブで、[新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。

Attended ユーザーグループフォーム

フィールド	説明
プロセス	関連付けられたボットプロセスの名前。
割り当てられたユーザー	有人ボットプロセスのアサインされたユーザー。
アサイン先グループ	選択したアサインされたユーザーのアサイン先グループ。

7. [保存] を選択します。

関連情報

RPA ハブのアクションとサブフロー

RPA ハブ でのプロセスフィールドパラメーターの作成

自動化 (ボットプロセス) に必要なプロセスフィールドパラメーター (動的パラメーター) を定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

RPA ハブ の埋め込みタスク自動化の構成に関するタスクが完了したことを確認します。詳細については、「埋め込みタスクの自動化の構成のステップリスト」を参照してください。

有人ボットプロセスを作成します。有人ボットプロセスの作成の詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

関連する有人ボットプロセスフォームで、[埋め込みタスクの自動化を有効にする **(Enable Embedded Task Automation)]** チェックボックスがオンになっていることを確認します。ボットプロセスフォームの詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

重要: [埋め込みタスクの自動化を有効にする **(Enable Embedded Task Automation)]** チェックボックスをオンにした後、[プロセスフィールドパラメーター **(Process Field Parameters)]** タブがボットプロセスに表示されない場合は、関連リストがカスタマイズされている可能性があります。関連リストを手動で追加します。

RPA 開発者 (sn_rpa_fdn.rpa_developer) が、関連ボットプロセスの [グループによる管理] リストに含まれていることを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
プロセスフィールドパラメーターは、特定のフォームの値を設定したり、フィールド値を取得したりするために使用されます。

プロセスフィールドパラメーターは 2 通りの方法で作成できます。ボットプロセスから作成するには、このタスクを実行します。

それ以外の場合は、[フィールドパラメーターマッピング **(Field Parameter Mappings)]** タブの [パラメーターを作成 **(Create parameter)]** ボタンを選択して、フィールドパラメーターをマッピングしながら作成します。詳細については、「RPA ハブ のボットプロセスフィールドパラメーターへのテーブルフィールドのマッピング」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. プロセスフィールドパラメーターの作成と関連付けを行う有人ボットプロセスを開きます。
5. [プロセスフィールドパラメーター **(Process Field Parameters)]** タブで、[新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。

[プロセスフィールドパラメーター **(Process Field Parameters)]** フォーム

フィールド	説明
名前	関連付けられたボットプロセスのプロセスフィールドパラメーターの一意の名前。 例：場所、名、役職

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
説明	パラメーターの簡単な説明

7. [保存] を選択します。
8. オプション: プロセスフィールドパラメーターレコードを削除するには、レコードを選択し、[削除] を選択します。

> **注:** パラメーターが有人構成レコードでマッピングされている場合、パラメーターを削除するにはマッピングを削除する必要があります。関連付けられているボットプロセスが公開済みの場合は、パラメーターを削除することはできません。

関連情報

RPA ハブ での有人構成レコードの作成

RPA ハブの有人構成フォーム

RPA ハブ の有人構成レコードの非アクティブ化

RPA ハブ の有人構成レコードの削除

API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出し

UI アクション (ボタン) の表示条件

関連リストからボットプロセスへのキューの関連付け

RPA ハブ のボットプロセスにキューを関連付け、ボットプロセスがこのキューとやり取りできるようにします。ボットプロセスは複数のキューに関連付けできます。ボットプロセスがロボットプールに対して有効になっている場合、(他のボットプロセスに関連付けられていない) 1 つのキューだけを現在のボットプロセスにマッピングできます。

始める前に

ボットプロセスが公開済みステータスでないことを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

キューメニューからキューにボットプロセスをアサインするには、「キューメニューからキューへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. キューをアサインするボットプロセスを開きます。
5. [キュー] タブで、[新規] を選択します。
6. [作業キュー] フィールドで、必要なキューを選択します。
7. [保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

RPA ハブのキューフォーム

キューからのボットプロセスのアサイン解除

RPA ハブ のキュー実装

ボットプロセスでのスキルパッケージバージョンの表示

RPA ハブ のボットプロセスで使用されているスキルパッケージバージョンのリストを表示して、正しいバージョンを使用していることを確認します。

始める前に
スキルパッケージのバージョンは、有人パッケージまたは無人パッケージに関連付けられているスキルパッケージがある場合にのみ、[スキルの上書き (Skill Overrides)] タブで確認できます。

アップグレード顧客の場合、ボットプロセスの [スキルの上書き (Skill Overrides)] タブで既存のスキルパッケージバージョンを表示するには、有人または無人のパッケージを再度公開し、パッケージをボットプロセスに関連付けます。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rp
または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. スキルパッケージのバージョンを表示するボットプロセスを開きます。
5. [スキルの上書き **(Skill Overrides)]** タブで、ボットプロセスに関連付けられたスキルパッケージバージョンのリストを表示します。

関連情報

RPA ハブ でのボットプロセスのスキルバージョンの上書き

RPA ハブ でのボットプロセスのスキルバージョンの上書き

RPA ハブ でスキルパッケージのバージョンを上書きして、ボットプロセスに特定のバージョンのスキルパッケージを使用します。ボットプロセスが実行されると、自動化で定義されたバージョンではなく、選択したバージョンが使用されます。

始める前に
ボットプロセスのライフサイクルステージのステータスが [公開済み] に設定されていないことを確認します。詳細については、「RPA ハブのボットプロセスのライフサイクルステージのステータス」を参照してください。

スキルパッケージのバージョンは、有人パッケージまたは無人パッケージに関連付けられているスキルパッケージがある場合、ボットプロセスの [スキルの上書き **(Skill Overrides)]** タブで確認できます。詳細については、「ボットプロセスにアサインするパッケージの作成」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
特定の要件に基づき、さまざまなボットプロセスにさまざまなバージョンのスキルを使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スキルパッケージの最新バージョンを使用するには、RPA デスクトップデザインスタジオから有人または無人のパッケージを再度公開することなく、RPA ハブ のスキルパッケージのバージョンを上書きできます。

Xanadu にアップグレードしていて、[スキルの上書き **(Skill Overrides)]** タブで既存のスキルパッケージバージョンを表示できない場合は、有人または無人のパッケージを再度公開し、パッケージをボットプロセスに関連付けます。

スキルパッケージバージョンでは、スキルパッケージバージョンを上書きするボットプロセスを選択できます。詳細については、「RPA ハブ での複数のボットプロセスのスキルパッケージバージョンの上書き」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. スキルパッケージのバージョンを上書きするボットプロセスを開きます。
5. [スキルの上書き **(Skill Overrides)]** タブで、上書きするスキルバージョンを選択します。
6. [上書きされたバージョン **(Overridden version)]** フィールドで、上書きするバージョンを選択します。

ボットプロセスのプロセスジョブの表示

RPA ハブ でのボットプロセスの実行ログのリストを表示します。

始める前に
ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rp
または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
プロセスジョブは、ロボットでのボットプロセスの実行を表します。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. ボットプロセスを開いて、関連するプロセスジョブを表示します。
5. [ジョブを処理] タブで、表示するプロセスジョブを選択します。
   詳細については、「RPA ハブのプロセスジョブステータス」を参照してください。
6. プロセスジョブレコードを開いて、関連する自動化ログを表示します。
7. [自動化ログ (Automation Logs)] タブで、詳細を表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

RPA ハブのプロセスジョブフォーム

すべてのボットプロセスの RPA ハブ プロセスジョブの表示

RPA ハブ での [概要] タブを使用したボットプロセスの表示

RPA ハブ の [概要] タブを使用すると、ボットプロセスの詳細を 1 か所ですばやく表示できます。

[概要] タブの紹介

[概要] タブは、ボットプロセスが [公開済み]、[メンテナンス中]、または [廃止] ステージになった後に表示されます。有人および無人の両方のボットプロセスのすべてのライフサイクルステージ (ビルドステージは除く) のステータスを確認できます。

[概要] タブのセクション

[概要] タブは次の 6 つのセクションに分かれています。

- プロセス情報
- 現在発生中
- 今後の変更
- パフォーマンス
- 作業キュー
- 連絡先

注: これらのセクションについては、このトピックの後半の表で説明しています。

必要なロール

[概要] タブにアクセスするには、次のいずれかのロールを保持している必要があります。

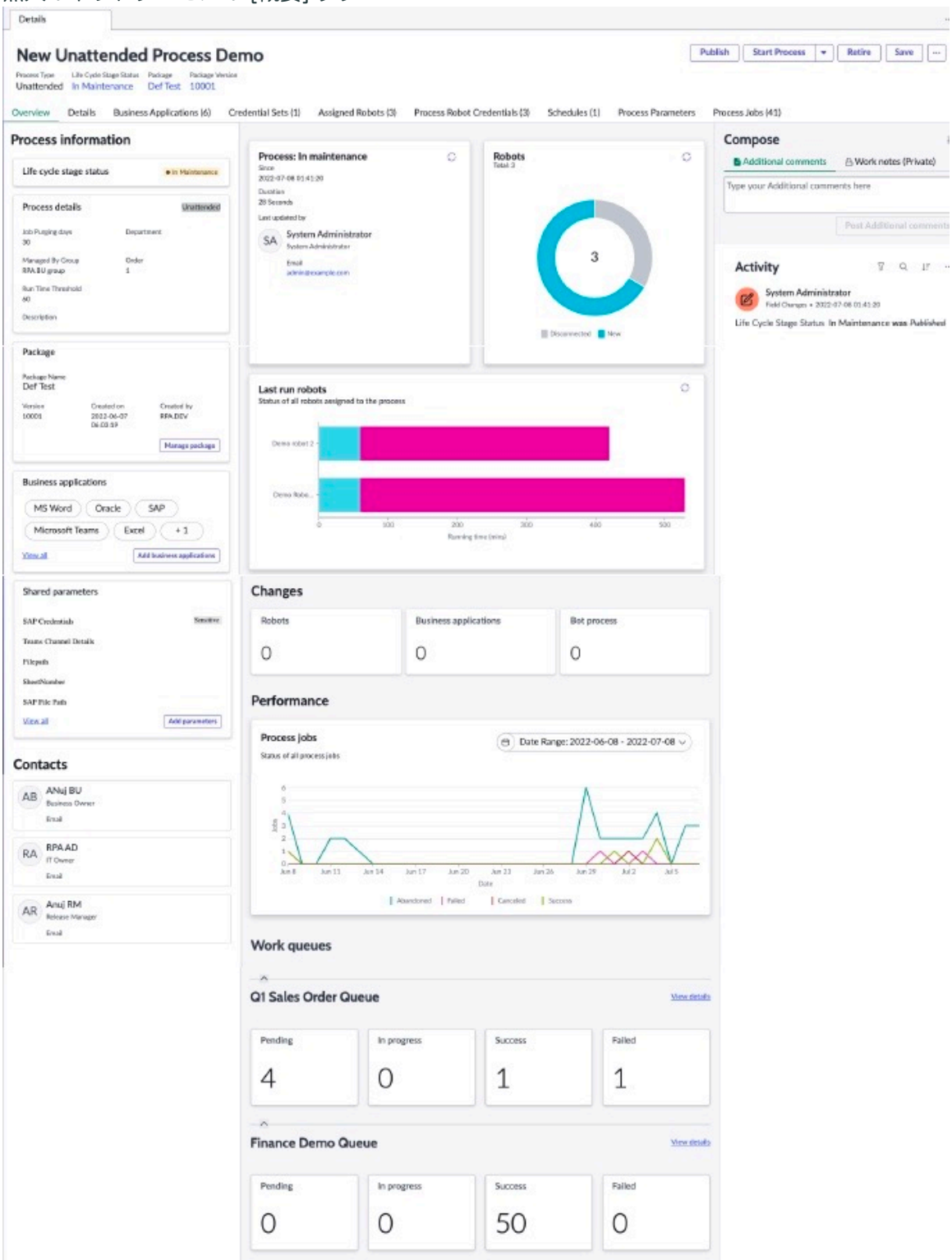
- RPA 開発者
- RPA リリースマネージャー
- RPA ビジネスマネージャー
- RPA サポートユーザー
- RPA アドミン

例

無人のボットプロセスの [概要] タブを次の例に示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

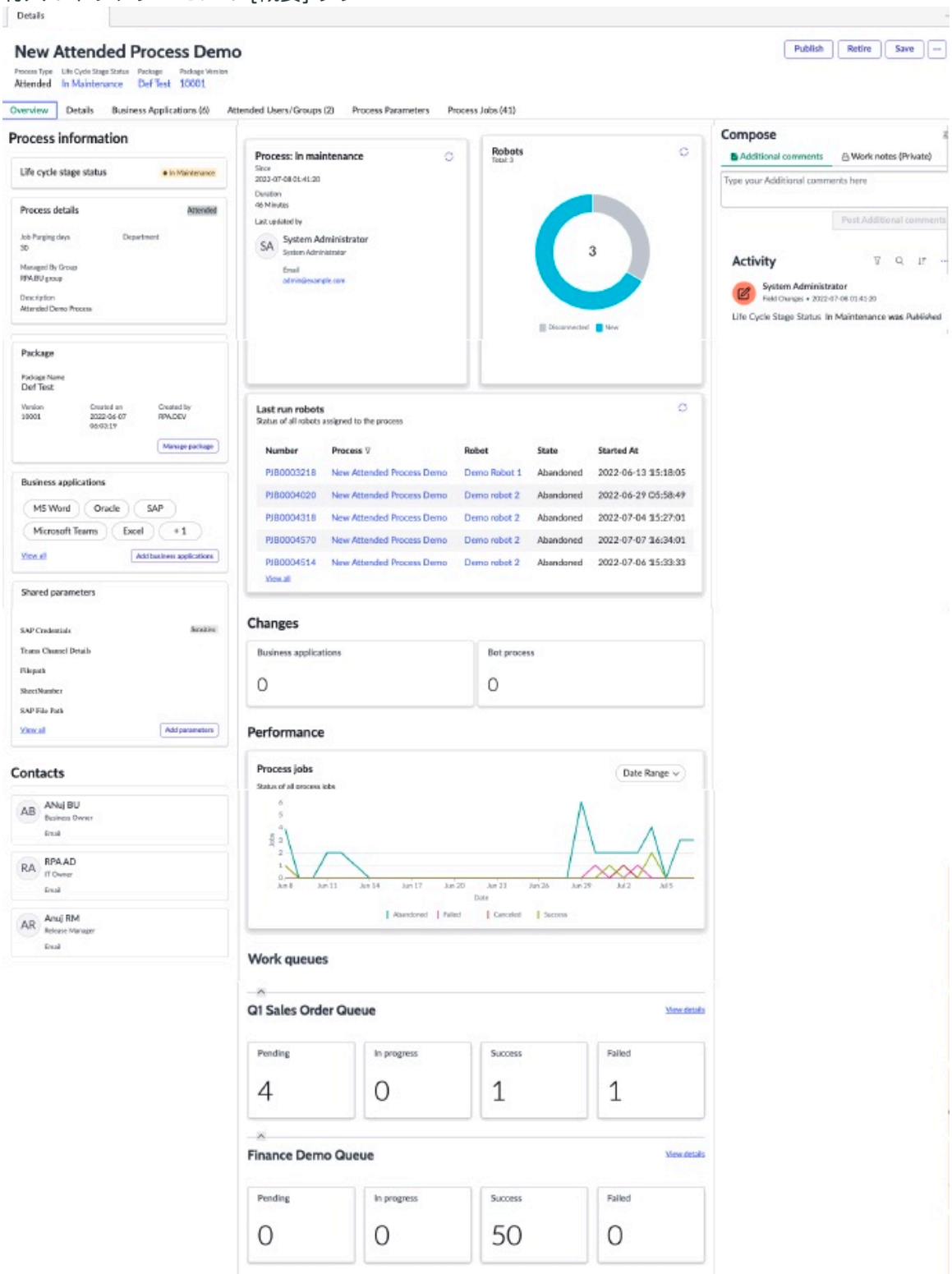
無人のボットプロセスの [概要] タブ



有人のボットプロセスの [概要] タブを次の例に示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

有人のボットプロセスの [概要] タブ



[概要] タブのセクションの詳細

[概要] タブの詳細については、「ボットプロセスのスナップショットの取得」を参照してください。

注: 特定のテーブルへのアクセス権がない場合、そのテーブルは [概要] タブに表示されません。

次の表は、利用可能なセクションとアクションの詳細な説明を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[概要] タブの全体的なデータのビジュアル化

チャート化	説明およびアクション
プロセス詳細	
ライフサイクルステージステータス	ボットプロセスのライフサイクルステージのステータス： • 公開済み • メンテナンス中 • 廃止 **(Retired)**
プロセス詳細	ボットプロセスの詳細のスナップショット： • ボットプロセスのタイプ • ジョブの消去日数 • 実行時間しきい値 • 順序 • 管理担当者グループ • ボットプロセスの説明
パッケージ	関連付けられたパッケージ詳細のスナップショット： • パッケージ名 • バージョン • 作成日 • 作成者 パッケージの詳細を更新するには、[パッケージを管理] を選択します。 ボットプロセスが公開されている場合は、パッケージの詳細を更新できません。
ビジネスアプリケーション	関連付けられたビジネスアプリケーション。 たとえば、Ariba、Microsoft Excel、Google Chrome などです。 さらにビジネスアプリケーションを表示するには、[すべて表示] を選択します。 ビジネスアプリケーションを追加するには、[ビジネスアプリケーションを追加する] を選択します。ビジネスアプリケーションの追加方法の詳細については、「ビジネスアプリケーションのボットプロセスへのアサイン」を参照してください。 ボットプロセスが公開されている場合は、ビジネスアプリケーションを追加できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[概要] タブの全体的なデータのビジュアル化 (続く)

チャート化	説明およびアクション
共有パラメーター	関連付けられた共有パラメーター。 共有パラメーターをさらに表示するには、[すべて表示] を選択します。 共有パラメーターを追加するには、[パラメーターを追加する] を選択します。共有パラメーターの追加方法の詳細については、「RPA ハブでの共有パラメーターの作成」を参照してください。 ボットプロセスが公開されている場合は、共有パラメーターを追加できません。
現在発生中 このラベルは、ボットプロセスのライフサイクルステージが [メンテナンス中] の場合にのみ表示されます。	
プロセス	タイムスタンプと期間を伴う、プロセスジョブのステータス： • 実行中：少なくとも 1 つのプロセスジョブが実行中ステータスである場合。 • アイドル：実行中ステータスのプロセスジョブはありません。 このステータスには、前回の更新の連絡先の詳細も表示されます。
ロボット	ロボットの合計数： • 合計：ボットプロセスに関連付けられている廃止されていないロボットの合計数。 • メンテナンス中：ライフサイクルステージステータスが [メンテナンス中] の関連付けられているロボットの合計数。 サマリーには、ロボット状況のドーナツレポートが含まれます。
現在実行中のロボット	無人のボットプロセスに関する情報。 このステータスは、プロセスジョブが [実行中] ステータスの場合に、公開済みのボットプロセスでのみ発生します。 有人のボットプロセスに関する情報。
前回実行されたロボット	現在のボットプロセスの最後に完了したプロセスジョブに関する情報。 このステータスは、プロセスジョブが [アイドル] ステータスの場合に、[公開済み] および [メ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[概要] タブの全体的なデータのビジュアル化 (続く)

チャート化	説明およびアクション
	ンテナンス中] の両方のボットプロセスで発生します。
今後の変更	関連付けられたロボット、ビジネスアプリケーション、およびボットプロセスに対する今後の変更。 このステータスは、公開済みのボットプロセスでのみ発生します。
変更	関連付けられたロボット、ビジネスアプリケーション、およびボットプロセスの変更。 このステータスは、[メンテナンス中] のボットプロセスでのみ発生します。
パフォーマンス	関連付けられたプロセスジョブのパフォーマンス。
作業キュー	[公開済み] および [メンテナンス中] の両方のボットプロセスの関連付けられた作業キュー。 キューの詳細を表示するには、[詳細を表示] を選択します。
連絡先	IT オーナー、ビジネスオーナー、リリースマネージャー、およびサポートユーザーの連絡先カードの詳細。
作成	
追加のコメントまたは作業メモ (プライベート)	追加のコメントまたは追加可能な作業メモ。
アクティビティ	フォームのアクティビティ、作業メモ、および表示可能な追加コメント。 関連するシステムプロパティを設定して、アクティビティストリームを表示します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスとロボットのアクティビティストリームの表示」を参照してください。

RPA ハブ での共有パラメーターの作成

グローバル変数または構成可能なアイテムを 1 つの場所に保存できるように、共有パラメーターを作成します。これらの変数はボットプロセス全体で使用されます。

始める前に

(オプション) アクティビティストリームに関連するシステムプロパティを設定し、フィールドを追加または削除します。こうしたフィールドへの変更は、作業メモにキャプチャされます。詳細については、「RPA ハブ でのアクティビティストリームのシステムプロパティの設定」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
これらの値を個々のボットプロセスに直接ハードコーディングする代わりに、共有パラメーターは中央の場所に保存されるため、それらを広く更新して、重複を回避することが容易になります。

公開済みのボットプロセスに関連付けられている共有パラメーターは削除できません。

共有パラメーターには、一貫性、効率的で保守可能な開発プラクティスに寄与する一元管理など、多くの利点があります。

手順
1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [共有パラメーター] を選択します。
4. [新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。
6. [送信] を選択します。
7. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。
8. オプション: 共有パラメーターを削除するには、[保存] ボタンの横にある 3 つのドットアイコンを選択し、[削除] を選択します。

   注: 共有パラメーターがボットプロセスに関連付けられていないことを確認します。廃止済みのボットプロセスに関連付けられている共有パラメーターは削除できます。

関連情報
RPA ハブのプロセスパラメーターフォーム

ボットプロセスの共有パラメーターへのアサイン

共有パラメーターからのボットプロセスのアサイン解除

監査履歴の表示

RPA ハブ でのキューの作成
RPA ハブ でキューを作成し、ロボットが処理する作業アイテムを管理します。

始める前に
キューにアクセスするには、RPA ビジネスユーザーまたはサポートユーザーが [管理担当者グループ] に属しており、RPA ビジネスユーザー、RPA 開発者、RPA サポートユーザーなどの関連ロールを持っている必要があります。

(オプション) アクティビティストリームに関連するシステムプロパティを設定し、フィールドを追加または削除します。こうしたフィールドへの変更は、作業メモにキャプチャされます。詳細については、「RPA ハブ でのアクティビティストリームのシステムプロパティの設定」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
キューは、さまざまなロボット間でトランザクションデータや作業負荷を分散させるための自動化で使用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

キューは、多数の作業アイテムを保持できるリポジトリです。作業アイテムには、トランザクション情報、お客様の詳細、ドキュメントからの情報など、複数のタイプのデータを保存できます。

公開済みのボットプロセスに関連付けられているキューは削除できません。

RPA ハブ のキュー実装の詳細については、「RPA ハブ のキュー実装」を参照してください。

ガイド付きツアーを使用して、クラシック環境でキューを作成する手順を確認できます。詳細については、「RPA ハブ でのガイド付きツアー　の使用」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で、[キュー] を選択します。
4. [新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。
6. [保存] を選択します。
7. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。
8. オプション: キューを削除するには、[保存] ボタンの横にある 3 つのドットアイコンを選択し、[削除] を選択します。

   注: キューがボットプロセスに関連付けられていないことを確認します。廃止済みのボットプロセスに関連付けられているキューは削除できます。キューを削除すると、関連付けられている作業アイテムも削除されます。

関連情報

RPA ハブのキューフォーム

キューメニューからキューへのボットプロセスのアサイン

キューからのボットプロセスのアサイン解除

監査履歴の表示

RPA ハブ での有人構成レコードの作成

RPA ハブ で有人構成レコードを作成して、埋め込みタスク自動化が有効になっている有人ボットプロセスをトリガーします。

始める前に

埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

RPA ハブ の埋め込みタスク自動化の構成に関するタスクが完了したことを確認します。詳細については、「埋め込みタスクの自動化の構成のステップリスト」を参照してください。

有人ボットプロセスを作成します。有人ボットプロセスの作成の詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

関連する有人ボットプロセスフォームで、[埋め込みタスクの自動化を有効にする **(Enable Embedded Task Automation)]** チェックボックスがオンになっていることを確認します。ボットプロセスフォームの詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロボティックプロセス自動化 (RPA) 開発者 (sn_rpa_fdn.rpa_developer) が、関連ボットプロセスの [グループによる管理] リストに含まれていることを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. メニューリストまたは有人ボットプロセスレコードの関連リストから、有人構成レコードを作成します。

オプション	アクション
メニューリストから有人構成レコードを作成します。	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で、[有人構成 **(Attended Configuration)]** を選択します。 **b.** [新規] を選択します。
有人ボットプロセスレコードの関連リストから、有人構成レコードを作成します。	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。 **b.** 有人構成を作成して関連付ける有人ボットプロセスを開きます。 **c.** [有人構成 (Attended Configuration)] タブで、 [新規] を選択します。

4. 有人構成フォームの各フィールドに記入します。
詳細については、「RPA ハブの有人構成フォーム」を参照してください。
5. [保存] を選択します。

関連情報

RPA ハブの有人構成フォーム

RPA ハブ の有人構成レコードを有効にしますか？

RPA ハブ の有人構成レコードの非アクティブ化

RPA ハブ の有人構成レコードの削除

RPA ハブ でのプロセスフィールドパラメーターの作成

API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出し

UI アクション (ボタン) の表示条件

RPA ハブ のボットプロセスフィールドパラメーターへのテーブルフィールドのマッピング

関連する有人構成テーブルのフォームフィールド (テーブル フィールド) を自動化で使用するプロセスフィールドパラメーターにマッピングします。たとえば、「`First name`」が、自動化で使用されるプロセスフィールドパラメーターである場合、フォームの「`requested_for.first_name`」フィールドにマッピングされます。

始める前に
埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ の埋め込みタスク自動化の構成に関するタスクが完了したことを確認します。詳細については、「埋め込みタスクの自動化の構成のステップリスト」を参照してください。

有人ボットプロセスを作成します。有人ボットプロセスの作成の詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

関連する有人ボットプロセスフォームで、[埋め込みタスクの自動化を有効にする **(Enable Embedded Task Automation)]** チェックボックスがオンになっていることを確認します。ボットプロセスフォームの詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

有人構成レコードを作成します。詳細については、「RPA ハブ での有人構成レコードの作成」を参照してください。

自動化で使用するプロセスフィールドパラメーターを作成します。

- ボットプロセスからプロセスフィールドパラメーターを作成する方法の詳細については、「RPA ハブ でのプロセスフィールドパラメーターの作成」を参照してください。
- プロセスフィールドパラメーターを作成するには、このタスクのステップ 7 を実行します。関連付けられたボットプロセスが公開されていないことを確認します。また、関連付けられた有人構成レコードが [ドラフト]または [非アクティブ] のいずれかのステータスであることを確認します。

RPA 開発者 (sn_rpa_fdn.rpa_developer) が、有人構成レコードにアサインされている関連ボットプロセスの [グループによる管理] リストに含まれていることを確認します。指定されたフィールドパラメーターマッピングに割り当てられている有人構成レコードが、[非アクティブ] または [ドラフト] ステータスのいずれかであることを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

フィールドパラメーターマッピングにより、ボットプロセス実行中のデータフローが容易になります。

同じプロセスフィールドパラメーターを複数のフィールドにマッピングすることはできません。プロセスフィールドパラメーター ([名前] など) は、複数のフィールド ([名] と [姓] など) にマッピングすることはできません。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [有人構成 (Attended Configuration)] メニューリストまたは有人ボットプロセスレコードの関連リストから、フィールドパラメーターをマッピングします。

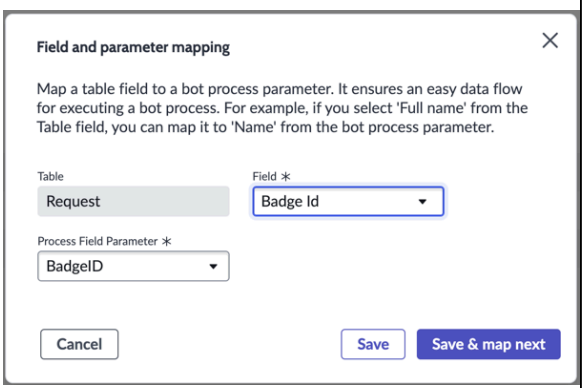
オプション	アクション
[有人構成 (Attended Configuration)] メニューリストから、フィールドパラメーターをマッピングします。	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で、[有人構成 **(Attended Configuration)]** を選択します。 **b.** 有人構成レコードを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
有人ボットプロセスレコードの関連リストからフィールドパラメーターをマッピングします。	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。 **b.** 有人ボットプロセスを開きます。 **c.** [有人構成 (Attended Configurations)] タブで、有人構成レコードを選択します。

4. [フィールドパラメーターマッピング **(Field parameter mapping)]** タブで、[新規] を選択します。
5. [フィールドとパラメーターのマッピング (Field and parameter mapping)] ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

[フィールドパラメーターマッピング **(Field parameter mapping)]** ダイアログボックス

フィールド	説明
テーブル	[自動生成] 関連する有人構成テーブルです。
プロセスフィールドパラメーター	プロセスフィールドパラメーターを選択して、特定の ServiceNow フォームのフィールドの値を設定または取得します。 たとえば、[プロセスフィールドパラメーター **(Process Field Parameter)]** フィールドで「BadgeID」を選択した場合は、[フィールド] で `Badge Id` を選択します。要求テーブルの「Badge Id」フィールドに値を設定するには、「BadgeID」プロセスフィールドパラメーターの値を更新します。  既にフィールドにマップされているプロセスフィールドパラメーターは、マッピングに使用できません。
フィールド	プロセスフィールドパラメーターでマッピングするフォームのフィールドを選択します。

6. マッピングを保存するには、次のいずれかのタスクを実行します。

オプション	アクション
マッピングの保存のみ行う	[保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
マッピングを保存し、別のフィールドパラメーターをマッピングする	[保存して次をマッピング **(Save & map next)**] を選択します。 ステップ 5 を繰り返して、他のフィールドを別のプロセスフィールドパラメーターにマッピングします。

7. 自動化で使用できるプロセスフィールドパラメーターを作成するには、次の手順を実行します。

   a. [フィールドパラメーターマッピング **(Field Parameter Mappings)**] タブで、[パラメーターを作成 **(Create parameter)**] を選択します。

   b. [パラメーターを作成 (Create a parameter)] ダイアログボックスで、フィールドに入力します。

   [パラメーターの作成 **(Create a parameter)**] ダイアログボックス

フィールド	説明
名前	フォームのプロセスフィールドパラメーターの一意の名前です。 プロセスフィールドパラメーターは、特定のフォームの値を設定したり、フィールド値を取得したりするために使用されます。
説明	プロセスフィールドパラメーターの簡単な説明

   c. [作成] を選択します。

   d. このプロセスフィールドパラメーターをフォームフィールドにマッピングするには、ステップ 5 を参照してください。

   e. [保存] を選択します。

8. オプション: ステップ 5 と 6 を繰り返して、さらにフィールドパラメーターをマッピングします。

次のタスク

有人構成レコードをアクティブ化します。詳細については、「RPA ハブ の有人構成レコードを有効にしますか？」を参照してください。

関連情報

- RPA ハブの有人構成フォーム
- RPA ハブ の有人構成レコードの非アクティブ化
- RPA ハブ の有人構成レコードの削除
- API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出し
- UI アクション (ボタン) の表示条件

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ でのロボットプールの作成

ロボットを最適に利用してボットプロセスを実行するには、RPA ハブ にロボットプールレコードを作成します。

始める前に

ロボットプールのコンセプトについて理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブ のロボットプール」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

ロボットプールは、複数のロボット間で作業負荷を分散するために使用されます。

1 つ以上の公開されたボットプロセスに関連付けられているプールに対してロボットを追加したり削除したりするために、ボットプロセスをメンテナンス中ステータスに移動します。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [管理] で、[ロボットプール] を選択します。
4. [新規] を選択します。
5. フォームの [名前] フィールドに、ドメインの一意のロボットプール名を入力します。
6. [保存] を選択します。
7. ロボットをロボットプールにアサインするには、次の手順を実行します。

   a. [ロボット] タブで、[追加] を選択します。

   b. [利用可能なロボット **(Available Robots)]** タブで、必要なロボットを選択します。

   > 注: 無人ロボット (ライフサイクルステージステータスが [廃止] でない) は、いつでも既存のロボットプールに追加できます。ボットプロセスまたはロボットプールに関連付けられていないロボットが、[利用できるロボット **(Available Robots)]** タブに表示されます。
   >
   > 高密度ロボットとアテンド型ロボットは、[利用できるロボット **(Available Robots)]** タブに表示されません。

   c. [追加] を選択します。

   d. [保存] を選択します。

   e. ロボットを削除するには、ロボットを選択し、[削除] を選択します。

   > 注:
   >
   > 1 つのロボットプールをボットプロセスに関連付けていた場合、そのロボットがプール内の唯一のロボットである場合は削除できません。
   >
   > プロセスジョブが実行中ステータスのロボットは、プロセスジョブが完了するかキャンセルされるまで、ロボットプールから削除しないでください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. オプション: ロボットプールを削除するには、[保存] ボタンの横にある 3 つのドットアイコンを選択し、[削除] を選択します。

   注: ロボットプールがどのボットプロセスにも関連付けられていないことを確認します。

9. [アクティビティ] および [構成] フィールドで、ロボットプールとロボットのアクティビティ、作業メモ、追加コメントを表示します。

次のタスク

ボットプロセスのロボットプールオプションを有効にし、ボットプロセスをロボットプールにマッピングします。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスのロボットプールの有効化」を参照してください。

(オプション) 選択したプールからそれらのロボットを割り当てるために必要なロボットの数を計算し、ボットプロセスを実行します。詳細については、「RPA ハブ のロボット数の計算」を参照してください。

RPA ハブ でのボットプロセスのロボットプールの有効化

RPA ハブ でボットプロセスのロボットプールを有効にし、ボットプロセスの実行と作業負荷の分散にロボットを効果的に割り当てます。

始める前に

ロボットプールのコンセプトについて理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブ のロボットプール」を参照してください。

ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

ロボットプールを作成する詳細については、「RPA ハブ でのロボットプールの作成」を参照してください。

キューをボットプロセスに関連付けます。詳細については、「関連リストからボットプロセスへのキューの関連付け」を参照してください。

RPA 開発者と RPA サポートユーザーが [管理担当者] グループに属している場合、これらのフィールドを表示および編集できます。

RPA ビジネスユーザーはこれらのフィールドを表示できます。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. ボットプロセスを開きます。
5. [ロボットプール] セクションの [詳細] タブで、フィールドに入力します。

ボットプロセスフォーム

フィールド	説明
ロボットプールを有効にする	ボットプロセスのロボットプールを有効にするオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	このオプションを有効にすると、ボットプロセスの [ロボットをアサインする **(Assign Robots)]** タブが非表示になります。 ロボットプールの詳細については、「RPA ハブ のロボットプール」を参照してください。
ロボットプール	選択したロボットプールから動的に割り当てることができるロボットです。 既存のロボットプール名のリストからロボットプールを選択します。 このフィールドは、[ロボットプールを有効にする **(Enable Robot Pool)]** オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
割り当てタイプ	作業アイテムのサービスレベルアグリーメント (SLA) または効率向上率に基づいて割り当てることができるロボットです。 割り当てタイプを選択します。 ◦ **[SLA** ベース **(SLA Based)]**：作業アイテムの SLA に基づいてプールからロボットを割り当てます。作業アイテムは、SLA に基づいてソートおよび優先順位付けされます。 割り当てタイプに [SLA ベース] を選択する場合は、作業アイテムにサービスレベルアグリーメント (SLA) が含まれていることを確認します。 ◦ [パーセンテージ削減 **(Percentage Reduction)]**：効率のパーセンテージに基づいてプールからロボットを割り当てます。 デフォルト値は [SLA ベース (SLA Based)] です。 このフィールドは、[ロボットプールを有効にする **(Enable Robot Pool)]** オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
パーセンテージ削減	このフィールドは [割り当てタイプ **(Allocation Type)]** フィールドから [パーセンテージ削減 **(Percentage Reduction)]** を選択すると表示されます。 選択したパーセンテージでより多くのロボットを割り当てることで、ボットプロセスの総実行時間を短縮します。 たとえば、ボットプロセスに 100 個の作業アイテムがアサインされているとすると、ボットプロセスの実行には 100 分かかる場合があります。その時間を 75 分に短縮する場合は、このフィールドに値 25 を定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	このフィールドに値を入力すると、作業負荷を分散するために複数のロボットが割り当てられます。そのため、自動化はそのパーセンテージ分速くなります。 デフォルト値は 25 です。 選択したパーセンテージに基づいて、作業負荷を分散するためにロボットが割り当てられます。 ◦ 5 ~ 50 の値を選択すると、2 台のロボットが割り当てられます。 ◦ 55、60、または 65 を選択すると、3 つのロボットが割り当てられます。 ◦ 70 または 75 を選択すると、4 台のロボットが割り当てられます。 ◦ 80 を選択すると、6 台のロボットが割り当てられます。 ◦ 85 を選択すると、7 台のロボットが割り当てられます。

RPA ハブ のロボット数の計算

割り当てタイプ (たとえば、SLA ベースおよびパーセンテージ削減など) に基づいて、無人ボットプロセスの実行を完了するために必要なロボットの数を計算します。

始める前に
ロボットプールのコンセプトについて理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブ のロボットプール」を参照してください。

ロボットプールを作成する詳細については、「RPA ハブ でのロボットプールの作成」を参照してください。

ボットプロセスのロボットプールを有効にします。詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

キューをボットプロセスに関連付けます。詳細については、「関連リストからボットプロセスへのキューの関連付け」を参照してください。

キューフォームで平均処理時間 (AHT) の詳細を定義します。詳細については、「RPA ハブのキューフォーム」を参照してください。

ボットプロセスに複数のキューが関連付けられていないことを確認します。

保留中の作業アイテムがキューで利用可能であることを確認します。

[ボットプロセス] フォームで割り当てタイプに [SLA ベース] を選択する場合は、作業アイテムに Service Level Agreement (SLA) が含まれていることを確認します。

ボットプロセスフォームで [パーセンテージ削減 **(Percentage Reduction)]** の割り当てタイプを選択する場合は、[パーセンテージ削減 **(Percentage Reduction)]** フィールドに必ず値を定義してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

計算の値が小数の場合、値は次に大きい値に切り上げられます。たとえば、計算結果が 2.2 ロボットの場合、表示される結果は 3 です。つまり、ボットプロセスを実行するには 3 台のロボットが必要なのです。

PickWorkItem コンポーネントに含まれる queryConditions は、ボットプロセスがロボットプールで有効になっている場合、無人のボットプロセスの実行を完了するのに必要なロボットの数を計算する際に考慮されます。PickWorkItem コンポーネントの詳細については、「Queue コネクタのメソッド」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. ボットプロセスを開きます。
5. フォームヘッダーで、[プロセスの開始] ボタンの下矢印を選択します。
6. [計算] を選択します。
   ボットプロセスの実行に必要なロボットの数に関するメッセージが表示されます。

RPA ハブ での認証情報の構成

RPA ハブ で、アプリケーション認証情報、ロボット認証情報、および時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) 認証を作成し、認証情報グループを介して複数のボットプロセスにリンクできます。外部認証情報 Vault を設定して、ロボット認証情報、アプリケーション認証情報、または時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) シードを取得します。

認証情報管理で、以下を作成できます。

- 無人ロボットがアプリケーションにログインするためのアプリケーション認証情報。
- 無人ロボットがシステムにログインするためのロボット認証情報。
- 無人ロボットがマルチファクター認証 (NFA) 対応アプリケーションに対してシームレスに認証できるようにする、時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) シード。
- アプリケーション認証情報とロボット認証情報を 1 つ以上のボットプロセスにマッピングするための認証情報グループ。
- ServiceNow 認証情報レコードの代わりに、外部ソースからロボット認証情報、アプリケーション認証情報、または時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) シードを取得するための外部認証情報 vault。

RPA ハブ でのロボット認証情報の作成

無人ロボットが Windows マシンにログインして自動化を実行できるように、ロボット認証情報を作成します。

始める前に

認証情報の管理コンセプトについて理解を深めてください。詳細については、「RPA ハブ での認証情報管理」を参照してください。

このタスクは、ボットプロセスの作成時に、ボットプロセス構成フォームの [プロセスタイプ] フィールドで [無人 **(Unattended)]** を選択している場合にのみ実行します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」、「RPA ハブのボットプロセス構成フォーム」、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
認証情報グループに関連付けられている場合、ロボット認証情報は削除できません。詳細については、「RPA ハブ での認証情報グループの作成」を参照してください。

関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージのステータスが [公開済み] に設定されている場合、[ロボットのユーザー名 **(Robot Username)]** フィールドを編集することはできません。関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージに関係なく、パスワードを編集できます。詳細については、「RPA ハブのボットプロセスのライフサイクルステージのステータス」を参照してください。

関連するボットプロセスのライフサイクルステージのステータスが [公開済み] に設定されている場合、[外部認証情報 **(External Credential)]** フィールドを編集することはできません。

ロボット認証情報が外部認証情報 Vault を使用している場合は、関連付けられた外部認証情報 Vault がアクティブであることを確認する必要があります。

RPA ハブ では 、次の 2 つの方法でロボット認証情報、アプリケーション認証情報、または時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) シードを取得できます。

- ServiceNow 認証情報レコード (アプリケーション認証情報、ロボット認証情報、または TOTP 認証) から。
- 外部認証情報 Vault から。詳細については、「RPA ハブ の外部認証情報 Vault」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [認証情報管理] で、[ロボット認証情報] を選択します。
4. [新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

ロボット認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	ロボット認証情報の一意の名前。
ロボットのユーザー名	ロボットが使用する Windows マシンのユーザー名。 ユーザー名をドメイン\ユーザー名形式で入力します。 [外部認証情報 **(External Credential)]** オプションが選択されている場合、このフィールドは表示されません。
ロボットのパスワード	ロボットが使用する Windows マシンのパスワード。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	[外部認証情報 **(External Credential)**] オプションが選択されている場合、このフィールドは表示されません。
外部認証情報 (External Credential)	外部認証情報 vault から認証情報をフェッチするために選択できるオプション。
外部認証情報 Vault	外部認証情報 Vault から認証情報をフェッチするために使用する外部認証情報 Vault レコード。 [検索] アイコンを使用して、外部認証情報 Vault レコードを選択します。例：DemoCyberArk。 アクティブな外部認証情報 Vault レコードのみがここにリストされます。 このフィールドは、[外部認証情報 **(External Credential)**] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
サブフロー入力	選択した外部認証情報レコードにマッピングされたサブフローへの入力として機能する JSON。 この JSON は、サブフロー REST ステップにより使用され、外部認証情報 Vault から認証情報を取得するために必要な情報が含まれていなければなりません。 値は JSON 形式にする必要があります。空の JSON 値を入力することはできません。 JSON の詳細については、「RPA ハブ で外部認証情報 Vault を設定する手順」を参照してください。 このフィールドは、[外部認証情報 **(External Credential)**] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。

6. [保存] を選択します。
7. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

RPA ハブ での TOTP 認証システムの作成

ロボット認証情報のシードにマルチファクター認証 (MFA) 認証システムレコードをマッピングします。このマッピングにより、RPA ハブ に、時間に基づくワンタイムパスワード (TOTP) 認証システムレコードが作成されます。

始める前に
マルチファクター認証 (MFA) の概念について理解しておいてください。詳細については、「マルチファクター認証 (MFA)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ の TOTP 認証について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブ の TOTP 認証」を参照してください。

MFA 認証システムレコードを作成します。詳細については、「RPA ハブ での MFA 認証システムの作成」を参照してください。

ロボット認証情報を作成します。詳細については、「RPA ハブ でのロボット認証情報の作成」を参照してください。

このタスクは、ボットプロセスの作成時に、ボットプロセス構成フォームの [プロセスタイプ] フィールドで [無人 **(Unattended)]** を選択している場合にのみ実行します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」、「RPA ハブのボットプロセス構成フォーム」、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージステータスが [ビルド] または [メンテナンス中] に設定されていることを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

シードは、TOTP の生成に使用される認証システムの秘密キーです。

認証アプリケーションは、一時的なパスコードを生成するサードパーティソフトウェアです。ユーザーは、これらのパスコードをパスワードとともに使用して、マルチファクター認証 (MFA) を必要とするインスタンスにログインできます。

TOTP 認証を使用すると、認証システムのシードをインスタンスレベルで保存できるため、無人ロボットが MFA 対応アプリケーションに対してシームレスに認証できるようになります。

TOTP 認証システムが外部認証情報 Vault を使用している場合は、関連付けられた外部認証情報 Vault がアクティブであることを確認します。

RPA ハブ では、次の 2 つの方法でロボット認証情報、アプリケーション認証情報、または TOTP シードを取得できます。

- ServiceNow 認証情報レコード (アプリケーション認証情報、ロボット認証情報、または TOTP 認証) から。
- 外部認証情報 Vault から。詳細については、「RPA ハブ の外部認証情報 Vault」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [認証情報管理] で、[ロボット認証情報] を選択します。
4. MFA 認証レコードを関連付けるロボット認証情報レコードを選択します。
5. **[TOTP** 認証システム **(TOTP Authenticators)]** タブで、[新規] を選択します。
6. フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

TOTP 認証システムフォーム

フィールド	説明
認証システム	このロボット認証情報にマッピングされる MFA 認証システム。 または、検索アイコンを選択して、MFA 認証システムを選択することができます。 Okta など。
シード	TOTP の生成に使用される認証システムの秘密キー。 [外部認証情報 **(External Credential)]** チェックボックスがオンになっている場合、このフィールドは表示されません。
外部認証情報 (External Credential)	外部認証情報 Vault からシードをフェッチするには、このチェックボックスをオンにします。
外部認証情報 Vault (External Credential Vault)	外部認証情報 Vault からシードをフェッチするために使用する外部認証情報 Vault レコードを選択します。 [検索] アイコンを使用して、外部認証情報 Vault レコードを選択します。例：DemoCyberArk。 アクティブな外部認証情報 Vault レコードのみがここにリストされます。 このフィールドは、[外部認証情報 **(External Credential)]** チェックボックスがオンになっている場合にのみ表示されます。
サブフロー入力	選択した外部認証情報レコードにマッピングされたサブフローへの入力として機能する JSON を提供します。 この JSON は、サブフロー REST ステップにより使用され、外部認証情報 Vault からシードを取得するために必要な情報が含まれていなければなりません。 値は JSON 形式にする必要があります。空の JSON 値を入力することはできません。 JSON の詳細については、「RPA ハブ で外部認証情報 Vault を設定する手順」を参照してください。 このフィールドは、[外部認証情報 **(External Credential)]** チェックボックスがオンになっている場合にのみ表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. [保存] を選択します。
8. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

次のタスク
RPA デスクトップデザインスタジオ の GetTOTP コンポーネントを使用して、TOTP を生成します。

関連情報

RPA ハブ での TOTP 認証システムの削除

RPA ハブ の MFA 認証システムの廃止

RPA ハブ でのアプリケーション認証情報の作成

にアプリケーション認証情報を作成し、アプリケーションのユーザー名とパスワードを追加します。無人ロボットは、自動化の実行時に、このアプリケーション認証情報を使用してアプリケーションにログインできます。

始める前に
認証情報の管理コンセプトについて理解を深めてください。詳細については、「RPA ハブ での認証情報管理」を参照してください。

このタスクは、ボットプロセスの作成時に、ボットプロセス構成フォームの [プロセスタイプ] フィールドで [無人 **(Unattended)]** を選択している場合にのみ実行します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」、「RPA ハブのボットプロセス構成フォーム」、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_business_user、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージのステータスが [公開済み] に設定されている場合、アプリケーション認証情報を削除することはできません。詳細については、「RPA ハブのボットプロセスのライフサイクルステージのステータス」を参照してください。

関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージのステータスが [公開済み] に設定されている場合、[名前] フィールドと[アプリケーション名] フィールドを編集することはできません。アプリケーションのパスワードは、関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージに関係なく編集できます。

関連するボットプロセスのライフサイクルステージのステータスが [公開済み] に設定されている場合、[外部認証情報 **(External Credential)]** フィールドを編集することはできません。

アプリケーション認証情報が外部認証情報 Vault を使用している場合は、関連付けられた外部認証情報 Vault がアクティブであることを確認してください。

RPA ハブ では、次の 2 つの方法でロボット認証情報、アプリケーション認証情報、または時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) シードを取得できます。

- ServiceNow 認証情報レコード (アプリケーション認証情報、ロボット認証情報、または TOTP 認証) から。
- 外部認証情報 Vault から。詳細については、「RPA ハブ の外部認証情報 Vault」を参照してください。

アプリケーション認証情報レコードで [外部認証情報 **(External Credential)]** チェックボックスがオンになっている場合は、RPA デスクトップデザインスタジオの **SetApplicationCredential** コンポー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ネントによって認証情報が設定されず、エラーが表示されます。コンポーネントの詳細については、「SetApplicationCredential コンポーネントの使用」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [認証情報管理] で、[アプリケーション認証情報] を選択します。
4. **[New** (新規)] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

アプリケーション認証情報フォーム

フィールド	説明
名前	アプリケーション認証情報の一意の名前。
アプリケーション名	ビジネスアプリケーションの名前。 または、[検索] アイコンをクリックして、使用可能なビジネスアプリケーションを選択することもできます。
User name (ユーザー名)	アプリケーションのユーザー名。 [外部認証情報 **(External Credential)]** オプションが選択されている場合、このフィールドは表示されません。
パスワード	アプリケーションのパスワード。 [外部認証情報 **(External Credential)]** オプションが選択されている場合、このフィールドは表示されません。
外部認証情報 (External Credential)	外部認証情報 vault から認証情報をフェッチするために選択できるオプション。 このフィールドは、RPA ビジネスユーザーには表示されません。
外部認証情報 Vault	外部認証情報 Vault から認証情報をフェッチするために使用する外部認証情報 Vault レコードに選択できるオプション。 [検索] アイコンを使用して、外部認証情報 Vault レコードを選択します。例：DemoCyberArk。 アクティブな外部認証情報 Vault レコードのみがここにリストされます。 このフィールドは、[外部認証情報 **(External Credential)]** オプションが選択されている場合にのみ表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	このフィールドは、RPA ビジネスユーザーには表示されません。
サブフロー入力	選択した外部認証情報レコードにマッピングされたサブフローへの入力として機能する JSON。 この JSON は、サブフロー REST ステップにより使用され、外部認証情報 Vault から認証情報を取得するために必要な情報が含まれていなければなりません。 値は JSON 形式にする必要があります。空の JSON 値を入力することはできません。 JSON の詳細については、「RPA ハブ で外部認証情報 Vault を設定する手順」を参照してください。 このフィールドは、[外部認証情報 **(External Credential)]** オプションが選択されている場合にのみ表示されます。 このフィールドは、RPA ビジネスユーザーには表示されません。

6. [保存] を選択します。
7. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

関連情報

監査履歴の表示

RPA ハブ での認証情報グループの作成

複数のボットプロセスで再利用できるロボット認証情報やアプリケーション認証情報を含む認証情報グループを作成します。無人ロボットは、認証情報グループを利用して、関連付けられたボットプロセスで定義した自動化を実行します。

始める前に

認証情報の管理コンセプトについて理解を深めてください。詳細については、「RPA ハブ での認証情報管理」を参照してください。

ロボット認証情報を作成します。詳細については、「RPA ハブ でのロボット認証情報の作成」を参照してください。

1 つ以上のアプリケーション認証情報を作成します。詳細については、「RPA ハブ でのアプリケーション認証情報の作成」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [認証情報管理] で、[認証情報グループ] を選択します。
4. [新規] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

認証情報グループフォーム

フィールド	説明
名前	認証情報グループの一意の名前。
ロボット認証情報	この認証情報グループに関連付けられるロボット認証情報。ロボットは、ロボット認証情報を使用してシステム上で認証を行います。

6. [保存] を選択します。
7. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

関連情報

ボットプロセスへの認証情報グループの関連付け

ボットプロセス内でのプロセスロボット認証情報のアサイン

アプリケーション認証情報を認証情報グループに関連付ける

ロボットがアプリケーションにログインして自動化を実行できるように、1 つ以上のアプリケーション認証情報を RPA ハブ の認証情報グループに関連付けます。

始める前に
認証情報の管理コンセプトについて理解を深めてください。詳細については、「RPA ハブ での認証情報管理」を参照してください。

認証情報グループを作成します。詳細については、「RPA ハブ での認証情報グループの作成」を参照してください。

アプリケーションの認証情報を作成します。詳細については、「RPA ハブ でのアプリケーション認証情報の作成」を参照してください。

開発者は、自身が作成したアプリケーション認証情報のみを認証情報グループに関連付けることができます。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [認証情報管理] で、[認証情報グループ] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 認証情報グループリストで、アプリケーション認証情報を関連付ける認証情報グループを選択します。
5. [アプリケーション認証情報] タブで、[追加] を選択します。
6. 1 つ以上のアプリケーション認証情報を選択し、この認証情報グループに関連付けます。
7. [追加] を選択します。
8. [保存] を選択します。

ボットプロセスを認証情報グループに関連付ける

関連付けられたロボットが認証情報グループを使用して自動化を実行できるように、1 つ以上の無人のボットプロセスを RPA ハブ の認証情報グループに関連付けます。

始める前に

認証情報の管理コンセプトについて理解を深めてください。詳細については、「RPA ハブ での認証情報管理」を参照してください。

認証情報グループを作成します。詳細については、「RPA ハブ での認証情報グループの作成」を参照してください。

ロボット認証情報を作成します。詳細については、「RPA ハブ でのロボット認証情報の作成」を参照してください。

無人のボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージステータスが [公開済み] に設定されている場合、プロセス認証情報マッピングレコードを編集することはできません。

ボットプロセスを認証情報グループに関連付けることができるのは、管理担当者グループに属する開発者のみです。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [認証情報管理] で、[認証情報グループ] を選択します。
4. 認証情報グループリストで、プロセス認証情報マッピングを作成する対象の認証情報グループを選択します。
5. [プロセス認証情報マッピング **(Process Credential Mappings)]** タブで [追加] を選択します。
6. リストから 1 つ以上のボットプロセスを選択して、この認証情報グループに関連付けます。

   リストには、ライフサイクルステージのステータスが [公開済み] にも [廃止] にも設定されていない無人のボットプロセスすべてが表示されます。

   ボットプロセスを選択して [追加] を選択すると、対応するすべてのボットプロセスのプロセス認証情報マッピングレコードが作成されます。
7. [保存] を選択します。
8. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. オプション: プロセス認証情報マッピングを削除するには、プロセス認証情報マッピングを選択し、[削除] を選択します。
   公開済みのボットプロセスに関連付けられているプロセス認証情報マッピングは削除できません。

次のタスク
この認証情報グループに、管理担当者グループのすべてのユーザーまたは特定のユーザーからアクセスできるようにする方法については、「ユーザーに認証情報グループへのアクセス権を付与する」を参照してください。

ユーザーに認証情報グループへのアクセス権を付与する

RPA ハブ の関連付けられたボットプロセスの管理担当者グループ内のすべてのユーザーまたは特定のユーザーにアクセス権を付与します。これにより、正しいユーザーに認証情報にアクセスさせることができます。

始める前に
認証情報の管理コンセプトについて理解を深めてください。詳細については、「RPA ハブ での認証情報管理」を参照してください。

認証情報グループを作成します。詳細については、「RPA ハブ での認証情報グループの作成」を参照してください。

認証情報グループの [プロセス認証情報マッピング **(Process Credential Mapping)**] タブで、ボットプロセスを追加します。詳細については、「ボットプロセスを認証情報グループに関連付ける」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
[共有] オプションを選択して、関連付けられたボットプロセスの管理担当者グループのすべてのユーザーに認証情報グループへのアクセス権を付与します。[共有] オプションをクリアして、関連付けられたボットプロセスの管理担当者グループの特定のユーザーに認証情報グループへのアクセス権を付与します。

[共有] オプションが選択されていない場合は、[認定ユーザー] タブが表示されます。[認定ユーザー] タブで、関連付けられたボットプロセスの管理担当者グループからユーザーを追加できます。こうした認定ユーザーは、関連付けられたボットプロセスでプロセスロボット認証情報を作成できます。

[共有] オプションを選択すると、管理担当者グループのすべてのユーザーにアクセス権が付与されます。プロセス認証情報マッピングレコードで [共有] が選択されている場合、[認定ユーザー] タブでユーザーを追加することはできません。

リストから認定ユーザーを削除すると、そのユーザーが作成したプロセスロボット認証情報レコードが削除されます。

関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージのステータスが [公開済み] に設定されている場合、[共有] オプションを編集したり、[認定ユーザー] タブでユーザーを追加したり削除したりすることはできません。

重要: Yokohama にアップグレードする場合は、[共有] オプションが事前に選択されています。[共有] オプションをクリアした場合、RPA リリースマネージャーと RPA アドミニストレーターによって作成されたプロセスロボット認証情報レコードは保持されます。ただし、管理担当者グループから開発者が作成したプロセスロボット認証情報レコードは削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [認証情報管理] で、[認証情報グループ] を選択します。
4. [認証情報グループ] リストで、認証情報グループを選択します。
5. [プロセス認証情報マッピング **(Process Credential Mappings)]** タブで、変更するレコードを選択します。
6. ユーザーにアクセス権を付与します。

オプション	アクション
管理担当者グループのすべてのユーザーにアクセス権を付与する	[共有] オプションを選択します。
管理担当者グループの選択したユーザーにアクセス権を付与する	**a.** 選択されている場合は、[共有] オプションをクリアします。 デフォルトでは、このフィールドは [false] に設定されています。 注: [共有] オプションをクリアした場合、RPA リリースマネージャーと RPA アドミニストレーターによって作成されたプロセスロボット認証情報レコードは保持されます。ただし、管理担当者グループから開発者が作成したプロセスロボット認証情報レコードは削除されます。 **b.** [認定ユーザー] タブを選択します。 **c.** 関連付けられたボットプロセスの管理担当者グループからのアクセス権を付与するユーザーを追加します。

7. [保存] を選択します。

RPA ハブ の外部認証情報 Vault レコードの作成

RPA ハブ に外部認証情報 Vault レコードを作成し、ロボットがさらに使用できるように外部認証情報 Vault を登録します。

始める前に
次の外部認証情報のコンセプトについて説明します。詳細については、「RPA ハブ の外部認証情報 Vault」を参照してください。

RPA ハブ の外部認証情報の構成に関連するタスクを完了していることを確認します。詳細については、「RPA ハブ で外部認証情報 Vault を設定する手順」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
外部認証情報 Vault は、機密情報の保存と管理によく使用される安全なストレージシステムです。たとえば、さまざまなアプリケーションやサービス、システムのユーザー名、パスワード、その他のアクセス認証情報などです。

既存の外部認証情報 Vault レコードを編集するには、[アクティブ] チェックボックスをオフにします。

公開済みのボットプロセスに関連付けられている外部認証情報 Vault レコードは非アクティブ化できません。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [認証情報管理] で、[外部認証情報 **Vault (External Credential Vaults)]** を選択します。
4. [新規] を選択します。
5. [外部認証情報 Vault (External Credential Vaults)] フォームのフィールドに入力します。

[外部認証情報 **Vault (External Credential Vaults)]** フォーム

フィールド	説明
名前	外部認証情報 Vault の一意の名前。 たとえば、「デモ CyberArk」など。
サブフロー	外部認証情報 Vault から認証情報をフェッチする関連サブフロー。 既存の外部認証情報 Vault レコードに関連付けられていない、公開済みでアクティブなサブフローのみがここにリストされます。 サブフローと外部認証情報 Vault 名は 1 対 1 でマッピングされています。
アクティブ	外部認証情報 Vault をアクティブ化するオプション。 既存の外部認証情報 Vault レコードを編集するには、[アクティブ] チェックボックスをオフにします。
説明	外部認証情報 Vault の説明

6. [保存] を選択します。
7. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ での MFA 認証システムの作成

無人ロボットがマルチファクター認証 (MFA) 対応アプリケーションに対してシームレスに認証できるように、RPA ハブ での時間に基づくワンタイムパスワード (TOTP) 認証を有効にする認証システムとトークン長を定義します。

始める前に

マルチファクター認証 (MFA) の概念について理解しておいてください。詳細については、「マルチファクター認証 (MFA)」を参照してください。

RPA ハブ の TOTP 認証について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブ の TOTP 認証」を参照してください。

このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

認証アプリケーションは、一時的なパスコードを生成するサードパーティソフトウェアです。ユーザーは、これらのパスコードをパスワードとともに使用して、マルチファクター認証 (MFA) を必要とするインスタンスにログインできます。たとえば、次のアプリケーションは時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) をサポートしています。

- Google Authenticator
- Microsoft Authenticator
- Okta Verify

これらのアプリケーションの詳細については、「認証アプリケーション」を参照してください。

MFA 認証システムレコードは、時間に基づくワンタイムパスワード (TOTP) 認証システムへの入力として機能します。

MFA 認証システムレコードを作成すると、すべてのフィールドが読み取り専用になります。

MFA 認証システムレコードは編集できません。既存の MFA レコードを変更する必要がある場合は、既存のレコードを廃止してから、MFA 認証システムレコードを作成する必要があります。

手順

1. [すべて] > **[Robotic Process Automation]** > [管理] > [認証システム]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

MFA 認証システムフォーム

フィールド	説明
名前	MFA 認証システムの一意の名前。 たとえば、Google 認証システムなどです。
トークン長 (Token Length)	選択した認証システムによって異なる、生成された時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) の長さ： ◦ **6** - 生成される TOTP の最小長。 ◦ 7

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ 8 ◦ **9** - 生成される TOTP の最大長。
ライフサイクルステージステータス	MFA 認証システムのライフサイクルステージのステータス。 ◦ 使用中：この値がデフォルトです。 ◦ 廃止 **(Retired)**

4. [送信] を選択します。

次のタスク
TOTP 認証システムを作成します。詳細については、「RPA ハブ での TOTP 認証システムの作成」を参照してください。

関連情報
RPA ハブ の MFA 認証システムの廃止

RPA ハブ での TOTP 認証システムの削除

RPA ハブ でカスタム通知を生成するためのアラートルールの作成
ロボット、スケジュール、プロセスジョブ、およびその他の RPA ハブ 関連テーブルのカスタム通知を生成するためのアラートルールを作成します。

始める前に
このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_support_user、sn_rpa_fdn.rpa_developer、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
アラートルールは、アラートまたは通知をトリガーする必要がある条件を定義する構成です。これらのルールは、自動化で特定された問題の管理と対応に役立ちます。これらのアラートルールは、アラートがトリガーされるために満たす必要がある条件または一連の条件を指定します。たとえば、トリガー条件は、特定のエラーメッセージ、しきい値を超えるパフォーマンスメトリクス、または予期されたデータの欠落などがあります。

手順
1. [すべて] > [ロボットによる業務の自動化] > [監視] > [アラートルール]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
4. [保存] を選択します。

関連情報
RPA ハブのアラートルールフォーム

RPA ハブ でのアラートルールのアラート変数の作成
アラートルールのメッセージを構成するための変数を作成します。

始める前に
このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アラートルールを作成します。詳細については、「RPA ハブ でカスタム通知を生成するためのアラートルールの作成」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_support_user、sn_rpa_fdn.rpa_developer、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

アラート変数は、RPA ハブ のアラートに関連付けられた変数またはパラメーターを参照します。アラートメッセージ内の動的トークンとして機能し、その値はテーブルのフィールドにリンクするか、条件付きスクリプトによって決定できます。

手順

1. [すべて] > [ロボットによる業務の自動化] > [監視] > [アラートルール]に移動します。
2. アラート変数を作成して関連付けるアラートルールを開きます。
3. [アラート変数] 関連リストで [新規] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。
5. [送信] を選択します。

関連情報

RPA ハブのアラート変数フォーム

RPA ハブ ボットプロセスの公開

ボットプロセスを公開して、プロセスを実行できるようにします。

始める前に

RPA ハブ インスタンスでコード品質チェックが有効になっているかを確認するには、関連するパッケージバージョンがコード品質チェックシステムプロパティ *sn_rpa_fdn.restrict_package_by_severity* に準拠していることを確認します。システムプロパティの詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」を参照してください。コンプライアンスルールの詳細については、「RPA ハブ のコード品質チェックのコンプライアンス」を参照してください。

無人のボットプロセスを表示されている順序で公開するには、以下のタスクを完了させます。

1. ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。
2. 認証情報グループを関連付けます。詳細については、「ボットプロセスへの認証情報グループの関連付け」を参照してください。
3. ボットプロセスにロボットをアサインします。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスへのロボットのアサイン」を参照してください。
4. ボットプロセス内でプロセスロボット認証情報をアサインします。詳細については、「ボットプロセス内でのプロセスロボット認証情報のアサイン」を参照してください。
5. アサインされたすべてのロボットに認証情報グループがマッピングされていることを確認します。

有人のボットプロセスを表示されている順序で公開するには、以下のタスクを完了させます。

1. ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。
2. Attended ユーザーまたはグループを有人のボットプロセスにアサインします。詳細については、「Attended ユーザーまたはグループの有人ボットプロセスへのアサイン」を参照してください。

ロボットプールにアサインされている無人のボットプロセスを公開する場合は、次の条件が満たされていることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- キューをボットプロセスに関連付けます。詳細については、「関連リストからボットプロセスへのキューの関連付け」を参照してください。
- キューは他のボットプロセスに関連付けられていません。
- ボットプロセスは複数のキューに関連付けられていません。
- ボットプロセス内のロボットプールの各ロボットに、プロセスロボット認証情報をアサインします。詳細については、「ボットプロセス内でのプロセスロボット認証情報のアサイン」を参照してください。

外部認証情報が有効になっているボットプロセスを公開する場合は、関連付けられた外部認証情報 Vault がアクティブであることを確認してください。このシナリオは、1 つ以上のロボット認証情報、アプリケーション認証情報、または TOTP 認証が、非アクティブな外部認証情報 Vault レコードに関連付けられている場合に有効です。ロボット認証情報、アプリケーション認証情報、および TOTP 認証の外部認証情報設定の詳細については、「RPA ハブ でのロボット認証情報の作成」、「RPA ハブ でのアプリケーション認証情報の作成」、および「RPA ハブ での TOTP 認証システムの作成」を参照してください。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
ボットプロセスの公開は、ボットプロセスのライフサイクルステージの 1 つです。詳細については、「RPA ハブのボットプロセスのライフサイクルステージのステータス」を参照してください。

手順
1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. 公開するボットプロセスを開きます。

   ヒント: ボットプロセスの詳細を変更するには、ボットプロセスのライフサイクルステージを [メンテナンス中] に変更します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスの編集」を参照してください。

5. フォームヘッダーで [公開] を選択します。

   警告: ボットプロセスを公開した後、ボットプロセスフォーム、関連付けられたビジネスアプリケーション、ロボット、プロセス認証情報マッピング、プロセスロボット認証情報セット、およびスケジュールのエントリを変更したり削除したりすることはできません。

タスクの結果
ボットプロセスを公開すると、追加されたスケジュール (該当する場合) が有効になります。

スケジュールがない場合、公開されたボットプロセスは API によってトリガーされる準備ができています。

RPA ハブ の管理

開発者、サポートユーザー、リリースマネージャー、およびアドミニストレーターは、RPA ハブ アプリケーションを使用して、ボットプロセスの開始と停止、RPA デスクトップデザインスタジオ でのボットプロセスの起動、スキルの実行、パッケージバージョンのハッシュコードの表示、ボットプロセス、パッケージ、およびロボットの廃止を行うことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

キューメニューからキューへのボットプロセスのアサイン

RPA ハブ 内のキューにボットプロセスをアサインして、このキューとやり取りできるようにします。1 つのキューに複数のボットプロセスをアサインできます。アサインされたボットプロセスに関連付けられているロボットは、作業アイテムの挿入、作業アイテムの選択、作業アイテムの更新を実行できます。

始める前に

ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

キューを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのキューの作成」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

ボットプロセスがロボットプールに対して有効になっている場合、(他のボットプロセスに関連付けられていない) 1 つのキューだけを現在のボットプロセスにマッピングできます。

ボットプロセス関連リストからキューをボットプロセスに関連付けるには、「関連リストからボットプロセスへのキューの関連付け」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で、[キュー] を選択します。
4. ボットプロセスをアサインするキューを開きます。
5. [ボットプロセス構成 **(Bot Process Configuration)]** タブで、[追加] を選択します。
6. [利用可能なボットプロセス **(Available Bot Processes)]** タブで、必要なボットプロセスを選択します。
7. [追加] を選択します。
8. [保存] を選択します。

関連情報

RPA ハブのキューフォーム

キューからのボットプロセスのアサイン解除

RPA ハブ のキュー実装

キューからのボットプロセスのアサイン解除

RPA ハブ でキューからボットプロセスをアサイン解除して、このキューとのインタラクションを停止します。

始める前に

ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

キューを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのキューの作成」を参照してください。

ボットプロセスをキューにアサインします。詳細については、「キューメニューからキューへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で、[キュー] を選択します。
4. ボットプロセスをアサイン解除するキューを開きます。
5. [ボットプロセス構成 **(Bot Process Configuration)]** タブで、必要なボットプロセスを選択します。
6. [削除] を選択します。
7. [保存] を選択します。

関連情報

RPA ハブのキューフォーム

RPA ハブ のキュー実装

作業アイテムの管理

RPA ハブ で作業アイテムをより効率的に管理します。作業アイテムを表示し、完了としてマークし、作業アイテムを再アサインできます。

始める前に
キューを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのキューの作成」を参照してください。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_business_user、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で、[キュー] を選択します。
4. キューを開いて、作業アイテムを表示します。
5. オプション: 作業アイテムを完了としてマークしたり、作業アイテムを再アサインしたりするには、[作業アイテム] タブで適切なアクションを選択します。

オプション	アクション
作業アイテムを完了としてマークするには	**a.** リストから、1 つ以上の作業アイテムを選択します。 **b.** フォームヘッダーで、[完了としてマーク **(Mark as Complete)]** を選択します。 **c.** 作業アイテムを完了としてマークするためのコメントを入力します。 **d.** [完了としてマーク] を選択します。 作業アイテムのステータスが [成功] に変わります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
作業アイテムを再アサインするには	**a.** リストから、1 つ以上の作業アイテムを選択します。 **b.** フォームヘッダーで、[再アサイン] を選択します。 **c.** 作業アイテムを再アサインするためのコメントを入力します。 **d.** [再アサイン] を選択します。 作業アイテムのステータスが [処理待ち] に変わります。 [処理中]、[処理待ち]、[失敗]、または [成功] ステータスの作業項目を再アサインできます。再アサインすると、作業アイテムフォームの各フィールドの値は次のようにリセットされます。 ◦ [開始日] - <空> ◦ [完了日時] - <空> ◦ [ロボット] - <空> ◦ [前回の開始時刻] - <空> ◦ [試行回数] - 0 ◦ [例外タイプ] - <空> ◦ [ステータス] - 処理待ち ◦ 注釈 - <モーダルから> 失敗または成功した作業アイテムを再アサインするために必要なロール：RPA 開発者、RPA リリースマネージャー、および RPA アドミン。

6. [作業アイテム] タブで、作業アイテムを開いてフォームで詳細を表示します。
7. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

関連情報

RPA ハブの作業アイテムフォーム

RPA ハブ のキュー実装

監査履歴の表示

ボットプロセスの共有パラメーターへのアサイン

RPA ハブ で、ボットプロセスを共有パラメーターにアサインして、共有パラメーターとやり取りできるようにします。複数のボットプロセスを 1 つの共有パラメーターにアサインできます。

始める前に
ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

共有パラメーターを作成します。 詳細については、「RPA ハブ での共有パラメーターの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [共有パラメーター] を選択します。
4. ボットプロセスをアサインする共有パラメーターを開きます。
5. [ボットプロセス構成 **(Bot Process Configuration)]** タブで、[追加] を選択します。
6. [利用可能なボットプロセス **(Available Bot Processes)]** タブで、必要なボットプロセスを選択します。
7. [追加] を選択します。
8. [保存] を選択します。

関連情報

RPA ハブのプロセスパラメーターフォーム

共有パラメーターからのボットプロセスのアサイン解除

共有パラメーターからのボットプロセスのアサイン解除

RPA ハブ で、共有パラメーターからボットプロセスをアサイン解除して、この共有パラメーターとのインタラクションを停止します。

始める前に
ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

共有パラメーターを作成します。 詳細については、「RPA ハブ での共有パラメーターの作成」を参照してください。

ボットプロセスを共有パラメーターにアサインします。詳細については、「ボットプロセスの共有パラメーターへのアサイン」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [共有パラメーター] を選択します。
4. ボットプロセスをアサイン解除する共有パラメーターを開きます。
5. [ボットプロセス構成 **(Bot Process Configuration)]** タブで、必要なボットプロセスを選択します。
6. [削除] を選択します。
7. [保存] を選択します。

関連情報

RPA ハブのプロセスパラメーターフォーム

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ でのロボットイベントの表示

RPA ハブ の [ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** タブで無人ロボットの現在のロボットイベントを表示します。カレンダーを使用すると、単一のビューでロボットのスケジュールを管理および計画できます。

始める前に

無人ロボットを作成します。ロボットフォームの [ロボットタイプ] フィールドで [無人 **(Unattended)]** が選択されていることを確認します。詳細については、「RPA ハブ でのロボットの作成」を参照してください。

無人のボットプロセスへのロボット接続を確立します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスへのロボットのアサイン」を参照してください。

無人のボットプロセス内にスケジュールを作成して、ロボットカレンダーに一部のスケジュールを表示します。1 つ以上のアクティブなスケジュールがロボットに関連付けられていることを確認します。詳細については、「RPA ハブ のボットプロセス内でのスケジュールの作成」を参照してください。

関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージが [廃止] に設定されていないことを確認します。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_business_user、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.r
または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

ロボットが複数のボットプロセスに関連付けられている場合、ロボットカレンダーのランディングページには、公開済みのボットプロセスのスケジュールが表示されます。1 つのロボットに複数の公開済みボットプロセスを関連付けることができます。

ロボットイベントをさらに表示するには、ロボットカレンダーに適切なライフサイクルステージステータスフィルターを追加します。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. ロボットまたはボットプロセスからロボットカレンダーを表示します。

オプション	アクション
ロボットからのロボットカレンダーの表示	**a.** [リスト] タブの [管理] で、[ロボット] を選択します。 **b.** ロボットを開いて、ロボットカレンダーを表示します。 **c.** フォームヘッダーで、[ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** を選択します。
ボットプロセスからのロボットカレンダーの表示	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。 **b.** ボットプロセスを開いて、ロボットカレンダーを表示します。

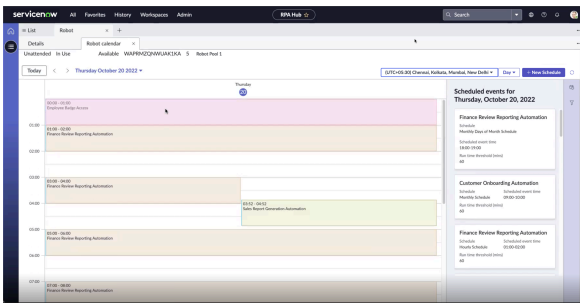
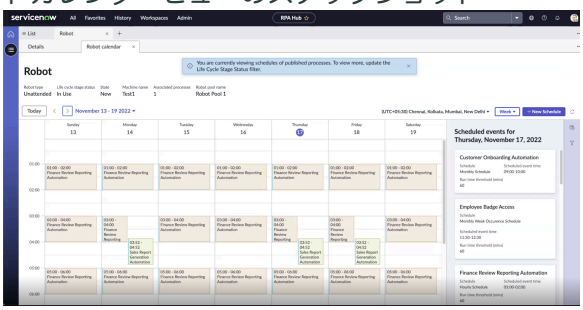
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	c. フォームヘッダーで、[ロボットカレンダーを表示 **(Show Robot Calendar)]** を選択します。 **d.** [カレンダーを表示するロボットを選択 **(Select the robot to view the calendar)]** ダイアログボックスでは、[ロボット] リストからロボットを選択します。 **e.** [続行] を選択します。

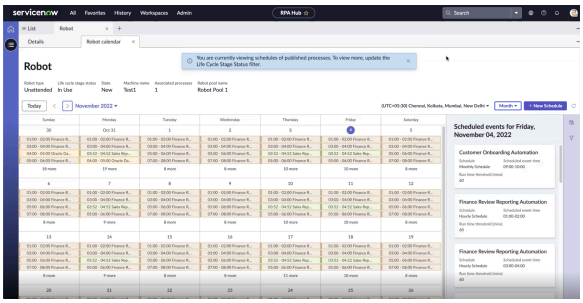
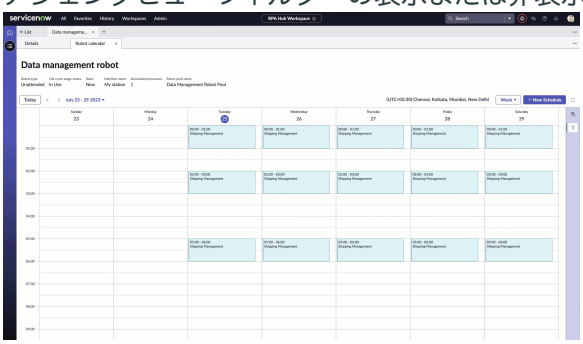
4. [ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** タブで、次のいずれかのアクションを実行します。

オプション	アクション
今日	現在の日付をハイライト表示します。
日付範囲 (<, >)	矢印ボタン (**[<]**、**[>]**) を選択すると、指定された日付範囲に基づく次のカレンダービューが表示されます。
スケジュールのタイムゾーン	ロボットのタイムゾーン (ワークステーションのタイムゾーン)、ユーザープロファイルのタイムゾーン、スケジュールのタイムゾーンなど、ロボットに定義されているタイムゾーンを表示します。このフィールドはドロップダウンリストです。 さまざまなタイムゾーンで定義されたさまざまなスケジュールに基づいて、スケジュールの複数のタイムゾーンが存在する場合があります。 タイムゾーンはアルファベット順に昇順でソートされ、ユーザープロファイルのタイムゾーンがデフォルトのタイムゾーンになります。 ワークステーションのタイムゾーンには、ロボットが実行されているマシンのタイムゾーン情報が含まれています。 ワークステーションのタイムゾーンは、少なくとも 1 つのスケジュールがワークステーションのタイムゾーンで定義され、ロボットが同じ RPA ハブ インスタンスに少なくとも 1 回接続されている場合にのみ、タイムゾーンリストに表示されます。 ユーザープロファイルのタイムゾーンはインスタンスレベルで定義され、自分のプロファイルから変更できます。 スケジュールのタイムゾーンは、ボットプロセスのスケジュールを作成するときに [タイムゾーン] フィールドで定義されます。 スケジュールのタイムゾーンは Windows タイムゾーンにマッピングされます。 スケジュールのタイムゾーンは、少なくとも 1 つのアクティブなスケジュールがワークステーションのタイムゾーンではなく特定のタイムゾーンで定義されている場合にのみ、タイムゾーンリストに表示されます。 ロボットが、さまざまなタイムゾーンのスケジュールでトリガーされるボットプロセスに関連付けられている場合、そのすべてのタイムゾーンがタイムゾーンリストに表示されます。

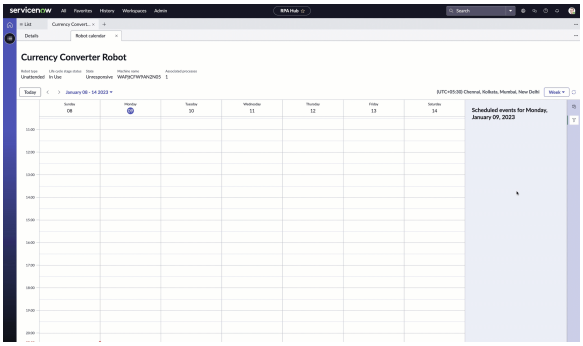
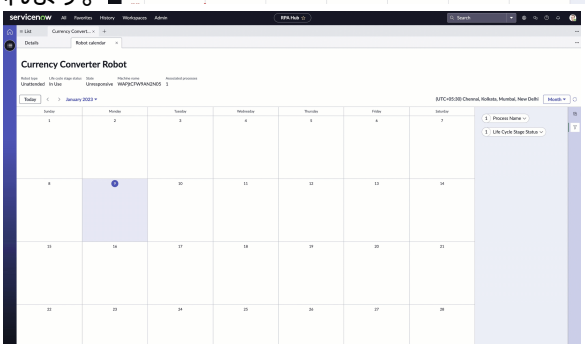
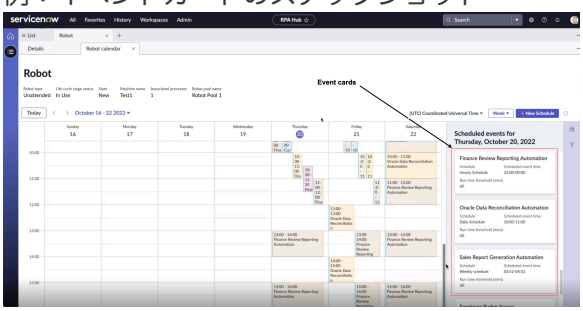
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	こうしたスケジュール済みタイムゾーンに加えて、現在のユーザーのタイムゾーンもリストに追加されます。このユーザープロファイルのタイムゾーンがデフォルトのタイムゾーンになります。 ロボットが、ワークステーションのタイムゾーンに基づくスケジュールでトリガーされるボットプロセスに関連付けられている場合、そのワークステーションのタイムゾーンがタイムゾーンリストに表示されます。
日	特定の日のカレンダーのイベントを表示します。ロボットカレンダービューのスナップショットについては、次の例を参照してください。 例：**1** 日 **(2022** 年 **10** 月 **20** 日) のロボットカレンダービューのスナップショット 
週	特定の週のカレンダーのイベントを表示します。週次ビューは日曜日から土曜日までです。デフォルトの週の初日は日曜日です。ロボットカレンダービューのスナップショットについては、次の例を参照してください。 これは、ロボットカレンダーのデフォルトビューです。 すべてのイベントで、スケジュールの開始日と終了日が指定されている必要があります。 イベントの頻度は、スケジュールに記載されている平日を基準にしている必要があります。 イベントは、スケジュールフォームの [開始日] フィールドに基づいて生成されます。詳細については、「RPA ハブのスケジュールフォーム」を参照してください。 例：**1** 週間 **(2022** 年 **11** 月 **13** 日 ～ **19** 日) のロボットカレンダービューのスナップショット 

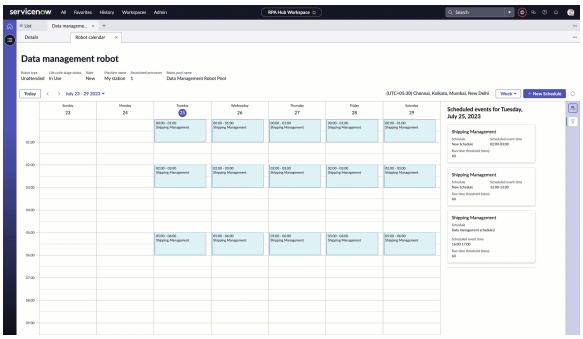
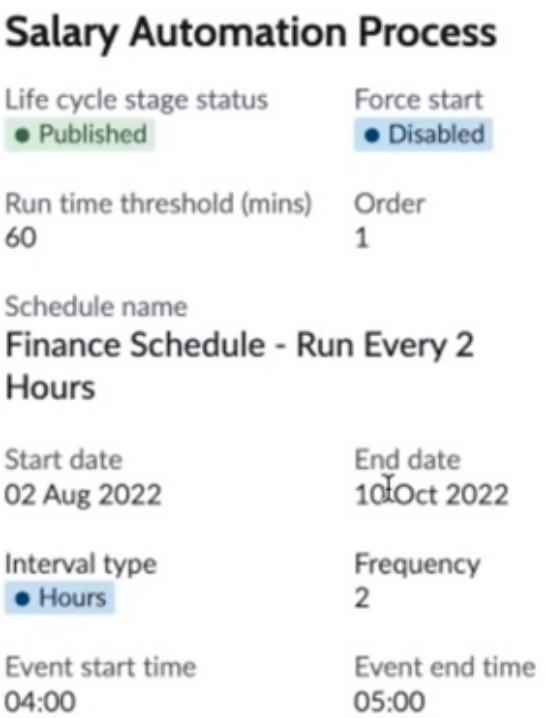
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
月次	特定の月のカレンダーのイベントを表示します。ロボットカレンダービューのスナップショットについては、次の例を参照してください。 例：1 か月 (2022 年 11 月) のロボットカレンダービューのスナップショット 
新しいスケジュール	[ロボットカレンダー **(Robot Calendar)**] タブで [新しいスケジュール] ボタンを選択し、無人ロボットを実行するスケジュールを作成します。 ロボットカレンダーの空のスロットを右クリックまたはダブルクリックして、スケジュールを作成することもできます。スケジュール作成の詳細については、「ロボットカレンダーでのスケジュールの作成」を参照してください。
リフレッシュ	[リフレッシュ] アイコン ( ) を選択して、ロボットカレンダーに新規または更新されたスケジュールを表示します。
アジェンダビューの表示または非表示	アジェンダアイコン ( ) を選択して、特定の日、週、または月のイベントを表示または非表示にします。アジェンダフィルタービューの表示または非表示のスナップショットについては、次の例を参照してください。 アジェンダビューフィルターの表示または非表示 
フィルターを表示	フィルターオプションを表示して、ボットプロセスのライフサイクルステージステータスとボットプロセス名を基にスケジュールを表示します。 公開されたボットプロセスのスケジュールと定期メンテナンス日を表示できます。 フィルターアイコン ( ) を選択して、フィルターオプションを表示します。

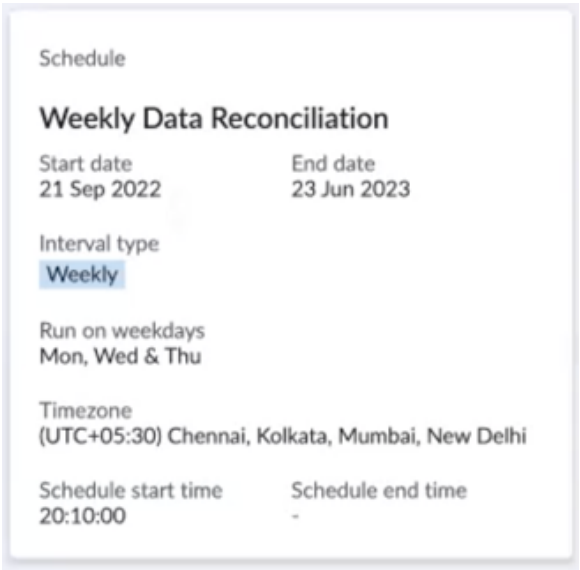
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	[プロセス名] リストまたは [ライフサイクルステージステータス] リストで、次のいずれかのアクションを実行します。 ◦ アイテムを選択に追加するには、左側の利用可能なアイテムをダブルクリックするか、アイテムを選択して [追加] アイコン (**[>]**) を選択します。次に、[適用] を選択します。右側の選択したアイテム列の下部に新しいアイテムが追加されます。   ◦ 選択からアイテムを削除するには、右側のアイテムをダブルクリックするか、アイテムを選択して [削除] アイコン (**[<]**) を選択します。次に、[適用] を選択します。
イベントカード	[スケジュール設定済みイベント (Scheduled events)] セクションでイベントカードを表示します。 関連するボットプロセスとそのスケジュールに関する限定的な情報が表示されます。 例：イベントカードのスナップショット 
イベントの詳細	ボットプロセスとそのスケジュールのイベントの詳細を表示するには、イベントカードをダブルクリックします。

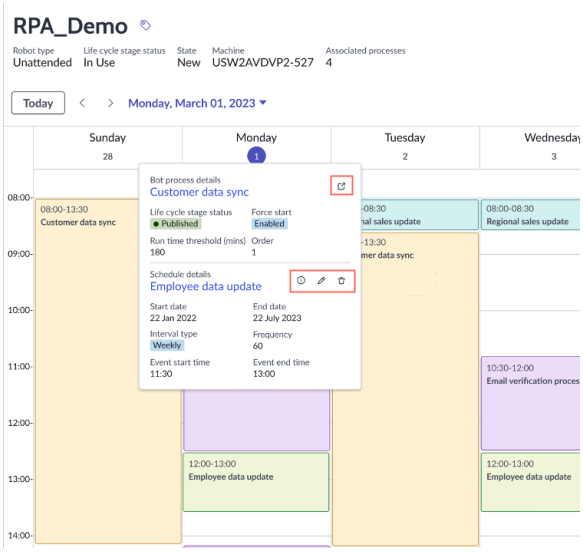
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	例：間隔タイプが「日次」の関連するボットプロセスのイベント詳細スナップショット  例：間隔タイプが「時間」の関連するボットプロセスのイベント詳細スナップショット 

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	間隔タイプが「週次」の関連するボットプロセスのイベント詳細スナップショット。 
イベントポップアップウィンドウ	イベントポップアップウィンドウで、次のアイコンを選択してスケジュールを表示、編集、および削除します。 ◦ [ボットプロセスの詳細を表示 (View bot process details)] アイコン ( ) を選択して、新しいタブでボットプロセスの詳細を取得します。 ◦ [イベントの詳細を表示] アイコン ( ) を選択して、コンテキストサイドパネルにスケジュールの詳細を表示します。 ◦ [スケジュールを編集] アイコン ( ) を選択して、既存のスケジュールを編集します。 ◦ 不要になったスケジュールを削除するには、[スケジュールを削除] アイコン ( ) を選択します

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	例：ポップオーバーイベントカードのアイコン  詳細については、「ロボットカレンダーでのスケジュールの作成」、「RPA ハブ でのロボットスケジュールの編集」、「RPA ハブ でのロボットスケジュールの削除」を参照してください。

ロボットカレンダーでのスケジュールの作成

RPA ハブ の [ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** タブで、 無人ロボットを実行するスケジュールを作成します。[プレビュー] ボタンを選択して、スケジュール内の競合を特定することもできます。

始める前に

ロボットカレンダーでスケジュールを作成する前に、次のタスクを実行します。

- ロボットカレンダーの概念に精通している必要があります。詳細については、「RPA ハブ のロボットカレンダーの使用」と「RPA ハブ でのロボットイベントの表示」を参照してください。
- 無人ロボットを作成します。ロボットフォームの [ロボットタイプ] フィールドで [無人 **(Unattended)]** が選択されていることを確認します。詳細については、「RPA ハブ でのロボットの作成」を参照してください。
- 無人のボットプロセスへのロボット接続を確立します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスへのロボットのアサイン」を参照してください。
- 関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージが [廃止] に設定されていないことを確認します。
- RPA 開発者 (sn_rpa_fdn.rpa_developer) または RPA サポートユーザー (sn_rpa_fdn.rpa_support_user) が、関連付けられたボットプロセスの [グループによる管理] リストに含まれていることを確認します。

必要なロール：

sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

無人のボットプロセス内でスケジュールを作成するには、「RPA ハブ のボットプロセス内でのスケジュールの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. ロボットまたはボットプロセスからロボットカレンダーを表示します。

オプション	アクション
ロボットからのロボットカレンダーの表示	**a.** [リスト] タブの [管理] で、[ロボット] を選択します。 **b.** ロボットを開いて、ロボットカレンダーを表示します。 **c.** フォームヘッダーで、[ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** を選択します。
ボットプロセスからのロボットカレンダーの表示	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。 **b.** ボットプロセスを開いて、ロボットカレンダーを表示します。 **c.** フォームヘッダーで、[ロボットカレンダーを表示 **(Show Robot Calendar)]** を選択します。 **d.** [カレンダーを表示するロボットを選択 **(Select the robot to view the calendar)]** ダイアログボックスでは、[ロボット] リストからロボットを選択します。 **e.** [続行] を選択します。

4. 新しいスケジュールを作成するには、次のいずれかのタスクを実行します。
   - [ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** タブで、[新しいスケジュール] を選択します。
   - カレンダーの空のスロットを右クリックします。次に、[新しいスケジュール] を選択します。
   - カレンダーの空のスロットをダブルクリックします。

   [新規スケジュールを作成] コンテキストサイドパネルが開きます。
5. オプション: ボットプロセスをさらに表示するには、フィルターアイコン ( ) を選択し、適切な [プロセス名] フィルターと [ライフサイクルステージステータス] フィルターを追加します。
6. [新規スケジュールを作成] コンテキストサイドパネルで、スケジュールを作成するボットプロセスを選択します。
7. ボットプロセスのライフサイクルステージステータスに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
   - ボットプロセスのライフサイクルステージステータスが [ビルド] または [メンテナンス中] のいずれかである場合、[続行] を選択します。
   - ボットプロセスのライフサイクルステージステータスが [公開済み] の場合、ステータスを [メンテナンス中] に変更するには、[確認] ダイアログボックスで [続行] を選択します。
8. スケジュールフォームで、必要に応じてフィールドを更新します。
   詳細については、「RPA ハブのスケジュールフォーム」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

9. オプション: スケジュール内の競合を特定したり、スケジュールをプレビューしたりするには、[プレビュー] を選択します。

   (Optional) スケジュールを編集または削除するには、「RPA ハブ でのロボットスケジュールの編集」および「RPA ハブ でのロボットスケジュールの削除」を参照してください。

10. オプション: イベントの詳細を表示するには、次のいずれかのタスクを実行します。
    - イベントポップアップウィンドウで、[イベントの詳細を表示 (View event details)] アイコン ( ) を選択します。
    - イベントを右クリックし、 [イベントの詳細を表示 **(View event details)]**を選択します。

    スケジュールの詳細を含むイベントカードがコンテキストサイドパネルに表示されます。
11. オプション: 新しいタブでボットプロセスの詳細を表示するには、イベントポップアップウィンドウでボットプロセスの詳細を表示アイコン ( ) を選択します。
12. スケジュールを保存するには、次のいずれかのタスクを実行します。

オプション	アクション
スケジュールの保存のみ	[保存] を選択します。
スケジュールを保存してボットプロセスを公開する	[保存] ボタンの下矢印を選択し、[保存して公開] を選択します。

RPA ハブ でのロボットスケジュールの編集

RPA ハブの [ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** タブでロボットプロセスのロボットスケジュールを編集し、競合スケジュールを解決したり、スケジュールフォームの詳細を変更したりします。

始める前に
ロボットスケジュールを作成する前に、次のタスクを実行します。

- ロボットカレンダーの概念に精通している必要があります。詳細については、「RPA ハブ のロボットカレンダーの使用」と「RPA ハブ でのロボットイベントの表示」を参照してください。
- 無人ロボットを作成します。ロボットフォームの [ロボットタイプ] フィールドで [無人 **(Unattended)]** が選択されていることを確認します。詳細については、「RPA ハブ でのロボットの作成」を参照してください。
- 無人のボットプロセスへのロボット接続を確立します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスへのロボットのアサイン」を参照してください。
- 無人のボットプロセスにスケジュールを作成して、ロボットカレンダーに一部のスケジュールを表示します。詳細については、ロボットカレンダーでのスケジュールの作成およびRPA ハブ のボットプロセス内でのスケジュールの作成を参照してください。
- 関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージが [廃止] に設定されていないことを確認します。
- RPA 開発者 (sn_rpa_fdn.rpa_developer) または RPA サポートユーザー (sn_rpa_fdn.rpa_support_user) が、関連付けられたボットプロセスの [グループによる管理] リストに含まれていることを確認します。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. ロボットまたはボットプロセスからロボットカレンダーを表示します。

オプション	アクション
ロボットからのロボットカレンダーの表示	**a.** [リスト] タブの [管理] で、[ロボット] を選択します。 **b.** ロボットを開いて、ロボットカレンダーを表示します。 **c.** フォームヘッダーで、[ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** を選択します。
ボットプロセスからのロボットカレンダーの表示	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。 **b.** ボットプロセスを開いて、ロボットカレンダーを表示します。 **c.** フォームヘッダーで、[ロボットカレンダーを表示 **(Show Robot Calendar)]** を選択します。 **d.** [カレンダーを表示するロボットを選択 **(Select the robot to view the calendar)]** ダイアログボックスでは、[ロボット] リストからロボットを選択します。 **e.** [続行] を選択します。

4. オプション: ボットプロセスをさらに表示するには、フィルターアイコン ( ) を選択し、適切な [プロセス名] フィルターと [ライフサイクルステージステータス] フィルターを追加します。
5. スケジュールを編集するには、次のいずれかのタスクを実行します。

オプション	アクション
イベントの右クリック	イベント (スケジュール) を右クリックし、 [スケジュールを編集]を選択します。
イベントポップアップウィンドウの選択	イベントポップアップウィンドウで、[スケジュールを編集] アイコン ( ) を選択します。

6. オプション: ボットプロセスのライフサイクルステージのステータスが [公開済み] に設定されていて、ステータスを [メンテナンス中] に変更する場合は、[確認] ダイアログボックスで [続行] を選択します。
7. 編集スケジュールフォームで、必要に応じてフィールドを更新します。
8. オプション: スケジュール内の競合を更に特定したり、スケジュールをプレビューしたりするには、[プレビュー] を選択します。
9. スケジュールを保存するには、次のいずれかのタスクを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- スケジュールを保存するには、[保存] を選択します。
- スケジュールを保存してボットプロセスを公開するには、[保存] ボタンの下矢印を選択し、[保存して公開] を選択します。

関連情報

RPA ハブのスケジュールフォーム

RPA ハブ でのロボットスケジュールの削除

RPA ハブ でのロボットスケジュールの削除

RPA ハブ の [ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** タブで、不要になったボットプロセスの既存のロボットスケジュールを削除します。

始める前に

ロボットスケジュールを削除する前に、次のタスクを実行します。

- 無人ロボットを作成します。ロボットフォームの [ロボットタイプ] フィールドで [無人 **(Unattended)]** が選択されていることを確認します。詳細については、「RPA ハブ でのロボットの作成」を参照してください。
- 無人のボットプロセスへのロボット接続を確立します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスへのロボットのアサイン」を参照してください。
- 無人のボットプロセスにスケジュールを作成して、ロボットカレンダーに一部のスケジュールを表示します。詳細については、ロボットカレンダーでのスケジュールの作成およびRPA ハブ のボットプロセス内でのスケジュールの作成を参照してください。
- 関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージが [廃止] に設定されていないことを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. ロボットまたはボットプロセスからロボットカレンダーを表示します。

オプション	アクション
ロボットからのロボットカレンダーの表示	**a.** [リスト] タブの [管理] で、[ロボット] を選択します。 **b.** ロボットを開いて、ロボットカレンダーを表示します。 **c.** フォームヘッダーで、[ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** を選択します。
ボットプロセスからのロボットカレンダーの表示	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。 **b.** ボットプロセスを開いて、ロボットカレンダーを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	c. フォームヘッダーで、[ロボットカレンダーを表示 **(Show Robot Calendar)]** を選択します。 **d.** [カレンダーを表示するロボットを選択 **(Select the robot to view the calendar)]** ダイアログボックスでは、[ロボット] リストからロボットを選択します。 **e.** [続行] を選択します。

4. オプション: ボットプロセスをさらに表示するには、フィルターアイコン ( ) を選択し、適切な [プロセス名] フィルターと [ライフサイクルステージステータス] フィルターを追加します。
5. スケジュールを削除するには、次のいずれかのタスクを実行します。

オプション	アクション
イベントの右クリック	**a.** イベント (スケジュール) を右クリックし、[スケジュールを削除]を選択します。 **b.** [確認] ダイアログボックスで [スケジュールを削除] を選択します。
イベントポップアップウィンドウの選択	イベントポップアップウィンドウで、[スケジュールを削除] アイコン ( ) を選択します。

公開されたボットプロセスを削除すると、ライフサイクル変更ステータスが [メンテナンス中] に変更されます。

関連情報

RPA ハブのスケジュールフォーム

RPA ハブ でのロボットスケジュールの編集

RPA ハブ でのロボットイベントの表示

RPA ハブ のロボットカレンダーの使用

RPA ハブ での定期メンテナンス日の管理

[ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** タブで定期メンテナンス日を追跡して、現在および将来の自動化を管理します。

始める前に

定期メンテナンス日の概念をよく理解している必要があります。詳細については、「RPA ハブ の定期メンテナンス日」を参照してください。

[変更] モジュールから変更要求を作成します。詳細については、「変更要求の作成 」を参照してください。変更要求を作成するときは、次のタスクを必ず実行してください。

- 変更要求 (CR) フォームの [構成アイテム] フィールドで、関連するボットプロセス、ロボット、またはマシン (マシン名の検索が有効な場合にロボットが関連付けられている) を選択します。また、アサイン先グループを選択します。
- [スケジュール] タブで、定期メンテナンスの開始予定日と終了予定日を時間とともに、[開始予定日] フィールドと **[** 終了予定日 **]** フィールドにそれぞれ入力します。[開始予定日] が空白ではないことを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 変更要求を保存した後、[承認を要求] を選択し、[評価] ステータスに移行します。
- 次に、変更要求を承認します。詳細については、「変更要求の処理」を参照してください。ロボットカレンダーに定期メンテナンスを表示するには、変更要求が [スケジュール済み]、[実装]、または [レビュー] 状況のいずれかである必要があります。

ロボットを仮想マシンにマッピングするには、*sn_rpa_fdn.enable_unattended_robot_machine_name_lookup* システムプロパティを必ず有効にしてください。

ロボットカレンダーに定期メンテナンスを反映させるために、ログインしているユーザーのタイムゾーンを RPA タイムゾーンにマッピングしてください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. RPA ハブ ワークスペースのホームページで、構成アイテム (CI) に応じて変更要求を選択します。
   - CI がロボットの場合は、[ロボットに対する変更] セクションから変更要求を選択します。
   - CI がボットプロセスの場合は、[ボットプロセスに対する変更 **(Changes to bot processes)]** セクションから変更要求を選択します。
3. [構成アイテム] 列から、関連するロボットまたはボットプロセスを選択します。
   関連するロボットフォームまたはボットプロセスフォームが開きます。
4. CI に応じて、フォームヘッダーからロボットカレンダーに移動します。
   - CI がロボットの場合は、[ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** を選択します。
   - CI がボットプロセスの場合は、[ロボットカレンダーを表示 **(Show Robot Calendar)]** を選択します。
5. オプション: CI がボットプロセスの場合は、[カレンダーを表示するロボットを選択 **(Select the robot to view the calendar)]** ダイアログボックスで、[ロボット] リストからロボットを選択し、[続行] を選択します。
   ロボットプール機能が有効になっている場合、そのプールに関連付けられているすべてのロボットが [ロボット] リストに表示されます。それ以外の場合は、アサインされたロボットのすべてのロボットが [ロボット] リストに表示されます。
6. [ロボットカレンダー **(Robot Calendar)]** タブで、次のいずれかのタスクを実行します。

オプション	アクション	結果
関連する CI が [ビルド] または [メンテナンス中] のいずれかのステータスである場合に、ロボットカレンダーに定期メンテナンスを作成する。	定期メンテナンス (SM) イベントカードを選択し、[承認] を選択します。	メンテナンス要求 (MR) が [処理待ち] ステータスで作成されます。 実行は、CR がクローズされるまで停止されます。
関連する CI が [公開] ステータスである場合に、ロボットカレンダーに定期メンテナンスを作成する。	◦ SM イベントカードを選択し、[承認] を選択します。 ◦ **[CR を承認しますか？ (Do you want to accept the CR?)]** 確認ダイアログボックスで [承認] を選択します。	MR が [処理待ち] ステータスで作成されます。 関連する CI は、定期メンテナンスの予定期間中に [メンテナンス中] ステータスに移行します。実行は、CR がクローズさ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション	結果
		れるまで停止されます。その後、CI は自動的に [公開済み] ステータスに移行します。
ロボットカレンダーから定期メンテナンスを削除する。	SM イベントカードを選択し、[却下] を選択します。	MR が [却下済み] ステータスで作成されます。
ロボットカレンダーで定期メンテナンスを削除する。	◦ 承認された SM イベントカードを選択し、[メンテナンスをキャンセル **(Cancel Maintenance)]** を選択します。 ◦ [メンテナンス要求をキャンセルしますか？ **(Cancel Maintenance Request?)]** 確認ダイアログボックスで、[キャンセル] を選択します。	MR が [処理中] ステータスの場合は、[完了] ステータスに更新されます。MR が [処理待ち] ステータスの場合はキャンセルされ、CI は自動的に [公開済み] ステータスに移行します。

7. オプション: 追跡のためにメンテナンス要求を表示するには、メンテナンス要求を選択します。
8. オプション: CI の更新を表示するには、次の手順を実行します。
   a. CI (ロボットまたはボットプロセス) に移動します。
   b. レコードを開きます。
   c. [アクティビティ] および [構成] フィールドで、CI が公開されている、または使用されている CI のソースの通知を表示します。

関連情報

RPA ハブ でのメンテナンス要求の表示

RPA ハブのメンテナンス要求フォーム

RPA ハブ でのコード品質ルールリストの表示

事前定義されたコード品質チェックルールのリストを、そのアクティブなステータスおよび重大度とともに表示します。

始める前に
必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_business_user、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、sn_rpa_f
または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [管理] で、[コード品質ルール **(Code Quality Rules)]** を選択します。
4. ルールを開いて詳細を表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

RPA ハブのコード品質ルールリスト

RPA ハブのコード品質ルールフォーム

RPA ハブ でのコード品質ルールフォームの更新

コード品質ルールフォームのいくつかのフィールドを更新して、コード品質チェック標準を設定します。

始める前に
必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [管理] で、[コード品質ルール **(Code Quality Rules)]** を選択します。
4. 変更するルールを開きます。
5. 必要に応じて、以下のフィールドを更新します。
   - 重大度
   - [正規表現] または [値]
   - アクティブ
6. [保存] を選択します。

関連情報

RPA ハブのコード品質ルールフォーム

RPA ハブ でのパッケージバージョンのダウンロード

RPA ハブ でパッケージバージョンをダウンロードし、RPA デスクトップデザインスタジオ から開いて自動化をビルド、デバッグ、または変更できるようにします。

始める前に
パッケージを作成します。詳細については、「ボットプロセスにアサインするパッケージの作成」を参照してください。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_robot、sn_rpa_fdn.rpa_supp
または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
パッケージバージョンファイルは、RPA デスクトップデザインスタジオで開くことができる自動化ロジックを含む iBot ファイルです。この自動化ファイル (ibot) を表示するには、RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションをマシンにインストールします。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ のインストール」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [リスト] タブの [ビルド] で [パッケージ] を選択します。
4. ダウンロードするパッケージバージョンのパッケージを開きます。
5. [パッケージバージョン] タブで、ダウンロードするバージョンを選択します。
6. [添付ファイル] セクションで添付ファイルを選択し、3 つのドットメニューを選択して、[ダウンロード] を選択します。
7. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

RPA ハブ での自動化パッケージの添付ファイルのアップロード

自動化パッケージの zip ファイルを RPA ハブ にアップロードして、パッケージを下位 (非本番) から上位 (本番) 環境に手動で移行します。

始める前に

このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

下位の環境から上位の環境へのデータ移行に関連するタスクを完了していることを確認します。詳細については、「RPA ハブ での下位環境から上位環境へのデータの移行」を参照してください。

下位のインスタンスからパッケージバージョンの添付ファイルをダウンロードします。詳細については、「RPA ハブ でのパッケージバージョンのダウンロード」を参照してください。

sn_rpa_fdn.allow_manual_upload_of_automation_package システムプロパティが true としてマークされていることを確認します。admin ロールを持っている場合は、このシステムプロパティを編集できます。

パッケージバージョンのライフサイクルステージが [廃止] に設定されていないことを確認します。

パッケージバージョンレコードに関連付けられている有効な添付ファイルがないことを確認します。

クイック整合性チェック用にパッケージバージョンのハッシュコードが正しいことを確認します。検証に失敗した場合は、[添付ファイルを管理] を選択して、以前にアップロードした誤った添付ファイルを削除します。次に、このタスクを続行して正しい添付ファイルをアップロードします。ハッシュコードの確認の詳細については、「RPA ハブ でのパッケージバージョンのハッシュコードの確認」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager

このタスクについて

有効な添付ファイルは 1 回のみアップロードできます。有効な添付ファイルをアップロードすると、添付ファイルをアップロードするための [添付ファイルをアップロード **(Upload Attachment)]** ボタンがオフになります。

手順

1. [すべて] > **[Robotic Process Automation]** > [ビルド] > [パッケージ] に移動します。
2. パッケージバージョンをアップロードするパッケージを開きます。
3. [パッケージバージョン] タブでバージョンを選択します。
4. フォームヘッダーで [添付ファイルをアップロード **(Upload Attachment)]** を選択し、自動化パッケージの zip ファイルをアップロードします。
5. [確認] ダイアログボックスで [ファイルを選択] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
クイック整合性チェック用にパッケージバージョンのハッシュコードが正しいことを再度確認します。詳細については、「RPA ハブ でのパッケージバージョンのハッシュコードの確認」を参照してください。

RPA ハブ でのパッケージバージョンの添付ファイルのインポート

パッケージバージョンの添付ファイルを手動でアップロードする代わりに、パッケージバージョンの [添付ファイルをインポート] ボタンを選択することで、パッケージバージョンの添付ファイルを自動的にインポートします。

始める前に
パッケージバージョンの添付ファイルをインポートする前に、次のタスクを実行します。

- 下位の環境から上位の環境へのデータ移行に関連するタスクを完了していることを確認します。詳細については、「RPA ハブ での下位環境から上位環境へのデータの移行」を参照してください。
- *sn_rpa_fdn.allow_manual_upload_of_automation_package* システムプロパティが true としてマークされていることを確認します。admin ロールを持っている場合は、このシステムプロパティを編集できます。
- パッケージバージョンに関連付けられている有効な添付ファイルがないことを確認します☒
- パッケージバージョンのライフサイクルステージが [廃止] に設定されていないことを確認します。
- **[RPA 自動化パッケージ (RPA Automation Package)]** の接続および資格情報エイリアスにアクティブな接続を作成します。[接続 **URL]** フィールドには、下位 (非本番) 環境を指定するようにしてください。詳細については、「HTTP(S) 接続を作成」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
最大パッケージサイズは *com.glide.attachment.max_size* システムプロパティによって決まります。このシステムプロパティの詳細については、「添付ファイルの許可されるサイズを最小化する (セキュリティセンター 1.3 で更新)」を参照してください。

パッケージの添付ファイル (自動化 zip ファイル) を下位 (非本番) 環境から上位 (本番) 環境に自動で移行する場合は、このタスクを実行します。

パッケージバージョンの添付ファイルを自動的にインポートするための別の方法として、ワークフロースタジオで [パッケージバージョンの添付ファイルのインポート] サブフローをトリガーすることもできます。詳細については、「RPA ハブのアクションとサブフロー」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [パッケージ] を選択します。
4. インポートするパッケージバージョンのパッケージを開きます。
5. [パッケージバージョン] タブで、インポートするバージョンを選択します。
6. [添付ファイルをインポート] を選択します。
7. [確認] ダイアログボックスで [添付ファイルをインポート] を選択します。

タスクの結果
添付ファイルが正常にアップロードされた後、または添付ファイルのアップロード中にエラーが発生した場合は、この添付ファイルのインポートアクションを実行したユーザーにメール通知が送信されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
クイック整合性チェック用にパッケージバージョンのハッシュコードが正しいことを再度確認します。詳細については、「RPA ハブ でのパッケージバージョンのハッシュコードの確認」を参照してください。

RPA ハブ での複数のボットプロセスのスキルパッケージバージョンの上書き

同じ有人または無人パッケージに関連付けられている複数のボットプロセスにおいて、RPA ハブ のスキルパッケージのバージョンを上書きします。RPA デスクトップデザインスタジオから有人または無人のパッケージを再度公開しなくても、スキルパッケージの最新バージョンを選択できます。

始める前に
Xanadu にアップグレードする場合、スキルパッケージバージョンフォームの [ボットプロセス] タブで関連付けられたボットプロセスを表示するには、有人または無人のパッケージを再度公開し、パッケージをボットプロセスに関連付けます。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
スキルパッケージバージョンフォームの [ボットプロセス] タブでは、ボットプロセスごとに個別にバージョンを上書きするのではなく、複数のボットプロセスのスキルパッケージバージョンを上書きできます。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [パッケージ] を選択します。
4. スキルパッケージを選択します。
5. [パッケージバージョン] タブで、上書きするバージョンを選択します。
6. [ボットプロセス] タブで、[編集] を選択します。
7. このスキルバージョンを上書きするボットプロセスをリストから選択します。
   リストには、選択したスキルパッケージに関連付けられている有人または無人パッケージのボットプロセスが表示されます。

RPA ハブ でのパッケージバージョンのハッシュコードの確認

RPA ハブ でパッケージバージョンのハッシュコードを確認し、手動でアップロードされた自動化 zip ファイルのハッシュコードを関連するパッケージバージョンレコードで検証できるようにします。

始める前に
このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

下位の環境から上位の環境へのデータ移行に関連するタスクを完了していることを確認します。詳細については、「RPA ハブ での下位環境から上位環境へのデータの移行」を参照してください。

sn_rpa_fdn.allow_manual_upload_of_automation_package システムプロパティが true としてマークされていることを確認します。admin ロールを持っている場合は、このシステムプロパティを編集できます。

自動化パッケージをアップロードします。詳細については、「RPA ハブ での自動化パッケージの添付ファイルのアップロード」を参照してください。

パッケージバージョンのライフサイクルステージが [廃止] に設定されていないことを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
ハッシュコードは、パッケージバージョンの整合性を検証するために使用される、公開済みのパッケージバージョンの、自動生成された一意の英数字の値です。システムでは、パッケージバージョンレコードにアップロードされた最初の添付ファイルのハッシュコードを確認します。検証を確実に成功させるには、正しい添付ファイルのみをアップロードします。

パッケージバージョンのハッシュコードを検証するための別の方法として、ワークフロースタジオで [パッケージバージョンのハッシュコードの確認] アクションをトリガーすることもできます。詳細については、「RPA ハブのアクションとサブフロー」を参照してください。

手順
1. [すべて] > **[Robotic Process Automation]** > [ビルド] > [パッケージ] に移動します。
2. パッケージを開いてハッシュコードを表示します。
3. [パッケージバージョン] タブでバージョンを選択します。
4. フォームヘッダーで、[ハッシュコードを検証 **(Verify Hash Code)]** を選択します。

次のタスク
ハッシュコードの検証に失敗した場合は、無効な添付ファイルを削除し、正しい自動化パッケージをアップロードします。詳細については、「RPA ハブ での自動化パッケージの添付ファイルのアップロード」を参照してください。

RPA ハブ での無人ロボットの編集

RPA ハブで、既存の無人ロボットを編集して、ロボットのいくつかの詳細を変更したり、ロボットを高密度ロボットに変換したり、ロボットのステータスを表示したりします。

始める前に
無人ロボットを作成します。[ロボットタイプ] フィールドで **[Unattended]** を選択していることを確認してください。詳細については、「RPA ハブ でのロボットの作成」を参照してください。

アテンド型ロボットは編集できません。

ロボットフォームで、ロボットのライフサイクルステージが [メンテナンス中] であることを確認します。

ロボットタイプを高密度ロボットから標準に、またはその逆に変更する場合は、自動化をシームレスに実行するために、無人ロボットを再接続する必要があります。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順
1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [管理] で、[ロボット] を選択します。
4. 変更する無人ロボットを選択します。
5. [詳細] タブで、必要に応じて以下のフィールドを更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロボットフォーム

フィールド	説明
名前	ロボットの名前。
部門	ロボットの関連部門。 このフィールドは、関連付けられたアテンド型ロボットユーザーのレコードの部門情報に基づいて自動入力されます。 このフィールドの値は、リアルタイムデータではなく、ロボットレコードが作成された時点の値に対応しています。
説明	ロボットの簡単な説明。
高密度ロボット	同じマシン名で複数のロボットを作成するオプション。 複数の自動化を同時に実行できるように、マシンは複数のユーザーセッションを同時にサポートする必要があります。 **注:** ロボットタイプを高密度ロボットから標準に、またはその逆に変更する場合は、自動化をシームレスに実行するために、無人ロボットを再接続する必要があります。
画面解像度	自動化を実行する前に RDP 接続を確立する際に、高密度ロボットによって使用される画面解像度。 同じマシン名を使用する高密度ロボットそれぞれに対して異なる画面解像度を設定できます。ただし、同じボットプロセスに関連付けられたすべての高密度ロボットの画面解像度値が、同じであることが理想的です。 このフィールドは、ロボットが高密度ロボットとしてマークされている場合にのみ表示されます。 **注:** 画面解像度のデフォルト値は、*sn_rpa_fdn.robot_screen_resolution* RPA ハブシステムプロパティを使用して変更できます。
ユーザー	このロボットにアクセスできる認定ユーザー。 Xanadu にアップグレードする場合は、[ユーザー] フィールドに、選択した無人ロボットのプロセスジョブを最近作成したユーザー名 (ユーザー) が自動的にマッピングされます。選択したロボットのプロセスジョブが見つからない場合、ロボットは [メンテナンス] ステータ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	スに移行します。RPA リリースマネージャーは、適切なユーザーをロボットに手動でマッピングする必要があります。 **注:** このフィールドは、*sn_rpa_fdn.enable_unattended_robot_user_ma* システムプロパティが有効な場合にのみ表示されます。

6. フォームで、無人ロボットとアテンド型ロボットのステータスを表示します。

ロボット状況フォーム

状況	無人ロボット の説明	アテンド型ロボット の説明
新規	新しいロボットが作成または保存される場合のデフォルト値。	新しいロボットが作成または保存される場合のデフォルト値。
利用可能	ロボットは 無人ロボット アプリケーションに接続されています。	Attended ユーザーは アテンド型ロボット アプリケーションに接続されています。
多忙	ロボットが自動化の実行を実行しました。	Attended ユーザーが [実行] アイコン ( ) または [デスクトップインデスクトップ] アイコン ( ) を選択して自動化を開始しました。
切断	ロボットが 無人ロボット アプリケーションから切断されました。	Attended ユーザーが アテンド型ロボット アプリケーションを閉じたか、ログアウトしました。
応答不能	ロボットランタイムが応答していません。 このステータスは、現在時刻と前回のハートビート時刻の差が *sn_rpa_fdn.robot.unresponsive* プロパティで指定された値以上になると発生します。	

7. [保存] を選択します。
8. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

RPA ハブ でのパッケージの編集

RPA ハブ の既存のパッケージを編集して、名前や説明などの詳細を変更します。

始める前に

パッケージを作成します。詳細については、「ボットプロセスにアサインするパッケージの作成」を参照してください。

パッケージがボットプロセスに関連付けられていないことを確認します。パッケージフォームで、パッケージのライフサイクルステージが [メンテナンス中] であることを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [パッケージ] を選択します。
4. 編集するパッケージを開きます。
5. 必要に応じて、以下のフィールドを更新します。
   - 名前
   - 説明
6. [保存] を選択します。
7. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

関連情報

RPA ハブのボットプロセスフォーム

RPA ハブ でのボットプロセスの編集

RPA ハブ で、既存のボットプロセスを編集して、いくつかの詳細を変更します。

始める前に

ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

ボットプロセスフォームで、ボットプロセスのライフサイクルステージが [メンテナンス中] であることを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. 変更するボットプロセスを開きます。
5. [詳細] タブで、必要に応じて以下のフィールドを更新します。
   - 名前
   - 順番
   - パッケージ
   - パッケージバージョン
   - 実行時間しきい値 (分)
   - ジョブの消去 (日数)
   - 説明

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- モニターをアクティブに保つ
- 強制開始
- 自動セッションの復元
- 実行ログの追跡
- 管理担当者グループ
- デスクトップインデスクトップを有効にする
- 完了時にデスクトップインデスクトップを終了する
- 画面解像度

6. [保存] を選択します。
7. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

関連情報

RPA ハブのボットプロセスフォーム

RPA ハブ での無人ボットプロセスの開始

指定されたロボットマシンで無人のボットプロセスを開始し、選択したロボットによって自動化を実行します。

始める前に

パッケージとパッケージバージョンをボットプロセスに関連付けます。詳細については、「RPA ハブでのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

ボットプロセスのライフサイクルステージのステータスが [公開済み]、[メンテナンス中]、または [ビルド] のいずれかであることを確認します。詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

ロボット認証情報レコードの [外部認証情報 **(External Credential)**] チェックボックスがオンになっている場合は、関連付けられた外部認証情報 Vault レコードがアクティブであることを確認します。詳細については、「RPA ハブ でのロボット認証情報の作成」を参照してください。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、sn_rpa_fdn.rpa_business_user、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

ロボットプールが有効な場合、[プロセスの開始] ボタンを選択すると、アサインされたロボットプールから特定の数のロボットが、次の条件に基づいてボットプロセスを実行します。

- [ボットプロセス] フォームで選択した [割り当てタイプ] に基づいています。
- 処理待ちの作業アイテムと、以前に正常に完了した作業アイテムの平均処理時間に基づいて、必要なロボットの数を計算します。
- 計算されたロボットの最小値は 1 です。
- 計算されたロボットの最大値は、プール内のロボットの数と同じです。

注: ボットプロセスが [メンテナンス中] または [ビルド] ライフサイクルステージステータスのいずれかで、ロボットプールを使用している場合、新しいロボットは動的割り当て用に展開されません。ロボットプールの動的割り当ては、公開されたボットプロセスに対してのみアクティブ化されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスジョブを容易にキューに追加できるように、認証情報グループがアサインされた、[利用可能] かつ [ビジー] ステータスのロボットのみがここに表示されます。ジョブキューには、定義された順序で実行されるプロセスが含まれます。☒

無人ロボットを使用して無人自動化を実行することもできます。詳細については、「無人ロボットを使用した自動化の実行」を参照してください。

無人のボットプロセスを開始するもう 1 つの方法は、ワークフロースタジオで [プロセスの開始] アクションをトリガーすることです。詳細については、「RPA ハブのアクションとサブフロー」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. ボットプロセスを開き、無人の自動化を実行します。
5. フォームヘッダーで [プロセスの開始] を選択します。
6. 開始する現在のボットプロセスにアサインされているロボットを選択します。
   ライフサイクルステージのステータスが [メンテナンス中] のロボットは、リストに表示されません。
7. [プロセスの開始] を選択します。
   組織のセキュリティポリシーによって、自動化の実行にフラグが付いたり、実行されなくなったりする場合があります。このような事態を回避するには、コンピューター上のバイナリ、ユーザープラグイン、およびスクリプトコネクタを格納するフォルダーの一覧表示を、許可することを検討してください。例を次に示します。
   - バイナリの場合は、パス `Users\<ユーザー名>\AppData\Local` にある ServiceNowRPA フォルダーを許可リストに登録できます。
   - ユーザープラグインの場合は、パス `<プロジェクトフォルダー名>\UserPlugins\<ユーザープラグイン名>` にあるユーザープラグインフォルダーを許可リストに登録できます。
   - スクリプトコネクタの場合は、パス `<プロジェクトフォルダー名>\Dependencies` にある依存関係フォルダーを許可リストに登録できます。

関連情報

RPA ハブ でのボットプロセスの編集

RPA ハブ での無人のボットプロセスの停止

RPA ハブ からの Studio の起動

RPA ハブ ボットプロセスの公開

RPA ハブ ボットプロセスの廃止

RPA ハブ での無人のボットプロセスの停止

無人のボットプロセスを停止して、選択したロボットによる自動化を中止します。 特定のボットプロセスに対してロボットプールが有効になっている場合、そのロボットプールのすべてのロボットの実行が停止します。

始める前に

ボットプロセスを開始します。詳細については、「RPA ハブ での無人ボットプロセスの開始」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセスのライフサイクルステージのステータスが [公開済み]、[メンテナンス中]、または [ビルド] のいずれかであることを確認します。詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

アサインされたロボットのライフサイクルステージステータスが [使用中] で、ロボットのステータスが [ビジー] であることを確認します。

グレースフルストップの概念を理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブ でのグレースフルストップ機能の使用」を参照してください。

グレースフルストップトグルを使用するには、RPA デスクトップデザインスタジオで選択したパッケージバージョンでグレースフルストップコンポーネントが使用されていることを確認してください。グレースフルストップは、アサインされたロボットと、ロボットプール内のロボットに適用されます。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、sn_rpa_fdn.rpa_business_user、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

無人のボットプロセスを停止するための別の方法として、ワークフロースタジオで [プロセスの停止 **(Stop Process)]** アクションをトリガーすることもできます。詳細については、「RPA ハブのアクションとサブフロー」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. 無人の自動化を停止するには、ボットプロセスを開きます。
5. フォームヘッダーで、[処理の開始] ボタンの下矢印を選択します。
6. [処理の停止] を選択します。
7. オプション: ボットプロセスを正常に終了するには、[グレースフルストップ **(Graceful Stop)]** トグルスイッチを有効にします。
8. 停止する現在のボットプロセスにアサインされているロボットを選択します。

   注: 現在のボットプロセスにアサインされ、同じボットプロセスを実行しているロボットのみが表示されます。

9. [処理の停止] を選択します。

関連情報

RPA ハブ でのボットプロセスの編集

RPA ハブ からの Studio の起動

RPA ハブ ボットプロセスの公開

RPA ハブ ボットプロセスの廃止

RPA ハブ からの **Studio** の起動

RPA デスクトップデザインスタジオ でボットプロセスの関連付けられたパッケージバージョンを開いて、自動化をレビュー、編集、およびデバッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
パッケージとパッケージバージョンをボットプロセスに関連付けます。詳細については、「RPA ハブでのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. ボットプロセスを開きます。
5. フォームヘッダーで、[プロセスの開始] ボタンの下矢印を選択します。
6. [スタジオで起動する] を選択します。
7. リモートマシンかローカルマシンかに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	アクションと説明
リモートマシン	**注:** ロボットを追加し、無人ロボットアプリケーションに接続してください。 ロボットプールオプションが有効になっている場合は、関連付けられたロボットプールからロボットを 1 つ選択し、[起動] を選択します。 アサインされたプロセスロボットの認証情報セットがマッピングされ、状況が [利用可能] および [ビジー] のロボットだけが利用できます。 ロボットプールオプションが有効になっていない場合は、関連付けられたロボットを 1 つ選択し、[起動] を選択します。 アサインされた認証情報グループがあり、ステータスが [利用可能] および [ビジー] のロボットだけが利用できます。 選択したロボットマシンで関連付けられたパッケージバージョンが開きます。
ローカルマシン	**注:** パッケージ、および関連付けられたパッケージバージョンがボットプロセスで利用可能であることを確認します。 [起動 **(Launch)]** を選択します。 RPA デスクトップデザインスタジオ内の (インスタンスのレンダリング元である) Windows マシンで、関連付けられたパッケージバージョンが開きます。

RPA ハブ での有人のボットプロセスからの **Attended** ユーザーまたはグループのアサイン解除

ユーザーがビジネスプロセスから移動する場合は、Attended ユーザーまたはグループを有人のボットプロセスからアサイン解除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
このタスクは、ボットプロセスの作成時に、ボットプロセス構成フォームの [プロセスタイプ] フィールドで [有人 **(Attended)]** を選択している場合にのみ実行します。そのフィールドを選択しないかぎり、このタスクを実行できません。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」、「RPA ハブのボットプロセス構成フォーム」、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. Attended ユーザーまたはグループをアサイン解除する有人のボットプロセスを開きます。
5. **[Attended** ユーザー/グループ] タブで、次のいずれかのアクションを実行します。

オプション	アクション
ユーザーを削除するには	**a.** アサイン解除するユーザーレコードを選択します。 **b.** [削除] を選択します。
グループを削除するには	**a.** アサイン解除するグループレコードを選択します。 **b.** [削除] を選択します。

関連情報

RPA ハブ でのライセンスの配布

API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出し

アクションを作成して、UI エクスペリエンスから有人ボットプロセス (有人自動化) を呼び出します。

プレイブックなどの他の UI エクスペリエンスから有人ボットプロセス (有人自動化) をトリガーする制限は、次のカスタマイズを実行することで解決できます。デフォルトでは、UI アクションはクラシックまたはワークスペースエクスペリエンス用に作成され、有人構成がアクティブ化されたときに有人ボットプロセス (有人自動化) をトリガーします。

UI アクションの作成方法や既存の UI アクションの編集方法については、「UI アクションの作成 」を参照してください。

対応するアクションで、アクションの可視化が次であることを確認してください：`new sn_rpa_fdn.RPAInstanceFormHooks().canTriggerAutomation(current,'<attended_config_sys_id`

関連する有人構成の Sys ID を `<attended_config_sys_id>` に入力します。☒

対応するアクションフォームの [スクリプト] セクションに、次のコードを追加する必要があります。

```
var rpaFormHooks = new GlideAjax('sn_rpa_fdn.RPAInstanceFormHooks');
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
rpaFormHooks.addParam('sysparm_name', 'generateRuntimeLaunchUrl');

rpaFormHooks.addParam('attendedConfigId', '<attended_config_sys_id>');

rpaFormHooks.addParam('recordId', g_form.getUniqueValue());

rpaFormHooks.getXMLAnswer(function(response) {

var result = JSON.parse(response);

if (!result.error)

top.window.open(result.url);

});
```

関連情報

RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化

UI アクション (ボタン) の表示条件

RPA ハブ の有人構成レコードを有効にしますか？

有人構成レコードを有効にして、関連付けられた ServiceNow フォームで有人自動化をトリガーする UI アクションをアクティブ化します。

始める前に
埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

有人構成レコードを作成します。詳細については、「RPA ハブ での有人構成レコードの作成」を参照してください。

有人構成レコードが [ドラフト]または [非アクティブ] のいずれかのステータスであることを確認します。

RPA 開発者 (sn_rpa_fdn.rpa_developer) が、有人構成レコードにアサインされている関連ボットプロセスの [グループによる管理] リストに含まれていることを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [有人構成 (Attended Configuration)] メニューリストまたは有人ボットプロセスレコードの関連リストから、有人構成レコードに移動します。

オプション	アクション
[有人構成 (Attended Configuration)] メニューリストから	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で、[有人構成 **(Attended Configuration)]** を選択します。 **b.** 有人構成レコードを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
有人ボットプロセスレコードの関連リストから	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。 **b.** 有人ボットプロセスを開きます。 **c.** [有人構成 (Attended Configurations)] タブで、有人構成レコードを選択します。

4. フォームヘッダーで [アクティブ化]を選択します。

タスクの結果
対応する UI アクションが ServiceNow フォームに作成されます。この UI アクションを選択すると、保存していない変更がある場合は、保存の確認ダイアログボックスが表示されます。それ以外の場合は、対応するボットプロセス (自動化) がトリガーされます。UI アクションが表示されない場合は、ヴィジビリティ条件を参照してください。詳細については、「UI アクション (ボタン) の表示条件」を参照してください。

関連情報
- RPA ハブ の有人構成レコードの非アクティブ化
- RPA ハブ の有人構成レコードの削除
- RPA ハブ での有人構成レコードの編集
- API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出し
- UI アクション (ボタン) の表示条件

RPA ハブ の有人構成レコードの非アクティブ化
有人構成を非アクティブ化して、レコードを非アクティブ状況に移行します。

始める前に
埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

有人構成レコードを作成します。詳細については、「RPA ハブ での有人構成レコードの作成」を参照してください。

RPA 開発者 (sn_rpa_fdn.rpa_developer) が、有人構成レコードにアサインされている関連ボットプロセスの [グループによる管理] リストに含まれていることを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
有人構成レコードを非アクティブ化することで、ステータスが [アクティブ] から [非アクティブ] に移行し、編集のためにフォームが開き、関連付けられた ServiceNow フォームから構成が切断されます。関連付けられた ServiceNow フォームに作成された UI アクションは表示されません。

手順
1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [有人構成 (Attended Configuration)] メニューリストまたは有人ボットプロセスレコードの関連リストから、有人構成レコードに移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
[有人構成 (Attended Configuration)] メニューリストから	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で、[有人構成 **(Attended Configuration)]** を選択します。 **b.** 有人構成レコードを開きます。
有人ボットプロセスレコードの関連リストから	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。 **b.** 有人ボットプロセスを開きます。 **c.** [有人構成 (Attended Configurations)] タブで、有人構成レコードを選択します。

4. フォームヘッダーで [非アクティブ化]を選択します。

関連情報

RPA ハブ の有人構成レコードを有効にしますか？

RPA ハブ の有人構成レコードの削除

RPA ハブ での有人構成レコードの編集

API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出し

UI アクション (ボタン) の表示条件

RPA ハブ での有人構成レコードの編集

RPA ハブ で既存の有人構成レコードを編集して、レコードの詳細のいくつかを編集します。

始める前に

埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

有人構成レコードを作成します。詳細については、「RPA ハブ での有人構成レコードの作成」を参照してください。

有人構成レコードが [アクティブ] ステータスであることを確認します。

RPA 開発者 (sn_rpa_fdn.rpa_developer) が、有人構成レコードにアサインされている関連ボットプロセスの [グループによる管理] リストに含まれていることを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

有人構成レコードを編集することで、ステータスが [アクティブ] から [非アクティブ] に移行し、編集のためにフォームが開き、関連付けられた ServiceNow フォームから構成が切断されます。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [有人構成 (Attended Configuration)] メニューリストまたは有人ボットプロセスレコードの関連リストから、有人構成レコードに移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
[有人構成 (Attended Configuration)] メニューリストから	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で、[有人構成 **(Attended Configuration)]** を選択します。 **b.** 変更する有人構成レコードを開きます。
有人ボットプロセスレコードの関連リストから	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。 **b.** 有人ボットプロセスを開きます。 **c.** [有人構成 (Attended Configurations)] タブで、変更する有人構成レコードを選択します。

4. フォームヘッダーで、[編集] を選択します。
5. [確認] ダイアログボックスで [編集] を選択します。
6. 必要に応じて、以下のフィールドを更新します。
   [テーブル]、[ボットプロセス構成 **(Bot Process Configuration)]**、[アクションラベル] の各フィールドは編集できません。
7. [保存] を選択します。

関連情報

- RPA ハブ の有人構成レコードを有効にしますか？
- RPA ハブ の有人構成レコードの非アクティブ化
- RPA ハブ の有人構成レコードの削除
- API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出し
- UI アクション (ボタン) の表示条件

RPA ハブ の有人構成レコードの削除

不要になった有人構成レコードを削除します。

始める前に
埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

有人構成レコードを作成します。詳細については、「RPA ハブ での有人構成レコードの作成」を参照してください。

有人構成レコードが [ドラフト]または [非アクティブ] のいずれかのステータスであることを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
有人構成レコードを削除すると、アクティブ化時に ServiceNow フォームに対して作成された関連マッピングレコードと UI アクション (存在する場合) も削除されます。関連付けられた ServiceNow フォームに作成された UI アクションは表示されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [有人構成 (Attended Configuration)] メニューリストまたは有人ボットプロセスレコードの関連リストから、有人構成レコードに移動します。

オプション	アクション
[有人構成 (Attended Configuration)] メニューリストから	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で、[有人構成 **(Attended Configuration)]** を選択します。 **b.** 有人構成レコードを開きます。
有人ボットプロセスレコードの関連リストから	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。 **b.** 有人ボットプロセスを開きます。 **c.** [有人構成 (Attended Configurations)] タブで、有人構成レコードを選択します。

4. フォームヘッダーで [削除]を選択します。

関連情報

RPA ハブ の有人構成レコードを有効にしますか？

RPA ハブ の有人構成レコードの非アクティブ化

RPA ハブ での有人構成レコードの編集

API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出し

UI アクション (ボタン) の表示条件

RPA ハブ でのパッケージバージョンの表示

RPA ハブ でパッケージバージョンを表示し、RPA デスクトップデザインスタジオ から開いて自動化をビルド、デバッグ、または変更できるようにします。

始める前に
パッケージを作成します。詳細については、「ボットプロセスにアサインするパッケージの作成」を参照してください。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_robot、sn_rpa_fdn.rpa_supp
または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [パッケージ] を選択します。
4. 表示するパッケージバージョンのパッケージを開きます。
5. [パッケージバージョン] タブで、表示するバージョンを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

RPA ハブのパッケージバージョンフォーム

RPA ハブ パッケージの廃止

RPA ハブ でのパッケージバージョンのダウンロード

RPA ハブ でのアラートの表示

アラートルールによって生成される通知を表示します。たとえば、ロボット、スケジュール、プロセスジョブなどに関連するアラートを表示できます。

始める前に
必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_business_user、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、sn_rpa_f
または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [監視] で、[アラート] を選択します。
4. アラートを開いて詳細を表示します。

関連情報

RPA ハブのアラートフォーム

RPA ハブのアラートルールフォーム

インストールされた RPA ハブ プラグインの表示

利用可能な RPA ハブ プラグイン、プラグインバージョン、および依存関係パックのリストを表示して、RPA デスクトップデザインスタジオでインストールして使用する特定のバージョンの可用性を確認します。

始める前に
必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_release_manager、sn_rpa_fdn.rpa_business_user、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、sn_rpa_f
または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
プラグインは、Microsoft Office 365、Google Chrome、Windows などのサードパーティアプリケーションとのインタラクション向けに特定の機能を追加するソフトウェアコンポーネントです。

これらのプラグインは API を介して自動的にダウンロードされ、自動化で使用されます。これらは、必須の DLL を含む zip ファイルとしてダウンロードされます。

ロボティックプロセス自動化 (RPA) プラグインは、開発作業、エラー率、および実装時間を短縮できるため有益です。これらのプラグインは、RPA 製品の機能を拡張するものです。たとえば、RPA Chrome プラグインを使用すると、Google Chrome ブラウザー上で RPA アプリケーションがタスクを自動化できます。同様に、RPA Excel プラグインを使用すると、RPA アプリケーションは Excel ファイルとやり取りできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [管理] の下で、[インストール済み **RPA** プラグイン] を選択します。
4. 詳細を表示するインストールされた RPA ハブ プラグインを開きます。
5. [インストールされた **RPA** プラグインバージョン] タブで、バージョンを選択してプラグインバージョンの詳細を表示します。
6. [インストールされた **RPA** プラグイン **-** 依存関係パック] タブで、依存関係パックを選択して詳細を表示します。

関連情報

インストール済み RPA プラグインフォーム

すべてのボットプロセスの **RPA** ハブ プロセスジョブの表示

すべてのボットプロセスの実行ログのリストを表示します。

始める前に
必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_business_user、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_
または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
プロセスジョブは、ロボットでのボットプロセスの実行を表します。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [監視] の下で、[ジョブを処理] を選択します。
4. 詳細を表示するプロセスジョブを開きます。
   詳細については、「RPA ハブのプロセスジョブステータス」を参照してください。
5. オプション: [アクティビティ] および [作成] フィールドで、フォームのアクティビティ、作業メモ、および追加コメントを表示します。

関連情報

RPA ハブのプロセスジョブフォーム

ボットプロセスのプロセスジョブの表示

RPA ハブ でのメンテナンス要求の表示

定期メンテナンスイベントカードがロボットカレンダー上で承認または却下されると、追跡のためにメンテナンス要求が作成されます。

始める前に
RPA ビジネスユーザー、RPA 開発者、および RPA サポートユーザーが、要求に関連付けられたボットプロセスの [グループによる管理] リストに含まれていることを確認します。これは、関連する CI がボットプロセスである場合に適用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_business_user、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_
または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブで、[監視] の下の [メンテナンス要求] を選択します。
4. メンテナンス要求を開いて詳細を表示します。

関連情報

RPA ハブのメンテナンス要求フォーム

RPA ハブ での定期メンテナンス日の管理

RPA ハブ の定期メンテナンス日

RPA ハブ での自動化ログの表示

自動化ログは、ボットプロセスの実行中に発生する一連の連続ステージまたは一連のチェックポイントです。これにより、自動化プロセスの監視と監査ができます。これらのログは、無人および有人のボットプロセスのロボットから生成されます。

始める前に
[ボットプロセス] フォームの [自動化ログの追跡 **(Track Automation Logs)]** チェックボックスがオンになっていることを確認します。詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

関連する自動化でログコンポーネントを使用し、RPA デスクトップデザインスタジオで、必要な詳細情報を入力します。コンポーネントの詳細については、「Log コンポーネントの使用」を参照してください。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_business_user、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_
または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
自動化ログは、ロボットの実行状況を追跡するのに役立ち、自動化プロセスがスムーズに実行されるようにします。詳細なログには、ロボットによって完了した各ステップと、発生したエラーが表示されます。レポートはリアルタイムで生成されます。

たとえば、ロボットが請求書処理ボットプロセスを実行するときに、自動化ログの [メッセージ] フィールドで次のメッセージを表示します。

- ボットが請求書処理の自動化を開始しました。
- メールの取得に成功しました。
- 請求書データの抽出が進行中です。
- 請求書のカテゴリ化が開始されました。
- 会計システムの更新が進行中です。
- 請求書が正常に処理されました。

自動化ログには、最新のレコードが最大 8,000 件保存されます。この制限を超える古いレコードは、5 分ごとに自動的に削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. 次の方法のいずれかで自動化ログに移動します。

オプション	アクション
ボットプロセスメニューから	**a.** [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。 **b.** ボットプロセスを選択します。 **c.** [ジョブを処理] タブで、プロセスジョブレコードを開きます。 **d.** [自動化ログ (Automation Logs)] タブで、関連付けられた自動化ログを表示します。
[ジョブを処理] メニューから	**a.** [リスト] タブの [監視] の下で、[ジョブを処理] を選択します。 **b.** プロセスジョブレコードを開きます。 **c.** [自動化ログ (Automation Logs)] タブで、関連付けられた自動化ログを表示します。
[自動化ログ (Automation Logs)] メニューから	**a.** [リスト] タブで、[監視] の下の [自動化ログ **(Automation Logs)]** を選択します。 **b.** 詳細を表示するには、自動化ログを開きます。

関連情報

RPA ハブの自動化ログフォーム

RPA ハブ での **TOTP** 認証システムの削除

RPA ハブ の時間に基づくワンタイムパスワード (TOTP) 認証レコードを削除して、ボットプロセスから関連付けを解除できるようにします。

始める前に

マルチファクター認証 (MFA) の概念について理解しておいてください。詳細については、「マルチファクター認証 (MFA)」を参照してください。

RPA ハブ の TOTP 認証について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブ の TOTP 認証」を参照してください。

マルチファクター認証 (MFA) 認証レコードを作成します。詳細については、「RPA ハブ での MFA 認証システムの作成」を参照してください。

TOTP 認証を RPA ハブ の ロボット認証情報にマッピングします。詳細については、「RPA ハブ での TOTP 認証システムの作成」を参照してください。

関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージステータスが [ビルド] または [メンテナンス中] であるかを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [認証情報管理] で、[ロボット認証情報] を選択します。
4. TOTP 認証レコードの関連付けを解除するロボット認証情報レコードを開きます。
5. **[TOTP 認証システム (TOTP Authenticators)]** タブで、削除する TOTP 認証システムを選択します。
6. [削除] を選択します。

関連情報

RPA ハブ の MFA 認証システムの廃止

RPA ハブ の **MFA** 認証システムの廃止

RPA ハブ のマルチファクター認証 (MFA) 認証システムを廃止して、認証をオフにできるようにします。MFA 認証システムを廃止すると、再度使用することはできません。

始める前に
マルチファクター認証 (MFA) の概念について理解しておいてください。詳細については、「マルチファクター認証 (MFA) 」を参照してください。

RPA ハブ の TOTP 認証について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブ の TOTP 認証」を参照してください。

このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

MFA 認証システムレコードを作成します。詳細については、「RPA ハブ での MFA 認証システムの作成」を参照してください。

MFA 認証システムレコードが、ライフサイクルステージステータスが [ビルド]、[公開済み]、または [廃止] であるボットプロセスに関連付けられていないことを確認します。これらのステータスのいずれにも関連付けられていない場合は、関連付けを解除して MFA 認証システムを廃止します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > **[Robotic Process Automation]** > [管理] > [認証システム]に移動します。
2. 廃止する MFA 認証システムを開きます。
3. フォームヘッダーで、[廃止] を選択します。
4. [確認] ダイアログボックスで、[廃止] を選択します。

関連情報

RPA ハブ ボットプロセスの廃止

RPA ハブ ボットプロセスの廃止

ボットプロセスを廃止してオフにします。これは、ボットプロセスのライフサイクルステージの 1 つです。ボットプロセスを廃止すると、それ以降は使用できなくなります。

始める前に
ボットプロセスを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
埋め込みタスク自動化が有効になっている有人ボットプロセスを廃止すると、次の構成が削除されます。

- 関連付けられたすべての有人構成
- 関連フォームの有人構成に関連付けられている対応するボタン (UI アクション)。

詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

無人のボットプロセスを廃止すると、関連付けられた認証情報グループとプロセスロボット認証情報マッピングは削除されます。

手順
1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. 廃止するボットプロセスを開きます。
5. フォームヘッダーで、[廃止] を選択します。
6. [確認] ダイアログボックスで、[廃止] を選択します。

関連情報
RPA ハブ の MFA 認証システムの廃止

RPA ハブ パッケージの廃止
パッケージを廃止してオフにします。パッケージのライフサイクルステージの 1 つです。パッケージを廃止すると、それ以降は使用できなくなります。

始める前に
パッケージを作成します。詳細については、「ボットプロセスにアサインするパッケージの作成」を参照してください。

パッケージと関連付けられたパッケージバージョンが他のボットプロセスにアサインされていないことを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
⚠ **警告:** パッケージを廃止すると、関連付けられたすべてのパッケージバージョンも自動的に廃止されます。

手順
1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [パッケージ] を選択します。
4. 廃止するパッケージを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. フォームヘッダーで、[廃止] を選択します。
6. [確認] ダイアログボックスで、[廃止] を選択します。

関連情報

RPA ハブ でのパッケージバージョンの廃止

RPA ハブ でのパッケージバージョンの廃止

RPA ハブ でパッケージバージョンを廃止して、そのバージョンを再度使用できないようにします。パッケージバージョンは廃止されると、再度使用できません。

始める前に
パッケージを作成します。詳細については、「ボットプロセスにアサインするパッケージの作成」を参照してください。

パッケージおよび関連付けられたパッケージバージョンが、廃止されていないボットプロセスにアサインされていないことを確認します。

スキルパッケージバージョンの場合、そのバージョンが有人または無人のパッケージバージョンにも、ボットプロセスにも関連付けられていないことを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
パッケージは次の 2 通りの方法で廃止できます。

- パッケージを廃止すると、関連付けられたすべてのパッケージバージョンも自動的に廃止されます。パッケージの廃止の詳細については、「RPA ハブ パッケージの廃止」を参照してください。
- このタスクに記載されているステップに従って、パッケージバージョンのみを廃止します。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [パッケージ] を選択します。
4. パッケージを開いて、関連するパッケージバージョンを廃止します。
5. フォームヘッダーで、[廃止] を選択します。
6. 確認プロンプトが表示されたら、[廃止] を選択します。

RPA ハブ ロボットの廃止

ロボットを廃止してオフにします。ロボットのライフサイクルステージの 1 つです。ロボットを廃止すると、それ以降は使用できなくなります。

始める前に
ロボットを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのロボットの作成」を参照してください。

ロボットがボットプロセスまたはロボットプールにアサインされていないことを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
アテンド型ロボットを廃止すると、関連付けられたすべてのボットプロセスから関連付けられたユーザーが削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連付けられたユーザーがアサインされたユーザーのボットプロセスに属する場合、そのレコードは削除されます。

アテンド型ロボットに関連付けられたアサインされたアテンド型ユーザーまたはグループがない場合、関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージステータスは [公開] から [メンテナンス中] に移行します。

無人のボットプロセスに関連付けられている場合、無人ロボットは廃止できません。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA** ハブワークスペース **(RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [管理] で、[ロボット] を選択します。
4. 廃止するロボットを開きます。
5. フォームヘッダーで、[廃止] を選択します。
6. [確認] ダイアログボックスで、[廃止] を選択します。

RPA ハブ フローまたはサブフローでのクライアント呼び出し可能オプションの有効化

RPA ハブ フローまたはサブフローをトリガーするためのクライアントスクリプトを有効にします。

始める前に

このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

必ず、RPA ハブ アクションとサブフローを十分に理解してください。詳細については、「RPA ハブのアクションとサブフロー」を参照してください。

InvokeFlow コンポーネントまたは InvokeSubFlow コンポーネントを使用して、ワークフロースタジオ からフローまたはサブフローを呼び出します。詳細については、「InvokeFlow コンポーネントの使用」と「InvokeSubFlow コンポーネントの使用」を参照してください。

デフォルトでは、フロー、サブフロー、およびアクションは、サーバースクリプト内の FlowAPI からのみ呼び出すことができます。フローデザイナーおよびアクションデザイナーは、設計中に [クライアント呼び出し可能] オプションを有効にすることで、個々のフロー、サブフロー、またはアクションをクライアント呼び出し可能にできます。

フローまたはサブフローをクライアント呼び出し可能にする場合の影響、たとえば保護対象データの公開や検証ロジックのバイパスなどを考慮してください。

必要なロール：
sn_rpa_fdn.rpa_robot、sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_assisted_user、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [プロセスオートメーション **(Process Automation)]** > [ワークフロースタジオ] に移動します。
2. クライアント呼び出し可能にするフローまたはサブフローを開きます。
3. [その他のアクション] メニューで、[セキュリティ管理] を選択します。
4. [クライアント **API** によるコール可能 **(Callable by Client API)]** を選択します。
5. RPA フローデザイナー ACL レコードを、以前作成した **[ACL]** フィールドに追加します。
6. [更新] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ でのアクティビティストリームのシステムプロパティの設定

RPA ハブ で、作業キュー、スケジュール、パッケージ、プロセスパラメーター、および共有パラメーターのアクティブストリームのシステムプロパティを設定します。アクティビティストリームの作業メモでキャプチャされたフィールドを追加または削除できます。

始める前に

このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

必要なロール：admin

このタスクについて

デフォルトで設定されているいくつかのフィールドのキャプチャされた作業メモを表示できます。

手順

1. [すべてのメニュー] フィルターに、「`sys_properties.list`」と入力します。
2. 検索バーで、次の表にリストされているシステムプロパティを検索します。

システムプロパティ

システムのプロパティ	説明	既存の値 (.csv 形式)
sn_rpa_fdn.work_queue_work_note_fields	作業メモにキャプチャされる作業キューフィールドのリスト。	name,is_queue_item_name_unique,max_attem
sn_rpa_fdn.process_schedule_work_note_fields	作業メモにキャプチャされるプロセススケジュー	name,start_date,end_date,active,start_time,wo

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムのプロパティ	説明	既存の値 (.csv 形式)
	ルフィールドのリスト。	
sn_rpa_fdn.package_work_note_fields	作業メモにキャプチャされるパッケージフィールドのリスト。	name
sn_rpa_fdn.process_parameter_work_note_fields	共有パラメーターおよびプロセスパラメーターの作業メモにキャプチャされるプロセスパラメーターフィールド	name,value,is_sensitive

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

システムのプロパティ	説明	既存の値 (.csv 形式)
	のリスト。	

3. 変更するシステムプロパティを選択します。
4. [システムプロパティ] フォーム の [値] フィールドで、値を追加または削除します。

   たとえば、[スケジュール] フォームの [間隔タイプ] フィールドの変更を表示するには、*sn_rpa_fdn.process_schedule_work_note_fields* システムプロパティを開き、[値] フィールドに `interval_type` 値を追加します。

   [値] フィールドに CSV (カンマ区切り値) 形式で値が追加されていることを確認します。

5. [更新] を選択します。

関連情報

RPA ハブ でのロボットの作成

RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成

RPA ハブ でのボットプロセスとロボットのアクティビティストリームの表示

システムプロパティを設定して、RPA ハブ でボットプロセスとロボットのアクティビティストリームを表示します。

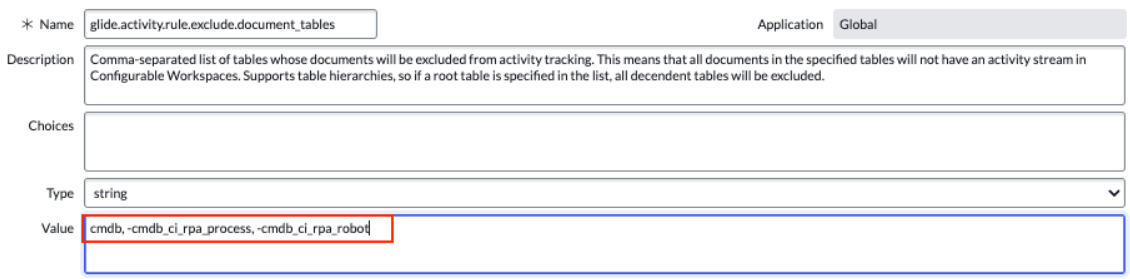
始める前に
このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

必要なロール：admin

手順

1. [すべてのメニュー] フィルターに、「`sys_properties.list`」と入力します。
2. [名前] 列で、*glide.activity.rule.exclude.document_tables* システムプロパティを検索します。
3. [値] フィールドに、テーブル名 `-cmdb_ci_rpa_process` と `-cmdb_ci_rpa_robot` をカンマで区切って追加します。
   テーブル名にプリフィックス (-) を追加すると、そのテーブルのドキュメントがアクティビティストリームに含まれます。

   Example

4. [更新] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブ での関連するスケジュール、パラメーター、パッケージ、およびキューの確認

RPA ハブ で、ボットプロセスに、関連するスケジュール、プロセスパラメーター、共有パラメーター、パッケージ、パッケージバージョン、および作業キューがあることを確認します。このタスクは、データを下位 (非本番) 環境から上位 (本番) 環境に移行するときに実行します。

始める前に

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. 確認するボットプロセスを開き、次の 1 つまたは複数のオプションを選択します。

オプション	アクション
スケジュールを確認する場合	[スケジュール] タブで、スケジュールを確認します。
プロセスパラメーターを確認する場合	[プロセスパラメーター] タブで、プロセスパラメーターを確認します。
パッケージとパッケージバージョンを確認する場合	[詳細] タブで、パッケージとパッケージのバージョンを確認します。

5. キューを確認するには、次のアクションを実行します。
   a. [リスト] タブの [ビルド] で、[キュー] を選択します。
   b. 確認するキューを開きます。
   c. [ボットプロセス構成] タブで、関連付けを確認します。
6. 共有パラメーターを確認するには、次のアクションを実行します。
   a. [リスト] タブの [ビルド] で [共有パラメーター] を選択します。
   b. 確認する共有パラメーターを開きます。
   c. [ボットプロセス構成] タブで、関連付けを確認します。

関連情報

- ボットプロセスにアサインするパッケージの作成
- RPA ハブ のボットプロセス内でのスケジュールの作成
- RPA ハブ のボットプロセス内でのプロセスパラメーターの作成
- RPA ハブ での共有パラメーターの作成
- RPA ハブ でのキューの作成
- キューメニューからキューへのボットプロセスのアサイン
- ボットプロセスの共有パラメーターへのアサイン
- RPA ハブのスケジュールフォーム
- RPA ハブのプロセスパラメーターフォーム

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセスを移行準備完了としてマーク

ボットプロセス構成と関連資産を別の環境に移行できるように、RPA ハブ でボットプロセスを移行準備完了としてマークします。この機能を使用して、自動化を作成して下位環境でテストしてから、上位環境または本番環境に移行できます。

始める前に

ボットプロセス移行の概念について理解を深めてください。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセス構成の移行」を参照してください。

ターゲット環境の設定に関連するタスクを完了したことを確認します。詳細については、「ServiceNow Remote Instance Spoke を設定」を参照してください。

ソース環境のボットプロセスのライフサイクルステージのステータスが [公開済み] に設定されていることを確認します。詳細については、「RPA ハブのボットプロセスのライフサイクルステージのステータス」を参照してください。

ロボティックプロセスオートメーション (RPA) 開発者 (sn_rpa_fdn.rpa_developer) が、ボットプロセスの [グループによる管理] リストに含まれていることを確認します。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. 移行準備完了としてマークするボットプロセスを選択します。
5. フォームヘッダーで、[移行準備完了 **(Ready for Migration)]** を選択します。
   ボットプロセスの移行中は、[移行準備完了 **(Ready for Migration)]** ボタンは表示されません。

別の環境にへのボットプロセス構成の移行

ボットプロセス構成と関連資産を RPA ハブ の別の環境に移行します。この機能を使用して、自動化を作成して下位環境でテストしてから、上位環境または本番環境に移行できます。

始める前に

ボットプロセス移行の概念について理解を深めてください。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセス構成の移行」を参照してください。

ターゲット環境の設定に関連するタスクを完了したことを確認します。詳細については、「ServiceNow Remote Instance Spoke を設定」を参照してください。

ボットプロセスに、移行準備完了のマークを付ける必要があります。詳細については、「ボットプロセスを移行準備完了としてマーク」を参照してください。

ソース環境のボットプロセスのライフサイクルステージのステータスが [公開済み] に設定されていることを確認します。詳細については、「RPA ハブのボットプロセスのライフサイクルステージのステータス」を参照してください。

再移行するときは、ターゲット環境のボットプロセスのライフサイクルステージのステータスが [公開済み] にも [廃止] にも設定されていないことを確認します。[公開済み] の場合、値はターゲット環境で上書きされます。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション] > **[RPA ハブワークスペース (RPA Hub Workspace)]**に移動します。
2. [リスト] アイコン ( ) を選択します。
3. [リスト] タブの [ビルド] で [ボットプロセス] を選択します。
4. 移行するボットプロセスを選択します。
5. フォームヘッダーで [移行] を選択します。
   ボットプロセスの移行中は、[移行] ボタンは表示されません。
6. 確認ダイアログボックスで、[移行] を選択します。

タスクの結果

移行が正常に完了した後、またはエラーが発生した場合は、移行を実行したユーザーにメール通知が送信されます。メール通知を受信するには、ユーザーのメールアドレスをユーザープロファイルに追加する必要があります。

次のタスク

- ボットプロセス構成レコードへのボットプロセスの関連付け
- RPA ハブ での認証情報の構成
- RPA ハブ でのボットプロセスの詳細の追加
- RPA ハブ ボットプロセスの公開

既存の無人ロボットを高密度ロボットに変換する

[選択した行のアクション] オプションを使用して 1 つ以上の既存のロボットを高密度ロボットにバッチ変換することで、1 台のマシンで複数の無人自動化を同時に実行します。

始める前に

このタスクはクラシック環境で実行する必要があります。

RPA ハブの高密度ロボットの概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブの高密度ロボット」を参照してください。

[新規] または [切断] ステータスで、どのロボットプールにも関連付けられていない無人ロボットのみ、高密度ロボットに変換できます。

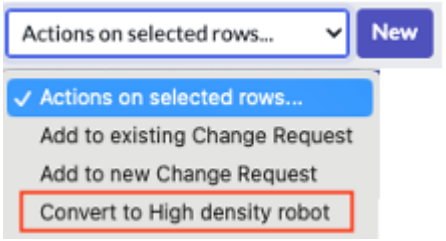
ロボットタイプを高密度ロボットから標準に、またはその逆に変更する場合は、自動化をシームレスに実行するために、無人ロボットを再接続する必要があります。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. [すべて] > [ロボティックプロセスオートメーション **(Robotic Process Automation)]** > [管理] > [ロボット]に移動します。
2. リストから 1 つ以上の無人ロボットを選択します。
   選択するロボットは、ステータスが [新規 **]** または [切断 **]** で、どのロボットプールにも関連付けられていない必要があります。
3. [選択した行のアクション] ドロップダウンメニューから、[高密度ロボットに変換 **(Convert to High density robots)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. [マシン名] フィールドに、複数のユーザーセッションをサポートし、無人ロボットアプリケーションがインストールされている物理マシンまたは仮想マシンのコンピューター名を入力します。
5. [画面解像度] フィールドで、高密度ロボットが使用するユーザーセッションの画面解像度を選択します。

タスクの結果
無人ロボットが高密度ロボットに変換され、ステータスが [新規] に設定されます。

RPA ハブ に関する参照情報

参照トピックは、RPA ハブ を構成および管理するために使用しているリストとフォームの追加情報を提供しています。

RPA ハブ とともにインストールされるコンポーネント

RPA ハブ プラグインが有効になると、いくつかのタイプのコンポーネント (テーブル、ユーザーロール、スケジュール済みジョブなど) がインストールされます。

注: アプリケーションファイルテーブルには、このアプリケーションとともにインストールされたコンポーネントがリストされています。このテーブルへのアクセス手順については、「アプリケーションとともにインストールされているコンポーネントの検索」を参照してください。

このプラグインでは、デモデータが利用可能です。

インストールされるロール

注: RPA ロールには cmdb_rel_ci テーブルへのアクセスが必要です。cmdb_rel_ci ACL がカスタマイズされている場合は、次の RPA ロールに関連する読み取りアクセスロールを提供します。

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
RPA アドミン [sn_rpa_fdn.rpa_admin]	RPA ハブ アプリケーション構成を設定し、さまざまな環境で RPA ハブ システムプロパティ設定を管理します。	• fd_read • itil • sn_rpa_fdn.rpa_user • cmdb_read
RPA 支援ユーザー [sn_rpa_fdn.rpa_assisted_user] **注:** 支援ユーザーは Attended ユーザーです。	有人自動化を実行します。	なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロールタイトル [名前]	説明	ロールを含む
RPA ビジネスユーザー [sn_rpa_fdn.rpa_business_user]	作業アイテム、認証情報などのデータを管理します。レポートを抽出します。	• sn_rpa_fdn.rpa_user • cmdb_read
RPA 開発者 [sn_rpa_fdn.rpa_developer]	自動化パッケージをビルドし、自動化プロジェクトをテストし、RPA デスクトップデザインスタジオ での例外を処理します。 パッケージを RPA ハブに公開します。 ローコード環境で自動化を作成して展開します。	• fd_read • sn_rpa_fdn.rpa_user • cmdb_read
RPA の昇格した権限 [sn_rpa_fdn.rpa_elevated_privileges]	このロールと併せて他のロール (RPA 開発者、RPA サポートユーザー、または RPA admin) を持つユーザーは、プロセス実行ログテーブルにキャプチャされた機密ログにアクセスできます。	なし
RPA リリースマネージャー [sn_rpa_fdn.rpa_release_manager]	データ、スケジュール、およびその他の設定パラメーターを管理します。	• itil • sn_rpa_fdn.rpa_user • cmdb_read
RPA ロボット [sn_rpa_fdn.rpa_robot]	無人ロボットが自動化を正常に実行するために、サービスアカウントにアサインされるロール。	cmdb_read
RPA サポートユーザー [sn_rpa_fdn.rpa_support_user]	ボットプロセスに関連する問題を特定、診断、解決します。 第 1 レベルのトラブルシューティングを実行します。	• sn_rpa_fdn.rpa_user • cmdb_read
RPA ユーザー [sn_rpa_fdn.rpa_user]	ユーザーが RPA ハブ にアクセスするために必要な修飾子ロール。	• canvas_user • sn_change_read • fd_read • uxframework_user

インストールされたスケジュール済みジョブ

スケジュール済みジョブ	説明
マシンルックアップ値の変更	[マシン名ルックアップ] フィールドと [マシン名] フィールドの値を検証します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スケジュール済みジョブ	説明
	値が異なる場合、スケジュールジョブは [マシン名] (文字列フィールド) を [マシン名ルックアップ] フィールドの値で更新します。 スケジュールは 3 時間ごとに実行され、*sn_rpa_fdn.enable_unattended_robot_machine_name_lookup* システムプロパティが [はい] に設定されている場合にのみ実行されます。 スケジュールジョブが [マシン名] フィールドを更新すると、ロボットのライフサイクルステージのステータスが [メンテナンス中] に移行されます。
RPA：プロセスジョブの消去	スケジュールは毎日実行され、ジョブの消去日数と作成日の情報に基づいて、プロセスジョブと関連付けられた実行ログが消去されます。
RPA：作業アイテムの消去	スケジュールは毎日実行され、キューの消去までの残り日数と消去ステータスに基づいてキューアイテムが消去されます。 消去までの残り日数は、作成日に基づいて作業アイテムが消去されるまでの日数です。
RPA：アラートルールのトリガーの消去	スケジュールは毎日実行され、アラートルールのトリガーレコードが消去されます。
RPA：アラートの消去	スケジュールは毎日実行され、アラートが消去されます。
ライセンス配布の再評価 (Re-evaluate License Distribution)	スケジュールはオンデマンドで実行され、ライセンスレコードの配布が検証されます。 詳細については、「RPA スクリプトを実行してライセンス配布を再評価する」を参照してください。

インストールされるテーブル

テーブル	説明	拡張
アラート [sn_rpa_fdn_alert]	アラートルールから生成されたアラートと、アラートメッセージに関する情報、関連付けられたアラートルール名、およびトリガータイプが含まれます。	
アラートルール [sn_rpa_fdn_alert_rule]	生成されたアラートに定義されるルールと、アラートルール、アラートトリガー、アラートメッセージのタイプと優先度に関する情報が含まれます。	アプリケーションファイル
アプリケーション認証情報 [sn_rpa_fdn_application_credentials]	ロボットでの実行時にボットプロセスで使用されるビジネスアプリケーションのユーザー名とパスワードが含まれます。	認証情報
有人構成	関連するボットプロセス名、テーブル、アクションラベル、対応す	アプリ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明	拡張
[sn_rpa_fdn_attended_configuration]	る ServiceNow フォームから有人ボットプロセス (自動化) をトリガーするための条件などの詳細が含まれます。	ケーションファイル
Attended ユーザーグループ [sn_rpa_fdn_rda_user_group]	関連付けられたボットプロセス名、有人のボットプロセスのアサインされたユーザー、選択したアサインされたユーザーのアサイン先グループなどの詳細が含まれます。	
認定ユーザー [sn_rpa_fdn_authorized_user]	プロセス認証情報マッピングと、関連付けられた認証情報グループにアクセスできる認定ユーザー間のマッピングの詳細が含まれます。	
自動化ログ sn_rpa_fdn_automation_log	ライブログが含まれ、実行中のプロセスジョブのステータスをリアルタイムで可視化します。	
アサインされたスタジオユーザー sn_rpa_fdn_assigned_studio_user	アサインされたユーザーに対して、RPA デスクトップデザインスタジオでロボットが代理操作に使用できるかどうかを定義します。 RPA リリースマネージャーと RPA アドミニストレーターが、このレコードを作成し、アサインされたユーザーを追加できます。	
ボットプロセス構成 [sn_rpa_fdn_bot_process_config]	ボットプロセス設定が含まれます。	アプリケーションファイル
ボットプロセス [cmdb_ci_rpa_process]	ロボットで実行されるプロセスの構成の詳細が含まれます。詳細には、パッケージ、パッケージバージョン、アサインされたロボット、プロセス認証情報マッピング、プロセスロボット認証情報セット、アサインされたビジネスアプリケーション、プロセスパラメーター、および Attended ユーザーまたはグループが含まれます。	Base ボットプロセス
認証情報グループ [sn_rpa_fdn_credential_group]	認証情報グループ名や関連付けられたロボット認証情報などの詳細が含まれます。	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明	拡張
認証情報グループアプリケーション認証情報 [sn_rpa_fdn_m2m_credential_group_application]	認証情報グループや関連付けられたアプリケーション認証情報などの詳細が含まれます。	
コード品質ルール [sn_rpa_fdn_code_quality_rule]	コード品質チェック機能のコンプライアンスルールの詳細が含まれます。	
外部認証情報 Vault [sn_rpa_fdn_external_credential_vault]	外部認証情報 Vault を登録し、無人ロボットでさらに使用できるようにするための詳細情報が含まれています。	
フィールドパラメーターマッピング [sn_rpa_fdn_field_parameter_mapping]	関連する有人構成テーブルの ServiceNow フォームフィールドを、有人自動化で使用するプロセスフィールドパラメーターにマッピングできるようにするための詳細情報が含まれています。	アプリケーションファイル
インストール済み RPA プラグイン [sn_rpa_fdn_rpa_plugin]	RPA デスクトップデザインスタジオ、 アテンド型ロボット、および無人ロボット で使用できるインスタンスで利用可能なプラグインの詳細が含まれます。	
インストールされた RPA プラグインバージョン [sn_rpa_fdn_rpa_plugin_version]	インストールされた RPA プラグインで利用可能なさまざまなバージョンの詳細が含まれます。	
メンテナンス要求 [sn_rpa_fdn_maintenance_request]	ロボットカレンダーの定期メンテナンス日のステータスを追跡する詳細が含まれます。	
MFA 認証 [sn_rpa_fdn_mfa_authenticator]	時間に基づくワンタイムパスワード (TOTP) 認証を有効にする認証システムとトークン長の詳細が含まれます。	
パッケージ [sn_rpa_fdn_package]	自動化実行に必要なロボットファイルを含むリソースファイルセットが含まれます。	アプリケーションファイル
パッケージバージョン [sn_rpa_fdn_package_version]	パッケージのバージョンの詳細が含まれます。	アプリケーションファイル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明	拡張
プロセス認証情報マッピング [sn_rpa_fdn_process_credential_mapping]	認証情報グループおよび関連付けられたボットプロセスの詳細が含まれます。	
プロセス実行ログ [sn_rpa_fdn_execution_log]	実行タイプと関連付けられたプロセスジョブの詳細が含まれます。	
プロセスジョブ [sn_rpa_fdn_process_job]	ロボットでのプロセス実行の詳細が含まれます。詳細には、プロセスジョブ名、プロセスジョブのステータス、関連付けられたボットプロセス名、ボットプロセスのアサインされたロボット、実行ログステータス、開始時間と終了時間、およびプロセスジョブの日付が含まれます。	
プロセスフィールドパラメーター [sn_rpa_fdn_process_field_parameter]	有人自動化で必要な動的パラメーターを作成するための詳細情報が含まれています。	アプリケーションファイル
プロセスパラメーター [sn_rpa_fdn_process_parameter]	ボットプロセス内およびボットプロセス全体で使用される変数の詳細が含まれます。	アプリケーションファイル
ロボット認証情報を処理 [sn_rpa_fdn_process_robot_cred]	指定したボットプロセスの自動化を実行するためにロボットが使用する認証情報グループの詳細が含まれます。	
プロセススケジュール [sn_rpa_fdn_schedule]	ユーザーが定期的に計画された方法でジョブを実行できるようにするための詳細が含まれます。詳細には、スケジュールの名前と間隔タイプ、スケジュールの開始日と終了日が含まれます。	アプリケーションファイル
プロセススキルマッピング [sn_rpa_fdn_m2m_process_skill_mapping]	ボットプロセス構成のスキルパッケージのマッピングされたバージョンと上書きされたバージョンに関する詳細が含まれます。	
ロボット [cmdb_ci_rpa_robot]	RPA デスクトップデザインスタジオ でビルドされたボットプロセスを実行するソフトウェアエージェントの詳細が含まれます。詳細には、ロボットの名前、タイプ、部門、 無人ロボットのインストー	Base ロボット

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テーブル	説明	拡張
	ルに使用されるマシン名、および Attended ユーザーが含まれます。	
ロボット認証情報 [sn_rpa_fdn_credentials_set]	ロボットが Windows マシンにログインして自動化を実行するために使用するログイン認証情報が含まれます。	認証情報
ロボットライセンスの配布 [sn_rpa_fdn_license_distribution]	組織内のライセンスの消費と配布の詳細が含まれます。	
ロボットプール [sn_rpa_fdn_robot_pool]	ロボットプールオプションに対して選択されたロボットの数の詳細が含まれます。	
スキルマッピング [sn_rpa_fdn_m2m_package_version_skill_mapping]	有人および無人のパッケージバージョンと、関連付けられたスキルパッケージバージョンの詳細が含まれます。	
TOTP 認証 [sn_rpa_fdn_totp_authenticator]	MFA 認証システムの詳細、および TOTP の生成に使用される認証システムの秘密キーであるシードの詳細が含まれます。	
作業キュー [sn_rpa_fdn_work_queue]	多数の作業アイテムを保持できるリポジトリの詳細情報が含まれます。詳細には、作業キューの名前、部門、説明、および作業アイテムの消去の詳細が含まれます。	アプリケーションファイル
作業アイテム [sn_rpa_fdn_work_queue_item]	トランザクション情報、お客様の詳細、ドキュメントからの情報など、保存された複数のタイプのデータに関する詳細が含まれます。詳細には、作業アイテムの名前、ステータス、優先度、および関連付けられた作業キュー名が含まれます。	

RPA ハブのアクションとサブフロー

ロボットをシームレスに実行するためのワークフロースタジオと RPA ハブ でのアクションとサブフローの双方向統合。

フローとアクションの概要

フローとアクションは ServiceNow ワークフロースタジオを使用してビルドされているため、ワークフロースタジオでのアクションの構築 およびワークフロースタジオでのサブフローの構築 の基本を十分に理解しておいてください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローまたはサブフローの呼び出し

RPA デスクトップデザインスタジオ、無人ロボット、または アテンド型ロボット を介してフローまたはサブフローを呼び出します。詳細については、「フローデザイナーコンポーネント」に記載されているトピックを参照して ください。

フローまたはサブフローのクライアント呼び出し可能オプションの有効化

RPA ハブ フローまたはサブフローをトリガーするためのクライアントスクリプトを有効にします。詳細については、「RPA ハブ フローまたはサブフローでのクライアント呼び出し可能オプションの有効化」を参照してください。

RPA ハブ アクション

次の表は、RPA ハブアクションの詳細な説明、アクションの入力、およびアクションの出力を示しています。

RPA アクション

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
キューに作業アイテムを追加アクション	RPA ハブ アプリケーションの指定されたキューに作業アイテムを追加し、作業アイテム ID を返します。	• キュー名：レコード • 名前：文字列 • コンテンツ：文字列 • タイプ：文字列 • 優先度：String.Choice • ステージ：文字列 • **SLA**：日付/時刻 [コンテンツ] フィールド (要求コンテンツと応答コンテンツ) の上限は 8000 文字です。 関連付けられた作業キューフォームの [作業アイテム名が機密かどうか **(Is Work Item Name Sensitive)]** チェックボックスがオンになっている場合、[要求コンテンツ] フィールドのデータは暗号化されます。暗号化された機密データは作業アイテムに保存されるため、RPA デスクトップデザインスタジオまたはロボットに渡すことができます。	• アクションステータス：オブジェクト • **WorkItemID**：GUID • **IsNameExists**：ブール • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA アクション (続く)

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
有人自動化プロセスにユーザーをアサインするアクション	有人自動化プロセスにユーザーをアサインします。	• プロセス名：レコード • ユーザー名：レコード	• アクションステータス：オブジェクト • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列
アテンド型ロボット にユーザーをアサインするアクション	アテンド型ロボットにユーザーをアサインします。	ユーザー名：レコード	• アクションステータス：オブジェクト • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列
ボットプロセスアクションのライフサイクルステージステータスを変更	廃棄されていないボットプロセスのライフサイクルステージステータスを変更します。 ボットプロセスが [ビルド] ライフサイクルステージステータスの場合、必要なロールがあれば [公開済み] ステータスに更新できますが、[メンテナンス中] に更新することはできません。 ボットプロセスが [公開済み] ライフサイクルステージステータスの場合、必要なロールがあれば [メンテナンス中] ステータスに更新することもその逆に更新することもできます。	• プロセス名：レコード • ライフサイクルステージステータス：選択肢	• 結果：文字列 • メッセージ：文字列 • アクションステータス：オブジェクト
作成されたジョブをフェッチするアクション	RPA ハブ でプロセスジョブをフェッチします。	• プロセス番号：文字列 • ロボット：アレイ[文字列]	• アクションステータス：オブジェクト • 結果：文字列 • ジョブ：アレイ[文字列]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA アクション (続く)

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
			• **startedRobots**：アレイ[文字列] • **pendingRobots**：アレイ[文字列]
実行状況をフェッチするアクション	RPA ハブ で特定のプロセスジョブの実行状況をフェッチします。	プロセスジョブ番号：文字列	• アクションステータス：オブジェクト • **ProcessJob**：オブジェクト ◦ プロセス名：文字列 ◦ ロボット名：文字列 ◦ ステータス：文字列 ◦ 開始日時：日付/時刻 ◦ 完了日時：日付/時刻 ◦ メッセージ：文字列 • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列
作業アイテムのステータスをフェッチするアクション	特定の作業キューアイテムのステータスを非同期でフェッチします。	作業キューアイテム **ID**：GUID	• アクションステータス：オブジェクト ◦ コード：整数 ◦ メッセージ：文字列 • 作業アイテム：オブジェクト ◦ **sysId**：文字列 ◦ 名前：文字列 ◦ タイプ：文字列 ◦ 優先度：文字列 ◦ ステータス：文字列 ◦ **lockedBy**：文字列 ◦ **additionalComments**：文字列 ◦ **requestContent**：文字列 ◦ **responseContent**：文字列 ◦ **deferredTill**：日付/時刻 ◦ **sla**：日付/時刻 ◦ **created**：日付/時刻

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA アクション (続く)

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
			◦ **startedOn**：日付/時刻 ◦ **completedOn**：日付/時刻 ◦ **lastStartedTime**：日付/時刻 • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列
プロセスの開始アクション	RPA ハブで特定のボットプロセス をトリガーし、ステータスを返します。	• プロセス名：レコード • ロボット：アレイ[文字列] ロボットプールがボットプロセスにアサインされている場合、このフィールドのエントリを無視します。 [処理の開始] フローデザイナー アクションを呼び出すと、ライフサイクルステージステータスが [メンテナンス中] のロボットは、失敗したロボットとして扱われます。	• アクションステータス：オブジェクト • 結果：文字列 • ロボット：アレイ[文字列] • プロセス：文字列 • 失敗したロボット：アレイ[オブジェクト]
プロセスの停止アクション	ボットプロセスを停止します。グレースフルストップが有効になっている場合、このアクションはボットプロセスを緩やかに停止します。	• プロセス名：レコード • ロボット：アレイ[文字列] • グレースフルストップを待機 **(Wait For Graceful Stop)**：True / False このチェックボックスがオンになっている場合、ボットプロセスは適切に停止する必要があります。 ボットプロセスの停止の詳細については、「RPA ハブ での無人のボットプロセスの停止」を参照してください。 グレースフルストップの詳細については、「RPA ハブ でのグレースフルストップ機能の使用」を参照してください。	• 結果：文字列 • アクションステータス：オブジェクト • ロボット：アレイ[文字列] • プロセス：文字列 • 失敗したロボット：アレイ[オブジェクト]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA アクション (続く)

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
		ロボットプールの詳細については、「RPA ハブ のロボットプール」を参照してください。	
有人自動化プロセスからユーザーのアサインを解除するアクション	有人自動化プロセスからユーザーのアサインを解除します。	• プロセス名：レコード • ユーザー名：レコード	• ステータス：文字列 • メッセージ：文字列 • アクションステータス：オブジェクト
アテンド型ロボット からユーザーのアサインを解除するアクション	アテンド型ロボットからユーザーのアサインを解除し、アテンド型ロボットを廃止します。	ユーザー名：レコード	• アクションステータス：オブジェクト • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列
プロセスパラメーターの更新アクション	プロセスパラメーターの [値] フィールドを更新します。	• プロセス：レコード • パラメーター名：文字列 • 値：文字列	• ステータス：文字列 • アクションステータス：オブジェクト • メッセージ：文字列
作業アイテムアクションの更新	作業キューアイテムを更新します。	• キュー名：レコード • **WorkItemID**：文字列 • ステージ：文字列 • **DefferedTill**：日付/時刻 • 名前：文字列 • 優先度：選択肢 • ステータス：選択肢 • 要求コンテンツ：文字列 • タイプ：文字列 • 注釈：文字列 • **SLA**：日付/時刻 • 応答コンテンツ：文字列 [要求コンテンツ] と [応答コンテンツ] フィールドの上限は 8000 文字です。 関連付けられた作業キューフォームの [作業アイテム名が機密かどうか **(Is Work**	• **IsNameExist**：True/False • ステータス：文字列 • メッセージ：文字列 • アクションステータス：オブジェクト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA アクション (続く)

アクション	説明	アクションの入力	アクションの出力
		Item Name Sensitive)] チェックボックスがオンになっている場合、[要求コンテンツ] フィールドのデータは暗号化されます。暗号化された機密データは作業アイテムに保存されるため、RPA デスクトップデザインスタジオまたはロボットに渡すことができます。	
パッケージバージョン のハッシュコードの検証	RPA ハブ でパッケージバージョンのハッシュコードを検証し、手動でアップロードされた自動化 zip ファイルのハッシュコードを関連するパッケージバージョンレコードで検証します。 ハッシュコードの検証の詳細については、「RPA ハブ でのパッケージバージョンのハッシュコードの確認」を参照してください。	パッケージバージョン：レコード	• アクションステータス：オブジェクト • メッセージ：文字列 • **isAttachmentValid**：True/False

RPA ハブサブフロー

次の表は、RPA ハブサブフローの詳細な説明、アクションの入力、およびアクションの出力を示しています。

RPA サブフロー

サブフロー	説明	サブフローの入力	サブフローの出力
パッケージバージョンの添付ファイルのインポートサブフロー	パッケージバージョン用にパッケージバージョンの添付ファイルを自動的にインポートします。パッケージの添付ファイル (自動化 zip ファイル) を下位 (非本番) 環境から上位 (本番) 環境に自動で移行するためにインポートします。 RPA ハブ でのパッケージバージョンの添付ファイルのインポートの詳細については、「RPA ハブ でのパッ	• メール：メール • パッケージバージョン：レコード	添付ファイルが正常にアップロードされた後、または添付ファイルのアップロード中にエラーが発生した場合は、この添付ファイルのインポートアクションを実行したユーザーにメール通知が送

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA サブフロー (続く)

サブフロー	説明	サブフローの入力	サブフローの出力
	ケージバージョンの添付ファイルのインポート」を参照してください。		信されます (入力として電子メールが提供されている場合)。
プロセスサブフローを開始	RPA ハブで特定のボットプロセス をトリガーします。プロセスジョブの詳細を返します。	• プロセス名：レコード • ロボット：アレイ[文字列] ロボットプールがボットプロセスにアサインされている場合、このフィールドのエントリを無視します。 プロセスジョブが [実行中] ステータスでない場合、プロセスジョブに関連付けられているロボットは、[プロセスの開始] サブフロー出力で [失敗] として扱われます。	• 失敗したロボット：アレイ[オブジェクト] • 停止したロボット：アレイ[文字列] • 処理待ちのロボット：アレイ[文字列] • プロセスジョブ：アレイ[文字列] • 結果：文字列 • メッセージ：文字列
プロセスサブフローを停止	RPA ハブ で特定のボットプロセスをトリガーして停止します 。ロボットの詳細とプロセスジョブのステータスを返します。グレースフルストップが有効になっている場合、このサブフローはボットプロセスを適切に停止します。	• グレースフルストップ **(Graceful Stop)**：True / False • プロセス名：レコード • ロボット：アレイ[文字列]	• 失敗したロボット：アレイ[オブジェクト] • 停止したロボット：アレイ[文字列] • 処理待ちのロボット：アレイ[文字列] • プロセスジョブ：アレイ[文字列] • メッセージ：文字列 • 結果：文字列

ドメインセパレーションと ロボティックプロセス自動化 **(RPA) Hub**

RPA ハブ ではドメインセパレーションがサポートされています。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができま

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

す。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート) 」を参照してください。

ドメインセパレーションの概要

RPA ハブ の目標は、組織のエンドツーエンドの自動化を有効にすることです。ドメインセパレーションはすべての機能で有効になっています。

フラット階層または単層階層と少なくとも 1 つのプライマリまたはトップレベルのドメインが必要です。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

RPA ハブのアラートフォーム

アラートフォームを使用して、アラートルールによって生成される通知を表示します。

アラートフォーム

フィールド	説明
番号	アラートの番号。
アラートタイプ	アラートのタイプ： • 参考情報 • 警告 • エラー
ソースレコード	ボットプロセスの名前。
アラートルール	アラートルールの名前。
アラート優先度	アラートの優先度： • 重大 • 高

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アラートフォーム (続く)

フィールド	説明
	• 中 • 低
アラートメッセージ	アラートを説明するメッセージ。

関連情報

RPA ハブ でのアラートの表示

RPA ハブのアラートルールフォーム

アラートルールフォームを使用して、アラートルールを作成します。

アラートルールフォーム

フィールド	説明
名前	アラートルールの一意の名前。
有効	アラートルールのユーザビリティを検証するオプション。 このオプションをオフにすると、このアラートルールから通知が生成されなくなります。
アプリケーション	このアラートルールを使用できるアプリケーションを示すフィールド。 このフィールドを表示するために必要なロール：admin。
アラート優先度	アラートの優先度： • 重大 • 高 • 中 • 低 デフォルト値は [中] に設定されています。
アラートタイプ	アラートのタイプ： • 参考情報 • 警告 • エラー
説明	アラートルールの簡単な説明。
アラートトリガー	
適用先	アラートルールが適用されるテーブル。 例：ボットプロセス [cmdb_ci_rpa_process]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アラートルールフォーム (続く)

フィールド	説明
	選択したテーブルに基づいて、レコードを保存した後、関連リストに新しい関連タブが表示されます。 たとえば、このフィールドでボットプロセス関連テーブルを選択すると、関連リストに [ボットプロセス] タブが表示されます。
トリガータイプ	アラートルールのトリガータイプ： • [定期的に確認]：[期間 (時間)] リストの設定に基づいて、アラートルールが定期的にトリガーされます。 • [何かの発生時 **(When something happens)**]： [適用先] テーブルで選択されているレコードで何かが発生したときに、アラートルールがトリガーされます。 たとえば、[適用先] リストから [ボットプロセス] が選択されている場合、ボットプロセスでレコードが更新されたときにアラートルールがトリガーされます。
期間 (時間)	アラートルールがトリガーされる頻度 (時間) たとえば、[適用先] リストで [ボットプロセス] が選択されており、ボットプロセスでレコードが **[24]** 時間ごとに更新されると、アラートルールがトリガーされます。 このフィールドは、[トリガータイプ] リストから [定期的に確認] が選択されている場合にのみ表示されます。
トリガー条件	アラートがトリガーされる条件。 このフィールドを変更する前に、[適用先] リストからテーブルを選択してください。 [トリガー条件] セクションでは、[フィルター条件の追加] を使用してトリガー条件を追加できます。たとえば、ボットプロセスのライフサイクルステージのステータス が [廃止] 以外の場合に、アラートルールを生成する必要が生じることがあります。その場合、[– フィールドを選択 –] リストから [ライフサイクルステージのステータス **]**、[– 演算子 – (– oper –)] リストから [次の値ではない]、[– 値 –] リストから [廃止] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アラートルールフォーム (続く)

フィールド	説明
	アラートルールをトリガーするために選択されたフィルター条件
しきい値を適用	しきい値のユーザビリティを検証するオプション。 たとえば、[適用先] リストから [プロセスジョブ] が選択され、一定の割合または数のプロセスジョブが指定された期間に失敗した場合、失敗メッセージのアラートルールをトリガーするには、しきい値条件の構成でこのオプションを選択する必要があります。
しきい値タイプ	しきい値のタイプ： • カウント • パーセンテージ このフィールドは、[しきい値を適用] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
条件の設定 (しきい値)	アラートをトリガーするしきい値条件。 このフィールドを変更する前に、[適用先] リストからテーブルを選択してください。 このフィールドは、[しきい値タイプ] リストから [パーセンテージ] が選択されている場合にのみ表示されます。 たとえば、指定された期間に一定の割合のプロセスジョブが失敗した場合にアラートルールを生成する必要が生じることがあります。その場合は、[–フィールドを選択 –] リストで [作成済み]、[– 演算子 – (– oper –)] リストで [次の値と一致] を、[– 値 –] リストで [今日] を選択します。 アラートをトリガーするしきい値条件の設定
比較	アラートをトリガーする修飾子： • 次の値に等しい • 次の値未満 • 次の値を超える • 次の値以下 • 次の値以上

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アラートルールフォーム (続く)

フィールド	説明
	このフィールドは、[しきい値を適用] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
しきい値	[比較] フィールドで選択した修飾子に基づいてアラートルールをトリガーする必要があるかどうかを決定する値。 たとえば、1 日にいくつかのプロセスジョブが失敗した場合などです。条件を設定するには、[しきい値タイプ] リストで [カウント]、[比較] リストで [次の値を超える]、[しきい値] リストで **[10]** を選択します。 このフィールドは、[しきい値を適用] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
アラートメッセージ	
メッセージ	アラートメッセージ。 たとえば、`プロセスジョブの {0}% が 1 日に失敗しました。` {0} などの変数を設定するには、「RPA ハブ でのアラートルールのアラート変数の作成」を参照してください。
メール送信	アラートメッセージのメール通知を送信するオプション。
ユーザー	アラートメッセージのメールを受信できるユーザー。 このフィールドは、[メール送信] オプションを選択した場合にのみ表示されます。
グループ	アラートメッセージメールを受信できるグループ。 このフィールドは、[メール送信] オプションを選択した場合にのみ表示されます。

関連情報

RPA ハブ でカスタム通知を生成するためのアラートルールの作成

RPA ハブのアラート変数フォーム

アラート変数フォームを使用して、アラートルールメッセージ構成の変数を作成します。

アラート変数フォーム

フィールド	説明
変数名	アラート変数の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アラート変数フォーム (続く)

フィールド	説明
アラートルール	アラートルールの名前。
インデックス	メッセージ内のアラート変数の順序。 アラート変数のデフォルトのソート順は昇順です。
スクリプト化済み	スクリプトのユーザビリティを検証するオプション。 このオプションは、高度なデータフェッチスクリプトを追加します。
しきい値 (Is Threshold value)	しきい値のユーザビリティを検証するオプション。
テーブル	このアラート変数に対して選択されたテーブルを示すフィールド。 たとえば、ボットプロセス。
フィールド	マッピングするテーブルのフィールド。 たとえば、ボットプロセスの名前。
スクリプト	JavaScript コードを入力でき、構文のチェックおよび書式設定などを制御できるテキストフィールド。 たとえば、アラート変数のデータである値を返すには、次のようにデータを入力します `return { value: data};` . このフィールドは、[スクリプト化済み] オプションが選択されている場合に表示されます。

関連情報

RPA ハブ でのアラートルールのアラート変数の作成

RPA ハブの有人構成フォーム

有人構成フォームを使用して、自動化を開始する必要があるテーブルフォームを関連付け、それぞれの有人ボットプロセスとその他の関連条件を関連付けます。

有人構成フォーム

フィールド	説明
名前	有人構成の名前
ボットプロセス構成	自動化を実行する有人ボットプロセスを選択します。

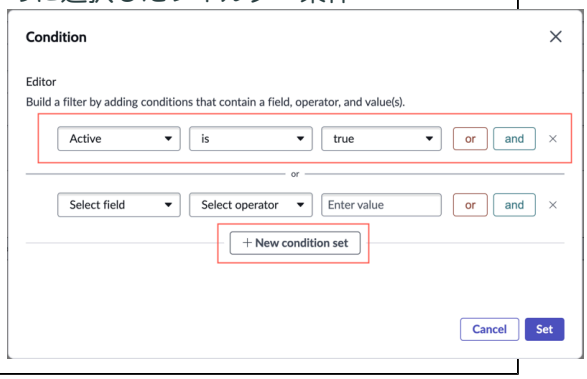
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

有人構成フォーム (続く)

フィールド	説明
	廃止されておらず、ボットプロセスフォームで [埋め込みタスクの自動化を有効にする **(Enable Embedded Task Automation)]** オプションも選択されている有人ボットプロセスがここに表示されます。
テーブル	自動化 (ボットプロセス) がトリガーされるフォームのテーブルを選択します。 たとえば、要求 [sc_request] を選択したとします。すると、要求フォームから自動化 (ボットプロセス) がトリガーされます。
アクションラベル	関連するテーブルフォームでユーザーに表示されるアクション (UI ボタン) のラベルを指定します。 [名前] フィールドに入力した値がデフォルト値です。 インスタンスがドメインセパレーションされている場合、アクションラベルは特定のドメイン内のテーブルに対して一意である必要があります。
説明	有人構成の簡単な説明
トリガーを定義 次の条件が満たされた場合にのみボットプロセスをトリガーする関連テーブルフォームに、アクション (UI ボタン) を有効にするための基準の詳細を指定します。基準が定義されていない場合は、関連付けられたすべてのテーブルフォームから自動化をトリガーできます。	
条件を設定	[テーブル] フィールドで選択された関連テーブルフォームで UI アクションを有効にする基準を定義します。 フィールド、演算子、および値を含む条件を追加して、フィルターをビルドします。たとえば、関連するフォームがアクティブなときに UI アクションを表示するとします。その場合は、[フィールドを選択] リストから [アクティブ] を、[演算子を選択] リストから **[Is]** を、[値を入力] リストから **[True]** を選択します。 [条件] セクションでは、[+新しい条件セット] を使用して新しい条件を追加できます。 フィルターを作成したら、 [設定] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

有人構成フォーム (続く)

フィールド	説明
	例：**UI** アクションを有効にするために選択したフィルター条件 

関連情報

RPA ハブ での有人構成レコードの作成

RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化

埋め込みタスクの自動化の構成のステップリスト

RPA ハブの自動化ログフォーム

自動化ログフォームを使用して、ボットプロセス用にキャプチャされた自動化ログのリストを表示します。

自動化ログの概要

自動化ログは、ロボットの実行状況を追跡するのに役立ち、自動化プロセスがスムーズに実行されるようにします。詳細なログには、ロボットによって完了した各ステップと、発生したエラーが表示されます。レポートはリアルタイムで生成されます。

自動化ログフォーム

フィールド	説明
ログレベル	ログレベルのタイプ： • エラー • 例外 • Info • Warning
順序番号	自動化ログレコードの順序に従って自動生成された番号。すべてのプロセスジョブで現在のプロセスジョブの実行中に作成されます。 たとえば、プロセスジョブ PJ1 に対して作成された自動化ログは 1 で、プロセスジョブ PJ2 に対して作成された自動化ログは 2 です。
メッセージ	自動化ログからのメッセージ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化ログフォーム (続く)

フィールド	説明
作成完了	RPA ハブ で自動化ログレコードが作成された日時。
ジョブを処理	関連付けられたプロセスジョブ番号。

関連情報

RPA ハブ での自動化ログの表示

RPA ハブのボットプロセス構成フォーム

ボットプロセス構成フォームを使用して、ボットプロセスレコードの予備フィールドを定義します。

ボットプロセス構成フォーム

フィールド	説明
名前	ボットプロセス構成の一意の名前。 ボットプロセス構成の名前は、この構成レコードに関連付けられているボットプロセスで再利用されます。
プロセスタイプ	ボットプロセスのタイプ： • 無人 **(Unattended)**：人間の介入を必要としない自動化。 • 有人 **(Attended)**：人間の介入を必要とする自動化。
順番	ボットプロセスの実行優先度： • **1**：最高優先度 • **999999**：最低優先度 デフォルト値は 1 に設定されています。 RPA ビジネスユーザーはこのフィールドを表示できます。 このフィールドは、[プロセスタイプ] フィールドで **[Unattended]** が選択されている場合にのみ表示されます。
パッケージ	ボットプロセスの関連付けられているパッケージ。 無人のボットプロセスの場合は、無人タイプのパッケージを関連付けます。 有人のボットプロセスの場合は、有人タイプのパッケージを関連付けます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセス構成フォーム (続く)

フィールド	説明
	公開済みのパッケージのみを関連付けることができます。
パッケージバージョン	使用中のアクティブなパッケージのバージョン。 公開済みのパッケージバージョンのみを関連付けることができます。 入力されたパッケージにバージョンが属していることを確認します。
アプリケーション	このレコードを含んでいるアプリケーション。このフィールドは自動生成されます。 このフィールドを表示するために必要なロール：admin.
実行時間しきい値 (分)	ボットプロセスの予定実行時間。 デフォルト値は 60 分です。 RPA ビジネスユーザーはこのフィールドを表示できます。 このフィールドは、[プロセスタイプ] フィールドで **[Unattended]** が選択されている場合にのみ表示されます。 これは必須フィールドです。
ジョブの消去 (日数)	ジョブデータが削除されるまでの日数。
説明	ボットプロセスの説明。

関連情報

RPA ハブ でのボットプロセス構成レコードの作成

RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成

RPA ハブのボットプロセスフォーム

ボットプロセスフォームを使用してそれをボットプロセス構成に関連付け、ボットプロセスに必要な残りのフィールドに入力します。

ボットプロセスフォーム

フィールド	説明
ボットプロセス	
名前	ボットプロセスの一意の名前。
プロセスタイプ	ボットプロセスのタイプ：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセスフォーム (続く)

フィールド	説明
	• 無人 **(Unattended)**：人間の介入を必要としない自動化。 • 有人 **(Attended)**：人間の介入を必要とする自動化。
ボットプロセス構成	[自動生成] ボットプロセスの関連ボットプロセス構成。
注文	ボットプロセスの注文実行の優先順位。 • **1**：最高優先度 • **999999**：最低優先度 複数の無人ボットプロセスが同時に開始するようスケジュールされている場合は、優先度が最も高いプロセスが実行され、その他は [スキップ] としてマークされます。 複数のボットプロセスの優先度とスケジュールが同じ場合は、1 つのボットプロセスがランダムに選択されて実行されます。詳細については、「RPA ハブでのボットプロセスの実行優先順位」を参照してください。 デフォルト値は `1` に設定されています。 RPA ビジネスユーザーはこのフィールドを表示できます。 このフィールドは、[プロセスタイプ] フィールドで **[Unattended]** が選択されている場合にのみ表示されます。
パッケージ	ボットプロセスの関連付けられているパッケージ。 無人のボットプロセスの場合は、無人タイプのパッケージを関連付けます。 有人のボットプロセスの場合は、有人タイプのパッケージを関連付けます。 公開済みのパッケージのみを関連付けることができます。
パッケージバージョン	使用中のアクティブなパッケージのバージョン。 公開済みのパッケージバージョンのみを関連付けることができます。
ライフサイクルステージステータス	[自動生成] ボットプロセス構成のライフサイクルステージステータス。
実行時間しきい値 (分)	ボットプロセスの予定実行時間。 デフォルト値は 60 分です。 このフィールドは、[プロセスタイプ] フィールドで **[Unattended]** が選択されている場合にのみ表示されます。 RPA ビジネスユーザーはこのフィールドを表示できます。 このフィールドは必須です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセスフォーム (続く)

フィールド	説明
ジョブの消去 (日数)	ジョブデータが削除されるまでの日数。
管理担当者	ビジネスプロセスの IT 所有者 このフィールドは、既存のレコードでのみ表示されます。 このフィールドの編集に必要なロール：RPA リリースマネージャーおよび RPA 管理者。
オーナー	管理担当者グループに属し、ビジネスプロセスを担当するビジネスユーザー。 このフィールドは、既存のレコードでのみ表示されます。 このフィールドは、[管理担当者グループ] フィールドに入力したものに依存します。 [管理担当者グループ] フィールドにエントリが入力されている場合は、[管理担当者グループ] フィールドに属し、RPA ビジネスユーザーロールを持つユーザーのみを [所有者] フィールドに追加できます。 [管理担当者グループ] フィールドが空の場合、[所有者] フィールドは読み取り専用です。 このフィールドの編集に必要なロール：RPA リリースマネージャーおよび RPA 管理者。
埋め込みタスクの自動化を有効にする	有人構成レコードでマッピングされた関連付けられた ServiceNow フォームから有人ボットプロセス (自動化) をトリガーするオプション。有人構成レコードの詳細については、「RPA ハブの有人構成フォーム」を参照してください。 [埋め込みタスクの自動化 **(Embedded Task Automation)]** チェックボックスをオンにすると、[フィールドパラメーターを処理 **(Process Field Parameters)]** と [有人構成 **(Attended Configuration)]** の 2 つのタブがボットプロセスフォームに表示されます。 埋め込みタスクの自動化の詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。
説明	ボットプロセスの説明。
セッション設定	
モニターをアクティブに保つ	ロボットがボットプロセスを実行しているマシンで、モニターをアクティブにしておくためのオプション。 このフィールドは、[プロセスタイプ] フィールドで **[Unattended]** が選択されている場合にのみ表示されます。
自動セッションの復元	自動化が実行される前にロボットのステータスを初期ステージに復元するオプション。 このフィールドは、[プロセスタイプ] フィールドで **[Unattended]** が選択されている場合にのみ表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセスフォーム (続く)

フィールド	説明
強制開始	ロボットでボットプロセスを強制的に開始して、既に実行されている他のボットプロセスを無効にするオプション。 ボットプロセス P1 で [強制開始] オプションが有効になっていて、ボットプロセス P2 が同じロボットで実行されている場合、P2 は停止し、P1 が実行されます。その後、P2 のプロセスジョブは [キャンセル済み] ステータスに移行します。 [強制開始] オプションで [順序] フィールドが上書きされることはありません。[強制開始] オプションは実行中の既存のボットプロセスに適用され、まだ起動されていないボットプロセスには適用されません。 このフィールドは、[プロセスタイプ] フィールドで **[Unattended]** が選択されている場合にのみ表示されます。
デスクトップインデスクトップを有効にする	[デスクトップインデスクトップ] ウィンドウで有人の自動化を実行できるようにするオプション。このオプションは同じマシン上に新しいセッションを作成し、メインセッションでの実際の手動作業を中断することなく、このセッションで自動化を実行できます。 このオプションを有効にすると、[完了時にデスクトップインデスクトップを終了する] チェックボックスもオンになります。 このフィールドは、[プロセスタイプ] フィールドで **[Attended]** が選択されている場合にのみ表示されます。
完了時にデスクトップインデスクトップを終了する	ボットプロセス実行の完了後に [デスクトップインデスクトップ] ウィンドウを閉じるオプション。 [デスクトップインデスクトップを有効にする] を選択すると、このオプションが自動的に選択されます。ボットプロセスの完了後に [デスクトップインデスクトップ] ウィンドウを開いたままにするには、チェックボックスをオフにします。 このフィールドは、[プロセスタイプ] フィールドで **[Attended]** が選択されている場合にのみ表示されます。
画面解像度	[デスクトップインデスクトップ] ウィンドウの画面解像度。 このフィールドは、[プロセスタイプ] フィールドで **[Attended]** が選択されている場合にのみ表示されます。
ログの設定	
実行ログの追跡	プロセス実行ログのトラッキングを有効にするオプション。 このチェックボックスをオンにすると、アテンド型ロボットまたは無人ロボットのいずれかによって自動化が実行されたときにログがキャプチャされます。これらのログは、自動化実行のエラーとエンドツーエンドのログ記録を理解するのに役立ちます。 プロセスジョブが消去されると、対応する実行ログが消去されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセスフォーム (続く)

フィールド	説明
	RPA デスクトップデザインスタジオの添付機能を使用すると、これらの実行ログを使用して自動化を再生し、自動化が失敗した場所を把握できます。たとえば、どのコンポーネントで自動化が失敗したか、あるいはそのコンポーネントに渡された入力の詳細などです。 **注:** [添付] 機能は、フラットファイルの出力の種類をサポートしていません。
実行ログの同期 (秒)	実行ログを同期する頻度 (秒)。 このフィールドは、[実行ログの追跡] オプションを選択した場合にのみ表示されます。 [ストレージ] フィールドで [ロボットマシン] を選択すると、このフィールドは非表示になります。
ストレージ	**注:** このフィールドは、[実行ログの追跡] オプションを選択した場合にのみ表示されます。 実行ログのストレージの場所のオプション： • インスタンス：エラー情報のみがインスタンスの実行ログに記録されます。 [インスタンス] を選択すると、[ログレベル] フィールドの値にエラーが設定され、編集できません。 • [ロボットシン]：ログファイルは、自動化が実行されるロボットマシンに保存されます。 [ロボットマシン] を選択すると、[ログレベル] フィールドから選択する 2 つのオプション、[エラー]または[詳細] が表示されます。 すべてのコンポーネントのエンドツーエンド実行ログを表示するには、[ストレージ] フィールドから [ロボットマシン] を選択し、[ログレベル] フィールドから [詳細] を選択します。 ロボットマシンのディスクスペースを最適に使用するために、*sn_rpa_fdn.purge_client_logs* システムプロパティ設定に基づいて既存のログが消去されます。 [ロボットマシン] を選択した場合は、 • [実行ログを同期 **(Synchronize Execution Logs)]** フィールドは非表示です。 • 実行ログは、アテンド型ロボットまたは無人ロボットがインストールされているマシンに保存されます。
出力タイプ	実行ログファイルの出力タイプ。このログファイルは、マシンでロボット実行中に生成されます。出力には次の 2 つのタイプがあります。 • **DB** ファイル **(DB File)**：デフォルト値これは、ジョブプロセスのメタデータとプロセス自動化の実行の詳細を保存する簡易データベースファイルです。プロセスジョブが完了したら、RPA デスクトップデザ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセスフォーム (続く)

フィールド	説明
	インスタジオプロジェクトの [添付] オプションを使用して DB ファイルを添付し、デザイン面で自動化を再生できます。 • フラットファイル：これは、プロセスジョブのメタデータとプロセス自動化の実行の詳細をプレーンテキストで保存するファイル形式です。実行データは JSON 形式で保存されます。 この [出力タイプ **(Output File)**] フィールドは、[実行ログの追跡] オプションを選択し、さらに [ストレージ] フィールドから [ロボットマシン] を選択したときに表示されます。 出力タイプがフラットファイルのボットプロセスがトリガーされると、指定された場所のプロセスジョブフォルダーに実行ログファイルが .txt 形式で追加されます。同様に、DB 出力タイプの場合、指定された場所に、.db 形式で表示されます。 フラットファイルと DB ファイルの両方の場所は、アテンド型ロボットまたは無人ロボットがインストールされているマシン内にあります。 • 実行中：`Users\<Userprofile>\ServiceNow RPA Logs \.executionlogs\{InstanceName}\{ProcessJob number}`。 たとえば、`Users\john.smith\ServiceNow RPA Logs \.executionlogs\{InstanceName}\PJB0001165` などです。 • 実行完了後：`Users\<Userprofile>\ServiceNow RPA Logs \.executionlogs\{InstanceName}\.archive\{ProcessJob number}`。 たとえば、`Users\john.smith\ServiceNow RPA Logs \.executionlogs\{InstanceName}\.archive\PJB0001165` などです。 フラットファイルの内容は JSON 形式です。次の図は、コンテンツ構造を示します。 [フラットファイル **(Flat File)**] オプションを選択して実行ログを格納すると、2 つのフラットファイルが生成され、指定された場所に格納されます。 • `ExecutionJobMetadata.txt`：プロセス ID、ロボット ID、ログレベルなどのプロセスジョブに関する情報が含まれます。この画像は、ファイル内のコンテンツの構造を示します。 フラットファイル内のコンテンツの構造 • `ddMMMyyyy HHmmss.txt` 形式のファイル名 (たとえば、`28Dec2023 125036.txt` など)：実行ログエントリが含まれます。たとえば、このファイルには、アクティビティの名前、コンポーネント実行の開始時刻と終了時刻、期間、結果 (該当する場合) がブール値で示されます。 フラットファイルは、*sn_rpa_fdn.purge_client_logs* システムプロパティで設定されたデータ消去に関するルールに従います。システム

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセスフォーム (続く)

フィールド	説明
	プロパティの詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」を参照してください。 **重要:** RPA デスクトップデザインスタジオで、自動化内の 1 つ以上のコンポーネントまたはメソッドのうち、1 つ以上の入力ポートまたは出力ポートを [機密データとしてマーク **(Mark Data as Sensitive)]**に設定すると、フラットファイルは対応するプロセスジョブの実行データをログに記録しません。代わりに、JSON ファイル内のポートに対応するデータが [機密]として表示されます。次の図に例を示します。 機密として示されているポート `"InputPorts":[{"Name":"Message","Value":"SENSITIVE"}],"OutputPorts":[{"Name":"Return","Value":""}]}` 入力ポートまたは出力ポートを [機密データとしてマーク **(Mark Data as Sensitive)]**と設定する方法の詳細については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。 実行ログの実績データには大量のデータが含まれているため、必要なデータのみが保持されます。テキストファイルの内容は JSON タイプです。 既存のボットプロセスのこのフィールドの値を変更するには、関連付けられたボットプロセスが [メンテナンス中] ステータスであることを確認します。
ログレベル	キャプチャするログレベルを選択します。 • エラー： 自動化の実行中は、エラー情報のみが保存されます。 • 詳細： エラー情報とエンドツーエンドのコンポーネント実行ログ (入力と出力、タイムスタンプ付きの実行ステップなど) が自動化の実行中に保存されます。[詳細] を選択すると、フラットファイルには、自動化内のすべてのコンポーネントの実行の詳細が記録されます。プロセスジョブの実行中にフラットファイルのサイズが 10 MB を超えると、フラットファイルは、自動化の実行が完了するまで、ファイル命名規則でログシーケンスが付加された複数のフラットファイルに分割され続けます。このようなファイルの命名規則は `<timestamp>_<LogSequence>` です。 このオプションは、ストレージタイプとして [ロボットマシン] が選択されている場合にのみ表示されます。 このフィールドは、[実行ログの追跡] オプションを選択した場合にのみ表示されます。
自動化ログを追跡する	ロボットによって生成された自動化ログを追跡します。ロボットは、自動化の実行を自動化ログに記録します。ログは、RPA ユーザーが自動化の進捗状況を追跡するのに役立ちます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセスフォーム (続く)

フィールド	説明
	自動化ログの表示の詳細については、「RPA ハブ での自動化ログの表示」を参照してください。 ボットプロセスの自動化ログを表示するには、RPA デスクトップデザインスタジオで、関連する自動化のログコンポーネントを使用し、必要な詳細情報を入力します。 ログコンポーネントの詳細については、「Log コンポーネントの使用」を参照してください。
アクセス	
管理担当者グループ	ボットプロセスにアクセスできるグループ。
ロボットプール このフィールドの編集に必要なロール：RPA リリースマネージャーおよび RPA アドミン。 RPA 開発者と RPA サポートユーザーが [管理担当者] グループに属している場合、これらのフィールドを表示および編集できます。 RPA ビジネスユーザーはこれらのフィールドを表示できます。	
ロボットプールを有効にする	ボットプロセスのロボットプールを有効にするオプションです。 このオプションを有効にすると、ボットプロセスの [ロボットをアサインする **(Assign Robots)]** タブが非表示になります。 ロボットプールの詳細については、「RPA ハブ のロボットプール」を参照してください。
ロボットプール	選択したロボットプールから動的に割り当てることができるロボットです。 既存のロボットプール名のリストからロボットプールを選択します。 このフィールドは、[ロボットプールを有効にする **(Enable Robot Pool)]** オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
割り当てタイプ	作業アイテムのサービスレベルアグリーメント (SLA) または効率向上率に基づいて割り当てることができるロボットです。 割り当てタイプを選択します。 • **[SLA** ベース **(SLA Based)]**：作業アイテムの SLA に基づいてプールからロボットを割り当てます。作業アイテムは、SLA に基づいてソートおよび優先順位付けされます。 割り当てタイプに [SLA ベース] を選択する場合は、作業アイテムにサービスレベルアグリーメント (SLA) が含まれていることを確認します。 • [パーセンテージ削減 **(Percentage Reduction)]**：効率のパーセンテージに基づいてプールからロボットを割り当てます。 デフォルト値は [SLA ベース (SLA Based)] です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセスフォーム (続く)

フィールド	説明
	このフィールドは、[ロボットプールを有効にする **(Enable Robot Pool)]** オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
パーセンテージ削減	このフィールドは [割り当てタイプ **(Allocation Type)]** フィールドから [パーセンテージ削減 **(Percentage Reduction)]** を選択すると表示されます。 選択したパーセンテージでより多くのロボットを割り当てることで、ボットプロセスの総実行時間を短縮します。 たとえば、ボットプロセスに 100 個の作業アイテムがアサインされているとすると、ボットプロセスの実行には 100 分かかる場合があります。その時間を 75 分に短縮する場合は、このフィールドに値 25 を定義します。 このフィールドに値を入力すると、作業負荷を分散するために複数のロボットが割り当てられます。そのため、自動化はそのパーセンテージ分速くなります。 デフォルト値は 25 です。 選択したパーセンテージに基づいて、作業負荷を分散するためにロボットが割り当てられます。 • 5 ~ 50 の値を選択すると、2 台のロボットが割り当てられます。 • 55、60、または 65 を選択すると、3 つのロボットが割り当てられます。 • 70 または 75 を選択すると、4 台のロボットが割り当てられます。 • 80 を選択すると、6 台のロボットが割り当てられます。 • 85 を選択すると、7 台のロボットが割り当てられます。
作成	
作業メモ (プライベート)	ボットプロセスの作業メモ。 関連するパッケージ、パッケージバージョン、プロセスパラメーター、共有パラメーター、キュー、およびスケジュールに対して実行された変更を表示します。
追加コメント	ボットプロセスに関連する追加コメント。

関連情報

RPA ハブ でのボットプロセス構成レコードの作成

ボットプロセス構成レコードへのボットプロセスの関連付け

RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成

RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェックのコンプライアンス

パッケージが RPA デスクトップデザインスタジオ から公開されている場合、コード品質チェック機能が従うコンプライアンスルールのリストを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェックのコンプライアンス

自動化プロジェクトのコード品質チェックステータス	公開の制限 (システムプロパティ *sn_rpa_fdn.restrict_package_by_s* に基づく)	接続されたインスタンスへのパッケージの公開
エラー	エラー	公開エラー
エラー	エラーまたは警告	公開エラー
エラー	制限なし	成功
警告	エラー	成功
警告	エラーまたは警告	公開エラー
警告	制限なし	成功
合格	エラー	成功
合格	エラーまたは警告	成功
合格	制限なし	成功

関連情報

- RPA デスクトップデザインスタジオ での自動化プロジェクトの公開
- RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェック
- RPA ハブ のコード品質チェックのコンプライアンス
- RPA ハブ のコード品質チェック

RPA ハブ のコード品質チェックのコンプライアンス

ボットプロセスが RPA ハブ から公開されている場合、コード品質チェック機能が従うコンプライアンスルールのリストを表示します。

RPA ハブ のコード品質チェックのコンプライアンス

パッケージバージョンのコード品質チェックステータス	公開の制限 (システムプロパティ *sn_rpa_fdn.restrict_package_by_s* に基づく)	パッケージバージョンから作成されたボットプロセスの公開
エラー	エラー	公開エラー
エラー	エラーまたは警告	公開エラー
エラー	制限なし	成功
警告	エラー	成功
警告	エラーまたは警告	公開エラー
警告	制限なし	成功
合格	エラー	成功
合格	エラーまたは警告	成功
合格	制限なし	成功

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

- RPA ハブ ボットプロセスの公開
- RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェックのコンプライアンス
- RPA ハブ のコード品質チェック

RPA ハブのコード品質ルールフォーム

コード品質ルールフォームを使用し、説明およびタイプとともにルールを表示します。

コード品質ルールフォーム

ルールの名前	説明
コード	ルールの一意の番号。
名前	ルールの簡単な説明。
タイプ	ルールのタイプ。 • 正規表現 • 整数 • なし
アクティブ	ルールをアクティブまたは非アクティブに設定します。 このオプションをオフにすると、RPA デスクトップデザインスタジオ の [コード品質チェック **(Code Quality Check)**] 機能は、コード品質チェックのための自動化またはアクティビティを検査するときに、このルールを考慮しません。
重大度	ルールの重大度タイプ。 • エラー • 警告 • 情報
正規表現	命名規則を定義する表現です。 このフィールドは、タイプが [正規表現] の場合にのみ表示されます。
値	ルールのタイプと説明に基づく値です。 このフィールドは、タイプが [定数] の場合に表示されます。
説明	ルールの簡単な説明。

関連情報

- RPA ハブ でのコード品質ルールフォームの更新
- RPA ハブ のコード品質チェック
- RPA ハブ でのコード品質ルールリストの表示
- RPA ハブのコード品質ルールリスト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ハブのコード品質ルールリスト

RPA 開発者が RPA アドミニストレーターにコード品質標準として遵守するよう設定できる事前定義されたルールのリストを表示します。

コード品質ルールリスト

	ルールの名前	説明
CQR0011	アクティビティの命名規則	アクティビティの命名規則が定義された正規表現に従っているかどうかを検査します。
CQR0002	空のアクティビティ	自動化で空のアクティビティがあるかどうかを検査します。
CQR0005	ハードコードされたパスワード	自動化にハードコードされたパスワードがあるかどうかを検査します。
CQR0009	無限ループ	自動化で無限ループシーケンスが発生する可能性を検査します。
CQR0012	ネストされたアクティビティ	ネストされたアクティビティの深度が定義された値どおりかどうかを検査します。 アクティビティ内に別のアクティビティを追加すると、アクティビティはネストされます。 たとえば、「アクティビティ A」が「アクティビティ B」を呼び、「アクティビティ B」が「アクティビティ C」を呼ぶような場合などです。
CQR0006	スタートアップアクティビティ	アクティビティが自動化の開始アクティビティとしてマークされているかどうかを検査します。
CQR0001	Try Catch：例外処理	Try Catch コンポーネントの「エラー時」および「エラーメッセージ」出力ポートが自動化で使用されていないかどうかを検査します。
CQR0003	参照されていないアクティビティ	自動化で参照されていないアクティビティがあるかどうかを検査します。
CQR0004	未使用のコンポーネント	自動化で参照されていないコンポーネントがあるかどうかを検査します。
CQR0008	未使用のプラグインまたはユーザープラグイン	自動化で参照されていないプラグインまたはユーザープラグインがあるかどうかを検査します。
CQR0007	未使用の変数またはグローバルオブジェクト	自動化で参照されていない変数またはグローバルオブジェクトがあるかどうかを検査します。
CQR0010	変数の命名規則	変数の命名規則が定義された正規表現に従っているかどうかを検査します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

- RPA ハブ のコード品質チェック
- RPA ハブ でのコード品質ルールリストの表示
- RPA ハブのコード品質ルールフォーム

インストール済み **RPA** プラグインフォーム

インストール済み RPA プラグインフォームを使用して、利用可能な RPA ハブ プラグイン、プラグインバージョン、および依存関係パックのリストを表示して、RPA デスクトップデザインスタジオでインストールして使用する特定のバージョンの可用性を確認します。

インストール済み **RPA** プラグインフォーム

フィールド	説明
名前	インストール済み RPA プラグインの名前。
最新のインストール済みバージョン	インストール済み RPA プラグインの最新バージョン。
プロジェクトタイプで利用可能	インストール済み RPA プラグインのタイプ。
作成者	インストール済み RPA プラグインの作成者。
インストール順序	インストール済み RPA プラグインのインストール順序。
デフォルトをロード	インストール済み RPA プラグインがデフォルトでロードされているかどうかを示すオプション。
廃止	インストール済み RPA プラグインがサポートされているかどうかを示すオプション。
廃止	インストール済み RPA プラグインが利用できないかどうかを示すオプション。
表示	インストール済み RPA プラグインが表示可能かどうかを示すオプション。
必須	インストール済み RPA プラグインが必要な場合のオプション。
説明	インストール済み RPA プラグインの説明。

関連情報

- インストールされた RPA ハブ プラグインの表示

RPA ハブのボットプロセスのライフサイクルステージのステータス

ボットプロセスの状況移行により、そのライフサイクルのステージを進みます。

ボットプロセスのライフサイクルステージのステータス

ライフサイクルステージのステータス	説明
ビルド	新しいボットプロセスのデフォルト値。
公開	ボットプロセスをアクティブにする準備ができました。
メンテナンス中	ボットプロセスで変更が行われるタイミング。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ボットプロセスのライフサイクルステージのステータス (続く)

ライフサイクルステージのステータス	説明
	ボットプロセスが [メンテナンス中] ステータスの場合、RPA デスクトップデザインスタジオ でボットプロセスを開始または停止したり、ボットプロセスを起動したりすることはできません。
廃止	ボットプロセスは非アクティブです。 ボットプロセスを廃止した後は、ステージを変更できません。

関連情報

RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成

RPA ハブ のパッケージのライフサイクルステージのステータス

パッケージの状況移行により、そのライフサイクルのステージを進みます。

パッケージライフサイクルステージのステータス

ライフサイクルステージのステータス	説明
公開	新しいパッケージのデフォルト値。
メンテナンス中	パッケージはメンテナンス中です。 パッケージが [メンテナンス中] ステータスの場合、ボットプロセスレコードに関連付けることはできません。
廃止	パッケージは非アクティブです。 パッケージを廃止した後は、ステージを変更できません。 パッケージを廃止する場合は、このパッケージに関連付けられたパッケージバージョンも廃止されます。

関連情報

ボットプロセスにアサインするパッケージの作成

RPA ハブ のロボットのライフサイクルステージのステータス

ロボットの状況移行により、そのライフサイクルのステージを進みます。

ロボットのライフサイクルステージのステータス

ライフサイクルステージのステータス	説明
使用中	新しいロボットが作成または保存される場合のデフォルト値。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロボットのライフサイクルステージのステータス (続く)

ライフサイクルステージのステータス	説明
メンテナンス中	メンテナンス中のロボットまたはロボットマシン。
廃止	ロボットは非アクティブです。 ロボットを廃止した後は、ステージを変更できません。 ボットプロセスにアサインされたロボットを廃止することはできません。

関連情報

RPA ハブ でのロボットの作成

RPA ハブのメンテナンス要求フォーム

メンテナンス要求フォームを使用して、ロボットカレンダー上の定期メンテナンス (SM) 日のステータスを追跡します。定期メンテナンスイベントカードが RPA リリースマネージャーまたはアドミニストレーターによってロボットカレンダー上で承認または却下されると、追跡のためにメンテナンス要求が作成されます。

メンテナンス要求フォーム

フィールド	説明
番号	メンテナンス要求の自動生成された番号。
変更要求	関連する変更の要求。
開始予定日	定期メンテナンスの開始予定日時。
終了予定日	定期メンテナンスの終了予定日時。
状況	メンテナンス要求のステータス： • [処理待ち]：関連する SM イベントカードを承認すると、MR が作成されます。 • [対応中]：開始予定日が始まると、MR が実行されます。構成アイテム (ロボットまたはボットプロセス) のライフサイクルステージステータスが [メンテナンス中] ステータスに移行します。 • [完了]：MR が構成アイテム (ロボットまたはボットプロセス) の実行を完了しています。関連する CR がクローズされると、構成アイテム (CI) のライフサイクルステージステータスが [公開済み] ステータスに移行します。 • [キャンセル済み]：MR がキャンセルされています。MR のキャンセルの詳細については、「RPA ハブ の定期メンテナンス日」および「RPA ハブ での定期メンテナンス日の管理」を参照してください。 • [失敗]：問題により CI (ロボットまたはボットプロセス) が失敗しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メンテナンス要求フォーム (続く)

フィールド	説明
	システムが CI を [公開済み] または [メンテナンス中] に更新しようとしたが、更新できません。MR は失敗します。 • [却下済み]：関連する SM イベントカードを却下しています。
構成アイテム	関連するボットプロセスまたはロボットの名前です。
クラス	構成アイテムのタイプです。たとえば、ボットプロセスやロボットです。

注: メンテナンス要求 (MR) は、[キャンセル済み] および [失敗] 状況を除き、変更要求 (CR) に対して一意です。

関連情報

RPA ハブ でのメンテナンス要求の表示

RPA ハブ での定期メンテナンス日の管理

RPA ハブのパッケージバージョンフォーム

パッケージバージョンフォームを使用して、コード品質結果を表示します。

パッケージバージョンフォーム

ルールの名前	説明
パッケージ	パッケージバージョンに関連するパッケージ
バージョン	パッケージにアップロードされたコンポーネントのセットを識別するバージョン番号です。
アプリケーション	このレコードを含んでいるアプリケーション。このフィールドは自動生成されます。 このフィールドを表示するために必要なロール：admin。
ライフサイクルステージステータス	パッケージバージョンのライフサイクルステージのステータスです。
アクティブ	このパッケージバージョンをアクティブとして設定するオプション。 RPA デスクトップデザインスタジオで自動化を作成するためのテンプレートが選択されている場合、テンプレートのアクティブなバージョンが使用されます。アクティブに設定できるパッケージバージョンは 1 つだけです。 このフィールドは、無人テンプレートと有人テンプレートのパッケージタイプにのみ適用可能です。パッケージタイプの詳細については、「ボットプロセスにアサインするパッケージの作成」を参照してください。 このフィールドの編集に必要なロール：RPA admin および RPA リリースマネージャー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パッケージバージョンフォーム (続く)

ルールの名前	説明
コード品質結果	RPA デスクトップデザインスタジオ の [コード品質チェック **(Code Quality Check)]** 機能がパッケージ内でエラー、警告、情報を検出したかどうかを示します。 • [エラー]：RPA デスクトップデザインスタジオ からコード品質チェックをエラーとして公開されたパッケージの場合。 パッケージにエラーと警告の両方がある場合、コード品質チェックの結果はエラーになります。 パッケージにエラーと情報の両方がある場合、コード品質チェックの結果はエラーになります。 • [警告]：RPA デスクトップデザインスタジオ からコード品質チェックを警告として公開されたパッケージの場合。 パッケージに警告と情報の両方がある場合、コード品質チェックの結果は警告になります。 • [合格]：RPA デスクトップデザインスタジオ からコード品質チェックのエラー、警告、情報がないまま公開されたパッケージの場合。 コード品質チェック機能が有効になっていない場合、このフィールドの値は [適用外]になります。 パッケージバージョンのコード品質ステータスは、最高の重大度に設定されます。 エラーまたは警告を確認するには、RPA デスクトップデザインスタジオ でパッケージバージョンファイルを開きます。 コード品質チェック機能の詳細については、「RPA ハブ のコード品質チェック」を参照してください。
コメント	パッケージバージョンの簡単な説明。

関連情報

RPA ハブ でのパッケージバージョンの表示

ボットプロセスにアサインするパッケージの作成

RPA ハブのプロセスジョブフォーム

プロセスジョブフォームを使用して、ボットプロセスの実行ログのリストを表示します。

プロセスジョブフォーム

フィールド	説明
名前	プロセスジョブの名前。
プロセス	関連付けられたボットプロセスの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスジョブフォーム (続く)

フィールド	説明
ロボット	ボットプロセスで実行されているアサインされたロボット。
状況	プロセスジョブのステータス： • 成功 • 失敗 • 実行中 • スキップ • キャンセル • 破棄 プロセスジョブステータスとそのシナリオの詳細については、「RPA ハブのプロセスジョブステータス」を参照してください。
ストレージ	ログのストレージの場所： • インスタンス • ロボットマシン
トリガー実行者	トリガーのソース。 • スケジュール - スケジュールで自動化がトリガーされる場合。 • **API** - フローによって自動化がトリガーされる場合。 • 手動 - 有人の自動化がユーザーによってトリガーされる場合、または無人の自動化が [プロセスの開始] によってトリガーされる場合。 • 埋め込みタスクの自動化 **(Embedded Task Automation)** - 有人の自動化が ServiceNow フォームからトリガーされる場合。 詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。
実行ログステータス	実行ログの可用性に関するステータス： • ログがありません • 同期が進行中です • 完了 利用可能なログは RPA デスクトップデザインスタジオ に表示されます。
グレースフルストップ	グレースフルストップが実行されているかどうかを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスジョブフォーム (続く)

フィールド	説明
	true とマークされている場合、関連付けられたボットプロセスを突然停止するのではなく、適切に停止します。
開始時刻	プロセスジョブの開始日時。
完了日時	プロセスジョブの終了日時。
期間	自動化の完了までの時間。
メッセージ	ロボットによって返される情報またはエラーメッセージ。

関連情報

- ボットプロセスのプロセスジョブの表示
- すべてのボットプロセスの RPA ハブ プロセスジョブの表示

RPA ハブのプロセスパラメーターフォーム

プロセスパラメーターフォームを使用して、プロセスパラメーターと共有パラメーターを作成します。

プロセスパラメーターフォーム

フィールド	説明
名前	プロセスパラメーターの一意の名前。
値	プロセスパラメーターの値。
アプリケーション	[自動生成] このレコードが含まれるアプリケーション。 このフィールドを表示するために必要なロール：admin。
機密	[値] フィールドのデータを非表示にするオプション。
説明	プロセスパラメーターに関する説明。
作成	
作業メモ (プライベート)	プロセスパラメーターの作業メモ。
追加コメント	プロセスパラメーターに関連する追加コメント。

関連情報

- RPA ハブ のボットプロセス内でのプロセスパラメーターの作成
- RPA ハブ での共有パラメーターの作成

RPA ハブのキューフォーム

[作業キュー] フォームを使用してキューを作成します。キューは、ロボットが処理する作業アイテムをリストします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[作業キュー] フォーム

フィールド	説明
名前	作業キューの名前。
作業アイテム名が一意	このキュー内の各アイテムの名前が一意であるかどうかを選択するオプション。
アプリケーション	[自動生成] このレコードが含まれるアプリケーション。 このフィールドを表示するために必要なロール：admin。
最大試行回数	失敗した作業アイテムの試行回数。 1 ～ 99 [システムプロパティからの最大値] の値を入力します。 デフォルト値は 1 です。 このフィールドの編集に必要なロール：RPA リリースマネージャーおよび RPA アドミン。
試行間の遅延 (分)	作業アイテムが再試行されるまでの最大遅延 (分単位)。 デフォルト値は 0 です。 このフィールドの編集に必要なロール：RPA リリースマネージャーおよび RPA アドミン。 このフィールドは、[最大試行回数] フィールドの値が 1 より大きい場合にのみ表示されます。
説明	作業キューの簡単な説明。
作業アイテムの消去	
消去ステータス	消去する必要がある作業アイテムのステータス。
消去まで (日数)	作成日に基づいて作業アイテムが削除されるまでの日数。
平均処理時間 (AHT)：作業アイテム [成功] ステータスを持ち、消去されていない作業アイテムは、AHT 計算に含まれます。	
すべての作業アイテムを含める	平均処理時間 (AHT) の計算で考慮する成功した作業アイテム。 ロボットプールの詳細については、「RPA ハブのロボットプール」を参照してください。
作業アイテム数	平均処理時間 (AHT) の計算で考慮する最近成功した作業アイテムの数。 20 ~ 1000 の値を入力します。 デフォルト値は 100 です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[作業キュー] フォーム (続く)

フィールド	説明
	このフィールドは、[すべての作業アイテムを含める] オプションの値が空になっている場合にのみ表示されます。 ロボットプールの詳細については、「RPA ハブのロボットプール」を参照してください。
作成	
作業メモ (プライベート)	作業キューの作業メモ。
追加コメント	作業キューに関連する追加コメント。

関連情報

- RPA ハブ でのキューの作成
- RPA ハブ の失敗した作業アイテムに対する自動再試行機能の使用
- RPA ハブの作業アイテムフォーム
- RPA ハブ のキュー実装

RPA ハブのスケジュールフォーム

スケジュールフォームを使用して、無人ロボット ボットプロセス内でスケジュールを作成します。ユーザーは、スケジュールを使用して、定期的に計画された方法でジョブを実行できます。複数のスケジュールを 1 つのボットプロセスに関連付けることができます。

スケジュールフォーム

フィールド	説明
プロセススケジュール	
名前	プロセススケジュールの名前。
開始日	スケジュールの開始日。
有効	スケジュールをアクティブ化するためのオプション。 このオプションをオフにすると、スケジュールは非アクティブになります。
アプリケーション	[自動生成] このレコードが含まれるアプリケーション。 このフィールドを表示するために必要なロール：admin。
ボットプロセス構成	関連付けられたボットプロセスの名前。
終了日	スケジュールの終了日。
頻度と時間	
間隔タイプ	スケジュールの実行間隔：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スケジュールフォーム (続く)

フィールド	説明
	• 分：ボットプロセスは、[頻度] フィールドで指定された n 分ごとに実行されます。 • 時間：ボットプロセス実行は、[頻度] フィールドで指定された n 時間ごとに実行されます。 • 日次：ボットプロセスは、[開始時間] フィールドで指定された時刻に毎日実行されます。 • 週次：ボットプロセスは、[平日] フィールドで選択された特定の日の [開始時間] フィールドで指定された時刻に実行されます。 • 月次：ボットプロセスは、[オン] フィールドで選択された値に基づいて n 日ごとに実行されます。 「t」は [開始時間] フィールドで指定された時刻です。「n」は [頻度] フィールドの値です。 デフォルト値は [日次] に設定されています。
頻度	スケジュールの実行間隔の周期： このフィールドは、[間隔タイプ] フィールドで、[分]、[時間]、または [月次] が選択されている場合にのみ表示されます。 頻度が低すぎると、ロボットカレンダーのパフォーマンスに影響する場合があります。
平日	ロボットを実行する特定の曜日。 たとえば、ロボットを月曜日に実行する必要がある場合は、このフィールドで [月曜日] を選択します。 このフィールドは、[オン] フィールドで [日付] または [週間発生件数] のいずれかを選択した場合は表示されません。 このフィールドは、[間隔タイプ] フィールドで [分]、[時間]、[週次]、または [月次] が選択されている場合にのみ表示されます。
ワークステーションのタイムゾーン	ロボットマシンのタイムゾーンを考慮するオプション。 このオプションを有効にすると、[タイムゾーン] フィールドは表示されません。
タイムゾーン	スケジュールのタイムゾーン。
開始時間	スケジュールの開始時刻。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スケジュールフォーム (続く)

フィールド	説明
終了時間は必須	ロボットが特定の時間の後に新しいジョブを受け取ることを想定していないかどうかを考慮するオプション。 このオプションを有効にすると、[終了時間] フィールドが表示されます。 このオプションは、[間隔タイプ] フィールドで [分] または [時間] のいずれかを選択した場合にのみ表示されます。
終了時間	スケジュールの終了時刻。この時間より前にトリガーされたボットプロセスは引き続き実行されます。 このオプションは、[終了時間は必須] フィールドを選択した場合にのみ表示されます。
オン	実行頻度： • 平日 • 月の日 • 週間発生件数 このフィールドは、[間隔タイプ] フィールドで、[月次] が選択されている場合にのみ表示されます。
月の日	スケジュールを実行する特定の月の日。 たとえば、ロボットを毎月 5日、6日、7日に実行する必要がある場合は、このフィールドで **[5]**、**[6]**、**[7]** を選択します。 このフィールドは、[オン] フィールドで、[月の日] が選択されている場合にのみ表示されます。
発生日時	ロボットを実行する月の特定の週。 たとえば、ロボットを月の第 1 金曜日に実行する必要がある場合は、 このフィールドで [第 **1]** を選択します。 このフィールドは、[オン] フィールドで[週間発生件数] が選択されている場合にのみ表示されます。
日	ロボットを実行する月の特定の曜日。 たとえば、ロボットを月の第 1 金曜日に実行する必要がある場合は、このフィールドで [金曜日] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スケジュールフォーム (続く)

フィールド	説明
	このフィールドは、[オン] フィールドで[週間発生件数] が選択されている場合にのみ表示されます。
作成	
作業メモ (プライベート)	プロセススケジュールの作業メモ。
追加コメント	スケジュールに関連する追加コメント。

関連情報

RPA ハブ のボットプロセス内でのスケジュールの作成

RPA ハブの作業アイテムフォーム

作業アイテムフォームを使用して、実行された作業アイテムの詳細を表示します。

作業アイテムフォーム

フィールド	説明
名前	作業アイテムの名前です。
作業キュー	キューの名前です。
ステータス	作業アイテムのステータスです。
例外タイプ	例外のタイプ： • アプリケーション：たとえば、SAP のような関連アプリケーションで問題が解決しない場合。 • ビジネス：たとえば、問題を解決するために手動での介入が必要な場合。 例外タイプに基づいて、自動再試行機能により作業アイテムが再試行されます。 [例外タイプ] フィールドが [アプリケーション] の場合、作業アイテムは自動的に再試行されます。 このフィールドを編集するために必要なロール：RPA ロボット。
開始日	作業アイテムの開始日時。
完了日時	作業アイテムの完了日時。
試行回数	自動再試行するために作業アイテムが選択される回数。 最小値は 0 です。
詳細	
優先度	作業アイテムの優先度です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

作業アイテムフォーム (続く)

フィールド	説明
	• 重大 • 高 • 中 • 低 アサインされたロボットは、作業キュー内の定義された優先度に従ってボットプロセスを実行します。
タイプ	作業アイテムのタイプを定義する文字列フィールド。
ステージ	ロボットがトランザクションのさまざまなステージを管理するためのカスタムフィールド。
SLA	SLA が開始された日時。
ロボット	作業キューにアサインされているロボットの名前。
作成済み	作業アイテムの作成日時。
前回の開始時刻	作業アイテムの前回の開始時刻。
保留期間	指定された日時まで選択されていない作業アイテム。
完了者	作業アイテムを完了したロボットの名前。
注釈	ロボットのランタイムによって更新された注釈。
コンテンツ	
要求コンテンツ	作業アイテムフォームにプレーンテキストで表示され、作業アイテムの処理に使用できる機密性の低いコンテンツ。
機密要求コンテンツ	作業アイテムフォームで暗号化およびマスクされ、作業アイテムの処理に使用できる機密性の高い要求コンテンツ。 作業アイテムが選択されると、機密データが復号化され、RPA デスクトップデザインスタジオまたはロボットに渡されます。 このオプションを使用すると、キューを介して機密情報を渡すことができます。たとえば、クレジットカードの詳細が暗号化されます。
応答コンテンツ	トランザクション後に作業アイテムが選択されたときに追加または更新されるコンテンツ。
トランザクションアクティビティ	
作業メモ	作業アイテムの作業メモ。
追加コメント	この作業アイテムを更新するためのコメント。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

作業アイテムフォーム (続く)

フィールド	説明
アクティビティ	選択した作業アイテムのトランザクションログ。

関連情報

- 作業アイテムの管理
- RPA ハブのキューフォーム
- RPA ハブ の失敗した作業アイテムに対する自動再試行機能の使用
- RPA ハブ のキュー実装

UI アクション (ボタン) の表示条件

有人構成レコードで選択された関連テーブルの、対応する ServiceNow フォームに UI アクション (ボタン) を表示するには、次の条件が満たされていることを確認します。

ワークスペース、プレイブックなどの他の画面では、UI アクションを手動で作成する必要があります。詳細については、「API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出し」を参照してください。

埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

UI アクション (ボタン) を表示する条件のリスト

条件	参照
有人構成レコードで選択された関連するボットプロセスのライフサイクルステージステータスが [公開済み] であること。 関連付けられたボットプロセスが利用できない場合、または [メンテナンス中] ステータスである場合、関連する UI アクションを ServiceNow フォームに表示することはできません。	詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。
関連付けられた有人ボットプロセスレコードで [埋め込みタスクの自動化を有効にする **(Enable Embedded Task Automation)]** チェックボックスをオンにする必要があります。	詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。
有人構成レコードをアクティブにする必要があります。	詳細については、「RPA ハブ の有人構成レコードを有効にしますか？」を参照してください。
ユーザーには RPA 支援ユーザーロールが必要です。	詳細については、「RPA ハブ とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。
自動アサインシステムプロパティ *sn_rpa_fdn.allow_rda_robot_auto_assignment* が false の場合、そのユーザーのロボットレコードが使用可能である必要があります。	このシステムプロパティの詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」を参照してください。
自動アサインシステムプロパティ *sn_rpa_fdn.allow_rda_robot_auto_assignment* が true の場合、アテンド型ロボットを作成するためのライセンスが必要です。	このシステムプロパティの詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI アクション (ボタン) を表示する条件のリスト (続く)

条件	参照
	ライセンスの詳細については、「RPA ハブ でのライセンスの配布」、「RPA ハブ でのロボットライセンスの配布レコードの作成」を参照してください。
ユーザーは、有人構成レコードで選択された対応する有人ボットプロセスの [アサインされたユーザー/グループ **(Assigned Users/Groups)**] タブに関連付けられている必要があります。	ライセンスの詳細については、「Attended ユーザーまたはグループの有人ボットプロセスへのアサイン」を参照してください。
既存の ServiceNow フォームレコードは、有人構成レコードで選択された条件と一致する必要があります。	有人構成レコード作成の詳細については、「RPA ハブ での有人構成レコードの作成」を参照してください。

関連情報

埋め込みタスクの自動化の構成のステップリスト

無人ロボット

ServiceNow® 無人ロボット アプリケーションを使用して、無人の自動化を実行します。無人ロボット は Windows マシンにインストールするソフトウェアエージェントであり、自動化を実行するために人の介在は不要です。

開始するには

構成

無人ロボット をインストールして設定します。

使用

無人ロボットを実行します。

参照

無人ロボットのインストールの要件の詳細を確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

役に立つリソース

- ロボティックプロセスオートメーション (RPA) ハブアプリケーションに関する問題のトラブルシューティング
- コミュニティフォーラムで質問や回答をする
- 開発者ドキュメント
- 連絡先カスタマーサービス & サポート
- ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub 用語集
- RPA の一般的なガイドライン

無人ロボットの詳細

無人の自動化の実行を可能にする 無人ロボット機能について説明します。

無人ロボットの概要

ServiceNow® 無人ロボット は、Windows マシンにインストールするソフトウェアエージェントです。無人ロボット は人の介在なしで無人の自動化を実行できます。

ServiceNow® 無人ロボット ログインエージェントは、無人ロボット とともに Windows マシンにインストールするソフトウェアエージェントです。このアプリケーションを使用して、無人のボットプロセスがトリガーされたときに、ロック解除したり、ロボットマシンへのセルフログインを実行したりすることができます。

無人ロボットのメリット

- ボットプロセスで定義された自動化を、人間の介入なしに独立して実行します。
- スケジュール、API、または手動のいずれかによってトリガーされます。

次に探索する内容

無人ロボットを構成して使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- 無人ロボットの構成
- 無人ロボット の使用

無人ロボット の高密度ロボット

高密度ロボットを使用して、単一の Windows Server マシンで複数の自動化を同時に独立して実行します。

RPA ハブの高密度ロボットの概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブの高密度ロボット」を参照してください。

高密度ロボットの仕組み

- ロボットは、Windows ユーザーセッションごとに 1 つの自動化を任意の指定した時間に開始できます。すべてのロボットで同じ自動化を同時に実行することができます。また、すべてのロボットで異なる自動化を同時に実行することもできます。
- シナリオとして、ユーザー A が、高密度ロボットが接続されているリモートデスクトッププロトコル (RDP) 経由でサーバーに接続されているとします。同じユーザー A に対して実行がトリガー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

された場合、手動で接続されたセッションは切断され、ロボットに転送されます。ただし、ロボットが自動化を開始した後、ユーザーは再接続して実行を表示できます。

- ロボットタイプを高密度ロボットから標準に、またはその逆に変更する場合は、自動化をシームレスに実行するために、無人ロボットを再接続する必要があります。無人ロボットの作成の詳細については、「RPA ハブ での無人ロボットの作成」を参照してください。

高密度ロボットを設定する手順のリスト

高密度ロボットを設定するには、次のタスクを実行します。

1. リモートデスクトップセッションホストをインストールして、Windows Server マシンで高密度ロボット用の環境を設定します。次に、Windows Server マシンへの RDP 接続を確立できるユーザーを追加します。詳細については、「高密度ロボット向け Windows Server マシンの設定」を参照してください。
2. インストールが完了したら、Windows Server マシンを再起動します。
3. RPA ハブで高密度ロボットオプションを有効にします。詳細については、「RPA ハブ での無人ロボットの作成」を参照してください。
4. 無人ロボット のインストール。
5. 無人ロボットアプリケーションにユーザープロファイルを追加して、複数のロボットが同時にジョブを実行できるようにします。詳細については、「無人ロボット を設定」を参照してください。

トラブルシューティング

- RDP ログオンエラーはサービスログに記録されます。一部のログには詳細な説明がない場合がありますが、コードを使用して「Disconnect reason code (切断理由コード)」および「Extended disconnect reason code (拡張切断理由コード)」で関連情報を検索してください。
- 自動化で使用される基礎となるアプリケーションプロセス名は、サーバー環境と開発環境では異なる場合があります。不一致を回避するには、ターゲットマシンに基づいて自動化で正しく指定されていることを確認します。

制限事項

- 無人ロボットユーザーインターフェイスには、一度に 1 人のユーザーのみがアクセスできます。
- RPA ハブを最新バージョンにアップグレードした後、最新バージョンの 無人ロボットをインストールする必要があります。
- 高密度ロボットはロボットプールの一部ではありません。

無人ロボットの構成

組織で 無人ロボット と 無人ロボット ログインエージェントの実装を計画および構成できます。

構成の概要

無人ロボット および 無人ロボット ログインエージェントのインストールパッケージをダウンロードし、インストール後に 無人ロボット を構成するには、次のタスクを実行します。

1. から 無人ロボット をダウンロードしますRPA ハブ。

   アプリケーションをインストールするための前提条件として、RPA ハブ から Windows マシンで無人ロボット アプリケーションを選択してダウンロードします。

2. 無人ロボット のインストール

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

admin ロールを保持している場合は、無人ロボット アプリケーションを Windows マシンにインストールできます。

3. 無人ロボット ログインエージェントのインストール

   admin ロールを保持している場合は、無人ロボット ログインエージェントアプリケーションを Windows マシンにインストールできます。

4. 無人ロボット を設定

   無人ロボット アプリケーションをセットアップして、ロボットと ServiceNow® RPA ハブ インスタンス間の接続を確立します。

5. 高密度ロボット向け Windows Server マシンの設定

   リモートデスクトップセッションホストをインストールして、Windows Server マシンで高密度ロボット用の環境を設定します。

ガイド付きセットアップを使用して 無人ロボット と 無人ロボット ログインエージェントを実装する

ガイド付きセットアップには一連のタスクがあり、無人ロボット と 無人ロボット ログインエージェントを構成するために役立ちます。ガイド付きセットアップを使用すると、完了した内容が追跡されるため、設定を中断しても、その時点から再開することができます。RPA ハブ のガイド付きセットアップを開くには、[すべて] > [ロボティックプロセス自動化 **(Robotic Process Automation)]** > [管理] > [ガイド付きセットアップ]に移動します。

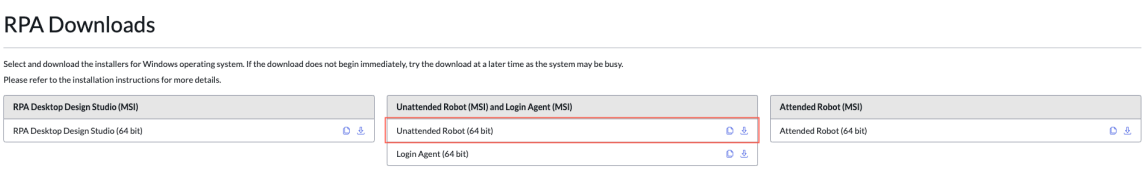
ガイド付きセットアップインターフェイスの使用の詳細については、「ガイド付きセットアップの使用」を参照してください。

無人ロボット のインストール

admin ロールを保持している場合は、無人ロボット アプリケーションを Windows マシンにインストールできます。

始める前に
無人ロボット アプリケーションのインストールファイルをダウンロードして展開します。詳細については、「RPA ハブ からの RPA アプリケーションのダウンロード」を参照してください。

無人ロボット アプリケーションのダウンロード



ハードウェアとソフトウェアの要件に従っていることを確認します。詳細については、「無人ロボットの要件」を参照してください。

次のセットアップ要件を満たしていることを確認します。

- 無人ロボットは 1 つのマシンのみにマッピングされる。これは標準ロボットに適用されます。
- Windows マシンまたは仮想マシン (VM) は永続的で、無人ロボットを実行するために常にオンになっている。
- Citrix 経由で接続している場合は、Windows マシンまたは VM マシンをスリープモードにしないこと。
- VDI プールのアイドルタイムアウト設定がオフになっている。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow インスタンスホストとの通信が有効になっている。
- ServiceNow インスタンスで *glide.cometd.websocket.enabled* システムプロパティが true に設定され、ロボットが Websocket 経由でインスタンスに接続されていることを確認する。
- 無人ロボットが実行されているクライアントマシンで、Websocket も有効になっていることを確認する。

必要なロール：admin

手順

1. `Unattended Robot.msi` ファイルを見つけて開きます。
2. [無人ロボット セットアップウィザードにようこそ] ダイアログボックスで [次へ] を選択します。
3. [インストールフォルダーの選択 (Select Installation Folder)] ダイアログボックスで、次のいずれかのアクションを実行してフォルダーを選択します。
   - デフォルトのフォルダーにアプリケーションをインストールするには、[次へ] を選択します。
   - 別のフォルダーにアプリケーションをインストールするには、[フォルダー] フィールドでフォルダーの場所を選択するか、[参照] をクリックしてフォルダーを選択し、[次へ] を選択します。
4. [インストールの確認 (Confirm Installation)] ダイアログボックスで、[次へ] をクリックしてインストールを開始します。
5. インストールが完了したら、[インストール完了 (Installation Complete)] ダイアログボックスで [閉じる] を選択して終了します。

タスクの結果

デスクトップに 無人ロボット アイコンが表示されます。

無人ロボットアプリケーションのインストールはマシンごとに機能するように構成され、デフォルトのディレクトリは `%ProgramFiles%\ServiceNow\Unattended Robot` です。

次のタスク

無人ロボット アプリケーションを設定します。詳細については、「無人ロボット を設定」を参照してください。

無人ロボット ログインエージェントのインストール

admin ロールを保持している場合は、無人ロボット ログインエージェントアプリケーションを Windows マシンにインストールできます。

始める前に

次のセットアップ要件を満たしていることを確認します。

- Unattended ロボットは 1 つのマシンのみにマッピングされます。
- Windows マシンまたは仮想マシン (VM) は永続的で、無人ロボットを実行するために常にオンになっている。
- Citrix 経由で接続している場合は、Windows マシンまたは VM マシンをスリープモードにしないこと。
- VDI の法的通知がオフになっている。RPA ハブ は、Ctrl+Alt+Del 画面やユーザー名とパスワード画面など、ログイン関連の画面のみ処理できます。法的通知は組織固有の設定のため、RPA ハブではこれを処理できません。したがって、Active Directory 組織 (AD OU) ポリシーを使用してオフにする必要があります。
- VDI プールのアイドルタイムアウト設定がオフになっている。
- ServiceNow インスタンスホストとの通信が有効になっている。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

無人ロボット アプリケーションのインストールファイルをダウンロードして展開します。詳細については、「RPA ハブ からの RPA アプリケーションのダウンロード」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて
無人ロボット ログインエージェントは、無人ロボット とともに Windows マシンにインストールするソフトウェアエージェントです。

この Login Agent アプリケーションを使用して、無人のボットプロセスがトリガーされたときに、ロック解除したり、ロボットマシンにセルフログインしたりすることができます。

無人ロボット ログインエージェントはマルチファクター認証 (MFA) ログインをサポートしていません。

手順
1. `Unattended Robot Login Agent.msi` ファイルを見つけて開きます。
2. [無人ロボット ログインエージェントセットアップウィザードにようこそ] ダイアログボックスで [次へ] を選択します。
3. インストールが完了したら、[インストール完了 (Installation Complete)] ダイアログボックスで [閉じる] を選択して終了します。

タスクの結果
インストール後、Windows ロック画面に次の画像が表示されます。

Windows ロック画面に表示される 無人ロボット ログインエージェントアイコン

次のタスク
無人ロボット アプリケーションを設定します。詳細については、「無人ロボット を設定」を参照してください。

無人ロボット を設定
無人ロボット アプリケーションをセットアップして、ロボットと ServiceNow RPA ハブ インスタンス間の接続を確立します。

始める前に
無人ロボットをインストールします。詳細については、「無人ロボット のインストール」を参照してください。

無人ロボット ログインエージェントをインストールします。詳細については、「無人ロボット ログインエージェントのインストール」を参照してください。

次のタスクで認証のタイプとして **mTLS** を選択する場合、admin ロールを持っているのであれば、ユーザー証明書をインストールします。詳細については、「ユーザーが生成した証明書のインストール」を参照してください。

高密度ロボットの場合は、次の要件が満たされていることを確認します。

- Windows Server マシンで高密度ロボットの環境を設定します。詳細については、「高密度ロボット向け Windows Server マシンの設定」を参照してください。
- 高密度ロボットの概念について理解しておいてください。詳細については、「無人ロボット の高密度ロボット」と「RPA ハブの高密度ロボット」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_robot (接続用)、sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin (セットアップ用)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
RPA ハブ インスタンスを変更する場合を除き、このタスクは 無人ロボット アプリケーションの初回設定時に実行します。

手順

1. デスクトップから 無人ロボットを開くには、次のいずれかのタスクを実行します。
   - 無人ロボットアイコン ( ) をダブルクリックします。
   - タスクバーの通知領域 (システムトレイ) で、無人ロボット アイコン ( ) を右クリックし、[設定] を選択します。

   [無人ロボット] ダイアログが表示されます。
2. [ServiceNow 無人ロボット] ダイアログボックスの [RPA ハブ] セクションで、フィールドに入力します。

無人ロボット ダイアログボックス

フィールド	アクション
インスタンス URL	ServiceNow RPA ハブ インスタンス URL を入力します。たとえば、「`https://<instance name>.service-now.com/`」。
認証	使用する認証のタイプを選択します。 ◦ **mTLS**：相互トランスポートレイヤーセキュリティ。前提条件として、ユーザー証明書をインストールします。 ◦ 基本：ユーザー名とパスワードに基づいて認証が行われます。 ロボットが [基本] 認証タイプを使用して接続されている場合、警告アイコンがタスクバーに表示されます。
高密度ロボット	複数の高密度ロボットユーザープロファイルを追加するには、このオプションを選択します。 高密度ロボットは、リモートデスクトップサービスを利用して、同じ Windows Server マシン上の個別のユーザーセッションで複数の自動化を同時に実行します。 高密度ロボットの詳細については、「RPA ハブの高密度ロボット」と「無人ロボット の高密度ロボット」を参照してください。 高密度ロボット用に Windows Server を設定する必要があります。詳細については、「高密度ロボット向け Windows Server マシンの設定」を参照してください。
プロファイルを追加	[プロファイルを追加] を選択し、ロボットに関連付けられているユーザーを追加してロボットを接続します。プロファイルが正常に追加されると、そのユーザーに関連付けられたロボットがフェッチされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	アクション
	[認証] フィールドの選択に応じて、それぞれのフィールドが表示されます。 すでに 無人ロボットに接続しているユーザーに対して新しいロボットが作成されると、数分以内に接続が自動的に確立されます。ただし、ユーザーがまだ接続されていない場合は、無人ロボットを切断し、新しいユーザーを追加してから、接続を試みる必要があります。 このフィールドは、[高密度ロボット **(High density robots)]** オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
証明書	証明書を選択するには、次のアクションを実行します： **a.** [証明書] フィールドの横にある 3 つのドットメニュー ( ) を選択します。 **b.** インストール済みクライアント認証証明書を選択します。 注: クライアント認証として意図された証明書のみを選択できます。他の目的の証明書を選択すると、エラーが表示されます。 **c. [OK]** を選択します。 このフィールドは、**[mTLS]** が [認証] フィールドから選択されている場合にのみ表示されます。
ユーザー名	ユーザー名を入力します。このユーザーには、接続を確立するためにロボットロールが必要です。 このフィールドは、[認証] フィールドで [基本] が選択されている場合にのみ表示されます。
パスワード	パスワードを入力します。 このフィールドは、[基本] が [認証] フィールドから選択されている場合にのみ表示されます。

3. オプション: 会社のポリシーに従ってインターネット接続の設定を追加するには、次のステップを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [ServiceNow 無人ロボット] ダイアログボックスの [プロキシ設定] セクションで、フィールドに入力します。

無人ロボット ダイアログボックス

フィールド	アクション
サーバーアドレス	プロキシーサーバーの URL を入力してください。
名前	ユーザー名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。

b. [保存] を選択します。

4. [コネクト] を選択します。

次のタスク

無人ロボットを稼働して、無人のボットプロセスを実行します。詳細については、「無人ロボットを使用した自動化の実行」を参照してください。

関連情報

ユーザーが生成した証明書のインストール

高密度ロボット向け **Windows Server** マシンの設定

リモートデスクトップセッションホストをインストールして、Windows Server マシンで高密度ロボット用の環境を設定します。次に、マシンに接続できるロボットユーザー名を追加します。これにより、これらのロボットユーザーが Windows Server マシンへのリモートデスクトッププロトコル (RDP) 接続を確立できるようになります。

始める前に

高密度ロボットの概念について理解しておいてください。詳細については、「無人ロボット の高密度ロボット」と「RPA ハブの高密度ロボット」を参照してください。

リモートデスクトップセッションホストサービスには、有効なライセンスが必要です。

ハードウェアとソフトウェアの要件に従っていることを確認します。詳細については、「無人ロボットの要件」を参照してください。

必要なロール：admin

手順

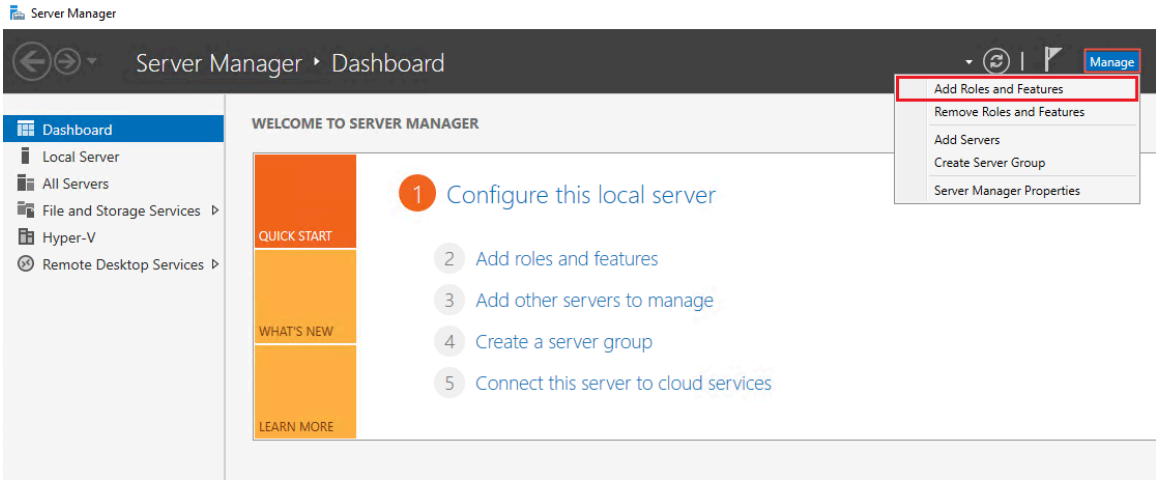
1. Windows Server マシンで次の手順を実行して、リモートデスクトップセッションホストをインストールします。

a. [サーバーマネージャー (Server Manager)] を開きます。

b. [ダッシュボード] パネルで、[管理] を選択し、[ロールと機能の追加 **(Add Roles and Features)**] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[サーバーマネージャー **(Server Manager)]** の [ダッシュボード] パネル

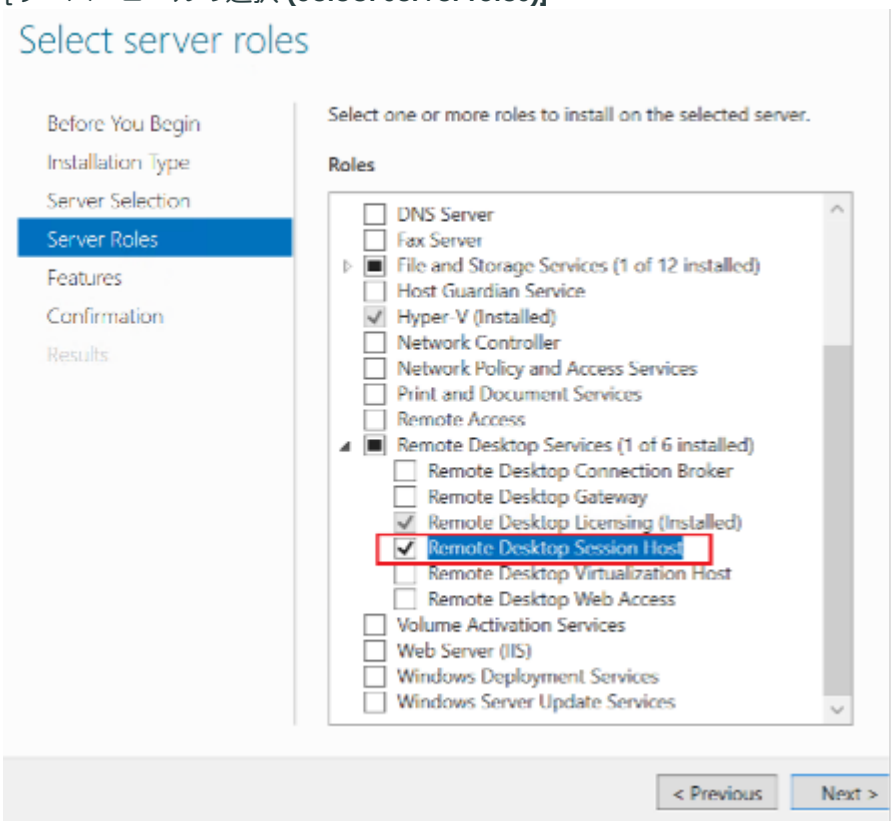


[ロールと機能の追加ウィザード **(Add Roles and Features Wizard)]** が開きます。

c. [サーバーロールの選択 **(Select server roles)]** ウィンドウが表示されるまで、ウィザードの手順に従います。

d. [ロール] セクションの [リモートデスクトップサービス (Remote Desktop Services)] リストから、[リモートデスクトップセッションホスト **(Remote Desktop Session Host)]** オプションを選択します。

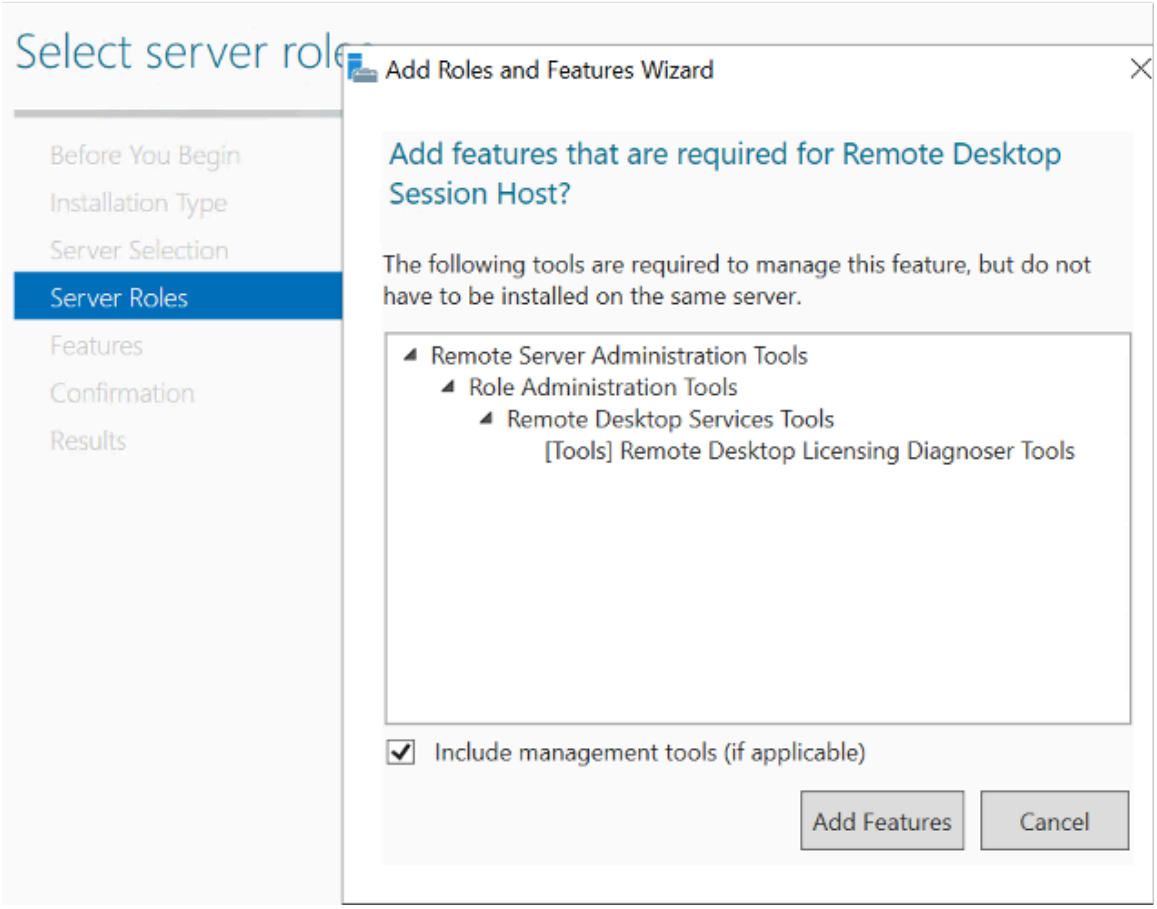
[サーバーロールの選択 **(Select server roles)]**



e. [ロールと機能の追加ウィザード (Add Roles and Features Wizard)] ダイアログ ボックスで、[機能を追加 **(Add Features)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ロールと機能の追加ウィザード **(Add Roles and Features Wizard)]** ダイアログボックス



ウィザードに戻ります。

f. [インストールの選択内容の確認 **(Confirm installation selections)]** ウィンドウが表示されるまで、ウィザードの手順に従います。

g. [インストール] を選択します。

2. 次の設定を構成して、ユーザーを追加し、ポリシーを編集します。

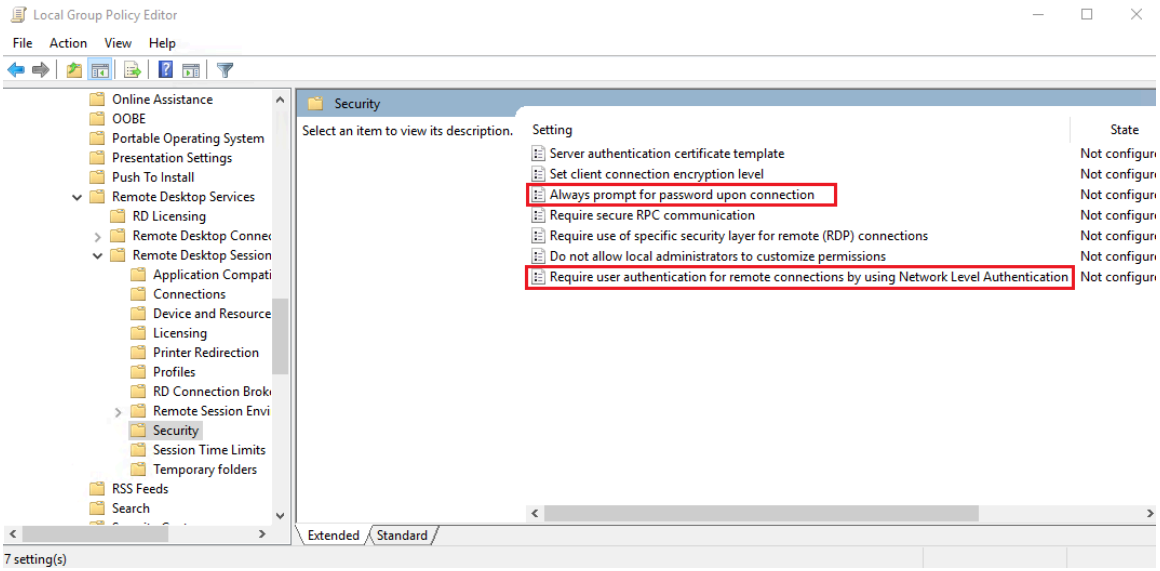
a. [ローカルグループポリシーエディター **(Local Group Policy Editor)]** に移動し、[コンピューターの構成 **(Computer Configuration)]** > [管理用テンプレート **(Administrative Templates)]** > **[Windows**コンポーネント **(Windows Components)]** > [リモートデスクトップサービス **(Remote Desktop Services)]** > [リモートデスクトップセッションホスト **(Remote Desktop Session Host)]** > [セキュリティ]に移動します。

b. [接続時に常にパスワードを要求する **(Always prompt for password upon connection)]** ポリシーを無効にします。

c. セキュリティを強化するために [ネットワークレベル認証を使用してリモート接続にユーザー認証を要求する **(Require user authentication for remote connections by using Network Level Authentication)]** ポリシーを有効にし、RDP へのセッションを確立する前に常に認証を行います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ローカルグループポリシーエディター **(Local Group Policy Editor)]** でポリシーを構成する



d. ボットプロセスの [プロセスロボット認証情報 (Process Robot Credentials)] タブでロボットにマッピングされた Windows ユーザーが、リモートデスクトップユーザーグループに含まれていることを確認します。

次のタスク
インストールが完了したら、Windows Server マシンを再起動します。

RPA ハブで高密度ロボットオプションを有効にします。詳細については、「RPA ハブ での無人ロボットの作成」を参照してください。

無人ロボット のインストール。

無人ロボットアプリケーションにユーザープロファイルを追加して、複数のロボットが同時にジョブを実行できるようにします。詳細については、「無人ロボット を設定」を参照してください。

無人ロボット の使用

無人ロボット アプリケーションを使用して、スケジュール、API、または手動のいずれかでトリガーされる で無人の自動化を実行できます。

プロセスジョブフォームの [トリガー元] フィールドは、ボットプロセスがスケジュール、手動、または API を介してトリガーされるかどうかを決定します。詳細については、「RPA ハブのプロセスジョブフォーム」を参照してください。

無人ロボット を使用した自動化の実行

無人ロボットを稼働させ、定義されたトリガーモード (API トリガーまたはスケジュール) で、無人の自動化を実行します。

始める前に
パッケージを作成します。詳細については、「ボットプロセスにアサインするパッケージの作成」を参照してください。

ロボットを作成します。詳細については、「RPA ハブ でのロボットの作成」を参照してください。

ボットプロセスを作成します。ボットプロセスの作成中に、ボットプロセスフォームの [プロセスタイプ] フィールドで **[Unattended]** を選択します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」と「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロボットを実行するには、次の条件が満たされていることを確認してください。

- 関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージステータスは [公開済み] である必要があります。
- 実行中のロボットのライフサイクルステージステータスは [使用中] である必要があります。

(オプション) ボットプロセスを定期的に実行するには、ボットプロセス内にスケジュールを作成します。詳細については、「RPA ハブ のボットプロセス内でのスケジュールの作成」を参照してください。

認証情報グループを作成し、ボットプロセスにアサインします。詳細については、「RPA ハブ での認証情報グループの作成」と「ボットプロセスへの認証情報グループの関連付け」を参照してください。

ボットプロセスにロボットをアサインします。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスへのロボットのアサイン」を参照してください。

ボットプロセス内でプロセスロボット認証情報をアサインします。詳細については、「ボットプロセス内でのプロセスロボット認証情報のアサイン」を参照してください。

ライセンスが利用可能であることを確認します。詳細については、「RPA ハブ でのライセンスの配布」を参照してください。

ロボットと ServiceNow RPA ハブ インスタンス間の接続を確立します。詳細については、「無人ロボット を設定」を参照してください。

(オプション) ボットプロセス内でのプロセスパラメーターを作成します。詳細については、「RPA ハブ のボットプロセス内でのプロセスパラメーターの作成」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_robot および snc_internal

> **注:** アテンド型ロボット が連邦情報処理標準 (FIPS) 対応のインスタンスに接続しようとする場合、ロボットユーザーには `snc_internal` ロールが必要です。

このタスクについて

RPA ハブ から無人のボットプロセスを手動で開始することもできます。詳細については、「RPA ハブ での無人ボットプロセスの開始」を参照してください。

このタスクでは、無人ロボットは 2 つの方法で実行できます。

手順

無人ロボットを実行するには、次のいずれかのアクションを実行します。

オプション	アクション
ボットプロセスで定義するスケジュールに基づく	**a.** ロボットに接続してボットプロセスを実行します。詳細については、「無人ロボット を設定」を参照してください。 **b.** ボットプロセス内のスケジュールを確認します。詳細については、「RPA ハブ のボットプロセス内でのスケジュールの作成」を参照してください。 無人ロボット は、定義されたスケジュールに基づいて実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	スケジュールされたトリガーと手動トリガーの詳細については、「RPA ハブでのボットプロセスの実行優先順位」を参照してください。
[プロセスの開始] サブフローを介した API に基づく	ワークフロースタジオ で [プロセスの開始] サブフローを確認します。詳細については、「RPA ハブのアクションとサブフロー」を参照してください。 無人ロボット は、ワークフロースタジオ の [プロセスの開始] をトリガーするサブフローに基づいて実行します。

重要: 無人ロボットがロボットマシンでボットプロセスを開始するとすぐに、プロセスジョブレコードが作成されます。[メッセージ] フィールドは、ボットプロセスのステータスに関するインサイトと可視化を提供するプロセスのさまざまなステージ中に更新されます。プロセスジョブレコードの各フィールドの詳細については、「RPA ハブのプロセスジョブフォーム」を参照してください。

関連情報

サービスログとランタイムログを開く

無人ロボット の参照情報

参考トピックには、無人ロボットのインストール要件に関する追加情報が記載されています。

無人ロボットの要件

無人ロボットアプリケーションをインストールする前に、次のハードウェア要件とソフトウェア要件を満たしていることを確認してください。

ハードウェア要件

標準ロボットのハードウェア要件

リソース	最低	推奨
CPU	Intel 1.8 GHz 64 ビットプロセッサの 2 コア	Intel 2.4 GHz 64 ビットプロセッサの 4 コア
RAM	4 GB RAM	8 GB RAM
ディスクスペース	50 GB 以上の空きディスク容量 (OS、パッチ、およびベースソフトウェアのインストール後)	100 GB 以上の空きディスク容量 (OS、パッチ、およびベースソフトウェアのインストール後)

高密度ロボットのハードウェア要件

複数のロボットが同じ Windows Server マシン上で同時にジョブを実行する高密度ロボットの場合、最小ハードウェア要件と推奨ハードウェア要件をランタイム数で乗算する必要があります。

たとえば、3 人のユーザーが同時にジョブを実行する場合、最小要件は次のとおりです。

- 6 コアの Intel 1.8GHz 64ビット (ランタイムあたり 6 コア 1.8GHz 64 ビット)
- 12 GB の RAM (ランタイムあたり 4 コア)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソフトウェア要件

標準ロボットのソフトウェア要件

標準ロボットの場合、ソフトウェア要件は次のとおりです。

- オペレーティングシステム：Microsoft Windows 10、Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022
- NET フレームワーク：Windows 4.7.1 以降
- DPI スケーリング設定を非アクティブ化する必要があります。

高密度ロボットのソフトウェア要件

高密度ロボットの場合、ソフトウェア要件は次のとおりです。

- オペレーティングシステム：Windows Server 2022
- NET フレームワーク：Windows 4.7.1 以降
- DPI スケーリング設定を非アクティブ化する必要があります。

アテンド型ロボット

ServiceNow® アテンド型ロボット アプリケーションを使用して、無人の自動化を実行します。アテンド型ロボット は Windows マシンにインストールするソフトウェアエージェントであり、自動化を実行するために人の介在が必要です。

開始するには

構成	使用
アテンド型ロボット をインストールして設定します。	アテンド型ロボット を使用して自動化を実行します。

役に立つリソース

- ロボティックプロセスオートメーション (RPA) ハブアプリケーションに関する問題のトラブルシューティング
- コミュニティフォーラムで質問や回答をする
- 開発者ドキュメント
- 連絡先カスタマーサービス & サポート
- ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub 用語集
- RPA の一般的なガイドライン

アテンド型ロボットの詳細

有人自動化の実行を有効にする アテンド型ロボット機能について説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アテンド型ロボットの概要

ServiceNow® アテンド型ロボット は Windows マシンにインストールするソフトウェアエージェントです。アテンド型ロボット は人の介在が必要な有人自動化を実行できます。

有人の自動化は通常、手動でトリガーされます。

アテンド型ロボットのメリット

- ユーザーは、同じ Windows のマシンでボットプロセスをトリガーするボタンをクリックすることで、自動化を開始できます。
- 必要に応じて、複雑な意思決定や主観的な意思決定を行うために、人間が介入してリアルタイムでタスクを実行します。

次に探索する内容

アテンド型ロボットを構成して使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- アテンド型ロボット の構成
- アテンド型ロボット の使用

埋め込みタスクの自動化でのアテンド型ロボットの認証過程と自動化の実行

アテンド型ロボットアプリケーションの認証プロセスと、ServiceNow® フォームから自動化がトリガーされる場合の自動化の実行について説明します。

埋め込みタスクの自動化機能

埋め込みタスクの自動化機能を使用すると、アテンド型ロボットアプリケーションから開始する以外に、ServiceNow フォームから有人ボットプロセス (有人自動化) をトリガーできます。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

埋め込みタスクの自動化でのアテンド型ロボットの認証過程

アテンド型ロボットアプリケーションを Windows マシンにインストールすると、Washington DC リリース以降、アテンド型ロボットにより URL スキーマ「snrdaforms」が登録されます。この URL スキーマは、OAuth からリダイレクトが発生するたびに使用されます。OAuth の詳細については、「OAuth 受信と送信認証」を参照してください。

RPA 支援ユーザーがフォームアクションを選択すると、このアクションによってユーザーは OAuth 認証にリダイレクトされます。

認証に成功すると、ボットプロセスの起動に必要な情報を含むコールバック URL が生成されます。たとえば、有人構成に関連付けられているボットプロセスの場合、この情報はコールバック URL に渡されます。

コールバック URL が、アテンド型ロボットを開始します。アテンド型ロボットは、コールバック URL によって送信されたすべての情報を受信します。接続マネージャーでは、プロファイル (ホスト名、インスタンス URL などのインスタンスの詳細) は、存在しなければローカルに作成されます。これはプラグインを同期するために必要であり、さらなる認証のためにユーザーコンテキストを確立します。

ユーザーコンテキストには 3 つのシナリオがあります。

- アテンド型ロボットアプリケーションが埋め込みタスクの自動化とともに既に起動されており、同じユーザー (例えば、ユーザー A) を使用して自動化を再トリガーする場合は、アテンド型ロボットアプリケーションを再起動せずに次の自動化が実行されます。アテンド型ロボットアプリケーションはクローズしません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- アテンド型ロボットアプリケーションが埋め込みタスクの自動化とともに、ユーザー A によって既に起動されており、その後、別のユーザー (ユーザー B) と同じインスタンスを使用して自動化を再トリガーする場合は、アテンド型ロボットアプリケーションをクローズして再起動することなく、アテンド型ロボットアプリケーションの使用を継続し、ユーザー A をログアウトして、ユーザー B で再接続します。
- アテンド型ロボットアプリケーションが埋め込みタスクの自動化とともにインスタンス 1 から既に起動されており、ユーザーがインスタンス 2 から埋め込みタスクの自動化を起動しようとした場合は、アテンド型ロボットアプリケーションが再起動されます。

デフォルトのプロファイルがアテンド型ロボットアプリケーションの [接続マネージャー] ウィンドウに保存された場合でも、ロボットは自動化がトリガーされた URL プロファイルを使用します。

既存の自動化に新しいバージョンが存在する場合、その変更を反映するには、アテンド型ロボットアプリケーションをクローズする必要があります。それまでは、アテンド型ロボットアプリケーションが既に起動されているため、既存のバージョンを引き続き使用します。

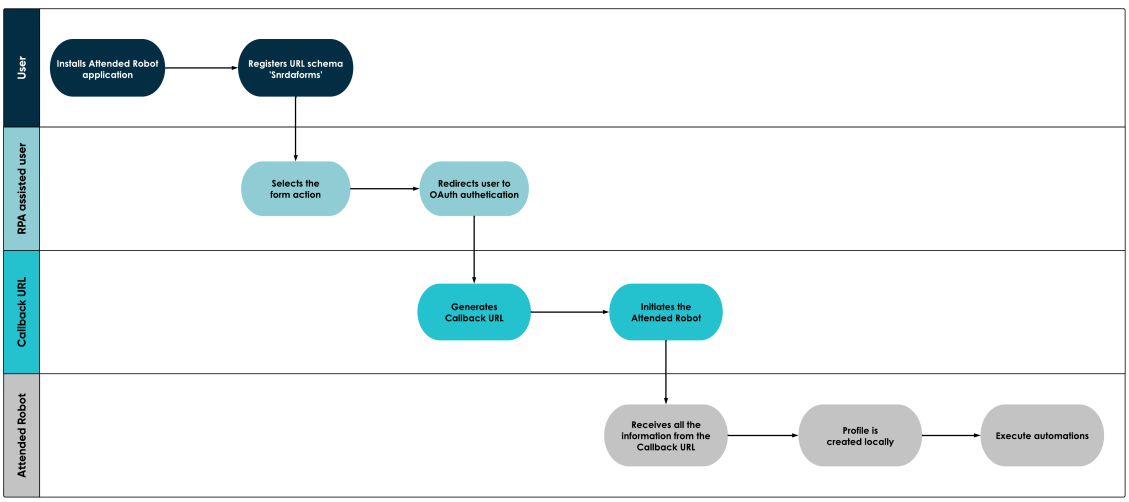
新しいバージョンの RPA ハブ がインスタンスにインストールされている場合、その変更を反映するには、アテンド型ロボットアプリケーションをクローズする必要があります。それまでは、アテンド型ロボットアプリケーションが既に起動されているため、既存のプラグインセットを引き続き使用します。

アテンド型ロボットは自動化を起動する準備ができており、ServiceNow® フォームから自動化が呼び出されたときにアテンド型ロボットの接続マネージャーでプロンプトは表示されません。

RPA 支援ユーザーが直接アテンド型ロボットを起動すると、インスタンスとログインの詳細を確認するための接続マネージャーが表示されます。

接続マネージャーで、ユーザーが初めてインスタンスに接続しようとすると、そのインスタンスを以前使用したことがないというアラートが表示されます。

アテンド型ロボット認証過程



ローカルセッションとボットセッションでの自動化の実行

認証後、プロセス構成が RPA ハブ から取得されます。

ボットプロセスフォームで [デスクトップインデスクトップを有効にする] チェックボックスがオンになっていない場合、自動化の実行はローカルセッションで開始されます。実行が完了すると、アテンド型ロボットアプリケーションはマシン上でアクティブなままになり、次の自動化トリガーを待機します。詳細については、以下のセクションの「**Launch an attended automation from ServiceNow forms (ServiceNow** フォームから有人自動化を起動する)」セクションを参照してくだ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

さい。[デスクトップインデスクトップを有効にする] チェックボックスと、[完了時にデスクトップインデスクトップを終了する] チェックボックスの詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

ボットプロセスフォームで [デスクトップインデスクトップを有効にする] チェックボックスがオンになっている場合、自動化の実行はボットセッションで開始されます。実行が完了すると、[完了時にデスクトップインデスクトップを終了する] の設定に応じて、次のいずれかが発生します。

- [完了時にデスクトップインデスクトップを終了する] チェックボックスがオンになっている場合、アテンド型ロボットアプリケーションはボットセッションをクローズし、アテンド型ロボットアプリケーションではすべての UI ボタンが無効のままになります。

  アテンド型ロボットアプリケーションは、実行が完了した後、またはユーザーが [停止] ボタンを選択した後、あるいは自動化の開始中にエラーが発生した場合には、クローズされません。

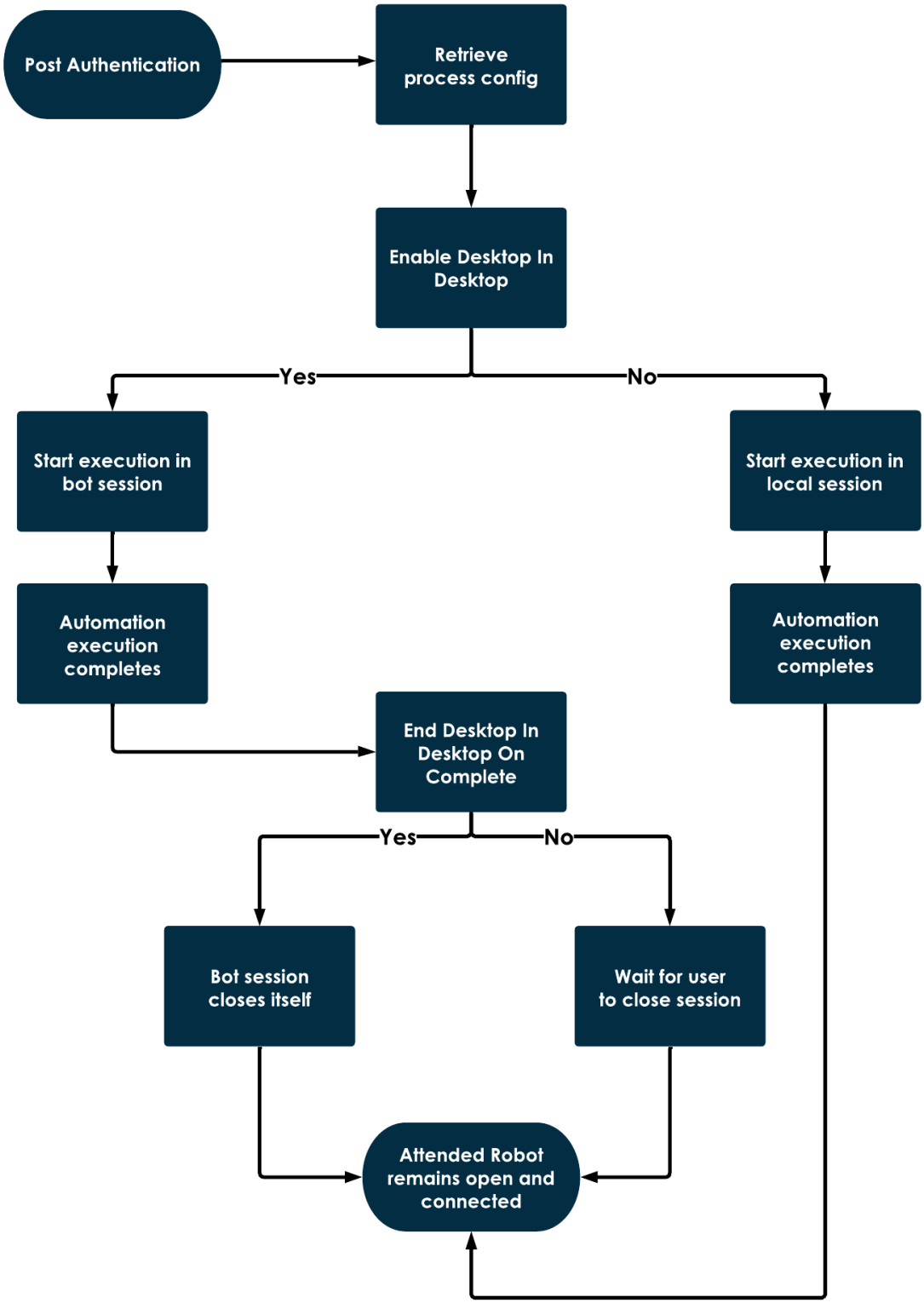
  実行が完了すると、ロボットは [ビジー] から [利用可能] ステータスに移行します。

- [完了時にデスクトップインデスクトップを終了する] チェックボックスがオンになっていない場合、ユーザーはセッションをクローズする必要があります。ユーザーがセッションをクローズするまではアテンド型ロボットアプリケーションが実行され、関連付けられたロボットのステータスは [ビジー] と表示されます。ユーザーがボットセッションをクローズした後、アテンド型ロボットアプリケーションは開いたままになります。

  アテンド型ロボットログインユーザーセッションが期限切れになると、アテンド型ロボットインスタンスはボットセッションと共にクローズされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ローカルセッションとボットセッションでの自動化の実行



ServiceNow フォームから有人自動化を起動する

アテンド型ロボットは ServiceNow フォームからトリガーされた際に有人自動化を実行します。詳細については、「埋め込みタスク自動化のランタイムフェーズ」を参照してください。他のタイプのフォーム間で有人自動化を呼び出す方法の詳細については、「API を介した埋め込みタスクの自動化の呼び出し」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

組織でプロキシ設定が構成されている場合、このタスクの前提条件はプロキシを構成することです。ServiceNow フォームから初めてアテンド型ロボットを起動するときに、接続マネージャーの [プロキシ設定] セクションで、プロキシを構成します。接続マネージャーの詳細については、「アテンド型ロボット から RPA ハブ インスタンスへのコネクト」を参照してください。プロキシ設定の詳細については、「アテンド型ロボットの設定」を参照してください。

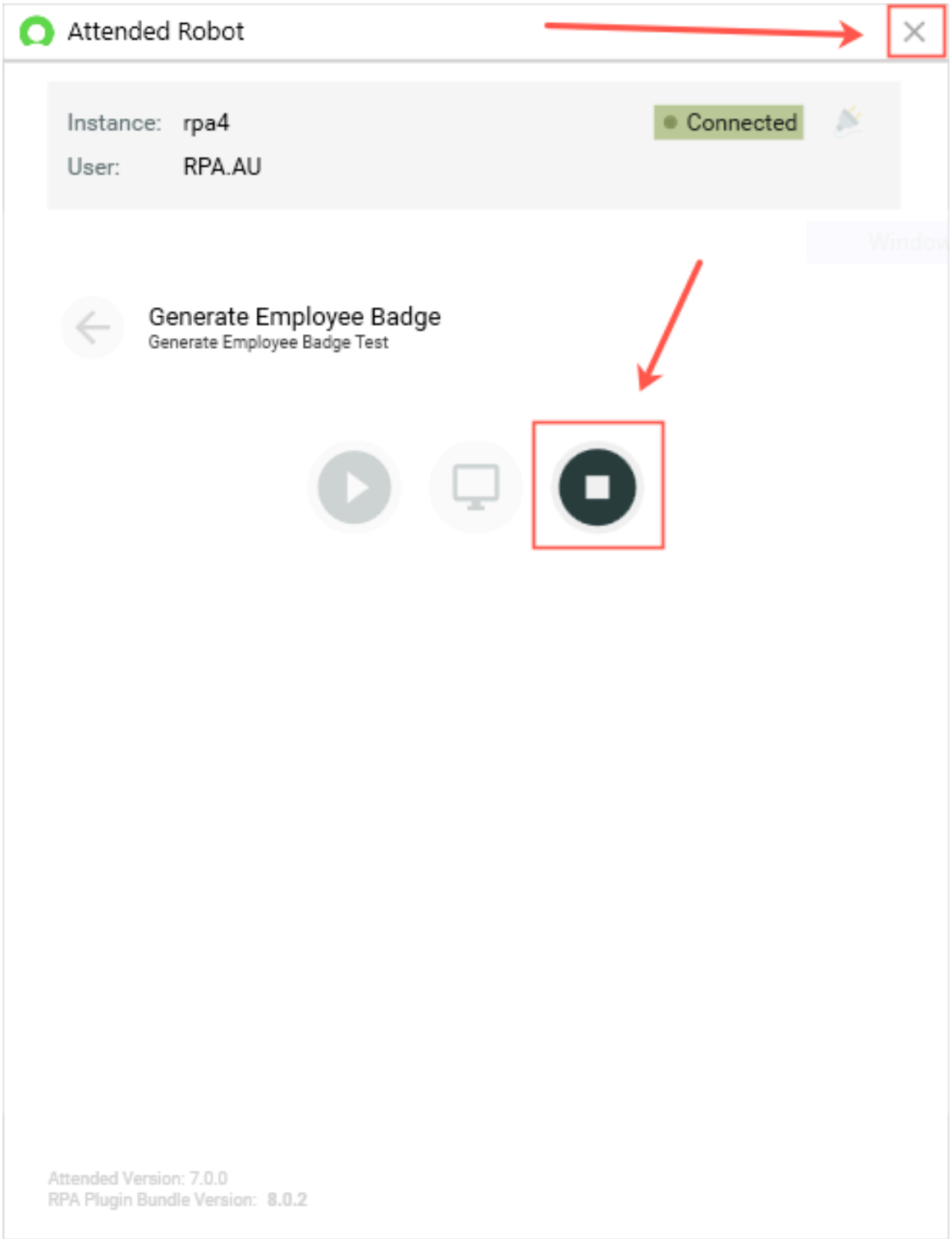
認証が成功すると、以下のシナリオが発生します。

1. 関連付けられたロボットのステータスがまだ [利用可能] でない場合は、[利用可能] に移行します。
2. [実行中] ステータスのプロセスジョブレコードを作成します。

   プロセスジョブレコードにおいて、[トリガー元]フィールドは [埋め込みタスクの自動化 **(Embedded Task Automation)]** の値によって更新されます。
3. ローカルで利用可能でない場合、関連するロボットのステータスを [ビジー] に移行し、同期を開始して、パッケージをダウンロードします。
4. [デスクトップインデスクトップを有効にする] チェックボックスのオン/オフに基づいて、ローカルセッションまたはボットセッションで自動化を開始します。
5. 自動化の実行が完了すると、ロボットのステータスが [利用可能] に更新されます。
6. 自動化の実行が開始された後、ユーザーがアテンド型ロボットで [停止] ボタンを選択すると、自動化が終了し、ロボットのステータスが [利用可能] に設定されます。プロセスジョブレコードが [キャンセル済み] ステータスとしてマークされます。
7. 自動化の実行が開始された後、ユーザーがアテンド型ロボットで [閉じる] ボタンを選択すると、いくつかの事前検証を実行した後、ボットプロセスが停止し、ユーザーセッションをログアウトして、アテンド型ロボットをクローズします。停止アクションとクローズアクションの詳細については、「アテンド型ロボットを使用した自動化の実行」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

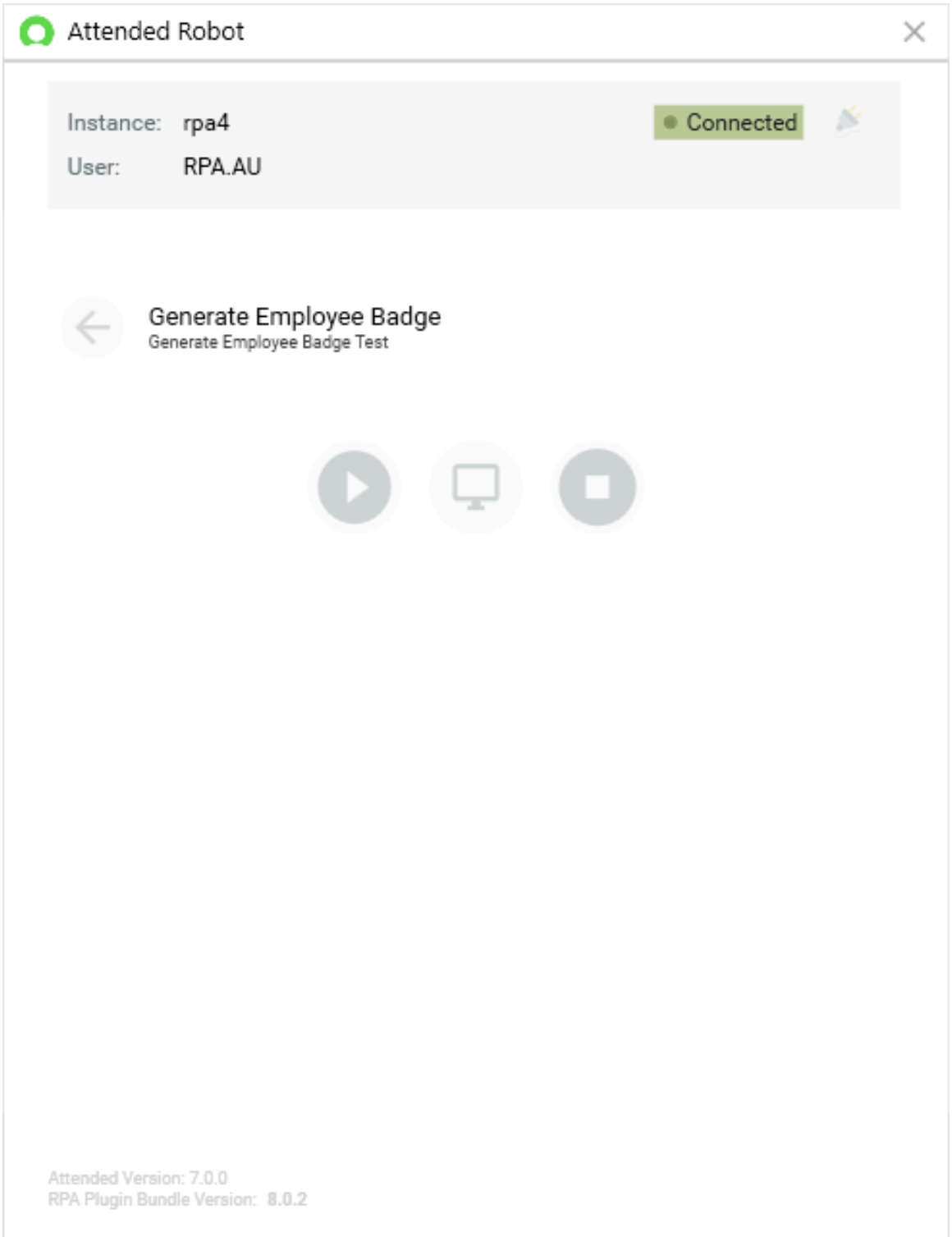
アテンド型ロボットの停止アクションとクローズアクション



8. 自動化が実行されると、自動化フローの終了後に、プロセスジョブレコードが成功または失敗としてマークされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アテンド型ロボットの自動化実行後の画面



9. セッションがタイムアウトした場合は、アテンド型ロボットをシャットダウンします。

認証が失敗すると、次のエラーが表示されます。「認証に失敗したため、自動化を実行できません。(Unable to execute the automation as authentication has failed.) システムアドミニストレーターにお問い合わせください。(Contact your system administrator.)」

自動化の実行を完了するには、有人自動化の **Terminate** コンポーネントを使用します。コンポーネントの詳細については、「Terminate コンポーネントの使用」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

詳細な製品ログを表示するには、製品ログを参照してください。

ServiceNow フォームから有人自動化を起動するための規制

次のシナリオでは、ServiceNow フォームから UI アクションを選択すると、ServiceNow フォームを介した 有人自動化の実行が制限されます。

- 自動化の実行中
- アクティブな子セッション (デスクトップインデスクトップ) が存在する場合
- 自動化が同じユーザーと同じボットプロセスによってトリガーされる場合は、ローカルキャッシュが使用されます。変更を行った場合は、新しい変更が反映されるように、アテンド型ロボットアプリケーションをクローズして再起動します。

アテンド型ロボット の構成

組織での アテンド型ロボット の実装を計画および構成できます。

構成の概要

インストールパッケージをダウンロードし、インストール後に アテンド型ロボット を構成するには、次のタスクを実行します。

1. から アテンド型ロボット をダウンロードしますRPA ハブ。

   アプリケーションをインストールするための前提条件として、RPA ハブ から Windows マシンで アテンド型ロボット アプリケーションを選択してダウンロードします。

2. アテンド型ロボット のインストール

   admin ロールを保持している場合は、アテンド型ロボット アプリケーションを Windows マシンにインストールできます。

3. アテンド型ロボットの設定

   アテンド型ロボットと ServiceNow RPA ハブ インスタンス間の接続を確立します。

4. アテンド型ロボット から RPA ハブ インスタンスへのコネクト

   アテンド型ロボットと ServiceNow RPA ハブインスタンス間の接続を確立できるように、接続マネージャーを使用して RPA ハブインスタンスに 3 つの方法で接続します。

ガイド付きセットアップを使用した アテンド型ロボットの実装

ガイド付きセットアップには一連のタスクがあり、アテンド型ロボット を構成するために役立ちます。ガイド付きセットアップを使用すると、完了した内容が追跡されるため、設定を中断しても、その時点から再開することができます。RPA ハブ のガイド付きセットアップを開くには、[すべて] > [ロボティックプロセス自動化 **(Robotic Process Automation)]** > [管理] > [ガイド付きセットアップ]に移動します。

ガイド付きセットアップインターフェイスの使用の詳細については、「ガイド付きセットアップの使用」を参照してください。

アテンド型ロボット のインストール

admin ロールを保持している場合は、アテンド型ロボット アプリケーションを Windows マシンにインストールできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

アテンド型ロボット アプリケーションのインストールファイルをダウンロードして展開します。詳細については、「RPA ハブ からの RPA アプリケーションのダウンロード」を参照してください。

ハードウェアとソフトウェアの要件を満たしていることを確認します。

次のハードウェア仕様に、最小リソースと推奨リソースを示します。

ハードウェア要件

リソース	最低	推奨
CPU	Intel プロセッサー (1vCPU)	Intel プロセッサー (4vCPU)
RAM	4 GB RAM	8 GB RAM
ディスクスペース	20 GB 以上の空きディスク容量 (OS、パッチ、およびベースソフトウェアのインストール後)	50 GB 以上の空きディスク容量 (OS、パッチ、およびベースソフトウェアのインストール後)

ソフトウェア要件

ソフトウェア要件は以下のとおりです。

- オペレーティングシステム：Microsoft Windows 10 または Windows Server 2016 または Windows Server 2019
- NET フレームワーク：Windows 4.7.1 以降
- DPI スケーリング設定を非アクティブ化する必要があります。

Microsoft Edge WebView2 ランタイムは、ServiceNow ログイン画面が RPA ユーザーと連携するための前提条件です。Microsoft Edge WebView2 ランタイムは、Windows 10 OS の特定のリリースでのみ、デフォルトでインストールされます。これを使用できない場合は、Microsoft Edge WebView2 ランタイムをインストールしてください。

Microsoft Edge WebView2 ランタイムの詳細については、「Delivering Microsoft Edge WebView2 Runtime to managed Windows 10 devices (マネージド Windows 10 デバイスへの Microsoft Edge WebView2 ランタイムの展開)」を参照してください。Microsoft Edge WebView2 ランタイム MSI のダウンロードの詳細については、「Microsoft Edge WebView2」を参照してください。

必要なロール：admin

このタスクについて

アテンド型ロボットは 1 人のユーザーのみにマッピングされます。

手順

1. `Attended Robot.msi` ファイルを見つけて開きます。
2. [アテンド型ロボット セットアップウィザードにようこそ] ダイアログボックスで [次へ] を選択します。
3. [インストールフォルダーの選択 (Select Installation Folder)] ダイアログボックスで、次のいずれかのアクションを実行してフォルダーを選択します。
   - デフォルトのフォルダーにアプリケーションをインストールするには、[次へ] を選択します。
   - 別のフォルダーにアプリケーションをインストールするには、[フォルダー] フィールドでフォルダーの場所を選択するか、[参照] をクリックしてフォルダーを選択し、[次へ] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [インストールの確認 (Confirm Installation)] ダイアログボックスで、[次へ] をクリックしてインストールを開始します。
5. インストールが完了したら、[インストール完了 (Installation Complete)] ダイアログボックスで [閉じる] を選択して終了します。

タスクの結果
デスクトップに アテンド型ロボット アイコンが表示されます。

次のタスク
アテンド型ロボット アプリケーションを設定します。詳細については、「アテンド型ロボットの設定」を参照してください。

アテンド型ロボットの設定

アテンド型ロボットと ServiceNow RPA ハブ インスタンス間の接続を確立します。

アテンド型ロボット の構成の詳細については、このビデオをご覧ください。

https://player.vimeo.com/video/1031638416?h=fef777a493&badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

始める前に
アテンド型ロボット をインストールします。詳細については、「アテンド型ロボット のインストール」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて
RPA ハブ インスタンスを変更する場合を除き、このタスクはアテンド型ロボットの初回設定時に実行します。

Windows マシンで RPA デスクトップデザインスタジオが開かれており、アテンド型ロボット接続マネージャーに新しいプロファイルが追加されている場合に アテンド型ロボットを起動しても、RPA デスクトップデザインスタジオ接続マネージャーには反映されません。新しいプロファイルが RPA デスクトップデザインスタジオ接続マネージャーに追加されている場合は、アテンド型ロボット接続マネージャーで追加したエントリが上書きされます。このようなシナリオでは、プロファイルがアテンド型ロボット接続マネージャーに追加されたときに RPA デスクトップデザインスタジオを再起動します。

手順

1. デスクトップから [アテンド型ロボット] アイコン ( ) をダブルクリックします。
2. [接続マネージャー] ダイアログボックスで、新しい RPA ハブを追加するには、[新しく追加] をクリックします。
   RPA ハブインスタンスを変更する場合を除き、この手順は アテンド型ロボット の初回設定時に実行します。
3. [ServiceNow インスタンスの詳細を追加] ダイアログボックスで、フィールドを入力します。

[ServiceNow インスタンスの詳細] ダイアログボックス

フィールド	アクション
名前	ServiceNow RPA ハブ インスタンス名を入力します。例： `新しいインスタンス`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	アクション
URL	ServiceNow RPA ハブ インスタンス URL を入力します。たとえば、「`https://<instance name>.service-now.com/`」。
デフォルトとしてマークする	このインスタンスをデフォルトのインスタンスとして有効にします。 このオプションをオフにすると、[アテンド型ロボット] アイコンをタブルクリックするたびに [接続マネージャー] ダイアログボックスが開きます。
デフォルトのブラウザーで起動	デフォルトのブラウザーでこのインスタンスを起動します。

4. [保存] を選択します。
5. オプション: 会社のポリシーに従ってインターネット接続の設定を追加するには、次のステップを実行します。

   a. [接続マネージャー] ダイアログボックスの [プロキシ設定] セクションで、フィールドに入力します。

   [接続マネージャー] ダイアログボックス

フィールド	アクション
サーバーアドレス	プロキシーサーバーの URL を入力してください。
名前	ユーザー名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
パスワードを保存	パスワードを保存するオプション。

   b. [保存] を選択します。

6. [接続マネージャー] ダイアログボックスの [RPA ハブ] セクションで、RPA ハブインスタンスを選択します。
7. ServiceNow ダイアログボックスで、次のいずれかのアクションを実行します。
   - 初めてアテンド型ロボットを設定するには、[続行] を選択します。
   - RPA ハブ インスタンスを変更するには、[接続] を選択します。
8. ユーザー名とパスワードを入力します。
9. オプション: [ドメイン] リストからドメインを選択します。
10. [ログイン] を選択します。
11. [接続マネージャー] ダイアログボックスで、アテンド型ロボットアプリケーションが ServiceNow インスタンスに接続してデータにアクセスするための権限を設定します。
    - アテンド型ロボット が ServiceNow インスタンスに接続してデータにアクセスできるようにするには、[許可] を選択します。
    - アテンド型ロボット が ServiceNow インスタンスに接続してデータにアクセスすることができないようにするには、[拒否] を選択します。これ以上先に進むことはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
アテンド型ロボットを実行して、有人ボットプロセスを実行します。詳細については、「アテンド型ロボットを使用した自動化の実行」を参照してください。

アテンド型ロボット から **RPA** ハブ インスタンスへのコネクト

アテンド型ロボット と ServiceNow RPA ハブ インスタンス間のコネクトを確立できるように、接続マネージャーを使用して RPA ハブ インスタンスに 3 つの方法で接続します。

始める前に
アテンド型ロボット と ServiceNow RPA ハブ インスタンス間の接続を確立します。詳細については、「アテンド型ロボットの設定」を参照してください。

必要なロール：なし

手順
1. RPA ハブ インスタンスに接続するには、[接続マネージャー] ダイアログボックスで次のいずれかのアクションを実行します。

オプション	アクション
インスタンスが 1 つの場合	**a.** RPA ハブ セクションで、RPA ハブ インスタンスを選択します。 **b.** [コネクト] を選択します。
複数のインスタンスがあり、いずれもデフォルトとしてマークされていない場合	**a.** RPA ハブ セクションで、RPA ハブ インスタンスを選択します。 **b. [Proceed]** を選択します。 **c.** RPA ハブ セクションで、RPA ハブ インスタンスを選択します。 **d.** [コネクト] を選択します。 **e.** ユーザー名とパスワードを入力します。 **f.** [ドメイン] リストからドメインを選択します。 **g.** [ログイン] を選択します。
インスタンスがデフォルトとしてマークされている場合	**a.** ユーザー名とパスワードを入力します。 **b.** [ドメイン] リストからドメインを選択します。 **c.** [ログイン] を選択します。

2. [接続マネージャー] ダイアログボックスで、アテンド型ロボット アプリケーションが ServiceNow インスタンスに接続してデータにアクセスするための権限を設定します。
   - アテンド型ロボット が ServiceNow インスタンスに接続してデータにアクセスできるようにするには、[許可] を選択します。
   - アテンド型ロボット が ServiceNow インスタンスに接続してデータにアクセスすることができないようにするには、[拒否] を選択します。これ以上先に進むことはできません。

アテンド型ロボット での **RPA** ハブ インスタンスからの切断

アテンド型ロボット の使用中に、随時 RPA ハブ インスタンスから切断します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
RPA ハブ インスタンスに接続します。詳細については、「アテンド型ロボット から RPA ハブ インスタンスへのコネクト」を参照してください。

必要なロール：なし

手順

[アテンド型ロボット] ダイアログボックスで [切断] を選択します。

アテンド型ロボット の使用

アテンド型ロボット を使用して、有人自動化を実行できます。

アテンド型ロボットを使用した自動化の実行

アテンド型ロボットを稼働させて、有人ボットプロセス (有人自動化) を実行します。

始める前に
パッケージを作成します。詳細については、「ボットプロセスにアサインするパッケージの作成」を参照してください。

ライセンスが利用可能であることを確認します。詳細については、「RPA ハブ でのライセンスの配布」を参照してください。

自動アサインシステムプロパティ *sn_rpa_fdn.allow_rda_robot_auto_assignment* が false の場合、アサインされた RPA 支援ユーザーがアテンド型ロボットレコードを使用できる必要があります。自動アサインシステムプロパティが true の場合、自動化の実行時にアテンド型ロボットレコードを自動作成するには、アテンド型ロボットライセンスが使用できる必要があります。このシステムプロパティの詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」を参照してください。

ボットプロセスを作成します。ボットプロセスを作成している場合は、ボットプロセスフォームで [プロセスタイプ] フィールドを **[Attended]** として選択します。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」と「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

ロボットを実行するには、次の条件が満たされていることを確認してください。

- 関連付けられたボットプロセスのライフサイクルステージステータスは [公開済み] である必要があります。
- 実行中のロボットのライフサイクルステージステータスは [使用中] である必要があります。

Attended ユーザーまたはグループを有人ボットプロセスにアサインします。詳細については、「Attended ユーザーまたはグループの有人ボットプロセスへのアサイン」を参照してください。

アテンド型ロボット と ServiceNow RPA ハブ インスタンス間の接続を確立します。詳細については、「アテンド型ロボットの設定」を参照してください。

デスクトップインデスクトップを実行するためのインフラストラクチャ要件を満たしていることを確認します。

最小要件は次のとおりです。

- Intel プロセッサー (1vCPU)
- 8 GB の RAM
- 20 GB 以上の空きディスク容量 (OS、パッチ、およびベースソフトウェアのインストール後)
- Microsoft Windows 10 または Windows Server 2016 または Windows Server 2019

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- .NET Framework 4.7.1 以降
- DPI スケーリング設定を非アクティブ化する必要があります。

推奨要件は次のとおりです。

- Intel プロセッサー (4vCPU)
- 16 GB の RAM
- 50 GB 以上の空きディスク容量 (OS、パッチ 、およびベースソフトウェアのインストール後)。
- Microsoft Windows 10 または Windows Server 2016 または Windows Server 2019
- .NET Framework 4.7.1 以降
- DPI スケーリング設定を非アクティブ化する必要があります。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_assisted_user および snc_internal

注: アテンド型ロボット が連邦情報処理標準 (FIPS) 対応のインスタンスに接続しようとする場合、ロボットユーザーには `snc_internal` ロールが必要です。

このタスクについて

アテンド型ロボットを使用して自動化を実行するには、2 つの方法があります。アテンド型ロボットおよび ServiceNow RPA ハブ インスタンス間の接続を確立した後、次のタスクを実行します。詳細については、「アテンド型ロボットの設定」を参照してください。

手順

1. アテンド型ロボット ダイアログボックスで、実行する有人ボットプロセスを選択します。
   埋め込みタスクの自動化が有効になっているボットプロセスは、このリストに表示されません。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。
2. アテンド型ロボットを実行するには、次のいずれかのアクションを実行します。

オプション	アクション
[実行] オプションから	[実行] アイコン ( ) を選択します。 アテンド型ロボット が自動化を実行します。
[デスクトップインデスクトップ] オプションから	[デスクトップインデスクトップ] アイコン ( ) を選択します。 アテンド型ロボット は、デスクトップセッションで自動化を実行します。 このオプションは、自動化の実行中に同時に作業する場合に役立ちます。 このオプションは、ボットプロセスの作成中に [ボットプロセス] フォームの [デスクトップインデスクトップを有効にする] チェックボックスをオンにした場合にのみ表示されます。詳細については、「RPA ハブ でのボットプロセスレコードの構成」と「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	重要: デスクトップインデスクトップで自動化が実行されると、メインセッションで Zscaler 接続が失われ、ボットセッションで接続が確立されます。これにより、ロボットが応答しない状態になる可能性があります。Zscaler 制限の詳細については、「https://help.zscaler.com/zpa/understanding-client-connector-support-multiple-tenants」を参照してください。 **ヒント:** コンピューターが Windows 11 オペレーティングシステムを使用している場合、Credential Guard が Windows 11 ではデフォルトで有効になっているため、ログイン認証情報の入力が必要になることがあります。毎回ログイン認証情報を入力しなくても済むように、Credential Guard を無効にすることができます。無効にする手順については、「https://learn.microsoft.com/en-us/windows/security/identity-protection/credential-guard/configure?tabs=reg」の「Credential Guard を無効にする」セクションを参照してください。

3. オプション: アテンド型ロボットを停止するには、次のアクションを実行します。
   a. [停止] アイコン ( ) を選択します。
   b. [確認] ダイアログボックスで [はい] を選択します。

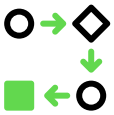
Now Assist for RPA ハブ

Now Assist for RPA ハブ アプリケーションを使用して、自動化開発プロセスを変革します。テキストの指示とプレビューオプションから、自動化、アクティビティ、また追加の自動化ロジックを作成することができます。

開始するには

探索	構成
詳細を確認 - Now Assist for RPA ハブ	Now Assist for RPA ハブ アプリケーションを構成して開始します

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

使用	参照
	
生成 AI を使用して自動化、アクティビティ、自動化ロジックを作成します	ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成スキルの制限について学びます

重要:

- Now Assist の一部の製品/機能は現在、FedRAMP、NSC DOD IL5、オーストラリアの IRAP で保護されたデータセンターのお客様、セルフホスト型のお客様、またはその他の制限された環境のお客様は利用できません。詳細については、Now Support ナレッジベース 記事「 KB0743854 」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を確認してください。
- 現在、一部の地域のお客様は一部の Now Assist 製品/機能をご利用いただけません。詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「 KB1699552 」を参照してください。将来のリリースで可用性の更新を確認してください。

トラブルシューティングとサポート

- ServiceNow コミュニティ
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索する
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

AI の制限事項

このアプリケーションは、データ内のパターンに基づいて予測を生成する急速に進化している研究分野である人工知能 (AI) と機械学習を使用しています。その結果、このアプリケーションは必ずしも正確、完全、または適切な情報を生成するとは限りません。さらに、このアプリケーションがユースケースに合わせて完全にトレーニングまたはテストされているという保証はありません。これらの問題を軽減するために、自身のユースケースに適した精度、損害、適切性についてこのアプリケーションの使用をテストおよび評価し、出力に対する人間による監視を採用し、意思決定の目的のために AI で生成された出力のみに依存しないようにすることは、ユーザーの責任です。これは、医療、ファイナンス、法務、雇用、セキュリティ、インフラストラクチャなど、結果が影響を与える分野にこのアプリケーションを展開することを選択した場合に特に重要です。お客様は、「ServiceNow AI Acceptable Use Policy 」に従うことに同意していただきます。その利用規定は、ServiceNow によって更新される場合があります

データ処理

このアプリケーションでは、ServiceNow 顧客の個々のインスタンスから一元化された ServiceNow 環境にデータを転送する必要があります。この環境は、インスタンスが存在するデータセンターとは異なるデータセンターリージョンに配置されている可能性があり、場合によっては Microsoft Azure などのサードパーティクラウドプロバイダーにも転送されます。このデータは、コアコンプライアンスポータル から利用可能なポリシーを含む、ServiceNow の内部ポリシーと手順に従って処理されます。

データコレクション

ServiceNow は、このアプリケーションの入力、出力を収集して使用し、出力を編集して、ServiceNow モデルや AI 製品などの ServiceNow テクノロジーを開発および改善します。さらに、このアプリケーションは ：コード生成用の Now Assist が呼び出されるスクリプト (および関連するスクリプトレコード) に関する情報。 お客様は、「 Now Assistオプトアウトに関するページ 」の説明に従って、いつでも将来のデータコレクションをオプトアウトできます。

詳細については、Now Assistドキュメント を参照してください。

関連情報

Now Assist for Creator

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now Assist for RPA ハブ の詳細

Now Assist for RPA ハブ アプリケーションを使用すると、RPA デスクトップデザインスタジオユーザーは、テキスト指示とプレビューオプションから、自動化、アクティビティ、および自動化ロジックの追加を作成および編集できます。

Now Assist for RPA ハブ の概要

Now Assist for RPA ハブ アプリケーションは、自動化開発プロセスを変革する生成 AI 機能を提供します。RPA デスクトップデザインスタジオユーザーは、次の生成 AI 機能を利用できます。

- シンプルなまったく新しい自動化を迅速かつ効率的に構築する。
- 既存の自動化に新しいアクティビティを簡単に追加して、モジュール性と拡張性を確保する。
- 空のアクティビティで、または既存のアクティビティでコンポーネントを選択して、テキスト指示を使用して自動化ロジックを拡張する。

新規ユーザーも経験豊富なユーザーも、Now Assist for RPA ハブ アプリケーションを使用すると、自動化をさらに迅速に開発および構築できます。

Now Assist for RPA ハブ のスキル

Now Assist for RPA ハブ アプリケーションには、RPA デスクトップデザインスタジオユーザーがテキスト指示とプレビューオプションから自動化やアクティビティを作成または編集したり、自動化ロジックを追加したりできるようにする生成 AI スキルが含まれています。

RPA ボット生成スキル

RPA ボット生成スキルは、ユーザーがテキスト入力に基づく自動化を構築するのに役立ちます。

このスキルにより、市民開発者が自動化開発プロセスに参加できるようになります。市民開発者は、自動化フローを作成するために、各自のドメインの専門知識とビジネスプロセスに関する知識を提供することができます。市民開発者は、タスクまたはプロセスをテキストを介して自然言語で記述することで、自動化フローを迅速かつ簡単に作成できます。ロボティックプロセスオートメーション (RPA ツール) やプログラミング言語に関する詳しい技術的知識は必要ないため、より多くのユーザーが自動化にアクセスできます。

RPA ボット生成スキルは、ワークフローの作成プロセスを簡素化し、RPA ソリューションの実装に必要な時間と労力を低減します。自動化フローを数時間や数日ではなく数分で生成できるため、価値実現までの時間が短縮されます。

テキストベースの説明を通じて自動化フローを生成することで、RPA は自動化やコーディングの経験がない個人や企業にとってより親しみやすいものになります。

RPA デスクトップデザインスタジオのユーザーインターフェイスから RPA ボット生成スキルにアクセスします。

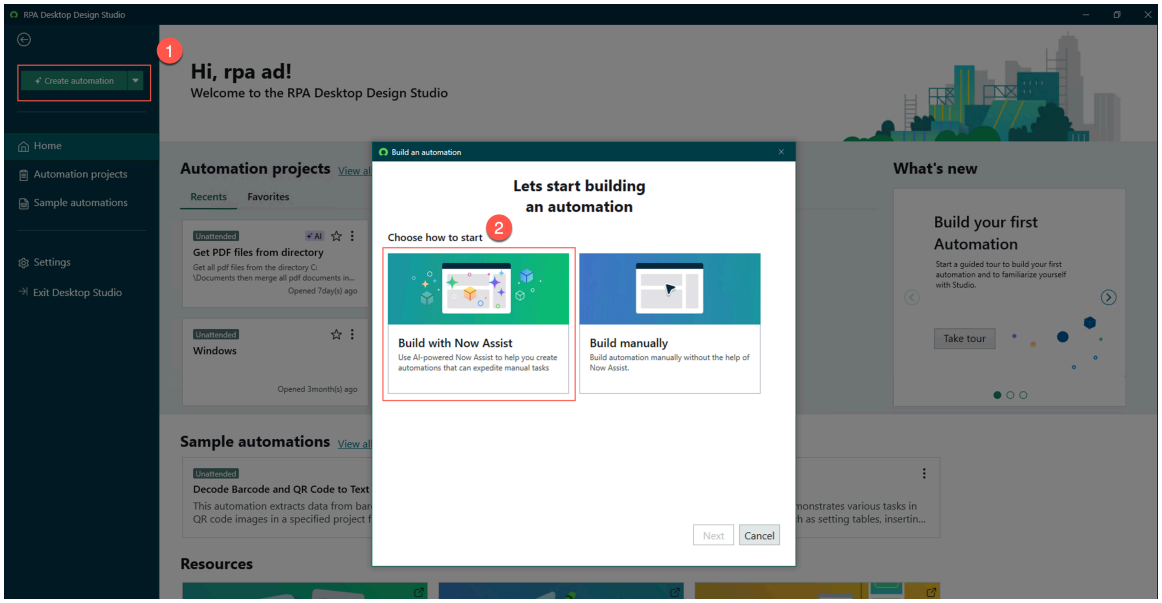
RPA ボット生成スキルを使用すると、ユーザーは次のタスクを実行できます。

- テキスト指示から自動化を作成し、RPA デスクトップデザインスタジオユーザーインターフェイスからオプションをプレビューします。まず、ユーザーは [自動化を作成 **(Create automation)]** オプションを選択し、次に **[Now Assist** を使用したビルド **(Build with Now Assist)]** オプションを選択して開始します。詳細については、「Now Assist を使用した自動化の作成」を参照してください。

  次の例は、RPA デスクトップデザインスタジオユーザーインターフェイスで Now Assist を使用して自動化を作成する方法を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA デスクトップデザインスタジオユーザーインターフェイスから Now Assist を使用して自動化を作成する

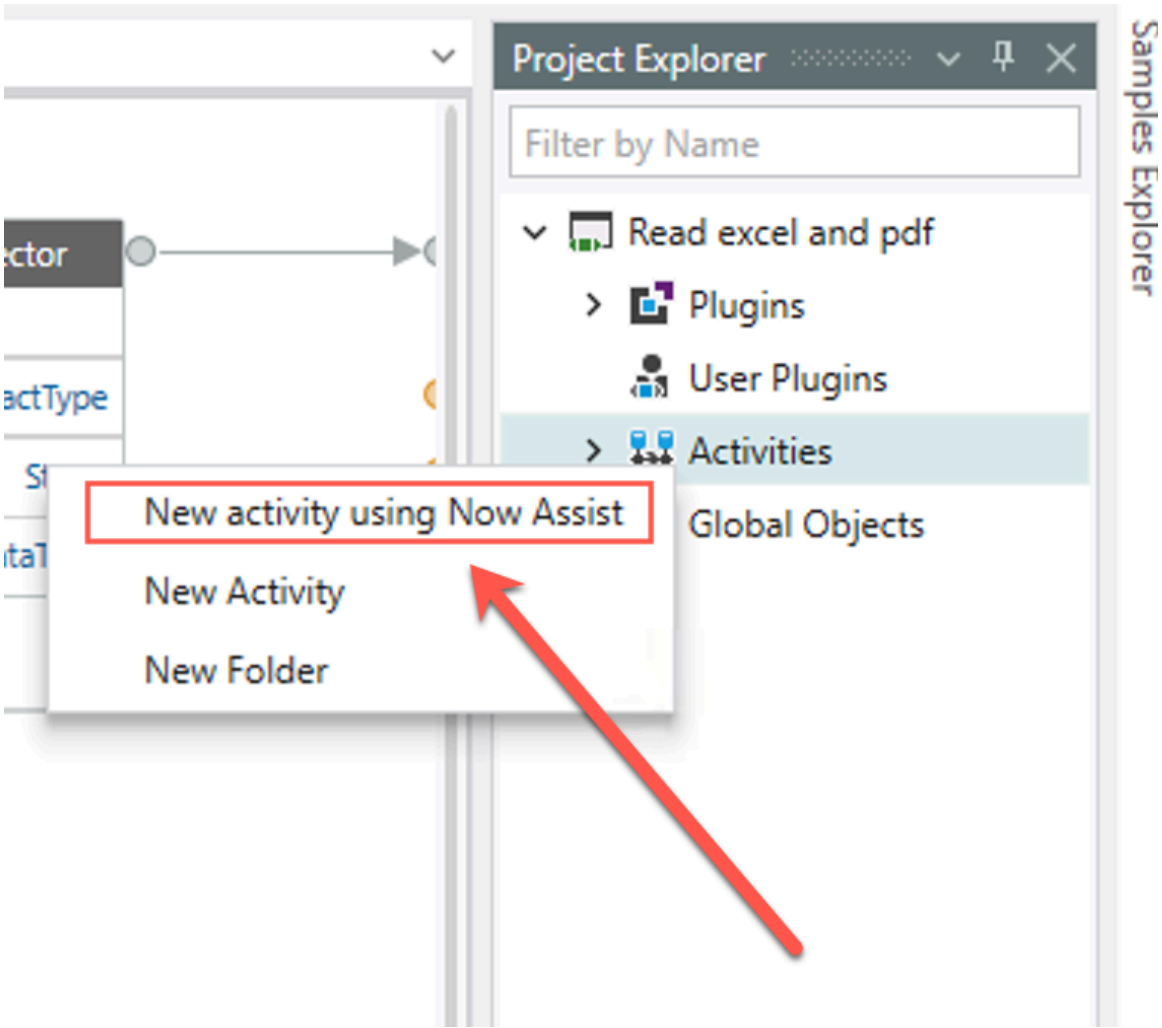


- テキスト指示とプレビューオプションからアクティビティを作成します。詳細については、「Now Assist を使用したアクティビティの作成」を参照してください。

  次の例は、RPA デスクトップデザインスタジオユーザーインターフェイスで Now Assist を使用してアクティビティを作成する方法を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA デスクトップデザインスタジオユーザーインターフェイスから **Now Assist** を使用してアクティビティを作成する

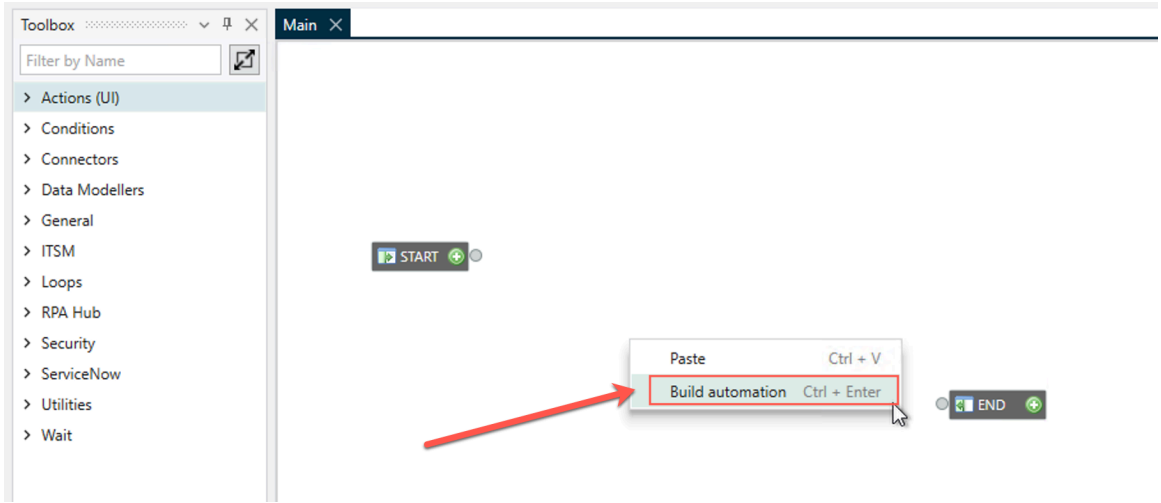


- 空のアクティビティから、または既存のアクティビティ内のコンポーネントを選択することにより、[自動化をビルド **(Build Automation)**] オプションでテキスト指示を使用して、自動化ロジックを拡張します。詳細については、「Now Assist で自動化をビルドする」を参照してください。

  次の例は、RPA デスクトップデザインスタジオユーザーインターフェイスのデザイン面で空のアクティビティから Now Assist を使用してビルドされた自動化ロジックを示しています。

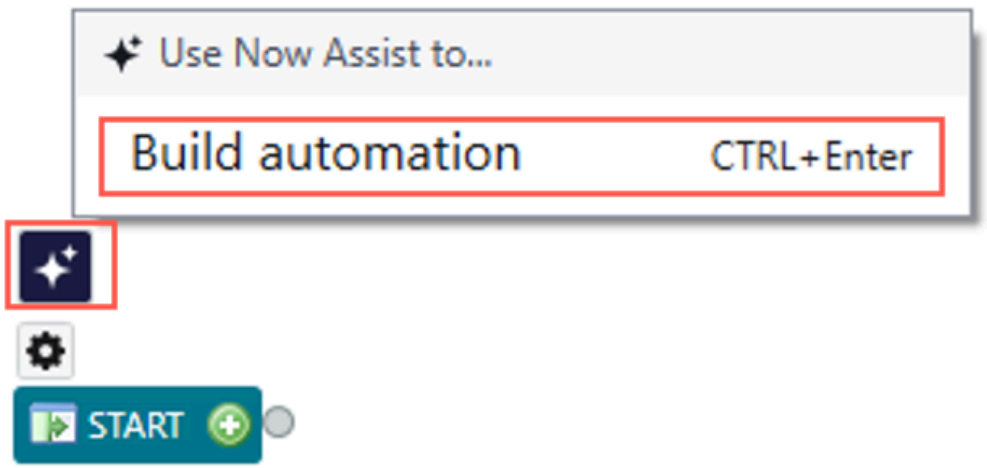
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA デスクトップデザインスタジオユーザーインターフェイスの空のアクティビティから自動化ロジックをビルドする



次の例は、RPA デスクトップデザインスタジオユーザーインターフェイスでコンポーネントを選択し、Now Assist を使用してビルドされる自動化ロジックを示しています。

RPA デスクトップデザインスタジオユーザーインターフェイスでコンポーネントを選択して自動化ロジックをビルドする



Now Assist for RPA ハブ に関するサポート情報

Now Assist for RPA ハブ アプリケーションに関連する重要な情報の簡単な概要を説明します。

サポートされているバージョン

Now Assist for RPA ハブ は Yokohama リリース 12.0.2 でサポートされています。

サポート対象のユーザーインターフェイス

Now Assist を使用して自動化を構築するには、Now Assist for RPA ハブ をインストールしてから、RPA ボット生成スキルをアクティブ化します。詳細については、「RPA ハブ の Now Assist の構成」を参照してください。

Now Assist for RPA ハブ アプリケーションには、次の表に記載されているスキルが含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now Assist for RPA ハブ でサポートされるスキルとインターフェイス

インターフェイス	サポートされているスキル
RPA デスクトップデザインスタジオ - Now Assist を使用した自動化の作成	RPA：ボットの生成
RPA デスクトップデザインスタジオ - Now Assist を使用したアクティビティの作成	
RPA デスクトップデザインスタジオ - Now Assist で自動化をビルドする	

ライセンスの要件

Now Assist for RPA ハブアプリケーションには、オートメーションエンジン (旧称 オートメーションエンジン) ライセンスと クリエーターの Now Assist ライセンスが必要です。

アプリケーション情報

RPA ボット生成スキルを使用するには、Now Assist for RPA ハブ ストアアプリ (com.sn_rpa_na) をアクティブ化します。

このストアアプリには、次の依存関係があります。

- RPA ハブ (com.sn_rpa_fdn)
- クリエーターの Now Assist (com.sn_now_creator)

ロボティックプロセス自動化 **(RPA)** ボット生成

RPA ボット生成スキルを使用して、テキストの指示とプレビューオプションから自動化やアクティビティを作成し、自動化ロジックを追加します。このスキルを使用するには、RPA 開発者ロールまたは RPA アドミンロールが必要です。

アクティベーション

ServiceNow Store の Web サイトから、Now Assist for RPA ハブ アプリケーションをインストールします。詳細については、「RPA ハブ の Now Assist の構成」を参照してください。

次に、RPA ボット生成スキルをオンにして生成 AI を使用し、自動化とアクティビティを作成したり、自動化ロジックを拡張したりします。詳細については、「RPA ボット生成スキルをオンにする」を参照してください。

クリエーターの Now Assist および RPA ハブアプリケーションのサブスクリプションが必要です。詳細については、「Now Assist for RPA ハブ に関するサポート情報」を参照してください。

手順の例

次の例は、自動化、アクティビティ、および自動化ロジックの追加を作成する方法を示しています。

手順例 1：会議メールを取得して処理する

この手順を使用して、Microsoft Outlook で会議メールを取得および処理するための自動化を作成できます。

`Outlook の［カレンダー］フォルダーから会議関連のメールのリストを取得します。メールごとに、すべての添付ファイルを「会議の添付ファイル」という名前の個別のフォルダーに保存します。最後に、メールを既読としてマークします。`

手順例 2：PDF ページを分割して Excel に変換する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この手順を使用して、PDF ページを分割して Microsoft Excel に変換するための自動化を作成できます。

`PDF` の各ページを個別の `PDF` ファイルに分割し、フォルダーパス `'C:\Users\Input'` に配置します。次に、このフォルダーからすべてのファイルを取得して、各ファイルを反復処理し、各 `PDF` ドキュメントを `Excel` に変換します。

手順例 3：JSON オブジェクトにプロパティを追加する

この手順を使用して、JSON オブジェクトにプロパティを追加するための自動化を作成できます。

文字列として表された次のサンプル `JSON` オブジェクトがあります。`{ "name": "Jane Doe", "id": 12345 }` 「Designation」という新しいプロパティを追加し、その値を「Engineer」に設定します。

手順例 4：Word 文書内のテキストを検索して置換する

この手順を使用して、Microsoft Word ドキュメント内のテキストを検索して置換するための自動化を作成できます。

`Word` ドキュメントを開き、Word ドキュメント内の値 `#NAME` を見つけて「*ServiceNow*」に置き換えます。この `Word` ドキュメントを「C:\Users\Desktop\test.docx」に保存します。

手順例 5：データに変更を加えて CSV としてエクスポートする

この手順を使用して、データに変更を加え、CSV ファイルとしてエクスポートするための自動化を作成できます。

リストから `DataTable` をロードし、最初の列の名前を「Name」に設定して、行データを更新します。最後に、このテーブルを `CSV` ファイルとしてエクスポートします。

手順例 6：Excel データを PDF として生成して送信する

この手順を使用して、Microsoft Excel データを生成し、Microsoft Outlook 経由でメールで PDF として送信するための自動化を作成できます。

「C:\Reports\Sales\Monthly_Sales_Data.xlsx」から `Excel` を開きます。Saleschart という名前のシートの売上データに基づいてチャートを生成し、この `Excel` シートを `PDF` ドキュメントとして「C:\Reports\Sales\Reports\Monthly_Sales_Data.pdf」に保存します。次に、Outlook を使用して、これを `team@xyz.com` にメールを送信します。

手順例 7：添付ファイル付きの仕事関連のメールを抽出して要約する

この手順を使用して、添付ファイル付きの仕事関連のメールを抽出して要約するための自動化を作成できます。

`Outlook` で「プロジェクト」フォルダーから添付ファイルを含む仕事関連のメールのリストを抽出します。すべての添付ファイルをシステム上の指定されたフォルダーに保存します。保存されたすべての添付ファイルとそれぞれのメールを一覧表示する概要メールを生成します。このメールをプロジェクトマネージャーに送信します。

手順例 8：PDF ページを分割して読み取る

この手順を使用して、PDF ページを分割して読み取るための自動化を作成できます。

「C:\input\test.pdf」から `PDF` ファイルを読み込み、PDF ファイルを分割して「C:\output」フォルダに保存し、ページごとに `1` つの `PDF` を生成してから、最初のページのテキストを読み取ります。

手順例 9：未読メールをフェッチして保存する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この手順を使用して、未読メールをフェッチして保存するための自動化を作成できます。

`メールアカウントの「AI-inbox」フォルダーからすべての未読メールをフェッチします。各メールを反復処理し、メールを「C:\Mails」フォルダに保存します。`

手順例 10：アプリケーション認証情報を取得して設定する

この手順を使用して、アプリケーション認証情報を取得および設定するための自動化を作成できます。

`ServiceNow インスタンスから、「SAP」アプリケーションという名前のアプリのアプリケーション認証情報を取得します。次に、[ユーザー名] フィールドと [パスワード] フィールドに値を設定します。ログイン要素をクリックします。`

一般的なガイドライン

Now Assist 用の指示を記述するときは、次の一般的なガイドラインに従います。

明確かつ具体的にする

何をしたいかを正確に述べてください。想定しているアクションに対しては、直接的で明確な文章を使用します。

曖昧な表現は避ける

専門用語や略語は使用しないでください。 FD (フローデザイナー) など、ServiceNow の専門用語は使用しないでください。たとえば、「`Trigger a FD action named 'Action1', retrieve its output, and insert it into an existing Word` ('Action1' という名前の FD アクションをトリガーし、その出力を取得して、既存の Word に挿入する)」というような指示は避けてください。代わりに、「`Trigger a flow designer action named 'Action1', retrieve its output, and insert it into an existing Word file located at 'C:\Users\Worddocs\wordoc1.doc'` (Action1' という名前のフローデザイナーアクションをトリガーし、その出力を取得して、「C:\Users\Worddocs\wordoc1.doc」にある既存の Word ファイルに挿入する)」といったフレーズを使用します。

曖昧さを避ける

メソッドに関連するコンテキストを具体的に指定します。たとえば、「`Open file from file path 'C:\Users\Analysis\DataAnalysis.xlsx'` (ファイル パス 'C:\Users\Analysis\DataAnalysis.xlsx' からファイルを開く)」というような指示は避けてください。代わりに、「`Open an excel file from file path 'C:\Users\Analysis\DataAnalysis.xlsx'` (ファイル パス 'C:\Users\Analysis\DataAnalysis.xlsx' から Excel ファイルを開く)」というフレーズを使用します。

求めている内容と制約を設定する

可能な限り、コンポーネントのパラメーターを明確に記述します。たとえば、「`Read the content of the file located in C drive and copy that content as the body of an email and then send it to 'email@ss.ss'` (C ドライブにあるファイルの内容を読み取り、その内容を電子メールの本文としてコピーしてから「email@ss.ss」に送信する)」というような指示は避けてください。代わりに、「`Read the content of the file 'c:/d/f1/txt', and use the content as body to compose an outlook email with subject "my email text", and send this email to 'email@ss.ss'` (ファイル 'c:/d/f1/txt' の内容を読み取り、その内容を本文として使用して "my email text" という件名の Outlook メールを作成し、このメールを 'email@ss.ss' に送信する)」といった指示を使用します。

ステップバイステップの指示を使用する

複雑なタスクを、管理しやすい小さなステップに分割します。たとえば、「`Open a Microsoft Word document located at 'C:\Marketing\Templates\Promo_Letter_Template.docx.', delete a specific page based on`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

`its index, add a new column to a table at a particular position, and close the document with changes saved` ('C:\Marketing\Templates \Promo_Letter_Template.docx' にある Microsoft Word 文書を開き、インデックスに基づいて特定のページを削除し、テーブルの特定の位置に新しい列を追加して、変更を保存して文書を閉じる)」という明確でシンプルな指示を使用します。

RPA ボット生成スキルの制限事項

ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成スキルの制限の詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成スキルの制限事項」を参照してください。

関連情報

ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボットの生成

RPA ハブ の Now Assist の構成

admin ロールを持っている場合は、エージェントが自動化の開発をより迅速に開始できるように、Now Assist for RPA ハブ アプリケーションを構成できます。

始める前に

- 依存関係、ライセンスやサブスクリプションの要件、およびリリースの互換性については、ServiceNow Store での Now Assist for RPA ハブ アプリケーションのリストを確認してください。
- ServiceNow インスタンスで次の手順を実行します。
- 必要なロール：admin

このタスクについて

重要: Now Assist for RPA ハブ では別の クリエーターの Now Assist のサブスクリプションが必要です。

「Now Assist Overview (Now Assist の概要)」を参照して、ServiceNow Now Assist パッケージに含まれる現在購入可能な構築済みスキルを確認し、消費されたアシストの数を確認します。

手順

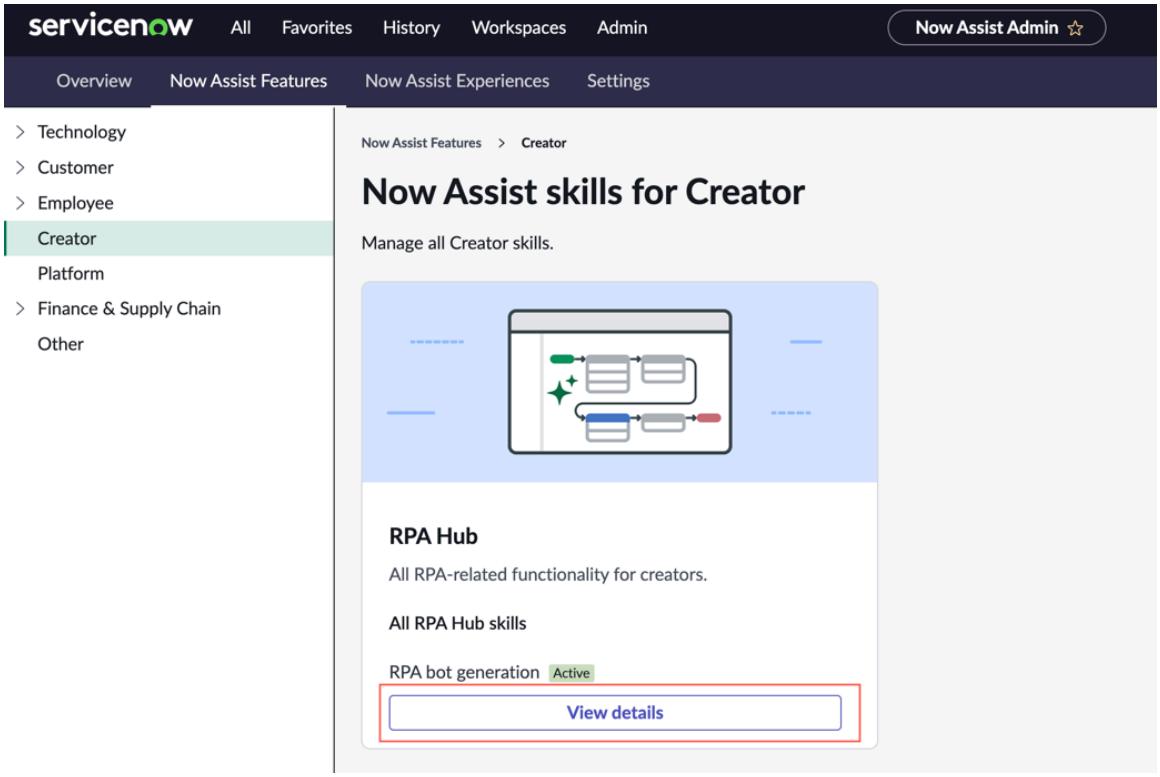
1. [すべて] > *Now Assist* アドミン > [設定] > [プラグイン]に移動します。
2. [利用可能 **(Available for you)**] タブで、**[Now Assist for RPA Hub]** を選択します。
3. [プラグインを取得] を選択します。
4. [Now Assist for RPA ハブ プラグインのインストール (Install Now Assist for RPA Hub plugins)] で、[プラグインをインストール] を選択します。
5. [インストール] を選択します。

次のタスク

ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成スキルをオンにして生成 AI を使用し、テキスト指示とプレビューオプションから自動化、アクティビティ、自動化ロジックの追加を

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

作成します。詳細については、「RPA ボット生成スキルをオンにする」を参照してくださ



い。

RPA ボット生成スキルをオンにする

ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成スキルをオンにして生成 AI を使用し、テキスト指示とプレビューオプションから自動化、アクティビティ、自動化ロジックの追加を作成します。

始める前に

- Now Assist for RPA ハブ アプリケーションをインストールして、生成 AI 機能を追加します。詳細については、「RPA ハブ の Now Assist の構成」を参照してください。
- ServiceNow インスタンスで次の手順を実行します。
- 必要なロール：sn_nowassist_admin.nsa_admin または sn_skill_builder.admin

このタスクについて

重要: Now Assist for RPA ハブ では別の クリエーターの Now Assist のサブスクリプションが必要です。

手順

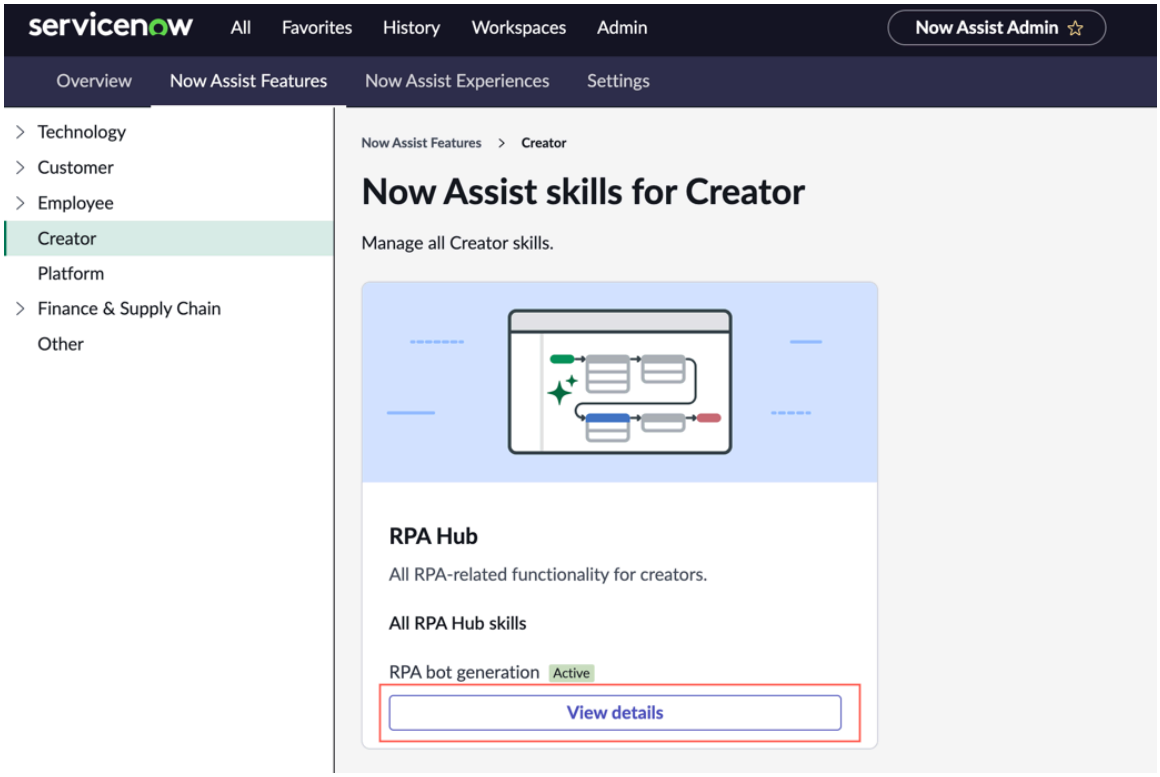
1. [すべて] > *Now Assist* アドミン > [機能]に移動します。
2. ワークフローリストで、[作成者] を選択します。
3. RPA ハブ カードで、[詳細を表示] を選択します。
4. [利用可能なすべての **RPA Hub** スキル **(All available RPA Hub skills)]** から、RPA ボット生成に対して [オンにする **(Turn on)]** を選択します。
5. RPA ハブのカードで、RPA ボット生成スキルがアクティブであることを確認します。

タスクの結果

次の例では、RPA ハブのカードに RPA ボット生成スキルがアクティブ化済みとして表示されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティブ化済み **RPA** ボット生成スキル



次のタスク
RPA ボット生成スキルをアクティブ化した後、RPA デスクトップデザインスタジオユーザーは RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションを再起動して、変更した設定を適用する必要があります。

関連情報

ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成

RPA ボット生成スキルの別の大規模言語モデル **(LLM)** プロバイダーに切り替える

ロボティックプロセス自動化ボット生成スキルの使用時に、別の大規模言語モデル (LLM) プロバイダーに切り替えます。これにより、お住まいの地域で Azure を利用できない場合でも、良好な結果とアクセシビリティを得ることができます。Now LLM サービスを使用するだけでなく、gpt4o LLM を使用することもできます。

始める前に
ServiceNow インスタンスで次の手順を実行します。

必要なロール：sn_skill_builder.admin

このタスクについて
カスタム LLM のアシストは別途課金されます。

RPA ボット生成スキルの LLM プロバイダーを切り替えるには、接続レコードを作成し、関連する認証情報レコードを追加します。その後、RPA ボット生成スキルのクローン作成をします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. プロバイダーを切り替える前に、接続レコードを作成し、関連する認証情報レコードを追加します。

   a. [すべて] > [接続 **&** 認証情報] > [接続および認証情報エイリアス **(Connections & Credential Aliases)]**に移動します。

   b. **[RPA** カスタム **LLM** 認証情報 **(RPA Custom LLM Credentials)]** レコードを選択します。

   c. [接続] タブで、[新規] を選択します。

   d. 接続レコードを作成し、認証情報を追加します。
   [接続 **URL]** フィールドに、gpt4o モデルを使用するために追加する必要がある API エンドポイントを入力します。

   Azure OpenAI の場合、接続 URL は `https://{your-resource-name}.openai.azure.com` の形式です。詳細については、AzureOpenAI に関するドキュメント を参照してください。

   注: gpt4o LLM のみがサポートされています。

   e. [保存] を選択します。

   f. [認証情報] フィールドで、検索アイコン ( ) を選択し、[新規] を選択して、[カスタムヘッダー **API** キー認証情報] を選択します。

   g. フォームのフィールドに入力します。

   [カスタムヘッダー **API** キー認証情報] レコードフォーム

フィールド	説明
名前	この認証情報に対する、分かりやすい名前。
ヘッダー名	API キーを送信するヘッダーの名前。 例：`api-key`
API キー	使用する API キーです。

   h. [送信] を選択します。

   i. [保存] を選択します。

2. RPA ボット生成スキルのクローン作成をします。

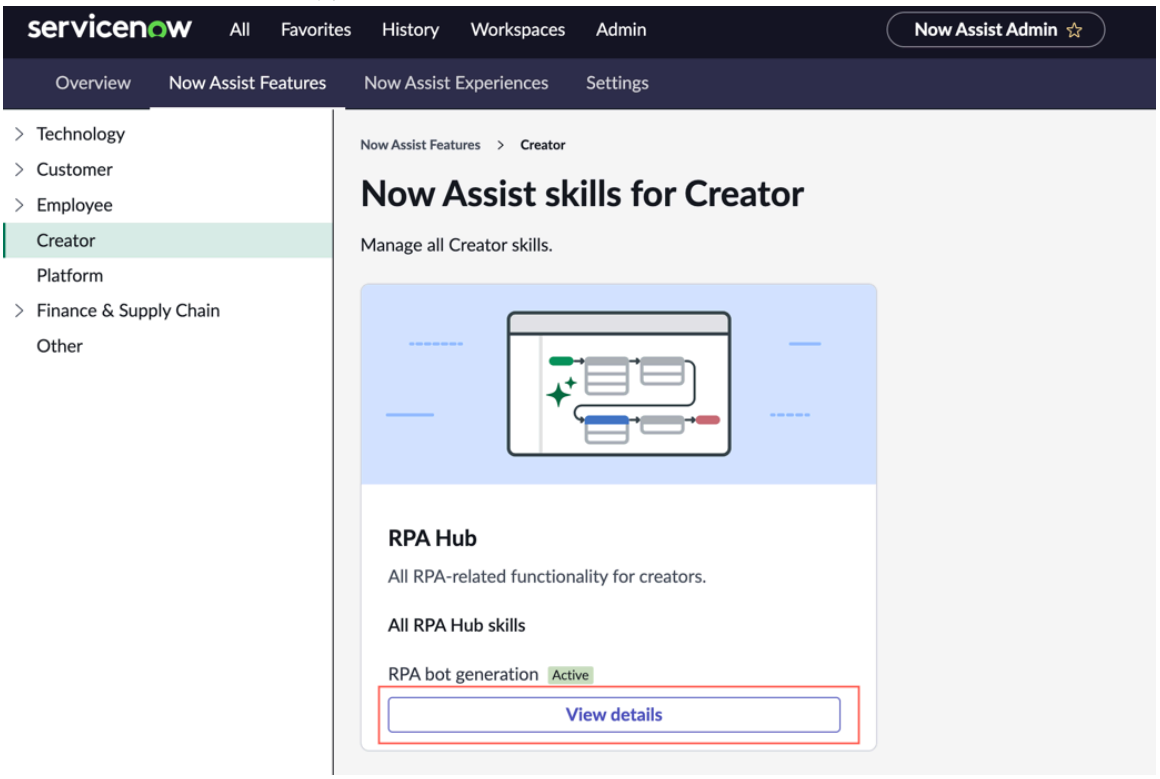
   a. [すべて] > *Now Assist* アドミン > [機能]に移動します。

   b. ワークフローリストで、[作成者] を選択します。

   c. RPA ハブ カードで、[詳細を表示] を選択します。

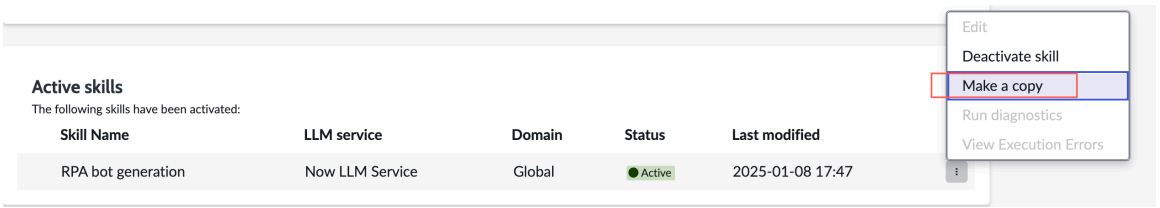
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA ボット生成スキルの詳細を表示



d. 3 つのドットアイコン (⋮) を選択し、[コピーを作成] を選択します。

RPA ボット生成スキルのクローン作成



スキルのクローン作成の詳細については、「ServiceNow スキルのクローン作成と編集」を参照してください。

3. プロバイダーを切り替えます。

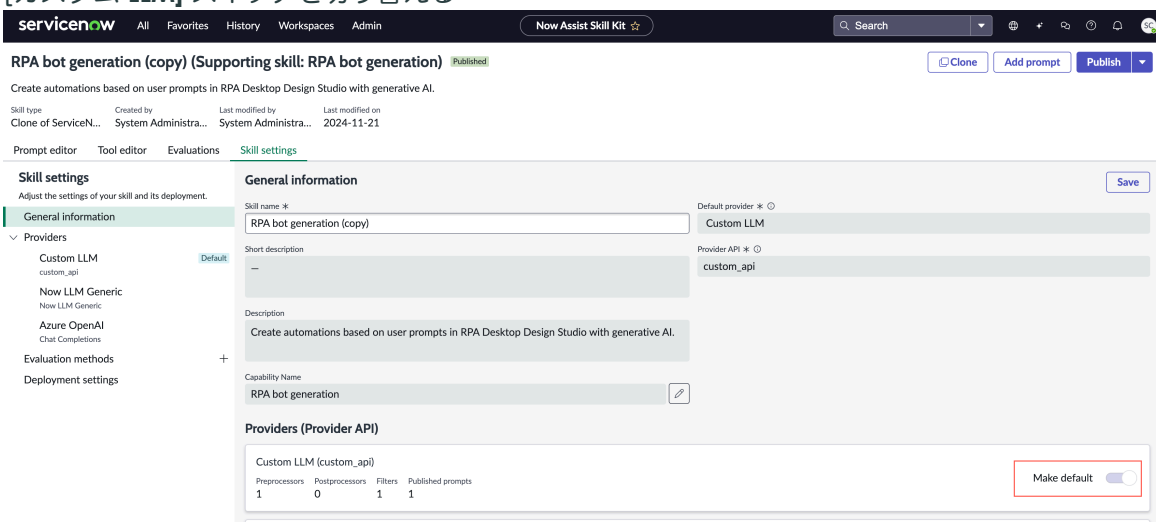
a. [すべて] > **[***Now Assist* スキルキット] > [ホーム] に移動します。

b. **[ServiceNow スキル (ServiceNow skills)]** タブで、RPA ボット生成スキルのクローンコピーを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [スキル設定 **(Skill settings)]** タブの [プロバイダー (プロバイダー API)] セクションで、[カスタム LLM] スイッチを切り替えてデフォルトのプロバイダーにします。

[カスタム **LLM]** スイッチを切り替える



タスクの結果
gpt4o LLM を使用して、Now Assist for RPA ハブ 機能の使用を開始できます。

Now Assist for RPA ハブ の使用

RPA デスクトップデザインスタジオユーザーは、Now Assist for RPA ハブ アプリケーションを使用すると、 テキスト指示とプレビューオプションから、自動化、アクティビティ、および自動化ロジックの追加を作成できます。

RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションを使用して、次のタスクを実行します。

1. Now Assist を使用した自動化の作成。

   生成 AI を使用して、テキスト指示とプレビューオプションから自動化を作成します。

2. Now Assist を使用したアクティビティの作成。

   生成 AI を使用して、テキスト指示とプレビューオプションからアクティビティを作成します。アクティビティは、RPA デスクトップデザインスタジオの自動化プロジェクトにモジュール性を持たせます。

3. Now Assist で自動化をビルドする。

   生成 AI を使用して、コンポーネントまたは空のデザイン面から開始して、テキスト指示に基づく自動化ロジックを拡張します。

Now Assist を使用した自動化の作成

Now Assist for RPA ハブ アプリケーションを使用して、テキスト指示とプレビューオプションから自動化を作成します。

始める前に
RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションを設定して、ServiceNow のインスタンスの詳細を追加します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオの設定」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA デスクトップデザインスタジオで Now Assist for RPA ハブ の機能にアクセスするには、次の手順を実行します。

- Now Assist for RPA ハブ アプリケーションをインストールして、生成 AI 機能を追加します。詳細については、「RPA ハブ の Now Assist の構成」を参照してください。
- 生成 AI 機能を使用するには、RPA ボット生成スキルをオンにします。詳細については、「RPA ボット生成スキルをオンにする」を参照してください。
- RPA ボット生成スキルをアクティブ化した後、RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションを再起動して、変更した設定を適用します。

これらの手順をスキップすると、Now Assist for RPA ハブ の機能が RPA デスクトップデザインスタジオに表示されません。

RPA ボット生成スキルの概念について理解しておいてください。詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

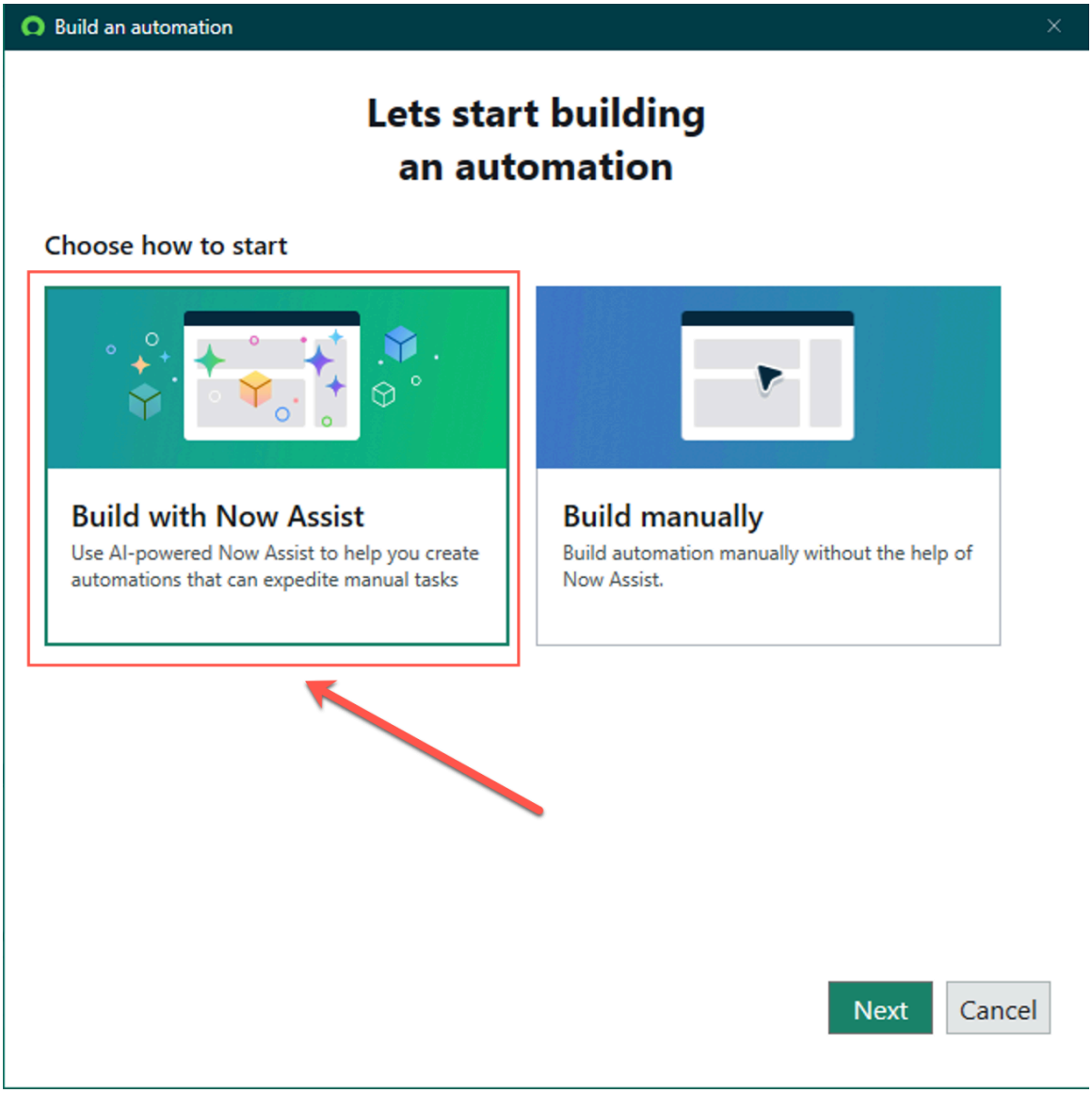
自動化プロジェクトを手動で作成するには、「自動化プロジェクトを手動で作成する」を参照してください。

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオのホームページで、[自動化を作成 **(Create automation)]** を選択します。
2. [自動化をビルド (Build an automation)] ウィンドウで、**[Now Assist** を使用したビルド **(Build with Now Assist)]** オプションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now Assist を使用したビルド



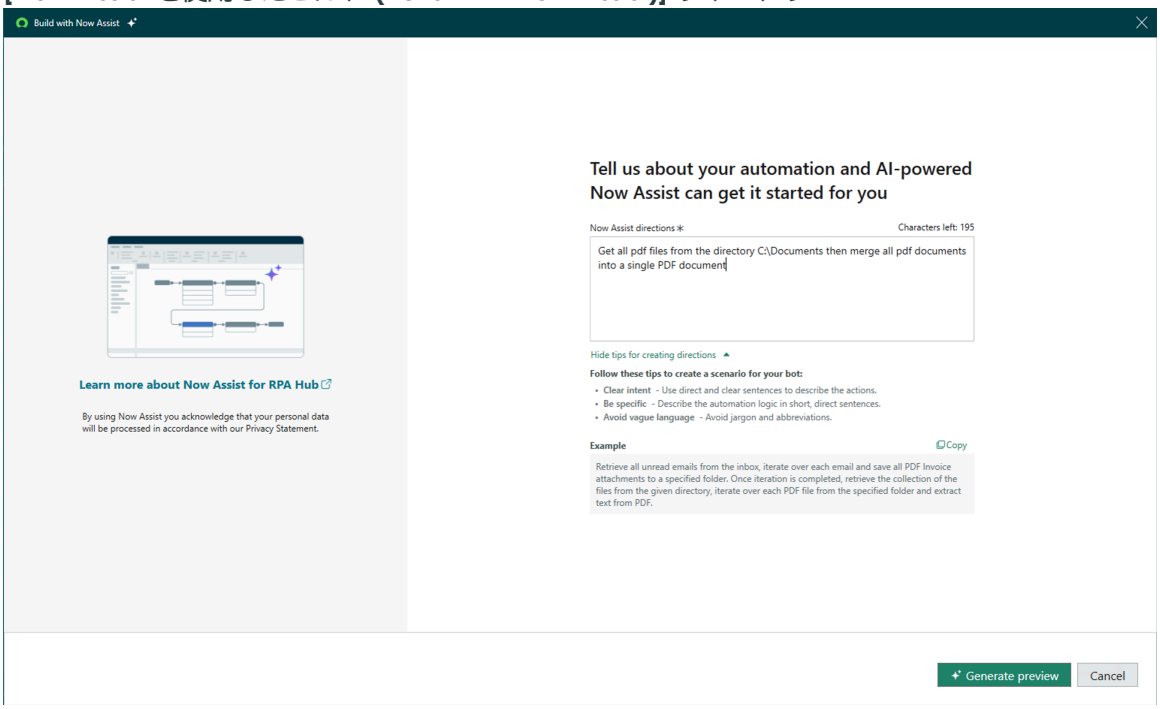
3. [次へ] を選択します。
4. [Now Assist を使用したビルド (Build with Now Assist)] ウィンドウで、Now Assist の指示を入力します。

   指示テキストは、RPA ボット生成スキルが自動化を作成するために使用されます。短く、直接的で、明確な文章を使用して、想定しているアクションを説明します。自動化ロジックを具体的に詳細に記述してください。専門用語や略語は避けてください。

   次の例は、ある場所から PDF ファイルを取得し、すべての PDF ドキュメントを 1 つの PDF ドキュメントに結合する自動化をビルドできるように、Now Assist への指示が入力されていることを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[Now Assist を使用したビルド (Build with Now Assist)] ウィンドウ



参考のために、指示の例が表示されます。

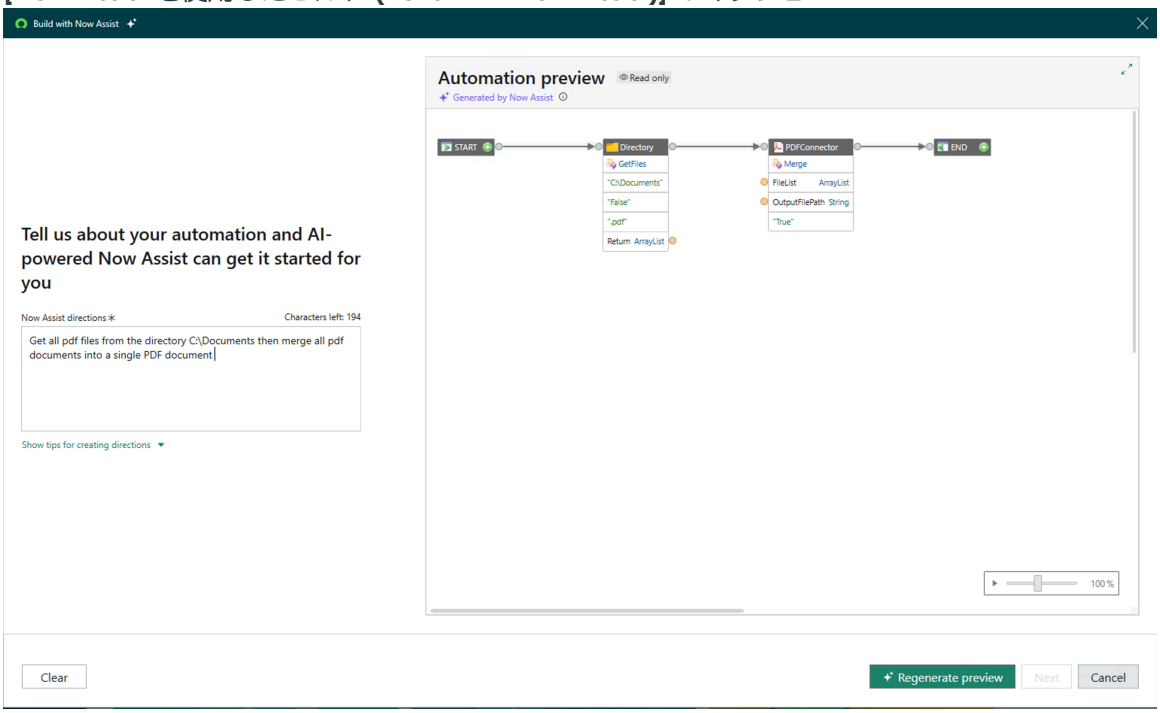
> **注:**
>
> 指示の例と、Now Assist 用の指示を記述するための一般的なガイドラインの詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成」を参照してください。RPA ボット生成スキルの制限の詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成スキルの制限事項」を参照してください。

5. [プレビューを生成] を選択します。
6. オプション: [Now Assist を使用したビルド (Build with Now Assist)] ウィンドウで、プレビューを再生成するか、ワークフローをクリアするか、自動化の作成を停止するか、[次へ] を選択して自動化プレビューを確認できます。

> **注:** [自動化プレビュー (Automation preview)] 画面は読み取り専用のため、変更を加えることはできません。最大化し、スクロールオプションを使用して、生成された自動化ワークフロー全体を確認できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[Now Assist を使用したビルド (Build with Now Assist)] のオプション

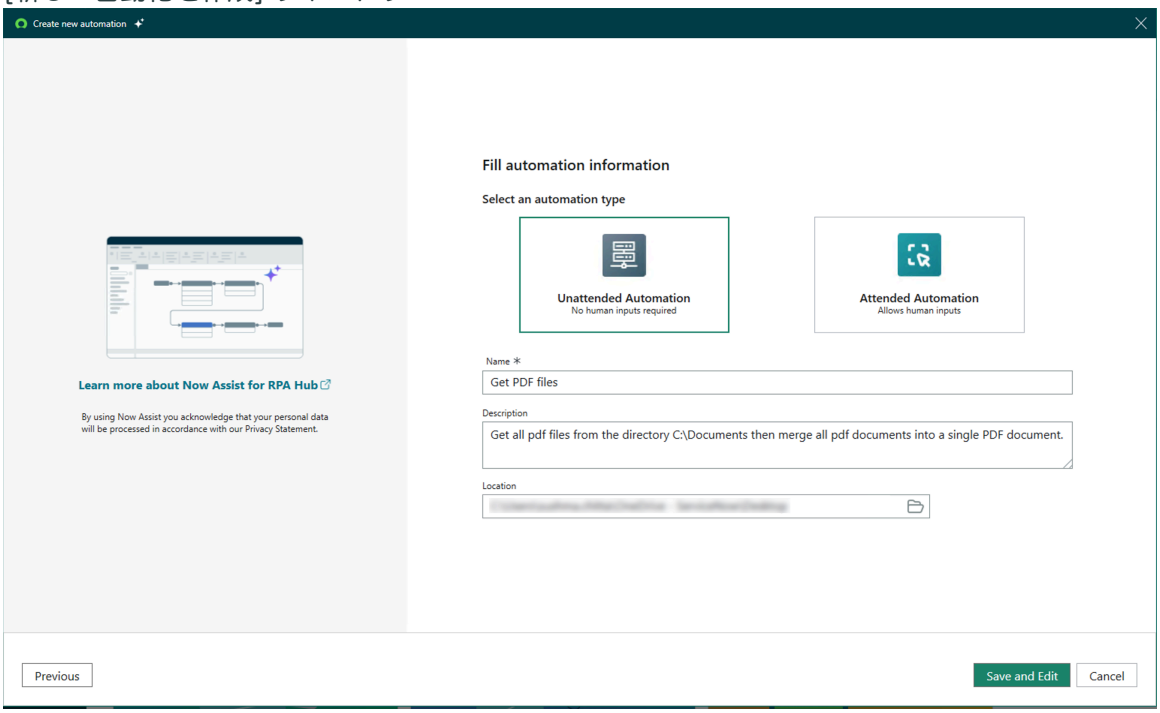


オプション	手順
プレビューを再生成	生成された自動化プレビューがニーズを満たさない場合は、Now Assist の指示を更新して、[プレビューを再生成] を選択できます。 自動化をビルドまたは再ビルドするたびに、その操作は Now Assist サブスクリプションによって追跡されるアシストとしてカウントされます。Now Assist の使用状況を追跡するには、「サブスクリプション管理 での Now Assist 使用状況のモニタリング」を参照してください。
クリア	Now Assist および Now Assist の指示によって作成されたワークフローをクリアする場合は、[クリア] を選択し、[自動化のクリアを確定 (Confirm clear automation)] ウィンドウで [はい] を選択します。
キャンセル	自動化の作成を停止してRPA デスクトップデザインスタジオのホームページに戻る場合は、[キャンセル] を選択します。[キャンセルを確定] ウィンドウで、[はい] を選択して前の画面に戻ります。 生成された自動化ワークフローは、存在する場合でも保存されません。
次へ	自動化のプレビューに問題がなければ、 [次へ] を選択します。

7. [新しい自動化を作成] ウィンドウで、フィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[新しい自動化を作成] ウィンドウ



注:

指示によって生成されるワークフローに、選択した自動化タイプと互換性のないコンポーネントが含まれる場合、それらのコンポーネントは生成されたワークフローで不明として表示されます。たとえば、ワークフローに GracefulStop コンポーネントが含まれている場合に [有人の自動化 **(Attended Automation)]** を選択すると、GracefulStop コンポーネントは有人自動化ではサポートされていないため、不明として表示されます。

自動化の作成フォーム

フィールド	説明
自動化タイプを選択 (Select an automation type)	自動化のタイプ。[無人の自動化 **(Unattended Automation)]** または [有人の自動化 **(Attended Automation)]** を選択します。 無人の自動化は、人間の監督は不要で、繰り返しの多いタスクに使用できます。たとえば、無人ロボットを使用すると、Microsoft Excel ファイルへのコピーと貼り付けタスクをシームレスに実行できるため、カスタマーリレーションシップマネジメント (CRM) システムのデータ入力が簡素化され、人間による入力を不要にできます。 有人の自動化には、人間の監督が必要です。たとえば、連絡先センターでは、ロボットがユーザーアシスタントとして使用されます。ロボットはオペレーターのワークステーションにインストールされ、人間のオペレーターがオンデマンドでトリガーします。
名前	無人または有人の自動化プロジェクトの名前。

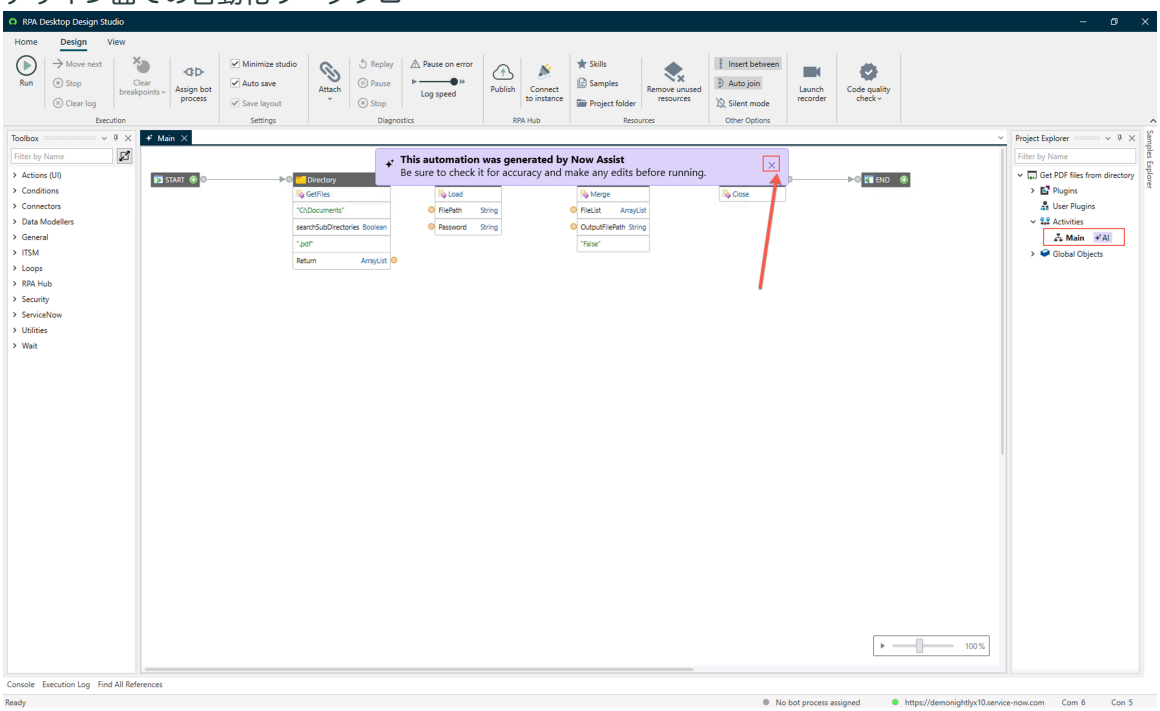
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
説明	無人または有人の自動化プロジェクトの説明。
ロケーション	自動化プロジェクトの場所またはデォルトの場所。

8. **[Save and Edit** (保存して編集)] を選択します。

> **重要:** 自動化は Now Assist によって生成されます。必ず正確性を確認して編集を行ってから、実行してください。
>
> 表示されたメッセージを閉じると、見やすくなります。

デザイン面での自動化ワークフロー



タスクの結果
自動化フローがデザイン面で起動され、[アクティビティ] に [メイン (Main)] アクティビティとして追加されます。

Now Assist を使用したアクティビティの作成

Now Assist for RPA ハブ アプリケーションを使用して、テキスト指示とプレビューオプションからアクティビティを作成します。アクティビティは、RPA デスクトップデザインスタジオ の自動化プロジェクトにモジュール性を持たせます。

始める前に
RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションを設定して、ServiceNow のインスタンスの詳細を追加します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオの設定」を参照してください。

RPA デスクトップデザインスタジオで Now Assist for RPA ハブ の機能にアクセスするには、次の手順を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Now Assist for RPA ハブ アプリケーションをインストールして、生成 AI 機能を追加します。詳細については、「RPA ハブ の Now Assist の構成」を参照してください。
- 生成 AI 機能を使用するには、RPA ボット生成スキルをオンにします。詳細については、「RPA ボット生成スキルをオンにする」を参照してください。
- RPA ボット生成スキルをアクティブ化した後、RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションを再起動して、変更した設定を適用します。

これらの手順をスキップすると、Now Assist for RPA ハブ の機能が RPA デスクトップデザインスタジオに表示されません。

RPA ボット生成スキルの概念について理解しておいてください。詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

アクティビティは、 RPA デスクトップデザインスタジオ の [デザイン面 (Design surface)] で自動化のために設計された再利用可能な命令一式です。アクティビティを使用して自動化全体を小さな単位に分割し、自動化ロジックを理解しやすくします。

[デザイン面 (Design surface)] のアクティビティで、さまざまなコンポーネントを使用して自動化ワークフローを設計できます。

各アクティビティには、デフォルトで開始と終了の 2 つのコンポーネントが含まれています。これらのコンポーネントはアクティビティの開始点と終了点であるため、削除できません。

アクティビティを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグすることで、同じ自動化プロジェクト内で各アクティビティを複数回再利用できます。異なる自動化プロジェクトのアクティビティをインポートすることもできます。

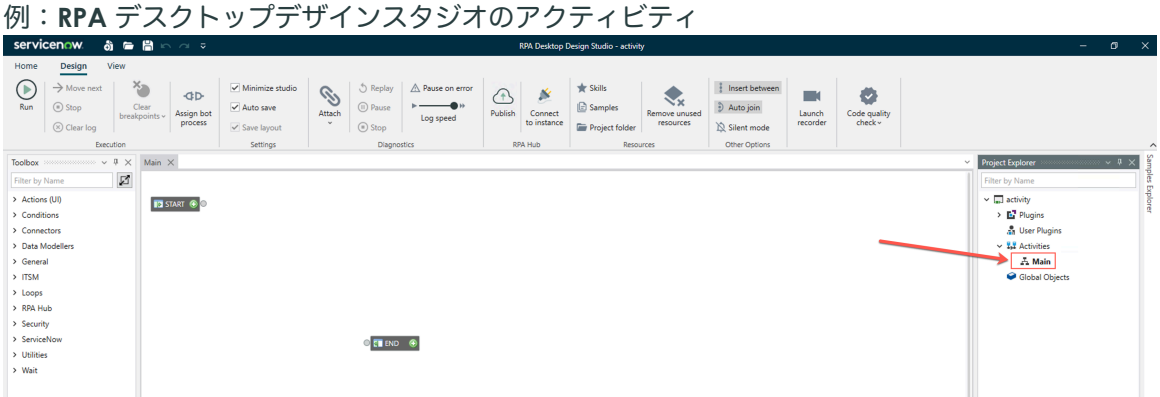
アクティビティを手動で作成するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でアクティビティを作成して使用する」を参照してください。

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオ の [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、[アクティビティ] に移動します。

   [アクティビティ] セクションには、各プロジェクトで作成されたすべてのアクティビティが一覧表示されます。デフォルトでは、新規プロジェクトが開始されるとメインアクティビティが作成されます。次の例に示すように、自動化の実行はスタートアップアクティビティ (この場合は [メイン] アクティビティ) から開始されます。

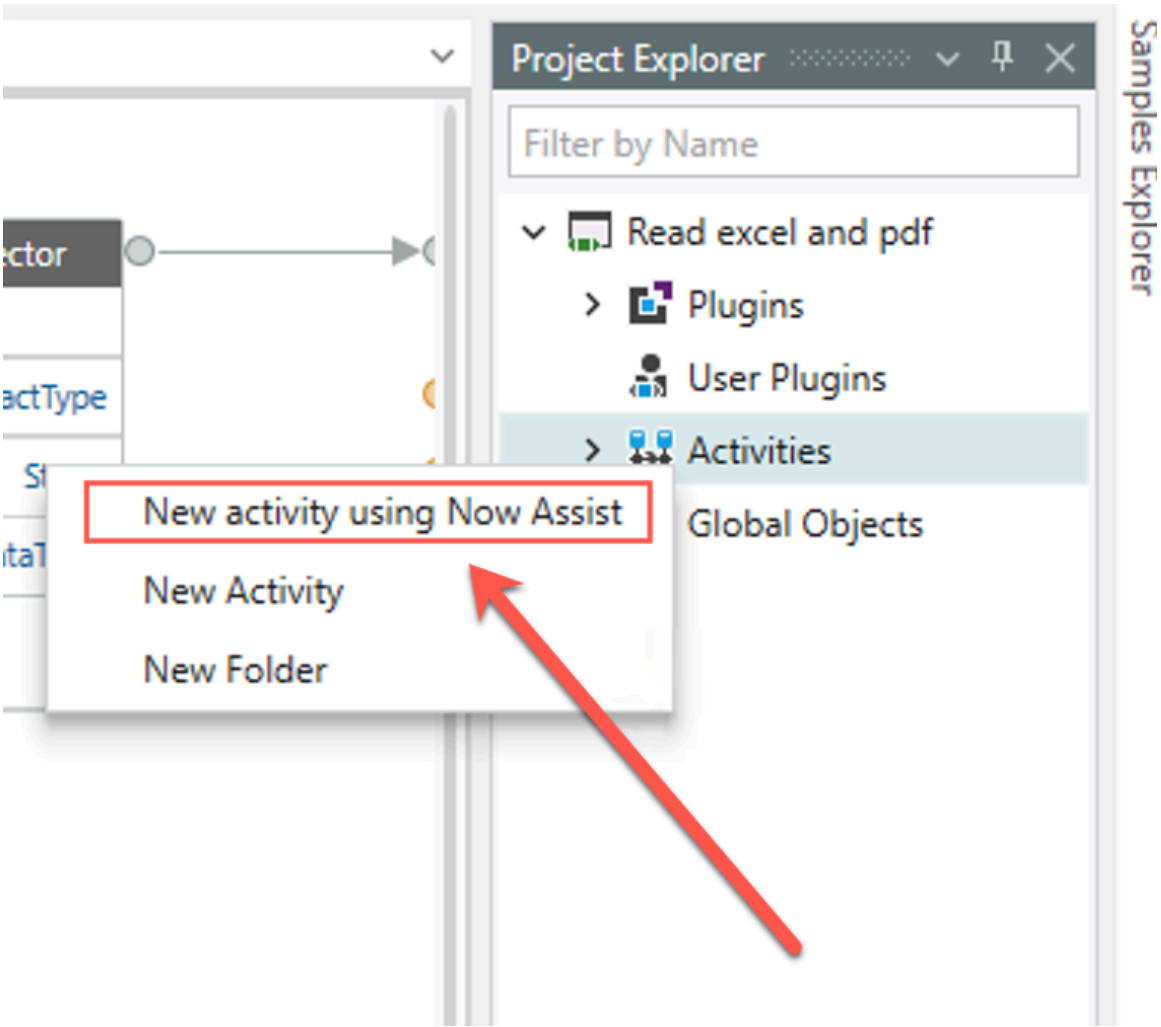
   例：**RPA** デスクトップデザインスタジオのアクティビティ



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで [アクティビティ] を右クリックし、**[Now Assist** を使用した新規アクティビティ **(New activity using Now Assist)]** を選択します。

Now Assist を使用してアクティビティを作成する



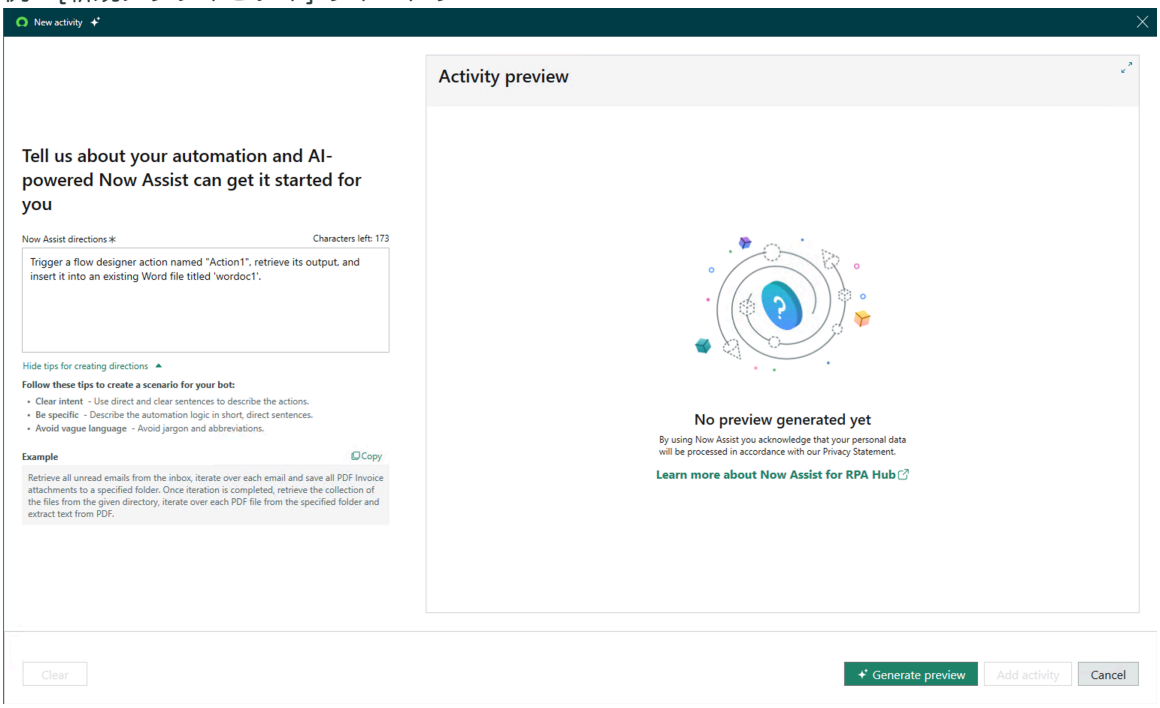
3. [新規アクティビティ] ウィンドウで、Now Assist の指示を入力します。

   指示テキストは、RPA ボット生成スキルが自動化を作成するために使用されます。短く、直接的で、明確な文章を使用して、想定しているアクションを説明します。自動化ロジックを具体的に詳細に記述してください。専門用語や略語は避けてください。

   次の例は、フローデザイナーをトリガーし、出力を取得して既存の Microsoft Word ドキュメントに挿入する自動化をビルドするための Now Assist の指示が入力されていることを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例：[新規アクティビティ] ウィンドウ



注:

指示の例と、Now Assist 用の指示を記述するための一般的なガイドラインの詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成」を参照してください。RPA ボット生成スキルの制限の詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成スキルの制限事項」を参照してください。

4. [プレビューを生成] を選択します。
5. オプション: [新規アクティビティ] ウィンドウで、プレビューの再生成、ワークフローのクリア、自動化のキャンセル、またはアクティビティの追加を行います。

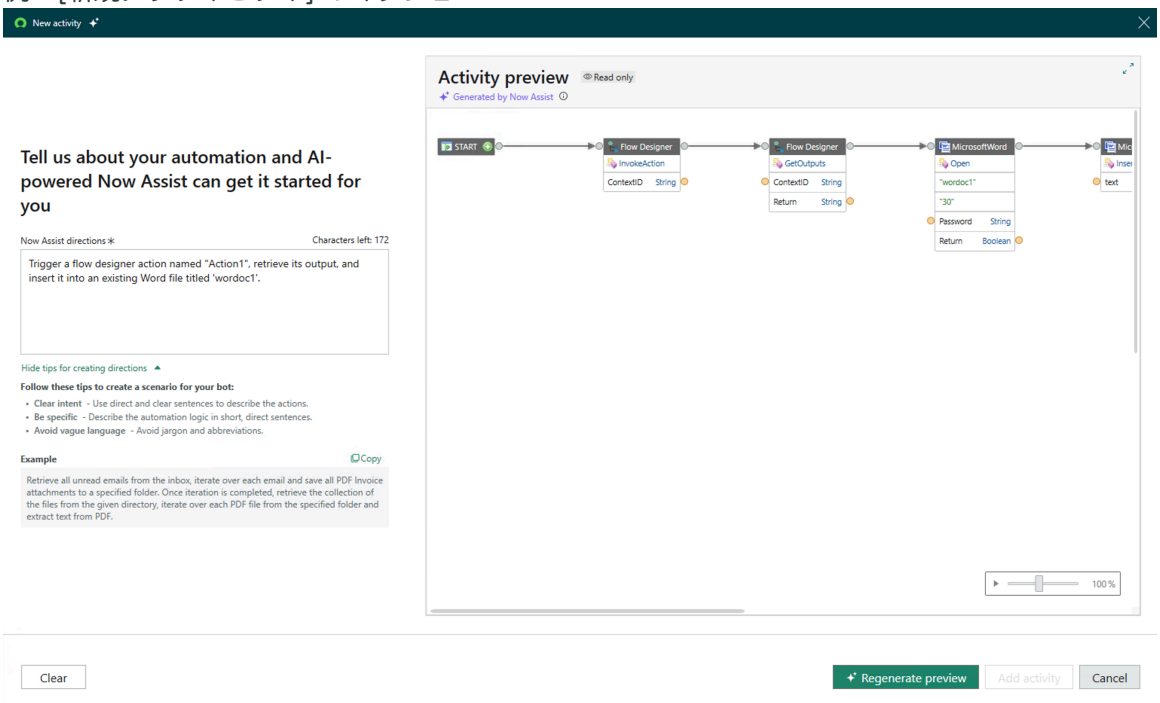
注:

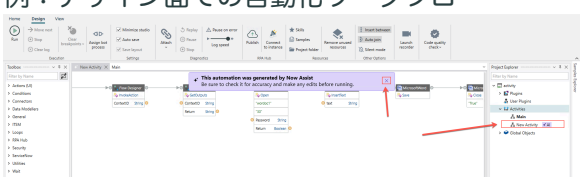
[アクティビティのプレビュー (Activity preview)] 画面は読み取り専用のため、変更を加えることはできません。最大化し、スクロールオプションを使用して、生成された自動化ワークフロー全体を確認できます。

指示によって生成されるワークフローに、現在のプロジェクトタイプと互換性のないコンポーネントが含まれる場合、それらのコンポーネントは生成されたワークフローで不明として表示されます。たとえば、ワークフローに GracefulStop コンポーネントが含まれていて、現在のプロジェクトが有人自動化の場合、GracefulStop コンポーネントは有人自動化ではサポートされていないため、不明として表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例：[新規アクティビティ] のオプション



オプション	手順
プレビューを再生成	生成された自動化プレビューがニーズを満たさない場合は、Now Assist の指示を更新して、[プレビューを再生成] を選択できます。 自動化をビルドまたは再ビルドするたびに、その操作は Now Assist サブスクリプションによって追跡されるアシストとしてカウントされます。Now Assist の使用状況を追跡するには、「サブスクリプション管理 での Now Assist 使用状況のモニタリング」を参照してください。
クリア	Now Assist の指示によって作成されたワークフローをクリアする場合は、[クリア] を選択し、[自動化のクリアを確定 (Confirm clear automation)] ウィンドウで [はい] を選択します。
キャンセル	自動化の作成を停止してデザイン面に戻る場合は、[キャンセル] を選択します。[キャンセルを確定] ウィンドウで、[はい] を選択して前の画面に戻ります。 追加されたコンテンツは保存されません。
アクティビティを追加する	自動化のプレビューに問題がなければ、[アクティビティを追加] を選択します。 **重要:** 自動化は Now Assist によって生成されます。必ず正確性を確認して編集を行ってから、実行してください。 表示されたメッセージを閉じると、見やすくなります。 例：デザイン面での自動化ワークフロー 

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タスクの結果
自動化フローが [アクティビティ] に [新規アクティビティ] として追加されます。

次のタスク
アクティビティに対するその他のアクションについては、「RPA デスクトップデザインスタジオ でアクティビティを作成して使用する」を参照してください。

Now Assist で自動化をビルドする

Now Assist for RPA ハブアプリケーションを使用し、空のアクティビティで、または既存のアクティビティのコンポーネントを選択して、テキスト指示で自動化ロジックを拡張します。

始める前に
RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションを設定して、ServiceNow のインスタンスの詳細を追加します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオの設定」を参照してください。

RPA デスクトップデザインスタジオで Now Assist for RPA ハブ の機能にアクセスするには、次の手順を実行します。

- Now Assist for RPA ハブ アプリケーションをインストールして、生成 AI 機能を追加します。詳細については、「RPA ハブ の Now Assist の構成」を参照してください。
- 生成 AI 機能を使用するには、RPA ボット生成スキルをオンにします。詳細については、「RPA ボット生成スキルをオンにする」を参照してください。
- RPA ボット生成スキルをアクティブ化した後、RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションを再起動して、変更した設定を適用します。

これらの手順をスキップすると、Now Assist for RPA ハブ の機能が RPA デスクトップデザインスタジオに表示されません。

RPA ボット生成スキルの概念について理解しておいてください。詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
AI アイコン ( ) が付いた [自動化をビルド **(Build Automation)]** オプション (またはインラインプロンプト機能) は、コントロール出力ポートを含むコンポーネントに対してのみ表示されます。たとえば、AI アイコンは、END や Break などのコンポーネントには表示されません。

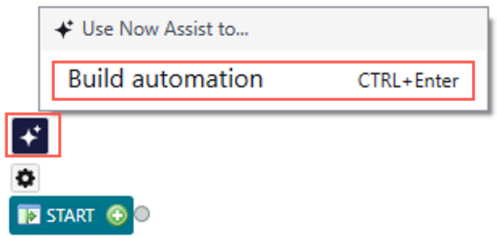
デザイン面で、複数のコンポーネントと AI アイコン ( ) を選択すると、選択した最初のコンポーネントに対してインラインプロンプトトリガーが表示されます。

コンポーネントに複数のコントロール出力ポートがある場合、生成された自動化ワークフローはデフォルトまたは最初のコントロール出力ポートに接続されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオで、コンポーネントレベルまたはデザイン面からのインラインプロンプトを使用して、自動化ロジックを拡張します。

オプション	手順
コンポーネントレベルから	**a.** デザイン面で、必要なコンポーネントを選択し、AI アイコン ( ) にカーソルを合わせます。 **b.** AI アイコン ( ) を選択し、[自動化をビルド **(Build Automation)]** を選択して、インラインプロンプトウィンドウを開きます。 キーボードショートカットの Ctrl + Enter を使用して、インラインプロンプトウィンドウを開くこともできます。 コンポーネントを選択して自動化ロジックをビルドする  コンポーネントレベルからインラインプロンプトにアクセスすると、自動化ワークフローがコンポーネントのデフォルトのコントロール出力ポートに生成されます。
デザイン面から	デザイン面で、[自動化をビルド **(Build Automation)]** を選択して長押し (または右クリック) し、インラインプロンプトウィンドウを開きます。 キーボードショートカットの Ctrl + Enter を使用して、インラインプロンプトウィンドウを開くこともできます。 デザイン面の空のアクティビティから自動化ロジックをビルドする デザイン面からインラインプロンプトにアクセスする場合、生成される自動化ワークフローは

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	手順
	孤立フローです。制御出力ポートを接続する必要があります。

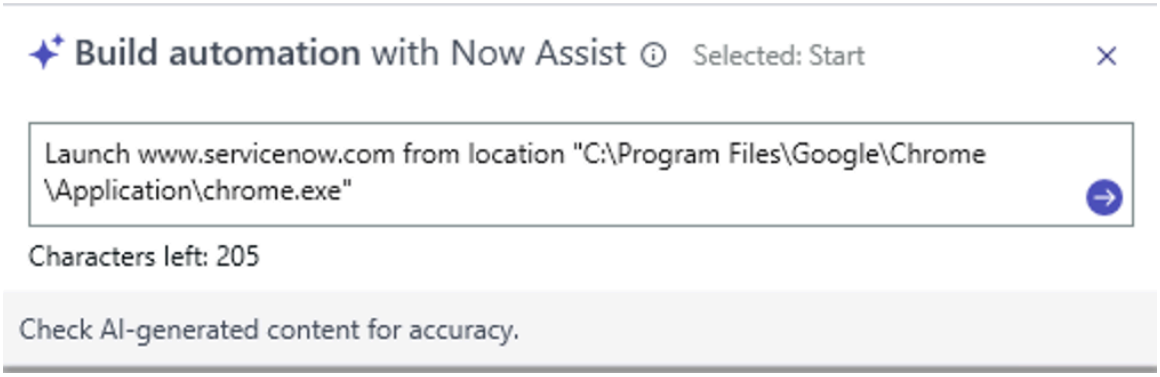
2. [Now Assistによる自動化のビルド (Build automation with Now Assist)] ウィンドウで、Now Assist 用の指示を入力し、入力アイコン ( ) を選択します。

   例：`Launch www.servicenow.com from location 'C:\Program Files\Google\Chrome\Application\chrome.exe'`

   指示テキストは、RPA ボット生成スキルが自動化を作成するために使用されます。短く、直接的で、明確な文章を使用して、想定しているアクションを説明します。自動化ロジックを具体的に詳細に記述してください。専門用語や略語は避けてください。

   次の例では、Google Chrome を使用して ServiceNow Web サイトを起動する自動化をビルドするための Now Assist 用指示が提供されています。

   [Now Assist を使用したビルド **(Build with Now Assist)]** ウィンドウ

   注:

   指示の例と、Now Assist 用の指示を記述するための一般的なガイドラインの詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成」を参照してください。RPA ボット生成スキルの制限の詳細については、「ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成スキルの制限事項」を参照してください。

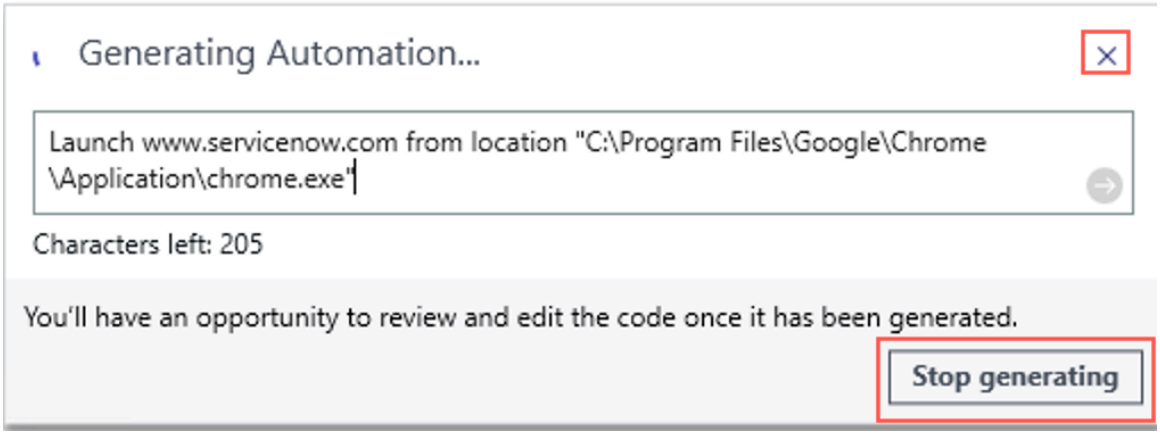
3. [Now Assist を使用したビルド (Build with Now Assist)] ウィンドウで、ウィンドウを閉じるか、ワークフローの生成をキャンセルするか、自動化を却下するか、自動化プレビューを受け入れます。

オプション	手順
閉じる	[Now Assist を使用したビルド (Build with Now Assist)] ウィンドウを閉じるには、閉じるアイコン ( ) を選択し、次に確認ウィンドウで **[Now Assist** を閉じる **(Close Now Assist)]** を選択します。 生成された自動化ワークフローは破棄されます。
生成の停止	ワークフローの生成をキャンセルするか、指示を更新する場合は、[生成の停止 **(Stop generating)]** を選択します。Now Assist 用の指示を更新し、入力アイコン ( ) を選択できます。
却下	自動化プレビューに満足できない場合は、[却下] を選択します。自動化をビルドまたは再ビルドするたびに、その操作は Now Assist サブスクリプションによって追跡されるアシストとしてカウントされま

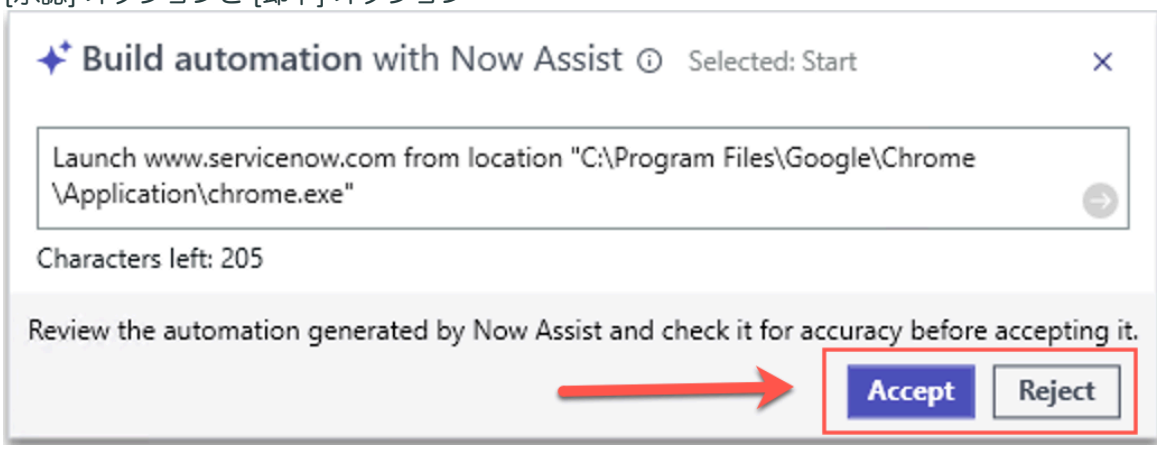
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	手順
	す。Now Assist の使用状況を追跡するには、「サブスクリプション管理 での Now Assist 使用状況のモニタリング」を参照してください。
[承認]	自動化のプレビューに問題がなければ、[承認] を選択します。

[閉じる] と [生成を停止 **(Stop generating)**] オプション



[承認] オプションと [却下] オプション

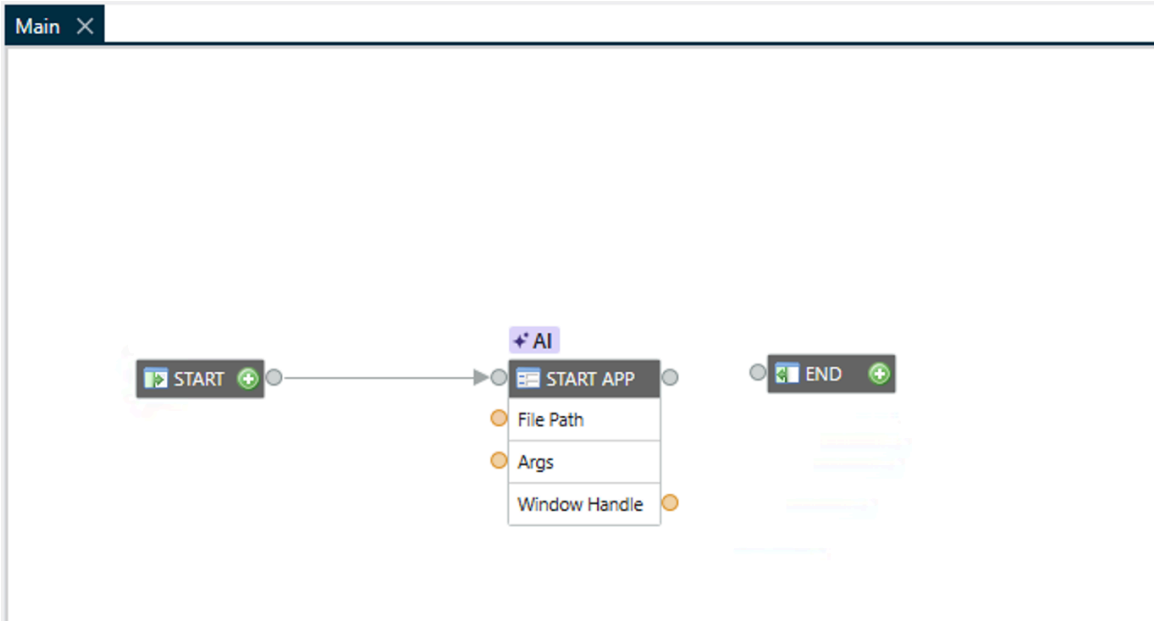


タスクの結果

Now Assist によって生成された自動化ワークフローがデザイン面に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デザイン面で生成された自動化ワークフロー



Now Assist for RPA ハブ に関するリファレンス

参考トピックには、ロボティックプロセス自動化 (RPA) ボット生成スキルの制限に関する情報が含まれています。

ロボティックプロセス自動化 **(RPA)** ボット生成スキルの制限事項

RPA ボット生成スキルの制限事項は次のとおりです。

AI 検索と LLM のタイムアウト

RPA ボット生成スキルは、ユーザーの指示とフロー作成を理解するために、AI 検索と大規模言語モデル (LLM) を使用します。これらの API のタイムアウト制限とレート制限動作は、RPA ボット生成スキルに一括して適用されます。AI 検索のシステムプロパティについては、「AI 検索 システムプロパティ」を参照してください。API レート制限の詳細については、「受信 REST API のレート制限」を参照してください。プロバイダーのレート制限の設定の詳細については、「プロバイダーのレート制限の設定」を参照してください。

Yokohama リリースのコンポーネントスコープ

初期バージョンでは、サポートされるコンポーネントが限られています。このスコープ外のコンポーネントは、生成された自動化ワークフローに表示されません。たとえば、「スクリーンショットをキャプチャして「C:\Users\Screens」の場所に保存する」というような指示を入力した場合、初期バージョンのコンポーネントリストに含まれていない Capture コンポーネントは、生成された自動化ワークフローに含まれない可能性があります。サポートされているコンポーネントのリストの詳細については、「Yokohama リリースの Now Assist for RPA Hub でサポートされているコンポーネントとコネクタ」を参照してください。

プラグインバージョンの互換性

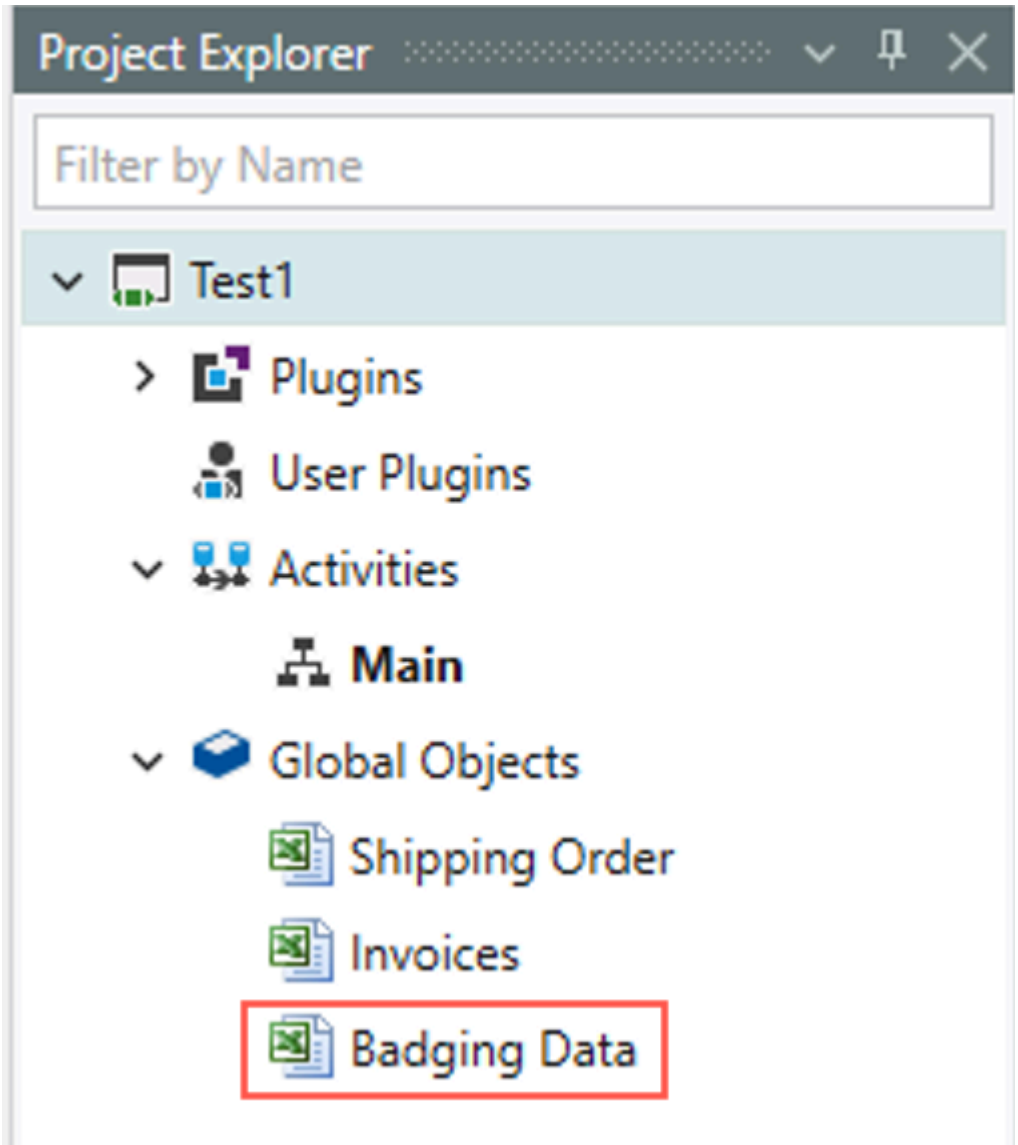
この機能では、Yokohama バージョンのプラグインを使用します。大規模言語モデル (LLM) が、ロードされたプラグインバージョンに存在しないメソッドを返す場合、そのようなメソッドは生成された自動化ワークフローで不明なコンポーネントとして表示されます。たとえば、既存の自動化プロジェクト内で Washington DC バージョンのプラグインを使用していて、アプリケーションから値を設定または取得する指示を入力する場合、Universal App Connector の SetValue、GetValue、または Click メソッドは、生成された自動化ワークフローで不明なコンポーネントとして表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Now Assist またはビルド自動化のコンテキストメニューオプションを使用した新しいアクティビティでの既存のコネクタの使用

自動化ワークフローの作成中に、Microsoft Excel コネクタの AddNewWorksheet メソッドなどのメソッドが作成された場合、RPA デスクトップデザインスタジオは同じコネクタタイプの既存のグローバルオブジェクトをチェックして最新のものを使用します。次の例では、バッジデータの Microsoft Excel コネクタが使用されています。

グローバルオブジェクトの **Microsoft Excel** コネクタ



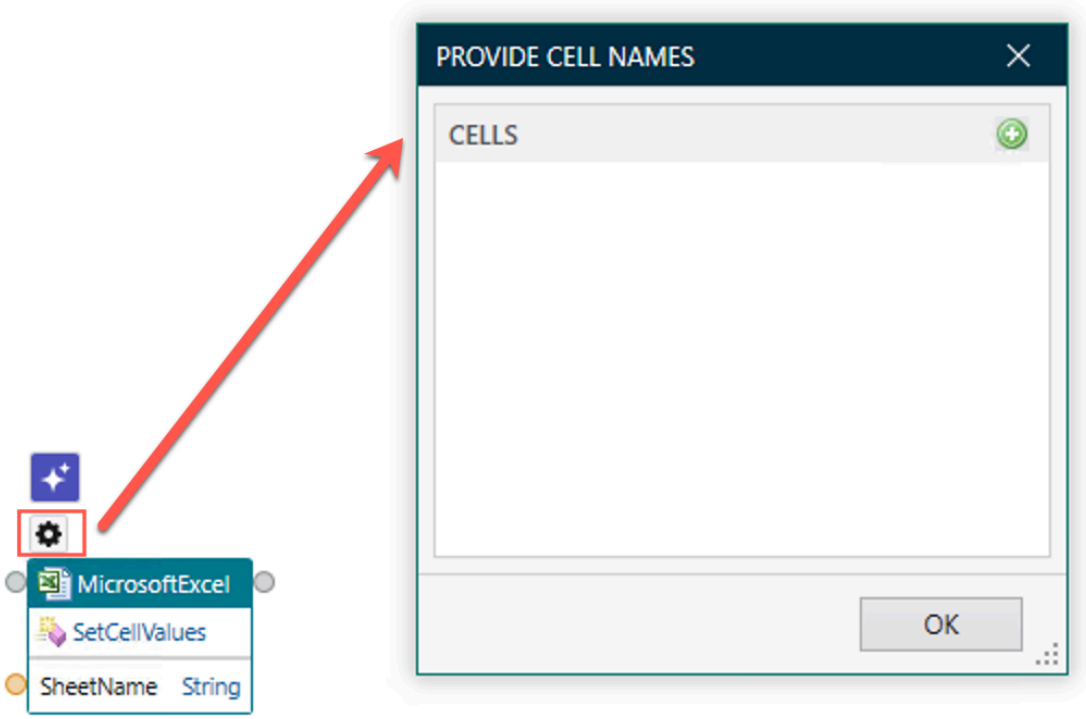
動的構成

サポートされているコンポーネントの動的構成は、Yokohama リリースでは使用できません。コンポーネントは手動で構成できます。たとえば、Microsoft Excel コネクタの SetCellValues メソッドの構成ウィンドウに入力する必要があります。構成ウィンドウを表示するには、設定アイコン ( ) を選択します。

パラメーター値のデータが、大規模言語モデル (LLM) で生成されたコンポーネントに入力されない場合があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetCellValues メソッドの構成ウィンドウ



Windows、Java、またはブラウザアプリケーションの自動化

Windows、Java、またはブラウザベースのアプリケーションを自動化する場合、RPA デスクトップデザインスタジオでは、SetValue、GetValue、Click などの汎用 UI アクションが提案されます。これらのアクションは、Universal App Connector の一部です。ただし、画面のキャプチャやフィールドウィンドウからの要素の追加を含むこれらのアクションは、手動で構成することができます。これらのメソッドの詳細については、「Universal App Connector」を参照してください。

式ベースのコンポーネント

式を必要とする Decision や Expression などのコンポーネントの場合、これらのコンポーネントの式は Yokohama リリースでは自動的に入力されません。

ハルシネーションが生じたコンポーネント

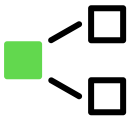
大規模言語モデル (LLM) が RPA デスクトップデザインスタジオに存在しないメソッドを返す場合、そのようなメソッドは生成された自動化ワークフローで不明なコンポーネントとして表示されます。

RPA デスクトップデザインスタジオ

ServiceNow® ロボティックプロセス自動化 (RPA) デスクトップデザインスタジオを使用します。これはローコードの統合開発環境 (IDE) であり、コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグアンドドロップすることで自動化ワークフローを設計または構成できます。RPA デスクトップデザインスタジオは Windows ネイティブアプリケーションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

開始するには

詳細 RPA デスクトップデザインスタジオ の概念と機能について学びます。	構成 インストールして設定します。 RPA デスクトップデザインスタジオ	ビルド  自動化プロジェクトを作成します。コンポーネントとポートの使用方法を理解します。
使用 データをプレビュー、変換、検証します。 自動化を実行、公開、レビューします。	自動化コンポーネント さまざまなコンポーネントを使用して自動化をビルドします。	参照 ポート、メソッド、イベント、プロパティなどの RPA デスクトップデザインスタジオ コンポーネントの詳細を取得します。

役に立つリソース

- ロボティックプロセスオートメーション (RPA) ハブアプリケーションに関する問題のトラブルシューティング
- コミュニティフォーラムで質問や回答をする
- 開発者ドキュメント
- 連絡先カスタマーサービス & サポート
- ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub 用語集
- RPA の一般的なガイドライン

RPA デスクトップデザインスタジオ の詳細

ビジネスプロセスの自動化を設計および作成するための RPA デスクトップデザインスタジオ の機能について説明します。

RPA デスクトップデザインスタジオ の概要

RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションを使用して、自動化ワークフローをビルドおよび更新します。コンポーネントをドラッグし、論理シーケンスで接続して [デザイン面 (Design surface)] で実行できます。RPA デスクトップデザインスタジオは Windows ネイティブアプリケーションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA デスクトップデザインスタジオ のメリット

- 自動化の作成と設計に使用できる、事前に設計された幅広いコンポーネントを提供します。
- 使いやすさ、拡張性、効率性を実現します。
- コーディング不要の環境で自動化を設計できます。
- わかりやすい通知でエラーと表示について説明します。

次に探索する内容

RPA デスクトップデザインスタジオを構成して使用する方法の詳細については、以下を参照してください。

- RPA デスクトップデザインスタジオ の構成
- 自動化のビルド
- 自動化の使用
- 自動化コンポーネント
- RPA デスクトップデザインスタジオ に関する参照情報

RPA デスクトップデザインスタジオ ユーザーインターフェイス

RPA デスクトップデザインスタジオ のユーザーインターフェイスについて説明します。

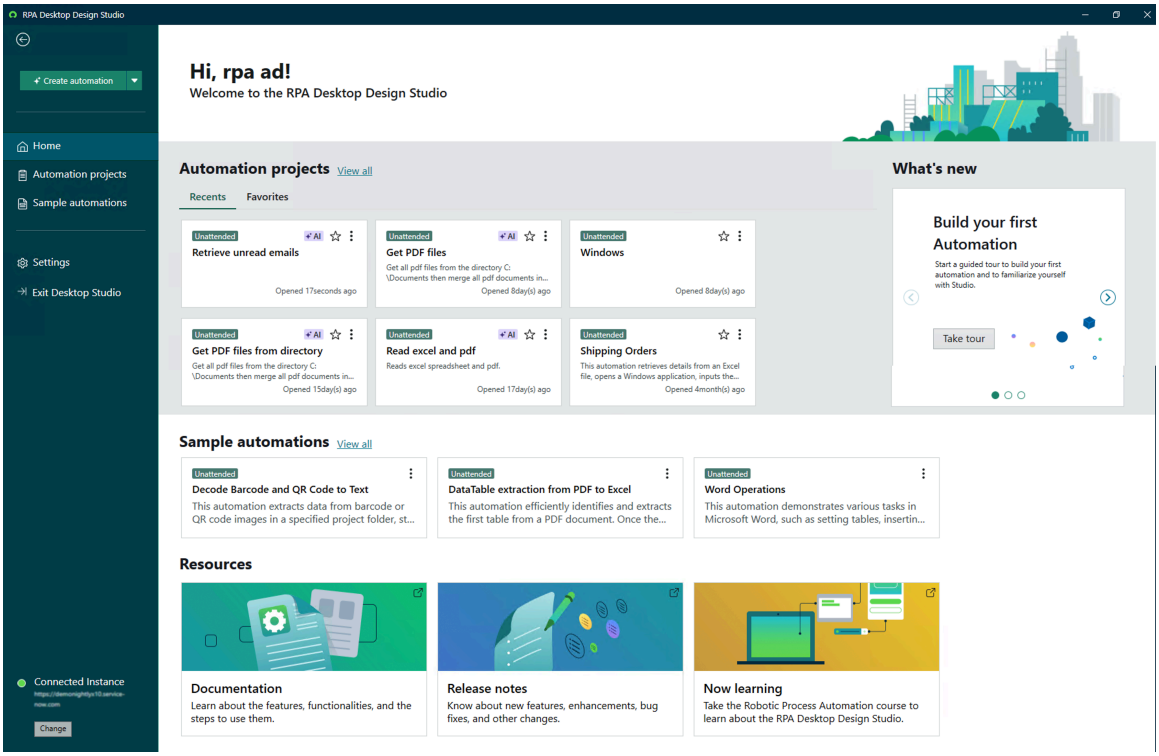
RPA デスクトップデザインスタジオのホーム

RPA デスクトップデザインスタジオのホームページでは、自動化プロジェクトを作成し、開いて、こうしたプロジェクトの作業を確認し、自動化の設計に役立つリソースにアクセスできます。 RPA デスクトップデザインスタジオ のデフォルトのホームページを次の例に示します。

Now Assist for RPA ハブを使用して、テキスト指示とプレビューオプションから自動化、アクティビティ、自動化ロジックの追加を作成します。詳細については、「Now Assist for RPA ハブ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA デスクトップデザインスタジオ のホームページ

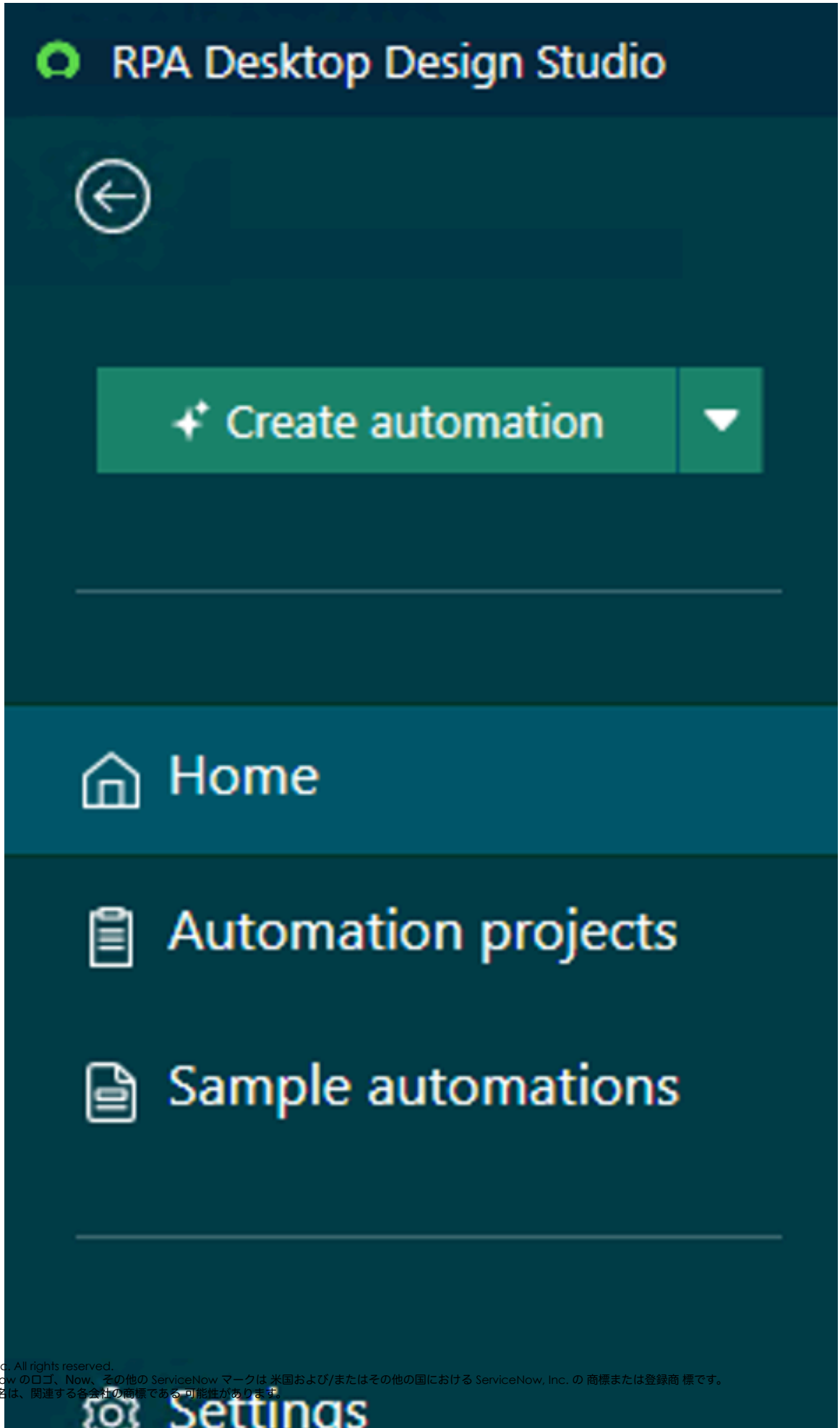


RPA デスクトップデザインスタジオを初めて起動した場合、デスクトップスタジオのクイックツアーとその機能の詳細を確認するためのようこそ画面が表示されます。ツアーに参加するには、ようこそ画面で [次へ] を選択します。ガイド付きツアーは、最初の自動化をビルドする際に役立ちます。希望するジャーニーを選択して自動化を作成できます。自動化は、ユースケースありまたはユースケースなしでビルドできます。[開始] を選択してガイド付きツアーを開始します。

RPA デスクトップデザインスタジオ ホームページの左側のナビゲーションバー (次の例を参照) から、次のアクションを実行できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

左側のナビゲーションバー



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA デスクトップデザインスタジオホームページの左側のナビゲーションバー

フィールド	説明
自動化を作成 (Create automation)	無人および有人の自動化プロジェクトを作成します。詳細については、「自動化プロジェクトを手動で作成する」と「Now Assist を使用した自動化の作成」を参照してください。
スキルを作成	スキルの自動化プロジェクトを作成します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオでスキルプロジェクトを作成する」を参照してください。 スキルの自動化は再利用可能なコンポーネントです。スキルをビルドすることで、他の自動化プロセスにビルド済みの機能を提供できます。たとえば、ログイン機能が 4 つの異なる自動化で使用される場合、そのログイン機能は、自動化間で再利用できるスキルとして作成できます。
ホーム	RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションのホームページ。
自動化プロジェクト (Automation projects)	最近作成した自動化プロジェクトのリストを表示します。 ローカルプロジェクトまたはクラウドプロジェクトを開くことができます。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でローカル自動化プロジェクトを開く」と「RPA デスクトップデザインスタジオでクラウド自動化プロジェクトを開く」を参照してください。 必要なプロジェクトをお気に入りとしてマークできます。 自動化プロジェクトの横にある 3 ドットアイコンを選択し、以下のオプションにアクセスします。 • 開く - [デザイン面 (Design surface)] の自動化プロジェクトを開きます。 • お気に入りとしてマーク - 選択した自動化プロジェクトをお気に入りとしてマークします。 • お気に入りから削除 - 選択した自動化プロジェクトをお気に入りから削除します。このオプションは、自動化がお気に入りとしてマークされている場合にのみ表示されます。 • 詳細を表示 - プロジェクトの名前、説明、場所など、自動化プロジェクトの詳細を表示します。 • 削除 - 選択した自動化プロジェクトを自動化プロジェクトリストから削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

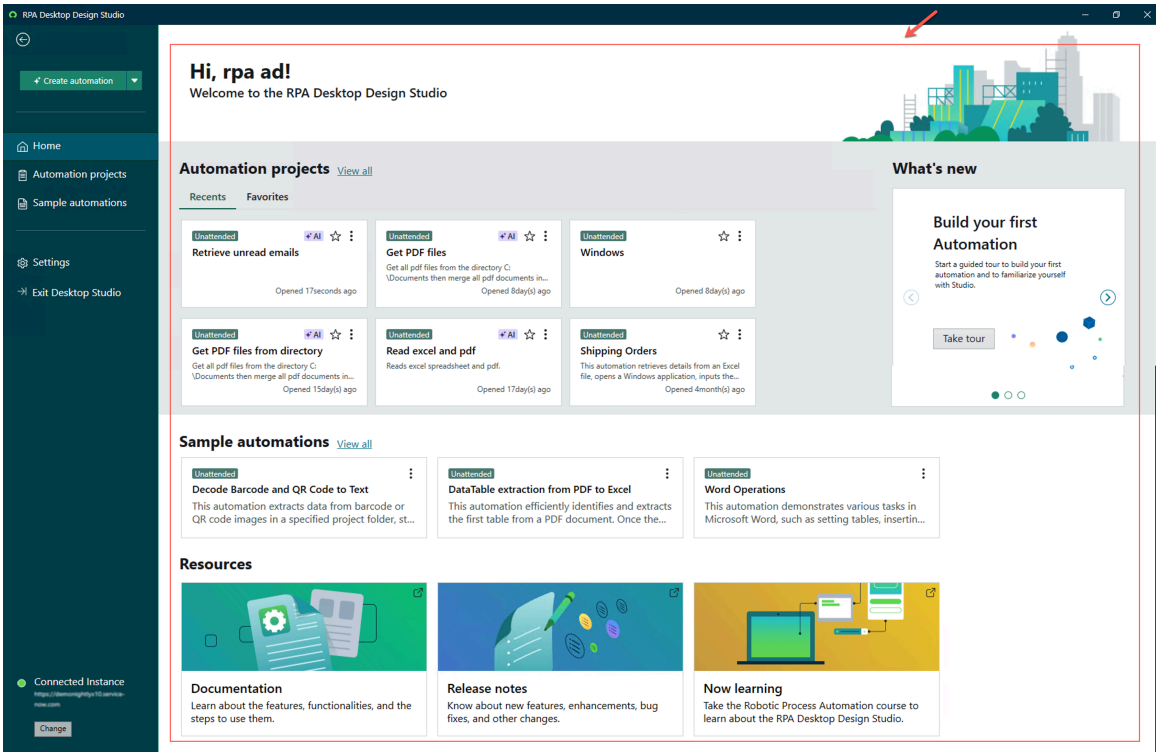
RPA デスクトップデザインスタジオホームページの左側のナビゲーションバー (続く)

フィールド	説明
サンプル自動化 (Sample automations)	サンプル自動化は、特定のユースケースに対してさまざまなコンポーネントがどのように構成されるかを示す、事前構築された自動化です。RPA デスクトップデザインスタジオ には、さまざまなユースケースに対応する複数のサンプル自動化が用意されています。たとえば、PDF からデータを抽出して Excel ファイルに挿入するなどです。 サンプル自動化の横にある 3 ドットアイコンを選択し、以下のオプションにアクセスします。 • 開く - 選択したサンプル自動化を開きます。 • 新しいウィンドウで開く - 選択したサンプル自動化を新しいウィンドウで開きます。 • コピーを作成 - 選択したサンプル自動化のコピーを作成します。 • 詳細を表示 - プロジェクトの名前、説明、場所など、選択したサンプル自動化の詳細を表示します。 詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオでのサンプル自動化の使用」と「サンプル自動化」を参照してください。
設定	ダウンロードする自動化プロジェクトの場所を [場所] フィールドで指定します。 [ダウンロード前に毎回確認する **(Ask everytime before downloading)]** チェックボックスをオンにして、ダウンロード中の自動化プロジェクトの場所を変更します。 RPA デスクトップデザインスタジオのバージョンとプラグインバンドルバージョンを表示します。
デスクトップスタジオの終了 (Exit Desktop Studio)	RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションを終了します。
変更	[接続マネージャー] ウィンドウを起動します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ から RPA ハブ インスタンスへの接続」を参照してください。 RPA デスクトップデザインスタジオが起動された後は、別のインスタンスに接続できません。 別のインスタンスに接続するには、RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションを閉じてから再度開く必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例に示すRPA デスクトップデザインスタジオのホームページの赤でマークした領域から、以下のアクションを実行できます。

RPA デスクトップデザインスタジオのホームページの選択された領域



- 自動化プロジェクト **(Automation projects)**：[すべて表示] を選択して、最近作成した自動化プロジェクトのリストを表示します。[最近] タブに、最近の自動化プロジェクトを表示します。必要なプロジェクトをお気に入りとしてマークします。[お気に入り] タブにお気に入りの自動化プロジェクトを表示して、すばやくアクセスできるようにします。

  自動化カードで、自動化のタイプ、名前、説明、および最後に開いたときのタイムスタンプを表示します。Now Assist for RPA ハブを使用して作成された自動化には、AI アイコン ( ) が表示されます。

- サンプル自動化 **(Sample automations)**：[すべて表示] を選択して、すべてのサンプル自動化のリストを表示します。

  サンプル自動化カードで、自動化のタイプ、名前、および説明を表示します。

  詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオでのサンプル自動化の使用」を参照してください。

- リソース：RPA デスクトップデザインスタジオのドキュメント、リリースノート、および Now Learning コースの詳細を確認します。カードを選択して、それぞれの Web ページに移動します。
- 最新情報：新機能の RPA デスクトップデザインスタジオを表示します。たとえば、ガイド付きツアーを開始することで、最初の自動化をビルドできます。[ガイドを表示] を選択して、ガイド付きツアーを開始します。

デザイン面 **(Design surface)**

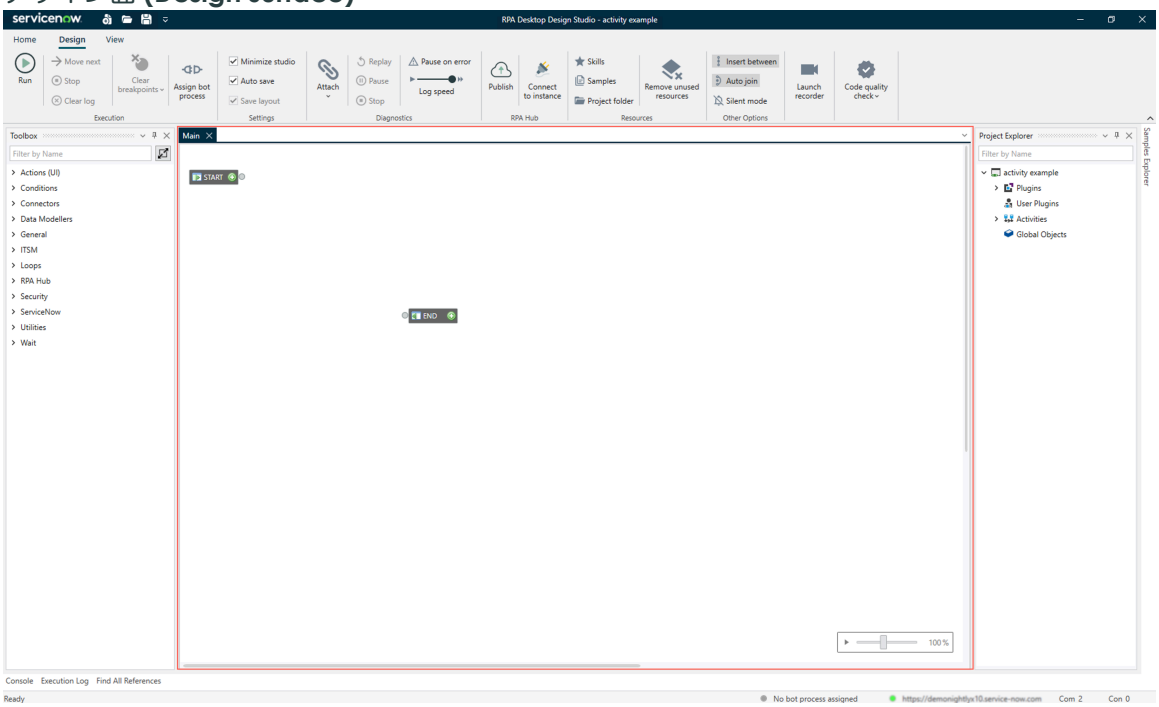
次の例の赤でマークされた領域は、[デザイン面 (Design surface)] です。[ツールボックス] ペインから [デザイン面 (Design surface)] にコンポーネントをドラッグして、自動化を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインからアクティビティと変数をドラッグするか、[オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインからメソッドとイベントをドラッグして、自動化を作成することもできます。

Now Assist for RPA ハブを使用して、テキスト指示とプレビューオプションから自動化、アクティビティ、自動化ロジックの追加を作成します。詳細については、「Now Assist for RPA ハブ の使用」を参照してください。

デザイン面 (Design surface)



開始コンポーネントと終了コンポーネントは、すべてのアクティビティのデフォルトコンポーネントです。これらはアクティビティの開始点と終了点です。これらのコンポーネントは削除できません。

デザイン面で、コンポーネントを選択して、または Now Assist for RPA ハブアプリケーションを使用して、テキストによる指示で自動化ロジックを拡張します。詳細については、「Now Assist で自動化をビルドする」を参照してください。

このアプリケーションを閉じると、RPA デスクトップデザインスタジオおよび ServiceNow インスタンスからログアウトされます。

デザイン面で実行できるアクションのリストは次のとおりです。

複数のコンポーネントの選択

複数のコンポーネントを選択するには、**Ctrl** キーを押しながらコンポーネントのタイトルバーを選択します。

または、マウスデバイスで選択して、選択するコンポーネントセット全体にドラッグするという方法もあります。

コンポーネントまたはメソッドのコピー、貼り付け、切り取り

キーボードショートカットまたはコンテキストメニューを使用して、コンポーネントまたはメソッドをコピーまたは切り取って、貼り付けることができます。

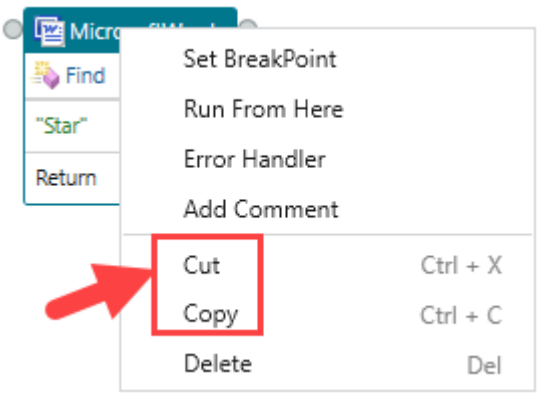
キーボードショートカットを使用するには、次のアクションを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コピーするコンポーネントを選択し、Ctrl + C キーを押してから Ctrl + V キーを押します。
- 切り取るコンポーネントを選択し、Ctrl + X キーを押してから Ctrl + V キーを押します。

コンテキストメニューを使用するには、次のアクションを実行します。

1. コピーまたは切り取るコンポーネントを選択します。
2. 選択したコンポーネントのいずれかでコンポーネントバーを右クリックします。
3. [切り取り] または [コピー] を選択しま



す。

コピー元のデザイン面上の同じ位置にコンポーネントを貼り付けるには、Ctrl + V ショートカットを使用します。

RPA デスクトップデザインスタジオ のさまざまなアクティビティとインスタンスの間でコンポーネントをコピーして貼り付けることもできます。

または、コンポーネントをコピーした後に、右クリックして [貼り付け] を選択し、選択した位置にコンポーネントを貼り付けることもできます。

コンポーネントの削除

コンポーネントを削除するには、削除するコンポーネントを選択し、選択したコンポーネントのいずれかを右クリックして、[削除] を選択します。

または、コンポーネントを選択した後に **Delete** キーを押してコンポーネントを削除します。[確認] ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

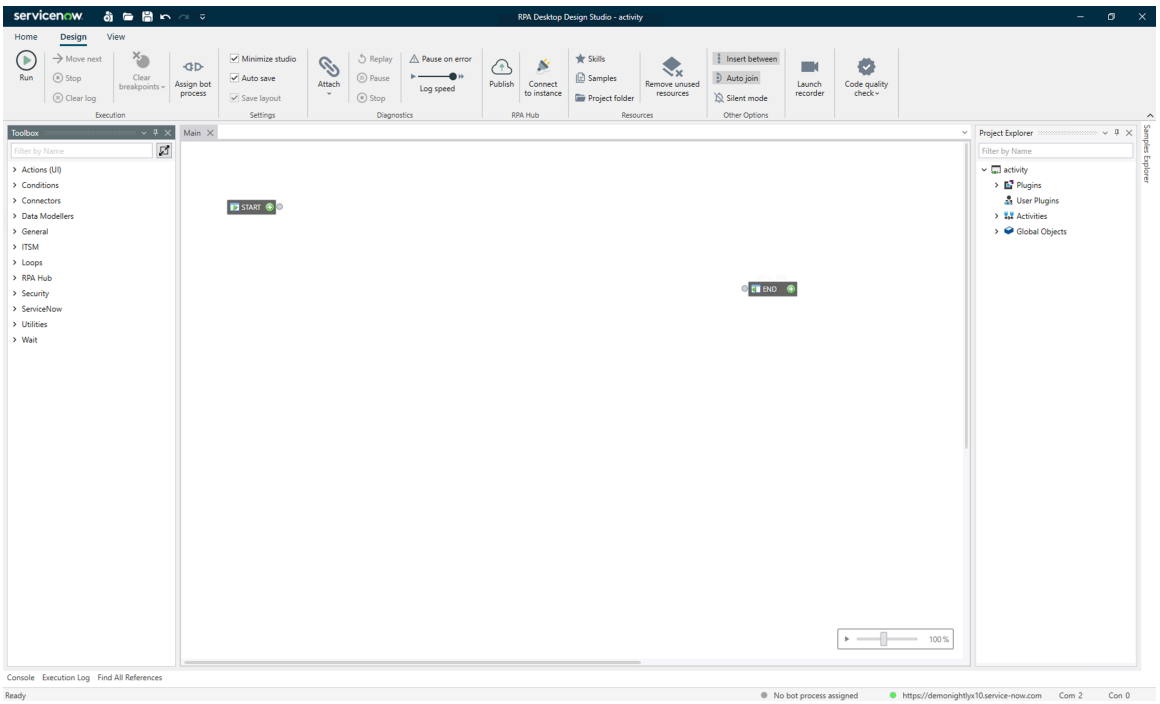
ズーム設定の使用

デザイン面では、ズームインおよびズームアウトして、特定のアクティビティのビューを拡大または縮小できます。

ズーム設定は、次の例のように、デザイン面の右下隅にあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ズーム設定



ズームアウトするには、バーを左にドラッグします。ズームインするには、バーを右にドラッグします。

または、**Ctrl** キーを押しながらマウスホイールまたはトラックパッドの上スクロールキーと下スクロールキーを使用して、ズーム設定を調整することもできます。

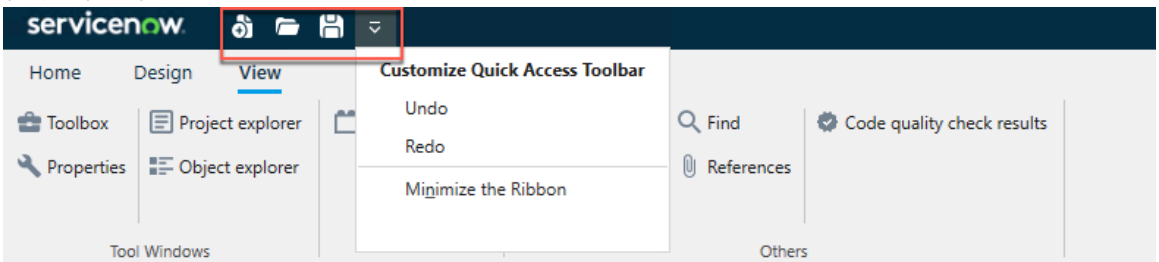
スクロールショートカット

デザイン面で水平方向にスクロールするには、**Shift** キーを押しながらマウスを使用してスクロールします。

クイックアクセスツールバー

次の例のクイックアクセスツールバーを使用すると、自動化プロジェクトの作成、開く、保存、元に戻す、やり直しを実行できます。ツールバーのオプションを使用して、リボンを最小化したり、リボンの位置を変更したりすることもできます。

クイックアクセスツールバー

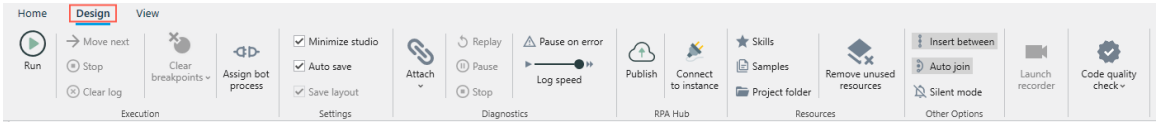


[デザイン] タブ

[デザイン] タブには、自動化の実行、RPA デスクトップデザインスタジオの設定の構成、診断の支援、オプションの公開、ServiceNow インスタンスへの接続、およびレコーダーの開始などのその他のリソースへのアクセスを実行するためのオプションが用意されています。次の例は、[デザイン] タブに表示されるオプションを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[デザイン] タブに表示されるオプション



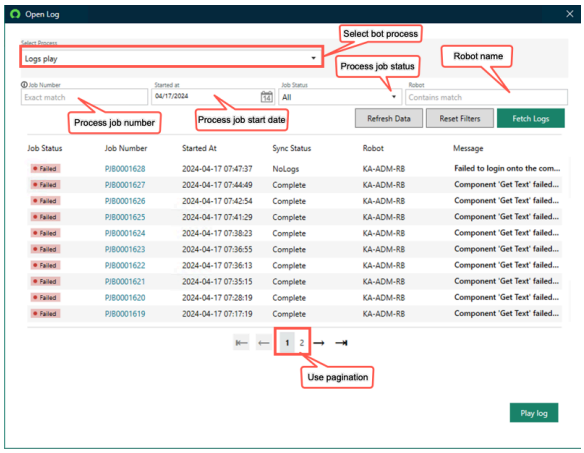
RPA デスクトップデザインスタジオ の [デザイン] タブを使用して、次のセクションにアクセスできます。

[デザイン] タブのセクション

フィールド	説明
[実行] セクション	
実行	[実行] ボタンを使用して、自動化プロジェクトのワークフロー実行を開始します。
次へ移動 **(Move next)**	[次へ移動 **(Move next)**] ボタンを使用して、ブレークポイントにヒットした次のコンポーネントに移動します。このオプションは、実行フローがブレークポイントにヒットした場合にのみ有効になります。
停止	[停止] ボタンを使用して、自動化プロジェクトのワークフローの実行を停止します。
ログを消去	[ログを消去] ボタンを使用して、ランタイムログをクリアします。
ブレークポイントのクリア **(Clear breakpoints)**	[ブレークポイントのクリア **(Clear breakpoints)**] ボタンを使用して、自動化からすべてのブレークポイントを削除します。このオプションは、少なくとも 1 つのブレークポイントが設定されている場合に有効になります。 [ブレークポイントのクリア **(Clear breakpoints)**] ボタンの横にある下矢印ボタンをクリックして、[すべて検索] を選択し、[すべての参照を検索 (Find All References)] セクションで特定のブレークポイントを見つけます。
ボットプロセスのアサイン	自動化パッケージをボットプロセスにアサインし、自動化のリソースを利用します。ボットプロセスをアサインする方法の詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。
[設定] セクション	
スタジオを最小化 **(Minimize studio)**	自動化の実行中に RPA デスクトップデザインスタジオ を最小化するには、[スタジオを最小化 **(Minimize studio)**] チェックボックスをオンにします。 [実行] ボタンを選択して自動化を実行している場合は、RPA デスクトップデザインスタジオ を最小化できます。
自動保存	[自動保存] チェックボックスをオンにすると、作業中に自動化プロジェクトファイルが自動的に保存されます。
レイアウトを保存 **(Save layout)**	[レイアウトを保存 **(Save layout)**] チェックボックスをオンにすると、RPA デスクトップデザインスタジオ のペインレイアウトが保存されます。
[診断] セクション	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[デザイン] タブのセクション (続く)

フィールド	説明
添付	既に実行されているプロセスの実行ログを確認できます。確認するには、[添付] ボタンを使用して、ServiceNow インスタンスに保存されたローカル実行ログファイル、またはリモート実行ログファイルのいずれかを添付します。 リモート実行ログを見つけるには、クライテリアを指定するか、ページネーションを使用して、[ログを開く] ウィンドウの必要なページに移動します。  クライテリアを指定したら、次の手順を実行します。 1. [ログをフェッチ **(Fetch Logs)]** を選択して、リモート実行ログをフェッチして表示します。 2. ログを再生するには、必要なログを選択し、[ログを再生 **(Play log)]** を選択します。 以下のプロセスジョブレコードは、[添付ログ (Attach log)] ウィンドウには表示されません。 • ログのないプロセスジョブレコード。 • ロボットマシンに保存されているプロセスジョブレコード。
再生	[再生] ボタンを使用して、添付されたログ実行を再生します。
一時停止	[一時停止] ボタンを使用して、添付されたログ実行を一時停止します。
停止	[停止] ボタンを使用して、添付されたログ実行を停止します。
エラー時に一時停止 **(Pause on error)**	実行中にエラーが発生した場合は、[エラー時に一時停止] ボタンを使用して、添付されたログ実行を一時停止します。
ログ速度 **(Log speed)**	[ログ速度 **(Log speed)]** スライダーを調整して、ログを使用して自動化を再生するときの速度をコントロールします。 デフォルトでは、スライダーは中央に調整されており、各コンポーネントの実行に 1 秒かかります。 ログ速度を下げると、各コンポーネントの所要時間は実行中にかかった時間と同じになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[デザイン] タブのセクション (続く)

フィールド	説明
	ログ速度を上げると、すべてのコンポーネントが再生時にすぐに実行されます。
RPA Hub	
公開	[公開] ボタンを使用して、自動化プロジェクトを RPA ハブ に公開します。
インスタンスに接続 **(Connect to instance)**	[インスタンスに接続 **(Connect to instance)**] ボタンを使用して、既存の ServiceNow インスタンスに接続するか、ServiceNow インスタンスの詳細を追加します。
[リソース] セクション	
スキル	[スキル] ボタンを使用して、[スキルエクスプローラー (Skill Explorer)] ペインでスキル自動化プロジェクトを表示します。 これらのスキル自動化プロジェクトは、[スキルエクスプローラー (Skill Explorer)] ペインからデザイン面にスキル自動化プロジェクトをドラッグすることで再利用できます。これはリモートアクティビティとして表示されます。
サンプル	[サンプル] ボタンを選択して、[サンプルエクスプローラー (Samples Explorer)] ペインのサンプル自動化を参照します。サンプル自動化では、RPA デスクトップデザインスタジオが自動化プロジェクトをどのように実行するかを示します。 サンプル自動化は、自動化の複雑さとユースケースに基づき、[初級]、[中級]、[上級]、[参照]、および [有人] カテゴリに分類されます。 詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオでのサンプル自動化の使用」を参照してください。
プロジェクトフォルダー **(Project folder)**	[プロジェクトフォルダー **(Project folder)**] ボタンを使用して、現在の自動化プロジェクトフォルダーを開きます。
未使用のリソースを削除 **(Remove unused resources)**	[未使用のリソースを削除 **(Remove unused resources)**] ボタンを使用して、未使用の変数、参照、ユーザープラグインを削除します。
[その他のオプション] セクション	
間に挿入 **(Insert between)**	[間に挿入 **(Insert between)**] ボタンを使用して、新たにドロップされたコンポーネントの左側にある、空きコントロールポートのある最も近いコンポーネントに接続します。
自動結合 **(Auto join)**	[自動結合 **(Auto join)**] ボタンを使用して、コンポーネントが削除されたときに 2 つのコンポーネント間の接続を再マッピングします。
サイレントモード	[サイレントモード] ボタンを使用して、さらにアクティビティタブを開くことなく、自動化プロジェクトを実行します。
レコーダーを起動	デスクトップまたは Web アプリケーションからアクションをキャプチャし、レコーダーオプションを使用してキャプチャしたアクションを自動化フローに変換します。自動化の記録の詳細については、「自動化の記録」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

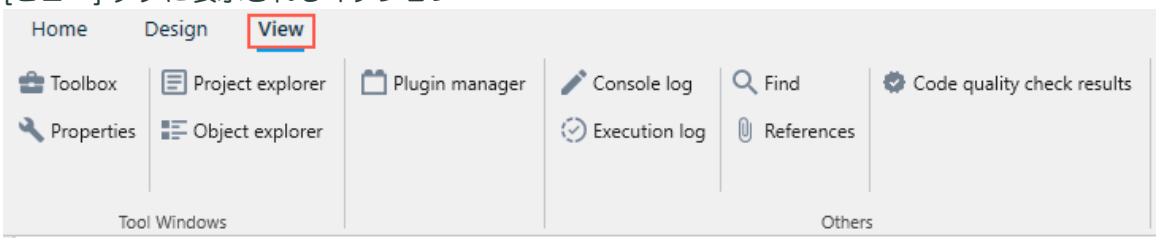
[デザイン] タブのセクション (続く)

フィールド	説明
コード品質チェック	コード品質チェック機能を使用して、自動化の進行を妨げる自動化の問題がないか、アクティビティまたは完了自動化プロジェクトを検査します。RPA デスクトップデザインスタジオ でコード品質チェックを実行する方法の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェック」を参照してください。

[ビュー] タブ

次の例の [ビュー] タブを使用すると、[ツールウィンドウ (Tool Windows)] の表示 (閉じられている場合)、[プラグインマネージャー (Plugin Manager)] オプションを使用した追加のプラグインのインストール、コンソールログと実行ログの表示、コンポーネントの検索、すべての参照の検索を実行できます。

[ビュー] タブに表示されるオプション



RPA デスクトップデザインスタジオ で [ビュー] タブを使用して、次のセクションにアクセスできます。

[ビュー] タブのセクション

セクションまたはフィールド	説明
[ツールウィンドウ **(Tool Windows)**] セクション	ツールウィンドウの各ペイン (ツールボックス、プロジェクトエクスプローラー、プロパティ、オブジェクトエクスプローラー) が閉じられている場合は、それぞれをクリックして再度開きます。
プラグインマネージャー	[プラグインマネージャー **(Plugin manager)**] ボタンを使用して、追加のプラグインをインストールし、自動化プロジェクトの作成に必要な自動化を設計できます。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でのプラグインの管理」を参照してください。
[その他] セクション	
コンソールログ	コンソールセクションが閉じられている場合は、[コンソール] ボタンを使用して開きます。 このセクションには、コンソールログコンポーネントに関連する情報が含まれています。
実行ログ	[実行ログ] セクションが閉じられている場合は、[実行ログ] ボタンを使用して開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

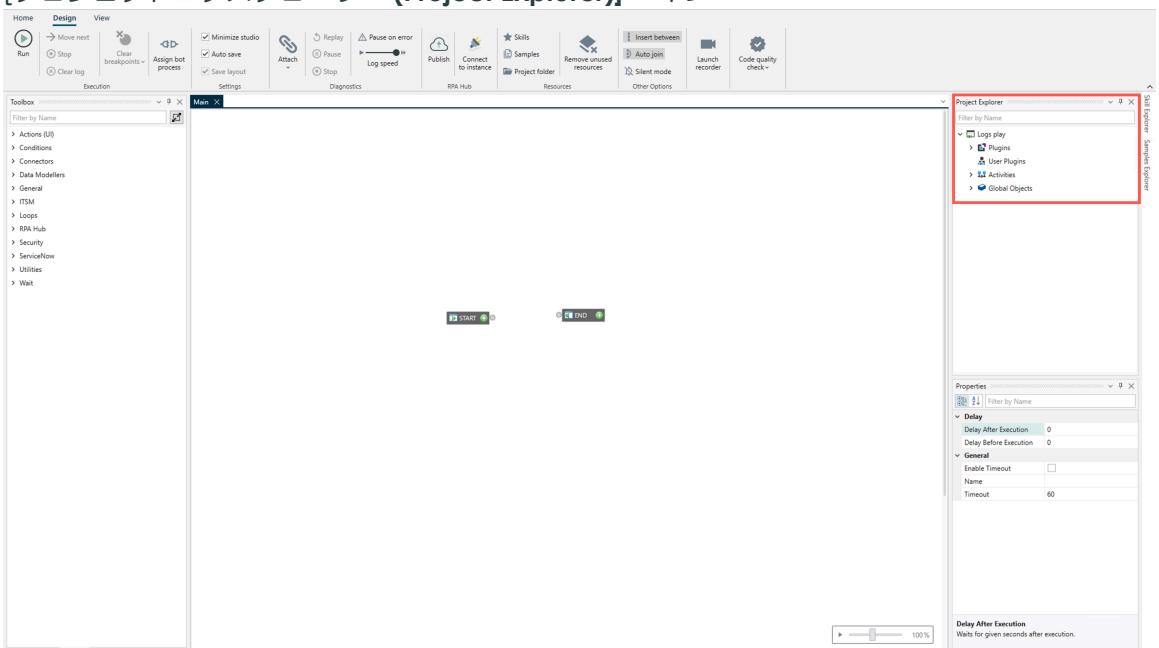
[ビュー] タブのセクション (続く)

セクションまたはフィールド	説明
	ログを添付すると、このセクションで自動化実行のエラーログを表示できます。
検索	[検索] ボタンを使用して、自動化プロジェクト内のコンポーネントを検索します。
参照	ナビゲーションペインが閉じられている場合は、[参照] ボタンを使用して表示します。
コード品質チェック結果	コード品質チェックの実行詳細を表示します。

[プロジェクトエクスプローラー **(Project Explorer)**] ペイン

次の例の赤でマークされた領域は、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインです。このペインには、現在の自動化プロジェクトで使用されているすべてのアーティファクトが表示されます。アーティファクトには、アクティビティ、プラグイン、ユーザープラグイン、グローバルオブジェクト、フォーム (有人の自動化プロジェクトを作成する場合) などがあります。

[プロジェクトエクスプローラー **(Project Explorer)**] ペイン

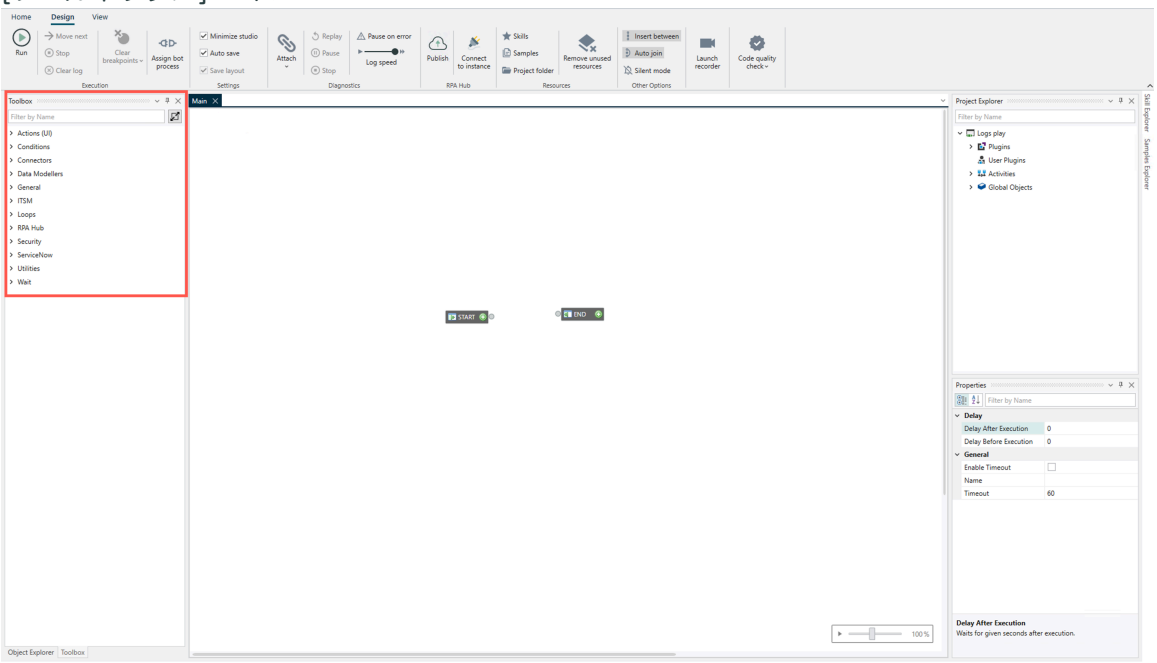


[ツールボックス] ペイン

次の例で赤でマークされた領域は、 [ツールボックス] ペインです。このペインを使用して、RPA デスクトップデザインスタジオ で利用可能なすべてのコンポーネントとコネクタを表示できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ツールボックス] ペイン



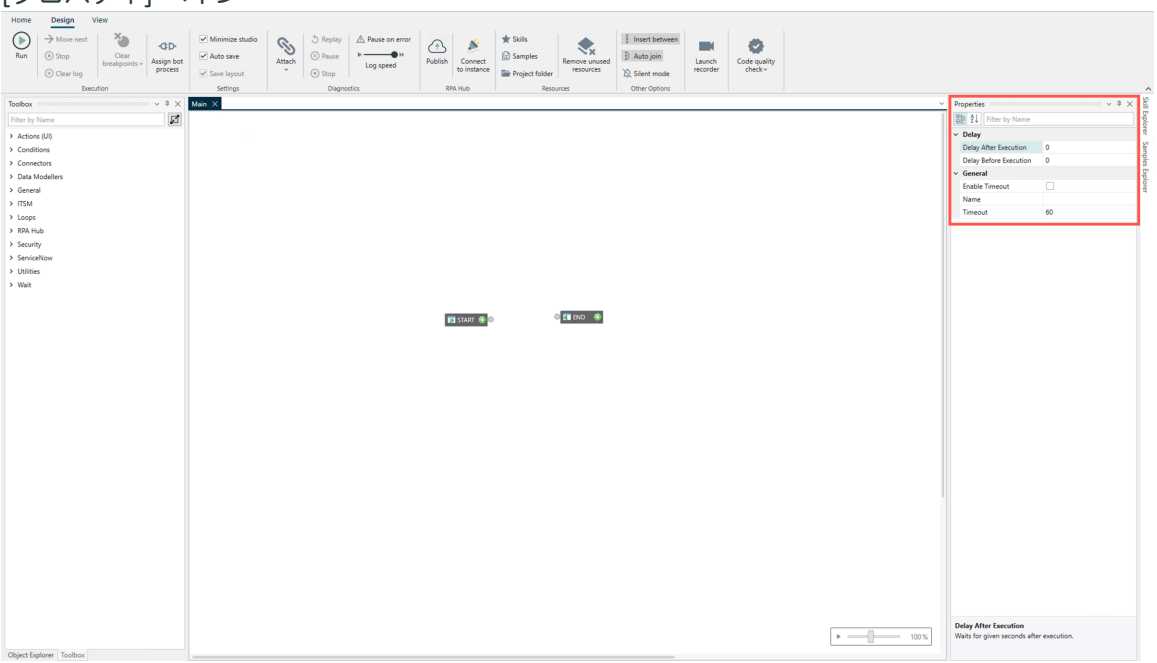
コンポーネントは複数のカテゴリの下にリストされます。各コンポーネントグループを展開すると、デザイン面で使用できる個々のコンポーネントを表示できます。

[名前でフィルタリング] フィールドにテキストを入力して、ツールボックス内で利用可能なコンポーネントを検索します。

[プロパティ] ペイン

次の例の赤でマークされた領域は、[プロパティ] ペインです。各コンポーネント、コネクタ、アクティビティ、またはグローバルオブジェクトには、[プロパティ] ペインに表示される複数のプロパティがあります。

[プロパティ] ペイン



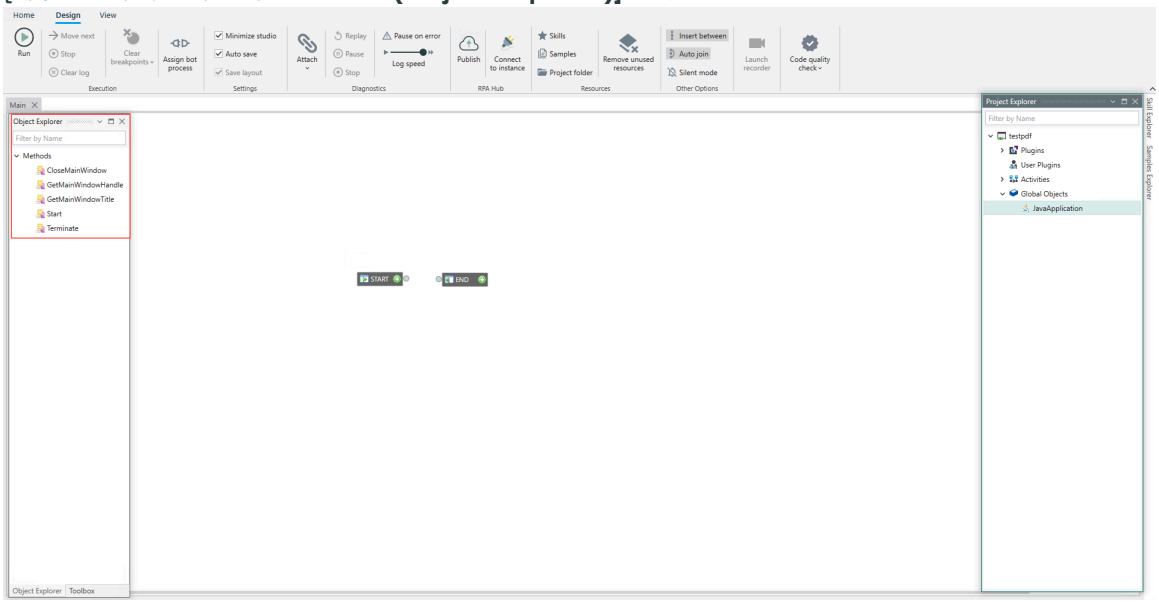
プロパティは、オブジェクトの機能の詳細な調整に役立ちます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[オブジェクトエクスプローラー **(Object Explorer)**] ペイン

次の例で赤でマークされた領域は、[オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインです。[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインのオブジェクトに関連付けられているメソッドとイベントがこのペインに表示されます。

[オブジェクトエクスプローラー **(Object Explorer)**] ペイン



[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで特定のオブジェクトをダブルクリックして、関連付けられたメソッドとイベントを表示します。

たとえば、[グローバルオブジェクト] ノードで追加したリストコネクタをクリックすると、関連付けられたメソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

[グローバルオブジェクト] は、 [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインのセクションであり、コネクタやグローバル変数などのすべてのアクティビティでアクセスできるオブジェクトのプレースホルダーです。グローバルオブジェクト内にフォルダーを作成することで、オブジェクトをさらに整理できます。

RPA デスクトップデザインスタジオ のキーボードショートカット

キーボードショートカットを使用すると、RPA デスクトップデザインスタジオ で次のアクションをすばやく実行できます。

RPA デスクトップデザインスタジオ のキーボードショートカット

アクション	**Windows** キーボード ショートカット
プロジェクトを作成する	Ctrl + N
プロジェクトを開く	Ctrl + O
プロジェクトを保存	Ctrl + S
自動化をビルド	Ctrl + Enter キー このオプションは、Now Assist for RPA ハブが有効になっている場合にのみ使用できます。 詳細については、「Now Assist で自動化をビルドする」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA デスクトップデザインスタジオ のキーボードショートカット (続く)

アクション	Windows キーボード ショートカット
元に戻す	Ctrl + Z
やり直し	Ctrl + Y
実行	F5
グローバル実行	Ctrl + F5
グローバル停止	Ctrl + Shift + F5
ログを消去	Ctrl + F8
ステップオーバー	Ctrl + F10
コピー	Ctrl + C
切り取り	Ctrl + X
貼り付け	Ctrl + V
すべて選択	Ctrl + A
プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)	Ctrl + R
オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)	Ctrl + Alt + J
ツールボックス	Ctrl + Alt + X
プロパティ	F4
ウィンドウを検索	Ctrl + F
削除	Del

RPA デスクトップデザインスタジオ の構成

組織での RPA デスクトップデザインスタジオ の実装を計画および構成できます。

ServiceNow® RPA デスクトップデザインスタジオ は、RPA 開発者が自動化ワークフローを設計または構成するための Windows ネイティブアプリケーションです。

重要な情報

自動化の設計中に使用されたバージョンに関係なく、RPA デスクトップデザインスタジオおよびロボットの最新バージョンで実行されるコンポーネントのリストについては、「最新バージョンと互換性のあるコンポーネントのリスト」トピックを参照してください。

構成の概要

インストールパッケージをダウンロードし、インストール後に RPA デスクトップデザインスタジオを構成するには、次のタスクを実行します。

1. RPA デスクトップデザインスタジオ のインストール

   admin ロールを保持している場合は、RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションを Windows マシンにインストールできます。

2. RPA デスクトップデザインスタジオの設定

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続マネージャーで ServiceNow® RPA ハブインスタンスの詳細を追加してアプリケーションの使用を開始できるように、RPA デスクトップデザインスタジオ を設定します。

3. RPA デスクトップデザインスタジオ から RPA ハブ インスタンスへの接続

   RPA デスクトップデザインスタジオ と ServiceNow® RPA ハブ インスタンス間の接続を確立できるように、接続マネージャーを使用して RPA ハブインスタンスに 3 つの方法で接続します。

4. アップグレードシナリオでは、インスタンスがホットフィックスとともにインストールされ、後で新しいリリースにアップグレードされた場合は、それぞれのプラグインに必要なホットフィックスが新しいプラグインバンドルにインストールされていることを確認します。デフォルトでは、システムによって上書きされます。これを行わないと、ホットフィックスが適用されず、同じ問題が再度発生する可能性があります。詳細については、「ホットフィックスのインストール後に必要な後処理」を参照してください。

ガイド付きセットアップを使用した **RPA** デスクトップデザインスタジオ の実装

ガイド付きセットアップには一連のタスクがあり、RPA デスクトップデザインスタジオ を構成するために役立ちます。ガイド付きセットアップを使用すると、完了した内容が追跡されるため、設定を中断しても、その時点から再開することができます。RPA ハブ のガイド付きセットアップを開くには、[すべて] > [ロボティックプロセス自動化 **(Robotic Process Automation)]** > [管理] > [ガイド付きセットアップ]に移動します。

ガイド付きセットアップインターフェイスの使用の詳細については、「ガイド付きセットアップの使用」を参照してください。

RPA デスクトップデザインスタジオ のインストール

admin ロールを保持している場合は、RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションを Windows マシンにインストールします。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションのインストールファイルをダウンロードして展開します。詳細については、「RPA ハブ からの RPA アプリケーションのダウンロード」を参照してください。

ハードウェアとソフトウェアの要件を満たしていることを確認します。

次のハードウェア仕様に、最小リソースと推奨リソースを示します。

ハードウェア要件

リソース	最低	推奨
CPU	Intel プロセッサ (Core i5 以上)	Intel プロセッサ (Core i7)
RAM	4 GB RAM	8 GB RAM
ディスクスペース	20 GB 以上の空きディスク容量 (OS、パッチ、およびベースソフトウェアのインストール後)	50 GB 以上の空きディスク容量 (OS、パッチ、およびベースソフトウェアのインストール後)

ソフトウェア要件

ソフトウェア要件は以下のとおりです。

- オペレーティングシステム：Microsoft Windows 10 または Windows Server 2016 または Windows Server 2019
- NET フレームワーク：Windows 4.7.1 以降

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 解像度 1920x1080p のモニター
- DPI スケーリング設定を非アクティブ化する必要があります。

Microsoft Edge WebView2 ランタイムは、ServiceNow ログイン画面が RPA ユーザーと連携するための前提条件です。Microsoft Edge WebView2 ランタイムは、Windows 10 OS の特定のリリースでのみ、デフォルトでインストールされます。これを使用できない場合は、Microsoft Edge WebView2 ランタイムをインストールしてください。

Microsoft Edge WebView2 ランタイムの詳細については、「Delivering Microsoft Edge WebView2 Runtime to managed Windows 10 devices (マネージド Windows 10 デバイスへの Microsoft Edge WebView2 ランタイムの展開)」を参照してください。Microsoft Edge WebView2 ランタイム MSI のダウンロードの詳細については、「Microsoft Edge WebView2」を参照してください。

必要なロール：admin

手順

1. `Robotic Process Automation Desktop Design Studio.msi` ファイルを見つけて開きます。
2. [RPA デスクトップデザインスタジオ セットアップウィザードにようこそ] ダイアログボックスで [次へ] をクリックします。
3. [インストールフォルダーの選択 (Select Installation Folder)] ダイアログボックスで、次のいずれかのアクションを実行してフォルダーを選択します。
   - デフォルトのフォルダーにアプリケーションをインストールするには、[次へ] をクリックします。
   - 別のフォルダーにアプリケーションをインストールするには、[フォルダー] フィールドでフォルダーの場所を選択するか、[参照] をクリックしてフォルダーを選択します。次に、[次へ] をクリックします。
4. [インストールの確認 (Confirm Installation)] ダイアログボックスで、[次へ] をクリックしてインストールを開始します。
5. インストールが完了したら、[インストール完了 (Installation Complete)] ダイアログボックスで [閉じる] をクリックします。

タスクの結果
デスクトップに RPA デスクトップデザインスタジオ アイコンが表示されます。

次のタスク
RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションを設定します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオの設定」を参照してください。

RPA デスクトップデザインスタジオの設定

接続マネージャーで ServiceNow RPA ハブインスタンスの詳細を追加してアプリケーションの使用を開始できるように、RPA デスクトップデザインスタジオ を設定します。

RPA デスクトップデザインスタジオ の構成の詳細については、このビデオをご覧ください。

https://player.vimeo.com/video/1031641086?h=06a646eaf2&badge=0&autopause=0&player_id=0&app_id=58479

始める前に
RPA デスクトップデザインスタジオ をインストールします。インストール方法の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ のインストール」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

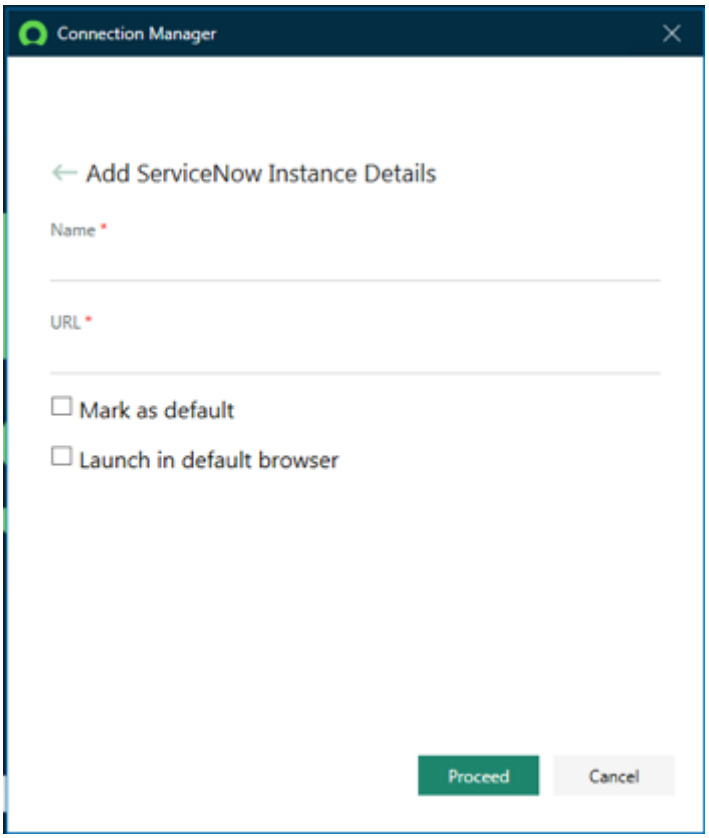
必要なロール：なし

このタスクについて
このタスクは RPA デスクトップデザインスタジオの初回設定時、または RPA ハブ インスタンスを追加する際に実行できます。

手順

1. デスクトップから、[RPA デスクトップデザインスタジオ] アイコン ( ) をダブルクリックします。
   RPA デスクトップデザインスタジオを初めて使用する場合は、[接続マネージャー] ダイアログボックスでインスタンスの詳細を追加できます。

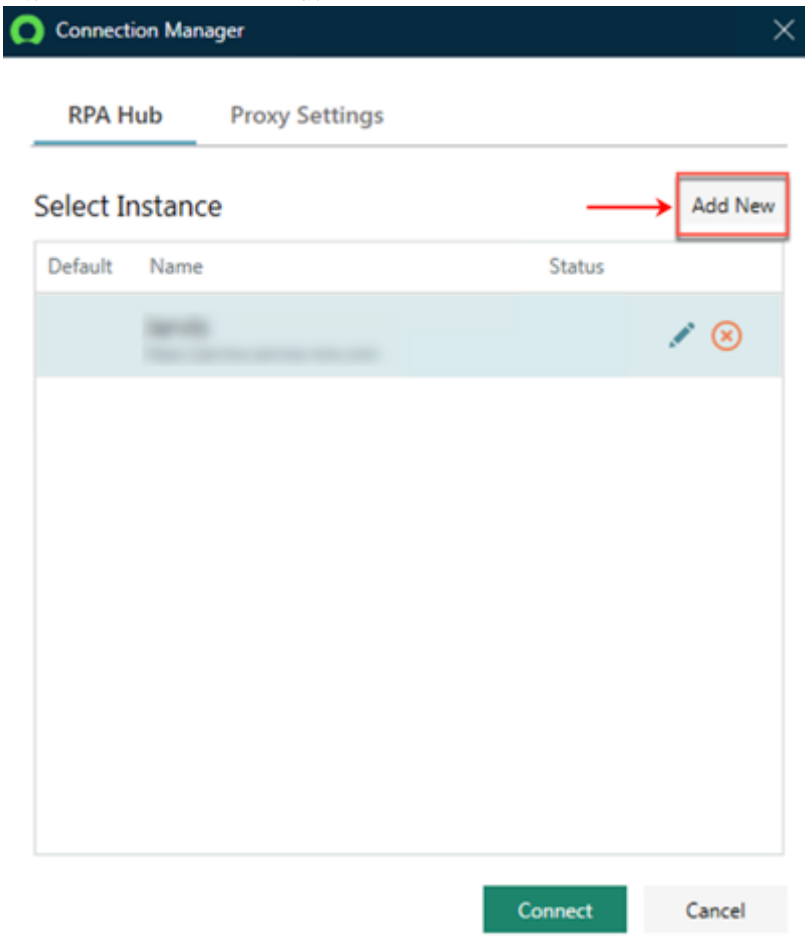
   接続マネージャー



2. オプション: RPA デスクトップデザインスタジオを使用して開始し、接続マネージャーからインスタンスを追加する場合は、[新規追加] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続マネージャーからの新しいインスタンスの追加



3. フォームのフィールドに入力します。

[ServiceNow インスタンスの詳細を追加] フォーム

フィールド	説明
名前	インスタンスを簡単に識別できる ServiceNow RPA ハブ インスタンスの名前。たとえば、「`Dev instance`」。
URL	ServiceNow RPA ハブ インスタンス URL。たとえば、「`https://<instance name>.service-now.com/`」。
デフォルトとしてマークする	このインスタンスをデフォルトとして有効にするオプション。このデフォルトのインスタンスを使用すると、RPA デスクトップデザインスタジオが毎回起動します。 このオプションをオフにすると、[RPA デスクトップデザインスタジオ] アイコン ( ) をタブルクリックするたびに [接続マネージャー] ダイアログボックスが開きます。
デフォルトのブラウザーで起動	ご使用のマシンのデフォルトブラウザーでこのインスタンスを起動するオプション。

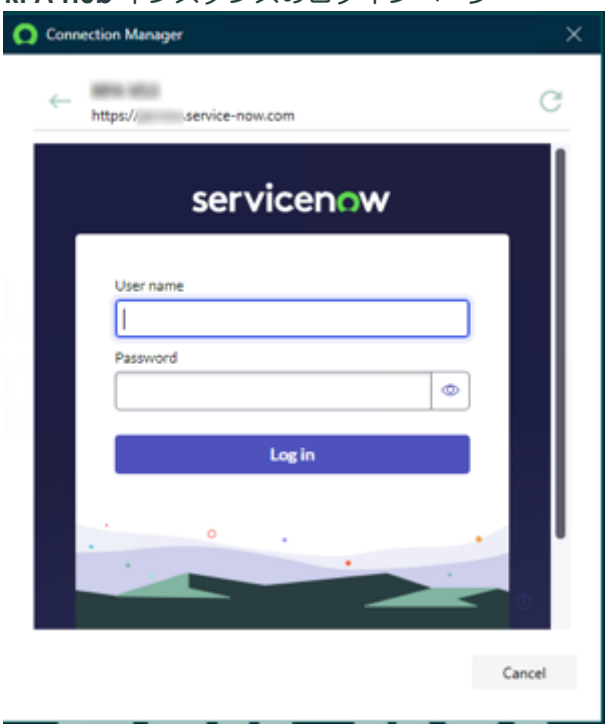
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. オプション: 会社のポリシーに従ってインターネット接続のプロキシ設定を追加するには、次のアクションを実行します。
   a. [接続マネージャー] ダイアログボックスの [プロキシ設定] タブで、サーバーアドレス、ユーザー名、パスワードのフィールドに入力し、[パスワードを保存] チェック ボックスをオンにしてパスワードを保存します。
   b. [保存] を選択します。
5. [続行] を選択すると、RPA ハブ インスタンスのプラグインがマシンにダウンロードされます。

RPA Hub インスタンスからのプラグインのダウンロード

プラグインがダウンロードされると、RPA ハブ インスタンスのログインページが表示されます。

RPA Hub インスタンスのログインページ

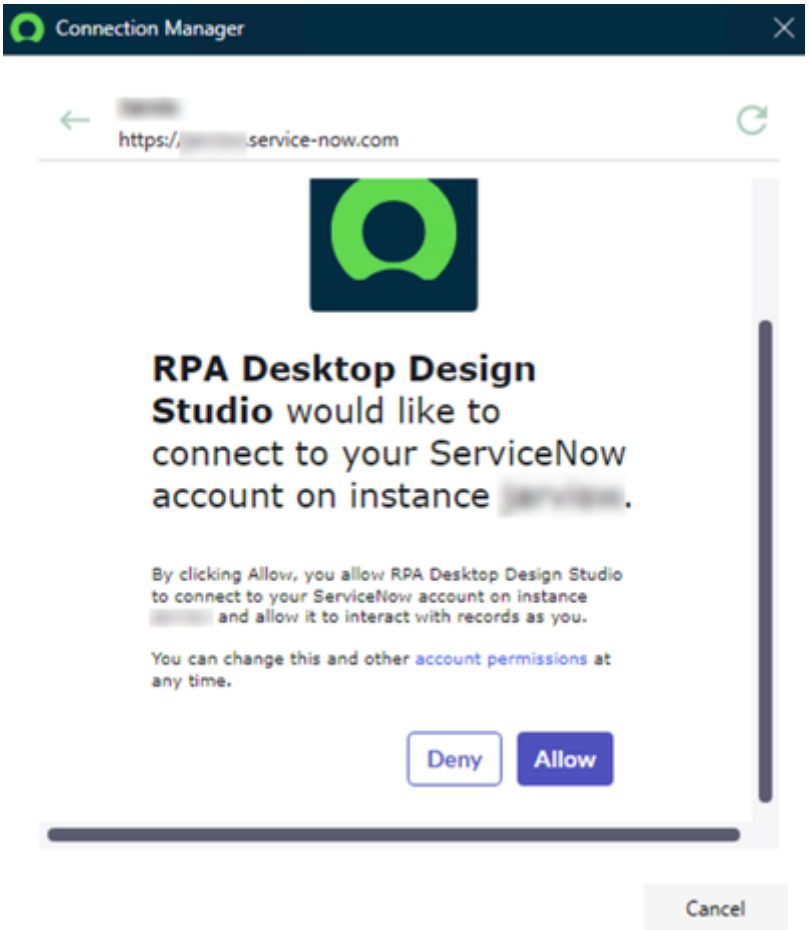


注: 接続に失敗しました。RPA プラグインが ServiceNow インスタンスで利用可能かどうかを確認します。RPA デスクトップデザインスタジオを起動すると が表示されるので、**[OK]** を選択して、RPA プラグインがインストールされている ServiceNow インスタンス URL を構成します。RPA デスクトップデザインスタジオを再起動して、もう一度やり直してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. RPA ハブ インスタンスのユーザー名とパスワードを入力して接続を認証し、[ログイン] を選択します。
   RPA ハブ インスタンス認証ページが表示されます。

RPA ハブ インスタンス認証



> **重要:**
> - [接続マネージャー] ダイアログボックスに認証情報を入力しても、次の画面で [許可] ボタンをクリックしないと、セッションがタイムアウトします。
> - RPA デスクトップデザインスタジオを起動するたびに RPA ハブ インスタンスを認証する必要があります。認証せずにログイン操作をキャンセルすると、RPA デスクトップデザインスタジオ は起動しません。

7. [許可] を選択します。
   認証が完了し、RPA デスクトップデザインスタジオのホームページが表示されます。

次のタスク
RPA デスクトップデザインスタジオのホームページから自動化の作成を開始できます。自動化の作成方法の詳細については、「自動化プロジェクトを手動で作成する」または「Now Assist を使用した自動化の作成」を参照してください。

RPA デスクトップデザインスタジオ から **RPA** ハブ インスタンスへの接続

RPA デスクトップデザインスタジオ と ServiceNow RPA ハブ インスタンス間の接続を確立できるように、接続マネージャーを使用して RPA ハブ インスタンスに 3 つの方法で接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションを設定して、ServiceNow のインスタンスの詳細を追加します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオの設定」を参照してください。

自動化プロジェクトを開きます。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でローカル自動化プロジェクトを開く」と「RPA デスクトップデザインスタジオでクラウド自動化プロジェクトを開く」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて
RPA デスクトップデザインスタジオを起動すると、異なる認証情報を使用して同じインスタンスに接続できます。

RPA デスクトップデザインスタジオが起動された後は、別のインスタンスに接続できません。

別のインスタンスに接続するには、RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションを閉じてから再度開く必要があります。

手順

1. RPA ハブ インスタンスに接続するには、[接続マネージャー] ダイアログボックスで次のいずれかのアクションを実行します。

オプション	アクション
インスタンスが 1 つの場合	a. RPA ハブ セクションで、RPA ハブ インスタンスを選択します。 b. [コネクト] を選択します。
複数のインスタンスがあり、いずれもデフォルトとしてマークされていない場合	a. RPA ハブ セクションで、RPA ハブ インスタンスを選択します。 b. **[Proceed]** を選択します。 c. RPA ハブ セクションで、RPA ハブ インスタンスを選択します。 d. [コネクト] を選択します。 e. ユーザー名とパスワードを入力します。 f. [ドメイン] リストからドメインを選択します。 g. [ログイン] を選択します。
インスタンスがデフォルトとしてマークされている場合	a. ユーザー名とパスワードを入力します。 b. [ドメイン] リストからドメインを選択します。 c. [ログイン] を選択します。

2. [接続マネージャー] ダイアログボックスで、RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションが ServiceNow インスタンスに接続してデータにアクセスするための権限を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- RPA デスクトップデザインスタジオ が ServiceNow インスタンスに接続してデータにアクセスできるようにするには、[許可] を選択します。

  注: [接続マネージャー] ダイアログボックスに認証情報を入力しても、[許可] ボタンを選択しないと、30 分後にエラーが発生します。[接続マネージャー] ダイアログボックスを閉じて、再度開きます。

- RPA デスクトップデザインスタジオ が ServiceNow インスタンスに接続してデータにアクセスすることができないようにするには、[拒否] を選択します。これ以上先に進むことはできません。

RPA デスクトップデザインスタジオ での RPA ハブ インスタンスからの切断

RPA デスクトップデザインスタジオの使用中は接続された RPA ハブ インスタンスを切断します。その後、別の認証情報を使用して同じインスタンスにログインできます。たとえば、ボットプロセスのアサイン機能を使用するときに認証情報を切り替えることができます。

始める前に
RPA ハブ インスタンスに接続します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ から RPA ハブ インスタンスへの接続」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて
RPA デスクトップデザインスタジオで接続マネージャーを使用しているときは、RPA ハブ の接続されているインスタンスから切断し、その後別の RPA ハブ インスタンスに接続することはできません。別のユーザーロールを使用して同じ RPA ハブ インスタンスに接続する場合は、接続マネージャーの [切断] オプションを選択して、インスタンスから切断できます。たとえば、開発者ユーザーとして RPA ハブ インスタンスに接続していたシナリオを考えてみましょう。アドミンユーザーとしてインスタンスに接続する場合は、接続マネージャーで [切断] オプションを選択し、アドミンユーザーの認証情報を使用して同じインスタンスにログインできます。

手順

1. [デザイン] タブで、[インスタンスに接続 **(Connect to instance)]** を選択します。
   [接続マネージャー] ダイアログボックスが表示されます。
2. [切断] を選択して、接続されているインスタンスから切断します。

次のタスク
新しい認証情報を使用してログインします。インスタンスへの接続の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ から RPA ハブ インスタンスへの接続」を参照してください。

関連情報

自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン

自動化のビルド

RPA デスクトップデザインスタジオ で自動化プロジェクトを作成し、コンポーネントを使用して、自動化の設計に必要なアクティビティと変数を作成します。

自動化プロジェクトを手動で作成する

タスクを自動化できるように、RPA デスクトップデザインスタジオで有人または無人の自動化プロジェクトを手動で作成します。事前に構築されたテンプレートに基づき、ユースケースを対象とする自動化プロジェクトを作成するか、またはテンプレートを使用せずに自動化プロジェクトを作成することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションを設定して、ServiceNow のインスタンスの詳細を追加します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオの設定」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

無人の自動化は、人間の監督は不要で、繰り返しの多いタスクに使用できます。たとえば、カスタマーリレーションシップマネジメント (CRM) システムでは、無人ロボットが人間の入力なしに Microsoft Excel ファイルへのコピーと貼り付けタスクを実行できます。

有人の自動化には、人間の監督が必要です。たとえば、連絡先センターでは、ロボットがユーザーアシスタントとして使用されます。ロボットはオペレーターのワークステーションにインストールされ、人間のオペレーターがオンデマンドでトリガーします。

自動化プロジェクトを作成するには、RPA デスクトップデザインスタジオが提供するデフォルトのテンプレートを使用するか、または作成して RPA ハブ に公開したカスタム自動化テンプレートを使用することができます。自動化テンプレートはユースケースに対応し、自動化のフレームワークを提供します。たとえば、手動の従業員オンボーディングプロセスを自動化します。RPA デスクトップデザインスタジオが提供するデフォルトのテンプレートは、`Unattended Non-Transactional Workflow`、`Unattended Transactional Workflow`、および `Attended Workflow` です。テンプレートなしで自動化を作成することもできます。

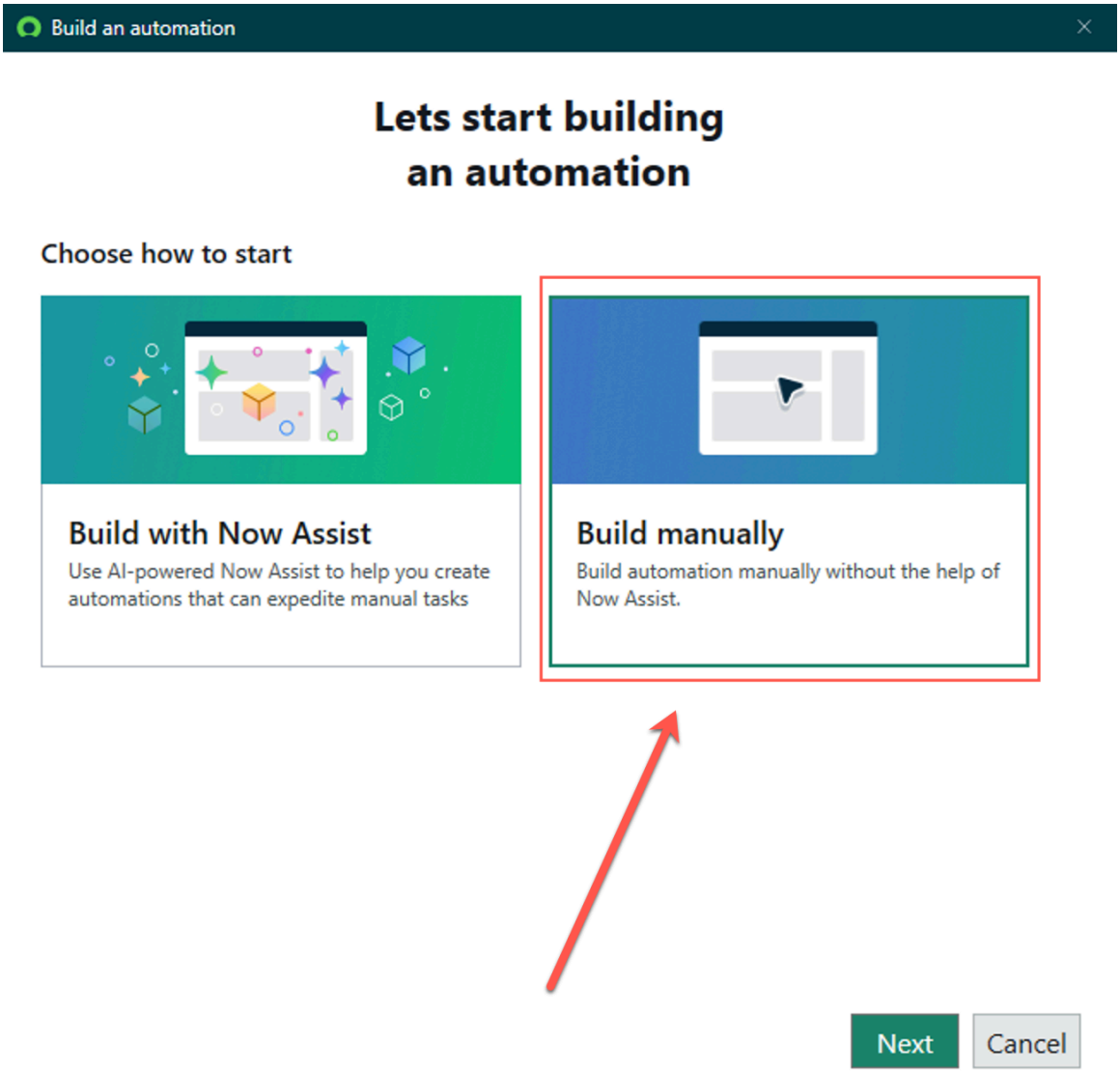
Now Assist を使用して自動化プロジェクトを手動で作成するには、「Now Assist を使用した自動化の作成」を参照してください。

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオのホームページで、[自動化を作成 **(Create automation)**] を選択します。
2. [自動化のビルド (Build an automation)] ウィンドウで、[手動でビルド **(Build manually)**] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化を手動でビルド



3. [次へ] を選択します。
4. [新しい自動化を作成] ウィンドウで、[無人の自動化 **(Unattended Automation)]** または [有人の自動化 **(Attended Automation)]** を選択します。
5. [名前] フィールドに無人または有人の自動化プロジェクトの名前を入力します。
6. オプション: [説明] フィールドに、無人または有人の自動化プロジェクトの説明を入力します。
7. [場所] フィールドに、自動化プロジェクトの場所を入力するか、デフォルトの場所を保持します。
8. [次へ] を選択します。
9. [Do you want to select a template (テンプレートを選択しますか)] ダイアログボックスで、いずれかのタスクを実行できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テンプレートなしで自動化を作成するには、[空白のキャンバスを使用 **(Use a blank canvas)]** を選択します。
- テンプレートに基づいて自動化を作成するには、[テンプレートの選択] を選択し、デフォルトのテンプレートから選択します。

> **注:**
>
> デフォルトでは、RPA デスクトップデザインスタジオは作成した自動化プロジェクトと特定のプラグインの最新バージョンを提供します。プロジェクトを作成した後、さらにプラグインを追加できます。[新しい自動化を作成] ウィンドウで、[表示] を選択してデフォルトのプラグインを表示します。
>
> RPA デスクトップデザインスタジオが提供するデフォルトのテンプレート、または作成して RPA ハブ に公開したカスタムテンプレートから選択できます。このテンプレートは、読み込まれたプラグインのバージョンで構築されます。

10. [作成] を選択します。

関連情報

RPA デスクトップデザインスタジオでスキルプロジェクトを作成する

テンプレートによる自動化プロジェクトの作成

RPA デスクトップデザインスタジオが提供するデフォルトの自動化テンプレートから、または RPA デスクトップデザインスタジオで設計して RPA ハブ に公開したテンプレートから、自動化プロジェクトを作成します。自動化テンプレートはユースケースに対応し、自動化のフレームワークを提供します。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

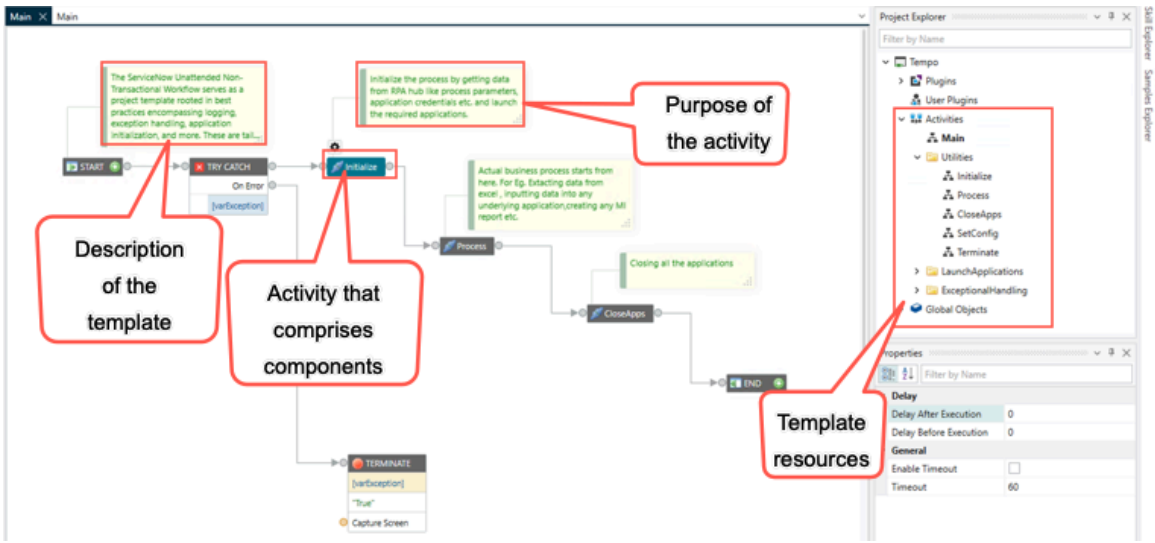
RPA デスクトップデザインスタジオが提供するデフォルトのテンプレートは、`Unattended Non-Transactional Workflow`、`Unattended Transactional Workflow`、および `Attended Workflow` です。RPA デスクトップデザインスタジオこれらのテンプレートを自動化プロジェクトのフレームワークとして使用します。自動化プロジェクトを作成し、それをテンプレートとして RPA ハブ に公開して、自動化フレームワークとして使用することもできます。

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオのホームページで、[自動化を作成 **(Create automation)]** を選択します。
2. [自動化のビルド (Build an automation)] ウィンドウで、[手動でビルド **(Build manually)]** を選択します。
3. [無人の自動化 **(Unattended Automation)]** または [有人の自動化 **(Attended Automation)]** を選択します。
4. [名前] フィールドに無人または有人の自動化プロジェクトの名前を入力します。
5. オプション: [説明] フィールドに、無人または有人の自動化プロジェクトの説明を入力します。
6. [場所] フィールドに、自動化プロジェクトの場所を入力するか、デフォルトの場所を保持します。自動化プロジェクトファイルが別のフォルダーにあることを確認します。現在のプロジェクトファイルの場所にあるすべてのファイルとフォルダーが RPA ハブ に公開されます。
7. [次へ] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [テンプレートを選択してください (Select a template)] ダイアログ ボックスで、[テンプレートの選択] を選択します。
画面には、RPA デスクトップデザインスタジオが提供するデフォルトのテンプレートとカスタム テンプレート (存在する場合) の両方が表示されます。このテンプレートは、読み込まれたプラグインのバージョンで構築されます。
9. デフォルトのテンプレートからテンプレートを選択します。
10. [作成] を選択します。
自動化プロジェクトが作成されます。



RPA デスクトップデザインスタジオでスキルプロジェクトを作成する

他の自動化で再利用できるスキル自動化プロジェクトを RPA デスクトップデザインスタジオで作成します。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションを設定して、ServiceNow のインスタンスの詳細を追加します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオの設定」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

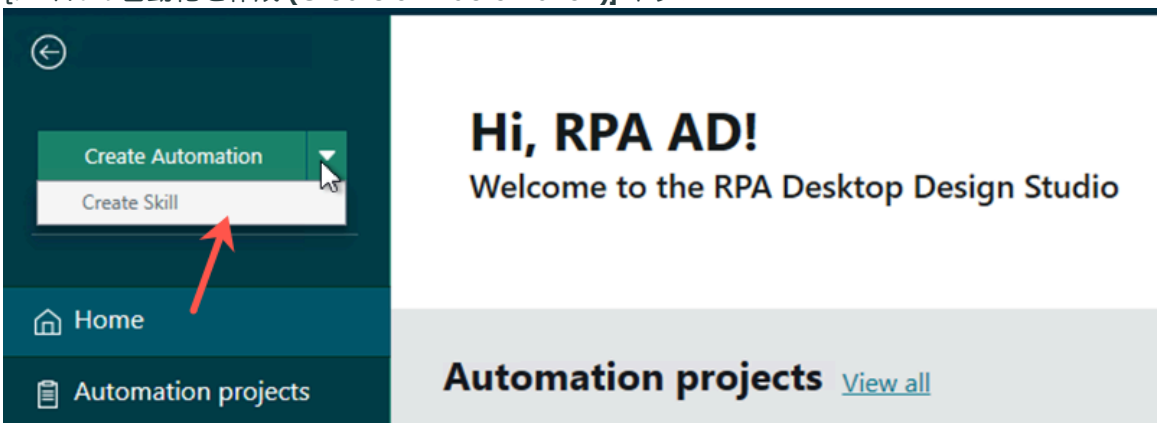
スキルの自動化は再利用可能なコンポーネントです。スキルをビルドすることで、他の自動化プロセスにビルド済みの機能を提供できます。たとえば、ログイン機能が 4 つの異なる自動化で使用される場合、そのログイン機能は、自動化間で再利用できるスキルとして作成できます。

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオ のホームページで、[自動化を作成 **(Create automation)]** ボタンの下矢印を選択します。
2. [スキルを作成] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[スキルの自動化を作成 **(Create Skill automation)**] ボタン



3. [名前] フィールドに、スキルの自動化プロジェクトの名前を入力します。
4. オプション: [説明] フィールドに、スキルの自動化プロジェクトの説明を入力します。
5. [場所] フィールドに、スキルの自動化プロジェクトの場所を入力するか、デフォルトの場所を保持します。

   注: デフォルトでは、RPA デスクトップデザインスタジオは作成した自動化プロジェクトと特定のプラグインの最新バージョンを提供します。プロジェクトを作成した後、さらにプラグインを追加できます。[新規スキルを作成 (Create new skill)] ウィンドウで、[最新のプラグインを使用する **(Using latest plugins)**] の隣にある [表示] を選択し、デフォルトのプラグインを表示します。

6. [作成] を選択します。

関連情報

自動化プロジェクトを手動で作成する

テンプレートによる自動化プロジェクトの作成

Now Assist を使用した自動化の作成

RPA デスクトップデザインスタジオ でローカル自動化プロジェクトを開く

RPA デスクトップデザインスタジオ で、ローカルファイルシステムから自動化プロジェクトを開き、自動化をデバッグ、ビルド、または変更できるようにします。

始める前に

自動化プロジェクトを作成します。詳細については、「自動化プロジェクトを手動で作成する」または「Now Assist を使用した自動化の作成」を参照してください。

RPA ハブ の関連付けされたパッケージファイルにアクセスし、自動化パッケージをダウンロードします。詳細については、「RPA ハブ でのパッケージバージョンのダウンロード」を参照してください。

必要なロール：なし

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオで、[ホーム] > [自動化プロジェクト]に移動します。
2. [ローカルプロジェクトを開く **(Open local project)**] を選択します。
3. [ServiceNow 自動化プロジェクトを開く (Open Automation Project)] ダイアログボックスで、プロジェクトを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [開く] を選択します。
5. オプション: プロジェクトで使用されているプラグインバージョンがローカルフレームワークにない場合は、 [プラグインバージョンを選択 (Choose Plugin Version)] ダイアログボックスに移動し、使用するプラグインバージョンを選択して、**[OK]** を選択します。

> **重要:** RPA デスクトップデザインスタジオの設定の最新バージョンで古い自動化プロジェクトを開くと、[プラグインバージョンをアップグレード (Upgrade Plugin Version)] ダイアログボックスが表示されます。プラグインバージョンのアップグレードに進み、アップグレード後に自動化コンポーネントが利用できなくなった場合、これらのコンポーネントは自動化プロジェクトで [不明] としてマークされます。

RPA デスクトップデザインスタジオでクラウド自動化プロジェクトを開く

RPA デスクトップデザインスタジオ の RPA ハブ から自動化プロジェクトをリモートで開き、自動化をデバッグ、構築、または変更できるようにします。

始める前に

開こうとしているパッケージ (自動化プロジェクト) が RPA ハブ で公開されていることを確認します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ での自動化プロジェクトの公開」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer、sn_rpa_fdn.rpa_support_user、または sn_rpa_fdn.rpa_admin

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオで、[ホーム] > [自動化プロジェクト]に移動します。
2. [クラウドプロジェクトを開く **(Open cloud project)]** を選択します。
   選択した ServiceNow インスタンスセッションが期限切れの場合、ServiceNow インスタンスの詳細を追加します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオの設定」を参照してください。
3. [プロジェクトを開く (Open Project)] ダイアログボックスで、パッケージの名前とバージョンを選択します。
4. [開く] を選択します。
5. [保存] を選択し、ServiceNow プロジェクトをデフォルトの場所に保存します。
6. オプション: プロジェクトで使用されているプラグインバージョンがローカルフレームワークにない場合は、 [プラグインバージョンを選択 (Choose Plugin Version)] ダイアログボックスに移動し、使用するプラグインバージョンを選択して、**[OK]** を選択します。

> **重要:** RPA デスクトップデザインスタジオの設定の最新バージョンで古い自動化プロジェクトを開くと、[プラグインバージョンをアップグレード (Upgrade Plugin Version)] ダイアログボックスが表示されます。プラグインバージョンのアップグレードに進み、アップグレード後に自動化コンポーネントが利用できなくなった場合、これらのコンポーネントは自動化プロジェクトで [不明] としてマークされます。

RPA デスクトップデザインスタジオ でのプラグインの管理

RPA デスクトップデザインスタジオ で無人および有人の自動化プロジェクトを作成する際に、自動化を設計するためのプラグインをインストール、更新、削除します。

始める前に

必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
RPA プラグインは、RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションによって利用される Windows ライブラリファイルのバンドルです。これらのプラグインは、ロボティックプロセス自動化 (RPA) 製品の機能を拡張するものです。たとえば、Universal App Connector プラグインを使用すると、Google Chrome ブラウザー上で RPA アプリケーションがタスクを自動化できます。

Internet Explorer、Essential Connectors、Essential Toolkit、Universal App Connector プラグインは、デフォルトで RPA デスクトップデザインスタジオプロジェクトで利用可能です。

RPA デスクトップデザインスタジオプロジェクトのすべてのプラグインをインストール、更新、削除するには、[表示] タブの [プラグインマネージャー **(Plugin Manager)]**、または RPA デスクトップデザインスタジオの [プロジェクトエクスプローラー **(Project Explorer)]** の下の [プラグイン] ノードを使用します。

手順

1. [プラグインマネージャー (Plugin Manager)] ウィンドウを RPA デスクトップデザインスタジオプロジェクトに移動するには、次のいずれかのステップを実行します。
   - [表示] > [プラグインマネージャー **(Plugin Manager)]**の順に移動します。
   - [プロジェクトエクスプローラー **(Project Explorer)]** ペインで、[プラグイン] を右クリックし、[プラグインの追加 **(Add Plugin)]** を選択します。

   [利用可能] タブにはインストール可能なプラグインが表示され、[インストール済み] タブには現在のRPA デスクトップデザインスタジオプロジェクトで利用可能なプラグインが表示されます。
2. プラグインを追加するには、[プラグインマネージャー (Plugin Manager)] ウィンドウで [利用可能] タブを選択します。
3. 追加するプラグインを選択します。

   ヒント: プラグインを見つけるには、[フィルター] フィールドにプラグインの名前を入力します。

4. [追加] を選択します。
   デフォルトでは、RPA デスクトップデザインスタジオにプラグインの最新バージョンが表示されます。以前のバージョンを表示するには、ドロップダウンを選択します。
   プラグインが現在の RPA デスクトップデザインスタジオ プロジェクトに追加され、[プラグインマネージャー (Plugin Manager)] ウィンドウの [インストール済み] タブに表示されます。
5. **[OK]** を選択します。
6. オプション: さらにプラグインを追加するには、この手順を繰り返します。
7. その他のプラグインオプションについては、次の手順を実行します。

アクション	ステップ
プラグインのバージョンを更新する	**a.** [プラグインマネージャー (Plugin Manager)] ウィンドウを開きます。 **b.** [利用可能] または [インストール済み] タブを選択します。 **c.** プラグインを選択します。 **d.** [更新] を選択します。 **e. [OK]** を選択します。 **f.** プロジェクトを保存して閉じ、再度開いて、更新されたプラグインを現在のプロジェクトにロードします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクション	ステップ
プラグインを削除する	**a.** [プラグインマネージャー (Plugin Manager)] ウィンドウを開きます。 **b.** [利用可能] または [インストール済み] タブを選択します。 **c.** プラグインを選択し、[削除] を選択します。 **d.** [はい] を選択します。 **e. [OK]** を選択します。 プラグインは現在の RPA デスクトップデザインスタジオ プロジェクトで使用できなくなり、[インストール済み] タブから削除されました。

RPA デスクトップデザインスタジオ のユーザープラグインを作成する

Microsoft Visual Studio を使用してユーザープラグインを作成し、RPA 開発者が複雑な .NET コンポーネントやライブラリを RPA デスクトップデザインスタジオ でシームレスに使用できるようにします。

始める前に

Microsoft Visual Studio Pro、Community、Enterprise のうち、いずれかのバージョンを使用して、このタスクを実行します。

必要なロール：なし

このタスクについて

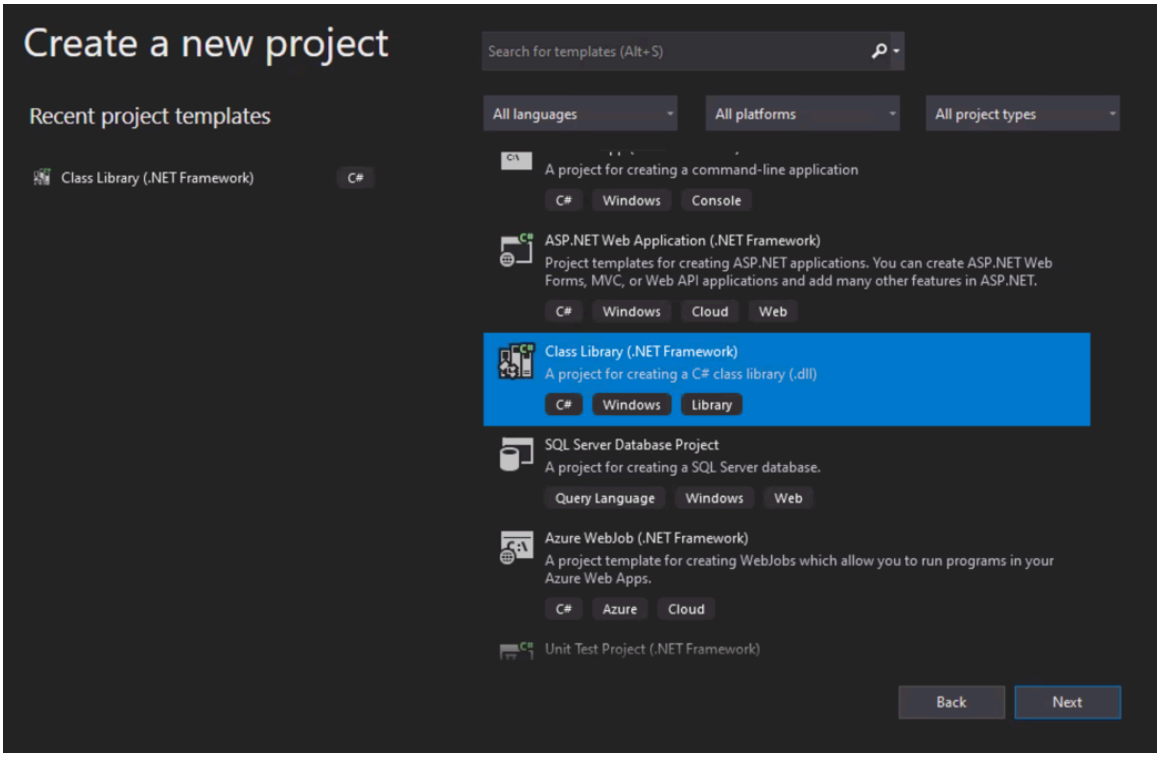
次の手順では、C#.NET を使用してユーザープラグインを作成する方法について説明します。

手順

1. Microsoft Visual Studio を開き、[新しいプロジェクトを作成] をクリックします。
2. [新しいプロジェクトを作成] ダイアログボックスで、クラスライブラリ (.NET Framework) テンプレートを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クラスライブラリ **DOT NET Framework** のプロジェクトタイプを選択する



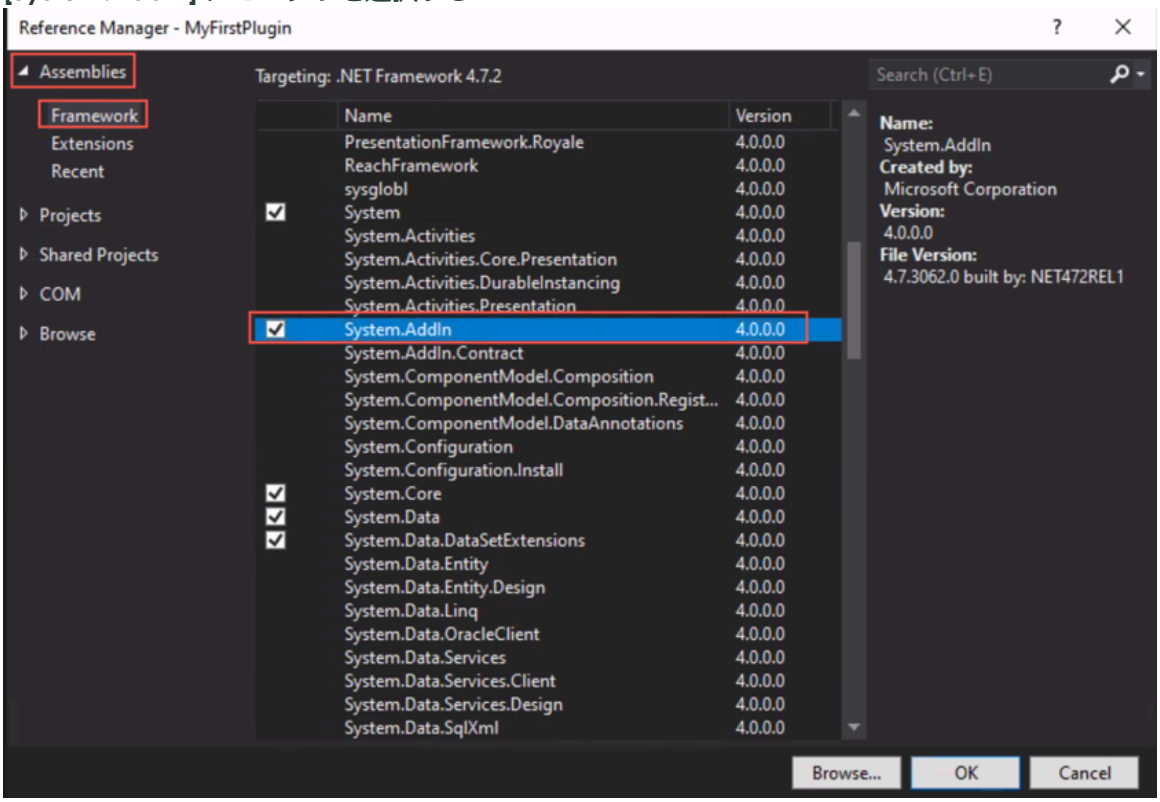
3. [次へ] をクリックします。
4. [新しいプロジェクトを構成 (Configure your new project)] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明およびアクション
プロジェクト名	プロジェクトの名前です。 たとえば、「`MyFirstPlugin`」です。
ロケーション	プロジェクトの場所です。 ディスクの場所を選択します。
ソリューション名	プロジェクトのソリューション名です。
フレームワーク	フレームワークのバージョンを選択します。 **[.NET Framework 4.7]** バージョンを選択します。

5. [作成] をクリックします。
   Class1.cs ファイルが開きます。
6. [ソリューションエクスプローラー (Solution Explorer)] ペインで、[参照] を右クリックし、[参照を追加] を選択します。
7. [参照マネージャー (Reference Manager)] ダイアログボックスで、[アセンブリ] > [フレームワーク] に移動します。
8. **[System.AddIn]** アセンブリを選択して、このアドインの注釈を追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[System.AddIn] アセンブリを選択する



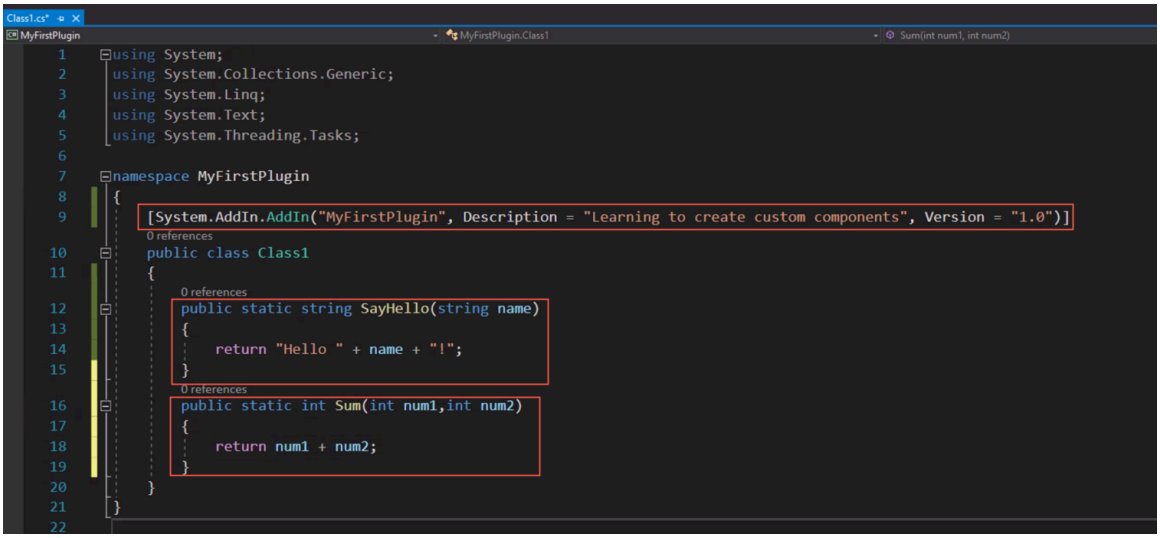
9. **[OK]** をクリックします。
10. Class1.cs ファイルで、`System.AddIn.AddIn("MyFirstPlugin", Description = "Learning to create custom components", Version = "1.0")` コードスニペットをクラスの上に追加します。
11. Class1.cs ファイルで、コードにパブリック静的メソッドを 1 つ以上作成します。

    この例では、2 つのメソッドをコードに追加しています。

    - **[SayHello]** メソッド：名前が入力として取得され、名前の後に感嘆符の付いた「Hello」が返されます。たとえば「`User`」と入力すると、「Hello User!」が返されます。
    - **[Sum]** メソッド：2 つの数値が入力として取得され、これら 2 つの数値の合計が返されます。たとえば「`5`」と「`12`」を入力すると、「17」が返されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パブリック静的メソッド



12. [保存] をクリックします。
13. [ソリューションエクスプローラー (Solution Explorer)] ペインで、プロジェクトを右クリックし、[ビルド] を選択します。
14. ビルドが成功したら、次のアクションを実行し、.dll ファイルをコピーして貼り付けます。

    a. [ソリューションエクスプローラー (Solution Explorer)] ペインで、プロジェクトを右クリックし、[ファイルエクスプローラーでフォルダーを開く**(Open Folder in File Explorer)]** を選択します。

    b. **[bin]** > [デバッグ] に移動し、.dll ファイルをコピーします。

    c. RPA デスクトップデザインスタジオ 自動化プロジェクトフォルダーに移動し、新しいフォルダーを **[UserPlugins]** として作成します。

    > **重要:** このフォルダーのスペルが正しく入力されていることを確認してください。

    d. [UserPlugins] フォルダーでフォルダーを作成し、そのフォルダーの名前を入力します。

    Example
    たとえば、「`My First Plugin`」です。

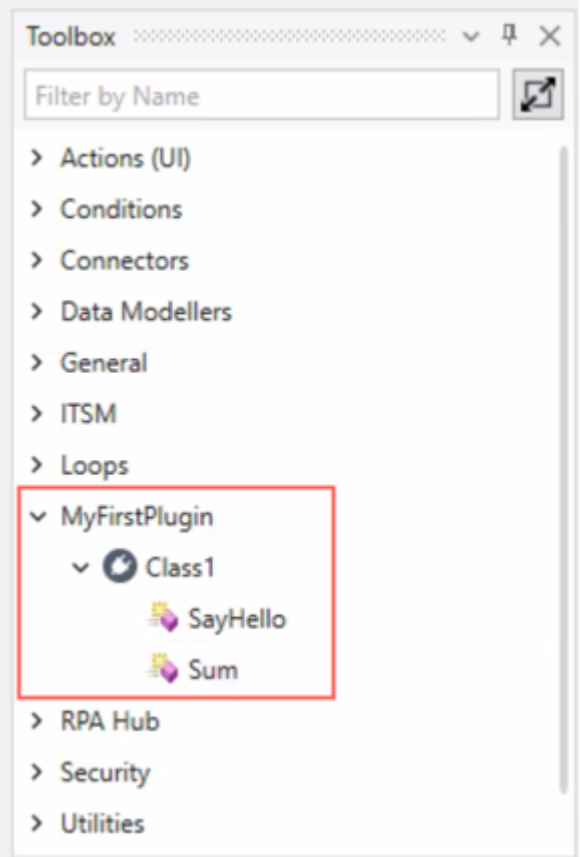
    e. このフォルダーに .dll ファイルを貼り付けます。

15. RPA デスクトップデザインスタジオ で次のアクションを実行し、自動化プロジェクトにプラグインを追加します。
    a. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、[ユーザープラグイン **(User Plugins)]** を右クリックし、[ユーザープラグインの追加 **(Add User Plugin)]** を選択します。
    b. [利用可能なユーザープラグイン (Available User Plugins)] ダイアログボックスで、プラグインを選択します。
    c. **[OK]** をクリックします。
    [ツールボックス] ペインに、作成したユーザープラグインが表示されます。
16. 次のアクションを実行し、ユーザープラグインを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [ツールボックス] ペインで、ユーザープラグインコンポーネントカテゴリに移動し、メソッドを選択します。

ユーザープラグインコンポーネントカテゴリに表示される **2** つのメソッド



b. メソッドを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。

c. 入力パラメーター値を手動で指定するには、メソッドの下の入力パラメーターフィールドをダブルクリックし、値を入力します。

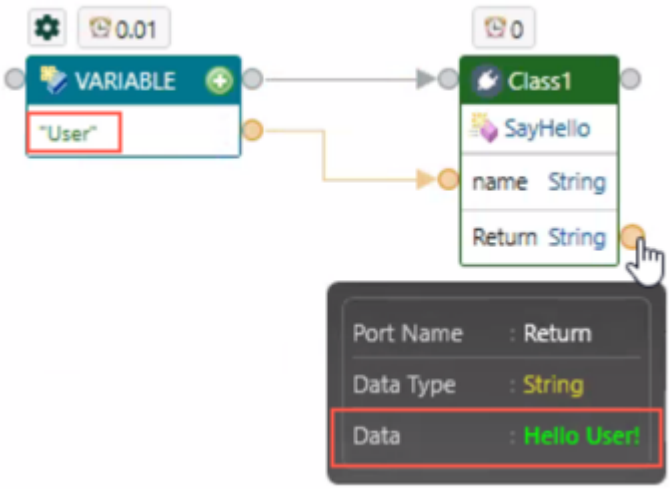
d. 別のメソッドまたはコンポーネントから入力パラメーター値を指定するには、メソッドのデータ入力ポートを別のメソッドまたはコンポーネントのデータ出力ポートに接続します。

e. メソッドのコントロールポートを別のメソッドまたはコンポーネントの対応するポートに接続します。

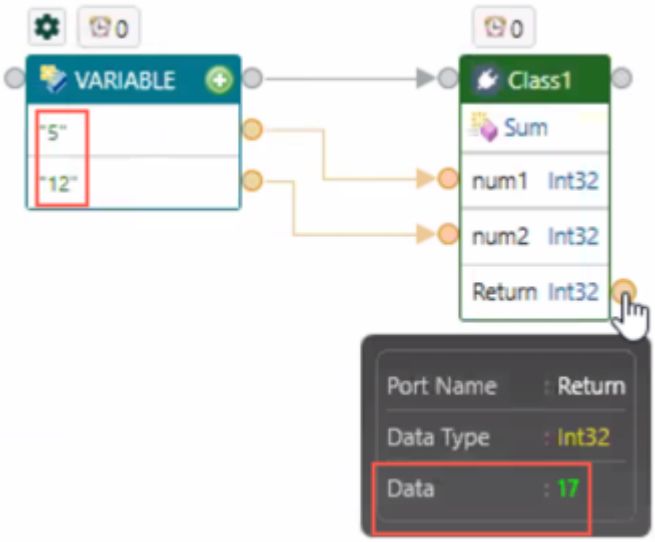
f. [デザイン面 (Design surface)] で、実行を開始するコンポーネントのタイトルバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SayHello メソッドの出力



Sum メソッドの出力



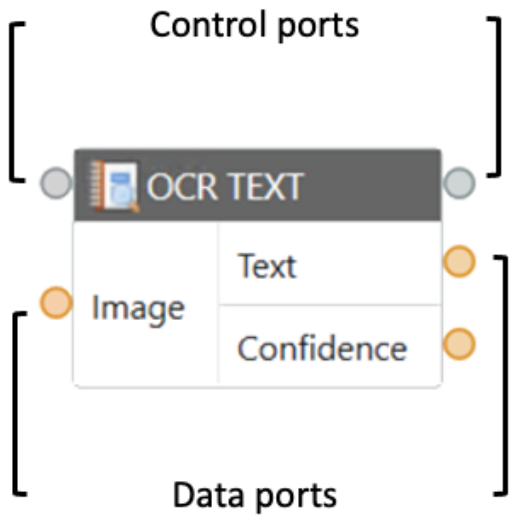
RPA デスクトップデザインスタジオ ポート

RPA デスクトップデザインスタジオ のコンポーネントには、自動化ワークフローの作成時に使用されるポートがあります。

ポートは、コントロールポートとデータポートに分類されます。

灰色のポートはコントロールポートと呼ばれ、オレンジのポートはデータポートと呼ばれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ポートは入力ポートと出力ポートに分類されます。

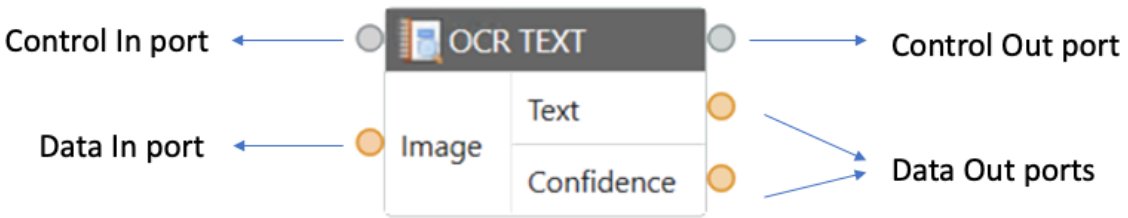
コントロールポートは、コントロール入力ポートとコントロール出力ポートに分類されます。コントロールポートでは、自動化の実行フロー (次にどのコンポーネントを実行するか) を決定します。

データポートは、データ入力ポートとデータ出力ポートに分類されます。データポートとは、コンポーネント間のデータ転送を行うものです。

接続線の矢印は、流れの方向を示しています。

入力ポートは常にコンポーネントの左側に表示され、出力ポートはコンポーネントの右側に表示されます。

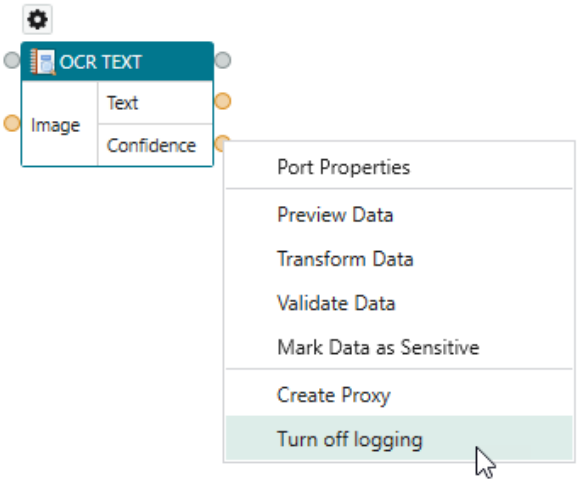
ポートにカーソルを合わせると、ポートの機能が表示されます。



データポートは、そのポートのログ記録をオフにすると赤色になります。たとえば、パスワードや銀行の詳細などの機密情報を記録しない場合は、このオプションを選択します。これを行うには、デー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タ入力ポートまたはデータ出力ポートを右クリックし、[ログ記録をオフにする **(Turn off logging)]**



を選択します。

ログ記録をオンにするには、非アクティブなデータポートを右クリックし、[ログ記録をオンにする **(Turn on logging)]** を選択します。

データポートは、データが変換されると緑色に変わります。たとえば、データポート内にある情報がある形式から別の形式に変換されると、緑色に変わります。これを行うには、データ入力ポートまたはデータ出力ポートを右クリックし、[データを変換] を選択します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でデータを変換する」を参照してください。

RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する

RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用して、自動化プロジェクトを設計します。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

コンポーネントは、自動化の設計や機能の抽象化に使用される再利用可能なブロックです。

RPA デスクトップデザインスタジオ には、自動化プロジェクトを作成する際に使用できるさまざまなコンポーネントが用意されています。

各コンポーネントには、自動化ワークフローを作成する際に使用されるポートがあります。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ ポート」を参照してください。

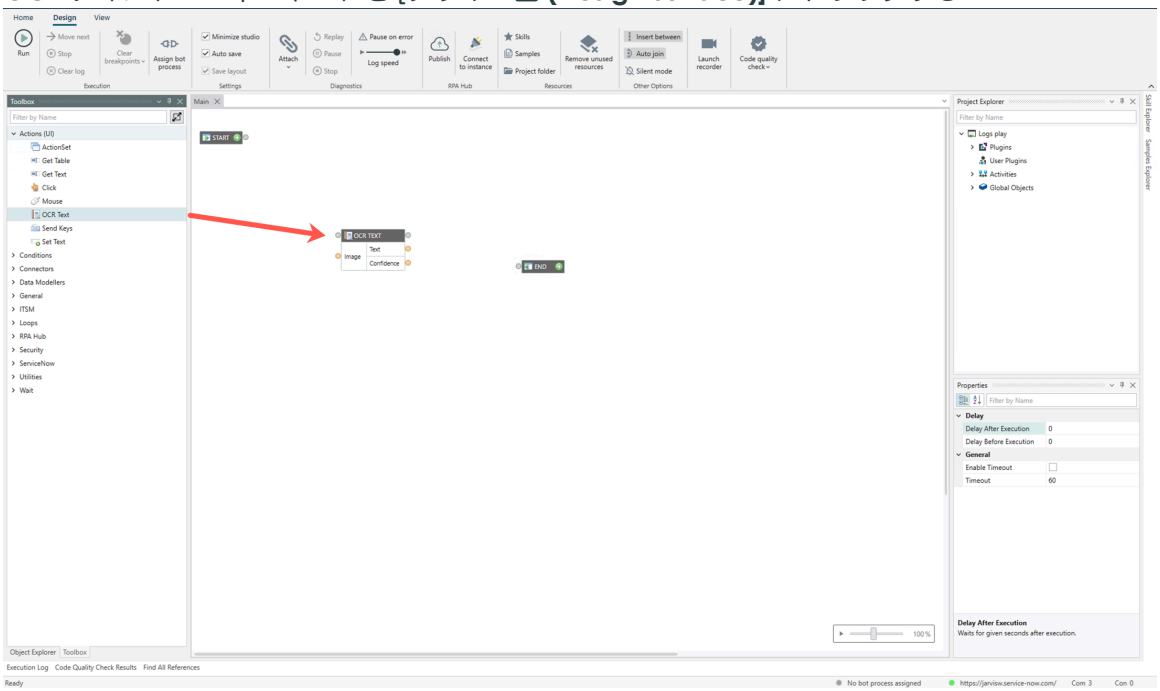
Now Assist for RPA ハブアプリケーションを使用し、空のアクティビティで、または既存のアクティビティのコンポーネントを選択して、テキスト指示で自動化ロジックを拡張します。詳細については、「Now Assist で自動化をビルドする」を参照してください。

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオ で、[ツールボックス] ペインから、親コンポーネントカテゴリに移動し、コンポーネントを選択します。
2. コンポーネントを使用するには、次の例に示すように、コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OCR テキストコンポーネントを [デザイン面 **(Design surface)**] にドラッグする



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要: ツールボックス、オブジェクトエクスプローラー、プロジェクトエクスプローラー、スキルエクスプローラーから [デザイン面 (Design surface)] に自動化コンポーネントをドラッグアンドドロップすると、次の動作が起きる可能性があります。

- コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] 内の同じコンポーネントにドラッグアンドドロップすると、既存のコンポーネントが新しいコンポーネントに置き換えられます。たとえば、[デザイン面 (Design surface)] に既に **ActionSet** コンポーネントがある場合に、別の **ActionSet** コンポーネントを既存の **ActionSet** にドラッグアンドドロップすると、既存のコンポーネントは新しいバージョンに置き換えられます。

  ポート名とポートデータ型が同じ場合、既存のコンポーネントに関連付けられているすべての接続 (制御接続とデータ接続)、変数、または静的データは、新しくドロップされたコンポーネントに関連付けられます。

- 新しいコンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] 内の別のコンポーネントまたはメソッドにドラッグアンドドロップすると、既存のコンポーネントが新しいコンポーネントに置き換えられます。

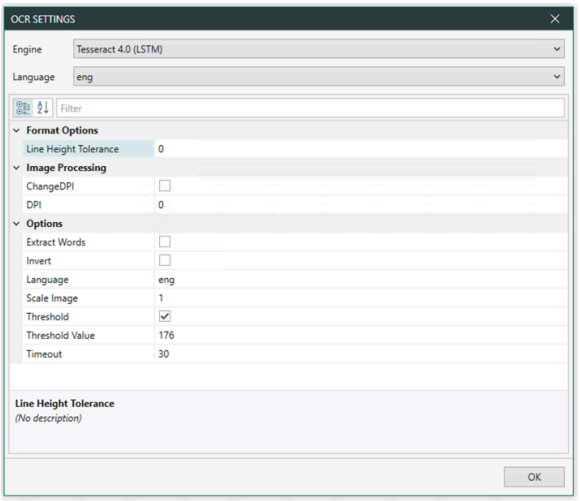
  ポート名とポートデータ型が同じ場合、既存のコンポーネントに関連付けられているすべての接続、変数、または静的データは、新しくドロップされたコンポーネントに関連付けられます。

- コンポーネントを、既に [デザイン面 (Design surface)] に関連付けられた 2 つのコンポーネントの間にドラッグアンドドロップすると、そのコンポーネントは既存のコンポーネントの間に入ります。2 つのコンポーネント間でコンポーネントをドラッグアンドドロップすると、次の動作が発生する可能性があります。
  - 新しくドロップされたコンポーネントのポート名とポートデータ型が、接続されたコンポーネントと一致する場合、データ接続が作成されます。
  - ポート名が同じで、ポートデータ型が異なる場合、ポートデータ型が変換可能な場合のみ、データ接続が作成されます (ソースポートデータをターゲットデータ型に変換する必要があります)。これは、型キャスティングまたは型変換と呼ばれます。型キャスティングの詳細については、「Java Type Casting (JAVA 型キャスティング)」を参照してください。たとえば、整数からオブジェクトへのキャスティングは可能ですが、オブジェクトから整数へはできません。
  - ポート名が同じ場合、ポートのデータ型は変換できますが、2 つのコンポーネント間に既存のデータ接続が既に存在する場合、新しいデータ接続は作成されません。

3. 次のポートを接続します。
   a. OCR Text コンポーネントのコントロール入力ポートを、別のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。
   b. OCR Text コンポーネントのコントロール出力ポートを、次のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。
   c. OCR Text コンポーネントのデータ入力 (ビットマップ) ポートを、別のコンポーネントのデータ出力ポートに接続します。
   d. データ出力 (文字列) を、別のコンポーネントのデータ入力ポートに接続します。
4. 目的のアクションについて、次のいずれかのオプションを実行します。

オプション	アクション
ツールボックス内で利用可能なコンポーネントを検索する	[名前でフィルタリング] フィールドにテキストを入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
コンポーネントの構成または設定を編集する	コンポーネントのタイトルバーをダブルクリックするか、設定アイコン (⚙) をクリックします。 たとえば、OCR Text コンポーネントの設定を編集するには、OCR Text コンポーネントの設定アイコン (⚙) をクリックします。[OCR 設定 (OCR SETTINGS)] ダイアログボックスが表示されます。次の例のダイアログボックスでプロパティを定義できます。 **[OCR 設定 (OCR Settings)] ダイアログボックス**  設定アイコン (⚙) は、すべてのコンポーネントに表示されるわけではありません。
コンポーネントのプロパティを編集する	[プロパティ] ペインで必要なプロパティを変更します。
ブレークポイントを設定	コンポーネントのタイトルバーを右クリックし、[ブレークポイント] を選択します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを一時停止するブレークポイントを設定する」を参照してください。
選択したコンポーネントからワークフローの実行を開始する	コンポーネントのタイトルバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)**] を選択します。
コンポーネントレベルでエラーを処理する	コンポーネントのタイトルバーを右クリックし、[エラーハンドラー] を選択します。エラー処理の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でエラーを処理する」を参照してください。
コンポーネントを削除する	コンポーネントのタイトル バーを右クリックし、[削除]を選択します。
自動化でコンポーネントをスキップする	自動化でコンポーネントをスキップできるようにするには、コンポーネントのタイトルバーを

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	右クリックし、[これをスキップ **(Skip This)]** を選択します。 注: ◦ 同じコンポーネントでブレークポイントと [これをスキップ **(Skip This)]** オプションを設定した場合でも、自動化はコンポーネントをスキップし、次の実行可能なコンポーネントに移動します。 ◦ ツールボックスの [ループ] セクションにある **For Each** および **For Loop** コンポーネントで [これをスキップ **(Skip This)]** オプションを使用すると、自動化はこれらのコンポーネントの「ループ」部分を実行しません。 ◦ **Try Catch** コンポーネントで [これをスキップ **(Skip This)]** オプションを使用すると、自動化はコンポーネントをスキップし、例外がある場合は、自動化のそれぞれのコンポーネントに表示されます。 ◦ [実行後の遅延] または [実行前の遅延] オプションを使用して遅延を設定したコンポーネントで [これをスキップ **(Skip This)]** オプションを使用すると、自動化はコンポーネントをスキップします。 ◦ [これをスキップ **(Skip This)]** オプションは、Decision コンポーネントとそのコンポーネントへの依存関係 (存在する場合) を無視します。 ◦ [これをスキップ **(Skip This)]** オプションは、**Start** でも **End** でも、またイベント関連のどのコンポーネントでも使用できません。
1 つのコンポーネントを実行する	1 つのコンポーネントを分離して自動化の問題をテストおよびデバッグするには、コンポーネントのタイトルバーを右クリックし、[これを実行 **(Run This)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	注: ◦ [これを実行 **(Run This)]** オプションを適用する前または後にコンポーネントにブレークポイントを適用すると、そのブレークポイントによってコンポーネントの実行が一時停止されます。 ◦ For Loop コンポーネントで [これを実行 **(Run This)]** オプションを選択すると、指定したループが完了しますが、実行はコントロール出力ポートには進みません。 ◦ [実行後の遅延] または [実行前の遅延] オプションを使用してコンポーネントの実行に遅延を設定してから [これを実行 **(Run This)]** オプションを使用すると、コンポーネントは設定した遅延の後に実行されます。 ◦ [これを実行 **(Run This)]** オプションは、イベント関連のコンポーネントでは使用できません。

5. オプション: [ツールボックス] 内で利用可能なコンポーネントを検索するには、[名前でフィルタリング] フィールドにテキストを入力します。

関連情報

RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを一時停止するブレークポイントを設定する

RPA デスクトップデザインスタジオ で選択したコンポーネントからワークフローの実行を開始する

RPA デスクトップデザインスタジオ でエラーを処理する

Now Assist で自動化をビルドする

RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する

RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用して、さまざまなデータソースやツールに接続し、自動化を作成します。

始める前に

コネクタプラグインがインストールされ、 RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションに追加されていることを確認します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でのプラグインの管理」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

コネクタとそのメソッドのリストについては、「RPA デスクトップデザインスタジオ のコネクタ」を参照して ください。

コネクタに関連する問題の詳細については、KB 記事 KB1123555 を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、[グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** を右クリックし、[コネクタを追加 **(Add Connectors)]** を選択します。
   [コネクタを追加 (Add Connector] ダイアログボックスが表示されます。
2. 必要なコネクタを選択し、[コネクタを追加 **(Add Connectors)]** をクリックします。
   コネクタが [グローバルオブジェクト (Global Objects)] に追加されます。必要なコネクタを [ツールボックス] ペインから [グローバルオブジェクト (Global Objects)] にドラッグアンドドロップすることもできます。

   注: 同じコネクタの複数のインスタンスを [グローバルオブジェクト (Global Objects)] に追加すると、重複する各インスタンスに重複の数値が追加されます。たとえば、Email コネクタの 3 つのインスタンスを [グローバルオブジェクト (Global Objects)] に追加すると、Email、Email_2、および Email_3 として表示されます。

3. コネクタにカスタム名を付けるには、次の手順を実行します。
   a. [グローバルオブジェクト (Global Objects)] の下のコネクタをダブルクリックします。
   b. [プロパティ] ペインの下の [名前] フィールドにコネクタのカスタム名を入力します。
4. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、[グローバルオブジェクト (Global Objects)] の下のコネクタをダブルクリックします。
   コネクタによっては、さらにレベルや各レベルのメソッドを提供するものもあります。レベルの詳細については、「コネクタメソッドのレベルを理解する」を参照してください。
   [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] には、コネクタのすべてのメソッドが一覧表示されます。
5. メソッドを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
6. 入力フィールドを設定します。
   詳細については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
7. メソッドのコントロールポートを別のメソッドまたはコンポーネントの対応するポートに接続します。

コネクタメソッドを使用する

コネクタができるすべてのアクションを実行するために、コネクタ内のメソッドを公開して使用します。

始める前に

コネクタプラグインをインストールする必要があります。インストールするには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でのプラグインの管理」を参照してください。

コネクタに移動するには、アクティビティを開きます。

必要なロール：なし

手順

1. [ツールボックス] ペインで、[コネクタ] に移動します。
2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [グローバルオブジェクト (Global Objects)] の下にコネクタをドラッグします。
3. 指定されたメソッドを公開します。
   コネクタレベルでメソッドを公開するコネクタもあれば、複数のレベルでメソッドを公開するコネクタもあります。後者の場合は、最初にコネクタを設定する必要があります。最初に設定が必要なコネクタを見つけるには、コネクタを右クリックし、コンテキストメニューに [構成] オプションが表示されるかどうかを確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

レベル数	ステップ
コネクタ	コネクタをダブルクリックします。
複数	**a.** すべてのレベルを公開するようにコネクタを設定します。 **b.** レベルをダブルクリックします。

メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインの下に公開されます。

4. メソッドを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。

> **重要:** ツールボックス、オブジェクトエクスプローラー、プロジェクトエクスプローラー、スキルエクスプローラーから [デザイン面 (Design surface)] に自動化コンポーネントをドラッグアンドドロップすると、次の動作が起きる可能性があります。
>
> - コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] 内の同じコンポーネントにドラッグアンドドロップすると、既存のコンポーネントが新しいコンポーネントに置き換えられます。たとえば、[デザイン面 (Design surface)] に既に **ActionSet** コンポーネントがある場合に、別の **ActionSet** コンポーネントを既存の **ActionSet** にドラッグアンドドロップすると、既存のコンポーネントは新しいバージョンに置き換えられます。
>
> ポート名とポートデータ型が同じ場合、既存のコンポーネントに関連付けられているすべての接続 (制御接続とデータ接続)、変数、または静的データは、新しくドロップされたコンポーネントに関連付けられます。
>
> - 新しいコンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] 内の別のコンポーネントまたはメソッドにドラッグアンドドロップすると、既存のコンポーネントが新しいコンポーネントに置き換えられます。
>
> ポート名とポートデータ型が同じ場合、既存のコンポーネントに関連付けられているすべての接続、変数、または静的データは、新しくドロップされたコンポーネントに関連付けられます。
>
> - コンポーネントを、既に [デザイン面 (Design surface)] に関連付けられた 2 つのコンポーネントの間にドラッグアンドドロップすると、そのコンポーネントは既存のコンポーネントの間に入ります。2 つのコンポーネント間でコンポーネントをドラッグアンドドロップすると、次の動作が発生する可能性があります。
> - 新しくドロップされたコンポーネントのポート名とポートデータ型が、接続されたコンポーネントと一致する場合、データ接続が作成されます。
> - ポート名が同じで、ポートデータ型が異なる場合、ポートデータ型が変換可能な場合のみ、データ接続が作成されます (ソースポートデータをターゲットデータ型に変換する必要があります)。これは、型キャスティングまたは型変換と呼ばれます。型キャスティングの詳細については、「Java Type Casting (JAVA 型キャスティング)」を参照してください。たとえば、整数からオブジェクトへのキャスティングは可能ですが、オブジェクトから整数へはできません。
> - ポート名が同じ場合、ポートのデータ型は変換できますが、2 つのコンポーネント間に既存のデータ接続が既に存在する場合、新しいデータ接続は作成されません。

RPA デスクトップデザインスタジオ のコネクタ

RPA デスクトップデザインスタジオ で自動化の作成に使用できるコネクタについて説明します。

コネクタ

次の表には、RPA デスクトップデザインスタジオ で利用可能なコネクタが一覧表示されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コネクタ

コネクタ	メソッド
Chrome コネクタ	Chromium コネクタのメソッド
カウンター	Counter コネクタのメソッド
C#.Net	C# コネクタのメソッド
メール	Email コネクタのメソッド
EventLog	EventLog コネクタのイベントとメソッド
FTP	FTP コネクタのメソッド
IdleTimer	IdleTimer コネクタのメソッドとイベント
IE コネクタ	IE コネクタのメソッド
Java コネクタ	Java コネクタのメソッド
JavaScript	JavaScript コネクタのメソッド
KeyValuePair	KeyValuePair コネクタのメソッド
リスト	List コネクタのメソッド
Microsoft Excel	Microsoft Excel コネクタのメソッド
Microsoft Outlook	Microsoft Outlook コネクタのメソッド
Microsoft Word	Microsoft Word コネクタのメソッド
PDF	PDF コネクタのメソッド
SAP コネクタ	SAP コネクタのメソッド
Secure Shell (SSH) コネクタ	Secure Shell (SSH) コネクタのメソッド
StringBuilder	StringBuilder コネクタのメソッド
テーブル	Table コネクタのメソッド
Terminal (メインフレーム) コネクタ	Terminal コネクタのメソッド
タイマー	Timer コネクタのメソッド
Universal App Connector	Universal App Connector
VB.Net	VB コネクタのメソッド
Windows コネクタ	Windows コネクタのメソッド

コネクタメソッドのレベルを理解する

RPA デスクトップデザインスタジオ の一部のコネクタには、さまざまなレベルでさまざまなアプリケーションとやり取りするメソッドが用意されています。たとえば、Chrome コネクタは、 Google Chrome ブラウザーで開いているアプリケーションやその要素とやり取りし、特定の ロボティックプロセス自動化 タスクを実行するためのメソッドを提供します。

さまざまなレベルのメソッドを持つコネクタ

RPA デスクトップデザインスタジオ は、さまざまなレベルでさまざまなアプリケーションとやり取りするコネクタを提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

さまざまなレベルのメソッドを持つコネクタ

コネクタ名	それは何を行いますか？
Chrome	Google Chrome ブラウザーで開いているアプリケーションとやり取りするメソッドを提供します。
Internet Explorer (IE)	IE ブラウザーで開いているアプリケーションとやり取りするメソッドを提供します。
Java	Java ベースのアプリケーションとやり取りするメソッドを提供します。
Windows	Windows アプリケーションとやり取りするメソッドを提供します。
ターミナル (メインフレーム)	メインフレームアプリケーションとやり取りするメソッドを提供します。

さまざまなレベルのメソッドを理解する

コネクタのメソッドは、アプリケーションのさまざまなレベルでやり取りします。

メソッドレベルを理解する

メソッドレベル	それは何を行いますか？	例
コネクタ	コネクタとやり取りします。	Chrome コネクタは、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] の [グローバルオブジェクト (Global Objects)] の下にあるコネクタとやり取りし、メソッドを公開します。
スクリーン	アプリケーションとやり取りします。	Google Chrome ブラウザーで開かれた ServiceNow の Web サイト。
要素	アプリケーションの要素とやり取りします。	Google Chrome ブラウザーで開かれた ServiceNow の Web サイト内のテキストボックス。

コネクタの設定

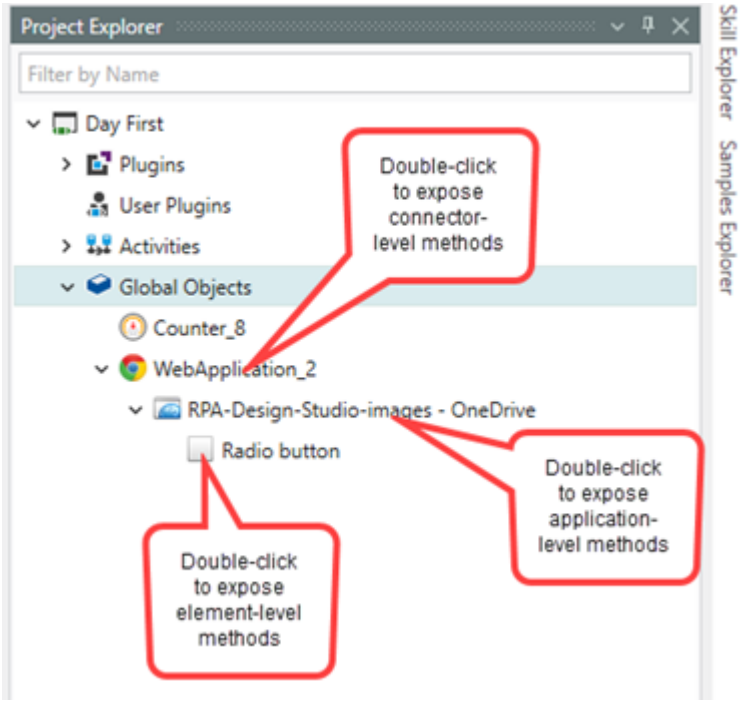
さまざまなメソッドにアクセスするには、最初にコネクタを設定する必要があります。

- Chromium コネクタの設定
- Internet Explorer コネクタの設定
- Java コネクタの設定
- Terminal コネクタの設定
- Windows コネクタの構成

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

さまざまなレベルでメソッドを公開する

設定後、さまざまなレベルでメソッドを公開できます。メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。



RPA デスクトップデザインスタジオでのサンプル自動化の使用

事前構築された自動化である自動化サンプルを使用して、特定のユースケースに対してさまざまなコンポーネントがどのように構成されるかを示します。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションを設定して、ServiceNow のインスタンスの詳細を追加します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオの設定」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

RPA デスクトップデザインスタジオには、さまざまなユースケースに対応する複数のサンプル自動化が用意されています。たとえば、PDF からデータを抽出して Excel ファイルに挿入するなどです。

サンプル自動化は、自動化の複雑さとユースケースに基づき、[初級]、[中級]、[上級]、[参照]、および [有人] カテゴリに分類されます。

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオの [リソース] セクションから [サンプル] を選択します。
2. [初級]、[中級]、[上級]、[参照]、または[有人] カテゴリのサンプル自動化にアクセスするには、以下のタスクを実行します。
   a. サンプルエクスプローラーで、これらのフォルダーのいずれかを展開します。
   b. サンプルの自動化をダブルクリックします。
   c. [デザイン] タブで [実行] を選択します。
3. [上級]、[参照]、または [有人] カテゴリの各サンプル自動化のプロジェクトファイルを表示するには、以下のタスクを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

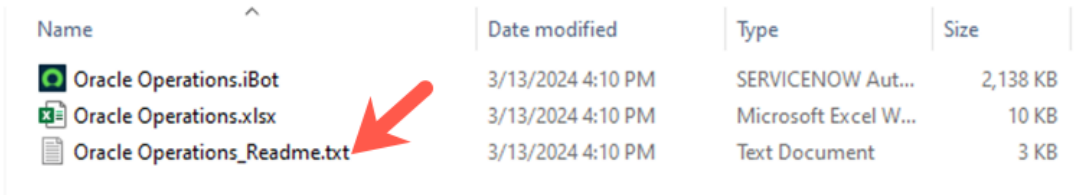
a. サンプルエクスプローラーで、これらのフォルダーのいずれかを展開します。

b. サンプルの自動化をダブルクリックします。

c. [リソース] セクションで、[プロジェクトフォルダー] を選択します。

d. Readme ファイルを開いてサンプル自動化の詳細情報を表示し、指示に従います。
たとえば、次の画像は、Oracle の操作のサンプル自動化の ReadMe ファイルを示しています。

サンプル自動化の **ReadMe** ファイル



サンプル自動化

RPA デスクトップデザインスタジオには、さまざまなユースケースに対応する複数のサンプル自動化が用意されています。

サンプル自動化の説明

サンプル自動化は、特定のユースケースに対してさまざまなコンポーネントがどのように構成されるかを示す、事前構築された自動化です。

RPA デスクトップデザインスタジオの [サンプル自動化 (Sample Automations)] ページに追加された、以下の無人および有人のサンプル自動化を使用します。また、[サンプルエクスプローラー (Sample Explorer)] セクションで表示することもできます。

無人のサンプル自動化

サンプル自動化	説明
Word フッターを追加	この自動化は、指定された URL から Word ファイルをダウンロードします。ロボットは、ダウンロードしたファイルに対し、Excel ファイルから動的に取得した情報を使用して、各ページにフッターを追加します。
オファーレターを自動化	この自動化により、選択した候補のオファーレターを生成するプロセスが簡素化されます。Excel ファイルからデータを抽出し、事前定義されたオファーレターのテンプレートに入力し、電子メールでレターを配布することで、候補者との正確かつ効率的なコミュニケーションを実現します。
地域の気象情報レポート	この自動化は、Excel ファイルにリストされているさまざまな都市や国の気象情報 (気温、風、雲量、湿度) を取得します。自動化は、都市と国の各ペアをループ処理し、対応する天気の詳細を Weather.com から取得して、Excel ファイルの関連データフィールドを更新します。こ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

無人のサンプル自動化 (続く)

サンプル自動化	説明
	のデータは包括的な気象情報レポートにまとめられます。このレポートでは、すべての情報が整理され、簡単に参照できるように同じ Excel シートに入力されます。
ブラウザーキャッシュのクリア	この自動化により、Microsoft Edge や Google Chrome などのブラウザーから、すべての期間の Cookie、他のサイトのデータ、キャッシュされた画像、およびファイルが消去されます。
請求書の集約	この自動化は、請求書データフォルダー内の各 Excel ファイルから情報を抽出し、すべてのデータを単一の Excel ファイルに集約します。
Excel を JSON に変換	この自動化は、Excel ファイル (パスワードで保護されたファイルを含む) からデータを読み取り、その Excel ファイルを JSON ファイルに変換します。
PDF から Excel へのデータテーブル抽出	この自動化は、PDF ドキュメントから最初のテーブルを効率的に識別して抽出します。テーブルが抽出されると、スクリプトはデータを構造化された形式にシームレスに変換し、Excel ファイルに書き込みます。
アプリ間の日付差分	この自動化は、2 つの日付間の差分を計算し、それに応じて関連するシステムまたはドキュメントを更新します。
Decision コンポーネント	この自動化は、指定された入力を数値として受け取り、Decision コンポーネントを使用して数値が 100 より大きいかどうかを確認し、対応するテキストを指定された形式でメッセージボックスに表示します。
バーコードと QR コードをテキストにデコード	この自動化は、指定されたプロジェクトフォルダー内のバーコードまたは QR コード画像からデータを抽出して、整理された Excel ファイルに情報を保存し、簡単にアクセスして分析できるように正確で効率的なキャプチャを確保します。
Outlook から添付ファイルをダウンロード	この自動化は、特定の件名のメッセージについてメールアカウントを監視し、関連するメールのみが処理されるようにします。条件に一致するメールを識別すると、添付ファイルをダウンロードして、指定されたローカルプロジェクトフォルダーに保存します。
URL からファイルをダウンロード	この自動化は、Web アプリケーションからのファイルダウンロードプロセスを簡素化します。任意の URL からファイルをダウンロードして指定したローカルフォルダーに保存し、ダウンロードしたファイルを添付ファイルとしてメール送信するための、一貫した信頼性の高い

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

無人のサンプル自動化 (続く)

サンプル自動化	説明
	方法を提供し、シームレスで効率的なエクスペリエンスを実現します。
メールのアーカイブまたは削除	この自動化は、指定されたパラメーター (Outlook の MailID、Sender、Subject、FolderName) に基づいてメールをアーカイブまたは削除します。このソリューションにより、プロセスが合理化され、エラーが減り、時間を節減できます。
Excel の変換	この自動化は、Excel ファイルからデータを読み取り、XML ファイルに変換します。これにより、Excel テーブルから SQL データベーステーブルへのデータ転送が容易になります。
Excel の操作	この自動化では、テキストの検索、ピボットテーブルの作成、チャートのエクスポートなど、Microsoft Excel のさまざまなタスクをデモで示します。一連のフローを示して、自動化ワークフロー内でのシームレスな統合をユーザーが理解できるようにします。
式コンポーネント	この自動化は、式コンポーネントを使用して加算を実行し、結果をメッセージボックスに表示します。
テーブルからデータを抽出して Excel に保存	さまざまな Web サイトでキャプチャする必要がある要素は異なるため、この自動化は特定の Web サイト用にカスタマイズされています。さまざまな Web サイトに対して同様の自動化を作成する場合は、この自動化をガイドとして使用できます。
JSON から Excel へのデータの抽出	この自動化では、JSON データを構造化された形式に効率的に抽出して記録することで、データ処理を簡素化し、手動による介入を軽減します。ボットは、指定されたキューに作業アイテムを作成し、それらのアイテムを取得して、特定のプロパティ名に基づいて JSON 値を抽出します。抽出された値は Excel シートで整理および更新されるため、データへの正確かつ簡単なアクセスが確保されます。
メール本文に埋め込む Excel テーブルを抽出	この自動化は、Excel ファイルの指定されたシートからデータを抽出し、メールの本文に Excel データが含まれている Microsoft Outlook メールを受信者に送信します。
PDF からデータを抽出	この自動化は、PDF からテーブルデータを抽出し、抽出された情報を含む Excel ファイルを生成します。
メールから連絡先情報をフェッチ	この自動化は、特定の件名に基づいて関連するメールを識別し、抽出された情報 (FirstName、LastName、EmailAddress) を Excel スプレッドシートに更新します。この自動

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

無人のサンプル自動化 (続く)

サンプル自動化	説明
	化により、データ管理の効率が向上し、手作業によるデータ入力エラーが減少します。
ファイル操作	この自動化は、提供されたファイルが存在するかどうかを確認します。ファイルが存在する場合は、自動化はまだ存在しない新しい増分ファイル名を提供します。例：ファイル「C:\Users\Public\XYZ.txt」が既に存在する場合、自動化はファイル名を「C:\Users\Public\XYZ_1.txt」として返します。
ファイルのコピー、削除、移動の操作	この自動化は、ユーザー定義のルールに従ってファイルをコピー、移動、削除します。手作業とエラーを最小限に抑えることでファイル管理を強化し、ファイルタイプ、タイムスタンプ、フォルダーの場所などの特定の条件を処理するようにカスタマイズが可能であるため、整理と効率を向上させます。
For Each Component	この自動化は、値のリストを設定し、For Each Component を使用して各アイテムの値を取得し、メッセージボックスにアイテムの値を表示して、アイテムの値が指定された値と等しいかどうかを確認します。値が等しい場合、自動化は For Each のループから抜けます。
For Loop	この自動化は、「From」と「To」の入力が指定された For Loop コンポーネントを使用して各インデックス値を取得し、メッセージボックスにインデックス値を表示します。
テキストの書式設定	この自動化は指定された入力を受け入れ、指定された形式でメッセージボックスにテキストを表示します。
健全性チェックボット	この自動化は、特定のタスクを実行する前に、リモートデスクトッププロトコル (RDP) マシンのシステム前提条件を検証します。これにより、必要なすべてのシステム条件が満たされていることを確実にできるため、構成の問題によるプロセス障害のリスクが軽減されます。
Excel 行をハイライト表示	この自動化は、Word ドキュメントから抽出された情報に基づいて Excel シートの行をハイライト表示します。これは、データの検証、レポートの生成、Excel と Word の両方を含むドキュメント処理の自動化などのタスクに役立ちます。
HTML から CSV へ変換	この自動化は、複数の HTML テーブルデータファイルを単一の CSV ファイルに変換し、変換されたファイルを指定された出力フォルダーパスに保存します。
Excel への請求書データ抽出	この自動化は、請求書から必要なデータを抽出し、抽出された情報を Excel シートに入力して、指定された受信者にメールの添付ファイル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

無人のサンプル自動化 (続く)

サンプル自動化	説明
	として Excel ファイルを送信します。プロセスを合理化することで、エラーを減らし、効率を高め、正確でタイムリーなデータ管理を実現します。
CSV ファイルを結合	この自動化は、2 つ以上の同じ CSV ファイルを、必要なすべての詳細を含む 1 つのメイン CSV に結合します。
Excel シートを結合	この自動化は、2 つ以上の Excel ファイルを、必要なすべての詳細を含む 1 つのメイン Excel ファイルに結合します。自動化を使用するには、Excel ファイルを含むフォルダーパスを入力として指定してから、自動化を実行する必要があります。すべての .xlsx ファイルがメインの Excel ファイルに自動的に結合されます。
OneDrive の操作	この自動化には、「アップロード」、「ダウンロード」、「共有」などのアクションを実行するさまざまなアクティビティが含まれます。アップロードのアクティビティは、プロセスパラメーターで指定されたローカルファイルを ServiceNow® テーブルにアップロードするか、OneDrive アクションを使用してファイルを OneDrive にアップロードします。ダウンロードのアクティビティは、ファイルを OneDrive からローカルフォルダーにダウンロードします。共有のアクティビティは、OneDrive ファイルのリンクを生成してメールで共有します。
Oracle EBS パスワードのリセット	この自動化は、サードパーティのアプリケーションまたはシステムのパスワードをリセットします。RPA Oracle パスワードリセットサブフローは、 パスワードリセット要求から自動的に作成されたパスワードリセット要求をキューに格納します。パスワードリセットの更新サブフローは、ステータスを [正常に完了] として更新します。
Oracle の操作	この自動化では、Oracle EBS ERP システムで従業員を定義できます。採用プロセスが完了すると、候補者の雇用が確定されます。候補者の採用がメールやスプレッドシートなどの手動システムを介して実行されている場合は、この自動化を使用して、手動システムから Oracle EBS ERP システムに従業員を定義できます。採用プロセスが別の ERP システムを介して実行され、後から Oracle EBS ERP システムで従業員を定義する場合にも、この自動化を使用できます。
PDF テキストを画像で保存	この自動化は、PDF ファイル内の特定のテキストを検索し、対応するページを指定されたフォルダーに画像として保存します。サポートされている画像形式には、JPEG、JPG、PNG が含

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

無人のサンプル自動化 (続く)

サンプル自動化	説明
	まれます。検索するテキスト、PDF ファイルへのパス、および画像を保存する宛先フォルダーのパスを指定します。
PDF を Word に変換	この自動化は、複数の PDF ファイルを個別の Word ファイルに変換します。PDF ファイルを含むフォルダーへのパスを指定すると、自動化によって PDF ファイルが Word ファイル形式に変換されます。
スキル照合を再開	この自動化では、履歴書の選考プロセスが自動化され、採用担当者の貴重な時間と労力を節約できます。
出荷注文	この自動化では、Excel ファイルから詳細を取得し、Windows アプリケーションを開き、アプリケーションに詳細を入力して情報を送信し、最後にすべての詳細が処理されたら Windows アプリケーションを閉じます。
アプリの起動	この自動化は、指定された URL を使用して Chrome アプリケーションの Web ページを起動します。
レポートデータ分析の簡素化	この自動化は、Word ドキュメントからテーブルを抽出して、Excel でシートを作成します。
売上データの要約	この自動化では、Excel マクロを使用して売上データを要約し、結果を無人自動化としてメールで受信者に送信します。
TIFF を PDF に変換	この自動化は、複数の TIFF 画像を 1 つの PDF ファイルに変換します。指定された入力場所から TIFF ファイルを処理し、集約された PDF ドキュメントを生成します。変換が完了すると、結果の PDF ファイルは指定された出力フォルダーに自動的に保存され、簡単にアクセスできます。このプロセスでは、複数の画像ファイルを 1 つの整理された PDF 出力に結合することで、ドキュメント処理を簡素化します。
ユニバーサルタイムゾーンコンバーター	この自動化は、VB.Net コネクタを使用して時間をあるタイムゾーンから別のタイムゾーンに変換し、指定されたターゲットタイムゾーンに正確に調整します。
バッジアプリでのユーザーの作成	この自動化は、ユニバーサルアプリコネクタを使用して Excel ファイルのデータに基づいてユーザー管理タスクを自動化することで、BadgeTool アプリケーションでの操作を簡素化します。
V_LookUp	この自動化は、[部門] Excel ファイルからデータを読み取り、列 A から値を取得してリストに追加します。次に、[従業員] Excel ファイルを読み取り、列 A の値を 1 つずつ取得して、部門リストの値と比較します。一致する値が見つかっ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

無人のサンプル自動化 (続く)

サンプル自動化	説明
	た場合は、対応する行の詳細を [従業員] Excel ファイルから取得し、その値を [部門] Excel ファイルに設定します。
While ループ	この自動化は、変数から値を読み取り、While コンポーネントと Decision コンポーネントを使用して条件をチェックし、書式設定されたテキストをメッセージボックスに表示します。決定が一致すると、自動化は while ループから抜けます。
Word の操作	この自動化では、表の設定、表や画像の挿入、Word の PDF へのエクスポートなど、Microsoft Word のさまざまなタスクのデモを示します。自動化ワークフロー内でのシームレスな統合を理解するのに役立つ一連のフローを示します。
Word から PDF への変換	この自動化は、ソースフォルダーパス (デフォルトのプロジェクトフォルダー) からの複数の Word ファイル (.docx) を個別の PDF ファイルに変換し、同じ場所に保存します。
XML から Excel への変換	この自動化は、複数の XML ファイルを個別の XLSX ファイルに変換します。変換された XLSX ファイルは、処理されたフォルダーパスに保存されます。
ファイルの圧縮と解凍	この自動化は、圧縮と解凍の機能を提供してファイル管理を簡素化します。

有人のサンプル自動化

サンプル自動化	説明
ある Excel ファイルから別の Excel ファイルへの範囲のコピー	この自動化は、ある Excel ファイルから別の Excel ファイルにデータの範囲をコピーします。自動化は、ソース Excel ファイルの特定のセル範囲を識別し、データを抽出して、宛先 Excel ファイルの指定された範囲に貼り付けるように設計されています。このユースケースは、データ統合、レポート生成、データ移行など、手動でのコピーと貼り付けに時間がかかり、エラーが発生しやすいタスクに役立ちます。

RPA デスクトップデザインスタジオ でアクティビティを作成して使用する

RPA デスクトップデザインスタジオ で、自動化プロジェクトにモジュール性を持たせるためのアクティビティを作成し、使用します。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションを設定して、ServiceNow のインスタンスの詳細を追加します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオの設定」を参照してください。

必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
アクティビティは、 RPA デスクトップデザインスタジオ の [デザイン面 (Design surface)] で自動化のために設計された再利用可能な命令一式です。

[デザイン面 (Design surface)] のアクティビティで、さまざまなコンポーネントを使用して自動化ワークフローを設計できます。

各アクティビティには、デフォルトで開始と終了の 2 つのコンポーネントが含まれています。これらのコンポーネントはアクティビティの開始点と終了点であるため、削除できません。

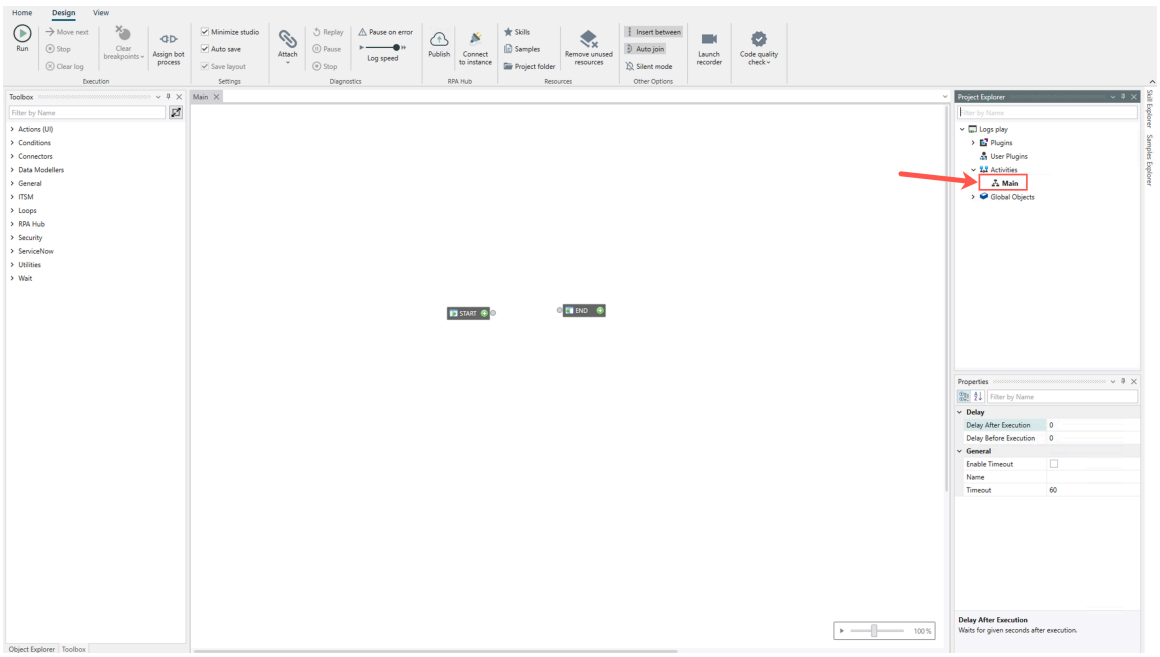
アクティビティを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグすることで、同じ自動化プロジェクト内で各アクティビティを複数回再利用できます。異なる自動化プロジェクトのアクティビティをインポートすることもできます。

Now Assist を使用してアクティビティを作成するには、「Now Assist を使用したアクティビティの作成」を参照してください。

手順

1. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、[アクティビティ] に移動します。

   [アクティビティ] セクションには、各プロジェクトで作成されたすべてのアクティビティが一覧表示されます。デフォルトでは、新規プロジェクトが開始されるとメインアクティビティが作成されます。次の例に示すように、自動化の実行はスタートアップアクティビティ (この場合は [メイン] アクティビティ) から開始されます。



2. 目的のアクションについて、次のいずれかのオプションを実行します。

オプション	アクション
新しいアクティビティを作成するには	[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで [アクティビティ] を右クリックし、[新しいアクティビティ] を選択します。
Now Assist で新しいアクティビティを作成するには	[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで [アクティビティ] を右クリックし、**[Now Assist** を使用した新しいアクティビティ **(New activity using Now Assist)]**

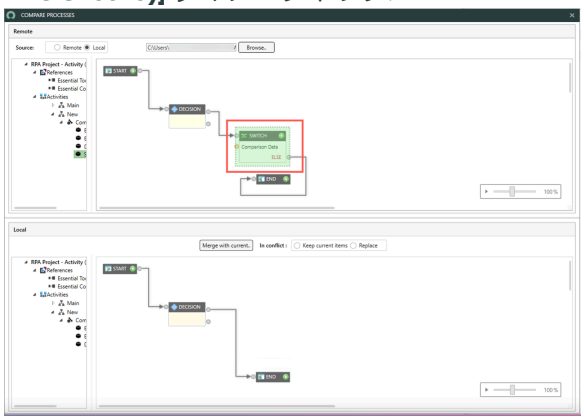
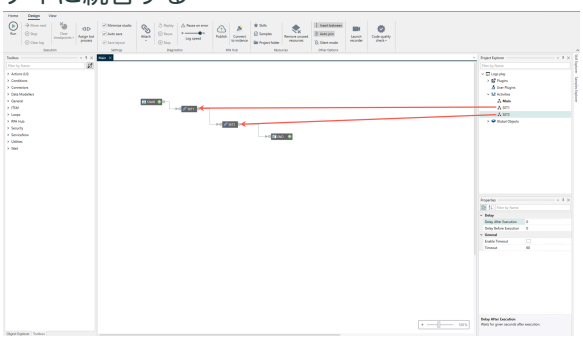
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	を選択します。詳細については、「Now Assist を使用したアクティビティの作成」を参照してください。 RPA デスクトップデザインスタジオで Now Assist for RPA ハブ の機能にアクセスするには、次の手順を実行します。 ◦ Now Assist for RPA ハブ アプリケーションをインストールして、生成 AI 機能を追加します。詳細については、「RPA ハブ の Now Assist の構成」を参照してください。 ◦ 生成 AI 機能を使用するには、RPA ボット生成スキルをオンにします。詳細については、「RPA ボット生成スキルをオンにする」を参照してください。 ◦ RPA ボット生成スキルをアクティブ化した後、RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションを再起動して、変更した設定を適用します。 これらの手順をスキップすると、Now Assist for RPA ハブ の機能が RPA デスクトップデザインスタジオに表示されません。
アクティビティの名前を変更するには	次のいずれかのアクションを実行します。 ◦ [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、アクティビティを右クリックし、[名前を変更] を選択して新しい名前を入力します。 ◦ アクティビティをダブルクリックし、[プロパティ] ペインで [名前] フィールドの名前を変更します。 たとえば、Test 1 と Test 2 です。
入力パラメーターをアクティビティに追加するには	Start コンポーネントのプラスアイコン ( ) をクリックします。 このアクティビティを別のアクティビティにドラッグすると、入力パラメーターがデータ入力ポートとして表示されます。
出力パラメーターをアクティビティに追加するには	End コンポーネントのプラスアイコン ( ) をクリックします。 このアクティビティを別のアクティビティにドラッグすると、出力パラメーターがデータ出力ポートとして表示されます。
[デザイン面 (Design surface)] でアクティビティを開くには	アクティビティをダブルクリックします。
特定のアクティビティを自動化プロジェクトの開始点として設定するには	アクティビティを右クリックし、[スタートアップとしてマーク **(Mark As Startup)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	デフォルトでは、メインアクティビティはスタートアップとしてマークされています。 [デザイン] タブで [実行] をクリックしてこのプロジェクトを実行すると、スタートアップとしてマークされたアクティビティから自動化が開始されます。
同じ自動化プロジェクト内のアクティビティを再利用するには	アクティビティを目的の [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
異なる自動化プロジェクト内のアクティビティを再利用するには	「RPA デスクトップデザインスタジオ でのプロジェクトのインポート」の手順を実行します。
エラーをアクティビティレベルで処理するには	目的のアクティビティを右クリックし、[エラーハンドラー] を選択します。
ローカル変数を作成するには	目的のアクティビティを右クリックし、[変数を作成 **(Create a Variable)]** を選択します。
アクティビティのコピーを作成するには	目的のアクティビティを右クリックし、[コピーを作成] を選択します。 たとえば、Test 1 アクティビティのコピーを作成する場合、新しいアクティビティは [アクティビティ] セクションの下に Test1_Copy として作成されます。
他のアクティビティで使用されているアクティビティのすべての参照を検索するには	[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで目的のアクティビティを右クリックし、[すべての参照を検索 **(Find All References)]** を選択します。 結果は [すべての参照を検索 (Find All References)] ダイアログボックスに表示されます。
アクティビティを削除するには	次の操作を実行します。 **a.** 他のアクティビティで使用されている参照がある場合は、すべて削除します。この手順を実行するには、[すべての参照を検索 **(Find All References)]** オプションを使用してください。 **b.** [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、アクティビティを右クリックし、[削除] を選択します。 **c.** [確認] ダイアログボックスで [はい] を選択します。
アクティビティの複数のソースからの変更を結合する際の競合を解決するには	[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで目的のアクティビティを右クリックし、[ソースコントロール] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	[プロセスの比較 (COMPARE PROCESSES)] ダイアログボックスが表示され、次の例のように変更が強調表示されます。 [プロセスの比較 **(COMPARE PROCESSES)]** ダイアログボックス  詳細については、「同じアクティビティの複数のソースからの変更を結合する際の競合を解決する」を参照してください。
すべてのアクティビティを含むプロジェクトの自動化を実行およびテストするには	次の操作を実行します。 **a.** 次の例のように、すべてのアクティビティを単一のメインアクティビティに統合し、実行順に配置して自動化全体を実行します。 **Test 1** と **Test 2** のアクティビティを単一のメインアクティビティに統合する  **b.** [デザイン] タブの [実行] をクリックし、これら 2 つのアクティビティで設計された自動化全体を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	この例では、メインアクティビティがスタートアップとしてマークされており、Test 1 アクティビティと Test 2 アクティビティが続いて実行されます。

重要: ツールボックス、オブジェクトエクスプローラー、プロジェクトエクスプローラー、スキルエクスプローラーから [デザイン面 (Design surface)] に自動化コンポーネントをドラッグアンドドロップすると、次の動作が起きる可能性があります。

- コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] 内の同じコンポーネントにドラッグアンドドロップすると、既存のコンポーネントが新しいコンポーネントに置き換えられます。たとえば、[デザイン面 (Design surface)] に既に **ActionSet** コンポーネントがある場合に、別の **ActionSet** コンポーネントを既存の **ActionSet** にドラッグアンドドロップすると、既存のコンポーネントは新しいバージョンに置き換えられます。

  ポート名とポートデータ型が同じ場合、既存のコンポーネントに関連付けられているすべての接続 (制御接続とデータ接続)、変数、または静的データは、新しくドロップされたコンポーネントに関連付けられます。

- 新しいコンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] 内の別のコンポーネントまたはメソッドにドラッグアンドドロップすると、既存のコンポーネントが新しいコンポーネントに置き換えられます。

  ポート名とポートデータ型が同じ場合、既存のコンポーネントに関連付けられているすべての接続、変数、または静的データは、新しくドロップされたコンポーネントに関連付けられます。

- コンポーネントを、既に [デザイン面 (Design surface)] に関連付けられた 2 つのコンポーネントの間にドラッグアンドドロップすると、そのコンポーネントは既存のコンポーネントの間に入ります。2 つのコンポーネント間でコンポーネントをドラッグアンドドロップすると、次の動作が発生する可能性があります。
  - 新しくドロップされたコンポーネントのポート名とポートデータ型が、接続されたコンポーネントと一致する場合、データ接続が作成されます。
  - ポート名が同じで、ポートデータ型が異なる場合、ポートデータ型が変換可能な場合のみ、データ接続が作成されます (ソースポートデータをターゲットデータ型に変換する必要があります)。これは、型キャスティングまたは型変換と呼ばれます。型キャスティングの詳細については、「Java Type Casting (JAVA 型キャスティング)」を参照してください。たとえば、整数からオブジェクトへのキャスティングは可能ですが、オブジェクトから整数へはできません。
  - ポート名が同じ場合、ポートのデータ型は変換できますが、2 つのコンポーネント間に既存のデータ接続が既に存在する場合、新しいデータ接続は作成されません。

関連情報

RPA デスクトップデザインスタジオ でエラーを処理する

RPA デスクトップデザインスタジオ で変数を作成して使用する

RPA デスクトップデザインスタジオ で変数を作成して使用する

RPA デスクトップデザインスタジオ で変数を作成します。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
変数には次の 2 つのタイプがあります。

- ローカル：この変数はアクティビティ内で宣言され、宣言されたアクティビティ内でのみ使用できます。
- グローバル：この変数はプロジェクトレベルで宣言され、自動化ワークフロー内の任意のアクティビティで使用できます。

  変数には 4 つの属性があり、自動化の実行中に異なるタイミングで割り当てられます。

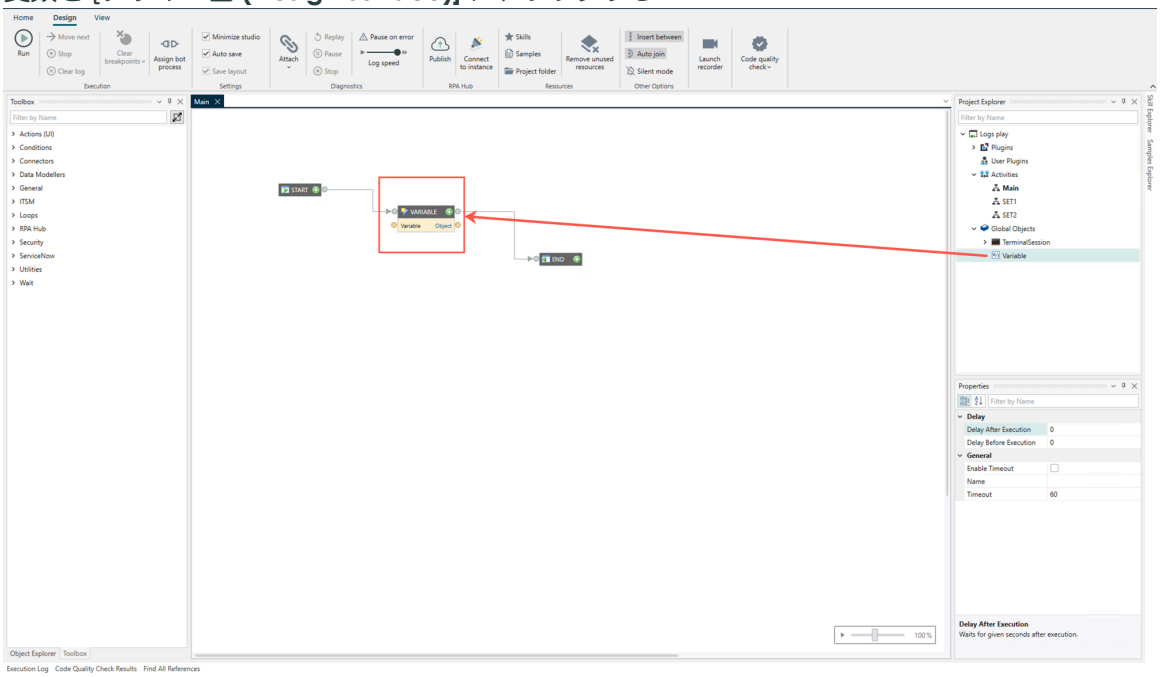
  - 識別子
  - データの場所
  - タイプ
  - 値

手順

1. ローカル変数を作成するには、次のいずれかのアクションを実行します。
   - [ツールボックス] ペインで、[全般] に移動し、Variable コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
   - [ツールボックス] ペインで、[全般] に移動し、Variable コンポーネントを [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインのアクティビティにドラッグします。
   - [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、目的のアクティビティを右クリックし、[変数を作成 **(Create a Variable)]** を選択します。
2. グローバル変数を作成するには、次のいずれかのアクションを実行します。
   - [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、[グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** を右クリックし、[変数を作成 **(Create a Variable)]** を選択します。
   - [ツールボックス] ペインで、[全般] に移動し、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの[グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** に変数コンポーネントをドラッグします。
3. オプション: ローカル変数をグローバルに変換する場合は、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] から [ローカル変数] を右クリックし、[グローバルに変換 **(Convert to global)]** を選択します。
   このオプションは、変数をローカルとして作成していた場合に使用できます。
4. 変数を作成したら、次の例のように、変数を [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変数を [デザイン面 **(Design surface)**] にドラッグする



5. 変数のデータポートとコントロールポートを、別のコンポーネントの対応するポートに接続します。
6. オプション: データ入力ポートまたはデータ出力ポートのいずれかに変数を割り当てるには、次のアクションを実行します。

   a. [デザイン面 (Design surface)] で、変数のデータ入力ポートまたはデータ出力ポートを右クリックし、[上書き] を選択します。

   b. [ポートプロパティ (PORT PROPERTIES)] ダイアログボックスで、[マップされた変数 **(Mapped Variable)**] フィールドの横にある [選択] をクリックして必要な変数を選択します。

      注: このオプションを選択すると、コンポーネントのデータ入力ポートが表示されなくなり、ポートに変数名が表示されます。

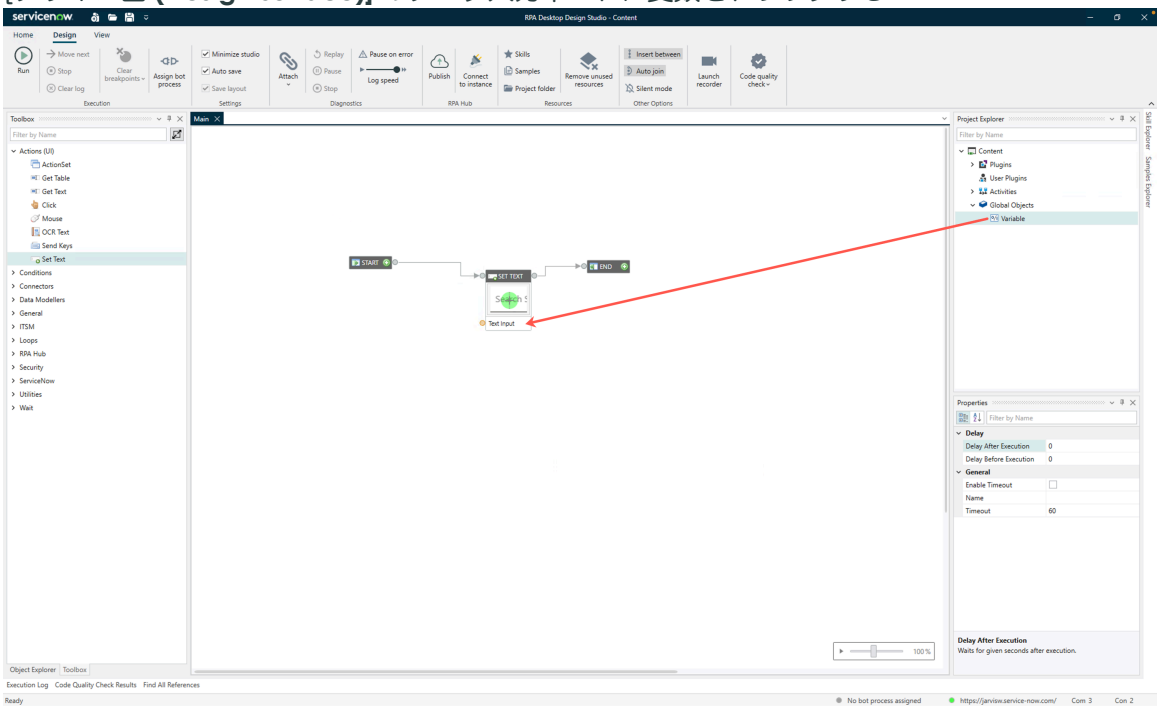
   c. [変数を選択 (CHOOSE VARIABLE)] ダイアログボックスで、データ入力ポートまたはデータ出力ポートを上書きするかどうかに応じて、データの読み取りまたは保存のためにマッピングされたグローバル変数またはローカル変数を選択します。

   d. **[OK]** をクリックします。

7. オプション: データ入力ポートまたはデータ出力ポートのいずれかで変数を使用するには、次の例のように、[デザイン面 (Design surface)] のデータ入力ポートまたはデータ出力ポートに変数をドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

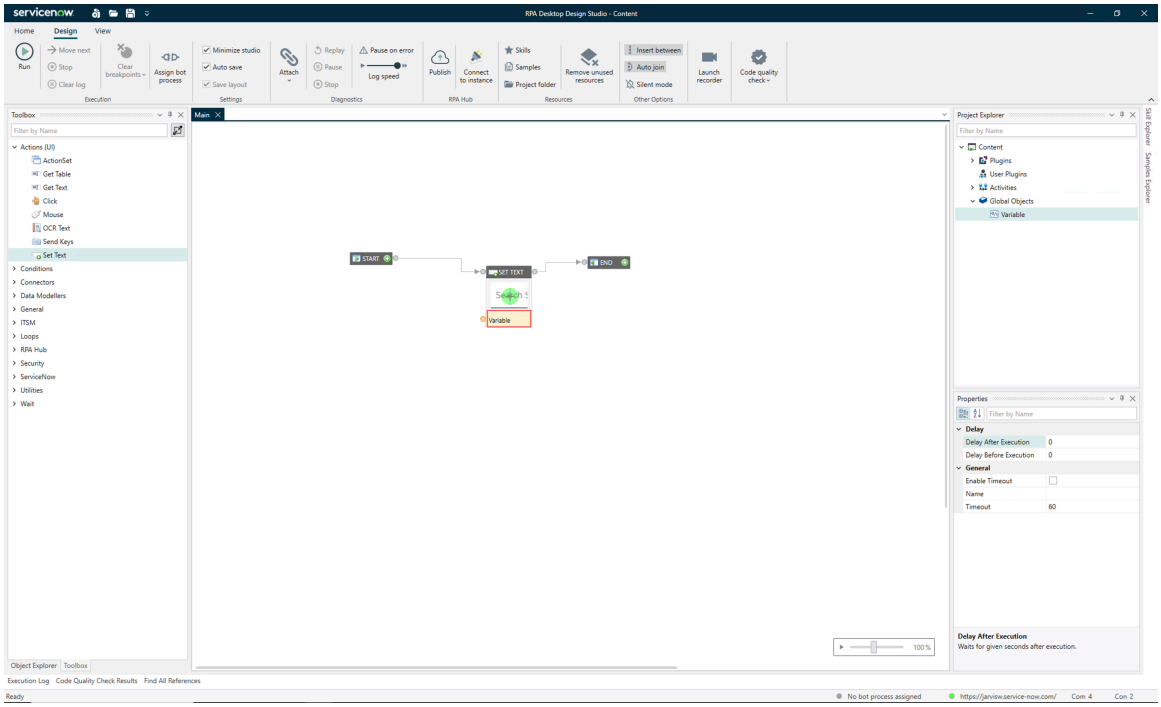
[デザイン面 **(Design surface)**] のデータ入力ポートに変数をドラッグする



次の例では、変数がデータ入力ポートにドラッグされたときの出力を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変数がデータ入力ポートにドラッグされたときの出力



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要: ツールボックス、オブジェクトエクスプローラー、プロジェクトエクスプローラー、スキルエクスプローラーから [デザイン面 (Design surface)] に自動化コンポーネントをドラッグアンドドロップすると、次の動作が起きる可能性があります。

- コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] 内の同じコンポーネントにドラッグアンドドロップすると、既存のコンポーネントが新しいコンポーネントに置き換えられます。たとえば、[デザイン面 (Design surface)] に既に **ActionSet** コンポーネントがある場合に、別の **ActionSet** コンポーネントを既存の **ActionSet** にドラッグアンドドロップすると、既存のコンポーネントは新しいバージョンに置き換えられます。

  ポート名とポートデータ型が同じ場合、既存のコンポーネントに関連付けられているすべての接続 (制御接続とデータ接続)、変数、または静的データは、新しくドロップされたコンポーネントに関連付けられます。

- 新しいコンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] 内の別のコンポーネントまたはメソッドにドラッグアンドドロップすると、既存のコンポーネントが新しいコンポーネントに置き換えられます。

  (Optional) ポート名とポートデータ型が同じ場合、既存のコンポーネントに関連付けられているすべての接続、変数、または静的データは、新しくドロップされたコンポーネントに関連付けられます。

- コンポーネントを、既に [デザイン面 (Design surface)] に関連付けられた 2 つのコンポーネントの間にドラッグアンドドロップすると、そのコンポーネントは既存のコンポーネントの間に入ります。2 つのコンポーネント間でコンポーネントをドラッグアンドドロップすると、次の動作が発生する可能性があります。
  - 新しくドロップされたコンポーネントのポート名とポートデータ型が、接続されたコンポーネントと一致する場合、データ接続が作成されます。
  - ポート名が同じで、ポートデータ型が異なる場合、ポートデータ型が変換可能な場合のみ、データ接続が作成されます (ソースポートデータをターゲットデータ型に変換する必要があります)。これは、型キャスティングまたは型変換と呼ばれます。型キャスティングの詳細については、「Java Type Casting (JAVA 型キャスティング)」を参照してください。たとえば、整数からオブジェクトへのキャスティングは可能ですが、オブジェクトから整数へはできません。
  - ポート名が同じ場合、ポートのデータ型は変換できますが、2 つのコンポーネント間に既存のデータ接続が既に存在する場合、新しいデータ接続は作成されません。

RPA デスクトップデザインスタジオ で有人自動化フォームを作成する

RPA デスクトップデザインスタジオ で有人のユーザーインターフェイス (UI) フォームを作成し、有人の自動化を設計します。

始める前に

プロジェクトタイプが [有人の自動化 **(Attended Automation)**] であることを確認します。詳細については、「自動化プロジェクトを手動で作成する」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

有人自動化フォームは、UI を構成するすべての要素のコンテナです。フォームは、RPA デスクトップデザインスタジオ 内の複数のアプリケーションとのやり取りに使用できるカスタムインターフェイスです。フォームを使用して、さまざまな要素を挿入し、レイアウトに配置できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

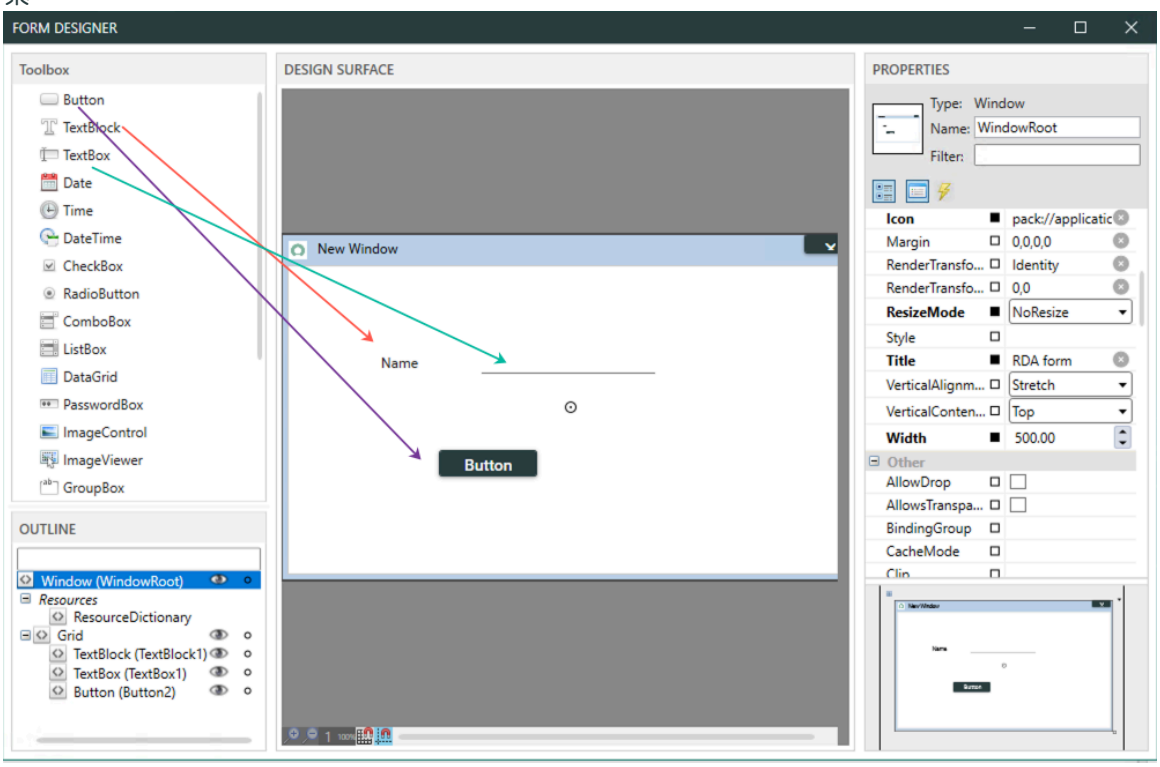
1. RPA デスクトップデザインスタジオ で、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインから [フォーム] に移動して展開します。
2. オプションを選択し、アクションを完了します。

オプション	アクション
新しいフォームを作成するには	[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで [フォーム] を右クリックし、[新しいフォーム] を選択します。
フォームデザイナーにアクセスするには次のいずれかを実行します	[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインでフォームを右クリックし、[デザイン] を選択します。 フォームデザイナーの詳細については、「有人の自動化フォームをビルドするためのフォームデザイナー」を参照してください。

3. フォームデザイナーの [ツールボックス] ペインから、フォームに追加する要素を選択し、[デザイン面 (Design surface)] に描画します。

   Example
   たとえば、フォームにテキストブロックを描画するには、[ツールボックス] ペインから TextBlock 要素を選択し、[デザイン面 (Design surface)] に描画します。同様に、次の例のように、TextBox 要素と Button 要素を選択し、[デザイン面 (Design surface)] に描画します。

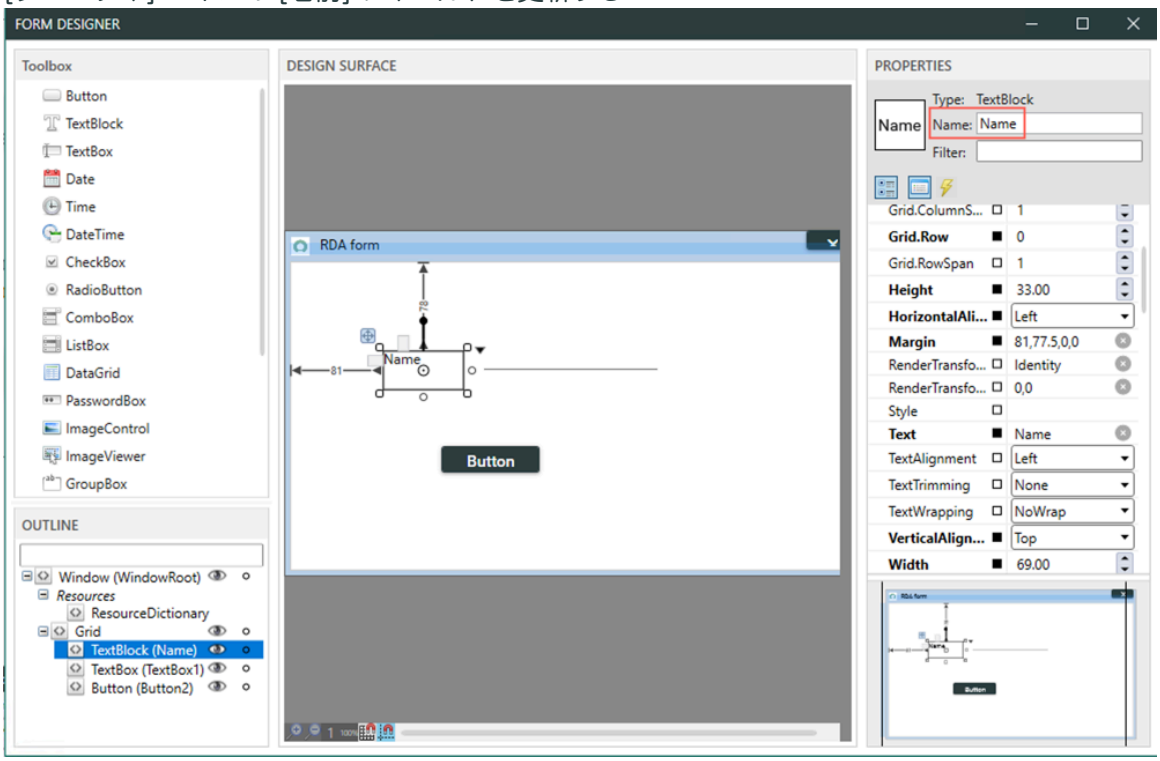
   [デザイン面 **(Design surface)]** の **TextBlock** 要素、TextBox 要素、および **Button** 要素



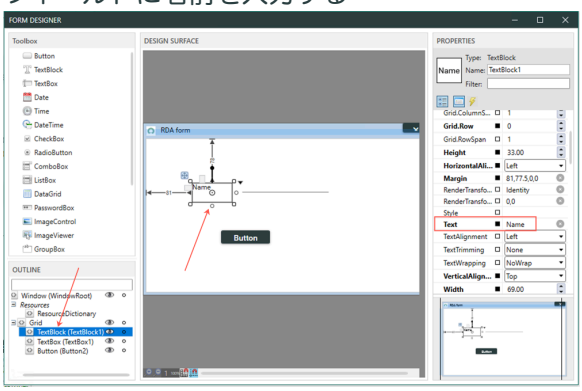
4. フォームデザイナーの [プロパティ] ペインから、次の例のように [名前] フィールドの要素名を更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

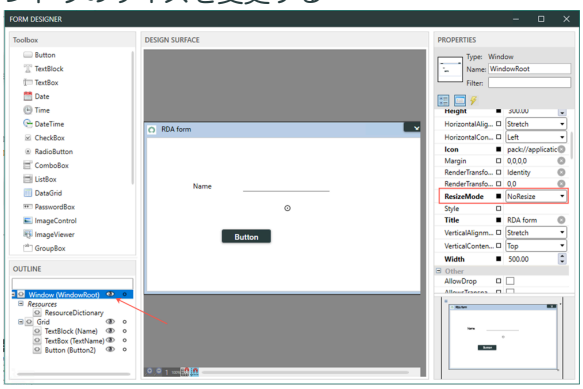
[プロパティ] ペインの [名前] フィールドを更新する



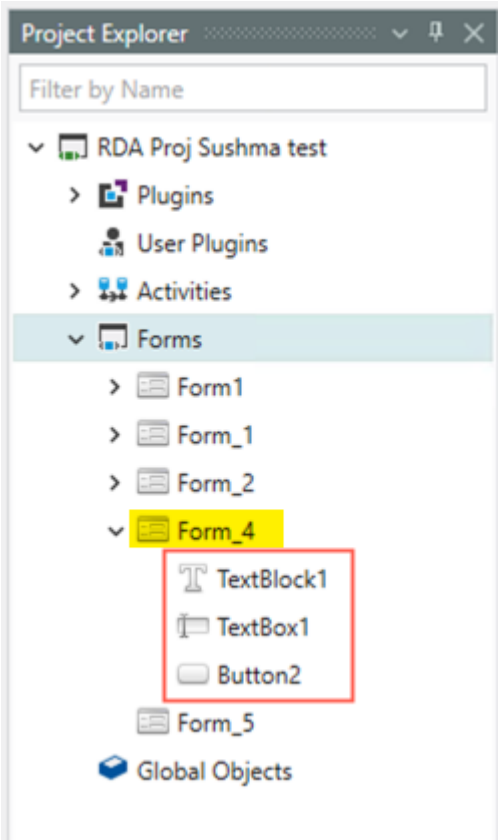
5. オプションを選択し、アクションを完了します

オプション	アクション
要素のプロパティを編集するには	[アウトライン (Outline)] ペインまたは [デザイン面 (Design surface)] で目的の要素を選択し、[プロパティ] ペインで必要なプロパティを編集します。 たとえば、TextBlock 要素の表示ラベルを編集するには、次の例のように、[プロパティ] ペインの [テキスト] フィールドにラベルを入力します。 [プロパティ] ペインの [テキスト] フィールドに名前を入力する 
ウィンドウのプロパティを編集するには	[アウトライン (Outline)] ペインでウィンドウを選択し、[プロパティ] ペインで必要なプロパティを編集します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	たとえば、ウィンドウのサイズを変更するには、次の例のように、[プロパティ] ペインの **[ResizeMode]** フィールドからオプションを選択します。 [プロパティ] ペインの **[ResizeMode]** フィールドでウィンドウのサイズを変更する 
要素を配置するには	[アウトライン (Outline)] ペインで必要に応じて移動します。
目的のフォームの下に追加された要素を表示するには	次のアクションを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	a. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、要素を追加したフォームを閉じます。 **b.** 次の例のように、フォームを展開し、フォームの下に追加された要素を表示します。 フォームの下に表示される要素 
[デザイン面 (Design surface)] で要素を削除するには	[アウトライン (Outline)] ペインで、削除する要素を右クリックし、[削除] を選択します。
フォームのメソッドとイベントを表示するには	[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで作成済みのフォームをダブルクリックします。 メソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。詳細については、「有人自動化フォームのメソッドとイベント」を参照してください。
要素のメソッドとイベントを表示するには	フォームデザイナーの [ツールボックス] ペインで要素をダブルクリックします。 メソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。詳細については、「各要素のメソッドとイベント」を参照してください。
フォームを削除するには	次のアクションを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	a. 他のアクティビティで使用されている要素の参照がある場合は、すべて削除します。 この手順を実行するには、[すべての参照を検索 **(Find All References)]** オプションを使用してください。 **b.** [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、フォームを右クリックし、[削除] を選択します。 **c.** [確認] ダイアログボックスで [はい] を選択します。
他のアクティビティで使用されている要素のすべての参照を検索するには	[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで目的のフォームを右クリックし、[すべての参照を検索 **(Find All References)]** を選択します。 結果は [すべての参照を検索 (Find All References)] ダイアログボックスに表示されます。
フォームの名前を変更するには	次のいずれかのアクションを実行します。 ◦ [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、フォームを右クリックし、[名前を変更] を選択して新しい名前を入力します。 ◦ フォームをダブルクリックし、[名前] フィールドの名前を変更します。

関連情報

有人自動化フォームのメソッドとイベント

各要素のメソッドとイベント

有人の自動化フォームをビルドするためのフォームデザイナー

フォームデザイナーは、RPA デスクトップデザインスタジオ で有人の自動化フォームをビルドするための統合開発環境 (IDE) です。

フォームデザイナーの概要

フォームとは、RPA デスクトップデザインスタジオ 内のフォーム機能を使用して、複数のアプリケーションとやり取りするためのカスタムインターフェイスです。フォームを使用して、さまざまな要素を挿入し、目的のレイアウトの通りに配置できます。

フォームデザイナーにアクセスする

フォームデザイナーにアクセスするには、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで目的のフォームを右クリックし、[デザイン] を選択します。

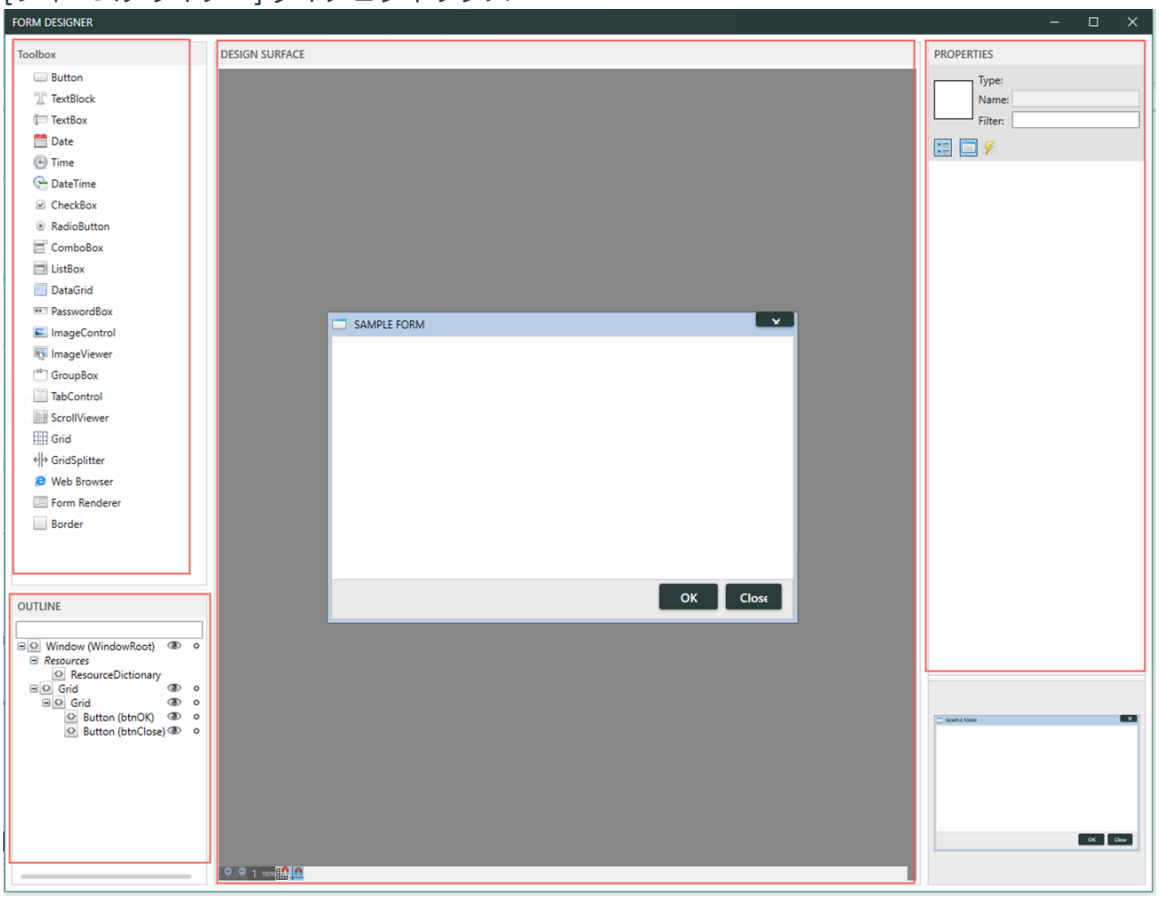
フォームデザイナーの各セクション

フォームデザイナーには、次の例のように 4 つのセクションがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [ツールボックス] ペイン：フォームのデザインに使用される要素は、例のように表示されます。
- [アウトライン (Outline)] ペイン：フォーム内の要素とリソースが一覧表示されます。フォームをデザインしながら、フォームの特定の要素にフォーカスして表示できます。
- [デザイン面 (Design surface)]：[ツールボックス] ペインから要素を選択し、[デザイン面 (Design surface)] 内のフォームに描画して、デザインを作成します。
- [プロパティ] ペイン：フォーム内の要素やウィンドウの機能の微調整に役立つプロパティを表示して、編集します。重要なプロパティは太字で表示されます。

[フォームデザイナー] ダイアログボックス



[ツールボックス] ペインの要素の詳細

[ツールボックス] ペインの次の要素を使用して、フォームを設計できます。

[ツールボックス] ペインの要素

要素	説明
ボタン	フォームに 1 つまたは複数のボタンを追加します。 ユーザーがクリックしてアクションを実行できるようにします。
TextBlock	フォームにラベルを追加します。 ユーザーがテキストブロックを読み取り専用の情報として表示できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ツールボックス] ペインの要素 (続く)

要素	説明
TextBox	フォームにテキストボックスを追加します。 ユーザーがテキストボックス内のフォームに情報を入力できるようにします。
日付	フォームに日付ピッカーを設定します。 ユーザーがフォームで特定の日付を選択できるようにします。
時刻	フォームに時間ピッカーを設定します。 ユーザーがフォームで特定の時間を選択できるようにします。
DateTime	フォームに日時ピッカーを設定します。 ユーザーがフォームで特定の日時を選択できるようにします。
チェック ボックス	はい、いいえ、true、または false の選択肢を提示します。 CheckBox 要素をグループ化して使用することで、フォームに複数の選択肢を表示することもできます。
RadioButton	選択肢のグループから選択できるようにします。
ComboBox	ドロップダウン組み合わせボックスにデータを表示します。 デフォルトでは、ComboBox 要素は 2 つの部分に分かれて表示されます。 上部はテキストボックスになっており、リストアイテムを入力できます。 2 つ目の部分はリストボックスで、選択可能なアイテムのリストが表示されます。
ListBox	1 つまたは複数のアイテムが選択できるアイテムリストを表示します。
DataGrid	表形式のデータを表示および操作できるようにします。
PasswordBox	文字列の入力時にプレースホルダー文字を表示します。
ImageControl	フォームに画像を表示します。
ImageViewer	JPEG、GIF、WMF、およびその他の画像形式を含む画像ファイルを開いて表示できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ツールボックス] ペインの要素 (続く)

要素	説明
	また、画像の引き延ばし、縮小、さまざまな角度での全軸回転などのオプションも用意されています。
GroupBox	他の要素の識別可能なグループ化ができます。 通常は、グループボックスは機能別にフォームを細分化するために使用します。
TabControl	フォームに 1 つまたは複数のタブを追加します。
ScrollViewer	フォームにスクロール機能を追加できるようにします。
Grid	列と行で構成される柔軟なグリッド領域を定義します。
GridSpiltter	グリッド要素を複数の部分に分割します。
Web ブラウザー	Web ページをホストし、アプリケーションに Web 閲覧機能を提供します。
Form Renderer	次のコントロールを使用して、フォームを迅速にビルドできます。 • TextBox • ComboBox • チェック ボックス • RadioButton • ToggleButton • 日付 • 時刻 • PasswordBox
ボーダー	フォームに境界線、背景、またはその両方を描画できるようにします。

関連情報

有人自動化フォームのメソッドとイベント

各要素のメソッドとイベント

Form Renderer 要素のフォームフィールドを設定する

RPA デスクトップデザインスタジオ で有人自動化フォームをビルドする際に、Form Renderer 要素でフォームフィールドを設定します。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオ で有人自動化フォームを作成します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ で有人自動化フォームを作成する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

有人自動化フォームに Form Renderer 要素が含まれていることを確認します。詳細については、「有人の自動化フォームをビルドするためのフォームデザイナー」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

Form Renderer 要素は、利用可能なコントロールを使用して迅速にフォームをビルドするのに役立ちます。

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオ で、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインから **[** フォーム] に移動して展開します。
2. Form Renderer 要素を右クリックし、[構成] を選択してフォームフィールドを設定します。
3. [フォームフィールドの設定 (CONFIGURE FORM FIELDS)] ダイアログボックスで、追加アイコン ( ) をクリックして新しい [フィールド] タブを追加します。
4. [フィールド] セクションで、フィールドオプションを展開し、次の詳細を入力します。

フィールドフォーム

フィールド	説明
名前	フォームにラベル名として表示されるフィールドの名前
タイプ	フィールドのタイプ： ◦ TextBox ◦ ComboBox ◦ チェック ボックス ◦ RadioButton ◦ ToggleButton ◦ 日付 ◦ 時刻 ◦ PasswordBox
必須	このフィールドをフォームの必須フィールドとして有効にするためのオプション。
読み込み専用	このフィールドをフォームの読み込み専用フィールドとして有効にするためのオプション。
フィールドヘルプ	フィールドのヘルプ情報： ◦ なし ◦ テキスト ◦ リンク
ヘルプ テキスト	フィールドのヘルプテキスト情報です。 このフィールドは、[フィールドヘルプ **(Field Help)]** フィールドで [テキスト] が選択されている場合にのみ表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ヘルプリンク	フィールドのヘルプリンク URL です。 このフィールドは、[フィールドヘルプ **(Field Help)]** フィールドで [リンク] が選択されている場合にのみ表示されます。

5. **[OK]** をクリックします。
6. ステップ 3 ～ 5 を繰り返して、新しいフィールドを追加します。
7. オプション: フィールドを削除するには、次のアクションを実行します。
   a. 削除するフィールドオプションを展開し、削除アイコン ( ) をクリックします。
   b. [確認] ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。
8. [フォームの設定] セクションで、フィールドに入力します。

[フォームの設定] フォーム

フィールド	説明
名前	フォームのタイトル。
フィールドヘルプ	フォームに関するヘルプ情報： ◦ なし ◦ テキスト ◦ リンク
ヘルプテキスト	フォームに関するヘルプテキスト情報です。 このフィールドは、[フィールドヘルプ **(Field Help)]** フィールドで [テキスト] が選択されている場合にのみ表示されます。
ヘルプリンク	フォームに関するヘルプリンク URL です。 このフィールドは、[フィールドヘルプ **(Field Help)]** フィールドで [リンク] が選択されている場合にのみ表示されます。
内部にポップアップを表示 (Show Popups Inside)	フォーム内のポップアップウィンドウを有効にするオプション

9. **[OK]** をクリックします。

関連情報

有人の自動化フォームをビルドするためのフォームデザイナー

Form Renderer 要素のメソッドとイベント

サービスログとランタイムログを開く

ログには、自動化プロセスの実行中に発生するイベントが記録されます。これらのログは、ロボットのパフォーマンスをデバッグおよび監視するために重要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
既存の 無人ロボット または アテンド型ロボット ウィンドウを閉じます。

必要なロール：なし

このタスクについて
ログは、発生したエラーや例外など、ロボットによって実行されたアクションに関する詳細情報を提供します。これらのログは、開発者がロボットの動作を理解し、改善が必要な領域を特定するのに役立ちます。

ログには、サービスログとランタイムログのタイプがあります。サービスログには、Windows サービス関連の操作ログがあります。ランタイムログには自動化関連のログがあります。

無人ロボット には、自動化の呼び出し、ロボットステータスの更新、プロセスジョブの作成などのコア操作のための Windows サービスがあります。この Windows サービスはシステムコンテキストで実行されます。そのコンテキストでキャプチャされたすべてのログは、プログラムデータの場所に保存されます。Windows マシンの Program Data フォルダーが非表示になっている場合は再表示します。

各ログには命名規則があります。ランタイム関連のログの場合、ログ名は「Runtime」で始まります。RPA デスクトップデザインスタジオ 関連ログの場合、ログ名は「Studio」で始まります。

手順

1. タスクバーの通知領域 (システムトレイ) で、無人ロボット アイコン ( ) を選択して長押し (または右クリック) します。
2. [ログを表示] を選択し、[サービスログ] または [ランタイムログ] を選択して、関連するログを表示します。

ホットフィックスのインストール後に必要な後処理

インスタンスに Universal App Connector (UAC) または Chromium コネクタのホットフィックスをインストールした後にこれらのタスクを実行して、ホットフィックスが正確にダウンロードされていることを確認します。

始める前に
RPA ハブインスタンスにホットフィックスをインストールします。 このタスクを実行するには、アドミンアクセス権が必要な場合があります。

開こうとしている iBot プロジェクトファイルのバックアップを取ります。

RPA デスクトップデザインスタジオを閉じ、マシンで開いているブラウザタブをすべて閉じます。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて
たとえば、UAC プラグインバージョン 6.1 を使用してプロジェクトを作成し、同じバージョンのホットフィックスがインスタンスにインストールされているとします。このシナリオでは、次の手順は、ホットフィックスのインストール後に RPA デスクトップデザインスタジオ、無人ロボット、または アテンド型ロボット を初めて起動するときにのみ必要です。

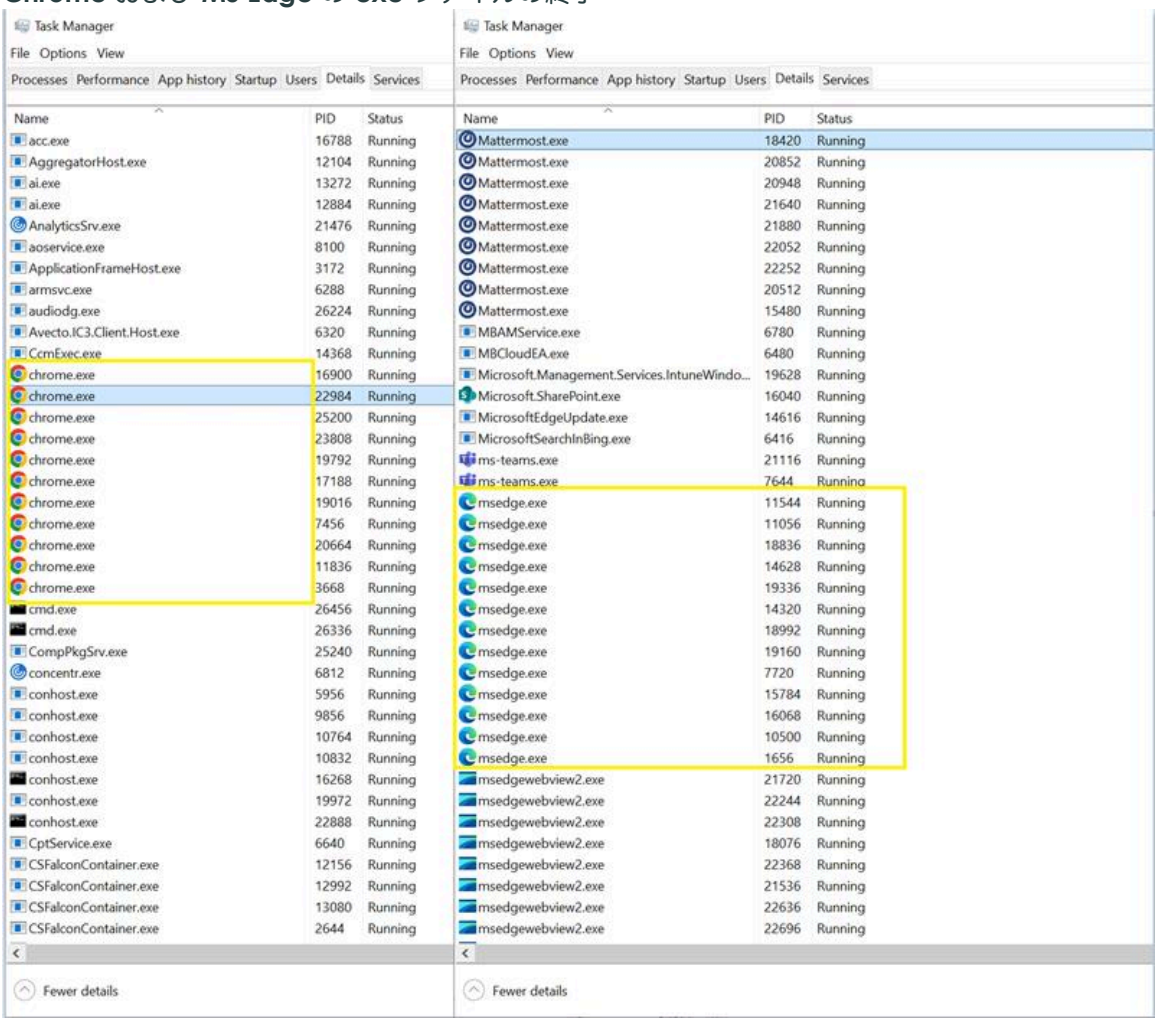
この手順は、Google Chrome アプリケーションまたは Edge アプリケーションを使用している場合に適用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

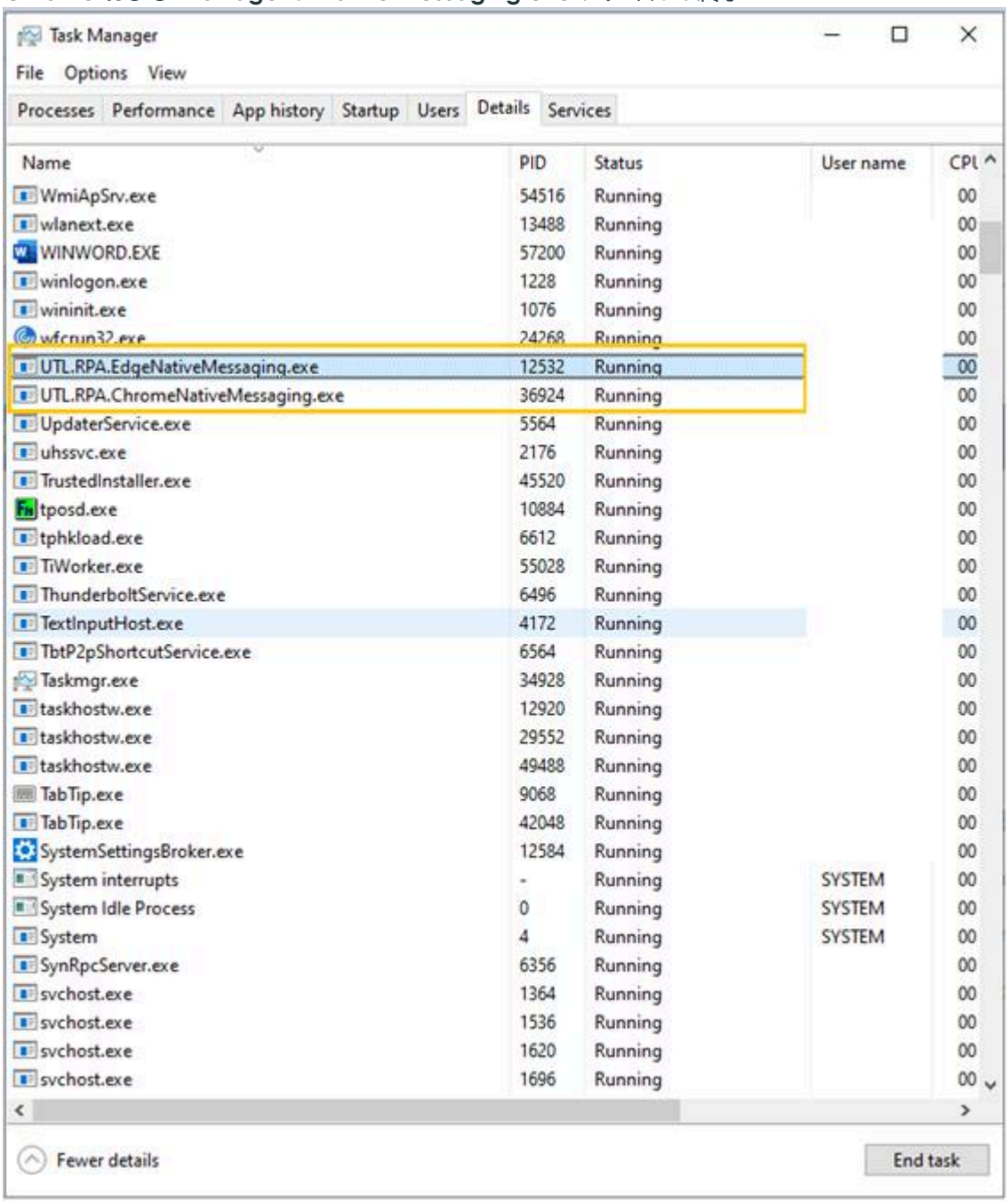
1. Windows マシンで、タスクマネージャーに移動します。
2. *chrome.exe*、*msedge.exe*、および *msedgewebview2.exe* プロセス (依存タスク) を閉じるには、次のいずれかのタスクを実行します。
   - 実行中の *chrome.exe*、*msedge.exe*、*msedgewebview2.exe*、*UTIL.RPA.ChromeNativeMessaging.exe*、および *UTIL.RPA.EdgeNativeMessaging.exe* プロセスを見つけて選択し、[タスクを終了 **(End task)]** を選択して長押し (または右クリック) します。

Chrome および **MS Edge** の **exe** ファイルの終了



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Chrome および **MS Edge** の **Native Messaging exe** ファイルの終了



- すべての依存タスクを終了するには、昇格されたアクセス権で次のコマンドを使用します。
  - taskkill /f /im msedge.exe
  - taskkill /f /im msedgewebview2.exe
  - taskkill /f /im UTL.RPA.EdgeNativeMessaging.exe
  - taskkill /f /im chrome.exe
  - taskkill /f /im UTL.RPA.ChromeNativeMessaging.exe

3. ブラウザーのタブまたは上記の実行可能ファイルが実行されていないことを確認します。
4. RPA デスクトップデザインスタジオ、無人ロボット、または アテンド型ロボット のいずれかを起動して続行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関連情報

- Universal App Connector
- Chromium コネクタ
- RPA デスクトップデザインスタジオ の構成

自動化の使用

自動化でデータのプレビュー、変換、および検証を行うことができます。RPA デスクトップデザインスタジオ では、自動化を実行、公開、およびレビューすることもできます。

自動化の記録

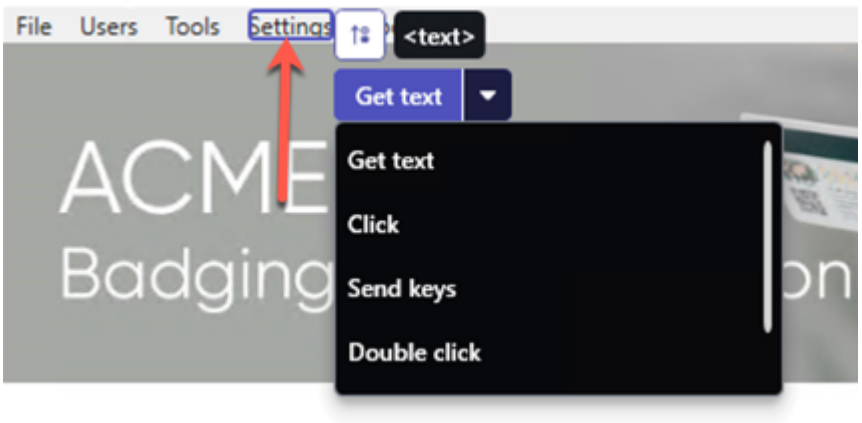
デスクトップまたは Web アプリケーションからアクションをキャプチャし、RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションでレコーダーオプションを使用して、キャプチャしたアクションを自動化フローに変換します。この機能を使用して、有人および無人の自動化を記録できます。自動化を記録する場合、コネクタまたはコンポーネントを使用して手動で自動化を作成する必要はありません。

重要: レコーダー機能は、Universal App Connector を使用して問い合わせることができるアプリケーションをサポートします。

要素のハイライト表示

レコーダーを使用すると、アプリケーション内のさまざまな要素をハイライト表示できます。このハイライト表示により、さまざまなタイプの要素を区別できます。その後、各要素に対して必要なアクションを実行できます。各要素には、デフォルトのアクションとサブアクションリストがあります。

レコーダーを使用した要素のハイライト表示



[記録されたアクション **(Recorded actions)**] ペイン

各要素に対して実行するアクションは、[記録されたアクション (Recorded actions)] ペインにキャプチャされます。[記録されたアクション (Recorded actions)] ペインの記録されたアクションには、アクションのタイプとアクションが実行された要素が表示されます。また、記録されたアクションは、アプリケーション画面に従ってリストされます。

自動化フローの生成

記録が保存されると、RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションは、自動化プロジェクトにアクティビティとして自動化フローを生成します。記録はまた、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [グローバルオブジェクト **(Global Objects)**] オプションのオブジェクトとして自動的に構成され、リストされます。コンポーネントをさらに追加することで、生成された自動化フローを [デザイン面 (Design surface)] から改善できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

画面一致ルールの構成

記録の画面と要素も、[グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** のオブジェクトとして構成されます。Universal App Connector を使用して、設定に基づき、画面一致ルールと要素属性を構成できます。Universal App Connector の使用方法の詳細については、「Universal App Connector」を参照してください。

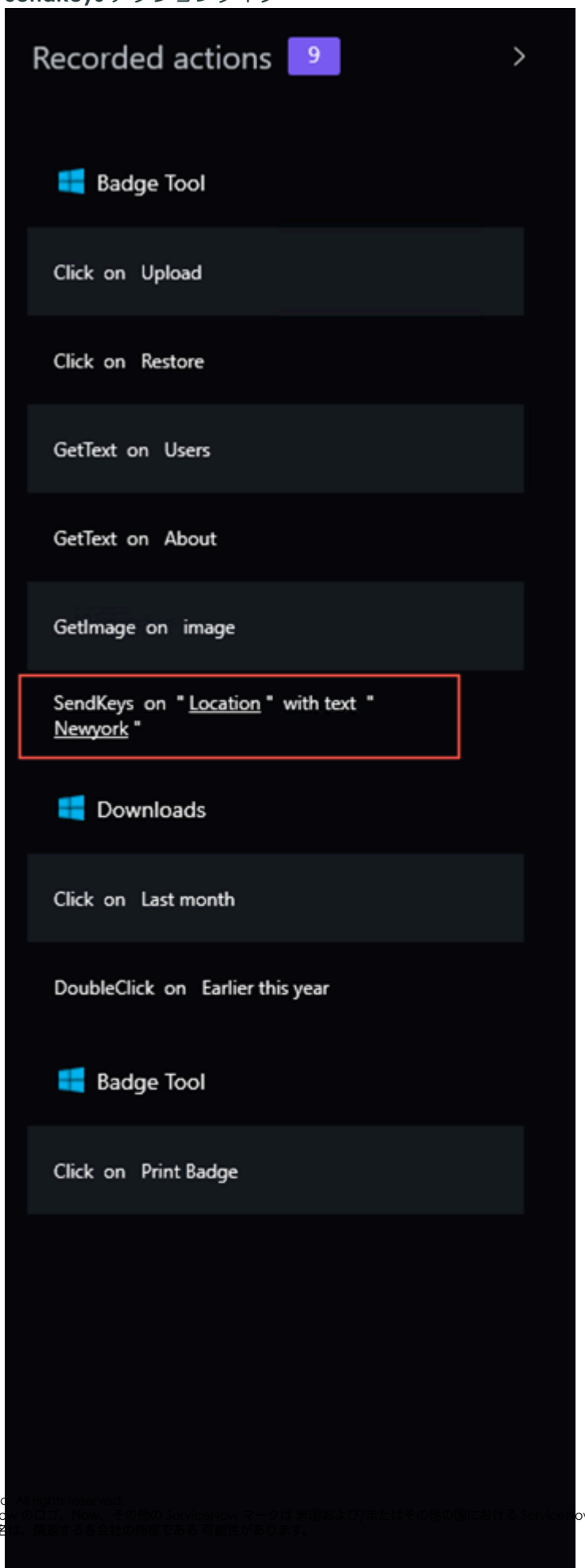
強化された要素の問い合わせ

要素名の入力

アプリケーションでアクションを記録すると、[記録されたアクション (Recorded actions)] ペインに要素名が自動的に入力されます。要素名はターゲットアプリケーションからキャプチャされます。次の例では、SendKeys アクションの記録中に、要素名「Location」が自動的に入力され、その後に「with text」と、記録フェーズ中にユーザーが入力したキーまたはテキスト値が続きます。ターゲットアプリケーションでデフォルトの要素名を使用できない場合は、要素のタイプが名前として使用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SendKeys アクションタイプ



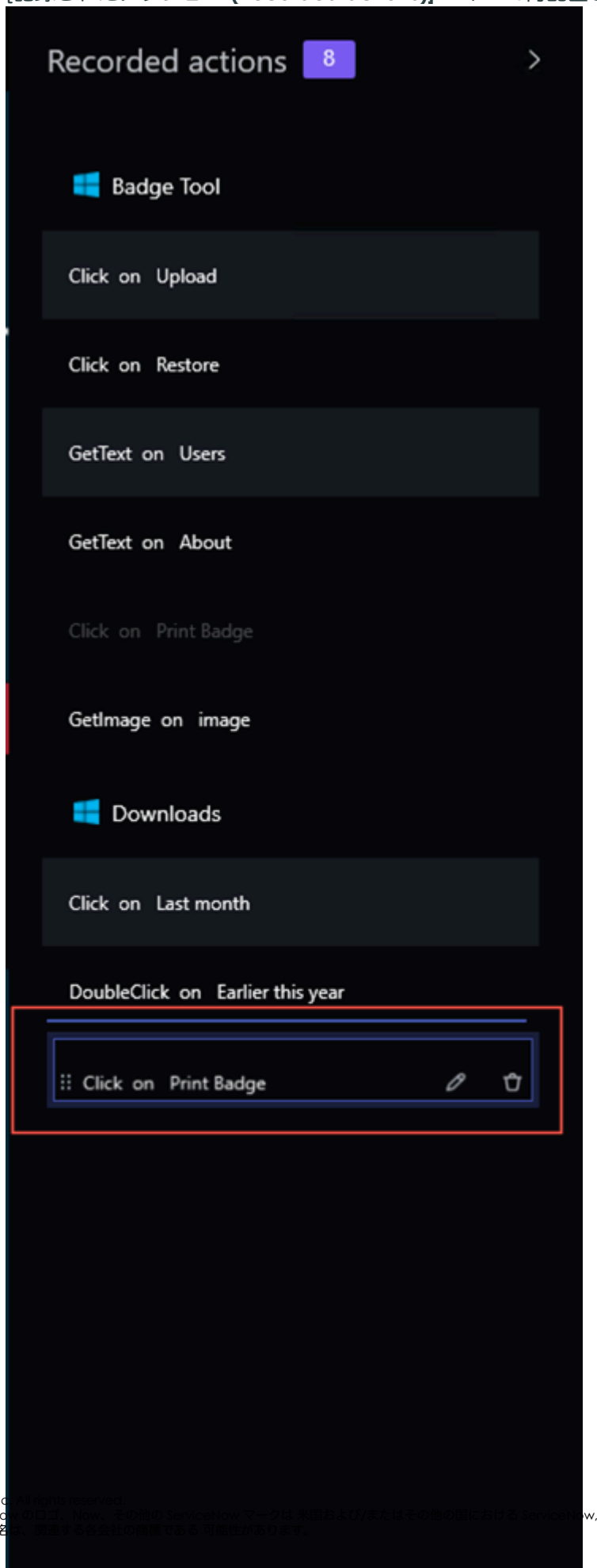
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

記録されたアクションの再配置

[記録されたアクション (Recorded actions)] ペインで、記録されたアクションと画面を移動して配置できます。[記録されたアクション (Recorded actions)] ペインで、記録された要素を再配置することもできます。[記録された画面 (recorded screen)] セグメントは、[画面] セグメントの記録されたアクションが別の画面セグメントにドロップされると分割されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

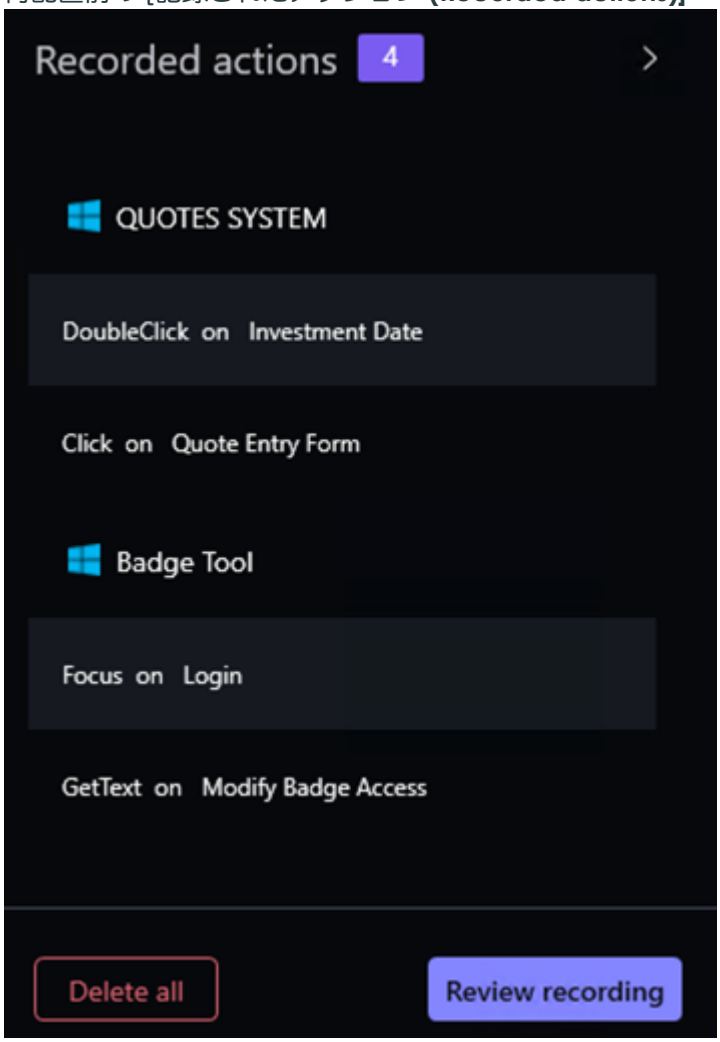
[記録されたアクション **(Recorded actions)]** ペインで再配置された要素



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である可能性があります。

たとえば、QUOTES SYSTEM アプリケーションの 2 つのアクション (DoubleClick と Click)、および Badge Tool アプリケーションの 2 つのアクション (Focus と GetText) を記録するとします。すると、アクションのリストが、記録された順序で [記録されたアクション (Recorded Actions)] ウィンドウに表示されます。

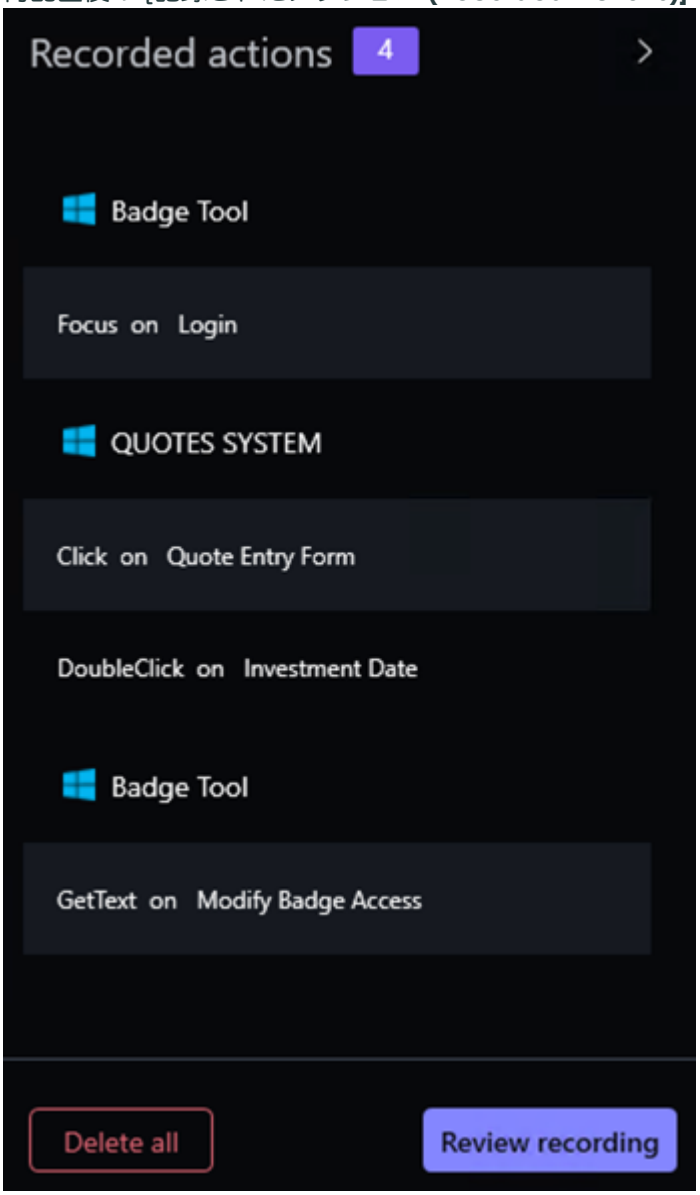
再配置前の [記録されたアクション **(Recorded actions)]** ペインのアクション



Focus アクションを Badge Tool アプリケーションからリストの一番上、かつ QUOTES SYSTEM アプリケーションの上に移動したとします。すると、階層が再配置された後、[記録されたアクション (Recorded actions)] ペインにアクションのリストが次のように表示されます。QUOTES SYSTEM アプリケーションの記録が分割されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

再配置後の [記録されたアクション **(Recorded Actions)]** ペインのアクション



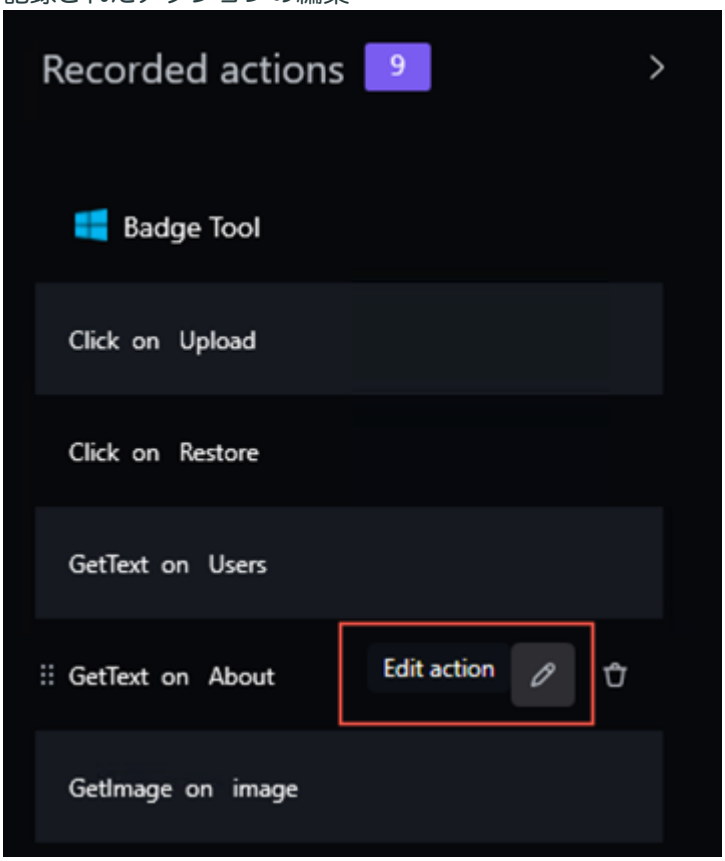
記録を保存すると、それに応じて自動化が生成されます。自動化フローは、[記録されたアクション (Recorded actions)] ペインのアクションの新しいシーケンスに基づいて生成されます。

記録されたレコードの編集

アクションを削除して再記録する代わりに、[記録されたアクション (Recorded Actions)] ペインで [アクションの編集] アイコンを使用して、記録されたアクションを編集することで、アクションタイプまたは要素の詳細を更新できます。たとえば、次の画像の「About」要素名の「GetText」アクションタイプを編集できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

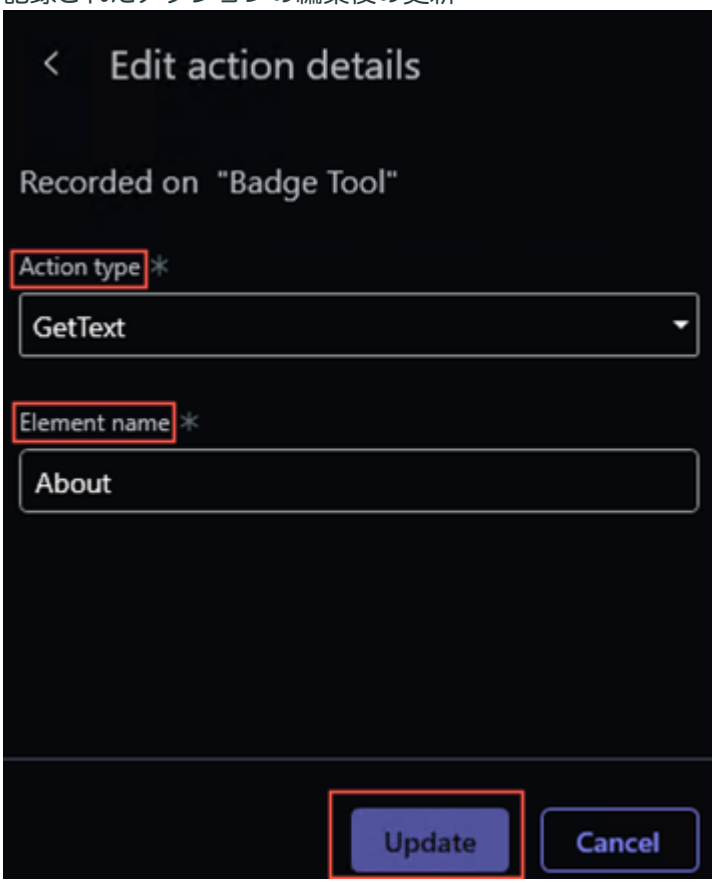
記録されたアクションの編集



編集アクションを選択した後、次の例に示すように、アクションタイプを「SetText」に、または要素名を「About」から「Tools」に変更して [更新] を選択できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

記録されたアクションの編集後の更新



アプリケーションの起動

デザイン面で、アプリケーションを起動するコンポーネントが、レコーダーによって生成される自動化フローに自動的に追加されるようになりました。

レコーダーを使用して自動化を作成するメリット

レコーダーを使用して自動化を作成すると、以下のメリットがあります。

- ローコードユーザーは、より簡単に自動化を作成できます。コネクタまたはコンポーネントを使用して自動化を手動で作成するのは複雑です。
- レコーダーを使用して自動化を作成すると、時間と労力を削減できます。

制限事項

自動化を記録するための既知の問題と制限事項については、「Known issues and limitations of RPA Desktop Design Studio for recording automations (自動化を記録するための RPA デスクトップデザインスタジオの既知の問題と制限事項) [KB1225708]」を参照してください。

自動化の記録

RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションでレコーダーオプションを使用して自動化を記録します。アプリケーション要素に対して実行するアクションは、自動化プロジェクトに自動化フローとして保存できます。

始める前に

レコーダーを使用して初めて自動化を記録する前に、以下のアクションを実行する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ServiceNow RPA Chrome 拡張を Google Chrome ブラウザーにインストールして有効にします。RPA Google Chrome 拡張の追加の詳細については、「ServiceNow RPA Chrome 拡張の追加」を参照してください。
- ServiceNow RPA Edge 拡張を Microsoft Edge ブラウザーにインストールして有効にします。RPA Edge 拡張の追加の詳細については、「ServiceNow RPA Edge 拡張機能の追加」を参照してください。
- ServiceNow RPA Google Chrome および Microsoft Edge ブラウザー拡張機能の [サイトアクセス (Site access)] ペインで、[すべてのサイト **(On all sites)]** の [アクセスした **Web** サイトのすべてのデータの読み取りと変更をこの拡張で許可する **(Allow this extension to read and change all your data on websites that you visit to)]** が有効になっていることを確認します。
- Windows マシンから Java Access Bridge を有効にします。Java Access Bridge を有効にする方法の詳細については、「Java Access Bridge の有効化とテスト」を参照してください。

Web アプリケーションを記録する前に、以下の設定とタスクを構成してください。

- ブラウザーのズームレベルを 100% に設定します。
- ブラウザーの開発者ツールを閉じます。
- Web ページがブラウザーに完全にロードされるまで待ちます。

必要なロール：なし

手順

1. [デザイン] タブのツールバーから [レコーダーを起動 **(Launch recorder)]** を選択します。
   RPA デスクトップデザインスタジオ ウィンドウが最小化され、レコーダーパネルが起動します。

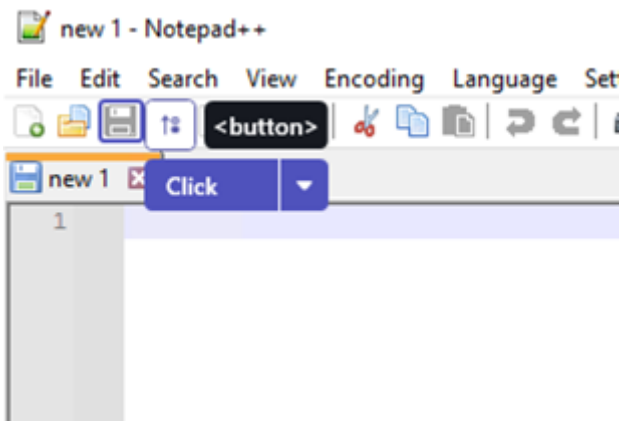
   重要: Universal App Connector (UAC) プラグインが利用できないか、自動化プロジェクトから削除されている場合、RPA デスクトップデザインスタジオでは [レコーダーを起動 **(Launch recorder)]** ボタンはグレー表示されます。

2. 記録するアプリケーションを開き、[記録を開始 **(Start recording)]** アイコン ( ) を選択します。
3. アクションを実行する要素をポイントします。

   要素のタイプに関連するデフォルトのアクションが表示されます。

   たとえば、Notepad++ で [保存] ボタンをポイントすると、 要素タイプは <button> として表示され、このアイテムのデフォルトのアクションは **Click** になります。

   [保存] ボタンの要素タイプとデフォルトアクション



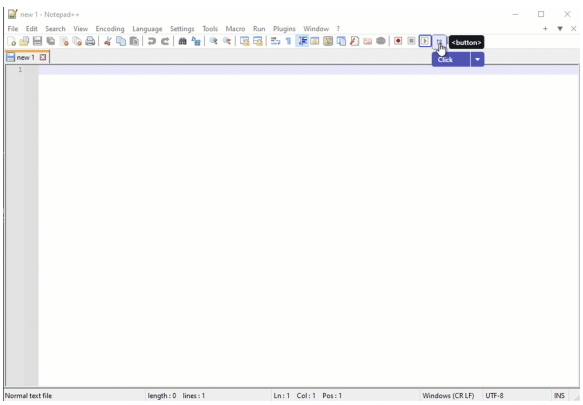
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. デフォルトアクションに対してドロップダウンボタンを選択すると、要素の関連アクションのリストが表示されます。

   たとえば、ボタン要素タイプの関連アクションのリストは、SendKeys、GetText、DoubleClick、および Focus です。

   さまざまなタイプのアクションと要素の詳細については、「要素とレコーダーのアクションのタイプ」を参照して ください。

5. 要素に対して実行する必要なアクションを選択します。
   実行する各アクションは、[記録されたアクション (Recorded actions)] ペインに順番にキャプチャされます。
6. 目的のアクションについて、次のいずれかのオプションを実行します。

オプション	アクション
要素の親をハイライト表示する	[親要素をハイライト表示 (Highlight parent element)] アイコン ( ) を選択します。 たとえば、ボタンの [親要素をハイライト表示 **(Highlight parent element)]** オプションを選択すると、ツールバーがハイライト表示されます。 [親要素をハイライト表示 **(Highlight parent element)]** オプション 
記録を一時停止する	[記録を一時停止 (Pause recording)] アイコン ( )
[記録されたアクション (Recorded actions)] ペインの表示	[記録されたステップを表示 (Show recorded steps)] アイコン ( ) を選択します。 アプリケーション要素に対して実行したアクションは、ここから確認できます。
レコーダー機能についてもっと知る	[ヘルプ] アイコン ( ) を選択すると、製品ドキュメントの Web ページに移動します。
レコードの削除アクション	アクションをポイントし、[削除アクション] アイコン ( ) を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
[記録されたアクション (Recorded actions)] ペインから、記録されたアクションをすべて削除します。	[すべて削除 **(Delete all)]** を選択します。
記録されたアクションまたは要素の詳細の編集	**a.** [記録されたアクション (Recorded actions)] パネルで、[アクションの編集] アイコン ( ) を選択します。 **b.** アクションタイプまたは要素名を更新します。 **c.** [更新] を選択します。

7. [記録の確認 **(Review recording)]** を選択します。
8. [アプリのパスと URL の確認 (Review app path and URL)] ペインで、アプリケーションとそのアプリケーションパスのリストを確認します。
9. [続行] を選択します。
10. [記録を保存] ペインで、フィールドに入力します。

[記録を保存] ペイン

フィールド	説明
アクティビティ名	記録されたアクションが自動化フローとして保存される自動化アクティビティの名前。 注: 既存のアクティビティの名前を指定しないでください。
グローバルオブジェクトの保存先 (Save global object to)	記録された要素を既存の UAC オブジェクトまたは新しい UAC グローバルオブジェクトに保存するオプション。 [新しいグローバルオブジェクト **(New global object)]** を選択した場合は、[グローバルオブジェクト名 **(Global object name)]** フィールドにオブジェクトの名前を入力する必要があります。 [既存のグローバルオブジェクト **(Existing global object)]** を選択した場合は、[既存のグローバルオブジェクトから選択 (Select from existing global objects)] リストから既存の UAC グローバルオブジェクトを選択する必要があります。

11. [記録を保存] を選択します。
    記録されたアクションは、自動化アクティビティとして自動化プロジェクトに保存されます。記録された自動化アクティビティは、[デザイン面 (design surface)] から変更できます。

次のタスク

記録された要素は、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] の [グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** で UAC オブジェクトとして表示できます。UAC オブジェクトを展開すると、レコーダーによってキャプチャされたすべての画面と要素が表示されます。UAC で画面と要素の一致ルールを変更する場合は、次のアクションを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. [グローバルオブジェクト **(Global Objects)**] で生成された UAC オブジェクトを右クリックし、[構成] を選択します。

   [画面と要素の構成 (Configure screen and elements)] ウィンドウが表示されます。

2. [画面と要素 (Screens and elements)] ペインから、記録の画面と要素を構成します。

   画面と要素の一致ルールを構成する方法の詳細については、「Universal App Connector の使用」を参照してください。

要素とレコーダーのアクションのタイプ

アクションは、テキストボックス、ボタン、ハイパーリンクなどのアプリケーション要素に対して実行できるアクティビティです。こうしたアクションを使用することにより、RPA デスクトップデザインスタジオ レコーダーで自動化フローをビルドできます。

要素のタイプとそのアクション

要素のタイプ	アクション
ボタン	• Click (デフォルト) • SendKeys • GetText • DoubleClick • Focus
テーブル	• GetTable (デフォルト) • Click • SendKeys • GetText • DoubleClick • Focus
ハイパーリンク	• Click (デフォルト) • SendKeys • GetText • DoubleClick • Focus
テキストボックス	• SetText (デフォルト) • GetText • SendKeys • DoubleClick • Focus

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要素のタイプとそのアクション (続く)

要素のタイプ	アクション
テキストエリア	• SetText (デフォルト) • GetText • SendKeys • DoubleClick • Focus
ドロップダウンリスト	• SelectItem (デフォルト) • Click • SendKeys • GetText • DoubleClick • Focus
チェックボックス	• Check (デフォルト) • Uncheck • Click • SendKeys • GetText • DoubleClick • Focus
ラジオボタン	• Click (デフォルト) • SendKeys • GetText • DoubleClick • Focus
画像	• GetImage (デフォルト) • SendKeys • GetText • DoubleClick • Focus

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクションの定義

アクション	説明
Click	要素に対してマウスデバイスの左クリック操作を実行します。
Check	チェックボックスで選択操作を実行します。
DoubleClick	要素に対してマウスデバイスのダブルクリック操作を実行します。要素に関連するダブルクリックイベントがある場合は、ダブルクリックアクションが実行されます。
Focus	要素にフォーカスを設定します。
GetImage	画像要素から画像を取得します。たとえば、アイコン画像を取得します。
GetTable	テーブル要素からテーブルデータを表形式で取得します。
GetText	要素からテキストを取得します。たとえば、Web ページ内の家の住所フィールドのテキストなどです。
SendKeys	要素に対して実行される、キーボードのキーまたはキーの組み合わせをシミュレートします。
SelectItem	要素のアイテムを選択します。
SetText	指定されたテキストを要素に設定します。
Uncheck	チェックボックス要素をクリアします。

データポートの上書き

RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントのデータポートを上書きして、データ入力ポートとデータ出力ポートのデフォルトの動作を変更できるようにします。データポートを上書きすることで、自動化ワークフローの開発とテストを簡素化することができます。

始める前に

コンポーネントを設定します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

必要なロール：なし

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオ の [デザイン面 (Design surface)] で、上書きするコンポーネントのデータ入力ポートまたはデータ出力ポートを右クリックし、[ポートのプロパティ **(Port Properties)]** を選択します。
2. [ポートのプロパティ (PORT PROPERTIES)] ダイアログボックスで、必要に応じて詳細を編集します。

[ポートのプロパティ **(PORT PROPERTIES)]** ダイアログボックス

フィールド	説明
ポート名	ポートの名前です。 このフィールドは編集できません。
データタイプ	コンポーネントの入出力データタイプ ◦ オブジェクト ◦ 文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ 整数 ◦ 長 ◦ ブール ◦ 浮動小数点数 ◦ 倍精度 ◦ **DateTime** ◦ 画像 ◦ リスト ◦ テーブル ◦ 安全な文字列
機密データ	[デザイン面 (Design surface)] のデフォルトビューでデータを非表示にするオプションです。 次の手順を実行して、機密データとしてマークすることもできます。 **a.** データ入力ポートまたはデータ出力ポートを右クリックします。 **b.** [機密データとしてマーク **(Mark Data as Sensitive)]** をクリックします。
データの読み込み元	データ入力ポートにのみ表示されるフィールドです。次の 3 つのオプションがあります。 ◦ [接続]：別のコンポーネントからデータを受け取ります。 ◦ [静的]：静的値を定義するか、コンポーネントに関連付けられている静的オプションを選択します。このオプションを選択すると、コンポーネントのデータ入力ポートが表示されなくなります。 ◦ [変数]：データを読み込む必要があるグローバル変数またはローカル変数をマッピングします。このオプションを選択すると、コンポーネントのデータ入力ポートが表示されなくなり、ポートに変数名が表示されます。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ で変数を作成して使用する」を参照してください。
データの書き込み先	データ出力ポートにのみ表示されるフィールドです。次の 2 つのオプションがあります。 ◦ [接続]：データを別のコンポーネントに渡します。 ◦ [変数]：データを書き込む必要があるグローバル変数またはローカル変数をマッピングします。このオプションを選択すると、コンポーネントのデータ出力ポートが表示されなくなり、変数名がポートに表示されます。詳

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ で変数を作成して使用する」を参照してください。
静的値	特定のデータポートの値です。 このフィールドは、[データの読み込み元 **(Read Data From)]** フィールドで [静的] を選択すると表示されます。

3. **[OK]** をクリックします。

RPA デスクトップデザインスタジオ でデータポートのデータをプレビューする

RPA デスクトップデザインスタジオ でデータポートのデータをプレビューし、ポートの結果が正しく、期待どおりであるかを表示し、検証することができます。

始める前に

データを表示するコンポーネントが実行されていることを確認します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ で自動化を実行する」を参照してください。

必要なロール：なし

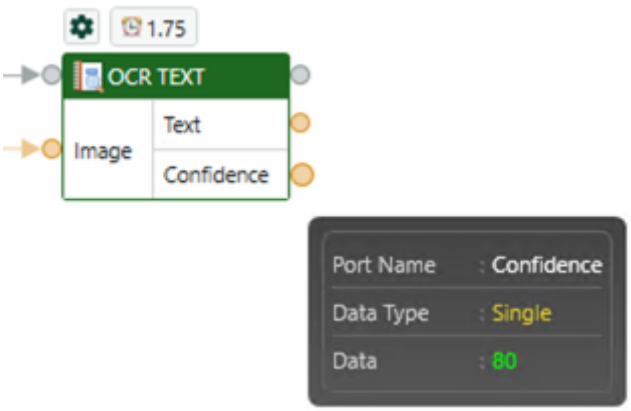
手順

RPA デスクトップデザインスタジオ の [デザイン面 (Design surface)] で、次のいずれかのアクションを実行してデータをプレビューします。

- データのタイプがシンプル テキストの場合は、次の例に示すように、コンポーネントのデータ出力ポートにカーソルを合わせます。

  ツールヒントに部分的にデータが表示されます。

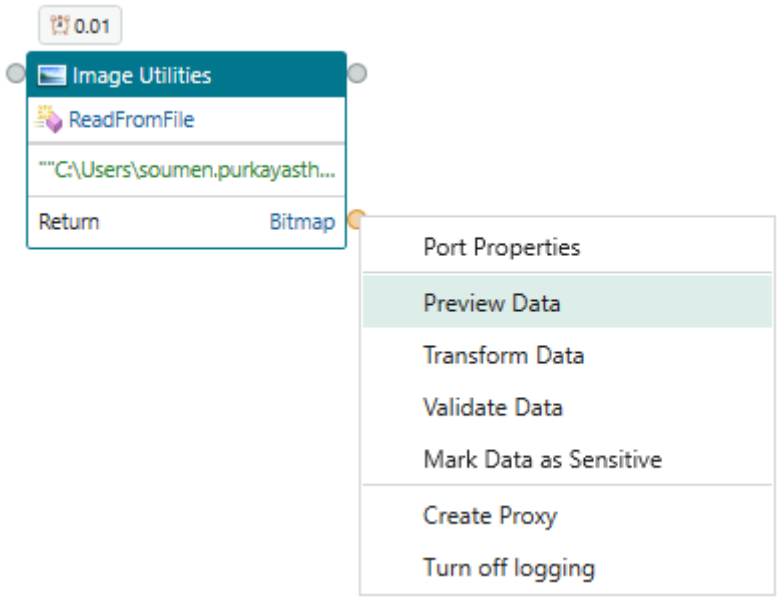
  データ出力ポートのオプションにカーソルを合わせる



- データ出力を完全に表示するには、次の例に示すように、データを表示するデータポートを右クリックし、[データをプレビュー] を選択します。

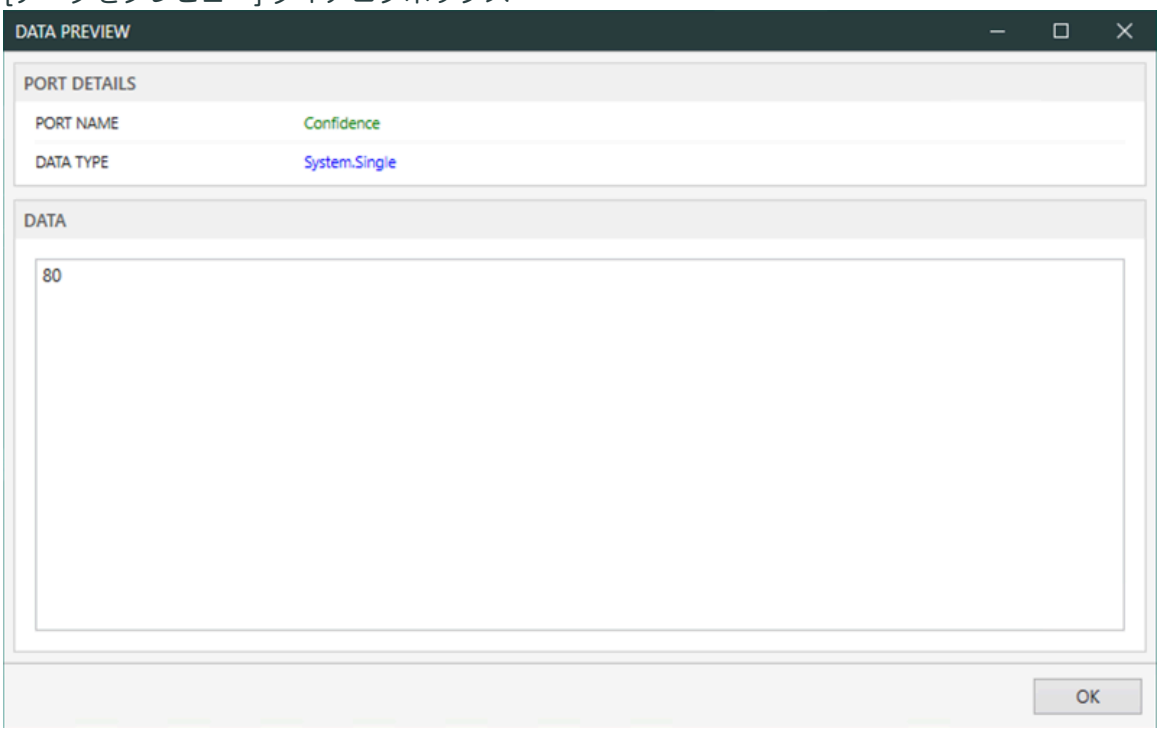
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[データをプレビュー] オプション



次の例に示すように、[データをプレビュー] ダイアログボックスが表示されます。

[データをプレビュー] ダイアログボックス



このダイアログボックスに、ポートの名前、データタイプ、およびデータを表示できます。

RPA デスクトップデザインスタジオ でデータを変換する

コンポーネントレベルで [データを変換] オプションを使用して、RPA デスクトップデザインスタジオ でデータの変換を行います。このオプションを使用すると、VB.NET、C#.NET、または JavaScript を使用してデータポートの出力値を編集できます。

始める前に
コンポーネントを設定します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：なし

このタスクについて
[データを変換] オプションは、データ入力ポートから入力されるデータ、またはデータ出力ポートから返されるデータを修正するために使用されます。

手順
1. RPA デスクトップデザインスタジオ の [デザイン面 (Design surface)] で、変換するデータ入力ポートまたはデータ出力ポートを右クリックし、[データを変換] を選択します。
2. [データ変換エディター (DATA TRANSFORMATION EDITOR)] ダイアログ ボックスで、[有効] チェックボックスをオンにして [スクリプト] セクションにコードを入力します。
   データポートが緑色に変わり、自動化フローでデータ変換が検証されます。
3. 次のスクリプト言語のリストから、データ変換のコードを記述するスクリプト言語を選択します。
   - **VB.NET**
   - **C#**
   - **Javascript**
4. [スクリプト] セクションで、コードを入力します。
   値変数を使用して、データ入力ポートの受信データまたはデータ出力ポートの送信データをスクリプトで使用することができます。
5. スクリプトを入力したら、**[OK]** をクリックします。
   システムによってスクリプトが検証されます。
6. [スクリプト] セクションにエラーがある場合は、[エラー] セクションに表示されているエラーを解決し、**[OK]** をクリックします。

RPA デスクトップデザインスタジオ でデータを検証する

RPA デスクトップデザインスタジオ のコンポーネントレベルで [データを検証 **(Validate Data)]** オプションを使用して、データの検証を行います。

始める前に
コンポーネントを設定します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

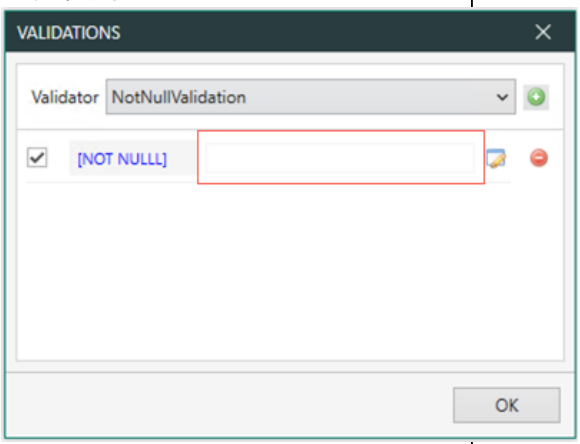
必要なロール：なし

このタスクについて
NotNullValidation 検証タイプを使用して、データ出力ポートから入ってくるデータが null でないことを確認できます。スクリプトを使用して、カスタム検証を記述することもできます。

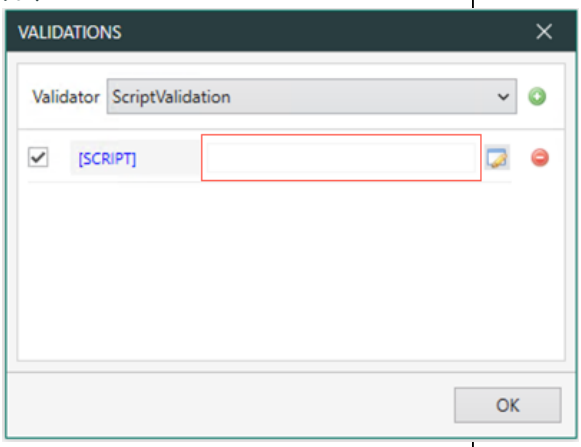
手順
1. RPA デスクトップデザインスタジオ の [デザイン面 (Design surface)] で、コンポーネントのデータ入力ポートまたはデータ出力ポートを右クリックし、[データを検証 **(Validate Data)]** を選択します。
2. [検証] ダイアログボックスの [検証ツール] リストから、次のいずれかの検証タイプを選択します。

タイプ	説明およびアクション
NotNullValidation	指定された入力が null かどうかを確認します。 検証とエラー処理のために、カスタムメッセージを入力できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイプ	説明およびアクション
	a. プラスアイコン ( ) をクリックし、検証を追加します。 **b.** 次の例に示すように、**[NOT NULL]** の横にあるテキストボックスにカスタムエラーメッセージを入力します。 エラーメッセージの入力用テキストボックス  **c.** **[OK]** をクリックします。
ScriptValidation	プログラミング言語をリストから選択し、データポートに入出力されるデータを前述の条件に照らして検証する検証スクリプトを記述できます。それ以外の場合は、実行を停止し、エラーを投げます。 **a.** プラスアイコン ( ) をクリックし、検証を追加します。 **b.** スクリプトアイコン ( ) をクリックし、[スクリプトの検証] ダイアログボックスを開きます。 **c.** 次のスクリプト言語のリストから、カスタム検証を記述するスクリプト言語を選択します。 ▪ **VB.NET** ▪ **C#** ▪ **Javascript** **d.** [スクリプト] セクションで、コードを入力します。たとえば、「`Return Value > 300`」です。 **e.** **[OK]** をクリックします。 **f.** 次の例に示すように、**[SCRIPT]** の横にあるテキストボックスにカスタムエラーメッセージを入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タイプ	説明およびアクション
	エラーメッセージ入力用フィールド  **g. [OK]** をクリックします。

3. オプション: 検証ルールを削除するには、削除アイコン ( ) をクリックし、 確認ダイアログボックスで [はい] をクリックします。

RPA デスクトップデザインスタジオ でプロキシを作成する

RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントレベルのプロキシを作成し、そのコンポーネントの追加プロパティを抽出します。

始める前に

コンポーネントを設定します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

[プロキシを作成 **(Create Proxy)]** オプションを使用し、既存クラスの一部の機能を追加または変更します。

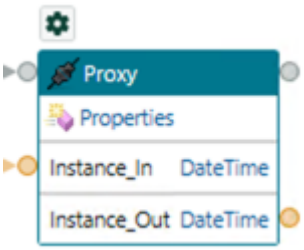
手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオ の [デザイン面 (Design surface)] で、コンポーネントのデータ入力ポートまたはデータ出力ポートを右クリックし、[プロキシを作成 **(Create Proxy)]** を選択します。

   Example
   たとえば、DateTime コンポーネントのプロキシは例に示すように表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Proxy コンポーネント

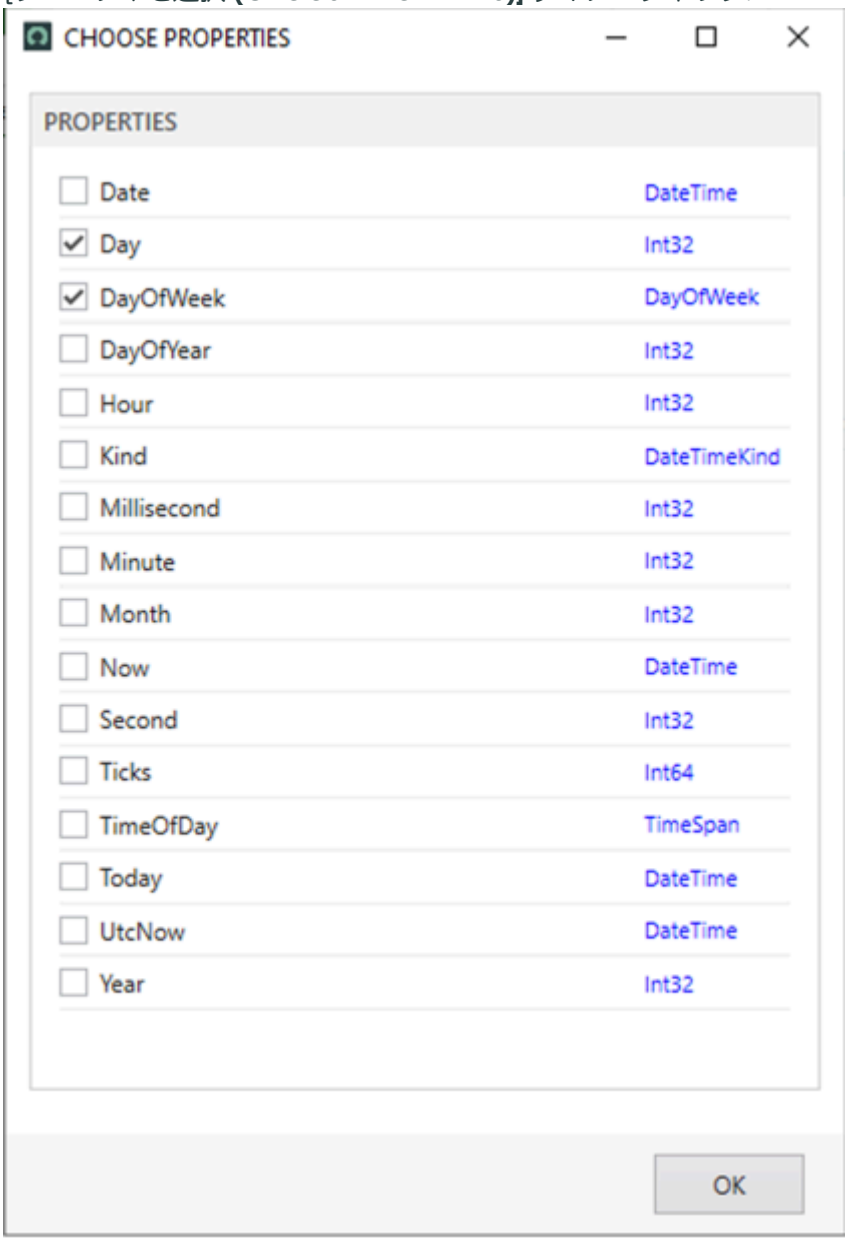


2. Proxy コンポーネントのタイトルバーをダブルクリックし、[プロパティを選択 (CHOOSE PROPERTIES)] ダイアログボックスを開きます。
3. [プロパティを選択 (CHOOSE PROPERTIES)] ダイアログボックスで、使用するプロパティの該当するチェックボックスをオンにします。

   Example
   たとえば、例に示すように [Day] および [DayOfWeek] プロパティを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プロパティを選択 **(CHOOSE PROPERTIES)]** ダイアログボックス

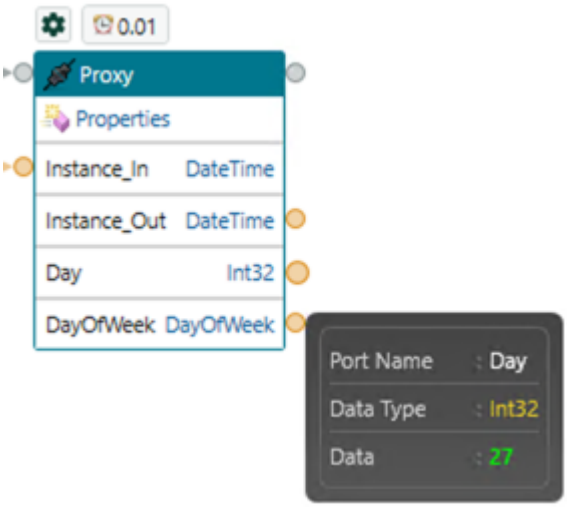


4. **[OK]** をクリックします。

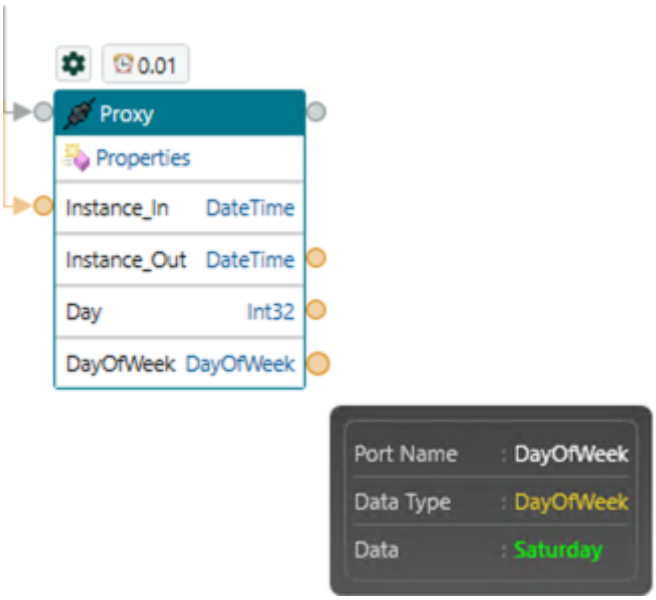
Example
DateTime コンポーネントを実行した後にこのコンポーネントのデータ出力ポートにカーソルを合わせると、次の例では、Day が 27 で、DayOfWeek が土曜日と表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DateTime コンポーネントの **Day** が **27**



DateTime コンポーネントの **DayOfWeek** が土曜日



RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを一時停止するブレークポイントを設定する

RPA デスクトップデザインスタジオ のコンポーネントにブレークポイントを設定し、自動化の実行中にデバッグのためにコンポーネントを一時停止できるようにします。ブレークポイントは、任意の数のコンポーネントに設定することができます。

始める前に

ブレークポイントを設定するコンポーネントが自動化の一部であることを確認します。

コンポーネントを設定します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

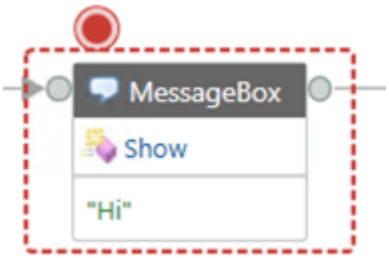
1. RPA デスクトップデザインスタジオ の [デザイン面 (Design surface)] で、ブレークポイントを設定するコンポーネントのタイトルバーを右クリックし、[ブレークポイント] を選択します。

   コンポーネントにブレークポイントを設定すると、次の例に示すように、赤いアイコンが表示されます。

   コンポーネントにブレークポイントが設定された後に表示される赤色のアイコン

   自動化の実行中に、次の例に示すように、ブレークポイントを持つコンポーネントにロボットが到達すると、実行が一時停止し、コンポーネントが赤色の境界線で強調表示されます。

   ブレークポイントを持つコンポーネントにロボットが到達すると表示される赤色の境界線

2. オプションを選択し、アクションを完了します。

オプション	アクション
ブレークポイントが設定されているコンポーネントを実行するには	[デザイン] タブの [次へ移動] をクリックするか、**Ctrl + F8** キーを押します。 ワークフローを段階的に実行するには、[次へ移動] ボタンをクリックして続行します。
残りのコンポーネントの実行を続行するには	[デザイン] タブで [実行] をクリックします。
自動化内にあるすべてのブレークポイントを検索するには	[デザイン] タブの [ブレークポイントのクリア **(Clear Breakpoints)]** ボタンの横にある下矢印ボタンをクリックし、[すべて検索] を選択します。 [すべての参照を検索 (Find All References)] セクションにブレークポイントのリストが表示されます。
ブレークポイントを解除するには	目的のコンポーネントを右クリックし、[ブレークポイント] を選択します。
すべてのブレークポイントを解除するには	[デザイン] タブの [ブレークポイントのクリア **(Clear breakpoints)]** をクリックします。

RPA デスクトップデザインスタジオ で選択したコンポーネントからワークフローの実行を開始する

RPA デスクトップデザインスタジオ の [ここから実行 **(Run From Here)]** オプションを使用して、ワークフローの先頭ではなく、コンポーネントからワークフローの実行を開始します。この機能によって、自動化ワークフローの開発およびテストを迅速に行うことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
コンポーネントを設定します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

必要なロール：なし

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオ の [デザイン面 (Design surface)] で、実行を開始するコンポーネントのタイトルバーを右クリックします。
2. [ここから実行 **(Run From Here)]** を選択します。

RPA デスクトップデザインスタジオ で自動化を実行する

RPA デスクトップデザインスタジオ でワークフローを実行するための自動化を実行します。

始める前に
自動化プロジェクトを作成します。詳細については、「自動化プロジェクトを手動で作成する」または「Now Assist を使用した自動化の作成」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて
[実行] オプションは、スタートアップとしてマークされたアクティビティの開始コンポーネントから実行を開始します。

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオ で、[デザイン] タブに移動します。
2. [実行] をクリックします。
3. オプション: ランタイムログを消去するには、 [ログを消去] をクリックします。

RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェック

RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェックを使用して、自動化アクティビティまたは自動化プロジェクト全体の問題を積極的に見つけることができます。自動化プロジェクトを公開すると、組み込みコード品質チェックも実行されます。コード品質チェックを使用すると、エラーの数を減らし、自動化を妨げる可能性のある潜在的な問題を防ぐことができます。

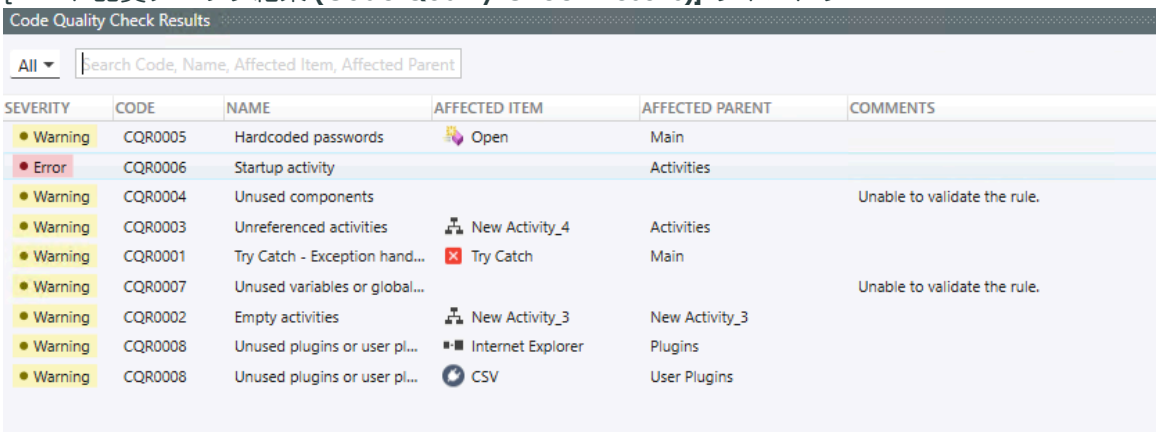
コード品質チェックの概要

RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェックは、RPA ハブ インスタンスから有効になっている事前定義済みのルールセットに基づいています。コード品質チェックの使用を開始する前に、RPA デスクトップデザインスタジオ にコード品質チェックを設定しているインスタンスに接続する必要があります。RPA ハブ からコード品質チェックを設定する方法の詳細については、「RPA ハブ のコード品質チェック RPA デスクトップデザインスタジオ」を参照してください。事前定義されたルールセットの詳細については、「RPA ハブのコード品質ルールリスト」を参照してください。

コード品質チェックを使用してアクティビティまたは自動化プロジェクト全体をチェックすると、問題の結果と詳細が [コード品質チェック結果 (Code Quality Check Results)] ウィンドウにエントリのリストとして表示されます。次の例は、そのウィンドウを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

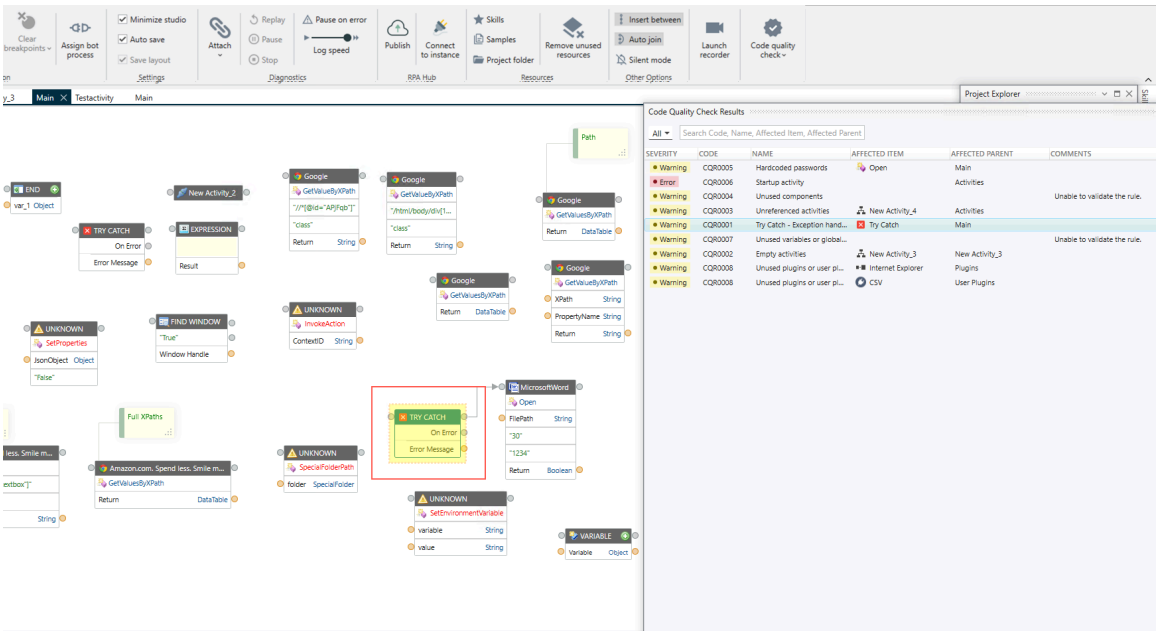
[コード品質チェック結果 **(Code Quality Check Results)]** ウィンドウ



次のシナリオでは、[コード品質チェック結果 (Code Quality Check Results)] ウィンドウでコンポーネントの結果エントリをダブルクリックできます。

- 影響を受けるコンポーネントが現在のアクティビティにある場合は、現在のアクティビティでハイライト表示されます。
- 影響を受けるコンポーネントが別のアクティビティにある場合は、そのアクティビティに移動できます。コンポーネントがハイライト表示されます。RPA デスクトップデザインスタジオ でのコンポーネントのハイライト表示例を、以下に示します。

RPA デスクトップデザインスタジオ でのコンポーネントのハイライト表示



自動化プロジェクトの公開におけるコード品質チェック

自動化プロジェクトを公開すると、コード品質チェックが自動的に実行されます。プロジェクトにコード品質チェックの問題がある場合は、[コード品質チェック結果 (Code Quality Check Results)] ウィンドウに結果エントリが表示されます。自動化プロジェクトを公開する方法の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ」の「RPA デスクトップデザインスタジオ での自動化プロジェクトの公開」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: RPA ハブ のプロパティ *sn_rpa_fdn.restrict_package_by_severity* が [制限なし] に設定されている場合のみ、エラーまたはエラーと警告の組み合わせを含むパッケージを公開できます。このプロパティの詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」を参照してください。パッケージが RPA デスクトップデザインスタジオ から公開されている場合に、コード品質チェック機能が従うコンプライアンスルールの詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ」の「RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェックのコンプライアンス」を参照してください。

[ルールを表示] ウィンドウから、アクティブなルールと非アクティブなルールのリストを表示できます。このウィンドウから、重大度レベルでルールをフィルタリングできます。

RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェックを使用した自動化の問題の修正

RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェック機能を使用して、自動化アクティビティまたは自動化プロジェクト全体の自動化問題を積極的に修正します。

始める前に

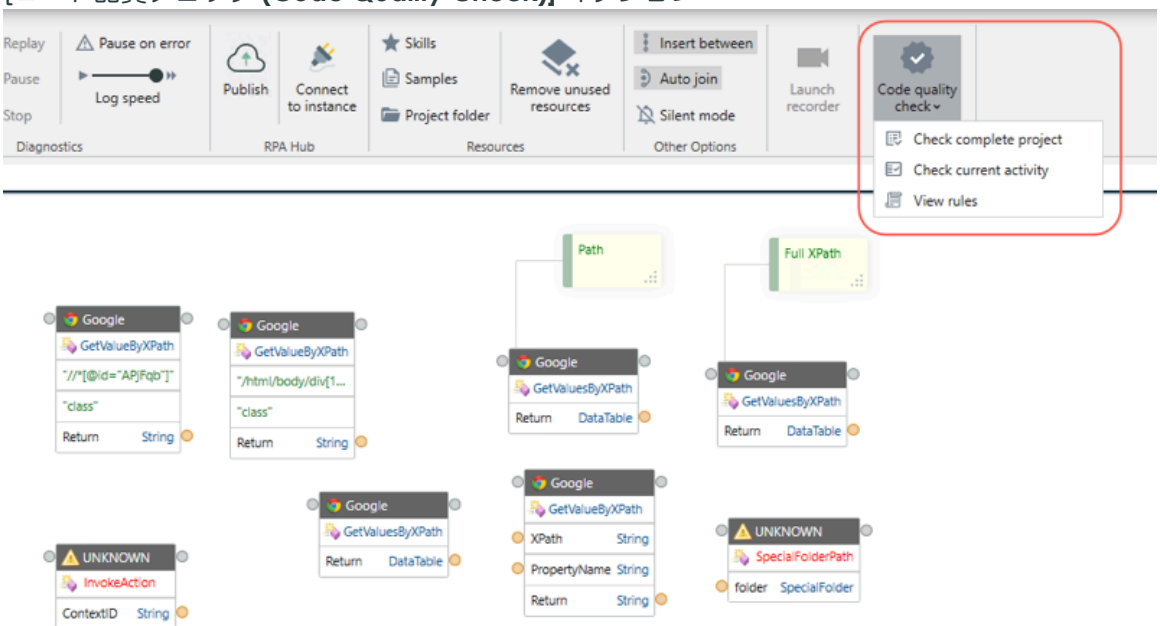
コード品質チェック機能が有効になっている RPA Hub インスタンスに接続します。RPA ハブ インスタンスへの接続方法の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ から RPA ハブ インスタンスへの接続」を参照してください。

必要なロール：RPA 開発者

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオ の [デザイン] タブのツールバーで、[コード品質チェック **(Code Quality Check)]** を選択します。
   [コード品質チェック **(Code Quality Check)]** オプションが表示されます。

   [コード品質チェック **(Code Quality Check)]** オプション



   注: インスタンスに接続されていないときに [コード品質チェック **(Code Quality Check)]** オプションを選択すると、[接続マネージャー] ウィンドウが表示されます。RPA ハブ インスタンスへの接続方法の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ から RPA ハブ インスタンスへの接続」を参照してください。

2. 次のオプションのコード品質チェックを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

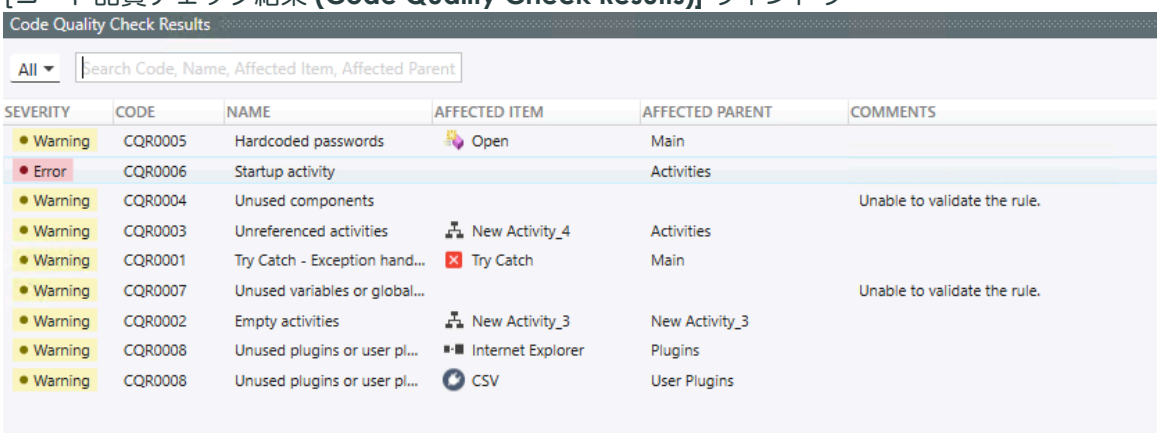
コード品質チェックのオプション	説明
プロジェクト全体をチェック (Check complete project)	自動化プロジェクト全体のコード品質チェックを実行します。自動化プロジェクトに複数のアクティビティがあり、それぞれに対してコード品質チェックを実行しない場合は、このオプションを使用します。結果が [コード品質チェック結果 (Code Quality Check Results)] ウィンドウに表示されます。
現在のアクティビティをチェック **(Check current activity)**	現在のアクティビティのコード品質チェックを実行します。

結果が [コード品質チェック結果 (Code Quality Check Results)] ウィンドウに表示されます。

> **注:** [プロジェクト全体をチェック **(Check complete project)**] オプションまたは [現在のアクティビティをチェック **(Check current activity)**] オプションを選択しており、接続の問題がある場合は、タイムアウトエラーが表示されます。詳細については、RPA アドミニストレーターにお問い合わせください。

3. [コード品質チェック結果 (Code Quality Check Results)] ウィンドウで、問題の結果とその詳細をリストで表示します。
結果は、RPA アドミニストレーターまたはリリースマネージャーによって設定された重大度に基づいて、エラー、警告、および情報に分類されます。[すべて] ボタンを選択すると、重大度レベルで結果をフィルタリングできます。[名前] フィールドは、RPA ハブ で設定されたコード品質ルールに基づく問題のタイプを示します。コード品質ルールのリストの詳細については、「RPA ハブのコード品質ルールリスト」を参照してください。

[コード品質チェック結果 **(Code Quality Check Results)**] ウィンドウ

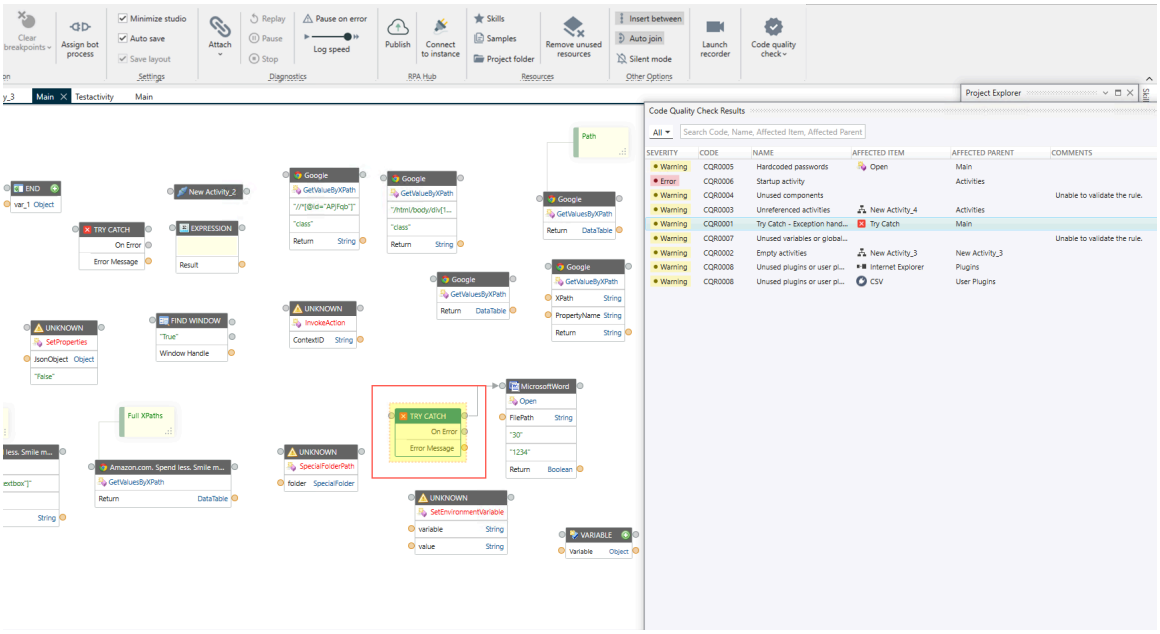


次のシナリオでは、[コード品質チェック結果 (Code Quality Check Results)] ウィンドウでコンポーネントの結果エントリをダブルクリックできます。

- 影響を受けるコンポーネントが現在のアクティビティにある場合は、現在のアクティビティでハイライト表示されます。
- 影響を受けるコンポーネントが別のアクティビティにある場合は、そのアクティビティに移動できます。影響を受けるコンポーネントがハイライト表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

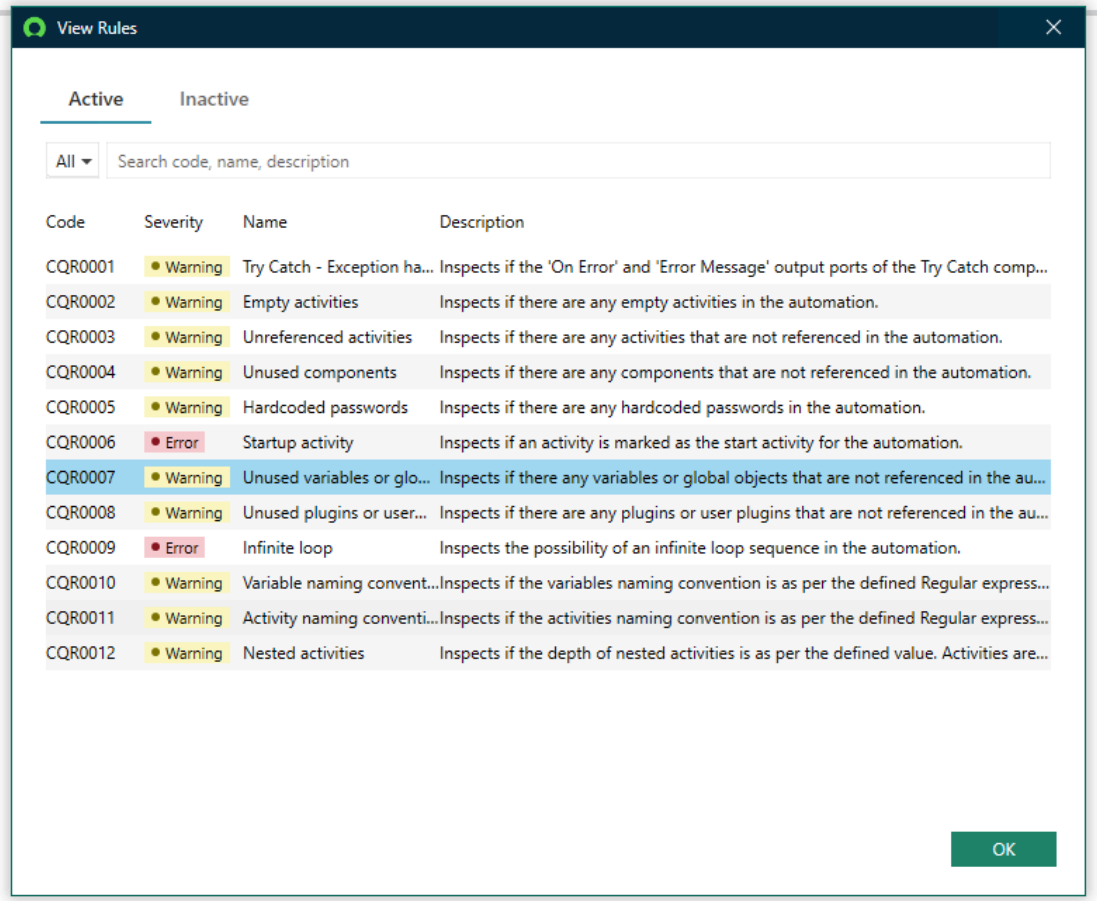
コード品質チェックで影響を受けるコンポーネントをハイライト表示



4. [ルールを表示] を選択して、RPA Hub インスタンスから設定されたアクティブなルールと非アクティブなルールのリストを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コード品質チェックの [ルールを表示] ウィンドウ



5. コード品質チェックに関連する問題を修正します。これで、自動化プロジェクトを公開する準備ができました。

次のタスク

自動化プロジェクトを公開する準備ができました。プロジェクトを公開すると、コード品質チェックも自動的に実行されます。プロジェクトを公開する方法の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ での自動化プロジェクトの公開」を参照してください。

自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン

ボットプロセスを RPA デスクトップデザインスタジオの自動化プロジェクトにアサインして、ボットプロセスリソースの使用を開始します。

始める前に

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer または sn_rpa_fdn.rpa_admin (RPA デスクトップデザインスタジオから実行している場合)

このタスクについて

ボットプロセスのアサイン機能は、スキルを含むすべての自動化プロジェクトで有効になります。[ボットプロセス] フィールドに、有人および無人の両方のボットプロセスが表示されます。

RPA デスクトップデザインスタジオから、自動化内の特定のボットプロセスに限定されたリソース (キュー、プロセスパラメーターなど) にアクセスするには、ボットプロセスを選択し、リソースにアクセスして RPA デスクトップデザインスタジオで自動化を正常に実行するために、[ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** オプションが役立ちます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオの [デザイン] タブから [ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** を選択します。
   [ボットプロセスをアサイン (Assign bot process)] ダイアログボックスが表示されます。
2. [ボットプロセス] リストから必要なボットプロセスを選択します。

   注: 対応するボットプロセスの管理担当者グループに属するユーザーは、そうしたボットプロセスもこのリストに表示されます。

3. 選択したボットプロセスが埋め込みタスク自動化で有効になっている場合は、次の必須フィールドに入力します。

   ボットプロセスをアサイン **(Assign Bot Process)**

有人構成 (Attended Config)	ステップ 2 で選択したボットプロセスに関連付けられている有人構成がここに表示されます。 有人構成を選択します。
レコードコンテキスト	ServiceNow フォームレコードの Sys ID または URL を入力します。 これは、GetProcessFieldParameters コンポーネントを使用してフィールド値をフェッチし、選択した Sys ID の SetProcessFieldParameters コンポーネントを使用してフィールド値を更新するのに役立ちます。 Sys ID または URL の取得の詳細については、「一意のレコード識別子 (sys_id)」を参照してください。

   注: 埋め込みタスク機能の詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

4. オプション: 無人ボットプロセスの場合は、[ロボット] リストから必要なロボットを選択します。

   (Optional) ボットプロセスにアサインされているロボットを選択できます。

   注: RPA デスクトップデザインスタジオの Vancouver リリース以降、無人自動化の場合、ユーザーロールにマッピングされているボットプロセスのロボットのみを表示できます。ロボットには、RPA デスクトップデザインスタジオが実行されているマシン名も必要です。ボットプロセスに関連付けられているロボットがない場合は、エラーが表示されます。

5. **[OK]** をクリックします。
   ボットプロセスで 1 つ以上のスキルが上書きされた場合、自動化では、現在の実行中に更新されたスキルバージョンが使用されます。上書きされたスキルバージョンの詳細については、「RPA ハブでのボットプロセスのスキルバージョンの上書き」を参照してください。

RPA デスクトップデザインスタジオ での自動化プロジェクトの公開

パッケージまたはテンプレートとして自動化プロジェクトを RPA デスクトップデザインスタジオから RPA ハブ に公開します。公開後、パッケージを使用するか、テンプレートをフレームワークとし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

て使用して自動化を作成することで、RPA プラットフォームに自動化ソリューションを迅速に展開できます。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオで自動化プロジェクトファイルが開かれていることを確認します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でローカル自動化プロジェクトを開く」を参照してください。

自動化プロジェクトファイルが別のフォルダーにあることを確認します。現在のプロジェクトファイルの場所にあるすべてのファイルとフォルダーが RPA ハブ に公開されます。

RPA デスクトップデザインスタジオ で接続マネージャーのセットアップを検証します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオの設定」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_developer または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

自動化プロジェクトをパッケージとして公開すると、RPA ハブ は自動化プロジェクトでワークフローを実行するプロセスジョブを実行できます。自動化プロジェクトは、新しいパッケージとして、または既存のパッケージのバージョンとして公開できます。

自動化プロジェクトをテンプレートとして公開すると、後で自動化プロジェクトを作成するためのフレームワークになります。自動化プロジェクトは、新しいテンプレートとして、または既存のテンプレートのバージョンとして公開できます。

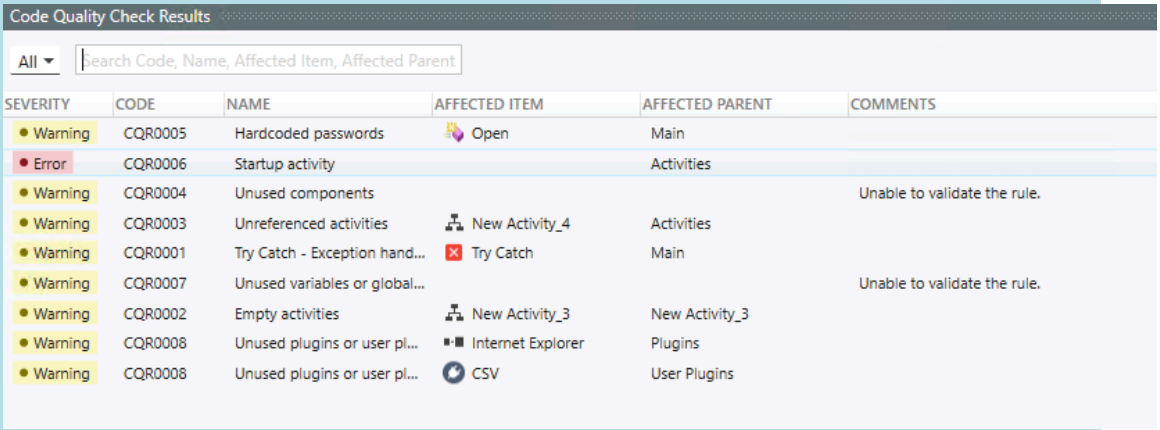
手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオ で、公開する自動化プロジェクトを開きます。
2. [デザイン] タブで、[公開] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

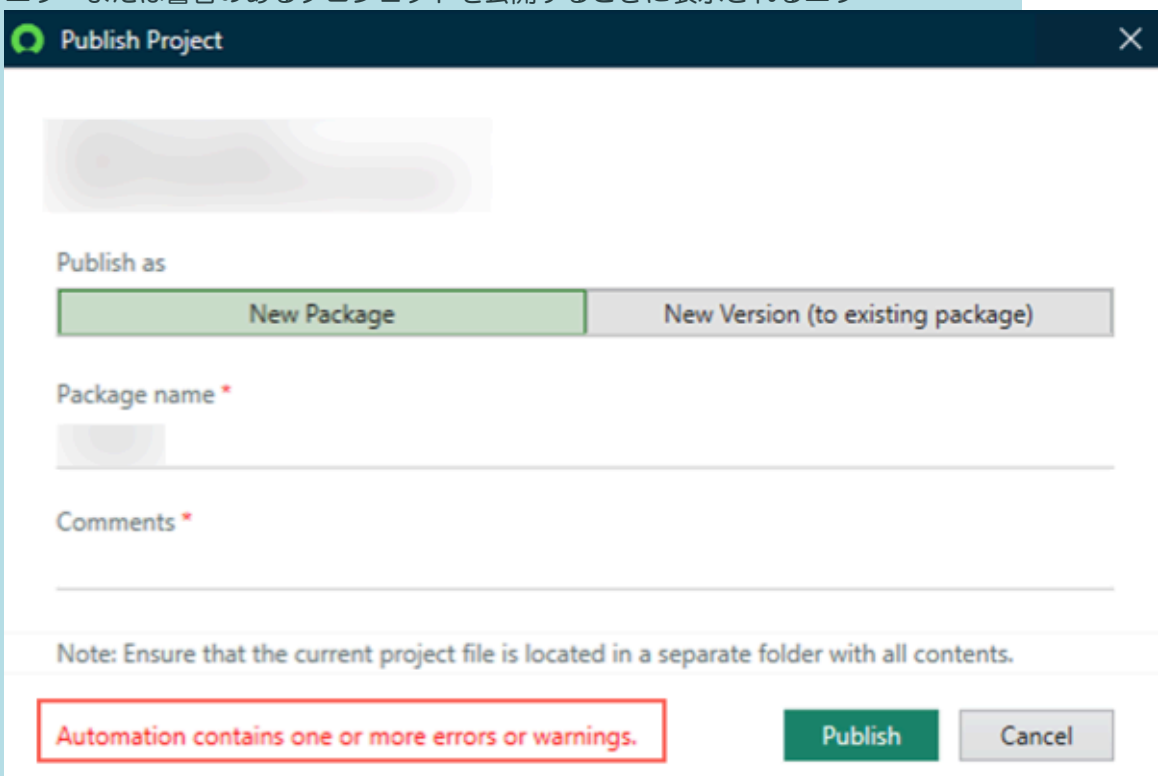
重要:

- RPA ハブ インスタンスから [コード品質チェック (Code Quality Check)] 機能が有効になっていて、自動化プロジェクトにコード品質チェックの問題がある場合、[コード品質チェック結果 (Code Quality Check Results)] ウィンドウにエラーメッセージが表示されます。



RPA ハブ のプロパティ *sn_rpa_fdn.restrict_package_by_severity* が [制限なし] に設定されている場合のみ、エラーまたはエラーと警告の両方を含むパッケージを公開できます。詳細については、「RPA ハブ プロパティの設定」を参照してください。以下の例に示すように、こうしたパッケージは、プロジェクトの公開を開始するとき、「自動化に 1 つ以上のエラーまたは警告が含まれます (Automation contains one or more errors or warnings)」というメッセージとともにハイライト表示されます。

エラーまたは警告のあるプロジェクトを公開するときに表示されるエラー



パッケージが RPA デスクトップデザインスタジオから公開されているとき、コード品質チェックが従うコンプライアンスルールの詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ のコード品質チェックのコンプライアンス」を参照してください。

- インスタンスで *sn_rpa_fdn.code_signing_required* システムプロパティを有効にすると、以前 RPA デスクトップデザインスタジオから RPA ハブ に公開する際、ここでのコード署名を有効にしていなかったため、同じインスタンス上のパッケージに関連付けられている既存のボットプロセスに影響します。その結果、このようなボットプロセスに対

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは、米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の商標または登録商標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である可能性があります。

3. パッケージまたはテンプレートとして、自動化プロジェクトを公開します。

オプション	アクション
自動化プロジェクトをパッケージとして公開する	**a.** [プロジェクトの公開 (Publish project)] ウィンドウの [プロジェクトを以下として公開 **(Publish project as)]** フィールドで、[パッケージ] が選択されていることを確認します。 注: [パッケージ] がデフォルトのオプションです。 **b.** [パッケージをリストとして公開 (Publish package as list)] で、[新しいパッケージ **(New Package)]** または [既存のパッケージの新しいバージョン **(New version (to existing package))]** を選択します。 ▪ [新しいパッケージ **(New Package)]** が選択されていることを確認して、自動化プロジェクトを新しいパッケージとして公開します。 注: [新しいパッケージ **(New Package)]** がデフォルトの選択です。 ▪ [既存のパッケージの新しいバージョン **(New version (to existing package))]** を選択して、自動化プロジェクトを既存のプロジェクトのバージョンとして公開します。 **c.** [名前] フィールドにパッケージ名を入力するか、デフォルト名を保持して、パッケージを新しいパッケージとして公開します。 注: デフォルトでは、自動化プロジェクト名がデフォルトのパッケージ名です。 **d.** [パッケージを選択] リストからパッケージ名を選択して、パッケージを既存のパッケージの新しいバージョンとして公開します。 **e.** [コメント] フィールドにコメントを入力します。 **f. [Publish** (公開)] を選択します。 **g. [OK]** をクリックします。
自動化プロジェクトをテンプレートとして公開する	**a.** [プロジェクトの公開 **(Publish project)]** ウィンドウの [プロジェクトを以下として公開 (Publish project as)] フィールドで、[テンプレート] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクション
	b. [テンプレートをリストとして公開 (Publish template as list)] で、[新しいテンプレート **(New template)]** または [既存のテンプレートの新しいバージョン **(New version (to existing template))]** を選択します。 ▪ [新しいテンプレート **(New template)]** を選択して、自動化プロジェクトを新しいテンプレートとして公開します。 ▪ [既存のテンプレートの新しいバージョン **(New version (to existing template))]** を選択して、自動化プロジェクトを既存のテンプレートのバージョンとして公開します。 **c.** [名前] フィールドにテンプレート名を入力するか、デフォルト名を保持して、自動化プロジェクトを新しいテンプレートとして公開します。 注: デフォルトでは、自動化プロジェクト名がデフォルトのテンプレート名です。 **d.** [既存のテンプレートの新しいバージョン **(New version (to existing template))]** を選択して、自動化プロジェクトを既存のテンプレートのバージョンとして公開します。 **e.** [テンプレート] リストからパッケージ名を選択して、テンプレートを既存のテンプレートの新しいバージョンとして公開します。 **f.** [コメント] フィールドにコメントを入力します。 **g. [Publish** (公開)] を選択します。 **h. [OK]** をクリックします。

4. オプション: 組織でコード署名が義務付けられており、自動化プロジェクトをパッケージとして公開する場合は、次のアクションを実行します。

a. [証明書の場所 **(Certificate location)]** フィールドで、証明書の場所として [ファイル] または [証明書ストア **(Cert Store)]** を選択します。

b. [証明書] フィールドの横にある 3 つのドットメニュー ( ) を選択します。

c. インストール済みコード署名証明書を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: コード署名として意図された証明書のみを選択できます。他の目的の証明書を選択すると、エラーが表示されます。

d. **[OK]** をクリックします。

注: このステップは、自動化プロジェクトをパッケージとして公開する場合にのみ適用されます。

同じアクティビティの複数のソースからの変更を結合する際の競合を解決する

RPA デスクトップデザインスタジオ の [ソースコントロール] オプションを使用して、同じアクティビティの複数のソースからの変更を結合する際の競合を解決します。

始める前に

ServiceNow インスタンスに接続していない場合は、[デザイン] タブの接続マネージャーアイコンをクリックし、既存のインスタンスに接続します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオの設定」を参照してください。

アクティビティを作成します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でアクティビティを作成して使用する」を参照してください。

必要なロール：なし

手順

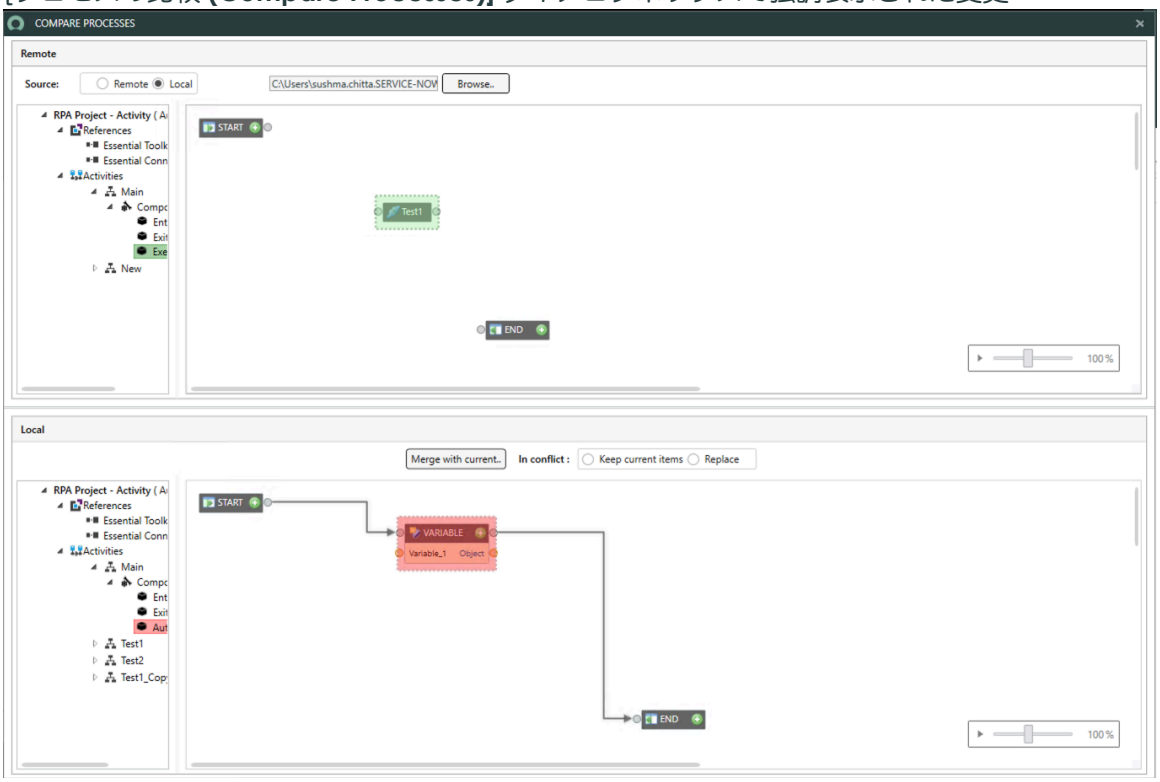
1. 競合を解決する必要があるアクティビティを含むプロジェクトを開きます。
2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、[アクティビティ] に移動します。
3. アクティビティを右クリックし、[ソースコントロール] を選択します。
4. [プロセスの比較 (COMPARE PROCESSES)] ダイアログボックスの [リモート] セクションで、次のいずれかのソースタイプを選択し、[ソース] フィールドから自動化プロジェクトを開きます。

オプション	アクション
リモート	a. プロジェクトを開くアイコン ( ) をクリックします。 b. [プロジェクトを開く (Open Project)] ダイアログボックスで、パッケージの名前とバージョンを選択します。 c. [開く] をクリックします。 d. [保存] をクリックし、プロジェクトをデフォルトの場所に保存します。 e. [ドキュメントバージョンを選択 (Select a Document version)] リストから、パッケージバージョンを選択します。
ローカル	a. [参照] をクリックします。 b. [開く] ダイアログボックスで、プロジェクトを選択します。 c. [開く] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の例に示すように、変更は [プロセスの比較 (COMPARE PROCESSES)] ダイアログボックスで強調表示されます 。変更が追加されると、緑色で表示されます。変更が削除されると、赤色で表示されます。変更が修正されると、黄色で表示されます。

[プロセスの比較 **(Compare Processes)**] ダイアログボックスで強調表示された変更



5. [ローカル] セクションで、[競合中 **(In conflict)**] フィールドから競合を解決するための次のいずれかのオプションを選択します。
   - [ローカル] セクションの変更を保持するには、[現在のアイテムを保持 **(Keep current items)**] を選択します。
   - [ローカル] セクションの強調表示された変更を [リモート] セクションの強調表示された変更に置き換えるには、[置換] を選択します。
6. [確認 (CONFIRM)] ダイアログボックスで **[OK]** をクリックします。
7. [現在のものと結合] をクリックします。

RPA デスクトップデザインスタジオ でのプロジェクトのインポート

RPA デスクトップデザインスタジオ で、プロジェクトをインポートし、別の自動化プロジェクトのアクティビティ、変数、有人自動化フォーム、その他のグローバルオブジェクトなどのリソースを再利用します。

始める前に

自動化プロジェクトを作成します。詳細については、「自動化プロジェクトを手動で作成する」を参照してください。

アクティビティを作成します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でアクティビティを作成して使用する」を参照してください。

変数を作成します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ で変数を作成して使用する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

有人自動化フォームを作成します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ で有人自動化フォームを作成する」を参照してください。

プラグインをインストールして、自動化を設計します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でのプラグインの管理」を参照してください。

必要なロール：なし

手順

1. 別の自動化からリソースを再利用するプロジェクトを開きます。
2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、プロジェクトを右クリックし、[インポート] を選択します。
3. インポートする必要があるリソースを含むプロジェクトを選択するには、[プロジェクトをインポート] ダイアログボックスに移動し、[プロジェクトファイル **(.iBot)]** の横にある 3 つのドットメニューをクリックします。
4. [開く] をクリックします。
5. [ロード] をクリックします。
6. [プロジェクトアイテム (Project Items)] セクションで、インポートするオプションの横にあるチェックボックスをオンにして、競合を結合または上書きできるようにします。
   インポートするリソースと競合が発生した場合は、プロジェクト内の競合と結合するか上書きするか、オプションを選択します。
7. **[OK]** をクリックします。

RPA デスクトップデザインスタジオ でエラーを処理する

RPA デスクトップデザインスタジオ では、コンポーネントレベルおよびアクティビティレベルでエラーを処理します。[エラーハンドラー] オプションを使用して、自動化の実行中に発生するエラーを処理することができます。

始める前に

コンポーネントを設定します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

アクティビティを作成します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でアクティビティを作成して使用する」を参照してください。

必要なロール：なし

手順

1. RPA デスクトップデザインスタジオ で、次のいずれかのオプションを選択し、コンポーネントレベルまたはアクティビティレベルでエラーを処理します。

オプション	アクションと説明
コンポーネントレベルでエラーを処理するには	[デザイン面 (Design surface)] で、コンポーネントのタイトルバーを右クリックし、[エラーハンドラー] を選択して [エラーハンドラー] ダイアログボックスを開きます。
アクティビティレベルでエラーを処理するには	[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインで、アクティビティを右クリックし、[エラーハンドラー] を選択して [エラーハンドラー] ダイアログボックスを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	アクションと説明
	デフォルトでは、アクティビティレベルでのエラー処理は、エラー処理が明示的に設定されているコンポーネントを除き、そのアクティビティ内のすべてのコンポーネントに適用されます。

2. [エラーハンドラー] ダイアログボックスの [エラー時 (On Error)] リストから、次のいずれかのエラーハンドラータイプを選択します。

タイプ	説明
継承	親レベルで設定されたエラー処理の設定を継承します。 コンポーネント内では、コンポーネントが属するアクティビティが親です。アクティビティ内で、親はアクティビティの呼び出し元のアクティビティです。 このオプションは、コンポーネントレベルでのエラー処理のデフォルトです。
停止	エラーが発生した場合、実行を停止します。 このオプションは、アクティビティレベルでのエラー処理のデフォルトです。
続行	エラーが発生した場合、実行を継続します。
再試行	エラーが発生したコンポーネントの実行を再試行します。 [再試行] オプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。 ◦ [最大再試行回数] フィールドで、再試行回数を定義できます。 ◦ [再試行遅延 **(Retry Delay)]** フィールドで、再試行間の遅延を定義できます。 実行中に最大再試行回数を超えると、エラーで自動化は停止します。 [再試行後のエラー時 **(On Error After Retry)]** フィールドで、[継承]、[停止]、[続行 **(Continue)]** などのオプションを選択し、定義された再試行に失敗した後もエラーが続く場合にさらに手順を指定できます。

3. **[OK]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートのプロパティを設定する

RPA デスクトップデザインスタジオのコンポーネントまたはメソッドの入力フィールドにデータを渡す方法を設定します。

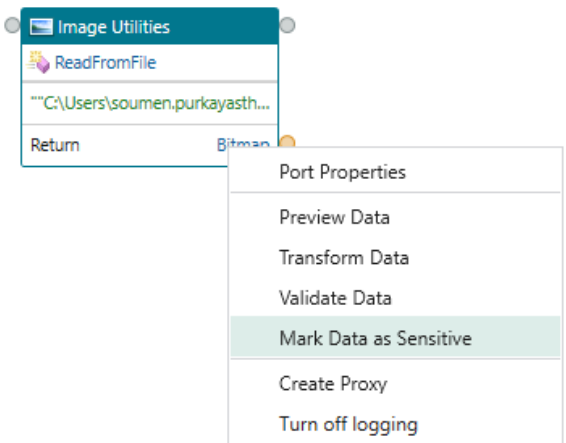
始める前に

必要なロール：なし

手順

1. [デザイン面 (Design surface)] で、メソッドまたはコンポーネントのポートまたは関連フィールドを右クリックします。
2. [ポートのプロパティ **(PORT PROPERTIES)]** をクリックします。
3. [ポートのプロパティ (Port Properties)] ダイアログボックスで、ポートのプロパティを設定します。

[ポートのプロパティ **(PORT PROPERTIES)]** ダイアログ

フィールド	説明
データタイプ	コンポーネントまたはメソッドに渡す入力のデータタイプを指定します。このオプションは、入力フィールドで変数またはパラメーターをフィールドに渡す必要がある場合に有効になります。
機密データ	[デザイン面 (Design surface)] のビューでデータを非表示にするオプションです。 ポートを右クリックし、[機密データとしてマーク **(Mark Data as Sensitive)]** を選択することによって、このオプションを設定することもできます。 
データの読み込み元	[データの読み込み元 **(Read Data From)]** フィールドは、データ入力ポートに対してのみ表示され、次のオプションが含まれます。 ◦ [接続]：別のコンポーネントからデータを受け取ります。 ◦ [静的]：コンポーネントに関連付けられている不変の値。このダイアログ ボックスの [静的値] フィールドで指定したデータを使用します。このオプションを選択すると、コン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ポーネントのデータ入力ポートが表示されなくなります。 注: このオプションは、一部のコンポーネントおよびメソッドでは表示されません。 ◦ [変数]：データを読み込む必要があるグローバル変数またはローカル変数。このオプションを選択すると、コンポーネントのデータ入力ポートが表示されなくなり、ポートに変数名が表示されます。変数の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ で変数を作成して使用する」を参照してください。
データの書き込み先	[データの書き込み先 **(Write Data To)**] フィールドは、データ出力ポートに対してのみ表示され、次のオプションが含まれます。 ◦ 接続：データを別のコンポーネントに送信します。 ◦ 変数：グローバル変数またはローカル変数からのデータを使用します。このオプションを選択すると、ポートに変数名が表示され、データ出力ポートは表示されません。変数の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ で変数を作成して使用する」を参照してください。
静的値	ポートに添付されている値。このフィールドは、[データの読み込み元 **(Read Data From)**] フィールドで [静的] を選択すると表示されます。
マッピングされた変数	ポートにマッピングされている変数。このフィールドは、[データの読み込み元 **(Read Data From)**] フィールドで [変数] を選択すると表示されます。

出力ポートのプロパティを設定する

RPA デスクトップデザインスタジオ で、コンポーネントやメソッドの出力ポートや出力フィールドが出力データを返す方法を設定します。

始める前に

必要なロール：なし

手順

1. コンポーネントまたはメソッドの出力フィールドまたはデータ出力ポートを右クリックします。
2. [上書き] をクリックします。
3. 次の表に示すように、メソッドまたはコンポーネントの出力の処理方法を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ポートのプロパティ **(PORT PROPERTIES)**] ダイアログボックス

フィールド	説明
機密データ	[デザイン面 (Design surface)] のデフォルトビューでデータを非表示にするオプションです。
データの書き込み先	データ出力ポートにのみ表示されるフィールドです。次の 2 つのオプションがあります。 ◦ [接続]：データを別のコンポーネントに渡します。 ◦ [変数]：データを書き込む必要があるグローバル変数またはローカル変数をマッピングします。このオプションを選択すると、コンポーネントのデータ出力ポートが表示されなくなり、変数名がポートに表示されます。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ で変数を作成して使用する」を参照してください。

自動化コンポーネント

RPA デスクトップデザインスタジオ のさまざまなコンポーネントを使用して、自動化を設計します。

コンポーネント、コネクタ、アクティビティ、変数の基本的な使い方、自動化を使用したさまざまなアクションをよく理解してください。詳細については、「自動化のビルド」および「自動化の使用」に記載されている各トピックを参照してください。

最新バージョンと互換性のあるコンポーネントのリスト

自動化の設計中に使用されたバージョンに関係なく、RPA デスクトップデザインスタジオおよびロボットの最新バージョンで実行されるコンポーネントのリストについて説明します。

プラグインの下位互換性の概要

ロボティックプロセス自動化 (RPA) ソリューションは、プラグインの下位互換性を備えてビルドされています。

以前のバージョンのプラグインを使用してビルドされた自動化は、最新のバージョンと互換性があります。たとえば、プラグイン 1.0 よりも前のバージョンを使用して自動化をビルドした場合、RPA デスクトップデザインスタジオ、アテンド型ロボット、無人ロボット アプリケーションはプラグイン バージョン 1.0 をロードして自動化を実行します。

コンポーネントの新しいバージョンにおいて、古いバージョンとの互換性がなくなった場合は、リリースノートに記載されています。詳細については、「RPA ハブ リリースノート」および「RPA プラグインバンドルリリースノート」を参照してください。

さらに、RPA ハブ API とやり取りする自動化コンポーネントは、独自の RPA ハブ バージョンとのみ互換性があります。たとえば、コンポーネントが Utah 4.1 の一部としてリリースされている場合、そのバージョンに対してのみ互換性があります。

各ファミリまたはストアリリース (Vancouver など) のインフラストラクチャのアップグレード中に、それぞれのリリースに対応する MSI パッケージを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の表に、下位互換性を定義するマトリクスを示します。この表では、N はソフトウェアの最新リリースバージョンを示し、N-2 はその前の 2 つのバージョンを示します。

下位互換性を定義するマトリクス

プラグイン	下位互換性	コメント
RPA デスクトップデザインスタジオ	N	
無人ロボット	N	
アテンド型ロボット	N	
必須のツールキット (Essential Toolkit)	N-2	RPA Hub コンポーネントを除く
必須のコネクタ	N-2	RPA Hub コンポーネントを除く
Windows	N-2	
Java	N-2	
Chromium (Google と Edge)	N-2	
メインフレーム (PCOMM)	N-2	
FTP	N-2	
Barcode Reader	N-2	
Scripting	N-2	
Universal App Connector	N-2	

自動化ロジックのビルドに不可欠ないくつかの基本的なコンポーネントについては、これらのコンポーネントが RPA デスクトップデザインスタジオの一部であるため、除外されています。

コンポーネントのリスト

次のコンポーネントのリストは、自動化の設計中に使用されたバージョンに関係なく、RPA デスクトップデザインスタジオおよびロボットの最新バージョンで実行されます。

カテゴリ	コンポーネント
条件	決定
	スイッチ
コネクタ	IdleTimer
	システムイベント
	タイマー
全般	変数
	Try Catch
	式
	パラレル
	終了

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ	コンポーネント
	Messagebox
Loops	Break
	For Each
	For Loop
	While
RPA Hub	ログ
セキュリティ	DPAPI
ユーティリティ	Debug
Internal	ExecutionPoint
	Start
	End
	UnknownComponent
	RemoteActivity
	VariableContainer

Actions (UI)

Actions (UI) グループのコンポーネントは、ブラウザ、ブラウザ要素、アプリケーション、および RPA デスクトップデザインスタジオのデスクトップ上で動作します。

たとえば、以下のアクションを実行できます。

- Web ページで JavaScript を実行する
- 光学式文字認識 (OCR) 技術を使用してテキストを抽出する
- マウスデバイスのクリックをシミュレートする
- テーブルからデータを抽出する

Actions (UI) コンポーネントを使用して、ユーザーがマウスやキーボードを使用して操作するのと同様の方法で、自動化によりブラウザ、フォーム、アプリケーション、およびオブジェクトを操作できます。

ActionSet コンポーネントを使用する

RPA デスクトップデザインスタジオで ActionSet コンポーネントを使用して、テキストのクリック、ドラッグ、読み取りと設定、テーブルの操作ができ、複数のユーザーアクションを 1 つのタスクに結合できます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ActionSet コンポーネントを使用して、複数のユーザーアクションを指定することで、自動化でのユーザーインタラクションをシミュレートできます。

ActionSet コンポーネント設定のプロパティを設定できます。これらのプロパティの詳細については、「Actions (UI) コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

ウィンドウ内のコントロールを使用して、アプリケーションウィンドウの領域をキャプチャして、1 つ以上のアンカーを設定し、そのウィンドウでシミュレートするユーザーインタラクションを定義し

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ます。アンカーは、相対的な距離でアクションを定義できる静的な領域を定義することで、インタラクションのターゲット領域を指定するのに役立ちます。アンカーの詳細については、「アンカー」を参照してください。

注: ActionSet コンポーネントは、Internet Explorer ブラウザー、Windows および Citrix の各アプリケーションと互換性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Actions (UI)]** > **[ActionSet]**に移動します。
2. ActionSet コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックするか、コンポーネントのヘッダーをダブルクリックします。
   [アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウを閉じます。
4. 次のアクションを実行します。
   自動化で操作する外部アプリケーションのウィンドウの領域をキャプチャします。たとえば、Web ブラウザのボタンやテキストフィールドの周囲の領域をキャプチャします。

   a. [画像をキャプチャ **(Capture Image)]** をクリックします。
      `Press "CTRL+SHIFT" for selection` というメッセージが表示されます。

   b. 外部アプリケーションに切り替えます。

   c. **Ctrl + Shift** キーを同時に押してから、離します。
      マウスデバイスがクロスオーバーアイコン ( ) に変わります。

   d. ActionSet コンポーネントでアクションを実行する要素とその周囲の領域をマウスデバイスでドラッグして、放します。
      たとえば、コンポーネントでボタンをクリックさせる場合は、マウスデバイスをドラッグしてボタンとその周囲の領域をキャプチャします。
      選択した領域が [アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウに画像としてキャプチャされます。

      複数のウィンドウでアクションを実行するには、ワークフローで複数の ActionSet コンポーネントを使用します。

5. 1 つ以上のアンカーを追加するには、次の手順を実行します。

   a. RPA デスクトップデザインスタジオに戻り、[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウで、[アンカーを追加 **(ADD ANCHOR)]** をクリックします。
      アンカーは、黄色の矩形に赤色の境界線で表示されます。

   b. 必要に応じて、キャプチャ画像の変わらない部分にアンカーを移動します。
      たとえば、アンカーをタイトルまたはフィールドラベルに移動します。

      アンカーの下の領域がキャプチャ画像の対応する領域と正確に一致しない場合、アンカーは認識されず、ActionSet コンポーネントは意図したとおりに動作しません。画像の静的領域を選択して、アンカーを設定します。

      複数のアンカーを定義できます。複数のアンカーにより、画像内の異なる場所をターゲットにする際、アンカーとターゲットの間の位置関係をより正確に定義できます。

6. アンカーを右クリックし、コンテキストメニューで実行するアクションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. ActionSet コンポーネントで実行できるアクションを実行するには、以下の該当するトピックの手順に従ってアクションを構成します

ActionSet コンポーネントのアクション

アクション	参照
マウスクリックをシミュレートする	ActionSet Click アクションの使用)
フィールドにテキストを入力する	ActionSet SetText アクションの使用
ウィンドウまたは Web ページからテキストをキャプチャする	ActionSet GetText アクションの使用
テーブルをキャプチャする	ActionSet Get Table アクションの使用
テキストを選択、コピー、または削除する	ActionSet Text Selection アクションの使用
画像内のテキストを読み取る	ActionSet OCR Read Text アクションの使用
画像内のテーブルを読み取る	ActionSet OCR Read Table アクションの使用
画像内のテキストを読み取り、見つけたらクリックする	ActionSet OCR Read Text アクションの使用
キー押下またはキーの機能をシミュレートする	ActionSet SendKeys アクションの使用
代替マウス操作 (右クリック、ドラッグ、スクロール、貼り付けなど) をシミュレートする	ActionSet Mouse アクションの使用

8. オプション: さらにアクションを追加するには、ステップ 6 と 7 を繰り返します。
9. オプション: アンカーを削除するには、アンカーを右クリックし、[削除] をクリックします。
10. オプション: 下表に従って、ActionSet コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

(Optional) ActionSet コンポーネントにはオプションのパラメーターが 1 つあり、これを使用して、アクションが実行されるウィンドウのハンドルを指定できます。ウィンドウハンドルにより、画像マッチングを使用する場合よりも迅速に特定のウィンドウを識別できます。また、一致ルールを指定することもできるため、指定したルールに対して使用可能なウィンドウをテストすることで、自動化でターゲットウィンドウを見つけられるようになります。

ウィンドウハンドルを指定するには、別のコンポーネント (Start App コンポーネントなど) のウィンドウハンドルデータ出力ポートを ActionSet コンポーネントのウィンドウハンドルデータ入力ポートに接続します。ウィンドウハンドルパラメーターの詳細については、次の表を参照してください。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？	メモ
データ入力	ウィンドウハンドル	整数	アクションが実行されるウィンドウの数値ハンドル。これは、[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウ内	いいえ。ポートの接続はオプションです。	画面の画像をキャプチャしたウィンドウのハンドルを指定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？	メモ
			の画像がキャプチャされたウィンドウである必要があります。		

ActionSet Click アクションの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Click コンポーネントを使用して、デスクトップ、Windows アプリケーション、Internet Explorer ブラウザーの Web ページの各要素に対するマウスデバイスのクリックをシミュレートします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Click アクションのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「ActionSet Click properties (ActionSet Click のプロパティ)」を参照してください。

手順

1. アンカーを右クリックします。
   アンカーの詳細については、「アンカー」を参照してください。
2. **[Click]** をクリックします。
3. 緑色のプラスアイコン ( ) を、Click アクションが実行されるキャプチャ画像上の場所にドラッグして配置します。
4. [アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウを閉じます。
5. オプション: 下表に従って、Click コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？	メモ
データ入力	クリック	ブール	True の場合、Click アクションが実行され、それ以外の場合は実行されません。	いいえ。ポートの接続はオプションです。	データ入力ポートは、[プロパティ] セクションの [ポートを公開 (Expose Port)] チェックボックスをオンにすると使用できます。デフォルトのブール値は True です。

6. コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ActionSet SetText アクションの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SetText アクションを使用して、Windows アプリケーションまたは Internet Explorer ブラウザー上のフィールドにテキストを設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Set Text コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「ActionSet Set Text properties (ActionSet Set Text のプロパティ)」を参照してください。

手順

1. アンカーを右クリックします。
   アンカーの詳細については、「アンカー」を参照してください。
2. **[Set Text]** をクリックします。
3. キャプチャ画像上の緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。
4. [アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウを閉じます。
5. オプション: SetText ポートにデータを入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
6. オプション: 下表に従って、Set Text コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？	メモ
データ入力	SetText	文字列	別のコンポーネントからテキストを取得します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。	データ入力ポートはデフォルトで有効になっています。[プロパティ] ペインで無効にできます。

7. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

ActionSet GetText アクションの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Get Text アクションを使用して、Windows アプリケーションおよび Internet Explorer ブラウザー上の Web ページからテキストをキャプチャします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetText コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「ActionSet-Get Text properties (ActionSet-Get Text のプロパティ)」を参照してください。

手順

1. アンカーを右クリックします。
   アンカーについては、アンカー の使用方法を参照してください。
2. **[Get Text]** をクリックします。
3. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. [アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウを閉じます。
5. オプション: 出力が表示される方法を設定するには、「出力ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
6. 下表に従って、GetText コンポーネントのデータポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？	メモ
データ出力	Get Text	適用外	キャプチャされたテキストを返します。	適用外	データ出力ポートはデフォルトで有効になっています。[プロパティ] ペインで無効にできます。

7. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

ActionSet Text Selection アクションの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Text Selection アクションを使用して、デスクトップと Windows アプリケーション、Internet Explorer ブラウザーからテキストを選択、コピー、または削除します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Text Selection コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「ActionSet Text Selection- Properties (ActionSet Text Selection のプロパティ)」を参照してください。

手順
1. アンカーを右クリックします。
   アンカーについては、アンカー の使用方法を参照してください。
2. **[Text Selection]** をクリックします。
3. キャプチャ画像上に緑色の矩形アイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。
4. オプション: キャプチャ画像上の緑色の矩形アイコン ( ) で囲まれた領域を拡大または縮小するには、端部をドラッグします。
5. オプション: [プロパティ] ペインで、[General] セクションの [Type] リストから **[Copy]** または **[Delete]** を選択します。
   デフォルトのアクションは [None] で、これはテキストを選択するものです。
6. [アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウを閉じます。
7. オプション: 下表に従って、Text Selection コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	TextSelection	適用外	コンポーネントが選択したテキストを返します。	適用外

8. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

ActionSet Get Table アクションの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Get Table コンポーネントを使用して、Windows アプリケーションおよび Internet Explorer ブラウザー上の Web ページからテーブルをキャプチャします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Get Table アクションのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「ActionSet- Get Table properties (ActionSet Get Table のプロパティ)」を参照してください。

手順

1. アンカーを右クリックします。
   アンカーについては、アンカー の使用方法を参照してください。
2. **[Get Table]** をクリックします。
3. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。
4. [アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウを閉じます。
5. オプション: コンポーネントが出力を返す方法を設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
6. オプション: 下表に従って、Get Table コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？	メモ
データ出力	テーブル	適用外	キャプチャされたテーブルを返します。	適用外	データ出力ポートはデフォルトで有効になっています。[プロパティ] ペインで無効にできます。

7. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

ActionSet GetImage アクションの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetImage コンポーネントを使用して、Windows アプリケーションおよび Internet Explorer ブラウザー上の Web ページから画像をキャプチャします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetImage コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「ActionSet- Get Image properties (ActionSet Get Image のプロパティ)」を参照してください。

手順

1. アンカーを右クリックします。
   アンカーについては、アンカー の使用方法を参照してください。
2. **[Get Image]** をクリックします。
3. キャプチャ画像上に緑色の矩形アイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。
4. オプション: 緑色の矩形アイコン ( ) で囲まれた画像のデフォルト領域を変更するには、次の手順を実行します。

   a. マウスデバイスを緑色の矩形アイコン ( ) の端に合わせます。
      マウスデバイスが双方向矢印 ( ) に変わります。

   b. 緑色の矩形アイコン ( ) の端をドラッグします。

5. [アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウを閉じます。
6. オプション: コンポーネントが出力を返す方法を設定するには、「出力ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
7. オプション: 下表に従って、GetImage コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	テーブル	適用外	キャプチャされた画像を返します。	適用外

8. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

ActionSet OCR Read Text アクションの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の OCR Read Text アクションを使用して、デスクトップ、Windows アプリケーション、および Internet Explorer ブラウザー上の画像からテキストを抽出します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
OCR Read Text コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「ActionSet OCR Read Text properties (ActionSet OCR Read Text のプロパティ)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. アンカーを右クリックします。
   アンカーについては、アンカー の使用方法を参照してください。
2. **[OCR]** > **[Read Text]**に移動します。
3. キャプチャ画像上に緑色の矩形アイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。
4. オプション: 緑色の矩形アイコン ( ) で囲まれた画像上の領域を変更するには、次の手順を実行します。

   a. マウスデバイスを緑色の矩形アイコン ( ) の端に合わせます。
      マウスデバイスが双方向矢印 ( ) に変わります。

   b. 緑色の矩形アイコン ( ) の端をドラッグします。

5. [アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウを閉じます。
6. オプション: アクションが出力を表示する方法を設定するには、「出力ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
7. オプション: 下表に従って、OCR Read Text アクションのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	OCR	文字列	画像からテキストを返します。	適用外

8. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

ActionSet OCR Read Table アクションの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の OCR Read Text アクションを使用して、デスクトップ、Windows アプリケーション、および Internet Explorer ブラウザー上の Web ページの画像からテーブルを抽出します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
OCR Read Table アクションのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「ActionSet OCR Read Table properties (ActionSet OCR Read Table のプロパティ)」を参照してください。

手順

1. アンカーを右クリックします。
   アンカーについては、アンカー の使用方法を参照してください。
2. **[OCR]** > **[Read Table]**に移動します。
3. **[Read Table]** をクリックします。
4. キャプチャ画像上に OCR Read Table アイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. OCR Read Table アイコン ( ) で囲まれた画像上の領域を変更するには、次の手順を実行します。

   a. マウスデバイスを OCR Read Table アイコン ( ) の端に合わせます。
   マウスデバイスが双方向矢印 ( ) に変わります。

   b. OCR Read Table アイコン ( ) の端をドラッグします。

6. [アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウを閉じます。
7. 下表に従って、OCR Read Table コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	OcrTable	文字列	テーブルからテキストを返します。	適用外

8. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

ActionSet OCR ClickText アクションの使用

OCR ClickText アクションを使用してテキストを指定することによって、Internet Explorer ブラウザーや Windows アプリケーションで画像内のテキストに対してマウスデバイスのアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
OCR ClickText アクションのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「OCR Click Text」を参照してください。

手順

1. アンカーを右クリックします。
   アンカーについては、アンカー の使用方法を参照してください。
2. **[OCR]** > **[Click Text]**に移動します。
3. キャプチャ画像上に OCR Read Table アイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。
4. キャプチャ画像上の緑色の矩形アイコン ( ) で囲まれた領域を拡大または縮小するには、端部をドラッグします。
5. [プロパティ] ペインで、[General] セクションの [Type] リストから必要なアクションを選択します。
6. [アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウを閉じます。
7. OCR ClickText のデータポートとコントロールポートを別のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ入力	OCR Click	文字列	アプリケーションで、アクションが一致するテキストを取得します。	あり

8. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

ActionSet SendKeys アクションの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ActionSet Send Keys アクションを使用して、デスクトップ、Windows アプリケーション、および Internet Explorer ブラウザーの Web ページ上のフィールドや要素でテキストを設定したり、キーボードショートカットを実行したりします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ActionSet SendKeys アクションのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「ActionSet Send Keys properties (ActionSet Send Keys のプロパティ)」を参照してください。

手順

1. アンカーを右クリックします。
   アンカーについては、「アンカー」を参照してください。
2. **[Send Keys]** をクリックします。
3. キャプチャ画像上でコンポーネントがアクションを実行する場所に、緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグして配置します。
4. [アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウを閉じます。
5. オプション: 下表に従って、ActionSet Send Keys コンポーネントのデータポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？	メモ
データ入力	SendKeys	文字列	文字列またはキーボードショートカットを取得します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。	

6. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ActionSet Mouse アクションの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ActionSet Mouse アクションを使用して、デスクトップ、Windows アプリケーション、Internet Explorer ブラウザー上の Web ページでマウスデバイスのさまざまなアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

ActionSet Mouse アクションのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「ActionSet-Mouse Action properties (ActionSet Mouse アクションのプロパティ)」を参照してください。

手順

1. アンカーを右クリックします。
   アンカーについては、「アンカー」を参照してください。
2. **[Mouse Action]** をクリックします。
3. キャプチャ画像上でコンポーネントがアクションを実行する場所に、緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグして配置します。
4. オプション: マウスデバイスのアクションを指定するには、[プロパティ] ペインの [Type] リストからアクションを選択します。
   デフォルトのアクションは LeftClick です。
5. [アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウを閉じます。
6. オプション: 下表に従って、ActionSet Mouse アクションのデータポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？	メモ
データ入力	MouseAction	ブール	True の場合、Mouse アクションが実行され、それ以外の場合は実行されません。	いいえ。ポートの接続はオプションです。	このポートは、[プロパティ] ペインで [ポートを公開 (Expose Port)] オプションが有効になっている場合に公開されます。

7. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Get Table コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Get Table コンポーネントを使用して、グリッド、リスト、コンボボックス、および HTML テーブルからデータと行数を抽出して表示します。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

Get Table コンポーネントの多くのプロパティは、他の Actions UI コンポーネントと共通です。これらのプロパティを設定するには、「Actions (UI) コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

Get Table コンポーネントに固有のプロパティは以下のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Get Table コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
ヘッダーを無視	自動化がテーブルのヘッダーをキャプチャするか無視するかを指定するオプションです。デフォルト値は False です。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Actions (UI)]** > **[Get Table]**に移動します。
2. Get Table コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. Get Table コンポーネントで、カメラアイコン ( ) をクリックします。
   `Press "CTRL+SHIFT" for selection` というメッセージが表示されます。
4. **Ctrl + Shift** キーを押します。
   マウスデバイスがクロスオーバーアイコン ( ) に変わります。
5. アプリケーション上でマウスデバイスをドラッグしてテーブルを覆い、放します。
   要素の選択された領域は、Get Table コンポーネントに画像としてキャプチャされます。
6. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。
7. オプション: 次のアクションを実行して、キャプチャ画像にアンカーを追加します。
   アンカーは一意の識別子で、Get Table コンポーネントがアクションを実行するアプリケーションを識別できるようにするものです。アンカーを追加するのは良い方法ですが、これは任意です。アンカーを追加しない場合、Get Table コンポーネントはキャプチャ画像全体をアンカーとして扱います。アンカーの詳細については、アンカー の使用手順を参照してください。

   a. Get Table コンポーネントで、画像を右クリックし、[アンカーを追加 **(Add Anchor)]** をクリックします。
      アンカーは、黄色の矩形に赤色の境界線で表示されます。

   b. キャプチャ画像上でアンカーをドラッグして配置します。

      ヒント:

      アンカーの寸法を変更するには、マウスデバイスをアンカーの端に合わせて、マウスデバイスが斜めの双方向矢印 ( ) に変わってからアンカーをドラッグしてください。

8. オプション: 次のアクションを実行して、代替画像をキャプチャします。
   代替画像は、Get Table コンポーネントが最初にキャプチャされた画像を見つけられなかった場合に、実行が失敗しないようにするものです。この場合、Get Table コンポーネントは、代替画像を検索して実行します。代替画像は必要な数だけ追加することができます。

   a. [代替画像 (ALTERNATE IMAGES)] ウィンドウで、画像の追加アイコン ( ) をクリックします。

   b. カメラアイコン ( ) をクリックします。
      「`Ctrl + Shift` キーを押しながら選択してください `(Press "CTRL+SHIFT" for selection)`」というメッセージが表示されます。

   c. アプリケーション上でマウスデバイスをドラッグしてテーブルを覆い、放します。
      選択されたエリアは,キャプチャ [代替画像 (ALTERNATE IMAGES)] ウィンドウの画像として表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。

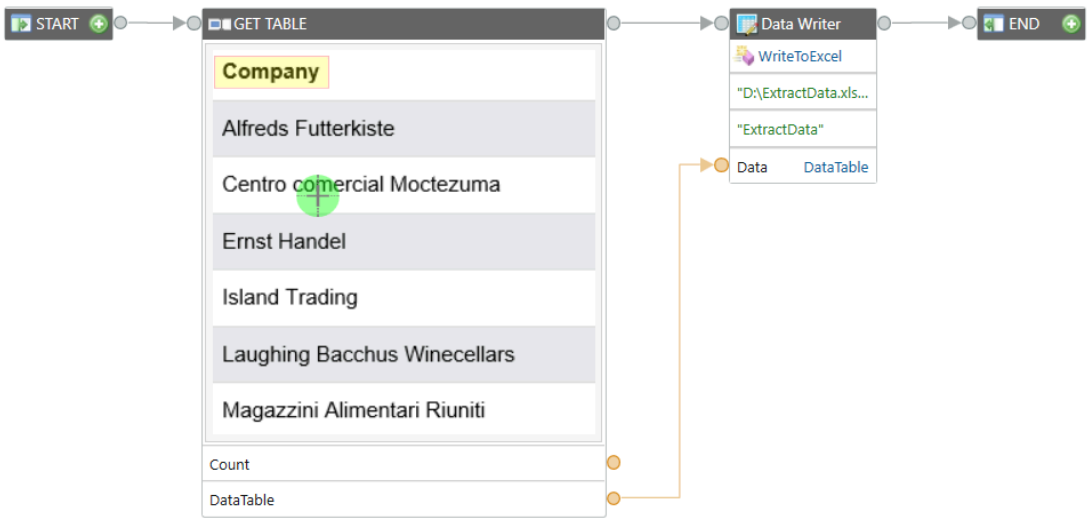
e. [代替画像 (ALTERNATE IMAGES)] ウィンドウを閉じるには、**[OK]** をクリックします。

9. オプション: 出力フィールドの表示方法を設定するには、「出力ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
10. オプション: 下表に従って、ポートを接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須?
データ出力	カウント	整数	合計行数を返します。	適用外
データ出力	DataTable	適用外	テーブルを返します。	適用外です。

11. コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Example: HTML テーブルから Excel ファイルにデータを抽出する



Get Table コンポーネントは、HTML テーブルからデータを抽出し、DataTable データ出力ポートを介してデータを渡します。データは、WriteToExcel コンポーネントのデータ入力ポートを介して渡されます (WriteToExcel コンポーネントを使用するには、「WriteToExcel コンポーネントの使用」 を参照してください)。データは、`[Filepath]` フィールドに指定された Excel ドキュメントの `[SheetName]` フィールドに指定されたシートに書き込まれます。

。

Get Text コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Get Text コンポーネントを使用して、Internet Explorer 上の Web ページや標準的な Windows コントロールからテキストを抽出します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Get Text コンポーネントのプロパティは、他の Actions UI コンポーネントと共通です。これらのプロパティを設定するには、「Actions (UI) コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Actions (UI)]** > **[Get Text]**に移動します。
2. Get Text コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. Get Text コンポーネントで、カメラアイコン ( ) をクリックします。
   `Press "CTRL+SHIFT" for selection` というメッセージが表示されます。
4. **Ctrl + Shift** キーを押します。
   マウスデバイスがクロスオーバーアイコン ( ) に変わります。
5. アプリケーション上でマウスデバイスをドラッグして、コンポーネントがアクションを実行する領域をキャプチャし、放します。
   選択された領域は、Get Text コンポーネントに画像としてキャプチャされます。
6. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。
7. オプション: 次のアクションを実行して、キャプチャ画像にアンカーを追加します。
   アンカーは一意の識別子で、Get Text コンポーネントがアクションを実行するアプリケーションを識別できるようにするものです。アンカーを追加するのは良い方法ですが、これは任意です。アンカーを追加しない場合、Get Text コンポーネントはキャプチャ画像全体をアンカーとして扱います。アンカーの詳細については、アンカー の使用手順を参照してください。

   a. Get Text コンポーネントで、画像を右クリックし、[アンカーを追加 **(Add Anchor)]** をクリックします。
      アンカーは、黄色の矩形に赤色の境界線で表示されます。

   b. Get Text コンポーネントの画像部分を識別するには、画像上の特定の場所にアンカーをドラッグして配置します。

      ヒント:

      アンカーの寸法を変更するには、マウスデバイスをアンカーの端に合わせて、マウスデバイスが斜めの双方向矢印 ( ) に変わってからアンカーをドラッグしてください。

8. オプション: 次のアクションを実行して、代替画像をキャプチャします。
   代替画像は、Get Text コンポーネントが最初にキャプチャされた画像を見つけられなかった場合に、実行が失敗しないようにするものです。この場合、Get Text コンポーネントは、代替画像を検索して実行します。代替画像は必要な数だけ追加することができます。

   a. [代替画像 (ALTERNATE IMAGES)] ウィンドウで、画像の追加アイコン ( ) をクリックします。

   b. カメラアイコン ( ) をクリックします。
      `Press "CTRL+SHIFT" for selection` というメッセージが表示されます。

   c. **Ctrl + Shift** キーを押します。
      マウスデバイスがクロスオーバーアイコン ( ) に変わります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. アプリケーション上でマウスデバイスをドラッグして、コンポーネントがアクションを実行する領域をキャプチャし、放します。
選択されたエリアは,キャプチャ [代替画像 (ALTERNATE IMAGES)] ウィンドウの画像として表示されます。

e. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。

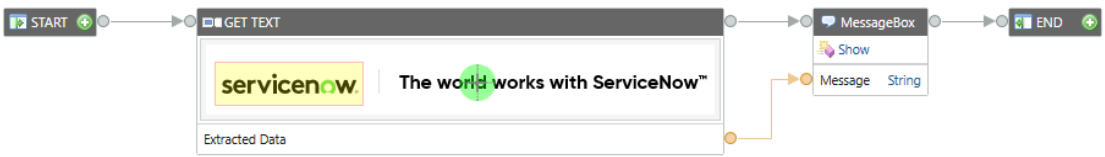
f. [代替画像 (ALTERNATE IMAGES)] ウィンドウを閉じるには、**[OK]** をクリックします。

9. オプション: 出力フィールドの表示方法を設定するには、「出力ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
10. オプション: 下表に従って、Get Text コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	抽出データ	文字列	抽出されたテキストを返します。	適用外

11. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Example: ウィンドウから 1 行のテキストを抽出し、Show コンポーネントで表示する



Get Text コンポーネントは「The World works with ServiceNow」というテキストを抽出し、そのテキストをデータ出力ポートを介して Show コンポーネントに渡します (Show コンポーネントを使用するには、「Show コンポーネントの使用」を参照してください)。Show コンポーネントは、ポップアップウィンドウに同じテキストを表示します。

Click コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Click コンポーネントを使用して、マウスデバイスのクリックアクションをシミュレートします。Click コンポーネントは、プロセス間通信 (IPC) を使用してクリックイベントをアプリケーションに送信します。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

Click コンポーネントのプロパティは、他の Actions UI コンポーネントと共通です。これらのプロパティを設定するには、「Actions (UI) コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Actions (UI)]** > **[Click]**に移動します。
2. Click コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. Click コンポーネントで、カメラアイコン ( ) をクリックします。
   `Press "CTRL+SHIFT" for selection` というメッセージが表示されます。
4. **Ctrl + Shift** キーを押します。
   マウスデバイスがクロスオーバーアイコン ( ) に変わります。
5. アプリケーション上でマウスデバイスをドラッグして、アクションを実行される領域をキャプチャし、放します。
   選択された領域は、Click コンポーネントに画像としてキャプチャされます。
6. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。
7. オプション: 次のアクションを実行して、キャプチャ画像にアンカーを追加します。
   アンカーは一意の識別子で、Click コンポーネントがマウスデバイスのアクションをシュミレートするコンテンツを識別できるようにするものです。アンカーを追加するのは良い方法ですが、これは任意です。アンカーを追加しない場合、Click コンポーネントはキャプチャ画像全体をアンカーとして扱います。アンカーの詳細については、アンカー の使用手順を参照してください。

   a. Click コンポーネントで、画像を右クリックし、[アンカーを追加 **(Add Anchor)]** をクリックします。
      アンカーは、黄色の矩形に赤色の境界線で表示されます。

   b. キャプチャ画像上の特定の場所にアンカーをドラッグして配置します。

      ヒント: アンカーの寸法を変更するには、マウスデバイスをアンカーの端に合わせて、マウスデバイスが斜めの双方向矢印 ( ) に変わってからアンカーをドラッグしてください。

8. オプション: 次のアクションを実行して、代替画像をキャプチャします。
   代替画像は、Click コンポーネントが最初にキャプチャされた画像を見つけられなかった場合に、実行が失敗しないようにするものです。この場合、Click コンポーネントは、代替画像を検索して実行します。代替画像は必要な数だけ追加することができます。

   a. Click コンポーネントで、コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。

   b. [代替画像 (ALTERNATE IMAGES)] ウィンドウで、画像の追加アイコン ( ) をクリックします。

   c. カメラアイコン ( ) をクリックします。
      `Press "CTRL+SHIFT" for selection` というメッセージが表示されます。

   d. **Ctrl + Shift** キーを押します。
      マウスデバイスがクロスオーバーアイコン ( ) に変わります。

   e. アプリケーション上でマウスデバイスをドラッグして、コンポーネントがアクションを実行する領域をキャプチャし、放します。
      選択されたエリアは,キャプチャ [代替画像 (ALTERNATE IMAGES)] ウィンドウの画像として表示されます。

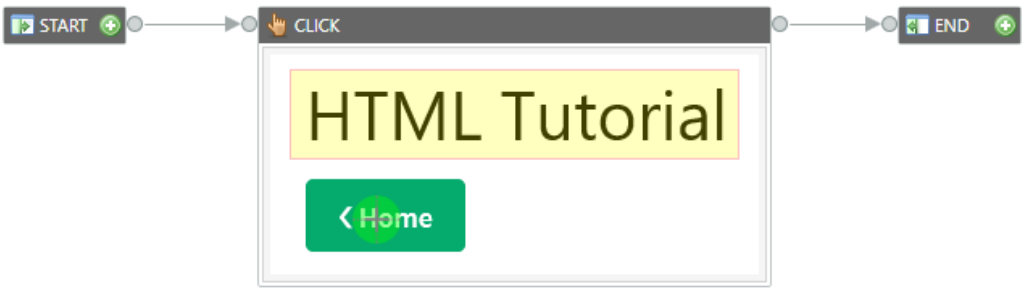
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。

g. [代替画像 (ALTERNATE IMAGES)] ウィンドウを閉じるには、**[OK]** をクリックします。

9. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Example: HTML ボタンのクリックを自動化する



Click コンポーネントは、ウィンドウ上の [ホーム] HTML ボタンのクリックを自動化します。その結果、ユーザーはホーム画面またはウィンドウに移動します。

Java Script コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Java Script コンポーネントを使用して、Web ページに JavaScript を挿入します。コンポーネントを使用して、ブラウザーの Document Object Model (DOM) の操作、HTML タグの読み取り、HTML タグの設定を行うことができます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
JavaScript コンポーネントのプロパティは、他の Actions UI コンポーネントと共通です。これらのプロパティを設定するには、「Actions (UI) コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Actions (UI)]** > **[Java Script]**に移動します。
2. Java Script コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. Java Script コンポーネントで、カメラアイコン ( ) をクリックします。
   `Press "CTRL+SHIFT" for selection` というメッセージが表示されます。
4. **Ctrl + Shift** キーを押します。
   マウスデバイスがクロスオーバーアイコン ( ) に変わります。
5. コンポーネントがアクションを実行するアプリケーションの部分にマウスデバイスをドラッグし、放します。
   選択された領域は、Java Script コンポーネントに画像としてキャプチャされます。
6. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. オプション: 次のアクションを実行して、キャプチャ画像にアンカーを追加します。
アンカーは一意の識別子で、Java Script コンポーネントがアクションを実行するアプリケーションを識別できるようにするものです。アンカーを追加するのは良い方法ですが、これは任意です。アンカーを追加しない場合、Java Script コンポーネントはキャプチャ画像全体をアンカーとして扱います。アンカーの詳細については、アンカー の使用方法を参照してください。

   a. Java Script コンポーネントで、画像を右クリックし、[アンカーを追加 **(Add Anchor)]** をクリックします。

   b. Java Script コンポーネントの画像部分を識別するには、画像上の特定の場所にアンカーをドラッグして配置します。

      ヒント:

      アンカーの寸法を変更するには、マウスデバイスをアンカーの端に合わせて、マウスデバイスが斜めの双方向矢印 ( ) に変わってからアンカーをドラッグしてください。

8. Java Script コンポーネントバーで、コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
9. [Java スクリプトエディター (JAVA SCRIPT EDITOR)] ウィンドウで、JAVA SCRIPT の見出しの下にカスタム JavaScript を追加します。
10. オプション: パラメーターを追加するには、次のアクションを実行します。

    a. PARAMETERS の見出しの下で、パラメーターを追加アイコン ( ) をクリックします。

    b. パラメーターのデータタイプを設定します。
    設定されたデータパラメーターのデータタイプごとに、データ入力ポートが追加されます。

    c. RETURN TYPE の見出しの下に出力データタイプを設定します。

11. [Java スクリプトエディター (JAVA SCRIPT EDITOR)] ウィンドウを閉じるには、**[OK]** をクリックします。
12. オプション: 入力を設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

    注: データ入力ポートは、[Java スクリプトエディター (JAVA SCRIPT EDITOR)] ウィンドウでパラメーターを設定した場合にのみ表示されます。

13. オプション: 出力フィールドが出力を表示する方法を設定するには、「出力ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
14. 下表に従って、Java Script コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須?
データ出力	戻る	オブジェクト	JavaScript の出力を返します。	適用外

15. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Mouse コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの Mouse コンポーネントを使用して、マウスデバイスによって実行される複数のユーザーアクションを自動化します。これによって、移動、左クリック、右クリック、中央クリック、ダブルクリック、ドラッグ、ドロップ、貼り付けなどのアクションを自動化できます。Mouse コンポーネントは、ハードウェア割り込みを使用して、マウスデバイスのアクションをシミュレートします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Mouse コンポーネントの多くのプロパティは、他の Actions UI コンポーネントと共通です。これらのプロパティを設定するには、「Actions (UI) コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

Mouse コンポーネントに固有のプロパティは以下のとおりです。

Mouse コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
マウスアクションタイプ	コンポーネントが実行するマウスデバイスアクションのタイプです。デフォルトのアクションは Left Click です。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Actions (UI)]** > **[Mouse]**に移動します。
2. Mouse コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. Mouse コンポーネントで、カメラアイコン ( ) をクリックします。
   `Press "CTRL+SHIFT" for selection` というメッセージが表示されます。
4. **Ctrl + Shift** キーを押します。
   マウスデバイスがクロスオーバーアイコン ( ) に変わります。
5. アプリケーション上でカーソルをドラッグして、コンポーネントがアクションを実行する領域をキャプチャします。
   プログラムの選択部分は、Mouse コンポーネントに画像としてキャプチャされます。
6. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。
7. オプション: [プロパティ] ペインで、 [タイプ] リストからマウスデバイスのアクションを選択します。
   [タイプ] リストは、[その他] 見出しの下にあります。デフォルトの Mouse アクションは LeftClick です。
8. オプション: 次のアクションを実行して、キャプチャ画像にアンカーを追加します。
   アンカーは一意の識別子で、Mouse コンポーネントがアクションを実行するアプリケーションを識別できるようにするものです。アンカーを追加するのは良い方法ですが、これは任意です。アンカーを追加しない場合、Mouse コンポーネントはキャプチャ画像全体をアンカーとして扱います。アンカーの詳細については、アンカー の使用手順を参照してください。

   a. Mouse コンポーネントで、画像を右クリックし、[アンカーを追加 **(ADD ANCHOR)]** をクリックします。
   アンカーは、黄色の矩形に赤色の境界線で表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

b. Mouse コンポーネントのコンテンツを識別するには、画像上の特定の場所にアンカーをドラッグして配置します。

ヒント:

アンカーの寸法を変更するには、マウスデバイスをアンカーの端に合わせて、マウスデバイスが斜めの双方向矢印 ( ) に変わってからアンカーをドラッグしてください。

9. オプション: 次のアクションを実行して、代替画像をキャプチャします。
代替画像は、Mouse コンポーネントが最初にキャプチャされた画像を見つけられなかった場合に、実行が失敗しないようにするものです。この場合、Mouse コンポーネントは、代替画像を検索して実行します。代替画像は必要な数だけ追加することができます。

a. Mouse コンポーネントで、コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。

b. [代替画像 (ALTERNATE IMAGES)] ウィンドウで、画像の追加アイコン ( ) をクリックします。

c. カメラアイコン ( ) をクリックします。
`Press "CTRL+SHIFT" for selection` というメッセージが表示されます。

d. **Ctrl + Shift** キーを押します。
カーソルがクロスオーバーアイコン ( ) に変わります。

e. マウスデバイスアクションを実行するアプリケーションプログラムの部分にカーソルをドラッグし、放します。
プログラムの選択部分は、Mouse コンポーネントに画像としてキャプチャされます。

f. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。

g. [プロパティ] ペインに移動します。

h. [その他] 見出しで、 [タイプ] リストからマウスデバイスのアクションを選択します。

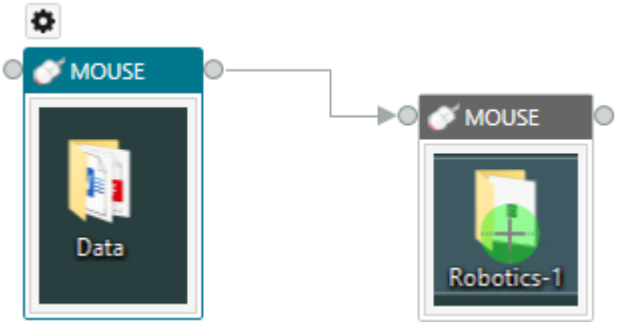
i. **[OK]** をクリックします。

10. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: フォルダを別のフォルダにドラッグする

この例では、2 つの Mouse コンポーネントが使用されています。1 番目のコンポーネントはフォルダを識別し、ドラッグします。2 番目のコンポーネントは宛先フォルダを識別し、その中にフォルダを移動させます。



OCR Text コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の OCR Text コンポーネントを使用して、画像からテキストを抽出します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
OCR Text コンポーネントの多くのプロパティは、他の Actions UI コンポーネントと共通です。これらのプロパティを設定するには、「Actions (UI) コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

OCR Text コンポーネントに固有のプロパティは以下のとおりです。

OCR Text コンポーネントのプロパティ

プロパティ	テキスト
イメージソース	コンポーネントが画像を取得する元となるソースです。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Actions (UI)]** > **[OCR Text]**に移動します。
2. OCR Text コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. オプション: 設定を行うには、コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
   コンポーネントにはデフォルト設定があり、確認して使用できます。
4. オプション: 下表に従って、設定を行います。

OCR 設定

フィールド	説明
エンジン	OCR フィールドの抽出に使用されるエンジン名。
言語	多言語対応可能な Teseract エンジンです。ユーザーは、ここにリストされている言語を選択できます。
行高さの許容範囲	フォントの行の高さ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ChangeDPI	DPI プロパティに示されているとおりに、画像の DPI を変更します。
DPI	DPI 値。
単語を抽出	ワード形式で抽出されるテキストです。それ以外はプレーンテキストです。
反転	反転された画像の色です。たとえば、黒を白に反転します。
言語	抽出に使用される言語です。
スケール画像	画像を指定された数値でスケーリングします。
しきい値	グレースケール画像から変換された画像、またはしきい値に従って除去されたノイズです。
しきい値	しきい値です。
タイムアウト	コンポーネントの処理がタイムアウトするまでの時間です。

5. [OCR 設定 (OCR Settings)] ウィンドウを閉じるには、**[OK]** をクリックします。
6. 入力を設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
7. 出力を設定するには、「出力ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
8. オプション: 下表に従って、ポートを接続します。

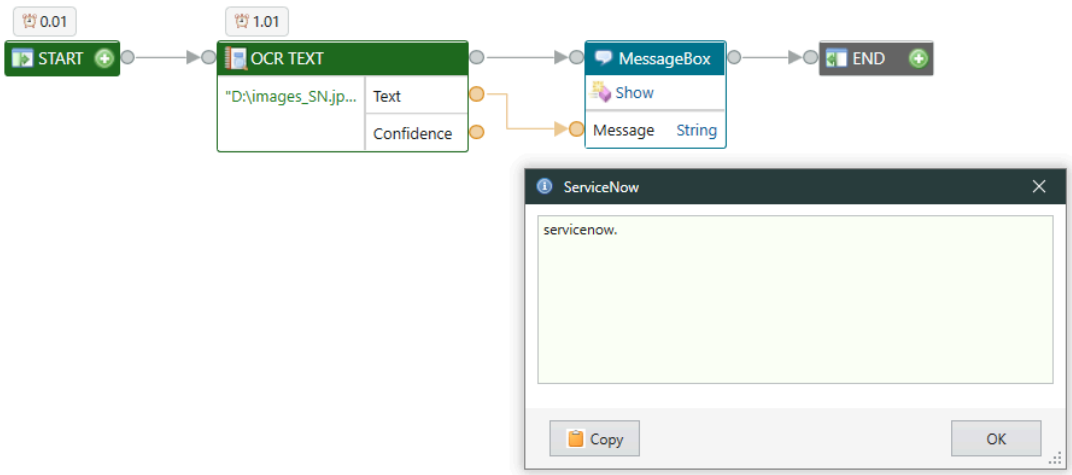
ポートタイプ	ポート名	データタイプ	目的	必須？	メモ
データ入力	画像 / ファイルパス	ビットマップ / 文字列	画像または画像へのパスを取得します。	あり	入力は、[プロパティ] の [イメージソース] オプションで選択されたオプションによって異なります。 ◦ **[Port]**：データタイプはビットマップです。 ◦ **[File Path]**：データタイプは文字列です。
データ出力	テキスト	文字列	画像から抽出されたテキストを返します。	いいえ。このポートの接続はオプションです。	
データ出力	信頼性	個数	抽出されたテキスト精度の	いいえ。このポートの接続	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	目的	必須？	メモ
			数値を返します。	はオプションです。	

9. コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Example: 画像からテキストを抽出し、Show コンポーネントで表示する



OCR Text コンポーネントは、画像へのパスを取得します。画像は「servicenow」というテキストで構成されています。コンポーネントは画像からテキストを抽出し、その文字列を Show コンポーネントに渡します (Show コンポーネントを使用するには、「Show コンポーネントの使用」を参照してください)。Show コンポーネントは、メッセージデータ入力ポートを介してテキストを取得し、ウィンドウにテキストを表示します。

Send Keys コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Send Keys コンポーネントを使用して、キーボードストロークをシミュレートします。このコンポーネントを使用して、テキストボックスやリストなどのフィールドにデータを入力し、Shift、Control、F1、F2 などの特殊キーをアプリケーションに送信します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
サポートされているすべての特殊キーと機能を確認するには、サポートされているキーと機能 をクリックします。

Send Keys コンポーネントの多くのプロパティは、他の Actions UI コンポーネントと共通です。これらのプロパティを設定するには、「Actions (UI) コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

Send Keys コンポーネントに固有のプロパティは以下のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Send Keys コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
入力タイプ	アプリケーションに送られるキーボード入力のタイプです。デフォルトの入力は SendInput です。 • **[SendInput]**：ターゲットアプリケーションへのキーストロークをシミュレートします。 • **[SendKeys]**：ターゲットアプリケーションへのキーストロークをシミュレートしますが、一定の制限があります。たとえば、RDP セッションでは機能しません。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Actions (UI)]** > **[Send Keys]**に移動します。
2. Send Keys コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. カメラアイコン ( ) をクリックします。
   `Press "CTRL+SHIFT" for selection` というメッセージが表示されます。
4. **Ctrl + Shift** キーを押します。
   マウスデバイスがクロスオーバーアイコン ( ) に変わります。
5. アプリケーション上でマウスデバイスをドラッグして、コンポーネントがアクションを実行する領域をキャプチャし、放します。
   選択された領域は、Send Keys コンポーネントに画像としてキャプチャされます。
6. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、Send Keys コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。
7. オプション: 次のアクションを実行して、キャプチャ画像にアンカーを追加します。
   アンカーは一意の識別子で、Send Keys コンポーネントがアクションを実行する部分を識別できるようにするものです。アンカーを追加するのは良い方法ですが、これは任意です。アンカーを追加しない場合、Send Keys コンポーネントはキャプチャ画像全体をアンカーとして扱います。アンカーの使用方法については、アンカー の使用手順を参照してください。

   a. Send Keys コンポーネントで、画像を右クリックし、[アンカーを追加 **(Add Anchor)]** をクリックします。
      アンカーは、黄色の矩形に赤色の境界線で表示されます。

   b. Send Keys コンポーネントの画像部分を識別するには、画像上の特定の場所にアンカーをドラッグして配置します。

      ヒント:

      アンカーの寸法を変更するには、マウスデバイスをアンカーの端に合わせて、マウスデバイスが斜めの双方向矢印 ( ) に変わってからアンカーをドラッグしてください。

8. オプション: 次のアクションを実行して、代替画像をキャプチャします。
   代替画像は、Send Keys コンポーネントが最初にキャプチャされた画像を見つけられなかった場合に、実行が失敗しないようにするものです。この場合、Send Keys コンポーネントは、代替画像を検索して実行します。代替画像は必要な数だけ追加することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. [代替画像 (ALTERNATE IMAGES)] ウィンドウで、画像の追加アイコン ( ) をクリックします。

b. カメラアイコン ( ) をクリックします。
`Press "CTRL+SHIFT" for selection` というメッセージが表示されます。

c. **Ctrl + Shift** キーを押します。
マウスデバイスがクロスオーバーアイコン ( ) に変わります。

d. コンポーネントを実行する領域部分にマウスデバイスをドラッグし、放します。
選択された領域は、Send Keys コンポーネントに画像としてキャプチャされます。

e. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、Send Keys コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。

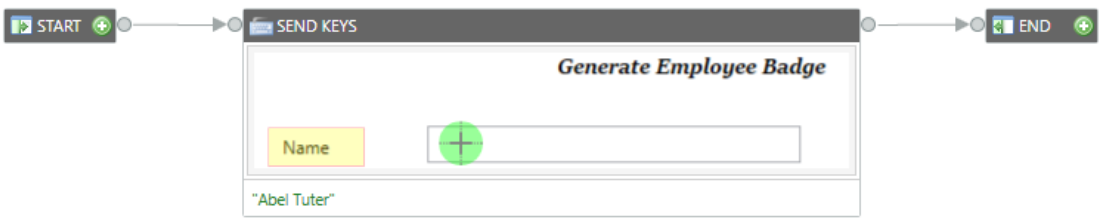
f. **[OK]** をクリックします。

9. オプション: [プロパティ] ペインの **[General]** で、[Input Type] リストから **[SendInput]** または **[SendKeys]** を選択します。
デフォルトのアクションは **[SendInput]** です。
10. [テキスト入力] フィールドにキーを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
11. 下表に従って、Send Keys コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ入力	テキスト入力	文字列	アクションを実行するキーまたは特殊キーを取得します。	あり

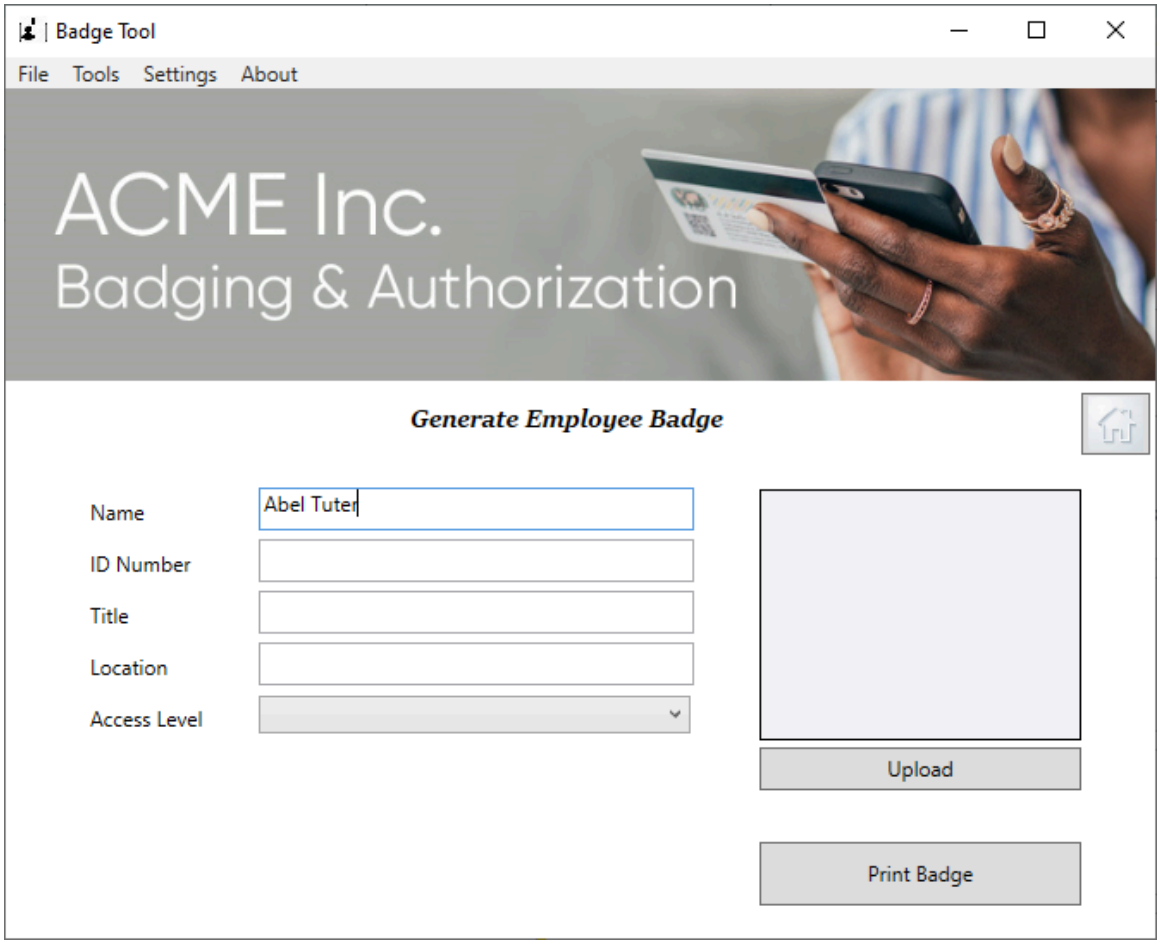
12. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Example: バッジアプリの従業員名を提出する



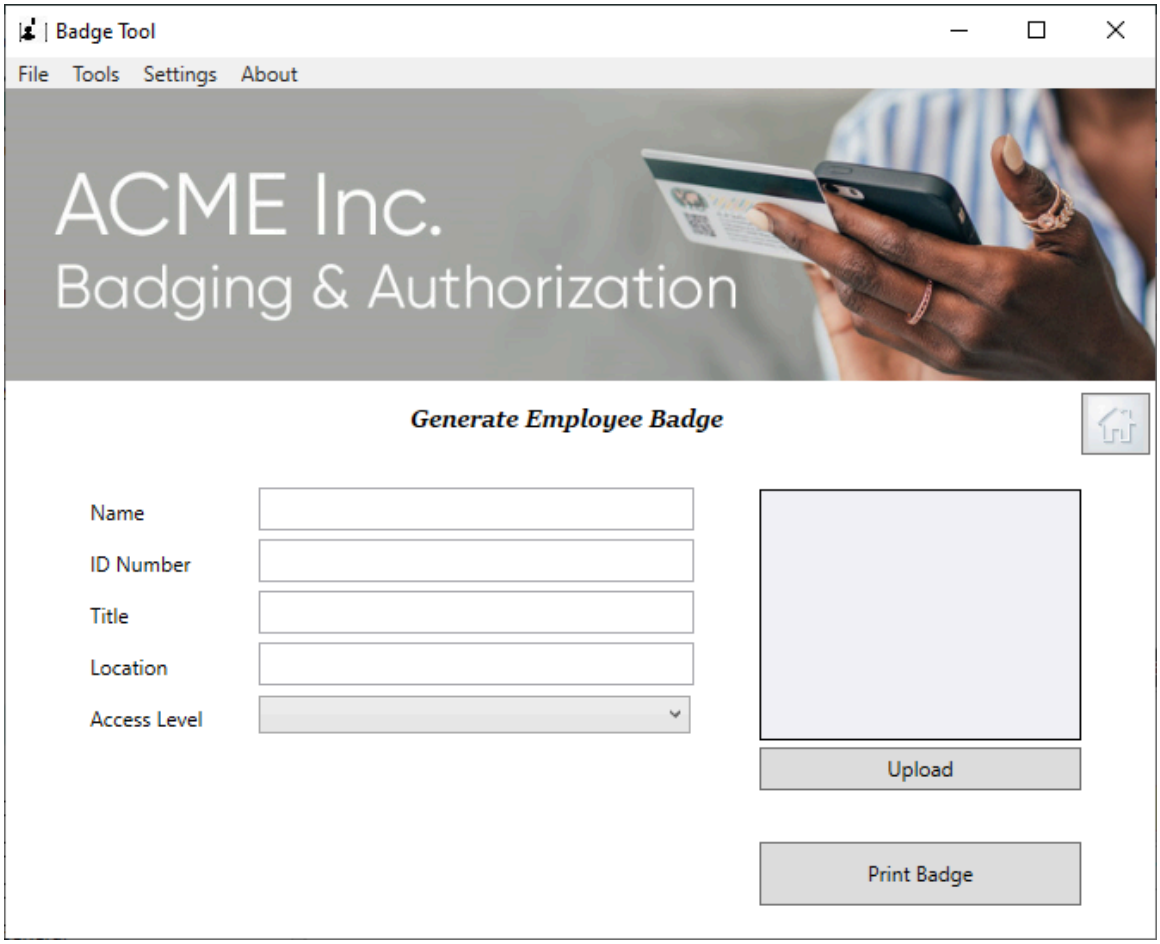
Send Keys コンポーネントは、バッジアプリの画像をキャプチャしました。ここで、ユーザーは「Abel Tuter」というキーをコンポーネントに送ります。緑色のプラスアイコン ( ) がテキストの入力場所です。これで、コンポーネントを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



ユーザーがコンポーネントを実行すると、「Abel Tuter」というテキストが [名前] フィールドに入力されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



Send Keys コンポーネントを使用して、[バッジを印刷] ボタンをクリックし、コンポーネントを実行します。バッジ用に従業員名が送信されます。

Set Text コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Set Text コンポーネントを使用して、アプリケーション内のテキストボックスやドロップダウンリスト、チェックボックス、ラジオボタンコントロール、Internet Explorer ブラウザー上の Web ページまたは Windows アプリケーションにテキストを設定します。このコンポーネントは、プロセス間通信 (IPC) を使用してアプリケーションコントロールとやり取りできます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Set Text コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Actions (UI) コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Actions (UI)]** > **[Set Text]**に移動します。
2. Set Text コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. Set Text コンポーネントで、カメラアイコン ( ) をクリックします。
   `Press "CTRL+SHIFT" for selection` というメッセージが表示されます。
4. **Ctrl + Shift** キーを押します。
   マウスデバイスがクロスオーバーアイコン ( ) に変わります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. アプリケーション上でマウスデバイスをドラッグして、アクションを実行される領域をキャプチャし、放します。
   選択された領域は、Set Text コンポーネントに画像としてキャプチャされます。
6. キャプチャ画像上に緑色のプラスアイコン ( ) をドラッグし、コンポーネントがアクションを実行する場所に配置します。
7. オプション: 次のアクションを実行して、キャプチャ画像にアンカーを追加します。
   アンカーは一意の識別子で、Set Text コンポーネントがテキストが設定される場所を識別できるようにするものです。アンカーを追加するのは良い方法ですが、これは任意です。アンカーを追加しない場合、Set Text コンポーネントはキャプチャ画像全体をアンカーとして扱います。アンカーの詳細については、「アンカー」を参照してください。

   a. Set Text コンポーネントで、画像を右クリックし、[アンカーを追加 **(Add Anchor)]** をクリックします。
      アンカーは、黄色の矩形に赤色の境界線で表示されます。

   b. Set Text コンポーネントの場所を識別するには、画像上の特定の場所にアンカーをドラッグして配置します。

      ヒント:

      アンカーの寸法を変更するには、マウスデバイスをアンカーの端に合わせて、マウスデバイスが斜めの双方向矢印 ( ) に変わってからアンカーをドラッグしてください。

8. 次のアクションを実行して、代替画像をキャプチャします。
   代替画像は、Set Text コンポーネントが最初にキャプチャされた画像を見つけられなかった場合に、実行が失敗しないようにするものです。この場合、Set Text コンポーネントは、代替画像を検索して実行します。代替画像は必要な数だけ追加することができます。

   a. Set Text コンポーネントで、コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。

   b. [代替画像 (ALTERNATE IMAGES)] ウィンドウで、画像の追加アイコン ( ) をクリックします。

   c. カメラアイコン ( ) をクリックします。
      `Press "CTRL+SHIFT" for selection` というメッセージが表示されます。

   d. **Ctrl + Shift** キーを押します。
      マウスデバイスがクロスオーバーアイコン ( ) に変わります。

   e. Set Text コンポーネントがテキストを追加するアプリケーションの部分にマウスデバイスをドラッグします。
      選択された領域は、Set Text コンポーネントに代替画像としてキャプチャされます。

9. テキスト入力を設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
10. 下表に従って、Set Text コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

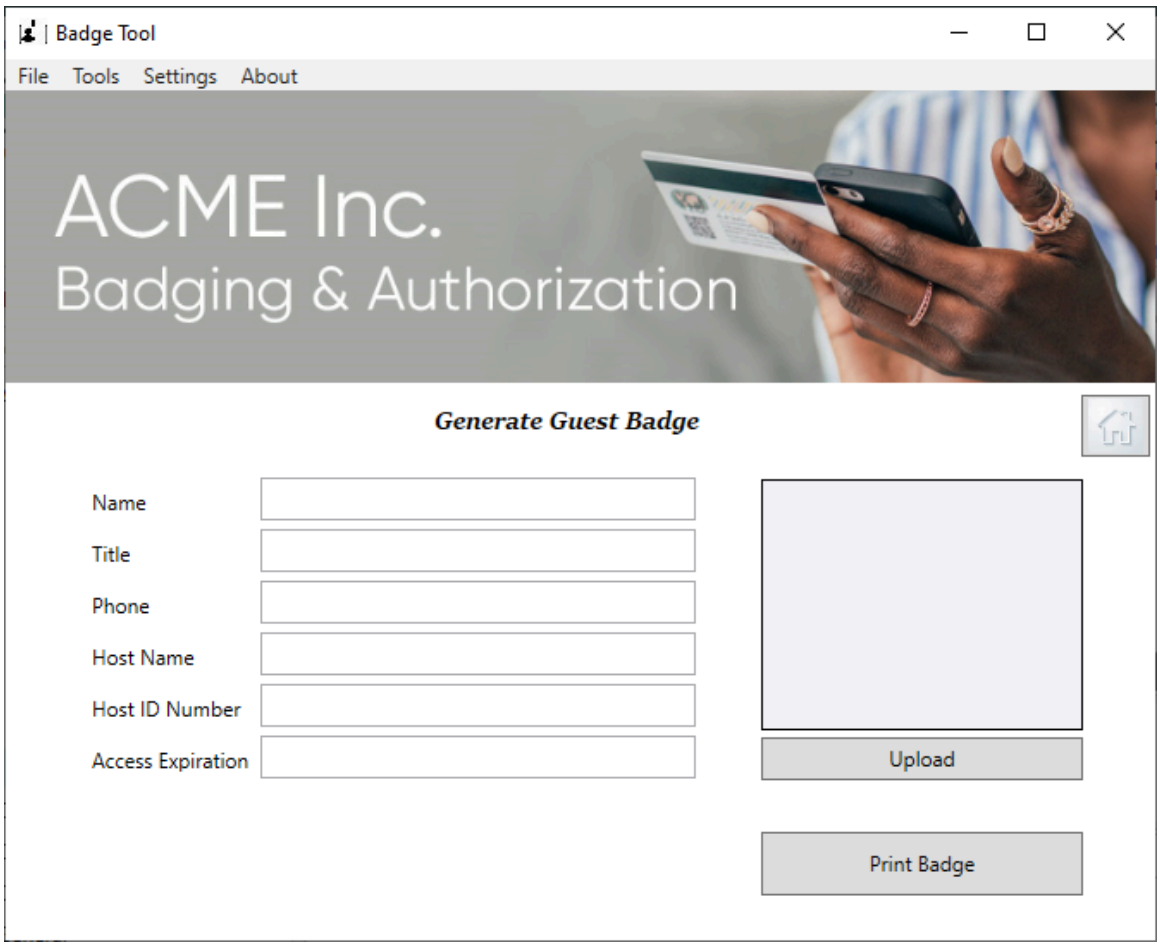
ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ入力	テキスト入力	文字列	アプリケーションで設定されている	あり

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

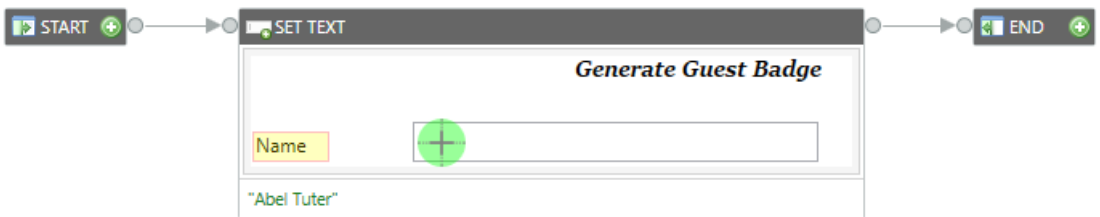
ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
			テキスト入力を取得します。	

11. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Example: バッジアプリの [名前] フィールドに名前を入力する



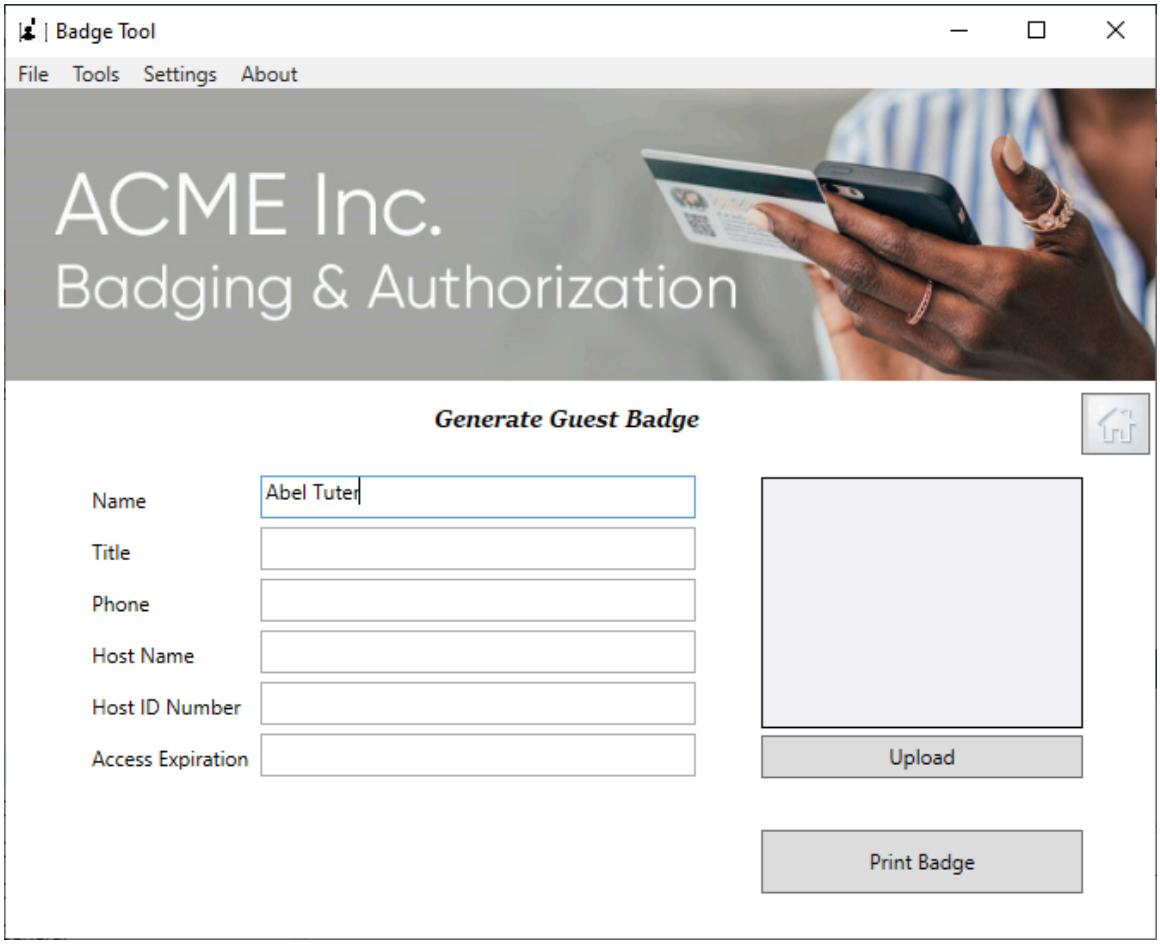
この例では、Set Text コンポーネントを使用して、バッジアプリの [名前] フィールドに名前を入力します。



画像に示すように [テキスト入力] フィールドに名前を設定し、コンポーネントを実行します。

名前は、画像に示すように [名前] フィールドに設定されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



サポートされているキーと機能

RPA デスクトップデザインスタジオ の Send keys コンポーネントは、複数のキー、特殊キー、および機能に対応しています。キーボードのキーは [ ] で囲む必要があります。たとえば、[Back] などとします。

サポートされているキーと機能

サポートされているキーボードのキー	説明
A	A キー
AbntC1	ABNT_C2 (ブラジル) キー。
追加	追加キー。
アプリケーション	アプリケーションキー (Microsoft Natural キーボード)。
Attn	ATTN キー。
B	B キー。
戻る	バックスペースキー。
BrowserBack	ブラウザーの戻るキー。
BrowserFavorites	ブラウザーのお気に入りキー。
BrowserForward	ブラウザーの進むキー。
BrowserHome	ブラウザーのホームキー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているキーと機能 (続く)

サポートされているキーボードのキー	説明
BrowserRefresh	ブラウザーの更新キー。
BrowserSearch	ブラウザーの検索キー。
BrowserStop	ブラウザーの停止キー。
C	C キー。
キャンセル	キャンセルキー。
資産	キャプスロックキー。
CapsLock	キャプスロックキー。
クリア	クリアキー。
CrSel	CRSEL キー。
D	D キー。
D0	0 (ゼロ) キー。
D1	1 キー
D2	2 キー。
D3	3 キー。
D4	4 キー。
D5	5 キー。
D6	6 キー。
D7	7 キー。
D8	8 キー。
D9	9 キー。
DbeAlphanumeric	DBE_ALPHANUMERIC キー。
DbeCodeInput	DBE_CODEINPUT キー。
DbeDbcsChar	DBE_DBCSCHAR キー。
DbeDetermineString	DBE_DETERMINESTRING キー。
DbeEnterDialogConversionMode	DBE_ENTERDLGCONVERSIONMode キー。
DbeEnterImeConfigureMode	DBE_ENTERIMECONFIGMode キー。
DbeEnterWordRegisterMode	DBE_ENTERWordREGISTERMode キー。
DbeFlushString	DBE_FLUSHSTRING キー。
DbeHiragana	DBE_HIRAGANA キー。
DbeKatakana	DBE_KATAKANA キー。
DbeNoCodeInput	DBE_NOCODEINPUT キー。
DbeNoRoman	DBE_NOROMAN キー。
DbeRoman	DBE_ROMAN キー。
DbeSbcChar	DBE_SBCSCHAR キー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているキーと機能 (続く)

サポートされているキーボードのキー	説明
DeadCharProcessed	別のキーと一緒に使用して、1 つの複合文字を作成するキーです。
10 進数	小数点キー。
削除	削除キー。
除算	分割キー。
ダウン	下向き矢印キー。
E	E キー。
終了	終了キー。
キーフィールドに	入力キー。
EraseEof	ERASE EOF キー。
Escape	ESC キー。
実行	実行キー。
ExSel	EXSEL キー。
F	F キー。
F1	F1 キー。
F11	F11 キー。
F12	F12 キー。
F13	F13 キー。
F14	F14 キー。
F15	F16 キー。
F16	F16 キー。
F17	F17 キー。
F18	F18 キー。
F19	F19 キー。
F20	F20 キー。
F21	F21 キー。
F22	F22 キー。
F23	F23 キー。
F24	F24 キー。
F3	F3 キー。
F4	F4 キー。
F5	F5 キー。
F6	F6 キー。
F7	F7 キー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているキーと機能 (続く)

サポートされているキーボードのキー	説明
F8	F8 キー。
F9	F9 キー。
FinalMode	IME Final モードキー。
G	G キー。
H	H キー。
HangulMode	IME Hangul モードキー。
HanjaMode	IME Hanja モードキー。
ヘルプ	ヘルプキー。
ホーム	ホームキー。
I	I キー。
ImeAccept	IME Accept キー。
ImeConvert	IME Convert キー。
ImeModeChange	IME Mode 変更要求。
ImeNonConvert	IME NonConvert キー。
ImeProcessed	IME によって処理されている実際のキーをマスクする特殊キー。
挿入	挿入キー。
J	J キー。
JunjaMode	IME Junja モードキー。
K	K キー。
KanaMode	IME Kana モードキー。
KanjiMode	IME Kanji モードキー。
L	L キー。
LaunchApplication1	Application1 起動キー。
LaunchApplication2	Application2 起動キー。
LaunchMail	メール起動キー。
左	左矢印キー。
LeftAlt	左 ALT キー。
LeftCtrl	左 CTRL キー。
LeftShift	左 Shift キー。
LineFeed	改行キー。
LWin	左 Windows ロゴキー (Microsoft Natural キーボード)。
M	M キー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているキーと機能 (続く)

サポートされているキーボードのキー	説明
MediaNextTrack	メディアの次のトラックキー。
MediaPlayPause	メディアの再生一時停止キー。
MediaPreviousTrack	メディアの前のトラックキー。
MediaStop	メディアの停止キー。
乗算	乗算キー。
N	N キー。
次へ	ページダウンキー。
NoName	将来の使用のために予約されている定数。
なし	キーが押されていない。
NumLock	Num Lock キー。
NumPad0	テンキーの 0 キー。
NumPad1	テンキーの 1 キー。
NumPad2	テンキーの 2 キー。
NumPad3	テンキーの 3 キー。
NumPad4	テンキーの 4 キー。
NumPad5	テンキーの 5 キー。
NumPad6	テンキーの 6 キー。
NumPad7	テンキーの 7 キー。
NumPad8	テンキーの 8 キー。
NumPad9	テンキーの 9 キー。
O	O キー。
Oem1	OEM 1 キー。
OEM102	OEM 102 キー。
Oem2	OEM 2 キー。
Oem3	OEM 3 キー。
Oem4	OEM 4 キー。
Oem5	OEM 5 キー。
Oem6	OEM 6 キー。
Oem7	OEM 7 キー。
Oem8	OEM 8 キー。
OEMAttn	OEM ATTN キー。
OEMAuto	OEM AUTO キー。
OemBackslash	OEM バックスラッシュキー。
OemBackTab	OEM BACKTAB キー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているキーと機能 (続く)

サポートされているキーボードのキー	説明
OemClear	OEM クリアキー。
OemCloseBracets	OEM クローズブラケットキー。
OemComma	OEM カンマキー。
OemCopy	OEM COPY キー。
OEM	OEM ENLW キー。
OemFinish	OEM FINISH キー。
OemMinus	OEM マイナスキー。
OemOpenBrackets	OEM オープンブラケットキー。
OemPeriod	OEM 期間キー。
OemPipe	OEM パイプキー。
OemPlus	OEM 追加キー。
OemQuestion	OEM 質問キー。
OemQuotes	OEM 引用符キー。
OemSemicolon	OEM セミコロンキー。
OemTilde	OEM チルダキー。
P	P キー。
Pa1	PA1 キー。
PageDown	ページダウンキー。
PageUp	ページアップキー。
一時停止	一時停止キー。
プレイ	PLAY キー。
印刷	印刷キー。
PrintScreen	Print Screen キー。
Prior	ページアップキー。
Q	Q キー。
R	R キー。
戻る	戻るキー。
右	右矢印キー。
RightAlt	右 ALT キー。
RightCtrl	右 CTRL キー。
RightShift	右 Shift キー。
RWin	右 Windows ロゴキー (Microsoft Natural キーボード)。
S	S キー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているキーと機能 (続く)

サポートされているキーボードのキー	説明
スクロール	スクロールロックキー。
選択	選択キー。
SelectMedia	メディア選択キー。
セパレーター	セパレーターキー。
Sleep	コンピューターのスリープキー。
スナップショット	Print Screen キー。
スペース	スペースバーキー。
減算	減算キー。
System	システムキーとして処理されている実際のキーをマスクする特殊キー。
T	T キー。
タブ	タブキー。
U	U キー。
稼働中	上向き矢印キー。
V	V キー。
VolumeDown	ボリュームダウンキー。
VolumeMute	ボリュームミュートキー。
VolumeUp	ボリュームアップキー。
W	W キー。
X	X キー。
Y	Y キー。
Z	Z キー。
ZOOM	Zoom キー。

Actions (UI) コンポーネントのプロパティ

Actions (UI) グループコンポーネントのプロパティについて説明します。Actions (UI) グループのすべてのコンポーネントには、一意のプロパティと共通のプロパティがあります。

Actions (UI) コンポーネントの共通プロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	コンポーネントの実行後の遅延時間を秒単位で指定するオプションです。自動化は、次のコンポーネントを実行する前に、指定した時間が経過するまで待機します。
実行前の遅延	コンポーネントの実行前の遅延時間を秒単位で指定するオプションです。自動化は、コンポー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Actions (UI) コンポーネントの共通プロパティ (続く)

プロパティ	説明
	ネントを実行する前に、指定した時間が経過するまで待機します。
名前	コンポーネントの名前です。
X	X 軸方向のコンポーネント上の緑色のプラスアイコン ( ) の場所です。
Y	Y 軸方向のコンポーネント上の緑色のプラスアイコン ( ) の場所です。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。
拡張検索	ソース画像との照合を試行する前に、コンポーネントがターゲット画像をスケーリングするかどうかを指定するオプションです。スケーリングは、100% から 150% の間で 10% ずつ行われます。デフォルトは False です。
グレースケール画像として検索	キャプチャされた領域をグレースケール画像として定義して検索するオプションです。デフォルトでは、有効になっています。
ターゲットプラットフォーム	アプリケーションプラットフォームを選択するオプションです。
しきい値	コンポーネントがアクションを実行する前に、キャプチャ画像の一致精度を指定します。値 1 は 100% 一致、0.5 は 50% 一致を定義します。デフォルト値は 0.9 で、90% 一致です。
最大待機時間 (秒)	画像またはアプリケーションが画面に表示されるまでの待機時間 (秒) を定義します。
画像検出後の待機	画像またはアプリケーションが画面に表示された後の待機時間 (秒) を指定します。
作成までの待機	画像が画面に表示されるのをコンポーネントが待機するかどうかを指定するオプションです。デフォルト値は true です。

ActionSet アクションのプロパティ

ActionSet コンポーネントは複数のアクションを実行し、各アクションには個別のプロパティがあります。プロパティを更新すると、アクションの動作を変更できます。

クリック

Click のプロパティ

プロパティ	説明
後の遅延 (秒)	Click アクションの開始後の遅延時間を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Click のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
前の遅延 (秒)	Click アクションの開始前の遅延時間を指定します。
実行順序	複数のアクションが設定されている場合にアクションが実行される順序です。この順序は、アンカーからアクションを追加するときに割り当てられます。[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウで、アクションを希望する順序でアンカーの下にドラッグして配置することで、順序を変更できます。
ポートを公開	ブール値を取得するデータ入力ポートを公開するオプションです。True の場合は Click アクションが実行され、False の場合は Click アクションは実行されません。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
名前	アクションのデフォルト名を更新するオプションです。デフォルト名は Click です。更新された名前は、[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウの [アクションリスト] セクションに反映されます。
X	アンカーに対する X 軸方向の緑のプラスアイコン ( ) のカスタムロケーションを設定するオプションです。
Y	アンカーに対する Y 軸方向の緑のプラスアイコン ( ) のカスタムロケーションを設定するオプションです。

Set Text

Set Text のプロパティ

プロパティ	説明
後の遅延 (秒)	アクションの開始後の遅延時間を指定します。
前の遅延 (秒)	アクションの開始前の遅延時間を設定します。
実行順序	複数のアクションが設定されている場合にアクションが実行される順序です。この順序は、アンカーからアクションを追加するときに割り当てられます。[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウで、アクションを希望する順序でアンカーの下にドラッグして配置することで、順序を変更できます。
ポートを公開	コンポーネントがフィールドに設定するテキストを取得するデータ入力ポートを有効または無効にするオプションです。デフォルトでは、ポートは有効になっています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Set Text のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
名前	アクションのデフォルト名を更新するオプションです。デフォルト名は SetText です。更新された名前は、[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウの [アクションリスト] セクションに反映されます。
X	アンカーに対する X 軸方向の緑色のプラスアイコン ( ) の場所を指定するオプション。
Y	アンカーに対する Y 軸方向の緑色のプラスアイコン ( ) の場所を指定するオプション。

Get Text

Get Text のプロパティ

プロパティ	説明
後の遅延 (秒)	アクションの開始後の遅延時間を指定します。
前の遅延 (秒)	アクションの開始前の遅延時間を設定します。
実行順序	複数のアクションが設定されている場合にアクションが実行される順序です。この順序は、アンカーからアクションを追加するときに割り当てられます。[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウで、アクションを希望する順序でアンカーの下にドラッグして配置することで、順序を変更できます。
ポートを公開	キャプチャされたテキストを返すデータ出力ポートを有効または無効にするオプションです。デフォルトでは、ポートは有効になっています。
名前	アクションのデフォルト名を更新するオプションです。デフォルト名は GetText です。名前は、[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウの [アクションリスト] セクションに反映されます。
X	アンカーに対する X 軸方向の緑色のプラスアイコン ( ) の場所を指定するオプション。
Y	アンカーに対する Y 軸方向の緑色のプラスアイコン ( ) の場所を指定するオプション。

テーブルを取得

Get Text のプロパティ

プロパティ	説明
後の遅延 (秒)	アクションの開始後の遅延時間を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Get Text のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
前の遅延 (秒)	アクションの開始前の遅延時間を設定します。
実行順序	複数のアクションが設定されている場合にアクションが実行される順序です。この順序は、アンカーからアクションを追加するときに割り当てられます。[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウで、アクションを希望する順序でアンカーの下にドラッグして配置することで、順序を変更できます。
ポートを公開	キャプチャされたテーブルを返すデータ出力ポートを有効または無効にするオプションです。デフォルトでは、ポートは有効になっています。
名前	アクションのデフォルト名を更新するオプションです。デフォルト名は Table です。名前は、[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウの [アクションリスト] セクションに反映されます。
X	アンカーに対する X 軸方向の緑色のプラスアイコン ( ) の場所を指定するオプション。
Y	アンカーに対する Y 軸方向の緑色のプラスアイコン ( ) の場所を指定するオプション。
IgnoreHeader	キャプチャ中にテーブルのヘッダーを無視するオプション。

イメージを取得

Get Image プロパティ

プロパティ	説明
後の遅延 (秒)	アクションの開始後の遅延時間を指定します。
前の遅延 (秒)	アクションの開始前の遅延時間を設定します。
実行順序	複数のアクションが設定されている場合にアクションが実行される順序です。この順序は、アンカーからアクションを追加するときに割り当てられます。[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウで、アクションを希望する順序でアンカーの下にドラッグして配置することで、順序を変更できます。
ポートを公開	キャプチャされた画像を返すデータ出力ポートを有効または無効にするオプションです。デフォルトでは、ポートは有効になっています。
名前	アクションのデフォルト名を更新するオプションです。デフォルト名は GetImage です。名前は、[アクションセット設定 (ACTIONSET

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Get Image プロパティ (続く)

プロパティ	説明
	SETTINGS)] ウィンドウの [アクションリスト] セクションに反映されます。
高さ	緑色の矩形アイコン ( ) 高さを指定するオプション。
幅	緑色の矩形アイコン ( ) 幅を指定するオプション。
X	アンカーに対する X 軸方向の緑色の矩形アイコン ( ) の場所を指定するオプション。
Y	アンカーに対する Y 軸方向の緑色の矩形アイコン ( ) の場所を指定するオプション。

OCR Read Text

OCR Read Text のプロパティ

プロパティ	説明
後の遅延 (秒)	アクションの開始後の遅延時間を指定します。
前の遅延 (秒)	アクションの開始前の遅延時間を設定します。
実行順序	複数のアクションが設定されている場合にアクションが実行される順序です。この順序は、アンカーからアクションを追加するときに割り当てられます。[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウで、アクションを希望する順序でアンカーの下にドラッグして配置することで、順序を変更できます。
ポートを公開	抽出されたテキストを返すデータ出力ポートを無効にするオプションです。デフォルトでは、ポートは有効になっています。
名前	アクションのデフォルト名を更新するオプションです。デフォルト名は OCR です。名前は、[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウの [アクションリスト] セクションに反映されます。
高さ	緑色の矩形アイコン ( ) 高さを指定するオプション。
幅	緑色の矩形アイコン ( ) 幅を指定するオプション。
X	アンカーに対する X 軸方向の緑色の矩形アイコン ( ) の場所を指定するオプション。
Y	アンカーに対する Y 軸方向の緑色の矩形アイコン ( ) の場所を指定するオプション。
エンジン	OCR フィールドの抽出に使用されるエンジン名。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OCR Read Text のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
言語	多言語対応可能な Teseract エンジンです。ここにリストされている言語を選択できます。
行高さの許容範囲	フォントの行の高さ
ChangeDPI	有効の場合、DPI プロパティに示されているとおりに、画像の DPI を変更します。
DPI	DPI 値。
単語を抽出	ワード形式で抽出されるテキストです。それ以外はプレーンテキストです。
反転	反転された画像の色です。たとえば、黒を白に反転します。
言語	抽出に使用される言語です。
画像をスケーリング	画像を指定された数値でスケーリングします。
しきい値	しきい値に従って、画像をグレースケール画像に変換したり、ノイズを除去したりします。
しきい値	しきい値です。
タイムアウト	処理がタイムアウトするまでの時間です。

OCR Read Table

Get Image プロパティ

プロパティ	説明
後の遅延 (秒)	アクションの開始後の遅延時間を指定します。
前の遅延 (秒)	アクションの開始前の遅延時間を設定します。
実行順序	複数のアクションが設定されている場合にアクションが実行される順序です。この順序は、アンカーからアクションを追加するときに割り当てられます。[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウで、アクションを希望する順序でアンカーの下にドラッグして配置することで、順序を変更できます。
ポートを公開	キャプチャされたテーブルを出力として返すデータ出力ポートを公開するオプションです。デフォルトでは、ポートは有効になっています。
名前	アクションのデフォルト名を更新するオプションです。デフォルト名は OcrTable です。名前は、[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウの [アクションリスト] セクションに反映されます。
高さ	OCR Read Table アイコン ( ) の高さを指定するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Get Image プロパティ (続く)

プロパティ	説明
幅	OCR Read Table アイコン () の幅を指定するオプション。
X	アンカーに対する X 軸方向の OCR Read Table アイコン () の場所を指定するオプション。
Y	アンカーに対する Y 軸方向の OCR Read Table アイコン () のカスタムロケーションを指定するオプション。
FirstRowHeader	キャプチャされたテーブルの最初の行がヘッダーであるかどうかを指定するオプション。
エンジン	OCR フィールドの抽出に使用されるエンジン名。

OCR Click Text

OCR Click Text のプロパティ

プロパティ	説明
タイプ	テキストが識別された後にマウスデバイスが実行するアクションのタイプ。
後の遅延 (秒)	アクションの開始後の遅延時間を指定します。
前の遅延 (秒)	アクションの開始前の遅延時間を設定します。
実行順序	複数のアクションが設定されている場合にアクションが実行される順序です。この順序は、アンカーからアクションを追加するときに割り当てられます。[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウで、アクションを希望する順序でアンカーの下にドラッグして配置することで、順序を変更できます。
ポートを公開	キャプチャされたテーブルを出力として返すデータ出力ポートを公開するオプションです。デフォルトでは、ポートは有効になっています。
名前	アクションのデフォルト名を更新するオプションです。デフォルト名は OCR Click です。名前は、[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウの [アクションリスト] セクションに反映されます。
高さ	OCR Click Text アイコンの高さを指定するオプション。
幅	OCR Read Table アイコンの幅を指定するオプション。
X	アンカーに対する X 軸方向の OCR Click Text アイコンの場所を指定するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OCR Click Text のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
Y	アンカーに対する Y 軸方向の OCR Click Text アイコンの場所を指定するオプション。
エンジン	OCR フィールドの抽出に使用されるエンジン名。

Text Selection

Text Selection のプロパティ

プロパティ	説明
後の遅延 (秒)	アクションの開始後の遅延時間を指定します。
前の遅延 (秒)	アクションの開始前の遅延時間を設定します。
実行順序	アクションが実行される順序です。この順序は、[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウでアンカーからアクションを追加するときに割り当てられます。目的の順序でアクションをドラッグして配置することで、順序を変更できます。
ポートを公開	Set Text アクションを有効または無効にするためのブール値を渡すデータ入力ポートを公開するオプションです。
名前	アクションのデフォルト名を更新するオプションです。デフォルト名は TextSelection です。名前は、[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウの [アクションリスト] セクションに反映されます。
トリミング	テキストの先頭と末尾のスペースをトリミングするオプションです。
タイプ	実行するアクションのタイプ。
高さ	緑色の矩形アイコン ( ) 高さを指定するオプション。
幅	緑色の矩形アイコン ( ) 幅を指定するオプション。
X	X 軸方向の緑色の矩形アイコン ( ) の場所を指定するオプションです。
Y	Y 軸方向の緑色の緑色の矩形アイコン ( ) の場所を指定するオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Send Keys

Send Keys のプロパティ

プロパティ	説明
後の遅延 (秒)	アクションの開始後の遅延時間を指定します。
前の遅延 (秒)	アクションの開始前の遅延時間を設定します。
各キー押下間の遅延 (秒)	各キー押下アクション間の遅延時間を指定します。
既存の値をクリア	テキストを設定する前に、アクションがフィールドの既存値をクリアするかどうかを指定するオプションです。
実行順序	複数のアクションが設定されている場合にアクションが実行される順序です。この順序は、アンカーからアクションを追加するときに割り当てられます。[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウで、アクションを希望する順序でアンカーの下にドラッグして配置することで、順序を変更できます。
ポートを公開	文字列を取得するデータ入力ポートを有効または無効にするオプションです。デフォルトでは、ポートは有効になっています。
入力タイプ	次のいずれかのオプションを選択できます。 • SendInput：フィールドにテキストを設定します。 • SendKeys：キーボードショートカットを送ります。
名前	アクションのデフォルト名を更新するオプションです。デフォルト名は SendKeys です。名前は、[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウの [アクションリスト] セクションに反映されます。
マウスクリックでフォーカス	マウスデバイスのクリックを使用して、アプリケーション内のマウスデバイスの入力が渡される領域にフォーカスを当てるオプションです。
X	アンカーに対する X 軸方向の緑色のプラスアイコン ( ) の場所を指定するオプション。
Y	アンカーに対する Y 軸方向の緑色のプラスアイコン ( ) の場所を指定するオプション。

Mouse Actions

Mouse Actions のプロパティ

プロパティ	説明
後の遅延 (秒)	アクションの開始後の遅延時間を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Mouse Actions のプロパティ (続く)

プロパティ	説明
前の遅延 (秒)	アクションの開始前の遅延時間を設定します。
実行順序	複数のアクションが設定されている場合にアクションが実行される順序です。この順序は、アンカーからアクションを追加するときに割り当てられます。[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウで、アクションを希望する順序でアンカーの下にドラッグして配置することで、順序を変更できます。
ポートを公開	ブール値を取得するデータ入力ポートを有効または無効にするオプションです。True の場合は Mouse アクションが実行され、False の場合は実行されません。デフォルトでは、このオプションはオフになっています。
名前	アクションのデフォルト名を更新するオプションです。デフォルト名は MouseAction です。名前は、[アクションセット設定 (ACTIONSET SETTINGS)] ウィンドウの [アクションリスト] セクションに反映されます。
タイプ	マウスデバイスアクションのタイプです。たとえば、貼り付けです。
X	アンカーに対する X 軸方向の緑色のプラスアイコン ( ) の場所を指定するオプション。
Y	アンカーに対する Y 軸方向の緑色のプラスアイコン ( ) の場所を指定するオプション。

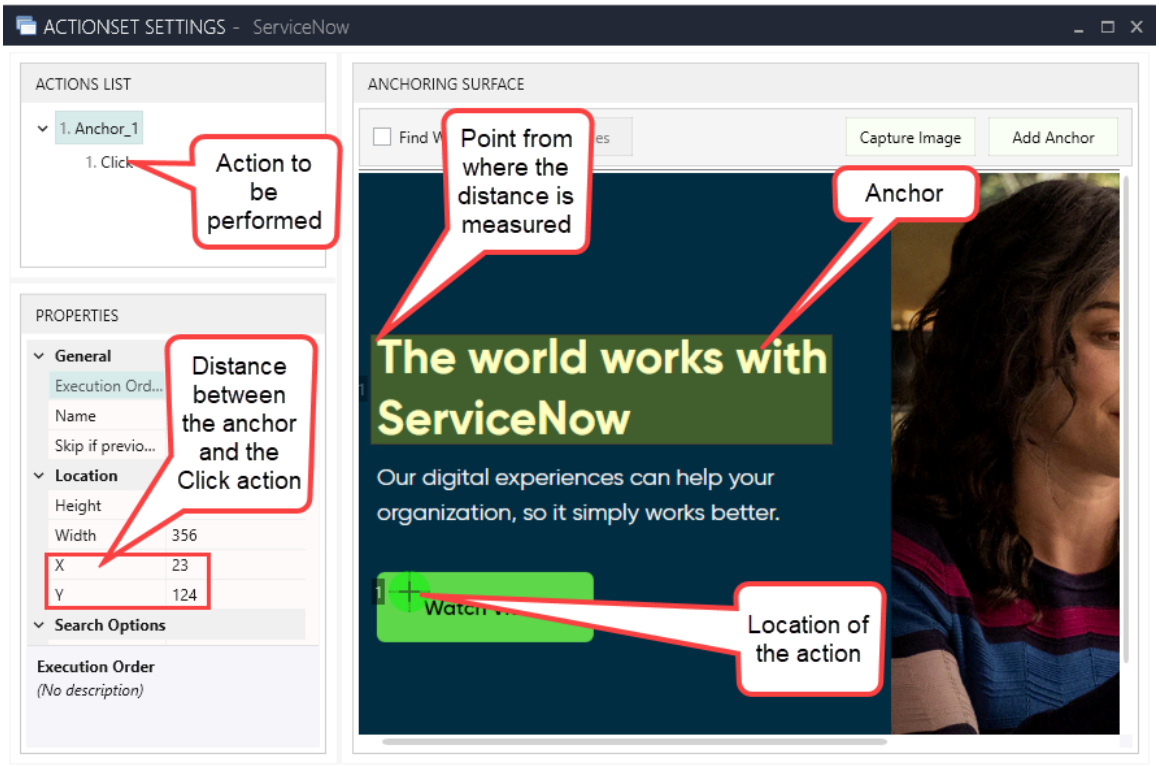
アンカー

アンカーは、画面上で識別される一意の識別子です。アンカーを基準に、他のアクションの位置が計算され、アンカーに対するアクションが実行されます。

アンカーは、アクションための画面を識別します。この識別に基づいて、画面上でアクションが実行されます。アクションは、X 軸および Y 軸方向にピクセル単位で

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

測定されるアンカーからの相対距離によって発生します。次の画像を参照してくださ

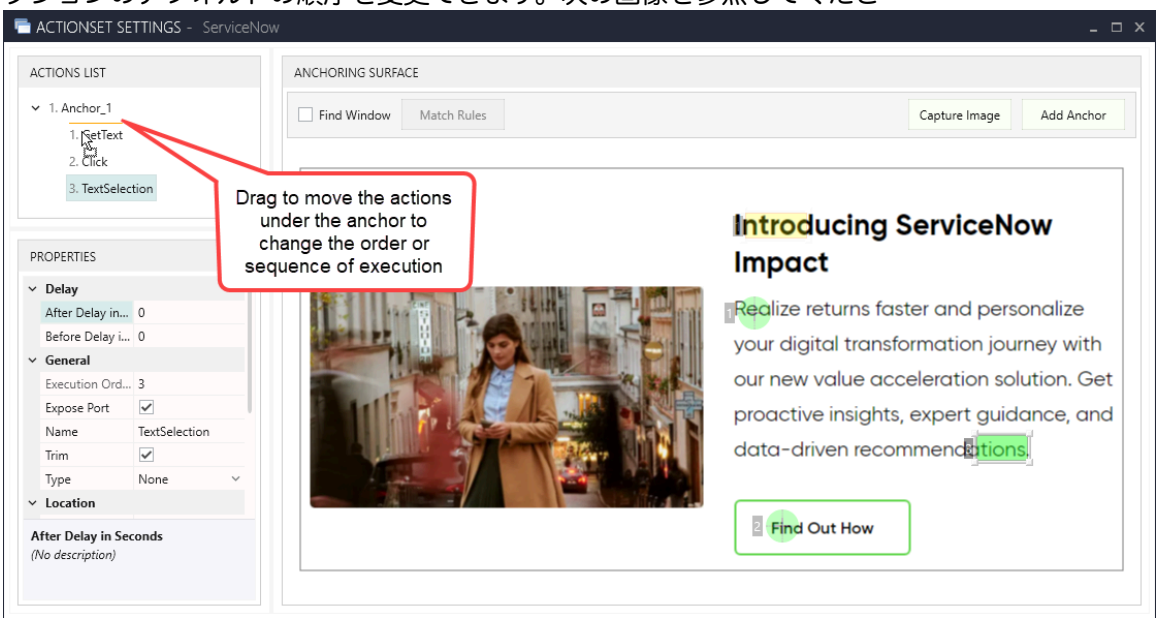


い。

1 つのアンカーで複数のアクションを実行することができます。アクションにはそれぞれアンカーからの相対距離があります。

ただし、アクションが実行される要素の場所が変更されると、意図しない場所でアクションが発生することがあります。意図しない場所でアクションが実行されないようにするために、複数のアンカーを使用できます。

複数のアンカーとアクションを追加すると、コンポーネントはアンカーとアクションが追加された順序でアクションを実行します。それぞれのアンカーの下でアクションのデフォルトの順序を変更できます。次の画像を参照してくださ



い。

順序を変更するアクションをドラッグし、(—) が表示されたらマウスデバイスを放します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

Conditions は、意思決定を自動化するために使用できるコンポーネントのグループです。これらの決定は、値、入力、またはデータが条件や複数の値と一致することに基づいています。

Conditions グループのコンポーネントを使用して、次のアクションを実行できます。

- 入力やデータを条件と照合し、入力が条件を満たしているかどうかを確認します。
- 完全に一致する値が見つかるまで複数の値で照合し、完全に一致しない場合は別のアクションを指定します。

Decision コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Decision コンポーネントを使用して、意思決定プロセスを自動化します。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

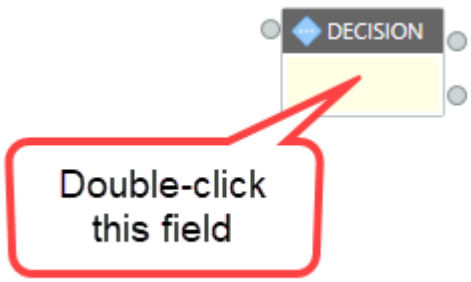
コンポーネントで条件式を指定できます。条件式にパラメーターが含まれている場合は、入力ポートとして表示されます。入力に対して条件式が正しければ、True 出力ポートがコントロールを行います。それ以外の場合は、False 出力ポートがコントロールを取得し、自動化を実行します。

条件を定義するために、Decision コンポーネントには多くの関数、演算子、および式が用意されています。詳細については、「関数、データタイプ、および演算子」を参照してください。

Decision コンポーネントのプロパティを設定するには、「Conditions コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Conditions] [Decision]** に移動します。
2. Decision コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. DECISION コンポーネントバーの下のフィールドをダブルクリックしま



す。

4. a=5 のように (「a」はパラメーター)、フィールドに条件を入力します。
   データ入力ポートが動的に作成されます。
5. [データ入力 (Data In)] フィールドに値を入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
6. Decision コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
データ入力	パラメーターの名前と同様	オブジェクト	条件で作成されるパラメー	なし	パラメーターを定義する

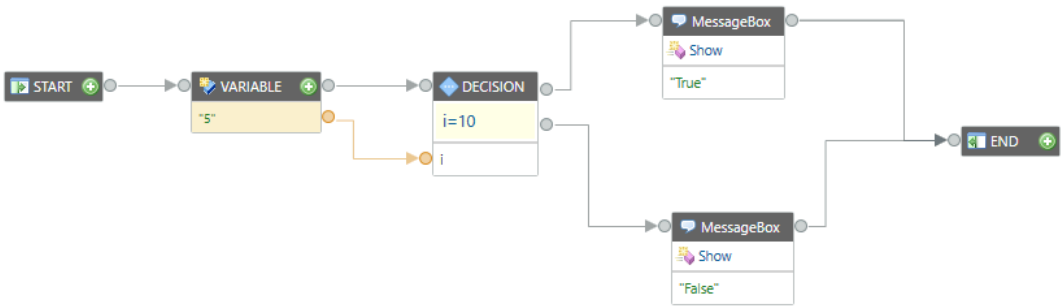
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
	です。たとえば、条件が a=5 の場合、「a」がポート名になります。		ターの入力またはデータを取得します。		場合は必須です。それ以外の場合はオプションです。

7. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Example: 入力を受け取り、条件と照合する

DECISION コンポーネントでは、条件式「i=10」が設定されています。「i」はパラメーターであるため、入力ポートがコンポーネントに動的に作成されます。Variable (RPA デスクトップデザインスタジオ で変数を作成して使用する) コンポーネントは、False である Decision コンポーネントに入力「5」を提供します。したがって、False 出力ポートがコントロールを取得し、Show (Show コンポーネントの使用) コンポーネントが「False」というメッセージを表示しま



す。

Switch コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Switch コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、複数の値の中から完全に一致する値を見つけることができます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Switch コンポーネントを使用すると、別のコンポーネントやメソッドから取得する値を照合する複数の値を設定できます。完全に一致する値が見つかるまで、値を切り替えます。一致するものが見つからない場合は、別のアクションを実行できます。

Switch コンポーネントは、他のコンポーネントやメソッドと連携して、自動化 ワークフロー を実行できます。

Switch コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Conditions コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

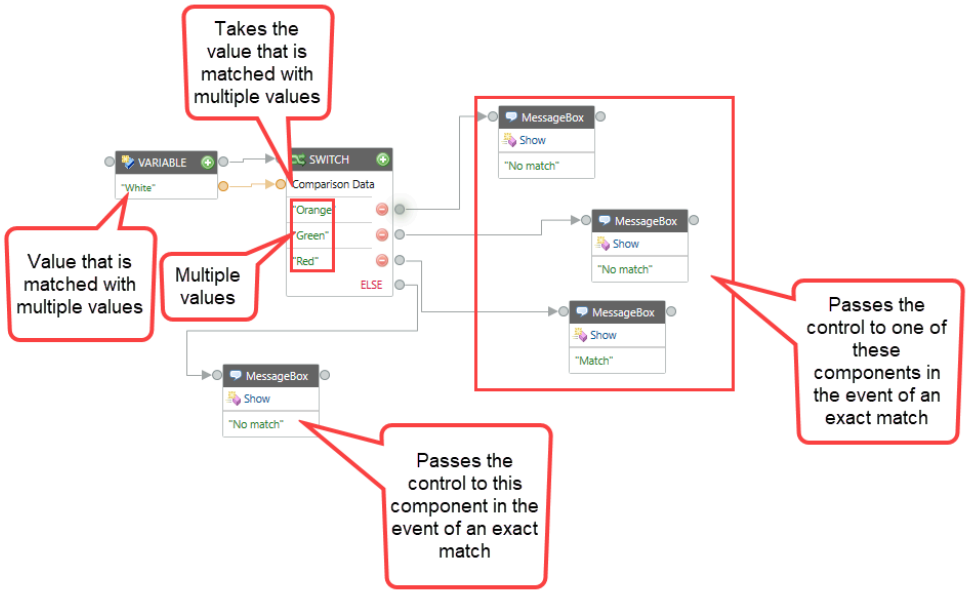
手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Conditions] [Switch]** に移動します。
2. Switch コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 照合する値を設定するには、次のアクションを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. 値を追加アイコン ( ) をクリックします。

b. オプション: ステップ 3 を繰り返して、必要な数だけ値フィールドを追加します。
データ入力ポートが値を受け取るために動的に作成されま



す。

c. フィールドに入力メソッドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

4. 下表に従って、Switch コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須?
データ入力	比較データ	オブジェクト	コンポーネントに設定された値を照合する値を取得します。	あり
データ入力	値	文字列	比較データポートを介して渡される値と照合される値を取得します。	あり
データ出力	ELSE	適用外	一致するものがない場合、コンポーネントは次のコンポーネントにコントロールを渡します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

関数、データタイプ、および演算子

Decision コンポーネントは、本トピックで説明している特定の関数と演算子に対応しています。本トピックを参照してください。

サポート対象関数および演算子

サポート対象関数および演算子

タイプ	例	評価結果
値	• 整数 • 浮動小数点数 • 日時 • ブール • 文字列 • 関数 • パラメーター	適用外
整数	数字で表されます。たとえば、443、124、および 665 などです。	Int32
浮動小数点数	221.12、43.76、および 5.9	10 進数
科学的記数法	e を使用して、10 のべき乗 (10^) を定義できます。 • 1.22e1 • 1e2 • 1e+2 • 1e-2 • .1e-2 • 1e10	倍精度
日時	`sharps` で囲む必要があります。 #2008/01/31# // for en-US culture	DateTime
ブール	True または False	ブール
文字列	一重引用符「'」で囲まれた文字は文字列として評価されます。	'ServiceNow'
パラメーター	名前としてのパラメーターで、オプションで括弧内に含めることができます。	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポート対象関数および演算子 (続く)

タイプ	例	評価結果
	2 + x, 2 + [x]	
関数	関数は、名前の後に中括弧が続き、オプションで任意の値が引数として含まれます。Abs(1), doSomehting(1, 'dummy')	
演算子	式は演算子を使用して組み合わせることができます。それぞれの演算子には優先順位があります。これらの式の優先順位は次のとおりです。 **1.** primary **2.** 単項 **3.** べき乗 **4.** 乗法 **5.** 加法 **6.** 関係 **7.** 論理	
論理	これらの演算子は、他の式との間の論理比較を実行できます。 • or - || • and - && • true または false and 演算子は or よりも優先順位が高いため、上記の例では false と true が先に評価されます。	
関係	関係演算子は、値の比較に使用されます。これらの演算子は常にブール値になります。 • =、==、!=、<> • 、>= • 1 < 2	

Conditions コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Conditions コンポーネントのプロパティについて説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ

次の表のプロパティは、Conditions コンポーネントに適用されます。

Conditions コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
名前	コンポーネントを識別する名前。 使用しているアプリケーションフィールドに対応する名前を選択してください。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

コネクタ

コネクタは、Microsoft Excel のスプレッドシートや Microsoft Word ドキュメントでタスクを自動化するなど、特殊な機能を提供します。コネクタは複数のメソッドを公開し、使用方法が異なるため、コンポーネントとは異なります。

コネクタは ServiceNow® のアプリストアにあり、RPA デスクトップデザインスタジオ が適切な RPA ハブ インスタンスに接続すると利用できるようになります。

一部のコネクタはデフォルトで [ツールボックス] ペインの下で使用できますが、その他のコネクタはインストールする必要があります。インストールするには、「RPA デスクトップデザインスタジオでのプラグインの管理」を参照してください。

設定すると、コネクタメソッドはコンポーネントと同じように機能します。メソッドとコネクタ、またはコネクタとメソッドを接続して、自動化を作成します。

コネクタの例として、Google Chrome があります。Chrome コネクタは、Chrome ブラウザー上でさまざまなタスクを実行します。

コネクタを設定すると、特定の機能を実行する複数のメソッドが公開されます。たとえば、Google Chrome コネクタでは次のメソッドが公開されており、その他にもさまざまなメソッドがあります。

- Google Chrome で開いている Web ページのスクリーンショットを取得する。
- 非アクティブまたはバックグラウンドで実行中の Google Chrome ウィンドウにフォーカスを設定する。

この例では、Microsoft Word のコネクタとそのメソッドを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コネクタを使用するには、以下を参照してください。

- RPA デスクトップデザインスタジオ でのプラグインの管理
- RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する
- コネクタメソッドを使用する

Chromium コネクタ

Chromium コネクタを使用すると、Google Chrome または Microsoft Edge Edge 上で実行されている Web アプリケーションのさまざまな要素とやり取りし、それらを中心に自動化をビルドできます。

Chromium コネクタを使用するには、次のアクションを実行します。

- ServiceNow RPA Edge 拡張機能および ServiceNow RPA Chrome 拡張機能の最新バージョンを有効にします。有効にするには、「ServiceNow RPA Chrome 拡張の追加」および「ServiceNow RPA Edge 拡張機能の追加」を参照してください。
- Chromium コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- Google Chrome コネクタを設定するには、「Chromium コネクタの設定」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。
- Chromium コネクタのホットフィックスをインストールした場合、ホットフィックスがマシンに正確にダウンロードされていることを確認するには、事後要件ステップを実行します。詳細については、「ホットフィックスのインストール後に必要な後処理」を参照してください。

Chrome コネクタのメソッドは、次のレベルで使用できます。

- アプリケーション
- スクリーン
- 要素

Chrome コネクタのメソッドタイプ

メソッドレベル	説明
アプリケーション	これらのメソッドは、Google Chrome ブラウザーで Web サイトを開くことができます。コネクタは、他のメソッドを実行できるように、ブラウザーとアプリケーションを設定します。
スクリーン	これらのメソッドは、設定した画面でさまざまなアクションを実行します。たとえば、ボタンをクリックします。
要素	これらのメソッドは、画面上のさまざまな要素でさまざまなタスクを実行します。

注: クロスドメイン iFrame を使用したページは、Google Chrome および Edge の各ブラウザーではサポートされていません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Chromium コネクタの設定

Chromium コネクタの設定により、Google Chrome または Microsoft Edge ブラウザーから 1 つまたは複数の Web ページをキャプチャした後、Web ページ上の要素をキャプチャします。

始める前に

ソフトウェアの前提条件として、ServiceNow, Inc. RPA Google Chrome および ServiceNow® Store RPA Microsoft Edge の拡張機能が追加されている必要があります。拡張機能を追加するには、以下を参照してください。

- ServiceNow RPA Edge 拡張機能の追加。
- ServiceNow RPA Chrome 拡張の追加。

Microsoft Edge および Google Chrome ブラウザーの両方で、少なくとも 1 つの Web サイトまたはアプリケーションが開いているか、アクティブになっていることを確認してください。

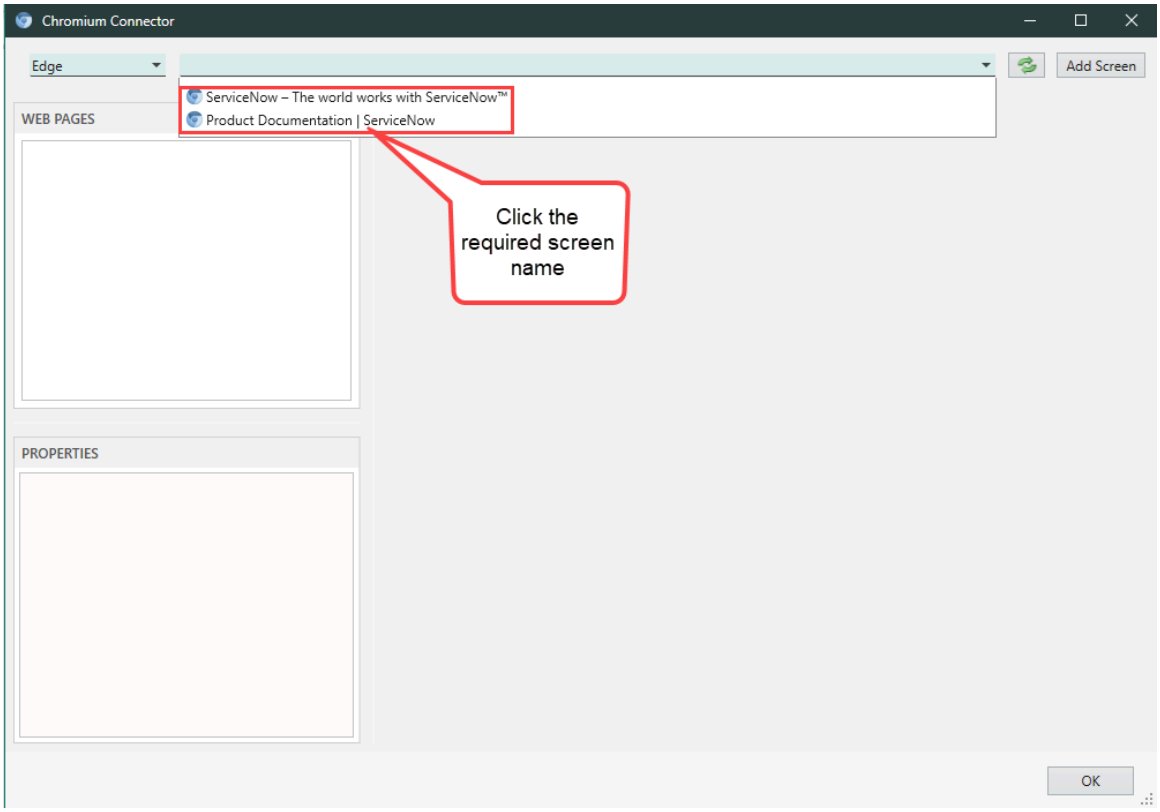
Chromium コネクタ (Google Chrome/Microsoft Edge) を使用する場合、フレームセットの自動化はサポートされません。

必要なロール：なし

手順

1. **[Connectors]** > **[Chromium Connector]**に移動します。
2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの Global Objects の下に Chromium コネクタをドラッグします。
3. Global Objects の下で Chromium コネクタを右クリックします。
4. [構成] をクリックします。
5. [Chromium コネクタ (Chromium Connector)] ウィンドウで、**[Edge]** または **[Chrome]** を選択します。
6. ウィンドウをロードするには、更新アイコン ( ) をクリックします。
7. リストで、必要な画面を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



8. [画面を追加 **(Add Screen)]** をクリックします。
   画面は [Web ページ (WEB PAGES)] セクションにキャプチャされます。
9. [Web ページ (WEB PAGES)] セクションで、Web ページの名前を右クリックします。
10. [要素をキャプチャ **(Capture Element)]** をクリックします。
11. コンテキストダイアログを使用して、要素をキャプチャします。
    コンテキストダイアログを使用するには、「[要素をキャプチャ] ダイアログの使用」を参照してください。

[要素をキャプチャ] ダイアログの使用

[要素をキャプチャ] ダイアログを使用して、Web ベース、Java、または Windows アプリケーションの画面上の要素を識別してキャプチャします。

始める前に

[要素をキャプチャ] ダイアログは、以下のコネクタで使用できます。

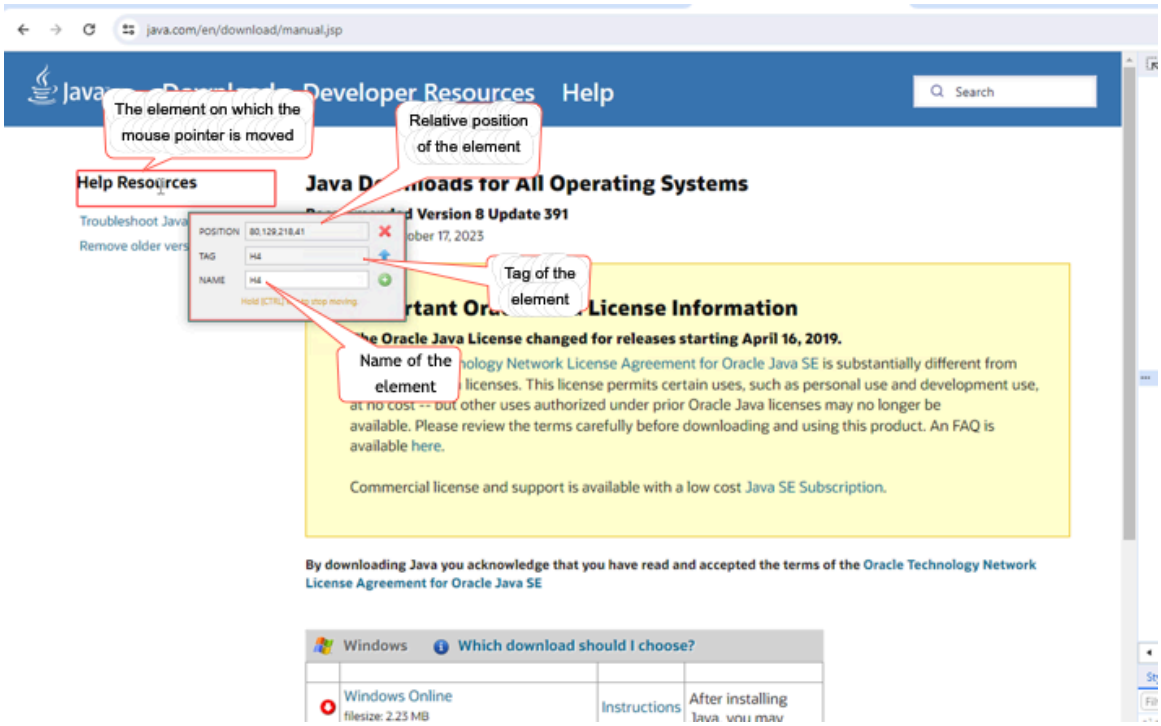
- Java
- Chromium
- IE
- Windows
- Universal App Connector

必要なロール：なし

手順

1. キャプチャする要素にマウスデバイスを移動します。
   [要素をキャプチャ] ダイアログに情報が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



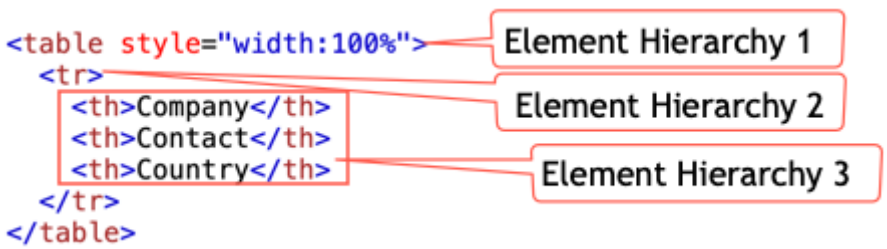
注: デフォルトでは、[要素をキャプチャ] ダイアログの [名前] フィールドに要素の名前が表示されます。要素の名前が利用できない場合は、その ID が [名前] フィールドに表示されます。それ以外の場合は、要素タイプが [名前] フィールドに表示されます。

2. 要素をキャプチャするには、[要素の追加] アイコン ( ) を選択します。

注:

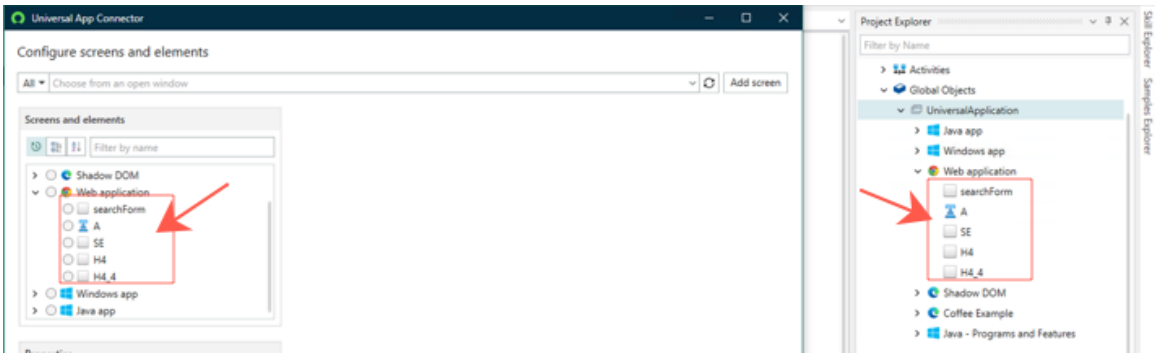
- キャプチャする画面要素の上にマウス ポインターを移動した後、[要素をキャプチャ] ダイアログが移動しないようにするには、Ctrl キーを押します。
- 必要に応じて、[名前] フィールドの要素にカスタム名を指定できます。その場合、要素は、[画面と要素] ペインと、グローバルオブジェクトのコネクタオブジェクトの両方で、カスタム名でキャプチャされます。それ以外の場合は、ターゲットアプリケーションが指定するデフォルトの名前でキャプチャされます。
- 同じ要素を複数回キャプチャする場合、キャプチャダイアログは要素の各インスタンスに一意の名前を指定します。たとえば、H4 要素を 3 回キャプチャする場合、その命名規則は H4、H4_1、H4_2 のようになります。

3. オプション: 現在の要素の階層の上位にある要素をキャプチャするには、[親要素に移動 (Move to parent element)] アイコン ( ) を選択します。
たとえば、HTML テーブル要素内の要素は階層順に表示されます。`table` 要素は最上位で、`th` は最下位です。HTML テーブル要素をキャプチャしようとすると、[要素をキャプチャ] ダイアログが `th` から `tr`、`table` 要素へと移動します。下図は要素の階層を示しています。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. オプション: さらに要素をキャプチャするには、マウスポインターを他の要素の上に移動し、前の手順を繰り返します。
5. [要素をキャプチャ] ダイアログを閉じるには、[要素をキャプチャダイアログを閉じる (close Capture element dialog)] アイコン ( ) を選択します。
キャプチャされた要素は、[画面と要素] ペインと、グローバルオブジェクトのコネクタオブジェクトの両方に表示されます。



Chromium コネクタのメソッド

Chromium コネクタのメソッドは、アプリケーション、画面、および Google Chrome と Microsoft Edge ブラウザーの画面上の要素に対して異なるタスクを実行します。

Chromium コネクタのメソッドレベル

アプリケーションレベルのメソッド

画面レベルのメソッド

要素レベルのメソッド

アプリケーションレベルのメソッド

ナビゲート

指定された URL に基づいて Web ページを起動します。

入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

Navigate メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
URL	Web ページの URL。	データ入力	文字列	デフォルト値なし	いいえ
タイムアウト	処理がタイムアウトするまでの時間を秒単位で指定するオプションです。	データ入力	整数	デフォルト値なし	いいえ
戻る	True の場合、Web ページは起動して	データ出力	ブール	適用外	適用外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Navigate メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
	います。False の場合、Web ページは起動していません。				

WaitForAnyScreen

指定された画面がロードされるまでの遅延時間を設定します。

画面を指定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. [画面を選択 (CHOOSE SCREENS)] ウィンドウで、必要な画面を選択します。
3. **[OK]** をクリックします。

フィールドに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

Navigate メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
MatchAllChildren	True の場合、画面がロードされる前に、メソッドは Web ページからキャプチャされた要素を照合します。False の場合、メソッドはどの要素とも照合しません。	データ入力	ブール	デフォルト値なし	いいえ	要素は、[Chromium コネクタ (Chromium Connector)] ウィンドウの [子要素を照合 (MATCH CHILDREN)] セクションにあります。
タイムアウト	処理がタイムアウトするまでの時間を秒単位で指定します。	データ入力	整数	デフォルト値なし	いいえ	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

画面レベルのメソッド

クローズ

キャプチャされた画面ウィンドウを閉じます。

重点

キャプチャされたウィンドウにフォーカスを設定します。

Navigate メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	True の場合、フォーカスはキャプチャされたウィンドウに設定されています。False の場合、フォーカスはキャプチャされたウィンドウに設定されていません。	データ出力	ブール	デフォルト値なし	適用外

GetFields

指定されたフィールドまたは要素の値を返します。たとえば、ボタンのテキストを返すことができます。

フィールドを指定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. [フォーム要素を選択 (CHOOSE FORM ELEMENTS)] ウィンドウで、必要なフィールドを選択します。
3. **[OK]** をクリックします。

GetFields メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
フィールドまたは要素の名前	メソッドが値を返すフィールドまたは要素です。	データ出力	文字列	デフォルト値なし	適用外

GetInnerHtml

キャプチャされた画面の内部 HTML を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetInnerHtml メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	キャプチャされた画面の内部 HTML を返します。	データ出力	オブジェクト	適用外	適用外

GetPageSource

キャプチャされた画面のページソースを返します。

GetPageSource メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	キャプチャされた画面のページソースを返します。	データ出力	文字列	適用外	適用外

GetScreenShot

設定された画面のスクリーンショットを返します。

GetScreenSpot メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	設定された画面のスクリーンショットを返します。	データ出力	ビットマップ	デフォルト値なし	適用外

GetTitle

キャプチャされた Web ページのタイトルを返します。

GetTitle メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	キャプチャされた Web ページのタイトルを返します。	データ出力	文字列	デフォルト値なし	適用外

GetURL

キャプチャされた Web ページの URL を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetURL メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	キャプチャされた Web ページの URL を返します。	データ出力	文字列	デフォルト値なし	適用外

GetValueByXPath

指定された XML パスから、XML ノード内の値を返します。

フィールドに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

GetValueByXPath メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
XPath	キャプチャされた Web ページの XPath。	データ入力	文字列	デフォルト値なし	いいえ
戻る	XML ノードから値を返します。	データ出力	文字列	適用外	適用外

IsCreated

Web アプリケーション上で画面が正常にレンダリングされたかどうかを示すブール値を返します。

フィールドに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

IsCreated メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルトタイプ	必須？	メモ
MatchAllChildTree	の場合、画面がレンダリングされる前に、メソッドはキャプチャされたすべての要素との照合を試行します。False の場合、照合は行われません。	データ入力	ブール	デフォルト値なし	いいえ	キャプチャされた要素は、[Chromium コネクタ (Chromium Connector)] ウィンドウの [子要素を照合 (MATCH CHILDREN)] セクションにあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IsCreated メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルトタイプ	必須？	メモ
戻る	True の場合、画面は正常にレンダリングされました。False の場合、画面のレンダリングは失敗しました。	データ出力	ブーリアン	適用外	適用外	

要素レベルのメソッド

クリック

要素に対してクリック操作を実行します。

重点

要素にフォーカスを設定します。

フィールドに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

Focus メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
scrollIntoView	True の場合、メソッドはスクロールバーを使用して、Web ページ上のキャプチャされた要素に移動します。False の場合、キャプチャされた要素にスクロールしません。	データ入力	ブール	デフォルト値なし	いいえ
戻る	True の場合、メソッドは要素にフォーカスを設定します。False の場合、メソッドは要素へのフォーカスの	データ出力	ブール	適用外	適用外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Focus メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
	設定に失敗しました。				

GetInnerHTML

キャプチャされた要素の内部 HTML を返します。

GetInnerHTML メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	キャプチャされた要素の内部 HTML を返します。	データ出力	文字列	デフォルトタイプなし	適用外

GetInnerText

キャプチャされた要素の内部テキストを返します。

GetInnerText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	キャプチャされた要素の内部テキストを返します。	データ出力	文字列	適用外	適用外

GetOuterHTML

キャプチャされた要素の HTML 要素とその属性、開始タグ、終了タグを返します。

GetOuterHTML メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	キャプチャされた要素の外部 HTML を返します。	データ出力	文字列	デフォルト値なし	適用外

GetOuterText

キャプチャされた要素のテキストコンテンツを返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetOuterText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	キャプチャされた要素のテキストコンテンツを返します。	データ出力	文字列	デフォルト値なし	適用外

IsCreated

キャプチャされた要素がロードされたかどうかを示すブールステータスを返します。

IsCreated メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	True の場合、キャプチャされた要素はロードされています。False の場合、キャプチャされた要素のロードに失敗しました。	データ出力	ブール	デフォルト値なし	適用外

SetPassword

たとえば、ログインフォームのパスワードフィールドにパスワードを安全に入力するなど、Web ベースのアプリケーションのパスワードフィールドへのパスワードの安全な入力を自動化します。

フィールドに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

SetPassword メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
パスワード	パスワードをセキュリティで保護された文字列として受け入れます。	データ入力	セキュリティで保護された文字列	なし	はい	パスワードはセキュリティで保護された文字列として受け入れられるため、パラメーターを右クリックして [データをプレビュー] をクリックした

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetPassword メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
						ときに文字列の長さのみが表示されます。
UseSendKeys	SendKeys は、文字、数字、記号などのキーボード入力をアプリケーション内のテキストボックスに送信するために使用されるメソッドです。	データ入力	ブール	False	はい	ヒント: **SetPassword** メソッドで [パスワード] フィールドにパスワードを入力できなかった場合は、値を **[True]** に設定し、メソッドを再度実行します。

SendKeys

キャプチャされた要素にショートカットキーを渡します。

フィールドに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

SendKeys メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
キー	ショートカットキーを取得します。	データ入力	文字列	デフォルト値なし	いいえ
ClearExistingValue	True の場合、メソッドはフィールド内の既存の値をすべてクリア	データ入力	ブール	デフォルト値なし	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SendKeys メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
	します。False の場合、既存の値はクリアされません。				
TypeDelay	各キー間の入力遅延を設定します。	データ入力	倍精度	デフォルト値なし	いいえ

GetInstanceCount

要素が利用可能なインスタンスの数を返します。

GetOuterHTML

キャプチャされた要素の外部 HTML を取得します。

SendKeys

Web ページとウィンドウ上のキーストロークをシミュレートします。

入力

ClearExistingValue

TypeDelay

SimulateMouseEvent

Web ベースのアプリケーションの要素に指定したマウスイベントをシミュレートします。たとえば、要素の右クリックをシミュレートします。

重要: 要素でマウスイベントをシミュレートするには、その特定のイベントが Web ページの HTML ですでに定義されている必要があります。たとえば、要素の `contextmenu` イベントをシミュレートするには、要素に HTML で定義された `contextmenu` イベントが既に存在している必要があります。

フィールドに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

SimulateMouseEvent メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
MouseEvent	キャプチャされた Web ページの要素で発生するマウスイベント。Web ページの要素でマウスイベントが	データ入力	MouseEventType	click	はい	このメソッドは、これらのマウスイベントをサポートします。 • click • dblclick

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SimulateMouseEvent メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
	発生する時点で、その要素には既に HTML で定義されたマウスイベントが必要です。					• mousedown • mouseup • mouseover • mousemove • mouseout • Contextmenu
MouseButton	キャプチャされた Web ページの要素で、マウスボタンのクリックをシミュレートします。	データ入力	MouseButton タイプ	左	はい	このメソッドは、これらのマウスボタンアクションをサポートします。 • 左 • 中央 • 右

SimulateEvent

Google Chrome ページまたはページ上の要素で、指定した HTML イベントをシミュレートします。

フィールドに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

SimulateEvent メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
EventName	HTML イベントの名前です。このメソッドは指定されたイベントをサポートしているため、指定されたとおりにイベントの名前を正確に入力する必要があります。 HTML イベント • load • unload	データ入力	文字列	なし	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SimulateEvent メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
	• 中止 • エラー • 選択 • 変更 • 送信 • リセット • focus • ぼかし • resize • スクロール				

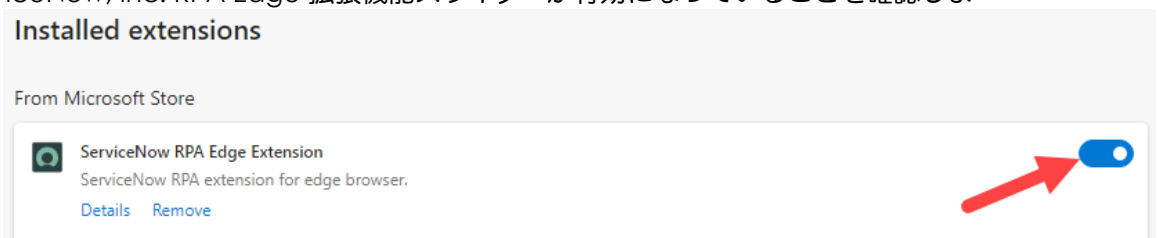
ServiceNow RPA Edge 拡張機能の追加

Edge ブラウザーに ServiceNow RPA Edge 拡張機能を追加し、このブラウザーで開いた Web アプリケーション上の要素と Chromium コネクタがやり取りできるようにします。

始める前に
必要なロール：なし

手順

1. https://microsoftedge.microsoft.com/addons/detail/servicenow-rpa-edge-exten/cdbeoliogepmegmacldfbklgboifhkhg に移動します。
2. [取得] をクリックします。
3. [Microsoft Edge に ServiceNow, Inc. RPA Edge 拡張機能を追加 (Add "ServiceNow, Inc. RPA Edge Extension" to Microsoft Edge)] ダイアログボックスで、[拡張を追加] をクリックします。
4. 拡張が追加されたかどうかを確認するには、次のアクションを実行します。
   a. Edge ブラウザーを開きます。
   b. 右上隅にある 3 つのドットアイコン (···) をクリックします。
   c. [拡張] をクリックします。
   d. [拡張] ポップアップウィンドウで、[拡張機能を管理 **(Manage extensions)]** をクリックします。
   e. ServiceNow, Inc. RPA Edge 拡張機能スライダーが有効になっていることを確認します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カウンタ

Counter コネクタは、RPA デスクトップデザインスタジオ の自動化 ワークフロー の一部として、整数のインクリメントやデクリメントを行います。

- Counter コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

Counter コネクタのメソッド

Counter コネクタのメソッドは、RPA デスクトップデザインスタジオ の自動化 ワークフロー の一部として、整数をインクリメント、デクリメント、またはリセットします。すべてのメソッドには、更新可能なプロパティがあります。

稼働中

整数を指定した値だけインクリメントします。

入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

Up メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
値	カスタム整数値	データ入力	整数	1	あり

プロパティを表示または更新するには、「Counter メソッドのプロパティ」を参照してください。

ダウン

整数を指定した値だけデクリメントします。デフォルトの整数は 1 です。

入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

Up メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須
値	カスタム整数値	データ入力	整数	1	あり

プロパティを表示または更新するには、「Counter メソッドのプロパティ」を参照してください。

値

Up または Down メソッドで整数をインクリメントまたはデクリメントした後の値を返します。

注: Value メソッドを実行する前に、Up または Down メソッドを実行する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Up メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須
戻る	インクリメントまたはデクリメントされた値	データ出力	整数	0	あり

プロパティを更新するには、「Counter メソッドのプロパティ」を参照してください。

リセット

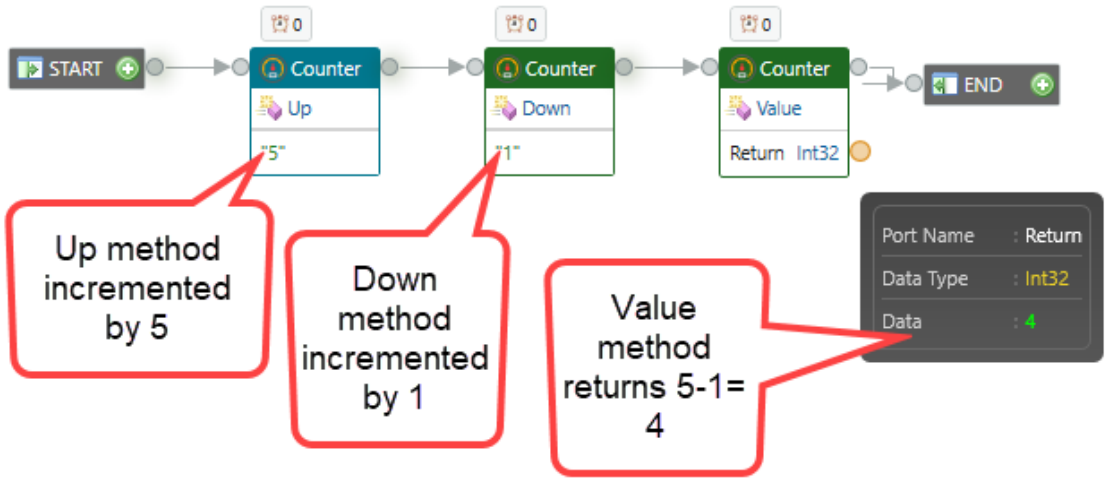
Value メソッドの現在の値を `null` にリセットします。

注: Value メソッドを実行した後で、Reset メソッドを実行する必要があります。

プロパティを表示または更新するには、「Counter メソッドのプロパティ」を参照してください。

例

次の例は、 Counter コネクタのメソッドの使用方法を示していま



す。

Counter メソッドのプロパティ

Counter メソッドのプロパティを表示または更新します。

Counter メソッドのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

C#.Net

C#.Net コネクタを使用すると、カスタムクラスとメソッドを設定することでカスタム C#.Net スクリプトを作成および実行し、RPA デスクトップデザインスタジオ の自動化の一部としてそれらを含めることができます。

- C#.Net コネクタをインストールするには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でのプラグインの管理」を参照してください。
- C#.Net コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- C#.Net コネクタを構成するには、「C#.Net コネクタの設定」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

C#.Net コネクタの設定

RPA デスクトップデザインスタジオ の C#.Net コネクタを使用して、カスタム C#.Net スクリプトを記述および検証し、自動化の一部として実行します。

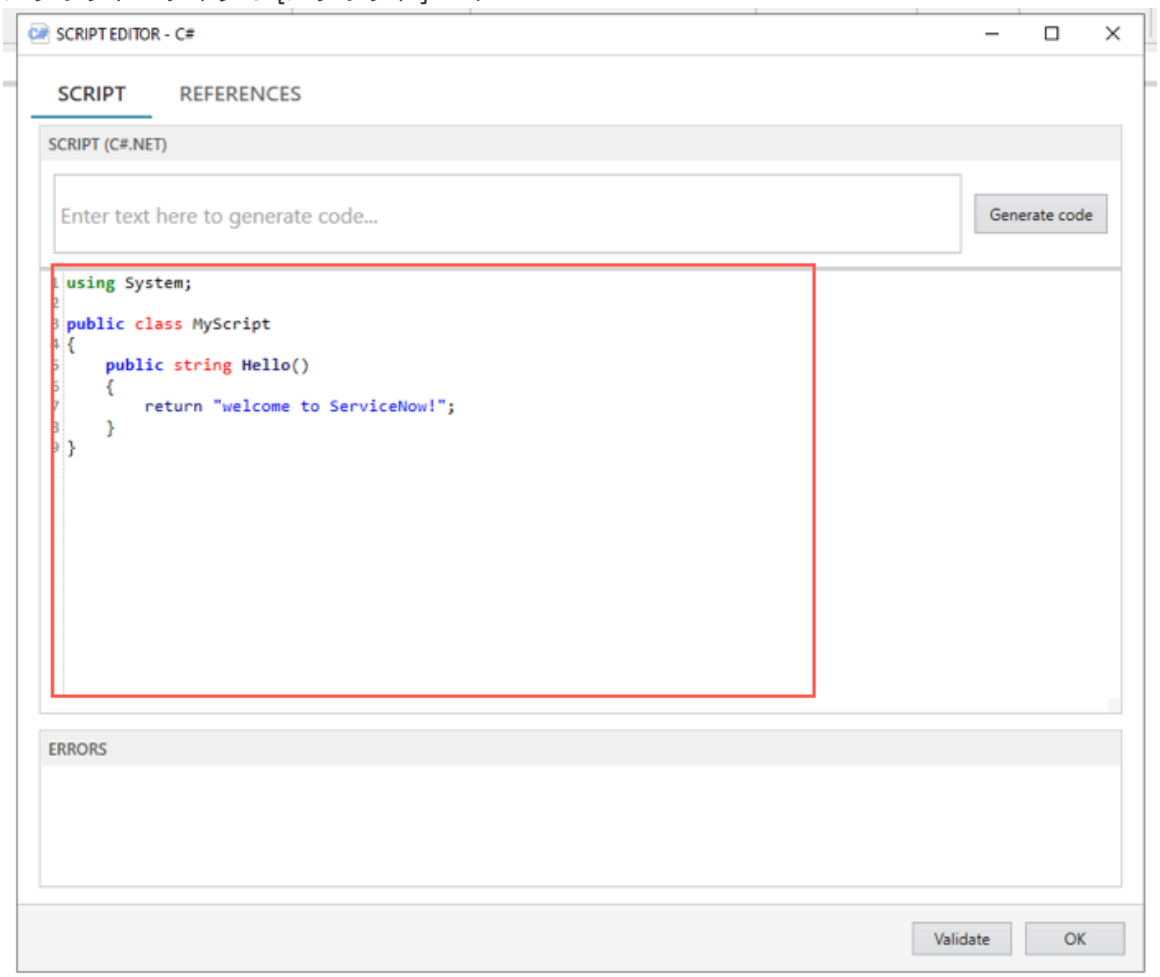
始める前に
必要なロール：開発者

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Connectors]** > **[C#.NET]**に移動します。
2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの **[Global Objects]** に C#.Net コネクタをドラッグします。
3. [グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** の C#.Net コネクタを右クリックし、[構成] を選択します。
   [スクリプトエディタ] ウィンドウが表示されます。
4. [スクリプト] ペインでカスタムスクリプトを入力します。

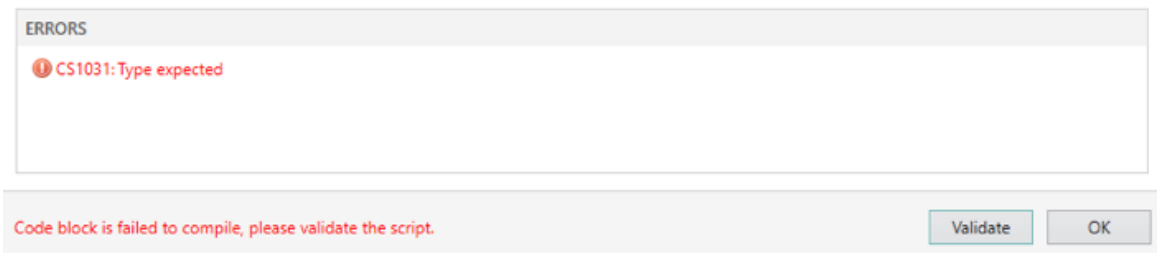
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトエディタの [スクリプト] ペイン



5. オプション: カスタムスクリプトにダイナミックリンクライブラリ (DLL) 参照を追加する場合は、[参照] タブセクションから [参照を追加] を選択します。
参照は、[参照マネージャー (Reference Manager)] ウィンドウとコンピューターから選択できます。
6. [検証] を選択します。
カスタムスクリプトにエラーがある場合は、[エラー] ペインに表示されます。エラーを解決し、[検証] を選択してエラーを再度確認します。

スクリプトエディタの [エラー] ペイン



7. **[OK]** をクリックします。
変更を保存する場合は、[はい]を選択します。エラー検証が再度実行され、変更が保存されます。
変更を破棄する場合は、[いいえ] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク
これで、C#.Net コネクタを使用して作成したカスタムスクリプトを自動化で使用する準備ができました。

C# コネクタのメソッド

C# コネクタメソッドを使用すると、C#.Net コネクタの設定中に、作成したカスタム C# スクリプトを実行できます。

実行

構成ウィンドウで設定した C# スクリプトを実行します。メソッドを実行する前に、コネクタを設定する必要があります。「C#.Net コネクタの設定」を参照してください。

メソッドを実行するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. **[Classes]** リストから、C#.NET コネクタの設定中に定義されたクラスを選択します。
3. **[Methods]** リストから、C#.NET コネクタの設定中に定義されたメソッドを選択します。
4. **[OK]** をクリックします。

   出力を返すデータ出力ポートが作成されます。
5. メソッドをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Execute メソッドのパラメーター

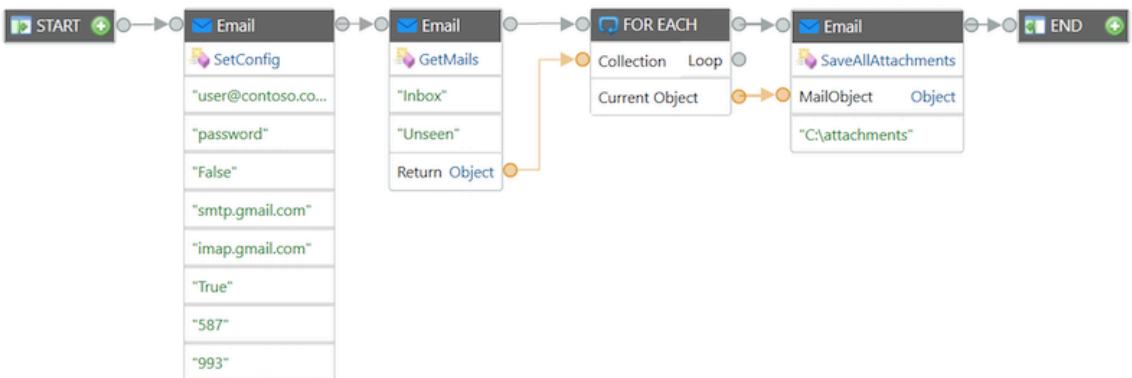
パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須
結果	スクリプトの出力を返します。	データ出力	文字列	適用外	適用外

Email コネクタ

Email コネクタを使用すると、RPA デスクトップデザインスタジオの自動化でメールを操作できます。たとえば、自動化では、メールメッセージの送信、取得、返信を行ったり、添付ファイルを自動的にダウンロードしたりできます。

注: Email コネクタは、Microsoft Outlook、Yahoo! Mail、その他多数の IMAP メールサーバーでのみ機能します。現在、Gmail にアクセスすることはできません。

Email コネクタを使用した自動化の例



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この自動化の例では、Email コネクタの SetConfig メソッドが、アカウント所有者の認証情報を使用してメールサーバーにログインします。次に、GetMail メソッドが、アカウントの受信ボックスからすべての未読メッセージを取得します。For Each ループを使用することにより、自動化は取得したメッセージを反復処理し、各メッセージの添付ファイルをローカルドライブ上の指定された場所に保存します。

- RPA デスクトップデザインスタジオでのコネクタの使用については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- RPA デスクトップデザインスタジオでコネクタメソッドを表示する方法については、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- コネクタメソッドの使用方法については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

Email コネクタのメソッド

Email コネクタのメソッドは、メールメッセージを取得、送信、返信し、添付ファイルをダウンロードします。最初に SetConfig メソッドを使用して、メール サーバーへの接続を設定します。

SetConfig メソッドを使用して、メールサーバーのプロパティとアクセス認証情報を構成します。このメソッドは、自動化の他のすべての Email コネクタメソッドよりも優先する必要があります。

GetMails メソッドは、メールサーバーからメッセージを取得し、1 つ以上のメッセージを含むオブジェクトとして他のメソッドに渡します。ReadMail、ReplyMail、および SaveAllAttachments メソッドは、1 つのメッセージに対して同時に動作します。これらのメソッドが複数のメッセージを含むオブジェクトを受け取る場合、自動化は For Each メソッドまたは For Loop メソッドを使用して、コレクション内の各メッセージを反復処理する必要があります。

- For Each メソッドの使用方法については、「For Each コンポーネントの使用」を参照してください。
- For Loop メソッドの使用方法については、「For Loop コンポーネントの使用」を参照してください。

SetConfig

自動化がメッセージを処理できるように、メールサーバーへの接続を設定します。

注: このメソッドは、Email コネクタの他のメソッドを実行する前に実行する必要があります。

パラメーターの設定方法については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

SetConfig メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
ユーザー名	メールサーバーにログインするためのユーザー名。	データ入力	文字列	(なし)	はい	
パスワード	メールサーバーにログインする	データ入力	文字列	(なし)	はい	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetConfig メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
	ためのパスワード					
UseDefaultCredentials	現在ログインしているユーザーのデフォルトの認証情報を SMTP サーバーに送信します。	データ入力	ブール	False	いいえ	
SmtpMailServer	SMTP サーバーの名前。	データ入力	文字列	smtp.gmail.com	いいえ	Email コネクタを使用した Gmail へのアクセスは現在サポートされていません。必ずデフォルト値を変更してください。
ImapMailServer	IMAP サーバーの名前	データ入力	文字列	imap.gmail.com	いいえ	Email コネクタを使用した Gmail へのアクセスは現在サポートされていません。必ずデフォルト値を変更してください。
SSL	Secure Socket Layer プロトコルを使用	データ入力	ブール	true	いいえ	
SmtpPort	SMTP ポート番号	データ入力	整数	587	いいえ	
ImapPort	IMAP ポート番号	データ入力	整数	993	いいえ	

GetMails

他のメソッドで使用するためにメールサーバーからメッセージを返します。既読 (開封済み) または未読 (未開封) のメッセージを取得するようにメソッドを設定し、収集されるフォルダーを指定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラメーターの設定方法については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

GetMails メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
FolderName	メソッドがコレクションをフェッチする IMAP フォルダーの名前 (例：受信ボックス)	データ入力	文字列	受信ボックス	はい	ネストされた IMAP フォルダーを指定するには、バックスラッシュ記号を使用してフォルダー階層を入力します (例：プロジェクト\会議)
フィルター	未読 (未開封) または既読 (開封済み) メッセージのみを取得するように設定	データ入力	FilterMode	未開封	はい	
戻る	メールコレクションをオブジェクトとして返します。	データ出力	オブジェクト	オブジェクト	はい	

MarkAsRead

指定したフォルダーのメッセージを既読としてマークします。

パラメーターの設定方法については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

MarkAsRead メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	ポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
MailObject	対応するメッセージを既読としてマークしたメールオブジェクト	データ入力	オブジェクト	オブジェクト	はい	
FolderName	メールオブジェクトがフェッチされる IMAP フォルダーの名前	データ入力	文字列	受信ボックス	はい	ネストされた IMAP フォルダーを指定するには、バックスラッ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MarkAsRead メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	ポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
						シュ記号を使用してフォルダー階層を入力します (例：プロジェクト\会議)

MarkAsUnread

指定したフォルダーのメッセージを未読としてマークします。

パラメーターの設定方法については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

MarkAsRead メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	ポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
MailObject	未読としてマークされた、対応するメールに基づくメールオブジェクト。	データ入力	オブジェクト	オブジェクト	はい	
FolderName	メールオブジェクトがフェッチされる IMAP フォルダーの名前。	データ入力	文字列	受信ボックス	はい	ネストされた IMAP フォルダーを指定するには、バックスラッシュ記号を使用してフォルダー階層を入力します (例：プロジェクト\会議)

ReadMail

メッセージを読み取り、件名、本文、送信者 (差出人)、[CC] フィールドの受信者、[BCC] フィールドの受信者、添付ファイルの数などの詳細を返します。

パラメーターの設定方法については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ReadMail メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須
MailObject	受信した最後のメッセージの詳細を渡す MailObject	データ入力	オブジェクト	オブジェクト	はい
件名	メッセージの件名	データ出力	文字列	なし	いいえ
本文	メッセージの本文	データ出力	文字列	なし	いいえ
送信者	メッセージの送信者	データ出力	文字列	なし	いいえ
CC	CC でマークされた受信者	データ出力	文字列	なし	いいえ
BCC	BCC でマークされた受信者	データ出力	文字列	なし	いいえ
AttachmentsCount	メッセージ内の添付ファイルの数	データ出力	整数	なし	いいえ

ReplyMail

メッセージに自動的に返信します。パラメーターを使用して、メッセージの本文とその他の詳細を設定します。添付ファイルを含めることができます。

パラメーターの設定方法については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

ReplyMail メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
MailObject	メッセージの詳細を含むメッセージオブジェクト	データ入力	オブジェクト	オブジェクト	はい	
ReplyToAll	メールの宛先フィールドと CC フィールドのすべての受信者に返信します。	データ入力	ブール	False	いいえ	
BCC	メールの BCC フィールドのすべての受信者	データ入力	文字列	なし	いいえ	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ReplyMail メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
	に返信します。					
本文	返信メッセージの本文	データ入力	文字列	なし	いいえ	
IsHtmlBody	返信の本文が HTML 形式かどうかを示すオプション	データ入力	ブール	False	いいえ	
添付ファイル	返信メッセージの添付ファイル	データ入力	文字列	なし	いいえ	ファイルを添付するには、次の方法があります。 1. ファイルへのパスをフィールドに貼り付けます。 2. パスを囲む引用符を削除します。 複数の添付ファイルを指定するには、パスをカンマで区切ります。

SaveAllAttachments

メッセージのすべての添付ファイルをローカルドライブに保存します。

パラメーターの設定方法については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

SaveAllAttachments メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須
MailObject	メソッドが添付ファイルをダウンロード	データ入力	オブジェクト	オブジェクト	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SaveAllAttachments メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須
	するメッセージ				
FolderPath	添付ファイルのダウンロード先ディレクトリのパス	データ入力	文字列	なし	あり

SendMail

メッセージを送信します。パラメーターを使用して、メッセージの本文とその他の詳細を設定します。添付ファイルを含めることができます。

注: SetConfig メソッドを使用して、差出人アドレスを設定します。

パラメーターの設定方法については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

SendMail メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
ToAddress	メッセージの送信先アドレス	データ入力	文字列	なし	あり	
CC	CC フィールドに含めるアドレス	データ入力	文字列	なし	いいえ	
BCC	BCC フィールドに含めるアドレス	データ入力	文字列	なし	いいえ	
件名	メッセージの件名	データ入力	文字列	なし	いいえ	
本文	メッセージ本文	データ入力	文字列	なし	いいえ	
IsHtmlBody	返信の本文が HTML 形式かどうかを示すオプション	データ入力	文字列	False	いいえ	
添付ファイル	メッセージの添付ファイル	データ入力	文字列	なし	いいえ	ファイルを添付するには、次の方法があります。 1. ファイルへのパスをフィー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SendMail メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
						ルドに貼り付けます。 2. パスを囲む引用符を削除します。 複数の添付ファイルを指定するには、パスをカンマで区切ります。

Email メソッドのプロパティ

次のプロパティは、Email コネクタのメソッドごとに設定できます。プロパティを設定するには、メソッドをダブルクリックし、[プロパティ] ペインに値を入力します。

Email メソッドのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

Eventlog

Eventlog コネクタは、さまざまなソースからリッスンし、イベントとカスタムメッセージを Microsoft Event Viewer に書き込みます。

Eventlog コネクタは、イベントとメッセージをリッスンして Microsoft Event Viewer に書き込むためのメソッドとイベント、およびイベントを登録解除するためのメソッドを提供します。

- Eventlog コネクタとイベントを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

EventLog コネクタのイベントとメソッド

Eventlog コネクタは、自動化の一部として、ソースからイベントをリッスンし、Microsoft Event Viewer に書き込むためのメソッドとイベントを提供します。メソッドとイベントには、更新可能なプロパティがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OnEntryWritten

これは、ローカルコンピュータのイベントログにエントリが書き込まれたときに発生する、事前定義されたイベントです。

Event 出力

タイプ

ソース

メッセージ

書き込み

警告、情報、またはエラーを Microsoft Event Viewer に書き込みます。これには、メッセージとイベントのソースが含まれます。

入力

タイプ

ソース

メッセージ

廃棄

Write メソッドを実行すると、Microsoft Event Viewer にオブジェクトが書き込まれ、RPA デスクトップデザインスタジオ との接続が確立されます。Dispose メソッドを Write メソッドに接続すると、オブジェクトの接続が切断されます。

ListenEvents

OnEntryWritten イベントで指定されたイベントをリッスンします。

UnsubscribeToEvents

OnEntryWritten イベントからのイベントのリッスンを中止します。

OnEntryWritten

イベントタイプ、説明メッセージ、およびイベントのソースを出力として提供します。

EventLog コネクタメソッドのパラメーター

RPA デスクトップデザインスタジオ の EventLog コネクタメソッドのパラメーターについて説明します。

Eventlog コネクタメソッドのパラメーター

パラメーター名	説明	必須？
タイプ	ログに記録できるイベントのタイプです。すべてのイベントには共通の情報が定義されており、イベント固有のデータを含めることができます。 次の 3 つのタイプの情報が書き込まれます。	あり

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Eventlog コネクタメソッドのパラメーター (続く)

パラメーター名	説明	必須？
	• 情報 • エラー • Warning	
メッセージ	Microsoft イベントビューアーに記録される各イベントの説明メッセージです。	あり
ソース	イベントを記録するソフトウェアの名前です。	あり

パラメーターの入力

パラメーターに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

FTP

FTP コネクタを使用すると、FTP サーバーでさまざまなアクションを実行できます。たとえば、FTP サーバーとの間でファイルのアップロードまたはダウンロードを行うことができます。コネクタは、RPA デスクトップデザインスタジオ の自動化の一部として、これらのアクションを実行する複数のメソッドを提供します 。

FTP コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。

FTP コネクタのメソッドを使用するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。

メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。

メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

FTP コネクタのメソッド

FTP コネクタのメソッドは、自動化の一部として、ファイル転送プロトコル (FTP) サーバー上でさまざまなアクションを実行します。メソッドを有効にするには、適切なパラメーターを指定する必要があります。

SetConfiguration

ファイル転送プロトコル (FTP) サーバーアクセスの詳細を設定します。最初にこのメソッドを実行する必要があります。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

SetConfiguration メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
URL	ファイル転送プロトコル (FTP) の URL	データ入力	文字列	なし	あり

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetConfiguration メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
ユーザー名	ファイル転送プロトコル (FTP) サーバーにアクセスするためのユーザー名。	データ入力	文字列	なし	あり
パスワード	ファイル転送プロトコル (FTP) サーバーにアクセスするためのパスワードです。	データ入力	文字列	なし	あり

CreateFolder

ファイル転送プロトコル (FTP) サーバーにフォルダを作成します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

CreateFolder メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
FolderName	フォルダ名でフォルダが作成される ファイル転送プロトコル (FTP) サーバー内のパスです。	データ入力	文字列	なし	あり
戻る	フォルダが作成された場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。	データ出力	ブール	なし	適用外

DeleteFile

FTP サーバー内のファイルを削除します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DeleteFile メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
RemoteFilePath	ファイル転送プロトコル (FTP) サーバー内の削除するファイルへのパスです。	データ入力	文字列	なし	あり
戻る	ファイルが削除された場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。	データ出力	ブーリアン	適用外	適用外

DeleteFolder

ファイル転送プロトコル (FTP) サーバー内の指定されたフォルダを削除します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

DeleteFolder メソッドパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
RemoteFolderPath	フォルダ名を含む ファイル転送プロトコル (FTP) サーバー内のフォルダへのパスです。	データ入力	文字列	なし	あり
戻る	フォルダが削除された場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。	データ出力	ブーリアン	適用外	適用外

DownloadFile

ファイル転送プロトコル (FTP) サーバーからローカルドライブにファイルをダウンロードします。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DownloadFile メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
RemoteFile	ファイル転送プロトコル (FTP) 内のファイルへのパスとファイル名。	データ入力	文字列	なし	あり
LocalFile	ファイルがダウンロードされるローカルドライブ内のパスです。	データ入力	文字列	なし	あり
タイムアウト	ファイル転送プロトコル (FTP) サーバーへの要求がタイムアウトするまでの時間です。	データ入力	整数	なし	いいえ
戻る	ファイルがダウンロードされた場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。	データ出力	ブール	なし	適用外

DownloadFolder

ファイル転送プロトコル (FTP) サーバーからローカルドライブにフォルダをダウンロードします。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

DownloadFolder メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
RemoteFolderPath	ファイル転送プロトコル (FTP) 内のフォルダへのパスとフォルダ名。	データ入力	文字列	なし	あり
LocalFolderPath	フォルダがダウンロードされるローカルドライブ内のパスです。	データ入力	文字列	なし	あり

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DownloadFolder メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
タイムアウト	ファイル転送プロトコル (FTP) サーバーへの要求がタイムアウトするまでの時間です。	データ入力	整数	なし	いいえ
戻る	フォルダがダウンロードされた場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。	データ出力	ブール	なし	適用外

GetFileList

ファイル転送プロトコル (FTP) サーバー内のフォルダのファイルのリストを返します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

GetFileList メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
RemoteFolderPath	ファイル転送プロトコル (FTP) 内のフォルダへのパスとフォルダ名。	データ入力	文字列	なし	あり
戻る	フォルダ内のファイルのリストを返します。	データ出力	文字列	適用外	適用外

RenameFile

ファイル転送プロトコル (FTP) サーバー内のファイル名を変更します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

RenameFile メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
RemoteFilePath	ファイル転送プロトコル	データ入力	文字列	なし	あり

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RenameFile メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
	(FTP) サーバー内のファイルへのパスとファイル名です。				
NewNameofFile	ファイル転送プロトコル (FTP) サーバー内のファイルへのパスとファイルの新しい名前。	データ入力	文字列	なし	あり
戻る	ファイル名が変更された場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。	データ出力	ブーリアン	適用外	適用外

RenameFolder

ファイル転送プロトコル (FTP) サーバー内のフォルダ名を変更します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

RenameFolder メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
RemoteFolder	ファイル転送プロトコル (FTP) サーバー内のフォルダへのパスとフォルダ名です。	データ入力	文字列	なし	あり
NewNameofFolder	ファイル転送プロトコル (FTP) サーバー内のフォルダへのパスとフォルダの新しい名前です。	データ入力	文字列	なし	あり
戻る	フォルダ名が変更された場合は True を返し、それ以外	データ出力	ブーリアン	適用外	適用外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RenameFolder メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
	の場合は False を返します。				

UploadFile

ローカルドライブから ファイル転送プロトコル (FTP) サーバーにファイルをアップロードします。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

UploadFile メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
LocalFilePath	ローカルドライブ内のファイルへのパスです。	データ入力	文字列	なし	あり
RemoteFilePath	ファイル転送プロトコル (FTP) サーバー内の場所へのパス	データ入力	文字列	なし	あり
戻る	ファイルがアップロードされた場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。	データ出力	ブーリアン	適用外	適用外

UploadFolder

ローカルドライブから ファイル転送プロトコル (FTP) サーバーにフォルダをアップロードします。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

UploadFolder メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
LocalFolderPath	ローカルドライブ内のフォルダへのパスです。	データ入力	文字列	なし	あり
RemoteFolderPath	ファイル転送プロトコル (FTP) サーバー	データ入力	文字列	なし	あり

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UploadFolder メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
	内の場所へのパス。				
戻る	フォルダがアップロードされた場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。	データ出力	ブーリアン	適用外	適用外

FTP メソッドのプロパティ

FTP メソッドのプロパティを表示または更新します。

FTP メソッドのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

IdleTimer コネクタ

IdleTimer コネクタは、有人自動化内のアイドル時間を設定、開始、および終了します。

IdleTimer コネクタのメソッドを使用するには、まずそのメソッドを使用し、次にそのメソッドを公開する必要があります。

- コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

IdleTimer コネクタのメソッドとイベント

IdleTimer コネクタのメソッドとイベントについて説明します。

Start メソッド

最大アイドル時間を秒単位で設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Start メソッドのパラメーター

パラメーター名	ポートタイプ	データタイプ	説明	必須？
MaxIdleTime	データ入力	整数	最大アイドル時間 (秒) です。	あり

Stop メソッド

タイマーを停止します。

OnIdleStart

Start メソッドが実行されたときに自動化をトリガーします。

OnIdleStop

Start メソッドが実行されたときに自動化を停止します。

IE コネクタ

Internet Explorer (IE) コネクタを使用すると、IE ブラウザー、アプリケーション、およびブラウザー上の画面要素に対してさまざまなアクションを実行することができます。たとえば、Web サイトを開くメソッドを実行できます。メソッドを介してアクションを実行します。

IE コネクタのメソッドを使用するには、まずそのメソッドを使用し、次にそのメソッドを公開する必要があります。

- IE コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- IE コネクタを設定するには、「Internet Explorer コネクタの設定」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

IE コネクタのメソッドは、次のレベルで使用できます。

- コネクタ
- スクリーン
- 要素

IE コネクタのメソッドタイプ

メソッドレベル	説明
コネクタ	これらのメソッドは、IE ブラウザー上で Web サイトを開くことができます。他のメソッドを実行できるように、ブラウザーとアプリケーションを設定します。
スクリーン	これらのメソッドは、設定した画面でさまざまなアクションを実行します。たとえば、ボタンをクリックします。
要素	これらのメソッドは、画面上のさまざまな要素に対してさまざまなタスクを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: クロスドメイン iFrame を使用したページは、Internet Explorer ブラウザーではサポートされていません。

Internet Explorer コネクタの設定

IE コネクタを設定することで、すべてのレベルで IE コネクタのメソッドにアクセスできます。IE コネクタを設定する際に、画面とその要素をキャプチャします。

始める前に

Internet Explorer ブラウザーウィンドウで、少なくとも 1 つの Web サイトまたはアプリケーションが開いているか、アクティブになっていることを確認してください。

必要なロール：なし

手順

1. **[Connectors]** > **[IE Connector]**に移動します。
2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの Global Objects の下に IE コネクタをドラッグします。
3. Global Objects の下で IE コネクタを右クリックします。
4. [構成] をクリックします。
5. [利用可能な Web ページ (AVAILABLE WEB PAGES)] リストで、必要な Web ページを選択します。

   ヒント: ウィンドウがリストに表示されない場合は、更新アイコン ( ) をクリックします。

6. [画面を追加 **(Add Screen)]** をクリックします。
   [Web ページ (WEB PAGES)] セクションに Web ページが表示されます。
7. [Web ページ (WEB PAGES)] セクションで、Web ページの名前を右クリックします。
   画面がキャプチャされます。
8. [要素をキャプチャ **(Capture Element)]** をクリックします。
   コンテキストダイアログの詳細については、「[要素をキャプチャ] ダイアログの使用」を参照してください。
9. マウスデバイスを Web ページ上に移動して、要素をキャプチャします。
   マウスデバイスが Web ページ上を移動すると、マウスが通過した各要素の次の情報がコンテキストダイアログに表示されます。
   - 位置：Web ページ内の要素の位置
   - TAG：要素タグの名前
   - NAME：ユーザーが入力する要素のカスタム名です。このフィールドは、要素がキャプチャされるときに使用されます。

   マウスデバイスを要素の上に配置すると、赤色の境界線アイコン ( ) がその要素を示します。
10. コンテキストウィンドウで、[名前] フィールドに要素のカスタム名を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ヒント: コンテキストウィンドウが移動しないようにするには、**[Ctrl]** キーを押したままにします。

11. カスタム名を追加するには、名前を追加アイコン ( ) をクリックします。
要素がキャプチャされます。
12. コンテキストウィンドウを閉じるには、閉じるアイコン ( ) をクリックします。
コネクタ、アプリケーション、および要素の各レベルのメソッドがキャプチャされます。
13. コネクタ、アプリケーション、および要素の各レベルのメソッドを表示するには、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの Global Objects の下にある必要なコネクタレベルをダブルクリックします。
14. 手順を繰り返して、複数の要素をキャプチャします。

IE コネクタのメソッド

IE コネクタのメソッドは、IE コネクタ、画面、および画面上の要素に対してさまざまなタスクを実行します。メソッドは、コネクタ、画面、および要素レベルで使用でき、適切な手順を行うことで公開できます。

IE コネクタのメソッドレベル

コネクタレベルのメソッド

画面レベルのメソッド

要素レベルのメソッド

コネクタレベルのメソッド

ナビゲート

指定した URL に基づいて Web ページを開き、ブール応答を返します。

入力

URL

出力

Return (Boolean)

WaitForAnyScreen

このメソッドは、画面がロードされる前に待機時間を実行します。メソッドが要求をタイムアウトするまでの待機時間を指定できます。

Input

MatchAllChildren

タイムアウト

画面レベルのメソッド

DownloadFile

指定した URL とファイル名に基づいて、画面または Web ページからファイルをダウンロードします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

URL

fileName

出力

Return (Boolean)

ExecuteJavaScript

IE ブラウザーで開いているアプリケーションまたは Web サイトでカスタム JavaScript を実行します。実行する前に、メソッドを設定する必要があります。

JavaScript を設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. [JAVA スクリプト (JAVA SCRIPT)] セクションにカスタムスクリプトを入力します。
3. スクリプトにパラメーターを追加するには、PARAMETER の見出しの下にあるパラメーターの追加アイコン ( ) をクリックします。

   注: パラメーターごとに、データ入力ポートが追加されます。

4. **[OK]** をクリックします。

入力

パラメーター

出力

Return (Object)

GetValueByXPath

XPath を変換し、出力を文字列として返します。

入力

XPath (String)

出力

Return (String)

GetValuesByXPath

指定された XPath 式に基づいて、列内の値を返します。

Input

メソッドを実行する前に、 XPath 式を設定する必要があります。設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. 列の名前を更新します。
3. XPath 式を定義します。
4. **[OK]** をクリックします。

Output

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Return (DataTable)

ナビゲーターで

アクティブなブラウザーウィンドウを非表示にします。

復元

Hide メソッドを使用して非表示にしたブラウザーウィンドウを復元します。

GetURL

Web サイトまたは Web ページの URL を返します。

Output

Return (String)

WaitForCreate

Web ページまたはウィンドウがロードされるまでの遅延時間を設定します。

Inputs

timeoutInSeconds

MatchAllChildren

Outputs

Return (Boolean)

SetFields

フォームフィールドタイプでデータを設定します。

SendKeys

Web ページやウィンドウでのキーストロークをシミュレートします。

Inputs

キー

MatchAllChildren

TypeDelay

最小化

ウィンドウを最小化します。

最大化

ウィンドウを最大化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IsReady

Web サイトがメソッドからの要求を受け取る準備ができているかどうかを確認する要求に対するブール応答を返します。

Output

Return (Boolean)

MatchChildren

Web ページのすべてのキャプチャ要素を照合し、適宜、ブール応答を返します。メソッドがすべての子要素を照合するかどうかを設定可能です。

Input

matchAllChildren

Output

Return (Boolean)

IsCreated

Internet Explorer ブラウザーで Web サイトが開いているかどうかを確認する要求に対するブール応答を返します。オプションで、Web サイトのすべてのキャプチャ要素が一致するかどうかをメソッドに確認させることができます。

入力

MatchAllChildren

出力

Return (Boolean)

リフレッシュ

アクティブな Web ページのコンテンツを再ロードします。

SaveAs

アクティブな Web ページをローカルディスクに保存します。

印刷

ブラウザーのアクティブな Web ページを印刷します。

Input

NoPrompt

GetPageSource

IE ブラウザーで開いているアクティブなウィンドウのページソースを返します。

Output

Return (String)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetScreenShot

ウィンドウまたはウィンドウ内の領域のスクリーンショットを返します。

Output

Return (Bitmap)

GetTitle

IE ブラウザーで開いているウィンドウのタイトルを返します。

Output

Return (String)

GetFields

フォーム内のデータにアクセスし、そのデータを出力として返します。実行する前に、メソッドを設定する必要があります。

設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. フォームの要素を選択します。
3. フォームの要素のデータタイプを更新します。
4. **[OK]** をクリックします。

Output

フォームフィールド

重点

バックグラウンドで実行中のウィンドウや最小化されたウィンドウにフォーカスを設定し、アクティブにします。

Output

Return (Boolean)

クローズ

アクティブなウィンドウを閉じます。

要素レベルのメソッド

これらのメソッドは、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの Global Objects の下にあるアプリケーション要素をダブルクリックすると公開されます。

クリック

要素に対してクリック操作を実行します。

GetInnerHTML

要素の内部 HTML を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Output

Return (String)

GetInnerText

要素の内部テキストを取得します。

Output

Return (String)

GetOuterHTML

要素の外部 HTML を取得します。

Output

Return (String)

GetURL

要素の URL を取得します。

Output

Return (String)

IE コネクタメソッドのパラメーター

RPA デスクトップデザインスタジオ の Microsoft IE コネクタ (Internet Explorer) メソッドのパラメーターについて説明します。

IE コネクタメソッドのパラメーター

パラメーター名	説明	必須？
MatchAllChildren	画面がロードされる前に、メソッドがキャプチャされたすべての子画面および要素を画面と照合するかどうかをブール値で示すオプションです。 子画面および要素は、構成ウィンドウの [子要素を照合 (MATCH CHILDREN)] セクションにあります。	いいえ
Return (String)	値を返します。	適用外
Return (String)	Web ページまたは Web サイトの URL を返します。	適用外
Return (String)	Web ページのタイトルを返します。	適用外
XPath	XPath 値。	あり

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IE コネクタメソッドのパラメーター (続く)

パラメーター名	説明	必須?
Return (Bitmap)	Web ページのスクリーンショットをビットマップ形式で返します。	適用外
Return (Boolean)	フォーカスをウィンドウに設定してアクティブにする要求に対するブール応答です。	適用外
フォームのフィールド	フォームのデータを返します。	適用外
戻る	Web ページのページソースを返します。	適用外
Return (Object)	JavaScript を実行した後、出力をオブジェクトとして返します。	適用外
url	ダウンロードするファイルの URL。	あり
fileName	ダウンロードするファイルの名前。	あり
Return (Boolean)	ファイルのダウンロード要求に対するブール応答。	適用外
パラメーター	メソッドの設定時に追加したパラメーターの値です。	いいえ
Return (Boolean)	IE ブラウザー上の Web サイトまたは画面がメソッドからの要求を受け取る準備ができているかどうかを示すブール値です。	適用外
タイムアウト	待機要求がタイムアウトするまでの時間 (秒) です。 デフォルト値は 30 秒です。	いいえ
GetOuterHTML	外部 HTML を文字列形式で返します。	適用外
Return (String)	要素の内部 HTML を文字列で返します。	適用外
Return (String)	要素の URL を文字列形式で返します。	適用外
Return (Boolean)	メソッドが画面のロードを待機したかどうかに対するブール応答です。	適用外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IE コネクタメソッドのパラメーター (続く)

パラメーター名	説明	必須?
キー	ブラウザーで開いている Web ページで操作するキーを指定します。	あり
GetInnerText	要素の内部 HTML を文字列で返します。	適用外
MatchAllChildren	キーを送信する前に、メソッドが Web ページのすべての子要素を照合するかどうかを示すブールオプションです。	いいえ
TypeDelay	メソッドが要求を送るまでの遅延時間。	いいえ
timeoutInSeconds	要求がタイムアウトするまでの時間 (秒) です。	あり
NoPrompt	メソッドを介して Web ページを印刷するためのプロンプトが渡されるかどうかを示すブールオプションです。	あり
matchAllChildren	メソッドが画面のすべての子要素を照合するかどうかを示すブールオプションです。	適用外
Return (Boolean)	Web ページを開く要求に対するブール応答を返します。	適用外
URL	開かれる Web ページのアドレスです。	あり
Return (Boolean)	Web サイトまたは画面がブラウザー上で開いているかどうかを確認する要求に対するブール応答です。	適用外
Return (Boolean)	すべての子要素が照合されたかどうかを示すブール応答です。	適用外
XPath (String)	メソッドが文字列に変換する XPath を指定するオプションです。	あり
Return (String)	変換された XPath を文字列として返します。	適用外

パラメーターの入力

入力については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

Java

Java コネクタを使用すると、RPA デスクトップデザインスタジオ の自動化の一部として、Java アプリケーションに対するさまざまなアクションを実行できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要: Java コネクタは、Oracle Java Access Bridge を内部で使用して Windows デスクトップ用にビルドされたアプリケーションとやり取りします。Oracle が公開しているこのライブラリの既知の問題や制限事項が適用されます。

RPA デスクトップデザインスタジオ のコンテキストでは、Java アプリケーションに、コネクタ、画面、および要素の 3 つのレベルがあります。Java コネクタは 3 つのレベルすべてでメソッドを公開し、これらのメソッドによって、3 つのレベルすべてでさまざまなアクションを実行できます。たとえば、あるメソッドが最小化された画面をクリックしてフォーカスを戻し、別のメソッドが画面上のボタンをクリックしてデータを送る、という順序で行うことができます。

Java コネクタを使用するには、次の手順を実行します。

1. Java コネクタを使用します。「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
2. コネクタを設定します。「Java コネクタの設定」を参照してください。
3. メソッドを公開します。「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
4. メソッドを使用します。「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

Java コネクタのメソッドは、次のレベルで使用できます。

- コネクタ
- スクリーン
- 要素

Java コネクタのメソッドのタイプ

メソッドレベル	説明
コネクタ	これらのメソッドは、Java アプリケーションに対してさまざまなアクションを実行します。たとえば、アプリケーションの作業ディレクトリを設定できます。
スクリーン	これらのメソッドは、Java アプリケーションの画面でさまざまなタスクを実行します。たとえば、あるメソッドでは最小化された画面をクリックし、フォーカスを戻すことができます。
要素	これらのメソッドは、Java アプリケーションの画面の要素に対してさまざまなタスクを実行します。たとえば、あるメソッドではボタンをクリックすることができます。

警告: Java コネクタは、Java 32 ビットがインストールされているマシンでは機能しません。

ワークアラウンドとして、Oracle の Web サイトにある特定の Java バージョン用 WindowsAccessBridge-64.dll をターゲットマシンの C:\Windows\System32 フォルダーにコピーしてください。

Java コネクタの設定

Java コネクタを設定して、自動化が実行される Java アプリケーション画面と要素を設定します。設定後は、コネクタ、画面、および要素の各レベルでメソッドを公開できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
RPA デスクトップデザインスタジオ に Java プラグインがインストールされていることを確認してください。インストールするには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でのプラグインの管理」を参照してください。

Java がコンピュータにインストールされていることを確認してください。

少なくとも 1 つの Java アプリケーションウィンドウがアクティブまたは開いていることを確認してください。

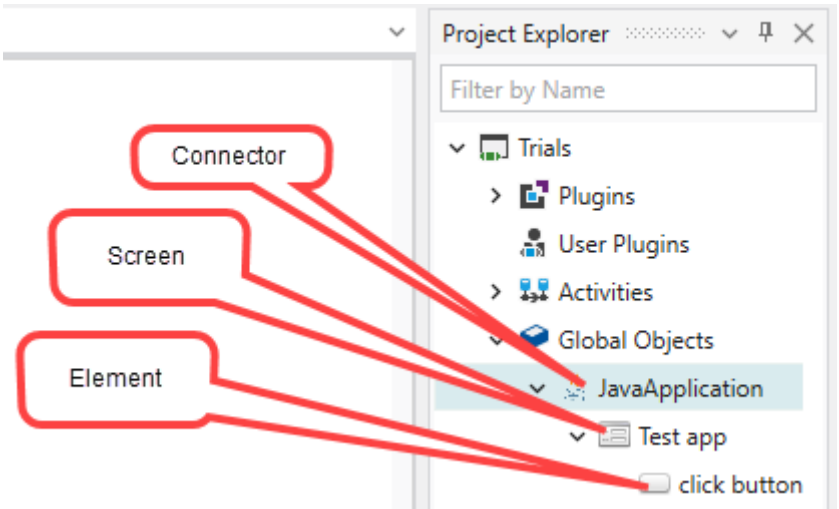
必要なロール：なし

手順

1. **[Connectors]** > **[Java Connector]**に移動します。
2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの Global Objects の下に Java コネクタをドラッグします。
3. Global Objects の下で Java コネクタを右クリックします。
4. [構成] をクリックします。
5. [使用可能なウィンドウ (AVAILABLE WINDOWS)] リストで、Java アプリケーションを選択します。

   ヒント: ウィンドウがリストに表示されない場合は、更新アイコン ( ) をクリックします。

6. [ウィンドウを追加 **(Add Window)]** をクリックします。
   画面は、[ウィンドウ (WINDOWS)] セクションの下にキャプチャされます 。
7. オプション: さらにアプリケーションを追加するには、手順を繰り返します。
   [Java コネクタ (Java Connector)] ウィンドウの詳細については、次を参照してください。
8. [ウィンドウ (WINDOWS)] セクションで、ウィンドウの名前を右クリックします。
9. [要素を追加 **(Add Element)]** をクリックします。
10. 要素をキャプチャするには、コンテキストダイアログを使用します。
    コンテキストダイアログを使用するには、「[要素をキャプチャ] ダイアログの使用」を参照してください。
11. [Java コネクタ (Java Connector)] ウィンドウを閉じるには、**[OK]** をクリックします。
    コネクタ、画面、およびその要素が設定されま



す。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Java コネクタのメソッド

Java コネクタは、コネクタ、画面、および要素の各レベルのメソッドを公開します。すべてのタイプの要素には共通のメソッドがありますが、異なるメソッドもあります。

コネクタレベルのメソッド

開始

Java アプリケーションをその場所から起動し、フォーカスします。

注: 最初にこのメソッドを実行する必要があります。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

Start メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
パス	ローカルドライブ内の Java アプリケーションへのパスです。	データ入力	文字列	なし	あり
引数	パスの引数です。	データ入力	文字列	なし	いいえ

GetMainWindowHandle

Start メソッドによって起動された Java アプリケーションのウィンドウハンドルを返します。

GetMainWindowHandle メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	アプリケーションのウィンドウハンドルを返します。	データ出力	整数	なし	適用外

GetMainWindowTitle

Java アプリケーションウィンドウのタイトルを返します。

GetMainWindowTitle メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	アプリケーションウィンドウのタイ	データ出力	文字列	なし	適用外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetMainWindowTitle メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
	トルを返します。				

CloseMainWindow

メインの Java アプリケーションウィンドウを閉じます。

終了

メインの Java アプリケーションウィンドウを終了します。

画面レベルのメソッド

クローズ

アクティブな Java アプリケーションウィンドウを閉じます。

重点

Java アプリケーションウィンドウが最小化されているか、バックグラウンドで実行されている場合、このメソッドはフォーカスを復元します。

GetFields

Java アプリケーションのテキストフィールドからデータを取得します。最初にテキストフィールドを設定する必要があります。設定するには、次の手順を実行します。

1. Java コネクタの設定 を行い、1 つまたは複数のテキストフィールドをキャプチャします。
2. 画面レベルのメソッドを公開します。「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
3. [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインから、GetFields メソッドを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
4. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
5. 1 つまたは複数のテキストフィールドを選択します。
6. テキストフィールドのデータタイプを更新します。
7. [フォーム要素を選択 (CHOOSE FORM ELEMENTS)] ウィンドウを閉じるには、**[OK]** をクリックします。

   選択したテキストフィールドごとに、データ出力ポートが作成されます。

これで、GetFields メソッドはテキストフィールドに含まれるデータを返すことができます。

GetInstanceCount

開いている Java アプリケーションのインスタンスの合計数を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetInstanceCount メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	開いている Java アプリケーションのインスタンスの合計数を返します。	データ出力	整数	なし	適用外

GetScreenShot

Java アプリケーション画面のスクリーンショットをキャプチャして返します。

GetInstanceCount メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	Java アプリケーション画面のスクリーンショットを返します。	データ出力	ビットマップ	なし	適用外

GetWindowHandle

Java アプリケーション画面ウィンドウの Windows ハンドル番号を返します。

GetInstanceCount メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	Java アプリケーション画面ウィンドウの Windows ハンドル番号を返します。	データ出力	整数	なし	適用外

IsCreated

設定されたウィンドウのルールが一致するかどうかを示すブール応答を返します。Java アプリケーション画面を設定すると、[Java コネクタ (Java Connector)] ウィンドウの [一致ルール (MATCH RULES)] セクションに、設定された画面と照合する特定のルールが表示されます。メソッドは同じルールを照合します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IsCreated メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
MatchAllChildren	画面の要素のルールを照合した後のブール応答を返します。	データ入力	ブール	なし	いいえ	このパラメーターは、1 つまたは複数の要素をキャプチャする場合に関連しています。
戻る	設定した Java アプリケーション画面のルールが一致したかどうかを示すブール応答を返します。	データ出力	ブール	Null	適用外	

最大化

Java アプリケーションウィンドウを最大化します。

最小化

Java アプリケーションウィンドウを最小化します。

MouseAction

左クリック、右クリック、中央クリックなど、Java アプリケーションに対するさまざまなマウスデバイスアクションを実行します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

MouseAction メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
アクション	マウスデバイスアクションを指定します。	データ入力	マウスデバイス入力	なし	あり
ClickMiddle	中央クリックを実行するかどうかを指定します。	データ入力	ブール	なし	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サイズを変更

Java アプリケーションウィンドウの幅、高さ、および位置を X 軸方向および Y 軸方向で変更します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

Resize メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
xPos	画面上のウィンドウの X 軸方向の位置です。	データ入力	整数	なし	いいえ
yPos	画面上のウィンドウの Y 軸方向の位置です。	データ入力	整数	なし	いいえ
幅	ウィンドウの幅です。	データ入力	整数	なし	いいえ
高さ	ウィンドウの高さです。	データ入力	整数	なし	いいえ

復元

Java アプリケーションウィンドウを元の寸法に戻します。Maximize メソッドや Minimize メソッドを実行した後に、このメソッドを使用できます。

SendKeys

Java アプリケーションのアクティブなフィールドにデータまたはキーボード入力を送ります。たとえば、文字列データ「RPA」またはキーボード入力 [Space] を送って、チェックボックスをオフにすることができます。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

WaitForCreate メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
キー	アクティブなフィールドにデータまたはキーボード入力を送ります。	データ入力	文字列	なし	あり
ClearExistingValue	データまたはキーボード入力を送る前に、アクティブなフィールドの既存の値	データ入力	ブール	なし	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

WaitForCreate メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
	をクリアします。				
TypeDelay	アクティブなフィールドにデータまたはキーボード入力を送るまでの遅延時間を設定します。	データ入力	整数	なし	いいえ

SetFields

Java アプリケーション画面からキャプチャされたテキストフィールドの要素にカスタムテキストを設定します。

メソッドを使用するには、次の手順を実行します。

1. [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインから、SetFields メソッドを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
2. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
3. 1 つまたは複数のテキストフィールドを選択します。
4. テキストフィールドのデータタイプを更新します。
5. **[OK]** をクリックします。

   選択したテキストフィールドごとに、データ入力ポートが作成されます。文字列を渡して、Java アプリケーションのフィールドに設定できます。

   パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

WaitForCreate

Java コネクタで設定する各画面は、[Java コネクタ (Java Connector)] ウィンドウの [一致ルール (MATCH RULES)] セクションに表示されるいくつかのルールによって識別されます。このメソッドは、設定した画面のルールが一致するどうかを示すブール応答を返します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

WaitForCreate メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
timeoutinSeconds	メソッドの処理がタイムアウトするまでの時間です。	データ入力	整数	なし	いいえ
MatchAllChildren	画面の要素のルールを照合した後のブー	データ入力	ブール	なし	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

WaitForCreate メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
	ル応答を返します。				
戻る	設定した Java アプリケーション画面のルールが一致したかどうかを示すブール応答を返します。	データ出力	ブール	なし	いいえ

要素レベルのメソッド

GetAccessibleActions

要素に対して実行できるアクションのリストを返します。たとえば、ボタンの場合は `Click` を返します。

GetText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	要素に対して実行できるアクションのリストを返します。	データ出力	リスト	なし	適用外

GetInstanceCount

Java アプリケーションの要素タイプの合計数を返します。たとえば、アプリケーションにテキストボックスが 3 つある場合、インスタンス数は 3 です。

GetText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	アプリケーションの要素タイプのインスタンス数を返します。	データ出力	整数	なし	適用外

GetText

Java アプリケーションのキャプチャされたテキストボックスの要素からテキストを返します。複数のテキストボックスから複数のテキストをキャプチャするには、複数のテキストボックス要素を設定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
テキスト	Java アプリケーションのテキストボックスに含まれるテキストを返します。	データ出力	文字列	なし	適用外

IsCreated

設定した要素のルールが一致するかどうかを示すブール応答を返します。

IsCreated メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	設定した要素のルールが一致するかどうかを示すブール応答を返します。	データ出力	ブール	null	適用外

MouseClick

キャプチャされた要素に対して左クリックを実行します。

PerformAction

要素に対して指定されたアクションを実行します。たとえば、ボタンをクリックします。各要素は、GetAccessibleActions メソッドを実行して取得できる一連のアクションを実行することができます。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

IsCreated メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
アクション	要素に対して実行するアクションを受け取ります。	データ入力	文字列	なし	あり	アクションは、GetAccessibleActions メソッドで指定された形式で正確に指定する必要があります。
戻る	アクションが実行され	データ出力	ブール	なし	適用外	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IsCreated メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
	た場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。					

SetPassword

Java アプリケーションのパスワードフィールドへのパスワードの安全な入力を自動化します 。

フィールドに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

SetPassword メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
パスワード	パスワードをセキュリティで保護された文字列として受け入れます。	データ入力	セキュリティで保護された文字列	なし	はい	パスワードはセキュリティで保護された文字列として受け入れられるため、パラメーターを右クリックして [データをプレビュー] をクリックしたときに文字列の長さのみが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetPassword メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
UseSendKeys	SendKeys は、文字、数字、記号などのキーボード入力をアプリケーション内のテキストボックスに送信するために使用されるメソッドです。	データ入力	ブール	False	はい	ヒント: **SetPassword** メソッドで [パスワード] フィールドにパスワードを入力できなかった場合は、値を **[True]** に設定し、メソッドを再度実行します。

Java コネクタのプロパティ

Java コネクタのプロパティを表示または更新します。

Java コネクタのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

JavaScript

JavaScript コネクタを使用すると、カスタムクラスとメソッドを記述することでカスタム JavaScript を実行し、RPA デスクトップデザインスタジオ の自動化の一部としてそれらを含めることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

コネクタを使用するには、カスタムクラスとメソッドを記述して検証することによって、まずコネクタを設定する必要があります。その後、コネクタが公開するメソッドを使用してください。以下のリンクを参照してください。

- JavaScript コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- JavaScript コネクタを設定するには、「JavaScript コネクタの設定」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

JavaScript コネクタの設定

カスタムスクリプトを記述し、カスタムクラスとカスタム関数を検証することで、JavaScript コネクタを設定します。次に、関数の値を指定してスクリプトを実行します。

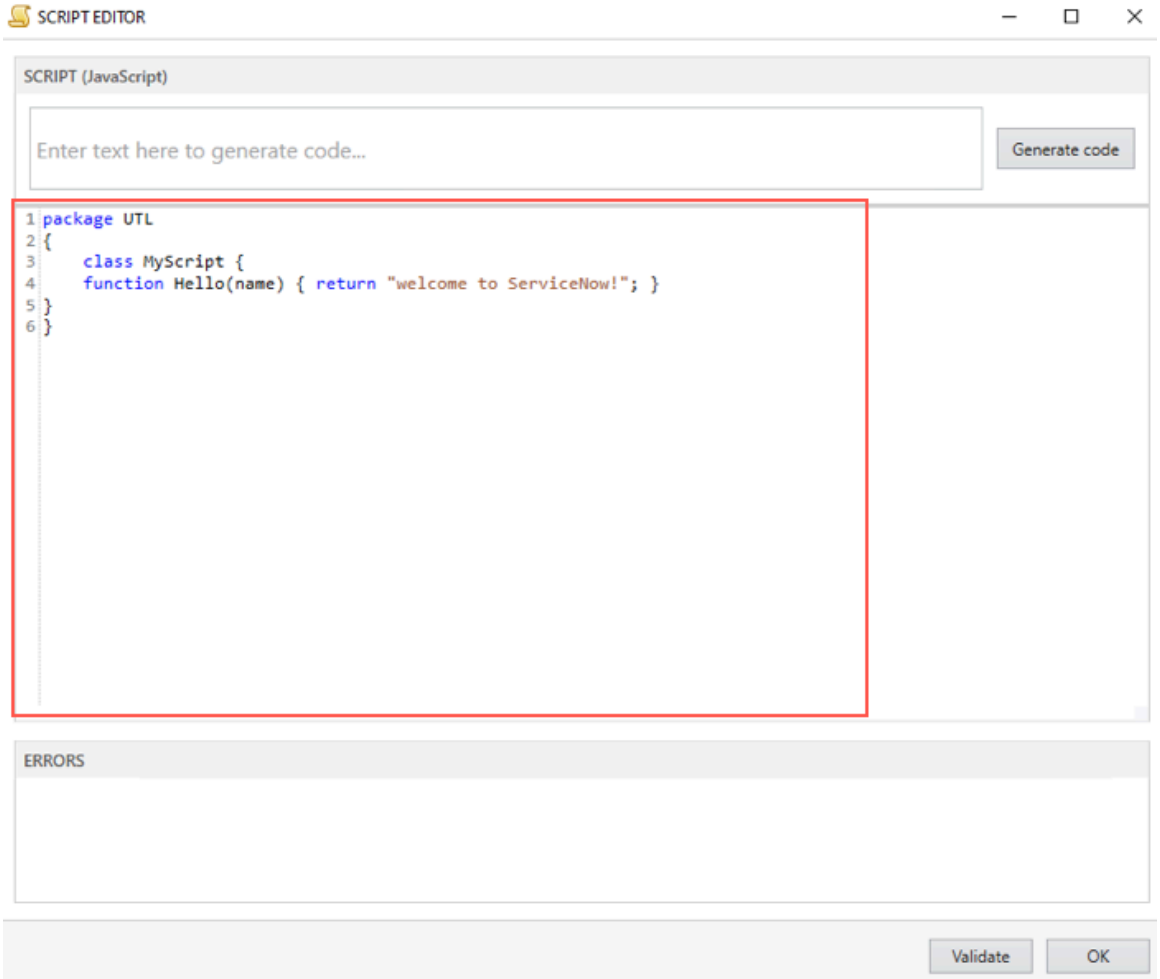
始める前に
必要なロール：開発者

手順

1. [ツールボックス] ペインで、 [コネクタ] > **[JavaScript]** に移動します。
2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの **[Global Objects]** に **[JavaScrip]** コネクタをドラッグします。
3. [グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** の **[JavaScript]** コネクタを右クリックし、[構成] を選択します。
   [スクリプトエディタ] ウィンドウが表示されます。
4. [スクリプト] ペインでカスタム JavaScript スクリプトを入力します。

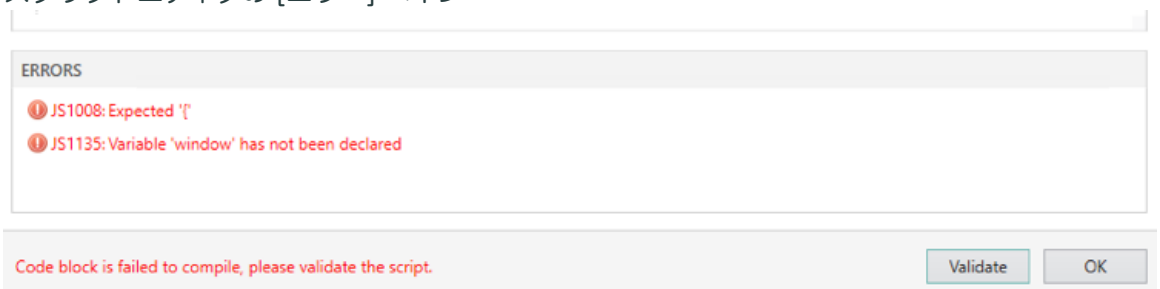
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトエディタの [スクリプト] ペイン



5. [検証] を選択します。
   カスタムスクリプトにエラーがある場合は、[エラー] ペインに表示されます。エラーを解決し、[検証] を選択してエラーを再度確認します。

スクリプトエディタの [エラー] ペイン



6. **[OK]** をクリックします。
   変更を保存する場合は、[はい]を選択します。エラー検証が再度実行され、変更が保存されます。
   変更を破棄する場合は、[いいえ] を選択します。

次のタスク
これで、JavaScript コネクタを使用して作成したカスタムスクリプトを自動化で使用する準備ができました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JavaScript コネクタのメソッド

RPA デスクトップデザインスタジオ の自動化の一部として、Execute メソッドを使用してカスタム JavaScript を実行します。

実行

記述したカスタム JavaScript を実行します。実行する前に、以下を行ってください。

- メソッドを実行する前に、JavaScript コネクタを設定します。設定するには、「JavaScript コネクタの設定」を参照してください。
- Execute メソッドを設定します。

Execute メソッドの設定

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. **[Classes]** リストから、記述したカスタム JavaScript で設定したクラスを選択します。
3. **[Methods]** リストから、記述したカスタム JavaScript で設定したメソッドを選択します。
4. **[OK]** をクリックします。

   作成した関数の値を受け取るためのデータ入力ポートが作成されます。

Execute メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
Function value	作成した関数の値を受け取ります。	データ入力	オブジェクト	なし	あり
結果	カスタム JavaScript 実行結果の出力を返します。	データ出力	文字列	なし	適用外

Keyvalue pair

KeyValuePair コネクタを使用して、RPA デスクトップデザインスタジオで自動化の一環として、キー と値のペアに対して複数のアクションを実行できます。たとえば、キー と値のペアを作成、検索、カウント、または削除できます。

KeyValue pair コネクタは、キーと値のペアに対してさまざまなアクションを実行するメソッドを公開します。これらのメソッドは、自動化内の他のメソッドやコンポーネントと連動して機能します。

- Keyvalue pair コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

Keyvalue pair コンポーネントに関連する問題の詳細については、『KB 記事 KB1123557 』を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

KeyValuePair コネクタのメソッド

Keyvalue pair コネクタのメソッドは、キーと値のペアに対してさまざまなアクションを実行します。自動化フローでは、メソッドは他のメソッドやコンポーネントに接続されます。メソッドを使用するには、まずメソッドを公開する必要があります。

追加

キーと値のペアを追加します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

Add メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
キー	キーの名前。	データ入力	文字列	なし	あり
値	キーの値。	データ入力	オブジェクト	なし	あり
IgnoreDuplicate	値が True の場合、メソッドは重複キーを無視します。値が False の場合、メソッドはエラーメッセージを返します。	データ入力	ブール	なし	いいえ

クリア

すべてのキーと値のペアをクリアします。

ContainsKey

指定されたキーが存在する場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

ContainsKey メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
キー	キーの名前。	データ入力	文字列	なし	あり
戻る	指定されたキーが存在する場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。	データ出力	ブーリアン	適用外	適用外

ContainsValue

指定されたキー値が存在する場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

ContainsValue メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
値	キー値の名前。	データ入力	文字列	なし	あり
戻る	指定されたキー値が存在する場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。	データ出力	ブーリアン	適用外	適用外

カウント

キーと値のペアの合計数を返します。

Count メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	キーと値のペアの合計数を返します。	データ出力	整数	適用外	適用外

削除

指定されたキーを削除します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

Delete メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
キー	キーの名前。	データ入力	文字列	なし	あり

GetItem

指定されたキーの値を返します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

GetItem メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
キー	キーの名前。	データ入力	文字列	なし	あり

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetItem メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	キーの値を返します。	データ出力	オブジェクト	適用外	適用外

GetItems

複数キーの値を返します。最初にメソッドでキーを設定する必要があります。

設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. キーを追加アイコン ( ) をクリックします。
3. キーの名前を入力します。
4. リストからキーデータタイプを更新します。
5. 複数のキーの名前を設定するには、手順を繰り返します。
6. **[OK]** をクリックします。

設定したキー名ごとに、データ出力ポートが作成されます。

GetItems メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
キー	キーの値を返します。	データ出力	オブジェクト	適用外	適用外

GetItemsByIndex

インデックスに基づいてキー値を返します。最初にメソッドでインデックスを設定する必要があります。

設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. インデックスを追加アイコン ( ) をクリックします。
3. キーインデックスを入力します。
4. リストからキーデータタイプを更新します。
5. 複数のキーインデックスを設定するには、手順を繰り返します。
6. **[OK]** をクリックします。

設定したキーインデックスごとに、データ出力ポートが作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetItemsByIndex メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
Key index	キーの値を返します。	データ出力	オブジェクト	適用外	適用外

ParseFromText

指定されたテキストをキーと値のペアに解析します。これによって、複数のキーと値のペアを作成できます。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

ParseFromText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
テキスト	メソッドが解析するキーと値で構成されるテキスト。	データ入力	文字列	なし	あり
ItemSeparator	2 つのキーと値のペア間のセパレーター。	データ入力	文字列	なし	あり
KeyValueSeparator	キーとその値の間のセパレーター。	データ入力	文字列	なし	あり
ClearBeforeParse	true の場合、解析前に既存のキーと値のペアをクリアします。	データ入力	ブール	なし	いいえ

リバース

キーインデックスを反転します。

ヒント: このメソッドを実行した後、GetItemsByIndex メソッドを実行すると、出力を確認できます。

SetData

情報が必要です。

SetItem

キーの値を更新します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetItem メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
キー	キーの名前。	データ入力	文字列	なし	あり
値	キーの値を更新します。	データ入力	オブジェクト	なし	あり

ヒント: GetItemsByIndex メソッドを実行して、更新された値をテストします。

SetItems

指定されたキーの値を更新します。最初にメソッドでキーを設定する必要があります。

キーを設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. キーを追加アイコン ( ) をクリックします。
3. キーの名前を入力します。
4. リストからキーデータタイプを更新します。
5. 複数のキーの名前を設定するには、手順を繰り返します。
6. **[OK]** をクリックします。

設定したキー名ごとに、データ入力ポートが作成されます。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

SetItems メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
キー	キーの値を更新します。	データ入力	オブジェクト	なし	あり

ヒント: GetItemsByIndex メソッドを実行して、更新された値をテストします。

SetItemsByIndex

指定されたインデックスに基づいて、キーの値を更新します。最初にメソッドでインデックスを設定する必要があります。

インデックスを設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. インデックスを追加アイコン ( ) をクリックします。
3. キーインデックスを入力します。
4. リストからキーデータタイプを更新します。
5. 複数のキーインデックスを設定するには、手順を繰り返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

6. **[OK]** をクリックします。

設定したキーインデックスごとに、データ入力ポートが作成されます。

SetItemsByIndex メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
Key Index	キーのインデックス。	データ入力	オブジェクト	なし	あり

ヒント: GetItemsByIndex メソッドを実行して、更新された値をテストします。

ToJSON

キーと値のペアを JSON 形式にレンダリングします。

ToText

キーと値のペアをテキスト形式にレンダリングします。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

ToText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
ValuesOnly	True の場合、メソッドはキーの値のみをレンダリングし、それ以外の場合はキーと値のペアをレンダリングします。	データ入力	ブール	なし	いいえ
戻る	キーと値のペアをテキスト形式で返します。	データ出力	文字列	適用外	適用外

リスト

List コネクタを使用すると、RPA デスクトップデザインスタジオ の自動化の一部として、リストアイテムの作成、表示、検索、およびその他さまざまなアクションを実行できます。リストアイテムは、キーと値のペア、または従業員名のリストなどの通常のリストアイテムで構成されます。

List コネクタは、自動化 Workflow の一部として、リストアイテムに対してアクションを実行できる複数のメソッドを公開します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- List コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

List コネクタのメソッド

List コネクタのメソッドは、自動化 Workflow の一部として、リストアイテムに対してさまざまなアクションを実行します。使用する前に、まずメソッドを公開する必要があります。

追加

単一のリストアイテムを追加します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

Add メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
アイテム	リストアイテムの名前。	データ入力	オブジェクト	なし	あり

AddList

アイテムのリストを追加します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

AddList メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
リスト	アイテムのリスト。	データ入力	オブジェクト	なし	あり	変数または適切なコンポーネントからリストアイテムを渡すことができます。

包含

リストアイテムが存在するかどうかを示すブール値を返します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Contains メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
アイテム	メソッドが検索するリストアイテムの名前。	データ入力	オブジェクト	なし	あり
戻る	リストアイテムが見つかった場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。	データ出力	ブーリアン	適用外	適用外

カウント

追加されたリストアイテムの合計数を返します。

Count メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	追加されたリストアイテムの合計数を返します。	データ出力	整数	適用外	適用外

FindByProperty

指定されたキーと値に基づいて、リストアイテムを検索します。このメソッドを実行する前に、少なくとも 1 つのキーと値のペアのリストアイテムを作成する必要があります。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

FindByProperty メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
Prop	キーと値のペアのキー。	データ入力	文字列	なし	あり
値	キーと値のペアの値。	データ入力	文字列	なし	あり
検出	リストアイテムが見つかった場合は True を返し、それ以外の場合は False を返します。	データ出力	ブーリアン	適用外	適用外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FindByProperty メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
アイテム	Found パラメーターが True の場合、メソッドはリストアイテムを返します。	データ出力	オブジェクト	適用外	適用外

FindText

指定されたフィルターに基づいてリストアイテム内のテキストまたは正規表現を検索し、そのテキストの合計発生件数とテキスト自体を返します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

FindByProperty メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
SearchText	メソッドがリストアイテム内で検索するテキスト。	データ入力	文字列	なし	あり
FindBy	メソッドがテキストを検索するのか、正規表現を検索するのかを示すオプションです。	データ入力	文字列	なし	あり
MatchType	一致のタイプを示すオプションです。 • 完全一致 • 大文字と小文字を区別する • 指定された文字を含む。	データ入力	文字列	なし	あり
カウント	一致の合計発生件数を返します。	データ出力	整数	適用外	適用外
Outlist	一致のリストを返します。	データ出力	リスト	適用外	適用外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetItem

インデックス値に基づいて、リストアイテムを返します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

GetItem メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
インデックス	リストアイテムのインデックス値。	データ入力	整数	なし	あり
戻る	リストアイテムを返します。	データ出力	オブジェクト	適用外	適用外

GetItems

インデックス値に基づいて、リストアイテムを返します。最初にインデックス値を設定する必要があります。

設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. インデックスの追加アイコン ( ) をクリックします 。
3. インデックス値を入力します。
4. インデックス値のデータタイプを更新します。
5. さらにインデックス値を追加するには、手順を繰り返します。
6. **[OK]** をクリックします。

インデックス値ごとに、データ出力ポートが作成されます。データ出力ポートは、インデックス値に対応するリストアイテムを返します。

GetList

作成されたすべてのリストアイテムとリストを返します。

GetList メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	リストアイテムとリストを返します。	データ出力	アレイ	なし	適用外

削除

指定されたリストアイテムを削除します。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetList メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
アイテム	メソッドが削除するリストアイテム。	データ入力	オブジェクト	なし	あり

RemoveAll

追加されたすべてのリストアイテムを削除します。

リバース

リストアイテムのインデックス値の順序を逆転させます。

SetItems

リストアイテムの値を更新します。メソッドを使用するには、まずメソッドを設定する必要があります。

設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. インデックスの追加アイコン ( ) をクリックします 。
3. インデックス値を入力します。
4. インデックス値のデータタイプを更新します。
5. さらにインデックス値を追加するには、手順を繰り返します。
6. **[OK]** をクリックします。

インデックス値ごとに、データ入力ポートが作成されます。

パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

SetItems メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
アイテム	リストアイテムの値を受け取ります。	データ入力	オブジェクト	なし	あり

ソート

リストアイテムをソートします。

ToArray

リストアイテムをアレイ形式で返します。このメソッドを実行する前に、複数のリストアイテムを追加する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ToArray メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
戻る	リストアイテムをアレイリスト形式で返します。	データ出力	アレイリスト	適用外	適用外

List メソッドのプロパティ

List メソッドのプロパティを表示または更新します。

List メソッドのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

Microsoft Excel

Microsoft Excel コネクタを使用すると、ロボティックプロセス自動化 の一部として、Microsoft Excel ドキュメントに対してさまざまなアクションを実行できます。たとえば、Microsoft Excel ファイルを開き、PDF 形式にエクスポートします。

Microsoft Excel コネクタは、Microsoft Excel ドキュメントでさまざまなアクションを実行するメソッドを公開します。これらのメソッドは、自動化内の他のメソッドやコンポーネントと連動して機能します。

- Microsoft Excel コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

注: 32 ビット Microsoft Office のインストールはサポートされていません。

Microsoft Excel コネクタのメソッド

Microsoft Excel コネクタのメソッドを使用して、Microsoft Excel ドキュメントに対してさまざまなアクションを実行できます。自動化フローでは、メソッドは他のメソッドやコンポーネントに接続されます。メソッドを使用するには、まずメソッドを公開する必要があります。

オープン

入力に応じて、既存の Microsoft Excel ファイルを作成するか、開きます。

注: 他のメソッドの前に、このメソッドを実行する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Open メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	メソッドが開く既存のファイルへのパスです。 ファイルを作成するには、CreateNewFile パラメーターの値を True に設定する必要があります。 **注:** パスにはファイル名を含める必要があります。	データ入力	文字列
CreateNewFile	指定したファイルが存在しない場合に、新しい Excel ファイルを作成するかどうかを指定します。 CreateNewFile パラメーターが true に設定されている場合、指定されたファイルパスに新しいファイルが作成されます。False に設定すると、指定されたファイルパスから Excel を開こうとします。	データ入力	ブーリアン
DisplayAlerts	Excel を開くプロセス中にアラートまたはプロンプトを表示するかどうかを指定します。 true に設定すると、ファイルの競合や互換性などの問題に関するアラートが Excel に表示されます。false に設定すると、これらのアラートは抑制されます。	データ入力	ブーリアン
IsVisible	ファイルを開いたときに Excel アプリケーションウィンドウをユーザーに表示するかどうかを指定します。	データ入力	ブーリアン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Open メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
	true に設定すると、Excel ウィンドウが画面に表示されます。false に設定すると、Excel はインターフェイスを表示せずにバックグラウンドで実行されます。		
ReadOnlyMode	Excel ファイルを読み取り専用モードで開くかどうかを指定します。 true に設定すると、ファイルは読み取り専用モードで開き、変更が行われるのを防ぎます。false に設定すると、ファイルは通常モードで開き、変更が可能になります。	データ入力	ブーリアン
Password	Excel ファイルがパスワードで保護されている場合に、そのファイルを開くために必要なパスワード。 ファイルがパスワードで保護されていない場合は、このパラメーターを空白のままにしておくことができます。	データ入力	文字列
Return	True 値または False 値を返します。値が True の場合、ファイルが正常に開かれるか作成されます。	データ出力	ブーリアン

AddNewWorkSheet

ファイルに新しいワークシートを追加します。このメソッドでは、新しいシートの名前を指定する文字列型の入力パラメーターとしてシート名が必要です。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AddNewWorkSheet メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	メソッドがファイルに追加する新しいワークシートの名前。	データ入力	文字列

AutoFill

隣接するセルの内容または事前定義されたパターンに基づいて、指定された範囲内のセルに自動的に入力します。このメソッドは、複数のセル間でデータをコピーしたり、書式設定したりする場合に便利です。Microsoft Excel は、初期選択の内容を分析し、推定した内容を目的の範囲に入力します。一連の数値の拡張、数式の複製、テキストパターンの複製、またはその他のデータ入力処理の実行に使用できます。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

AutoFill メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	ソースデータが含まれているワークシートの名前。	データ入力	文字列
SourceRange	複製するデータまたは数式を含むセル範囲。	データ入力	文字列

GetSheetNames

開いている Microsoft Excel ドキュメント内のすべてのシートの名前を返します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

GetSheetNames メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	開いている Microsoft Excel ドキュメント内のシートの名前を返します。	データ出力	文字列

Close

アクティブな Microsoft Excel ドキュメントが既に開いている場合は閉じ、メモリを解放します。このメソッドは、メモリ処理に役立ちます。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Close メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
saveChanges	値が True に設定されている場合、閉じる前にファイルへの変更は保存されます。False に設定されている場合、変更は保存されません。	データ入力	ブーリアン

ColumnsCount

Microsoft Excel ファイルの指定されたワークシートの列の合計数を返します。このメソッドでは、ワークシートを指定するために SheetName パラメーターが必要です。指定したシートの列数が返されます。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

ColumnsCount メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	メソッドが列数のカウントに使用するシートの名前。	データ入力	文字列
Return	ワークシートの列数を返します。	データ出力	整数

Copy

ワークシートのセル範囲から内容をコピーします。

ヒント: Paste メソッドを使用して、コピーした内容を貼り付けることができます。

Copy メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Sheetname	ソースデータを含むシートの名前。	データ入力	文字列
Cellrange	コピーするセルの範囲です。	データ入力	文字列

Paste

クリップボードの内容を、ワークシートの CellLocation パラメーターで指定された特定のセルに貼り付けます。また、複数セルの範囲に張り付けることもできます。

注: このメソッドを実行する前に、Copy メソッドを実行する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Paste メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Sheetname	クリップボードの内容が貼り付けられるシートの名前。	データ入力	文字列
CellLocation	クリップボードの内容が貼り付けられる場所 (セル参照) を示します。	データ入力	文字列

FillBlankValues

Microsoft Excel ファイルのワークシートの指定された列の空のセルに指定された値を入力します。ワークシートを指定するための SheetName パラメーター、列を識別するための ColumnName パラメーター、空のセルを置き換える値を指定するための Value パラメーターが必要です。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

FillBlankValues メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Sheetname	空白の値を埋めるシートの名前。	データ入力	文字列
ColumnName	値を入力する必要があるワークシートの列の名前。 ColumnName は、Excel の A から AZ までの列を表す列挙のデータ型です。	データ入力	ColumnName
Value	列に入力する値。	データ入力	文字列

CreateChart

特定のワークシートに特定の範囲のチャートを作成します。このメソッドは、チャートの作成を自動化するために使用されます。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

CreateChart メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	チャートが作成されるシートの名前。	データ入力	文字列
CellRange	チャートの作成元となるセル範囲。	データ入力	文字列
ChartType	作成するチャートのタイプを指定します。	データ入力	ExcelChartType

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CreateChart メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
	使用可能なチャートの種類は、使用している Excel コネクタの特定の実装によって異なります。		
Return	True の場合、チャートは正常に作成されています。False の場合、チャートの作成は失敗しています。	データ出力	ブーリアン

CreatePivotTable

[ピボットテーブルの設定 (Pivot Table Settings)] ウィンドウで構成された設定を使用して、指定されたシートにピボットテーブルを生成します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

CreatePivotTable メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	ピボットテーブルの作成元となるシートの名前。	データ入力	文字列
PivotTableName	ピボットテーブルの名前。	データ入力	文字列

DeleteColumn

列の指定されたインデックスに基づいて、指定されたシートの列を削除します。

DeleteColumn メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	列が削除されるシートの名前。	データ入力	文字列
ColumnIndex	削除する必要がある列のインデックス。 Excel では、列にはアルファベット順 (A、B、C など) のラベルが付けられ、各列には対応する数値インデックス (列 A は 1、列 B は 2 など) があります。	データ入力	整数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DeleteColumn メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	列が削除されたかどうかを示すブール値を返します。True の場合、列は削除されています。False の場合、列は削除されていません。	データ出力	ブーリアン

DeleteContentFromRange

指定されたセル範囲から内容を削除します。

DeleteContentFromRange メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	内容が削除されるシートの名前。	データ入力	文字列
CellRange	データを削除するセルの範囲を指定します。	データ入力	文字列
Return	セルの範囲からの内容が削除されたかどうかを示すブール値を返します。True の場合、内容は削除されています。False の場合、内容は削除されていません。	データ出力	ブーリアン

DeleteEmptyColumns

Microsoft Excel ファイルの指定されたワークシートで内容がない列を削除します。このメソッドでは、ワークシートを識別するために SheetName パラメーターが必要です。

DeleteEmptyColumns メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	空の列を含むシートの名前。	データ入力	文字列

DeleteEmptyRows

Microsoft Excel ファイルの指定されたワークシートで内容がない行を削除します。このメソッドでは、ワークシートを識別するために SheetName パラメーターが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DeleteEmptyColumns メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	空の行を含むシートの名前。	データ入力	文字列

DeleteRow

RowNumber パラメーターに基づいてワークシートから行を削除します。

DeleteRow メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	行が削除されるシートの名前。	データ入力	文字列
RowNumber	削除する必要がある行の番号を示します。	データ入力	整数
Return	行が削除されているかどうかを示すブール値を返します。True の場合、行は削除されています。False の場合、行は削除されていません。	データ出力	ブーリアン

DeleteWorksheet

指定されたワークシートを削除します。このメソッドでは、ワークシートを識別するために SheetName パラメーターが必要です。

DeleteWorksheet メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	削除される必要があるシートの名前。	データ入力	文字列
Return	ワークシートが削除されたかどうかを示すブール値を返します。True の場合、ワークシートは削除されています。False の場合、ワークシートは削除されていません。	データ出力	ブーリアン

ExportChartAsImages

シート内に存在するチャートを、指定したパスに保存された画像ファイルにエクスポートして保存します。このプロセスにより、チャートが Excel ワークブックから分離され、簡単に共有したり、さまざまなドキュメント、プレゼンテーション、またはレポートに挿入したりできるスタンドアロンの視覚的表現が提供されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ExportChartAsImages メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	グラフを含むシートの名前。	データ入力	文字列
SaveFolderpath	チャートが画像ファイルとして保存されるフォルダパスを指定します。	データ入力	文字列

ExportToPDF

Excel ファイルを PDF ファイルとして、FilePath パラメーターで指定されたパスの場所にエクスポートします。

ExportToPDF メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	PDF ファイルのエクスポート先のファイルパスを指定します。	データ入力	文字列

FindAndReplace

SheetName パラメーターで指定されたワークシート内の FindText パラメーターで指定されたテキストを検索し、それを ReplaceTo パラメーターで指定された別のテキストに置き換えます。

FindAndReplace メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	テキストが置換されるワークシートの名前。	データ入力	文字列
FindText	ワークシートのセル内で検索されるテキスト。	データ入力	文字列
ReplaceTo	FindText パラメーターを使用して検索されたテキストを置き換えるためのテキスト。	データ入力	文字列
Return	テキストが置換されているかどうかを示すブール値を返します。True の場合、テキストは置換されています。False の場合、テキストは置換されていません。	データ出力	ブーリアン

GetActiveSheetName

アクティブなワークシートの名前を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetActiveSheetName メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	文字列形式でアクティブなワークシートの名前を返します。	データ出力	文字列

GetCellAddressIfRowHas

指定されたシート内の指定されたテキストを検索します。指定された行インデックスから開始して、指定された列名をスキャンします。テキストが見つかった場合は、true を返します。見つからない場合は false を返します。さらに、一致したセルアドレスを構成値に格納できます。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

GetCellAddressIfRowHas メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	検索するワークシートの名前。	データ入力	文字列
SearchText	指定した列内で検索するテキスト。	データ入力	文字列
SearchColumn	検索が実行される列。 ColumnName は、Excel の A から AZ までの列を表す列挙のデータ型です。	データ入力	ColumnName
StartRowIndex	検索を開始する行インデックス。	データ入力	整数
Return	SearchText が見つかったかどうかを示すブール値を返します。True の場合、テキストが見つかっています。False の場合、テキストは見つかっていません。	データ出力	ブーリアン

GetCellFormula

ワークシートからセルの数式を取得します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetCellFormula メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	セルの数式の取得元となるワークシートの名前。	データ入力	文字列
CellName	数式の取得元となるセルの名前または参照を指定します。	データ入力	文字列
Return	指定されたセルの数式を文字列形式で返します。	データ出力	文字列

GetCellValue

CellName パラメーターで指定されたワークシートからセルの値を取得します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

GetCellValue メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	セル値の取得元となるワークシートの名前。	データ入力	文字列
CellName	GetCellValue で設定された構成に基づいて、セル値を返すか、テキストを表示します。	データ入力	文字列
Return	指定されたセルの値を文字列形式で返します。	データ出力	文字列

GetCellValueIfRowHas

指定されたシートで指定されたテキストを検索します。指定された行インデックスから開始して、指定された列をスキャンします。テキストが見つかった場合は、true を返します。見つからない場合は false を返します。さらに、一致したセル値を構成値に格納できます。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

GetCellAddressIfRowHas メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	検索するワークシートの名前。	データ入力	文字列
SearchText	指定した列内で検索するテキスト。	データ入力	文字列
SearchColumn	検索が実行される列。	データ入力	ColumnName

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetCellAddressIfRowHas メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
	ColumnName は、Excel の A から AZ までの列を表す列挙のデータ型です。		
StartRowIndex	検索を開始する行インデックス。	データ入力	整数
Return	SearchText が見つかったかどうかを示すブール値を返します。True の場合、テキストが見つかっています。False の場合、テキストは見つかっていません。	データ出力	ブーリアン

GetCellValues

ワークシートからセルの値を返します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

GetCellValue メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	ソースデータが含まれているワークシートの名前。	データ入力	文字列

GetColor

ワークシートの CellName パラメーターで指定されたセルの RGB 値を返します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

GetColor メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	セルの色の取得元となるワークシートの名前。	データ入力	文字列
CellName	色を取得するセルの名前または参照。	データ入力	文字列
Return	指定されたセルの色を文字列形式で返します。	データ出力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetColumnNameByIndex

指定された列番号に対応する列名を返します。たとえば、1 に対応する「A」など。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

GetColumnNameByIndex メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
ColumnNumber	名前を取得する列番号。	データ入力	整数
Return	列の名前を文字列形式で返します。	データ出力	文字列

GetFilterData

指定されたフィルター基準に基づいて、ワークシートからフィルター済みデータを返します。データの取得は、RowNumber パラメーターで指定された行番号から開始されます。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

GetFilterData メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	ソースデータが含まれているワークシートの名前。	データ入力	文字列
RowNumber	データ抽出の開始行である行の行番号。	データ入力	整数
FirstRowAsHeader	フィルタリングされたデータの最初の行をヘッダー行として扱うかどうかを決定します。true に設定すると、最初の行はヘッダー行と見なされ、抽出されたデータ行には含まれません。false に設定すると、最初の行は抽出されたデータ行の一部として含まれます。	データ入力	ブーリアン
Return	フィルタリングされたデータをテーブル形式で返します。操作は、このテーブルの行と列に対して実行できます。	データ出力	データテーブル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetFilteredDataAddress

SheetName パラメーターで指定されたワークシート内のフィルター処理されたデータのアドレスを返します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

RowsCount メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	フィルター処理されたデータのアドレスの取得元となるワークシートの名前。	データ入力	文字列
Return	文字列がフィルター処理されたデータアドレスである文字列のリストまたはコレクションを返します。	データ出力	リスト (文字列)

GetRowValues

値の抽出元となる指定された SheetName パラメーターからセル値を返します。既定では、RowNumber が指定されていない (または -1 に設定されている) 場合、最後の行から値が読み取られます。さらに、列名を追加するための出力パラメーターを含めて、その値を出力に格納できます。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

GetRowValues メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	値の取得元となるワークシートの名前を指定します。	データ入力	文字列
RowNumber	値の読み取り元の行。-1 に設定すると、最後の行がデフォルトになります。	データ入力	整数

GetSelectedRange

SheetName パラメーターで指定されたワークシートから、現在選択されているセル範囲を返します。データは、強調表示または選択されたワークシートの特定の領域から抽出されます。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetSelectedRange メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	ソースデータが含まれているワークシートの名前。	データ入力	文字列
Return	シートで選択されているセル範囲を文字列形式で返します。	データ出力	文字列

GetSheetNames

Excel ファイルに存在するすべてのワークシート名のリストを返します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

GetSheetNames メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	利用可能なすべてのシート名を文字列アレイ形式で返します。	データ出力	文字列[]

GetUsedRange

指定されたシートの使用済みセルの範囲を返します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

GetUsedRange メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	範囲の読み取り元のワークシートの名前。	データ入力	文字列
IncludeHeaders	ヘッダーを含めるかどうかを示します。	データ入力	ブーリアン
Return	使用されているセルの範囲を文字列形式で返します。	データ出力	文字列

GetValuesByColumn

Distinct、FirstRowAsHeader、および ValueType の各パラメーター基準に基づいて、指定された SheetName の指定された ColumnName から値のリストを返します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetValuesByColumn メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	ソースデータが含まれているワークシートの名前。	データ入力	文字列
ColumnName	値の取得元の列の名前を示します。 ColumnName は、Excel の A から AZ までの列を表す列挙のデータ型です。	データ入力	ColumnName
FirstRowAsHeader	指定した列の最初の行にヘッダーが含まれているかどうかを示します。	データ入力	ブーリアン
Distinct	取得する値が固有または一意である必要があるかを指定します。	データ入力	ブーリアン
ValueType	可視性に基づいて値を抽出します。	データ入力	値
Return	行数を返します。	データ出力	整数

InsertNewColumn

指定されたワークシートの ColumnNumber パラメーターで指定されたインデックスに新しい列を挿入します。

InsertNewColumn メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	列を挿入する必要があるワークシートの名前。	データ入力	文字列
ColumnIndex	新しい列が挿入される列のインデックスを指定します。たとえば、1 は A、2 は B のようになります。	データ入力	整数

InsertNewRow

指定されたワークシートの指定されたインデックスに新しい行を挿入します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

InsertNewRow メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	行が挿入されるワークシートの名前。	データ入力	文字列
RowIndex	行のインデックスです。行は指定されたインデックスに挿入されます。	データ入力	整数
Return	行が挿入されているかどうかを示すブール値を返します。True の場合、行は挿入されています。False の場合、行は挿入されていません。	データ出力	ブーリアン

InsertObject

指定されたワークシートの CellName パラメーターのインデックス値で識別されるセルに埋め込みオブジェクトを挿入します。その埋め込みオブジェクトへのパスは、Filepath パラメーターで指定されます。オブジェクトの例としては、Excel ファイル、画像、PDF ファイルなどがあります。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行します。

InsertObject メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	メソッドがオブジェクトを挿入するワークシートの名前。	データ入力	文字列
CellName	メソッドがオブジェクトを挿入するセルの名前。たとえば、A1 などです。	データ入力	文字列
Filepath	メソッドが挿入するオブジェクトのファイルパス。	データ入力	文字列

IsOpen

Filepath パラメーターで指定された場所にある Microsoft Excel ワークブックまたはファイルが開いているかどうかを確認します。

IsOpen メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	ローカルドライブ内の Excel ファイルへのパス。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IsOpen メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	Excel ファイルが開いているかどうかを示すブール値を返します。True の場合、Excel ファイルは開いています。False の場合、Excel ファイルは開いていません。	データ出力	ブーリアン

MergeCells

指定されたワークシートの範囲内で指定されたセルを結合します。

MergeCells メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Sheetname	セルが結合されるワークシートの名前。	データ入力	文字列
CellRange	セルの範囲です。範囲内のすべてのセルが結合されます。	データ入力	文字列

ReadFromRange

指定されたワークシートからデータを取得し、そのデータを返します。どのワークシートからセル範囲を抽出するかを示すワークシート名を指定し、読み取るセルの範囲を決定するセル範囲を指定して、FirstRowAsHeader パラメーターで最初の行がヘッダーであるかどうかを示す必要があります。

ReadFromRange メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	メソッドがデータ読み取るワークシートの名前。	データ入力	文字列
CellRange	セルの範囲です。メソッドはこれらのセルからデータを読み取ります。	データ入力	文字列
FirstRowAsHeader	メソッドが最初の行をヘッダーとして扱うかどうかを示すブール値です。True の場合、最初の行はヘッダーとして扱われます。False の場合、最初の行はヘッダーとして扱われません。	データ入力	ブーリアン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ReadFromRange メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	セルのデータで構成されるデータテーブルを返します。	データ出力	データテーブル

ReadFromSheet

ワークシートからデータを抽出し、DataTable などの構造化形式に変換します。

ReadFromSheet メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Sheetname	メソッドがデータを読み取るワークシートの名前。	データ入力	文字列
Return	指定されたワークシート内のすべてのデータを返します。	データ出力	データテーブル

RenameSheetName

既存のワークシートの名前を変更します。

RenameSheetName メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
OldSheetName	ワークシートの既存の名前。	データ入力	文字列
NewSheetName	ワークシートの新しい名前。	データ入力	文字列
Return	ワークシートの名前が変更されているかどうかを示すブール応答を返します。True の場合、ワークシートの名前が変更されています。False の場合、ワークシートの名前は変更されていません。	データ出力	ブーリアン

RowsCount

指定されたワークシート内の行数を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RowsCount メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	返す行数のワークシートの名前。	データ入力	文字列
Return	行数を返します。	データ出力	整数

RunMacro

Excel ファイル内の既存のマクロを実行します。このメソッドには、ユーザーが実行しようとしているマクロの名前が必要です。

RunMacro メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
MacroName	実行するマクロの名前。	データ入力	文字列
Return	マクロが正常に実行されたかどうかを示すブール値を返します。	データ出力	ブーリアン

Resize

Excel アプリケーションウィンドウの幅と高さのサイズを変更します。Excel アプリケーションのレイアウトと外観は、特定の表示要件に合わせてカスタマイズできます。

RowsCount メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Left	このパラメーターは、Excel アプリケーションウィンドウの左上隅の水平方向の位置を、画面の左端からの距離で指定します。画面の左端から Excel ウィンドウの左端までの距離をピクセル単位またはポイント単位で定義します。	データ入力	整数
Top	このパラメーターは、Excel アプリケーションウィンドウの左上隅の垂直方向の位置を、画面の上端からの距離で示します。画面の上端から Excel ウィンドウの上端までの距離をピクセル単位またはポイント単位で定義します。	データ入力	整数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RowsCount メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Width	このパラメーターは、Excel アプリケーションウィンドウの幅をピクセル単位またはポイント単位で指定します。ウィンドウの左端から右端までの水平方向のサイズを決定します。	データ入力	整数
Height	このパラメーターは、Excel アプリケーションウィンドウの高さをピクセル単位またはポイント単位で指定します。ウィンドウの上端から下端までの垂直方向のサイズを定義します。	データ入力	整数

RemoveFilter

SheetName パラメーターで指定されたワークシートからフィルターを削除します。

RemoveFilter メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Sheetname	メソッドがフィルターを削除するワークシートの名前。	データ入力	文字列

Save

Microsoft Excelドキュメント内のデータまたは書式に加えられた更新、変更、追加、または削除を保存して、作業が保持され、Excel ファイルに最新の更新内容が反映されるようにします。

SaveAs

Excel ファイルを Filepath パラメーターで指定されたファイルパスに別の名前または形式で保存します。また、Password パラメーターに値を指定することで、ファイルをパスワードで保護することもできます。

SaveAs メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	Excel ファイルが別の名前または形式で保存される場所のファイルパス。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SaveAs メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Password	保存される Excel ファイルを保護するためのパスワード。このパラメーターはオプションであり、デフォルト値は空の文字列です。	データ入力	文字列

SaveCopyAs

Excel ファイルのコピーを、保存先として指定されたパスに保存します。

SaveCopyAs メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	Excel ファイルが別の名前または形式で保存される場所のファイルパス。	データ入力	文字列
Password	保存される Excel ファイルを保護するためのパスワード。このパラメーターはオプションであり、デフォルト値は空の文字列です。	データ入力	文字列

SelectRange

Excel ワークシート内のセルの範囲を指定して強調表示します。

SelectRange メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	ソースデータが含まれているワークシートの名前。	データ入力	文字列
CellRange	指定したワークシート内で選択されているセル範囲。これは、通常、開始セル参照と終了セル参照によって識別され、強調表示またはアクティブ化されるセルのグループを定義します。	データ入力	文字列

SelectRowByIndex

ワークシートの RowNumber パラメーターで指定されたインデックスに基づいて、行全体を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SelectRowByIndex メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	行が選択されるワークシートの名前。	データ入力	文字列
RowNumber	選択される行のインデックス。	データ入力	整数

SetActiveWorksheet

Sheetname で指定されたワークシートをアクティブなワークシートとしてマークします。

SetActiveWorksheet メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	アクティブとして設定する必要があるワークシートの名前。	データ入力	文字列
Return	指定されたシートがアクティブとして設定されているかどうかを示すブール値を返します。	データ出力	ブーリアン

SetAlignment

CellRange で指定されたセルの配置設定を調整して、Excel ワークシート内のデータの表示と外観を制御し、スプレッドシートデータの視覚的効果と読みやすさを向上させ、データのプレゼンテーションと情報伝達を改善します。

SetAlignment メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	ソースデータが含まれているワークシートの名前。	データ入力	文字列
CellRange	配置の設定またはプロパティが適用されるセルの範囲。	データ入力	文字列
HorizantalAlignment	指定された範囲内のセルのコンテンツの水平配置。コンテンツ (テキストや数値など) を各セル内で水平方向にどのように配置するかを決定します。可能な値には、左揃え、中央揃え、右揃え、両端揃え、または均等割り付けがあります。	データ入力	HorizantalAlignment

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetAlignment メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
VerticalAlignment	指定された範囲内のセルコンテンツの垂直配置。コンテンツが各セル内で垂直方向にどのように配置されるかを決定します。可能な値には、上揃え、上下中央揃え、下揃え、または両端揃えがあります。	データ入力	VerticalAlignment

SetCellColor

ワークシートの CellName パラメーターで指定された特定のセルに、Color パラメーターで指定された色を設定します。

SetCellColor メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	セルが配置されているワークシートの名前。	データ入力	文字列
CellName	色を設定するセルの名前または参照を示します。	データ入力	文字列
Color	セルに適用する RGB カラー値を指定します。	データ入力	ExcelRgbColor
Return	指定された特定のセルに数式が設定されているかどうかを示すブール値を返します。	データ出力	ブーリアン

SetCellFormula

Excel ファイルの指定されたセルに計算式を割り当てます。このメソッドでは、設定するワークシート、セル、および数式を決定するために、それぞれ SheetName、CellName、および Formula パラメーターが必要です。

SetCellFormula メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	アクションが実行されるワークシートの名前。	データ入力	文字列
CellName	操作が行われるワークシート内のセル。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetCellFormula メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Formula	指定されたセルに適用される数式または論理式。	データ入力	文字列
Return	指定されたセルに数式が設定されているかどうかを示すブール値を返します。	データ出力	ブーリアン

SetCellValue

ワークシートの特定のセルに値を割り当て、そのセルの既存のコンテンツを置き換えます。

SetCellValue メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	ソースデータが含まれているワークシートの名前。	データ入力	文字列
CellName	このパラメーターは、指定されたワークシート内のターゲットセルの参照または識別子を示します。これは、セルアドレスで表すことができます (例：「A1」、「B2」、「C3」)。	データ入力	文字列
Value	指定したセルに割り当てられる値で、数値、文字列、日付、数式、論理値など、Excel でサポートされている任意のデータ型にすることができます。	データ入力	文字列

SetCellValue

メソッドエディターダイアログで設定されたとおりに、指定されたシート内の複数のセルに値を設定します。

SetCellValues メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	セル値が設定されるワークシートの名前。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetCellValuesIfRowHas

指定されたシートで指定されたテキストをスキャンし、指定された列名を指定された行インデックスから調べます。テキストが見つかった場合は、指定されたセルの値を指定された値に設定します。値が正常に設定された場合は true を返し、それ以外の場合は false を返します。

SetCellValuesIfRowHas メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	検索するワークシートの名前。	データ入力	文字列
SearchText	指定した列内で検索するテキスト。	データ入力	文字列
SearchColumn	検索が実行される列。 ColumnName は、Excel の A から AZ までの列を表す列挙のデータ型です。	データ入力	ColumnName
StartRowIndex	検索を開始する行インデックス。	データ入力	整数
Return	指定された列で SearchText が見つかった場合は True を返します。見つからない場合は False を返します。	データ出力	ブーリアン

SetColumnType

ワークシート内の指定された列のデータ型を変更します。たとえば、数値を含む列をテキスト形式に変換したり、テキストデータの列を数値形式に変更したりできます。分析やレポート作成のニーズに合わせてデータ形式を調整し、データの表示の一貫性と精度を確保することができます。Excel でのデータ変換、書式設定、操作などのタスクに役立ちます。

SetColumnType メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	ソースデータが含まれているワークシートの名前。	データ入力	文字列
FormatType	変換後の列の形式タイプ。このパラメーターは、列内のデータの解釈方法または表示方法を決定します。可能な値には、数値、テキスト、日付、時刻、通貨、パーセンテージ、またはカスタム形式が含まれます。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetColumnType メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Column	データ型が変更される、指定されたワークシート内の列の参照または識別子。列の文字で表すことができます (例：「A」、「B」、「C」)。	データ入力	文字列
Return	列タイプが設定されているかどうかを識別するブール値を返します。	データ出力	ブーリアン

SetColumnWidth

width パラメーターで指定されるすべての列の幅を設定します。

SetColumnWidth メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	列の幅が調整されるワークシートの名前。	データ入力	文字列
Width	列に設定される文字数による幅。	データ入力	整数
Return	列タイプが設定されているかどうかを識別するブール値を返します。	データ出力	ブーリアン

SetFilter

特定の列にフィルターを適用します。このメソッドは、指定されたシート名に基づいてワークシートを検索し、指定されたフィルター値を適用します。

SetFilter メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	列が配置されているワークシートの名前。	データ入力	文字列
ColumnName	フィルターが適用される列。 ColumnName は、Excel の A から AZ までの列を表す列挙のデータ型です。	データ入力	ColumnName
FilterValue	識別された列内でフィルターにかける値。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetFilterByRow

指定された列に、指定された行番号から開始してフィルターを適用します。このメソッドは、指定されたシート名に基づいてワークシートを検索し、指定されたフィルター値を適用します。

SetFilterByRow メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	ソースデータが含まれているワークシートの名前。	データ入力	文字列
RowNumber	指定されたワークシート内で、フィルター条件が定義されている行番号を示します。データのフィルターに使用される条件を含む行を識別します。	データ入力	整数
ColumnName	フィルタリングが実行される列の名前または識別子。フィルタリング基準が適用される列を表します。 ColumnName は、Excel の A から AZ までの列を表す列挙のデータ型です。 指定された ColumnName は、データの開始列に相対する列名を参照します。たとえば、データが Excel シートの列 B から始まる場合、相対する列インデックス A は列 B に対応し、相対する列インデックス B は列 C に対応します。	データ入力	ColumnName
FilterValue	フィルター基準として使用される値または条件。これは、指定された列のデータがフィルター適用後も表示されるために一致する必要がある特定の値を表します。	データ入力	文字列

SetFontStyle

Color、FontStyle、FontName、Bold、Underline などのパラメーターを設定して、指定した範囲内のセルを書式設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetFontStyle メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	フォントスタイルが設定されるワークシートの名前。	データ入力	文字列
CellRange	フォントスタイルを設定するセル範囲。	データ入力	文字列
Color	フォントの RGB カラー値を指定します。	データ入力	ExcelRgbColor
FontSize	フォントのサイズを指定します。デフォルト値は 11 です。	データ入力	整数
FontName	フォントの名前を指定します。デフォルト値は Calibri です。	データ入力	文字列
Bold	フォントを太字にするかどうかを示します。デフォルト値は False です。	データ入力	ブーリアン
Underline	フォントの下線のスタイルを指定します。デフォルト値は「なし」です。	データ入力	Underline

SetRowHeight

Excel ワークシート内の特定の行の高さを変更します。

SetRowHeight メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	行が配置されているワークシートの名前。	データ入力	文字列
Height	希望の高さを指定します。	データ入力	整数
StartIndex	開始行インデックス。	データ入力	文字列
EndIndex	終了行インデックス。	データ入力	文字列
Return	行の高さが正常に設定されたかどうかを示すブール値を返します。	データ出力	ブーリアン

SetRowValues

Excel スプレッドシートの特定の行に値を設定します。デフォルトでは、RowIndex パラメーターが -1 に設定されている場合、関数はスプレッドシートの末尾に値を挿入します。つまり、特定の行インデックスを指定しない場合、スプレッドシート内の既存のデータの末尾に値が追加されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetRowValues メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	ソースデータが含まれているワークシートの名前。	データ入力	文字列
RowNumber	値が設定または更新される行番号を示します。Excel では、行番号は上から下に向かって順に 1 から始まり、連続して番号が付けられます。RowNumber を指定することで、値が配置される特定の行を指定します。RowNumber として -1 が渡された場合、通常、スプレッドシートの最後に値が挿入されることを示します。	データ入力	整数

Sort

指定されたセル範囲内のデータを昇順または降順で整理します。

Sort メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	データがソートされるワークシートの名前。	データ入力	文字列
CellRange	ソートされるデータを含むセルの範囲。	データ入力	文字列
ColumnName	データがソートされる列の名前。 ColumnName は、Excel の A から AZ までの列を表す列挙のデータ型です。	データ入力	ColumnName
SortingOrder	データのソート順 (昇順または降順) です。	データ入力	SortingOrder

VLookUp

指定したセル範囲の最初の列で特定の値を検索し、同じ行内で指定した列から対応する値を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

VLookUp メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Sheetname	検索するワークシートの名前。	データ入力	文字列
SearchText	指定した列内で検索するテキスト。	データ入力	文字列
LookupRange	テキストをスキャンする範囲。	データ入力	文字列
ApproximateMatch	これは、完全一致と近似一致のどちらを求めるかを指定する論理値です。	データ入力	ブーリアン
Return	マクロが正常に実行されたかどうかを示すブール値を返します。	データ出力	ブーリアン

WrapText

Excel ワークシートの指定された行のすべてのセルでテキストの折り返しを有効にします。テキストの折り返しにより、長いテキスト文字列がセル境界内に表示され、折り返されたテキストが収まるように行の高さが自動的に調整されます。WrapText メソッドを使用すると、セルの元の幅を超えても、各セル内のすべてのテキストが完全に表示されるようにすることで、データの読みやすさを向上させることができます。これは、スプレッドシートのセル内に長いテキストエントリや複数行のコンテンツを表示する場合に特に便利です。

WrapText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	ソースデータが含まれているワークシートの名前。	データ入力	文字列
RowNumber	指定したワークシート内で、その行内のすべてのセルにテキストの折り返しが設定されている行番号。	データ入力	整数

WriteToRange

Data パラメーターで指定されたデータテーブルを、CellName パラメーターで指定されたセルからワークシートに書き込みます。IncludeHeaders パラメーターを設定してヘッダーを含めることもできます。

WriteToRange メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
SheetName	データが書き込まれるワークシートの名前。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

WriteToRange メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
CellName	データが書き込まれるセルの名前。	データ入力	文字列
Data	書き込まれるデータ。	データ入力	データテーブル
IncludeHeaders	データの書き込み時にヘッダーを含めるかどうかを示すブール値。デフォルト値は True に設定されています。	データ入力	ブーリアン

Microsoft Excel コネクタメソッドのパラメーター

RPA デスクトップデザインスタジオ の Microsoft Excel コネクタメソッドのパラメーターについて説明します。

Microsoft Excel コネクタメソッドのパラメーター

パラメーター名	説明	必須?
CellName	処理を実行する Microsoft Excel ワークシートのセル名。	
ApproximateMatch	完全一致または近似一致を検索するブーリアンオプション。	適用外
CellLocation	処理を実行する Microsoft Excel ワークシートのセルの場所。	あり
CellRange	ワークシート内の 1 つまたは複数の連続したセルの集合です。 たとえば、B2:E4 のセル範囲は、列 B ～ E および行 2 ～ 4 を表します。	あり
SheetName	グラフ作成用のデータを取得する元となるシートの名前。	あり
ChartType	Microsoft Excel で作成できるグラフのタイプ (面グラフ、棒グラフ、線グラフ、円グラフなど)。	あり
色	セルに設定する色。	
SheetName	ピボットテーブル作成用のデータを取得する元となるシートの名前。	
SheetName	行が削除されるシートの名前。	あり
SheetName	空の列が削除されるシートの名前。	あり
ColumnIndex	列のインデックス番号です。 **注:** インデックス番号は 0 より大きい値でなければなりません。	あり

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Excel コネクタメソッドのパラメーター（続く）

パラメーター名	説明	必須？
ColumnName	値を取得する元となる Microsoft Excel ワークシート内の列の名前。	あり
CreateNewFile	ファイルを作成するかどうかを示すブール値です。選択については、以下を参照してください。 • **[True]**：新しいファイル名を含むファイルパスを指定する必要があります。 • **[False]**：ファイルを作成しません。	いいえ
Return (Integer)	列が削除されたかどうかを示すブール応答を返します。	適用外
DisplayAlerts	ファイルを開いたときにアラートを表示するオプションです。選択については、以下を参照してください。 • **[True]**：アラートが表示されます。 • **[False]**：アラートは表示されません。	いいえ
戻る	ファイルが開かれたか、または作成されたかどうかを示すブール値を返します。 • **[True]**：ファイルは開かれたか、または作成されました。 • **[False]**：ファイルは開かれなかったか、または作成されませんでした。	適用外
Distinct	一意の値のみを取得するオプションです。一意の値のみを取得するには **[True]** に設定し、セル範囲からすべての値を取得するには **[False]** に設定します。	
EndColumnName	列集合内にある最後の列の名前。	あり
EndRowIndex	Microsoft Excel ワークシート内で、検索、値の設定、値の取得などの一括処理を行う際の、行集合内の最後の行番号です。	あり
ファイル名	Microsoft Excel ファイルの名前。	あり
Filepath	ファイル名を含むファイルへのパスです。このパラメーターは、既存のファイルを開くか、または新しいファイルを作成するために使用されます。	あり
Filepath	エクスポートされた PDF の保存先のパスです。ファイル名の後に PDF 拡張子が必要です。	あり
FillType	次のいずれかのフィルタイプを指定します。	あり

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Excel コネクタメソッドのパラメーター (続く)

パラメーター名	説明	必須?
	• xlFillFormats：ソース範囲からターゲット範囲にフォーマットのみをコピーし、必要に応じて繰り返します。 • xlFillSeries：ソース範囲の値をターゲット範囲に連続的に拡張します (たとえば、「1, 2」は「3, 4, 5」のように拡張されます)。フォーマットはソース範囲からターゲット範囲にコピーされ、必要に応じて繰り返されます。 • xlFillValues：ソース範囲からターゲット範囲に値のみをコピーし、必要に応じて繰り返します。 • xlFillCopy：ソース範囲からターゲット範囲に値とフォーマットをコピーし、必要に応じて繰り返します。 • xlFillDays：ソース範囲の曜日名をターゲット範囲に拡張します。ソース範囲からターゲット範囲にフォーマットをコピーし、必要に応じて繰り返します。 • xlFillWeekdays：ソース範囲の勤務日名をターゲット範囲に拡張します。ソース範囲からターゲット範囲にフォーマットをコピーし、必要に応じて繰り返します。 • xlFillMonths：ソース範囲の月名をターゲット範囲に拡張します。ソース範囲からターゲット範囲にフォーマットをコピーし、必要に応じて繰り返します。 • xlFillYears：ソース範囲の年をターゲット範囲に拡張します。ソース範囲からターゲット範囲にフォーマットをコピーし、必要に応じて繰り返します。 • xlGrowthTrend：ソース範囲の数値間の関係が乗法的であると仮定して、ソース範囲からターゲット範囲に数値を拡張します (たとえば、「1, 2」は、各数字が前の数字にある値を乗じた結果であると仮定して、「4, 8, 16」に拡張されます)。ソース範囲からターゲット範囲にフォーマットをコピーし、必要に応じて繰り返します。 • xlLinearTrend：数値間の関係が加法的であると仮定して、ソース範囲からターゲット範囲に数値を拡張します (たとえば、「1, 2」は、各数字が前の数字にある値を加えた結果であると仮定して、「3, 4, 5」に拡張されます)。ソース範囲からターゲット範囲にフォーマットをコピーし、必要に応じて繰り返します。	
FilterValue	英数字と、<、>、\、&、|、= の演算子の内の 1 つまたは複数から成るフィルター式です。	あり
FindText	Microsoft Excel ワークシート内で検索するテキスト	あり
StartColumnName	列集合内にある最初の列の名前です。	あり
FirstRowAsHeader	Microsoft Excel ワークシートの最初の行がヘッダー行であるかどうかを示すオプションです。	あり
FormatType	Microsoft Excel でサポートされているフォーマットタイプです。 たとえば、Currency、Number、Long Date です。	あり

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Excel コネクタメソッドのパラメーター（続く）

パラメーター名	説明	必須？
計算式	Microsoft Excel ファイル内のセルに適用される計算式です。	あり
高さ	行高さ (ピクセル) です。	あり
HorizontalAlignment	指定されたセルの水平方向の配置フォーマットです。 たとえば、Left、Right、Center、Justify です。	あり
IsVisible	開いたときにファイルを表示するかどうかを示すブール値です。選択については、以下を参照してください。 • **[True]**：ファイルが表示されます。 • **[False]**：ファイルは表示されません。	いいえ
IncludeHeaders	Microsoft Excel で使用されているセル範囲を取得するときに、ヘッダー行を含めるオプションです。	いいえ
LookupRange	データの列の範囲です。 範囲の最初の列の値が検索されます。	あり
OldSheetName	名前を変更する Microsoft Excel ファイル内のワークシートの現在の名前です。	あり
MacroName	実行するマクロの名前。	あり
NewSheetName	Microsoft Excel ファイル内のワークシートの新しい名前	あり
パスワード	保護されたファイルを開くためのパスワード。	いいえ
PivotTableName	新しいピボットテーブルの名前。	
ReadOnlyMode	ファイルを読み取り専用モードで開くか、または作成するかを示すブール値です。選択については、以下を参照してください。 • **[True]**：ファイルは読み取り専用モードで開かれるか、または作成されます。 • **[False]**：ファイルは書き込みモードで開かれるか、または作成されます。	いいえ
DestinationRange	Microsoft Excel ファイルで入力されるセル範囲です。	あり
ReplaceTo	Microsoft Excel ワークシートで検索されたテキストを置き換えるテキストです。	あり
RowIndex	行のインデックス値です。	あり

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Excel コネクタメソッドのパラメーター（続く）

パラメーター名	説明	必須？
RowNumber	処理を実行する Microsoft Excel ワークシートの行番号です。	あり
SaveFolderpath	ファイルを保存するフォルダパスです。	あり
SearchColumn	指定されたテキストを検索する Microsoft Excel ワークシートの列名です。	あり
Return (String)	アクティブなシートまたは選択されたシートの名前を返します。	適用外
SheetName	削除されるシートの名前です。	あり
SheetName	データがエクスポートされる元となるシートの名前です。	あり
SheetName	データが入力されるシートの名前です。	あり
SearchText	Microsoft Excel ワークシート内で検索するテキスト。	あり
saveChanges	閉じる際に変更が保存されるかどうかを示すブール値です。 • **[True]**：メソッドは変更を保存するかどうかの入力を要求します。 • **[False]**：メソッドはファイルを閉じ、未保存の変更があれば失われます。	あり
SheetName	ファイルに追加されるワークシートの名前です。	あり
SheetName	計算式が適用されるシートの名前です。	
SheetName	列が削除されるシートの名前です。	あり
SortingOrder	ソート順 (昇順または降順) を列に設定します。	
SheetName	行が削除されるシートの名前です。	あり
SheetName	セルデータが削除されるシートの名前です。	あり
StartRowIndex	Microsoft Excel ワークシート内で、検索、値の設定、値の取得などの一括処理を行う際の、行集合内の最初の行番号です。	あり
Sheetname	セルがコピーされる元となるシートの名前です。	あり
戻る	カウントされた列数の整数値を返します。	適用外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Excel コネクタメソッドのパラメーター（続く）

パラメーター名	説明	必須？
SheetName	列カウントが実行されるシートの名前です。	あり
[値]	セルに設定する値です。	あり
VerticalAlignment	指定されたセルの垂直方向の配置フォーマットです。 たとえば、Top、Middle、Bottom です。	いいえ
幅	Microsoft Excel の列幅です。	あり
パスワード	Excel ファイルをパスワードで保護するオプションです。パスワードを文字列形式で入力します。	いいえ

パラメーターの入力

パラメーターに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

Microsoft Outlook

Microsoft Outlook コネクタを使用すると、自動化の一環として、Microsoft Outlook アプリケーションに対する標準アクションを自動化できます。たとえば、メールの送信や返信を自動化できます。

Microsoft Outlook コネクタは、Microsoft Outlook に対してアクションを自動化するメソッドを公開します。これらのメソッドは、自動化内の他のメソッドやコンポーネントと連動して機能します。

Microsoft Outlook コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。

Microsoft Outlook のメソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。

Microsoft Outlook コネクタのメソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

注: 32 ビット Microsoft Office のインストールはサポートされていません。

Microsoft Outlook コネクタのメソッド

Microsoft Outlook コネクタのメソッドは、Microsoft Outlook に対してさまざまなアクションを自動化します。自動化フローでは、メソッドは他のメソッドやコンポーネントに接続されます。メソッドを使用するには、まずメソッドを公開する必要があります。

Microsoft Outlook コネクタを使用すると、Microsoft Outlook アプリケーション内の日常的なタスクを自動化し、これらの機能をより広範な自動ワークフローに統合できます。

手動操作なしでメールの送信や返信などのプロセスを自動化できます。このコネクタは、Microsoft Outlook 内のアクションの自動化を容易にするさまざまなメソッドを提供します。これらのメソッドは、自動化フレームワーク内の他のメソッドやコンポーネントとシームレスに組み合わせることができるため、より複雑で効率的なワークフロー設計が可能になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AddFolder

指定された階層内に新しいフォルダを追加し、オプションで、サブフォルダを Outlook アカウントセットに追加します。

AddFolder メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
MainFolder	メソッドが Outlook アカウントに追加するフォルダの名前です。 このパラメーターは、新しいフォルダが追加されるメインフォルダを指定します。	データ入力	文字列
SubFolderName	メソッドがメインフォルダの下に追加するサブフォルダの名前です。 このパラメーターは、作成する新しいフォルダの名前を指定します。 このパラメーターを使用する場合は、IsSubFolder パラメーターを使用する必要があります。	データ入力	文字列
IsSubFolder	SubFolderName パラメーターで作成されたフォルダがメインフォルダの下にあるサブフォルダであることを示すオプションです。 このパラメーターは、SubFolderName をメインフォルダ内のサブフォルダとして追加する必要があるかどうかを示します。デフォルト値は False で、SubFolderName はメインフォルダの直下に追加されます。	データ入力	ブーリアン

Close

プロファイル名を指定して、Microsoft Outlook エクスプローラーを閉じます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このメソッドは、すべての自動化タスクが完了した後のクリーンアップアクティビティとして使用できます。

Close メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
ProfileName	このパラメーターは、閉じる Outlook プロファイル名を指定します。	データ入力	文字列

DeleteFolder

指定されたフォルダとその下にあるすべてのサブフォルダを削除します。

DeleteFolder メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
FolderName	メソッドが削除するフォルダの名前。	データ入力	文字列

DeleteMail

1 件または複数件のメールを削除します。一意のエントリー ID に基づいてメールを削除します。

ヒント: GetMails メソッドを使用して、DeleteMail メソッドで削除するメールを指定します。

DeleteMail メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
MailId	メソッドがメールを削除するメールを取得します。 このパラメーターは、削除する必要があるメールの一意のエントリー ID を指定します。	データ入力	文字列

ForwardMail

一意のエントリー ID に基づいて、指定されたメールアドレス (EmailID) にメールを転送します。

ForwardMail メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
MailId	このパラメーターは、転送する必要があるメールの一意のエントリー ID を指定します。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ForwardMail メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
EmailID	このパラメーターは、メールの転送先メールアドレスを指定します。	データ入力	文字列
CC	このパラメーターは、転送メールのカーボンコピー (CC) を送信するメールアドレスを指定します。	データ入力	文字列
BCC	このパラメーターは、転送メールのブラインドカーボンコピー (BCC) を送信するメールアドレスを指定します。	データ入力	文字列
件名	このパラメーターは、転送されるメールの件名を指定します。	データ入力	文字列
Return	このメソッドは、メールが正常に転送されたかどうかを示すブール値を返します。 戻り値の true は、操作が成功したことを示します。	データ出力	ブーリアン

GetAttachmentNames

一意のエントリー ID で指定されたメールに関連付けられている添付ファイル名のリストを取得します。

GetAttachmentNames メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
MailId	このパラメーターは、添付ファイル名を取得するメールの一意のエントリー ID を指定します。	データ入力	文字列

GetExistingAccounts

構成されたアカウントのリストやその数など、構成されたアカウントに関する情報を取得します。

これは、Outlook で複数のアカウントが構成されている場合に役立ちます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetExistingAccounts メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
アカウント	このパラメーターは参照によって渡され、(文字列の) リストであることが想定されます。このメソッドを呼び出すと、構成されたアカウント名のリストが入力されます。	データ出力	List1
カウント	このパラメーターは参照によって渡されます。このメソッドを呼び出すと、このパラメーターに構成されたアカウントの数が入力されます。	データ出力	Int32

GetFolderNames

アクティブな Outlook アカウントからフォルダ名のリストを取得して返します。

GetFolderNames メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	アクティブな Outlook アカウントからフォルダ名のリストを返します。	データ出力	List1

GetMail

一意のエントリー ID (MailId) で指定されたメールのすべての詳細を取得します。

メールのすべての詳細を取得するための追加クライテリアを指定するには、GetMail メソッドバーでメソッド設定アイコン ( ) をクリックし、CC、BCC、件名、本文、送信者、宛先、AttachmentsCount、ReceivedTime、EntryId などの必要なメール項目を選択します。

GetMail メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
MailId	このパラメーターは、詳細を取得するメールの一意のエントリー ID を指定します。	データ入力	文字列

GetMails

メールシステム内の指定されたフォルダからメールエントリー ID のリストを取得します。

GetMails メソッドは、メールシステム内の指定されたフォルダからメールエントリー ID のリストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetMails メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
FolderName	このパラメーターは、メールエントリー ID を取得するフォルダの名前を指定します。 デフォルト値は「受信箱」です。	データ入力	文字列
フィルター	このパラメーターは、メールエントリー ID を取得するときに適用するフィルター条件を指定します。	データ入力	文字列
NoOfMails	このパラメーターは、取得するメールエントリー ID の最大数を指定します。デフォルト値は 10 です。	データ入力	Int32
UnreadOnly	このパラメーターは、未読メールのみを取得するか (True)、すべてのメールを取得するか (False) を示します。デフォルトは [True] です。	データ入力	ブーリアン
AvoidMeetingItems	このパラメーターは、取得したメールエントリー ID から会議アイテムを除外するかどうかを指定します。デフォルトは [True] です。	データ入力	ブーリアン
FetchingOrder	このパラメーターは、メールがフェッチされる順序を指定します。例：FIFO、LIFO。デフォルトは FIFO です。	データ入力	FetchingOrder
Return	このパラメーターは、指定されたフォルダからのメールのリストを返します。	データ出力	List1
カウント	このパラメーターは、取得されるメールエントリー ID の合計数を指定します。	データ出力	Int32

GetSenderName

一意のエントリー ID で指定されたメールに関連付けられている送信者のメールアドレスを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetSenderName メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
MailId	このパラメーターは、送信者のメールアドレスを取得するメールの一意のエントリー ID を指定します。	データ入力	文字列
Return	このメソッドは、送信者名を示す文字列値を返します。	データ出力	文字列

MarkAsRead

一意のエントリー ID に基づいてメールを既読としてマークします。

MarkAsRead メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
MailId	このパラメーターは、送信者のメールアドレスを取得するメールの一意のエントリー ID を指定します。	データ入力	文字列
Return	このメソッドは、メールが既読として正常にマークされたかどうかを示すブール値を返します。 戻り値の true は、操作が成功したことを示します。	データ出力	ブーリアン

MarkAsUnread

一意のエントリー ID に基づいてメールを未読としてマークします。

MarkAsUnread メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
MailId	このパラメーターは、未読としてマークする必要があるメールの一意のエントリー ID を指定します。	データ入力	文字列
Return	このメソッドは、メールが正常に未読としてマークされたかどうかを示すブール値を返します。	データ出力	ブーリアン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MarkAsUnread メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
	戻り値の true は、操作が成功したことを示します。		

MoveMail

一意のエントリー ID に基づいて、メールシステム内のフォルダ間でメールを移動します。

MoveMail メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
MailId	このパラメーターは、移動する必要があるメールの一意のエントリー ID を指定します。	データ入力	文字列
DestinationFolder	このパラメーターは、メールの移動先フォルダの名前またはパスを指定します。	データ入力	文字列

ReadMsgFile

ファイルシステムから .msg ファイルの内容を読み取ります。

ReadMsgFile メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	このパラメーターは、読み取る必要がある .msg ファイルへのパスを指定します。	データ入力	文字列
本文	このパラメーターは参照 (ByRef) によって渡され、メソッド呼び出し後に .msg ファイルの本文の内容が設定されます。	データ出力	文字列

返信

一意のエントリー ID で指定されたメールへの返信を生成して送信します。

Reply メソッドパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
IsHtmlBody	このパラメーターは、返信メールの本文コン	データ入力	ブーリアン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Reply メソッドパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
	テンツが HTML 形式であるかどうかを示します。 デフォルトは False です。		
Return	このメソッドは、応答が正常に送信されたかどうかを示すブール値を返します。 戻り値の true は、操作が成功したことを示します。	データ出力	ブーリアン

SaveAllAttachments

一意のエントリー ID で指定されたメールのすべての添付ファイルを、指定したフォルダパスに保存します。

SaveAllAttachments メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
MailId	このパラメーターは、添付ファイルを保存する必要があるメールの一意のエントリー ID を指定します。	データ入力	文字列
FolderPath	このパラメーターは、添付ファイルを保存する必要があるフォルダのパスを指定します。	データ入力	文字列

SaveAttachment

指定されたエントリー ID を持つメールの指定された添付ファイルを、指定されたファイルに保存します。

SaveAttachment メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
MailId	このパラメーターは、添付ファイルを保存する必要があるメールの一意のエントリー ID を指定します。	データ入力	文字列
AttachmentName	このパラメーターは、保存する必要がある添	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SaveAttachment メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
	付ファイルの名前を指定します。		
Filepath	このパラメーターは、添付ファイルを保存する必要があるファイルのパスを指定します。	データ入力	文字列

SaveMail

一意のエントリー ID (MailId) で指定されたメールを、指定されたファイルパスのファイルに保存します。

SaveMail メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
MailId	このパラメーターは、保存するメールの一意のエントリー ID を指定します。	データ入力	文字列
Filepath	このパラメーターは、メールをファイルとして保存する必要があるパスを指定します	データ入力	文字列
SaveType	このパラメーターは、メールを保存する際の形式を指定します。 デフォルト値は MsgSaveType.olMSG で、Microsoft Outlook MSG 形式を示します。	データ入力	MsgSaveType

SendMail

受信者にメールを送信します。画像の追加、送信者のアドレスの設定、CC および BCC 受信者の指定など、メールをカスタマイズするためのさまざまなオプションのパラメーターがあります。

SendMail メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
ToEmailId	このパラメーターは、受信者のメールアドレスを指定します。	データ入力	文字列
画像	このパラメーターは、メールに含めるオプションの画像を指定します。	データ入力	Drawing.Bitmap

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SendMail メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
送信元	このパラメーターは、送信者のメールアドレスを指定します。指定しない場合は、デフォルトの送信者のアドレスが使用されます。	データ入力	文字列
CC	このパラメーターは、カーボンコピー (CC) の送信先のメールアドレスを指定します。	データ入力	文字列
BCC	このパラメーターは、ブラインドカーボンコピー (BCC) の送信先のメールアドレスを指定します。	データ入力	文字列
Subject	このパラメーターは、メールの件名を指定します。	データ入力	文字列
本文	このパラメーターは、メール本文の内容を指定します。	データ入力	文字列
添付ファイル	このパラメーターは、メールに含める添付ファイルのファイルパスを指定します。複数のファイルはセミコロンで区切ることができます。	データ入力	文字列
IsHtmlBody	このパラメーターは、メールの本文が HTML 形式であるかどうかを示します。デフォルトは False です。	データ入力	ブーリアン
Return	このメソッドは、メールが正常に送信されたかどうかを示すブール値を返します。 戻り値の true は、操作が成功したことを示します。	データ出力	ブーリアン

SentAs

別のメールアカウントの代わりにメールを送信します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SentAs メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
ToEmailId	このパラメーターは、受信者のメールアドレスを指定します。	データ入力	文字列
SentOnBehalfEmailID	このパラメーターは、代理でメールを送信するメールアドレスを指定します。	データ入力	文字列
Subject	このパラメーターは、メールの件名を指定します。	データ入力	文字列
本文	このパラメーターは、メール本文の内容を指定します。	データ入力	文字列
添付ファイル	このパラメーターは、メールに含める添付ファイルのファイルパスを指定します。	データ入力	文字列
IsHtmlBody	このパラメーターは、メールの本文が HTML 形式であるかどうかを示します。デフォルトは False です。	データ入力	ブーリアン

SetAccount

自動化タスクの操作を実行する Outlook アカウントを指定します。

SetAccount メソッドは、このコネクタの他のメソッドに先立って最初に使用して、後続のメソッドを実行するコンテキストまたはメールアカウントを指定または設定する必要があります。

SetAccount メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
AccountName	このパラメーターは、操作を実行する Outlook メールアカウント ID を指定します。	データ入力	文字列

Microsoft Word

Microsoft Word コネクタを使用すると、そのメソッドを介して、Microsoft Word ドキュメントに対してさまざまなタスクを実行できます。たとえば、ドキュメントにフッターを追加できます。

- Microsoft Word コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 32 ビット Microsoft Office のインストールはサポートされていません。

Microsoft Word コネクタのメソッド

Microsoft Word コネクタのメソッドを使用すると、Microsoft Word ドキュメントを使用してさまざまな日常のタスクを実行し、それらを自動化できます。たとえば、ページフッターを追加します。

オープン

ローカルディスクに保存されている Microsoft Word ファイルを開きます。

注: このメソッドは、Microsoft Word コネクタの他のメソッドの前に実行する必要があります。

Open メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	ローカルディスク内の Microsoft Word ファイルへのパスを指定します。	データ入力	文字列
Timeout	処理がタイムアウトするまでの時間を指定します。	データ入力	整数
Password	ドキュメントがパスワードで保護されている場合は、パスワードを使用します。	データ入力	文字列
Return	処理の結果を示すブール値を返します。True の場合、ファイルは開かれました。False の場合、ファイルは開けませんでした。	データ出力	ブーリアン

Open メソッドに関連する問題の詳細については、『KB 記事 KB1123558』および『KB 記事 KB1123548』を参照してください。

AddFooter

指定されたフォントサイズで Microsoft Word ドキュメントにフッターを追加します。

このメソッドを使用するには、追加するテキストをテキストパラメーターに指定し、フッターテキストを表示するフォントサイズを FontSize パラメーターに指定します。FontSize パラメーターのデフォルト値は 12 です。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

AddFooter メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
テキスト	フッターのテキストを指定します。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AddFooter メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
FontSize	フッターのテキストのフォントサイズを指定します。デフォルト値は 12 です。	データ入力	整数

入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

AddHeader

指定したフォントサイズで Microsoft Word ドキュメントにヘッダーを追加します。

このメソッドを使用するには、追加するテキストをテキストパラメーターに指定し、ヘッダーテキストを表示するフォントサイズを FontSize パラメーターに指定します。FontSize パラメーターのデフォルト値は 12 です。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

AddHeader メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
テキスト	ヘッダーのテキストを指定します。	データ入力	文字列
FontSize	ヘッダーのテキストのフォントサイズを指定します。デフォルト値は 12 です。	データ入力	整数

CellCopy

Microsoft Wordドキュメント内のテーブルの行インデックスと列インデックスを使用して、識別されたテーブルセルの内容をコピーします。

このメソッドを使用するには、行インデックスを RowIndex パラメーターに、列インデックスを ColumnIndex パラメーターに指定します。RowIndex と ColumnIndex のデフォルト値は、それぞれ -1 です。

注: このメソッドを実行する前に、SetTable メソッドを実行する必要があります。

CellCopy メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
RowIndex	コピーする必要があるセルの行のインデックス。行インデックス値はゼロ以上である必要があります。デフォルト値は -1 で、使用可能なセルがないことを意味します。	データ入力	整数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CellCopy メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
ColumnIndex	コピーする必要があるセルの列のインデックス。列インデックスはゼロ以上である必要があります。デフォルト値は -1 で、使用可能なセルがないことを意味します。	データ入力	整数

CellPaste

コピーしたテーブルセルの内容を、 Microsoft Word ドキュメント内のテーブルの行インデックスと列インデックスを使用して識別されるテーブルセルに貼り付けます。

このメソッドを使用するには、行インデックスを RowIndex パラメーターに、列インデックスを ColumnIndex パラメーターに指定します。RowIndex と ColumnIndex のデフォルト値は、それぞれ -1 です。

注: このメソッドを実行する前に、SetTable メソッドおよび CellCopy メソッドを実行する必要があります。

CellPaste メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
RowIndex	データを貼り付ける必要があるセルの行のインデックス。行インデックス値はゼロ以上である必要があります。デフォルト値は -1 で、データを貼り付けるための行がないことを意味します。	データ入力	整数
ColumnIndex	データを貼り付ける必要があるセルの列のインデックス。列インデックスはゼロ以上である必要があります。デフォルト値は -1 で、データを貼り付けるための列がないことを意味します。	データ入力	整数

Close

最後に開いた Microsoft Word ドキュメントを閉じます。ドキュメントを閉じるときに、変更を保存するかどうかは任意です。

Word ドキュメントに加えられた変更を保存する必要がある場合は、saveChanges ブールパラメーターを True に設定し、それ以外の場合は False に設定します。デフォルトでは、saveChanges ブールパラメーターは True に設定されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

Close メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
saveChanges	閉じる前に Word ドキュメントに加えた変更を保存するかどうかを指定します。デフォルトでは True に設定されており、閉じる前に変更が保存されることを意味します。閉じる前に変更を保存する必要がない場合は、False に設定します。	データ入力	ブーリアン

DeleteColumn

Microsoft Word ドキュメント内の列の指定されたインデックス値に基づいて、テーブルから列を削除します。

このメソッドを使用するには、削除する必要がある列のインデックスを ColumnIndex パラメーターに指定します。デフォルト値は -1 です。

注: このメソッドを実行する前に、SetTable メソッドを実行する必要があります。

DeleteColumn メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
ColumnIndex	削除する必要がある列のインデックス。列インデックスはゼロ以上である必要があります。デフォルト値は -1 で、削除できる列がないことを意味します。	データ入力	整数

DeletePage

Microsoft Word ドキュメントから指定されたインデックス値に基づいて、ページを削除します。

このメソッドを使用するには、削除する必要があるページのインデックス値を PageIndex パラメーターに指定します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

DeletePage メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
PageIndex	消去または削除する必要があるページのイン	データ入力	整数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DeletePage メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
	デックス番号を指定します。 インデックス番号を指定しない場合、メソッドはデフォルトで最初のページを削除します。		

DeleteRow

Microsoft Word ドキュメント内のテーブルから指定されたインデックス値に基づいて、行を削除します。

このメソッドを使用するには、削除する必要がある行のインデックスを RowIndex パラメーターに指定します。デフォルト値は -1 です。

注: このメソッドを実行する前に、SetTable メソッドを実行する必要があります。

DeleteRow メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
RowIndex	削除する必要がある行のインデックス。行インデックス値はゼロ以上である必要があります。デフォルト値は -1 で、削除できる行がないことを意味します。	データ入力	整数

DeleteTable

Microsoft Word ドキュメントからテーブルを削除します。

ドキュメント内に複数のテーブルがある場合、メソッドはドキュメント内の最初のテーブルを削除します。

注: このメソッドを実行する前に、SetTable メソッドを実行する必要があります。

ExportToPDF

指定したパスで Microsoft Word ドキュメントを PDF ドキュメントにエクスポートします。

このメソッドを使用するには、PDF ファイルを Filepath パラメーターに抽出する必要があるパスを指定します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ExportToPDF メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	Word ドキュメントが PDF にエクスポートされるフォルダパスを指定します。	データ入力	文字列

Find

Microsoft Word ドキュメント内で指定されたテキストを検索し、ブール応答を返します。

このメソッドを使用するには、ドキュメント内で検索するテキストを Text パラメーターに指定します。

Find メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Text	Word ドキュメント内で検索するテキストです。	データ入力	文字列
Return	Word ドキュメント内でテキストが見つかったかどうかを示す true/false 値を返します。	データ出力	ブーリアン

GetCellValueByIndex

Microsoft Word ドキュメント内のテーブルのセルの値を返します。

このメソッドを使用するには、セル値を取得するセルのインデックスを、CellIndex パラメーターに指定します。

注: このメソッドを実行する前に、SetTable メソッドを実行する必要があります。

GetCellValueByIndex メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
CellIndex	値を取得するセルのインデックスです。	データ入力	文字列
Return	必要なセルに存在する値を返します。	データ出力	文字列

GetFooterText

Microsoft Word ドキュメント内のフッターテキストを返します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetFooterText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	フッターテキストを文字列形式で返します。	データ出力	文字列

GetHeaderText

Microsoft Word ドキュメント内のヘッダーテキストを返します。

注: このメソッドを実行する前に、Open メソッドを実行する必要があります。

GetHeaderText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	ヘッダーテキストを文字列形式で返します。	データ出力	文字列

GetPageCount

Microsoft Word ドキュメントの総ページ数を返します。

GetPageCount メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	Word ドキュメントの合計ページ数の整数値または数値を返します。	データ出力	整数

GetRowIndexByValue

行内のセルの指定された値に基づいて、その行のインデックス値を返します。

このメソッドを使用するには、Value パラメーターに指定された値に基づいて行のインデックスを取得するための、ドキュメントテーブルを Table パラメーターに指定します。

注: このメソッドを実行する前に、GetTable メソッドおよび SetTable メソッドを実行する必要があります。

GetRowIndexByValue メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Table	Word ドキュメント内でさらにアクションを実行するための参照としてのテーブルオブジェクト。	データ入力	オブジェクト
Value	テーブル内の特定の行に対応するテキストを検索します。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetTable

Microsoft Word ドキュメントのテーブルのデータを、テーブルオブジェクトおよびデータテーブルとして返します。ドキュメントに複数のテーブルが含まれている場合は、テーブルインデックスを指定してメソッドのテーブルを識別することができます。必要に応じてテーブルタイプを指定することもできます。

このメソッドを使用するには、想定されたテーブルのインデックスを TableIndex パラメーターに指定します。最初の行をヘッダーとして扱う必要がある場合は、FirstRowIsHeader パラメーターを True に設定し、それ以外の場合は False に設定します。

テーブルの構造に応じて、オプションでメソッドのテーブルタイプを設定可能です。テーブルを設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. テーブルタイプを選択します。
3. [**OK**] をクリックします。

GetTable メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
		データ入力	
TableIndex	Microsoft Word ドキュメント内のテーブルインデックスです。	データ入力	文字列
FirstRowIsHeader	メソッドが最初の行をテーブルのヘッダーとして扱うかどうかを示すブール値です。 デフォルトでは True に設定されており、最初の行がヘッダーと見なされます。最初の行がヘッダーでない場合は、このパラメーターを False に設定します。	データ入力	ブーリアン
Table	テーブル内のデータをオブジェクトとして返します。	データ出力	オブジェクト
Data	テーブル内のデータを返します。	データ出力	Data

GetTableCellValues

1 つまたは複数のテーブルセルの値を返します。

このメソッドを使用するには、値が必要なテーブルセルのインデックスを構成ウィンドウに入力します。

セルの数を指定するには、セルのインデックス値を設定する必要があります。設定するには、次の手順を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. ( ) をクリックします。
3. セルのインデックス値を入力します。
4. さらにインデックス値を追加するには、手順を繰り返します。
5. [**OK**] をクリックします。

GetTableCount

Microsoft Word ドキュメントのテーブル数を返します。オプションで、メソッドが識別するテーブルのタイプを指定できます。

構成ウィンドウからテーブルタイプを選択します。Word ドキュメントでテーブルの合計数を受け取ることを想定する場合は、テーブルタイプを [デフォルト] に設定します。テーブルのセル内にネストされたテーブルの数を想定する場合は、テーブルタイプを [ネスト済み] に設定します。ネストされたテーブルを持つテーブルのインデックスを TableIndex パラメーターに、ネストされたテーブルの数が想定されるテーブルセルインデックスを CellIndex パラメーターに指定します。

テーブルのタイプを設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. テーブルタイプを選択します。
3. [**OK**] をクリックします。

GetTableCount メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	Word ドキュメント内のテーブルの合計数の整数値を返します。	データ入力	整数

GetTableRowData

Microsoft Word ドキュメントの行の 1 つまたは複数のセル内の値を返します。行のセルのインデックス値を指定できます。

注: このメソッドを実行する前に、SetTable メソッドを実行する必要があります。

行内のセルのインデックス値を設定可能です。設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. インデックス値の追加アイコン ( ) をクリックします 。
3. セルのインデックス値を入力します。
4. さらにインデックス値を追加するには、手順を繰り返します。
5. [**OK**] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetTableRowData メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
RowIndex	データを取得する必要がある行のインデックス。デフォルト値は 0 で、データは最初の行からフェッチされます。	データ入力	整数

GetText

Microsoft Word ドキュメントのすべてのテキストコンテンツを返します。

GetText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	ドキュメント全体のテキストを文字列形式で返します。	データ出力	文字列

InsertNewColumn

指定されたインデックス値に基づいて、ドキュメントの最初のテーブルに新しい列を挿入します。

このメソッドを使用するには、新しい列を挿入する必要があるインデックス番号を ColumnIndex パラメーターに指定します。デフォルト値は -1 で、これは列が最初の列の前に挿入されることを意味します。

InsertNewColumn メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
ColumnIndex	新しい列を挿入する必要があるインデックス。デフォルト値は -1 で、テーブルに列がないことを意味します。	データ入力	整数

InsertNewRow

インデックス値に基づいて新しい行を挿入します。

このメソッドを使用するには、新しい列を挿入する必要があるインデックス番号を、RowIndex パラメーターに指定します。デフォルト値は -1 で、これは最初の行の前に行が挿入されることを意味します。

InsertNewRow メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
RowIndex	新しい行を挿入する必要があるインデックスです。デフォルト値は	データ入力	整数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

InsertNewRow メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
	-1 で、テーブルに行がないことを意味します。		

InsertPicture

特定のブックマークで指定されたファイルパスから Microsoft Wordドキュメントに画像を挿入します。

このメソッドを使用するには、挿入する必要がある画像のファイルパスを、ImageFilePath パラメーターに指定します。Word ドキュメント内で画像を挿入する必要がある識別場所を Bookmark パラメーターに指定します。

InsertPicture メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
ImageFilePath	挿入する必要がある画像へのシステムフォルダーパス。	データ入力	文字列
Bookmark	画像を追加する必要があるポイント。	データ入力	文字列

InsertTable

Microsoft Word ドキュメントにテーブルを挿入します。挿入する前に設定して、オプションでドキュメントをカスタマイズできます。

このメソッドを使用するには、テーブルを追加する必要があるポイントを Bookmark パラメーターに指定し、追加する必要があるテーブルを Data パラメーターに渡す必要があります。

注: このメソッドを実行する前に、GetTable メソッドおよび SetTable メソッドを実行する必要があります。

挿入する前にテーブルをカスタマイズするには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. [ヘッダーを含める (Include Headers)] を選択します。
3. 境界線のスタイルと自動調整の動作を選択します。
4. [空の行を含める (Include Empty Rows)] を選択します。
5. 特定の列を無視するには、インデックス値の追加アイコン ( ) をクリックします 。
6. 列のインデックス値を入力します。
7. [**OK**] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

InsertTable メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Bookmark	テーブルが挿入される Word ドキュメント内の特定の位置です。 テーブルを挿入する前に、ブックマークを追加する必要があります。	データ入力	文字列
Data	ブックマークポイントに挿入されるテーブルデータ。	データ入力	データ

InsertText

Microsoft Word ドキュメントの先頭にテキストを挿入します。

このメソッドを使用するには、挿入する必要がある値を text パラメーターに指定します。

InsertText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
text	挿入する必要があるテキスト値。	データ入力	文字列

IsOpen

Microsoft Word ドキュメントが開いているかどうかを確認します。

IsOpen メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	Word ドキュメントまたはファイルへのシステムフォルダーパスです。	データ入力	文字列
Return	Word ドキュメントまたはファイルへのシステムフォルダーパスです。	データ出力	ブーリアン

MergeByCellIndices

インデックス値の範囲の形式で指定されたセル範囲を結合します。

このメソッドを使用するには、開始セルのインデックス値を StartCellIndex パラメーターに指定し、終了セルのインデックス値を EndCellIndex パラメーターに指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MergeByCellIndices メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
StartCellIndex	セルの結合を開始する開始セルポイントのインデックスです。	データ入力	整数
EndCellIndex	セルの結合を終了する終了セルポイントのインデックスです。	データ入力	整数

MergeByRowCol

Microsoft Word ドキュメント内のテーブルのセル範囲を結合します。

このメソッドを使用するには、開始行インデックスを StartRowIndex パラメーターに、終了行インデックスを EndRowIndex パラメーターに、開始列インデックスを StartColIndex パラメーターに、終了列インデックスを EndColIndex パラメーターに指定します。

MergeByRowCol メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
StartRowIndex	開始行のインデックス。	データ入力	整数
StartColIndex	開始列のインデックス。	データ入力	整数
EndRowIndex	終了行のインデックス。	データ入力	整数
EndColIndex	終了列のインデックス。	データ入力	整数

ReplaceBookmark

Microsoft Word ドキュメント内のブックマークを指定されたテキストに置き換えます。

このメソッドを使用するには、ReplaceText パラメーターに指定された置換対象のテキストを使用して、Bookmark パラメーターに識別ブックマークを指定します。

ReplaceBookmark メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Bookmark	Word ドキュメントの識別ブックマーク。	データ入力	文字列
ReplaceText	ブックマークされた場所のテキストを、指定された新しい値に置き換えます。	データ入力	文字列

ReplaceBookmarks

Microsoft Word ドキュメント内の複数のブックマークを検索して、指定されたテキストに置き換えます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このメソッドを使用するには、追加されたフィールドに値を指定します。この値は、ブックマークで置き換える必要があるテキストです。

置き換えるブックマークテキストの詳細を次のように指定します。

1. コンポーネントをダブルクリックします。
2. [ラベル / ブックマークを指定 (PROVIDE LABELS/BOOKMARKS)] ダイアログボックスで、クリックしてラベルを追加アイコン ( ) をクリックし、置き換えるためのブックマークを入力します。

   さらにブックマークを追加するには、この手順を繰り返します。
3. [**OK**] をクリックします。

ReplaceBookmarks メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Text	Microsoft Word ドキュメント内で置換されるテキスト。	データ入力	文字列

ReplaceFooterText

Microsoft Word ドキュメント内のフッターテキストを検索して、指定されたテキストに置き換えます。

Word ドキュメントに存在する元のフッターテキスト値を FindText パラメーターに指定し、元のフッターテキストを置き換える必要があるテキストを ReplaceText パラメーターに指定します。

ReplaceFooterText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
FindText	フッターに存在する現在の値。	データ入力	文字列
ReplaceText	フッターで FindText 値を置き換えるために必要な値。	データ入力	文字列

ReplaceHeaderText

Microsoft Word ドキュメント内のヘッダーテキストを検索して、指定されたテキストに置き換えます。

Word ドキュメントに存在する元のヘッダーテキスト値を FindText パラメーターに指定し、元のヘッダーテキストを置き換える必要があるテキストを ReplaceText パラメーターに指定します。

ReplaceHeaderText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
FindText	ヘッダーに存在する現在の値。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ReplaceHeaderText メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
ReplaceText	ヘッダー内で FindText 値を置き換えるために必要な値。	データ入力	文字列

ReplaceStaticText

Microsoft Word ドキュメント内のテキストを検索して、指定されたテキストに置き換えます。設定に基づいて、ブックマーク、見出し、または任意のテキストを置き換えます。

このメソッドを使用するには、追加されたフィールドに値を指定します。この値は、ラベル/ブックマークに置き換える必要があるテキストです。

実行する前に、メソッドを設定する必要があります。設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. テキスト追加アイコン ( ) をクリックします。
3. 置き換えるための見出し、ブックマーク、またはテキストを入力します。
4. さらにテキストを入力するには、手順を繰り返します。
5. [**OK**] をクリックします。

ReplaceText

Microsoft Word ドキュメント内のテキストを検索して、指定されたテキストに置き換えます。

Word ドキュメントに存在する元のテキスト値を FindText パラメーターに指定し、元のテキストを置き換える必要があるテキストを ReplaceText パラメーターに指定します。

ReplaceText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
FindText	Word ドキュメントに存在する現在の値。	データ入力	文字列
ReplaceText	Word ドキュメント内で FindText 値を置き換えるために必要な値。	データ入力	文字列

Resize

Microsoft Word ドキュメントのウィンドウのサイズを、Left、Top、Width、Height のパラメータに従って変更します。

このメソッドを使用するには、コンテンツの Left マージンと Top マージン、および Width パラメーターと Height パラメーターを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Resize メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Left	Word ドキュメントのコンテンツの左マージン。	データ入力	整数
Top	Word ドキュメントのコンテンツの上マージン。	データ入力	整数
Width	Word ドキュメントの幅。	データ入力	整数
Height	Word ドキュメントの高さ。	データ入力	整数

Save

開いている Microsoft Word ドキュメントを保存します。

SaveAs

開いている Microsoft Word ドキュメントのコピーを、Filepath パラメーターで指定された場所に別の名前で保存します。

このメソッドを使用するには、 Microsoft Word ドキュメントを保存する必要がある新しい場所を Filepath パラメーターに指定します。ファイルをパスワードで保護する必要がある場合は、その値を Password パラメーターに渡します。

SaveAs メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	Word ドキュメントまたはファイルへのシステムフォルダーパスです。	データ入力	文字列
Password	指定されたパスワードを使用して、パスワードで保護された Word ドキュメントを開きます。デフォルト値は空です。	データ入力	文字列

SetTable

Microsoft Word ドキュメントにテーブルを設定します。

このメソッドを使用するには、テーブルオブジェクトを Table パラメーターに渡す必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetTable メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Table	Word ドキュメントに設定する必要があるテーブル。	データ入力	オブジェクト

SetTableCellValues

Microsoft Word ドキュメント内のテーブルセルの内容を設定します。

このメソッドを使用するには、値を設定する必要があるテーブルセルのインデックスを構成ウィンドウで指定します。

1 つまたは複数のセルインデックスと値タイプを次のように指定します。

1. コンポーネントをダブルクリックします。
2. [セルインデックスを指定 (PROVIDE CELL INDEXES)] ダイアログボックスで、クリックしてセルインデックスを追加アイコン ( ) をクリックし、セルインデックスを入力して値タイプを選択します。

   さらにセルインデックスと値タイプを追加するには、この手順を繰り返します。
3. [**OK**] をクリックします。

SetTableRowData

Microsoft Word ドキュメントのテーブルの行の内容を設定します。

このメソッドを使用するには、データを設定する必要があるテーブル行のインデックスを RowIndex パラメーターに渡します。

注: このメソッドを実行する前に、SetTable メソッドを実行する必要があります。

入力

RowIndex

列インデックスを次のように指定します。

1. コンポーネントをダブルクリックします。
2. [列インデックスを指定 (PROVIDE COLUMN INDEXES)] ダイアログボックスで、クリックしてセルインデックスを追加アイコン ( ) をクリックし、列インデックスを入力します。
3. [**OK**] をクリックします。

SetTableRowData メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
RowIndex	データを設定する必要がある行のインデックス。デフォルト値は 0 で、データは最初の行に設定されます。	データ入力	整数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Word コネクタメソッドのパラメーター

RPA デスクトップデザインスタジオ の Microsoft Word コネクタメソッドのパラメーターについて説明します。

Microsoft Word コネクタメソッドのパラメーター

パラメーター名	説明	必須？
ブックマーク	Microsoft Word ドキュメントのブックマークです。	はい
CellIndex	テーブル内のセルのインデックスです。	はい
ColumnIndex	テーブル内の列の順序です。	はい。 列インデックスはゼロ以上である必要があります。
データ	Microsoft Word ドキュメントに追加するデータを含むテーブルです。	はい
Filepath	ドキュメントの名前を含むフォルダの場所です。	はい
EndCellIndex	範囲の最後のセル番号です。	はい
ImageFilePath	挿入するファイル名の画像へのパスです。	はい
Filepath	ドキュメントが PDF としてエクスポートされる場所です。	はい。 ファイル名と PDF 拡張子を指定する必要があります。
ブックマーク	画像が挿入される Word ドキュメント上の正確な位置です。最初にドキュメントにブックマークを定義する必要があります。	はい
FilePath	ファイル名を含む Microsoft Word ファイルへのパスです。	はい
EndColIndex	セルの結合、テキストの検索、値の設定または取得など、テーブルに対する一括処理の範囲の最後の列番号です。	はい
EndRowIndex	セルの結合、テキストの検索、値の設定または取得など、テーブルに対する一括処理の範囲の最後の行番号です。	はい
FirstRowIsHeader	メソッドが最初の行をテーブルのヘッダーとして扱うかどうかを示すブール値です。	いいえ
PageIndex	ページのインデックス値です。	なし。
Return (Boolean)	要求が成功したかどうかを示すブール応答です。	適用外
タイムアウト	応答がない場合に、ドキュメントを開く要求がタイムアウトするまでの秒数です。	いいえ
StartCellIndex	範囲の最初のセル番号です。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Word コネクタメソッドのパラメーター (続く)

パラメーター名	説明	必須？
StartColIndex	セルの結合、テキストの検索、値の設定または取得など、テーブルに対する一括処理の範囲の最初の列番号です。	はい
StartRowIndex	セルの結合、テキストの検索、値の設定または取得など、テーブルに対する一括処理の範囲の最初の行番号です。	はい
RowIndex	ドキュメント内のテーブルの行の順序です。	はい。 行インデックス値はゼロ以上である必要があります。
テーブル	テーブルデータです。	はい
TableIndex	Microsoft Word ドキュメント内のテーブルインデックスです。	いいえ
テキスト または、FindText または、ReplaceText	AddFooter、AddHeader、または InsertText の各メソッドで、Microsoft Word ドキュメントに追加されるテキストです。 Find メソッドでドキュメント内で検索されるテキストです。 ReplaceBookmark、ReplaceFooterText、ReplaceHeaderText、または ReplaceText の各メソッドで、置き換えられるテキストです。	はい
[値]	セル内の値です。	はい
テキスト	フッターに追加されるテキストです。	はい
FontSize	フッターテキストのフォントサイズです。	いいえ
テキスト	ヘッダーに追加されるカスタムテキストです。	はい
FontSize	ヘッダーテキストのフォントサイズです。	はい
テキスト	ドキュメント内で検索するテキストです。	はい
Return (String)	フッターテキストを返します。	適用外
Return (Integer)	ページ数を返します。	適用外
Return (String)	ヘッダーテキストを返します。	適用外
Return (String)	テキストコンテンツを返します。	適用外
テキスト	Word ドキュメントに挿入されるテキストです。	はい
Return (Boolean)	Word ドキュメントが開いているかどうかを示すブール値を返します。	適用外
saveChanges	ドキュメントを閉じる前に変更を保存するかどうかを示すブール応答です。	いいえ
Return (Boolean)	ドキュメント内でテキストが見つかったかどうかを示すブール応答です。	適用外
Table (Object)	テーブル内のデータをオブジェクトとして返します。	適用外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Microsoft Word コネクタメソッドのパラメーター (続く)

パラメーター名	説明	必須？
Data (DataTable)	テーブル内のデータを返します。	適用外
Cell Index (Object)	セルの値を返します。	適用外
Return (Integer)	Microsoft Word ドキュメントに含まれるテーブルの合計数を返します。	適用外
Row index (Object)	インデックス値に基づいて、セル内のデータを返します。	適用外
ColumnIndex	新しい列の位置が決定される基準となる列のインデックス値です。	なし。
RowIndex	行の位置が決定される基準となる行のインデックス値です。	いいえ
ブックマーク	テーブルが挿入される Word ドキュメント内の特定の位置です。 テーブルを挿入する前に、ブックマークを追加する必要があります。	はい
Data (DataTable)	挿入されるテーブルです。	はい
FindText	置換されるフッターテキストです。	はい
ReplaceText	フッターテキストを置き換えるテキストです。	はい
FindText	置換されるヘッダーテキストです。	はい
ReplaceText	ヘッダーテキストを置き換えるテキストです。	はい
オブジェクト	ドキュメント内のテキストを置き換えるテキストです。	はい
FindText (String)	置換されるテキストです。	はい
ReplaceText	既存のテキストを置き換えるテキスト。	はい
左	左マージンからのサイズ変更の値です。	はい
Top	上マージンからのサイズ変更の値です。	はい
幅	サイズ変更の幅の値です。	はい
高さ	サイズ変更の高さの値です。	はい

パラメーターの入力

パラメーターに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

PDF コネクタ

PDF コネクタを使用し、RPA デスクトップデザインスタジオ の単一の統一されたスペースからすべての PDF 操作を実行します。このコネクタを使用すると、ドキュメント自動化の PDF 処理を高速化できます。

PDF コネクタは、デフォルトで RPA デスクトップデザインスタジオ ではプラグインとして利用できます。コネクタで利用可能なさまざまなメソッドを使用して、PDF の変換、分割、結合などのアクティビティを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: RPA デスクトップデザインスタジオ では、ツールボックスの [ユーティリティ] の古い PDF メソッドを使用して設計された自動化プロジェクトを引き続きサポートしています。

- RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- PDF コネクタのさまざまなメソッドの詳細については、「PDF コネクタのメソッド」を参照してください。

PDF コネクタのメソッド

RPA デスクトップデザインスタジオ での PDF コネクタのさまざまなメソッドを使用することで、ドキュメント自動化の PDF 処理を高速化します。

クローズ

PDF ドキュメントに関連付けられているリソースを閉じます。Load メソッドを使用した後に参照とリソースを解放するには、このメソッドを使用します。

このメソッドは、PDF ドキュメントを使用する必要がなくなった場合、または操作が完了した後に呼び出します。

ConvertToExcel

PDF ドキュメントを Microsoft Excel ドキュメントに変換します。オプションで、指定した場合はテーブルのみを変換できます。

変換された Excel ドキュメントを保存する必要があるファイルパスを指定してこのメソッドを呼び出し、テーブルのみを変換する必要がある場合は、オプションで **[ConvertTablesOnly]** を **[True]** に設定します。

ConvertToExcel メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
ExcelFilePath	変換された Excel ドキュメント (.xlsx) が保存されるファイルパス。ファイルパスにファイル名と拡張子が含まれていることを確認します。	文字列
ConvertTablesOnly	**[True]** に設定すると、PDF ドキュメントのテーブルのみが Excel に変換されます。デフォルトは **[True]** です。	ブーリアン

ConvertToHTML

PDF の指定されたページを HTML 形式に変換します。ページ番号が 0 以下の場合、PDF のすべてのページが HTML に変換されます。

HTML に変換する PDF のページ番号を指定して、このメソッドを呼び出します。0 以下のページ番号を渡すと、PDF 全体が HTML に変換されます。このメソッドは、HTML コンテンツを文字列として返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ConvertToHTML メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
PageNumber (データ入力)	HTML に変換される PDF のページ番号。このパラメーターが 0 以下の場合、PDF のすべてのページが HTML に変換されます。通常、ページ番号は 1 から始まります。	Int32
Return (データ出力)	このメソッドは、PDF ファイルのコンテンツを表す文字列として HTML コンテンツを返します。	文字列

ConvertToImage

PDF ドキュメントの指定されたページを画像に変換します。必要に応じて、画像が保存される画像のパス、DPI (インチあたりのドット数)、および画質を指定します。

変換する PDF のページ番号、画像を保存する必要があるファイルパスを指定してこのメソッドを呼び出し、オプションで DPI と画質のパラメーターを調整します。

ConvertToImage メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
PageNumber	画像に変換される PDF のページ番号。通常、ページ番号は 1 から始まります。	Int32
ImagePath	変換された画像が保存されるファイルパス。ファイルパスにファイル名と拡張子が含まれていることを確認します。	文字列
Dpi	生成された画像の DPI (インチあたりのドット数) 解像度。既定値は 200 DPI です。	Int32
品質	範囲が 0 (最低) から 100 (最高) の生成された画像の品質レベル。デフォルトは 95 です。	Int32

ConvertToImages

PDF ドキュメントを画像に変換します。必要に応じて、画像が保存されるフォルダーパス、DPI (インチあたりのドット数)、画質、生成されたファイル名を保存するオプションのリストを指定します。

画像を保存する必要があるフォルダーパスを指定して、このメソッドを呼び出します。必要に応じて、DPI と画質のパラメーターを調整します。**[FileNames]** パラメーターとしてリストを指定すると、生成された画像ファイルの名前が入力されます。

ConvertToImages メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
Folderpath	変換された画像が保存されるフォルダーパス。フォルダーが存在し、適切な書き込み権限があることを確認します。	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ConvertToImages メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データタイプ
Dpi	生成された画像の DPI (インチあたりドット数) 解像度。既定値は 200 DPI です。	Int32
品質	範囲が 0 (最低) から 100 (最高) の生成された画像の品質レベル。デフォルトは 95 です。	Int32

ConvertToWord

PDF を Microsoft Word ドキュメントに変換します。

変換された Word ドキュメントを保存する必要があるファイルパスを指定して、このメソッドを呼び出します。このメソッドは、指定されたパスの PDF コンテンツから Word ドキュメントを作成します。

ConvertToWord メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
WordFilepath	変換された Word ドキュメント (.doc) が保存されるファイルパス。ファイルパスにファイル名と拡張子が含まれていることを確認します。	文字列

ConvertToXml

PDF ドキュメントの指定されたページを Microsoft XML 形式に変換します。オプションで、指定した場合はテーブルのみを変換できます。

変換する PDF のページ番号、XML 出力を保存する必要があるファイルパスを指定してこのメソッドを呼び出し、テーブルのみを変換する必要がある場合はオプションで **ConvertTablesOnly** を **True** に設定します。

ConvertToXml メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
PageNumber	XML 形式に変換される PDF のページ番号。通常、ページ番号は 1 から始まります。	Int32
XmlFilePath	変換された XML ドキュメントが保存されるファイルパス。ファイルパスにファイル名と拡張子が含まれていることを確認します。	文字列
ConvertTablesOnly	True に設定すると、指定したページのテーブルのみが XML に変換されます。デフォルトは [True] です。	ブーリアン

ExtractImages

PDF ドキュメントの指定されたページから画像を抽出します。必要に応じて、画像が保存されるフォルダーパスと、生成されたファイル名を保存する出力リストを指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

画像を保存する必要があるフォルダーパス、画像を抽出する開始ページ番号と終了ページ番号、抽出した画像のファイル名を格納する空のリストを指定して、このメソッドを呼び出します。

ExtractImages メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
Folderpath	抽出された画像が保存されるフォルダーパス。フォルダーが存在し、適切な書き込み権限があることを確認します。	文字列
FromPage	画像を抽出する開始ページ番号。通常、ページ番号は 1 から始まります。	Int32
ToPage	画像を抽出する終了ページ番号。この数値は、**[FromPage]** の数値以上でなければなりません。	Int32
FileNames	抽出された画像のファイル名を格納する出力パラメーター。	List1

GetAllTables

PDF ドキュメントからすべてのテーブルを抽出し、DataTable のリストとして返します。

[Return] パラメーターを使用して、抽出されたテーブルデータをリストとして取得します。

パラメーターを指定せずにこのメソッドを呼び出して、PDF ドキュメントからすべてのテーブルを取得します。このメソッドは DataTable のリストを返します。各 DataTable は PDF から抽出されたテーブルを表します。

GetAllTables メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
Return	このメソッドは、PDF ファイルから抽出されたテーブルを表す DataTable のリストを返します。	List1

GetPageAsImage

PDF ドキュメントページからデータを抽出し、インメモリ画像として保存します。

PDF ドキュメントの指定されたページをインメモリ画像として返します。

PDF のページ番号を指定してこのメソッドを呼び出し、ページを画像として取得します。このメソッドは、ページを System.Drawing.Image オブジェクトとして返します。

GetPageAsImage メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
PageNumber	画像に変換される PDF のページ番号。通常、ページ番号は 1 から始まります。	Int32
Return	このメソッドは、PDF ファイルの指定されたページを表す画像を返します。	Drawing.Image

GetPageCount

PDF ドキュメントの総ページ数を取得します。PDF の総ページ数を整数として取得するために、**[Return]** パラメーターを使用する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetPageCount メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
Return	このメソッドは、PDF ファイルのページ数を表す整数を返します。	Int32

GetTable

PDF からテーブルを抽出し、DataTable として返します。抽出メソッドは **ExtractBy** パラメーターで指定します。

抽出タイプと対応する値を使用して、このメソッドを呼び出します。このメソッドは、抽出されたテーブルを DataTable として返します。

GetTable メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
ExtractBy	使用する抽出メソッド。 このパラメーターは ExtractType である必要があり、次のオプションが含まれます。Index (0) - ページ番号で抽出、ContainsText (1) - 一致するテキストで抽出。	ExtractType
値	抽出タイプに対応する値。 たとえば、**ExtractBy** が Index の場合、これは文字列としてのページ番号になります。**ExtractBy** が ContainsText の場合、これは一致するテキストになります。	文字列
Return	このメソッドは、PDF ファイルから抽出されたテーブルを表す DataTable を返します。	テーブル

GetText

指定された範囲の PDF ページからテキストを取得します。

開始ページ番号と終了ページ番号を指定してこのメソッドを呼び出し、それらのページからテキストを取得します。このメソッドは、抽出されたテキストを文字列として返します。

GetText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
FromPage	テキストを抽出する範囲の開始ページ番号。通常、ページ番号は 1 から始まります。	Int32
ToPage	開始ページからどのページまでテキストを取得するかを入力します。 **注:** ToPage 値が **[FromPage]** の値よりも大きいことを確認します。	Int32
Return	このメソッドは、PDF ファイルのテキストコンテンツを表す文字列を返します。	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Load

インタラクションのために PDF ファイルをロードし、コンテンツの抽出などの追加の操作を有効にします。

PDF ファイルへのフルパス (FilePath) を指定してこのメソッドを呼び出し、PDF が保護されている場合はオプションでパスワード (Password) を指定します。

Load メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
FilePath	ロードする PDF ファイルへのフルパス。ファイル名と拡張子を含める必要があります。	文字列
パスワード	PDF ファイルが保護されている場合のパスワード。PDF がパスワードで保護されていない場合、このパラメーターは空の文字列にすることができます。	文字列

Merge

複数の PDF ファイルのリストを 1 つの PDF ファイルに結合します。

結合する PDF のファイルパスのリスト、出力ファイルパス、オプションの上書きフラグを指定して、このメソッドを呼び出します。

Merge メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
FileList	結合する PDF ファイルのファイルパスのリスト。各パスは、PDF ファイルへの有効なパスである必要があります。	ArrayList
OutputFilePath	結合された PDF が保存されるファイルパス。ファイル名と拡張子を含める必要があります。	文字列
Overwrite	**[True]** に設定すると、出力パスに既存のファイルが存在する場合は上書きされます。**[False]** に設定すると、メソッドは既存のファイルを上書きしません。 デフォルトは **[False]** です。	Boolean

注: PDF ファイルがパスワードで保護されている場合、または **[FileList]** パラメーターの形式が間違っている場合、自動化によってエラーが表示されます。

Split

1 つの PDF を複数のファイルに分割し、PDF の各ページを個別のファイルとして保存します。

分割された PDF ページを保存する必要がある出力フォルダーパスを指定して、このメソッドを呼び出します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Split メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データタイプ
OutputFolderPath	分割された PDF ページが保存されるフォルダーへのパスです。フォルダーが存在するか、ファイルを書き込むための適切な権限があることを確認します。	文字列

SAP コネクタ

SAP コネクタは、SAP グラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) のワークフローを自動化します。たとえば、ベンダーエントリを作成して保存します。RPA デスクトップデザインスタジオの SAP コネクタを使用してカスタム自動化を作成します。SAP Connector は Bristlecone, Inc. によりビルドされています。

SAP グラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) を使用して自動化を作成するには、最初に SAP コネクタを構成する必要があります。

SAP コネクタを使用するには、次の手順を実行します。

- SAP コネクタを有効にします。「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- SAP コネクタを構成します。「SAP コネクタの設定」を参照してください。
- メソッドを公開します。「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用します。「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

SAP コネクタの設定

SAP コネクタを構成して、1 つ以上の SAP アプリケーション画面とその画面の UI 要素をキャプチャし、アプリケーション、画面、または要素レベルでメソッドを公開できるようにします。

始める前に

SAP プラグインが RPA デスクトップデザインスタジオにインストールされていることを確認します。詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でのプラグインの管理」を参照してください。

少なくとも 1 つの SAP アプリケーションウィンドウがマシンでアクティブになっているか、開いていることを確認します。

SAP アプリケーションは、次の環境をサポートしている必要があります。

- Windows – Windows 10、Windows 11、Windows Server 2016、Windows Server 2019。
- SAP ECC EH8 クライアント
- .Net 4.7.1

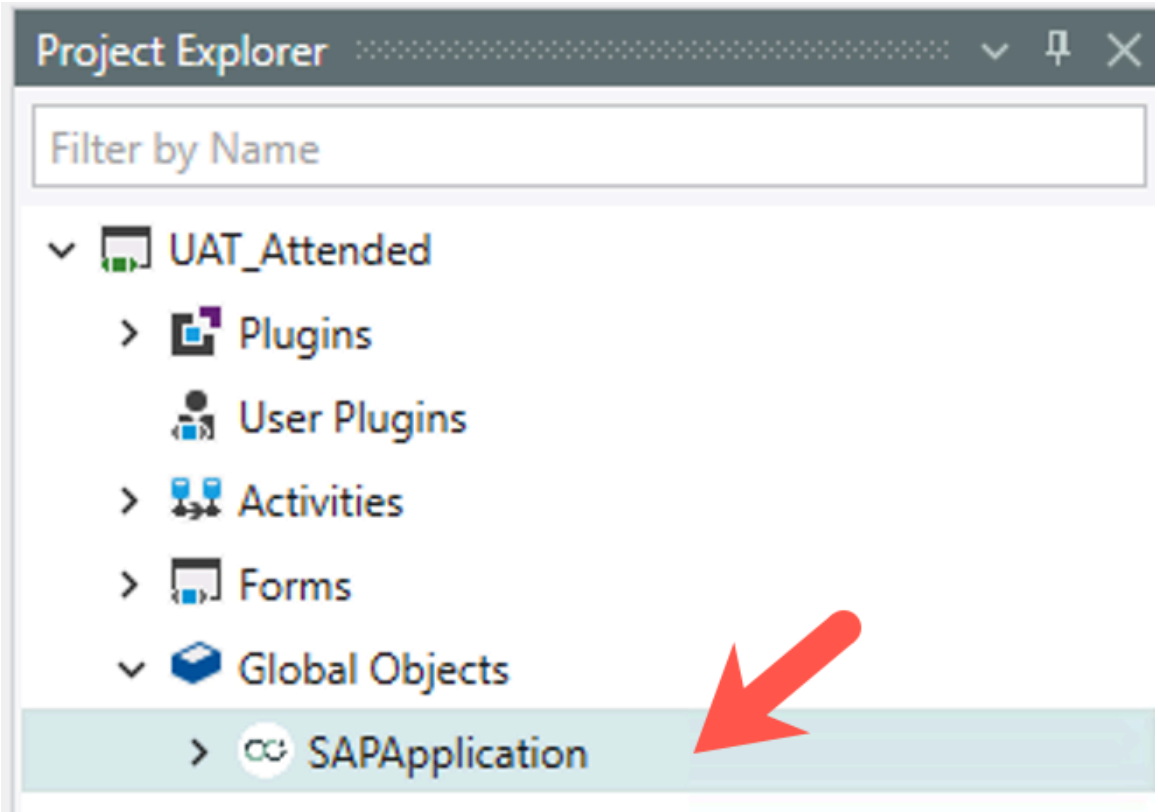
必要なロール：なし

手順

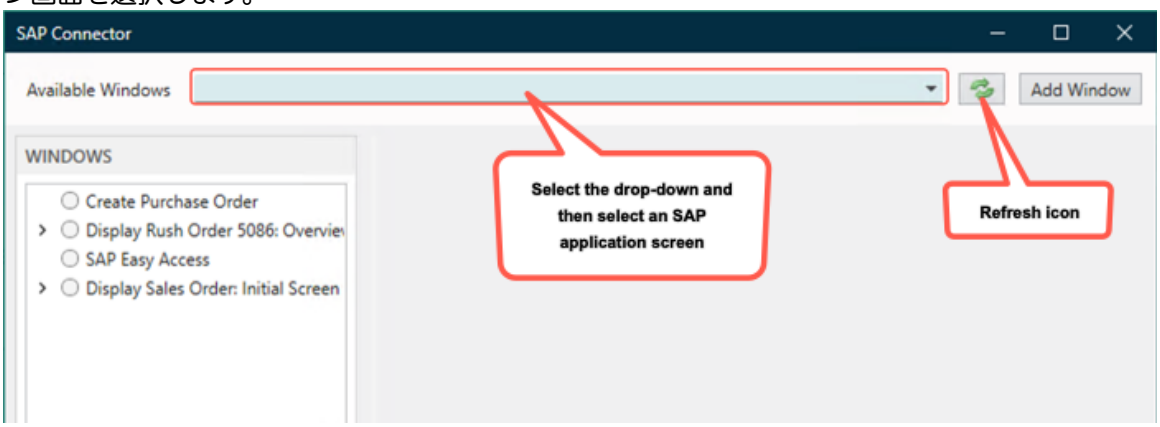
1. [コネクタ] > **[SAP]**に移動します。
2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [グローバルオブジェクト (Global Objects)] の下に SAP コネクタをドラッグします。
   SAP コネクタの追加方法については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SAP アプリケーションオブジェクトが [グローバルオブジェクト (Global Objects)] の下に追加されます。



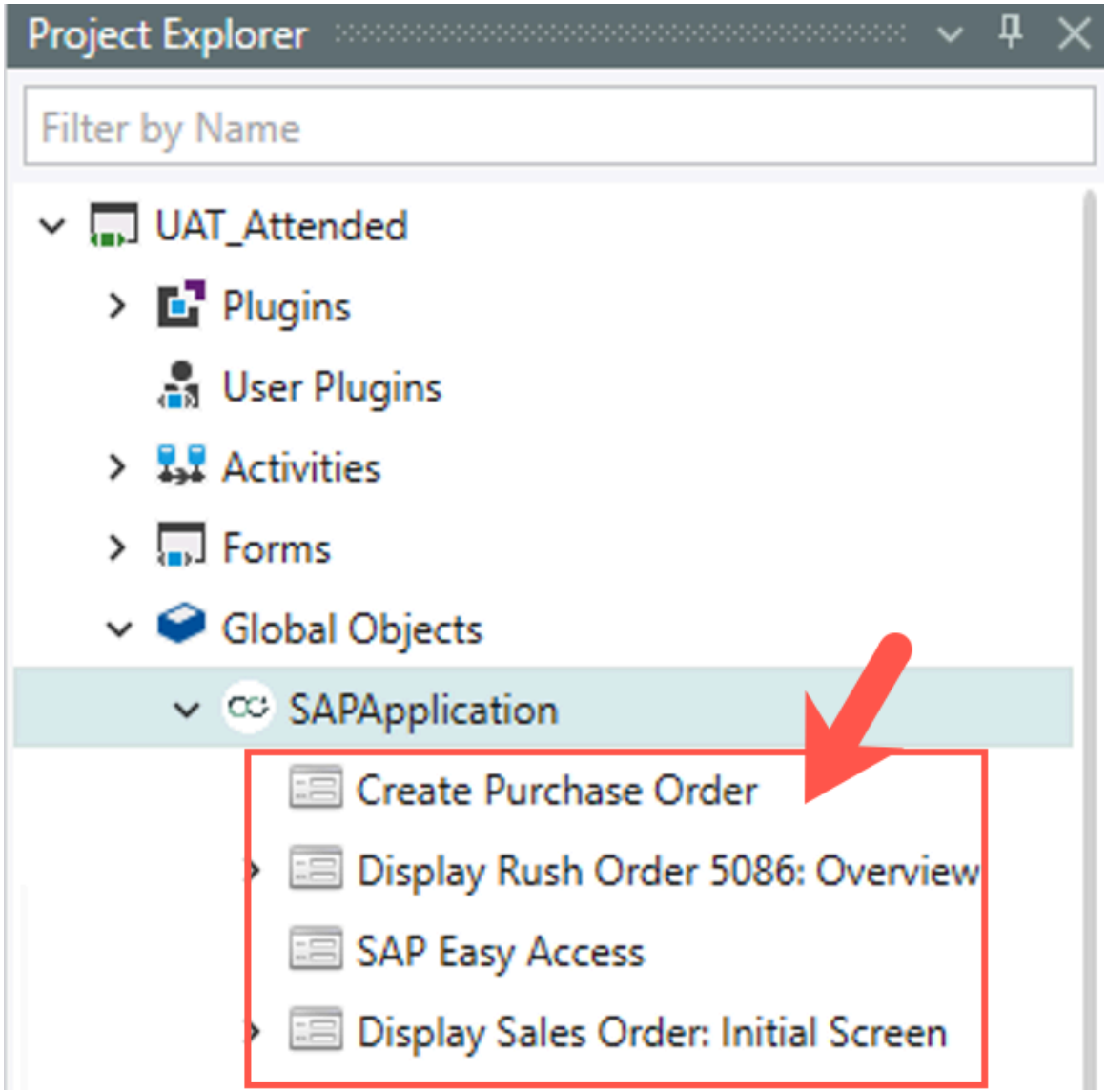
3. [グローバルオブジェクト (Global Objects)] で [SAP アプリケーション (SAP Application)] を右クリックし、[構成] を選択します。
4. **[SAP コネクタ (SAP Connector)]** ウィンドウで、ドロップダウンを選択し、SAP アプリケーション画面を選択します。



注: **[SAP コネクタ (SAP Connector)]** ウィンドウを開いた後に開いた SAP アプリケーションウィンドウをロードするには、更新アイコン ( ) を選択します。

5. [ウィンドウの追加 **(Add Window)]** を選択します。
アプリケーション画面が [WINDOWS] ペインに表示されます。
6. [SAP コネクタ (SAP Connector)] ウィンドウを閉じるには、**[OK]** をクリックします。
追加した SAP アプリケーション画面が、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [グローバルオブジェクト (Global Objects)] の下に表示されます。

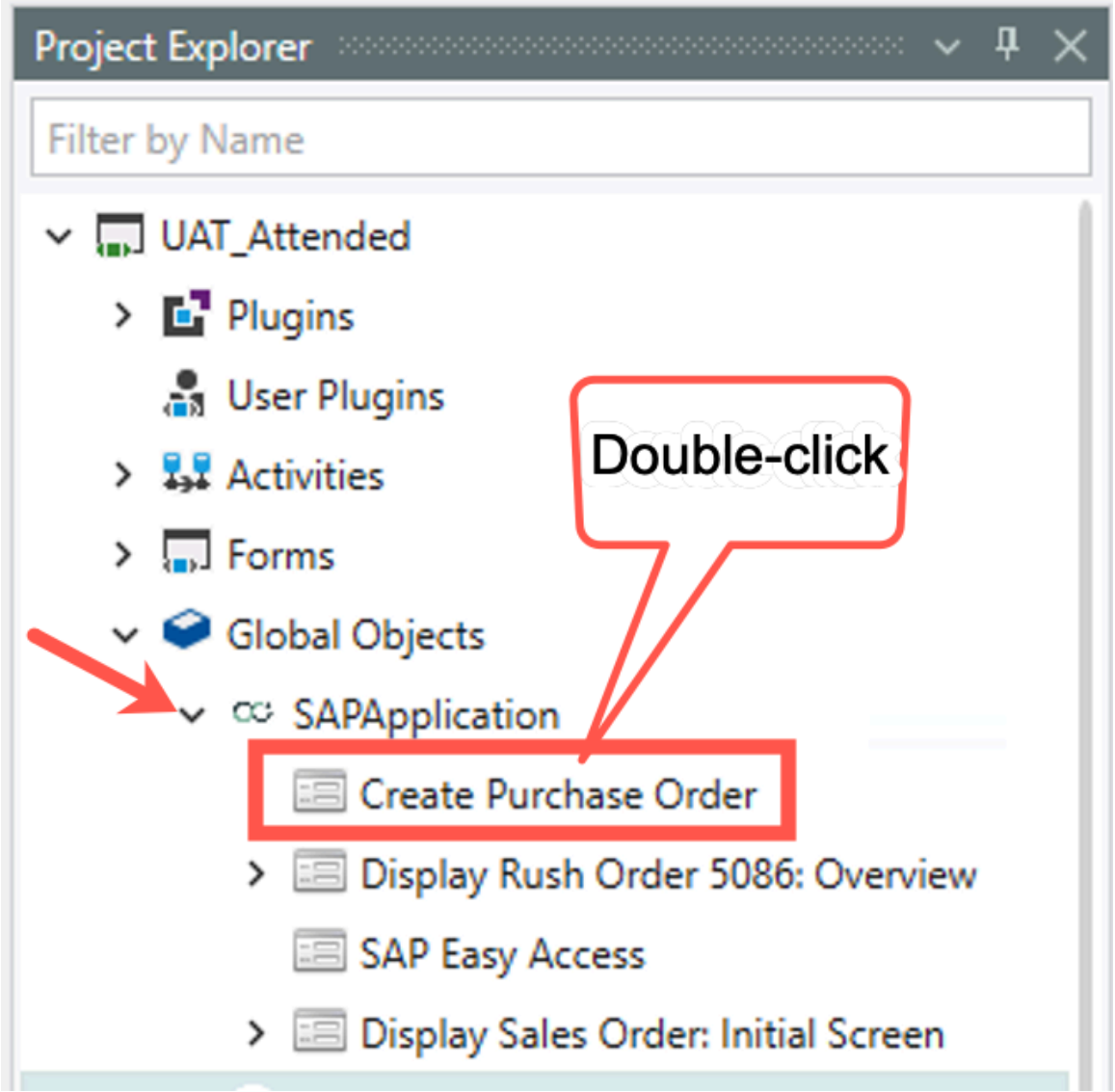
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. アプリケーションレベルのメソッドを表示するには、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [グローバルオブジェクト (Global Object)] の下にある SAP アプリケーションオブジェクトをダブルクリックします。
アプリケーションレベルのメソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

8. 画面レベルのメソッドを公開するには、SAP アプリケーションオブジェクトの展開アイコン (›) を選択し、SAP アプリケーションをダブルクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



画面レベルのメソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

9. 要素レベルのメソッドを公開するには、次の手順を実行します。

   a. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの、[グローバルオブジェクト (Global Objects)] の下にある SAP コネクタオブジェクトを右クリックします。

   b. [設定] を選択します。

   c. **[SAP コネクタ (SAP Connector)]** ウィンドウの [WINDOWS (ウィンドウ)] ペインで、追加した SAP アプリケーション画面を右クリックします。

   d. [要素を追加 **(Add element)]** を選択します。
   [要素をキャプチャ (Capture element)] ダイアログが表示されます。

   e. [要素をキャプチャ (Capture element)] ダイアログを使用して、1 つ以上の SAP アプリケーション画面の要素をキャプチャします。
   [要素をキャプチャ (Capture element)] ダイアログの使用方法の詳細については、「[要素をキャプチャ] ダイアログの使用」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

f. 要素レベルのメソッドを公開するには、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [グローバルオブジェクト (Global Object)] の下にある [SAP コネクタ (SAP Connector)] を展開します。

g. [SAP コネクタ (SAP Connector)] の下で、キャプチャした画面の名前を展開します。

h. キャプチャした画面要素をダブルクリックします。
画面要素レベルのメソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

SAP コネクタのメソッド

SAP コネクタは、SAP グラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) のインターフェイス上のワークフローを自動化するために使用できるさまざまなメソッドを提供します。SAP コネクタメソッドは、コネクタ、画面、および要素のさまざまなレベルで使用できます。

SAP コネクタのメソッド

SAP コネクタのメソッドは 3 つのレベルで使用できます。

- アプリケーション：これらのメソッドは、SAP コネクタオブジェクトをダブルクリックすると見つけることができます。これらのメソッドにアクセスするには、次の手順を実行します。
  1. [プロジェクトエクスプローラー **(Project Explorer)]** ペインの [グローバルオブジェクト] の下に SAP コネクタを追加します。

     詳細については、「SAP コネクタの設定」を参照してください。

  2. SAP コネクタオブジェクトをダブルクリックします。

     メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

- 画面：これらのメソッドを使用して、追加した SAP アプリケーション画面のタスクを自動化します。たとえば、アプリケーションウィンドウの最大化を自動化します。これらのメソッドにアクセスするには、次の手順を実行します。
  1. 1 つ以上の SAP アプリケーション画面を追加します。構成方法については、「SAP コネクタの設定」を参照してください。
  2. 追加された画面をダブルクリックします。

     メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

- 要素：これらのメソッドを使用して、SAP 画面の UI 要素 (ボタンやチェックボックスなど) のアクションを自動化します。たとえば、ボタンの選択を自動化します。これらのメソッドにアクセスするには、次の手順を実行します。
  1. 1 つ以上の SAP アプリケーション画面を追加します。構成方法については、「SAP コネクタの設定」を参照してください。
  2. 1 つ以上の画面要素をキャプチャします。キャプチャする方法については、「[要素をキャプチャ] ダイアログの使用」を参照してください。

     画面要素は、キャプチャされた SAP 画面に表示されます。

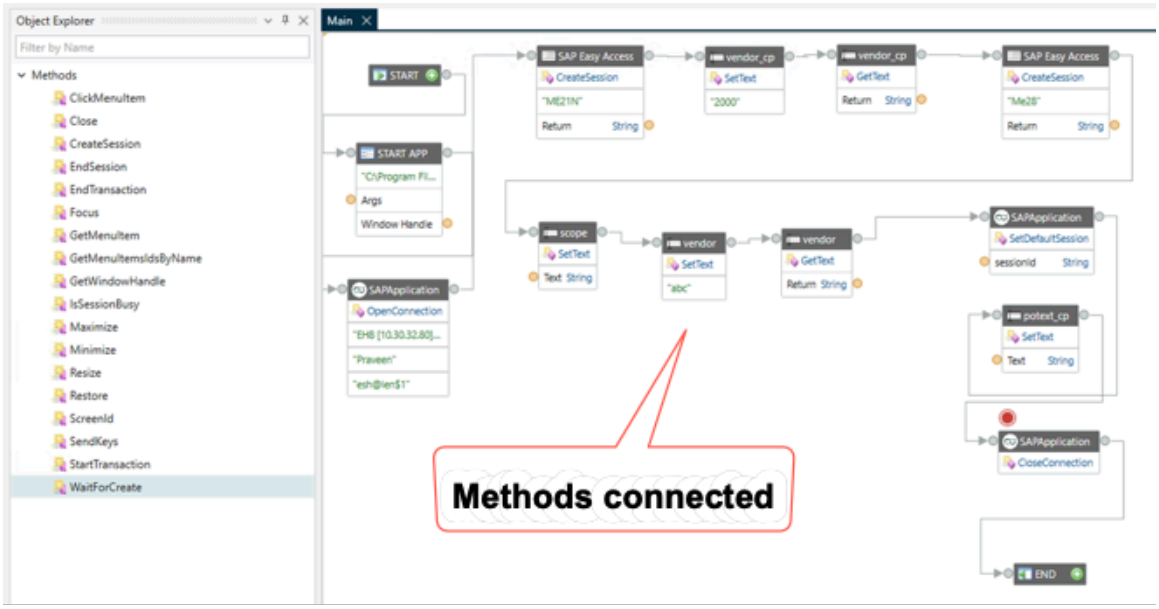
  3. 画面要素をダブルクリックします。

     メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メソッドを使用する

メソッドを使用して自動化を作成するには、[オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインから [デザイン面 (Design surface)] にメソッドをドラッグして接続します。



アプリケーションレベルのメソッド

OpenConnection

コネクタと SAP アプリケーション間の接続を確立します。自動化を実行する前に、まずこのメソッドを使用する必要があります。

OpenConnection メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
name	接続の名前。	データ入力	文字列	なし	はい
username	接続を確立するためのユーザー名。	データ入力	文字列	なし	はい
password	接続を確立するためのパスワード。	データ入力	文字列	なし	はい

SetDefaultSession

選択したセッションをデフォルトのセッションにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetDefaultSession メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
sessionId	デフォルトとして設定するセッションの一意の ID。	データ入力	文字列	なし	はい

CloseConnection

コネクタと SAP アプリケーション間の接続を閉じます。

画面レベルのメソッド

ClickMenuItem

SAP 画面で の ID を指定するメニュー項目を選択します。

ClickMenuItem メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
menuId	選択する必要があるメニューの ID。	データ入力	文字列	なし	はい

Close

SAP 画面のセッションを閉じます。

CreateSession

SAP 画面のセッションを作成します。

CreateSession メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
tCode	SAP アプリケーションの特定の部分にアクセスできるようにするトランザクションコード。	データ入力	文字列	NA	はい
Return	作成したセッション	データ出力	文字列	NA	NA

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CreateSession メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
	の ID を返します。				

EndSession

開いているセッションを終了します。

EndTransaction

トランザクションを終了します。

Focus

開いているセッションにフォーカスを設定します。

GetMenuItem

指定されたメニュー項目の名前を取得します。

GetMenuItem メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
menuId	名前を取得するメニュー項目の ID。	データ入力	文字列	なし	あり
Return	メニュー項目の名前を返します	データ出力	文字列	なし	NA

GetMenuItemsIdsByName

名前で指定したメニューの ID を取得します。

GetMenuItemsIdsByName メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
menuItemName	メニュー項目の名前。	データ出力	リスト	なし	NA

GetWindowHandle

SAP アプリケーション画面のウィンドウハンドルを返します。

IsCreated

セッションが作成された場合は `true` を返し、セッションが作成されていない場合は `false` を返します。

IsSessionBusy

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

セッションがビジー状態の場合は `true` を返し、セッションがビジー状態でない場合は `false` を返します。

Maximise

SAP 画面を最大化します。

Minimise

SAP 画面を最小化します。

Resize

指定した寸法に従って SAP 画面のサイズを変更します。

Resize メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
xPos	画面上の X 軸方向の位置です。	データ入力	整数	なし	はい
yPos	画面上の Y 軸方向の位置です。	データ入力	整数	なし	はい
Width	画面の幅。	データ入力	整数	なし	はい
Height	画面の高さ。	データ入力	整数	なし	はい

Restore

画面を元のサイズに戻します。

ScreenId

SAP アプリケーション画面の ID を文字列として返します。

SendKeys

キーボードストロークを SAP アプリケーション画面に送信します。

SendKeys メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
Keys	SAP 画面に送信するキーボードストローク。	データ入力	文字列	NA	はい

StartTransaction

トランザクションを開始します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

StartTransaction メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
tCode	SAP アプリケーションの特定の部分にアクセスできるようにするトランザクションコード。	データ入力	文字列	NA	はい

WaitForCreate

画面の作成中、指定された時間待機します。これにより、画面の作成後にすべての動的コントロールをロードできます。

WaitForCreate メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
timeoutInSeconds	メソッドがタイムアウトするまでの時間です。	データ入力	整数	なし	はい
MatchAllChildren	画面がロードされる前に、メソッドがキャプチャされたすべての子画面および要素を画面と照合するかどうかを示すオプションです。	データ入力	ブール	False	いいえ

要素レベルのメソッド

SAP コネクタでは、これらの要素レベルのメソッドを使用して、要素を識別したり、画面上での存在を確認したり、要素に対して実行するアクションを定義したりできます。

次の表に、要素とその使用可能なメソッドを示します。これらのメソッドとそのパラメーターの説明については、「SAP コネクタのメソッド」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GuiButton メソッド

要素	メソッド
GuiButton	Click
	Highlight
	IsCreated
	MouseClick
	SendKeys
	Setfocus
	WaitForCreate

GuiCheckBox メソッド

要素	メソッド
GuiCheckBox	Check
	Highlight
	IsChecked
	IsCreated
	SendKeys
	Setfocus
	Uncheck
	MouseClick
	WaitForCreate

GuiComboBox メソッド

要素	メソッド
GuiComboBox	Get
	GetIconName
	GetList
	Highlight
	IsCreated
	SendKeys
	Set
	Setfocus
	MouseClick
	WaitForCreate

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GuiCtrlGridView メソッド

要素	メソッド
GuiCtrlGridView	ClickButtonCell
	ClickCell
	DeselectAllRows
	GetCellType
	GetCellValue
	GetColumns
	GetColumnsKeyValuePair
	GetRowCount
	GetRows
	GetRowsByColumn
	GetSelectedColumns
	GetSelectedRows
	GetSingleRow
	GetVisibleRows
	Highlight
	IsCreated
	MouseClick
	SendKeys
	Setfocus
	SelectAllRows
	SelectCell
	SelectContextMenuItemById
	SelectContextMenuItemByPosition
	SelectContextMenuItemByText
	SelectSingleRow
	SelectToolbarMenuItemById
	SelectToolbarMenuItemByPosition
	SelectToolbarMenuItemByText
	SetCellValue
	WaitForCreate

GuiLabel メソッド

要素	メソッド
GuiLabel	GetText

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GuiLabel メソッド (続く)

要素	メソッド
	Highlight
	IsCreated
	MouseClick
	SendKeys
	Setfocus
	WaitForCreate

GuiPassword メソッド

要素	メソッド
GuiPassword	Highlight
	IsCreated
	SendKeys
	SetCaretPosition
	Setfocus
	SetText
	MouseClick
	WaitForCreate

GuiRadioButton メソッド

要素	メソッド
GuiRadioButton	Highlight
	IsChecked
	IsCreated
	Select
	SendKeys
	Setfocus
	MouseClick
	WaitForCreate

GuiStatusBar メソッド

要素	メソッド
GuiStatusBar	GetStatus
	Highlight
	IsCreated

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GuiStatusBar メソッド (続く)

要素	メソッド
	MouseClick
	SendKeys
	Setfocus
	WaitForCreate

GuiTab メソッド

要素	メソッド
GuiTab	Highlight
	IsCreated
	SelectTab
	SendKeys
	Setfocus
	MouseClick
	WaitForCreate

GuiTableControl メソッド

要素	メソッド
GuiTableControl	DeselectAllVisibleRows
	DeselectRow
	DeselectVisibleRow
	GetAllVisibleRows
	GetColumnNames
	GetMaximumScrollOffset
	GetScrollPosition
	GetSingleRow
	GetTable
	GetVisibleRowCount
	Highlight
	IsCreated
	MouseClick
	ScrollDownByOneRow
	ScrollToHorizontalPosition
	ScrollToNextPage
	ScrollToPreviousPage

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GuiTableControl メソッド (続く)

要素	メソッド
	ScrollToVerticalPosition
	ScrollUpByOneRow
	SelectAllRows
	SelectSingleRow
	SelectVisibleRow
	SendKeys
	Setfocus
	WaitForCreate

GuiTextBox メソッド

要素	メソッド
GuiTextBox	GetText
	Highlight
	IsCreated
	SendKeys
	SetCaretPosition
	Setfocus
	SetText
	MouseClick
	WaitForCreate

GuiTree メソッド

要素	メソッド
GuiTree	Check
	ClickNodeItem
	CollapseNodeItem
	DoubleClickNode
	DoubleClickNodeItem
	GetColumnsKeyValuePair
	GetTreeType
	GetNodeKeyByPath
	GetNodeKeyByText
	GetNodeItemText
	GetSelectedNodes

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GuiTree メソッド (続く)

要素	メソッド
	GetNodeItemCheckBoxState
	Highlight
	IsCreated
	PressNodeItemButton
	SelectTab
	SendKeys
	Setfocus
	MouseClick
	SelectNodeItem
	SelectNode
	SelectContextMenuItemById
	SelectContextMenuItemByText
	SelectContextMenuItemByPosition
	Uncheck
	WaitForCreate

GuiUserArea メソッド

要素	メソッド
GuiUserArea	Highlight
	IsCreated
	MouseClick
	ScrollToNextPage
	ScrollToPreviousPage
	SendKeys
	Setfocus
	SetHorizontalScroll
	SetVerticalScroll
	WaitForCreate

SAP 要素レベルのメソッドの説明

SAP コネクタが提供するさまざまな要素レベルのメソッドを使用して、SAP 画面の UI 要素 (ボタンやチェックボックスなど) のアクションを自動化できます。

一般的なメソッド

次のメソッドは、SAP 画面上のすべての要素に適用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: SAP 画面に表示される、このトピックには記載されていないその他の要素は、一般的なメソッドのみをサポートしています。

Highlight

SAP 画面で要素をハイライト表示します。

IsCreated

要素が SAP 画面に存在する場合は `true` を返し、要素が存在しない場合は `false` を返します。

MouseClick

SAP 画面上の要素に対してマウスクリックアクションを実行します。

MouseClick メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
clickType	マウスクリックのタイプ (左または右) を選択するオプション。	データ入力	列挙	左	いいえ

SendKeys

Enter や Ctrl などのキーボードストロークを SAP 画面上の要素に送信します。

SendKeys メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
keys	要素に送信するキーボードストローク。	データ入力	文字列	NA	はい
clearExistingValue	値を入力する前に要素の既存の値をクリアするかどうかを指定するオプション。	データ入力	ブール	False	いいえ
typeDelay	各キーストローク間の遅延時間を秒単位で指定するオプション。	データ入力	倍精度	0.09	いいえ

Setfocus

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SAP 画面上の要素にフォーカスを設定します。

WaitForCreate

要素がロードされている間、指定された期間待機します。これにより、すべての動的コントロールをロードできます。

WaitForCreate メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
timeoutInSeconds	メソッドがタイムアウトするまでの時間 (秒単位) です。	データ入力	整数	30 秒	いいえ

GuiButton メソッド

Click

SAP 画面でボタンを選択します。

GuiCheckbox メソッド

Check

SAP 画面のチェックボックスをオンにします。

IsChecked

SAP 画面で要素が選択されている場合は `true` を返し、要素が選択されていない場合は `false` を返します。

Uncheck

SAP 画面のチェックボックスをオフにします。

GuiComboBox

Get

SAP 画面のコンボボックスの選択された値を取得します。

GetIconName

SAP 画面上の要素のプロパティアイコン名を取得します。

GetList

SAP 画面のコンボボックスからすべての値のリストを取得します。

Set

渡されたキーに対してコンボボックスの値を設定します。

Set メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
value	コンボボックスに設定する値。	データ入力	文字列	なし	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Set メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
selectedItem	「Key」または「Value」のどちらの値を設定するかを指定するオプション。	データ入力	列挙	なし	はい

GuiCtrlGridView

ClickButtonCell

行番号と列コードで定義されたグリッドセルのボタンを選択します。

ClickButtonCell メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
rowNumber	グリッド内のセルの行インデックスまたは行番号。	データ入力	整数	なし	はい
columnCode	グリッドセルの列識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

ClickCell

行番号と列コードで定義されたグリッドセルを選択します。

ClickCell メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
rowNumber	グリッド内のセルの行インデックスまたは行番号。	データ入力	整数	なし	はい
columnCode	グリッドセルの列識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

DeselectAllRows

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

グリッドで選択されているすべての行の選択を解除します。

GetCellType

行番号と列コードで定義されたグリッドセルのタイプを取得します。

GetCellType メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
rowNumber	グリッド内のセルの行インデックスまたは行番号。	データ入力	整数	なし	はい
columnCode	グリッドセルの列識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

GetCellValue

行番号と列コードで定義されたグリッドセルの値を取得します。

GetCellValue メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
rowNumber	グリッド内のセルの行インデックスまたは行番号。	データ入力	整数	なし	はい
columnCode	グリッドセルの列識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

GetColumns

グリッドのアクティブな列ヘッダーのリストを取得します。

GetColumnsKeyValuePair

グリッドの列から列名と列コードをキーと値のペアとして取得します。

GetRowCount

グリッドの行数を取得します。

GetRows

startIndex パラメーターで定義された行から開始して、rowNumber パラメーターで定義されたグリッド行の数を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetRows メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
startIndex	行の取得を開始する開始行インデックス。	データ入力	整数	なし	はい
rowNumber	グリッドから取得する行数を示します	データ入力	整数	なし	はい

GetRowsByColumn

startIndex、rowNumber、columnCode の各パラメーターに基づいて、特定の列から行のサブセットを取得します。

GetRowsByColumn メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
startIndex	指定された列 (columnCode) のデータの取得を開始する行の開始インデックス。	データ入力	整数	なし	はい
rowNumber	startIndex から開始して取得する行数。	データ入力	整数	なし	はい
columnCode	行データの取得元の列。	データ入力	文字列	なし	はい

GetSelectedColumns

選択されている列を取得します。

GetSelectedRows

選択されている行を取得します。

GetSingleRow

行番号で定義されたグリッドの特定の行を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetSingleRow メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
rowNumber	データを取得するグリッドの行を指定する行インデックス (または行番号)。	データ入力	整数	なし	はい

GetVisibleRows

表示されている行を取得します。

SelectAllRows

グリッドのすべての行を選択します。

SelectCell

行番号と列コードで定義されたグリッドセルを選択します。

SelectCell メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
rowNumber	グリッド内のセルの行インデックスまたは行番号。	データ入力	整数	なし	はい
columnCode	グリッドセルの列識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

SelectContextMenuItemById

指定した ID に基づいてグリッドからコンテキストメニューアイテムを選択します。

SelectContextMenuItemById メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
Id	選択したいコンテキストメニューアイテムの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

SelectContextMenuItemByPosition

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

指定した位置に基づいてグリッドからコンテキストメニューアイテムを選択します。

SelectContextMenuItemByPosition メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
menuItemPosition	選択したいコンテキストメニューアイテムの位置。	データ入力	文字列	なし	はい

SelectContextMenuItemByText

指定したテキストに基づいてグリッドからコンテキストメニューアイテムを選択します。

SelectContextMenuItemByText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
menuItemText	選択したいコンテキストメニューアイテムのテキスト。	データ入力	文字列	なし	はい

SelectSingleRow

行番号で定義されたグリッドの行を選択します。

SelectSingleRow メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
rowNumber	メソッドがグリッド内の行を選択するために使用する行番号。	データ入力	文字列	なし	はい

SelectToolbarMenuItemById

指定した ID に基づいて、グリッドからツールバーメニューアイテムを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SelectToolbarMenuItemById メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
Id	選択したいツールバーメニューアイテムの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

SelectToolbarMenuItemByPosition

指定した位置に基づいて、グリッドからツールバーのメニューアイテムを選択します。

SelectToolbarMenuItemByPosition メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
menuItemPosition	ツールバー内のメニューアイテムの位置(またはインデックス)。	データ入力	整数	なし	はい

SelectToolbarMenuItemByText

指定したテキストに基づいて、グリッドからツールバーのメニューアイテムを選択します。

SelectToolbarMenuItemByText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
menuItemText	選択したいツールバーのメニューアイテムに表示されるテキスト。	データ入力	文字列	なし	はい

SetCellValue

行番号と列コードで定義されたグリッドのセルの値を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetCellValue メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
value	セルに値が設定されます。	データ入力	文字列	なし	はい
rowNumber	変更するセルの行番号。	データ入力	整数	なし	はい
columnCode	変更するセルの列のコード (または識別子)。	データ入力	文字列	なし	はい

GuiLabel

GetText

SAP 画面のラベルのテキストを取得します。

GuiPassword

SetText

SAP 画面の Password 要素に、指定された値をパスワードとして設定します。

GuiRadioButton

IsChecked

ラジオボタンが選択されている場合は `true` を返し、選択されていない場合は `false` を返します。

Select

SAP 画面でラジオボタンを選択します。

GuiStatusBar

GetStatus

特定の SAP 画面のステータス情報を取得します。

GuiTab

SelectTab

SAP 画面のタブを選択します。

GuiTableControl

DeselectVisibleRow

指定した行番号に基づいて、表示されている行をクリアします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DeselectVisibleRow メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
rowNumber	テーブル内のセルの行インデックスまたは行番号。	データ入力	整数	なし	はい

DeselectAllVisibleRows

選択したすべての行をクリアします。

DeselectRow

指定した行番号に基づいて特定の行をクリアします。

DeselectRow メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
rowNumber	テーブル内のセルの行インデックスまたは行番号。	データ入力	整数	なし	はい

GetAllVisibleRows

テーブルに表示されているすべての行を返します。

GetColumnNames

テーブル内のアクティブな列ヘッダーのリストを取得します。

GetMaximumScrollOffset

テーブル内でスクロール可能な最大値を取得します。

GetMaximumScrollOffset メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
type	スクロールのタイプ (水平または垂直) を選択するオプション。	データ入力	列挙	なし	はい

GetScrollPosition

スクロールバーの現在の位置を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetScrollPosition メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
type	スクロールのタイプ (水平または垂直) を選択するオプション。	データ入力	列挙	なし	はい

GetSingleRow

行番号で定義されたテーブルの特定の行を取得します。

GetSingleRow メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
rowNumber	テーブル内のセルの行インデックスまたは行番号。	データ入力	整数	なし	はい

GetTable

テーブル全体をフェッチします。

GetVisibleRowCount

表示されている行の数を返します。

ScrollDownByOneRow

下にスクロールしてフォーカスを次の行に移動します。

ScrollToHorizontalPosition

水平方向にスクロールして、指定された位置にフォーカスを移動します。

ScrollToHorizontalPosition メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
position	スクロールの位置。	データ入力	整数	なし	はい

ScrollToNextPage

下にスクロールしてフォーカスを次のページに移動します。

ScrollToPreviousPage

上にスクロールして、フォーカスを前のページに移動します。

ScrollToVerticalPosition

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

垂直方向にスクロールして、指定された位置にフォーカスを移動します。

ScrollToVerticalPosition メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
position	スクロールの位置。	データ入力	整数	なし	はい

ScrollUpByOneRow

上にスクロールして、フォーカスを前の行に移動します。

SelectAllRows

テーブルのすべての行を、表示されているかどうかにかかわらず選択します。

SelectSingleRow

行番号で定義されたテーブルの行を選択します。

GetRowsByColumn メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
rowNumber	テーブル内のセルの行インデックスまたは行番号。	データ入力	整数	なし	はい

SelectCell

行番号と列コードで定義されたテーブル内のセルを選択します。

SelectCell メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
rowNumber	テーブル内のセルの行インデックスまたは行番号。	データ入力	整数	なし	はい
columnCode	セルの列のコード番号。	データ入力	文字列	なし	はい

SelectVisibleRow

行番号で定義されたテーブルの表示されている行を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SelectVisibleRow メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
rowNumber	テーブル内のセルの行インデックスまたは行番号。	データ入力	整数	なし	はい

GuiTextBox

GetText

SAP 画面のテキストボックスのテキストを取得します。

SetCaretPosition

SAP 画面のテキストボックス内の指定された位置にキャレットを設定します。

SetCaretPosition メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
position	キャレットの位置。	データ入力	整数	なし	はい

SetText

SAP 画面のテキストボックスに指定された値を設定します。

SetText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
text	テキストボックスに設定するテキスト値。	データ入力	文字列	なし	はい

GuiTree

Check

SAP 画面のノード内の特定のアイテムを選択します。

Check メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
nodeKey	ツリー内の特定のノー	データ入力	文字列	なし	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Check メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
	ドの一意の識別子。				
column	指定されたノード内の列名または識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

ClickNodeItem

SAP 画面のノード内の特定のアイテムをクリックします。

ClickNodeItem メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
nodeKey	ツリー内の特定のノードの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい
column	指定されたノード内の列名または識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

CollapseNodeItem

SAP 画面で特定のノードアイテムを折りたたみます。

CollapseNodeItem メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
nodeKey	ツリー内の特定のノードの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

DoubleClickNode

SAP 画面上の特定のノードに対してダブルクリックのマウスアクションを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DoubleClickNode メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
nodeKey	ツリー内の特定のノードの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

DoubleClickNodeItem

SAP 画面上のノードの特定のアイテムに対してダブルクリックのマウスアクションを実行します。

DoubleClickNodeItem メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
nodeKey	ツリー内の特定のノードの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい
column	指定されたノード内の列名または識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

GetColumnsKeyValuePair

ツリーの列から列名と列コードをキーと値のペアとして取得します。

GetTreeType

ツリーのタイプ (シンプル、リスト、列など) を取得します。タイプがこれらのいずれでもない場合、メソッドは空の値を返します。

GetNodeKeyByPath

指定したパスに基づいてノードキーを取得します。

GetNodeKeyByPath メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
path	ツリー内の特定のノードを検索するためのルートまたは階層。	データ入力	文字列	なし	はい

GetNodeKeyByText

指定したテキストに基づいてノードキーを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetNodeKeyByText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
nodeText	ノードキーと照合するテキスト値。 値は、大文字と小文字や余分なスペースを無視して、任意のノードのテキストと照合されます。	データ入力	文字列	なし	はい

GetNodeItemText

指定したキーと名前に基づいてノードアイテムのテキストを取得します。

GetNodeItemText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
key	ノードに関連付けられたキー。このキーは、テキストを取得するノードの一意の識別子です。	データ入力	文字列	なし	はい
name	ノードのフィルタリングや詳細な識別に使用される、ノード内の特定のアイテムまたはプロパティの名前。	データ入力	文字列	なし	はい

GetSelectedNodes

選択したノードの値を取得します。

GetNodeItemCheckBoxState

ノードアイテムのチェックボックスのステータスを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetNodeItemCheckBoxState メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
nodeKey	ツリー内の特定のノードの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい
column	指定されたノード内の列名または識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

PressNodeItemButton

SAP 画面上の指定されたノードアイテムのボタンをクリックします。

PressNodeItemButton メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
nodeKey	ツリー内の特定のノードの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい
column	指定されたノード内の列名または識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

SelectNodeItem

SAP 画面で指定されたノードアイテムを選択します。

SelectNodeItem メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
nodeKey	ツリー内の特定のノードの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい
column	指定されたノード内の列名または識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

SelectNode

SAP 画面で指定されたノードを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SelectNode メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
nodeKey	ツリー内の特定のノードの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい

SelectContextMenuItemById

指定した ID に基づいてコンテキストメニューアイテムを選択します。

SelectContextMenuItemById メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
type	コンテキストメニューのタイプ (ツリー、ノード、ノードアイテム)。	データ入力	列挙	なし	はい
menuId	選択する必要があるコンテキストメニューアイテムの識別子。	データ入力	文字列	なし	はい
nodeKey	コンテキストメニューが呼び出されるツリー内の特定のノードの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい
ColumnName	ノード内の列の名前。これは、コンテキストメニューを適用するノード内の特定の列を絞り込むのに役立ちます。	データ入力	文字列	なし	はい

SelectContextMenuItemByText

指定したテキストに基づいてコンテキストメニューアイテムを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SelectContextMenuItemByText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
type	コンテキストメニューのタイプ (ツリー、ノード、ノードアイテム)。	データ入力	列挙	なし	はい
menuText	選択するコンテキストメニューアイテムの表示テキスト。	データ入力	文字列	なし	はい
nodeKey	コンテキストメニューが呼び出されるツリー内の特定のノードの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい
ColumnName	ノード内の列の名前。この名前は、コンテキストメニューを適用するノード内の特定の列を絞り込むのに役立ちます。	データ入力	文字列	なし	はい

SelectContextMenuItemByPosition

指定した位置に基づいてコンテキストメニューアイテムを選択します。

SelectContextMenuItemByPosition メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
type	コンテキストメニューのタイプ (ツリー、ノード、ノードアイテム)。	データ入力	列挙	なし	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SelectContextMenuItemByPosition メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
menuPosition	選択したいコンテキストメニューアイテムの位置。これは、位置を表すインデックスまたは文字列のいずれかになります。	データ入力	文字列	なし	はい
nodeKey	コンテキストメニューが呼び出されるツリー内の特定のノードの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい
ColumnName	ノード内の列の名前。この名前は、コンテキストメニューを適用するノード内の特定の列を絞り込むのに役立ちます。	データ入力	文字列	なし	はい

Uncheck

SAP 画面のノード内の特定のアイテムをクリアします。

Uncheck メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
nodeKey	ツリー内の特定のノードの一意の識別子。	データ入力	文字列	なし	はい
column	指定されたノード内の	データ入力	文字列	なし	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Uncheck メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
	列名または識別子。				

GuiUserArea

ScrollToNextPage

下にスクロールしてフォーカスを次のページに移動します。

ScrollToPreviousPage

上にスクロールして、フォーカスを前のページに移動します。

SetHorizontalScroll

指定した値まで水平方向にスクロールします。

SetHorizontalScroll メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
scrolVal	スクロールバーの数値。	データ入力	整数	なし	はい

SetVerticalScroll

指定した値まで垂直方向にスクロールします。

SetVerticalScroll メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？
scrolVal	スクロールバーの数値。	データ入力	整数	なし	はい

Secure Shell (SSH) コネクタ

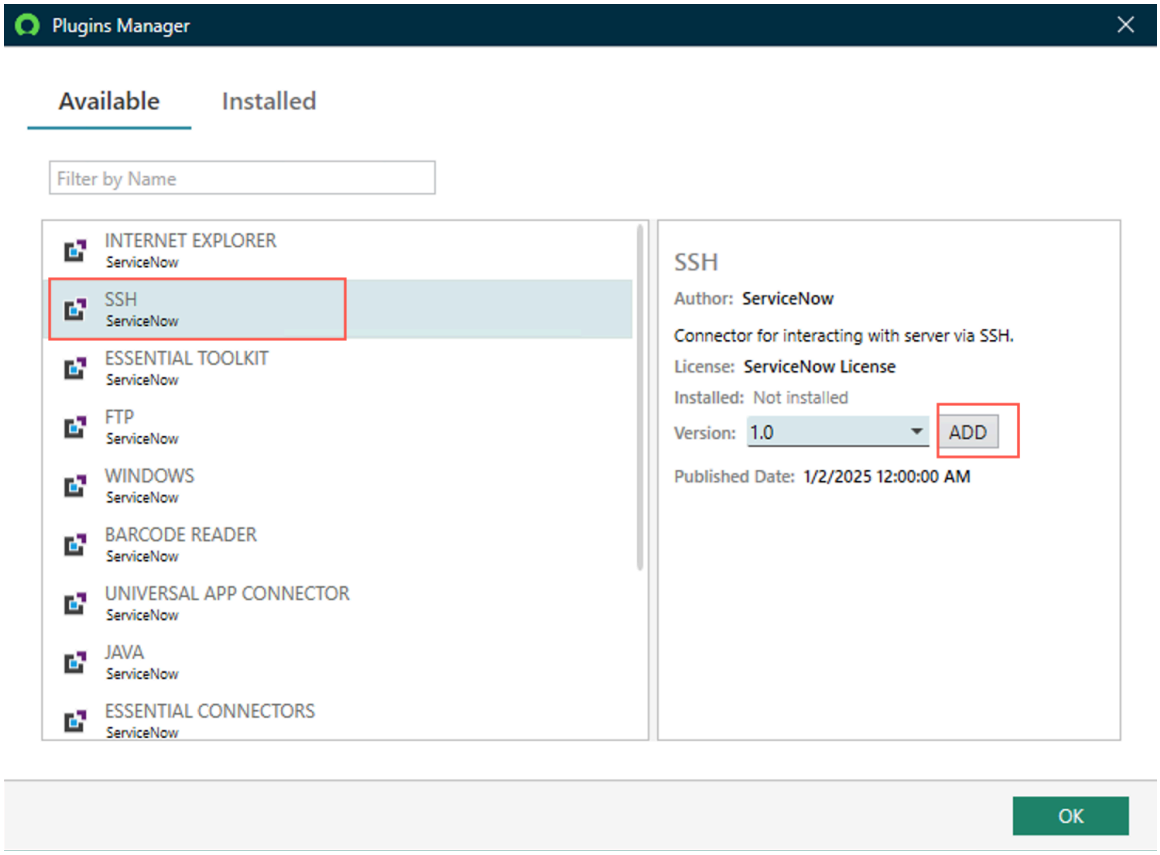
Secure Shell (SSH) コネクタは、リモートサーバーへの SSH 接続を確立し、コマンドを実行するのに役立ちます。

UNIX 環境では、リモートシステムにアクセスする方法として SSH が優先されます。自動化ワークフローでは、リモートシステムに接続して操作を実行する必要がある場合は、SSH コネクタメソッドを使用してタスクを効率的に実行できます。

SSH コネクタは、12.0.X バージョン以降の RPA デスクトップデザインスタジオでは、デフォルトでプラグインとして使用できます。プラグインマネージャーから SSH プラグインを追加します。SSH プラグインの追加の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でのプラグインの管理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SSH プラグイン

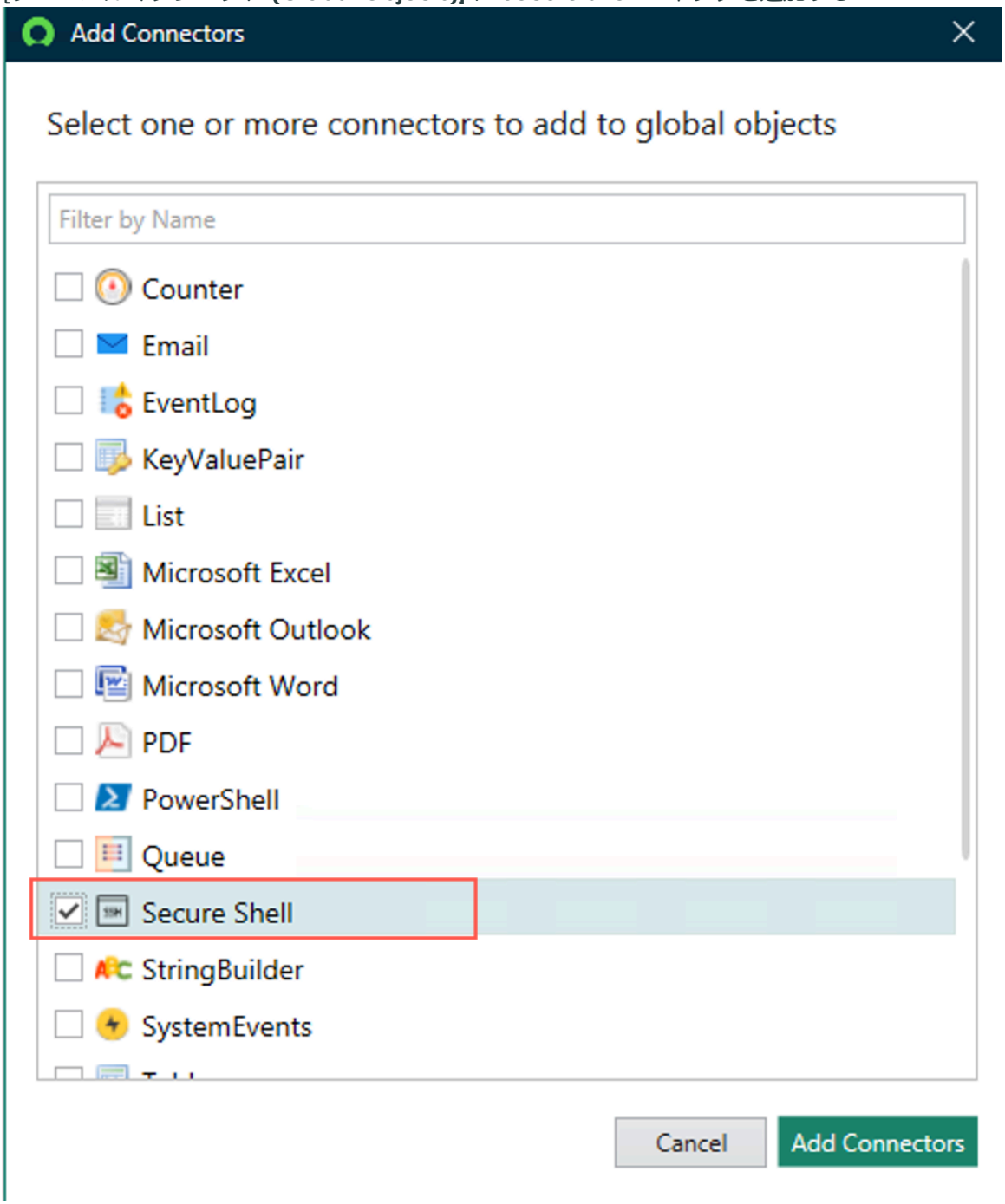


コネクタで利用可能なさまざまな方法を使用して、SSH 接続の確立、確立された接続を介したコマンドの実行、Connect メソッドを使用して確立されたセッションの切断などのアクティビティを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。[グローバルオブジェクト (Global Objects)] に Secure Shell コネクタを追加します。

[グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** に **Secure Shell** コネクタを追加する



- SSH コネクタのさまざまなメソッドの詳細については、「Secure Shell (SSH) コネクタのメソッド」を参照してください。

Secure Shell (SSH) コネクタのメソッド

Secure Shell (SSH) コネクタのメソッドを使用して、SSH 接続の確立、確立された接続を介したコマンドの実行、セッションの切断を行うことができます。

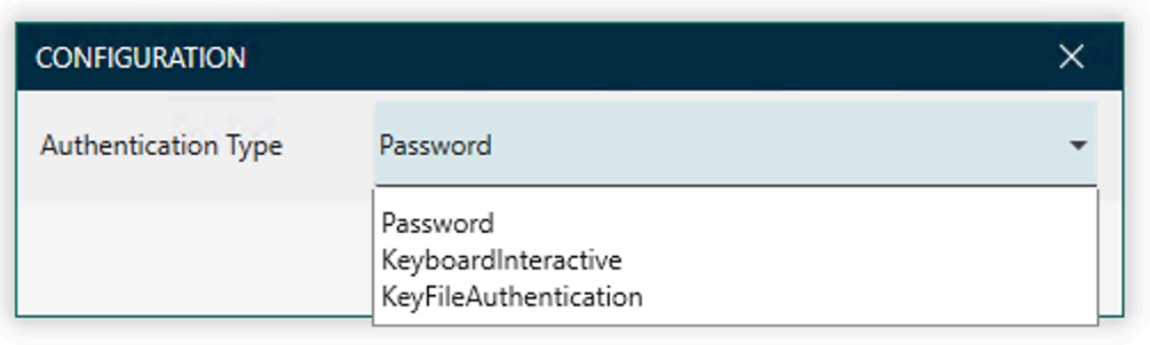
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Connect

SSH 接続を確立します。リモートマシンへの接続に必要な情報を指定します。

設定アイコン ( ) を選択して、認証タイプを選択します。

サポートされている認証タイプは、Password、KeyboardInteractive、および KeyFileAuthentication で



す。

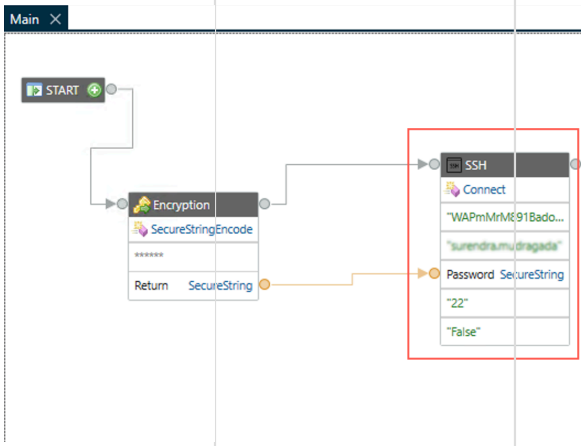
パスワードはデフォルトの認証タイプです。

Connect メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
HostName	リモートサーバーのホスト名または IP アドレス。	データ入力	文字列
Username	SSH アカウントのユーザー名。	データ入力	文字列
Password	パスワードの安全な文字列表現。SSH アカウントのパスワード。 次の例に示すように、SecureStringEncode コンポーネントを使用して、安全な文字列パスワードをエンコードできます。詳細については、「SecureStringEncode コンポーネントの使用」を参照してください。	データ入力	SecureString

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Connect メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
	Connect メソッドと **Password** パラメーター  このタスクを実行した後、リモートサーバーに接続できます。		
Port	オプション。SSH 接続のポート番号です。デフォルト値は 22 です。	データ入力	整数
CreateShell	オプション。True の場合、接続成功時にシェルストリームが作成されます。この接続で実行されているコマンドはすべてシェルを使用します。 False の場合、この接続で実行されているコマンドはシェルを使用しません。 デフォルト値は true です。	データ入力	ブーリアン
KeyboardInteractiveAuth	チャレンジとしてのパスワード。 True の場合、サーバーはユーザーの ID を確認するためにクライアントにパスワードの入力を求めま	データ入力	ブーリアン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Connect メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
	す。password パラメーターに指定された値は、クライアントからの応答として共有されます。 このパラメーターは、**KeyboardInteractive** が [認証] タイプに選択されている場合にのみ表示されます。		
KeyFilepath	秘密鍵のパス。 このパラメーターは、**KeyFileAuthentication** が [認証] タイプに選択されている場合にのみ表示されます。	データ入力	文字列
Passphrase	オプション。秘密鍵が Passphrase を使用して暗号化されている場合は、秘密鍵を使用するために Passphrase パラメータ内に同じ値が指定されます。 このパラメーターは、**KeyFileAuthentication** が [認証] タイプに選択されている場合にのみ表示されます。	データ入力	文字列

RunCommand

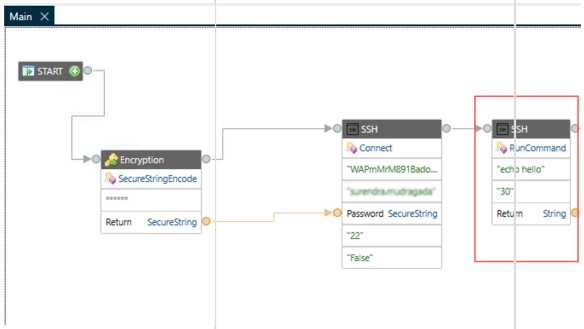
SSH 接続を確立した後、RunCommand メソッドを使用して、確立された接続を介してコマンドを実行します。

RunCommand メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Command	messages や scripts など、リモート SSH サーバー上で実行する必要があるコマンドには、有効なシェルコマンド、あるいはリモートサーバーが理解できる実行可能コマンドを使用できます。	データ入力	文字列

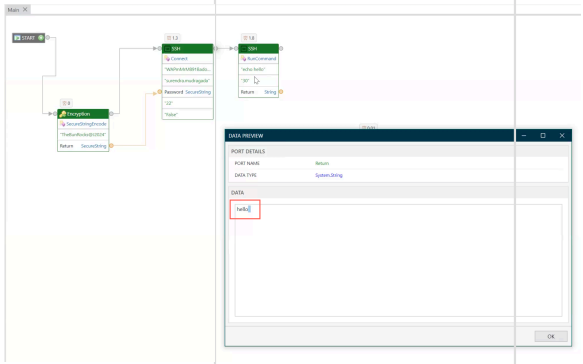
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RunCommand メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
	以下の例では、`echo hello` です。 **RunCommand** メソッド - **Command** パラメーター 		
Timeout	オプション。インタラクティブシェルの使用時に SSH サーバーからのコマンドの出力を待機する最大時間 (秒) を指定するパラメーター。 デフォルト値は 30 です。	データ入力	整数
Return	実行されたコマンドの結果。 たとえば、自動化を実行した後、Return パラメーターの [データプレビュー] で「hello」と表示されます。	データ出力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RunCommand メソッドのパラメーター (続く)

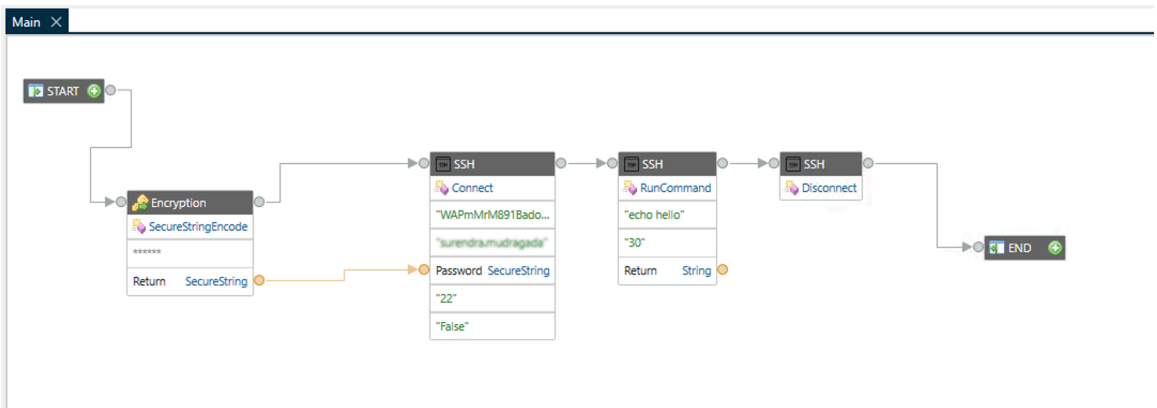
パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
	RunCommand メソッドの **Return** パラメーター 		

Disconnect

コマンドを実行した後、Disconnect メソッドを使用して、確立された接続を切断します。

次の例は、Disconnect メソッドを追加した後の自動化全体を示しています。

Disconnect メソッド



StringBuilder

StringBuilder コネクタを使用して、RPA デスクトップデザインスタジオの自動化ワークフローの一部として、文字列を作成、追加、更新、置換、または削除できます。

StringBuilder コネクタのメソッドを使用するには、まずそのメソッドを使用し、次にそのメソッドを公開する必要があります。

- コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

StringBuilder コネクタのメソッド

StringBuilder コネクタのメソッドを使用して、RPA デスクトップデザインスタジオの自動化ワークフローの文字列を作成、追加、更新、置換、または削除できます。

Append

既存の文字列に文字列を追加します。メソッドの複数のコピーを使用して、複数の文字列を作成できます。出力を表示するには、ToString メソッドを使用します。

注: メソッドは、文字列の間に行を挿入しません。

Append メソッドのパラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
値	既存のコンテンツに追加する文字列。 例 既存の文字列："Hello" 値："World!" 出力： Hello World!	データ入力	文字列

AppendLine

文字列の後に改行文字 (\n) が自動的に追加されます。メソッドの複数のコピーを使用して複数の文字列を追加すると、文字列の間に行が挿入されます。これは、Microsoft Word ドキュメントの **Enter** キーとまったく同じように機能します。出力を表示するには、ToString メソッドを使用します。

AppendLine メソッドのパラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
値	その後に改行を追加する文字列。 例 既存の文字列："Hello" 値："World!" 出力： Hello World!	データ入力	文字列

Replace

文字列を Append メソッドと AppendLine メソッドの両方で指定した文字列に置き換えます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Replace メソッドのパラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
OldValue	**[NewValue]** フィールドで指定された文字列に置き換えられる既存の文字列です。 例 OldValue： User	データ入力	文字列
NewValue	**[OldValue]** 文字列を置き換える文字列。 例 NewValue： Abel Tutor	データ入力	文字列

クリア

メソッドの文字列コンテンツをクリアします。

ToString

Append メソッドおよび AppendLine メソッドの出力を返します。

ToString メソッドのパラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	Append メソッドおよび AppendLine メソッドの実行後に返される出力。例については、Append パラメーターと AppendLine パラメーターを参照してください。	データ出力	文字列

パラメーターの入力設定

パラメーターの入力を行うには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

System Events

自動化 ワークフロー の一部として、システムイベントコネクタを使用して、ファイルの作成やネットワークの損失などのさまざまなシステムイベントを追跡します。また、このコネクタは、必要なときにいつでもイベントの追跡を停止することができます。

システムイベントコネクタは、さまざまなシステムイベントを追跡するためのメソッドを提供しています。次の表を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

System Events のメソッドとイベント

メソッド	目的
WatchFileSystem	次のイベントを追跡します。 • FileChanged • FileDeleted • FileCreated • FileRenamed • FileWatchError
WatchNetworkAvailability	次のイベントを追跡します。 • NetworkAvailable • NetworkUnavailable
WatchSessionEvents	次のイベントを追跡します。 • OnSessionLock • OnSessionUnlock • OnSessionRemoteControl • OnSessionLogoff
UnWatchFileSystem	次のイベントの追跡を停止します。 • FileChanged • FileDeleted • FileCreated • FileRenamed • FileWatchError
UnWatchNetworkAvailability	次のイベントの追跡を停止します。 • NetworkAvailable • NetworkUnavailable
UnWatchSessionEvents	次のイベントの追跡を停止します。 • OnSessionLock • OnSessionUnlock • OnSessionRemoteControl • OnSessionLogoff

SystemEvents コネクタのメソッドを使用するには、まずそのメソッドを使用し、次にそのメソッドを公開する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

SystemEvents コネクタのメソッド

SystemEvents コネクタのメソッドは、さまざまなシステムイベントを監視し、必要に応じて監視を停止します。

メソッド

次のメソッドと、これらのメソッドが追跡するイベントを提供します。

WatchFileSystem

次のイベントを監視します。

ファイルシステムのイベント

イベント	説明	パラメーター
FileChanged	ファイルを更新します。	• **[Name]**：更新されるファイルの名前。 • **[Path]**：ファイルへのパス。 • **[ChangeType]**：ファイル更新のタイプ。
FileCreated	WatchFileSystem メソッドによって監視されているパスに作成された新しいファイルです。	• **[Name]**：作成されたファイルの名前です。 • **[Path]**：作成されたファイルへのパスです。
FileDeleted	WatchFileSystem メソッドによって監視されているパスから削除されたファイルです。	• **[Name]**：削除されたファイルの名前です。 • **[Path]**：削除されたファイルへのパスです。
FileRenamed	変更されたファイルの名前です。	• **[OldName]**：ファイルの以前の名前です。 • **[OldPath]**：ファイルへの以前のパス (パスも変更されている場合) です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ファイルシステムのイベント (続く)

イベント	説明	パラメーター
		• **[NewName]**：ファイルの新しい名前です。 • **[NewPath]**：ファイルへの新しいパス (該当する場合) です。
FileWatchError	WatchFileSystem メソッドのエラーです。	

入力

パス

FileTypes

SubDirectories (Boolean)

WatchNetworkAvailability

システム内のネットワークの可用性を監視します。次のイベントを使用します。次のイベントを実行する前に、WatchNetworkAvailability メソッドを実行する必要があります。

ネットワークイベントの可用性

イベント	説明	パラメーター
NetworkAvailable	ネットワークが利用可能なときにシステムを監視します。	
NetworkUnavailable	ネットワークが利用不可のときにシステムを監視します。	

WatchSessionEvents

次のイベントを監視します。

セッションイベント

イベント	説明	パラメーター
OnSessionLock	セッションがユーザーによってロックされたときです。	
OnSessionUnlock	セッションがユーザーによってロック解除されたときです。	
OnSessionRemoteControl	セッションがユーザーによるリモート制御されているときです。	
OnSessionLogoff	セッションがログオフされたときです。	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UnwatchFileSystem

RPA デスクトップデザインスタジオ によるファイルのシステムイベントの監視を停止または回避します。このメソッドは、WatchFileSystem メソッドの使用前後で使用できます。

UnwatchNetworkAvailability

RPA デスクトップデザインスタジオ によるネットワーク可用性イベントの監視を停止または回避します。このメソッドは、WatchNetworkAvailability メソッドの使用前後で使用できます。

UnwatchSessionEvents

RPA デスクトップデザインスタジオ によるネットワーク可用性イベントの監視を停止または回避します。このメソッドは、WatchSessionEvents メソッドの使用前後で使用できます。

SystemEvent コネクタメソッドのパラメーター

RPA デスクトップデザインスタジオ の SystemEvent コネクタメソッドのさまざまなパラメーターについて説明します。

SystemEvent コネクタメソッドのパラメーター

パラメーター名	説明	必須？
パス	WatchFileSystem メソッドが追跡するフォルダまたはファイルへのパスです。	はい
FileTypes	WatchFileSystem が追跡するファイルタイプです。	はい
SubDirectories (Boolean)	WatchFileSystem がサブディレクトリを追跡するかどうかを示すオプションです。	いいえ
名前	SystemEvent メソッドの変更によって追跡されるファイルの名前です。	はい
パス	SystemEvent メソッドによって追跡されるファイルのパスです。	はい
ChangeType	変更のタイプです。	はい
Name	作成されたファイルの名前です。	はい
Path	作成されたファイルのパスです。	はい
Name	削除されたファイルの名前です。	はい
Path	削除されたファイルのパスです。	はい
OldName	名前の変更前のファイル名です。	はい
OldPath	パスの変更前のファイルパスです。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SystemEvent コネクタメソッドのパラメーター (続く)

パラメーター名	説明	必須？
NewName	新しいファイル名です。	はい
NewPath	新しいファイルパスです。	はい

パラメーターの入力設定

パラメーターの入力を行うには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

テーブル

Table コネクタを使用すると、あらゆる種類のテーブルに対してさまざまなアクションを実行できます。たとえば、RPA デスクトップデザインスタジオ の ワークフロー の一部として、列や行を作成または削除したり、テーブル内のセルから値を取得したりできます。

Table コネクタのメソッドを使用するには、まずそのメソッドを使用し、次にそのメソッドを公開する必要があります。

- コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

Table コネクタのメソッド

Table コネクタは、RPA デスクトップデザインスタジオの自動化ワークフローの一部として、表形式データに対してさまざまなアクションを実行する複数のメソッドを提供します。たとえば、テーブルの取得、行データの取得、空の行の削除などのタスクです。

SetTable

Workflow にテーブルを挿入します。SetTable メソッドは、データテーブルに対して他の処理を行う前に使用する必要があります。設定する必要があるテーブルオブジェクトを指定する必要があります。

SetTable パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
テーブル	追加または変更するテーブルの名前です。 例 データテーブル	データ入力	データテーブル

AddColumn

テーブルに列を追加します。列の位置は、指定した列インデックス値によって決定されます。新しい列の名前と、新しい列を追加する必要がある列インデックスを指定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AddColumn パラメーター

パラメーター名	説明	データタイプ
名前	追加する新しい列の名前。 例 顧客データ	文字列
ColumnIndex	新しい列を追加する必要がある列のインデックス。デフォルトでは、-1 が更新可能なインデックス値です。たとえば、0、1、2 は左から右への列の位置を示すことができます。	整数

AddColumns

別のメソッドまたはコンポーネントから列名を受け取って、テーブルに複数の列を追加します。追加された列を表示するには、GetTable メソッドを使用します。データテーブルに追加する必要がある新しい列の名前のリストを指定する必要があります。

AddColumns パラメーター

パラメーター名	説明	データタイプ
名前	アレイ、アレイリスト、またはリストの形式で列の名前を受け入れます。 例 { "OrderID", "CustomerName", "OrderDate", "Status"};	IEnumerable

AddRow

指定されたインデックスに行とその内容を追加します。行を追加する必要がある RowIndex を指定する必要があります。

行の内容を追加するインデックス値を設定するには、次のアクションを実行します。

1. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
2. インデックスの追加アイコン ( ) をクリックします 。
3. インデックスを入力します。
4. 複数のインデックスを追加するには、手順を繰り返します。
5. **[OK]** をクリックします。

> **注:** 追加される行ごとに、データ入力ポートが追加されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AddRow パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
RowIndex	新しい行を追加する必要がある行のインデックス。	データ入力	整数

GetTable

AddColumn、AddColumns、および AddRow の各メソッドで作成したテーブルを返します。

注: このメソッドは、AddColumn、AddColumns、および AddRow の各メソッドを実行した後に実行する必要があります。

GetTable パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
データテーブル	基になる DataTable オブジェクトを表す DataTable のタイプを返します。	データ出力	データテーブル

ClearColumns

テーブルからすべての列の値をクリアします。

ClearRows

テーブルからすべての行の値をクリアします。

DeleteColumnByIndex

指定されたインデックス値に基づいて、列を削除します。削除する列のインデックスを Index パラメーターに指定する必要があります。

DeleteColumnByIndex パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
インデックス	削除する必要がある列のインデックス値。	データ入力	整数

DeleteColumnByName

指定された名前に基づいて、列を削除します。削除する必要がある列の名前を指定する必要があります。

DeleteColumnByName パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
名前	削除する必要がある列の名前。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DeleteRow

指定されたインデックス値に基づいて、行を削除します。このメソッドを実行する前に、カスタムインデックス値を行に割り当てる必要があります。削除する必要がある行のインデックスを指定する必要があります。

DeleteRow パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
インデックス	削除する必要がある行のインデックス。	データ入力	整数

FilterAndSort

指定した式に基づいて、テーブルをフィルタリングしてソートします。列の値を計算する式と、SortColumnName と Order でソートする列名を指定する必要があります。設定した基準に基づいて可能な行の数を返し、完全なデータテーブルも返します。

FilterAndSort パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
式	列の値を計算する式。 例 "Status = 'Pending"' - このクエリ式に基づいて、データがフィルタリングされます。	データ入力	文字列
SortColumnName	メソッドがデータをソートする際に使用する列名です。 例 日付 - メソッドは [日付] 列に基づいてデータをソートします。	データ入力	文字列
順序	列名の順序	データ入力	文字列
データテーブル	基になる DataTable オブジェクトからフィルタリングされたデータを含むデータテーブルを返します。	データ出力	データテーブル

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FilterAndSort パラメーター (続く)

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
Count	ソート後の行数を返します。	データ出力	整数

FilterByRegEx

指定した正規表現 (RegEx) に基づいて、テーブルデータをフィルタリングします。フィルタリングに使用される、ColumnIndex パラメーターへの列インデックスと RegExpression パラメーターへの正規表現を指定する必要があります。このメソッドは、行数とデータテーブルを返します。

FilterByRegEx パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
ColumnIndex	フィルタリングロジックを適用する必要がある列のインデックス。最初の列のデフォルトのインデックス値は -1 です。カスタムインデックス値の指定はオプションです。フィールドがカスタムインデックス値を受け取らない場合は、メソッドが自動的に列の順序を設定します。	データ入力	整数
RegExpression	フィルタリングロジックとして使用される正規表現。	データ入力	文字列
Return	基になる DataTable オブジェクトからフィルタリングされたデータを含む DataTable を返します。	データ出力	データテーブル
RowsCount	正規表現を使用して、フィルターに基づき可能な行の数を返します。	データ出力	整数

FindText

1 つまたは複数の基準に基づいて、指定されたテーブル内のテキストを検索し、セル値を返します。SearchText パラメーターで検索するテキスト、StartPosition で検索を開始する位置、および必要な一致タイプを指定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FindText パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
SearchText	テーブル内で検索するテキスト。 例 "John Doe"	データ入力	文字列
StartPosition	検索を開始すべき列の位置。	データ入力	整数
MatchType	テキストの一致タイプ： • **[ExactMatch]**：指定されたテキストと検索されたテキストは完全に一致する必要があります。これがデフォルト値です。 • **[MatchCase]**：指定されたテキストの大文字と小文字は検索されたテキストの大文字と小文字と一致する必要があります。 • **[Contains]**：指定されたテキストは、検索されたテキストを 1 文字以上含んでいる必要があります。	データ入力	MatchType
CellValue	検索に基づいて、セル内の値を返します。	データ出力	オブジェクト
ColIndex	その検索されたテキストを含む列のインデックスを返します。	データ出力	整数
RowIndex	その検索されたテキストを含む行のインデックスを返します。	データ出力	整数

GetCellValue

指定された行と列のインデックス値に基づいて、セルの値を返します。値を取得する必要があるセルの行番号と列番号を指定する必要があります。

GetCellValue パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
行	必要なセルの行番号。	データ入力	整数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetCellValue パラメーター (続く)

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
列	必要なセルの列番号。	データ入力	整数
Return	基になる DataTable オブジェクトから、セル値を表すオブジェクトタイプを返します。	データ出力	オブジェクト

GetCellValueIfRowHas

メソッドが、指定されたテキストと指定されたインデックス値に基づく行の値を見つけた場合、true を返します。検索するテキストを指定する必要があります。SearchColumnIndex で指定された特定の列で検索を実行し、StartRowIndex で指定された特定の行からテキストの検索を開始します。デフォルト値は 1 で、テーブルの 1 行目を意味します。

行の値を指定するには、メソッドを設定する必要があります。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. 行インデックスの追加アイコン ( ) をクリックします 。
3. 行インデックス値のデータタイプを更新します。
4. 行インデックス値を入力します。
5. **[OK]** をクリックします。

GetCellValueIfRowHas パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
SearchText	行内で検索するテキスト。 例 "John Doe"	データ入力	文字列
SearchColumnIndex	テキストを検索する必要がある列のインデックス。	データ入力	整数
StartRowIndex	そこから検索を実行する必要がある開始行。	データ入力	整数
検出	テキストが一致した場合は True を返します。	データ出力	ブーリアン

GetCellValues

指定されたインデックス値に基づいて、複数のセルの値を返します。値を取得する必要があるセルの行インデックスを指定する必要があります。構成ウィンドウを使用して、行インデックスを追加して、これらのセル値を取得することもできます。

設定するには、次の手順を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. 行インデックスの追加アイコン ( ) をクリックします 。
3. 行インデックス値のデータタイプを更新します。
4. 行インデックス値を入力します。
5. **[OK]** をクリックします。

GetCellValue パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
RowIndex	セル値が必要な行のインデックス。	データ入力	整数

GetCount

データテーブルの行と列の合計数を返します。

GetCount パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
Row	作成された行の合計数を返します。	データ出力	整数
Column	作成された列の合計数を返します。	データ出力	整数

GetRowData

指定されたインデックス値に基づいて、行データを返します。データを取得する必要がある行のインデックス値を指定する必要があります。

GetRowData パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
RowIndex	データを取得する必要がある行のインデックス値。	データ入力	整数
Return	基になる DataTable オブジェクトから、行データを表すオブジェクトタイプのリストを返します。**IEnumerable** データ型は、行の値データをアレイ、リスト、アレイリストとして受け取り、オブジェクトとして返します。	データ出力	IEnumerable

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetTableAsCSV

テーブルデータを CSV 形式でローカルドライブに保存します。CSV ファイルを書き込む必要があるファイルパスを指定し、2 つのレコード間のセパレーターも指定する必要があります。

GetTableAsCSV パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	メソッドがテーブルデータを CSV として保存するローカルドライブのフォルダーパス。ファイルパスには、ファイル名を含める必要があります。 例 D:\Projects\Customer data.csv	データ入力	文字列
Delimiter	テーブルデータを区切る区切り文字です。 例 カンマ (",")	データ入力	文字列

GetTableAsHTML

テーブルデータを HTML ファイル形式で返します。このメソッドを実行する前に、列、行、およびデータを作成し、GetTable メソッドで実行する必要があります。

GetTableAsHTML パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	表形式データを HTML 形式で返します。	データ入力	文字列

GetTableAsJson

テーブルデータを JSON ファイル形式で返します。このメソッドを実行する前に、列、行、およびデータを作成し、GetTable メソッドで実行する必要があります。

GetTableAsJson パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	表形式データを JSON オブジェクトとして返します。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

LoadFromExcel

指定された Excel ファイルからデータテーブルにシートまたはデータをインポートします。データをロードする必要がある Excel ファイルのパスを指定する必要があります。シート名を指定するか、SheetOrQuery パラメーターへのクエリを指定します。クエリが指定されている場合は IsQuery ブール値を True に設定し、シート名が指定されている場合は IsQuery ブール値を False に設定します。GetTable メソッドを使用して、データが正しくインポートされたかどうかをテストできます。

LoadFromExcel パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
FilePath	データがインポートされる元となる Excel ファイルへのパスです。 D: \Projects \Sales \Sales data.xlsx	データ入力	文字列
SheetOrQuery	データが Excel ファイルのシートからインポートされるか、ファイルへのクエリを介してインポートされるかを示します。	データ入力	文字列
IsQuery	データがクエリを介してロードされるかどうかを示すブール値です。	データ入力	ブーリアン

MatchColumn

列インデックスに基づいて、別のデータテーブルの列を現在のテーブルの列と照合します。dtTable で指定された列を、ColumnIndex パラメーターの現在のテーブルの列インデックスと一致させる必要があるデータテーブルを指定する必要があります。このメソッドを実行する前に、GetTable メソッドを実行する必要があります。

MatchColumn パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
dtTable	列が一致する必要があるデータテーブル。	データ入力	データテーブル
ColumnIndex	一致する必要がある列のインデックス。	データ入力	整数
Return	指定した列が一致するかどうかを示す true または false の値を返します。	データ出力	ブーリアン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RemoveEmptyColumn

テーブル内のすべての空の列を削除し、操作後のデータテーブルを返します。

RemoveEmptyColumns パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	空の列を削除した後のデータテーブルを返します。	データ出力	データテーブル

RemoveEmptyRow

テーブル内のすべての空の行を削除し、操作後のデータテーブルを返します。

RemoveEmptyRows パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	空の行を削除した後のデータテーブルを返します。	データ出力	データテーブル

SetCellValue

列と行のインデックス値に基づき、セルにデータを追加します。設定する必要がある行番号、列番号、および値パラメーターの値を指定する必要があります。

このメソッドを実行する前に、列、行、およびデータを作成し、GetTable メソッドで実行する必要があります。

SetCellValue パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
行	メソッドがデータを入力するために使用する行のインデックス番号です。	データ入力	整数
列	メソッドがデータを入力するために使用する列のインデックス番号です。	データ入力	整数
値	セルに設定する必要がある値。	データ入力	オブジェクト

SetCellValueIfRowHas

行に指定されたテキストが含まれている場合、その行のセル値を設定します。行インデックス構成ダイアログで行インデックスを指定する必要があります。追加された行インデックスパラメーターの名前は値を設定する際に考慮され、そのパラメーターに指定された値は、テーブルの行に設定される実際の値となります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetCellValueIfRowHas パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
SearchText	行内で検索するテキスト。	データ入力	文字列
SearchColumnIndex	テキストを検索する必要がある列のインデックス。	データ入力	整数
StartRowIndex	そこからテキストを検索する必要がある開始行。	データ入力	整数
検出	テキストが一致する場合は True を返します。	データ出力	ブーリアン

SetColumnName

指定された列インデックスと名前に基づいて、列名を更新します。SetTable メソッドを使用して、まずテーブルを作成またはインポートする必要があります。

SetColumnName パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
ColumnIndex	名前を付ける必要がある列のインデックス。	データ入力	整数
名前	列の新しい名前です。	データ入力	文字列

SetJson

JSON オブジェクトを DataTable に変換します。DataTable に変換する必要がある JSON データを指定します。

ヒント: JSON オブジェクトを作成するには、GetTableAsJson メソッドを使用して、値を SetJson メソッドに渡します。

SetJson パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
JSON	JSON オブジェクトを DataTable に変換する必要があります。	データ入力	文字列

SetList

リストを DataTable に変換します。テーブルに変換する必要があるデータリストを指定します。

SetList パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
データ	テーブルに変換する必要があるリス	データ入力	IEnumerable

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetList パラメーター (続く)

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
	トタイプのデータ。**IEnumerable** 入力データ型は、データをアレイ、リスト、またはアレイリストとして受け入れます。 { "OrderID": 102, "CustomerName": "John Doe", "OrderDate": "2024-02-02", "Status": "Shipped" };		

SetRowData

指定された行データをデータテーブルに挿入します。行のインデックス番号を RowIndex パラメーターに指定し、行に追加する必要があるデータを Data パラメーターに指定する必要があります。

SetRowData パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
RowIndex	変更する必要がある行のインデックス番号。	データ入力	整数
データ	データテーブルに挿入される行のデータ。**IEnumerable** 入力データ型は、データをアレイ、リスト、またはアレイリストとして受け入れます。 { "OrderID": 102, "CustomerName": "John Doe", "OrderDate": "2024-02-02", "Status": "Shipped" };	データ入力	IEnumerable

ToList

指定されたテーブルをリストに変換します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ToList パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
Return	List に変換された DataTable オブジェクトを表す IEnumerable を返します。**IEnumerable** データ型は、データをアレイ、リスト、またはアレイリストとして受け入れ、リストを返します。	データ出力	IEnumerable

VLookUp

行に指定されたテキストが含まれている場合、その行のセル値を取得します。

値を入力するには、次の手順を行います。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. をクリックします。
3. 値を入力します。
4. **[OK]** をクリックします。

VLookUp パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
ポート名	コンポーネントのポートの名前です。	データ入力	文字列
SearchText	メソッドが行と列で検索するテキストです。	データ入力	文字列
DataColumnIndex	列の左からの順序を示す整数値です。最初の列のデフォルトのインデックス値は -1 です。カスタムインデックス値の指定はオプションです。フィールドがカスタムインデックス値を受け取らない場合は、メソッドが自動的に列の順序を設定します。	データ入力	整数
SearchColumnIndex	列の左からの順序を示す整数値です。最初の列のデフォルトのインデックス値は -1 です。カスタムインデックス値の指定はオプションです。フィールドが	データ入力	整数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

VLookUp パラメーター (続く)

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
	カスタムインデックス値を受け取らない場合は、メソッドが自動的に列の順序を設定します。		
StartRowIndex	列の左からの順序を示す整数値です。最初の行のデフォルトのインデックス値は -1 です。カスタムインデックス値の指定はオプションです。フィールドがカスタムインデックス値を受け取らない場合は、メソッドが自動的に列の順序を設定します。	データ入力	整数

VLookUpSet

行に指定されたテキストが含まれている場合、その行のセル値を設定します。

値を入力するには、次の手順を行います。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. をクリックします。
3. 値を入力します。
4. **[OK]** をクリックします。

VLookUpSet パラメーター

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
ポート名	コンポーネントのポートの名前です。	データ入力	文字列
SearchText	メソッドが行と列で検索するテキストです。	データ入力	文字列
DataColumnIndex	列の左からの順序を示す整数値です。最初の列のデフォルトのインデックス値は -1 です。カスタムインデックス値の指定はオプションです。フィールドがカスタムインデックス値を受け取らない場合は、メソッドが自動的に列の順序を設定します。	データ入力	整数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

VLookUpSet パラメーター (続く)

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
SearchColumnIndex	列の左からの順序を示す整数値です。最初の列のデフォルトのインデックス値は -1 です。カスタムインデックス値の指定はオプションです。フィールドがカスタムインデックス値を受け取らない場合は、メソッドが自動的に列の順序を設定します。	データ入力	整数
StartRowIndex	列の左からの順序を示す整数値です。最初の行のデフォルトのインデックス値は -1 です。カスタムインデックス値の指定はオプションです。フィールドがカスタムインデックス値を受け取らない場合は、メソッドが自動的に列の順序を設定します。	データ入力	整数

タイマー

Timer コネクタは、ワークフロー内でユーザー定義のタイマーを設定し、タイマーが停止すると自動化をトリガーします。

Timer コネクタのメソッドを使用するには、まずそのメソッドを使用し、次にそのメソッドを公開する必要があります。

- コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

Timer コネクタのメソッド

Timer コネクタのメソッドとイベントについて説明します。

Start メソッド

Start メソッドでは、時間をミリ秒単位で設定できます。

入力

間隔

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Start メソッドのパラメーター

パラメーター名	ポートタイプ	データタイプ	説明	必須？
間隔	データ入力	整数	タイマーの間隔 (ミリ秒) です。	はい

Stop メソッド

タイマーを停止します。

OnTimeTick イベント

Start メソッドが開始されると、イベントが開始されます。

OnTimeTick イベントのパラメーター

パラメーター名	ポートタイプ	データタイプ	説明	必須？
SignalTime	データ出力	整数	トリガーが処理を開始するシステム日時です。	はい
ElapsedTime	データ出力	整数	タイマーの合計経過時間。	はい

Terminal (メインフレーム) コネクタ

RPA デスクトップデザインスタジオが提供する Terminal コネクタを使用して、IBM Personal Communications エミュレーターおよび Rocket BlueZone エミュレーターでの各種アクションを自動化します。たとえば、エミュレーター画面でコマンドをシミュレートしたり、画面からテキストを取得したりできます。

重要: Terminal コネクタは、IBM Personal Communications API および BlueZone API を内部で使用し、メインフレームや AS/400 アプリケーションでホストされるアプリケーションとやり取りし、アプリケーションを自動化します。IBM Personal Communications API および BlueZone API の既知の問題や制限が適用されます。

まず、Terminal コネクタを RPA デスクトップデザインスタジオの [デザイン面 (Design surface)] で使用できるようにする必要があります。Terminal コネクタを使用可能にする方法については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。

IBM Personal Communications エミュレーターと Rocket BlueZone エミュレーターの画面、およびコネクタがアクションを実行する要素をキャプチャして、Terminal コネクタを設定します。Terminal コネクタの設定方法については、「Terminal コネクタの設定」を参照してください。

Terminal コネクタが提供するメソッドを使用して、IBM Personal Communications (PCOMM) エミュレーター画面および Rocket BlueZone エミュレーター画面でのアクションを自動化します。このメソッドの使用方法については、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

Terminal コネクタの設定

IBM Personal Communications (PCOMM)および Rocket BlueZone エミュレーターで、RPA デスクトップデザインスタジオが提供する Terminal コネクタを使用して、自動化を作成します。これらのエミュレーター画面と要素をキャプチャすることで、そこでのアクションを自動化できます。

[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [グローバルオブジェクト] の下に、Terminal コネクタオブジェクトが追加されていることを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エミュレーターセッションを開始し、サーバーに接続します。

必要なロール：なし

IBM Personal Communications エミュレーターの構成

IBM Personal Communications (PCOMM) エミュレーターの画面とそのエレメントをキャプチャして、RPA デスクトップデザインスタジオ上で PCOMM エミュレーターを構成します。画面をキャプチャした後、画面と要素のメソッドを使用して、画面と要素のアクションを自動化できます。

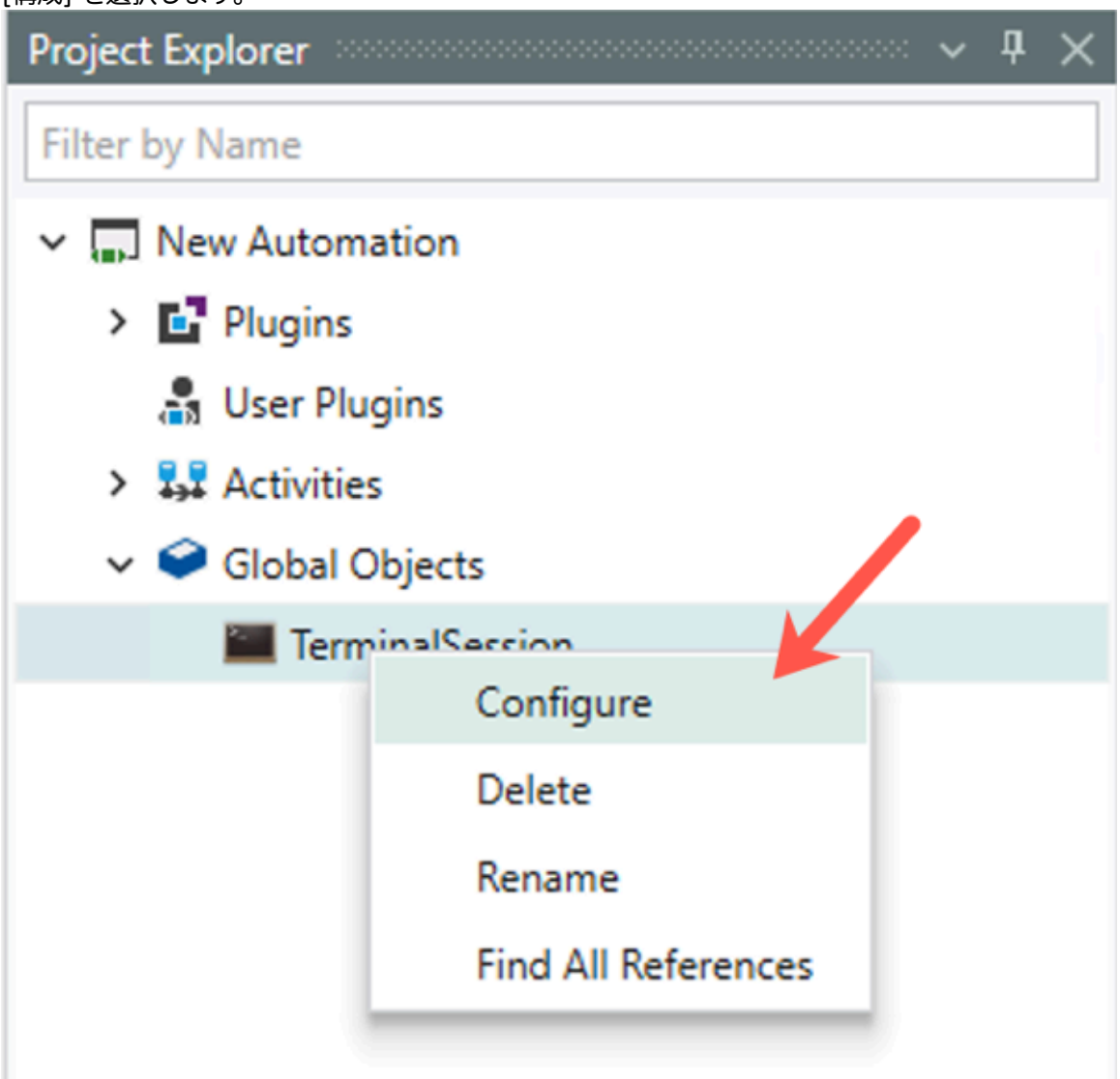
始める前に
[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [グローバルオブジェクト (Global Objects)] リストに Terminal コネクタオブジェクトを追加して、自動化プロジェクトのすべてのアクティビティ、コンポーネント、コネクタで Terminal コネクタを使用できるようにします。

エミュレーターセッションを開始し、それをサーバーに接続します。

必要なロール：なし

手順

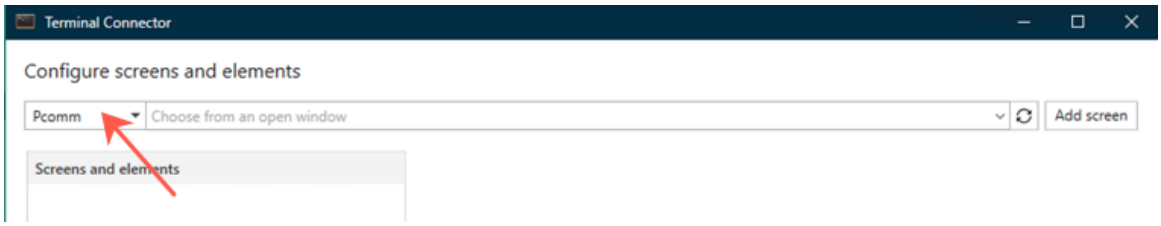
1. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペイン > [グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** に移動し、**[TerminalSession]** オブジェクトを右クリックします。
2. [構成] を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [Terminal コネクタ (Terminal Connector)] ウィンドウで、[Pcomm] が選択されていることを確認します。

   デフォルトでは、[Pcomm] が選択されています。



   ヒント: リストに表示されない PCOMM エミュレーター画面を読み込むには、リフレッシュアイコン ( ) を選択します。

4. PCOMM エミュレーター画面をキャプチャします。

   a. Pcomm リストで、PCOMM メインフレームエミュレーター画面を選択します。

   注: PCOMM エミュレーターがサーバーとの接続を確立すると、そのセッションの名前でセッションが作成されます。たとえば、この例のセッションの名前は A です。

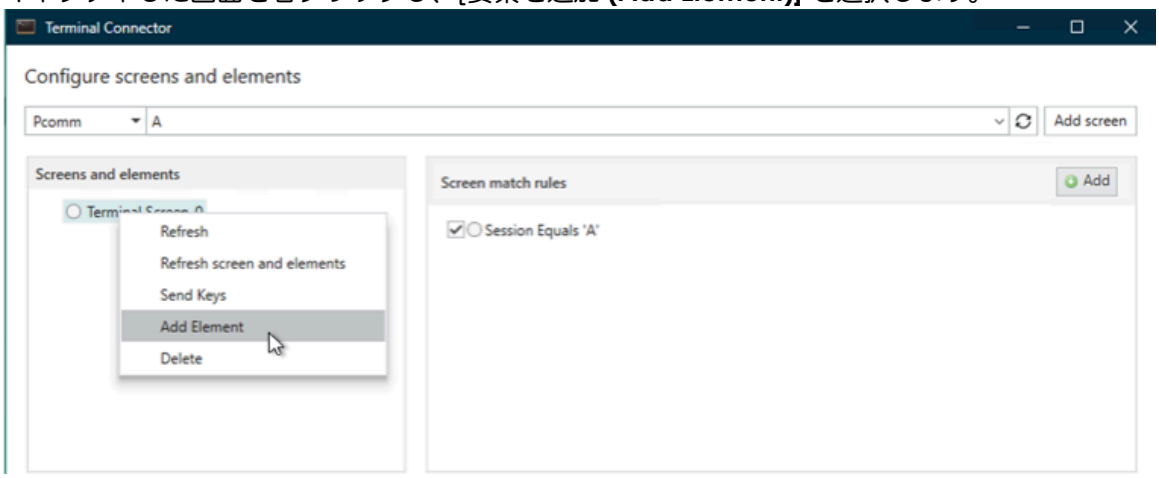
   b. [画面を追加 **(Add Screen)]** を選択します。
   エミュレーター画面は、[画面と要素 (Screens and elements)] ペインと、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [TerminalSession] オブジェクトの下に追加、表示されます。

   複数の画面と要素をキャプチャし、1 つの画面または要素でタスクを自動化したい場合、コネクタは一致ルールを使用して、最初に画面または要素を見つける必要があります。一致ルールの詳細については、「画面または要素の一致ルールの使用」を参照してください。

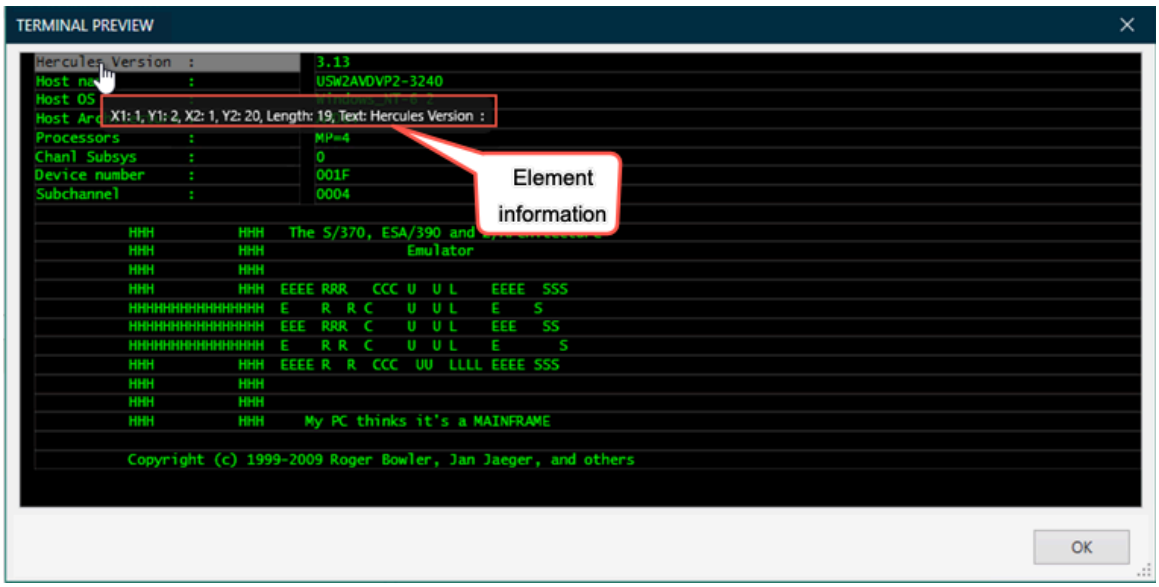
5. PCOMM エミュレーター画面から要素をキャプチャします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

a. キャプチャした画面を右クリックし、[要素を追加 **(Add Element)]** を選択します。



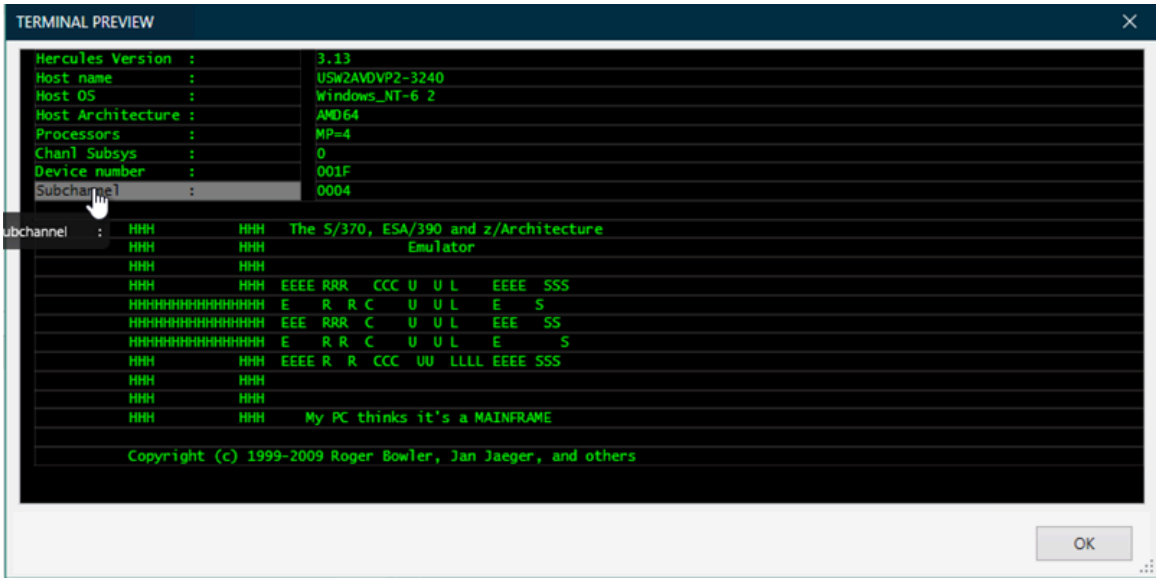
b. [ターミナルプレビュー (TERMINAL PREVIEW)] 画面で、キャプチャする要素にマウスを移動します。
要素の情報が表示されます。



c. 要素を右クリックし、**[Add as Field** (フィールドとして追加)] を選択して、要素をフィールドとして追加します。

メインフレーム画面のデータがフィールド内に表示されます。RPA デスクトップデザインスタジオで構成したエミュレーター画面では、フィールドを矩形で囲んで示しています。次の画像は、矩形内のフィールドを示しています。

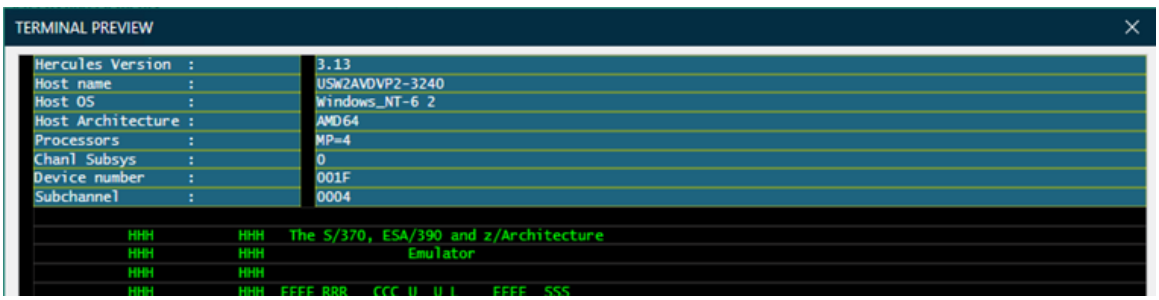
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



[Add as Field (フィールドとして追加)] を選択すると、コネクタは要素を、データの表示フィールドまたはデータの入力フィールドとして扱います。このオプションを使用して、フィールドからテキストまたはデータを取得し、そのデータをフォームに入力できます。

d. 表形式でフィールドを選択した後、追加します。

表形式でフィールドを選択した後に追加するには、テーブルを構成する連続したフィールドを選択します。次の例は、テーブルをキャプチャするフィールドを選択する方法を示しています。



フィールドを選択します。

i. テーブルの最初のフィールドを選択します。

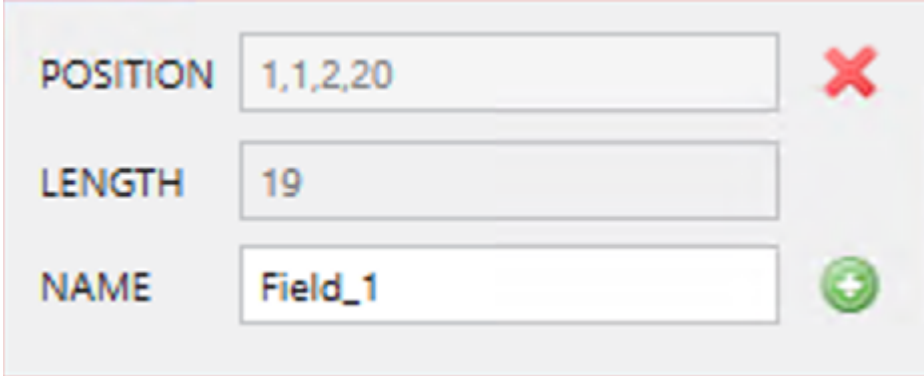
ii. キーボードの **Shift** キーを押します。

iii. テーブルの最後のフィールドを選択します。

右クリックして **[Add as Table** (テーブルとして追加)] を選択します。

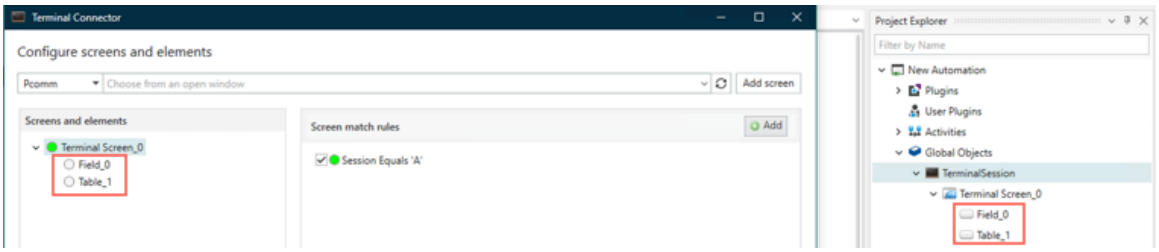
e. コンテキストダイアログボックスで [名前] フィールドにフィールド名またはテーブル名を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



f. [フィールドを追加] アイコン を選択します。
さらに要素をキャプチャするには、ステップ 5a から 5f を繰り返します。

g. **[OK]** を選択して [ターミナルプレビュー **(TERMINAL PREVIEW)]** 画面を閉じます。
要素は、[Terminal コネクタ (Terminal Connector)] 画面の [画面と要素 (Screens and elements)] ペインの [TerminalScreen_0] オブジェクトの下に追加、表示されます。



6. オプション: 画面一致ルールを使用して、Terminal コネクタが画面または要素を見つけられるようにします。
複数の画面、フィールドまたはテーブルをキャプチャし、1 つの画面または要素のタスクを自動化したい場合、コネクタは最初に画面または要素を見つける必要があります。コネクタが画面または要素を検出できるようにする方法については、「画面または要素の一致ルールの使用」の画面一致ルールを使用してください。
7. 画面と要素のメソッドを表示します。

a. キャプチャした画面をダブルクリックして、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [TerminalSession] オブジェクトの下に、画面レベルのメソッドを表示します。
メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

b. キャプチャした画面の下にある要素に移動し、その要素をダブルクリックして、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの要素レベルのメソッドを表示します。
メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

関連情報

IBM Personal Communications エミュレーターメソッド

Rocket BlueZone エミュレーターの構成

Rocket BlueZone エミュレーターの画面とその要素をキャプチャして、RPA デスクトップデザインスタジオで Rocket BlueZone エミュレーターを構成します。画面をキャプチャした後、画面と要素のメソッドを使用して、画面と要素のアクションを自動化できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

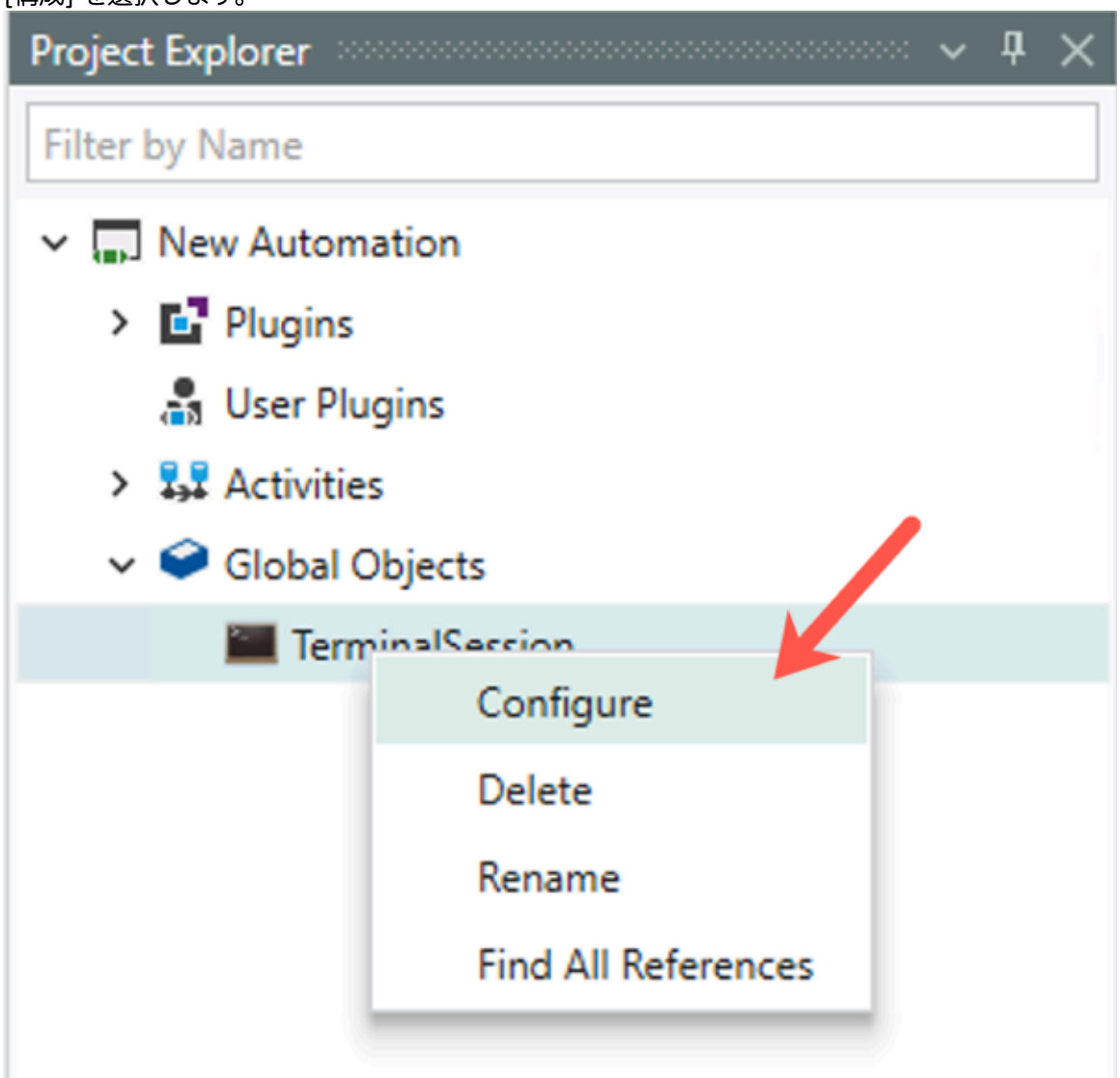
始める前に
[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [グローバルオブジェクト (Global Objects)] リストに Terminal コネクタオブジェクトを追加して、自動化プロジェクトのすべてのアクティビティ、コンポーネント、コネクタで Terminal コネクタを使用できるようにします。

エミュレーターセッションを開始し、それをサーバーに接続します。

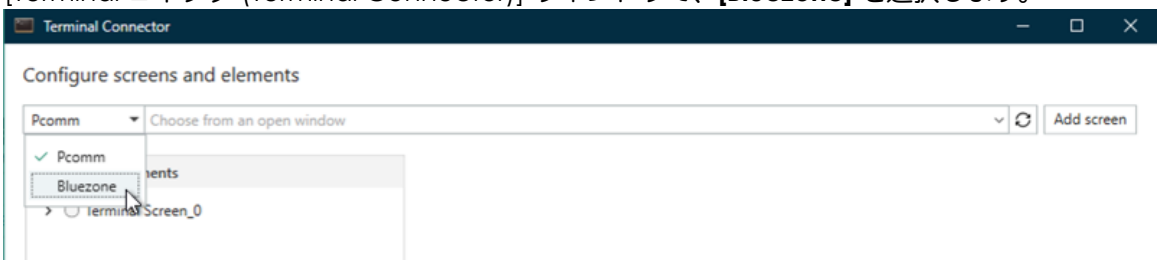
必要なロール：なし

手順

1. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペイン > [グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** に移動し、**[TerminalSession]** オブジェクトを右クリックします。
2. [構成] を選択します。



3. [Terminal コネクタ (Terminal Connector)] ウィンドウで、**[Bluezone]** を選択します。

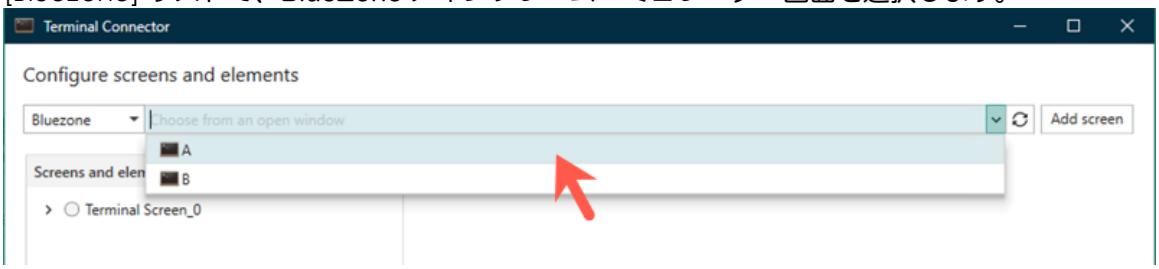


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ヒント: リストに表示されない BlueZone エミュレーター画面を読み込むには、リフレッシュアイコン ( ) を選択します。

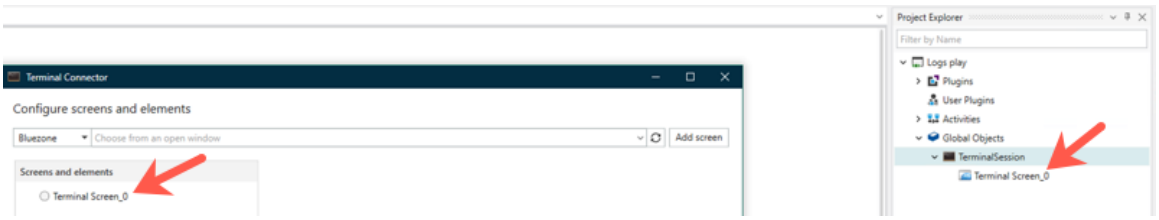
4. BlueZone エミュレーター画面をキャプチャします。

a. [BlueZone] リストで、BlueZone メインフレームエミュレーター画面を選択します。



注: BlueZone エミュレーターがサーバーとの接続を確立すると、セッションの名前でセッションが作成されます。たとえば、この例のセッションの名前は A です。

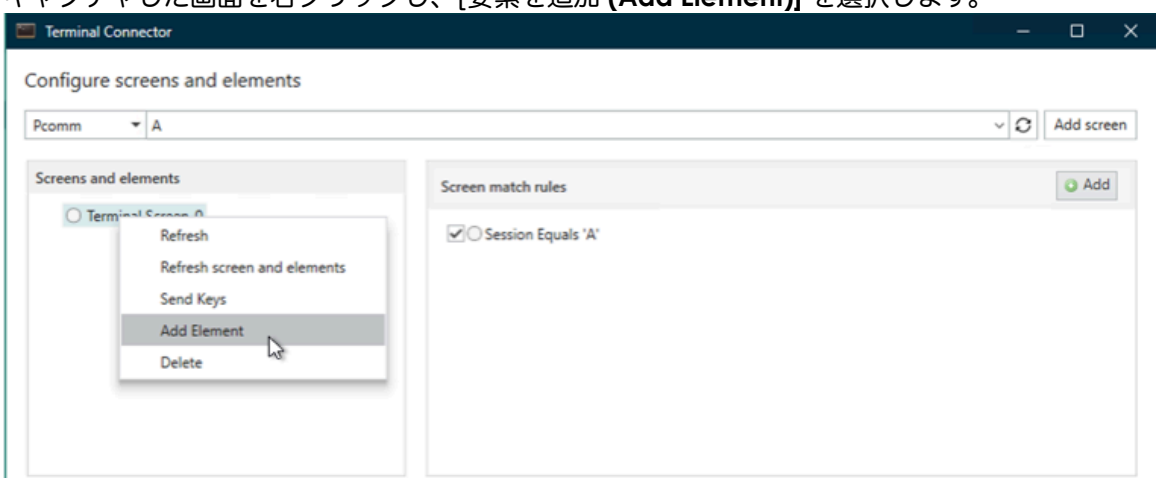
b. [画面を追加 **(Add Screen)**] を選択します。
エミュレーター画面は、[画面と要素 (Screens and elements)] ペインと、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [TerminalSession] オブジェクトの下に追加、表示されます。



複数の画面と要素をキャプチャし、1 つの画面または要素でタスクを自動化したい場合、コネクタは一致ルールを使用して、最初に画面または要素を見つける必要があります。一致ルールの詳細については、「画面または要素の一致ルールの使用」を参照してください。

5. BlueZone エミュレーター画面から要素をキャプチャします。

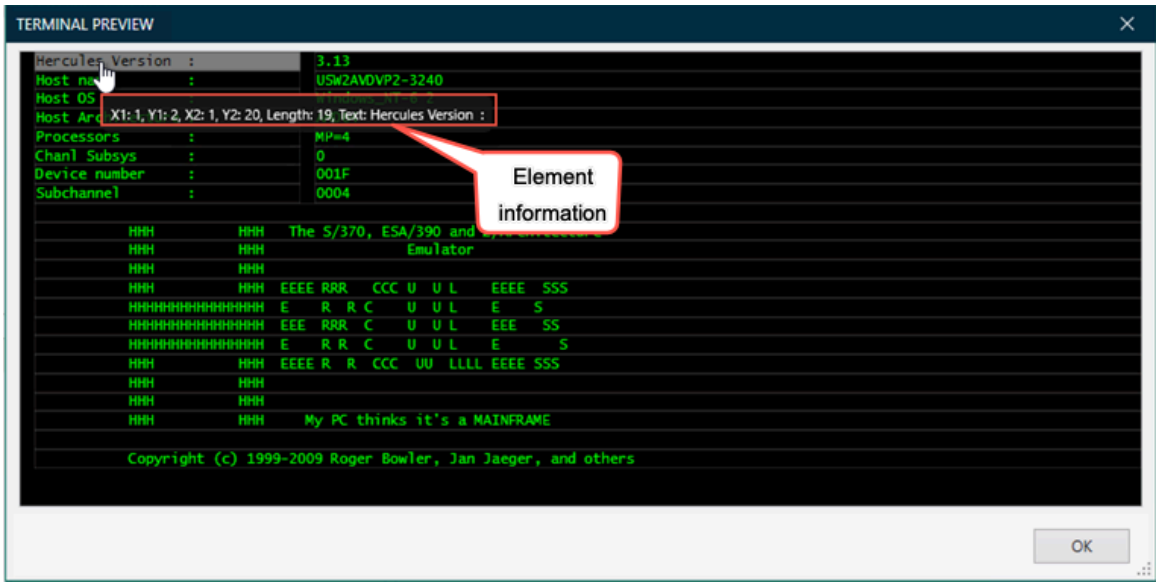
a. キャプチャした画面を右クリックし、[要素を追加 **(Add Element)**] を選択します。



b. [ターミナルプレビュー (TERMINAL PREVIEW)] 画面で、キャプチャする要素にマウスを移動します。

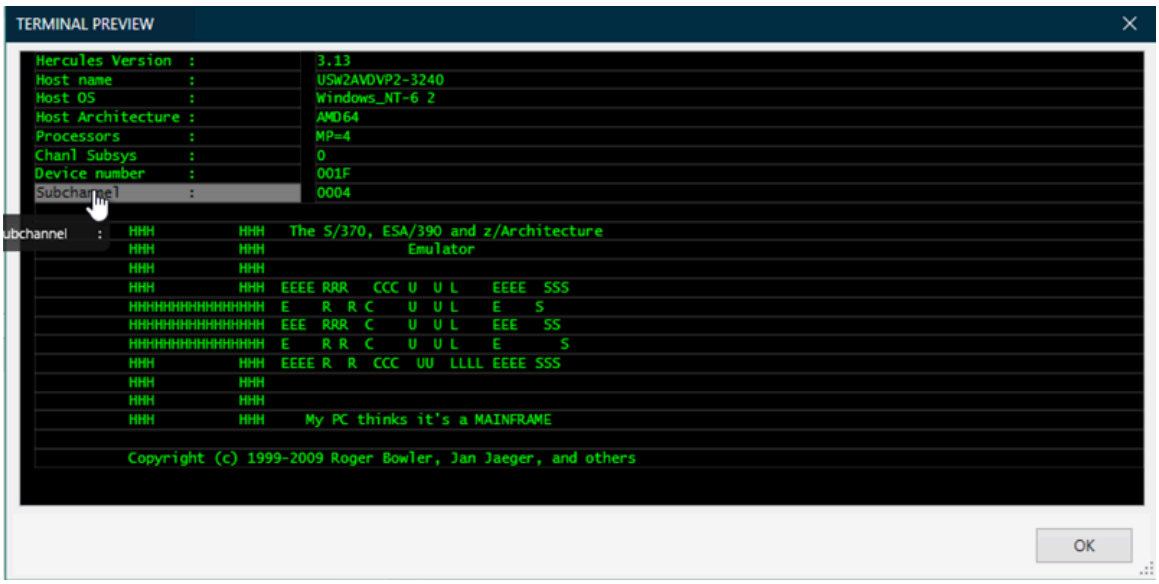
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要素の情報が表示されます。



c. 要素を 1 つのフィールドとして追加するには、要素を右クリックし、**[Add as Field** (フィールドとして追加)] を選択します。

メインフレーム画面のデータがフィールド内に表示されます。RPA デスクトップデザインスタジオの BlueZone エミュレーター画面では、フィールドを矩形で囲んで示しています。次の画像はフィールドを示しています。

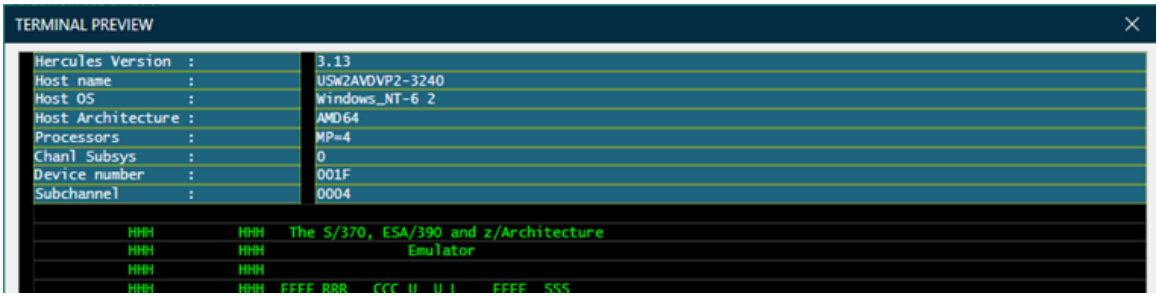


[Add as Field (フィールドとして追加)] を選択すると、コネクタは要素を、データの表示フィールドまたはデータの入力フィールドとして扱います。このオプションを使用して、フィールドからテキストまたはデータを取得し、そのデータをフォームに入力できます。

d. 表形式でフィールドを選択した後、追加します。

表形式でフィールドを選択した後に追加するには、表形式を作成する連続したフィールドを選択します。次の例は、表形式でキャプチャするフィールドを選択する方法を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



フィールドを選択します。

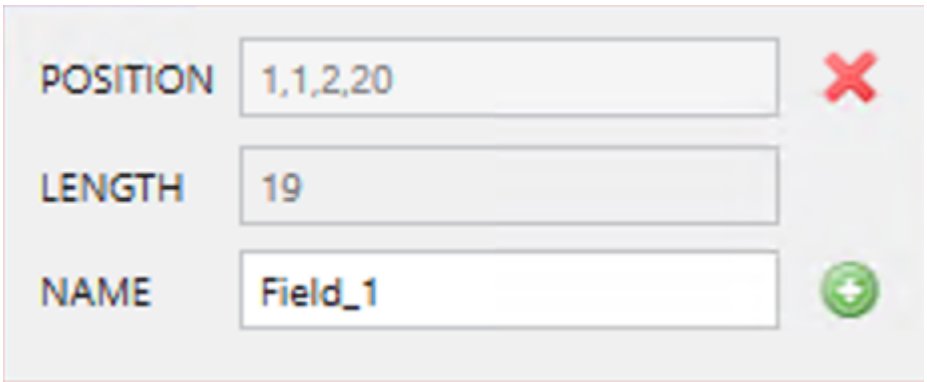
i. 特定した表形式領域の最初のフィールドを選択します。

ii. キーボードの **Shift** キーを押します。

iii. 特定した表形式領域の最後のフィールドを選択します。

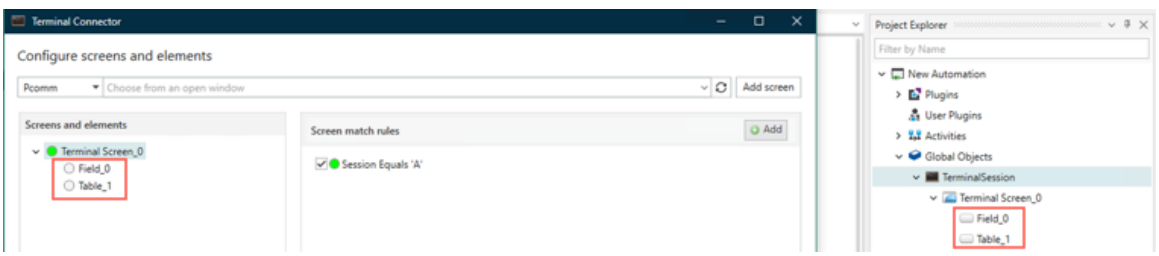
右クリックして **[Add as Table** (テーブルとして追加)] を選択します。

e. コンテキストダイアログボックスで [名前] フィールドにフィールド名またはテーブル名を入力します。



f. [フィールドを追加] アイコン を選択します。
さらに要素をキャプチャするには、ステップ 5a から 5f を繰り返します。

g. **[OK]** を選択して [ターミナルプレビュー **(TERMINAL PREVIEW)]** 画面を閉じます。
要素は、[Terminal コネクタ (Terminal Connector)] 画面の [画面と要素 (Screens and elements)] ペインの [TerminalScreen_0] オブジェクトの下に追加、表示されます。



6. オプション: 画面一致ルールを使用して、Terminal コネクタが画面または要素を見つけられるようにします。
複数の画面、フィールドまたはテーブルをキャプチャし、1 つの画面または要素のタスクを自動化したい場合、コネクタは最初に画面または要素を見つける必要があります。コネクタが画面または要素を検出できるようにする方法については、「画面または要素の一致ルールの使用」の画面一致ルールを使用してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. 画面と要素のメソッドを表示します。

   a. キャプチャした画面をダブルクリックして、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [TerminalSession] オブジェクトの下に、画面レベルのメソッドを表示します。
   メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

   b. キャプチャした画面の下にある要素に移動し、その要素をダブルクリックして、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの要素レベルのメソッドを表示します。
   メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

関連情報

Rocket BlueZone エミュレーターメソッド

画面または要素の一致ルールの使用

画面または要素の一致ルールを使用して、複数の画面や要素の中から 1 つの画面または要素を対応するルールと照合します。一致ルールを使用すると、コネクタは、適切な画面または要素を識別してタスクを実行できます。

始める前に

少なくとも 1 つのエミュレーター画面と 1 つの要素をキャプチャします。

必要なロール：なし

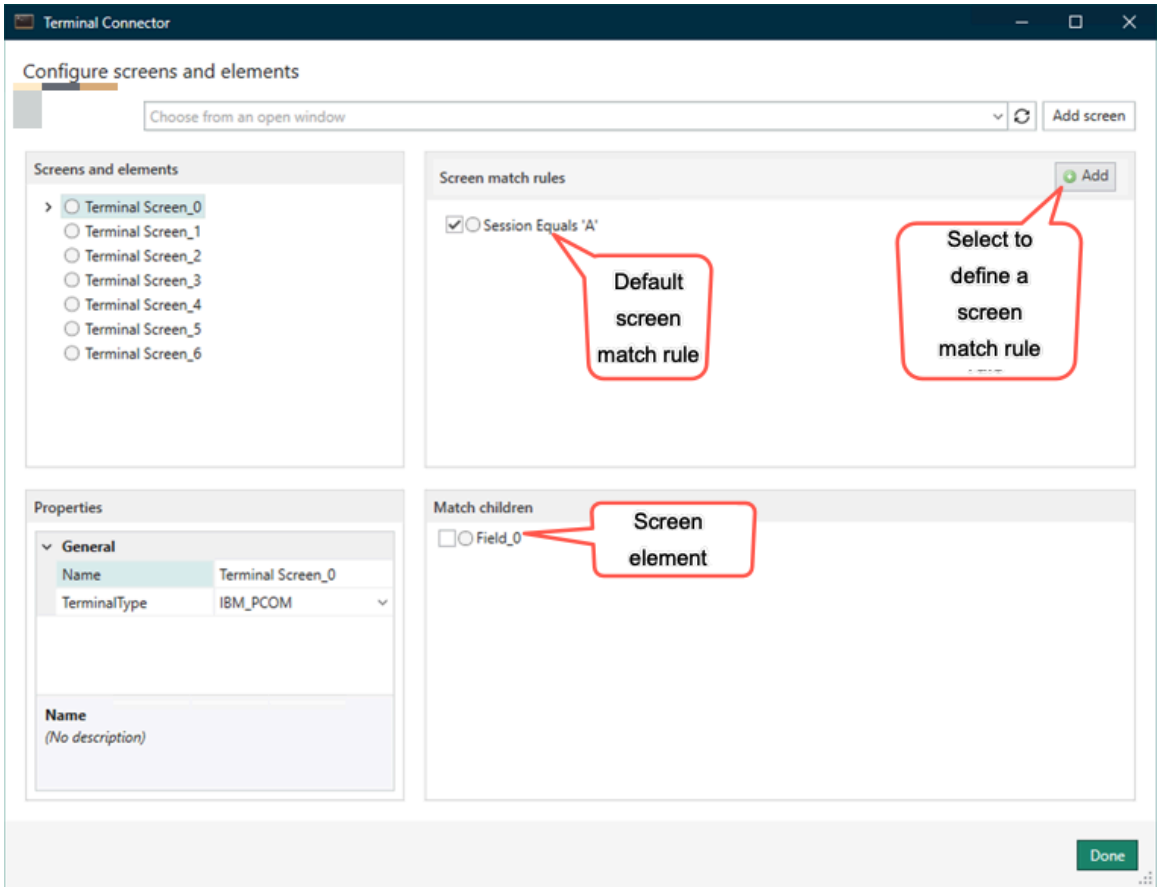
このタスクについて

複数のエミュレーター画面や要素の中から特定のエミュレーター画面または要素に対してタスクを実行するには、まず Terminal コネクタが画面を識別する必要があります。画面または要素を識別するために、Terminal コネクタでは画面一致ルール、属性、および要素ロケーターを使用します。画面一致ルール、ロケーター、および属性は、各画面と要素に一意の識別基準を提供します。

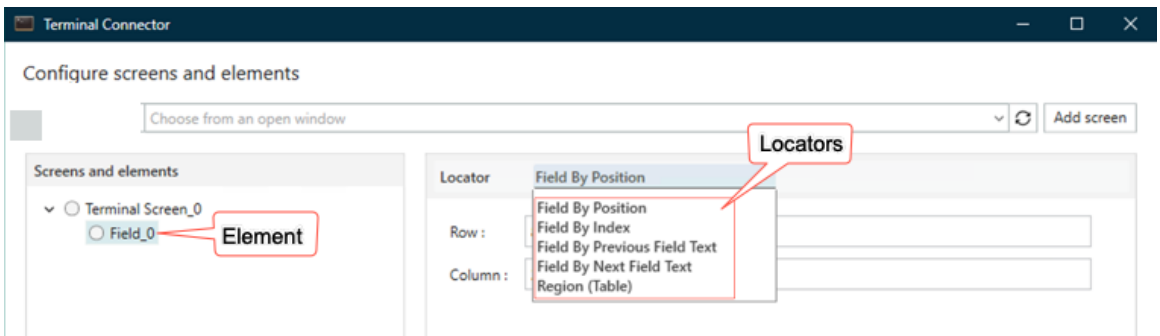
キャプチャされたすべての画面には、デフォルトの画面一致ルールがあります。また、1 つ以上の画面一致ルールを定義できます。デフォルトの画面一致ルールまたは定義した画面一致ルールを変更または削除できます。

画面と要素では一致ルールが異なります。画面の場合、terminal コネクタは画面一致ルールを使用し、要素の場合はロケーターを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



この画像は、画面要素のロケーターを示しています。



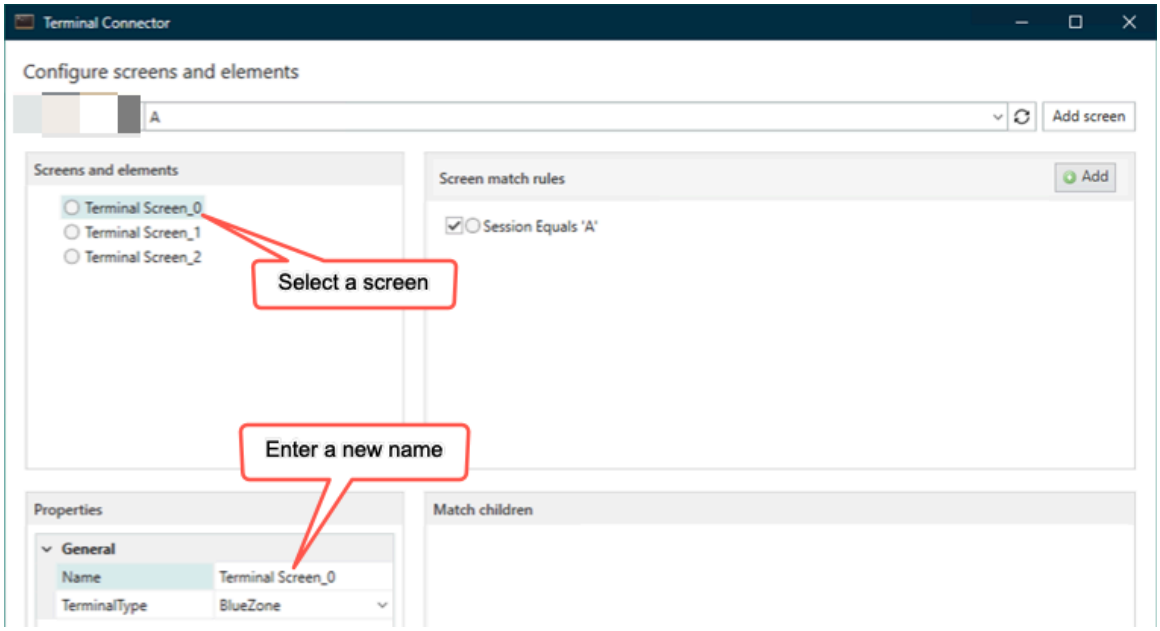
手順

1. オプション: 画面の名前を一意の名前に変更します。

   a. [画面と要素 (Screens and elements)] ペインで、画面を選択します。

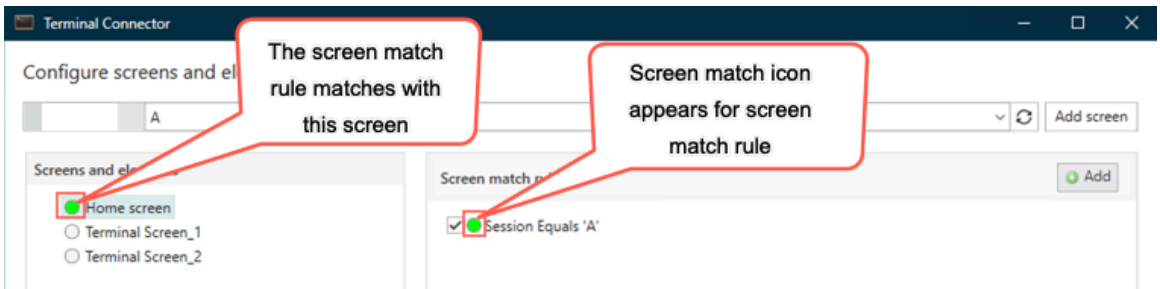
   b. [プロパティ] ペインで、画面の名前を変更し、**Enter** キーを押します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



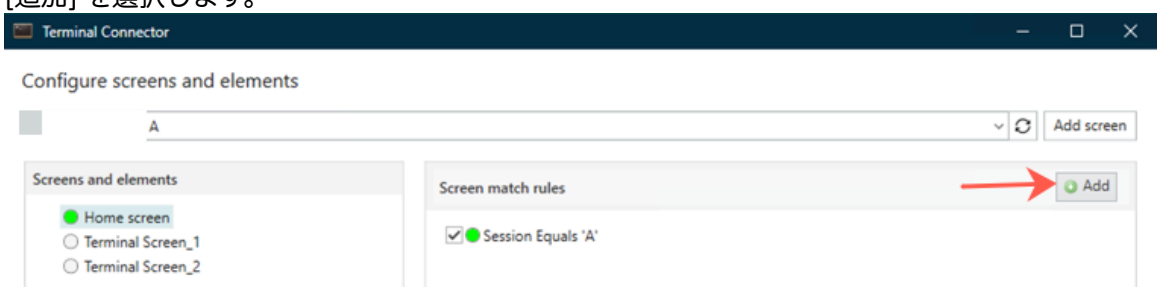
新しい画面名が [画面と要素 (Screens and elements)] ペインに表示されます。

c. [画面と要素 (Screens and elements)] ペインで、画面を右クリックして [更新] を選択します。
画面一致ルールが画面と一致する場合、画面一致アイコン ( ) が、画面および画面一致ルールの両方に表示されます。このアイコンは、画面一致ルールが画面と一致していることを示します。



2. オプション: 画面一致ルールを定義します。
Terminal コネクタが画面一致ルールとして使用するフィールドまたはテキストをエミュレーター画面から追加できます。

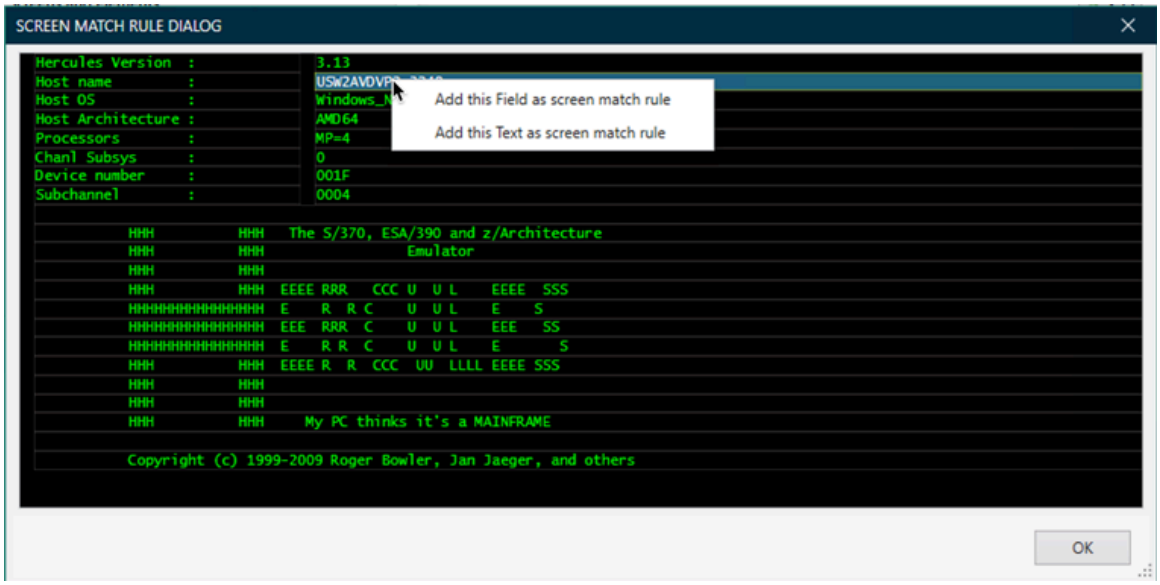
a. [追加] を選択します。



b. 必要なフィールドを右クリックし、いずれかのオプションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [このフィールドを画面一致ルールとして追加 **(Add this Field as screen match rule)**]：コネクタは、行、列、テキストなどのフィールドの詳細を画面一致ルールとして使用します。
- [このテキストを画面一致ルールとして追加 **(Add this Text as screen match rule)**]：コネクタは、フィールドテキストを画面一致ルールとして使用します。



[画面一致ルール **(Screen match rules)**] ペインに画面一致ルールが表示されます。

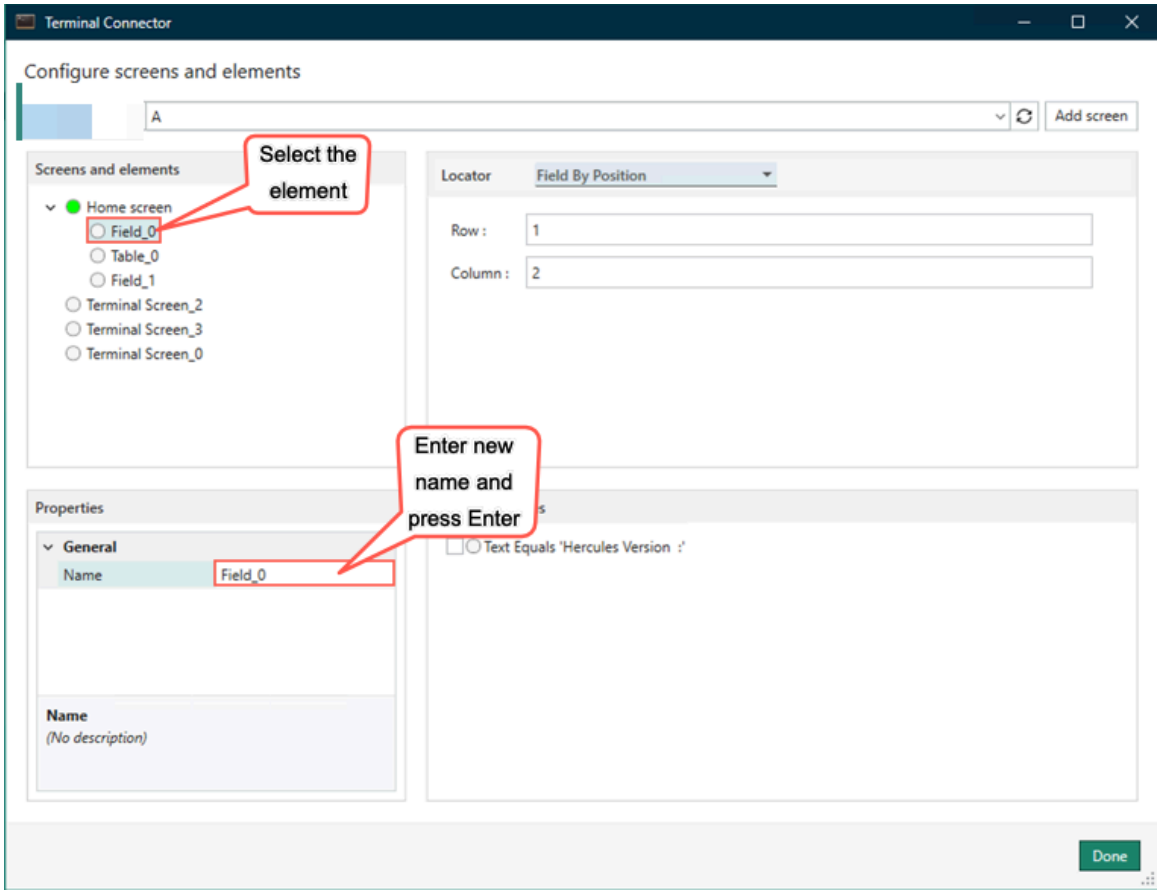
c. **[OK]** をクリックします。

3. オプション: 要素と一致ルールを定義します。
Terminal コネクタは、要素に関する情報を提供する複数のルールまたはロケーターを提供します。たとえば、画面上のフィールドの行番号と列番号は、一致ルールの 1 つです。Terminal コネクタには 5 つのロケーターがあり、要素に一致する任意のロケーターを選択できます。

a. フィールドの名前を変更します。

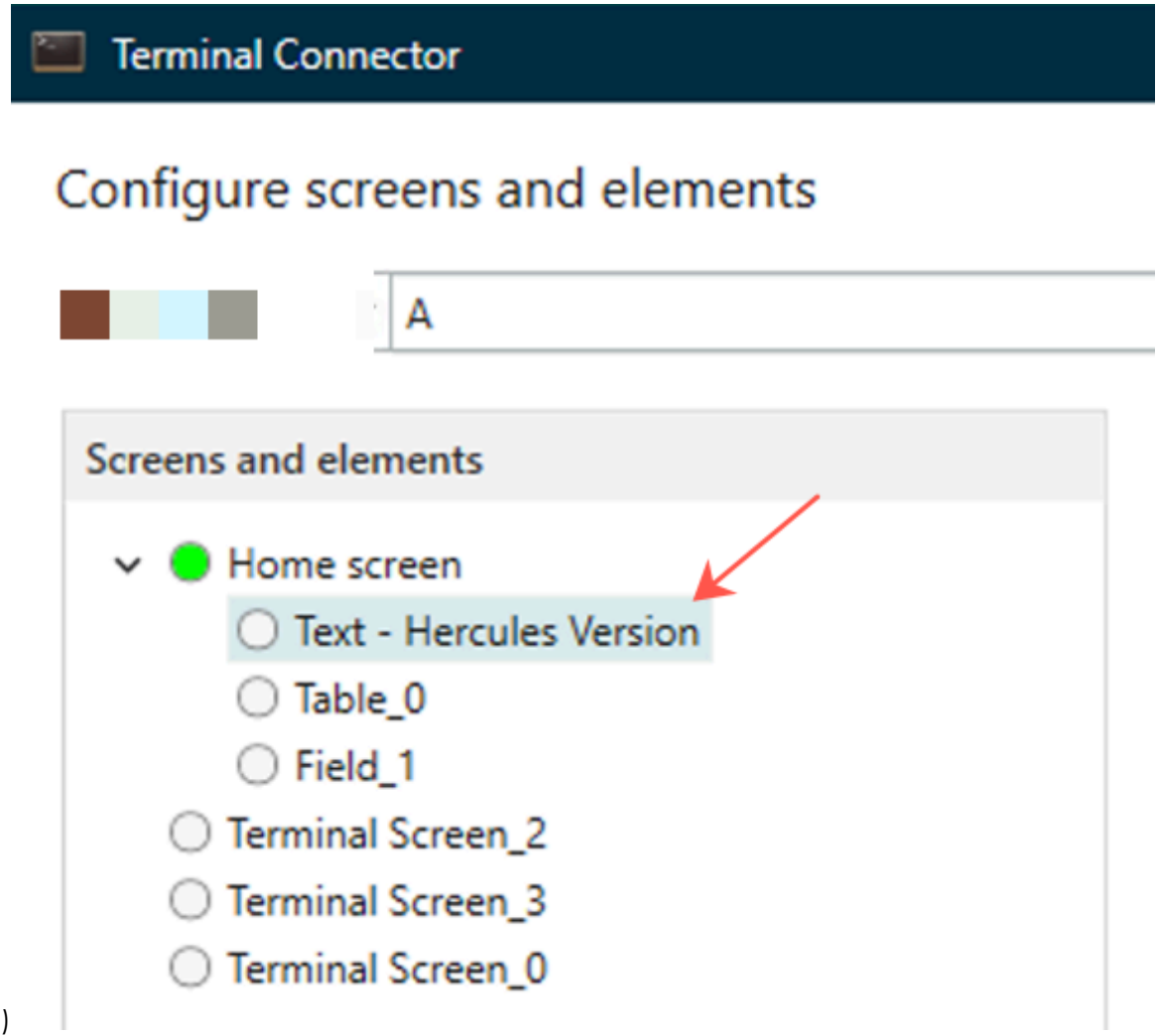
(Optional) 複数の要素をキャプチャする場合、Terminal コネクタでは、Field_0、Field_1、Table_0、Table_1 などのデフォルト名が提供されます。要素を識別しやすいように、要素の名前を変更できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



更新された要素名が [画面と要素 (Screens and elements)] ペインに表示されます。

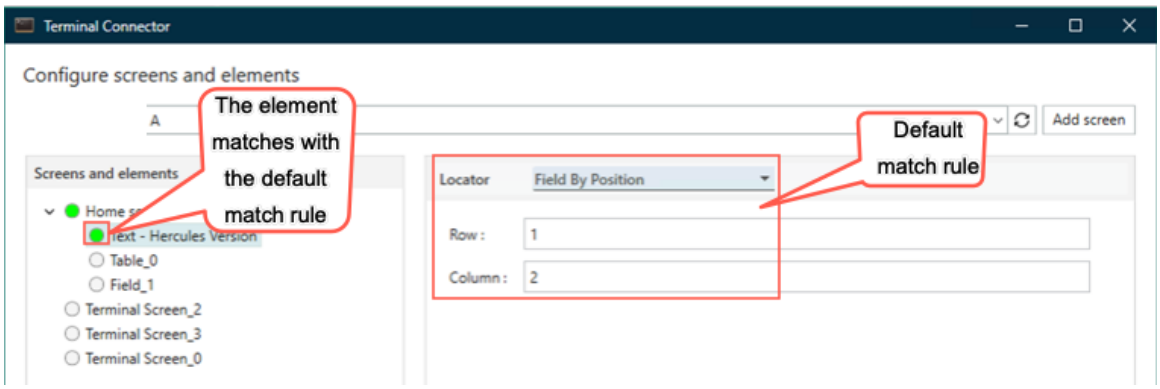
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



(Optional)

b. 要素を右クリックし、[更新] を選択します。

要素に要素一致アイコン ( ) が表示されます。アイコンは、ロケーターが要素と一致したことを示しています。

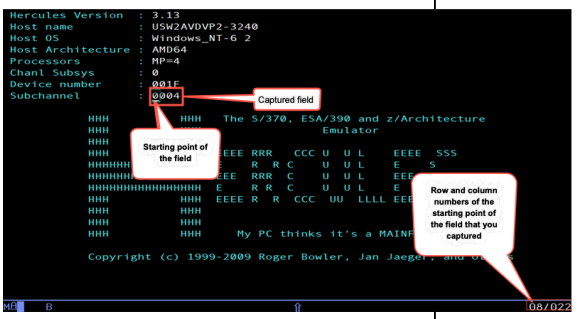
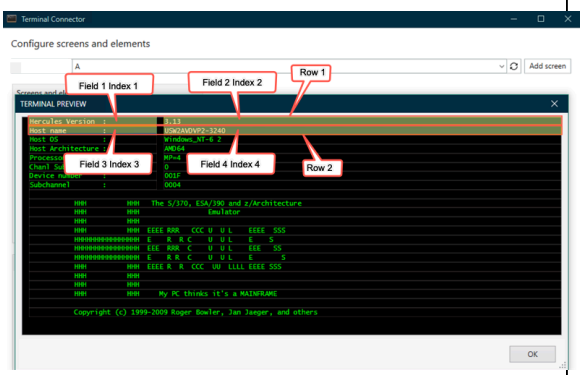


c. オプション: [ロケーター] ドロップダウンの他のロケーターを使用して、要素の照合を行います。

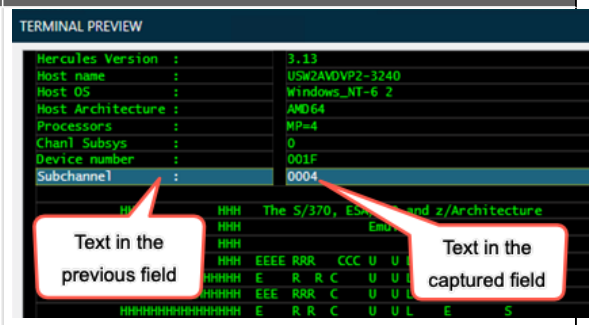
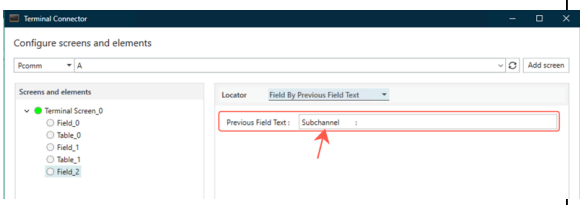
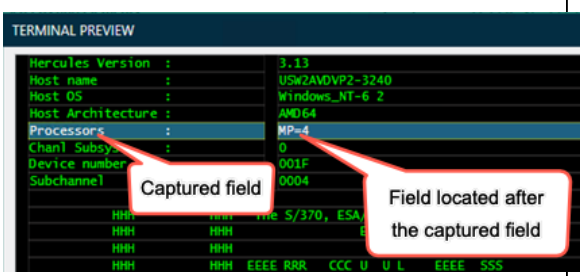
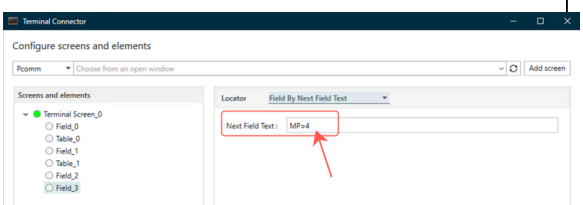
この表では、ロケーターについて説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

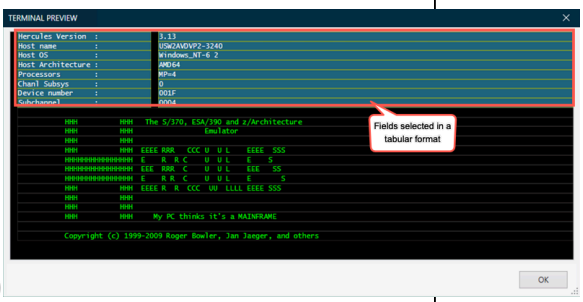
要素ロケーター

ルール	説明
位置別フィールド	画面内の行番号と列番号でフィールドを照合します。[行] フィールドと [列] フィールドには、画面からキャプチャされたフィールドの開始点の行番号と列番号が表示されます。  (Optional)
インデックス別フィールド	画面内のインデックス番号でフィールドを照合します。 (Optional) インデックス番号はメインフレーム画面のフィールドの一意の識別子であり、それにより、コネクタがフィールドを識別できます。エミュレーター画面の各フィールドには、一意のインデックス番号があります。1 行目の最初のフィールドはインデックスが 1、1 行目の 2 番目のフィールドはインデックスが 2、などのようになります。インデックス番号は、まず 1 行目のフィールドにアサインされ、次に 2 行目の最初のフィールドからアサインされ、画面内のすべてのフィールドにインデックス番号が行きわたるまで続きます。 
前のフィールドテキスト別のフィールド	キャプチャしたフィールドを、キャプチャしたフィールドの直前にあるフィールド内のテキストと照合します。[前のフィールドテキスト **(Previous Field Text)]** 一致ルールには、前のフィールドのテキストが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

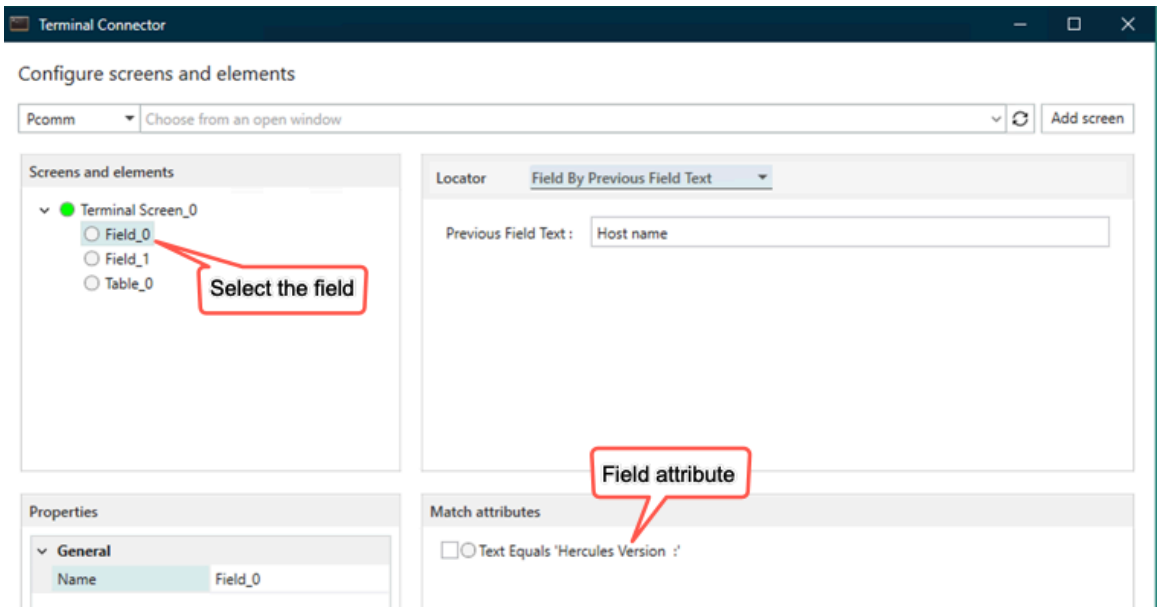
ルール	説明
	  前のフィールドがない場合、[前のフィールドテキスト **(Previous Field Text)]** フィールドには値が表示されません。
次のフィールドテキスト別のフィールド	フィールドを、キャプチャしたフィールドの直後にあるフィールド内のテキストと照合します。[次のフィールドテキスト **(Next Field Text)]** 一致ルールには、次のフィールドのテキストが表示されます。   次のフィールドがない場合、[次のフィールドテキスト **(Next Field Text)]** フィールドには値が表示されません。
リージョン (テーブル)	このロケーターは、エミュレーター画面から表形式でデータをキャプチャする場合に使用

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ルール	説明
	します。この画像は、選択したフィールドの表形式のデータを示しています。  (Optional)

4. 属性と一致ルールを定義します。

   a. フィールドを選択します。
   フィールド属性が [属性の一致 **(Match Attributes)]** ペインに表示されます。

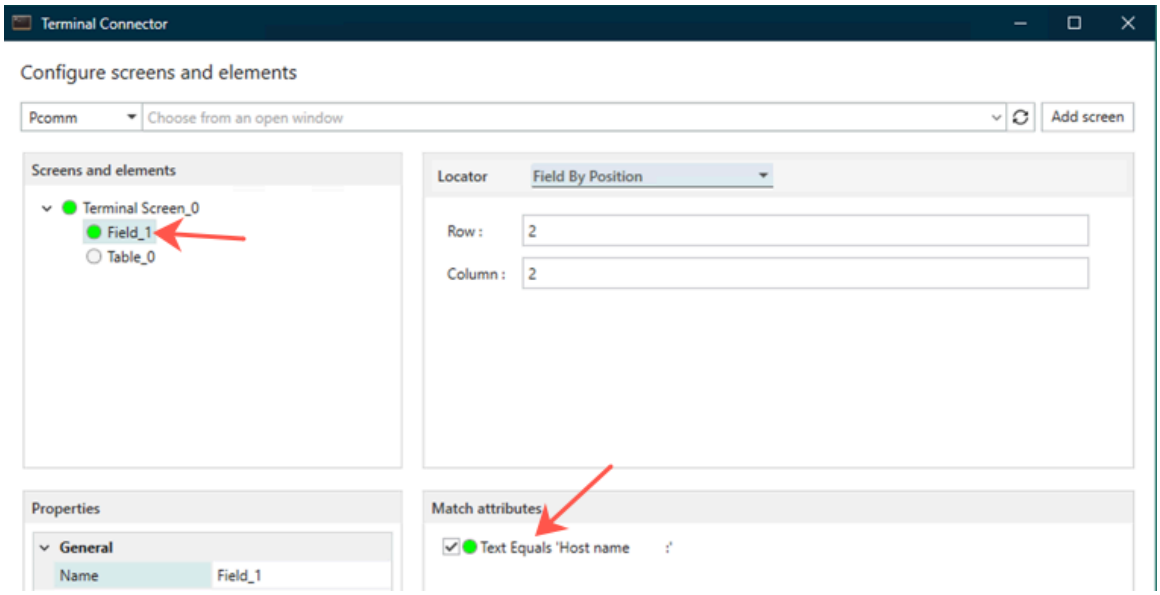


   b. 属性を選択します。

   c. 要素を右クリックし、[更新] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

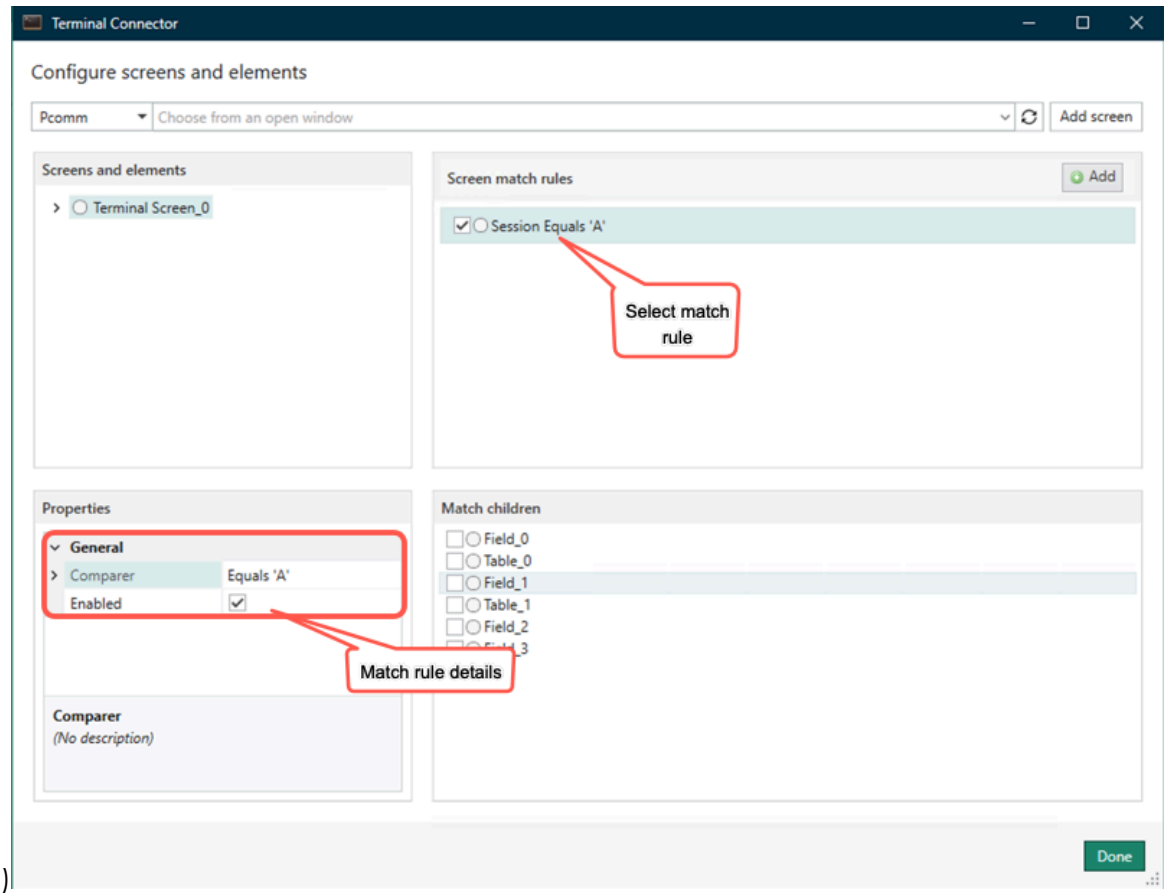
要素と属性に、要素一致アイコン ( ) が表示されます。アイコンは、属性が要素と一致したことを示しています。



5. オプション: 画面一致ルールを変更します。

a. [画面一致ルール (Screen match rules)] セクションで、ルールを選択します。
[プロパティ] ペインに、一致ルールの詳細が表示されます。

(Optional)

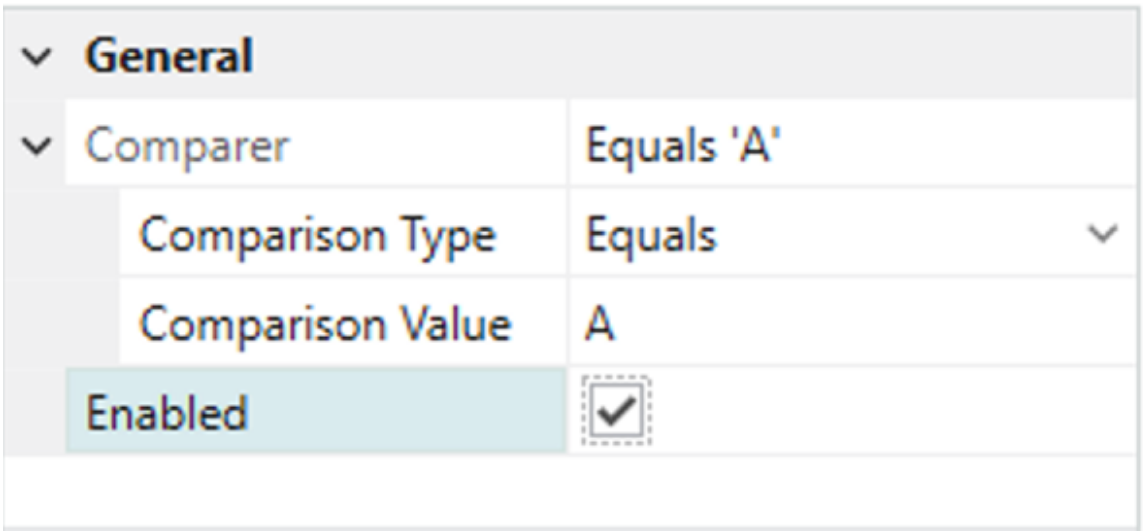


b. [プロパティ] ペインで、一致ルールの展開アイコン ( ) を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [比較タイプ] または [比較値] フィールドの値を更新します。

d. [有効 **(Enabled)**] オプションをクリアします。

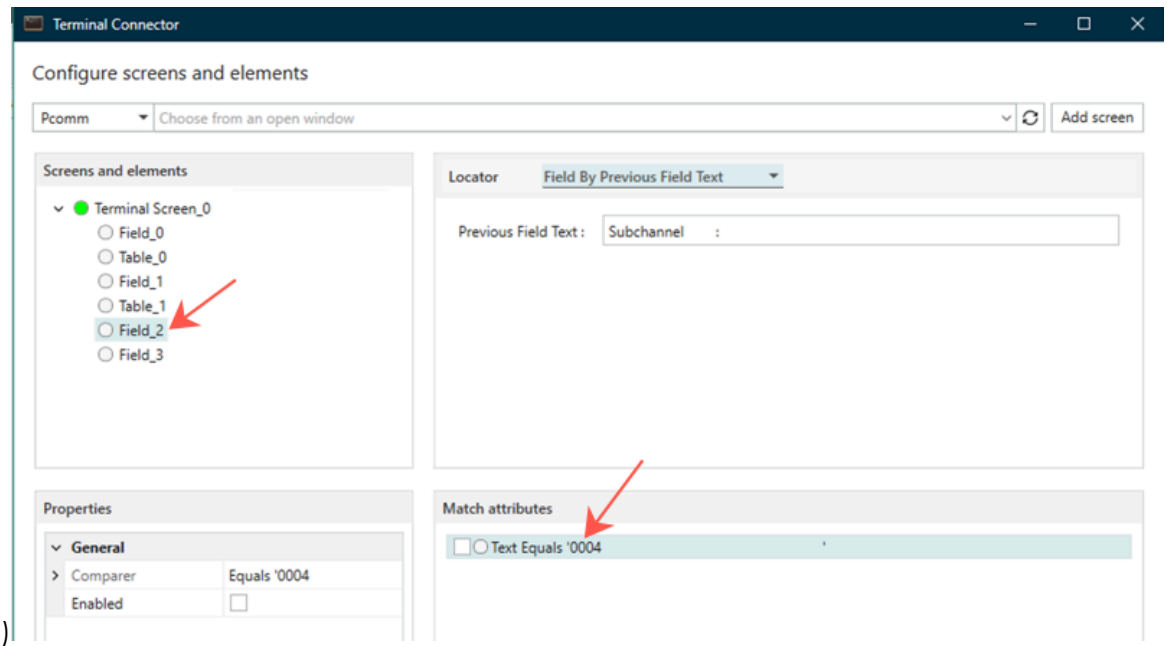


e. [完了] を選択します。

6. オプション: フィールド一致ルールを変更します。

a. [画面と要素 (Screens and elements)] ペインで、キャプチャした必須フィールドを選択します。
[一致属性 (Match attributes)] ペインに、フィールドの属性が表示されます。

(Optional)

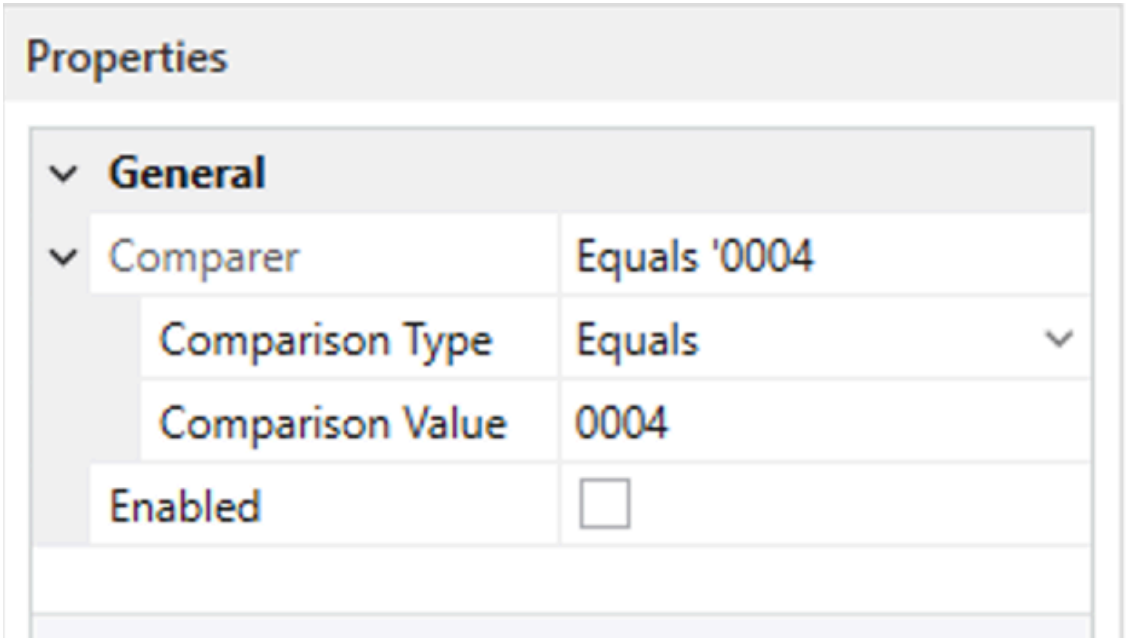


b. [プロパティ] ペインで、一致ルールの展開アイコン (›) を選択します。

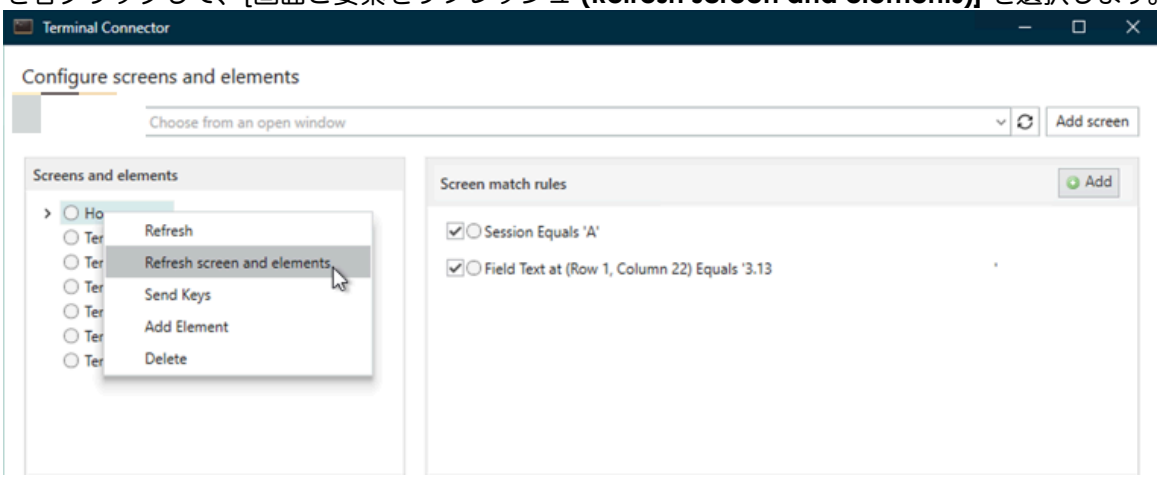
c. [比較タイプ] または [比較値] フィールドの値を更新します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. [有効 **(Enabled)]** オプションをクリアします。

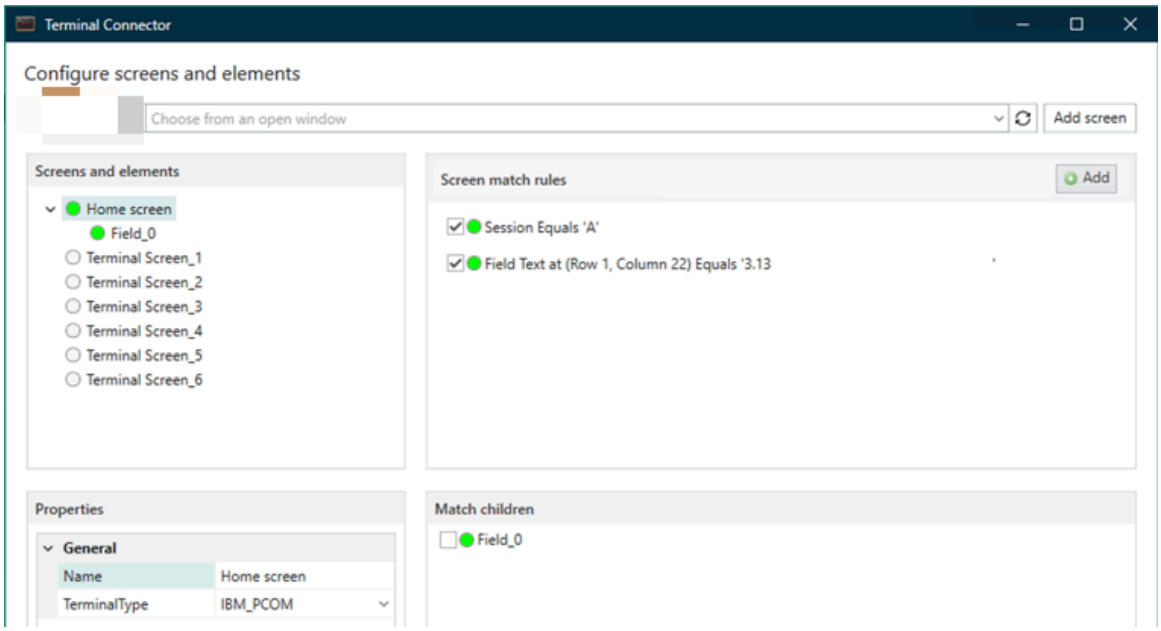


7. 画面とその要素の両方を、対応するルール、ロケーター、または属性と一度に照合するには、画面を右クリックして、[画面と要素をリフレッシュ **(Refresh screen and elements)]** を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

画面とその要素、また対応するルール、ロケーター、または属性に、要素一致アイコン ( ) が表示されます。



Terminal コネクタのメソッド

Terminal コネクタのメソッドを使用して、エミュレーター画面でさまざまなタスクを実行できます。たとえば、変数からログインデータを抽出し、メソッドを使用してデータを入力し、メインフレームアプリケーションにログインすることができます。

IBM Personal Communications エミュレーターメソッド

IBM Personal Communications エミュレーターメソッドを使用して、IBM Personal Communications エミュレーターでさまざまな自動化タスクを実行します。

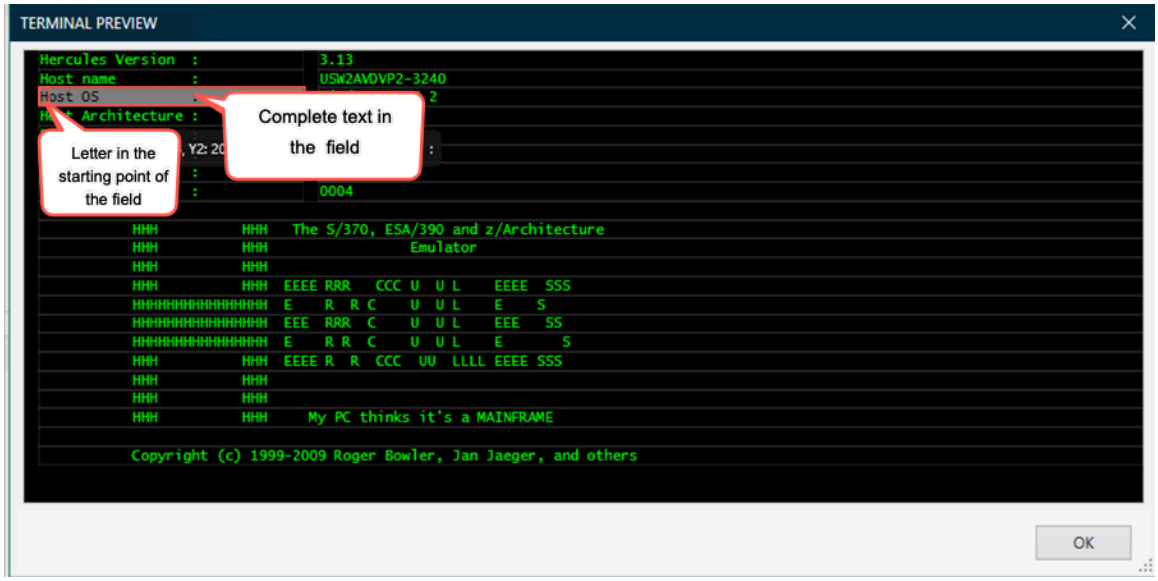
画面レベルのメソッド

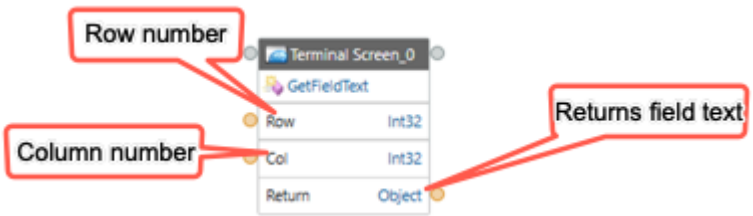
画面レベルのメソッドを使用して、エミュレーター画面で自動化タスクを実行します。たとえば、画面上でコマンドをシミュレートしたり、画面からテキストを取得したりできます。

GetFieldText

指定した行番号と列番号に基づいてフィールドを識別した後、フィールドに含まれるテキストを返します。指定した行と列がフィールドの開始点になります。このメソッドはフィールド全体を識別し、フィールド内のテキストを返します。次の例では、`H` はフィールドの最初の文字かつ開始点であり、`Host OS :` はフィールドのテキスト全文です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。





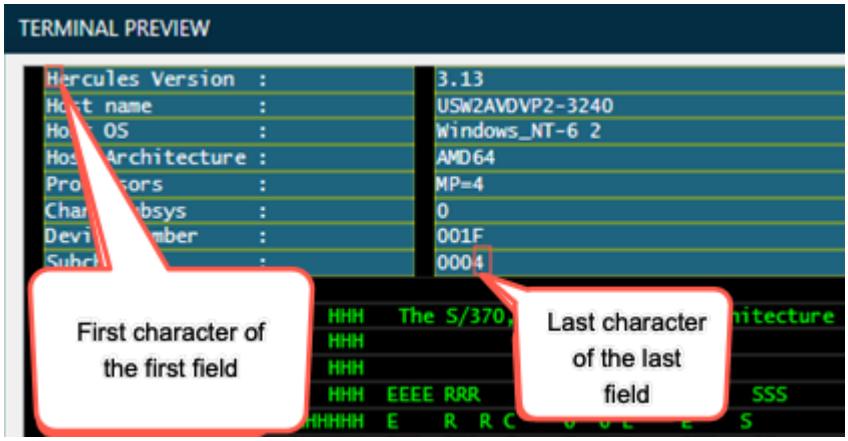
GetFieldText メソッドのパラメーター

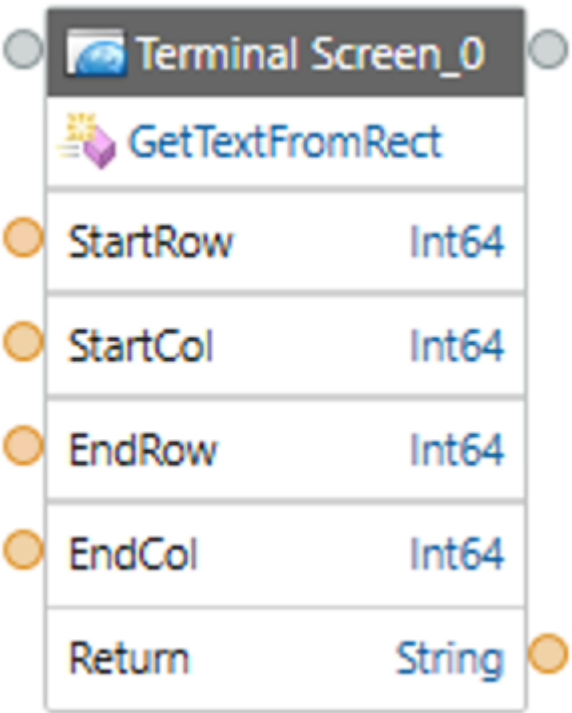
パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
行	フィールドを識別するフィールド行番号。	データ入力	整数	NA	はい	
列	フィールドを識別するフィールド列番号。	データ入力	整数	NA	はい	
戻る	フィールドのテキストを返します。	データ出力	文字列	NA	NA	

GetTextFromRect

画面上で定義した矩形領域のすべてのフィールドのテキストを返します。矩形領域を指定するには、開始と終了の行番号と列番号を指定します。このメソッドは、最初と最後のフィールドを検索して識別し、その領域内のすべてのフィールドのすべてのテキストを返します。次の例は、指定した領域を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。





GetTextFromRect メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
StartRow	矩形領域の最初のフィールドの最初の文字を示す行番号。	データ入力	整数	NA	はい	
StartCol	矩形領域の最初のフィールドの最初の文字を含む列番号。	データ入力	整数	NA	はい	

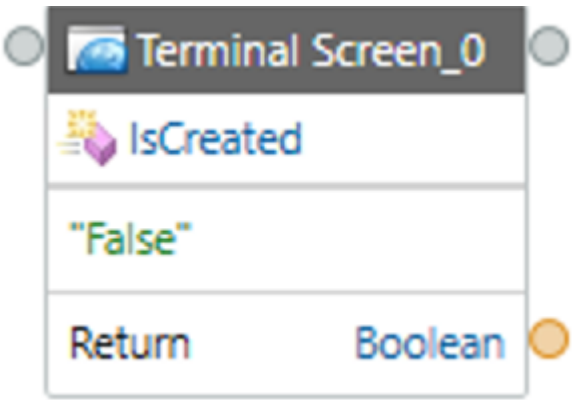
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetTextFromRect メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
EndRow	矩形領域の最後のフィールドの最後の文字を含む行番号。	データ入力	整数	NA	はい	
EndCol	矩形領域の最後のフィールドの最後の文字を含む列番号。	データ入力	整数	NA	はい	
戻る	矩形領域内のすべてのフィールドからテキストを返します。	データ出力	文字列	NA	NA	

IsCreated

エミュレーター画面が画面一致ルールに基づいて存在しており、ユーザーからの入力を受け入れできるかどうかを検証します。検証後、このメソッドは適切なブール値を返します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IsCreated メソッドのパラメーター

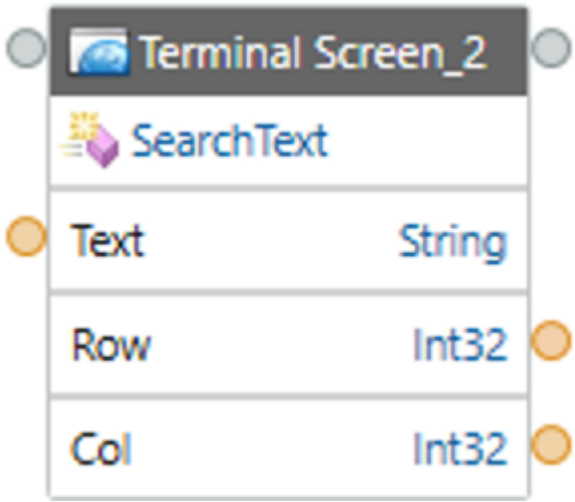
パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
MatchAllChildren	キャプチャした子要素を照合して、エミュレーター画面を見つけるオプション。	データ入力	ブール	False	はい	**警告:** このオプションを使用すると、メソッドの処理速度が低下する場合があります。
戻る	エミュレーター画面が画面一致ルールに基づいて存在しており、ユーザーからの入力を受け入れできるかどうかに応じてブール値を返します。	データ出力	ブーリアン	NA	NA	

SearchText

指定したテキストの最初の文字を保持する行と列の番号を返します。たとえば、文字列 `emulator` を指定した場合、このメソッドは、用語 `emulator` の開始点 (この場合は `e`) の行番号と列番号を返します。

注: 複数のフィールドにまたがるテキストを指定した場合、このメソッドは、1 つのフィールドからのテキストのみをサポートするため、Row ポートと Col ポートは 0 を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



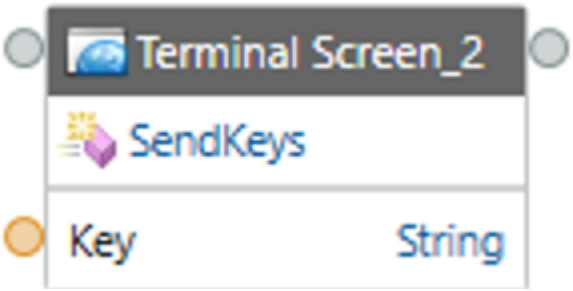
SearchText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
テキスト	メソッドが検索するテキスト。	データ入力	文字列	NA	はい	指定するテキストは、使用するエミュレーターによっては大文字と小文字が区別される場合があります。
行	指定したテキストの最初の文字を保持する行の番号。	データ出力	整数	NA	NA	指定したテキストが複数の行と列に存在する場合、このメソッドは、そのテキストを含む最初の行と列を返します。
Col	指定したテキストの最初の文字を保持する列の番号。	データ出力	整数	NA	NA	指定したテキストが複数の行と列に存在する場合、このメソッドは、そのテキストを含む最初の行と列を返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SendKeys

エミュレーター画面上のマウスデバイスの位置でユーザーがキーボードから入力するキーストロークをシミュレートします。たとえば、画面上で **[enter]** のキーストロークをシミュレートすることができます。



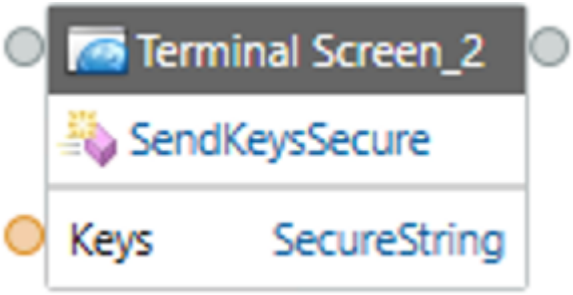
SendKeys メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
キー	ユーザーがキーボードから入力したキーストローク。	データ入力	文字列	なし	はい	ヒント: キーストロークの詳細については、対応するターミナルエミュレーターのドキュメントを参照してください。

SendKeysSecure

エミュレーター画面上のマウスデバイスの位置でセキュリティで保護された文字列のキーストロークをシミュレートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



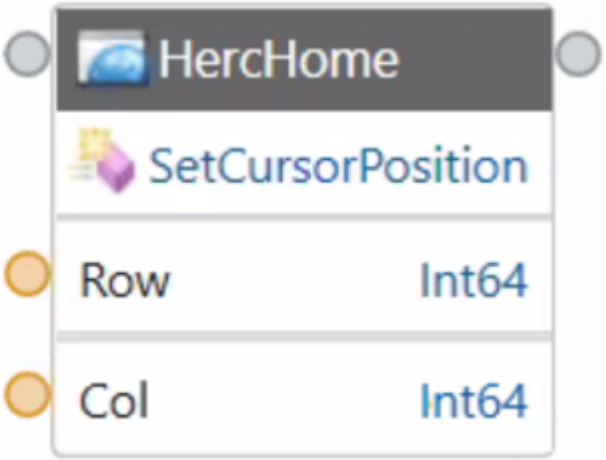
SendKeysSecure メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
キー	セキュリティで保護された文字列として入力するキーストローク。	データ入力	安全な文字列	なし	はい	ヒント: キーストロークの詳細については、対応するターミナルエミュレーターのドキュメントを参照してください。

SetCursorPosition

指定した行番号と列番号にマウスデバイスを設定しようと試みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



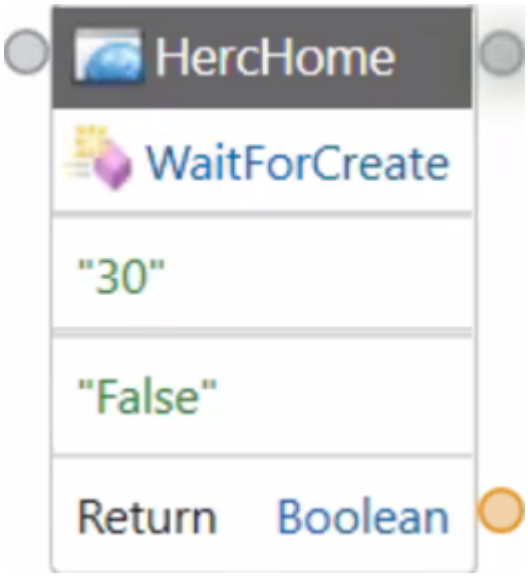
SetCursorPosition メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
行	メソッドが画面上でマウスデバイスを設定する行番号を提供するオプション。	データ入力	整数	NA	NA	行番号は正の値で、エミュレーター画面のサイズに収まらなければなりません。たとえば、画面サイズが 24X80 の場合、行に指定できる最大値は 24 です。
Col	メソッドが画面上でマウスデバイスを設定する行番号を提供するオプション。	データ入力	整数	NA	NA	列番号は正の値で、エミュレーター画面のサイズに収まらなければなりません。たとえば、画面サイズが 24X80 の場合、列に指定できる最大値は 80 です。

WaitForCreate

コネクタが画面一致ルールを使用して画面が存在するかどうかを調べる間、指定された期間待機します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



WaitForCreate メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
timeoutinSeconds	コネクタが画面一致ルールを使用して画面が存在するかどうかを確認する間、メソッドが待機する秒数を指定するオプション。	データ入力	整数	30	はい	
MatchAllChildren	画面が存在するかどうかを確認するためにキャプチャしたすべての画面要素を照合するオプション。	データ入力	ブール	False	はい	⚠ **警告:** このオプションを使用すると、メソッドの実行に時間がかかる場合があります。
戻る	エミュレーター画面が見つかったかどうかに応じてブー	データ出力	ブーリアン	NA	NA	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

WaitForCreate メソッドのパラメーター (続く)

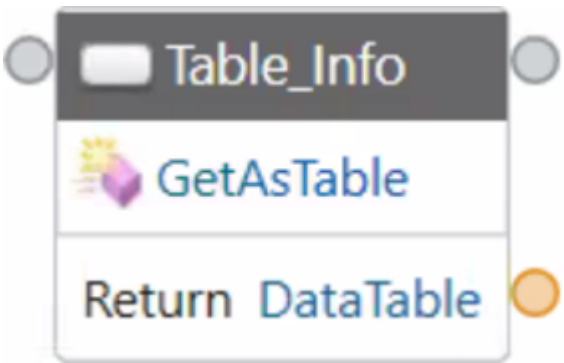
パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
	ル値を返します。					

要素レベルのメソッド

要素レベルのメソッドは、[Terminal コネクタ (Terminal Connector)] 画面から追加したエミュレーター画面要素に対して自動化タスクを実行します。画面要素をフィールドまたはテーブルとして追加できます。

GetAsTable

データテーブルオブジェクトとしてキャプチャしたテキストを返します。画面からデータをテーブルとしてキャプチャする場合に、このメソッドを使用します。ただし、データをフィールドとしてキャプチャする場合にも、このメソッドを使用できます。テーブルとしてデータをキャプチャする方法については、「IBM Personal Communications エミュレーターの構成」を参照してください。



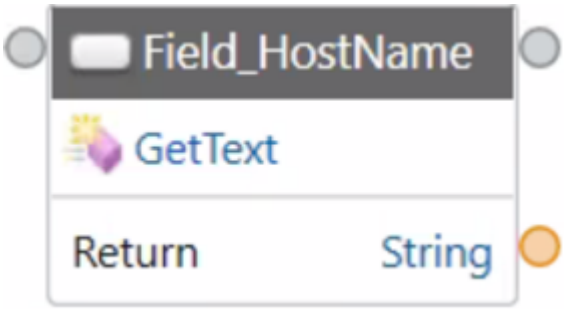
GetAsTable メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
戻る	端末画面からキャプチャされたテキストをデータテーブルオブジェクトとして返します。	データ出力	データテーブル	NA	NA	テーブルを表示するには、パラメーターを右クリックして [データをプレビュー] を選択します。

GetText

エミュレーター画面からキャプチャしたフィールドのテキストを返します。キャプチャしたテーブルに対してこのメソッドを使用すると、矩形の最初のフィールドのテキストが返されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

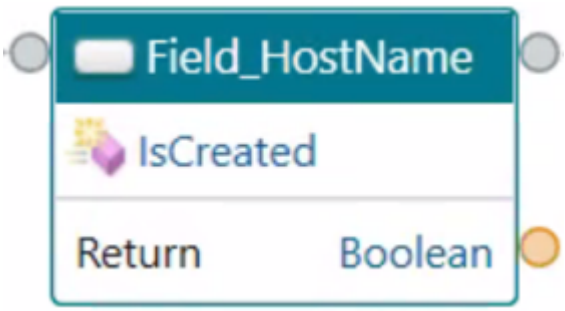


GetText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
戻る	キャプチャされたフィールドからテキストを返します。	データ出力	文字列	NA	NA	

IsCreated

ルールを照合し、キャプチャした要素が存在するかどうかを検証します。



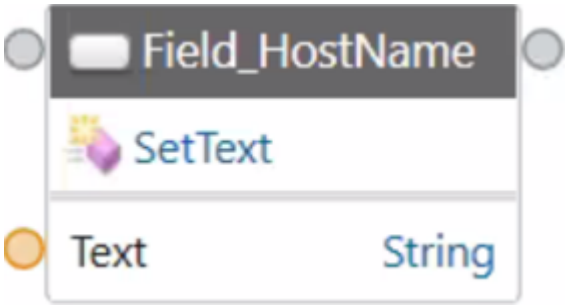
IsCreated メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
戻る	要素がアクティブかどうかに基づきブール値を返します。	データ出力	ブーリアン	NA	NA	

SetText

フィールドへのテキストの設定を試みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

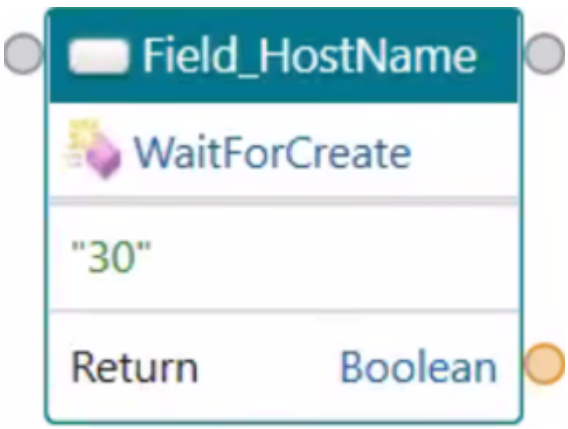


SetText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
テキスト	メソッドがフィールドに設定しようとするテキストを指定するオプション。	データ入力	文字列	NA	はい	このメソッドは、保護されたエミュレーター画面では使用できません。

WaitForCreate

コネクターが一致ルールを使用して要素が存在するかどうかを調べる間、指定された期間待機します。



WaitForCreate メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
timeoutinSeconds	コネクターが一致ルールを使用して要素が存在するかどうかを調べる間、メソッドが待機す	データ入力	整数	30	はい	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

WaitForCreate メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
	る秒数を指定するオプション。					
戻る	要素が見つかったかどうかに応じてブール値を返します。	データ出力	ブーリアン	NA	NA	

Rocket BlueZone エミュレーターメソッド

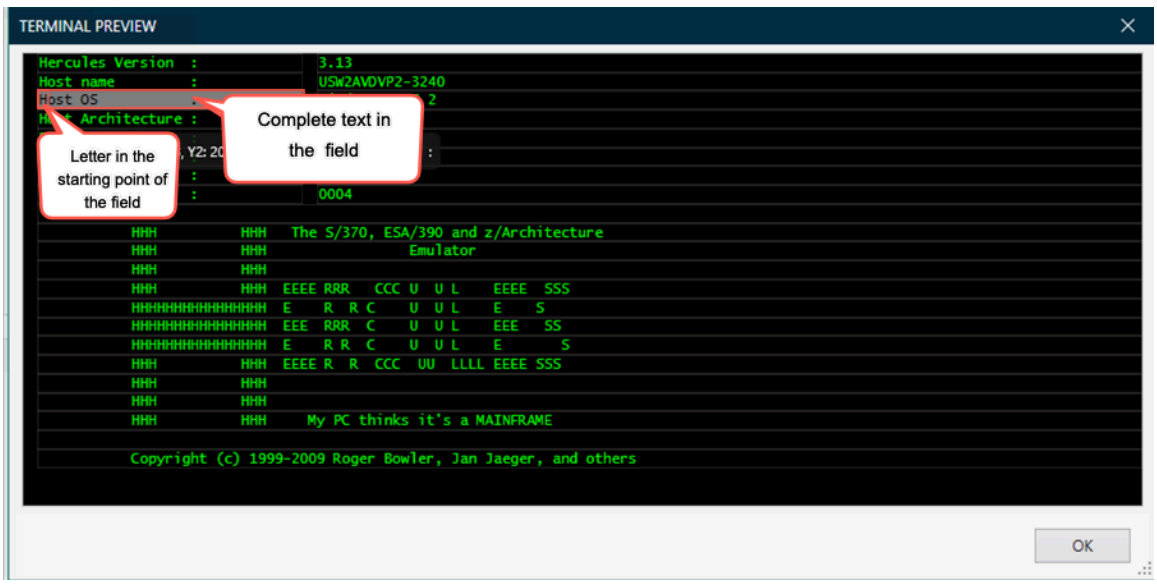
Rocket BlueZone エミュレーターメソッドを使用して、Rocket BlueZone エミュレーターでさまざまな自動化タスクを実行します。

画面レベルのメソッド

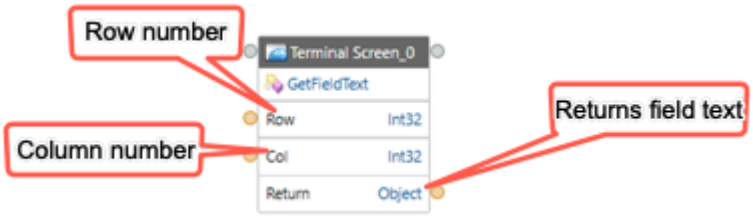
画面レベルのメソッドを使用して、エミュレーター画面で自動化タスクを実行します。たとえば、画面上でコマンドをシミュレートしたり、画面からテキストを取得したりできます。

GetFieldText

指定した行番号と列番号に基づいてフィールドを識別した後、フィールドに含まれるテキストを返します。指定した行と列がフィールドの開始点になります。このメソッドはフィールド全体を識別し、フィールド内のテキストを返します。次の例では、`H` はフィールドの最初の文字かつ開始点であり、`Host OS :` はフィールドのテキスト全文です。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

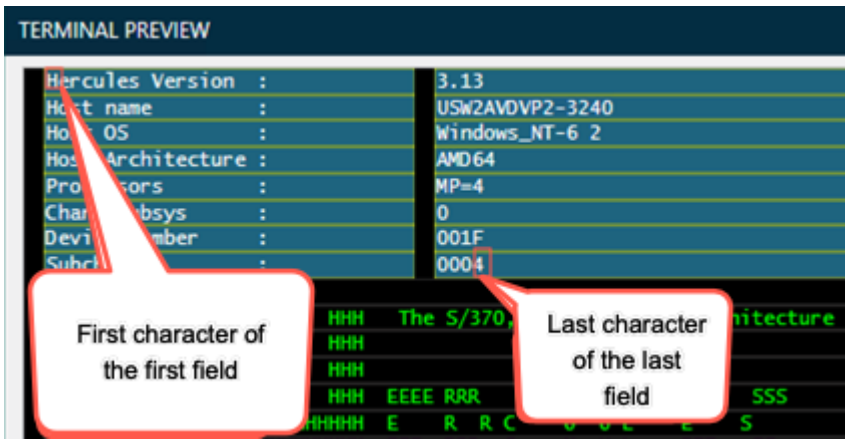


GetFieldText メソッドのパラメーター

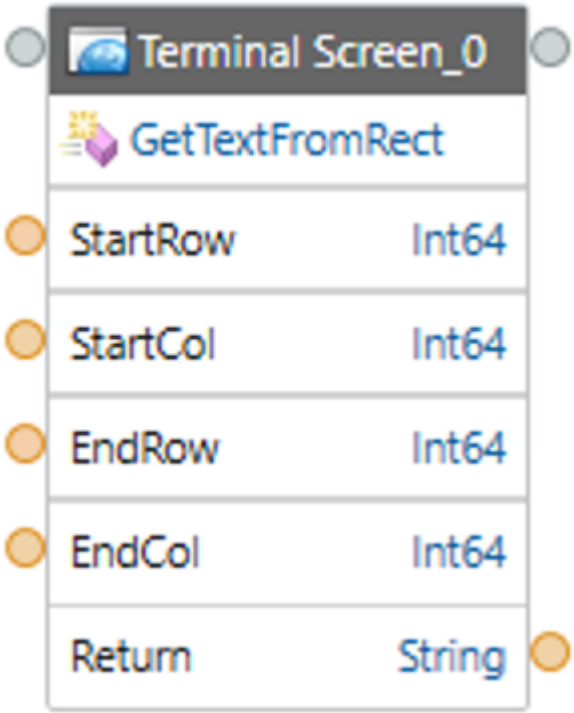
パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
行	フィールドを識別するフィールド行番号。	データ入力	整数	NA	はい	
列	フィールドを識別するフィールド列番号。	データ入力	整数	NA	はい	
戻る	フィールドのテキストを返します。	データ出力	文字列	NA	NA	

GetTextFromRect

画面上で定義した矩形領域のすべてのフィールドのテキストを返します。矩形領域を指定するには、開始と終了の行番号と列番号を指定します。このメソッドは、最初と最後のフィールドを検索して識別し、その領域内のすべてのフィールドのすべてのテキストを返します。次の例は、指定した領域を示しています。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



GetTextFromRect メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
StartRow	矩形領域の最初のフィールドの最初の文字を示す行番号。	データ入力	整数	NA	はい	
StartCol	矩形領域の最初のフィールドの最初の文字を含む列番号。	データ入力	整数	NA	はい	
EndRow	矩形領域の最後のフィールドの最後の文字を含む行番号。	データ入力	整数	NA	はい	
EndCol	矩形領域の最後のフィールドの最後の文字を含む列番号。	データ入力	整数	NA	はい	

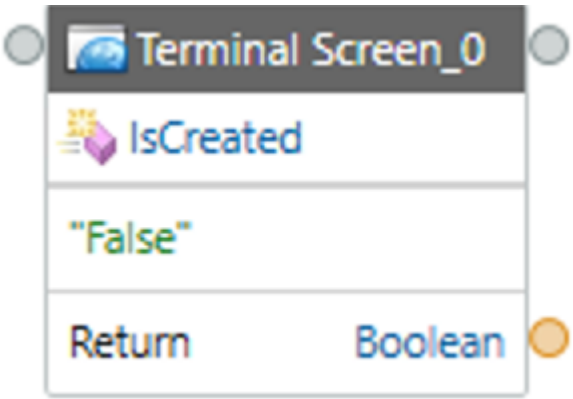
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetTextFromRect メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
戻る	矩形領域内のすべてのフィールドからテキストを返します。	データ出力	文字列	NA	NA	

IsCreated

エミュレーター画面が画面一致ルールに基づいて存在しており、ユーザーからの入力を受け入れできるかどうかを検証します。検証後、このメソッドは適切なブール値を返します。



IsCreated メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
MatchAllChildren	キャプチャした子要素を照合して、エミュレーター画面を見つけるオプション。	データ入力	ブール	False	はい	⚠ 警告: このオプションを使用すると、メソッドの処理速度が低下する場合があります。
戻る	エミュレーター画面が画面一致ルールに基	データ出力	ブーリアン	NA	NA	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

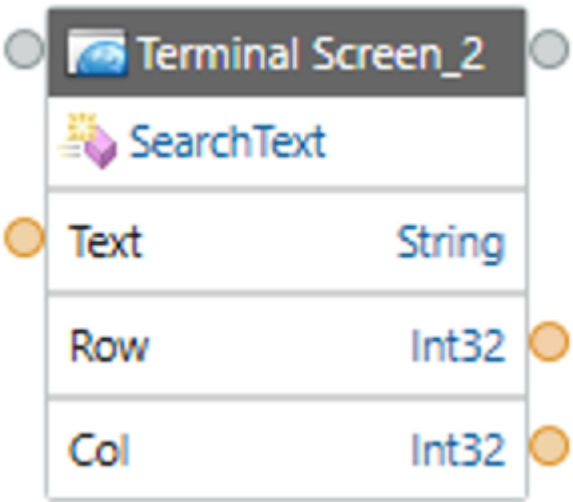
IsCreated メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
	づいて存在しており、ユーザーからの入力を受け入れできるかどうかに応じてブール値を返します。					

SearchText

指定したテキストの最初の文字を保持する行と列の番号を返します。たとえば、文字列 `emulator` を指定した場合、このメソッドは、用語 `emulator` の開始点 (この場合は `e`) の行番号と列番号を返します。

注: 複数のフィールドにまたがるテキストを指定した場合、このメソッドは、1 つのフィールドからのテキストのみをサポートするため、Row ポートと Col ポートは 0 を返します。



SearchText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
テキスト	メソッドが検索するテキスト。	データ入力	文字列	NA	はい	指定するテキストは、使用するエミュレーターによっては大文字と小文字が区別される

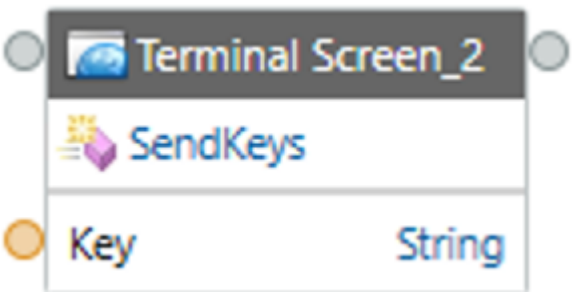
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SearchText メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
						場合があります。
行	指定したテキストの最初の文字を保持する行の番号。	データ出力	整数	NA	NA	指定したテキストが複数の行と列に存在する場合、このメソッドは、そのテキストを含む最初の行と列を返します。
Col	指定したテキストの最初の文字を保持する列の番号。	データ出力	整数	NA	NA	指定したテキストが複数の行と列に存在する場合、このメソッドは、そのテキストを含む最初の行と列を返します。

SendKeys

エミュレーター画面上のマウスデバイスの位置でユーザーがキーボードから入力するキーストロークをシミュレートします。たとえば、画面上で **<enter>** のキーストロークをシミュレートすることができます。



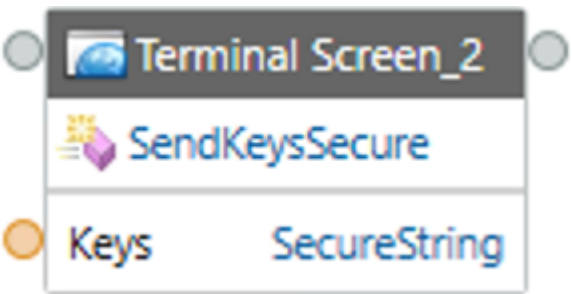
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SendKeys メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
キー	ユーザーがキーボードから入力したキーストローク。	データ入力	文字列	なし	はい	ヒント: キーストロークの詳細については、対応するターミナルエミュレーターのドキュメントを参照してください。

SendKeysSecure

エミュレーター画面上のマウスデバイスの位置でセキュリティで保護された文字列のキーストロークをシミュレートします。



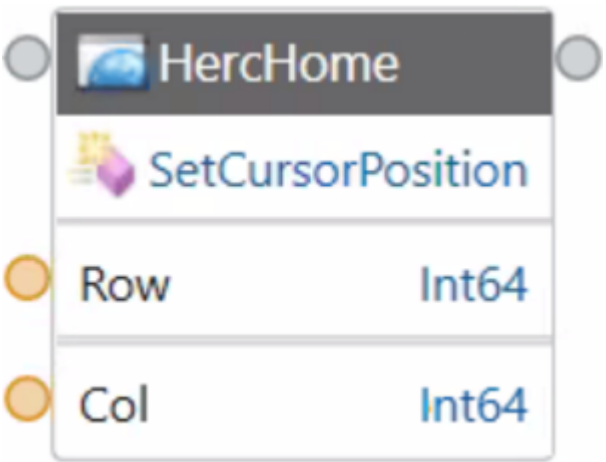
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SendKeysSecure メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
キー	セキュリティで保護された文字列として入力するキーストローク。	データ入力	安全な文字列	なし	はい	ヒント: キーストロークの詳細については、対応するターミナルエミュレーターのドキュメントを参照してください。

SetCursorPosition

指定した行番号と列番号にマウスデバイスを設定しようと試みます。



SetCursorPosition メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
行	メソッドが画面上でマ	データ入力	整数	NA	NA	行番号は正の値で、エ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

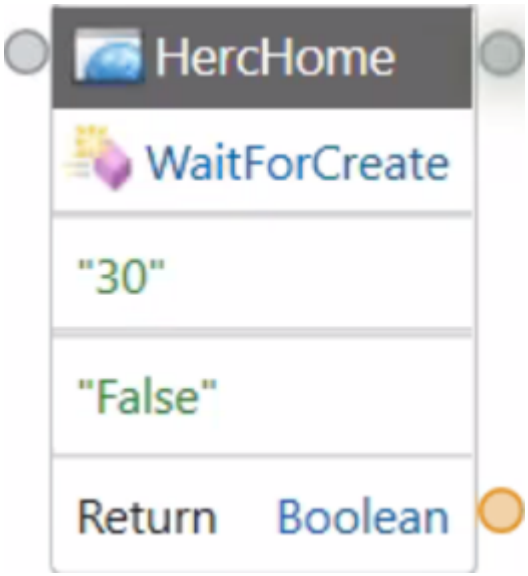
SetCursorPosition メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
	ウスデバイスを設定する行番号を提供するオプション。					ミュレーター画面のサイズに収まらなければなりません。たとえば、画面サイズが 24X80 の場合、行に指定できる最大値は 24 です。
Col	メソッドが画面上でマウスデバイスを設定する行番号を提供するオプション。	データ入力	整数	NA	NA	列番号は正の値で、エミュレーター画面のサイズに収まらなければなりません。たとえば、画面サイズが 24X80 の場合、列に指定できる最大値は 80 です。

WaitForCreate

コネクタが画面一致ルールを使用して画面が存在するかどうかを調べる間、指定された期間待機します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



WaitForCreate メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
timeoutinSeconds	コネクタが画面一致ルールを使用して画面が存在するかどうかを確認する間、メソッドが待機する秒数を指定するオプション。	データ入力	整数	30	はい	
MatchAllChildElements	画面が存在するかどうかを確認するためにキャプチャしたすべての画面要素を照合するオプション。	データ入力	ブール	False	はい	⚠ **警告:** このオプションを使用すると、メソッドの実行に時間がかかる場合があります。
戻る	エミュレーター画面が見つかったかどうかに応じてブー	データ出力	ブーリアン	NA	NA	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

WaitForCreate メソッドのパラメーター (続く)

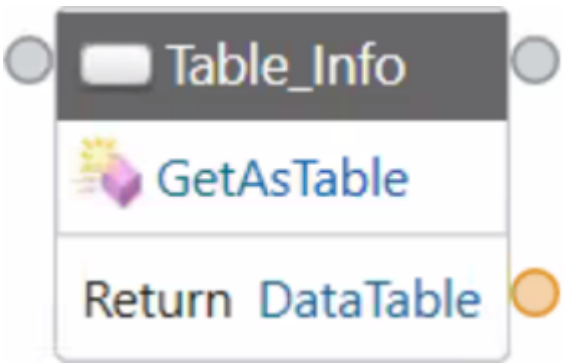
パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
	ル値を返します。					

要素レベルのメソッド

要素レベルのメソッドは、[Terminal コネクタ (Terminal Connector)] 画面から追加したエミュレーター画面要素に対して自動化タスクを実行します。画面要素をフィールドまたはテーブルとして追加できます。

GetAsTable

データテーブルオブジェクトとしてキャプチャしたテキストを返します。画面からデータをテーブルとしてキャプチャする場合に、このメソッドを使用します。ただし、データをフィールドとしてキャプチャする場合にも、このメソッドを使用できます。テーブルとしてデータをキャプチャする方法については、「IBM Personal Communications エミュレーターの構成」を参照してください。



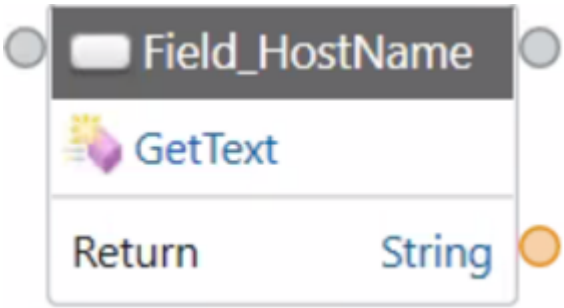
GetAsTable メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
戻る	端末画面からキャプチャされたテキストをデータテーブルオブジェクトとして返します。	データ出力	データテーブル	NA	NA	テーブルを表示するには、パラメーターを右クリックして [データをプレビュー] を選択します。

GetText

エミュレーター画面からキャプチャしたフィールドのテキストを返します。キャプチャしたテーブルに対してこのメソッドを使用すると、矩形の最初のフィールドのテキストが返されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

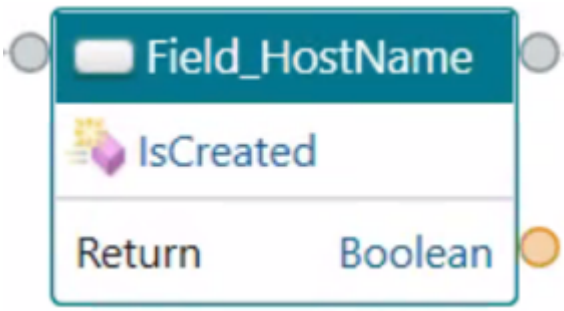


GetText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
戻る	キャプチャされたフィールドからテキストを返します。	データ出力	文字列	NA	NA	

IsCreated

ルールを照合し、キャプチャした要素が存在するかどうかを検証します。



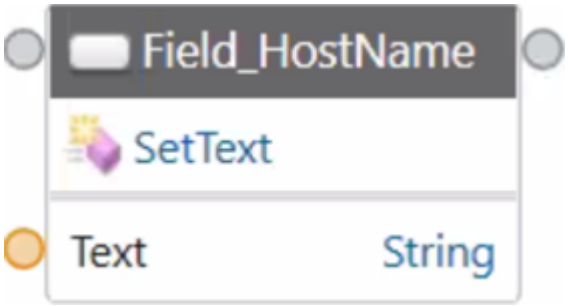
IsCreated メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
戻る	要素がアクティブかどうかに基づきブール値を返します。	データ出力	ブーリアン	NA	NA	

SetText

フィールドへのテキストの設定を試みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

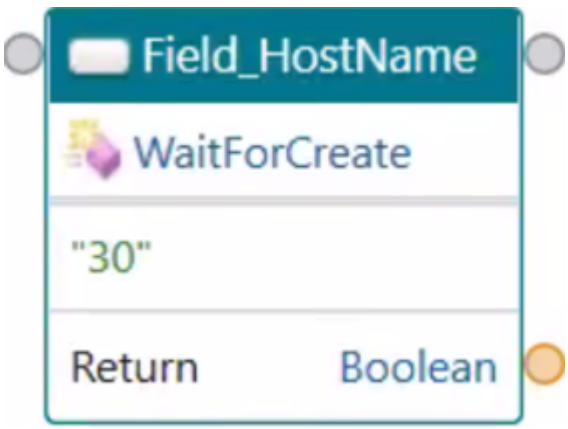


SetText メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
テキスト	メソッドがフィールドに設定しようとするテキストを指定するオプション。	データ入力	文字列	NA	はい	このメソッドは、保護されたエミュレーター画面では使用できません。

WaitForCreate

コネクターが一致ルールを使用して要素が存在するかどうかを調べる間、指定された期間待機します。



WaitForCreate メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
timeoutinSeconds	コネクターが一致ルールを使用して要素が存在するかどうかを調べる間、メソッドが待機す	データ入力	整数	30	はい	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

WaitForCreate メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートエントリタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須	メモ
	る秒数を指定するオプション。					
戻る	要素が見つかったかどうかに応じてブール値を返します。	データ出力	ブーリアン	NA	NA	

Universal App Connector

RPA デスクトップデザインスタジオ の Universal App Connector (UAC) を使用して、Windows、Java、および Web アプリケーションの自動化を作成します。これらのアプリケーションの個々のコネクタを使用するのではなく、単一の統合コネクタからアプリケーション画面とその要素を構成します。

UAC は、RPA デスクトップデザインスタジオ の有人、無人の、またはスキルを要する自動化プロジェクトにデフォルトのコネクタとして自動的に追加されます。UAC は現在、Windows、Java、および Web アプリケーション (Google Chrome および Microsoft Edge ブラウザーのみ) をサポートしています。

重要: 個々のコネクタを使用するのではなく、UAC を使用して Windows、Java、および Web アプリケーションの自動化を作成することをお勧めします。ただし、RPA デスクトップデザインスタジオ は個々のコネクタを使用して設計された自動化プロジェクトを引き続きサポートします。

ヒント: UAC コネクタのホットフィックスをインストールした場合、ホットフィックスがマシンに正確にダウンロードされていることを確認するには、事後要件ステップを実行します。詳細については、「ホットフィックスのインストール後に必要な後処理」を参照してください。

他のコネクタの追加方法と同様に、UAC は [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] の [グローバルオブジェクト (Global Objects)] にオブジェクトとして追加されます。コネクタの使用方法の詳細については、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。

UAC の構成時に、マシンで開いている Windows、Java、および Web アプリケーションの画面と要素を追加します。構成中に画面と要素の一致ルールを変更します。[デザイン面 (Design surface)] から画面と要素に関連するメソッドを追加し、自動化をビルドします。

Universal App Connector の使用

Universal App Connector (UAC) を使用して、Windows、Java、Google Chrome、Edge ブラウザーベースのアプリケーションの自動化を作成します。単一の統合コネクタからアプリケーションを構成し、画面と要素、またはチェックボックスやボタンなどの画面コントロールをキャプチャします。こうした画面と要素のメソッドを使用して、自動化をビルドします。

始める前に

開いているかアクティブな Windows、Java、Google Chrome または Edge アプリケーションがあることを検証します。

必要なロール：なし

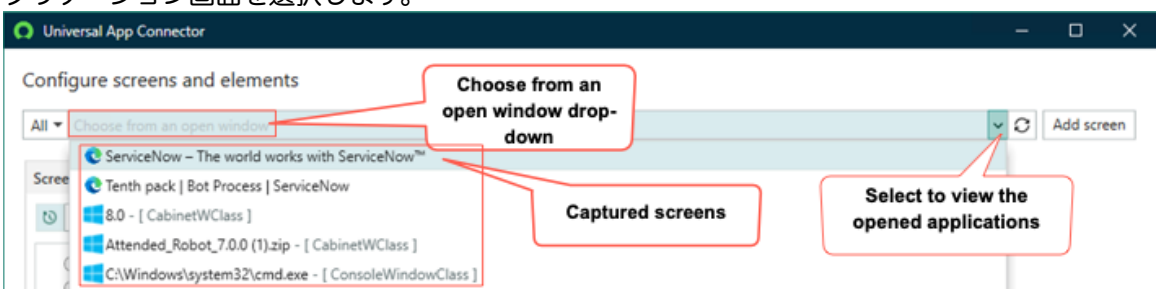
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、[コネクタ] に移動し、**[Universal App Connector]** を [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** にドラッグします。
   コネクタは、**[UniversalApplication]** として、[グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** に追加されます。
2. オプション: **[UniversalApplication]** の名前を変更するには、右クリックして [名前の変更] を選択します。
3. **[Universal App Connector]** のコネクタレベルでメソッドを使用するには、**[UniversalApplication]** オブジェクトをダブルクリックします。
   たとえば、アプリケーション画面または要素を操作する前にブラウザーまたはアプリケーションを起動する場合は、Start メソッドを使用します。Start メソッドの使用方法の詳細については、「Use the Start method (Start メソッドの使用)」を参照してください。
   メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。
4. UAC で画面と要素を構成するには、次の手順を実行します。

   a. [グローバルオブジェクト (Global Objects)] で **[UniversalApplication]** を右クリックし、[構成] を選択します。

   b. [画面と要素の構成 (Configure screens and elements)] ウィンドウで、[開いているウィンドウのドロップダウンから選択 (Choose from an open window drop-down)] ( ) を選択し、アプリケーション画面を選択します。



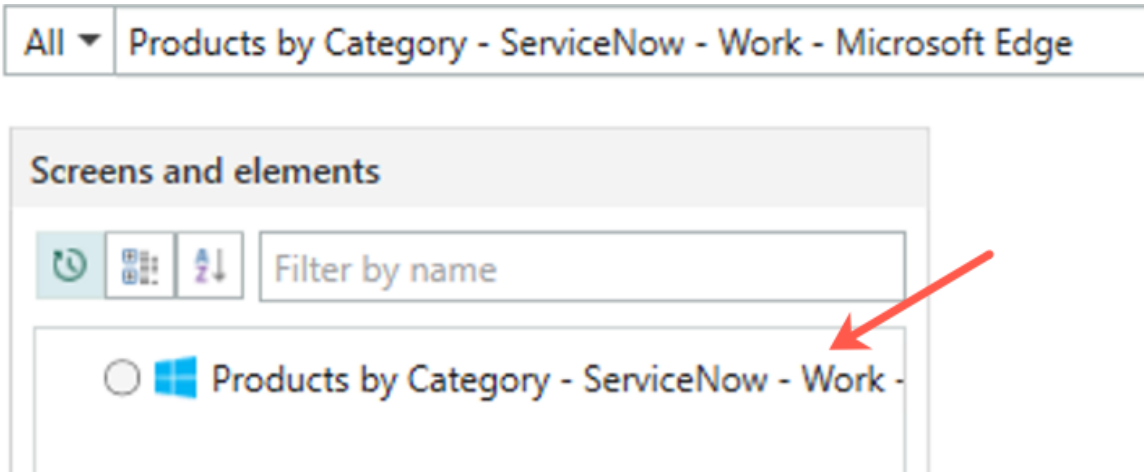
   注:

   - サポートされているアプリケーションが開いていない場合は、「アプリウィンドウが見つかりません (App window not found)」というメッセージが表示されます。
   - 新しく開いたアプリケーション画面をリストに表示するには、[クリックしてウィンドウを更新 (Click to refresh windows)] アイコン ( )を選択します。

   c. オプション: 開いているアプリケーションをタイプでフィルタリングするには、[アプリケーションタイプでフィルター (filter application type)] アイコン ( ) を選択し、[すべて] またはアプリケーションタイプを選択します。
   たとえば、**[Chrome]** を選択すると、Google Chrome Web ページのみが、[開いているウィンドウから選択 **(Choose from an open window)]** リストに表示されます。

   d. 選択したアプリケーション画面を追加するには、[画面の追加 **(Add screen)]** を選択します。
   この手順を実行した後に、画面要素をキャプチャしてアクションを実行できます。
   アプリケーション画面が [画面と要素 (Screens and elements)] ペインに表示されます。

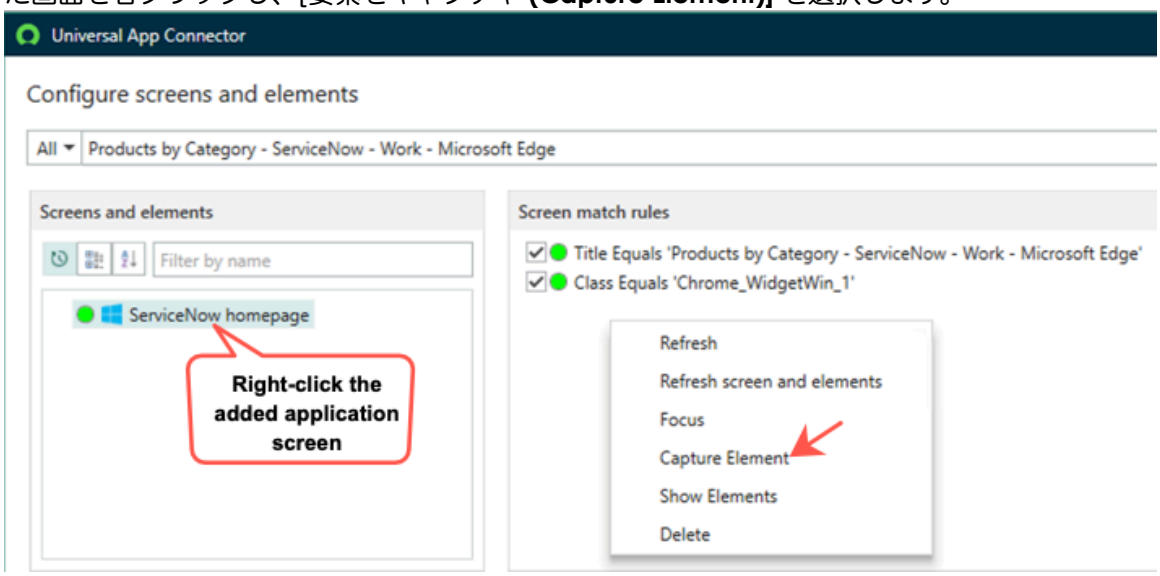
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



e. オプション: 画面の名前を変更するには、[画面と要素 (Screens and elements)] ペインでアプリケーション画面の名前を選択します。
選択したアプリケーション画面の情報が [プロパティ] ペインの下に表示されます。

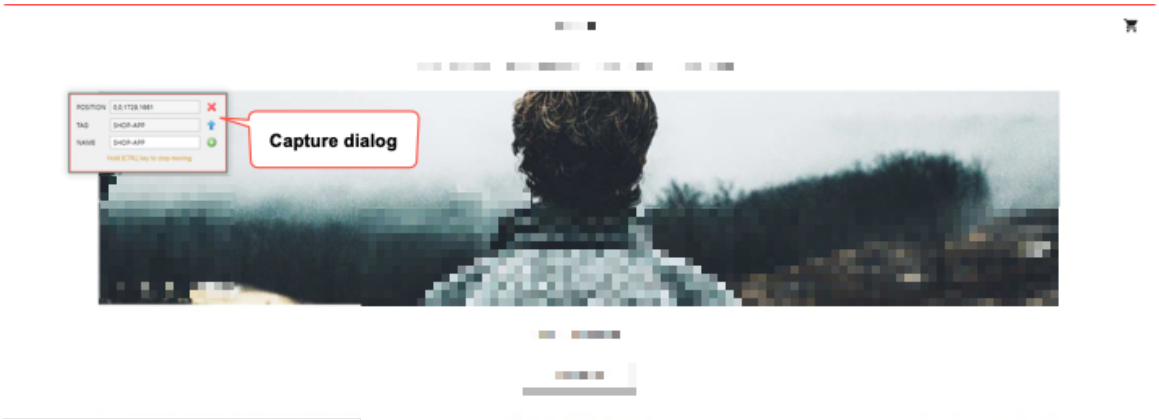
f. オプション: [名前] フィールドでアプリケーション画面の名前を更新し、**Enter** キーを押します。
アプリケーションの名前が [画面と要素 (Screens and elements)] ペインで更新されます。

g. 画面から要素をキャプチャするには、[画面と要素 (Screen and elements)] ペインで、追加した画面を右クリックし、[要素をキャプチャ **(Capture Element)]** を選択します。



キャプチャしたアプリケーション画面にフォーカスが設定され、[要素をキャプチャ (capture elements)] ダイアログが表示されます。

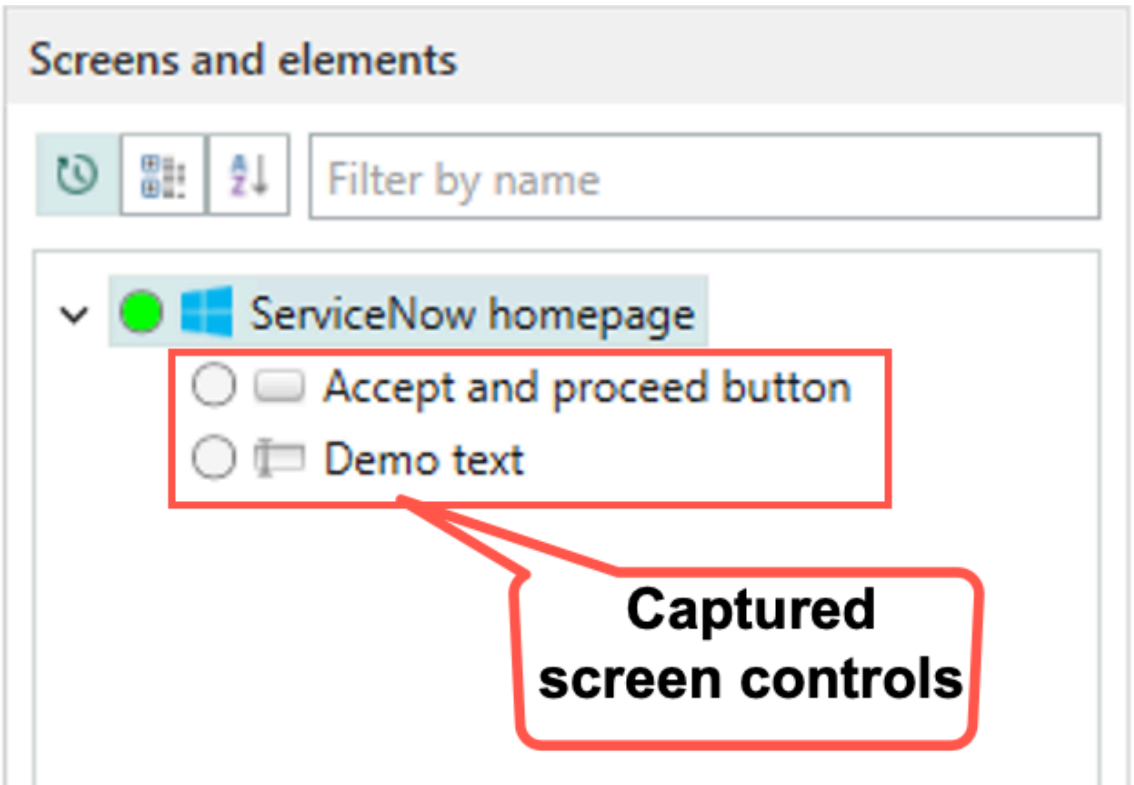
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



h. [要素をキャプチャ (Capture elemen)] ダイアログを使用して、必要な数の画面要素をキャプチャします。

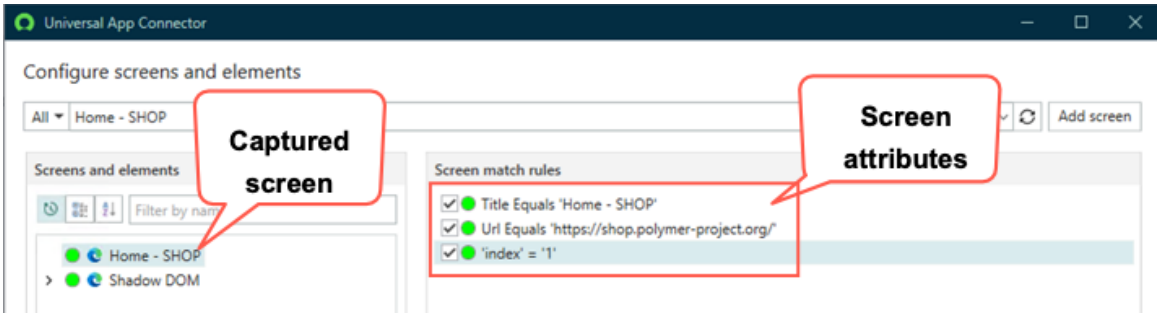
[要素をキャプチャ (Capture element)] ダイアログの使用方法については、「[要素をキャプチャ] ダイアログの使用」を参照してください。

キャプチャされた画面要素は、キャプチャされたアプリケーション画面の下に要素として表示されます。

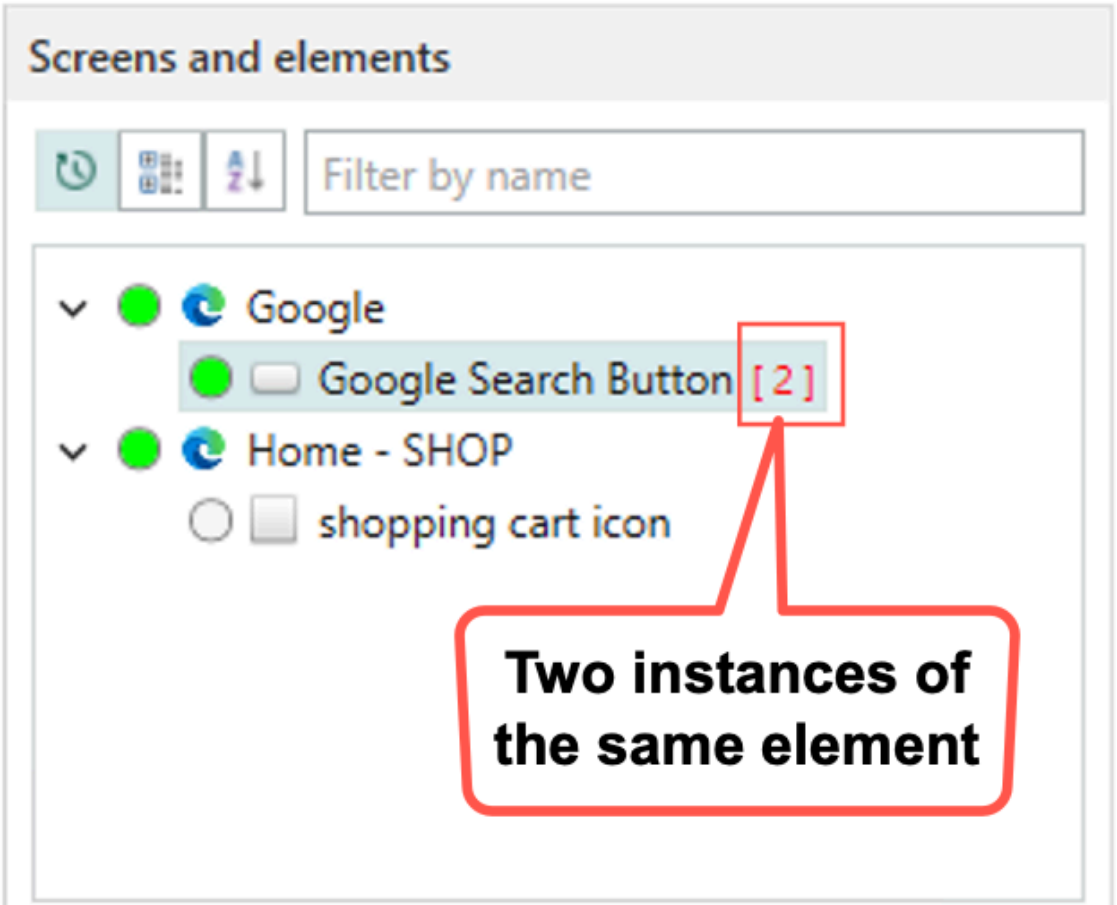


5. オプション: 画面一致ルールを使用して、指定された一致ルールの値を編集し、画面を一意に識別します。
実行中、プラグインは画面上のアクションを自動化するために、ターゲット画面を一意に識別する必要があります。属性の例としては、アプリケーション画面のタイトルや URL があります。
属性は、[要素と画面の構成 **(Configure elements and screen)]** ウィンドウの [画面一致ルール **(Screen match rules)]** ペインに表示されます。UAC はこれらの属性を使用して、最初に画面を識別し、Click や Get Text などの要素に対してアクションを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



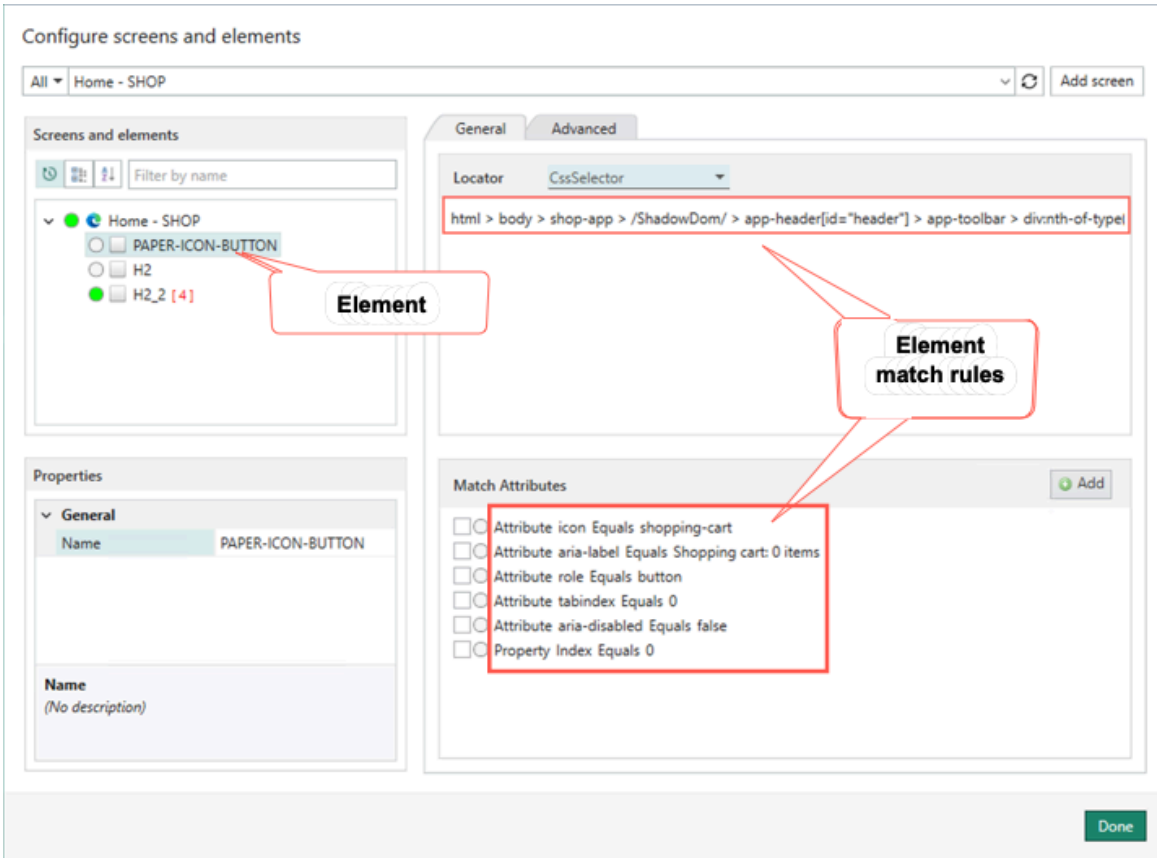
次の図は、[属性の一致 (Match Attributes)] セクションで指定した同じ基準に一致する複数の要素の例を示しています。キャプチャされた要素を更新すると、複数のインスタンス (存在する場合) が表示され、括弧内に赤色で示されます。このような場合は、属性を微調整して、自動化する必要のある要素を正確に選択する必要があります。ユーザーは更新を行って、選択した条件が 1 つの要素と正確に一致するかどうかを確認できます。



6. オプション: 要素一致ルールを使用して、用意されている [ロケーター] セクションと [属性の一致 **(Match Attributes)]** セクションの値を編集し、要素を一意に識別します。
実行中、プラグインは要素上のアクションを自動化するために、ターゲット画面を一意に識別する必要があります。属性は、[要素と画面の構成 **(Configure elements and screen)]** ウィンドウの [属性の一致 **(Match Attributes)]** ペインに表示されます。UAC はこれらの属性を使用して、最初に画面を識別し、Click や Get Text などの要素に対してアクションを実行します。

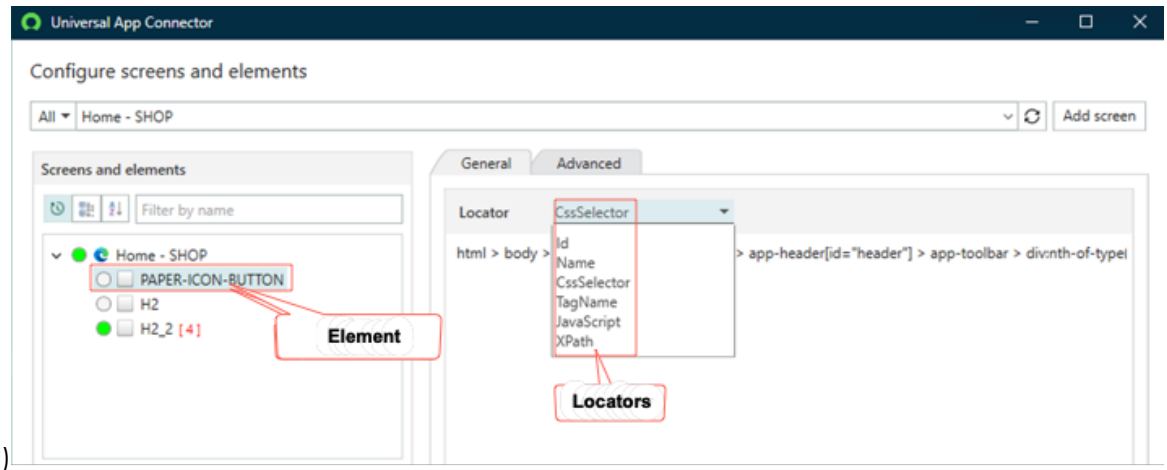
   この画像は、キャプチャされた要素の一致ルールを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



7. オプション: キャプチャされた要素のロケーターを使用して、アプリケーション画面上の要素を検索します。
   UAC には、複数のロケーターの種類が用意されています。たとえば、XPath ロケーターは要素に XPath を提供します。

(Optional)



   a. [画面と要素 (Screens and elements)] ペインで、画面配下の要素を選択します。

   b. [ロケーター] リストから、要素ロケーターの 1 つを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

画面要素ロケーター

ロケータータイプ	アプリケーションタイプ	説明
ID	Web、Java、および Windows	ターゲットアプリケーションで定義されている場合の、要素の一意の識別子。
名前	Web、Java、および Windows	ターゲットアプリケーションで定義されている場合の、要素の一意の名前。
CssSelector	Web	キャプチャされた Web 要素の位置を特定する CSS セレクター。たとえば、`div#navbarNav > ul > li > a` などです。Web アプリケーションが Shadow DOM をサポートしている場合、CSS セレクターにはシャドウ DOM 要素を含むパスが表示されます。たとえば、`html > body > shop-app > /ShadowDom/ > app-header[id="header"] > app-toolbar > div:nth-of-type(3) > a > paper-icon-button > /ShadowDom/ > iron-icon[id="icon"]` などです。
Tagname	Web	Web 要素の一意のタグ名。
JavaScript	Web	ユーザーが要素の位置を特定するためのカスタム JavaScript コードを定義できるようにします。
XPath	Web	XPath を使用して Web 要素の位置を特定します。Web アプリケーションが Shadow DOM をサポートしている場合、このロケーターには Shadow DOM 要素を含む XPath がフルで表示されます。たとえば、`html > body > shop-app > /ShadowDom/ > iron-pages > shop-home > /ShadowDom/ > div > h2` などです。
タイプ	Java と Windows	タイプ別に画面要素の位置を特定できます。たとえば、ボタンやテキストボックスなどです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

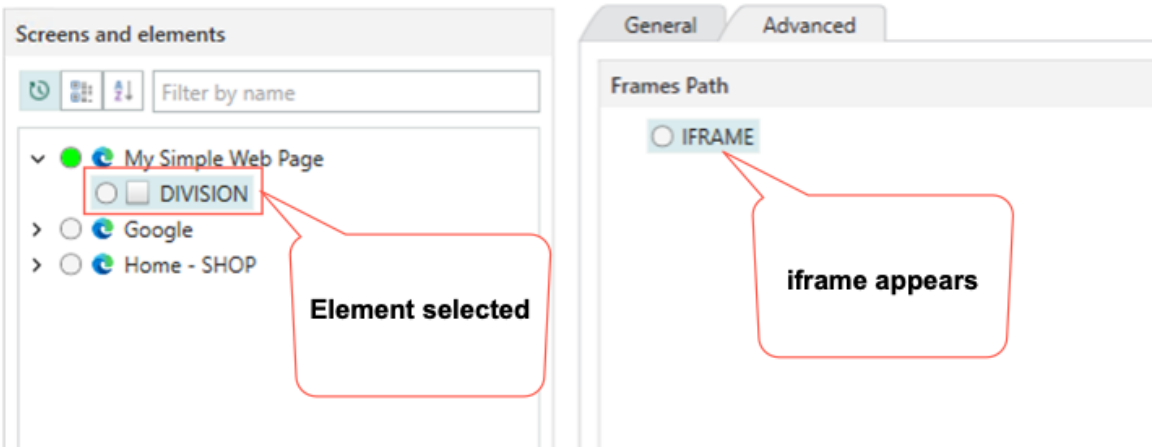
ロケータータイプ	アプリケーションタイプ	説明
		(Optional) [タイプ] ロケーターを選択すると、UAC コネクタによって [値] フィールドに要素のタイプが入力されます。
パス	Java と Windows	画面要素の階層内の位置を指定して、画面要素を見つけることができます。 (Optional) [パス] ロケーターを選択すると、UAC コネクタによって [値] フィールドに要素のパスが入力されます。
カスタムパス	Windows	要素へのパスを微調整またはトリミングできます。

8. オプション: キャプチャされた要素内の iframe (存在する場合) へのパスを表示するには、次の手順を実行します。

   a. [画面と要素 **(Screens and elements)]** ペインで、要素を選択します。

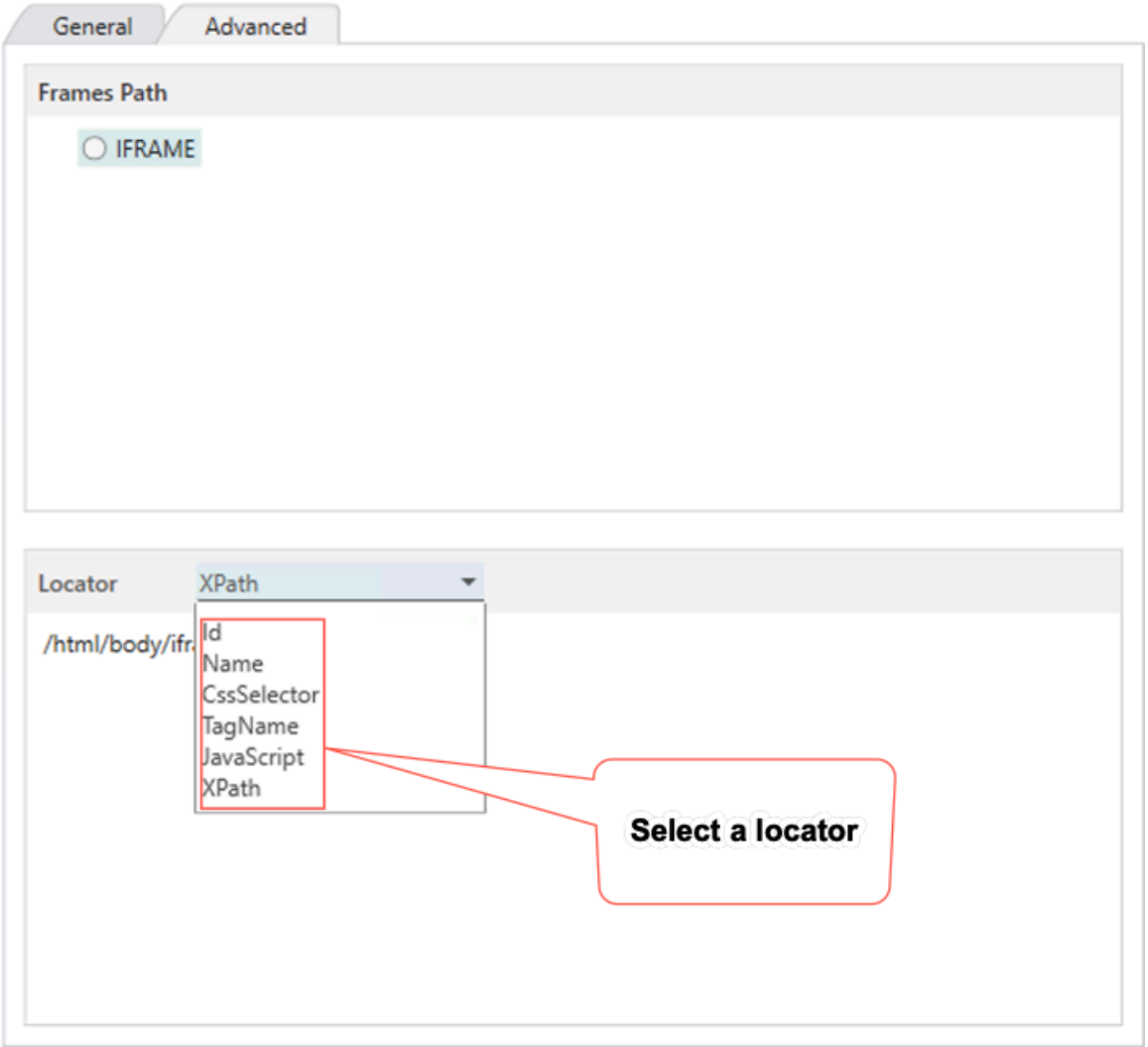
   b. [詳細] タブを選択します。
   iframe が表示されます。

(Optional)



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

c. [ロケーター] リストからロケーターを選択して、iframe へのパスを検索します。



9. オプション: アプリケーション画面または要素を右クリックして、追加の操作を実行します。
アプリケーション画面および要素に対して実行できるさまざまな追加操作の詳細については、「Universal App Connector のアプリケーション画面と要素の追加オプション」を参照してください。
10. アプリケーション画面または要素の構成が完了したら、[完了] を選択します。
アプリケーション画面とその要素は、[グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** の UAC オブジェクト配下に表示されます。
11. 必要なアプリケーション画面または要素をダブルクリックすると、関連するメソッドを一覧表示する [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインが表示されます。
たとえば、Java アプリケーション画面または要素を選択すると、Java コネクタメソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] に表示されます。
    - Java コネクタメソッドの詳細については、「Java コネクタのメソッド」を参照してください。
    - Google Chrome および Microsoft Edge のコネクタメソッドの詳細については、「Chromium コネクタのメソッド」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Windows コネクタメソッドの詳細については、「Windows コネクタのメソッド」を参照してください。

- キャプチャした Web アプリケーション画面でカスタム JavaScript を実行する場合は、ExecuteJavascript メソッドを使用できます。

12. 必要なメソッドを、[オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインから [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。

    メソッドは、[デザイン面 (Design surface)] にアプリケーション画面または要素名とともに表示されます。

次のタスク
アプリケーション画面と要素に対してさまざまなメソッドを使用して自動化を設計し、自動化を保存します。

Universal App Connector の Click メソッドの使用

Click メソッドを使用して、要素に対してクリックアクションを実行します。

始める前に
たとえば、要素をキャプチャする開いているアプリケーションまたはアクティブなアプリケーションがあることを確認します。

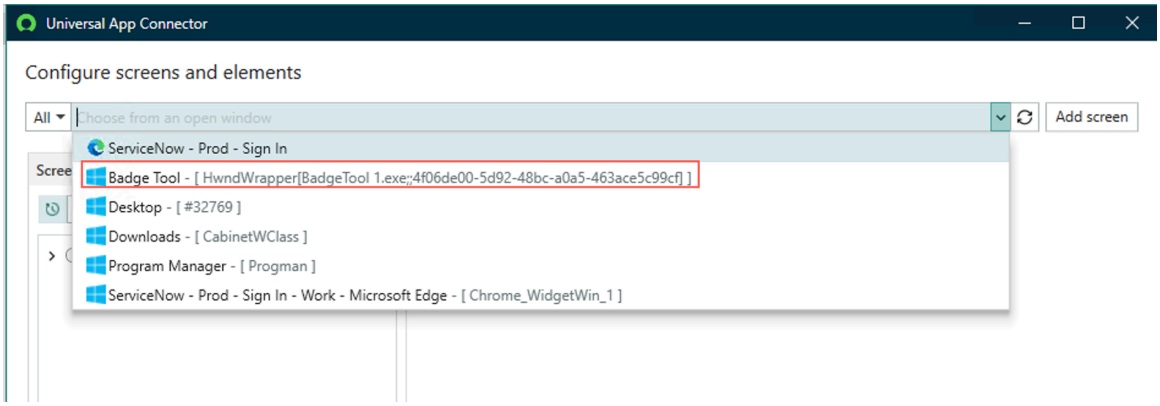
必要なロール：なし

このタスクについて
アプリケーション画面および要素に対して実行できるさまざまな追加操作の詳細については、「Universal App Connector のアプリケーション画面と要素の追加オプション」を参照してください。

手順
1. Universal App Connector を構成します。
   アプリケーション画面と子要素の構成の詳細については、「Universal App Connector の使用」を参照してください。
2. [グローバルオブジェクト (Global Objects)] で、**[UniversalApplication]** オブジェクトをダブルクリックします。
   Click メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。
3. Click メソッドをデザイン面にドラッグします。
4. Click メソッドをダブルクリックして、Universal App Connector の画面と要素を構成します。
5. [画面と要素の構成 (Configure screens and elements)] ウィンドウで、[開いているウィンドウのドロップダウンから選択 (Choose from an open window drop-down)] ( ) を選択し、アプリケーション画面を選択します。

   たとえば、[バッジツール (Badge Tool)] アプリケーションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注:

- サポートされているアプリケーションが開いていない場合は、「アプリウィンドウが見つかりません (App window not found)」というメッセージが表示されます。
- 新しく開いたアプリケーション画面をリストに表示するには、[クリックしてウィンドウを更新 (Click to refresh windows)] アイコン ( )を選択します。

6. 選択したアプリケーション画面 ([バッジツール (Badge Tool)] アプリケーションなど) を追加するには、[画面の追加 **(Add screen)]** を選択します。
この手順を実行した後に、画面要素をキャプチャしてアクションを実行できます。
アプリケーション画面が [画面と要素 (Screens and elements)] ペインに表示されます。

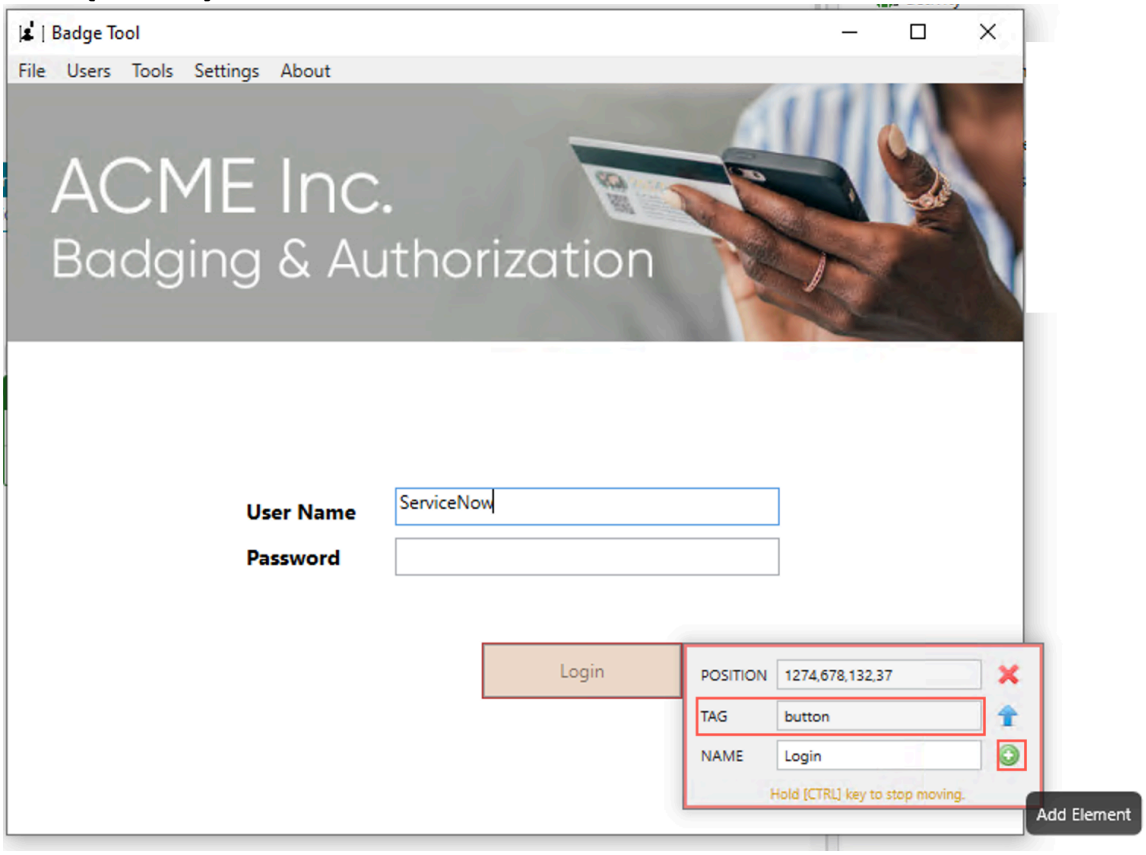
7. 画面から要素をキャプチャするには、追加した画面を右クリックし、[要素をキャプチャ **(Capture Element)]** を選択します。
キャプチャしたアプリケーション画面にフォーカスが設定され、[要素をキャプチャ (Capture Element)] ダイアログが表示されます。

8. 必要な要素を選択した後は、[要素の追加] アイコン ( ) を選択して要素をキャプチャします。

注: 続行するには、少なくとも 1 つの要素を追加する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

たとえば、[ログイン] ボタンを選択してボタン要素を選択しま

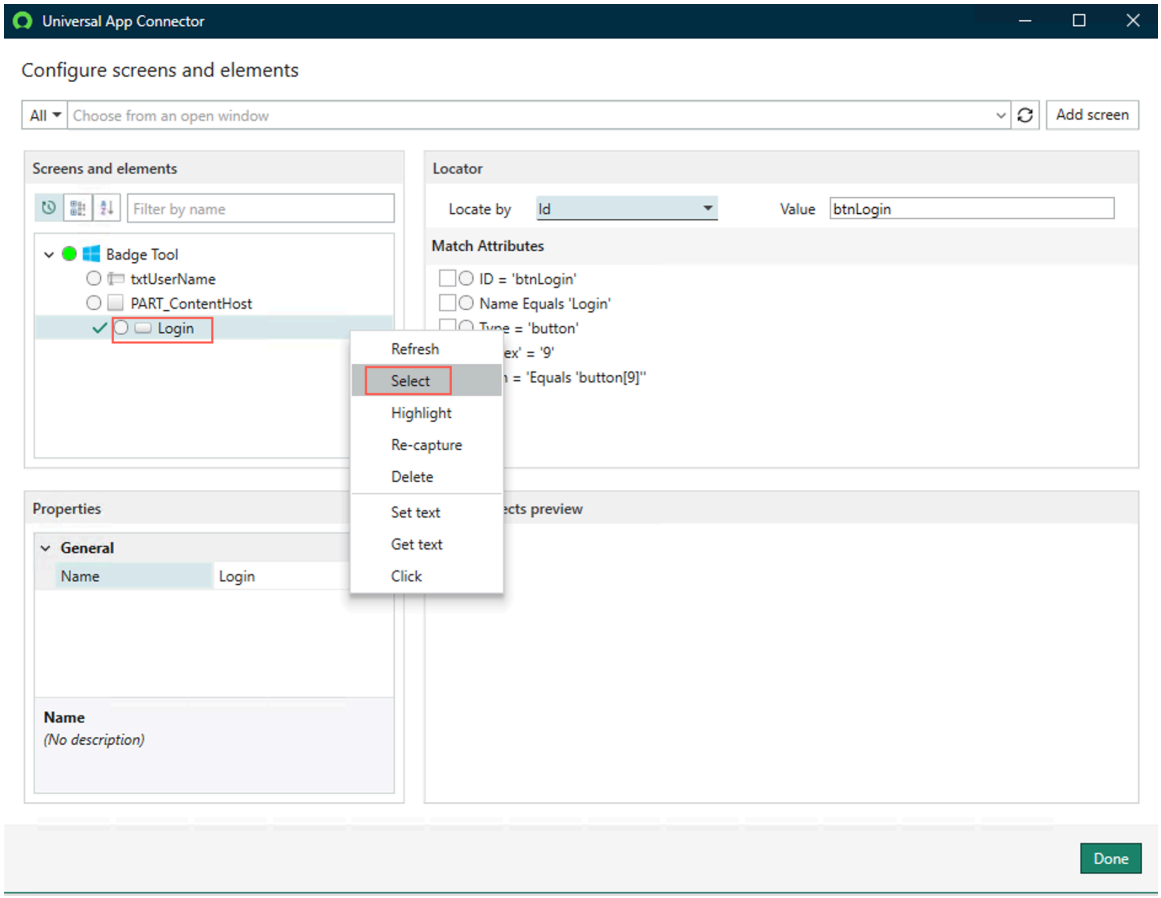


す。

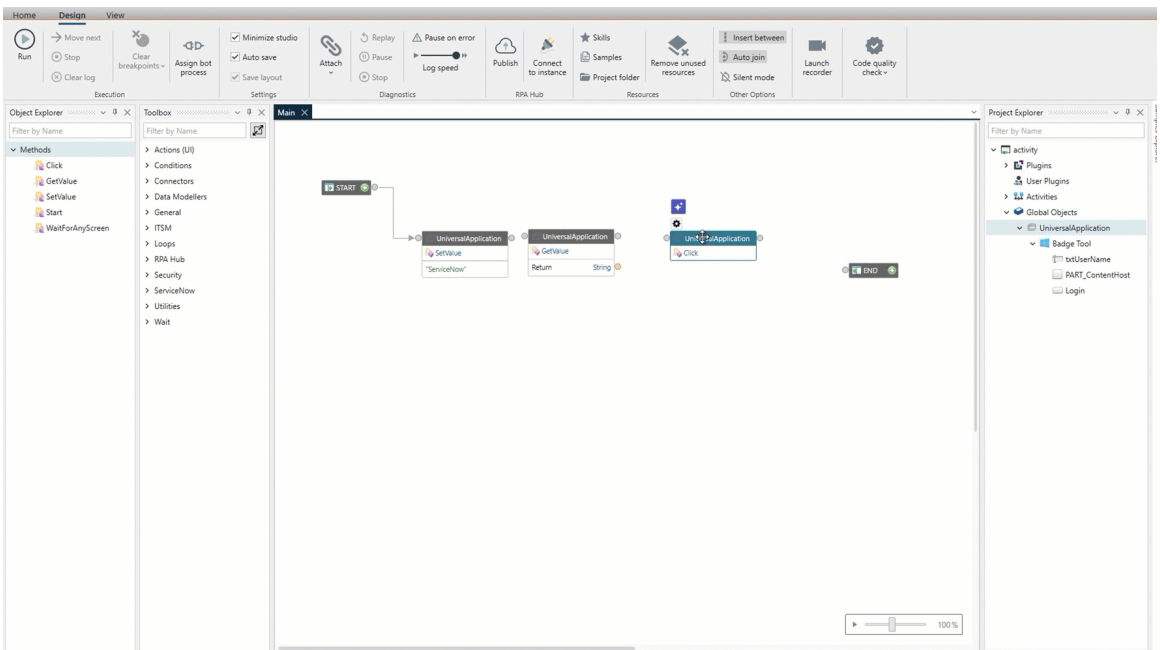
9. [画面と要素の構成 (Configure screens and elements)] ウィンドウで、キャプチャされた要素を右クリックし、[選択] を選択して [完了] を選択します。

   注: アクションを実行する要素を少なくとも 1 つ選択してください。何も選択されていない場合、アクションは実行されません。選択せずに続行するには、**[OK]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



10. Click メソッドを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** または [これを実行 **(Run This)]** を選択します。
このシナリオでは、キャプチャされた要素「ログイン」ボタンがクリックされ、次の画面が表示されま



す。

11. 必要なアプリケーション画面または要素をダブルクリックすると、関連するメソッドを一覧表示する [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインが表示されます。
たとえば、Java アプリケーション画面または要素を選択すると、Java コネクタメソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] に表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Java コネクタメソッドの詳細については、「Java コネクタのメソッド」を参照してください。
- Google Chrome および Microsoft Edge のコネクタメソッドの詳細については、「Chromium コネクタのメソッド」を参照してください。
- Windows コネクタメソッドの詳細については、「Windows コネクタのメソッド」を参照してください。
- キャプチャした Web アプリケーション画面でカスタム JavaScript を実行する場合は、ExecuteJavascript メソッドを使用できます。

Universal App Connector の GetValue メソッドの使用

GetValue メソッドを使用して、要素から値を取得します。

始める前に

たとえば、要素をキャプチャする開いているアプリケーションまたはアクティブなアプリケーションがあることを確認します。

必要なロール：なし

このタスクについて

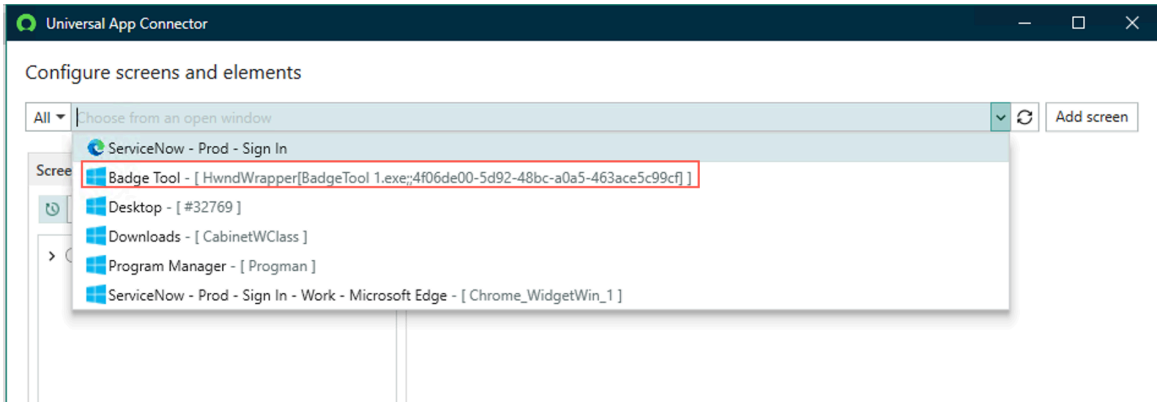
アプリケーション画面および要素に対して実行できるさまざまな追加操作の詳細については、「Universal App Connector のアプリケーション画面と要素の追加オプション」を参照してください。

手順

1. Universal App Connector を構成します。
   アプリケーション画面と子要素の構成の詳細については、「Universal App Connector の使用」を参照してください。
2. [グローバルオブジェクト (Global Objects)] で、**[UniversalApplication]** オブジェクトをダブルクリックします。
   GetValue メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。
3. GetValue メソッドをデザイン面にドラッグします。
4. GetValue メソッドをダブルクリックして、Universal App Connector の画面と要素を構成します。
5. [画面と要素の構成 (Configure screens and elements)] ウィンドウで、[開いているウィンドウのドロップダウンから選択 (Choose from an open window drop-down)] ( ) を選択し、アプリケーション画面を選択します。

   たとえば、[バッジツール (Badge Tool)] アプリケーションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注:

- サポートされているアプリケーションが開いていない場合は、「アプリウィンドウが見つかりません (App window not found)」というメッセージが表示されます。
- 新しく開いたアプリケーション画面をリストに表示するには、[クリックしてウィンドウを更新 (Click to refresh windows)] アイコン ( )を選択します。

6. 選択したアプリケーション画面 ([バッジツール (Badge Tool)] アプリケーションなど) を追加するには、[画面の追加 **(Add screen)]** を選択します。
この手順を実行した後に、画面要素をキャプチャしてアクションを実行できます。
アプリケーション画面が [画面と要素 (Screens and elements)] ペインに表示されます。

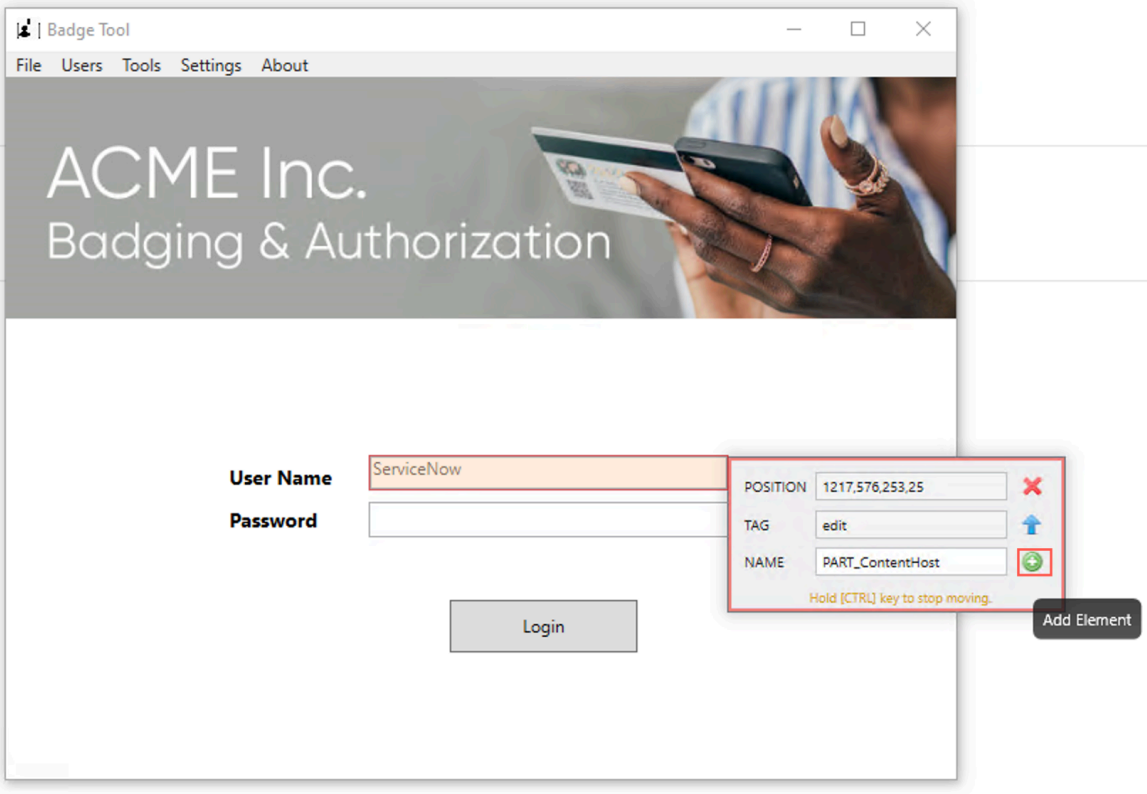
7. 画面から要素をキャプチャするには、追加した画面を右クリックし、[要素をキャプチャ **(Capture Element)]** を選択します。
キャプチャしたアプリケーション画面にフォーカスが設定され、[要素をキャプチャ (capture elements)] ダイアログが表示されます。

8. 必要な要素を選択した後は、[要素の追加] アイコン ( ) を選択して要素をキャプチャします。

注: 続行するには、少なくとも 1 つの要素を追加する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

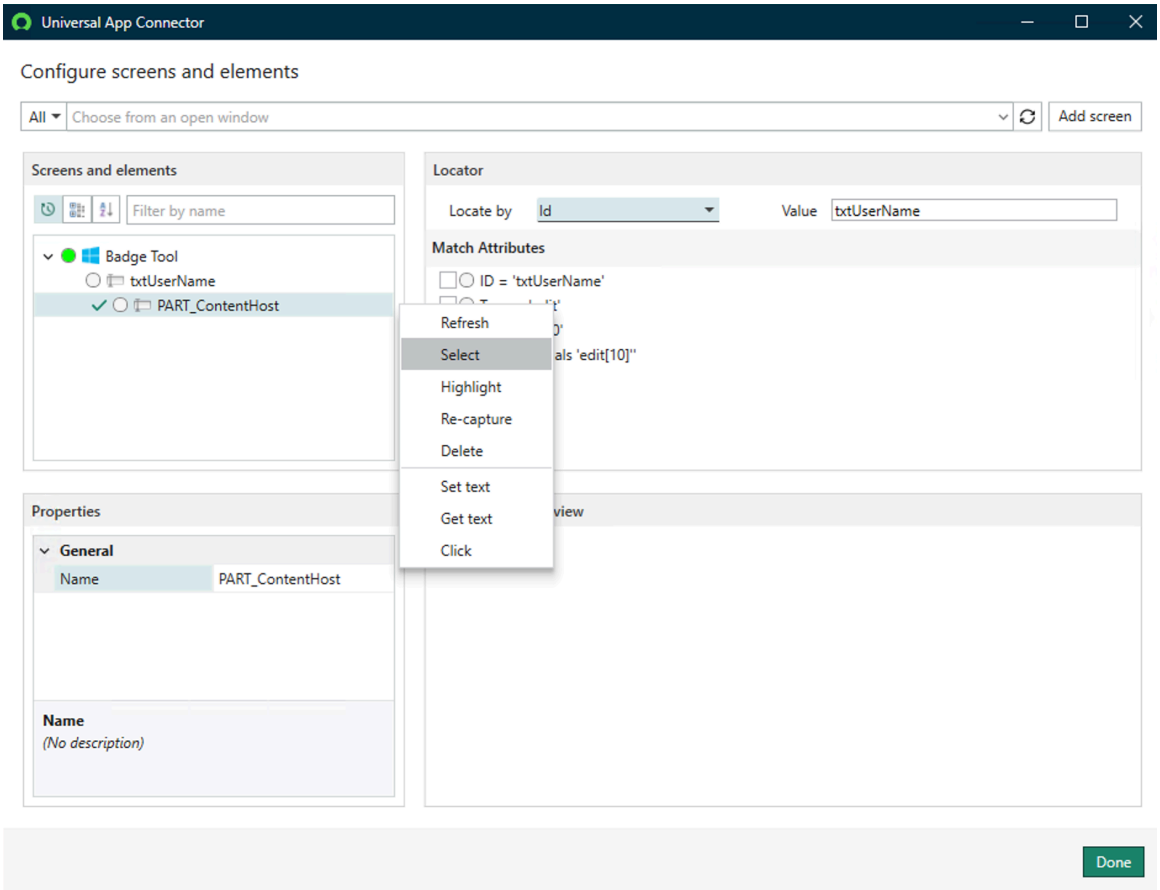
たとえば、[ユーザー名] フィールドの横にあるテキストボックスを選択して、編集としてタグ付けされたテキストボックス要素を選択します。



9. [画面と要素の構成 (Configure screens and elements)] ウィンドウで、キャプチャされた要素を右クリックし、[選択] を選択して [完了] を選択します。

   注: アクションを実行する要素を少なくとも 1 つ選択してください。何も選択されていない場合、アクションは実行されません。選択せずに続行するには、**[OK]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



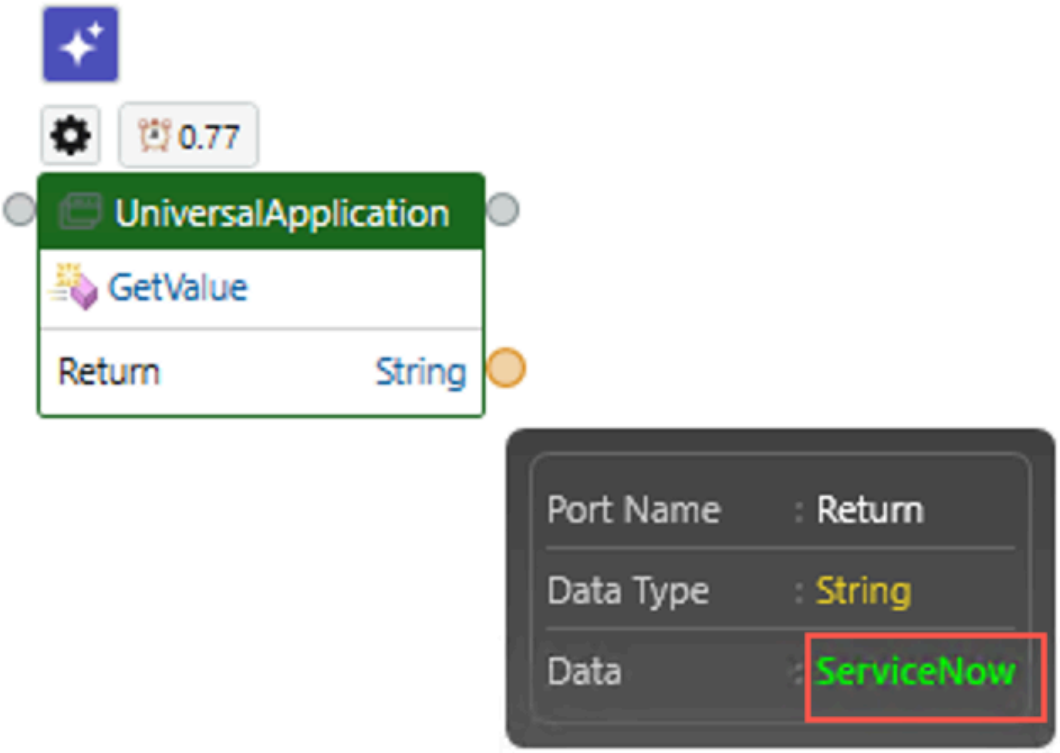
10. GetValue メソッドを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** または [これを実行 **(Run This)]** を選択します。

GetValue メソッドのパラメーター

パラメーター名	パラメーターの説明	ポートタイプ	データタイプ
Return	キャプチャされた要素から値を取得します。	データ出力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

キャプチャされた要素の入力値が取得され、GetValue メソッドのデータ出力ポートに表示されます。このシナリオでは、ServiceNow が取得されます。



11. 必要なアプリケーション画面または要素をダブルクリックすると、関連するメソッドを一覧表示する [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインが表示されます。
たとえば、Java アプリケーション画面または要素を選択すると、Java コネクタメソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] に表示されます。
    - Java コネクタメソッドの詳細については、「Java コネクタのメソッド」を参照してください。
    - Google Chrome および Microsoft Edge のコネクタメソッドの詳細については、「Chromium コネクタのメソッド」を参照してください。
    - Windows コネクタメソッドの詳細については、「Windows コネクタのメソッド」を参照してください。
    - キャプチャした Web アプリケーション画面でカスタム JavaScript を実行する場合は、ExecuteJavascript メソッドを使用できます。

Universal App Connector の SetValue メソッドの使用

SetValue メソッドを使用して、指定した値を要素にアサインします。

始める前に
たとえば、要素をキャプチャする開いているアプリケーションまたはアクティブなアプリケーションがあることを確認します。

必要なロール：なし

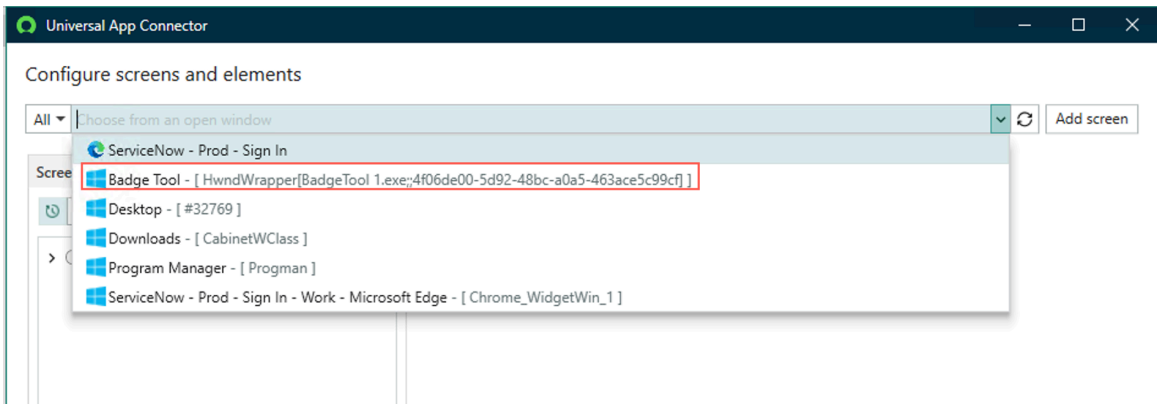
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
アプリケーション画面および要素に対して実行できるさまざまな追加操作の詳細については、「Universal App Connector のアプリケーション画面と要素の追加オプション」を参照してください。

手順

1. Universal App Connector を構成します。
   アプリケーション画面と子要素の構成の詳細については、「Universal App Connector の使用」を参照してください。
2. [グローバルオブジェクト (Global Objects)] で、**[UniversalApplication]** オブジェクトをダブルクリックします。
   SetValue メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。
3. SetValue メソッドをデザイン面にドラッグします。
4. SetValue メソッドをダブルクリックして、Universal App Connector の画面と要素を構成します。
5. [画面と要素の構成 (Configure screens and elements)] ウィンドウで、[開いているウィンドウのドロップダウンから選択 (Choose from an open window drop-down)] ( ) を選択し、アプリケーション画面を選択します。

   たとえば、[バッジツール (Badge Tool)] アプリケーションを選択します。



注:

- サポートされているアプリケーションが開いていない場合は、「アプリウィンドウが見つかりません (App window not found)」というメッセージが表示されます。
- 新しく開いたアプリケーション画面をリストに表示するには、[クリックしてウィンドウを更新 (Click to refresh windows)] アイコン ( )を選択します。

6. 選択したアプリケーション画面 ([バッジツール (Badge Tool)] アプリケーションなど) を追加するには、[画面の追加 **(Add screen)]** を選択します。
   この手順を実行した後に、画面要素をキャプチャしてアクションを実行できます。
   アプリケーション画面が [画面と要素 (Screens and elements)] ペインに表示されます。

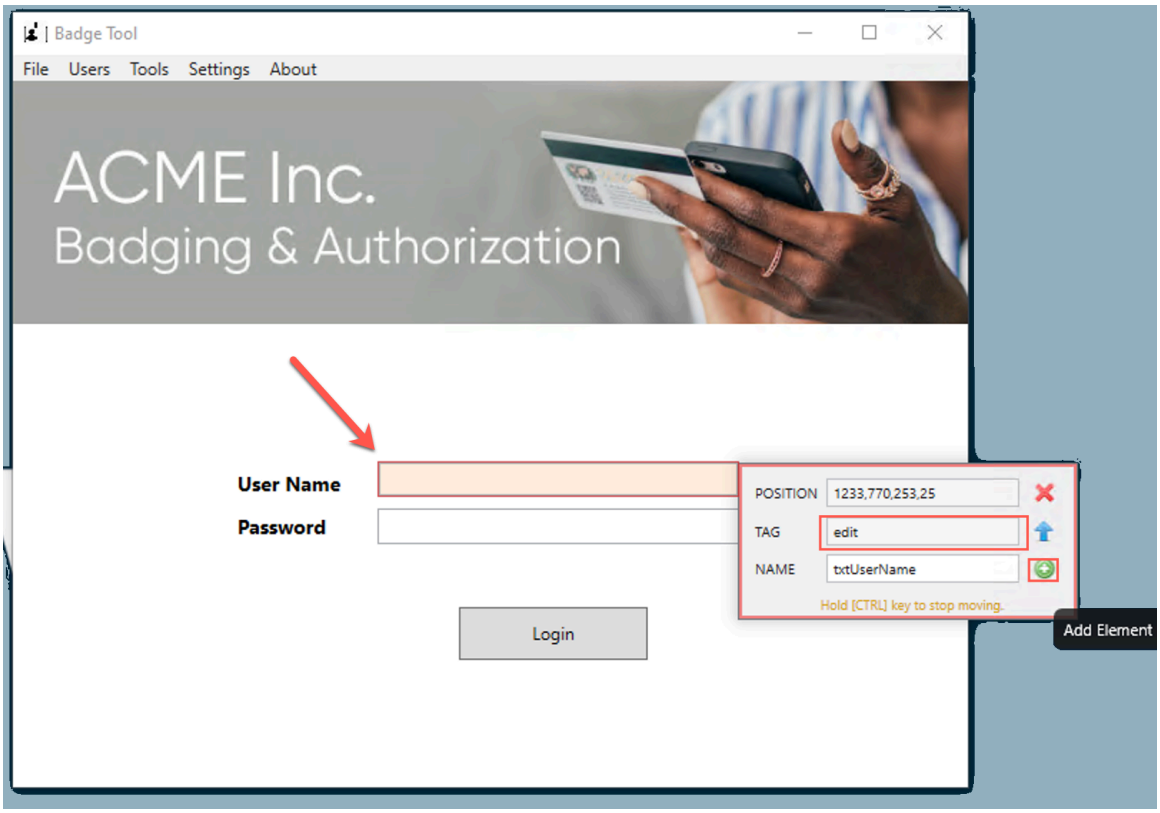
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

7. 画面から要素をキャプチャするには、追加した画面を右クリックし、[要素をキャプチャ **(Capture Element)]** を選択します。
キャプチャしたアプリケーション画面にフォーカスが設定され、[要素をキャプチャ (capture elements)] ダイアログが表示されます。

8. 必要な要素を選択した後は、[要素の追加] アイコン ( ) を選択して要素をキャプチャします。

   注: 続行するには、少なくとも 1 つの要素を追加する必要があります。

   たとえば、[ユーザー名] フィールドの横にあるテキストボックスを選択して、[タグ] で [編集] を選択しま

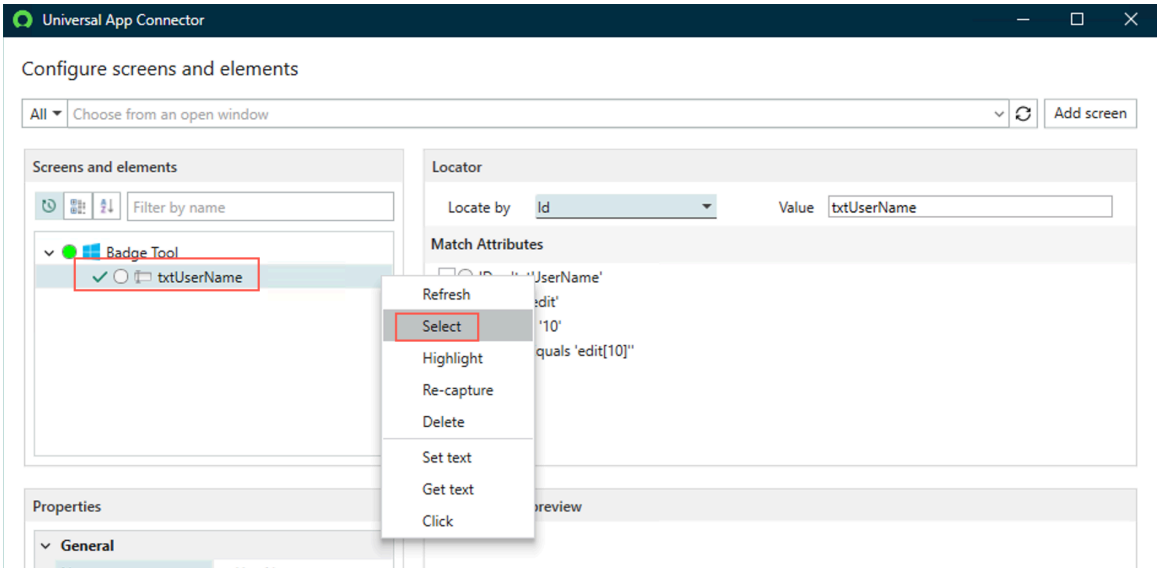


す。

9. [画面と要素の構成 (Configure screens and elements)] ウィンドウで、キャプチャされた要素を右クリックし、[選択] を選択して [完了] を選択します。

   注: アクションを実行する要素を少なくとも 1 つ選択してください。何も選択されていない場合、アクションは実行されません。選択せずに続行するには、**[OK]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



10. SetValue メソッドで次のパラメーターを入力します。

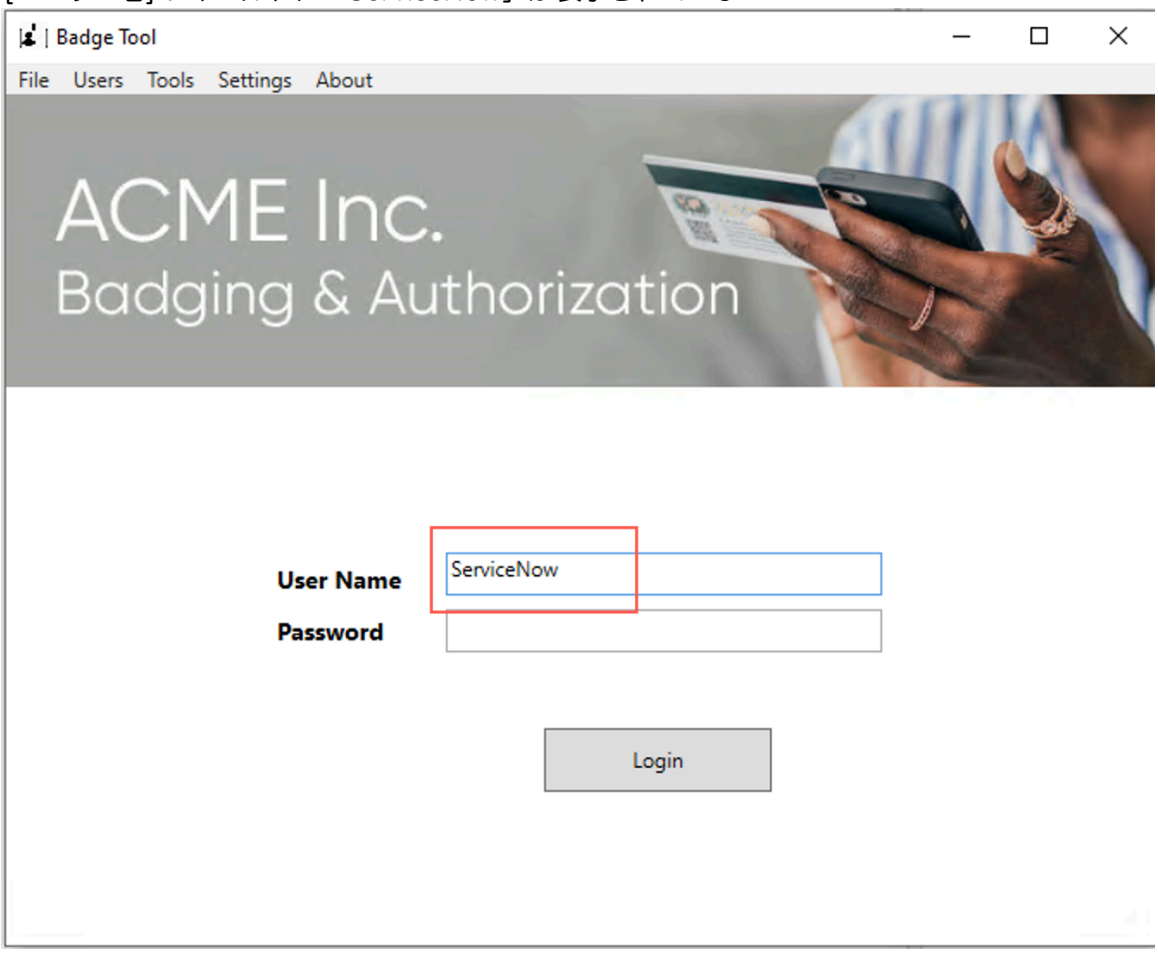
SetValue メソッドのパラメーター

パラメーター名	パラメーターの説明	ポートタイプ	データタイプ
値	要素に割り当てる値を入力します。 例：`ServiceNow`	データ入力	文字列

11. SetValue メソッドを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)**] または [これを実行 **(Run This)**] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力値は、キャプチャされた要素に表示されます。このシナリオでは、[ユーザー名] フィールドに「ServiceNow」が表示されていま



す。

12. 必要なアプリケーション画面または要素をダブルクリックすると、関連するメソッドを一覧表示する [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインが表示されます。
たとえば、Java アプリケーション画面または要素を選択すると、Java コネクタメソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] に表示されます。
    - Java コネクタメソッドの詳細については、「Java コネクタのメソッド」を参照してください。
    - Google Chrome および Microsoft Edge のコネクタメソッドの詳細については、「Chromium コネクタのメソッド」を参照してください。
    - Windows コネクタメソッドの詳細については、「Windows コネクタのメソッド」を参照してください。
    - キャプチャした Web アプリケーション画面でカスタム JavaScript を実行する場合は、ExecuteJavascript メソッドを使用できます。

Universal App Connector の Start メソッドの使用

Start メソッドを使用して、Universal App Connector (UAC) オブジェクトのブラウザーまたはアプリケーションを起動します。このメソッドは、アプリケーション画面または要素を操作する前にブラウザーまたはアプリケーションを起動する場合に使用できます。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

注: Start メソッドに選択したアプリケーションタイプが Google Chrome または Microsoft Edge ブラウザーである場合は、UAC の [画面と要素の構成 (COnfigure screen and elements] ウィンドウで [ブラウザー] リストから同じブラウザーを選択する必要があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、[コネクタ] に移動し、**[Universal App Connector]** を [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] の [グローバルオブジェクト **(Global Objects)]** にドラッグします。
   コネクタは、[グローバルオブジェクト (Global Object)] に ユニバーサルアプリケーションオブジェクトとして追加されます。この UAC オブジェクトの名前は、ここから変更できます。
2. UAC オブジェクトをダブルクリックし、**[Start]** メソッドを [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] から [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. Start コンポーネントで以下のパラメーターを入力します。

Start メソッドのパラメーター

パラメーター名	パラメーターの説明	必須
AppType	[ポートのプロパティ (Port Properties)] ダイアログを開きます。利用可能なオプションは、**[Chrome]**、**[Edge]**、および [アプリケーション] です。 [静的値] リストから **[Chrome]** または **[Edge]** を選択すると、選択したブラウザーが新しいタブで開きます。ポートプロパティの設定方法の詳細については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。 [静的値] リストから [アプリケーション] を選択した場合は、Start メソッドの [パス] パラメーターでアプリケーションの完全パスを指定する必要があります。	はい
パス	開くアプリケーションの完全なナビゲーションパス。パスは文字列形式で入力します。 例：`D:\TestApps\JavaTest.jar`	いいえ
StartParams	アプリケーションを起動するための引数。たとえば、アプリケーションとして Google Chrome を選択し、引数として `google.com` を指定すると、ブラウザーの起動時に Google の Web ページが開きます。	いいえ

4. 必要なアプリケーション画面または要素をダブルクリックすると、関連するメソッドを一覧表示する [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインが表示されます。
   たとえば、Java アプリケーション画面または要素を選択すると、Java コネクタメソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] に表示されます。
   - Java コネクタメソッドの詳細については、「Java コネクタのメソッド」を参照してください。
   - Google Chrome および Microsoft Edge のコネクタメソッドの詳細については、「Chromium コネクタのメソッド」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Windows コネクタメソッドの詳細については、「Windows コネクタのメソッド」を参照してください。

- キャプチャした Web アプリケーション画面でカスタム JavaScript を実行する場合は、ExecuteJavascript メソッドを使用できます。

Universal App Connector での WaitForAnyScreen メソッドの使用

1 つ以上のアプリケーション画面を検索し、必要に応じて指定した期間内にそれらの子要素を検索し、指定したアクションを実行します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
WaitForAnyScreen メソッドを使用すると、指定された期間内の画面一致ルールを照合して画面の検索が試行されます。その期間内に画面が見つからない場合は、オプションで、ELSE ポートを介してコントロールを別のコンポーネントに渡すことで、アクションを実行するようにできます。それ以外の場合は、WaitForAnyScreen メソッドの実行が完了します。WaitForAnyScreen メソッドが画面を検索するには、画面が開いた状態である必要があります。

手順

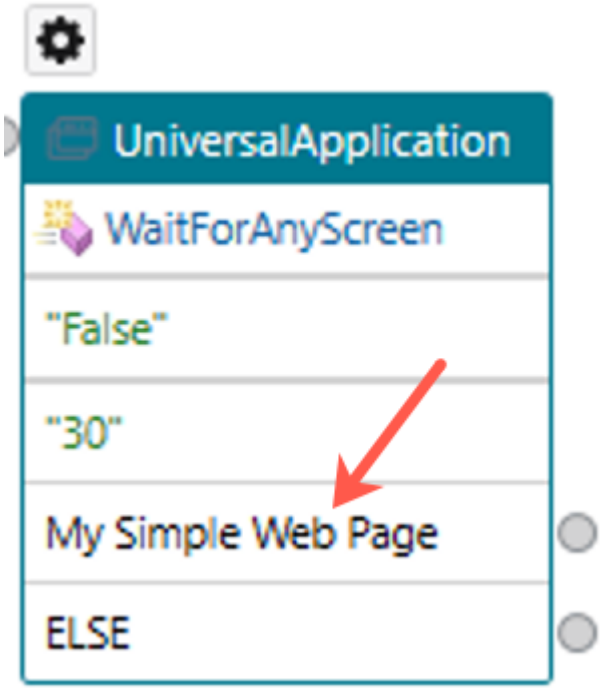
1. UAC を構成します。
   アプリケーション画面と子要素の構成については、「Universal App Connector の使用」を参照してください。
2. [グローバルオブジェクト (Global Objects)] で、**[UniversalApplication]** オブジェクトをダブルクリックします。
   WaitForAnyScreen メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。
3. WaitForAnyScreen メソッドを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
4. WaitForAnyScreen メソッドを構成します。

   a. [設定] アイコン ( ) を選択します。

   b. [画面を選択 (CHOOSE SCREENS)] ウィンドウで、1 つ以上のアプリケーション画面を選択します。

   c. **[OK]** を選択します。
      選択したアプリケーション画面が WaitForAnyScreen メソッドに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



d. WaitForAnyScreen メソッドでパラメーターを構成します。

WaitForAnyScreen メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
MatchAllChil	`True` に設定すると、メソッドは、子要素の属性を照合することによって、キャプチャした親画面の子要素も検索します。	データ入力	ブール	False	いいえ	⚠ 警告: このパラメーターを `True` に設定すると、コンポーネントの実行が遅くなる可能性があります。
タイムアウト	WaitForAnyScreen メソッドが、画面と、必要に応じてその子要素を検索するために使用する期間 (秒単位)。	データ入力	整数	30 秒	はい	
アプリケーション画面	[画面を選択 (CHOOSE SCREENS)]	データ出力	適用外	適用外	適用外	WaitForAnyScreen メソッドがリストされ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
	ウィンドウで選択したアプリケーション画面のタイトル。このコンポーネントでは、[画面を選択 (CHOOSE SCREENS)] ウィンドウで選択した画面の数に応じて、複数のウィンドウのエントリが可能です。					ている最初の画面を見つけると、WaitForAnyScreen メソッドの実行が完了します。
ELSE	WaitForAnyScreen メソッドがタイムアウトポートで指定された期間内に画面を見つけられなかった場合に、別のコンポーネントまたはメソッドを実行します。	データ出力	適用外	適用外	なし	

5. 必要なアプリケーション画面または要素をダブルクリックすると、関連するメソッドを一覧表示する [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインが表示されます。
たとえば、Java アプリケーション画面または要素を選択すると、Java コネクタメソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] に表示されます。
   - Java コネクタメソッドの詳細については、「Java コネクタのメソッド」を参照してください。
   - Google Chrome および Microsoft Edge のコネクタメソッドの詳細については、「Chromium コネクタのメソッド」を参照してください。
   - Windows コネクタメソッドの詳細については、「Windows コネクタのメソッド」を参照してください。
   - キャプチャした Web アプリケーション画面でカスタム JavaScript を実行する場合は、ExecuteJavascript メソッドを使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Universal App Connector のアプリケーション画面と要素の追加オプション

追加されたアプリケーション画面とそのキャプチャされた要素に対する追加操作を検証して実行します。アプリケーション画面の追加オプションは、アプリケーションタイプに基づいて分類されます。

アプリケーション画面のタイプとその追加オプション

アプリケーションのタイプ	他のオプション
Java	• 画面をリフレッシュ • 画面と要素をリフレッシュ • 重点 • 要素をキャプチャ • 削除
Windows	• 画面をリフレッシュ • 画面と要素をリフレッシュ • 重点 • 要素をキャプチャ • 要素を表示 • 削除
Google Chrome または Microsoft Edge	• 画面をリフレッシュ • 画面と要素をリフレッシュ • 重点 • 要素をキャプチャ • カスタム要素を追加 • 削除

アプリケーション画面の追加オプションの説明

他のアクション	説明
画面をリフレッシュ	定義した画面一致ルールまたはロケーターに基づいて、選択した画面を再照合します。
画面と要素をリフレッシュ	定義した画面一致ルールまたはロケーターに基づいて、選択した画面とその子要素を再照合します。
重点	ターゲットのアプリケーション画面にフォーカスを設定します。
要素をキャプチャ	アプリケーション画面から要素をキャプチャします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーション画面の追加オプションの説明 (続く)

他のアクション	説明
カスタム要素を追加	アプリケーション画面にカスタム要素を追加します。たとえば、Web ページから直接キャプチャできない非表示の要素を操作できます。
要素を表示	ターゲットアプリケーション画面の既存のすべての要素をツリービューで表示する [ウィンドウの要素 (Window Elements)] ダイアログを表示します。ここから必要な要素を選択して、アプリケーション画面に追加できます。
削除	アプリケーション画面を削除します。

要素とその説明の追加オプション

他のオプション	説明
リフレッシュ	定義した要素一致属性またはロケーターに基づいて、選択した要素を再照合します。
Highlight	ターゲットアプリケーション画面の要素をハイライト表示します。
再キャプチャ	同じ名前を保持してアプリケーション画面から要素を再キャプチャします。
削除	要素を削除します。
テキストの設定	該当する場合、要素にテキストを設定します。
テキストを取得	該当する場合、要素からテキストを取得します。
クリック	該当する場合、要素をクリックします。

VB.Net

VB.Net コネクタを使用すると、RPA デスクトップデザインスタジオ の ワークフロー の一部として、VB.Net スクリプトを記述して実行できます。

VB.Net コネクタのメソッドを使用するには、まずそのメソッドを使用し、次にそのメソッドを公開する必要があります。

- コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- VB.Net コネクタを設定するには、「VB.Net コネクタの設定」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

VB.Net コネクタの設定

ワークフロー で RPA デスクトップデザインスタジオ の一部として実行する前に、カスタム VB.Net スクリプトを記述して検証します。

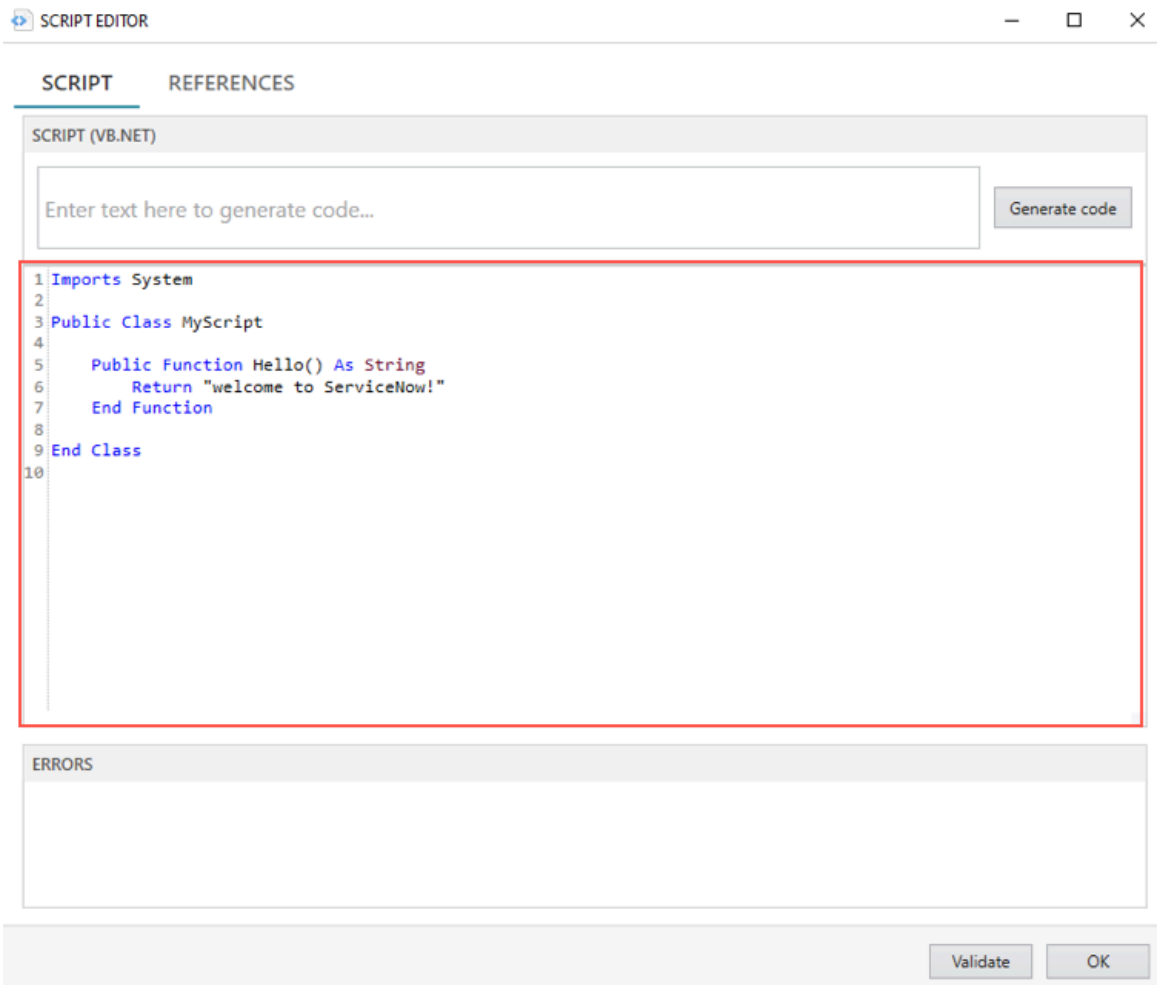
始める前に
必要なロール：開発者

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Connectors]** > **[VB.NET]**に移動します。
2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの **[Global Objects]** に VB.NET コネクタをドラッグします。
3. [グローバルオブジェクト (Global Objects)] の **[JavaScript]** コネクタを右クリックし、[構成] を選択します。
   [スクリプトエディタ] ウィンドウが表示されます。
4. [スクリプト] ペインでカスタム VB.NET スクリプトを入力します。

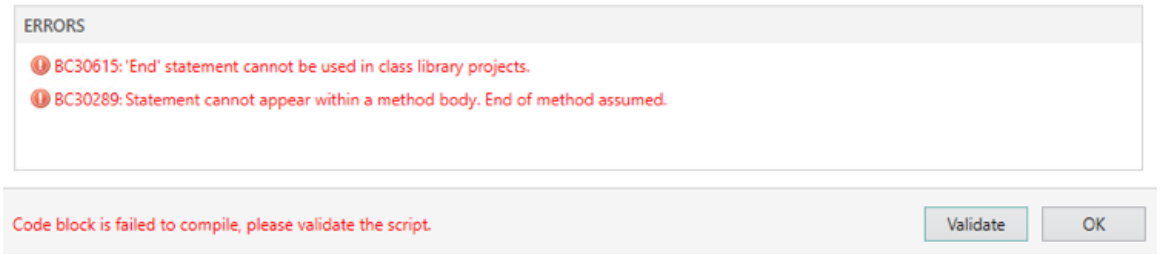
スクリプトエディタの [スクリプト] ペイン



5. オプション: カスタムスクリプトにダイナミックリンクライブラリ (DLL) 参照を追加する場合は、[参照] タブセクションから [参照を追加] を選択します。
   参照は、[参照マネージャー (Reference Manager)] ウィンドウとコンピューターから選択できます。
6. [検証] を選択します。
   カスタムスクリプトにエラーがある場合は、[エラー] ペインに表示されます。エラーを解決し、[検証] を選択してエラーを再度確認します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトエディタの [エラー] ペイン



7. **[OK]** をクリックします。
   変更を保存する場合は、[はい]を選択します。エラー検証が再度実行され、変更が保存されます。
   変更を破棄する場合は、[いいえ] を選択します。

次のタスク
これで、VB.net コネクタを使用して作成したカスタムスクリプトを自動化で使用する準備ができました。

VB コネクタのメソッド

VB コネクタメソッドは、VB.NET コネクタ設定の一部として記述した VB.Net スクリプトを実行します。

実行

VB.NET コネクタの設定時に設定された VB スクリプトを実行します。

使用する前に、メソッドを設定する必要があります。設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. **[CLASSES]** リストから、VB.NET コネクタの設定時に作成されたクラスを選択します。
3. **[METHODS]** リストから、VB.NET コネクタの設定時に作成されたメソッドを選択します。
4. **[OK]** をクリックします。

出力

Result (String)

Execute メソッドの出力の説明

パラメーター	説明	必須？
Result (String)	Execute メソッド実行の出力を返します。	適用外

Windows コネクタ

Windows コネクタを使用すると、Windows アプリケーション、およびそのユーザーインターフェイス要素に対してさまざまなアクションを実行できます。これらのアクションは、Windows コネクタによって提供されるメソッドを介して実行されます。メソッドを公開するために、コネクタを設定する必要があります。

Windows コネクタのメソッドを使用するには、まずそのメソッドを使用、設定し、次にそのメソッドを公開する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Windows コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- Windows コネクタを設定するには、「Windows コネクタの構成」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

Windows コネクタのメソッドは、次のレベルで使用できます。

- コネクタ
- スクリーン
- 要素

Windows コネクタのメソッドタイプ

メソッドレベル	説明
コネクタ	これらのメソッドを使用すると、作業ディレクトリの設定や Windows ハンドルの取得など、コネクタに対してアクションを実行できます。
スクリーン	これらのメソッドは、設定した画面でさまざまなアクションを実行します。たとえば、ボタンをクリックします。
要素	これらのメソッドは、画面上のさまざまな要素に対してさまざまなタスクを実行します。

重要: Windows コネクタは、Win32、WPF プラットフォームなどの Windows デスクトップ用にビルドされたアプリケーションとやり取りするために、内部で Microsoft UI Automation Framework を使用します。Microsoft が公開している本フレームワークの既知の問題や制限事項が適用されます。

Windows コネクタの構成

Windows コネクタを構成して、そのメソッドにアクセスし、 Windows アプリケーション上で自動化をビルドします。さまざまなレベルのメソッドが提供されますが、最初に、すべてのレベルでメソッドを公開するように設定する必要があります。

始める前に

少なくとも 1 つの Windows アプリケーションが開いているか、アクティブになっていることを確認してください。

必要なロール：なし

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Connectors]** > **[Windows Connector]**に移動します。
2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの [グローバルオブジェクト (Global Objects)] の下に Windows コネクタをドラッグします。
3. Global Objects ノードの下でコネクタを右クリックします。
4. [構成] をクリックします。
5. [使用可能なウィンドウ **(AVAILABLE WINDOWS)]** リストで、必要なアプリケーションウィンドウを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ヒント: ウィンドウがリストに表示されない場合は、更新アイコン ( ) をクリックします。

6. [ウィンドウを追加 **(Add Window)]** をクリックします。
7. [ウィンドウ (WINDOWS)] セクションで、ウィンドウの名前を右クリックします。
8. [要素を追加 **(Add Element)]** をクリックします。
9. コンテキストダイアログを使用して、要素をキャプチャします。
   コンテキストダイアログを使用するには、「[要素をキャプチャ] ダイアログの使用」を参照してください。

重要: Microsoft Windows マシンの言語が英語以外の場合、[ターゲットオブジェクトのプレビュー (Target Objects Preview)] ペインをクリックすると、未処理の例外エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージボックスで **[Ok]** をクリックして、コネクタの構成を続行します。

Windows コネクタのメソッド

RPA デスクトップデザインスタジオ の Windows メソッドは、Windows アプリケーションとやり取りして、さまざまなタスクを実行します。コネクタは、Windows アプリケーションのさまざまなレベルでメソッドを提供します。

Windows コネクタのメソッドレベル

コネクタレベルのメソッド

ウィンドウレベルのメソッド

要素レベルのメソッド

コネクタレベルのメソッド

CloseMainWindow

アプリケーションのアクティブなウィンドウを閉じます。

GetMainWindowHandle

アプリケーションのアクティブなウィンドウのハンドル ID を取得します。

GetMainWindowTitle

アプリケーションのアクティブなウィンドウのタイトルを取得します。

SetWorkingDirectory

アプリケーションを介してすべてのファイル操作が指定されたディレクトリで実行されるように、アプリケーションの作業ディレクトリを設定します。

入力

Path

開始

アプリケーションを起動します。

入力

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Path、Args

終了

アプリケーションを終了します。

ウィンドウレベルのメソッド

重点

非アクティブなウィンドウ、最小化されたウィンドウ、またはバックグラウンドにあるウィンドウにフォーカスを設定します。

GetFields

画面のフォームフィールドのデータを返します。使用する前に、メソッドを設定する必要があります。

設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. フォームの要素を選択します。
3. フォームの要素のデータタイプを更新します。
4. **[OK]** をクリックします。

出力

Form element data

GetScreenShot

画面のスクリーンショットをキャプチャします。

出力

Return (Bitmap)

IsCreated

特定のウィンドウが、構成ウィンドウの [子要素を照合 (MATCH CHILDREN)] セクションで設定されたルールに一致するかどうかに応じて、ブール応答を返します。

入力

MatchAllChildren

出力

Return (Boolean)

最大化

ウィンドウを最大化します。

最小化

ウィンドウを最小化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SendKeys

Web ページとウィンドウ上のキーストロークをシミュレートします。

入力

キー

ClearExistingValue (Boolean)

TypeDelay

SetFields

フォームフィールドタイプでデータを設定します。フォームフィールドを設定するには、まずメソッドを設定する必要があります。設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. フォームの要素を選択します。
3. フォームの要素のデータタイプを更新します。
4. **[OK]** をクリックします。

入力

Form data field

WaitForCreate

Web ページまたはウィンドウがロードされるまでの遅延時間を設定します。

入力

timeoutInSeconds

MatchAllChildren

出力

Return (Boolean)

要素レベルのメソッド

これらのメソッドは、[プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの Global Objects の下にあるアプリケーション要素をダブルクリックすると公開されます。

クリック

クリック操作を実行します。

IsCreated

要素が [子要素を照合 (MATCH CHILDREN)] ウィンドウで設定されたルールに一致するかどうかを確認します。

出力

Return (Boolean)

SendKeys

Web ページとウィンドウ上のキーストロークをシミュレートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力

Keys (String)

ClearExistingValue

TypeDelay (Double)

SetPassword

Windows アプリケーションのパスワードフィールドへのパスワードの安全な入力を自動化します 。

フィールドに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

SetPassword メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
パスワード	パスワードをセキュリティで保護された文字列として受け入れます。	データ入力	セキュリティで保護された文字列	なし	はい	パスワードはセキュリティで保護された文字列として受け入れられるため、パラメーターを右クリックして [データをプレビュー] をクリックしたときに文字列の長さのみが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetPassword メソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	デフォルト値	必須？	メモ
UseSendKeys	SendKeys は、文字、数字、記号などのキーボード入力をアプリケーション内のテキストボックスに送信するために使用されるメソッドです。	データ入力	ブール	False	はい	ヒント: **SetPassword** メソッドで [パスワード] フィールドにパスワードを入力できなかった場合は、値を **[True]** に設定し、メソッドを再度実行します。

Windows コネクタメソッドのパラメーター

RPA デスクトップデザインスタジオ の Windows コネクタメソッドのパラメーターについて説明します。

Windows コネクタメソッドのパラメーター

パラメーター名	説明	必須？
引数	アプリケーションを起動するための初期値として渡す引数です。	いいえ
Form data field	要素のフォームフィールドに設定するデータです。	はい
Return (Bitmap)	画面のスクリーンショット画像をビットマップ形式で返します。	適用外
Path	アプリケーションを起動するための初期ファイルが保存されているディレクトリパスです。	はい
Form element data	キャプチャされたフォーム要素データを返します。	適用外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラメーターの入力

入力については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

アプリケーションレベルのメソッドのパラメーター

このパラメーターは、Java、 Google Chrome 、 Windows 、メインフレームなどのさまざまなアプリケーションにカスタム仕様を渡します。この仕様に基づいて、アプリケーションは出力を返します。このプロセスは ロボティックプロセス自動化 の一部です。

アプリケーションレベルのメソッドのパラメーター

パラメーター	説明	必須？
Return (Boolean)	非アクティブなウィンドウをアクティブに設定する要求に対するブール応答を返します。処理が成功すると True が返されます。	適用外
Form data	キャプチャされたフォーム要素データを返します。	適用外
MatchAllChildren	ターミナルセッションの実行中にメソッドがアプリケーションのすべての要素を照合するかどうかを示すオプションです。	いいえ
Action (MouseAction)	マウスデバイスが Java アプリケーションに対して実行するアクションです。	いいえ
キー	キー、キーの組み合わせ、または特殊キーを受け取って、特定のアクションをトリガーします。たとえば、 **[CTRL+A]** はすべてのテキストを選択します。	はい
Return (Integer)	開いている Java アプリケーションのインスタンスの数を整数で返します。	適用外
ClearExistingValue	True または False のブール応答を受け取った後、フィールドの既存の値をクリアまたは保持します。	いいえ
Keys (String)	特定のアクションを実行するショートカットキーです。	はい
ClearExistingValues	メソッドが Java アプリケーション上のフィールドの既存の値をクリアするかどうかを示すオプションです。	いいえ
TypeDelay	メソッドが実行されるまでの遅延時間を設定するオプションです。	いいえ
xPos	X 軸方向の Java アプリケーションの位置です。	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションレベルのメソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	必須？
yPo	Y 軸方向の Java アプリケーションの位置です。	いいえ
Width	X 軸方向の Java アプリケーションの幅です。	いいえ
Height	Y 軸方向の Java アプリケーションの高さです。	いいえ
TypeDelay	SendKeys メソッドの実行を秒単位で遅延させます。秒を指定します。	いいえ
timeoutInSeconds	メソッドがターミナルセッションの実行を待機するまでの時間です。指定された時間が経過してもターミナルセッションが実行されない場合、メソッドはタイムアウトします。	いいえ
Return (Boolean)	WaitforCreate 要求に対するブール応答を返します。設定されたタイムアウトより前にターミナルセッションが実行された場合、値は **[True]** です。	適用外
Return (Boolean)	ウィンドウまたは Web ページが要求を受け取る準備ができているかどうかを示すブール応答です。	いいえ
タイムアウト	要素のロード待機がタイムアウトするまでの時間です。	いいえ
Return (Boolean)	メソッドが要素のロードを待機したかどうかを示すブール応答です。	適用外
Return (Boolean)	すべての子要素が一致したかどうかを示すブール応答を返します。	適用外
Return (Integer)	Microsoft Windows ハンドルの整数値を返します。	適用外
MatchAllChildren	ウィンドウがロードされるのを待機している間、要求がウィンドウのすべてのパラメーターと一致するかどうかを示すオプションです。	いいえ
パラメーター	JavaScript のパラメーター値です。	はい
Return (Bitmap)	アクティブな Java アプリケーションウィンドウのキャプチャされたスクリーンショットをビットマップ形式で返します。	適用外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アプリケーションレベルのメソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	必須？
Return (Boolean)	Java アプリケーションがアクティブまたは利用可能かどうかを示すブール応答を返します。	適用外
Field (String)	フォームまたはテキストフィールドのデータを返します。	適用外
MatchAllChildren	ターミナルセッションの実行中にメソッドがアプリケーションのすべての要素を照合するかどうかを示すオプションです。	いいえ

要素レベルのメソッドのパラメーター

このパラメーターは、Java、 Google Chrome 、 Windows 、メインフレームなどのさまざまなアプリケーションの要素にカスタム仕様を渡します。この仕様に基づいて、アプリケーションは出力を返します。このプロセスは ロボティックプロセス自動化 の一部です。

要素レベルのメソッドのパラメーター

パラメーター	説明	必須？
Return (Boolean)	[一致ルール (MATCH RULE)] セクションのルールに一致しているかどうかを示すブール応答を返します。応答は True または False です。	適用外
ClearExistingValue	True または False のブール応答を受け取った後、フィールドの既存の値をクリアまたは保持します。	いいえ
TypeDelay	SendKeys メソッドの実行を秒単位で遅延させます。秒を指定します。	いいえ
Value (String)	キー、キーの組み合わせ、または特殊キーを受け取って、特定のアクションをトリガーします。たとえば、 **[CTRL+A]** はすべてのテキストを選択します。	はい
Return (String)	要素に対して実行できるアクションのリストを返します。	適用外
戻る	アクションが成功したかどうかを示すブール応答を返します。	適用外
Action (String)	メソッドで実行するアクションを示すオプションです。	はい
Keys (String)	キー、キーの組み合わせ、または特殊キーを受け取って、特定のアクションをトリガーします。たとえば、 **[CTRL+A]** はすべてのテキストを選択します。	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

要素レベルのメソッドのパラメーター (続く)

パラメーター	説明	必須？
Return (Boolean)	Click メソッドが成功したかどうかを示すブール応答です。	適用外

Data Modellers

Data Modeller は、フィールドやデータを PDF ドキュメントや XML ドキュメントに追加することで、テンプレートを作成します。また、テンプレートを分類し、作成されたフィールドやデータを使用するためのメソッドも提供します。

- Data Modeller を使用するには、「XmlTemplate コンポーネントの使用」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

XmlTemplate コンポーネントの使用

カスタムデータまたはカスタムフィールドをドキュメントに追加することによって、既存の XML または PDF ドキュメントからテンプレートを作成します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
XmlTemplate コンポーネントは、テンプレートを使用して作業するメソッドも提供します。メソッドを公開するには、「XmlTemplate メソッドの表示」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Data Modellers]** > **[XMLTemplate]**に移動します。
2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの Global Objects の下に XmlTemplate コンポーネントをドラッグします。
3. Global Objects ノードをクリックして展開します。
4. XmlTemplate を右クリックします。
5. [構成] をクリックします。
6. [テンプレート **(TEMPLATES)]** セクションで、テンプレートを追加アイコン ( ) をクリックします。
7. 追加されたテンプレートをクリックします。
   新しいテンプレートは、デフォルトで `Template<number>` のフォーマットで名前が付けられています。[XML テンプレートデザイナー (XML TEMPLATE DESIGNER)] ウィンドウの [プロパティ] セクションにある [名前] フィールドから名前を変更できます。
8. 既存の PDF または XML ドキュメントを選択するには、**[XML / PDF** ファイル] フィールドで、XML または PDF ファイルをロードアイコン ( ] をクリックします。
9. ローカルドライブから XML または PDF ファイルを選択します。
   プレビューでは、対応する XML タグの下にドキュメントデータが表示されます。
10. ファイルにフィールドを追加するには、必要な XML タグを右クリックします。
11. 次のフィールドオプションのいずれかを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- テキスト
- テキストアレイ
- テーブル
- XPath

フィールドを追加して、テンプレートの更新が正常に行われました。

12. オプション: [プロパティ] セクションの [名前] フィールドで、追加したテンプレートに対するカスタム名を入力します。
13. オプション: さらにフィールドを追加するには、手順を繰り返します。
14. [XML テンプレートデザイナー (XML TEMPLATE DESIGNER)] ウィンドウを閉じます。

XmlTemplate メソッドの表示

XmlTemplate コネクタを設定した後、そのメソッドを公開できます。

始める前に
必要なロール：なし

手順

1. **[Data Modellers] > [XMLTemplate]**に移動します。
2. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの Global Objects の下に XmlTemplate コネクタをドラッグします。
3. Global Objects ノードを展開します。
4. XmlTemplate コネクタをダブルクリックします。
メソッドが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

XmlTemplate コネクタのメソッド

XMLTemplate メソッドはテンプレートを分類し、テンプレートに追加されたフィールドを取得します。

Clasify

作成されたテンプレートを分類します。テンプレートの作成手順については、「XmlTemplate コンポーネントの使用」を参照してください。

実行する前に、まずメソッドを設定する必要があります。設定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. 必要なテンプレートを選択します。
3. **[OK]** をクリックします。

入力

FilePath

ステータス

テンプレート

GetFields

テンプレートに追加されたフィールドを返します。使用する前に、メソッドを設定する必要があります。設定するには、次の手順を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. 必要なテンプレートを選択します。
3. 対応するフィールドを選択します。

   選択されたフィールドごとに、データ出力フィールドが追加されます。

4. **[OK]** をクリックします。

XmlTemplate コネクタメソッドのパラメーター

RPA デスクトップデザインスタジオ の XmlTemplate コネクタメソッドのさまざまなパラメーターについて説明します。

XmlTemplate コネクタメソッドのパラメーター

パラメーター名	説明	必須？
FilePath	テンプレートの作成に使用される PDF または XML ドキュメントへのパスです。	はい
ステータス	テンプレートが正しくロードされたかどうかを示すブール応答です。	適用外
テンプレート	XmlTemplate コネクタで設定されたテンプレート名です。	はい

XmlTemplate メソッドのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の XmlTemplate メソッドのプロパティについて説明します。

XmlTemplate メソッドのプロパティ

プロパティ名	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

全般

RPA デスクトップデザインスタジオ の General コンポーネントによって、多様なユースケースが自動化されます。たとえば、データベースクエリの実行から変数の受け渡しまで、幅広く対応できます。

Confirm コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの Confirm コンポーネントを使用して、ユーザー入力を必要とするダイアログボックスに表示される確認メッセージを設定します 。

始める前に

必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

Confirm コンポーネントは、アテンド型ロボットの自動化の一部として使用されます。このコンポーネントを使用して、ユーザーアクションに対する応答としてユーザーからの確認を要求します。たとえば、ユーザーがファイルを保存するかどうか、ユーザーからの入力を要求します。

プロパティを設定するには、「Confirm コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[General]** > **[MessageBox]**に移動します。
2. Confirm コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Confirm コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

Confirm コンポーネントポートのパラメーター

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
データ入力	メッセージ	文字列	別のコンポーネントから確認メッセージを取得します。	デフォルト値なし	はい
データ出力	戻る	ブール	ユーザー入力に基づいてブール値を返します。 True の場合、ユーザーは **[OK]**をクリックしています。False の場合、ユーザーは **[False]** をクリックしています。	適用外	適用外

5. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Input コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Input コンポーネントを使用して、 ユーザー入力ダイアログを設定します。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

Input コンポーネントは、アテンド型ロボット の自動化で使用されます。

プロパティを設定するには、「Confirm コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[General]** > **[MessageBox]**に移動します。
2. Input コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. オプション: 下表に従って、Input コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

Input コンポーネントデータポートのパラメーター

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
データ入力	メッセージ	文字列	別のコンポーネントから、ユーザー入力ダイアログの見出しを取得します。	デフォルト値なし	いいえ
データ出力	戻る	文字列	フォームに入力された入力を返します。	適用外	適用外

5. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Input Password コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Input Password コンポーネントを使用して、パスワード入力フォームを設定します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Input Password コンポーネントは、アテンド型ロボット の自動化で使用されます。

Input Password コンポーネントのプロパティを設定するには、「Properties of Confirm components (Confirm コンポーネントのプロパティ)」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[General]** > **[MessageBox]**に移動します。
2. Input Password コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. パラメーターに入力を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Input Password コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

Input Password コンポーネントデータポートのパラメーター

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
データ入力	メッセージ	文字列	前に実行されたコンポーネントから、パスワードの先	デフォルト値なし	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
			頭文字を取得します。		
データ出力	戻る	安全な文字列	フォームに入力されたパスワードを安全な文字列として返します。	適用外	適用外

5. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Show コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Show コンポーネントを使用して、アテンド型ロボット の自動化の一部として、カスタムメッセージを表示します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
たとえば、支援型の自動化では、コンポーネントがユーザー入力を評価し、Show コンポーネントで `Incorrect Date of Birth` というメッセージを表示できます。

Show コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「General コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[General]** > **[MessageBox]**に移動します。
2. Show コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Show コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

Confirm コンポーネントポートのパラメーター

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ入力	メッセージ	文字列	コンポーネントが表示するカスタムメッセージを取得します。	はい

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Variable コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ で変数を作成します。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
Variable コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「General コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

Variable コンポーネントの使用については、「RPA デスクトップデザインスタジオ で変数を作成して使用する」を参照してください。

Try Catch コンポーネントの使用

自動化のコンポーネントで発生したエラーまたは例外をキャッチします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Try Catch コンポーネントのプロパティを設定するには、「Properties of the Try Catch component (Try Catch コンポーネントのプロパティ)」を参照してください。

Try Catch コンポーネントに関連する問題の詳細については、『KB 記事KB1123551』、『KB 記事KB1123552』、および『KB 記事KB1123556』を参照してください。

自動化で Try Catch コンポーネントの複数のインスタンスを使用して、同じ実行パス上にある他のコンポーネントからのエラーを処理できます。Try Catch コンポーネントがコンポーネント内のエラーまたは例外をキャッチした場合、失敗したコンポーネントの後の自動化は実行されません。Try Catch コンポーネントはエラーメッセージを返し、オプションで、On Error ポートに接続されている代替フローを実行できます。Try Catch コンポーネントを構成するアクティビティが、同じ実行パス沿いに Try Catch コンポーネントがない別のアクティビティを、その Try Catch コンポーネントの後に呼び出す場合、Try Catch コンポーネントは呼び出し先アクティビティでエラーがあればキャッチできます。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[General]** > **[Try Catch]**に移動します。
2. Try Catch コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、Try Catch コンポーネントのポートを、他のコンポーネントまたはアクティビティの該当ポートに接続します。

Try Catch コンポーネントポートのパラメーター

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
コントロール出力	Control-Out	適用外	エラーがない場合、コントロールを別のコンポーネントまたはアクティビティに渡します。	適用外	はい
コントロール出力	エラー時	適用外	Try Catch コンポーネントがエラーをキャッチした後、コントロールを別のコンポーネン	適用外	いいえ。ポートの接続はオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
			トまたはアクティビティに渡します。 Try Catch コンポーネントがエラーまたは例外をキャッチした後、現在のアクティビティまたは別のアクティビティで別のコンポーネントを実行したい場合に、このポートを使用します。		
データ出力	エラーメッセージ	文字列	エラーメッセージを返します。	適用外	いいえ。ポートの接続はオプションです。

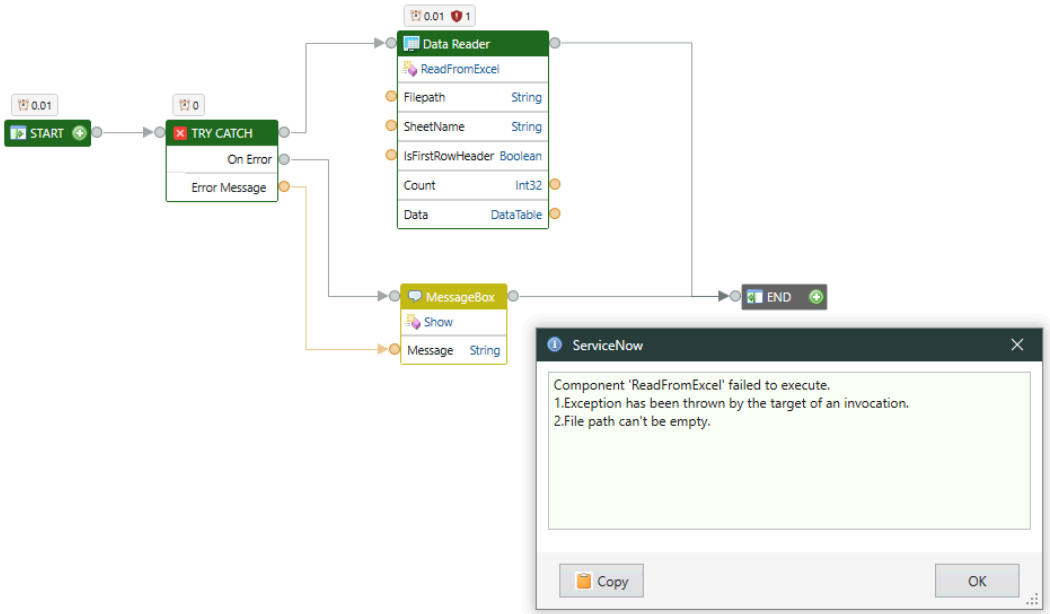
4. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

   注: Try Catch コンポーネントは、Parallel コンポーネントを使用すると正常に機能しない場合があります。

Example: Try Catch コンポーネントが ReadFromExcel メソッドからのエラーをキャッチする

Try Catch コンポーネントが ReadFromExcel メソッドからのエラーをキャッチします。その後、On Error ポートが Show コンポーネントにコントロールを渡します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



Expression コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Expression コンポーネントを使用して、さまざまなオペランドと演算子で数学演算および論理演算を実行します。Expression コンポーネントでは、複数の演算子と関数が使用できます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
各演算子には優先順位があり、式と演算子を組み合わせて使用できます。演算子の優先順位は以下のとおりです。

1. プライマリ
2. 単項
3. べき乗
4. 乗法
5. 加法
6. 関係
7. 論理

Expression コンポーネントでは、複数の関数が使用できます。「Expression コンポーネントでサポートされている関数」を参照してください。

Expression コンポーネントのプロパティが設定可能です。

Expression コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。

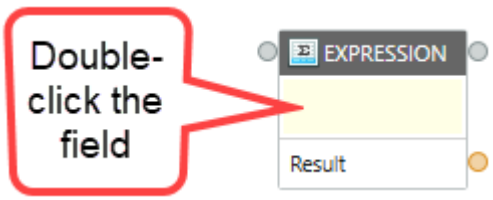
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Expression コンポーネントのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[General]** > **[Expression]**に移動します。
2. Expression コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 淡い黄色のフィールドをダブルクリックし、式を入力します。



データ入力ポートは各オペランドに動的に追加されます。たとえば、式 X+Y を入力すると、「X」と「Y」に対して 2 つのデータ入力ポートが追加されます。データ入力ポートはオペランドの値を受け取ります。

4. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
5. 下表に従って、Expression コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

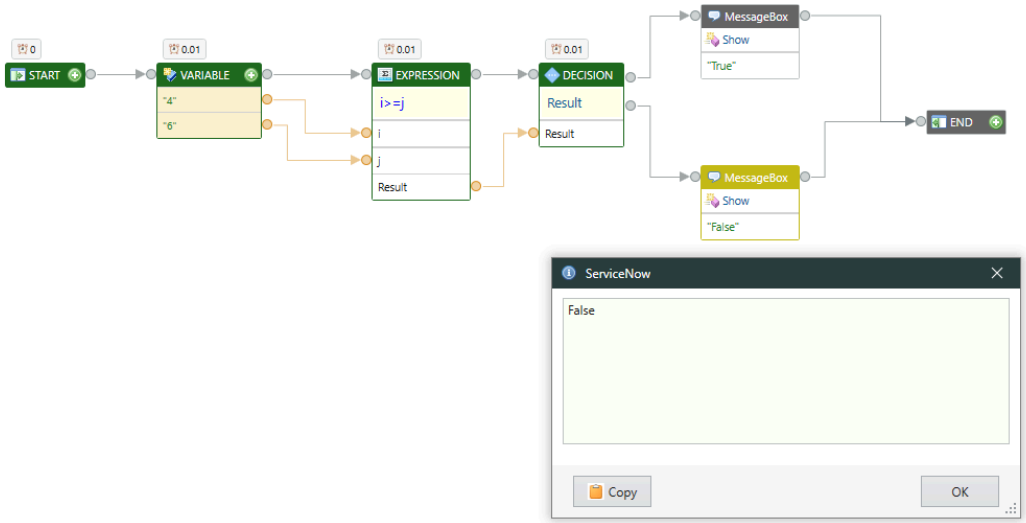
Expression コンポーネントポートのパラメーター

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須?
データ入力	ポートの名前はオペランドの名前と同じです。たとえば、X がオペランドの場合、ポート名は「X」です。	文字列	オペランドの値を取得します。	デフォルト値はありません。	はい
データ出力	結果	オブジェクト	式の結果を返します。	適用外	適用外

6. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: Expression コンポーネントが 2 つのオペランド間で数学演算を実行する



この例では、Variable コンポーネントが Expression コンポーネントで設定された 2 つのオペランド「i」と「j」の整数値を渡します。Expression コンポーネントは値を取得して、i>=j の値であるかどうかを確認します。結果は Decision コンポーネントに渡されます。Decision コンポーネントは結果を Show コンポーネントに渡します。この例では、「i」の値が「j」より小さいため、Show コンポーネントはメッセージボックスに「False」を表示します。

Find Window コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ロボティックプロセス自動化 Workflow の一部として、非アクティブまたはバックグラウンドで実行中のさまざまなウィンドウにフォーカスを戻します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Find Window コンポーネントは、ウィンドウに関連付けられた 1 つまたは複数のルールを識別し、後でそのルールを使用してウィンドウにフォーカスを戻します。コンポーネントは、ウィンドウのウィンドウハンドルも返します。

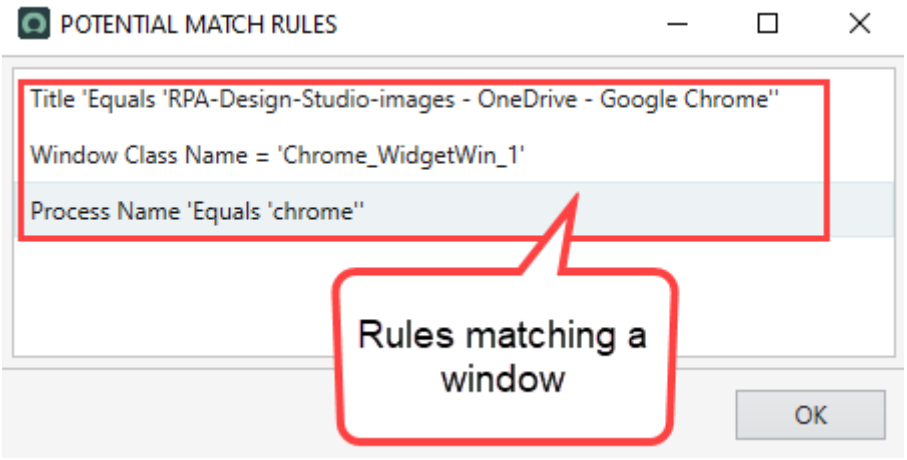
Find Window コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「General コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[General]** > **[Find Window]**に移動します。
2. Find Window コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
4. ウィンドウをキャプチャアイコン ( ) をクリックしてドラッグし、検索するウィンドウにドロップします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[潜在的な一致ルール (POTENTIAL MATCH RULES)] ウィンドウには、ウィンドウに一致するルール



が表示されます。

5. ルールをクリックして、ルールを選択します。

   ヒント: 複数のルールを選択するには、Shift キーを押しながらルールをクリックします。

6. [潜在的な一致ルール (POTENTIAL MATCH RULES)] ウィンドウで、**[OK]** をクリックします。
   [ウィンドウ一致ルールを検索 (FIND WINDOW MATCH RULES)] ウィンドウには、キャプチャされたウィンドウに一致するルールが表示されます。
7. [ウィンドウ一致ルールを検索 (FIND WINDOW MATCH RULES)] ウィンドウで、**[OK]** をクリックします。
8. Find Window コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

Find Window コンポーネントポートのパラメーター

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ入力	フォーカスを設定	ブール	True の場合、フォーカスはウィンドウに設定されます。そうでない場合、ウィンドウはバックグラウンドで継続的に実行されます。	はい
コントロール出力	失敗	適用外	コンポーネントが実行に失敗した場合、次のコンポーネントにコントロールを渡します。	いいえ
データ出力	ウィンドウハンドル	整数	ウィンドウハンドルを返します。	適用外です。

9. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Parallel コンポーネントの使用

複数のコンポーネントを順番に実行して、複数のアクションを実行します。Parallel コンポーネントは、RPA デスクトップデザインスタジオ の ロボティックプロセス自動化 の一部として、複数のコンポーネントを実行できる複数のスレッドを公開します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
たとえば、2 つのスレッドを設定できます。コンポーネントは、スレッド 1 では Start App コンポーネントを使用して Google Chrome ウィンドウを起動し、スレッド 2 では Send Keys コンポーネントを使用して URL を入力します。

Parallel コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「General コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[General]** > **[Parallel]**に移動します。
2. Parallel コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. スレッドの追加アイコン ( ) をクリックします。
   スレッドのコントロール出力ポートがコントロールを渡し、次のコンポーネントを実行します。
4. さらにスレッドを追加するには、手順を繰り返します。
5. 1 つまたは複数のコンポーネントをスレッドに接続して、複数のワークフローを作成します。
6. 下表に従って、Parallel コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

Find Window コンポーネントポートのパラメーター

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
コントロール出力	スレッド	適用外	スレッドから次のコンポーネントにコントロールを渡します。	はい

7. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

> **注:** [ユーティリティ] カテゴリの下にある Send Keys および Mouse の各コンポーネントは、Parallel コンポーネントを使用すると機能しません。

Script コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Script コンポーネントを使用して、カスタム Visual Basic (VB) スクリプトを記述し、実行します。

始める前に
必要なロール：なし

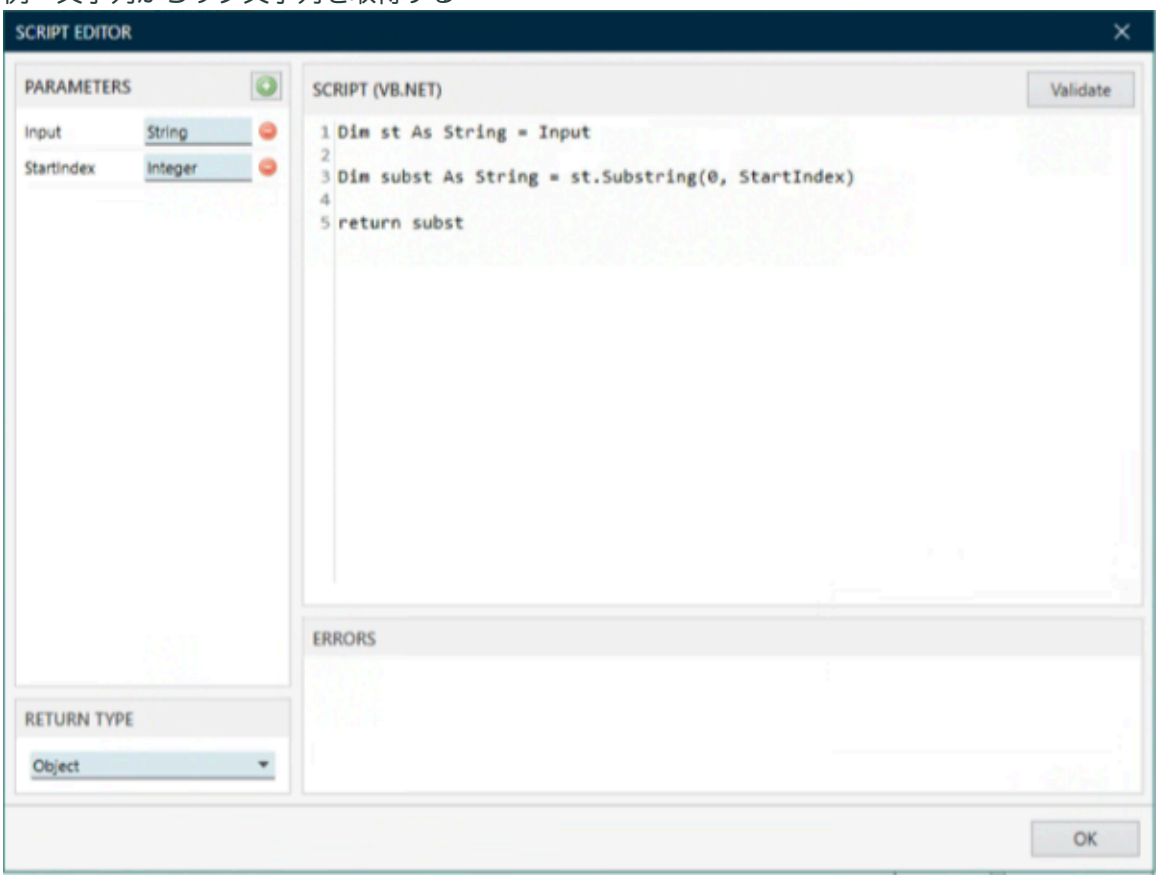
このタスクについて
Script コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「General コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

このコンポーネントを使用して、既存の RPA コンポーネントの対象でないアクションを実行したり、複数のコンポーネントのアクションを組み合わせたりすることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

たとえば、Script コンポーネントの VB スクリプトを使用して、文字列からサブ文字列を取得できます。文字列と開始文字の位置を指定できます。

例：文字列からサブ文字列を取得する



手順

1. [ツールボックス] ペインで、[全般 **(General)]** > [スクリプト **(Script)]**に移動します。
2. Script コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
4. SCRIPT (VB.NET) の見出しの下に、カスタム VB スクリプトを入力します。
5. オプション: スクリプトにパラメーターを追加するには、次の手順を実行します。
   a. パラメーターを追加アイコン ( ) をクリックします。
   b. パラメーターのデータタイプを更新します。
   c. さらにパラメーターを追加するには、手順を繰り返します。
   追加されるパラメーターごとに、データ入力ポートが追加されます。
6. オプション: 出力データタイプを設定するには、RETURN TYPE の見出しの下でデータタイプを選択します。
7. スクリプトを検証するには、[検証] をクリックします。
   エラーがある場合は、[エラー] セクションに表示されます。続行する前にエラーをすべて修正する必要があります。
8. **[OK]** をクリックして、[スクリプトエディター (SCRIPT EDITOR)] ウィンドウを閉じます。
9. 下表に従って、Script コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポート名	説明	ポートタイプ	必須？
Parameter	パラメーターの値を入力、または前に実行されたコンポーネントの値を使用します。	データ入力	いいえ。このポートの接続はオプションです。
Return	スクリプトの出力を返し、次のコンポーネントに渡します。	データ出力	はい。 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。

10. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

SQL コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SQL コンポーネントを使用して、さまざまな処理を実行するカスタム SQL クエリを記述します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SQL コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「General コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[General]** > **[SQL]**に移動します。
2. SQL コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
4. SCRIPT (SQL) の見出しの下に、カスタム SQL クエリを記述します。
5. オプション: クエリにパラメーターを追加するには、次の手順を実行します。
   a. パラメーターを追加アイコン ( ) をクリックします。
   b. パラメーターのデータタイプを更新します。
   c. さらにパラメーターを追加するには、手順を繰り返します。
   追加されるパラメーターごとに、データ入力ポートが追加されます。
6. **[OK]** をクリックします。
7. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
8. [ポートプロパティ (PORT PROPERTIES)] ダイアログを閉じるには、**[OK]** をクリックします。
9. 下表に従って、SQL コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラメーター	説明	データポートタイプ
Connection Provider	アプリケーションがデータベースと通信できるようにするデータテーブル接続プロバイダーを取得します。 例： SqlClient、MySqlClient	データ入力

Connection String	Connection String は、サーバー名、ユーザー名、パスワードなどの詳細を使用して、必要なデータソースへの接続を支援します。認証タイプに応じて、次の Connection String のプレースホルダーパラメーター値 (<myUser> や <myPassword> など) を実際の値に置き換えます。
	例：
	SQL 認証の場合：
	`Server=<MY_SERVER>;Database=<MyDatabase>;User Id=<myUser>;Password=<myPassword>;`
	Windows 認証の場合：
	`Server=MY_SERVER;Database=MyDatabase;Trusted_Connection=True;`
	Oracle データベースの場合：
	`Data Source=MyTnsName;User Id=myUsername;Password=myPassword;`
		データ入力

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラメーター	説明	データポートタイプ

	MySQL データベースの場合：
	`Server=MY_SERVER;Database=MyDatabase;User Id=myUsername;Password=myPassword;`
	ODBC データベースの場合：
	`Driver={SQL Server};Server=MY_SERVER;Database=MyDatabase;Uid=myUsername;Pwd=myPassword;`
	OLEDB データベースの場合：
	`Provider=SQLOLEDB;Data Source=MY_SERVER;Initial Catalog=MyDatabase;User Id=myUsername;Password=myPassword;`	

Parameter	前に実行されたコンポーネントからパラメーター値を取得します。	データ入力
データテーブル	データテーブルを返し、次のコンポーネントに渡します。	データ出力

10. 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
11. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

Start App コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Start App コンポーネントを使用して、アプリケーションまたはファイルを起動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Start App コンポーネントのプロパティが設定可能です。

Start App コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
高さ	起動するアプリケーションウィンドウの高さを指定します。
左	画面の左端に沿って、起動するアプリケーションの場所を指定します。
最高	画面の上端に沿って、起動するアプリケーションの場所を指定します。
幅	起動するアプリケーションウィンドウの幅を指定します。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。
最大待機時間 (秒)	画像またはアプリケーションが画面に表示されるまで待機する最大時間 (秒)。 デフォルト値は 30 秒です。
Wait For Start	アクションが実行されるまでの待機時間 (秒) を指定します。
状況	Windows ベースまたは Web ベースのアプリケーションが起動される状態を指定します。状況には、通常、最大化、最小化、非表示、またはカスタムロケーションがあります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[General]** > **[START APP]**に移動します。
2. Start App コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Start App コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

Start App コンポーネントポートのパラメーター

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
データ入力	ファイルパス	文字列	ローカルディスク内のファイルまたはア	デフォルト値なし	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
			プリケーションへのパスを取得します。		
データ入力	引数	文字列	パスの引数を取得します。 たとえば、Google Chrome ブラウザーへのローカルパスを指定する場合、引数は https://servicenow.com になります	デフォルト値なし	いいえ。ポートの接続はオプションです。
データ出力	ウィンドウハンドル	整数	ファイルまたはアプリケーションのウィンドウハンドルを返します。	適用外	適用外

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Format Text コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Format Text コンポーネントで変数プレースホルダー、行変数とタブ変数を使用して、テキストをフォーマットします。変数プレースホルダー、行変数とタブ変数を更新するだけで、テキストとその位置を簡単に更新できます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Format Text コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「General コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[General]** > **[Format Text]**に移動します。
2. Format Text コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. テキストプレースホルダー変数を設定するには、次の手順を実行します。

   a. 変数を追加アイコン ( ) をクリックします。
   追加される変数ごとに、データ入力ポートが追加されます。

   b. 変数値を設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

   c. オプション: さらに変数および値を追加するには、手順を繰り返します。

4. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. テキストフォーマットエディターでテキストを挿入します。
6. テキストを挿入します。
7. オプション: テキスト内の適切な位置に、行区切りの \n またはタブ区切りの \t の各変数を挿入します。
8. テキスト変数プレースホルダーを、テキスト本文中の適切な位置に挿入します。

   ヒント: テキストを更新するには、プレースホルダー値を更新します。

9. 下表に従って、Format Text コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Variable)	前に実行されたコンポーネントから変数値を取得します。	はい
データ出力 (Formatted Output)	書式設定済みテキストを返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	次のコンポーネントにコントロールを渡します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

10. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Terminate コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの Terminate コンポーネントを使用して、自動化を中止します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Terminate コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「General コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

自動化の実行を完了するには、有人自動化の Terminate コンポーネントを使用します。埋め込みタスクの自動化の詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[General]** > **[Terminate]**に移動します。
2. Terminate コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. オプション: 下表に従って、Terminate コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

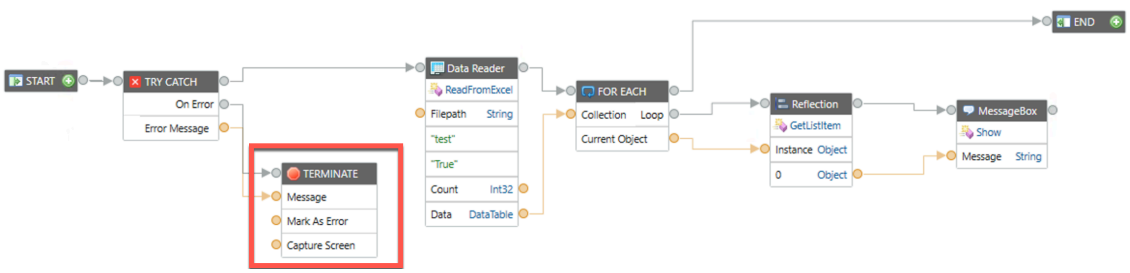
ポート名	接続の目的	ポートタイプ	データタイプ	必須？	メモ
メッセージ	自動化が終了したときのメッセージを取得します。 (Optional) このメッセージは、プロセスジョブにも表示されます。	データ入力	文字列	いいえ。ポートの接続はオプションです。	エラーとしてマークのポートのブール値入力が True の場合、メッセージを入力する必要があります。
エラーとしてマーク	プロセスジョブのステータスを示すブール値を取得します。True の場合、プロセスジョブのステータスは失敗です。False の場合、プロセスジョブのステータスは成功です。	データ入力	ブーリアン	いいえ。ポートの接続はオプションです。	プロセスジョブのステータスは、インスタンス内の各プロセスの [ジョブを処理] タブで確認できます。
画面をキャプチャ	自動化の実行に失敗したときにコンポーネントがスクリーンショットをキャプチャするかどうかを示すブール値を取得します。 True の場合、その時点で画面がキャプチャされます。False の場合、画面はキャプチャされません。	データ入力	ブーリアン	いいえ。ポートの接続はオプションです。	スクリーンショットを表示するには、次のアクションを実行します。 **a.** [デザイン] タブで、[添付] > [ログの削除 **(Remote log)]** をクリックします。 **b.** 必要なプロセスジョブを選択し、[ログをフェッチ **(Fetch**

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポート名	接続の目的	ポートタイプ	データタイプ	必須？	メモ
	注: RPA ハブのボットプロセスレコードで [実行ログの追跡 **(Track Execution Logs)]** 設定が有効になっていることを確認します。出力タイプとして「フラットファイル」が選択されている場合、スクリーンショットはキャプチャされません。				**Logs)]** をクリックします。 c. [ログを再生 **(Play log)]** をクリックします。 [実行ログ] ウィンドウにスクリーンショットが表示されます。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Example:
たとえば、Excel からデータを読み取る必要がある自動化ワークフローで、For Each ループと GetListItem コンポーネントを使用して DataTable からデータを抽出し、メッセージボックスに表示します。Excel からデータを読み取っているときにエラーが発生した場合は、Try Catch コンポーネントを使用して例外を処理し、Terminate コンポーネントを使用して自動化を終了できます。エラーメッセージはプロセスジョブにも表示されます。



Wait For Time コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Wait For Time コンポーネントを使用して、待機時間を設定します。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
Wait For Time コンポーネントは、自動化内の任意の場所で使用できます。設定した待機時間に応じて、Wait For Time コンポーネントより前のコンポーネントが実行された後に、自動化は待機します。

Wait For Time コンポーネントのプロパティを設定するには、「Wait コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

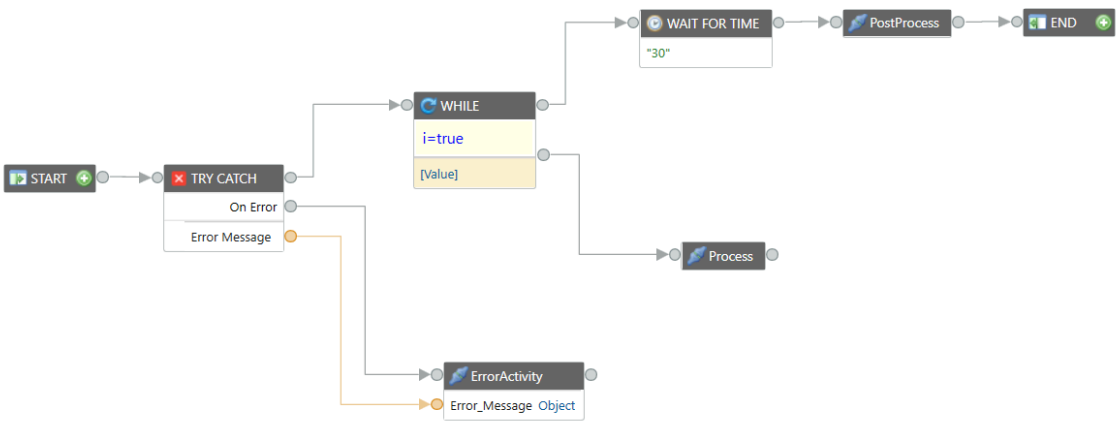
手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[General]** に移動します。
2. Wait For Time コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 待機時間を設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. オプション: 下表に従って、Wait For Time コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	目的	必須?	メモ
データ入力	待機時間 (秒)	整数	待機時間を取得します。	はい	

5. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Example: 自動化内の待機時間の設定



この例では、「i」の値が true である間、WHILE コンポーネントが実行されます。Wait For Time コンポーネントは、While コンポーネントと Post Process コンポーネントの間に配置されます。Wait For Time コンポーネントは、Post Proces コンポーネントが実行されるまでに 30 秒の待機時間を置きます。

Expression コンポーネントでサポートされている関数

RPA デスクトップデザインスタジオ の Expression コンポーネントのさまざまな関数について説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Expression コンポーネントでサポートされている関数

名前	説明	使用法	結果
Abs	指定された数値の絶対値を返します。	Abs	1
Acos	コサインが指定された数値である角度を返します。	Acos	(1)
Asin	サインが指定された数値である角度を返します。	Asin(0)	0
Atan	タンジェントが指定された数値である角度を返します。	Atan(0)	0
天井	指定された数値以上の整数の内、最小の整数を返します。	Ceiling(1.5)	2
Cos	指定された角度のコサインを返します。	Cos(0)	1
Exp	指定されたべき乗値を返します。	Exp(0)	1
フロア	指定された数値以下の整数の内、最大の整数を返します。	Floor(1.5)	1
IEEERemainder	指定された数値を別の指定された数値で除算したときの剰余を返します。	IEEERemainder(3, 2)	-1
ログ	指定された数値の対数を返します。	Log(1, 10)	0
Log10	指定された数値の底の 10 対数を返します。	Log10(1)	0
最大	指定された 2 つの数値の内、大きい方を返します。	Max(1, 2)	2
最小	2 つの数値の内、小さい方を返します。	Min(1, 2)	1
Pow	指定された数値の指定されたべき乗を返します。	Pow(3, 2)	9
Round	値を最も近い整数または指定された小数位に丸めます。中間数の作用は、Expression オブジェクトのビルド時に EvaluateOption.Round	Round(3.222, 2) AwayFromZeo	3.22

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Expression コンポーネントでサポートされている関数 (続く)

名前	説明	使用法	結果
	を使用して変更できます。		
署名	数値の符号を示す値を返します。	Sign(-10)	-1
Sin	指定された角度のサインを返します。	Sin(0)	0
Sqrt	指定された数値の平方根を返します。	Sqrt(4)	2
Tan	指定された角度のタンジェントを返します。	Tan(0)	0
切り捨て	数値の積分部分を計算します。	Truncate(1.7)	1
NCalc	NCalc は .NET の数式エバリュエーターです。この関数を使用すると、任意の式を解析して結果を評価できます。これには、静的または動的なパラメーター、またはカスタム関数が含まれます。	詳細については、次を参照してください：https://github.com/ncalc/ncalc/wiki	

General コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の General コンポーネントのプロパティについて説明します。

Confirm コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

Try Catch コンポーネントのプロパティ

実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ITSM コネクタ

ITSM コネクタは、Windows Management Instrumentation (WMI) コネクタと PowerShell コネクタの 2 つのコネクタで構成されています。WMI コネクタを使用すると Windows オペレーティングシステムとやり取りして重要な情報を取得でき、PowerShell コネクタを使用すると IT サービスに対してさまざまなアクションを実行できます。

- ITSM コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

PowerShell コネクタのメソッド

PowerShell コネクタのメソッドは、Microsoft PowerShell とのインターフェイスとして機能し、RPA デスクトップデザインスタジオ で要求を送信したり、応答を取得したりします。

CreateShell

コマンドおよびスクリプトの形式で入力を渡すインターフェイスとして機能します。CreateShell メソッドは、最初に使用する必要があるメソッドです。

InvokeCommand

ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータでコマンドやスクリプトのブロックを実行し、エラーがある場合はその出力を取得します。

注: このメソッドを実行する前に、CreateShell メソッドを実行する必要があります。

入力

Command (String)

出力

戻る

InvokeScript

ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータでスクリプトを実行し、出力を取得します。

注: このメソッドを実行する前に、CreateShell メソッドを実行する必要があります。

入力

スクリプト

出力

戻る

PSObjectToString

他のメソッドまたはコンポーネントから PowerShell オブジェクトを受け取り、文字列に変換します。

入力

PSObject

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetValuesByProperty

PowerShell オブジェクトを受け取り、さまざまなプロパティの値を取得します。

入力

PSObject

出力

Return (String)

切断

PowerShell への接続を切断します。

Serialize

PowerShell オブジェクトを受け取り、オブジェクトを文字列として返します。

入力

PSObject

出力

Return (String)

PowerShell コネクタメソッドのパラメーター

RPA デスクトップデザインスタジオ の Microsoft PowerShell コネクタメソッドのさまざまなパラメーターについて説明します。

PowerShell コネクタメソッドのパラメーター

パラメーター名	説明	必須？
Command (String)	ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータで実行するコマンドです。	はい
戻る	コレクションとしてのコマンドの出力です。	適用外
スクリプト	ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータで実行するスクリプトです。	はい
戻る	返されるスクリプトの出力です。	適用外
PSObject	前に実行されたメソッドから PowerShell オブジェクトを取得します。	はい
Return (String)	PowerShell オブジェクトのプロパティの値を返します。	適用外
PSObject	PowerShell オブジェクト形式のデータです。	はい
Return (String)	PowerShell オブジェクトを文字列として返します。	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラメーター値の入力

パラメーター値を入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照して ください。

WMI コネクタのメソッド

Windows Management Instrumentation (WMI) コネクタのメソッドは、WMI とのインターフェイスとして機能し、RPA デスクトップデザインスタジオ でさまざまな要求を送信したり、応答を取得したりします。

コネクト

WMI との接続を確立します。他のメソッドを実行する前に、まずこのメソッドを実行する必要があります。

入力

- ホスト名
- ユーザー名
- パスワード

GetDiskDetails

ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータの名前、メーカー、モデル、メディアタイプなどのディスクの詳細を返します。

出力

- Hashtable

GetEnvironmentValue

ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータの環境変数の値を返します。

入力

- Var

出力

- 戻る

GetProcessesByCpuUsage

リモートコンピュータまたはローカルコンピュータのすべてのプロセスの CPU 使用率を返します。

出力

- Return (Sorted Dictionary)

GetProcessesByMemUsage

リモートコンピュータまたはローカルコンピュータのすべてのプロセスのメモリ使用量を取得します。

出力

- Return (Sorted Dictionary)

PageFaultsPerSecond

1 秒あたりのページ例外の合計数を取得します。ページ例外をオブジェクトとして返します。

出力

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

戻る

PageFilePercentUsage

ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータによるページファイルの使用率をパーセンテージで取得します。ページパーセンテージをオブジェクトとして返します。

出力

戻る

PercentMemoryUsage

ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータで使用されている総メモリのパーセンテージを返します。パーセンテージをオブジェクトとして返します。

出力

戻る

PercentProcessorUsage

ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータで使用されている総プロセスのパーセンテージを取得します。パーセンテージをオブジェクトとして返します。

出力

戻る

クエリ

クラスとフィルターを指定して、ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータに照会します。

入力

クラス

フィルター

出力

戻る

TotalPhysicalMemory

利用可能な物理メモリの合計を示します。出力をオブジェクトとして返します。

AvailableMBytes

利用可能な合計メガバイト数を示します。

出力

戻る

WMI コネクタメソッドのパラメーター

Windows Management Instrumentation (WMI) コネクタメソッドのパラメーターを使用すると、RPA デスクトップデザインスタジオ の自動化 ワークフロー の一部として、WMI にカスタム入力を送って、ディスクの詳細、環境値、CPU 使用率の取得など、さまざまなアクションを実行できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

WMI コネクタメソッドのパラメーター

パラメーター名	説明	必須？
ホスト名	ローカルコンピュータまたはリモートコンピュータのホスト名。	はい
ユーザー名	ホストのユーザー名です。	はい
パスワード	ローカルホストまたはリモートホストに接続するためのパスワードです。	はい
Hashtable	ハッシュテーブル形式のローカルコンピュータまたはリモートコンピュータのディスクの詳細です。	適用外
Var	環境変数の名前です。	はい
戻る	環境変数の値です。	適用外
クラス	入力としてのクラスです。	はい
フィルター	入力としてのフィルターです。	はい
Return (Sorted Dictionary)	メモリ使用量の値をキーと値のペアでソートされた辞書として返します。	適用外
Return (Sorted Dictionary)	CPU 使用率の値をキーと値のペアでソートされた辞書として返します。	適用外
戻る	Windows 内のシステムファイルの使用率の値をオブジェクトとして返します。	適用外
戻る	1 秒あたりのページフォルト値をオブジェクトとして返します。	適用外
Return (Object)	メモリ使用量の値をパーセンテージでオブジェクトとして返します。	適用外
戻る	プロセッサ使用率の値をパーセンテージでオブジェクトとして返します。	適用外
戻る	利用可能なメモリをバイト単位で整数で返します。	適用外
戻る	結果をオブジェクトとして照会します。	適用外

パラメーター値の入力

パラメーター値を入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照して ください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Loops

Loops は、RPA デスクトップデザインスタジオ の 自動化 ワークフロー の一部として、loops、for each、および while の概念を実装したコンポーネント一式を提供します。

Break コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Break コンポーネントを使用して、いつでもループを中断できます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Break コンポーネントのプロパティが設定可能です。

Break コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
メッセージ	ユーザー向けカスタムメッセージ。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Loops]** > **[Break]**に移動します。
2. Break コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、Break コンポーネントのコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
コントロール入力	コントロール入力	適用外	定義された条件が満たされたときに、別のコンポーネントから入力を取得します。	適用外	はい

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

For Each コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の For Each コンポーネントを使用して、コレクション内の各アイテムを先頭から最後までの順序で走査します。コレクションには、アレイ、リスト、またはテーブルを使用できます。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
For Each コンポーネントのプロパティが設定可能です。

For Each コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
実行時の遅延 (秒)	オブジェクト、アレイ、またはリスト内のアイテムの実行前の遅延時間を指定します。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Loops]** > **[For Each]**に移動します。
2. For Each コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、For Each コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
データ入力	コレクション	オブジェクト	コレクションを入力として取得します。	デフォルト値なし	はい
データ出力	現在のオブジェクト	オブジェクト	コレクションから各アイテムを返します。	適用外	適用外

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

For Loop コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の For Loop コンポーネントを使用して、コードを再帰的に実行し、反復性のあるタスクを実行します。For Loop は、反復処理を指定するためのコントロールフローコンポーネントです。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
For Loop コンポーネントのプロパティが設定可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

For Loop コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
実行時の遅延 (秒)	各実行前の遅延時間を指定します。
インクリメント	コンポーネントが値をインクリメントさせる数値を指定します。たとえば、数値が 2 でループが 1 ～ 10 の場合、数値は 1、3、5 のようになります。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Loops]** > **[For Loop]**に移動します。
2. For Loop コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、For Loop コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
データ入力	送信元	整数	For Loop カウンターの開始値を取得します。	適用外	はい
データ入力	宛先	整数	For Loop カウンターの終了値を取得します。	適用外	はい
データ出力	インデックス	整数	For Loop カウンターの現在の値を次のコンポーネントに渡します。	適用外	はい
コントロール出力	ループ	適用外	反復を次のコンポーネントに渡します。	適用外	はい

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

While コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の While コンポーネントを使用して、指定された条件が true になるまでコードを実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
While コンポーネントのプロパティが設定可能です。

While コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
実行時の遅延 (秒) (Delay for each execution (Seconds))	条件が true であるときの各コードの実行前の遅延時間を指定します。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Loops]** > **[While]**に移動します。
2. While コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. WHILE コンポーネントバーの薄い黄色のフィールド ( ) をダブルクリックします。
4. 条件を入力します。
   データ入力ポートは、While 条件を含むパラメーターに動的に追加されます。
5. 下表に従って、While コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポート名	接続の目的	ポートタイプ	データタイプ
ポートの名前は、条件を定義するパラメーターの名前と同じです。	パラメーターの値を取得します。コンポーネントが値を条件と照合します。 例：`i<=10`。	データ入力	オブジェクト
ControlOut	While ループの最後にあるポートを使用して、次のアクションフローに進みます。	コントロール出力	
LoopPort	ポートを使用して、While ループ内のアクション (式の計算、値のログ記録など) を実行します。	コントロール出力	

6. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

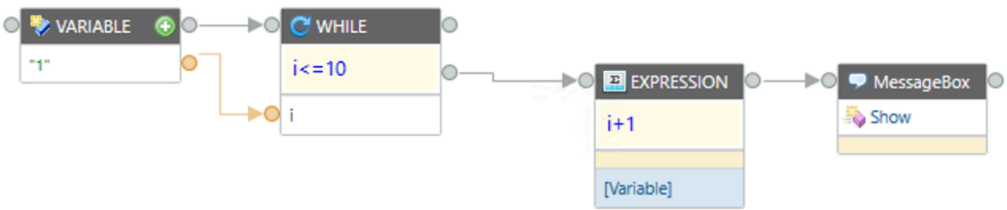
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: While コンポーネント

While コンポーネントの前に、Variable コンポーネントをドラッグします。While コンポーネントの後に、Expression コンポーネントと MessageBox コンポーネントを追加します。Variable コンポーネントに `1` と入力します。Expression コンポーネントに `i+1` と入力します。Expression コンポーネントにブレークポイントを設定します。While コンポーネントに `i<=10` と入力します。

この自動化を実行すると、値 1 が 2 に増え、出力の MessageBox に 2 と表示されます。[デザイン (Design)] タブで [次へ移動 **(Move next)**] を選択すると、値は 11 まで増えます。この時点で条件 (i<=10) に一致するため、ループが終了し、自動化が終了します。

While コンポーネント



Loops コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Loops コンポーネントのプロパティについて説明します。

Loops コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
検索	プロパティの検索を有効にするオプション。
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
メッセージ	ユーザー向けカスタムメッセージ。
タイムアウトアクティブ化	指定された時間が経過した後、コンポーネントはタイムアウトします。
タイムアウト	コンポーネントがタイムアウトするまでのカスタム時間 (秒) です。デフォルトの時間は 60 秒です。
実行時の遅延 (秒)	オブジェクト内の各アイテムの実行前のカスタム遅延時間 (秒) です。
実行時の遅延	ForLoop が終了するまでに実行される各ステップの待機時間 (秒) です。
インクリメント	コンポーネント内の From ボックスおよび To ボックスでインクリメントする数です。

RPA ハブ

RPA ハブ の下にあるコンポーネントを使用すると、RPA ハブ および ServiceNow のプラットフォームとやり取りできます。RPA デスクトップデザインスタジオ で設計されたロボットは、ServiceNow のプラットフォーム関連のさまざまな機能と連携できます。このカテゴリには、同様のことを行うコンポーネントがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

一般

Common コンポーネントを使用すると、RPA ハブ インスタンスに接続し、ボットプロセスでロボットを代理操作できます。

GetProcessJobSysID コンポーネントの使用

ロボットによって自動化が実行されたときに、プロセスジョブレコードのプロセスジョブ SysID を取得します。RPA デスクトップデザインスタジオ アプリケーションの GetProcessJobSysID コンポーネントを使用すると、ロボットがいつプロセスを実行できる状態になるかを特定したり、プロセスジョブの状態を把握したりできます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ロボットが自動化に携わっている場合は、実行用のプロセスジョブレコードが RPA ハブ に作成されます。すると、ロボットは「ビジー」ステータスに移行します。ロボットのさまざまな状況の詳細については、「ロボット状況フォーム」を参照してください。この「ビジー」ステータスのロボットで別の自動化を実行しようとしても、自動化は実行されず、プロセスジョブレコードが「スキップ」ステータスで作成されます。プロセスジョブの SysID を使用して、ロボットがいつ空いているかを特定し、スキップされたプロセスジョブをロボットにアサインして実行します。

プロセスジョブの SysID は、サブフローを使用してプロセスジョブの完了を確認するときに、サブフローに入力パラメーターとして渡すことができます。プロセスジョブが完了したら、同じロボットで新しいプロセスを開始できます。

重要:

RPA デスクトップデザインスタジオ から GetProcessJobSysID コンポーネントを実行してプロセスジョブの SysID を取得することはできません。コンポーネントは、ロボットによる自動化の実行中にのみプロセスジョブの SysID を取得できます。RPA デスクトップデザインスタジオ からコンポーネントを実行すると、エラーが表示されます。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[RPA Hub]** > **[Common]**に移動します。
2. **GetProcessJobSysID** コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグして、自動化の一部として追加します。
3. 次の表に従って、GetProcessJobSysID コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントに接続します。

GetProcessJobSysID コンポーネントのポート

ポート名	ポートタイプ	ポートの説明
SysID	データ出力	Windows マシンのロボットによって自動化が実行されるときの実行のプロセスジョブシステム ID。文字列を返します。
コントロール入力	適用外	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。
コントロール出力	適用外	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** を選択します。
   [デザイン] タブから [実行] を選択して自動化を実行することもできます。

GracefulStop コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの GracefulStop コンポーネントを使用して、RPA ハブ からの自動化が突然停止しないことを確認します。このコンポーネントを使用すると、自動化プロセス内で安全な終了ポイントを定義し、使用中のアプリケーションの終了やクリーンアップ操作の実行などのハウスキーピングアクティビティを自動化できます。

始める前に

自動化を適切に停止し、使用中のアプリケーションの終了などのクリーンアップタスクを実行できるシナリオ向けの自動化を確実に分析します。

必要なロール：なし

このタスクについて

以前は、RPA ハブ のボットプロセスで [処理の停止] ボタンを選択すると、ロボットが突然自動化を終了していました。このプロセスにより、データの不整合が発生していた可能性もあります。現在は GracefulStop コンポーネントを使用して自動化をスムーズに終了できるようになりました。RPA ハブ の自動化に対する GracefuStop コンポーネントの動作の詳細については、「RPA ハブ でのグレースフルストップ機能の使用」を参照してください。

注: GracefulStop コンポーネントは、無人自動化でのみ使用できます。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[RPA Hub]** > [一般]に移動します。
2. GracefulStop コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグして、自動化の一部として追加します。
3. コントロール入力ポートを使用して、自動化を適切に停止するシーケンスにコンポーネントを接続します。
4. リターンデータポートを使用して、ユーザーが適切な停止を RPA ハブ から開始するために実行するステップに接続します。
   たとえば、自動化によって従業員の詳細情報が Microsoft Excel シートから Oracle アプリケーションにコピーされるシナリオを考えてみましょう。リターンデータポートを使用すると、現在のトランザクションが完了し、自動化が正常に終了します。

重要: GracefulStop コンポーネントが次の条件を満たしていることを確認します。

- コントロール入力ポートには接続が必要です。
- リターンデータポートには、接続があるか、変数にマッピングされている必要があります。

Graceful stop オプションは、RPA Hub で、これらの条件を満たす自動化に対してのみ使用できます。

RPA デスクトップデザインスタジオから GracefulStop コンポーネントを使用すると、コンポーネントは false 値を返します。RPA ハブのボットプロセスで [プロセスの停止] オプションの [グレースフルストップ] トグルを選択すると、コンポーネントは true 値を返します。その後、自動化を停止できます。自動化パスが安全な終了ポイントにつながれば、自動化は適切に終了します。RPA ハブ のボットプロセスの停止の詳細については、「RPA ハブ での無人のボットプロセスの停止」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク

自動化プロジェクトの公開自動化プロジェクトを公開する方法の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ での自動化プロジェクトの公開」を参照してください。

Common コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Common コンポーネントのプロパティについて説明します。

Common コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

認証情報

認証情報コンポーネントは、RPA ハブ アプリケーションのログイン認証情報を取得または更新します。

GetApplicationCredential コンポーネントの使用

RPA ハブ アプリケーションのログイン認証情報が既に RPA ハブ に設定されている場合は、GetApplicationCredential コンポーネントを使用して認証情報を取得します。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオ で、[デザイン] タブから [ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** オプションを選択して、自動化をボットプロセスにアサインします。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

GetApplicationCredential コンポーネントは、ユーザー認証を必要とするアプリケーションが自動化に含まれている場合に使用できます。アプリケーションのユーザー名とパスワードが RPA ハブ に保存されると、GetApplicationCredential がそれらを取得します。

GetApplicationCredential コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Credentials コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[RPA Hub]** > **[Credentials]**に移動します。
2. GetApplicationCredential コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. コンポーネントの入力フィールドの構成を確認します。
   詳細については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetApplicationCredential コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポート	説明	ポートタイプ	データタイプ	必須
名前	ボットプロセスに関連付けられているビジネスアプリケーションの名前を受け取ります	データ入力	文字列	はい
ユーザー名	ビジネスアプリケーションへのログインに必要なユーザー名を返します	データ出力	文字列	はい
パスワード	ビジネスアプリケーションへのログインに必要なパスワードを返します	データ出力	SecureString	はい

5. コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] を選択します。

SetApplicationCredential コンポーネントの使用

SetApplicationCredential コンポーネントを使用して、RPA ハブ アプリケーションのログイン認証情報を設定または更新します。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオ で、[デザイン] タブから [ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** オプションを選択して、自動化をボットプロセスにアサインします。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

SetApplicationCredential コンポーネントは、ログイン認証情報を定期的に更新する必要があるアプリケーションが自動化に含まれている場合、またはその他の理由でログイン認証情報を変更する必要がある場合に使用できます。このコンポーネントは、RPA ハブ の認証情報を更新します。

SetApplicationCredential コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Credentials コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

アプリケーション認証情報レコードの [外部認証情報 **(External Credential)]** チェックボックスがオンになっている場合、この SetApplicationCredential コンポーネントは認証情報を設定せず、エラーを表示します。アプリケーション認証情報設定の詳細については、「RPA ハブ でのアプリケーション認証情報の作成」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[RPA Hub]** > **[Credentials]**に移動します。
2. SetApplicationCredential コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. コンポーネントの入力フィールドの構成を確認します。
   詳細については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、SetApplicationCredential コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポート	説明	ポートタイプ	データタイプ	必須
名前	ボットプロセスに関連付けられているビジネスアプリケーションの名前を受け取ります	データ入力	文字列	はい
パスワード	ビジネスアプリケーションへのログインに必要なパスワードを受け取ります	データ入力	文字列	はい
Return	認証情報が正常に設定された場合は [True] を返し、認証情報の設定に失敗した場合は [False] を返します	データ出力	ブーリアン	はい

5. コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] を選択します。

Credentials コンポーネントのプロパティ

認証情報コンポーネントのプロパティを設定するには、コンポーネントをダブルクリックし、[プロパティ] ペインに値を入力します。

Credentials コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

プロセスパラメーター

Process Parameters コンポーネントを使用すると、RPA ハブ でボットプロセスに設定したプロセスパラメーターの値を取得または更新できます。

GetProcessParameter コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetProcessParameter コンポーネントを使用して、RPA ハブ のボットプロセスに設定した特定のプロセスパラメーターの値を取得します。

始める前に

RPA ハブ でボットプロセスの一部として、少なくとも 1 つのプロセスパラメーターを設定します。「RPA ハブ のボットプロセス内でのプロセスパラメーターの作成」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA デスクトップデザインスタジオ のツールバーにある [ボットプロセスのアサイン **(Assign bot process)]** オプションを使用して、ボットプロセスに自動化をアサインします。プロセスパラメーターに関連付けられた同じボットプロセスとロボットを設定する必要があります。

必要なロール：なし

このタスクについて

GetProcessParameter コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Process Parameters コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[RPA Hub]** > **[Process Parameters]**に移動します。
2. GetProcessParameter コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetProcessParameter コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Name)	前に実行されたコンポーネントから、RPA ハブ のボットプロセスの一部として設定したプロセスパラメーターの名前を取得します。	はい
データ出力 (Value)	プロセスパラメーターの値を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	はい

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetProcessParameters コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの GetProcessParameter コンポーネントを使用して、RPA ハブ のボットプロセスに設定したプロセスパラメーターの値を取得します。このコンポーネントは、パラメーターの個々の値とすべての値の両方をオブジェクトとして返します。

始める前に

RPA ハブ のボットプロセスの一部として、少なくとも 2 つのプロセスパラメーターを設定します。「RPA ハブ のボットプロセス内でのプロセスパラメーターの作成」を参照してください。

RPA デスクトップデザインスタジオの [デザイン] タブから [ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** オプションを使用して、ボットプロセスに自動化をアサインします。プロセスパラメーターに関連付けられた同じボットプロセスとロボットを設定する必要があります。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
GetProcessParameters コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Process Parameters コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[RPA Hub]** > **[Process Parameters]**に移動します。
2. GetProcessParameters コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. [コンポーネントの設定] アイコン ( ) をクリックします。
4. [キーを追加] アイコン ( ) をクリックします。
5. プロセスパラメーターの内の 1 つの名前を入力します。
   データ入力ポートが作成されます。
6. オプション: プロセスパラメーターのデータタイプを更新します。
7. さらにパラメーターを追加するには、手順を繰り返します。
8. **[OK]** をクリックします。
9. 下表に従って、GetProcessParameters コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Parameter)	個々のプロセスパラメーターの値を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
データ出力 (Object)	コンポーネントで設定したプロセスパラメーターの値をオブジェクトとして返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	はい

10. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

SetProcessParameter コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの SetProcessParameter コンポーネントを使用して、RPA ハブ のボットプロセスに設定した既存のプロセスパラメーターの値を取得します。

始める前に
RPA ハブ でボットプロセスの一部として、少なくとも 1 つのプロセスパラメーターを設定します。「RPA ハブ のボットプロセス内でのプロセスパラメーターの作成」を参照してください。

RPA デスクトップデザインスタジオの [デザイン] タブから [ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** オプションを使用して、ボットプロセスに自動化をアサインします。プロセスパラメーターに関連付けられた同じボットプロセスとロボットを設定する必要があります。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

必要なロール：なし

このタスクについて

SetProcessParameter コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Process Parameters コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[RPA Hub]** > **[Process Parameters]**に移動します。
2. SetProcessParameter コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、SetProcessParameter コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Name)	前に実行されたコンポーネントから、RPA ハブ のボットプロセスの一部として設定したプロセスパラメーターの名前を取得します。	はい
データ入力 (Value)	前に実行されたコンポーネントから、RPA ハブ のボットプロセスの一部として設定したプロセスパラメーターの新しい値を取得します。	はい
データ出力	プロセスパラメーターの値が更新されたかどうかを示すブール応答を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	はい

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Process Parameters コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Process Parameters コンポーネントのプロパティについて説明します。

Process Parameters コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Process Parameters コンポーネントのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

キュー

Queue コネクタを使用すると、RPA ハブ で作成されたキューに作業アイテムを作成し、管理できます。

Queue コネクタは、RPA ハブ で作成されたキューに作業アイテムを作成し管理する複数のメソッドを提供します。これらのメソッドは、RPA ハブ の指定されたキューから作業アイテムを作成、更新、選択、または取得できます。

RPA ハブ でキューを作成し、それにボットプロセスをアサインした後、キューコネクタをキュー名に関連付ける必要があります。次に、RPA デスクトップデザインスタジオの [デザイン] タブの [ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** オプションを使用して、ボットプロセスを自動化プロジェクトにアサインし、作業アイテムにアクセスします。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

キューを作成するには、「RPA ハブ でのキューの作成」を参照してください。

ボットプロセスをキューに割り当てるには、「キューメニューからキューへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

Queue コネクタのメソッドを使用するには、まずそのメソッドを使用、設定し、次にそのメソッドを公開する必要があります。

- Queue コネクタを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコネクタを使用する」を参照してください。
- メソッドを公開するには、「コネクタメソッドを使用する」を参照してください。
- メソッドを使用するには、「RPA デスクトップデザインスタジオ でコンポーネントを使用する」を参照してください。

Queue コネクタのメソッド

Queue コネクタのメソッドを使用して、RPA ハブ のキューに対して作業アイテムを作成し、管理できます。

前提条件

1. RPA デスクトップデザインスタジオの [デザイン] タブの [ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** オプションを使用して、ボットプロセスを自動化プロジェクトにアサインし、作業アイテムにアクセスします。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。
2. 次の手順に従って、QueueName プロパティを設定します。
   a. RPA デスクトップデザインスタジオで、[ツールボックス] > **[RPA Hub]** > [キュー]に移動します。
   b. [プロジェクトエクスプローラー (Project Explorer)] ペインの Global Objects の下に Queue コネクタをドラッグします。
   c. Queue コネクタをダブルクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

d. [プロパティ] ペインの [QueueName] プロパティに、キューの名前を入力します。

> **注:** キューの名前は、RPA ハブ で定義されているものと同じである必要があります。

CreateJSONWorkItem

キューの作業アイテムを JSON 形式で作成します。

入力

- Name (名前)
- 優先度

出力

- WorkItemId
- IsNameExists

JSON オブジェクトにキーと値のペアを作成するには、次の手順を実行します。

1. CreateJSONWorkItem メソッドバーで、メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. 下表に従って、基準を入力します。

アイテム構成の作成

フィールド	説明
構成	
入力フィールド	
タイプ	作業アイテムのタイプです。 たとえば、会計システムキューの場合、預金と当座が口座のタイプです。 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
ステージング	作業アイテムのステージを更新します。 トランザクションのさまざまなステージを管理するためのカスタムフィールド。
SLA	作業アイテム完了のサービスレベルアグリーメント (SLA)。
JSON のプロパティ	
JSON パス表記	
名前	要求コンテンツのキーと値のペア (JSON コンテンツ)。 キーを追加するには、次の手順を実行します。 **a.** [キーを追加] アイコン ( ) をクリックします。 **b.** フィールドにキーの名前を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	c. さらにキーを追加するには、上記の手順を繰り返します。 d. これらのフィールドに値を渡すには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
機密	作業アイテムの作成時に渡される機密コンテンツ。 このオプションを機密として選択すると、データは暗号化され、RPA ハブ の新しい作業アイテムの [機密要求コンテンツ **(Sensitive Request Content)]** フィールドに保存されます。作業アイテムフォームの詳細については、「RPA ハブの作業アイテムフォーム」を参照してください。 この機能を使用して、キューを介して機密情報を渡すことができます。 たとえば、キュー内の顧客データを暗号化する場合は、[機密] フィールドを使用して、クレジットカード番号や住所などの顧客の詳細を保存する必要があります。

3. **[OK]** をクリックします。

CreateStringWorkItem

文字列を受け取って、RPA ハブ のキューに作業アイテムを作成します。

入力

RequestContent

名前

出力

WorkItemId

IsNameExists

文字列の作業アイテムを作成するための追加の基準を指定するには、次の手順を実行します。

1. CreateStringWorkItem メソッドバーで、メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. 下表に従って、基準を入力します。

アイテム構成の作成

フィールド	説明
入力フィールド	
SensitiveRequestContent	機密コンテンツを暗号化された形式で新しい作業アイテムに保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。 この機能を使用して、キューを介して機密情報を渡すことができます。 たとえば、キュー内の顧客データを暗号化する場合は、**[SensitiveRequestContent]** フィールドを使用して、クレジット カード番号や住所などの顧客の詳細を保存する必要があります。
ステージング	作業アイテムのステージを更新します。 トランザクションのさまざまなステージを管理するためのカスタムフィールド。
タイプ	作業アイテムのタイプです。 たとえば、会計システムキューの場合、預金と当座が口座のタイプです。 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
SLA	作業アイテム完了のサービスレベルアグリーメント (SLA)。

3. **[OK]** をクリックします。

GetWorkItems

指定された基準に基づいて、キューの下に作成された作業アイテムの数と詳細を返します。メソッドでは、既にデフォルトの基準が提供されていますが、追加の基準を指定することもできます。

入力

制限

出力

TotalCount

作業アイテムを識別して取得するための追加の基準を指定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. 必要に応じてフィルターを設定します。フィルターは必須ではありません。

作業アイテムの構成

フィールド	説明
入力フィルター	
名前	作業アイテムの名前です。次のいずれかのフィルターを指定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ **[Equals]**：作業アイテムの名前は、指定した基準とまったく同じです。 ◦ **[Contains]**：作業アイテムの名前は、指定した文字を含んでいます。 ◦ **[StartsWith]**：作業アイテムの名前は、指定した文字で始まります。 ◦ **[EndsWith]**：作業アイテムの名前は、指定した文字で終わります。
タイプ	文字列形式の作業アイテムのタイプです。次のいずれかのフィルターを指定できます。 ◦ **[Equals]**：作業アイテムのタイプは、指定した基準とまったく同じです。 ◦ **[Contains]**：作業アイテムのタイプは、指定した文字を含んでいます。 ◦ **[StartsWith]**：作業アイテムのタイプは、指定した文字で始まります。 ◦ **[EndsWith]**：作業アイテムのタイプは、指定した文字で終わります。
ステータス	作業アイテムのステータスです。
ステージング	作業アイテムのステージを更新します。 トランザクションのさまざまなステージを管理するためのカスタムフィールド。
優先度	実行の優先度： ◦ 重大 ◦ 高 ◦ 中 ◦ 低 アサインされたロボットは、作業キュー内の定義された優先度に従ってボットプロセスを実行します。デフォルトの優先度は常に [高] です。
DateType	作業アイテムの日付タイプです。このフィールドに入力する場合は、**[FromData]** フィールドと **[ToDate]** フィールドにも入力する必要があります。
FromDate	メソッドが日付範囲内の作業アイテムを選択する場合は、範囲内の開始日です。
ToDate	メソッドが日付範囲内の作業アイテムを選択する場合は、範囲内の終了日です。
オフセット	設定された制限値を超えて取得される作業アイテムの数です。たとえば、上限が 20 の場合、次に取得される作業アイテムは 21 からになります。
出力フィールド	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
OutRecords	作業アイテムの詳細をオブジェクト形式で返します。

3. **[OK]** をクリックします。

> 注: 設定されたフィールドごとに、データ入力ポートが作成されます。

PickWorkItem

指定された基準に基づいて、ロボットが作業アイテムを選択できるようにします。選択される作業アイテムの追加の基準を設定することもできます。

PickWorkItem コンポーネントに含まれる queryConditions は、ボットプロセスがロボットプールで有効になっている場合、無人のボットプロセスの実行を完了するのに必要なロボットの数を計算する際に考慮されます。ロボット数の計算の詳細については、「RPA ハブ のロボット数の計算」を参照してください。ロボットプールの概念の詳細については、「RPA ハブ のロボットプール」を参照してください。

入力

優先度

出力

WorkItemId

RequestContent

作業アイテムを選択するための追加の基準を指定するには、次の手順を実行します。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. 下表に従って、基準を入力します。

選択アイテムの構成

フィールド	説明
構成	
入力フィルター	
名前	次のフィルターに基づく作業アイテムの名前です。 ◦ **[Equals]**：作業アイテムの名前は、指定した基準とまったく同じです。 ◦ **[Contains]**：作業アイテムの名前は、指定した文字を含んでいます。 ◦ **[StartsWith]**：作業アイテムの名前は、指定した文字で始まります。 ◦ **[EndsWith]**：作業アイテムの名前は、指定した文字で終わります。 選択すると、データ入力ポートが公開されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
タイプ	次のフィルターに基づく作業アイテムのタイプです。 ◦ **[Equals]**：作業アイテムのタイプは、指定した基準とまったく同じです。 ◦ **[Contains]**：作業アイテムのタイプは、指定した文字を含んでいます。 ◦ **[StartsWith]**：作業アイテムのタイプは、指定した文字で始まります。 ◦ **[EndsWith]**：作業アイテムのタイプは、指定した文字で終わります。 選択すると、データ入力ポートが公開されます。
ステージ	次のフィルターに基づく作業アイテムのステージです。 ◦ **[Equals]**：作業アイテムのステージは、指定した基準とまったく同じです。 ◦ **[Contains]**：作業アイテムのステージは、指定した文字を含んでいます。 ◦ **[StartsWith]**：作業アイテムのステージは、指定した文字で始まります。 ◦ **[EndsWith]**：作業アイテムのステージは、指定した文字で終わります。 選択すると、データ入力ポートが公開されます。
ステータス	ロボットが選択する作業アイテムのステータス。
出力フィールド	
名前	作業アイテムの名前を返すデータ出力ポートです。
タイプ	作業アイテムのタイプを返すデータ出力ポートです。
注釈	作業アイテムの注釈を返すデータ出力ポートです。
ステージ	作業アイテムのステージを返すデータ出力ポートです。
RequestContent	作業アイテムの文字列コンテンツです。作業アイテムの作成時に保存されたコンテンツを選択します。
SensitiveRequestContent	このフィールドの機密コンテンツが選択され、復号化され、RPA デスクトップデザインスタジオまたはロボットに渡されます。
JSON のプロパティ	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
JSON パス表記	作業アイテムの JSON パス表記を返すデータ出力ポート。 キーを追加アイコン ( ) をクリックします。 JSON は、**[RequestContent]** フィールドと **[SensitiveRequestContent]** フィールドの両方で渡すことができます。 作業アイテムの選択中に、JSON データが作業アイテムから選択されます。たとえば、キーと値のペア「City: Mumbai」(City がキーで Mumbai が値) が **[RequestContent]** フィールドにあり、「City: Delhi」(City がキーで Delhi が値) が **[SensitiveRequestContent]** フィールドに作成されているとします。同じ作業アイテムを選択しようとすると、キーが両方のフィールドで同じであるため、**[SensitiveRequestContent]** フィールドが優先され、その出力がこのフィールドから取得されます。

3. **[OK]** をクリックします。

ReleaseWorkItem

ボットによって受け取られ、実行された作業アイテムをリリースします。このメソッドを実行する前に、PickWorkItem メソッドを実行する必要があります。

入力

WorkItemId

出力

戻る

UpdateWorkItem

指定された基準に基づいて、PickWorkItem メソッドで作業アイテムを選択した後、ロボットがそのアイテムを更新できるようにします。更新する作業アイテムの追加の基準を設定することができます。このメソッドを実行する前に、PickWorkItem メソッドを実行する必要があります。

入力

WorkItemId

RequestContent

ReleaseMode

優先度

ステータス

例外タイプ

作業アイテムを更新するための追加の基準を指定するには、次の手順を実行します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. メソッド設定アイコン ( ) をクリックします。
2. 下表に従って、基準を入力します。

更新アイテムの構成

フィールド	説明
構成	
入力フィールド	
ステージング	作業アイテムのステージを更新します。 トランザクションのさまざまなステージを管理するためのカスタムフィールド。
DeferredTill	同じ作業アイテムが選択されない期間を指定するオプションです。たとえば、5 分です。
名前	作業アイテムの名前です。
タイプ	作業アイテムのタイプです。 たとえば、会計システムキューの場合、預金と当座が口座のタイプです。 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
注釈	作業アイテムに関する補足の注釈です。
SLA	作業アイテム完了のサービスレベルアグリーメント (SLA)。
ResponseContent	作業アイテムの文字列コンテンツです。作業アイテムの保存されたコンテンツを更新します。
SensitiveRequestContent	作業アイテムの機密コンテンツを更新します。
JSON のプロパティ	
JSON パス表記	
名前	要求コンテンツのキーと値のペア (JSON コンテンツ)。 キーを追加するには、次の手順を実行します。 **a.** [キーを追加] アイコン ( ) をクリックします。 **b.** フィールドにキーの名前を入力します。 **c.** さらにキーを追加するには、上記の手順を繰り返します。 **d.** これらのフィールドに値を渡すには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
機密	作業アイテムの機密コンテンツが更新されます。 この機能を使用して、キューを介して機密情報を渡すことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	たとえば、キュー内の顧客データを暗号化する場合は、[機密] フィールドを使用して、クレジットカード番号や住所などの顧客の詳細を保存する必要があります。 **[SensitiveRequestContent]** フィールドにキーと値のペア「City: Mumbai」を追加し、別のキーと値のペア「Country: India」を JSON パス表記で追加すると、UpdateWorkItem が実行されます。すると、**[SensitiveRequestContent]** フィールドで、出力が「City: Mumbai」と「Country: India」に結合されます。

Queue コネクタメソッドのパラメーター

RPA デスクトップデザインスタジオ の Queue コネクタメソッドのさまざまなパラメーターについて説明します。

Queue コネクタメソッドのパラメーター

パラメーター名	説明
名前	作業アイテムの名前です。名前は、RPA ハブ の [作業アイテム] タブの [名前] 列に記録されます。 デフォルトでは、すべてのキューアイテム名は一意です。ただし、キューフォームの [作業アイテム名が一意 **(Is Work Item Name Unique)**] チェックボックスをオフにすると、重複して作成できます。詳細については、「RPA ハブのキューフォーム」を参照してください。 作成した作業アイテムは、RPA Hub 内のキューの [作業アイテム] タブの下にあります。
タイプ	作業アイテムのタイプです。 たとえば、会計システムキューの場合、預金と当座が口座のタイプです。 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
優先度	実行の優先度： • 重大 • 高 • 中 • 低 アサインされたロボットは、作業キュー内の定義された優先度に従ってボットプロセスを実行します。デフォルトの優先度は常に [高] です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Queue コネクタメソッドのパラメーター (続く)

パラメーター名	説明
ステージ	作業アイテムのステージです。 トランザクションのさまざまなステージを管理するためのカスタムフィールド。
SLA	作業アイテム完了のサービスレベルアグリーメント (SLA)。
WorkItemId	システムによって生成された一意の作業アイテム ID です。
IsNameExists	重複する作業アイテムが存在するかどうかを示すブール応答です。
RequestContent	作業アイテムの文字列コンテンツです。
制限	メソッドが取得するアイテムの最大数です。デフォルトでは、20 の作業アイテムを取得しますが、最大 100 まで増やすことができます。
TotalCount	キューから取得された作業アイテムの合計数です。
ステータス	ロボットが選択する作業アイテムのステータス。 デフォルトでは、作業アイテムのステータスは常に [処理待ち] です。
ReleaseMode	実行後、作業アイテムがロボットに対してリリースされている、まだロックされているかを示します。リリースモードのタイプ： • リリース • ロック
戻る	作業アイテムがリリースされているかどうかを示すブール応答。
例外タイプ	例外のタイプ： • アプリケーション：たとえば、SAP のような関連アプリケーションで問題が解決しない場合。 • ビジネス：たとえば、問題を解決するために手動での介入が必要な場合。 例外タイプに基づいて、自動再試行機能により作業アイテムが再試行されます。 [例外タイプ] フィールドが [アプリケーション] の場合、作業アイテムは自動的に再試行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラメーターの入力

パラメーターに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

共有のパラメーター

RPA ハブ では、ボットプロセス間で共有されるパラメーターとその値を設定できます。Shared Parameters コンポーネントを使用すると、1 つまたは複数の次のようなパラメーターの値を取得できます。

GetSharedParameters コンポーネントの使用

GetSharedParameters コンポーネントを使用して、RPA ハブ の複数のボットプロセスに設定された複数の共有パラメーターの値を取得します。

始める前に
RPA ハブ で、複数の共有パラメーターを設定し、複数のボットプロセスを関連付けます。詳細については、「RPA ハブ での共有パラメーターの作成」と「ボットプロセスの共有パラメーターへのアサイン」を参照してください。

RPA デスクトップデザインスタジオの [デザイン] タブの [ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** オプションを使用して、ボットプロセスに自動化をアサインします。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて
GetSharedParameters コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「共有パラメーターのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[RPA Hub]** > **[Shared Parameters]**に移動します。
2. GetSharedParameters コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
4. キーを追加アイコン ( ) をクリックします。
5. 共有パラメーターの名前を入力します。
6. オプション: 共有パラメーターのデータタイプを更新します。
7. さらに共有パラメーターを設定するには、手順を繰り返します。
8. **[OK]** をクリックします。
9. 下表に従って、GetSharedParameters コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Shared Parameter)	共有パラメーターの値を返し、次のコンポーネントに渡します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。 。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Return)	複数の共有パラメーターの値をオブジェクトとして返し、次のコンポーネントに渡します。	はい 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	はい

10. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

SetSharedParameter コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの SetSharedParameter コンポーネントを使用して、RPA ハブの複数のボットプロセスに設定した特定の共有パラメーターの値を更新します。

始める前に

RPA ハブ で、少なくとも 1 つの共有パラメーターを設定し、複数のボットプロセスを関連付けます。詳細については、「RPA ハブ での共有パラメーターの作成」と「ボットプロセスの共有パラメーターへのアサイン」を参照してください。

RPA デスクトップデザインスタジオの [デザイン] タブの [ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** オプションを使用して、ボットプロセスに自動化をアサインします。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

SetSharedParameter コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「共有パラメーターのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[RPA Hub]** > **[Shared Parameters]**に移動します。
2. SetSharedParameter コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. SetSharedParameter コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Name)	前に実行されたコンポーネントから、RPA ハブ のボットプロセスに設定した共有パラメーターの名前を取得します。	はい。 変数名を渡すには、**[Name]** フィールドをダブルクリックして変数名を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Value)	前に実行されたコンポーネントから、RPA ハブ のボットプロセスに設定された共有パラメーターの新しい値を取得します。	はい。 変数値を渡すには、**[Value]** フィールドをダブルクリックして値を入力します。
データ出力 (Return)	既存の共有パラメーターの値が置き換えられたかどうかを示すブール応答を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] を選択します。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	はい

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

共有パラメーターのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の共有パラメーターのプロパティについて説明します。

共有パラメーターのプロパティ

プロパティ	説明
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

Log コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの自動化で Log コンポーネントを使用して、カスタムメッセージを自動化ログとしてキャプチャします。このコンポーネントを使用すると、カスタムメッセージを自動化ログとして書き込み、統一されたスペースから表示して、自動化の進捗状況を追跡できます。

始める前に

ボットプロセスから [実行自動化ログの追跡 **(Track Execution Automation Logs)]** オプションが有効になっていることを確認します。実行ログの追跡を有効にする方法の詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

以前は、Log コンポーネントからのメッセージは、自動化が実行されたマシンの製品エラーログファイルに更新されていました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Vancouver リリース以降、RPA デスクトップデザインスタジオ、アテンド型ロボット、無人ロボットで実行される自動化からのログメッセージは、RPA ハブ のプロセスジョブの自動化ログテーブルの [メッセージ] フィールドに書き込まれています。

古い自動化のプラグインバージョンをアップグレードする必要はありません。RPA デスクトップデザインスタジオ、アテンド型ロボット、無人ロボットでアップグレードされたリストコンポーネントの詳細については、「最新バージョンと互換性のあるコンポーネントのリスト」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[RPA Hub]** > [ログ]に移動します。
2. **[Log]** コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. メッセージを入力するか、前のコンポーネントまたはメソッドから出力文字列をキャプチャして、[メッセージ] (文字列) フィールドを設定します。
   たとえば、自動化が成功した場合は、文字列「*Success*」を入力するか、前に実行されたコンポーネントまたはメソッドから文字列の結果をキャプチャできます。
4. オプション: メッセージを分類する場合は、プロパティエクスプローラーから [ログレベル] プロパティを設定します。
   メッセージは、次のいずれかのタイプに分類できます。
   - Info
   - 警告
   - エラー
   - 例外

   > **重要:** RPA デスクトップデザインスタジオの以前のバージョンでは、[エラーイメージ **(Error image)]** オプションと [詳細] オプションが利用可能でした。RPA デスクトップデザインスタジオの Vancouver リリースで古い自動化プロジェクトを開くと、これらのオプションは [エラー] タイプに変換されます。

   Log コンポーネントの残りのプロパティを設定する方法の詳細については、「General コンポーネントのプロパティ」を参照してください。
5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] を選択します。

   > **注:** Log コンポーネントを RPA デスクトップデザインスタジオから実行すると、プロセスジョブが関連付けられていないため、 RPA ハブ メッセージは更新されません。

セキュリティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Security コンポーネントは、Microsoft Data Protection API やデータ暗号化などのデータセキュリティの運用を実行します。

DPAPI

RPA デスクトップデザインスタジオ の DPAPI コンポーネントは、Microsoft DPAPI を適用することによってデータを保護します。

Protect コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Protect コンポーネントを使用して、Microsoft からの DPAPI アルゴリズムで文字列を暗号化します。コンポーネントは、指定されたデータの暗号化された形式を返します。

始める前に

必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

Protect コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「DPAPI コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Security]** > **[DPAPI]**に移動します。
2. Protect コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Protect コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (ClearText)	前に実行されたコンポーネントから、暗号化する文字列を渡します。	はい
データ入力 (Optional Entropy)	オプションのエントロピーは、同じユーザーで実行されているアプリケーションを脆弱にするリスクから、暗号化されたデータに追加のセキュリティを提供します。前に実行されたコンポーネントからエントロピーを渡します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
データ入力 (Scope)	前に実行されたコンポーネントから保護範囲を渡します。	はい
データ出力 (String)	暗号化された文字列を返します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	次のコンポーネントにコントロールを渡します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ProtectData コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ProtectData コンポーネントを使用して、文字列データを暗号化してファイルに保存します。

始める前に

必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

ProtectData コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「DPAPI コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Security]** > **[DPAPI]**に移動します。
2. ProtectData コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ProtectData コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Filename)	前に実行されたコンポーネントから、暗号化された文字列の保存先ファイルの名前を渡します。	はい
データ入力 (データ)	前に実行されたコンポーネントから、暗号化されるデータを渡します。	はい
データ入力 (Optional Entropy)	オプションのエントロピーは、同じユーザーで実行されているアプリケーションを脆弱にするリスクから、暗号化されたデータに追加のセキュリティを提供します。前に実行されたコンポーネントからエントロピーを渡します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
データ入力 (Scope)	前に実行されたコンポーネントから保護範囲を渡します。	はい
データ出力 (String)	暗号化された文字列を返します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。 コンポーネントを実行するには、ProtectData コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)**] をクリックします。 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	次のコンポーネントにコントロールを渡します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Unprotect コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Unprotect コンポーネントを使用して、暗号化された文字列を復号化します。コンポーネントは、ワークフロー の一部として、ProtectData または他のアプリケーションによって暗号化された文字列に対して使用できます。Unprotect コンポーネントは、復号化された文字列またはデータを返します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Unprotect コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「DPAPI コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Security]** > **[DPAPI]**に移動します。
2. Unprotect コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Unprotect コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (EncryptedText)	前に実行されたコンポーネントから、暗号化された文字列を渡します。	はい
データ入力 (Optional Entropy)	文字列がエントロピーによって保護されている場合は、コンポーネントがデータにアクセスできるようにエントロピーの詳細を入力する必要があります。前に実行されたコンポーネントからエントロピーの詳細を渡します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
データ入力 (Scope)	前に実行されたコンポーネントから保護範囲を渡します。	はい
データ出力 (String)	復号化された文字列を返します。	はい 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	次のコンポーネントにコントロールを渡します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UnProtectData コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の UnProtectData コンポーネントを使用して、ファイルに保存されている暗号化された文字列を復号化します。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

UnProtectData コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「DPAPI コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Security]** > **[DPAPI]**に移動します。
2. UnProtectData コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、UnProtectData コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Filename)	前に実行されたコンポーネントから、暗号化された文字列の保存先ファイルの名前を渡します。	はい
データ入力 (Optional Entropy)	文字列がエントロピーによって保護されている場合は、コンポーネントがデータにアクセスできるようにエントロピーの詳細を入力する必要があります。前に実行されたコンポーネントからエントロピーの詳細を渡します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
データ入力 (Scope)	前に実行されたコンポーネントから保護範囲を渡します。	はい
データ出力 (String)	復号化された文字列を返します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。 コンポーネントを実行するには、ProtectData コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)**] をクリックします。 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール出力	次のコンポーネントにコントロールを渡します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

DPAPI コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の DPAPI コンポーネントのプロパティについて説明します。

DPAPI コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

暗号化コンポーネント

RPA デスクトップデザインスタジオ は、暗号化、ファイルハッシュ、およびエンコーディングによってデータのセキュリティを確保します。RPA デスクトップデザインスタジオ のこの機能は、ワークフローの一部にすることができます。

DecryptString コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の DecryptString コンポーネントを使用して、暗号化キーを提供することによって暗号化された文字列を復号化します。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

DecryptString コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Encryption コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Security]** > **[Encryption]**に移動します。
2. DecryptString コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、DecryptString コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、復号化する暗号化された文字列を渡します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (encryptionKey)	前に実行されたコンポーネントから、復号化する文字列の暗号化に使用された暗号化キーを渡します。	はい
データ出力	復号化された文字列を返します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	次のコンポーネントにコントロールを渡します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

EncryptString コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の EncryptString コンポーネントを使用して、暗号化キーを提供することによって文字列を暗号化します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
EncryptString コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Encryption コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Security]** > **[Encryption]**に移動します。
2. EncryptString コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、EncryptString コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、暗号化する文字列を渡します。	はい
データ入力 (EncryptionKey)	前に実行されたコンポーネントから暗号化キーを渡します。	はい
データ出力	暗号化された文字列を返します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリック

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
		し、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	次のコンポーネントにコントロールを渡します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GenerateFileHash コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GenerateFileHash コンポーネントを使用して、任意のファイルのファイルハッシュコードを生成します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Generate File Hash コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Encryption コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Security]** > **[Encryption]**に移動します。
2. GenerateFileHash コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GenerateFileHash コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (FilePath)	前に実行されたコンポーネントから、ハッシュコードを生成するファイルのパスを渡します。	はい
データ出力	ファイルのハッシュコードと、ファイルの更新ごとに更新されたハッシュコードを返します。	いいえ。このポートの接続はオプションです。 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	次のコンポーネントにコントロールを渡します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SecureStringDecode コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SecureStringDecode コンポーネントを使用して、セキュアな文字列をデコードします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SecureStringDecode コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Encryption コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Security]** > **[Encryption]**に移動します。
2. SecureStringDecode コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. オプション: 下表に従って、SecureStringDecode コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (SecureString)	前に実行されたコンポーネントから、デコードする文字列を渡します。	はい
データ出力	デコードされた文字列を返します。	はい (Optional) 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	次のコンポーネントにコントロールを渡します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

SecureStringEncode コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Secure String Encode コンポーネントを使用して、文字列をエンコードしてセキュリティを確保します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SecureStringEncode コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Encryption コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Security]** > **[Encryption]**に移動します。
2. SecureStringEncode コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. SecureStringEncode コンポーネントで、エンコードする文字列を [テキスト] フィールドに入力するか、データ入力ポートを介して文字列を渡します。
5. SecureStringEncode コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、エンコードする文字列を渡します。	はい
データ出力	エンコードされたセキュアな文字列を返します。	はい
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	次のコンポーネントにコントロールを渡します。	いいえ

6. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Encryption コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Encryption コンポーネントのプロパティについて説明します。

Encryption コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

ServiceNow

ServiceNow コンポーネントを使用して、フローデザイナーなどの ServiceNow プラットフォーム機能で操作したり、テーブルレコードの添付ファイルを管理したり、埋め込みタスクの自動化をトリガーしたりできます。

埋め込みタスクの自動化の詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フローデザイナーコンポーネント

フローデザイナーコンポーネントを使用して、ワークフロースタジオからフロー、サブフロー、およびアクションを呼び出し、ワークフローの一部として使用できます。こうしたコンポーネントを使用して、フローの出力または実行ステータスを特定することもできます。

InvokeFlow コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの InvokeFlow コンポーネントを使用して、ワークフロースタジオで利用可能なフローを起動したり、呼び出したりします。フローのコンテキスト ID を生成し、他のフローデザイナーコンポーネントでその ID を使用して、実行状況と出力を取得します。

始める前に

ワークフロースタジオでのフローの詳細については、「フローのビルド」を参照してください。

フローデザイナーコンポーネントを使用する前に、接続マネージャーを使用してインスタンスに接続していることを確認してください。インスタンスへの接続方法の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ から RPA ハブ インスタンスへの接続」を参照してください。

RPA ハブ フローまたはサブフローのクライアント呼び出し可能オプションを有効化します。詳細については、「RPA ハブ フローまたはサブフローでのクライアント呼び出し可能オプションの有効化」を参照してください。

必要なロール：fd_read role。このロールに関する詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

このタスクについて

InvokeFlow コンポーネントは、ワークフロースタジオでのフローのコンテキスト ID を返すため、他のコンポーネントで使用できます。たとえば、コンテキスト ID を使用して、フローの実行ステータスや出力を取得できます。

フローのコンテキスト ID を取得する InvokeFlow コンポーネントを追加すると、他のフローデザイナーコンポーネントがそのステータスを確認したり、出力を取得したりできるようになります。サブフローのコンテキスト ID を取得するには、InvokeSubFlow コンポーネントを使用します。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[ServiceNow]** > [フローデザイナー]に移動します。
2. InvokeFlow コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. [デザイン面 (Design surface)] で、InvokeFlow コンポーネントの [構成] ボタン を選択して、[InvokeFlow] ダイアログボックスを表示します。
4. [フロー名] フィールドで、3 文字以上を入力して検索し、Enter を選択します。

   入力した文字で始まるフローのリストが、接続された ServiceNow インスタンスから表示されます。

   > **重要:** アプリケーションスコープが [すべてのアプリケーションスコープ] に設定されているフローのみを表示および選択できます。アプリケーションスコープは、ワークフロースタジオインスタンスの [アクセス可能] フィールドで設定されます。フローのアプリケーションスコープが [このアプリケーションスコープのみ] に設定されている場合、このフローは [フロー名] フィールドのドロップダウンリストでは使用できません。

5. 検索リストから必要なフローを選択します。
6. 入力フィールドを検証し、**[OK]** を選択します。
7. オプション: InvokeFlow コンポーネントのプロパティを設定します。
   詳細については、「フローデザイナーコンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これで、コンテキスト **ID** ポートを、GetExecutionStatus や GetOutputs などの他のフローデザイナーコンポーネントに接続できるようになりました。

8. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(Design)**] タブで [実行] をクリックします。

GetExecutionStatus コンポーネントの使用

GetExecutionStatus コンポーネントを使用して、ワークフロースタジオのフローまたはサブフローの実行ステータスを特定します。

始める前に

ワークフロースタジオでのフローの詳細については、「フローのビルド」を参照してください。

フローデザイナーコンポーネントを使用する前に、接続マネージャーを使用してインスタンスに接続していることを確認してください。インスタンスへの接続方法の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ から RPA ハブ インスタンスへの接続」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

GetOutputs コンポーネントを使用してフローの出力を取得する前に、フローのステータスを確認することをお勧めします。フローが正常に実行されると、実行ステータスは [完了] になります。実行ステータスが [完了] 以外の場合は、GetOutputs コンポーネントで有効な結果が得られないことがあります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[ServiceNow]** > [フローデザイナー]に移動します。
2. GetExecutionStatus コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. オプション: [プロパティ] ペインを使用して、コンポーネントのプロパティを設定します。
   たとえば、コンポーネントの実行前にタイムアウトや遅延を含めるように、コンポーネントを構成できます。これらのプロパティの詳細については、「フローデザイナーコンポーネントのプロパティ」を参照してください。
4. 下表に従って、GetExecutionStatus コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ	必須？
ContextID	InvokeFlow、InvokeSubFlow、または InvokeAction コンポーネントからコンテキスト ID を受け取ります	データ入力	文字列	はい
ステータス	実行ステータスを返し、次のコンポーネントに渡します。	データ出力	文字列	はい

RPA デスクトップデザインスタジオで実行ステータスを表示するには、[ステータス] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] を選択します。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetOutputs コンポーネントの使用

GetOutputs コンポーネントを使用して、ワークフロースタジオのフローまたはサブフローの出力を取得します。

始める前に

ワークフロースタジオでのフローの詳細については、「フローのビルド」を参照してください。

フローデザイナーコンポーネントを使用する前に、接続マネージャーを使用してインスタンスに接続していることを確認してください。インスタンスへの接続方法の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ から RPA ハブ インスタンスへの接続」を参照してください。

GetExecutionStatus コンポーネントを使用して、フローまたはサブフローの実行状況を確認します。コンポーネントを使用するには、「GetExecutionStatus コンポーネントの使用」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

フローの出力を受け取る理由は数多くあります。たとえば、インシデント番号を含む自動化があり、インシデントの説明を取得する場合は、ワークフロースタジオを使用して、インシデント番号を入力として受け取り、説明を返すフローを作成できます。次に、RPA デスクトップデザインスタジオで、InvokeFlow コンポーネントを使用してフローを呼び出し、そのコンテキスト ID を GetOutputs コンポーネントに送信して、インシデントの説明を含む出力を取得できます。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[ServiceNow]** > [フローデザイナー]に移動します。
2. GetOutputs コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. オプション: [プロパティ] ペインを使用して、コンポーネントのプロパティを設定します。
   たとえば、コンポーネントの実行前にタイムアウトや遅延を含めるように、コンポーネントを構成できます。これらのプロパティの詳細については、「フローデザイナーコンポーネントのプロパティ」を参照してください。
4. 下表に従って、GetOutputs コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

GetOutputs のポート

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Context ID)	InvokeFlow、InvokeSubFlow、または InvokeAction コンポーネントからコンテキスト ID を受け取ります	はい
データ出力 (Return)	フロー、サブフロー、またはアクションの出力を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	次に実行されるコンポーネントにコントロールを渡します。	いいえ。このポートの接続はオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

RPA デスクトップデザインスタジオで出力を表示するには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] を選択します。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

InvokeSubFlow コンポーネントの使用

InvokeSubFlow コンポーネントは、ワークフロースタジオでのサブフローのコンテキスト ID を返すため、他のコンポーネントで使用できます。たとえば、コンテキスト ID を使用して、サブフローの実行ステータスや出力を取得できます。

始める前に

ワークフロースタジオでのフローの詳細については、「フローのビルド」を参照してください。

フローデザイナーコンポーネントを使用する前に、接続マネージャーを使用してインスタンスに接続していることを確認してください。インスタンスへの接続方法の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ から RPA ハブ インスタンスへの接続」を参照してください。

RPA ハブ フローまたはサブフローのクライアント呼び出し可能オプションを有効化します。詳細については、「RPA ハブ フローまたはサブフローでのクライアント呼び出し可能オプションの有効化」を参照してください。

必要なロール：fd_read role。このロールに関する詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

このタスクについて

サブフローのコンテキスト ID を取得する InvokeSubFlow コンポーネントを追加すると、他のフローデザイナーコンポーネントがそのステータスを確認したり、出力を取得したりできるようになります。フローのコンテキスト ID を取得するには、InvokeFlow コンポーネントを使用します。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[ServiceNow]** > [フローデザイナー]に移動します。
2. InvokeSubFlow コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. [デザイン面 (Design surface)] で、InvokeSubFlow コンポーネントの [構成] ボタン を選択して、[InvokeSubFlow] ダイアログボックスを表示します。
4. [サブフロー名] フィールドで、3 文字以上を入力して検索し、Enter を選択します。

   入力した文字で始まるサブフローのリストが、接続された ServiceNow インスタンスから表示されます。

   > **重要:** アプリケーションスコープが [すべてのアプリケーションスコープ] に設定されているサブフローのみを表示および選択できます。アプリケーションスコープは、ワークフロースタジオインスタンスの [アクセス可能] フィールドで設定されます。サブフローのアプリケーションスコープが [このアプリケーションスコープのみ] に設定されている場合、このサブフローは [サブフロー名] フィールドのドロップダウンリストでは使用できません。

5. 検索リストから必要なサブフローを選択します。
6. 入力フィールドを検証し、**[OK]** を選択します。
7. オプション: InvokeSubFlow コンポーネントのプロパティを設定します。
   詳細については、「フローデザイナーコンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これで、[コンテキスト **ID]** パラメーターを、GetExecutionStatus や GetOutputs などの他のフローデザイナーコンポーネントに接続できるようになりました。

8. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(Design)]** タブで [実行] を選択します。

InvokeAction コンポーネントの使用

InvokeAction コンポーネントは、ワークフロースタジオでのアクションのコンテキスト ID を返すため、それを他のコンポーネントで使用できます。たとえば、コンテキスト ID を使用して、アクションの実行ステータスや出力を取得できます。

始める前に

ワークフロースタジオでのフローの詳細については、「フローのビルド」を参照してください。

フローデザイナーコンポーネントを使用する前に、接続マネージャーを使用してインスタンスに接続していることを確認してください。インスタンスへの接続方法の詳細については、「RPA デスクトップデザインスタジオ から RPA ハブ インスタンスへの接続」を参照してください。

RPA ハブ フローまたはサブフローでクライアント呼び出し可能オプションを有効化します。詳細については、「RPA ハブ フローまたはサブフローでのクライアント呼び出し可能オプションの有効化」を参照してください。

必要なロール：fd_read role。このロールに関する詳細については、「ワークフロースタジオ フローへのユーザーアクセス」を参照してください。

このタスクについて

アクションのコンテキスト ID を取得する InvokeAction コンポーネントを追加すると、他のフローデザイナーコンポーネントがそのステータスを確認したり、出力を取得したりできるようになります。フローまたはサブフローのコンテキスト ID を取得するには、InvokeFlow コンポーネントまたは InvokeSubFlow コンポーネントを使用します。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[ServiceNow]** > [フローデザイナー]の順に移動します。
2. InvokeAction コンポーネントをデザイン面にドラッグします。
3. [デザイン面 (Design surface)] で、InvokeAction コンポーネントの [構成] ボタン ( ) を選択して、[InvokeAction] ダイアログボックスを表示します。
4. [アクション名] フィールドで、検索する 3 文字以上を入力し、Enter を選択します。

   入力した文字で始まるアクションのリストが、接続された ServiceNow インスタンスから表示されます。

   > **重要:** アプリケーションスコープが [すべてのアプリケーションスコープ] に設定されているアクションのみを表示および選択できます。アプリケーションスコープは、ワークフロースタジオ インスタンスの [アクセス可能] フィールドで設定されます。アクションのアプリケーションスコープが [このアプリケーションスコープのみ] に設定されている場合、このアクションは [アクション名] フィールドのドロップダウンリストでは使用できません。

5. 検索リストから必要なアクションを選択します。
6. 入力フィールドを検証し、**[OK]** を選択します。
7. オプション: InvokeSubFlow コンポーネントのプロパティを設定します。
   詳細については、「フローデザイナーコンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これで、コンテキスト **ID** ポートを、GetExecutionStatus や GetOutputs などの他のフローデザイナーコンポーネントに接続できるようになりました。

8. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] を選択します。

フローデザイナーコンポーネントのプロパティ

フローデザイナーコンポーネントのプロパティを設定するには、コンポーネントをダブルクリックし、[プロパティ] ペインに値を入力します。

フローデザイナーコンポーネントのプロパティ

実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

添付ファイル

添付ファイルコンポーネントを使用すると、RPA ハブ のテーブルレコードから添付ファイルをアップロードまたはダウンロードし、添付ファイルのメタデータを取得できます。

添付ファイルコンポーネントには、ServiceNow のテーブルでサポートされているすべてのファイルタイプが含まれます。

DownloadAttachment コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの DownloadAttachment コンポーネントを使用して、ServiceNow のテーブルのレコードからローカルドライブに添付ファイルをダウンロードします。

始める前に

ServiceNow テーブルレコードへのアクセス権が必要です。

必要なロール：なし

このタスクについて

添付ファイルの最大サイズは 1024 MB です。

DownloadAttachment コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Attachment コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[ServiceNow]** > [添付ファイル]の順に移動します。
2. DownloadAttachment コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. DownloadAttachment コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポート名	接続の目的	データポートタイプ	データタイプ
attachmentSysID	添付ファイルを含むレコードの sys ID。この値は、前に実行されたコンポーネントから渡すことができます。 次の手順に従って、レコードの sys ID を取得できます。 **a.** 接続された ServiceNow インスタンスのレコードを選択し、ヘッダーバーを右クリックします。 **b.** [URL のコピー] を選択します。 **c.** URL では、パラメーター sys_id= の後に sys ID があります。例：9d385017c611228701d22104cc95c371。	データ入力	文字列
folderPath	添付ファイルがダウンロードされるローカルドライブのパス。	データ入力	文字列
Overwrite	ファイルが正常にダウンロードされたかどうかを示す true または false 値を返します。 ダウンロード場所に同じ名前のファイルが既に存在する場合、処理は失敗します。	データ入力	ブーリアン
Return	ダウンロードされたファイルの詳細をオブジェクトとして返し、別のコンポーネントに渡します。	データ出力	ブーリアン

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

GetAttachmentsMetadata コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの GetAttachmentsMetadata コンポーネントを使用して、ServiceNow のテーブルレコードに関連付けられているすべての添付ファイルのメタデータを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
添付ファイルを含む ServiceNow テーブルへのアクセス権が必要です。

必要なロール：なし

このタスクについて
添付ファイルの最大サイズは 1024 MB です。

GetAttachmentsMetadata コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Attachment コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[ServiceNow]** > [添付ファイル]の順に移動します。
2. GetAttachmentsMetadata コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. GetAttachmentsMetadata コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポート名	接続の目的	データポートタイプ	データタイプ
SysID	添付ファイルを含むレコードの sys ID。この値は、前に実行されたコンポーネントから渡すことができます。 次の手順に従って、レコードの sys ID を取得できます。 **a.** 接続された ServiceNow インスタンスのレコードを選択し、ヘッダーバーを右クリックします。 **b.** [URL のコピー] を選択します。 **c.** URL では、パラメーター sys_id= の後に sys ID があります。例：9d385017c611228701d22104cc95c371。	データ入力	文字列
tableName	添付ファイルを含むレコードがあるテーブルの名前。前に実行されたコンポーネントからこの値を渡すことができます。	データ入力	文字列
Return	添付ファイルのメタデータを返し、次のコ	データ出力	オブジェクト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポート名	接続の目的	データポートタイプ	データタイプ
	ンポーネントに渡します。		

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

UploadAttachment コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの UploadAttachment コンポーネントを使用して、RPA ハブのテーブルレコードにドキュメントを添付します。

始める前に

添付ファイルをアップロードする ServiceNow テーブルへのアクセス権が必要です。

必要なロール：なし

このタスクについて

RPA ハブ 内のテーブルには 1 つまたは複数のレコードが含まれ、各レコードは特定の情報を提供します。添付ファイルは、レコードに関する追加の有用な情報を提供するものです。添付ファイルの最大サイズは 1024 MB です。

UploadAttachment コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Attachment コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[ServiceNow]** > [添付ファイル]の順に移動します。
2. UploadAttachment コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. UploadAttachment コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポート名	説明	データポートタイプ	データタイプ
filePath	前に実行されたコンポーネントからレコードにアップロードする必要があるファイルへのパス。	データ入力	文字列
SysId	添付ファイルをアップロードするレコードの sys ID。前に実行されたコンポーネントからこの値を渡すこともできます。 次の手順に従って、レコードの sys ID を取得できます。 a. 接続された ServiceNow インスタンスのレコードを選択し、ヘッダー	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポート名	説明	データポートタイプ	データタイプ
	バーを右クリックします。 **b.** [URL のコピー] を選択します。 **c.** URL では、パラメーター sys_id= の後に sys ID があります。例：9d385017c611228701d22104cc95c371。		
tableName	前に実行されたコンポーネントから、レコードを構成するテーブルの名前を取得します。	データ入力	文字列
Return	ファイルが正常にアップロードされたかどうかを示すブール応答を返し、次のコンポーネントに渡します。	データ出力	ブーリアン

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

Attachment コンポーネントのプロパティ

Attachment コンポーネントのさまざまなプロパティについて説明します。

Attachment コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

フォーム

フォームコンポーネントは、埋め込みタスクの自動化で有効になる有人自動化をトリガーするのに役立ちます。

埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

AttendedConfigurations コンポーネントの使用

AttendedConfigurations コンポーネントを使用すると、選択した同じボットプロセスに関連付けられた有人構成のリストが表示されます。自動化ロジックをルーティングする各構成の制御出力ポートを選択して付与します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオから自動化を実行している場合は、RPA デスクトップデザインスタジオの [デザイン] タブから [ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** オプションを使用して、ボットプロセスに自動化をアサインします。[ボットプロセス] フィールドで、埋め込みタスクの自動化が有効になっている有人のボットプロセスを選択していることを確認します。[有人構成 **(Attended Config)]** フィールドで、関連付けられた有人構成を選択していることを確認します。[レコードコンテキスト] フィールドに、ServiceNow フォームレコードの Sys ID または URL を入力していることを確認します。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

必要なロール：

- sn_rpa_fdn.rpa_developer または sn_rpa_fdn.rpa_admin (RPA デスクトップデザインスタジオから自動化を実行している場合)
- sn_rpa_fdn.rpa_assisted_user (アテンド型ロボットアプリケーションから自動化を実行している場合)。

このタスクについて

AttendedConfigurations コンポーネントは、単一の自動化プロジェクトで自動化の実行を分離し、呼び出されたアクションに従ってそれぞれのロジックを呼び出します。

ServiceNow フォームの UI アクション (ボタン) から自動化をトリガーし、アテンド型ロボットアプリケーションを使用して実行する場合は、AttendedConfigurations コンポーネントによって、関連付けられた有人構成から自動化フローがルーティングされます。

AttendedConfigurations コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Forms コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

たとえば、自動化に 2 つの UI アクションが必要な場合は、同じボットプロセスとテーブルに関連付けられた 2 つの有人構成を RPA ハブ に作成します。異なるアクティビティで、これらの UI アクションの自動化ロジックを個別に定義します。

通貨価格取得のユースケースを考えてみましょう。この場合、[価格の取得 (Get Prices)] や [価格の更新 (Update Price)] などの UI アクションの 2 つの自動化ロジックを使用して、1 つの自動化がビルドされます。これらの UI アクションは、[価格の取得 (Get Prices)] と [価格の更新 (Update Price)] という 2 つの有人構成に関連付けられています。有人構成は、同じボットプロセスとテーブルに関連付けられています。次の手順は、このユースケースで AttendedConfigurations コンポーネントを使用する方法のガイダンスを提供します。

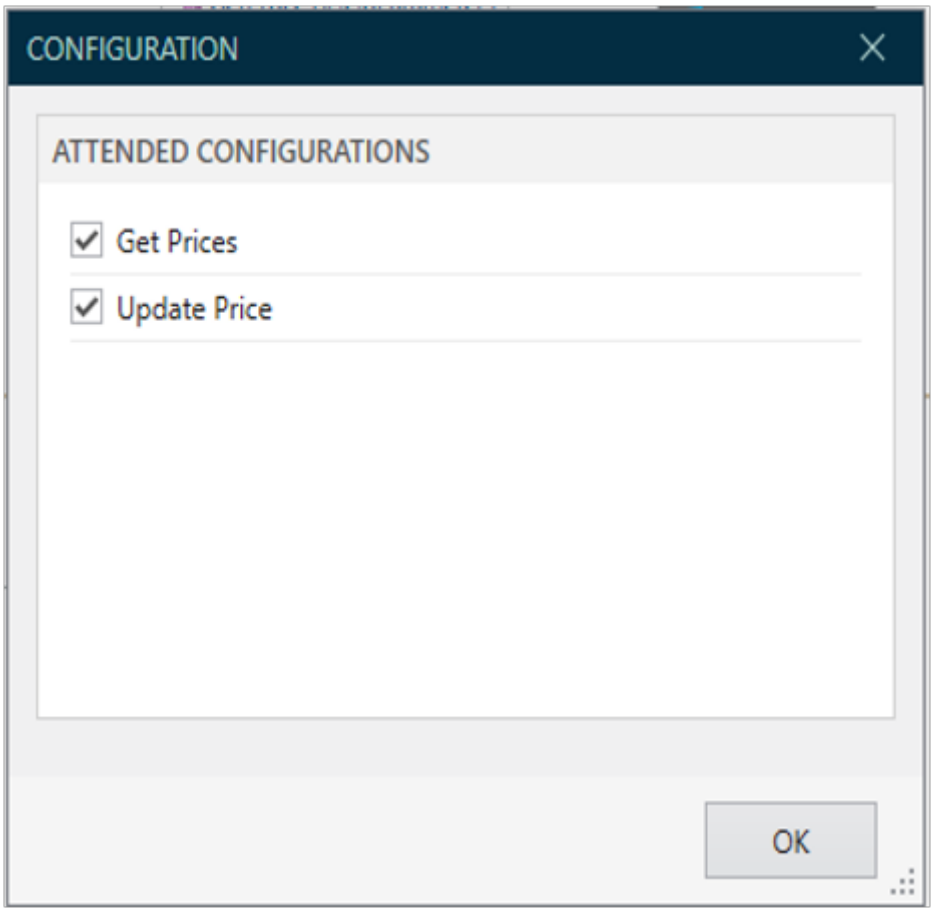
手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[ServiceNow]** > [フォーム]の順に移動します。
2. AttendedConfigurations コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)]にドラッグします。
3. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
4. 該当する有人構成を 1 つ以上選択します。

   この例では、両方の有人構成 ([価格の取得 (Get Prices)] と [価格の更新 (Update Price)]) を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例：有人構成を選択



5. **[OK]** をクリックします。
   複数のコントロール出力ポートが表示されます。
6. 下表に従って、AttendedConfigurations コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

   この例では、[価格の取得 (Get Prices)] コントロール出力ポートを、対応するアクティビティにマッピングします。同様に、[価格の更新 (Update Price)] コントロール出力ポートを、対応するアクティビティにマップします。[価格の取得 (Get Prices)] UI アクションを選択すると、対応するロジックが実行されます。同様に、[価格の更新 (Update Price)] UI アクションを選択すると、対応するロジックが実行されます。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	[複数] 選択した有人構成ごとに、コントロール出力が作成されます。必要な自動化ロジックに従って、別のコンポーネントまたはアクティビティのコン	なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	トロール入力ポートに接続します。	

7. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントのタイトルバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** を選択します。

GetProcessFieldParameters コンポーネントの使用

ボットプロセスの有人構成レコードで構成した、プロセスフィールドパラメーターにマッピングされた関連 [テーブル] フィールドの値を取得します。このコンポーネントは、パラメーターの個々の値とすべての値の両方をオブジェクトとして返します。このコンポーネントは、ServiceNow フォームレコード内の関連 [テーブル] フィールドの値を読み取ります。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオから自動化を実行している場合は、RPA デスクトップデザインスタジオの [デザイン] タブから [ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** オプションを使用して、ボットプロセスに自動化をアサインします。[ボットプロセス] フィールドで、埋め込みタスクの自動化が有効になっている有人のボットプロセスを選択していることを確認します。[有人構成 **(Attended Config)]** フィールドで、関連付けられた有人構成を選択していることを確認します。[レコードコンテキスト] フィールドに、ServiceNow フォームレコードの Sys ID または URL を入力していることを確認します。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

RPA ハブ のボットプロセスの一部として、プロセスフィールドパラメーターを作成します。「RPA ハブ でのプロセスフィールドパラメーターの作成」を参照してください。

埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

必要なロール：

- sn_rpa_fdn.rpa_developer または sn_rpa_fdn.rpa_admin (RPA デスクトップデザインスタジオから自動化を実行している場合)
- sn_rpa_fdn.rpa_assisted_user (アテンド型ロボットアプリケーションから自動化を実行している場合)。

このタスクについて

GetProcessFieldParameters コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Forms コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

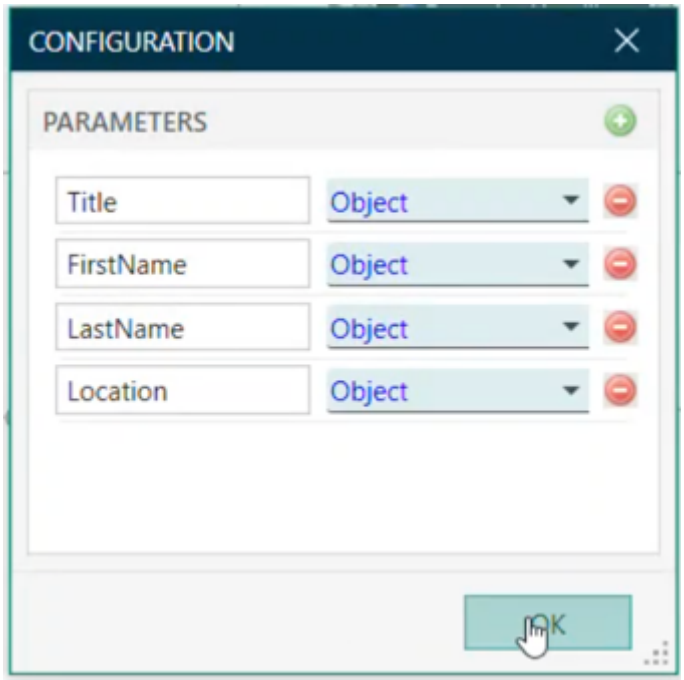
従業員バッジ作成のユースケースを考えてみましょう。次の手順は、このユースケースでの GetProcessFieldParameters コンポーネントの使用方法に関するガイダンスです。ユースケースの詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[ServiceNow]** > [フォーム]の順に移動します。
2. GetProcessFieldParameters コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
4. [キーを追加] アイコン ( ) をクリックします。
5. プロセスフィールドパラメーターの内の 1 つの名前を入力します。
   たとえば、次の画像に示すように、タイトル、名、姓、場所などです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスフィールドパラメーター構成の例



6. オプション: プロセスフィールドパラメーターのデータタイプを更新します。
   プリミティブデータ型の複数のパラメーターを定義できます。
7. さらにパラメーターを追加するには、手順を繰り返します。
8. **[OK]** をクリックします。
9. 下表に従って、GetProcessFieldParameters コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Parameter)	個々のプロセスフィールドパラメーターの値を返し、次のコンポーネントで使用できます。	いいえ
データ出力 (Return, Object)	有人構成で設定されたキーと値のペア形式でプロセスフィールドパラメーターを返します。この値は、次のコンポーネントで使用できます。	いいえ
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	必要な自動化ロジックに従って、別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ

10. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントのタイトルバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetRecordContextID コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの GetRecordContextID コンポーネントを使用して、有人構成に関連付けられている ServiceNow フォームレコードの Sys ID を取得します。Sys ID はコンポーネントの出力です。たとえば、Sys ID はレコード内の添付ファイルをフェッチするために使用されます。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオから自動化を実行している場合は、RPA デスクトップデザインスタジオの [デザイン] タブから [ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** オプションを使用して、ボットプロセスに自動化をアサインします。[ボットプロセス] フィールドで、埋め込みタスクの自動化が有効になっている有人のボットプロセスを選択していることを確認します。[有人構成 **(Attended Config)]** フィールドで、関連付けられた有人構成を選択していることを確認します。[レコードコンテキスト] フィールドに、ServiceNow フォームレコードの Sys ID または URL を入力していることを確認します。これはコンポーネントの出力です。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

必要なロール：なし

このタスクについて

GetRecordContextID コンポーネントを使用して、自動化がトリガーされる ServiceNow フォームレコードの Sys ID をフェッチします。GetAttachmentsMetadata コンポーネントを使用して、このレコードの添付ファイルのメタデータを取得します。添付ファイルの Sys ID を取得したら、DownloadAttachment コンポーネントを使用して添付ファイルをダウンロードします。これらのコンポーネントの詳細については、「DownloadAttachment コンポーネントの使用」および「GetAttachmentsMetadata コンポーネントの使用」を参照してください。

ServiceNow フォームの UI アクション (ボタン) から自動化をトリガーし、アテンド型ロボットアプリケーションを使用して実行すると、GetRecordContextID コンポーネントは ServiceNow フォームレコードの Sys ID を返します。

GetRecordContextID コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Forms コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[ServiceNow]** > [フォーム]の順に移動します。
2. GetRecordContextID コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、GetRecordContextID コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポート名	接続の目的	必須？
SysID [データ出力]	ServiceNow フォームレコードの Sys ID を返します。	いいえ
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	必要な自動化ロジックに従って、別のコンポーネントまたは	なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポート名	接続の目的	必須？
	アクティビティのコントロール入力ポートに接続します。	

4. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントのタイトルバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** を選択します。

SetProcessFieldParameters コンポーネントの使用

ボットプロセスの有人構成レコードで構成した、プロセスフィールドパラメーターにマッピングされた関連 [テーブル] フィールドの値を設定します。このコンポーネントは、ServiceNow フォームレコード内の [テーブル] フィールドに関連付けられた設定済みフィールドパラメーターの値を更新します。

始める前に

RPA デスクトップデザインスタジオから自動化を実行している場合は、RPA デスクトップデザインスタジオの [デザイン] タブから [ボットプロセスをアサイン **(Assign bot process)]** オプションを使用して、ボットプロセスに自動化をアサインします。[ボットプロセス] フィールドで、埋め込みタスクの自動化が有効になっている有人のボットプロセスを選択していることを確認します。[有人構成 **(Attended Config)]** フィールドで、関連付けられた有人構成を選択していることを確認します。[レコードコンテキスト] フィールドに、ServiceNow フォームレコードの Sys ID または URL を入力していることを確認します。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

RPA ハブ のボットプロセスの一部として、プロセスフィールドパラメーターを作成します。「RPA ハブ でのプロセスフィールドパラメーターの作成」を参照してください。

埋め込みタスクの自動化の概念について理解しておいてください。詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

必要なロール：

- sn_rpa_fdn.rpa_developer または sn_rpa_fdn.rpa_admin (RPA デスクトップデザインスタジオから自動化を実行している場合)
- sn_rpa_fdn.rpa_assisted_user (アテンド型ロボットアプリケーションから自動化を実行している場合)。

このタスクについて

SetProcessFieldParameters コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Forms コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

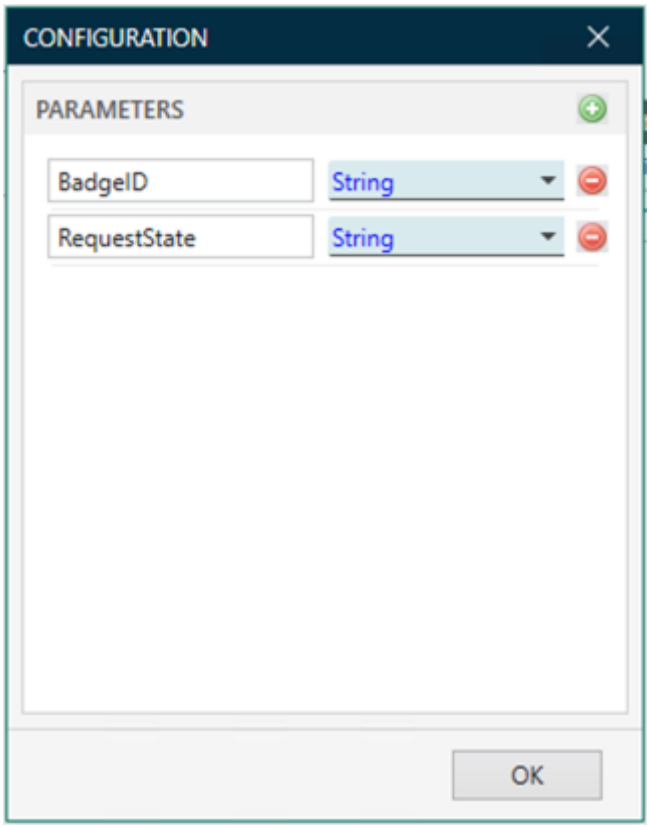
従業員バッジ作成のユースケースを考えてみましょう。次の手順は、このユースケースでの SetProcessFieldParameters コンポーネントの使用方法に関するガイダンスです。ユースケースの詳細については、「RPA ハブでの埋め込みタスクの自動化」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[ServiceNow]** > [フォーム]の順に移動します。
2. SetProcessFieldParameters コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. [コンポーネントの設定] アイコン ( ) をクリックします。
4. [キーを追加] アイコン ( ) をクリックします。
5. プロセスフィールドパラメーターの内の 1 つの名前を入力します。
   たとえば、BadgeID、RequestState などです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロセスフィールドパラメーター構成の例



データ入力ポートが作成されます。

6. オプション: プロセスフィールドパラメーターのデータタイプを更新します。
プリミティブデータ型の複数のパラメーターを定義できます。
7. さらにパラメーターを追加するには、手順を繰り返します。
8. **[OK]** をクリックします。
9. 下表に従って、SetProcessFieldParameters コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力	フィールドパラメータのデータを渡します。	はい
成功 [データ出力]	終了フォームの更新操作が成功したかどうかを示すブール値の応答。	適用外
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	必要なフローに従って、別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	適用外

10. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントのタイトルバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Forms コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオの Forms コンポーネントのプロパティについて説明します。

Forms コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

ユーティリティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Utilities コンポーネントを使用すると、多様で幅広い便利な処理を行うことができます。画面解像度の変更から ZIP ファイルの解凍まで、さまざまなユーティリティが用意されています。

バーコード

RPA デスクトップデザインスタジオのバーコードコンポーネントは、1 つ以上のバーコードを含む画像ファイルを受け取り、バーコード値を返します。

ReadBarcode コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの ReadBarcode コンポーネントを使用して、1 つのバーコードを読み取り、その内容を返します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ReadBarcode コンポーネントは、別のコンポーネントから受け取った画像ファイルから 1 つのバーコードを読み取ります。

ReadBarcode コンポーネントでは、バーコードの値とエンコードタイプ (形式) の両方を返すことができます。Type パラメーターが返すエンコード値の形式は、サポートされている次のいずれかです。

- AZTEC
- CODABAR
- CODE_39
- CODE_93
- CODE_128
- DATA_MATRIX
- EAN_8
- EAN_13
- ITF
- MAXICODE
- PDF_417

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- QR_CODE
- RSS_14
- RSS_EXPANDED
- UPC_A
- UPC_E
- All_1D
- UPC_EAN_EXTENSION
- MSI
- PLESSEY
- IMB
- PHARMA_CODE

コンポーネントでバーコードを読み取れない場合は、エラーが返されます。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Barcode]**に移動します。
2. ReadBarcode コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. コンポーネントの入力フィールドの構成を確認します。
   詳細については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ReadBarcode コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポート	説明	ポートタイプ	データタイプ	必須
画像	バーコードを含む画像を受け取ります	データ入力	ビットマップ	はい
タイプ	バーコードタイプを返します	データ出力	文字列	はい
結果	バーコードのエンコードされた値を返します	データ出力	文字列	はい

コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] を選択します。

ReadBarcodes コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの ReadBarcodes コンポーネントを使用して、複数のバーコードを読み取り、その内容を返します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ReadBarcodes コンポーネントは、別のコンポーネントから受け取った画像ファイルから複数のバーコードを読み取ります。

ReadBarcodes コンポーネントでは、連結されたテキストを含む 1 つの出力を、アイテムごとに新しい行にした状態で返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Barcode]**に移動します。
2. ReadBarcodes コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. コンポーネントの入力フィールドの構成を確認します。
   詳細については、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ReadBarcodes コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポート	説明	ポートタイプ	データタイプ	必須
画像	複数のバーコードを含む画像を受け取ります	データ入力	ビットマップ	はい
戻る	各バーコードから、連結された情報を含む値を返します	データ出力	文字列	はい

コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] を選択します。

Barcode コンポーネントのプロパティ

バーコードコンポーネントのプロパティを使用して、コンポーネントの実行前または後の遅延を設定したり、設定した期間内にコンポーネントが終了しない場合に実行を停止するタイムアウトを設定したりします。

Barcode コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

スクリーン

RPA デスクトップデザインスタジオ の Screen コンポーネントを使用すると、プログラムウィンドウをキャプチャしたり、画面の解像度を変更したりできます。

Capture コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Capture コンポーネントを使用して、自動化 ワークフローの一部として、デスクトップまたはアプリケーションの画面またはウィンドウをキャプチャします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Capture コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Screen コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Screen]**に移動します。
2. Capture コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Capture コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ入力	モード	適用外	コンポーネントが画面またはウィンドウをキャプチャするかどうかについての入力を取得します。	はい
データ出力	戻る	ビットマップ	画面またはウィンドウの画像を返します。	適用外

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

CaptureWindow コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の CaptureWindows コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、アプリケーションウィンドウの画像をキャプチャします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
CaptureWindows コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Screen コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Screen]**に移動します。
2. CaptureWindow コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、CaptureWindow コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ入力	ハンドル	整数	コンポーネントがキャプチャするウィンドウのハンドルを取得します。	はい
データ出力	戻る	ビットマップ	コンポーネントがキャプチャした	適用外

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
			ウィンドウの画像を返します。	

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ChangeResolution コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ChangeResolution コンポーネントを使用して、自動化ワークフロー の一部として、ユーザーのシステム画面の解像度を変更します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ChangeResolution コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Screen コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Screen]**に移動します。
2. ChangeResolution コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ChangeResolution コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
解決	文字列	ユーザーのシステム画面の解像度を取得します。	はい

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetResolution コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetResolution コンポーネントを使用して、現在の画面の解像度を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetResolution コンポーネントのプロパティは、他の Screen コンポーネントのプロパティと共通です。これらのプロパティを設定するには、「Screen コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

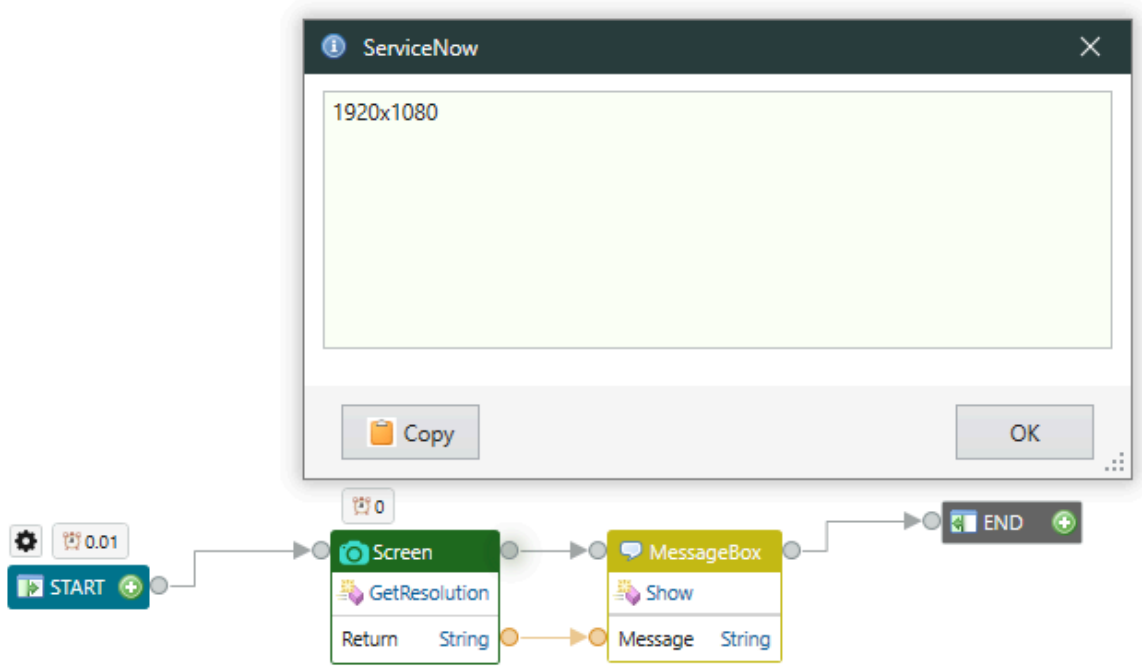
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Screen]**に移動します。
2. GetResolution コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. オプション: 下表に従って、GetResolution コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ入力	戻る	文字列	現在の画面の解像度を返します。	適用外

4. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Example: 現在の画面解像度をメッセージボックスに表示する



GetResolution コンポーネントは、データ出力ポートを介して、現在の画面解像度を Show コンポーネントに渡します。Show コンポーネントは、メッセージデータ入力ポートを介して解像度を取得し、解像度はメッセージボックスに表示されます。

Screen コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Screen コンポーネントのプロパティについて説明します。

Screen コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

クリップボード

RPA デスクトップデザインスタジオ の Clipboard コンポーネントを使用すると、ファイルに対するクリップボード、コピー、および抽出の各処理ができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Clear コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Clear コンポーネントを使用して、自動化ワークフローの一部として、クリップボードのコンテンツをクリアします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Clear コンポーネントは、他のコンポーネントやメソッドとやり取りして自動化 ワークフロー を実行できます。

Clear コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Clipboard コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Clipboard]**に移動します。
2. Clear コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、Clear コンポーネントのコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール入力	別のコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetAsTable コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetAsTable コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、クリップボードの内容をデータテーブルとして取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetAsTable コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Clipboard コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Clipboard]**に移動します。
2. GetAsTable コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetAsTable コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (ColumnSeperator)	別のコンポーネントのデータ出力ポートから、テーブル列の列セパレーターを渡します。	はい
データ入力 (LineSeperator)	別のコンポーネントのデータ出力ポートから、テーブル列のデータセパレーターを渡します。	はい
データ出力	クリップボードの内容をデータテーブルとして返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetFileDropList コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetFileDropList コンポーネントを使用して、Windows クリップボードからファイル名のリストを文字列アレイとして取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ファイルドロップリストは、Windows クリップボード上のファイルのパス情報を含む文字列のコレクションです。

GetFileDropList コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Clipboard コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Clipboard]**に移動します。
2. GetFileDropList コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、GetFileDropList コンポーネントのコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	Windows クリップボードからファイルドロップリストを文字列アレイとして返します。	はい。 キャプチャをプレビューするには、[戻る] フィールドを右

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
		クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetImage コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetImage コンポーネントを使用して、クリップボードから画像を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetImage コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Data Writer コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Clipboard]**に移動します。
2. GetImage コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、GetImage コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Bitmap)	クリップボードから画像を返します。	はい。 画像をプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetText コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetText コンポーネントを使用して、クリップボードからテキストを取得し、文字列として返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetText コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Clipboard コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Clipboard]**に移動します。
2. GetText コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、GetText コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	クリップボードからのテキストを文字列として返します。	はい。 テキストをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

SetFileDropList コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SetFileDropList コンポーネントを使用して、クリップボードをクリアし、ファイル名のコレクションを追加します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ファイルドロップリストは、ファイルパスを含む文字列のコレクションで、Windows クリップボードに文字列アレイとして保存されます。

SetFileDropList コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Clipboard コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Clipboard]**に移動します。
2. SetFileDropList コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. SetFileDropList コンポーネントのコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Filenames)	別のコンポーネントのデータ出力コンポーネントから、ファイル名を文字列アレイとして渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

SetImage コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SetImage コンポーネントを使用して、クリップボードに画像をコピーします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SetImage コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Data Writer コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Clipboard]**に移動します。
2. SetImage コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、SetImage コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (img)	別のコンポーネントのデータ出力ポートを介して画像を渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetText コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SetText コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、テキスト文字列を Windows クリップボードにコピーします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SetText コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Clipboard コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Clipboard]**に移動します。
2. SetText コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、SetText コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (strText)	別のコンポーネントのデータ出力ポートを介して文字列を渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Clipboard コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ Clipboard ユーティリティの Clipboard コンポーネントのプロパティについて説明します。

Clipboard コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Data Reader

RPA デスクトップデザインスタジオ の Data Reader コンポーネントを使用すると、MS Excel や CSV など、さまざまなプログラムからのデータを読み取ることができます。

注: OLDB 32 ビットは、Data Reader コンポーネントには対応していません。

Data Reader コンポーネントに関連する問題の詳細については、『KB 記事 KB1123553』および『KB 記事 KB1123554』を参照してください。

GetExcelSheetNames コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetExcelSheetNames コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、Excel ファイルのシート名を取得します。

始める前に

GetExcelSheetNames コンポーネントを使用するには、Microsoft Accessデータベースエンジン をインストールします。

必要なロール：なし

このタスクについて

GetExcelSheetNames コンポーネントは、自動化 ワークフロー 内の他のコンポーネントやメソッドとやり取りできます。

GetExcelSheetNames コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Data Reader コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Data Reader]**に移動します。
2. GetExcelSheetNames コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetExcelSheetNames コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	シート名を取得する Excel ファイルへのパス。	データ入力	文字列
Return	シート名を文字列のアレイとして返します。	データ出力	文字列[]

5. データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
6. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

QueryExcel コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の QueryExcel コンポーネントを使用して、 Microsoft Excel ファイルからデータを照会します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
QueryExcel コンポーネントを使用するには、Microsoft Accessデータベースエンジン をインストールします。

必要なロール：なし

このタスクについて
QueryExcel コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Data Reader コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

実際のシナリオ：特定の販売データを抽出する

ある会社では、毎月の売上データを Excel ファイルに保存しています。RPA ボットは、QueryExcel コンポーネントを使用して、特定の製品カテゴリの販売レコードをフィルタリングし、分析とレポートのために関連データのみを抽出します。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Data Reader]**に移動します。
2. QueryExcel コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、QueryExcel コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	前に実行されたコンポーネントから Excel ファイルへのパス。	データ入力	文字列
CommandText	前に実行されたコンポーネントからのクエリ。	データ入力	文字列
IsFirstRowHeader	前に実行されたコンポーネントから、Excel シートの最初の行がヘッダーかどうかを示す True または false 値。	データ入力	ブーリアン
Count	データを含む行の合計数を返します。	データ出力	整数
DataTable	DataTable の Excel ファイルから抽出されたデータを返します。	データ出力	データテーブル

5. データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
6. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

ReadFromCSV コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ReadFromCSV コンポーネントを使用して、CSV ファイルからデータを読み取ります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ReadFromCSV コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Data Reader コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

実際のシナリオ：製品インベントリデータを抽出する

ある e コマース会社では、在庫の詳細を CSV ファイルで管理しています。RPA ボットは ReadFromCSV コンポーネントを使用してファイルを読み取り、会社のデータベースのインベントリレベルを更新して、リアルタイムで在庫の可用性を確保します。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Data Reader]**に移動します。
2. ReadFromCSV コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ReadFromCSV コンポーネントの使用」を参照してください。
4. 下表に従って、ReadFromCSV コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
FilePath	CSV ファイルのファイルパス。	データ入力	文字列
StartRow	CSV ファイルで最初にクエリされる行の番号。	データ入力	整数
Delimiter	CSV ファイルの行の値を区切る文字。たとえば、カンマ、タブ、セミコロン、パイプ、スペースなど。	データ入力	文字列
IsFirstRowHeader	CSV ファイルの最初の行がヘッダーかどうかを示す true または false 値。	データ入力	ブーリアン
Count	データを含む行の合計数を返します。	データ出力	整数
DataTable	DataTable の CSV ファイルから抽出されたデータを返します。	データ出力	データテーブル

5. データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
6. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

ReadFromExcel コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ReadFromExcel コンポーネントを使用して、 Microsoft Excel ファイルから DataTable としてデータを抽出します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に

ReadFromExcel コンポーネントを使用するには、Microsoft Accessデータベースエンジン をインストールします。

必要なロール：なし

このタスクについて

ReadFromExcel コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Data Reader コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

実際のシナリオ：従業員レコードをインポートする

HR 部門では、従業員の詳細を Excel ファイルで管理しています。ReadFromExcel コンポーネントは、このデータを DataTable に抽出し、それを使用して HR 管理システムを更新します。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Data Reader]**に移動します。
2. ReadFromExcel コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ReadFromExcel コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	前に実行されたコンポーネントから Excel ファイルへ渡すことができるパス。	データ入力	文字列
Sheetname	前に実行されたコンポーネントから渡すことができる Excel ファイルのシート名。	データ入力	文字列
IsFirstRowHeader	Excel シートの最初の行がヘッダーかどうかを示す true または false 値を指定します。	データ入力	ブーリアン
Count	データを含む行の合計数を返します。	データ出力	整数
データ	DataTable の Excel ファイルから抽出されたデータを返します。	データ出力	データテーブル

5. データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
6. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

ReadFromXPS コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ReadFromXPS コンポーネントを使用して、XPS ファイルからデータを読み取ります。

始める前に

必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
ReadFromXPS コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Data Reader コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Data Reader]**に移動します。
2. ReadFromXPS コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ReadFromXPS コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
Filepath	XPS ファイルのファイルパス。	データ入力	文字列
PageNumber	データを読み込む XPS ファイルからのページ番号。	データ入力	整数
データ	XPS ファイルから抽出されたデータを返します。	データ出力	文字列

5. データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
6. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

Data Reader コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Data Reader コンポーネントのプロパティについて説明します。

Data Reader コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

Data Writer

RPA デスクトップデザインスタジオ の Data Writer コンポーネントは、MS Excel や CSV など、さまざまなプログラムにデータを書き込みます。

注: OLEDB 32 ビットは、Data Writer コンポーネントには対応していません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Data Writer コンポーネントに関連する問題の詳細については、『KB 記事 KB1123553』および『KB 記事 KB1123554』を参照してください。

WriteToCSV コンポーネントの使用

ワークフロー の一部として、RPA デスクトップデザインスタジオ の WriteToCSV コンポーネントを使用して、CSV ファイルにデータを書き込みます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
WriteToCSV コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Data Writer コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Data Writer]**に移動します。
2. WriteToCSV コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、WriteToCSV コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (FilePath)	前に実行されたコンポーネントから CSV ファイルへのパスを渡します。	はい
データ入力 (Data Table)	前に実行されたコンポーネントから、CSV ファイルに書き込むデータを渡します。ポートはデータテーブル形式のデータを受け取ります。	はい
データ入力 (Delimiter)	前に実行されたコンポーネントから区切り文字を渡します。カスタム区切り文字を指定できます。	いいえ
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

WriteToExcel コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の WriteToExcel コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、 Microsoft Excel ファイルのワークシートにデータを書き込みます。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
WriteToExcel コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Data Writer コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Data Writer]**に移動します。
2. WriteToExcel コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、WriteToExcel コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Filepath)	前に実行されたコンポーネントから Excel ファイルへのパスを渡します。	はい
データ入力 (SheetName)	前に実行されたコンポーネントから、データの書き込み先となる Excel ファイルのシートの名前を渡します。	はい
データ入力 (データ)	前に実行されたコンポーネントから、書き込むデータを渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

WriteText コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の WriteText コンポーネントを使用して、自動化 ワークフローの一部として、テキストドキュメントにデータを書き込みます。テキストファイルの既存の文字列に文字列形式のデータを追加したり、既存のデータを新しいデータで置き換えたりできます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
WriteText コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Data Writer コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Data Writer]**に移動します。
2. WriteText コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 下表に従って、WriteText コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Filepath)	前に実行されたコンポーネントからテキストファイルへのパスを渡します。	はい
データ入力 (データ)	前に実行されたコンポーネントから、テキストファイルに書き込む文字列を渡します。	はい
データ入力 (Append)	渡された文字列が、テキストファイル内の既存のデータを追加するか、置き換えるかを示すブール値を渡します。値は次のとおりです。 ◦ True：既存の文字列に追加します。 ◦ False：既存の文字列を置き換えます。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Data Writer コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Data Writer コンポーネントのプロパティについて説明します。

Data Writer コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

DateTime

RPA デスクトップデザインスタジオ の DateTime コンポーネントを使用すると、日付と時刻に関するさまざまな便利な処理を行うことができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Add コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの Add コンポーネントを使用して、ワークフローの一部として指定された値だけ時刻や日付を増減します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Add コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「DateTime コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[DateTime]**に移動します。
2. Add コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Add コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (SourceDate)	前に実行されたコンポーネントから、Add コンポーネントが指定された値だけ増減する日付または時刻であるソース日付を渡します。	はい
データ入力 (Type)	前に実行されたコンポーネントから時間の単位を渡します。次の値を指定できます。 ◦ 年 ◦ 月次 ◦ 日 ◦ 時間 ◦ 分 ◦ 秒 ◦ ミリ秒 ◦ ティック	はい
データ入力 (Value)	前に実行されたコンポーネントから、ソース日付を変更する数値を渡します。たとえば、5 を指定し、ソース日付が 10/8/2019 の場合、新しいソース日付は 10/13/2019 になります。	はい
データ出力	更新された日付と時刻を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
		クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Compare コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Compare コンポーネントを使用して、2 つの日時を比較し、同じ日時かどうかを確認します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Compare コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「DateTime コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[DateTime]**に移動します。
2. Compare コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Compare コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (date1)	前に実行されたコンポーネントから、比較する 2 つの日付の最初の日付を渡します。	はい
データ入力 (date2)	前に実行されたコンポーネントから、比較する 2 つの日付の 2 番目の日付を渡します。	はい
データ出力	比較結果に基づいて値の内の 1 つを返します。 ◦ **[-1]**：最初の日付が 2 番目の日付よりも前です。 ◦ **[0]**：最初の日付と 2 番目の日付が同じです。 ◦ **[1]**：最初の日付が 2 番目の日付より後です。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Format コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Format コンポーネントを使用して、日付形式を変更します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Format コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「DateTime コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[DateTime]**に移動します。
2. Format コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
4. 次の操作を実行します。
   a. [From] フィールドで、変更する日付形式を指定します。
   b. [To] フィールドで、変更後の日付形式を指定します。
   c. **[OK]** をクリックします。
5. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
6. 下表に従って、Format コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (DateObject)	別のコンポーネントのデータ出力ポートを介して日付オブジェクトを渡します。たとえば、03-25-2009 です。	はい
データ出力	変更後の日付形式で日付オブジェクトを返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

7. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetPart コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの GetPart コンポーネントを使用して、日付形式の一部の値を取得します。たとえば、MM/DD/YYYY の形式で月の値を取得する場合などです。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetPart コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「DateTime コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[DateTime]**に移動します。
2. GetPart コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetPart コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	ポートタイプ	データタイプ
SourceDate	前に実行されたコンポーネントから、一部を表示する日付と時刻を渡します。 DateTime から Now コンポーネントをドラッグして、今日の日付をソース日付として取得します。たとえば、ソース日付が 01-Feb-2025 の場合。	データ入力	DateTime
フォーマット	前に実行されたコンポーネントから、値が返される日付と形式の一部を渡します。 たとえば、`MMM` と入力します。	データ入力	文字列
Return	日付形式の一部の値を返します。	データ出力	文字列

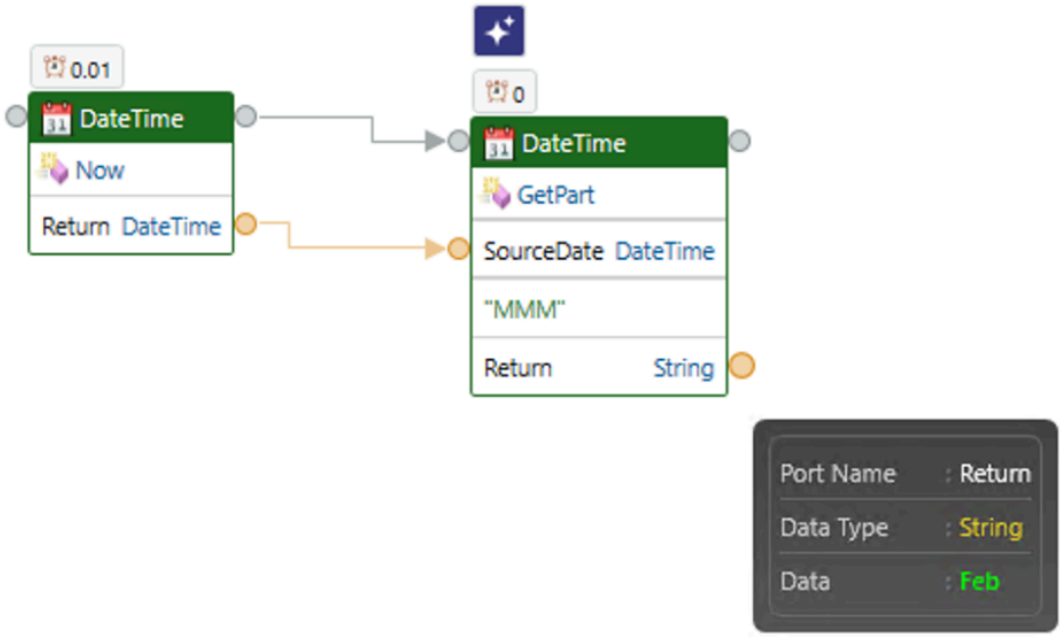
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	ポートタイプ	データタイプ
	形式が MMM の場合、出力は Feb です。		

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

Example: Now コンポーネントと GetPart コンポーネント

GetPart コンポーネント



IsLeapYear コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の IsLeapYear コンポーネントを使用して、うるう年かどうかを調べるために年を指定します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
IsLeapYear コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「DateTime コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[DateTime]**に移動します。
2. IsLeapYear コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、IsLeapYear コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (year)	前に実行されたコンポーネントから、指定された年を渡します。	はい
データ出力	指定された年がうるう年の場合は、**[True]** を返します。それ以外の場合は、**[False]** を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Now コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Now コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、システムの現在の日付と時刻を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Now コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「DateTime コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[DateTime]**に移動します。
2. Now コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、Now コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (DateTime)	別のコンポーネントにシステムの現在の日付と時刻を渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Today コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Today コンポーネントを使用して、システムの現在の日付を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Today コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「DateTime コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[DateTime]**に移動します。
2. Today コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、Today コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	別のコンポーネントに現在の日付を渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

UtcNow コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の UtcNow コンポーネントを使用して、システムの現在の日付と時刻を協定世界時 (UTC) 形式で取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
UtcNow コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「DateTime コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[DateTime]**に移動します。
2. UtcNow コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、UtcNow コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	現在の日付を UTC 形式で渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

DateTime コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の DateTime コンポーネントのプロパティについて説明します。

DateTime コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

Debug

RPA デスクトップデザインスタジオ の Debug コンポーネントを使用すると、コンソールログにログを書き込んだり、プロジェクトが RPA デスクトップデザインスタジオ とロボットのどちらから実行されているかを検証したりできます。

ConsoleLog コンポーネントの使用

ConsoleLog コンポーネントを使用して、メッセージを書き込み、RPA デスクトップデザインスタジオのコンソールログを表示します。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

ConsoleLog コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Debug コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Debug]**に移動します。
2. ConsoleLog コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ConsoleLog コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ConsoleLog コンポーネントのパラメーター

ポートタイプ	説明	データポートタイプ	データタイプ
メッセージ	コンソールログに書き込む必要があるメッセージを入力します。 たとえば、`started first activity` や `completed the first activity` など。	データ入力	文字列

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

タスクの結果

コンソールログを開いてメッセージを確認します。

ConsoleLog コンポーネントで入力されたメッセージを表示するコンソール

IsRunningFromStudio コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の IsRunningFromStudio コンポーネントを使用して、自動化ワークフロー の一部として 、プロジェクトがスタジオによって実行されているかどうかを判断します。

始める前に

必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
IsRunningFromStudio コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Debug コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Debug]**に移動します。
2. IsRunningFromStudio コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、IsRunningFromStudio コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	プロジェクトが RPA デスクトップデザインスタジオ から実行されている場合は、**[True]** を返します。それ以外の場合は、**[False]** を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

IsRunningInBotsession コンポーネントの使用
RPA デスクトップデザインスタジオ の IsRunningInBotsession コンポーネントを使用して、自動化ワークフロー の一部として、プロジェクトがボットセッションで実行されているかどうかを判断します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
IsRunningInBotsession コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Debug コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Debug]**に移動します。
2. IsRunningInBotsession コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、IsRunningInBotsession コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	プロジェクトがボットセッションで実行されている場合は、**[True]** を返します。それ以	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	外の場合は、**[False]** を返します。	データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Debug コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Debug コンポーネントのプロパティについて説明します。

Debug コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

Dialogs

Dialogs グループのコンポーネントは、有人自動化の一部として、ファイルとフォルダのダイアログに対する基本的な処理を実行します。

Dialogs コンポーネントは次の処理を実行できます。

- ファイルダイアログを開き、指定された基準に基づいてファイルを開きます。
- フォルダダイアログを開いて、フォルダを開きます。
- ファイルを任意の場所に保存します。

OpenFileDialog コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の OpenFileDialog コンポーネントを使用して、ファイルを開くことができるファイルダイアログを開きます。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

デフォルトでは、OpenFileDialog コンポーネントは、最後に開いたファイルダイアログを開きます。ファイルダイアログの場所と開くファイルのタイプは、それぞれを指定することで変更が可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OpenFileDialog コンポーネントには、設定が必要なプロパティがあります。詳細については、「ダイアログコンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities] > [Dialogs]** に移動します。
2. OpenFileDialog コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 最後に開いたファイルダイアログを開くには、OpenFileDialog コンポーネントバーを右クリックします。
4. [ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。
5. [名前を付けて保存] ファイルダイアログで、必要なファイルを選択し、[開く] をクリックします。Result (Boolean) および FileName (String) は、それぞれファイルを開いたかどうかのブール応答と、ファイル名とパスを返します。
6. オプション: 入力ポートを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
7. OpenFileDialog のデータポートとコントロールポートを別のコンポーネントの対応するポートに接続します。

OpenFileDialog のポート

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Filter)	前に実行したコンポーネントから、開くファイルの形式を取得します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
データ入力 (InitialDirectory)	前に実行したコンポーネントから、開くファイルに含まれるディレクトリへのパスを取得します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
データ出力 (Result)	ファイルを開いたかどうかを示すブール応答を次のコンポーネントに渡します。	はい
データ出力 (FileName)	開いたファイルの名前とそのパスを次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	Get Text コンポーネントからのコントロールを次に実行されるコンポーネントに渡します。	はい

8. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

LockUIDialog コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションの LockUIDialog コンポーネントを使用して、有人自動化の任意のステップに追加の認証を提供します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
LockUIDialog コンポーネントを使用するには、有人自動化プロジェクトを対象としていることを確認してください。

必要なロール：RPA 開発者

このタスクについて
有人自動化のステップに追加のセキュリティを提供するシナリオを検討します。たとえば、自動化によって従業員データベースへのアクセスが試行されるとします。このデータベースには機密情報が含まれています。LockUIDialog コンポーネントを使用すると、ユーザーがマシンのユーザー名とパスワードを使用して認証された場合にのみ、自動化が次のステップに進みます。認証中に表示するメッセージを指定することもできます。

手順

1. [ツールボックス] ペインの有人自動化プロジェクトで、[ユーティリティ] > [ダイアログ]に移動します。
2. LockUIDialog コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 次の表に従って、LockUIDialog コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

LockUIDialog コンポーネントのポート

ポート名	ポートタイプ	ポートの説明	必須
表示テキスト	データ入力	認証中に表示するテキスト。テキストを使用して、自動化ステップに認証が必要な理由を伝えることができます。たとえば、自動化ステップによって従業員データベースへのアクセスが試行される場合、次のテキストを使用できます。 ユーザー名とパスワードを入力して、従業員データベースにアクセスしてください。 このテキストは、マシンのユーザー名とパスワードの入力に使用される認証ダイアログボックスに表示されます。	いいえ
結果	データ出力	認証の true または false の値。認証に成功すると、結果は true になります。認証に失敗すると、結果は false になります。 結果の true または false の値を使用して、さらに任意の条件に接続できます。条件コンポーネントの使用方法の詳細については、「条件」を参照してください。	いいえ
適用外	コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	いいえ
適用外	コントロール出力	LockUIDialog コンポーネントからのコントロールを次に実行されるコンポーネントに渡します。	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** を選択します。
[デザイン] タブから [実行] を選択して自動化を実行することもできます。

OpenFolderDialog コンポーネントの使用

OpenFolderDialog コンポーネントを使用して、そこからフォルダを開くことができるように、フォルダダイアログを開きます。フォルダダイアログを開いた後はフォルダを作成できます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
OpenFolderDialog コンポーネントには、設定が必要なプロパティがあります。詳細については、「ダイアログコンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities] > [Dialogs]** に移動します。
2. OpenFolderDialog コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. フォルダダイアログを開くには、OpenFolderDialog コンポーネントバーを右クリックします。
4. [フォルダの参照 (Browse For Folder)] ダイアログで、必要なフォルダを選択し、[開く] をクリックします。
5. データポートからの出力を設定するには、「出力ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
Result (Boolean) および Path (String) は、それぞれフォルダを開いたかどうかのブール応答と、フォルダ名とパスを返します。
6. OpenFolderDialog のデータポートとコントロールポートを別のコンポーネントの対応するポートに接続します。

OpenFolderDialog のポート

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Result)	フォルダを開いたかどうかを示すブール応答を次のコンポーネントに渡します。	はい
データ出力 (Path)	次のコンポーネントに、フォルダダイアログから開いたフォルダへのパスを渡します。	はい
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	Get Text コンポーネントからのコントロールを次に実行されるコンポーネントに渡します。	はい

7. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SaveFileDialog コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SaveFileDialog コンポーネントを使用して、フォルダにファイルを保存します。デフォルトでは、コンポーネントは最後に開いたファイルダイアログを開きます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SaveFileDialog コンポーネントには、設定が必要なプロパティがあります。詳細については、「ダイアログコンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities] > [Dialogs]** に移動します。
2. SaveFileDialog コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 最後に開いたファイルダイアログを開くには、 SaveFileDialog コンポーネントバーを右クリックします。
4. [ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。
5. [名前を付けて保存] ダイアログで、[ファイル名] フィールドにファイルの名前を入力します。
6. [保存] をクリックします。
   Result (Boolean) および FileName (String) は、それぞれファイルを開いたかどうかのブール応答と、ファイル名とパスを返します。
7. SaveFileDialog のデータポートとコントロールポートを別のコンポーネントの対応するポートに接続します。

SaveFileDialog のポート

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Result)	次のコンポーネントに、ファイルを保存したかどうかを示すブール応答を渡します。	はい
データ出力 (Filename)	次のコンポーネントに、保存したファイルの名前とファイルへのパスを渡します。	はい
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。	はい
コントロール出力	Get Text コンポーネントからのコントロールを次に実行されるコンポーネントに渡します。	はい

8. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ダイアログコンポーネントのプロパティ

Dialog コンポーネントのプロパティに関する説明を参照してください。必要に応じてプロパティを更新できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Dialog コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

環境

RPA デスクトップデザインスタジオ の Environment コンポーネントは、 Windows の環境に関する情報を取得し、特定の処理を実行します。

CurrentDirectory コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の CurrentDirectory コンポーネントを使用して、現在の作業ディレクトリとそのパスを確認します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
CurrentDirectory コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Environment コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Environment]**に移動します。
2. CurrentDirectory コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、CurrentDirectory コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Return)	現在の作業ディレクトリへのパスを返します。パスを次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetEnvironmentVariable コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetEnvironmentVariable コンポーネントを使用して、環境変数の値を取得します。たとえば、TEMP 変数の値を取得できます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetEnvironmentVariable コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Environment コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Environment]**に移動します。
2. GetEnvironmentVariable コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetEnvironmentVariable コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (variable)	別のコンポーネントのデータ出力ポートを介して環境変数を取得します。	はい
データ出力	指定された環境変数の値を返し、別のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Is64bitOperatingSystem コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Is64bitOperatingSystem コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、オペレーティングシステムが 64 ビットかどうかを判断します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Is64bitOperatingSystem コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Environment コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Environment]**に移動します。
2. Is64BitOperatingSystem コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、Is64BitOperatingSystem コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	現在のオペレーティングシステムが 64 ビットのオペレーティングシステムである場合は、**[True]** を返します。それ以外の場合は、**[False]** を返し、次のコンポーネントに出力を渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

MachineName コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の MachineName コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、お使いのコンピューターの名前を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
MachineName コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Environment コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Environment]**に移動します。
2. MachineName コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、MachineName コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	コンピューターの名前を返し、次のコンポーネントに渡します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
		クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ResolvePath コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ResolvePath コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、現在の自動化プロジェクトのパスを検索します。パスを取得するには、パラメーター (%projectpath% など) を指定する必要があります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ResolvePath コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Environment コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Environment]**に移動します。
2. ResolvePath コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ResolvePath コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Path)	別のコンポーネントのデータ出力ポートを介してプロジェクトのパスを取得します。	はい
データ出力	自動化プロジェクトのパスを返し、別のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデ	いいえ。ポートの接続はオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	フォルトのエンドコンポーネントに接続します。	

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

SetEnvironmentVariable コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetEnvironmentVariable コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、環境変数を作成します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SetEnvironmentVariable コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Environment コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Environment]**に移動します。
2. SetEnvironmentVariable コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、SetEnvironmentVariable コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (variable)	前に実行されたコンポーネントから環境変数の名前を取得します。	はい
データ入力 (value)	前に実行されたコンポーネントから環境変数の値を取得します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

SpecialFolderPath コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SpecialFolderPath コンポーネントを使用して、指定された名前に基づいて、Windows の特別なフォルダへのパスを取得します。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
SpecialFolderPath コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Environment コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Environment]**に移動します。
2. SpecialFolderPath コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、SpecialFolderPath コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (folder)	前に実行されたコンポーネントから、特別なフォルダの名前を取得します。	はい
データ出力 (Return)	指定されたシステムの特別なフォルダへのパスを返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

SystemDirectory コンポーネントの使用
RPA デスクトップデザインスタジオ の SystemDirectory コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、システムディレクトリへのパスを取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SystemDirectory コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Environment コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Environment]**に移動します。
2. SystemDirectory コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、SystemDirectory コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Return)	システムディレクトリへのパスを返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

UserDomain コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の UserDomain コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、現在のユーザーに関連付けられているユーザードメイン名を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
UserDomain コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Environment コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Environment]**に移動します。
2. UserDomain コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、UserDomain コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Return)	現在のユーザーのドメイン名を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデ	いいえ。ポートの接続はオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	フォルトのエンドコンポーネントに接続します。	

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

UserName コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の UserName コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、現在 Windows マシンにログオンしているユーザーのユーザー名を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
UserName コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Environment コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Environment]**に移動します。
2. UserName コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、UserName コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	現在 Windows マシンにログオンしているユーザーの名前を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Environment コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Environment コンポーネントのプロパティについて説明します。

Environment コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Environment コンポーネントのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

ファイル

RPA デスクトップデザインスタジオ の File コンポーネントは、 Windows のファイルとディレクトリに対して標準的な処理を実行します。たとえば、ファイルのコピーや一時ファイル名の取得などです。

AppendBytes コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の AppendBytes コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、ファイルにバイトを追加します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
AppendBytes コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. AppendBytes コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、AppendBytes コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (filePath)	前に実行されたコンポーネントから、バイトが追加されるファイルへのパスを取得します。	はい
データ入力 (バイト)	前に実行されたコンポーネントから、ファイルに追加するバイトを取得します。	はい
データ出力	Append Bytes 処理のステータスを返します。成功した場合は **[True]** を返し、エラーが発生した場合は **[False]** を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

AppendText コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の AppendText コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、ファイルの既存のテキストにテキストを追加します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
AppendText コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. AppendText コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、AppendText コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (filePath)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドがテキストを追加するファイルへのパスを取得します。	はい
データ入力 (text)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドがテキストを追加するテキストを取得します。	はい
データ出力 (text)	指定されたテキストがファイルに正常に追加された場合は、**[True]** を返します。それ以外の場合は、**[False]** を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ChangeExtension コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ChangeExtension コンポーネントを使用して、ファイルの拡張子を変更します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ChangeExtension コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. ChangeExtension コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ChangeExtension コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Path)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが拡張子を変更するファイルへのパスを取得します。	はい
データ入力 (Extension)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが変更する新しい拡張子を取得します。	はい
データ出力	拡張子が変更されたパスを返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデ	いいえ。ポートの接続はオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	フォルトのエンドコンポーネントに接続します。	

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Combine コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Combine コンポーネントを使用して、2 つのパスを結合して単一のパスを作成します。たとえば、C:\Users を最初のパスとして、\Data\TestFolder を 2 番目のパスとして、両方を組み合わせてパス C:\Users\Data\TestFolder を作成できます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Combine コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. Combine コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Combine コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Path 1)	前に実行されたコンポーネントから、結合されたパスの最初の部分を取得します。	はい
データ入力 (Path 2)	前に実行されたコンポーネントから、結合されたパスの最後の部分を取得します。	はい
データ出力 (String)	結合されたパスを返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CopyFile コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの CopyFile コンポーネントを使用して、既存のファイルを新しい場所にコピーします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
CopyFile コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. CopyFile コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、次の手順を実行してください。
   a. フィールドを右クリックします。
   b. [上書き] をクリックします。
   c. ポートのプロパティを設定する を参照して、詳細を入力します。
4. 下表に従って、CopyFile コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

Contains メソッドのパラメーター

パラメーター	説明	データポートタイプ	データタイプ
sourcefilePath	コピーするファイルパスとファイル名を指定します。 例：`C:\Users\ABC\Desktop\Folders\Txt Files\Scripts.txt`	データ入力	文字列
destFilePath	ファイルのコピー先となる宛先ファイルパスを (ファイル名とともに) 指定します。 例：`C:\Users\ABC\Desktop\Scripts.txt`	データ入力	文字列
overwrite	True または False 値を指定します。既存のファイルを上書きするには、True に設定します。	データ入力	ブーリアン

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DeleteFile コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の DeleteFile コンポーネントを使用して、自動化 ワークフローの一部として、指定された場所からファイルを削除します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
DeleteFile コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. DeleteFile コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、DeleteFile コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (filePath)	前に実行されたコンポーネントから、ファイルへのパスおよびファイルの名前を取得します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

FileExists コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の FileExists コンポーネントを使用して、自動化 ワークフローの一部として、指定されたファイルが存在するかどうかを確認します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
FileExists コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. FileExists コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 下表に従って、FileExists コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (filePath)	前に実行されたコンポーネントから、ファイルへのパスおよびファイルの名前を取得します。	はい
データ出力 (Return)	指定されたファイルが存在する場合は、**[True]** を返します。それ以外の場合は **[False]** を返し、出力を別のコンポーネントに送信します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetDirectoryName コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetDirectoryName コンポーネントを使用して、自動化ワークフロー の一部として、指定されたパスのディレクトリ名を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetDirectoryName コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. GetDirectoryName コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetDirectoryName コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Path)	前に実行されたコンポーネントからディレクトリへのパスを取得します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Return)	パスのディレクトリ名を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetExtension コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetExtension コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、ファイルの拡張子を取得し、その種類を確認します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetExtension コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. GetExtension コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetExtension コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Path)	前に実行されたコンポーネントから、ファイルへのパスおよびファイルの名前を取得します。	はい
データ出力 (Return)	ファイル拡張子を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetFileName コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetFileName コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、ファイル名を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetFileName コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. GetFileName コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetFileName コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Filepath)	前に実行されたコンポーネントからファイルへのパスを取得します。	はい
データ出力	ファイル名を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetFileNameWithoutExtension コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetFileNameWithoutExtension コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、拡張子なしでファイルの名前を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetFileNameWithoutExtension コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. GetFileNameWithoutExtension コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetFileNameWithoutExtension コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Path)	前に実行されたコンポーネントからファイルへのパスを取得します。	はい
データ出力 (Return)	ファイル名を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetLastModifiedFile コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetLastModifiedFile コンポーネントを使用して、ディレクトリ内で最後に変更されたファイルの名前とパスを取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetLastModifiedFile コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. GetLastModifiedFile コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetLastModifiedFile コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Folderpath)	前に実行されたコンポーネントからディレクトリへのパスを取得します。	はい
データ入力 (searchSubDirectories)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドがターゲットディレクトリ内のサブディレクトリを検索するかどうかを示すブール応答を取得します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
データ入力 (fileExtension)	拡張子でファイルを検索する場合は、このオプションを使用します。前に実行されたコンポーネントからファイルタイプの拡張子を取得します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
データ出力 (Return)	最後に変更されたファイルへのパスとそのファイル名を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetPathRoot コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetPathRoot コンポーネントを使用して、パスのルートフォルダまたはディレクトリの名前を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetPathRoot コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. GetPathRoot コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetPathRoot コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Path)	前に実行されたコンポーネントからパスを取得します。	はい
データ出力 (Return)	データ入力ポートを介して取得されたパス内のルートフォルダの名前を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetRandomFileName コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetRandomFileName コンポーネントを使用して、ランダムに生成されたファイル名とその拡張子を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetRandomFileName コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. GetRandomFileName コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、GetRandomFileName コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Return)	ランダムなファイル名と拡張子を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
		データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからファイル名を渡します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetTempFileName コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetTempFileName コンポーネントを使用して、Windows の一時ファイルの名前を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetTempFileName コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. GetTempFileName コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、GetTempFileName コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Return)	ディスク上の新しい一時ファイルの名前とパスを返し、次に実行されるコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HasExtension コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の HasExtension コンポーネントを使用して、ファイルに拡張子があるかどうかを確認します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
HasExtension コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. HasExtension コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、HasExtension コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Path)	前に実行されたコンポーネントから、ファイルへのパスおよびファイルの名前を取得します。	はい
データ出力 (Return)	ファイルに拡張子があるかどうかを示すブール値を返し、値を次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

IsPathRooted コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の IsPathRooted コンポーネントを使用して、指定されたパスにルートフォルダがあるかどうかを確認します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
IsPathRooted コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. IsPathRooted コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、IsPathRooted コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Path)	前に実行されたコンポーネントからファイルへのパスを取得します。	はい
データ出力 (Return)	パスにルートフォルダがあるかどうかを示すブール値を返し、値を次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

MoveFile コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の MoveFile コンポーネントを使用して、自動化 ワークフローの一部として、 既存の場所から新しい場所にファイルを移動します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
MoveFile コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. MoveFile コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、MoveFile コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (sourcefilePath)	前に実行されたコンポーネントからソースファイルへのパスを取得します。	はい
データ入力 (destFilePath)	前に実行されたコンポーネントから宛先ディレクトリへのパスを取得します。	はい
データ入力 (Overwrite)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが宛先ディレクトリ内の同じファイルを上書きするかどうかを示すブール値を取得します。	いいえ
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ReadBytes コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ReadBytes コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、指定されたバイト数を読み取ります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ReadBytes コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. ReadBytes コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ReadBytes コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (filePath)	前に実行されたコンポーネントからファイルへのパスを取得します。	はい
データ出力 (Return)	バイトを文字列アレイとして返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
		データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ReadText コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ReadText コンポーネントを使用して、ファイル内のすべてのテキストを出力として返します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ReadText コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. ReadText コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ReadText コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (filePath)	前に実行されたコンポーネントからファイルへのパスを取得します。	はい
データ出力 (Return)	ファイルから読み取ったテキストを返し、出力を次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

RenameFile コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の RenameFile コンポーネントを使用して、ファイルの名前を変更し、ファイルタイプを変更します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
RenameFile コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. RenameFile コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、RenameFile コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (filePath)	前に実行されたコンポーネントからファイルへのパスとその名前を取得します。	はい
データ入力 (newName)	前に実行されたコンポーネントからファイルの新しい名前を取得します。 **注:** ファイルの拡張子を指定する必要があります。新しい拡張子を指定することで、ファイルタイプを変更できます。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

WriteBytes コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の WriteBytes コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、指定されたバイトアレイをファイルに書き込みます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
WriteBytes コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. WriteBytes コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、WriteBytes コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (filePath)	前に実行されたコンポーネントからファイルへのパスを取得します。	はい
データ入力 (bytes)	前に実行されたコンポーネントから、バイトをバイトアレイとして取得します。	はい
データ出力	処理が成功した場合は **[True]** を返し、書き込み処理が失敗した場合は **[False]** を返し、ブール値を次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

WriteText コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の WriteText コンポーネントを使用して、既存のファイルに既存のテキストを追加または上書きするか、ファイルを作成してそのファイルにテキストを書き込みます。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
WriteText コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「File コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[File]**に移動します。
2. WriteText コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、WriteText コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (filePath)	前に実行されたコンポーネントから、既存ファイルまたは新しいファイルへのパスとファイルの名前を取得します。	はい
データ入力 (text)	前に実行されたコンポーネントから、既存のファイルまたは新しいファイルに書き込むテキストを取得します。	はい
データ出力	テキストがファイルに書き込まれた場合は、**[True]** を返します。それ以外の場合は **[False]** を返し、ブール値の出力を次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

File コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の File コンポーネントのプロパティについて説明します。

File コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
検索	プロパティの検索を有効にするオプション。
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ディレクトリ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Directory コンポーネントは、 Windows ディレクトリに対して標準的な処理を実行します。たとえば、ディレクトリの名前を変更したり、ディレクトリ内のファイルのリストを取得したりします。

CopyDirectory コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の CopyDirectory コンポーネントを使用して、ディレクトリを別の場所にコピーします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
CopyDirectory コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Directory コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Directory]**に移動します。
2. CopyDirectory コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、CopyDirectory コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (SourceDirPath)	前に実行されたコンポーネントからソースディレクトリへのパスを取得します。	はい
データ入力 (destDirPath)	前に実行されたコンポーネントから宛先ディレクトリへのパスを取得します。	はい
データ入力 (overwrite)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが宛先フォルダ内のディレクトリを上書きするかどうかを示すブール値を取得します。	いいえ
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

CreateDirectory コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の CreateDirectory コンポーネントを使用してディレクトリを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
CreateDirectory コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Directory コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Directory]**に移動します。
2. CreateDirectory コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、CreateDirectory コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (directoryPath)	前に実行されたコンポーネントから、ディレクトリが作成されるパスとディレクトリ名を取得します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

CurrentDirectory コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の CurrentDirectory コンポーネントを使用して、現在の作業ディレクトリのパスと名前を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
CurrentDirectory コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Directory コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Directory]**に移動します。
2. CurrentDirectory コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、CurrentDirectory コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (directoryPath)	現在の作業ディレクトリへのパスを返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

DeleteDirectory コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の DeleteDirectory コンポーネントを使用してディレクトリを削除します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
DeleteDirectory コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Directory コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Directory]**に移動します。
2. DeleteDirectory コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、DeleteDirectory コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (directoryPath)	前に実行されたコンポーネントからディレクトリへのパスを取得します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DirectoryExists コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の DirectoryExists コンポーネントを使用して、ディレクトリが存在するかどうかを確認します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
DirectoryExists コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Directory コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Directory]**に移動します。
2. DirectoryExists コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、DirectoryExists コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (directoryPath)	前に実行されたコンポーネントから、ディレクトリへのパスとその名前を取得します。	はい
データ出力 (Return)	指定されたディレクトリが存在する場合は **[True]** を返します。それ以外の場合は、**[False]** を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetFiles コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetFiles コンポーネントを使用して、ディレクトリおよびサブディレクトリ内のファイルの名前を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetFiles コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Directory コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Directory]**に移動します。
2. GetFiles コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetFiles コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (directoryPath)	前に実行されたコンポーネントからディレクトリへのパスを取得します。	はい
データ入力 (searchSubDirectories)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドがサブディレクトリを検索するかどうかを示すブール値を取得します。	いいえ
データ入力 (fileExtension)	前に実行されたコンポーネントからファイルの拡張子を取得します。特定の拡張子を持つファイルを検索する場合は、このフィールドを使用できます。	いいえ
データ出力 (Return)	指定されたディレクトリ内のすべてのサブディレクトリとファイルの名前を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetLastModifiedFolder コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetLastModifiedFolder コンポーネントを使用して、最後に変更されたフォルダの名前を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetLastModifiedFolder コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Directory コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Directory]**に移動します。
2. GetLastModifiedFolder コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetLastModifiedFolder コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (directoryPath)	前に実行されたコンポーネントからディレクトリへのパスを取得します。	はい
データ入力 (searchSubDirectories)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドがサブディレクトリの変更を検索するかどうかを示すブール値を取得します。	はい
データ出力 (Return)	最後に変更されたフォルダ名とファイル名を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetSubFolders コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetSubFolders コンポーネントを使用して、ディレクトリの下にあるすべてのサブフォルダの名前を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetSubFolders コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Directory コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Directory]**に移動します。
2. GetSubFolders コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 下表に従って、GetSubFolders コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (directoryPath)	前に実行されたコンポーネントからフォルダへのパスを取得します。	はい
データ入力 (searchSubDirectories)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドがサブディレクトリからサブフォルダ名を取得するかどうかを示すブール値を取得します。	いいえ
データ出力 (Return)	指定されたディレクトリ内のすべてのサブディレクトリとファイルの名前を ArrayList として返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

MoveDirectory コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の MoveDirectory コンポーネントを使用して、ディレクトリとそのコンテンツを新しい場所に移動します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
MoveDirectory コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Directory コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Directory]**に移動します。
2. MoveDirectory コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、MoveDirectory コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (sourceDirPath)	前に実行されたコンポーネントからソースディレクトリへのパスを取得します。	はい
データ入力 (destDirPath)	前に実行されたコンポーネントから宛先ディレクトリへのパスを取得します。	はい
データ入力 (overwrite)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが宛先フォルダ内の同じディレクトリを上書きするかどうかを示すブール応答を取得します。	いいえ
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

RenameDirectory コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の RenameDirectory コンポーネントを使用して、ディレクトリの名前を変更します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
RenameDirectory コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Directory コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Directory]**に移動します。
2. RenameDirectory コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、RenameDirectory コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (directoryPath)	前に実行されたコンポーネントからディレクトリへのパスを取得します。	はい
データ入力 (newname)	前に実行されたコンポーネントから新しいディレクトリ名を取得します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Directory コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Directory コンポーネントのプロパティについて説明します。

Directory コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

HTTP

HTTP コンポーネントを使用すると、HTTP プロトコルを介してサーバーとやり取りできます。コンポーネントを使用して、ファイルのダウンロードや、サーバーへのコンテンツの投稿を行うことができます。

DownloadFile コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の DownloadFile コンポーネントを使用して、HTTP プロトコルでファイルをダウンロードします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
DownloadFile コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「HTTP コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[HTTP]**に移動します。
2. DownloadFile コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 次の表に従って、DownloadFile コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポート名	ポートタイプ	データタイプ	接続の目的	必須？
URL	データ入力	文字列	前に実行されたコンポーネントから URL を取得します。	はい
FilePath	データ入力	文字列	前に実行されたコンポーネントから、メソッドがダウンロードするファイルへのパスを取得します。	はい
UserName	データ入力	文字列	前に実行されたコンポーネントから、サーバーにログインするためのユーザー名を取得します。	はい
パスワード	データ入力	文字列	前に実行されたコンポーネントから、サーバーにログインするためのパスワードを取得します。	はい
RequestTimeout	データ入力	整数	ダウンロード要求をタイムアウトする時間値 (秒)。設定したタイムアウト値を過ぎてもダウンロード要求が発生しない場合、ダウンロード要求は失敗し、接続タイムアウトの例外が表示されます。デフォルトのタイムアウト値は 100 秒です。	オプション
NA	コントロール入力	NA	次のコンポーネントのコントロール入力ポートを介してコントロールを渡します。	オプション
NA	コントロール出力	NA	次のコンポーネントのコントロール入力ポートを介してコントロールを渡します。	オプション

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

POST コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ で POST コンポーネントを使用して要求を出すと、サーバーへの POST 要求が実行されます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
POST コンポーネントのプロパティを設定できます。これらのプロパティの詳細については、「HTTP コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[HTTP]**に移動します。
2. POST コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 次の表に従って、POST コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポート名	ポートタイプ	データタイプ	接続の目的	必須
URL	データ入力	文字列	前に実行されたコンポーネントから、コンテンツが投稿される URL を取得します。	はい
データ	データ入力	オブジェクト	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが投稿するデータを取得します。	はい
ContentType	データ入力	文字列	前に実行されたコンポーネントから、JSON や XML などのコンテンツタイプを取得します。	はい
RequestTimeout	データ入力	整数	要求をタイムアウトする時間値 (秒)。設定したタイムアウト値を過ぎても POST 要求が発生しない場合、要求は失敗し、接続タイムアウトの例外が表示されます。デフォルトのタイムアウト値は 100 秒です。	オプション
ステータス	データ入力	文字列	前に実行されたコンポーネントか	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポート名	ポートタイプ	データタイプ	接続の目的	必須
			らコンテンツのステータスを取得します。	
応答	データ出力	オブジェクト	POST 処理のステータスを返します。	はい。 データをプレビューするには、[ステータス] および [応答] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
NA	コントロール入力		1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
NA	コントロール出力		別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	オプション

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

HTTP コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の HTTP コンポーネントのプロパティについて説明します。

HTTP コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

Image Utilities

RPA デスクトップデザインスタジオ の Image utility コンポーネントは、画像に対してさまざまな便利な処理を実行します。たとえば、輝度やコントラストを調整したり、画像のサイズを変更したりします。

AdjustBrightness コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の AdjustBrightness コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、画像の輝度を調整します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
AdjustBrightness コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. AdjustBrightness コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、AdjustBrightness コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから画像を取得します。	はい
データ入力 (Value)	前に実行されたコンポーネントから、輝度を調整するための値を取得します。	はい
データ出力	指定された輝度の画像を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

AdjustContrast コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の AdjustContrast コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、画像のコントラストを調整します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ApplyContrast コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. AdjustContrast コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、AdjustContrast コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから画像を取得します。	はい
データ入力 (Value)	前に実行されたコンポーネントから、コントラストを調整するための値を取得します。	はい
データ出力	指定されたコントラストの画像を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Convert コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの Convert コンポーネントを使用して、画像の形式を別の形式に変換します。

始める前に
必要なロール：なし

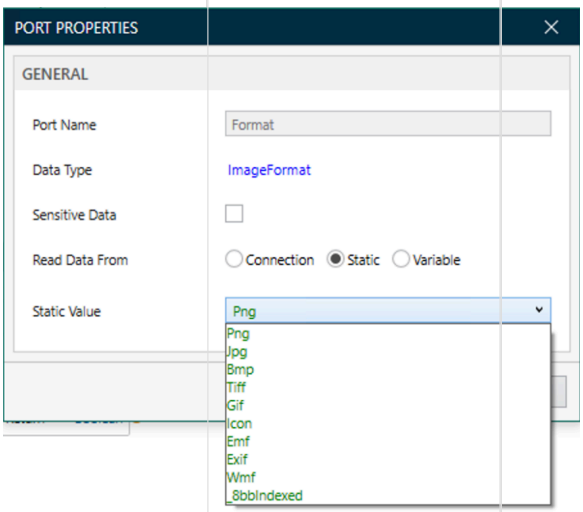
このタスクについて
Convert コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. Convert コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Convert コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

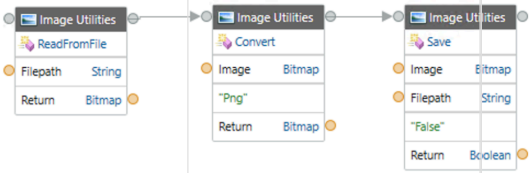
Convert コンポーネントのパラメーター

名前	接続の目的	ポートタイプ	データタイプ
Image	前に実行されたコンポーネントから現在の	データ入力	ビットマップ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	接続の目的	ポートタイプ	データタイプ
	画像へのパスを取得します。 たとえば、Image Utilities の ReadFromFile コンポーネントを使用して、画像のファイルパスを指定します。		
Format	前に実行されたコンポーネントから新しい画像形式を取得します。 このオプションをダブルクリックして [静的値] フィールドから形式タイプを選択し、**[OK]** を選択します。 たとえば、「Png」を選択します。 画像形式のオプション  	データ入力	ImageFormat
Return	指定された形式に変換される画像を返します。 さらに、Image Utilities から Save コンポーネントを追加して、変換された画像を別のファイルパスに保存することもできます。	データ出力	ビットマップ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	接続の目的	ポートタイプ	データタイプ
	他のコンポーネントを使用した **Convert** コンポーネント 		

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

DrawBorder コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の DrawBorder コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、画像の周囲に境界線を作成します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
DrawBorder コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. DrawBorder コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、DrawBorder コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから画像を取得します。	はい
データ入力 (BorderSize)	前に実行されたコンポーネントから、境界線のサイズを決める値を取得します。	はい
データ出力 (Return)	指定された境界線を持つ画像を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

DrawRectangle コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の DrawRectangle コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、画像上に矩形を描画し、その寸法を指定します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
DrawRectangle コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. DrawRectangle コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、DrawRectangle コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが矩形を描画する画像を取得します。	はい
データ入力 (Top)	前に実行されたコンポーネントから上部の測定値を取得します。	いいえ
データ入力 (Left)	前に実行されたコンポーネントから左側の測定値を取得します。	いいえ
データ入力 (Height)	前に実行されたコンポーネントから矩形の高さを取得します。	いいえ
データ入力 (幅)	前に実行されたコンポーネントから矩形の幅を取得します。	いいえ
データ入力 (色)	前に実行されたコンポーネントから、矩形の色を 16 進数で取得します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Thickness)	前に実行されたコンポーネントから、矩形の境界線の太さを取得します。	はい
データ出力	指定された寸法の矩形を描画した後に画像を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

DrawString コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の DrawString コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、画像上の特定の場所に文字列を描画し、文字列の色、フォントスタイル、およびサイズを設定します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
DrawString コンポーネントのプロパティを設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. DrawString コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、DrawString コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが文字列を描画する画像を取得します。	はい
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントからテキスト文字列を取得します。	はい
データ入力 (Top)	前に実行されたコンポーネントから上部の測定値を取得します。	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Left)	前に実行されたコンポーネントから左側の測定値を取得します。	いいえ
データ入力 (Color)	前に実行されたコンポーネントから、文字列の色を 16 進数で取得します。	はい
データ入力 (Font)	前に実行されたコンポーネントから、文字列のフォントを取得します。	いいえ
データ入力 (FontSize)	前に実行されたコンポーネントから、文字列のフォントサイズを取得します。	いいえ
データ出力	指定された寸法の矩形を描画した後に画像を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetPart コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetPart コンポーネントを使用して、自動化 ワークフローの一部として、画像の一部を切り取って取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetPart コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. GetPart コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetPart コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから画像を取得します。	はい
データ入力 (Top)	前に実行されたコンポーネントから上部の測定値を取得します。	いいえ
データ入力 (Left)	前に実行されたコンポーネントから左側の測定値を取得します。	いいえ
データ入力 (Height)	前に実行されたコンポーネントから矩形の高さを取得します。	いいえ
データ出力	指定された寸法の画像を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Grayscale コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Grayscale コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、カラー画像をグレースケールに変換します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Grayscale コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. Grayscale コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Grayscale コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須
データ入力	前に実行されたコンポーネントからカラー画像を取得します。	はい
データ出力	画像をグレースケールに変換して返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

imageToString コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ImageToString コンポーネントを使用して、画像からテキストを抽出し、テキストを返します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ImageToString コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. ImageToString コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ImageToString コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから画像を取得します。	はい
データ出力 (Return)	入力画像を文字列として返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Invert コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Invert コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、画像の色を反転させます。コンポーネントは、入力された画像の元の色を取得し、その色と正反対の色を適用します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Invert コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. Invert コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Invert コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが反転させる画像を取得します。	はい
データ出力 (Return)	色を反転させた画像を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Median コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Median コンポーネントを使用して、自動化 ワークフローの一部として、画像に中央値フィルターを適用します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Median コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. Median コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Median コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから画像を取得します。	はい
データ入力 (SquareSize)	前に実行されたコンポーネントから、各ピクセルの正方形のサイズ を取得します。	いいえ
データ出力 (Return)	中央値フィルターを適用した画像を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ReadFromFile コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ReadFromFile コンポーネントを使用して、そのパスと名前から画像ファイルを読み取り、出力として返します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ReadFromFile コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. ReadFromFile コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ReadFromFile コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Filepath)	前に実行されたコンポーネントから、画像ファイルへのパスとその名前を取得します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
データ出力	画像をビットマップとして返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Resize コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Resize コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、寸法を指定して画像のサイズを変更します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Resize コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. Resize コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Resize コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドがサイズを変更する画像を取得します。	はい
データ入力 (Width)	前に実行されたコンポーネントから新たな幅を取得します。	はい
データ入力 (Height)	前に実行されたコンポーネントから新たな高さを取得します。	はい
データ出力	サイズを変更した画像を返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Save コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Save コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、画像を特定の場所に保存します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Save コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. Save コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Save コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから画像を取得します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Filepath)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが画像を保存する場所への新しいパスを取得します。	はい
データ入力 (Overwrite)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが新しい場所で同じファイルを上書きするかどうかを示すブール応答を取得します。	いいえ
データ出力 (Return)	処理が正常に行われたかどうかを示すブール応答を返し、次のコンポーネントに渡します。	[Next] を選択します。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ScaleImage コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ScaleImage コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、画像のサイズまたは寸法をスケーリングします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ScaleImage コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. ScaleImage コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ScaleImage コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドがスケーリングする画像を取得します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Scale)	前に実行されたコンポーネントから、画像をスケーリングするための値を取得します。負の値を指定することはできません。	はい
データ出力 (Return)	スケーリングした画像を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Sharpen コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Sharpen コンポーネントを使用して、自動化 ワークフローの一部として、画像を鮮明にします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Sharpen コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. Sharpen コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、Sharpen コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから鮮明にする画像を取得します。	はい
データ出力 (Return)	鮮明にした画像を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

StringToImage コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の StringToImage コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、入力文字列から画像を作成します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
StringToImage コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. StringToImage コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力を設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、StringToImage コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (strimage)	前に実行されたコンポーネントから画像を取得します。	はい
データ出力 (Return)	入力された文字列を画像として返します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Threshold コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Threshold コンポーネントを使用して、自動化 ワークフローの一部として、画像にしきい値フィルターを適用します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Threshold コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. Threshold コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Threshold コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから画像を取得します。	はい
データ出力 (Range)	前に実行されたコンポーネントから、画像のしきい値を取得します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Trim コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Trim コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、画像の境界線から透明なピクセルを削除します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Trim コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Image Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Image Utilities]**に移動します。
2. Trim コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Trim コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Image)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドがトリミングする画像を取得します。	はい
データ出力 (Return)	トリミングされた画像を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Image Utilities コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Image Utilities コンポーネントのプロパティについて説明します。

Image Utilities コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

JSON

RPA デスクトップデザインスタジオ の JSON コンポーネントは、JSON オブジェクトに対してさまざまな処理を実行します。たとえば、JSON オブジェクトをシリアル化したり、JSON オブジェクトのプロパティを取得したりします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DeserializeObject コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の DeserializeObject コンポーネントを使用して、JSON データを含む文字列を JSON オブジェクトに変換します。JSON オブジェクトから特定のプロパティを抽出することもできます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
DeserializeObject コンポーネントのプロパティを設定するには、「JSON ユーティリティのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[JSON]**に移動します。
2. DeserializeObject コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. オプション: 抽出する JSON オブジェクトに必要なプロパティ名を指定するには、次の手順を実行します。
   a. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
   b. プロパティの追加アイコン ( ) をクリックします。
   c. プロパティ名を入力します。
   d. 複数のプロパティを追加するには、手順を繰り返します。
   指定されるキーごとに、データ出力ポートが追加されます。
   e. **[OK]** をクリックします。
4. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
5. オプション: 下表に従って、DeserializeObject コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

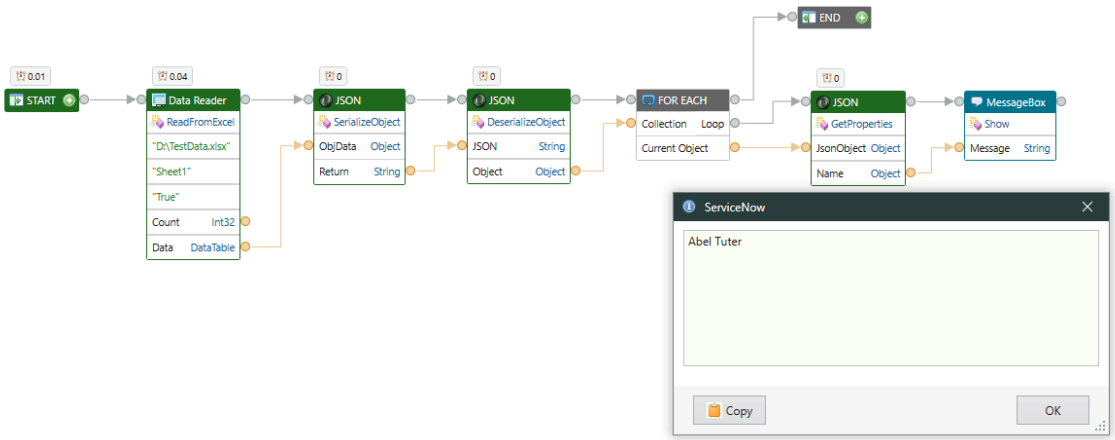
ポートタイプ	ポート名	データタイプ	説明
データ入力	JSON	文字列	JSON オブジェクトに変換される JSON データを含む文字列。
データ出力	オブジェクト	オブジェクト	変換された JSON オブジェクトを格納するための出力パラメーター。
データ出力	ポートの名前は、追加されるキーの名前と同じです。	オブジェクト	文字列からキーの値を返します。 (Optional) コンポーネントの設定に追加のプ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	説明
			ロパティが追加されたときに表示されます。

6. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Example: 文字列を JSON オブジェクトに変換する



この例では、ReadFromExcel コンポーネントが Excel ドキュメントからデータを読み取り、SerializeObject コンポーネントに渡します。SerializeObject コンポーネントはデータを文字列に変換し、 DeserializeObject コンポーネントに渡します。DeserializeObject コンポーネントは、文字列を JSON オブジェクトに変換します。Excel ドキュメント内のアイテムは For Each コンポーネントで先頭から最後までを走査し、そのアイテムを GetProperties コンポーネントに渡します。GetProperties コンポーネントは、コンポーネントの名前を返し、アイテムの名前を Show コンポーネントに渡します。アイテムはメッセージボックスに表示されます。

GetProperties コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetProperties コンポーネントを使用して、JSON オブジェクトから複数のプロパティの値を取得します。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

GetProperties コンポーネントのプロパティを設定するには、「JSON ユーティリティのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[JSON]**に移動します。
2. GetProperties コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
4. プロパティの追加アイコン ( ) をクリックします。
5. プロパティ名を入力します。
6. オプション: 複数のプロパティ名を追加するには、手順を繰り返します。
   追加されるプロパティごとに、データ入力ポートが追加されます。
7. **[OK]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
9. オプション: 下表に従って、GetProperties コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	説明
データ入力	JsonObject	オブジェクト	プロパティ値を抽出する JSON オブジェクト。 (Optional) 前のコンポーネントから渡される JSON オブジェクト。 JSON をシリアル化し、前のコンポーネントから渡してプロパティを取得します。 JSON オブジェクトの例： `{ "name": "Abel Tutor", "age": 30, "email": "abletutor@example.com", "address": { "street": "123 Main St", "city": "New York", "state": "NY", "zip": "10001" }, "phoneNumbers": [ { "type": "home", "number": "555-1234" }, { "type": "work", "number": "555-5678" } ],`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	説明
			<pre>"isActive": true }</pre>
データ出力	ポートの名前は、追加されたプロパティの名前と同じです。	オブジェクト	プロパティの値を返します。 (Optional) プロパティ値が見つからない場合、ポートはエラーを返します。

10. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

GetProperty コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetProperty コンポーネントを使用して、JSON オブジェクトからプロパティの値を取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetProperty コンポーネントのプロパティを設定するには、「JSON ユーティリティのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[JSON]**に移動します。
2. GetProperty コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. オプション: 下表に従って、GetProperty コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	説明
データ入力	JsonObject	オブジェクト	プロパティ値を抽出する JSON オブジェクト。
データ入力	PropertyName	文字列	値を取得するプロパティの名前。
データ出力	戻る	オブジェクト	プロパティの値を返します。 (Optional) プロパティ値が見つからない場合、ポートはエラーを返します。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JsonArrayToArray コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の JsonArrayToArray コンポーネントを使用して、JSON オブジェクトをオブジェクトのアレイに変換します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
JsonArrayToArray コンポーネントのプロパティを設定するには、「JSON ユーティリティのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[JSON]**に移動します。
2. JsonArrayToArray コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. オプション: 下表に従って、JsonArrayToArray コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	説明
データ入力	JsonObject	オブジェクト	オブジェクトのアレイに変換される JSON オブジェクト。
データ出力	戻る	オブジェクト []	JObject のアレイを返すために使用されます。各 JObject には、プロパティごとに異なる値を持つ同じプロパティのセットがあります。 (Optional) JObject の詳細を変更するには、条件が満たされるまで、返されたアレイ内の JObject を反復処理します。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

SerializeObject コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SerializeObject コンポーネントを使用して、JSON オブジェクトを文字列に変換します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SerializeObject コンポーネントのプロパティを設定するには、「JSON ユーティリティのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

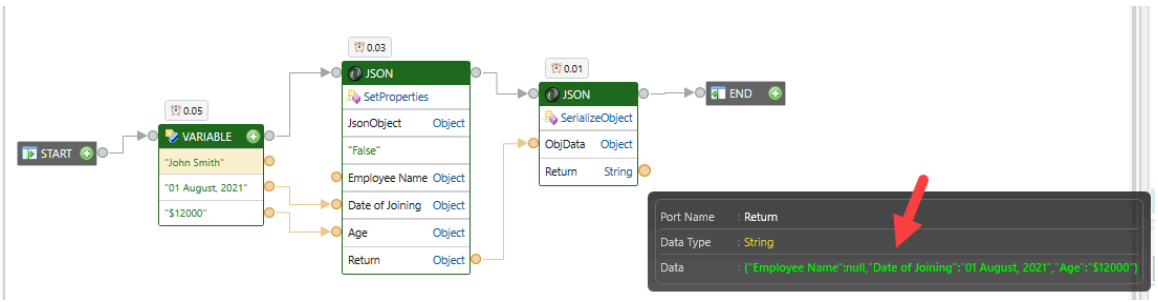
手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[JSON]**に移動します。
2. SerializeObject コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. オプション: 下表に従って、SerializeObject コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	説明
データ入力	ObjData	オブジェクト	文字列に変換される JSON オブジェクト。
データ出力	戻る	文字列	指定されたオブジェクトを表す JSON 文字列を返します。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

Example: 従業員データを JSON オブジェクト形式から文字列に変換する



この例では、JSON オブジェクトには、従業員の名前、入社日、および給与が含まれています。JSON オブジェクトは、SetProperties コンポーネントを使用して作成されます。JSON オブジェクトを文字列に変換するには、SerializeObject コンポーネントを使用します。自動化の実行後、マウスデバイスを SerializeObject コンポーネントの **[Return]** データ出力ポートに合わせます。コンポーネントにはデータが文字列として表示されます。

SetProperties コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SetProperties コンポーネントを使用して、JSON オブジェクト内に複数のプロパティを設定します。JSON オブジェクト内のプロパティを上書きすることもできます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SetProperties コンポーネントのプロパティを設定するには、「JSON ユーティリティのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[JSON]**に移動します。
2. SetProperties コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
4. プロパティの追加アイコン ( ) をクリックし ます 。
5. プロパティ名を入力します。
6. プロパティ名をさらに追加するには、手順を繰り返します。
7. **[OK]** をクリックします。
8. プロパティ名の値を指定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
9. オプション: 下表に従って、SetProperties コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	説明
データ入力	JsonObject	オブジェクト	プロパティを設定する JSON オブジェクト。 (Optional) このコンポーネントで設定するプロパティは、JSON オブジェクトに追加されます。
データ入力	上書き	ブーリアン	プロパティがすでに存在する場合に上書きするかどうかを示します。 (Optional) True の場合、コンポーネントは指定されたプロパティで JSON オブジェクトの既存のプロパティを上書きします。False の場合、どのプロパティも上書きされません。
データ入力	ポートの名前は、コンポーネントの設定で追加されたプロパティの名前と同じです。	オブジェクト	プロパティ名の値を取得します。
データ出力	戻る	オブジェクト	複数のプロパティの更新された値、または新しい値を含む JSON オブジェクトを返します。

10. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

SetProperty コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SetProperty コンポーネントを使用して、JSON オブジェクト内のプロパティを設定します。JSON オブジェクト内のプロパティを上書きすることもできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SetProperty コンポーネントのプロパティを設定するには、「JSON ユーティリティのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[JSON]**に移動します。
2. SetProperty コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. オプション: 下表に従って、SetProperty コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	説明
データ入力	JsonObject	オブジェクト	プロパティを設定する JSON オブジェクト。 (Optional) このコンポーネントで設定するプロパティが JSON オブジェクトに追加されます。
データ入力	PropertyName	文字列	JSON オブジェクトに設定するプロパティの名前。
データ入力	PropertyValue	文字列	JSON オブジェクトの指定されたプロパティに設定する値。
データ入力	上書き	ブーリアン	プロパティがすでに存在する場合に上書きするかどうかを示します。 (Optional) True の場合、コンポーネントは指定されたプロパティで JSON オブジェクトの既存のプロパティを上書きします。False の場合、どのプロパティも上書きされません。
データ出力	戻る	オブジェクト	更新された、または新しいプロパティ値を持つ JSON オブジェクトを返します。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JSON ユーティリティのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の JSON ユーティリティのプロパティについて説明します。

JSON ユーティリティのプロパティ

プロパティ名	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

キーボード

RPA デスクトップデザインスタジオ の Keyboard コンポーネントは、キーボードストロークやショートカットをシミュレートし、さまざまなアプリケーションやプログラムに対して日常的に行われるさまざまなアクションを実行します。

SendKeys コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SendKeys コンポーネントを使用して、さまざまなアプリケーションやプログラムで標準の Microsoft Windows でサポートされているキーのアクションをシミュレートします。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

標準の Microsoft Windows キーボードには、さまざまな日常のタスクを迅速かつ効率的に実行するためのキーボード機能が多数用意されています。たとえば、**[Alt+A]** ではファイルのすべてのコンテンツを選択できます。

> **注:** キーボードショートカットは角かっこ [ ] で囲んで指定する必要があります。たとえば、[Ctrl+A] などとします。

サポートされているさまざまなキーを確認するには、「サポートされているキーと機能」を参照してください。

SendKeys コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Keyboard コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Keyboard]**に移動します。
2. SendKeys コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、SendKeys コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
データ入力	キー	文字列	アプリケーションでアクションを実	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	必須？
			行するキーを取得します。	

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Keyboard コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Keyboard コンポーネントのプロパティについて説明します。

Keyboard コンポーネントのプロパティ

プロパティ名	説明
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

計算

RPA デスクトップデザインスタジオ の Math コンポーネントは、簡単な数学演算を実行します。たとえば、最大の整数を検索したり、小数点を丸めたりします。

Max コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Max コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、2 つの整数を取得してどちらが大きいかを見つけます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Max コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Math コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Math]**に移動します。
2. Max コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Max コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Value1)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが比較する 2 つの整数の内の最初の整数を取得します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Value2)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが比較する 2 つの整数の内の最後の整数を取得します。	はい
データ出力 (Return)	入力された 2 つの整数の内の大きい方を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Min コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Min コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、2 つの整数を取得してどちらが小さいかを見つけます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Min コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Math コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Math]**に移動します。
2. Min コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Min コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Value1)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが比較する 2 つの整数の内の最初の整数を取得します。	はい
データ入力 (Value2)	前に実行されたコンポーネントから、メソッドが比較する 2 つの整数の内の最後の整数を取得します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	入力された 2 つの整数の内の小さい方を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Round コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Round コンポーネントを使用して、自動化 ワークフロー の一部として、小数点を最も近い整数に丸めます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Round コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Math コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Math]**に移動します。
2. Round コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Round コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Value)	前に実行されたコンポーネントから分数を取得します。	はい
データ入力 (Decimals)	前に実行されたコンポーネントから、小数位を定義する整数値を取得します。	はい
データ出力	最も近い整数に丸められた値を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい。 データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Math コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Math コンポーネントのプロパティについて説明します。

Math コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

マウス

Mouse コンポーネントを使用すると、さまざまなプログラムやアプリケーション上で ワークフローの一部として、さまざまなマウスデバイスアクションを実行できます。

Click コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Click コンポーネントを使用して、アプリケーションやプログラムに対するマウスデバイスのクリックアクションをシミュレートします。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

Click コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Mouse コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Mouse]**に移動します。
2. Click コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Click コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Left)	前に実行されたコンポーネントから、画面の左からの正確な位置を整数で取得します。マウスデバイスのクリックはこの位置で行われます。	はい
データ入力 (Top)	前に実行されたコンポーネントから、画面の上からの正確な位置を整数で取得します。マウスデバイスのクリックはこの位置で行われます。	はい
データ入力 (ClickType)	前に実行されたコンポーネントから、マウスデバイスが実行するクリックアクションのタイプを取得します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetPosition コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetPosition コンポーネントを使用して、画面上の現在のマウス位置を整数で取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetPosition コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Mouse コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Mouse]**に移動します。
2. GetPosition コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、GetPosition コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Left)	前に実行されたコンポーネントから、現在のマウスデバイスの画面左からの相対的な位置を取得します。	はい データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
		クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
データ出力 (Top)	前に実行されたコンポーネントから、現在のマウスデバイスの画面上からの相対的な位置を取得します。	はい データをプレビューするには、[戻る] フィールドを右クリックし、[データをプレビュー] をクリックします。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Move コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Move コンポーネントを使用して、パラメーターを指定することによって、マウスデバイスを画面上の正確な位置に移動します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Move コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Mouse コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Mouse]**に移動します。
2. Move コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Move コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Left)	前に実行されたコンポーネントから、画面左からの相対的な位置を取得します。	はい
データ入力 (Top)	前に実行されたコンポーネントから、画面上からの相対的な位置を取得します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Scroll コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Scroll コンポーネントを使用して、アプリケーションやプログラムに対するマウスデバイスによるスクロールをシミュレートします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Scroll コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Mouse コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Mouse]**に移動します。
2. Scroll コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Scroll コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Left)	前に実行されたコンポーネントから、画面左からの相対的なスクロール位置を取得します。	はい
データ入力 (Top)	前に実行されたコンポーネントから、画面上からの相対的なスクロール位置を取得します。	はい
データ入力 (ScrollType)	前に実行されたコンポーネントから、スクロールの方向を取得します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Mouse コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Mouse コンポーネントのプロパティについて説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Mouse コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

Random

RPA デスクトップデザインスタジオ の Ramdom コンポーネントは、データタイプに対してランダムな処理を実行します。たとえば、ランダムなパスワードやある数値範囲内で数値を生成します。

Number コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Number コンポーネントを使用して、2 つの整数間で任意の乱数を生成します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Number コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Random コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Random]**に移動します。
2. Number コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. Number コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Min)	前に実行されたコンポーネントから、範囲の開始整数を取得します。	はい
データ入力 (Max)	前に実行されたコンポーネントから、範囲の終了整数を取得します。	はい
データ出力 (Return)	乱数を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデ	いいえ。ポートの接続はオプションです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	フォルトのエンドコンポーネントに接続します。	

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Password コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Password コンポーネントを使用して、ランダムなパスワードを生成します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
次のルールに基づいて、複雑なパスワードを定義できます。

- パスワードの長さを定義します。デフォルトの長さは 11 です。
- 小文字の数を定義します。デフォルト値は 1 です。
- 大文字の数を定義します。デフォルト値は 1 です。
- 記号を定義します。デフォルトの記号は、~!@#$%^&*()_-+=;?\/ です。
- デフォルトの記号の数は 1 です。
- 数字を定義します。デフォルト値は 1 です。

Password コンポーネントのプロパティを設定するには、「Random コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Random]**に移動します。
2. Password コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. フィールドに入力するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. オプション: 下表に従って、Password コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
データ入力	長さ	整数	パスワードの長さを取得します。	11	はい
データ入力	Lowercase	整数	パスワードに含める小文字の数を取得します。	1	はい
データ入力	大文字	整数	パスワードに含める大文字の数を取得します。	1	はい
データ入力	記号	文字列	パスワードに含める記号を取得します。	~!@#$%^&*()_-+=;?\/	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
データ入力	SymbolsCount	整数	パスワードに含める記号の数を取得します。	1	はい
データ入力	番号	整数	パスワードに含める数字の合計数を取得します。	1	はい
データ出力	戻る	文字列	ランダムなパスワードを返します。	適用外	適用外

5. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

String コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の String コンポーネントを使用して、ランダムな文字列を生成します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
String コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Random コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Random]**に移動します。
2. String コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 下表に従って、String コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Size)	前に実行されたコンポーネントから、文字列の長さを取得します。	はい
データ出力	ランダムな文字列を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	はい

4. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Random コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Random コンポーネントのプロパティについて説明します。

Random コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

反射

RPA デスクトップデザインスタジオ の Reflection コンポーネントは、オブジェクトやクラスに対して標準のリフレクション処理を実行します。たとえば、オブジェクトのプロパティを取得します。

GetListItem コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetListItem コンポーネントを使用して、リストからアイテムを返します。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

GetListItem コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Reflection コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Reflection]**に移動します。
2. GetListItem コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. リストからアイテムを受け取るフィールドを設定するには、次の手順を実行します。

   a. コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。

   b. インデックスの追加アイコン ( ) をクリックします 。

   c. オプション: インデックス値のデータタイプを更新します。
   追加されたインデックスごとに、データ出力ポートが動的に作成されます。

   d. オプション: さらにインデックスを追加するには、手順を繰り返します。

   e. **[OK]** をクリックします。

4. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
5. オプション: GetListItem コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	ポート名	データタイプ	接続の目的	デフォルト値	必須？
データ入力	インスタンス	オブジェクト	リストアイテムを取得します。	デフォルト値なし	はい
データ出力	ポートの名前は、作成されるインデックス値の名前と同じです。	オブジェクト	リストアイテムを返します。	適用外	適用外

6. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントバーを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** をクリックします。

GetProperty コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetProperty コンポーネントを使用して、任意のオブジェクトの単一または複数のプロパティに一度にアクセスします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetProperty コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Reflection コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Reflection]**に移動します。
2. GetProperty コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. GetProperty コンポーネントのタイトルバーの追加アイコン ( ) をクリックし、さらにパラメーターを追加します。
5. GetProperty コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力	データが収集される別のコンポーネントのデータ出力ポートに接続します。For Loop コンポーネントでは、From と To のデータ入力ポートが公開されています。	はい
動的データ出力	データが表示される別のコンポーネントのデータ入力ポートに接続します。このポートは、コンポーネントにアイテムを追加すると表示されます。	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	はい

6. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

SetListItem コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SetListItem コンポーネントを使用して、定義された特定の st アイテムを返します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SetListItem コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Reflection コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Reflection]**に移動します。
2. SetListItem コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. SetListItem コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力	データが収集される別のコンポーネントのデータ出力ポートに接続します。For Loop コンポーネントでは、From と To のデータ入力ポートが公開されています。	はい
動的データ出力	データが表示される別のコンポーネントのデータ入力ポートに接続します。このポートは、コンポーネントにアイテムを追加すると表示されます。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	はい

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetProperty コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SetProperty コンポーネントを使用して、オブジェクトインスタンスのプロパティを設定します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SetProperty コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Reflection コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Reflection]**に移動します。
2. SetProperty コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. SetProperty コンポーネントバーで、コンポーネント設定アイコン ( ) をクリックします。
4. プロパティを追加するには、プロパティ追加アイコン (アイコン) をクリックします。
5. [プロパティ名] ボックスにプロパティ名を入力します。
6. オプション: リストからプロパティデータタイプを更新します。
7. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
8. 下表に従って、SetProperty コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Instance)	前に実行されたコンポーネントからオブジェクトを渡します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
データ出力 (Object)	前に実行されたコンポーネントからオブジェクトのプロパティを渡します。	いいえ。ポートの接続はオプションです。
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	はい

9. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Reflection コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Reflection コンポーネントのプロパティについて説明します。

Reflection コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
検索	プロパティの検索を有効にするオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Reflection コンポーネントのプロパティ (続く)

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。

String ユーティリティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の String コンポーネントは、文字列に対してさまざまな処理を実行します。たとえば、文字列を大文字や小文字に置き換えたり、変換したりします。

Base64Decode コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの Base64Decode コンポーネントを使用して、base64 文字列をテキストに変換します。

始める前に
必要なロール：なし

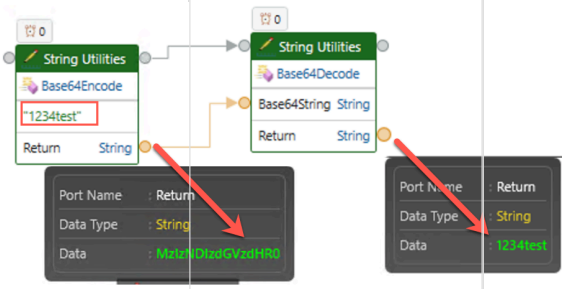
このタスクについて
Base64Decode コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. Base64Decode コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Base64Decode コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	データポートタイプ	データタイプ
Base64String	通常の文字列に変換する Base64 文字列を指定するために使用されます。 前に実行されたコンポーネント (Base64Encode コンポーネントなど) から、エンコードされた Base64 文字列を取得します。 たとえば、Base64Encode コンポーネントに `1234test` などの値を入力し、それを Base64Decode コンポーネントに接続して、コンポーネントを実行する	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	データポートタイプ	データタイプ
	と、Base64Encode コンポーネントにより値 `1234test` がエンコードされ、Base64Decode コンポーネントに渡されます。次に、Base64Decode コンポーネントは、「MzIzNDIzdGVzdHR0」などのエンコードされた値をデコードし、元の出力を「1234test」として取得します。 **Base64Encode** と **Base64Decode** コンポーネント 		
Return	プレーンテキストを表す文字列を返します。	データ出力	文字列

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)**] タブで [実行] をクリックします。

Base64Encode コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Base64Encode コンポーネントを使用して、base64 アルゴリズムで文字列をエンコードします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Base64Encode コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. Base64Encode コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 下表に従って、Base64Encode コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントがエンコードするテキストを渡します。 Base64 文字列に変換する文字列を指定するために使用されます。 データタイプ：文字列
データ出力 (Return)	エンコードされた文字列を返し、次のコンポーネントに渡します。
コントロール入力	前に実行されたコンポーネントからコントロールを渡します。
コントロール出力	次に実行されるコンポーネントにコントロールを渡します。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Compare コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Compare コンポーネントを使用して、ASCII 値に基づく 2 つの文字列オブジェクトを比較します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Compare メソッドは、指定したテキストと指定したオプションとを比較するために使用されます。オプションが一致すると、一致するコントロール出力ポートが開きます。

Compare コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

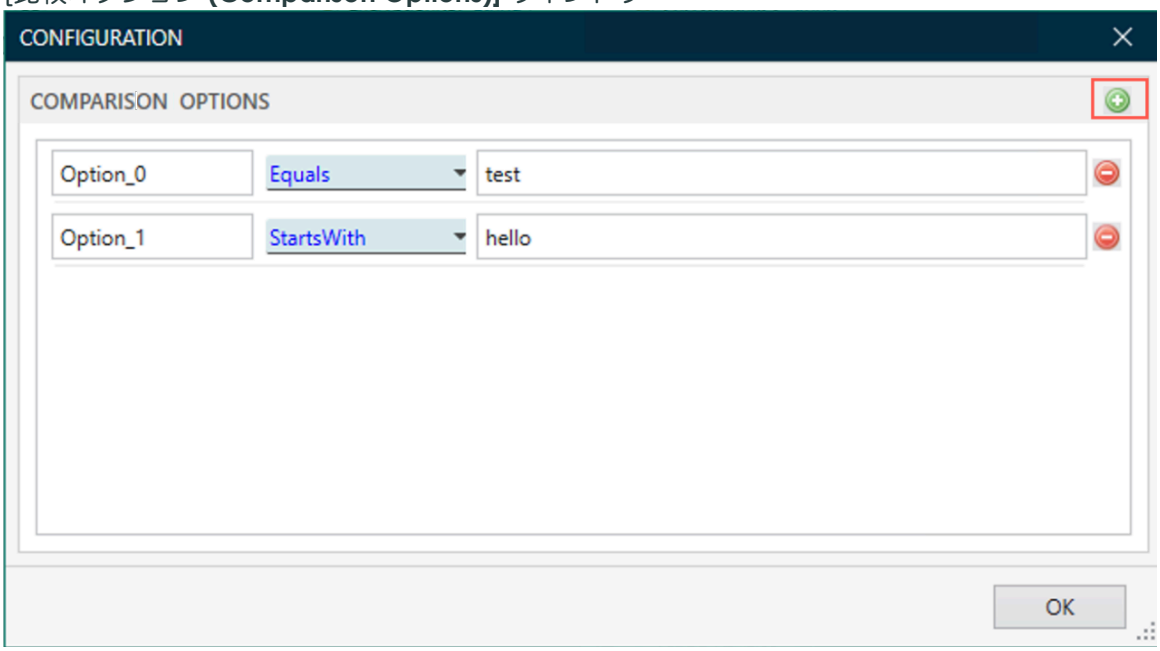
手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. Compare コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. Compare コンポーネントで、タイトルバーをダブルクリックして Configuration エディターを起動します。
4. [比較オプション (Comparison Options)] ドロップダウンリストから追加アイコン ( ) を選択して、文字列オプションを追加します。

   例えば、次のオプションを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[比較オプション **(Comparison Options)**] ウィンドウ



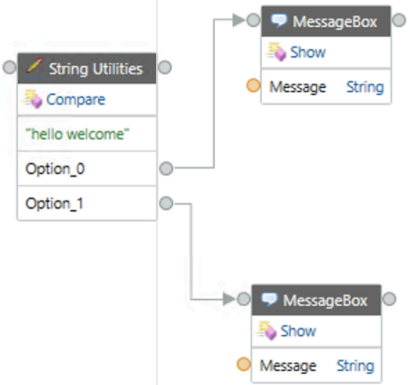
5. 下表に従って、Compare コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

Compare コンポーネントのパラメーター

名前	接続の目的	ポートタイプ	データタイプ
Text	比較タイプに基づいて複数のコントロール出力ポートと比較する必要があるテキストを指定します。 たとえば、比較テキストとして `hello welcome` を指定すると、コンポーネントはオプション 0 とオプション 1 を比較します。オプション 1 は「hello」で始まるため、指定されたテキストと一致します。これを MessageBox コンポーネントに接続して、出力を表示します。	データ入力	文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	接続の目的	ポートタイプ	データタイプ
	Compare コンポーネント		



6. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

Contains コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Contains コンポーネントを使用して、テキスト本文に指定されたテキストが含まれているかどうかを確認します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Contains コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. Contains コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Contains コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが検索するテキストを取得します。 データタイプ：文字列
データ入力 (textToSearch)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが検索するテキストを取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的
	使用可能かどうか、チェックする必要がある文字列を指定するために使用されます。 データタイプ：文字列
データ入力 (IgnoreCase)	コンポーネントがテキストを検索する際に大文字と小文字を区別しないかどうかを示すブール値を取得します。 ブール値を指定するために使用します。値が false の場合は大文字と小文字が区別されます。それ以外の場合は、大文字と小文字が無視されます。 データタイプ：ブール
データ出力	検索されたテキストが見つかったかどうかを示すブール応答を返し、次のコンポーネントに渡します。 データタイプ：ブール
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Format コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Format コンポーネントを使用して、テキスト本文にプレースホルダーと値を指定します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Format コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. Format コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。プレースホルダーとして {0} を挿入する必要があります。
4. 下表に従って、Format コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的
データ入力 (_Format)	前に実行されたコンポーネントから、テキスト本文とプレースホルダーを渡します。 形式を指定するために使用されます。 データタイプ：文字列
データ入力 (Input)	指定された形式で置き換えられる入力文字列を指定するために使用されます。 データタイプ：文字列
データ出力 (Return)	プレースホルダーにプレースホルダー値が挿入されたテキスト本文を返します。 このメソッドは、書式設定されたテキストを表す文字列を返します。 データタイプ：文字列
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetLength コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetLength コンポーネントを使用して、文字列内のスペースや特殊文字を含む文字数をカウントします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetLength コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. GetLength コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetLength コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントがカウントする文字を取得します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	長さの取得元の文字列を指定するために使用します。 データタイプ：文字列	
データ出力 (Return)	スペースと特殊文字を含む文字数を返し、次のコンポーネントに渡します。 テキストの長さを表す整数を返します。 データタイプ：整数	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetHashCode コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetHashCode コンポーネントを使用して、文字列からハッシュコードを生成します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetHashCode コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. GetHashCode コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetHashCode コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから文字列を取得します。 ハッシュコードの計算元の文字列を指定するために使用されます。 データタイプ：文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的
データ出力 (Return)	生成されたハッシュコードを返し、次のコンポーネントに渡します。 データタイプ：文字列
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetTextAfter コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetTextAfter コンポーネントを使用して、文字列の後に配置されている文字列を検索します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetTextAfter コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. GetTextAfter コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetTextAfter コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが検索するテキストを取得します。 サブ文字列が抽出される文字列を指定するために使用します。文字列の一致によって識別された特定の位置から始まり、指定された長さまで続きます。 データタイプ：文字列
データ入力 (findStr)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントがテキスト内で検索する文字列を取得します。 文字列の一致に基づいて開始位置を決定する文字列を指定するために使用します。 データタイプ：文字列
データ入力 (length)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントがテキスト内で検索する文字数を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的
	指定された文字列から抽出する文字数を指定するために使用します。 データタイプ：整数
データ出力	コンポーネントが見つけた文字列を返し、次のコンポーネントに渡します。 このメソッドは、検索テキストの後のテキストを表す文字列を返します。 データタイプ：文字列
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetTextBefore コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetTextBefore コンポーネントを使用して、文字列の前に配置されている文字列を検索します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
このメソッドは、指定された検索文字列の前にあるテキストを、指定された長さまで抽出するために使用されます。長さが 0 の場合、文字列の先頭からテキストが抽出されます。

GetTextBefore コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. GetTextBefore コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetTextBefore コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが検索するテキストを取得します。 サブ文字列が抽出される文字列を指定するために使用します。文字列の一致から指定された長さを差し引いた位置から始まり、指定された長さまでを抽出します。 データタイプ：文字列

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的
データ入力 (findStr)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントがテキスト内で検索する文字列を取得します。 文字列の一致に基づいて開始位置を決定する文字列を指定するために使用します。 データタイプ：文字列
データ入力 (length)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントがテキスト内で検索する文字数を取得します。 指定された文字列から抽出する文字数を指定するために使用します。 データタイプ：整数
データ出力 (Return)	指定されたサブ文字列を返します。 このメソッドは、検索文字列の前に見つかったテキストである文字列を返します。 データタイプ：文字列
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetTextBetween コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetTextBetween コンポーネントを使用して、2 つの文字列間に配置されている文字列を検索します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetTextBetween コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. GetTextBetween コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetTextBetween コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが検索するテキストを取得します。	はい
データ入力 (findStr1)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが検索する文字列の片側に配置されている最初の文字列セットを取得します。	はい
データ入力 (findStr2)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが検索する文字列のもう片側に配置されている最初の文字列セットを取得します。	はい
データ出力	文字列間の文字列を返し、次のコンポーネントに渡します。 **注:** 返される値にはスペースが含まれる場合があります。文字間のスペースも文字としてカウントされます。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetValueByRegex コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオで GetValueByRegex コンポーネントを使用して、正規表現と文字を指定し、一致する文字を検索します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetValueByRegex コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. GetValueByRegex コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 下表に従って、GetValueByRegex コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントからテキストを取得します。	はい
データ入力 (RegExpression)	前に実行されたコンポーネントから正規表現を取得します。	はい
データ出力 (Boolean)	正規表現の一致のステータスをブール値で返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
データ出力 (List 1)	一致した値を返します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

IsEqual コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の IsEqual コンポーネントを使用して、2 つの文字列オブジェクトが同じ値を有しているかどうかを確認します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
IsEqual コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. IsEqual コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

   注: コンポーネントは、大文字と小文字を区別して比較を行うため、文字列値の大文字と小文字を考慮します。

4. 下表に従って、IsEqual コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text1)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが比	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	較する 2 つの文字列の内、最初の文字列を取得します。	
データ入力 (Text2)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが比較する 2 つの文字列の内、最後の文字列を取得します。	はい
データ出力 (Boolean)	文字列が一致したかどうかを示すブール値を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

IsNullOrEmpty コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の IsNullOrEmpty コンポーネントを使用して、テキストが null か空の文字列かを判断します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
IsNullOrEmpty コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. IsNullOrEmpty コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、IsNullOrEmpty コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが評価するテキストを取得します。	はい
データ出力 (Boolean)	テキストが null か空かを示すブール応答を返し、値を次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

IsNullOrWhiteSpace コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の IsNullOrWhiteSpace コンポーネントを使用して、テキストが null であるか、空白文字のみを含んでいるかを判断します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
IsNullOrWhiteSpace コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのコンポーネントの詳細ついては、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. IsNullOrWhiteSpace コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、IsNullOrWhiteSpace コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが評価するテキストを取得します。	はい
データ出力 (Boolean)	テキストが null であるか、空白を含むかを示すブール応答を返し、値を次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Join コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの Join コンポーネントを使用して、アレイの要素を文字列に連結します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
指定されたセパレーター (ドット、カンマ、パイプなど) を適用して、アレイの要素を文字列に連結できます。たとえば、文字列が {"Apple", "Banana", "Orange"} で、区切り文字がドット (.) の場合、連結される文字列は "Apple.Banana.Orange" になります。

Join コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. Join コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Join コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

パラメーター名	説明	データポートタイプ	データタイプ
StringArray	連結する文字列アレイを指定するか、前に実行されたコンポーネントの文字列アレイを使用します。	データ入力	文字列[]
Separator	ドット (.)、カンマ (,)、またはパイプ (|) などの、アレイを結合するテキストセパレーター。	データ入力	文字列
String	連結された文字列を、次のコンポーネントで使用できる出力として返します。	データ出力	文字列

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

Occurrence コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Occurrence コンポーネントを使用して、テキスト本文に文字や単語が何回現れるかをカウントします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Occurrence コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. Occurrence コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. テキストフィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Occurrence コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが検索するテキストを取得します。	はい
データ入力 (pattern)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが出現回数を検索する対象となる単語または文字を取得します。	はい
データ入力 (IgnoreCase)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが出現を検索する際に大文字と小文字を区別しないかどうかを示すブール値を取得します。	いいえ
データ出力 (Return)	文字や単語の出現回数を整数として返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

RemoveWhiteSpace コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の RemoveWhiteSpace コンポーネントを使用して、文字列から空白を削除します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
RemoveWhiteSpace コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. RemoveWhiteSpace コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、RemoveWhiteSpace コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが空白を削除するテキストを取得します。	はい
データ出力	空白を削除した後の文字列を返して、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Replace コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Replace コンポーネントを使用して、テキスト内の特定の単語を別の単語に置き換えます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Replace コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. Replace コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Replace コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが単語や文字を置き換えるテキストを取得します。	はい
データ入力 (oldValue)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが置	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	き換えるテキストや文字を取得します。	
データ入力 (newValue)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが既存のテキストを置き換えるためのテキストや文字を取得します。	はい
データ出力 (String)	指定された単語を置き換えた後のテキストを返して、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Split コンポーネントの使用

指定されたセパレーターを適用して、文字列をサブ文字列に分割します。このタスクは、RPA デスクトップデザインスタジオ の Split コンポーネントを使用して実行できます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Split コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. Split コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Split コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントがセパレーターで分割するテキストを取得します。	はい
データ入力 (separator)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが文字列を分割するために使用するセパレーターを取得します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	文字列のサブ文字列を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

SubString コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の SubString コンポーネントを使用して、文字列からサブ文字列を取得します。サブ文字列の開始文字の位置と長さを指定できます。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
SubString コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順
1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. SubString コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、SubString コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (String)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントがサブ文字列を作成する元となる文字列を取得します。	はい
データ入力 (startindex)	前に実行されたコンポーネントから、文字列のインデックス位置の値を取得します。 たとえば、RPA を文字列、2 をインデックス値とする場合、サブ文字列は文字「A」から始まり、A になります。	はい
データ出力 (String)	サブ文字列を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ToLowerCase コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ToLowerCase コンポーネントを使用して、大文字のテキストを小文字に変換します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ToLowerCase コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. ToLowerCase コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ToLowerCase コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが小文字に変換するテキストを取得します。	はい
データ出力 (String)	小文字のテキストを返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	受信

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ToUpperCase コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ToUpperCase コンポーネントを使用して、小文字のテキストを大文字に変換します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ToUpperCase コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. ToUpperCase コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ToUpperCase コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントが大文字に変換するテキストを取得します。	はい
データ出力 (String)	指定されたテキストを大文字で返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Trim コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Trim コンポーネントを使用して、文字列の最初と最後の空白文字を削除します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Trim コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. Trim コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、Trim コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	コンポーネントが空白をトリミングする元となるテキストを取得します。	はい
データ出力 (String)	トリミングされたテキストを返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

TrimEnd コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の TrimEnd コンポーネントを使用して、テキストの末尾で指定する空白文字を削除します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
TrimEnd コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. TrimEnd コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、TrimEnd コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントがト	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	リミングする元になるテキストを取得します。	
データ出力 (String)	空白文字を削除した後のテキストを返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

TrimStart コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の TrimStart コンポーネントを使用して、テキストの先頭で指定する空白文字を削除します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
TrimStart コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「String Utilities コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[String Utilities]**に移動します。
2. TrimStart コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、TrimStart コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Text)	前に実行されたコンポーネントから、コンポーネントがトリミングする元になるテキストを取得します。	はい
データ出力 (String)	空白文字を削除した後のテキストを返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデ	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	フォルトのエンドコンポーネントに接続します。	

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

String Utilities コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の String Utilities コンポーネントのプロパティについて説明します。

String Utilities コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

System プロセス

RPA デスクトップデザインスタジオ の System コンポーネントは、標準的な Windows システム処理を実行します。たとえば、プロセス ID を取得したり、プロセスを終了したりします。

CloseMainWindows コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの CloseMainWindow コンポーネントを使用して、Windows アプリケーションを閉じます。このコンポーネントは、プロセス ID を入力として受け取ります。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
CloseMainWindow コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「System Process コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[System process]**に移動します。
2. CloseMainWindow コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、CloseMainWindow コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

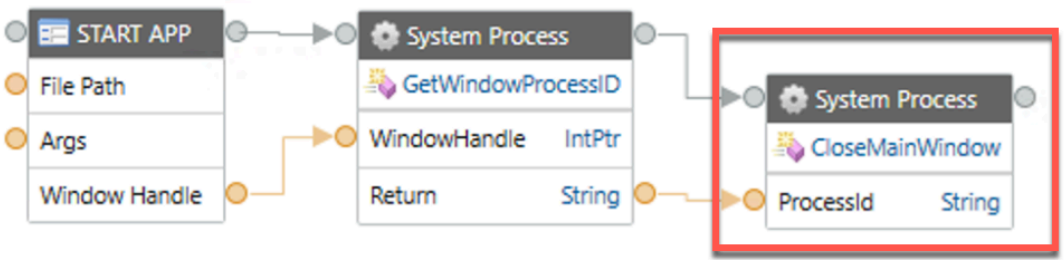
パラメーター	説明	ポートタイプ	必須？
ProcessId	クローズするアプリケーションのプロセス ID。前に実行されたコンポーネントからこの値を渡すことが	データ入力	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パラメーター	説明	ポートタイプ	必須？
	できます。ProcessId は、Windows マシンでタスクマネージャーを開いて取得できます。 例： Services.exe の ProcessId：660		

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)]** タブで [実行] をクリックします。

Example:
自動化ワークフローの一環として、Windows ターミナルなどのアプリを開いてコマンドを実行した後、CloseMainWindow コンポーネントでプロセス ID を指定することで、アプリウィンドウを閉じることができます。



GetMainWindowsHandle コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetMainWindowsHandle コンポーネントを使用して、アクティブなプロセスのメインウィンドウのウィンドウハンドルを取得します。このコンポーネントは、プロセス ID を入力として受け取り、指定されたプロセスの整数値を返します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetMainWindowHandle コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「System Process コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[System process]**に移動します。
2. GetMainWindowHandle コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetMainWindowHandle コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (ProcessId)	前に実行されたコンポーネントからウィンドウのプロセス	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	ID を文字列として取得します。	
データ出力 (Integer)	指定されたプロセスの Windows ハンドルを返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetMainWindowsHandleAsInt コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetMainWindowsHandleAsInt コンポーネントを使用して、アクティブなプロセスのメインウィンドウのウィンドウハンドルを整数として取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetMainWindowHandleAsInt コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「System Process コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[System process]**に移動します。
2. GetMainWindowHandleAsInt コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetMainWindowHandleAsInt コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (String)	前に実行されたコンポーネントからウィンドウのプロセス ID を取得します。	はい
データ出力 (Integer)	指定されたプロセスの IntPtr 値を整数として返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデ	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	フォルトのエンドコンポーネントに接続します。	

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

GetWindowsProcessID コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の GetWindowProcessID コンポーネントを使用して、アクティブなプロセスのメインウィンドウのウィンドウハンドルを整数として取得します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
GetWindowProcessID コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「System Process コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[System process]**に移動します。
2. GetWindowProcessID コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、GetWindowProcessID コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (WindowHandle)	前に実行されたコンポーネントから Windows ハンドル数を整数として取得します。	はい
データ出力 ()	指定されたプロセスの ProcessID 値を文字列として返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

StartNew コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の StartNew コンポーネントを使用して、新しいプロセスを開始します。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
StartNew コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「System Process コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[System process]**に移動します。
2. StartNew コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、StartNew コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (Filepath)	前に実行されたコンポーネントから、開始する必要があるプロセスの filePath と Params を取得します。	はい
データ入力 (Params)	前に実行されたコンポーネントから、開始する必要があるプロセスのパラメーターを取得します。	はい
データ出力 (String)	プロセス ID を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Terminate コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオの Terminate コンポーネントを使用して、指定された Windows システムプロセスを終了します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
Terminate コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「System Process コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[System process]**に移動します。
2. Terminate コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。

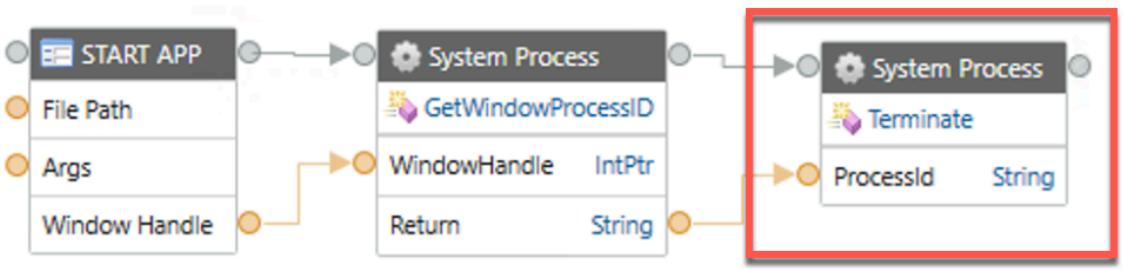
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 下表に従って、Terminate コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

パラメーター	説明	ポートタイプ	必須？
ProcessId	終了するプロセスのプロセス ID。前に実行されたコンポーネントからこの値を渡すことができます。ProcessId は、Windows マシンでタスクマネージャーを開いて取得できます。 例： Services.exe の ProcessId：660	データ入力	はい

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン **(DESIGN)**] タブで [実行] をクリックします。

Example:
自動化ワークフローの一環として、 Windows ターミナルなどのアプリを開いてコマンドを実行した後、Terminate コンポーネントでプロセス ID を指定してアプリを終了できま



す。

TerminateByName コンポーネントの使用

TerminateByName コンポーネントを使用して、指定したプロセスまたはアプリケーション (Chrome ブラウザー、Excel、メモ帳など) をそれぞれの名前で終了します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
TerminateByName コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「System Process コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

高密度ロボットの実行中、TerminateByName コンポーネントは、現在のユーザーセッションでのみ、指定されたプロセスまたはアプリケーションをチェックして終了します。自動化が仮想マシンで実行されると、プロセスをクエリして、ロボットの同じユーザーセッション内でそのプロセスを終了します。同じプロセスが仮想マシン上の他のユーザーセッション内で実行されている場合、それらのプロセスインスタンスは終了しません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: 現在のユーザーセッション内で、ロボットユーザーがプロセスを終了する権限を持っていない場合、コンポーネントはエラーをスローします。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[System process]**に移動します。
2. TerminateByName コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、TerminateByName コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力	前に実行されたコンポーネントから、終了させるプロセスのプロセス名を取得します。 例：メモ帳	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

WhoLockedFile コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の WhoLockedFile コンポーネントを使用して、ファイルをロックした人のユーザー名を検索するためのファイルパスを指定します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
WhoLockedFile コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「System Process コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities] > [System process]** に移動します。
2. WhoLockedFile コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、WhoLockedFile コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (FilePath)	前に実行されたコンポーネントからファイル名を取得します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力 (Return)	ユーザー名を返し、次のコンポーネントに渡します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

System Process コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の System Process コンポーネントのプロパティについて説明します。

System Process コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
検索	プロパティの検索を有効にするオプション。
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。

トークン

RPA デスクトップデザインスタジオ の Token ユーティリティは、アプリケーションにアクセスするための OKTA トークンを取得します。

GetTOTP コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオアプリケーションの GetTOTP コンポーネントを使用して、自動化におけるマルチファクター認証 (MFA) 対応のアプリケーションにアクセスするための、時間に基づくワンタイムパスワード (TOTP) を生成します。

始める前に

- MFA 認証システムレコードを作成し、TOTP 認証システムをロボットの認証情報にマッピングします。RPA ハブ でこれらのタスクを実行する方法の詳細については、「RPA ハブ での MFA 認証システムの作成」および「RPA ハブ での TOTP 認証システムの作成」を参照してください。RPA ハブ の TOTP 認証の詳細については、「RPA ハブ の TOTP 認証」を参照してください。
- RPA デスクトップデザインスタジオで必要なインスタンスに接続し、TOTP レコードを使用して自動化にボットプロセスをアサインします。詳細については、「自動化プロジェクトへのボットプロセスのアサイン」を参照してください。

必要なロール：sn_rpa_fdn.rpa_release_manager または sn_rpa_fdn.rpa_admin

このタスクについて

RPA ハブ に TOTP レコードは作成され、そのレコードはロボットの認証情報に関連付けられます。RPA デスクトップデザインスタジオの GetTOTP コンポーネントには *AuthenticatorName* パラメーターがあります。コンポーネントから指定した認証システム名が TOTP レコードに存在する必要があります。認証システムが存在する場合は、TOTP が生成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [デザイン] タブの [ツールボックス] ペインで、[ユーティリティ] > [トークン]に移動します。
2. **GetTOTP** コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. コンポーネントの **[AuthenticatorName]** フィールドに、認証システムの名前を入力します。
   入力する名前は、TOTP レコードの [認証システム] フィールドの値と一致する必要があります。
4. コンポーネントをテストするには、コンポーネントを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** を選択します。
   [デザイン] タブから [実行] を選択して自動化を実行することもできます。

   コンポーネントが正常に実行されると、次の表のように出力ポートがコネクタに入力されます。

GetTOTP コンポーネントの出力ポート

ポート名	ポートタイプ	ポートの説明
TOTP	データ出力	実行時に生成されるワンタイムパスワード。
ValidFor	データ出力	パスワードが有効になるまでの時間 (秒)。

5. オプション: コンポーネントをテストするには、コンポーネントを右クリックし、[ここから実行 **(Run From Here)]** を選択します。
   [デザイン] タブから [実行] を選択して自動化を実行することもできます。

Token コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Token コンポーネントのプロパティについて説明します。

Token コンポーネントのプロパティ

プロパティ名	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

郵便番号

RPA デスクトップデザインスタジオ の Zip コンポーネントは、標準的な Zip ユーティリティの処理を実行します。たとえば、ファイルを展開したり、削除したりします。

AddDirectory コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の AddDirectory コンポーネントを使用して、既存の zip アーカイブにディレクトリコンテンツを追加します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
AddDirectory コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Zip コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Zip]**に移動します。
2. AddDirectory コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、AddDirectory コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (zipFilePath)	zipFilePath を取得します。	はい
データ入力 (directoryPath)	ディレクトリパスを取得します。	はい
データ出力	指定された zip アーカイブにディレクトリコンテンツが正常に追加された場合は、**True** を返します。それ以外の場合は、**[False]** を返します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

AddFile コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の AddFile コンポーネントを使用して、既存の zip アーカイブにファイルを追加します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
AddFile コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Zip コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Zip]**に移動します。
2. AddFile コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、AddFile コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (zipFilePath)	前に実行されたコンポーネントから zipFilePath を取得します。	はい
データ入力 (directoryPath)	前に実行されたコンポーネントからディレクトリパスを取得します。	はい
データ出力	ファイルが指定された zip アーカイブに正常に追加された場合は、**[True]** を返します。それ以外の場合は、**[False]** を返します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	はい

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

AddFiles コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の AddFiles コンポーネントを使用して、複数のファイルを既存の zip アーカイブに追加します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
AddFiles コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Zip コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Zip]**に移動します。
2. AddFile コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、AddFiles コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (zipFilePath)	前に実行されたコンポーネントから zipFilePath を取得します。	はい
データ入力 (directoryPath)	前に実行されたコンポーネントからディレクトリパスを取得します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	ファイルが指定された zip アーカイブに正常に追加された場合は、**[True]** を返します。それ以外の場合は、**[False]** を返します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

CreateFile コンポーネントの使用

既存のフォルダーを圧縮するか、RPA デスクトップデザインスタジオの CreateFile コンポーネントを使用して zip ファイルを作成します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
CreateFile コンポーネントのプロパティを設定できます。これらのプロパティの詳細については、「Zip コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Zip]**に移動します。
2. CreateFile コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、CreateFile コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (zipFilePath)	作成する必要のある zip ファイルの場所と zip ファイル名。 例：`C:\Users\abel.tutor\Downloads\test.zip`	はい
データ入力 (Path)	ソースファイルまたはフォルダーの場所。 例：ファイルの場合、`C:\Users\abel.tutor\Downloads\test.txt`	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
	例：フォルダーの場合、`C:\Users\abel.tutor\Downloads`	
Type (タイプ)	ポートのプロパティを開き、[静的値] フィールドから [ファイル] または [フォルダー] を選択します。	はい
データ出力 (Boolean)	指定された場所にファイルが正常に作成された場合は、**[True]** を返します。それ以外の場合は、**[False]** を返します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	はい

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ExtractAll コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ExtractAll コンポーネントを使用して、zip アーカイブからすべてのファイルを特定の場所に展開します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ExtractAll コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Zip コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Zip]**に移動します。
2. ExtractAll コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ExtractAll コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (zipFilePath)	前に実行されたコンポーネントから zipFilePath を取得します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (PathToExtract)	前に実行されたコンポーネントから、展開パスを取得します。	はい
データ出力	ファイルが指定された場所に正常に展開された場合は、**[True]** を返します。それ以外の場合は、**[False]** を返します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	はい

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

ExtractFile コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の ExtractFile コンポーネントを使用して、zip アーカイブから指定された場所にファイルを展開します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
ExtractFile コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Zip コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Zip]**に移動します。
2. ExtractFile コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力を設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、ExtractFile コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (zipFilePath)	ファイルを任意の場所に展開するための zipFilePath および PathtoExtract の各データ入力ポートを指定します。	はい
データ入力 (file)	前に実行されたコンポーネントからファイル名を取得します。	はい
データ入力 (filePath)	前に実行されたコンポーネントからファイルパスを取得します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ出力	ファイルが指定された場所に正常に展開された場合は、**[True]** を返します。それ以外の場合は、**[False]** を返します。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	いいえ

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

RemoveFile コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の RemoveFile コンポーネントを使用して、zip アーカイブ内の指定されたファイルを削除します。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
RemoveFile コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Zip コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Utilities]** > **[Zip]**に移動します。
2. RemoveFile コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 入力フィールドを設定するには、「ポートのプロパティを設定する」を参照してください。
4. 下表に従って、RemoveFile コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
データ入力 (zipFilePath)	ファイルを任意の場所に展開するための zipFilePath および PathtoExtract の各データ入力ポートを指定します。	はい
データ入力 (file)	前に実行されたコンポーネントからファイル名を取得します。	はい
データ出力	ファイルが正常に削除された場合は、**[True]** を返します。それ以外の場合は、**[False]** を返します。	はい

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートまたはデフォルトのエンドコンポーネントに接続します。	はい

5. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Zip コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Zip コンポーネントのプロパティについて説明します。

Zip コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
タイムアウト有効化	タイムアウト値を設定するオプション。
タイムアウト	完了しなかった場合に操作が終了するまでの秒数。この値を適用するには、[タイムアウト有効化] プロパティを設定する必要があります。

待機

RPA デスクトップデザインスタジオ の Wait コンポーネントを使用すると、コンポーネントで提供される基準を使用して、自動化の実行を保留または変更できます。

Wait For Images コンポーネントの使用

RPA デスクトップデザインスタジオ の Wait For Images コンポーネントを使用して、画面上の画像情報に基づく自動化実行フローを変更します。また、エラーやステータスのアイコンに基づいて、ビジネスアプリケーションやアイテムの状態を特定することができます。

始める前に

必要なロール：なし

このタスクについて

Wait For Images コンポーネントのプロパティが設定可能です。これらのプロパティの詳細については、「Wait コンポーネントのプロパティ」を参照してください。

手順

1. [ツールボックス] ペインで、**[Wait]** に移動します。
2. Wait For Images コンポーネントを [デザイン面 (Design surface)] にドラッグします。
3. 画像を追加するには、Wait For Images コンポーネントのタイトルバーの画像を追加アイコン ( ) をクリックします。
4. コンポーネントに最初に検索させる画像をキャプチャするには、カメラアイコン ( ) をクリックします。
5. 領域を選択するには、**Ctrl + Shift** キーを押します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

画像を追加アイコンをクリックすると、必要な数のスクリーンショットを追加できます。
選択された領域は、Wait For Images コンポーネントに表示されます。

6. 下表に従って、Wait For Images コンポーネントのデータポートとコントロールポートを、他のコンポーネントの対応するポートに接続します。

ポートタイプ	接続の目的	必須？
それ以外の場合	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。画像が見つからない場合は、例外を定義できます。	はい
コントロール入力	1 つまたは複数のコンポーネントのコントロール出力ポートに接続します。	はい
動的コントロール出力	別のコンポーネントのコントロール入力ポートに接続します。コンポーネントにさらにケースを追加すると、ケースごとにコントロール出力ポートが表示されます。	はい

7. オプション: コンポーネントをテストするには、[デザイン] タブで [実行] をクリックします。

Wait コンポーネントのプロパティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の Wait コンポーネントのプロパティについて説明します。

Wait コンポーネントのプロパティ

プロパティ	説明
検索	プロパティの検索を有効にするオプション。
実行後の遅延	実行後に一時停止する秒数。
実行前の遅延	実行前に一時停止する秒数。
最大待機時間 (秒)	画像またはアプリケーションが画面に表示されるまで待機する最大時間 (秒)。 デフォルト値は 30 秒です。
名前	コンポーネントを識別する名前。 使用しているアプリケーションフィールドに対応する名前を選択してください。
待機オプション	すべてのアプリケーション、またはスクリーンショットが撮影されるアプリケーションのいずれかをコンポーネントで待機させるオプションです。

RPA デスクトップデザインスタジオ に関する参照情報

参照トピックは、RPA デスクトップデザインスタジオ を構成および管理するために使用しているリストとフォームの追加情報を提供しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

有人自動化フォームのメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ における有人自動化フォームのメソッドとイベントについて説明します。

有人自動化フォームのメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

メソッド	説明
GetFields	選択したフィールドからテキストを取得します。
非表示	フォームを非表示にします。
SetFields	選択したフィールドのテキストを設定します。
SetTitle	設計されたフォームのタイトルを設定します。
表示	設計されたフォームを表示します。
ShowBusy	ビジーアイコンを表示します。 • True の場合、設計されたフォームがビジーモードであるなら、その旨をメッセージで表示します。 • False の場合、設計されたフォームが通常モードであることを表示します。
ShowPopup	ポップアップウィンドウにメッセージを表示します。
UpdateProgress	フォームに進捗状況バーとして視覚的なフィードバックを示します。必要に応じて進捗状況のパーセンテージを設定します。

イベント

メソッド	説明
OnOpen	フォームが開かれたときに起動します。
OnClose	フォームが閉じられたときに起動します。

関連情報

RPA デスクトップデザインスタジオ で有人自動化フォームを作成する

各要素のメソッドとイベント

[オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインには、さまざまなフォームデザイン要素のメソッドとイベントが表示されます。

Button 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の Button 要素を使用すると、フォームに 1 つまたは複数のボタンを追加して、ユーザーがボタンをクリックしてアクションを実行できるようにすることが可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Button 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

Click

要素がクリックされたときに発生します。

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

TextBlock 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の TextBlock 要素を使用すると、フォームにラベルを追加して、ユーザーがそのラベルを読み込み専用の情報として表示できるようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

TextBlock 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

ClearText

現在の要素からテキストをクリアします。

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

GetText

現在の要素からテキストを取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetText

テキストデータを現在の要素に設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

TextBox 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の TextBox 要素を使用すると、フォームにテキストボックスを追加して、ユーザーがテキストボックス内に情報を入力できるようになります。

TextBox 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

ClearText

現在の要素からテキストをクリアします。

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

GetText

現在の要素からテキストを取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetText

テキストデータを現在の要素に設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

TextChanged

テキストプロパティの値が変更されたときに発生します。

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

Date 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の Date 要素を使用すると、フォームに日付ピッカーを設けられます。これによって、ユーザーがフォーム上で特定の日付を選択できるようになります。

Date 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

ClearValue

現在の要素から値をクリアします。

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

GetValue

現在の要素から値を取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetValue

値を現在の要素に設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

ValueChanged

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティの値が変更されたときに発生します。

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

Time 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の Time 要素を使用すると、フォーム上に時間ピッカーを設けて、ユーザーがフォーム上で特定の時間を選択できるようになります。

Time 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

ClearValue

現在の要素から値をクリアします。

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

GetValue

現在の要素から値を取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetValue

値を現在の要素に設定します。

SetVisibility

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

ValueChanged

プロパティの値が変更されたときに発生します。

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

DateTime 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の DateTime 要素を使用すると、フォーム上に日時ピッカーを設けて、ユーザーがフォーム上で特定の日時を選択できるようになります。

DateTime 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

ClearValue

現在の要素から値をクリアします。

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

GetValue

現在の要素から値を取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

SetContextMenu

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetValue

値を現在の要素に設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

ValueChanged

プロパティの値が変更されたときに発生します。

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

CheckBox 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオの CheckBox 要素を使用して、ユーザーからの true または false、yes または no、あるいは on または off の入力をキャプチャできます。意思決定、機能の有効化または無効化、およびワークフロー実行の制御を支援します。

CheckBox 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。この要素を使用して、はい、いいえ、true、または false の選択肢を提示します。

ユースケース

- ユーザー設定の選択 - ユーザーが [バックグラウンドで実行] や [メール通知の送信] などの特定のオプションを有効/無効にできるようにします。
- 条件付き実行 - チェックボックスがオンになっているかどうかに基づいて、自動化が特定のステップを実行またはスキップできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 複数選択オプション - CheckBox 要素をグループ化して使用して、フォームに複数の選択肢を表示することもできます。複数のチェックボックスが利用可能な場合、ユーザーは複数のオプションを選択できます。たとえば、エクスポートする複数のファイル形式を選択するなど。
- 検証と確認 - 続行する前に、ユーザーが条件を確認して同意したか、必要な手順を完了したかを確認します。

メソッド

Checked

現在の要素の値を設定します。

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

IsChecked

現在の要素が選択されているかクリアされているかを示すブール値を返します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

OnStateChanged

ステータスが変更されたときに発生します。

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

RadioButton 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の RadioButton 要素を使用すると、選択肢グループから一つの選択肢を選ぶことができます。

RadioButton 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

Checked

現在の要素の値を設定します。

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

IsChecked

現在の要素が選択されているかクリアされているかを示すブール値を返します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

ComboBox 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の ComboBox 要素を使用すると、ドロップダウン組み合わせボックスにデータを表示できます。

ComboBox 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。デフォルトでは、ComboBox 要素は 2 つの部分に表示されます。一番上の部分は、リストアイテムを入力できるテキストボックスです。2 つ目の部分はリストボックスで、アイテムのリストが表示されて、その中から選択できます。

メソッド

ClearItems

現在の要素からすべてのアイテムを削除します。

ClearSelection

現在の要素から現在の選択をクリアします。

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetItems

現在の要素に含まれているアイテムのコレクションを表すオブジェクトを取得します。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

GetSelectedIndex

現在選択されているアイテムを指定するインデックス値を取得します。

GetSelectedItem

現在選択されているアイテムを指定する選択されたアイテムを取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

SelectItem

現在の要素のアイテムを選択します。

SelectItemByIndex

インデックス値を使用してアイテムを選択します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetItems

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

現在の要素に含まれているアイテムのコレクションを表すオブジェクトを設定します。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

MouseClick

テーブル内のセルがクリックされたときに発生します。

MouseDoubleClick

ユーザーが選択したアイテムをダブルクリックしたときに発生します。

SelectionChanged

要素から値が選択されたときに発生します。

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

ListBox 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の ListBox 要素を使用すると、1 つまたは複数のアイテムを選択できるアイテムのリストを表示できます。

ListBox 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

ClearItems

現在の要素からすべてのアイテムを削除します。

ClearSelection

現在の要素から現在の選択をクリアします。

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetItems

現在の要素に含まれているアイテムのコレクションを表すオブジェクトを取得します。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

GetSelectedIndex

現在選択されているアイテムを指定するインデックス値を取得します。

GetSelectedItem

現在選択されているアイテムを指定する選択されたアイテムを取得します。

GetSelectedItems

現在選択されているアイテムを指定する複数の選択されたアイテムを取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

SelectAll

現在の要素のすべてのアイテムを選択します。

SelectItem

現在の要素のアイテムを選択します。

SelectItemByIndex

インデックス値を使用してアイテムを選択します。

SelectItems

現在の要素の複数のアイテムを選択します。

SelectItemsByIndex

インデックス値を使用して複数のアイテムを選択します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetItems

現在の要素に含まれているアイテムのコレクションを表すオブジェクトを設定します。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

UnselectAll

現在の要素のすべての選択をクリアします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

イベント

OnContextMenuClick
: コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter
: マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave
: マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick
: 要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus
: フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus
: フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

DataGrid 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の DataGrid 要素を使用すると、表形式のデータを表示および操作できます。

DataGrid 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

ClearData
: 現在の要素のすべての行をクリアします。

有効化
: 要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。
  - true の場合、要素は有効です
  - false の場合、要素は有効になっていません。

GetCellValue
: 現在の要素内の指定されたセルの値を取得します。

GetCount
: 現在の要素の行数と列数を取得します。

GetData
: 現在の要素のデータを取得します。

GetNativeProperty
: 現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

GetRow
: インデックス値に基づく行データを取得します。

GetSelectedRow
: 選択した行のインデックス値を取得します。

InvokeNativeMethod
: 現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetCellColor

行の値と列の値に基づいてセルの色を設定します。

SetCellValue

特定の行と列のセル値を設定します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetData

データを現在の要素内に設定します。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetReadOnly

現在の要素が読み取り専用モードかどうかを示す値を設定します。

SetRowColor

行インデックスに基づいて行の色を設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

MouseClick

テーブル内のセルがクリックされたときに発生します。

MouseDoubleClick

ユーザーが選択したアイテムをダブルクリックしたときに発生します。

SelectionChanged

要素から値が選択されたときに発生します。

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PasswordBox 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の PasswordBox 要素は、文字列を入力する際にプレースホルダー文字を表示するテキストボックスです。

PasswordBox 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

Clear

現在の要素からパスワードをクリアします。

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

GetPassword

現在の要素からパスワードのテキストデータを取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetPassword

パスワードのテキストデータを現在の要素に設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

ImageControl 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の ImageControl 要素を使用すると、フォーム上に画像を表示できます。

ImageControl 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetImage

現在の要素から画像を取得します。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetImage

画像を現在の要素に設定します。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

ImageViewer 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の ImageViewer 要素を使用すると、JPEG、GIF、WMF、およびその他の画像形式を含む画像ファイルをフォーム上で開いたり、表示したりできます。また、画像の拡大や縮小、さまざまな角度での全軸回転、異なる形式での保存が可能です。

ImageViewer 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

FitToContent

画像を現在の要素に合わせます。

GetImage

現在の要素から画像を取得します。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

Highlight

現在の要素内の画像の特定の領域をハイライト表示します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetImage

画像を現在の要素に設定します。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

UnHighlight

現在の要素内の画像のハイライト表示された領域を目立たなくします。

ZoomIntoPoint

x と y の値を入力して、特定のポイントにズームします。

イベント

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

TabControl 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の TabControl 要素を使用すると、フォームに 1 つまたは複数のタブを追加できます。

TabControl 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

SelectTabByIndex

特定のインデックスのタブを選択します。

SelectTabByName

特定の名前のタブを選択します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetNativeProperty

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetTabState

タブを有効または無効にします。

SetTabVisibility

タブとそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

Web Browser 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の Web Browser 要素を使用すると、Web ページを提供し、アプリケーションに Web 閲覧機能を付与します。

Web Browser 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

ナビゲート

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

指定された URL でブラウザーを開きます。

リフレッシュ

Web ページをリフレッシュします。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

Form Renderer 要素のメソッドとイベント

RPA デスクトップデザインスタジオ の Form Renderer 要素を使用すると、TextBox、ComboBox、CheckBox、RadioBox、ToggleButton、Date、Time、PasswordBox などのコントロールを使用してフォームを迅速にビルドできます。

Form Renderer 要素のメソッドとイベントが [オブジェクトエクスプローラー (Object Explorer)] ペインに表示されます。

メソッド

有効化

要素がユーザーの操作に応答できるかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、要素は有効です
- false の場合、要素は有効になっていません。

GetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を取得します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

GetData

現在の要素のデータを取得します。

InvokeNativeMethod

現在の要素のビルトインメソッドを呼び出します。

リセット

現在の要素で定義されているフィールドのデータをリセットします。

SetChoices

プログラムを介してラジオボタンやコンボボックスなどのリストコントロールの選択肢を設定します。

SetContextMenu

UI 要素のコンテキストメニューを設定します。文字列アレイまたはカンマ区切り文字列の入力を受け入れます。

SetData

データを現在の要素内に設定します。

SetHelpContent

関連データを提供できるように、フィールドのヘルプコンテンツを設定します。

SetNativeProperty

現在の要素のビルトインプロパティの値を設定します。

SetVisibility

現在の要素とそのすべての子要素を表示するかどうかを示す値を取得または設定します。

- true の場合、現在の要素とそのすべての子要素が表示されます。
- false の場合、現在の要素とそのすべての子要素は表示されません。

イベント

OnContextMenuClick

コンテキストメニューのオプションがクリックされたときに発生します。

MouseEnter

マウスデバイスがその要素フィールドに入ったときに発生します。

MouseLeave

マウスデバイスがその要素フィールドから出たときに発生します。

OnMouseClick

要素がクリックされたときに発生します。

GotFocus

フォーカスが現在の要素にあるときに発生します。

LostFocus

フォーカスが現在の要素から出たときに発生します。

関連情報

Form Renderer 要素のフォームフィールドを設定する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub の参照

参照トピックには、ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub を構成および管理するために使用しているリストとフォームに関する追加情報があります。

ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub 用語集

ロボティックプロセス自動化 (RPA) Hub に関する専門用語や概念について説明します。

A

用語集はアルファベット順にグループ化されています。

アクティビティ

RPA デスクトップデザインスタジオ の [デザイン面 (Design surface)] で自動化を行うために設計された、再利用可能な指示セットです。

アラート

ユーザーまたはグループに送信されるカスタム通知。これらの通知は、ロボット、スケジュール、プロセスジョブ、およびその他の RPA ハブ 関連テーブルに対して生成されます。

AMB チャネル

非同期メッセージバス (AMB) チャネルは、RPA ハブ でボットプロセスに変更が行われたときに、無人ロボットに通知するために利用されます。その結果、指定されたチャネルにサブスクライブしているすべてのロボットが通知を受信します。たとえば、[プロセス開始] が RPA ハブ から開始されると、AMB チャネルを介して選択したロボットにメッセージが送信され、ロボットはメッセージを受信して自動化プロセスを開始します。

添付ファイルフレームワーク

ServiceNow インスタンスから添付ファイルをアップロードまたはダウンロードできるようにする REST API のセットです。これは、アテンド型ロボットまたは無人ロボットで実行される ServiceNow インスタンス (RPA ハブ) に対し、RPA デスクトップデザインスタジオに組み込まれている自動化パッケージを公開およびダウンロードするのに役立ちます。

アテンド型ロボット

Windows マシンにインストールされ、有人自動化を実行するソフトウェアエージェントです。

自動化

ロボティックプロセス自動化 (RPA) は、デジタルシステムやソフトウェアとやり取りする人間の動作をエミュレートするロボットを容易にビルド、展開、管理できるようにするソフトウェア技術です。

B

用語集はアルファベット順にグループ化されています。

ボットプロセス

RPA ハブでロボットが特定のタスクを実行したり、特定の目標を達成したりするために従う、事前定義された一連のアクション。ソフトウェアエージェントによって実行されるパッケージをアサインしてスケジュールできます。ビジネスアプリケーション、認証情報グループ、プロセスロボット認証情報、プロセスパラメーター、Attended ユーザー、またはグループなど、ボットプロセスに関連するその他の詳細を追加できます。

ボットプロセス構成

ボットプロセスの設定を含むレコード。 ボットプロセス構成情報レコードは、RPA ハブのボットプロセスレコードにマッピングされます。マッピングは 1 対 1 で行われます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

breakpoint

デバッグ目的で自動化の実行を停止または一時停止するために設定する RPA デスクトップデザインスタジオ のオプションです。

C

用語集はアルファベット順にグループ化されています。

component

RPA デスクトップデザインスタジオで自動化の設計や機能の抽象化に使用される再利用可能なブロックです。

コネクタ

RPA デスクトップデザインスタジオで、さまざまなデータソースやツールに接続し、自動化を作成するコネクタです。

D

用語集はアルファベット順にグループ化されています。

デスクトップインデスクトップ

ロボットがバックグラウンドで自動化を実行している間、同時に操作できる アテンド型ロボット のオプションです。マシン上で複数のセッションを作成することができます。

E

用語集はアルファベット順にグループ化されています。

実行ログ

アテンド型ロボットまたは無人ロボットのいずれかによって自動化が実行されたときにキャプチャされるログ。これらのログは、自動化実行のエラーとエンドツーエンドのログ記録を理解するのに役立ちます。詳細については、「RPA ハブのボットプロセスフォーム」を参照してください。

G

用語集はアルファベット順にグループ化されています。

GraphQL サービス

必要なデータを正確に要求するための、クライアント側の開発用に最適化された Web クエリ言語。API とやり取りするための柔軟で効率的な方法を提供します。Graph QL サービスは、GraphQL クエリ言語を利用してボットプロセスのデータを取得および操作する API を参照します。RPA デスクトップデザインスタジオ、無人ロボット、アテンド型ロボット アプリケーションは、RPA ハブ から GraphQL サービスを使用します。

H

用語集はアルファベット順にグループ化されています。

HashCode

公開されているパッケージバージョンを表す、自動生成された一意の英数字値です。

ハートビート

ロボットマシン上で動作する ServiceNow の無人ロボットは、30 秒ごとにハートビートメッセージのコレクションを投稿します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

高密度ロボット

高密度ロボットは、リモートデスクトップサービスを利用して、同じ Windows Server マシン上の個別のユーザーセッションで複数の自動化を同時に実行します。

P

用語集はアルファベット順にグループ化されています。

パッケージ

パッケージとは、特定のタスクまたはプロセスを自動化するために設計された一連のワークフロー、スクリプト、構成、および依存関係を指します。これらのパッケージは、RPA プラットフォームに公開またはインポートして、自動化ソリューションを迅速に展開できます。

パッケージは、機能、ライブラリ、またはアプリケーションをカプセル化するために使用され、開発者や RPA アドミニストレーターがソフトウェアコンポーネントを簡単に展開できるようにします。

パッケージバージョン

パッケージバージョンは、パッケージにアップロードされたコンポーネントのセットを識別する番号です。

パッケージが作成された後、RPA 開発者は RPA デスクトップデザインスタジオ から自動化を公開します。このプロセスにより、新しいパッケージバージョンが作成されます。

port

RPA デスクトップデザインスタジオのデータポートとコントロールポートに分類される、コンポーネントの一部です。

プロセスジョブ

RPA ハブでのロボットによるボットプロセスの実行です。

プロセスパラメーター

RPA ハブでボットプロセス内で使用される変数。

Q

用語集はアルファベット順にグループ化されています。

キュー

RPA ハブで多数の作業アイテムを保持できるリポジトリです。作業アイテムには、トランザクション情報、お客様の詳細、ドキュメントからの情報など、複数のタイプのデータを保存できます。

キューは、さまざまなロボット間でトランザクションデータや作業負荷を分散させるための自動化で使用されます。

R

用語集はアルファベット順にグループ化されています。

robot

ボットプロセス (自動化) を実行するソフトウェアエージェントです。ロボットは、人間のオペレーターと同じようにソフトウェアアプリケーション、データソース、ユーザーインターフェイスと対話するように設計されていますが、より効率的、正確、かつ一貫性のある方法で機能します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ロボットファイル

RPA デスクトップデザインスタジオ を使用して自動化ワークフローを設計する際に作成される自動化ファイルです。このロボットファイルには、実行するロボットの自動化ロジックが含まれます。

RPA ボット生成スキル

生成 AI を使用して自動化とアクティビティを作成し、自動化ロジックを拡張する Now Assist for RPA ハブ スキルです。

RPA デスクトップデザインスタジオ

RPA 開発者が自動化ワークフローを設計または構成するために使用する Windows ネイティブアプリケーションです。

RPA プラグイン

Microsoft Office 365、Google Chrome、Windows などのサードパーティアプリケーションとのインタラクション向けに特定の機能を追加するソフトウェアコンポーネントです。

RPA プラグインアプリ **(RPA** プラグインバンドル)

ロボティックプロセス自動化 (RPA) プラグインバンドルは、自動化のビルドを担当するアプリケーションです。RPA プラグインバンドルには、RPA デスクトップデザインスタジオ、無人ロボット、アテンド型ロボット アプリケーションによって利用される Windows ライブラリファイルのメタデータが含まれています。これらのプラグインは、RPA 製品の機能を拡張するものです。たとえば、RPA Chrome プラグインを使用すると、Google Chrome ブラウザー上で RPA アプリケーションがタスクを自動化できます。同様に、RPA Excel プラグインを使用すると、RPA アプリケーションは Excel ファイルなど多数のファイルとやり取りできます。統合ハブとともに、RPA プラグインバンドルは、ServiceNow の完全な統合と自動化ソリューションに向けたオートメーションエンジンの一部です。

S

用語集はアルファベット順にグループ化されています。

schedule

RPA ハブ で、無人のボットプロセスにスケジュールを関連付け、ユーザーが計画どおり定期的にジョブを実行できるようにします。複数のスケジュールを 1 つのボットプロセスに関連付けることができます。

共有パラメーター

一つの場所に保存されているグローバル変数または構成可能なアイテムです。これらの変数はボットプロセス全体で使用されます。

スキル

ビルド済みの自動化とプラグアンドプレイの統合によって、複雑なビジネスプロセスを実現するものです。

U

用語集はアルファベット順にグループ化されています。

無人ロボット

Windows マシンにインストールされ、無人自動化を実行するソフトウェアエージェントです。

W

用語集はアルファベット順にグループ化されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

作業アイテム

トランザクション情報、顧客の詳細、ドキュメントからの情報など、複数のタイプのデータを保存します。

要件取り込み図

Requirement Intake Diagram を使用することで、自動化の要件を視覚的に設計できます。この図は、さまざまな部門に依存し、複数のアクティビティを含む完全な要件を視覚化する方法を提供します。図が作成されると、詳細な プレイブックエクスペリエンス プロセスに変換され、実際に実行される自動化として構成および実行できます。

開始するには

詳細 Requirement Intake Design の概念と機能について学びます。	構成 Requirement Intake Design をインストールしてセットアップします。
使用 Requirement Intake Design の使用方法を学びます。	参照 Requirement Intake Design の詳細を確認します。

ストアでアプリを要求する

ServiceNow Store Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート」を参照してください。

トラブルシューティングとサポート

- Requirement Intake Design に関する質問をし、その他のリソースを調べる - ServiceNow コミュニティ
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 連絡先カスタマーサービス & サポート
- 開発者ドキュメント

Requirement Intake Diagram の概要

Requirement Intake Diagram アプリケーションの主な機能、フロー、ワークスペースについて説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Requirement Intake Diagram の概要

Requirement Intake Diagram を使用することで、自動化の要件を視覚的に設計できます。この図は、さまざまな部門に依存し、複数のアクティビティを含む包括的な要件を視覚化する方法を提供します。図が作成されると、詳細なプレイブックプロセスに変換され、実際に実行される自動化として構成および実行できます。

Requirement Intake Diagram ユーザー

ユーザー

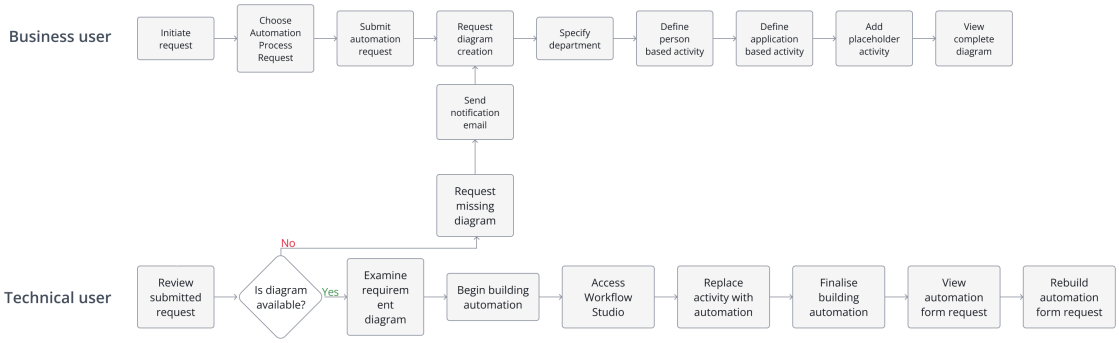
ロールタイトル	説明	含まれるロール
[sn_ac.automation_admin]	オートメーションセンター アプリケーション構成を設定します。オートメーションセンター アプリケーションのすべてのアクションを実行します。すべてのテーブルに対する CRUD アクセス権を保持します。	• sn_ac.automation_business_user • sn_ac.automation_technical_user • sn_ac.automation_admin
• sn_ac.automation_technical_user • playbook.activity_def_read • playbook.write	要件図を作成し、プレイブックプロセスに変換して、最終的に自動化を作成します。	playbook.write に pd_shared.user が含まれる
• sn_ac.automation_business_user • playbook.activity_def_read • playbook.write	要件図を提供して自動化を要求します。	playbook.write に pd_shared.user が含まれる

Requirement Intake Diagram のフロー

次の図に、Requirement Intake Diagram のフローを示します。sn_ac.automation_business_user、playbook.activity_def_read、および playbook.write のロールを持つユーザーは、要件図を要求します。sn_ac.automation_technical_user、playbook.activity_def_read、playbook.write のロールを持つユーザーは、要件図を作成し、それをプレイブックプロセスに変換して、最終的に自動化を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Requirement Intake Diagram のフロー



1. 要求者またはビジネスユーザーがオートメーションセンターから自動化要求を作成します。
2. 要求を保存した後、履行者またはテクニカルユーザーは自動化要求のレビュー要求を受け取ります。
3. 履行者または技術ユーザーは、要件図が利用可能かどうかを確認します。

   図が利用できない場合、履行者またはテクニカルユーザーは、要求者またはビジネスユーザーに要件図を作成するよう要求を送信します。
4. 図が利用可能な場合、履行者またはテクニカルユーザーは、プレイブックを使用してワークフロースタジオで自動化の作成を開始します。

Requirement Intake Diagram の構成

組織での Requirement Intake Diagram の実装を計画して構成します。

構成の概要

- Requirement Intake Diagram のインストール

  Requirement Intake Diagram アプリケーション (sn_aa) をインストールします。このアプリケーションは、関連する ServiceNow® Store アプリケーションとプラグインをインストールします (まだインストールされていない場合)。
- 接続と認証情報の設定

  Requirement Intake Diagram を使用して自動化をビルドする場合は、インスタンスにアクセスするための接続を定義します。

Requirement Intake Diagram のインストール

Requirement Intake Diagram アプリケーション (sn_aa) をインストールします。 このアプリケーションは、関連する ServiceNow® Store アプリケーションとプラグインをインストールします (まだインストールされていない場合)。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、「ServiceNow 製品またはアプリケーションのエンタイトルメントの取得」を参照してください。
- 依存関係、ライセンスやサブスクリプションの要件、およびリリースの互換性については、ServiceNow Store の Requirement Intake Diagram アプリケーションのリストを確認してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

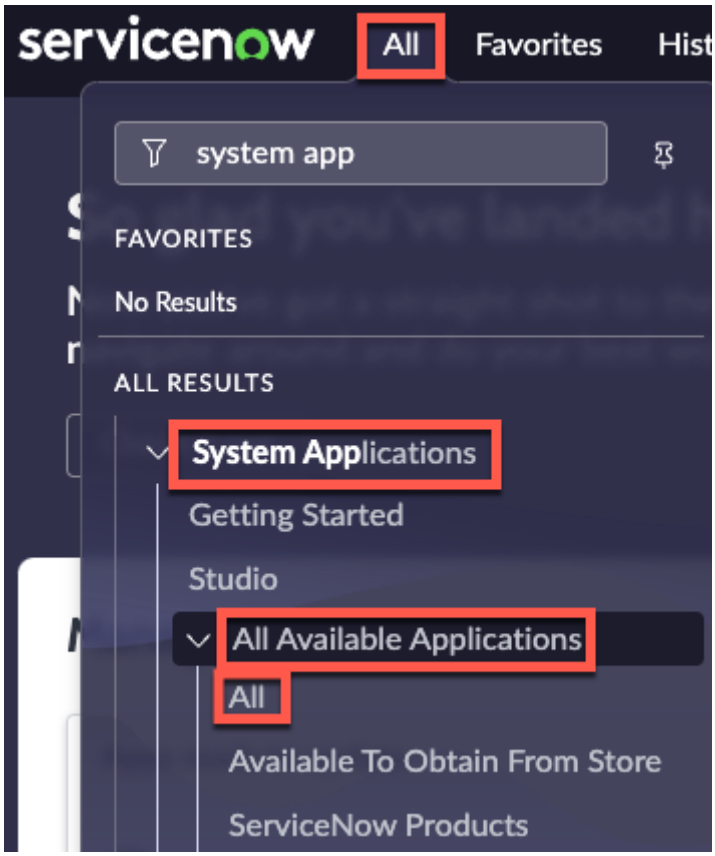
必要なロール：admin

このタスクについて
Requirement Intake Diagram とともに次のアイテムがインストールされます。

- プラグイン
- ストアアプリケーション
- ロール
- テーブル

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。



2. フィルター基準と検索バーを使用して、Requirement Intake Diagram アプリケーション (sn_aa) を検索します。

   名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store への要求が必要になることがあります。

   [インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。

3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

   表示されるインストールダイアログボックスには、アプリケーションと併せてインストールされている依存関係が一覧表示されます。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエンタイトルメントを取得します。
5. [インストール] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

接続と認証情報の設定

Requirement Intake Diagram を使用して自動化をビルドする場合は、インスタンスにアクセスするための接続を定義します。

始める前に
必要なロール：

- エイリアスを作成するには、admin ロールが必要です。
- credential_admin ロールと connection_admin ロールには、エイリアス レコードへの読み取りアクセス権があります。

手順

1. [すべて] > [コネクトおよび認証情報] > [コネクトおよび資格情報エイリアス] に移動します。
2. **[PAD** プロセスを作成] を選択します。
3. [関連リンク] の [接続] タブおよび [子エイリアス] タブで、[新規] を選択します。
4. [送信] を選択します。

タスクの結果
接続は、自動化を作成するためのインスタンスとして使用できるようになりました。

接続と認証情報の詳細については、「接続情報および認証情報エイリアスの作成」を参照してください。

Requirement Intake Diagram の使用

Requirement Intake Diagram を使用して、図から自動化の要件を視覚的に設計します。

最初に、オートメーションセンターワークスペースから自動化要求を作成する必要があります。詳細については、「オートメーションセンター からの自動化要求の作成」を参照してください。

- 図の要求
- 図を表示する
- 自動化の表示
- 自動化をビルドする

図の要求

自動化要求を作成した後、図を要求します。図は、作成する自動化を視覚的に表現したものです。

始める前に
必要なロール：sn_ac.automation_business_user、playbook.activity_def_read、または playbook.write

手順

[ワークスペース] > [オートメーションセンターワークスペース **(Automation Center Workspace)]**に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

図を表示する

始める前に
必要なロール：admin

手順

[すべて] > > に移動します。

自動化の表示

始める前に
必要なロール：admin

手順

[すべて] > > に移動します。

自動化をビルドする

始める前に
必要なロール：admin

手順

[すべて] > > に移動します。

Requirement Intake Design の参考情報

Requirement Intake Design の参考情報。

Requirement Intake Diagram とともにインストールされるコンポーネント

ドメインセパレーションと Requirement Intake Diagram

ドメインセパレーションは、Requirement Intake Diagram でサポートされています。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに応答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート)」を参照してください。

概要

Requirement Intake Diagram は、エンドツーエンドのマルチベンダーライフサイクルを一元的に管理することを目的としています。ドメインセパレーションはすべての機能で有効になっています。

フラット階層または単層階層と少なくとも 1 つのプライマリまたはトップレベルのドメインが必要です。

インポート

外部システムからデータをインポートし、Now Platform レコードデータに変換します。

開始するには

探索 インポートセットの概念と機能について説明します。	構成 インポートセットのデータソースを構成します。
使用 インポートセットを使用してデータをインポートする方法について説明します。	参照 Easy Import テンプレート検証の詳細を取得します。

製品

インポートセット

インポートセットを使用すると、アドミニストレーターはさまざまなデータソースからデータをインポートし、そのデータを ServiceNow テーブルにマッピングできます。

統合ハブ - インポート

ガイド付きの手順を追って操作できる統合インターフェイスを介してデータインポートタスクを自動化します。外部データソースを定義し、ターゲットテーブルを指定し、ソースデータがどのようにターゲットデータになるかをマッピングし、定期的なインポートをスケジュール設定します。

インポートセット API

インポートセット API は、インポートセットテーブルの操作を可能にするエンドポイントを提供します。この API は、関連する変換マップに基づいて受信データを変換します。インポートセット API は同期変換をサポートし、既存の SOAP インターフェイスを反映します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

簡単インポート

簡単インポートは、必要な列のみをインポートできる簡素化されたインポートプロセスです。

受信メールアクション

受信メールアクションを定義して、システムが受信メールにどのように応答するかをスクリプト化します。

インポートセット

インポートセットを使用すると、アドミニストレーターはさまざまなデータソースからデータをインポートし、そのデータを ServiceNow テーブルにマッピングできます。

詳細

- Washington DC へのアップグレード
- インポートセットの主要な概念

設定

- 新しいデータソースの作成
- 変換マップを作成

管理

- インポートセットのプロパティ
- インポートセットのパフォーマンスのトラブルシューティング

使用

- インポートを実行
- へのデータのインポートServiceNow
- データインポートのスケジュール
- インポートセット API の使用
- 簡単インポート
- 予定されているデータインポートの実行を監視する

開発

- 開発者トレーニング
- 開発者ドキュメント
- フィールドマップスクリプト変数
- 予定されているデータインポートスクリプティングオプション

統合

- Web サービスインポートセット
- 別の ServiceNow インスタンスからのインポート
- CI 識別および調整のインポートセットへの適用
- Apache Kafka 向けストリームコネクトによる Kafka 環境からのインポート

トラブルシューティングとヘルプ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ブログ：日付フィールドの欠落データのトラブルシューティング
- 既知のエラーポータルで既知のエラー記事を検索
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

インポートセットの主要な概念

インスタンスにデータをインポートする前に、インポートセットについて確認してください。

インポートセットテーブルは、データソースからインポートされたレコードのステージング領域として機能します。

注: 非常に大きなデータをインポートしないでください。非常に大きなインポートセットを作成すると、遅延やシステム機能停止が発生する可能性があります。

変換マップは、インポートセットテーブルに表示されるフィールドと、インシデントテーブルやユーザーテーブルなどの既存の ServiceNow テーブルのフィールドとの関係を決定します。

インポートセットは、インスタンス内のデータがインポートされるデータと一致する場合にレコードをスキップします。

注: インポートセットはユーザーシステムとして実行されるため、暗号化フィールドにデータを追加することはできません。

インポートセットの用語

主要な用語

用語	定義
インポートセットテーブル	これらのレコードを変換する前に、データソースからインポートされたレコードのステージング場所として機能するテーブル。これらのテーブルのフィールドは、インポートされたデータに基づいて自動的に生成されるため、手動で変更しないでください。 **注:** インポートセットテーブルの列は自動的に生成されるため、手動で追加しないでください。列を手動で追加すると、スケジュール済みのテーブルクリーンアップに悪影響を及ぼし、クリーンアップの未完了やレコードの孤立が発生する可能性があります。 インポートセットテーブルに列を追加する必要がある場合は、まず入力データに列を追加してから、**[20** 件のレコードのテストロード] または [すべてのレコードをロード] を選択してインポートセットテーブルに列を自動生成します。 インポートセットテーブルの列のタイプが入力データと同じでない可能性があります。たとえば、通貨列は、通貨タイプであるターゲットテーブル列に割り当てられるまで、インポートセットテーブルでは文字列の列として表されます。
データソース	インポートするデータを取得する場所を定義するレコード。データソースは、ファイル、JDBC 互換データベース、または LDAP 組織単位を指すことができます。
変換	変換マップで定義されたルールに基づく、インポートセットテーブルから別のテーブルへのデータの変換。
変換マップ	インポートセットのフィールドとテーブルのフィールド (インシデントなど) の間の関係を定義するフィールドマップのセット。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

主要な用語 (続く)

用語	定義
	変換時中、データは変換マップに基づいてインポートセットテーブルからターゲットテーブルにコピーされます。 単一のインポートセットフィールドを、他のテーブルの複数のフィールドにマッピングすることができます。
強力なインポートセットトランスフォーマー	データを抽出、変換、および 1 つ以上のターゲットテーブルにロードします。変換機能と処理機能を分離し、変換マップのより柔軟な代替手段を提供します。
外部レコードの挿入	外部レコードの挿入は、インポートによって、そのインポートのターゲットテーブルではないテーブルが変更されたときに発生します。 この変更は、テーブルの参照フィールドを更新するときに発生します。たとえば、インシデントの発信者の値を更新する場合、実際には sys_user テーブルが更新されます。
結合	インポートデータを変換するときに、既存のターゲットテーブルレコードを更新できます。 インポートセットレコードを変換するときに [ターゲット] フィールドを使用して結合するかどうかを指定できます。フィールドマップの [結合] オプションが選択されている場合、インポートセット行が変換されると、インスタンスは [ターゲットフィールド] の値がインポートセット行の [ソースフィールド] と同じであるターゲットテーブルの既存のレコードをチェックします。 ターゲットテーブルに一致する値を持つ既存のレコードが見つかった場合、そのレコードが更新されます。一致するレコードが見つからない場合は、ターゲットテーブルに新しいレコードが作成されます。

サポートされているインポート形式

いくつかの異なるファイル形式または外部データソースからデータをインポートできます。

ファイル形式

形式	制限事項
CSV	CSV ファイルは、RFC4180 で提案された CSV 標準に準拠する必要があります。特に、これはフィールド内に二重引用符が表示されないことを意味します。インポートされた CSV ファイル内のデータの最初の行がヘッダー行になり、そのインポートセットの列を定義します。
Excel	Excel ファイルには、XLS または XLSX 拡張子が必要です。
XML	XML ファイルには、データ行ごとに一貫した XPath が必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ファイル形式 (続く)

形式	制限事項
JSON	• JSON アレイの場合、各行のパスで `/incidents/incidents` のようにアレイのルート要素を 2 回指定する必要があります。 • JSON ファイルは RFC-4627 に従う必要があります。たとえば、値と続く名前は 1 つのカンマで区切る必要があります。オブジェクト内の名前は一意である必要があります。 • `@element`、`[index]`、または `text()` などの述語や、子、兄弟、先祖などの Axis はサポートされていません。
カスタム (スクリプトで解析)	カスタム JavaScript を記述して、マップのリストへの入力行を解析できます。

ServiceNow® プラットフォームは、次の外部データソースからデータをインポートできます。

外部データ ソース

データソース	制限事項
JDBC	JDBC インポートには有効な変換マップが必要です。一部のネットワーク構成では ServiceNow® MID サーバー が必要です。
LDAP	LDAP インポートには有効な変換マップが必要です。
OIDC	OIDC インポートには有効な変換マップが必要です。
ServiceNow® REST (統合ハブ)	REST インポートには有効な変換マップが必要です。
カスタム (スクリプトでロード)	カスタムインポートには有効な変換マップが必要です。

各種のデータソースの詳細については、「データソース」を参照してください。

変換マップと強力なインポートセットトランスフォーマー

変換マップと強力なインポートセットトランスフォーマーの両方がデータを変換します。変換マップは、データをステージングテーブルから宛先ファイルに変換します。強力なインポートセットトランスフォーマーは、ソーステーブルからメッセージリスナーにデータを変換します。データソースに変換マップと強力なインポートセットトランスフォーマーの両方がある場合、システムは変換マップの代わりに強力なインポートセットトランスフォーマーを使用します。

インポートセットスケジュール設定済みクリーンアップ

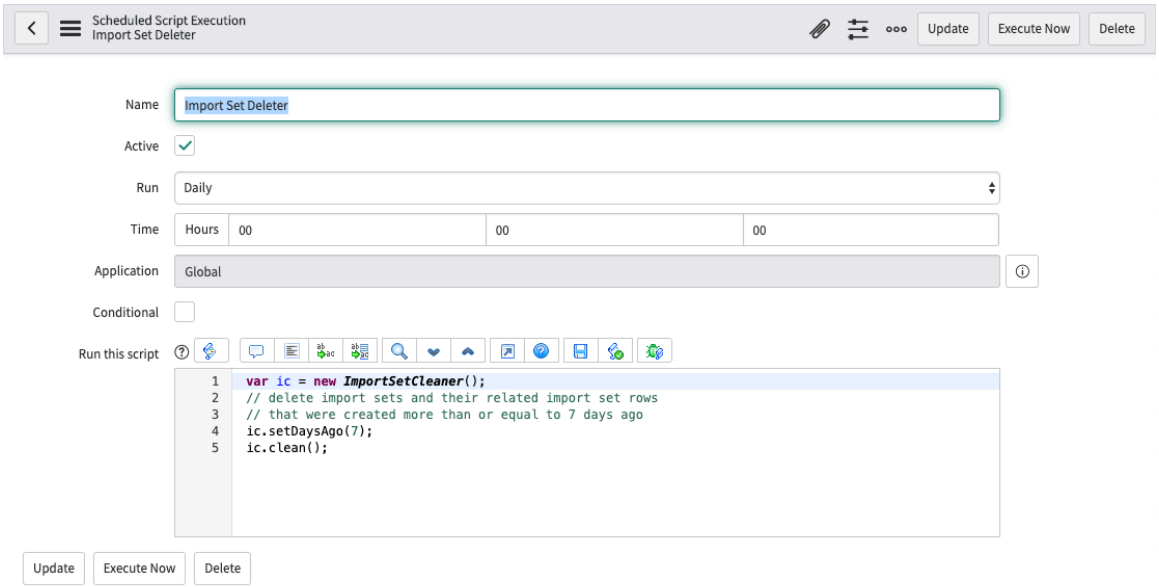
Import Set Deleter スケジュール済みジョブは、毎日深夜に古いインポートセットデータをクリーンアップします。

デフォルトでは、7 日以上経過したすべてのインポートセットと、関連するインポートセットテーブルのレコードが削除されます。このスケジュール済みジョブがインスタンスでアクティブでない場合は、特に繰り返しインポートを使用するときに、このジョブをアクティブ化してインポートセットテーブルの増加を抑えます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: スケジュールされたクリーンアップがシステムでアクティブになっていない場合は、このクリーンアップを有効にする前に、インポートセットテーブルが大きすぎない (すべてのテーブルで合計 500 万レコード) ことを確認する必要があります。テーブルが大きすぎる場合は、先に進む前にレコードを手動で削除してください。このデータの削除を調整するには、カスタマーサービス & サポート に連絡してください。

スケジュール済みスクリプト実行



手順については、「インポートセットを削除する」を参照してください。

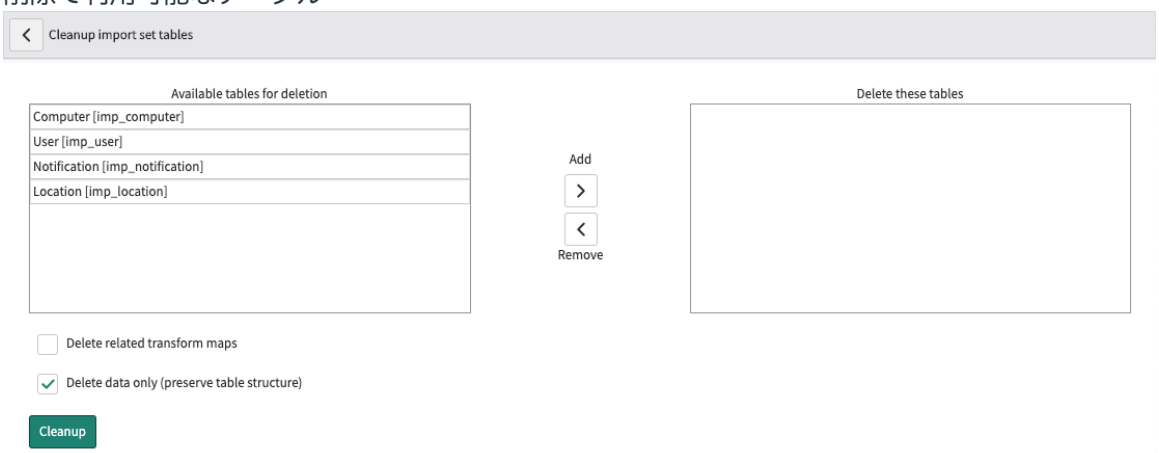
インポートセットテーブル削除ツール

次のインポートセットテーブルのいずれかまたはすべてを手動で削除できます。

- コンピューター
- ユーザー
- 通知
- ロケーション

関連する変換マップを削除することも、データのみを削除してテーブル構造を保持することもできます。

削除で利用可能なテーブル



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順については、「インポートセットテーブルを削除する」を参照してください。

同時インポート

受信データを複数のインポートセットに分割し、インポートセットを同時に変換して処理時間を短縮します。

同時インポートの実行は、順序が重要ではなく、大量のデータセットが原因でインポートに時間がかかる場合に役立ちます。順序が重要な場合は、インポートを複数のパーティションに分割して、各パーティションが順番に処理されるようにすることができます。

注: 同時インポートでは、処理と監視のオーバーヘッドが増加します。大きなデータセットでのみ使用してください。

他のすべてのパラメーター (データベースのインデックスや変換など) を微調整した後にのみ、同時インポートを有効にします。

同時インポートのスケジュール

同時インポートを有効にするには、[予定されているデータインポート] フォームで [同時インポート] を選択します。手順については、「データインポートのスケジュール」を参照してください。

スケジュールが同時インポートを実行すると、システムはデータをデータベース、Excel スプレッドシート、CSV ファイル、またはその他のソースから一時的なステージングテーブルにプルし、ステージングテーブルからターゲットテーブルに変換します。

同時インポートを実行すると、*glide.scheduled_import.max.concurrent.import_sets* システムプロパティの値 (デフォルト = 10) までの複数のインポートセットが作成されます。たとえば、2 ノードのクラスターでは 4 つのインポートセットが生成され、10 ノードのクラスターでは 10 のインポートセットが生成されます。

インポートセットトランスフォーマージョブ

各アクティブノードは、毎分 2 つのインポートセットトランスフォーマージョブを実行します。これらのジョブは、同時インポートセットジョブキューをポーリングし、キューからインポートセットを選択して、それらのインポートセットを変換します。ワーカースレッドの可用性に応じて、すべてのジョブが同時に実行されます。

同時インポートセットレコード

同時インポートごとに同時インポートセットレコードが作成されます。フォームビューには、関連するすべてのインポートセット、同時実行インポートセットジョブ、および変換履歴が表示されます。

任意のインポートセットを再開または再処理できます。詳細については、「同時インポートセットを監視する」を参照してください。

同時インポートセットのジョブキュー

データをロードした後、インポートセットが同時インポートセットジョブテーブルに追加されます。同時インポートセットジョブテーブルは、各同時インポートセットジョブのジョブタイプとステータスを示します。

詳細については、「同時インポートセットジョブを監視する」を参照してください。

同時インポートのパーティショニング

インポートセットをパーティション分割して、各パーティション内の処理順序を維持することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

デフォルトでは、レコードはラウンドロビン方式でインポートセットに割り当てられます。ただし、カスタムスクリプトを作成して、ターゲットのインポートセットを識別するカスタムパーティションキーを定義することができます。同じパーティションキーを持つすべての行が同じインポートセットに追加され、そのインポートセット内のデータが順番に処理されます。

階層インポート

別のインポートセットの完了後にインポートをスケジュールすることで、スケジュール済みインポートセット階層を作成できます。1 つの親スケジュール済みインポートは多くの子スケジュール済みインポートを持つことができ、各子のスケジュール済みインポートは指定された順序で実行されます。同時スケジュール済みインポートの場合、子のスケジュール済みインポートは、すべてのインポートセットトランスフォーマージョブが完了した後にのみ開始できます。

最後のインポートセットトランスフォーマージョブが、階層内の次のインポートを開始します。

親インポートプロセスの開始時に実行計画が生成されます。各インポートプロセスは、実行計画を使用して次に呼び出すプロセスをフェッチします。同時インポートの場合、最後のインポートセットトランスフォーマージョブが次のインポートをフェッチして実行します。

同期された挿入

結合フィールドは、レコード間の一意性を定義するのに役立ちます。変換プロセスは、結合値を持つ既存のレコードをチェックし、既存のレコードが存在する場合は更新し、存在しない場合は新しいレコードを挿入します。詳細については、「結合を使用したレコードの更新」を参照してください。

デフォルトでは、同時インポートにより、実行中の各インポートセットで新しいレコードを挿入できます。インポートセットがレコードを挿入すると、他のインポートセットが同じレコードを挿入しないように、ターゲットテーブルに書き込みロックが設定されます。

同時インポートのテーブル

テーブル	説明
同時インポートセット (sys_concurrent_import_set)	各同時インポートセットの詳細をインポートセットレコードに保存します。
同時インポートセットジョブ (sys_concurrent_import_set_job)	処理するインポートセットを一覧表示します。
スケジュール済みインポートの実行コンテキスト (sys_execution_context)	各スケジュール済みインポートの実行コンテキストを指定します。実行コンテキストは、階層的なスケジュール済みインポートを処理するときに使用する次のスケジュール済みインポートを指定します。
階層的なスケジュール済みインポートの実行計画 (sys_execution_plan)。	階層インポートの実行計画を保存します。実行計画は、先行するスケジュール設定済み入力の後に実行されるスケジュール済みインポートを識別するツリー構造です。

同時インポートによるドメインセパレーション

スケジュール済みインポートテーブルに sys_domain フィールドを追加して、インポートセットのドメインセパレーションを有効にすることができます。インポートセットのロードジョブと変換ジョブは、両方ともインポートセットスケジュールジョブで指定されたドメインで実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データソース

データソースを使用してインポートセットを作成し、必要に応じて、生産テーブルにマップする前にデータを処理できるようにします。

データソースタイプ

タイプ	説明
ファイル	データは認識されているファイル形式であり、いくつかのファイル取得方法を使用してローカルまたはリモートでアクセスできます。
JDBC	データはデータベース内にあり、JDBC を使用してアクセスできます。カスタマーサービス & サポート は、Oracle、MySQL、Sybase、DB2 Universal、および MS SQL Server のドライバーをサポートしています。
LDAP	データは LDAP サーバー内にあり、LDAP または LDAPS ポート (それぞれ 389 と 636) を介してアクセスできます。
OIDC	データには OpenID Connect を介してアクセスできます。
REST (統合ハブ)	データは REST API にあり、統合ハブ からアクセスできます。
データストリーム 統合ハブ	データは、統合ハブ からアクセスできるデータストリームアクションからロードされます。
カスタム (スクリプトでロード)	データはカスタムスクリプトを使用して取得されます。

ファイルタイプのデータソース

パスと認証情報を指定して、ローカルソース、リモートネットワークサーバー、または別のインスタンスからファイルをインポートします。

ファイルタイプのインポートセットの場合は、ファイル取得方法のリスト (SFTP、FTP、FTPS、HTTP、HTTPS、および SCP) から選択できます。

注: FTPS は一部のファイアウォールベンダーでサポートが終了しているため、お勧めしません。代替手段として SFTP の使用を検討してください。

ファイル取得手法

ファイルが存在する場所から ServiceNow にファイルをコピーしてインポートセットにロードするには、次のファイル取得方法を使用できます。

インポートと互換性のあるファイルを定義した後、ファイルのインポート方法を定義します。

注: インポートを成功させるには、FTP サーバーとクライアントをここで選択したものと同じ認証メカニズムに設定する必要があります。

方法	説明
添付ファイル	レコードに添付ファイルを追加して管理 し、そのファイルをインポートセットにインポートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

方法	説明
SFTP	SFTP を使用してファイルを取得します。サーバー名とログイン認証情報のフィールドが提供されます。
FTP	ネットワーク内の FTP サーバーからファイルを取得します。サーバー名とログイン認証情報のフィールドが提供されます。 **注:** FTP 転送はクリアーテキストとして送信され、暗号化することはできません。可能な場合は常に、SCP または SFTP を使用してください。
FTPS (Auth SSL) [非推奨]	FTPS は一部のファイアウォールベンダーでサポートが終了しているため、お勧めしません。代替手段として SFTP の使用を検討してください。 セキュアソケットレイヤー (SSL) プロトコルを介して発行される FTP セキュア認証コマンド。この方法は、SSL を介した明示的 FTP とも呼ばれます。
FTPS (Auth TLS) [非推奨]	FTPS は一部のファイアウォールベンダーでサポートが終了しているため、お勧めしません。代替手段として SFTP の使用を検討してください。 トランスポートレイヤーセキュリティ (TLS) プロトコルを介して発行される FTP セキュア認証コマンド。この方法は、TLS を介した明示的 FTP とも呼ばれます。
FTPS (Implicit SSL) [非推奨]	FTPS は一部のファイアウォールベンダーでサポートが終了しているため、お勧めしません。代替手段として SFTP の使用を検討してください。 暗黙的なセキュリティでは、FTPS サーバーは、セキュア接続に使用するクライアント (990) の特定のポートを定義します。暗黙的なセキュリティは、FTPS クライアントが FTPS サーバーに接続した瞬間に SSL 接続から自動的に始まります。
FTPS (Implicit TLS) [非推奨]	FTPS は一部のファイアウォールベンダーでサポートが終了しているため、お勧めしません。代替手段として SFTP の使用を検討してください。 暗黙的なセキュリティでは、FTPS サーバーは、セキュア接続に使用するクライアント (990) の特定のポートを定義します。暗黙的なセキュリティは、FTP クライアントが FTP サーバーに接続した瞬間に TLS 接続から自動的に始まります。
HTTP	HTTP を使用してファイルを取得します。サーバー名とログイン認証情報のフィールドが提供されます。 **重要:** HTTP および HTTPS プロトコルの場合、ファイルパスは自動的に URL エンコードされます。これらのプロトコルのいずれかを使用する場合は、URL エンコードされたファイルパスを指定しないでください。
HTTPS	HTTPS を使用してファイルを取得します。サーバー名とログイン認証情報のフィールドが提供されます。ServiceNow インスタンス間でデータを転送するには、この方法を使用します。
SCP	Secure Copy プロトコル (SCP) は、Secure Shell (SSH) プロトコルを使用して、ローカルホストとリモートホスト間または 2 つのリモートホスト間でファイルを安全に転送します。

ファイルデータソースの例

これらの例では、さまざまなファイルタイプをデータソースとしてインポートする方法について説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

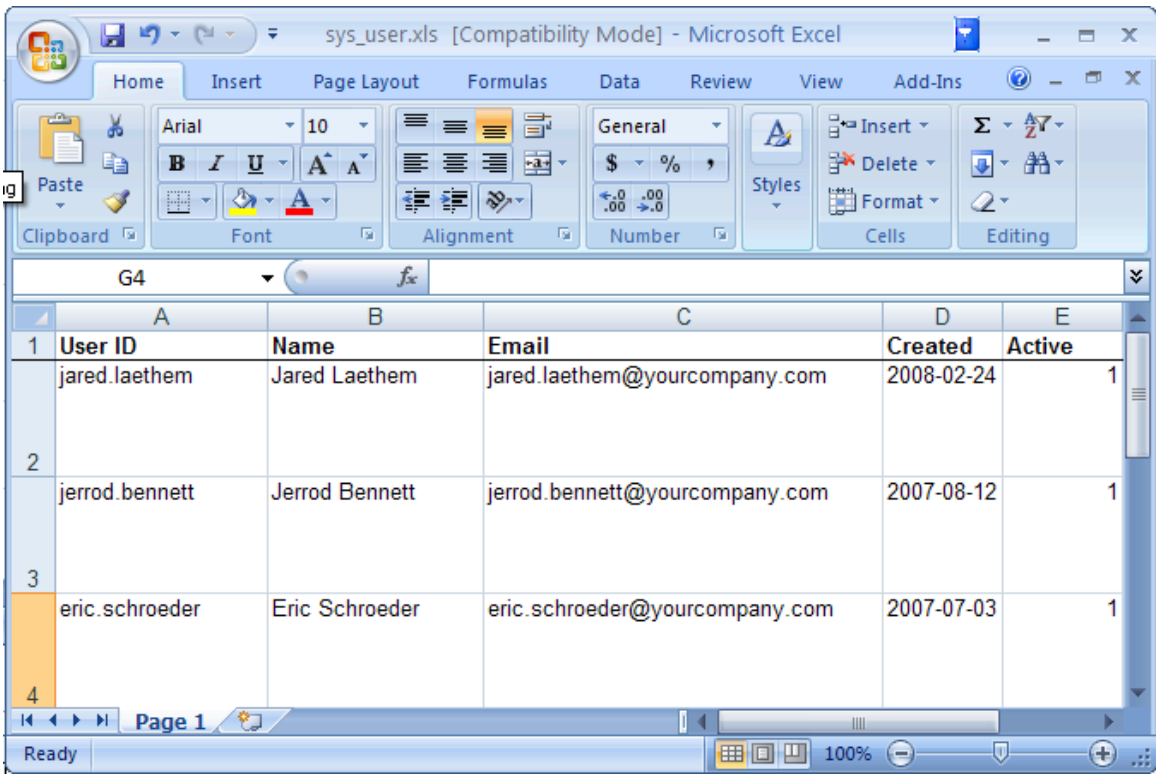
Excel データソースファイル

XLSX 形式と従来の XLS 形式の両方を使用してインポートできます。XLS は、2003 以前のバージョンの Excel で作成されたスプレッドシートのデフォルト形式です。XLSX は Excel 2007 以降のデフォルト形式です。最適なパフォーマンスを得るには、従来の XLS の代わりに XLSX を使用してください。

注:

- すべての .xls ファイルでは、1904 年の日付システムではなく、1900 年の日付システムを使用する必要があります。1904 年日付システムでは、スプレッドシートに表示される年よりも 4 年前の日付がインポートされます。日付システムの詳細については、 MS Support を参照してください。
- 大文字のブール値が (TRUE/FALSE) のファイルを Excel からインポートすると、両方の値が常に false に変換されます。この動作を防ぐには、*glide.transform.boolean.casesensitive* プロパティを false に設定します。

Microsoft Excel デモデータ



XML データソースファイル

各行の XPath

XML データソース定義には、[各行の **XPath]** を指定するための追加のフィールドがあります。このフィールドは、子がインポートセットテーブルの行に変換される要素を選択するための XPath 式です。選択された各要素により、インポートセットテーブルに行が作成されます。選択した要素の子が行の列に変換されます。たとえば、以下のサンプル XML ファイルから資産情報をインポートするには、XPath 式を `/export/asset` として指定する必要があります。この式は 3 つの `<asset>` 要素が含まれているため、3 つの行が作成されます。`//asset` を指定することもできますが、この式は大きなファイルの場合はあまり効率的ではありません。XML ローダーを使用する場合は、XPath 式の場所の絶対パスフォームを使用します。つまり、厳密に必要な場合を除き、`//` を含む式は使用しないでください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サイズの大きい XML ファイルでは、制限が不十分な XPath 式を指定しないように注意してください。たとえば、次のサンプルファイルではドキュメント (ルート) 要素と一致するため、`/export` という式は正しくありません。一般に、ドキュメント内のすべてを単一の行にする場合を除き、ルート要素に一致する XPath 式を指定しないでください。サイズの大きい XML ファイルをロードするときに制限が不十分な XPath 式を指定すると、処理時間が長くなり、出力が不正確になる可能性があります。このため、数行分のデータのみを含む小さな XML ファイルを使用して、XML データソース仕様をテストおよびデバッグすることをお勧めします。仕様をテストしたら、完全なファイルを使用して再度実行できます。

<userInfo> 要素

`<asset>` 内に含まれる `<userInfo>` 要素には子要素が含まれることに注意してください。このタイプのネストは、`<userInfo>` 要素の XML を含む **[userInfo]** という列を作成します。[子ノードを展開 **(Expand child nodes)]** がオンの場合は、**[userInfo/lastName]** および **[userInfo/firstName]** の個々の列も作成されます。[子ノードを展開 **(Expand child nodes)]** がオフの場合は、**[userInfo]** XML 列のみが作成されます。

XML ファイルからのデータのロード

XML ファイルからデータをロードする場合、ServiceNow は最初の 10 レコードをサンプリングして、データを保持するために必要なフィールドを決定します。最初の 10 件のレコードのいずれにもフィールドの値が指定されていない場合、ServiceNow はインポートされたデータを保持するテーブルにそのフィールドを追加しません。最初の 10 件のレコードのうち少なくとも 1 件が、インポートされるフィールドの値を指定していることを確認してください。

XML データソースに使用される XML ファイルの最初の 10 ノードにフィールドが含まれていない場合、そのフィールドは無視されます。フィールドをインポートして無視されないようにするには、フィールドが最初に見つかったノードの位置以上の値を持つ *glide.db.impex.XMLLoader.max.scan_nodes* システムプロパティを追加できます。 このプロパティは、すべての XML データソースに適用されます。*glide.db.impex.XMLLoader.max.scan_nodes* のデフォルトは **[10]** ですが、**[1]** ～ **[2147483647]** の値を入力して、インポートに使用する値を決定するためにスキャンするノードの数を指定できます。**[-1]** を指定すると、XML ファイル内のすべてのノードをスキャンできます。

> **重要:** **[-1]** を指定するか、*glide.db.impex.XMLLoader.max.scan_nodes* の値をデフォルトの **[10]** より大きくすると、すべての XML インポート処理で全体のロード時間が大幅に増加する可能性があります。

```
<?xml version= "1.0" encoding=
 "utf-8" ?
><export><asset><assetTag>AT-01939</assetTag><type>Desktop</type><os>Wind
ows 7 Professional</os><lastlogondate>12-07-2010
 12:31:24</lastlogondate><userInfo><lastName>Loo</lastName><firstName>Dav
id</firstName></userInfo><isenabled>true</isenabled></asset><asset><asset
Tag>AT-53480</assetTag><type>Desktop</type><os>Windows
 7 Professional</os><lastlogondate>09-07-2010
 13:25:53</lastlogondate><userInfo><lastName>Merritt</lastName><firstName
>Norris</firstName></userInfo><isenabled>true</isenabled></asset><asset><
assetTag>AT-55782</assetTag><type>Desktop</type><os>Unknown</os><lastlogo
ndate>01-01-1900
 00:00:00</lastlogondate><userInfo><lastName>Currie</lastName><firstName>
Mike</firstName></userInfo><isenabled>true</isenabled></asset></export>
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSV データソースファイル

CSV ファイルは、プラットフォーム間でファイルを転送するための相互互換性のあるファイル形式として使用されます。CSV ファイルはグリッドを定義するテキストファイルで、カンマで列を定義し、改行で行を定義します。文字列をインポートするための正確な間隔を定義するために、オプションでテキストを引用符で囲むことができます。

```
"user_name","name","email","sys_created_on","active"
"jared.laethem","Jared
 Laethem","jared.laethem@yourcompany.com","2008-02-24 22:21:32","true"
"jerrod.bennett","Jerrod
 Bennett","jerrod.bennett@yourcompany.com","2007-08-12 12:12:18","true"
"eric.schroeder","Eric
 Schroeder","eric.schroeder@yourcompany.com","2007-07-03 11:50:20","true"
"rob.woodbyrne","Rob
 Woodbyrne","rob.woodbyrne@yourcompany.com","2007-07-03 11:49:57","true"
"admin","System Administrator","admin@yourcompany.com","2007-07-03
 11:48:47","true"
"christen.mitchell","Christen
 Mitchell","christen.mitchell@yourcompany.com","2007-05-16
 15:26:42","true"
"rob.phillips","Rob Phillips","rob.phillips@yourcompany.com","2007-01-22
 11:25:34","true"
"davin.czukowski","Davin
 Czukowski","davin.czukowski@yourcompany.com","2006-07-11
 14:01:26","true"
"luke.wilson","Luke Wilson","luke.wilson@yourcompany.com","2006-02-07
 15:29:48","true"
"bow.ruggeri","Bow Ruggeri","bow.ruggeri@yourcompany.com","2005-07-07
 11:39:58","true"
"don.goodliffe","Don
 Goodliffe","don.goodliffe@yourcompany.com","2005-05-02 12:28:40","true"
"david.loo","David Loo","david.loo@yourcompany.com","2005-02-22
 16:00:00","true"
"guest","Guest","guest@yourcompany.com","2004-05-01 17:00:00","true"
"fred.luddy","Fred Luddy","fred.luddy@yourcompany.com","2004-05-01
 17:00:00","true"
```

CSV ファイルを使用する場合は、[データソース] フォームの [プロパティ] フィールドを使用してエンコード文字セットを指定できます。このフィールドを表示するには、データソースフォームのフォームレイアウトを構成 する必要があります。たとえば、utf-8　エンコーディングを使用するには、**[charset=utf-8]** と入力します。

単一列のデータ

JSON および XML 形式の場合、この機能を使用すると 1 つの列に完全なレコードを格納できます。

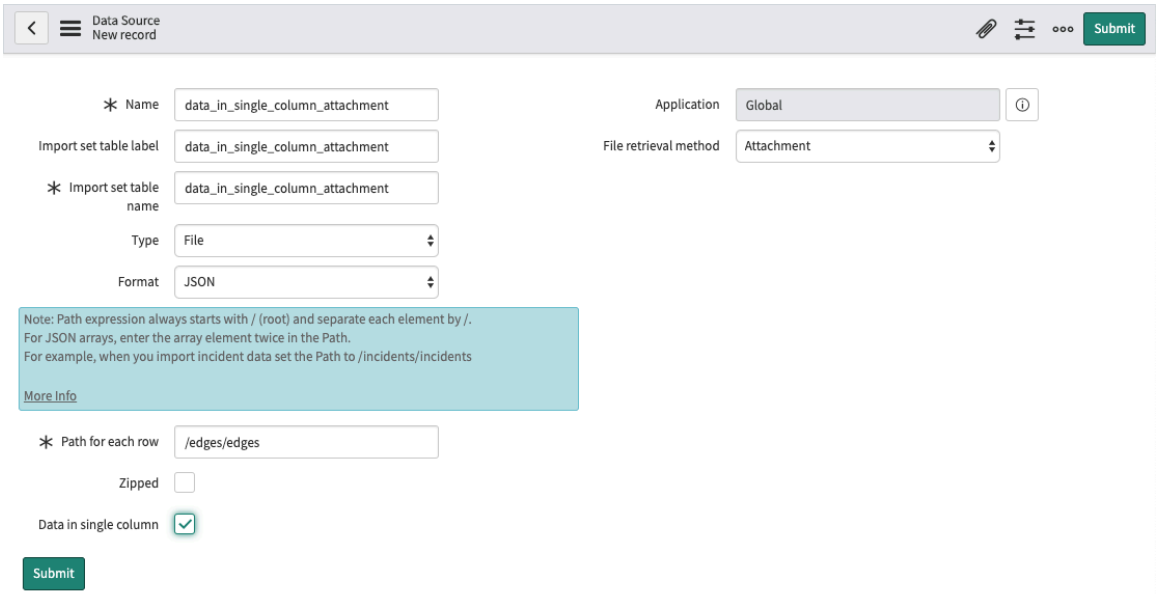
完全なレコードを格納するために使用される列名は `data` です。

JSON 形式のデータソースを作成して 1 列でデータを保存する場合、[単一列のデータ] チェックボックスをオンにすると次のオプションが更新されます。

- [アレイを破棄 **(Discard Array)]** が選択解除され、フォームから削除されます。
- [拡張ノード子] が選択され、フォームから削除されます。

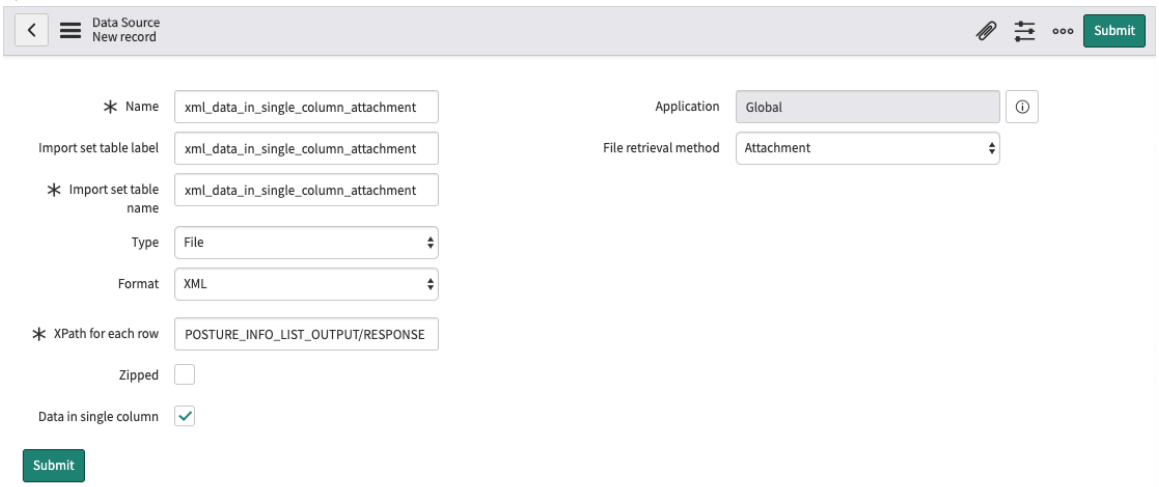
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

単一列の **JSON** データ



データを 1 列で保存する XML 形式のデータソースを作成し、[単一列のデータ] チェックボックスをオンにすると、[拡張ノード子] が選択され、フォームから削除されます。

単一列の **XML** データ



カスタム (スクリプトで解析) 形式

[ファイル] の [タイプ] と [カスタム (スクリプトで解析)] の [形式] を選択すると、[解析スクリプト] と呼ばれる Javascript エディターが表示されます。解析スクリプトを使用して、カスタマイズされた Javascript を作成し、入力行を解析してマップのリストに入れることができます。

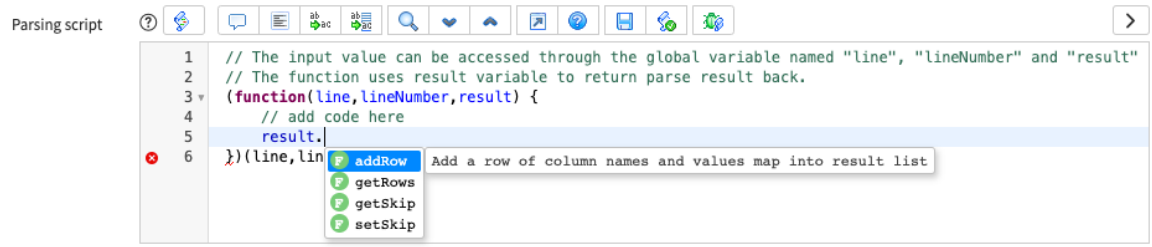
Javascript には、次の 3 つのパラメーターが事前定義されています。

- *line* パラメーターは、ソースファイルの行データを含む文字列です。
- *lineNumber* は、この行データのソースファイルの行番号です。
- *result* パラメーターは、Javascript からの解析結果を返すために使用されます。

result パラメーターは、Java オブジェクト ScopedScriptParseResult のインスタンスです。`result.` と入力すると、次の 4 つの使用可能なメソッドが Javascript エディターでスクリプトのオートコンプリートとして表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オートコンプリートメニュー



- `void setSkip(boolean skip);`
- `boolean getSkip();`
- `addRow(Map<String, String> map);`
- `List<Map<String,String>> getRows()`

`setSkip()` および `getSkip()` は、スキップフラグを設定および取得します。スキップフラグが true に設定されている場合、Javascript の解析結果全体が無視されます。

`addRow()` は、解析行の結果のマップを 1 つ追加し、ステージングテーブルに挿入します。

`getRows()` は、現在の解析結果のすべての行を取得し、ステージングテーブルに挿入します。

1 行のソースデータには、1 つの行または複数の行を含めることができます。
行データの処理方法はスクリプト作成者が決定します。たとえば、行データ `name=john,computer=windows;name=joe,computer=linux;name=linda,computer=windows` の場合、行の区切りとしてセミコロン (;) を使用する場合、この行には 3 行のデータが含まれます。各行は、`name` と `computer` の 2 つのキーを持つマップです。`name` と `computer` がステージングテーブルスキーマの列名になります。次の Javascript のサンプルを使用して、この行データを解析できます。

```
(function(line, lineNumber, result) {
 var rowArr = line.split(";");
 var i;
 for(i in rowArr) {
 var map = {};
 var arr = rowArr[i].split(",");
 var x;
 for(x in arr) {
 var items = arr[x].split("=");
 map[items[0]]=items[1];
 }
 result.addRow(map);
 }
})(line, lineNumber, result);
```

スクリプト作成者は、結果がステージングテーブルに挿入されるように結果を追加する必要があります。

カスタム CSV ファイルを処理する

カンマ以外の文字で区切られた CSV ファイルを処理できます。

始める前に

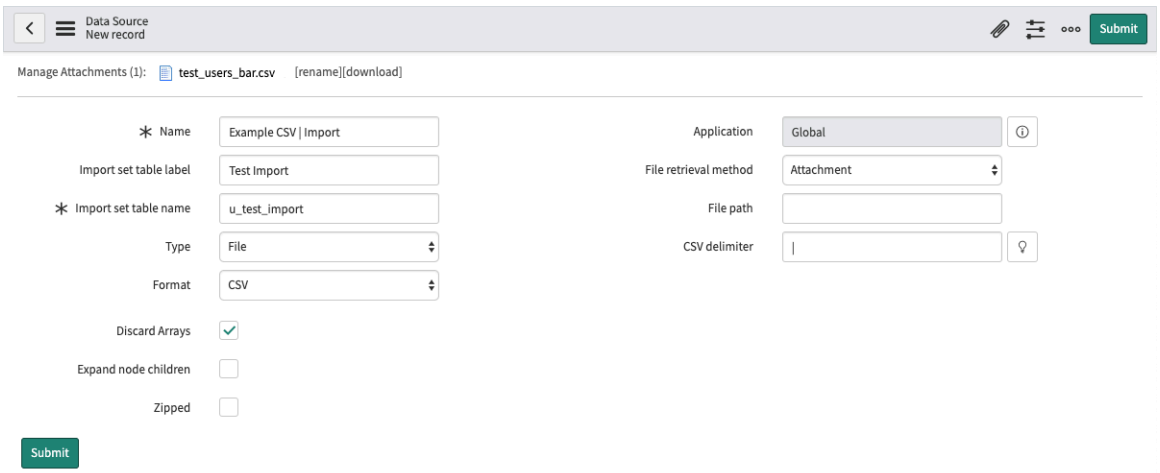
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
これは、CSV インポートを作成するための高度な手順です。通常、データをアップロードし、システムインポートセットを使用して直接インポートすると、この CSV データソースが自動的に作成されます。

手順

1. データソースレコードを作成します。
2. CSV ファイルをデータソースに添付します。
3. [データソース] フォームをカスタマイズし、**[CSV** 区切り文字] フィールドを追加します。
4. パイプ記号 (|) など、CSV ファイルの区切り文字として使用する文字を入力します。
5. データソースをテストロードします。



JSON ファイルのインポート例

これらの例は、さまざまなタイプの JSON データと各行に必要なパスをインポートする方法を示しています。インポートする JSON ファイルは、次のガイドラインに従う必要があります。

ファイルタイプデータソースを作成する段階的な手順については、「ファイルタイプのデータソースを作成する」を参照してください。

- JSON アレイの場合、各行のパスで `/incidents/incidents` のようにアレイのルート要素を 2 回指定する必要があります。
- JSON ファイルは RFC-4627 に従う必要があります。たとえば、値と続く名前は 1 つのカンマで区切る必要があります。オブジェクト内の名前は一意である必要があります。
- `@element`、`[index]`、または `text()` などの述語や、子、兄弟、先祖などの Axis はサポートされていません。

簡易アレイ

- 各行のパス：`/incidents/incidents`
- 結果：2 レコード

この例では、各行のパスにアレイルートノード `/incidents` が 2 回含まれています。これはアレイをインポートするときに必要です。

```
{
   "source":"HI",
   "incidents":[
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
      {
         "number":"INC0000001",
         "short_description":"Can't read email"
      },
      {
         "number":"INC0000002",
         "short_description":"Error loading XML file"
      }
   ]
}
```

第 2 レベルのアレイ

- 各行のパス：`/problems/data/data`
- 結果：3 レコード

この例では、各行のパスにアレイルートノード `/data` が 2 回含まれています。

```
{
   "problems":{
      "id":"0",
      "data":[
         {
            "number":"PRBTEST001",
            "short_description":"testsd1"
         },
         {
            "number":"PRBTEST002",
            "short_description":"testsd2"
         },
         {
            "number":"PRBTEST003",
            "short_description":"testsd3"
         }
      ]
   }
}
```

ネストされたアレイ

- 各行のパス：`/problems/problems/data/data`
- 結果：3 レコード

この例では、各行のパスに、両方のアレイのルートノード `/problems` と `/data` が 2 回含まれています。

```
{
   "problems": [
         {
      "id":0,
      "data":[
            {
               "number":"PRBTEST001",
               "short_description":"testsd1"
            },
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
            {
               "number":"PRBTEST002",
               "short_description":"testsd2"
            },
            {
               "number":"PRBTEST003",
               "short_description":"testsd3"
            }
         ]
      }
   ]
}
```

子 (ネストされた) アレイのサポート

デフォルトでは、インポートは子 (ネストされた) アレイをサポートしていません。サポートを有効にするには、データソースビューの [配列を破棄] チェックボックスをオフにします。次の表では、子アレイのサポートを有効または無効にしたときのさまざまな動作について説明します。

```
{
  "response":{
    "docs":[
      {
        "id":"id_val",
        "childrenArray":[1,2,3],
        "anotherArray":[{"key1":"value1"}, {"key1": "value2"}],
        "elementWithArray":{"childrenArray":[1,2,3]}
      }
    ]
  }
}
```

子アレイの動作

パス	アレイの破棄が有効	アレイの破棄が無効
/response/docs/docs	次の列と値を持つレコードを 1 つ作成します。 • Id : id_val • elementWithArray : {} レコード内にあるアレイ (childrenArray や anotherArray など) は、インポートテーブルの列として作成されません。	次の列と値を持つレコードを 1 つ作成します。 • Id : id_val • childrenArray : [1, 2, 3] • anotherArray : [{"key1" : "value1"}, {"key1" : "value2"}] • elementWithArray : {"childrenArray" : [1, 2, 3]}
/response/docs/docs/anotherArray/anotherArray	それぞれが 1 つの列 key1 を持つ 2 つのレコードを作成します。	それぞれが 1 つの列 key1 を持つ 2 つのレコードを作成します。
/response/docs/docs/childrenArray/childrenArray	アレイ内の値が key-value 構造になっていないため、機能せず、[パスは常に **JSON** オブジェクトを参照する必要があります **(Path should always**	アレイ内の値が key-value 構造になっていないため、機能せず、[パスは常に **JSON** オブジェクトを参照する必要があります **(Path should always**

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

子アレイの動作 (続く)

パス	アレイの破棄が有効	アレイの破棄が無効
	refer JSON Objects)] というエラーが返されます。	**refer JSON Objects)]** というエラーが返されます。

孤立アレイ

- 各行のパス：`//`
- 結果：2 レコード

```
[
   {
      "number":"PRBTEST001",
      "short_description":"testsd1"
   },
   {
      "number":"PRBTEST002",
      "short_description":"testsd2"
   }
]
```

アレイではなく複数の要素

- 各行のパス：`/problems/problem`
- 結果：3 レコード

重要: この形式はお勧めしません。JSON ファイルは、オブジェクト内の名前は一意でなければならないと規定する RFC-4627 に従う必要があります。代わりに JSON アレイを使用してください。

```
{
   "problems":{
      "title":"2 problems",
      "problem":{
         "number":"PRBTEST001",
         "short_description":"testsd1"
      },
      "problem":{
         "number":"PRBTEST002",
         "short_description":"testsd2"
      }
   },
   "problems":{
      "title":"1 problem",
      "problem":{
         "number":"PRBTEST005",
         "short_description":"testsd5"
      }
   }
}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

FTP データソース拡張プロパティ

FTP データソースをカスタマイズするために特定のプロパティを使用できます。

こうしたプロパティを入力するには、データソースフォームのフォームレイアウトを構成して [プロパティ] フィールドを追加する必要があります。複数のプロパティを指定する場合は、各プロパティをカンマで区切ってください。

利用可能な FTP プロパティ

プロパティ	説明
connection.timeout	FTP 接続試行がタイムアウトするまで待機するミリ秒数を定義します。 • デフォルト値：10000 • カスタム値の例：connection.timeout=12000 • データソース：FTP、FTPS
remove_file	インポート後にリモートファイルを削除するかどうかを決定します。 • デフォルト値：true • カスタム値の例：remove_file=false • データソース：FTP、FTPS、SFTP
rename_file	インポート後にリモートファイルの名前を変更するかどうかを決定します。名前が変更されたファイルは、<元のファイル名>.imported の形式を使用します。 • デフォルト値：false • カスタム値の例：rename_file=true • データソース：FTP、FTPS、SFTP

JDBC タイプのデータソース

JDBC データソースは、JDBC ドライバーを介してデータを取得します。通常は 4 タイプのネットワークです。

JDBC 接続は、ServiceNow インスタンス (必要な VPN 設定) から直接使用することも、ファイアウォール内にインストールされている専用 MID サーバー経由でデータベースポートにアクセスすることもできます。

注: MID サーバーからの JDBC コールが暗号化されることはありません。MID サーバーから JDBC コールを行うときは、MID サーバーユーザーが利用できる権限を制限します。

JDBC データソースでサポートされているデータベース形式

JDBC データソースは複数のデータベース形式とポートをサポートしています。

サポートされているデータベース形式

SQL Server タイプ	ポート
MySQL	3306
Microsoft SQL Server	1433

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

サポートされているデータベース形式 (続く)

SQL Server タイプ	ポート
Oracle	1521

注: Oracle の [日付] フィールドは、ServiceNow の [日付/時刻] フィールドとしてロードされます。

JDBC データソースの SQL ステートメント要件

SQL ステートメントを実行する JDBC クエリは、列名を指定する必要があります。

たとえば、このクエリは列名 **[ServerID]** を指定します。

```
SELECT DISTINCT 'server_name:' + CONVERT ( VARCHAR , lg .ResourceID ) AS
 'ServerID'
,LastHWScan
,Account0
,Category0
Fromv_GS_WORKSTATION_STATUSsInner  JOIN
v_GS_LocalGroupMembers0lg
ON s .ResourceID  = lg .ResourceID
WhereType0  = 'Local' AND Category0  = 'SystemAccount'
```

Windows 用 SQL server 統合型認証

JDBC データソースは、Windows MID サーバーサービスユーザーの ID を使用して、SQL Server での認証を行うことができます。

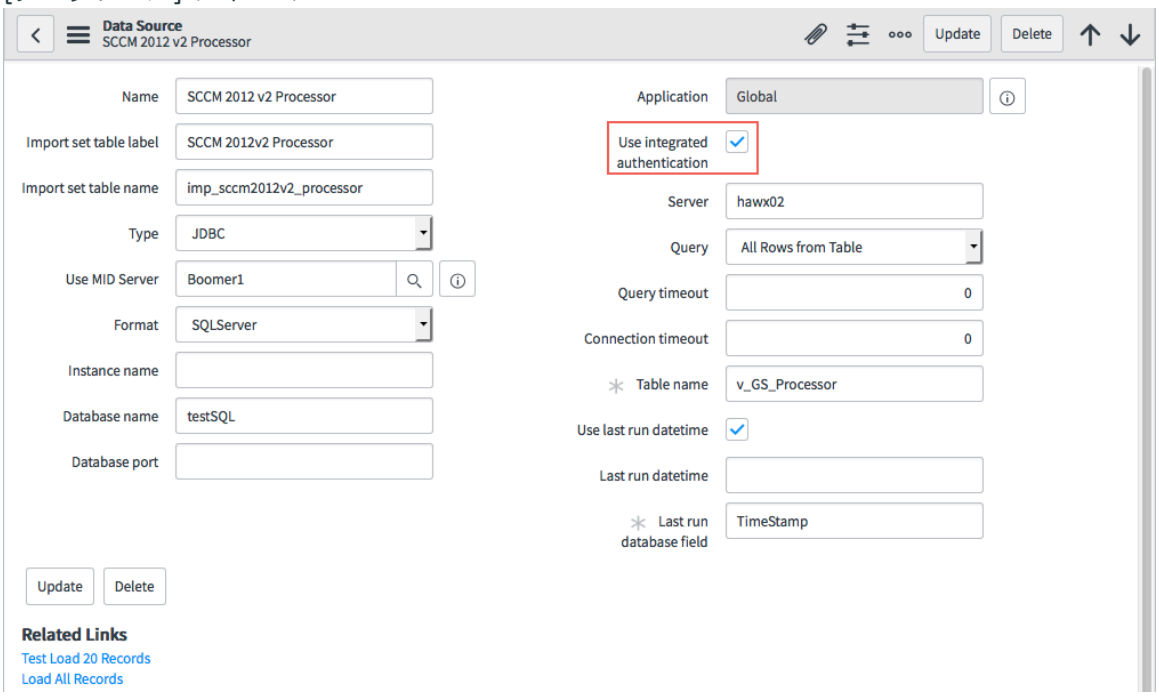
データソースの [統合認証を使用] チェックボックスは、JDBC データソースが MID サーバーサービスユーザーの認証情報を使用するかどうかを設定します。このフィールドを [データソース] フォームに表示するためには、統合が次の基準を満たしている必要があります。

- MID サーバーは、SQL Server が動作する Windows コンピューター上で実行されている必要があります。
- MID サーバーサービスでは、SQL Server に必要な認証情報を使用する必要があります。
- データソース [タイプ] は JDBC です。
- データソース **[MID** サーバーを使用] チェックボックスがオンになっています。
- データソース [形式] は SQLServer です。

重要: 統合認証が選択されており、Microsoft System Center Configuration Manager と統合している場合、MID サーバーサービスを実行しているアカウントには、SCCM データベースに対する読み込み権限が必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[データソース] フォーム



注: JDBC データソース上の [前回実行データベースフィールド] は、SQL Server に対して大文字と小文字を区別します。

サポートされていないデータベース形式に対する JDBC ドライバーの追加

データソースを拡張して、ベースシステムに提供されていないデータベースのドライバーを使用するには、次の手順を使用します。次のデフォルトデータベースでは、JDBC 接続がサポートされています。

新しい JDBC 形式の選択肢を追加する

新しい選択リストエントリを作成して、JDBC ドライバーの Java パッケージ名を指定して、使用可能な JDBC ドライバーオプションを拡張します。

始める前に

必要なロール：import_admin

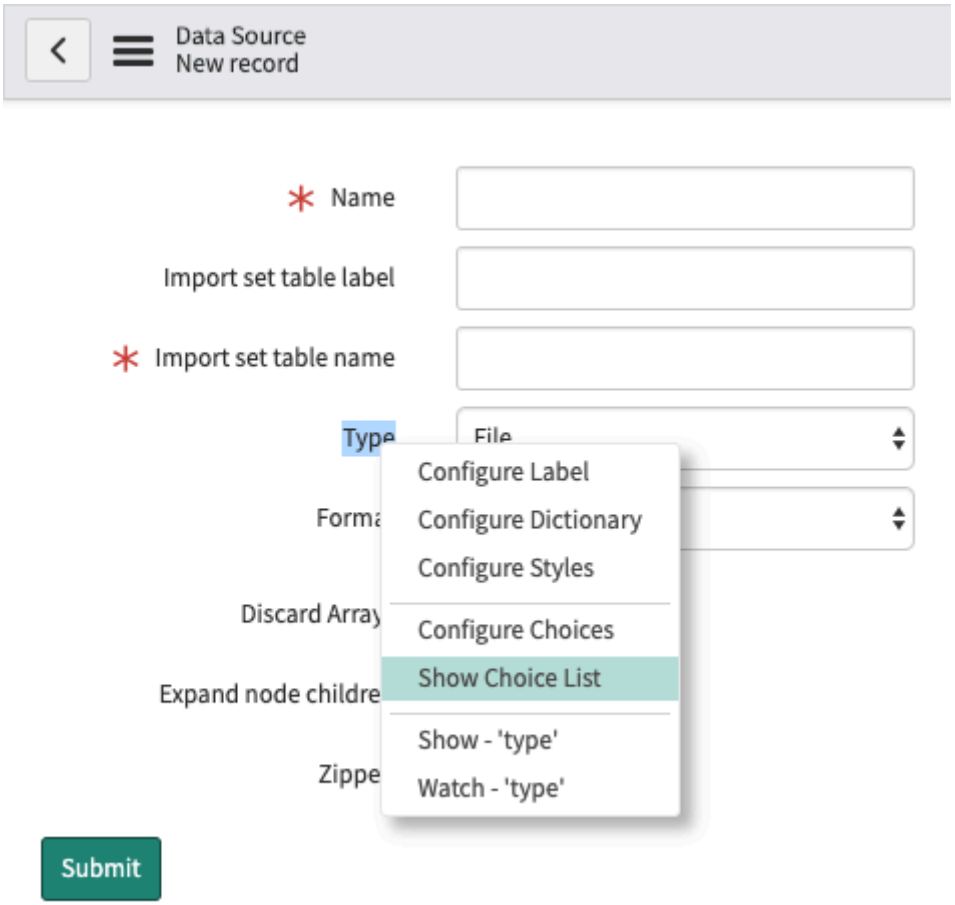
このタスクについて

新しいデータベースの新しい選択リストエントリを *sys_data_source* テーブルの [形式] フィールドに追加します。

手順

1. [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. [データソース] フォームで [形式] フィールドラベルを右クリックし、ポップアップメニューから [選択肢リストを表示] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

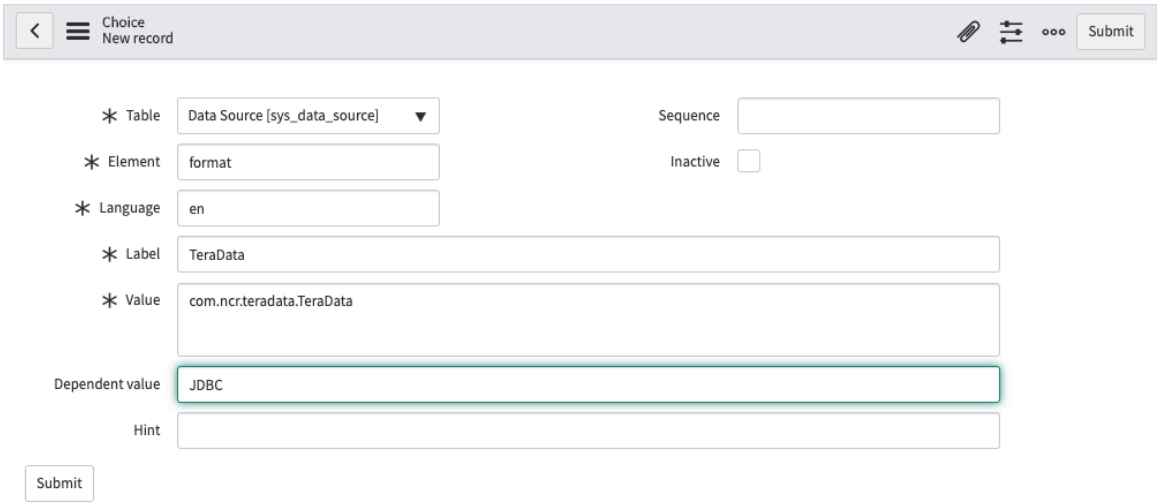


4. 選択肢のリストで [新規] をクリックします。
5. 新しいデータベースの選択肢を作成するには、次の値を指定します。
   例については、既存のドライバーを参照してください。
   - テーブル： *sys_data_source*
   - ラベル：[形式] 選択リストにオプションとして表示されるデータベース名 (例：Teradata)。
   - 値：ドライバーのパッケージ名とクラス。たとえば、TeraData の値は *com.ncr.teradata.TeraDriver* です。

     注: ドライバーパッケージとクラスは、ドライバーベンダーによって提供される必要があります。この情報は、多くの場合、MariaDB や Terradata などのベンダーのドキュメントで確認できます。

   - 依存値：JDBC

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



6. [送信] をクリックします。

   新しいデータソースが利用可能な JDBC 形式のリストに表示されます。

Sybase または DB2 JDBC 形式の選択肢を追加する

Sybase または DB2 の選択肢を有効にして、利用可能な JDBC ドライバーオプションを拡張します。

始める前に
必要なロール：admin

> **重要:** Sybase または DB2 JDBC ドライバーを使用するには、ドライバー JAR ファイルを MID サーバーに手動でインストールする必要があります。詳細については、KB0551236 を参照してください。

このタスクについて
Sybase または DB2 JDBC ドライバーを有効にして、MID サーバーを介してこれらのデータベース形式に接続します。この手順では、次の Sybase または DB2 ドライバーを使用していることを前提としています。

ドライバー

形式	ドライバー	ドライバークラス
Sybase	jconnect-jdbc	com.sybase.jdbc3.jdbc.SybDriver
DB2	db2jcc	com.ibm.db2.jcc.DB2Driver

Sybase または DB2 ドライバーの別の実装を使用している場合は、ドライバー実装のドライバークラスを使用するように [値] を変更する必要があります。

手順

1. [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. [タイプ] フィールドで、**[JDBC]** を選択します。
4. [形式] フィールドのラベルを右クリックし、ポップアップメニューから [選択を設定] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. **[Sybase]** または **[DB2 Universal]** の選択肢を [利用可能] 列から [選択済み] 列に移動します。
6. [保存] をクリックします。

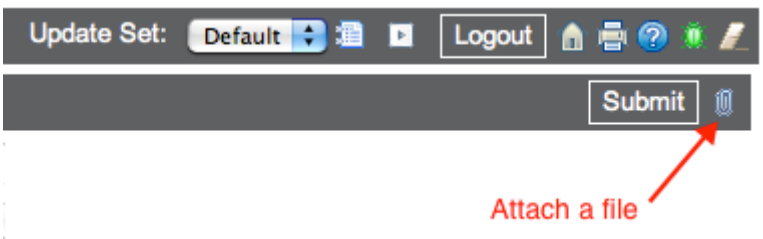
   新しいデータソースが利用可能な JDBC 形式のリストに表示されます。

MID サーバーにドライバーをインストールする

新しい JDBC ドライバー JAR ファイルを MID サーバーにインストールして、デフォルトでサポートされていないデータベース形式にアクセスできます。

始める前に
必要なロール：agent_admin

手順
1. **[MID サーバー] > [JAR ファイル]** に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 次のフィールドに入力します。
   - [名前：] インスタンス内のファイルを識別するためのわかりやすい一意の名前。
   - [バージョン：] ファイルのバージョン番号 (使用可能な場合)。
   - [ソース：] 参照用の JAR ファイルの場所。ソース情報はシステムで使用されません。
   - [説明：] インスタンス内の JAR ファイルとその目的の簡単な説明。
4. バナーにあるクリップ アイコンをクリックして JAR ファイルをレコードに添付します。



5. [送信] をクリックします。
6. MID サーバーサービスを再起動します。

   プラットフォームにより、インスタンスと通信するように設定された任意の MID サーバーで JAR ファイルが使用可能になります。

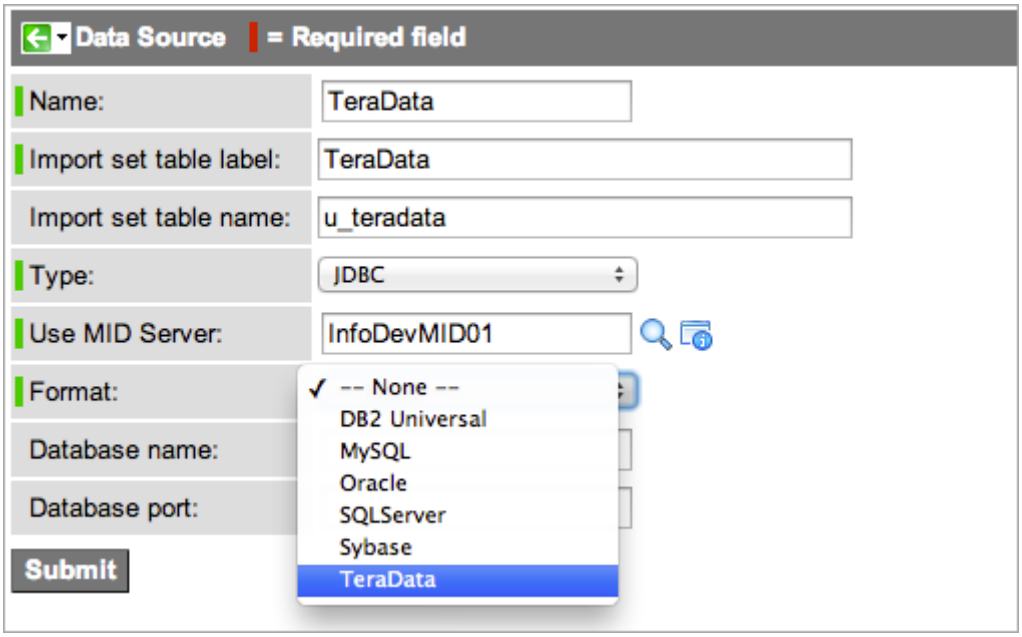
サポートされていないデータベース形式の新しい JDBC データソースを作成する

データソースレコードを定義して、新しい JDBC データソースを追加します。

始める前に
必要なロール：import_admin

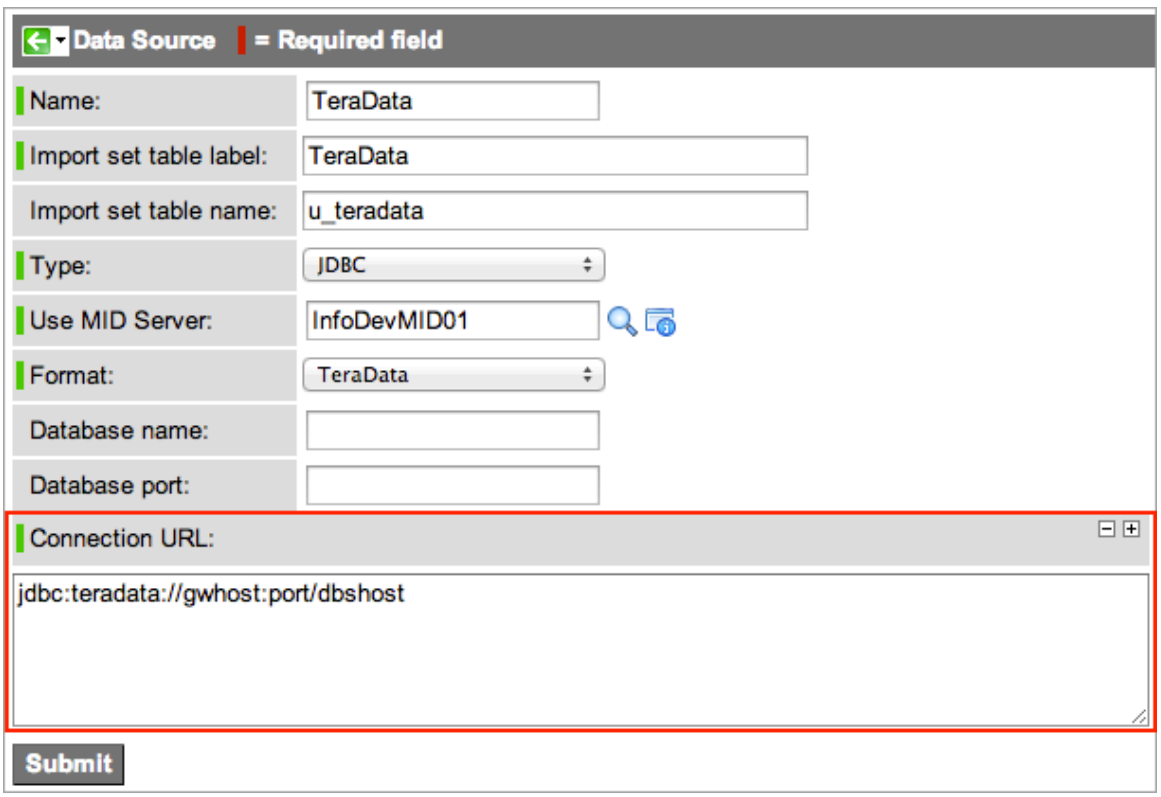
手順
1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース]に移動し、[新規] をクリックします。
2. [データソース] フォームで、[タイプ] フィールドのリストから **[JDBC]** を選択します。
3. [形式] フィールドの選択リストから新しいデータソースを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. フォームレイアウトを構成し、 [接続 **URL**] フィールドを追加します。
5. JDBC データソースへの接続 URL を入力し、[送信] をクリックします。

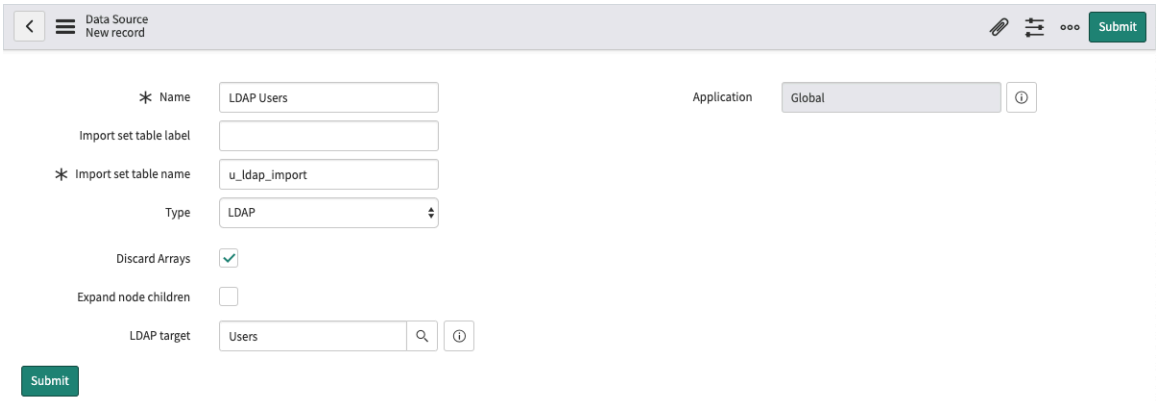
   他の接続情報は必要ありません。



LDAP タイプのデータソース

LDAP と統合するようにインスタンスを設定すると、LDAP データソースが自動的に作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



大規模な LDAP 要求をページングなしで処理する

LDAP サーバーがページングをサポートしていない場合、大きな要求は自動的に複数の小さな要求に分割されます。

このプロセスは、LDAP 要求の「ニブリング」と呼ばれます。大きな要求は、LDAP OU 定義の [クエリフィールド] の値に基づいて、複数の小さな要求に分割されます。このフィールドには、メールアドレスやユーザー ID などの一意の値を指定する必要があります。

たとえば、次の LDAP クエリは 1000 を超えるレコードを返す可能性があります。

```
(&(objectclass=user)(sn=*))
```

この例では、LDAP サーバーの [クエリフィールド] は **[preferredIdentity]** です。インスタンスは、大きな要求を複数の小さな要求に分割し、**[preferredIdentity]** 値に基づいてレコードをグループ化します。

```
(&((&((preferredIdentity>=0)(preferredIdentity<=1))))((&(objectclass=us
er)(sn=*))))
(&((&((preferredIdentity>=1)(preferredIdentity<=2))))((&(objectclass=us
er)(sn=*))))
(&((&((preferredIdentity>=2)(preferredIdentity<=3))))((&(objectclass=us
er)(sn=*))))
. . .
(&((&((preferredIdentity>=9)(preferredIdentity<=a))))((&(objectclass=us
er)(sn=*))))
(&((&((preferredIdentity>=a)(preferredIdentity<=b))))((&(objectclass=us
er)(sn=*))))
(&((&((preferredIdentity>=b)(preferredIdentity<=c))))((&(objectclass=us
er)(sn=*))))
```

関連情報

- LDAP 統合
- LDAP 属性を指定する
- LDAP 組織単位の定義

データストリーム (統合ハブ) データソース

統合ハブ データストリームアクションからデータをロードするためのプラットフォームデータソースを有効にします。

データストリームは、10 MB を超える応答データ、またはページネーションされた結果を返すデータストリームです。データストリームアクションが正常に実行されると、データソースが消費する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

複雑なデータ出力ストリームが返されます。詳細については、「データストリームアクションおよびページネーション」を参照してください。

複合データを使用すると、構造化データを機械可読形式でエンコードして保存できます。データソース構成に基づいて、複雑なオブジェクトはインポートテーブルにフラット化するか、JSON データとして単一の列に完全にシリアル化できます。

次の例に示すように、複合データには親オブジェクトと子オブジェクトが含まれます。

詳細については「複合データ」を参照してください。

カスタム (スクリプトでロード) タイプのデータソース

カスタムスクリプトを使用して任意のタイプの受信データをインポートセットテーブルに保存します。

データソースで [カスタム (スクリプトでロード)] の [タイプ] を選択すると、[データローダー] フィールドが表示されます。[データローダー] フィールドは JavaScript のフィールドであり、*import_set_table* 入力パラメーターを使用してデータをフェッチし、インポートセットテーブルに挿入できます。たとえば、REST API または添付ファイルからデータを取得するスクリプトを入力できます。

[データローダー] スクリプトはデータをロードします。また、[並列ロードの有効化] で、スクリプトを使用してデータを小さなセクションに分割してから並列にロードすることもできます。並列ロードにより、統合を短時間で完了し、他のタスクへの影響を抑えることができます。

> **注:** 並列ロードでは、同時インポートを実行する必要があり、インポートの [パーティションメソッド] を [カスタム サイズ] に設定する必要があります。詳細については、「データインポートのスケジュール」を参照してください。

データローダースクリプト

データローダースクリプトには、以下の入力パラメーターがあります。

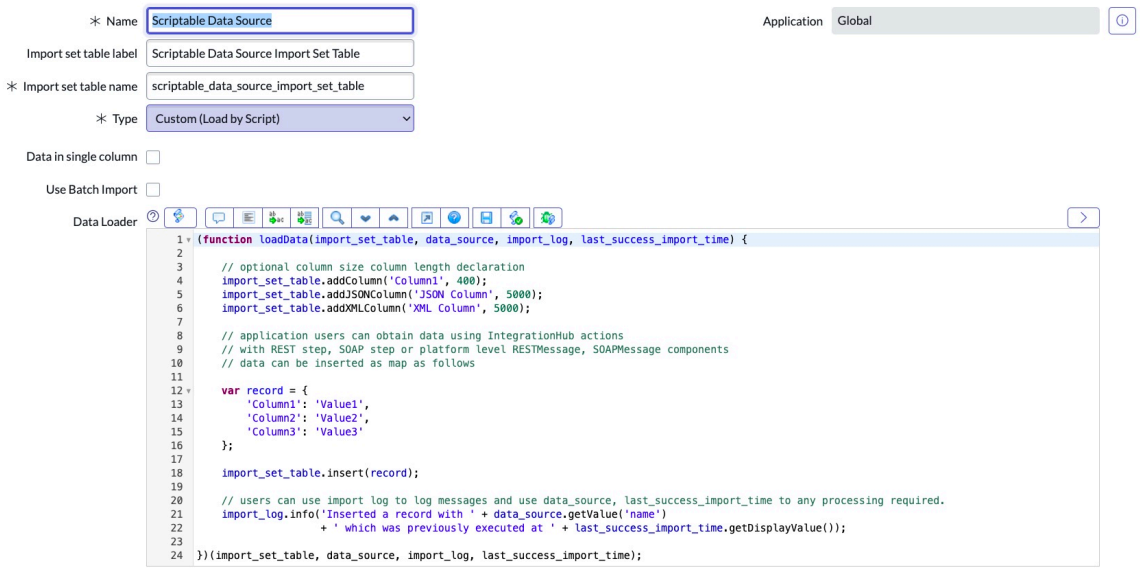
- `import_set_table`：データソースレコードで参照されるインポートセットテーブル。データはこのテーブルに挿入されます。
- `data_source`：データソースレコードで参照されるデータソース。
- `import_log`：データインポートアクティビティに関する情報を記録するログ。
- `last_success_import_time`：このデータソースが前回正常に実行された日時。
- `partition_info`：データのパーティショニング情報。並列ロードに使用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

import_set_table パラメーターには、以下のメソッドがあります。

- `addColumn(label, maxLength)`：文字列タイプの列をインポートセットテーブルに追加します。
- `addJSONColumn(label, maxLength)`：JSON タイプの列をインポートセットテーブルに追加します。
- `addXMLColumn(label, maxLength)`：XML タイプの列をインポートセットテーブルに追加します。
- `insert(rowData)`：マップ (キー = 列名、値 = 列値) をインポートセットテーブルに挿入します。
- `getMaximumRows()`：**[20** 件のレコードのテストロード] をクリックすると `20` を返します。それ以外の場合は、`-1` を返します。

データローダーの例



並列ロードスクリプト

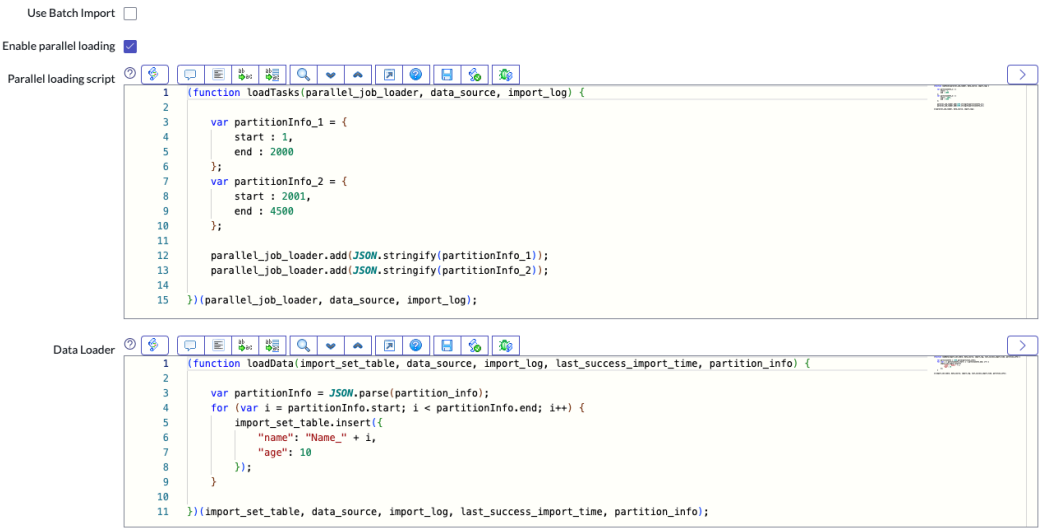
並列ロードスクリプトには、以下の入力パラメーターがあります。

- `parallel_job_loader`：並列ジョブ [sys_parallel_job] テーブル。
- `data_source`：データソースレコードで参照されるデータソース。
- `import_log`：データインポートアクティビティに関する情報を記録するログ。

parallel_job_loader パラメーターには、パーティション情報を並列ジョブ [sys_parallel_job] テーブルに追加する `add(partitionInfo)` メソッドがあります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

並列ロードの例



並列ロードのプロパティとステータス

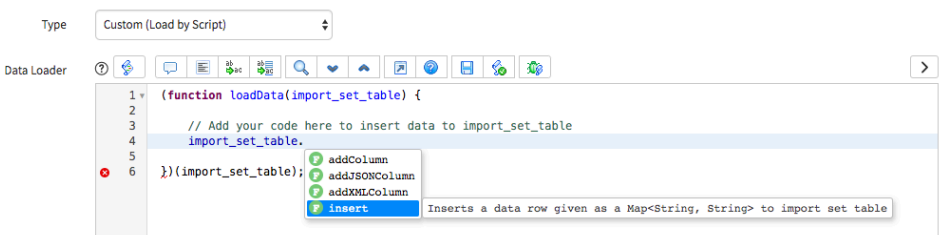
ジョブが 600 分以上 [実行中] ステータスに留まると、自動的に [処理待ち] ステータスに戻ります。並列ジョブが [実行中] ステータスに留まれる許容時間は、*com.glide.system_parallel_job_inactive_time_minutes* プロパティで変更できます。

並列ジョブを 2 回試行しても完了できない場合、そのジョブは [エラー] に設定されます。[エラー] ステータスになるまでの試行回数は、*com.glide.system_parallel_job_max_retry_count* プロパティで変更できます。*com.glide.system_parallel_job_auto_retry* プロパティを [false] に設定すると、自動再試行を無効にすることができます。

現在の並列インポートタスクのステータスを確認するには、[すべて] > [システムインポートセット] > [詳細] > [同時インポートセット]に移動し、ジョブを選択して [並列ジョブ] タブを表示します。

スクリプトのオートコンプリート

次の例に示すように、スクリプトを入力すると、スクリプトのオートコンプリートによって利用可能なオプションが表示されます。



新しいデータソースの作成

データソースレコードを作成して、インポートセットがインポートするデータを定義します。

作成するデータソースのタイプに応じて、次のトピックの手順を参照してください。

ファイルタイプのデータソースを作成する

[ファイル] タイプのデータソースレコードを作成して、インポートセットがインポートするデータを定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：import_admin

このタスクについて
詳細については、「ファイルタイプのデータソース」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポートセットテーブル名	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。
タイプ	ファイル。
フォーマット	「Strict Open XML ドキュメント」として保存されていない限り、デフォルトの XML ベースのファイル形式 (.xlsx) のみがサポートされます。
Zip 圧縮	インポートファイルが圧縮されている場合に選択されます。
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ= false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。
ファイル取得手法	このファイルの取得手法。
ファイルパス	インポートするファイルへのパス。 `${system.property.name}` 形式を使用して、このフィールドにシステムプロパティ値を含めることができます。接続が確立されると、変数は指定されたプロパティの値に置き換えられます。 注: HTTP または HTTPS を使用して取得されたファイルの場合、システムプロパティ展開を使用するには *glide.ds.file.http.variable_replacement* プロパティが true である必要があります。 たとえば、ファイルパス値 `/countries.csv?key=${datasource.apikey}` を指定できます。接続が確立されると、*datasource.apikey* システムプロパティの値が *key* パラメーターの値として渡されます。 注: HTTP および HTTPS プロトコルの場合、ファイルパスは自動的に URL エンコードされます。これらのプロトコルのいずれかを使用する場合は、URL エンコードされたファイルパスを指定しないでください。
CSV 区切り文字	CSV ファイルの区切り文字。
解析スクリプト	単一行の入力を解析するために使用されるスクリプト。スクリプトを入力すると、スクリプトのオートコンプリートによって利用可能な選択肢が表示されます。詳細については、「ファイルタイプのデータソース」を参照してください。
シート番号	データをロードするための Excel シート番号。
ヘッダー行	列ラベルをロードするための Excel 行番号。
各行のパス	インポートセットテーブルで行となる JSON オブジェクトの選択に使用するパス式。JSON オブジェクトのパスは `//` にする必要があります。
配列を破棄	JSON アレイを値として破棄する場合に選択します。JSON アレイを値としてシリアル化する場合に選択解除します。
拡張ノード子	XML ノードまたは JSON オブジェクトの子要素を追加の列に変換する必要がある場合に選択します。親列の値を XML または JSON フラグメントにする必要がある場合に選択解除します。JSON の場合、このオプションを選択すると、オブジェクトのみが展開され、アレイは展開されないことに注意してください。ネストされたアレイのサポートについては、「JSON ファイルのインポート例」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
単一列のデータ	単一列にデータを格納する場合に選択されます。
各行のXPath	インポートテーブルの行となるノードを選択する XPath 式。選択したノードの子が行の列になります。
SCP認証手法	ユーザー名とパスワードを使用して認証するか、または公開キーを使用して認証するかを選択します。 注: データソースに対して公開キーと秘密キーのペアを使用して認証することはできません。代わりにユーザー名とパスワードでの認証を使用します。
サーバー	テーブルのインポート元のサーバーの名前。
ポート	指定されたサーバーへの接続に使用するポート。このフィールドは、ファイル取得方法として HTTP または HTTPS を選択した場合に表示されます。
ユーザー名	JDBC サーバーでの認証用のユーザー名。
パスワード	JDBC サーバーでの認証用のパスワード。
秘密キーファイル	従来の SCP 公開/秘密キーファイルを使用する場合のキーファイル。 注: ◦ データソースに対して公開キーと秘密キーのペアを使用して認証することはできません。代わりにユーザー名とパスワードでの認証を使用します。 ◦ この従来のオプションは使用しないでください。使用は可能ですが、サポートされていません。
システムキーストア	FTPS サーバーからの証明書を、保存されているすべての証明書と照合して検証する場合に選択します。この証明書は、インスタンスでサポートされている任意のタイプにできます。選択しない場合、インスタンスは Java デフォルト証明書を使用して FTPS サーバーを検証します。このフィールドは、[ファイル取得方法] の値が **FTPS**のデータソースでのみ使用できます。Auth TLS、Auth SSL、Implicit SSL、Implicit TLS などの、すべての FTPS ファイル取得方法がサポートされています。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
新しいデータソースの変換マップを定義し、インポートを実行します。

JDBC タイプのデータソースを作成する

[JDBC] タイプのデータソースレコードを作成して、インポートセットがインポートするデータを定義します。

始める前に
必要なロール：import_admin

このタスクについて
詳細については、「JDBC タイプのデータソース」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポートセットテーブル名	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。
タイプ	**JDBC**。
MID サーバーを使用	このデータソースへの接続に使用する MID サーバー。
形式	MySQL、Oracle、または SQLServer のいずれかの形式を選択します。
インスタンス名	SQL Server との動的ポート接続をサポートするために使用されます。接続性を確保するには、再起動するたびに新しいポート番号を動的に受け取る SQL Server のインスタンス名を指定します。このフィールドは、**SQLServer** がデータソース形式として選択されている場合にのみ表示されます。
データベース名	データベースインスタンスの名前。
データベースポート	データベースのポート番号。SQL Server で動的ポート接続を使用する場合は、このフィールドを空のままにしておきます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ= false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。
統合認証を使用	SQL Server 認証用に Windows MID サーバーサービス用に構成されたユーザーの ID を、JDBC 接続で使用できるようにする場合に選択します。その他の詳細については、「JDBC タイプのデータソース」を参照してください。
ユーザー名	JDBC サーバーでの認証用のユーザー名。
パスワード	JDBC サーバーでの認証用のパスワード。
サーバー	テーブルのインポート元のサーバーの名前。
クエリ	実行するクエリのタイプ：[テーブルからのすべての行] または [特定の **SQL]**。SQL ステートメントの実行を選択した場合は、[SQL ステートメント] フィールドが表示されます。
クエリタイムアウト	JDBC ドライバーがクエリ (SELECT) の完了を待機する秒数。ゼロ (0) はタイムアウトなしを意味します。タイムアウトになると、統合認証は、JDBC の結果がアクセス不可能であるとみなし、エラー状態にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続タイムアウト	MID サーバー接続キャッシュプールが接続をクローズしてプールから削除するまでの秒数。ゼロ (0) はタイムアウトなしを意味します。
テーブル名	データのエクスポート元のテーブルの名前。
SQL ステートメント	データベースから目的のデータを抽出するための SQL ステートメント。
前回実行日時を使用	インポートの実行中にデータベースから取得するデータの量を制御します。選択を解除すると、指定したテーブルのすべての行が毎回インポートされます。これが 1 回限りのインポートである場合、またはターゲットテーブル内のすべてのデータが新規である場合は、この設定を使用することができます。選択すると、2 つの追加フィールドが表示され、インポートされるデータをデルタ値のみに制限する [日付と時刻] 値を選択できます。
前回実行日時	このフィールドの日時値は、以下で選択したデータベースフィールドから自動的に入力され、前回の実行からの最新の値を表します。この値は、取得するレコード数を、データソースの前回のランタイム以降に変更されたレコード数に制限する動的フィルターとして機能します。
前回実行データベースフィールド	次の実行でフィルターとして使用されるソーステーブルのフィールド名。この値は、ターゲットデータベースタイプによっては、大文字と小文字を区別する必要があります。
追加のデータベースパラメーター	このデータソースに対して生成された URL の最後に追加するオプションのパラメーター。セミコロンで区切られたパラメーターのリスト。このフィールドを表示するには、フォームの構成が必要になる場合があります。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
新しいデータソースの変換マップを定義し、インポートを実行します。

LDAP タイプのデータソースを作成する

[LDAP] タイプのデータソースレコードを作成して、インポートセットがインポートするデータを定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：import_admin

このタスクについて
詳細については、「LDAP タイプのデータソース」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポートセットテーブル名	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。
タイプ	**LDAP**。
LDAP ターゲット	LDAP OU 定義のリストから選択されたターゲット。
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ= false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
新しいデータソースの変換マップを定義し、インポートを実行します。

OIDC タイプのデータソースを作成する

[OIDC] タイプのデータソースレコードを作成して、インポートセットがインポートするデータを定義します。

始める前に
必要なロール：import_admin

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。

2. [新規] をクリックします。

3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポー	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
トセットテーブル名	
タイプ	**OIDC**。
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 ◦たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 ◦たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ= false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。
形式	デフォルトは **[--** なし **--]** であり、変更できません。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
新しいデータソースの変換マップを定義し、インポートを実行します。

REST (統合ハブ) タイプのデータソースを作成する

[REST (統合ハブ)] タイプのデータソースレコードを作成して、インポートセットが REST API からインポートする必要のあるデータを定義します。

始める前に
必要なロール：import_admin および action_designer

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポートセットテーブル名	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。
タイプ	**REST** (統合ハブ)。
フォーマット	次のいずれかの形式：カスタム (スクリプトによる解析)、JSON、または XML。
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ= false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
要求アクション	データを取得するために呼び出されるデータソース要求アクション。公開された要求アクションのみを選択できます。 下のダイアログボックスのリンクをクリックして、統合ハブ で新しいデータソース要求アクションを作成/構成します。要求アクションが 統合ハブで公開された後、それをデータソースレコードの要求アクションとして選択できます。詳細については、「アクションプロパティを定義する」を参照してください。
ページネーションのサポート	要求アクションのページネーションを有効にする場合に選択します。ページネーションを使用すると、すべてのレコードを一度に処理するのではなく、一度に指定した数のレコードを処理することで、処理のオーバーヘッドを削減できます。
制限	ページあたりの最大レコード数。たとえば、一度に 50 のレコードを処理するには、[制限] に 50 を入力します。
オフセット	ページネーションに使用された初期オフセット。オフセットは開始レコード番号です。たとえば、一度に 50 のレコードを処理するには、最初のレコードから開始して、[制限] に 50、[オフセット] に 0 を入力します。
解析スクリプト	単一行の入力を解析するために使用されるスクリプトを入力します。この関数では、次の 3 つのパラメーターを使用できます。 ◦ **line**：スクリプトによって解析される現在の行 ◦ **lineNumber**：応答ペイロード全体の現在の行番号 ◦ **result**：出力結果
各行のパス	インポートセットテーブルで行となる JSON オブジェクトの選択に使用するパス式。JSON オブジェクトのパスは // にする必要があります。
配列を破棄	JSON アレイを値として破棄する場合に選択します。JSON アレイを値としてシリアル化する場合に選択解除します。
拡張ノード子	XML ノードまたは JSON オブジェクトの子要素を追加の列に変換する必要がある場合に選択します。親列の値を XML または JSON フラグメントにする必要がある場合に選択解除します。JSON の場合、このオプションを選択すると、オブジェクトのみが展開され、アレイは展開されないことに注意してください。ネストされたアレイのサポートについては、「JSON ファイルのインポート例」を参照してください。
単一列のデータ	単一列にデータを格納する場合に選択されます。
各行の XPath	インポートテーブルの行となるノードを選択する XPath 式。選択したノードの子が行の列になります。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク

新しいデータソースの変換マップを定義し、インポートを実行します。

アクションプロパティを定義する

統合ハブ でデータソース要求アクションを作成して設定します。要求アクションが 統合ハブで公開された後、それをデータソースレコードの要求アクションとして選択できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：import_admin

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. **[REST** (統合ハブ)] の [タイプ] を選択します。
4. [要求アクション] の下のリンクをクリックします。
5. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	要求アクションの名前。
アクセス可能	要求アクションにアクセスできるスコープ。
カテゴリ	要求アクションのカテゴリ。
保護	要求アクションが読み取り専用かどうかを指定します。
説明	要求アクションの説明。
アプリケーション	アプリケーションのスコープ。
インフロー注釈	[データソース要求アクション] ページの [アクション] タイトルの下に表示するテキスト。

6. [送信] をクリックします。
7. 次のフィールドを含む [データソース要求アクション] ページが表示されます。

フィールド	説明
制限	REST (統合ハブ) データソースレコードでユーザーが設定する制限。REST API がページネーションをサポートし、データソースレコードで [ページネーションのサポート] が選択されている場合は、この入力を REST ステップに提供する必要があります。
オフセット (OffSet)	REST (統合ハブ) データソースレコードでユーザーが設定したオフセット。REST API がページネーションをサポートし、データソースレコードで [ページネーションのサポート] が選択されている場合は、この入力を REST ステップに提供する必要があります。
前回成功したインポート時間	前回データが正常にインポートされた時間。1970 年 1 月 1 日 00:00:00 GMT からのミリ秒数を表す数値。データソースはこの値を入力します。REST API が時間に基づくクエリをサポートする場合は、この入力を REST ステップに指定する必要があります。
インポート開始時間	インポートが実際に開始された時刻。1970 年 1 月 1 日 00:00:00 GMT からのミリ秒数を表す数値。データソースはこの値を入力します。REST API が時間に基づくクエリをサポートする場合は、この入力を REST ステップに指定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. 必要に応じて、REST ステップを実行する前に、スクリプトステップを追加して、アクション入力を検証または変更したり、デフォルト値を設定したり、要求ペイロードをビルドしたりすることができます。
   a. [アクションアウトライン] から [データソース要求] を選択します。
   b. [処理スクリプトを有効化 **(Enable Processing Script)]** を選択します。
   c. [アクションアウトライン] から [スクリプトステップ] を選択します。
   d. 「スクリプトステップ」の説明に従って、スクリプトステップを設定します。
9. [アクションアウトライン] から **[REST** ステップ] を選択します。
10. 「REST ステップ」の説明に従って、REST ステップを設定します。
11. 次のいずれか 1 つを選択します。
    - [プロパティ] をクリックして、[アクションプロパティ] ウィンドウに戻ります。
    - [テスト] をクリックして、公開する前に要求アクションをテストします。
    - [実行] をクリックして、要求アクションの実行履歴を表示します。
    - [保存] をクリックして要求アクションを保存します。
    - [公開] をクリックして要求アクションを公開し、使用できるようにします。

データストリーム (統合ハブ) タイプのデータソースを作成する

[データストリーム (統合ハブ)] タイプのデータソースレコードを作成して、インポートセットがデータストリームアクションからインポートする必要のある複雑なデータを定義します。

始める前に

必要なロール：import_admin および action_designer

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポートセットテー	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ブル名	
タイプ	データストリーム (統合ハブ) タイプのデータソース。
データストリームアクション	◦ 統合ハブ から既存の公開済みデータストリームアクションを使用する場合に選択します。 ◦ 次のいずれかの理由がある場合に選択します。 ▪ 公開されたデータストリームアクションを選択する場合は、このボタンをクリックして、統合ハブ でデータストリームアクションを開きます。 ▪ データストリームアクションを選択しない場合は、このボタンをクリックして、統合ハブ で新しいデータストリームアクションを作成して公開します。 **注:** データストリームアクションには本番環境用のサブスクリプションが必要です。
接続	データストリームアクションの接続エイリアスを指定します。デフォルトの親エイリアスを使用するか、その子のエイリアスを選択できます。利用可能な子エイリアスがメニューに一覧表示されます。 このフィールドは、データストリームアクションが接続エイリアスを使用するように設定されている場合にのみ使用できます。詳細については、「接続および資格情報エイリアスの作成」を参照してください。
単一列のデータ	単一列にデータを格納する場合に選択されます。
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ= false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。
データストリームアクションの入力	データストリームアクションで定義された入力に基づいて、追加のフィールドが表示される場合があります。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
新しいデータソースの変換マップを定義し、インポートを実行します。

カスタム (スクリプトでロード) タイプのデータソースを作成する

[カスタム (スクリプトでロード)] タイプのデータソースレコードを作成して、インポートセットがインポートするデータを定義します。

始める前に
必要なロール：import_admin

このタスクについて
詳細については、「カスタム (スクリプトでロード) タイプのデータソース」を参照してください。

手順
1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポートセットテーブル名	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。
タイプ	カスタム (スクリプトでロード)。
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ= false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。
並列ロー	並列データロードを使用するためのオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ドの有効化	
並列ロードスクリプト	並列データロードに使用されるスクリプト。[並列ロードの有効化] が選択されている場合にのみ表示されます。詳細については、「カスタム (スクリプトでロード) タイプのデータソース」を参照してください。
データローダー	データのロードに使用されるスクリプト。詳細については、「カスタム (スクリプトでロード) タイプのデータソース」を参照してください。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
新しいデータソースの変換マップを定義し、インポートを実行します。

[データソース] フィールド

[タイプ] フィールドの値に応じて、共通フィールドに加えて他のフィールドが [データソース] フォームに表示されます。

共通データソースフィールド

これらのフィールドはすべてのデータソースに共通です。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポートセットテーブル名	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。
タイプ	インポートするデータのタイプ：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	• リモートファイルから • **JDBC** データベースから • **LDAP** を使用する • **OIDC** を使用する • **REST** を使用して 統合ハブ からデータをインポートする • データストリームアクションから 統合ハブ を介して • カスタムスクリプトを使用する
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 • たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 • たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 • たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 • たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ= false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。
アプリケーション	このレコードのアプリケーションスコープ。

ファイルタイプのデータソースフィールド

これらの追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が [ファイル] の場合に [データソース] フォームに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
フォーマット	「Strict Open XML ドキュメント」として保存されていない限り、デフォルトの XML ベースのファイル形式 (.xlsx) のみがサポートされます。
Zip 圧縮	インポートファイルが圧縮されている場合に選択されます。
ファイル取得手法	このファイルの取得手法。
ファイルパス	インポートするファイルへのパス。 `${system.property.name}` 形式を使用して、このフィールドにシステムプロパティ値を含めることができます。接続が確立されると、変数は指定されたプロパティの値に置き換えられます。 **注:** HTTP または HTTPS を使用して取得されたファイルの場合、システムプロパティ展開を使用するには *glide.ds.file.http.variable_replacement* プロパティが true である必要があります。 たとえば、ファイルパス値 `/countries.csv?key=${datasource.apikey}` を指定できます。接続が確立されると、*datasource.apikey* システムプロパティの値が *key* パラメーターの値として渡されます。 **注:** HTTP および HTTPS プロトコルの場合、ファイルパスは自動的に URL エンコードされます。これらのプロトコルのいずれかを使用する場合は、URL エンコードされたファイルパスを指定しないでください。
CSV 区切り文字	CSV ファイルの区切り文字。
解析スクリプト	単一行の入力を解析するために使用されるスクリプト。スクリプトを入力すると、スクリプトのオートコンプリートによって利用可能な選択肢が表示されます。詳細については、「ファイルタイプのデータソース」を参照してください。
シート番号	データをロードするための Excel シート番号。
ヘッダー行	列ラベルをロードするための Excel 行番号。
各行のパス	インポートセットテーブルで行となる JSON オブジェクトの選択に使用するパス式。JSON オブジェクトのパスは `//` にする必要があります。
配列を破棄	JSON アレイを値として破棄する場合に選択します。JSON アレイを値としてシリアル化する場合に選択解除します。
拡張ノード子	XML ノードまたは JSON オブジェクトの子要素を追加の列に変換する必要がある場合に選択します。親列の値を XML または JSON フラグメントにする必要がある場合に選択解除します。JSON の場合、このオプ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ションを選択すると、オブジェクトのみが展開され、アレイは展開されないことに注意してください。ネストされたアレイのサポートについては、「JSON ファイルのインポート例」を参照してください。
単一列のデータ	単一列にデータを格納する場合に選択されます。
各行の XPath	インポートテーブルの行となるノードを選択する XPath 式。選択したノードの子が行の列になります。
SCP 認証手法	ユーザー名とパスワードを使用して認証するか、または公開キーを使用して認証するかを選択します。 **注:** データソースに対して公開キーと秘密キーのペアを使用して認証することはできません。代わりにユーザー名とパスワードでの認証を使用します。
サーバー	テーブルのインポート元のサーバーの名前。
ポート	指定されたサーバーへの接続に使用するポート。このフィールドは、ファイル取得方法として HTTP または HTTPS を選択した場合に表示されます。
ユーザー名	JDBC サーバーでの認証用のユーザー名。
パスワード	JDBC サーバーでの認証用のパスワード。
秘密キーファイル	従来の SCP 公開/秘密キーファイルを使用する場合のキーファイル。 **注:** • データソースに対して公開キーと秘密キーのペアを使用して認証することはできません。代わりにユーザー名とパスワードでの認証を使用します。 • この従来のオプションは使用しないでください。使用は可能ですが、サポートされていません。
システムキーストア	FTPS サーバーからの証明書を、保存されているすべての証明書と照合して検証する場合に選択します。この証明書は、インスタンスでサポートされている任意のタイプにできます。選択しない場合、インスタンスは Java デフォルト証明書を使用して FTPS サーバーを検証します。このフィールドは、[ファイル取得方法] の値が **FTPS**のデータソースでのみ使用できます。Auth TLS、Auth SSL、Implicit SSL、Implicit TLS などの、すべての FTPS ファイル取得方法がサポートされています。

JDBC タイプのデータソースフィールド

これらの追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が **[JDBC]** の場合に [データソース] フォームに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
MID サーバーを使用	このデータソースへの接続に使用する MID サーバー。
形式	次のいずれか形式：MySQL、Oracle、または SQLServer
インスタンス名	SQL Server との動的ポート接続をサポートするために使用されます。接続性を確保するには、再起動するたびに新しいポート番号を動的に受け取る SQL Server のインスタンス名を指定します。このフィールドは、**SQLServer** がデータソース形式として選択されている場合にのみ表示されます。
データベース名	データベースインスタンスの名前。
データベースポート	データベースのポート番号。SQL Server で動的ポート接続を使用する場合は、このフィールドを空のままにしておきます。
統合認証を使用	SQL Server 認証用に Windows MID サーバーサービス用に構成されたユーザーの ID を、JDBC 接続で使用できるようにする場合に選択します。その他の詳細については、「JDBC タイプのデータソース」を参照してください。
ユーザー名	JDBC サーバーでの認証用のユーザー名。
パスワード	JDBC サーバーでの認証用のパスワード。
サーバー	テーブルのインポート元のサーバーの名前。
クエリ	実行するクエリのタイプ：[テーブルからのすべての行] または [特定の **SQL]**。SQL ステートメントの実行を選択した場合は、[SQL ステートメント] フィールドが表示されます。
クエリタイムアウト	JDBC ドライバーがクエリ (SELECT) の完了を待機する秒数。ゼロ (0) はタイムアウトなしを意味します。タイムアウトになると、統合認証は、JDBC の結果がアクセス不可能であるとみなし、エラー状態にします。
接続タイムアウト	MID サーバー接続キャッシュプールが接続をクローズしてプールから削除するまでの秒数。ゼロ (0) はタイムアウトなしを意味します。
テーブル名	データのエクスポート元のテーブルの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
SQL ステートメント	データベースから目的のデータを抽出するための SQL ステートメント。
前回実行日時を使用	インポートの実行中にデータベースから取得するデータの量を制御します。選択を解除すると、指定したテーブルのすべての行が毎回インポートされます。これが 1 回限りのインポートである場合、またはターゲットテーブル内のすべてのデータが新規である場合は、この設定を使用することができます。選択すると、2 つの追加フィールドが表示され、インポートされるデータをデルタ値のみに制限する [日付と時刻] 値を選択できます。
前回実行日時	このフィールドの日時値は、以下で選択したデータベースフィールドから自動的に入力され、前回の実行からの最新の値を表します。この値は、取得するレコード数を、データソースの前回のランタイム以降に変更されたレコード数に制限する動的フィルターとして機能します。
前回実行データベースフィールド	次の実行でフィルターとして使用されるソーステーブルのフィールド名。この値は、ターゲットデータベースタイプによっては、大文字と小文字を区別する必要があります。
追加のデータベースパラメーター	このデータソースに対して生成された URL の最後に追加するオプションのパラメーター。セミコロンで区切られたパラメーターのリスト。このフィールドを表示するには、フォームの構成が必要になる場合があります。

LDAP タイプのデータソースフィールド

この追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が **[LDAP]** の場合に [データソース] フォームに表示されます。

フィールド	説明
LDAP ターゲット	LDAP OU 定義のリストから選択されたターゲット。

OIDC タイプのデータソースフィールド

この追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が **[OIDC]** の場合に [データソース] フォームに表示されます。

フィールド	説明
形式	デフォルトは **[--** なし **--]** であり、変更できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

REST (統合ハブ) タイプのデータソースフィールド

これらの追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が **[REST** (統合ハブ)] の場合に [データソース] フォームに表示されます。

フィールド	説明
フォーマット	次のいずれかの形式：カスタム (スクリプトによる解析)、JSON、または XML。
要求アクション	データを取得するために呼び出されるデータソース要求アクション。公開された要求アクションのみを選択できます。 下のダイアログボックスのリンクをクリックして、統合ハブ で新しいデータソース要求アクションを作成/構成します。要求アクションが 統合ハブで公開された後、それをデータソースレコードの要求アクションとして選択できます。詳細については、「アクションプロパティを定義する」を参照してください。
ページネーションのサポート	要求アクションのページネーションを有効にする場合に選択します。ページネーションを使用すると、すべてのレコードを一度に処理するのではなく、一度に指定した数のレコードを処理することで、処理のオーバーヘッドを削減できます。
制限	ページあたりの最大レコード数。たとえば、一度に 50 のレコードを処理するには、[制限] に 50 を入力します。
オフセット	ページネーションに使用された初期オフセット。オフセットは開始レコード番号です。たとえば、一度に 50 のレコードを処理するには、最初のレコードから開始して、[制限] に 50、[オフセット] に 0 を入力します。
解析スクリプト	単一行の入力を解析するために使用されるスクリプト。スクリプトを入力すると、スクリプトのオートコンプリートによって利用可能な選択肢が表示されます。詳細については、「ファイルタイプのデータソース」を参照してください。
各行のパス	インポートセットテーブルで行となる JSON オブジェクトの選択に使用するパス式。JSON オブジェクトのパスは // にする必要があります。
配列を破棄	JSON アレイを値として破棄する場合に選択します。JSON アレイを値としてシリアル化する場合に選択解除します。
拡張ノード子	XML ノードまたは JSON オブジェクトの子要素を追加の列に変換する必要がある場合に選択します。親列の値を XML または JSON フラグメントにする必要がある場合に選択解除します。JSON の場合、このオプションを選択すると、オブジェクトのみが展開され、アレイは展開されないことに注意してください。ネストされたアレイのサポートについては、「JSON ファイルのインポート例」を参照してください。
単一列のデータ	単一列にデータを格納する場合に選択されます。
各行の XPath	インポートテーブルの行となるノードを選択する XPath 式。選択したノードの子が行の列になります。

データストリーム (統合ハブ) タイプのデータソースフィールド

これらの追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が [データストリーム (統合ハブ)] の場合に [データソース] フォームに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
タイプ	データストリーム (統合ハブ) タイプのデータソース。
データストリームアクション	• 統合ハブ から既存の公開済みデータストリームアクションを使用する場合に選択します。 • 次のいずれかの理由がある場合に選択します。 ◦ 公開されたデータストリームアクションを選択する場合は、このボタンをクリックして、統合ハブ でデータストリームアクションを開きます。 ◦ データストリームアクションを選択しない場合は、このボタンをクリックして、統合ハブ で新しいデータストリームアクションを作成して公開します。 **注:** データストリームアクションには本番環境用のサブスクリプションが必要です。
接続	データストリームアクションの接続エイリアスを指定します。デフォルトの親エイリアスを使用するか、その子のエイリアスを選択できます。利用可能な子エイリアスがメニューに一覧表示されます。 このフィールドは、データストリームアクションが接続エイリアスを使用するように設定されている場合にのみ使用できます。詳細については、「接続および資格情報エイリアスの作成」を参照してください。
単一列のデータ	単一列にデータを格納する場合に選択されます。
データストリームアクションの入力	データストリームアクションで定義された入力に基づいて、追加のフィールドが表示される場合があります。

カスタム (スクリプトでロード) タイプのデータソースフィールド

この追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が [カスタム (スクリプトでロード)] の場合に [データソース] フォームに表示されます。

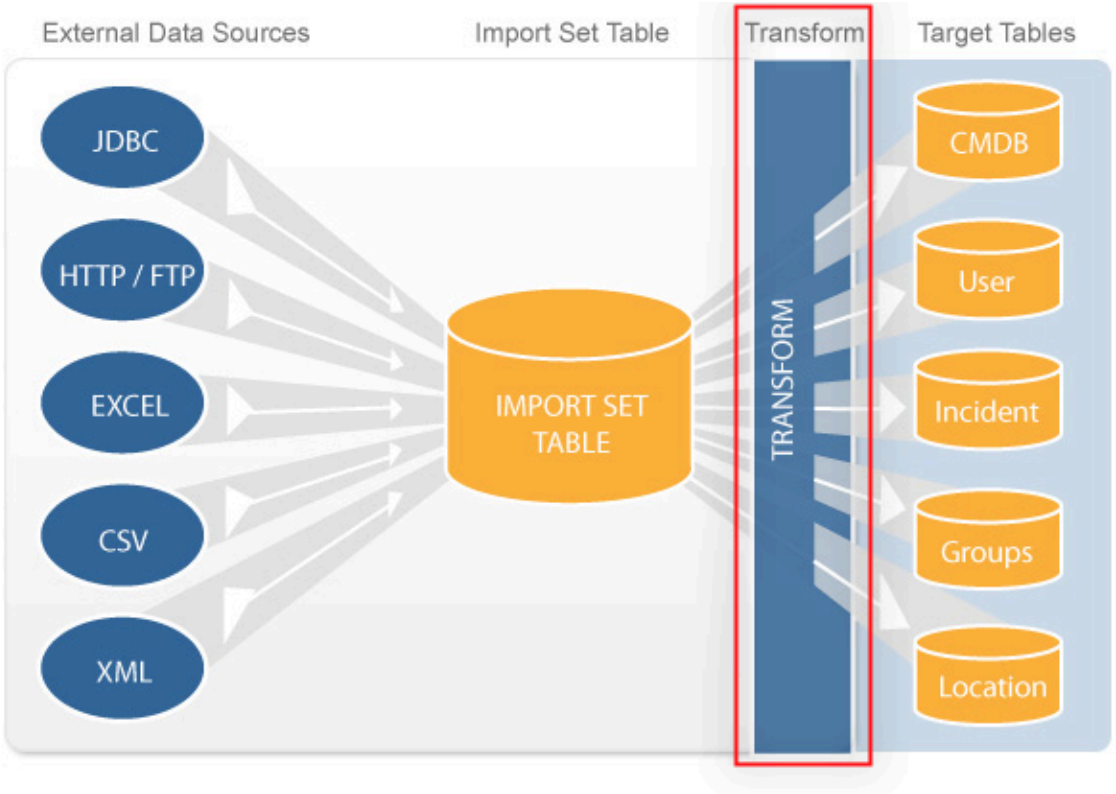
フィールド	説明
データローダー	データのロードに使用されるスクリプト。詳細については、「カスタム (スクリプトでロード) タイプのデータソース」を参照してください。

変換マップ

変換マップは、インポートセットのフィールドと、インシデント [incident] やユーザー [sys_user] などの既存の ServiceNow テーブルのフィールドとの関係を決定するフィールドマップのセットです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インポートプロセス変換



変換マップを作成したら、それを再利用して、別のインポートセットのデータを同じテーブルにマッピングできます。

アドミニストレーターは、[変換マップ] モジュールを使用して、任意のテーブルにインポートされたデータの格納先を定義できます。変換マッピングは、インポートセットテーブルのソースフィールドと任意のテーブルの宛先フィールド間のリンクを指定するドラッグアンドドロップ操作と同じくらい簡単です。変換マッピングを使用して、ソースフィールドと宛先フィールドを動的にマッピングします。

変換の考慮事項

自動マッピング

システムが自動的にマッピングするフィールドが実際に必要であることを再確認します。たとえば、暗号化されたパスワードはマッピングしないでください。

参照フィールドのマッピング

参照フィールドデータをマッピングするときに sys_id が存在しない場合、sys_id が DisplayValue としてターゲットレコードに表示される可能性があり、これは望ましくない可能性があります。

多数の参照フィールドをマッピングすると、フィールドレベルで選択アクションを実行する前に参照先の sys_id が実際に存在するかどうかがチェックされるため、追加のパフォーマンスオーバーヘッドが発生します。

> **注:** onBefore などの変換スクリプトを使用すると、パフォーマンスのオーバーヘッドをバイパスできます (参照フィールドのインポートを検証する要件がないことが前提)。たとえば、`target.<field_name> = source.<field_name>` です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

複数の変換マップを使用する

単一のデータソースに複数の変換マップを適用できます。

変換マップごとに 1 つのインポートセット行が作成されるため、大量の一時レコードが生成される可能性があります。

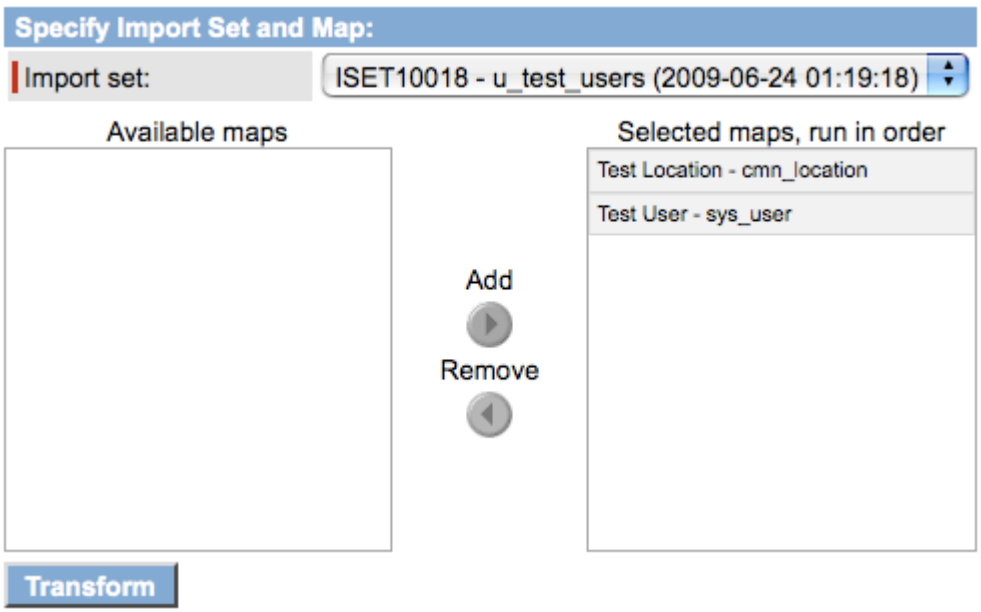
注: 同じインポートセットに対して複数の変換マップを使用すると、変換によってインポートセットテーブルに複数のエントリが作成されます。

単一のインポートセットから複数の変換を実行する

ユーザーは、データのインポート中に複数の変換マップを選択できます。

選択した変換マップは、指定された順序で同じインポートセットで実行されます。

マルチマップ変換



変換マップスクリプト

変換マップスクリプトを使用すると、強力なプログラミングインターフェイスを使用してインポート操作をカスタマイズし、高度なロジックを導入できます。

変換マップスクリプトは、インポートセットが ServiceNow テーブルに変換されるときにイベントとして実行されます。変換マップのスクリプティングは ServiceNow スクリプティング環境に完全に統合されています。変換マップスクリプトには次の 2 つのタイプがあります。

- マッピング関係を明示的に定義する明示的な変換マップスクリプト
- 変換のさまざまなステージでイベントの処理を変更する変換イベントスクリプト

変換スクリプト変数

複数の変数を使用して、変換マップスクリプトで明示的なマッピング関係を定義できます。

変数名：source

タイプ：GlideRecord オブジェクト

説明：現在変換中のインポートソースレコードが含まれます。ソースレコードの特定のフィールドをオブジェクトプロパティとして指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

例：

```
var x = source.incident_state;
```

変数名：target

タイプ：GlideRecord オブジェクト

説明：現在挿入されているインポートターゲットレコードが含まれます。ターゲットレコードの特定のフィールドをオブジェクトプロパティとして指定します。

例：

```
target.incident_state = "active";
```

変数名：map

タイプ：GlideRecord オブジェクト

説明：変換プロセスに現在使用されている変換マップレコードが含まれます。次のいずれかのプロパティを使用して、変換マップレコードから特定のフィールドを指定します。

- name
- sys_id
- source_table
- target_table
- order

例：

```
var x = map.order;
```

変数名：log

タイプ：関数

説明：現在のインポートプロセスに関するログ情報。各ログレベルには独自のメソッドがあります。

例：

```
log.info("This is an information message");
log.warn("This is a warning message");
log.error("This is an error message");
```

変数名：action

タイプ：関数

説明：ターゲットレコードで発生する変換アクションを指定します。この値は「insert」または「update」のいずれかです。

例：

```
if(action =="insert"){
    ignore = true;
}
```

変数名：ignore

タイプ：ブーリアン

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

説明：true に設定すると、現在のインポートアクションがスキップされるか中止されます。onStart スクリプトでは、この変数は変換プロセス全体を中止します。onBefore スクリプトでは、この変数は変換中の現在の行のみをスキップします。

例：

```
(function runTransformScript(source, map, log,
 target /*undefined onStart*/ ) {
    var transformCheck = new TransformCheck(source, map, log,
 target);
    var isMappingValid = transformCheck.validateMapping();
    if (!isMappingValid) {
        ignore = true;
    }
})(source, map, log, target);
```

変数名：error

タイプ：ブーリアン

説明：true に設定すると、現在のインポートアクションが中止され、インポートセットログにエラーメッセージが記録されます。

例：

```
if(source.name=="no_tranform"){
  error = true;
}
```

変数名：error_message

タイプ：文字列 (出力メッセージ)

説明：エラーが発生した場合、指定されたエラーメッセージを SOAP 応答に追加します。

例：

```
if(source.name=="no_tranform"){
  error = true;
  error_message = "Source is not intended for transformation";
}
```

変数名：status_message

タイプ：文字列 (出力メッセージ)

説明：指定されたステータスメッセージを SOAP 応答に追加します。

例：

```
if(action =="insert"){
    status_message = "Inserting record";
}
```

明示的な変換マップスクリプトを使用したマップ

変換マップレコード自体でマッピング関係を明示的に定義します。

明示的な変換マップスクリプトは、変換マップレコード自体にマッピング関係を明示的に定義します。ソースフィールド値がターゲットレコードにコピーされた後、データベースに書き込まれる前に実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

明示的なマッピングスクリプトによって促進される CMDB ソフトウェアインポート

ソフトウェアパッケージテーブルのカウントにインスタンスの数を反映させる必要がある場合に、明示的なマップスクリプティングを使用して CMDB へのインポートを促進する方法を示す例。

CMDB には、ソフトウェアパッケージとソフトウェアインスタンスのテーブルが存在します。ソフトウェアパッケージは、Mozilla Firefox などの 1 つの個々のソフトウェアタイトルを参照します。ソフトウェアインスタンスは、Jared_T60_Laptop 上の Mozilla Firefox などのソフトウェアタイトルの個々のインスタンスを参照します。

より技術的な用語では、ソフトウェアインスタンスはソフトウェアパッケージおよび構成アイテムとの多対多の関係です。このスクリプトはソフトウェアインスタンスをインポートします。その際、インスタンスのソフトウェアパッケージが存在するかどうかがチェックされます。ソフトウェアパッケージが存在しない場合は作成され、新しく作成されたパッケージの sys_id がインスタンスレコードの [ソフトウェア] フィールドを介してインスタンスに関連付けられます。

```
//First we will initialize some temporary variables,
//referencing values from the Import Set table source that will be used
 to
//reference software package records and create them if necessary.

var name= source.u_name;
var version = source.u_version;
var sid ="";

//Next we will perform a glide query on the software package table (Note:
 The target table
//for the import is software instances)
var sgr =new GlideRecord("cmdb_ci_spkg");

//Here we are building our query to search for software packages where
 the name and
//version of the package matches the name and version of the instance
 being imported
sgr.addQuery("name",name);
sgr.addQuery("version", version);
sgr.query();

//Now if a software package with the correct name and version are found
 then we record
//the sys_id of the package record otherwise we create the package and
 then record the sys_id
if(sgr.next()){
   sid = sgr.sys_id;}else{// create it
   sgr.initialize();
   sgr.newRecord();
   sgr.name=name;
   sgr.version= version;
   sid = sgr.insert();

   //Here we make an entry in System Import Set Log saying that we had to
 create a software package
   log.info("Created new spkg: "+name+" - "+ version);
}
//Finally we set the reference field on our software instance record to
 the sys_id we have
//recorded for the software package. In doing so we are also relating the
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
//software package with the instance and so the count, which keeps track
 of
//the number of instances associated with a package, will automatically
 be incremented.
target.software= sid;
```

CMDB へのインポートでクラス名を設定することによる子テーブル

サーバーを構成管理データベース (CMDB) にインポートする方法を示す例。

インポート先のテーブルは cmdb_ci_servers テーブルです。

```
var operating_system = source.u_operating_system.toString();


//This if statement uses JavaScript regular expressions to search the
 operating system
if( operating_system.match(/linux/i)!=null){
   target.sys_class_name="cmdb_ci_linux_server";
};

if( operating_system.match(/win/i)!=null){
   target.sys_class_name="cmdb_ci_win_server";
};
```

ユーザーインポートデータの衛生管理

インポート前にユーザーデータをサニタイズする方法を示すサンプルスクリプト。

```
//Note: The field names referenced from an import set are
//prefixed with an "u_", also note that it is necessary  to use the java
 method
// toString() to so that we can use JavaScript functions to
//manipulate the data.
var name= source.u_name.toString();

//Use native JavaScript function split to create an array for each word
 in the name "splitting" it
//anywhere that there is a space
var split_names =name.split(" ");

//Find the number of of names (i.e., first and last name only, or first
 middle and last name, etc.)
var num_names = split_names.length;

// If there is only one name then map it to the last name field in the
 user table
if(num_names ==1){
   target.last_name= split_names[0];
}

//if there are two names then map the first one to first name and the
 last one to last name
if(num_names ==2){
   target.first_name= split_names[0];
   target.last_name= split_names[1];
}
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
//if there are more than 3 names then all middle names get combined into
 one middle name this is done
//by shifting off the first name (array element 0 ) and mapping to first
 name and popping off the last
// name and returning it to the last name field
if(num_names >=3){
   target.first_name= split_names.shift();
   target.last_name= split_names.pop();
   target.middle_name= split_names.join(" ");
}
```

変換イベントスクリプトを使用したマップ

変換イベントは、インポートセットテーブルをテーブルに変換するプロセス中に発生します。

これらのイベントは、任意のタイプのマッピング仕様からの変換動作を変更します。変換イベントスクリプトは、変換のさまざまなステージでイベントの処理を変更します。

たとえば、マッピング支援ユーティリティを使用して定義されたマッピング操作の処理は、イベントスクリプトを使用して操作できます。これらのイベント中にアクセスできるインポートセット JavaScript オブジェクトは多数あります。これらのオブジェクトは、テーブルまたはテーブルの一部を表します。これらのオブジェクトの参照先は、参照先のイベントのコンテキストによって異なることに注意してください。

すべての変換イベントとそのコンテキスト変数のテーブルを次に示します。

注: インポートログを表示するには、*glide.importlog.log_to_table* プロパティを true に設定します。詳細については、「インポートセットのプロパティ」を参照してください。

変換イベントとそのコンテキスト変数

イベント名	イベントパラメーター
onStart	タイミング：onStart イベントスクリプトは、データ行が読み取られる前に、インポート実行の

参照可能なインポートセット **JS** オブジェクトと **onStart** イベントでのそれらのコンテキスト

インポートセット JS オブジェクト	タイプ
source	GlideRecord
import_set	GlideRecord
map	GlideTransformMap
log	関数
ignore	ブーリアン
error	ブーリアン

例：

```
var info = "Starting Import Set Transformation Mapping operation using
+ map.table_source + " and Transform Map " + map.name + " on import set
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変換イベントとそのコンテキスト変数 (続く)

イベント名	イベントパラメーター
	`log.info( info );`
onComplete	タイミング：onComplete イベントスクリプトは、すべてのデータ行が読み取られて変換されな 参照可能なインポートセット **JS** オブジェクトと **onComplete** イベントでのそれらのコンテキ

インポートセット JS オブジェクト	タイプ
source	GlideRecord
target	GlideRecord
import_set	GlideRecord
map	GlideTransformMap
log	関数
error	ブーリアン

例：

```
// Create a myimport_completed event that can be reacted by an email no
// (there is already an import.finished event that the system will crea
var e = new GlideEvent("myimport_completed", import_set.sys_id, map.sys
e.insert();
```

onBefore

タイミング：onBefore イベントスクリプトは、ソース行がターゲット行に変換される前に、行変

参照可能なインポートセット **JS** オブジェクトと **onBefore** イベントでのそれらのコンテキスト

インポートセット JS オブジェクト	タイプ	onBefore イン
source	GlideRecord	現在処理中の
target	GlideRecord	現在処理中の
import_set	GlideRecord	現在変換中の
map	GlideTransformMap	現在の変換マ
log	関数	現在のインポ
action	文字列	アクションは
ignore	ブーリアン	true に設定す onAfter スク

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変換イベントとそのコンテキスト変数 (続く)

イベント名	イベントパラメーター

インポートセット JS オブジェクト	タイプ	onBefore イン
status_message	文字列	<status_mes
error	ブーリアン	true に設定す
error_message	文字列	<error_mess

例：

```
var name = source.u_name.toString();
var info = "Before the row is transformed, " + name;
log.info( info );

// Make sure a company name has been provided
var company = source.u_company.toString();
if(company.length == 0 ){
 ignore = true;
 info ="No company name, row ignored! " + name;
 log.info( info );
}
```

onAfter

タイミング：onAfter イベントスクリプトは、ソース行がターゲット行に変換されて保存された

参照可能なインポートセット **JS** オブジェクトと **onAfter** イベントでのそれらのコンテキスト

インポートセット JS オブジェクト	タイプ	onAfter
source	GlideRecord	現在処理
target	GlideRecord	現在処理
import_set	GlideRecord	現在変換
map	GlideTransformMap	現在の変
log	関数	現在のイ
action	文字列	アクショ
status_message	文字列	<status_
error	ブーリアン	true に設
error_message	文字列	<error_

例：

```
if(source.new=="true"){
  gs.include('Cart');var bundle =new GlideRecord('sc_cat_item');
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変換イベントとそのコンテキスト変数 (続く)

<table>
<tr><th>イベント名</th><th>イベントパラメーター</th></tr>
<tr><td></td><td>

```
bundle.addQuery('name','CONTAINS','comp');
bundle.query();
if(bundle.next()){
   var new_comp_cart = new Cart();
   var cart = new Cart();
   var item = cart.addItem(bundle);
   var rc = cart.placeOrder();
   log.info(rc.number);}}
```

</td></tr>
<tr><td>onForeignInsert</td><td>
タイミング：onForeignInsert イベントスクリプトは、レコードが作成される前に、関連する参照

参照可能なインポートセット JS オブジェクトと onForeignInsert イベントでのそれらのコンテ

<table>
<tr><th>インポートセット JS オブジェクト</th><th>タイプ</th><th>onForeignIns</th></tr>
<tr><td>source</td><td>GlideRecord</td><td>現在処理中の</td></tr>
<tr><td>target</td><td>GlideRecord</td><td>現在処理中の</td></tr>
<tr><td>map</td><td>GlideTransformMap</td><td>現在の変換マ</td></tr>
<tr><td>log</td><td>関数</td><td>現在のインポ</td></tr>
<tr><td>action</td><td>文字列</td><td>アクションは</td></tr>
<tr><td>name</td><td>文字列</td><td>作成されよう</td></tr>
<tr><td>value</td><td>文字列</td><td>外部レコード</td></tr>
<tr><td>ignore</td><td>ブーリアン</td><td>true に設定す</td></tr>
<tr><td>error</td><td>ブーリアン</td><td>true に設定す</td></tr>
</table>

例：

```
//Create an event.
var e = new GlideEvent("myimport_ForeignInsert", action, name, "");
e.insert();
```

</td></tr>
<tr><td>onChoiceCreate</td><td>
タイミング：onChoiceCreate イベントスクリプトは、新しい選択値が作成される前に、選択値

参照可能なインポートセット JS オブジェクトと onChoiceCreate イベントでのそれらのコン

<table>
<tr><th>インポートセット JS オブジェクト</th><th>タイプ</th><th>onChoiceCre</th></tr>
<tr><td>source</td><td>GlideRecord</td><td>現在処理中の</td></tr>
<tr><td>target</td><td>GlideRecord</td><td>現在処理中の</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

変換イベントとそのコンテキスト変数 (続く)

イベント名	イベントパラメーター

インポートセット JS オブジェクト	タイプ	onChoiceCre
map	GlideTransformMap	現在の変換マ
log	関数	現在のインポ
action	文字列	アクションは
name	文字列	選択値が作成
value	文字列	選択肢が作成
ignore	ブーリアン	true に設定す
error	ブーリアン	true に設定す

例：

```
//Create an event
var e = new GlideEvent("myimport_ChoiceCreate", action, value, "");
e.insert();
```

onReject

外部レコードまたは選択肢の作成中に onReject イベントスクリプトが処理され、外部レコード

参照可能なインポートセット **JS** オブジェクトと **onError** イベントでのそれらのコンテキスト

インポートセット JS オブジェクト	タイプ	onError インポ
source	GlideRecord	現在処理中の
target	GlideRecord	現在処理中の
map	GlideTransformMap	現在の変換マ
action	文字列	アクションは
log	関数	現在のインポ

例：

```
//Create an event
var e = new GlideEvent("myimport_onReject", action, "", "");
e.insert();
```

強力なインポートセットトランスフォーマー

データを抽出、変換して 1 つ以上のターゲットテーブルにロードする場合は、変換マップの代わりに強力なインポートセットトランスフォーマーを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

強力なインポートセットトランスフォーマーと変換マップの比較

変換マップは、ステージングテーブルに格納されているインポートデータから Now Platform 内の単一のターゲットテーブルへのマッピングを定義します。変換マップはターゲットテーブルにもデータを挿入し、変換と処理の両方の機能を実行します。複数の変換マップを使用して複数のテーブルマッピングを定義できます。

強力な変換エンジン (RTE) と強力なインポートセットトランスフォーマーは、変換機能と処理機能を分離し、変換マップのより柔軟な代替手段を提供します。強力なインポートセットトランスフォーマーを使用すると、ソーステーブルから中間データ構造にデータを抽出できます。必要に応じてデータを変換し、そのデータを 1 つ以上のターゲットテーブルにロードできます。レコードは、パフォーマンスを向上させるためにバッチとして処理されます。

変換マップを使用して、ソーステーブルのデータを 3 つの異なるターゲットテーブルに移動する場合は、3 つの個別の変換マップを作成する必要があります。各変換マップはデータを個別に解析するため、3 つの個別の読み取り操作が行われます。対照的に、強力なインポートセットトランスフォーマーは、3 つのターゲットテーブルのデータを準備するために 1 回の読み取り操作のみで済みます。強力なインポートセットトランスフォーマーは、複数のターゲットテーブルを扱う場合は特に効率的です。

抽出変換ロード (ETL)

強力なインポートセットトランスフォーマーを使用すると、抽出変換ロード (ETL) 機能によってインポートされたデータがターゲットテーブルに転送されます。データの抽出、変換、および 1 つ以上のターゲットテーブルへのロード方法を定義します。ETL 定義を使用して、次のことを実行できます。

- エンティティ (テーブルと同様の抽象化) を定義します。
- エンティティフィールド (テーブルフィールドと同様の抽象化) を定義します。
- エンティティ間のマッピングを定義し、オプションでデータ統合中に特定のマッピングを無視するかどうかを指定します。
- エンティティフィールドマッピングを定義します。
- エンティティ操作を定義します。

ETL 定義の概要については、「抽出変換ロード (ETL) 定義の概要」を参照してください。ETL 定義の作成方法を示すステップバイステップガイドについては、「抽出変換ロード (ETL) 定義を作成する」を参照してください。

Paris リリース時点では、[データソース] の 1 列に JSON/XML ペイロードがある場合、ETL 定義は次のようなネストされたデータ構造もサポートします。

```
{
   "records":[
      {
         "network":{
            "location":"San Diego",
            "computers":[
               {
                  "id":"C100",
                  "os":"Mac",
                  "disks":[
                     {
                        "size":"200GB",
                        "type":"SSD"
                     },
                     {
                        "size":"1TB",
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
                        "type":"Magnetic"
                    },
                    {
                        "size":"1TB",
                        "type":"Magnetic"
                    }
                ]
            },
            {
                "id":"C200",
                "os":"Windows",
                "disks":[
                    {
                        "size":"5TB",
                        "type":"Magnetic"
                    }
                ]
            }
        ]
    }
]
}
```

関連情報

強力なインポートセットトランスフォーマーを作成する

強力な変換定義を作成する

抽出変換ロード (ETL) 定義を作成する

強力なインポートセットトランスフォーマーを作成する

強力な変換エンジン (RTE) を介してソーステーブルからターゲットテーブルに情報を送信する方法を定義します。

始める前に

- 必要なロール：import_transformer
- ETL 定義の作成
- 強力な変換定義を作成する。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [強力なインポートセットトランスフォーマー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	強力なインポートセットトランスフォーマーの名前。
ソーステーブル	強力なインポートセットトランスフォーマーのソーステーブル。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
強力な変換エンジン	ETL 定義または CMDB 定義を選択できます。RTE を定義する手順については、「強力な変換定義を作成する」を参照してください。
説明	強力なインポートセットトランスフォーマーの説明。
プロパティ	データの処理に使用できるカスタムプロパティ。
アプリケーション	このレコードのアプリケーションスコープ。
有効	強力なインポートセットトランスフォーマーが現在アクティブな場合に選択されます。強力なインポートセットトランスフォーマーが現在アクティブでない場合は、選択が解除されます。
バッチサイズ	システムが一度に処理するインポートセット行の数。たとえば、インポートセットに 1,000 行あり、バッチサイズが 100 の場合、システムはそれぞれ 100 行のバッチを 10 回処理します。 最小バッチサイズは 1 です。最大バッチサイズは、行サイズと処理の複雑さによって異なります。バッチサイズを 100 から開始し、そこから調整することを検討してください。
詳細	変換操作がレコードにどのように適用されるかを示す一部の変換ログを有効にします。

4. [送信] をクリックします。

強力なインポートセットトランスフォーマーのプロパティ

許可される更新のタイプを定義するプロパティ。

CI 再分類のプロパティ

プロパティを設定するには、[システムインポートセット] > [管理] > [強力なインポートセットトランスフォーマー]に移動します。

[強力なインポートセットトランスフォーマー] フォームで定義されたプロパティは IRE ペイロードレベルであり、指定されたインポートのすべての行に適用されます。統合ハブ ETL を使用して個々のアイテムレベルでプロパティを定義すると、IRE ペイロードレベルで定義されたプロパティよりも優先されます。CI の再分類の詳細については、「IRE 処理中の CI の再分類」を参照してください。

CI 再分類のプロパティ

名前	値	説明
ire.input.items.settings.updateWithoutDowngrade	True/False	有効な値： • true：アイテムを更新しますが、ダウングレードは許可しません。 • false：アイテムを更新し、ダウングレードを許可します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CI 再分類のプロパティ (続く)

名前	値	説明
		デフォルト値：false
ire.input.items.settings.updateWithoutUpgrade	True/ False	有効な値： • true：アイテムを更新しますが、アップグレードは許可しません。 • false：アイテムを更新し、アップグレードを許可します。 デフォルト値：false
ire.input.items.settings.updateWithoutSwitch	True/ False	有効な値： • true：アイテムを更新しますが、クラスの切り替えは許可しません。 • false：アイテムを更新し、クラスの切り替えを許可します。 デフォルト値：false
ire.input.items.classDowngrade	True/ False	有効な値： • true：CI クラスをクラス階層の上位のクラスに更新すると、新しく割り当てられたクラスが現在のクラスの親になります。 • false：アイテムを更新しますが、クラスのダウングレードは許可しません。 デフォルト値：false
ire.input.items.classUpgrade	True/ False	有効な値： • true：CI クラスをクラス階層の上位のクラスに更新すると、新しく割り当てられたクラスが現在のクラスの親になります。 • false：アイテムを更新しますが、クラスのダウングレードも許可します。 デフォルト値：false
ire.input.items.classSwitch	True/ False	有効な値： • true：属性を更新します。新しく割り当てられたクラスは、クラス階層内の別の分岐にあり、現在

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CI 再分類のプロパティ (続く)

名前	値	説明
		のクラスとは異なる属性セットを持っています。 • false：属性は更新しますが、クラスの切り替えは許可しません。 デフォルト値：false

強力な変換定義を作成する

ソーステーブルからターゲットテーブルにデータを転送するための独自の強力な変換エンジン (RTE) を指定します。

始める前に

必要なロール：import_transformer

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [強力なインポートセットトランスフォーマー]に移動します。
2. 既存の強力なインポートセットトランスフォーマーを選択するか、[新規] をクリックして新しい強力なインポートセットトランスフォーマーを作成します。
   手順については、「強力なインポートセットトランスフォーマーを作成する」を参照してください。
3. [トランスフォーマー定義] フィールドで、検索アイコンをクリックします。
4. [強力な変換定義] ウィンドウで、[新規] をクリックします。
5. [強力な変換定義] ポップアップで、**[ETL** 定義] を選択します。
6. フォームに入力します。

フィールド	説明
有効	強力な変換エンジンがアクティブな場合に選択されます。強力な変換エンジンがアクティブでない場合は選択が解除されます。
説明	強力な変換エンジンの説明。
アプリケーション	このレコードのアプリケーションスコープ。
名前	強力な変換エンジンの名前。

7. [送信] をクリックします。

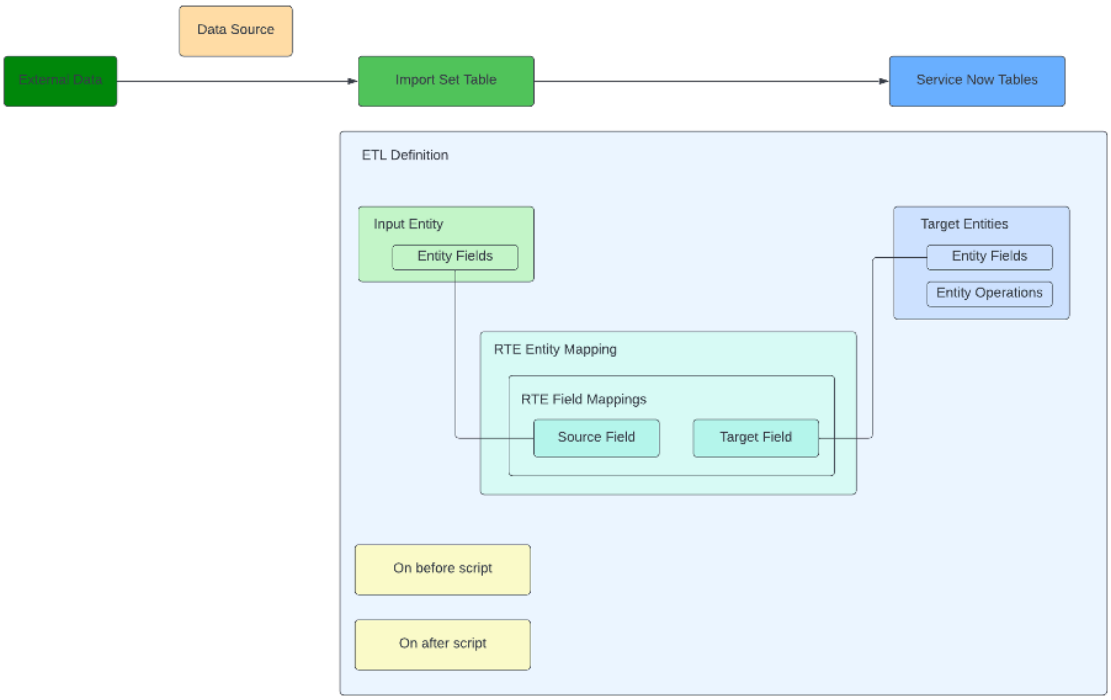
抽出変換ロード **(ETL)** 定義の概要

ETL 定義は、ソーステーブルからデータを抽出し、必要に応じてデータを変換して、データを 1 つ以上のターゲットテーブルにロードします。ETL 定義は、ネストされたデータ構造もサポートしています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データのマッピング方法を指定する ETL 定義

データのインポートはデータソースから始まります。データソースは、抽出するデータのタイプとその場所を指定します。データは抽出された後、ステージングテーブル、またはインポートセットテーブルにロードされます。次に、ETL 定義は、ServiceNow 内の 1 つ以上のターゲットテーブルにデータをマッピングする方法を指定します。外部キーと一意のキーの制約を維持しながら、データを ServiceNow テーブルにマッピングする ETL 定義を作成できま



す。

ETL エンティティは入力データとターゲットテーブルを表します。

ETL 定義はエンティティに基づいています。作成するすべての ETL 定義には、エンティティが関連付けられている必要があります。エンティティは入力データとターゲットテーブルを表します。

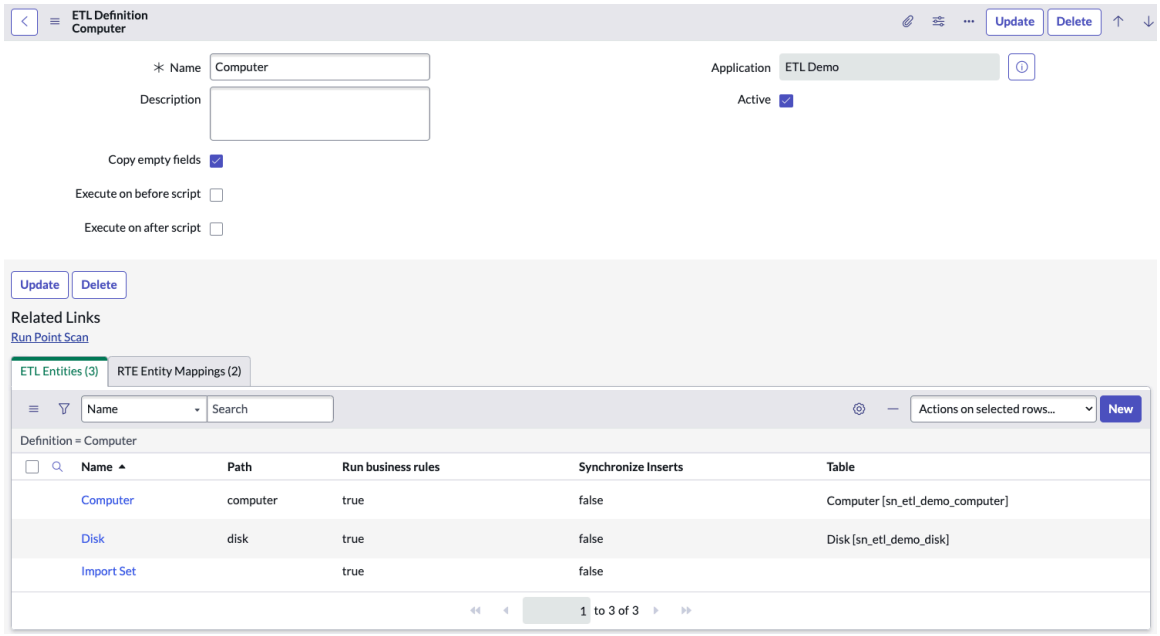
- 入力データは、ステージングテーブルにロードされたデータです。
- ターゲットテーブルは、データを格納する ServiceNow テーブルです。

マッピングと操作もエンティティに基づいているため、定義を作成するときは早い段階でエンティティを作成しておくと便利です。

次の画像は、コンピューターの ETL 定義の例を示しています。この定義には 3 つのエンティティが関連付けられています。インポートセットエンティティは、Excel ファイルからステージングテーブルにロードされる入力データを表します。インポートセットエンティティのテーブルは、[なし] に設定されます。コンピューターとディスクはターゲットエンティティです。これらは、コンピューター [sn_etl_demo_computer] とディスク [sn_etl_demo_disk] という 2 つの ServiceNow

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

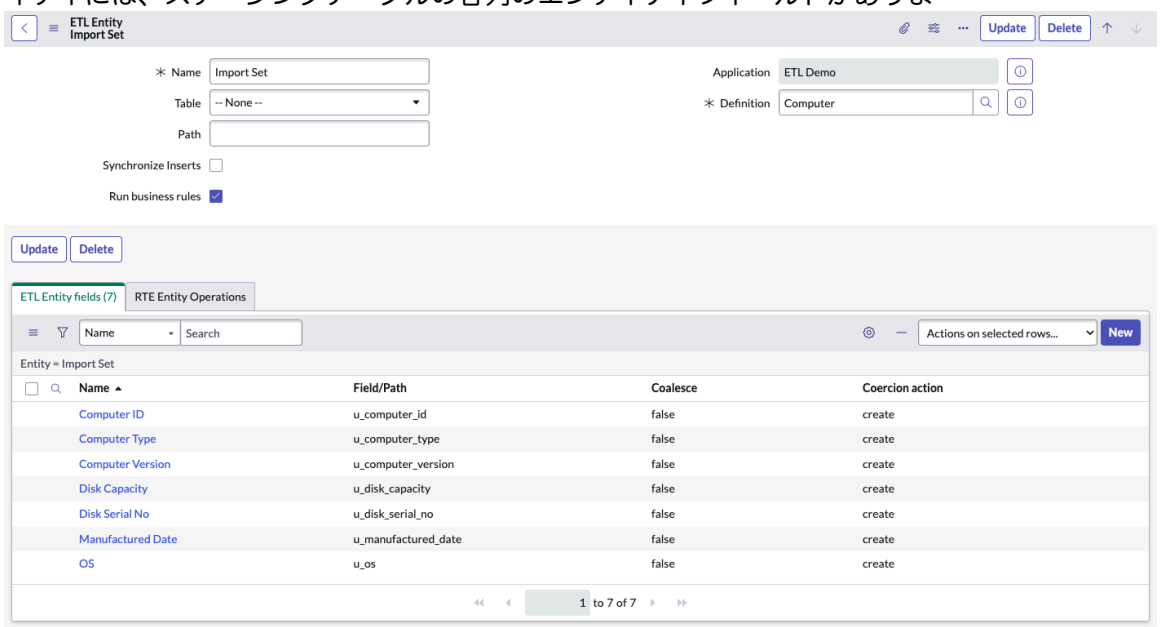
テーブルを表します。ステージングテーブルのデータが 2 つのターゲットテーブルにロードされます。



入力エンティティ

入力エンティティは、ステージングテーブルにロードされた抽出データを表します。入力エンティティには、インポートセットテーブルの列または (単一列モードの場合には) JSON キーを表す ETL エンティティフィールドがあります。エンティティフィールドを作成するには、[ETL エンティティ] フィールドタブで [新規] を選択します。

次の画像は、コンピューター ETL 定義のインポートセットエンティティを示しています。インポートセットエンティティは、Excel ファイルからコンピューター [sn_etl_demo_computers_stage] ステージングテーブルにロードされた入力データを表します。インポートセットエンティティには、ステージングテーブルの各列のエンティティフィールドがあります。

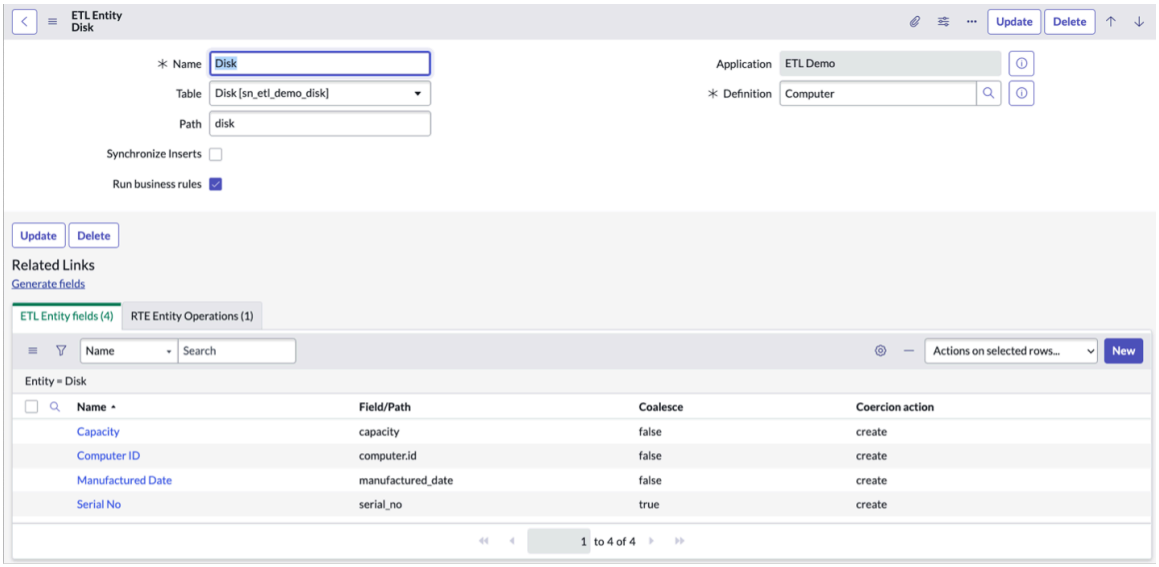


ターゲットエンティティ

ターゲットエンティティは、ServiceNow 内のターゲットテーブルを表します。次の画像は、コンピューター ETL 定義のディスクターゲットエンティティを示しています。ディスクは sn_etl_demo_disk ターゲットテーブルを表します。これには、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

操作を適用するためのテーブル列と一時値を表すエンティティフィールドがありま



す。

各エンティティフィールドには、名前、参照またはパスフィールド、結合フィールド、および強制アクションがあります。

参照フィールド

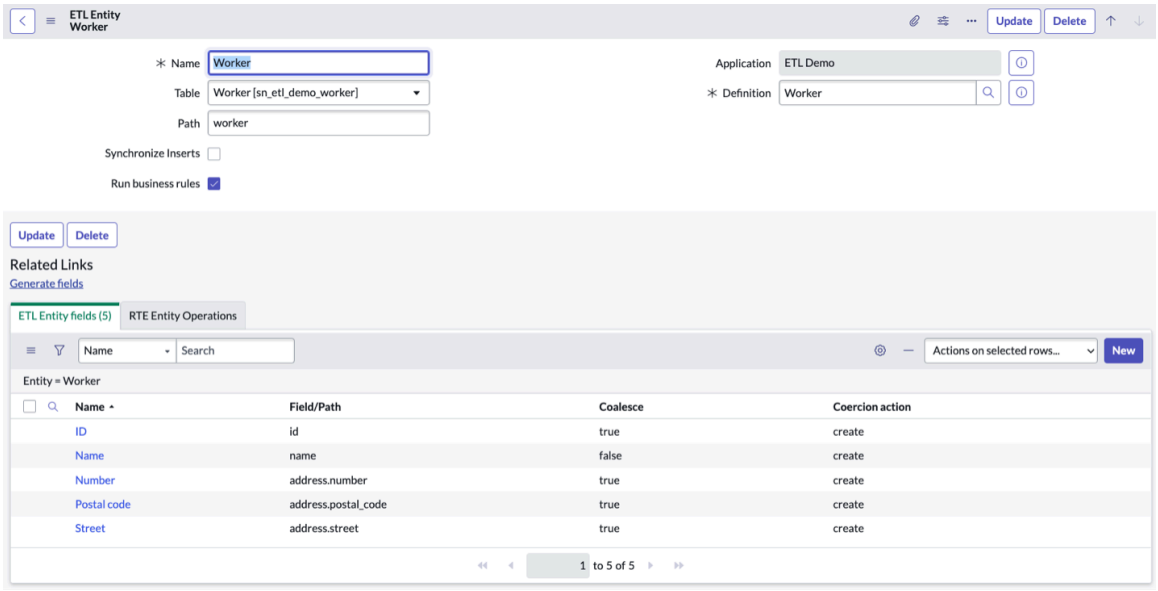
あるテーブルの行に別のテーブルの行の sys_id を列の値として格納することによって、1 番目のテーブルの行が 2 番目のテーブルの行を参照している特別なフィールドです。参照は sys_id として格納されますが、データがインポートされると、値としてインポートされます。したがって、参照フィールドの場合は、参照されるテーブルの一意のフィールドの値を、インポートされたデータにマッピングすることになります。最終的に、システムは値を使用して関連レコードを検索し、sys_id を取得して、適切な列に格納します。

たとえば、前述のディスクエンティティの sn_etl_demo_disk テーブルには、参照フィールド [コンピューター] を使用する、コンピューターへの参照があります。ただし、インポートされたデータには、コンピューターを一意に識別するために使用できるコンピューター ID のみが含まれています。したがって、ディスクエンティティでは、参照されるフィールドパス (computer.id) は、コンピューターテーブルの列も指定します。

一意のキーに複数のフィールドがある場合は、複数のフィールドを追加してすべてのフィールド値を指定する必要があります。たとえば、次の画像では、sn_etl_demo_worker テーブルに sn_etl_demo_address テーブルへの参照があります。sn_etl_demo_address テーブルには、一意のキーとして 3 つの列 (番号、番地、および郵便番号) があります。したがって、ワーカーエンティティには一意のキー列用の 3 つのフィール

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ドがあります。参照フィールドは、結合フィールドとしても使用できま



す。

結合フィールド

ターゲットエンティティの一意のキーを指定します。システムは、結合フィールドを使用して、既存のレコードを更新するか、新しいレコードを挿入するかを決定します。結合フィールドが true で、システムが同じ結合フィールド値を持つ既存のレコードを見つけると、既存のレコードが更新されます。前に示した sn_etl_demo_disk テーブルでは、ディスクエンティティのシリアル番号列はすべてのディスクエントリに対して一意であるため、結合フィールドとして指定されます。

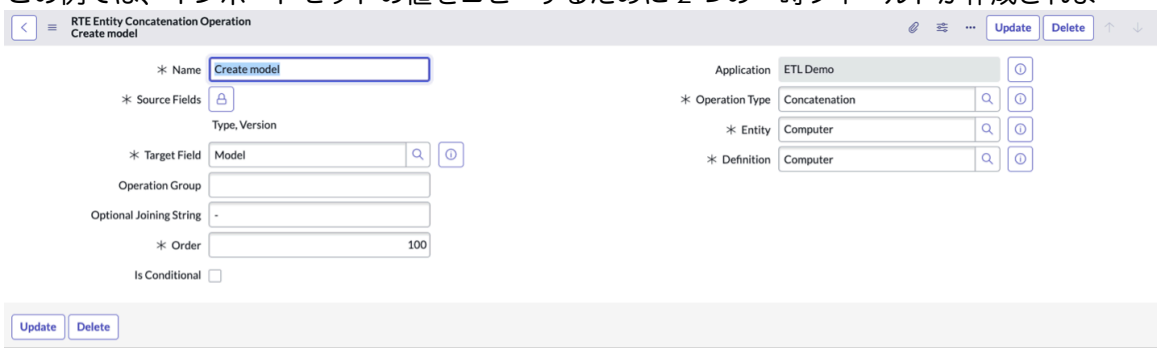
強制アクション

参照フィールドで、一意のキー値を持つ行が参照先テーブルに存在しない場合の処理を指定します。強制アクションには次のオプションがあります。

- 参照先テーブルに新しい行を [作成] し、それをターゲット行に割り当てます。
- 参照フィールドの値を [無視] します。参照列は空のまま保存されます。
- 参照フィールドの値を [却下] します。ターゲットテーブルへの挿入も更新も行いません。

データを変更する強力な変換エンジン (RTE) エンティティ操作

エンティティ操作では、入力データをターゲットテーブルに保存する前に変更します。次の画像は、連結操作の例を示しています。コンピューターの ETL 定義では、インポートされたデータにタイプとバージョンの両方が含まれています。ただし、ターゲットテーブルには、タイプとバージョンを組み合わせた値が必要です。そのため、コンピューターエンティティは連結操作を使用してタイプとバージョンを連結します。エンティティ操作はエンティティフィールドでのみ実行できるため、この例では、インポートセットの値をコピーするために 2 つの一時フィールドが作成されま

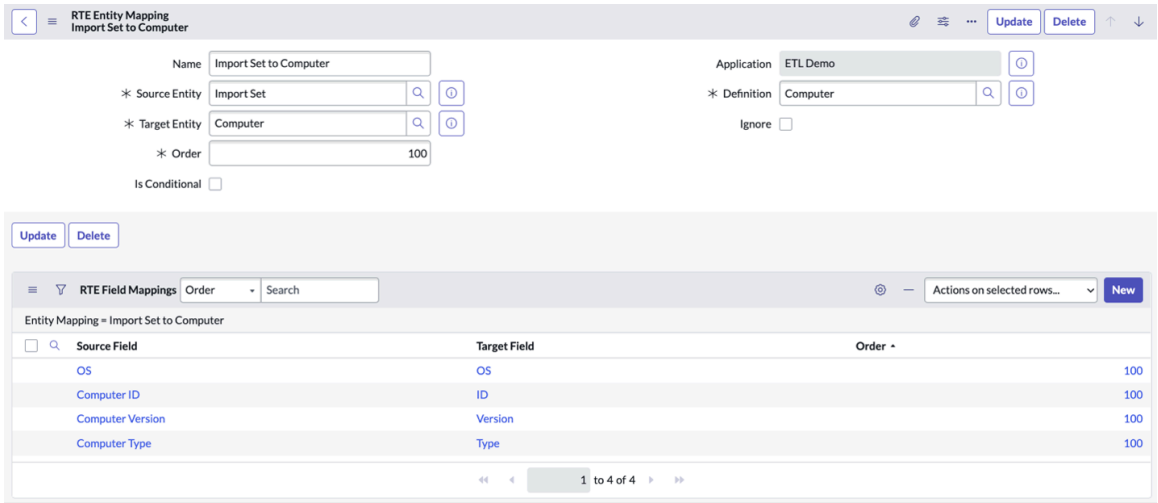


す。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールドマッピングを指定する RTE エンティティマッピング

エンティティフィールドと操作を使用して入力エンティティとターゲットエンティティを作成した後、各ターゲットエンティティの RTE エンティティマッピングを作成します。RTE エンティティマッピングは、入力エンティティのフィールドをターゲットエンティティのフィールドにマッピングする方法を指定します。コンピューターの ETL 定義には、2 つの RTE エンティティマッピングがあります。一方は、次の画像に示すように、入力データをコンピューターエンティティフィールドにマッピングします。もう一方は、入力データをディスクエンティティフィールドにマッピングしま



す。

ETL 定義内のネストしたデータ

JSON データインポートでは、JSON アレイを含むレコードのインポート、または同じテーブルの複数の行をインポートするレコードのインポートが必要となる場合があります。ETL 定義は、パスにわずかな変更を加えた、次のようなペイロードをサポートします。次の JSON データにはメール情報のアレイがあります。次の 2 つの画像に示すように、入力エンティティまたはターゲットエンティティのパスを変更することで、このデータをインポートできます。

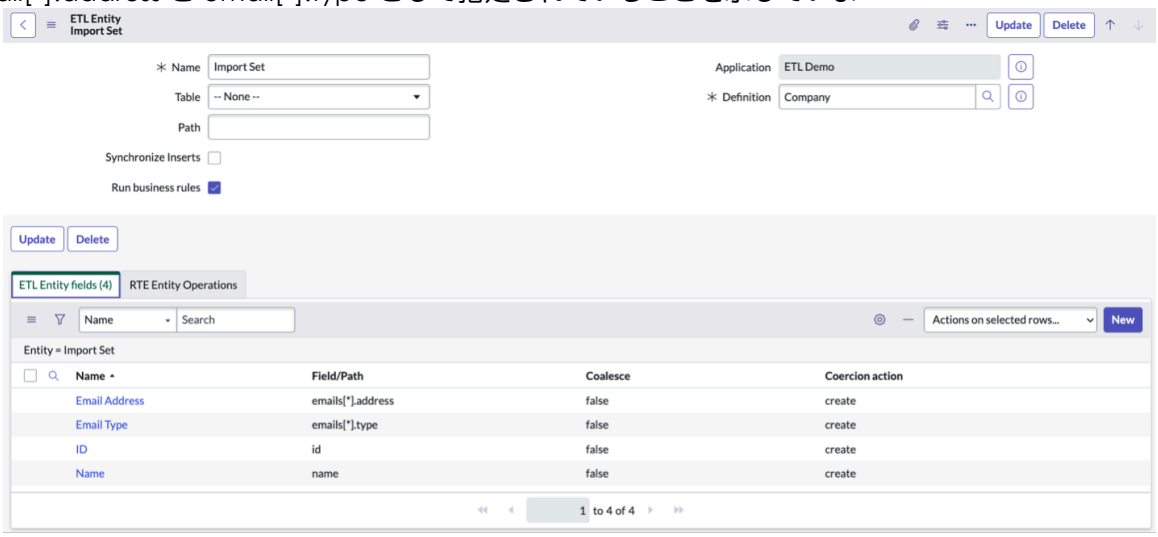
```
{
      "id": "123",
      "name": "Jhon",
      "emails": [
        {
          "address": "jhon@servicenow.com",
          "type": "work"
        },
        {
          "address": "jhon@gmail.com",
          "type": "personal"
        }
      ]
    }
```

ネストしたデータを含む入力エンティティ

ネストしたデータの入力エンティティも入力 JSON データを表します。ネストしたデータを持たないインポートと同様に、値を表すエンティティフィールドがあります。唯一の違いは、アレイを含むパスがアスタリスク (*) で指定されていることです。次の画像は、アドレスとタイプへのパスが

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

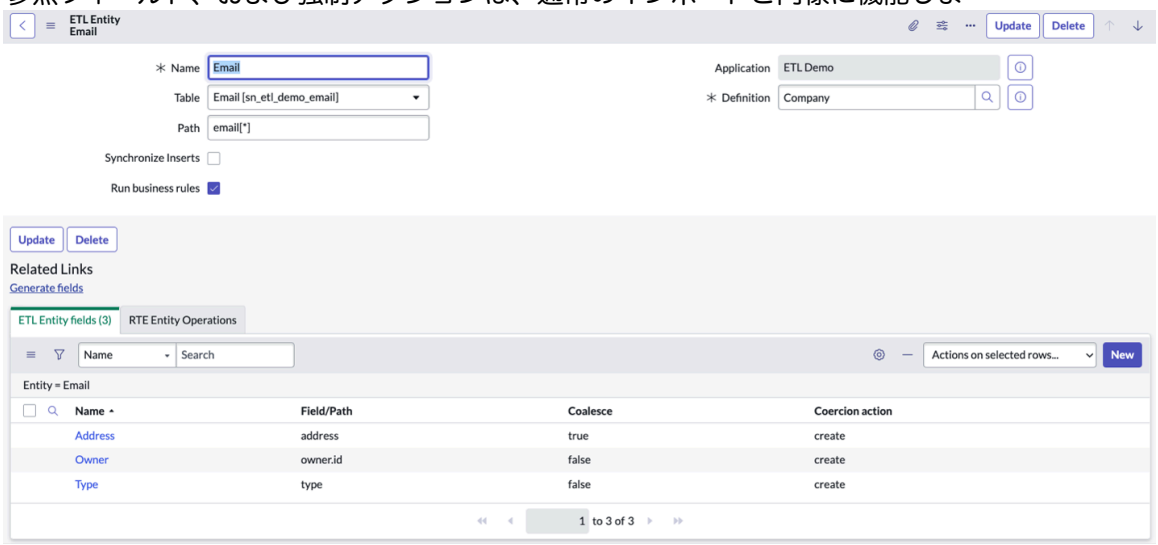
email[*].address と email[*].type として指定されていることを示していま



す。

ネストしたデータを持つターゲットエンティティ

ネストしたデータを持つターゲットエンティティも、パスがアスタリスク (*) で終わる点を除いて、通常のインポートのターゲットエンティティと似ています。アスタリスクは、エンティティをアレイとして処理するようにシステムに指示します。メールエンティティでは、ターゲットパスは email[*] として指定されます。結合フィールド、参照フィールド、および強制アクションは、通常のインポートと同様に機能しま



す。

ネストしたデータを使用した RTE エンティティマッピング

ネストしたデータの RTE エンティティマッピングは、通常のマッピングに似ています。階層の任意のフィールドをエンティティに割り当てることができます。

一時エンティティモデル

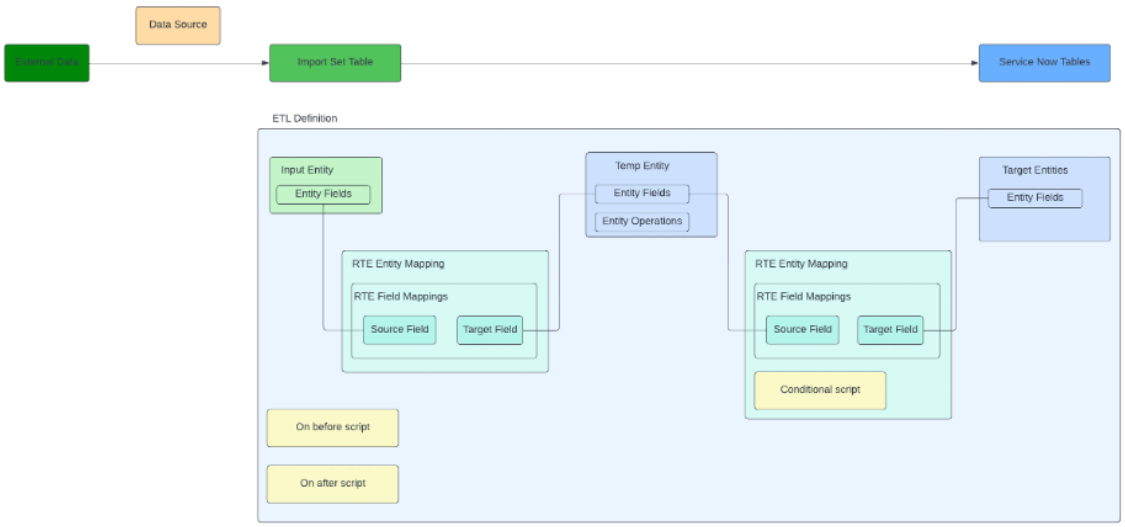
一時 ETL エンティティを使用することで、ターゲットエンティティでの繰り返し操作を回避できます。

一時 (temp) エンティティモデルでは、一時エンティティは入力エンティティとターゲットエンティティの中間のものとして機能します。データは、入力エンティティから一時エンティティにマッピングされ、次に一時エンティティからターゲットエンティティにマッピングされます。一時エンティティモデルを使用するには、次の手順に従います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 入力エンティティと同様のエンティティフィールドを持つ一時エンティティを作成します。たとえば、入力エンティティに「Type」という名前のフィールドがある場合、一時エンティティには「Temp Type」といった名前のフィールドを用意します。
- RTE エンティティマッピングを追加し、入力エンティティから一時エンティティにデータをマッピングします。
- 一時エンティティに新しいエンティティフィールドとエンティティ操作を追加し、データをターゲットエンティティにマッピングするために必要な値をサポートします。
- 一時エンティティからターゲットエンティティにデータをマッピングするためのターゲットエンティティと RTE エンティティマッピングを追加します。

このモデルでは、ターゲットエンティティで操作を定義する必要はありません。一時エンティティでのみ操作を作成し、ターゲットエンティティには最終的な値をマッピングします。

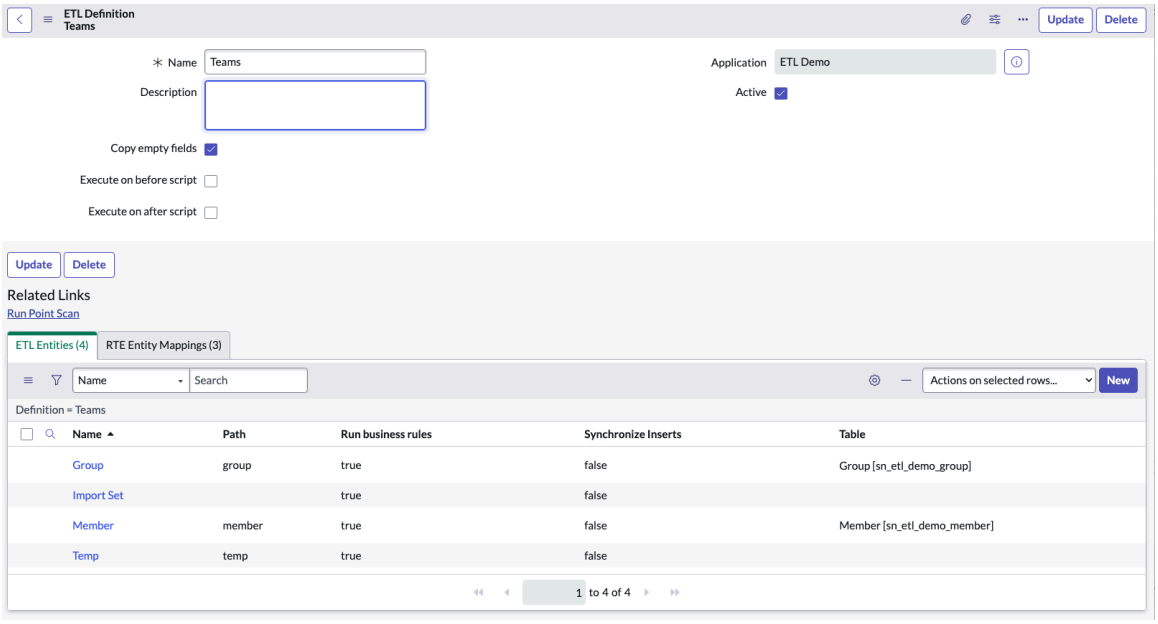


Example: Teams の ETL 定義

この例では、Teams の ETL 定義により、データは入力エンティティから一時エンティティにマッピングされ、一時エンティティからターゲットエンティティにマッピングされます。Teams の定義には 4 つの ETL エンティティがあります。

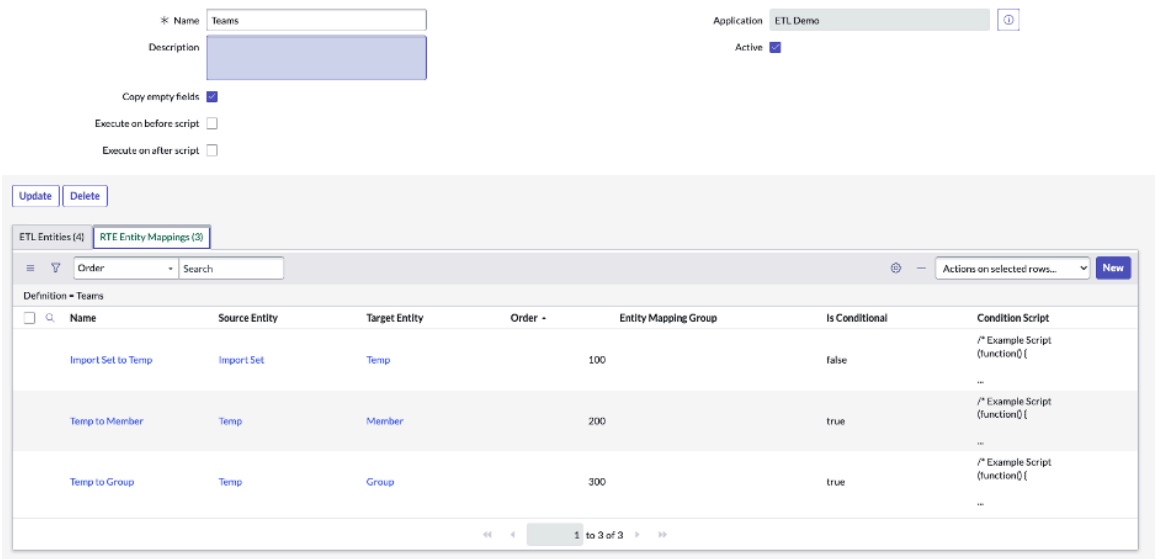
- グループ：ターゲットエンティティ
- インポートセット：入力エンティティ
- メンバー：ターゲットエンティティ
- 一時：一時的な中間エンティティ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



Teams の定義には、3 つの RTE エンティティマッピングもあります。

- [インポートセットから一時 (Import Set to Temp)] では、入力エンティティから一時エンティティにデータがマッピングされます。
- [一時からメンバー (Temp to Member)] では、一時エンティティからメンバーターゲットエンティティにデータがマッピングされます。
- [一時からグループ (Temp to Group)] では、一時エンティティからグループターゲットエンティティにデータがマッピングされます。

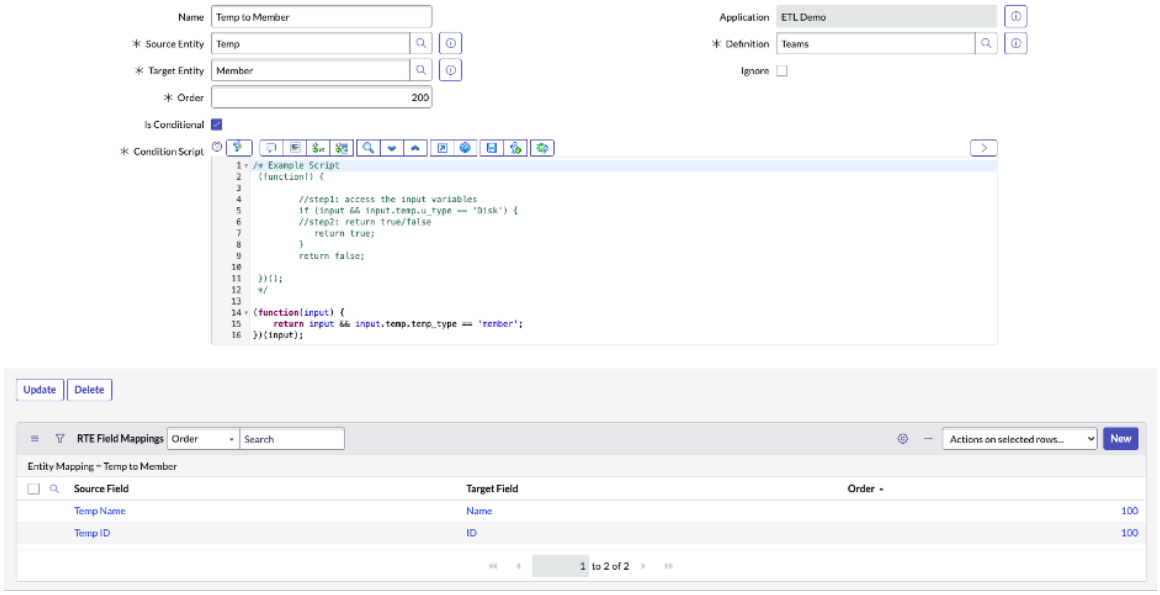


条件スクリプト

場合によっては、ターゲットテーブルへのすべての入力データを挿入または更新する必要はありません。条件スクリプトを使用して、ターゲットエンティティにマッピングするインポートセット行を選択できます。次の例では、一時からメンバーの RTE エンティティマッピングは、一時エンティティからメンバーエンティティにマッピングする行を指定するために条件ス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クリプトを使用します。`member` タイプの行のみがメンバーエンティティにマッピングされます。



抽出変換ロード (ETL) 定義を作成する

ソーステーブルからデータを抽出し、必要に応じてデータを変換して、データを複数のターゲットテーブルにロードするための ETL 定義を作成します。ETL 定義は、ネストされたデータ構造もサポートしています。

始める前に

必要なロール：import_transformer

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > **[ETL 定義]**に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	ETL 定義の名前。
説明	ETL 定義の説明。
空のフィールドをコピー	空のフィールド値をコピーするオプションです。受信データに空の値のフィールドがある場合は、空の値をコピーするか、無視して既存の値を保持するかのいずれかが行えます。
onBefore スクリプトを実行 (Execute onBefore script)	データを挿入または更新する前にスクリプトを実行するオプションです。 onBefore スクリプトには 3 つのパラメーターがあります。 ◦ *source*：インポートレコードからのソースデータ。 ◦ *target*：インポートレコードからの変換済みデータ。onBefore スクリプトでは、このパラメーターは、ターゲットテーブルに挿入される前に変換済みデータにアクセスします。 ◦ *importLog*：データインポートアクティビティに関する情報を記録するログ。 onBefore スクリプトには 2 つの変数があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

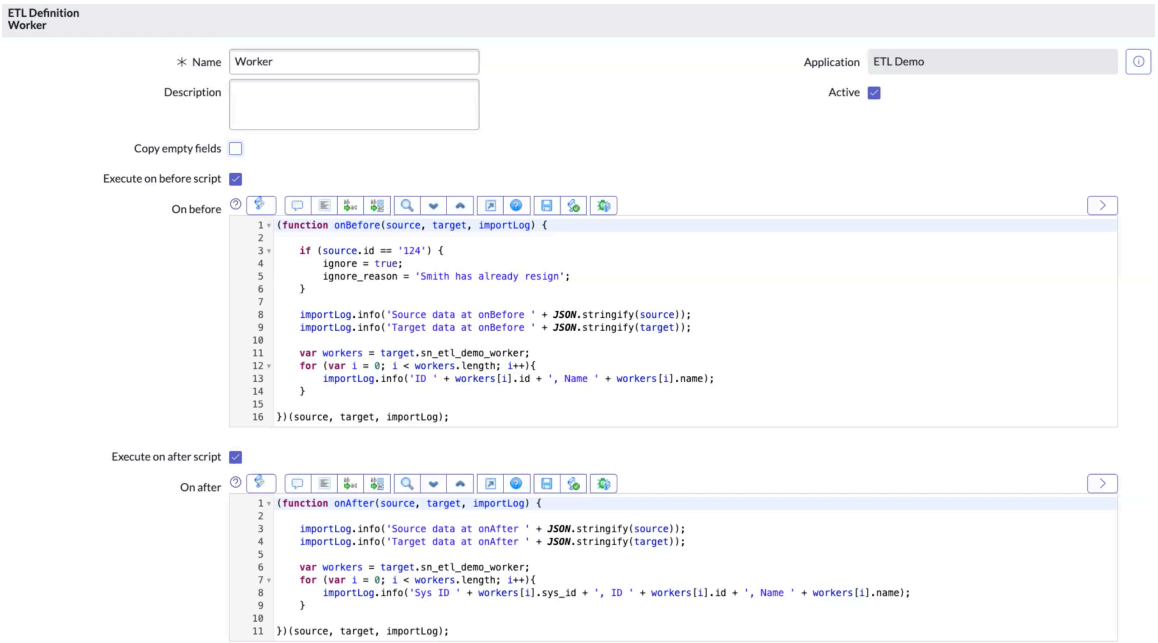
フィールド	説明
	◦ *ignore*. タイプ：ブーリアン。**true** の場合、指定されたインポートセット行は無視されます。 ◦ *ignore_reason*. タイプ：文字列。インポートセット行が無視された理由を説明するメッセージです。
onAfter スクリプトを実行 (Execute onAfter script)	データを挿入または更新した後にスクリプトを実行するオプションです。 onAfter スクリプトには 3 つのパラメーターがあります。 ◦ *source*：インポートレコードからのソースデータ。 ◦ *target*：インポートレコードからの変換済みデータ。onAfter スクリプトでは、このパラメーターは、ターゲットテーブルに挿入された後で変換済みデータにアクセスします。レコードが挿入または更新されると、sys_id が割り当てられます。 ◦ *importLog*：データインポートアクティビティに関する情報を記録するログ。
アプリケーション	このレコードのアプリケーションスコープ。
有効	ETL 定義がアクティブな場合に選択されます。ETL 定義がアクティブでない場合は選択が解除されます。

4. [送信] をクリックします。

Example:
この例では、ワーカーの ETL 定義に onBefore スクリプトと onAfter スクリプトの両方があります。onBefore スクリプトでは、ワーカーが既に退職しているため、ID が 124 のソースレコードは無視されます。ソースデータとターゲットデータの両方がインポートログに書き込まれます。最後に、スクリプトは sn_etl_demo_worker テーブルの変換された値を反復処理し、各ワーカーの ID と名前を取得してインポートログに記録します。

onAfter スクリプトでは、ソースおよびターゲットデータは両方ともインポートログに書き込まれます。スクリプトは、sn_etl_demo_worker テーブルの変換された値を再度反復処理します。これによりデータがターゲットテーブルに挿入され、各レコードに sys_id が割り当てられます。このスクリプトは、各ワーカーの Sys ID、ID、および名前をインポートログに記録します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



注:

- ガイド付きまたは段階的なエクスペリエンスを通じて、これらの定義とマッピングを作成する方法については、「統合ハブ - インポート」を参照してください。
- ターゲットテーブルまたはアプリケーションが CMDB に関連している場合は、統合ハブ ETL (3.2) ガイド付きエクスペリエンスを使用します。

関連情報

ETL エンティティの定義

ETL エンティティマッピングを定義する

ETL エンティティフィールド定義を作成する

強力な変換エンジン操作を定義する

ETL エンティティの定義

強力な変換エンジンで使用される抽出変換ロード (ETL) エンティティを定義します。

始める前に

必要なロール：import_transformer

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > **[ETL 定義]**に移動します。
2. ETL 定義を選択します。
3. [ETL エンティティ] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	ETL エンティティの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
テーブル	ETL エンティティのターゲットテーブル。
パス	このエンティティの一意のパス。インポートセットテーブルを表すエンティティのパスを指定しないでください。エンティティがコレクションを表す場合、パスは [*] で終わる必要があります。この要件は、中間エントリとターゲットテーブルエンティティに適用されます。
挿入を同期する	レコード挿入を同期することで一意の結合フィールド値のある 1 つのレコードのみを保証する場合に選択します。レコードの挿入を同期しない場合は、選択が解除されます。
ビジネスルールを実行	ビジネスルールを実行する場合に選択します。ビジネスルールを実行しない場合は、選択が解除されます。
アプリケーション	このレコードのアプリケーションスコープ。
定義	選択された ETL エンティティ。

5. [送信] をクリックします。

ETL エンティティマッピングを定義する

ソースエンティティをターゲットエンティティにマッピングします。

始める前に

必要なロール：import_transformer

このタスクについて

オプションで、[無視] チェックボックスを設定して、強力なインポートセット変換 (RTE) を使用してデータを統合するときにエンティティマッピングを除外できます。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > **[ETL** 定義]に移動します。
2. ETL 定義を選択します。
3. [RTE エンティティマッピング] タブで、[新規] をクリックします。
4. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	マッピングの名前。
ソースエンティティ	マッピングのソースエンティティ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ターゲットエンティティ	マッピングのターゲットエンティティ。
順番	マッピングを処理する順序。
条件つき	マッピングが条件付きであることを指定するチェックボックス。マッピングが条件付きである場合はチェックボックスをオンにし、そうでない場合はオフにします。
条件スクリプト	マッピングのために満たす必要のある条件を定義するスクリプト。条件スクリプトの例については、「一時エンティティモデル」を参照してください。
アプリケーション	このレコードのアプリケーションスコープ
定義	このマッピングが属する選択された ETL エンティティ。
無視	強力なインポートセット変換 (RTE) を使用してデータを統合するときに、この ETL エンティティマッピングを無視するかどうかを指定するチェックボックス。 RTE を使用してデータを統合するときにこの ETL エンティティマッピングを無視する場合は、このチェックボックスをオンにします。無視しない場合は、チェックボックスをオフにします (デフォルト)。 データ統合の詳細については、以下を参照してください。 ◦ インポートセットを使用したデータのインポート ◦ 強力なインポートセットトランスフォーマー

ETL エンティティフィールド定義を作成する

抽出変換ロード (ETL) 操作用にマッピングされたエンティティフィールドを定義します。

始める前に

必要なロール：import_transformer

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > **[ETL 定義]**に移動します。
2. ETL 定義を選択します。
3. [ETL エンティティ] タブで、ETL エンティティを選択します。
4. [ETL エンティティ] フィールドタブで、[新規] をクリックします。
5. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	[ETL エンティティ] フィールド定義の名前。
フィールド/パス	ステージングまたはインポートセットテーブルの列名です。 ターゲットエンティティの参照フィールドには、データをマッピングする列を指定できます。たとえば、番地、通り、郵便番号の 3 つの列を持つ住所テーブルにデータをマッ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ピングするとします。マップ先の一意の列を指定するには、「`address.number`」、「`address.postal_code`」、および「`address.street`」と入力します。 参照フィールドに一意の列を指定する場合、すべての強制アクションと結合値を同じにする必要があります。たとえば、前にリストした 3 つのアドレスフィールドはすべて同じ強制アクションと同じ結合値を持つ必要があります。 インポートエンティティの場合、アレイ内のフィールドは [*] 表記で参照できます。たとえば、次のネストされた構造では、「`email[*].address`」と入力してメールアドレスを指定できます。 `{ "id": "123", "name": "Jhon", "emails": [ { "address": "jhon@servicenow.com", "type": "work" }, ] }`
強制アクション	参照または選択肢が見つからない場合にシステムで行われる必要がある操作です。使用可能なオプションは、[作成]、[無視]、および [却下] です。 ◦ [作成] オプションでは、新しい参照/選択肢が作成され、現在のレコードに割り当てられます。 ◦ [無視] オプションは、現在の値を空に設定します。 ◦ [却下] オプションは、レコード全体をデータベースに保存しません。
結合	このフィールドを使用して、既存のレコードをクエリします。
アプリケーション	このレコードのアプリケーションスコープ。
エンティティ	強力な変換エンジンエンティティの名前。
定義	このフィールド定義が属する選択された ETL エンティティ。

6. [送信] をクリックします。

強力な変換エンジン操作を定義する

強力な変換エンジン (RTE) が実行する必要のある操作を定義します。

始める前に
必要なロール：import_transformer

このタスクについて
操作は常に 1 つのエントリに対してのみ実行する必要があります。同じエンティティからすべてのソースフィールドとターゲットフィールドを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > **[ETL** 定義]に移動します。
2. ETL 定義を選択します。
3. [ETL エンティティ] タブで、ETL エンティティを選択します。
4. [RTE エンティティ操作] タブで、[新規] をクリックします。
5. 作成する操作の種類を選択します。
6. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	操作の名前。
ソースフィールド	操作が単一の入力を受け取る場合は、操作の ETL フィールドを入力します。
ターゲットフィールド	操作が単一の出力を受け取る場合は、操作の ETL フィールドを出力します。
ソースフィールド	操作が複数の入力を受け取る場合は、操作の ETL フィールドを入力します。
ターゲットフィールド	操作が複数の出力を受け取る場合は、操作の ETL フィールドを出力します。
操作グループ	関連する操作をグループ化するオプションの名前。
既存の値を上書き	true の場合、ターゲットフィールドの既存の空でない値を上書きします。
オプションの結合文字列	値を結合するオプションの文字列。
小数点以下桁数	出力値を強制する、オプションの小数点以下の桁数。
残りのターゲットフィールド	最初の数値が削除された後にソース文字列のトリミングされた残りの部分を書き込む、オプションの 2 番目のターゲットフィールド。
Glide 一致フィールド	ターゲットテーブルのルックアップに使用する列名のカンマ区切りリスト。
ターゲットテーブル	ルックアップを実行するテーブル。
Glide ターゲットフィールド	ターゲットテーブルから返される列のカンマ区切りリスト。
正規表現に一致	置換操作の一致する正規表現。
置換正規表現	置換文字列。
一意の入力セットを使用	true の場合、操作は操作に対する一意の入力セットのみを処理します。それ以外の場合、操作はすべてのレコードを個別に処理します。
リテラルセット値	ターゲットに設定する文字列値。
文字列の分割	入力値を分割する文字列。
日付形式	シンプルな Java 形式で表された日付/時刻形式。
順番	エンティティで実行される操作の順序。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
スクリプト	操作の一部として実行されるスクリプト。
条件つき	指定された条件が満たされた場合に操作を適用するかどうかを指定します。
条件フィールド	条件で使用するフィールド。
条件スクリプト	文字列として指定された条件。条件スクリプトの例については、「一時エンティティモデル」を参照してください。
アプリケーション	このレコードのアプリケーションスコープ。
操作タイプ	この操作の操作タイプ。
エンティティ	この操作が適用されるエンティティ。
定義	このエンティティと操作が属する、選択された ETL エンティティ定義。

7. [送信] をクリックします。

インポート実行の詳細

インポートセット実行、インポートセット内の個々の行、およびインポートログに関する詳細情報を表示します。

インポートセットを実行または処理するには、2 つの方法があります。実行後に表示されるデータは、選択した方法によって若干異なります。

強力なインポートセットトランスフォーマー

変換機能と処理機能を分離し、変換マップのより柔軟な代替手段となります。強力なインポートセットトランスフォーマーを使用すると、ソーステーブルから中間データ構造にデータを抽出できます。必要に応じてデータを変換し、そのデータを 1 つ以上のターゲットテーブルにロードできます。レコードは、パフォーマンスを向上させるためにバッチとして処理されます。詳細については、「強力なインポートセットトランスフォーマー」を参照してください。

変換マップ

インポートセットステージングテーブルから単一のターゲットテーブルにデータをマッピングする従来の方法です。変換マップは、変換関数と処理関数を 1 つのプロセスにまとめます。変換マップを実行するたびに、システムはインポートセットステージングテーブルからデータをロードして変換し、単一のターゲットテーブルに挿入する必要があります。複数の変換マップを使用して複数のテーブルマッピングを定義できます。詳細については、「変換マップ」を参照してください。

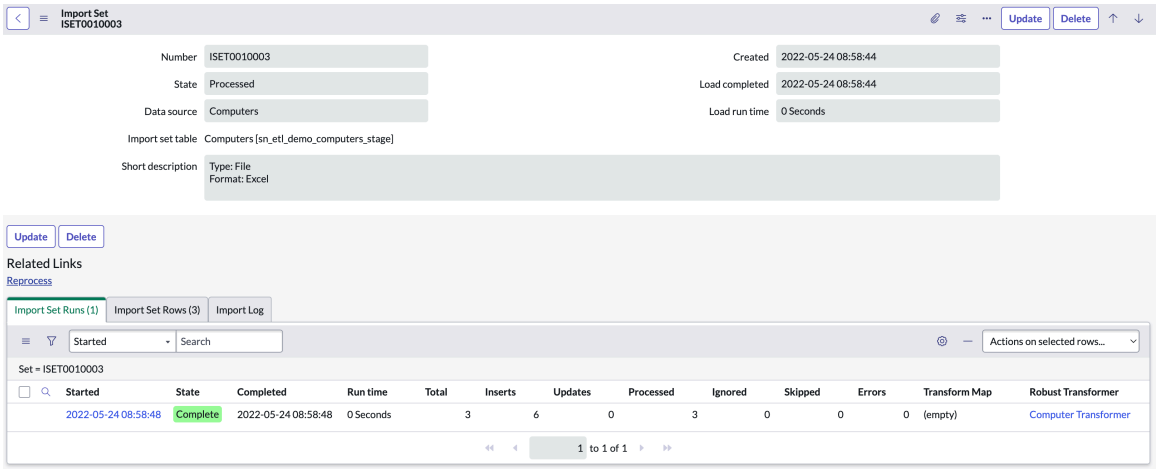
インポートを実行した後、インポートセットレコードに移動し、[関連リンク] セクションの下のタブを確認することで、インポート履歴を表示できます。これにはインポートセット実行、インポートセット行、およびインポートログが含まれます。

インポートセット実行

[インポートセット実行] タブには、個々のインポートに関する詳細が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

強力なインポートセットトランスフォーマーを使用して完了したインポートのサンプルデータ



次の表に、画像内のフィールドの詳細を示します。

フィールド	説明
開始	インポートを開始した日付と時間です。ログインしているユーザーのタイムゾーンで指定されます。
状況	インポートのステータスです。オプションは次のとおりです。 • キャンセル • キャンセルを要求 • 完了 • 完了 (エラーあり) • 未完了 • 実行中
完了	インポートが終了した日付と時間です。ログインしているユーザーのタイムゾーンで指定されます。
実行時間	インポートの実行に必要な合計時間です。
合計	インポートセット行の合計数です。 強力なインポートセットトランスフォーマーを使用したインポートの場合、このフィールドは処理済み、無視済み、スキップ済み、およびエラーありの合計数です。 変換マップを使用したインポートの場合、このフィールドは挿入済み、更新済み、無視済み、スキップ済み、およびエラーありの合計数です。
挿入	挿入されたレコードの数。
更新	更新されたレコードの数。
処理日時	処理されたレコードの数。

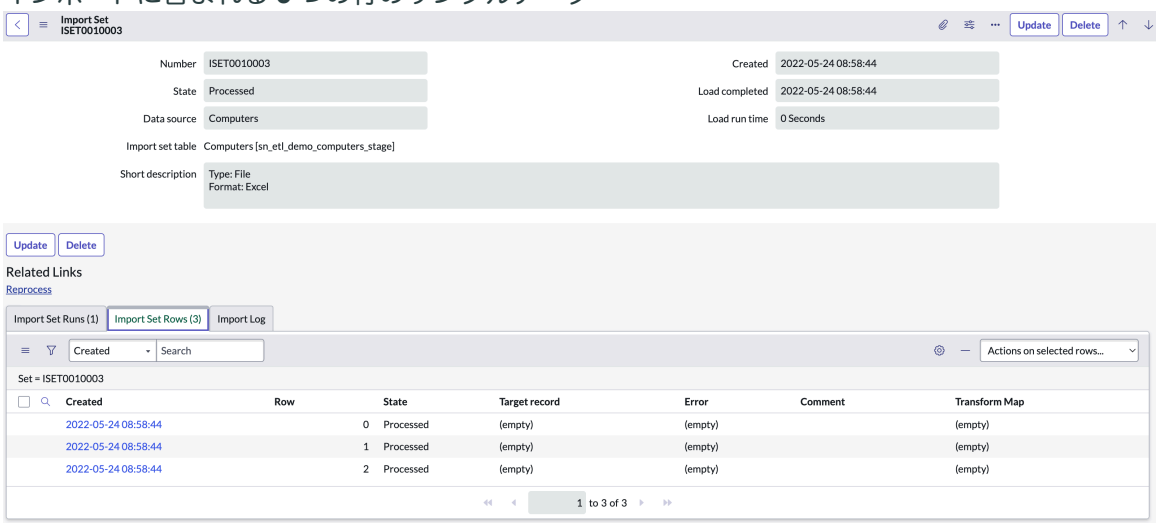
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
無視	無視されたレコードの数。 無視されたレコードは、インポート中に無視するようにユーザーが指定したレコードです。たとえば、onBefore スクリプトの *ignore* 変数を使用して、無視するレコードを特定できます。詳細については、「抽出変換ロード (ETL) 定義を作成する」を参照してください。
スキップ	スキップされたレコードの数。 スキップされたレコードは、内部の問題が原因でシステムによってスキップされたレコードです。
エラー	インポート中に発生したエラーの数。
変換マップ	変換マップを使用してデータをインポートすると、関連するマップがここに表示されます。
強力なトランスフォーマー	堅牢なインポートセットトランスフォーマーの場合、関連するトランスフォーマーがここに表示されます。

インポートセット行

[インポートセット行] タブには、インポートセット実行に含まれる行の詳細が表示されます。

インポートに含まれる **3** つの行のサンプルデータ



次の表に、画像内のフィールドの詳細を示します。

フィールド	説明
作成日時	インポートセット行が作成された日付と時間です。ログインしているユーザーのタイムゾーンで指定されます。
行	行の番号です。番号付けはゼロから始まります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
状況	行のインポートのステータスです。
ターゲットレコード	行で更新されたレコード。 このフィールドには、変換マップを使用してインポートが実行された場合にのみターゲットレコードが表示されます。 強力なインポートセットトランスフォーマーを使用してインポートを実行する場合、行レコードをクリックすれば、[ターゲット行を変換] タブの [ターゲットレコード] フィールドでターゲットレコードを確認できます。詳細と例については、強力なインポートセットトランスフォーマーのターゲットレコードに関するセクションを参照してください。
エラー	行のインポート中に発生したエラーの詳細。
コメント	変換スクリプトからのコメント。
変換マップ	変換マップを使用してデータをインポートすると、関連するマップがここに表示されます。

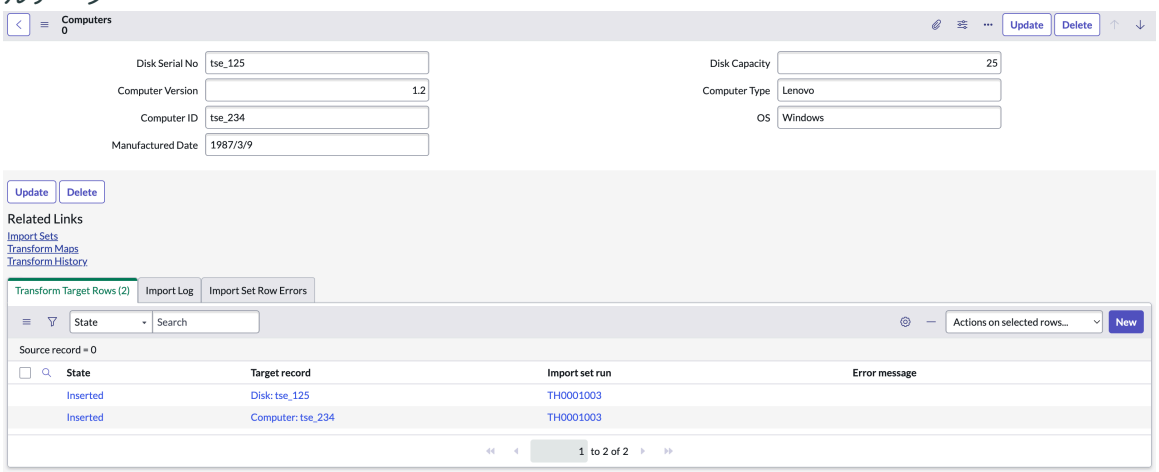
強力なインポートセットトランスフォーマーのターゲットレコード

強力なインポートセットトランスフォーマーを使用するインポートの場合は、インポートを詳細モードで実行することで、いっそう詳しい情報を表示できます。詳細モードでは、次のことができます。

- インポートログの詳細情報。詳細モードでは、変換操作がレコードにどのように適用されるかを示すの変換ログがインポートログに含まれます。
- 各行の変換ターゲット行に関する詳細情報。[インポートセット行] タブの各行について、行レコードをクリックすると、インポートセットテーブルの行が開きます。このビューでは、変換ターゲット行、インポートログ、およびインポートセット行のエラーを表示できます。

[ターゲット行を変換] タブには、各行のステータス、ターゲットレコード、インポートセットの実行、およびエラーメッセージが表示されます。最初の 3 つのフィールドはすべて関連レコードへのリンクであるため、情報の検索と追跡が容易になり、デバッグ能力が向上します。詳細モードを有効にする方法の詳細については、「強力なインポートセットトランスフォーマーを作成する」を参照してください。

コンピューターインポートセットテーブルの行の変換ターゲット行の詳細を示すサンプルデータ



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次の表に、画像内のフィールドの詳細を示します。

フィールド	説明
状況	変換ターゲット行のステータス。オプションは次のとおりです。 • 挿入済み • 更新済み • エラー
ターゲットレコード	行で更新されたレコード。
インポートセット実行	変換ターゲット行に関連付けられたインポートセットレコード。
エラーメッセージ	変換ターゲット行で発生したエラーを説明するテキスト。

インポートログ

[インポートログ] タブには、インポートセットのログが表示されます。各ログが作成された日時、そのレベル、ログメッセージ、およびログのソースが表示されます。詳細については、「インポートログ」を参照してください。

結合を使用したレコードの更新

結合オプションを使用すると、インポートデータを変換するときに既存のターゲットテーブルレコードを更新できます。

フィールドマップの結合オプションを使用すると、インポートセットレコードの変換時に、選択した [ターゲットフィールド] を使用するかどうかを指定できます。フィールドマップの [結合] チェックボックスが選択されている場合、インポートセット行が変換されると、インスタンスは [ターゲットフィールド] の値がインポートセット行の [ソースフィールド] と同じであるターゲットテーブルの既存のレコードをチェックします。詳しい手順については、「フィールドマップの作成」を参照してください。

ターゲットテーブルに一致する値を持つ既存のレコードが見つかった場合、そのレコードが更新されます。一致するレコードが見つからない場合は、ターゲットテーブルに新しいレコードが作成されます。

注: それらのフィールドが一意の値を持つ場合にのみ、結合するターゲットテーブルのフィールドを選択します。ターゲットテーブル内の複数のレコードが指定された結合オプションに一致する場合、ターゲットテーブル内の最初に一致したレコードのみが更新されます。

結合オプション

インポートセットのデータの結合に使用できる構成がいくつかあります。

結合なし

結合が定義されていない場合、インポートされたすべての行が新しいレコードとして扱われます。既存のレコードは更新されません。

単一フィールド結合

単一のフィールドで結合して既存のレコードを更新できます。

ターゲットテーブルレコードがステージングテーブルレコードと同じ値の結合フィールドに存在する場合、ターゲットテーブルレコードはインポートセットレコードの値を使用して更新されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

複数フィールド結合

複数のフィールドで結合して、既存のレコードを更新できます。

すべての結合フィールドにステージングテーブルレコードと同じ値を持つターゲットテーブルレコードが存在する場合、ターゲットテーブルレコードはステージングテーブルレコード値を使用して更新されます。複数のフィールドを結合するには、ターゲットテーブルとステージングテーブル間のすべての結合フィールド値が一致する必要があります。

条件付き結合

スクリプトを使用して、ステージングテーブルの行をターゲットレコードに結合するかどうかを決定できます。

ほとんどの条件付き結合スクリプトは、[sys_id] フィールドのフィールドマップの [ソーススクリプト] フィールドで定義されます。ステージングテーブルレコード値を使用してターゲットレコードを更新するには、スクリプトがターゲットテーブルレコードの sys_id を返す必要があります。

条件付き結合スクリプトの例

条件付き結合スクリプトの例を確認します。

更新のみ

一致が見つかったレコードのみを更新し、一致が見つからなかったレコードをスキップするには、結合フィールドを指定し、次のスクリプトを **[onBefore]** スクリプトとして変換マップに追加します。

```
if (action == 'insert')
  ignore = true;
```

ドット連結を使用した条件付き結合

インシデントデータをインポートするときにユーザーのメールアドレスを照合する場合などに、条件付き結合スクリプトでドット連結フィールドを使用できます。

この例では、このスクリプトは、インシデントターゲットテーブルの [sys_id] フィールドのフィールドマップの [ソーススクリプト] で定義されています。

```
var gr = new GlideRecord('incident');
gr.addQuery('caller_id.email', source.u_email); //check if the incident
 caller's email matches the import row email value
gr.query();

if(gr.next())
{
    answer = gr.sys_id; //if a match exists, return the sys_id of the
 matching Incident record
}
else
{
    answer= -1;
}
```

OR 条件による条件付き結合

条件付き結合スクリプトを使用して、複数のフィールド値に基づいてソースレコードとターゲットレコードを一致させることができます。すべての結合フィールドが一致する必要がある複数フィールドの結合とは異なり、1 つのフィールドのみが一致するようにスクリプトを指定できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この例では、このスクリプトは、ユーザーターゲットテーブルの [sys_id] フィールドのフィールドマップの [ソーススクリプト] で定義されています。

```
var gr = new GlideRecord('sys_user');
var qc = gr.addQuery('email', source.u_email); //first check if the
 user's email matches
qc.addOrCondition('user_name', source.u_name); //alternatively, check if
 the username matches
gr.query();

if(gr.next())
{
    answer = gr.sys_id; //if a match exists, return the sys_id of the
 matching User record
}
else
{
    answer = -1;
}
```

大文字と小文字を区別する結合フィールド値

インポートセットを異なるケースと一致する値で結合させるかどうかをコントロールできます。

フィールドマップの [結合で大文字と小文字を区別] フィールドを使用すると、大文字と小文字を区別してフィールド値を結合できます。

デフォルトでは、フィールドマップで [結合] としてマークされたフィールドは、既存のレコードの大文字と小文字を区別しないルックアップで使用されます。[結合で大文字と小文字を区別] チェックボックスをオンにすると、インスタンスは結合フィールド値を大文字と小文字で照合します。ターゲットテーブルレコードは、ターゲットレコードの値とインポートセットステージングレコードの値と大文字と小文字が同じ場合にのみ更新されます。それ以外の場合は、新しいレコードが作成されます。

空フィールドでの結合

インポートセットを値のないフィールドで結合させるかどうかをコントロールできます。

フィールドマップの [空フィールドの結合] フィールドを使用すると、値のないフィールドを結合できます。

デフォルトでは、フィールドマップで [結合] とマークされているフィールドにより、インポートセットのステージングレコードの値と一致するフィールド値を持つターゲットレコードがチェックされます。そのフィールドマップに対して [空フィールドの結合] が選択されている場合、ターゲットレコードとインポートセットのステージングレコード内の空の値は、結合の目的で一致としてカウントされます。

たとえば、ユーザー変換マップをメールフィールドで結合させます。[空フィールドの結合] オプションを選択すると、空のメールアドレスを含むソースレコードが、空のメールアドレスを含むターゲットレコードに結合します。

標準インポートセットテーブル

デフォルトでは、いくつかのインポートセットテーブルが利用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

通知

監視システムからのアラームとアラートなど、システム内の通知の外部インターフェイスを記述するための標準オブジェクト。このオブジェクトのデフォルトの変換マップは、インシデントレコードを作成または更新します。受信通知は、[UUID] フィールドに基づいてインシデントに結合されます。

imp_notification

フィールド	説明	データタイプ
uuid	この通知を一意に識別する普遍的に一意の識別番号または文字列。これは、対応するインシデントのデフォルト変換マップで結合値としてマークされ、インシデントの certification_id フィールドにマッピングされます。	文字 (40)
corrective_message	この通知で特定された問題に対処するために実行する修正手順またはフォローアップ手順を示す自由形式の文字列値。このフィールドは、デフォルトではマッピングされません。	文字 (40)
duration	この通知で報告された問題に影響を与える期間を表す文字列値。デフォルト設定では、duration フィールドはマッピングされません。時間の形式は呼び出し元プログラムによって異なり、使用するデフォルトマップで適切にマッピングする必要があります。	文字 (40)
expires_on	この通知で報告された問題が期限切れになる日時の値を表す文字列値。デフォルト設定では、expires_on フィールドはマッピングされません。時間の形式は呼び出し元プログラムによって異なり、使用するデフォルトマップで適切にマッピングする必要があります。	文字 (40)
message	この通知に関連する問題の性質を説明する文字列値。簡潔な説明にする必要があり、インシデントの short_description フィールドにマッピングされます。	文字 (80)
comments	この通知に関連する追加コメントを含む文字列値。値はインシデントの comments フィールドにマッピングされます。	文字 (4000)
category	この通知の性質を分類する文字列値。値はインシデントの category フィールドにマッピングされるため、有効な値の 1 つである必要があります。既存の値が存在しない場合、デフォルトの動作では新しいカテゴリが作成されます。	文字 (40)
assignment_group	この通知のアサイン先グループの文字列値。値はインシデントの assignment_group フィールドにマッピングされるため、有効な値の 1 つである必要があります。既存の値が存在しない場合、デフォルトの動作では、新しいアサイン先グループが作成され、結果のインシデントに設定されます。	文字 (40)
severity	この通知で報告されている問題の重大度を示す数値の文字列表現。このフィールドは、インシデントの severity フィールドにマッピングされます。デフォルトの数値とその意味は次のとおりです。 • 1 - 高 • 2：中 • 3 - 低	文字 (40)
state	この通知で報告されている問題のステータスを示す文字列。このフィールドは、インシデントの incident_state フィールドにマッピングされます。デフォルトの値は次のとおりです。	文字 (40)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

imp_notification (続く)

フィールド	説明	データタイプ
	• 新規 • 有効 • 解決済み • クローズ済み	
ソース	この通知の問題に関連する問題のソースまたは構成アイテムを示す文字列値 (IP アドレス、ホスト名などの一意の識別子)。インシデントの cmdb_ci フィールドにマッピングされます。	文字 (40)
timestamp	この通知で報告された問題の開始を示す日時値を表す文字列値。デフォルト設定では、timestamp フィールドはマッピングされません。時間の形式は呼び出し元プログラムによって異なり、使用するデフォルトマップで適切にマッピングする必要があります。	文字 (40)
type	この通知に関連する問題のタイプを分類する文字列値。デフォルト設定では、このフィールドはインシデントのフィールドにマッピングされません。この通知メッセージを使用する統合では、このフィールドを使用してソースを識別し、追加のスクリプトをトリガーできます。	文字 (40)

コンピューター

システム内のコンピューターの外部インターフェイスを記述するための標準オブジェクト。デフォルトの変換マップは、operating_system フィールドの値に基づいて、コンピューター (cmdb_ci_computer) またはサーバー (cmdb_ci_server、cmdb_ci_win_server、cmdb_aix_server など) を作成/更新します。受信コンピューターは、serial_number フィールドに基づいて結合されます。さらに、マップの変換スクリプトは、入力された operating_system 値に基づいて、コンピューター (cmdb_ci_computer) のさまざまな拡張機能にマッピングされます。

- UNIX サーバー (cmdb_ci_unix_server)
  - AIX
  - HP/UX
  - Solaris
  - AIX
- Windows サーバー (cmdb_ci_win_server)
  - Windows 2000 Server
  - Windows 2003 Server
  - Windows NT 4.0
- サーバー (cmdb_ci_server)

  「Linux」という単語を含むすべてのオペレーティングシステム。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

imp_computer

フィールド	説明	データタイプ
serial_number	このコンピューターの一意の識別子。これは、対応するコンピューターのデフォルトの変換マップで結合値としてマークされ、コンピューター (cmdb_ci_computer) の serial_number フィールドにマッピングされます。	文字 (40)
cpu_count	このコンピューターに搭載されている CPU の数。これは、コンピューター (cmdb_ci_computer) テーブルの cpu_count フィールドにマッピングされます。	文字 (40)
cpu_speed	CPU のクロック速度 (MHz)。このフィールドは、コンピューター (cmdb_ci_computer) の cpu_speed フィールドにマッピングされます。	文字 (40)
cpu_type	CPU のタイプを説明する自由形式のテキスト。値の例は、「GenuineIntel」、「IBM」、または「Pentium 4」です。このフィールドは、コンピューター (cmdb_ci_computer) の cpu_type フィールドにマッピングされます。	文字 (40)
disk_space	コンピューターで利用可能な合計ディスクスペースを表す数値 (GB)。このフィールドは、コンピューター (cmdb_ci_computer) の disk_space フィールドにマッピングされます。	文字 (40)
manufacturer	コンピューターのメーカーの文字列名。このフィールドは、会社 (core_company) への参照であるコンピューター (cmdb_ci_computer) の manufacturer フィールドにマッピングされます。	文字 (40)
model_id	コンピューターのモデルの文字列名。このフィールドは、モデル名 (cmdb_model) への参照であるコンピューター (cmdb_ci_computer) の model_id フィールドにマッピングされます。	文字 (40)
name	コンピューターの名前を表す文字列値 (通常はホスト名または IP/MAC アドレス)。コンピューター (cmdb_ci_computer) の name フィールドにマッピングされます	文字 (40)
operating_system	コンピューターで実行されているメインのオペレーティングシステムの文字列値。コンピューター (cmdb_ci_computer) の os フィールドにマッピングされます。デフォルトの値は次のとおりです。 • AIX • GNU/Linux • HP/UX • Linux Fedora • Linux Red Hat • Linux SuSE • macOS OS 10 (OS/X) • macOS OS 8 • macOS OS 9 • macOS OS/X	文字 (40)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

imp_computer (続く)

フィールド	説明	データタイプ
	• OS/400 • Solaris • SunOS • Windows • Windows 2000 • Windows 2000 Advanced Server • Windows 2000 Datacenter Server • Windows 2000 Professional • Windows 2000 Server • Windows 2003 Datacenter • Windows 2003 Enterprise • Windows 2003 Standard • Windows 2003 Web • Windows 95 • Windows 98 • Windows ME • Windows NT 4.0 • Windows XP • Windows XP Home • Windows XP Professional • Windows 2000 Server • Windows 2003 Enterprise	
ram	このコンピューターに搭載されている合計メモリ数の数値 (MB)。この値は、コンピューター (cmdb_ci_computer) の ram フィールドにマッピングされます。	文字 (40)

ユーザー

システム内のユーザーの外部インターフェイスを記述するための標準オブジェクト。デフォルトの変換マップスクリプトは、Web サービスの user_id フィールド値が指定されていない場合、user_name フィールド値を first_name.last_name に設定します。指定されている場合、user_id 値はユーザー (sys_user) テーブルの user_name フィールドに直接マッピングされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

imp_user

フィールド	説明	データタイプ
email	ユーザーのメールアドレスを含む文字列値。この値は、ユーザー (sys_user) の email フィールドにマッピングされ、変換の結合値として設定されます。	文字 (40)
department	ユーザーが所属する部門。このフィールドは、部門 (cmn_department) テーブルへの参照であるユーザー (sys_user) の department フィールドにマッピングされます。	文字 (40)
first_name	ユーザー (sys_user) テーブルの first_name フィールドにマッピングされるユーザーの名。	文字 (40)
last_name	ユーザー (sys_user) テーブルの last_name フィールドにマッピングされるユーザーの姓。	文字 (40)
location	場所 (cmn_location) への参照フィールドであるユーザー (sys_user) テーブルの location フィールドにマッピングされる、ユーザーがいる場所	文字 (40)
phone	ユーザー (sys_user) テーブルの phone (勤務先電話) フィールドにマッピングされるユーザーの電話番号。	文字 (40)
user_id	これは、ユーザー (sys_user) テーブルの user_name (ユーザー ID) フィールドにマッピングされるユーザー ID で、通常はログイン名です。	文字 (40)

ロケーション

システム内の場所の外部インターフェイスを記述するための標準オブジェクト。Web サービスは、場所 (cmn_location) テーブルのレコードを作成または変更します。

imp_location

フィールド	説明	データタイプ
name	場所の名前 (「本社」、「営業所」など)。このフィールドは、場所 (cmn_location) の name フィールドにマッピングされ、既存の場所を検索するための結合の一部です。	文字 (40)
street	場所の番地 (「1234 ServiceNow 通り」など)。このフィールドは、場所 (cmn_location) の street フィールドにマッピングされ、既存の場所を検索するための結合の一部です。	文字 (40)
city	場所の都市 (「サンディエゴ」、「マドリード」など)。このフィールドは、場所 (cmn_location) の city フィールドにマッピングされ、既存の場所を検索するための結合の一部です。	文字 (40)
state	場所の州 (「カリフォルニア」、「コネチカット」など) このフィールドは、場所 (cmn_location) の city フィールドにマッピングされ、既存の場所を検索するための結合の一部です。	文字 (40)
zip	場所の郵便番号 (「92130」、「10001」など) このフィールドは、場所 (cmn_location) の zip フィールドにマッピングされ、既存の場所を検索するための結合の一部です。	文字 (40)
country	場所の国 (「米国」、「英国」など) このフィールドは、場所 (cmn_location) の country フィールドにマッピングされます。	文字 (40)

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インポートセット最大行サイズ

インポートセットを使用してインポートされた行は、最大行サイズを超えてはなりません。

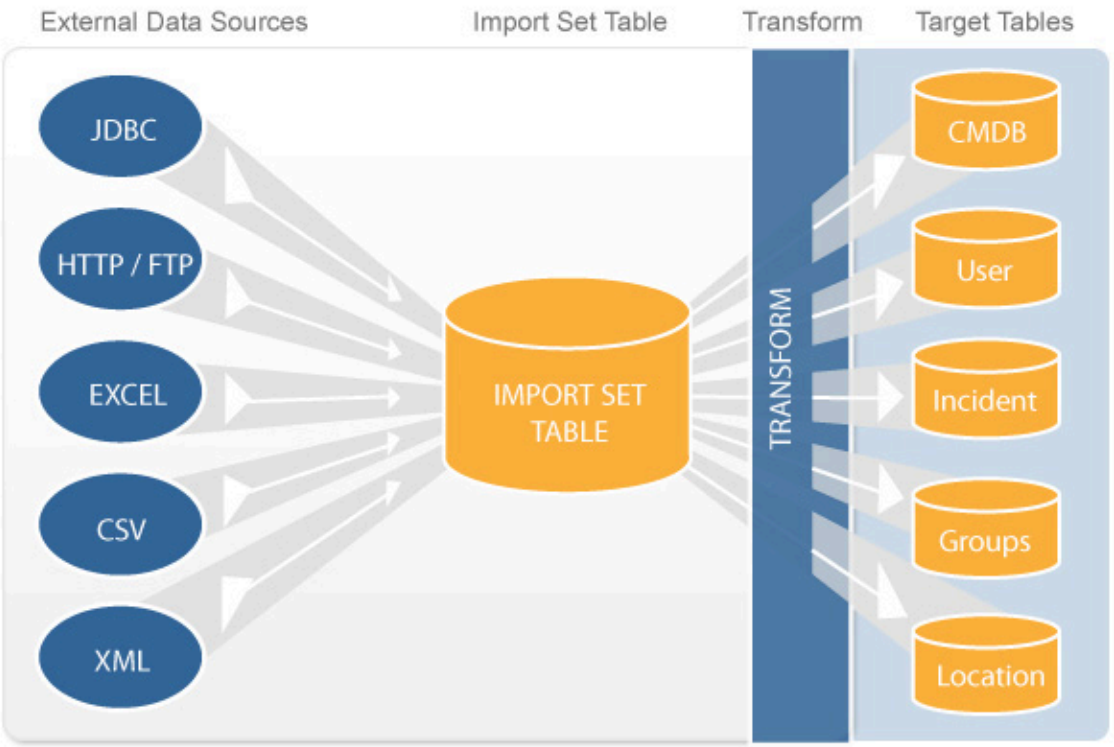
データベース内の単一の行には 8126 バイトを超えるデータを含めることはできません。各行のサイズは、すべてのフィールドのコンテンツ量とテキストフィールドの文字セットによって決まります。たとえば、フランス語の文字セットを使用する、それぞれ 1000 文字を含む 10 個のテキストフィールドがある行は、15360 バイトを使用します。

単一の行に最大サイズを超えるデータをインポートしようとすると、インポートでその行がスキップされます。この理由でスキップされた行はインポートログに一覧表示されます。

インポートセットを使用したデータのインポート

データをインポートするには、データソースと変換マップを定義し、インポートを実行またはスケジュールします。

データのインポート：データフロー



新しいデータソースの作成

データソースレコードを作成して、インポートセットがインポートするデータを定義します。

作成するデータソースのタイプに応じて、次のトピックの手順を参照してください。

ファイルタイプのデータソースを作成する

[ファイル] タイプのデータソースレコードを作成して、インポートセットがインポートするデータを定義します。

始める前に

必要なロール：import_admin

このタスクについて

詳細については、「ファイルタイプのデータソース」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポートセットテーブル名	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。
タイプ	ファイル。
フォーマット	「Strict Open XML ドキュメント」として保存されていない限り、デフォルトの XML ベースのファイル形式 (.xlsx) のみがサポートされます。
Zip 圧縮	インポートファイルが圧縮されている場合に選択されます。
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィール

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ= false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。
ファイル取得手法	このファイルの取得手法。
ファイルパス	インポートするファイルへのパス。 `${system.property.name}` 形式を使用して、このフィールドにシステムプロパティ値を含めることができます。接続が確立されると、変数は指定されたプロパティの値に置き換えられます。 **注:** HTTP または HTTPS を使用して取得されたファイルの場合、システムプロパティ展開を使用するには *glide.ds.file.http.variable_replacement* プロパティが true である必要があります。 たとえば、ファイルパス値 `/countries.csv?key=${datasource.apikey}` を指定できます。接続が確立されると、*datasource.apikey* システムプロパティの値が *key* パラメーターの値として渡されます。 **注:** HTTP および HTTPS プロトコルの場合、ファイルパスは自動的に URL エンコードされます。これらのプロトコルのいずれかを使用する場合は、URL エンコードされたファイルパスを指定しないでください。
CSV 区切り文字	CSV ファイルの区切り文字。
解析スクリプト	単一行の入力を解析するために使用されるスクリプト。スクリプトを入力すると、スクリプトのオートコンプリートによって利用可能な選択肢が表示されます。詳細については、「ファイルタイプのデータソース」を参照してください。
シート番号	データをロードするための Excel シート番号。
ヘッダー行	列ラベルをロードするための Excel 行番号。
各行のパス	インポートセットテーブルで行となる JSON オブジェクトの選択に使用するパス式。JSON オブジェクトのパスは `//` にする必要があります。
配列を破棄	JSON アレイを値として破棄する場合に選択します。JSON アレイを値としてシリアル化する場合に選択解除します。
拡張ノード子	XML ノードまたは JSON オブジェクトの子要素を追加の列に変換する必要がある場合に選択します。親列の値を XML または JSON フラグメントにする必要がある場合に選択解除します。JSON の場合、このオプションを選択すると、オブジェクトのみが展開され、アレイは展開されないことに注意してください。ネストされたアレイのサポートについては、「JSON ファイルのインポート例」を参照してください。
単一列のデータ	単一列にデータを格納する場合に選択されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
各行のXPath	インポートテーブルの行となるノードを選択する XPath 式。選択したノードの子が行の列になります。
SCP認証手法	ユーザー名とパスワードを使用して認証するか、または公開キーを使用して認証するかを選択します。 注: データソースに対して公開キーと秘密キーのペアを使用して認証することはできません。代わりにユーザー名とパスワードでの認証を使用します。
サーバー	テーブルのインポート元のサーバーの名前。
ポート	指定されたサーバーへの接続に使用するポート。このフィールドは、ファイル取得方法として HTTP または HTTPS を選択した場合に表示されます。
ユーザー名	JDBC サーバーでの認証用のユーザー名。
パスワード	JDBC サーバーでの認証用のパスワード。
秘密キーファイル	従来の SCP 公開/秘密キーファイルを使用する場合のキーファイル。 注: ◦ データソースに対して公開キーと秘密キーのペアを使用して認証することはできません。代わりにユーザー名とパスワードでの認証を使用します。 ◦ この従来のオプションは使用しないでください。使用は可能ですが、サポートされていません。
システムキーストア	FTPS サーバーからの証明書を、保存されているすべての証明書と照合して検証する場合に選択します。この証明書は、インスタンスでサポートされている任意のタイプにできます。選択しない場合、インスタンスは Java デフォルト証明書を使用して FTPS サーバーを検証します。このフィールドは、[ファイル取得方法] の値が **FTPS**のデータソースでのみ使用できます。Auth TLS、Auth SSL、Implicit SSL、Implicit TLS などの、すべての FTPS ファイル取得方法がサポートされています。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
新しいデータソースの変換マップを定義し、インポートを実行します。

JDBC タイプのデータソースを作成する

[JDBC] タイプのデータソースレコードを作成して、インポートセットがインポートするデータを定義します。

始める前に
必要なロール：import_admin

このタスクについて
詳細については、「JDBC タイプのデータソース」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポートセットテーブル名	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。
タイプ	**JDBC**。
MID サーバーを使用	このデータソースへの接続に使用する MID サーバー。
形式	MySQL、Oracle、または SQLServer のいずれかの形式を選択します。
インスタンス名	SQL Server との動的ポート接続をサポートするために使用されます。接続性を確保するには、再起動するたびに新しいポート番号を動的に受け取る SQL Server のインスタンス名を指定します。このフィールドは、**SQLServer** がデータソース形式として選択されている場合にのみ表示されます。
データベース名	データベースインスタンスの名前。
データベースポート	データベースのポート番号。SQL Server で動的ポート接続を使用する場合は、このフィールドを空のままにしておきます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ= false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。
統合認証を使用	SQL Server 認証用に Windows MID サーバーサービス用に構成されたユーザーの ID を、JDBC 接続で使用できるようにする場合に選択します。その他の詳細については、「JDBC タイプのデータソース」を参照してください。
ユーザー名	JDBC サーバーでの認証用のユーザー名。
パスワード	JDBC サーバーでの認証用のパスワード。
サーバー	テーブルのインポート元のサーバーの名前。
クエリ	実行するクエリのタイプ：[テーブルからのすべての行] または [特定の **SQL]**。SQL ステートメントの実行を選択した場合は、[SQL ステートメント] フィールドが表示されます。
クエリタイムアウト	JDBC ドライバーがクエリ (SELECT) の完了を待機する秒数。ゼロ (0) はタイムアウトなしを意味します。タイムアウトになると、統合認証は、JDBC の結果がアクセス不可能であるとみなし、エラー状態にします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
接続タイムアウト	MID サーバー接続キャッシュプールが接続をクローズしてプールから削除するまでの秒数。ゼロ (0) はタイムアウトなしを意味します。
テーブル名	データのエクスポート元のテーブルの名前。
SQL ステートメント	データベースから目的のデータを抽出するための SQL ステートメント。
前回実行日時を使用	インポートの実行中にデータベースから取得するデータの量を制御します。選択を解除すると、指定したテーブルのすべての行が毎回インポートされます。これが 1 回限りのインポートである場合、またはターゲットテーブル内のすべてのデータが新規である場合は、この設定を使用することができます。選択すると、2 つの追加フィールドが表示され、インポートされるデータをデルタ値のみに制限する [日付と時刻] 値を選択できます。
前回実行日時	このフィールドの日時値は、以下で選択したデータベースフィールドから自動的に入力され、前回の実行からの最新の値を表します。この値は、取得するレコード数を、データソースの前回のランタイム以降に変更されたレコード数に制限する動的フィルターとして機能します。
前回実行データベースフィールド	次の実行でフィルターとして使用されるソーステーブルのフィールド名。この値は、ターゲットデータベースタイプによっては、大文字と小文字を区別する必要があります。
追加のデータベースパラメーター	このデータソースに対して生成された URL の最後に追加するオプションのパラメーター。セミコロンで区切られたパラメーターのリスト。このフィールドを表示するには、フォームの構成が必要になる場合があります。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
新しいデータソースの変換マップを定義し、インポートを実行します。

LDAP タイプのデータソースを作成する

[LDAP] タイプのデータソースレコードを作成して、インポートセットがインポートするデータを定義します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：import_admin

このタスクについて
詳細については、「LDAP タイプのデータソース」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポートセットテーブル名	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。
タイプ	**LDAP**。
LDAP ターゲット	LDAP OU 定義のリストから選択されたターゲット。
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ = false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
新しいデータソースの変換マップを定義し、インポートを実行します。

OIDC タイプのデータソースを作成する

[OIDC] タイプのデータソースレコードを作成して、インポートセットがインポートするデータを定義します。

始める前に
必要なロール：import_admin

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。

2. [新規] をクリックします。

3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポー	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
トセットテーブル名	
タイプ	**OIDC**。
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 ◦たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 ◦たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ= false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。
形式	デフォルトは **[--** なし **--]** であり、変更できません。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
新しいデータソースの変換マップを定義し、インポートを実行します。

REST (統合ハブ) タイプのデータソースを作成する

[REST (統合ハブ)] タイプのデータソースレコードを作成して、インポートセットが REST API からインポートする必要のあるデータを定義します。

始める前に
必要なロール：import_admin および action_designer

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポートセットテーブル名	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。
タイプ	**REST** (統合ハブ)。
フォーマット	次のいずれかの形式：カスタム (スクリプトによる解析)、JSON、または XML。
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ= false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
要求アクション	データを取得するために呼び出されるデータソース要求アクション。公開された要求アクションのみを選択できます。 下のダイアログボックスのリンクをクリックして、統合ハブ で新しいデータソース要求アクションを作成/構成します。要求アクションが 統合ハブで公開された後、それをデータソースレコードの要求アクションとして選択できます。詳細については、「アクションプロパティを定義する」を参照してください。
ページネーションのサポート	要求アクションのページネーションを有効にする場合に選択します。ページネーションを使用すると、すべてのレコードを一度に処理するのではなく、一度に指定した数のレコードを処理することで、処理のオーバーヘッドを削減できます。
制限	ページあたりの最大レコード数。たとえば、一度に 50 のレコードを処理するには、[制限] に 50 を入力します。
オフセット	ページネーションに使用された初期オフセット。オフセットは開始レコード番号です。たとえば、一度に 50 のレコードを処理するには、最初のレコードから開始して、[制限] に 50、[オフセット] に 0 を入力します。
解析スクリプト	単一行の入力を解析するために使用されるスクリプトを入力します。この関数では、次の 3 つのパラメーターを使用できます。 ◦ **line**：スクリプトによって解析される現在の行 ◦ **lineNumber**：応答ペイロード全体の現在の行番号 ◦ **result**：出力結果
各行のパス	インポートセットテーブルで行となる JSON オブジェクトの選択に使用するパス式。JSON オブジェクトのパスは // にする必要があります。
配列を破棄	JSON アレイを値として破棄する場合に選択します。JSON アレイを値としてシリアル化する場合に選択解除します。
拡張ノード子	XML ノードまたは JSON オブジェクトの子要素を追加の列に変換する必要がある場合に選択します。親列の値を XML または JSON フラグメントにする必要がある場合に選択解除します。JSON の場合、このオプションを選択すると、オブジェクトのみが展開され、アレイは展開されないことに注意してください。ネストされたアレイのサポートについては、「JSON ファイルのインポート例」を参照してください。
単一列のデータ	単一列にデータを格納する場合に選択されます。
各行の XPath	インポートテーブルの行となるノードを選択する XPath 式。選択したノードの子が行の列になります。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク

新しいデータソースの変換マップを定義し、インポートを実行します。

アクションプロパティを定義する

統合ハブ でデータソース要求アクションを作成して設定します。要求アクションが 統合ハブで公開された後、それをデータソースレコードの要求アクションとして選択できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：import_admin

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース]に移動します。
2. [新規] を選択します。
3. **[REST** (統合ハブ)] の [タイプ] を選択します。
4. [要求アクション] の下のリンクをクリックします。
5. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	要求アクションの名前。
アクセス可能	要求アクションにアクセスできるスコープ。
カテゴリ	要求アクションのカテゴリ。
保護	要求アクションが読み取り専用かどうかを指定します。
説明	要求アクションの説明。
アプリケーション	アプリケーションのスコープ。
インフロー注釈	[データソース要求アクション] ページの [アクション] タイトルの下に表示するテキスト。

6. [送信] をクリックします。
7. 次のフィールドを含む [データソース要求アクション] ページが表示されます。

フィールド	説明
制限	REST (統合ハブ) データソースレコードでユーザーが設定する制限。REST API がページネーションをサポートし、データソースレコードで [ページネーションのサポート] が選択されている場合は、この入力を REST ステップに提供する必要があります。
オフセット (OffSet)	REST (統合ハブ) データソースレコードでユーザーが設定したオフセット。REST API がページネーションをサポートし、データソースレコードで [ページネーションのサポート] が選択されている場合は、この入力を REST ステップに提供する必要があります。
前回成功したインポート時間	前回データが正常にインポートされた時間。1970 年 1 月 1 日 00:00:00 GMT からのミリ秒数を表す数値。データソースはこの値を入力します。REST API が時間に基づくクエリをサポートする場合は、この入力を REST ステップに指定する必要があります。
インポート開始時間	インポートが実際に開始された時刻。1970 年 1 月 1 日 00:00:00 GMT からのミリ秒数を表す数値。データソースはこの値を入力します。REST API が時間に基づくクエリをサポートする場合は、この入力を REST ステップに指定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. 必要に応じて、REST ステップを実行する前に、スクリプトステップを追加して、アクション入力を検証または変更したり、デフォルト値を設定したり、要求ペイロードをビルドしたりすることができます。
   a. [アクションアウトライン] から [データソース要求] を選択します。
   b. [処理スクリプトを有効化 **(Enable Processing Script)]** を選択します。
   c. [アクションアウトライン] から [スクリプトステップ] を選択します。
   d. 「スクリプトステップ」の説明に従って、スクリプトステップを設定します。
9. [アクションアウトライン] から **[REST** ステップ] を選択します。
10. 「REST ステップ」の説明に従って、REST　ステップを設定します。
11. 次のいずれか 1 つを選択します。
    - [プロパティ] をクリックして、[アクションプロパティ] ウィンドウに戻ります。
    - [テスト] をクリックして、公開する前に要求アクションをテストします。
    - [実行] をクリックして、要求アクションの実行履歴を表示します。
    - [保存] をクリックして要求アクションを保存します。
    - [公開] をクリックして要求アクションを公開し、使用できるようにします。

カスタム (スクリプトでロード) タイプのデータソースを作成する

[カスタム (スクリプトでロード)] タイプのデータソースレコードを作成して、インポートセットがインポートするデータを定義します。

始める前に
必要なロール：import_admin

このタスクについて
詳細については、「カスタム (スクリプトでロード) タイプのデータソース」を参照してください。

手順
1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポート	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
セットテーブル名	
タイプ	カスタム (スクリプトでロード)。
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 ◦ たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 ◦ たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ = false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。
並列ロードの有効化	並列データロードを使用するためのオプション。
並列ロードスクリプト	並列データロードに使用されるスクリプト。[並列ロードの有効化] が選択されている場合にのみ表示されます。詳細については、「カスタム (スクリプトでロード) タイプのデータソース」を参照してください。
データ	データのロードに使用されるスクリプト。詳細については、「カスタム (スクリプトでロード) タイプのデータソース」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ローダー	

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
新しいデータソースの変換マップを定義し、インポートを実行します。

[データソース] フィールド

[タイプ] フィールドの値に応じて、共通フィールドに加えて他のフィールドが [データソース] フォームに表示されます。

共通データソースフィールド

これらのフィールドはすべてのデータソースに共通です。

フィールド	説明
名前	このデータソースの一意の名前。
インポートセットテーブルラベル	使用するインポートセットステージングテーブルのラベル。
インポートセットテーブル名	Now Platform は、入力したラベルを使用して一意のテーブル名を作成します。これにより、既存のテーブルとの名前空間の衝突が防止されます。
タイプ	インポートするデータのタイプ： • リモートファイルから • **JDBC** データベースから • **LDAP** を使用する • **OIDC** を使用する • **REST** を使用して 統合ハブ からデータをインポートする • データストリームアクションから 統合ハブ を介して • カスタムスクリプトを使用する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
バッチインポートを使用	選択した場合、[データのロード] または **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしたときにデータのロードをバッチ処理する必要があることを指定します。
バッチサイズ	バッチの大きさを指定します。[バッチインポートを使用] フィールドが選択されている場合にのみ表示されます。 *glide.import_set_load_usebatch* および *glide.import_set_load_batch_size* プロパティは、これらのフィールドに影響します。プロパティとフィールドの優先順位は次のとおりです。プロパティが設定されている場合は、プロパティ値を使用します。そうでない場合は、フィールド値を使用します。どちらのプロパティも設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 • たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* = **200** の場合、フィールド値に関係なくバッチサイズとして 200 を使用します。 • たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* = **true** で *glide.import_set_load_batch_size* プロパティが設定されていない場合は、デフォルトのバッチサイズである 1000 を使用します。 • たとえば、 *glide.import_set_load_usebatch* プロパティが設定されておらず、[バッチインポートを使用] フィールド = **true** の場合、[バッチサイズ] フィールド値 (または [バッチサイズ] フィールド値が設定されていない場合はデフォルトの 1000) を使用します。 • たとえば、*glide.import_set_load_usebatch* プロパティ= false で、[バッチインポートを使用] フィールド = true の場合、プロパティが false に設定されているため、バッチインポートは使用しません。
アプリケーション	このレコードのアプリケーションスコープ。

ファイルタイプのデータソースフィールド

これらの追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が [ファイル] の場合に [データソース] フォームに表示されます。

フィールド	説明
フォーマット	「Strict Open XML ドキュメント」として保存されていない限り、デフォルトの XML ベースのファイル形式 (.xlsx) のみがサポートされます。
Zip 圧縮	インポートファイルが圧縮されている場合に選択されます。
ファイル取得手法	このファイルの取得手法。
ファイルパス	インポートするファイルへのパス。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	`${system.property.name}` 形式を使用して、このフィールドにシステムプロパティ値を含めることができます。接続が確立されると、変数は指定されたプロパティの値に置き換えられます。 **注:** HTTP または HTTPS を使用して取得されたファイルの場合、システムプロパティ展開を使用するには *glide.ds.file.http.variable_replacement* プロパティが true である必要があります。 たとえば、ファイルパス値 `/countries.csv?key=${datasource.apikey}` を指定できます。接続が確立されると、*datasource.apikey* システムプロパティの値が *key* パラメーターの値として渡されます。 **注:** HTTP および HTTPS プロトコルの場合、ファイルパスは自動的に URL エンコードされます。これらのプロトコルのいずれかを使用する場合は、URL エンコードされたファイルパスを指定しないでください。
CSV 区切り文字	CSV ファイルの区切り文字。
解析スクリプト	単一行の入力を解析するために使用されるスクリプト。スクリプトを入力すると、スクリプトのオートコンプリートによって利用可能な選択肢が表示されます。詳細については、「ファイルタイプのデータソース」を参照してください。
シート番号	データをロードするための Excel シート番号。
ヘッダー行	列ラベルをロードするための Excel 行番号。
各行のパス	インポートセットテーブルで行となる JSON オブジェクトの選択に使用するパス式。JSON オブジェクトのパスは // にする必要があります。
配列を破棄	JSON アレイを値として破棄する場合に選択します。JSON アレイを値としてシリアル化する場合に選択解除します。
拡張ノード子	XML ノードまたは JSON オブジェクトの子要素を追加の列に変換する必要がある場合に選択します。親列の値を XML または JSON フラグメントにする必要がある場合に選択解除します。JSON の場合、このオプションを選択すると、オブジェクトのみが展開され、アレイは展開されないことに注意してください。ネストされたアレイのサポートについては、「JSON ファイルのインポート例」を参照してください。
単一列のデータ	単一列にデータを格納する場合に選択されます。
各行の XPath	インポートテーブルの行となるノードを選択する XPath 式。選択したノードの子が行の列になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
SCP 認証手法	ユーザー名とパスワードを使用して認証するか、または公開キーを使用して認証するかを選択します。 **注:** データソースに対して公開キーと秘密キーのペアを使用して認証することはできません。代わりにユーザー名とパスワードでの認証を使用します。
サーバー	テーブルのインポート元のサーバーの名前。
ポート	指定されたサーバーへの接続に使用するポート。このフィールドは、ファイル取得方法として HTTP または HTTPS を選択した場合に表示されます。
ユーザー名	JDBC サーバーでの認証用のユーザー名。
パスワード	JDBC サーバーでの認証用のパスワード。
秘密キーファイル	従来の SCP 公開/秘密キーファイルを使用する場合のキーファイル。 **注:** • データソースに対して公開キーと秘密キーのペアを使用して認証することはできません。代わりにユーザー名とパスワードでの認証を使用します。 • この従来のオプションは使用しないでください。使用は可能ですが、サポートされていません。
システムキーストア	FTPS サーバーからの証明書を、保存されているすべての証明書と照合して検証する場合に選択します。この証明書は、インスタンスでサポートされている任意のタイプにできます。選択しない場合、インスタンスは Java デフォルト証明書を使用して FTPS サーバーを検証します。このフィールドは、[ファイル取得方法] の値が **FTPS**のデータソースでのみ使用できます。Auth TLS、Auth SSL、Implicit SSL、Implicit TLS などの、すべての FTPS ファイル取得方法がサポートされています。

JDBC タイプのデータソースフィールド

これらの追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が **[JDBC]** の場合に [データソース] フォームに表示されます。

フィールド	説明
MID サーバーを使用	このデータソースへの接続に使用する MID サーバー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
形式	次のいずれか形式：MySQL、Oracle、または SQLServer
インスタンス名	SQL Server との動的ポート接続をサポートするために使用されます。接続性を確保するには、再起動するたびに新しいポート番号を動的に受け取る SQL Server のインスタンス名を指定します。このフィールドは、**SQLServer** がデータソース形式として選択されている場合にのみ表示されます。
データベース名	データベースインスタンスの名前。
データベースポート	データベースのポート番号。SQL Server で動的ポート接続を使用する場合は、このフィールドを空のままにしておきます。
統合認証を使用	SQL Server 認証用に Windows MID サーバーサービス用に構成されたユーザーの ID を、JDBC 接続で使用できるようにする場合に選択します。その他の詳細については、「JDBC タイプのデータソース」を参照してください。
ユーザー名	JDBC サーバーでの認証用のユーザー名。
パスワード	JDBC サーバーでの認証用のパスワード。
サーバー	テーブルのインポート元のサーバーの名前。
クエリ	実行するクエリのタイプ：[テーブルからのすべての行] または [特定の **SQL**]。SQL ステートメントの実行を選択した場合は、[SQL ステートメント] フィールドが表示されます。
クエリタイムアウト	JDBC ドライバーがクエリ (SELECT) の完了を待機する秒数。ゼロ (0) はタイムアウトなしを意味します。タイムアウトになると、統合認証は、JDBC の結果がアクセス不可能であるとみなし、エラー状態にします。
接続タイムアウト	MID サーバー接続キャッシュプールが接続をクローズしてプールから削除するまでの秒数。ゼロ (0) はタイムアウトなしを意味します。
テーブル名	データのエクスポート元のテーブルの名前。
SQL ステートメント	データベースから目的のデータを抽出するための SQL ステートメント。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
前回実行日時を使用	インポートの実行中にデータベースから取得するデータの量を制御します。選択を解除すると、指定したテーブルのすべての行が毎回インポートされます。これが 1 回限りのインポートである場合、またはターゲットテーブル内のすべてのデータが新規である場合は、この設定を使用することができます。選択すると、2 つの追加フィールドが表示され、インポートされるデータをデルタ値のみに制限する [日付と時刻] 値を選択できます。
前回実行日時	このフィールドの日時値は、以下で選択したデータベースフィールドから自動的に入力され、前回の実行からの最新の値を表します。この値は、取得するレコード数を、データソースの前回のランタイム以降に変更されたレコード数に制限する動的フィルターとして機能します。
前回実行データベースフィールド	次の実行でフィルターとして使用されるソーステーブルのフィールド名。この値は、ターゲットデータベースタイプによっては、大文字と小文字を区別する必要があります。
追加のデータベースパラメーター	このデータソースに対して生成された URL の最後に追加するオプションのパラメーター。セミコロンで区切られたパラメーターのリスト。このフィールドを表示するには、フォームの構成が必要になる場合があります。

LDAP タイプのデータソースフィールド

この追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が **[LDAP]** の場合に [データソース] フォームに表示されます。

フィールド	説明
LDAP ターゲット	LDAP OU 定義のリストから選択されたターゲット。

OIDC タイプのデータソースフィールド

この追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が **[OIDC]** の場合に [データソース] フォームに表示されます。

フィールド	説明
形式	デフォルトは **[--** なし **--]** であり、変更できません。

REST (統合ハブ) タイプのデータソースフィールド

これらの追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が **[REST** (統合ハブ)] の場合に [データソース] フォームに表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
フォーマット	次のいずれかの形式：カスタム (スクリプトによる解析)、JSON、または XML。
要求アクション	データを取得するために呼び出されるデータソース要求アクション。公開された要求アクションのみを選択できます。 下のダイアログボックスのリンクをクリックして、統合ハブ で新しいデータソース要求アクションを作成/構成します。要求アクションが 統合ハブで公開された後、それをデータソースレコードの要求アクションとして選択できます。詳細については、「アクションプロパティを定義する」を参照してください。
ページネーションのサポート	要求アクションのページネーションを有効にする場合に選択します。ページネーションを使用すると、すべてのレコードを一度に処理するのではなく、一度に指定した数のレコードを処理することで、処理のオーバーヘッドを削減できます。
制限	ページあたりの最大レコード数。たとえば、一度に 50 のレコードを処理するには、[制限] に 50 を入力します。
オフセット	ページネーションに使用された初期オフセット。オフセットは開始レコード番号です。たとえば、一度に 50 のレコードを処理するには、最初のレコードから開始して、[制限] に 50、[オフセット] に 0 を入力します。
解析スクリプト	単一行の入力を解析するために使用されるスクリプト。スクリプトを入力すると、スクリプトのオートコンプリートによって利用可能な選択肢が表示されます。詳細については、「ファイルタイプのデータソース」を参照してください。
各行のパス	インポートセットテーブルで行となる JSON オブジェクトの選択に使用するパス式。JSON オブジェクトのパスは // にする必要があります。
配列を破棄	JSON アレイを値として破棄する場合に選択します。JSON アレイを値としてシリアル化する場合に選択解除します。
拡張ノード子	XML ノードまたは JSON オブジェクトの子要素を追加の列に変換する必要がある場合に選択します。親列の値を XML または JSON フラグメントにする必要がある場合に選択解除します。JSON の場合、このオプションを選択すると、オブジェクトのみが展開され、アレイは展開されないことに注意してください。ネストされたアレイのサポートについては、「JSON ファイルのインポート例」を参照してください。
単一列のデータ	単一列にデータを格納する場合に選択されます。
各行の XPath	インポートテーブルの行となるノードを選択する XPath 式。選択したノードの子が行の列になります。

データストリーム (統合ハブ) タイプのデータソースフィールド

これらの追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が [データストリーム (統合ハブ)] の場合に [データソース] フォームに表示されます。

フィールド	説明
タイプ	データストリーム (統合ハブ) タイプのデータソース。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
データストリームアクション	• 統合ハブ から既存の公開済みデータストリームアクションを使用する場合に選択します。 • 次のいずれかの理由がある場合に選択します。 ◦公開されたデータストリームアクションを選択する場合は、このボタンをクリックして、統合ハブ でデータストリームアクションを開きます。 ◦データストリームアクションを選択しない場合は、このボタンをクリックして、統合ハブ で新しいデータストリームアクションを作成して公開します。 注: データストリームアクションには本番環境用のサブスクリプションが必要です。
接続	データストリームアクションの接続エイリアスを指定します。デフォルトの親エイリアスを使用するか、その子のエイリアスを選択できます。利用可能な子エイリアスがメニューに一覧表示されます。 このフィールドは、データストリームアクションが接続エイリアスを使用するように設定されている場合にのみ使用できます。詳細については、「接続および資格情報エイリアスの作成」を参照してください。
単一列のデータ	単一列にデータを格納する場合に選択されます。
データストリームアクションの入力	データストリームアクションで定義された入力に基づいて、追加のフィールドが表示される場合があります。

カスタム (スクリプトでロード) タイプのデータソースフィールド

この追加フィールドは、[タイプ] フィールドの値が [カスタム (スクリプトでロード)] の場合に [データソース] フォームに表示されます。

フィールド	説明
データローダー	データのロードに使用されるスクリプト。詳細については、「カスタム (スクリプトでロード) タイプのデータソース」を参照してください。

変換マップを作成

本番テーブルへのすべてのインポート操作には、インポートセットに関連付けられた変換マップが少なくとも 1 つ必要です。

始める前に

必要なロール：import_transformer、import_admin、または admin

このタスクについて

変換マップは、インポートセットとターゲットテーブルの間のデータ関係を指定します。変換ごとに、新しい変換マップを作成するか、既存のマップを選択する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [変換マップを作成]に移動します。
2. フォームに入力します。

テーブル変換マップのフィールド

フィールド	説明
名前	変換マップを識別するための分かりやすいラベル。
ソーステーブル	生のインポートセットデータを含むインポートテーブル。インポートテーブルは、インポートセット行 `[sys_import_set_row]` テーブルを拡張するテーブルです。選択できるのは、現在選択しているアプリケーションスコープ内のテーブルのみです。
有効	変換マップを使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。
ビジネスルールを実行	ターゲットテーブルへのデータの変換挿入または更新中に、ビジネスルール、ワークフロー、承認エンジン、監査、フィールド正規化を実行するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、**false** の値で GlideRecord.setWorkflow() が実行されます。
必須項目を強制	ターゲットテーブルに必須フィールドを強制するかどうかを選択します。 ◦ [いいえ]：必須フィールドを強制しません。 ◦ [マップされたフィールドのみ **(Only Mapped Fields)]**：必須のマップされたフィールドのみを強制します。 ◦ [すべてのフィールド **(All Fields)]**：すべての必須フィールドを強制します。
空のフィールドをコピー	空のフィールド値をコピーし、既存のターゲットフィールド値を上書きするには、このチェックボックスをオンにします。
空の結合フィールドに新規レコードを作成	レコードを無視したり既存のレコードを上書きしたりするのではなく、すべての結合フィールドが空のときに新しいレコードを作成するには、このチェックボックスをオンにします。 レコード内のいずれかのフィールドで [空のフィールドの結合] が選択されている場合、レコードは結合されます。
アプリケーション	アプリケーションスコープ：グローバルまたはアプリケーションごと。
作成日時	変換マップの作成日 (自動入力)。
ターゲットテーブル	変換されたデータを挿入するテーブル。現在選択されているアプリケーションスコープまたは

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	グローバルスコープ内のテーブル、あるいは他のアプリケーションへの書き込みアクセスを許可するテーブルのみを選択できます。
順番	複数のマップが条件に適合する場合に変換マップを適用する順番。システムは、変換マップを最低から最高の順番で実行します。
参照用のセカンダリストレージの使用	セカンダリデータベースを使用して参照フィールドを検索するオプション。 多くの参照フィールドを含む大量のデータをインポートすると、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。セカンダリストレージを使用すると、一部の読み取りクエリをセカンダリデータベースにリダイレクトできるため、プライマリデータベースの負荷が軽減されます。 セカンダリストレージを使用する場合は、フィールドマップの [選択肢アクション] フィールドを [無視] または [拒否] に設定します。[作成] に [選択肢アクション] を設定すると、参照解決では新しく作成されたレコードがすぐに検出されないため、レコードの複数のコピーが作成される可能性があります。詳細については、「フィールドマップの作成」を参照してください。 セカンダリデータベースは、プライマリデータベースに比べて常に少し古くなります。すべて最新のデータがインポートに必要な場合は、セカンダリストレージを使用しないでください。 このフィールドは、セカンダリデータベースプール [com.glide.secondary_db_pools] プラグインがアクティブ化されていて、import_reference_resoultion セカンダリデータベースカテゴリが構成されて有効になっている場合にのみ表示されます。詳細については、「多数の参照フィールドを含む大規模なデータのインポート」を参照してください。
スクリプトの実行	ソーステーブルのフィールド値をターゲットテーブルに変換するスクリプトを定義するには、このチェックボックスをオンにします。
スクリプト	ソーステーブルのフィールド値をターゲットテーブルに変換する変換マップスクリプトです。システムは、フィールドマップに加えて変換マップスクリプトを実行します。

重要: 文字列 `NULL` は予約語です。インポートセット変換マップや、[名] フィールドまたは [姓] フィールドでは、フィールド値として NULL という用語を使用しないでください。予約語はすべて大文字の `NULL` です。`Null` や `null` などの値を持つフィールドは受け入れ可能です。`NULL` は、特定のフィールドをクリアするためにのみ使用する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

マッピングオプション

インポートの状況や、本番テーブルにロードする前にデータを変換する必要があるかどうかに応じて、さまざまな方法でフィールドをマッピングできます。

また、インポート操作では複数のマッピング方法を利用する必要があり、これらの方法は簡単に組み合わせて使用できます。

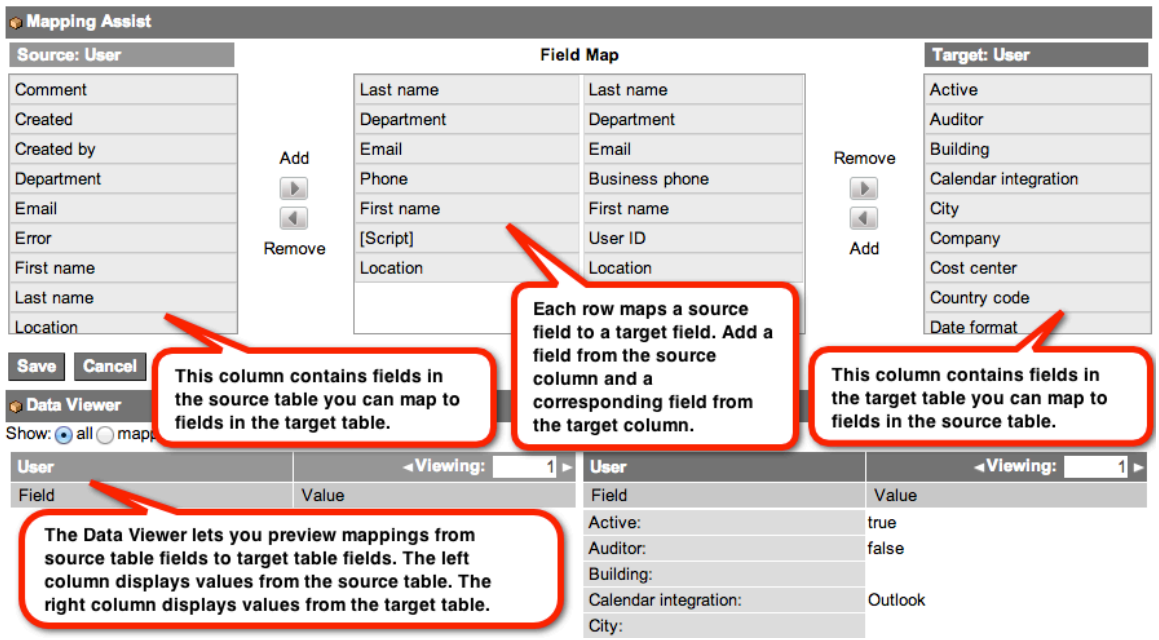
自動マッピングユーティリティ

最も簡単なマッピング方法では、インポートセットのすべてのフィールド名が、データの変換先の本番テーブルのフィールド名と一致します。この場合は、[テーブル変換マップ] フォームの関連リストで [一致フィールドの自動マップ] をクリックし、適切に一致することを確認します。フィールドの自動一致の方法に不一致がある場合は、マッピング支援ユーティリティを使用して修正します。すべてのフィールドが適切に一致したら、[変換] 関連リンクをクリックして宛先テーブルへのデータの変換を開始します。

マッピング支援ユーティリティ

マッピング支援ユーティリティは、インポートセットフィールドと本番テーブルフィールド間のマッピングを指定するための視覚的に直感的な環境を提供します。マッピング支援ユーティリティを使用すると、単一のソースフィールド (インポートセットテーブルのフィールド) を複数の宛先フィールド (本番テーブルのフィールド) にマッピングできます。

マッピング支援

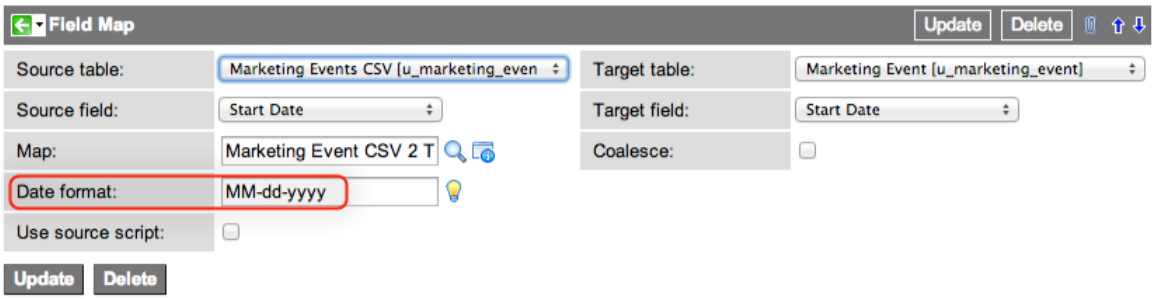


日付形式を変更する

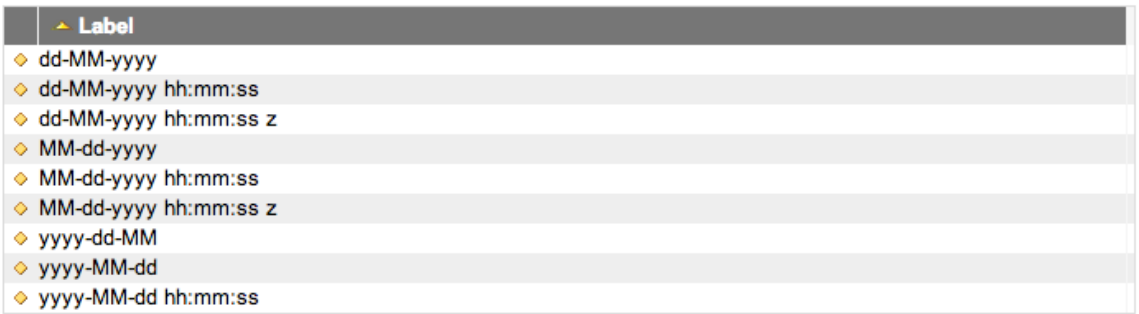
ソースフィールドの日付形式がターゲットフィールドの形式と一致しない場合は、日付形式マッピングを設定して、日付をある形式から別の形式に変換できます。たとえば、このマッピングは、CSV ソースファイルの日付形式で **[MM-dd-yyyy]** 形式を使用するよう指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールドマップの日付形式



フィールドマップの日付形式オプション



日付形式オプションは次のとおりです。

マッピングオプション

日付形式	説明
dd-MM-yyyy	日-月-年
dd-MM-yyyy hh:mm:ss	日-月-年 時-分-秒
dd-MM-yyyy hh:mm:ss z	日-月-年 時-分-秒のタイムゾーン
MM-dd-yyyy	月-日-年
MM-dd-yyyy hh:mm:ss	月-日-年 時-分-秒
MM-dd-yyyy hh:mm:ss z	月-日-年 時-分-秒のタイムゾーン
yyyy-dd-MM	年-日-月
yyyy-MM-dd	年-月-日
yyyy-MM-dd hh:mm:ss	年-月-日 時-分-秒

24 時間形式で表示するには、hh:mm:ss の代わりに **[HH:mm:ss]** を使用してカスタムの日付形式を指定します。

注:

24 時間形式から 12 時間形式に変換すると、12:00 ～ 23:59 の時刻が 00:00 ～ 11:59 の形式になります。

期間フィールドにマッピングする

ServiceNow 期間フィールドでは、期間の値をミリ秒単位でリストする特別なデータタイプを使用します。インポートデータを期間フィールドにマッピングするには、次のいずれかの方法を使用してソース値を期間に変換します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 開始日と終了日から期間を計算する
- 既存の期間値を ServiceNow 期間値に変換する

開始日と終了日から期間の値を計算する

インポートソースに開始日と終了日がある場合は、JavaScript で期間を計算できます。

1. [システムインポートセット] > [変換マップ]に移動します。
2. 期間の値を計算する変換マップを選択します。たとえば、インシデントテーブルにインポートする通知変換マップなどです。
3. [スクリプトの実行] チェックボックスをオンにします。
4. JavaScript を入力して、開始日と終了日を期間に変換します。サンプルスクリプトを参照します。
5. [更新] をクリックします。

このサンプルスクリプトは、source.u_start および source.u_end フィールドを target.duration フィールドの期間値に変換します。必要に応じて、ソースフィールドとターゲットフィールドに一致するようにフィールド名を変更します。

```
target.duration = gs.dateDiff(source.u_start.getDisplayValue(),
 source.u_end.getDisplayValue(), false);
```

期間値を **ServiceNow** の期間値に変換する

インポートソースに開始日と期間の値が既に含まれている場合は、既存の期間を ServiceNow 期間に変換できます。たとえば、期間を秒単位でリストする Excel データソースがあるとします。ServiceNow では、期間にミリ秒の値が必要です。

1. [システムインポートセット] > [変換マップ]に移動します。
2. 変換マップを選択します。

   たとえば、インシデントテーブルにインポートする通知変換マップなどです。
3. [スクリプトの実行] チェックボックスをオンにします。
4. 既存の期間値を ServiceNow 期間値に変換するには、JavaScript を入力します。サンプルスクリプトを参照します。
5. [更新] をクリックします。

このサンプルスクリプトは、秒単位の期間 (*source.u_duration* フィールドから) をミリ秒単位の期間 (*target.duration* フィールド) に変換します。必要に応じて、ソースフィールドとターゲットフィールドに一致するようにフィールド名を変更します。

```
//Transform the value in source.u_duration from seconds to milliseconds
target.duration.setDateNumericValue(source.u_duration * 1000);
```

このサンプルスクリプトは、既にミリ秒単位の期間 (*source.u_duration* フィールドから) を ServiceNow 期間 (*target.duration* フィールド) に変換します。必要に応じて、ソースフィールドとターゲットフィールドに一致するようにフィールド名を変更します。

```
//Transform the value in source.u_duration to ServiceNow format
target.duration.setDateNumericValue(source.u_duration);
```

スクリプトを使用したソース値の計算

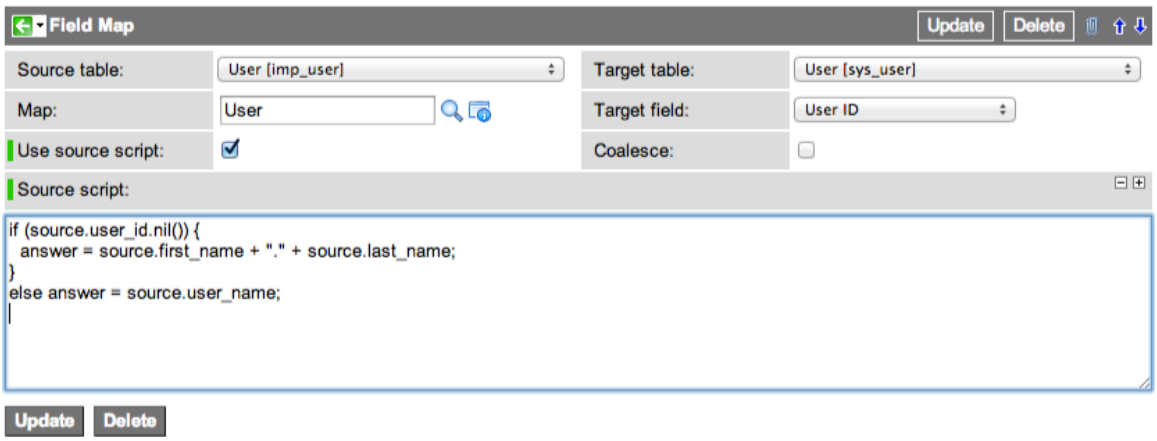
次の場合は、[ソースフィールド] の代わりにソーススクリプトを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ソース値がマッピングされたターゲット値の形式ではない。
- ターゲットフィールドにマッピングする前に値を検索する。
- ソース値を複数のフィールドから計算する必要がある。
- ターゲットフィールドで複合または計算された結合値を作成する必要がある。

たとえば、このソーススクリプトの例では、user_name フィールドがソースで空白になっている場合にその値を計算します。

フィールドマップソーススクリプト



ソーススクリプトは、計算された値がグローバル変数 `answer` に設定されることを想定しています。

バイナリまたは BLOB フィールドのマッピング

ServiceNow は、特別なプロセスを使用して、JDBC データソースからバイナリおよびバイナリラージオブジェクト (BLOB) データをインポートします。すべてのバイナリデータは、変換が行われる前に添付ファイル [sys_attachment] テーブルのレコードに自動的に変換されます。インポートセットテーブルは、実際のバイナリ値ではなく、添付ファイルレコードの sys_id 値のみをインポートテーブルフィールドに格納します。たとえば、JDBC データソースを使用して、各レコードのキー値をバイナリデータとして格納する CA サービスデスクシステムからデータをインポートするとします。サービスデスクキー値を ServiceNow テーブルにインポートすると、ServiceNow フィールドには、実際のバイナリデータではなく、添付ファイルレコード [sys_attachment] テーブル内の対応するバイナリデータへの sys_id 参照のみが含まれます。

変換マップで添付ファイルにアクセスするには、`onAfter` スクリプトで *`GlideRecord`* API を使用します。`target.sys_id` オブジェクトは、データがインポートセットテーブルに配置された後にのみ使用できるため、`onAfter` イベントで実行する必要があります。たとえば、結果の添付ファイルをターゲット変換レコードにマッピングするには、次のスクリプトを使用します。

```
var agr = new GlideRecord("sys_attachment");
  agr.addQuery("sys_id", source.u_blob_field);
  // the source field needs to be mapped to the source that is the BLOB
  agr.query();
   if(agr.next()) {
    agr.table_name = "cmdb_ci"; // the target table of the transform map
    agr.table_sys_id = target.sys_id; // the target record
    agr.content_type = source.u_contentype;
    // the content type string if available,
    // this becomes the mime encoding when clicking an attachment link
    agr.update(); // finally, move/re-attach the attachment to the target
 row }
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

`db_image` テーブルに直接マッピングする場合は、次の `onAfter` スクリプトを実行して画像を表示します。

```
var strTemp = source.u_file_name;
var fType = strTemp.substr(- 3);
var iCont = "" ;

 if(fType == 'jpg') {
  iCont = 'jpeg' ; }
 else {
  iCont = fType; }

 var agr = new GlideRecord("sys_attachment");
 agr.addQuery("sys_id", source.u_blob_field);
 agr.query();

 if(agr.next()) {
  agr.table_name = "ZZ_YYdb_image";
  agr.table_sys_id = target.sys_id;
  agr.content_type = 'image/' + iCont;
  agr.file_name = 'image';
  agr.update(); }
```

フィールドマップの作成

フィールドマップは、インポートセットテーブルのフィールドとターゲットテーブルのフィールドの関係を確立します。

始める前に
必要なロール：import_transformer、import_admin、または admin

このタスクについて
フィールドマップは、変換がターゲットテーブルに追加するソーステーブルの値を決定します。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [変換マップ]に移動します。
2. 変換マップを開きます。
3. [フィールドマップ] 関連リストで、[新規] をクリックします。
4. フォームに入力します。

フィールドマップのフィールド

フィールド	説明
マップ	このフィールドマッピングを使用する変換マップ (自動入力)。
ソーステーブル	生のインポートセットデータのロード元のテーブル (変換のソース)。変換マップから自動的に入力されます。
ソースフィールド	変換するソーステーブルのフィールド。ソーステーブルに生データのみが含まれている場合は、空白にすることができます。
選択肢アクション	インポートセットに利用可能な値以外の参照値または選択値が含まれている場合に実行するア

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	クションを指定します。ターゲットフィールドが選択リストまたは参照フィールドの場合に表示されます。 ◦ [作成]：参照テーブルに新しい選択肢またはレコードを作成します。 ◦ [無視]：ソーステーブルの新しい値を無視します。 ◦ [却下]：新しい値を含む行 (レコード) 全体をスキップし、次の行に進みます。
日付形式	ソースフィールドの日付形式。ターゲットフィールドが [日付] または [日付/時刻] フィールドの場合に表示されます。 注: 許可されている日付形式の詳細については、「グローバル日付/時刻フィールド形式」を参照してください。
ソーススクリプトを使用	ソースフィールドの代わりにスクリプトを使用するには、このチェックボックスをオンにします。
アプリケーション	アプリケーションスコープ：グローバルまたはアプリケーションごと。
ターゲットテーブル	変換されたデータが挿入されるテーブルです。現在選択されているアプリケーションスコープまたはグローバルスコープ内のテーブル、あるいは他のアプリケーションへの書き込みアクセスを許可するテーブルのみを選択できます。
ターゲットフィールド	ソースフィールドの値が格納されているターゲットテーブルのフィールド。
参照フィールド値の名前	ターゲットフィールドが参照フィールドである場合、変換マップには、受信ソース値を参照フィールドのソーステーブル内の既存のレコードと照合する方法が必要です。ほとんどのインポートでは 32 文字の sys_id 値が提供されないため、受信ソース値と一致する値を含む参照フィールドのソーステーブルから列を指定する必要があります。 一致するレコードがある場合、変換マップは一致するレコードの sys_id をターゲットフィールドに保存します。一致するレコードがない場合、変換マップは参照フィールドのテーブルに新しいレコードを作成し、新しいレコードの sys_id をターゲットフィールドに保存します。 このフィールドを空白のままにすると、変換マップは参照フィールドテーブルの表示値列から一致する値を探します。 たとえば、インシデントレコードをインポートしていて、受信データに [アサイン先] フィー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ルドのユーザー ID がリストされているとします。[参照値フィールド名]を空白のままにしておくと、変換マップはユーザーテーブルの表示値列：[名前] から一致する値を検索します。[参照値フィールド名] を user_name 列に設定することで、ユーザー ID 値を適切なユーザーレコードに一致させることができます。
結合	ターゲットフィールドを結合するように構成すると、インポートセットはフィールドを一意のキーとして扱います。選択すると、インポートセットアプリケーションは、ソース値を既存のレコードの値と照合しようとします。一致するものが見つかると、変換マップは新しいレコードを作成する代わりにレコードを更新します。false の場合、インポートセットアプリケーションは各変換に対して常に新しいレコードを作成します。複数のフィールドが結合に設定されている場合は、すべての結合値が既存のレコードと一致する必要があります。2 つのフィールドが結合に設定されていて、結合フィールドの一方に一致する値が見つかったものの、他方では見つからなかった場合、新しいレコードが挿入されます。 どの結合フィールドもインデックス化されていない場合は、ターゲットテーブルにインデックスを作成する必要があります。インデックスを作成すると、読み取りと書き込み操作のパフォーマンスを向上させることができます。1 つ以上の結合フィールドに既にインデックスがある場合は、追加のインデックスを作成する必要はありません。 ターゲットテーブルのすべてのフィールドに [結合] 値を設定した後に、[結合フィールドのインデックス化] 関連リンクを使用してインデックスを作成します。インデックスを作成する前に、ターゲットテーブルのすべてのフィールドに対して [結合] 値が正しく設定されていることを確認し、同じターゲットテーブルに不要なインデックスが作成されないようにします。 インデックスは結合する必要があります。これは、結合するように指定されたすべてのフィールドが同じインデックスに存在する必要があることを意味します。正しいセットアップは、結合されるすべてのフィールドを 1 つのインデックスに含めることです。
空フィールドの結合	空のソースフィールド値を空のターゲットフィールド値に一致させるには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、ユーザー変換マップをメールフィールドで結合させます。このオプションを選択すると、空のメール

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	アドレスを含むソースレコードが、空のメールアドレスを含むターゲットレコードに結合します。
結合で大文字と小文字を区別	大文字と小文字を区別する結合値で新しいレコードを作成する場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、[結合] としてマークされた値は、既存のレコードの大文字と小文字を区別しないルックアップで使用されます。大文字と小文字を区別しないレコードは、既存のレコードのみを更新し、新しいレコードは作成されません。

5. [保存] をクリックします。
6. フィールドマッピングごとに手順 3 ～ 5 を繰り返します。
7. [更新] をクリックします。

フィールドマップスクリプト変数

いくつかの事前定義された変数が [ソーススクリプト] フィールドで使用できます。

変数	タイプ	説明
source	GlideRecord	現在処理中のソーステーブルのレコード。
target	GlideRecord	現在処理中のターゲットテーブルのレコード。
answer	文字列	ターゲットレコードに設定するフィールド値。
map	GlideTransformMap	現在の変換マップレコードに関する読み取り専用の情報。
log	関数	現在のインポート実行のログオブジェクト。このオブジェクトを使用して、`log.info("<Message>")` または `log.warn("<Message>")` などのメッセージをログに記録します。このオブジェクトは、標準インポートセットのインポートログ、または必要に応じて Web サービスのインポートなどの他のログの場所に記録します。
action	文字列	現在のターゲット行を作成するか更新するかに応じて、値 [挿入] または [更新] が含まれます。 **注:** *action* 変数は、[結合] フィールドが **[false]** の場合にのみ使用できます。

インポートを実行

手動でインポートを実行して、データをすぐにインポートすることができます。

始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 変換マップで、[変更] をクリックします。

   インポートが完了すると、インポートされたレコードを含むターゲットテーブルに移動するためのリンクが表示されます。インポートの実行にかかる時間は、インポートするレコードの数によって異なります。非常に大規模なインポート操作 (数万件のレコード) の場合は、数時間かかる場合があります。

2. オプション: [インポートされたデータを表示 **(View the imported data)]** をクリックして、ロードされたインポートセットテーブルを表示します。
3. オプション: [変換マップを作成] をクリックして、インポートセットテーブルのデータをターゲットテーブルに変換するための新しい変換マップを作成します。
4. オプション: [インポート実行] をクリックして、ロードされたデータの既存の変換マップを実行します。

タスクの結果
この時点で次の 3 つの点に注意してください。

- スプレッドシートがインポートされ、データを保持する新しいテーブルが作成されます。
- そのテーブル内で、インポートされたレコードは独自の設定値で指定されます。
- 新しいモジュールは、新しいテーブルのシステムインポートセットアプリケーションで作成されます。

日付/時刻値のインポート

日付/時刻値を含むデータをインポートする際の考慮事項。

- 日付/時刻値を含むフィールドは、ターゲットテーブルの日付/時刻タイプのフィールドである必要があります。
- インポートを実行するユーザーは、インポートファイルの日付/時刻値のタイムゾーンと一致するように、タイムゾーンを (そのユーザーのユーザー [sys_user] レコードの [タイムゾーン] [time_zone] フィールドに) 設定する必要があります。

  ユーザーのタイムゾーンを設定するには、次の手順を実行します。

  1. バナーのユーザーのドロップダウンをクリックし、[プロファイル] を選択します。
  2. [タイムゾーン] フィールドの値をインポートファイルの日付/時刻値のタイムゾーンに変更し、[更新] をクリックします。

インポートセットを確認する

インポートセットが完了したら、完了したインポートを確認し、インポートセットテーブルをクリーンアップできます。進捗状況インジケーターによってエラーが報告されない場合でも、新しいインポートセットへのデータのインポート方法を確認してください。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [インポートされたデータを表示 **(View imported data)]** をクリックします。

   テーブルには、元のデータソースに含まれていないフィールドがいくつか表示されます。これらは、スクリプト化されたインポート操作を容易にするために使用できるシステム行です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. データを確認します。
3. 前のページに戻ります。

次のタスク
このインポートセットに関連付ける変換マップを作成します。

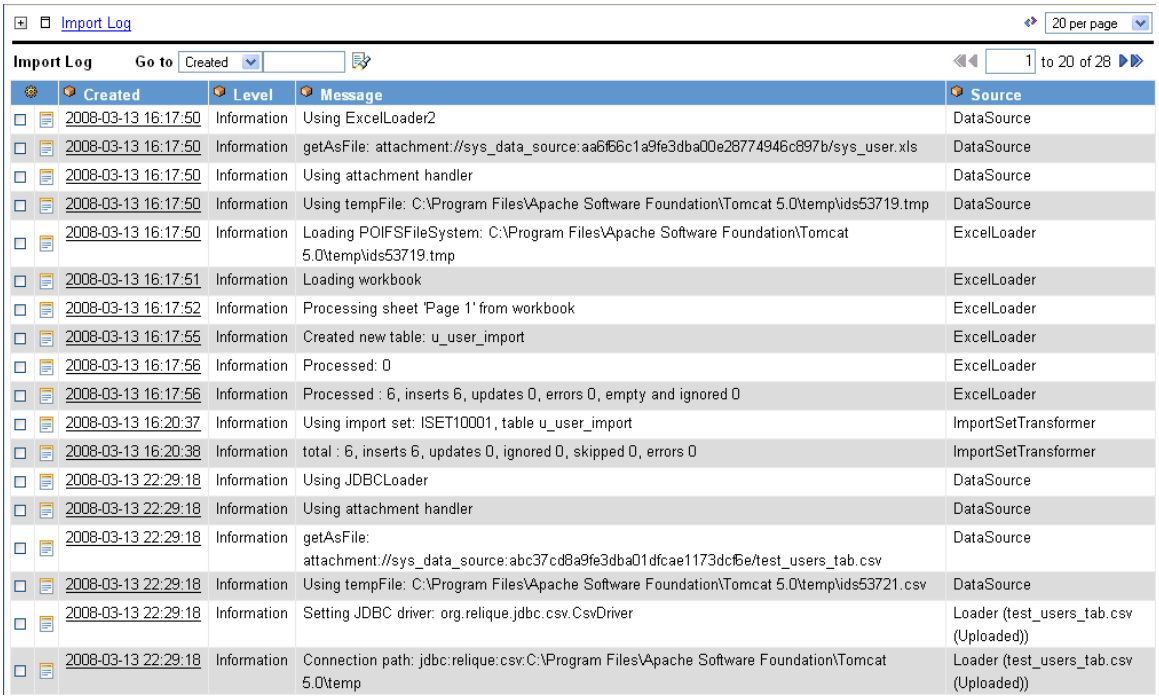
インポートログを表示する

インポートログでは、インポート操作中に発生した内部処理に関する情報を確認できます。

ログには、データソースからのインポートセットテーブルの初期化からターゲットテーブルへの変換までのインポート操作のすべてのステップで生成された情報が含まれています。log.info、log.warn、log.error ステートメントを使用して、変換中のログ出力をカスタマイズすることもできます。

インポートログを表示するには、[すべて] > [システムインポートセット] > [詳細] > [インポートログ]に移動します。

インポートログ


Import Log

20 per page

Import Log Go to Created 1 to 20 of 28

Created	Level	Message	Source
2008-03-13 16:17:50	Information	Using ExcelLoader2	DataSource
2008-03-13 16:17:50	Information	getAsFile: attachment://sys_data_source:aa6f66c1a9fe3dba00e28774946c897b/sys_user.xls	DataSource
2008-03-13 16:17:50	Information	Using attachment handler	DataSource
2008-03-13 16:17:50	Information	Using tempFile: C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\temp\ids53719.tmp	DataSource
2008-03-13 16:17:50	Information	Loading POIFSFileSystem: C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\temp\ids53719.tmp	ExcelLoader
2008-03-13 16:17:51	Information	Loading workbook	ExcelLoader
2008-03-13 16:17:52	Information	Processing sheet 'Page 1' from workbook	ExcelLoader
2008-03-13 16:17:55	Information	Created new table: u_user_import	ExcelLoader
2008-03-13 16:17:56	Information	Processed: 0	ExcelLoader
2008-03-13 16:17:56	Information	Processed : 6, inserts 6, updates 0, errors 0, empty and ignored 0	ExcelLoader
2008-03-13 16:20:37	Information	Using import set: ISET10001, table u_user_import	ImportSetTransformer
2008-03-13 16:20:38	Information	total : 6, inserts 6, updates 0, ignored 0, skipped 0, errors 0	ImportSetTransformer
2008-03-13 22:29:18	Information	Using JDBCLoader	DataSource
2008-03-13 22:29:18	Information	Using attachment handler	DataSource
2008-03-13 22:29:18	Information	getAsFile: attachment://sys_data_source:abc37cd8a9fe3dba01dfcae1173dcf6e/test_users_tab.csv	DataSource
2008-03-13 22:29:18	Information	Using tempFile: C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\temp\ids53721.csv	DataSource
2008-03-13 22:29:18	Information	Setting JDBC driver: org.relique.jdbc.csv.CsvDriver	Loader (test_users_tab.csv (Uploaded))
2008-03-13 22:29:18	Information	Connection path: jdbc:relique:csv:C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\temp	Loader (test_users_tab.csv (Uploaded))

インポート実行履歴

インポート履歴は、個々のインポート操作に関するステータス情報を提供します。

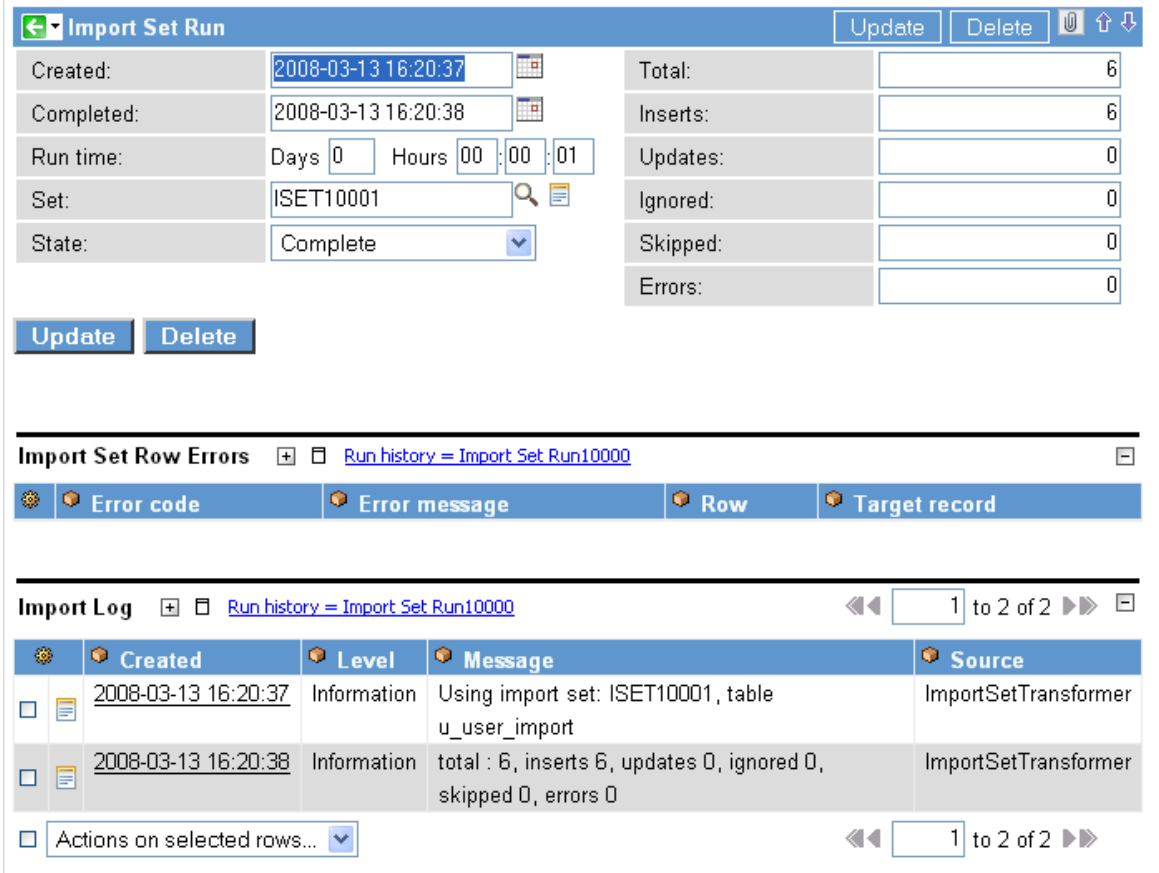
注: ここで説明する機能には、**admin** ロールが必要です。

インポート実行ユーティリティ

インポート実行ユーティリティは、既存の変換マップとインポートセットテーブルを使用してインポート操作を実行するために使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

履歴レコードをインポートする



エラーコードは変換に関連しています。すべてのエラーでエラーコードが生成されるわけではありません。エラーコードが存在する場合、それは [sys_import_set_row_error] テーブルのエラーコードフィールドにあります。

エラーコード

- **100** 参照フィールド値が却下されました。
- **200** 選択肢フィールド値が却下されました。
- **300** リスト参照フィールドが却下されました。
- **800** 無効なターゲットレコードまたはフィールド。
- **900** 変換スクリプトエラー。

データインポートのスケジュール

インポートをスケジュールして、特定のインポート操作が定期的に発生するように指定できるようにします。

始める前に
必要なロール：import_scheduler、import_admin、または admin

警告:

import_scheduler ロールがあると、アドミンレベルの権限でスクリプトを実行できるため、ユーザーにこのロールを付与することは、ユーザーに admin ロールを付与することと同じです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [スケジュール済みインポート] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[スケジュール設定済みデータインポート] フォーム

フィールド	説明
名前	予定されているデータインポートの名前。
データソース	インポートするデータを定義するデータソースレコード。 リモートデータソースを選択すると、インポートが開始される前にリモート接続を使用して更新されます。 データのインポートに使用される変換マップまたは強力な変換ツールが、選択したデータソースに接続されます。変換マップまたは強力な変換ツールを表示するには、データソースレコードを開き、[変換] タブと [強力な変換ツール] タブを表示します。
実行方法	インポートジョブで使用する認証情報を持つユーザーの名前。値を指定しない場合、インポートジョブはゲストユーザーとして実行されます。
アクティブ	スケジュール済みインポートをアクティブ化するためのオプション。
接続を使用	スケジュール済みインポートの接続エイリアスを指定するオプション。このオプションは接続エイリアスを使用するように構成されたデータソースで利用できます。
接続	スケジュール済みインポートに使用する接続。デフォルトの親エイリアスまたはその子エイリアスのいずれかを選択します。このフィールドは、[接続を使用] がオンになっている場合に使用できます。 選択した接続エイリアスの sys_id が Glide セッションに保存されます。これには、カスタムデータソースのスクリプトまたは任意の変換スクリプトで、コード `gs.getSession().getClientData('connection_credential_alias_override')` を使用してアクセスできます。
実行	インポートを実行する頻度。
日	インポートを実行する日。[実行] リストから [週次] または [月次] を選択した場合にのみ表示されます。
時刻	インポートを開始する時間。同時に複数のインポートをスケジュールしないでください。同時に複数のインポートを実行すると、パフォーマンスに悪影響を及ぼしたり、インスタンスが機能停止したりする可能性があります。
繰り返し間隔	インポートが繰り返されるまでに経過する必要がある期間。[実行] を [定期的] に設定した場合にのみ表示されます。
開始中	インポートを開始する日付 ([日時を選択] アイコン ( ) を使用して選択)。[実行] を [定期的] に設定した場合にのみ表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
親	このインポートセットが属し、このインポートを実行する必要がある親インポートセット。[実行] を [親の実行後] に設定した場合にのみ表示されます。
条件付き	インポートを実行する前に *true* と評価する必要がある条件を定義するスクリプトを指定するオプション。
条件	インポートを実行するかどうかを評価するスクリプト。[条件付き] を選択した場合にのみ表示されます。
同時インポート	同時インポートを実行するオプション。同時インポートでは、データを複数のインポートセットに分割し、それらのインポートセットを同時に実行することで、大きなデータセットの処理時間を短縮します。 **注:** 同時インポートでは、予測可能な順序でデータが変換されません。順序が重要な場合は、同時インポートを実行しないでください。 詳細については、「同時インポート」を参照してください。
パーティションメソッド	各データセットレコードをインポートセットに割り当てる方法は次のとおりです。 ◦ラウンドロビン：パーティションは自動的に設定されます。 20 のレコードと 4 つのインポートセットがあると仮定します。システムはレコード 1 をインポートセット 1 に、レコード 2 をインポートセット 2 に、レコード 3 をインポートセット 3 に、レコード 4 をインポートセット 4 に割り当てます。次に、レコード 5 をインポートセット 1 に、レコード 6 をインポートセット 2 に、レコード 7 をインポートセット 3 に、レコード 8 をインポートセット 4 に割り当てます。このパターンは、すべてのレコードがインポートセットに割り当てられるまで続きます。 割り当てが完了すると、インポートセット 1 にレコード 1、5、9、13、17 が含まれます。インポートセット 2 には、レコード 2、6、10、14、18 が含まれます。インポートセット 3 には、レコード 3、7、11、15、および 19 が含まれます。インポートセット 4 には、レコード 4、8、12、16、および 20 が含まれます。 ◦カスタムスクリプト：指定した [パーティションスクリプト] を使用してパーティションを設定します。 ◦カスタムサイズ：指定された [パーティションサイズ] にパーティションサイズを設定します。 システムが最初のパーティションを処理した後、他のパーティションの処理が完了していなくても、そのパーティションのデータを変換できます。
パーティションスクリプト	パーティションキーを返すために使用されるスクリプト。同じパーティションキーを持つデータセット行が同じインポートセットに移動するようにします。 [パーティションメソッド] を [カスタムスクリプト] に設定した場合にのみ表示されます。
パーティションサイズ	各パーティションのレコード数。 [カスタムサイズ] の [パーティションメソッド] を選択した場合にのみ表示されます。
インポート前	インポートする前に実行するスクリプトを指定するオプション。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
処理スクリプトの実行	
前処理スクリプト	データのインポート前に実行するスクリプト。[インポート前処理スクリプトの実行] を選択した場合にのみ表示されます。
インポート後処理スクリプトの実行	インポートした後にスクリプトを実行するオプション。
後処理スクリプト	インポートした後に実行するスクリプト。[インポート後処理スクリプトの実行] を選択した場合にのみ表示されます。 **注:** 同時インポートの場合、スクリプトは最後の *Import Set Transformer* ジョブが完了した後に実行されます。

4. [送信] をクリックします。
5. 時間がかかりすぎるインポートを停止するには、[システムインポートセット] > [詳細] > [進行状況]に移動します。
   a. キャンセルする必要がある Progress Worker を開きます。
   b. [ジョブのキャンセル] 関連リンクをクリックします。
6. 実行レコードリストを表示するには、[実行] をクリックします。
7. [実行] リストから、表示する実行レコードを選択します。

   実行レコードには以下が表示されます。

   - 実行数。
   - スケジュール済みインポート名。
   - インポートセット名。
   - 実行コンテキスト番号。
8. 実行に関する詳細を表示するには、表示する実行コンテキストレコードを選択します。

予定されているデータインポートスクリプティングオプション

複数の JavaScript オブジェクトは、予定されているデータインポートの [前処理スクリプト] と [後処理スクリプト] フィールドで使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データインポートスクリプティングオプション

オブジェクト	説明	例
cancel	インポートアクションを停止するには、このオブジェクトを *true* に設定します。	[前処理スクリプト] フィールドを使用して、インポートの条件を評価し、インポートプロセスをキャンセルするかどうかを決定します。インポートプロセスをキャンセルするには、次の呼び出しを使用します。 `cancel = true;`
import_set	新しいインポートセットの GlideRecord オブジェクトを取得します。この変数を使用すると、sys_import_set テーブルから次の列をクエリできます。 • 番号 • sys_id • state • table_name	インポートセットの情報を使用する場合は、sys_import_set 変数のプロパティの 1 つを指定できます。 `var x = import_set.number;`

data_source	スケジュール済みインポートに使用するデータソースの GlideRecord。	通常は、予定されているデータインポートレコードを使用してデータソースを定義します。このデータソースにアクセスするか、特定の条件でデータソースを変更する場合は、次を使用できます。
		`data_source.import_set_table_name = 'new_set_from_scheduler';`
		`data_source.update();`

予定されているデータインポートの実行を監視する

予定されているデータインポートの実行を監視して、スケジュール設定済みチェーンインポートの階層とフローを確認します。

始める前に

スケジュール設定済み同時実行データインポートを実行した後に問題の兆候がある場合は、実行コンテキストを使用して、問題を診断するために必要な詳細を確認します。
必要なロール：import_admin

このタスクについて

実行コンテキスト機能を使用すると、同時インポートセットの実行順序を識別できます。インポートセットレコードを開いてインポートログにアクセスすることもできます。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [実行コンテキスト]に移動します。
2. 実行コンテキストのリストで、レコードを 1 つ選択します。

テーブルリスト：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 親インポートのスケジュール設定済みデータインポートレコード。
- 同時インポートの各スケジュール済みインポートの実行レコード数。
- スケジュール済みインポートの一部であるすべてのインポートセットレコード。
- スケジュール済みインポートレコード名。
- 実行コンテキストが作成された日付。この日付は、インポートが実行された日付です。

3. 次のフィールドのいずれかを追加するには、カスタマイズされたリストアイコン ( ) をクリックします。
   - 作成者
   - インポートセットテーブル
   - 更新日時
   - タグ
   - 更新者
   - 更新
4. レコードを開くには、レコード名または番号をクリックします。
5. 実行レコードを表示するには、実行レコード番号をクリックします。

   実行レコードには以下が表示されます。

   - スケジュール済みインポート名。
   - インポートセットテーブル。
   - インポートセット番号。

   実行レコードからインポートセットレコードを開くことができます。

同時インポートセットを監視する

同時インポートセットを監視して、インポートセットおよびインポートセットジョブのステータスを確認し、インポートセットを再開または再処理し、変換履歴を表示します。

始める前に

同時データインポートを実行した後、同時インポートセットジョブを使用してステータスを確認します。
必要なロール：import_admin

このタスクについて

スケジュール設定済み同時インポートが実行されると、各同時インポートは同時インポートセットレコードを作成します。関連するすべてのインポートセット、同時インポートセットジョブ、および変換履歴がフォームビューに表示されます。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [同時インポートセットジョブ]に移動します。
2. ステータスを確認するスケジュール済みインポートを選択します。
3. 次のいずれかの関連リンクをクリックして、インポートセットの再処理または続行、インポートセットまたは同時インポートセットジョブのステータスの確認、変換履歴の表示、または実行レコードリストの表示を行います。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
再処理	別のスケジュール済みインポートを開始してレコードを再処理します。
続行	完了していないスケジュール済みインポートを再開します。
インポートセット	インポートセットのステータス。 状況 ◦ 処理待ち システムがインポートセットの処理を開始していない場合。 ◦ 実行中 システムがインポートセットを処理している場合。 ◦ 処理済み システムがインポートセットの処理を完了した場合。 ◦ エラー インポートセットの処理が失敗した場合。 インポートセットを選択すると、インポートセットのインポートセット実行とインポートセット行の処理の詳細が表示されます。
同時インポートセットのジョブ	同時インポートセットジョブのタイプとステータス： タイプ ◦ 正規 スケジュール済みインポートを初めて実行する場合。 ◦ 再処理中 スケジュール済みインポートを再実行する場合。 ◦ 再開中 エラーが発生したスケジュール済みインポートを再開する場合。 状況 ◦ 処理待ち システムがインポートセットの処理を開始していない場合。 ◦ 実行中 システムがインポートセットを処理している場合。 ◦ 完了 システムがインポートセットの処理を完了した場合。 ◦ エラー インポートセットの処理が失敗した場合。 インポートセットジョブを選択すると、インポートセットジョブのインポートセット実行とインポートセット行の処理の詳細が表示されます。
変換履歴	スケジュール済みインポートの変換履歴の統計情報を確認します。 インポートセット行エラー (エラーコードとメッセージを含む) とスケジュール済みインポートのインポートログを表示するには、開始時間を選択します。
実行	実行コンテキスト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	◦親インポートのスケジュール設定済みデータインポートレコード。 ◦同時インポートの各スケジュール済みインポートの実行レコード数。 ◦スケジュール済みインポートの一部であるインポートセットレコード。 ◦スケジュール済みインポートレコード名。 ◦実行コンテキストが作成された日付。

同時インポートセットジョブを監視する

同時インポートセットジョブのステータスを確認します。

始める前に

必要なロール：import_admin

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [同時インポートセットジョブ]に移動します。
2. 各親インポートセットジョブの [タイプ] と [ステータス] を確認します。

オプション	説明
タイプ	同時インポートセットジョブのタイプ： ◦正規 スケジュール済みインポートを初めて実行する場合 ◦再処理中 スケジュール済みインポートを再実行する場合 ◦再開中 エラーが発生したスケジュール済みインポートを再開する場合
状況	インポートセットジョブのステータス： ◦処理待ち インポート処理が開始されていない場合 ◦実行中 インポート処理が開始した時 ◦完了 インポート処理が終了した時 ◦エラー インポート処理が正常に終了しなかった場合

3. 親インポートセットジョブを選択して、その子インポートセットジョブのそれぞれの [タイプ] と [ステータス] を確認します。

CSV または Excel ファイルをインポートセットに直接投稿する

アドミニストレーターは、CSV ファイルまたは Excel ファイルをインスタンスに直接投稿できます。

始める前に

必要なロール: import_set_loader

このタスクについて

`sys_import.do` ターゲットを使用すると、*`sysparm_import_set_tablename`* パラメーターで指定されたインポートセットテーブルに CSV または Excel ファイルを動的にアップロードできます。既存のインポートセットテーブル名と一致する名前を指定する必要があります。インポートセットテーブルが存在しない場合は、手動インポートを実行して事前に作成しま

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

す。*sysparm_transform_after_load=true* パラメーターを指定すると、変換マップが存在する場合、CSV 変換がすぐに実行されます。

POST を使用して、次の URL にファイルをアップロードできます (プレースホルダーを目的の値に置き換えます)。

```
https://<instance>.service-now.com/sys_import.do?sysparm_import_set_table
name=<table_name>&sysparm_transform_after_load=<true>
```

重要: POST の本文には、ファイルがマルチパート添付ファイルとして含まれている必要があります。

CSV ファイルの投稿 - Perl および Java の例

Perl を使用して基本認証情報を含む CSV ファイルを投稿し、Java Apache HttpClient クラスを使用して基本認証情報を含む CSV ファイルを投稿する例。

詳細については、「CSV または Excel ファイルをインポートセットに直接投稿する」を参照してください。

Perl の例

```
# file: uploadafile.pl
# call me like this:
# uploadafile.pl
 --url="https://
instance.service-now.com/sys_import.do?sysparm_import_set_tablename=dloo_
test&sysparm_transform_after_load=true"
# --uploadfile=/Users/davidloo/Desktop/test_files/test_users.csv
#
# the "sysparm_transform_after_load=true" parameter instructs the import
 set to transform immediately after loading
#
use strict;
use LWP::UserAgent;
use HTTP::Request::Common;
use Getopt::Long;
use File::Basename;

my ( $o_url, $o_fqn );
GetOptions(
    "url=s"        => \$o_url,
    "uploadfile=s" => \$o_fqn,
);

# mandatory arguments: url
&usage unless ( $o_url && $o_fqn );

my $url   = $o_url;
my $fname = $o_fqn;

# put timeouts, proxy etc into the useragent if needed
my $ua  = LWP::UserAgent->new();

# setup basic authentication credentials
$ua->credentials(
  'demo.service-now.com:443',
  'Service-now',
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  'admin' => 'admin'
);

my $req = POST $url, Content_Type => 'form-data',
        Content      => [
                submit => 1,
                upfile =>  [ $fname ]
        ];
my $response = $ua->request($req);



if ($response->is_success()) {
    print "OK: ", $response->content;
} else {
    print $response->as_string;
}

exit;

sub usage {
        printf "usage: %s --url=%s --uploadfile=%s\\n",
                basename($0),'https://....','c:/data/test.csv';
        exit
}
```

Java の例

注: Apache HttpClient では、単一のトランザクションでインポートできるデータの量が制限される場合があります。この例は開始点としてのものであり、本番環境では使用しないでください。

```
HttpClient httpclient = new HttpClient();
PostMethod post = new
 PostMethod("https://
instance-name.service-now.com/sys_import.do?sysparm_import_set_tablename=
u_test_upload&sysparm_transform_after_load=true");

try {
  Credentials defaultcreds = new UsernamePasswordCredentials("admin",
 "admin");
  httpclient.getState().setCredentials(AuthScope.ANY, defaultcreds); //
 Prepare HTTP post
  httpclient.getParams().setAuthenticationPreemptive(true);

  File targetFile = new
 File("/Users/davidloo/Desktop/test_files/nodeinfo2736820198834983863.csv
");
  Part[] parts = { new FilePart(targetFile.getName(), targetFile) };

  post.setRequestEntity(new MultipartRequestEntity(parts,
 post.getParams()));

  int result = httpclient.executeMethod(post);

  // Display status code
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  System.out.println("Response status code: " + result);

  // Display response
  System.out.println("Response body: "+post.getResponseBodyAsString());
} catch(Exception e) {
  System.err.println(e.getMessage());
} finally {
  // Release current connection to the connection pool
  // once you are done
  post.releaseConnection();
}
```

インポートセットを削除する

インポートセットを削除して、スケジュールに基づいて、1 回のみ、またはオンデマンドでデータベースをクリーンアップします。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [インポートセットテーブル] > [クリーンアップスケジュール]に移動します。
2. フォームに入力します。

フィールド	説明
名前	デフォルトは [インポートセット削除ツール] です。必要に応じて、名前を変更できます。
アクティブ	スケジュールがアクティブかどうかを確認します。スケジュールがアクティブでない場合はオフにします。
アプリケーション	デフォルトは [グローバル] で、変更できません。
条件付き	インポートセット削除ツールが指定された条件を満たす必要があるかどうかを確認します。インポートセット削除ツールが満たす必要がある条件がない場合はオフにします。
実行	インポートセット削除ツールの頻度を、[日次]、[週次]、[月次]、[定期的]、**[1** 回]、または [オンデマンド] に指定します。
タイムゾーン	時刻を入力する必要があるスケジュール済みジョブタイプの場合は、関連するタイムゾーンを入力できます。タイムゾーンが選択されていない場合、ジョブは時刻を入力したユーザーのタイムゾーンで指定された時刻に実行されます。[システムタイムゾーンを使用] が選択されている場合、ジョブは、ジョブを実行するインスタンスのタイムゾーンで指定された時刻に実行されます。
時刻	インポートセット削除ツールを実行する時刻。
このスクリプ	削除を実行するスクリプト。デフォルトでは、7 日以上前に作成されたインポートセットとそれに関連するインポートセット行が削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
トを実行	
日	週次実行の場合は曜日、月次実行の場合は日付。
繰り返し間隔	繰り返し間隔の場合は、繰り返し間隔の日数と、最大 1 日 3 回までの回数。
開始中	定期的な実行または 1 回限りの実行の開始日時。

3. [更新] をクリックしてスケジュールを更新するか、[今すぐ実行] をクリックしてインポートセット削除ツールをすぐに実行します。

インポートセットテーブルを削除する

インポートセットテーブル、関連する変換マップ、またはデータのみ (テーブル構造を保持) を削除し、データベースをクリーンアップします。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. [すべて] > [システムインポートセット] > [インポートセットテーブル] > [クリーンアップ]に移動します。
2. 削除するテーブルを [削除で利用可能なテーブル] から [これらのテーブルを削除] に移動します。テーブルを削除すると、すべてのレコードが削除され、テーブルが削除されます。
3. インポートセットテーブルを削除するときに、関連する変換マップの削除を含めるには、[関連する変換マップの削除] チェックボックスをオンにします。
すべてのレコードと関連するすべての変換マップが削除されます。
4. 選択したインポートセットテーブルからのみデータを削除し、テーブル構造を保持するには、[データのみを削除 (テーブル構造を保持)] チェックボックスをオンにします。
すべてのレコードが削除されますが、テーブルはそのまま残ります。
5. [クリーンアップ] をクリックします。

インポートセットのプロパティ

複数のプロパティがインポートセットの動作をコントロールします。

インポートセットのプロパティ

glide.import_set.preserve.leading.spaces

インポートプロセスが Excel データセルの先頭のスペースを保持するかどうかを指定します。false の場合、インポートプロセスは Excel データセルの改行なしの先頭のスペースを削除します。true の場合、インポートプロセスは改行なしの先頭のスペースを保持します。

> **注:** インポートプロセスでは、Excel データのセルから末尾のスペースが常に削除されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false
- 場所：システムプロパティを追加する

glide.import_set_row.dynamically_add_fields

インポートセットによるステージングテーブルへの新しい列の追加を可能にするか (true)、しないか (false) を指定します。大量のインポートセットを含むインスタンスは、インスタンスがステージングテーブルのすべての行を変更する必要があるため、インポートによって列が追加されたときに応答しなくなることがあります。場合によっては、データベースの alter テーブルアクションによって停止します。このプロパティを false に設定すると、インポートセットがステージングテーブルに列を追加できなくなり、ログメッセージが生成されなくなります。ワークアラウンドとして、アドミニストレーターは新しい辞書エントリを作成してインポートセットを再度インポートすることで、ステージングテーブルに列を手動で追加できます。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：true
- 場所：システムプロパティの追加

com.glide.loader.verify_target_field_size

インポートセットフィールドの動的なサイズ変更を有効にします。デフォルト設定の **false** を使用すると、最大 20 レコードのソースデータをサンプリングして、インポートセットフィールドの長さが決定されます。サンプリングされたすべてのレコードでフィールドが空の場合、デフォルトの長さ 40 が使用されます。ロードされたデータがインポートセットテーブルフィールドの長さを超えている場合、超えた部分は切り捨てられます。このプロパティを **true** に設定すると、インポートセットフィールドでは、データ長に合うよう列サイズを 100 増やせるようになります。たとえば、受信ソースデータの長さが 60 の場合、列の長さは 160 に設定されます。これはデータソースにのみ関連しています。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false
- 場所：システムプロパティの追加

glide.ds.file.http.variable_replacement

HTTP または HTTPS を使用して取得されるファイルタイプのデータソースのシステムプロパティ拡張を有効にします。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：true
- 場所：システムプロパティの追加
- その他の情報： [データソース] フィールド

glide.scheduled_import.stop_on_error

親スケジュール済みインポートでエラーが生成されたときにインポートプロセスを停止するには、*true* に設定します。この動作は、あるインポートセットが別のインポートセットの結果に依存する場合に便利です。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false
- 場所：システムプロパティの追加

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

glide.impex.transformer.empty_value_nil

インポートセットステージングテーブルからの変換中に空の文字列値をどのように処理するかをコントロールします。空の文字列を保持するには、このプロパティを *true* に設定します。空の文字列を文字列 `NULL` に変換するには、このプロパティを *false* に設定します。

> **注:** 空の文字列は、このプロパティ値に関係なく、常に null 値としてデータベースに格納されます。

このプロパティは、変換中に onBefore スクリプトを実行するときに使用できます。このプロパティを *true* に設定すると、`hasValue()` または `nil()` 関数を使用して null 値をチェックできます。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false
- 場所：システムプロパティの追加

com.glide.loader.max_scan_rows

データをインポートするときにステージングテーブルフィールドを自動的に生成するためにサンプリングされるソースデータの行数をコントロールします。このプロパティは、JDBC、XLS、CSV、および XML のインポートに適用されますが、JSON および XSLX のインポートには適用されません。

- タイプ：整数
- デフォルト値：20
- 場所：システムプロパティの追加

同時インポートセットのプロパティ

glide.scheduled_import.max.concurrent.import_sets

1 回の同時インポートのインポートセットの最大数。

- タイプ：整数
- デフォルト値：10
- 場所：システムプロパティの追加

com.glide.concurrent_import_set_insert_mutex_spin_wait

ロックが取得された場合のミューテックスの待機時間 (ミリ秒)。

- タイプ：整数
- デフォルト値：1000
- 場所：システムプロパティの追加

com.glide.concurrent_import_set_insert_mutex_expiration

ミューテックスの有効期限 (ミリ秒)。

- タイプ：整数
- デフォルト値: 300000
- 場所：システムプロパティの追加

com.glide.concurrent_import_set_mutex_fast_lock

高速ロック (true) または SQL ベースの低速ロック (false) を指定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false
- 場所：システムプロパティの追加

Web サービスインポートセットのプロパティ

com.glide.ws_import_set.column_resize

true の場合、Web サービスインポートセットのインポートステージングテーブルで列の動的なサイズ変更を有効にします。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false
- 場所：システムプロパティの追加

com.glide.ws_import_set.column_resize.max_row_count

Web サービスインポートセットで列のサイズを動的に変更するためにインポートステージングテーブルが保持できる行の最大数。

com.glide.ws_import_set.column_resize が true の場合でも、この行数を超えるインポートステージングテーブルでは、Web サービスインポートセットで動的にサイズ変更されません。

このプロパティの最大値は 500,000 です。

- タイプ：整数
- デフォルト値：100,000
- 場所：システムプロパティの追加

CSV プロパティ

com.glide.csv.loader.ignore_non_parseable_lines

データの列が存在しない行など、CSV インポートに不正なデータを含む 1 つ以上の行をインスタンスが無視できるようにします。デフォルトでは、インポートは CSV ファイル内の不正なデータを無視することができず、最初のエラーで失敗します。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false
- 場所：システムプロパティの追加

com.glide.csv.loader.max_errors_allowed

インポートが失敗する前に無視できる行の最大数を指定します。インポートに成功すると、インポートには、エラーが原因でインポートが無視された行数が一覧表示されます。

- タイプ：整数
- デフォルト値：100
- 場所：システムプロパティの追加

glide.import.csv.charset

インポートする CSV ファイルの文字セット。有効な値は UTF-8 と WINDOWS-1252 です。特殊文字をインポートする場合は、UTF-8 形式を使用する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- タイプ：文字列
- デフォルト値：WINDOWS-1252
- 場所：システムプロパティの追加

Excel インポートプロパティ

glide.excel.multiplier

最大数インスタンス Excel インポートに割り当てるメモリ。このプロパティは、.XLS ファイルをインポートする場合にのみ適用されます。

このプロパティの値に Excel ファイルのファイルサイズを掛けて、合計メモリ割り当てを決定します。使用されるメモリが *glide.excel.max_memory_percent* プロパティで指定された制限を超えることはできません。

たとえば、デフォルト値が 8 で、Excel ファイルが 10 MB の場合、インスタンスはインポートに最大 80 MB のメモリを使用します。

- タイプ：整数
- デフォルト値：8
- 場所：システムプロパティの追加

glide.xlsx.multiplier

最大数インスタンス Excel インポートに割り当てるメモリ。このプロパティは、.XLSX ファイルをインポートする場合にのみ適用されます。

このプロパティの値に Excel ファイルのファイルサイズを掛けて、合計メモリ割り当てを決定します。使用されるメモリが *glide.excel.max_memory_percent* プロパティで指定された制限を超えることはできません。

たとえば、デフォルト値が 10 で、10 MB の Excel ファイルでは、インスタンスはインポートに最大 100 MB のメモリを使用します。

> **注:** このプロパティの値は変更しないでください。最適なパフォーマンスを得るためにデフォルト値が選択されました。

- タイプ：整数
- デフォルト値：10
- 場所：システムプロパティの追加

glide.excel.max_memory_percent

Excel のインポートに許可される最大メモリ量 (インスタンスの合計メモリに対する割合)。

- タイプ：整数
- デフォルト値：10
- 場所：システムプロパティの追加

glide.excel.use_disk_backed_strings_table

XLSX のインポート中にインスタンスがディスクストレージを使用して大きなファイルデータを維持するかどうかをコントロールします。XLSX ファイルデータをメモリにのみ保存するには、このプロパティを false に設定します。このプロパティを false に設定すると、XLSX のインポート中に使用されるメモリが増加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：true
- 場所：システムプロパティの追加

glide.excel.in_memory_strings_table_size_mb

glide.excel.use_disk_backed_strings_table が true の場合にディスクストレージに書き込む前に XLSX ファイルデータを保存できる最大メモリ量 (MB)。このプロパティの値を小さくすると、XLSX のインポート時に使用するメモリが少なくなりますが、インポートが遅くなる可能性があります。

- タイプ：整数
- デフォルト値： 5
- 場所：システムプロパティの追加

glide.xlsx.import.debug

XLSX インポートのデバッグログ記録を有効にします。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false
- 場所：システムプロパティの追加

glide.import.excel.enhanced_number_conversions

true の場合、1,000 万を超える数値はインポートステージングテーブルに保持されます。false の場合、インポートされた値が 1,000 万を超えると、元のインポート値と一致しない可能性がある指数表記に変換されます。ほとんどの種類のデータをインポートするには、このプロパティを true に設定する必要があります。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：true
- 場所：システムプロパティの追加

glide.transform.boolean.casesensitive

true の場合、大文字のブール値 (TRUE/FALSE) は常に false に変換されます。false の場合、大文字のブール値 (TRUE/FALSE) は正しく変換されます。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：true
- 場所：システムプロパティの追加

JDBC 接続プロパティ

glide.jdbcprobeloader.retry

JDBC プローブローダーが JDBC データソースから返されるデータの処理を試行する回数。再試行間は *glide.jdbcprobeloader.retry_millis* で定義された値でスリープします。

- タイプ：整数
- デフォルト値： 60
- 場所：システムプロパティの追加

glide.jdbcprobeloader.retry_millis

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JDBC プローブローダーが JDBC データソースからのデータを処理するための再試行の間に待機するミリ秒数。

- タイプ：整数
- デフォルト値：5000
- 場所：システムプロパティの追加

ログ記録とデバッグのプロパティ

com.glide.import_set.importlog_level

インポートセットがログに追加する情報の量を指定します。可能な値は INFO、WARNING、および ERROR です。開発環境でこれを INFO に設定し、本番環境でこれを WARNING または ERROR に変更すると、データベースへのログ記録のノイズトラフィックの量を減らすことができます。

> **注:** このプロパティは、ステージングテーブルのクリーンアップに関連するログ記録には影響しません。

- タイプ：文字列
- デフォルト値：INFO
- 場所：システムプロパティの追加

glide.import.debug

すべてのインポートプロセスのデバッグログ記録を有効にします。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false
- 場所：システムプロパティの追加 システムプロパティ [sys_properties] テーブルに追加

glide.importlog.log_to_table

情報レベルのログメッセージを import_log テーブルに書き込むかどうかを指定します。true の場合、情報レベルのログメッセージが書き込まれます。

> **注:** 統合ハブ ETL の情報レベルのログは、このプロパティ設定に関係なく、importlog.log テーブルに書き込まれます。他の例外を追加するには、Now Support にお問い合わせください。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false
- 場所：システムプロパティの追加

glide.import.sftp.debug

SFTP インポートの追加のデバッグログ記録を有効にします。このプロパティを有効にすると、インスタンスは SSH セッション中にすべての送信メッセージと受信メッセージをログに記録します。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false
- 場所：システムプロパティの追加

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

glide.import.scp.debug

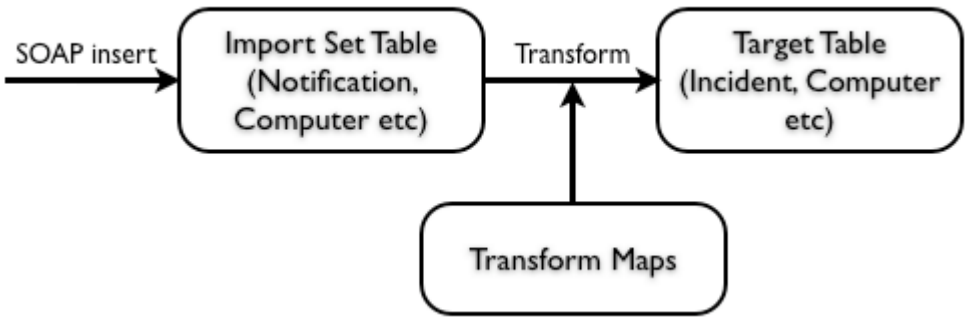
SCP インポートの追加デバッグログ記録を有効にします。このプロパティを有効にすると、インスタンスは SSH セッション中にすべての送信メッセージと受信メッセージをログに記録します。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：false
- 場所：システムプロパティの追加

Web サービスインポートセット

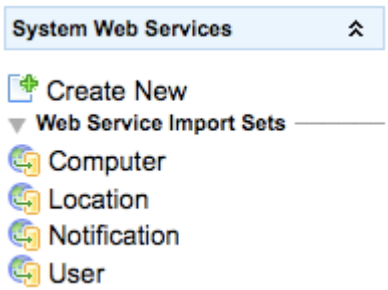
Web サービスインポートセットは、ダイレクト Web サービスおよび Scripted SOAP Web Services を補完して、インポートセットテーブルに Web サービスインターフェイスを提供します。

Web サービスインポートセット



デフォルトでは、このタイプの Web サービスでは、関連付けられた変換マップに基づいて受信データを同期して変換します。関連するインポートセットモードが [非同期] に設定されている場合、後で変換できるようデータが保存されます。Web サービスインポートセットテーブルは、WSDL のすべてのデフォルト Web サービス機能を公開します。

システム Web サービス



このプラグインは、次の標準インポートセットテーブルも提供します。

- コンピュータ
- ロケーション
- 通知
- ユーザー

URL でインポートセットテーブル名 +「.do?WSDL」を指定することで、Web サービスインポートセット WSDL にアクセスできます。

例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

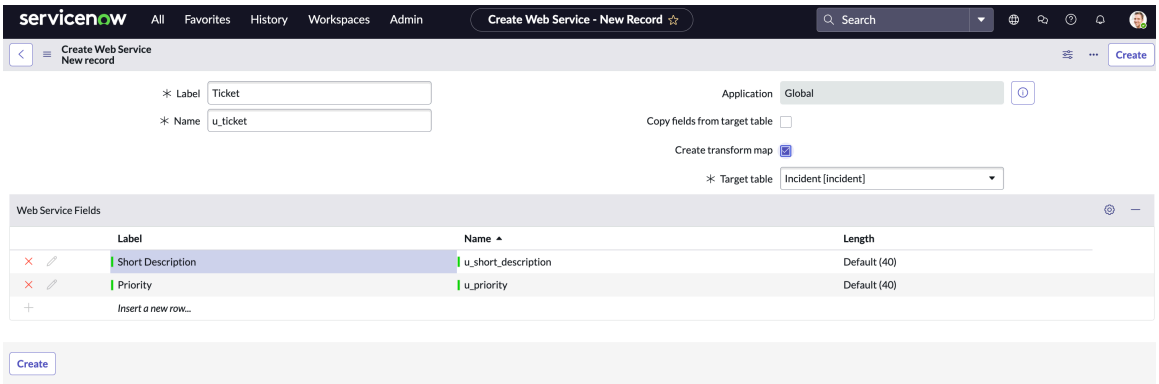
`http://<インスタンス名>.service-now.com/imp_notification.do?WSDL`

インポートセット Web サービスの作成

Web サービスインポートセットテーブルを作成して、インポートされたデータをステージングして変換する方法を定義します。

[すべて] > [システム **Web** サービス] > [受信] > [新規作成] の順に移動します。

Web サービスの作成



Web サービスの [名前] はインポートセットテーブルのテーブル名ですが、[ラベル] フィールドは結果のテーブルフィールドです。

Web サービスの作成後に変換マップを作成する場合は、[変換マップを作成] チェックボックスをオンにして、データを変換するターゲットテーブルを選択します。[作成] ボタンを選択すると、Web サービスが作成され、すぐに [テーブル変換マップ] フォームに移動します。その後、引き続き変換マップまたはスクリプトを指定できます。

Web サービスフィールド

この Web サービスで利用可能なフィールド。デフォルトでは、すべてのフィールドが `xsd:string` の XSD タイプとして公開されます。[名前] は Web サービスに公開されるフィールドであるため、WSDL のフィールドの名前として表示されます。[ラベル] は、インポートセットテーブルに表示されるフィールドのラベルです。

このリストの既存の Web サービスフィールドを [追加]、[削除] にマーク、または変更 (フィールドをダブルクリック) することができます。

注: Web サービスフィールドを追加した後、[作成] をクリックして Web サービスインポートセットテーブルを作成します。

Web サービスの作成後に他のフィールドを追加するには、ターゲットテーブルを検索し、そのテーブルにフィールドを追加します。

Web サービスインポートセットのマッピング

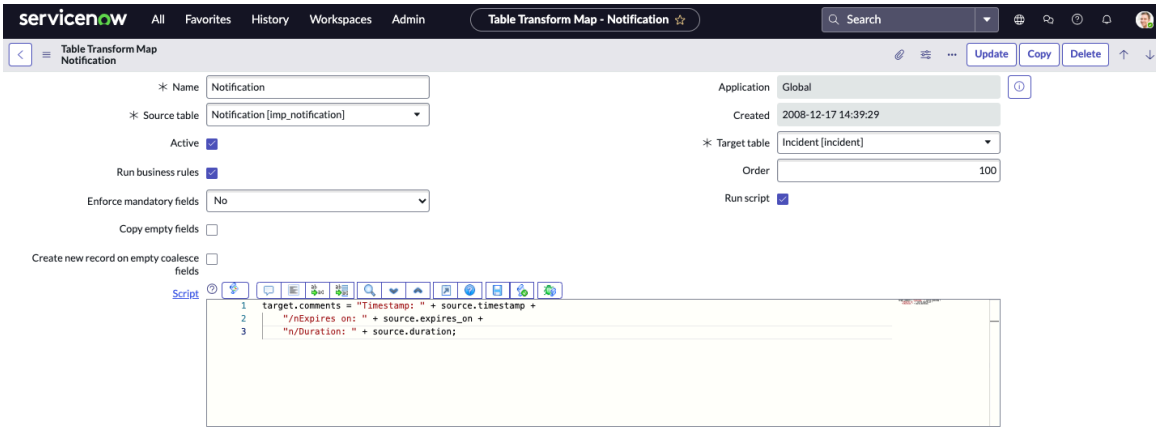
Web サービスインポートセットの作成中に、オプションでその変換マップを作成できます。

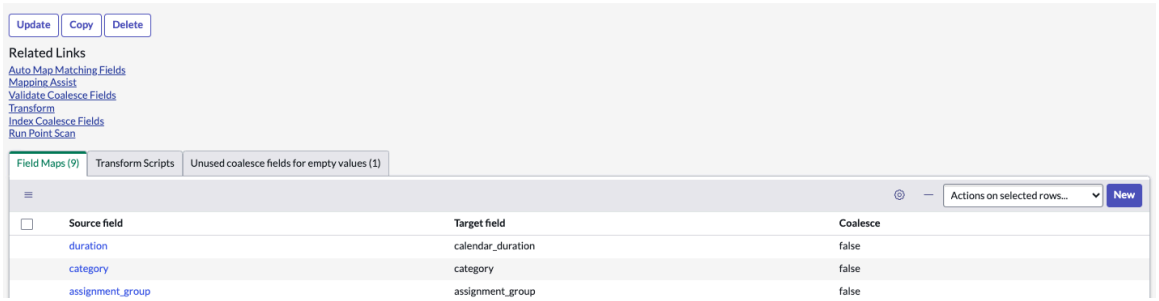
サービスが呼び出され、インポートセットモードが [同期] (デフォルト) に設定されている場合、そのサービスに対してすべての変換マップが実行されます。

次の画像は、通知 Web サービスインポートセットに関連付けられた変換マップの例です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

通知変換マップ





Web サービス応答値の追加

Web サービスインポートセットに関連付けられた変換マップスクリプトでは、一部の変数値によって Web サービスの応答値が変更される可能性があります。変換マップスクリプトで使用できる通常の変数に加えて、次のテーブルには使用可能な変数とその影響が記載されています。

Web サービス応答値の追加

変数名	タイプ	説明
response	出力オブジェクト	Web サービスインポートセット挿入の出力応答をカスタマイズするために使用される、動的に作成された応答要素を保持する Javascript オブジェクト。

例

```
// create new elements called "transaction_id"
// and "hello" in the web service response
response.transaction_id="abc123";
response.hello="world";

status_message="message 1";
// this is the normal status_message variable
```

コードスニペットの例では、Web サービスコンシューマーに対して次の応答が生成されます

```
<soapenv:Envelopexmlns:imp="http://www.service-now.com/imp_notification"
xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
<soapenv:Header/><soapenv:Body>
<insertResponse xmlns="http://www.service-now.com/imp_notification">
  <sys_id>969d157c0a0a0baf008ba5770ffa798c</sys_id>
  <table>incident</table>
  <display_name>number</display_name>
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
  <display_value>INC0010091</display_value>
  <status>inserted</status>
  <status_message>message 1</status_message>
  <transaction_id>abc123</transaction_id>
  <hello>world</hello>
</insertResponse>
</soapenv:Body></soapenv:Envelope>
```

Web サービスインポートセットのデバッグ

システムに送られる SOAP 要求をデバッグするには、システムプロパティ *glide.processor.debug.SOAPProcessor* を作成します。

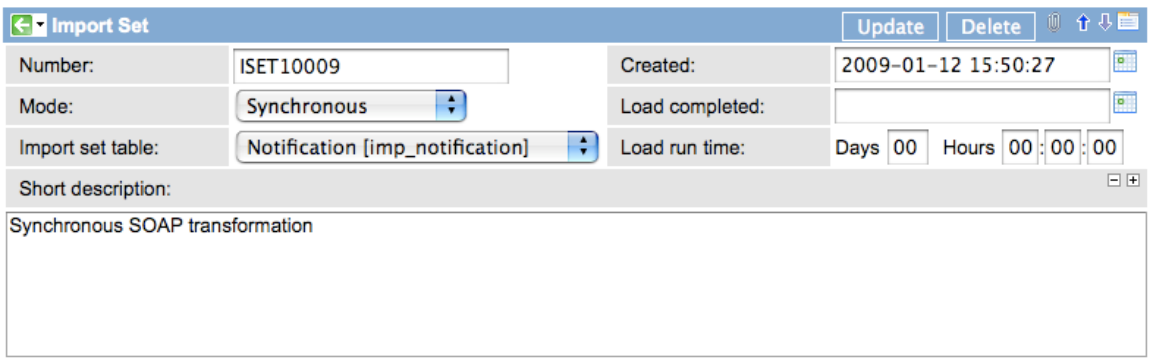
作成したら *true* に設定すると、すべての SOAP 要求がシステムログに記録されます。システムログのサイズを管理された長さに維持する場合は、*false* に設定します。

Web サービスインポートセットモード

SOAP メッセージによってインポートセットテーブルにレコードが挿入され、そのテーブルに [ロード中] ステータスのインポートセットがない場合は、[モード] が [同期] に設定された新しいインポートセットが作成されます。

[モード] が [同期] に設定されたインポートは、挿入されるとすぐにデータを変換します (変換マップが既に存在する場合)。このインポートセットのデフォルト [ステータス] も [ロード中] です。デフォルトでは、すべての [同期] インポートセットは午前 0 時に自動的に [処理済み] に変更されます。その結果、同じテーブルに対して新しい挿入が行われると、新しい [同期] インポートセットが作成されます。

同期インポートセット



このインポートセットを [非同期] の [モード] と [ロード中] の [ステータス] に変更すると、挿入時に受信データを変換せずに、インポートセットを「ロード」し、後で手動またはスケジュール設定済みスクリプトジョブを使用してデータ変換を保留する効果があります。

インポートセットモード

モード	状況	関数
非同期	ロード中	データ変換が自動的かつ即座に行われません。インポートセット行に追加されたデータのステータスが「処理待ち」です。ステータスが [ロード完了] に変更されたときに、変換をスケジュール設定するか、手動で実行できます。
非同期	ロード完了	データのロードが完了したことを示します。データ変換は、スケジュールされた方法または手動で実行できるようになりました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

インポートセットモード (続く)

モード	状況	関数
同期	ロード中	データ変換は、関連付けられたインポートセット行にデータが挿入されるたびに自動的に実行されます。
同期	ロード完了	この関連付けられたインポートセットに新しいデータが挿入されると、モードが [同期] でステータスが [ロード中] の新しいインポートセットが作成されます。ステータスを [ロード完了] に変更すると、次のインポートセット行の挿入のために新しい [同期] インポートセットを作成する必要があることを示すことができます

挿入動作のコントロール

1 つ以上の結合フィールドを指定するインポートセットでは、重複を防ぐために、一致する結合値を持つレコードがソーステーブルからターゲットテーブルに順次変換されます。

結合フィールドが指定されていないインポートセットでは、レコードが同時に変換されます。この動作は *glide.import_set_insert_serialized_when_no_coalesce* プロパティを使用してコントロールできます。

glide.import_set_insert_serialized.<table name> システムプロパティは、インスタンスが Web サービス呼び出しから特定のインポートセットテーブルにレコードを挿入する方法をコントロールします。true の場合、このプロパティは、データベースの挿入操作をシリアル化することによって、同一の同時挿入によって重複レコードが作成されるのを防ぎます。ターゲットテーブルの変換マップで結合フィールドが定義されていない場合は、このプロパティを *[false]* に設定すると、Web サービスインポートセットのパフォーマンスが向上します。

注: このプロパティを **[false]** に設定すると、重複レコードが作成される可能性があります。

注: *glide.soap.import_set_insert_serialized.<table name>* システムプロパティは *glide.import_set_insert_serialized.<table name>* と同等の機能を提供しますが、両方のプロパティが定義されている場合は *glide.import_set_insert_serialized.<table name>* は *glide.soap.import_set_insert_serialized.<table name>* よりも優先されます。

標準 SOAP 応答

Web サービスインポートセット挿入呼び出しからの SOAP 応答は、次の標準値を返します。

```
<SOAP-ENV:Envelope xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
 xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
 xmlns:SOAP-ENV="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
 xmlns:SOAP-ENC="http://schemas.xmlsoap.org/soap/encoding/"
 SOAP-ENV:encodingStyle="http://
schemas.xmlsoap.org/soap/encoding/"><SOAP-ENV:Body><insertResponse><sys_i
d>fa648f5f0a0a0b2b0048e7012448b8f1</sys_id><table>incident</table><displa
y_name>number</display_name><display_value>INC10014</display_value><statu
s>inserted</status></insertResponse></SOAP-ENV:Body></SOAP-ENV:Envelope>
```

標準 **SOAP** 応答

フィールド	説明
sys_id	作成または変更された結果レコードの sys_id

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

標準 **SOAP** 応答 (続く)

フィールド	説明
table	影響を受けたテーブルのテーブル名。[非同期] 呼び出しの場合、テーブル名はインポートセットテーブルになります (例：通知 Web サービスインポートセットテーブルの imp_notification)。
display_name	作成または変更されたレコードの表示フィールドとして設定されているフィールドの名前
display_value	表示フィールドとして指定されたフィールドの値。たとえば、[インシデント] テーブルの表示フィールドは [番号] フィールドで、値の例は INC10001 です。
status	`sys_id` と `table` フィールド値によって定義されたレコードに関連する、Web サービスの発動の結果として発生したアクションを示す文字列値 • 挿入済み - レコードが挿入されました • 更新済み - レコードが更新されました • 無視 - 入力は無視され、レコードは更新されず、新しいレコードは作成されませんでした • スキップ - 結合値がないため、入力データがスキップされました (無視と同様) • エラー - 入力の処理中にエラーが発生しました
status_message	この値は、インポートセット行の [コメント] フィールドにある値に変換され、通常は [ステータス] 値に関連する情報が含まれています。例：ステータスが [無視] の場合は「変更されたフィールド値はありません」この値をカスタマイズされた文字列値に設定すると、返されるオプションの status_message フィールドが SOAP 応答に含まれます。
error_message	[エラー] のステータスに関連するメッセージ。エラーが発生した場合、この値をカスタマイズされた文字列値に設定すると、返されるオプションの error_message フィールドが SOAP 応答に含まれます。

SOAP 応答のカスタマイズ

変換スクリプトを使用して *status_message* の内容を上書きすることで、WSDL で指定された情報以外の情報を含めることができます。

insertMultiple を使用した複数のレコードの挿入

insertMultiple 操作を使用して、1 つの SOAP 要求に複数のレコードを挿入できます。

デフォルトでは、insertMultiple 操作は [同期] モードで新しいインポートセットを作成します。新しいインポートセットを非同期に処理するには、ビジネスルールの複数挿入非同期モードを有効にします。

insertMultiple 操作は、ダイレクト Web サービス API および Web サービスインポートセットで使用できます。insertMultiple を有効にするには、Insert Multiple Web Service プラグインを有効にします。

注: このプラグインを有効にすると、SOAP WSDL に新しい操作が追加されます。このプラグインを有効にした後、新しい WSDL を使用して Web サービスクライアントを更新します。

Web サービスインポートセットのセキュリティ要件

Web サービスインポートセットは、SOAP Web Services と同じセキュリティメカニズムを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ベーシック認証では、Web サービスユーザーが有効なユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
- コンテキスト依存セキュリティでは、Web サービスユーザーがクエリされたテーブルのアクセス制御ルールを満たす必要があります。

インスタンスで高度なセキュリティ設定を使用している場合は、Web サービスユーザーに *soap* ロールも必要です。

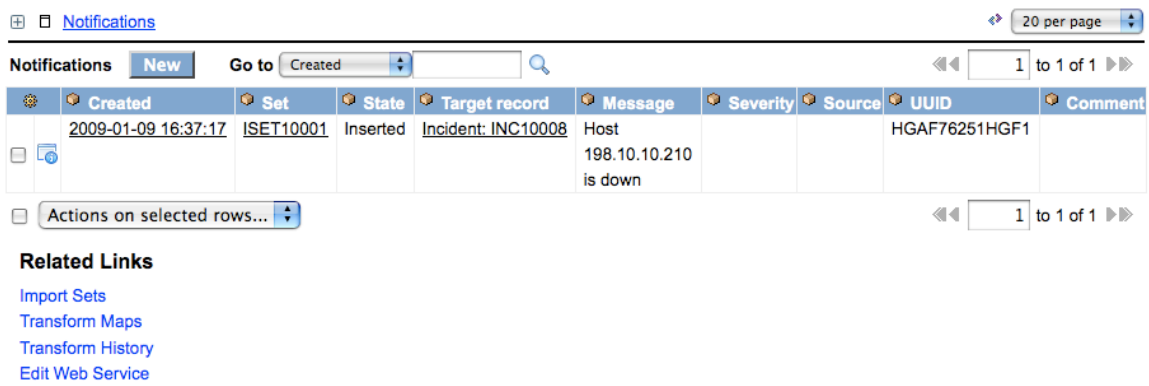
Web サービスインポートセット関連リンク

マッピングされた Web サービステーブルを表示する場合は、次の関連リンクがあります。

- インポートセット - この Web サービスインポートセットに関連するインポートセット。
- 変換マップ - この Web サービスに関連する変換マップのリスト。
- 変換履歴 - 変換履歴。
- Web サービスの編集 - Web サービスを編集します。

次の画像は、通知 Web サービスインポートセットに挿入されたレコードを示しています。ターゲットレコードは、変換の結果として作成されたものまたはインシデントテーブルレコードへの変更です。

SOAP 通知



Web サービスインポートセットの例

この例では、WSDL、SOAP エンベロープと応答、Perl の発動、および SOAP Web Services のインポート結果を示しています。

サンプル WSDL

```
<?xmlversion="1.0"encoding="UTF-8"?><wsdl:definitions
 targetNamespace="http://www.service-now.com"
 xmlns:tns="http://www.service-now.com/imp_notification"
  xmlns:sncns="http://www.service-now.com"
 xmlns:mime="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/mime/"
 xmlns:http="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/http/"
 xmlns:soapenc="http://schemas.xmlsoap.org/soap/encoding/"
  xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
 xmlns:soap="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/"
 xmlns:wsdl="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/"><wsdl:types><xsd:schema
 xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
      elementFormDefault="unqualified"
 targetNamespace="http://
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
www.service-now.com/imp_notification"><xsd:element
 name="insert"><xsd:complexType><xsd:sequence><xsd:element
 maxOccurs="1" minOccurs="0" name="corrective_message"
 type="xsd:string"/><xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 name="duration" type="xsd:string"/><xsd:element maxOccurs="1"
 minOccurs="0" name="expires_on" type="xsd:string"/><xsd:element
 maxOccurs="1" minOccurs="0" name="message"
 type="xsd:string"/><xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0"
 name="severity" type="xsd:string"/><xsd:element maxOccurs="1"
 minOccurs="0" name="source" type="xsd:string"/><xsd:element
 maxOccurs="1" minOccurs="0" name="timestamp"
 type="xsd:string"/><xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="0" name="type"
 type="xsd:string"/><xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="1" name="uuid"
 type="xsd:string"/></xsd:sequence></xsd:complexType></xsd:element><xsd:e
lement name="insertResponse"><xsd:complexType><xsd:sequence><xsd:element
 maxOccurs="1" minOccurs="1" name="sys_id"
 type="xsd:string"/><xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="1"
 name="table" type="xsd:string"/><xsd:element maxOccurs="1"
 minOccurs="1" name="display_name" type="xsd:string"/><xsd:element
 maxOccurs="1" minOccurs="1" name="display_value"
 type="xsd:string"/><xsd:element maxOccurs="1" minOccurs="1"
 name="status" type="xsd:string"/><xsd:element maxOccurs="1"
 minOccurs="0" name="status_message" type="xsd:string"/><xsd:element
 maxOccurs="1" minOccurs="0" name="error_message"
 type="xsd:string"/></xsd:sequence></xsd:complexType></xsd:element></xsd:
schema></wsdl:types><wsdl:message name="insertSoapOut"><wsdl:part
 name="imp_notification"
 element="tns:insertResponse"/></wsdl:message><wsdl:message
 name="insertSoapIn"><wsdl:part name="imp_notification"
 element="tns:insert"/></wsdl:message><wsdl:portType
 name="ServiceNowSoap"><wsdl:operation name="insert"><wsdl:input
 message="sncns:insertSoapIn"/><wsdl:output
 message="sncns:insertSoapOut"/></wsdl:operation></wsdl:portType><wsdl:bi
nding name="ServiceNowSoap" type="sncns:ServiceNowSoap"><soap:binding
 style="document"
 transport="http://schemas.xmlsoap.org/soap/http"/><wsdl:operation
 name="insert"><soap:operation
 soapAction="http://www.service-now.com/imp_notification/insert"
 style="document"/><wsdl:input><soap:body
 use="literal"/></wsdl:input><wsdl:output><soap:body
 use="literal"/></wsdl:output></wsdl:operation></wsdl:binding><wsdl:serv
ice name="ServiceNow"><wsdl:port name="ServiceNowSoap"
 binding="sncns:ServiceNowSoap"><soap:address
 location="http://
Macintosh-7.local:8080/glide/imp_notification.do?SOAP"/></wsdl:port></wsd
l:service></wsdl:definitions>
```

サンプル **SOAP** エンベロープ

```
<?xmlversion="1.0"encoding="UTF-8"?><SOAP-ENV:Envelope
 xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
 xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
 xmlns:SOAP-ENC="http://schemas.xmlsoap.org/soap/encoding/"
 SOAP-ENV:encodingStyle="http://schemas.xmlsoap.org/soap/encoding/"
 xmlns:SOAP-ENV="http://
schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"><SOAP-ENV:Body><insert
 xmlns="http://www.service-now.com"><message
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
 xsi:type="xsd:string">Host 198.10.10.210 is down</message><uuid
 xsi:type="xsd:string">HGAF76251HGF1</uuid></insert></SOAP-ENV:Body></SO
AP-ENV:Envelope>
```

サンプル SOAP 応答

```
<?xmlversion="1.0"encoding="UTF-8"?><SOAP-ENV:Envelope
 SOAP-ENV:encodingStyle="http://schemas.xmlsoap.org/soap/encoding/"
  xmlns:SOAP-ENC="http://schemas.xmlsoap.org/soap/encoding/"
  xmlns:SOAP-ENV="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
  xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
 xmlns:xsi="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"><SOAP-ENV:Body><insertResponse><sys_i
d>b54aafbfc0a8006f0058db95daa5b88d</sys_id><table>incident</table><displa
y_name>number</display_name><display_value>INC10008</display_value><statu
s>ignored</status><status_message>No field values
 changed</status_message></insertResponse></SOAP-ENV:Body></SOAP-ENV:Enve
lope>
```

Perl を使用した発動の例

次のスクリプト例では、通知 Web サービスを使用して、*itil* ユーザーとしてインシデントを作成します。Perl 言語と SOAP::Lite パッケージを使用します。

```
#!/usr/bin/perl -w

#use SOAP::Lite ( +trace => all, maptype => {} );use SOAP::Lite;

sub
 SOAP::Transport::HTTP::Client::get_basic_credentials{return'itil'=>'itil
';// set basic auth credentials for the itil user
}

my$soap=
 SOAP::Lite->proxy('http://
localhost:8080/glide/imp_notification.do?SOAP');

my$method= SOAP::Data->name('insert')->;attr({xmlns
 =>'http://www.service-now.com/'});

# insert into the web servicemy@params=( SOAP::Data->name(message
 =>'problem detected for database DB12DG'));push(@params,
 SOAP::Data->name(source =>'DB12DG'));push(@params, SOAP::Data->name(uuid
 =>'HGAF76251HGF2'));

my$result=$soap->call($method=>@params);

print_fault($result);//print any SOAP faults
print_result($result);//print any results

sub print_result
 {my($result)=@_;if($result->body&&$result->body->{'insertResponse'}){my
%keyHash=%{$result->body->{'insertResponse'}};foreachmy$k(keys%keyHash){p
rint"name=$k   value=$keyHash{$k}\n";}}}

sub print_fault
 {my($result)=@_;if($result->fault){print"faultcode=".$result->fault->{'f
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
aultcode'}."\n";print"faultstring=".$result->fault->{'faultstring'}."\n";
print"detail=".$result->fault->{'detail'}."\n";}}
```

以下は、Perl スクリプトによってコンソールに出力される結果です。

```
name=display_value    value=INC10011
name=status    value=inserted
name=table    value=incident
name=display_name    value=number
name=sys_id    value=cd45649c0a0a0b2b00e6f27649d6bd2c
```

次の画像は、通知 インポートセットテーブル (imp_notification) に対して作成された結果の行を示しています。

WS Iset Perl

Created	Set	State	Target record	Message	Severity	Source	UUID	Comment
2009-01-12 15:55:23	ISET10009	Inserted	Incident: INC10011	problem detected for database DB12DG		DB12DG	HGAF76251HGF2	

インポートセットのパフォーマンスのトラブルシューティング

これらのパフォーマンスの問題を確認して、インポートセットジョブのトラブルシューティングを行い、パフォーマンスを向上させます。

変換中のビジネスルールの実行

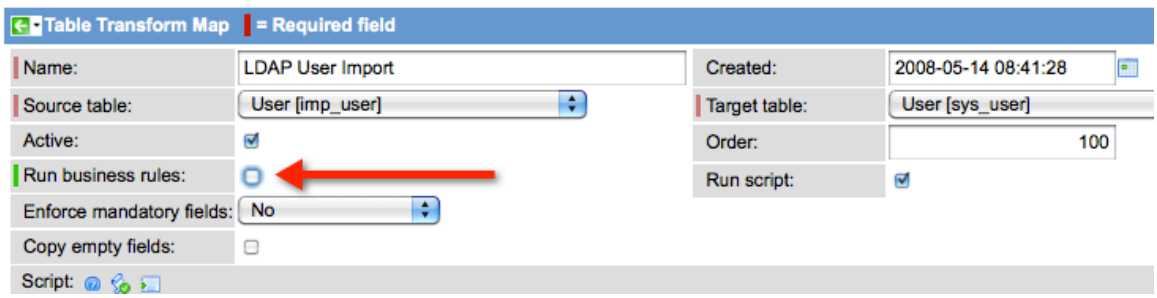
変換中にビジネスルールを実行すると、変換に予想以上の時間がかかったり、インスタンスの速度が低下したりする可能性があります。

問題になる場合：大量のデータをインポートする場合。たとえば、古いシステムからすべてのデータをインポートする場合です。

症状：変換に予想よりも時間がかかります。また、その間、インスタンス全体が遅くなる可能性があります。

これを回避する方法：すべての挿入および更新ビジネスルール、通知、ワークフローを実行する場合を除き、変換中にビジネスルール、ワークフロー、承認エンジンなどのアイテムを実行しない場合。たとえば、古いシステムからすべてのデータをインポートするときに、通知を実行しないようにする場合です。これらのアイテムの実行を無効にし、そのインポートの変換マップ内で監査とフィールドの正規化を停止するには、[ビジネスルールを実行] チェックボックスをオフにします。

変換マップチェックボックス



注: ビジネスルールのように各レコードで計算などのビジネスロジックをインポートの最後に実行するのではなく、onComplete 変換スクリプトを使用することを検討してください。

遅い変換スクリプト

複数の GlideRecord クエリまたは大きなループを使用すると、変換スクリプトの処理速度が低下する可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

問題になる場合：変換スクリプトが複数の GlideRecord クエリを使用しているか、各行のオブジェクトの大規模なコレクションをループしている場合。この問題は、変換スクリプトが効率的でない場合に発生する可能性があります。ほとんどの場合、インポートセットアプリケーション内のビルトイン機能を使用してスクリプトの目標を達成できます。たとえば、GlideRecord クエリを使用するスクリプトを記述する代わりに、大文字と小文字を区別する結合スクリプトを作成できます。通常、GlideRecord クエリによりインポート速度は低下します。

症状：変換に予想以上の時間がかかります。スクリプトによっては、その間、インスタンス全体が遅くなる場合があります。

これを回避する方法：カスタムスクリプトを記述する代わりに、可能な限り基本システム機能を使用します。スクリプトを記述する場合は、GlideRecord クエリを使用する複雑なスクリプトを記述しないようにします。

変更されていないデータのインポート

変更されていないデータを繰り返しインポートすると、多くの行がスキップされます。

問題になる場合：非常に大きなテーブルからデータをインポートし、ほとんどのレコードが定期的に更新されていない場合。

症状：インポートセットに予想以上の時間がかかります。[システムインポートセット] > [進行状況]で、[合計数] が非常に多く、[スキップ数] も非常に多いことが予想されます。これは [メッセージ] 列の下にあります。インポートされたレコードのほとんどが実際に変更されていないことを示します。これらのレコードはインポートする必要がありませんでした。

これを回避する方法：JDBC インポートを実行している場合は、インポートセットの [データソース] で [前回実行日時] オプションを使用します。ファイルインポートのタイプでは、ファイルを生成しているものが新しいデータまたは変更されたデータのみを追加していることを確認してください。

インデックス付けされていないフィールドの結合

大量のデータを含むインデックス付けされていないフィールドを結合させると、変換の速度が低下する場合があります。

問題になる場合：インデックス付けされていないフィールドを照合すると、インポートの変換ステージの実行が遅くなります。ただし、これは十分な量のデータがある場合にのみ問題になります。極端な場合、負荷が増加するため、データベースでパフォーマンスの問題が発生します。

症状：データのロードにかかる時間に比べて、インポートの変換ステージにかかる時間が長くなります。変換時間が長くなることが予想されます。

これを回避する方法：可能であれば、一意で既にインデックス付けされているフィールドで結合する必要があります。フィールドが既にインデックス付けされているかどうかを確認するには、[システム定義] > [テーブルと列]に移動し、テーブルを検索します。そのテーブルの列のリストでインデックス付けされている場合、インデックス付けされた列の横に i が付いた青色のアイコンが表示されます。フィールドのインデックス付けについては、ServiceNow テクニカルサポートにお問い合わせください。

インポートの同時実行

インポートを同時に実行すると、データベースに過度の負荷がかかる可能性があります。

問題になる場合：大量のデータをインポートすることでデータベースに追加の負荷がかかる場合。たとえば、500,000 人のユーザーをインポートし、同時に 200,000 の構成アイテムをインポートします。これにより、データベースの負荷が増加するため、システム上のすべてのクエリのパフォーマンスに大きな影響を与える可能性があります。この問題は、2 つのインポートが同じテーブルにインポートされている場合に特に発生します。このような場合は、テーブルに競合が発生している可能性があります。また、処理に関与するテーブルによっては、インポートとインスタンスのパフォーマンスが大幅に低下する可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

症状：複数の同時インポートの実行が遅くなり、データベースの負荷がかかります。多数の挿入と更新が表示されます。十分な負荷または競合がある場合は、IO 待ち時間が長くなります。

これを回避する方法：インポートをずらして重複しないようにします。

大規模なインポートセットテーブル

インポートセットテーブルのクリーニングに失敗すると、テーブルが乱雑になり、処理が遅くなる可能性があります。

問題になる場合：[インポートセット削除ツール] ジョブが実行されていない場合。

症状：これはサイズの問題です。インポートセットが定期的にクリーニングされない場合 (7 日分のデータの後にクリーンアップを推奨)、テーブルがいっぱいになり、インポートが停止します。

これを回避する方法：[インポートセット削除ツール] ジョブが実行されていることを確認します。現在実行されていない場合は、このジョブを有効にする前にすべてのインポートセットテーブルが切り捨てられるため、カスタマーサービス & サポート にお問い合わせください。

インポート中のテーブルスキーマの変更

新しい列をインポートするなどしてテーブルスキーマを変更すると、インポートセットテーブルがロックされます。

問題になる場合：新しい列がインポートされるたびに、そのスキーマの変更中にインポートセットテーブル全体がロックされ、テーブルのサイズに応じて 5 ～ 10 分かかる場合があります。その間、データの選択や挿入はできません。そのテーブルが頻繁に使用されない場合は、問題が発生することはありません。ただし、そのテーブル (LDAP インポートテーブルなど) が頻繁に使用されると、問題が発生する可能性があります。

症状：この問題の症状はさまざまです。LDAP インポートテーブルの例では、LDAP インポートテーブルのクエリを必要とするトランザクションは、スキーマの変更が完了するまで待機する必要があります。

これを回避する方法：インポートする前に、新しい列があるインポートテーブルを切り捨てます。

非常に大きなデータセットのインポート

非常に大きなデータセットをインポートする場合は、複数の小さなデータセットをインポートする場合よりも時間がかかります。

問題になる場合：非常に大きなデータセットが単一のジョブにインポートされる場合。

症状：インポートジョブの完了に時間がかかります。

これを回避する方法：非常に大きなデータセットを複数の小さなジョブに分割して、結果を迅速に作成します。10 万レコード未満のインポートセットを指針として検討してください。たとえば、インポートされる合計データは同じでも、10 万レコードを 10 セットインポートする方が、100 万レコードを 1 回インポートするよりも早く完了します。

多数の参照フィールドを含む大規模なデータのインポート

解決する参照が多数ある大容量データをインポートすると、予想以上に時間がかかったり、データベースの速度が低下したりすることがあります。

問題になる場合：多数の参照フィールドがある大容量データのインポートに変換マップを使用する場合。

症状：変換に予想よりも時間がかかります。インポート中は、データベース全体の速度が低下します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

これを回避する方法：セカンダリストレージを使用して参照を検索します。セカンダリストレージは、参照の解決にセカンダリデータベースを使用します。これにより、一部の読み取りクエリをセカンダリデータベースにリダイレクトできるため、プライマリデータベースの負荷が軽減されます。

セカンダリストレージを有効にするには：

- Secondary Database Pool [com.glide.secondary_db_pools] プラグインを有効にします。詳細については、「プラグインの要求」を参照してください。
- セカンダリデータベースカテゴリ [sys_db_category] テーブルの import_reference_resoultion カテゴリが構成され、有効になっていることを確認します。プラグインを要求すると、ServiceNow サポートがこのカテゴリを構成します。

プラグインを有効にし、セカンダリストレージカテゴリを構成して有効にすると、変換マップを作成へのフォームに[参照用のセカンダリストレージの使用 **(Use Secondary Storage for References)]** チェックボックスが表示されます。このチェックボックスを使用して、セカンダリストレージを有効または無効にします。

セカンダリストレージを使用する場合は、フィールドマップの [選択肢アクション] フィールドを [無視] または [拒否] に設定します。[作成] に [選択肢アクション] を設定すると、参照解決では新しく作成されたレコードがすぐに検出されないため、レコードの複数のコピーが作成される可能性があります。選択肢アクションの詳細については、「フィールドマップの作成」を参照してください。

セカンダリデータベースは、プライマリデータベースに比べて常に少し古くなります。すべて最新のデータがインポートに必要な場合は、セカンダリストレージを使用しないでください。

別の **ServiceNow** インスタンスからのインポート

あるインスタンスから別のインスタンスにデータを移動する方法はいくつかあります。

これらの方法はすべて、あるインスタンスのテーブルから別のインスタンスのテーブルにレコードのコレクションを定期的に移動する必要があることを前提としています。個々のレコードのアクションで別のインスタンスの対応するアクションをトリガーする場合は、代わりに REST Web サービスの使用を検討してください。

必要な関連レコードの特定

すべてのインポートプロセスは、一度に 1 つのテーブルからデータを取得することによって機能します。受信データがユーザー、場所、会社などの他のテーブルの新しいレコードを参照する場合、このプロセスは予期しない結果をもたらす可能性があります。他のテーブルへの破損した参照をインポートしないようにするには、アプリケーションデータをインポートする前にテーブル間の接続を特定し、共通データをインポートする必要があります。

たとえば、インシデントデータをインポートする前に、まず関連する構成アイテム、ユーザー、および場所をインポートすることができます。さらに、これらのインシデントレコードを参照する問題や変更をインポートする前に、インシデントをインポートすることもできます。

利用可能なインポートプロセス

システムは、あるインスタンスから別のインスタンスにデータを移動するために、次のプロセスを提供します。

- リストから XML レコードを直接エクスポートおよびインポートする
- XML インポートセットを作成し、必要に応じてデータを変換する
- リストからの CSV ファイルをエクスポートおよびインポートする

リストからの **XML** レコード

任意のリストまたはフォームからレコードを XML として直接エクスポートできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このエクスポートプロセスでは、次のようなシステム生成フィールド値を含む、すべてのレコードフィールド値が保持されます。

- Sys ID
- 作成日
- 更新日

XML インポートプロセスは、レコードをターゲットテーブルに直接挿入します。インポート中、システムは次のことを行います。

- 通常はテーブルに適用されるビジネスルールを無視します。
- 受信データを変換する機会はありません。
- 参照フィールドの表示値を一部のテーブルのローカルシステム ID に自動的に一致させます。

このプロセスは、あるシステムから別のシステムにレコードを直接コピーするのに適していますが、テーブル間の関係を把握する必要がなくなるわけではありません。データを検証または変換する必要がある場合、または参照フィールドの sys ID 値を調整する必要がある場合は、代わりに XML インポートセットを使用します。

表示値の自動一致

XML レコードのインポート中、システムは一部の参照フィールド表示値をローカルの sys_id 値と一致させようとします。

ローカルインスタンスで一致する表示値を持つ既存のレコードが見つかると、インポートでは、インポートされたレコードの sys_id ではなく、既存のレコードの sys_id が使用されます。

たとえば、ユーザー John Smith に割り当てられたインシデントレコードをエクスポートするとします。エクスポートされた XML ファイルには、次のようなエントリがあります。

```
<incident>
 ...
 <assigned_to display_value="John
 Smith">7712173d2ba80200c5244f74b4da159a</assigned_to>
 ...
</incident>
```

このユーザーは既にターゲットインスタンスに存在しますが、次のような異なる sys_id 値が指定されています。

```
<sys_user><name>John Smith</name>
 ...
 <sys_id>18cab8de2be80200c5244f74b4da15f7</sys_id>
 ...
</sys_user>
```

表示値は既存のレコードと一致するため、次のような参照フィールドにはローカルインスタンスの既存の sys_id 値が使用されます。

```
<incident>
 ...
 <assigned_to display_value="John
 Smith">18cab8de2be80200c5244f74b4da15f7</assigned_to>
 ...
</incident>
```

システムでは、次のテーブルの表示値を一致させることができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ユーザー [sys_user]
- グループ [sys_user_group]
- ロール [sys_user_role]
- グループロール [sys_group_has_role]

XML インポートセットの使用

XML インポートセットを使用して、別のインスタンスからデータをインポートします。

この方法では、次のことができます。

- ビジネスルールを適用する
- 受信データを変換する
- 必要に応じて sys_id 値を調整する

> **注:** アドミニストレーターは、辞書レコードの *update_synch* 属性を設定して更新セットの一部としてデータを移動することはできません。この属性は、大きなテーブルのデータを移行するために誤って使用され、重大なパフォーマンスの問題を引き起こしていました。

別のインスタンスへの XML データソースの作成

データソースを使用してインポートセットを作成し、必要に応じて、生産テーブルにマップする前にデータを処理できるようにします。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

> **注:** 高セキュリティ設定を有効にして XML を使用してインポートするには、昇格された権限が必要です。

手順

1. [すべて] > [システムインポートセット] > [管理] > [データソース] に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 次の値を使用してフォームに入力します。

フォーマット	XML
インポートセットテーブルラベル	`<import_set_table_label>`
各行の XPath	/xml/`<source_table_name>`
拡張ノード子	true
ファイル取得手法	HTTPS
ファイルパス	/`<source_table_name>`.do?XML
サーバー	<インスタンス名>.service-now.com
ポート	指定されたサーバーへの接続に使用するポート。
ユーザー名	リモートインスタンスのユーザーアカウント。使用するユーザー名をメールアドレスにすることはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

パスワード	同じリモートアカウントのパスワード。

4. [送信] をクリックします。
5. **[20** 件のレコードのテストロード] をクリックしてこのインポートセットテーブルを作成し、データソースが機能していることを確認します。

> **注:** ロードされた 20 件のレコードは変換できず、テスト目的でのみ使用されます。

変換マップを作成

変換マップは、インポートセットのフィールドと既存の ServiceNow テーブルのフィールド (インシデント [incident] やユーザー [sys_user] など) の関係を決定する一連のフィールドマップです。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
変換マップを作成したら、それを再利用して、別のインポートセットから同じ ServiceNow テーブルにデータをマッピングできます。

手順
1. 作成したデータソースレコードを開きます。
2. [変換] 関連リストで、[新規] をクリックします。
3. すべての通常のフィールドに値を入力し、適切な [ターゲットテーブル] を選択してください。
4. レコードを送信します。

タスクの結果
変換マップは、テーブル変換マップ [sys_transform_map] テーブルで表示できます。

変換マップへの **onBefore** スクリプトの追加

onBefore 変換マップスクリプトを作成して、新しいレコードの sys_id をソースからターゲットインスタンスにコピーします。2 番目の onBefore 変換マップスクリプトを作成して、一意の値が同じで sys_id 値が異なるターゲットインスタンスのレコードを識別します。

始める前に
必要なロール：admin

手順
1. 作成したテーブル変換マップレコードを開きます。
2. [変換スクリプト] 関連リストで、[新規] をクリックします。
3. [時期 **(When)]** フィールドで、**[onBefore]**を選択します。
4. 次のスクリプトを入力します。

```
if (action == "insert") {target.setNewGuidValue(source.u_sys_id); }
```

5. [送信] をクリックします。
6. [変換スクリプト] 関連リストで、[新規] をクリックします。
7. [時期 **(When)]** フィールドで、**[onBefore]**を選択します。
8. 次の [スクリプト] を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
/**
* This script queries for a uniquely identifying value of the
 referenced record and then
* updates the target reference field with the sys_id of the matching
 target record.
* This sample assumes:
* 1) The target table contains an assigned_to field which is a
 reference field.
* 2) The reference field references the User [sys_user] table.
* 3) You can use the email field to uniquely identify users.
 Alternatively you
*    could use the user_name field.
*/
var ref = new GlideRecord("sys_user"); //Replace sys_user with any
 reference table
ref.addQuery("email", source.email); //Replace email with any unique
 field
ref.query();
if(ref.next()){
   target.assigned_to = ref.sys_id; //Replace assigned_to with any
 reference field
}
```

9. [送信] をクリックします。

CSV 形式のファイルからのデータの取得

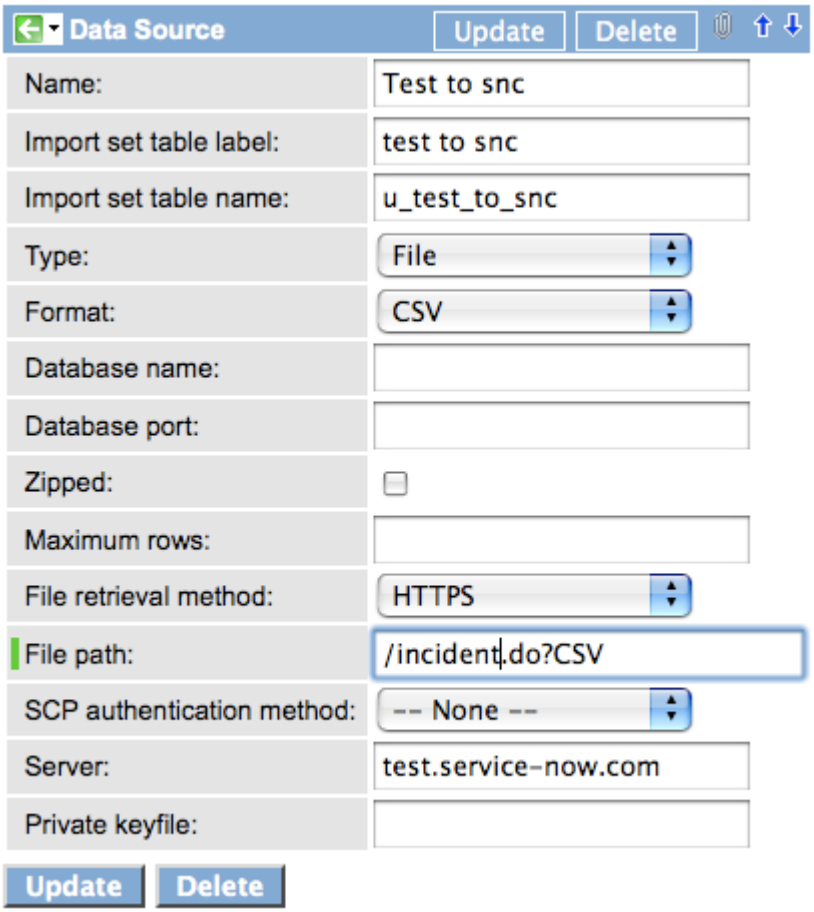
このメソッドでは、HTTPS データソースを使用して別のインスタンスからデータをインポートし、インポートする行を含む CSV 形式のファイルを返します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
このアプローチでは、インポートセットアプリケーションを使用してソースからデータを取得し、それを宛先にインポートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

HTTPS データソース



手順

1. 宛先インスタンスの[インポートセット] > [データソース]に移動して、新しいデータソースを作成します。
2. 次のフィールド値を入力します。
   - インポートセットテーブル名：テーブルを選択します。
   - タイプ：ファイル
   - 形式：CSV
   - ファイル取得手法：HTTPS

     注:

     [HTTPS] を選択したときに [サーバー]、[ファイルパス]、[ユーザー名]、および [パスワード] フィールドが表示されない場合は、ファイルの取得方法を一時的に **[SCP]** に変更して、この情報を入力します。これらのフィールドに入力した後、[ファイル取得手法] を **[HTTPS]** にリセットすることを忘れないでください。

   - ファイルパス：incident.do?CSV

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

> 注: 特定の変更レコードをインポートするために、パスに修飾子を追加できます。たとえば、パス「`incident.do ?CSV &amp ;sysparm_query =active = true "`」はすべてのアクティブな変更レコードを返します。

- [ユーザー名] と [パスワード]：宛先インスタンスの有効なユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。

3. **[20** 件のレコードのテストロード] 関連リンクをクリックして、インポートが正しく設定されていることを確認します。
4. データソースを設定した後、標準の変換マップを構成します。

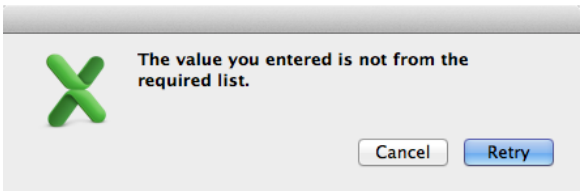
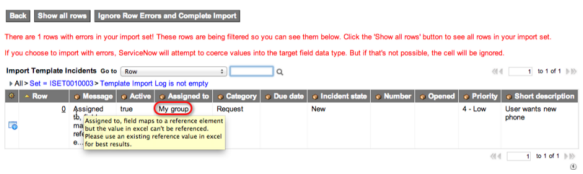
簡単インポート

簡単インポートは、必要な列のみをインポートできる簡素化されたインポートプロセスです。

アドミンのみが簡単インポートを使用できます。現在のスコープ内のテーブルと、他のアプリケーションへの書き込みアクセス権を付与するテーブルにデータをインポートできます。

簡単インポートテンプレート検証

各インポートテンプレートは 2 セットの検証に合格する必要があります。

検証のタイプ	格納場所	検証失敗の結果
クライアント側の検証	テンプレートのインポート	テンプレートは無効なセルをハイライト表示します。 
サーバー側の検証	インスタンス	インポートが一時停止し、エラーメッセージが表示されます。 

インポートテンプレートをダウンロードする

データをインポートするリストを選択し、そのリストからインポートテンプレートを作成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [セルフサービス] > [インシデント]などで、リストに移動します。
2. 列見出しを右クリックします。
3. [インポート] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: インポートする前に列が更新されていることを確認します。

4. レコードを [挿入] するか [更新] するかを選択します。

テンプレートのインポート

テンプレート	説明
挿入	このテンプレートを使用して、新しいレコードをテーブルに追加します。
更新	このテンプレートを使用して、テーブル内の既存のレコード内の値を変更します。このテンプレートには、リスト内のレコードごとに 1 行が含まれています。現在のリストフィルターによって、テンプレートに含まれるレコードが決まります。

5. オプション: リストに表示される列のみをテンプレートに含めるには、[すべてのフィールドをテンプレートに含めますか？] チェックボックスをクリアします。

   (Optional) テーブル内の特定のフィールドはシステムプロセスによって更新され、そのフィールドに値をインポートすることはできません。例として [作成者] フィールドがあります。このフィールドには、インポートを実行したログインユーザーがインポート中に入力されます。

   このチェックボックスを選択したままにすると、リストで非表示になっている列も含め、テーブルのすべての列がテンプレートに含まれます。

6. [エクスポートテンプレート形式 **(Export template format)]** (**[XLS]** または **[XLSX]**) を選択します。XLSX が推奨される形式です。XLS は従来のサポートで使用できます。[エクスポートテンプレート形式 **(Export template format)]** フィールドは、プロパティ *`glide.legacy.excel.export`* が true の場合にのみ表示されます。
7. **[Excel** テンプレートを作成] をクリックします。

次のタスク
希望するアプリケーションを使用して、スプレッドシートを開きます。

注: 各テンプレートには、テンプレートの使用方法を説明する [指示 *(Directions)]* タブが含まれています。

テンプレートにレコードを追加する

テンプレートに行を追加して、新しいレコードを作成します。

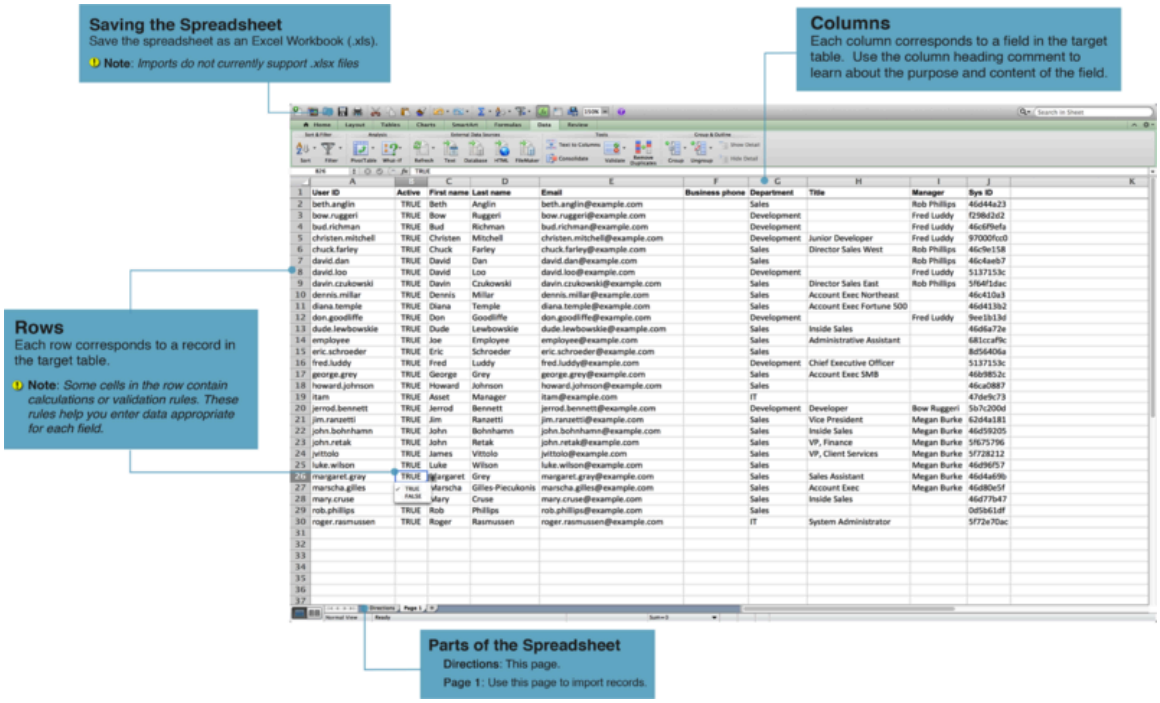
始める前に
必要なロール：admin

注: テンプレートは、テンプレートの最初のページのレコードのみをインポートします。インポートプロセスでは、他のすべてのページが無視されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

簡単インポート挿入テンプレート



手順

1. テーブルに追加する各レコードの行を追加します。
   各列はターゲットテーブルのフィールドに対応しています。UI フィールド管理 を使用して、フィールドの目的と内容を確認します。

   テンプレートは、入力時に値を検証し、無効なデータを含むセルをハイライト表示します。すべての列に値を指定する必要はありませんが、値を指定しないと特定のフィールドが検証に失敗する可能性があります。

2. ハイライト表示されたセルを確認し、問題を解決します。
3. 新しい行の入力が完了したら、スプレッドシートを Excel ワークブックとして保存します。

   挿入テンプレートは、特定のフィールドに対して特別な処理を使用します。

   - [作成者] フィールド：挿入テンプレートでは、インポートに [作成者] 列が含まれているかどうかに関係なく、[作成者] フィールドに常にシステムアドミニストレーターユーザー (admin ロール) が一覧表示されます。テンプレートに別のユーザー値を指定した場合でも、インポートプロセスはこの値をシステムアドミニストレーターユーザーで上書きします。
   - 空白の値：フィールドが空白の値をサポートしている場合、挿入テンプレートのセルを空白のままにすると、インポートされたレコードの値が空白になります。空白の値をサポートしていないフィールドでは、空白の値を指定すると検証エラーが発生します。

テンプレートのレコードを更新する

テンプレートの行を変更して既存のレコードを更新します。

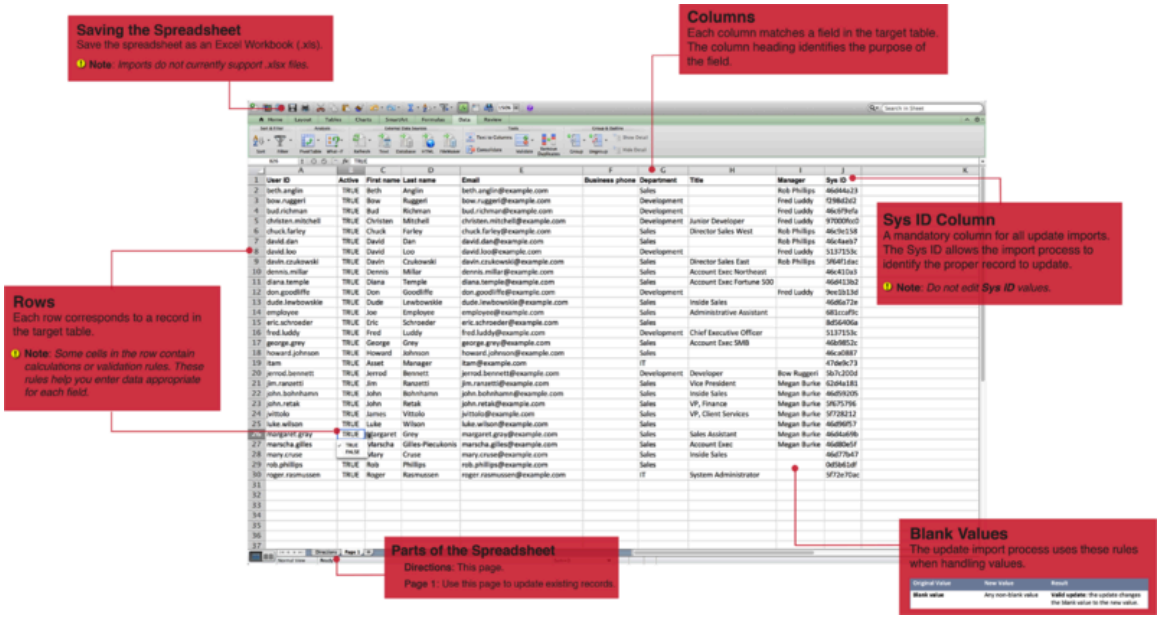
始める前に
必要なロール：admin

注: テンプレートは、テンプレートの最初のページのレコードのみをインポートします。インポートプロセスでは、他のすべてのページが無視されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

簡単インポート更新テンプレート



手順

1. 更新する既存の各レコードの行を編集し、既存の値を新しい値に置き換えます。
   UI フィールドヒントを使用して、フィールドの目的と内容を確認します。

   テンプレートは、入力時に値を検証し、無効なデータを含むセルをハイライト表示します。すべての列に値を指定する必要はありませんが、値を指定しないと特定のフィールドが検証に失敗する可能性があります。

2. ハイライト表示されたセルを確認し、問題を解決します。
3. 既存の行の更新が完了したら、スプレッドシートを Excel ワークブック (.xls) として保存します。

   挿入テンプレートは、特定のフィールドに対して特別な処理を使用します。

   - [更新者] フィールド：更新テンプレートでは、インポートに [更新者] 列が含まれているかどうかに関係なく、[更新者] フィールドに常にシステムアドミニストレーターユーザー (admin ロール) が一覧表示されます。テンプレートに別のユーザー値を指定した場合でも、インポートプロセスはこの値をシステムアドミニストレーターユーザーで上書きします。
   - 空白の値：更新テンプレートは、スプレッドシートのセルで空白の値を処理するときに次のルールを使用します。

空白の値

元の値	新しい値	結果
空白の値	空白以外の値	有効な更新：更新により、空白の値が新しい値に変更されます。
空白以外の値	空白の値	無効な更新：更新では、既存の空白以外の値が保持されます。

テンプレートからレコードをインポートする

新しいデータでインポートテンプレートを更新した後、テンプレートをインスタンスにインポートします。

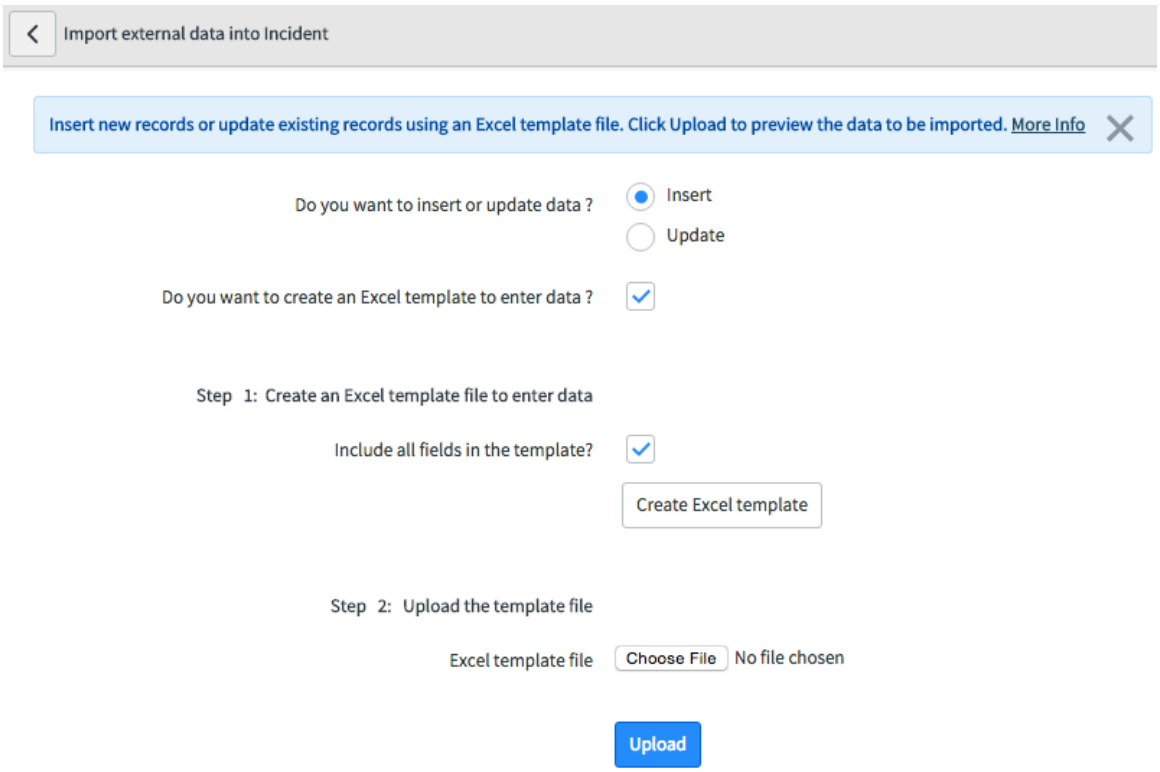
始める前に
必要なロール：admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. インポートテンプレートをダウンロードしたのと同じリストに移動します。
2. リストのバージョンに合わせて適切なアクションを実行します。

アクション	バージョン
リスト v2	列見出しを右クリックし、[インポート] を選択します。
リスト v3	リストのタイトルメニューを開き、[インポート] を選択します。



3. [挿入または更新] から、インポートタイプを選択します。
4. [ファイル] から、インポートするインポートテンプレートを選択します。
5. [インポートデータのアップロードとプレビュー **(Upload and Preview Import Data)]** をクリックします。

   ServiceNow はテンプレートを検証します。

   テンプレートが検証に合格し、インポートされたプレビューが期待どおりである場合は、[インポートを完了] をクリックして現在のテーブルにレコードをインポートします。テンプレートの検証に失敗した場合は、エラーを確認します。[エラーを無視してインポートを完了 **(Ignore Errors and Complete Import)]** をクリックすると、問題のあるデータセルをスキップしてインポートを続行します。

Excel テンプレートで参照フィールドをリストとして表示する

選択した参照フィールドを Excel テンプレートのリストとして表示して、データの選択と更新を簡素化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

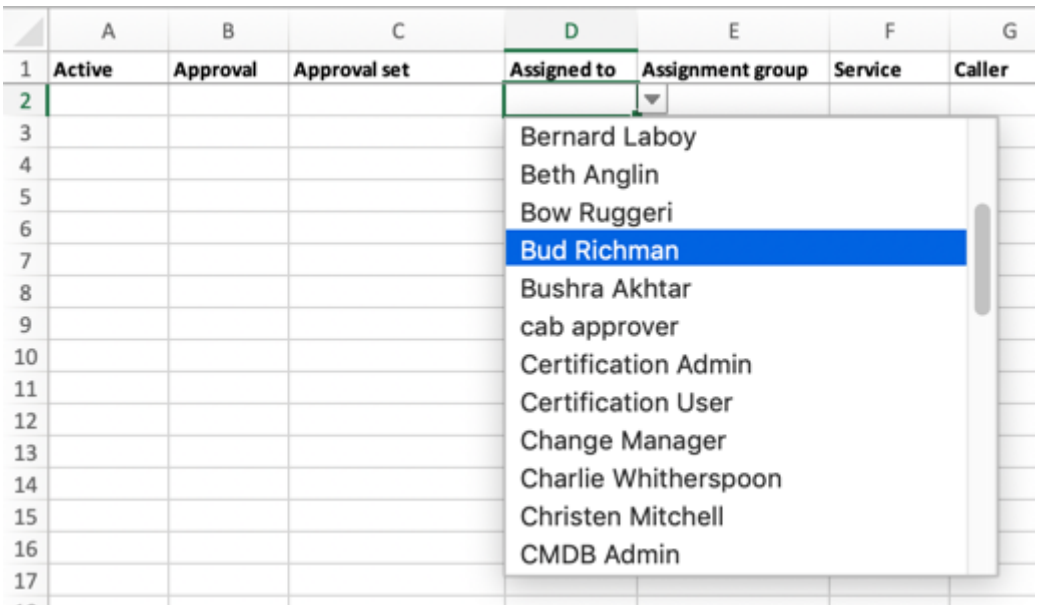
始める前に
簡単インポートを実行してデータを Excel スプレッドシートにエクスポートするときに、一部のセルをリストに変換することができます。たとえば、インシデント **[sys_incident]** レコードで、[アサイン先] フィールドのオプションをリストとして表示して、インシデントにアサインされたユーザーを選択または更新できるようにします。

必要なロール：admin

手順

1. リストを作成するレコードに移動します。
2. リストとして表示するフィールドに移動します。
3. フィールド名を右クリックし、[ディクショナリを設定] を選択します。
4. [辞書エントリ] ページの [属性] フィールドに、属性「`easy_import_ref_as_choice=true`」を入力します。
5. 辞書エントリを保存します。
   辞書エントリに他の [属性] を入力することもできます。たとえば、リスト内のエントリ数はデフォルトで 250 に制限されています。フィールドに 250 を超えるエントリオプションがある場合、エントリはリスト形式ではなく、単一のエントリとして表示されます。エントリオプションが 500 を超えると仮定します。フィールドの辞書エントリに属性「`easy_import_ref_query_limit=600`」を入力すると、そのフィールドのエントリオプションの上限を 600 に設定できます。Excel スプレッドシートに、最大 600 のオプションのリストとしてフィールドが表示されるようになりました。

   `glide.easy_import.reference_query_limit` システムプロパティに値を入力することで、フィールドのエントリオプションの数にシステム全体の制限を設定できます。システムプロパティが存在しないか設定されておらず、フィールドに「`easy_import_ref_query_limit`」属性が設定されていない場合は、デフォルトの制限である 250 のエントリオプションが適用されます。属性は常にプロパティよりも優先されます。属性とプロパティの両方が設定されている場合は、属性値が使用されます。
6. Excel 出力にリストとして表示する他のフィールドについて、手順 2 ～ 4 を繰り返します。
   このフィールドは、Excel スプレッドシートにリストとして表示されます。

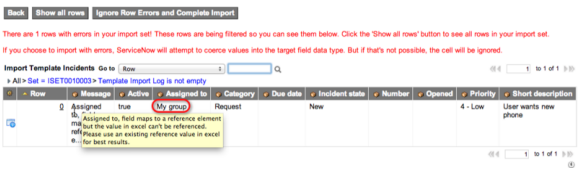


簡単インポートテンプレート検証

各インポートテンプレートは 2 セットの検証に合格する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テンプレート検証

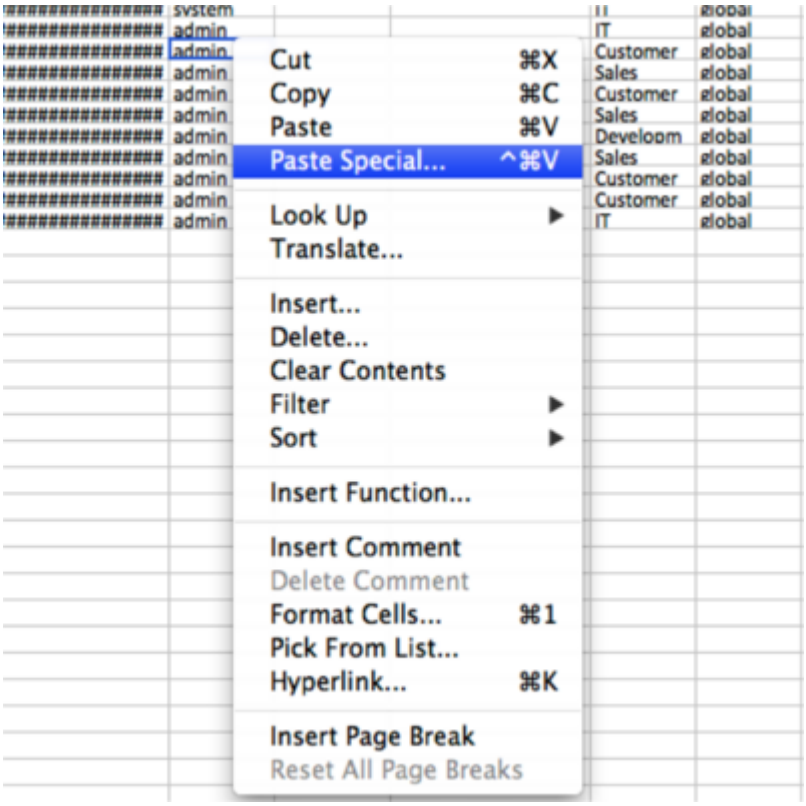
検証のタイプ	格納場所	検証失敗の結果
クライアント側の検証	テンプレートのインポート	テンプレートは無効なセルをハイライト表示します。
サーバー側の検証	インスタンス	インポートが一時停止し、エラーメッセージが表示されます。 

テンプレートデータ検証

テンプレートの一部のセルには、計算または検証ルールが含まれています。これらのルールは、フィールド (列) に適したデータを入力するのに役立ちます。

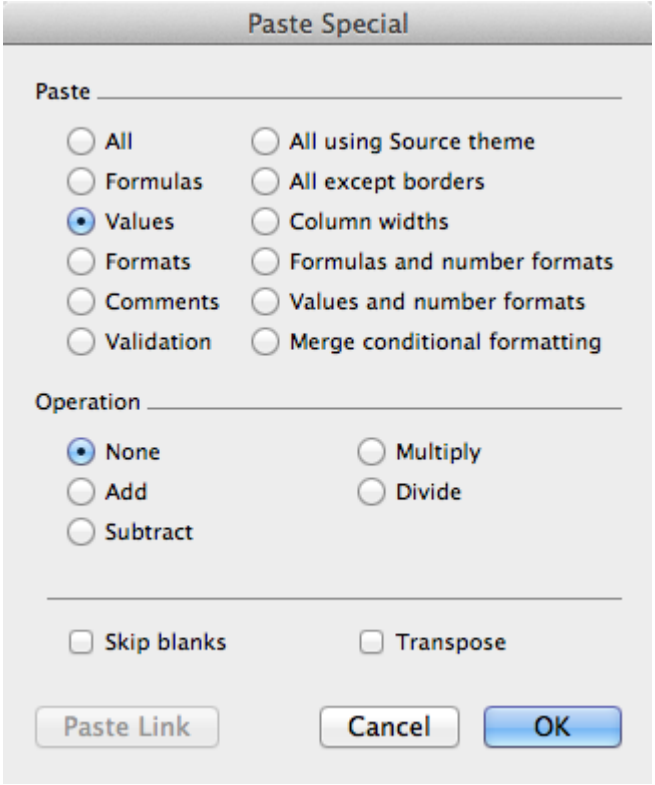
別のスプレッドシートからデータを貼り付ける場合は、[形式を選択して貼り付け] コマンドを使用して値のみを貼り付けるか、既存の形式に一致させます。

簡単インポートの形式を選択して貼り付け



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

特定の値のみ貼り付け



テンプレートタイプ検証

サーバー側の検証では、インポートテンプレートに必要な形式が含まれていることが確認されます。

テンプレートタイプ検証

テンプレートタイプ	検証完了
テンプレートを挿入	• テンプレートには、有効なフィールド名を含むヘッダー行が含まれています。 • テンプレートには 1 つ以上のデータ行が含まれています。 • テンプレートに sys_id 列が含まれていません。
テンプレートを更新	• テンプレートには、有効なフィールド名を含むヘッダー行が含まれています。 • テンプレートには 1 つ以上のデータ行が含まれています。 • テンプレートには、行を既存のレコードと一致させるための sys_id 列が含まれています。

データタイプの検証

クライアント側とサーバー側の両方の検証で、ServiceNow フィールドタイプに一致するデータがテンプレートセルに含まれていることが確認されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

データタイプの検証

ServiceNow フィールドタイプ	検証完了
選択リスト	セルには、選択リストの選択オプションと一致する値が含まれます。
整数	セルには小数点のない数値が含まれます。
参照	セルには、既存の関連レコードと一致する値が含まれます。この検証は、可能な選択肢のリストが比較的少なく、ほとんどが静的であるフィールドにのみ適用されます。可能な選択肢のリストが動的で大きい [アサイン先] などのフィールドには適用されません。検証は、データが Excel ではなくデータベースに挿入されるときに行われます。 **注:** Excel スプレッドシートに参照フィールド値を入力するときは、参照されるレコードの sys_id ではなく表示値を入力します。フォームと同じようにこの値を入力します。たとえば、ユーザーレコードへの参照の場合は、ユーザー名を入力します。
True | False	セルに true または false の値が含まれています。

簡単インポートプロパティ

いくつかのプロパティは、簡単インポートの動作をコントロールします。

glide.import_template.row_limit

簡単インポートテンプレートに含まれる行の最大数をコントロールします。デフォルトでは、テーブルに 10,000 件を超えるレコードが含まれている場合、最初の 10,000 件のみがエクスポートされます。

- タイプ：整数
- デフォルト値：10,000
- 場所：システム プロパティを追加する

glide.easy_import.run_business_rules

true の場合、簡単インポートでデータを挿入または更新するときに、ビジネスルール、ワークフロー、承認エンジン、監査、およびフィールド正規化が適用されます。この機能は、GlideRecord.setWorkflow() を true または false に設定することと同じです。

- タイプ：true | false
- デフォルト値：true
- 場所：システム プロパティを追加する

glide.import_template.field_types_to_ignore

レコードが簡単インポート機能でインポートされたときに無視される、フィールドのリスト。

- タイプ：文字列
- デフォルト値：
  table_name、order_index、collection、user_image、video、timer、translated_field、conditions、fiel
- 場所：システム プロパティを追加する

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

エクスポート

エクスポートを使用すると、インスタンスから外部ファイルにデータをプッシュできます。スクリプトまたは Web サービスからデータを動的にエクスポートするには、URL からデータをエクスポートします。

開始するには

探索 エクスポートセットの概念と機能について説明します。	構成 エクスポートセット、定義、ターゲットを作成し、エクスポートをスケジュールします。
使用 URL から直接エクスポートする方法を説明します。	参照 エクスポートセットプロパティの詳細を取得します。

製品

エクスポートセット

エクスポートセットを使用すると、インスタンスから外部ファイルにデータをプッシュできます。

URL から直接エクスポート

スクリプトまたは Web サービスからデータを動的にエクスポートするには、URL からデータをエクスポートします。

エクスポートセット

エクスポートセットを使用すると、インスタンスから外部ファイルにデータをプッシュできます。

MID サーバーを使用してリモートシステムにデータをエクスポートできます。

注: Geneva リリース以降の MID サーバーを使用する必要があります。以前の MID サーバーリリースでは、エクスポートセットはサポートされていません。エクスポートセットは、クラスター内の MID サーバーではサポートされていません。

新しいエクスポートセットを作成する

インスタンスから MID サーバー上のファイルにレコードをエクスポートするためのエクスポートセットを作成します。

始める前に

必要なロール：export_set_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

注: エクスポートセットは添付ファイルをレコードにエクスポートしません。添付ファイルをダウンロードするには、REST 添付ファイル API (HTTP 要求はサードパーティの HTTP クライアントから発信されます) を使用するか、送信 REST メッセージモジュールを使用してインスタンスから添付ファイルを送信します (HTTP 要求はインスタンスから発信されます)。

手順

1. [すべて] > [システムエクスポートセット] > [エクスポートセットの作成]に移動します。
2. エクスポートセットのわかりやすい [名前] を入力します。
3. [エクスポート内容] セクションで、次のいずれかの方法でエクスポートするデータを定義します。

オプション	説明
[はい] を選択し、[エクスポート定義] レコードを選択します。	エクスポートするデータを指定するエクスポート定義レコードを既に作成している場合は、この構成を使用します。
[いいえ] を選択し、データをエクスポートするテーブルを選択します。	エクスポート定義レコードを作成していない場合は、この構成を使用します。選択したテーブルのデフォルトリストビューのフィールドを使用して、新しいエクスポート定義レコードが自動的に作成されます。エクスポートセットを作成した後、必要に応じてエクスポート定義レコードを変更できます。

4. [エクスポート先] セクションで、次のいずれかの方法でデータをエクスポートする場所を定義します。

オプション	説明
[はい] を選択し、[エクスポートターゲット] レコードを選択します。	データのエクスポート先を指定するエクスポートターゲットレコードをすでに作成している場合は、この構成を使用します。
[いいえ] を選択して MID サーバーを選択し、エクスポートされたデータを保存する MID サーバー上のパスを指定します。	エクスポートターゲットレコードを作成していない場合は、この構成を使用します。選択した MID サーバーとファイルパスに対して、新しいエクスポートターゲットレコードが自動的に作成されます。エクスポートセットを作成した後、必要に応じてエクスポートターゲットレコードを変更できます。

5. [送信] をクリックします。

次のタスク

エクスポートセットを作成すると、[エクスポートセット] フォームが表示されます。フォームから、データ形式の指定や繰り返しのエクスポートのスケジュール設定などの詳細オプションを設定できます。

[エクスポートセット] フォームフィールド

フィールド	説明
名前	このエクスポートセットのわかりやすい名前を入力します。
ファイル名	ターゲットファイルの名前を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[エクスポートセット] フォームフィールド (続く)

フィールド	説明
フォーマット	CSV などのターゲットファイルの形式を選択します。
タイムスタンプの追加	エクスポートされたファイルの名前に現在の日付と時刻を追加するには、このチェックボックスをオンにします。
エクスポート定義	エクスポートするデータを指定するエクスポート定義を選択します。
エクスポートターゲット	エクスポート先を指定するエクスポートターゲットを選択します。

リストからエクスポートセットを作成する

リストからエクスポートセットをすぐに作成できます。

始める前に
必要なロール：export_set_admin

手順

1. レコードリストに移動します。
2. リストのバージョンに合わせて適切なアクションを実行します。

バージョン	アクション
リスト v2	リストヘッダーを右クリックし、[エクスポート] > [エクスポートセット]を選択します。
リスト v3	リストタイトルメニューを開き、[エクスポート] をクリックし、[エクスポートセット] をクリックします。

[エクスポートセット] フォームが表示されます。エクスポート定義は、リストに基づいて自動的に作成されます。

3. 必要に応じてエクスポートセットを設定します。
4. [送信] をクリックします。

エクスポート定義を作成する

エクスポート定義を作成して、エクスポートセットでエクスポートするデータを定義します。

始める前に
必要なロール：export_set_admin

このタスクについて
エクスポート定義では、エクスポートセットでエクスポートするデータを指定します。このデータには、テーブル、1 つ以上のフィールド、およびオプションで、含まれるレコードを制限するフィルターが含まれます。

手順

1. [すべて] > [システムエクスポートセット] > [エクスポート定義]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. エクスポート定義のわかりやすい [名前] を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. データのエクスポート元の [テーブル] を選択します。
5. 選択したテーブルからデータをエクスポートする 1 つ以上の [フィールド] を選択します。
6. オプション: 選択したテーブルから特定のレコードのみをエクスポートするには、[フィルター] を指定します。
   [作成済み] (sys_created_on) または [更新済み] (sys_updated_on) フィールドでフィルター条件を指定すると、スケジュール設定済みデータエクスポートでデルタエクスポート機能を使用できない場合があります。スケジュール設定済みデルタエクスポートを使用する場合は、これらのフィールドにフィルター条件を指定しないでください。

エクスポートターゲットを作成する

エクスポートターゲットを作成して、データのエクスポート先を定義します。

始める前に

必要なロール：export_set_admin

このタスクについて

エクスポート先として MID サーバー を使用する必要があります。MID サーバー の構成の詳細については、「MID サーバー」を参照してください。

手順

[すべて] > [システムエクスポートセット] > [エクスポートターゲット]に移動し、新しいレコードを作成します (フィールドの説明についてはテーブルを参照)。

ターゲットフィールドをエクスポートする

フィールド	説明
名前	エクスポートターゲットのわかりやすい名前を入力します。
MID サーバー	エクスポートする MID サーバーを選択します。MID サーバーの [検証済み] の値が [はい] で、[ステータス] の値が [稼働中] である必要があります。 注: Geneva リリース以降の MID サーバーを使用する必要があります。以前の MID サーバーリリースでは、エクスポートセットはサポートされていません。エクスポートセットは、クラスター内の MID サーバーではサポートされていません。
ファイルパス	エクスポートされたデータを保存する MID サーバーディレクトリへの相対パスを指定します。MID サーバーの実行に使用されるユーザーアカウントには、この場所への書き込み権限が必要です。

関連情報

https://msdn.microsoft.com/en-us/library/bb727008.aspx

エクスポートセットでサポートされているファイルタイプ

エクスポートセットは、データのエクスポートとプッシュのために複数のファイルタイプをサポートしています。

ファイルタイプ

次の形式にエクスポートできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- CSV
- XML
- Excel
- JSON

エクスポートをスケジュールする

エクスポートをスケジュールして、エクスポートセットからリモートの宛先に定期的にデータをプッシュすることができます。繰り返しスケジュール済みエクスポートを設定することで、レポートやデータのスナップショットを保存するために、データを外部の場所に定期的にプッシュできます。

始める前に
必要なロール：export_set_scheduler または export_set_admin

このタスクについて
デルタエクスポートを使用して、新規または変更されたレコードのみをエクスポートするようにスケジュール済みエクスポートセットを構成できます。

手順

1. [すべて] > [システムエクスポートセット] > [管理] > [スケジュール済みエクスポート]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 次のフィールドに入力します。

[データエクスポートのスケジュール **(Schedule Data Export)]** フィールド

フィールド	説明
名前	このスケジュール済みエクスポートのわかりやすい名前を入力します。
エクスポートセット	スケジュールするエクスポートセットを選択します。
実行方法	スケジュール済みエクスポートを実行するユーザーを選択します。エクスポートするデータを表示するために必要なロールがユーザーにあることを確認します。
実行	スケジュール済みエクスポートの頻度を選択します。
日	このスケジュール済みエクスポートを実行する曜日または月を選択します。このフィールドは、[実行] フィールドが [毎週] または [毎月] に設定されている場合に表示されます
繰り返し間隔	このスケジュール済みエクスポートを繰り返すまでの日数と時間数を入力します。このフィールドは、[実行] フィールドが [定期的] に設定されている場合に表示されます。
時刻	スケジュール済みエクスポートを実行する時刻を入力します。
デルタエクスポート	
デルタエクスポートを有効化	このスケジュール済みエクスポートのデルタ機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。選択すると、新規または変更されたレコードのみがエクスポートされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
当該時点またはその後のデルタ	新しいレコードを含む、前回のエクスポート以降に変更されたすべてのレコードをエクスポートするには、[更新] を選択します。前回のエクスポート以降に作成された新しいレコードのみをエクスポートするには、[作成済み] を選択します。 **注:** エクスポート定義の [sys_updated_on] または [sys_created_on] フィールドに既にフィルター条件が含まれている場合、デルタエクスポートを有効にすると、スケジュール済みデータエクスポートレコードを保存できなくなります。このイベントでは、フォームの上部にエラーが表示されます。
前回のスケジュール設定済みエクスポート実行	エクスポート定義からすべてのレコードをエクスポートするには、このフィールドを空白のままにします。デルタエクスポートを使用すると、スケジュール済みエクスポートが実行されるたびにこのフィールドが自動的に設定されます。この日時以降に更新または作成されたレコードは、[当該時点またはその後のデルタ] の値に応じてエクスポートデルタに含まれます。
スクリプト	
条件付き	条件が満たされた場合にのみスケジュールを実行するには、このチェックボックスをオンにします。
条件	エクスポートを実行するかどうかを評価するために使用するスクリプトを記述します。このフィールドは、[条件付き] チェックボックスをオンにすると表示されます。
エクスポート前処理スクリプトの実行	エクスポートを開始する前にスクリプトを実行するには、このチェックボックスをオンにします。
前処理スクリプト	データをエクスポートする前に実行するスクリプトを記述します。このフィールドは、[エクスポート前処理スクリプトの実行] チェックボックスをオンにした場合に表示されます。
エクスポート後処理スクリプトの実行	エクスポートの終了後にスクリプトを実行するには、このチェックボックスをオンにします。
後処理スクリプト	エクスポートの終了後に実行するスクリプトを記述します。このフィールドは、[エクスポート後処理スクリプトの実行] チェックボックスをオンにした場合に表示されます。

4. [送信] をクリックします。

次のタスク
[今すぐ実行] ボタンをクリックしてエクスポートをすぐに実行し、データが想定どおりにエクスポートされることを確認できます。

スケジュール済みエクスポートセットのデルタエクスポート

デルタエクスポートには、最後のスケジュール済みエクスポート以降に変更されたレコードのみが含まれます。

デルタエクスポートは、タスクテーブルや問題テーブルなどの通常のテーブルに対してのみ使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要: 物理テーブルを結合する仮想テーブルであるデータベースビューテーブルには、デルタエクスポートを使用できません。

データベースビューには、sys_created on、sys_created by、sys_updated on などのシステムフィールドは含まれません。システムの日付フィールドはデータベースビューに含まれていないため、テーブルが最後に更新された日時を知る方法がないため、データベースビューでデルタエクスポートを使用することはできません。

スケジュール済みエクスポートセットのスクリプティングオプション

エクスポートセットをスケジュール設定すると、特定の JavaScript オブジェクトにアクセスできます。

これらのオブジェクトは、[前処理スクリプト **(Pre-script)]** や [後処理スクリプト **(Post-script)]** フィールドなどのスケジュール済みエクスポート設定スクリプトで使用します。

cancel

エクスポートアクションを停止するには、このオブジェクトを *[true]* に設定します。親がキャンセルされると、子エクスポートセットもキャンセルされます。このオブジェクトは、[前処理スクリプト **(Pre-script)]** フィールドでのみ使用できます。

例：[前処理スクリプト **(Pre-script)]** フィールドを使用してエクスポートの条件を評価し、エクスポートプロセスをキャンセルするかどうかを決定します。エクスポートプロセスをキャンセルするには、次の呼び出しを使用します。

```
cancel = true;
```

export_set

新しいエクスポートセットの GlideRecord オブジェクトを取得します。この変数を使用すると、sys_export_set テーブルから次の列をクエリできます。

- name
- sys_id
- state
- table_name

このオブジェクトは、[前処理スクリプト **(Pre-script)]** と [後処理スクリプト **(Post-script)]** フィールドの両方で使用できます。

例：エクスポートセットの情報を使用する場合は、export_set 変数のプロパティの 1 つを指定できます。

```
var x = export_set.sys_id;
```

エクスポートセット履歴

エクスポートセット履歴レコードは、スケジュール済みまたはユーザーが手動で開始したエクスポートセットが実行されるたびに自動的に作成されます。エクスポートセット履歴レコードを使用すると、エクスポートセットの進行状況を監視してトラブルシューティングを行うことができます。

[エクスポート履歴] フォームのフィールドには、エクスポートセットの現在のステータスが表示されます。[エクスポートログ] 関連リストには、エクスポートセットステータスへの変更の詳細なリストが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[エクスポート履歴] フォームフィールド

フィールド	説明
エクスポートセット	実行されたエクスポートセット。
開始	エクスポートが開始された日時。
完了	エクスポートが完了した日時。
エクスポート時間	データのエクスポートに要した時間 (データをターゲットに転送する時間を除く)。
実行時間	データのターゲットへの転送に要した時間を含む、データのエクスポートに要した時間。
状況	エクスポートの現在のステータス。
デルタエクスポート	このチェックボックスがオンになっている場合、エクスポートはデルタエクスポート機能を使用します。
ECC キュー	このエクスポートセット実行に関連付けられた ECC キューレコード。このフィールドは、admin ロールを持つユーザーにのみ表示されます。
MID サーバー添付ファイル	エクスポートされたファイルのコピーを含む MID サーバー添付ファイルレコード。エクスポートされたファイルは、MID サーバーに保存されるだけでなく、このレコードに添付されます。

[ステータス] フィールドには、次の値を指定できます。

状況

状態	説明
エクスポート中	エクスポートセットが、エクスポートするデータを含むファイルを作成しています。
MID Server 処理中	エクスポートセットは、エクスポートするデータを含むファイルを正常に作成しました。ファイルは MID サーバーによって処理されています。
完了	エクスポートセットが正常に実行され、エクスポートされたファイルがターゲットに送信されました。
完了 (エラーあり)	エクスポートセットは実行されましたが、1 つ以上のエラーが発生しました。
キャンセルを要求	ユーザーがエクスポートセットのキャンセルを要求しました。
キャンセル	エクスポートセットがキャンセルされました。

エクスポートセットをキャンセル

実行中のエクスポートセットをキャンセルして、データが MID サーバーに送信されないようにすることができます。

始める前に

必要なロール：export_set_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

MID サーバーに送信されていないエクスポートのみをキャンセルできます。**[MID Server 処理中]** ステータスに達したエクスポートをキャンセルすることはできません。

手順

1. [すべて] > [システムエクスポートセット] > [エクスポートセット]に移動します。
2. エクスポートセットを選択します。
3. [エクスポート履歴] 関連リストで、[状況] 値が [エクスポート中] のレコードを選択します。
4. [エクスポートセットをキャンセル] をクリックします。

エクスポートセットプロパティ

複数のプロパティがエクスポートセットの動作をコントロールします。

プロパティ

プロパティ	説明
glide.excel.local_based_currency	Excel ファイルの場合、インスタンスのローカリゼーションと一致するように通貨値を書式設定するオプションです。 たとえば、インスタンスで I18N:French Canada Translations プラグインをアクティブ化し、通貨値 6300 をエクスポートするとします。このプロパティが true に設定されている場合、値は 6,300 € として正しくフォーマットされます。このプロパティが false に設定されている場合、値は € 6,300 としてフォーマットされます。 ローカリゼーションの詳細については、「ローカリゼーションフレームワーク」を参照してください。 • タイプ：true | false • デフォルト値：false • 場所：システムプロパティを追加する
glide.export.excel.duration.readable_string	Excel ファイルの場合、期間フィールドを日、時、分、場合によっては秒で書式設定するオプションです。 false の場合、期間フィールドは秒単位で指定されます。たとえば、[実経過時間] フィールドの値は 191,760 秒になることがあります。 true の場合、期間フィールドは日、時間、および分で書式設定されます。たとえば、前述の [実経過時間] フィールドの値は 2 日 5 時間 16 分となります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プロパティ (続く)

プロパティ	説明
	状況によっては、このプロパティが true の場合でも、期間フィールドに秒が含まれることがあります。これは、経過時間が 1 分未満の場合、またはシステムプロパティ *glide.ui.duration.seconds.enabled* が true の場合に発生します。 • タイプ：true | false • デフォルト値：false • 場所：システムプロパティを追加する
glide.export.xlsx.zip64_mode	XLSX ファイルの場合、圧縮モードを制御します。true の場合、XSLX ファイルは Zip64 アルゴリズムを使用して生成されます。 • タイプ：true | false • デフォルト値：false • 場所：システムプロパティを追加する
glide.scheduled_export.stop_on_parent_error	true の場合、親のスケジュール済みエクスポートセットでエラーが発生すると、スケジュール済みの子エクスポートセットは実行されません。 • タイプ：true | false • デフォルト値：false • 場所：システムプロパティを追加する

URL から直接エクスポート

URL クエリをビルドすることで、スクリプトまたは Web サービスからデータを動的にエクスポートします。

始める前に
必要なロール：なし

注: ServiceNow は、直接 URL アクセスにベーシック認証を適用します。URL から抽出されたデータには、現在認証されているユーザーが読み取りアクセス権を持つフィールドのみが含まれています。

このタスクについて
URL クエリを使用して、エクスポートする前にプログラムでフィルタリングされたレコードリストを生成できます。URL クエリは、レコードリストを生成するスクリプトで、ユーザーが UI から手動でフィルターを追加できない場合に便利です。

URL から直接データをエクスポートするには、ServiceNow テーブルと列の名前に精通している必要があります。「Navigate to a record or a module using a URL (URL を使用してレコードまたはモジュールに移動する)」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クエリパラメーターまたはシステムプロパティを使用して、フィールドの表示値または生の値、およびヘッダーのフィールドラベルまたはフィールド名をエクスポートするかどうかをコントロールできます。

- クエリパラメーターの使用の詳細については、「表示値とヘッダーのクエリパラメーター」を参照してください。
- システムプロパティの使用の詳細については、「表示値とヘッダーのシステムプロパティ」を参照してください。

クエリパラメーター (存在する場合) はシステムプロパティを上書きします。

手順

1. インスタンスの URL を指定します。
   例：

```
https://<instance name>.service-now.com/
```

2. エクスポートするテーブルフォームまたはリストを指定します。
   例：

```
incident_list.do
```

3. エクスポートに使用するエクスポート形式のプロセッサーを指定します。
   CSV、XLS、JSON、XLSX、または XML を指定できます。例：

```
?CSV
```

   注: URL エクスポートの XML プロセッサーは、添付ファイルやジャーナルフィールドをエクスポートしません。添付ファイルおよび [作業メモ] フィールドや [追加コメント] フィールドなどのジャーナルフィールドをエクスポートするには、コンテキストメニューの [エクスポート] > **[XML]** オプションを使用して、リストからレコードをエクスポートします。

4. オプション: *sysparm_query* パラメーターを追加して、特定のレコードをクエリします。
   必要な構文は、sysparm_query=[列名][演算子][値] です。例：

```
https://<instance
 name>.service-now.com/incident_list.do?XML&sysparm_query=priority=1
```

   注: すべてのクエリで列名、演算子、および値が使用されます。使用可能な演算子のリストについては、「条件ビルダー」を参照してください。

5. オプション: *sysparm_orderby* パラメーターを使用して、レコードを列名でソートします。
   必要な構文は、sysparm_orderby=[列名] です。例：

```
https://<instance
 name>.service-now.com/incident_list.do?XML&sysparm_query=priority=1&sy
sparm_orderby=assigned_to
```

   注: *sysparm_orderby* を使用すると、1 つの列でのみソートできます。複数の列でソートするには、複数の orderby エントリを使用します。例：

```
sysparm_query=ORDERBYassigned_to^ORDERBYpriority
```

6. オプション: *sysparm_view* パラメーターを使用して、特定のビューからフィールドをエクスポートします。
   必要な構文は、sysparm_view=[ビュー名] です。例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
https://<instance
 name>.service-now.com/incident.do?CSV&sysparm_view=ess
```

この URL から、セルフサービス (ess) ビューに表示されるインシデントフィールドがエクスポートされます。

- デフォルトでは、リストからデータをエクスポートすると、現在のビューに表示されているフィールドのみがエクスポートされます。別のリストビューからフィールドをエクスポートする場合は、UI からビューを切り替えることができます。「ビューの管理」を参照してください。
- CSV または Excel データをエクスポートするときにビューを指定しない場合、エクスポートではデフォルトのリストビューが使用されます。
- XML データをエクスポートする場合、特定のビューを指定しない限り、デフォルトですべてのフィールドがエクスポートされます。

7. オプション: *sysparm_fields* パラメーターを使用して、テーブルから特定のフィールドをエクスポートします。
必要な構文は、`sysparm_fields=[field1],[field2]` です。例：

```
https://<instance
 name>.service-now.com/incident_list.do?CSV&sysparm_fields=sys_id,num
ber
```

8. オプション: *sysparm_default_export_fields* パラメーターを使用して、すべてのフィールド (sys_id を含む) をテーブルからエクスポートします。
必要な構文は、`sysparm_default_export_fields=all` です。例：

```
https://<instance
 name>.service-now.com/incident_list.do?CSV&sysparm_default_export_fiel
ds=all
```

sysparm_default_export_fields パラメーターを含めてデフォルト以外のビューを指定しない限り、*sysparm_view* パラメーターは XML エクスポートには影響しません。

Example: サンプル URL

URL	説明
https://<インスタンス名>.service-now.com/incident_list.do?CSV	すべてのインシデントをカンマ区切り値のテキストファイルにエクスポートします。
https://<インスタンス名>.service-now.com/incident_list.do?CSV&sysparm_query=sys_id%3E%3Db4aedb520a0a0b1001af10e278657d27	特定のインシデントをカンマ区切りの値のテキストファイルにエクスポートします。
https://<インスタンス名>.service-now.com/incident_list.do?CSV&sysparm_orderby=sys_id	すべてのインシデントをカンマ区切りの値のテキストファイルにエクスポートし、リストを sys_id でソートします。
https://<インスタンス名>.service-now.com/incident_list.do?XML&sysparm_query=priority=1&sysparm_orderby=assigned_to	優先度 1 のすべてのインシデントのリストを XML ファイルにエクスポートし、リストを [アサイン先] フィールドでソートします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プログラムによる URL エクスポートの呼び出し

任意のプログラミング言語から URL エクスポートを呼び出すことで、スクリプトまたは Web サービスからデータを動的にエクスポートします。

始める前に
必要なロール：なし

このタスクについて
次の手順には、C# での .Net Framework 呼び出しの URL エクスポートの呼び出しをデモするコードサンプルが含まれています。

手順

1. 次のインポートを追加します。

```
using System.Net;
using System.IO;
```

2. ダウンロードメソッドを呼び出します。

```
static void Main(string[] args)

     {
        // Call to DownloadFile method supplying the URL and location
 to save CSV file locally
        int read =
 DownloadFile("https://
<instance>.service-now.com/incident_list.do?CSV&sysparm_query=priority=
1&sysparm_orderby=assigned_to",
                     "c:\\test\\incident.csv");
    }
```

3. ダウンロードメソッドを次のように作成します。

```
public static int DownloadFile(String url,
                                    String localFilename)
    {
        // Function will return the number of bytes processed
        // to the caller. Initialize to 0 here.
        int bytesProcessed = 0;
        // Assign values to these objects here so that they can
        // be referenced in the finally block
        Stream remoteStream = null;
        Stream localStream = null;
        WebResponse response = null;
        // Use a try/catch/finally block as both the WebRequest and
 Stream
        // classes throw exceptions upon error
        try
        {
            // Create a request for the specified remote file name
            WebRequest request = WebRequest.Create(url);
            // Create the credentials required for Basic Authentication
            System.Net.ICredentials cred = new
 System.Net.NetworkCredential("user_name", "password");
            // Add the credentials to the request
            request.Credentials = cred;
```

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
            if (request != null)
            {
                // Send the request to the server and retrieve the
                // WebResponse object
                response = request.GetResponse();
                if (response != null)
                {
                    // Once the WebResponse object has been retrieved,
                    // get the stream object associated with the
response's data
                    remoteStream = response.GetResponseStream();
                    // Create the local file
                    localStream = File.Create(localFilename);
                    // Allocate a 1k buffer
                    byte[] buffer = new byte[1024];
                    int bytesRead;
                    // Simple do/while loop to read from stream until
                    // no bytes are returned
                    do
                    {
                        // Read data (up to 1k) from the stream
                        bytesRead = remoteStream.Read(buffer, 0,
buffer.Length);
                        // Write the data to the local file
                        localStream.Write(buffer, 0, bytesRead);
                        // Increment total bytes processed
                        bytesProcessed += bytesRead;
                    } while (bytesRead > 0);
                }
            }
        }
        catch (Exception e)
        {
            Console.WriteLine(e.Message);
        }
        finally
        {
            // Close the response and streams objects here
            // to make sure they're closed even if an exception
            // is thrown at some point
            if (response != null) response.Close();
            if (remoteStream != null) remoteStream.Close();
            if (localStream != null) localStream.Close();
        }
        // Return total bytes processed to caller.
        return bytesProcessed;
    }
```

大規模なエクスポートの分割

エクスポートされるレコードの数が実際のエクスポート制限を超えた場合は、プラットフォームに大きなパフォーマンス負荷がかからないようにエクスポートを小さな増分に分割することができます。

始める前に
必要なロール：なし

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. 「URL から直接エクスポート」に記載されている手順に従って、エクスポートするフィルタリングされたレコードリストを作成します。
2. 返されたレコードの数を書き留めます。
3. レコード番号が定義されたしきい値より大きい場合は、次の構文を使用して最初の 10,000 レコードに対して *sysparm* クエリを発行します。

```
https://<instance
 name>.service-now.com/syslog_list.do?XML&sysparm_orderby=sys_id&syspar
m_record_count=10000
```

これにより、最初の 10,000 レコードが *sys_id* 番号でソートされてエクスポートされます。

4. 順番に次のレコードを検索します (10,001 など)。
次の Sys ID 値を見つけるには、テーブルにデータベースビューを作成し、そのビューに sys_id 列を追加します。where 節を指定する必要はありません。データベースビューを作成した後、[試行] を選択して、レコードとその Sys ID 値を表示します。sys_id 列でソートし、「10,001」と入力すると、その行にスキップできます。
5. 行を右クリックし、エクスポートする次のレコードの sys_id をコピーします。
6. レコード 10,001 の *sys_id* に対して実行されたクエリ以上の次の一連のレコードにアクセスします。

次の例は、b4aedb520a0a0b1001af10e278657d27 の sys_id を使用するクエリを示しています。次のレコードセットをエクスポートするには、このクエリに示す構文を使用します。

```
https://<instance
 name>.service-now.com/syslog_list.do?XML&sysparm_query=sys_id%3E
%3Db4aedb520a0a0b1001af10e278657d27&sysparm_orderby=sys_id&sysparm_reco
rd_count=10000
```

> **注:** URL クエリでは、一般的なパーセントエンコーディングが使用されます。この例では、大なり記号 (>) は %3E としてエンコードされ、等号 (=) は %3D としてエンコードされます。

7. オプション: 必要なレコードをすべてエクスポートするまで、次のレコードセットの開始 sys_id を使用して、このクエリを発行し続けます。

クラシックオーケストレーション

ServiceNow® オーケストレーションは、ワークフローエンジンを拡張して、プロセスを管理し、ServiceNow インスタンス外で自動化を実現します。

オーケストレーションは、ServiceNow プラットフォームとは別のサブスクリプションとして利用できます。詳細については、「オーケストレーションのアクティブ化」を参照してください。

探索	設定	管理
• オーケストレーションの紹介 • オーケストレーションアプリケーション	• オーケストレーションのアクティブ化 • オーケストレーション用の MID サーバー	• オーケストレー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

(続く)

- オーケストレーション ROI
- オーケストレーションの例
- ドメインセパレーションとオーケストレーション
- 利用可能なアクティビティパック
- クライアント ソフトウェア ディストリビューションの設定
- ションプラグインのリスト
- オーケストレーションランタイム プラグイン

使用

- オーケストレーションアクティビティパック
- パスワードリセット
- クライアントソフトウェアディストリビューション

開発

- オーケストレーションアクティビティデザイナー
- オーケストレーションカスタムアクティビティテンプレート
- クライアントソフトウェアディストリビューション拡張フレームワーク
- 開発者トレーニング

トラブルシューティングとヘルプ

- オーケストレーション のコミュニティで質問や回答をする
- Known Error Portal で既知のエラー記事を検索
- 連絡先 カスタマーサービス & サポート

オーケストレーションの紹介

オーケストレーションは、リモート サービス、サーバー、アプリケーション、およびハードウェア上の単純または複雑なマルチシステム タスクを自動化します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オーケストレーションプロセスは、すべての管理分野を横断し、ホスティングされたサービスやあらゆるタイプのインフラストラクチャ要素とやり取りできます。これらの機能は、IT およびビジネスプロセスを迅速かつ確実に管理するための強力なシステムを提供します。

オーケストレーションされたソリューションは、ワークフローとその中のアクティビティの両方に再利用可能なデータとバージョン管理を提供することにより、チーム間のコラボレーションを支援します。該当分野のエキスパートは、多数のワークフロー開発者が再利用可能なアクティビティを作成できます。アクティビティが変更を必要とする場合、開発者は、どのワークフローがそのアクティビティを使用しているかを知ることによって、変更が下流で持つ意味をすぐに把握できます。適切に設計されたオーケストレーションは失敗することがなく、エラーが発生したときにそのエラーに対処するための人によるタスクを適用します。

オーケストレーションツール

オーケストレーションは、ServiceNow インスタンスの外部で、Web サービスを直接呼び出したり、MID サーバーを経由して企業ファイアウォール内のシステムを呼び出したりすることができます。オーケストレーションでは、プラットフォーム内の操作を処理するための JavaScript 関数をラッパーする再利用可能なアクティビティの作成も可能です。オーケストレーションは、以下の機能を提供することによってワークフローエディター を拡張します：

- アクティビティパック。すぐに使えるアクティビティが含まれています。
- アクティビティデザイナー。開発者は、サードパーティシステムにオーケストレーションするスクリプトの作成に過度に依存せず、カスタムアクティビティを作成できます。
- スコープ対象アプリケーションを使用してアクティビティパックを作成する機能。
- データバス。オーケストレーション アクティビティ間でデータの流れを追跡するために使用します。

オーケストレーション コアは、特定のアプリケーションを使用するためのエンタイトルメントを提供します。

クライアントソフトウェアディストリビューション

サービスカタログからのソフトウェア配信を自動化するアプリケーション。SCCM の OOB サポートを提供します。パートナー ソリューションは、JAMF を使用する Mac をサポートします。その他のサードパーティソリューションは、拡張フレームワークを通じてサポートを提供します。

の構成パスワードリセット

ユーザーが Active Directory でパスワードをリセットするためのアプリケーション。他のサードパーティシステムと通信するように拡張できます。

オーケストレーション ROI

ユーザーは、タスクの推定コストと実際のコストを評価し、これらのタスクを自動化し、これらのタスクの ROI を追跡することができます。

オーケストレーションが自動化できるシステム

オーケストレーションでは、従業員オンボード、ユーザーアクセス権限、サーバー管理、管理対象ファイル転送、Security Operations Orchestration アクティビティなどのタスクを自動化できます。たとえば、ベースオーケストレーションシステムで提供される Active Directory および Exchange アクティビティを使用して、新しい従業員のネットワークアカウントとメールボックスを設定できます。

オーケストレーションが統合に必要なアクティビティを提供しない場合は、オーケストレーションアクティビティデザイナーでテンプレートを使用して必要なアクティビティを作成します。オーケストレーションが自動化できる外部システムには次のものがあります。

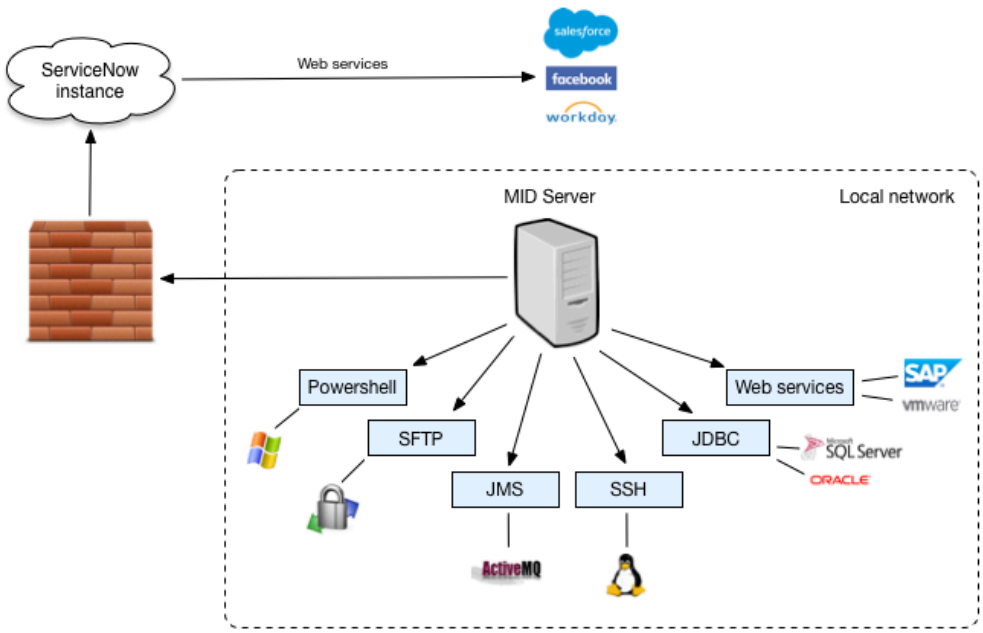
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Web サービスを公開するすべてのシステム (SOAP、 REST)
- コマンド ラインからアクセスできるシステム (SSH からアクセスできる UNIX システム、PowerShell リモートまたは WMI 対応の Windows システムなど)
- 数多くの独自サービス：Windows Active Directory 、Microsoft Exchange メールサーバー、InfoBlox、F5 Networks。

> **注:** アクティビティパックサービス製品の一覧については、「オーケストレーションコアアクティビティパック」を参照してください。

- SFTP でアクセス可能なファイルシステム
- 準拠している JDBC ドライバーを使用するデータベース
- 追加のアクティビティパックも他の ServiceNow 製品 (セキュリティオペレーション) で利用できます。

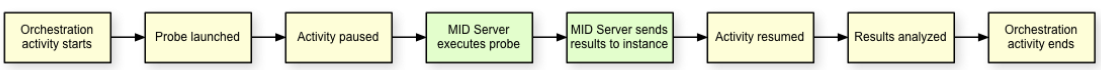
オーケストレーション機能



オーケストレーションワークフロー

ワークフロー内で オーケストレーションアクティビティが開始されると、オーケストレーションは ディスカバリープローブとセンサー を起動し、プローブレコードを ECC キューに書き込みます。MID サーバーが要求を取得してプローブを実行すると、ワークフローは一時停止します。プローブが報告を返すと、結果が分析され、ワークフローが再開されます。ワークフローはこの時点で終了することも、続行することもできます。

オーケストレーションワークフロー



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ドメインセパレーションとオーケストレーション

ドメインセパレーションは オーケストレーション でサポートされています。 ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：標準*

- ベーシックレベルを含みます。
- ビジネスロジック：サービスプロバイダーによって顧客ごとにプロセスを作成または変更できます。ユースケースには、単一のインスタンスでの複数のサービスプロバイダー顧客によるアプリケーションの正しい使用が反映されています。
- インスタンスの所有者は、特定のアプリケーションに期待される通りに、テナントごとに MVP ビジネスロジックとデータパラメーターを設定できる必要があります。

ユースケース：管理者である私は、あるテナントのレコードを閉じる際にコメントを残すことを必須にする機能が必要ですが、別のテナントには必要ありません。

関連情報

サービスプロバイダーのドメインセパレーション

オーケストレーションのアクティブ化

オーケストレーション (com.snc.runbook_automation) プラグインは、ServiceNow プラットフォームとは別のサブスクリプション内で利用できます。

始める前に
サブスクリプションを購入するには、ServiceNow アカウントマネージャーにお問い合わせください。アカウントマネージャーは通常数日以内に、組織の本番および準本番インスタンスでプラグインが有効化されるように手配することができます。

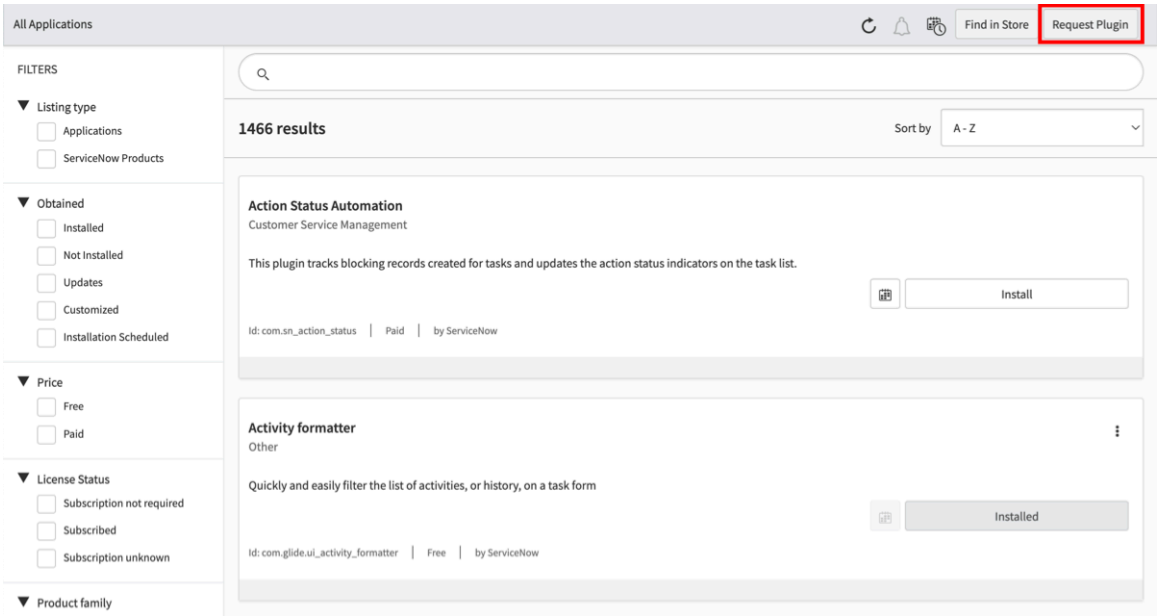
アカウントマネージャーがいない場合、購入後に有効化を延期することを決定するか、無料で準本番インスタンスで製品を評価する場合には次の手順を実行します。

必要なロール：なし

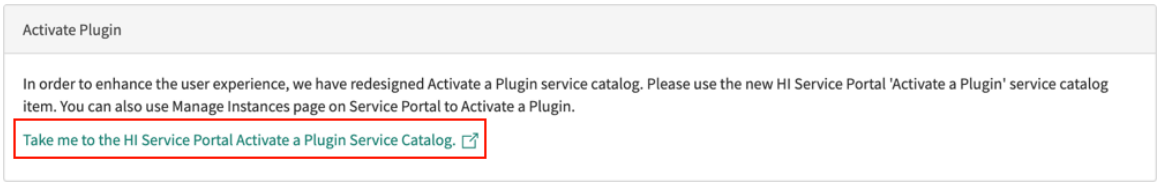
手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. [すべてのアプリケーション] ページで [プラグインの要求] をクリックして、Now Support で [プラグインをアクティブ化] フォームを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. Now Support で、Now Support サービスポータル サービスカタログ にアクセスするリンクを選択します。



4. インスタンスを選択します。
5. [アクション] > [プラグインのアクティブ化] を選択します。
6. [プラグインのアクティブ化] フォームで、次の情報を入力します。

[プラグインのアクティブ化] フォーム

フィールド	説明
ターゲットインスタンスは何ですか	プラグインをアクティブ化するインスタンス。
どのプラグインをアクティブ化しますか	アクティブ化するプラグインの名前です。 **注:** 必要なプラグインが表示されない場合、または OEM またはオンプレミスのインスタンスでプラグインをアクティブ化している場合は、[探しているプラグインが表示されていません **(Plugin I'm looking for is not listed)]** チェックボックスをオンにして、プラグインの名前を入力します。
メンテナンスの日時を選択 (Select Maintenance Date and Time)	プラグインをアクティブ化する日時。

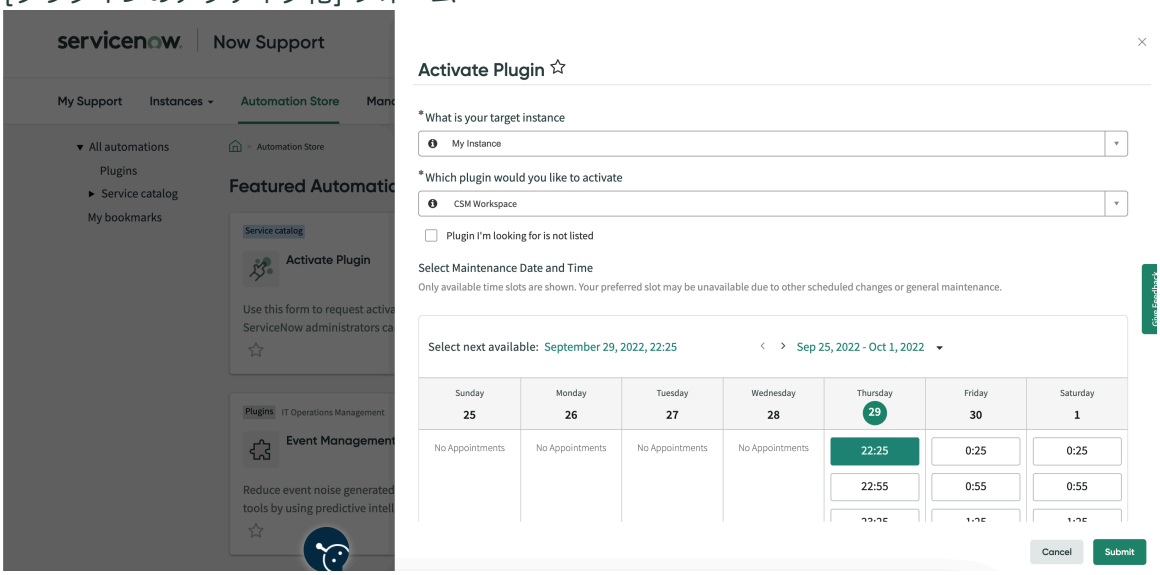
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: プラグインは、米国太平洋標準時で、毎営業日の朝と夕方の 2 回のバッチでアクティブ化されます。特定の時刻にプラグインをアクティブ化する必要がある場合は、[理由/コメント **(Reason/Comments)]** フィールドに要求を入力します。

Example

たとえば、 [自分のインスタンス (My Instance)] という名前のインスタンスで CSM Workspace プラグインをアクティブ化するには、次のフォームを参照してください。

[プラグインのアクティブ化] フォーム



7. [送信] を選択します。
   プラグインの要求に関するその他の詳細については、Now Support ナレッジベース の記事「サービスカタログからのプラグインの要求 (Requesting a Plugin from the サービスカタログ) (KB0751715)」を参照してください。

オーケストレーションプラグインのリスト

この表には、オーケストレーションで使用可能なすべてのプラグインとその依存関係が一覧表示されています。

これらのオーケストレーションプラグインは購入することも、オーケストレーション サブスクリプションの一部としてリクエストすることもできます。詳細については、アカウント担当者にお問い合わせください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	説明	依存関係
オーケストレーション [com.snc.runbook_automation]	オーケストレーション機能のメイン プラグイン。このプラグインは、外部システムとの操作を自動化するためにワークフローを拡張します。このプラグインを使用して、ビジネス サービス、アプリケーション、およびインフラストラクチャをオーケストレーションします。このプラグインは、展開、構成、情報収集などの操作を自動化します。オーケストレーションは Web サービスを自動化し、MID サーバーを使用して企業のネットワーク内のデバイス上でコマンドを実行できます。	• オーケストレーション - ROI • オーケストレーション - ランタイム
オーケストレーション - Active Directory [com.snc.orchestration.ad]	Active Directory アクティビティパックをインストールします。これらのアクティビティは、Windows Active Directory 内のオブジェクトを作成、削除、および管理します。	オーケストレーション
オーケストレーション - 資産リース管理 [com.snc.orchestration.asset_lease_management]	クライアント ソフトウェア ディストリビューションのソフトウェア リース機能を提供します。ソフトウェア リースの開始日と終了日を選択したり、リース延長をリクエストすることができます。 **注:** オーケストレーションがアクティブな場合、このプラグインは自動的に有効になりません。	なし
オーケストレーション - Azure Active Directory [com.snc.orchestration.azure.ad]	Azure AD アクティビティパックをインストールします。これらのアクティビティでは、Azure Active Directory の従業員の雇用と退職の機能を自動化し、Office 365 ライセンスを管理します。	オーケストレーション
オーケストレーション - クライアント ソフトウェア ディストリビューション [com.snc.orchestration.client_software_distribution]	Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) などのサードパーティ管理システムを使用して、サービスカタログからソフトウェアの配布を許可します。 **注:** オーケストレーションがアクティブな場合、このプラグインは自動的に有効になりません。	• オーケストレーション - System Center Configuration Manager • オーケストレーション - 資産リース管理 • サービスカタログ スコープ対象 API • ソフトウェア資産管理
オーケストレーション - Exchange [com.snc.orchestration.exchange]	Exchange アクティビティパックをインストールします。これらのアクティビティは、Microsoft Exchange メールシステムを管理します。	オーケストレーション

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	説明	依存関係
オーケストレーション - F5 ネットワーク管理 [com.snc.orchestration.f5]	F5 ネットワーク管理アクティビティパックをインストールします。これらのアクティビティは、プール、プール メンバー、およびプールに含まれる仮想サーバーなど、F5 ロード バランサーの要素を構成します。	オーケストレーション
オーケストレーション - Infoblox DDI アクティビティパック [com.snc.orchestration.infoblox]	Infoblox DDI アクティビティパックをインストールします。これらのアクティビティは、Infoblox DDI 管理をサポートします。	オーケストレーション
オーケストレーション - PowerShell [com.snc.orchestration.powershell]	PowerShell アクティビティパックをインストールします。これらのアクティビティは、Windows .NET Framework を使用して、Windows マシンとアプリケーションの管理をコントロールおよび自動化します。	オーケストレーション
オーケストレーション - プローブ [com.snc.orchestration.probe]	プローブアクティビティパックをインストールします。これらのアクティビティは、ターゲット ホストで ServiceNow® プローブを実行して、特定の情報を返します。	オーケストレーション
オーケストレーション - ROI [com.snc.runbook_automation.roi]	インスタンス内で自動化タスクに起因する節減を見積もり、実際の節減額を計算するオーケストレーションアプリケーションをインストールします。ベース オーケストレーション サブスクリプションでは、オーケストレーション - ROI が自動的に有効になります。	• パフォーマンスアナリティクス • コスト管理
オーケストレーション - ROI プレミアム [com.snc.runbook_automation.roi_premium]	時間の経過に伴う自動化タスクの計算済み節減に関する詳細レポートを表示するプレミアム ダッシュボードをインストールします。オーケストレーション - ROI プレミアム プラグインを使用するには、レポートを表示するためにパフォーマンスアナリティクス - プレミアム版プラグインの購入とアクティブ化が必要です。 **注:** オーケストレーションがアクティブな場合、このプラグインは自動的に有効になりません。	• オーケストレーション - ROI • パフォーマンスアナリティクス - プレミアム版
オーケストレーション - ランタイム [com.snc.runbook_automation.runtime]	オーケストレーション サブスクリプションを必要とせずに、ServiceNow® プラットフォーム上の他のアプリケーションがオーケストレーション コンテンツを配布および使用できます。オーケストレーション - ランタイム プラグインは、これらのアプリケーションに付属のオーケストレーションアクティビティをワークフローエディターに表示します。顧客は、オーケストレーション ライセンスを必要とせずにアクティビティを変更できます。	• ワークフロー ランタイム エンジン • コア自動化

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

名前	説明	依存関係
オーケストレーション - SFTP [com.snc.orchestration.sftp]	SFTP ファイル転送アクティビティパックをインストールします。これらのアクティビティは、SFTP サーバー上のファイルとディレクトリーを管理し、SFTP サーバー間でファイルを移動します。	オーケストレーション
オーケストレーション - SSH [com.snc.orchestration.ssh]	SSH アクティビティパックをインストールします。これらのアクティビティは、Linux コンピューターでファイルの読み取り、書き込み、コピー、およびユーザーパスワードのリセットを行います。	オーケストレーション
オーケストレーション - System Center Configuration Manager [com.snc.orchestration.sccm_mgmt]	System Center Configuration Manager (SCCM) アクティビティパックをインストールします。これらのアクティビティは、SCCM サーバー上のソフトウェアの展開と収集を管理します。	オーケストレーション

オーケストレーション ランタイム プラグイン

オーケストレーション - ランタイム プラグインは、オーケストレーション サブスクリプションを必要とせずに、ServiceNow® プラットフォーム上の他のアプリケーションがタスクを自動化できます。

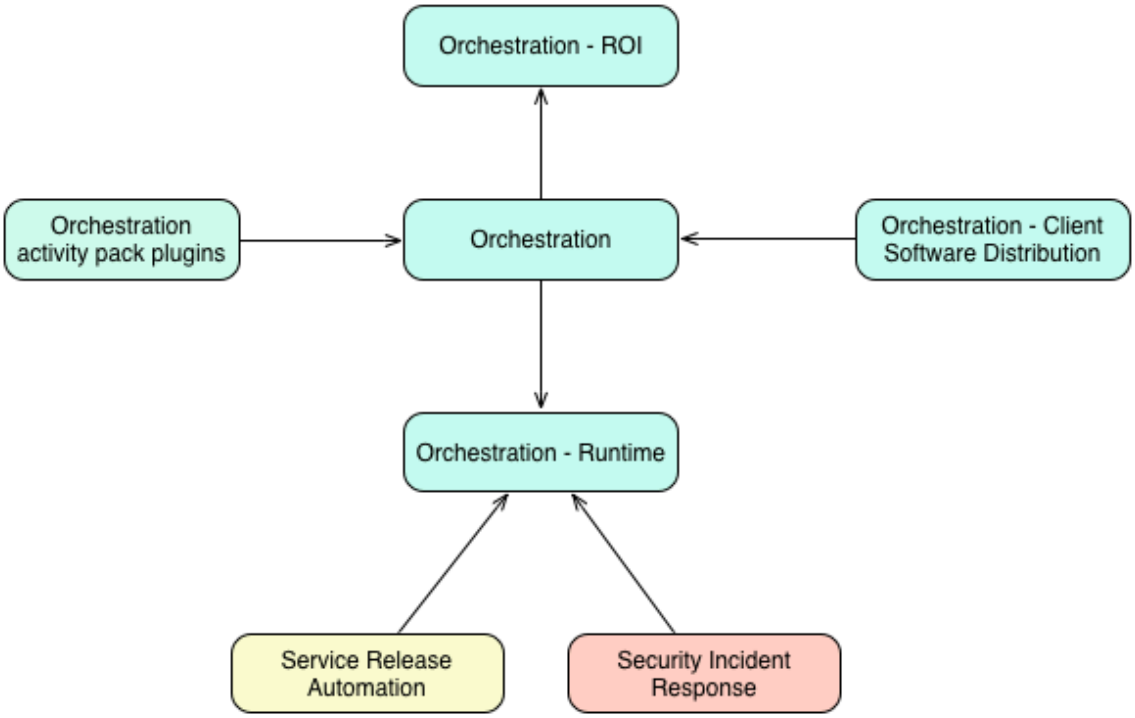
オーケストレーション - ランタイム プラグインは、別のプラグインまたはアプリケーションの一部としてアクティブ化できます。オーケストレーションを所有していない可能性のある顧客にアクティビティパックを配布するために、戦略的技術パートナーと ServiceNow アプリケーションによって使用されます。たとえば、セキュリティ インシデントレスポンス管理 (SIRM) アプリケーションはオーケストレーション コンテンツを提供します。オーケストレーション コンテンツには、ワークフローエディターの [パック] タブで利用可能なアクティビティが含まれます。SIRM を購入した顧客は、オーケストレーション ライセンスを購入しなくても、SIRM に付属するアクティビティを消費および変更できます。

プラグインに含まれるもの

オーケストレーション - ランタイム プラグインは、ワークフローエディターの [パック] および [データ] タブにアクセスします。このプラグインを使用すると、ユーザーはアプリケーションのカスタムアクティビティにアクセスし、データバスのデータを再利用できます。このプラグインは、カスタムのオーケストレーション アクティビティパックまたはアクティビティデザイナーへのアクセスを提供しません。ワークフローエディターの [カスタム] タブは、オーケストレーション サブスクリプションなしでは使用できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オーケストレーションプラグインの関係



依存関係

オーケストレーション - ランタイム プラグインは、これらのアプリケーションプラグインをアクティブ化します。

- セキュリティインシデントレスポンスのオーケストレーション
- サービス リリース自動化

。

アクティビティへのアクセス

ServiceNow® アプリケーションに付属するカスタムアクティビティは、ワークフローエディターの [パック] タブからアクセスしてワークフローで使用できます。これらのアクティビティを編集するには、[オーケストレーション] > [アクティビティデザイナーのアクティビティ]に移動し、変更するアクティビティを選択します。これらのアクティビティの作成に使用されるプロバイダー テンプレートの詳細については、「オーケストレーションカスタムアクティビティテンプレート」を参照してください。

オーケストレーション アクティビティのリスト

ワークフロー で オーケストレーション アクティビティを使用して、サードパーティシステムと統合できます。

一部のオーケストレーションアクティビティは、アクティビティデザイナーを使用してアプリケーションスコープ アクティビティとして書き換えられ、アクティビティパックにグループ化されました。他の非スコープ対象アクティビティは不使用になり、ワークフローエディターに表示されない可能性があります。ただし、すべての不使用アクティビティは、それらを使用する既存のワークフローでは引き続き機能します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

グローバル アクティビティ

これらのアクティビティはグローバル スコープ内でのみ実行されます。グローバル スコープで作成したアクティビティは、ワークフローエディターの [パック] および [カスタム] タブで、[グローバル] カテゴリ内にまとめられます。

アクティビティ	説明
Server Alive をテスト	SSH 経由で Linux または UNIX コンピューター上でコマンド (シェル スクリプトを含む) を実行し、ターゲット システムが稼動しているかどうかを検証します。

Active Directory (AD) アクティビティ

すべての AD オーケストレーション アクティビティは、Geneva リリースでスコープ対象アクティビティとして書き換えられ、Active Directory アクティビティパックで利用できます。アクティビティ定義をベースにした以前のバージョンの AD アクティビティはすべて不使用になり、新しいワークフローでは使用できなくなりました。

アクティビティ	説明
AD オブジェクトを作成	ユーザーアカウントが ServiceNow インスタンスで作成されたときに、Windows Active Directory にユーザーアカウントを作成します。
AD ユーザーアカウントの無効化	Windows Active Directory ユーザーアカウントを無効にして非アクティブ化します。
AD ユーザーアカウントの有効化	Windows Active Directory ユーザーアカウントを有効にしてアクティブ化します。
クエリー AD	検索フィルターに基づいて Windows Active Directory からエントリーを取得します。
AD オブジェクトを削除	Windows Active Directory からユーザーアカウントを削除します。
AD ユーザーパスワードをリセット	Windows Active Directory のユーザーアカウントのパスワードをリセットします。
AD ユーザーパスワードを変更	Windows Active Directory のユーザーアカウントのパスワードを変更します。
AD オブジェクトを更新	Windows Active Directory のユーザーアカウントを更新します。
アカウントはロックされていますか	Active Directory ユーザーアカウントがロックされているかどうかを判断します。
AD アカウントのロックを解除	Active Directory ユーザーアカウントのロックを解除します。

Azure AD

これらすべてのアクティビティは、スコープ対象であり、Azure AD アクティビティパックに含まれます。レガシー バージョンはありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティ	説明
グループにユーザーを追加	Azure Active Directory の既存のセキュリティグループにユーザーを追加します。
ユーザーライセンスをアサイン	指定したユーザーに追加の Office 365 ソフトウェアライセンスを割り当てます。
ユーザーの作成	Azure Active Directory テナントのユーザーを作成します。
ユーザーを削除	Azure Active Directory テナントから名前付きのユーザーアカウントを削除します。
ユーザー情報を取得	Azure Active Directory から名前付きユーザーの情報を返します。
グループからユーザーを削除	Azure Active Directory のセキュリティグループから既存のユーザーを削除します。
ユーザーライセンスを削除	名前付きユーザーに指定した Office 365 ソフトウェアライセンスを取り消します。
ユーザーパスワードをリセット	名前付きユーザーの Azure Active Directory パスワードを変更します。

F5 ネットワーク管理アクティビティ

これらすべてのアクティビティは、スコープ対象であり、F5 ネットワーク管理アクティビティパックに含まれます。レガシー バージョンはありません。

アクティビティ	説明
F5 プールの追加	ロード バランサー プールを作成します。
F5 プールの確認	プールのステータスをチェックして、トラフィックを受け入れることができるかどうかを検証します。
Delete F5 Pool	F5 プールを削除します。
Add F5 Pool Member	メンバーを F5 プールに追加します。
F5 プール メンバーの取得	プール メンバーを返し、プールのステータスを確認します。
F5 プール メンバーの削除	F5 プール メンバーを削除します。
F5 仮想サーバーの追加	仮想サーバーを追加します。
F5 仮想サーバーの変更	F5 プールにアサインされた仮想サーバーを、irules と vlan で構成します。
F5 仮想サーバーの削除	F5 プールから仮想サーバーを削除します。
仮想サーバーに F5 プロファイルを追加	F5 プールにアサインされた仮想サーバーにプロファイルを追加します。

Infoblox アクティビティ

これらすべてのアクティビティは、スコープ対象であり、Infoblox DDI アクティビティパックに含まれます。レガシー バージョンはありません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティ	説明
DHCP 予約 IPv4 アドレス範囲	DHCP を使用するための IP アドレス範囲を予約します。
DHCP Delete IP Reservation	IPv4 または IPv6 のいずれかのアドレス範囲を使用して、DHCP で IP 予約を削除します。
DHCP IP 予約のリスト	特定の Infoblox サーバー上のすべての DHCP 範囲予約のリストを生成します。
DNS C レコードリスト表示	指定された Infoblox サーバーからすべての標準 (CNAME) レコードを取得します。
DNS A レコードの登録	指定した Infoblox サーバーに DNS A レコードを作成します。
DNS C レコードを登録	指定した Infoblox サーバーに DNS 標準 (CNAME) レコードを作成します。
DNS レコードリスト表示	特定の Infoblox サーバー上のすべての DNS エントリーのリストを生成します。
DNS の削除	C および A レコードなど、Infoblox サーバーから任意のタイプの DNS レコードを削除します。
IPAM IP アドレスを登録	Infoblox IPAM を使用してネットワークに IP アドレスを登録します。
IPAM IP アドレスを予約	Infoblox IPAM を使用してネットワークに IP アドレスを予約します。
IPAM IP 予約のリスト	指定した Infoblox サーバー内のすべての IP アドレスのアレイを返します。
IPAM の削除	指定した Infoblox サーバー内の IP アドレスを削除します。
ネットワークを作成	指定した Infoblox サーバーにネットワークを作成します。
ネットワークの詳細情報を取得	Infoblox サーバー上の特定のネットワークに関する情報を取得します。
ネットワークの削除	Infoblox サーバーからネットワークを削除します。
登録されたネットワークをリスト	Infoblox サーバーに関連付けられているすべてのネットワークを取得します。

Microsoft Exchange アクティビティ

すべての Exchange オーケストレーション アクティビティは、Geneva リリースでスコープ対象アクティビティとして書き換えられ、Exchange アクティビティパックで利用できます。アクティビティ定義をベースにした以前のバージョンの Exchange アクティビティはすべて不使用になり、新しいワークフローでは使用できなくなりました。

アクティビティ	説明
アドレスリストの作成	グループのすべてのユーザーにメールを送信するためのエイリアスとして機能するアドレスリストを作成します。このエイリアスを使用してユーザー権限を管理することはできません。
アドレスリストの削除	Exchange サーバーから既存のアドレスリストを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティ	説明
アドレスリストの取得	指定された Exchange アドレスリストからすべての属性を取得します。
アドレスリストの移動	アドレス階層内の別の場所に Exchange アドレスリストを移動します。
アドレスリストの設定	Exchange アドレスリストを変更します。
アドレスリストの更新	指定されたアドレスリストのユーザーを追加または削除し、キャッシュされたアドレスリストの変更をサーバーにすぐに適用します。
メールボックスの作成	ユーザーが存在しない場合は、新しい Active Directory ユーザーと関連する Exchange メールボックスを作成します。
メール ボックスの削除	Active Directory ユーザーの Exchange メールボックスを削除します。
メールボックスの無効化	指定された Active Directory アカウントに関連付けられているメールボックスを無効にします。
メールボックスの有効化	既存の Active Directory ユーザーのメールボックスを作成します。
メールボックスの取得	指定されたユーザーのメールボックスまたは Exchange サーバーのすべてのメールボックスを取得します。
メールボックスの設定	既存の Exchange メールボックスの設定を変更します。

PowerShell アクティビティ

これらの PowerShell アクティビティは、スコープ対象アクティビティとして書き換えられ、PowerShell アクティビティパックで利用できます。アクティビティ定義をベースにした以前のバージョンの PowerShell アクティビティはすべて不使用になり、新しいワークフローでは使用できなくなりました。

アクティビティ	説明
Windows アプリケーションをインストール	Windows ターゲット マシンにアプリケーションをインストールします。
ドメインを結合	Windows マシンをドメインに参加させます。
Windows Server を再起動します	PowerShell を使用して Windows サーバーを再起動します。
Windows アプリケーションをアンインストール	Windows ターゲット マシンからアプリケーションをアンインストールします。
サービス状態を変更	リモート システム上の Windows サービスを開始または停止します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プローブアクティビティ

これらのプローブアクティビティは、スコープ対象アクティビティとして書き換えられ、プローブアクティビティパックで利用できます。アクティビティ定義をベースにした以前のバージョンのアクティビティはすべて不使用になり、新しいワークフローでは使用できなくなりました。

アクティビティ	説明
DNS 名の解決	IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を 1 つまたは複数の IP アドレスに解決します。
SNMP クエリー	SNMP デバイスをクエリーします。

SCCM アクティビティ

これらすべてのアクティビティは、スコープ対象であり、SCCM アクティビティパックに含まれます。レガシー バージョンはありません。

アクティビティ	説明
デバイス コレクションに追加	Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) デバイス コレクションにデバイスを追加します。
ユーザー コレクションに追加	Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) ユーザー コレクションにユーザーを追加します。
アプリケーションを入手	Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーで使用可能なすべてのアプリケーションのリストを返します。
展開を取得	Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーを使用してオーケストレーションによって実行された展開のリストを返します。
デバイス コレクションを取得	Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) ホストで使用可能なデバイス コレクションのリストを返します。
ユーザー コレクションを取得	Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) ホストで使用可能なユーザー コレクションのリストを返します。
デバイス コレクションから削除	Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) デバイス コレクションからデバイスを削除します。
ユーザー コレクションから削除	Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) ユーザー コレクションからユーザーを削除します。

SSH アクティビティ

これらの SSH アクティビティは、スコープ対象アクティビティとして書き換えられ、SSH アクティビティパックで利用できます。スコープ対象アクティビティに変換されなかった SSH アクティビティは、[オーケストレーション - 不使用] カテゴリに移動されましたが、引き続きすべてのワークフローで使用できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティ	説明
ファイルのコピー	SSH 経由で Linux または Unix コンピューター上のファイルをコピーします。
ファイル読み取り	SSH 経由で Linux または Unix コンピューター上のファイルを読み込みます。
ファイル書き込み	ファイルを Linux または UNIX コンピューターに書き込みます。
ファイル置換文字列	Linux または UNIX コンピューター上でファイル内の文字列を検索して置換します。
ファイルの比較	SSH 経由で Linux または Unix コンピューター上の 2 つのファイルを比較します。
Linux ユーザーパスワードをリセット	Linux コンピューター上の特定のユーザーのパスワードをリセットします。
セキュア コピー	コピーしたファイルを MID サーバーに保存せずに、ホスト間でファイルをコピーします。

SFTP アクティビティ

これらすべてのアクティビティは、スコープ対象であり、SFTP ファイル転送アクティビティパックに含まれます。レガシー バージョンはありません。

アクティビティ	説明
ファイルをコピー	SFTP サーバー (ソース ホスト) から別の SFTP サーバー (ターゲット ホスト) にファイルをコピーします。
ディレクトリーを作成	SFTP サーバー上にディレクトリーを作成します。
ファイル リストを入手	SFTP サーバー (ソース ホスト) 上の指定されたディレクトリーおよびそのサブディレクトリーからファイルのリストを返します。
ファイルまたはディレクトリーを削除	SFTP サーバー上のファイルまたはディレクトリー (サブディレクトリーを含む) を構成時に削除します。
ファイルまたはディレクトリーの名前を変更	ファイルまたはディレクトリーの名前を SFTP サーバー上の新しい名前に変更します。
ファイル属性の設定	SFTP サーバー上のファイルまたはディレクトリーの一般的なファイル属性 (タイムスタンプ、サイズ、権限、UID/GID など) を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

不使用のアクティビティ

これらのアクティビティはワークフローエディターから削除されました。新しいワークフローでは使用できませんが、既存のワークフローでは引き続き正常に動作します。アクティビティデザイナーを使用して再作成することにより、不使用のアクティビティを再アクティブ化したり、不使用のアクティビティの機能をスコープ対象アクティビティとして複製したりすることができます。

アクティビティ	説明
プローブを実行	ドキュメントの代わりに MID サーバープローブを起動します。
SOAP 要求	ターゲット サーバー上で SOAP 要求を実行します。[SOAP メッセージ] アクティビティによってこのアクティビティが置き換えられました。
コマンドを実行	Linux または UNIX コンピューターでコマンド (シェル スクリプトを含む) を実行します。
SCP を実行	Secure Copy Protocol (SCP) を使用して、ファイルが存在するディレクトリーごとファイルをコンピューター間でコピーします。[セキュア コピー] アクティビティによって [SCP を実行] アクティビティが置き換えられました。
Powershell の実行	MID サーバー上で Windows PowerShell コマンドを実行します。

利用可能なアクティビティパック

アクティビティパックは、オーケストレーションのサブスクリプションによって利用できます。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

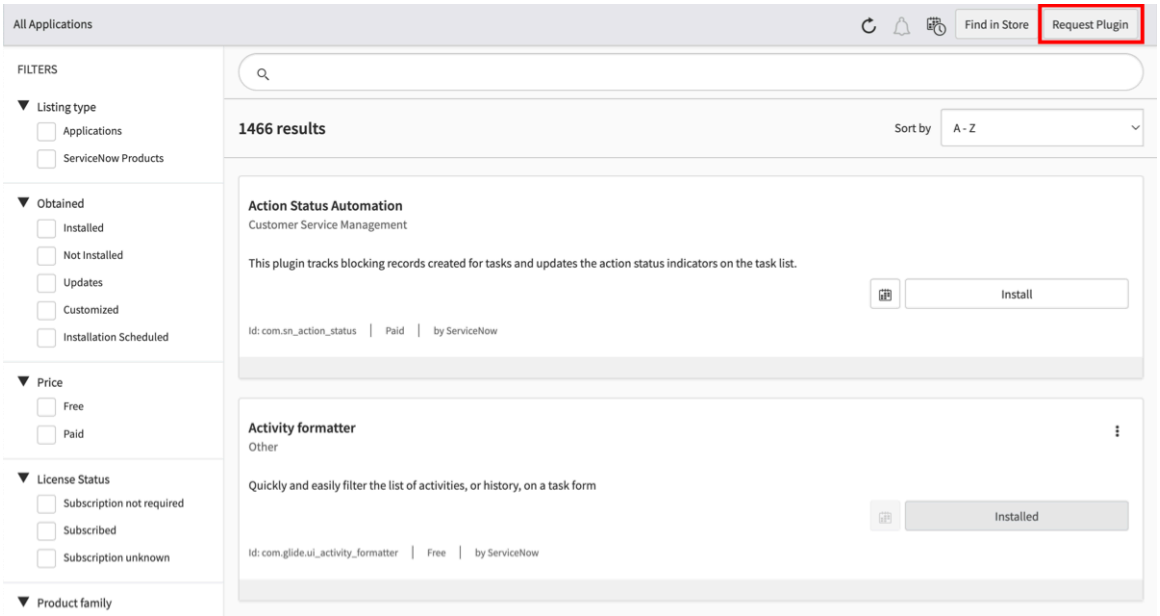
オーケストレーション サブスクリプションでは、以下のアクティビティパックが利用でき、アクティブになっています。

- オーケストレーション - Active Directory (com.snc.orchestration.ad)
- オーケストレーション - Azure Active Directory (com.snc.orchestration.azure.ad)
- オーケストレーション - Exchange (com.snc.orchestration.exchange)
- オーケストレーション - SFTP (com.snc.orchestration.sftp)
- オーケストレーション - Infoblox DDI アクティビティパック (com.snc.orchestration.infoblox)
- [F5 ネットワーク管理] アクティビティパック (com.snc.orchestration.f5)
- オーケストレーション - SSH (com.snc.orchestration.ssh)
- オーケストレーション - PowerShell (com.snc.orchestration.powershell)
- オーケストレーション - System Center Configuration Manager (com.snc.orchestration.sccm_mgnt)

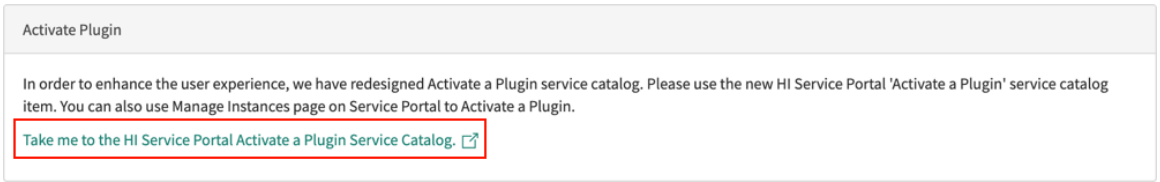
手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. [すべてのアプリケーション] ページで [プラグインの要求] をクリックして、Now Support で [プラグインをアクティブ化] フォームを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. Now Support で、Now Support サービスポータル サービスカタログ にアクセスするリンクを選択します。



4. インスタンスを選択します。
5. [アクション] > [プラグインのアクティブ化] を選択します。
6. [プラグインのアクティブ化] フォームで、次の情報を入力します。

[プラグインのアクティブ化] フォーム

フィールド	説明
ターゲットインスタンスは何ですか	プラグインをアクティブ化するインスタンス。
どのプラグインをアクティブ化しますか	アクティブ化するプラグインの名前です。 **注:** 必要なプラグインが表示されない場合、または OEM またはオンプレミスのインスタンスでプラグインをアクティブ化している場合は、[探しているプラグインが表示されていません **(Plugin I'm looking for is not listed)]** チェックボックスをオンにして、プラグインの名前を入力します。
メンテナンスの日時を選択 (Select Maintenance Date and Time)	プラグインをアクティブ化する日時。

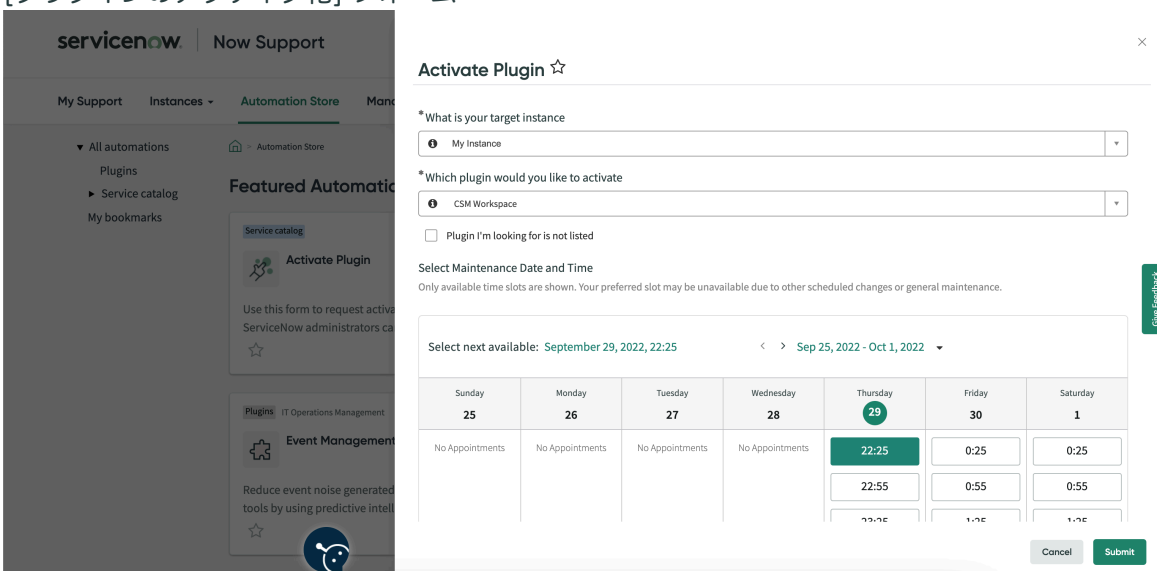
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: プラグインは、米国太平洋標準時で、毎営業日の朝と夕方の 2 回のバッチでアクティブ化されます。特定の時刻にプラグインをアクティブ化する必要がある場合は、[理由/コメント **(Reason/Comments)]** フィールドに要求を入力します。

Example

たとえば、 [自分のインスタンス (My Instance)] という名前のインスタンスで CSM Workspace プラグインをアクティブ化するには、次のフォームを参照してください。

[プラグインのアクティブ化] フォーム



7. [送信] を選択します。
   プラグインの要求に関するその他の詳細については、Now Support ナレッジベース の記事「サービスカタログからのプラグインの要求 (Requesting a Plugin from the サービスカタログ) (KB0751715)」を参照してください。

不使用のオーケストレーション アクティビティ

これらのオーケストレーション アクティビティは不使用になりました。

プローブを実行

[プローブを実行] アクティビティは、ドキュメントの代わりに MID サーバープローブを起動します。ターゲット マシン上でプローブを起動するすべてのオーケストレーション アクティビティは、[プローブを実行] アクティビティに基づいています。ServiceNow インスタンスは、このアクティビティを実行するために SSH を使用するように設定された MID サーバーにアクセスできる必要があります。

重要: このアクティビティは不使用になり、新しいワークフローでは使用できません。このプローブの機能を置き換えるには、プローブアクティビティテンプレートを使用してカスタムアクティビティを作成します。[プローブを実行] アクティビティを使用する以前のリリースからのワークフローは引き続き実行できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プローブを実行] の入力変数

フィールド	説明
プローブ	リストから MID サーバープローブを選択します。これは、*discovery_probes* テーブルに出現するプローブの名前です。
プローブのソース	プローブの実行対象 (プローブのターゲット) であるホスト システムの IP アドレスを入力します。
センサースクリプト	プローブの結果を使用して実行するスクリプト。プローブからの出力は、*output* という名前の変数に含まれます。プローブからのエラーは、*error* という名前の変数に含まれます。

SOAP 要求

[SOAP 要求] アクティビティは、ターゲット サーバー上で SOAP 要求を実行します。

重要: このアクティビティは不使用になり、[SOAP メッセージ] ワークフロー アクティビティ アクティビティで置き換えられました。[SOAP 要求] アクティビティを使用する以前のリリースからのワークフローは引き続き実行できます。ただし、このアクティビティは新しいワークフローでは使用できません。

[SOAP 要求] の入力変数

フィールド	説明
SOAP URL	SOAP エンドポイント。
ユーザー名	ベーシック認証情報のユーザー名。
パスワード	ベーシック認証情報のパスワード。
エンベロープ スクリプト	Web サービスのパラメーターを設定するためのスクリプト。
センサースクリプト	要求が行われ、回答が受信されてから実行されるスクリプト。

不使用アクティビティの再アクティブ化

アクティビティパックに変換されたオーケストレーション アクティビティは、アップグレードされたインスタンスと新しいインスタンスでは不使用になりましたが、新しいワークフローで再アクティブ化できます。

始める前に

必要なロール：workflow_admin、admin

注: 不使用アクティビティを新しいワークフローで再アクティブ化することはお勧めできません。レガシー アクティビティでは、データバスや入力変数テストからのデータ再利用など、スコープ対象アプリケーションの独自機能を使用できません。

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [管理] > [アクティビティ定義]に移動します。
2. アクティビティのリストで、フィルターから条件「カテゴリ **!=** 不使用」をクリアします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. 再アクティブ化するアクティビティの定義レコードを開きます。
4. [表示内容] タブを選択します。
5. [カテゴリ] フィールドで、値 [不使用] を別のカテゴリに置き換えます。
   これは任意の文字列にすることができます。
6. [更新] をクリックします。
   提供された値を使用して新しいカテゴリが作成され、アクティビティが再アクティブ化されます。
   このアクティビティは、ワークフローエディターの [コア] タブで利用できます。

[SOAP メッセージ] ワークフロー アクティビティ

[SOAP メッセージ] アクティビティは、[システム Web サービス] プラグインで定義された SOAP メッセージを使用し、MID サーバーを使用してメッセージを呼び出すことができます。

インスタンスは、SOAP を使用するように設定された MID サーバーにアクセスできる必要があります。

入力変数

[SOAP メッセージ] アクティビティの入力変数

フィールド	パラメーター	説明
SOAP メッセージ	soap_message	[システム Web サービス] プラグインのアウトバウンド SOAP メッセージ [sys_soap_message] テーブルで定義された SOAP メッセージ。([システム **Web** サービス] > [アウトバウンド] > **[SOAP** メッセージ])
SOAP メッセージ関数	soap_message_function	SOAP メッセージで定義された呼び出し機能。各 SOAP メッセージ レコードにある **[SOAP** メッセージ関数] 関連リストに登録された機能。
SOAP エンドポイント	soap_endpoint	SOAP メッセージ関数レコードで **[SOAP** エンドポイント] 値の代わりに使用するエンドポイント。このフィールドを空白のままにして、SOAP メッセージ関数レコードで定義されたエンドポイントを使用します。
変数	変数	SOAP メッセージ関数レコードで定義された SOAP [エンベロープ] へ代入する変数。文字列には、次の形式を使用します。 `name1=value1, name2=value2, . . .` 名前または値のいずれかにカンマまたは等号が含まれている場合は、これらの文字をバックスラッシュでエスケープします。
MID サーバーを使用	use_midserver	MID サーバーを使用して SOAP メッセージを送信するためのチェック ボックス。インスタンスには表示されないファイアウォールまたはサブネットワーク内のエンドポイントに到達するには、MID サーバーが必要な場合があります。このチェックボックスがオン (true) になっていても **[MID** サーバー] フィールドで MID サーバーが定義されていない場合、ワークフローは自動的に MID サーバーを検索しようとします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[SOAP メッセージ] アクティビティの入力変数 (続く)

フィールド	パラメーター	説明
MID サーバー	midserver	使用する MID サーバーの名前。このフィールドは、**[MID サーバーを使用]** チェック ボックスをオンにした場合に表示されます。*use_midserver* パラメーターが無効な場合、ワークフローはこのパラメーターを無視します。 **注:** 従来の SOAP メッセージアクティビティと REST メッセージでは特定の MID サーバーのみを選択できます。これらの従来のアクティビティは、Istanbul リリース以降で使用可能な [MID サーバーの選択] を使用しません。
センサースクリプト	sensor_script	要求が行われ、回答が受信されてから実行されるスクリプト。*activity.output* オブジェクトから XML 応答本文全体にアクセスできます。

オーケストレーションで使用されるプローブ

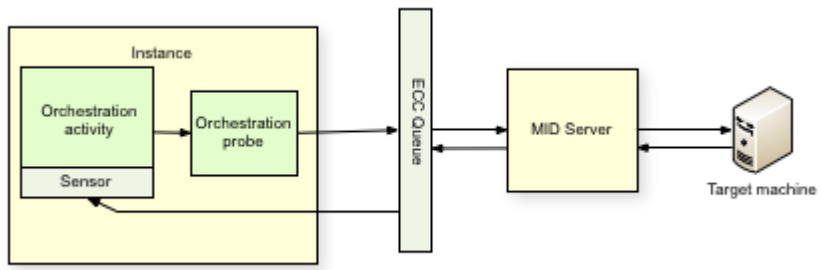
MID サーバーによって制御される特定のプローブは、サーバーの再起動やテンプレートからの仮想マシンの作成など、リモート コンピューターでオーケストレーション タスクを実行します。

オーケストレーションプローブの仕組み

ワークフローがオーケストレーション アクティビティを実行すると、そのアクティビティはプローブを起動し、プローブが出力レコードを ECC キューに書き込みます。アクティビティ用に選択された MID サーバーは、ECC キューのアサインをチェックし、適切なプローブを実行してターゲット マシン上で作業を行います。プローブによってターゲット マシンから返されるアクティビティに関する情報 (再起動したマシン、コピーしたファイルなど) は、入力レコードとして ECC キューに書き込まれます。この情報は、ワークフロー アクティビティに組み込まれているセンサーへ ECC キューから送信されます。ワークフローが更新され、次のアクティビティが実行されます。

注: プローブ パラメーターは、プローブを起動するアクティビティによって設定されます。

オーケストレーションでプローブを使用する方法



プローブ リスト

ベースシステムには、次のオーケストレーションプローブが含まれています ([オーケストレーション] > [定義] > [プローブ])。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プローブ リスト

プローブ名	ECC キュー トピック	ECC キュー名	説明
コマンド	コマンド		MID サーバー上でローカル コマンドを実行するプローブ。
DNS 名前解決	DNSNameResolver		完全修飾ドメイン名 (FQDN) を IP アドレスに解決するプローブ。プローブは、MID サーバーのクエリを並列に実行します。MID サーバーホスト OS による DNS ルックアップを使用して、OS によって維持されている DNS キャッシュを利用します。またプローブは、OS 上の hosts ファイルも活用します。
SCPCommand	SCPCommand		マシン間でファイルを安全にコピーするプローブ。コピー機能は、MID サーバーをトンネルとして使用して実行されます。
Shazzam	Shazzam		アクティブなデバイスを識別するプローブ。
SNMPProbe	SNMP	SNMP クエリー	これは汎用の SNMP プローブです。
SOAPProbe	SOAPProbe		ターゲット マシンに SOAP 要求を送信するプローブ。
SSHCommand	SSHCommand		SSH 経由でターゲット マシンにログインした後、コマンド ラインからシェル スクリプトを実行するプローブ。
SSHCommandLong	SSHCommandLong		SSH 経由でターゲット マシンにログインした後、コマンド ラインから長時間実行されるシェル スクリプトを実行するプローブ。
VMware	VMWareProbe		VMware オーケストレーション アクティビティによって設定される *ECC* キュー名で MID サーバースクリプトインクルードを実行する汎用 VMware プローブ。このプローブは、任意の MID サーバースクリプトインクルードを実行できます。
Windows - PowerShell	PowerShell	Windows - PowerShell	MID サーバーで Windows PowerShell スクリプトを実行するプローブ。PowerShell スクリプトは、名前の末尾が *.ps1* であるパラメーターの値として提供されます。スクリプトには 2 つの変数があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プローブ リスト (続く)

プローブ名	ECC キュー トピック	ECC キュー名	説明
			• *$computer*：このプローブのソースとして指定されたコンピューター。 • *$cred*：[認証情報] テーブルのユーザー名とパスワードを使用する、*$computer* に正常にログイン可能な PowerShell 認証情報。

PowerShell アクティビティ

PowerShell は Windows .NET Framework をベースとして開発されたもので、Windows マシンとアプリケーションの管理のコントロールおよび自動化を目的としています。

PowerShell は、これらのアクティビティを使用する任意の MID サーバーにインストールする必要があります。PowerShell を使用する MID サーバーは、サポートされる Windows オペレーティングシステムにインストールする必要があります。 ServiceNow は PowerShell 3.0 ～ 5.1 をサポートしています。

ServiceNow オーケストレーションプラグインはこれらの基本的な PowerShell アクティビティをワークフローに追加します。PowerShell アクティビティパックのアクティビティの使用方法については、次を参照してください。 PowerShell アクティビティパック

レガシーの **[PowerShell** の実行] アクティビティ

[PowerShell の実行] アクティビティは、MID サーバーで Windows PowerShell コマンドを実行します。

重要: このアクティビティは不使用になり、新しいワークフローでは使用できません。このアクティビティの機能を置き換えるには、PowerShell アクティビティテンプレートを使用してカスタムアクティビティを作成します。[PowerShell の実行] アクティビティを使用する以前のリリースからのワークフローは引き続き実行できます。

結果の値

ワークフローデザイナーは、アクティビティのスクリプトフィールド内から activity.result を使用して、結果値を割り当てることができます。デフォルトでは、使用される PowerShell コマンドの成功または失敗によって、[PowerShell の実行] アクティビティの結果の値が決まります。可能な結果値：

- 成功
- 失敗

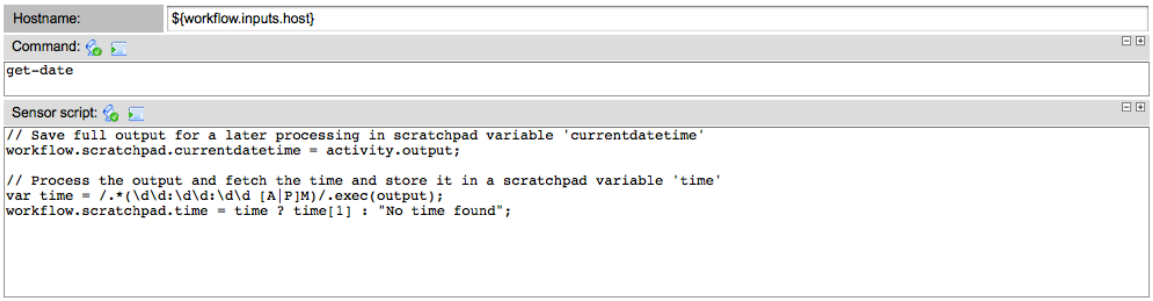
スクラッチパッドエントリー

実行中のスクリプトによって *stdout* に書き込まれる情報は、*activity.output* 変数で取得され、アクティビティに返されます。この情報は、アクティビティのセンサースクリプトでの将来の処理のために解析、処理、または (たとえばスクラッチパッド変数に) 保存できます。

たとえば、get-date コマンドを実行して、MID サーバーの現在時刻を取得します。このセンサースクリプトは受信した出力全体を保存しますが、時刻だけを返して保存するように処理できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PowerShell アクティビティ



注: これは非常に単純化した例です。ほとんどの場合、スクリプトは数台のリモート Windows コンピューターに対して操作を実行します。しかし原則は同じです。`stdout` に書き込まれた内容はすべて `activity.output` で返され、処理できます。

入力変数

入力変数

フィールド	説明
ホスト名	ターゲット Windows マシンの IP アドレス。この値は、コマンドで使用するために *$computer* 変数にマップされます ([コマンド] フィールドの例を参照)。ServiceNow 認証情報テーブル内の情報に基づく PowerShell 認証情報 *$cred* は、[ホスト名] で指定されるコンピューターで認証されます。
コマンド	実行する PowerShell コマンドを入力します。たとえば、[ホスト名] 変数で指定されたリモート マシンに対して単純な WMI クエリーを実行する場合、コマンドは次のようになります。 `get-wmiobject <class> -computer $computer -credential $cred` コンピューターで認証情報が認証されていない場合、コマンドは MID サーバーユーザーのコンテキストで実行されます。 コマンドとスクリプトファイルの両方を実行することはできません。コマンドを指定すると、[スクリプトファイル] 変数が非表示になります。
センサースクリプト	プローブの結果を使用して実行するスクリプト。プローブからの出力は、*output* という名前の変数に含まれます。プローブからのエラーは、*error* という名前の変数に含まれます。
スクリプトファイル	Windows 拡張セキュリティのためのスクリプトファイル同期を有効にする。スクリプトファイルとコマンドの両方を実行することはできません。スクリプトファイルを選択すると、[コマンド] 変数が非表示になります。
PowerShell スクリプト変数	指定されたスクリプトファイルで使用される JSON 形式の追加パラメーター。

状況

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

状況

状態	説明
実行中	ワークフロー エンジンは、アクティビティの onExecute 機能を起動させることができます。
完了	アクティビティの実行が終了しました。アクティビティの結果については結果値を確認してください。
キャンセル	このアクティビティ、またはこのアクティビティを含むワークフローがキャンセルされました。

通常のワークフロー変数構文を使用して、コマンド ラインのワークフロー変数を追加します。上記の例では、<class> がワークフロー入力変数 *myclass* にあった場合、コマンドは次のようになります。

```
get-wmiobject $ {workflow. inputs. myclass } -computer $computer
 -credential $cred
Similarly  if the variable  is a scratchpad variable named myclass , the
 command would look like :
get -wmiobject $ {workflow. scratchpad. myclass } -computer $computer
 -credential $cred
```

HResult コード

PowerShell スクリプトでエラーが発生すると、Windows マシンはエラーメッセージの一部として HResult コードを返します。

PowerShell アクティビティは、このコードを読み取り、解釈できます。すべての PowerShell エラーに HResult コードが含まれているわけではありません。PowerShell スクリプトに失敗した場合は、HResult コードを使用して、特定の条件に沿ってワークフローを移動できます。

たとえば、Active Directory パスワードを最小長や複雑さなどのポリシー要件を満たしていないパスワードへリセットすると、PowerShell スクリプトは HResult コード -2146022651 を返します。このコードを使用するには、[条件] 値が *activity.hresult = -2146022651* であるアクティビティ条件を作成します。アクティビティの実行時に PowerShell スクリプトがこのコードを返すと、ワークフローはこの新しい条件に移行します。

SSH アクティビティ

SSH アクティビティは、ワークフローによる Linux および Unix コンピューター上での操作を許可します。

ServiceNow インスタンスは、これらのオーケストレーション アクティビティを実行するために SSH を使用するように設定された MID サーバーにアクセスできる必要があります。

[コマンドを実行] アクティビティ

[コマンドを実行] アクティビティは、Linux または UNIX コンピューターでコマンド (シェル スクリプトを含む) を実行します。

重要: [コマンドを実行] アクティビティはこのリリースで不使用です。このアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Helsinki にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、この機能を新しいワークフローで使用するには、ServiceNow® アクティビティデザイナーで SSH アクティビティテンプレートを使用してカスタムアクティビティを作成する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[コマンドを実行] の入力変数

フィールド	説明
長期間	コマンドの実行が、デフォルトの 60 秒間よりも長くかかる場合は、このチェックボックスをオンにして、SSH 接続タイムアウトを無効にします。オーケストレーションは実行中のプロセスを定期的にチェックし、完了するまでそのステータスを判断します。
ホスト名	SSH アクティビティの宛先サーバーのホスト名または IP アドレス。
ディレクトリー	作業ディレクトリの名前。
コマンド	このアクティビティから実行するコマンド。
sudo	ホスト マシンでコマンドを実行するために sudo を使用するには、このチェック　ボックスをオンにします。
センサースクリプト	プローブの結果を使用して実行するスクリプト。プローブからの出力は、*output* という名前の変数に含まれます。プローブからのエラーは、*error* という名前の変数に含まれます。

[SCP を実行] アクティビティ

[SCP を実行] アクティビティは、Secure Copy Protocol (SCP) を使用して、ファイルが存在するディレクトリーごとファイルをコンピューター間でコピーします。

注: このアクティビティは Geneva リリースで不使用になり、新しいワークフローでは使用できません。このアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、アップグレードした後も引き続き正常に機能します。Geneva リリースで [SCP を実行] アクティビティはカスタムの [セキュア コピー] アクティビティ アクティビティに置き換えられました。

入力変数

[SCP を実行] の入力変数

フィールド	説明
送信元ホスト	ソース コンピューターのホスト名または IP アドレス。
送信元ファイル	コピーするファイルへの絶対パス。この値はディレクトリーにすることができます。
宛先ホスト	ターゲット コンピューターのホスト名または IP アドレス。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[SCP を実行] の入力変数 (続く)

フィールド	説明
宛先ファイル	ターゲット ファイルへのパス。このパスは、絶対パス、またはログインしているユーザーのホーム ディレクトリーに対する相対パスにすることができます。指定したディレクトリーは、ターゲット コンピューターに既に存在している必要があります。
ディレクトリーをコピー	[送信元ファイル] 変数で定義されたディレクトリー、およびそのディレクトリーに含まれるすべてのファイルをコピーするためのチェック ボックス。

オーケストレーションアプリケーション

オーケストレーションは、サブスクリプションで複数のアプリケーションを提供します。

オーケストレーション ROI

オーケストレーション ROI アプリケーションを使用すると、オーケストレーションで自動化できるシステム内のタスクのコスト節減を見積もり、計算できます。

タスクを自動化したら、オーケストレーションワークフローを対応するタスク領域に関連付けることで、コスト節減を追跡できます。アプリケーションの構成では、手動でタスクを実行する場合の時給、システムが評価対象のタスクを選択するために使用するルール、および評価の期間を選択できます。オーケストレーション ROI は、繰返しタスクを手動で実行するコストと、特定の日付/時間範囲でシステムが自動的にこれらのタスクを実行する推定回数を掛け合わせることで、節減額を見積もります。また、自動化による実際の節減額も計算します。オーケストレーション ROI は、ベース オーケストレーション サブスクリプションに含まれます。

オーケストレーション ROI レポートは、比較データにさまざまな視点を提供し、レポートから関連するレコードに直接アクセスできます。オーケストレーション - ROI プラグインに含まれる標準レポートは、自動プロセスの概要、推定コスト、および計算済みコストを提供します。ROI プレミアム ダッシュボードは、パフォーマンスアナリティクスを使用して経時的に計算された節減額に関する詳細なレポートを提供します。パフォーマンスアナリティクスには、別のプラグインとサブスクリプションが必要です。

> **注:** オーケストレーション ROI がオーケストレーションの依存プラグインとしてアクティブ化される場合、デモデータはインストールされません。デモデータを独自の ROI 評価のテンプレートとして使用するには、ServiceNow® 技術サポートに対し、選択したデモデータとともにオーケストレーション ROI プラグインのアップグレード要求を送信 してください。

オーケストレーション ROI を設定するには、ここに示す順序で構成タスクを完了します。

オーケストレーション ROI の賃金レート カードの作成

オーケストレーション ROI を計算する前に、ROI 計算に関連付けられたタスクを完了するために必要となる手動作業のための賃金レート カードを作成する必要があります。

始める前に
必要なロール：orchestration_manager

このタスクについて
レートカードで定義された時給は、オーケストレーションされたタスクの節減額を決定するために使用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [オーケストレーション] > **[ROI]** > [賃金レートカード]に移動します。
2. 「賃金レートカードの管理」の説明を使用して、フォームのフィールドに入力します。
3. [送信] をクリックします。
4. 必要に応じて追加のレート カードを作成します。

オーケストレーション **ROI** 自動化エントリー レコードの作成

ROI 自動化エントリレコードは、結果として生じる節減額を計算する目的で、タスクを実行するためのコストをそのタスクを自動化する特定のワークフローと結合します。

始める前に

必要なロール：orchestration_manager
この手順を開始する前に、適切な賃金レート カードが作成されていることを確認します。

このタスクについて

このレコードを使用して、インスタンスによって自動的に実行されるタスクに手動の時給を適用します。タスクをオーケストレーションすることによって実現される節減額を決定するため、システムはそのような節減額が推定されたか計算されたかを評価することができます。

- 推定節減：賃金レート、タスク完了の推定時間、および節減額を決定するために実行された自動化の数を使用します。
- 計算済み節減：賃金レート、タスク完了の計算済み時間 (構成済みの評価期間に基づく)、および節減額を決定するために実行された自動化の数を使用します。

手順

1. [すべて] > [オーケストレーション] > **[ROI]** > [自動化エントリフォーム]に移動します。
2. 必要に応じて、フォームのフィールドに入力します。

自動化エントリー フォーム

フィールド	説明
カテゴリ	選択したワークフロー自動化のカテゴリ。ベースオーケストレーション - ROI システムには、次のカテゴリが用意されています。 ◦ アクセス管理と **ID** 管理 ◦ データセンター自動化 ◦ **IT Service Management** ◦ その他 **注:** カテゴリを作成するには、自動化エントリー フォーム [automation_entry_form] テーブルのディクショナリー レコードを開き、選択リストにオプションを追加します。
アイテム	カテゴリ内における特定タスクの一意の名前。この値は、[パスワードリセット] など、賃金レート カードが適用される作業を表します。
リソース	この自動化エントリーに適用する賃金レート カード。このフィールドを表示するには、インスタンスで IT コスト管理を有効にする必要があります。
関連ワークフロー	この手動タスクを自動化するために作成されたワークフロー自動化。このフィールドは、実行された自動化の数を識別するために使用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
予定期間/タスク (分)	このタスクを手動で実行するための推定時間。
予定ボリューム/月	手動でこのタスクを実行するのに必要な月あたりの推定回数。
読み込み専用フィールド	
開始時間	評価期間の開始時間。計算済み平均の時間範囲モジュールでこの値を構成します。
終了時間	評価期間の終了時間。計算済み平均の時間範囲モジュールでこの値を構成します。
計算済み平均期間/タスク (分)	このタスクを手動で実行するために必要な実際の時間。
計算済み平均ボリューム/月	このタスクが手動で実行された月あたりの実際の平均回数。

3. 次のいずれかの送信オプションを選択します。
   - 送信：計算を実行せずにレコードをテーブルに保存します。
   - 今すぐ送信して処理：レコードを保存し、時給とこの自動化エントリーのワークフローコンテキストの数に基づいて、節減額を計算します。

オーケストレーション **ROI** 相関タスク ルールの作成

相関タスク ルールは、選択されたテーブルのフィールドに構成可能条件を適用し、自動化エントリー レコードに対応する手動タスクをインスタンスに通知します。

始める前に

必要なロール：orchestration_manager
この手順を開始する前に、賃金レート カード、および評価する自動化タスクに適切な自動化エントリー レコードを作成してあることを確認します。

このタスクについて

システムが手動タスクを自動化エントリーに相関付けするために使用できる条件を作成します。たとえば、インシデント [incident] テーブルのルールは、次の条件を使用して、従業員オンボード タスクを従業員オンボード自動化エントリー レコードで構成された値に相関付けします。

- [サブカテゴリ] [次の値に等しい **(=)**] [従業員オンボード]
- [ソートの説明] [は次の値を含む] [新規従業員]

新規従業員がインシデントをオープンにし、通常は手動で処理されるサービスや資産を要求すると、オーケストレーションは手動作業の通常の賃金レートを潜在的な自動化ソリューションに適用して、実際の節減額を計算します。

手順

1. [すべて] > [オーケストレーション] > **[ROI** タスク相関] > [相関タスクルール]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 必要に応じて、フォームのフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化エントリー フォーム

フィールド	説明
自動化エントリー	これらの条件で定義された手動タスクに相関付けする自動エントリー レコード。エントリー レコードは、タスクを自動化するために使用されるワークフローを指定し、タスクのコストを計算するために使用される賃金レートを定義します。
テーブル	これらの条件を使用して、フィルタリングするテーブル。ルールによって、条件に一致するレコードがこのテーブルから選択されます。これらのレコードの情報は、手動タスクを実行する実際の時間およびその手動タスクの実際のボリュームを計算するために使用されます。
条件	このテーブルのレコードをフィルタリングするために使用する条件ビルダー。これらの条件を使用して、この自動化エントリーに相関付けされたすべての手動タスクを識別します。
読み込み専用フィールド	
処理日時	システムが一致レコードのルックアップを実行する日時。システムは、これらの条件に一致する新しい手動タスクを自動的に検索します。

4. 次のいずれかの送信オプションを選択します。
   - 送信：計算を実行せずにレコードをテーブルに保存します。
   - 今すぐ送信して処理：レコードを保存し、すべての一致するタスクをルックアップし、一致レコードの情報を相関タスク [manual_mapping_records] テーブルに保存します。
5. ルールを表示するには、参照する自動化エントリーの [相関タスク ルール] 関連リストの [テーブル] 列でリンクを選択します。
6. システムですべての相関ルールに一致するタスクのリストを表示するには、[オーケストレーション] > **[ROI** タスク相関] > [相関タスク]に移動します。
7. システムでこのルールに一致するタスクのリストを表示するには、このフォームの [関連リンク] で [相関タスク] をクリックします。

オーケストレーション **ROI** 計算の時間範囲の構成

相関タスクの平均タスク数と月あたりの期間を計算する日付範囲を選択します。

始める前に

必要なロール：orchestration_manager

このタスクについて

デフォルトでは、現在の日付と時刻で終了する過去 1 か月の範囲が作成されます。この範囲をいつでも変更して ROI を即座に再計算できます。

手順

1. [すべて] > [オーケストレーション] > **[ROI** タスク相関] > [計算済み平均の時間範囲]に移動します。
2. 新しい開始日時または終了日時を入力するか、アイコンをクリックしてカレンダーを使用して日付を選択します。
3. [計算] をクリックして、新しい時間範囲に基づいて ROI を再計算し、設定を保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オーケストレーション **ROI** と一緒にインストールされるもの

オーケストレーション - ROI プラグイン (com.snc.runbook_automation.roi) と一緒に、いくつかのタイプのコンポーネントがインストールされます。

オーケストレーション **ROI** と一緒にインストールされるテーブル

テーブルは、オーケストレーション ROI のアクティブ化とともに追加されます。

テーブル	説明
経費と削減額 [run_rate_predicted_savings]	[オーケストレーション] > **[ROI** レポート] > [予測済み削減] のレポートのデータが含まれます。
削減レポート [savings_report]	次に基づいて [処理日時] 列で指定された日付より前に実行された自動化の数が含まれます。これは次に基づきます。 • 各自動化エントリーに関連付けられたワークフロー • タスクあたりの予定期間に基づく推定節減。 • 計算した期間に基づく計算済み節減。
詳細な削減レポート [detailed_savings_report]	削減レポート [savings_report] テーブルの詳細なリストが含まれています。このリストには、各自動化の実行日と、その自動化の節減額が含まれています。
自動化エントリー [automation_entry_form]	作業リソースを特定の手動タスクに結合する自動化エントリーが含まれています。タスクを手動で実行するための予定期間と、タスクが実行される月あたりの推定回数を指定できます。既にこの自動化エントリーにワークフローの自動化が実装されている場合は、関連するワークフローを指定できます。システムは、実行された賃金レートカード、および実行されたワークフローの自動化の回数に基づいて、節減額を計算します。
Roadmap Planning [roadmap_planning]	実装される各自動化エントリーのロードマップ計画立案が含まれています。ワークフローの自動化の実行にかかる推定時間、年末までに予測される自動化率、およびワークフローを実装する開始月を指定できます。
相関タスク [manual_mapping_records]	各自動化エントリーのすべての一致手動タスクが含まれています。各タスクの情報はこのテーブルに格納され、各手動タスクの実際の期間と量を計算するために使用されます。
相関タスク ルール [manual_mapping_conditions]	システムが各自動化エントリーに対応する手動タスクをルックアップするために使用する相関タスク ルールが含まれています。

オーケストレーション **ROI** と一緒にインストールされるプラグイン

プラグインは、まだ有効ではない場合、オーケストレーション ROI のアクティブ化と一緒にインストールされます。

プラグイン	説明
コスト管理 [com.snc.cost_management]	オーケストレーション ROI が各自動化タスクの節減額を決定するために使用する賃金レートカードを提供します。詳細については、「コスト管理」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オーケストレーション **ROI** と一緒にインストールされるロール

ロールは、オーケストレーション ROI のアクティブ化とともに追加されます。

ロール タイトル [名前]	説明	ロールを含む
オーケストレーションマネージャー [orchestration_manager]	オーケストレーション ROI モジュールのすべてのアクティビティを管理します。	• pa_admin • report_admin

オーケストレーション **ROI** と一緒にインストールされる **UI** アクション

UI アクションは、オーケストレーション ROI のアクティブ化とともに追加されます。

オーケストレーション **- ROI** の **UI** アクション

UI アクション	テーブル	説明
削減レポート	自動化エントリー フォーム [automation_entry_form]	関連するワークフローが空でない場合、この自動化エントリに固有の節減レポートを表示します。
推定削減と予測済み削減	自動化エントリー フォーム [automation_entry_form]	タスクの予定期間に基づく推定節減、およびタスクの計算された期間に基づく計算済み節減を表示します。
ワークフローコンテキストの表示	詳細な削減レポート [detailed_savings_report]	関連ワークフロー コンテキストを表示します。
今すぐ送信して処理	自動化エントリー フォーム [automation_entry_form]	この新しいエントリーを処理します。
相関タスク	相関タスク ルール [manual_mapping_conditions]	相関タスク [manual_mapping_records] テーブルから一致するすべてのタスクを表示します。
詳細な削減レポート	自動化エントリー フォーム [automation_entry_form]	関連するワークフローに基づいて、実行された自動化のリストを表示します。
タスク	相関タスク [manual_mapping_records]	タスク レコードを表示します。
今すぐ送信して処理	相関タスク ルール [manual_mapping_conditions]	相関タスク ルールを処理します。このアクションは、指定されたテーブルとフィルター条件の照合を実行します。

オーケストレーション **ROI** と一緒にインストールされるスクリプトインクルード

スクリプトインクルードは、オーケストレーション ROI のアクティブ化とともに追加されます。

スクリプトインクルード	説明
OrchestrationROIAjax	タスクの実際の期間とボリュームを計算するスクリプト。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

スクリプトインクルード	説明
OrchestrationROI	ワークフローコンテキストの数を計算し、一致するすべてのタスクをルックアップし、節減を計算するスクリプト、および UI アクションで使用される他の機能。
ROIDemoDataUtil	デモデータのタイムスタンプを更新するスクリプト。

オーケストレーション **ROI** と一緒にインストールされるクライアントスクリプト

クライアントスクリプトは、オーケストレーション ROI のアクティブ化とともに追加されます。

クライアントスクリプト	テーブル	説明
処理ルールの情報の表示	相関タスク ルール [manual_mapping_conditions]	ROI スケジュールで指定された時間まで新しいタスクルールが評価されないことを通知する注釈を [相関タスク ルール] フォームに表示します。

オーケストレーション **ROI** と一緒にインストールされるビジネス ルール

ビジネス ルールは、オーケストレーション ROI のアクティブ化とともに追加されます。

ビジネスルール	テーブル	説明
対応するレコードの削除	自動化エントリー フォーム [automation_entry_form]	レコードが自動化エントリー フォーム [automation_entry_form] テーブルから削除されると、このビジネス ルールはこのエントリーを参照する他の ROI テーブル内のすべてのレコードを削除します。
実行レートと削減に挿入	自動化エントリー フォーム [automation_entry_form]	新しい自動化エントリが提供されると、このビジネスルールは、タスクの予定期間とそれに関連する賃金レートカードに基づいて、推定節減を計算します。
削減レポートに挿入	自動化エントリー フォーム [automation_entry_form]	新しい自動化エントリが提供されると、このビジネスルールは、**automations_run** フィールドを **0** に設定して新規レコードを節減レポート [savings_report] テーブルに挿入します。

オーケストレーション **ROI** レポート

オーケストレーション ROI には、組織内のサービスの自動化による節減額の計算に役立つ一連の標準レポートとプレミアムレポートが用意されています。

ROI 標準レポートは、オーケストレーション ROI に含まれています。プレミアムレポートは、パフォーマンスアナリティクスで生成されるビューを強化し、オーケストレーション - ROI Premium プラグインを必要とします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

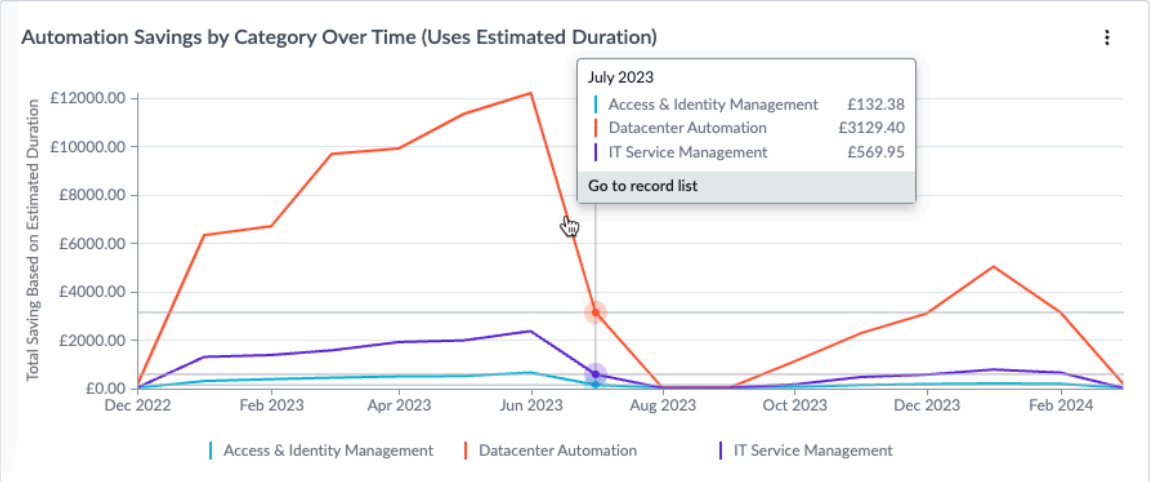
オーケストレーション **ROI** 標準レポート

標準 ROI レポートのダッシュボードは、自動プロセスの概要、推定コスト、および計算済みコストを提供します。ROI 標準ダッシュボードにアクセスするには、[オーケストレーション] > **[ROI** レポート] > [ダッシュボード] に移動します。

[サマリー] タブ

[サマリー] タブには、自動化カテゴリに関する 4 つのレポートが含まれています。

ROI サマリーレポートの例



カテゴリ別の標準 **ROI** サマリー

レポート	説明
カテゴリ別手動タスクの時間経過	カテゴリ別手動タスクの時間経過による傾向。たとえば、自動化を使用して必要なタスクの一部を実行する場合、レポートはまだ手動で実行されているタスクの数を示します。この数は時間とともに減少します。 • タイプ：線グラフ • テーブル：詳細な節減レポート [detailed_savings_report]
カテゴリ別自動化の時間経過	カテゴリ別自動化タスクの時間経過による傾向。たとえば、このグラフでは、ワークフロー自動化が時間の経過とともにゆっくりとロールアウトされるため、自動化タスク数の増加が示されることがあります。 • タイプ：線グラフ • テーブル：詳細な節減レポート [detailed_savings_report]
カテゴリ別の自動化削減の時間経過 (予定期間を使用)	タスクの予定期間、実行された自動化の数、および賃金レートカードからのコストに基づいて、時間の経過とともに自動化タスクから節減される金額。 • タイプ：線グラフ • テーブル：詳細な節減レポート [detailed_savings_report]
カテゴリ別の自動化削減の時間経過 (計算した期間を使用)	タスクの計算された期間、実行された自動化の数、および賃金レートカードからのコストに基づいて、時間の経過とともに自動化タスクから節減される金額。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

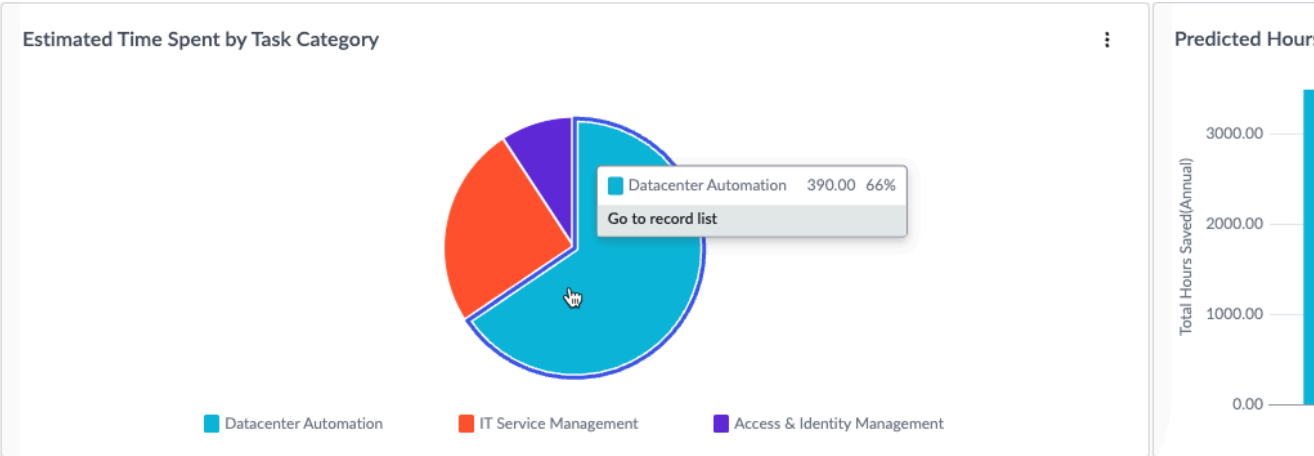
カテゴリ別の標準 **ROI** サマリー (続く)

レポート	説明
	• タイプ：線グラフ • テーブル：詳細な節減レポート [detailed_savings_report]

[推定コスト] タブ

[推定コスト] タブには、自動化の推定される時間と経費に関する 8 つのレポートが含まれています。

ROI の推定される時間および経費のレポートの例



標準 **ROI** の時間と経費の推定

レポート	説明
タスク カテゴリ別の推定所要時間	すべてのタスクについてタスクカテゴリ別の推定所要時間の合計 (分単位)。 • タイプ：円グラフ • テーブル：自動化エントリー フォーム [automation_entry_form]
カテゴリ別手動タスクの予定ボリューム/月	すべてのタスクについてタスクカテゴリ別の月あたりの予定ボリュームの合計。 • タイプ：円グラフ • テーブル：自動化エントリー フォーム [automation_entry_form]
カテゴリ別予測所要時間/月 (予定期間と予定ボリュームを使用)	すべての手動タスクについてカテゴリ別の月あたりの予測所要時間の合計。各タスクの予定期間と月あたりの各タスクの予定ボリュームを使用します。 • タイプ：棒グラフ • テーブル：経費と節減額 [run_rate_predicted_savings]
カテゴリ別予測経費/月 (予定期間と予定ボリュームを使用)	すべての手動タスクについてカテゴリ別の月あたりの予測経費の合計。各タスクの予定期間、月あたりの各タスクの予定ボリューム、および賃金レートカードからのコストを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

標準 **ROI** の時間と経費の推定 (続く)

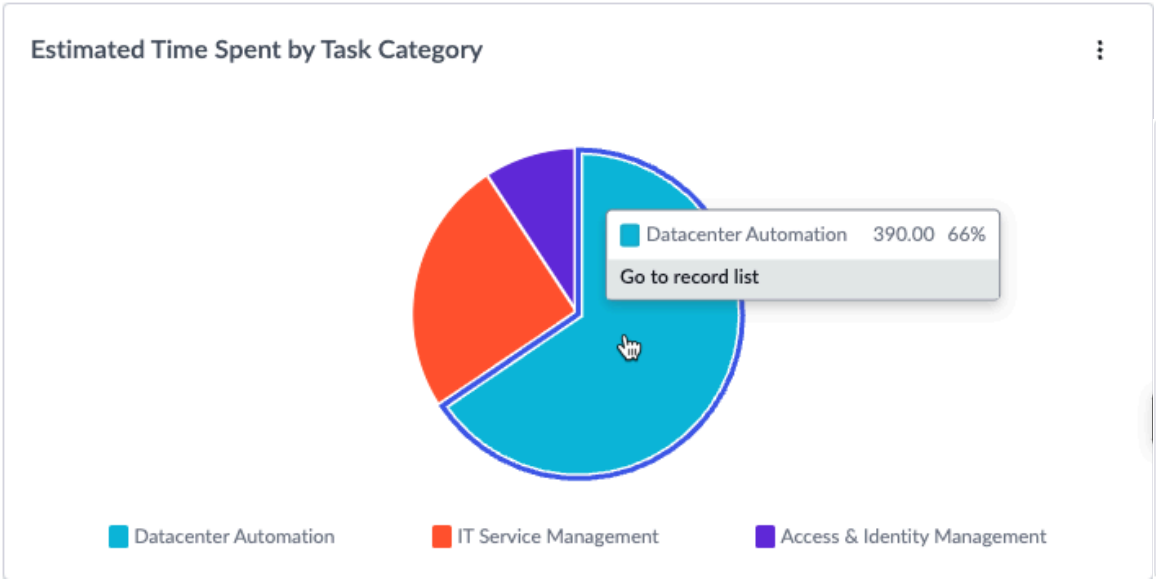
レポート	説明
	注: このレポートでは、負の数値を使用して経費を表します。 • タイプ：棒グラフ • テーブル：経費と節減額 [run_rate_predicted_savings]
カテゴリ別予測所要時間/四半期 (予定期間と予定ボリュームを使用)	すべての手動タスクについてカテゴリ別の四半期あたりの予測所要時間の合計。各タスクの予定期間と月あたりの各タスクの予定ボリュームを使用します。 • タイプ：棒グラフ • テーブル：経費と節減額 [run_rate_predicted_savings]
カテゴリ別予測経費/四半期 (予定期間と予定ボリュームを使用)	すべての手動タスクについてカテゴリ別の四半期あたりの予測経費の合計。各タスクの予定期間、月あたりの各タスクの予定ボリューム、および賃金レートカードからのコストを使用します。 注: このレポートでは、負の数値を使用して経費を表します。 • タイプ：棒グラフ • テーブル：経費と節減額 [run_rate_predicted_savings]
カテゴリ別予測所要時間/年 (予定期間と予定ボリュームを使用)	すべての手動タスクについてカテゴリ別の年あたりの予測所要時間の合計。各タスクの予定期間と月あたりの各タスクの予定ボリュームを使用します。 • タイプ：棒グラフ • テーブル：経費と節減額 [run_rate_predicted_savings]
カテゴリ別予測経費/年 (予定期間と予定ボリュームを使用)	すべての手動タスクについてカテゴリ別の年毎の予測経費の合計。各タスクの予定期間、月毎の各タスクの予定ボリューム、および賃金レートカードからのコストを使用します。 注: このレポートでは、負の数値を使用して経費を表します。 • タイプ：棒グラフ • テーブル：経費と節減額 [run_rate_predicted_savings]

[相関タスクからのコスト] タブ

[相関タスクからのコスト] タブには、実際の計算に基づく自動化の時間と経費に関する 8 つのレポートが含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ROI の計算された時間および経費のレポートの例



標準 ROI の計算された自動化の時間および経費

レポート	説明
タスク カテゴリ別の所要時間	すべてのタスクについてタスクカテゴリ別の実際の所要時間の合計 (分単位)。 • タイプ：円グラフ • テーブル：自動化エントリー フォーム [automation_entry_form]
カテゴリ別手動タスクのボリューム/月	すべてのタスクについてタスクカテゴリ別の月あたりの実際のボリュームの合計。 • タイプ：円グラフ • テーブル：自動化エントリー フォーム [automation_entry_form]
カテゴリ別予測所要時間/月 (計算した期間と計算したボリュームを使用)	すべての手動タスクについてカテゴリ別の月あたりの予測所要時間の合計。各タスクの計算された期間と月あたりの各タスクの計算されたボリュームを使用します。 • タイプ：棒グラフ • テーブル：経費と節減額 [run_rate_predicted_savings]
カテゴリ別予測経費/月 (計算した期間と計算したボリュームを使用)	すべての手動タスクについてカテゴリ別の月あたりの予測経費の合計。各タスクの計算された期間、月あたりの各タスクの計算されたボリューム、および賃金レートカードからのコストを使用します。 注: このレポートでは、負の数値を使用して経費を表します。 • タイプ：棒グラフ • テーブル：経費と節減額 [run_rate_predicted_savings]
カテゴリ別予測所要時間/四半期 (計算した期間と計算したボリュームを使用)	すべての手動タスクについてカテゴリ別の四半期あたりの予測所要時間の合計。各タスクの計算された期間と月あたりの各タスクの計算されたボリュームを使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

標準 **ROI** の計算された自動化の時間および経費 (続く)

レポート	説明
	• タイプ：棒グラフ • テーブル：経費と節減額 [run_rate_predicted_savings]
カテゴリ別予測経費/四半期 (計算した期間と計算したボリュームを使用)	すべての手動タスクについてカテゴリ別の四半期あたりの予測経費の合計。各タスクの計算された期間、月あたりの各タスクの計算されたボリューム、および賃金レートカードからのコストを使用します。 注: このレポートでは、負の数値を使用して経費を表します。 • タイプ：棒グラフ • テーブル：経費と節減額 [run_rate_predicted_savings]
カテゴリ別予測所要時間/年 (計算した期間と計算したボリュームを使用)	すべての手動タスクについてカテゴリ別の年あたりの予測所要時間の合計。各タスクの計算された期間と月あたりの各タスクの計算されたボリュームを使用します。 • タイプ：棒グラフ • テーブル：経費と節減額 [run_rate_predicted_savings]
カテゴリ別予測経費/年 (計算した期間と計算したボリュームを使用)	すべての手動タスクについてカテゴリ別の年毎の予測経費の合計。各タスクの計算された期間、月毎の各タスクの計算されたボリューム、および賃金レートカードからのコストを使用します。 注: このレポートでは、負の数値を使用して経費を表します。 • タイプ：棒グラフ • テーブル：経費と節減額 [run_rate_predicted_savings]

標準レポートのオーケストレーション **ROI** 計算のスケジュール

オーケストレーション ROI 標準レポートを計算するスケジュール済みジョブは、デフォルトでアクティブであり、システムのプロパティによって制御されます。

始める前に

必要なロール：orchestration_manager、admin

このタスクについて

「ROI スケジュールの処理」と呼ばれるデフォルトのスケジュール済みジョブが用意されており、オーケストレーションが標準レポートの ROI を計算するタイミングを構成できます。このスケジュールでは、詳細条件のスクリプティングが可能です。スケジュールを変更するか、実行するスクリプトを記述するには、[システム スケジューラー] > [スケジュール済みジョブ] > [スケジュール済みジョブ]から [ROI スケジュールの処理] を開き、[ジョブ定義を構成] をクリックします。ジョブ定義から直接スケジュールを実行するには、[今すぐ実行] をクリックします。

オーケストレーションプロパティを使用してスケジュール ジョブの実行を制御するには

手順

1. [オーケストレーション **ROI**] > [プロパティ]に移動します。
2. 以下のプロパティを構成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ROI スケジュールのプロパティ

プロパティ	説明
roi.processing.active	ROI 処理のためにスケジュール済みジョブをアクティブ化します。このプロパティは、スケジュール設定済みの「ROI スケジュールの処理」ジョブをアクティブ化します。 ◦ タイプ：true | false ◦ [デフォルト]： true
roi.processing.interval	スケジュールされた ROI 処理間隔 (時間)。このプロパティは、節減レポートや相関タスクを処理するスケジュール済みジョブの繰り返し間隔を設定します。 ◦ タイプ：整数 ◦ デフォルト：24

3. 変更を保存するには、[保存] をクリックします。

オーケストレーション **ROI** プレミアムレポート

プレミアムダッシュボードは、経時的に計算された節減額に関する詳細なレポートを提供します。

ROI プレミアムレポートには、オーケストレーション - ROI Premium プラグインが必要であり、パフォーマンスアナリティクス を使用してビルドされます。オーケストレーション - ROI プレミアム版プラグインは、別途サブスクリプションが必要な パフォーマンスアナリティクス - プレミアム プラグインに依存します。

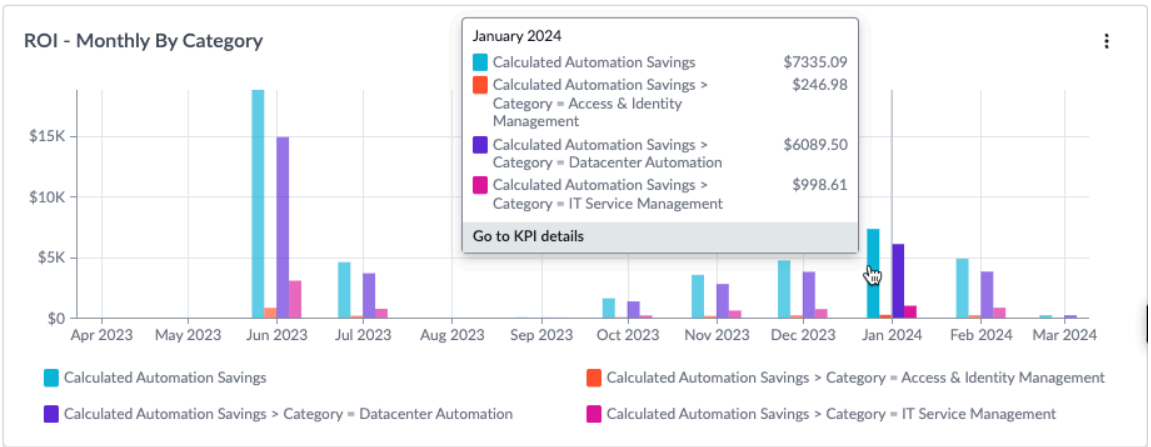
重要: オーケストレーション ROI プレミアムでデータを表示するには、パフォーマンスアナリティクスのスケジュール設定済み収集ジョブ をアクティブ化する必要があります。

ROI プレミアムダッシュボードにアクセスするには、[オーケストレーション] > **[ROI** レポート] > [プレミアムダッシュボード]に移動します。

[カテゴリ別 **ROI]** タブ

[カテゴリ別 ROI] タブには、カテゴリ別に経時的に計算された節減額を示す 3 つのレポートが含まれています。

カテゴリ別月あたりの計算された節減額



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カテゴリ別の経時的に計算された節減額のプレミアムレポート

レポート	説明
ROI - 月次カテゴリ別	月あたり計算された節減額をカテゴリ別に表示します。このグラフには、各カテゴリの計算された節減額に対する計算された節減額の合計が表示されます。 • タイプ：縦棒グラフ • テーブル：詳細な節減レポート [detailed_savings_report]
ROI - カテゴリ別	計算された節減額の傾向をカテゴリ別に表示します。 • タイプ：スプライン グラフ • テーブル：詳細な節減レポート [detailed_savings_report]
ROI - 12 ヶ月間移動合計	過去 12 か月間にすべてのカテゴリで計算された節減額の移動合計を表示します。 • タイプ：面グラフ • テーブル：詳細な節減レポート [detailed_savings_report]

自動化エントリー別 **ROI**

[自動化エントリ別 ROI] タブには、自動化エントリ別に経時的に計算された節減額を示す 2 つのレポートが含まれています。

自動化エントリ別に今月の計算された節減額

自動化エントリ別に計算された節減額の時間経過

レポート	説明
自動化エントリー別 ROI	各自動化エントリの現在の月の計算された節減額を表示します。 • タイプ：縦棒 • テーブル：詳細な節減レポート [detailed_savings_report]
ROI - 自動化エントリ別の上位 10 のリスト	現在の月で計算された節減額が最も多い上位 10 個の自動化エントリを表示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

自動化エントリ別に計算された節減額の時間経過 (続く)

レポート	説明
	• タイプ：スコアカード • テーブル：詳細な節減レポート [detailed_savings_report]

オーケストレーション ROI プレミアムレポートを要求する

オーケストレーション ROI プレミアムレポートを表示するには、オーケストレーション - ROI プレミアム (com.snc.runbook_automation.roi_premium) プラグインのアクティブ化を要求する必要があります。オーケストレーション - ROI Premium プラグインはオーケストレーションサブスクリプションに含まれていますが、要求によってアクティブ化する必要があります。

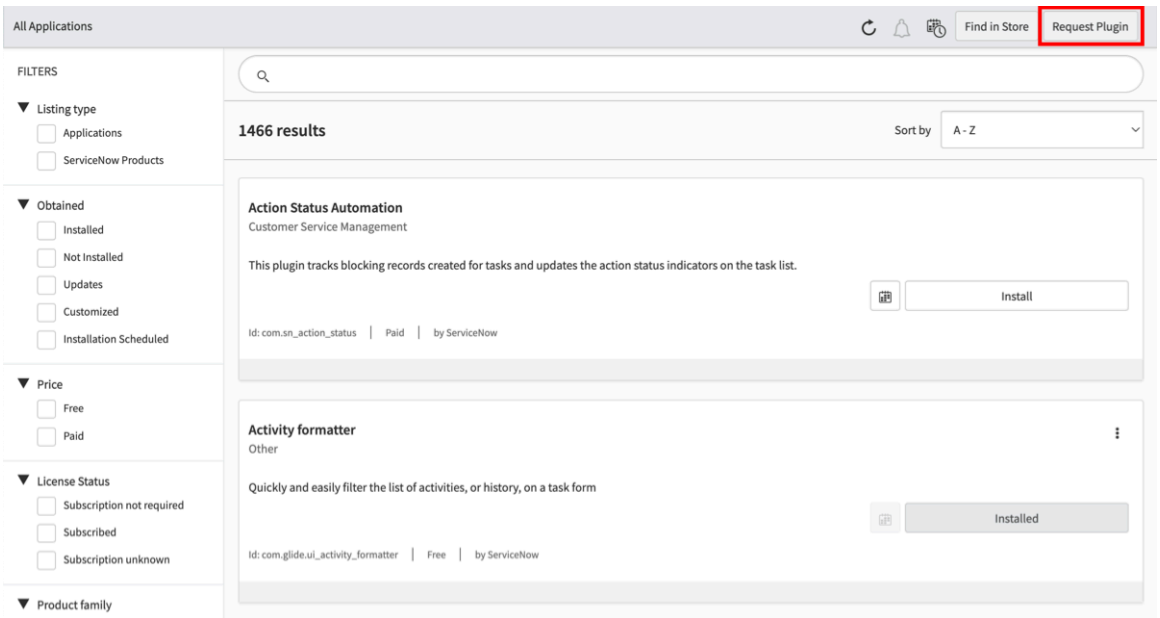
始める前に

オーケストレーション - ROI プレミアム版プラグインは、別途購入が必要な パフォーマンスアナリティクス - プレミアム版 プラグインが必要です。

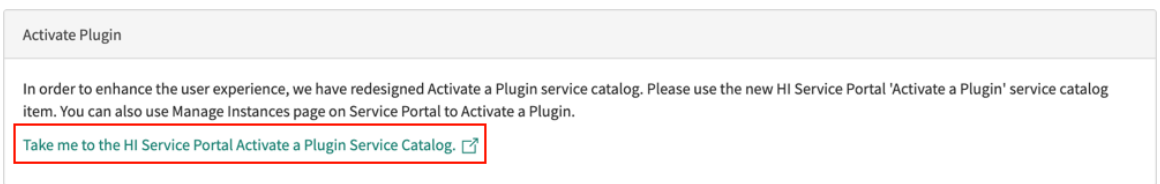
必要なロール：admin

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. [すべてのアプリケーション] ページで [プラグインの要求] をクリックして、Now Support で [プラグインをアクティブ化] フォームを開きます。



3. Now Support で、Now Support サービスポータル サービスカタログ にアクセスするリンクを選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. インスタンスを選択します。
5. [アクション] > [プラグインのアクティブ化] を選択します。
6. [プラグインのアクティブ化] フォームで、次の情報を入力します。

[プラグインのアクティブ化] フォーム

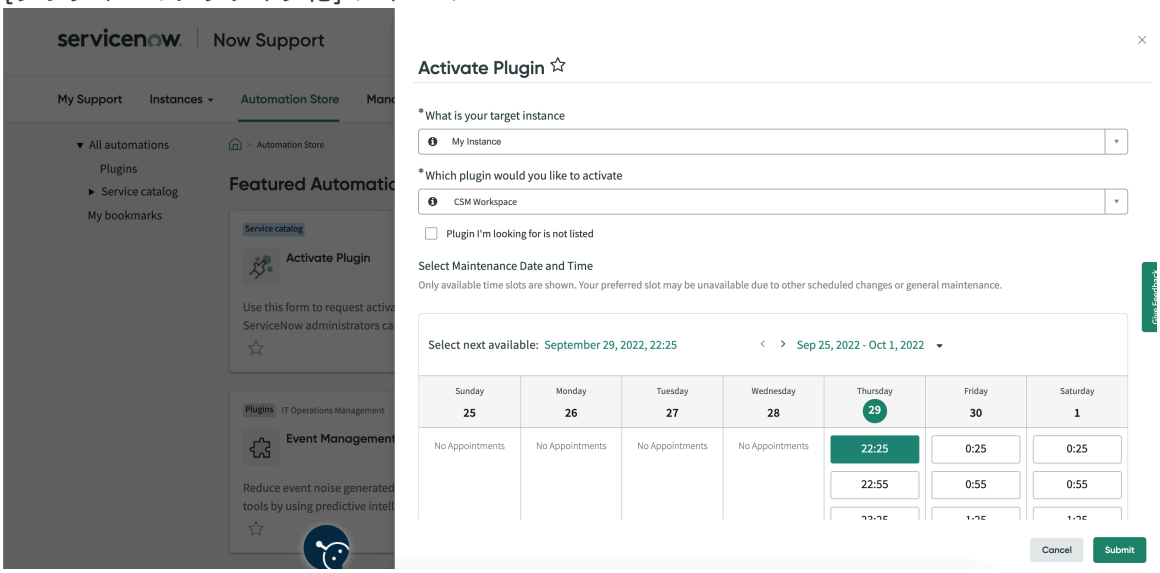
フィールド	説明
ターゲットインスタンスは何ですか	プラグインをアクティブ化するインスタンス。
どのプラグインをアクティブ化しますか	アクティブ化するプラグインの名前です。 **注:** 必要なプラグインが表示されない場合、または OEM またはオンプレミスのインスタンスでプラグインをアクティブ化している場合は、[探しているプラグインが表示されていません **(Plugin I'm looking for is not listed)]** チェックボックスをオンにして、プラグインの名前を入力します。
メンテナンスの日時を選択 (Select Maintenance Date and Time)	プラグインをアクティブ化する日時。 **注:** プラグインは、米国太平洋標準時で、毎営業日の朝と夕方の 2 回のバッチでアクティブ化されます。特定の時刻にプラグインをアクティブ化する必要がある場合は、[理由/コメント **(Reason/Comments)]** フィールドに要求を入力します。

Example

たとえば、 [自分のインスタンス (My Instance)] という名前のインスタンスで CSM Workspace プラグインをアクティブ化するには、次のフォームを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プラグインのアクティブ化] フォーム



7. [送信] を選択します。
   プラグインの要求に関するその他の詳細については、Now Support ナレッジベース の記事「サービスカタログからのプラグインの要求 (Requesting a Plugin from the サービスカタログ) (KB0751715)」を参照してください。

プレミアムレポートのオーケストレーション **ROI** 計算のスケジュール

オーケストレーション ROI プレミアムレポートでは、プレミアムレポートを生成する前にアクティブ化する必要のあるパフォーマンスアナリティクスジョブを使用します。

始める前に

必要なロール：orchestration_manager、admin

このタスクについて

プレミアム ROI レポートの計算に必要なスケジュール済みジョブは「[PA ROI] 履歴データ収集」と呼ばれ、オーケストレーション - ROI プレミアム [com.snc.runbook_automation.roi_premium] プラグインとともにインストールされます。このジョブはデフォルトでアクティブではありません。

手順

1. [すべて] > [パフォーマンスアナリティクス] > [データコレクター] > [ジョブ]に移動します。
2. 「[PA ROI] 履歴データ収集」ジョブを検索します。
3. [有効] チェックボックスをオンにします。
4. [実行] フィールドで選択した値について、スケジューリングオプションが表示されます。
   スケジュールの作成方法については、「データコレクションジョブの作成またはスケジュール」を参照してください。
5. ジョブ定義からスケジュールを直接実行するには、[今すぐ実行] をクリックします。
6. [更新] をクリックします。

クライアントソフトウェアディストリビューション

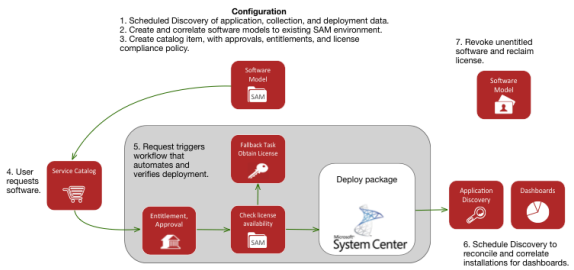
アドミニストレーターはクライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) アプリケーションを使用し、サードパーティのマネジメントシステムを使用してサービスカタログからソフトウェアを配布できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSD を使用すると、アドミニストレーターはソフトウェアモデルやカタログ アイテムなど、サービスカタログ要求からソフトウェアを展開するために必要なすべてのレコードを作成できます。CSD アプリケーションを使用し、カスタム SCCM アクティビティパックを使用して SCCM ホストからソフトウェアの展開および取り消しを自動化できます。サービスカタログから配布されたソフトウェアのリース期間を定義し、場合によってはリース延長を許可し、承認待ちにすることができます。展開は、オーケストレーションのアクティビティとワークフローを使用して行われます。

また、CSD は、ソフトウェア資産管理 と統合して、展開されたソフトウェアのライセンス数を管理します。

SCCM を使用した CSD プロセスフロー



クライアントソフトウェアディストリビューションの要求

クライアントソフトウェアディストリビューションには、オーケストレーション - クライアントソフトウェアディストリビューション プラグイン (com.snc.orchestration.client_sf_distribution) が必要です。これは、オーケストレーションのサブスクリプションによる要求で利用できます。

始める前に
必要なロール：admin

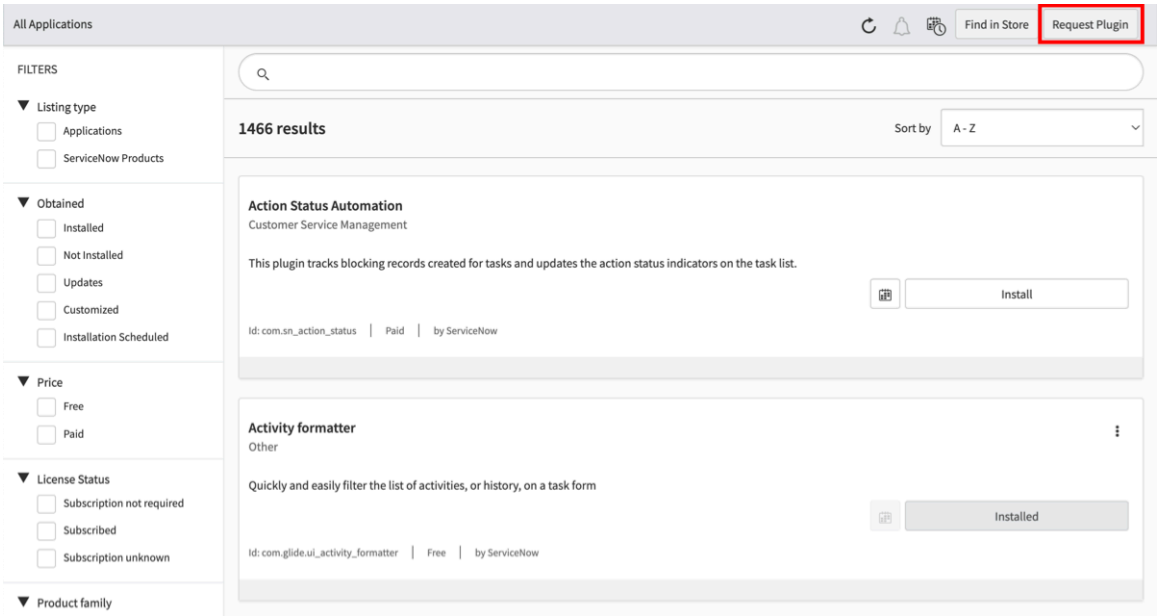
このタスクについて
オーケストレーション - クライアントソフトウェアディストリビューション プラグインは、オーケストレーション - System Center Configuration Manager プラグインをアクティブ化します。このプラグインには、SCCM サーバーを使用してソフトウェアを展開または取り消しするために使用されるカスタム SCCM アクティビティが含まれています。その他のプラグインの依存関係については、「クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるプラグイン」を参照してください。

> **注:** オーケストレーション - クライアントソフトウェアディストリビューション プラグインは、独自のアプリケーション スコープ内で実行されます。

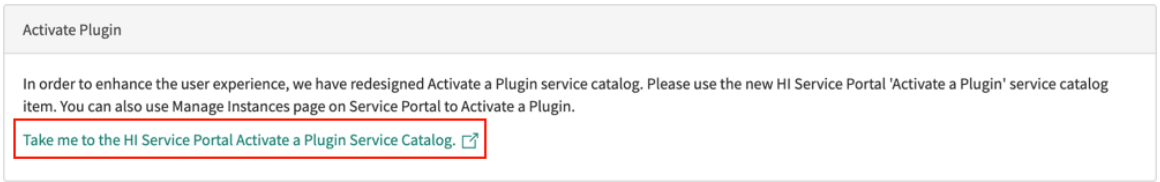
手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. [すべてのアプリケーション] ページで [プラグインの要求] をクリックして、Now Support で [プラグインをアクティブ化] フォームを開きます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



3. Now Support で、Now Support サービスポータル サービスカタログ にアクセスするリンクを選択します。



4. インスタンスを選択します。
5. [アクション] > [プラグインのアクティブ化] を選択します。
6. [プラグインのアクティブ化] フォームで、次の情報を入力します。

[プラグインのアクティブ化] フォーム

フィールド	説明
ターゲットインスタンスは何ですか	プラグインをアクティブ化するインスタンス。
どのプラグインをアクティブ化しますか	アクティブ化するプラグインの名前です。 **注:** 必要なプラグインが表示されない場合、または OEM またはオンプレミスのインスタンスでプラグインをアクティブ化している場合は、[探しているプラグインが表示されていません **(Plugin I'm looking for is not listed)]** チェックボックスをオンにして、プラグインの名前を入力します。
メンテナンスの日時を選択 (Select Maintenance Date and Time)	プラグインをアクティブ化する日時。

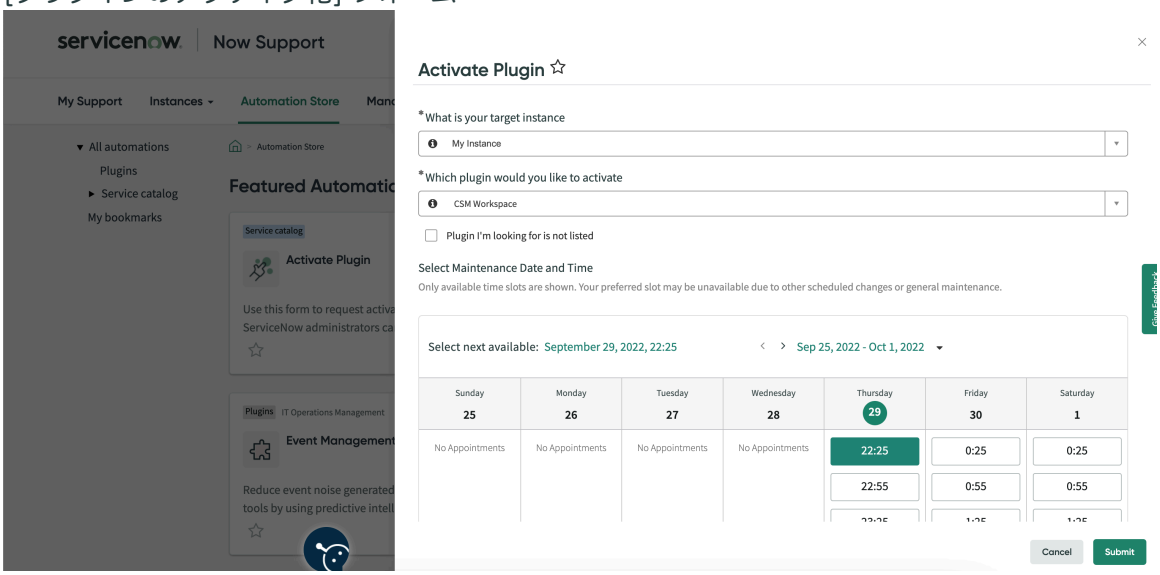
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	注: プラグインは、米国太平洋標準時で、毎営業日の朝と夕方の 2 回のバッチでアクティブ化されます。特定の時刻にプラグインをアクティブ化する必要がある場合は、[理由/コメント **(Reason/Comments)]** フィールドに要求を入力します。

Example

たとえば、 [自分のインスタンス (My Instance)] という名前のインスタンスで CSM Workspace プラグインをアクティブ化するには、次のフォームを参照してください。

[プラグインのアクティブ化] フォーム



7. [送信] を選択します。
   プラグインの要求に関するその他の詳細については、Now Support ナレッジベース の記事「サービスカタログからのプラグインの要求 (Requesting a Plugin from the サービスカタログ) (KB0751715)」を参照してください。

クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるもの

いくつかのタイプのコンポーネントが、クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) とともにインストールされます。

クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるテーブル

これらのテーブルは、オーケストレーション - クライアントソフトウェアディストリビューション プラグイン (com.snc.orchestration.client_sf_distribution) と一緒にインストールされます。

クライアントソフトウェアディストリビューションのテーブル

テーブル	説明
クライアントソフトウェアディストリビューション カタログ アイテム [sn_client_sf_dist_cat_item]	クライアントソフトウェアディストリビューション用に作成されたすべてのカタログ アイテムが

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントソフトウェアディストリビューションのテーブル (続く)

テーブル	説明
	含まれます。このテーブルは、カタログ アイテム [sc_cat_item] テーブルを拡張しています。
クライアントソフトウェアディストリビューション ソフトウェア要求 [sn_client_sf_dist_req_software]	要求されたすべてのソフトウェアとそのステータスが含まれます。
クライアントソフトウェアディストリビューション アプリケーション [sn_client_sf_dist_application]	検出されたすべての CSD アプリケーションが含まれます。
クライアントソフトウェアディストリビューション プロバイダー [sn_client_sf_dist_provider]	すべてのソフトウェア ディストリビューション プロバイダーが含まれます。
クライアントソフトウェアディストリビューション拡張キー [sn_client_sf_dist_extension_key]	定義済みの CSD 拡張キーが含まれます。
クライアントソフトウェアディストリビューション拡張ポイント [sn_client_sf_dist_extension_point]	拡張キーのカスタマイズ スクリプトが含まれています。
クライアントソフトウェアディストリビューション ソフトウェア構成 [sn_client_sf_dist_software_config]	すべてのソフトウェアプロバイダー構成のベーステーブル。
SCCM サーバー インスタンス [sn_client_sf_dist_cmdb_ci_sccm_server]	すべての SCCM サーバー インスタンスを含みます。このテーブルは、構成アイテム [cmdb_ci] テーブルを拡張しています。
SCCM アプリケーション [sn_client_sf_dist_sccm_application]	検出されたすべての SCCM アプリケーションが含まれます。このテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューション アプリケーション [sn_client_sf_dist_application] テーブルを拡張しています。
SCCM アプリケーションカタログアイテム [sn_client_sf_dist_sccm_app_cat_item]	SCCM アプリケーション用に作成されたすべてのカタログ アイテムが含まれます。このテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューション カタログ アイテム [sn_client_sf_dist_cat_item] テーブルを拡張しています。
SCCM コレクション [sn_client_sf_dist_sccm_collection]	検出されたすべての SCCM コレクションが含まれます。検出されたすべての SCCM コレクションが含まれます。
SCCM 展開 [sn_client_sf_dist_sccm_deployment]	検出されたすべての SCCM 展開が含まれます。検出されたすべての SCCM 展開が含まれます。
SCCM 構成 [sn_client_sf_dist_sccm_sf_config]	SCCM アプリケーション、インストールおよびアンインストール コレクション、および ディスカバリー モデルが含まれます。このテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューション ソフトウェア構成 [sn_client_sf_dist_software_config] を拡張しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるプラグイン

これらのプラグインは、まだ有効でない場合、オーケストレーション - クライアントソフトウェアディストリビューション プラグインと一緒にインストールされます。

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) のアクティブ化を要求する手順については、「クライアントソフトウェアディストリビューションの要求」を参照してください。

オーケストレーション - クライアントソフトウェアディストリビューションのプラグイン

プラグイン	説明
オーケストレーション - System Center Configuration Manager [com.snc.orchestration.sccm_mgnt]	SCCM ターゲット ホスト上で動作するカスタム SCCM オーケストレーション アクティビティをインストールします。
オーケストレーション - 資産リース管理 [com.snc.orchestration.asset_lease_management]	サービスカタログを介して配布されるソフトウェアのリース機能をインストールします。これには、リースの開始、停止、および延長が含まれます。
サービスカタログ スコープ対象 API [com.glideapp.servicecatalog.scoped.api]	サービスカタログでアプリケーション作成をサポートする API をインストールします。
ソフトウェア資産管理 [com.snc.software_asset_management]	名前付きユーザー、ワークステーション、およびエンタープライズ ソフトウェア契約のライセンスエンタイトルメントの調整を含む、ソフトウェア資産の管理機能を提供します。

クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるロール

これらのロールは、オーケストレーション - クライアントソフトウェアディストリビューション プラグインと一緒にインストールされます。

オーケストレーション - クライアントソフトウェアディストリビューションのロール

ロール タイトル [名前]	説明	ロールを含む
クライアントソフトウェアディストリビューションアドミン [sn_client_sf_dist.csd_admin]	クライアントソフトウェアディストリビューション アプリケーションを管理するためのアドミンロール。	• sam • agent_admin • report_admin • catalog_admin • itil • workflow_admin

クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるスクリプトインクルード

これらのスクリプトインクルードは、オーケストレーション - クライアントソフトウェアディストリビューション プラグインと一緒にインストールされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オーケストレーション - クライアントソフトウェアディストリビューションのスクリプトインクルード

スクリプトインクルード	説明
CSDExtensionPoint	CSD プロバイダーの特定のコードを実行します。
CSDUtil	CSD アプリケーションのユーティリティ関数。
RefQualsCSD	参照修飾子フィルター。このスクリプトは、CSD プロバイダー、デバイス、SCCM アプリケーション、インストール コレクション、アンインストール コレクションのフィルター機能を提供します。
SCCMCatItemHandler	特定の SCCM カタログ アイテムのフィールド値を設定します。これらの値は、SCCM カタログ アイテム テーブル名、カタログ アイテム名、SCCM プロバイダー、および SCCM ソフトウェア構成です。
SoftwareCatItemCreator	ソフトウェア カタログ アイテムを作成します。
CSDCatItemHandler	CSD カタログアイテム作成のための基底クラス。このスクリプトは、作成する [カタログ アイテムを作成] UI アクション、およびアプリケーション カタログによって使用されます。
CSDDemoDataUtil	デモデータを取り込みます。
CSDDemoDataUtilAjax	デモデータを取り込みます。

クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるプロパティ

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) のプロパティは、要求されたソフトウェア展開のインストール状態を管理し、スケジュール済みの検出を構成します。

CSD プロパティにアクセスするには、[クライアントソフトウェアディストリビューション] > [プロパティ]に移動します。次のプロパティを使用できます。

クライアントソフトウェアディストリビューションのプロパティ

プロパティ	名前	説明
ステータス チェック有効期限 (日)	sn_client_sf_dist.softwareInstallExpDays	ソフトウェアのインストール ステータスを無視するまでにシステムが待機する日数を制御します。ソフトウェアをインストールするためのデフォルトの時間制限は、システムが展開のインストール ステータスのチェックを停止する 30 日前です。 インストール ステータスは次のとおりです。 • インストールされていません：構成済みの時間制限が切れるまでに、ユーザーが要求されたソフトウェアをインストールしていません。 • インストール済み：ソフトウェアが構成済みの時間制限内にインストールされました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントソフトウェアディストリビューションのプロパティ (続く)

プロパティ	名前	説明
		• ステータス チェック期限切れ：ユーザーが要求されたソフトウェアをインストールするための時間制限が切れています。システムは、この展開のステータスをチェックしなくなります。 • 取り消し済み：ソフトウェアはアドミニストレーターによって取り消し されました。 • タイプ：整数 • デフォルト値：30
ソフトウェアインストール ステータスの間隔 (時間) を調整	sn_client_sf_dist.softwareInstallIntervalHour	スケジュール済みジョブがいつ実行されるかを決定します。これにより、インストール ステータスが決まります。デフォルトでは、システムは 1 時間ごとにインストール ステータスをチェックします。 • タイプ：整数 • デフォルト値：24
スケジュール済みアプリケーション ディスカバリー間隔 (日) を設定	sn_client_sf_dist.discoveryExeDay	アプリケーションディスカバリーを実行するスケジュール済みジョブの繰り返し間隔を設定します。デフォルトでは、この値で設定された日の深夜にディスカバリーが実行されます。 • タイプ：整数 • デフォルト値：5
リース実行スケジュール ジョブ間隔 (分) を設定	sn_client_sf_dist.lease_execution_interval	[CSD リース スケジュール] スケジュール済みジョブが、要求されたソフトウェア リースの開始、停止、または延長をチェックする間隔。 • タイプ：整数 • デフォルト値：1
リース終了の何日前に通知するか (日数) を設定	sn_client_sf_dist.lease_end_notification	ソフトウェア リースの終了の何日前に要求者に通知するのかを指定します。リース延長が許可されている場合は、リース期限が切れるまでに承認プロセスが完了するのに十分な時間が確保されるようにしてください。 • タイプ：整数 • デフォルト値：5

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるワークフロー

これらのワークフローは、オーケストレーション - クライアントソフトウェアディストリビューション プラグインと一緒にインストールされます。

クライアントソフトウェアディストリビューションと一緒にインストールされるワークフロー

Workflow	説明
SCCM の検出	カスタム CSD オーケストレーション アクティビティを使用して、SCCM サーバーからアプリケーション、コレクション、および展開のリストを取得します。アドミニストレーターは、SCCM サーバー インスタンス レコードの UI アクションからこのワークフローを実行します。
クライアントソフトウェアの注文	ユーザーがサービスカタログからソフトウェアを注文すると、自動的に実行されます。
SCCM アプリケーションの展開	[クライアント ソフトウェアの注文] ワークフローによってトリガーされ、SCCM サーバーを介してソフトウェアを展開します。このワークフローは、ユーザーまたはデバイスのいずれかを SCCM コレクションに追加します。
クライアントソフトウェアの取り消し	外部プロバイダーによって展開されたソフトウェアのソフトウェア取り消しプロセスを開始します。アドミニストレーターは、要求済みソフトウェア レコードとインストール済み権限なしソフトウェア レコードの UI アクションからこのワークフローを実行します。このワークフローは、実際の取り消しを実行する適切なプロバイダー ワークフローをトリガーします。たとえば、このワークフローは、SCCM アンインストール コレクション内のアプリケーションに対して [SCCM アプリケーションの取り消し] ワークフローをトリガーします。
SCCM アプリケーションの取り消し	アンインストール コレクションのメンバーである SCCM アプリケーションを取り消します。[クライアント ソフトウェアの取り消し] ワークフローがこのワークフローをトリガーすることで、SCCM サーバーによって展開されたソフトウェアが取り消されます。このワークフローは、ユーザーまたはデバイスのいずれかを SCCM コレクションから適切なアンインストール コレクションへ移動します。

関連情報

- 拡張ポイントを使用してアプリケーション機能を拡張する
- サーバー側スクリプトでのスクリプト拡張ポイントの使用
- サーバー側 UI マクロの UI 拡張ポイントの使用
- クライアント側 UI スクリプティングのクライアント拡張ポイントの使用

配布済みソフトウェアのライセンスとカウンタの作成

ライセンスとソフトウェア カウンタはソフトウェアモデルに関連付けられており、クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) によって配布されたソフトウェアのライセンスを追跡する場合は作成する必要があります。

始める前に

必要なロール：sam または admin
CSD によってサービスカタログから展開されたソフトウェアアイテムのソフトウェア資産管理で、ソフトウェアライセンスとカウンタを作成できます。CSD はソフトウェア カウンタの結果に応じ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

て、要求されたソフトウェアでライセンスが利用可能かどうかを判断します。ライセンスの [評価] が 0 より大きく、ライセンス タイプが [未配分] である場合、CSD はライセンスがソフトウェアで利用可能であるとみなします。

手順

1. [すべて] > [ソフトウェア資産] > [ソフトウェアライセンス]に移動します。
2. CSD で使用したソフトウェアモデルの新しいソフトウェアライセンスを追加します。
3. [ソフトウェア資産] > [調整] > [ソフトウェア カウンタ]に移動します。
4. 作成したソフトウェアモデルのソフトウェア カウンタを作成します。
5. カウンタを実行してソフトウェアライセンス情報を取得します。

クライアントソフトウェアディストリビューションの注文プロセス

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) によって展開されたソフトウェアは、個々のユーザーによって、または他のユーザーの代わりに承認済みユーザーによって、サービスカタログから注文できます。

クライアントソフトウェアディストリビューション カタログ アイテムには、注文の構成方法によってさまざまなオプションがあります。

リースの開始日と終了日

CSD によって展開されたすべてのソフトウェアでは、ユーザーがリースの開始日を指定する必要があります。これは、CSD によって自動的にアクティブ化されるオーケストレーション - 資産リース管理プラグインによって適用されます。[リース開始] フィールドには現在の日付と時刻が設定されます。

カタログ アイテムが取り消し (アンインストール) 用に構成されている場合は、フォームに [リース終了] フィールドが表示され、要求者がリースの終了日時を定義できます。選択された日付で将来の期間を定義するように、これらのフィールドのユーザー入力が検証されます。[リース終了] フィールドは必須ではなく、終了日なしでソフトウェアを注文する場合は空白のままにすることができます。

> **注:** Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) からソフトウェアを展開するシステムの場合、SCCM 構成でアンインストール コレクションを指定する場合に限り、[リース終了] フィールドを使用できます。

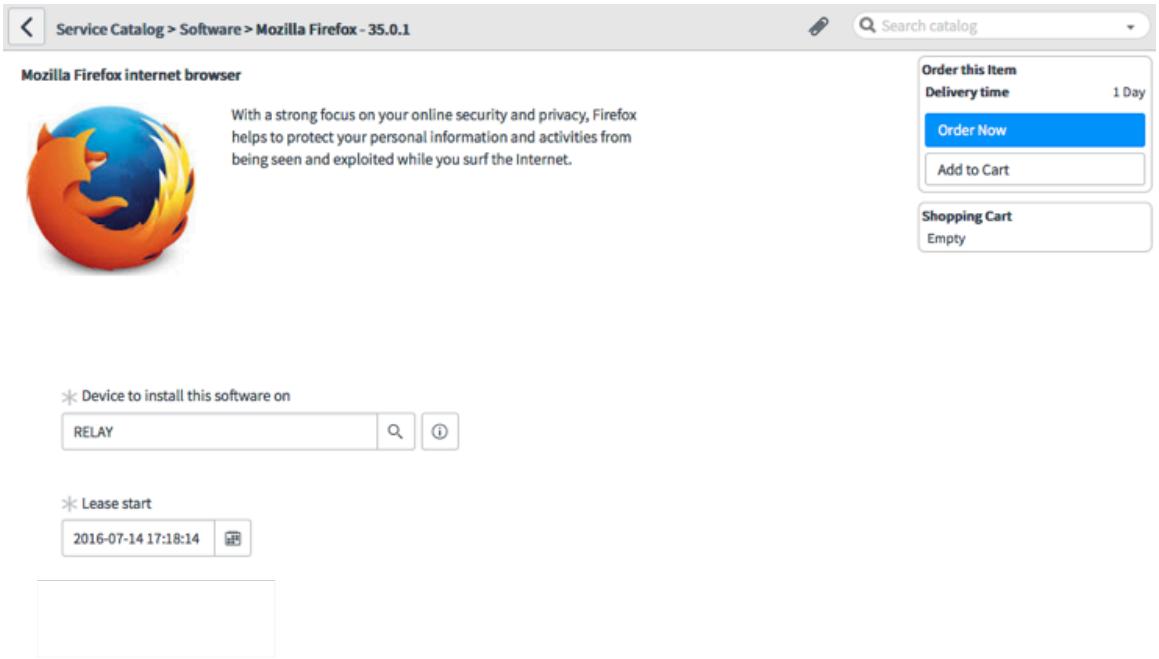
ログインしたユーザーにのみ提供されるソフトウェア

[代理注文] チェック ボックスがオフの状態でソフトウェア カタログ アイテムが構成された場合、注文フォームに [ユーザー] フィールドが表示されません。ログインしたユーザーは、[このソフトウェアをインストールするデバイス] フィールドからソフトウェアの展開先デバイスを選択します。ログインしたユーザーに割り当てられたデバイスだけがリストに表示されます。

この例では、ユーザーがサービスカタログにログインし、自分に割り当てられたコンピューター用に Firefox を注文します。ユーザーは、所有するデバイスのリストからマシンを選択し、リースを開始する日時を選択します。このソフトウェアは、Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) を介して展開されますが、アンインストール コレクションが構成されておらず、システムによって自動的に取り消されることはありません。その結果、[リース終了] フィールドは使用できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ログインしたユーザーとしてソフトウェアを注文する



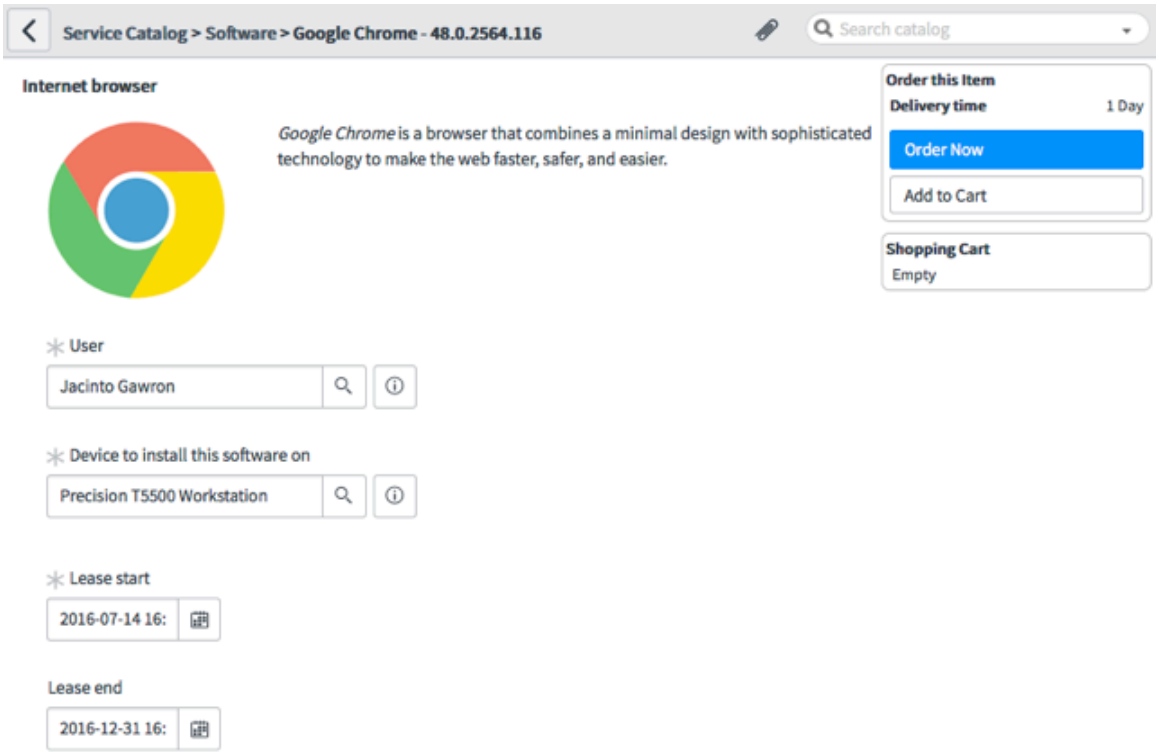
別のユーザーの代わりに注文したソフトウェア

[代理注文] チェック ボックスがオンの状態でソフトウェア カタログ アイテムが構成された場合、フォームに [ユーザー] フィールドが表示されます。ログインしたユーザーは、このフィールドから任意のユーザーを選択できます。[このソフトウェアをインストールするデバイス] フィールドには、[ユーザー] フィールドで選択されたユーザーに割り当てられたデバイスのみが表示されます。他のユーザーの代わりに注文されたソフトウェアに対して承認が必要な場合、システムはソフトウェアを受け取ったユーザーのマネージャーに承認要求を自動的に送信します。要求者が指定ユーザーのマネージャーである場合、承認はスキップされます。

この例では、マネージャーが契約社員のために Google Chrome を注文しています。マネージャーは、[ユーザー] フィールドから契約社員を選択し、その契約社員に割り当てられたデバイスのリストからコンピューターを選択します。このソフトウェアには SCCM アンインストール コレクションが構成されています。これにより、マネージャーはユーザーの契約終了と一致するリースの終了日を選択できます。リースが期限切れになると、SCCM は自動的にデバイスからソフトウェアをアンインストールします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソフトウェア リース期間の定義



ソフトウェア リースの延長

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) によって展開されたソフトウェアのユーザーは、ソフトウェア ディストリビューション システムによってソフトウェアが取り消される場合、リース期間の延長を要求することができます。

始める前に

必要なロール：すべてのシステム ユーザー

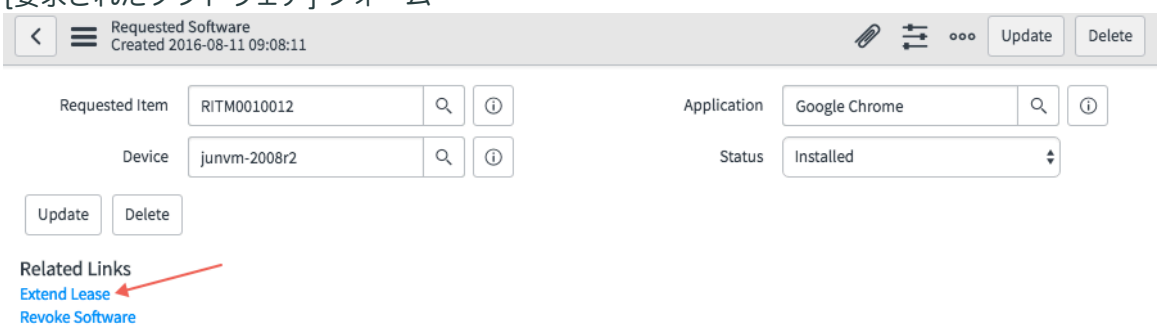
このタスクについて

ソフトウェアのリース終了日が定義されており、ソフトウェア ステータスが [インストール済み] である場合、リースの延長を要求し、組織が必要とする承認を処理待ちにすることができます。

手順

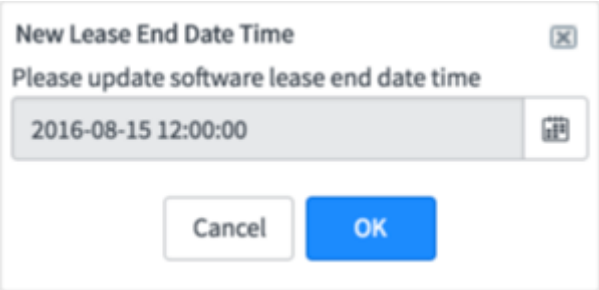
1. [すべて] > [サービスカタログ] > [自分の要求されたソフトウェア]に移動します。
   リストには、サービスカタログから要求したソフトウェアのみが表示されます。
2. リースを延長するインストール済みソフトウェアのレコードを選択します。
3. [関連リンク] で、[リースの延長] をクリックします。

[要求されたソフトウェア] フォーム



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. 表示されるダイアログ ボックスのカレンダーで新しいリース終了日を選択し、**[OK]** をクリックします。
   現在の日付より後の日付を選択する必要があります。



リース延長がマネージャーの承認を条件とする場合は、決定が通知されます。要求が承認されると、新しいリース終了日が通知に表示されます。新しい終了日が、要求を行った日付から 5 日以内 (デフォルトの通知期間) である場合、CSD は即時のリース終了通知を送信します。

重要: 組織内のリース延長に承認が必要な場合は、承認者が利用可能であり、延長要求を処理するのに十分な時間があることを確認してください。元の終了日が切れる前に延長を承認できない場合、ソフトウェアは取り消されます。

SCCM からのクライアントソフトウェアディストリビューション

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) を使用して、Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) からソフトウェアの展開や展開取り消しを実行したり、SCCM ホスト上のディストリビューションを管理したりすることができます。

SCCM アクティビティパックには、CSD がサービスカタログ要求からソフトウェアを展開したり、SCCM サーバー上のユーザーおよびデバイス コレクションを管理したりするために使用するオーケストレーション アクティビティが含まれています。さらに、CSD では、ServiceNow ソフトウェア資産管理を使用して展開済みソフトウェアのライセンス数を管理したり、SCCM によって展開されたソフトウェアをユーザー操作なしで取り消したり、リース期間を管理したりすることができます。

SCCM の構成

表示された順序で SCCM の構成手順に従います。

SCCM サーバーでのアプリケーションアドミニストレーターロールの構成

ServiceNow® クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) を使用してソフトウェアを展開する場合は、SCCM 管理ユーザーにソフトウェアを展開するための適切な権限があること、および PowerShell が適切に構成されていることを確認します。

始める前に

必要な SCCM のロール：アプリケーション管理者

このタスクについて

これらの手順は、Microsoft 2012 R2 Server 用です。

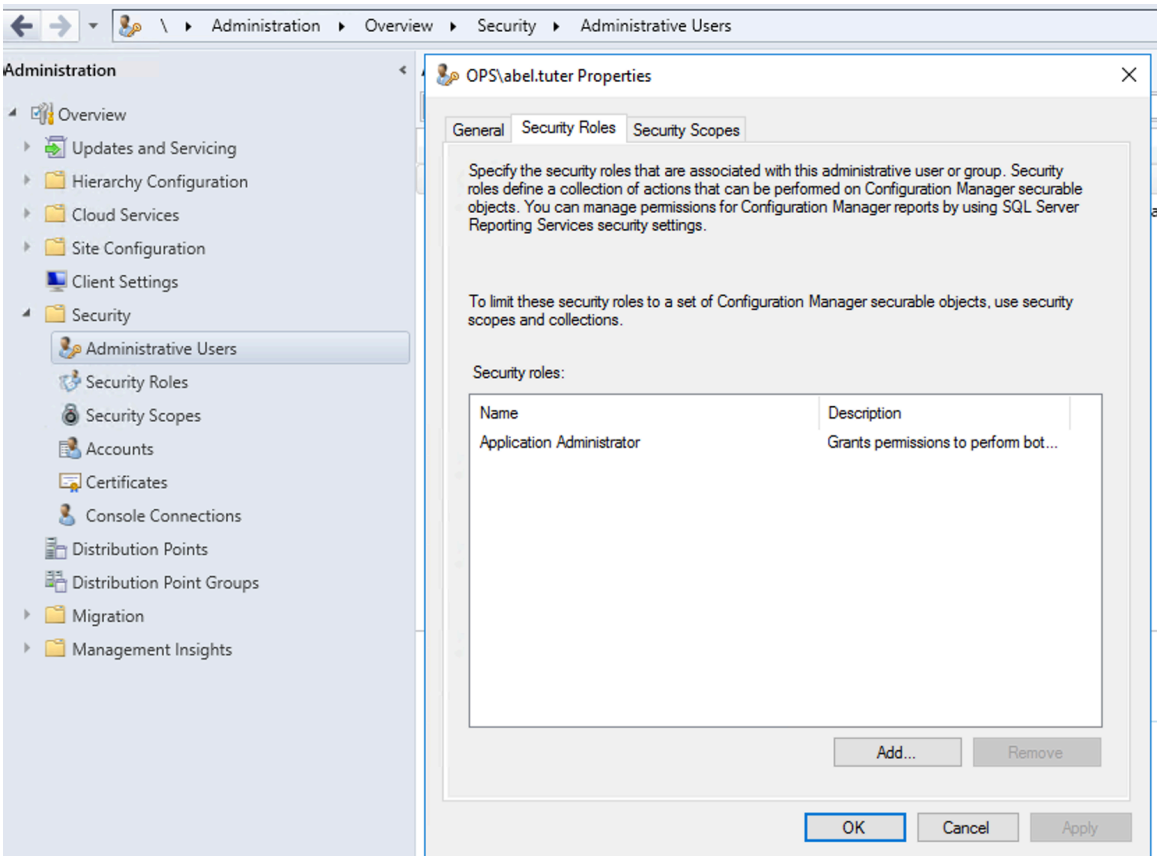
手順

1. System Center Configuration Manager コンソールで、[管理] > [セキュリティ] > [管理ユーザー]に移動します。
2. アプリケーションアドミニストレーターロールを付与するユーザーを右クリックします。
3. ドロップダウン メニューから [プロパティ] を選択します。
4. [プロパティ] ダイアログ ボックスで、[セキュリティ ロール] タブを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. ユーザーにアプリケーションアドミニストレーターロールがあることを確認します。
6. ユーザーがまだこのロールを持っていない場合は、[追加] をクリックし、このロールをリストから選択し、**[OK]** をクリックします。

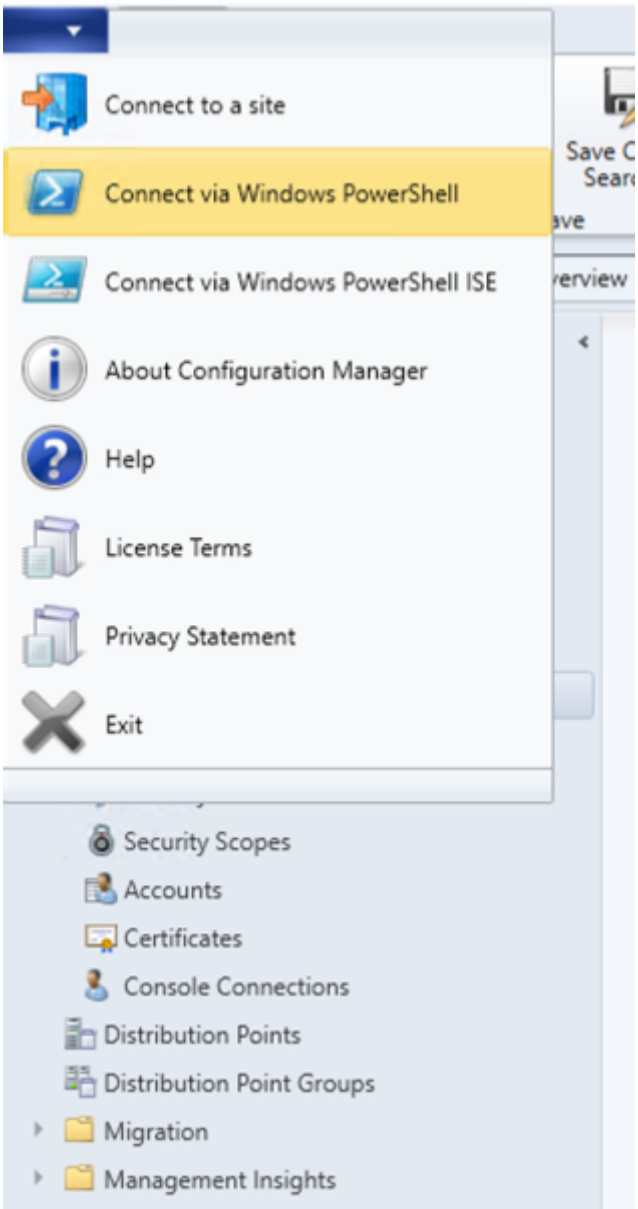
SCCM サーバーでのアプリケーションアドミニストレーターロールの付与



7. アプリケーションアドミニストレーターロールを持つユーザーとして SCCM にログインします。
8. コンソールの左上隅からメニューを開き、**[Windows PowerShell** で接続する] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PowerShell への接続



9. ユーザーが CM コンソールにアクセスできることを確認します。
   このアクションにより、ログインしているアプリケーション管理者ユーザーに対し PowerShell への環境パスが確立されます。

SCCM コマンドレット ライブラリーの更新

System Center Configuration Manager の SCCM コマンドレット ライブラリーが最新の状態であることを確認します。

始める前に
必要なロール：設定に応じて、 現在のユーザーまたはシステムアドミニストレーター。

このタスクについて
System Center Configuration Manager の SCCM コマンドレット ライブラリーは、SCCM 用の Windows PowerShell モジュールをインストールおよび更新します。SCCM は、ライブラリーの更新を毎日チェックします。システムは SCCM アクティビティ出力を解析できないため、古くなったライブラリーによって SCCM サーバーのディスカバリーが失敗する可能性があります。この警告メッセージは、SCCM GET アクティビティの ECC キュー入力レコードに出現します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
WARNING: An update to the System Center 2012 Configuration Manager Cmdlet
Library is available. Please go to
'http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=528947' to download the latest
 version.
Running cmdlet version: 5.0.8231.1004 Latest cmdlet version:
 5.0.8328.1155
```

コマンドレットライブラリの最新バージョンを Microsoft からダウンロードします。インストール手順については、https://technet.microsoft.com/en-us/library/dn958404(v=sc.20).aspx を参照してください。

以前のバージョンのライブラリーを使用する場合は、この手順を使用して CM 更新チェックを無効にします。これにより、問題なくディスカバリーを実行できます。

手順

1. アドミニストレーターとして SCCM コンソールにログインします。
2. コンソールの左上隅からメニューを開きます。
3. **[Windows PowerShell** で接続する] を選択します。
4. 更新チェックを無効にするには、次のいずれかのコマンドを実行します。
   - ユーザーごと：*Set-CMCmdletUpdateCheck -CurrentUser -IsUpdateCheckEnabled 0*
   - システムごと：*Set-CMCmdletUpdateCheck -System -IsUpdateCheckEnabled 0*

   重要: システムごとのコマンドレットは、昇格した Windows PowerShell セッションで実行する必要があります。

5. *Get-CMCmdletUpdateCheck* コマンドを実行してコンソールを更新し、設定を確認します。
6. *IsEnabled* 構成変数が **False** に変更されたことを確認します。
   これは、古くなったコマンドレット ライブラリーの警告が、指定されたユーザーに対して無効になっていることを示します。
7. 更新チェックを再度有効にするには、現在のユーザーまたはシステムのいずれかに対して *-IsUpdateCheckEnabled 1* コマンドを実行します。

SCCM アクティビティ用の MID サーバーの構成

Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) アクティビティで MID サーバーを使用するには、SCCM サーバーと通信するように構成します。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. ナビゲーションフィルターに **cmdb_ci_dns_name.list** と入力します。
2. [新規] をクリックします。
3. [名前] フィールドに SCCM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。
5. **[IP** アドレス] 関連リストで、[新規] をクリックします。
6. **[IP** アドレス] フィールドに、SCCM サーバーの IP アドレスを入力します。
7. **[Nic]** フィールドで、**[eth0]** または任意のネットワークインターフェイスコントローラーを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

8. [ネットマスク] フィールドは空白のままにします。
9. [送信] をクリックします。

SCCM 展開用 Windows 資格情報の作成

Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) では、クライアントソフトウェアディストリビューション アプリケーションを使用してアプリケーションを展開するための適切な認証情報が必要です。

始める前に
必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin

このタスクについて
クライアントソフトウェアディストリビューションには、SCCM サーバーの管理権限を持つ Windows 資格情報が必要です。

手順
1. [すべて] > [オーケストレーション] > [認証情報]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. 認証情報タイプのリストで、**[Windows** 資格情報] を選択します。
4. SCCM サーバーの管理権限を持つユーザー名とパスワードを入力します。

> **重要:** 次のことを確認します。
> - このユーザーには、SCCM サーバーのアプリケーションアドミニストレーターのロールが必要です。
> - 認証情報を使用して SCCM サーバーにログオンし、System Center Configuration Manager コンソールから Windows PowerShell を介して 1 回以上コネクトし、この認証情報のパス変数を設定します。

5. 必要に応じてフォームの他のフィールドに入力します。

   詳細は、「Windows 資格情報」を参照してください。

6. [送信] をクリックします。

クライアントソフトウェアディストリビューションの SCCM データの取得

SCCM サーバーから展開に利用可能なコレクションとアプリケーションのリストを取得します。

始める前に
必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin

この手順を開始する前に：

- Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーを設定し、アプリケーションとコレクションを作成し、必要な展開を構成します。詳細については、SCCM のドキュメントを参照してください。
- SCCM サーバー上のアプリケーション展開マネージャー ロールを持つユーザーを構成します。
- SCCM サーバーと通信するように MID サーバーを設定します。
- アプリケーション展開マネージャー ロールを持つ SCCM ユーザーについて、PowerShell 認証情報を ServiceNow 認証情報 [discovery_credentials] テーブルに追加します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
クライアントソフトウェアディストリビューション アプリケーションに SCCM データを設定するには：

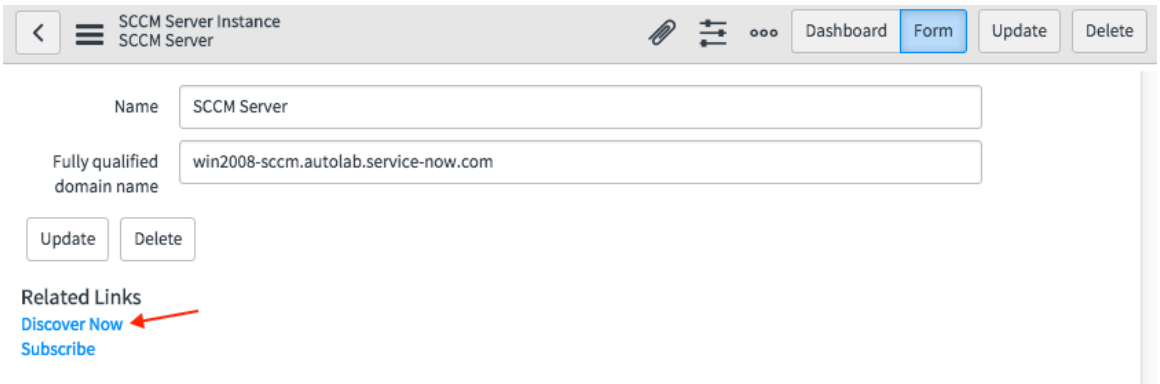
手順

1. [すべて] > [クライアントソフトウェアディストリビューション] > **[SCCM]** > **[SCCM** サーバーインスタンス]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. [SCCM サーバー インスタンス] フォームで、サーバーを名前で識別し、完全修飾ドメイン名を入力します。
4. [送信] をクリックします。

   新しい SCCM サーバーがリストに表示されます。
5. 新しい SCCM レコードを開き、[関連リンク] の [今すぐ検出] をクリックします。

   アプリケーション、コレクション、および展開データを SCCM サーバーから取得する [SCCM の検出] ワークフローが実行されます。

ディスカバリーによる **SCCM** データの取得



クライアントソフトウェアディストリビューションのための **SCCM** サーバーディスカバリー

ディスカバリーワークフローでは、SCCM サーバーから取得したコレクション、アプリケーション、および展開のデータを ServiceNow テーブルに入力します。

ユーザーは、SCCM サーバー インスタンス レコードから **[SCCM** の検出] ワークフローを実行して、次の ServiceNow テーブルに入力します。

ServiceNow テーブルに入力される **SCCM** データ

テーブル	フィールド
SCCM アプリケーション [sn_client_sf_dist_sccm_application]	• name • publisher • version • モデル • sccm_server

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ServiceNow テーブルに入力される **SCCM** データ (続く)

テーブル	フィールド
SCCM コレクション [sn_client_sf_dist_sccm_collection]	• name • type • sccm_server
SCCM 展開 [sn_client_sf_dist_sccm_deployment]	• アプリケーション • collection • type

注: SCCM サーバーからデータを抽出するためにこのワークフローで使用されるカスタムアクティビティの詳細については、「オーケストレーション SCCM アクティビティパック」を参照してください。

SCCM アプリケーションのソフトウェアモデルの設定

SCCM サーバーで検出されたアプリケーションを使用して、ソフトウェア資産管理アプリケーションで使用されるソフトウェアモデルを設定し、ライセンスを管理します。

始める前に

必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin
ソフトウェアモデルを作成する前に、SCCM サーバーの展開で利用できるアプリケーションを検出する必要があります。 詳細については、「クライアントソフトウェアディストリビューションの SCCM データの取得」を参照してください。

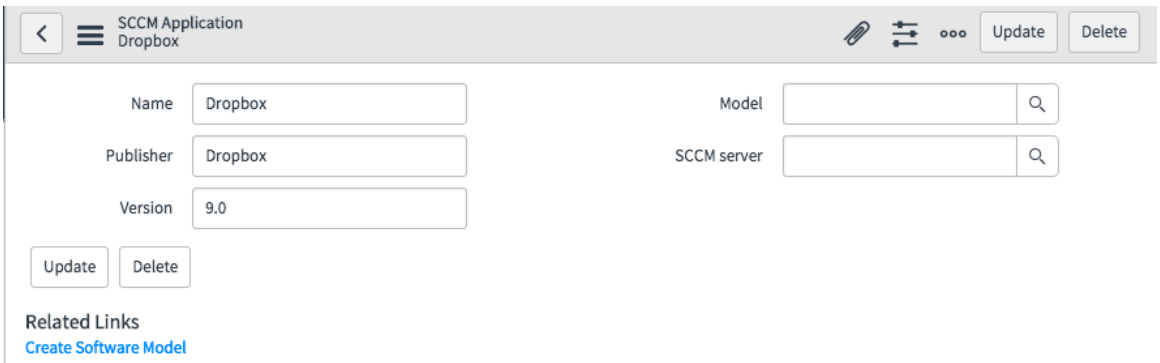
このタスクについて

SCCM アプリケーションを既存のソフトウェアモデルにリンクするか、新しいモデルを作成することができます。

手順

1. [すべて] > [クライアントソフトウェアディストリビューション] > **[SCCM]** > **[SCCM** アプリケーション]に移動します。
   SCCM サーバー上で検出されたアプリケーションのリストが表示されます。
2. SCCM アプリケーション レコードを開きます。
3. 既存のモデルにリンクするには、[モデル] フィールドの [虫眼鏡 (magnifying glass)] アイコンをクリックし、リストからモデルを選択します。

SCCM アプリケーション レコード



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. モデルを作成するには、[関連リンク] の [ソフトウェアモデルを作成] をクリックします。

   a. ソフトウェアモデルのフィールドを設定します。
   詳細については、「」を参照してください。

   b. [送信] をクリックします。
   ビューが [SCCM アプリケーション] フォームに戻ります。

SCCM 構成の定義

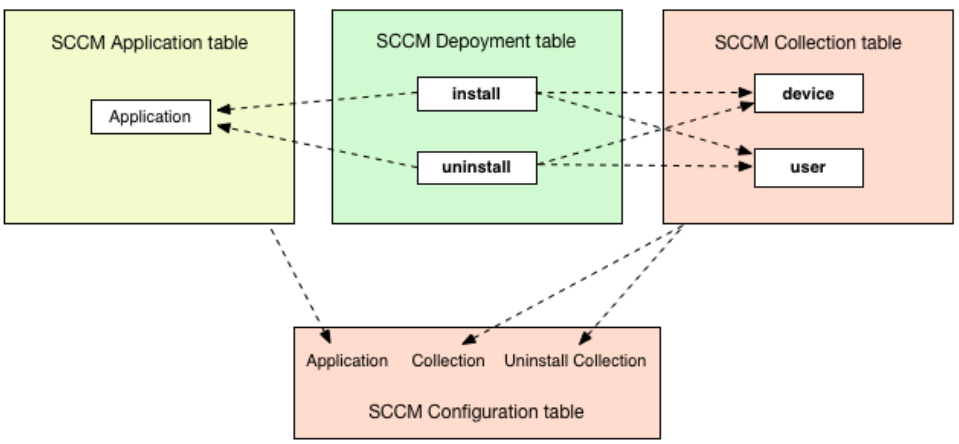
SCCM ソフトウェア展開用のカタログ アイテムを作成したり、または SCCM を介してソフトウェアを取り消すようにインスタンスを構成したりするには、まず SCCM 構成を介してそのソフトウェアをコレクションに関連付ける必要があります。

始める前に
SCCM 構成レコードを作成する前に、SCCM アプリケーション、コレクション、および展開を検出し、必要なソフトウェアモデルを設定していることを確認してください。

必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin

このタスクについて
SCCM 構成プロセスは、ソフトウェアと SCCM コレクションを関連付けます。SCCM サーバーからソフトウェアを展開するには、ユーザーまたはデバイスが、インストール展開に関連付けられた SCCM コレクションのメンバーである必要があります。クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) では、アンインストールコレクションを使用して権限のないソフトウェアを削除できる場合、SCCM サーバーを使用してその権限のないソフトウェアを取り消す ことができます。サービスカタログから取り消し可能なソフトウェアを要求するユーザーは、リース開始日や終了日を定義したり、リース延長を要求したりすることもできます。

SCCM テーブル参照

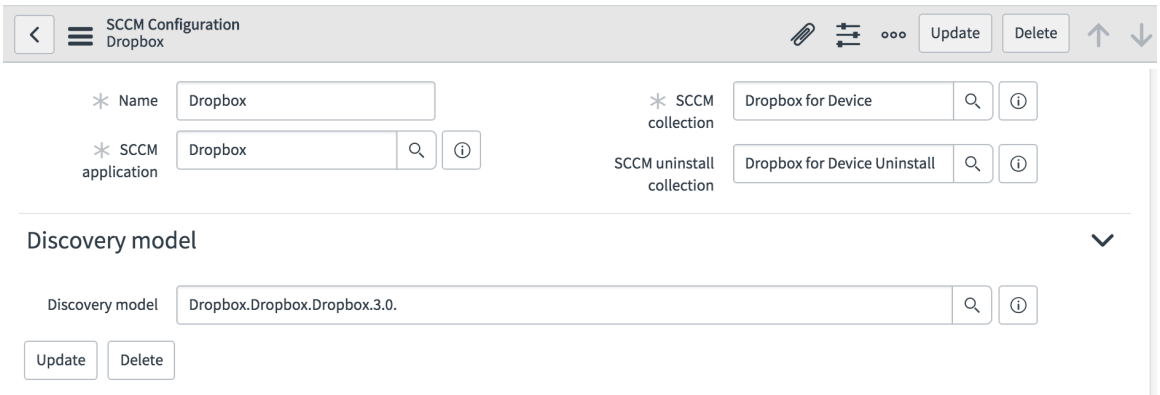


© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [すべて] > [クライアントソフトウェアディストリビューション] > **[SCCM]** > **[SCCM** アプリケーション]に移動します。
2. 構成済みのソフトウェアモデルを持つアプリケーションを開きます。
3. [関連リンク] の [ソフトウェア構成の作成] をクリックします。
4. テーブル内のフィールドを使用して、フォームに入力します。

SCCM 構成フォーム



SCCM 構成フィールド

フィールド	説明
名前	この SCCM ソフトウェア構成の認識可能な名前。
SCCM アプリケーション	SCCM サーバーでホストされているアプリケーションの名前。
SCCM コレクション	SCCM サーバーで選択されたアプリケーションのインストール展開に関連付けられているコレクションの名前。アプリケーションに関連付けられたコレクションのみが選択可能です。
SCCM アンインストール コレクション	SCCM サーバーで選択されたアプリケーションのアンインストール展開に関連付けられているコレクションの名前。次の場合はアンインストール コレクションを指定する必要があります。 ◦ 展開済みソフトウェアのリース終了日を定義する。 ◦ リース延長を許可する。 ◦ ユーザーのマシンからソフトウェアを取り消す。
ディスカバリーモデル	権限のないソフトウェアのインストールを SCCM 構成とリンクするディスカバリーモデル。SCCM 構成レコードから、クライアントソフトウェアディストリビューションはソフトウェアの取り消しに使用するコレクションを判別できます。権限のないソフトウェアとは、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ユーザーのマシン上で検出され、ユーザーが使用する権限を持たないソフトウェアのことです。

SCCM アプリケーションのカタログ アイテムの作成

SCCM サーバー上で検出されたアプリケーションを使用して、サービスカタログから配布するために提供するアプリケーションのカタログ アイテムを作成します。

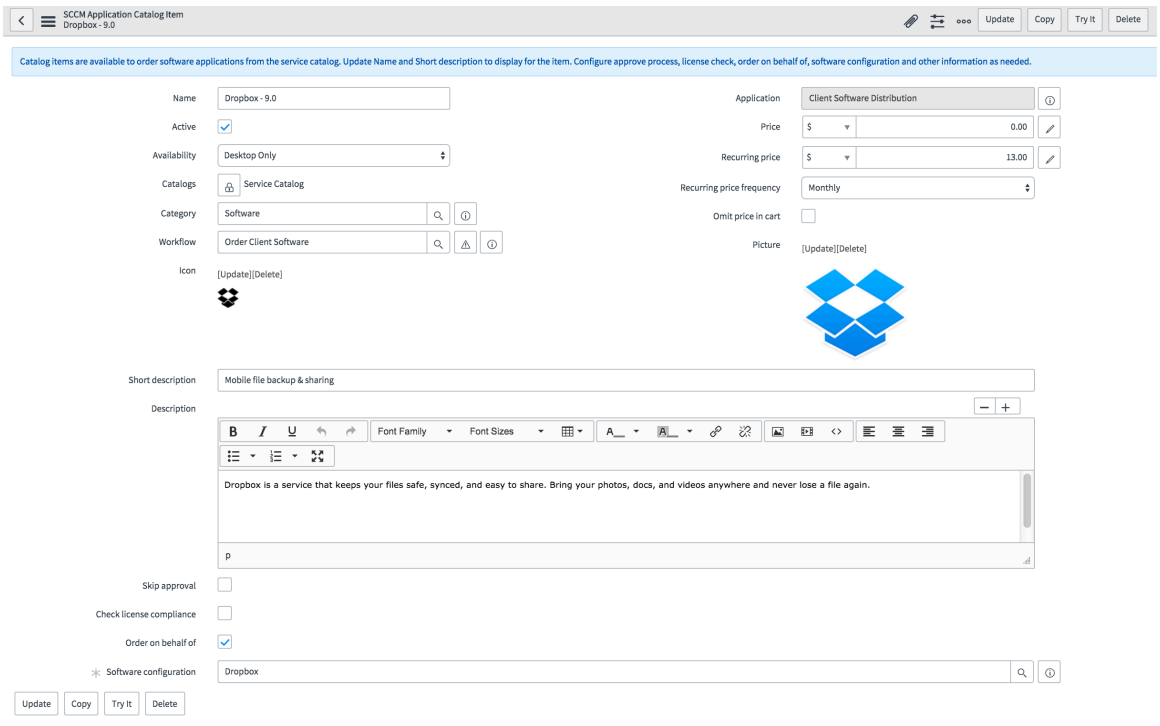
始める前に

必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin
カタログ アイテムを作成する前に、アプリケーションをソフトウェアモデルにリンクし、少なくとも 1 つのソフトウェア構成を作成する必要があります。

手順

1. [すべて] > [クライアントソフトウェアディストリビューション] > **[SCCM]** > **[SCCM** アプリケーション]に移動します。
   SCCM サーバー上で検出されたアプリケーションのリストが表示されます。
2. SCCM アプリケーションのレコードを開きます。
3. [関連リンク] の [カタログ アイテムを作成] をクリックします。
   新しい SCCM アプリケーションカタログアイテムレコードが事前設定された情報とともに表示されます。。

SCCM アプリケーションカタログアイテム



4. 価格情報を追加し、オーケストレーション - クライアントソフトウェアディストリビューション プラグインによってクライアントソフトウェアディストリビューション カタログ アイテム [sn_client_sf_dist_cat_item] テーブルに追加された次のフィールドを設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カタログ アイテム フォームの **SCCM** フィールド

フィールド	説明
承認をスキップ (skip_approval)	ユーザーがサービスカタログから注文したときに、要求者のマネージャーがこのアイテムの承認をスキップできるようにするチェック ボックス。このフィールドは [代理注文] フィールドと一緒に使用して、別のユーザーの代わりにログインしたユーザーが注文したソフトウェアが承認されることを保証します。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっており、新しいカタログ アイテムすべてに対してマネージャーの承認が必要です。 **注:** 可能な承認のレベルは 2 つあります。デフォルトでは、すべてのカテゴリアイテムで $1000 を超えるアイテムにはグループ承認が必要です。その承認が与えられるかスキップされると、システムは [承認をスキップ] チェック ボックスを評価して、ソフトウェアアイテムが要求者のマネージャーによる承認を必要としているかどうかを判断します。
ライセンスのコンプライアンスをチェック (check_license_compliance)	現在のライセンスでこのアイテムの展開が許可されているかどうかをシステムで強制的に判断するためのチェック ボックス。
代理注文	ログインしたユーザーが、このソフトウェアを別のユーザーのサービスカタログから注文できるようにするチェック ボックス。これにより、サービスデスク担当者は、システム内の他のユーザーに対して SCCM 展開を注文することができます。デフォルトでこの機能は有効になっています。権限のないユーザーがソフトウェアを注文できないようにするには、[承認をスキップ] チェック ボックスをオフにして、このタイプの展開に承認が必要になるようにします。 あるユーザーの代わりに注文されたソフトウェアに対して承認が必要な場合、システムはソフトウェアを受け取ったユーザーのマネージャーに承認要求を自動的に送信します。要求者が指定ユーザーのマネージャーである場合、承認はスキップされます。 別のユーザーの代わりにサービスカタログから要求されるソフトウェアアイテムには、次の情報が必要です。 ◦ ユーザー：展開のために選択されたユーザー。このフィールドには、ログインしているユーザーの名前が自動的に入力されます。リストから別のユーザーを選択することができます。 ◦ このソフトウェアをインストールするデバイス：選択されたユーザーに属する、ソフトウェアを展開するデバイス。そのユーザーに属するデバイスだけが選択リストに表示されます。 ◦ リース開始：ソフトウェアを展開する日時。これはリースの開始時刻です。リースは無期限にすることも、リース終了時間を設定することもできます。
SCCM 構成	このアプリケーションの SCCM 構成レコードの名前。このレコードは、このアプリケーションのコレクションとアンインス

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	トール コレクションを定義します。この構成は、SCCM サーバーによって実行されるすべての展開、取り消し、およびリースに必要です。

5. コストが理由でカタログアイテムの承認が必要な場合は、[グループにより承認] 関連リストで承認グループを構成してください。
   デフォルトでは、[サービスカタログ要求] ワークフローは、$1000 以上のコストがかかるアイテムが注文されたときに実行され、適切な承認グループを探します。アイテムに対して承認グループが構成されていない場合、このワークフローは承認を一切スキップして終了します。システムは [クライアント ソフトウェアの注文] ワークフローを実行して [承認をスキップ] チェック ボックスを評価し、要求者のマネージャーによる承認を必要としているかどうかを判断します。
6. [更新] をクリックします。
   ビューが [SCCM アプリケーション] リストに戻ります。
7. すべてのクライアント ソフトウェアアイテム (CSD) カタログ アイテムを表示するには、[クライアントソフトウェアディストリビューション] > [アイテムの管理] > [ソフトウェアアイテム] に移動します。

SCCM 展開

サービスカタログのクライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) カタログ アイテムから SCCM アプリケーションを注文すると、[クライアント ソフトウェアの注文] ワークフローがトリガーされます。

このプロセスは、サービスカタログの注文で SCCM アプリケーションをユーザーまたはデバイスに展開します。

1. ソフトウェア カタログ アイテムで [承認をスキップ] チェック ボックスがオフになっている場合、[クライアント ソフトウェアの注文] ワークフローは、承認のために要求ユーザーのマネージャーにカタログ要求を送信します。
2. ソフトウェア カタログ アイテムで [ライセンス コンプライアンスのチェック] チェック ボックスがオンになっている場合、ワークフローはソフトウェアライセンスのチェックを実行します。使用可能なライセンスがない場合、ワークフローはより多くのライセンスを調達するカタログ タスクを作成し、そのタスクを クライアントソフトウェアディストリビューション アドミングループに割り当てます。
3. [クライアント ソフトウェアの注文] ワークフローは、[SCCM アプリケーションの展開] ワークフローをサブフローとしてトリガーします。このワークフローは、[ユーザー コレクションに追加] または [デバイス コレクションに追加] SCCM アクティビティを使用して、ユーザーまたはデバイスのいずれかを SCCM コレクションに追加します。
4. ソフトウェア構成でソフトウェア カタログ アイテムに SCCM アンインストール コレクションが指定されている場合、[SCCM アプリケーションの展開] ワークフローは、ユーザーまたはデバイスがアンインストール コレクション内に存在するかどうかをチェックします。このワークフローは、[コレクションのデバイス] または [コレクションのユーザー] SCCM アクティビティを使用します。ユーザーまたはデバイスがアンインストール コレクション内に存在する場合、ワークフローはデバイスまたはユーザーを削除します。ワークフローは、SCCM インストール コレクションに追加する前に、[デバイス コレクションから削除] または [ユーザー コレクションから削除] SCCM アクティビティを使用します。

クライアントソフトウェアディストリビューションの検証プロセス

SCCM がソフトウェアをターゲット コンピューターに展開すると、クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) によってインストールが検出され、その状態が検証されます。

クライアントソフトウェアディストリビューションでは、ターゲット マシンにインストールされているソフトウェアを検出するために以下の方法を使用します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 検出：CSD は、ディスカバリー を利用してソフトウェアのインストールを検出するように構成されます。検出は、いつでも手動で実行することも、スケジュール済みジョブで実行することもできます。
- **Microsoft SCCM** 統合：インスタンス上でディスカバリーが有効でない場合は、統合 - Microsoft SCCM プラグインの機能を使用して、SCCM データを CMDB にインポートできます。

インスタンスは、検出または SCCM 統合プラグインによって収集されたデータを使用して、ソフトウェアインストール [cmdb_sam_sw_install] テーブルにデータを設定します。このデータを使用してインストールを検証するために、CSD は [インストールされるプロパティ] の設定を使用する [要求されたソフトウェアの調整 (Reconcile Requested Software)] というスケジュール済みジョブを実行します。このプロセスは、CMDB に蓄積されたソフトウェアインストール データを調整し、以下のステータス更新を行います。

- [インストールされていません] から [インストール済み] ：ユーザーは、*sn_client_sf_dist.softwareInstallExpDays* プロパティで構成された時間制限内に、要求されたソフトウェアをインストールしています。
- [インストールされていません] から [ステータス チェック期限切れ]：ユーザーが要求されたソフトウェアをインストールする時間制限が切れています。時間制限が切れると、システムはインストールのチェックを停止します。

SCCM ソフトウェアの取り消し

アドミニストレーターは、ソフトウェアが他のプロセスやユーザーによってインストールされていても、ソフトウェア構成で SCCM アンインストール コレクションが指定されている場合は、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) を使用してユーザー操作なしでソフトウェアを取り消すことができます。

サービスカタログを介して展開されたソフトウェアの取り消し

SCCM によって展開されたソフトウェアは取り消すことができますが、ソフトウェアのステータスが [インストール済み] であり、ソフトウェア構成に関連付けられているアプリケーションでアンインストール コレクションが構成されている場合に限られます。

始める前に

- 適切なアンインストール コレクションに名前を付けるアプリケーションの場合は、SCCM 構成レコードを作成します。
- アンインストール コレクションを指定する SCCM 構成を使用するアプリケーションの場合は、CSD カタログ アイテムを関連付けます。

必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin

[SCCM アプリケーションの取り消し] という名前のワークフローは、ユーザーまたはデバイスのいずれかをそれぞれのコレクションから移動し、適切なアンインストール コレクションに追加します。SCCM が内部ポリシー チェックを実行し、アンインストール コレクションでユーザーまたはデバイスを検出すると、SCCM は関連ソフトウェア パッケージをクライアント コンピューターから削除します。

手順

1. [すべて] > [クライアントソフトウェアディストリビューション] > [レポート] > [要求されたソフトウェア]に移動します。
2. 取り消す SCCM ソフトウェア パッケージのレコードを開きます。
   取り消すことができるパッケージは、[ステータス] が [インストール済み] になっている必要があります。
3. [関連リンク] で、[ソフトウェアの取り消し] をクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[クライアント ソフトウェアの取り消し] ワークフローが実行されます。このワークフローは、ユーザーまたはデバイスをインストール コレクションからアンインストール コレクションに移動する [SCCM アプリケーションの取り消し] サブフローをトリガーします。SCCM が内部ポリシー チェックを実行し、アンインストール コレクションでユーザーまたはデバイスを検出すると、SCCM は関連ソフトウェア パッケージをクライアント コンピューターから削除します。

権限のないソフトウェアの取り消し

アドミニストレーターは、ソフトウェアが他のプロセスやユーザーによってインストールされていても、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) を使用して、ユーザーが使用する権限のないソフトウェアを取り消すことができます。

始める前に

SCCM を使用してソフトウェアを取り消すには、適切なソフトウェアディスカバリーモデルが定義された、アプリケーションの SCCM 構成レコードを作成する必要があります。「ソフトウェアディスカバリーモデル」を参照してください。

必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin または admin

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) は、ソフトウェア資産管理 を使用して、権限のないソフトウェアのインストールを識別します。ディスカバリーがユーザーのマシン上のソフトウェアを検出し、SAM がユーザーまたはデバイスがそのソフトウェアを使用する権限があるかどうかを判断します。これには、カタログ要求を介してインストールされなかったソフトウェア、またはユーザーが承認なしでインストールしたソフトウェアが含まれている可能性があります。ソフトウェアインストールのディスカバリーモデルがアンインストール コレクションの定義されている SCCM ソフトウェア構成に関連付けられている場合、アドミニストレーターは CSD を使用してユーザーのマシンからそのソフトウェアを取り消すことができます。ユーザーの介入は必要ありません。

手順

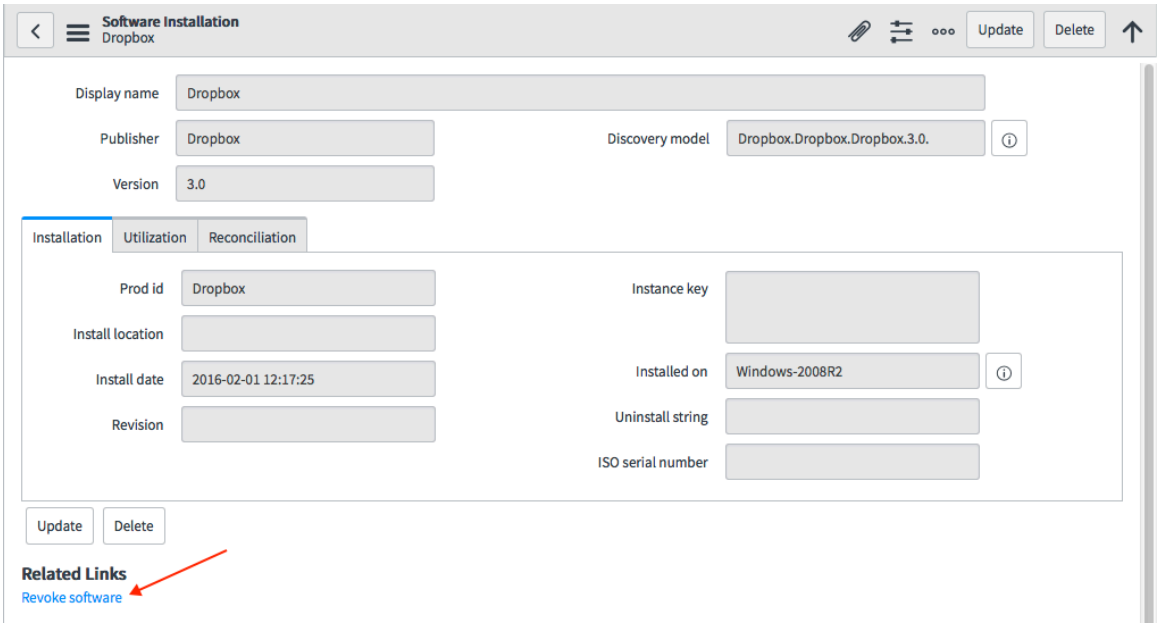
1. [すべて] > [クライアントソフトウェアディストリビューション] > [レポート] > [インストール済み権限なしソフトウェア]に移動します。
2. 権限のないユーザーがいるインストール レコードを選択します。
3. [関連リンク] で、[ソフトウェアの取り消し] をクリックします。

   [クライアント ソフトウェアの取り消し] ワークフローが実行されます。このワークフローは、ユーザーまたはデバイスをインストール コレクションからアンインストール コレクションに移動する [SCCM アプリケーションの取り消し] サブフローをトリガーします。SCCM が内部ポリ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

シー チェックを実行し、アンインストール コレクションでユーザーまたはデバイスを検出すると、SCCM は関連ソフトウェア パッケージをクライアント コンピューターから削除します。

ソフトウェアインストールの取り消し



SCCM ソフトウェア取り消しワークフロー

[SCCM アプリケーションの取り消し] ワークフローは、ユーザーまたはデバイスをインストール コレクションからアンインストール コレクションに移動して、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) からインストールされたソフトウェアを取り消します。

取り消しワークフローを実行するには、ソフトウェア パッケージが [インストール済み] ステータスになっていて、適切なアンインストール コレクション用に事前に構成されている必要があります。構成手順については、「サービスカタログを介して展開されたソフトウェアの取り消し」を参照してください。管理者が取り消しプロセスを開始すると、システムは [SCCM アプリケーションの取り消し] ワークフローを起動して、インストールに関連付けられたユーザーまたはデバイス コレクションを適切な SCCM アンインストール コレクションに移動します。SCCM サーバーは、ポリシー チェックを実行するとユーザーまたはデバイスのアンインストール コレクションへの追加を検出し、そのコレクションに関連付けられているソフトウェア パッケージを取り消します。

ワークフローは [ユーザー コレクションから削除] および [デバイス コレクションから削除] という 2 つのカスタムアクティビティを利用して、元のコレクションからユーザーまたはデバイスのいずれかを削除します。ワークフローは、[ユーザー コレクションに追加] または [デバイス コレクションに追加] アクティビティを使用して、ユーザーまたはデバイスを SCCM サーバーの適切なアンインストール コレクションに追加します。

注: このワークフローは、[クライアント ソフトウェアの取り消し] ワークフローによってサブフローとしてトリガーされます。

クライアントソフトウェアディストリビューション ダッシュボード

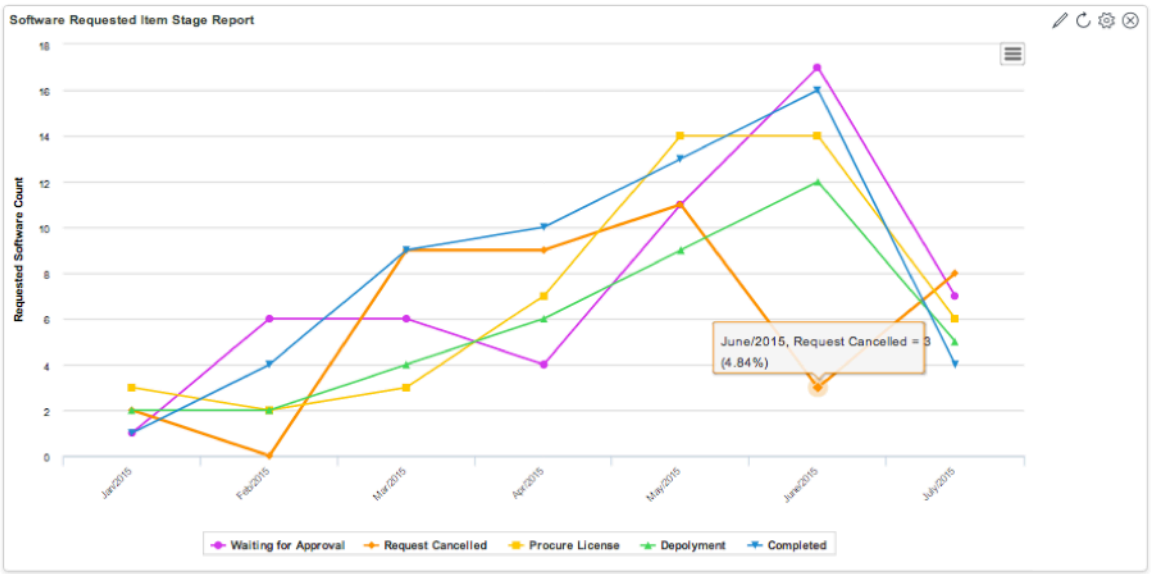
CSD ダッシュボードには、クライアントソフトウェアディストリビューション アプリケーションのビジュアル レポートのコレクションが用意されています。

CSD ダッシュボード

CSD ダッシュボードにアクセスするには、[クライアントソフトウェアディストリビューション] > [要求されたソフトウェア] > [ダッシュボード]に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

CSD ダッシュボードからのサンプル レポート



クライアントソフトウェアディストリビューション レポート

レポート	説明
オープンタスク	要求されたアイテムのステージ値でグループ化して、すべてのオープンタスクを表示します。 • タイプ: 基本的なリストレポートの作成 • テーブル：カタログタスク [sc_task]
上位 10 件のインストール済みアプリケーション	要求数順に上位 10 件のインストール済みアプリケーションを表示します。 • タイプ：棒グラフレポートを作成する • テーブル：要求されたソフトウェア [sn_client_sf_dist_req_software]
経時的なソフトウェア要求アイテムの合計	毎月要求されたソフトウェアアイテムの合計を表示します。 • タイプ：線グラフレポート • テーブル：要求されたソフトウェア [sn_client_sf_dist_req_software]
要求完了数レポート	毎月完了したソフトウェア要求の合計を表示します。 • タイプ：線グラフレポート • テーブル：要求されたソフトウェア [sn_client_sf_dist_req_software]
インストール済み権限なしソフトウェア	ユーザーまたはデバイスが使用する権限のないインストール済みソフトウェアを表示します。これは、CSD を介して展開されたソフトウェア、またはライセンスに準拠していない別のプロセスによって展開されたソフトウェアが該当します。このレポートは [ソフトウェア資産管理] テーブルにあります。 • タイプ: 基本的なリストレポートの作成 • テーブル：ソフトウェアインストール [cmdb_sam_sw_install]

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

クライアントソフトウェアディストリビューション レポート (続く)

レポート	説明
ソフトウェアインストール ステータス	インストール ステータス別にグループ化された、毎月の要求されたソフトウェアの数を表示します。 • タイプ：線グラフレポート • テーブル：要求されたソフトウェア [sn_client_sf_dist_req_software]
ソフトウェア要求済みアイテム ステージ レポート	要求されたアイテムのステージ別にグループ化された、毎月の要求されたすべてのアイテムの合計を表示します。 • タイプ：線グラフレポート • テーブル：要求されたソフトウェア [sn_client_sf_dist_req_software]
利用可能なライセンス数	使用可能なすべてのアプリケーションのライセンス数を表示します。 • タイプ: 基本的なリストレポートの作成 • テーブル：SCCM アプリケーションカタログアイテム [sn_client_sf_dist_sccm_app_cat_item]

使用法の概要ダッシュボード

[クライアントソフトウェアディストリビューション] > [使用法の概要] に移動して、インスタンスの現在のトランザクション数を表示します。

クライアントソフトウェアディストリビューション拡張フレームワーク

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) には、Casper、Altiris、LANDesk などのクライアントソフトウェアディストリビューションプロバイダーと ServiceNow インスタンスを統合するために、ビルトインの拡張ポイントが用意されています。

重要: CSD 拡張ポイントの使用は、経験豊富な Now Platform 開発者のみが使用することを目的とした高度な手順です。ソフトウェア ディストリビューション プロバイダーからソフトウェアを展開および取り消すためにインスタンスをカスタマイズする手順については、『CSD 拡張実装ガイド』を参照してください。

クライアントソフトウェアディストリビューション プロバイダーの構成

プロバイダーを特定し、カスタマイズされたソフトウェア ディストリビューション プロセスのワークフローと拡張ポイントを指定します。

始める前に

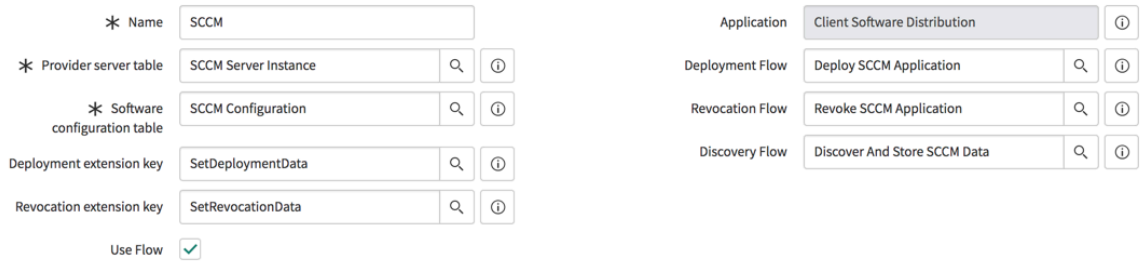
この手順を実行する前に、『CSD 拡張実装ガイド』に記載されている開発タスクを実行します。

必要なロール：sn_client_sf_dist.csd_admin、admin

手順

1. [すべて] > [クライアントソフトウェアディストリビューション] > [拡張] > [プロバイダー]に移動します。
2. [新規] をクリックします。
3. テーブル内のフィールド使用して、フォームに値を入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



クライアントソフトウェアディストリビューション プロバイダーのフィールド

フィールド	説明
名前	プロバイダーの記述名。
プロバイダーサーバーテーブル	プロバイダー サーバーのテーブル名。このテーブルは、構成アイテム [cmdb_ci] テーブルの拡張として作成する必要があります。たとえば、テーブルに Casper サーバー インスタンス [cmdb_ci_casper_server_instance] と名前を付けることができます。
ディスカバリーフロー	プロバイダーサーバーを検出し、そのサーバーからインスタンスにデータを戻すフロー。これは、プロバイダーサーバーをクエリするカスタムアクティビティで作成するフローです。
ソフトウェア構成テーブル	このプロバイダーのソフトウェア構成のテーブル名。このテーブルは、クライアントソフトウェアディストリビューション ソフトウェア構成 [sn_client_sf_dist_software_config] の拡張として作成します。たとえば、Casper ソフトウェア構成 [sn_client_sf_dist_casper_sf_config] というテーブルを作成します。
展開拡張キー	CSD に付属する **SetDeploymentData** キー。このキーは、ソフトウェアの注文および展開ワークフロー用にデータを設定します。
展開フロー	プロバイダー サーバーからソフトウェアを展開するフロー。これは、カスタムアクティビティで作成したフローで、サービスカタログから要求されたアプリケーションをどこに展開するのかプロバイダーに指示します。
取り消し拡張キー	CSD に付属する **SetRevocationData** キー。このキーは、インストールの取り消し用にデータを設定します。
取り消しフロー	プロバイダーサーバーからインストールを取り消すフロー。これは、カスタムアクティビティで作成したフローで、デバイスから削除するアプリケーションをプロバイダーに指示します。
フローを使用	クライアントソフトウェアディストリビューションで 統合ハブ ワークフローを使用するオプション。このオプションが選択されていない場合、オーケストレーション ワークフローがク

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	ライアントソフトウェアディストリビューションに使用されます。 注:

クライアントソフトウェアディストリビューション拡張キー

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) 拡張キーを使用すると、ディストリビューション プロバイダーからのソフトウェアの展開と取り消しをカスタマイズできます。

これらの事前定義済みキーを使用すると、外部ディストリビューション プロバイダーからソフトウェアを展開および取り消すワークフローの入力変数を生成できます。

- **SetDeploymentData**：ソフトウェア注文情報を設定し、展開ワークフローの入力変数を生成します。
- **SetRevocationData**：取り消しワークフローの入力変数を生成します。
- **CheckRevocable**：インストールを取り消すことができるかどうかを決定する条件を指定します。インストール済みソフトウェアに関連付けられているソフトウェア構成でアンインストールが許可されている場合は、インストール済みソフトウェアを取り消すことができます。

クライアントソフトウェアディストリビューション拡張ポイント

クライアントソフトウェアディストリビューション (CSD) 拡張ポイントは、特定のプロバイダーと拡張キーのカスタマイズ コードを作成します。

拡張ポイントの目的は、拡張キーを特定のプロバイダーに関連付け、カスタム展開および取り消しワークフローの入力変数を設定するスクリプトを作成することです。別の拡張ポイント スクリプトは、プロバイダーにソフトウェアを取り消す能力があるかどうかを CSD に通知します。ある場合、CSD はプロバイダーからの取り消しをトリガーする UI アクションを有効にします。

SetDeploymentData

この拡張キーに関連付けられたスクリプトは、次の属性を持つ *csdExtensionResult* オブジェクトを設定する必要があります。

- *deploymentWorkflowInputs*：展開ワークフローの入力変数を指定するオブジェクト。
- *softwareModel*：ソフトウェアモデルの sys_id。
- *deploymentType*：整数。ユーザーへの展開の場合は **1**、デバイスへの展開の場合は **2** を使用します。
- *softwareApplication*：ソフトウェアアプリケーションの sys_id。

CheckRevocable

この拡張キーに関連付けられたスクリプトは、入力パラメーター *csdExtensionInputs.softwareConfiguration* を取得します。これは、ソフトウェア構成 [sn_client_sf_dist_software_config] テーブルのクライアントソフトウェアディストリビューション レコードです。すべてのプロバイダーのソフトウェア構成はこのテーブルから拡張されますが、属性が異なる場合があります。

このスクリプトは、ソフトウェア構成がアンインストールを指定するかどうかに応じて *csdExtensionResult*オブジェクトを **true** または **false** に設定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SetRevocationData

この拡張キーに関連付けられたスクリプトは、入力パラメーター *csdExtensionInputs.softwareConfiguration* を取得します。これは、ソフトウェア構成 [sn_client_sf_dist_software_config] テーブルのクライアントソフトウェアディストリビューション レコードです。すべてのプロバイダーのソフトウェア構成はこのテーブルから拡張されますが、属性が異なる場合があります。

スクリプトは、次の属性を持つ *csdExtensionResult* オブジェクトを設定する必要があります。

- *revocationWorkflowInput*：取り消しワークフローの入力変数を指定するオブジェクト。
- *softwareModel*：ソフトウェアモデルの sys_id。
- *deploymentType*：整数。ユーザーへの展開の場合は **1**、デバイスへの展開の場合は **2** を使用します。

関連情報

拡張ポイントを使用してアプリケーション機能を拡張する

サーバー側スクリプトでのスクリプト拡張ポイントの使用

サーバー側 UI マクロの UI 拡張ポイントの使用

クライアント側 UI スクリプティングのクライアント拡張ポイントの使用

オーケストレーションの例

これらの例では、オーケストレーションを使用して一般的なタスクを自動化する方法を示します。

Active Directory の自動化の例

一連のオーケストレーション Active Directory アクティビティ 6 つを使用すると、監査可能な自己文書化ワークフローを使用してオンボード/オフボードプロセスを自動化できるため、時間を節約したり誤りを排除したりすることができます。

Active Directory アクティビティパック のアクティビティは、ユーザーアカウントを管理したり、ユーザーのパスワードをリセットしたりするように設計されています。以下のアクティビティは、Active Directory ユーザーアカウントを管理する際にアドミニストレーターが遭遇する最も一般的な使用例をカバーしています。

- AD ユーザーアカウントの作成
- AD ユーザーアカウントを更新
- AD ユーザーアカウントを削除
- AD ユーザーアカウントの無効化
- クエリー AD
- AD ユーザーパスワードをリセット。

これらのアクティビティは共通の設計を共有し、相補的な機能を持ち、共通のパラメーター セットを共有します。これらは、単独で使用することも、ユーザーアカウントのプロビジョニングとプロビジョニング解除のための一貫したワークフローを作成するために一緒に使用することもできます。

オーケストレーションによる **Active Directory** の更新

組織は、ServiceNow インスタンスをユーザーアカウントデータ用の単一の SoR とし、Active Directory を最新の変更で更新しようとしています。

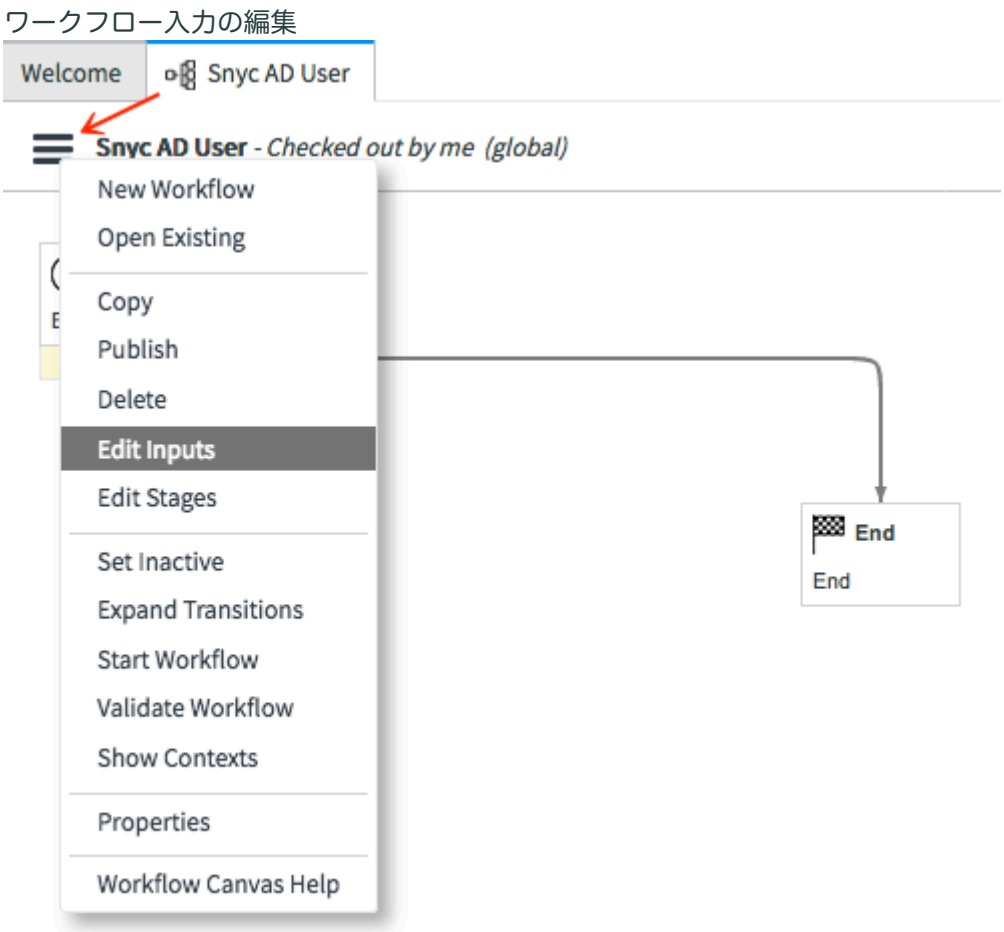
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
解決策は、ServiceNow ユーザー レコードを Active Directory にプッシュして新しいユーザー レコードを作成したり既存のレコードを更新したりするオーケストレーション ワークフローを作成することです。これは、ServiceNow ユーザー [sys_user] テーブル内のデータに基づいて Active Directory 内のレコードを作成および更新できるオーケストレーション ワークフローを作成することによって達成されます。

注: このワークフローの例では、ServiceNow が LDAP 用に構成されており、新しいユーザーアカウントを受け入れるように LDAP サーバーが構成されていることを前提としています。Active Directory ユーザー管理アクティビティは LDAP に依存しませんが、LDAP が存在するとこのワークフロー例がはるかに簡単になります。ドメインコントローラーの IP アドレスは、ハードコーディングするか、別のワークフロー入力を追加するか、またはスクリプトを使用して CMDB から検索することによって、ワークフローに提供する必要があります。

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. [ワークフロー] タブで、**[+]** アイコンをクリックして、次の変数を使用した新しいワークフローを作成します。
   - 名前：同期 AD ユーザー
   - テーブル：グローバル [global]
3. [送信] をクリックします。
   開始ポイントと終了ポイントを持つ基本的なワークフローがキャンバスに表示されます。
4. キャンバスの左上隅にあるメニュー アイコンをクリックし、コンテキストメニューから [入力の編集] を選択します。



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. [ワークフロー入力] フォームで、[変数] レコード リストの [新規] をクリックし、テーブルのフィールドを使用して新しい変数を作成します。

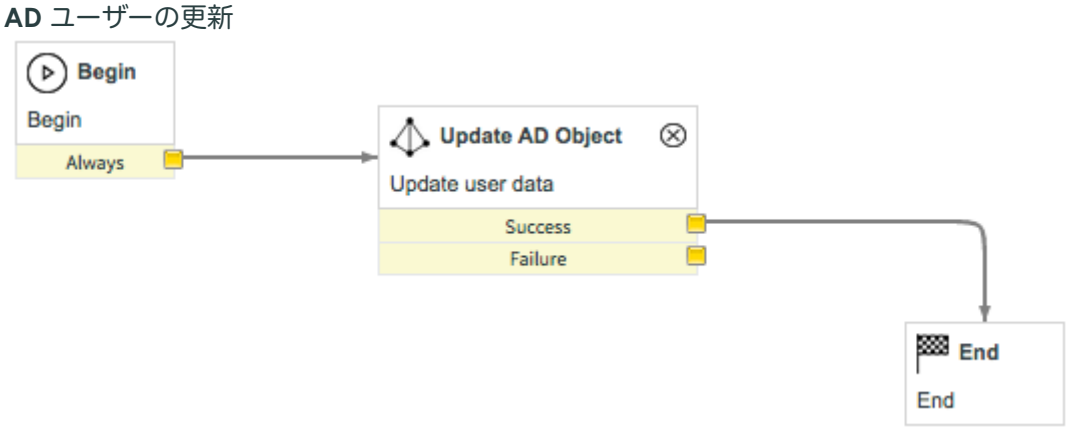
フィールド	値
タイプ	参照
ラベル	ユーザー
列名	u_user
[参照仕様] > [参照]	ユーザー (sys_user)

6. [送信] をクリックします。
7. [カスタム] タブで、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]**を展開します。
8. 新しいワークフローの開始ポイントと終了ポイントの間の移行線上に [AD オブジェクトを更新] アクティビティをドラッグ & ドロップします。
アクティビティが自動的に終了ポイントにリンクされ、[ワークフロー アクティビティ] プロパティ フォームが開きます。
9. テーブル内のフィールド使用して、フォームに値を入力します。

フィールド	値
名前	論理的な名前を入力します (「ユーザー データの更新」など)。
ドメイン コントローラ	ServiceNow LDAP 統合により、ユーザーのアカウントがリンクされている LDAP サーバーへの参照が追加されます。LDAP サーバーを識別するには、次のステートメントを入力します。 `${workflow.inputs.u_user.ldap_server.server_url}`
タイプ	AD オブジェクトのタイプ。この例では、タイプは [ユーザー] であり、デフォルトです。
オブジェクト名	この例では、ServiceNow ユーザー名は Active Directory の sAMAccountName と一致することを前提としています。次のように入力します。 `${workflow.inputs.u_user.user_name}`
オブジェクト データ	ユーザーが存在する場合、Active Directory でユーザーのアカウントを更新します。この例では、ユーザーのタイトルが更新されます。 `{"title" : "QA"}`

10. [送信] をクリックします。
ワークフローは次のようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



11. アクティビティの結果の両方 ([成功] と [失敗]) を終了ポイントに接続します。
この時点で、ワークフローは ServiceNow ユーザー レコードを入力として使用し、対応する Active Directory アカウントの名、姓、およびタイトルを更新します。アカウントが Active Directory に存在しない場合、ワークフローは失敗します。

   注: 通常のワークフローでは、失敗時にある種の代替アクションがあることが求められます。たとえば、ワークフローがレコードの更新に失敗した場合はメールと SMS 通知 を送信します。

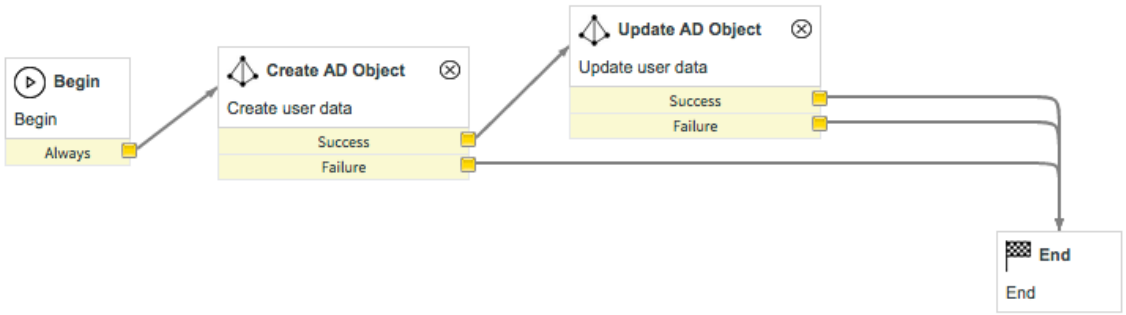
12. ワークフローが失敗しないようにするには、[開始] アクティビティと [AD オブジェクトを更新] アクティビティの間の移行線に [AD オブジェクトを作成] アクティビティを追加します。
13. テーブル内のフィールドを使用して、[ワークフロー アクティビティ] プロパティ フォームに入力します。

フィールド	値
名前	論理的な名前を入力します (「ユーザー データの作成」など)。
ドメインコントローラ	更新アクティビティと同じです。`${workflow.inputs.u_user.ldap_server.server_url}`
OU	このオブジェクトが属する組織単位。この例では、次のように入力できます。**OU=HQ,OU=Managed Objects**
オブジェクト名	更新アクティビティと同じです。`${workflow.inputs.u_user.user_name}`
オブジェクトデータ	ユーザー名のみでアカウントを作成します。この例では、次のように入力できます。`{"givenName" : "${workflow.inputs.u_user.first_name}", "SN" : "${workflow.inputs.u_user.last_name}" }`

14. [送信] をクリックします。
15. [AD オブジェクトを作成] アクティビティの失敗結果を [終了] に接続します。
この例では、エラーを無視しています。ワークフローは次のようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AD ユーザーの作成



この手順では、ユーザー名のみで構成されるベアボーン Active Directory アカウントを作成するシンプルなワークフローを作成します。その後、ServiceNow ユーザー [sys_user] テーブルで提供される追加情報を使用して、そのアカウントを更新します。ただし、ユーザーアカウントがすでに存在する場合は、[AD オブジェクトを作成] アクティビティを実行しません。ワークフローでは、一致するユーザー レコードを Active Directory にクエリーし、クエリーの結果に基づいてワークフローを分岐する必要があります。アカウントがすでに存在する場合、ワークフローはアカウントを更新する必要があります。アカウントが存在しない場合、ワークフローは Active Directory にアカウントを作成する必要があります。

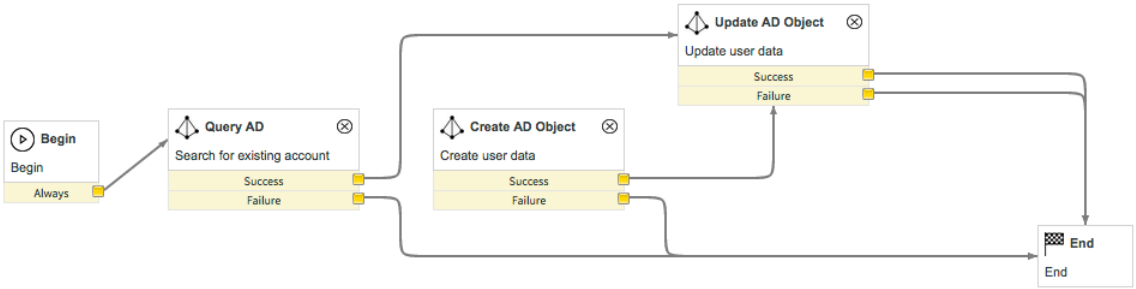
16. [クエリー AD] アクティビティを [開始] と [AD オブジェクトを作成] の間の移行にドラッグ & ドロップします。
17. テーブル内のフィールドを使用して、[ワークフロー アクティビティ] プロパティ フォームに入力します。

フィールド	定義
名前	論理的な名前を入力します (「既存のアカウントを検索」など)。
ドメインコントローラ	`${workflow.inputs.u_user.ldap_server.server_url}`
プロパティ	返す Active Directory プロパティのカンマ区切りリスト。たとえば、givenName、SN、title などです。パラメーター フィールドが空白の場合は、すべてのプロパティが返されます。このワークフローでは、フィールドを空白のままにします。
検索フィルター	検索パラメーターを定義する LDAP フィルター文字列。有効な LDAP フィルタリング条件を使用します。入力レコードと一致するユーザーアカウントを検索するには、次のようになります。 `(samaccountname=${workflow.inputs.u_user.user_name})`

18. [送信] をクリックします。
19. クエリー アクティビティの失敗結果を終了ポイントに接続します。
このワークフローではエラーを無視しています。
20. クエリー アクティビティの成功結果を [AD オブジェクトを更新] アクティビティに接続します。
ワークフローは次のようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

AD に対するユーザーアカウントのクエリー



[クエリー AD] アクティビティは、その結果をワークフロー データバス内の JSON 文字列として返します。この JSON 文字列は、常にオブジェクトの配列です。各オブジェクトは、クエリーと一致した Active Directory エントリーに対応します。そのアレイが空であるかどうかにかかわらず、ワークフローは分岐する必要があります。

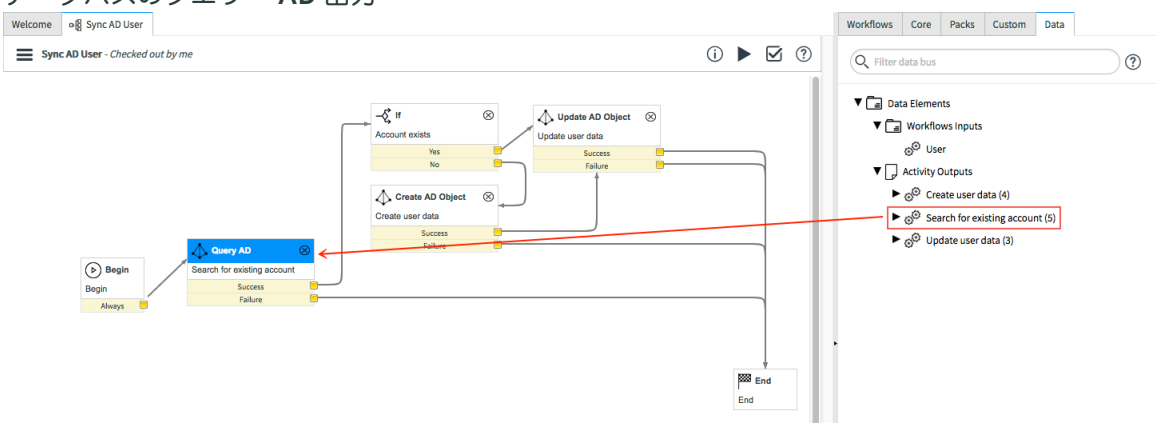
21. [コア] タブの [条件] フォルダーから標準の *[If]* アクティビティをドラッグし、[クエリー AD] と [AD オブジェクトを更新] の間の移行にドロップします。
22. テーブル内のフィールドを使用して、[ワークフロー アクティビティ] プロパティ フォームに入力します。

フィールド	値
名前	論理的な名前を入力します (「アカウントの存在」など)。
詳細	このチェック ボックスをオンにすると、[スクリプト] フィールドが開きます。

スクリプト	[If] アクティビティが正しく機能するためには、answer 変数 (var) で **yes** または **no** が返される必要があります。これは、クエリー アクティビティの Yes と No の結果に対応します。行 1 は、[クエリー AD] の結果を JSON 文字列から Javascript 配列 queryResults に変換します。行 2 は、その配列の長さをチェックします。配列が 0 より大きい場合、アカウントとの一致が見つかり、answer を yes に設定します。それ以外の場合、answer は no です。
	
	`var queryResults=new JSON().decode(data.get(5).output);`
	
	`answer = ( queryResults.length>0 ? 'yes' : 'no' );`

注: このスクリプトの式 `data.get(5)` は、ワークフローに追加された 5 番目のアクティビティであるため、順序番号別にデータバスのクエリー AD 出力を特定します。

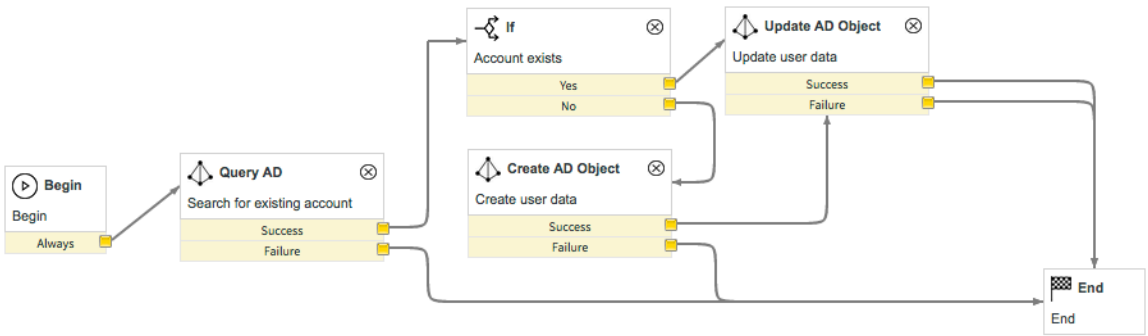
データバスのクエリー **AD** 出力



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

23. [送信] をクリックします。
24. キャンバスで、[If] アクティビティの [Yes] 成果から [AD オブジェクトを更新] アクティビティへの移行を作成します。
25. [If] アクティビティの [No] 成果から [AD オブジェクトを作成] アクティビティへの移行を作成します。
    これは最後の手順です。このワークフローは、アカウントが既に存在するかどうかを判断するために Active Directory にクエリーします。アカウントが存在する場合、ワークフローはそのアカウントを更新します。アカウントが存在しない場合、ワークフローはアカウントを作成し、Active Directory を設定済みユーザー データ セットで更新します。

条件付きパスの作成



オーケストレーションアクティビティパック

オーケストレーションの基本システムには、ネットワーク内の典型的な IT プロセスおよびビジネスプロセスの自動化に使用できるカスタムアクティビティのパックが含まれています。

アクティビティパックを使用すると、Active Directory アカウントや Exchange サーバーメールボックスの管理など、いくつかの一般的なビジネスプロセスを自動化できます。また、アクティビティパックは、Windows サーバーの開始と停止、ドメインへの参加、IP アドレスの割り当て、ロードバランサーの設定などの IT 機能を自動化することもできます。

アクティビティパックの使用

ワークフローエディターの [パック] タブには、ServiceNow ストアからダウンロードしたアクティビティパックおよび作成したアクティビティパックが含まれています。

始める前に

必須ロール：admin、activity_admin、activity_creator

このタスクについて

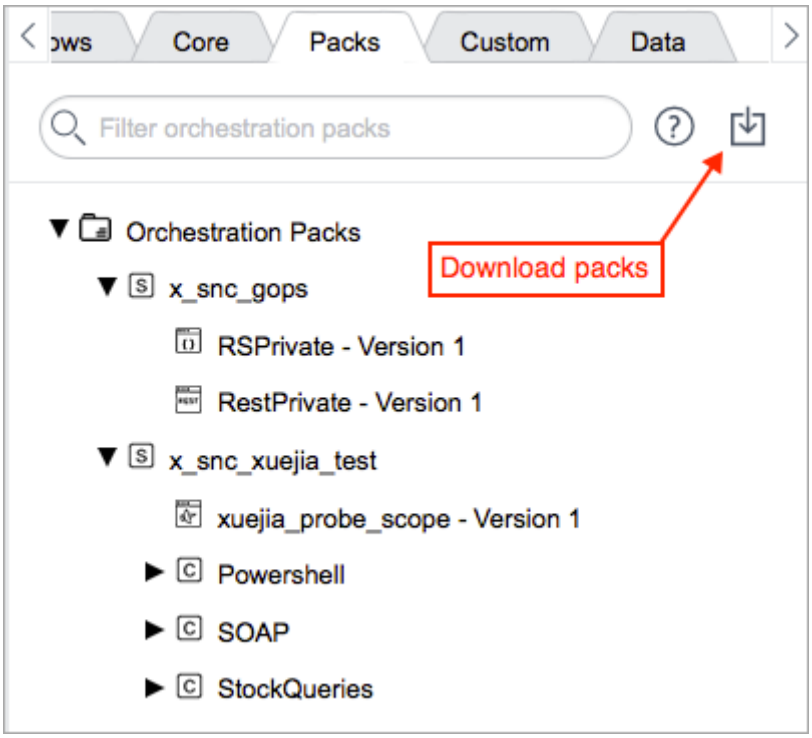
カスタムアクティビティをパックに整理し、ServiceNow ストアにアップロードできます。パック内の 1 つ以上のアクティビティがパブリッシュされるまで、カスタムパックはツリーに表示されません。既存のパックに追加されたアクティビティは、パブリッシュされるまで表示されません。アプリケーションスコープ のアクティビティパックは、インスタンスの現在のスコープ設定に関係なく [パック] タブに表示されます。

手順

1. ワークフローエディタパレットで [パック] タブを選択します。
2. ダウンロードアイコンをクリックします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

タブ内の階層では、ベンダー、スコープ、カテゴリ、アクティビティ別にパックが整理されます。



Active Directory アクティビティパック

Active Directory (AD) アクティビティパックを使用すると、アドミニストレーターは、ServiceNow オーケストレーションワークフローを使用して、Windows Active Directory 内のオブジェクト (ユーザー、グループ、コンピューターなど) を作成、削除、および管理できます。

このパックのアクティビティは、オーケストレーションワークフローによって作成されたかどうかに関係なく、ユーザー要求のパスワードを自動的にリセットしたり、Active Directory 内のユーザーアカウントを管理したりできます。

ドメインコントローラーはホストマシンの IP アドレス別に識別されます。ドメインコントローラーのホスト名を使用するには、ホスト名を IP に解決する [DNS 名の解決] アクティビティを追加し、その IP を Active Directory アクティビティに渡します。

インスタンスは、次のアクティビティを実行するために PowerShell を使用するように設定された MID サーバーにアクセスできる必要があります。

注: すべての Active Directory アクティビティは、Active Directory から返されるエラーメッセージを通過します。こうしたエラーメッセージを表示するには、ワークフローキャンバスで失敗したアクティビティをポイントするか、ワークフローコンテキスト レコードの [ワークフローログ] タブを選択します。

カスタム Active Directory アクティビティ

オーケストレーションは、PowerShell アクティビティを作成する リリース以降、オーケストレーションGenevaで作成されたカスタム Active Directory アクティビティを提供します。これらのアクティビティは、以前のリリースと同じ名前で AD アクティビティと同じ機能を実行し、すべての新しいワークフローのこれらのアクティビティを置き換えます。従来の AD アクティビティで作成された以前のバージョンの既存のワークフローは、Istanbul にアップグレードすると正常に動作し続けます。ただし、すべての新しいワークフローでこれらのカスタム AD アクティビティを使用する必要があります。Powershell アクティビティテンプレートでは、ワークフローアドミニストレーターは、データバスにクエリー AD アクティビティの入出力変数を保存できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: Active Directory カスタムアクティビティを使用するには、オーケストレーション - Active Directory プラグインのアクティブ化を要求する必要があります。

LDAP を使用した Active Directory 認証情報

MID サーバーで LDAP サーバーを使用している場合、オーケストレーションおよび Active Directory アクティビティは LDAP サーバーに設定されているユーザー名とパスワードを使用しません。Windows タイプのオーケストレーション認証情報レコード Windows 資格情報 を作成する必要があります。認証情報レコードのユーザー名およびパスワードは、オーケストレーションとワークフローアクティビティが実行する LDAP クエリーに使用されます。

AD オーケストレーションアクティビティで使用される接続ポート

すべての Active Directory アクティビティは LDAP アクセスにポート 389 を使用します。Oracle Virtual Directory (OVD) の AD アクティビティをプロキシとして使用している場合は、ポート 389 のみでパススルーを設定します。

グループ AD アクティビティへのユーザーの追加

[グループにユーザーを追加] アクティビティでは、Windows Active Directory のグループにユーザーを追加します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

入力変数

[グループにユーザーを追加] 入力変数

変数	説明
DomainController	ドメインコントローラーマシンの IP アドレス。
UserName	グループに追加するユーザーの名前。
GroupName	このユーザーが追加されるグループの名前。

出力変数

[グループにユーザーを追加] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。

条件

[グループにユーザーを追加] 条件

条件	説明
成功	ユーザーはグループに正常に追加されました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[グループにユーザーを追加] 条件 (続く)

条件	説明
失敗	ユーザーをグループに追加しようとしているときにエラーが発生しました。詳細がワークフローログに記録されている場合があります。

[AD ユーザーパスワードを変更] アクティビティ

[AD ユーザーパスワードを変更] アクティビティは Active Directory ユーザーアカウントのパスワードを変更します。

このアクティビティでは、**[AD ユーザーパスワードをリセット]** アクティビティと異なり、ユーザーの現在のパスワードを実行する必要があります。新しいパスワードが、長さや文字の組み合わせなどの Active Directory パスワード要件に違反した場合、アクティビティは失敗し、適切なエラーメッセージが返されます。このエラーメッセージは、ユーザーがワークフローエディターでアクティビティをポイントすると、ECC キューおよびヒントテキストに表示されます。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

注: このアクティビティによって、以前のリリースで使用可能な同じ名前の AD アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用するワークフローがある場合、このワークフローは、Instanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、PowerShell アクティビティデザイナーでビルドされたこのアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。

入力変数

[AD ユーザーパスワードを変更] 入力変数

変数	説明
DomainController	ドメインコントローラーマシンの IP アドレス。
ユーザー	Active Directory ユーザーアカウントの sAMAccountName。
New_password	このユーザーを割り当てる新しいパスワード。
Old_password	ユーザーの現在のパスワード。

出力変数

[AD ユーザーパスワードを変更] 出力変数

変数	説明
result	次の成果のいずれか。 • 失敗 • 成功 • 方針の障害 • 間違った古いパスワード
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[AD ユーザーパスワードを変更] 出力変数 (続く)

変数	説明
hresult	Powershell コマンドの結果。

条件

このアクティビティには次の条件があります。

[AD ユーザーパスワードを変更] 条件

条件	説明
成功	パスワードのリセットに成功しました。
方針の障害	パスワードが組織の Active Directory 要件に準拠していません。
間違った古いパスワード	変更中のパスワードが正しく入力されていません。
失敗	パスワードの変更中にエラーが発生しました。詳細がワークフローログに記録されている場合があります。

LDAP を使用した Active Directory 認証情報

MID サーバーで LDAP サーバーを使用している場合、オーケストレーションおよび Active Directory アクティビティは LDAP サーバーに設定されているユーザー名とパスワードを使用しません。Windows タイプのオーケストレーション認証情報レコード Windows 資格情報を作成する必要があります。認証情報レコードのユーザー名およびパスワードは、オーケストレーションとワークフローアクティビティが実行する LDAP クエリーに使用されます。

[AD オブジェクトを作成] アクティビティ

[AD オブジェクトを作成] アクティビティは Windows Active Directory 内にオブジェクトを作成します。

このアクティビティは、一致する入力変数を持つ既存のオブジェクトが見つかると失敗します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

> **注:** このアクティビティによって、以前のリリースで使用可能な同じ名前の AD アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用するワークフローがある場合、このワークフローは、Instanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、PowerShell アクティビティデザイナーでビルドされたこのアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。

入力変数

[AD オブジェクトを作成] 入力変数

変数	説明
DomainController	ドメインコントローラーマシンの IP アドレス。
タイプ	作成するオブジェクトタイプ：ユーザー、グループ、またはコンピューター。
OU	このオブジェクトが属する組織単位。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[AD オブジェクトを作成] 入力変数 (続く)

変数	説明
ObjectName	Active Directory オブジェクトの sAMAccountName。また、オブジェクト名は Active Directory の名前属性にも使用されます。この動作は **ActiveDirectory.psm1** で使用可能です。どのようなものが渡されたとしても、オブジェクト名は **samAccountName** と Active Directory の新しいユーザーの名前の両方になります。
ObjectData	Active Directory プロパティ名とそれに対応する値を含む JSON オブジェクト。たとえば、 `{ "givenName" : "John", "SN" : "Doe", "title" : "Sr. Account Specialist", "allowLogin" : true }` この例では、Active Directory ユーザーアカウントの名 (givenName)、姓 (SN)、およびタイトルを設定し、そのユーザーがログインできるようにします (allowLogin)。このフィールドでは、${} 変数代替構文を使用して式を評価できます。

出力変数

[AD オブジェクトを作成] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。

条件

[AD オブジェクトを作成] 条件

条件	説明
成功	Windows Active Directory オブジェクトが正常に作成されました。
失敗	AD オブジェクトの作成中にエラーが発生しました。詳細がワークフローログに記録されている場合があります。

[AD ユーザーアカウントの無効化] アクティビティ

[AD ユーザーアカウントの無効化] アクティビティは、Windows Active Directory ユーザーアカウントを無効にして非アクティブ化します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: このアクティビティによって、以前のリリースで使用可能な同じ名前の AD アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用するワークフローがある場合、このワークフローは、Instanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、PowerShell アクティビティデザイナーでビルドされたこのアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。

入力変数

[AD ユーザーアカウントの無効化] 入力変数

変数	説明
DomainController	ドメインコントローラーマシンの IP アドレス。
ユーザー	Active Directory ユーザーアカウントの sAMAccountName。

出力変数

[AD ユーザーアカウントの無効化] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。

条件

[AD ユーザーアカウントの無効化] 条件

条件	説明
成功	AD ユーザーアカウントが正常に無効になりました。
失敗	アカウントの無効化中にエラーが発生しました。詳細がワークフローログに記録されている場合があります。

[AD ユーザーアカウントの有効化] アクティビティ

[AD ユーザーアカウントの有効化] アクティビティは、Windows Active Directory ユーザーアカウントを有効にしてアクティブ化します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

注: このアクティビティによって、以前のリリースで使用可能な同じ名前の AD アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用するワークフローがある場合、このワークフローは、Instanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、PowerShell アクティビティデザイナーでビルドされたこのアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[AD ユーザーアカウントの有効化] 入力変数

変数	説明
ユーザー	Active Directory ユーザーアカウントの sAMAccountName。
DomainController	ドメインコントローラーマシンの IP アドレス。

出力変数

[AD ユーザーアカウントの有効化] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。

条件

[AD ユーザーアカウントの有効化] 条件

条件	説明
成功	AD ユーザーアカウントが正常に有効になりました。
失敗	AD ユーザーアカウントの有効化中にエラーが発生しました。詳細がワークフローログに記録されている場合があります。

アカウントのロックの有無に関するアクティビティ

アカウントのロックの有無に関するアクティビティは、Active Directory ユーザーアカウントがロックされているかどうかを判断します。

ユーザーが誤ったパスワードを Active Directory セキュリティポリシーで許可されている回数以上入力すると、アカウントが自動的にロックされることがあります。アカウントのロックを解除するには、[AD ユーザーアカウントのロック解除] アクティビティを使用します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

注: このアクティビティによって、以前のリリースで使用可能な同じ名前の AD アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用するワークフローがある場合、このワークフローは、Instanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、PowerShell アクティビティデザイナーでビルドされたこのアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

アカウントのロックの有無に関する入力変数

変数	説明
DomainController	ドメインコントローラーマシンの IP アドレス。
ユーザー	Active Directory ユーザーアカウントの sAMAccountName。

出力変数

アカウントのロックの有無に関する出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。
output	クエリー結果。

条件

アカウントのロックの有無に関する条件

条件	説明
ロック中	AD アカウントがロックされています。
ロック解除済み	AD アカウントはロック解除されています。
失敗	クエリーの処理中にエラーが発生しました。詳細がワークフローログに記録されている場合があります。

[クエリー **AD**] アクティビティ

[クエリー AD] アクティビティは、LDAP 検索フィルターに基づいて Windows Active Directory からエントリーを取得し、この結果をデータバスで使用できる JSON 文字列として保存します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** > に移動します。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の AD アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用するワークフローがある場合、このワークフローは、Instanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能し、クエリー結果をスクラッチパッドに保存し続けます。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティを作成するで作成されており、スクラッチパッドの代わりに入力変数と出力変数をデータバスに保存します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[クエリー **AD**] 入力変数

変数	説明
DomainController	ドメインコントローラーマシンの IP アドレス。
プロパティ	返す Active Directory プロパティのカンマ区切りリスト。*givenName,SN,title* など。このフィールドが空白の場合は、すべてのプロパティが返されます。
SearchFilter	検索パラメーターを定義する LDAP フィルター文字列。有効な LDAP フィルタリング条件を使用します。たとえば、ServiceNow 入力レコードと一致するユーザーアカウントを検索するには、次のようになります。 `(samaccountname=${workflow.inputs.u_user.user_name})`

出力変数

[クエリー **AD**] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。
output	クエリー結果。

条件

[クエリー **AD**] 条件

条件	説明
成功	クエリーが予定どおりに完了しました。
失敗	クエリーの処理中にエラーが発生しました。詳細がワークフローログに記録されている場合があります。

[AD オブジェクトを削除] アクティビティ

[AD オブジェクトを削除] アクティビティは Windows Active Directory からオブジェクトを削除します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

注: このアクティビティによって、以前のリリースで使用可能な同じ名前の AD アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用するワークフローがある場合、このワークフローは、Instanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、PowerShell アクティビティデザイナーでビルドされたこのアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[AD オブジェクトを削除] 入力変数

変数	説明
DomainController	ドメインコントローラーマシンの IP アドレス。
ObjectName	Active Directory オブジェクトの sAMAccountName。
タイプ	削除するオブジェクトタイプ： • **user** • グループ • コンピューター

出力変数

[AD オブジェクトを削除] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。

条件

[AD オブジェクトを削除] 条件

条件	説明
成功	ADオブジェクトは正常に削除されました。
失敗	AD オブジェクトの削除中にエラーが発生しました。詳細がワークフローログに記録されている場合があります。

[グループ **AD** からユーザーを削除] アクティビティ

[グループからユーザーを削除] アクティビティでは、Windows Active Directory のグループからユーザーを削除します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

入力変数

[グループからユーザーを削除] 入力変数

変数	説明
DomainController	ドメインコントローラーマシンの IP アドレス。
UserName	グループから削除するユーザーの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[グループからユーザーを削除] 入力変数 (続く)

変数	説明
GroupName	このユーザーを削除するグループの名前。

出力変数

[グループからユーザーを削除] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。

条件

[グループからユーザーを削除] 条件

条件	説明
成功	ユーザーがグループから正常に削除されました。
失敗	グループからのユーザーの削除中にエラーが発生しました。詳細がワークフローログに記録されている場合があります。

[AD ユーザーパスワードをリセット] アクティビティ

[AD ユーザーパスワードをリセット] アクティビティは、Windows Active Directory のユーザーアカウントのパスワードをリセットします。

新しいパスワードが、長さや文字の組み合わせなどの Active Directory パスワード要件に違反した場合、リセットアクティビティは失敗し、適切なエラーメッセージが返されます。このエラーメッセージは、ワークフローエディターでアクティビティをポイントすると ECC キューに表示されます。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

注: このアクティビティによって、以前のリリースで使用可能な同じ名前の AD アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用するワークフローがある場合、このワークフローは、Instanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、PowerShell アクティビティデザイナーでビルドされたこのアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。

入力変数

[AD ユーザーパスワードをリセット] 入力変数

変数	説明
DomainController	ドメインコントローラーマシンの IP アドレス。
ユーザー	Active Directory ユーザーアカウントの sAMAccountName。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[AD ユーザーパスワードをリセット] 入力変数 (続く)

変数	説明
パスワード	ユーザーの新しいパスワード。このパスワードは組織の Active Directory 要件に準拠する必要があります。
ForceChange	次のログイン時にユーザーにパスワードを変更させることで、一時的なパスワードにすることができます。
Unlock	アカウントがロックされている場合は、アカウントのロックを解除します。

出力変数

[AD ユーザーパスワードをリセット] 出力変数

変数	説明
result	次の成果のいずれか。 • 失敗 • 成功 • 方針の障害
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。
hresult	Powershell コマンドの結果。

条件

[AD ユーザーパスワードをリセット] 条件

条件	説明
成功	パスワードのリセットに成功しました。
方針の障害	新しいパスワードが組織の Active Directory 要件に準拠していません。
失敗	パスワードのリセット中にエラーが発生しました。詳細がワークフローログに記録されている場合があります。

[AD アカウントのロックを解除] アクティビティ

[AD アカウントのロックを解除] アクティビティは Active Directory ユーザーアカウントのロックを解除します。

アカウントがロックされているかどうかを判断するには、アカウントのロックの有無に関するアクティビティ アクティビティを使用します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: このアクティビティによって、以前のリリースで使用可能な同じ名前の AD アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用するワークフローがある場合、このワークフローは、Instanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、PowerShell アクティビティデザイナーでビルドされたこのアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。

入力変数

[AD アカウントのロックを解除] 入力変数

変数	説明
DomainController	ドメインコントローラーマシンの IP アドレス。
ユーザー	Active Directory ユーザーアカウントの sAMAccountName。

出力変数

[AD アカウントのロックを解除] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。

条件

[AD アカウントのロックを解除] 条件

条件	説明
成功	アカウントのロック解除に成功しました。
失敗	アカウントのロック解除中にエラーが発生しました。詳細がワークフローログに記録されている場合があります。

[AD オブジェクトを更新] アクティビティ

[AD オブジェクトを更新] アクティビティは Windows Active Directory 内にオブジェクトを更新します。

このアクティビティは既存の値を新しい値で置き換えるだけです。新しいグループメンバーを AD グループに追加するなど、新しい値を AD レコードに追加することはできません。複雑な AD 操作の場合は、 代わりに [PowerShell の実行] アクティビティを使用します。オブジェクト名とデータが一致する既存のアカウントが見つからない場合、アクティビティは失敗します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

注: このアクティビティによって、以前のリリースで使用可能な同じ名前の AD アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用するワークフローがある場合、このワークフローは、Instanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、PowerShell アクティビティデザイナーでビルドされたこのアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[AD オブジェクトを更新] 入力変数

変数	説明
DomainController	ドメインコントローラーマシンの IP アドレス。
ObjectName	Active Directory オブジェクトの sAMAccountName。
ObjectData	Active Directory プロパティ名とその値を含む JSON オブジェクト。たとえば、ユーザーの名、姓、タイトルを設定し、ユーザーのマネージャーをクリアし、VIP フラグを true に設定するには、オブジェクトデータを次のように指定します。 `{ "givenName" : "John", "SN" : "Doe", "title" : "Sr. Account Specialist", "manager" : null, "msTSAllowLogon" : false }`
タイプ	更新するオブジェクトタイプ：ユーザー、グループ、またはコンピューター。

出力変数

[AD オブジェクトを更新] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。

条件

[AD オブジェクトを更新] 条件

条件	説明
成功	AD オブジェクトは正常に更新されました。
失敗	AD オブジェクトの更新中にエラーが発生しました。詳細がワークフローログに記録されている場合があります。

Azure AD アクティビティパック

Azure AD アクティビティパックでは、アドミニストレーターは Azure AD の従業員のオンボーディングとオフボーディングの機能を自動化し、Office 365 ライセンスを管理できます。

Azure AD アクティビティを使用すると、Azure Active Directory へのユーザーの追加と削除、セキュリティグループメンバーシップの管理、個々のユーザーの Office 365 ライセンスの割り当てと削除を行うことができます。

Azure AD アクティビティは、オーケストレーション REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[グループにユーザーを追加] Azure AD アクティビティ

[グループにユーザーを追加] アクティビティでは、Azure Active Directory の既存のセキュリティグループにユーザーを追加します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Azure AD]** に移動します。このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。

重要: このアクティビティに使用される REST メッセージは、OAuth 2.0 を使用するように設定する必要があります。

入力変数

[グループにユーザーを追加] 入力変数

変数	説明
user_id	追加するメンバーのオブジェクト ID (GUID)。
group_id	ターゲット グループのオブジェクト ID (GUID)。

出力変数

[グループにユーザーを追加] 出力変数

変数	説明
エラー	REST メッセージからエラー文字列を返します。エラーがない場合、この変数は null 値を返します。
本文	REST メッセージの出力を表す文字列値が含まれます。
status_code	Web サービスから返されたステータスコードが含まれます。

条件

[グループにユーザーを追加] 条件

条件	説明
成功	アクティビティがオブジェクト ID をセキュリティグループに正常に追加しました。
失敗	アクティビティがグループのメンバーシップを更新できなかったか、アクティビティが Azure AD に接続できませんでした。

[ユーザーライセンスをアサイン] Azure AD アクティビティ

[ユーザーライセンスをアサイン] アクティビティは、名前付きユーザーに追加の Office 365 ソフトウェアライセンスをアサインします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Azure AD]** に移動します。このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。

重要: このアクティビティに使用される REST メッセージは、OAuth 2.0 を使用するように設定する必要があります。

入力変数

[ユーザーライセンスをアサイン] 入力変数

変数	説明
user_id	オブジェクト ID (GUID) またはターゲットユーザーのユーザープリンシパル名。ユーザープリンシパル名の例は **someuser@a830edad9050849NDA1.onmicrosoft.com** です。
sku_id	サブスクリプション SKU ID はテナントの法人契約に関連付けられています。

出力変数

[ユーザーライセンスをアサイン] 出力変数

変数	説明
エラー	REST メッセージからエラー文字列を返します。エラーがない場合、この変数は null 値を返します。
本文	REST メッセージの出力を表す文字列値が含まれます。
status_code	Web サービスから返されたステータスコードが含まれます。

条件

[ユーザーライセンスをアサイン] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが Office 365 ライセンスをユーザーに正常にアサインしました。
失敗	アクティビティが Office 365 ライセンスをユーザーにアサインできなかったか、Azure AD に接続できませんでした。

[ユーザーの作成] Azure AD アクティビティ

[ユーザーの作成] アクティビティは Azure Active Directory テナントのユーザーを作成します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Azure AD]** に移動します。このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

重要: このアクティビティに使用される REST メッセージは、OAuth 2.0 を使用するように設定する必要があります。

入力変数

[ユーザーの作成] 入力変数

変数	説明
display_name	**jacinto.gawron** など、承認済み表示形式の Azure AD ユーザーの名前。
user_principal_name	メール形式のユーザープリンシパル名 (UPN)。たとえば、**jacinto.gawron@khitomer.com** と入力できます。
mail_nickname	ユーザーの完全なアドレスにリダイレクトするユーザーのメールエイリアス。
パスワード	ユーザーの Azure AD パスワード。このパスワードは、タイプが [パスワード **(2** ウェイ暗号化)] のワークフロー入力として渡され、Azure AD で設定されたパスワード方針と一致する必要があります。
change_password	true に設定すると、次回ログイン時にユーザーのパスワードの変更を要求するコントロール。
account_enabled	true に設定すると、ユーザーのアカウントが有効になるように設定するコントロール。
given_name	ユーザーの名前 (名)。
surname	ユーザーの名前 (姓)。
other_mails	ユーザーの追加メールアドレスのリスト。たとえば、`["jac@home.com", "jgawron@fabrikam.com"]` と入力できます。
country	ユーザーが所在する国または地域。たとえば、**US** または **UK** と入力できます。デフォルト値は **US** に設定されています。
city	ユーザーが所在する市。
department	ユーザーが作業する部門の名前。
mobile	ユーザーの第一携帯電話番号。
job_title	ユーザーの役職。
physical_delivery_office_name	ユーザーの事業所のオフィスの場所。
postal_code	ユーザーの住所の郵便番号。
preferred_language	ユーザーが希望する通信言語。この値は ISO 639-1 コードに順守する必要があります。たとえば、**en-US** と入力できます。デフォルト値は **en-US** に設定されています。
状況	ユーザーの住所の州または地方。
street_address	ユーザーの事業所の住所。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ユーザーの作成] 入力変数 (続く)

変数	説明
telephone_number	ユーザーの事業所の第一電話番号。
usage_location	Office 365 ライセンスがアサインされているユーザーに必要な 2 文字の国コード。デフォルト値は **US** です。

出力変数

[ユーザーの作成] 出力変数

変数	説明
エラー	REST メッセージからエラー文字列を返します。エラーがない場合、この変数は null 値を返します。
status_code	Web サービスから返されたステータスコードが含まれます。
user_exists	出力変数が `User already exists` エラーを含む JSON メッセージにマップされました。
user_info	*`user_info`* アレイには、入力として他のアクティビティで活用できる属性が含まれます。たとえば、ユーザー *`objectid`* 出力 (GUID) を [グループにユーザーを追加] アクティビティに *`user_id`* 入力として渡すことができます。 • *`objectid`*: ユーザーの Azure AD 識別子。 • *`accountEnabled`*: ユーザーのアカウントがアクティブと非アクティブのどちらであるかを示すブーリアン変数 • *`displayName`*: **jacinto.gawron** などのユーザーの表示名。 • *`userPrincipalName`*: **jacinto.gawron@wammo.com** など、メール形式のユーザー名。 • *`mailNickname`*: ユーザーのメールエイリアス。

条件

[ユーザーの作成] 条件

条件	説明
ユーザーを作成しました	アクティビティがユーザーを正常に作成しました。
ユーザーが既に存在しています	ユーザーがテナントドメインに既に存在しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ユーザーの作成] 条件 (続く)

条件	説明
失敗	アクティビティが Azure AD に接続できなかったか、入力値が無効でした。

[ユーザーを削除] **Azure AD** アクティビティ

[ユーザーを削除] アクティビティは、Azure Active Directory テナントから名前付きのユーザーアカウントを削除します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Azure AD]** に移動します。このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。

重要: このアクティビティに使用される REST メッセージは、OAuth 2.0 を使用するように設定する必要があります。

入力変数

[ユーザーを削除] 入力変数

変数	説明
user_id	オブジェクト ID (GUID) またはターゲットユーザーのユーザープリンシパル名。ユーザープリンシパル名の例は **someuser@a830edad9050849NDA1.onmicrosoft.com** です。

出力変数

[ユーザーを削除] 出力変数

変数	説明
エラー	REST メッセージからエラー文字列を返します。エラーがない場合、この変数は null 値を返します。
本文	REST メッセージの出力を表す文字列値が含まれます。
status_code	Web サービスから返されたステータスコードが含まれます。

条件

[ユーザーを削除] 条件

条件	説明
ユーザーを削除しました	アクティビティが指定したユーザーを削除しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ユーザーを削除] 条件 (続く)

条件	説明
ユーザーは存在しません	指定したユーザーがテナントドメインにアカウントを持っていません。
失敗	アクティビティが Azure AD に接続できませんでした。

[ユーザー情報を取得] **Azure AD** アクティビティ

[ユーザー情報を取得] アクティビティは、Azure Active Directory から名前付きユーザーの情報を返します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Azure AD]** に移動します。このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。

重要: このアクティビティに使用される REST メッセージは、OAuth 2.0 を使用するように設定する必要があります。

入力変数

[ユーザーの存在を確認] 入力変数

変数	説明
user_id	オブジェクト ID (GUID) またはターゲットユーザーのユーザープリンシパル名。ユーザープリンシパル名の例は **someuser@a830edad9050849NDA1.onmicrosoft.com** です **注:** このアクティビティのバージョン 2 では、入力妥当性確認が行われます。空の場合、次のメッセージが表示されます。「Mandatory input 'user_id' is empty」 。

出力変数

[ユーザーの存在を確認] 出力変数

変数	説明
エラー	REST メッセージからエラー文字列を返します。エラーがない場合、この変数は null 値を返します。
本文	REST メッセージの出力を表す文字列値が含まれます。
status_code	Web サービスから返されたステータスコードが含まれます。
user_info	*user_info* アレイには、入力として他のアクティビティで活用できる属性が含まれます。た

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ユーザーの存在を確認] 出力変数 (続く)

変数	説明
	とえば、ユーザー *objectid* 出力 (GUID) を [グループにユーザーを追加] アクティビティに *user_id* 入力として渡すことができます。 • *objectid*：ユーザーの Azure AD 識別子。 • *accountEnabled*：ユーザーのアカウントがアクティブと非アクティブのどちらであるかを示すブーリアン変数 • *displayName*：**jacinto.gawron** などのユーザーの表示名。 • *userPrincipalName*：**jacinto.gawron@wammo.com** など、メール形式のユーザー名。 • *mailNickname*：ユーザーのメールエイリアス。

条件

[ユーザーの存在を確認] 条件

条件	説明
ユーザーが存在します	アクティビティが名前付きユーザーを検出しました。
ユーザーは存在しません	アクティビティが顧客テナントドメインで名前付きユーザーを見つけることができませんでした。
失敗	アクティビティが Azure AD に接続できませんでした。

[グループ **AD** からユーザーを削除] **Azure AD** アクティビティ

[グループからユーザーを削除] アクティビティでは、Azure Active Directory のセキュリティグループから既存のユーザーを削除します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Azure AD]** に移動します。このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。

重要: このアクティビティに使用される REST メッセージは、OAuth 2.0 を使用するように設定する必要があります。

入力変数

[グループからユーザーを削除] 入力変数

変数	説明
user_id	削除するユーザーのオブジェクト ID (GUID)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[グループからユーザーを削除] 入力変数 (続く)

変数	説明
group_id	ターゲット グループのオブジェクト ID (GUID)。

出力変数

[グループからユーザーを削除] 出力変数

変数	説明
エラー	REST メッセージからエラー文字列を返します。エラーがない場合、この変数は null 値を返します。
本文	REST メッセージの出力を表す文字列値が含まれます。
status_code	Web サービスから返されたステータスコードが含まれます。

条件

[グループからユーザーを削除] 条件

変数	説明
成功	アクティビティがオブジェクト ID をセキュリティグループから削除しました。
失敗	アクティビティがグループのメンバーシップを更新できなかったか、アクティビティが Azure AD に接続できませんでした。

[ユーザーライセンスを削除] **Azure AD** アクティビティ

[ユーザーライセンスを削除] アクティビティは、名前付きユーザーに指定した Office 365 ソフトウェアライセンスを取り消します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Azure AD]** に移動します。このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。

重要: このアクティビティに使用される REST メッセージは、OAuth 2.0 を使用するように設定する必要があります。

入力変数

[ユーザーライセンスを削除] 入力変数

変数	説明
user_id	オブジェクト ID (GUID) またはターゲットユーザーのユーザープリンシパル名。ユーザープリンシパル名の例は

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ユーザーライセンスを削除] 入力変数 (続く)

変数	説明
	someuser@a830edad9050849NDA1.onmicrosoft.com です。
sku_id	サブスクリプション SKU ID はテナントの法人契約に関連付けられています。

出力変数

[ユーザーライセンスを削除] 出力変数

変数	説明
エラー	REST メッセージからエラー文字列を返します。エラーがない場合、この変数は null 値を返します。
本文	REST メッセージの出力を表す文字列値が含まれます。
status_code	Web サービスから返されたステータスコードが含まれます。

条件

[ユーザーライセンスを削除] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが名前付きユーザーから Office 365 ライセンスを削除しました。
失敗	アクティビティが Office 365 ライセンスをユーザーから削除できなかったか、Azure AD に接続できませんでした。

[ユーザーパスワードをリセット] **Azure AD** アクティビティ

[ユーザーパスワードをリセット] アクティビティは、名前付きユーザーの Azure Active Directory パスワードを変更します。

Azure パスワード方針では、パスワードの複雑さ、長さ、および再使用が制限されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Azure AD]** に移動します。このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。

重要: このアクティビティに使用される REST メッセージは、OAuth 2.0 を使用するように設定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[ユーザーパスワードをリセット] 入力変数

変数	説明
user_id	オブジェクト ID (GUID) またはターゲットユーザーのユーザープリンシパル名。ユーザープリンシパル名の例は **someuser@a830edad9050849NDA1.onmicrosoft.com** です。
パスワード	ユーザーの Azure AD パスワード。このパスワードは、タイプが [パスワード **(2** ウェイ暗号化)] のワークフロー入力として渡され、Azure AD で設定されたパスワード方針と一致する必要があります。
change_password	true に設定すると、次回ログイン時にユーザーのパスワードの変更を要求するコントロール。

出力変数

[ユーザーパスワードをリセット] 出力変数

変数	説明
エラー	REST メッセージからエラー文字列を返します。エラーがない場合、この変数は null 値を返します。
本文	REST メッセージの出力を表す文字列値が含まれます。
status_code	Web サービスから返されたステータスコードが含まれます。

条件

[ユーザーパスワードをリセット] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが名前付きユーザーのパスワードをリセットします。
失敗	アクティビティが名前付きユーザーのパスワードをリセットできなかったか、Azure AD に接続できませんでした。

Exchange アクティビティパック

Exchange アクティビティパックを使用すると、ワークフローで Microsoft Exchange メールシステムを管理できます。

オーケストレーション Exchange アクティビティを使用するには、次のものが必要です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- Microsoft Exchange 2010、2013、または 2016。
- Powershell 2.0 を実行するように設定された MID サーバー
- インスタンスと同じ Active Directory ドメイン内のターゲット Exchange サーバー。
- Exchange サーバーで有効化された Powershell リモート機能。

注: このようなアクティビティは Microsoft Exchange Online とのやり取りには使用できません。

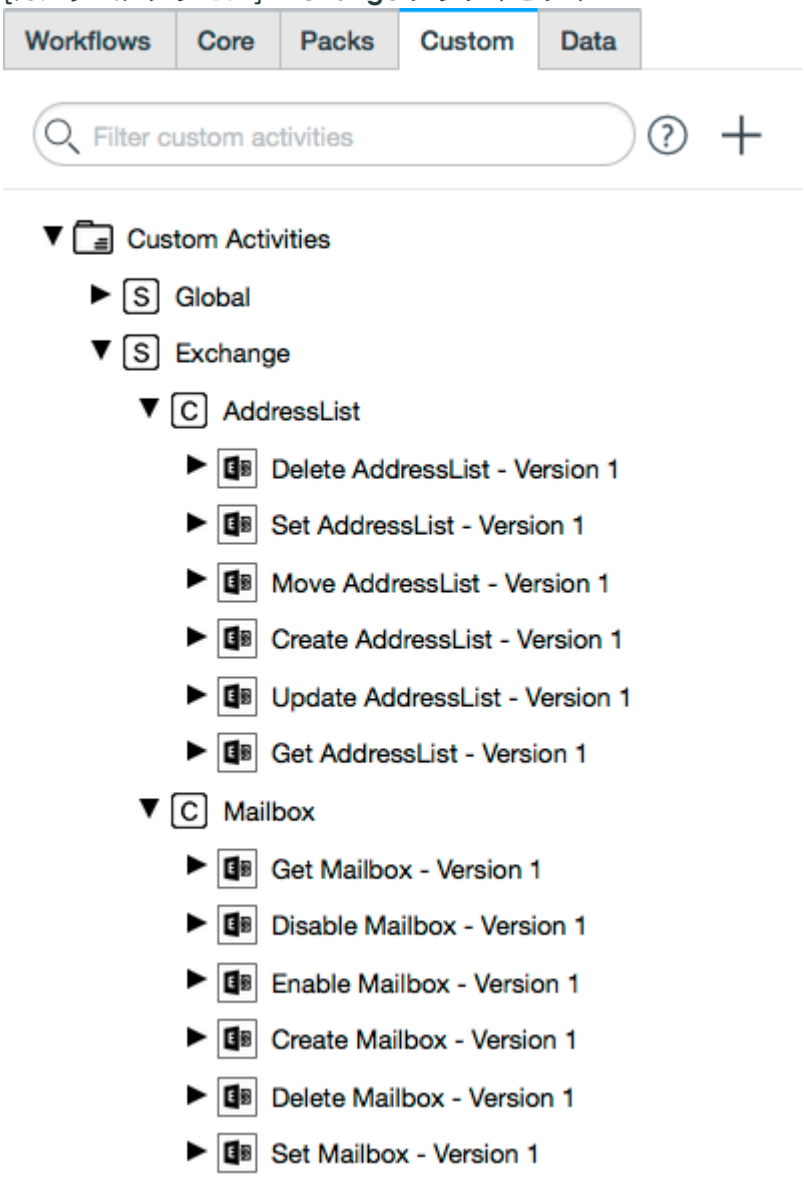
オーケストレーションは、オーケストレーションアクティビティデザイナーテンプレートで作成されたカスタム Exchange アクティビティを提供します。これらのアクティビティは、以前のリリースと同じ名前で Exchange アクティビティと同じ機能を実行し、すべての新しいワークフローのこれらのアクティビティを置き換えます。カスタム Exchange アクティビティは Powershell アクティビティテンプレートで作成されているため、ワークフローアドミニストレーターはデータバスに入出力変数を保存できます。

注: 従来の Exchange アクティビティで作成された以前のバージョンの既存のワークフローは、Geneva にアップグレードすると正常に動作し続けます。ただし、すべての新しいワークフローでこれらのカスタム Exchange アクティビティを使用する必要があります。

Microsoft Exchange カスタムアクティビティを使用するには、オーケストレーション - Exchange プラグインのアクティブ化を要求する必要があります。カスタム Exchange アクティビティは [カスタム] タブのワークフローエディターで使用できます。[カスタムアクティビティ] ツリーを展開し、使用するアクティビティで **[Exchange]** カテゴリーを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[カスタムにアクセス] **Exchange** アクティビティ



Exchange 用に **MID** サーバーを設定

Exchange を使用できるように定義した IP 範囲を使用して MID サーバーを設定します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
MID サーバーが、ネットワーク上のすべてのコンピューターではなく、定義した IP 範囲内のリソースを管理する場合は、Exchange アクティビティを実行するために設定を追加する必要があります。MID サーバーがデフォルト設定を使用している場合は、次の手順を実行する必要はありません。

手順

1. ナビゲーションフィルターに `cmdb_ci_dns_name.list` と入力します。
2. [新規] をクリックします。
3. [名前] フィールドに Exchange サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

5. **[IP** アドレス] 関連リストで、[新規] をクリックします。
6. **[IP** アドレス] フィールドに Exchange サーバーの IP アドレスを入力します。
7. **[Nic]** フィールドで、**[eth0]** または任意のネットワークインターフェイスコントローラーを選択します。
8. [ネットマスク] フィールドは空白のままにします。
9. [送信] をクリックします。

Exchange アクティビティで複数値のプロパティを渡す

Exchange アクティビティを使用して複数値プロパティを設定するには、特定のパラメーター形式を使用する必要があります。

このタスクについて

オプションパラメーター共有入力変数を使用すると、複数値プロパティ を設定できます。

手順

- 複数値プロパティを設定するには、次の形式を使用します。"`PropertyName`":"(`value1`, `value2`, `value3`)"
- 値を追加するには、次の形式を使用します。"PropertyName":"+(`value1`, `value2`, `value3`);"
- 値を削除するには、次の形式を使用します。"PropertyName":"-(`value1`, `value2`, `value3`);"
- 値の追加と削除の両方を行うには、次の形式を使用します。"PropertyName":"-(`value1`, `value2`, `value3`);+(`value1`, `value2`, `value3`);"

[アドレスリストの作成] アクティビティ

[アドレスリストの作成] アクティビティでは、グループのすべてのユーザーにメールを送信するためのエイリアスとして機能する新しいアドレスリストを作成します。

このエイリアスを使用してユーザー権限を管理することはできません。このアクティビティは Microsoft Exchange New-AddressList コマンドを実装します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Exchange]** > [アドレスリスト] に移動します。

> **注:** このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Exchange アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

入力変数

[アドレスリストの作成] 入力変数

変数	説明
hostname	アクティビティがやり取りする Exchange サーバーのホスト名。この変数に IP アドレスを入力しないでください。
domain	Exchange サーバーのアサイン先ドメインの名前。
name	作成する新しいアドレスリストの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[アドレスリストの作成] 入力変数 (続く)

変数	説明
parameters	JavaScript Object Notation (JSON) で作成され、Exchange サーバーに渡されるオプションのパラメーター。Exchange アクティビティは、PSCredential オブジェクトなどのオブジェクトを参照するパラメーターを渡すことができません。プレーンテキストは、このデータ型を必要とするパラメーターの SecureString オブジェクトに自動的に変換されます。 アクティビティ変数からのパラメーターなど、重複したパラメーターや誤った形式の JSON を指定するアクティビティを保存しようとすると、警告メッセージが表示されます。 **注:** ForceUpgrade などのスイッチパラメーターを渡す場合は、*"parameter":"true"*の形式を使用する必要があります。

出力変数

[アドレスリストの作成] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
エラー	操作が失敗した場合のメッセージを入力します。
output	Exchange サーバーの未加工の XML ペイロード。このデータには、すべての Exchange 属性が含まれます。

条件

[アドレスリストの作成] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが新しいアドレスリストの作成に成功しました。
失敗	アクティビティが新しいアドレスリストの作成に失敗しました。

[アドレスリストの削除] アクティビティ

[アドレスリストの削除] アクティビティは、Exchange サーバーから既存のアドレスリストを削除します。

このアクティビティは Microsoft Exchange Remove-AddressList コマンドを実装します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Exchange]** > [アドレスリスト] に移動します。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Exchange アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[アドレスリストの削除] 入力変数

変数	説明
hostname	アクティビティがやり取りする Exchange サーバーのホスト名。この変数に IP アドレスを入力しないでください。
domain	Exchange サーバーのアサイン先ドメインの名前。
identity	削除するアドレスリストの名前。
domainController	Active Directory に書き込むドメインコントローラーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
recursive	指定されたアドレスリストの子である Active Directory 要素を、アクティビティが削除するかどうかを示すチェックボックス。
whatif	アクティビティが変更を適用せずにステージングするかどうかを示すチェックボックス。この変数を使用すると、ライブワークフローでアクティビティを使用する前にアクティビティ設定をテストできます。この変数を選択すると、Exchange サーバーでは変更は行われず、コマンドが成功したか失敗したかが示されます。Exchange サーバーからのメッセージをレビューするには、ECC キューを使用します。

出力変数

[アドレスリストの削除] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
エラー	操作が失敗した場合のメッセージを入力します。

条件

[アドレスリストの削除] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが Exchange サーバーからアドレスリストを削除できました。
失敗	アクティビティが Exchange サーバーからアドレスリストを削除できませんでした。

[アドレスリストの取得] アクティビティ

[アドレスリストの取得] アクティビティは、指定された Exchange アドレスリストからすべての属性を取得します。

このアクティビティは、Microsoft Exchange の Get-AddressList コマンドを実装します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Exchange]** > [アドレスリスト] に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Exchange アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

入力変数

[アドレスリストの取得] 入力変数

変数	説明
hostname	アクティビティがやり取りする Exchange サーバーのホスト名。この変数に IP アドレスを入力しないでください。
domain	Exchange サーバーのアサイン先ドメインの名前。
domainController	Active Directory に書き込むドメインコントローラーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
identity	属性を取得するアドレスリストの名前。この変数に値を入力する場合、**container** および **searchText** 変数は空白のままにします。
organization	指定されたアドレスリストが属する組織。
searchText	アクティビティがそのテキストを含む結果のみを返すようにするフィルターテキスト。この変数は、Exchange 2013 サーバーでのみ使用できます。この変数に値を入力する場合、 **container** および **identity** 変数は空白のままにします。
container	属性を取得するアドレスリストの親アドレスリスト。この変数に値を入力する場合、**identity** および **searchText** 変数は空白のままにします。

出力変数

アドレスリストの出力変数の取得

変数	説明
result	**success** または **failure**。
エラー	操作が失敗した場合のメッセージを入力します。
output	Exchange サーバーの未加工の XML ペイロード。このデータには、すべての Exchange 属性が含まれます。

条件

[アドレスリストの取得] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、アドレスリストから属性を取得するのに成功しました。
失敗	アクティビティがアドレスリストから属性を取得できませんでした。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[アドレスリストの移動] アクティビティ

[アドレスリストの移動] アクティビティは、アドレス階層内の別の場所に Microsoft Exchange アドレスリストを移動します。

このアクティビティは、Microsoft Exchange の Move-AddressList コマンドを実装します。

Exchange サーバーでは、このアクティビティによる変更がキャッシュされますが、すぐには適用されません。このアクティビティの後に [アクティビティリストの更新] アクティビティを使用して変更を適用するか、Exchange サーバーによってキャッシュされた変更が自動的に適用されるまで待機します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Exchange]** > [アドレスリスト] に移動します。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Exchange アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

入力変数

[アドレスリストの移動] 入力変数

変数	説明
hostname	アクティビティがやり取りする Exchange サーバーのホスト名。この変数に IP アドレスを入力しないでください。
domain	Exchange サーバーのアサイン先ドメインの名前。
identity	移動するアドレスリストの名前。
target	アドレスリストの新しい場所へのパス。
domainController	Active Directory に書き込むドメインコントローラーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
whatif	アクティビティが変更を適用せずにステージングするかどうかを示すチェックボックス。この変数を使用すると、ライブワークフローでアクティビティを使用する前にアクティビティ設定をテストできます。この変数を選択すると、Exchange サーバーでは変更は行われず、コマンドが成功したか失敗したかが示されます。Exchange サーバーからのメッセージをレビューするには、ECC キューを使用します。

出力変数

[アドレスリストの移動] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
エラー	操作が失敗した場合のメッセージを入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[アドレスリストの移動] 条件

条件	説明
成功	アクティビティはアドレスリストを別の場所に移動することに成功しました。
失敗	アクティビティはアドレスリストを別の場所に移動することに失敗しました。

[アドレスリストの設定] アクティビティ

[アドレスリストの設定] アクティビティは、Microsoft Exchange アドレスリストを変更します。

オプションのパラメーター変数 を使用して、特定の値を Microsoft Exchange サーバーに渡します。このアクティビティは、Microsoft Exchange の Set-AddressList コマンドを実装します。

Exchange サーバーでは、このアクティビティによる変更がキャッシュされますが、すぐには適用されません。このアクティビティの後に [アクティビティリストの更新] を使用して変更を適用するか、Exchange サーバーによってキャッシュされた変更が自動的に適用されるまで待機します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Exchange]** > [アドレスリスト] に移動します。

> **注:** このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Exchange アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

入力変数

[アドレスリストの設定] 入力変数

変数	説明
hostname	アクティビティがやり取りする Exchange サーバーのホスト名。この変数に IP アドレスを入力しないでください。
domain	Exchange サーバーのアサイン先ドメインの名前。
identity	変更するアドレスリストの名前。
parameters	JavaScript Object Notation (JSON) で作成され、Exchange サーバーに渡されるオプションのパラメーター。Exchange アクティビティは、PSCredential オブジェクトなどのオブジェクトを参照するパラメーターを渡すことができません。プレーンテキストは、このデータ型を必要とするパラメーターの SecureString オブジェクトに自動的に変換されます。 アクティビティ変数からのパラメーターなど、重複したパラメーターや誤った形式の JSON を指定するアクティビティを保存しようとすると、警告メッセージが表示されます。 **注:** ForceUpgrade などのスイッチパラメーターを渡す場合は、*"parameter":"true"* の形式を使用する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力変数

[アドレスリストの設定] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
エラー	操作が失敗した場合のメッセージを入力します。

条件

[アドレスリストの設定] 条件

変数	説明
成功	アクティビティは、指定されたアドレスリストを変更することに成功しました。
失敗	アクティビティは、指定されたアドレスリストを変更することに失敗しました。

[アドレスリストの更新] アクティビティ

[アドレスリストの更新] アクティビティは、指定されたアドレスリストのユーザーを追加または削除し、キャッシュされたアドレスリストの変更をサーバーにすぐに適用します。

オプションのパラメーター変数を使用して、追加または削除するユーザーを指定します。このアクティビティは、Microsoft Exchange の Update-AddressList コマンドを実装します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Exchange]** > [アドレスリスト] に移動します。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Exchange アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

入力変数

[アドレスリストの更新] 入力変数

変数	説明
hostname	アクティビティがやり取りする Exchange サーバーのホスト名。この変数に IP アドレスを入力しないでください。
domain	Exchange サーバーのアサイン先ドメインの名前。
identity	更新するアドレスリストの名前。
domainController	Active Directory に書き込むドメインコントローラーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
whatif	アクティビティが変更を適用せずにステージングするかどうかを示すチェックボックス。この変数を使用すると、ライブワークフローでアクティビティを使用する前にアクティビティ設定をテストできます。この変数を選択すると、Exchange サーバーでは変更は行われず、コマンドが成功したか失敗し

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[アドレスリストの更新] 入力変数 (続く)

変数	説明
	たかが示されます。Exchange サーバーからのメッセージをレビューするには、ECC キューを使用します。

出力変数

[アドレスリストの更新] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
エラー	操作が失敗した場合のメッセージを入力します。

条件

[アドレスリストの更新] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、指定されたアドレスリストのユーザーを追加または削除することに成功しました。
失敗	アクティビティは、指定されたアドレスリストのユーザーを追加または削除することに失敗しました。

[メールボックスの作成] アクティビティ

[メールボックスの作成] アクティビティは、Active Directory ユーザーがまだ存在しない場合、新しい Active Directory ユーザーとこのユーザーの Microsoft Exchange メールボックスを作成します。

このアクティビティは、Microsoft Exchange の New-Mailbox コマンドを実装します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、 [カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Exchange]** > [メールボックス] に移動します。

> **注:** このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Exchange アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

入力変数

[メールボックスの作成] 入力変数

変数	説明
hostname	アクティビティがやり取りする Exchange サーバーのホスト名。この変数に IP アドレスを入力しないでください。
domain	Exchange サーバーのアサイン先ドメインの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[メールボックスの作成] 入力変数 (続く)

変数	説明
	重要: MID サーバーは、Exchange サーバーと同じドメインに存在する必要があります。
first_name	ユーザーの名前 (名)。
middle_initial	ユーザーのミドルネームのイニシャル。
last_name	ユーザーの名前 (姓)。
エイリアス	メールボックスアドレスの表示名、メールアドレスのうちの @ 記号の左の部分。別名を指定しない場合、First name.Last name が別名として使用されます。また、オプションのパラメーターで指定されていない場合、別名はユーザーのプリンシパル名 (UPN) としても使用されます。
パスワード	新しいメールボックスに使用するパスワード。パスワードは、ターゲット ホストに送信されるときに暗号化されます。
parameters	JavaScript Object Notation (JSON) で作成され、Exchange サーバーに渡されるオプションのパラメーター。Exchange アクティビティは、PSCredential オブジェクトなどのオブジェクトを参照するパラメーターを渡すことができません。プレーン テキストは、このデータ型を必要とするパラメーターの SecureString オブジェクトに自動的に変換されます。 アクティビティ変数からのパラメーターなど、重複したパラメーターや誤った形式の JSON を指定するアクティビティを保存しようとすると、警告メッセージが表示されます。 **注:** ForceUpgrade などのスイッチパラメーターを渡す場合は、 *"parameter":"true"* の形式を使用する必要があります。

出力変数

[メールボックスの作成] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
エラー	操作が失敗した場合のメッセージを入力します。
output	Exchange サーバーの未加工の XML ペイロード。このデータには、すべての Exchange 属性が含まれます。

条件

[メールボックスの作成] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、指定されたユーザーの新しいメールボックスの作成に成功しました。そのユーザーの Active Diectory アカウントが存在しない場合、このアクティビティは新しいアカウントの作成に成功しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[メールボックスの作成] 条件 (続く)

条件	説明
失敗	アクティビティは、指定したユーザーの新しいメールボックスまたは Active Directory アカウントの作成に失敗しました。

[メールボックスの削除] アクティビティ

[メールボックスの削除] アクティビティは、Active Directory ユーザーの Microsoft Exchange メールボックスを削除します。

オプションのパラメーターは、ユーザーを削除した後に Exchange サーバーがメールボックスをどのように処理するかを決定します。このアクティビティは、Microsoft Exchange の Remove-Mailbox コマンドを実装します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、 [カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Exchange]** > [メールボックス] に移動します。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Exchange アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

入力変数

[メールボックスの削除] 入力変数

変数	説明
hostname	アクティビティがやり取りする Exchange サーバーのホスト名。この変数に IP アドレスを入力しないでください。
domain	Exchange サーバーのアサイン先ドメインの名前。
ユーザー	削除する Active Directory ユーザー。アクティビティは、この値を Exchange に Identity Exchange 変数として渡します。
parameters	JavaScript Object Notation (JSON) で作成され、Exchange サーバーに渡されるオプションのパラメーター。Exchange アクティビティは、PSCredential オブジェクトなどのオブジェクトを参照するパラメーターを渡すことができません。プレーンテキストは、このデータ型を必要とするパラメーターの SecureString オブジェクトに自動的に変換されます。 アクティビティ変数からのパラメーターなど、重複したパラメーターや誤った形式の JSON を指定するアクティビティを保存しようとすると、警告メッセージが表示されます。 **注:** ForceUpgrade などのスイッチパラメーターを渡す場合は、 *"parameter":"true"* の形式を使用する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力変数

[メールボックスの削除] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
エラー	操作が失敗した場合のメッセージを入力します。

条件

[メールボックスの削除] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、指定されたユーザーのメールボックスの削除に成功しました。
失敗	アクティビティは、指定されたユーザーのメールボックスの削除に失敗しました。

[メールボックスの無効化] アクティビティ

[メールボックスの無効化] アクティビティは、指定された Active Directory アカウントに関連付けられているメールボックスを無効にします。

このアクティビティは、Microsoft Exchange の Disable-Mailbox コマンドを実装します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、 [カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Exchange]** > [メールボックス] に移動します。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Exchange アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

入力変数

[メールボックスの無効化] 入力変数

変数	説明
hostname	アクティビティがやり取りする Exchange サーバーのホスト名。この変数に IP アドレスを入力しないでください。
domain	Exchange サーバーのアサイン先ドメインの名前。
ユーザー	メールボックスを無効にする Active Directory ユーザー。アクティビティは、この値を Exchange に Identity Exchange 変数として渡します。
parameters	JavaScript Object Notation (JSON) で作成され、Exchange サーバーに渡されるオプションのパラメーター。Exchange アクティビティは、PSCredential オブジェクトなどのオブジェクトを参照するパラメーターを渡すことができません。プレーンテキストは、このデータ型を必要とするパラメーターの SecureString オブジェクトに自動的に変換されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[メールボックスの無効化] 入力変数 (続く)

変数	説明
	アクティビティ変数からのパラメーターなど、重複したパラメーターや誤った形式の JSON を指定するアクティビティを保存しようとすると、警告メッセージが表示されます。 **注:** ForceUpgrade などのスイッチパラメーターを渡す場合は、 *"parameter":"true"* の形式を使用する必要があります。

出力変数

[メールボックスの無効化] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
エラー	操作が失敗した場合のメッセージを入力します。

条件

[メールボックスの無効化] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、指定されたメールボックスの無効化に成功しました。
失敗	アクティビティは、指定されたメールボックスの無効化に失敗しました。

[メールボックスの有効化] アクティビティ

[メールボックスの有効化] アクティビティは、既存の Active Directory ユーザーの新しいメールボックスを作成します。

このアクティビティは、Microsoft Exchange の Enable-Mailbox コマンドを実装します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、 [カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Exchange]** > [メールボックス] に移動します。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Exchange アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

入力変数

[メールボックスの有効化] 入力変数

変数	説明
hostname	アクティビティがやり取りする Exchange サーバーのホスト名。この変数に IP アドレスを入力しないでください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[メールボックスの有効化] 入力変数 (続く)

変数	説明
domain	Exchange サーバーのアサイン先ドメインの名前。
ユーザー	メールボックスを有効にする Active Directory ユーザー。アクティビティは、この値を Exchange に Identity Exchange 変数として渡します。
parameters	JavaScript Object Notation (JSON) で作成され、Exchange サーバーに渡されるオプションのパラメーター。Exchange アクティビティは、PSCredential オブジェクトなどのオブジェクトを参照するパラメーターを渡すことができません。プレーンテキストは、このデータ型を必要とするパラメーターの SecureString オブジェクトに自動的に変換されます。 アクティビティ変数からのパラメーターなど、重複したパラメーターや誤った形式の JSON を指定するアクティビティを保存しようとすると、警告メッセージが表示されます。 **注:** ForceUpgrade などのスイッチパラメーターを渡す場合は、 *"parameter":"true"* の形式を使用する必要があります。

出力変数

[メールボックスの有効化] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
エラー	操作が失敗した場合のメッセージを入力します。

条件

[メールボックスの有効化] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、指定されたユーザーの新しいメールボックスの作成に成功しました。
失敗	アクティビティは、指定されたユーザーの新しいメールボックスの作成に失敗しました。

[メールボックスの取得] アクティビティ

[メールボックスの取得] アクティビティは、指定されたユーザーのメールボックスまたは Microsoft Exchange サーバーのすべてのメールボックスを取得します。

このアクティビティは、Microsoft Exchange の Get-Mailbox コマンドを実装します。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、 [カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Exchange]** > [メールボックス] に移動します。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Exchange アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[メールボックスの取得] 入力変数

変数	説明
hostname	アクティビティがやり取りする Exchange サーバーのホスト名。この変数に IP アドレスを入力しないでください。
domain	Exchange サーバーのアサイン先ドメインの名前。
ユーザー	このアクティビティがメールボックスを取得するユーザー。ユーザーを指定しない場合、Exchange サーバーのすべてのメールボックスが取得されます。アクティビティは、この値を Exchange に Identity Exchange 変数として渡します。
parameters	JavaScript Object Notation (JSON) で作成され、Exchange サーバーに渡されるオプションのパラメーター。Exchange アクティビティは、PSCredential オブジェクトなどのオブジェクトを参照するパラメーターを渡すことができません。プレーンテキストは、このデータ型を必要とするパラメーターの SecureString オブジェクトに自動的に変換されます。 アクティビティ変数からのパラメーターなど、重複したパラメーターや誤った形式の JSON を指定するアクティビティを保存しようとすると、警告メッセージが表示されます。 **注:** ForceUpgrade などのスイッチパラメーターを渡す場合は、*"parameter":"true"*の形式を使用する必要があります。

出力変数

[メールボックスの取得] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
エラー	操作が失敗した場合のメッセージを入力します。
output	Exchange サーバーの未加工の XML ペイロード。このデータには、すべての Exchange 属性が含まれます。

条件

[メールボックスの取得] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、指定されたメールボックスの属性の取得に成功しました。
失敗	アクティビティは、指定されたメールボックスの属性の取得に失敗しました。

[メールボックスの設定] アクティビティ

[メールボックスの設定] アクティビティは、既存の Microsoft Exchange メールボックスの設定を変更します。

オプションのパラメーター変数を使用して、特定の値を Exchange サーバーに渡します。このアクティビティは、Microsoft Exchange の Set-Mailbox コマンドを実装します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、 [カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Exchange]** > [メールボックス] に移動します。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Exchange アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

入力変数

[メールボックスの設定] 入力変数

変数	説明
hostname	アクティビティがやり取りする Exchange サーバーのホスト名。この変数に IP アドレスを入力しないでください。
domain	Exchange サーバーのアサイン先ドメインの名前。
ユーザー	メールボックスを変更する Active Directory ユーザー。アクティビティは、この値を Exchange に Identity Exchange 変数として渡します。
parameters	JavaScript Object Notation (JSON) で作成され、Exchange サーバーに渡されるオプションのパラメーター。Exchange アクティビティは、PSCredential オブジェクトなどのオブジェクトを参照するパラメーターを渡すことができません。プレーンテキストは、このデータ型を必要とするパラメーターの SecureString オブジェクトに自動的に変換されます。 アクティビティ変数からのパラメーターなど、重複したパラメーターや誤った形式の JSON を指定するアクティビティを保存しようとすると、警告メッセージが表示されます。 **注:** ForceUpgrade などのスイッチパラメーターを渡す場合は、 *"parameter":"true"* の形式を使用する必要があります。

出力変数

[メールボックスの設定] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
エラー	操作が失敗した場合のメッセージを入力します。

条件

[メールボックスの設定] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、指定されたメールボックスの設定を変更することに成功しました。
失敗	アクティビティは、指定されたメールボックスの設定を変更することに失敗しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[F5 ネットワーク管理] アクティビティパック

オーケストレーションは、プール、プール メンバー、およびプールに含まれる仮想サーバーなど、F5 ロード バランサーの要素を構成するためのカスタムアクティビティを提供します。

すべての F5 カスタムアクティビティは、F5 ネットワーク管理アプリケーションのアプリケーションスコープ内にあり、オーケストレーション - F5 ネットワーク管理プラグインによってアクティブ化されます。このアクティビティは要求によってアクティブ化される必要があります。

ServiceNow は REST Web サービスアクティビティテンプレートから作成されたカスタム F5 アクティビティを提供します。このアクティビティを使用すると、次のタスクを実行できます。

- プールの追加、削除、または確認。
- プール メンバーの追加、削除、または識別。
- 仮想サーバーの追加または削除。
- 仮想サーバーへのプロファイルの追加。
- VLAN、irule、プール、および永続用仮想サーバーの設定。

[F5 プール メンバーの追加] アクティビティ

[F5 プール メンバーの追加] アクティビティは、メンバーを F5 ロード バランサー プールに追加します。

このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。ワークフローエディターでアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

REST 設定

- **REST** メッセージ：F5 プール メンバーシップ管理
- **REST** 関数：post

入力変数

[F5 プール メンバーの追加] 入力変数

変数	説明
PoolName	このプールの名前 (例：`testPool`)。
F5IPAddress	F5 コンソールの IP アドレス。
MemberName	プール メンバーの IP アドレスとポート (192.168.2.19:80 など)。

出力変数

[F5 プール メンバーの追加] 出力変数

変数	説明
result	success または failure。
status_code	HTTP ステータスコード。
エラー	REST エラー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[F5 プール メンバーの追加] 出力変数 (続く)

変数	説明
output	REST 出力。

条件

[F5 プール メンバーの追加] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、F5 ロード バランサー プール メンバーを正常に追加しました。
失敗	アクティビティは、F5 ロード バランサー プール メンバーを追加できませんでした。

[F5 プール メンバーの取得] アクティビティ

[F5 プール メンバーの取得] アクティビティはプール メンバーを返し、プールのステータスを確認します。

このアクティビティを使用して、プール メンバーが正しく作成されたことを確認します。

このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。ワークフローエディターでアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

REST 設定

- **REST** メッセージ：F5 プール メンバーシップ管理
- **REST** 関数：get

入力変数

[F5 プール メンバーの取得] 入力変数

変数	説明
PoolName	このプールの名前 (例：`testPool`)。
F5IPAddress	F5 コンソールの IP アドレス。

出力変数

[F5 プール メンバーの取得] 出力変数

変数	説明
MembersArray	返されたプール メンバーの IP アドレスとポートのアレイ (192.168.2.19:80 など)。
status_code	HTTP ステータスコード。
エラー	REST エラー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[F5 プール メンバーの取得] 出力変数 (続く)

変数	説明
result	success または failure。
output	REST 出力。

条件

[F5 プール メンバーの取得] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、F5 ロード バランサー プール メンバーを正常に返しました。
失敗	アクティビティは、F5 ロード バランサー プール メンバーを返すことができませんでした。

[F5 仮想サーバーの削除] アクティビティ

[F5 仮想サーバーの削除] アクティビティは、F5 ロード バランサー プールから仮想サーバーを削除します。

このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。ワークフローエディターでアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

REST 設定

- **REST** メッセージ：F5 VIP 管理
- **REST** 関数：delete

入力変数

[F5 仮想サーバーの削除] 入力変数

変数	説明
F5IPAddress	F5 コンソールの IP アドレス。
name	仮想サーバーの名前 (例：`testVIP`)。

出力変数

[F5 仮想サーバーの削除] 出力変数

変数	説明
result	success または failure。
status_code	HTTP ステータスコード。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[F5 仮想サーバーの削除] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、F5 ロード バランサー プールから仮想サーバーを正常に削除しました。
失敗	アクティビティは、F5 ロード バランサー プールから仮想サーバーを削除できませんでした。

[F5 プールの確認] アクティビティ

[F5 プールの確認] アクティビティはプールのステータスを確認して、トラフィックを受け入れることができるかどうかを判断します。

このアクティビティを使用して、作成したばかりのプールが適切な設定で稼働しているかどうかを判断します。

このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。ワークフローエディターでアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

REST 設定

- **REST** メッセージ：F5 プール管理
- **REST** 関数：get

入力変数

[F5 プールの確認] 入力変数

変数	説明
F5IPAddress	F5 コンソールの IP アドレス。
PoolName	このプールの名前 (例：`testPool`)。

出力変数

[F5 プールの確認] 出力変数

変数	説明
result	success または failure。
status_code	HTTP ステータスコード。
エラー	REST エラー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[F5 プールの確認] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、F5 ロード バランサー プールのステータスを正常に返しました。
失敗	アクティビティは、F5 ロード バランサー プールのステータスを返すことができませんでした。

[仮想サーバーに **F5** プロファイルを追加] アクティビティ

[仮想サーバーに F5 プロファイルを追加] アクティビティは、F5 ロード バランサー プールにアサインされた仮想サーバーにプロファイルを追加します。

このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。ワークフローエディターでアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

REST 設定

- **REST** メッセージ：F5 VIP プロファイル管理
- **REST** 関数：post

入力変数

[仮想サーバーへの F5 プロファイルの追加] 入力変数

変数	説明
name	仮想サーバーの名前 (例：`testVIP`)
F5IPAddress	F5 コンソールの IP アドレス。
VirtualServerName	仮想サーバーの名前 (例：`testVIP`)。

出力変数

[仮想サーバーへの F5 プロファイルの追加] 出力変数

変数	説明
result	success または failure。
output	REST 出力。
status_code	HTTP ステータスコード。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[仮想サーバーへの **F5** プロファイルの追加] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、仮想サーバーに F5 ロード バランサー プールを正常に追加しました。
失敗	アクティビティは、仮想サーバーに F5 ロード バランサー プールを追加できませんでした。

[F5 仮想サーバーの変更] アクティビティ

[F5 仮想サーバーの変更] アクティビティは、F5 ロード バランサー プールにアサインされた仮想サーバーを irule と VLAN で設定します。

このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。ワークフローエディターでアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

REST 設定

- **REST** メッセージ：F5 VIP 管理
- **REST** 関数：put

入力変数

[F5 仮想サーバーの変更] 入力変数

変数	説明
name	仮想サーバーの名前 (例：`testVIP`)。
F5IPAddress	F5 コンソールの IP アドレス。
irule	仮想サーバー用 irule (例：`_sys_https_redirect`)。 • **pool**：仮想サーバーのプール名 (例：`testPool`)。 • **persistent**：仮想サーバーの永続的プロファイル (例：`cookie`)。
vlans	仮想サーバー用 VLAN (例：`internal`)。

出力変数

[F5 仮想サーバーの変更] 出力変数

変数	説明
result	success または failure。
status_code	HTTP ステータスコード。
output	REST 出力。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[F5 仮想サーバーの変更] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、F5 ロード バランサー プールにアサインする仮想サーバーを正常に設定しました。
失敗	アクティビティは、F5 ロード バランサー プールにアサインする仮想サーバーを設定できませんでした。

[F5 仮想サーバーの追加] アクティビティ

[F5 仮想サーバーの追加] アクティビティは仮想サーバーを追加します。

このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。ワークフローエディターでアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

REST 設定

- **REST** メッセージ：F5 プール メンバーシップ管理
- **REST** 関数：post

入力変数

[F5 仮想サーバーの追加] 入力変数

変数	説明
name	仮想サーバーの名前 (例：`testVIP`)。
説明	仮想サーバーの説明。
ipProtocol	仮想サーバーに使用されるプロトコル (例：`tcp`)。
destination	仮想サーバーの IP アドレスとポート番号 (192.168.4.20:80 など)。
mask	仮想サーバーのサブネット マスク (255.255.255.255 など)。
F5IPAddress	F5 コンソールの IP アドレス。
sourceAddressTranslation	ソース アドレス変換モード。

出力変数

[F5 仮想サーバーの追加] 出力変数

変数	説明
result	success または failure。
status_code	HTTP ステータスコード。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[F5 仮想サーバーの追加] 出力変数 (続く)

変数	説明
エラー	REST エラー。
output	REST 出力。

条件

[F5 仮想サーバーの追加] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは仮想サーバーを正常に追加しました。
失敗	アクティビティは仮想サーバーを追加できませんでした。

[F5 プール メンバーの削除] アクティビティ

[F5 プール メンバーの削除] アクティビティは、F5 ロード バランサー プール メンバーを削除します。

このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。ワークフローエディターでアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

REST 設定

- **REST** メッセージ：F5 プール メンバーシップ管理
- **REST** 関数：delete

入力変数

[F5 プール メンバーの削除] 入力変数

変数	説明
PoolName	このプールの名前 (例：`testPool`)。
F5IPAddress	F5 コンソールの IP アドレス。
MemberName	プール メンバーの IP アドレスとポート (192.168.2.19:80 など)。

出力変数

[F5 プール メンバーの削除] 出力変数

変数	説明
result	success または failure。
status_code	HTTP ステータスコード。
エラー	REST エラー。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[F5 プール メンバーの削除] 出力変数

条件	説明
成功	アクティビティは、F5 ロード バランサー プール メンバーの削除に成功しました。
失敗	アクティビティは、F5 ロード バランサー プール メンバーの削除に失敗しました。

[F5 プールの削除] アクティビティ

[F5 プールの削除] アクティビティは、F5 ロード バランサー プールを削除します。

このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。ワークフローエディターでアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

REST 設定

- **REST** メッセージ：F5 プール管理
- **REST** 関数：delete

入力変数

[F5 プールの削除] 入力変数

変数	説明
F5IPAddress	F5 コンソールの IP アドレス。
PoolName	このプールの名前 (例：`testPool`)。

出力変数

[F5 プールの削除] 出力変数

変数	説明
result	success または failure。
エラー	REST エラー。
status_code	HTTP ステータスコード。

条件

[F5 プールの削除] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、F5 ロード バランサー プールを正常に削除しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[F5 プールの削除] 条件 (続く)

条件	説明
失敗	アクティビティは、F5 ロード バランサー プールを削除できませんでした。

[F5 プールの追加] アクティビティ

[F5 プールの追加] アクティビティは、F5 ロード バランサー プールを作成します。

このアクティビティを使用して、プール メンバーが正しく作成されたことを確認します。

このアクティビティは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して作成されています。ワークフローエディターでアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[Active Directory]** に移動します。

REST 設定

- **REST** メッセージ：F5 プール管理
- **REST** 関数：post

入力変数

[F5 プールの追加] 入力変数

変数	説明
PoolName	このプールの名前 (例：`testPool`)。
F5IPAddress	F5 コンソールの IP アドレス。
MemberName	プール メンバーの IP アドレスとポート (192.168.2.19:80 など)。

出力変数

[F5 プールの追加] 出力変数

変数	説明
result	success または failure。
status_code	HTTP ステータスコード。
エラー	REST エラー。
output	REST 出力。

条件

[F5 プールの追加] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、F5 ロード バランサー プールの作成に成功しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[F5 プールの追加] 条件 (続く)

条件	説明
失敗	アクティビティは、F5 ロード バランサー プールの作成に失敗しました。

Infoblox DDI アクティビティパック

このアクティビティパックは、ServiceNow オーケストレーションを使用して Infoblox DDI 管理をサポートします。

Infoblox DDI アクティビティパックは、DNS と DHCP を統合して、ネットワークで使用される IP アドレスを管理します。カスタムオーケストレーションアクティビティは、Infoblox Web API (WAPI) REST Web サービスを使用して Infoblox GRID サーバーにアクセスします。

重要: Infoblox サーバー経由で IP アドレスを管理するには、完全に機能する MID サーバーが必要です。

Jakarta リリース以降、Infoblox アクティビティパックはバージョン 2 に更新されます。この更新では、ネットワーク データの可視化を制限する Infoblox ネットワーク ビューがサポートされます。ビュー パラメーターは、クエリー パラメーターまたはペイロード コンテンツとして渡され、特定のビューで操作できます。バージョン 2 では、統合エンドポイントで使用する WAPI のバージョンの指定もサポートされています。

Infoblox でのサポート対象：

- REST メッセージの WAPI バージョン 2.0
- NIOS アプライアンス バージョン 7.0

注: Infoblox DDI アクティビティとワークフローを使用するには、オーケストレーション - Infoblox DDI アクティビティパック プラグインのアクティブ化を要求する必要があります。

Infoblox アクティビティ用の REST 認証情報を作成する

すべての Infoblox アクティビティでは、Infoblox DDI サーバーから IP アドレスを管理するために REST 認証情報が必要です。

始める前に

この手順を開始する前に、次のことを確認してください。

- 適切に設定され、稼働している Infoblox DDI Grid サーバー。
- Infoblox DDI サーバーで定義された REST 認証情報。

必要なロール：admin

このタスクについて

Infoblox の各アクティビティが Infoblox サーバーのアクセス管理機能にアクセスするために使用できる ServiceNow インスタンスで REST 認証情報レコードを作成する必要があります。

手順

1. [すべて] > [オーケストレーション] > [認証情報]に移動し、[新規] をクリックします。
2. 認証情報タイプのリストで、[基本認証情報] を選択します。
3. **InfobloxCred** などの論理名を使用して認証情報レコードを作成します。
4. 新しい認証情報レコードのヘッダー バーを右クリックし、コンテキストメニューから **[sys_id** のコピー] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ブラウザのセキュリティ対策によってこの機能が制限される場合は、ブラウザの説明に従って sys_id をコピーします。

5. sys_id を使用する各アクティビティの **[restCredentials]** 入力フィールドに貼り付けます。

Infoblox ワークフロー

Infobox DDI アクティビティパックには、IP アドレスを予約および登録するワークフローと IP アドレスをリリースするワークフローの 2 つのワークフローが含まれています。

これらのワークフローにアクセスするには、[ワークフロー] > [ワークフローエディター] に移動し、[ワークフロー] タブを選択します。ワークフローをクリックして開き、ワークフロー ヘッダーの情報アイコンをクリックして、プロパティ ダイアログ ボックスを表示します。

IPAM で Infoblox IP アドレスを予約/登録

このワークフローを使用すると、IPv4 アドレスを登録したり、IPAM 上で次に使用可能な IP アドレスを要求したりできます。必要に応じて、DNS で IP アドレスを登録するために使用することもできます。このワークフローで使用されるカスタム Infoblox アクティビティは、次のとおりです。

- IPAM IP アドレスを登録
- IPAM IP アドレスを予約
- DNS A レコードを予約
- ネットワークの詳細情報を取得

[Infoblox IP アドレスを予約/登録] 入力変数

フィールド	説明
Infoblox サーバー	Infoblox DDI サーバーの IP アドレス。
ネットワーク	ターゲット IP アドレスを含むネットワーク。
ゾーン	登録されている IP アドレスの DNS ゾーン。
REST 認証情報	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
DNS ホスト名	IP アドレスが登録されている DNS サーバー マシンの名前。
IPv4 アドレス	予約または登録されている IP アドレス。

Infoblox による IPAM 予約のリリース

このワークフローを使用すると、IPv4 アドレスに関連付けられたすべての IPAM 予約をリリース (削除) できます。このワークフローで使用されるカスタム Infoblox アクティビティは、次のとおりです。

- IPAM IP 予約のリスト
- DNS レコードリスト表示
- DNS の削除
- IPAM の削除

[Infoblox による IPAM 予約のリリース] 入力変数

フィールド	説明
REST 認証情報	ServiceNow インスタンスからの REST 認証情報の sys_id。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[Infoblox による IPAM 予約のリリース] 入力変数 (続く)

フィールド	説明
削除する IP	リリースする IP アドレス。
Infoblox サーバー	Infoblox DDI サーバーの IP アドレス。

Infoblox のロールと権限

Infoblox サーバー上のさまざまなリソースにアクセスするために Infoblox アクティビティが必要とするロールと権限を定義します。

アドミングループ

Infoblox サーバーのアドミングループは次の 3 種類です。

- スーパーユーザー
- デフォルト
- 制限付きアクセス

Infoblox サーバーで特定の操作を実行するには、制限付きアクセス ユーザーは、ユーザーインターフェイスまたは API のいずれかを使用して、任意のリソースに対する最小限の特権を持っている必要があります。これらの特権は、読み取りおよび読み取り/書き込みアクセスに基づいています。詳細については、『Infoblox NIOS 管理ガイド』の「アドミングループについて」を参照してください。

権限階層

1. ユーザー：ユーザーは複数のグループに参加できます。
2. グループ：グループには多くのロールがあります。
3. ロール：各ロールは特定のリソース権限で構成されます。

必須権限

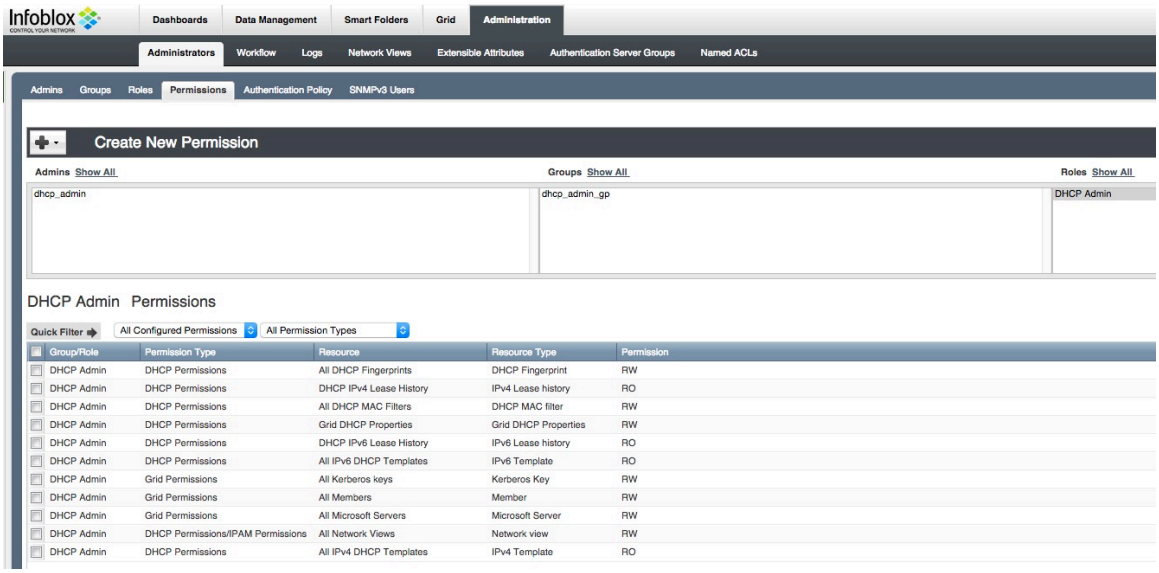
ServiceNow Infoblox アクティビティパックには、次のリソースに対する適切な読み取り権限および読み取り/書き込み権限が必要です。

- ネットワーク
- DHCP
- DNS
- IPAM

この例では、それぞれに対するデフォルトの DHCP admin ロール、そのリソース、および関連するアクセス権限を示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Infoblox の権限



Infoblox DHCP アクティビティ

Infoblox DHCP アクティビティは、ネットワークの DHCP 用に予約された IP アドレスを管理します。

このようなアクティビティを使用すると、ネットワークの DHCP 割り当てに使用される IP アドレスの予約、リスト化、または削除を行えます。

[DHCP による IP v4 アドレス範囲の予約] アクティビティ

[DHCP による IP v4 アドレス範囲の予約] アクティビティは、DHCP 使用のための IP アドレス範囲を予約します。

DHCP アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI Grid サーバー で IP アドレスを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、 [カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > **[DHCP]** に移動します。

入力変数

[DHCP による IP v4 アドレス範囲の予約] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
startIpAddress	予約する範囲の IPv4 アドレスの先頭。
endIpAddress	予約する範囲の IPv4 アドレスの終了。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 **注:** このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。
view	Infoblox ネットワーク ビューの名前。デフォルト値は デフォルト です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[DHCP による IP v4 アドレス範囲の予約] 入力変数 (続く)

変数	説明
	注: フィールドが空の場合、操作はデフォルト ビュー内のものとして扱われます。

出力変数

[DHCP による IP v4 アドレス範囲の予約] 出力変数

変数	説明
DHCPIpAddressRange	予約済み IPv4 アドレスの範囲。
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。

条件

[DHCP による IP v4 アドレス範囲の予約] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが指定された IPv4 アドレス範囲を正常に予約しました。
失敗	アクティビティが指定された IPv4 アドレス範囲を予約できませんでした。

[DHCP による IP 予約の削除] アクティビティ

[DHCP による IP 予約の削除] アクティビティは、IPv4 または IPv6 アドレス範囲のいずれかを使用して DHCP で IP 予約を削除します。

自動化では、次のいずれかのアクティビティから削除する Infoblox DHCP オブジェクトを取得できます。

- DHCP IP 予約のリスト
- DHCP 予約 IPv4 アドレス範囲

DHCP アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI Grid サーバー で IP アドレスを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、 [カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > **[DHCP]** に移動します。

入力変数

[DHCP による IP 予約の削除] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
ipToDelete	削除する IP アドレス範囲は、次のようなフォームです。 範囲/<暗号化コード>:<開始範囲>/<終了範囲>/デフォルト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[DHCP による IP 予約の削除] 入力変数 (続く)

変数	説明
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 **注:** このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。

出力変数

[DHCP による IP 予約の削除] 出力変数

変数	説明
DHCPDeletedIpRange	削除された IP アドレスの範囲。
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。

条件

[DHCP による IP 予約の削除] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが指定された IP アドレス範囲を正常に削除しました。
失敗	アクティビティが指定された IP アドレス範囲を削除できませんでした。

[DHCP IP 予約のリスト] アクティビティ

[DHCP IP 予約のリスト] アクティビティは、特定の InfoBlox サーバー上のすべての DHCP 範囲予約のリストを生成します。

DHCP アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI Grid サーバー で IP アドレスを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、 [カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > **[DHCP]** に移動します。

入力変数

[DHCP IP 予約のリスト] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[DHCP IP 予約のリスト] 入力変数 (続く)

変数	説明
	注: このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。
view	Infoblox ネットワーク ビューの名前。デフォルト値は デフォルト です。 注: フィールドが空の場合、操作はビューなしで行われ、すべてのビューからデータを含む値が返されます。

出力変数

[DHCP IP 予約のリスト] 出力変数

変数	説明
参照	この形式による DHCP アドレス範囲のアレイの参照値。範囲/<暗号化コード>:<開始範囲>/<終了範囲>/デフォルト
ネットワーク	IP アドレス範囲を含むネットワークのアドレス。
network_view	ネットワークに関連付けられたルーティング ドメインが戻されました。

条件

[DHCP IP 予約のリスト] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが正常に DHCP IP アドレス範囲のアレイを返しました。
失敗	アクティビティが DHCP IP アドレス範囲のアレイを返すことができませんでした。

Infoblox DNS アクティビティ

Infoblox DNS アクティビティは、Infoblox DDI グリッド サーバーを使用してネットワーク内の DNS レコードを管理します。

次のアクティビティを使用すると、Infoblox サーバーで管理されている DNS レコードを登録、リスト表示、または削除できます。

[DNS C レコードリスト表示] アクティビティ

[DNS C レコードリスト表示] アクティビティは、指定された Infoblox サーバーからすべての標準 (CNAME) レコードを取得します。

DNS アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI グリッド サーバー で DNS レコードを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > **[DNS]** に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[DNS C レコードリスト表示] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 **注:** このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。
view	Infoblox ネットワーク ビューの名前。デフォルト値は デフォルト です。 **注:** フィールドが空の場合、操作はビューなしで行われ、すべてのビューからデータを含む値が返されます。

出力変数

[DNS C レコードリスト表示] 出力変数

変数	説明
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。
参照	DNS CNAME レコードの参照値。例：`record:cname/ZG5zLmJpbmRfY25hbWUkLl9kZWZhdWx0LmNvbS50ZXN0LmNuYW1l:cname.test.com/default`
cannonicalName	CNAME レコード。
name	返されるネットワークオプションの名前 (例：*domain-name-server*)。
view	DNS データの割り当てられたビュー。特定のゾーンには複数のビューがあり、クエリーのソースの IP アドレスに応じてアクセスします。このアクティビティの DNS データの [デフォルト] ビューはネットワーク ビューです。

条件

[DNS C レコードリスト表示] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが DNS C レコードを正常にリスト表示しました。
失敗	アクティビティが DNS C レコードをリスト表示できませんでした。

[DNS A レコードの登録] アクティビティ

[DNS A レコードの登録] アクティビティは、指定された Infoblox サーバーに DNS A レコードを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

DNS アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI グリッド サーバー で DNS レコードを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > **[DNS]** に移動します。

入力変数

[DNS A レコードの登録] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
ネットワーク	レコードに登録する IP アドレス範囲を含むネットワークのアドレス。
hostName	このレコード内の IP アドレスに関連付けられている実際のサーバー マシンの名前。
zone	作成中のレコードに関連付けられている DNS ゾーン。
ipAddress	このレコードに登録されている特定の IP アドレス。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 **注:** このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。
view	Infoblox ネットワーク ビューの名前。デフォルト値は デフォルト です。 **注:** フィールドが空の場合、操作はデフォルト ビュー内のものとして扱われます。

出力変数

[DNS A レコードの登録] 出力変数

変数	説明
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。
DNSARecord	次の形式で表される登録済みレコードの名前：*record:host/<encrypted code>:<network name>/default*。

条件

[DNS A レコードの登録] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが DNS A レコードを正常に作成しました。
失敗	アクティビティが DNS A レコードを作成できませんでした。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[DNS C レコードの登録] アクティビティ

[DNS C レコードの登録] アクティビティは、指定された Infoblox サーバーに DNS (CNAME) 標準レコードを作成します。

DNS アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI グリッド サーバー で DNS レコードを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > **[DNS]** に移動します。

入力変数

[DNS C レコードの登録] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
cname	作成する DNS 標準レコード。*c_name* 値で表示します。
recordName	作成するレコードの名前。
zone	作成する標準レコードを含む DNS ゾーン。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 **注:** このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。
view	Infoblox ネットワーク ビューの名前。デフォルト値は デフォルト です。 **注:** フィールドが空の場合、操作はデフォルト ビュー内のものとして扱われます。

出力変数

[DNS C レコードの登録] 出力変数

変数	説明
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。
DNSCRecord	次の形式で表される登録済み CNAME レコードの名前：*record:cname/<encrypted code>:<network name>/default*。

条件

[DNS C レコードの登録] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが標準 DNS レコードを正常に作成しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[DNS C レコードの登録] 条件 (続く)

変数	説明
失敗	アクティビティが標準 DNS レコードを作成できませんでした。

[DNS レコードリスト表示] アクティビティ

[DNS レコードリスト表示] アクティビティは、特定の InfoBlox サーバー上のすべての DNS エントリーのリストを生成します。

DNS アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI グリッド サーバー で DNS レコードを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > **[DNS]** に移動します。

入力変数

[DNS レコードリスト表示] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 **注:** このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。
view	Infoblox ネットワーク ビューの名前。デフォルト値は デフォルト です。 **注:** フィールドが空の場合、操作はビューなしで行われ、すべてのビューからデータを含む値が返されます。

出力変数

[DNS レコードリスト表示] 出力変数

変数	説明
参照	DNS レコードの参照値。例：`record:cname/ZG5zLmJpbmRfY25hbWUkLl9kZWZhdWx0LmNvbS50ZXN0LmNuYW1l:cname.test.com/default`
configure_for_dhcp	DHCP 固定アドレス オブジェクトのステータスを返します。
host	DNS レコードが関連付けられているホスト マシン。
ipv4addr	DNS レコードに関連付けられた予約済み IPv4 アドレス。
name	返されるネットワーク オプションの名前。たとえば、参照 例の DNS レコードオブジェクトの名前は *cname.test.com* です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[DNS レコードリスト表示] 出力変数 (続く)

変数	説明
view	DNS データの割り当てられたビュー。特定のゾーンには複数のビューがあり、クエリーのソースの IP アドレスに応じてアクセスします。このアクティビティの DNS データの [デフォルト] ビューはネットワーク ビューです。
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。

条件

[DNS レコードリスト表示] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが使用可能なすべての DNS レコードを正常にリスト表示しました。
失敗	アクティビティが使用可能な DNS レコードリスト表示に失敗しました。

[DNS の削除] アクティビティ

[DNS の削除] アクティビティは、C および A レコードなど、Infoblox サーバーから任意のタイプの DNS レコードを削除します。

DNS アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI グリッド サーバー で DNS レコードを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > **[DNS]** に移動します。

注: 削除されたレコードを復元するよりも新しいレコードを作成するほうが簡単です。

入力変数

[DNS の削除] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
RecordToDelete	削除する DNS レコードの名前。レコードは次の形式で表示されます。 *record:cname/ZG5zLmJpbmRfY25hbWUkL19kZWZhdWx0LmNvbS50ZXN0LmNuYW1l:cname.test.com/default*
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 **注:** このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力変数

[DNS の削除] 出力変数

変数	説明
DeletedRecord	削除された DNS レコードの名前。
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。

条件

[DNS の削除] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが指定された DNS レコードを正常に削除しました。
失敗	アクティビティが指定された DNS レコードの削除に失敗しました。

[Infoblox IPAM] アクティビティ

[Infoblox IPAM] アクティビティは、Infoblox DDI グリッド サーバーを使用してネットワーク内の IP アドレスを管理します。

次のアクティビティを使用すると、IP アドレスを登録、予約、リスト表示、または削除できます。

[IPAM IP アドレスを登録] アクティビティ

[IPAM IP アドレスを登録] アクティビティは、Infoblox IPAM を使用してネットワークに IP アドレスを登録します。

このアクティビティの出力は InfoBlox IP アドレス レコードを生成します。これは、次の形式の他の IPAM 関数で使用できます。`fixedaddress/<暗号化キー>:<予約済み IP アドレス>/<ビュー>`。

IPAM アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI グリッド サーバー で IP アドレスを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > **[IPAM]** に移動します。

入力変数

[IPAM IP アドレスを登録] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
macAddress	この IP アドレスが登録されているコンピュータの Mac アドレス。
ipAddress	登録する特定の IP アドレス。
ネットワーク	登録された IP アドレスを含むネットワークのアドレス。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[IPAM IP アドレスを登録] 入力変数 (続く)

変数	説明
	注: このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。
view	Infoblox ネットワーク ビューの名前。デフォルト値は デフォルト です。 注: フィールドが空の場合、操作はデフォルト ビュー内のものとして扱われます。

出力変数

[IPAM IP アドレスを登録] 出力変数

変数	説明
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。
IPAddressRecord	登録された IP アドレスの IPAM レコード。

条件

[IPAM IP アドレスを登録] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが指定された IP アドレスを正常に登録しました。
失敗	アクティビティが指定された IP アドレスを登録できませんでした。

[IPAM IP アドレスを予約] アクティビティ

[IPAM IP アドレスを予約] アクティビティは、Infoblox IPAM を使用してネットワーク内の IP アドレスを予約します。

このアクティビティの出力は InfoBlox IP アドレス レコードを生成します。これは、次の形式の他の IPAM 関数で使用できます。`fixedaddress/<暗号化キー>:<予約済み IP アドレス>/<ビュー>`。

IPAM アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI グリッド サーバー で IP アドレスを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > **[IPAM]** に移動します。

入力変数

[IPAM IP アドレスを予約] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
macAddress	この IP アドレスが予約されているコンピュータの Mac アドレス。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[IPAM IP アドレスを予約] 入力変数 (続く)

変数	説明
ネットワーク	予約された IP アドレスを含むネットワークのアドレス。Infoblox サーバーは、このネットワークから次に利用可能な IP アドレスを予約します。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 **注:** このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。
view	Infoblox ネットワーク ビューの名前。デフォルト値は デフォルト です。 **注:** フィールドが空の場合、操作はデフォルト ビュー内のものとして扱われます。

出力変数

[IPAM IP アドレスを予約] 出力変数

変数	説明
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。
IPAddressRecord	予約された IP アドレスの IPAM レコード。
IPAddress	予約する IP アドレスを選択します。

条件

[IPAM IP アドレスを予約] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが指定された IP アドレスを正常に予約しました。
失敗	アクティビティが指定された IP アドレスを予約できませんでした。

[IPAM IP 予約のリスト] アクティビティ

[IPAM IP 予約のリスト] アクティビティは、指定された InfoBlox サーバー内のすべての IP アドレスのアレイを戻します。

IPAM アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI グリッド サーバー で IP アドレスを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > **[IPAM]** に移動します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[IPAM IP 予約のリスト] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 注: このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。
view	Infoblox ネットワーク ビューの名前。デフォルト値は デフォルト です。 注: フィールドが空の場合、操作はビューなしで行われ、すべてのビューからデータを含む値が返されます。

出力変数

このアクティビティの出力は、次の形式で予約済み IP アドレスのアレイを生成します。`fixedaddress/<暗号化キー>:<予約済み IP アドレス>/<ビュー>`。

[IPAM IP 予約のリスト] 出力変数

変数	説明
参照	アドレスのアレイに含まれる予約済み IP アドレスの参照値。`fixedaddress/ZG5zLmZpeGVkX2FkZHJlc3MkMTAuMC4xMDMuMTEuMC4u:0.0.0.11/default" ipv4addr: "0.0.0.11"`
ipv4addr	予約済み IPv4 アドレス。
network_view	ネットワークに関連付けられたルーティング ドメインが戻されました。
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。

条件

[IPAM IP 予約のリスト] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが Infoblox サーバーから予約済み IP アドレスのリストを正常に取得しました。
失敗	アクティビティが Infoblox サーバーから予約済み IP アドレスのリストを取得できませんでした。

[IPAM の削除] アクティビティ

[IPAM の削除] アクティビティは、指定された InfoBlox サーバー内の IP アドレスを削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

IPAM アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI グリッド サーバー で IP アドレスを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > **[IPAM]** に移動します。

入力変数

[IPAM の削除] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
itemToDelete	次の形式で IP アドレスを削除します。`fixedaddress/<暗号化キー>:<予約済み IP アドレス>/<ビュー>`。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 **注:** このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。

出力変数

[IPAM の削除] 出力変数

変数	説明
DeletedRecord	削除された IP アドレスの IPAM レコード。
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。

条件

[IPAM の削除] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが指定された IP アドレスを正常に削除しました。
失敗	アクティビティが指定された IP アドレスを削除できませんでした。

Infoblox ネットワーク アクティビティ

Infoblox ネットワーク アクティビティは、Infoblox DDI グリッド サーバーを使用してネットワークを管理します。

次のアクティビティを使用すると、Infoblox サーバー上のネットワークを作成、リスト表示、または削除できます。

[ネットワークを作成] アクティビティ

[ネットワークを作成] アクティビティは、指定した Infoblox サーバーに新しいネットワークを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ネットワーク アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI グリッド サーバー でネットワーク アドレスを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > [ネットワーク] に移動します。

入力変数

[ネットワークを作成] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
ネットワーク	作成するネットワークのアドレス。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 **注:** このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。
view	Infoblox ネットワーク ビューの名前。デフォルト値は デフォルト です。 **注:** フィールドが空の場合、操作はデフォルト ビュー内のものとして扱われます。

出力変数

[ネットワークを作成] 出力変数

変数	説明
NetworkCreated	作成されたネットワークのアドレス。
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。

条件

[ネットワークを作成] 条件

変数	説明
成功	アクティビティがネットワークを正常に作成しました。
失敗	アクティビティがネットワークを作成できませんでした。

[ネットワークの詳細情報を取得] アクティビティ

[ネットワークの詳細情報を取得] アクティビティは、Infoblox サーバー上の特定のネットワークに関する情報を取得します。

ネットワーク アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI グリッド サーバー でネットワーク アドレスを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > [ネットワーク] に移動します。

入力変数

[ネットワークの詳細情報を取得] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
ネットワーク	詳細を確認するネットワークのアドレス。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 **注:** このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。
view	Infoblox ネットワーク ビューの名前。デフォルト値は デフォルト です。 **注:** フィールドが空の場合、操作はデフォルト ビュー内のものとして扱われます。

出力変数

このアクティビティの出力変数は、ネットワークの詳細を特定するために使用される Infoblox サーバー上のオブジェクトです。詳細については、Infoblox のマニュアルを参照してください。

[ネットワークの詳細情報を取得] 出力変数

変数	説明
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。
NetworkOptions	*NetworkOptions* アレイには次の属性が含まれます。 • *reference*：要求されたネットワークの参照値。この値の形式は次のとおりです。`network/ZG5zLm5ldHdvcmskMTAuMS4wLjAvMTYvMA:10.1.0.0%2F1` • *options*：*options* アレイには次の属性が含まれます。 ◦ *name*：返されるネットワークオプションの名前 (例：*domain-name-server*)。 ◦ *num*：オプションのインデックス番号。たとえば、*domain-name-server* のインデックスは *6* です。 ◦ *use_option*：DHCP オプションをネットワーク階層のこのレベルで使用するかどうかを示します。この値を **True** に設定すると、グリッド レベルの DHCP オプションがネットワーク レベルでこのオプションに上書きされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ネットワークの詳細情報を取得] 出力変数 (続く)

変数	説明
	◦ *value*：このオプションに使用する値。たとえば、*domain-name-server* オプションの値はサーバーマシンの IP アドレスです。 ◦ *vendor_class*：ネットワークオブジェクトのクラス。オプションには、**DHCP**、**DNS**、または **IPAM** があります。

条件

[ネットワークの詳細情報を取得] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが Infoblox サーバーからネットワークの詳細情報を正常に取得しました。
失敗	アクティビティが Infoblox サーバーからネットワークの詳細情報を取得できませんでした。

[ネットワークの削除] アクティビティ

[ネットワークの削除] アクティビティは、Infoblox サーバーからネットワークを削除します。

ネットワーク アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI グリッド サーバー でネットワーク アドレスを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > [ネットワーク] に移動します。

入力変数

[ネットワークの削除] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
networkToDelete	Infoblox サーバーから削除するネットワークの参照番号。この値を取得するには、[登録されたネットワークをリスト] アクティビティを使用するか、[ネットワークを作成] アクティビティを使用してネットワークを作成します。ネットワークの参照値の例：*network/ZG5zLm5ldHdvcmskMTUuMC40NS4wLzI0LzA:15.0.45.0/24/default*。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 **注:** このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力変数

[ネットワークの削除] 出力変数

変数	説明
DeletedNetwork	Infoblox サーバーから削除したネットワークの参照番号。
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。

条件

[ネットワークの削除] 条件

変数	説明
成功	アクティビティがネットワークを正常に削除しました。
失敗	アクティビティがネットワークを削除できませんでした。

[登録されたネットワークをリスト] アクティビティ

[登録されたネットワークをリスト] アクティビティは、Infoblox サーバーに関連付けられているすべてのネットワークを取得します。

ネットワーク アクティビティでは、REST Web サービスアクティビティテンプレートを使用して Infoblox DDI グリッド サーバー でネットワーク アドレスを管理します。これらのアクティビティは、REST 機能を備えた MID サーバーを使用できるように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択し、[カスタムアクティビティ] > **[Infoblox DDI]** > [ネットワーク] に移動します。

入力変数

[アクティビティ] 入力変数

変数	説明
InfobloxServer	Infoblox DDI グリッド サーバーの名前。
restCredentials	ServiceNow インスタンスの REST 認証情報の sys_id。
api_version	統合エンドポイントに使用する WAPI のバージョンを定義します。デフォルト値は **2.0** です。 **注:** このフィールドは必須です。フィールドが空の場合、オーケストレーションアクティビティは失敗します。
view	Infoblox ネットワーク ビューの名前。デフォルト値は デフォルト です。 **注:** フィールドが空の場合、操作はビューなしで行われ、すべてのビューからデータを含む値が返されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力変数

[アクティビティ] 出力変数

変数	説明
参照	登録されたネットワークの参照値。
ネットワーク	ネットワーク アドレス。
network_view	ネットワークに関連付けられたルーティング ドメインが戻されました。
エラー	発生した REST エラーのメッセージを表示します。

条件

アクティビティ条件

変数	説明
成功	アクティビティが Infoblox サーバーで利用可能な登録済みネットワークのリストを正常に取得しました。
失敗	アクティビティが Infoblox サーバーで利用可能な登録済みネットワークのリストを取得できませんでした。

PowerShell アクティビティパック

PowerShell は Windows .NET Framework をベースとして開発されたもので、Windows マシンとアプリケーションの管理のコントロールおよび自動化を目的としています。

オーケストレーションは、PowerShell アクティビティデザイナーテンプレートで作成されたカスタム PowerShell アクティビティを提供します。これらのアクティビティは、以前のリリースと同じ名前で PowerShell アクティビティと同じ機能を実行し、すべての新しいワークフローのこれらのアクティビティを置き換えます。このカスタムアクティビティにより、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

> **注:** 従来の PowerShell アクティビティで作成された以前のバージョンの既存のワークフローは、 Geneva にアップグレードすると正常に機能し続けます。ただし、すべての新しいワークフローでこれらのカスタム PowerShell アクティビティを使用する必要があります。

Yokohama リリース以降、PowerShell アクティビティパックには、次の更新があります。

- 統合ハブ 機能を活用する新しい PowerShell プローブ (V2)
- PowerShell スクリプトにデバッグ ステートメントを挿入し、実行時に結果メッセージを生成する機能

PowerShell カスタムアクティビティを使用するには、オーケストレーション - PowerShell プラグインのアクティブ化を要求する必要があります。これらのアクティビティは、[カスタム] タブのワークフローエディターで使用できます。[カスタムアクティビティ] ツリーを展開し、使用するアクティビティで [PowerShell] カテゴリーを選択します。

ServiceNow は PowerShell 3.0 ～ 5.1 をサポートしています。

PowerShell アクティビティデザイナー

PowerShell アクティビティは、Microsoft PowerShell を使用してホストからワークフローにデータを返すように設定されています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このテンプレートを使用するには、クラシックオーケストレーションを購入する必要があります。アクティビティデザイナーでのツールの使用の詳細については、次のリソースを参照してください。

- オーケストレーションアクティビティデザイナー
- 入力変数を作成する
- 解析ルールを作成する

ServiceNow は PowerShell 3.0 ～ 5.1 をサポートしています。

PowerShell プロトコルとトラブルシューティング

PowerShell は、Windows Management Instrumentation (WMI) および Windows Remote Management (WinRM) プロトコルを使用して、オーケストレーションアクティビティがリモート Windows ホストでコマンドを実行できるようにします。

Windows Management Instrumentation (WMI)

WMI は、コンピュータ システム、ネットワーク、またはエンタープライズから管理データを取得するローカルやリモートのアプリケーションまたはスクリプトに対して、統一されたインターフェイスを提供します。WMI には次のコンポーネントが含まれます。

- 管理対象オブジェクトと **WMI** プロバイダー：WMI プロバイダーは、WMI の 1 つまたは複数の管理対象オブジェクトを監視する COM オブジェクトです。管理対象オブジェクトは、ハード ディスク ドライブ、ネットワーク アダプタ、データベースシステム、オペレーティング システム、プロセス、サービスなどの論理的または物理的なエンタープライズ コンポーネントです。
- **WMI** インフラストラクチャ：WMI インフラストラクチャは、WMI サービス (winmgmt) とも呼ばれる Microsoft Windows オペレーティング システム コンポーネントです。WMI インフラストラクチャは WMI コアと WMI リポジトリで構成されています。WMI リポジトリは、WMI 名前空間によって編成されています。WMI サービスは、システム起動時に、`root\default`、`root\cimv2`、`root\subscription` などの名前空間を作成し、Win32 クラスや WMI システム クラスなどのクラス定義のデフォルト セットをプリインストールします。システム上に存在する残りの名前空間は、オペレーティング システムまたは製品の他の部分のプロバイダーによって作成されます。
- **WMI**のコンシューマ：WMI コンシューマは、WMI インフラストラクチャとやり取りする管理アプリケーションまたはスクリプトです。管理アプリケーションは、WMI の COM API またはスクリプト API のいずれかを呼び出して、クエリーを実行したり、データを列挙したり、プロバイダー メソッドを実行したり、イベントを登録したりすることができます。

WMI のインストールと構成

MID サーバーがターゲット ホストに対して正常にリモート接続するには、TCP ポート 135 を開けておく必要があります。Windows ファイアウォールは Windows Management Instrumentation (DCOM-In) と呼ばれる WMI 接続用の受信ルールを自動的に作成します。

Windows Remote Management (WinRM)

WinRM は、WS 管理プロトコル、さまざまなベンダーのハードウェアとオペレーティング システムが相互運用できるようにする標準の Simple Object Access Protocol (SOAP) プロトコルの Microsoft 実装です。

WinRM には次のコンポーネントが含まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- **WinRM** スクリプト **API**：このスクリプト API を使用すると、オーケストレーションは WS 管理プロトコル操作を実行するスクリプトを使用し、リモート コンピュータからデータを取得できます。
- **WMI** サービス：WMI サービスは WinRM と並行して実行され続け、要求されたデータまたは制御を WMI プラグインを介して提供します。データの取得は、Win32_Process などの標準 WMI クラスから引き続き行えます。

WinRM 構成

WinRM は Windows 2008 R2 以降のオペレーティング システムで自動的にインストールされますが、使用前に設定する必要があります。

1. コマンド プロンプトで **winrm quickconfig** と入力します。このコマンドは大文字と小文字を区別しません。
2. コンソールに [これらの変更を行いますか **[y/n]?]** と表示された場合は、**[y]** と入力します。

   `winrm quickconfig` コマンドは次の操作を実行します。

   - WinRM サービスを開始し、サービスのスタートアップ タイプを [自動スタート] に設定します。
   - 任意の IP アドレスで HTTP または HTTPS のいずれかを使用して、WS 管理プロトコルを送受信するポートのリスナーを設定します。
   - 現在のユーザー プロファイルのファイアウォール例外を作成します。

MID サーバーの PowerShell ファイル

PowerShell 関数は、PowerShell スクリプト モジュール (*.psm1) ファイル名拡張子を使用するスクリプトファイル (*.ps1) に保存されます。

PowerShell 関数は、次のアクティビティパックに含まれる PowerShell MID サーバースクリプト ファイルによって使用されます。

- Active Directory
- Exchange
- SCCM
- PowerShell

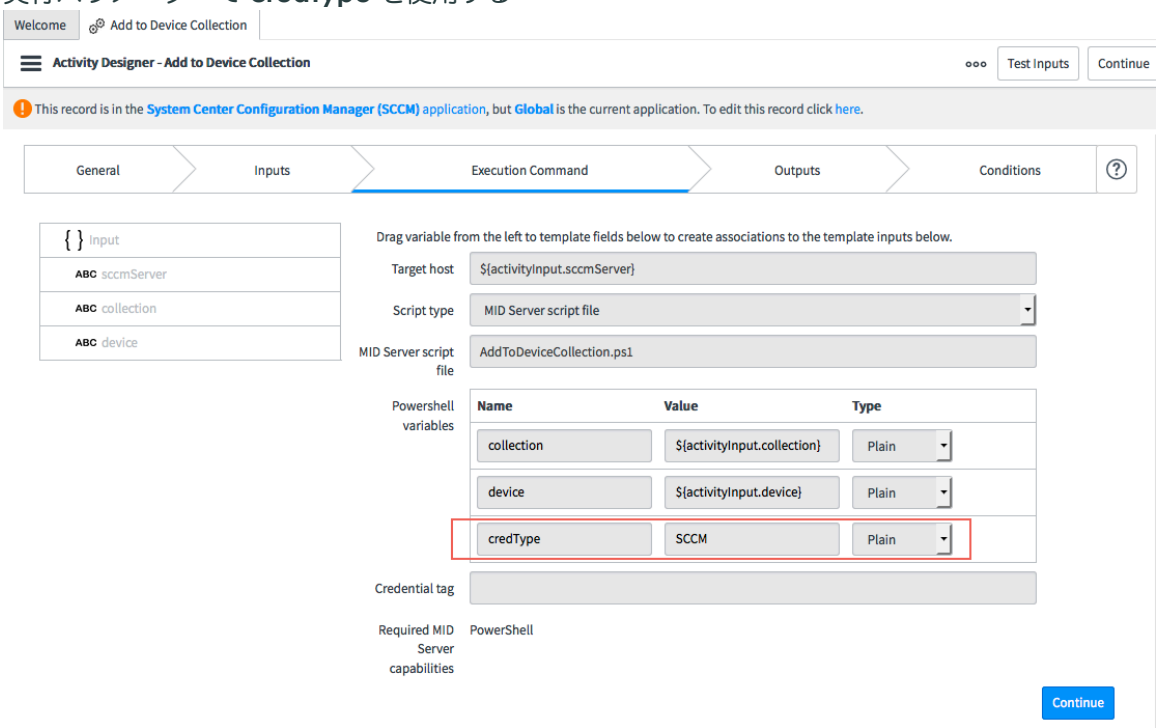
PSScript.ps1

このスクリプトは、認証情報のテスト、パスワードの暗号化、オーケストレーションアクティビティ デザイナーまたは MID スクリプトファイルで設定されたスクリプトの実行など、いくつかのタスクを実行します。ただし、この文書は、PSScript.ps1 がリモート ホストへのアクセスをテストするために `credential.psm1` モジュールを使用する方法について説明します。

通常、PowerShell 変数は、PowerShell 実行コマンドで直接使用するか、指定した MID サーバースクリプトファイルの引数として使用します。*`credType`* など、PSScript.ps1 に渡される特別な変数があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

実行パラメーターで **credType** を使用する



PowerShell credTypes

PowerShell 認証情報タイプ：

タイプ	説明
WMI	testCredentialWMI
Exchange	testCredentilExchange
AD	testCredentilAD
SCCM	testCredentilSCCM

PSScrip.ps1 スクリプトに認証情報タイプが渡されない場合、MID サーバーは、ターゲット ホストへのアクセスをテストするために WMI テスト関数をデフォルトに設定します。認証情報タイプを使用する場合、MID サーバーはその認証情報タイプに対応するテスト関数を実行します。

終了コード

次の終了コードは、PSScript.ps1 スクリプトから返され、MID サーバーのログ ファイルに記録されます。

PSScript.ps1 終了コード

タイプ	テスト関数
0	PowerShell コマンド/スクリプトが正常に実行されました。
1	テストは正常に終了しましたが、コマンド/スクリプトの実行に失敗しました。
2	不正な構文がスクリプトに渡されました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PSScript.ps1 終了コード (続く)

タイプ	テスト関数
3	MID サーバーサービス アカウントを含むすべての認証情報がコマンド/スクリプトを実行できませんでした。
4	テストに合格し、アクティビティを実行しましたが、エラーが返されました。ユーザーの例が見つかりません。

DiagnosticsUtil.psm1

MID サーバーはこのモジュール ファイルを使用して、PowerShell スクリプトを使用してオーケストレーションアクティビティのデバッグをサポートする PowerShell ロギングを実行します。デバッグステートメントをカスタム スクリプトに直接追加することもできます。

PowerShell 診断ユーティリティ

ユーティリティ	説明
SNCLog-DebugInfo	PowerShell スクリプトまたは PowerShell オーケストレーションアクティビティ用のデバッグメッセージを記録します。例： • `SNCLog-DebugInfo -message "My debug message..."` • `SNCLog-DebugInfo "My debug message"`
SNCLog-ParameterInfo	関数のパラメーター値を記録します。`"function getHostName{ param( [String] $target )"` の場合、PowerShell ハッシュテーブルは、実行する関数を示す文字列と、それぞれの関数パラメーターの値です。例： • 単一パラメーターを持つ関数：`SNCLog-ParameterInfo @("Running getHostName", $target)` 注: デバッグ メッセージは、`'Running getHostName $target:[actual value of $target]'` となります。 • 複数のパラメーターを持つ関数：`SNCLog-ParameterInfo @("Running functionName", $param1, $param2, $param3)`
SNCObfuscate-Value	セキュリティ上の理由から値を暗号化するには、このユーティリティを使用します。関数には `"$variableName":***` と表示されます。*** は難読化された値です。例：

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PowerShell 診断ユーティリティ (続く)

ユーティリティ	説明
	`SNCObfuscate-Value $password` 注: デバッグ メッセージは `"$password : ***"` となります。

Credentials.psm1

MID サーバーはこのモジュール ファイルを使用して、ターゲット ホストへのアクセスをテストします。MID サーバーは、PowerShell アクティビティで認証情報タイプ **credType** が定義されるまで、次のアクセス タイプ関数を使用して自身の認証情報テーブル内に保存されているすべての Windows 認証情報間をループします。ServiceNow® で作成されたすべての PowerShell アクティビティは、特定の認証情報タイプを使用するようにハードコードされています。その結果、MID サーバーは指定された関数に対する認証情報アクセスのみをテストします。

PowerShell のテスト関数

関数	説明
testCredentialWMI	*Get-WMI* オブジェクトを使用して、ターゲット ホストで指定されたユーザーとパスワードをテストします。
testCredentilAD	組み込まれている *DirectoryEntry* オブジェクトを使用して、ターゲットホストで指定されたユーザーとパスワードをテストします。
testCredentialExchange	指定されたユーザーとパスワードをテストして Exchange ホストでセッションを作成します。このテストでは、リモート ホストで組み込まれている PowerShell リモート機能を使用します。WinRM は Exchange サーバー上にデフォルトで設定されます。
testCredentialSCCM	指定されたユーザーとパスワードをテストして、SCCM サーバーでセッションを作成します。このテストでは、リモート ホストで組み込まれている PowerShell リモート機能を使用します。このテストでは、WinRM を設定する必要があります。
testNoCredentialAccessWMI	*Get-WMI* オブジェクトを使用して、ターゲット ホストで指定されたユーザーとパスワードをテストします。**credType** が使用されない場合にこのテストを使用します。

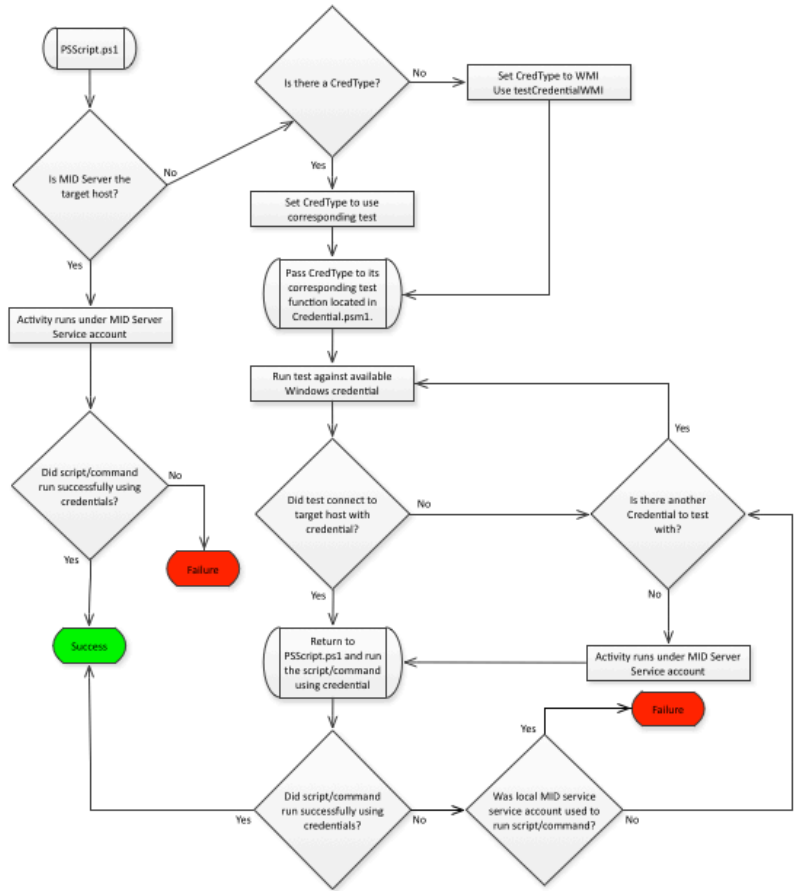
注: これらの機能のいずれかを使用してテストに合格すると、その認証情報が PowerShell スクリプト/コマンドの実行に使用されます。これらの機能を使用してターゲット ホストへのアクセスのテストに失敗した場合、MID サーバーは MID サーバーサービスのアカウントで PowerShell スクリプト/コマンドを実行します。

次の図は、PowerShell アクティビティの対象となるホストでの認証情報の選択動作の依存関係を示しています。ターゲット ホストが MID サーバーの IP アドレスまたはホスト名の場合、MID サーバーは認証情報テーブルのすべての認証情報をバイパスし、MID サーバーサービスのアカウントを使用します。ターゲット ホストが MID サーバーではない場合、すべての Windows 認証情報が最初

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

に使用されます。PowerShell アクティビティの実行時に認証情報テーブルのすべての認証情報が失敗した場合、MID サーバーは MID サーバーサービス アカウントを使用します。

PowerShell 認証情報の選択基準



ActiveDirectory.psm1

このモジュール ファイルには、Active Directory アクティビティパックに付属する PowerShell スクリプトで使用される関数が保存されています。

Exchange.psm1

このモジュール ファイルには、Exchange アクティビティパックに付属する PowerShell スクリプトで使用される関数が保存されています。

SCCM.psm1

このモジュール ファイルには、SCCM アクティビティパックに付属する PowerShell スクリプトで使用される関数が保存されています。

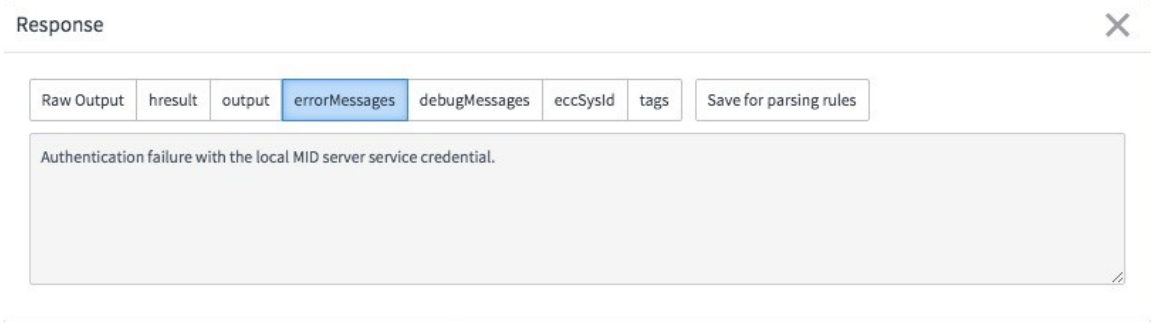
PowerShell のトラブルシューティング

認証とアクセス拒否のエラーにより、PowerShell アクティビティがターゲット ホストでコマンドを実行できなくなる可能性があります。

オーケストレーション PowerShell アクティビティによる認証エラー、リモート プロシージャ コール (RPC) サーバーが使用できない場合、またはアクセスが拒否された場合のトラブルシューティングに次の手順を使用します。ローカル MID サーバーサービス アカウントの認証情報を含む、すべての認証情報に Powershell スクリプト/コマンドの実行に適したアクセス権限がない場合、認証失敗エラーが表示されます。ターゲット ホストに到達できない場合、同じエラーが表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

認証エラーメッセージ



Active Directory アクティビティの認証エラー

次の例では、[AD オブジェクトを作成] アクティビティを使用して、PowerShell の認証エラーのトラブルシューティングを説明します。

始める前に

必須ロール：Active Directory のアカウントにアクセスおよび作成する権限

このタスクについて

使用しているアカウントにアクティビティの実行に適した権限があることを確認します。

手順

1. アクティビティを実行するアカウントを使用してターゲット マシンにログオンします。
   このマシンに Active Directory ツールをインストールする必要があります。
2. Active Directory のユーザーとコンピュータのアプリケーションを起動します。
3. Active Directory オブジェクトを作成する OU に移動します。
4. オブジェクトの作成を試みます。

   指定したユーザーでこの手順が成功した場合、認証失敗の原因は次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ユーザー名が無効です。
- 入力したパスワードが間違っています。
- ドメインコントローラーに到達できません。

注: このエラーの MID サーバーログにリストされているリターン コードの大部分は **1** および **3** です。これは、Active Directory アクティビティが WMI または WinRM ではなく ADSI プロバイダーを使用するためです。エラー コード **1** は、アカウントはテスト アカウントにコネクトしたけれども、スクリプトの実行に失敗したことを意味します。

```
Attempting to use credential with username 'service-now\joel.zamallo
Running command:-> C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powers
rShell\PSScript.ps1' -computer '10.11.144.230'   -script 'C:\Users\j
useCred $true -isDiscovery $false -debug $true; exit $LASTEXITCODE}"
Thread name is Powershell is executing...
The exit value from waitFor() is 1
The status code returned from running the command is 1
```

エラー コード **3** は、MID サーバーが MID サーバーサービス アカウントで PowerShell アクティビティを実行しようとしたけれども、失敗したことを意味します。

```
Worker-Standard:PowershellProbe DEBUG: Thread name is Powershell is executing...
Gobbling stdout: Powershell is executing... Gobbled: <powershell>
Gobbling stdout: Powershell is executing... Gobbled: <output>
Gobbling stdout: Powershell is executing... Gobbled: </output>
Gobbling stdout: Powershell is executing... Gobbled: </powershell>
Worker-Standard:PowershellProbe DEBUG: The exit value from waitFor() is 3
Worker-Standard:PowershellProbe DEBUG: The status code returned from running the command is 3
Worker-Standard:PowershellProbe DEBUG: Queuing Powershell Windows - Powershell (nodes: 3)
Worker-Standard:PowershellProbe Sending to queue: Powershell,Windows - Powershell (nodes: 3),1
Worker-Standard:PowershellProbe Document: <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?><results probe
<error>Authentication failure with the local MID server service credential.</error>
```

Exchange アクティビティの認証失敗

次の例では、[メールボックスの作成] アクティビティを使用して、PowerShell の認証エラーのトラブルシューティングを説明します。

始める前に

必須ロール：Exchange サーバー上のメールボックスにアクセスおよび作成する権限

手順

1. 使用しているアカウントに PowerShell アクティビティの実行に適した権限があることを確認します。
2. Exchange 管理シェル (EMS) がインストールされているマシンにログオンします。
3. `New-mailbox` Exchange コマンドレットを使用してユーザーを作成します。

Exchange で新しいユーザーを作成する

```
[PS] C:\Windows\system32>
[PS] C:\Windows\system32>
[PS] C:\Windows\system32>
[PS] C:\Windows\system32>
[PS] C:\Windows\system32>New-Mailbox -Name 'Test P. Smith' -Alias 'test.smith' -OrganizationalUnit 'discolab2.service-no
w.com/Managed Objects/Users/San Diego' -UserPrincipalName 'test.smith@discolab2.service-now.com' -SamAccountName 'test.s
mith' -FirstName 'Test' -Initials 'P' -LastName 'Smith' -Password 'System.Security.SecureString' -ResetPasswordOnNextLog
on $false_
```

指定した認証情報でこの手順が成功した場合、失敗の原因は次の可能性があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ユーザー名が無効です。
- 入力したパスワードが間違っています。
- Exchange サーバーに到達できません。

4. Exchange サーバーに到達できない場合は、MID サーバーログを調べます。
   Exchange アクティビティは WinRM を使用して Exchange サーバーにアクセスするため、ログにはトラブルシューティングの詳細情報が表示されます。

   注: このエラーは「**WinRM** が要求を処理できない」ことを示しているわけではないことを確認します。

リモート プロシージャ コール **(RPC)** サーバーが使用不可、またはアクセスが拒否される

通常、WinRM または WMI を使用する PowerShell スクリプト/コマンドを実行すると、このエラーが記録されます。

考えられるエラーの原因

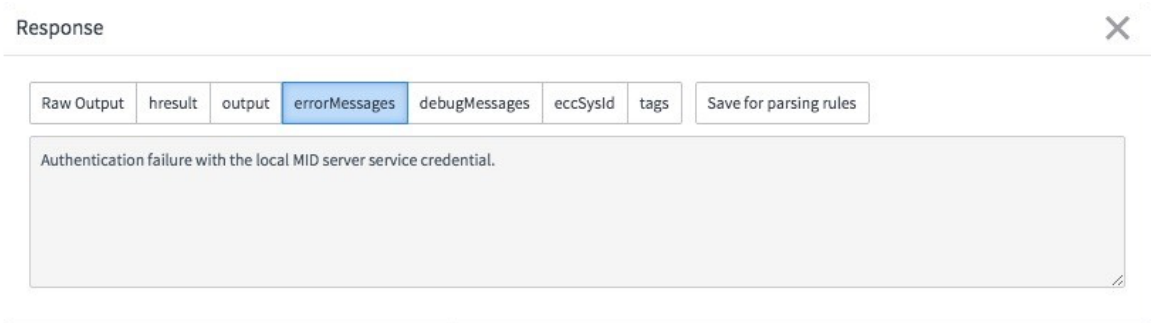
ターゲット ホストには、次のいずれかの問題があります。

- WinRM が設定されていません。
- ファイアウォールは、TCP ポート 135 (WMI) または HTTP/HTTPS と TCP ポート5985 (WinRM) を介したホストへのアクセスをブロックします。
- WMI を使用して複数のホストにホッピングすることで発生する Kerberos の問題。

WinRM エラーの例

Exchange アクティビティパックの [メールボックスの作成] アクティビティで、MID サーバーサービスの認証情報を使用した認証に関連する ECC キューにエラーが発生しました。これは、ターゲット ホストが MID サーバーでない場合、MID サーバーの認証情報が最後に使用されるために発生しました。

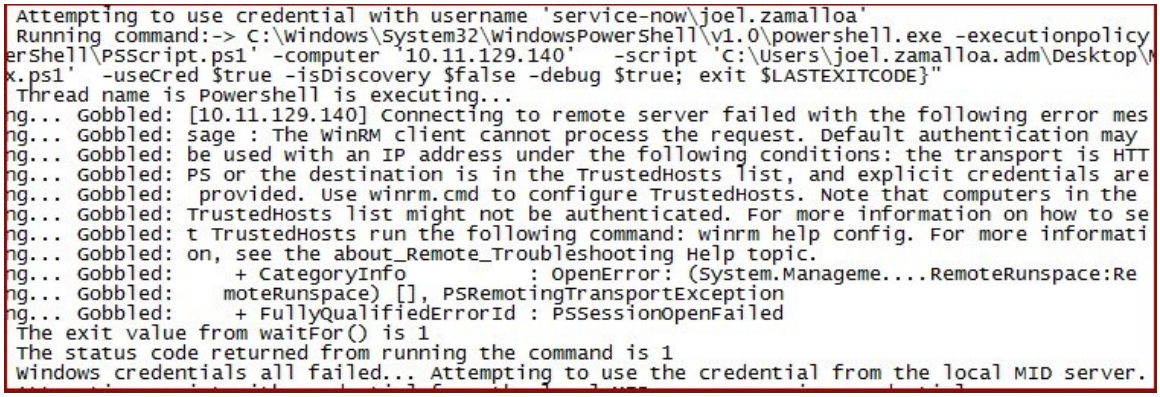
認証失敗エラーメッセージ



MID サーバーログは、MID サーバーが特定の認証情報でアクティビティを実行しようとしたけれども成功せず、終了コード 1 を受信したことを示しています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MID サーバーのエラー コード



[ドメインを統合] アクティビティ

[ドメインを統合] アクティビティは、Windows コンピュータをドメインに統合します。

コンピュータがすでにドメインのメンバーである場合、このアクティビティはコンピュータを変更せずに完了します。ドメインの統合にはユーザー名とパスワードが必要です。このユーザーには、ドメイン管理権限またはコンピュータをドメインに結合する権限を付与する必要があります。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Powershell アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

入力変数

[ドメインを統合] 入力変数

変数	説明
ホスト名	ドメインを統合する Windows サーバーのホスト名または IP アドレス。
ドメイン	結合するドメインの名前。
Domain_user	ドメイン管理権限またはコンピュータをドメインに結合させる権限を持つユーザーの名前。
Domain_user_password	ドメイン管理権限またはコンピュータをドメインに結合させる権限を持つユーザー用のパスワード。

出力変数

[ドメインを統合] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。この変数が NULL 以外の場合、操作は失敗します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[ドメインを統合] 条件

条件	説明
成功	アクティビティがコンピュータをドメインに統合させることに成功しました。
失敗	アクティビティがコンピューターをドメインに統合させることに失敗しました。

[Windows アプリケーションをインストール] アクティビティ

[Windows アプリケーションをインストール] アクティビティは、Windows ターゲット マシンの MSI パッケージからアプリケーションをインストールします。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Powershell アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは PowerShell アクティビティデザイナーで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

入力変数

[Windows アプリケーションをインストール] 入力変数

変数	説明
hostname	サービスがインストールされるターゲット Windows マシンのホスト名または IP アドレス。DNS の解決を使用する MID サーバー機能 を使用して、ホスト名を IP アドレスに解決します。
installerpath	インストーラーへのパス。インストーラーは、MID サーバーとターゲット マシン (ローカル ドライブ、UNC パス、マップされたドライブなど) の両方に表示される任意のマシン上に配置することができます。
インストーラー	インストーラー ファイルの名前 (例：`winzip150.msi`)。インストーラーは MSI パッケージにする必要があります。
arguments	MSI パッケージへのコマンド ライン引数を含むパラメーター。このような名前=値のペアは、スペースで区切られています。たとえば、引数は次のように表示されます。`INSTALLDIR=c:\myinstallfolder ADDDESKTOPICON=0`。このような引数は、実際にインストールされている MSI が定義するものによって異なります。引数がない場合は、フィールドを空のままにします。

出力変数

[Windows アプリケーションをインストール] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

アクティビティ状況は、ワークフロー エンジンがアクティビティを処理する方法を指示します。

[Windows アプリケーションをインストール] 条件

名前	説明
成功	Windows アプリケーションがターゲット マシンに正常にインストールされました。
失敗	Windows アプリケーションがターゲット マシンにインストールできませんでした

WMI Windows インストーラー プロバイダーを有効にする

[Windows アプリケーションをインストール] アクティビティを使用して Windows マシンにソフトウェアをインストールするには、すべてのターゲット マシンで WMI Windows インストーラー プロバイダーを有効にします。

始める前に

- MID サーバー、ターゲット マシン、およびインストーラー ソース マシンは、同じ Active Directory ドメイン上に配置することをお勧めします。ただし、これらのコンピュータが別々のドメイン上にある場合、それらのドメイン間で信頼関係を確立する必要があります。
- インストーラー パスが UNC ファイル共有 マシンである場合、ターゲット　コンピュータの Active Directory アカウントは、委任のために信頼される必要があります。この構成の手順については、Windows アプリケーションのインストールとアンインストール のコミュニティの投稿を参照してください。

このタスクについて

注: このツールをデフォルトで提供する Windows オペレーティング システムのリストについては、「WMI プロバイダー」を参照してください。

手順

1. コントロール パネルを開きます。
2. [プログラムの追加と削除] に移動します。
3. **[Windows** コンポーネントの追加と削除] を選択します。
4. [管理とモニタリング ツール] をダブルクリックします。

   この操作により、追加選択を表示するセカンダリ ウィンドウが開きます。
5. **[WMI Windows** インストーラー プロバイダー] チェック ボックスをオンにします。
6. **[OK]** をクリックして Windows コンポーネント ウィザード ウィンドウに戻ります。
7. [次へ **(Next)]** をクリックします。
   このプロセスを完了するには、Windows インストール CD を要求される場合があります。

[サービス状態を変更] アクティビティ

[サービス状態を変更] アクティビティは、リモート システム上の Windows サービスを開始または停止します。

このアクティビティによって、Istanbul より前のリリースで使用可能な同じ名前の Powershell アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Istanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは、Powershell アクティビティテンプレートを使用して

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

作成されました。これにより、ワークフローアドミニストレーターは、入力変数と出力変数をデータバスに保管できます。

入力変数

[サービス状態を変更] 入力変数

変数	説明
hostname	サービスがインストールされるターゲット Windows マシンのホスト名または IP アドレス。[DNS の解決] アクティビティを使用して、ホスト名を IP アドレスに解決します。
service	開始または停止する Windows サービスの名前。*service* パラメーターは、影響を受けるサービスの表示名ではなくサービス名です。
状況	サービス状態の変更には、**StartService** または **StopService** の 2 つのアクションがあります。

出力変数

[サービス状態を変更] 出力変数

変数	説明
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。エラーが発生しなかった場合、この値は null です。

条件

[サービス状態を変更] 条件

条件	説明
成功	ターゲット サービスが正常に開始または停止されました。
失敗	ターゲット サービスの更新に失敗したか、ターゲット システムでサービスが見つかりませんでした。

[Windows Server を再起動] アクティビティ

[Windows Server を再起動] アクティビティが停止してから、PowerShell を使用して Windows Server を再起動します。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Powershell アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは、Powershell アクティビティテンプレートを使用して作成されました。これにより、ワークフローアドミニストレーターは、入力変数と出力変数をデータバスに保管できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[Windows Server を再起動] 入力変数

変数	説明
ホスト名	再起動する Windows Server のホスト名または IP アドレス。

出力変数

[Windows Server を再起動] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。この変数が NULL 以外の場合、操作は失敗します。

条件

[Windows Server を再起動] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが Windows Server の再起動に成功しました。
失敗	アクティビティが Windows Server を再起動できませんでした。

[Windows アプリケーションをアンインストール] アクティビティ

[Windows アプリケーションをアンインストール] アクティビティは、Windows ターゲット マシンからアプリケーションをアンインストールします。

このアクティビティを使用してアンインストールできる唯一のアプリケーションは Windows インストーラーです。

注: このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の Powershell アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは、Powershell アクティビティテンプレートを使用して作成されました。これにより、ワークフローアドミニストレーターは、入力変数と出力変数をデータバスに保管できます。

入力変数

[Windows アプリケーションをアンインストール] 入力変数

変数	説明
hostname	アプリケーションをアンインストールする Windows ターゲット マシンのホスト名または IP アドレス。
product	Windows の [プログラムの追加と削除] に表示されるとおりにアンインストールするアプリケーションの名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力変数

[Windows アプリケーションをアンインストール] 出力変数

変数	説明
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。この変数が NULL 以外の場合、操作は失敗します。

条件

[Windows アプリケーションをアンインストール] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが Windows Server のアプリケーションのアンインストールに成功しました。
失敗	アクティビティが Windows Server のアプリケーションのアンインストールに失敗しました。

プローブアクティビティパック

オーケストレーションは、ServiceNow アクティビティデザイナーを使用してカスタマイズしたアクティビティパックを提供し、ターゲット ホストのプローブを実行して特定の情報を返します。

このようなカスタムアクティビティは プローブアクティビティを作成するで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

カスタム プローブアクティビティを使用するには、オーケストレーション- プローブ プラグインのアクティブ化を要求する必要があります。

[DNS 名の解決] アクティビティ

[DNS 名の解決] アクティビティは、IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を 1 つまたは複数の IP アドレスに解決します。

ドメイン名は MID サーバーを介してドメイン名システム (DNS) に送信され、名前が解決されます。単一の IP アドレスが返される場合は、*resolved_ip* と *resolved_ips* の 2 つの変数に格納されます。複数の IP アドレスが返される場合は、最初の IP アドレスが *resolved_ip* 変数に格納され、すべてのアドレスが *resolved_ips* 変数に格納されます。FQDN ではなく IP アドレスが提供される場合、このアドレスは両方の変数に直接出力されます。ServiceNow インスタンスは、このアクティビティを実行するために [DNS 名の解決] を使用するように設定された MID サーバーにアクセスできる必要があります。

このアクティビティは、Istanbul 以前のリリースで使用可能な同じ名前のアクティビティを置き換えます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Istanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは、プローブアクティビティテンプレートを使用して作成されました。これにより、ワークフローアドミニストレーターは、入力変数と出力変数をデータバスに保管できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[DNS 名の解決] 入力変数

変数	説明
FQDN	解決する完全修飾ドメイン名または IP アドレス。

出力変数

[DNS 名の解決] 出力変数

変数	説明
ip	解決済み DNS 名の最初の IP アドレス。
ips	解決済みの IP アドレスのカンマ区切りリスト。
result	次のいずれかになります。 • **resolved**：指定した DNS 名を解決できました。 • **unresolved**：指定した DNS 名を解決できませんでした。

条件

[DNS 名の解決] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが DNS 名を正常に解決しました。
失敗	アクティビティが DNS 名を解決できませんでした。

[SNMP クエリー] アクティビティ

[SNMP クエリー] アクティビティは SNMP デバイスをクエリーします。

ServiceNow インスタンスは、このアクティビティを実行するために SNMP を使用するように設定された MID サーバーにアクセスできる必要があります。

このアクティビティは、Istanbul 以前のリリースで使用可能な同じ名前のアクティビティを置き換えます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Istanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは、プローブアクティビティテンプレートを使用して作成されました。これにより、ワークフローアドミニストレーターは、入力変数と出力変数をデータバスに保管できます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[SNMP クエリー] 入力変数

変数	説明
hostname	クエリーされている SNMP デバイスのホスト名または IP アドレス。
oids	SNMP デバイスの識別に使用される一意のオブジェクト識別子のリスト。

出力変数

[SNMP クエリー] 出力変数

変数	説明
説明	SNMP オブジェクトの説明。
timeout	クエリーがタイムアウトしたかどうかを示すブーリアン値。
エラー	発生したエラーを示します。エラーが発生しなかった場合、この値は null です。
oid_data	すべての一意のオブジェクト識別子のデータ オブジェクトのアレイ。

条件

[SNMP クエリー] 条件

条件	説明
成功	アクティビティがターゲット デバイス上でクエリーを正常に実行しました。
失敗	アクティビティがターゲット デバイス上でクエリーを実行できませんでした。失敗の原因は、有効な認証情報がない、デバイスにアクセスできないことが考えられます。

SCCM アクティビティパック

Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) アクティビティパックは、SCCM サーバー上のソフトウェア展開およびコレクションを管理するために使用できるオーケストレーションアクティビティを提供します。

SCCM オーケストレーションアクティビティを使用すると、SCCM サーバーからソフトウェアを展開および取り消したり、ユーザーとデバイスのコレクションを管理したりすることができます。システムは、オーケストレーションのアクティビティとワークフローを使用して SCCM サーバー上のソフトウェアを管理します。

クライアント ソフトウェア ディストリビューションには、次のものが必要です。

- SCCM 2012 R2 以降。
- Powershell 3.x。
- Powershell リモート機能が有効になっている。
- Windows PowerShell x86 実行ポリシーが非制限モードに設定されている必要がある。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 最新バージョンの SCCM *cmdlet* ライブラリーが SCCM サーバーにインストールされている。
- 認証情報を使用して SCCM サーバーにログオンし、System Center Configuration Manager コンソールからWindows PowerShell を介して 1 回以上接続し、この認証情報のパス変数を設定する。

SCCM アクティビティを要求する

オーケストレーション - System Center Configuration Manager プラグインは、SCCM ホストからソフトウェアを展開し、ユーザーとデバイスのコレクションを管理する SCCM アクティビティパックをインストールします。

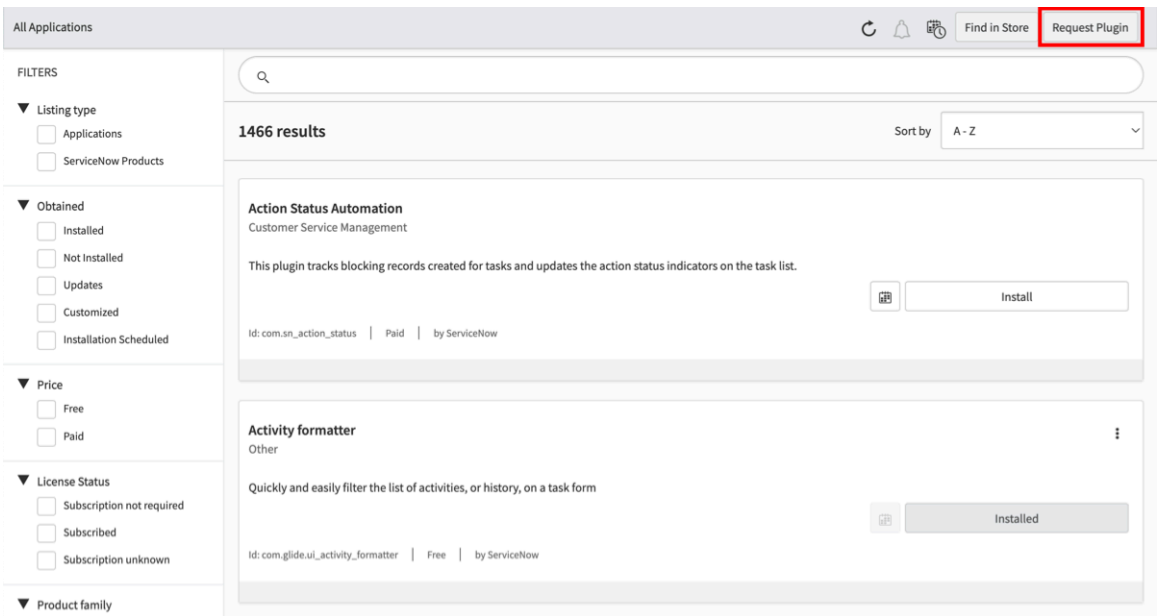
始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて
SCCM プラグインは、オーケストレーション - クライアント ソフトウェア ディストリビューション [com.snc.orchestration.sccm_mgnt] プラグインがアクティブ化されると自動的にアクティブ化されますが、個別にアクティブ化することもできます。

> **注:** SCCM プラグインのアクティビティは、System Center Configuration Manager のスコープで実行されます。

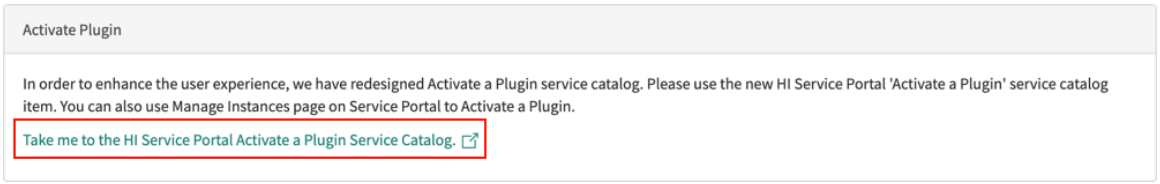
手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。
2. [すべてのアプリケーション] ページで [プラグインの要求] をクリックして、Now Support で [プラグインをアクティブ化] フォームを開きます。



3. Now Support で、Now Support サービスポータル サービスカタログ にアクセスするリンクを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



4. インスタンスを選択します。
5. [アクション] > [プラグインのアクティブ化] を選択します。
6. [プラグインのアクティブ化] フォームで、次の情報を入力します。

[プラグインのアクティブ化] フォーム

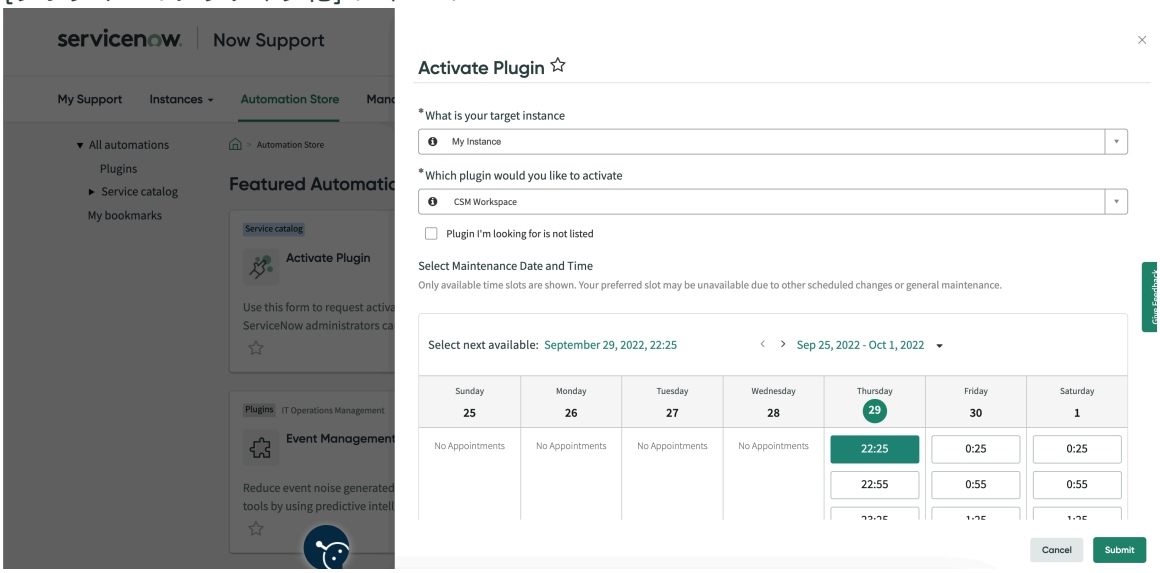
フィールド	説明
ターゲットインスタンスは何ですか	プラグインをアクティブ化するインスタンス。
どのプラグインをアクティブ化しますか	アクティブ化するプラグインの名前です。 **注:** 必要なプラグインが表示されない場合、または OEM またはオンプレミスのインスタンスでプラグインをアクティブ化している場合は、[探しているプラグインが表示されていません **(Plugin I'm looking for is not listed)]** チェックボックスをオンにして、プラグインの名前を入力します。
メンテナンスの日時を選択 (Select Maintenance Date and Time)	プラグインをアクティブ化する日時。 **注:** プラグインは、米国太平洋標準時で、毎営業日の朝と夕方の 2 回のバッチでアクティブ化されます。特定の時刻にプラグインをアクティブ化する必要がある場合は、[理由/コメント **(Reason/Comments)]** フィールドに要求を入力します。

Example

たとえば、 [自分のインスタンス (My Instance)] という名前のインスタンスで CSM Workspace プラグインをアクティブ化するには、次のフォームを参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[プラグインのアクティブ化] フォーム



7. [送信] を選択します。
   プラグインの要求に関するその他の詳細については、Now Support ナレッジベース の記事「サービスカタログからのプラグインの要求 (Requesting a Plugin from the サービスカタログ) (KB0751715)」を参照してください。

SCCM アクティビティ用の MID サーバーの構成

Microsoft System Center Configuration Management (SCCM) アクティビティで MID サーバーを使用するには、SCCM サーバーと通信するように構成します。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. ナビゲーションフィルターに **cmdb_ci_dns_name.list** と入力します。
2. [新規] をクリックします。
3. [名前] フィールドに SCCM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。
5. **[IP** アドレス] 関連リストで、[新規] をクリックします。
6. **[IP** アドレス] フィールドに、SCCM サーバーの IP アドレスを入力します。
7. **[Nic]** フィールドで、**[eth0]** または任意のネットワークインターフェイスコントローラーを選択します。
8. [ネットマスク] フィールドは空白のままにします。
9. [送信] をクリックします。

[デバイス コレクションに追加] アクティビティ

[デバイスコレクションに追加] アクティビティは、指定されたデバイスを Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) デバイス コレクションに追加します。

[デバイス コレクションに追加] アクティビティは、Powershell アクティビティテンプレートを使用して指定したデバイスを SCCM デバイス コレクションに追加します。アクティビティ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

は、PowerShell 機能を備えた MID サーバーを使用し、*AddToDeviceCollection.ps1* と呼ばれる MID サーバースクリプトを実行してコレクションを編集するように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[System Center Configuration Manager (SCCM)]** に移動します。

注: [デバイスコレクションに追加] アクティビティは、前処理スクリプトまたは後処理スクリプトを使用しません。

入力変数

[デバイス コレクションに追加] 入力変数

変数	説明
sccmServer	SCCM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
collection	デバイス コレクションの名前。
device	コレクションに追加するデバイスの名前。

出力変数

[デバイス コレクションに追加] 出力変数

変数	説明
output	ワークフロー内の他のアクティビティに渡される値を含む変数。
エラー	アクティビティ出力エラーメッセージを含む変数。

条件

[デバイス コレクションに追加] 条件

条件	説明
成功	アクティビティがデバイスを SCCM デバイス コレクションに正常に追加しました。
失敗	アクティビティがデバイスを SCCM デバイス コレクションに追加できませんでした。

[ユーザー コレクションに追加] アクティビティ

[ユーザー コレクションに追加] アクティビティは、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) ユーザー コレクションにユーザーを追加します。

[ユーザー コレクションに追加] アクティビティは、Powershell アクティビティテンプレートを使用して SCCM サーバーにアクセスします。アクティビティは、PowerShell 機能を備えた MID サーバーを使用し、*AddToUserCollection.ps1* と呼ばれる MID サーバースクリプトを実行してコレクションを編集するように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[System Center ConfigurationManager (SCCM)]** に移動します。

注: [ユーザー コレクションに追加] アクティビティは、前処理スクリプトまたは後処理スクリプトを使用しません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[ユーザー コレクションに追加] 入力変数

変数	説明
sccmServer	SCCM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
collection	ユーザー コレクションの名前。
ユーザー	コレクションに追加するユーザーの名前。

出力変数

[ユーザー コレクションに追加] 出力変数

変数	説明
output	ワークフロー内の他のアクティビティに渡される値を含む変数。
エラー	アクティビティ出力エラーメッセージを含む変数。

条件

[ユーザー コレクションに追加] 条件

成功	アクティビティがユーザーを SCCM ユーザー コレクションに正常に追加しました。
失敗	アクティビティがユーザーを SCCM ユーザー コレクションに追加できませんでした。

[アプリケーションを入手] アクティビティ

[アプリケーションを入手] アクティビティは、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーで使用可能なすべてのアプリケーションのリストを返します。

[アプリケーションを入手] アクティビティは、Powershell アクティビティテンプレートを使用して SCCM サーバーのアプリケーションにアクセスします。アクティビティは、PowerShell 機能を備えた MID サーバーを使用し、`GetApplications.ps1` と呼ばれる MID サーバースクリプトを実行するように設定されています。このスクリプトは GET の結果をフィルタリングするため、SCCM サーバーのアプリケーションに対して特定の属性のみが返されます。このような方法で結果をフィルタリングすることで、ペイロードのサイズを制御し、最適なアプリケーション データを提供します。使用可能なアプリケーションのリストは、JSON オブジェクトのアレイとして返されます。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[System Center ConfigurationManager (SCCM)]** に移動します。

注: [アプリケーションを入手] アクティビティでは、前処理スクリプトは使用されません。

入力変数

[アプリケーションを入手] 入力変数

変数	説明
sccmServer	SCCM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力変数

[アプリケーションを入手] アクティビティの出力変数には、*applications* と呼ばれるオブジェクトのアレイおよびエラーメッセージが含まれます。アレイ内の各オブジェクトには、次の表の属性が含まれます。

[アプリケーションを入手] 出力変数

変数	説明
applications	*applications* アレイには次の属性が含まれます。 • *id*：SCCM アプリケーションのプライマリーキー。 • *ciUniqueId*：SCCM アプリケーションの一意の ID。 • *name*：アプリケーションの名前。 • *manufacturer*：アプリケーションのメーカー。 • *version*：アプリケーションのバージョン。 • *isDeployable*：このアプリケーションが展開可能であるかどうかを示す true/false 値。 • *isDeployed*：このアプリケーションがすでに展開されているかどうかを示す true/false 値。 • *numberOfUsersWithApp*：このアプリケーションがインストールされたユーザーの数。 • *numberOfDevicesWithApp*：このアプリケーションがインストールされたデバイスの数。 • *application*：このアプリケーションで上記のデータ セットを含むオブジェクト。このスクリプトを使用し、必要に応じてこのセットから追加データを解析します。
エラー	アクティビティ出力エラーメッセージを含む変数。

条件

[アプリケーションを入手] 条件

変数	説明
成功	アクティビティが SCCM ホストで使用可能なアプリケーションのリストを正常に取得しました。
失敗	アクティビティが SCCM ホストで使用可能なアプリケーションのリストを取得できませんでした。

[展開を取得] アクティビティ

[展開を取得] アクティビティは、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーを使用してオーケストレーションによって実行された展開のリストを返します。

[展開を取得] アクティビティは、PowerShell アクティビティテンプレートを使用して SCCM サーバーの展開にアクセスします。アクティビティは、PowerShell 機能を備えた MID サーバーを使用し、ホストの展開を返す *GetDeployments.ps1* と呼ばれる MID サーバースクリプトを実行するように設定されています。このスクリプトは GET の結果をフィルタリングするため、SCCM サーバーの展開に対して特定の属性のみが返されます。このような方法で結果をフィルタリングすることで、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ペイロードのサイズを制御し、最適な展開データを提供します。使用可能な展開のリストは、JSON オブジェクトのアレイとして返されます。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[System Center ConfigurationManager (SCCM)]** に移動します。

注: [展開を取得] アクティビティでは、前処理スクリプトは使用されません。

入力変数

[展開を取得] 入力変数

変数	説明
sccmServer	SCCM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。

出力変数

[展開を取得] 出力変数

変数	説明
deployments	*deployments* アレイには次の属性が含まれます。 • *id*: SCCM アプリケーションのプライマリーキー。 • *applicationId*: SCCM アプリケーションのプライマリーキー。 • *softwareName*: 展開されるソフトウェアの名前。 • *collectionId*: SCCM コレクションのプライマリーキー。 • *collectionName*: SCCM コレクションの名前。 • *desiredConfigType*: 可能な値: *Install* (1) および *Uninstall* (2)。 • *deploymentIntent*: 展開の目的。可能な値は **Available** (1) および **Required** (2) です。 • *numberSuccess*: 展開が正常にインストールされたクライアントの数。 • *numberErrors*: 展開のインストール時にエラーが発生したクライアントの数。 • *deployment*: この展開でここにリスト表示される属性のデータセットを含むオブジェクト。後処理スクリプトを使用し、必要に応じてこのセットから追加データを解析します。
エラー	アクティビティ出力エラーメッセージを含む変数。

条件

[展開を取得] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが SCCM ホストを使用してオーケストレーションによって実行された展開のリストを正常に取得しました。
失敗	アクティビティが SCCM ホストを使用してオーケストレーションによって実行された展開のリストを取得できませんでした。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[デバイス コレクションを取得] アクティビティ

[デバイス コレクションを取得] アクティビティは、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) ホストで使用可能なデバイス コレクションのリストを返します。

[デバイス コレクションを取得] アクティビティは、PowerShell アクティビティテンプレートを使用して SCCM サーバーのコレクションにアクセスします。アクティビティは、PowerShell 機能を備えた MID サーバーを使用し、サーバーのデバイス コレクションを返す *GetDeviceCollections.ps1* と呼ばれる MID サーバースクリプトを実行するように設定されています。このスクリプトは GET の結果をフィルタリングするため、SCCM サーバーのデバイス コレクションに対して特定の属性のみが返されます。このような方法で結果をフィルタリングすることで、ペイロードのサイズを制御し、最適なデバイス コレクション データを提供します。使用可能なコレクションのリストは、JSON オブジェクトのアレイとして返されます。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[System Center ConfigurationManager (SCCM)]** に移動します。

注: [デバイス コレクションを取得] アクティビティでは、前処理スクリプトは使用されません。

入力変数

[デバイス コレクションを取得] 入力変数

変数	説明
sccmServer	SCCM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。

出力変数

[デバイス コレクションを取得] 出力変数

変数	説明
deviceCollections	*deviceCollections* アレイには次の属性が含まれます。 • *id*: SCCM デバイスコレクションのプライマリーキー。 • *name*: SCCM デバイスコレクションの名前。 • *collectionType*: SCCM ユーザーコレクションのタイプ。この場合、値は **device** です。 • *localMemberCount*: ローカル SCCM サイトで表示可能なデバイスコレクションメンバーの数。 • *memberCount*: すべてのデバイスコレクションメンバーの数。 • *deviceCollection*: このデバイスコレクションでここにリスト表示される属性のデータセットを含むオブジェクト。後処理スクリプトを使用し、使用するこのセットから追加データを解析します。
エラー	アクティビティ出力エラーメッセージを含む変数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[デバイス コレクションを取得] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが SCCM ホストで使用可能なデバイス コレクションのリストを正常に取得しました。
失敗	アクティビティが SCCM ホストで使用可能なデバイス コレクションのリストを取得できませんでした。

[ユーザー コレクションを取得] アクティビティ

[ユーザー コレクションを取得] アクティビティは、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) サーバーで使用可能なユーザー コレクションのリストを返します。

[ユーザー コレクションを取得] アクティビティは、PowerShell アクティビティテンプレートを使用して SCCM サーバーのユーザー コレクションにアクセスします。アクティビティは、PowerShell 機能を備えた MID サーバーを使用し、ホストのユーザー コレクションを返す *GetUserCollections.ps1* と呼ばれる MID サーバースクリプトを実行するように設定されています。このスクリプトは GET の結果をフィルタリングするため、SCCM サーバーのユーザー コレクションに対して特定の属性のみが返されます。このような方法で結果をフィルタリングすることで、ペイロードのサイズを制御し、最適なユーザー コレクション データを提供します。使用可能なコレクションのリストは、JSON オブジェクトのアレイとして返されます。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[System Center ConfigurationManager (SCCM)]** に移動します。

注: [ユーザー コレクションを取得] アクティビティでは、前処理スクリプトは使用されません。

入力変数

[ユーザー コレクションを取得] 入力変数

変数	説明
sccmServer	SCCM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。

出力変数

[ユーザー コレクションを取得] 出力変数

変数	説明
userCollections	*userCollections* アレイには次の属性が含まれます。 • *id*: SCCM ユーザーコレクションのプライマリーキー。 • *name*: SCCM ユーザーコレクションの名前。 • *collectionType*: SCCM ユーザーコレクションのタイプ。この場合、値は **user** です。 • *localMemberCount*: ローカル SCCM サイトで表示可能なユーザーコレクションメンバーの数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ユーザー コレクションを取得] 出力変数 (続く)

変数	説明
	• *memberCount*：すべてのユーザーコレクションメンバーの数。 • *userCollection*：このユーザーコレクションでここにリスト表示される属性のデータセットを含むオブジェクト。後処理スクリプトを使用し、使用するこのセットから追加データを解析します。
エラー	アクティビティ出力エラーメッセージを含む変数。

条件

[ユーザー コレクションを取得] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが SCCM ホストで使用可能なユーザー コレクションのリストを正常に取得しました。
失敗	アクティビティが SCCM ホストで使用可能なユーザー コレクションのリストを取得できませんでした。

[コレクションのデバイス] アクティビティ

このアクティビティは、デバイスが SCCM デバイス コレクション内に存在するかどうかを確認します。

[コレクションのデバイス] アクティビティは、PowerShell アクティビティテンプレートを使用して特定のデバイスが SCCM デバイス コレクション内に存在するかどうかを確認します。アクティビティは、PowerShell 機能を備えた MID サーバーを使用し、テストを実行する *IsDeviceInCollection.ps1* と呼ばれる MID サーバースクリプトを実行するように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[System Center ConfigurationManager (SCCM)]** に移動します。

入力変数

[コレクションのデバイス] 入力変数

変数	説明
sccmServer	SCCM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
collection	デバイス コレクションの名前。
device	確認するデバイスの名前がコレクション内に存在します。

出力変数

[コレクションのデバイス] 出力変数

変数	説明
output	テスト結果 (True/False) を含む変数

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[コレクションのデバイス] 出力変数 (続く)

変数	説明
errorMessage	アクティビティ出力エラーメッセージを含む変数。

条件

[コレクションのデバイス] 条件

条件	説明
存在する	デバイスがコレクション内に存在します。
存在しない	デバイスがコレクション内に存在しません。
失敗	アクティビティが失敗しました。

[コレクションのユーザー] アクティビティ

このアクティビティは、ユーザーが SCCM ユーザー コレクション内に存在するかどうかを確認します。

[コレクションのユーザー] アクティビティは、PowerShell アクティビティテンプレートを使用して特定のユーザーが SCCM ユーザー コレクション内に存在するかどうかを確認します。アクティビティは、PowerShell 機能を備えた MID サーバーを使用し、テストを実行する *IsUserInCollection.ps1* と呼ばれる MID サーバースクリプトを実行するように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[System Center ConfigurationManager (SCCM)]** に移動します。

入力変数

[コレクションのユーザー] 入力変数

変数	説明
sccmServer	SCCM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
collection	ユーザー コレクションの名前。
ユーザー	確認するユーザーの名前がコレクション内に存在します。

出力変数

[コレクションのユーザー] 出力変数

変数	説明
output	テスト結果 (True/False) を含む変数
errorMessage	アクティビティ出力エラーメッセージを含む変数。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[コレクションのユーザー] 条件

条件	説明
存在する	ユーザーがコレクション内に存在します。
存在しない	ユーザーがコレクション内に存在しません。
失敗	アクティビティが失敗しました。

[デバイス コレクションから削除] アクティビティ

[デバイス コレクションから削除] アクティビティは、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) デバイス コレクションからデバイスを削除します。

[デバイス コレクションから削除] アクティビティでは、PowerShell アクティビティテンプレート を使用して Microsoft SCCM サーバーのデバイス コレクションからデバイスを削除します。アクティビティは、PowerShell 機能を備えた MID サーバーを使用し、*RemoveFromUserCollection.ps1* と呼ばれる MID サーバースクリプトを実行してコレクションを編集するように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[System Center ConfigurationManager (SCCM)]** に移動します。

入力変数

[デバイス コレクションから削除] 入力変数

変数	説明
sccmServer	SCCM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
collection	デバイス コレクションの名前。
device	コレクションに追加するデバイスの名前。

出力変数

[デバイス コレクションから削除] 出力変数

変数	説明
output	ワークフロー内の他のアクティビティに渡される値を含む変数
エラー	アクティビティ出力エラーメッセージを含む変数。

条件

[デバイス コレクションから削除] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが SCCM デバイス コレクションからデバイスを正常に削除しました。
失敗	アクティビティが SCCM デバイス コレクションからデバイスを削除できませんでした。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ユーザー コレクションから削除] アクティビティ

[ユーザー コレクションから削除] アクティビティは、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) ユーザー コレクションからユーザーを削除します。

[ユーザー コレクションから削除] アクティビティでは、PowerShell アクティビティデザイナーテンプレートを使用して Microsoft SCCM ターゲット ホストのユーザー コレクションにアクセスします。アクティビティは、PowerShell 機能を備えた MID サーバーを使用し、`RemoveFromUserCollection.ps1` と呼ばれる MID サーバースクリプトを実行してコレクションを編集するように設定されています。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブを選択して、[カスタムアクティビティ] > **[System Center ConfigurationManager (SCCM)]** に移動します。

入力変数

[ユーザー コレクションから削除] 入力変数

変数	説明
sccmServer	SCCM サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
collection	ユーザー コレクションの名前。
ユーザー	コレクションに追加するユーザーの名前。

出力変数

[ユーザー コレクションから削除] 出力変数

変数	説明
output	ワークフロー内の他のアクティビティに渡される値を含む変数。
エラー	アクティビティ出力エラーメッセージを含む変数。

条件

[ユーザー コレクションから削除] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが SCCM ユーザー コレクションからユーザーを正常に削除しました。
失敗	アクティビティが SCCM ユーザー コレクションからユーザーを削除できませんでした。

SFTP ファイル転送アクティビティパック

SFTP ファイル転送アクティビティを使用して、SFTP サーバー上のファイルとディレクトリーを管理し、SFTP サーバー間でファイルを移動します。

SFTP アクティビティパックには、共通するファイル転送タスクのスコープ対象アクティビティと、これらのアクティビティを含み、すぐに使用できるワークフローが含まれます。SFTP ワークフローを使用して、移動するファイル、ファイルが満たす必要のある条件、ファイルの移動順序、および実行される上書きオプションを制御します。

注: SFTP ファイル転送アクティビティおよびワークフローを使用するには、オーケストレーション - SFTP プラグインのアクティブ化を要求する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SFTP ファイル転送ワークフロー

SFTP ファイル転送アクティビティパックには、複数のアクティビティを使用して SFTP サーバーのファイルを管理するスコープ対象ワークフローが含まれます。

SFTP ファイル転送ワークフローの最大アクティビティ数は 10,000 に設定されています。このため、ワークフローは 1 つのサーバーから別のサーバーに最大 1,000 のファイルを移動できます。

ワークフローへのアクセス

- [ワークフロー] > [ワークフローエディター] に移動して、[ワークフロー] タブを選択します。
- SFTP ファイル転送ワークフローをクリックして開きます。
- ワークフロー ヘッダーの情報アイコンをクリックし、プロパティ ダイアログ ボックスを表示します。

入力変数

[SFTP ファイル転送ワークフロー] 入力変数

変数	説明	デフォルト値
ソースホスト	移動するファイルを含むサーバーの名前または IP アドレス。	
ソースポート	ソース サーバーとの通信に使用するポート番号。	22
ソース ディレクトリー	ソース ファイルが置かれているディレクトリーへのフル パス。	
ソースファイル	移動する特定のソース ファイルの名前。このリストのファイル名はセミコロンで区切ります。このフィールドはワイルド カードの使用をサポートしています。このフィールドの値が他のフィールドのオプションにどのように影響するかについては、表の下のセクションを参照してください。	
除外ファイル	移動から除外する特定のソース ファイルの名前。システムは、ソース ディレクトリーまたはサブフォルダーにある他のすべてのファイルを移動します。このリストのファイル名はセミコロンで区切ります。このフィールドはワイルド カードの使用をサポートしています。このフィールドの値が他のフィールドのオプションにどのように影響するかについては、表の下のセクションを参照してください。	
ターゲットホスト	ファイルの移動先のサーバーの名前または IP アドレス。	
ターゲットポート	ターゲット ホストとの通信に使用するポート番号。	22
日時形式	`$[DateTime]` 変数が [ターゲット ディレクトリー] または [ターゲット ファイル] フィールドで使用される場合に適用されるタイムスタンプ形式。システムはインスタンスの現在時刻を使用してタイムスタンプ値を作成します。	yyyy-MM-dd

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[SFTP ファイル転送ワークフロー] 入力変数 (続く)

変数	説明	デフォルト値
ターゲット ディレクトリー	ファイルの移動先のターゲット ホスト内のディレクトリーへのパス。`$[DateTime]` 変数をディレクトリー名に追加すると、名前にタイムスタンプが含まれるターゲット ディレクトリーを指定できます。たとえば、ターゲット ディレクトリーに次のようなパスを入力できます。`/user/jacinto.gawron/documents/projects_$[DateTime]`。これにより、ディレクトリーは `projects_20150505` になります。タイムスタンプ変数を使用すると、システムは [日時形式] フィールドで指定された形式を使用します。	
ターゲット ファイル	タイムスタンプが追加されたときにターゲット ファイル名に使用する形式。次の変数を使用すると、ファイル名のプリフィックスとしてタイムスタンプを追加したり、ファイル名にタイムスタンプを挿入したりするようにシステムを設定することができます。 • `$[DateTime]`：[日時形式] フィールドで定義された形式を使用する現在のタイムスタンプ。 • `$[SourceFile]`：完全なファイル名。 • `$[SourceFile:Base]`：拡張子のない基本ファイル名。 • `$[SourceFile:Ext]`：ファイル拡張子のみ。 タイムスタンプがプリフィックスとして追加されたターゲット ファイル名は、次のように表されます。`$[DateTime]_$[SourceFile]`。このため、ファイル名は `20150505_file1.txt` のように表示されます。 名前にタイムスタンプが挿入されたターゲット ファイル名は、次のように表されます。`$[SourceFile:Base]_$[DateTime]$[SourceFile:Ext]`。このため、ファイル名は `file1_20150505.txt` のように表示されます。	
移動条件を適用	チェックボックスをオンにすると、ファイル転送に条件が適用されます。このチェックボックスをオンにすると、条件設定に追加するフィールドが表示されます。	false
最小ファイル サイズ (バイト)	ターゲット ファイルの最小サイズ要件を定義する条件。この設定は、ファイルが有効かどうかを判断するのに役立ちます。このフィールドは、[移動条件を適用] チェックボックスが選択された場合に表示されます。	0
最大ファイル サイズ (バイト)	ターゲット ファイルの最大サイズ要件を定義する条件。このフィールドは、[移動条件を適用] チェックボックスが選択された場合に表示されます。	-1
ファイルは次の値より古くない	このファイルの経過時間範囲の最も古い許容日付を設定する条件。範囲は、指定された日付の 00:00 (深夜) から開始されます。このフィールドは、[移動条件を適用] チェックボックスが選択された場合に表示されます。	

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[SFTP ファイル転送ワークフロー] 入力変数 (続く)

変数	説明	デフォルト値
ファイルは次の値より新しくない	このファイルの経過時間範囲の最も新しい許容日付を設定する条件。範囲は指定された日付の 23:59 に終了します。このフィールドは、[移動条件を適用] チェックボックスが選択された場合に表示されます。	
サブフォルダーを含める	ソース ディレクトリー内のサブフォルダーからファイルを移動するには、チェックボックスをオンにします。選択内容がフォーム内の他のフィールドにどのように影響するかについては、表の下のセクションを参照してください。	
移動順	ファイルがソースからターゲットに移動される順序。可能なオプションは: • [なし] (ソース ディレクトリー内のファイルと同じ順序) • タイムスタンプ別 • ファイル名別 • ファイル サイズ別	
ソート順	[移動順] フィールドで選択したオプションを使用して、ターゲット ディレクトリーでファイルがソートされる順序。ソート オプションは [上昇] および [降順] です。	desc
再試行の最大数	タイムアウト前にアクティビティがターゲット ホストにコネクトしたり、ファイルを移動したりできる試行回数。ファイルの移動またはホストへの接続の再試行制限を超えた場合、システムはエラーをログに記録します。エラーの最大数を超えない場合、システムは再びコネクトを試行するか、次に指定したファイルを移動しようとします。	2
再試行間の時間 (秒)	ターゲットへのコネクトまたはファイルの移動開始を繰り返す間隔の秒数。	10
失敗の最大数	試行が終了する前に、システムがターゲット ホストへのコネクトに失敗したり、ファイルの移動を失敗したりできる許容回数。設定した再試行の回数を超えた場合にエラーが発生します。デフォルト設定を使用すると、システムが 2 回の再試行後にターゲットにコネクトしたり、ファイルを移動したりできない場合、エラーが発生します。	0
重複ファイル アクション	移動対象のファイルがすでにターゲット ディレクトリー内に存在する場合に実行するアクション。以下から選択可能です。 • [上書き] (ファイルが存在する場合) • インデックスを使用して名前を変更 • 移動しない	上書き
ファイル属性を保存	コピーしたファイルのソース ファイルのタイム スタンプとモード情報を使用するには、チェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオフにすると、コピーしたファイルには現在のタイム スタンプとモードがあります。	false

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[SFTP ファイル転送ワークフロー] 入力変数 (続く)

変数	説明	デフォルト値
	注: このタイム スタンプはファイル属性であり、ファイル名には追加されません。	
成功時に、ファイルをソースから削除	元のファイルが新しい場所にコピーされたときにソース ディレクトリーから削除するには、チェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオフにすると、ソース ファイルがソース ホストの現在の場所に保持されます。	false
失敗時に、移動済みファイルをターゲットとして保持	ファイル転送操作全体が失敗した場合でも、正常に移動されたターゲット上のファイルを保持するには、チェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオフにすると、一般的なエラーが発生した場合、転送されたすべてのファイルがターゲットから正常に削除されます。	true
ソースの認証情報タグ	ソースホストで SSH コマンドを実行するために、このアクティビティが使用する必要のある特定のオーケストレーションアクティビティの認証情報エイリアス。	
ターゲットの認証情報タグ	このアクティビティがターゲット ホスト上で SSH コマンドを実行するために使用する必要がある特定の認証情報タグ。	

ファイル選択ロジック

ソース ホストから移動するファイルを選択する場合、システムは次のロジックを使用します。

- [ソース ファイル] および [除外ファイル] フィールドが空の場合、システムはソース ディレクトリー内のすべてのファイルを移動します。
- [サブフォルダーを含める] チェック ボックスがオンの場合、次の依存関係が存在します。
  - [ソース ファイル] および [除外ファイル] フィールドでファイルが指定されていない場合、システムはソース ディレクトリー内のすべてのファイルとソース ディレクトリーのすべてのサブフォルダー内のすべてのファイルを移動します。
  - [ソース ファイル] フィールドにファイル名が含まれている場合、システムはソース ディレクトリーまたはそのサブフォルダーのいずれかの場所からそのファイルを移動します。
  - [除外ファイル] フィールドにファイル名が含まれている場合、システムはソース ディレクトリーとそのサブフォルダーから除外されたファイル以外のすべてのファイルを移動します。
- [サブフォルダーを含める] チェック ボックスがオフになっていると、システムはソース ディレクトリーのみを調べて、移動または除外するファイルを探します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ファイルのコピー] アクティビティ

[ファイルのコピー] アクティビティは、SFTP サーバー (ソース ホスト) から別の SFTP サーバー (ターゲット ホスト) にファイルをコピーします。

入力変数

[ファイルのコピー] 入力変数

変数	説明
sourceHost	転送するファイルを含むサーバーの名前または IP アドレス。
sourcePort	ソース サーバーとの通信に使用するポート番号。デフォルトのポート番号は **22** です。
sourceFilePath	ソース ホストからコピーするファイルの完全パス。
targetHost	ファイルを移動するサーバーの名前または IP アドレス。
targetPort	ターゲット サーバーとの通信に使用するポート番号。デフォルトのポート番号は **22** です。
targetFilePath	ターゲット ホスト上のコピーされたファイルへの完全パス。
tempFileSuffix	ファイルを移動するときに使用する一時的なサフィックス。このフィールドに値が含まれている場合、アクティビティは重複するターゲットファイルが存在する場合はそれを削除し、名前として *targetFilePath + tempFileSuffix* を使用してソースファイルを一時ファイルにコピーします。完了すると、アクティビティは、ファイルの名前を実際のターゲット ファイル名に変更します。このフィールドが空白の場合、アクティビティはソース ファイルをターゲット ファイルに直接コピーし、これがすでに存在する場合は上書きします。
sourceCredentialTag	ソースホストで SSH コマンドを実行するために、このアクティビティが使用する必要のある特定の オーケストレーションアクティビティの認証情報エイリアス。
targetCredentialTag	このアクティビティがターゲット ホスト上で SSH コマンドを実行するために使用する必要がある特定の認証情報タグ。

出力変数

[ファイルのコピー] 出力変数

変数	説明
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。この変数が NULL 以外の場合、操作は失敗します。
result	コマンドが正常に実行されたことを通知するテキスト メッセージ。

条件

[ファイルのコピー] 条件

条件	説明
成功	アクティビティがファイルのコピーに成功しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ファイルのコピー] 条件 (続く)

条件	説明
失敗	アクティビティがファイルのコピーに失敗しました。

[ディレクトリーを作成] アクティビティ

[ディレクトリーを作成] アクティビティは、SFTP サーバーに新しいディレクトリーを作成します。

入力変数

[ディレクトリーを作成] 入力変数

変数	説明
sourceHost	移動するファイルを含むサーバーの名前または IP アドレス。
sourcePort	ソース サーバーとの通信に使用するポート番号。デフォルトのポート番号は **22** です。
sourceDirectory	作成するターゲット ディレクトリーへのパス。
sourceCredentialTag	ホストで SSH コマンドを実行するために、このアクティビティが使用する必要のある特定の オーケストレーションアクティビティの認証情報エイリアス 。

出力変数

[ディレクトリーを作成] 出力変数

変数	説明
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。この変数が NULL 以外の場合、操作は失敗します。
result	コマンドが正常に実行されたことを通知するテキスト メッセージ。

条件

[ディレクトリーを作成] 条件

変数	説明
成功	アクティビティがディレクトリーの作成に成功しました。
失敗	アクティビティがディレクトリーの作成に失敗しました。

[ファイル リストを入手] アクティビティ

[ファイル リストを入手] アクティビティは、SFTP サーバー (ソース ホスト) 上の指定されたディレクトリーおよびそのサブディレクトリーからファイルのリストを返します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[ファイル リストを入手] 入力変数

変数	説明
sourceHost	リストするファイルを含むサーバーの名前または IP アドレス。
sourcePort	ターゲット サーバーとの通信に使用するポート番号。デフォルトのポート番号は **22** です。
sourceDirectory	リストするファイルを含むターゲット ディレクトリーへのパス。
sourceFiles	返すターゲット ファイルのリスト。これは、***.txt** などのワイルドカードを許可するカンマ区切りのリストです。
excludedFiles	除外するターゲット ファイルのリスト。これは、***.txt** などのワイルドカードを許可するカンマ区切りのリストです。
includeSubfolders	サブフォルダーのファイルがリストに含まれるかどうかを判断する true/false 変数。この変数のデフォルト値は **false** です。
sourceCredentialTag	ホストで SSH コマンドを実行するために、このアクティビティが使用する必要のある特定の オーケストレーションアクティビティの認証情報エイリアス。

出力変数

[ファイル リストを入手] 出力変数

変数	説明
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。この変数が NULL 以外の場合、操作は失敗します。アクティビティがエラーメッセージを調べて条件をカスタマイズできます。たとえば、エラーメッセージに *NO_SUCH_FILE* が含まれる場合、状況に応じてアクティビティが成功したと見なすことができます。
result	要求したファイルのリスト。JSON 文字列として返されます。

条件

[ファイル リストを入手] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが要求したファイルのリストに成功しました。
失敗	アクティビティが要求したファイルをリストできませんでした。

[ファイルまたはディレクトリーを削除] アクティビティ

[ファイルまたはディレクトリーを削除] アクティビティは、SFTP サーバー上のファイルまたはディレクトリー (サブディレクトリーを含む) を構成時に削除します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[ファイルまたはディレクトリーを削除] 入力変数

変数	説明
sourceHost	削除するファイルを含むサーバーの名前または IP アドレス。
sourcePort	ターゲット サーバーとの通信に使用するポート番号。デフォルトのポート番号は **22** です。
sourceFilePath	削除するファイルまたはディレクトリーの完全パス。1 つのアクティビティを使用して複数のファイルまたはディレクトリーを削除するには、このフィールドにセミコロン区切りのパス リストを入力します。
isDirectory	指定したファイルパスがディレクトリーかどうかを判断する true/false 変数。この変数のデフォルト値は **false** です。
includeSubfolders	指定したディレクトリーとそのすべてのサブフォルダーを削除する必要があるかどうかを判断する true/false 変数。この変数のデフォルト値は **false** です。このフィールドの値が **false** の場合、アクティビティが空のディレクトリーのみを削除できます。このフィールドは、**[isDirectory]** チェックボックスが選択されている場合に表示されます。
sourceCredentialTag	ホストで SSH コマンドを実行するために、このアクティビティが使用する必要のある特定の オーケストレーションアクティビティの認証情報エイリアス。

出力変数

[ファイルまたはディレクトリーを削除] 出力変数

変数	説明
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。この変数が NULL 以外の場合、操作は失敗します。
result	**success** または **failure**。
deletionResults	*deletionResults* アレイには次の属性が含まれます。 • *fullPath*：対象のファイルまたはディレクトリーへの完全パス。 • *status*：**succeeded** または **failed** のいずれかです。 • *reason*：エラー原因を示すテキストメッセージ。

条件

[ファイルまたはディレクトリーを削除] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが指定されたファイルまたはディレクトリーの削除に成功しました。
失敗	アクティビティが指定されたファイルまたはディレクトリーの削除に失敗しました。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ファイルまたはディレクトリーの名前を変更] アクティビティ

[ファイルまたはディレクトリーの名前を変更] アクティビティは、ファイルまたはディレクトリーの名前を SFTP サーバー上の新しい名前に変更します。

入力変数

[ファイルまたはディレクトリーの名前を変更] 入力変数

変数	説明
sourceHost	名前を変更するファイルまたはディレクトリーを含むサーバーの名前または IP アドレス。
sourcePort	ターゲット サーバーとの通信に使用するポート番号。デフォルトのポート番号は **22** です。
sourceFilePath	名前を変更するファイルまたはディレクトリーの完全パス。
targetFilePath	名前を変更したファイルまたはディレクトリーの完全パス。
sourceCredentialTag	ホストで SSH コマンドを実行するために、このアクティビティが使用する必要のある特定の オーケストレーションアクティビティの認証情報エイリアス 。

出力変数

[ファイルまたはディレクトリーの名前を変更] 出力変数

変数	説明
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。この変数が NULL 以外の場合、操作は失敗します。
result	操作が成功したことを示すメッセージ。たとえば、`Rename /tmp/sftp_test/subdir1 to /tmp/sftp_test/subdir2 complete` のように表示されます。

条件

[ファイルまたはディレクトリーの名前を変更] 条件

条件	説明
成功	アクティビティがファイルまたはディレクトリーの名前の変更に成功しました。
失敗	アクティビティがファイルまたはディレクトリーの名前の変更に失敗しました。

[ファイル属性の設定] アクティビティ

[ファイル属性の設定] アクティビティは、SFTP サーバー上のファイルまたはディレクトリーの一般的なファイル属性 (タイムスタンプ、サイズ、権限、UID/GID など) を設定します。

最初に [ファイル リストを入手] アクティビティを使用して、ファイルとその属性のリストを返すことをお勧めします。次に、ソース ホストからターゲット ホストにファイルを移動する場合、[ファイル属性の設定] アクティビティを使用してターゲット ファイル上でソース ファイル属性を設定します。これは SFTP ファイル転送ワークフローで説明します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力変数

[ファイル属性の設定] 入力変数

変数	説明
sourceHost	属性を変更するファイルまたはディレクトリーを含むサーバーの名前または IP アドレス。
sourcePort	ターゲット サーバーとの通信に使用するポート番号。デフォルトのポート番号は **22** です。
sourceFilePath	属性を変更するファイルまたはディレクトリーの完全パス。
userID	ファイルまたはディレクトリーに適用するユーザー ID 属性。UID 変数と GUID 変数は、ペアとして一緒に設定する必要があります。
groupID	ファイルまたはディレクトリーに適用するグループ ID 属性。UID 変数と GUID 変数は、ペアとして一緒に設定する必要があります。
permissions	指定されたユーザーおよびグループに対して設定されたファイルまたはディレクトリーの権限。この値は整数で表す必要があります (例：**16877**)。この値が *rwxr-xr-x* のような権限を定義します。 **注:** 権限番号は、[ファイル リストを入手] アクティビティによって返される内部値です。
accessTimestamp	ファイルまたはディレクトリーが最後にアクセスされたタイムスタンプを上書きします。アクセスおよび変更のタイムスタンプは、ペアとして一緒に設定する必要があります。
modificationTimestamp	ファイルまたはディレクトリーが最後に変更されたときのタイムスタンプを上書きします。アクセスおよび変更のタイムスタンプは、ペアとして一緒に設定する必要があります。
sizeInBytes	ファイルまたはディレクトリーのサイズ (バイト単位)。
sourceCredentialTag	ホストで SSH コマンドを実行するために、このアクティビティが使用する必要のある特定の オーケストレーションアクティビティの認証情報エイリアス。

出力変数

[ファイル属性の設定] 出力変数

変数	説明
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。この変数が NULL 以外の場合、操作は失敗します。
result	コマンドが正常に実行されたことを通知するテキスト メッセージ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[ファイル属性の設定] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが指定されたファイルまたはディレクトリーの属性の変更に成功しました。
失敗	アクティビティが指定されたファイルまたはディレクトリーの属性の変更に失敗しました。

SSH アクティビティパック

オーケストレーションは、ServiceNow アクティビティデザイナーを使用してカスタマイズされた SSH アクティビティのアクティビティパックを提供します。

これらのアクティビティは、以前のリリースと同じ名前で SSH アクティビティと同じ機能を実行し、すべての新しいワークフローのこれらのアクティビティを置き換えます。カスタム SSH アクティビティは SSH アクティビティを作成するで作成されており、ワークフローアドミニストレーターは入力変数と出力変数をデータバスに保存できます。

> **注:** 従来の SSH アクティビティで作成された以前のバージョンの既存のワークフローは、Geneva にアップグレードすると正常に動作し続けます。ただし、すべての新しいワークフローでこれらのカスタム SSH アクティビティを使用する必要があります。

SSH カスタムアクティビティを使用するには、オーケストレーション - SSH プラグインのアクティブ化を要求する必要があります。

[セキュア コピー] アクティビティ

[セキュア コピー] アクティビティは、コピーしたファイルを MID サーバーに保存せずに、ホスト間でファイルをコピーします。

このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の SSH アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは、SSH アクティビティデザイナーテンプレートを使用して作成されました。これにより、ワークフローアドミニストレーターは、入力変数と出力変数をデータバスに保管できます。

入力変数

[セキュア コピー] 入力変数

入力変数	説明
from_host	ソース マシンのホスト名または IP アドレス。
from_scp_file	コピーするファイルの名前 (絶対パスを含む)。
to_host	ターゲット マシンのホスト名または IP アドレス。
to_scp_file	ターゲット ファイルへのパス。このパスは、絶対パス、またはログインしているユーザーのホーム ディレクトリーに対する相対パスにすることができます。
debug_mid	選択するとデバッグ ログを有効にするチェック ボックス。
debug_ssh	選択すると J2SSH デバッグ ログを有効にするチェック ボックス。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

出力変数

[セキュア コピー] 出力変数

出力変数	説明
payload	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.payload*。
output	解析のソースからの *executionResult.output*。

条件

[セキュア コピー] 条件

条件	説明
成功	アクティビティがホスト間のファイルのコピーに成功しました。
失敗	アクティビティがホスト間のファイルのコピーに失敗しました。

[ファイルの比較] アクティビティ

[ファイルの比較] アクティビティは、Linux または UNIX コンピューター上の 2 つのファイルを比較します。

このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の SSH アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは、SSH アクティビティデザイナーテンプレートを使用して作成されました。これにより、ワークフローアドミニストレーターは、入力変数と出力変数をデータバスに保管できます。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブをクリックして、[カスタムアクティビティ] > [グローバル] > [オーケストレーション **- SSH]** に移動します。

入力変数

[ファイルの比較] 入力変数

入力変数	説明
ホスト名	SSH アクティビティの宛先サーバーのホスト名または IP アドレス。
ディレクトリー	作業ディレクトリの名前。
OldFile	比較する第 1 ファイルの名前。
NewFile	比較する第 2 ファイルの名前。

出力変数

[ファイルの比較] 出力変数

出力変数	説明
contents	ファイルの比較結果。これは 2 つの比較ファイルの違いです。
result	**success** または **failure**。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ファイルの比較] 出力変数 (続く)

出力変数	説明
return-code	2 つのファイルが同じ場合は **0**、2 つのファイルに違いがある場合は **1** です。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。

条件

[ファイルの比較] 条件

条件	説明
成功	アクティビティが指定されたファイルの比較に成功しました。
失敗	アクティビティが指定されたファイルを比較できませんでした。

[ファイル読み取り] アクティビティ

[ファイル読み取り] アクティビティは Linux または UNIX コンピューター上のファイルを読み取ります。

このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の SSH アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは、SSH アクティビティデザイナーテンプレートを使用して作成されました。これにより、ワークフローアドミニストレーターは、入力変数と出力変数をデータバスに保管できます。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブをクリックして、[カスタムアクティビティ] > [グローバル] > [オーケストレーション **- SSH]** に移動します。

入力変数

[ファイル読み取り] 入力変数

入力変数	説明
ホスト名	SSH アクティビティの宛先サーバーのホスト名または IP アドレス。
ディレクトリー	作業ディレクトリの名前。
ファイル	読み込むファイルの名前。

出力変数

[ファイル読み取り] 出力変数

出力変数	説明
contents	読み込むファイルの内容。
result	**success** または **failure**。
errorMessage	アクティビティデザイナーの解析ソースからの *executionResult.errorMessages*。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[ファイル読み取り] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、指定されたファイルの内容を正常に読み取りました。
失敗	アクティビティは、指定されたファイルの内容を読み取ることができませんでした。

[ファイル書き込み] アクティビティ

[ファイル書き込み] アクティビティは Linux または UNIX コンピューター上でファイルを書き込みます。

ソース ファイルは、ディレクトリーからの絶対パスまたは相対パスです。絶対パスを使用する場合は、[ディレクトリー] フィールドに値を入力する必要はありません。

このアクティビティは、Istanbul 以前のリリースで使用可能な同じ名前の SSH アクティビティを置き換えます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Istanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは、SSH アクティビティテンプレートを使用して作成されました。これにより、ワークフローアドミニストレーターは、入力変数と出力変数をデータバスに保管できます。

入力変数

[ファイル書き込み] 入力変数

フィールド	説明
hostname	SSH アクティビティの宛先サーバーのホスト名または IP アドレス。
directory	作業 (ターゲット) ディレクトリーの名前。
ファイル	書き込まれるファイルの名前。
behavior	次のいずれかを選択します。 • 上書き：ファイルが存在しない場合は作成し、ファイルが存在する場合は上書きします。 • 追加：ファイルが存在しない場合は作成し、既存のファイルに新しいコンテンツを追加します。 • 作成のみ：ファイルが存在しない場合は作成し、ファイルが存在する場合は失敗します。
contents	ファイルに書き込んだり追加したりするもの (動作に応じる)

出力変数

[ファイル書き込み] 出力変数

変数	説明
return_code	ファイル書き込み操作が成功したかどうかを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[ファイル書き込み] 出力変数 (続く)

変数	説明
error_message	エラーが発生したかどうかを示すメッセージ。**0** 以外の値は失敗を示します。

条件

[ファイル書き込み] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、ターゲット ディレクトリーにファイルを書き込みました。
失敗	アクティビティは、ターゲット ディレクトリーにファイルを書き込むことができませんでした。

[ファイルのコピー] アクティビティ

カスタムの [ファイルのコピー] アクティビティは、Linux または UNIX コンピューター上でファイルをコピーします。

このアクティビティによって、Geneva より前のリリースで使用可能な同じ名前の SSH アクティビティが置き換えられます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Geneva にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは、SSH アクティビティデザイナーテンプレートを使用して作成されました。これにより、ワークフローアドミニストレーターは、入力変数と出力変数をデータバスに保管できます。

ワークフローエディターでこのアクティビティにアクセスするには、[カスタム] タブをクリックして、[カスタムアクティビティ] > [グローバル] > [オーケストレーション **- SSH]** に移動します。

入力変数

[ファイルのコピー] 入力変数

入力変数	説明
hostname	SSH アクティビティの宛先サーバーのホスト名または IP アドレス。
directory	作業ディレクトリの名前。
src_file	ソース ファイルの名前。
dst_file	宛先ファイルの名前。

出力変数

[ファイルのコピー] 出力変数

出力変数	説明
result	**success** または **failure**。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[ファイルのコピー] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、指定されたホスト上のファイルを正常にコピーしました。
失敗	アクティビティは、指定されたホスト上のファイルをコピーできませんでした。

[ファイル置換文字列] アクティビティ

[ファイル置換文字列] アクティビティは、Linux または UNIX コンピューター上でファイル内の文字列を検索して置換します。

このアクティビティは、Istanbul 以前のリリースで使用可能な同じ名前の SSH アクティビティを置き換えます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Istanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは、SSH アクティビティテンプレートを使用して作成されました。これにより、ワークフローアドミニストレーターは、入力変数と出力変数をデータバスに保管できます。

入力変数

[ファイル置換文字列] 入力変数

変数	説明
hostname	SSH アクティビティの宛先サーバーのホスト名または IP アドレス。
directory	作業 (ターゲット) ディレクトリーの名前。
ファイル	文字列が置き換えられるファイルの名前。
find_pattern	置き換える文字列の正規表現。
replace_string	*find_pattern* 変数の式によって検出されたテキストの置換文字列。
オプション	置換オプション： • 最初：パターンが最初に見つかった場所を置き換えます。 • すべて：パターンが見つかったすべての場所を置き換えます。

出力変数

[ファイル置換文字列] 出力変数

変数	説明
return_code	ターゲット ファイル内で文字列が正常に置き換えられたかどうかを示します。
error_message	エラーが発生したかどうかを示すメッセージ。**0** 以外の値は失敗を示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[ファイル置換文字列] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、ファイル内の文字列を正常に置き換えました。
失敗	アクティビティは、ファイル内の文字列を置き換えませんでした。

[Linux ユーザーパスワードをリセット] アクティビティ

[Linux ユーザーパスワードをリセット] アクティビティは、Linux コンピューター上の特定のユーザーのパスワードをリセットします。

このアクティビティでは、コマンドを実行しているユーザーが **chpasswd** コマンドを実行でき、パスワードがすぐに期限切れになる場合は MID サーバー特権コマンド を持つ **chage** を実行できるようにする必要があります。

このアクティビティは、Istanbul 以前のリリースで使用可能な同じ名前の SSH アクティビティを置き換えます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Istanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは、SSH アクティビティテンプレートを使用して作成されました。これにより、ワークフローアドミニストレーターは、入力変数と出力変数をデータバスに保管できます。

入力変数

[Linux ユーザーパスワードをリセット] 入力変数

変数	説明
hostname	ターゲット Linux マシンの IP アドレス。
ユーザー	パスワードがリセットされるユーザーの名前。
パスワード	このユーザーに設定された新しいパスワード。パスワードは、[パスワード **2]** フィールドとして暗号化されているか、または *`Packages.com.glide.util.Encrypter`* オブジェクトの暗号化方式を呼び出すことによって暗号化されているワークフロー変数です。
force_change	このパスワードが一時的であるかどうかを示し、指定されたユーザーがログイン時にパスワードを変更するように強制します。

出力変数

[Linux ユーザーパスワードをリセット] 出力変数

変数	説明
return_code	[ユーザーパスワードリセット] アクションが成功したかどうかを示します。
error_message	パスワードリセット中に発生したエラーについて説明します。エラーが発生しなかった場合、この値は null です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

条件

[Linux ユーザーパスワードをリセット] 条件

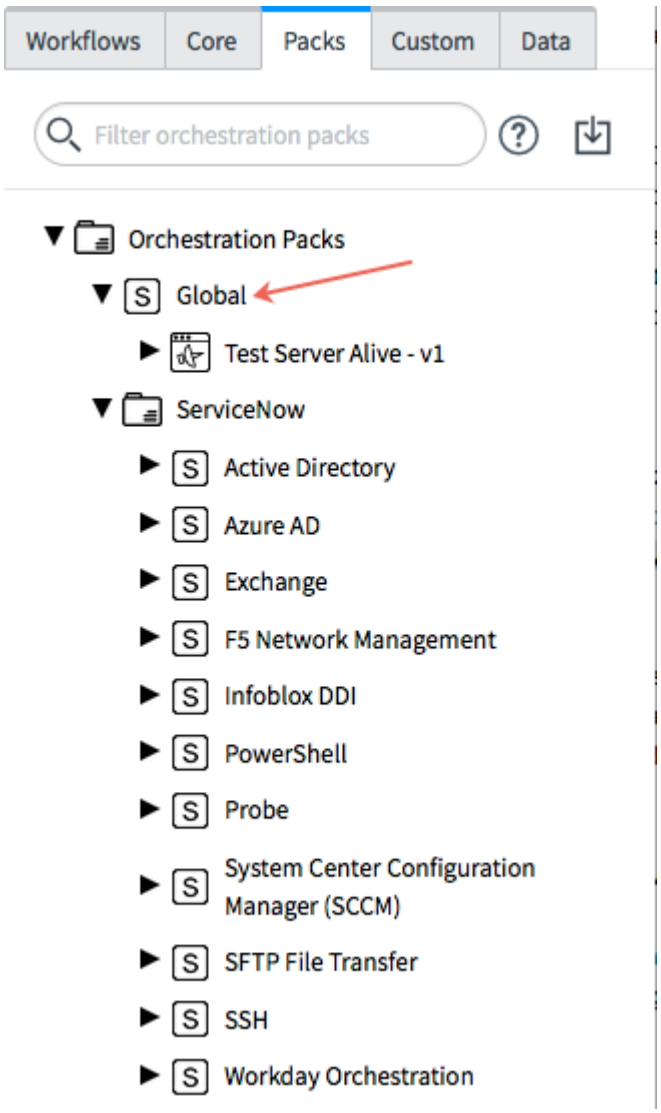
変数	説明
成功	アクティビティは、指定されたユーザーのパスワードを正常に変更しました。
失敗	アクティビティは、指定されたユーザーのパスワードを変更できませんでした。

グローバル アクティビティ

グローバル アクティビティは、グローバル スコープで作成されたオーケストレーションアクティビティです。

グローバル スコープで作成されたアクティビティは、ワークフローエディターの [パック] タブおよび [カスタム] タブの [グローバル] カテゴリに一覧表示されます。

グローバル アクティビティ



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

[Server Alive をテスト] アクティビティ

[Server Alive をテスト] アクティビティは、ターゲット システムの特定のプロトコルに対する応答によって、それが稼働しているかどうかを判断します。

このアクティビティは、Istanbul 以前のリリースで使用可能な同じ名前のアクティビティを置き換えます。廃止されたアクティビティを使用する前のバージョンで作成されたワークフローがある場合、このワークフローは、Istanbul にアップグレードした後も引き続き正常に機能します。ただし、新しいワークフローはすべて、このアクティビティのカスタムバージョンを使用する必要があります。このアクティビティは、プローブアクティビティテンプレートを使用して作成されました。これにより、ワークフローアドミニストレーターは、入力変数と出力変数をデータバスに保管できます。

入力変数

[Server Alive をテスト] 入力変数

変数	説明
port_probes	ターゲット マシン上のアクティビティの兆候を確認するために使用されるプロトコルのカンマ区切りリスト (例：*wmi,wins,https,ssh,http,https,snmp,dns*)
hostname	確認するターゲット システムのホスト名または IP アドレス。

出力変数

[Server Alive をテスト] 出力変数

変数	説明
alive	サーバーが稼働しているかどうかどうかを示すコード。「1」以外の値が返される場合、サーバーは稼働していません。

条件

[Server Alive をテスト] 条件

条件	説明
成功	アクティビティは、デバイスが実行中であることを判別しました。
失敗	アクティビティは、ターゲット デバイスが実行中であるかどうかを判別できませんでした。失敗の原因として、プロトコルがない、デバイスにアクセスできないなどが考えられます。

オーケストレーションアクティビティデザイナー

オーケストレーションアクティビティデザイナーを使用すると、workflow_admin ロールまたは activity_creator ロールおよび workflow_creator ロールを持つユーザーは、組織のビジネスニーズに合った再利用可能なアクティビティをビルドできます。

アクティビティデザイナーによって作成されたアクティビティは、以前のリリースで提供されていたコア アクティビティに比べて、次のような利点があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- 複数のワークフローでカスタムアクティビティを再利用できます。
- カスタムアクティビティを ServiceNow ストアにアップロードしたり、ストアからダウンロードしたりできます。
- 標準入力形式からデータを解析できます。
- ターゲット ホストまたはエンドポイントに対して入力変数をテストし、ペイロードを検査できます。
- テストペイロードからの値をアクティビティの出力変数に自動的にマッピングできます。
- アクティビティ間でデータを共有できます。
- 以前のバージョンのアクティビティを表示できます。

アクティビティデザイナーにアクセスするには、ServiceNow オーケストレーションを有効化する必要があります。すべてのアクティビティの移行および条件の管理手順については、ワークフローアクティビティ を参照してください。

オーケストレーションには多数の事前定義済みアクティビティが再利用可能コンポーネントとして用意されており、基盤となるシステムの複雑さを理解していなくても、多数のワークフローでこれらを使用できます。これらのアクティビティは、Active Directory、Azure AD、Exchange、Infoblox DDI、PowerShell など、特定のビジネス ニーズに対応するアクティビティパックに分類されています。他にも、個別のアクティビティパックを提供および管理する ServiceNow アプリケーションがあります (セキュリティインシデントレスポンス、クラウド管理、リリース自動化 など)。

ユーザーは、独自のアクティビティおよびアクティビティパックを作成することもできます。指定したテンプレートを使用してカスタムアクティビティを作成するには、[オーケストレーション アクティビティデザイナー] を選択します。アクティビティデザイナーを使用してビルドされたカスタムビルドアクティビティは、アクティビティ要素と呼ばれます。アクティビティ要素は最適な操作を提供し、コードの再利用を可能にし、コードを作成する必要性を最小限に抑えます。また、これにより、複数のオーケストレーション アクティビティにおいて特定のワークフロー内のデータ フローに従うことができます。アクティビティ要素を組み込むことで、スクラッチパッドへの依存関係が制限され、これにより複雑なワークフローの問題が軽減されます。スクラッチパッドに直接アクセスする必要がある場合 (カウンターなど) を除いて、[スクリプトを実行] などのコア アクティビティの使用が制限されます。アクティビティ要素は、スクラッチパッドに直接アクセスできません。ただし、スクラッチパッド変数を入力としてアクティビティに渡すことはできます。

アクティビティデザイナーによって作成されるオーケストレーション アクティビティには、次のような特徴があります。

- ServiceNow アプリ ストアにアップロードして共有できます。
- データバスを使用することで、アクティビティに明確に定義された入出力を設定できます。
- ワークフロー内の複数のアクティビティ間でデータを共有できます。
- バージョニングを使用できます。
- プロトコルに関係なく、アクティビティ開発に対する一貫したアプローチを提供できます。

注: Fuji リリース以前は、アクティビティはアクティビティ定義 を使用してビルドされていました。Fuji では、アクティビティデザイナーを使用して新しいアーキテクチャが導入されました。オーケストレーション コアアクティビティは、当初はアクティビティ定義としてビルドされたものであり、新しいテンプレート形式 (アクティビティ要素) とアクティビティデザイナーで提供されるデータバスを使用するように変換されました。アップグレードされたインスタンスのワークフローのうち、従来のアクティビティを使用するものは、引き続き正常に動作します。

アクティビティを使用してワークフローをビルドする手順については、「ワークフローへアクティビティを追加する 」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オーケストレーションの認証情報、接続、およびエイリアスの概要

オーケストレーションのすべてのアプリケーション統合では、リソースにアクセスするために、それぞれのアプリケーションに対する接続情報、資格情報、接続および資格情報エイリアスが必要です。

オーケストレーションでアプリケーション統合を実行する前に、対応する接続情報および認証情報を作成して構成する必要があります。接続は、IP アドレスまたはエンドポイントとプロトコルのような、システムとの統合に関連します。これには、データベースと統合する際のデータベースの詳細など、特定の詳細が含まれています。関連する認証情報は、接続の作成に必要な認証データです。

接続情報と認証情報は、同じ統合でも QA/開発/本番環境間で異なる場合があります。このデータとアプリケーション メタデータ (ワークフローやジョブ スケジューリングなど) が緊密に結合されているため、環境を変更すると、アプリケーション メタデータが使用停止されます。この問題を軽減するために、アプリケーション メタデータからこのデータを切り離すことを目的に、接続および認証情報のエイリアスという概念が導入されています。これらのエイリアスを使用すると、ユーザーは、エイリアスに接続するためのアプリケーション メタデータを設計できます。エイリアスは、実行時に接続データと認証情報データに解決されます。

エイリアスには、接続および資格情報エイリアスおよび認証情報エイリアスの 2 つのタイプがあります。これらのエイリアスに特定の制約を適用するビジネス ルールがあります。名前には、英字、数字、アンダースコアを含める必要がありますが、特殊文字は使用できません。エイリアスはスコープ内で一意である必要があります。複数の有効な接続を可能にすると、同じドメイン内で複数のアクティブな接続を設定できます。このオプションを選択しないと、ドメインごとに設定できるアクティブな接続は 1 つのみになります。

注: 複数のアクティブな接続を有効にする場合、接続レコードが解決されると、アプリケーションによって確立された順序に基づいて 1 つの接続が選択されます。接続の順序は、接続データの取得に使用する API によって異なります。

他の接続属性をエイリアスに追加することができます。これらの属性は、実行時に接続データで利用可能です。実行時に接続管理によって上書きされる変数は、エイリアスには影響しません。

認証情報エイリアスは、認証情報データのみを解決します。エイリアス データ モデルに加えて、実行時に接続と資格情報データを取得できるスクリプト可能な API を使用できます。

オーケストレーションでの接続および資格情報エイリアスの使用

認証情報または接続情報レコードにラベルを付けるエイリアスを定義します。

認証情報および接続エイリアスは、認証情報または接続レコードにラベルを付けるエイリアスを定義します。これは sys_metadata テーブルから拡張されます。これには admin ロールが必要です。credential_admin および connection_admin には、sys_alias への読み取りアクセス権があります。接続エイリアスには次のものが含まれます。

名前
: エイリアスの名前。

ID
: このフィールドは、「scope name.alias name」という形式に基づいています。ID に対する一意のインデックスを使用することで、スコープ名 + 名前に基づく一意のレコードを確保します。スコープがグローバルである場合、ID はエイリアス名です。

タイプ
: [認証情報] または [接続と資格情報] のどちらかを選択できます。デフォルトは [接続と資格情報] です。

接続タイプ
: このフィールドは、エイリアス タイプが [接続と資格情報] に設定されている場合に適用されます。接続タイプは、[HTTP]、[JDBC]、[JMS] の 3 つです。デフォルトは [HTTP] です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

グローバル スコープで作業日エイリアスを作成すると、ID は Workday に設定されます

HR アプリケーション スコープで作業日エイリアスを作成すると、ID は x_hr_app.workday に設定されます

- 名前には、英字、数字、およびアンダースコアのみ使用できます。
- アップグレード時に、認証情報レコード内のタグは接続エイリアスに移行します。以前のリリースの認証情報レコード内のタグに英字、数字、およびアンダースコア以外の特殊文字が含まれている場合、タグ データはアップグレード中も保持されます。ユーザーは引き続きこれらの接続エイリアスを使用できますが、更新時にこれらの特殊文字を削除しない限り、エイリアスを更新できません。

オーケストレーションでの認証情報の使用

オーケストレーションでは、リソースにアクセスするために認証情報が必要です。

認証情報テーブル

認証情報テーブル (discovery_credential) は、統合に使用できる認証情報を定義します。以前のリリースでは、認証情報テーブルには、認証情報にラベルを付ける文字列タイプのタグフィールドが含まれていました。このタグは、オーケストレーションアクティビティで使用されます。Madrid リリースでは、タグから認証情報エイリアスの名前が変更され、タイプは文字列から GlideList (接続エイリアステーブルへの参照) に変更されます。

認証情報タイプ

次の認証情報タイプが用意されています。

認証情報タイプ	説明	[認証情報をテスト] オプションのサポート
適用可能な認証情報	デバイスまたはコンピューター上のアプリケーションを探索するための認証情報。ITOM ヴィジビリティ で使用される ディスカバリーパターンでは多くの場合、適用可能な認証情報が必要です。	いいえ
Amazon Web Services の認証情報	Amazon Web Services (AWS) のメインアカウント、アクセスキー ID、および秘密アクセスキー。 注: テスト中に AWS 認証情報をテストすることはできません	いいえ
Azure サービスプリンシパルおよびエンタープライズ契約の認証情報	Azure サブスクリプションに必要な Azure サービスプリンシパル。	いいえ
ベーシック認証情報	ユーザー名とパスワード。	いいえ
CIM 認証情報	VMware ESX サーバーに関する情報を取得する CIMOM (Common Information Model Object Manager (CIM)) サーバーへのアクセスに必要なユーザー名とパスワード。	いいえ
クラウド認証情報	オーケストレーションがクラウドリソースにアクセスするために使用する認証情報。	いいえ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

認証情報タイプ	説明	[認証情報をテスト] オプションのサポート
JDBC 認証情報	Java Database Connectivity (JDBC) 接続にアクセスするためのユーザー名とパスワード。	あり
JMS 認証情報	Java Message Service (JMS) にアクセスするためのユーザー名とパスワード。	あり
OAuth 2.0 認証情報	OAuth 2.0 の認証情報により、ServiceNow® は HTTP サービス上のユーザーアカウントにアクセスできるようになります。	
SNMP コミュニティ認証情報	SNMP を介してデバイスにアクセスするためのコミュニティ文字列。	あり
SNMPv3 認証情報	SNMP v3 ネットワーク上のデバイスにアクセスするために必要なユーザー名とキー。	あり
SSH 認証情報	Linux および UNIX デバイスにアクセスするためのユーザー名とパスワード。	はい
SSH 認証情報	Linux および UNIX デバイスにアクセスするための秘密鍵認証情報。 **注:** セキュリティ上の理由により、SSH パスワード認証情報よりも SSH 秘密鍵認証情報が推奨されます。	はい
VMware 認証情報	vCenter リソースにアクセスするための認証情報。これらの認証情報は、仮想マシンのクローニングなど、vCenter で実行するすべての作業で必要とされます。	あり
Windows 資格情報	Windows コンピューターにアクセスするために必要なユーザー名とパスワード。Windows 資格情報を使用するには、複数の Windows 資格情報 を満たす必要があります。	あり

MID サーバーが認証情報を使用する仕組み

デフォルトでは、Windows MID サーバーは、ホストマシン上の MID サーバーサービスのログイン認証情報を使用して、ネットワーク内の Windows デバイスを検出します。Windows MID サーバーサービス認証情報を設定 して、ドメインまたはローカルアドミニストレーター権限を持つようにする必要があります。Linux マシンおよび UNIX マシンとネットワークデバイスの場合、MID サーバーでは、[ディスカバリー] > [認証情報] でインスタンスに設定された SSH および SNMP 認証情報を使用します。

オーケストレーションで使用される MID サーバーには、[ワークフロー アクティビティ] で指定されているとおり、ネットワーク内のコンピューター上でコマンドを実行するために必要な認証情報へのアクセス権が必要です。オーケストレーションでは、ディスカバリーと同じ SSH および SNMP 認証情報を使用できますが、特定のワークフローアクティビティ用に設計された 2 つの追加認証情報 (Windows (PowerShell 用) と VMware) があります。

暗号化と復号化

プラットフォームでは、認証情報 [discovery_credentials] テーブルの暗号化フィールドに認証情報を保存します。認証情報が入力されると、認証情報は表示できません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MID サーバーによって認証情報が要求されると、プラットフォームで次のプロセスを使用して認証情報が復号化されます。

1. password2 固定キーを使用してインスタンスに対して認証情報が復号化されます。
2. 認証情報は、MID サーバーの公開鍵を使用してインスタンス上で再暗号化されます。
3. 認証情報は、SSL を使用してロード バランサー上で暗号化されます。
4. 認証情報は、SSL を使用して MID サーバー上で復号化されます。
5. 認証情報は、MID サーバーの秘密鍵を使用して MID サーバー上で復号化されます。

注: プラットフォームには、マルチテナント インスタンス用の個別の暗号鍵はありません。

認証情報の順序

認証情報には、[認証情報フォーム (Credentials Form)] の順序値を割り当てることができます。これにより、特定の順序ですべての認証情報をアプリケーションで自由に試行させることができます。順序値を指定しない場合、オーケストレーションが SSH サーバー (Linux マシンや UNIX マシンなど) でコマンドの実行を試行する場合や、ディスカバリーが SNMP デバイス (プリンター、ルーター、UPS など) のクエリを試行する場合などに、使用できる認証情報が見つかるまで認証情報 [discovery_credential] テーブルにある認証情報がアプリケーションでランダムに試行されます。

デバイスの認証情報を特定した後、ディスカバリー とオーケストレーションでは、認証情報親和性 `[dscy_credentials_affinity]` テーブルを使用して認証情報とデバイス間の親和性が作成されます。後続のすべての検出またはオーケストレーション アクティビティで、このテーブルの認証情報が、親和性が存在するデバイスと照合されます。デバイスの認証情報が変更された場合、 ディスカバリー とオーケストレーションでは、新しい親和性を作成するまで利用可能な認証情報をすべて再試行します。

注: オーケストレーションと ディスカバリー がインストールされ、認証情報エイリアスが有効になっている場合、複数の親和性が存在する可能性があります。この場合、プラットフォームでは、親和性ごとに認証情報が検索され、順序が最も低い親和性の認証情報がプローブに挿入されます。

認証情報の順序付けは、次の場合に役立ちます。

- 認証情報テーブルには多くの認証情報が含まれており、一部の認証情報が他の認証情報よりも頻繁に使用される場合があります。たとえば、テーブル 150 個の SSH 認証情報が含まれており、そのうちの 5 個がデバイスの 90% へのログインに使用されている場合は、その 5 個の順序値を小さくすることをお勧めします。これにより、その 5 個が実行リストの最上部に配置されます。このようにして、よく使用する認証情報が最初に試行されると、ディスカバリーとオーケストレーションの動作がより迅速になります。最初の接続に成功した後、デバイスごとに次回使用する認証情報が認識されます。
- システムには、積極的なログイン セキュリティがあります。たとえば、ネットワーク内の Solaris データベースサーバーがログイン試行を 3 回失敗すると MID サーバーからロックアウトされる場合は、データベース認証情報の順序値を小さくします。

認証情報エイリアス

認証情報エイリアスにより、フローおよびワークフローの作成者は次のことが可能になります。

- 個々の認証情報をオーケストレーションワークフローの任意のアクティビティにアサインする。
- 個々の認証情報をフローデザイナーの任意のアクションにアサインする。
- オーケストレーション ワークフローで同じアクティビティ タイプが発生するたびに異なる認証情報を割り当てる。
- デザイナー フローで同じアクションが発生するたびに異なる認証情報を割り当てる。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

また、認証情報エイリアスは、認証情報親和性とも連動します。

外部の認証情報ストア

インスタンスに認証情報を保存しない場合は、外部の認証情報リポジトリを使用できます。外部の認証情報ストアにより、インスタンスによってアクセスできる外部サイトに認証情報が保存されます。CyberArk のみがサポートされています。

オーケストレーションとの接続

接続テーブルを使用して、ターゲット ホストへの JMS 接続、JDBC 接続、または HTTP(s) 接続を設定します。

接続テーブル

接続テーブル (sys_connection) は、すべての接続テーブルの基本テーブルです。次のプロトコルの接続を設定できます。

- JDBC
- JMS
- HTTP(S)

接続テーブルは、接続エイリアステーブルを参照します。これにより、接続エイリアスが接続情報に結合されます。接続ごとに次の情報が記録されます。

基本接続のプロパティ

フィールド	説明
名前	接続の名前。このフィールドは、テーブル上で一意でなければなりません。
認証情報	この接続で使用する認証情報を指定します。これはオプションです。
接続エイリアス	接続エイリアスにより、実行時に接続と資格情報が解決されます。接続エイリアスごとに一度に 1 つの接続のみアクティブになります。
アクティブ	この接続をアクティブにする場合はオンにします。
ドメイン	接続が属するドメイン。

空でない場合、認証情報は有効な接続全体で一意です。

接続情報のアップグレード

JDBC 接続 (jdbc_connection) テーブルおよび JMS 接続 (orch_jms_ds) テーブルは、既存のオーケストレーション接続テーブルです。Madrid では、これらのテーブルを再ペアレンティングして、接続 (sys_connection) テーブルから拡張します。さらに、オーケストレーション ランタイム プラグインから認証情報 & 接続プラグインに移行します。これらのテーブルは本来、sys_metadata から拡張されています。sys_metadata 関連データは削除されます。JDBC フィールド名の変更：

- JDBC サーバーの名前が host に変更されました
- データベース ポートの名前が port に変更されました

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

カスタムアクティビティデザイナーテンプレートを使用してカスタムアクティビティを作成する

カスタム テンプレートを使用して、ワークフローエディターでさまざまなタイプのカスタムアクティビティを作成および更新できます。

始める前に

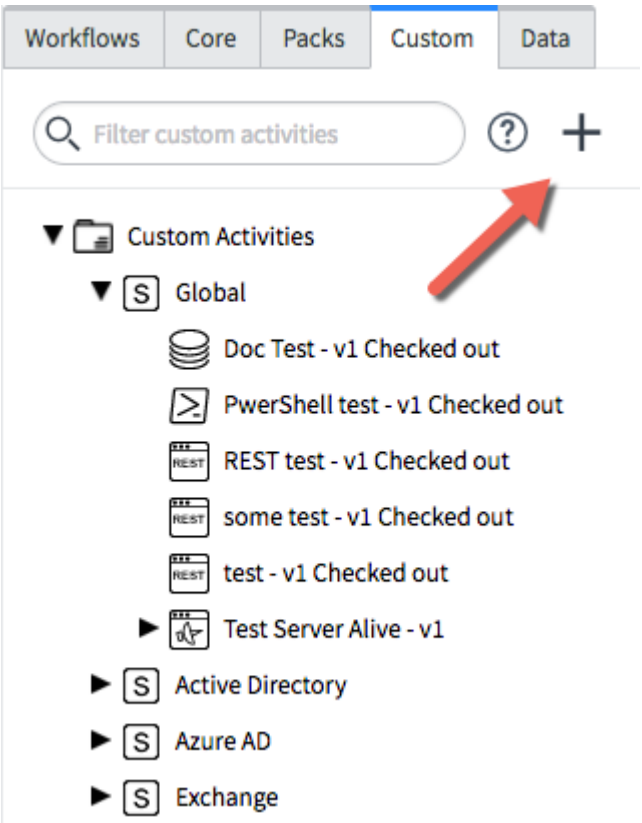
必要なロール：workflow_admin または activity_creator

このタスクについて

アクティビティデザイナーには、作成するすべてのアクティビティに適用される一般的な手順が含まれています。この手順では、一般的なステップとその設定順序について説明します。カスタムアクティビティを作成する前に、アクティビティテンプレートを指定します。

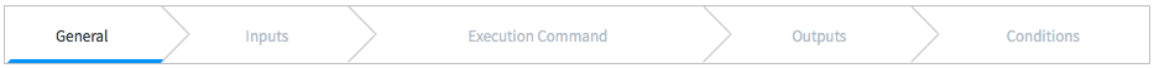
手順

1. [すべて] > [オーケストレーション] > [ワークフローエディター]に移動します。
   ワークフローエディターの [ようこそ] タブが開きます。
2. パレットの [カスタム] タブで、**[+]** をクリックして新しいアクティビティを作成し、リストから適切なテンプレートを選択します。



[アクティビティデザイナー] フォームが表示され、上部にステージインジケーターが表示されます。すべての新しいアクティビティは、[全般] ステージから始まります。現在のステージは、青いアンダースコア付きで表示されます。

アクティビティデザイナーのステージインジケーター



3. 一般的なプロパティを追加します。
   この情報は、各カスタムアクティビティの標準であり、名前、説明、およびその他の関連情報が含まれます。

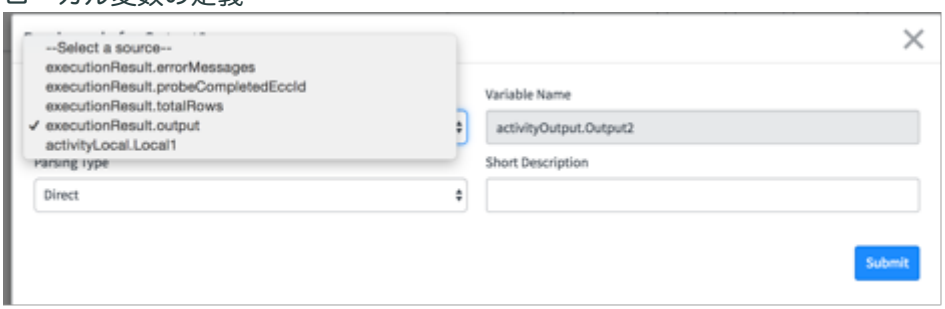
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

4. テンプレートのテンプレート 入力変数を作成する を作成します。
アクティビティデザイナーの [入力] フォームでアクティビティに渡す変数を作成します。
5. オプション: 前処理スクリプトを追加します。
入力妥当性確認や入力データの変換では、前処理スクリプトが必要な場合があります。

   注: この手順は、[スクリプトを実行] アクティビティには含まれていません。

6. [続行] をクリックして [実行コマンド] フォームを開き、対応する実行テンプレートに基づいて、[実行コマンド] 手順に必要な情報を入力します。
   - SOAP Web サービスアクティビティを作成する
   - JDBC アクティビティを作成する
   - JavaScript プローブアクティビティを作成する
   - PowerShell アクティビティを作成する
   - REST Web サービスアクティビティを作成する
   - プローブアクティビティを作成する
   - SFTP アクティビティを作成する
   - [スクリプトを実行] アクティビティを作成する
   - SSH アクティビティを作成する
   - JMS アクティビティを作成する
7. オプション: 入力をテストします。
8. オプション: [出力] フォームで、ローカル変数または出力変数 (あるいはその両方) を定義します。
ローカル変数は、解析ルールをカスケードするときの一時的なストレージに使用できます。たとえば、JSON ペイロード内から XML ペイロードを抽出するとします。ローカル変数は、XML ドキュメントにアクセスして、それを別の解析ルールのソースとして使用できます。グラフィックは、*Output2* のデータを解析する *Local1* 変数ソースを示しています。

   ローカル変数の定義



9. 次のいずれかのオプションを使用して、出力に値を割り当てます。

オプション	説明
解析ルール	解析ルールを作成し、変数を解析ルール構造にドラッグ アンド ドロップすることにより、解析ルールを出力フィールドにマッピングできます。REST、SOAP、JDBC の各テンプレートには、解析ルールを自動作成するための自動マッピングが用意されています。自動マッピングがテスト入力フォームから利用可能な場合は、できる限り使用してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
後処理	後処理スクリプトを使用すると、独自の出力データ検証、出力解析コード、および関連タスクをコーディングできます。後処理は、実行コマンドの結果が返されてから、解析ルールと条件が実行される前に実行されます。[後処理に移動 (詳細)] をクリックして、後処理スクリプトを作成します。 **注:** スクリプトを作成すると、この手順はインジケーター内でステージとして反映されます。

10. [続行] をクリックして [条件] フォームを開き、アクティビティの終了条件ルールを作成して、[保存] をクリックします。

アクティビティデザイナーテンプレートの一般的なプロパティ

次の一般プロパティ フィールドは、すべてのアクティビティデザイナーテンプレートに共通です。

すべてのアクティビティデザイナーテンプレートに共通する一般プロパティ フィールド

フィールド	説明
名前	アクティビティの説明的な名前。パレットでアクティビティを簡単に識別できる一意の名前を選択します。アクティビティに名前を指定しない場合、アクティビティをワークフローに追加すると、アクティビティはワークフローエディターの [データ] タブでインデックス番号によって識別されます。このインデックスは、カスタムアクティビティがワークフローに追加された順序を反映しています。[データ] タブには、カスタムアクティビティとその出力変数のみが表示されます。
簡単な説明	アクティビティが行う事柄の簡単な説明。
画像	ワークフロー パレット上でこのタイプのアクティビティを識別するアイコン。
実行テンプレート	このアクティビティについて選択された事前定義済みのテンプレート。
アプリケーション	インスタンスに設定されている現在のアプリケーションスコープ。スコープを表示するには、任意のレコードまたはリストのタイトル バーの右側にあるギアアイコンをクリックし、[アプリケーション] フィールド内の値を確認します。アクティビティは、ワークフロー内でこのスコープで実行されます。ワークフローエディターで、インスタンスのスコープを表示または変更することはできません。
アクセス可能	このアクティビティのアクセシビリティ設定 (スコープ別)。次のオプションが使用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

すべてのアクティビティデザイナーテンプレートに共通する一般プロパティ フィールド (続く)

フィールド	説明
	• すべてのアプリケーション スコープ：このアクティビティは、すべてのアプリケーション スコープで使用できます。 • このアプリケーション スコープのみ：このアクティビティは、[アプリケーション] フィールドで指定されたスコープでのみ使用できます。
カテゴリ	[カスタム] タブと [パック] タブでのこのアクティビティのカテゴリ。すべてのカテゴリは、折りたたみ可能な階層内のスコープの下に表示されます。
説明	アクティビティの詳細な説明。

入力変数を作成する

アクティビティデザイナーの [入力] フォームで、アクティビティに渡す変数を作成します。

始める前に

[入力] ステージに進む前に、[全般] フォームでアクティビティに名前を付ける必要があります。

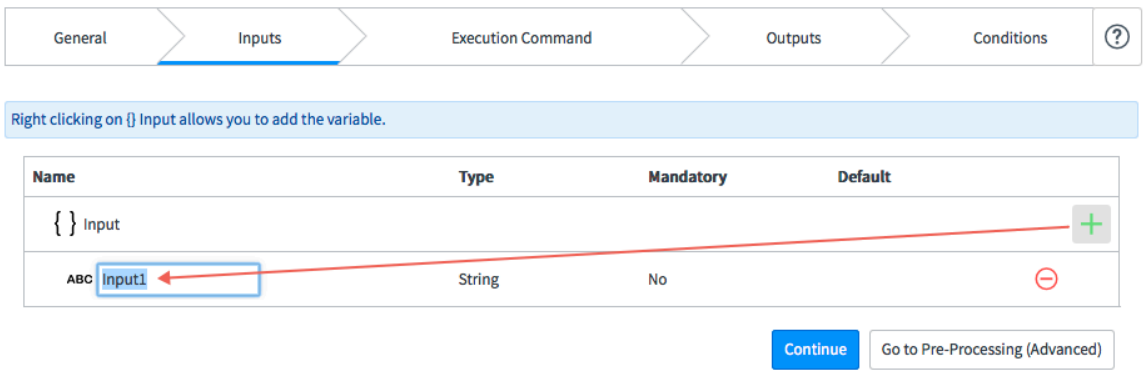
必要なロール：workflow_admin または activity_creator

注: [入力] フォームの変数文字列は、255 文字に制限されています。

手順

1. **[+]** アイコンをクリックして新しい入力変数を作成します。

   デザイナーによって、**Input1** という名前のデフォルト変数が作成されます。



2. フィールドに新しい変数名を入力します。
3. 変数の名前またはその属性のいずれかを変更するには、値をダブルクリックし、表示されるフィールドで新しい値を選択するか、または入力します。
4. 次のフィールドを使用して、変数を構成します。

変数の構成

フィールド	説明
タイプ	この変数のデータタイプ。フィールドをダブルクリックして、選択リストを表示します。通常のデータタイプだけでなく、入力配列を作成

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	し、機密データを含む個々の変数を暗号化することもできます。暗号化された変数は ECC キューに渡され、ターゲット ホストで実行されるときに MID サーバーによって復号化されます。ホストでこれらの変数を実行して返された機密データは、暗号化された出力変数を介して別のアクティビティに渡すことができます。
必須	入力変数を必須としてマークします。必須としてマークされた変数は、ワークフロー内のアクティビティのプロパティ フォームで必須のフィールドです。入力テスト機能を使用すると、必須変数をフィルタリングできます。
デフォルト	この入力変数のデフォルト値。変数のデフォルト値は、ワークフロー内のアクティビティのプロパティ フォームにあらかじめ設定されています。変数をテストするときに、この値を上書きできます。

5. 変数リストを並べ替えるには、行を選択して、新しい場所にドラッグします。

   行を選択して移動すると、ポインター アイコンが上/下矢印アイコン ( ) に変わります。

6. 変数を削除するには、行内の削除アイコン ( ) をクリックします。
7. [続行] をクリックして [実行コマンド] ステージに進むか、[前処理に移動 (詳細)] をクリックして、アクティビティの実行前に実行されるスクリプトを作成します。

入力変数をマップする

入力変数を作成した後、[実行コマンド] フォームのフィールドにその入力変数をマップします。

始める前に

必要なロール：activity_admin、activity_creator

このタスクについて

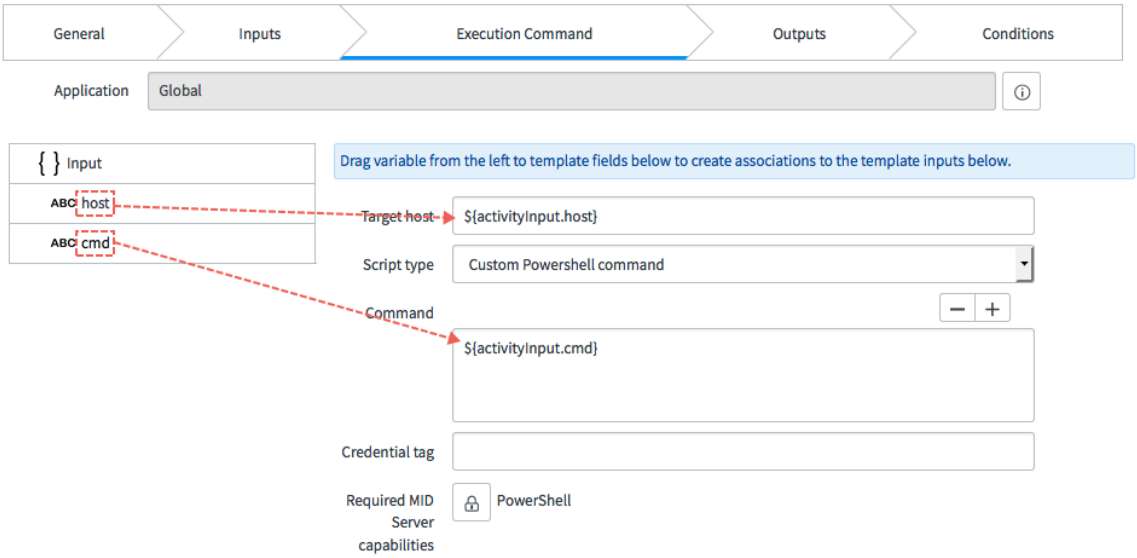
これらのフィールドには、ターゲット ホストまたはエンドポイントでデータの認証とクエリを行うために必要な値が含まれています。この例には、使用するターゲットおよび MID サーバーで実行するコマンドのフィールドが含まれています (必要な場合)。

手順

変数をマップするには、変数を適切なフィールドにドラッグします。

デザイナーにより、システムが求める構文で変数が自動的に表現されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



PowerShell 実行コマンドを設定する

作成した入力変数を使用して、オーケストレーションが Windows ターゲット マシン上で実行するコマンドを設定します。

始める前に

[実行コマンド] ステージに進む前に、[入力] フォームで必要な入力変数を作成します。

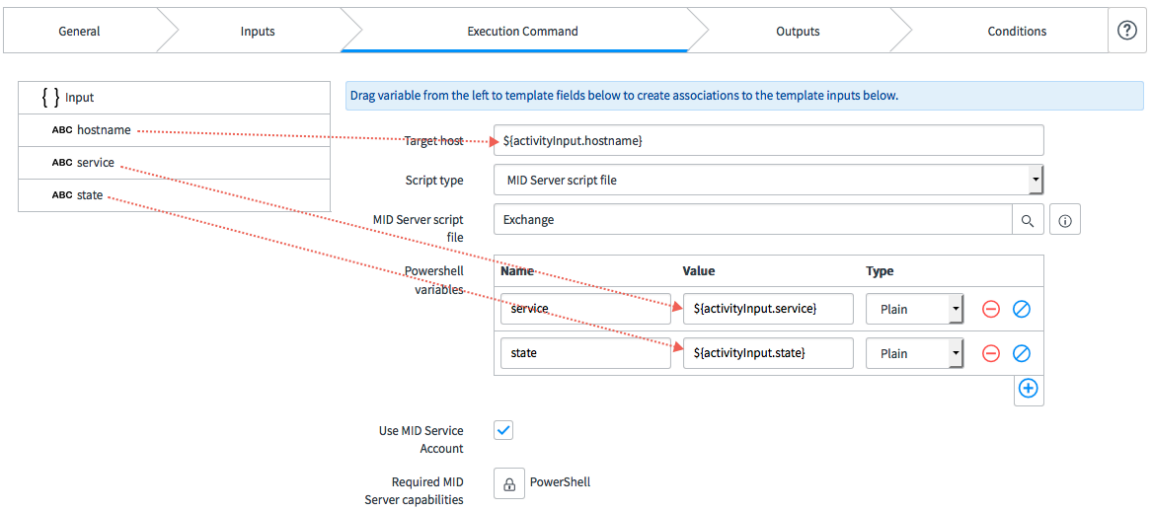
必要なロール：activity_creator、admin

> **注:** MID サーバーとターゲット コンピューター間の PowerShell 接続は、ワークフロー コンテキスト内でアクティビティを実行しなくてもテストできます。詳細は、「テスト テンプレート出力」を参照してください。

手順

1. 入力のリストから変数をドラッグし、コマンド フィールドにドロップします。
   システムによって、コマンドの正しい構文で変数がフォーマットされます。

PowerShell 実行コマンド



2. 表に示されたフィールドに入力します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PowerShell コマンド フィールド

フィールド	説明
入力	入力変数ビルダー。使用可能なフィールドにマップする変数を作成します。
ターゲット ホスト	この PowerShell アクティビティのターゲットサーバーのホスト名または IP アドレス。
スクリプト タイプ	PowerShell ホストで実行するスクリプトのタイプ。使用可能なオプションは次のとおりです。 ◦ カスタム PowerShell コマンド ◦ MID サーバースクリプトファイル
MID サーバースクリプトファイル	実行する MID サーバースクリプトファイル。このフィールドは、選択されている [スクリプト タイプ] が *[MID* サーバースクリプトファイル] である場合に使用可能です。
コマンド	このアクティビティによりターゲット ホスト上で実行されるコマンド。このフィールドは、選択されている [スクリプト タイプ] が [カスタム *PowerShell* コマンド] である場合に使用可能です。入力変数を変数ビルダーからこのフィールドにドラッグ アンド ドロップして、コマンドを作成できます。
PowerShell 変数	PowerShell でホストに渡す名前と値のペア。これらの変数は手動で作成することも、入力変数を [値] フィールドにドラッグすることもできます。暗号化された入力変数は、このフィールドのデータタイプ設定に関係なく、その暗号化を保持します。値を入力して [暗号化] データタイプを選択すると、値はこのフィールドにプレーン テキストで表示され、ECC キューに渡されるときにのみ暗号化されます。
MID サービスアカウントを使用する	他の認証情報を試行せずに MID サーバーサービスアカウントの認証情報のみを使用して、このアクティビティをターゲット ホスト上で強制的に認証します。このチェック ボックスをオンにした場合、[認証情報タグ] フィールドは使用できません。
認証情報タグ	ホストで PowerShell コマンドを実行するために、このアクティビティが使用する必要のある特定のオーケストレーションアクティビティの認証情報エイリアス。このフィールドを空白のままにすると、MID サーバーは有効な認証情報が見つかるまで、使用可能な認証情報をすべて試行し、MID サーバーサービスアカウントで終了します。認証情報エイリアスが定義されている場合、MID サーバーはそのエイリアスの認証情報のみを試行し、MID サーバーサービスアカウントを試行しません。このフィールドは、**[MID** サービスアカウントを使用する] チェック ボックスがオンになっている場合、使用できません。
必要な MID サーバー機能	PowerShell のクエリに使用する MID サーバー (機能別)。デフォルトでは、PowerShell MID サーバーが選択されます。

3. [保存] をクリックします。
4. [続行] をクリックして、[出力] ステージに進みます。

アクティビティテンプレート入力をテストする

カスタムアクティビティの入力パラメーターは、ワークフロー コンテキスト内でアクティビティを実行しないで、その開発中にテストできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
入力変数を作成し、それを [実行コマンド] フォーム内のフィールドにマップしたり、これらのフィールドの実際の値を入力したりします。

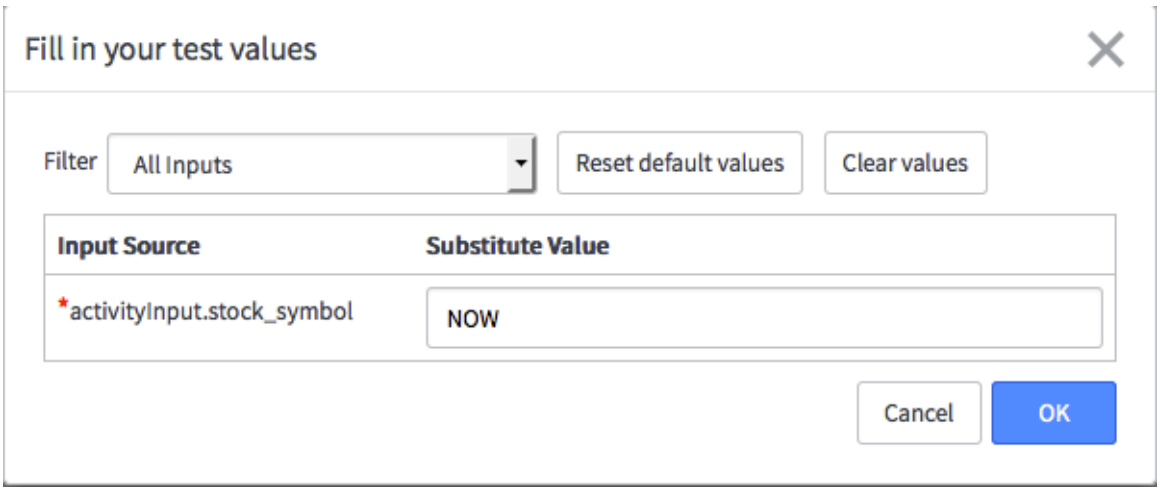
必要なロール：web_service_admin、activity_admin、activity_creator

このタスクについて
入力テストでは、エンドポイントに対して入力パラメーターのみが実行され、前処理スクリプトまたは後処理スクリプトは実行されません。前処理スクリプトや後処理スクリプトのテストは、ワークフローを使用して実行する必要があります。アクティビティをテストするためにチェック アウトする必要はなく、アクティビティが適切に構成されていれば、アクティビティデザイナーのどのステージからでも入力変数をテストできます。通常、[実行コマンド] ステージが、入力のテストの準備ができているポイントです。

注: 自動マッピングを使用する場合は、入力変数をテストする必要があります。

手順

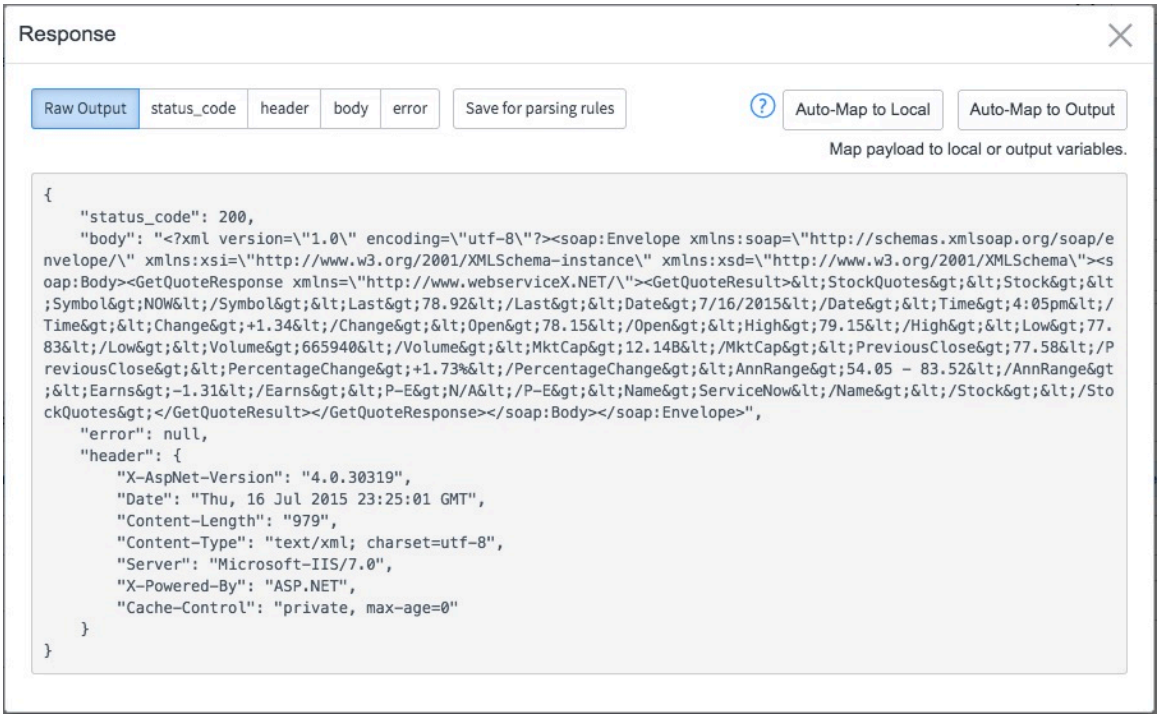
1. [入力のテスト] をクリックします。
   入力ソース変数のリストが表示されます。これらの変数のデフォルト値を追加した場合、[値を代入] 列にその値が表示されます。必須変数には、赤い星印が付いています。この例では、SOAP エンドポイントは株価情報変数の値を返します。



2. 次のコントロールを使用して、変数リストをフィルタリングします。
   - すべての入力：すべての入力変数が表示されます。これがデフォルトの表示です。
   - 必須の入力：必須の入力変数のみが表示されます。
   - デフォルト設定なしの入力：デフォルト値が割り当てられていない入力変数が表示されます。
3. 必要に応じて値をリセットします。
   - デフォルト値をリセット：このフォームに設定されているテスト値を、デフォルト値 (存在する場合) に置き換えます。
   - 値をクリア：デフォルト値が存在していても、入力変数リスト内のすべての値をクリアします。
4. テスト値が正しく構成されたら、**[OK]** をクリックします。
   システムによって、指定されたターゲットに対して構成したすべての入力の値が実行され、結果のペイロードが返されます。[応答] フォームのボタンに、ペイロードのさまざまなビューが表示されます。**[Raw** 出力] ウィンドウに、ペイロード全体が表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

入力テストからの応答ペイロード



5. ペイロード内の適切なパラメーター値を [出力] ステージに自動的にマップするには、自動マッピング オプションを選択します。
6. または、[解析ルール用に保存] をクリックして、ペイロード全体を解析ルールにコピーすることもできます。
   これにより、ペイロードから直接、出力変数の値を手動で選択できます。このアクションは、解析ルールに存在していた以前のペイロードを完全に上書きします。
7. ウィンドウの右上隅にある **[X]** をクリックして、ウィンドウを閉じます。

アクティビティ変数のデータ暗号化

オーケストレーション アクティビティから渡された機密データは、入力変数と出力変数を暗号化することで保護できます。

暗号化された変数がクリア テキストとして保存されることはありません。アクティビティを実行するために MID サーバーが使用される場合、テンプレートで暗号化された出力変数が定義されていれば、対応する ECC キューの入力ペイロードが暗号化されます。入力変数としてダウンストリーム アクティビティに渡された出力変数は、処理中にその暗号化を維持します。

データ暗号化を必要とするのは、次のいずれかのソースからの入力です。

- ワークフロー：これらの入力はワークフローエディターを介して提供されます。双方向暗号化の場合、入力は password2 形式である必要があります。
- サービスカタログ要求：これらの入力値はサービスカタログ アイテムから、暗号化された変数としてアクティビティに提供されます。
- GlideRecord：任意の ServiceNow テーブルに添付された変数です。テーブル内のソース列は、password2 タイプの変数である必要があります。
- アクティビティ出力：あるアクティビティからダウンストリーム アクティビティに、データバスを介して、出力として渡される変数です。
- 空の文字列：システムでは暗号化された入力変数を定義できますが、値を変数に渡すことはできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティデザイナーテンプレートの前処理フィールド

アクティビティデザイナーの [前処理中] フォームを使用して、アクティビティの実行前に実行されるスクリプトを定義します。

前処理フィールド

フィールド	説明
入力プロセススクリプト	アクティビティの実行前に実行するスクリプト。
変数	入力プロセス スクリプトで構成要素として使用できる入力変数。フィールドの上の矢印をクリックすると、変数リストが開きます。ツリー内のアイテムをクリックすると、そのアイテムが適切な構文でスクリプトに追加されます。リストには、[入力] フォームでアクティビティに渡した実行パラメーターと入力変数が表示されます。[入力] フォームで追加されたすべてのアクティビティ変数は読み取り専用であり、前処理スクリプトでは `activityInput.variable` という構文で表現されます。アクティビティが実行されてサービスまたはホストが呼び出される前に、`executionParam.variable_name` 実行パラメーターに値を割り当てることにより、この変数の有効な実行値を上書きできます。テンプレートに固有の実行パラメーターを参照してください。

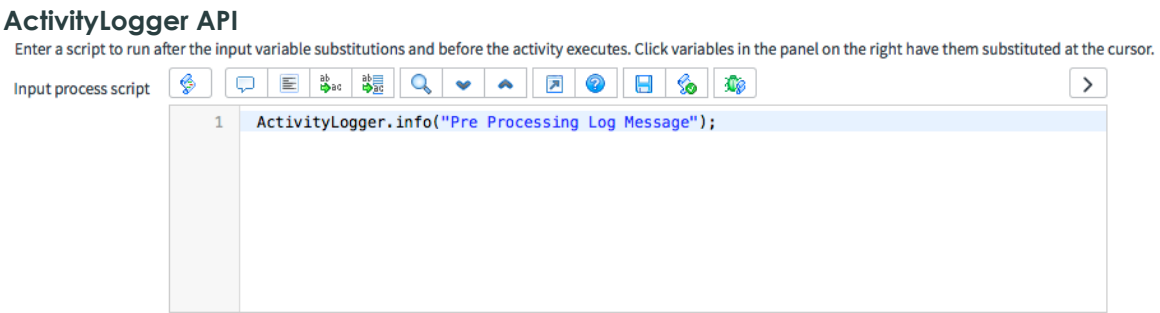
ログ記録

アクティビティデザイナーは、*`ActivityLogger`* API を使用して、ログ記録を前処理に追加できます。これは、スコープ対象アプリケーションまたはグローバルアプリケーションに適用されます。スクリプトから記録されたデータは、アクティビティを使用するワークフローのコンテキスト レコード内の [ワークフロー ログ] 関連リストに表示されます。ワークフロー ログ内のこれらのメッセージのソースは、アクティビティです。

重要: ワークフローログ内のデバッグメッセージを表示するには、*`glide.workflow.log.debug`* プロパティを **true** に設定します。

サポートされているメッセージは次のとおりです。

- `ActivityLogger.debug("Pre Processing Log Message");`
- `ActivityLogger.info ("Pre Processing Log Message");`
- `ActivityLogger.warn ("Pre Processing Log Message");`
- `ActivityLogger.error("Pre Processing Log Message");`



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

テンプレートの後処理フィールド

アクティビティデザイナーの [後処理中] フォームで、アクティビティの実行後に実行されるスクリプトを定義できます。

後処理フィールド

アクティビティから返された結果を使用するには、`executionResult.` プリフィックスをこれらのパラメーターに追加します。

フィールド	説明
出力プロセススクリプト	アクティビティの実行後に実行するスクリプト。
変数	出力プロセス スクリプトで構成要素として使用できる入力変数。フィールドの上の矢印をクリックすると、変数リストが開きます。ツリー内のアイテムをクリックすると、そのアイテムが適切な構文でスクリプトに追加されます。リストには、実行結果と [入力] フォームでアクティビティに渡した変数が表示されます。[入力] フォームで追加されたすべてのアクティビティ変数は読み取り専用であり、後処理スクリプトでは `activityInput.variable` という構文で表現されます。パラメーターの説明については、このアクティビティの後処理パラメーターのトピックの表を参照してください。

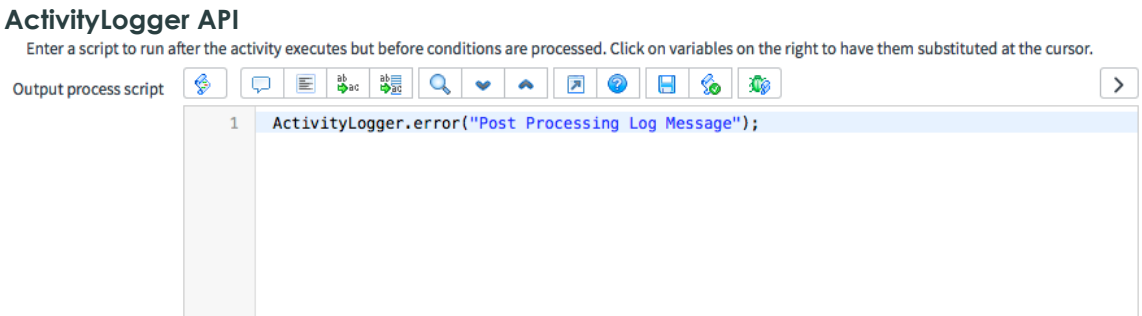
ログ記録

アクティビティデザイナーは、*ActivityLogger* API を使用して、ログ記録を後処理スクリプトに追加できます。これは、スコープ対象アプリケーションまたはグローバルアプリケーションに適用されます。スクリプトから記録されたデータは、アクティビティを使用するワークフローのコンテキスト レコード内の [ワークフロー ログ] 関連リストに表示されます。ワークフロー ログ内のこれらのメッセージのソースは、アクティビティです。

重要: ワークフローログ内のデバッグメッセージを表示するには、*glide.workflow.log.debug* プロパティを **true** に設定します。

サポートされているメッセージは次のとおりです。

- `ActivityLogger.debug("Post Processing Log Message");`
- `ActivityLogger.info ("Post Processing Log Message");`
- `ActivityLogger.warn ("Post Processing Log Message");`
- `ActivityLogger.error("Post Processing Log Message");`



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

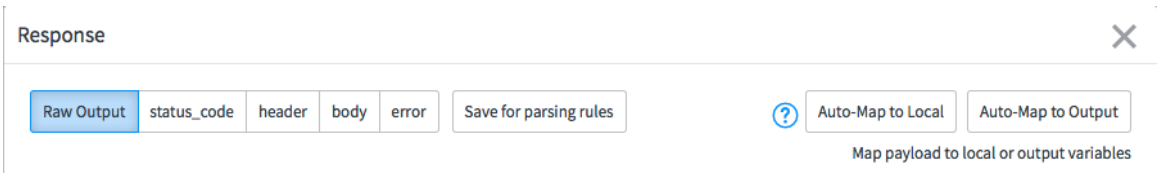
アクティビティ出力変数を自動マッピングする

テストペイロードのパラメーター値を、[出力] タブの変数に自動的にマッピングできます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. テンプレートの [実行コマンド] から、[入力] タブを選択します。
2. [入力のテスト] をクリックして、入力パラメーターをテストします。
   パラメーターとフィールドの実際の値を追加した場合、指定したターゲットに対してこれらの値が実行され、結果のペイロードが返されます。入力変数をフィールドとパラメーターにマップした場合、これらの変数にテスト値を割り当てるためのダイアログ ボックスが表示されます。
3. 必要に応じてテスト値を入力し、**[OK]** をクリックしてペイロードを表示します。
   [応答] フォームの **[Raw** 出力] タブに、ペイロード全体が表示されます。



4. 自動マッピングオプションを選択します。

オプション	説明
ローカルに自動マップ	ペイロード全体を JSON オブジェクトに変換し、データバスに配置します。これにより、JavaScript での後処理操作が可能になります。これを選択すると、右側のデータ フィールド全体が表示されなくなり、入力構造に次のデフォルト変数が自動的に入力されます。 ◦ output ◦ totalRows ◦ errorMessage ◦ eccSysId
出力する自動マップ	アクティビティの出力変数に、ローカル変数の入力として使用されているものと同じデフォルト変数を自動的に設定します。

> **注:** 自動マッピング選択では、解析ルールは使用できません。

出力変数を作成する

デザイナーの [出力] フォームには、オブジェクトとアレイのデータ構造を作成するための変数ビルダが含まれています。

始める前に
必要なロール：activity_admin、activity_creator

このタスクについて
この構造内の要素は、解析ルールを作成する によって、エンドポイントまたはホストから返されたペイロードに含まれる特定のデータにマップされます。これらの変数とその値は、ローカルで、または他のアクティビティで再利用できるようになります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. [出力] 列の **[+]** アイコンをクリックして、ローカル変数または出力変数を作成します。

   ローカル変数はアクティビティ内でのみ使用可能であり、[カスタム] タブに表示されたデータ構造には表示されません。出力変数は、個別に、またはデータ構造全体として、他のアクティビティで再利用できます。いずれかのタイプの新しい変数を作成すると、デザイナーによって **Local1** または **Output1** というデフォルト名が提供されます。

2. フィールドに新しい変数名を入力し、データタイプを選択します。

   変数名は、アレイまたはオブジェクト内で一意である必要があります。機密データを含む出力変数には、[暗号化] データタイプを割り当てることができます。暗号化によって保護されたデータは、暗号化された状態で他のアクティビティやプロセスに渡され、プレーン テキストで表示されることはありません。

3. 変数またはその属性の名前を変更するには、値をダブルクリックし、編集フィールドに新しい値を入力してから、**Enter** キーを押します。

   名前の左側にあるアイコンは、変数のデータタイプを反映しています。

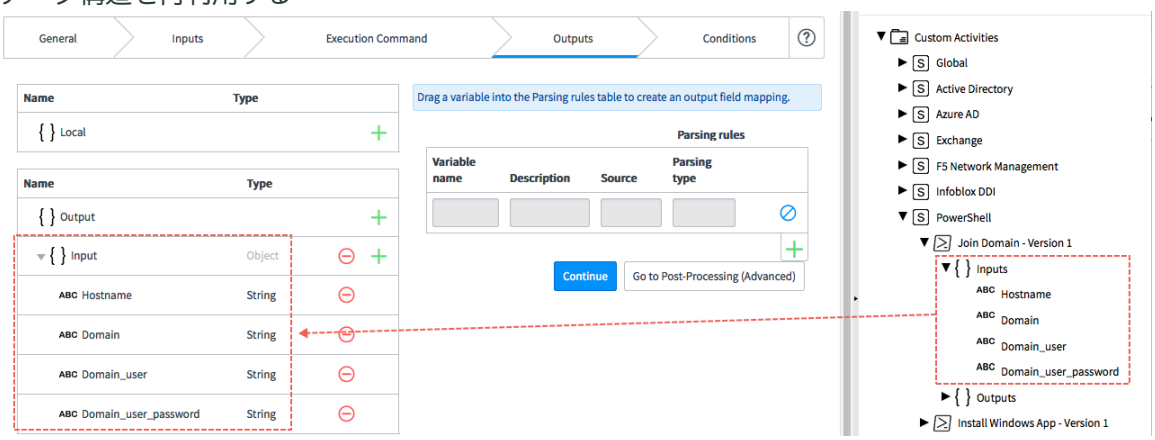
4. 変数リストを並べ替えるには、行を選択して、新しい場所にドラッグします。

   行を選択して移動すると、ポインターアイコンが上/下矢印アイコン ( ) に変わります。

5. 行を別の場所にドラッグします。
6. 次のオプションから選択します。
   - 別のアクティビティからの変数を再利用するには、パレットの [カスタム] タブから変数リストの一番上にある見出し [ローカル] または [出力] にその変数をドラッグします。
   - データ構造全体をコピーするには、親オブジェクトまたはアレイを変数リスト見出しにドラッグします。

   デザイナーによって、コピーしたデータ構造が出力変数ビルダーに複製されます。

   データ構造を再利用する



7. 変数を削除するには、行内の削除アイコン ( ) をクリックします。

アクティビティデザイナーのテンプレート出力

出力変数には、宛先から返された、ワークフロー内の他のアクティビティやアクティビティの内部で使用可能なメッセージが含まれています。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティデザイナーの出力フィールド

フィールド	説明
変数名	このアクティビティにより渡される変数の名前 ([ローカル] または [出力])。
ローカル	アクティビティ内で使用される値を含む変数。たとえば、ローカル変数を使用して、最終値が出力変数にエクスポートされる前にアクティビティ内で処理されるメタデータを指定します。
出力	ワークフロー内の他のアクティビティに渡される値を含む変数。

出力フィールドをマッピングする

マッピングは、選択したペイロードに適切なデータ形式で式を作成できるようにする解析ルールを使用して構成されます。

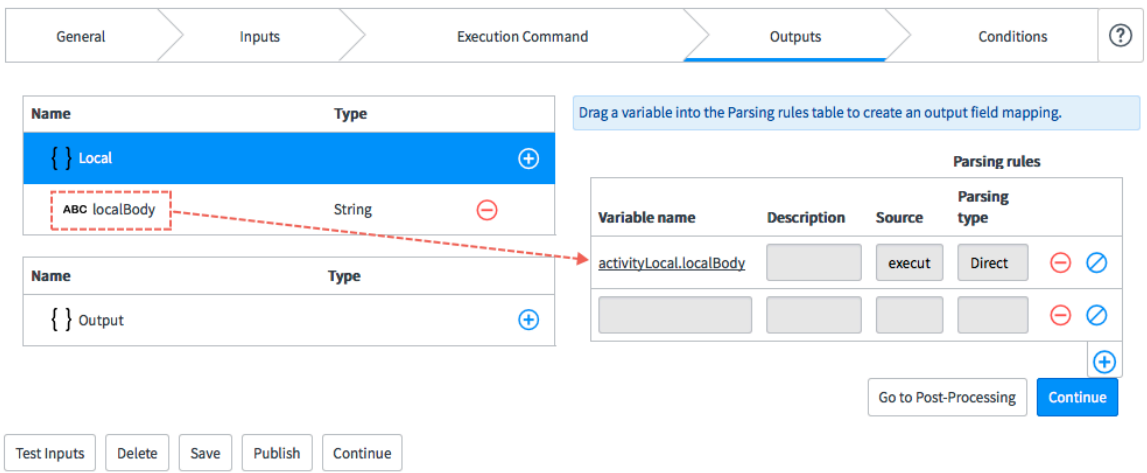
始める前に
必要なロール：activity_admin、activity_creator

このタスクについて
出力データ構造の作成が完了したら、各変数をターゲット ホストから抽出する特定のデータにマップします。

手順

変数をマップするには、[出力] 変数ビルダーから変数をドラッグして、[解析ルール] セクションの空の [変数名] フィールドにドロップします。

出力変数に解析を構成する手順については、「解析ルールを作成する」を参照してください。



解析ルールを作成する

カスタムアクティビティで定義された出力変数に、外部ホストまたはエンドポイントでの入力テストから返されたペイロード データを取り込みます。

始める前に
必要なロール：activity_admin、activity_creator

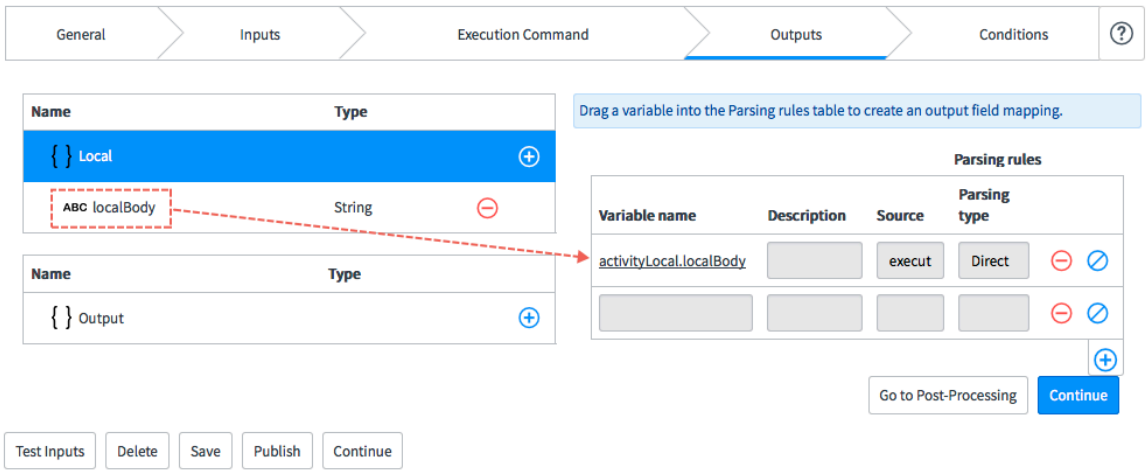
© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動します。
2. パレットの [カスタム] タブから、カスタムアクティビティを開きます。
3. [アクティビティデザイナー] フォームで、[出力] ステージに進みます。
4. データ構造ビルダーから [解析ルール] ビルダーの [変数名] フィールドに出力変数をドラッグします。

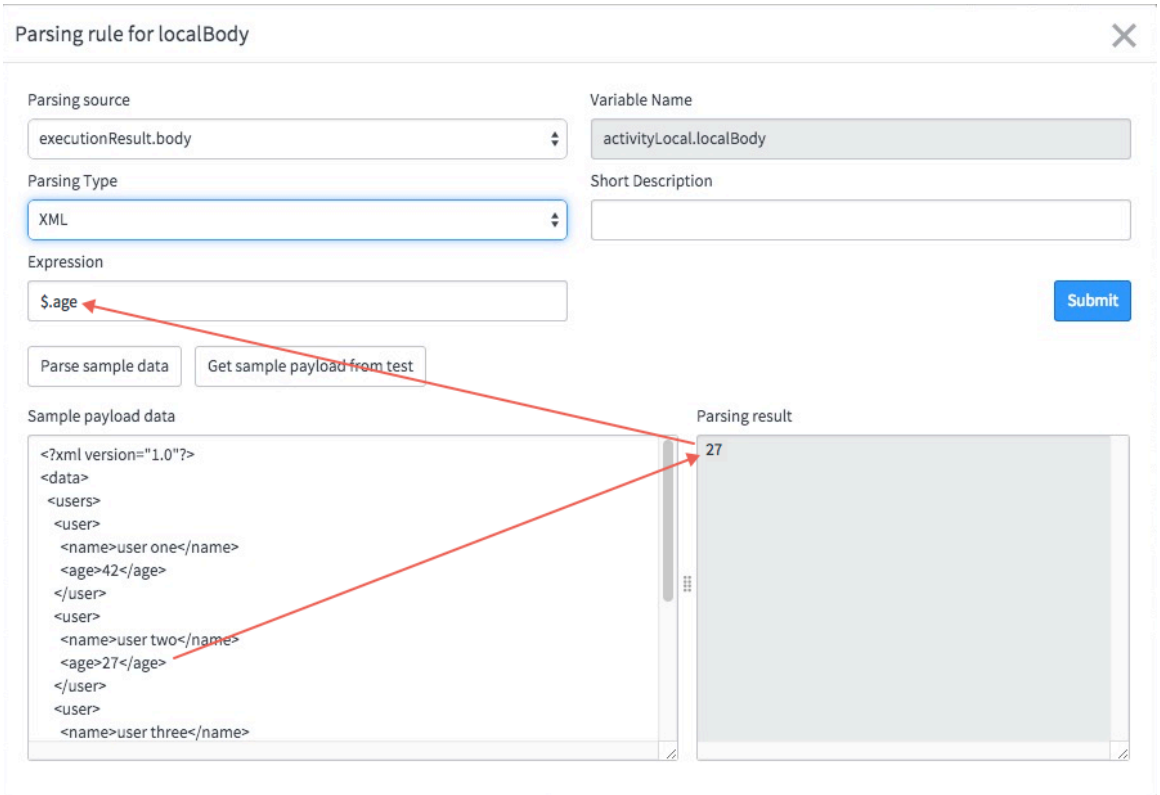
解析ルールへの変数のマッピング



選択した変数について、[解析ルール] フォームが表示されます。デフォルトでは、解析タイプは [直接] に設定されています。これにより、変数には、選択したペイロードからのすべてのデータが、内容を解析することなく取り込まれます。各テンプレートには、特定のデフォルトの解析ソースがあります。

5. テーブル内のフィールド使用して、フォームに値を入力します。
この例では、解析タイプとして **[XML]** が選択されています。これにより、ペイロードから特定のパラメーターを選択して解析することができます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



解析ルールのフィールド

フィールド	説明
ソースを解析中	ターゲット ホストまたはエンドポイントから返されたデータのソース。各テンプレートは、特定のデフォルト ペイロードに対して開きます。選択可能な項目は、アクティビティに対して選択した実行テンプレートによって異なります。ローカル変数に対してすでに解析ルールが定義されている場合は、そのローカル変数を解析ソースとして使用することもできます。各テンプレートの使用可能なペイロードのリストについては、「アクティビティデザイナーの解析ソース」を参照してください。
式	選択した解析ソースから特定のデータを抽出するために使用される式。この式は、サンプル ペイロードのクリック可能なデータから作成され、[タイプを解析中] フィールドで選択されたフォーマットで表示されます。テスト時に、式は複数の結果を返す可能性があります。式を選択する前に、信頼できるまたは予測可能な結果が得られる式を見極めてください。 **注:** システムは、サンプル データからクリック可能な正規表現の式を生成することはできません。すべての正規表現は、手動で記述する必要があります。
変数名	最終的な出力式で使用される更新済みの変数名。システムによって、指定した変数に **activityOutput** または **activityLocal** プリフィックスが追加されます。
タイプを解析中	ターゲット ホストのペイロードのクエリに使用する言語。選択肢は次のとおりです。 ◦ 直接：解析することなく、[ソースを解析中] フィールドで選択したペイロードの内容全体にマップします。これがデフォルトの解析タイプです。 ◦ **XML**：XML ペイロードからノードを選択するために使用される XPath クエリ。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
	◦ **JSON**：JSON ペイロードの一部を選択するための JSONPath クエリ。 ◦ 正規表現：正規表現を使用してペイロードからデータを抽出する解析メソッド。RegEx 解析タイプでは、複数行解析がサポートされておらず、大文字と小文字は区別されません。
簡単な説明	この解析ルールの簡単な説明。
サンプルペイロードデータ	要求されたデータを含むソースからのサンプル データ。このフィールドは、[直接] 解析タイプには使用できません。[サンプル データを解析] をクリックした後は、このフィールド内のデータを編集できませんが、式を作成する目的ではクリック可能になります。フィールドを再度編集可能にするには、[サンプル データを編集] をクリックします。
解析結果	選択した式によりソースから返されたデータが表示されます。このフィールドは、[直接] 解析タイプには使用できません。

6. 入力を再テストするには、[テストからサンプル ペイロードを取得] をクリックします。
このアクションにより、テスト フォームが再度開き、さまざまなテスト値を置き換えて別のペイロードを作成することができます。
7. [保存] をクリックすると、解析ルールにより作成したペイロードで前のペイロードが上書きされます。
8. 解析ルールの式を作成するには、サンプル ペイロードに表示する特定のパラメーターをクリックします。
そのパラメーターの値は、[解析結果] フィールドに表示されます。システムによって、[式] フィールドに適切な式が作成されます。
9. [送信] をクリックして、その変数の解析ルールを保存します。

アクティビティデザイナーの解析ソース

次の表に、各実行テンプレートで使用可能な解析ソースを示します。

ソースを解析中

テンプレート	ソース
SOAP Web サービス	• executionResult.body (デフォルト) • executionResult.status_code • executionResult.header • executionResult.error
JDBC	• executionResult.output (デフォルト) • executionResult.errorMessages

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソースを解析中 (続く)

テンプレート	ソース
	• executionResult.probeCompletedEccId • executionResult.totalRows
JavaScript プローブ	• executionResult.payload (デフォルト) • executionResult.output • executionResult.eccSysId • executionResult.errorMessages
PowerShell	• executionResult.output (デフォルト) • executionResult.tags • executionResult.hresult • executionResult.eccSysId • executionResult.errorMessages
REST Web サービス	• executionResult.body (デフォルト) • executionResult.status_code • executionResult.header • executionResult.error
SFTP	• executionResult.output (デフォルト) • executionResult.eccSysId • executionResult.errorMessages • executionResult.tags
プローブ	• executionResult.output (デフォルト) • executionResult.payload • executionResult.eccSysId
SSH	• executionResult.output (デフォルト) • executionResult.eccSysId • executionResult.errorMessages • executionResult.tags
JMS	• executionResult.status • executionResult.standardHeaders

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ソースを解析中 (続く)

テンプレート	ソース
	• executionResult.customHeaders • executionResult.messagePayload • executionResult.eccSysId • executionResult.errorMessages

アクティビティデザイナーの解析ルールの例

この例では、解析ルールは、PowerShell を使用して、*activityOutput.ipv4* 変数にドメイン サーバーからの IP アドレスの値が入力されるように構成されています。

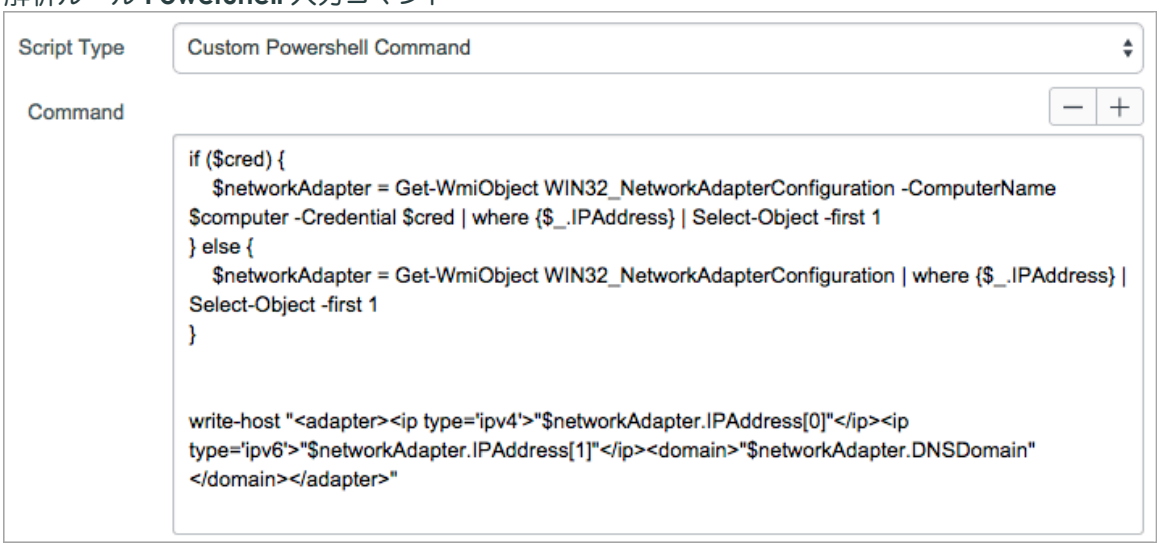
始める前に
必要なロール：activity_creator、activity_admin

このタスクについて
このサンプル データを生成するには、アドミニストレーターは実際にホスト上でコマンドを実行し、返されたデータを [サンプル ペイロード データ] フィールドに入力する必要があります。その後、アドミニストレーターは、そのサンプルから IP アドレスを返す式を、2 つの形式 (`ipv4` および `ipv6`) で作成することができます。この例では、解析ルールに使用する式が 2 つ生成されます。

手順

1. [すべて] > [ワークフロー] > [ワークフローエディター]に移動し、ホスト上で実行するアクティビティを開きます。
2. [入力] タブをクリックし、[コマンド] をメモします。

解析ルール **PowerShell** 入力コマンド



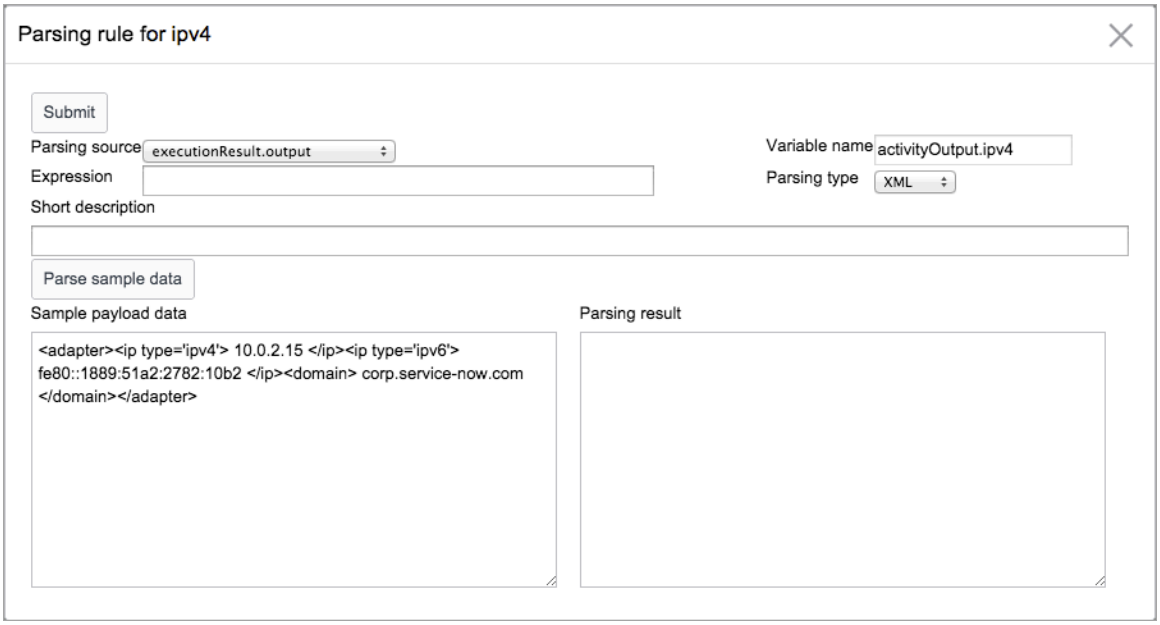
3. PowerShell コンソールで、ホスト上で [コマンド] を実行して、必要な値を含む XML サンプルを抽出します。
4. 返されたデータをクリップボードにコピーします。
5. アクティビティデザイナーで、[出力] タブをクリックし、返されたデータを [サンプル ペイロード データ] フィールドに貼り付けます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この例では、データには 2 つの異なる形式の IP アドレスとドメイン名が含まれています。

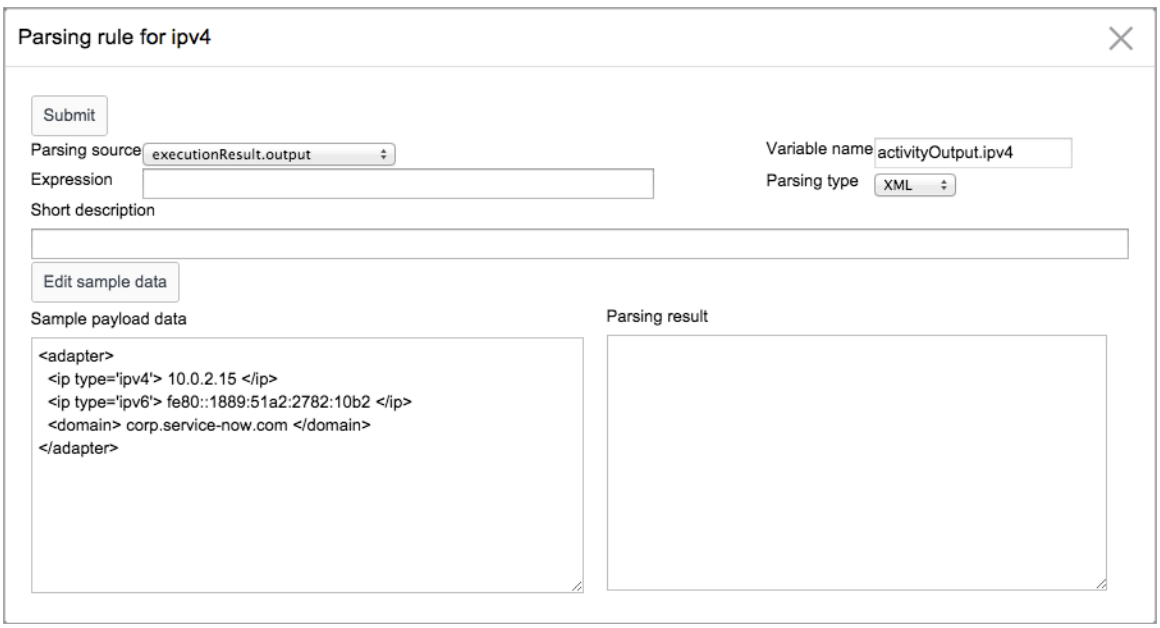
6. ソースの解析タイプを選択します。

Example
次の例では、**[XML]** を選択します。



7. [サンプル データを解析] をクリックします。

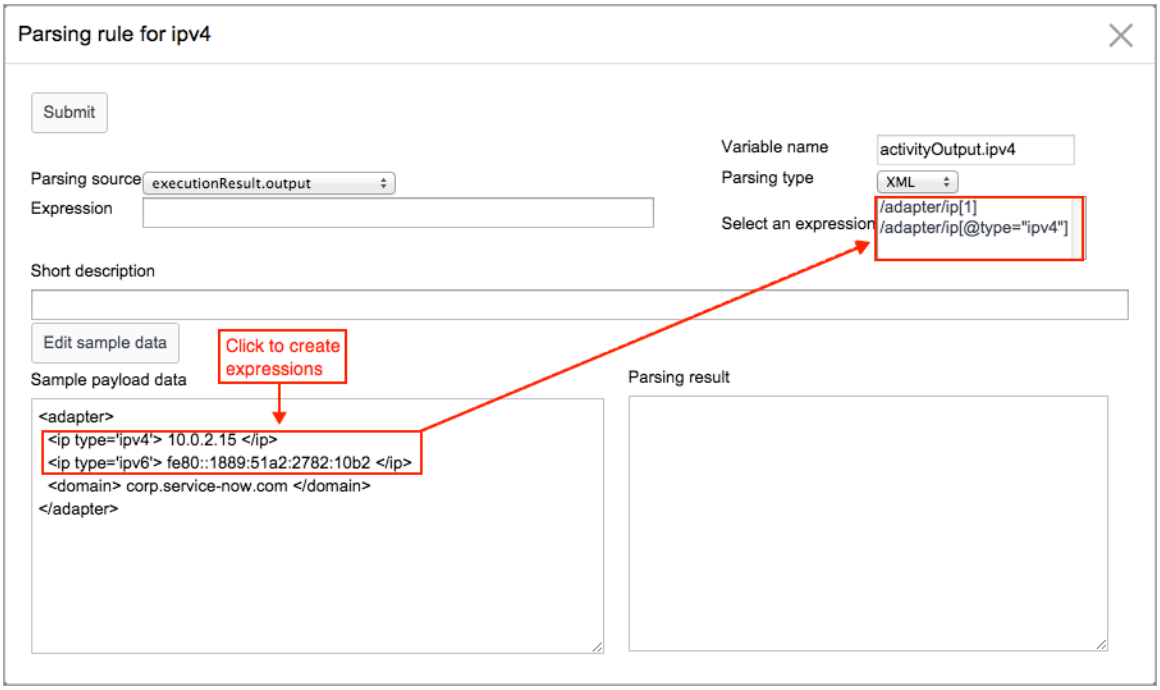
システムによって XML が適切な形式で表示され、クリック可能になります。このビューで、システムはサンプルからクリックされたデータを式に変換することができます。



8. 式を作成するには、変数にマップするデータ サンプルの要素をクリックします。

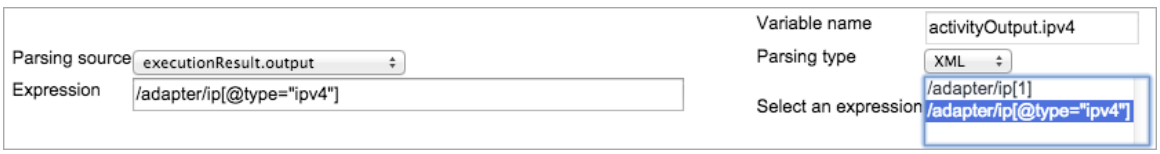
クリックしたサンプル データに基づいて、2 つの式が作成されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



9. リストから式を選択します。

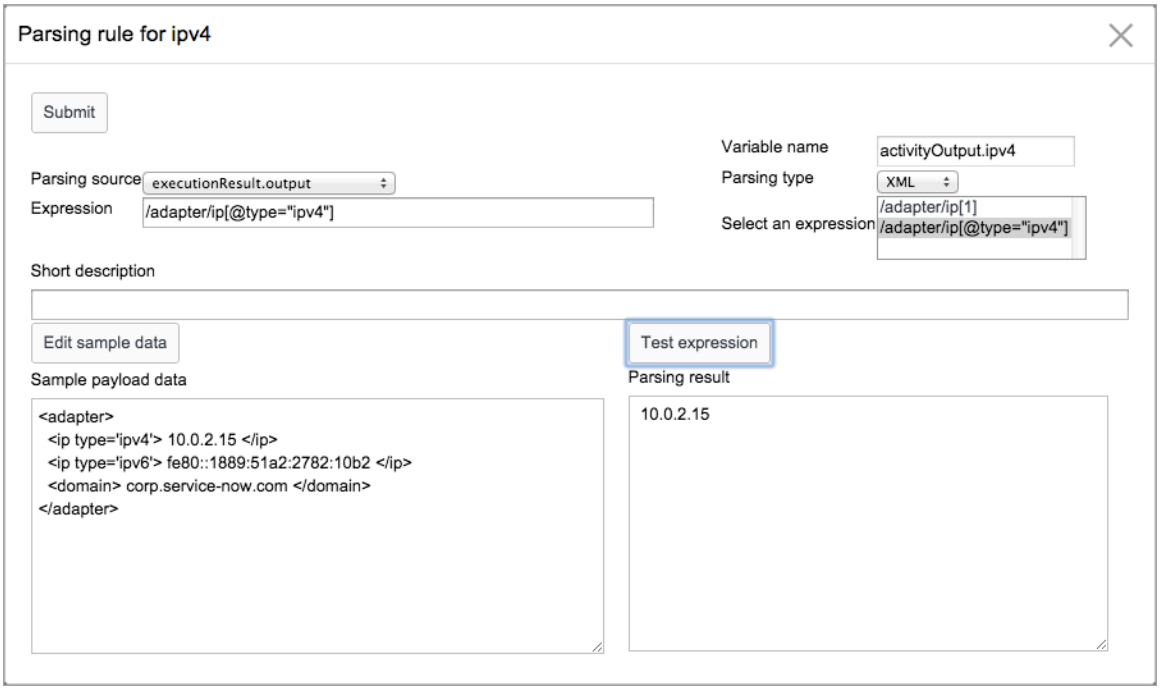
   目的の結果は、[タイプ] 属性が **ipv4** の IP アドレスです。システムによって、[式] フィールドにこの選択項目が入力されます。



10. [式をテスト] をクリックします。

    システムによって、選択した式を使用してペイロードが解析され、要求したデータが [解析結果] フィールド内に返されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



11. [送信] をクリックします。

    ビューがアクティビティデザイナーの [出力] タブに戻ります。新しい解析ルールがリストされ、別のルールに対して空の行が使用可能になります。

アクティビティ条件

アクティビティの終了条件を [条件] 列に作成し、それぞれの順序を設定します。

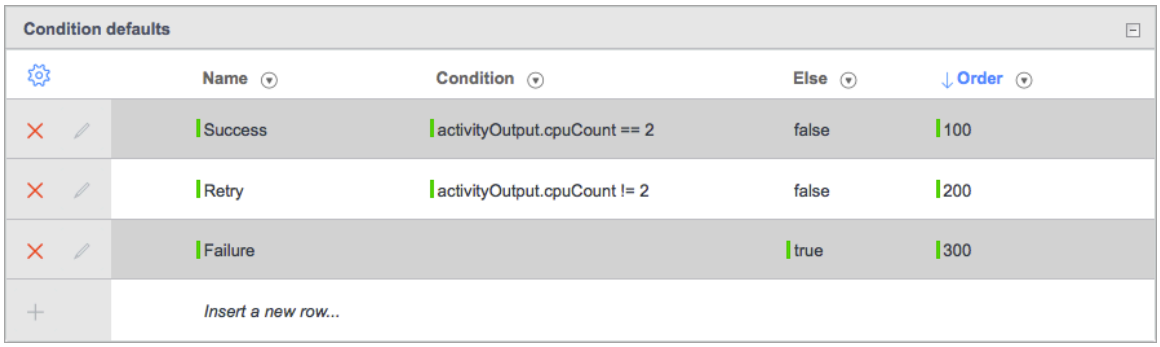
システムは最も小さい順序番号の条件を最初に評価し、最初の true 条件が見つかると停止します。[それ以外の場合] の値が **true** に設定された条件は、[それ以外の場合] の値が **false** に設定されたすべての条件が評価されるまで、評価されません。true 条件が見つからない場合、[それ以外の場合] が **true** であってこの終了を使用するデフォルト条件を検索します。少なくとも 1 つのデフォルトの終了条件が必要です。これがない場合、ワークフローの実行時にアクティビティがハングします。

アクティビティに作成できる条件は次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティ条件の例

条件	評価
成功	成功条件をテストします。[それ以外の場合] が **false** に設定され、[順序] が **100** に設定されます。この条件が true の場合、アクティビティは [成功] 終了を取ります。この条件が false の場合、システムは次の条件を順番に評価します。
再試行	アクティビティを再度実行する条件をテストします。[それ以外の場合] が **false** に設定されます。この条件が true の場合、アクティビティは再び実行されます。この条件が false の場合、システムはデフォルトの [失敗] 終了を取ります。
失敗	アクティビティ内の他の条件が false の場合にワークフローの続行を許可するデフォルトの条件。[それ以外の場合] が **true** に設定されます。



オーケストレーションカスタムアクティビティテンプレート

オーケストレーションでは、ワークフローエディターでカスタムアクティビティを作成および管理するためのカスタマイズ可能なアクティビティテンプレートが用意されています。

アクティビティデザイナー
で、SSH、PowerShell、REST、SOAP、JMS、SFTP、JDBC、JavaScript Probes、および Probes 用のアクティビティテンプレートを使用して、さまざまなタイプの オーケストレーション アクティビティを作成および更新します。

数百ものワークフローがこれらのアクティビティを同時に共有できます。アクティビティを変更する前に、フォーム メニュー アイコン (☰) をクリックして [使用] を選択することにより、そのアクティビティが含まれるワークフローをチェックする必要があります。バージョニングされたアクティビティを一元的に変更すると、そのアクティビティを固定していない限り、ワークフロー間で自動的に更新されます。

すべての主要な オーケストレーション アクティビティは、スコープ対象アプリケーションで、アクティビティデザイナーを使用してビルドされます。カスタムアクティビティは、グローバル スコープまたはそれ自身のアプリケーション スコープ内で開発できます (そのスコープがワークフローの範囲と異なる場合も含む)。自分自身のアクティビティパックをビルドする場合は、アクティビティ スコーピング を使用します。

JDBC アクティビティを作成する

カスタム JDBC アクティビティを作成して、ワークフローからリレーショナル データベースへの SQL コマンドおよびストアド プロシージャ呼出しを自動化します。

始める前に
必要なロール：activity_admin、activity_creator

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
JDBC アクティビティテンプレートを使用すると、ターゲットデータベース上で ANSI SQL ステートメントまたはストアド プロシージャを実行できます。IN、OUT、および INOUT パラメーターを使用するストアド プロシージャのサポートは、Yokohama で利用できます。これらのパラメーターを設定する方法については、「JDBC ストアド プロシージャのパラメーター」を参照してください。

注: 外部データソースからバルクデータを ServiceNow インスタンスに転送する場合は、インポートセットのキーコンセプトを使用してください。JDBC アクティビティを使用すると、ワークフロー内で外部データソースと ServiceNow の間でデータを転送できます。これは、データソースの一括インポート機能に置き換わるものではありません。

手順

1. JDBC 認証情報を作成または検証します。
   JDBC 認証情報には、ターゲットデータベースに対する権限と、対応する JDBC 接続に対する適切な構成が必要です。JDBC アクティビティを作成する前に、認証情報を設定する必要があります。
2. JDBC 接続を作成または検証します。
   JDBC アクティビティを作成する前に、有効な JDBC 認証情報を設定した JDBC 接続を構成する必要があります。
3. カスタムアクティビティを作成します。
   このアクションにより、テンプレートを使用してカスタムアクティビティが作成されます。
4. 一般的なプロパティを設定し、入力変数を作成した後、JDBC 実行コマンドを構成します。

オプション	説明
JDBC 接続	データベースに適切な JDBC 接続を構成するか、参照します。選択した接続によって、アクティビティに次の情報が提供されます。 ◦ ターゲットデータベース情報 (サーバー名とデータベース名) ◦ 接続 URL ◦ ターゲットデータベース ポート (標準ポート番号と異なる場合) ◦ データベース インスタンス名
認証情報	JDBC 接続に使用する JDBC 認証情報。
SQL ステートメント	JDBC ターゲットデータベースで実行する ANSI SQL を入力します。 **注:** このフィールドは、[ストアド プロシージャ] チェック ボックスがオンになっているときは非表示になります。 作成した入力変数をマップして、SQL ステートメントを構成できます。デフォルトでは、次の SQL ステートメントを実行できます。 ◦ select ◦ insert ◦ update ◦ delete ◦ show

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	◦ 作成 ◦ describe セキュリティ対策を強化するために、この JDBCOrchestrationProbe が実行する操作を MID サーバープロパティによって制御します。これにより、使用する SQL コマンドが制限されます。このプロパティは、データベースの削除など、破壊的な可能性のあるコマンドからシステムを保護します。mid.property.jdbc_operations には、MID サーバープロパティ コントロールが含まれています。 **注:** 異なるタイプの複数のステートメントを実行することはできません。たとえば、select ステートメントと update ステートメントを一緒に実行することはできませんが、2 つの insert ステートメントを実行することはできます。ただし、このアクティビティで複数の select ステートメントを実行することはできません。
最大行	データベースから取得するレコードの最大数。デフォルトは 1,000 です。
最大ペイロード サイズ (KB)	データベースから取得するデータの最大ペイロード サイズの制限を設定できます。デフォルトは 64 キロバイトです。
接続タイムアウト	アクティビティが接続の確立を待機する時間。このフィールドはデータソースから自動的に入力されますが、このアクティビティに合わせて変更することができます。
クエリ タイムアウト	クエリを実行してからデータが返されるまで待機する経過時間。このフィールドはデータソースから自動的に入力されますが、このアクティビティに合わせて変更することができます。
必要な MID サーバー機能	JDBC のクエリに使用する MID サーバー (機能別)。デフォルトでは、JDBC 機能を備えた MID サーバーが選択されます。
ストアド プロシージャを使用	これをオンにすると、プロシージャ名とパラメーターを入力することにより、MySQL、Oracle、または SQL Server データベース上でストアド プロシージャを実行できます。「JDBC ストアド プロシージャのパラメーター」を参照してください。

注: テストペイロードのパラメーター値を、[出力] タブの変数に自動的にマッピングできます。「出力変数を自動マッピングする」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

次のタスク

- JDBC アクティビティ入力をテストする
- 自動マッピングを使用して出力および解析ルールを生成する (JDBC で推奨)
- 自動マッピングを使用しない場合は、手動で出力変数を作成し、解析ルールを作成できる

関連情報

カスタムアクティビティデザイナーテンプレートを使用してカスタムアクティビティを作成する

オーケストレーション アクティビティ用の **JDBC** 接続を作成する

JDBC 接続 [jdbc_connection] テーブルによって、カスタム JDBC オーケストレーションアクティビティがさまざまなターゲットデータベースに接続するために使用する情報を提供します。

始める前に

インスタンスに付属するかどうかに関係なく、適切な JAR ファイル、またはカスタム JAR ファイルが必要です。

注: ServiceNow インスタンスでは、`mysql-connector-java-5.1.21.jar`、`sql-server-jdbc-4.0.jar`、および `ojdbc6.jar` の各ファイルが現在のリリースの一部として提供され、MySQL、SQLServer、および Oracle データベースをサポートしています。Sybase や DB2 Universal などの他のデータベースでは、カスタム JAR ファイルを使用する必要があります。このファイルは、JDBC 接続を設定する前にインスタンスにアップロードする必要があります。

必要なロール：activity_admin、activity_creator

このタスクについて

JDBC 認証情報 JDBC 認証情報 は、アクティビティデザイナーテンプレートによって別々に取得され、CyberArk などの外部認証情報ストレージをサポートします。

手順

1. [すべて] > [オーケストレーション] > [認証情報と接続] > **[JDBC** 接続]に移動し、[新規] をクリックします。
2. テーブル内のフィールドを使用して、フォームに入力します。
   [フォーマット] フィールドのデータベース選択により、利用可能なフィールドが決定されます。

JDBC 接続フィールド

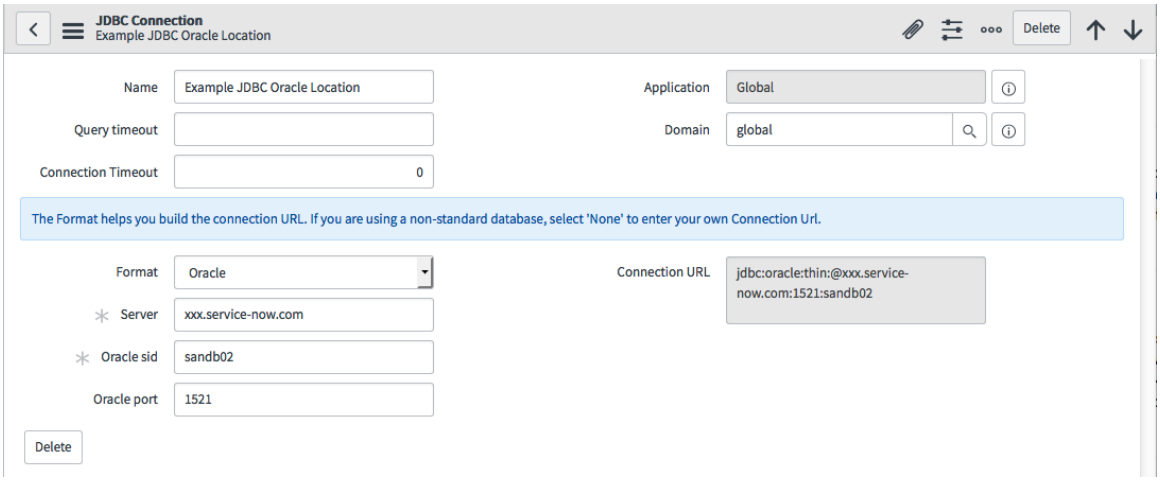
フィールド	データベース形式	説明
名前	すべて	この JDBC 接続の一意の名前。たとえば、**JDBC MySQLProd** を入力します。
クエリ タイムアウト	すべて	JDBC クエリが応答なしで実行される最大経過時間。
接続タイムアウト	すべて	ターゲットデータベースへの接続の試行中に JDBC アクティビティが待機する最大経過時間。
アプリケーション	すべて	このテーブルのスコープ。デフォルトでは、[グローバル] スコープで JDBC 接続 [jdbc_connection] テーブルが実行されます。
ドメイン	すべて	このテーブルのドメイン。デフォルトでは、グローバルドメインで JDBC 接続 [jdbc_connection] テーブルが実行されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	データベース形式	説明
フォーマット	すべて	この接続のデータベース タイプ。デフォルトの選択肢は次のとおりです。 ◦ **MySQL** ◦ **Oracle** ◦ **SQLServer** ◦ なし 適切な JDBC ドライバー JAR ファイルをインスタンスにアップロードして、**Sybase** または **DB2 Universal** を選択リストに追加できます。オーケストレーションでは、システムにロードされたときにこれらのドライバーを自動的に認識し、このリストに追加します。
サーバー	Oracle、MySQL、SQLServer	データベース サーバーのホスト名または IP アドレス。
Oracle SID	Oracle	Oracle データベース サイトの識別子。デフォルト値は **orcl** です。
Oracle ポート	Oracle	Oracle データベースが使用しているポート。デフォルト値は **1521** です。
データベース名	MySQL、SQLServer	データベースの名前。
データベース ポート	MySQL、SQLServer	選択したデータベースが使用しているポート。
インスタンス名	SQLServer	選択した SQLServer のインスタンス名
接続 URL	すべて	指定したデータベースへの接続に MID サーバーが使用する URL。この URL は、フォームを保存したときに自動的に作成され、デフォルトのデータベースでは読み取り専用になります。 **注:** 選択した形式がデフォルトのデータベースのものでない場合は、接続 URL を手動で作成して、MID サーバーが接続の作成方法を認識できるようにする必要があります。
JDBC ドライバー	なし、DB2 Universal、Sybase	デフォルトのデータベースでない場合にこの接続に使用する JDBC ドライバー。 **注:** Sybase または DB2 Universal Database を追加する場合、このフィールドにドライバー名を入力して、そのドライバー JAR ファイルをインスタンスにアップロードする必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Oracle への JDBC 接続の例



3. [送信] をクリックします。

関連情報

JDBC 認証情報

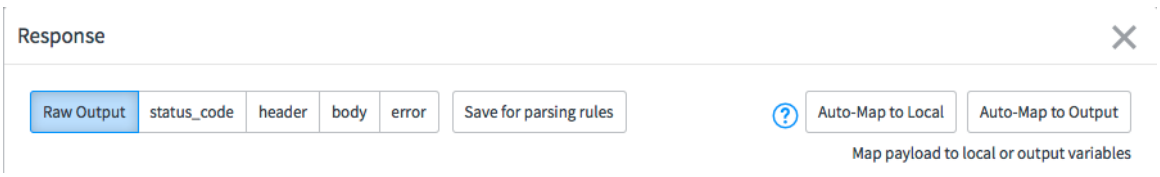
JDBC アクティビティ出力変数を自動マッピングする

ServiceNow アクティビティデザイナーを使用すると、JDBC テストペイロード内のパラメーター値を [出力] タブ内の変数に自動的にマッピングできます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. JDBC プロバイダー テンプレート フォームで、[入力] タブを選択します。
2. [アクティビティをテスト] をクリックして、入力パラメーターをテストします。
   パラメーターとフィールドの実際の値を追加した場合、指定したターゲットに対してこれらの値が実行され、結果のペイロードが返されます。入力変数をフィールドとパラメーターにマップした場合、これらの変数にテスト値を割り当てるためのダイアログ ボックスが表示されます。
3. 必要に応じてテスト値を入力し、**[OK]** をクリックしてペイロードを表示します。
   [応答] フォームの **[Raw** 出力] タブに、ペイロード全体が表示されます。



4. 次の自動マッピング オプションのいずれかを選択します。
   - ローカルに自動マップ：値をアクティビティ内で使用するためにローカル変数に直接マップします。
   - 出力する自動マップ：値を出力変数に直接マッピングして、ワークフロー内の他のアクティビティに渡します。出力変数への自動マッピングによって、オブジェクトのアレイが作成されます。それぞれに、クエリ結果からの列名が含まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JDBC ストアド プロシージャのパラメーター

オーケストレーションを使用して、MySQL、Oracle DB、および MS-SQL データベースで、ストアド プロシージャを実行できます。

複数のデータタイプがサポートされますが、次の制限があります。

- 返される結果セットは 1 つのみです。
- ストアド プロシージャ パラメーター内の入力データタイプと出力データタイプの順序は、アクティビティ定義と一致している必要があります。
- Binary、Blob、Varbinary、および LongBinary は、base64 でエンコードする必要があります。
- 日付、時刻、およびタイムスタンプの形式は次のとおりです。

  日付形式：yyyy-mm-dd

  yyyy-mm-dd が、サポートされている形式です。

  時間形式：hh:mm:ss[.sss]

  hh：mm：ss [.sss] が、サポートされている形式です。精度はミリ秒単位のみです。マイクロ秒やナノ秒は処理できません。

  > **注:** `10:30:59` および `10:30:59.999000` は正しい形式ですが、`10:30:59.` は間違った形式です。

  タイムスタンプ形式：yyyy-mm-dd hh:mm:ss[.ffffff]

  yyyy-mm-dd hh:mm:ss[.ffffff] が、サポートされている形式です。精度はマイクロ秒単位です。

- ResultSet は、データベース サーバーから返される最初の結果セットです。
- MS-SQL は INOUT パラメーターをサポートしていません。INOUT パラメーターを使用すると、アクティビティテンプレートによってそれらが OUT パラメーターに透過的にマップされます。

> **注:** レガシー動作のように、ストアド プロシージャのパラメーターでデータタイプの検証を行わない場合は、glide.stored_proc.data_type.validation を false に設定します。詳細については、「MID サーバープロパティ」を参照してください。

ストアド プロシージャのパラメーター

フィールド	説明
モード	ストアド プロシージャ パラメーターのタイプ。サポートされているパラメーター： • IN • OUT • INOUT
SQL タイプ	SQL データタイプ。サポートされるデータタイプ： • ARRAY • BIGINT • BINARY • BIT • BLOB

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

ストアド プロシージャのパラメーター (続く)

フィールド	説明
	• CHAR • CLOB • DATE • DECIMAL • DISTINCT • DOUBLE • FLOAT • INT • INTEGER • JAVA_OBJECT • LONGVARBINARY • LONGVARCHAR • NULL • NUMERIC • OTHER • REAL • REF • REF_CURSOR • SMALLINT • STRUCT • TIME • TIMESTAMP • TINYINT • VARBINARY • VARCHAR
名前/値	ホストに渡す名前と値のペア。これらのパラメーターは手動で作成することも、入力変数をパラメーター フィールドにドラッグ アンド ドロップして値を割り当てることもできます。

注: すべてのデータベース プロバイダーが JDBC データタイプの領域全体をサポートしているわけではありません。ご使用のインストール環境でサポートされているデータタイプについては、データベース参照マニュアルを参照してください。

JDBC アクティビティテンプレートの入力をテストする

カスタム JDBC アクティビティの入力パラメーターは、ワークフロー コンテキスト内でアクティビティを実行しないで、その開発中にテストできます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
入力変数を作成し、それを [実行コマンド] フォーム内のフィールドにマップしたり、これらのフィールドの実際の値を入力したりします。必要なロール：web_service_admin、activity_admin、activity_creator

このタスクについて
このテストでは、エンドポイントに対して入力パラメーターのみが実行され、前処理スクリプトまたは後処理スクリプトは実行されません。テストするためにアクティビティをチェック アウトする必要はありません。

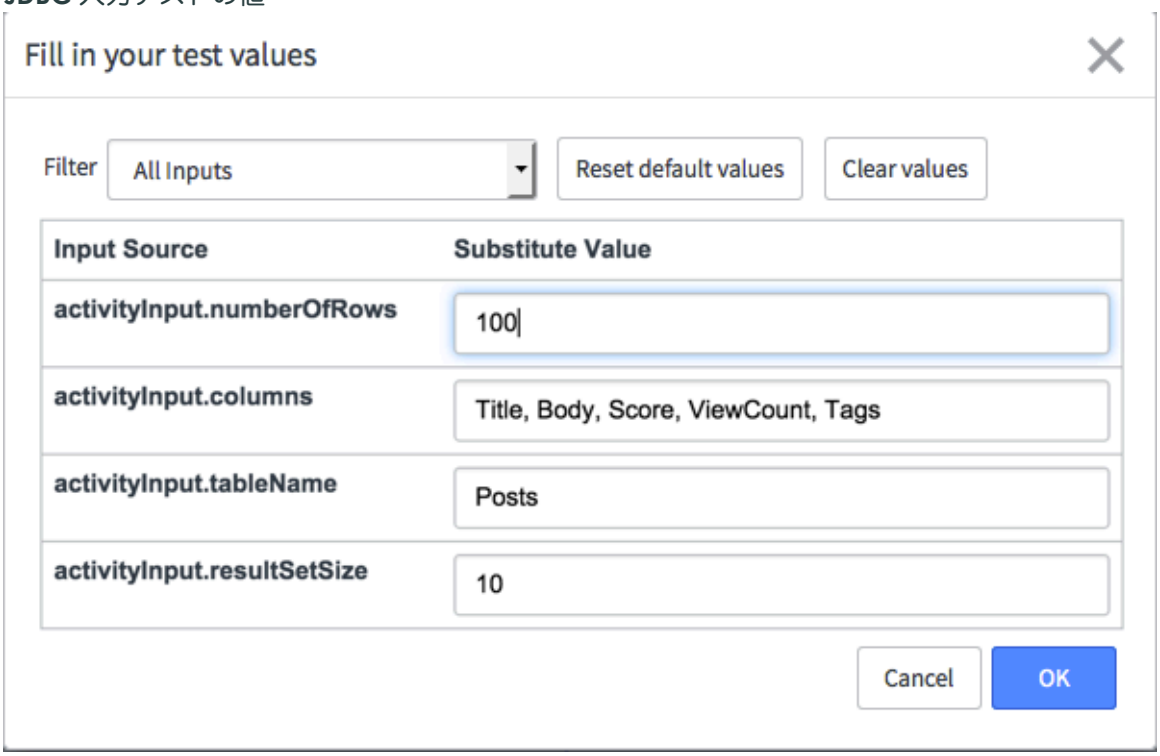
注: エンドポイントまたはホストに接続してデータを返すために十分な情報をオーケストレーションに提供した場合は、入力変数をテストできます。アクティビティデザイナーのどのステージからでもテストできます。通常、[実行コマンド] ステージが、入力のテストの準備ができているポイントです。

手順

1. JDBC 実行コマンドから、[入力のテスト] をクリックします。
   入力ソース変数のリストが表示されます。これらの変数のデフォルト値を追加した場合、[値を代入] 列にその値が表示されます。必須変数には、赤い星印が付いています。

   注: MID サーバーが見つからない場合、またはターゲットに接続できない場合、テストは失敗します。

   JDBC 入力テストの値



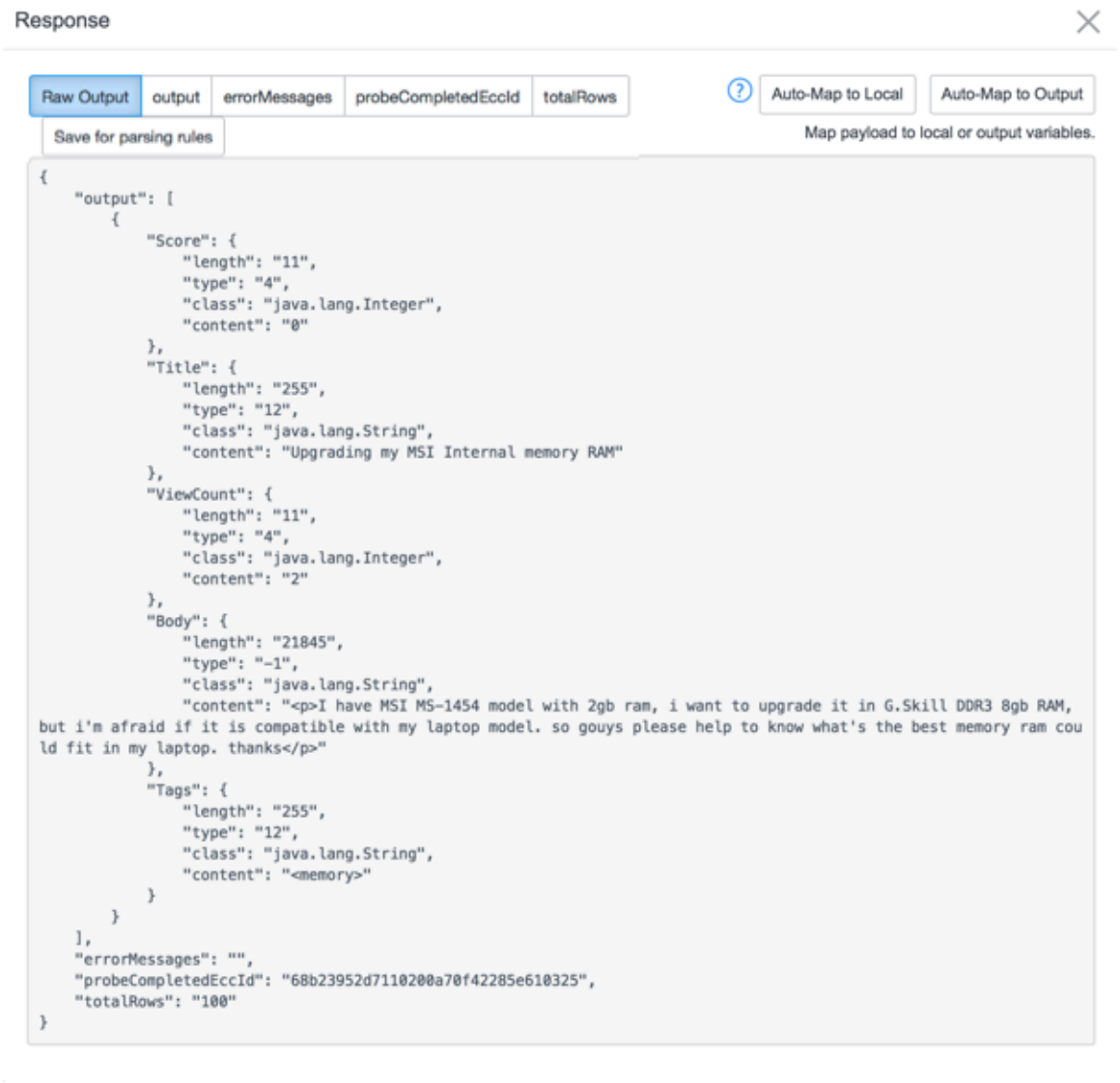
2. 次のコントロールを使用して、変数リストをフィルタリングします。
   - すべての入力：すべての入力変数が表示されます。このコントロールがデフォルトの表示です。
   - 必須の入力：必須の変数のみが表示されます。
   - デフォルト設定なしの入力：デフォルト値が割り当てられていない入力変数が表示されます。
3. 必要に応じて値をリセットします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- デフォルト値をリセット：値が存在する場合、このコントロールは、このフォームで設定されているすべてのテスト値をデフォルト値に置き換えます。
- 値をクリア：デフォルト値が存在していても、入力変数リスト内のすべての値をクリアします。

4. テスト値が正しく構成されたら、**[OK]** をクリックします。
システムによって、指定されたターゲットに対して構成したすべての入力の値が実行され、結果のペイロードが返されます。[応答] フォームのボタンに、ペイロードのさまざまなビューが表示されます。**[Raw** 出力] ウィンドウに、ペイロード全体が表示されます。

入力テストからの応答ペイロード



5. ペイロード内の適切なパラメーター値を [出力] ステージに自動的にマップするには、自動マッピング オプションを選択します。
6. ウィンドウの右上隅にある **[X]** をクリックして、ウィンドウを閉じます。

SOAP Web サービスアクティビティを作成する

このテンプレートを使用して、カスタム SOAP アクティビティを作成します。

始める前に

必要なロール：web_service_admin、activity_admin、activity_creator

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
アクティビティテンプレートのプロセスフローの使用手順については、「カスタムアクティビティを作成する」を参照してください。

手順

1. カスタムアクティビティを作成します。
   このアクションにより、テンプレートを使用してカスタムアクティビティが作成されます。
2. 一般的なプロパティを設定し、入力変数を作成した後、SOAP Web サービス実行コマンドを設定します。

オプション	説明
入力変数をマップする	作成した変数を使用して、オーケストレーションが SOAP Web サービスで実行するコマンドを設定します。
Web サービスメッセージ	このアクティビティに使用する SOAP Web Service メッセージを指定します。SOAP Web Services メッセージに関する情報が必要な場合は、「SOAP メッセージ」を参照してください。
Web サービスメッセージ関数	SOAP Web サービスと組み合せて使用できる SOAP メッセージ関数を指定します。
エンドポイント	このフィールドにエンドポイントを入力すると、SOAP メッセージ Web サービスで構成されているエンドポイント URL が上書きされます。ロック アイコンをクリックして、入力フィールドを開き、エンドポイントを追加します。
SOAP メッセージ パラメーター	SOAP エンドポイントに渡す名前と値のペア。これらのパラメーターは手動で作成することも、入力変数をパラメーター フィールドにドラッグして値を割り当てることもできます。SOAP メッセージ内に定義されている、`${}` を使用するパラメーターには、このアクティビティテンプレートからデータを割り当てることができます。[追加の属性] 列を使用して、テキストをエスケープしないようにシステムを設定します。デフォルトでは、SOAP メッセージに送信されるテキストはエスケープされます。ユーザーが送信 REST メッセージの変数代替を使用して SOAP メッセージ内に変数を入力した場合は、[名前] 列に値が自動的に入力されます。
MID サーバーを使用	SOAP Web サービスを呼び出すために MID サーバーを使用する必要があるかどうかを決定するチェック ボックス。SOAP Web Service メッセージ関数で MID サーバーが定義されている場合は、ここで選択した MID サーバーではなくその MID サーバーが使用されます。
必要な MID サーバー機能	SOAP エンドポイントに接続するための適切な MID サーバー機能を備えた MID サーバー。デフォルトでは、SOAP 機能を備えた MID サー

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	バーが選択されます。このフィールドは、**[MID サーバーを使用]** チェック ボックスが選択されている場合に使用可能です。
タイムアウト	タイムアウトになるまでに許容される SOAP Web サービス要求の経過時間 (秒単位)。デフォルトは **10** です。
認証	エンドポイントに必要な認証のタイプを決定します。オプションは次のとおりです。 ◦ **SOAP** メッセージ内の既存の認証情報を使用する：SOAP メッセージ定義からの認証情報定義を使用します。 ◦ ベーシック認証情報で上書きする：送信 SOAP でのベーシック認証の有効化 認証情報を使用します。SOAP メッセージ定義内の認証情報を上書きします。ベーシック認証情報は、プロビジョニングした後で選択可能になります。 ◦ 証明書認証情報で上書きする：SOAP メッセージ定義内の認証情報を、証明書認証情報で上書きします。 ◦ ベーシック認証と証明書認証の両方の認証情報で上書きする：SOAP メッセージ定義内の認証情報を、ベーシック認証と証明書認証の両方の認証情報で上書きします。 ◦ **WS-Security** ユーザー名プロファイルで上書きする：SOAP メッセージ定義内の認証情報を、WS-Security で定義されている認証情報で上書きします。
認証情報	必要な REST エンドポイントベーシック認証情報。このフィールドは、[認証] フィールドで [ベーシック認証情報で上書きする] が選択されていると使用可能になります。ベーシック認証情報のみが選択リストに表示されます。このリストには、インスタンスに保管されている認証情報と外部ストレージシステムの認証情報 ID が含まれています。CyberArk セーフに保管されている認証情報を使用している場合、別のセーフの名前をコロンで区切って認証情報 ID にプリフィックスとして追加することにより、MID サーバー構成ファイル内に定義されているデフォルトのセーフを上書きできます。*`newsafe:orch-test-f5`* など。詳細については、「CyberArk 用の MID サーバーの設定 」を参照してください。
プロトコルプロファイル	認証に使用する送信 Web サービスの相互認証 。このフィールドは、認証タイプが [証明書認証情報で上書きする] か [基本認証と証明書認

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	証の両方の認証情報で上書きする] のどちらかであると使用可能になります。

注: テストペイロードのパラメーター値を、[出力] タブの変数に自動的にマッピングできます。「出力変数を自動マッピングする」を参照してください。

次のタスク

- 自動マッピングを使用して出力および解析ルールを生成する (JDBC で推奨)
- 自動マッピングを使用しない場合は、手動で出力変数を作成し、解析ルールを作成できる

SOAP アクティビティ出力変数を自動マッピングする

ServiceNowアクティビティデザイナーを使用すると、SOAP テストペイロードのパラメーター値を [出力] ステージの変数に自動的にマッピングできます。

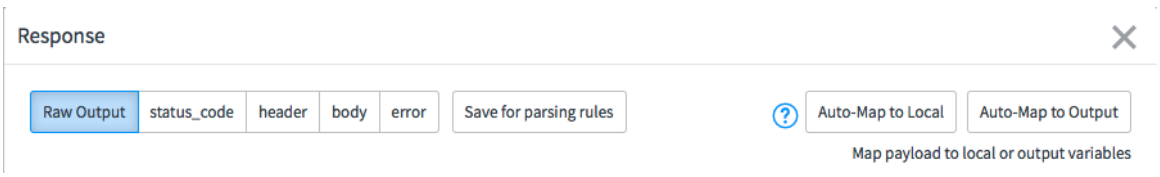
始める前に
必要なロール：web_service_admin、activity_admin、activity_creator

このタスクについて

注: オーケストレーションがエンドポイントに接続してデータを返すのに十分な情報を提供している場合は、アクティビティデザイナーのどのステージからでも入力変数をテストできます。通常、[実行コマンド] ステージが、入力のテストの準備ができているポイントです。

手順

1. アクティビティデザイナーでは、[実行コマンド] ステージに進みます。
2. 必要に応じて、適切な MID サーバーを定義します。
   MID サーバーが見つからない場合、またはターゲットに接続できない場合、テストは失敗します。
3. [アクティビティをテスト] をクリックして、入力パラメーターをテストします。
   パラメーターとフィールドの実際の値を追加した場合、指定したターゲットに対してこれらの値が実行され、結果のペイロードが返されます。入力変数をフィールドとパラメーターにマップした場合、これらの変数にテスト値を割り当てるためのダイアログ ボックスが表示されます。
4. 必要に応じてテスト値を入力し、**[OK]** をクリックしてペイロードを表示します。
   [応答] フォームの **[Raw** 出力] タブに、ペイロード全体が表示されます。



5. 次の自動マッピング オプションのいずれかを選択します。
   - ローカルに自動マップ：値をアクティビティ内で使用するためにローカル変数に直接マップします。
   - 出力する自動マップ：値を出力変数に直接マッピングして、ワークフロー内の他のアクティビティに渡します。出力変数への自動マッピングによって、オブジェクトのアレイが作成されます。それぞれに、クエリ結果からの列名が含まれます。

SOAP メッセージ WSDL にアクセスするための認証情報を提供する

テストペイロードで要求している SOAP WSDL に認証が必要な場合、SOAP メッセージまたは SOAP アクティビティのいずれかに基本認証情報を指定する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：web_service_admin、activity_admin、activity_creator

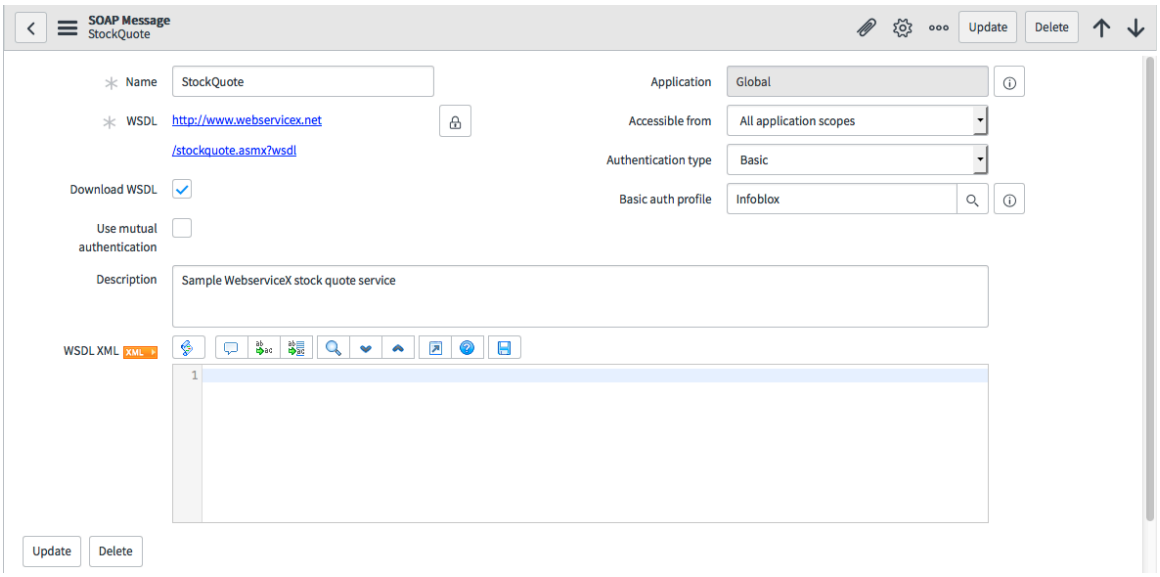
ServiceNow インスタンスは、WSDL へのアクセスに基本認証情報のみサポートします。SOAP 機能または SOAP メッセージがこれらの認証情報を提供しない場合は、それらを SOAP アクティビティテンプレートで設定する必要があります。オーケストレーションでは、次の優先順位を使用して、使用するベーシック認証情報を決定します。

- SOAP メッセージ：他の認証情報が定義されていない場合は、SOAP メッセージの認証情報が使用されます。
- SOAP 関数：SOAP 関数の認証情報は、SOAP メッセージ用に構成された認証情報を上書きします。
- SOAP アクティビティテンプレート：SOAP アクティビティテンプレートの認証情報は、SOAP 関数と SOAP メッセージ認証情報の両方を上書きします。

手順

1. [すべて] > [システム **Web** サービス] > [アウトバウンド] > **[SOAP** メッセージ]に移動します。
2. アクティビティで使用する SOAP メッセージを選択します。
3. SOAP メッセージ レコードで、**[WSDL** のダウンロード] チェック ボックスをオンにします。
4. [認証タイプ] フィールドで、[基本] を選択します。
   [基本認証プロファイル] フィールドが表示されます。
5. この SOAP メッセージで使用する基本認証プロファイルを選択します。

SOAP メッセージのベーシック認証



6. あるいは、SOAP 実行コマンドを設定する でベーシック認証情報を設定できます。

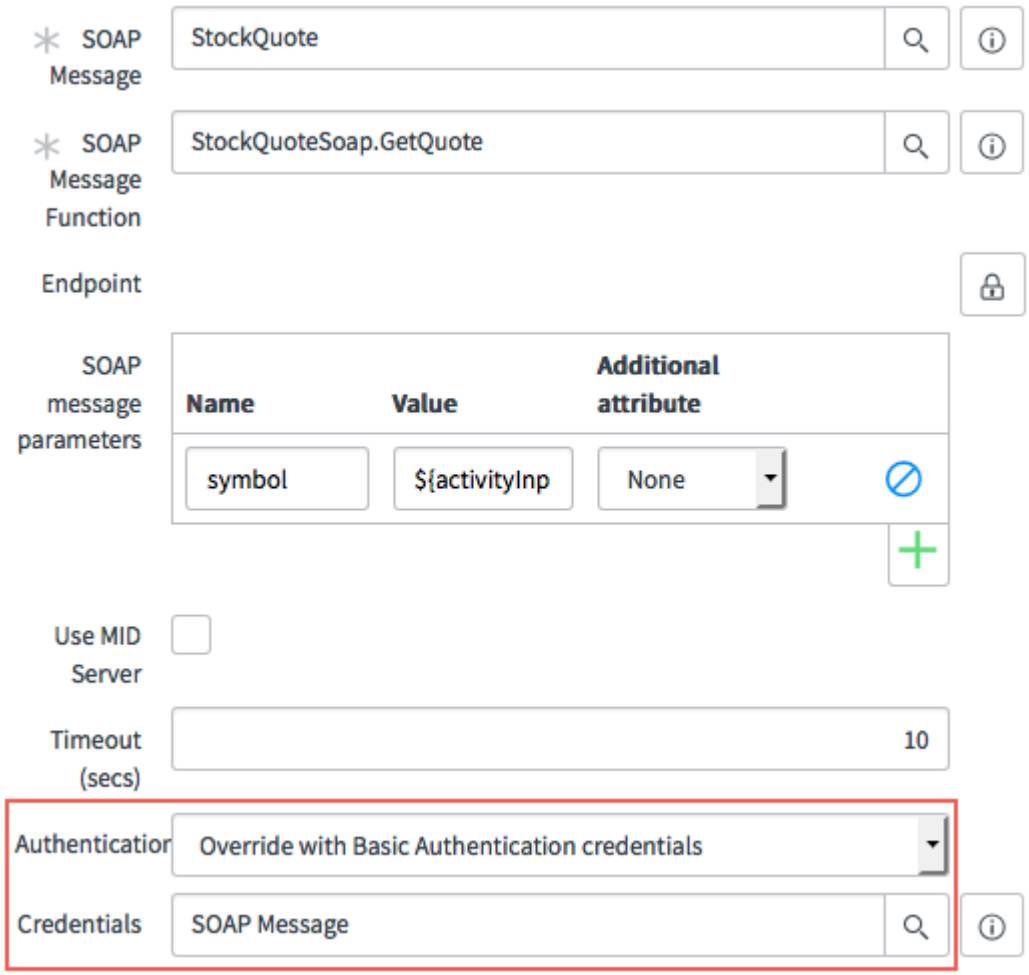
   a. [認証] フィールドで、[ベーシック認証情報で上書きする] を選択します。
      [認証情報] フィールドが表示されます。

   b. WSDL へのアクセスに使用する基本認証情報を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

この設定は、SOAP メッセージで設定された認証情報を上書きします。

基本認証情報を上書きする



SOAP 実行コマンドを設定する

作成した入力変数を使用して、オーケストレーションが SOAP エンドポイントで実行するコマンドを構成します。

始める前に

[実行コマンド] ステージに進む前に、[入力] フォームで必要な入力変数を作成します。

必要なロール：web_service_admin、activity_admin、activity_creator

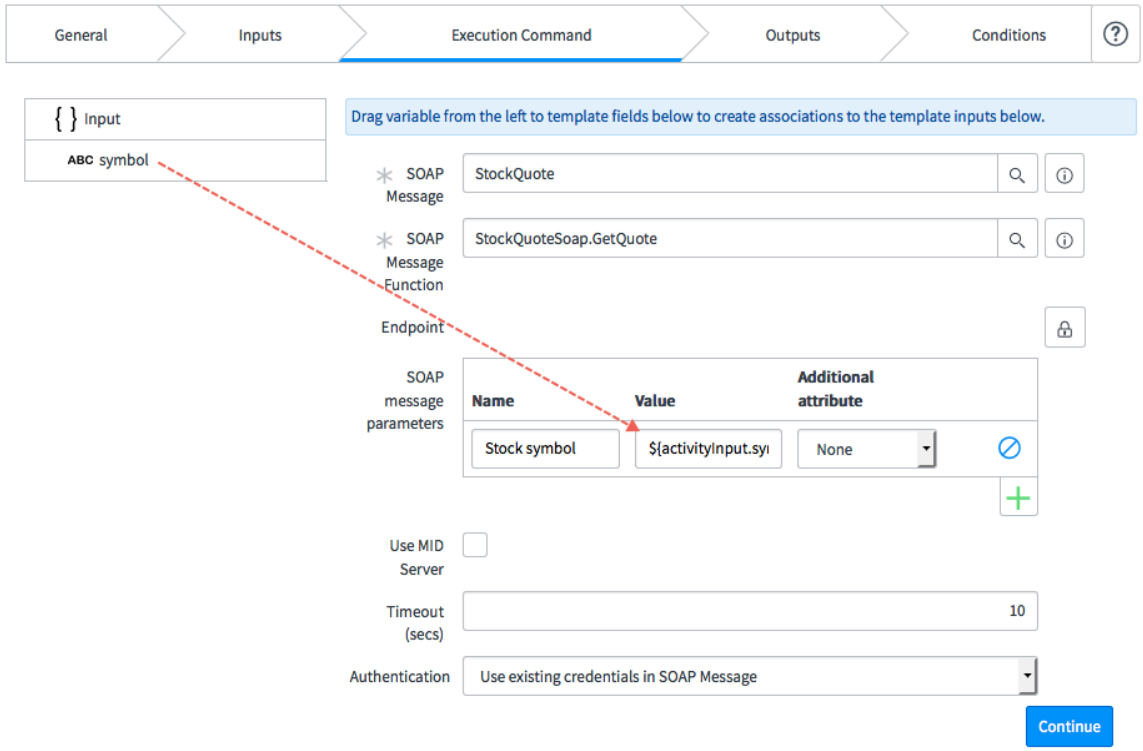
注: MID サーバーとエンドポイント間の SOAP 接続は、ワークフロー コンテキストでアクティビティを実行しなくてもテストできます。詳細は、「テスト テンプレート出力」を参照してください。

手順

1. 入力のリストから変数をドラッグし、コマンド フィールドにドロップします。
   システムによって、コマンドの正しい構文で変数がフォーマットされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SOAP 実行コマンド



2. 表に示されたフィールドに入力します。

SOAP テンプレート実行コマンド フィールド

フィールド	説明
入力	入力変数ビルダー。入力変数を作成するを実行して、使用可能なフィールドにマップします。
Web サービスメッセージ	このアクティビティに使用する SOAP メッセージ。このフィールドを設定するには、web_service_admin ロールが必要です。
Web サービスメッセージ関数	このアクティビティに使用する SOAP メッセージ SOAP メッセージ関数。このフィールドを設定するには、web_service_admin ロールが必要です。
エンドポイント	このアクティビティが使用する SOAP Web サービスのエンドポイント URL。このフィールドにエンドポイントを入力して、SOAP メッセージで設定されたエンドポイントを上書きします。ロック アイコンをクリックして、入力フィールドを開きます。
SOAP メッセー	SOAP エンドポイントに渡す名前と値のペア。これらのパラメーターは手動で作成することも、入力変数をパラメーター フィールドにドラッグして値を割り当てることもできます。SOAP メッセージ内に定義されている、`${}` を使用するパラメーターには、

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ジ パラメーター	このアクティビティテンプレートからデータを割り当てることができます。[追加の属性] 列を使用して、テキストをエスケープしないようにシステムを設定します。デフォルトでは、SOAP メッセージに送信されるテキストはエスケープされます。ユーザーが送信 REST メッセージの変数代替を使用して SOAP メッセージ内に変数を入力した場合は、[名前] 列に値が自動的に入力されます。
MID サーバーを使用	SOAP Web サービスを呼び出すために MID サーバーを使用する必要があるかどうかを決定するチェック ボックス。 **注:** SOAP Web Service メッセージ関数で MID サーバーが定義されている場合は、ここで選択した MID サーバーではなくその MID サーバーが使用されます。
必要な MID サーバー機能	SOAP エンドポイントに接続するための適切な MID サーバー機能を備えた MID サーバー。デフォルトでは、SOAP 機能を備えた MID サーバーが選択されます。このフィールドは、**[MID** サーバーを使用] チェック ボックスが選択されている場合に使用可能です。
タイムアウト	タイムアウトになるまでに許容される SOAP Web サービス要求の経過時間 (秒単位)。デフォルトは **10** です。
認証	エンドポイントに必要な認証のタイプを決定します。オプションは次のとおりです。 ◦ **SOAP** メッセージ内の既存の認証情報を使用する：SOAP メッセージ定義からの認証情報定義を使用します。 ◦ ベーシック認証情報で上書きする：送信 SOAP でのベーシック認証の有効化 認証情報を使用します。SOAP メッセージ定義内の認証情報を上書きします。ベーシック認証情報は、プロビジョニングした後で選択可能になります。 ◦ 証明書認証情報で上書きする：SOAP メッセージ定義内の認証情報を、証明書認証情報で上書きします。 ◦ ベーシック認証と証明書認証の両方の認証情報で上書きする：SOAP メッセージ定義内の認証情報を、ベーシック認証と証明書認証の両方の認証情報で上書きします。 ◦ **WS-Security** ユーザー名プロファイルで上書きする：SOAP メッセージ定義内の認証情報を、WS-Security で定義されている認証情報で上書きします。
認証情報	必要な REST エンドポイントベーシック認証情報。このフィールドは、[認証] フィールドで [ベーシック認証情報で上書きする] が選択されていると使用可能になります。ベーシック認証情報のみが選択リストに表示されます。このリストには、インスタンスに保管されている認証情報と外部ストレージシステムの認証情報 ID が含まれています。CyberArk セーフに保管されている認証情報を使用している場合、別のセーフの名前をコロンで区切って認証情報 ID にプリフィックスとして追加することにより、MID サーバー構成ファイル内に定義されている CyberArk 用の MID サーバーの設定を上書きできます。*`newsafe:orch-test-f5`* など。
プロトコルプロファイル	認証に使用する送信 Web サービスの相互認証。このフィールドは、認証タイプが [証明書認証情報で上書きする] か [基本認証と証明書認証の両方の認証情報で上書きする] のどちらかであると使用可能になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [保存] をクリックします。
4. [続行] をクリックして、[出力] ステージに進みます。

SOAP テンプレートの実行パラメーター

実行パラメーターを使用して、アクティビティデザイナーの [前処理] フォームで入力プロセス スクリプトを作成します。

SOAP Web サービス コマンド フィールドの説明については、「SOAP 実行コマンドを設定する」の表を参照してください。

注: この表のすべての変数で `executionParam.` プリフィックスを使用する必要があります。

SOAP 実行パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
Web サービス メッセージ	web_service_message	参照	対応する SOAP メッセージの sys_id。
Web サービス メッセージ関数	web-service_message_function	参照	SOAP メッセージ関数の sys_id。
Web サービス エンドポイント	web_service_endpoint	文字列	SOAP エンドポイントの URL。
パラメーター	parameters	JavaScript オブジェクトの配列	`executionParam.` プリフィックスを付けて表現した JavaScript オブジェクトの配列。このパラメーターを使用して配列を作成する方法については、「SOAP テンプレートで JavaScript 配列を作成する」を参照してください。
MID サーバーを使用	use_mid_server	ブーリアン	true の場合、MID サーバーが使用されていることを示します。
MidCapabilities	midCapabilities	文字列 (コンマ区切り)	必要な MIDP サーバー機能の参照リスト。
タイムアウト	time_out	文字列	タイムアウトになるまでに許容される SOAP Web サービス要求の経過時間 (秒単位)。デフォルトは **10** です。
ValueCapabilities	valueCapabilities	ハッシュマップの配列	MID サーバーの選択に使用される機能値。詳細については、「MID サーバーの機能」を参照してください。値によって割り当てられる追加機能がある場合、この例を使用して MID サーバーの選択をカスタマイズします。 `var valueCapability = {'NEW_MID_CAPABIILTY':'NEW_MID_CAPABILITY_VALUE'}; executionParam.valueCapa`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SOAP 実行パラメーター (続く)

名前	変数	タイプ	使用法
			`bilities.push(valueCapabi lity);`
認証タイプ	auth_type	ブーリアン	使用する認証情報のタイプ以下から選択可能です。 • basic_auth_pick_credentials • use_existing_credentials
認証情報	認証情報	参照	`auth_type` が `basic_auth_pick_credentials` のときにこの SOAP メッセージに使用する認証情報。

SOAP テンプレートで JavaScript 配列を作成する

以下は、SOAP 実行パラメーターを使用した JavaScript 配列の作成に関する説明です。

始める前に

必要なロール：web_service_admin、activity_admin、activity_creator

このタスクについて

パラメーターの配列に名前と値のペアをさらに追加するには、値を既存の配列に追加します。

手順

1. 次の構文を使用して JavaScript オブジェクトを作成し、それを `executionParam.parameter` 配列に追加します。

```
var newParameter =
 {"name":"parameterName","value":"parameterValue","additional_attribute
":"none"};
executionParam.parameters.push(newParameter);
```

   新しいパラメーター JavaScript オブジェクトを配列に追加することにより、配列内ですでに利用可能な要素が影響を受けないようにします。

2. **[SOAP** メッセージ パラメーター] 入力フィールドの [追加の属性] 列の値を必ず [テキストをエスケープしない] に設定してください。

   この場合、**value** 属性に指定された値はエスケープされません。この例は次のとおりです。

```
var newParameter =
 {"name":"parameterName","value":"parameterValue","additional_attribute
":"do_not_escape_text"};
executionParam.parameters.push(newParameter);
```

   注：**additional_attribute** フィールドの値が [なし] の場合、**value** 属性によって指定された値はエスケープされます。最初の例では、`parameterValue` がエスケープされます。

SOAP テンプレートの後処理パラメーター

これらのパラメーターを使用して、後処理スクリプトを作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティデザイナーの後処理パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
ステータスコード	status_code	整数	Web サービスから返されたステータスコードが含まれます。
ヘッダー	ヘッダー	JavaScript オブジェクトのハッシュマップ	Web サービスに渡されるヘッダー値と関連付けられたキー値ペアのハッシュマップが含まれます。`executionResult.header[keyName]` を使用してそれぞれの値にアクセスできます。
本文	本文	文字列	SOAP メッセージの出力を表す文字列値が含まれます。
エラー	エラー	文字列	エラーがある場合は、SOAP Web サービスからエラー文字列を返します。エラーがない場合は **null** を返します。

JavaScript プローブアクティビティを作成する

MID サーバーにサーバー側の JavaScript を実行するよう指示するために JavaScript プローブアクティビティを作成します。

始める前に

必要なロール：activity_creator または workflow_admin

このタスクについて

JavascriptProbe アクティビティには、標準 Java ライブラリーに対する「パッケージ」コールと同じ機能があります。これにより、MID サーバー上の Java ライブラリーをより詳細に制御することができます。独自の JAR ファイルを MID サーバーにロードして、JavascriptProbe がそれらの Java ファイルに対するパッケージ コールを行うようにすることができます。

手順

1. カスタムアクティビティを作成します。
   このアクションにより、テンプレートを使用してカスタムアクティビティが作成されます。
2. general properties をセットアップして入力変数を作成した後で、JavaScript プローブアクティビティ実行コマンドを設定します。

オプション	説明
入力変数をマップする	作成した変数を使用して、オーケストレーションが MID サーバー上で実行するコマンドを設定します。
スクリプト タイプ	含めるスクリプトのタイプを選択します。使用可能なオプションは次のとおりです。 ◦ カスタム JavaScript ◦ MID サーバースクリプトの内容
スクリプト	このプローブで実行するカスタム JavaScript。 **注:** このフィールドは、選択されている [スクリプト タイプ] が [カスタム **JavaScript]** である場合に使用可能です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
MID サーバースクリプトの内容	このプローブで実行する MID サーバーのスクリプト。 注: このフィールドは、選択されている [スクリプト タイプ] が **[MID サーバースクリプトの内容]** である場合に使用可能です。
ホスト別に MID サーバーを選択	プローブが動作する MID サーバー。
必要な MID サーバー機能	使用する MID サーバー (機能別)。
パラメーター	このプローブでホストに渡す名前と値のペア。これらのパラメーターは手動で作成することも、入力変数を [パラメーター] フィールドにドラッグして値を割り当てることもできます。

注: テストペイロードのパラメーター値を、[出力] タブの変数に自動的にマッピングできます。「出力変数を自動マッピングする」を参照してください。

次のタスク
出力変数を作成する、解析ルールを作成する、または条件を作成するのいずれかを行って、JavaScript プローブアクティビティの作成を終了します。テンプレート オプションの詳細については、「カスタムアクティビティを作成する」のトピックを参照してください。

JavaScript プローブ テンプレートの実行パラメーター

実行パラメーターを使用して、アクティビティデザイナーの [前処理] フォームで入力プロセス スクリプトを作成します。

JavaScript プローブ コマンド フィールドの説明については、「JavaScript プローブ実行コマンドを設定する」の表を参照してください。

注: この表のすべての変数で `executionParam.` プリフィックスを使用する必要があります。

JavaScript テンプレートの実行パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
スクリプトタイプ	script_type	列挙	実行するスクリプトのタイプ。可能なタイプは次のとおりです。 • custom_javascript_typ • mid_script_include_type
スクリプト	スクリプト	文字列	**script_type** が **custom_javascript_type** のときにカスタム JavaScript を実行するスクリプト。
Mid スクリプトの内容	mid_script_include	参照	**script_type** が **mid_script_include_type** のときに、MID サーバースクリプトに関連付けられた sys_id 参照。
ソース	ソース	文字列	スクリプトを実行するターゲット ホスト。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JavaScript テンプレートの実行パラメーター (続く)

名前	変数	タイプ	使用法
MidCapabilities	midCapabilities	文字列 (コンマ区切り)	必要な MID サーバー機能のリスト。
パラメーター	parameters	JavaScript オブジェクトの配列	`executionParam.` プリフィックスを付けて表現した JavaScript オブジェクトの配列。**parameters** 配列に名前と値のペアをさらに追加するには、値を既存の配列に追加します。次の構文を使用して JavaScript オブジェクトを作成し、それを `executionParam.parameter` 配列に追加します。これにより、メッセージに追加のパラメーターが割り当てられます。 `var newParameter = {"name":"parameterName","value":"parameterValue"}; executionParam.parameters.push(newParameter);`
ValueCapabilities	valueCapabilities	ハッシュマップの配列	MID サーバーの選択に使用される機能値。詳細については、「MID サーバーの機能」を参照してください。値によって割り当てられる追加の機能がある場合は、次の例を使用して MID サーバーの選択をカスタマイズします。 `var valueCapability = {'NEW_MID_CAPABIILTY':'NEW_MID_CAPABILITY_VALUE'}; executionParam.valueCapabilities.push(valueCapability);`

JavaScript プローブ テンプレートの後処理パラメーター

これらのパラメーターを使用して、後処理スクリプトを作成します。

JavaScript プローブの後処理パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
ペイロード	payload	文字列	JavaScript プローブから返された生のペイロードが含まれます。
出力	output	文字列	JavaScript プローブから返された出力データが含まれます。
EccSysId	eccSysId	文字列	ECC キュー入力メッセージに関連付けられた参照 ID が含まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JavaScript プローブの後処理パラメーター (続く)

名前	変数	タイプ	使用法
エラーメッセージ	errorMessage	文字列	JavaScript プローブから返されたエラーメッセージが含まれます。エラーメッセージが返されない場合、この値は null です。

JavaScript プローブ実行コマンドを設定する

作成した入力変数を使用して、オーケストレーションが JavaScript プローブのターゲット ホストで実行するコマンドを設定します。

始める前に

[実行コマンド] ステージに進む前に、[入力] フォームで必要な入力変数を作成します。

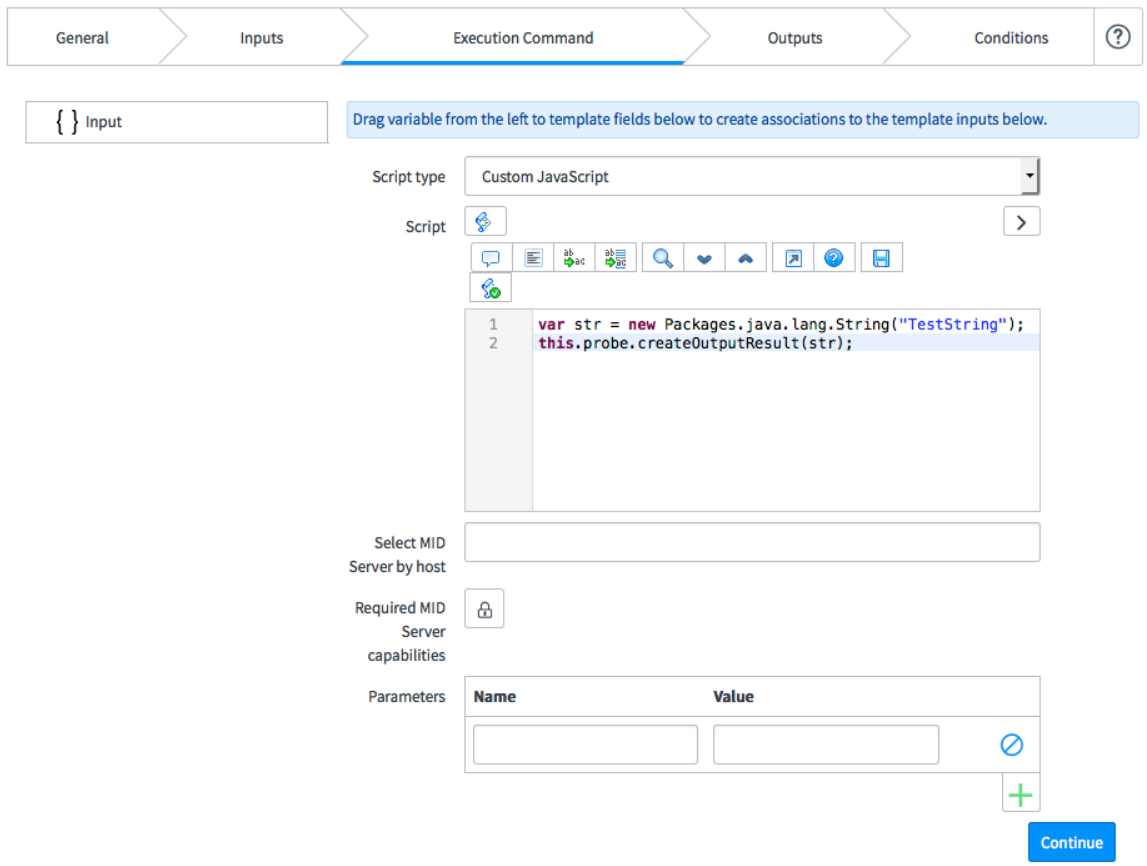
必要なロール：activity_creator、admin

注: MID サーバーとターゲット間の JavaScript プローブ接続は、ワークフロー コンテキストでアクティビティを実行しなくてもテストできます。詳細は、「テスト テンプレート出力」を参照してください。

手順

1. 入力のリストから変数をドラッグし、コマンド フィールドにドロップします。
   システムによって、コマンドの正しい構文で変数がフォーマットされます。

JavaScript プローブ実行コマンド



© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

2. 表に示されたフィールドに入力します。

JavaScript プローブ実行コマンド フィールド

フィールド	説明
入力	入力変数ビルダー。入力変数を作成するを実行して、使用可能なフィールドにマップします。
スクリプトタイプ	含めるスクリプトのタイプを選択します。使用可能なオプションは次のとおりです。 ◦ カスタム JavaScript ◦ MID サーバースクリプトの内容
スクリプト	このプローブで実行するカスタム JavaScript。このフィールドは、選択されている [スクリプト タイプ] が [カスタム **JavaScript]** である場合に使用可能です。
MID サーバースクリプトの内容	このプローブで実行する MID サーバーのスクリプト。このフィールドは、選択されている [スクリプト タイプ] が **[MID** サーバースクリプトの内容] である場合に使用可能です。
ホスト別に MID サーバーを選択	プローブが動作する MID サーバー。
必要な MID サーバー機能	使用する MID サーバー (機能別)。
パラメーター	このプローブでホストに渡す名前と値のペア。これらのパラメーターは手動で作成することも、入力変数を [パラメーター] フィールドにドラッグして値を割り当てることもできます。

3. [保存] をクリックします。
4. [続行] をクリックして、[出力] ステージに進みます。

PowerShell アクティビティを作成する

Microsoft PowerShell を使用してホストからワークフローにデータを返すために、カスタム PowerShell アクティビティを作成します。

始める前に
必要なロール：activity_creator または workflow_admin

このタスクについて
ServiceNow は PowerShell 3.0 ～ 5.1 をサポートしています。

手順
1. カスタムアクティビティを作成します。
   このアクションにより、テンプレートを使用してカスタムアクティビティが作成されます。
2. 一般的なプロパティを設定し、入力変数を作成した後、PowerShell 実行コマンドを構成します。

オプション	説明
入力変数をマップする	作成した変数を使用して、オーケストレーションが MID サーバー上で実行するコマンドを設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
ターゲット ホスト	この PowerShell アクティビティのターゲット サーバーのホスト名または IP アドレス。
スクリプト タイプ	PowerShell ホストで実行する PowerShell スクリプトのタイプ。使用可能なオプションは次のとおりです。 ◦ カスタム PowerShell コマンド ◦ MID サーバースクリプトファイル
MID サーバースクリプトファイル	MID サーバースクリプトファイルには PowerShell スクリプトが含まれています。このフィールドは、選択されている [スクリプト タイプ] が [MID サーバースクリプトファイル] である場合に使用可能です。
コマンド	アクティビティが実行する PowerShell コマンド。このフィールドは、選択されている [スクリプト タイプ] が [カスタム *PowerShell* コマンド] である場合に使用可能です。入力変数を変数ビルダーからこのフィールドにドラッグ アンド ドロップすることで、コマンドを作成できます。
PowerShell 変数	PowerShell でホストに渡す名前と値のペア。これらの変数は手動で作成することも、入力変数を [値] フィールドにドラッグすることもできます。暗号化された入力変数は、このフィールドのデータタイプ設定に関係なく、その暗号化を保持します。値を入力して [暗号化] データタイプを選択すると、値はプレーン テキストで表示されます。これは、ECC キューに渡されるときにのみ暗号化されます。
MID サービスアカウントを使用する	オンの場合、このアクティビティは、他の認証情報を試行せずに、MID サーバーサービスアカウントの認証情報のみを使用してターゲット ホスト上で認証します。 **注:** [認証情報タグ] フィールドは使用できません。
認証情報タグ	このアクティビティがホスト上で PowerShell コマンドを実行するために使用する必要がある認証情報タグ。このフィールドを空白のままにすると、MID サーバーは有効な認証情報が見つかるまで、使用可能な認証情報をすべて試行し、MID サーバーサービスアカウントで終了します。認証情報タグが定義されている場合、MID サーバーはそのタグが指定されている認証情報のみを試行し、MID サーバーサービスアカウントを試行しません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	注: このフィールドは、**[MID** サービスアカウントを使用する] チェック ボックスがオンになっている場合、使用できません。
必要な MID サーバー機能	PowerShell のクエリに使用する MID サーバー (機能別)。デフォルトでは、PowerShell MID サーバーが選択されます。

注: テストペイロードのパラメーター値を、[出力] タブの変数に自動的にマッピングできます。「出力変数を自動マッピングする」を参照してください。

次のタスク
出力変数を作成する、解析ルールを作成する、または条件を作成するのいずれかを行って、PowerShell アクティビティの作成を終了します。テンプレート オプションの詳細については、「カスタムアクティビティを作成する」のトピックを参照してください。

PowerShell テンプレートの実行パラメーター

実行パラメーターを使用して、アクティビティデザイナーの [前処理] フォームで入力プロセス スクリプトを作成します。

PowerShell コマンド フィールドの説明については、「PowerShell 実行コマンドを設定する」の表を参照してください。

注: この表のすべての変数で `executionParam.` プリフィックスを使用する必要があります。

PowerShell 実行パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
ソース	ソース	文字列	コマンドを実行するターゲット ホスト。
スクリプト タイプ	script_type	列挙	実行するスクリプトのタイプ。可能なタイプは次のとおりです。 • command：カスタム PowerShell コマンド。 • file：実行する MID サーバースクリプトファイルを指定します。
コマンド	command	文字列	ターゲットサーバー上で実行するために MID サーバーに送信されるコマンド。
MidScriptFile	midScriptFile	参照	**script_type** が **file** であるときに、実行される MID サーバースクリプトの参照 sys_id。
PowershellVariables	powershellVariables	ハッシュマップの配列	各オブジェクトに **name**、**value**、および **type** が指定されている JavaScript オブジェクトのハッシュマップ。各オブジェクトの **type** は、**plain**、**encrypted**、**boolean**、または **null** のいずれかで、入力タブで選択されて

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PowerShell 実行パラメーター (続く)

名前	変数	タイプ	使用法
			いる PowerShell 変数の **type** に対応します。たとえば、次のように入力します。 `var newParameter = {"name":"parameterName","value":"parameterValue", "type": "plain" }; executionParam.powershellVariables.push(newParameter);`
認証情報タグ	credential_tag	文字列	このアクティビティがホスト上で PowerShell コマンドを実行するために使用する必要がある特定の認証情報タグ。
MidCapabilities	midCapabilities	文字列 (コンマ区切り)	必要な MID サーバー機能のリスト。
ValueCapabilities	valueCapabilities	ハッシュマップの配列	MID サーバーの選択に使用される機能値。詳細については、「MID サーバーの機能」を参照してください。値によって割り当てられる追加の機能がある場合は、次の例を使用して MID サーバーの選択をカスタマイズします。 `var valueCapability = {'NEW_MID_CAPABIILTY':'NEW_MID_CAPABILITY_VALUE'}; executionParam.valueCapabilities.push(valueCapability);`

PowerShell の後処理パラメーターとペイロード解析

これらのパラメーターを使用して、後処理スクリプト、ペイロード解析、およびタグ付けを作成します。

PowerShell の後処理パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
タグ	タグ	PowerShell コマンドから返すタグ値のハッシュマップ。	PowerShell コマンドを使用して出力を抽出するために使用されるタグが含まれています。タグ出力は、次のように二重のパーセント記号で区切られます。**%%tagname%% ... %%**。この例の形式を使用してコマンドを設定します。 `Write-Host %%tagname1%% output1 line 1 output1 line 2 … Write-Host%%`

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

PowerShell の後処理パラメーター (続く)

名前	変数	タイプ	使用法

			`Write-Host %%tagname2%%`
			`output2 line 1`
			`output2 line 2`
			`…`
			`Write-Host%%`
			
			返されるタグは JavaScript ハッシュマップ オブジェクトで、各キーには **tagname** が付加された **tag** がプリフィックスとして付いています。
			
			`{"__text__": "",`
			`"tagtagname1":"output1 line1\noutput1 line2\n",`
			`"tagtagname2":"output2 line1\noutput2 line2\n"}`

Hresult	hresult	文字列	PowerShell コマンドから返された **hresult** が含まれています。**hresult** が返されない場合、このパラメーターは **null** です。
出力	output	文字列	PowerShell コマンドからの生の出力が含まれています。
EccSysID	eccSysID	文字列	アクティビティによって返された ECC キュー入力メッセージに関連付けられた参照 ID が含まれています。
ErrorMessages	errorMessage	文字列	PowerShell コマンドから取得したエラーメッセージが含まれています。エラーメッセージがない場合、この値は **null** です。

REST Web サービスアクティビティを作成する

この手順を使用して、カスタム REST Web サービス オーケストレーション アクティビティを作成します。

始める前に

必要なロール：web_service_admin、activity_admin、activity_creator

このタスクについて

REST Web サービスワークフローアクティビティを作成して使用するには、次の手順を実行します。

- 適切な REST メッセージ がまだ設定されていない場合は作成します。
- カスタム REST アクティビティを作成または編集する必要があるすべてのユーザーに web_service_admin ロールを割り当てます。
- このアクティビティのアプリケーションまたはアプリケーションスコープ を決定します。
- アクティビティに使用する REST メッセージの作成 を決定します。この値を使用して、REST メッセージで設定されたエンドポイントを上書きします。
- オプションでベーシック認証情報 を作成します。この値を使用して、SOAP　メッセージで設定された認証情報を上書きします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. カスタムアクティビティを作成します。
   このアクションにより、テンプレートを使用してカスタムアクティビティが作成されます。
2. 一般的なプロパティを設定し、入力変数を作成した後、REST Web サービス実行コマンドを設定します。

オプション	説明
入力変数をマップする	作成した変数を使用して、オーケストレーションが実行するコマンドを設定します。
REST メッセージ	このアクティビティで使用する既存の REST メッセージの名前。
REST メッセージ関数	このアクティビティに使用する REST メッセージ関数。
エンドポイント	このアクティビティが使用する REST Web サービスのエンドポイント URL。このフィールドにエンドポイントを入力して、REST メッセージで設定されたエンドポイントを上書きします。ロック アイコンをクリックして、入力フィールドを開きます。
変数代替	REST エンドポイントに渡す名前と値のペア。これらのパラメーターは手動で作成することも、入力変数をパラメーター フィールドにドラッグして値を割り当てることもできます。REST メッセージ内に定義されている、**${}** を使用するパラメーターには、このアクティビティテンプレートからデータを割り当てることができます。[追加の属性] 列を使用して、テキストをエスケープしないようにシステムを設定します。デフォルトでは、REST メッセージに送信されるテキストはエスケープされます。ユーザーが送信 REST メッセージの変数代替 を使用して REST メッセージ内に変数を入力した場合は、[名前] 列に値が自動的に入力されます。
追加ヘッダー	選択された REST メッセージの追加の HTTP ヘッダー パラメーター。これらの値を使用して、REST メッセージから継承したパラメーターを上書きすることもできます。
追加のクエリ パラメーター	選択された REST メッセージの追加のクエリ パラメーター。これらの値を使用して、REST メッセージから継承したパラメーターを上書きすることもできます。
MID サーバーを使用	MID サーバーを使用して REST Web サービスを呼び出す必要があるかどうかを決定するチェック ボックス。 **注:** REST Web サービスメッセージ関数で MID サーバーが定義されている場合は、ここで選択した MID サーバーではなくその MID サーバーが使用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
必要な MID サーバー機能	REST エンドポイントに接続するための適切な MID サーバー機能を備えた MID サーバー。デフォルトでは、REST 機能を備えた MID サーバーが選択されます。このフィールドは、**[MID サーバーを使用]** チェック ボックスが選択されている場合に使用可能です。
タイムアウト	タイムアウトになるまでに許容される Rest Web サービス要求の経過時間 (秒単位)。デフォルトは **10** です。
認証	エンドポイントに必要な認証のタイプを決定します。オプションは次のとおりです。 ◦ **REST** メッセージ内の既存の認証情報を使用する：REST メッセージ定義からの認証情報定義を使用します。 ◦ ベーシック認証情報で上書きする：送信 SOAP でのベーシック認証の有効化 認証情報を使用して、REST メッセージ定義内の認証情報を上書きします。ベーシック認証情報は、プロビジョニングした後で選択可能になります。 ◦ 証明書認証情報で上書きする：秘密鍵などの認証情報を使用して、REST メッセージ定義内の認証情報を上書きします。 ◦ ベーシック認証と証明書認証の両方の認証情報で上書きする：ベーシック認証と証明書認証の両方を使用して、REST メッセージ定義内の認証情報を上書きします。 ◦ **OAuth** 認証情報で上書きする：OAuth 2.0 認証情報を使用して、REST メッセージ定義内の認証情報を上書きします。このアクティビティに対して選択する REST メッセージには、「OAuth 2.0 チュートリアル：REST メッセージの作成」が **[OAuth 2.0]** に設定され、その OAuth プロファイルとスコープ が適切に設定されている必要があります。
認証情報	必要な REST エンドポイントベーシック認証情報。このフィールドは、[認証] フィールドで [ベーシック認証情報で上書きする] が選択されていると使用可能になります。ベーシック認証情報のみが選択リストに表示されます。このリストには、インスタンスに保管されている認証情報と外部ストレージシステムの認証情報 ID が含まれています。CyberArk セーフに保管されている認証情報を使用している場合、MID サーバー構成ファイル内に定義されているデフォルトのセーフを上書きできます。詳細については、「CyberArk 用の MID サーバーの設定」を参照してください。別のセーフの名前をプリフィックスとして、認証情報 ID にコ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	ロンで区切って追加します。*newsafe:orch-test-f5* など。
プロトコルプロファイル	使用する認証情報認証。このフィールドは、[認証] の選択項目が [証明書認証情報で上書きする] または [基本認証と証明書認証の両方の認証情報で上書きする] のどちらかであると使用可能になります。
OAuth プロファイル	この REST メッセージの OAuth プロバイターのプロファイル。詳細については、「OAuth プロファイルの指定」を参照してください。

注: テストペイロードのパラメーター値を、[出力] タブの変数に自動的にマッピングできます。「出力変数を自動マッピングする」を参照してください。

次のタスク
出力変数を作成する、解析ルールを作成する、または条件を作成するのいずれかを行って、Rest Web サービスアクティビティの作成を終了します。テンプレート オプションの詳細については、「カスタムアクティビティを作成する」のトピックを参照してください。

REST アクティビティ出力変数を自動マッピングする

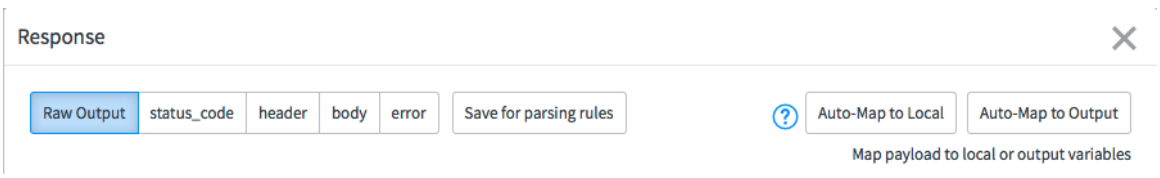
ServiceNowアクティビティデザイナーを使用すると、REST テストペイロードのパラメーター値を [出力] ステージの変数に自動的にマッピングできます。

始める前に
必要なロール：web_service_admin、activity_admin、activity_creator

このタスクについて
注: オーケストレーションがエンドポイントに接続してデータを返すのに十分な情報を提供している場合は、アクティビティデザイナーのどのステージからでも入力変数をテストできます。通常、[実行コマンド] ステージが、入力のテストの準備ができているポイントです。

手順

1. アクティビティデザイナーでは、[実行コマンド] ステージに進みます。
2. 必要に応じて、適切な MID サーバーを定義します。
   MID サーバーが見つからない場合、またはターゲットに接続できない場合、テストは失敗します。
3. [アクティビティをテスト] をクリックして、入力パラメーターをテストします。
   パラメーターとフィールドの実際の値を追加した場合、指定したターゲットに対してこれらの値が実行され、結果のペイロードが返されます。入力変数をフィールドとパラメーターにマップした場合、これらの変数にテスト値を割り当てるためのダイアログ ボックスが表示されます。
4. 必要に応じてテスト値を入力し、**[OK]** をクリックしてペイロードを表示します。
   [応答] フォームの **[Raw** 出力] タブに、ペイロード全体が表示されます。



5. 次の自動マッピング オプションのいずれかを選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- ローカルに自動マップ：値をアクティビティ内で使用するためにローカル変数に直接マップします。
- 出力する自動マップ：値を出力変数に直接マッピングして、ワークフロー内の他のアクティビティに渡します。出力変数への自動マッピングによって、オブジェクトのアレイが作成されます。それぞれに、クエリ結果からの列名が含まれます。

REST テンプレートの実行パラメーター

実行パラメーターを使用して、アクティビティデザイナーの [前処理] フォームで入力プロセス スクリプトを作成します。

REST Web サービス コマンド フィールドの説明については、「REST 実行コマンドを設定する」を参照してください。

注: この表のすべての変数で `executionParam.` プリフィックスを使用する必要があります。

REST テンプレートの実行パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
Web サービス メッセージ	web_service_message	参照	対応する Web サービスメッセージの sys_id。
Web サービス メッセージ関数	web_service_message_function	参照	REST メッセージ関数の sys_id。
Web サービス エンドポイント	web_service_endpoint	文字列	REST エンドポイントの URL。
パラメーター	parameters	JavaScript オブジェクトの配列	`executionParam.` プリフィックスを付けて表現した JavaScript オブジェクトの配列。このパラメーターを使用して配列を作成する方法については、「REST テンプレートで JavaScript 配列を作成する」を参照してください。
MID サーバーを使用	use_mid_server	ブーリアン	MID サーバーを使用するかどうかを選択します。値が **true** である場合は MID サーバーを使用し、値が **false** であると MID サーバーを使用しません。
MidCapabilities	midCapabilities	文字列 (コンマ区切り)	必要な MIDP サーバー機能の参照リスト。
タイムアウト	time-out	文字列	許容タイムアウト時間 (秒単位)。
ValueCapabilities	valueCapabilities	ハッシュマップの配列	MID サーバーの選択に使用される機能値。詳細については、「MID サーバーの機能」を参照してください。値によって割り当てられる追加機能がある場合、この例を使用して MID サーバーの選択をカスタマイズします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

REST テンプレートの実行パラメーター (続く)

名前	変数	タイプ	使用法
			`var valueCapability = {'NEW_MID_CAPABIILTY':'NEW_MID_CAPABILITY_VALUE'}; executionParam.valueCapabilities.push(valueCapability);`
認証タイプ	auth-type	ブーリアン	使用する認証情報のタイプ以下から選択可能です。 • basic_auth_pick_credentials • use_existing_credentials
認証情報	認証情報	参照	選択されている **auth_type** が **basic_auth_pick_credentials** である場合に、この REST メッセージに使用する認証情報が含まれています。

REST テンプレートで **JavaScript** 配列を作成する

以下は、REST 実行パラメーターを使用した JavaScript 配列の作成に関する説明です。

始める前に
必要なロール：web_service_admin、activity_admin、activity_creator

このタスクについて
パラメーターの配列に名前と値のペアをさらに追加するには、値を既存の配列に追加します。

手順

1. 次の構文を使用して JavaScript オブジェクトを作成し、それを `executionParam.parameter` 配列に追加します。

```
var newParameter =
 {"name":"parameterName","value":"parameterValue","additional_attribute
":"none"};
executionParam.parameters.push(newParameter);
```

   新しいパラメーター JavaScript オブジェクトを配列に追加することにより、配列内ですでに利用可能な要素が影響を受けないようにします。

2. **[REST** メッセージ パラメーター] 入力フィールドの [追加の属性] 列の値を必ず [テキストをエスケープしない] に設定してください。

   この場合、**value** 属性に指定された値はエスケープされません。この例は次のとおりです。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

```
var newParameter =
 {"name":"parameterName","value":"parameterValue","additional_attribute
":"do_not_escape_text"};
executionParam.parameters.push(newParameter);
```

注: **additional_attribute** フィールドの値が [なし] の場合、**value** 属性によって指定された値はエスケープされます。最初の例では、`parameterValue` がエスケープされます。

REST テンプレートの後処理パラメーター

これらのパラメーターを使用して、後処理スクリプトを作成します。

アクティビティデザイナーの後処理パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
ステータスコード	status_code	整数	REST Web サービスから返されたステータスコードが含まれます。
ヘッダー	ヘッダー	JavaScript オブジェクトのハッシュマップ	Web サービスに渡されるヘッダー値と関連付けられたキー値ペアのハッシュマップ。`executionResult.header[keyName]` を使用してそれぞれの値にアクセスできます。
本文	本文	文字列	REST メッセージの出力を表す文字列値が含まれます。
エラー	エラー	文字列	エラーがある場合は、REST Web サービスからエラー文字列を返します。エラーがない場合は **null** を返します。

REST 実行コマンドを設定する

作成した入力変数を使用して、オーケストレーションが REST エンドポイントで実行するコマンドを構成します。

始める前に

[実行コマンド] ステージに進む前に、[入力] フォームで必要な入力変数を作成します。

必要なロール：web_service_admin、activity_admin、activity_creator

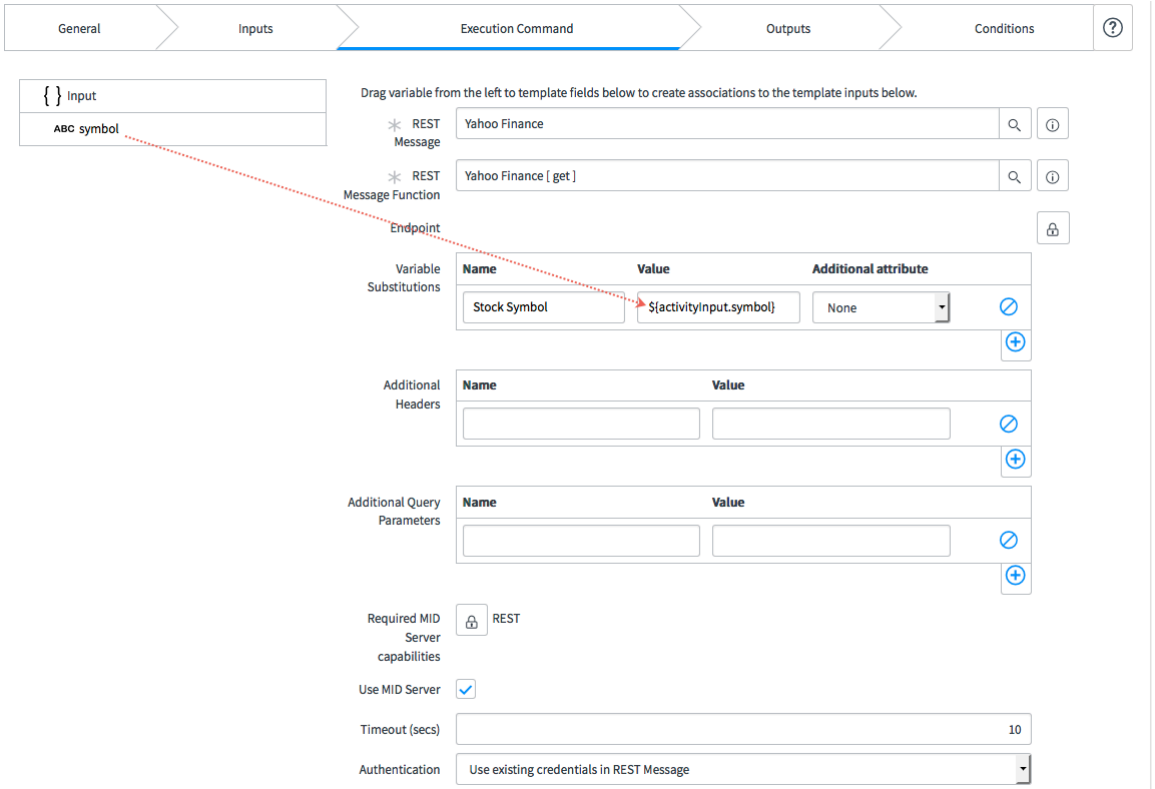
注: MID サーバーとエンドポイント間の REST 接続は、ワークフロー コンテキストでアクティビティを実行しなくてもテストできます。詳細は、「テスト テンプレート出力」を参照してください。

手順

1. 入力のリストから変数をドラッグし、コマンド フィールドにドロップします。
   システムによって、コマンドの正しい構文で変数がフォーマットされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

REST 実行コマンド



2. 表に示されたフィールドに入力します。

REST 実行コマンド フィールド

フィールド	説明
入力	入力変数ビルダー。入力変数を作成するを実行して、使用可能なフィールドにマップします。
REST メッセージ	このアクティビティで使用する既存の REST メッセージの名前。このフィールドを設定するには、web_service_admin ロールが必要です。
REST メッセージ関数	このアクティビティに使用する REST メッセージ関数。このフィールドを設定するには、web_service_admin ロールが必要です。
エンドポイント	このアクティビティが使用する REST Web サービスのエンドポイント URL。このフィールドにエンドポイントを入力して、REST メッセージで設定されたエンドポイントを上書きします。ロック アイコンをクリックして、入力フィールドを開きます。
変数代替	REST エンドポイントに渡す名前と値のペア。これらのパラメーターは手動で作成することも、入力変数をパラメーター フィールドにドラッグ アンド ドロップして値を割り当てることもできます。REST メッセージ内に定義されている、**${}** を使用するパラメーターには、このアクティビティテンプレートからデータを割り当てることができます。[追加の属性] 列を使用して、テキストをエスケープしないようにシステムを設定します。デフォルトでは、REST メッセージに送信されるテキストはエスケープされます。ユーザーが送信 REST メッセージの変数代替を使用して REST メッセージ内に変数を入力した場合は、[名前] 列に値が自動的に入力されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
追加ヘッダー	選択された REST メッセージの追加の HTTP ヘッダー パラメーター。これらの値を使用して、REST メッセージから継承したパラメーターを上書きすることもできます。
追加のクエリ パラメーター	選択された REST メッセージの追加のクエリ パラメーター。これらの値を使用して、REST メッセージから継承したパラメーターを上書きすることもできます。
MID サーバーを使用	MID サーバーを使用して REST Web サービスを呼び出す必要があるかどうかを決定するチェック ボックス。 **注:** REST Web サービスメッセージ関数で MID サーバーが定義されている場合は、ここで選択した MID サーバーではなくその MID サーバーが使用されます。
必要な MID サーバー機能	REST エンドポイントに接続するための適切な MID サーバー機能を備えた MID サーバー。デフォルトでは、REST 機能を備えた MID サーバーが選択されます。このフィールドは、**[MID** サーバーを使用] チェック ボックスが選択されている場合に使用可能です。
タイムアウト	タイムアウトになるまでに許容される Rest Web サービス要求の経過時間 (秒単位)。デフォルトは **10** です。
認証	エンドポイントに必要な認証のタイプを決定します。オプションは次のとおりです。 ◦ **REST** メッセージ内の既存の認証情報を使用する：REST メッセージ定義からの認証情報定義を使用します。 ◦ ベーシック認証情報で上書きする：送信 SOAP でのベーシック認証の有効化 認証情報を使用して、REST メッセージ定義内の認証情報を上書きします。ベーシック認証情報は、プロビジョニングした後で選択可能になります。 ◦ 証明書認証情報で上書きする：秘密鍵などの認証情報を使用して、REST メッセージ定義内の認証情報を上書きします。 ◦ ベーシック認証と証明書認証の両方の認証情報で上書きする：ベーシック認証と証明書認証の両方を使用して、REST メッセージ定義内の認証情報を上書きします。 ◦ **OAuth** 認証情報で上書きする：OAuth 2.0 認証情報を使用して、REST メッセージ定義内の認証情報を上書きします。このアクティビティに対して選択する REST メッセージには、「OAuth 2.0 チュートリアル：REST メッセージの作成」が **[OAuth 2.0]** に設定され、その OAuth プロファイルとスコープ が適切に設定されている必要があります。
認証情報	必要な REST エンドポイントベーシック認証情報。このフィールドは、[認証] フィールドで [ベーシック認証情報で上書きする] が選択されていると使用可能になります。ベーシック認証情報のみが選択リストに表示されます。このリストには、インスタンスに保管されている認証情報と外部ストレージシステムの認証情報 ID が含まれています。CyberArk セーフに保管されている認証情報を使用している場合、別のセーフの名前をコロンで区切って認証情報 ID にプリフィックスとして追加することにより、MID サーバー構成ファイル内に定義されている CyberArk 用の MID サーバーの設定 を上書きできます。*newsafe:orch-test-f5* など。
プロトコルプ	使用する認証情報認証。このフィールドは、[認証] フィールドの選択項目が [証明書認証情報で上書きする] または [基本認証と証明書認証の両方の認証情報で上書きする] のどちらかであると使用可能になります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明
ロファイル	
OAuth プロファイル	この REST メッセージの OAuth プロバイターのプロファイル。詳細については、「OAuth プロファイルの指定」を参照してください。

3. [保存] をクリックします。
4. [続行] をクリックして、[出力] ステージに進みます。

SFTP アクティビティを作成する

リモート サーバー上で基本的な SFTP コマンドを実行するアクティビティを作成します。

始める前に

必要なロール：activity_creator または workflow_admin

このタスクについて

ターゲット ホスト上のファイルやディレクトリーを管理したり、ある SFTP サーバーから別の SFTP サーバーにファイルをコピーしたりするカスタムアクティビティを作成できます。ファイルの内容は MID サーバーを介してストリーミングされ、MID サーバーホストマシンのハード ドライブにデータを保管する必要はありません。

注: このアクティビティでは、ソースホスト上で SFTP コマンドを実行できるユーザーの認証情報が必要です。アクティビティパックで提供される [ファイルのコピー] アクティビティは、ターゲットホストにアクセスするために個別の認証情報を必要とします。

手順

1. カスタムアクティビティを作成します。
   このアクションにより、テンプレートを使用してカスタムアクティビティが作成されます。
2. 一般的なプロパティを設定し、入力変数を作成した後、SFTP 実行コマンドを構成します。

オプション	説明
コマンド	作成するアクティビティのタイプ。以下から選択可能です。 ◦ ファイルのコピー ◦ ディレクトリーを作成 ◦ ファイル リストを入手 ◦ ファイルまたはディレクトリーを削除 ◦ ファイルまたはディレクトリーの名前を変更 ◦ ファイル属性の設定 **注:** フォームに表示されるフィールドは、選択したコマンドによって異なります。
ソースホスト	アクティビティがターゲットとするファイルを含むサーバーの名前または IP アドレス。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
ソース ポート	ソースサーバーとの通信に使用するポート番号。デフォルトのポート番号は **22** です。
ソース ファイル パス	ソースホスト上のファイル (`/temp/test_data_file.txt`) またはディレクトリー (`/temp/test_dir`) へのフル パス (選択したコマンドに応じる)。次のコマンドで使用できるフィールド： ◦ファイルのコピー ◦ファイルまたはディレクトリーを削除 ◦ファイル属性の設定
ソース ディレクトリー	ソース ファイルが置かれているディレクトリーへのパス。次のコマンドで使用できるフィールド： ◦ディレクトリーを作成 ◦ファイル リストを入手
ソース ファイル	ファイル転送に含める特定のソース ファイルの名前。ファイル名をセミコロンで区切ります。このフィールドは、セミコロンで区切られたワイルドカード パターンのリストをサポートします。例：`*.txt; a?cd.pdf`. このフィールドが空白の場合、すべてのファイルが含まれます。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイルリストを入手 **注:** このフィールドの値が他のフィールドのオプションにどのように影響するかについては、後述のロジックの説明を参照してください。
ディレクトリー	オンにすると、ファイル パスがディレクトリーであることを示します。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイルまたはディレクトリーを削除
ソースの認証情報タグ	このアクティビティがソースホスト上で SFTP コマンドを実行するために使用する必要がある特定の認証情報タグ。
ターゲットの認証情報タグ	このアクティビティがターゲット ホスト上で SFTP コマンドを実行するために使用する必要がある特定の認証情報タグ。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイルをコピー
除外ファイル	ファイル転送から除外する特定のソース ファイルの名前。アクティビティは、ソース ディレクトリーまたはサブフォルダーにある他のすべてのファイルに対して実行されます。ファイル名をカンマで区切ります。このフィールドは、カンマで区切られたワイルドカード パターンのリストをサポートします。例：`*.txt, a?cd.pdf.`。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイルリストを入手

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	注: このフィールドの値が他のフィールドのオプションにどのように影響するかについては、後述のロジックの説明を参照してください。
サブフォルダーを含める	オンにすると、サブフォルダーのファイルはソース ディレクトリーに含まれます。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイルリストを入手 **注:** 選択内容がフォーム内の他のフィールドにどのように影響するかについては、後続のロジックの説明を参照してください。
ターゲット ホスト	ファイルの転送先のサーバーの名前または IP アドレス。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイルをコピー
ターゲット ポート	ターゲット ホストとの通信に使用するポート番号。デフォルトのポート番号は **22** です。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイルをコピー
ターゲット ファイル パス	ターゲット ホスト上のファイルへのフル パス。次のコマンドで使用できるフィールド： ◦ファイルのコピー ◦ファイルまたはディレクトリーの名前を変更
一時ファイルのサフィックス	ファイルがターゲット ホスト上に存在する場合、このコマンドは一時的なサフィックスをファイル名に使用できるようにします。このフィールドに値が含まれている場合、*`targetFilePath + tempFileSuffix`* を名前として使用して、アクティビティは最初にソースファイルをターゲットホスト上の一時ファイルにコピーします。完了すると、アクティビティは、ファイルの名前を実際のターゲット ファイル名に変更します。このフィールドが空白の場合、アクティビティはソース ファイルをターゲット ファイルに直接コピーし、これが存在する場合は上書きします。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイルをコピー
UID	ファイルまたはディレクトリーに適用するユーザー ID 属性。UID と GID の値はペアとして一緒に設定する必要があります。そうしないと、無視されます。UID と GID の番号は、[ファイル リストを入手] アクティビティによって返される内部値です。通常、最初に [ファイルリストを入手] アクティビティを使用して、ファイルとその属性のリストを返します。次に、ソースホストからターゲット ホストにファイルを移動し、ターゲット ファイル上でソース ファ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	イル属性を設定できます。このフローは「SFTP ファイル転送ワークフロー」で説明されています。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイル属性の設定
GID	ファイルまたはディレクトリーに適用するグループ ID 属性。UID と GID の値はペアとして一緒に設定する必要があります。そうしないと、無視されます。UID と GID の番号は、[ファイル リストを入手] アクティビティによって返される内部値です。通常、最初に [ファイルリストを入手] アクティビティを使用して、ファイルとその属性のリストを返します。次に、ソースホストからターゲット ホストにファイルを移動し、ターゲット ファイル上でソース ファイル属性を設定できます。このフローは「SFTP ファイル転送ワークフロー」で説明されています。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイル属性の設定
権限	指定されたユーザーおよびグループに対して設定されたファイルまたはディレクトリーの権限。この値は整数で表す必要があります (例：**16877**)。この値が *rwxr-xr-x* のような権限を定義します。権限番号は、[ファイル リストを入手] アクティビティによって返される内部値です。通常、最初に [ファイルリストを入手] アクティビティを使用して、ファイルとその属性のリストを返します。次に、ソースホストからターゲット ホストにファイルを移動し、ターゲット ファイル上でソース ファイル属性を設定できます。このフローは「SFTP ファイル転送ワークフロー」で説明されています。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイル属性の設定
アクセス タイムスタンプ	ファイルまたはディレクトリーが最後にアクセスされたタイムスタンプを上書きします。アクセスおよび変更のタイムスタンプは、ペアとして一緒に設定する必要があります。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイル属性の設定
変更タイムスタンプ	ファイルまたはディレクトリーが最後に変更されたときのタイムスタンプを上書きします。アクセスおよび変更のタイムスタンプは、ペアとして一緒に設定する必要があります。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイル属性の設定
サイズ (バイト)	ファイルのサイズ (バイト単位)。次のコマンドで使用できるフィールド：ファイル属性の設定
必要な MID サーバー機能	ソースサーバーとターゲットサーバーに接続するための適切な MID サーバー機能 を備えた MID サーバー。

システムはこのロジックを使用して、ソースホストから移動するファイルを決定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

- [ソース ファイル] フィールドが空の場合、システムはソース ディレクトリー内のすべてのファイルを選択します。そうでない場合は、フィールドに指定されたファイル名パターンのいずれかと名前が一致するファイルのみが選択されます。
- [除外ファイル] フィールドが空の場合、システムは何も除外しません。そうでない場合は、フィールドに指定されているファイル名パターンのいずれかと名前が一致するファイルが除外されます。
- 除外ルールは、包含ルールより優先度が高くなります。ファイル名が [除外ファイル] フィールドのファイル名パターンの 1 つと一致する場合、包含ルールに関係なく、そのファイル名は選択に含まれません。
- [サブフォルダーを含める] チェック ボックスがオフになっていると、システムはソース ディレクトリーのみを調べて、包含または除外するファイルを探します。オフになっていない場合は、ソース ディレクトリーとそのサブフォルダーを調べて、包含または除外するファイルを探します。

注: テストペイロードのパラメーター値を、[出力] タブの変数に自動的にマッピングできます。「出力変数を自動マッピングする」を参照してください。

次のタスク

- 自動マッピングを使用して出力および解析ルールを生成する (JDBC で推奨)
- 自動マッピングを使用しない場合は、手動で出力変数を作成し、解析ルールを作成できる

SFTP テンプレート実行パラメーター

実行パラメーターを使用して、[後処理] フォームで入力プロセス スクリプトを作成します。

コマンド フィールドの説明については、「SFTP 実行コマンドを設定する」を参照してください。

注: この表のすべての変数で `executionParam.` プリフィックスを使用する必要があります。

SFTP 実行パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
コマンド	command	文字列	このアクティビティの機能を識別します。可能なコマンドは次のとおりです。 • ファイルのコピー • ディレクトリーを作成 • ファイル リストを入手 • ファイルまたはディレクトリーを削除 • ファイルまたはディレクトリーの名前を変更 • ファイル属性の設定
ソース	ソース	文字列	ソースホストを識別します。
ソース ポート	source_port	整数	ソースホストとの通信に使用されるポートを識別します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SFTP 実行パラメーター (続く)

名前	変数	タイプ	使用法
ソース ディレクトリー	source_directory	文字列	移動されるファイルのソース ディレクトリーへのパス。
ソース ファイル	source_files	文字列	ソース上の移動されるファイルの名前。
除外ファイル	excluded_files	文字列	操作から除外されるファイルをリストします。
ソース ファイル パス	source_file_path	文字列	移動されるソース ファイルへのパス。
ターゲット ホスト	target_host	文字列	ターゲット ホストを識別します。
ターゲット ポート	target_port	整数	ターゲット ホストとの通信に使用されるポートを識別します。
ターゲット ディレクトリー	target_directory	文字列	ターゲット ホスト上のターゲット ディレクトリーへのフル パス。
ターゲット ファイル パス	target_file_path	文字列	ソースホストまたはターゲット ホスト上のファイルまたはディレクトリーへのフル パス。たとえば、この値はアクティビティパックの [ファイルまたはディレクトリーの名前を変更] アクティビティで使用されます。
一時ファイルの後置	temp_file_postfix	文字列	ファイルの移動時に [ファイルのコピー] アクティビティで使用される一時的なファイル名の拡張子。このフィールドに拡張子が含まれている場合、ソースファイルは *target file name + temp_file_postfix* を使用して一時ファイルにコピーされてから、実際のターゲットファイルに名前が変更されます。このフィールドが空白の場合、ソースファイルは直接ターゲット ファイルにコピーされます。
ディレクトリー	is_directory	ブーリアン	指定されたファイル パスがディレクトリーかどうかを示します。
サブフォルダーを含める	include_subfolders	ブーリアン	システムがソース ディレクトリーのサブフォルダーを調べて、含めるファイルと除外するファイルを決定するかどうかを示します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SFTP 実行パラメーター (続く)

名前	変数	タイプ	使用法
ファイル属性 uid	file_attribute_uid	整数	ファイルまたはディレクトリーに関連付けられたユーザー ID。
ファイル属性 gid	file_attribute_gid	整数	ファイルまたはディレクトリーに関連付けられたグループ ID。
ファイル属性権限	file_attribute_permissions	整数	指定されたユーザーおよびグループに対するファイルまたはディレクトリーの権限。
ファイル属性 atime	file_attribute_atime	整数	ファイル属性からのアクセス タイム スタンプ。
ファイル属性 mtime	file_attribute_mtime	整数	ファイル属性からの変更タイム スタンプ。
ファイル属性サイズ	file_attribute_size	整数	ファイルのサイズ (バイト単位)。
ソース認証情報タグ	source_credential_tag	文字列	ソースホストでコマンドを実行するために使用される オーケストレーションアクティビティの認証情報エイリアス。
ターゲット認証情報タグ	target_credential_tag	文字列	ターゲット ホスト上でコマンドを実行するために使用される認証情報タグ。
MidCapabilities	midCapabilities	文字列 (コンマ区切り)	必要な MID サーバー機能のリスト。

SFTP 後処理パラメーターとペイロード解析

これらのパラメーターを使用して、後処理スクリプト、ペイロード解析、およびタグ付けを作成します。

SFTP 後処理パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
出力	output	文字列	クエリから返される出力データが含まれます。
EccSysId	eccSysId	文字列	ECC キュー入力メッセージに関連付けられた参照 ID が含まれます。
ErrorMessages	errorMessage	文字列	クエリから返されたエラーメッセージが含まれます。エラーメッセージが返されない場合、この値は null です。
タグ	タグ	SSH コマンドから返されたタグ値	SSH コマンドを使用して出力を抽出するために使用されるタグが含まれています。タグ出力は、次のように二重のパーセント記号で区切られます。%

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SFTP 後処理パラメーター (続く)

名前	変数	タイプ	使用法

		のハッシュマップ	`%tagname%% … %%`。次の形式を使用してコマンドを設定します。
			`%%tagname1%%`
			`output1 line 1`
			`output1 line 2`
			`…`
			`%%`
			
			`%%tagname2%%`
			`output2 line 1`
			`output2 line 2`
			`…`
			`%%`
			
			返されるタグは JavaScript ハッシュマップ オブジェクトで、各キーには tagname が付加された `tag` がプリフィックスとして付いています。
			`{"__text__": "",`
			`"tagtagname1":"output1 line1\noutput1 line2\n",`
			`"tagtagname2":"output2 line1\noutput2 line2\n"}`

SFTP 実行コマンドを設定する

作成した変数を使用して、オーケストレーションが SFTP ターゲットで実行するコマンドを設定します。

始める前に

[実行コマンド] ステージに進む前に、[入力] フォームで必要な入力変数を作成します。

必要なロール：activity_creator、admin

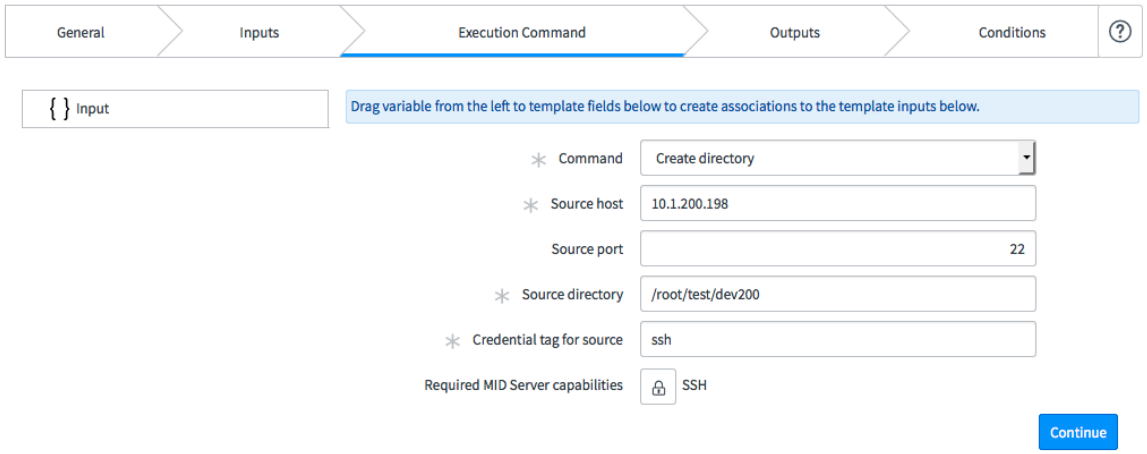
> **注:** MID サーバーとターゲット間の JDBC 接続は、ワークフロー コンテキストでアクティビティを実行しなくてもテストできます。詳細は、「テスト テンプレート出力」を参照してください。

手順

1. 入力のリストから変数をドラッグし、コマンド フィールドにドロップします。
   システムによって、コマンドの正しい構文で変数がフォーマットされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SFTP 実行コマンド



2. 表に示されたフィールドに入力します。

SFTP コマンド フィールド

フィールド	説明	コマンド
コマンド	作成するアクティビティのタイプ。以下から選択可能です。 ◦ ファイルのコピー ◦ ディレクトリーを作成 ◦ ファイル リストを入手 ◦ ファイルまたはディレクトリーを削除 ◦ ファイルまたはディレクトリーの名前を変更 ◦ ファイル属性の設定 注: フォームに表示されるフィールドは、選択したコマンドによって異なります。	すべて
ソースホスト	アクティビティがターゲットとするファイルを含むサーバーの名前または IP アドレス。	すべて
ソースポート	ソースサーバーとの通信に使用するポート番号。デフォルトのポート番号は **22** です。	すべて
ソースファイルパス	ソースホスト上のファイルへのフル パス。	◦ ファイルのコピー ◦ ファイルまたはディレクト

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明	コマンド
		◦ リーを削除 ◦ ファイル属性の設定
ソースディレクトリー	ソース ファイルが置かれているディレクトリーへのパス。	◦ ディレクトリーを作成 ◦ ファイルリストを入手
ソースファイル	管理アクションに含める特定のソース ファイルの名前。このリストのファイル名はセミコロンで区切ります。このフィールドはワイルド カードの使用をサポートしています。このフィールドが空白の場合、すべてのファイルが含まれます。このフィールドの値が他のフィールドのオプションにどのように影響するかについては、表の下のセクションを参照してください。	ファイル リストを入手
ディレクトリー	指定したファイル パスがディレクトリーかどうかを判断するチェック ボックス。	ファイルまたはディレクトリーを削除
ソースの認証情報タグ	ソースホストで SFTP コマンドを実行するために、このアクティビティが使用する必要のある特定の オーケストレーションアクティビティの認証情報エイリアス 。	すべて
ターゲットの認証情報タグ	このアクティビティがターゲット ホスト上で SFTP コマンドを実行するために使用する必要がある特定の認証情報タグ。	ファイルのコピー
除外ファイル	管理アクションから除外する特定のソース ファイルの名前。アクティビティは、ソース ディレクトリーまたはサブフォルダーにある他のすべてのファイルに対して実行されます。このリストのファイル名はセミコロンで区切ります。このフィールドはワイルド カードの使用をサポートしています。このフィールドの値が他のフィールドのオプションにどのように影響するかについては、表の下のセクションを参照してください。	ファイル リストを入手

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明	コマンド
サブフォルダーを含める	ソース ディレクトリー内のサブフォルダーからファイルを管理するには、チェック ボックスをオンにします。選択内容がフォーム内の他のフィールドにどのように影響するかについては、表の下のセクションを参照してください。	ファイル リストを入手
ターゲット ホスト	ファイルの転送先のサーバーの名前または IP アドレス。	ファイルのコピー
ターゲット ポート	ターゲット ホストとの通信に使用するポート番号。デフォルトのポート番号は **22** です。	ファイルのコピー
ターゲット ファイル パス	ターゲット ホスト上のファイルへのフル パス。	◦ ファイルのコピー ◦ ファイルまたはディレクトリーの名前を変更
一時ファイルのサフィックス	ファイルがすでにターゲット ホスト上に存在する場合に、ファイル名に使用する一時的なサフィックス。このフィールドに値が含まれている場合、アクティビティは重複するターゲットファイルが存在する場合はそれを削除し、名前として *targetFilePath + tempFileSuffix* を使用してソースファイルを一時ファイルにコピーします。完了すると、アクティビティは、ファイルの名前を実際のターゲット ファイル名に変更します。このフィールドが空白の場合、アクティビティはソース ファイルをターゲット ファイルに直接コピーし、これがすでに存在する場合は上書きします。	ファイルのコピー
UID	ファイルまたはディレクトリーに適用するユーザー ID 属性。UID と GID の値はペアとして一緒に設定する必要があります。そうしないと、無視されます。	ファイル属性の設定
GID	ファイルまたはディレクトリーに適用するグループ ID 属性。UID と GID の値はペアとして一緒に設定する必要があります。そうしないと、無視されます。	ファイル属性の設定
権限	指定されたユーザーおよびグループに対して設定されたファイルまたはディレクトリーの権限。この値は整数で表す必要があります (例：**16877**)。この値が *rwxr-xr-x* のような権限を定義します。権限番号は、[ファイル リストを入手] アクティビティによって返される内部値です。通常、最初に [ファイルリストを入手] アクティビティを使用して、ファイルとその属性のリストを返します。次に、ソースホストからターゲット ホストにファイルを移動し、ターゲット ファ	ファイル属性の設定

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

フィールド	説明	コマンド
	イル上でソース ファイル属性を設定できます。これは、「SFTP ファイル転送ワークフロー」で説明されています。	
アクセスタイムスタンプ	ファイルまたはディレクトリーが最後にアクセスされたタイムスタンプを上書きします。アクセスおよび変更のタイムスタンプは、ペアとして一緒に設定する必要があります。	ファイル属性の設定
変更タイムスタンプ	ファイルまたはディレクトリーが最後に変更されたときのタイムスタンプを上書きします。アクセスおよび変更のタイムスタンプは、ペアとして一緒に設定する必要があります。	ファイル属性の設定
サイズ (バイト)	ファイルのサイズ (バイト単位)。	ファイル属性の設定
必要な MID サーバー機能	ソースサーバーとターゲットサーバーに接続するための適切な MID サーバー機能 を備えた MID サーバー。デフォルトでは、システムは SSH MID サーバーを選択します。	すべて

システムはこのロジックを使用して、ソースホストから移動するファイルを決定します。

- [ソース ファイル] フィールドが空の場合、システムはソース ディレクトリー内のすべてのファイルを選択します。そうでない場合は、フィールドに指定されたファイル名パターンのいずれかと名前が一致するファイルのみが選択されます。
- [除外ファイル] フィールドが空の場合、システムは何も除外しません。そうでない場合は、フィールドに指定されているファイル名パターンのいずれかと名前が一致するファイルが除外されます。
- 除外ルールは、包含ルールより優先度が高くなります。名前が [除外ファイル] フィールドのファイル名パターンの 1 つと一致するファイルは、包含ルールで選択されていても選択に含まれません。
- [サブフォルダーを含める] チェック ボックスがオフになっていると、システムはソース ディレクトリーのみを調べて、包含または除外するファイルを探します。オフになっていない場合は、ソース ディレクトリーとそのサブフォルダーを調べて、包含または除外するファイルを探します。

3. [保存] をクリックします。
4. [続行] をクリックして、[出力] ステージに進みます。

プローブアクティビティを作成する

ターゲット ホスト上で特定の情報を返すように構成されたプローブを実行するアクティビティを作成します。

始める前に
必要なロール：activity_creator または workflow_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
アクティビティテンプレートのプロセスフローの使用手順については、「カスタムアクティビティを作成する」を参照してください。

手順

1. カスタムアクティビティを作成します。
   このアクションにより、テンプレートを使用してカスタムアクティビティが作成されます。
2. 一般的なプロパティを設定し、入力変数を作成した後、プローブ実行コマンドを構成します。

オプション	説明
入力変数をマップする	作成した変数を使用して、オーケストレーションが実行するコマンドを設定します。
プローブ	システム内のプローブのリストから選択した、このアクティビティで実行するプローブ
ターゲット ホスト	このアクティビティのターゲットサーバーのホスト名または IP アドレス。
パラメーター	使用する MID サーバー (機能別)。
必要な MID サーバー機能	このプローブでホストに渡す名前と値のペア。これらのパラメーターは手動で作成することも、入力変数をパラメーター フィールドにドラッグ アンド ドロップして値を割り当てることもできます。

注: テストペイロードのパラメーター値を、[出力] タブの変数に自動的にマッピングできます。「出力変数を自動マッピングする」を参照してください。

次のタスク

- 自動マッピングを使用して出力および解析ルールを生成する
- 自動マッピングを使用しない場合は、手動で出力変数を作成し、解析ルールを作成できる

プローブ テンプレート実行パラメーター

実行パラメーターを使用して、[前処理] フォームで入力プロセス スクリプトを作成します。

コマンド フィールドの説明については、「プローブ実行コマンドを設定する」を参照してください。

注: この表のすべての変数で `executionParam.` プリフィックスを使用する必要があります。

プローブアクティビティ実行パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
プローブ	プローブ	参照	MID サーバープローブの sys_id。
ソース	ソース	文字列	意図したターゲット ホスト
パラメーター	parameters	JS オブジェクト	`executionParam.` プリフィックスを付けて表現した JavaScript オブジェクトの配列。**parameters** 配列に名前と値のペアをさらに追加するには、値を既存の配列に追加します。次の構文を使用

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

プローブアクティビティ実行パラメーター (続く)

名前	変数	タイプ	使用法
		の配列	して JavaScript オブジェクトを作成し、それを `executionParam.parameter` 配列に追加します。これにより、メッセージに追加のパラメーターが割り当てられます。 `var newParameter = {"name":"parameterName","value":"parameterValue"}; executionParam.parameters.push(newParameter);`
MidCapabilities	midCapabilities	文字列 (コンマ区切り)	必要な MID サーバー機能のリスト。
ValueCapabilities	valueCapabilities	ハッシュマップの配列	MID サーバーの選択に使用される機能値。詳細については、「MID サーバーの機能」を参照してください。値によって割り当てられる追加の機能がある場合は、次の例を使用して MID サーバーの選択をカスタマイズします。 `var valueCapability = {'NEW_MID_CAPABIILTY':'NEW_MID_CAPABILITY_VALUE'}; executionParam.valueCapabilities.push(valueCapability);`

プローブ テンプレートの後処理パラメーター

これらのパラメーターを使用して、後処理スクリプトを作成します。

プローブ後処理パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
ペイロード	payload	文字列	プローブから返された生のペイロードが含まれます。
出力	output	文字列	プローブから返された出力データが含まれます。
EccSysId	eccSysId	文字列	ECC キュー入力メッセージに関連付けられた参照 ID が含まれます。

プローブ実行コマンドを設定する

作成した変数を使用して、オーケストレーションがターゲットで実行するコマンドを設定します。

始める前に
[実行コマンド] ステージに進む前に、[入力] フォームで必要な入力変数を作成します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

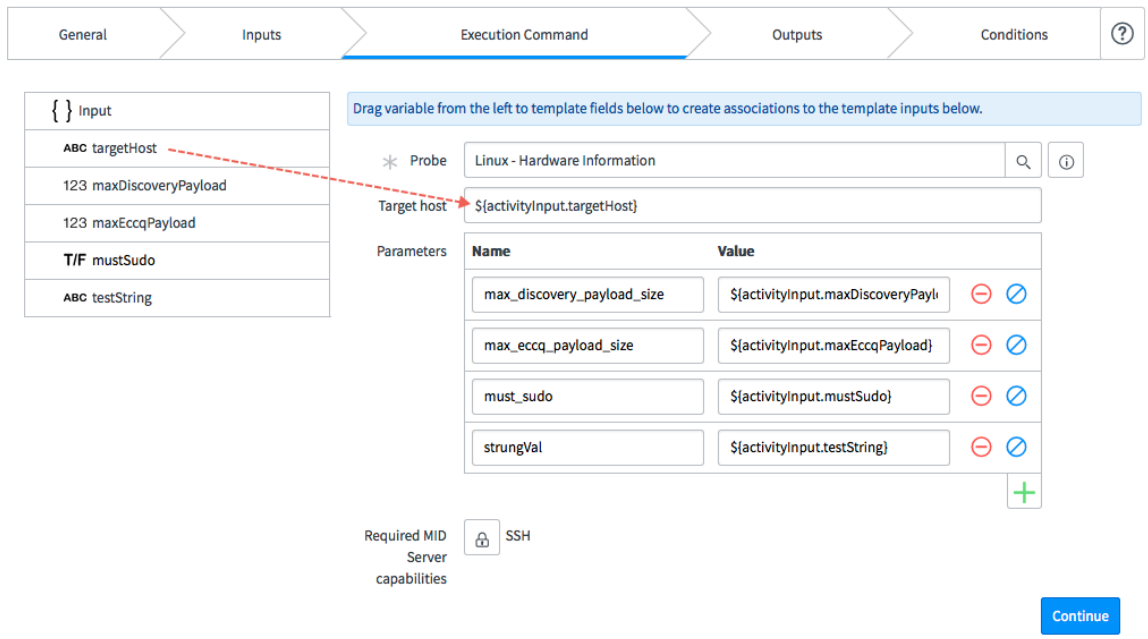
必要なロール：activity_creator、admin

> **注:** MID サーバーとターゲット間のアクティビティ接続は、ワークフロー コンテキストでアクティビティを実行しなくてもテストできます。詳細は、「テスト テンプレート出力」を参照してください。

手順

1. 入力のリストから変数をドラッグし、コマンド フィールドにドロップします。
   システムによって、コマンドの正しい構文で変数がフォーマットされます。

プローブ実行コマンド



2. 表に示されたフィールドに入力します。

プローブ実行コマンド フィールド

フィールド	説明
入力	入力変数ビルダー。入力変数を作成するを実行して、使用可能なフィールドにマップします。
プローブ	システム内のプローブのリストから選択した、このアクティビティで実行するプローブ。
ターゲット ホスト	このアクティビティのターゲットサーバーのホスト名または IP アドレス。
必要な MID サーバー機能	使用する MID サーバー (機能別)。
パラメーター	このプローブでホストに渡す名前と値のペア。これらのパラメーターは手動で作成することも、入力変数をパラメーター フィールドにドラッグ アンド ドロップして値を割り当てることもできます。

3. [保存] をクリックします。
4. [続行] をクリックして、[出力] ステージに進みます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SSH アクティビティを作成する

SSH ネットワーク プロトコルを使用するターゲット ホストからデータを抽出するアクティビティを作成します。

始める前に

必要なロール：activity_creator または workflow_admin

このタスクについて

アクティビティテンプレートのプロセスフローの使用手順については、「カスタムアクティビティを作成する」を参照してください。

手順

1. カスタムアクティビティを作成します。
   このアクションにより、テンプレートを使用してカスタムアクティビティが作成されます。
2. 一般的なプロパティを設定し、入力変数を作成した後、SSH 実行コマンドを構成します。

オプション	説明
入力変数をマップする	作成した変数を使用して、オーケストレーションが実行するコマンドを設定します。
ターゲット ホスト	このアクティビティのターゲットサーバーのホスト名または IP アドレス。
コマンド	このアクティビティがターゲット ホスト上で実行するコマンド。SSH コマンド ラインがサポートする任意のスクリプト タイプを使用して、このフィールドから MID サーバースクリプトを呼び出すことができます。詳細については、表の下の「詳細な **SSH** スクリプト オプション」を参照してください。
ディレクトリー	コマンドが実行されるターゲット ホスト上のディレクトリー。
認証情報タグ	コマンドを実行するときに使用するオーケストレーション認証情報タグ。
必要な MID サーバー機能	ホストに接続するための適切な機能を備えた MID サーバー。デフォルトでは、SSH 機能を備えた MID サーバーが選択されます。
長期間	オンにされていると、コマンドの実行がデフォルトの 60 秒よりも長くかかる場合に SSH 接続タイムアウトを無効にします。オーケストレーションは実行中のプロセスを定期的にチェックし、完了するまでそのステータスを判断します。
Sudo が必要	オンにされていると、コマンドを実行するために sudo の使用を有効にします。

注: テストペイロードのパラメーター値を、[出力] タブの変数に自動的にマッピングできます。「出力変数を自動マッピングする」を参照してください。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

Example: SSH スクリプトの詳細オプション

ターゲットホストで MID サーバー スクリプトを実行するには、スクリプトのタイプを指定して、スクリプトの名前を `${syncFile()}` パラメーターに渡します。システムでは、このパラメーターを使用して、MID サーバースクリプトファイル [ecc_agent_script_file] テーブル内の名前付きのスクリプトを見つけ、ターゲットホストで実行します。たとえば、bash スクリプトは次のように表すことができます。

```
bash ${syncFile("<MID script name>")} argument1 argument2 argument3
```

基本スクリプト (`main_script.bash`) は、ターゲットホスト上にある別のファイル (`.my_profile`) に関する別のスクリプト (`my_include.bash`) を参照できます。`${syncFile()}` パラメーターを使用して適切に実行するには、スクリプトと参照されたファイルの両方を MID サーバー に同期する必要があります。

```
source ${syncFile(".my_profile")}
cp ${syncFile("my_include.bash")} /usr/ssmith/my_include.bash
bash ${syncFile("main_script.bash")} one two three four five six
rm /usr/ssmith/my_include.bash
```

インラインコメントのある Python の例は、次のようになります。

```
set $LIB_DIR=/usr/bin;.
# Sync a file that is referenced inside myF5CreateLBPool.py
cp ${syncFile("specialFunctions.py")} ~/specialFunctions.py
# set up environment variables
source ${syncFile(".python_profile")}
# call script that sets up dependencies on the box from remote package
 repos
python ${syncFile("setupPythonDependencies.py")} pycontrol
# call a script that requires functions from the package as well as a
 function from myIncludedFile
python ${syncFile("myF5CreateLBPool.py")} snow_pool myActualValue
# user is responsible for their own cleanup
rm ~/specialFunctions.py
```

次のタスク

- 自動マッピングを使用して出力および解析ルールを生成する
- 自動マッピングを使用しない場合は、手動で出力変数を作成し、解析ルールを作成できる

SSH テンプレート実行パラメーター

実行パラメーターを使用して、アクティビティデザイナーの [前処理] フォームで入力プロセス スクリプトを作成します。

コマンド フィールドの説明については、「SSH 実行コマンドを設定する」を参照してください。

注: この表のすべての変数で `executionParam.` プリフィックスを使用する必要があります。

SSH 実行パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
ソース	ソース	文字列	意図したターゲットまたはホスト。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SSH 実行パラメーター (続く)

名前	変数	タイプ	使用法
コマンド	command	文字列	ホスト上で実行するコメント。
ディレクトリー	directory	文字列	コマンドを実行するホスト上のディレクトリー。
認証情報タグ	credential_tag	文字列	コマンドを実行するときに使用するオーケストレーション認証情報タグ。
MidCapabilities	midCapabilities	文字列 (コンマ区切り)	必要な MID サーバー機能のリスト。

ValueCapabilities	valueCapabilities	ハッシュマップの配列	MID サーバーの選択に使用される機能値。詳細については、「MID サーバーの機能」を参照してください。値によって割り当てられる追加の機能がある場合は、次の例を使用して MID サーバーの選択をカスタマイズします。
			`var valueCapability = {'NEW_MID_CAPABIILTY':'NEW_MID_CAPABILITY_VALUE'};`
			`executionParam.valueCapabilities.push(valueCapability);`

長期間	long_running	ブーリアン	コマンドが長時間実行されているかどうかを示します。true の値は、コマンドが長時間実行されていることを示します。
Sudo が必要	must_sudo	ブーリアン	このアクティビティが root コマンドを実行するために sudo を使用する必要があるかどうかを示します。true の値は、sudo SSH 認証情報を使用する必要があることを示します。

SSH 後処理パラメーターとペイロード解析

これらのパラメーターを使用して、後処理スクリプト、ペイロード解析、およびタグ付けを作成します。

SSH 後処理パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
出力	output	文字列	SSH コマンドから返された出力が含まれています。
EccSysID	eccSysID	文字列	アクティビティによって返された ECC キュー入力メッセージに関連付けられた参照 ID が含まれています。
ErrorMessages	errorMessage	文字列	SSH コマンドから取得したエラーメッセージが含まれています。エラーメッセージがない場合、この値は **null** です。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SSH 後処理パラメーター (続く)

名前	変数	タイプ	使用法

タグ	タグ	SSH コマンドから返されたタグ値のハッシュマップ	SSH コマンドを使用して出力を抽出するために使用されるタグが含まれています。タグ出力は、次のように二重のパーセント記号で区切られます。`%%tagname%% … %%`。次の形式を使用してコマンドを設定します。
			`%%tagname1%%`
			`output1 line 1`
			`output1 line 2`
			`…`
			`%%`
			
			`%%tagname2%%`
			`output2 line 1`
			`output2 line 2`
			`…`
			`%%`
			返されるタグは JavaScript ハッシュマップ オブジェクトで、各キーには tagname が付加された `tag` がプリフィックスとして付いています。
			`{"__text__": "",`
			`"tagtagname1":"output1 line1\noutput1 line2\n",`
			`"tagtagname2":"output2 line1\noutput2 line2\n"}`

SSH 実行コマンドを設定する

作成した変数を使用して、オーケストレーションがホスト ターゲットで実行するコマンドを設定します。

始める前に

[実行コマンド] ステージに進む前に、[入力] フォームで必要な入力変数を作成します。

必要なロール：activity_creator、admin

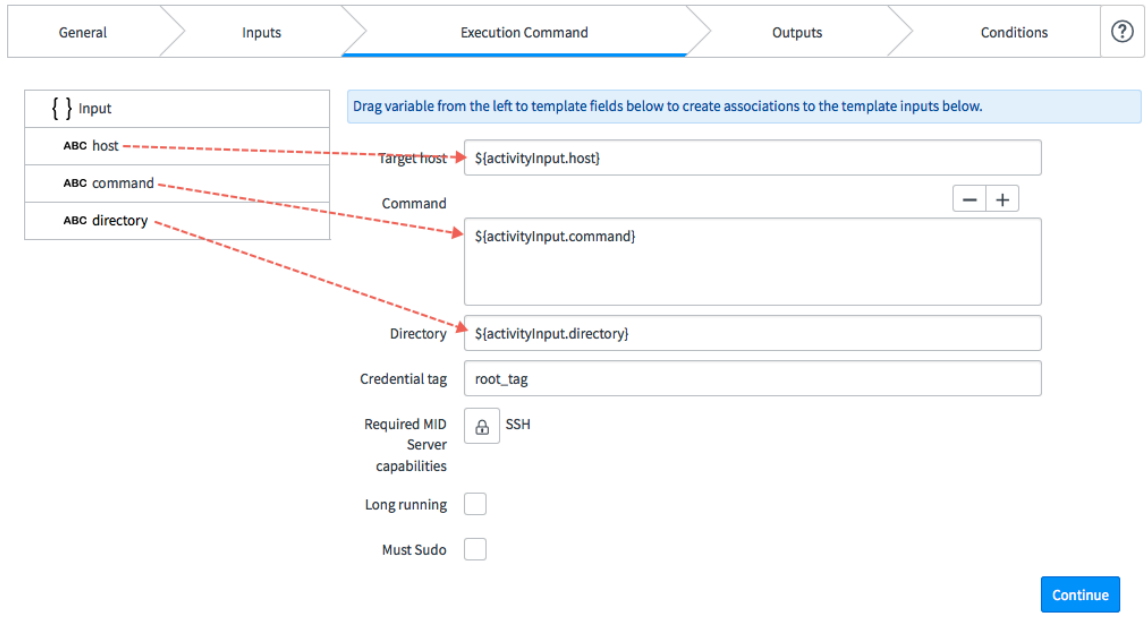
> **注:** MID サーバーとターゲット間の SSH 接続は、ワークフロー コンテキストでアクティビティを実行しなくてもテストできます。詳細は、「テスト テンプレート出力」を参照してください。

手順

1. 入力のリストから変数をドラッグし、コマンド フィールドにドロップします。
   システムによって、コマンドの正しい構文で変数がフォーマットされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

SSH 実行コマンド



2. 表に示されたフィールドに入力します。

SSH アクティビティ入力

フィールド	説明
入力	入力変数ビルダー。入力変数を作成するを実行して、使用可能なフィールドにマップします。
ターゲット ホスト	このアクティビティのターゲットサーバーのホスト名または IP アドレス。
コマンド	このアクティビティがターゲット ホスト上で実行するコマンド。 SSH コマンド ラインでサポートされている任意のスクリプト タイプを使用して、このフィールドから MID サーバースクリプトを呼び出すことができます。詳細については、表の下の「詳細な **SSH** スクリプト オプション」を参照してください。
ディレクトリー	コマンドが実行されるターゲット ホスト上のディレクトリー。
認証情報タグ	コマンドを実行するときに使用する オーケストレーションアクティビティの認証情報エイリアス。
機能別に MID サーバーを選択	ホストに接続するための適切な機能を備えた MID サーバー。デフォルトでは、SSH 機能を備えた MID サーバーが選択されます。
長期間	コマンドの実行がデフォルトの 60 秒よりも長くかかる場合に SSH 接続タイムアウトを無効にするチェック ボックス。オーケストレーションは実行中のプロセスを定期的にチェックし、完了するまでそのステータスを判断します。
Sudo が必要	コマンドの実行に SSH 認証情報 の使用を許可するチェックボックス。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

3. [保存] をクリックします。
4. [続行] をクリックして、[出力] ステージに進みます。

[スクリプトを実行] アクティビティを作成する

任意のスクリプトを実行するアクティビティを作成します。

始める前に

必要なロール：activity_creator または workflow_admin

手順

1. カスタムアクティビティを作成します。
   このアクションにより、テンプレートを使用してカスタムアクティビティが作成されます。
2. 一般的なプロパティを設定し、入力変数を作成した後、[スクリプトを実行] 実行コマンドを構成します。
   このアクティビティが実行するスクリプトを作成します。

   注: テストペイロードのパラメーター値を、[出力] タブの変数に自動的にマッピングできます。「出力変数を自動マッピングする」を参照してください。

次のタスク

- 自動マッピングを使用して出力および解析ルールを生成する
- 自動マッピングを使用しない場合は、手動で出力変数を作成し、解析ルールを作成できる

[スクリプトを実行] テンプレート処理スクリプト

[スクリプトを実行] カスタム テンプレートの [スクリプト] フォームを使用して、他のアクティビティで呼び出して使用するスクリプトを入力します。

[スクリプトを実行] 処理スクリプト

フィールド	説明
処理スクリプト	アクティビティが実行するスクリプト。
変数	入力プロセス スクリプトで構成要素として使用できる入力変数。フィールドの上の矢印をクリックすると、変数リストが開きます。ツリー内のアイテムをクリックすると、そのアイテムが適切な構文でスクリプトに追加されます。リストには、[入力] フォームでアクティビティに渡した入力変数が表示されます。[入力] フォームで追加されたすべてのアクティビティ変数は読み取り専用であり、処理スクリプトでは `activityInput.variable` という構文で表現されます。

JMS アクティビティを作成する

Java Messaging Service を使用してメッセージを取得したり、外部システムにメッセージを送信したりするカスタム JMS アクティビティを作成します。

始める前に

必要なロール：activity_creator または workflow_admin

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このタスクについて
JMS アクティビティは、JMS クライアントアプリケーションが標準的な Java EE パターンで作成され、以下の操作をサポートできるサードパーティの JMS プロバイダーをサポートします。

- JNDI を使用して ConnectionFactory オブジェクトを検索する。
- JNDI を使用して 1 つまたは複数の宛先オブジェクトを検索する。
- ConnectionFactory を使用して JMS 接続オブジェクトを作成する。
- JMS 接続を使用して 1 つまたは複数の JMS セッション オブジェクトを作成する。
- JMS セッションと宛先を使用して MessageProducer オブジェクトと MessageConsumer オブジェクトを作成する。
- JMS 接続を開始して、メッセージの配信または消費を有効にする。

注: JMS アクティビティデザイナーは、JMS プロバイダー ActiveMQ および Tibco EMS でテストされています。JMS プロバイダーに接続する際には、サードパーティのユーザーマニュアルを参照してください。

手順

1. JMS 認証情報 を作成または検証します。
   JMS 認証情報には、ターゲットデータベースに対する権限と、対応する JMS 接続に対する適切な構成が必要です。JMS アクティビティを作成する前に、認証情報を設定する必要があります。
2. JMS 接続を作成または検証します。
   JMS アクティビティを作成する前に、有効な JMS 認証情報を設定した JMS 接続を構成する必要があります。
3. カスタムアクティビティを作成します。
   このアクションにより、テンプレートを使用してカスタムアクティビティが作成されます。
4. 一般的なプロパティを設定し、入力変数を作成した後、JMS 実行コマンドを構成します。

オプション	説明
認証情報の設定	データベース接続に必要なフィールドに入力します。
Connection Factory	JMS Connection Factory の名前。JMS 接続を作成または検証する必要があります。この設定では、初期コンテキスト ファクトリーの名前を JMS プロバイダーの URL とリンクします。
宛先タイプ	このメッセージに使用される宛先のタイプ： ◦ キュー：メッセージはポイントツーポイント通信のためにキューに入れられます。 注: GET 操作は、[キュー] 宛先タイプでのみサポートされます。 ◦ トピック：メッセージはパブリッシュおよびサブスクライブ通信に使用されます。
宛先名	JMS プロバイダーで設定されているキューまたはトピックの宛先の名前。
メッセージ タイプ	JMS メッセージ タイプの値。[テキスト メッセージ] タイプのみサポートされます。キューまたはトピックの宛先は、テキスト メッセージのみを受信または送信するように設定する必要

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
	があります。他のメッセージ タイプは、JMS アクティビティが処理できないため、削除されます。
運用	宛先で実行するプログラムによる操作。選択肢は **PUT** または **GET** です。
タイムアウト (秒)	メッセージ キュー内のメッセージを、タイムアウトするまでに待機する時間 (秒単位)。デフォルトは **30** です。
カスタム メッセージ ヘッダー	JMS 宛先で使用可能な名前/値のペア形式のカスタム ヘッダー値。 注: これは **PUT** 操作にのみサポートされます。
メッセージ ペイロード	JMS 宛先に送信される実際のメッセージ コンテンツまたはペイロード。 注: これは **PUT** 操作にのみサポートされます。
認証情報タグ	オーケストレーション ワークフロー内の JMS アクティビティの個々の認証情報のタグ。
必要な MID サーバー機能	使用する MID サーバー (機能別)。

次のタスク

- 自動マッピングを使用して出力および解析ルールを生成する
- 自動マッピングを使用しない場合は、手動で出力変数を作成し、解析ルールを作成できる

オーケストレーション アクティビティの **JMS** 接続を作成する

カスタム オーケストレーション JMS アクティビティで Java Messaging Service (JMS) を使用するようにシステムを設定します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

MID サーバーには、組織に適切な JMS 接続ファクトリーが必要です。**[MID** サーバー] > [プロパティ]にある *mid.property.jms.command.allowed_factory_names* プロパティでこれらの値を設定します。このプロパティのデフォルト値は、サードパーティの JMS プロバイダーが通知する任意の値またはカンマ区切りの値リストに変更できます。

手順

1. **[MID Server]** > **[JAR** ファイル]に移動します。
2. [新規] をクリックして、以下を追加します。

オプション	説明
名前	インスタンス内のファイルを識別するためのわかりやすい一意の名前。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オプション	説明
バージョン	ファイルのバージョン番号 (使用可能な場合)。
ソース	参照用の JAR ファイルの場所。ソース情報はシステムで使用されません。
説明	インスタンス内の JAR ファイルとその目的の簡単な説明。

3. バナーにあるクリップ アイコンをクリックして JMS ドライバー JAR ファイルを添付します。
JMS ドライバーの JAR ファイルは、JMS プロバイダーのインストールの一部として使用可能になっている必要があります。JMS ベンダーによっては、それらを別個の製品として使用可能にしている場合があります。クライアント アプリケーションが JMS プロバイダーに接続している必要がある JMS クライアント ドライバー JAR ファイルを判別するには、JMS プロバイダーの資料を参照してください。たとえば、ActiveMQ V5.10 (JMS プロバイダー) に接続しようとしている場合は、`activemq-all-5.10.1.jar` ファイルが必要です。
4. オーケストレーション > [認証情報 **&** 接続] > **[JMS Connection Factory]** に移動します。
5. [新規] をクリックして、以下を追加し、[送信] をクリックします。

オプション	説明
名前	この接続ファクトリーの一意の名前。
初期コンテキスト ファクトリー	InitialContext の作成に使用する JNDI クラスの名前。 **注:** たとえば、ActiveMQ V5.10 (JMS プロバイダー) に接続する場合、値は `org.apache.activemq.jndi.ActiveMQInitialConte` です。
プロバイダー URL	実行中の JMS プロバイダーのインストールの場所。 **注:** たとえば、ActiveMQ V5.1 に接続するには、tcp：// ipAddressOrHostName：`61616`になります。

6. [オーケストレーション] > [認証情報] に移動します。
7. [新規] をクリックして **[JMS** 認証情報] を選択し、MID で JMS プロバイダーとの通信に使用されるユーザー名とパスワードを入力します。
詳細は、「JMS 認証情報 JMS 認証情報」を参照してください。
8. [送信] をクリックします。
これで、カスタム JMS アクティビティを作成する準備ができました。

JMS テンプレート実行パラメーター

実行パラメーターを使用して、[後処理] フォームで入力プロセス スクリプトを作成します。

この表のすべての変数で `executionParam.` プリフィックスを使用する必要があります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JDBC 実行パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
Jms ds	jms_ds	参照	選択された JMS データソース。
宛先タイプ	destination_type	列挙	
宛先名	destination_name	文字列	
メッセージ タイプ	message_type	列挙	
運用	operation	列挙	
タイムアウト	time_out	整数	クエリが結果を返すのを待機する時間。
カスタム ヘッダー	custom_headers	JavaScript オブジェクトの配列	
メッセージ ペイロード	message_payload	文字列	
認証情報タグ	credential_tag	文字列	必要な MID サーバー機能のリスト。
MidCapabilities	midCapabilities	文字列 (コンマ区切り)	
ValueCapabilities	valueCapabilities	ハッシュマップの配列	MID サーバーの選択に使用される機能値。詳細については、「MID サーバーの機能」を参照してください。値によって割り当てられる追加の機能がある場合は、次の例を使用して MID サーバーの選択をカスタマイズします。 `var valueCapability = {'NEW_MID_CAPABIILTY':'NEW_MID_CAPABILITY_VALUE'}; executionParam.valueCapabilities.push(valueCapability);`

JMS テンプレートの後処理パラメーター

これらのパラメーターを使用して、後処理スクリプトを作成します。

JMS 後処理パラメーター

名前	変数	タイプ	使用法
ステータス	status	文字列	JMS 宛先での操作のステータス (Put または Get)。
StandardHeaders	standardHeaders	文字列	Get 操作中に JMS メッセージの一部として取得される、JMS で指定されたすべての標準ヘッダー。このフィールドは、Get 操作にのみ適用されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

JMS 後処理パラメーター (続く)

名前	変数	タイプ	使用法
CustomHeaders	customHeaders	文字列	Get 操作中に JMS メッセージの一部として取得される、プロデューサーまたはパブリッシャー アプリケーションによって追加されたすべてのカスタム ヘッダー。このフィールドは、Get 操作にのみ適用されます。
MessagePayload	messagePayload	文字列	Get 操作中に JMS メッセージの一部として取得されるメッセージ ペイロード。このフィールドは、Get 操作にのみ適用されます。
EccSysID	eccSysID	文字列	アクティビティによって返された ECC キュー入力メッセージに関連付けられた参照 ID が含まれています。
ErrorMessages	errorMessage	文字列	JMS コマンドから取得したエラーメッセージが含まれます。エラーメッセージがない場合、この値は **null** です。

アクティビティ スコーピング

カスタムアクティビティは、ワークフローと異なる場合でも、独自のスコープで実行されます。

スコープを持つカスタムアクティビティ内で実行されるスクリプトは、そのアクティビティのスコープ内にある外部アーティファクトまたは任意のスコープで実行するように設定されたアーティファクトにのみアクセスできます。逆に、外部アーティファクトが同じスコープ内で実行されている場合は、外部アーティファクトはそのプライベート アクティビティ内のスクリプトにのみアクセスできます。パブリック スコープを持つアクティビティは、任意のアプリケーション スコープ内の外部アーティファクトを操作できます。

パブリック アプリケーション スコープを持つワークフローの一部としてプライベート アクティビティを使用できます。これらのアクティビティは、ワークフローの外部に到達すること、またはワークフローの外部から到達することから保護されます。カスタムアクティビティのアプリケーション スコープの設定の詳細については、該当するアクティビティテンプレートのフィールド説明の表を参照してください。

> **注:** ServiceNowストアにアップロードされたカスタムアクティビティは、すべてのアプリケーションスコープからアクセスできるように設定する必要があります。

カスタムアクティビティを公開する

ユーザーがカスタムアクティビティを作成して保存または送信すると、そのアクティビティがデザイナー パレットの [カスタム] および [パック] タブに表示されます。ただし、これはカスタムアクティビティを作成したユーザーに対してのみ表示されます。

始める前に

必須ロール：admin、activity_admin、activity_creator

手順

1. アクティビティの設定が完了したら、[公開] をクリックします。

   これにより、workflow_admin または activity_creator ロールを持つインスタンス上の他のユーザーがアクティビティにアクセスできるようになります。公開済みアクティビティ

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

は、ServiceNow ストアへのアップロード用に使用でき、ワークフローへの追加、および適切なロールを持つ任意のユーザーによる編集が可能です。

2. 公開済みアクティビティを編集するには、[チェックアウト] をクリックします。

   ユーザーがアクティビティをチェックアウトすると、そのユーザーだけがアクティビティを変更できます。チェックアウト済みアクティビティのフィールドは、他のすべてのユーザーに対して読み取り専用です。

3. チェックアウトしたアクティビティの編集が完了したら、もう一度それを公開してください。

   システムはこのアクティビティの新しいバージョンを、[ワークフローエディター] パレットの [カスタム] タブに追加します。

   > **注:** 現在のアプリケーション スコープで作成された場合、作成および公開するアクティビティは [パック] タブでのみ表示可能です。

ロックされたアクティビティを公開状態に戻す

アクティビティ バージョンがユーザーによってチェックアウトされた後に、チェックインされていない場合、問題が発生する可能性があります。この状態のアクティビティを更新のためにチェックアウトすることはできません。

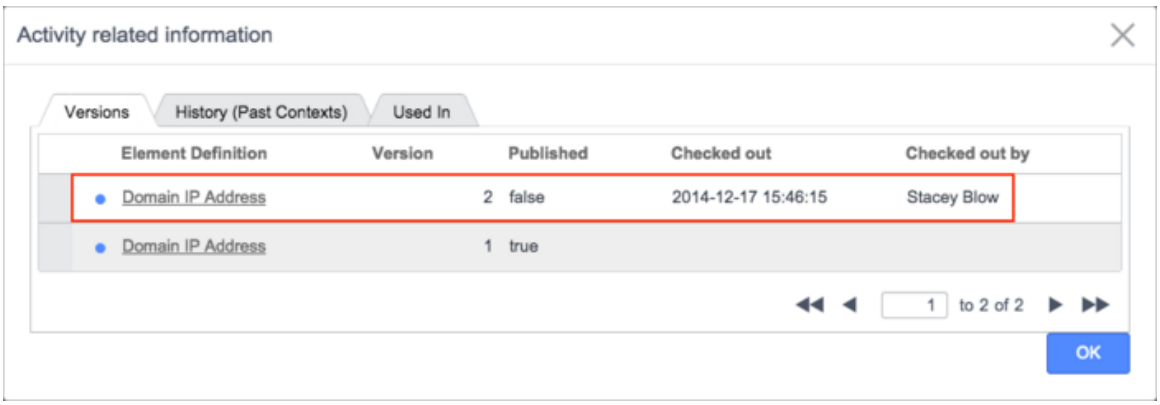
始める前に
必要なロール： admin、activity_admin、activity_creator

このタスクについて
アドミニストレーターは、ロックされたアクティビティを公開状態に戻すことができます。

手順

1. ワークフローエディターを開きます。
2. [カスタム] タブで、ロックされているアクティビティを開きます。
3. タイトル バーのメニュー アイコンをクリックし、コンテキストメニューから [バージョン] を選択します。

   そのアクティビティのすべてのバージョンのリストが表示されます。ロックされたバージョンに、チェックアウトしたユーザーが表示されます。



4. チェックアウトされたバージョンを選択します。

   アクティビティデザイナーでレコードが開きます。

5. もう一度メニュー アイコンをクリックし、コンテキストメニューから [強制的にチェックアウト] を選択します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

アクティビティ フィールドが編集可能になります。

6. [公開] をクリックします。

適切なロールを持つユーザーがアクティビティを利用できるようになります。

カスタムアクティビティをコピーする

グローバル スコープの [カスタム] タブで、アクティビティを再利用のためにコピーすることができます。

始める前に

必須ロール：admin、activity_admin、activity_creator

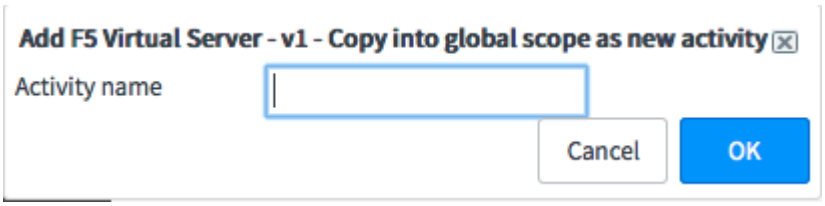
このタスクについて

注: プライベート スコープでアクティビティをコピーすることはできません。

手順

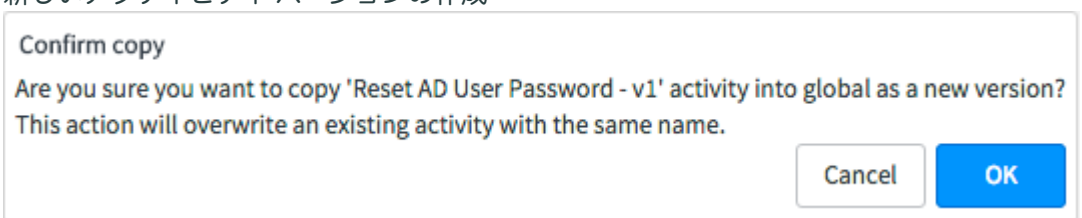
1. グローバル スコープでアクティビティを再利用するには、親カテゴリを展開してアクティビティを表示します。
2. コピーするアクティビティを右クリックし、次のいずれかのオプションを選択します。
   - 新規アクティビティとしてグローバル スコープにコピー：指定した新しい名前でアクティビティをコピーし、元のアクティビティと同じバージョン番号を使用して、そのアクティビティを [カスタム] タブでグローバル スコープに移動します。

     アクティビティ コピーの命名

   - 新規バージョンとしてグローバル スコープにコピー：同じ名前を使用してアクティビティをコピーし、バージョン番号をインクリメントして、そのアクティビティを [カスタム] タブでグローバル スコープに移動します。親カテゴリがまだ存在しない場合、自動的に [カスタム] タブに追加されます。このアクションは、別のアクティビティを同じ名前とバージョン番号で上書きします。

     新しいアクティビティ バージョンの作成

   注: アクティビティがその他のスコープに存在するが、グローバルである場合、次のメッセージが表示されます。個人的にスコープが指定されたアクティビティはコピーできません。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オーケストレーションデータバス

データバスを使用すると、ワークフローデザイナーはオーケストレーションワークフロー全体でデータのフローを追跡し、他のカスタムアクティビティで消費できる出力データにアクセスできます。

オーケストレーションアクティビティデザイナー で作成されたアクティビティを使用する場合、データをワークフローで使用できるようになります。アクティビティデザイナーは、アクティビティに対して明確に定義された入力と出力を指定する機能を提供します。ワークフロー キャンバスでこれらのアクティビティを使用すると、出力は [データ] タブに表示され、後続のアクティビティの入力として使用することができます。

> **注:** オーケストレーションは、[データ] タブで再利用のために提供されたデータをフィルタリングしません。出力データを使用する前に、ワークフロー キャンバスのアクティビティが実行されていることを確認する必要があります。

カスタムアクティビティをワークフロー キャンバスにドロップすると、システムはそのアクティビティにインデックスを割り当てます。キャンバスからアクティビティを削除して、新しいアクティビティを追加する場合、インデックスは再利用されません。これにより、使用する意図がなかったデータの登録を自動的に開始することがなくなります。アクティビティデザイナーでアクティビティを更新する場合、システムは自動的にキャンバス上のアクティビティを更新して、ダウンストリームに登録しているデータに影響を与えないようにします。

アクティビティデザイナーでデータを再利用する

ワークフローエディターの [データ] タブには、現在のワークフローで使用されている、データを生成するすべてのカスタムアクティビティがリストされ、そのデータが他のカスタムアクティビティで再利用するために表示されます。

始める前に
必要なロール：workflow_creator

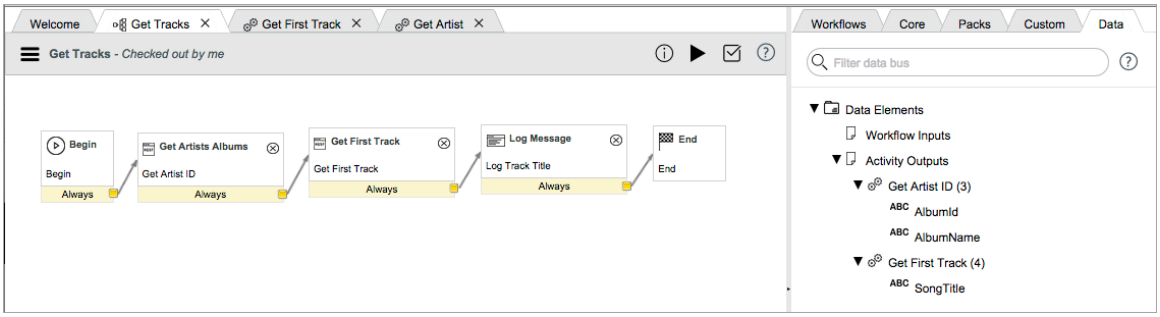
このタスクについて
アクティビティはこのタブのアプリケーション別に分類され、他のアクティビティのデータ ソースとして使用できます。[データ] タブは、現在のワークフローで使用されているすべての一時データを管理するワークフロー データバスをグラフで示したものです。

手順

1. ワークフロー キャンバス上で出力変数をこのタブのアクティビティから別のアクティビティの入力にドラッグして、アクティビティをリンクします。

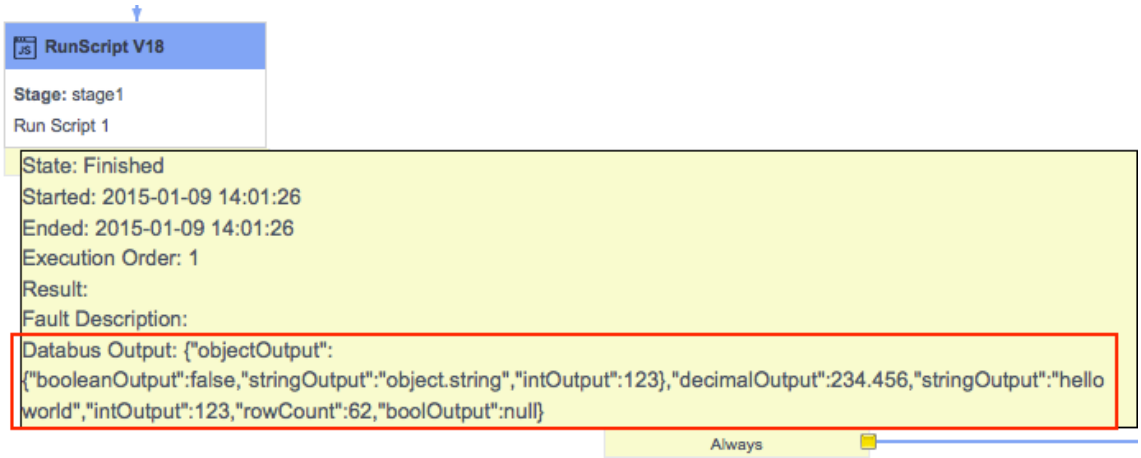
   構造内の出力は、それらが属しているアプリケーションに関係なく、どれでも使用することができます。アクティビティ名の後の括弧内のインデックス番号は、他のアクティビティで入力データとして使用するパラメーターの一意の識別子を示します。カスタムアクティビティに名前を付けない場合、[データ] タブ内のそのアクティビティの唯一の識別子はインデックス番号です。インデックス番号は、カスタムアクティビティがワークフローに追加された順序を示し、再利用されません。カスタムアクティビティをワークフロー キャンバスにドラッグすると、そのアクティビティとその出力データが構造に追加されます。逆に、カスタムアクティビティをキャンバスから削除すると、そのアクティビティとその出力がデータ リストに表示されなくなります。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。



2. アクティビティを指すと、その情報がポップアップ ウィンドウに表示されます。

   アクティビティによって再利用される出力データが、ポップアップウィンドウの [データバス出力] フィールドに一覧表示されます。



オーケストレーション用の MID サーバー

オーケストレーションは、アクティビティで設定した機能、ターゲット デバイスの IP アドレス、および MID サーバーで使用が許可されているアプリケーションに基づいて、適切な MID サーバーを自動的に選択します。

オーケストレーション で MID サーバーを使用できるようにするには、[オーケストレーション] アプリケーションまたは [すべて] のアプリケーションが MID サーバーに割り当てられている必要があります。手順については、「各アプリケーションのデフォルトの MID サーバーの設定」を参照してください。

MID サーバーがネットワークのさまざまな機能や別個のセクションに焦点を当てるようにすることができます。次を参照してください。

- MID サーバーの機能
- IP アドレスから DNS 名へマッピングする

また、MID サーバーがアクティビティの機能および IP 範囲の基準を満たさない場合に使用するデフォルトの MID サーバーを指定することもできます。「オーケストレーション用のデフォルトの MID サーバーを選択する」を参照してください。

関連情報

MID サーバーの機能

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

MID サーバーの機能

MID サーバーの機能によって、IP アドレス範囲内の MID サーバーの特定の機能を定義します。

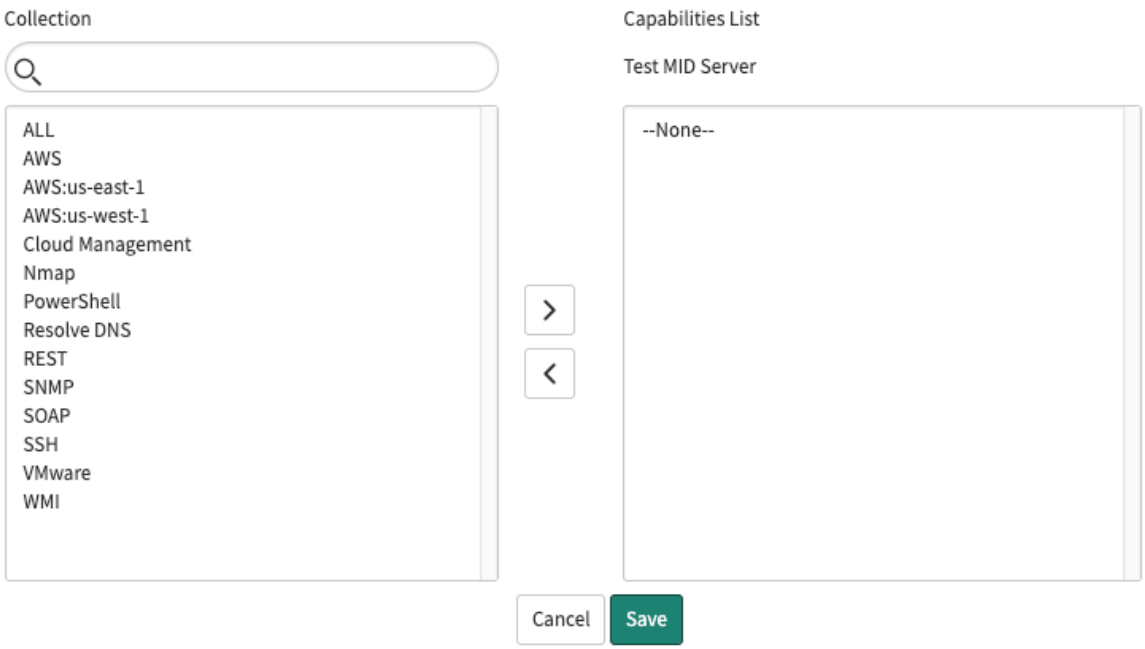
Nmap 機能

Nmap 機能は、認証情報なしのディスカバリー のためにネットワーク マッパー (Nmap) スキャナーがインストールされている MID サーバーにのみ割り当てられます。この機能は、MID サーバーに手動で追加または削除することはできません。Nmap のインストールまたはアンインストールの手順については、次を参照してください。 MID サーバーで Nmap をインストールおよびアンインストールする

MID サーバー機能の値

基本システムで提供される機能には、定義済みの値文字列がありません。機能の値は、空白、単一の値、または *(ワイルドカード) のいずれかです。値を持たない機能を使用するように構成された MID サーバーは、その機能のプロトコルを使用するすべてのデバイスを見つけることができます。機能に定義済みの値がある場合、その機能を使用する MID サーバーは、値文字列に正確に一致するそのプロトコルを使用するデバイスのみを検出します。例外は、DNS 解決機能です。これは、部分文字列一致を使用して DNS 名を IP アドレスに解決するように設定されています。*(ワイルドカード) は、空白以外の値を指定する要求機能と一致します。

Madrid のリリース以降、MID サーバーに機能を追加すると、[機能名]:[値] の組み合わせがスラッシュバケットに表示されます。この組み合わせにより、機能名が同じであっても、異なる値を持つすべての機能を表示することができます。たとえば、Cloud Management 機能を使用していて、値フィールドを使用して機能レコードの 1 つに us-west の論理データセンターを指定すると、[コレクション] リストの組み合わせが表示されます。



MID サーバーの選択

MID サーバーは、利用可能な機能に基づくアルゴリズムを使用して選択されます。セレクターは、フィルターを次の順序で使用して、適切な MID のリストを生成します。サーバーステータス > アプリケーション > **IP** 範囲 > 機能。アルゴリズムは次の順序で機能を検索し、ステップで少なくとも 1 つの MID サーバーが見つかった場合、残りのステップはスキップされます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

1. 完全一致：要求されたすべての機能の名前/値のペアと完全に一致する名前/値のペアを持つ機能を含む各 MID サーバーを検索します。空白は有効な値です。*(ワイルドカード) の値は無視されます。
2. ワイルドカード値の一致：完全な値の一致と同じですが、値*を含む MID サーバー機能レコードと空白以外の要求値を一致させることもできます。
3. 特殊機能名 ALL：機能の値フィールドを無視して、特殊機能名 ALL を含む各 MID サーバーを検索します。

注: 要求された機能名が ecc_agent_capability テーブルに存在しない場合、ALL の機能にフォールバックするのではなく、**BadArgumentException** がスローされます。

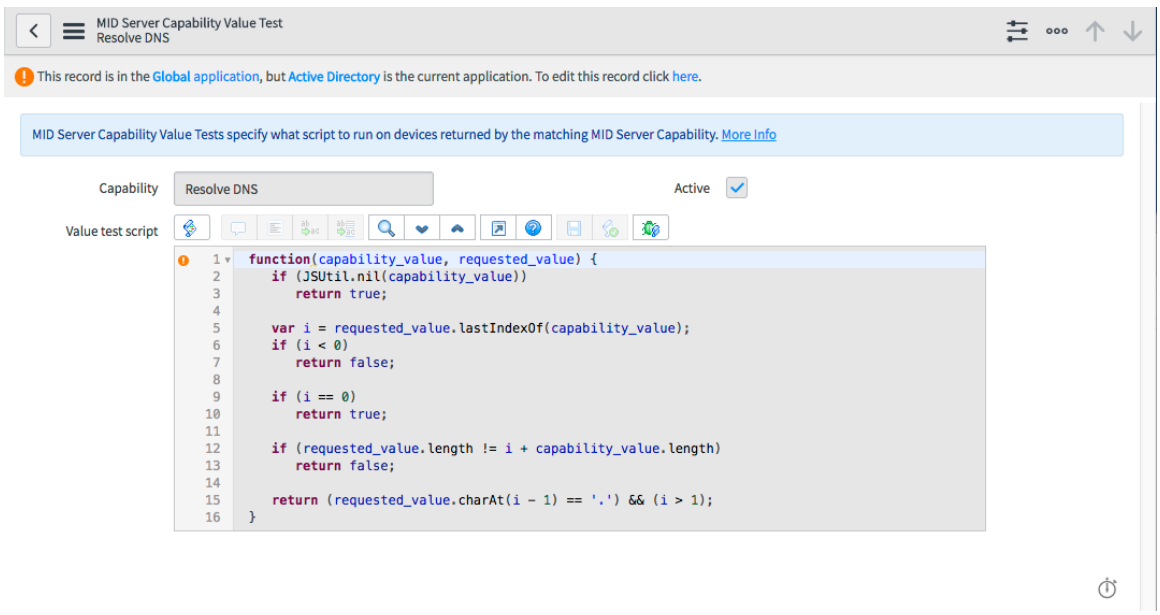
スクリプト化された MID サーバー機能の値の照合

値テストを使用すると、正確な文字列照合を必要とせずに値を使用してデバイスを見つける機能を作成できます。これらの値のアクションは、ユーザー定義スクリプトによって制御されます。

DNS 解決機能はベースシステムで提供され、指定されたドメイン名で終わる名前のデバイスの DNS 名を IP アドレスに解決するように設定されています。入力された機能の [値] は、ドメイン構文に一致するように処理中にドットが自動的に前に付加されます。この値には、1 つ以上のサブドメインを含めることができますが、ドメイン文字列の末尾を含める必要があります。一致するデバイスは、同じ構文で終わらなければなりません。DNS 解決機能のスクリプトは、デバイス名が [値] で定義された基準と一致するかどうかを判断します。一致がある場合、プラットフォームはアドレス解決を自動的に実行します。たとえば、DNS 解決機能の値が `service-now.com` の場合、この機能を備えた MID サーバーは、`lnxlab01.sandiego.service-now.com` および `dbsrv101.sanjose.service-now.com` を検索します。値が `sandiego.service-now.com` に変更された場合、MID サーバーは、`lnxlab01` のみを検索します。

注: DNS 解決機能の [値] が空白の場合、すべてのドメインが一致します。

この機能を評価するためのスクリプトを表示するには、**[MID** サーバー] > [機能の値テスト] に移動し、リストから **[DNS** 名の解決] を選択します。



MID サーバー機能の設定

MID サーバーの機能によって、IP アドレス範囲内の MID サーバーの特定の機能を定義し、アプリケーションが最適な MID サーバーを選択できます。オーケストレーション、、 などのアプリケーションの MID サーバーの機能を設定します。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

始める前に
必要なロール：admin または sm_admin

このタスクについて
いくつかのアプリケーションでは、機能、IP 範囲、および を使用して、アプリケーションが必要とする MID サーバーのプールを絞ることができます。

注: オーケストレーションが使用する MID サーバー 1 台につき少なくとも 1 つ機能が必要です。詳細については、「」を参照してください。

ディスカバリーでは、デフォルトで次の機能が利用できます。

すべて	IBM	DNS の解決
Ansible	JDBC	REST
AWS	NetApp	SNMP
Azure	Nmap	SOAP
Chef	OpenStack	SSH
クラウド管理	PowerShell	VMware
Google	RCA	WMI

手順

1. [すべて] > **[MID** サーバー] > [機能]に移動します。
2. 既存の機能を選択するか、[すべて] を選択してすべての機能を含めます。

   注: 各 IP アドレス範囲に、そのネットワークセグメントでオーケストレーションアクティビティを完了するために必要な機能を備えた MID サーバーがあることを確認します。

3. 新しい機能を作成します。

   a. [新規] を選択します。

   b. カスタム機能の値を設定します。

      Example
      たとえば、[ドメイン] の機能で、値を **[service-now]** とします。

   c. [送信] を選択します。

4. MID サーバーの関連リストで [編集] を選択し、MID サーバーを機能に追加します。
5. [使用可能 **(Available)]** リストからこの機能のために 1 つ以上の MID サーバーを選択します。
6. [保存] を選択します。

   ここで定義されている機能は、この MID サーバーのプライマリレコードにも表示されます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

オーケストレーション用のデフォルトの MID サーバーを選択する

正しい IP 範囲と機能を備えた MID サーバーが見つからない場合、オーケストレーションはデフォルトの MID サーバーを使用します。

デフォルトの MID サーバーを次のいずれかの場所に指定します。

- オーケストレーション アプリケーション レコード上の [デフォルト **MID** サーバー] フィールド。手順については、「各アプリケーションのデフォルトの MID サーバーの設定」を参照してください。
- [オーケストレーションアクティビティに使用するデフォルトの **MID** サーバー] プロパティ[オーケストレーション] > **[MID** サーバープロパティ] に移動して、この値を設定します。

これらの 2 つの値は自動的に同期して保持されます。どちらの場所でも、デフォルトの MID サーバーを変更できます。

PowerShell プローブ バージョン 2 のシステム プロパティ

詳細な PowerShell 認証情報を表示し、拡張ログ情報を表示します。

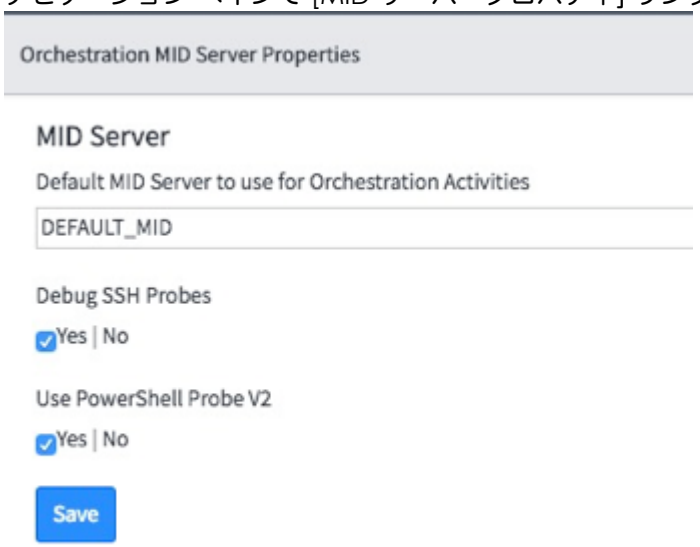
Madrid のリリースから、バージョン 2 のプローブを有効にする PowerShell プローブの新しいシステムプロパティがあります。この新しいバージョンでは、PowerShell の認証情報が失敗または失敗する理由に関する詳細な認証情報を表示できます。また、ECC キュー ペイロードおよびワークフロー コンテキスト ログのログ記録情報を表示することもできます。

mid.server.rba_powershell_v2

すべての PowerShell アクティビティで使用する PowerShell プローブ バージョン 2 を有効にします。デフォルト値は true です。false を選択すると、従来の PowerShell プローブが使用されます。従来のバージョンは廃止される予定のため、問題がない限りはバージョン 2 を使用してください。

注: このプロパティは、オーケストレーション アクティビティにのみ適用されます。ディスカバリー プローブは影響を受けません。

ナビゲーション ペインで [MID サーバープロパティ] リンクである



を選択すると、プロパティにアクセスできます。

PowerShell ログ プロパティ

デバッグ メッセージを PowerShell から表示できるようにします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

このプロパティを使用すると、PowerShell スクリプトに埋め込まれたデバッグ ステートメントによって生成されたデバッグ メッセージを表示するタイミングと場所を制御できます。

mid.property.powershell.log_info

新しい MID Server PowerShell ログ プロパティ：

- ロギング情報を表示します。

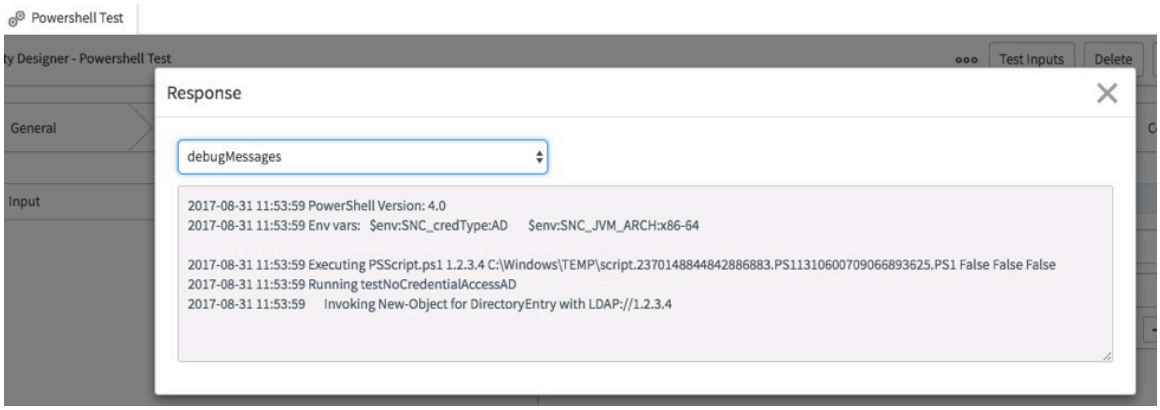
  注: ログが有効にされると、OOB PowerShell スクリプトはログ情報を記録します。

- 開発した PowerShell スクリプトと PowerShell アクティビティにログ情報を追加します。

  注: ロギング情報は、プロパティが有効な場合にのみ使用できます。

- ロギングはデフォルトでは有効になっていません。

このプロパティが true に設定されている場合は、入力をテストした後、ワークフロー コンテキストまたは [応答] ポップアップからデバッグ メッセージが表示されます。それぞれの PowerShell アクティビティの ecc_queue エントリー ペイロードには、ログに記録されたすべてのデバッグ メッセージが表示されます。



各 MID サーバーの PowerShell ログ プロパティを有効にします。[MID サーバー] フィールドが空の場合、このプロパティはすべての MID サーバーに適用されます。この設定に関係なく、常に返される別個の認証情報デバッグ メッセージがあります。認証情報デバッグ メッセージは、使用された認証情報および他の関連情報を示します。

注: インスタンスに返されるすべてのデバッグ メッセージは、MID サーバーログ ファイルにも保存されます。ログ ファイルには、Java コードから生成された追加のデバッグ メッセージが含まれている可能性があります。これはデバッグ プロセスに役立ちます。

オーケストレーション使用状況ダッシュボードを使用する

このダッシュボードには、オーケストレーション使用状況メトリクスの概要が表示されます。ここには、お客様の組織でオーケストレーションを使用する方法とライセンスコンプライアンスをサポートする方法が示されます。

始める前に
必要なロール：orchestration_manager

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

手順

1. ダッシュボードを表示するには、[オーケストレーション] > [操作 & トラブルシューティング] > [オーケストレーション使用状況ダッシュボード] に移動します。
   [オーケストレーション使用状況] ダッシュボードが表示されます。ダッシュボードのタブには、[ライセンス可能な使用] と [オーケストレーション使用状況] が含まれています。これらのタブに関するレポートは次のとおりです。

オーケストレーション使用状況のメトリクス

メトリクス	説明
過去 12 ヶ月間のトランザクションのサマリー	過去 12 ヶ月間のすべてのオーケストレーション トランザクションの実行中のトランザクション数。含まれる内容： ◦ HR アプリケーションに関連付けられたオーケストレーション トランザクションの数 ◦ Security Operations アプリケーションに関連付けられたオーケストレーション トランザクションの数
過去 1 年間のトランザクションのサマリー	オーケストレーション プラグインが有効にされた時点または顧客が Geneva にアップグレードした時点以降のすべてのトランザクションの累積カウント。
サーバーの 365 日の実行平均	cmdb_ci_computer - cmdb_ci_server の過去 365 日間の実行平均。これには、すべての物理クライアント ノードと仮想クライアント ノードが含まれ、サーバー ノードはカウントから除外されます。
クライアントの 365 日の実行平均	cmdb_ci_server の過去 365 日間の実行平均。これには、すべての物理サーバー ノードと仮想サーバー ノードが含まれます。
過去 12 ヶ月間の月単位のオーケストレーション トランザクション	
過去 365 日間にオーケストレーションされた平均クライアント ノード	
過去 365 日間にオーケストレーションされた平均サーバー ノード	
過去 365 日間に開発されたオーケストレーション アクティビティの数	開発したアクティビティ定義の総数と、変更した OOB アクティビティ定義。この番号には、開発したアクティビティ要素 (アクティビティ デザイナーを使用してビルドしたアクティビティ) と、変更した OOB アクティビティ定義が含まれます。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。

メトリクス	説明
	注: この番号は、オーケストレーション ランタイム (たとえば、ServiceNow Security Operations アプリケーションやヒューマンリソース (HR) アプリケーション) を使用する ServiceNow アプリケーションに同梱されているアクティビティ要素を除外しています。
月単位でオーケストレーションされた累積クライアント ノード	
月単位でオーケストレーションされた累積サーバー ノード	
プロバイダーの過去 12 ヶ月間の使用状況	プロバイダーごとの内訳の強調 (PowerShell、JDBC、SSH など)
上位 10 件のオーケストレーション アクティビティ	

2. オプション: ダッシュボードにウィジェットを追加するには、ダッシュボードの右上にある [コンテンツを追加] アイコン (+) をクリックします。

   注: このダッシュボードの最初のタブは変更しないでください。別のダッシュボードを使用する場合は、タブを追加して、使用状況レポートでカスタマイズします。

© 2024 ServiceNow, Inc. All rights reserved.
ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは 米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の 商標または登録商 標です。
その他の会社名と 製品名は、関連する各会社の商標である 可能性があります。